(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)公開番号
特開2024-171943
(P2024-171943A)
(43)公開日　令和6年12月12日(2024.12.12)

(51)国際特許分類		FI			テーマコード（参考）
A63F 7/02 (2006.01)		A63F	7/02	304D	2C088

審査請求　未請求　請求項の数　1　ＯＬ　（全1992頁）

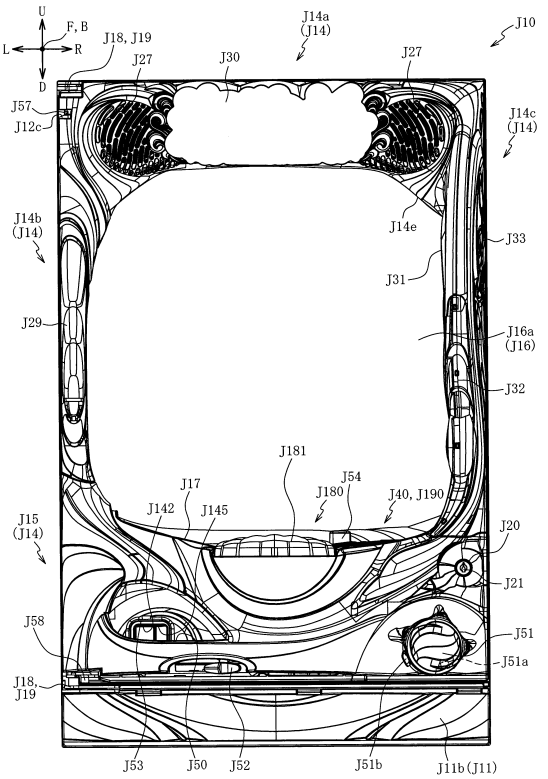
(21)出願番号　特願2023-89320(P2023-89320)
(22)出願日　令和5年5月31日(2023.5.31)

(71)出願人　000144522
株式会社三洋物産
愛知県名古屋市千種区今池３丁目９番２１号
(74)代理人　110000534
弁理士法人真明センチュリー
(72)発明者　岡村 鉉
名古屋市千種区今池３丁目９番２１号
株式会社三洋物産内

Ｆターム（参考）　2C088　DA07 EB78

(54)【発明の名称】　遊技機

(57)【要約】
【課題】変位動作の態様を好適とできる遊技機を提供すること。
【解決手段】変位動作可能に構成される回転手段Ｙ４８０及び回転動作部材Ｙ５３０と、その回転手段Ｙ４８０及び回転動作部材Ｙ５３０を変位動作させるための動作力を発生可能に構成される駆動モータ４５０と、前記回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３が当接可能に構成され、変位動作された前記円形突部Ｙ５３３から受けた動作力により変位動作可能に構成される揺動手段Ｙ７２０と、を備え、１の駆動モータ４５０であっても、回転手段Ｙ４８０及び回転動作部材Ｙ５３０と、揺動手段Ｙ７２０との変位動作を、連動させる態様と、連動させない態様とを構成できる。よって、動作が単調となることを回避できる。
【選択図】図６５０



【特許請求の範囲】
【請求項１】
変位動作可能に構成される第１変位手段と、
その第１変位手段を変位動作させるための動作力を発生可能に構成される動作手段と、
前記第１変位手段の特定部が当接可能に構成され、変位動作された前記第１変位手段の前記特定部から受けた動作力により変位動作可能に構成される第２変位手段と、を備えることを特徴とする遊技機。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、パチンコ機などの遊技機に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
第１変位手段および第２変位手段を変位動作させて、その変位動作を遊技者に視認させる遊技機が知られている（特許文献１）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２０２３－３０２１２号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
しかしながら、上述した従来の遊技機では、変位動作の態様に改善の余地があるという問題点があった。
【０００５】
本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、変位動作の態様を好適とできる遊技機を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
この目的を達成するために請求項１記載の遊技機は、変位動作可能に構成される第１変位手段と、その第１変位手段を変位動作させるための動作力を発生可能に構成される動作手段と、前記第１変位手段の特定部が当接可能に構成され、変位動作された前記第１変位手段の前記特定部から受けた動作力により変位動作可能に構成される第２変位手段と、を備える。
【発明の効果】
【０００７】
請求項１記載の遊技機によれば、変位動作の態様を好適とすることができる。
【図面の簡単な説明】
【０００８】
【図１】第１実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図２】パチンコ機の背面図である。
【図３】外枠に対して内枠を開放（展開）した状態を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図４】外枠に対して内枠を開放した状態で裏パックを内枠に対して開放した状態（展開）を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図５】外枠に対して内枠を閉鎖すると共に正面枠を開放（展開）した状態を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図６】正面枠を取り外した状態におけるパチンコ機の正面図である。
【図７】遊技盤および内枠の分解正面斜視図である。
【図８】正面枠の分解斜視正面図である。

【図９】正面枠の分解斜視背面図である。
【図１０】パチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図１１】第２実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図１２】パチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図１３】遊技盤及び動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１４】遊技盤の分解正面斜視図である。
【図１５】入賞ユニットの分解正面斜視図である。
【図１６】入賞ユニットの分解背面斜視図である。
【図１７】図１２のＺ０１ｍ部における遊技盤の部分拡大正面図である。
【図１８】図１７のＸ０２ｍ－Ｘ０２ｍ線における遊技盤の断面図である。
【図１９】入賞ユニットの斜視図である。
【図２０】入賞ユニットの斜視図である。
【図２１】入賞ユニットの斜視図である。
【図２２】入賞ユニットの斜視図である。
【図２３】遊技盤の背面斜視図である。
【図２４】遊技盤の分解背面斜視図である。
【図２５】動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図２６】動作ユニットの正面図である。
【図２７】動作ユニットの正面図である。
【図２８】動作ユニットの正面図である。
【図２９】動作ユニットの正面図である。
【図３０】動作ユニットの正面図である。
【図３１】動作ユニットの正面図である。
【図３２】動作ユニットの正面図である。
【図３３】前層側可動装置の正面分解斜視図である。
【図３４】前層側可動装置の背面分解斜視図である。
【図３５】第１可動装置の分解正面斜視図である。
【図３６】第１可動装置の分解背面斜視図である。
【図３７】昇降装置の分解正面斜視図である。
【図３８】昇降装置の分解背面斜視図である。
【図３９】長尺装置の分解正面斜視図である。
【図４０】長尺装置の分解背面斜視図である。
【図４１】移動装置の分解正面斜視図である。
【図４２】移動装置の分解背面斜視図である。
【図４３】（ａ）及び（ｂ）は、前層側可動装置の部分拡大正面図である。
【図４４】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図４５】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図４６】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図４７】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図４８】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図４９】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図５０】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図５１】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図５２】第１可動装置の部分拡大背面図である。
【図５３】第１可動装置の部分拡大背面図である。
【図５４】（ａ）、（ｂ）、（ｃ）及び（ｄ）は、第１可動装置の部分正面図である。
【図５５】第２可動装置の分解正面斜視図である。
【図５６】第２可動装置の分解背面斜視図である。
【図５７】（ａ）及び（ｂ）は、第２可動装置の正面図である。
【図５８】（ａ）及び（ｂ）は、第２可動装置の正面図である。

【図５９】（ａ）及び（ｂ）は、第２可動装置の正面図である。
【図６０】（ａ）、（ｂ）及び（ｃ）は、上下スライド部材、追従可能部材及び連動部材の模式正面図である。
【図６１】後層側可動装置の分解正面斜視図である。
【図６２】後層側可動装置の分解背面斜視図である。
【図６３】第３可動装置の分解正面斜視図である。
【図６４】第３可動装置の分解背面斜視図である。
【図６５】（ａ）、（ｂ）及び（ｃ）は、上後カバー部材、延設回転部材、基端側スライド部材及びピニオンの正面図である。
【図６６】後層側可動装置の部分拡大正面図である。
【図６７】後層側可動装置の正面図である。
【図６８】後層側可動装置の正面図である。
【図６９】後層側可動装置の正面図である。
【図７０】（ａ）から（ｆ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図７１】（ａ）から（ｅ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図７２】第３実施形態におけるベース板及び光照射装置の背面図である。
【図７３】ベース板及び光照射装置の背面斜視図である。
【図７４】ベース板及び光照射装置の分解背面斜視図である。
【図７５】ベース板及び光照射装置の分解正面斜視図である。
【図７６】図７２のＸ０３ｍ－Ｘ０３ｍ線におけるベース板及び光照射装置の部分断面図である。
【図７７】パチンコ機の模式正面図である。
【図７８】第４実施形態におけるベース板及び光照射装置の分解背面斜視図である。
【図７９】ベース板及び光照射装置の分解正面斜視図である。
【図８０】図７２のＸ０３ｍ－Ｘ０３ｍ線に対応する線におけるベース板及び光照射装置の部分断面図である。
【図８１】第５実施形態における動作ユニットの正面図である。
【図８２】（ａ）から（ｄ）は、移動装置の正面図である。
【図８３】前層側可動装置の第１可動装置の部分背面図である。
【図８４】前層側可動装置の第１可動装置の部分背面図である。
【図８５】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図８６】パチンコ機の模式正面図である。
【図８７】（ａ）及び（ｂ）は、パチンコ機の部分正面図である。
【図８８】図１２のＺ０１ｍ部に対応する範囲における遊技盤の部分拡大正面図である。
【図８９】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図９０】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図９１】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図９２】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図９３】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図９４】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図９５】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図９６】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図９７】（ａ）及び（ｂ）は、第２可動装置の正面図である。
【図９８】第２可動装置の正面図である。
【図９９】後層側可動装置の後側開閉部材の板状部、中側開閉部材の板状部及び前側開閉部材の板状部を模式的に示す正面模式図である。
【図１００】（ａ）は、第３図柄表示装置の表示領域の正面図であり、（ｂ）は、図１００（ａ）に図示される第３図柄表示装置の表示領域の正面側に配置された板状部の正面図である。
【図１０１】（ａ）は、第３図柄表示装置の表示領域の正面図であり、（ｂ）は、図１０

１（ａ）に図示される第３図柄表示装置の表示領域の正面側に配置された板状部の正面図である。
【図１０２】後層側可動装置の後側開閉部材の板状部、中側開閉部材の板状部及び前側開閉部材の板状部を模式的に示す正面模式図である。
【図１０３】（ａ）から（ｃ）は、第３図柄表示装置及び後層側可動装置の板状部の上面図である。
【図１０４】（ａ）から（ｉ）は、図８５（ａ）のＺ０４ｍ部におけるパチンコ機の部分拡大正面図である。
【図１０５】（ａ）から（ｃ）は、図８５（ａ）のＺ０４ｍ部におけるパチンコ機の部分拡大正面図である。
【図１０６】（ａ）及び（ｂ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図１０７】（ａ）から（ｃ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図１０８】（ａ）及び（ｂ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図１０９】第６実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図１１０】パチンコ機の正面図である。
【図１１１】遊技盤の背面図である。
【図１１２】図１１１のＸ０５ｍ－Ｘ０５ｍ線における遊技盤の部分断面図である。
【図１１３】パチンコ機の正面図である。
【図１１４】パチンコ機の正面図である。
【図１１５】パチンコ機の正面図である。
【図１１６】パチンコ機の正面図である。
【図１１７】第７実施形態における遊技盤の正面図である。
【図１１８】（ａ）は、図１１７のＺ０６ａ部における遊技盤の部分拡大正面図であり、図１１８（ｂ）は、図１１８（ａ）の部分拡大正面図である。
【図１１９】第８実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図１２０】パチンコ機の背面図である。
【図１２１】外枠に対して内枠を開放（展開）した状態を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図１２２】外枠に対して内枠を開放した状態で裏パックを内枠に対して開放した状態（展開）を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図１２３】外枠に対して内枠を閉鎖すると共に正面枠を開放（展開）した状態を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図１２４】正面枠を取り外した状態におけるパチンコ機の正面図である。
【図１２５】遊技盤および内枠の分解正面斜視図である。
【図１２６】正面枠の分解正面斜視図である。
【図１２７】正面枠の分解背面斜視図である。
【図１２８】パチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図１２９】上側装飾ユニットの分解正面斜視図である。
【図１３０】上側装飾ユニットの分解背面斜視図である。
【図１３１】化粧ユニットの分解正面斜視図である。
【図１３２】化粧ユニットの分解背面斜視図である。
【図１３３】上側装飾ユニットの正面図である。
【図１３４】上側装飾ユニット及び右側装飾ユニットの正面図である。
【図１３５】（ａ）は、図１３４におけるＸ０７ａ線における上側装飾ユニットの断面模式図であり、（ｂ）は、図１３４におけるＸ０７ｂ線における上側装飾ユニットの断面模式図である。
【図１３６】（ａ）は、右側装飾ユニットの正面図であり、（ｂ）は、右側装飾ユニットの側面図である。
【図１３７】（ａ）は、右側装飾ユニットの分解正面斜視図であり、（ｂ）は、右側装飾ユニットの分解背面斜視図である。

【図１３８】（ａ）は、重板ユニットの分解正面斜視図であり、（ｂ）は、重板ユニットの分解背面斜視図である。
【図１３９】支持板部の正面図である。
【図１４０】左重板ユニットの分解正面斜視図である。
【図１４１】右重板ユニットの分解正面斜視図である。
【図１４２】（ａ）は、正面枠の分解正面斜視図であり、（ｂ）は、正面枠の正面斜視図である。
【図１４３】（ａ）は、図１３６（ｂ）に示すＸ０８ａ線における右側装飾ユニットおよび上側装飾ユニットの断面模式図であり、（ｂ）は、図１３６（ｂ）に示すＸ０８ｂ線における右側装飾ユニットおよび上側装飾ユニットの断面模式図である。
【図１４４】上下皿ユニットの正面図である。
【図１４５】上下皿ユニットの分解正面斜視図である。
【図１４６】上下皿ユニットの分解背面斜視図である。
【図１４７】（ａ）は、ベース部材および上皿形成部材の正面図であり、（ｂ）は、ベース部材および上皿形成部材の背面図である。
【図１４８】（ａ）は、図１４７（ａ）のＸ１２ａ線におけるベース部材の断面図であり、（ｂ）は、図１４７（ａ）のＸ１２ｂ線におけるベース部材の断面図であり、（ｃ）は、図１４７（ａ）のＸ１２ｃ線におけるベース部材の断面図である。
【図１４９】（ａ）は、下皿形成部材の正面図であり、（ｂ）は、下皿形成部材の背面図である。
【図１５０】下皿形成部材の分解正面斜視図である。
【図１５１】下皿形成部材の分解背面斜視図である。
【図１５２】（ａ）は、連結部の上面図であり、（ｂ）は、連結部の下面図であり、（ｃ）は、図１５２（ｂ）のＸ１３ｃ線における連結部の断面図である。
【図１５３】上下皿ユニットの分解斜視図である。
【図１５４】（ａ）及び（ｂ）は、ベース部材から下皿形成部材を取り外した状態における上下皿ユニッの断面図であり、図１４４のＸ０９ａ線における上下皿ユニッの断面と対応する。
【図１５５】（ａ）は、図１４４のＸ０９ａ線における上下皿ユニットの断面図であり、（ｂ）は、図１５５（ａ）のＸ１４ｂ線における上下皿ユニットの断面図である。
【図１５６】（ａ）は、上下皿ユニットの下面図であり、（ｂ）は、下側保護板の正面図である。
【図１５７】（ａ）は、下側保護板の斜視正面図であり、（ｂ）は、下側保護板の斜視背面図である。
【図１５８】（ａ）は、図１５６（ａ）のＸ１５ａ線における上下皿ユニットの断面図であり、（ｂ）は、図１５６（ａ）のＸ１５ｂ線における上下皿ユニットの断面図である。
【図１５９】（ａ）及び（ｂ）は、正面枠の側面図である。
【図１６０】（ａ）は、正面枠の下面図であり、（ｂ）は、正面枠の側面図である。
【図１６１】（ａ）は、上側保護板の正面図であり、（ｂ）は、図１６１（ａ）のＸ１６ｂ線における上側保護板の断面図であり、（ｃ）は、図１６１（ａ）のＸ１６ｃ線における上側保護板の断面図である。
【図１６２】（ａ）は、図１４４のＸ１０ａ線における上下皿ユニットの断面図であり、（ｂ）は、図１４４のＸ１０ｂ線における上下皿ユニットの断面図である。
【図１６３】（ａ）及び（ｂ）は、第１化粧板から上側保護板を分解した状態における上下皿ユニットの断面図である。
【図１６４】（ａ）は、操作ユニットの正面斜視図であり、（ｂ）は、操作ユニットの背面斜視図である。
【図１６５】操作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１６６】操作ユニットの分解背面斜視図である。
【図１６７】（ａ）は、駆動手段の正面図であり、（ｂ）は、図１６７（ａ）のＹ１７ｂ

線における駆動手段の側面図である。
【図１６８】駆動手段の正面分解斜視図である。
【図１６９】（ａ）は、伝達軸棒の正面分解斜視図であり、（ｂ）は、伝達軸棒の背面分解斜視図である。
【図１７０】（ａ）は、図１６８の矢印Ｙ１８ａ方向における右円板カムの側面図であり、（ｂ）は、図１６８の矢印Ｙ１８ｂ方向における右円板カムの側面図であり、（ｃ）は、図１６８の矢印Ｙ１８ｃ方向視における左円板カムの側面図であり、（ｄ）は、図１６８の矢印Ｙ１８ｄ方向視における左円板カムの側面図である。
【図１７１】（ａ）及び（ｂ）は、図１６８の矢印Ｙ１９ａ方向視における解除部材および回転爪部材の側面図である。
【図１７２】図１４４のＸ１１ｍ線における操作ユニットの断面図である。
【図１７３】図１４４のＸ１１ｍ線における操作ユニットの断面図である。
【図１７４】図１４４のＸ１１ｍ線における操作ユニットの断面図である。
【図１７５】図１４４のＸ１１ｍ線における操作ユニットの断面図である。
【図１７６】図１４４のＸ１１ｍ線における操作ユニットの断面図である。
【図１７７】図１４４のＸ１１ｍ線における操作ユニットの断面図である。
【図１７８】（ａ）は、揺動装置上面図であり、（ｂ）は、図１７８（ａ）の矢印Ｙ２０ｂ方向視における揺動装置の側面図である。
【図１７９】（ａ）は、図１７８（ｂ）のＸ２１ａ線における揺動装置の断面図であり、（ｂ）は、図１７８（ａ）のＸ２１ｂ線における揺動装置の断面図である。
【図１８０】揺動装置の分解正面斜視図であり、（ａ）は、揺動装置の分解背面斜視図である。
【図１８１】揺動装置の分解背面斜視図である。
【図１８２】（ａ）は、ベース手段の分解正面斜視図であり、（ｂ）は、ベース手段の分解背面斜視図である。
【図１８３】（ａ）は、駆動手段の分解正面斜視図であり、（ｂ）は、駆動手段の分解背面斜視図である。
【図１８４】（ａ）は、ベース手段および駆動手段の上面図であり、（ｂ）は、図１８４（ａ）のＸ２２ｂ線における駆動手段の断面図である。
【図１８５】（ａ）は、ベース手段および駆動手段の上面図であり、（ｂ）は、図１８５（ａ）のＸ２３ｂ線における駆動手段の断面図である。
【図１８６】（ａ）及び（ｂ）は、揺動装置の断面図であり、図１７８（ｂ）のＸ２１ａ線における断面に対応する。
【図１８７】内枠の正面図である。
【図１８８】内枠の分解正面斜視図である。
【図１８９】球発射ユニットの分解正面斜視図である。
【図１９０】発射位置送球ユニットの分解斜視図である。
【図１９１】（ａ）は、図１８７のＸ２４ａ線における球発射ユニット及び発射位置送球ユニットの断面図であり、（ｂ）は、図１８７のＸ２４ｂ線における球発射ユニット及び発射位置送球ユニットの断面図である。
【図１９２】（ａ）は、退避位置における発射手段の正面図であり、（ｂ）は、初期位置における発射手段の正面図であり、（ｃ）は、発射位置における発射手段の正面図である。
【図１９３】（ａ）及び（ｂ）は、図１９１（ｂ）のＭＣＭＶＩＩ部における球発射ユニット及び発射位置送球ユニットの部分拡大断面図である。
【図１９４】（ａ）及び（ｂ）は、図１９１（ｂ）のＭＣＭＶＩＩ部における球発射ユニット及び発射位置送球ユニットの部分拡大断面図である。
【図１９５】図１９１（ａ）のＭＣＭＩＸ部における球発射ユニット及び発射位置送球ユニットの部分拡大断面図である。
【図１９６】遊技盤の正面図である。

【図１９７】遊技盤の分解正面斜視図である。
【図１９８】動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１９９】（ａ）は、演出動作ユニットの正面図であり、（ｂ）は、演出動作ユニットの背面図である。
【図２００】演出動作ユニットの花弁動作装置側の分解正面斜視図である。
【図２０１】演出動作ユニットの花弁動作装置側の分解背面斜視図である。
【図２０２】演出動作ユニットの円環形成ユニット側の分解正面斜視図である。
【図２０３】演出動作ユニットの円環形成ユニット側の分解背面斜視図である。
【図２０４】（ａ）及び（ｂ）は、演出動作ユニットの正面図である。
【図２０５】花弁動作装置の分解正面斜視図である。
【図２０６】花弁動作装置の分解背面斜視図である。
【図２０７】（ａ）は、花回転ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図２０７（ａ）のＸ２５ｂ線における花回転ユニットの断面図である。
【図２０８】花回転ユニットの分解正面斜視図である。
【図２０９】花回転ユニットの分解背面斜視図である。
【図２１０】（ａ）は、図２０７（ａ）のＹ２５ａ方向視における第１装飾ユニットの側面図であり、（ｂ）は、第１装飾ユニットの分解正面斜視図である。
【図２１１】（ａ）から（ｃ）は、第１装飾ユニットの側面図であり、図２０７（ａ）のＹ２５ａ方向視における側面図と対応する。
【図２１２】（ａ）から（ｄ）は、変位ユニットが傾倒基準位置に配置された状態における第１装飾ユニットの側面図であり、（ａ）のＹ２５ａ方向視における側面図と対応する。
【図２１３】（ａ）は、花回転ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図２１３（ａ）のＸ２６ｂ線における花回転ユニットの断面図である。
【図２１４】（ａ）は、花回転ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図２１４（ａ）のＸ２７ｂ線における花回転ユニットの断面図である。
【図２１５】（ａ）は、花回転ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図２１５（ａ）の矢印Ｙ２８ｂ方向視における花回転ユニットの側面図であり、（ｃ）は、図２１５（ａ）の矢印Ｙ２８ｃ方向視における花回転ユニットの側面図である。
【図２１６】（ａ）は、花回転ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図２１６（ａ）の矢印Ｙ２９ｂ方向視における花回転ユニットの側面図であり、（ｃ）は、図２１６（ａ）の矢印Ｙ２９ｃ方向視における花回転ユニットの側面図である。
【図２１７】（ａ）は、花回転ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図２１７（ａ）の矢印Ｙ３０ｂ方向視における花回転ユニットの側面図であり、（ｃ）は、図２１７（ａ）の矢印Ｙ３０ｃ方向視における花回転ユニットの側面図である。
【図２１８】（ａ）は、花回転ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図２１８（ａ）の矢印Ｙ３１ｂ方向視における花回転ユニットの側面図であり、（ｃ）は、図２１８（ａ）の矢印Ｙ３１ｃ方向視における花回転ユニットの側面図である。
【図２１９】（ａ）及び（ｂ）は、花回転ユニットの正面図である。
【図２２０】（ａ）及び（ｂ）は、花回転ユニットの正面図である。
【図２２１】（ａ）から（ｄ）は、従動ギヤ及び検出センサの背面図である。
【図２２２】（ａ）から（ｃ）は、花回転ユニットを正面視した模式図である。
【図２２３】第９実施形態における花回転ユニットを正面視した模式図である。
【図２２４】（ａ）から（ｃ）は、花回転ユニットを正面視した模式図である。
【図２２５】（ａ）及び（ｂ）は、第１０実施形態における花回転ユニットの正面図である。
【図２２６】（ａ）は、第１１実施形態における花回転ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図２２６（ａ）のＭＣＭＸＬｂ線における花回転ユニットの断面図である。
【図２２７】（ａ）及び（ｂ）は、第１２実施形態における花回転ユニットの正面図である。

【図２２８】（ａ）は、第１３実施形態における第１装飾ユニットの側面図であり、図２０７（ａ）のＹ２５ａ方向視における側面図と対応し、（ｂ）は、第１装飾ユニットの分解正面斜視図である。
【図２２９】（ａ）及び（ｂ）は、第１装飾ユニットの側面図である。
【図２３０】（ａ）は、第１４実施形態における上側装飾ユニットの断面模式図であり、図１３４のＸ０７ａ線における断面に対応し、（ｂ）は、第１５実施形態における上側装飾ユニットの断面模式図であり、図１３４のＸ０７ａ線における断面に対応する。
【図２３１】第１６実施形態における上側装飾ユニットの分解背面斜視図である。
【図２３２】（ａ）及び（ｂ）は、上側装飾ユニットの正面図である。
【図２３３】（ａ）は、図２３２（ａ）のＸ３２ａ線における上側装飾ユニットの断面模式図であり、（ｂ）は、図２３２（ｂ）のＸ３２ｂ線における上側装飾ユニットの断面模式図である。
【図２３４】（ａ）は、第１７実施形態における右側装飾ユニットの分解正面斜視図であり、（ｂ）は、右側装飾ユニットおよび上側装飾ユニットの断面模式図である。
【図２３５】（ａ）は、第１８実施形態における右側装飾ユニットおよび上側装飾ユニットの断面模式図であり、（ｂ）は、第１９実施形態における右側装飾ユニットおよび上側装飾ユニットの断面模式図である。
【図２３６】（ａ）及び（ｂ）は、第２０実施形態における右側装飾ユニットおよび上側装飾ユニットの断面模式図である。
【図２３７】第２１実施形態における上下皿ユニットの分解正面斜視図である。
【図２３８】（ａ）及び（ｂ）は、上下皿ユニットの側面図である。
【図２３９】（ａ）は、図２３８（ａ）のＸ３３ａにおける上下皿ユニットの断面図であり、（ｂ）は、図２３８（ｂ）のＸ３３ｂ線における上下皿ユニットの断面図である。
【図２４０】（ａ）から（ｄ）は、第２２実施形態における上下皿ユニットの断面図であり、図２３８（ａ）のＸ３３ａ線における断面と対応する。
【図２４１】（ａ）及び（ｂ）は、第２３実施形態における正面枠の正面模式図である。
【図２４２】（ａ）は、図２４１（ａ）のＸ３４ａ線における上側装飾ユニットの断面模式図であり、（ｂ）は、図２４１（ｂ）のＸ３４ｂ線における上側装飾ユニットの断面模式図である。
【図２４３】（ａ）は、第２４実施形態における上下皿ユニットの断面図であり、（ｂ）は、第２５実施形態における上下皿ユニットの断面図である。
【図２４４】（ａ）は、第２６実施形態における上下皿ユニットの断面図であり、（ｂ）は、第２７実施形態における上下皿ユニットの断面図である。
【図２４５】（ａ）は、第２８実施形態における揺動装置の断面図であり、図１８４（ａ）のＸ２２ｂ線における断面に対応し、（ｂ）は、駆動モータおよび当接手段の分解正面斜視図である。
【図２４６】（ａ）から（ｄ）は、揺動装置の断面図であり、図１８４（ａ）のＸ２２ｂ線における断面に対応する。
【図２４７】（ａ）は、第２９実施形態における揺動装置の断面図であり、図１８４（ａ）のＸ２２ｂ線における断面に対応し、（ｂ）は、駆動モータおよび変位手段の分解正面斜視図である。
【図２４８】（ａ）から（ｃ）は、揺動装置の断面図であり、図１８４（ａ）のＸ２２ｂ線における断面に対応する。
【図２４９】（ａ）は、第３０実施形態における発射位置送球ユニット及び球発射ユニットにおける断面図であり、図１８７のＸ２４ａ線における断面図と対応し、（ｂ）は、発射位置送球ユニット及び球発射ユニットにおける断面図であり、図１８７のＸ２４ｂ線における断面図と対応する。
【図２５０】（ａ）は、第３１実施形態における発射位置送球ユニット及び球発射ユニットにおける断面図であり、図１８７のＸ２４ａ線における断面図と対応し、（ｂ）は、第３２実施形態における発射位置送球ユニット及び球発射ユニットにおける断面図であり、

図１８７のＸ２４ａ線における断面図と対応する。
【図２５１】第３３実施形態における内枠の正面図である。
【図２５２】（ａ）は、経路変更部材の背面図であり、（ｂ）は、図２５２（ａ）の矢印Ｙ３５ｂ方向視における経路変更部材の側面図であり、（ｃ）は、図２５２（ｂ）のＸ３５ｃ線における経路変更部材の断面図であり、（ｄ）は、図２５２（ａ）のＸ３５ｄ線における経路変更部材の断面図である。
【図２５３】（ａ）は、第３４実施形態における内枠の正面図であり、（ｂ）は、第３５実施形態における内枠の正面図である。
【図２５４】（ａ）は、第３６実施形態における球発射ユニットの正面図であり、（ｂ）は、第３７実施形態における球発射ユニットの正面図であり、（ｃ）は、第３８実施形態における球発射ユニットの正面図である。
【図２５５】（ａ）は、第３９実施形態における球発射ユニット及び発射位置送球ユニットの断面図であり、図１８７のＸ２４ｂ線における断面図と対応し、（ｂ）は、図２５５（ａ）におけるＭＣＭＬＸＩＸｂ方向視における球発射ユニットの正面図であり、（ｃ）は、第４０実施形態における球発射ユニットの正面図であり、図２５５（ａ）のＭＣＭＬＸＩＸｂ方向視における正面図と対応し、（ｄ）は、第４１実施形態における球発射ユニットの正面図であり、図２５５（ａ）のＭＣＭＬＸＩＸｂ方向視における正面図と対応する。
【図２５６】（ａ）及び（ｂ）は、第４２実施形態における正面枠Ｈ３５０１４の正面模式図である。
【図２５７】（ａ）及び（ｂ）は、第４３実施形態における内枠Ｈ１２の背面模式図である。
【図２５８】（ａ）は、第４４実施形態における上側装飾ユニットの断面模式図であり、図２３２（ａ）のＸ３２ａ線における断面に対応し、（ｂ）は、上側装飾ユニットの断面模式図であり、図２３２（ｂ）のＸ３２ｂ線における断面に対応する。
【図２５９】（ａ）は、第４５実施形態における上側装飾ユニットの断面模式図であり、図２３２（ａ）のＸ３２ａ線における断面に対応し、（ｂ）は、上側装飾ユニットの断面模式図であり、図２３２（ｂ）のＸ３２ｂ線における断面に対応する。
【図２６０】（ａ）は、第４６実施形態における上側装飾ユニットの断面模式図であり、図２３２（ａ）のＸ３２ａ線における断面に対応し、（ｂ）は、上側装飾ユニットの断面模式図であり、図２３２（ｂ）のＸ３２ｂ線における断面に対応する。
【図２６１】（ａ）から（ｃ）は、第４７実施形態における上側装飾ユニットの断面模式図であり、図２３２（ａ）のＸ３２ａ線における断面に対応する。
【図２６２】（ａ）は、第４８実施形態における上側装飾ユニットの断面模式図であり、図１３４におけるＸ０７ａ線における断面に対応し、（ｂ）は、図２６２（ａ）の矢印Ｘ３６ｂ方向視における上側装飾ユニットの上面模式図である。
【図２６３】（ａ）及び（ｃ）は、第４９実施形態における揺動装置の正面模式図であり、（ｂ）は、図２６３（ａ）のＸ３７ｂ線における揺動装置の断面模式図であり、（ｄ）は、図２６３（ｃ）のＸ３７ｄ線における揺動装置の断面模式図である。
【図２６４】（ａ）は、第５０実施形態における揺動装置の正面模式図であり、（ｂ）は、図２６４（ａ）のＸ３８ｂ線における揺動装置の断面模式図である。
【図２６５】（ａ）及び（ｃ）は、第５０実施形態における揺動装置の正面模式図であり、（ｂ）は、図２６５（ａ）のＸ３９ｂ線における揺動装置の断面模式図であり、（ｄ）は、図２６５（ｃ）のＸ３９ｄ線における揺動装置の断面模式図である。
【図２６６】（ａ）は、第５１実施形態における操作ユニットの断面模式図であり、（ｂ）は、図２６６（ａ）のＸ４０ｂ線における操作ユニッの断面模式図である。
【図２６７】（ａ）及び（ｂ）は、第５２実施形態における操作ユニットの断面模式図である。
【図２６８】（ａ）及び（ｂ）は、第５３実施形態における操作ユニットの断面模式図である。

【図２６９】第５４実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図２７０】パチンコ機の背面図である。
【図２７１】外枠に対して内枠を開放（展開）した状態を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図２７２】外枠に対して内枠を開放した状態で裏パックを内枠に対して開放した状態（展開）を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図２７３】外枠に対して内枠を閉鎖すると共に正面枠を開放（展開）した状態を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図２７４】正面枠を取り外した状態におけるパチンコ機の正面図である。
【図２７５】遊技盤および内枠の分解正面斜視図である。
【図２７６】正面枠の分解正面斜視図である。
【図２７７】正面枠の分解背面斜視図である。
【図２７８】パチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図２７９】パチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図２８０】遊技盤及び動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図２８１】遊技盤及び動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図２８２】複合動作役物ユニットの分解正面斜視図である。
【図２８３】複合動作役物ユニットの分解背面斜視図である。
【図２８４】演出動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図２８５】演出動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図２８６】可動装飾ユニットの分解正面斜視図である。
【図２８７】可動装飾ユニットの分解背面斜視図である。
【図２８８】（ａ）及び（ｂ）は、演出動作ユニットの正面図である。
【図２８９】（ａ）及び（ｂ）は、演出動作ユニットの正面図である。
【図２９０】（ａ）及び（ｂ）は、可動装飾ユニットの部分正面図である。
【図２９１】（ａ）及び（ｂ）は、可動装飾ユニットの部分正面図である。
【図２９２】（ａ）及び（ｂ）は、可動装飾ユニットの部分正面図である。
【図２９３】（ａ）及び（ｂ）は、可動装飾ユニットの部分正面図である。
【図２９４】（ａ）及び（ｂ）は、可動装飾ユニットの部分正面図である。
【図２９５】左側支持装飾部の分解正面斜視図である。
【図２９６】左側支持装飾部の分解背面斜視図である。
【図２９７】昇降駆動部の分解正面斜視図である。
【図２９８】昇降駆動部の分解背面斜視図である。
【図２９９】（ａ）、（ｂ）及び（ｃ）は、昇降駆動部の背面図である。
【図３００】複合動作役物ユニットの正面図である。
【図３０１】複合動作役物ユニットの正面図である。
【図３０２】複合動作役物ユニットの正面図である。
【図３０３】切替動作部の分解正面斜視図である。
【図３０４】切替動作部の分解背面斜視図である。
【図３０５】（ａ）及び（ｂ）は、駆動ベース、駆動ソレノイド、スライド体及び回転切替部の正面図である。
【図３０６】複合動作役物ユニットの正面図である。
【図３０７】複合動作役物ユニットの正面図である。
【図３０８】複合動作役物ユニットの正面図である。
【図３０９】第２の上下移動制御（第１動作パターン）における検出センサ、駆動モータ、被案内部、検出センサ、駆動モータ、検出センサ及び対応表示の計時変化を示した図である。
【図３１０】複合動作役物ユニットの正面図である。
【図３１１】複合動作役物ユニットの正面図である。
【図３１２】第２の上下移動制御（第２動作パターン）における検出センサ、駆動モータ

、被案内部、検出センサ、駆動モータ、検出センサ及び対応表示の計時変化を示した図である。
【図３１３】スライド動作役物ユニットの分解正面斜視図である。
【図３１４】スライド動作役物ユニットの分解背面斜視図である。
【図３１５】（ａ）及び（ｂ）は、スライド動作役物ユニットの正面図である。
【図３１６】（ａ）、（ｂ）及び（ｃ）は、導光板の正面図である。
【図３１７】第３図柄表示装置、複合動作役物ユニット、スライド動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図３１８】第３図柄表示装置、複合動作役物ユニット、スライド動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図３１９】第３図柄表示装置、複合動作役物ユニット、スライド動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図３２０】第３図柄表示装置、複合動作役物ユニット、スライド動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図３２１】昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図３２２】昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図３２３】昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図３２４】遊技盤及び動作ユニットの部分正面斜視図である。
【図３２５】第３図柄表示装置、複合動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図３２６】第３図柄表示装置、複合動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図３２７】第５５実施形態における可動装飾ユニットの分解背面斜視図である。
【図３２８】（ａ）及び（ｂ）は、演出動作ユニット及び可動装飾ユニットの部分正面図である。
【図３２９】第５６実施形態における正面枠の分解正面斜視図である。
【図３３０】第３図柄表示装置、複合動作役物ユニット、スライド動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図３３１】第５７実施形態における可動装飾ユニットの分解背面斜視図である。
【図３３２】（ａ）及び（ｂ）は、可動装飾ユニットの部分正面図である。
【図３３３】（ａ）及び（ｂ）は、可動装飾ユニットの部分正面図である。
【図３３４】ピン付きギア及びリンク部材の正面図である。
【図３３５】第５８実施形態における複合動作役物ユニット、スライド動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図３３６】（ａ）及び（ｂ）は、ピン付きギアの動作について時系列で図示される可動装飾ユニット及び回転移動部材の部分正面図である。
【図３３７】複合動作役物ユニット、スライド動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図３３８】複合動作役物ユニット、スライド動作役物ユニット及び昇降動作役物ユニットの正面図である。
【図３３９】第５９実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図３４０】パチンコ機の背面図である。
【図３４１】パチンコ機の正面斜視図である。
【図３４２】パチンコ機の正面斜視図である。
【図３４３】パチンコ機の正面斜視図である。
【図３４４】パチンコ機の正面図である。
【図３４５】遊技盤及び内枠の分解正面斜視図である。
【図３４６】正面枠の分解正面斜視図である。
【図３４７】正面枠の分解背面斜視図である。
【図３４８】パチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。

【図３４９】第６０実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図３５０】パチンコ機の上面図である。
【図３５１】パチンコ機の正面斜視図である。
【図３５２】パチンコ機の分解正面斜視部である。
【図３５３】正面枠の分解正面斜視図である。
【図３５４】正面枠の分解背面斜視図である。
【図３５５】上側装飾ユニットの分解正面斜視図である。
【図３５６】上側装飾ユニットの分解背面斜視図である。
【図３５７】ベースユニットの分解正面斜視図である。
【図３５８】ベースユニットの分解背面斜視図である。
【図３５９】切替構成部の分解正面斜視図である。
【図３６０】切替構成部の分解背面斜視図である。
【図３６１】（ａ）及び（ｂ）は、切替構成部の背面図である。
【図３６２】化粧ユニットの分解正面斜視図である。
【図３６３】化粧ユニットの分解背面斜視図である。
【図３６４】（ａ）から（ｃ）は、図３６１（ａ）のＸ４１ａ－Ｘ４１ａ線における正面枠の部分断面図である。
【図３６５】（ａ）は、第１電飾基板の正面図であり、（ｂ）は、図３６５（ａ）の矢印Ｙ４２ｂ方向視における第１電飾基板の上面図であり、（ｃ）は、図３６５（ａ）の矢印Ｙ４２ｃ方向視における第１電飾基板の下面図である。
【図３６６】上側装飾ユニットの部分正面図である。
【図３６７】図３６６のＸ４３ｍ－Ｘ４３ｍ線における上側装飾ユニットの部分断面図である。
【図３６８】図３６６のＸ４４ｍ－Ｘ４４ｍ線における上側装飾ユニットの部分断面図である。
【図３６９】図３６６のＸ４５ｍ－Ｘ４５ｍ線における上側装飾ユニットの部分断面図である。
【図３７０】上側装飾ユニットの正面図である。
【図３７１】（ａ）は、右側装飾ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図３７１（ａ）の矢印Ｙ４６ｂ方向視における右側装飾ユニットの側面図である。
【図３７２】（ａ）は、右側装飾ユニットの正面斜視図であり、（ｂ）は、右側装飾ユニットの背面斜視図である。
【図３７３】右側装飾ユニットの分解正面斜視図である。
【図３７４】右側装飾ユニットの分解背面斜視図である。
【図３７５】（ａ）は、基板支持部材の左側面図であり、（ｂ）は基板支持部材の右側面図である。
【図３７６】図３７５（ｂ）のＸ４７ｍ－Ｘ４７ｍ線における基板支持部材、左側カバー部材及び右側カバー部材の部分断面図である。
【図３７７】図３７５（ｂ）のＸ４８ｍ－Ｘ４８ｍ線における基板支持部材、左側カバー部材及び右側カバー部材の部分断面図である。
【図３７８】上下皿ユニットの正面図である。
【図３７９】上下皿ユニットの分解正面斜視図である。
【図３８０】上下皿ユニットの分解背面斜視図である。
【図３８１】（ａ）は、下皿形成部材の正面図であり、（ｂ）は、下皿形成部材の背面図である。
【図３８２】下皿形成部材の分解正面斜視図である。
【図３８３】下皿形成部材の分解背面斜視図である。
【図３８４】操作ユニットの分解正面斜視図である。
【図３８５】操作ユニットの分解正面斜視図である。
【図３８６】操作ユニットの分解背面斜視図である。

【図３８７】操作ユニットの分解背面斜視図である。
【図３８８】（ａ）及び（ｂ）は、図３７８のＸ４９ｍ－Ｘ４９ｍ線における上下皿ユニットの部分断面図である。
【図３８９】（ａ）及び（ｂ）は、図３７８のＸ４９ｍ－Ｘ４９ｍ線における上下皿ユニットの部分断面図である。
【図３９０】第６１実施形態における上側装飾ユニットの正面図である。
【図３９１】上側装飾ユニットの分解背面斜視図である。
【図３９２】（ａ）及び（ｂ）は、図３６１（ａ）のＸ４１ａ－Ｘ４１ａ線に対応する平面における上側装飾ユニットの断面図である。
【図３９３】第６２実施形態における下側反射部材の正面斜視図である。
【図３９４】図３６６のＸ４４ｍ－Ｘ４４ｍ線に対応する平面における上側装飾ユニットの断面図である。
【図３９５】上側装飾ユニットの正面図である。
【図３９６】図３６６のＸ４４ｍ－Ｘ４４ｍ線に対応する平面における第６３実施形態における上側装飾ユニットの断面図である。
【図３９７】第６４実施形態における上側装飾ユニットの正面図である。
【図３９８】パチンコ機の正面斜視図である。
【図３９９】パチンコ機の分解正面斜視部である。
【図４００】第６５実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図４０１】パチンコ機の正面斜視図である。
【図４０２】パチンコ機の分解正面斜視部である。
【図４０３】パチンコ機の上面図である。
【図４０４】上側装飾ユニットの分解正面斜視図である。
【図４０５】上側装飾ユニットの分解背面斜視図である。
【図４０６】パチンコ機の上面図である。
【図４０７】パチンコ機の上面図である。
【図４０８】パチンコ機の上面図である。
【図４０９】（ａ）は、図４００のＸ５０ａ－Ｘ５０ａ線におけるパチンコ機の部分断面図であり、（ｂ）は、図４００のＸ５０ａ－Ｘ５０ａ線に対応する線におけるパチンコ機の部分断面図である。
【図４１０】パチンコ機の上面図である。
【図４１１】（ａ）及び（ｂ）は、パチンコ機の上面図である。
【図４１２】第６６実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図４１３】（ａ）は、上下皿ユニットの下皿形成部材の正面図であり、（ｂ）は、上下皿ユニットの下皿形成部材の背面図である。
【図４１４】上下皿ユニットの下皿形成部材の分解正面斜視図である。
【図４１５】上下皿ユニットの下皿形成部材の分解背面斜視図である。
【図４１６】図４１３（ａ）のＸ５１ｍ－Ｘ５１ｍ線における上下皿ユニットの部分断面図である。
【図４１７】（ａ）及び（ｂ）は、第６７実施形態における下皿形成部材の背面図である。
【図４１８】第６８実施形態における遊技機の動作ユニットの正面斜視図である。
【図４１９】遊技盤および動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図４２０】動作ユニットの正面図である。
【図４２１】動作ユニットの正面図である。
【図４２２】動作ユニットの正面図である。
【図４２３】動作ユニットの正面図である。
【図４２４】動作ユニットの正面図である。
【図４２５】動作ユニットの正面図である。
【図４２６】動作ユニットの正面図である。

【図４２７】動作ユニットの正面図である。
【図４２８】（ａ）は、液晶表示装置の正面図であり、（ｂ）は、液晶表示装置の背面図である。
【図４２９】液晶表示装置の分解斜視正面図である。
【図４３０】液晶表示装置の分解斜視背面図である。
【図４３１】液晶表示装置の分解図である。
【図４３２】（ａ）は、導電部材の斜視図であり、（ｂ）は、導電部材の側面図であり、（ｃ）は、図４３２（ｂ）の矢印Ａ０１ｃ方向視における導電部材の正面図であり、図（ｄ）は、図４３２（ｃ）のＡ０１ｄ－Ａ０１ｄ線における導電部材の断面図であり、（ｅ）は、図４３２（ｂ）のＡ０１ｅ－Ａ０１ｅ線における導電部材の断面図である。
【図４３３】（ａ）は、基板部材の正面図であり、（ｂ）は、図４３３（ａ）のＣＬＸＩＶｂ－ＣＬＸＩＶｂ線における基板部材の断面図である。
【図４３４】液晶表示装置の背面図である。
【図４３５】（ａ）は、図４３４のＣＬＸＶＩａ－ＣＬＸＶＩａ線における液晶表示装置の断面図であり、（ｂ）は、図４３５（ａ）の範囲Ａ０４ｂにおける液晶表示装置の拡大断面図である。
【図４３６】（ａ）から（ｃ）は、液晶表示装置の断面図である。
【図４３７】（ａ）から（ｃ）は、液晶表示装置の断面図である。
【図４３８】（ａ）は、第６９実施形態における導電部材の側面図であり、（ｂ）は、図４３８（ａ）の矢印Ａ０２ｂ方向視における導電部材の正面図であり、（ｃ）は、図４３８（ｂ）のＡ０２ｃ－Ａ０２ｃ線における導電部材の断面図であり、（ｄ）は、図４３８（ａ）のＡ０２ｄ－Ａ０２ｄ線における導電部材の断面図である。
【図４３９】（ａ）は、第７０実施形態における導電部材の側面図であり、図４３９（ｂ）は、図４３９（ａ）の矢印Ａ０３ｂ方向視における導電部材の正面図であり、図４３９（ｃ）は、図４３９（ｂ）のＡ０３ｃ－Ａ０３ｃ線における導電部材の断面図であり、図４３９（ｄ）は、図４３９（ａ）のＡ０３ｄ－Ａ０３ｄ線における導電部材の断面図である。
【図４４０】（ａ）は、第７１実施形態における導電部材の側面図であり、（ｂ）は、図４４０（ａ）の矢印Ａ０７ｂ方向視における導電部材の正面図であり、（ｃ）は、図４４０（ｂ）のＡ０７ｃ－Ａ０７ｃ線における導電部材の断面図であり、（ｄ）は、図４４０（ｃ）のＡ０７ｄ－Ａ０７ｄ線における導電部材の断面図である。
【図４４１】（ａ）は、第７２実施形態における導電部材の側面図であり、（ｂ）は、図４４１（ａ）の矢印Ａ０８ｂ方向視における導電部材の正面図であり、（ｃ）は、図４４１（ｂ）のＡ０８ｃ－Ａ０８ｃ線における導電部材の断面図であり、（ｄ）は、図４４１（ｃ）のＡ０８ｄ－Ａ０８ｄ線における導電部材の断面図である。
【図４４２】（ａ）は、第７３実施形態における導電部材の側面図であり、（ｂ）は、図４４２（ａ）の矢印Ａ０９ｂ方向視における導電部材の正面図であり、（ｃ）は、図４４２（ｂ）のＡ０９ｃ－Ａ０９ｃ線における導電部材の断面図であり、（ｄ）は、図４４２（ａ）のＡ０９ｄ－Ａ０９ｄ線における導電部材の断面図である。
【図４４３】第７４実施形態における液晶表示装置の断面図である。
【図４４４】（ａ）は、第７５実施形態における導電部材の側面図であり、（ｂ）は、図４４４（ａ）の矢印Ａ１１ｃ方向視における導電部材の正面図であり、図４４４（ｃ）は、（ｂ）のＡ１１ｃ－Ａ１１ｃ線における導電部材の断面図である。
【図４４５】（ａ）は、第７６実施形態における導電部材の斜視図であり、（ｂ）は、導電部材の側面図であり、（ｃ）は、図４４５（ｂ）の矢印Ａ１２ｃ方向視における導電部材の正面図であり、（ｄ）は、図４４５（ｃ）のＡ１２ｄ－Ａ１２ｄ線における導電部材の断面図であり、（ｅ）は、図４４５（ｂ）のＡ１２ｅ－Ａ１２ｅ線における導電部材の断面図である。
【図４４６】（ａ）は、第７７実施形態における導電部材の側面図であり、（ｂ）は、図４４６（ａ）の矢印Ａ１３ｂ方向視における導電部材の正面図であり、（ｃ）は、図４４

６（ｂ）のＡ１３ｃ－Ａ１３ｃ線における導電部材の断面図であり、（ｄ）は、図４４６（ａ）のＡ１３ｄ－Ａ１３ｄ線における導電部材の断面図である。
【図４４７】第７８実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図４４８】パチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図４４９】パチンコ機の正面斜視図である。
【図４５０】パチンコ機の正面斜視図である。
【図４５１】パチンコ機の正面斜視図である。
【図４５２】パチンコ機の正面図である。
【図４５３】遊技盤及び内枠の分解正面斜視図である。
【図４５４】正面枠の分解正面斜視図である。
【図４５５】正面枠の分解背面斜視図である。
【図４５６】パチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図４５７】第７９実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図４５８】パチンコ機の正面図である。
【図４５９】上下皿ユニットの正面図である。
【図４６０】上下皿ユニットの分解正面斜視図である。
【図４６１】上下皿ユニットの分解背面斜視図である。
【図４６２】操作デバイスの分解正面斜視図である。
【図４６３】操作デバイスの分解背面斜視図である。
【図４６４】固定ベース装置の分解正面斜視図である。
【図４６５】固定ベース装置の分解背面斜視図である。
【図４６６】駆動伝達装置の分解正面斜視図である。
【図４６７】駆動伝達装置の分解背面斜視図である。
【図４６８】駆動伝達装置の別方向からの分解正面斜視図である。
【図４６９】（ａ）は、矢印Ｌ方向視における駆動モータ及び第１クラッチギアの右側面図であり、（ｂ）は、矢印Ｒ方向視における第２クラッチギア、伝達ギア及び動作アーム部材の左側面図であり、（ｃ）は、駆動モータ、第１クラッチギア、第２クラッチギア、伝達ギア及び動作アーム部材の正面図である。
【図４７０】（ａ）及び（ｂ）は、図４６９（ｃ）の領域Ｚ５４ａにおける第１クラッチギア、第２クラッチギア及び伝達ギアの拡大図である。
【図４７１】（ａ）、（ｂ）及び（ｃ）は、動作部材、追従動作部材、スライド体及び動作アーム部材の模式図である。
【図４７２】操作デバイスの側面図である。
【図４７３】図４５９のＸ５３ｍ－Ｘ５３ｍ線における操作デバイスの模式断面図である。
【図４７４】操作デバイスの側面図である。
【図４７５】図４５９のＸ５３ｍ－Ｘ５３ｍ線に対応する線における操作デバイスの模式断面図である。
【図４７６】図４５９のＸ５３ｍ－Ｘ５３ｍ線に対応する線における操作デバイスの模式断面図である。
【図４７７】（ａ）は、図４７５のＸ５５ａ－Ｘ５５ａ線における操作デバイスの断面図であり、（ｂ）は、図４７６のＸ５５ｂ－Ｘ５５ｂ線における操作デバイスの断面図である。
【図４７８】（ａ）から（ｅ）は、操作デバイス及び第３図柄表示装置を模式的に示す模式正面図であり、（ｆ）は、演出実行タイミング及び事前タイミングの関係を示す模式図である。
【図４７９】（ａ）から（ｄ）は、操作デバイス及び第３図柄表示装置を模式的に示す模式正面図である。
【図４８０】（ａ）から（ｅ）は、操作デバイス及び第３図柄表示装置を模式的に示す模式正面図である。

【図４８１】（ａ）、（ｂ）、及び（ｃ）は、第８０実施形態における動作部材、追従動作部材、スライド体及び駆動伝達装置の動作アーム部材の模式図である。
【図４８２】（ａ）、（ｂ）、及び（ｃ）は、動作部材、追従動作部材、スライド体及び駆動伝達装置の動作アーム部材の模式図である。
【図４８３】第８１実施形態における操作デバイスの右側面図である。
【図４８４】第８１実施形態における操作デバイスの右側面図である。
【図４８５】操作デバイスの部分正面図である。
【図４８６】（ａ）及び（ｂ）は、動作部材、追従動作部材、スライド体、回転伝達部材、干渉部材及び動作アーム部材の模式図である。
【図４８７】第８２実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図４８８】パチンコ機の背面図である。
【図４８９】パチンコ機の正面斜視図である。
【図４９０】パチンコ機の正面斜視図である。
【図４９１】パチンコ機の正面斜視図である。
【図４９２】パチンコ機の正面図である。
【図４９３】遊技盤及び内枠の分解正面斜視図である。
【図４９４】正面枠の分解正面斜視図である。
【図４９５】正面枠の分解背面斜視図である。
【図４９６】パチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図４９７】第８３実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図４９８】遊技盤の正面図である。
【図４９９】遊技盤及び動作ユニットの正面斜視図である。
【図５００】遊技盤及び動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図５０１】（ａ）は、第１球流下構造体の正面斜視図であり、（ｂ）は、第１球流下構造体の背面斜視図である。
【図５０２】第１球流下構造体の分解正面斜視図である。
【図５０３】第１球流下構造体の分解背面斜視図である。
【図５０４】第１球流下構造体の正面図である。
【図５０５】図５０４のＢ０１ｍ－Ｂ０１ｍ線における第１球流下構造体の断面図である。
【図５０６】図５０４のＢ０２ｍ－Ｂ０２ｍ線における第１球流下構造体の断面図である。
【図５０７】第１球流下構造体の正面図である。
【図５０８】動作ユニットの分解斜視正面図である。
【図５０９】揺動ユニットの正面図である。
【図５１０】揺動ユニットの背面図である。
【図５１１】揺動ユニットの分解正面斜視図である。
【図５１２】揺動ユニットの分解正面斜視図である。
【図５１３】（ａ）及び（ｂ）は、揺動ユニットを正面視した模式図である。
【図５１４】（ａ）及び（ｂ）は、揺動ユニットを正面視した模式図である。
【図５１５】第８４実施形態における遊技盤及び動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図５１６】（ａ）は、第１球流下構造体の正面斜視図であり、（ｂ）は、第１球流下構造体の背面斜視図である。
【図５１７】第１球流下構造体の分解正面斜視図である。
【図５１８】第１球流下構造体の分解背面斜視図である。
【図５１９】第１球流下構造体の正面図である。
【図５２０】（ａ）及び（ｂ）は、振分部材及び変位伝達装置の正面図である。
【図５２１】（ａ）、（ｂ）及び（ｃ）は、ベース板及び第１球流下構造体の部分背面図である。
【図５２２】（ａ）、（ｂ）及び（ｃ）は、図５２１（ｃ）のＢ０４ａ－Ｂ０４ａ線にお

ける遊技盤の断面図である。
【図５２３】（ａ）は、振分部材及び回転部材の拡大正面図であり、（ｂ）は、図５２２（ａ）のＢ０５ｂ－Ｂ０５ｂ線における振分部材及び回転部材の部分断面図である。
【図５２４】（ａ）は、振分部材及び回転部材の拡大正面図であり、（ｂ）は、図５２２（ｂ）のＢ０６ｂ－Ｂ０６ｂ線における振分部材及び回転部材の部分断面図である。
【図５２５】図５２３（ｂ）のＢ０７ｍ－Ｂ０７ｍ線における振分部材及び回転部材の部分断面図である。
【図５２６】第８５実施形態における第１球流下構造体の正面図である。
【図５２７】図５２６のＢ０９ｍ－Ｂ０９ｍ線における第１球流下構造体の断面図である。
【図５２８】図５２６のＢ０９ｍ－Ｂ０９ｍ線における第１球流下構造体の断面図である。
【図５２９】（ａ）は、第８６実施形態における揺動ユニットを正面視した模式図であり、（ｂ）は、図５２９（ａ）のＥ０１ｂ－Ｅ０１ｂ線における揺動ユニットの模式断面図であり、（ｃ）は、図５２９（ａ）のＥ０１ｃ－Ｅ０１ｃ線における揺動ユニットの模式断面図である。
【図５３０】揺動ユニットを正面視した模式図である。
【図５３１】揺動ユニットを正面視した模式図である。
【図５３２】（ａ）は、第８７実施形態における揺動ユニットを正面視した模式図であり、（ｂ）は、図５３２（ａ）のＥ０２ｂ－Ｅ０２ｂ線における揺動ユニットの模式断面図であり、（ｃ）は、図５３２（ａ）のＥ０２ｃ－Ｅ０２ｃ線における揺動ユニットの断面模式図である。
【図５３３】（ａ）及び（ｂ）は、上側揺動手段および上側動力付与手段の正面視における模式図である。
【図５３４】（ａ）及び（ｂ）は、上側揺動手段および上側動力付与手段の正面視における模式図である。
【図５３５】（ａ）及び（ｂ）は、上側揺動手段および上側動力付与手段の正面視における模式図である。
【図５３６】（ａ）は、第８８実施形態における揺動ユニットを正面視した模式図であり、（ｂ）は、図５３６（ａ）のＥ０３ｂ－Ｅ０３ｂ線における揺動ユニットの模式断面図であり、（ｃ）は、図５３６（ａ）のＥ０３ｃ－Ｅ０３ｃ線における揺動ユニットの模式断面図である。
【図５３７】（ａ）は、図５３６（ａ）のＥ０４ａ－Ｅ０４ａ線における揺動ユニットの断面模式図であり、（ｂ）及び（ｃ）は、図５３７（ａ）のＥ０４ｂ－Ｅ０４ｂ線における揺動ユニットの断面模式図である。
【図５３８】（ａ）及び（ｂ）は、揺動ユニットの正面視における模式図である。
【図５３９】（ａ）及び（ｂ）は、変形例における揺動ユニットの模式断面図である。
【図５４０】第８９実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図５４１】遊技盤の正面図である。
【図５４２】遊技盤及び動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図５４３】第２球流下構造体の正面斜視図である。
【図５４４】第２球流下構造体の背面斜視図である。
【図５４５】第２球流下構造体の分解正面斜視図である。
【図５４６】第２球流下構造体の分解背面斜視図である。
【図５４７】第２球流下構造体の正面図である。
【図５４８】（ａ）は、電動役物の正面図であり、（ｂ）は、図５４８（ａ）の矢印Ｂ１３ｂ方向視における電動役物の斜視図である。
【図５４９】（ａ）及び（ｂ）は、図５４８（ａ）の矢印Ｂ１３ｂ方向視における開閉板、中間リンク部材、駆動ソレノイド及び先端固定部材の分解図である。
【図５５０】図５４７のＢ１１ｍ－Ｂ１１ｍ線における第２球流下構造体の部分断面図で

ある。
【図５５１】図５４７のＢ１２ｍ－Ｂ１２ｍ線における第２球流下構造体の部分断面図である。
【図５５２】図５４７のＢ１２ｍ－Ｂ１２ｍ線における第２球流下構造体の部分断面図である。
【図５５３】（ａ）及び（ｂ）は、図５４７のＢ１４ａ－Ｂ１４ａ線における第２球流下構造体の部分断面図である。
【図５５４】図５５３（ａ）の範囲Ｂ１５ｍにおける第２球流下構造体の部分断面図である。
【図５５５】動作ユニットの分解斜視正面図である。
【図５５６】上変位ユニットの正面図である。
【図５５７】上変位ユニットの背面図である。
【図５５８】上変位ユニットの分解正面斜視図である。
【図５５９】上変位ユニットの分解背面斜視図である。
【図５６０】ベース手段の分解斜視正面図である。
【図５６１】ベース手段の分解斜視背面図である。
【図５６２】ベース手段の正面図である。
【図５６３】ベース手段の背面図である。
【図５６４】（ａ）は、ベース手段の正面図であり、（ｂ）は、ベース手段の背面図である。
【図５６５】（ａ）は、ベース手段の正面図であり、（ｂ）は、ベース手段の背面図である。
【図５６６】（ａ）は、ベース手段の正面図であり、（ｂ）は、ベース手段の背面図である。
【図５６７】（ａ）は、変位規制手段の分解斜視正面図であり、（ｂ）は、変位規制手段の分解斜視背面図である。
【図５６８】（ａ）及び（ｂ）は、変位規制手段の背面図である。
【図５６９】（ａ）及び（ｂ）は、ベース手段の正面図である。
【図５７０】（ａ）は、上変位手段の正面図であり、（ｂ）は、上変位手段の背面図である。
【図５７１】上変位手段の分解斜視正面図である。
【図５７２】上変位手段の分解斜視背面図である。
【図５７３】（ａ）及び（ｂ）は、上変位手段の背面図である。
【図５７４】（ａ）及び（ｂ）は、上変位ユニットの正面図である。
【図５７５】（ａ）及び（ｂ）は、正面視における上変位ユニットの模式図である。
【図５７６】（ａ）及び（ｂ）は、正面視における上変位ユニットの模式図である。
【図５７７】（ａ）及び（ｂ）は、正面視における上変位ユニットの模式図である。
【図５７８】下変位ユニットの正面図である。
【図５７９】下変位ユニットの分解正面斜視図である。
【図５８０】下変位ユニットの分解背面斜視図である。
【図５８１】下変位ユニットの正面図である。
【図５８２】図５４７の範囲Ｂ１６ｍに対応する範囲における第９０実施形態における第２球流下構造体の部分正面図である。
【図５８３】（ａ）及び（ｂ）は、図５４７のＢ１４ａ－Ｂ１４ａ線に対応する線における第９１実施形態における第２球流下構造体の部分断面図である。
【図５８４】図５４７の範囲Ｂ１６ｍに対応する範囲における第９２実施形態における第２球流下構造体の部分正面図である。
【図５８５】図５４７の範囲Ｂ１６ｍに対応する範囲における第９３実施形態における第２球流下構造体の部分正面図である。
【図５８６】図５８５のＢ１７ｍ－Ｂ１７ｍ線における第２球流下構造体の部分断面図で

ある。
【図５８７】図５８５のＢ１７ｍ－Ｂ１７ｍ線における第２球流下構造体の部分断面図である。
【図５８８】図５４７の範囲Ｂ１６ｍに対応する範囲における第９４実施形態における第２球流下構造体の部分正面図である。
【図５８９】図５４７のＢ１２ｍ－Ｂ１２ｍ線に対応する線における第９５実施形態における第２球流下構造体の部分断面図である。
【図５９０】（ａ）及び（ｂ）は、図５８９のＢ１８ａ－Ｂ１８ａ線における第２球流下構造体の部分断面図である。
【図５９１】図５４７のＢ１２ｍ－Ｂ１２ｍ線に対応する線における第９６実施形態における第２球流下構造体の部分断面図である。
【図５９２】（ａ）及び（ｂ）は、図５４７のＢ１４ａ－Ｂ１４ａ線に対応する線における第９７実施形態における第２球流下構造体の部分断面図である。
【図５９３】図５４７の範囲Ｂ１６ｍに対応する範囲における第２球流下構造体の部分正面図である。
【図５９４】図５９３のＢ１９ｍ－Ｂ１９ｍ線における第２球流下構造体の部分断面図である。
【図５９５】第９８実施形態における上変位手段の分解斜視図である。
【図５９６】（ａ）及び（ｂ）は、上変位ユニットを正面視した模式図である。
【図５９７】（ａ）及び（ｂ）は、上変位ユニットを正面視した模式図である。
【図５９８】（ａ）及び（ｂ）は、上変位ユニットを正面視した模式図である。
【図５９９】（ａ）及び（ｂ）は、第９９実施形態における上変位ユニット及び下変位ユニットを正面視した模式図である。
【図６００】（ａ）及び（ｂ）は、上変位ユニット及び下変位ユニットを正面視した模式図である。
【図６０１】（ａ）及び（ｂ）は、上変位ユニット及び下変位ユニットを正面視した模式図である。
【図６０２】（ａ）は、第１００実施形態における下変位ユニットを正面視した模式図であり、（ｂ）は、回転手段を正面視した模式図であり、（ｃ）は、回転手段を上面視した模式図である。
【図６０３】（ａ）及び（ｃ）は、図６０２（ａ）のＥ０５ａ－Ｅ０５ａ線における下変位ユニットの断面模式図であり、（ｂ）及び（ｄ）は、回転手段を上面視した模式図である。
【図６０４】（ａ）及び（ｂ）は、上変位ユニット及び下変位ユニットを正面視した模式図である。
【図６０５】（ａ）は、回転手段および変位手段を上面視した模式図であり、（ｂ）は、上変位ユニット及び下変位ユニットを正面視した模式図である。
【図６０６】（ａ）は、回転手段および変位手段を上面視した模式図であり、（ｂ）は、上変位ユニット及び下変位ユニットを正面視した模式図である。
【図６０７】（ａ）は、第１０１実施形態における上変位ユニットを正面視した模式図であり、（ｂ）は、図６０７（ａ）のＥ０６ｂ－Ｅ０６ｂ線における上変位ユニットの断面模式図である。
【図６０８】（ａ）及び（ｂ）は、上変位ユニットを正面視した模式図である。
【図６０９】（ａ）は、上変位ユニットを正面視した模式図であり、（ｂ）は、上変位ユニットを側面視した模式図である。
【図６１０】（ａ）は、上変位ユニットＥ５１００を正面視した模式図であり、図６１０（ｂ）は、上変位ユニットＥ５１００を側面視した模式図である。
【図６１１】（ａ）は、第１０２実施形態における上変位ユニットを正面視した模式図であり、（ｂ）は、図６１１（ａ）のＥ０７ｂ－Ｅ０７ｂ線における上変位ユニットの断面模式図である。

【図６１２】（ａ）及び（ｂ）は、上変位ユニットを正面視した模式図である。
【図６１３】（ａ）及び（ｂ）は、上変位ユニットを正面視した模式図である。
【図６１４】（ａ）は、第１０３実施形態における上変位ユニットを正面視した模式図であり、（ｂ）は、図６１４（ａ）のＥ０８ｂ－Ｅ０８ｂ線における上変位ユニットの断面模式図である。
【図６１５】（ａ）は、上変位ユニットを背面視した模式図であり、（ｂ）及び（ｃ）は、図６１５（ａ）のＥ０９ｂ－Ｅ０９ｂ線における上変位ユニットの断面模式図である。
【図６１６】（ａ）及び（ｂ）は、上変位ユニットを正面視した模式図である。
【図６１７】（ａ）及び（ｂ）は、上変位ユニットを正面視した模式図である。
【図６１８】（ａ）及び（ｂ）は、上変位ユニットを正面視した模式図である。
【図６１９】（ａ）及び（ｂ）は、第１０４実施形態における上変位ユニットを正面視した模式図である。
【図６２０】（ａ）及び（ｂ）は、変位規制手段の背面図である。
【図６２１】（ａ）及び（ｃ）は、回転体を正面視した模式図であり、（ｂ）は、図６２１（ａ）のＥ１０ｂ－Ｅ１０ｂ線における回転体の断面模式図であり、（ｄ）は、図６２１（ｃ）のＥ１０ｄ－Ｅ１０ｄ線における回転体の断面模式図である。
【図６２２】第１０５実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図６２３】遊技盤の正面図である。
【図６２４】動作ユニットの分解斜視正面図である。
【図６２５】（ａ）は、導光板ユニットの正面図であり、（ｂ）は、導光板ユニットの背面図である。
【図６２６】導光板ユニットの分解斜視正面図である。
【図６２７】（ａ）は、一側ベース手段の正面図であり、（ｂ）は、一側ベース手段の背面図であり、（ｃ）は、図６２７（ａ）のＥ１１ｃ－Ｅ１１ｃ線における一側ベース手段の断面図である。
【図６２８】（ａ）は、他側ベース手段の正面図であり、（ｂ）は、他側ベース手段の背面図であり、（ｃ）は、図６２８（ａ）の矢印Ｅ１２ｃ方向視における他側ベース手段の側面図である。
【図６２９】（ａ）は、図６２５（ａ）のＥ１０ａ－Ｅ１０ａ線における導光板ユニットの断面模式図であり、（ｂ）は、図６２５のＥ１０ｂ－Ｅ１０ｂ線における導光板ユニットの断面模式図である。
【図６３０】（ａ）は、導光板ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図６３０（ａ）のＥ１３ｂ－Ｅ１３ｂ線における導光板ユニットの断面図であり、（ｃ）は、図６３０（ｂ）のＥ１３ｃ－Ｅ１３Ｃ線における導光板ユニットの断面図である。
【図６３１】（ａ）は、第１０６実施形態におけるパチンコ機の正面図であり、（ｂ）は、図６３１（ａ）のＥ１４ｂ－Ｅ１４ｂ線におけるパチンコ機の断面模式図であり、（ｂ）は、図６３１（ａ）のＥ１４ｃ－Ｅ１４ｃ線におけるパチンコ機の断面模式図である。
【図６３２】導光板ユニット、遊技盤、内枠、及び、外枠の分解正面斜視図である。
【図６３３】（ａ）は、第１０７実施形態における正面枠および導光板ユニットの背面斜視図であり、（ｂ）は、パチンコ機の断面模式図であり、（ｃ）は、パチンコ機の断面模式図である。
【図６３４】（ａ）は、第１０８実施形態におけるパチンコ機の断面模式図であり、（ｂ）は、パチンコ機の断面模式図である。
【図６３５】（ａ）は、第１０９実施形態における導光板ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図６３５（ａ）のＥ１５ｂ－Ｅ１５ｂ線における導光板ユニットの断面模式図であり、（ｃ）は、図６３５（ａ）のＥ１５ｃ－Ｅ１５ｃ線における導光板ユニットの断面模式図である。
【図６３６】（ａ）及び（ｂ）は、第１１０実施形態におけるパチンコ機の断面模式図である。
【図６３７】第１１１実施形態における動作ユニットの分解正面斜視図である。

【図６３８】（ａ）及び（ｂ）は、パチンコ機の断面模式図である。
【図６３９】（ａ）及び（ｂ）は、第１１２実施形態におけるパチンコ機の断面模式図である。
【図６４０】（ａ）及び（ｂ）は、第１１３実施形態におけるパチンコ機の断面模式図である。
【図６４１】第１１４実施形態における正面枠と導光板ユニットとの分解背面斜視図である。
【図６４２】導光板ユニットの分解正面斜視図である。
【図６４３】（ａ）は、導光板ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図６４３（ａ）のＥ１６ｂ－Ｅ１６ｂ線における導光板ユニットの断面模式図であり、（ｃ）は、図６４３（ａ）のＥ１６ｃ－Ｅ１６ｃ線における導光板ユニットの断面模式図である。
【図６４４】（ａ）は、導光板ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図６４４（ａ）のＥ１７ｂ－Ｅ１７ｂ線における導光板ユニットの断面模式図であり、（ｃ）は、図６４４（ａ）のＥ１７ｃ－Ｅ１７ｃ線における導光板ユニットの断面模式図である。
【図６４５】第１１５実施形態における導光板ユニットの分解正面斜視図である。
【図６４６】（ａ）は、導光板ユニットの背面図であり、（ｂ）は、図６４６（ａ）のＥ１８ｂ－Ｅ１８ｂ線におけるの断面模式図であり、（ｃ）は、図６４６（ａ）のＥ１８ｃ－Ｅ１８ｃ線における導光板ユニットの断面模式図である。
【図６４７】（ａ）は、導光板ユニットの背面図であり、（ｂ）は、図６４７（ａ）のＥ１９ｂ－Ｅ１９ｂ線における導光板ユニットの断面模式図であり、（ｃ）は、図６４７（ａ）のＥ１９ｃ－Ｅ１９ｃ線における導光板ユニットの断面模式図である。
【図６４８】（ａ）は、第１１６実施形態における導光板ユニットの正面図であり、（ｂ）は、導光板ユニット、遊技盤、及び、外枠の分解正面斜視図である。
【図６４９】（ａ）は、第１１７実施形態におけるパチンコ機の断面模式図であり、（ｂ）は、発光手段の光の照射方向と反対方向視における光照射ユニットの側面図である。
【図６５０】第１１８実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図６５１】パチンコ機の背面図である。
【図６５２】外枠に対して内枠を開放（展開）した状態を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図６５３】パチンコ機の正面斜視図である。
【図６５４】パチンコ機の正面斜視図である。
【図６５５】パチンコ機の正面図である。
【図６５６】遊技盤および内枠の分解正面斜視図である。
【図６５７】正面枠の分解正面斜視図である。
【図６５８】正面枠の分解背面斜視図である。
【図６５９】パチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図６６０】遊技盤および動作ユニットの正面図である。
【図６６１】遊技盤および動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図６６２】動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図６６３】遊技盤の分解正面斜視図である。
【図６６４】（ａ）は、入球口ユニットの正面図であり、（ｂ）は、入球口ユニットの側面図であり、（ｃ）は、入球口ユニットの背面図である。
【図６６５】（ａ）は、入球口ユニットの分解正面斜視図であり、（ｂ）は、入球口ユニットの分解背面斜視図である。
【図６６６】（ａ）は、化粧側ユニットの分解正面斜視図であり、（ｂ）は、化粧側ユニットの分解背面斜視図である。
【図６６７】（ａ）及び（ｂ）は、化粧側ユニットの背面図である。
【図６６８】（ａ）は、通路ユニットの正面図であり、（ｂ）は、通路ユニットの背面図であり、（ｃ）は、通路ユニットの側面図である。
【図６６９】（ａ）は、通路ユニットの分解正面斜視図であり、（ｂ）は、通路ユニット

の分解背面斜視図である。
【図６７０】（ａ）は、図６６８（ｃ）のＮ０１ａ－Ｎ０１ａ線における通路ユニットの断面図であり、（ｂ）は、図６６８（ｃ）のＮ０１ｂ－Ｎ０１ｂ線における通路ユニットの断面図である。
【図６７１】（ａ）は、図６６８（ａ）のＮ０２ａ－Ｎ０２ａ線における通路ユニットの断面図であり、（ｂ）は、図６６８（ａ）のＮ０２ｂ－Ｎ０２ｂ線における通路ユニットの断面図である。
【図６７２】（ａ）は、特定入賞ユニットの正面図であり、（ｂ）は、特定入賞ユニットの背面図であり、（ｃ）は、特定入賞ユニットの上面図である。
【図６７３】（ａ）は、特定入賞ユニットの分解正面斜視図であり、（ｂ）は、特定入賞ユニットの分解正面背面斜視図である。
【図６７４】（ａ）は、図６７２（ａ）のＮ０３ａ－Ｎ０３ａ線における特定入賞ユニットの断面図であり、（ｂ）は、特定入賞ユニットの正面図であり、（ｃ）は、図６７４（ｂ）のＮ０３ｃ－Ｎ０３ｃ線における特定入賞ユニットの断面図である。
【図６７５】（ａ）及び（ｂ）は、入球口ユニットの正面図である。
【図６７６】（ａ）は、図６７５（ａ）のＮ０４ａ－Ｎ０４ａ線における入球口ユニットの断面図であり、（ｂ）は、図６７５（ｂ）のＮ０４ｂ－Ｎ０４ｂ線における入球口ユニットの断面図である。
【図６７７】（ａ）から（ｃ）は、正面視における入球口ユニットを部分的に拡大した部分拡大図である。
【図６７８】（ａ）から図６７８（ｃ）は、正面視における入球口ユニットを部分的に拡大した部分拡大図である。
【図６７９】遊技盤の正面図である。
【図６８０】遊技盤の分解正面斜視図である。
【図６８１】（ａ）は、センターフレームの正面図であり、（ｂ）は、図６８１（ａ）のＮ０５ｂ－Ｎ０５ｂ線におけるセンターフレームの断面図である。
【図６８２】（ａ）は、第１１９実施形態における羽部材の正面図であり、（ｂ）は、図６８２（ａ）の矢印Ｎ０６ｂ方向視における羽部材の側面図であり、（ｃ）は、図６８２（ｂ）のＮ０６ｃ－Ｎ０６ｃ線における羽部材の断面図である。
【図６８３】（ａ）及び（ｂ）は、入球口ユニットの正面図である。
【図６８４】（ａ）及び（ｂ）は、入球口ユニットの正面図である。
【図６８５】（ａ）は、第１２０実施形態における入球口ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図６８５（ａ）のＮ０７ｂ－Ｎ０７ｂ線における入球口ユニットの断面図である。
【図６８６】（ａ）は、入球口ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図６８６（ａ）のＮ０８ｂ－Ｎ０８ｂ線における入球口ユニットの断面図である。
【図６８７】（ａ）は、第１２１実施形態における電動役物の正面図であり、（ｂ）は、図６８７（ａ）のＮ０９ｂ－Ｎ０９ｂ線における電動役物の断面図であり、（ｃ）は、入球口ユニットの正面図である。
【図６８８】（ａ）は、第１２２実施形態における入球口ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図６８８（ａ）のＮ１０ｂ－Ｎ１０ｂ線における入球口ユニットの断面図である。
【図６８９】第１２３実施形態における遊技盤の正面図である。
【図６９０】（ａ）及び（ｂ）は、図６８９の範囲Ｎ１１ａにおける遊技盤の部分拡大正面図である。
【図６９１】（ａ）及び（ｂ）は、第１２４実施形態における遊技盤の正面図であり、（ｃ）は、図６９１（ａ）のＮ１２ｃ－Ｎ１２ｃ線における遊技盤の断面図であり、（ｄ）は、図６９１（ｂ）のＮ１２ｄ－Ｎ１２ｄ線における遊技盤の断面図である。
【図６９２】第１２５実施形態における入球口ユニットの正面図である。
【図６９３】第１２６実施形態における遊技盤の正面図である。
【図６９４】遊技盤の分解正面斜視図である。
【図６９５】（ａ）は、図６９３のＮ１３ａ－Ｎ１３ａ線における遊技盤の断面図であり

、（ｂ）は、図６９３のＮ１３ｂ－Ｎ１３ｂ線における遊技盤の断面図である。
【図６９６】（ａ）及び（ｂ）は、第１２７実施形態における遊技盤の断面図である。
【図６９７】（ａ）は、第１２８実施形態における遊技盤を部分的に拡大した部分拡大正面図であり、（ｂ）は、図６９７（ａ）のＮ１４ｂ－Ｎ１４ｂ線における遊技盤の断面図である。
【図６９８】（ａ）は、第１２９実施形態における遊技盤を部分的に拡大した部分拡大正面図であり、（ｂ）は、図６９８（ａ）のＮ１５ｂ－Ｎ１５ｂ線における遊技盤の断面図である。
【図６９９】（ａ）は、第１３０実施形態における遊技盤を部分的に拡大した部分拡大正面図であり、（ｂ）は、図６９９（ａ）のＮ１６ｂ－Ｎ１６ｂ線における遊技盤の断面図である。
【図７００】（ａ）は、第１３１実施形態における遊技盤の断面図であり、（ｂ）は、第１３２実施形態における遊技盤の断面図である。
【図７０１】第１３３実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図７０２】遊技盤の正面図である。
【図７０３】第１の大当たり作動パターンにおける開閉板及び駆動ソレノイドの状態と、入賞検出センサの出力との計時変化を示した図である。
【図７０４】第２の大当たり作動パターンにおける開閉板及び駆動ソレノイドの状態と、入賞検出センサの出力との計時変化を示した図である。
【図７０５】第１の小当たり作動パターンにおける開閉板及び駆動ソレノイドの状態の計時変化を示した図である。
【図７０６】遊技盤及び動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図７０７】第２球流下構造体の正面斜視図である。
【図７０８】第２球流下構造体の背面斜視図である。
【図７０９】第２球流下構造体の分解正面斜視図である。
【図７１０】第２球流下構造体の分解背面斜視図である。
【図７１１】第２球流下構造体の正面図である。
【図７１２】（ａ）及び（ｂ）は、図７１１の矢印Ｂ３１ｍ方向視における可変入賞装置の模式図である。
【図７１３】（ａ）及び（ｂ）は、図７１１のＢ３２ｍ－Ｂ３２ｍ線における第２球流下構造体の部分断面図である。
【図７１４】図７１１の範囲Ｂ３３ｍにおける第２球流下構造体の部分正面拡大図である。
【図７１５】図７１１の範囲Ｂ３３ｍにおける第２球流下構造体の部分正面拡大図である。
【図７１６】（ａ）～（ｇ）は、表示部の正面図である。
【図７１７】図７１１のＢ３２ｍ－Ｂ３２ｍ線における第２球流下構造体の部分断面図である。
【図７１８】図７１１の範囲Ｂ３３ｍにおける第２球流下構造体の部分正面拡大図である。
【図７１９】（ａ）及び（ｂ）は、図７１８のＢ３６ａ－Ｂ３６ａ線における第２球流下構造体の部分断面拡大図である。
【図７２０】第１の大当たり作動パターンにおける開閉板の状態と、第３発光部の出力と、入賞検出センサの出力との計時変化を示した図である。
【図７２１】第１の大当たり作動パターンにおける開閉板の状態と、第３発光部の出力と、入賞検出センサの出力との計時変化を示した図である。
【図７２２】図７１１の範囲Ｂ３３ｍに対応する範囲における第１３４実施形態における第２球流下構造体の部分正面図である。
【図７２３】（ａ）及び（ｂ）は、図７１１の矢印Ｂ３１ｍ方向視における第１３５実施形態における可変入賞装置の模式図である。

【図７２４】（ａ）及び（ｂ）は、図７１１の矢印Ｂ３１ｍ方向視における可変入賞装置の模式図である。
【図７２５】（ａ）及び（ｂ）は、図７１１の矢印Ｂ３１ｍ方向視における第１３６実施形態における可変入賞装置の模式図である。
【図７２６】（ａ）及び（ｂ）は、図７１１の矢印Ｂ３１ｍ方向視における可変入賞装置の模式図である。
【図７２７】第１３７実施形態における第２球流下構造体の正面図である。
【図７２８】（ａ）は、回転風車部材の正面図であり、（ｂ）は、図７２８（ａ）の矢印Ｂ４０ｂ方向視における回転風車部材の側面図であり、（ｃ）は、図７２８（ｂ）の矢印Ｂ４０ｃ方向視における回転風車部材の背面図である。
【図７２９】第１３８実施形態における第２球流下構造体の正面図である。
【図７３０】（ａ）及び（ｂ）は、図７２９のＢ４３ａ－Ｂ４３ａ線における第２球流下構造体の部分断面図である。
【図７３１】（ａ）は、第１３９実施形態における表示装置の正面図であり、（ｂ）は、図７３１（ａ）の矢印Ｂ５０ｂ方向視における表示装置の側面図である。
【図７３２】（ａ）は、前側導光板の正面図であり、（ｂ）は、後側導光板の正面図である。
【図７３３】第１４０実施形態における遊技盤及び動作ユニットの正面図である。
【図７３４】遊技盤及び動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図７３５】遊技盤の分解正面斜視図である。
【図７３６】動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図７３７】動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図７３８】(ａ)は、上変位ユニット及び揺動ユニットの正面図であり、(ｂ)は、上変位ユニット及び揺動ユニットの背面図である。
【図７３９】（ａ）は、上変位ユニット及び揺動ユニットの分解正面斜視図であり、（ｂ）は、上変位ユニット及び揺動ユニットの分解背面斜視図である。
【図７４０】（ａ）及び（ｂ）は、上変位ユニットの正面図である。
【図７４１】上変位ユニットの分解正面斜視図である。
【図７４２】上変位ユニットの分解背面斜視図である。
【図７４３】（ａ）及び（ｂ）は、揺動ユニットの正面図である。
【図７４４】揺動ユニットの分解正面斜視図である。
【図７４５】揺動ユニットの分解背面斜視図である。
【図７４６】（ａ）及び（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａにおける上変位ユニットＹの正面図である。
【図７４７】（ａ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａにおける上変位ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図７４０（ｂ）の範囲Ｎ２３ｂにおける上変位ユニットの正面図である。
【図７４８】（ａ）は、背面側通路ユニットの正面図であり、（ｂ）は、背面側通路ユニットの背面図であり、（ｃ）は、背面側通路ユニットの分解正面斜視図である。
【図７４９】（ａ）は、センターフレームの正面図であり、（ｂ）は、センターフレームの分解正面斜視図である。
【図７５０】（ａ）は、図７４９（ａ）のＮ２５ａ－Ｎ２５ａ線におけるセンターフレームの部分断面図であり、（ｂ）は、図７４９（ａ）のＮ２５ｂ－Ｎ２５ｂ線におけるセンターフレームの部分断面図である。
【図７５１】（ａ）は、図７３３のＮ２１ａ－Ｎ２１ａ線における遊技盤の部分断面図であり、（ｂ）は、図７５１（ａ）のＮ２６ｂ－Ｎ２６ｂ線におけるセンターフレーム及び背面側通路ユニットの部分断面図である。
【図７５２】第１４１実施形態における上変位ユニットの分解正面斜視図である。
【図７５３】（ａ）及び（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットの正面図である。

【図７５４】（ａ）及び（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットの正面図である。
【図７５５】（ａ）は、第１４２実施形態における回転動作部材の正面図であり、（ｂ）は、図７５５（ａ）の矢印Ｎ２７ｂ方向視における回転動作部材の側面図である。
【図７５６】（ａ）及び（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットの正面図である。
【図７５７】（ａ）及び（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットの正面図である。
【図７５８】（ａ）及び（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットの正面図である。
【図７５９】（ａ）及び（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットの正面図である。
【図７６０】（ａ）は、第１４３実施形態における揺動手段を模式的に示す正面図であり、（ｂ）は、揺動手段を模式的に示す背面図である。
【図７６１】（ａ）及び（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットの正面図である。
【図７６２】（ａ）及び（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットの正面図である。
【図７６３】（ａ）及び（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットの正面図である。
【図７６４】（ａ）及び（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットの正面図である。
【図７６５】（ａ）は、第１４４実施形態における回転動作部材の正面図であり、（ｂ）は、図７６５（ａ）の矢印Ｎ３１ｂ方向視における回転動作部材の側面図である。
【図７６６】（ａ）及び（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットの正面図である。
【図７６７】図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットの正面図である。
【図７６８】（ａ）及び（ｂ）は、第１４５実施形態における揺動ユニットの正面図である。
【図７６９】揺動ユニットの分解背面斜視図である。
【図７７０】（ａ）及び（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットの正面図である。
【図７７１】（ａ）及び（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットの正面図である。
【図７７２】（ａ）は、図７３３のＮ２１ａ－Ｎ２１ａ線に対応する線における第１４６実施形態における遊技盤の部分断面図であり、（ｂ）は、図７７２（ａ）のＮ３５ｂ－Ｎ３５ｂ線におけるセンターフレーム及び背面側通路ユニットの部分断面図である。
【図７７３】（ａ）は、図７３３のＮ２１ａ－Ｎ２１ａ線に対応する線における第１４７実施形態における遊技盤の部分断面図であり、（ｂ）は、図７７３（ａ）のＮ３６ｂ－Ｎ３６ｂ線におけるセンターフレーム及び背面側通路ユニットの部分断面図である。
【図７７４】（ａ）は、図７３３のＮ２１ａ－Ｎ２１ａ線に対応する線における第１４８実施形態における遊技盤の部分断面図であり、（ｂ）は、図７７４（ａ）のＮ３７ｂ－Ｎ３７ｂ線におけるセンターフレーム及び背面側通路ユニットの部分断面図である。
【図７７５】第１４９実施形態における遊技盤の正面図である。
【図７７６】（ａ）は、背面側通路ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図７７６（ａ）のＮ４０ｂ－Ｎ４０ｂ線における背面側通路ユニットの断面図である。
【図７７７】（ａ）は、図７７６（ｂ）のＮ４１ａ－Ｎ４１ａ線における背面側通路ユニットの断面図であり、（ｂ）は、図７７６（ｂ）のＮ４１ｂ－Ｎ４１ｂ線における背面側通路ユニットの断面図である。

【図７７８】第１５０実施形態における遊技盤の正面図である。
【図７７９】第１５１実施形態における上変位ユニットの分解正面斜視図である。
【図７８０】上変位ユニットの分解背面斜視図である。
【図７８１】第１５２実施形態における遊技盤の正面図である。
【図７８２】（ａ）及び（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットの正面図である。
【図７８３】（ａ）及び（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットの正面図である。
【図７８４】（ａ）は、第１５３実施形態における大型ギアの分解正面斜視図であり、（ｂ）は、大型ギアの分解背面斜視図である。
【図７８５】（ａ）及び（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットの正面図である。
【図７８６】第１５４実施形態における上変位ユニットの正面分解斜視図である。
【図７８７】後端ギア部材の回転軸線を通る平面における連結手段の部分断面図である。
【図７８８】（ａ）及び（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットの正面図である。
【図７８９】図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における第１５５実施形態における上変位ユニットの正面図である。
【図７９０】第１５６実施形態における遊技盤の正面図である。
【図７９１】図７９０のＮ４５－Ｎ４５線における遊技盤の部分断面図である。
【図７９２】遊技盤の背面図である。
【図７９３】第１５７実施形態における遊技盤の背面図である。
【図７９４】遊技盤の正面図である。
【図７９５】遊技盤の正面図である。
【図７９６】第１５８実施形態における遊技盤の正面図である。
【図７９７】遊技盤の正面図である。
【図７９８】（ａ）は、図７３３のＮ２１ａ－Ｎ２１ａ線に対応する線における第１５９実施形態における遊技盤の部分断面図であり、（ｂ）は、図７９８（ａ）のＮ４７ｂ－Ｎ４７ｂ線における背面側通路ユニットの部分断面図である。
【発明を実施するための形態】
【０００９】
以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図１から図１０を参照し、第１実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｈ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。
【００１０】
図１は、第１実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図２は、パチンコ機Ｈ１０の背面図であり、図３は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図４は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放した状態で裏パックユニットＨ９４を内枠Ｈ１２に対して開放した状態（展開）を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図５は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を閉鎖すると共に正面枠Ｈ１４を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図６は、正面枠Ｈ１４を取り外した状態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図７は、遊技盤Ｈ１３及び内枠Ｈ１２の分解正面斜視図であり、図８は、正面枠Ｈ１４の分解斜視正面図であり、図９は、正面枠Ｈ１４の分解斜視背面図である。なお、図６では、発射位置送球ユニットＨ１７０から球発射ユニットＨ１１２ａに球を送球するための背面側開口Ｈ１７２が２点鎖線で図示される。
【００１１】
また、以下の説明では、図１に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図１に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、

右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図１参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ｈ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【００１２】

また、特段の説明がない限り、パチンコ機Ｈ１０を遊技する遊技者は、パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置し、パチンコ機Ｈ１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に視線を向けた状態（パチンコ機Ｈ１０の正面側と対面した状態）で遊技するものとして説明する。

【００１３】

図１～図９に示すように、パチンコ機Ｈ１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠Ｈ１１と、その外枠Ｈ１１と略同一の外形形状に形成され外枠Ｈ１１に対して開閉可能に支持された内枠Ｈ１２と、その内枠Ｈ１２と略同一の外形形状に形成され内枠Ｈ１２に対して開閉可能に支持された正面枠Ｈ１４とを主に備えている。

【００１４】

外枠Ｈ１１には、内枠Ｈ１２を支持するために正面視（図１参照）左側（矢印Ｌ方向側）の上下（矢印Ｕ－Ｄ方向）２カ所に金属製のヒンジＨ１８が取り付けられ、そのヒンジＨ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠Ｈ１２が正面枠Ｈ１４と共に正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている。

【００１５】

パチンコ機Ｈ１０は、外枠Ｈ１１を島設備に取り付け固定することにより遊技場に設置される。なお、パチンコ機Ｈ１０において外枠Ｈ１１は必須の構成ではなく、外枠Ｈ１１又は外枠Ｈ１１と同一の内形を有し、外枠Ｈ１１の内枠Ｈ１２支持構造（ヒンジＨ１８等）及び施錠構造を有する部材が遊技場に備え付けられた構成としても良い。

【００１６】

外枠Ｈ１１は、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される上方板Ｈ１１ａと、下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される下方板Ｈ１１ｂと、それら上方板Ｈ１１ａ及び下方板Ｈ１１ｂの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両端同士を上下方向に連結する左方板Ｈ１１ｃ及び右方板Ｈ１１ｄとを組み合わせて枠状に形成される。

【００１７】

なお、外枠Ｈ１１は、木材で形成されるものに限られるものではなく、アルミ等の金属材料やプラスチック等の樹脂材料で形成されていても良く、それら木材、金属材料、又は、樹脂材料から形成される部材（上方板Ｈ１１ａ，下方板Ｈ１１ｂ，左方板Ｈ１１ｃ，右方板Ｈ１１ｄ）を組み合わせて形成されるものであっても良い。

【００１８】

また、本実施形態では、外枠Ｈ１１の正面視左側（矢印Ｌ方向側）にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視右側（矢印Ｒ方向側）を正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能とされるが、外枠Ｈ１１の正面視右側にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視左側を正面手前側へ開閉可能としても良く、又、ヒンジＨ１８を外枠Ｈ１１の正面視下側（矢印Ｄ方向側）の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に取り付け、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視上側（矢印Ｕ方向側）を正面手前側へ開閉可能とするものであっても良い。

【００１９】

内枠Ｈ１２は、外枠Ｈ１１と外形がほぼ同一の長方形状に形成される枠形成ユニットＨ１２ａと、その枠形成ユニットＨ１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に回動可能に支持される裏パックユニットＨ９４とを主に備えて形成され、裏パックユニットＨ９４が正面視で左側（矢印Ｌ方向側）を回動基端側（開閉基端側）とし、右側（矢印Ｒ方向側）を回動先端側（開閉先端側）として後方へ回動可能とされている（図４参照）。

【００２０】

また、内枠Ｈ１２には、枠形成ユニットＨ１２ａと裏パックユニットＨ９４とで正面側（矢印Ｆ方向側）が開放する略箱状に形成された内側に多数の釘や入賞口Ｈ６３，Ｈ６４

等を有する遊技盤Ｈ１３（図６及び図７参照）が配設される。この遊技盤Ｈ１３の正面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。

【００２１】

なお、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、左側（矢印Ｌ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の左端部を支持する目的の左端支持部Ｈ１２ａ１と、右側（矢印Ｒ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の右端部を支持する目的の盤面支持装置Ｈ１２ａ２が配設される。遊技盤Ｈ１３は、左端支持部Ｈ１２ａ１にベース板Ｈ６０の左側端部が挿入されつつ内枠Ｈ１２の背面側（矢印Ｂ方向側）に押し込まれた後、盤面支持装置Ｈ１２ａ２が操作されて盤面支持装置Ｈ１２ａ２がベース板Ｈ６０の正面と係合する（ベース板Ｈ６０の正面を支持する）ことで内枠Ｈ１２の内側に固定される。

【００２２】

また、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａは、球を遊技盤Ｈ１３の正面領域（遊技領域）に発射する球発射ユニットＨ１１２ａ（図６参照）と、正面枠Ｈ１４（上下皿ユニットＨ１５）に球を送球する皿通路形成部材Ｈ１６０と（図６参照）を主に備えて形成される。

【００２３】

さらに、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、正面枠Ｈ１４を支持するために正面視左側（矢印Ｌ方向側）の上下２カ所に金属製のヒンジＨ１９が取り付けられ、そのヒンジＨ１９が設けられた側を開閉の軸として正面枠Ｈ１４が正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている（図５参照）。なお、内枠Ｈ１２の施錠と正面枠Ｈ１４の施錠とは、枠形成ユニットＨ１２ａに配設されるシリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。

【００２４】

球発射ユニットＨ１１２ａは、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０を介して１球ずつ所定のタイミングで送球される球を受け入れ可能に形成され、遊技盤Ｈ１３（内レールＨ６１及び外レールＨ６２）への球の送球方向に延設される発射レールＨ１１２ａ１と、回転可能に軸支され発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転して当接可能に形成される回転体Ｈ１１２ａ２と、その回転体Ｈ１１２ａ２を回転させるための駆動モータ（図示しない）とを主に備えて形成される。

【００２５】

球発射ユニットＨ１１２ａから遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）への球の発射（送球）は、発射レールＨ１１２ａ１上に球が送球された後、回転体Ｈ１１２ａ２を回転させて発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転体Ｈ１１２ａ２を衝突させることで行われる。

【００２６】

なお、本実施形態では、回転する回転体Ｈ１１２ａ２により球発射ユニットＨ１１２ａから球が発射（送球）されるが、球を発射する構造は回転する部材（回転体Ｈ１１２ａ２）に限られるものではない。例えば、球の発射方向にスライド変位可能なスライド体と、そのスライド体をスライド変位させるソレノイドとを備え、ソレノイドの励磁によりスライド体を変位させて球に衝突させることで球の発射（送球）が行われるように構成しても良い。

【００２７】

また、球発射ユニットＨ１１２ａは、内枠Ｈ１２に配設されるものに限られるものでなく、パチンコ機Ｈ１０の演出装置としてベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に（遊技盤Ｈ１３に）配設することも可能である。例えば、センターフレームＨ８６やベース板Ｈ６０に開口した開口部からベース板Ｈ６０の背面側に配設される発射レールＨ１１２ａ１上に球を送球して、その球を回転体Ｈ１１２ａ２により発射して第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側を球が通過するように構成しても良い。

【００２８】

皿通路形成部材Ｈ１６０は、図６に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１と本体側下

皿通路部Ｈ１６２とを有している。本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路部Ｈ１６２は、背面側（矢印Ｂ方向側）の端部が内枠Ｈ１２に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通される貫通孔と連通可能となるように背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて開放され、正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が下方（矢印Ｄ方向）へ向けて開放されるように、内部で通路の方向が９０度変化する（前後方向から上下方向に変化する）湾曲通路を形成する。この構成において、払出装置Ｈ１３３から払い出された球は内枠Ｈ１２の貫通孔を通り、皿通路形成部材Ｈ１６０の背面側の端部から皿通路形成部材Ｈ１６０に進入し、正面側の端部から排出される。

【００２９】

なお、皿通路形成部材Ｈ１６０の下側部分には、図６に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路部Ｈ１６２からの球の流出を規制するシャッタＨ１６３が設けられている。シャッタＨ１６３は、両通路の出口部分を狭め球の流出を阻止する阻止位置と、球の流出を許容する許容位置との両位置に切り替え可能に設けられており、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を閉鎖した状態とされる場合に許容位置に配置され、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を開放した状態（図５に示す状態）とされる場合に阻止位置に配置される。これにより、本体側上皿通路部Ｈ１６１又は本体側下皿通路部Ｈ１６２に球が貯留されている状態で正面枠Ｈ１４を開放した場合に、その貯留球がこぼれ落ちてしまうといった不都合が回避されている。

【００３０】

正面枠Ｈ１４は、金属板によって縦長の矩形枠状に形成される本体枠Ｈ１４ｄと、その本体枠Ｈ１４ｄに配設され、その本体枠Ｈ１４ｄの上方側（矢印Ｕ方向側）の正面に配設される上側装飾ユニットＨ１４ａと、その上側装飾ユニットＨ１４ａの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側から下方（矢印Ｄ方向側）に向けて延設される左側装飾ユニットＨ１４ｂ及び右側装飾ユニットＨ１４ｃと、本体枠Ｈ１４ｄの下方側の正面を覆う上下皿ユニットＨ１５と、本体枠Ｈ１４ｄを介して上下皿ユニットＨ１５の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０と、その通路形成ユニットＨ１４０の背面側に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０とを主に備えて構成され、内枠Ｈ１２に回動可能に取り付けられている。

【００３１】

また、正面枠Ｈ１４の回動基端側には、図８及び図９に示すように、前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８が設けられ、この前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８（前扉取付金具Ｈ５７は円柱状部、前扉取付金具Ｈ５８は軸孔を有する金属板）が内枠Ｈ１２に係合することにより、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４が回動可能に支持される。

【００３２】

詳細には、前扉取付金具Ｈ５７は、内枠Ｈ１２の上側のヒンジＨ１９の下方位置において内枠Ｈ１２の正面側端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ延設され先端から背面側（矢印Ｂ方向側）へ前扉取付金具Ｈ５７が内嵌可能な大きさで凹設される嵌合凹部Ｈ１２ｅ１（図７参照）を有する軸支板部Ｈ１２ｅに軸支される。また、前扉取付金具Ｈ５８は、内枠Ｈ１２の下側のヒンジＨ１９から上方（矢印Ｕ方向）に突設される段付き円柱形状（直径の違う円柱が上下に連設される構成において上側の円柱の直径の方が小さい形状）の支持ピンＨ１９ａに外嵌されることで軸支される。

【００３３】

また、正面枠Ｈ１４には、上側装飾ユニットＨ１４ａと左側装飾ユニットＨ１４ｂと右側装飾ユニットＨ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｈ１４ｅが形成され、その窓部Ｈ１４ｅを塞ぐように正面枠Ｈ１４（本体枠Ｈ１４ｄ）の背面側（矢印Ｂ方向側）に２枚の板ガラスを有するガラスユニットＨ１６が配設される（図１参照）。なお、パチンコ機Ｈ１０は、ガラスユニットＨ１６（窓部Ｈ１４ｅ）を介してパチンコ機Ｈ１０の正面側から遊技盤Ｈ１３の正面が視認可能となっている。

【００３４】

ガラスユニットＨ１６は、図１及び図５に示すように、窓部Ｈ１４ｅより大きな外形で

光透過性（透明性）を有する前後一対の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂと、これら透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを一体化する固定枠（図示せず）と、を備えている。固定枠は、樹脂材料により透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂより一回り大きな環状に形成され、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの外周縁が固定枠に接着されることでガラスユニットＨ１６は一体化された複層ガラスとされている。

【００３５】

なお、ガラスユニットＨ１６は、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂによって無色透明に形成されているが、これに限定されることはなく樹脂材料によって無色透明に形成されていてもよく、パチンコ機Ｈ１０前方からガラスユニットＨ１６を通じて遊技領域を視認可能であれば無色透明でなく有色透明に形成されていても良い。

【００３６】

また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂは、それら２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態で配設しても良い。透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態とする場合には、それら２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に変位可能な変位手段を配設して、遊技盤Ｈ１３よりも前方側（矢印Ｆ方向側）で変位手段による演出を可能にしても良い。この場合の変位手段とは、例えば、紙やナイロン等の部材から形成される複数の変位部材を固定枠に形成した孔から送り出す風により吹き飛ばす演出をするものや、固定枠に変位可能に配設した変位部材を音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１０参照）により２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間で変位させるものである。また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを固定する固定板に発光手段を配設し、その発光手段から出射される光を前方側の透明ガラスＨ１６ａまたは背面側（矢印Ｂ方向側）の透明ガラスＨ１６ｂの一方に照射して、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの一方に照射された光を遊技者に視認させる演出をするようにしても良い。

【００３７】

正面枠Ｈ１４（上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃ）において窓部Ｈ１４ｅの周囲には、図１に示すようにＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が複数設けられている。これら電飾部Ｈ２９～Ｈ３３では、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて点灯や点滅が行われる。また、窓部Ｈ１４ｅの上側（矢印Ｕ方向側）の電飾部Ｈ３０には、払出球が不足する等の所定のエラー時に点灯する発光手段と、賞球払出中に点灯する発光手段とが内蔵されている。

【００３８】

また、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃの電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３から出射される光を非透過とする非透過性の樹脂材料から形成される。これにより、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の発光（点灯や点滅）を遊技者に注目させやすい構造となっている。

【００３９】

なお、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、非透過に形成されるものに限られず、透過性の樹脂材料から形成して電飾部Ｈ２９～Ｈ３３に発光（点灯や点滅）があった場合に正面枠Ｈ１４の全体から光を出射（透過）可能に構成しても良い。また、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材を配設して煌びやかさを醸し出すように構成しても良い。

【００４０】

上側装飾ユニットＨ１４ａの左側（矢印Ｌ方向側）及び右側（矢印Ｒ方向側）には（窓部Ｈ１４ｅの右上側及び左上側には）、遊技状態に応じた効果音などが出力されるスピーカー組立体（音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照））を覆うスピーカーカバーＨ２７（パンチングメタルから形成される薄板部材）が設けられており、スピーカーカバーＨ２７を介してスピーカーの音をパチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に放音可能に構成されている。

【００４１】
窓部Ｈ１４ｅの下方（矢印Ｂ方向）には、図１に示すように、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とが手前側へ膨出して配置されると共にそれら上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とが上下に並設される上下皿ユニットＨ１５が配設される。
【００４２】
上皿Ｈ１７は、上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿Ｈ１７に賞球や貸出球などが排出される。また、上皿Ｈ１７は、払出装置Ｈ１３３（図２参照）より払い出された球を一旦貯留し、一列に整列させながら球発射ユニットＨ１１２ａ（図６参照）側へ導く機能を有しており、底面が正面視右側（矢印Ｒ方向側）に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿Ｈ１７に投入された球を発射位置送球ユニットＨ１７０へと案内可能に形成される。なお、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０に送球された球は、発射位置送球ユニットＨ１７０の動作により１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａへ案内される。
【００４３】
下皿Ｈ５０は、上面を開放した略箱状に形成され、上皿Ｈ１７内にて余剰となった球を貯留する機能を有している。また、下皿Ｈ５０の背面側（矢印Ｂ方向側）側面には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口され球が下皿Ｈ５０に案内される球案内開口Ｈ５３が形成される。
【００４４】
下皿Ｈ５０の正面側（矢印Ｆ方向側）の下方（矢印Ｄ方向）部には、下皿Ｈ５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバーＨ５２が設けられている。この球抜きレバーＨ５２は、常時、右方向（矢印Ｒ方向）に付勢されており、その付勢に抗して左方向（矢印Ｌ方向）へスライドさせることにより、下皿Ｈ５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバーＨ５２の操作は、通常、下皿Ｈ５０の下方に下皿Ｈ５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。
【００４５】
なお、球抜きレバーＨ５２の操作により、千両箱に球を排出するものに限らず、島設備に連通する回収口に球を排出するものであっても良い。また、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とに分けて複数箇所に球を貯留する部位を設ける必要はなく、下皿Ｈ５０を廃止して上皿Ｈ１７のみとした１つの貯留部のみを有する構成としても良い。
【００４６】
上皿Ｈ１７（球の貯留領域）の手前側（矢印Ｆ方向側）には、遊技者らにより手動操作される操作ユニットＨ１８０が設けられている。操作ユニットＨ１８０は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面等にて遊技者の操作に対応した演出が行われる場合に使用される操作装置である。
【００４７】
この操作ユニットＨ１８０には、上面側にボタン部材Ｈ１８１が配設される。ボタン部材Ｈ１８１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される軸を中心に下方側に向けて押圧操作可能とされ、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１（図６参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。
【００４８】
なお、操作ユニットＨ１８０は、上皿Ｈ１７以外に下皿Ｈ５０周辺等の別の部位に設けられても良いし、複数箇所に設けられても良く、また、操作方法として押しボタン式のスイッチであっても良く、タッチセンサ、非接触式のセンサ等の別の操作方法によって情報入力可能な構成としても良い。
【００４９】
操作ユニットＨ１８０の右側には、上下皿ユニットＨ１５の上面側に貸球操作部Ｈ４０（図８参照）と機能調整操作部Ｈ１９０と、球排出レバーＨ５４とが配設されている。貸

球操作部Ｈ４０には、度数表示部Ｈ４１と、球貸しボタンＨ４２と、返却ボタンＨ４３とが設けられている。パチンコ機Ｈ１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部Ｈ４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部Ｈ４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。

【００５０】

球貸しボタンＨ４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿Ｈ１７に供給される。返却ボタンＨ４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿Ｈ１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部Ｈ４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部Ｈ４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。

【００５１】

機能調整操作部Ｈ１９０は、決定ボタンＨ１９１と、その決定ボタンＨ１９１を中心とする十字状の４方向外側の位置に配設される上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５と備える。

【００５２】

機能調整操作部Ｈ１９０は、上側装飾ユニットＨ１４ａに配設されるスピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面の明るさ、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設される電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさなどを変更するための操作部である。遊技者は、決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５を操作することで、自身（遊技者）の好みに合うように音量や明るさを変更可能とされる。

【００５３】

また、音量や明るさを変更する際には、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部に音量や明るさの調整度合いが数値やボリューム等で表示されるようになっている。これにより、遊技者が別のパチンコ機Ｈ１０を遊技し始める場合に音量や明るさの調整を簡易に行うことができる。

【００５４】

なお、機能調整操作部Ｈ１９０による変更は、音量や明るさに限られるものではなく、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される演出等を変更可能とするものであっても良い。また、音量や明るさの調整度合いを第３図柄表示装置Ｈ８１に表示するものに限られるものではなく、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示しなくても操作と同時に変更（調整）後の音や表示をして調整させるものでも良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に調整度合いを表示するものであっても良い。

【００５５】

球排出レバーＨ５４は、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に送球する際に遊技者が操作するレバーであり、図示しない付勢手段（バネ）により上方側（矢印Ｕ方向側）に付勢された状態で配設される。なお、球排出レバーＨ５４は、操作される（下方側（矢印Ｄ方向側）に押し込まれる）ことにより上皿Ｈ１７から発射球送球ユニットＨ１７０に連通される通路を上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０（ファール球通路Ｈ１４５）に連通する状態に切替可能に構成される。これにより、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に排出することができる。

【００５６】

下皿Ｈ５０の右側（矢印Ｒ方向側）には、遊技者が遊技時に操作する操作ハンドルＨ５１が配設される。操作ハンドルＨ５１の内部には、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサＨ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する

発射停止スイッチＨ５１ｂと、操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。操作ハンドルＨ５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサＨ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤Ｈ１３の正面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドルＨ５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサＨ５１ａおよび発射停止スイッチＨ５１ｂがオフとなっている。

【００５７】

通路形成ユニットＨ１４０は、樹脂材料により成形されており、上皿Ｈ１７に通じる前扉側上皿通路部Ｈ１４１と、下皿Ｈ５０に通じる前扉側下皿通路部Ｈ１４２と、ファール球通路部Ｈ１４５と、を有している。

【００５８】

通路形成ユニットＨ１４０の上側隅部（正面枠Ｈ１４の回動基端側の隅部）には後方（矢印Ｂ方向）に突出し上方に開放された払出球受口部Ｈ１４３が形成されており、その払出球受口部Ｈ１４３が仕切壁Ｈ１４４によって左右に仕切られることで前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口と前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口とがそれぞれ形成されている（図８参照）。

【００５９】

なお、前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側上皿通路部Ｈ１６１（図６参照）が連通されており、前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側下皿通路部Ｈ１６２（図６参照）が連通される。これにより、払出装置Ｈ１３３から送球される球は、上皿Ｈ１７又は下皿Ｈ５０に送球されることとなる。

【００６０】

ファール球通路部Ｈ１４５（図８参照）は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球のうち遊技領域まで至らなかった球をファール球として下皿Ｈ５０に排出する通路を形成する部位である。

【００６１】

ファール球通路部Ｈ１４５には、図９に示すように、上方側（矢印Ｕ方向側）が開放したファール球受口部Ｈ１４６が設けられる。このファール球受口部Ｈ１４６に受け入れられたファール球は、ファール球通路部Ｈ１４５（図８参照）の内部通路を流下した後で、下皿Ｈ５０に排出される。なお、ファール球通路部Ｈ１４５は、下皿Ｈ５０でなく、上皿Ｈ１７に接続され、ファール球が上皿Ｈ１７に排出される構成としても良い。

【００６２】

また、ファール球通路部Ｈ１４５は、遊技者が球排出レバーＨ５４を操作することにより上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０に流下する未発射球が案内される通路である球抜き通路（図示しない）と合流するように形成される。

【００６３】

発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７に貯留される球を１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａに送球するためのユニットである。発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７の送球経路の開口部に連なる正面側開口Ｈ１７１と、その正面側開口Ｈ１７１から流入した球を背面側から排出可能な背面側開口Ｈ１７２と、それら正面側開口Ｈ１７１から背面側開口Ｈ１７２までを通過する通路上に変位可能に配設される切替手段（図示しない）と、その切替手段を駆動させるソレノイド（図示しない）とを主に備えて形成される。

【００６４】

発射位置送球ユニットＨ１７０の切替手段は、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが可能な位置と、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置とに変位可能に構成されており、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置に変位された場合に発射位置送球ユニットＨ１７０

の通路上にある球を背面側開口Ｈ１７２から球発射ユニットＨ１１２ａ（発射レールＨ１１２ａ１）に流入可能に形成される。これにより、切替手段の位置の切り替え（１往復の変位）に伴って１球ずつ球を背面側開口Ｈ１７２から排出することが可能となっている。

【００６５】

なお、背面側開口Ｈ１７２は、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１の上方（矢印Ｕ方向）の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する（図６参照）。従って、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１に発射位置送球ユニットＨ１７０から１球ずつ球が送球されることとなる。

【００６６】

また、図６に示すように、背面側開口Ｈ１７２は、発射レールＨ１１２ａ１の球の送球方向における発射レールＨ１１２ａ１の両端部の間に形成される。従って、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１上に送球される球は、発射レールＨ１１２ａ１上を左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両方向に転動可能となるが、発射レールＨ１１２ａ１は一方側（回転体Ｈ１１２ａ２から離れる側）が上方（矢印Ｕ方向）に向かって傾斜した状態で配設されるので、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球された球（回転体Ｈ１１２ａ２により発射前の球）が回転体Ｈ１１２ａ２から離れる方向に転動することが抑制される。

【００６７】

図６に示すように、遊技盤Ｈ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｈ６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）の他、レール部材Ｈ６１，Ｈ６２、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５、スルーゲートＨ６７、可変表示装置ユニットＨ８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠Ｈ１２の裏面側に取り付けられる。

【００６８】

ベース板Ｈ６０は光透過性の樹脂材料からなり、その正面側（矢印Ｆ方向側）からベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変表示装置ユニットＨ８０は、ルータ加工によってベース板Ｈ６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤Ｈ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。

【００６９】

なお、ベース板Ｈ６０は、光透過性の樹脂材料から形成されるものに限られるものではなく、薄い板材を張り合わせた木材から形成されるものであっても良いし、非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても良い。なお、これらの場合、装飾がされたシール等をベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）の全域に貼付してベース板Ｈ６０の装飾性を確保することが好ましい。

【００７０】

遊技盤Ｈ１３の正面中央部分は、正面枠Ｈ１４の窓部Ｈ１４ｅ（図１参照）の一部を通じて内枠Ｈ１２の正面側（矢印Ｆ方向側）から視認することができる。以下に、主に図６を参照して、遊技盤Ｈ１３の構成について説明する。

【００７１】

遊技盤Ｈ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レールＨ６２が植立され、その外レールＨ６２の内側位置には外レールＨ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＨ６１が植立される。この内レールＨ６１と外レールＨ６２とにより遊技盤Ｈ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ｈ１３とガラスユニットＨ１６（図１参照）とにより前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）が囲まれることにより、遊技盤Ｈ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ｈ１３の正面であって２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｈ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。なお、２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２、金属板である必要なく、樹脂材料から帯状に形成されるものであっても良い。

【００７２】
２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球を遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）へ案内するために設けられたものである。内レールＨ６１の先端部分（図６の左上部）には戻り球防止部材Ｈ６８が取り付けられる。
【００７３】
戻り球防止部材Ｈ６８は、内レールＨ６１側から外レールＨ６２側に延設される樹脂製の板部材から形成され、内レールＨ６１側の一端側を軸に他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転可能とされる。また、戻り球防止部材Ｈ６８は、一端側に錘を備え、その錘により他端側が外レールＨ６２に近づく方向に付勢される。
【００７４】
これにより、遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）に案内される球の勢いで戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転させることができると共に、戻り球防止部材Ｈ６８を超える位置（遊技盤Ｈ１３の上方側）に球が案内された際に戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２に近づく方向に回転させることができ、一旦、遊技盤Ｈ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。
【００７５】
なお、戻り球防止部材Ｈ６８は、樹脂材料から形成される必要はなく、金属材料から形成されていても良い。また、錘以外に磁石などの磁力やねじりバネなどの付勢力によって戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２側に付勢する構成としても良い。
【００７６】
外レールＨ６２の先端部（図６の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＨ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＨ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。
【００７７】
遊技領域の正面視左側下部（図６の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、主制御装置Ｈ１１０（図１０参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機Ｈ１０の遊技状態の表示が行われる。本実施形態では、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞したか、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａが作動し、一方で、球が、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂが作動するように構成されている。
【００７８】
また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機Ｈ１０が確変中か時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が確変大当たりに対応した図柄か普通大当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機Ｈ１０の各種遊技状態を示唆することができる。
【００７９】
尚、本パチンコ機Ｈ１０では、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ｈ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ確変大当たり、４Ｒ確変大当たり、１５Ｒ通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示される

だけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。
【００８０】
ここで、「１５Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことであり、「４Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことである。また、「１５Ｒ通常大当たり」は、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となる大当たりのことである。
【００８１】
なお、大当たりのラウンド数は、１５Ｒと４Ｒに限られるものではなく、パチンコ機Ｈ１０の機種により他のラウンド数に変更しても良く、又、２種以上のラウンド数を有するものであっても良い。また、時短状態における所定の変動回数は、１００変動回数に限られるものではなく、例えば、１変動回数や１０００変動回数に設定しても良い。
【００８２】
また、「高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。本実施形態における高確率状態（確変中）は、後述する第２図柄の当たり確率がアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態を含む。「低確率状態」とは、確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、確変の時より大当たり確率が低い状態をいう。また、「低確率状態」のうちの時短状態（時短中）とは、大当たり確率が通常の状態であると共に、大当たり確率がそのままで第２図柄の当たり確率のみがアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。一方、パチンコ機Ｈ１０が通常中とは、確変中でも時短中でもない遊技の状態（大当たり確率も第２図柄の当たり確率もアップしていない状態）である。
【００８３】
確変中や時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物Ｈ６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、確変中や時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。
【００８４】
なお、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数を通常中よりも増やす変更を行うものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２図柄の当たり確率は変更せず、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間および１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数の少なくとも一方を変更するものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間や、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａを開放する回数は変更せず、第２図柄の当たり確率だけを、通常中と比してアップするよう変更するものであっても良い。
【００８５】
遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口Ｈ６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニットＨ８０が配設されている。可変表示装置ユニットＨ８０には、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置Ｈ８１と、スルーゲートＨ６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、可変表示装置ユニットＨ８０に

は、第３図柄表示装置Ｈ８１の外周を囲むようにして、センターフレームＨ８６が配設されている。

【００８６】

なお、センターフレームＨ８６は、遊技領域を流下する球がベース板Ｈ６０の中央開口を介して第３図柄表示装置Ｈ８１側に流下することを防止するための部材であり、ベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出して形成される。また、センターフレームＨ８６の一部には、遊技領域を流下する球を受け入れると共に第３図柄表示装置Ｈ８１の周囲を通過させて第１入賞口Ｈ６４側から排出するワープ通路（図示せず）が一部に形成される。本実施形態では、ベース板Ｈ６０よりも正面側を球が通過するようにワープ通路が構成されるが、ベース板Ｈ６０よりも背面側を球が通過するようにワープ通路を形成することも可能である。

【００８７】

第３図柄表示装置Ｈ８１は９インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置Ｈ１１４（図１０参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。なお、第３図柄表示装置Ｈ８１は、９インチ以外のサイズで構成されていても、２枚以上の複数の液晶ディスプレイを並設して構成されていても良い。

【００８８】

第３図柄表示装置Ｈ８１の各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置Ｈ８１は、主制御装置Ｈ１１０（図１０参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置Ｈ８１を構成するようにしても良い。

【００８９】

第２図柄表示装置は、球がスルーゲートＨ６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機Ｈ１０では、球がスルーゲートＨ６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。なお、第２図柄表示装置は、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて図柄を表示されるものであって良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１と別の表示装置とのどちらにも図柄を表示させるものであっても良く、本実施形態では、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示される。

【００９０】

パチンコ機Ｈ１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｈ６４０に付随された電動役物Ｈ６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【００９１】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、確変中または時短中の方が短くなるように設定される。これにより、確変中および時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、確変中および時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【００９２】

なお、確変中または時短中において、当たり確率を高める、１回に当たりに対する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、確変中ま

たは時短中に第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としても良い。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、確変中または時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしても良いし、また、１回の当たりに対する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしても良い。

【００９３】

スルーゲートＨ６７は、可変表示装置ユニットＨ８０の左右の領域において遊技盤Ｈ１３に組み付けられ、遊技盤Ｈ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲートＨ６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【００９４】

球のスルーゲートＨ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。なお、本実施形態では、第２図柄保留ランプは、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示されるように構成されるが、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に点灯表示するものであっても良い。例えば、スルーゲートＨ６７への球の通過に伴って点灯する４つのＬＥＤを第３図柄表示装置Ｈ８１の下方に配設して点灯表示するものであっても良い。

【００９５】

また、スルーゲートＨ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け数は２つに限定されるものではなく、例えば１つであっても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＨ８０の左右に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の下方でも良い。また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしても良い。

【００９６】

可変表示装置ユニットＨ８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口Ｈ６４が配設されている。この第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図１０参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａで示される。

【００９７】

一方、第１入賞口Ｈ６４の正面視下方には、球が入賞し得る第２入賞口Ｈ６４０が配設されている。この第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図１０参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂで示される。

【００９８】

また、第１入賞口Ｈ６４および第２入賞口Ｈ６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成しても良い。

【００９９】

第２入賞口Ｈ６４０には電動役物Ｈ６４０ａが付随されている。この電動役物Ｈ６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖状態（縮小状態）となって、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲートＨ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となり、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しやすい状態となる。

【０１００】

なお、本実施形態では、第２入賞口Ｈ６４０の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に開閉する羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設され、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となった場合に第２入賞口Ｈ６４０の左右両側から球が第２入賞口Ｈ６４０に入賞可能に構成されるが、左右方向の一方側の流路を塞ぐ壁を形成して、他方側からのみ第２入賞口Ｈ６４０に球が入賞可能となるように構成しても良い。この場合、第２入賞口Ｈ６４０の他方側にのみ開閉する羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設される。

【０１０１】

また、電動役物Ｈ６４０ａは、回転する羽部材に限られるものではなく、第２入賞口Ｈ６４０を開放する位置と閉鎖する位置とに移動するものであればスライド変位するものであっても良い。例えば、電動役物Ｈ６４０ａは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にスライド変位するものや、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向側）にスライド変位するものであっても良い。

【０１０２】

上述した通り、確変中および時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となる回数が増える。更に、確変中および時短中は、電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。

【０１０３】

本実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０は、遊技盤Ｈ１３の構成が左右対称とされるため、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「右打ち」）、第１入賞口Ｈ６４を狙うことも、可変表示装置ユニットＨ８０の左方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「左打ち」）第２入賞口Ｈ６４０を狙うこともできる。そのため、本実施形態のパチンコ機Ｈ１０は、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることを不要にできる。よって、球の打ち方を変化させる煩わしさを解消することができる。

【０１０４】

なお、低確率状態であっても高確率状態でも大当たりとなる確率が変わらない（低確率状態の大当たり確率と高確率状態の大当たり確率とが同じ確率である）構成としても良い。この場合には、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ確変大当たりとなる確率が、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されるように構成すると共に、「左打ち」側の流路に第１入賞口Ｈ６４を配設し、「右打ち」側の流路に第２入賞口Ｈ６４０を配設する構成（遊技盤Ｈ１３の構成を左右非対称）とすることが好ましい。

【０１０５】

この構成によれば、通常中においては、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物が閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しづらいので、電動役物のない第１入賞口Ｈ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の左方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射し（「左打ち」）、第１入賞口Ｈ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【０１０６】

一方、確変中や時短中は、スルーゲートＨ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｈ６４０へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射し（「右打ち」）、スルーゲートＨ６７を通過させて電動役物を開放状態にすると共に、第２入賞口Ｈ６４０への入賞によって１５Ｒ確変大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【０１０７】

従って、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることができ、遊技者の興趣を維持できる。

【０１０８】

第１入賞口Ｈ６４の下方には可変入賞装置Ｈ６５（図６参照）が配設されており、その略中央部分に特定入賞口Ｈ６５ａが設けられている。パチンコ機Ｈ１０においては、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｈ６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）開放される。

【０１０９】

この特定入賞口Ｈ６５ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放される。この特定入賞口Ｈ６５ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。

【０１１０】

なお、上記した形態に特別遊技状態は限定されるものではない。特定入賞口Ｈ６５ａとは別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおいて大当たりに対応したＬＥＤが点灯した場合に、特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放され、その特定入賞口Ｈ６５ａの開放中に、球が特定入賞口Ｈ６５ａ内へ入賞することを契機として特定入賞口Ｈ６５ａとは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。また、特定入賞口Ｈ６５ａは１つに限るものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｈ６４の下方右側や、第１入賞口Ｈ６４の下方左側に限らず、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の左方でも良い。

【０１１１】

遊技盤Ｈ１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＫ１が設けられ、貼着スペースＫ１に貼られた証紙等は、正面枠Ｈ１４のガラスユニットＨ１６を介して視認することができる。

【０１１２】

遊技盤Ｈ１３には、アウト口Ｈ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０にも入賞しなかった球は、アウト口Ｈ７１を通って図示しない球排出路へと案内される。アウト口Ｈ７１は、特定入賞口Ｈ６５ａの下方（矢印Ｄ方向側）に配設される。

【０１１３】

また、遊技盤Ｈ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車（図示しない）等の各種部材（役物）とが配設されている。さらに、第３図柄表示装置Ｈ８１を取り囲む態様でベース板Ｈ６０の中央開口部に配設されるセンターフレームＨ８６の一部は、上方側（矢印Ｕ方向側）の遊技領域まで背面側（矢

印Ｂ方向側）の側面が延設され、その延設された領域に正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突出する突出部を複数備える。遊技盤Ｈ１３の遊技領域を流下する球は、多数の釘や、センターフレームＨ８６の突出部、風車等に衝突しつつ流下されることで、球の落下方向が適宜分散される。

【０１１４】

なお、本実施形態では、センターフレームＨ８６の一部が延設される方向が上方側（矢印Ｕ方向）に設定されているが、右側（矢印Ｒ方向側）や左側（矢印Ｌ方向側）に延設されていても良く、その延設部分に突出部だけでなくスルーゲートＨ６７や各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０を配置する構成としても良い。また、センターフレームＨ８６は、延設部分や突出部を備えない構成としても良い。

【０１１５】

風車は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の軸を中心に回転可能に形成される。また、風車は、正面視において回転軸を中心とする円形に形成されベース板Ｈ６０の正面から１球分の距離を隔てた位置に配設される円盤部材と、その円盤部材の一部からベース板Ｈ６０側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出され風車の回転方向に沿って所定の角度（本実施形態では１２０度）で分散配置される複数（本実施形態では３枚）の球当接部とを備えて形成されており、遊技盤Ｈ１３を流下する球が球当接部に当接した衝撃で回転しつつ当接した球を複数（２以上）の方向に案内可能に形成される。

【０１１６】

また、風車は、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。これにより、球当接部に当接した球の流下方向を遊技者に視認させやすくできると共に、風車の回転方向を遊技者に認識させにくくできる。

【０１１７】

なお、遊技盤Ｈ１３は、ベース板Ｈ６０に必ずしも風車を備えている必要はなく風車を備えない構成としても良い。また、センターフレームＨ８６のワープ通路（図示しない）や、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ入球した球が通過する通路（図示しない）の通路途中に風車を配設して、風車により球の通路を変更するように構成することも可能である。さらに、風車は、一部が非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても、全部が非透過性のアルミ等の金属製の材料から形成されるものであっても良く、球が当接した際に球を複数の方向に案内可能であれば形状、色、材質は何でも良い。例えば、風車は、１球ずつ交互に異なる方向に球を振り分け可能に構成されていても良い。

【０１１８】

図２に示すように、パチンコ機Ｈ１０の背面側には、制御基板ユニットＨ９０，Ｈ９１と、裏パックユニットＨ９４とが主に備えられている。制御基板ユニットＨ９０は、主基板（主制御装置Ｈ１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置Ｈ１１３）と表示制御基板（表示制御装置Ｈ１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニットＨ９１は、払出制御基板（払出制御装置Ｈ１１１）と発射制御基板（発射制御装置Ｈ１１２）と電源基板（電源装置Ｈ１１５）とカードユニット接続基板Ｈ１１６とが搭載されてユニット化されている。

【０１１９】

裏パックユニットＨ９４は、保護カバー部を形成する裏パックＨ９２と払出ユニットＨ９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとしてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。

【０１２０】

なお、主制御装置Ｈ１１０、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び表示制御装置Ｈ１１４、払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２、電源装置Ｈ１１５、カードユニット接続基板Ｈ１１６は、それぞれ基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４に収納されている。基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボック

スカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。

【０１２１】

また、基板ボックスＨ１００（主制御装置Ｈ１１０）及び基板ボックスＨ１０２（払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２が開封されたかどうかを知ることができる。

【０１２２】

払出ユニットＨ９３は、裏パックユニットＨ９４の最上部に位置して上方に開口したタンクＨ１３０と、タンクＨ１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレールＨ１３１と、タンクレールＨ１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレールＨ１３２と、ケースレールＨ１３２の最下流部に設けられ、払出モータＨ２１６（図１０参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置Ｈ１３３とを備えている。タンクＨ１３０には、遊技ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置Ｈ１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレールＨ１３１には、当該タンクレールＨ１３１に振動を付加するためのバイブレータＨ１３４が取り付けられており、このバイブレータＨ１３４の振動によりタンクレールＨ１３１内に球が詰まることが抑制される。なお、バイブレータＨ１３４は、タンクレールＨ１３１に取り付けられるだけでなく、他のレール部分（通路）に取り付けることも可能である。例えば、上皿Ｈ１７や下皿Ｈ５０に球を送球する球送通路（皿通路形成部材Ｈ１６０）や、上皿Ｈ１７から球発射装置Ｈ１１７ａに球を送球する送球通路（発射位置送球ユニットＨ１７０）に配設しても良い。

【０１２３】

また、払出制御装置Ｈ１１１には状態復帰スイッチＨ１２０が設けられ、発射制御装置Ｈ１１２には可変抵抗器の操作つまみＨ１２１が設けられ、電源装置Ｈ１１５にはＲＡＭ消去スイッチＨ１２２が設けられている。状態復帰スイッチＨ１２０は、例えば、払出モータＨ２１６（図１０参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみＨ１２１は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）から放音される音の大きさを店舗側で調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２は、パチンコ機Ｈ１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。

【０１２４】

次に、図１０を参照して、本パチンコ機Ｈ１０の電気的構成について説明する。図１０は、パチンコ機Ｈ１０の電気的構成を示すブロック図である。

【０１２５】

主制御装置Ｈ１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ（マイクロプロセッサー）Ｈ２０１が搭載されている。ＭＰＵＨ２０１には、該ＭＰＵＨ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ（半導体メモリ）Ｈ２０２と、そのＲＯＭＨ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ（ランダムアクセスメモリ）Ｈ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置Ｈ１１０では、ＭＰＵＨ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｈ８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機Ｈ１０の主要な処理を実行する。

【０１２６】
なお、払出制御装置Ｈ１１１や音声ランプ制御装置Ｈ１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置Ｈ１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置Ｈ１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。
【０１２７】
ＲＡＭＨ２０３は、各種エリア、カウンタ、フラグのほか、ＭＰＵＨ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。なお、ＲＡＭＨ２０３は、パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。
【０１２８】
停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭＨ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭＨ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機Ｈ１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭＨ２０３への書き込みはメイン処理（図示せず）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭＨ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図示せず）において実行される。なお、ＭＰＵＨ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路Ｈ２５２からの停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。
【０１２９】
主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２０４を介して入出力ポートＨ２０５が接続されている。入出力ポートＨ２０５には、払出制御装置Ｈ１１１、音声ランプ制御装置Ｈ１１３、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ、第２図柄表示装置、第２図柄保留ランプ、特定入賞口Ｈ６５ａの開閉板の下辺を軸として正面側に開閉駆動するための大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドなどからなるソレノイドＨ２０９が接続され、ＭＰＵＨ２０１は、入出力ポートＨ２０５を介してこれらに対し各種コマンドや制御信号を送信する。
【０１３０】
なお、ソレノイドＨ２０９は、大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドだけでなく、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源（駆動モータ）や、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、上皿Ｈ１７へ球を送球するための払出装置Ｈ１３３を駆動する駆動モータ（図示しない）等を含む構成としても良い。
【０１３１】
入出力ポートＨ２０５には、図示しないスイッチ群およびスルーゲートＨ６７を通過したことを検出するセンサ（スルーゲートＨ６７）、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ球が入賞したことを検知する入賞検出センサ（図示しない）、パチンコ機Ｈ１０に振動が入力されたことを検出する振動検出センサ（図示しない）、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に磁石等が近づけられたことを検出する磁力検出センサ等のセンサ群などからなる各種スイッチＨ２０８、電源装置Ｈ１１５に設けられた後述のＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３が接続され、ＭＰＵＨ２０１は各種スイッチＨ２０８から出力される信号や、ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３より出力されるＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２に基づいて各種処理を実行する。
【０１３２】
なお、各種スイッチＨ２０８は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における枠ボタンＨ２２（操作ユニットＨ１８０の操作ボタン部材Ｈ１８１や機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタ

ンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）を含む構成としても良い。

【０１３３】

払出制御装置Ｈ１１１は、払出モータＨ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵＨ２１１は、そのＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２１３とを有している。

【０１３４】

払出制御装置Ｈ１１１のＲＡＭＨ２１３は、主制御装置Ｈ１１０のＲＡＭＨ２０３と同様に、ＭＰＵＨ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭＨ２１３は、パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１と同様、ＭＰＵＨ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路Ｈ２５２から停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【０１３５】

払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２１４を介して入出力ポートＨ２１５が接続されている。入出力ポートＨ２１５には、主制御装置Ｈ１１０や払出モータＨ２１６、発射制御装置Ｈ１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置Ｈ１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置Ｈ１１１に接続されるが、主制御装置Ｈ１１０には接続されていない。

【０１３６】

発射制御装置Ｈ１１２は、主制御装置Ｈ１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニットＨ１１２ａを制御するものである。

【０１３７】

球発射ユニットＨ１１２ａの回転体Ｈ１１２ａ２は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドルＨ５１に触れていることをタッチセンサＨ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための発射停止スイッチＨ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）に対応して駆動モータから駆動力が伝達され、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた速度で回転体Ｈ１１２ａ２が回転される。これにより、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた強さで球発射ユニットＨ１１２ａから内レールＨ６１及び外レールＨ６２の対向間に球が発射される。

【０１３８】

音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカーなど）Ｈ２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部Ｈ２９～Ｈ３３など）Ｈ２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置Ｈ１１４で行われる第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵＨ２２１は、そのＭＰＵＨ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２２３とを有している。

【０１３９】

音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２２４を介して入出力ポートＨ２２５が接続されている。入出力ポ

ートＨ２２５には、主制御装置Ｈ１１０、表示制御装置Ｈ１１４、音声出力装置Ｈ２２６、ランプ表示装置Ｈ２２７、その他装置Ｈ２２８、ボタン部材Ｈ１８１などがそれぞれ接続されている。

【０１４０】

なお、その他装置Ｈ２２８には、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源だけでなく、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａを含む構成としても良い。

【０１４１】

音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置Ｈ１１４へ通知する。

【０１４２】

また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、ボタン部材Ｈ１８１からの入力を監視し、遊技者によってボタン部材Ｈ１８１が操作された場合は、第３図柄表示装置Ｈ８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた背面画像を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた背面画像変更コマンドを表示制御装置Ｈ１１４へ送信する。ここで、背面画像とは、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させる主要な画像である第３図柄の背面側に表示される画像のことである。表示制御装置Ｈ１１４は、この音声ランプ制御装置Ｈ１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置Ｈ８１に各種の画像を表示する。

【０１４３】

さらに、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、機能調整操作部Ｈ１９０（決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）からの入力を監視し、遊技者によって機能調整操作部Ｈ１９０が操作された場合は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量を変更したり、第３図柄表示装置Ｈ８１の明るさを変更したり、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさを変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。音量や明るさが変更される場合は、音量や明るさの調整度合いが第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される主要な表示の前方側に数値やボリューム等で一時的に表示される。

【０１４４】

なお、図１０では、操作ユニットＨ１８０の操作ボタン部材Ｈ１８１や機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５をまとめて枠ボタンＨ２２として図示している。

【０１４５】

また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、表示制御装置Ｈ１１４から第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１３では、表示制御装置Ｈ１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置Ｈ２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置Ｈ２２７の点灯および消灯を制御する。

【０１４６】

表示制御装置Ｈ１１４は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び第３図柄表示装置Ｈ８１が接続され、音声ランプ制御装置Ｈ１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置Ｈ１１４は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置Ｈ１１３へ送信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置Ｈ２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示と音声出力装置Ｈ２２６からの音声出力とをあわせるこ

とができる。
【０１４７】
なお、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８が、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に接続されるように構成して、ＭＰＵＨ２２１が、各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいて各種処理を実行しても良い。また、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８とは別に音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に各種スイッチを接続しても良い。この場合には、主に遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の位置検出センサ等のセンサ群を各種スイッチとして構成することが好ましい。
【０１４８】
電源装置Ｈ１１５は、パチンコ機Ｈ１０の各部に電源を供給するための電源部Ｈ２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路Ｈ２５２と、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図１０参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３とを有している。電源部Ｈ２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部Ｈ２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチＨ２０８などの各種スイッチや、ソレノイドＨ２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧及びバックアップ電圧を各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対して必要な電圧を供給する。
【０１４９】
停電監視回路Ｈ２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１及び払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＨＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路Ｈ２５２は、電源部Ｈ２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＨＳＧ１を主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１へ出力する。停電信号ＨＳＧ１の出力によって、主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部Ｈ２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。
【０１５０】
ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３は、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図１０参照）が押下された場合に、主制御装置Ｈ１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置Ｈ１１０は、パチンコ機Ｈ１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置Ｈ１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置Ｈ１１１に対して送信する。
【０１５１】
次いで、図１１から図７１を参照し、第２実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｋ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。図１１は、第２実施形態におけるパチンコ機Ｋ１０の正面図であり、図１２はパチンコ機Ｋ１０の遊技盤Ｋ１３の正面図である。
【０１５２】
なお、以下の説明では、図１１に示す状態のパチンコ機Ｋ１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図１１に示す状態のパチンコ機Ｋ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側とし

て、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図１２参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ｋ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【０１５３】

なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。また、符号について、第１実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０が本実施形態ではパチンコ機Ｋ１０とされているように、共通の機能を有するものに対して類似の符号が設定されている。

【０１５４】

即ち、本実施形態では、パチンコ機Ｋ１０は、少なくとも、正面枠Ｋ１４（第１実施形態の正面枠Ｈ１４に相当）と、ベース板Ｋ６０（第１実施形態のベース板Ｈ６０に相当）と、内レールＫ６１（第１実施形態の内レールＨ６１に相当）と、外レールＫ６２（第１実施形態の外レールＨ６２に相当）と、一般入賞口Ｋ６３（第１実施形態の一般入賞口Ｈ６３に相当）と、第１入賞口Ｋ６４（第１実施形態の第１入賞口Ｈ６４に相当）と、第２入賞口Ｋ６４０（第１実施形態の第２入賞口Ｈ６４０に相当）と、電動役物Ｋ６４０ａ（第１実施形態の電動役物Ｈ６４０ａに相当）と、第１可変入賞装置Ｋ６５（第１実施形態の可変入賞装置Ｈ６５に相当）と、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（第１実施形態の特定入賞口Ｈ６５ａに相当）と、スルーゲートＫ６７（第１実施形態のスルーゲートＨ６７に相当）と、戻り球防止部材Ｋ６８（第１実施形態の戻り球防止部材Ｈ６８に相当）と、返しゴムＫ６９（第１実施形態の返しゴムＨ６９に相当）と、アウト口Ｋ７１（第１実施形態のアウト口Ｈ７１に相当）と、を備える。

【０１５５】

更に、本実施形態では、パチンコ機Ｋ１０は、少なくとも、外縁部材Ｋ７３（第１実施形態の外縁部材Ｈ７３に相当）と、可変表示装置ユニットＫ８０（第１実施形態の可変表示装置ユニットＨ８０に相当）と、第３図柄表示装置Ｋ８１（第１実施形態の第３図柄表示装置Ｈ８１に相当）と、センターフレームＫ８６（第１実施形態のセンターフレームＨ８６に相当）と、を備える。

【０１５６】

図１２に示すように、遊技盤Ｋ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｋ６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車ＫＷＦの他、レールＫ６１，Ｋ６２、一般入賞口Ｋ６３、第１入賞口Ｋ６４、第２入賞口Ｋ６４０、第１可変入賞装置Ｋ６５、第２可変入賞装置Ｋ６５０、スルーゲートＫ６７、可変表示装置ユニットＫ８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠Ｈ１２（図１１参照）の裏面側（又は表面側）に取り付けられる。

【０１５７】

ベース板Ｋ６０は、木製の板部材から形成される。一般入賞口Ｋ６３、第１入賞口Ｋ６４、第２入賞口Ｋ６４０、可変表示装置ユニットＫ８０は、ルータ加工によってベース板Ｋ６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤Ｋ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。なお、ベース板Ｋ６０を光透過性の樹脂材料から構成しても良い。この場合、その正面側からベース板Ｋ６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能となる。

【０１５８】

遊技盤Ｋ１３の正面中央部分は、正面枠Ｋ１４に配設されるガラスユニットＨ１６（図１１参照）を通じて内枠Ｈ１２の正面側から視認することができる。以下に、主に図１２を参照して、遊技盤Ｋ１３の構成について説明する。

【０１５９】

遊技盤Ｋ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レールＫ６２が植立され、その外レールＫ６２の内側位置には外レールＫ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＫ６１が植立される。この内レールＫ６１と外レールＫ６２とにより遊技盤Ｋ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ｋ１３とガラスユニットＨ１６（図

１１参照）とにより前後が囲まれることにより、遊技盤Ｋ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ｋ１３の正面であって２本のレールＫ６１，Ｋ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｋ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。

【０１６０】

２本のレールＫ６１，Ｋ６２は、球発射ユニットＨ１１２ａ（図１０参照）から発射された球を遊技盤Ｋ１３上部へ案内するために設けられたものである。内レールＫ６１の先端部分（図１２の左上部）には戻り球防止部材Ｋ６８が取り付けられ、一旦、遊技盤Ｋ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。外レールＫ６２の先端部（図１２の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＫ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＫ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【０１６１】

遊技領域の正面視左側下部（図１２の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの機能は第１実施形態において説明したので、ここでは説明を省略する。

【０１６２】

尚、本パチンコ機Ｋ１０では、第１入賞口Ｋ６４及び第２入賞口Ｋ６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ｋ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ時短有通常大当たり、４Ｒ時短有通常大当たり、１５Ｒ時短無し通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【０１６３】

本パチンコ機Ｋ１０では、時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口Ｋ６４０に付随する電動役物Ｋ６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物Ｋ６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、時短中は、第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。

【０１６４】

電動役物Ｋ６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化は、前後にスライド変位可能な開閉板の開閉動作により生じる。電動役物Ｋ６４０ａが開放状態の時は、開閉板がベース板Ｋ６０の前面よりも前方に張り出すことで、開閉板の上面を遊技球が転動可能となり、その転動した遊技球が第２入賞口Ｋ６４０へ入球可能となり、電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板がベース板Ｋ６０の前面よりも後方に退避され、遊技球を第２入賞口Ｋ６４０まで橋渡しすることができなくなることで遊技球が第２入賞口Ｋ６４０に入球し難くなるように構成される。

【０１６５】

なお、電動役物Ｋ６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化が前後にスライド変位可能な開閉板の開閉動作により生じる例として、電動役物Ｋ６４０ａの下方に第２入賞口Ｋ６４０が配置され、電動役物Ｋ６４０ａが開放状態の時に開閉板が後方に退避され、電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖状態の時に開閉板が前方に張り出すように構成しても良い。即ち、電動役物Ｋ６４０ａが開放状態の時は、開閉板がベース板Ｋ６０の前面よりも後方に退避され、遊技球が第２入賞口Ｋ６４０側へ入球可能となり、電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板が遊技領域と第２入賞口Ｋ６４０との間を塞ぐことで球が第２入賞口Ｋ６

４０に入球し難くなる（左方へ流される）ように構成されるようにしても良い。
【０１６６】
　また、電動役物Ｋ６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化は、下端部に回転軸を備え、遊技領域側へ傾倒または起立する態様で回転変位する開閉板の開閉動作により生じるようにしても良い。この場合、電動役物Ｋ６４０ａが開放状態の時は、開閉板の上面に拾われた遊技球が第２入賞口Ｋ６４０に案内され易く、電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板が遊技領域と第２入賞口Ｋ６４０との間を塞ぐことで球が第２入賞口Ｋ６４０に入球し難くなるように構成することができる。
【０１６７】
　遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口Ｋ６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分を通して視認可能な位置（ベース板Ｋ６０の窓部の後方）に、可変表示装置ユニットＫ８０が配設されている。可変表示装置ユニットＫ８０には、第１入賞口Ｋ６４及び第２入賞口Ｋ６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置Ｋ８１と、スルーゲートＫ６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、ベース板Ｋ６０には、第３図柄表示装置Ｋ８１を正面視で囲むようにして、センターフレームＫ８６が配設されている。
【０１６８】
　第３図柄表示装置Ｋ８１は９インチサイズから１９インチサイズ程度の大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置Ｈ１１４（図１０参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置Ｋ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置Ｋ８１は、主制御装置Ｈ１１０（図１０参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置Ｋ８１を構成するようにしても良い。
【０１６９】
　第２図柄表示装置は、球がスルーゲートＫ６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機Ｋ１０では、球がスルーゲートＫ６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。
【０１７０】
　パチンコ機Ｋ１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｋ６４０に付随された電動役物Ｋ６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。
【０１７１】
　第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、時短中の方が短くなるように設定される。これにより、時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｋ６４０の電動役物Ｋ６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、時短中は、第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。
【０１７２】

なお、時短中において、当たり確率を高める、１回の当たりに対する電動役物Ｋ６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、時短中に第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、また、１回の当たりに対する電動役物Ｋ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。

【０１７３】

スルーゲートＫ６７は、可変表示装置ユニットＫ８０の右側の領域において遊技盤Ｋ１３に組み付けられ、遊技盤Ｋ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲートＫ６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【０１７４】

球のスルーゲートＫ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。第２図柄保留ランプは、最大保留数分の４つ設けられ、第３図柄表示装置Ｋ８１の下方に左右対称に配設されている。

【０１７５】

なお、第２図柄の変動表示は、本実施形態のように、第２図柄表示装置において複数のランプの点灯と非点灯を切り換えることにより行うものの他、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｋ８１の一部を使用して行うようにしても良い。同様に、第２図柄保留ランプの点灯を第３図柄表示装置Ｋ８１の一部で行うようにしても良い。

【０１７６】

また、スルーゲートＫ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲートＫ６７の組み付け数は１つに限定されるものではなく、例えば２つであっても良い。

【０１７７】

また、スルーゲートＫ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＫ８０の右側に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＫ８０の左右や、下方でも良い。また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより保留球数が示される場合等には、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしてもよい。

【０１７８】

可変表示装置ユニットＫ８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口Ｋ６４が配設されている。この第１入賞口Ｋ６４へ球が入賞すると遊技盤Ｋ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図１０参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａで示される。

【０１７９】

一方、スルーゲートＫ６７の正面視左下側には、球が入賞し得る第２入賞口Ｋ６４０が配設されている。この第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ｋ１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図１０参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂで示される。なお、第２入賞口Ｋ６４０の配置は、これに限られるものではない。例えば、第１入賞口Ｋ６４の正面視下方でも良いし、遊技領域の左右中央よりも左側（例えば、第１入賞口Ｋ６４よりも正面視左下側）でも良い。

【０１８０】

また、第１入賞口Ｋ６４および第２入賞口Ｋ６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｋ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口Ｋ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口Ｋ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成してもよい。この場合の賞球個数の大小関係は逆転しても良い。

【０１８１】

第２入賞口Ｋ６４０には電動役物Ｋ６４０ａが付随されている。この電動役物Ｋ６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖状態（退避状態）となって、球が第２入賞口Ｋ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲートＫ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ｋ６４０ａが開放状態（張出状態）となり、球が第２入賞口Ｋ６４０へ入賞しやすい状態となる。

【０１８２】

上述した通り、時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物Ｋ６４０ａが開放状態（張出状態）となる回数が増える。更に、時短中は、電動役物Ｋ６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。

【０１８３】

ここで、第１入賞口Ｋ６４に球が入賞した場合と第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞した場合とで、大当たりとなる確率は同一（約１／３１９）である。しかしながら、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ時短有通常大当たりとなる確率は、第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｋ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されている。一方、第１入賞口Ｋ６４は、第２入賞口Ｋ６４０にあるような電動役物Ｋ６４０ａは有しておらず、球が常時入賞可能な状態となっている。

【０１８４】

よって、通常中においては、第２入賞口Ｋ６４０に付随する電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｋ６４０に入賞しづらいので、電動役物Ｋ６４０ａのない第１入賞口Ｋ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＫ８０の左方を球が通過するように球を発射し（所謂「左打ち」）、第１入賞口Ｋ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【０１８５】

一方、時短中は、スルーゲートＫ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｋ６４０に付随する電動役物Ｋ６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口Ｋ６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｋ６４０へ向けて、可変表示装置８０の右方を球が通過するように球を発射し（所謂「右打ち」）、スルーゲートＫ６７を通過させて電動役物Ｋ６４０ａを開放状態にすると共に、第２入賞口Ｋ６４０への入賞によって１５Ｒ時短有通常大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【０１８６】

なお、本実施形態におけるパチンコ機Ｋ１０とは異なり、遊技盤Ｋ１３の構成が左右対称とされる場合には、「右打ち」で第１入賞口Ｋ６４を狙うことも、「左打ち」で第２入賞口Ｋ６４０を狙うこともできる。この場合、遊技者から球の打ち方を変化させる煩わしさを取り去ることができる。

【０１８７】

一方で、本実施形態におけるパチンコ機Ｋ１０では、「右打ち」では第１入賞口Ｋ６４を狙うことはできないように構成され、「左打ち」で発射された球はスルーゲートＫ６７

を通過しないように構成されている。そのため、本実施形態のパチンコ機Ｋ１０は、パチンコ機Ｋ１０の遊技状態（時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えることを要求することができる。よって、球の打ち方を変化させる遊技性を付加することで遊技が緩慢となることを防止することができる。

【０１８８】

第１入賞口Ｋ６４の右方には第２可変入賞装置Ｋ６５０（図１２参照）が配設されており、その下流側位置に第２特定入賞口Ｋ６５０ａが設けられている。パチンコ機Ｋ１０においては、第１入賞口Ｋ６４又は第２入賞口Ｋ６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｋ８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている第２特定入賞口Ｋ６５０ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）開放される。

【０１８９】

この第２特定入賞口Ｋ６５０ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その第２特定入賞口Ｋ６５０ａが所定時間開放される。この第２特定入賞口Ｋ６５０ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。

【０１９０】

抽選された大当たりが時短有通常大当たりだった場合、大当たり遊技終了後の時短中に右打ち遊技を行うことで、第２入賞口Ｋ６４０へ遊技球を入賞させることができる。本実施形態では、付与される時短の回数は３回とされ、第２入賞口Ｋ６４０に遊技球が入賞すると、約１／２の確率で小当たりが発生し、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおいて小当たりに対応したＬＥＤが点灯する。この小当たりにより、第２特定入賞口Ｋ６５０ａよりも上流側に配置される第１特定入賞口Ｋ６５ａが所定時間開放され、その第１特定入賞口Ｋ６５ａの開放中に、球が第１特定入賞口Ｋ６５ａ内へ入賞し、その特定入賞口Ｋ６５ａの下流側の特定領域Ｋ６５ｃを通過することを契機として特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。

【０１９１】

このように、本パチンコ機Ｋ１０では、右打ち遊技において、第２入賞口Ｋ６４０へ遊技球が入球すると約１／２の確率で特別遊技状態へ遊技状態を遷移させることが可能になり、これは左打ち遊技における大当たり確率（約１／３１９）よりも著しく高い確率となるので、右打ち遊技状態に対する遊技者の興趣を向上させることができる。

【０１９２】

また、特定入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６５０ａの個数は限定されるものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｋ６４の右方に限らず、例えば、第１入賞口Ｋ６４の下方右側や、第１入賞口Ｋ６４の下方左側や、可変表示装置ユニットＫ８０の左方または右方や、上方でも良い。

【０１９３】

遊技盤Ｋ１３には、アウト口Ｋ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｋ６３，Ｋ６４，Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａにも入賞しなかった球は、アウト口Ｋ７１を通って図示しない球排出路へと案内される。

【０１９４】

遊技盤Ｋ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車等の各種部材（役物）とが配設されている。

【０１９５】
なお、本実施形態におけるその他装置Ｈ２２８（図１０参照）には、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１や駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂ，ＫＭＴ５１，ＫＭＴ６１，ＫＭＴ７１，ＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２等が含まれる。
【０１９６】
なお、本実施形態においても、その他装置Ｈ２２８（図１０参照）には、上述の役物装置の駆動源だけではなく、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示せず）や、第２入賞口Ｋ６４０の電動役物Ｋ６４０ａの駆動源等（駆動ソレノイドＫ２４７及び駆動ソレノイドＫ２５３等）を含む構成としても良い。
【０１９７】
また、本実施形態における各種スイッチＨ２０８（図１０参照）には、検出センサＫ４１３，Ｋ４１８，Ｋ５５６ａ，Ｋ５５６ｂ，Ｋ５５６ｃ，Ｋ５６５，Ｋ７１１ｅ，Ｋ７１６，Ｋ８５８等が含まれる。
【０１９８】
次いで、遊技盤Ｋ１３及び動作ユニットＫ３００の構造について説明する。図１３は、遊技盤Ｋ１３及び動作ユニットＡ２００の分解正面斜視図である。なお、図１３の説明においては、図１２を適宜参照する。
【０１９９】
動作ユニットＫ３００は、遊技盤Ｋ１３の背面側に配置され、各種発光手段や、各種動作ユニットが内部に配設されているが、詳細は後述する。動作ユニットＫ３００の支持板部Ｋ３１３が遊技盤Ｋ１３に面で支持された状態で、遊技盤Ｋ１３のベース板Ｋ６０に締結ネジを螺入することにより、遊技盤Ｋ１３と動作ユニットＫ３００とが一体的に固定され、遊技盤Ｋ１３及び動作ユニットＫ３００の全体としての剛性の向上が図られている。
【０２００】
ベース板Ｋ６０は、光透過性の樹脂材料から板状に形成されており、正面側からベース板Ｋ６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させ易いように構成される。これにより、ベース板Ｋ６０の形状や配置に関わらず、その背面側に配設される構造体を視認させ、各種演出に利用することができる。なお、遊技者に対して見せたくない箇所がある場合には、光透過性の低い（又は光不透過の）シール部材を貼り付ける等して対処すれば良い。
【０２０１】
図１４は、遊技盤Ｋ１３の分解正面斜視図である。図１４では、入賞ユニットＫ２００から化粧カバーＫ２２０が分解された状態が図示されている。また、図１２と同様に球案内用の釘の図示が省略されると共に、それと加えて風車ＫＷＦ（図１２参照）の図示も省略されている。
【０２０２】
図１５は、入賞ユニットＫ２００の分解正面斜視図であり、図１６は、入賞ユニットＫ２００の分解背面斜視図である。図１５及び図１６に図示されるように、入賞ユニットＫ２００は、ベース板Ｋ６０の前面に締結固定されるベース部材Ｋ２０１と、そのベース部材Ｋ２０１の正面側に配置されベース部材Ｋ２０１と共に球の流下経路を構成する化粧カバーＫ２２０と、ベース部材Ｋ２０１の背面側から進退動作する電動役物Ｋ６４０ａを有する第１電動役物Ｋ２４０と、その第１電動役物Ｋ２４０よりも下側においてベース部材Ｋ２０１の背面側に配設され、ベース部材Ｋ２０１の背面側から進退動作する可動板Ｋ２５１を有する第２可変入賞装置Ｋ６５０としての第２電動役物Ｋ２５０と、を備える。
【０２０３】
ベース部材Ｋ２０１は、背面側に突条状に形成される突条縁部の内側において光拡散形状が形成される板状本体Ｋ２０２と、その板状本体Ｋ２０２に穿設される案内開口Ｋ２０３と、案内開口Ｋ２０３の正面側を流下する球を減速させるよう正面側に突設される複数の減速突起Ｋ２０４と、案内開口Ｋ２０３よりも下側において板状本体Ｋ２０２に穿設される案内開口Ｋ２０５と、その案内開口Ｋ２０５の下縁に沿って正面側に突設される突条

部Ｋ２０６と、案内開口Ｋ２０５の上側において板上本体Ｋ２０２に凹設される複数の減速凹部Ｋ２０７と、案内開口Ｋ２０３よりも下側であり案内開口Ｋ２０５よりも上側の位置において左右方向に長尺の突条状に形成される長尺突条Ｋ２０８と、案内開口Ｋ２０５の上縁に沿って背面側に延設される延設部Ｋ２０９と、案内開口Ｋ２０５よりも下側において球を背面側へ案内可能に形成される複数の球案内部Ｋ２１０と、板状本体Ｋ２０２の光拡散形状が形成されている箇所に光を照射可能なＬＥＤ等の複数の発光部Ｋ２１２を有しており板状本体Ｋ２０２の背面側に締結固定される電飾基板Ｋ２１１と、を備える。

【０２０４】

化粧カバーＫ２２０は、ベース部材Ｋ２０１の板状本体Ｋ２０２と共に球の流下経路の前後を区画する板状本体Ｋ２２１と、その板状本体Ｋ２２１から背面側へ延設され球の流下経路を形成する延設形成部Ｋ２２２と、その延設形成部Ｋ２２２で縁取られる領域の内側において板状本体Ｋ２２１から背面側に突設形成され流下経路を分岐させる分岐形成部Ｋ２２３と、延設形成部Ｋ２２２で縁取られる領域の内側において板状本体Ｋ２２１から背面側に突設形成されベース部材Ｋ２０１の案内開口Ｋ２０３へ向けて球を案内する傾斜面が後面に形成される傾斜形成部Ｋ２２４と、ベース部材Ｋ２０１の減速凹部Ｋ２０７の前方位置に対応して板状本体Ｋ２２１から背面側に突設形成される複数の減速突起Ｋ２２５と、延設形成部Ｋ２２２で縁取られる領域よりも下側の箇所に光を照射可能なＬＥＤ等の複数の発光部Ｋ２２８を有しており延設形成部Ｋ２２２の延設先端と略面一を形成することで板状本体Ｋ２２１と十分な距離を開けて化粧カバーＫ２２０に締結固定される電飾基板Ｋ２２７と、を備える。

【０２０５】

第１電動役物Ｋ２４０は、第２入賞口Ｋ６４０と、案内開口Ｋ２０３を通り前方に配置される張出状態（開放状態）において球を第２入賞口Ｋ６４０へ向けて案内可能な電動役物Ｋ６４０ａと、その電動役物Ｋ６４０ａを駆動させる駆動ソレノイドＫ２４７が内部に配設され電動役物Ｋ６４０ａを下側から支える支持箱部材Ｋ２４６と、電動役物Ｋ６４０ａが前後方向に変位できるように電動役物Ｋ６４０ａの上面を案内すると共に第２入賞口Ｋ６４０への経路の天井部を形成する上カバー部材Ｋ２４８と、を備える。

【０２０６】

電動役物Ｋ６４０ａは、有色（本実施形態では赤色）不透明の樹脂材料から形成され、左方へ向けて下降傾斜する第１形成面Ｋ２４１と、その第１形成面Ｋ２４１の下流側端部に連設され後方へ向けて下降傾斜する第２形成面Ｋ２４２と、その第２形成面Ｋ２４２における第１形成面Ｋ２４１に対する左右方向逆側（左側）において左前部を頂点として右方および後方へ向けて下降傾斜する第３形成面Ｋ２４３と、を備える。

【０２０７】

第２電動役物Ｋ２５０は、案内開口Ｋ２０５を通り前後方向に進退動作可能な可動板Ｋ２５１と、その可動板Ｋ２５１を駆動させる駆動ソレノイドＫ２５３が内部に配設され可動板Ｋ２５１を下側から支える支持箱部材Ｋ２５２と、を備える。

【０２０８】

可動板Ｋ２５１は、有色（本実施形態では赤色）不透明の樹脂材料から形成され、駆動ソレノイドＫ２５３が非励磁の状態において前方側に張り出す張出状態（閉鎖状態）では、第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの入球が防止され、駆動ソレノイドＫ２５３が励磁された状態において後方に退避する退避状態（開放状態）では、第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの入球が許容される。

【０２０９】

可動板Ｋ２５１の張出状態では、可動板Ｋ２５１を傾倒させる方向に球の重みが作用した場合に、突条部Ｋ２０６が可動板Ｋ２５１の下面と当接することで、その傾倒が防止される。

【０２１０】

更に、可動板Ｋ２５１の後端側上方には延設部Ｋ２０９が配設されているので、延設部Ｋ２０９が可動板Ｋ２５１の上面と当接することで、可動板Ｋ２５１の傾倒が防止される

。このように、複数箇所での当接により、可動板Ｋ２５１の傾倒を防止することができる。

【０２１１】

図１７は、図１２のＺ０１ｍ部における遊技盤Ｋ１３の部分拡大正面図であり、図１８は、図１７のＸ０２ｍ－Ｘ０２ｍ線における遊技盤Ｋ１３の断面図である。図１７では、化粧カバーＫ２２０の内側の形状が想像線で図示される。

【０２１２】

図１７に図示されるように、分岐形成部Ｋ２２３は、電動役物Ｋ６４０ａの右端部へ向けて上面に到達した球を案内可能に配置されている。また、傾斜形成部Ｋ２２４は、右側へ張り出す部分が、第１電動役物Ｋ２４０の第３形成面Ｋ２４３に対応して、正面視で右方へ向けて下降傾斜する。

【０２１３】

これにより、第１電動役物Ｋ２４０の電動役物Ｋ６４０ａの張出状態において、電動役物Ｋ６４０ａの上面に球が衝突して電動役物Ｋ６４０ａに上下方向に跳ねるような変位が生じた場合における第３形成面Ｋ２４３と傾斜形成部Ｋ２２４との衝突を面での衝突とすることができるので、衝突時の荷重が点で生じる場合に比較して、第３形成面Ｋ２４３が受ける荷重を分散させることができ、電動役物Ｋ６４０ａの破損を回避し易くすることができる。

【０２１４】

図１７では、化粧カバーＫ２２０の板状本体Ｋ２２１の正面側に施される大形意匠Ｋ２２１ａと、小形意匠Ｋ２２１ｂとが、図示される。ここで、本実施形態では大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの色として電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１と同じ赤が選択され、縁取り以外の部分は、基本的には無色透明とされ、特に電飾基板Ｋ２２７と前後で重なる位置においては白色で不透明に施され、小形意匠Ｋ２２１ｂは有色（本実施形態では白）不透明の装飾として形成される。これに対応して、大形意匠Ｋ２２１ａには赤色を示す網掛けを付し、小形意匠Ｋ２２１ｂには網掛けを付さずに図示する。

【０２１５】

小形意匠Ｋ２２１ｂは、電動役物Ｋ６４０ａの上面を転動する球の流下経路に沿う方向を示す矢印先端部形状（左下側に頂点を有するカッコ形状）としてデザインされており、小形意匠Ｋ２２１ｂを視認した遊技者に対して球の流下経路について示唆するよう機能する。

【０２１６】

このように、化粧カバーＫ２２０の装飾としての大形意匠Ｋ２２１ａと、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１との色を合わせることにより、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１を装飾の一部として遊技者に視認させることが可能となる。

【０２１７】

本実施形態では、図１７に図示されるように、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１の傾斜の方向（左側へ向けて下降傾斜する方向）と、大形意匠Ｋ２２１ａの傾斜が揃っているので、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１と大形意匠Ｋ２２１ａとを合わせて「一つの装飾模様」として視認させることができる。そして、この場合において、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１の配置の違いによる見え方の違いを利用して、視認される上述の「一つの装飾模様」を変化させることができる。

【０２１８】

図１７に図示されるように、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１による球の案内経路（上面に沿う経路）の前方は、板状本体Ｋ２２１が無色透明とされており、視認性が良い。そのため、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１により案内される球の視認性を向上させることができる。

【０２１９】

更に、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１による球の案内経路（上面に沿う経路）の上下位置の前方は、板状本体Ｋ２２１の大形意匠Ｋ２２１ａとして有色（本実施形態で

は赤）透明とされており、無色透明よりも視認性が低下されている。これにより、遊技者の視線を視認性の良い電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１による球の案内経路（上面に沿う経路）へ誘導することができるので、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１により球が案内されている場合に、その球を判別させ易くすることができる。

【０２２０】

図１８では、第１電動役物Ｋ２４０及び第２電動役物Ｋ２５０の非励磁状態における電動役物Ｋ６４０ａ（退避状態）及び可動板Ｋ２５１（張出状態）の配置が実線で図示され、第１電動役物Ｋ２４０及び第２電動役物Ｋ２５０の励磁状態における電動役物Ｋ６４０ａ（張出状態）及び可動板Ｋ２５１（退避状態）の配置が想像線で図示される。

【０２２１】

電動役物Ｋ６４０ａは、励磁状態（張出状態）において上面が球の流下面として機能する。即ち、案内開口Ｋ２０３を通り第２入賞口Ｋ６４０（図１５参照）へ案内される球は図１８に想像線で図示される張出状態の電動役物Ｋ６４０ａの上面を転動する。

【０２２２】

そのため、電動役物Ｋ６４０ａよりも下側かつ可動板Ｋ２５１よりも上側に配置され電動役物Ｋ６４０ａを斜め下方に見下ろす方向視ＫＤＲ２１で視認する遊技者が視認可能な光を照射するＬＥＤとして図１８に図示される発光部Ｋ２１２からの光が、電動役物Ｋ６４０ａを転動する球に隠されて遊技者の目に届かなくなる事態を回避することができる。

【０２２３】

即ち、図１８に図示される発光部Ｋ２１２からの光は、電動役物Ｋ６４０ａよりも下側を通り遊技者の目に届くので、電動役物Ｋ６４０ａの上面を転動する球の有無により発光部Ｋ２１２からの光の視認態様が変化することが防止される。

【０２２４】

また、発光部Ｋ２１２からの光が電動役物Ｋ６４０ａ自体を明るく照らすように作用することで、電動役物Ｋ６４０ａ上を明るくすることができる。発光部Ｋ２１２からの光が電動役物Ｋ６４０ａに到達するよりも前に、電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球に遮蔽されることは無いので、電動役物Ｋ６４０ａ上に球が有るか否かに因らず電動役物Ｋ６４０ａの明るさ（見映え）が変わることを防止できる。このように、電動役物Ｋ６４０ａ上に球が有るか否かに因らず電動役物Ｋ６４０ａを明るくすることができ、電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球の視認性を向上させることができる。

【０２２５】

この場合において、第１形成面Ｋ２４１の形成部のように板厚の寸法がより小さい部分において電動役物Ｋ６４０ａ上を明るくする程度を高めることができるので、電動役物Ｋ６４０ａの明るさは、第３形成面Ｋ２４３の形成部よりも第１形成面Ｋ２４１の形成部を明るくすることができる。

【０２２６】

これにより、電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球の流下経路の下流側よりも上流側に遊技者の視線を誘導することができ、分岐形成部Ｋ２２３における球の分岐に注目させることができる。

【０２２７】

これにより、分岐形成部Ｋ２２３の上面を左に流れて電動役物Ｋ６４０ａの上面に案内され得る球の存在と、分岐形成部Ｋ２２３の上面を右に流れて電動役物Ｋ６４０ａには案内されずに下流側へ流下する球の存在とを、遊技者に把握させることができるので、発射球数よりも第２入賞口Ｋ６４０（図１５参照）へ案内される球数が少ないことから、遊技領域から球が漏れたり、球の発射が適切に行われなかったりという遊技機不良が生じていると思い込み、遊技者が遊技を止めてしまう事態が生じることを防止し易くすることができる。

【０２２８】

図１８に図示されるように、第２電動役物Ｋ２５０の可動板Ｋ２５１は、左右縁部が前後方向に延びる突条状に下方に突設され、その突設先端がベース部材Ｋ２０１の突条部Ｋ

２０６に下支えされることで、張出状態における可動板Ｋ２５１の前傾方向の姿勢変化が防止されている。

【０２２９】

また、可動板Ｋ２５１の上側には延設部Ｋ２０９が形成されており、可動板Ｋ２５１が前傾方向に姿勢変化する場合に、その姿勢変化を規制する。即ち、本実施形態では、可動板Ｋ２５１の姿勢変化を抑制するための形状部がベース部材Ｋ２０１に形成されており、化粧カバーＫ２２０には形成されていない。

【０２３０】

このように構成することで、可動板Ｋ２５１の姿勢変化を抑制するという作用は生じさせつつ、化粧カバーＫ２２０に凹凸形状が形成される領域を狭めることができるので、化粧カバーＫ２２０を介して球の流下経路を視認する場合における流下経路の視認性を向上させることができる。

【０２３１】

なお、延設部Ｋ２０９は、下面の形状が、前方または斜前上方向からの光を全反射させるように湾曲した形状とされている。これにより、延設部Ｋ２０９の基端部が配設される板状本体Ｋ２０２よりも後側に延びている可動板Ｋ２５１の後側部が遊技者に視認されることを避けることができ、可動板Ｋ２５１については、専ら、板状本体Ｋ２０２よりも前側に張り出している部分に注目させることができる。

【０２３２】

なお、本実施形態では、延設部Ｋ２０９の形状の設計により延設部Ｋ２０９の下側の構造物を視認させないようにしたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、延設部Ｋ２０９の表面に、ミラーテープや、遮光テープを貼り付けることで、光の透過を防止するように構成しても良い。

【０２３３】

また、可動板Ｋ２５１付近を前後方向の方向視ＫＤＲ２２で視認する場合において、減速凹部Ｋ２０７の上縁部Ｋ２０７ａを介して張出状態における可動板Ｋ２５１の上面を視認できるように、減速凹部Ｋ２０７が形成される。即ち、上縁部Ｋ２０７ａが鏡のように機能して、可動板Ｋ２５１の色（本実施形態では赤色）で上縁部Ｋ２０７ａを視認させることができる。

【０２３４】

一方、可動板Ｋ２５１が退避状態とされると、可動板Ｋ２５１の先端は上縁部Ｋ２０７ａよりも後方に退避するので、上縁部Ｋ２０７ａが鏡のように機能して、突条部Ｋ２０６の上面付近の色（本実施形態では無色透明であり、上縁部Ｋ２０７ａと同じ）で上縁部Ｋ２０７ａを視認させることができる。

【０２３５】

即ち、上縁部Ｋ２０７ａの視認態様（色味）を、可動板Ｋ２５１が張出状態とされるか（赤色で視認される）、可動板Ｋ２５１が退避状態とされるか（無色透明で視認される）で変化させることができる。これにより、可動板Ｋ２５１の状態が変化した場合における可動板Ｋ２５１付近の視認態様の変化の程度を大きくすることができる。

【０２３６】

上縁部Ｋ２０７ａは、中央と右側の減速凹部Ｋ２０７では、可動板Ｋ２５１の上面に略平行なライン状で形成されているので、可動板Ｋ２５１の上面を転動する球よりも若干上側において、球の流下方向に平行に延びる上縁部Ｋ２０７ａが可動板Ｋ２５１と同じ赤色で視認される。これにより、可動板Ｋ２５１の上面を転動する球の流下方向を、可動板Ｋ２５１とは異なる位置にある上縁部Ｋ２０７ａにより遊技者に把握させることができる。

【０２３７】

更に、上縁部Ｋ２０７ａは、左側の減速凹部Ｋ２０７では、可動板Ｋ２５１の上面を左側へ案内された球が案内される流路（可動板Ｋ２５１よりも左側の流路）へ向けた左方向へ下降傾斜するライン状で形成されているので、可動板Ｋ２５１の左端部を過ぎて流下する球の流下方向に沿って延びる上縁部Ｋ２０７ａが可動板Ｋ２５１と同じ赤色で視認され

る。これにより、可動板Ｋ２５１の上面を左方へ通り過ぎた後の球の流下方向を、可動板Ｋ２５１とは異なる位置にある上縁部Ｋ２０７ａにより遊技者に把握させることができる。

【０２３８】

図１７及び図１８を参照して、更に上縁部Ｋ２０７ａについて説明する。上縁部Ｋ２０７ａが形成される減速凹部Ｋ２０７は、球が進入可能となるように上下幅が球の直径よりも長くなるように形成されている。

【０２３９】

そのため、遊技者が方向視ＫＤＲ２２で可動板Ｋ２５１付近を視認している場合に、可動板Ｋ２５１の上面を球が転動する場合であっても、その球により上縁部Ｋ２０７ａが隠されることはない。従って、可動板Ｋ２５１の上面を転動する球の上下において、可動板Ｋ２５１と、その可動板Ｋ２５１と同様に左下方へ傾斜する上縁部Ｋ２０７ａとにより、２本の赤色のライン状の装飾を遊技者に視認させることができる。

【０２４０】

ここで、方向視ＫＤＲ２２に対して上縁部Ｋ２０７ａが鏡として作用して可動板Ｋ２５１を視認させる場合の光の通り道は、減速凹部Ｋ２０７を通るので、可動板Ｋ２５１上を流下する球がある場合であっても、球が減速凹部Ｋ２０７に進入していなければ上縁部Ｋ２０７ａの視認態様に影響はない。

【０２４１】

また、球が減速凹部Ｋ２０７に進入している場合であっても、球は球体である一方で減速凹部Ｋ２０７の凹設側端部は平面であり、減速凹部Ｋ２０７が球により満たされることはないので、球に遮蔽されずに進行する光が上縁部Ｋ２０７ａで反射されて遊技者の目に届くことになる。

【０２４２】

従って、可動板Ｋ２５１上を球が流下する場合であっても、上縁部Ｋ２０７ａの視認態様の変化を小さくすることができる。即ち、上縁部Ｋ２０７ａが赤色で視認される状態は、可動板Ｋ２５１上に球が有る場合にも、無い場合にも、共通に生じさせることができる。

【０２４３】

図１７に図示されるように、本実施形態では、化粧カバーＫ２２０の大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの内側に、上縁部Ｋ２０７ａ及び可動板Ｋ２５１が沿うように配置されており、化粧カバーＫ２２０の大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの色と、可動板Ｋ２５１の色とは共通とされる。

【０２４４】

そのため、可動板Ｋ２５１が張出状態の場合には、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りを部分的に太くするように上縁部Ｋ２０７ａが作用し、可動板Ｋ２５１が退避状態の場合には、上縁部Ｋ２０７ａが透明に視認されることで、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りが均一となるように視認される。

【０２４５】

大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りとして視認される形状が部分的に太い場合が可動板Ｋ２５１の張出状態に対応し、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りとして視認される形状の太さが均一である場合が可動板Ｋ２５１の退避状態に対応することから、遊技者は、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの太さを視認することで可動板Ｋ２５１の状態を把握することができる。

【０２４６】

可動板Ｋ２５１上を転動する球の流下経路の手前側には、化粧カバーＫ２２０の減速突起Ｋ２２５が位置する。減速凹部Ｋ２０７とは違い、減速突起Ｋ２２５の上下幅は球の直径よりも小さくされる（球の半径よりも小さくされる）。これにより、可動板Ｋ２５１上を球が転動する場合に、球が減速突起Ｋ２２５により隠されて（見え難くされて）、遊技者が球の位置を把握できなくなる事態を避けることができる。

【０２４７】

図１９、図２０、図２１及び図２２は、斜め下方に見下ろす方向視ＫＤＲ２１における入賞ユニットＫ２００の斜視図である。図１９、図２０、図２１及び図２２では、電動役物Ｋ６４０ａや可動板Ｋ２５１の配置の違いに伴う化粧カバーＫ２２０の大形意匠Ｋ２２１ａ及び小形意匠Ｋ２２１ｂの視認態様の違いを説明するために、化粧カバーＫ２２０については、板状本体Ｋ２２１の外形が想像線で図示されると共に大形意匠２２１ａおよび小形意匠Ｋ２２１ｂの位置が図示され、背面側に張り出す形状部としての分岐形成部Ｋ２２３、傾斜形成部Ｋ２２４及び減速突起Ｋ２２５の配置が想像線で図示される。

【０２４８】

また、図１９、図２０、図２１及び図２２では、赤色の大形意匠Ｋ２２１ａの縁取り、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１に、共通の網掛けが付される。なお、入賞ユニットＫ２００に案内された球の流下経路の詳細については図示が省略されているので、流下経路の詳細について図１７を適宜参照する。

【０２４９】

図１９では、第１電動役物Ｋ２４０において電動役物Ｋ６４０ａが退避状態（非励磁状態）とされ、第２電動役物Ｋ２５０において可動板Ｋ２５１が張出状態（非励磁状態）とされる。この状態は、主に通常状態に対応する。

【０２５０】

図１９に図示される状態は、入賞ユニットＫ２００を流下する球が、第２入賞口Ｋ６４０（図１５参照）に案内されることは無く、第２特定入賞口Ｋ６５０ａに案内されることもない（図１７参照）状態である。

【０２５１】

この状態において、大形意匠Ｋ２２１ａは、縁取りの内側の上下中央部に可動板Ｋ２５１が進入しているように視認され、大形意匠Ｋ２２１ａ自体の形状があたかも切断されているように遊技者に印象付けることができる。

【０２５２】

従って、大形意匠Ｋ２２１ａ自体の形状があたかも切断されているように視認されている場合と、第２入賞口Ｋ６４０及び第２特定入賞口Ｋ６５０ａに球が案内されない状態とが対応するので、遊技者は、大形意匠Ｋ２２１ａの視認態様から、入賞ユニットＫ２００に入球した球がどのように流下するかを予測することができる。そのため、入賞ユニットＫ２００に入球した球の流下の把握（予測）のために球自体を視認する必要がある場合に比較して、遊技者の疲労度合を低減させることができる。

【０２５３】

図２０では、第１電動役物Ｋ２４０において電動役物Ｋ６４０ａが張出状態（励磁状態）とされ、第２電動役物Ｋ２５０において可動板Ｋ２５１が張出状態（非励磁状態）とされる。この状態は、主に時短状態や確変状態において頻繁に生じる状態に対応する。

【０２５４】

図２０に図示される状態は、入賞ユニットＫ２００を流下する球が、第２入賞口Ｋ６４０（図１５参照）に案内され得る一方で、第２特定入賞口Ｋ６５０ａに案内されることはない（図１７参照）状態である。

【０２５５】

この状態において、小形意匠Ｋ２２１ｂは、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの内側に進入しているように視認される電動役物Ｋ６４０ａの赤色を背景色とするワンポイントの装飾のように視認される。この場合、図１９で図示されるように背景色が無色の場合に比較して、白色の小形意匠Ｋ２２１ｂを目立たせることができる。

【０２５６】

従って、小形意匠Ｋ２２１ｂが電動役物Ｋ６４０ａの赤色を背景色とするワンポイントの装飾のように視認される場合と、第２入賞口Ｋ６４０に球が案内され得る状態とが対応するので、遊技者は、小形意匠Ｋ２２１ｂの視認態様から、入賞ユニットＫ２００に入球した球が第２入賞口Ｋ６４０に入球され得るかどうかを予測することができる。そのため、入賞ユニットＫ２００に入球した球の流下の把握（予測）のために球自体を視認する必

要がある場合に比較して、遊技者の疲労度合を低減させることができる。
【０２５７】
ここで、化粧カバーＫ２２０に施される小形意匠Ｋ２２１ｂを判別し易い装飾とすると、その装飾が邪魔になり球自体の流れが見え難くなる可能性があり、逆に、球の流れを見え易くするために淡い装飾とすると、装飾としては見え難い演出効果の小さいものになる可能性がある。光照射により形状を浮かび上がらせる導光パネル等を利用する手もあるが、高価であったり、ある程度の厚みを要する等の設計に絡む条件から配置が限定されたりするといった問題点があり、万能ではない。
【０２５８】
これに対し、本実施形態では、化粧カバーＫ２２０の前面の装飾で完結させるのではなく、小形意匠Ｋ２２１ｂの見映えに、電動役物Ｋ６４０ａが影響を及ぼし得るように構成することで、装飾の見映えと、球の見え易さとを両立させている。
【０２５９】
即ち、小形意匠Ｋ２２１ｂ単体では目立たない装飾とすることで、電動役物Ｋ６４０ａが退避状態とされている場合には、小形意匠Ｋ２２１ｂを目立たせないことで化粧カバーＫ２２０の背面側を流下する球自体に注目させるようにする一方、電動役物Ｋ６４０ａが張出状態とされる場合には、小形意匠Ｋ２２１ｂ自体を目立たせて、第２入賞口Ｋ６４０への入球に期待させる装飾としての演出効果を向上させることができる。
【０２６０】
電動役物Ｋ６４０ａを背景として小形意匠Ｋ２２１ｂを目立たせる場合、小形意匠Ｋ２２１ｂと電動役物Ｋ６４０ａとの間に球が進入すると、小形意匠Ｋ２２１ｂの見栄えが変化することが懸念される。
【０２６１】
ベース部材Ｋ２０１の板状本体Ｋ２０２と化粧カバーＫ２２０の板状本体Ｋ２２１（図１５参照）とで形成される流路の前後幅は球の直径よりも十分に長くされていること（約１９ｍｍ）、パチンコ機Ｋ１０は一般的に数度（約１度）だけ後側へ傾斜されていること、を考慮すれば、電動役物Ｋ６４０ａの上面を転動する球は後側に配置されるベース部材Ｋ２０１の板状本体Ｋ２０２に接しながら流下する可能性が高いので、小形意匠Ｋ２２１ｂと電動役物Ｋ６４０ａとの間に球が進入する前提となる球が化粧カバーＫ２２０側に寄る（前側寄りで流下する）事態が生じる可能性を低くすることができる。
【０２６２】
従って、小形意匠Ｋ２２１ｂと電動役物Ｋ６４０ａとの間に球が進入する事態を生じ難くすることができるので、電動役物Ｋ６４０ａ上を球が転動している状態における小形意匠Ｋ２２１ｂの見栄えの変化を防止し易くすることができる。
【０２６３】
図２１では、第１電動役物Ｋ２４０において電動役物Ｋ６４０ａが退避状態（非励磁状態）とされ、第２電動役物Ｋ２５０において可動板Ｋ２５１が退避状態（励磁状態）とされる。この状態は、主に特別遊技状態のラウンド遊技中の状態に対応する。
【０２６４】
図２１に図示される状態は、入賞ユニットＫ２００を流下する球が、第２入賞口Ｋ６４０（図１５参照）に案内されることは無く、第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１７参照）に案内され得る状態である。
【０２６５】
退避状態の可動板Ｋ２５１は、先端部が案内開口Ｋ２０５の後側まで十分に収納され（図１８参照）、方向視ＤＲ２１では視認不能とされる。また、退避状態の可動板Ｋ２５１の上側を覆う延設部Ｋ２０９（図１８参照）の全反射の作用により、延設部Ｋ２０９を介して可動板Ｋ２５１を視認することが不可能とされるので、図２１に図示される状態において、可動板Ｋ２５１を完全に隠すことができる。
【０２６６】
図２１に図示される状態において、電動役物Ｋ６４０ａが小形意匠Ｋ２２１ｂの背景色

を構成することはなく、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの内側において可動板Ｋ２５１が視認されることも無いので、遊技者に対して、大形意匠Ｋ２２１ａ自体の形状を印象的に視認させることができる。

【０２６７】

従って、大形意匠Ｋ２２１ａ自体の形状が切断されない状態で視認されている場合と、第２特定入賞口Ｋ６５０ａに球が案内され得る状態とが対応するので、遊技者は、大形意匠Ｋ２２１ａの視認態様から、入賞ユニットＫ２００に入球した球がどのように流下するかを予測することができる。そのため、入賞ユニットＫ２００に入球した球の流下の把握（予測）のために球自体を視認する必要がある場合に比較して、遊技者の疲労度合を低減させることができる。

【０２６８】

なお、本実施形態では、方向視ＤＲ２１において、可動板Ｋ２５１が大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの内側に視認されるか否かで状態の切替を把握可能に構成される一方で、方向視ＤＲ２２において、図１７で上述したように、上縁部Ｋ２０７ａが赤色で視認されることで大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの太さが部分的に変化するか否かで状態の切替を把握可能に構成される。

【０２６９】

このように、本実施形態では、見栄えの変化を生じさせる主体は可動板Ｋ２５１で共通としつつも、見栄えが変わる対象を複数設けてあるので、遊技者が入賞ユニットＫ２００を視認する方向視が遊技中に変化したとしても、大形意匠Ｋ２２１ａの視認態様から入賞ユニットＫ２００に入球した球がどのように流下するかを予測させるという目的を達成させることができる。

【０２７０】

図２２では、第１電動役物Ｋ２４０において電動役物Ｋ６４０ａが張出状態（励磁状態）とされ、第２電動役物Ｋ２５０において可動板Ｋ２５１が退避状態（励磁状態）とされる。この状態は、主に特別遊技状態のラウンド遊技中において、第２図柄の抽選で当たりとなり、電動役物Ｋ６４０ａが駆動された状態に対応する。

【０２７１】

図２２に図示される状態は、入賞ユニットＫ２００を流下する球が、第２入賞口Ｋ６４０（図１５参照）に案内され得るか、又は、第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１７参照）に案内され得る状態である。

【０２７２】

この状態において、小形意匠Ｋ２２１ｂは、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの内側に進入しているように視認される電動役物Ｋ６４０ａの赤色を背景色とするワンポイントの装飾のように視認される。この場合、図１９で図示されるように背景色が無色の場合に比較して、白色の小形意匠Ｋ２２１ｂを目立たせることができる。

【０２７３】

従って、小形意匠Ｋ２２１ｂが電動役物Ｋ６４０ａの赤色を背景色とするワンポイントの装飾のように視認される場合と、第２入賞口Ｋ６４０に球が案内され得る状態とが対応するので、遊技者は、小形意匠Ｋ２２１ｂの視認態様から、入賞ユニットＫ２００に入球した球が第２入賞口Ｋ６４０に入球され得るかどうかを予測することができる。そのため、入賞ユニットＫ２００に入球した球の流下の把握（予測）のために球自体を視認する必要がある場合に比較して、遊技者の疲労度合を低減させることができる。

【０２７４】

一方、特別遊技状態では電動役物Ｋ６４０ａの励磁時間が極端に短くされるので、実際に球が第２入賞口Ｋ６４０に入球する事態は発生し難いように構成されている。従って、電動役物Ｋ６４０ａを利用して、小形意匠Ｋ２２１ｂの見映えを変化させるだけの（第２入賞口Ｋ６４０への入球による賞球は発生させ難い）演出を実行させることができる。

【０２７５】

図２３は、遊技盤Ｋ１３の背面斜視図であり、図２４は、遊技盤Ｋ１３の分解背面斜視

図である。図２３に図示されるように、ベース板Ｋ６０は、内部においてセンターフレームＫ８６を内嵌可能な形状で開口形成される開口部Ｋ６０ｗを備えている。また、ベース板Ｋ６０は、内レールＫ６１及び外レールＫ６２（図１２参照）により外縁が区画される遊技領域の形成範囲においては強度面から肉厚が十分に確保されており、遊技領域の形成範囲の外方において、背面側から凹設されるようにして肉厚が削られる形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄを備える。

【０２７６】

開口部Ｋ６０ｗは、センターフレームＫ８６を前後幅に亘って支持する目的から、ベース板Ｋ６０の厚み方向（前後方向）の位置が異なっても同一形状となるように形成される。これにより、センターフレームＫ８６を安定的に支持することができる。

【０２７７】

左上側の第１形成凹部Ｋ６０ａは、外レールＫ６２（図１２参照）の左上側に配設される樹脂製の遮蔽部材Ｋ７４の後方に配置されており、遮蔽部材Ｋ７４により第１形成凹部Ｋ６０ａが目隠しされる。

【０２７８】

右上側の第２形成凹部Ｋ６０ｂは、外縁部材Ｋ７３（図１２参照）及び外縁部材Ｋ７３よりも上側の範囲の後方に配置されており、外縁部材Ｋ７３により第２形成凹部Ｋ６０ｂが目隠しされる。

【０２７９】

左下側の第３形成凹部Ｋ６０ｃは、外レールＫ６２（図１２参照）の左下側に配置され第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂが内蔵される樹脂製の遮蔽部材Ｋ７５の後方に配置されており、遮蔽部材Ｋ７５により第３形成凹部Ｋ６０ｃが目隠しされる。

【０２８０】

図２４に図示されるように、遊技盤Ｋ１３は、ベース板Ｋ６０の下側部の背面側に締結固定される左右長尺の樋用前側部材Ｋ９１と、その樋用前側部材Ｋ９１の背面側に締結固定され樋用前側部材Ｋ９１と共同で球を流下させる樋を構成する樋用後側部材Ｋ９２と、その樋用後側部材Ｋ９２の背面側に締結固定され正面側へ光を照射するＬＥＤが配置される電飾基板Ｋ９３と、その電飾基板Ｋ９３の取り外しを防止可能となるように電飾基板Ｋ９３を挟む用にして樋用後側部材Ｋ９２に締結固定される防止部材Ｋ９４と、その防止部材Ｋ９４と共同で球を流下させる樋を構成する補助部材Ｋ９５と、樋用後側部材Ｋ９２に製造条件から生じる不要な開口部を塞ぐ機能を有すると共に電気配線を結束バンドで束ねる支持部としての機能する閉塞部材Ｋ９６と、を備える。

【０２８１】

電飾基板Ｋ９３からの光は、遊技領域の左下側に配置される一般入賞口Ｋ６３へ向けて照射される。即ち、電飾基板Ｋ９３に配置されるＬＥＤを点灯させることにより、一般入賞口Ｋ６３を明るく視認させることができるので、遊技者の一般入賞口Ｋ６３への注目力を、電飾基板Ｋ９３に配置されるＬＥＤの点灯または消灯により変化させることができる。

【０２８２】

右下側の第４形成凹部Ｋ６０ｄは、外レールＫ６２の下縁よりも下側において外縁部材Ｋ７３の下端側形成部Ｋ７３ａ（図１４参照）の後方の領域を含むように配置されており、その下端側形成部Ｋ７３ａにより第４形成凹部Ｋ６０ｄの少なくとも一部が目隠しされる。

【０２８３】

第４形成凹部Ｋ６０ｄの後方には樋用前側部材Ｋ９１及び樋用後側部材Ｋ９２の左側部が配置されており、第４形成凹部Ｋ６０ｄの後方の領域を球が流下可能に構成されている。

【０２８４】

図２５は、動作ユニットＫ３００の分解正面斜視図である。なお、図２５の説明においては、図１３を適宜参照する。動作ユニットＫ３００は、左右に長尺に形成され正面視で

第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の上側に配設される上側装飾部材Ｋ３３０と、上下に長尺で形成され正面視で第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の左側に配設される左側装飾部材Ｋ３５０と、上側装飾部材Ｋ３３０及び左側装飾部材Ｋ３５０が正面側に締結固定される前層側可動装置Ｋ４００と、その前層側可動装置Ｋ４００の後側に配設される後層側可動装置Ｋ８００と、前層側可動装置Ｋ４００及び後層側可動装置Ｋ８００が収容され締結固定される背面ケースＫ３１０と、を備える。

【０２８５】

背面ケースＫ３１０は、底壁部Ｋ３１１と、その底壁部Ｋ３１１の外縁から立設される外壁部Ｋ３１２とから正面側が開放された箱状に形成される。背面ケースＫ３１０は、底壁部Ｋ３１１の中央に矩形状の開口Ｋ３１１ａが開口形成されることで、正面視矩形の枠状に形成される。開口Ｋ３１１ａは、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の外形（外縁）に対応した（即ち、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域を正面視で区切ることが可能な）大きさに形成される。

【０２８６】

背面ケースＫ３１０は、外壁部Ｋ３１２の正面側端部に遊技盤Ｋ１３の背面に沿う（例えば、平行に配置される）平面板として延設され、組立状態（図１２参照）において遊技盤Ｋ１３に面で支持される支持板部Ｋ３１３を備える。

【０２８７】

その支持板部Ｋ３１３が遊技盤Ｋ１３に面で支持された状態で、遊技盤Ｋ１３のベース板Ｋ６０に締結ネジを螺入することにより、遊技盤Ｋ１３と動作ユニットＫ３００とを一体的に固定することができるので、遊技盤Ｋ１３及び動作ユニットＫ３００の全体としての剛性の向上を図ることができる。

【０２８８】

前層側可動装置Ｋ４００は、左右長尺に構成され初期位置としての上端位置から上下移動可能な第１可動装置Ｋ４０１と、第１可動装置Ｋ４０１の下側の左右中心位置において昇降移動可能に構成される第２可動装置Ｋ７０１と、を備える。

【０２８９】

上側装飾部材Ｋ３３０は、内部に発光基板が配設され、発光基板から前側に照射される光が透光性の装飾部分に照射されることで発光演出を行う一方で、初期位置の第１可動装置Ｋ４０１を目隠しすることが可能な大きさで形成される。

【０２９０】

左側装飾部材Ｋ３５０は、内部に発光基板が配設され、発光基板から前側に照射される光が透光性の装飾部分に照射されることで発光演出を行う一方で、第１可動装置Ｋ４０１の左側における駆動力伝達機構を目隠しすることが可能な大きさで形成される。

【０２９１】

後層側可動装置Ｋ８００は、前側に前層側可動装置Ｋ４００が配置される関係上、その前層側可動装置Ｋ４００よりも背面ケースＫ３１０における奥側（後側）に配設されることから、前層側可動装置Ｋ４００よりも可変表示装置ユニットＫ８０に近い位置に配設される。

【０２９２】

後層側可動装置Ｋ８００は、前後に層状に配置される板状部材が左右方向にスライド移動されることで、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域を露出させたり、隠したりするように動作する第３可動装置Ｋ８０１を備える。

【０２９３】

後層側可動装置Ｋ８００は、背面ケースＫ３１０の底壁部Ｋ３１１に締結固定され、前層側可動装置Ｋ４００は、後層側可動装置Ｋ８００よりも外側を通る締結部を介して背面ケースＫ３１０の底壁部Ｋ３１１に締結固定されると共に、後層側可動装置Ｋ８００の非可動部分に締結固定される。まず、動作ユニットＫ３００の動作制御の概要について例示して説明する。

【０２９４】

図２６から図３２は、動作ユニットＫ３００の動作制御の一例を示す動作ユニットＫ３００の正面図である。図２６では、第１可動装置Ｋ４０１、第２可動装置Ｋ７０１及び第３可動装置Ｋ８０１がそれぞれ演出待機状態である場合について図示される。即ち、図２６において、第１可動装置Ｋ４０１は上側装飾部材Ｋ３３０に隠されており、第３可動装置Ｋ８０１は前層側可動装置Ｋ４００に隠されているため、第１可動装置Ｋ４０１及び第３可動装置Ｋ８０１を正面視で視認することはできない。

【０２９５】

図２７では、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態よりも下降された下降配置状態とされることで、空いたスペースに第１可動装置Ｋ４０１が進入するように落下することで第１可動装置Ｋ４０１が落下位置状態とされ、第３可動装置Ｋ８０１は演出待機状態とされる場合について図示される。

【０２９６】

第１可動装置Ｋ４０１の位置と第２可動装置Ｋ７０１の位置とが前後にずれておらず（上面視で重なっており）、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態のままだと落下後の第１可動装置Ｋ４０１と衝突してしまうことから、予め第２可動装置Ｋ７０１が下降配置状態とされた後で第１可動装置Ｋ４０１が落下するように駆動制御される。

【０２９７】

第１可動装置Ｋ４０１は、少なくとも最背面側の部材（長尺装置Ｋ５４０の本体部Ｋ５４１）が非透過となるように構成されているので、第１可動装置Ｋ４０１と重なる部分については第３図柄表示装置Ｋ８１による表示が隠される。従って、図２７に示す状態において、遊技者は第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における表示を正面視で完全には視認することができない。

【０２９８】

図２８では、第１可動装置Ｋ４０１及び第２可動装置Ｋ７０１がそれぞれ演出待機状態とされ、第３可動装置Ｋ８０１が第３図柄表示装置Ｋ８１の手前側を塞ぐ閉塞状態とされる場合について図示される。

【０２９９】

第３可動装置Ｋ８０１は、正面視矩形状に形成される板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１は、光透過性に形成されており、その透過の度合いを部分的に異ならせている。これにより、図２８に示すように板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１により第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の全域が塞がれる場合に、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示が視認され易い部分と、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示が板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１に隠されて板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１の表面の装飾が視認され易い部分とを構成することができる。

【０３００】

図２９では、第１可動装置Ｋ４０１が落下位置状態における上下位置を保ったまま、移動装置Ｋ５６０が左側にスライド移動された後で、下降配置状態とされていた第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態に変化されており、第３可動装置Ｋ８０１が閉塞状態とされる場合が図示される。

【０３０１】

移動装置Ｋ５６０を左右にスライド移動させ第２可動装置Ｋ７０１と干渉しない位置（図２９参照）まで移動させた上で、第２可動装置Ｋ７０１を移動させることで、移動装置Ｋ５６０と第２可動装置Ｋ７０１との間隔を狭め、且つ、動作ユニットＫ３００の正面視中央側に第２可動装置Ｋ７０１を寄せて、第１可動装置Ｋ４０１及び第２可動装置Ｋ７０１を遊技者に視認させ易くしている。

【０３０２】

図２９に図示されるように、第１可動装置Ｋ４０１の変位軌跡と第３可動装置Ｋ８０１の変位軌跡とが、正面視で部分的に重なるが、第１可動装置Ｋ４０１の変位軌跡と第３可動装置Ｋ８０１の変位軌跡とが前後でずれている（上面視で重ならない）ので、第１可動装置Ｋ４０１及び第３可動装置Ｋ８０１は、動作中に互いに衝突しない（干渉しない）。

そのため、図２９に図示されるように、第１可動装置Ｋ４０１を演出待機状態から落下位置状態へ変化させた状態において、第３可動装置Ｋ８０１を演出待機状態から閉塞状態に変化させることができる。

【０３０３】

このようにして、第１可動装置Ｋ４０１、第２可動装置Ｋ７０１及び第３可動装置Ｋ８０１を、それぞれ演出待機状態から駆動させる制御を実行可能とし、一体感のある動作を実現しながら、各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１が衝突することを避けることができる。

【０３０４】

図２９に示す状態では、第３可動装置Ｋ８０１の左側に描かれる装飾、第１可動装置Ｋ４０１の移動装置Ｋ５６０に描かれる装飾、第２可動装置Ｋ７０１に描かれる装飾および入賞ユニットＫ２００の化粧カバーＫ２２０に描かれる装飾を一連で視認させることで意味を持たせる演出を実行可能とされる（第３可動装置Ｋ８０１に描かれる装飾については本図では図示を省略する。詳細は後述する）。

【０３０５】

図３０では、第１可動装置Ｋ４０１及び第３可動装置Ｋ８０１が演出待機状態とされ、第２可動装置Ｋ７０１が上昇配置状態とされる場合が図示される。第２可動装置Ｋ７０１は、演出待機状態ではセンターフレームＫ８６の下側部と大部分が重なり視認性が悪いが（図１２参照）、上昇配置状態では、半分以上がセンターフレームＫ８６の下側部よりも上側に配置されることで、第２可動装置Ｋ７０１の視認性が向上される。

【０３０６】

図３１では、第２可動装置Ｋ７０１及び第３可動装置Ｋ８０１が演出待機状態とされ、第１可動装置Ｋ４０１の右側のみが途中位置まで落下した片側落下状態とされる場合が図示され、図３２では、図３１の状態から第１可動装置Ｋ４０１の移動装置Ｋ５６０が可動域の右端部まで変位された場合が図示される。

【０３０７】

第１可動装置Ｋ４０１において、演出待機状態と片側落下状態との変化が生じる際には、移動装置Ｋ５６０の位置は左右方向中央側に維持される。これにより、昇降変位時に第１可動装置Ｋ４０１の左右バランスが崩れることを避けることができる。

【０３０８】

図３２に図示される片側落下状態では、移動装置Ｋ５６０の姿勢が右斜め下に倒れる態様で傾くため、移動装置Ｋ５６０の正面側の意匠が傾いてしまい、見栄えが悪くなる。これに対し、本実施形態では、演出待機状態から片側落下状態へ変化し、更に演出待機状態に変化するまでの間、移動装置Ｋ５６０の正面側の意匠を回転させ続けるように制御される。これにより、移動装置Ｋ５６０の正面側の意匠が傾いて見栄えが悪くなるという事態を避けることができる。

【０３０９】

本実施形態では、移動装置Ｋ５６０の正面側の意匠の回転は、移動装置Ｋ５６０が正面視右方に移動する際には正面視時計回り（右向き前転方向）とされ、移動装置Ｋ５６０が正面視左方に移動する際には正面視反時計回り（左向き前転方向）とされる。これにより、移動装置Ｋ５６０の左右方向の移動と、回転動作とを遊技者に関連して把握させることができ、統一的な動作演出とすることができる。

【０３１０】

図２６から図３２に示すように、各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１の状態に対応して、その後方に配置されている第３図柄表示装置Ｋ８１の表示が見える範囲が変わる。即ち、各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１の全てが演出待機状態にある場合が第３図柄表示装置Ｋ８１の表示が見え易い範囲（面積や位置）が最大の状態（図２６参照）であり、演出待機状態から状態が変化される可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１に対応して、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の隠される範囲（面積や位置）が異なるように構成される。

【０３１１】
演出待機状態からの各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１の状態の変化の程度によっても、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の隠される範囲（面積や位置）が異なる。また、例えば、同じ可動装置（例えば、第１可動装置Ｋ４０１）が動作する場合であっても、図２７に示す状態と、図３２に示す状態とでは、動作量や、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域と重なる第１可動装置Ｋ４０１の面積や位置が異なることから、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の隠される範囲（面積や位置）が異なっている。
【０３１２】
即ち、第３図柄表示装置Ｋ８１では、各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１により隠されない範囲（可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１を透視することで表示を視認可能な範囲を含む）における表示演出を視認させるように制御が設計されているところ、各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１により隠される範囲（可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１を透視することで表示を視認可能な範囲を除く）が複数種類で変化することから、各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１により隠されない範囲における表示演出のバリエーションを多くすることができ、表示演出の演出効果を向上させることができる。
【０３１３】
次いで、図３３から図５４を参照して、第１可動装置Ｋ４０１について説明する。図３３は、前層側可動装置Ｋ４００の正面分解斜視図であり、図３４は、前層側可動装置Ｋ４００の背面分解斜視図である。
【０３１４】
前層側可動装置Ｋ４００の内、第２可動装置Ｋ７０１を除く部分を構成する第１可動装置Ｋ４０１は、略左右対称形状の部材から左右一対で構成され背面ケースＫ３１０に締結固定される一対の支持部材Ｋ４１０と、その支持部材Ｋ４１０の下側部において回転可能に支持される一対の回転部材Ｋ４３０と、その回転部材Ｋ４３０を回転させる駆動力を発生させる一対の駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂと、回転部材Ｋ４３０の回転の状態に対応して昇降可能に構成される昇降装置Ｋ５００と、を備える。
【０３１５】
更に、第１可動装置Ｋ４０１は、支持部材Ｋ４１０の前方の開放部に蓋をするように支持部材Ｋ４１０に締結固定される左右一対の前カバー部材Ｋ４４０と、右側の前カバー部材Ｋ４４０に前側から締結固定され昇降装置Ｋ５００の動作態様を切り替える切替装置Ｋ４６０と、回転部材Ｋ４３０の回転の状態に対応して昇降装置Ｋ５００の下降を許容する許容状態と昇降装置Ｋ５００の下降を防止する防止状態とで変化される左右一対の状態変化装置Ｋ４７０と、を備える。
【０３１６】
更に、第１可動装置Ｋ４０１は、左側の前カバー部材Ｋ４４０の下側部に正面側から締結固定され光透過性樹脂から形成される装飾部材Ｋ４０２と、その装飾部材Ｋ４０２へ光を照射するＬＥＤ等の発光手段が配設される電飾基板Ｋ４０３と、右側の前カバー部材Ｋ４４０の下側部に正面側から締結固定され光透過性樹脂から形成される装飾部材Ｋ４０４と、その装飾部材Ｋ４０４へ光を照射するＬＥＤ等の発光手段が配設される電飾基板Ｋ４０５と、前層側可動装置Ｋ４００の組立状態（図２５参照）における支持部材Ｋ４１０及び前カバー部材Ｋ４４０と第２可動装置Ｋ７０１との隙間を上側から塞ぐ上カバー部材Ｋ４０６と、を備える。
【０３１７】
前カバー部材Ｋ４４０の詳細について説明する。前カバー部材Ｋ４４０は、略Ｌ字状に形成される板状本体Ｋ４４１と、その板状本体Ｋ４４１に上下方向に延びる長孔として穿設され昇降装置Ｋ５００の昇降を案内する案内長孔Ｋ４４２と、その案内長孔Ｋ４４２の下端部近傍に配設される樹脂部材であって昇降装置Ｋ５００の下降時の衝撃を吸収可能な吸収部材Ｋ４４３と、板状本体Ｋ４４１の背面から回転部材Ｋ４３０へ向けて突設される突設部Ｋ４４４と、案内長孔Ｋ４４２の前方に配置され案内長孔Ｋ４４４を前側に通過し

た昇降装置Ｋ５００の締結部Ｋ５３３に連結される連結部材Ｋ４４５と、を備える。
【０３１８】
図３５は、第１可動装置Ｋ４０１の分解正面斜視図であり、図３６は、第１可動装置Ｋ４０１の分解背面斜視図である。図３５及び図３６では、第１可動装置Ｋ４０１の内、支持部材Ｋ４１０、回転部材Ｋ４３０及び状態変化装置Ｋ４７０が図示され、前カバー部材Ｋ４４０及び切替装置Ｋ４６０の図示は省略される。
【０３１９】
図３５及び図３６に示すように、支持部材Ｋ４１０は、正面視略Ｌ字状に形成される本体部Ｋ４１１と、その本体部Ｋ４１１の下側部の正面側に円筒状に突設され回転部材Ｋ４３０を回転可能に支持する支持部Ｋ４１２と、その支持部Ｋ４１２の左右方向外側に回転部材Ｋ４３０の姿勢を検出するために配設される検出センサＫ４１３と、本体部Ｋ４１１の下端部の正面側に円筒状に突設され状態変化装置Ｋ４７０の下側回転部材Ｋ４７１を回転動作可能に支持する支持部Ｋ４１４と、昇降装置Ｋ５００を案内可能に上下方向に延びる長孔として形成される案内長孔Ｋ４１５と、その案内長孔Ｋ４１５に沿ってギア歯が形成されるラックＫ４１６と、本体部Ｋ４１１の背面側に上下方向に並べて形成され状態変化装置Ｋ４７０の連動部材Ｋ４７３の昇降移動を案内する案内突設部Ｋ４１７と、本体部Ｋ４１１の上端部の正面側に配設され昇降装置Ｋ５００が演出待機状態における位置に配置されているか否かを検出可能な検出センサＫ４１８と、本体部Ｋ４１１に上端部が吊り下げられ下端部が昇降装置Ｋ５００の鉤状部Ｋ５１５に引っかけられるコイルスプリングＫ４１９と、を備える。
【０３２０】
更に、支持部材Ｋ４１０は、昇降装置Ｋ５００の昇降動作を案内するものとして上下方向に延びる金属棒Ｋ４２１と、その金属棒Ｋ４２１の下端が差し込まれる支持受部Ｋ４２２と、金属棒Ｋ４２１に昇降装置Ｋ５００を沿わせるために昇降装置Ｋ５００との間で金属棒Ｋ４２１を挟む位置で昇降装置Ｋ５００に締結固定される被固定部材Ｋ４２３と、金属棒Ｋ４２１の上端が支持部材Ｋ４１０の本体部Ｋ４１１から上方向および前方向に抜けないようにするための抜け止めとしての補助部材Ｋ４２４と、を備える。
【０３２１】
なお、本実施形態では、左側の金属棒Ｋ４２１に対しては前カバー部材Ｋ４４０の板状本体Ｋ４４１が補助部材Ｋ４２４と同様の機能を果たすように構成されることで、補助部材Ｋ４２４は右側にのみ配設されている。
【０３２２】
回転部材Ｋ４３０は、駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂの駆動軸に固定される駆動ギアＫＧ４２の回転を支持部材Ｋ４１０の本体部Ｋ４１１に支持される中間ギアＫＧ４３を介して伝達するために背面側の全周に亘ってギア歯Ｋ４３２が形成される円板状の本体部Ｋ４３１と、その本体部Ｋ４３１の中心部において円形に穿設され支持部材Ｋ４１０の支持部Ｋ４１２が挿通される回転中心孔Ｋ４３３と、本体部Ｋ４３１の外周側縁部において回転部材Ｋ４３０の回転軸線と平行な回転軸線で回転自在に連結され昇降装置Ｋ５００を下支えする伝達筒状部Ｋ４３４と、回転中心孔Ｋ４３３の同心円形状の突条において支持部材Ｋ４１０の検出センサＫ４１３が検出可能な幅で形成される切り欠き部Ｋ４３５と、本体部Ｋ４３１の外周側付近において背面側に突設される一組の突条により形成される案内溝Ｋ４３６と、を備える。
【０３２３】
状態変化装置Ｋ４７０は、支持部材Ｋ４１０の支持部Ｋ４１４に回転動作可能に支持される下側回転部材Ｋ４７１と、その下側回転部材Ｋ４７１の左右内側端部から回転部材Ｋ４３０側へ向けて突設され案内溝Ｋ４３６に受け入れられる切替突部Ｋ４７２と、下側回転部材Ｋ４７１の左右外側端部に配設される軸部を介して互いに相対動作可能に連結される連動部材Ｋ４７３と、連動部材Ｋ４７３の上下端部を構成する板状部に上下に長い長孔として穿設され支持部材Ｋ４１０の案内突設部Ｋ４１７が挿通されることで連動部材Ｋ４７３の動作方向を上下方向とするための複数の案内長孔Ｋ４７４と、連動部材Ｋ４７３の

上端部付近において正面側に突設される切替突部Ｋ４７５と、支持部材Ｋ４１０の本体部Ｋ４１１に回転動作可能に支持され切替突部Ｋ４７５の配置に対応して回転方向の姿勢が変化する上側回転部材Ｋ４７６と、を備える。

【０３２４】

昇降装置Ｋ５００は、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４に下支えされた状態において、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４の上下位置が上方向に変化する際に持ち上げられることで、上昇移動可能に構成される。

【０３２５】

図３７は、昇降装置Ｋ５００の分解正面斜視図であり、図３８は、昇降装置Ｋ５００の分解背面斜視図である。昇降装置Ｋ５００は、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４に直接的に押し上げられ得る左右一組の下側部材Ｋ５１０と、その下側部材Ｋ５１０の上端部の背面側に回転可能に支持される左右一対の変速ギアＫ５２０と、下側部材Ｋ５１０の昇降移動量が変速ギアＫ５２０により増減されて伝達されるように変速ギアＫ５２０に歯合されるラックＫ５３２を有しており下側部材Ｋ５１０と連動して昇降移動する左右一組の上側部材Ｋ５３０と、その上側部材Ｋ５３０に左右両端部が支持される長尺装置Ｋ５４０と、その長尺装置Ｋ５４０の長尺方向にスライド移動可能に構成される移動装置Ｋ５６０と、を備える。

【０３２６】

下側部材Ｋ５１０は、正面視略Ｌ字形状に形成される本体部Ｋ５１１と、その本体部Ｋ５１１の下端において下側部材Ｋ５１０の移動方向（上下方向）と直交する平面状に形成される平面部Ｋ５１２と、本体部Ｋ５１１の背面側から円筒状に突設される内部に雌ネジが形成されており変速ギアＫ５２０を支持可能に構成される支持締結部Ｋ５１３と、金属棒Ｋ４２１（図３５参照）に案内される被案内部Ｋ５１４と、本体部Ｋ５１１の上端部の正面側に鉤形状に形成されコイルスプリングＫ４１９（図３５参照）の下端部が引っかけられる鉤状部Ｋ５１５と、を備える。

【０３２７】

支持締結部Ｋ５１３に締結されるネジは、変速ギアＫ５２０の抜け止めとして機能し、その頭部が支持部材Ｋ４１０の案内長孔Ｋ４１５の内側に配置される。これにより、支持締結部Ｋ５１３に締結されるネジの頭部の張り出し分を吸収することができ、変速ギアＫ５２０の背面側面を支持部材Ｋ４１０の本体部Ｋ４１１の前側面で支持することができる。更に、支持締結部Ｋ５１３に締結されるネジの移動方向が案内長孔Ｋ４１５に制限されることによって、下側部材Ｋ５１０を安定して上下方向に移動させることができる。

【０３２８】

鉤状部Ｋ５１５を介して、下側部材Ｋ５１０は、コイルスプリングＫ４１９（図３５参照）により上向きに付勢される。これにより、コイルスプリングＫ４１９の付勢力で昇降装置Ｋ５００の上昇移動を補助することができる。

【０３２９】

変速ギアＫ５２０は、中間円板Ｋ５２１の背面側に第１ギアＫ５２２が形成され、中間円板Ｋ５２１の正面側に第１ギアＫ５２２と同軸で第２ギアＫ５２３が形成される。中間円板Ｋ５２１は、第１ギアＫ５２２の直径よりも直径が大きく、且つ、第２ギアＫ５２３の直径よりも直径が大きい円形状の板部として形成されており、これにより、第１ギアＫ５２２又は第２ギアＫ５２３と歯合している相手部材が前後方向に位置ずれして、反対の第２ギアＫ５２３又は第１ギアＫ５２２と歯合する事態が生じることが防止される。

【０３３０】

第１ギアＫ５２２は、支持部材Ｋ４１０のラックＫ４１６（図３５参照）と歯合され、第２ギアＫ５２３は、上側部材Ｋ５３０のラックＫ５３２と歯合される。第１ギアＫ５２２の歯数は８であり、第２ギアＫ５２３の歯数は１２である。

【０３３１】

従って、下側部材Ｋ５１０が昇降移動した場合に、その下側部材Ｋ５１０の昇降移動量の１．５倍の移動量で、上側部材Ｋ５３０が下側部材Ｋ５１０に対して相対移動すること

になるが、昇降移動の詳細については後述する。

【０３３２】

上側部材Ｋ５３０は、上下方向に長尺の本体部Ｋ５３１と、その本体部Ｋ５３１の背面側において左右外側に向けて上下方向に延設されるラックＫ５３２と、本体部Ｋ５３１の正面側に上下一対で突設される円筒状部であって内部に雌ネジが形成される締結部Ｋ５３３と、本体部Ｋ５３１の背面側に円筒状に突設されており長尺装置Ｋ５４０を回転動作可能に支持する回転軸部Ｋ５３４と、その回転軸部Ｋ５３４と平行な方向で円筒状に突設される補助突部Ｋ５３５と、金属棒Ｋ４２１（図３５参照）に案内される被案内部Ｋ５３６と、上側回転部材Ｋ４７６（図３５参照）に下支えされる湾曲面として形成される湾曲受部Ｋ５３７と、を備える。

【０３３３】

締結部Ｋ５３３には、連結部材Ｋ４４５（図３３参照）が締結固定される。即ち、前カバー部材Ｋ４４０の案内長孔Ｋ４４２（図３３参照）を前側へ貫通した締結部Ｋ５３３の先端に連結部材Ｋ４４５が締結固定される。これにより、締結部Ｋ５３３の移動が案内長孔Ｋ４４２に制限されることになるので、上側部材Ｋ５３０の昇降移動を安定させることができる。

【０３３４】

上側部材Ｋ５３０は被案内部Ｋ５３６に、下側部材Ｋ５１０は被案内部Ｋ５１４によって、それぞれ金属棒Ｋ４２１（図３５参照）に案内されるので、下側部材Ｋ５１０及び上側部材Ｋ５３０の前後左右方向の倒れを防止することができる。

【０３３５】

図３９は、長尺装置Ｋ５４０の分解正面斜視図であり、図４０は、長尺装置Ｋ５４０の分解背面斜視図である。図３９及び図４０では、位置関係の理解を容易とするために上側部材Ｋ５３０及び移動装置Ｋ５６０が図示される。

【０３３６】

長尺装置Ｋ５４０は、左右長尺の板状に形成される本体部Ｋ５４１と、その本体部Ｋ５４１の左右中央部において背面側に円筒状に突設される支持軸部Ｋ５４２と、その支持軸部Ｋ５４２に回転可能に支持される中央ギアＫ５４３と、支持軸部Ｋ５４２と平行な方向に円筒状に突設される複数の案内突設部Ｋ５４４と、その案内突設部Ｋ５４４に案内され本体部Ｋ５４１の長尺方向にスライド移動可能に構成される一対のスライドラックＫ５４５と、を備える。

【０３３７】

本体部Ｋ５４１の前側部には、左右外側端部よりも内側に終端位置が形成される左右長尺の凹部Ｋ５４１ａが形成される。凹部Ｋ５４１ａは、長尺装置Ｋ５４０の組立状態（図３７参照）において、移動装置Ｋ５６０の背面側下端部が受け入れられる部分として機能している。

【０３３８】

スライドラックＫ５４５は、図４０に示す状態における左右外側の上下幅よりも左右内側の上下幅の方が短くされる左右一組の板状部材であって、左右外側端の下端部において前後方向に穿設され上側部材Ｋ５３０の回転軸部Ｋ５３４が受け入れられる受入部Ｋ５４６と、その受入部Ｋ５４６を中心とする円弧形状で穿設され補助突部Ｋ５３５が受け入れられる円弧状部Ｋ５４７と、図４０に示す状態における左右方向に長い長孔形状で穿設され案内突設部Ｋ５４４が受け入れられる複数の案内長孔Ｋ５４８と、中央ギアＫ５４３に歯合されるラックＫ５４９と、を備える。

【０３３９】

スライドラックＫ５４５のスライド移動方向は、案内長孔Ｋ５４８が延設される方向（図４０に占めす状態における左右方向、本体部Ｋ５４１の長尺方向）に設定される。そのため、左右の上側部材Ｋ５３０の上下位置が一致している時（最近接位置）を基準として、上側部材Ｋ５３０同士の上下方向の位置ずれ寸法が大きくなるにつれて、本体部Ｋ５４１の長尺方向外側へ向けて相対移動することになるが、詳細は後述する。

【０３４０】
更に、長尺装置Ｋ５４０は、本体部Ｋ５４１に正面側から締結固定される化粧部材Ｋ５５１と、その化粧部材Ｋ５５１の内部に配設され正面側に光を照射するＬＥＤが配設される電飾基板Ｋ５５２と、化粧部材Ｋ５５１の左側端部に締結固定されるモータ支持部材Ｋ５５３と、そのモータ支持部材Ｋ５５３に支持される駆動モータＫＭＴ５１の駆動力を伝達可能な伝達ギア群ＫＧ５２を介して回転されることで移動装置Ｋ５６０の軸線方向の位置を変化させるように構成されるネジ軸Ｋ５５４と、化粧部材Ｋ５５１の背面側においてネジ軸Ｋ５５４の両端部が回転可能に受け入れられる支持受部Ｋ５５５と、電飾基板Ｋ５５２の背面側において検出溝を背面側へ向けた姿勢で化粧部材Ｋ５５１の後側板部を貫通する位置に設けられるフォトカプラ形式の検出センサＫ５５６ａ～Ｋ５５６ｃと、を備える。
【０３４１】
ネジ軸Ｋ５５４の軸線方向は本体部Ｋ５４１の長手方向と一致しており、移動装置Ｋ５６０のネジ軸Ｋ５５４の軸線方向の移動は、凹部Ｋ５４１ａの形成されている範囲に制限される。
【０３４２】
検出センサＫ５５６ａ～Ｋ５５６ｃは、移動装置Ｋ５６０の配置を検出可能に構成されている。即ち、移動装置Ｋ５６０が、第１可動装置Ｋ４０１の演出待機状態における左右中央位置に配置されている場合には、中央検出センサＫ５５６ｂに検出され、移動装置Ｋ５６０が、ネジ軸５５４の軸線方向に沿って左右にスライド移動し、その移動範囲の右側終端位置に配置されている場合には右側検出センサＫ５５６ａに検出され、移動範囲の左側終端位置に配置されている場合には左側検出センサＫ５５６ｃに検出される。
【０３４３】
図４１は、移動装置Ｋ５６０の分解正面斜視図であり、図４２は、移動装置Ｋ５６０の分解背面斜視図である。移動装置Ｋ５６０は、本体部Ｋ５６１と、その本体部Ｋ５６１の上端部に締結固定される前側受部Ｋ５７１と、その前側受部Ｋ５７１に後面側から締結固定される後側受部Ｋ５７２と、前側受部Ｋ５７１と後側受部Ｋ５７２との間に保持され自らの開口方向（図４１における矢印Ｌ－Ｒ方向）を回転軸とする回転が防止されるように構成されるナットＫＮＴ６１と、を備える。
【０３４４】
ナットＫＮＴ６１は、長尺開口部ＫＮＴ６１ａの内周側において、ネジ軸Ｋ５５４（図３９参照）の外周に螺旋状に切られる溝部に対応するように形成される突条が、螺旋状に形成されている。
【０３４５】
これにより、長尺開口部ＫＮＴ６１ａにネジ軸Ｋ５５４が挿通されている状態でネジ軸Ｋ５５４が回転駆動されると、その回転駆動量に対応して、ナットＫＮＴ６１はネジ軸Ｋ５５４の軸線方向に移動される。即ち、駆動モータＫＭＴ５１（図３９参照）の駆動に対応して、移動装置Ｋ５６０のネジ軸Ｋ５５４の軸線方向の配置が変化するよう構成される（ボールネジの構造が流用される）。
【０３４６】
前側受部Ｋ５７１は、ナットＫＮＴ６１の配設位置よりも下方から正面側へ板状に突設される被検出板部Ｋ５７１ａを備える。長尺装置Ｋ５４０の検出センサＫ５５６ａ～Ｋ５５６ｃ（図４０参照）の検出溝に被検出板部Ｋ５７１ａが位置する場合と、位置しない場合とで、検出センサＫ５５６ａ～Ｋ５５６ｃからの出力を異ならせることができる。この検出センサＫ５５６ａ～Ｋ５５６ｃの出力の違いから、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１０参照）に、移動装置Ｋ５６０が、第１可動装置Ｋ４０１の演出待機状態における左右中央位置に配置されているか、移動範囲の左右方向終端位置に配置されているか、そのいずれでもないか、を判断させることができる。
【０３４７】
更に、移動装置Ｋ５６０は、本体部Ｋ５６１の下端部に締結固定されるモータ受部Ｋ５

７５と、そのモータ受部Ｋ５７５に保持される駆動モータＫＭＴ６１と、その駆動モータＫＭＴ６１の駆動軸に固定され本体部Ｋ５６１とモータ受部Ｋ５７５との間に配設される駆動ギアＫＭＧ６２と、その駆動ギアＫＭＧ６２に歯合される位置で本体部Ｋ５６１の支持軸部Ｋ５６２に回転可能に支持される伝達ギアＫＭＧ６３と、その伝達ギアＫＭＧ６３に歯合される終端ギアＫＭＧ６４と、本体部Ｋ５６１の円形開口部Ｋ５６３に挿通される中心挿通部Ｋ５７９が終端ギアＫＭＧ６４に締結固定される回転装飾部材Ｋ５７８と、を備える。

【０３４８】

更に、移動装置Ｋ５６０は、本体部Ｋ５６１の正面側に配設され円形開口部Ｋ５６３に対応する位置に円形開口Ｋ５６４ａが形成される電飾基板Ｋ５６４と、その電飾基板Ｋ５６４の円形開口Ｋ５６４ａに対応する位置に円形開口Ｋ５６７ａが形成され、光透過性の樹脂材料から形成され電飾基板Ｋ５６４からの照射光を屈折可能（乱反射可能）なカットが形成される受光部材Ｋ５６７と、を備える。

【０３４９】

電飾基板Ｋ５６４及び受光部材Ｋ５６７は、電飾基板Ｋ５６４、受光部材Ｋ５６７の順で本体部Ｋ５６１に重ねられ、円形開口部Ｋ５６３の中心軸線に円形開口Ｋ５６４ａ及び円形開口Ｋ５６７ａの中心軸線が合致するように配置され、本体部Ｋ５６１に締結固定される。

【０３５０】

電飾基板Ｋ５６４は、背面側にフォトカプラ形式の検出センサＫ５６５が配設される。検出センサＫ５６５の検出溝は、本体部Ｋ５６１に穿設される開口部Ｋ５６１ａの背面側に位置し、伝達ギアＫＭＧ６３の環状リブを受け入れ可能とされる。

【０３５１】

伝達ギアＫＭＧ６３の環状リブには切り欠き部ＫＭＧ６３ａが等間隔（１８０度間隔）で切り欠き形成されており、検出センサＫ５６５の検出溝に切り欠き部ＫＭＧ６３ａが位置する場合と、位置しない場合とで、検出センサＫ５６５からの出力を異ならせることができる。この検出センサＫ５６５の出力の違いから、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１０参照）は伝達ギアＫＭＧ６３の位相を判断でき、回転装飾部材Ｋ５７８の位相を判断できる。

【０３５２】

本実施形態では、伝達ギアＭＧ６３の歯数に対する終端ギアＫＭＧ６４の歯数が１／２の関係にあるので、伝達ギアＭＧ６３が半回転することで終端ギアＫＭＧ６４が一回転する。検出センサＫ５６５の検出溝に切り欠き部ＫＭＧ６３ａが位置する位相から伝達ギアＭＧ６３が半回転すると、再び検出センサＫ５６５の検出溝に切り欠き部ＫＭＧ６３ａが位置する。

【０３５３】

即ち、検出センサＫ５６５の検出溝に切り欠き部ＫＭＧ６３ａが位置する場合、その切欠き部ＫＭＧ６３ａがどちらの切り欠き部ＫＭＧ６３ａであったとしても、終端ギアＫＭＧ６４及び回転装飾部材Ｋ５７８の位相は同じとされる。

【０３５４】

図４３（ａ）及び図４３（ｂ）は、前層側可動装置Ｋ４００の部分拡大正面図である。図４３（ａ）及び図４３（ｂ）では、主に切替装置Ｋ４６０が図示されており、便宜上、手前側の装飾部分を部分的に破り図示することで、内部構造を視認可能となるようにしている。図４３（ａ）では、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁とされる状態が図示され、図４３（ｂ）では、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態が図示される。

【０３５５】

図４３（ａ）及び図４３（ｂ）に図示されるように、切替装置Ｋ４６０は、右側の前カバー部材Ｋ４４０の板状本体Ｋ４４１に締結固定される基板部材Ｋ４６１と、基板部材Ｋ４６１に支持孔部Ｋ４６２ｂを中心とする回転動作が可能に支持されるストッパ部材Ｋ４６２と、基板部材Ｋ４６１に締結固定される駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１と、基板部材Ｋ

４６１に支持孔部Ｋ４６３ｂを中心とする回転動作が可能に支持され、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１の駆動力をストッパ部材Ｋ４６２に伝達可能に構成される伝達部材Ｋ４６３と、を備える。

【０３５６】

ストッパ部材Ｋ４６２は、支持孔部Ｋ４６２ｂが端部に穿設されるアーム部Ｋ４６２ａと、そのアーム部Ｋ４６２ａの長手方向に延びる長孔形状で穿設される案内長孔Ｋ４６２ｃと、アーム部Ｋ４６２ａの長手方向における支持孔部Ｋ４６２ｂが形成される端部の反対側の端部から背面側に突設される突設受部Ｋ４６２ｄと、を備える。

【０３５７】

伝達部材Ｋ４６３は、支持孔部Ｋ４６３ｂが形成されるアーム部Ｋ４６３ａと、そのアーム部Ｋ４６３ａとは異なる方向に支持孔部Ｋ４６３ｂから延びる補助アーム部Ｋ４６３ｃと、その補助アーム部Ｋ４６３ｃの延設先端部から後側に突設され駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１の直進動作部ＫＳＯＬ４１ａの直進変位により伝達部材Ｋ４６３が回転動作される態様で連結される伝達基端突部Ｋ４６３ｄと、アーム部Ｋ４６３ａの先端部から後側に突設されストッパ部材Ｋ４６２の案内長孔Ｋ４６２ｃに受け入れられる伝達先端突部Ｋ４６３ｅと、を備える。

【０３５８】

切替装置Ｋ４６０の作用について説明する。基板部材Ｋ４６１は、連結部材Ｋ４４５の移動軌跡に入り込まないよう連結部材Ｋ４４５よりも前側に配設されている一方で、ストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄは、基板部材Ｋ４６１よりも下側において基板部材Ｋ４６１よりも後側まで延びており、状態次第で、連結部材Ｋ４４５の移動軌跡に入り込む。

【０３５９】

図４３（ａ）に図示されるように、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁の状態では、突設受部Ｋ４６２ｄが案内長孔Ｋ４４２の前方に配置されており、連結部材Ｋ４４５の移動軌跡に入り込む。

【０３６０】

即ち、図４３（ａ）に図示される状態における連結部材Ｋ４４５の下降変位は、突設受部Ｋ４６２ｄにより途中停止される、この場合、連結部材Ｋ４４５を介して昇降装置Ｋ５００等の荷重が突設受部Ｋ４６２ｄにかけられることになるが、突設受部Ｋ４６２ｄが支持孔部Ｋ４６２ｂを起点とする鉛直下方（連結部材Ｋ４４５を介した荷重の方向）に配置されていることから、連結部材Ｋ４４５を介する昇降装置Ｋ５００等の荷重によりストッパ部材Ｋ４６２が回転動作することを回避し易くすることができる。

【０３６１】

これにより、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁の状態において、連結部材Ｋ４４５の移動を案内長孔Ｋ４４２の長さの途中位置で停止させることができる。また、連結部材Ｋ４４５の途中停止が頻繁に生じる動作制御を行う場合であっても、連結部材Ｋ４４５の途中停止のために駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１を励磁させる必要はないので、励磁状態とする回数の増加を抑えることができ、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１の寿命の長期化を図ることができる。

【０３６２】

図４３（ｂ）に図示されるように、図４３（ａ）に図示される状態から駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁されると、直進動作部ＫＳＯＬ４１ａの上下変位により伝達部材Ｋ４６３が回転動作され、その回転動作と連動してストッパ部材Ｋ４６２が回転動作されることで、ストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄが連結部材Ｋ４４５の移動軌跡から退避する。

【０３６３】

これにより、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態では、連結部材Ｋ４４５がストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄに停止されることはなく、連結部材Ｋ４４５が案内長孔Ｋ４４２の終端まで移動可能とされる。

【０３６４】
これにより、連結部材Ｋ４４５が締結固定される締結部Ｋ５３３を有する上側部材Ｋ５３０（図３７参照）の移動可能量を、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁とされる状態（図４３（ａ）参照）と、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１の励磁状態（図４３（ｂ）参照）とで切り替えることができる。
【０３６５】
図４４から図４９は、第１可動装置Ｋ４０１の部分拡大正面図である。図４４から図４９では、昇降装置Ｋ５００の右側部が、回転部材Ｋ４３０が正面視反時計回り方向で回転動作される第１の動作態様に基づいて昇降移動する様子が時系列で図示される。
【０３６６】
なお、図４４から図４９では、可動部の理解を容易とするために、支持部材Ｋ４１０の本体部Ｋ４１１の右下端部および右上部、下側部材Ｋ５１０の本体部Ｋ５１１の前側面部、変速ギアＫ５２０の中間円板Ｋ５２１及び第２ギアＫ５２３、及び、上側部材Ｋ５３０の本体部Ｋ５３１の前側面部が、部分的に破られて図示される。
【０３６７】
図４４では、演出待機状態における第１可動装置Ｋ４０１が図示される。即ち、回転部材Ｋ４３０は切り欠き部Ｋ４３５（図３６参照）が検出センサＫ４１３の検出溝に配置される位相とされ、上側部材Ｋ５３０は湾曲受部Ｋ５３７が進入状態の上側回転部材Ｋ４７６に下支えされることで上下移動が防止され、上側部材Ｋ５３０の上下移動が防止されることに伴い変速ギアＫ５２０の回転も防止され、その変速ギアＫ５２０が支持される下側部材Ｋ５１０の上下移動も防止される。
【０３６８】
即ち、図４４に図示されるように、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４が下側部材Ｋ５１０の下方から退避している状態であっても、上側部材Ｋ５３０の上下移動が上側回転部材Ｋ４７６により防止されることで、下側部材Ｋ５１０の上下移動が防止されることになる。
【０３６９】
図４５では、図４４に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が正面視反時計回りに回転する方向に駆動ギアＫＧ４２が駆動される。回転部材Ｋ４３０の回転中において、伝達筒状部Ｋ４３４が突設部Ｋ４４４の湾曲面に対向配置される。突設部Ｋ４４４が伝達筒状部Ｋ４３４よりも回転部材Ｋ４３０の回転中心側に配設されること、及び、突設部Ｋ４４４の突設先端（後側先端）が回転部材Ｋ４３０の前側面と対向配置されることにより、伝達筒状部Ｋ４３４が回転部材Ｋ４３０の径方向に位置ずれするような姿勢ずれ（回転軸に対して回転部材Ｋ４３０が傾斜する姿勢ずれ）を防止することができる。
【０３７０】
これにより、回転部材Ｋ４３０が、偏心した位置において本体部Ｋ４３１を回転軸線に対して傾斜させる方向の荷重を受けた場合であっても、回転部材Ｋ４３０の姿勢変化を抑制することができるので、回転部材Ｋ４３０の回転抵抗を低減することができる。
【０３７１】
図４５では、下側回転部材Ｋ４７１の切替突部Ｋ４７２が、依然として案内溝Ｋ４３６の大径溝Ｋ４３６ａに維持される。切替突部Ｋ４７２が大径溝Ｋ４３６ａに維持される間は、状態変化装置Ｋ４７０の状態は図４４に図示される状態で維持されており、昇降装置Ｋ５００の上下位置も維持される。
【０３７２】
また、図４４では、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１（図４３（ｂ）参照）が非励磁の状態（図４３（ａ）参照）が図示され、図４５以降は、ストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄが連結部材Ｋ４４５の移動軌跡から退避するように、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態（図４３（ｂ）参照）が図示される。
【０３７３】
図４６では、図４５に図示された状態から、回転部材Ｋ４３０が正面視反時計回りに回

転する方向に駆動ギアＫＧ４２が駆動され、下側回転部材Ｋ４７１の切替突部Ｋ４７２が受け入れられる部位が、案内溝Ｋ４３６の大径溝Ｋ４３６ａから小径溝Ｋ４３６ｂに切り替えられ、昇降装置Ｋ５００が落下を開始する直前の状態が図示される。

【０３７４】

切替突部Ｋ４７２が小径溝Ｋ４３６ｂに受け入れられるようになると、下側回転部材Ｋ４７１が支持部材Ｋ４１０の支持部Ｋ４１４を中心に回転動作され、下側回転部材Ｋ４７１の回転動作により連動部材Ｋ４７３及び切替突部Ｋ４７５が上下移動されることで、上側回転部材Ｋ４７６が支持孔Ｋ４７６ａを中心に進入状態から退避状態へ回転移動される。

【０３７５】

上側回転部材Ｋ４７６は、湾曲受部Ｋ５３７と対向配置される回転先端部Ｋ４７６ｂが、支持孔Ｋ４７６ａにおける回転中心を中心とする円弧形状面として形成されている。また、湾曲受部Ｋ５３７は、進入状態（図４４参照）における上側回転部材Ｋ４７６の回転先端部Ｋ４７６ｂと面当たり可能な曲面形状から形成される。

【０３７６】

これにより、進入状態における上側回転部材Ｋ４７６の回転先端部Ｋ４７６ｂに湾曲受部Ｋ５３７が当接している状態から、上側回転部材Ｋ４７６を退避状態へ回転移動させる際に生じる抵抗を摩擦抵抗に限定することができ、抵抗が過大となることを防止することができる。

【０３７７】

また、進入状態における上側回転部材Ｋ４７６に対して湾曲受部Ｋ５３７を介して与えられる昇降装置Ｋ５００の自重は、上側回転部材Ｋ４７６が退避状態へ向かう方向の反対方向（図４６の反時計回り方向）の荷重として上側回転部材Ｋ４７６に付与される。

【０３７８】

従って、湾曲受部Ｋ５３７と上側回転部材Ｋ４７６との間の動作抵抗を小さくしながらも、湾曲受部Ｋ５３７を介して上側回転部材Ｋ４７６へ付与される昇降装置Ｋ５００の自重により上側回転部材Ｋ４７６が退避状態へ変化する事態が生じることを防止することができる。

【０３７９】

また、上述した上側回転部材Ｋ４７６の形状により、第１可動装置Ｋ４０１の片側落下状態のように左右バランスが崩れた場合に、自重のみではなく左右方向成分を有する荷重が湾曲受部Ｋ５３７から上側回転部材Ｋ４７６に与えられる場合に、その荷重を上側回転部材Ｋ４７６の回転中心へ向けるようにすることができる。これにより、上側回転部材Ｋ４７６の姿勢を安定させることができ、昇降装置Ｋ５００の支持を安定させることができる。

【０３８０】

図４７では、図４６に図示された状態から、昇降装置Ｋ５００が落下した後の状態としての落下位置状態（図２７参照）が図示される。なお、落下位置状態に至るまでには、昇降装置Ｋ５００の右側部だけでなく、左側部も回転部材Ｋ４３０が回転され上側回転部材Ｋ４７６が回転移動されているが、左側部における回転部材Ｋ４３０の第１の動作態様における回転方向は、右側部における回転部材Ｋ４３０の第１の動作態様における回転方向（正面視反時計回り方向）の逆方向（正面視時計回り方向）になる。

【０３８１】

昇降装置Ｋ５００の落下による移動は、上側部材Ｋ５３０が前カバー部材Ｋ４４０の吸収部材Ｋ４４３（図３４参照）に停止される位置まで生じるように構成されており、下側部材Ｋ５１０が回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４に衝突するまで生じるようには構成されていない。

【０３８２】

そのため、昇降装置Ｋ５００の落下時の衝撃荷重が伝達筒状部Ｋ４３４に伝達される事態が生じることを回避することができる。即ち、昇降装置Ｋ５００の落下の衝撃が伝達筒

状部Ｋ４３４や下側部材Ｋ５１０に伝達されることによる破損の発生を回避し易くすることができる。

【０３８３】

昇降装置Ｋ５００の下側部材Ｋ５１０、変速ギアＫ５２０及び上側部材Ｋ５３０の昇降移動の詳細について説明する。まず、下側部材Ｋ５１０及び上側部材Ｋ５３０は、それぞれ共通の金属棒Ｋ４２１によって上下方向にスライド移動可能に案内される。

【０３８４】

下側部材Ｋ５１０が図４６に示す状態から下降する場合、変速ギアＫ５２０が支持部材Ｋ４１０のラックＫ４１６との歯合により回転され、その回転により上側部材Ｋ５３０のラックＫ５３２が変速ギアＫ５２０に対して上下方向に相対移動する。

【０３８５】

即ち、上側部材Ｋ５３０は、下側部材Ｋ５１０が上下方向に移動した場合に、下側部材Ｋ５１０の移動による変速ギアＫ５２０の上下方向の移動量に加えて、変速ギアＫ５２０の回転時に歯合する上側部材Ｋ５３０のラックＫ５３２の移動量分、下側部材Ｋ５１０に対して相対移動する。

【０３８６】

本実施形態では、上側部材Ｋ５３０のラックＫ５３２と歯合する第２ギアＫ５２３の歯数は、下側部材Ｋ５１０の移動に伴い支持部材Ｋ４１０のラックＫ４１６と歯合して回転する第１ギアＫ５２２の歯数の１．５倍に設計されているので、上側部材Ｋ５３０は、下側部材Ｋ５１０の移動量に下側部材Ｋ５１０の移動量の１．５倍の長さが加算された移動量で移動される。

【０３８７】

従って、上側部材Ｋ５３０は、下側部材Ｋ５１０の移動量ＫＶＤ１の２．５倍の移動量ＫＶＤ２で上下移動される（ＫＶＤ１：ＫＶＤ２＝２：５）。これにより、上側部材Ｋ５３０の上下方向の移動距離が、駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂ（図３５参照）により回転される回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４の上下方向の移動距離に限定されることを避けることができる。

【０３８８】

即ち、回転部材Ｋ４３０の直径を小さく抑えつつ、上側部材Ｋ５３０の上下方向の移動距離は長く設計することができるので、上側部材Ｋ５３０や回転部材Ｋ４３０の配置の設計自由度を向上することができる。

【０３８９】

下側部材Ｋ５１０よりも左側において突設部Ｋ４４４が配設され、下側部材Ｋ５１０の左端部は突設部Ｋ４４４の右側平面部に上下方向に案内される。これにより、下側部材Ｋ５１０の左側への位置ずれを突設部Ｋ４４４により防止することができる。

【０３９０】

図４８では、図４７に図示された状態から回転部材Ｋ４３０が更に反時計回り方向に回転されることで伝達筒状部Ｋ４３４により下側部材Ｋ５１０が持ち上げられ、且つ、依然として下側回転部材Ｋ４７１の切替突部Ｋ４７２が回転部材Ｋ４３０の小径溝Ｋ４３６ｂに受け入れられている状態が図示される。

【０３９１】

回転部材Ｋ４３０の回転により伝達筒状部Ｋ４３４が下側部材Ｋ５１０の下面と擦れながら回転移動することになるが、下側部材Ｋ５１０の下面が平面部Ｋ５１２として形成されているので、伝達筒状部Ｋ４３４と下側部材Ｋ５１０との間で生じる動作抵抗を低減することができる。

【０３９２】

更に、コイルスプリングＫ４１９から下側部材Ｋ５１０に付与される上向きの付勢力により、下側部材Ｋ５１０から伝達筒状部Ｋ４３４へ向けて下向きに与えられる荷重が低減されることによっても、伝達筒状部Ｋ４３４と下側部材Ｋ５１０との間で生じる動作抵抗を低減することができる。

【０３９３】
図４９では、図４８に図示される状態から、回転部材Ｋ４３０が更に反時計回りに回転され、下側回転部材Ｋ４７１の切替突部Ｋ４７２が回転部材Ｋ４３０の大径溝Ｋ４３６ａに受け入れられている状態が図示される。
【０３９４】
図４９では、上側回転部材Ｋ４７６が、図４８に図示される退避状態から、進入状態へ変化している。この際、上側部材Ｋ５３０の湾曲受部Ｋ５３７が上側回転部材Ｋ４７６の回転先端部Ｋ４７６ｂよりも上側に配置されており、湾曲受部Ｋ５３７と回転先端部Ｋ４７６ｂとの間に隙間が生じている。これにより、上側回転部材Ｋ４７６の動作抵抗を低減することができる。
【０３９５】
ここで、退避状態の上側回転部材Ｋ４７６を進入状態に変化させるためには、自重に抵抗して連動部材Ｋ４７３を上方へ変位させる必要があるので、進入状態の上側回転部材Ｋ４７６を退避状態に変化させる場合よりも大きな力が必要となる。
【０３９６】
これに対し、本実施形態では、退避状態の上側回転部材Ｋ４７６を進入状態に変化させる場合において湾曲受部Ｋ５３７と回転先端部Ｋ４７６ｂとの間に隙間を生じさせることで、上側回転部材Ｋ４７６の動作抵抗を低減させ、状態の変化に必要な力が過大となることを回避している。
【０３９７】
図４９に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が更に反時計回りに回転されると、図４４に図示される状態に戻る。このように、回転部材Ｋ４３０が反時計回りに回転され続ける場合、昇降装置Ｋ５００の上下移動は循環可能とされる。即ち、回転部材Ｋ４３０の第１の動作態様は、昇降装置Ｋ５００の上下移動を循環させることができる動作態様である。
【０３９８】
図５０及び図５１は、第１可動装置Ｋ４０１の部分拡大正面図である。図５０及び図５１では、図４４に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が時計回りに回転されることに基づいて昇降装置Ｋ５００の右側部が下降する第２の動作態様の一部が時系列で図示される。
【０３９９】
第２の動作態様は、演出待機状態（図４４参照）から図５０、図５１の順に変化した後で、回転部材Ｋ４３０を反時計回りに回転駆動させ演出待機状態に復帰するまでの動作態様である。
【０４００】
なお、図５０及び図５１では、可動部の理解を容易とするために、支持部材Ｋ４１０の本体部Ｋ４１１の右下端部および右上部、下側部材Ｋ５１０の本体部Ｋ５１１の前側面部、変速ギアＫ５２０の中間円板Ｋ５２１及び第２ギアＫ５２３、及び、上側部材Ｋ５３０の本体部Ｋ５３１の前側面部が、部分的に破られて図示される。
【０４０１】
また、図５０及び図５１では、ストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄが連結部材Ｋ４４５の移動軌跡に侵入するように、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１（図４３（ａ）参照）が非励磁の状態が図示される。
【０４０２】
図５０では、図４４に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が正面視時計回りに回転する方向に駆動ギアＫＧ４２が駆動される。下側回転部材Ｋ４７１の切替突部Ｋ４７２が回転部材Ｋ４３０の小径溝Ｋ４３６ｂに受け入れられることに基づいて、上側回転部材Ｋ４７６が退避状態に変化されているが、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４に下側部材Ｋ５１０が下支えされることにより、昇降装置Ｋ５００は落下しない。
【０４０３】

即ち、下側部材Ｋ５１０は、自重により回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４に押し付けられる状態を維持しており、回転部材Ｋ４３０の回転に伴って、平面部Ｋ５１２と伝達筒状部Ｋ４３４との当接が維持されるように上下移動する。

【０４０４】

図５１では、図５０に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が正面視時計回りに回転され、連結部材Ｋ４４５がストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄに受け止められ下降が停止される状態が図示される。

【０４０５】

これにより、連結部材Ｋ４４５が締結固定される上側部材Ｋ５３０の下降も停止され、それに伴い下側部材Ｋ５１０の下降も停止されるので、図５１に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が更に正面視時計回りに回転された場合には、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４は下側部材Ｋ５１０の平面部Ｋ５１２から離れる。

【０４０６】

図５１に図示される状態から演出待機状態への復帰の際には、回転部材Ｋ４３０を反対方向（図５１において反時計回り方向）に回転させ、伝達筒状部Ｋ４３４で下側部材Ｋ５１０を押し上げる。

【０４０７】

この場合において、回転部材Ｋ４３０の回転が図５１に図示される状態から開始されるか、図５１に図示される状態よりも回転部材Ｋ４３０が正面視時計回りに若干回転された状態から開始されるかに関わらず、昇降装置Ｋ５００から伝達筒状部Ｋ４３４にかけられる荷重は、図５１に図示される状態から生じる。

【０４０８】

図５１に図示される状態は、伝達筒状部Ｋ４３４が回転部材Ｋ４３０の回転軸としての支持部Ｋ４１２の真右に配置され、伝達筒状部Ｋ４３４の移動方向（伝達筒状部Ｋ４３４の移動軌跡に引かれた接線の方向）が上下方向を向く状態であるので、下側部材Ｋ５１０に対して上向きの荷重を効率的に付与することができる。これにより、図５１に図示される状態からの演出待機状態への復帰動作を迅速に行わせることができる。

【０４０９】

なお、図５１に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が更に正面視時計回りに回転される場合、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４は下側部材Ｋ５１０の上面に当接し、下側部材Ｋ５１０に対して下側へ向く荷重を伝達させ得る。即ち、下側部材Ｋ５１０を上昇させる方向の荷重を生じさせることができないので、回転部材Ｋ４３０を正面視時計回りに回転させ続ける駆動制御では、昇降装置Ｋ５００の動作は循環しない。

【０４１０】

図５２及び図５３は、第１可動装置Ｋ４０１の部分拡大背面図である。図５２では、演出待機状態（図２６参照）における第１可動装置Ｋ４０１が図示され、図５３では、片側落下状態（図３１参照）における第１可動装置Ｋ４０１が図示される。

【０４１１】

図５２に図示される第１可動装置Ｋ４０１の演出待機状態では、左右両側の上側部材Ｋ５３０が上側回転部材Ｋ４７６により支持される（図４５参照）。一方、図５３に図示される第１可動装置Ｋ４０１の片側落下状態では、左側の上側部材Ｋ５３０は上側回転部材Ｋ４７６により支持される一方で、右側の上側部材Ｋ５３０は、締結固定される連結部材Ｋ４４５がストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄに支持されることにより（図５１参照）、長尺装置Ｋ５４０が傾けられる。

【０４１２】

図５３に図示される状態では、図５２に図示される状態から左右の回転軸部Ｋ５３４間の距離が延びており、この延びた寸法の分だけ、スライドラックＫ５４５が長尺装置Ｋ５４０の長手方向に変位する。

【０４１３】

一対のスライドラックＫ５４５は、互いに共通の中央ギアＫ５４３に歯合されており、

長尺装置Ｋ５４０の長手方向に沿って相反する方向に変位することになるので、長尺装置Ｋ５４０の長手方向に沿う変位量は互いに共通である。

【０４１４】

即ち、演出待機状態からの右側のスライドラックＫ５４５の移動量ＫＳＤａと、演出待機状態からの左側のスライドラックＫ５４５の移動量ＫＳＤｂとは同じである（ＫＳＤａ＝ＫＳＤｂ）。

【０４１５】

これにより、図５２に図示される状態から、図５３に図示される状態への変化における中央ギアＫ５４３の左右方向の位置ずれを抑制することができるので、その中央ギアＫ５４３を支持する本体部Ｋ５４１の左右方向の位置ずれを抑制することができる。

【０４１６】

ここで、第１可動装置Ｋ４０１が演出待機状態から落下位置状態へ変化される場合、左右の回転部材Ｋ４３０（図３６参照）が第１の動作態様で回転駆動され、左右の上側回転部材Ｋ４７６（図４６参照）が演出待機状態における進入状態から同時に退避状態に変化されることにより、左右の上側部材Ｋ５３０（図４７参照）が同時に落下することが好ましい。更に、上昇動作時には、左右の回転部材Ｋ４３０が同じ回転角度で回転動作されることで、左右の高さのずれが無い状態で昇降装置Ｋ５００を上昇させることができる。

【０４１７】

しかし、左右の回転部材Ｋ４３０（図３６参照）の動作抵抗を全く同じにすることは困難であるし、それぞれ対応する駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂ（図３６参照）により駆動されるところ、駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂの品質により、同じ電圧を供給した場合であっても若干回転速度のずれが生じ得る。そのため、昇降装置Ｋ５００の上下動作にあたり、昇降装置Ｋ５００の左右側の高さ位置にずれが生じる可能性がある。

【０４１８】

更に、本実施形態では、回転部材Ｋ４３０の回転による伝達筒状部Ｋ４３４の上下位置変化が、下側部材Ｋ５１０から上側部材Ｋ５３０へ伝達される際に２．５倍に増大させられる（図４４から図４９参照）。そのため、回転部材Ｋ４３０の位相のずれが小さくても、そのずれは２．５倍になって上側部材Ｋ５３０に支持される長尺装置Ｋ５４０の左右側の高さ位置のずれとして現れる。

【０４１９】

このように、本実施形態では、昇降装置Ｋ５００の左右側の高さ位置のずれが生じ得る。昇降装置Ｋ５００の左右側の高さ位置のずれが生じる場合、昇降装置Ｋ５００の上下移動中に長尺装置Ｋ５４０の姿勢が前後方向を向く直線を軸にして傾くことになり、見栄え悪くなり易い。

【０４２０】

これに対し、本実施形態では、上述したように左右のスライドラックＫ５４５の移動量ＫＳＤａ，ＫＳＤｂが同じになるように構成されているので、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が傾いた場合であっても、長尺装置Ｋ５４０の左右中心位置の左右方向の位置ずれを抑制することができる。

【０４２１】

これにより、演出待機状態において長尺装置Ｋ５４０の左右中央位置に配置される移動装置Ｋ５６０の、昇降装置Ｋ５００の上下移動中における左右方向の位置ずれを抑制することができる。

【０４２２】

スライドラックＫ５４５は、回転軸部Ｋ５３４側における基端側の構造が共通とされる一方、中央ギアＫ５４３と歯合されるラックＫ５４９の配置は上下で異なるように構成されている。

【０４２３】

本実施形態では、図５３に図示される片側落下状態が頻繁に生じるように制御される一

方、その逆側（左側が下端となるように傾斜する姿勢）となるように制御されることは極めて少ない（無い）。

【０４２４】

そのため、本実施形態では、片側落下状態における中央ギアＫ５４３とラックＫ５４９との歯合状態を適正化し易いようにスライドラックＫ５４５を形成している。即ち、片側落下状態において、中央ギアＫ５４３に覆いかぶさる側（回転軸部Ｋ５３４が上側となる側）のラックＫ５４９が中央ギアＫ５４３の上側に配置されるように形成している。

【０４２５】

更に、回転軸部Ｋ５３４をラックＫ５４９の下端に配置することにより、中央ギアＫ５４３に覆いかぶさる側のラックＫ５４９の中央ギアＫ５４３側への張出量を長くしている。これにより、中央ギアＫ５４３に覆いかぶさる側のラックＫ５４９の自重により、そのラックＫ５４９と中央ギアＫ５４３との歯合態様を適正化し易くすることができる。

【０４２６】

図５３に図示されるように、第１可動装置Ｋ４０１の片側落下状態は、演出待機状態から、左側の上側部材Ｋ５３０の回転軸部Ｋ５３４を基端側として傾倒することで変化される状態であって、その傾倒動作の基端側に駆動モータＫＭＴ５１が配設される。

【０４２７】

即ち、重量物としての駆動モータＫＭＴ５１の配置を基端側とすることで、重心を基端側に寄せることができ、演出待機状態から片側落下状態への変化の際に上下移動する傾倒動作の先端側（右側）の重量を軽くすることができる。これにより、片側落下状態において連結部材Ｋ４４５からストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄが受ける荷重（図５１参照）を低減することができる。

【０４２８】

図５４を参照して、移動装置Ｋ５６０の駆動制御の一例について説明する。図５４（ａ）、図５４（ｂ）、図５４（ｃ）及び図５４（ｄ）は、第１可動装置Ｋ４０１の部分正面図である。

【０４２９】

図５４（ａ）、図５４（ｂ）、図５４（ｃ）及び図５４（ｄ）では、第１可動装置Ｋ４０１の落下位置状態（図２７参照）の上下位置に長尺装置Ｋ５４０が配置された状態における移動装置Ｋ５６０の移動が時系列で図示されており、移動装置Ｋ５６０の左右位置については、図５４（ａ）に図示される配置が図２７の配置と同じであり、図５４（ｄ）に図示される配置が図２９の配置と同じである。

【０４３０】

まず、図５４に図示される駆動制御が実行される場合には、第１可動装置Ｋ４０１の長尺装置Ｋ５４０が演出待機状態（図２６参照）における上下位置から落下位置状態（図２７参照）における上下位置まで下降（落下）移動される。この移動の開始から落下位置状態に到達した後も継続して、移動装置Ｋ５６０の回転装飾部材Ｋ５７８は、駆動モータＫＭＴ６１（図４１参照）が正方向（正面視時計回り方向）に回転される際の駆動力により正面視時計回り方向に継続的に回転される。

【０４３１】

図５４（ａ）で図示されるように移動装置Ｋ５６０が左右中央位置ＫＣ４１に配置される状態で継続される回転中に、伝達ギアＫＭＧ６３の切り欠き部ＫＭＧ６３ａ（図４１参照）の検出センサＫ５６５（図４２参照）の検出溝への配置間隔から、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１０参照）は、回転装飾部材Ｋ５７８の実際の回転速度ＫＶＲ１を検出する。

【０４３２】

その回転速度ＫＶＲ１が、予め規定される設計値に収まっていれば、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１０参照）による制御により、検出センサＫ５６５の検出間隔の中間のタイミング（図５４（ｂ）参照）で、駆動モータＫＭＴ５１（図３９参照）が正方向（移動装置Ｋ５６０を右方へ移動させる方向、矢印Ｌの方向視時計回り方向）に回転駆動され、

移動装置Ｋ５６０が速度ＫＶＳ１で移動される。
【０４３３】
図５４（ｂ）からの駆動モータＫＭＴ５１の駆動開始後、検出センサＫ５６５からの出力により検出センサＫ５６５の検出溝に伝達ギアＫＭＧ６３の切り欠き部ＫＭＧ６３ａが配置されたと判定されたことに基づいて、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１０参照）は、駆動モータＫＭＴ６１（図４１参照）及び駆動モータＫＭＴ５１（図３９参照）の駆動を停止するように制御される。
【０４３４】
即ち、回転装飾部材Ｋ５７８の姿勢が検出センサＫ５６５の検出溝に切り欠き部ＫＭＧ６３ａが配置される際の適切な姿勢（上下左右の方向が合っている姿勢）で停止するタイミングと、移動装置Ｋ５６０の左右方向への移動が停止されるタイミングとを合致させることができる。
【０４３５】
図５４（ｃ）に図示される右側途中位置ＫＲ４２に配置される状態から、駆動モータＫＭＴ６１（図４１参照）が逆方向へ回転駆動されると同時に、駆動モータＫＭＴ５１（図３９参照）が逆方向に回転駆動されることで、移動装置Ｋ５６０が図５４（ｄ）に図示される左側途中位置ＫＬ４３まで移動される。
【０４３６】
この時、駆動モータＫＭＴ６１の回転速度ＫＶＲ２は、回転速度ＫＶＲ１よりも遅く設定され、駆動モータＫＭＴ５１の回転速度は同じとされることで移動装置Ｋ５６０の左右方向の移動速度は速度ＫＶＳ１に維持される。
【０４３７】
図５４（ｃ）から駆動モータＫＭＴ６１（図４１参照）が回転駆動された後、最初に伝達ギアＫＭＧ６３の切り欠き部ＫＭＧ６３ａが検出センサＫ５６５の検出溝に配置されたことに基づいて、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１０参照）は、駆動モータＫＭＴ６１（図４１参照）及び駆動モータＫＭＴ５１（図３９参照）の駆動を停止するように制御される。
【０４３８】
ここで、図５４（ｂ）から図５４（ｃ）までは回転装飾部材Ｋ５７８が半回転しており、図５４（ｃ）から図５４（ｄ）までは回転装飾部材Ｋ５７８が一回転している。そのため、速度関係が同じであれば、図５４（ｃ）に図示される右側途中位置ＫＲ４２と、図５４（ｄ）に図示される左側途中位置ＫＬ４３とは、左右中央位置ＫＣ４１を境に左右対称な位置となる。
【０４３９】
これに対し、本実施形態では、回転速度ＫＶＲ１よりも回転速度ＫＶＲ２の方が遅く設定されているので（ＫＶＲ１＞ＫＶＲ２）、左右中央位置ＫＣ４１から右側途中位置ＫＲ４２までの距離よりも、左右中央位置ＫＣ４１から左側途中位置ＫＬ４３までの距離の方が長くなる。このように、移動装置Ｋ５６０の停止位置を左右非対称に設定することができる。
【０４４０】
本実施形態では、移動装置Ｋ５６０が左側途中位置ＫＬ４３に配置された状態が、被検出部Ｋ５７１ａが中央検出センサＫ５５６ｂの検出溝の外方に出始める配置に対応する（中央検出センサＫ５５６ｂの出力が切り替わる配置となる）。
【０４４１】
この場合、被検出部Ｋ５７１ａ（図４１参照）は、移動装置Ｋ５６０の左右中心から左右方向に対称に延設されていることから、被検出部Ｋ５７１ａが中央検出センサＫ５５６ｂ（図４０参照）の検出溝の外方に出るか否かは、左右いずれかに関わらず左右中央位置ＫＣ４１からの移動装置Ｋ５６０の移動量に因ることになる。
【０４４２】
即ち、図５４（ａ）、図５４（ｂ）及び図５４（ｃ）に図示される状態では、依然とし

て被検出部Ｋ５７１ａ（図４１参照）は中央検出センサＫ５５６ｂ（図４０参照）の検出溝に配置されており、図５４（ｄ）に図示される状態で初めて、被検出部Ｋ５７１ａが中央検出センサＫ５５６ｂの検出溝の外方に出る（この条件を満たす左右長さで被検出部Ｋ５７１ａが設計される）。

【０４４３】

図５４（ｄ）に図示される状態は、上述のように図２９に図示される状態に対応しているので、中央検出センサＫ５５６ｂ（図４０参照）の検出溝から被検出部Ｋ５７１ａが出ていること、及び中央検出センサＫ５５６ｂの検出溝から被検出部Ｋ５７１ａが出る際に駆動モータＫＭＴ５１（図３９参照）が逆方向に駆動されていたと音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１０参照）で判定されたことに基づいて第２可動装置Ｋ７０１（図２９参照）が駆動されることで、移動装置Ｋ５６０と第２可動装置Ｋ７０１が動作中に接触することを回避することができる。

【０４４４】

本実施形態では、上述の回転速度ＫＶＲ１，ＫＶＲ２及び速度ＫＶＳ１が、図５４に時系列で図示される一連の動作直後に被検出部Ｋ５７１ａ（図４１参照）が中央検出センサＫ５５６ｂ（図４０参照）の外方に配置されることを実現可能な関係の速度で設計される。

【０４４５】

以上、詳述したように、第１可動装置Ｋ４０１では、回転部材Ｋ４３０の回転に伴う伝達筒状部Ｋ４３４の変位が増大されて、昇降装置Ｋ５００の変位が生じる。これにより、回転部材Ｋ４３０の回転角度が小さい場合であっても、昇降装置Ｋ５００の変位量を大きく確保することができる。

【０４４６】

また、第１可動装置Ｋ４０１では、演出待機状態からの回転部材Ｋ４３０の回転方向により、２種類の変位態様で昇降装置Ｋ５００を変位させることができるように構成される。この時、昇降装置Ｋ５００の変位量を変化させるものとしての切替装置Ｋ４６０が同期して制御されることにより、昇降装置Ｋ５００の変位速度だけでなく、変位範囲を変化させることができるので、演出のバリエーションを増加させることができる。

【０４４７】

また、第１可動装置Ｋ４０１では、昇降装置Ｋ５００の左右側の上下方向のスライド量にずれが生じても、スライドラックＫ５４５の移動量ＫＳＤａ，ＫＳＤｂが同じになるように構成されることで移動装置Ｋ５６０の左右方向変位を抑制するよう構成される。これにより、昇降装置Ｋ５００の上下方向変位時の移動装置Ｋ５６０の左右位置のずれを抑えることができ、演出効果を向上させることができる。

【０４４８】

また、第１可動装置Ｋ４０１では、移動装置Ｋ５６０の左右方向のスライド移動の速度や停止タイミングが、回転装飾部材Ｋ５７８の回転の速度や停止タイミングの検出を元に決められる。これにより、異なる駆動源で駆動される動作部材の動作を統一させることができ、演出に一体感を持たせることができる。

【０４４９】

移動装置Ｋ５６０の左右方向のスライド移動には、ボールネジに利用される構造を流用しているので、移動装置Ｋ５６０の移動速度や、停止位置の制御を正確に行うことができる。これにより、演出の再現性を向上させることができる。

【０４５０】

また、第１可動装置Ｋ４０１では、移動装置Ｋ５６０のスライド移動の方向と、回転装飾部材Ｋ５７８の回転動作の方向とが対応するように動作制御される。これにより、複数の可動部材の動作に一体感を持たせることができ、演出効果を向上させることができる。

【０４５１】

図３３及び図３４に戻って説明する。図３３及び図３４に図示されるように、前層側可動装置Ｋ４００には、第１可動装置Ｋ４０１の下側の左右中心位置において一対の支持部

材Ｋ４１０を連結するように第２可動装置Ｋ７０１が配設される。以下で、第２可動装置Ｋ７０１の詳細について説明する。

【０４５２】

図５５は、第２可動装置Ｋ７０１の分解正面斜視図であり、図５６は、第２可動装置Ｋ７０１の分解背面斜視図である。第２可動装置Ｋ７０１は、骨格を構成する部材であって一対の支持部材Ｋ４１０（図３３参照）に連結固定されるベース部材Ｋ７１０と、そのベース部材Ｋ７１０に対して上下方向にスライド移動可能に支持される上下スライド部材Ｋ７２０と、ベース部材Ｋ７１０に配設され上下スライド部材Ｋ７２０を駆動させる駆動力を発生させる駆動モータＫＭＴ７１と、その駆動モータＫＭＴ７１の駆動力を上下スライド部材Ｋ７２０に伝達する伝達装置Ｋ７３０と、上下スライド部材Ｋ７２０の正面側に配置され上下スライド部材Ｋ７２０に追従する移動が可能に構成される追従可能部材Ｋ７４０と、その追従可能部材Ｋ７４０及び上下スライド部材Ｋ７２０の両方に支持されており、追従可能部材Ｋ７４０及び上下スライド部材Ｋ７２０の移動に連動する一対の連動部材Ｋ７５０と、追従可能部材Ｋ７４０及び連動部材Ｋ７５０を挟むようにして正面側から上下スライド部材Ｋ７２０に締結固定される主装飾部材Ｋ７６０と、を備える。

【０４５３】

ベース部材Ｋ７１０は、正面視矩形状の本体部Ｋ７１１と、その本体部Ｋ７１１の正面側に互いに平行に突設される複数の円筒状の支持部Ｋ７１２と、上下方向に延びる姿勢で本体部Ｋ７１１の正面視左側に配設固定される金属棒Ｋ７１３と、金属棒Ｋ７１３の延設方向と平行な上下方向に延びる長孔Ｋ７１４と、ベース部材Ｋ７１０の背面側において長孔Ｋ７１４の後方と長孔Ｋ７１４の上端部から左方に延びる範囲の後方とで略Ｌ字に形成される支持領域Ｋ７１５と、ベース部材Ｋ７１０に配設され伝達装置Ｋ７３０が演出待機状態にあることを検出可能とされる検出センサＫ７１６と、ベース部材Ｋ７１０の背面側に固定部材Ｋ７１７により固定される中継基板Ｋ７１８と、を備える。

【０４５４】

本体部Ｋ７１１には、下端部において正面側から横長のカバー部材Ｋ７１１ａが締結固定される。カバー部材Ｋ７１１ａは、金属棒Ｋ７１３を前側から本体部Ｋ７１１に押さえる部材であって、金属棒Ｋ７１３の下方への脱落を防止する下側防止片Ｋ７１１ｂと、駆動モータＫＭＴ７１の駆動軸から駆動ギアＫＭＧ７２が脱落することを防止する前側防止片Ｋ７１１ｃと、を備える。

【０４５５】

また、本体部Ｋ７１１には、長孔Ｋ７１４の中間部右側位置において正面側へ張り出す張出部Ｋ７１１ｄが形成され、その張出部Ｋ７１１ｄの内側に検出溝が前側に配置される検出センサＫ７１１ｅが配設される。また、金属棒Ｋ７１３の左側において正面側へ張り出す張出部Ｋ７１１ｆが形成される。検出センサＫ７１１ｅの出力の切替により、上下スライド部材Ｋ７２０が第２可動装置Ｋ７０１の下降配置状態にあるか否かを判別可能に構成されるが、詳細は後述する。

【０４５６】

支持部Ｋ７１２の内、第１支持部７１２ａは、駆動モータＫＭＴ７１の駆動軸に固定される駆動ギアＫＭＧ７２に歯合される伝達ギアＫＭＧ７３を回転可能に支持する。なお、他の支持部７１２ｂ～７１２ｄについては後述する。

【０４５７】

支持領域Ｋ７１５の左上終端部においてコイルスプリングＫＳＰ７４の一端が支持され、そのコイルスプリングＫＳＰ７４は、支持領域Ｋ７１５の交差位置の内側に円筒状に突設される支持部Ｋ７１５ａに回転可能に支持されるリング状のセットカラーＫＲＧ７５の外形円弧に沿って曲げられる。

【０４５８】

コイルスプリングＫＳＰ７４の他端は、長孔Ｋ７１４を貫通する上下スライド部材Ｋ７２０の締結部Ｋ７２３に締結固定されることで締結部Ｋ７２３と共に上下方向にスライド移動可能な被案内部材ＫＬＧ７６に引っかけられる。即ち、コイルスプリングＫＳＰ７４

が、被案内部材ＫＬＧ７６を介して上下スライド部材７２０を上方向に向けて付勢するように構成される。

【０４５９】

検出センサＫ７１６は、演出待機状態において伝達装置Ｋ７３０の駆動側二層ギアＫ７３１の円弧状部Ｋ７３２が検出溝に入ることに基づいて、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態であることを検出可能に構成される。

【０４６０】

中継基板Ｋ７１８は、支持領域Ｋ７１５の後側開放部を部分的に塞ぐように形成される。即ち、中継基板Ｋ７１８が支持領域Ｋ７１５の後側開放部を塞ぐことにより、コイルスプリングＫＳＰ７４が後側に脱落することを回避し易くすることができる。

【０４６１】

上下スライド部材Ｋ７２０は、板状の本体部Ｋ７２１と、その本体部Ｋ７２１の左下部において金属棒Ｋ７１３が挿通可能となるように上下方向に貫通される矩形の筒状に形成される被挿通部Ｋ７２２と、ベース部材Ｋ７１０の長孔Ｋ７１４に挿通され被案内部材ＫＬＧ７６が締結固定される上下一対の締結部Ｋ７２３と、互いに平行に左右方向に延びて連動部材Ｋ７５０の移動を案内する複数の長孔Ｋ７２４と、伝達装置Ｋ７３０の伝達終端部材Ｋ７３７を支持するために本体部Ｋ７２１の背面側へ円筒状に突設される複数の支持部Ｋ７２５と、位置検出に用いられ本体部Ｋ７２１の右上部から後方に延設される被検出片Ｋ７２６と、小形コイルスプリングＫＳＰ７７の上端を吊り下げ可能な爪部を有するバネ支持部Ｋ７２７と、を備える。

【０４６２】

被挿通部Ｋ７２２が金属棒Ｋ７１３に案内されることにより、上下スライド部材Ｋ７２０は、金属棒Ｋ７１３の延設方向である上下方向に案内される。同様に、締結部Ｋ７２３がベース部材Ｋ７１０の長孔Ｋ７１４に案内されることによっても、上下スライド部材Ｋ７２０は上下方向に案内される。従って、上下スライド部材Ｋ７２０の移動方向は上下方向に制限される。

【０４６３】

伝達装置Ｋ７３０は、支持部Ｋ７１２の第２支持部Ｋ７１２ｂに回転可能に支持され前層ギア部Ｋ７３１ａが伝達ギアＫＭＧ７３に歯合される駆動側二層ギアＫ７３１と、支持部Ｋ７１２の第３支持部Ｋ７１２ｃに回転可能に支持され駆動側二層ギアＫ７３１の後層伝達部Ｋ７３１ｂと係合する伝達側二層ギアＫ７３３と、支持部Ｋ７１２の第４支持部Ｋ７１２ｄに回転可能に支持され伝達側二層ギアＫ７３３の前層ギア部Ｋ７３３ａと基端側ギア部Ｋ７３５ａが歯合されることで伝達側二層ギアＫ７３３の回転と連動して回転動作するアーム部材Ｋ７３５と、そのアーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂに下側先端部Ｋ７３７ｃが連結される伝達終端部材Ｋ７３７と、を備える。

【０４６４】

駆動側二層ギアＫ７３１の後層伝達部Ｋ７３１ｂは、全周にギア歯が形成されるものではなく、一部にギア歯が形成されずに外形が回転軸を中心とする円弧状に形成される円弧状部Ｋ７３２を備え、その円弧状部Ｋ７３２の最外径部は回転軸と平行な方向である後方へ向けて延設されており、この円弧状部Ｋ７３２の延設先端が検出センサＫ７１６の検出溝に進入可能に構成される。

【０４６５】

伝達側二層ギアＫ７３３の後層伝達部Ｋ７３３ｂは、全周にギア歯が形成されるものではなく、一部にギア歯が形成されずに、回転軸側へ張り出す円弧状（凹形状）に形成される円弧状部Ｋ７３４を備え、この円弧状部Ｋ７３４と駆動側二層ギアＫ７３１の円弧状部Ｋ７３２とが面で当接可能に構成されるが、詳細は後述する。

【０４６６】

伝達終端部材Ｋ７３７は、板状に形成されており、支持部Ｋ７２５の内の上下スライド部材Ｋ７２０の上端部に形成される第１支持部Ｋ７２５ａに回転可能に支持される基端側支持孔Ｋ７３７ａと、その基端側支持孔Ｋ７３７ａを中心とする円弧状に形成され支持部

Ｋ７２５の内の第２支持部Ｋ７２５ｂが挿通される案内孔Ｋ７３７ｂと、アーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂに対して相対回転可能に連結される下側先端部Ｋ７３７ｃと、を備える。

【０４６７】

追従可能部材Ｋ７４０は、板状に形成される本体部Ｋ７４１と、その本体部Ｋ７４１に上下方向に長い長孔上に穿設される複数（本実施形態では、左右中央と左右両端との３箇所）の上下長孔Ｋ７４２と、上下スライド部材Ｋ７２０の長孔Ｋ７２４と対応する位置において長孔Ｋ７２４の左右長さと同等の左右長さで形成され、本体部Ｋ７４１の左右中心側へ向けて下降傾斜する逆ハの字形状に形成される複数（本実施形態では、左右に上下一対ずつ）の傾斜長孔Ｋ７４３と、本体部Ｋ７４１の左端側下部から後方に延設される左側受部Ｋ７４４と、本体部Ｋ７４１の右端側下部から後方に延設される右側受部Ｋ７４５と、小形コイルスプリングＫＳＰ７７の下端に吊り下げられる爪部を有するバネ支持部Ｋ７４６と、を備える。

【０４６８】

追従可能部材Ｋ７４０は、小形コイルスプリングＫＳＰ７７の付勢力により上下スライド部材Ｋ７２０の動作に追従するように構成されている一方で、常に追従するのでは無く、上下スライド部材Ｋ７２０の上昇の途中で、左側受部Ｋ７４４が張出部Ｋ７１１ｆに、右側受部Ｋ７４５が張出部Ｋ７１１ｄにせき止められることで、追従可能部材Ｋ７４０が置き去りにされる態様での上下スライド部材Ｋ７２０の移動を構成可能とされるが、詳細は後述する。

【０４６９】

連動部材Ｋ７５０は、板状に形成される左右一対の本体部Ｋ７５１と、その本体部Ｋ７５１の背面側に上下一対で円筒状に突設される締結突設部Ｋ７５２と、を備える。

【０４７０】

締結突設部Ｋ７５２は、正面側から、追従可能部材Ｋ７４０の傾斜長孔Ｋ７４３、上下スライド部材Ｋ７２０の長孔Ｋ７２４の順で挿通され、先端に形成される雌ネジに螺入されるネジのネジ頭により脱落が防止される。

【０４７１】

主装飾部材Ｋ７６０は、内部に電飾基板Ｋ７６１ａが配設され、その電飾基板Ｋ７６１ａからの光が照射される前側面が光透過性の板状部材から形成される本体部Ｋ７６１と、その本体部Ｋ７６１の背面から突設される複数の締結部Ｋ７６２と、を備える。

【０４７２】

締結部Ｋ７６２は、正面側から追従可能部材Ｋ７４０の上下長孔Ｋ７４２に挿通された状態で、上下スライド部材Ｋ７２０の本体部Ｋ７２１に締結固定される。即ち、主装飾部材Ｋ７６０の上下配置は上下スライド部材Ｋ７２０の上下配置と同一とされ、上下スライド部材Ｋ７２０と追従可能部材Ｋ７４０との上下方向の相対移動量は、追従可能部材Ｋ７４０の上下長孔Ｋ７４２の寸法に制限される。

【０４７３】

図５７（ａ）、図５７（ｂ）、図５８（ａ）及び図５８（ｂ）は、第２可動装置Ｋ７０１の正面図である。なお、図５７（ａ）、図５７（ｂ）、図５８（ａ）及び図５８（ｂ）では、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態から上昇配置状態へ変化する様子が時系列で図示されており、第２可動装置Ｋ７０１の構成の内、上下スライド部材Ｋ７２０が想像線で図示され、その上下スライド部材Ｋ７２０よりも手前側に配置される追従可能部材Ｋ７４０、連動部材Ｋ７５０及び主装飾部材Ｋ７６０（図５５参照）の図示が省略される。

【０４７４】

図５７（ａ）に図示されるように、第２可動装置Ｋ７０１の演出待機状態では、駆動側二層ギアＫ７３１の円弧状部Ｋ７３２に対して、伝達側二層ギアＫ７３３の円弧状部Ｋ７３４が面で当接されている。

【０４７５】

この状態において、円弧状部Ｋ７３２は、円弧状部Ｋ７３４の最大径位置（円周方向の

両端部）よりも伝達側二層ギアＫ７３３の回転軸に近い位置まで張り出していることにより、伝達側二層ギアＫ７３３の回転を規制することができる。これにより、伝達側二層ギアＫ７３３よりも駆動力の伝達方向下流側に配設されるアーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７を停止した状態で安定させることができる。

【０４７６】

図５７（ａ）に図示される第２可動装置Ｋ７０１の演出待機状態において、駆動側二層ギアＫ７３１の円弧状部Ｋ７３２が、検出センサＫ７１６の検出溝に入っている。本実施形態では、円弧状部Ｋ７３２の円弧方向の形成長さは検出溝を形成する検出センサＫ７１６の厚みよりも長い。そのため、検出センサＫ７１６に円弧状部Ｋ７３２が入っている状態を検出しても駆動側二層ギアＫ７３１の位相を正確に判定することはできない。

【０４７７】

一方、本実施形態では、検出センサＫ７１６に円弧状部Ｋ７３２が入っている状態においては伝達側二層ギアＫ７３３が回転することは無い（図５７（ａ）に図示される状態を維持する）ように構成されている（歯合回転が開始されないようにギア歯の形成位置が設計されている）ので、その伝達側二層ギアＫ７３３よりも駆動力伝達方向下流側にあるアーム部材Ｋ７３５や伝達終端部材Ｋ７３７が演出待機状態における配置にあるか否かの判定は、検出センサＫ７１６に円弧状部Ｋ７３２が入っている状態を検出することで行うことができる。

【０４７８】

このように、検出センサＫ７１６に検出される状態における円弧状部Ｋ７３２の配置には許容幅を持たせつつも、検出センサＫ７１６に円弧状部Ｋ７３２が検出されてさえいれば、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７が第２可動装置Ｋ７０１の演出待機状態おける配置に維持されていると音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１０参照）に判定させることができるので、第２可動装置Ｋ７０１に演出待機状態を形成させる駆動側二層ギアＫ７３１の位相にある程度の幅を持たせることができる。

【０４７９】

換言すれば、図５７（ａ）に図示される状態から、駆動側二層ギアＫ７３１が正逆方向にある程度（本実施形態では４５度未満の角度）回転し、位相がずれたとしても、伝達側二層ギアＫ７３３に回転は生じず、そのままの状態が維持されるよう構成されている。

【０４８０】

その前提に対応して、円弧状部Ｋ７３２は、駆動側二層ギアＫ７３１の回転軸を中心とする角度が９０度となるように形成されているので、検出センサＫ７１６が円弧状部Ｋ７３２の円弧方向中央位置に配置される状態から、正逆方向に４５度未満の角度で回転したとしても、円弧状部Ｋ７３２が検出センサＫ７１６の検出溝に入っている状態が維持される。

【０４８１】

従って、第２可動装置Ｋ７０１のアーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７を、演出待機状態における配置にするための駆動側二層ギアＫ７３１の位相に約９０度分の許容幅を持たせることができる。そのため、駆動側二層ギアＫ７３１の停止時の位相が正確には定まりにくいほどの過大な速度での駆動から、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７を瞬間的に停止させるような一般的には困難とされる動作態様を容易に実現することができる。

【０４８２】

即ち、駆動側二層ギアＫ７３１については約９０度分の許容幅で停止させれば良く、その許容幅における駆動側二層ギアＫ７３１の回転開始時から回転継続中に亘ってアーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７が第２可動装置Ｋ７０１の演出待機状態に維持されることから、駆動側二層ギアＫ７３１が停止するよりも前にアーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７を第２可動装置Ｋ７０１の演出待機状態における配置で停止させることができる。

【０４８３】

図５７（ｂ）では、図５７（ａ）に図示される状態から駆動側二層ギアＫ７３１が正面視反時計回りに４５度を超える角度で回転されることに伴い、伝達側二層ギアＫ７３３が回転し始めた状態が図示される。

【０４８４】

図５７（ｂ）に図示される状態は、駆動側二層ギアＫ７３１の円弧状部Ｋ７３２が検出センサＫ７１６の検出溝から出た瞬間に相当する。図５７（ｂ）に図示される状態からはギア歯の歯合回転により駆動側二層ギアＫ７３１から伝達側二層ギアＫ７３３に駆動力が伝達されることになるので、検出センサＫ７１６の検出溝から円弧状部Ｋ７３２が出た時点から駆動ギアＫＭＧ７２の回転角度を適切に制御することで、伝達側二層ギアＫ７３３よりも駆動力伝達方向下流側に配設されるアーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７の配置を制御することができる。

【０４８５】

即ち、第２可動装置Ｋ７０１のアーム部材Ｋ７３５は、演出待機状態から、アーム部材Ｋ７３５が上側へ９０度回転した上昇配置状態まで回転動作可能とされることから、その回転動作に必要となる駆動ギアＫＭＧ７２の回転角度をギア比の関係から予め算出しておき、その回転角度で駆動ギアＫＭＧ７２を回転させることにより、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７を上昇配置状態の位置に配置することができる。従って、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７が上昇配置状態の位置に配置されたことを検出するための検出装置を不要とすることができる。

【０４８６】

図５８（ａ）では、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態から上昇配置状態へ向けて動作する際の略中間の状態が図示されており、この状態において追従可能部材Ｋ７４０の右側受部Ｋ７４５（図５６参照）がベース部材Ｋ７１０の張出部Ｋ７１１ｄ（図５５参照）の下面に当接し、追従可能部材Ｋ７４０のそれ以上の上昇が防止される。なお、追従可能部材Ｋ７４０のそれ以上の上昇が防止されることによる演出効果については後述する。

【０４８７】

図５８（ｂ）では、第２可動装置Ｋ７０１の上昇配置状態が図示される。第２可動装置Ｋ７０１の上昇配置状態では、ベース部材Ｋ７１０の第４支持部Ｋ７１２ｄの中心（円形状の中心）、アーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂの中心（円形状の中心）及び伝達終端部材Ｋ７３７の基端側支持孔Ｋ７３７ａの中心（円形状の中心）が、略上下方向に延びる直線ＫＶＬ７８上に配置される。

【０４８８】

これにより、第２可動装置Ｋ７０１の上昇配置状態において上下スライド部材Ｋ７２０や上下スライド部材Ｋ７２０に配設される追従可能部材Ｋ７４０、連動部材Ｋ７５０及び主装飾部材Ｋ７６０の重力方向（下向き）の変位を抑制することができる。

【０４８９】

換言すれば、上下スライド部材Ｋ７２０の第１支持部Ｋ７２５ａを介して伝達終端部材Ｋ７３７に伝達される重力方向（下向き）の負荷は、ベース部材Ｋ７１０の第４支持部Ｋ７１２ｄの中心（円形状の中心）上およびアーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂの中心（円形状の中心）上へ向かうことから、この負荷により伝達終端部材Ｋ７３７及びアーム部材Ｋ７３５が回転動作する事態を避け易くすることができる。

【０４９０】

これにより、駆動側二層ギアＫ７３１や伝達側二層ギアＫ７３３の回転を停止させるための荷重を要することなく第２可動装置Ｋ７０１を上昇配置状態で維持することができるので、第２可動装置Ｋ７０１を上昇配置状態で維持しながら駆動モータＫＭＴ７１（図５５参照）を非励磁とすることができるので、駆動モータＫＭＴ７１の耐用年数を長くすることができる。

【０４９１】

図５９（ａ）及び図５９（ｂ）は、第２可動装置Ｋ７０１の正面図である。なお、図５９（ａ）及び図５９（ｂ）では、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態（図５７（ａ）参

照）から動作開始してから下降配置状態へ変化する様子が時系列で図示されており、第２可動装置Ｋ７０１の構成の内、上下スライド部材Ｋ７２０が想像線で図示され、その上下スライド部材Ｋ７２０よりも手前側に配置される追従可能部材Ｋ７４０、連動部材Ｋ７５０及び主装飾部材Ｋ７６０（図５５参照）の図示が省略される。

【０４９２】

図５９（ａ）では、図５７（ａ）に図示される状態から駆動側二層ギアＫ７３１が正面視時計回りに４５度を超える角度で回転されることに伴い、伝達側二層ギアＫ７３３が回転し始めた状態が図示される。

【０４９３】

図５９（ａ）に図示される状態は、駆動側二層ギアＫ７３１の円弧状部Ｋ７３２が検出センサＫ７１６の検出溝から出た瞬間に相当する。図５９（ａ）に図示される状態からはギア歯の歯合回転により駆動側二層ギアＫ７３１から伝達側二層ギアＫ７３３に駆動力が伝達されることになるので、検出センサＫ７１６の検出溝から円弧状部Ｋ７３２が出た時点から駆動ギアＫＭＧ７２の回転角度を適切に制御することで、伝達側二層ギアＫ７３３よりも駆動力伝達方向下流側に配設されるアーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７の配置を制御することができる。

【０４９４】

即ち、第２可動装置Ｋ７０１のアーム部材Ｋ７３５は、演出待機状態から、アーム部材Ｋ７３５が下側へ９０度回転した下降配置状態まで回転動作可能とされることから、その回転動作に必要となる駆動ギアＫＭＧ７２の回転角度をギア比の関係から予め算出しておき、その回転角度で駆動ギアＫＭＧ７２を回転させることにより、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７を下降配置状態の位置に配置することができる。従って、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７が下降配置状態の位置に配置されたことを検出するための検出装置を不要とすることができる。

【０４９５】

なお、本実施形態では、第２可動装置Ｋ７０１が下降配置状態に変化したことが、上下スライド部材Ｋ７２０の被検出片Ｋ７２６がベース部材Ｋ７１０の検出センサＫ７１１ｅの検出溝に入ることにより判定されるように構成される。検出センサＫ７１１ｅによる検出は、他の可動装置との連動を伴う動作制御で利用されることになるが、詳細は後述する。

【０４９６】

図５９（ｂ）では、第２可動装置Ｋ７０１の下降配置状態が図示される。第２可動装置Ｋ７０１の下降配置状態では、ベース部材Ｋ７１０の第４支持部Ｋ７１２ｄの中心（円形状の中心）、アーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂの中心（円形状の中心）及び伝達終端部材Ｋ７３７の基端側支持孔Ｋ７３７ａの中心（円形状の中心）が、略上下方向に延びる直線ＫＶＬ７８上に配置される。

【０４９７】

これにより、第２可動装置Ｋ７０１の上昇配置状態において上下スライド部材Ｋ７２０や上下スライド部材Ｋ７２０に配設される追従可能部材Ｋ７４０、連動部材Ｋ７５０及び主装飾部材Ｋ７６０の上向きの変位を抑制することができる。

【０４９８】

換言すれば、上下スライド部材Ｋ７２０の第１支持部Ｋ７２５ａを介して伝達終端部材Ｋ７３７に伝達されるコイルスプリングＫＳＰ７４による上向きの付勢力は、アーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂの中心（円形状の中心）からベース部材Ｋ７１０の第４支持部Ｋ７１２ｄの中心（円形状の中心）へ向かう方向とされることから、この付勢力により伝達終端部材Ｋ７３７及びアーム部材Ｋ７３５が回転動作する事態を避け易くすることができる。

【０４９９】

これにより、駆動側二層ギアＫ７３１や伝達側二層ギアＫ７３３の回転を停止させるための荷重を要することなく第２可動装置Ｋ７０１を下降配置状態で維持することができる

ので、第２可動装置Ｋ７０１を下降配置状態で維持しながら駆動モータＫＭＴ７１（図５５参照）を非励磁とすることができるので、駆動モータＫＭＴ７１の耐用年数を長くすることができる。

【０５００】

この場合、駆動モータＫＭＴ７１の駆動力で下降配置状態に変化させた後においてはコイルスプリングＫＳＰ７４の付勢力の大小に関わらず下降配置状態で維持することができるので、コイルスプリングＫＳＰ７４の付勢力の設計の幅を広げることができ、コイルスプリングＫＳＰ７４の付勢力を十分に大きく設定しておくことで、十分な補助が得られ、下降配置状態からの駆動開始に必要となる駆動力を低減することができる。

【０５０１】

図６０（ａ）、図６０（ｂ）及び図６０（ｃ）は、上下スライド部材Ｋ７２０、追従可能部材Ｋ７４０及び連動部材Ｋ７５０の模式正面図である。図６０（ａ）から図６０（ｃ）では、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態から上昇配置状態へ変化するまでの上下スライド部材Ｋ７２０、追従可能部材Ｋ７４０及び連動部材Ｋ７５０の配置の変化が時系列で模式的に図示される。

【０５０２】

図６０（ａ）に図示されるように、第２可動装置Ｋ７０１の演出待機状態においては、上下スライド部材Ｋ７２０に対して追従可能部材Ｋ７４０が小形コイルスプリングＫＳＰ７７の付勢力により引き付けられており、上下スライド部材Ｋ７２０の上下方向動作に対して追従可能部材Ｋ７４０も一体的に動作する。

【０５０３】

連動部材Ｋ７５０の配置は上下スライド部材Ｋ７２０と追従可能部材Ｋ７４０との配置関係により決まるように構成されるため、上下スライド部材Ｋ７２０の上下方向動作に対して追従可能部材Ｋ７４０が一体的に動作する状況においては、連動部材Ｋ７５０も上下スライド部材Ｋ７２０と一体的に動作する。なお、連動部材Ｋ７５０の動作原理についての詳細は後述する。

【０５０４】

図６０（ｂ）では、追従可能部材Ｋ７４０の右側受部Ｋ７４５がベース部材Ｋ７１０の張出部Ｋ７１１ｄの下面に当接した状態が図示される（図５８（ａ）参照）。図６０（ｂ）における配置が、追従可能部材Ｋ７４０の移動範囲の上端位置となっており、これ以上に上下スライド部材Ｋ７２０が上昇を続ける場合には、上下スライド部材Ｋ７２０及び追従可能部材Ｋ７４０の一体性は崩れ、相対移動することになる。

【０５０５】

図６０（ｃ）では、第２可動装置Ｋ７０１の上昇配置状態が図示される（図５８（ｂ）参照）。図６０（ｃ）に図示されるように、上昇配置状態では、演出待機状態に比較して追従可能部材Ｋ７４０に対して上下スライド部材Ｋ７２０が相対的に移動する。これにより、小形コイルスプリングＫＳＰ７７は引き延ばされ、上下スライド部材Ｋ７２０の長孔Ｋ７２４と追従可能部材Ｋ７４０の傾斜長孔Ｋ７４３とが重なる左右位置が変化される。

【０５０６】

上下スライド部材Ｋ７２０の長孔Ｋ７２４と追従可能部材Ｋ７４０の傾斜長孔Ｋ７４３とが重なる位置に連動部材Ｋ７５０の締結突設部Ｋ７５２が配置されることから、追従可能部材Ｋ７４０に対して上下スライド部材Ｋ７２０が相対的に移動することに伴って連動部材Ｋ７５０の左右位置が変化する。即ち、左右内側の配置から、左右外側へ配置されるように左右位置が変化している。

【０５０７】

このように、第２可動装置Ｋ７０１の上昇動作と連動して、連動部材Ｋ７５０の左右方向の動作をさせるように構成されているので、単純に上昇動作するのみの可動役物に比較して、上昇動作時の注目力を向上させることができる。

【０５０８】

図６０（ｃ）に図示される状態から上下スライド部材Ｋ７２０が下降される場合、図６

０（ｂ）に図示される状態に到達するまでは小形コイルスプリングＫＳＰ７７の付勢力により追従可能部材Ｋ７４０の配置が維持され、図５７（ｂ）に図示される状態に到達してからは上下スライド部材Ｋ７２０及び追従可能部材Ｋ７４０が一体的に下降され、図６０（ａ）に図示される状態に戻ることになる。即ち、上下スライド部材Ｋ７２０の下降動作は、図６０（ｃ）、図６０（ｂ）、図６０（ａ）の順の時系列で生じる。

【０５０９】

以上、詳述したように、第２可動装置Ｋ７０１では、アーム部材Ｋ７３５の動作範囲の途中位置において、ある程度の角度範囲でアーム部材Ｋ７３５が回転した場合であっても、主装飾部材Ｋ７６０の位置が安定するように構成される。これにより、途中位置に主装飾部材Ｋ７６０を高速移動させ、停止させることが容易となる。

【０５１０】

また、第２可動装置Ｋ７０１では、アーム部材Ｋ７３５の動作範囲の終端位置では、荷重の方向をアーム部材Ｋ７３５の回転軸へ向く方向に設定することで、アーム部材Ｋ７３５を終端位置において安定させることができる。

【０５１１】

図２５に戻って説明する。図２５に図示されるように、前層側可動装置Ｋ４００よりも背面側において、背面ケースＫ３１０に後層側可動装置Ｋ８００が配設される。以下で、後層側可動装置Ｋ８００の詳細について説明する。なお、構造の説明を先に行うために、第３可動装置Ｋ８０１に形成される装飾についての図示は省略し、装飾の詳細については後述する。

【０５１２】

図６１は、後層側可動装置Ｋ８００の分解正面斜視図であり、図６２は、後層側可動装置Ｋ８００の分解背面斜視図である。後層側可動装置Ｋ８００は、第３図柄表示装置Ｋ８１（図２７及び図２８参照）の正面側を開閉動作可能に構成される第３可動装置Ｋ８０１と、その第３可動装置Ｋ８０１を背面側から支持する支持部材Ｋ８５０と、その支持部材Ｋ８５０の上側支持部材Ｋ８５１に正面側から第３可動装置Ｋ８０１を挟むように配設され上側支持部材Ｋ８５１に締結固定される上前カバー部材Ｋ８６１と、上側支持部材Ｋ８５１に背面側から締結固定される上後カバー部材Ｋ８６４と、を備える。

【０５１３】

更に、後層側可動装置Ｋ８００は、左右一対で配置される駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２と、その駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２の駆動力を伝達するために上側支持部材Ｋ８５１に回転可能に支持されるギア部材群であって上側支持部材Ｋ８５１と上後カバー部材Ｋ８６４との間に配設される左右一対の伝達装置Ｋ８７０と、その伝達装置Ｋ８７０の動作に伴い左右方向にスライド移動する左右一対の基端側スライド部材Ｋ８８０と、を備える。

【０５１４】

支持部材Ｋ８５０は、上述の上側支持部材Ｋ８５１と、伝達装置Ｋ８７０のギア群を回転可能に支持するように円筒状に突設される複数の支持部Ｋ８５２と、基端側スライド部材Ｋ８８０をスライド移動可能に支持するための左右方向に延設される複数の長孔Ｋ８５３と、正面側において左右方向に延びるようにギア歯が刻設される左右一対の上側延設ギア歯Ｋ８５４および下側延設ギア歯Ｋ８５５と、第３可動装置Ｋ８０１の金属棒ＫＭＢ８３，ＫＭＢ８４の左右端部を支持する端側支持部Ｋ８５６と、金属棒ＫＭＢ８３，ＫＭＢ８４の略中間位置を上側支持部材Ｋ８５１との間で挟持するように上側支持部材Ｋ８５１に締結固定される複数の中間支持部材Ｋ８５７と、上側支持部材Ｋ８５１の背面側に配設され基端側スライド部材Ｋ８８０が第３可動装置Ｋ８０１の演出待機状態における位置に配置されていることを検出する左右一対の検出センサＫ８５８と、第３可動装置Ｋ８０１の下端側を後側から支持する部材であって、背面ケースＫ３１０（図２５参照）に締結固定される下側支持部材Ｋ８５９と、を備える。

【０５１５】

長孔Ｋ８５３は、右側においては二本、左側においては一本で形成されているが、基端

側スライド部材Ｋ８８０を支持するという機能は共通である。即ち、右側の基端側スライド部材Ｋ８８０の形状が、長孔Ｋ８５３に挿通される複数の円柱状突部Ｋ８８２の上下位置が異なるため、対応する平行な二本の長孔Ｋ８５３が形成される一方、左側の基端側スライド部材Ｋ８８０の形状が、長孔Ｋ８５３に挿通される複数の円柱状突部Ｋ８８２の上下位置が同じため、左右に延びる長い一本の長孔Ｋ８５３に複数の円柱状突部Ｋ８８２が両方共支持される。

【０５１６】

上前カバー部材Ｋ８６１は、背面側から突設される複数の円柱状部Ｋ８６２を備える。円柱状部Ｋ８６２は、左右に一対ずつ形成されており、それぞれが左右方向に延びる一本の直線上に形成される。

【０５１７】

上後カバー部材Ｋ８６４は、左側の基端側スライド部材Ｋ８８０の左右方向の移動を案内するために左右方向に延設されるように穿設される案内長孔Ｋ８６５を備える。左側の基端側スライド部材Ｋ８８０は、案内長孔Ｋ８６５から背面側へ貫通される抜け止め突部Ｋ８８８に抜け止め用のネジが固定され、この抜け止め用のネジのネジ頭が案内長孔Ｋ８６５に干渉することにより抜け止めされる。

【０５１８】

伝達装置Ｋ８７０は、駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２の回転軸に固定される駆動ギアＫ８７１と、その駆動ギアＫ８７１の回転が伝達される中間ギアＫ８７２，Ｋ８７３と、中間ギアＫ８７３と歯合する円周ギア部Ｋ８７５を有する延設回転部材Ｋ８７４と、を備える。

【０５１９】

延設回転部材Ｋ８７４は、上述の円周ギア部Ｋ８７５と、その円周ギア部Ｋ８７５よりも背面側において回転中心から径方向外側へ延設される延設部Ｋ８７６と、を備える。延設部Ｋ８７６には、その延設先端部において背面側へ円柱状に突設される円柱突部Ｋ８７６ａが形成される。

【０５２０】

伝達装置Ｋ８７０では、駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２が回転駆動されると、駆動ギアＫ８７１から中間ギアＫ８７２，Ｋ８７３を介して延設回転部材Ｋ８７４へ駆動力が伝達され、延設部Ｋ８７６が回転動作されることに伴って、円柱突部Ｋ８７６ａが変位され、その変位により基端側スライド部材Ｋ８８０が左右方向に変位される。

【０５２１】

基端側スライド部材Ｋ８８０は、板状の本体部Ｋ８８１と、支持部材Ｋ８５０の長孔Ｋ８５３に案内される複数の円柱状突部Ｋ８８２と、左右中心側の円柱状突部Ｋ８８２の左右方向外側に配置され円柱状突部Ｋ８８２よりも正面側へ突設され第３可動装置Ｋ８０１のピニオンＫ８２５を回転可能に支持する回転支持部Ｋ８８３と、本体部Ｋ８８１に上下方向に延びる形状で前後方向に穿設される長孔Ｋ８８４と、左右方向外側端部から下方に延設され支持部材Ｋ８５０の検出センサＫ８５８の検出溝に進入可能に形成される被検出部Ｋ８８５と、を備える。

【０５２２】

左側の基端側スライド部材Ｋ８８０には、背面側へ円柱状に突設され上後カバー部材Ｋ８６４の案内長孔Ｋ８６５に挿通された上で、先端部から抜け止め用のネジ部材が締結固定される抜け止め突部Ｋ８８８を備える。

【０５２３】

図６３は、第３可動装置Ｋ８０１の分解正面斜視図であり、図６４は、第３可動装置Ｋ８０１の分解背面斜視図である。なお、図６３及び図６４の説明では、図６１及び図６２を適宜参照する。

【０５２４】

第３可動装置Ｋ８０１は、支持部材Ｋ８５０の端側支持部Ｋ８５６に固定される左右方向に長尺の金属棒ＫＭＢ８３に左右方向にスライド移動可能に案内される後側開閉部材Ｋ

８１０と、金属棒ＫＭＢ８３よりも正面側において支持部材Ｋ８５０の端側支持部Ｋ８５６に固定される左右方向に長尺の金属棒ＫＭＢ８４に左右方向にスライド移動可能に案内される中側開閉部材Ｋ８２０と、その中側開閉部材Ｋ８２０よりも正面側において上前カバー部材Ｋ８６１の円柱状部Ｋ８６２（図６２参照）に左右方向にスライド移動可能に支持される前側開閉部材Ｋ８３０と、を備える。

【０５２５】

後側開閉部材Ｋ８１０は、上下に長尺の左右一対の板状部Ｋ８１１と、その板状部Ｋ８１１の上端部との間で金属棒ＫＭＢ８３を挟む位置に配置され板状部Ｋ８１１に締結固定され正面側に軸受構造が形成される軸受構造部材Ｋ８１３と、その軸受構造部材Ｋ８１３の上面にギア歯が刻設されるラック部Ｋ８１４に歯合され中側開閉部材Ｋ８２０の支持部Ｋ８２６に回転可能に支持されるピニオンＫ８１５と、支持部材Ｋ８５０の下側支持部材Ｋ８５９（図６１参照）に締結固定され下側支持部材Ｋ８５９との間で板状部Ｋ８１１の下端部を案内する左右方向に延びる溝部を形成する溝形成部材Ｋ８１８と、を備える。

【０５２６】

中側開閉部材Ｋ８２０は、上下に長尺の左右一対の板状部Ｋ８２１と、その板状部Ｋ８２１の上端部との間で金属棒ＫＭＢ８４を挟む位置に配置され板状部Ｋ８２１に締結固定され板状部Ｋ８２１の上端部との間で軸受構造を形成する軸受構造部材Ｋ８２３と、板状部Ｋ８２１の背面側に突設される突設部の上面にギア歯が刻設されるラック部Ｋ８２４に歯合され基端側スライド部材Ｋ８８０の回転支持部Ｋ８８３に回転可能に支持されるピニオンＫ８２５と、を備える。

【０５２７】

更に、中側開閉部材Ｋ８２０は、板状部Ｋ８２１の背面側に円筒状に突設され後側開閉部材Ｋ８１０のピニオンＫ８１５を回転可能に支持すると共に先端に螺入されるネジのネジ頭によりピニオンＫ８１５の抜け止めを行う支持部Ｋ８２６と、板状部Ｋ８２１の上端側における左右外側端部から正面側に突設され前側開閉部材Ｋ８３０と左右方向で当接可能とされる突設部Ｋ８２７と、後側開閉部材Ｋ８１０の溝形成部材Ｋ８１８の正面側に締結固定され溝形成部材Ｋ８１８との間で板状部Ｋ８２１の下端部を案内する左右方向に延びる溝部を形成する第２溝形成部材Ｋ８２８と、を備える。

【０５２８】

前側開閉部材Ｋ８３０は、上下に長尺の左右一対の板状部Ｋ８３１と、その板状部Ｋ８３１の上端側で左右方向に延設される部分に左右方向長尺形状で前後方向に穿設され上前カバー部材Ｋ８６１の円柱状部Ｋ８６２（図６２参照）に挿通されることで支持される長孔Ｋ８３３と、その長孔Ｋ８３３よりも下側において中側開閉部材Ｋ８２０の突設部Ｋ８２７を受け入れ可能に板状部Ｋ８３１に凹設される凹設部Ｋ８３５と、中側開閉部材Ｋ８２０の第２溝形成部材Ｋ８２８の正面側に締結固定され第２溝形成部材Ｋ８２８との間で板状部Ｋ８３１の下端部を案内する左右方向に延びる溝部を形成する第３溝形成部材Ｋ８３８と、を備える。

【０５２９】

上述の構成から第３可動装置Ｋ８０１に生じる駆動力伝達は以下のようになる。即ち、基端側スライド部材Ｋ８８０の左右方向の移動量がピニオンＫ８２５を介して中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１に伝達され、その板状部Ｋ８２１の移動量がピニオンＫ８１５を介して後側開閉部材Ｋ８１０の板状部Ｋ８１１に伝達される。板状部Ｋ８２１及び板状部Ｋ８１１の移動は、歯合により生じる。

【０５３０】

また、中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１の移動量が、突設部Ｋ８２７が凹設部Ｋ８３５の左右内側面を押進することにより前側開閉部材Ｋ８３０の板状部Ｋ８３１に伝達される。板状部Ｋ８３１の移動は、中側開閉部材Ｋ８２０から押進されることにより生じる。

【０５３１】

従って、板状部Ｋ８２１の移動に伴い板状部Ｋ８１１は常時連動することになる一方で

、板状部Ｋ８２１が移動しても、突設部Ｋ８２７が凹設部Ｋ８３５の左右内側面を押進しない範囲においては、板状部Ｋ８３１は静止したままとなる。

【０５３２】

図６５（ａ）、図６５（ｂ）及び図６５（ｃ）は、上後カバー部材Ｋ８６４、延設回転部材Ｋ８７４、基端側スライド部材Ｋ８８０及びピニオンＫ８２５の正面図である。図６５（ａ）、図６５（ｂ）及び図６５（ｃ）では、第３可動装置Ｋ８０１の演出待機状態からの延設回転部材Ｋ８７４の動作例が時系列で図示される。

【０５３３】

まず、図６５（ａ）に図示されるように、第３可動装置Ｋ８０１の演出待機状態では、円柱突部Ｋ８７６ａの中心が、延設回転部材Ｋ８７４の回転中心を通る左右方向に延びる直線上に配置される位置で、延設回転部材Ｋ８７４が回転方向で上後カバー部材Ｋ８６４の上側構成部Ｋ８６６に当接され、それ以上の回転が防止される。

【０５３４】

即ち、円柱突部Ｋ８７６ａが延設回転部材Ｋ８７４の回転中心よりも左右外側へ向けて回転する回転動作では、円柱突部Ｋ８７６ａの中心が、延設回転部材Ｋ８７４の回転中心を通る左右方向に延びる直線上に配置される位置で停止され、それ以上の回転は生じないように構成される。

【０５３５】

図６５（ａ）に図示される状態から円柱突部Ｋ８７６ａが左右内側へ向けて回転すると、円柱突部Ｋ８７６ａの左右位置が変化することに伴い、円柱突部Ｋ８７６ａが挿通されている長孔Ｋ８８４を有する基端側スライド部材Ｋ８８０が連動して、支持部材Ｋ８５０の長孔Ｋ８５３（図６２参照）に案内される左右方向にスライド移動し、図６５（ｂ）に図示される連動切替状態へ移行する。

【０５３６】

図６５（ｂ）に図示されるように、第３可動装置Ｋ８０１の連動切替状態では、延設回転部材Ｋ８７４の円柱突部Ｋ８７６ａの変位方向が左右方向に沿うことにより、基端側スライド部材Ｋ８８０へ伝達される左右方向の力が最大となる。

【０５３７】

図６５（ｂ）に図示される状態から更に延設回転部材Ｋ８７４が回転されることにより、円柱突部Ｋ８７６ａの左右位置が変化することに伴い、円柱突部Ｋ８７６ａが挿通されている長孔Ｋ８８４を有する基端側スライド部材Ｋ８８０が連動して、支持部材Ｋ８５０の長孔Ｋ８５３（図６２参照）に案内される左右方向にスライド移動し、図６５（ｃ）に図示される閉塞状態へ移行する。

【０５３８】

図６５（ｃ）に図示されるように、第３可動装置Ｋ８０１の閉塞状態では、円柱突部Ｋ８７６ａの中心が、延設回転部材Ｋ８７４の回転中心を通る左右方向に延びる直線よりも上側に配置される位置で、延設回転部材Ｋ８７４が回転方向で上後カバー部材Ｋ８６４の傾斜形成部Ｋ８６７に当接され、それ以上の回転が防止される。

【０５３９】

即ち、円柱突部Ｋ８７６ａが延設回転部材Ｋ８７４の回転中心よりも左右内側へ向けて回転する回転動作では、円柱突部Ｋ８７６ａの中心が、延設回転部材Ｋ８７４の回転中心を通る左右方向に延びる直線よりも上側に配置される位置で停止され、それ以上の回転は生じないように構成される。

【０５４０】

これにより、第３可動装置Ｋ８０１が閉塞状態へ移行した後において基端側スライド部材Ｋ８８０を介して延設回転部材Ｋ８７４に左右方向外側向きに生じる荷重において、延設回転部材Ｋ８７４の回転軸が受ける割合を減らすことができる。

【０５４１】

即ち、第３可動装置Ｋ８０１の閉塞状態において、延設回転部材Ｋ８７４の円柱突部Ｋ８７６ａの中心が延設回転部材Ｋ８７４の回転中心を通る左右方向に延びる直線上に配置

される場合、基端側スライド部材Ｋ８８０を介して延設回転部材Ｋ８７４に左右方向外側向きに生じる荷重の全てが延設回転部材Ｋ８７４の回転軸に与えられることになるので、延設回転部材Ｋ８７４の耐久性が低下する可能性がある。

【０５４２】

これに対し、本実施形態では、第３可動装置Ｋ８０１の閉塞状態において、延設回転部材Ｋ８７４の円柱突部Ｋ８７６ａの中心が延設回転部材Ｋ８７４の回転中心を通る左右方向に延びる直線よりも上側に配置されるので、基端側スライド部材Ｋ８８０を介して延設回転部材Ｋ８７４に左右方向外側向きに生じる荷重が、延設回転部材Ｋ８７４の回転軸が受ける成分と、傾斜形成部Ｋ８６７が受ける成分とに分解されるので、荷重の集中を避けることができ、延設回転部材Ｋ８７４の耐久性を向上させることができる。

【０５４３】

なお、正面視左側における上側構成部Ｋ８６６及び正面視右側における傾斜形成部Ｋ８６７は、上側支持部材Ｋ８５１（図６２参照）から背面側に突設形成されており、正面視左側における傾斜形成部Ｋ８６７及び正面視右側における上側構成部Ｋ８６６は、上後カバー部材Ｋ８６４の上縁部として形成されている。

【０５４４】

また、第３可動装置Ｋ８０１が閉塞状態において、円柱突部Ｋ８７６ａの中心と延設回転部材Ｋ８７４の回転中心とを結ぶ直線が、左右方向に延びる直線に対する角度は５度とされる。

【０５４５】

そのため、円柱突部Ｋ８７６ａの中心と延設回転部材Ｋ８７４の回転中心との長さを２５ｍｍとした場合に、延設回転部材Ｋ８７４が５°過回転することで基端側スライド部材Ｋ８８０が左右方向外側に戻る変位量は、０．１ｍｍであり（２５－２５ｃｏｓ（５°））、遊技者に認識されるほどの距離とはならないので、例えば、延設回転部材Ｋ８７４が過回転することにより板状部Ｋ８１１（図６３参照）が左右方向外側に戻ることで演出効果が低下するといった事態が生じる可能性を低減できる。

【０５４６】

更に、基端側スライド部材Ｋ８８０の回転支持部Ｋ８８３に支持されるピニオンＫ８２５と、上側延設ギア歯Ｋ８５４及びラック部Ｋ８２４とのバックラッシュが０．１ｍｍ程度となるように設計しておけば、延設回転部材Ｋ８７４が５°過回転することによる基端側スライド部材Ｋ８８０の左右方向の変位は上述のバックラッシュに収まり、ラック部Ｋ８２４を有する中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１や、その板状部Ｋ８２１と連動する後側開閉部材Ｋ８１０の板状部Ｋ８１１が左右方向外側に変位することを避けることができる。以下、図６６を参照して、板状部Ｋ８２１と板状部Ｋ８１１との連動について説明する。

【０５４７】

図６６は、後層側可動装置Ｋ８００の部分拡大正面図である。図６６では、内部構造を分かり易くするために、上前カバー部材Ｋ８６１及び前側開閉部材Ｋ８３０の図示が省略され、中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１が部分的に破られて図示されると共に中側開閉部材Ｋ８２０の外形が想像線で図示される。また、ピニオンＫ８１５は、上側において支持部材Ｋ８５０の下側延設ギア歯Ｋ８５５と歯合する大径ギアＫ８１５ａが図示され、下側において後側開閉部材Ｋ８１０のラック部Ｋ８１４と歯合する小径ギアＫ８１５ｂが図示される。

【０５４８】

図６６を参照して、駆動力の伝達方法について説明する。まず、駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２の駆動力が伝達され伝達装置Ｋ８７０の延設回転部材Ｋ８７４が回転動作されることにより基端側スライド部材Ｋ８８０が左右方向にスライド移動され（図６５参照）、それにより移動される回転支持部Ｋ８８３を回転中心とするピニオンＫ８２５が上側延設ギア歯Ｋ８５４との噛み合いで回転される（図６６において回転支持部Ｋ８８３が左側に移動する場合には正面視時計回りに回転される）。

【０５４９】
ピニオンＫ８２５の回転により、下側で歯合されているラック部Ｋ８２４が左方へ移動されることになるので、中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１が左方へ移動する。この時、ピニオンＫ８２５が上側延設ギア歯Ｋ８５４と噛み合う歯数と、ピニオンＫ８２５がラック部Ｋ８２４と噛み合う歯数とが同じなので、回転支持部Ｋ８８３の左右方向の移動量の倍の移動量で中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１を移動させることができる。
【０５５０】
従って、板状部Ｋ８２１を目的の距離移動させるために必要な基端側スライド部材Ｋ８８０の移動量を短くすることができるので、基端側スライド部材Ｋ８８０の配置に要するスペースを削減することができる。
【０５５１】
中側開閉部材Ｋ８２０が左右方向に移動されると、支持部Ｋ８２６に支持されるピニオンＫ８１５の大径ギアＫ８１５ａが下側延設ギアＫ８５５との噛み合いで回転される（図６６において支持部Ｋ８２６が左側に移動する場合には正面視時計回りに回転される）。
【０５５２】
ピニオンＫ８１５の回転により、下側で小径ギアＫ８１５ｂと歯合されているラック部Ｋ８１４が左方へ移動されることになるので、後側開閉部材Ｋ８１０の板状部Ｋ８１１が左方へ移動する。
【０５５３】
この時、大径ギアＫ８１５ａの歯数が２３で形成される一方、小径ギアＫ８１５ｂの歯数が１１で形成されることから、支持部Ｋ８２６の左右方向の移動量の３４／２３倍の移動量で後側開閉部材Ｋ８１０の板状部Ｋ８１１を移動させることができる。
【０５５４】
このように構成することで、基端側スライド部材Ｋ８８０を介する駆動力伝達を、移動量の最も大きい後側開閉部材Ｋ８１０ではなく、中側開閉部材Ｋ８２０に対して行うことが可能となる。
【０５５５】
ここで、移動量の最も大きい後側開閉部材Ｋ８１０に基端側スライド部材Ｋ８８０を介して駆動力を伝達するようにしても第３可動装置Ｋ８０１の開閉動作は実行可能であるところ、この場合、基端側スライド部材Ｋ８８０の移動量を後側開閉部材Ｋ８１０の移動量に合わせて長く設定する必要が生じるので、延設回転部材Ｋ８７４（図６５参照）の長さが過大に必要となり、延設回転部材Ｋ８７４を利用した伝達機構を採用することができなくなる要因となる。
【０５５６】
こうなった場合、回転速度が同じであっても、延設回転部材Ｋ８７４（図６５参照）の姿勢に対応して左右方向の速度が変化するという延設回転部材Ｋ８７４に特有の作用効果を生じさせることができなくなる。
【０５５７】
これに対し、本実施形態では、基端側スライド部材Ｋ８８０を介する駆動力伝達を中側開閉部材Ｋ８２０に対して行う構成を採用した上で、左右方向にスライド移動するピニオンＫ８１５を採用することにより、中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１の移動量よりも後側開閉部材Ｋ８１０の板状部Ｋ８１１の移動量を増大させることで、後側開閉部材Ｋ８１０の移動量を最大としている。
【０５５８】
これにより、板状部Ｋ８１１の移動量は大きく確保したまま、基端側スライド部材Ｋ８８０の移動量は抑えることができるので、延設回転部材Ｋ８７４（図６５参照）の長さが過大となることを防止することができ、延設回転部材Ｋ８７４に特有の作用効果を生じさせることができる。
【０５５９】
図６７、図６８及び図６９は、後層側可動装置Ｋ８００の正面図である。図６７、図６

８及び図６９では、演出待機状態から閉塞状態へ向けて第３可動装置Ｋ８０１の状態が変化する様子が時系列で図示される。

【０５６０】

即ち、図６７では、第３可動装置Ｋ８０１の演出待機状態が図示され（図２７参照）、図６８では、第３可動装置Ｋ８０１の連動切替状態が図示され、図６９では、第３可動装置Ｋ８０１の閉塞状態が図示される（図２８参照）。図６７から図６９では、連動の理解を容易にするために、中側開閉部材Ｋ８２０の突設部Ｋ８２７の配置と、前側開閉部材Ｋ８３０の凹設部Ｋ８３５の配置とが想像線で図示される。

【０５６１】

また、図６７で図示される状態は図６５（ａ）に図示される状態に対応しており、図６８で図示される状態は図６５（ｂ）に図示される状態に対応しており、図６９で図示される状態は図６５（ｃ）に図示される状態に対応している。

【０５６２】

図６７に図示されるように、第３可動装置Ｋ８０１の演出待機状態では、中側開閉部材Ｋ８２０の突設部Ｋ８２７が凹設部Ｋ８３５の左右外側縁部と当接し、前側開閉部材Ｋ８３０の左右内側への移動が規制される。

【０５６３】

板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１が左右内側へ移動する過程（図６６参照）において、図６７に図示される演出待機状態から図６８に図示される連動切替状態までは、突設部Ｋ８２７は凹設部Ｋ８３５の内部を移動し、左右内側縁部と当接することは無い。

【０５６４】

そのため、突設部Ｋ８２７を介する中側開閉部材Ｋ８２０と前側開閉部材Ｋ８３０との間での負荷伝達は生じない。従って、図６７に図示される状態から図６８に図示される状態までにおいて、前側開閉部材Ｋ８３０の板状部Ｋ８３１の配置は維持される。

【０５６５】

また、突設部Ｋ８２７を介する中側開閉部材Ｋ８２０と前側開閉部材Ｋ８３０との間での負荷伝達は生じないので、図６７に図示される演出待機状態から中側開閉部材Ｋ８２０及び後側開閉部材Ｋ８１０を動作させるために要する駆動力を低減させることができる。

【０５６６】

更に、突設部Ｋ８２７を介する中側開閉部材Ｋ８２０と前側開閉部材Ｋ８３０との間での負荷伝達は生じないので、図６７に図示される状態と図６８に図示される状態との間で板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１を往復させる態様で駆動させる場合（中間往復駆動）に駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２（図６１参照）が受ける抵抗を低減させることができ、駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２に蓄積される疲労を低減させることができる。

【０５６７】

板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１が左右内側へ移動する過程（図６６参照）において、図６８に図示される連動切替状態から図６９に図示される閉塞状態までは、突設部Ｋ８２７が凹設部Ｋ８３５の左右内側縁部を押進するように当接するので、板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１の移動に伴って前側開閉部材Ｋ８３０の板状部Ｋ８３１も左右内側へ向けて移動される。

【０５６８】

図６８に図示される連動切替状態は、板状部Ｋ８３１が移動を開始する状態なので、板状部Ｋ８３１の静止摩擦を上回る駆動力を要することになるが、本実施形態では、連動切替状態において、延設回転部材Ｋ８７４の円柱突部Ｋ８７６ａの移動方向が板状部Ｋ８３１の移動方向である左右方向に向くようにされ、力を効率的に伝達することができるよう構成される（図６５（ｂ）参照）。

【０５６９】

これにより、板状部Ｋ８３１の静止摩擦以上の十分な駆動力を板状部Ｋ８３１に伝達することができるので、板状部Ｋ８３１との連動開始時における板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１の移動速度の減少量を抑えることができ、板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１と板状部Ｋ８３１との連動を滑らかに生じさせることができる。

【０５７０】
図６９に図示される閉塞状態から、突設部Ｋ８２７の左右方向外側へ向けた移動が生じた場合、その移動の開始から突設部Ｋ８２７が凹設部Ｋ８３５の内側を移動する間においては、突設部Ｋ８２７から前側開閉部材Ｋ８３０の板状部Ｋ８３１へ向けて駆動力が伝達されることは無く、板状部Ｋ８３１は図６９に図示される配置で維持される。
【０５７１】
従って、図６９に図示される閉塞状態から板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１を左右方向外側へ向けて移動開始させる際には板状部Ｋ８３１からの抵抗を受けないので、板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１の移動に要する駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２（図６１参照）の駆動力を低減することができる。同様のことが、図６７に図示される演出待機状態から板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１を左右方向内側へ向けて移動開始させる際にも言える。
【０５７２】
また、これにより、上述した延設回転部材Ｋ８７４の過回転（図６５（ｃ）参照）による左右方向外側への戻り移動分がギアのバックラッシュに収まらない場合であっても、突設部Ｋ８２７の左右方向外側への移動により板状部Ｋ８３１が左右方向外側へ移動することを回避することができるので、板状部Ｋ８３１の配置を維持することができる。
【０５７３】
図６７に図示される状態から図６８に図示される状態に変化した後、延設回転部材Ｋ８７４の回転方向を変えるように駆動させ、図６７に戻るように駆動制御させることも可能である。
【０５７４】
この場合、図６８に図示される状態に変化するまで継続的に延設回転部材Ｋ８７４に駆動力を伝達させるように制御しても良いし、図６８に図示される状態に変化するよりも前に駆動力の発生を停止させるように制御しても良い。
【０５７５】
後者の場合であっても、延設回転部材Ｋ８７４の自重により図６５（ｂ）に図示される姿勢までは回転が継続され、且つ、図６８に図示される状態で板状部Ｋ８３１の静止摩擦がかけられることから延設回転部材Ｋ８７４を図６５（ｂ）に図示される状態で停止させ易い。
【０５７６】
即ち、延設回転部材Ｋ８７４が図６５（ｂ）に到達する程度の時間を空けて逆方向に駆動させるように制御する（パルス的に駆動力を発生させる）ことで、図３１に図示される状態と図６８に図示される状態とを往復する動作演出を実行することができる。
【０５７７】
以上、詳述したように、第３可動装置Ｋ８０１では、３枚の板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１を連動させる動作態様ながら、その連動のタイプを変えることができる。即ち、動作開始時は板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１のみの連動としながら、動作途中から板状部Ｋ８３１も連動させるように構成される。これにより、動作を複雑化し、演出効果を向上することができる。
【０５７８】
また、第３可動装置Ｋ８０１では、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１を移動終端まで移動させた後で延設回転部材Ｋ８７４が過回転し、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１からの反動による荷重の全てが回転軸に与えられることを避けている。これにより、延設回転部材Ｋ８７４の耐用年数を上げることができる。
【０５７９】
更に、延設回転部材Ｋ８７４の過回転の寸法を、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１の移動が生じない程度に抑えることで、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１の戻り動作による演出効果の低下（板状部Ｋ８１１間に隙間が生じる等の問題）を避けることができる。
【０５８０】

図１１に戻って説明する。本実施形態におけるパチンコ機Ｋ１０では、正面枠Ｋ１４の内側に配設されるガラスユニットＨ１６の上下左右を囲むようにして、表示ランプＫ９００が配設される。

【０５８１】

表示ランプＫ９００は、ガラスユニットＨ１６の上側に横長形状に形成されるトップランプＫ９１０と、ガラスユニットＨ１６の右側に縦長形状に形成される右側サイドランプＫ９２０と、ガラスユニットＨ１６の左側に縦長形状に形成される左側サイドランプＫ９３０と、を備える。

【０５８２】

表示ランプＫ９００は、パチンコ機Ｋ１０にエラーが発生している場合や、賞球の払い出しが生じている場合等に、パチンコ機Ｋ１０の内部状態に対応した機能用表示態様で発光したり、ガラスユニットＨ１６を通して視認される動作ユニットＫ３００（図１３参照）や第３図柄表示装置Ｋ８１（図１２参照）等で行われる演出に対応した演出用表示態様で発光したりするように音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１０参照）に制御される。以下で、パチンコ機Ｋ１０が演出用表示態様で制御される際の一例について説明する。

【０５８３】

図７０（ａ）から図７０（ｆ）及び図７１（ａ）から図７１（ｅ）は、パチンコ機Ｋ１０の模式正面図である。図７０（ａ）から図７０（ｆ）及び図７１（ａ）から図７１（ｅ）では、パチンコ機Ｋ１０で実行される演出制御の一例が時系列で図示される。

【０５８４】

図７０（ａ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１で大当たりに対応した第３図柄が左右に揃った状態（停止していない状態）が表示され、大当たりが示唆されている状態が図示される。この状態において、表示ランプＫ９００は白色で発光され、遊技盤Ｋ１３は、背後からのＬＥＤ等照射により全体的に白色で発光される（白色の発光を第１の網掛けで図示する）。

【０５８５】

ここから、動作ユニットＫ３００及び第３図柄表示装置Ｋ８１における演出動作の後で、第３図柄が停止表示された状態を経て、大当たり遊技が開始される。演出動作の詳細について以下で説明する。

【０５８６】

図７０（ｂ）では、検出センサＫ７１１ｅ（図５９（ｂ）参照）からの出力が変化され、第３図柄表示装置Ｋ８１の正面側に配置される第２可動装置Ｋ７１０が下降配置状態になったと音声ランプ表示装置Ｈ１１３（図１０参照）が判定した後で、第１可動装置Ｋ４０１が落下位置状態に変化した状態が図示される。

【０５８７】

第１可動装置Ｋ４０１の回転装飾部材Ｋ５７８は、移動装置Ｋ５６０が落下動作される前から既に正面視時計回り方向に回転動作されており、第１可動装置Ｋ４０１が落下位置状態に変化した後も回転動作が継続される。

【０５８８】

遊技領域の背面側では、動作ユニットＫ３００側からの発光が抑えられ、遊技盤１３が暗転しているように視認される。表示ランプＫ９００では、遊技者に虹色の光を視認させるように発光態様が制御される（虹色の発光を第２の網掛けで図示する）。これにより、パチンコ機Ｋ１０全体の煌びやかさは維持しながら、遊技者の視線を遊技領域ではなく第３図柄表示装置Ｋ８１の内側へ誘導することができる。

【０５８９】

図７０（ｃ）では、移動装置Ｋ５６０の回転動作が継続される状態で、駆動モータＫＭＴ５１（図４０参照）が正方向に駆動されることで移動装置Ｋ５６０が右方に移動され、右側検出センサＫ５５６ａ（図４０参照）の出力が変化されると、駆動モータＫＭＴ５１の駆動方向が逆方向に反転され、移動装置Ｋ５６０が左方に移動され、左側検出センサＫ５５６ｃ（図４０参照）の出力が変化されると、駆動モータＫＭＴ５１の駆動方向が正方

向に反転され、移動装置Ｋ５６０が右方に移動され、中央検出センサＫ５５６ｂ（図４０参照）の出力が変化されると、駆動モータＫＭＴ５１の駆動が停止される様子が図示される。

【０５９０】

この時、移動装置Ｋ５６０の回転装飾部材Ｋ５７８の回転方向は、移動装置Ｋ５６０が右方に移動している状態では右へ向けて前転する回転方向とされ、移動装置Ｋ５６０が左方に移動している状態では左へ向けて前転する回転方向とされる。これにより、移動装置Ｋ５６０の左右方向のスライド移動と、回転装飾部材Ｋ５７８の回転方向とを対応させて、一体感のある動作演出を実行することができる。

【０５９１】

移動装置Ｋ５６０の電飾基板Ｋ５６４（図４１参照）では、回転装飾部材Ｋ５７８を虹色に発光させるようにＬＥＤの発光色が設計される。なお、電飾基板Ｋ５６４に限らず、ＬＥＤによる光を虹色に視認させるための設計は、ＬＥＤの発光色を予め決めておいて遊技者が虹色に視認可能に発光させるＬＥＤを選択するように設定しても良いし、各ＬＥＤを複数の発光色で発光可能に構成して発光色の切替を遊技者に虹色に視認させ易い順番で行うようにしても良い。

【０５９２】

第３図柄表示装置Ｋ８１では、前側のレイヤーで移動装置Ｋ５６０の位置に対応する位置で移動装置Ｋ５６０の外形よりも若干大きな円形の虹色の渦巻きが表示される。即ち、渦巻きの表示も移動装置Ｋ５６０の左右方向の移動に伴い移動される。更に、後側のレイヤーで表示領域全体に虹色の雲状の表示がされる。

【０５９３】

遊技領域の背面側では、動作ユニットＫ３００側からの発光が抑えられ、遊技盤１３が暗転しているように視認される。表示ランプＫ９００では、遊技者に虹色の光を視認させるように発光態様が制御される。これにより、パチンコ機Ｋ１０全体の煌びやかさは維持しながら、遊技者の視線を遊技領域ではなく第３図柄表示装置Ｋ８１の内側へ誘導することができる。

【０５９４】

図７０（ｄ）では、中央検出センサＫ５５６ｂの出力により移動装置Ｋ５６０が左右方向中央位置に配置されたことが把握されている状態で第１可動装置Ｋ４０１が演出待機状態へ変化された後の状態が図示される。

【０５９５】

第１可動装置Ｋ４０１が演出待機状態へ変化されるまでの間、回転装飾部材Ｋ５７８は正面視時計回り方向の回転が継続される。即ち、第１可動装置Ｋ４０１は、回転装飾部材Ｋ５７８が回転動作されている状態で長尺装置Ｋ５４０及び移動装置Ｋ５６０が上昇される。

【０５９６】

第１可動装置Ｋ４０１が演出待機状態へ変化され、移動装置Ｋ５６０が上側装飾部材Ｋ３３０に隠されると同時に、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２１２（図１５参照）、上側装飾部材Ｋ３３０（図２６参照）の内部の発光基板、左側装飾部材Ｋ３５０（図２６参照）の内部の発光基板および第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図５６参照）から一斉に光が照射される。更に、第３図柄表示装置Ｋ８１では、前側のレイヤーで男性キャラクターが力を溜める様子が表示される。

【０５９７】

図７０（ｅ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１を除く発光が、左右内側へ向けて消灯していく様子が図示される。即ち、右側サイドランプＫ９２０及び左側サイドランプＫ９３０から消灯し始め、次に、トップランプＫ９１０の左右外側、上側装飾部材Ｋ３３０（図２６参照）の内部の発光基板における左右外側、左側装飾部材Ｋ３５０（図２６参照）の内部の発光基板および入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２１２（図１５参照）が消灯し、最後にトップランプＫ９１０の左右内側、上側装飾部材Ｋ３３０（図２６参照）の内部の発

光基板における左右内側および第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図５６参照）が消灯し、第３図柄表示装置Ｋ８１を除いてパチンコ機Ｋ１０が暗く視認される状態が形成される。

【０５９８】

これにより、遊技者の視線を徐々に遊技領域の中央側、即ち、第３図柄表示装置Ｋ８１の中央側へ誘導することができ、この後実行される演出に向けた期待感を上昇させることができる。そして、遊技者の視線を誘導し終えたタイミングで、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示されていた男性キャラクターの溜めた力を開放する動作が表示されており、この直後に第１可動装置Ｋ４０１が演出待機状態から落下位置状態へ変化される。

【０５９９】

図７０（ｆ）では、第１可動装置Ｋ４０１が落下位置状態へ変化された状態で、回転装飾部材Ｋ５７８の回転が維持されている様子が図示される。第１可動装置Ｋ４０１が落下位置状態へ変化されるのと同時に、パチンコ機Ｋ１０は全体的に明るく視認される。

【０６００】

即ち、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２１２（図１５参照）、上側装飾部材Ｋ３３０（図２６参照）の内部の発光基板、左側装飾部材Ｋ３５０（図２６参照）の内部の発光基板および第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図５６参照）から一斉に光が照射される。この光の態様は、白色光でも良いし、虹色でも良いし、白色光から虹色に変化する発光態様でも良い。

【０６０１】

更に、第１可動装置Ｋ４０１においては、電飾基板Ｋ５６４（図４１参照）からの光により回転装飾部材Ｋ５７８が虹色に視認されることに加えて、電飾基板Ｋ５５２（図３９参照）から白色光が照射されることで化粧部材Ｋ５５１も全体的に明るく視認される。

【０６０２】

図７１（ａ）では、第１可動装置Ｋ４０１の移動装置Ｋ５６０が回転装飾部材Ｋ５７８を回転させながら右側途中位置ＫＲ４２（図５４（ｃ）参照）まで移動してから停止した状態が図示される。

【０６０３】

この状態において、遊技領域とその内側の範囲では、回転装飾部材Ｋ５７８のみが電飾基板５６４（図４１参照）からの光で明るく照らされ、その他の電飾基板（入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２１２（図１５参照）、上側装飾部材Ｋ３３０（図２６参照）の内部の発光基板、左側装飾部材Ｋ３５０（図２６参照）の内部の発光基板および第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図５６参照）等）は消灯される。

【０６０４】

第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域では、前側のレイヤーにおいて回転装飾部材Ｋ５７８の周辺に集中させる形状の光が表示され、後側のレイヤーが黒背景で表示されることで、回転装飾部材Ｋ５７８に注目させる演出が実行される。

【０６０５】

図７１（ｂ）では、第１可動装置Ｋ４０１の移動装置Ｋ５６０が回転装飾部材Ｋ５７８を回転させながら左側途中位置ＫＬ４３（図５４（ｄ）参照）まで移動してから停止した状態が図示される。

【０６０６】

この動作の過程で、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において黒背景から白背景に表示が変化されることに合わせて、第３可動装置Ｋ８０１が演出待機状態から閉塞状態へ変化される。これにより、遊技領域よりも内側における視界が明るくされる。

【０６０７】

図７１（ｃ）では、第１可動装置Ｋ４０１の被検出板部Ｋ５７１ａ（図４１参照）が中央検出センサＫ５５６ｂ（図４０参照）の検出溝から出たと、中央検出センサＫ５５６ｂの出力の変化から音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１０参照）に判定された場合において、第２可動装置Ｋ７０１が下降配置状態から演出待機状態へ変化させた状態が図示される

。
【０６０８】
この状態において、第３図柄表示装置Ｋ８１では第３可動装置Ｋ８０１の板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１に施された装飾（図７１（ｂ）中に「Ｓ」字の装飾として図示）を強調する表示が実行され、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１を通して表示が遊技者に視認されることで、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１のみが視認される場合とは異なる態様で視認される。
【０６０９】
図７１（ｃ）に図示される状態において、遊技者に対して、「ＳＦＭＥ」（ＳｉｅｎｃｅＦｉｃｔｉｏｎＭｙＥｎｅｒｇｙの頭文字を想定）との文字の羅列からなる一連の演出表示を視認させることができる。なお、本実施形態では例としてローマ字の羅列による一連の表示として説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、仮名文字や漢字の羅列でも良いし、イラストや形状による羅列でもいい。
【０６１０】
また、図７１（ｂ）から図７１（ｃ）に変化する過程において、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２１２（図１５参照）、上側装飾部材Ｋ３３０（図２６参照）の内部の発光基板、左側装飾部材Ｋ３５０（図２６参照）の内部の発光基板および第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図５６参照）から一斉に白色光が照射される。更に、第１可動装置Ｋ４０１においては、電飾基板Ｋ５６４（図４１参照）からの光により回転装飾部材Ｋ５７８が明るく視認されることに加えて、電飾基板Ｋ５５２（図３９参照）から白色光が照射されることで化粧部材Ｋ５５１も全体的に明るく視認される。
【０６１１】
更に、図７１（ｃ）に変化した後（第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態へ変化され各可動装置が停止した後）において、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１に施された上記装飾に対応する第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域で虹色に表示される。それに加えて、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２１２（図１５参照）、上側装飾部材Ｋ３３０（図２６参照）の内部の発光基板、左側装飾部材Ｋ３５０（図２６参照）の内部の発光基板および第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図５６参照）及び第１可動装置Ｋ４０１の電飾基板Ｋ５６４（図４１参照）からの光により、パチンコ機Ｋ１０が全体で虹色を形成するように発光される。
【０６１２】
このように、各可動装置が停止する前と停止した後とで、発光態様を統一的に変化させることで、遊技者に対して、各可動装置が移動中である期間と、各可動装置の移動が停止された後とを区別し易くすることができるので、遊技者の遊技負担を低減させることができる。
【０６１３】
図７１（ｄ）では、パチンコ機Ｋ１０が全体で虹色を形成するように発光される状態は維持されたままで、回転装飾部材Ｋ５７８が回転されながら移動装置Ｋ５６０が左右中央位置まで到達した状態が図示される。回転装飾部材Ｋ５７８の回転は、移動装置Ｋ５６０が左右中央に到達した後も継続される。
【０６１４】
図７１（ｅ）では、第１可動装置Ｋ４０１が演出待機状態への変化を開始する（上昇移動する）のに合わせて第３可動装置Ｋ８０１が閉塞状態から演出待機状態へ向けて変化される。第３可動装置Ｋ８０１の状態が変化されるのに合わせて、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示は、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１に施された装飾を強調する表示から第３図柄が左右に揃った状態の表示に切り替えられる。
【０６１５】
即ち、第３図柄表示装置Ｋ８１の前側のレイヤーで板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１に施された装飾を強調する表示が板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１の移動に追従するように移動されるように表示され、後側のレイヤーで第３図柄が左右に揃った後、停止

表示される様子が表示される。即ち、図７１（ｅ）に図示されるように停止図柄が第３図柄表示装置Ｋ８１に表示され、大当たりの発生が示された後で、大当たり遊技が開始される。

【０６１６】

第３図柄が表示されてから停止表示されるまでの間に、第１可動装置Ｋ４０１の検出センサＫ４１８（図３５参照）の出力が変化され、昇降装置Ｋ５００が演出待機状態における高さに配置されていることが音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１０参照）に判定され、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態に変化させるように制御される。

【０６１７】

なお、上記演出制御の一例では、各可動装置（第１可動装置Ｋ４０１、第２可動装置Ｋ７０１及び第３可動装置Ｋ８０１）で視認させる内容と、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域で視認させる内容とを異なるものとして説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面に各可動装置が配置される際の視認態様と同様の視認態様で遊技者に視認させるように、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域に各可動装置の形状や模様の表示（動画表示、静止画表示）を行うことができるよう構成しても良い。

【０６１８】

正面視であれば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面に各可動装置が配置される場合と、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域に各可動装置（第１可動装置Ｋ４０１、第２可動装置Ｋ７０１及び第３可動装置Ｋ８０１）の形状や模様が表示される場合とで、視認態様を似せることができる。この場合、各可動装置のいずれかが故障して動かなくなった場合であっても、故障した各可動装置に対応する表示で補うことにより、演出効果の低下を最小限に抑えることができる。

【０６１９】

第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域に各可動装置（第１可動装置Ｋ４０１、第２可動装置Ｋ７０１及び第３可動装置Ｋ８０１）に対応する表示を行う表示態様は、なにも各可動装置が故障した時にのみ実行されるものに限られるものではない。例えば、実行される演出に対応して、各可動装置が動作される場合と、各可動装置の動作は行われずに、各可動装置に対応する表示が第３図柄表示装置Ｋ８１で行われる場合とが生じるようにしても良い。

【０６２０】

この場合において、各可動装置（第１可動装置Ｋ４０１、第２可動装置Ｋ７０１及び第３可動装置Ｋ８０１）を動作させない場合において、各可動装置の電飾（第１可動装置Ｋ４０１の電飾基板Ｋ５６４（図４１参照）や、第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図５６参照））の発光をオフにしたり、目隠しとなる部材の背面側に隠したりすることで、遊技者の視線を第３図柄表示装置Ｋ８１で行われる各可動装置に対応する表示に誘導し易くすることができる。

【０６２１】

また、各可動装置（第１可動装置Ｋ４０１、第２可動装置Ｋ７０１及び第３可動装置Ｋ８０１）に対応する表示が第３図柄表示装置Ｋ８１で行われる場合としては、各可動装置自体を表示する場合に限られるものではない。例えば、第１可動装置Ｋ４０１において、回転装飾部材Ｋ５７８に対応する位置が白抜きされ、正面視で回転装飾部材Ｋ５７８の外方に対応する位置に表示を行うことで、表示を回転装飾部材Ｋ５７８の移動に対応させるようにしても良い。

【０６２２】

この場合において、例えば、長尺装置Ｋ５４０（図５４参照）を光透過性の樹脂材料から構成し長尺装置Ｋ５４０を通して第３図柄表示装置Ｋ８１の表示が視認可能に構成されていると、あたかも、回転装飾部材Ｋ５７８が第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域に浮いているかのように視認させることができる。

【０６２３】

この場合において、更に第１可動装置Ｋ４０１が故障で動作しなくなった場合には、回転装飾部材Ｋ５７８に対応する位置として白抜きされていた位置に、回転装飾部材Ｋ５７８の形状や模様を表示することで、第１可動装置Ｋ４０１の動作に基づく視認態様と似た視認態様を表示による実行することができるので、遊技者に対して違和感を与え難くすることができる。

【０６２４】

また、移動により第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側に配置される第１可動装置Ｋ４０１や第３可動装置Ｋ８０１では問題とならないが、移動により第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側に一部しか配置されない第２可動装置Ｋ７０１については、第３図柄表示装置Ｋ８１と重なる配置における表示態様のみを設定するようにしても良いし、第３図柄表示装置Ｋ８１の枠の下縁を、正面視における演出待機状態（又は上昇配置状態）の第２可動装置Ｋ７０１と重なる位置にまで下げるようにして表示領域を広げるようにしても良い。

【０６２５】

この場合において、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域おける第２可動装置Ｋ７０１の配置可能位置と同じ位置（表示領域の下側範囲）に、第２可動装置Ｋ７０１の形状や模様を表示するようにすることで、第２可動装置Ｋ７０１を動作させずとも、第２可動装置Ｋ７０１が動作しているかのように視認させることができる。

【０６２６】

この場合において、第２可動装置Ｋ７０１が故障して動作不可能となった場合には、第２可動装置Ｋ７０１を下降配置状態に維持して、電飾基板Ｋ７６１ａ（図５６参照）を消灯しておくことで、第２可動装置Ｋ７０１の動作で実現されていた演出効果は第３図柄表示装置Ｋ８１の表示により補うようにし、且つ、第２可動装置Ｋ７０１については目立たせなくすることで、取り外しなどの修理作業を省略することができる。

【０６２７】

図７２から図７７を参照して、第３実施形態について説明する。第２実施形態では、ベース板Ｋ６０の背面側に形成される形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄの内側が空間として機能する場合を説明したが、第３実施形態では、ベース板Ｋ２０６０の第１形成凹部Ｋ６０ａ及び第２形成凹部Ｋ６０ｂの内側に光照射装置Ｋ２１００が配設される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【０６２８】

図７２は、第３実施形態におけるベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ２１００の背面図であり、図７３は、ベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ２１００の背面斜視図である。図７２及び図７３に図示されるように、光照射装置Ｋ２１００は、遊技領域を形成する領域の背面側におけるベース板Ｋ２０６０の厚み寸法内で収まるように第１形成凹部Ｋ６０ａ及び第２形成凹部Ｋ６０ｂに配設されている。

【０６２９】

これにより、ベース板Ｋ２０６０の背面側に配設される動作ユニットＫ３００（図１３参照）の配置位置が光照射装置Ｋ２１００により制限されることを回避することができる。換言すれば、光照射装置Ｋ２１００の有無に関係なく、動作ユニットＫ３００の配置をベース板Ｋ２０６０に寄せることができる。

【０６３０】

また、光照射装置Ｋ２１００がベース板Ｋ２０６０の正面側に形成される遊技領域の後方領域の外方に配設されていることから、遊技領域後方の視認性が光照射装置Ｋ２１００により低下されたり、視線が遮断されたりすることを防止することができる。即ち、光照射装置Ｋ２１００の有無に関わらず、遊技者は、ベース板Ｋ２０６０を透視して背面側の動作ユニットＫ３００（図１３参照）を容易に視認することができる。

【０６３１】

ベース板Ｋ２０６０は、形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄの遊技領域側の縁部を構成すると共に遊技領域を形成する領域の外形の後方に位置する外形傾斜部Ｋ２０６０ｅと、環状に

形成される遊技領域の内側位置において、背面側へ向かうにつれて内形が拡大する方向の傾斜面が全周において形成される傾斜開口部Ｋ２０６０ｗを備える。

【０６３２】

本実施形態では、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅは、形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄの凹設先端側（前側）における形状よりも、ベース板Ｋ２０６０の後端側における形状の方が一回り小さくされ、ベース板Ｋ２０６０を横断した場合の断面形状においてベース板Ｋ２０６０の後側面に対する傾斜角度が約４５度となるように形成される。

【０６３３】

また、傾斜開口部Ｋ２０６０は、ベース板Ｋ２０６０の前端側における形状よりも、ベース板Ｋ２０６０の後端側における形状の方が一回り大きくされ、ベース板Ｋ２０６０を横断した場合の断面形状においてベース板Ｋ２０６０の前側面に対する傾斜角度が約４５度となるように形成される。

【０６３４】

図７４は、ベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ２１００の分解背面斜視図であり、図７５は、ベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ２１００の分解正面斜視図である。

【０６３５】

光照射装置Ｋ２１００は、ＬＥＤ等からなる複数の発光手段Ｋ２１１１が配設される電飾基板Ｋ２１１０と、その電飾基板Ｋ２１１０が締結固定される部材であり、光透過性の樹脂材料から形成されベース板Ｋ２０６０に締結固定される中間部材Ｋ２１２０と、を備える。

【０６３６】

光照射装置Ｋ２１００は、共通の構成で共通の機能を有する部材の組が左右一対で配置されているので、右側の電飾基板Ｋ２１１０及び中間部材Ｋ２１２０の組について説明を行い、左側の電飾基板Ｋ２１１０及び中間部材Ｋ２１２０の組については説明を省略する。

【０６３７】

電飾基板Ｋ２１１０の正面視外形形状は、ベース板Ｋ２０６０の第２形成凹部Ｋ６０ｂに収まるように形状が設計されており、遊技領域の外縁に対応する円弧形状に沿って複数の発光手段Ｋ２１１１が間隔を空けて配置されている。

【０６３８】

中間部材Ｋ２１２０の正面視外形形状は、電飾基板Ｋ２１１０と同様にベース板Ｋ２０６０の第２形成凹部Ｋ６０ｂに収まるように形状が設計されており、遊技領域の外縁に対応する円弧形状部側において、発光手段Ｋ２１１１の前方の領域を含むようにライン状に傾斜面Ｋ２１２１が形成される。

【０６３９】

傾斜面Ｋ２１２１は、背面側ほど円弧形状の径が大きくなる方向で傾斜形成され、傾斜の角度が略４５度となるように設計されている。

【０６４０】

本実施形態では、ベース板Ｋ２０６０の形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄの凹設端面、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅ、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗ及び中間部材Ｋ２１２０の傾斜面Ｋ２１２１に、無数の凹凸から形成されるシボ加工が施される。

【０６４１】

図７６は、図７２のＸ０３ｍ－Ｘ０３ｍ線におけるベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ２１００の部分断面図である。図７６では、一の発光手段Ｋ２１１１の中心を通ると共に外形傾斜部Ｋ２０６０ｅの円弧と直角に交差する平面で断面視された形状が図示される。

【０６４２】

また、図７６では、一の発光手段Ｋ２１１１から前方へ向けて照射される光の視認態様の違いが生じる原因となる、３段階で異なる位置を進行する進行方向ＫＬＤ２１～ＫＬＤ２３について図示される。

【０６４３】
図７６に図示されるように、一の発光手段Ｋ２１１１から前方へ向けて照射される光の内、中間部材Ｋ２１２０の傾斜面Ｋ２１２１を透過する光は進行方向ＫＬＤ２１で進行するので、遊技者は遊技領域の外縁の後方に対応する外形傾斜部Ｋ２０６０ｅよりも若干外側の位置を明るく視認することができる。
【０６４４】
傾斜面Ｋ２１２１及び第２形成凹部Ｋ６０ｂの凹設端面には上述のようにシボ加工が形成されており、光が拡散されるので、発光手段Ｋ２１１１の配置間隔に依存した点在する光ではなく、傾斜面Ｋ２１２１の形状に合うライン状の光として光を視認させることができる。これにより、遊技領域の外縁の若干外側を明るく視認させることができる。
【０６４５】
図７６に図示されるように、一の発光手段Ｋ２１１１から前方へ向けて照射される光の内、中間部材Ｋ２１２０の傾斜面Ｋ２１２１で反射された後、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅで屈折された光は進行方向ＫＬＤ２２で進行するので、遊技者は、ベース板Ｋ２０６０の前面において、遊技領域の外縁の後方に位置する外形傾斜部Ｋ２０６０ｅに対応する位置を明るく視認することができる。
【０６４６】
外形傾斜部Ｋ２０６０ｅには上述のようにシボ加工が形成されており、光が拡散されるので、発光手段Ｋ２１１１の配置間隔に依存した点在する光ではなく、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅの形状に合うライン状の光として光を視認させることができる。これにより、遊技領域の外縁付近を明るく視認させることができる。
【０６４７】
図７６に図示されるように、一の発光手段Ｋ２１１１から前方へ向けて照射される光の内、中間部材Ｋ２１２０の傾斜面Ｋ２１２１で反射された後、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅを透過し、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗで反射された光は進行方向ＫＬＤ２３で進行するので、遊技者は、ベース板Ｋ２０６０の前面において、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの縁部に対応する位置（センターフレームＫ８６（図１４参照）の配置に対応する位置）を明るく視認することができる。
【０６４８】
傾斜開口部Ｋ２０６０ｗには上述のようにシボ加工が形成されており、光が拡散されるので、発光手段Ｋ２１１１の配置間隔に依存した点在する光ではなく、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの形状に合うライン状の光として光を視認させることができる。これにより、遊技領域の中央部において遊技領域を区画するセンターフレームＫ８６の外縁部を明るく視認させることができる。
【０６４９】
図７６に図示されるように、本実施形態によれば、電飾基板Ｋ２１１０を遊技領域の外方に配置しながら、電飾基板Ｋ２１１０の発光手段Ｋ２１１１からの光を遊技領域の外縁の若干外側、遊技領域の外縁付近およびセンターフレームＫ８６（図１４参照）の外縁部を通して遊技者に視認させることができるので、ベース板Ｋ２０６０を広範囲で明るく視認させることができる。
【０６５０】
このように、ベース板Ｋ２０６０を広範囲で明るく視認させるために発光手段Ｋ２１１１を構成することで、発光手段Ｋ２１１１の配置スペースを低減できるので電飾基板Ｋ２１１０の小形化を図ることができる。
【０６５１】
また、図７６に図示されるように、光照射装置Ｋ２１００がベース板Ｋ２０６０の板厚に収まる位置（光照射装置Ｋ２１００の後端面がベース板Ｋ２０６０の板状部の後端面と面一）とされていることで、ベース板Ｋ２０６０の背面側に配設される動作ユニットＫ３００（図１３参照）の配置自由度を向上させることができる。即ち、ベース板Ｋ２０６０の板状部の後端面に密着する態様で動作ユニットＫ３００を配置したとしても、光照射装

置Ｋ２１００を配設することが可能であり、ベース板Ｋ２０６０を明るく視認させることができる。

【０６５２】

図７６に図示されるように、発光手段Ｋ２１１１からの光が遊技領域を通過する前に上下左右方向に進行する場合、その光の進行はベース板Ｋ２０６０の前端面よりも後側において生じる。即ち、上下左右方向に進行する範囲において、光は遊技領域を通過しないので、上下左右方向に進行する範囲において光が遊技領域に位置する球に遮られる事態は生じない。

【０６５３】

そのため、遊技領域における球の配置状況によって、進行方向ＫＬＤ２１～ＫＬＤ２３の光の量が変化することを回避することができるので、遊技領域の外方から遊技領域の内側へ向けて光を進行させる構成を採用しながら、弾球遊技中において球に光が遮蔽されてベース板Ｋ２０６０の明るさが低下するといった事態を回避することができる。

【０６５４】

なお、光照射装置Ｋ２１００の配設位置は、第１形成凹部Ｋ６０ａや第２形成凹部Ｋ６０ｂに限定されるものではなく、第３形成凹部Ｋ６０ｃに配設するようにしても良い。この場合、一般入賞口Ｋ６３（図１４参照）に入球した球の流下経路に発光手段Ｋ２１１１からの光が進入し得るので、一般入賞口Ｋ６３に球が入球した場合、その球により光が遮断される。

【０６５５】

この球による遮断の作用は、遊技領域の中央側へ進行する光の見え方に影響を与えることになる。即ち、発光手段Ｋ２１１１から照射され傾斜開口部Ｋ２０６０ｗまで進行する光が、一般入賞口Ｋ６３に球が入球した場合に、その球に遮断されることで傾斜開口部Ｋ２０６０ｗに届かなくなる。

【０６５６】

これにより、一般入賞口Ｋ６３への入球と、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの視認態様とが対応するので、遊技者は、一般入賞口Ｋ６３を視認せずとも、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗを視認しておくことで、一般入賞口Ｋ６３への入球を把握することができる。

【０６５７】

この場合、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗは第３図柄表示装置Ｋ８１（図１２参照）の前方の開口を縁取るセンターフレームＫ８６（図１２参照）に対応する位置にあるので、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗで反射される光を視認可能な視界としておくことで、一般入賞口Ｋ６３への入球の有無を把握しながら、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における表示演出を楽しんで視認することができる。

【０６５８】

なお、実際は、ベース板Ｋ２０６０で屈折したり、反射したりする関係上、発光手段Ｋ２１１１からの光の進行方向は屈折し得るが、図７６においては、発光手段Ｋ２１１１からの光の進行方向は、理解を容易とするために上下左右方向で模式的に記載した。

【０６５９】

図７７は、パチンコ機Ｋ１０の模式正面図である。図７７では、パチンコ機Ｋ１０にベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ２１００を配設した場合における、視認態様が図示される。

【０６６０】

図７７に図示されるように、ベース板Ｋ２０６０の背面側に配設される光照射装置Ｋ２１００からの光が傾斜開口部Ｋ２０６０ｗを介してセンターフレームＫ８６に照射される。これにより、センターフレームＫ８６を明るく照らすことができる。

【０６６１】

この時、動作ユニットＫ３００に配設される電飾基板や発光基板に配設されるＬＥＤを消灯させた状態で、光照射装置Ｋ２１００からは光を照射させることで、センターフレームＫ８６を目立たせることができ、その内側に配置される第３図柄表示装置Ｈ８１に注目

させることができる。
【０６６２】
　また、センターフレームＫ８６は、上側装飾部材Ｋ３３０よりも前側に配置されているので、上側装飾部材Ｋ３３０の内部に配設される発光基板のＬＥＤを点灯させた状態で光照射手段Ｋ２１００から光を照射させることで、正面視において、発光される上側装飾部材Ｋ３３０がセンターフレームＫ８６に沿って視認される光により分断されているように見せることができる。
【０６６３】
　図７８から図８０を参照して、第４実施形態について説明する。第２実施形態では、ベース板Ｋ６０の背面側に形成される形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄの内側が空間として機能する場合を説明したが、第４実施形態では、ベース板Ｋ２０６０の第１形成凹部Ｋ６０ａ及び第２形成凹部Ｋ６０ｂの内側に光照射装置Ｋ３１００が配設される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【０６６４】
　図７８は、第４実施形態におけるベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ３１００の分解背面斜視図であり、図７９は、ベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ３１００の分解正面斜視図である。
【０６６５】
　光照射装置Ｋ３１００は、ＬＥＤ等からなる複数の発光手段Ｋ３１１１が配設される電飾基板Ｋ３１１０と、その電飾基板Ｋ３１１０が締結固定される部材であり、光透過性の樹脂材料から形成されベース板Ｋ２０６０に締結固定される中間部材Ｋ３１２０と、を備える。
【０６６６】
　光照射装置Ｋ３１００は、共通の構成で共通の機能を有する部材の組が左右一対で配置されているので、右側の電飾基板Ｋ３１１０及び中間部材Ｋ３１２０の組について説明を行い、左側の電飾基板Ｋ３１１０及び中間部材Ｋ３１２０の組については説明を省略する。
【０６６７】
　電飾基板Ｋ３１１０の正面視外形形状は、ベース板Ｋ２０６０の第２形成凹部Ｋ６０ｂに収まるように形状が設計されており、遊技領域の外縁に対応する円弧形状に沿って複数の発光手段Ｋ３１１１が間隔を空けて配置されている。
【０６６８】
　中間部材Ｋ３１２０は、正面視外形形状が電飾基板Ｋ３１１０と同様にベース板Ｋ２０６０の第２形成凹部Ｋ６０ｂに収まるように設計されており、発光手段Ｋ３１１１の前方において、遊技領域の外縁に対応する円弧形状の中心側に開放側が向くＵ字形状に穿設される複数の開口部Ｋ３１２１と、その開口部Ｋ３１２１のＵ字形状の内側の構成部においてＵ字形状の凹端部へ向かうにつれて背面側へ傾斜するように形成される複数の傾斜面Ｋ３１２２と、を備える。
【０６６９】
　傾斜面Ｋ３１２２は、中間部材Ｋ３１２０の遊技領域側の円弧と直交する方向で対向配置される開口部Ｋ３１２１の壁部との間隔が背面側へ向かう程狭くなる方向で傾斜形成され、傾斜の角度が略４５度となるように設計されている。
【０６７０】
　本実施形態では、ベース板Ｋ２０６０の形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄの凹設端面、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅ及び傾斜開口部Ｋ２０６０ｗに、無数の凹凸から形成されるシボ加工が施される。
【０６７１】
　図８０は、図７２のＸ０３ｍ－Ｘ０３ｍ線に対応する線におけるベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ３１００の部分断面図である。図８０では、一の発光手段Ｋ３１１１の中心を通ると共に外形傾斜部Ｋ２０６０ｅの円弧と直角に交差する平面で断面視された形状

が図示される。
【０６７２】
図８０に図示されるように、光照射装置Ｋ３１００は、遊技領域を形成する領域の背面側におけるベース板Ｋ２０６０の厚み寸法内で収まるように第１形成凹部Ｋ６０ａ及び第２形成凹部Ｋ６０ｂに配設されている。
【０６７３】
また、図８０では、一の発光手段Ｋ３１１１から前方へ向けて照射される光の視認態様の違いが生じる原因となる、３段階で異なる位置を進行する進行方向ＫＬＤ３１～ＫＬＤ３３について図示される。
【０６７４】
図８０に図示されるように、一の発光手段Ｋ３１１１から前方へ向けて照射される光の内、中間部材Ｋ３１２０の傾斜面Ｋ３１２２を透過する光は進行方向ＫＬＤ３１で進行するので、遊技者は遊技領域の外縁の後方に対応する外形傾斜部Ｋ２０６０ｅよりも若干外側の位置を明るく視認することができる。
【０６７５】
第２形成凹部Ｋ６０ｂの凹設端面には上述のようにシボ加工が形成されており、光が拡散されるが、開口部Ｋ３１２１で空間が閉じられていることにより光の拡散が開口部Ｋ３１２１内で抑制される。これにより、発光手段Ｋ３１１１の配置に対応した光であって、開口部Ｋ３１２１の大きさに拡大された点在光として光を視認させることができる。これにより、遊技領域の外縁の若干外側を明るく視認させることができる。
【０６７６】
図８０に図示されるように、一の発光手段Ｋ３１１１から前方へ向けて照射される光の内、中間部材Ｋ３１２０の傾斜面Ｋ３１２２で反射された後、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅで屈折された光は進行方向ＫＬＤ３２で進行するので、遊技者は、ベース板Ｋ２０６０の前面において、遊技領域の外縁の後方に位置する外形傾斜部Ｋ２０６０ｅに対応する位置を明るく視認することができる。
【０６７７】
外形傾斜部Ｋ２０６０ｅには上述のようにシボ加工が形成されており、光が拡散されるので、発光手段Ｋ３１１１の配置間隔に依存した点在する光ではなく、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅの形状に合うライン状の光として光を視認させることができる。これにより、遊技領域の外縁付近を明るく視認させることができる。
【０６７８】
図８０に図示されるように、一の発光手段Ｋ３１１１から前方へ向けて照射される光の内、中間部材Ｋ３１２０の傾斜面Ｋ３１２２で反射された後、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅを透過し、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗで反射された光は進行方向ＫＬＤ３３で進行するので、遊技者は、ベース板Ｋ２０６０の前面において、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの縁部に対応する位置（センターフレームＫ８６（図１４参照）の配置に対応する位置）を明るく視認することができる。
【０６７９】
傾斜開口部Ｋ２０６０ｗには上述のようにシボ加工が形成されており、光が拡散されるので、発光手段Ｋ３１１１の配置間隔に依存した点在する光ではなく、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの形状に合うライン状の光として光を視認させることができる。これにより、遊技領域の中央部において遊技領域を区画するセンターフレームＫ８６の外縁部を明るく視認させることができる。
【０６８０】
図８０に図示されるように、本実施形態によれば、電飾基板Ｋ３１１０を遊技領域の外方に配置しながら、電飾基板Ｋ３１１０の発光手段Ｋ３１１１からの光を遊技領域の外縁の若干外側、遊技領域の外縁付近およびセンターフレームＫ８６（図１４参照）の外縁部を通して遊技者に視認させることができるので、ベース板Ｋ２０６０を広範囲で明るく視認させることができる。

【０６８１】
このように、ベース板Ｋ２０６０を広範囲で明るく視認させるために発光手段Ｋ３１１１を構成することで、発光手段Ｋ３１１１の配置スペースを低減できるので電飾基板Ｋ３１１０の小形化を図ることができる。
【０６８２】
また、図８０に図示されるように、光照射装置Ｋ３１００がベース板Ｋ２０６０の板厚に収まる位置（光照射装置Ｋ３１００の後端面がベース板Ｋ２０６０の板状部の後端面と面一）とされていることで、ベース板Ｋ２０６０の背面側に配設される動作ユニットＫ３００（図１３参照）の配置自由度を向上させることができる。即ち、ベース板Ｋ２０６０の板状部の後端面に密着する態様で動作ユニットＫ３００を配置したとしても、光照射装置Ｋ３１００を配設することが可能であり、ベース板Ｋ２０６０を明るく視認させることができる。
【０６８３】
図８０に図示されるように、発光手段Ｋ３１１１からの光が遊技領域を通過する前に上下左右方向に進行する場合、その光の進行はベース板Ｋ２０６０の前端面よりも後側において生じる。即ち、上下左右方向に進行する範囲において、光は遊技領域を通過しないので、上下左右方向に進行する範囲において光が遊技領域に位置する球に遮られる事態は生じない。
【０６８４】
そのため、遊技領域における球の配置状況によって、進行方向ＫＬＤ３１～ＫＬＤ３３の光の量が変化することを回避することができるので、遊技領域の外方から遊技領域の内側へ向けて光を進行させる構成を採用しながら、弾球遊技中において球に光が遮蔽されてベース板Ｋ２０６０の明るさが低下するといった事態を回避することができる。
【０６８５】
なお、光照射装置Ｋ３１００の配設位置は、第１形成凹部Ｋ６０ａや第２形成凹部Ｋ６０ｂに限定されるものではなく、第３形成凹部Ｋ６０ｃに配設するようにしても良い。この場合、一般入賞口Ｋ６３（図１４参照）に入球した球の流下経路に発光手段Ｋ３１１１からの光が進入し得るので、一般入賞口Ｋ６３に球が入球した場合、その球により光が遮断される。
【０６８６】
この球による遮断の作用は、遊技領域の中央側へ進行する光の見え方に影響を与えることになる。即ち、発光手段Ｋ３１１１から照射され傾斜開口部Ｋ２０６０ｗまで進行する光が、一般入賞口Ｋ６３に球が入球した場合に、その球に遮断されることで傾斜開口部Ｋ２０６０ｗに届かなくなる。
【０６８７】
これにより、一般入賞口Ｋ６３への入球と、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの視認態様とが対応するので、遊技者は、一般入賞口Ｋ６３を視認せずとも、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗを視認しておくことで、一般入賞口Ｋ６３への入球を把握することができる。
【０６８８】
この場合、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗは第３図柄表示装置Ｋ８１（図１２参照）の前方の開口を縁取るセンターフレームＫ８６（図１２参照）に対応する位置にあるので、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗで反射される光を視認可能な視界としておくことで、一般入賞口Ｋ６３への入球の有無を把握しながら、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における表示演出を楽しんで視認することができる。
【０６８９】
なお、実際は、ベース板Ｋ２０６０で屈折したり、反射したりする関係上、発光手段Ｋ２１１１からの光の進行方向は屈折し得るが、図７６においては、発光手段Ｋ２１１１からの光の進行方向は、理解を容易とするために上下左右方向で模式的に記載した。
【０６９０】
図８１から図１０８を参照して、第５実施形態について説明する。上記各実施形態では

、移動装置Ｋ５６０の回転装飾部材Ｋ５７８の前面に装飾が施されている場合を説明したが、第５実施形態では、移動装置Ｋ４５６０の前面側に表示が可能な小型の表示装置Ｋ４５８０が移動装置Ｋ４５６０に設けられている。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【０６９１】

図８１は、第５実施形態における動作ユニットＫ４３００の正面図である。図８１に図示されるように、動作ユニットＫ４３００では、移動装置Ｋ４５６０の略中央部に表示装置Ｋ４５８０が配設される。

【０６９２】

表示装置Ｋ４５８０は、正面側に表示面が向けられた小形の液晶ディスプレイで構成されており、その周囲には内側の縁部が表示装置Ｋ４５８０の表示領域を囲むように略円形状から形成される回転装飾部材Ｋ４５７８が設けられている。

【０６９３】

回転装飾部材Ｋ４５７８は、正面視における外形が略四角形とされ、その内側に開口が形成されており、その開口の内側縁部が表示装置Ｋ４５８０の表示領域を囲むように形成されることにより、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の枠を構成する。

【０６９４】

移動装置Ｋ４５６０の背面側には駆動モータＫＭＴ４０６１が配設されており、駆動モータＫＭＴの駆動力が不図示の伝達機構を介して伝達されることで、回転装飾部材Ｋ４５７８が正逆方向に回転可能に構成される。

【０６９５】

回転装飾部材Ｋ４５７８は、前後方向に開口される視認窓部Ｋ４５７８ａを備える。視認窓部Ｋ４５７８ａは、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転中心から放射線状に延びる２本の直線と、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転中心と同軸の円弧として形成される２本の湾曲線とにより囲まれる略扇形状に形成される。

【０６９６】

視認窓部Ｋ４５７８ａは、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を囲う枠部Ｋ４５８１（即ち、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の外側端部を形成する部分）よりも正面視内側に形成されている。そのため、視認窓部Ｋ４５７８ａを通して、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における表示を視認させることができる。

【０６９７】

図８２（ａ）、図８２（ｂ）、図８２（ｃ）及び図８２（ｄ）は、移動装置Ｋ４５６０の正面図である。図８２（ａ）、図８２（ｂ）、図８２（ｃ）及び図８２（ｄ）では、移動装置Ｋ４５６０の視認態様の変化の一例が時系列で図示される。

【０６９８】

図８２（ａ）では、第１の演出制御例および第２の演出制御例における移動装置Ｋ４５６０の回転装飾部材Ｋ４５７８の動作パターンが時系列で図示される。図８２（ａ）に図示されるように、まず第１の演出制御例では、回転装飾部材Ｋ４５７８は、視認窓部Ｋ４５７８ａが回転軸の上方に配置される状態（上から１番目に図示される状態）から、時計回りに約９０度回転されることで視認窓部Ｋ４５７８が回転軸の右方に配置される状態に変化され（上から２番目に図示される状態）、続けて反時計回りに約９０度回転されることで視認窓部Ｋ４５７８が回転軸の上方に配置される状態に戻る（上から１番目に図示される状態に相当）ことで、第１の演出制御例が終了される。

【０６９９】

次に、第２の演出制御例では、回転装飾部材Ｋ４５７８は、視認窓部Ｋ４５７８ａが回転軸の上方に配置される状態（上から１番目に図示される状態）から、反時計回りに約９０度回転されることで視認窓部Ｋ４５７８が回転軸の左方に配置される状態に変化され（上から３番目に図示される状態）、続けて時計回りに約９０度回転されることで視認窓部Ｋ４５７８が回転軸の上方に配置される状態に戻る（上から４番目に図示される状態に相当）ことで、第２の演出制御例が終了される。

【０７００】
図８２（ａ）では、説明の便宜上、第１の演出制御例と第２の演出制御例とを繋げて説明したが、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作制御としてはこれに限られるものではない。例えば、第１の演出制御例または第２の演出制御例で繰り返し回転動作されるような状態を構成可能にしても良いし、第２の演出制御例から第１の演出制御例につながるように回転動作されるような状態を構成可能にしても良いし、第１の演出制御例と第２の演出制御例とが交互に連続で実行されるような状態を構成可能にしても良い。
【０７０１】
図８２（ｂ）では、第１の演出制御例および第２の演出制御例における移動装置Ｋ４５６０の第１の視認態様が図示される。図８２（ｂ）に図示されるように、第１の演出制御例および第２の演出制御例の第１の視認態様では、視認窓部Ｋ４５７８ａが回転軸の右方に配置された状態において視認窓部Ｋ４５７８を通して、表示装置Ｋ４５８０から表示される円形状の第１視認対象物Ｋ４５８０ｘを視認可能とされる。
【０７０２】
更に、第２の演出制御例の終了後に、回転装飾部材Ｋ４５７８の内周側における表示装置Ｋ４５８０の表示領域に、「〇ＧＥＴ」との表示がされる。これにより、遊技者は、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を通して、何らかの遊技価値（遊技上の利益）を獲得したことを把握することができる。
【０７０３】
図８２（ｃ）では、第１の演出制御例および第２の演出制御例における移動装置Ｋ４５６０の第２の視認態様が図示される。図８２（ｃ）に図示されるように、第１の演出制御例および第２の演出制御例の第２の視認態様では、視認窓部Ｋ４５７８ａが回転軸の左方に配置された状態において視認窓部Ｋ４５７８を通して、表示装置Ｋ４５８０から表示される丸形状および三角形状の第２視認対象物Ｋ４５８０ｙを視認可能とされる。
【０７０４】
更に、第２の演出制御例の終了後に、回転装飾部材Ｋ４５７８の内周側における表示装置Ｋ４５８０の表示領域に、「〇△ＧＥＴ」との表示がされる。これにより、遊技者は、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を通して、何らかの遊技価値（遊技上の利益）を獲得したことを把握することができる。また、「〇ＧＥＴ」や「〇△ＧＥＴ」との表示の違いから、遊技者に対して、得られる遊技価値の違いを想起させることができる。
【０７０５】
図８２（ｄ）では、第１の演出制御例および第２の演出制御例における移動装置Ｋ４５６０の第３の視認態様が図示される。図８２（ｄ）に図示されるように、第１の演出制御例および第２の演出制御例の第３の視認態様では、視認窓部Ｋ４５７８ａが回転軸の右方に配置された状態において視認窓部Ｋ４５７８を通して、表示装置Ｋ４５８０から表示される円形状の第１視認対象物Ｋ４５８０ｘを視認可能とされ、視認窓部Ｋ４５７８ａが回転軸の左方に配置された状態において視認窓部Ｋ４５７８を通して、表示装置Ｋ４５８０から表示される丸形状および三角形状の第２視認対象物Ｋ４５８０ｙを視認可能とされる。
【０７０６】
更に、第２の演出制御例の終了後に、回転装飾部材Ｋ４５７８の内周側における表示装置Ｋ４５８０の表示領域に、「〇ＧＥＴ、〇△ＧＥＴ」との表示がされる。これにより、遊技者は、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を通して、何らかの遊技価値（遊技上の利益）を獲得したことを把握することができる。また、「〇ＧＥＴ」や「〇△ＧＥＴ」との表示の違いから、遊技者に対して、得られる遊技価値の違いを想起させることができる。
【０７０７】
上述した、第１の演出制御例および第２の演出制御例により移動装置Ｋ４５６０が動作制御される第１の演出用途例について説明する。この第１の演出用途例では、大当たり遊技状態において、移動装置Ｋ４５６０が遊技者から視認される位置に移動され（図８１参照）、上述の第１の演出制御例および第２の演出制御例で動作制御される。

【０７０８】
第１の演出用途例では、大当たり遊技状態における各ラウンド遊技の終了時に、第１の演出制御例および第２の演出制御例により移動装置Ｋ４５６０が動作制御され、右打ちで発射された遊技球の流下が相対的に右寄りとなる遊技球が入球され易い第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１２参照）に遊技球が入球した個数に対応して第１視認対象物Ｋ４５８０ｘが表示され、第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球される遊技球よりは相対的に左寄りの経路を流下する遊技球が入球され易い第２入賞口Ｋ６４０（図１２参照）に遊技球が入球した個数に対応して第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが表示される。
【０７０９】
そのため、各ラウンド遊技において規定個数（本実施形態では１０個）の遊技球が第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球されることで各ラウンド遊技が終了されることが通常であるので、基本的には、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘは、１０個の丸形状で視認されることになり、「〇ＧＥＴ」（図８２（ｂ）参照）との表示についても、入球個数に対応して「〇×１０ＧＥＴ」等の表示がされる。これにより、遊技者は、払い出される賞球個数を予想することができる。
【０７１０】
一方で、遊技態様によっては、１０個以上の遊技球が入球される場合も、入球される遊技球が１個や２個にも関わらず、時間経過によりラウンド遊技が終了される場合もある。この場合には、入球された遊技球の個数に対応した数で、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘが表示される。
【０７１１】
また、各ラウンド遊技における電動役物Ｋ６４０ａ（図１２参照）の開放時間は、遊技球の入球に満たない程度に短くされるので、第２入賞口Ｋ６４０（図１２参照）への入球は基本的には生じず、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが視認されるのは稀である。
【０７１２】
一方、稀であっても、第２入賞口Ｋ６４０へ遊技球が入球された場合には、ラウンド遊技中にも関わらず、賞球だけでなく、特別図柄の抽選をも獲得することができる。本実施形態では、賞球の払い出しのみに対応する表示として第１視認対象物Ｋ４５８０ｘを表示し、賞球の払い出しに加えて別の利益（例えば、特別図柄の抽選）も遊技者に付与され得る表示として第２視認対象物Ｋ４５８０ｙを表示することで、遊技者に付与され得る利益を区別して報知するようにしている。これにより、遊技者の遊技負担を低減すると共に、視認対象物Ｋ４５８０ｘ，Ｋ４５８０ｙに対する注目力を向上させることができる。
【０７１３】
なお、上述の第１の演出用途例では、視認される視認対象物Ｋ４５８０ｘ，Ｋ４５８０ｙの有無によらず、各ラウンド遊技の終了時に第１の演出制御例および第２の演出制御例により移動装置Ｋ４５６０が動作制御される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【０７１４】
例えば、視認対象物Ｋ４５８０ｘ，Ｋ４５８０ｙが視認されるように動作させる一方で、視認対象物Ｋ４５８０ｘ，Ｋ４５８０ｙが視認されない場合（表示されていない場合）には動作を実行しないようにしても良い。即ち、例えば、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘが表示されており、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが表示されていない場合には、第１の演出制御例による動作のみを実行し、第２の演出制御例による動作は実行しないようにしても良い。
【０７１５】
この場合、各ラウンド遊技の終了時において回転装飾部材Ｋ４５７８を動作させる時間長さを短くできるので、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作期間をラウンド間インターバルに容易に収めることができる。また、第２の演出制御例による動作が実行されないことを把握すれば、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが表示されていないことを遊技者は把握でき、第２入賞口Ｋ６４０に入球していないことも把握できるので、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙ

を視認して確認する必要がある場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【０７１６】

また、例えば、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘが表示されておらず、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが表示されている場合には、第１の演出制御例による動作を実行せず、第２の演出制御例による動作のみを実行させるようにしても良い。

【０７１７】

この場合、各ラウンド遊技の終了時において回転装飾部材Ｋ４５７８を動作させる時間長さを短くできるので、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作期間をラウンド間インターバルに容易に収めることができる。また、第１の演出制御例による動作が実行されないことを把握すれば、ラウンド遊技中にも関わらず第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球されていないという異常事態であることに遊技者が気付けるので、球の発射が実行されているか（球は供給されているか、球詰まりが生じていないか等）や、第２可変入賞装置Ｋ６５０は正常に作動しているのか等を確認するように促すことができる。

【０７１８】

また、例えば、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘが表示されておらず、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙも表示されていない場合には、第１の演出制御例による動作も、第２の演出制御例による動作も実行せずに、ラウンド遊技を終了させるようにしても良い。

【０７１９】

この場合、各ラウンド遊技の終了時において回転装飾部材Ｋ４５７８を動作させる時間長さを短くできる（無くせる）ので、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作期間をラウンド間インターバルに容易に収めることができる。また、第１の演出制御例による動作が実行されないことを把握すれば、ラウンド遊技中にも関わらず第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球されていないという異常事態であることに遊技者が気付けるので、球の発射が実行されているか（球は供給されているか、球詰まりが生じていないか等）や、第２可変入賞装置Ｋ６５０は正常に作動しているのか等を確認するように促すことができる。

【０７２０】

また、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘが表示されておらず、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙも表示されていない場合とは、そもそも遊技者が第２入賞口Ｋ６４０や第２特定入賞口Ｋ６５０ａに狙って遊技球を打ち出していない状況（遊技者が遊技をやめた状況や、遊技者が敢えて左打ちで球を発射させる変則打ちを行っている状況等）が想定されるので、このような状況にまで回転装飾部材Ｋ４５７８を回転させても、遊技者の注目力を集めることはできないことから、回転動作を実行させないようにしても良い。

【０７２１】

なお、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘや第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが視認される位置が、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転軸の右方または左方の位置である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転軸の右方または左方の位置から、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転軸を中心として上方に回転移動された上流側位置において第１視認対象物Ｋ４５８０ｘや第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが視認されるようにしても良いし、その上流側位置で視認された状態から、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転に伴う視認窓部Ｋ４５７８ａの移動に伴い第１視認対象物Ｋ４５８０ｘや第２視認対象物Ｋ４５８０ｙも回転移動するように構成しても良い。

【０７２２】

なお、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙの「△ＧＥＴ」の部分は、特別図柄の抽選が獲得できることを暗に示唆する意味合いのある報知である。そのため、例えば、入球による特別図柄の抽選が獲得できない状態（例えば、保留球数が満タンである状態）において第２入賞口Ｋ６４０に入球した場合には、特別図柄の抽選が獲得できないことと対応させて、「〇△ＧＥＴ」の代わりに「〇ＧＥＴ」との表示をするようにしても良い。

【０７２３】

図８３は、前層側可動装置Ｋ４４００の第１可動装置Ｋ４４０１の部分背面図である。

図８３では、演出待機状態における長尺装置Ｋ５４０の外形（図５２参照）が想像線で図示される。

【０７２４】

図８３では、左側の上側部材Ｋ５３０は演出待機状態における配置から変化されず、右側の上側部材Ｋ５３０が移動範囲の最下端まで下降した状態が実線で図示される。即ち、右側の上側部材Ｋ５３０のみが、落下位置状態（図２７，図４７参照）における配置に位置している。

【０７２５】

図８３に想像線で図示される演出待機状態は、左右共に、上側部材Ｋ５３０の下方への変位が進入状態の上側回転部材Ｋ４７６に規制されている状態であり（図４４参照）、図８３に実線で図示される状態は、右側の上側回転部材Ｋ４７６が退避状態とされ右側の上側部材Ｋ５３０のみが下方へ変位した状態である（図４７参照）。

【０７２６】

右側の上側部材Ｋ５３０の上下位置は、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４の配置次第で複数のバリエーションが生じ得る（図４７，図４８，図４９，図５１参照）。従って、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の傾斜角度も複数のバリエーションが生じ得る。本実施形態では、左側の上側部材Ｋ５３０の回転軸部Ｋ５３４を支点として、長尺装置Ｋ５４０の右側を回転動作の先端側とする変位を実行可能とされ、その変位に基づく長尺装置Ｋ５４０の姿勢の傾斜角度は何ら限定されるものではなく、（左右に沿う姿勢から約４５度未満で）任意の傾斜角度が可能とされる。

【０７２７】

長尺装置Ｋ５４０には、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作可能に支持されている。回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は、長尺装置Ｋ５４０が演出待機状態における位置（左右両側共に進入状態の上側回転部材Ｋ４７６に下方への変位が規制される位置）にあるか、右側の上側回転部材Ｋ４７６が退避状態とされ長尺装置Ｋ５４０の姿勢が傾斜した位置にあるかに関わらず、実行可能に構成される。

【０７２８】

図８３に実線で図示されるように、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が傾斜された状態から、演出待機状態における位置として長尺装置Ｋ５４０の姿勢が左右方向に沿わされるまでの、上側回転部材Ｋ４７６の動作態様は、長尺装置Ｋ５４０の動作と連動されることを説明する。

【０７２９】

長尺装置Ｋ５４０を支持する上側部材Ｋ５３０は、下側部材Ｋ５１０を介して、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４から押し上げ方向の荷重を受け得る（図４８参照）。伝達筒状部Ｋ４３４の配置は、回転部材Ｋ４３０の表面側の状態に対応する（図３６参照）。

【０７３０】

上側回転部材Ｋ４７６は、下側回転部材Ｋ４７１が回転部材Ｋ４３０の案内溝Ｋ４３６を介して受ける荷重により支持部Ｋ４１４を中心に回転動作（姿勢変化）されることにより、進入状態（図４５参照）と退避状態（図４６参照）とで変化される。案内溝Ｋ４３６の状態（位相）は、回転部材Ｋ４３０の裏面側の状態に対応する（図３６参照）。

【０７３１】

そのため、回転部材Ｋ４３０を介して、上側部材Ｋ５３０と上側回転部材Ｋ４７６とが連動され得る。即ち、図８３に図示される右側の上側部材Ｋ５３０が上昇方向に移動され、上側部材Ｋ５３０が上側回転部材Ｋ４７６に対応する上下高さ位置を通過することに基づいて（図４８参照）、上側回転部材Ｋ４７６が退避状態から進入状態に変化される（図４９参照）。

【０７３２】

これにより、長尺装置Ｋ５４０の戻り動作が防止されることになり、長尺装置Ｋ５４０が左右に沿わされた姿勢に維持される。このようにして、長尺装置Ｋ５４０が、演出待機

状態における位置に維持される。
【０７３３】
上側回転部材Ｋ４７６の進入状態への維持は、駆動力によるものではなく、回転部材Ｋ４３０の案内溝Ｋ４３６の形状的特徴から、下側回転部材Ｋ４７１の姿勢が維持されることによる。即ち、下側回転部材Ｋ４７１の切替突部Ｋ４７２が大径溝Ｋ４３６ａに維持されることによる。
【０７３４】
そのため、回転部材Ｋ４３０を駆動する駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂ（図３６参照）の駆動力が解除された状態であっても、上側回転部材Ｋ４７６を進入状態で維持することができる。
【０７３５】
これにより、長尺装置Ｋ５４０を演出待機状態における位置に維持するための消費電力を低減させることができる。また、パチンコ機Ｋ４０１０の電源が遮断された場合（突然の停電や、店舗営業時間外の時）であっても、上側回転部材Ｋ４７６の状態を進入状態で維持することができる。これにより、長尺装置Ｋ５４０の配置を演出待機状態の位置で安定させることができ、電源を遮断して行うメンテナンス作業を容易とすることができる。
【０７３６】
長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平線に対する傾斜角度は、図８３に図示される状態で最大となる（右第２傾斜姿勢）。この傾斜は、右が下になる傾斜のみならず、左右の上側部材Ｋ５３０の上下位置が反転されることで、傾斜が左右逆の姿勢を構成することが可能である（左第２傾斜姿勢）。
【０７３７】
ここで、スライドラックＫ５４５が利用されることなく、長尺装置Ｋ５４０の左右いずれか（図８３における左側）の端部が回転軸部Ｋ５３４を軸に回転動作するのみである場合（例えば、スライドラックＫ５４５と本体部Ｋ５４１（図３９参照）とが一体成形される場合）、その回転軸部Ｋ５３４を中心とする長尺装置Ｋ５４０の回転動作により姿勢が傾斜することに伴い、移動装置Ｋ４５６０の移動範囲の左右側終端（上述の回転軸部Ｋ５３４側終端）で、移動装置Ｋ４５６０と支持部材Ｋ４１０とが干渉する可能性がある。
【０７３８】
この場合、移動装置Ｋ４５６０の移動幅が、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が傾斜していない場合と、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が傾斜している場合とで異なることから、演出効果を低下させる可能性がある。
【０７３９】
また、長尺装置Ｋ５４０の回転先端側（図８３における右側）への移動装置Ｋ４５６０の移動終端位置は、長尺装置Ｋ５４０の傾斜が大きくなるほど回転軸としての回転軸部Ｋ５３４側（図８３における左側）に寄ることからも、移動装置Ｋ４５６０の移動範囲を狭める原因となり得る。
【０７４０】
これに対し、本実施形態では、上記各実施形態同様、図８３に図示されるように、長尺装置Ｋ５４０が傾斜される際に、案内突設部Ｋ５４４に対して、移動量ＫＳＤＭだけスライドラックＫ５４５が左右外側へスライド移動される。これにより、移動装置Ｋ４５６０の役物移動幅ＫＳＤＦの左右配置も調整される（回転軸部Ｋ５３４から離れる方向に変位する）。
【０７４１】
これにより、長尺装置Ｋ５４０が傾斜された状態に移動装置Ｋ４５６０と支持部材Ｋ４１０とが干渉することを避けることができるので、移動装置Ｋ４５６０を一対の支持部材Ｋ４１０の間（第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側（図２７参照）の領域からはみ出させることなく、十分な移動幅を確保することができる。
【０７４２】
加えて、長尺装置Ｋ５４０の回転先端側（図８３における右側）への移動装置Ｋ４５６

０の移動終端位置が回転先端側へ延ばされることからも、移動装置Ｋ４５６０の移動範囲を十分に確保することができる。これにより、長尺装置Ｋ５４０の傾斜の大小に関わらず、演出領域の左右幅を大きく使った演出を構成可能とすることができる。

【０７４３】

図８４は、前層側可動装置Ｋ４４００の第１可動装置Ｋ４４０１の部分背面図である。図８４では、片側落下状態における長尺装置Ｋ５４０の外形（図５３参照）が想像線で図示される。

【０７４４】

図８４では、右側の上側部材Ｋ５３０は片側落下状態における配置から変化されず、左側の上側部材Ｋ５３０が移動範囲の最下端まで下降した状態が実線で図示される。即ち、左側の上側部材Ｋ５３０のみが、落下位置状態（図２７，図４７参照）における配置に位置している。

【０７４５】

図８４では、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平線に対する傾斜角度は、図８３に図示される状態よりも小さい（左第１傾斜姿勢）。この傾斜は、左が下になる傾斜のみならず、左右の上側部材Ｋ５３０の上下位置が反転されることで、傾斜が左右逆の姿勢を構成することが可能である（右第１傾斜姿勢）。

【０７４６】

本実施形態では、上記各実施形態同様、右第１傾斜姿勢は、想像線で図示される片側落下状態における姿勢に他ならない。即ち、本実施形態では、左第１傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の配置と、右第１傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の配置とでは、上下位置が異なる。

【０７４７】

なお、本実施形態では、上記各実施形態同様、切替装置Ｋ４６０が左右片側（本実施形態では右側）にのみ配置されることから（図３３参照）、図８４に図示されるように右第１傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の配置と左第１傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の配置との上下配置が異なるように構成されるが、必ずしもこれに限られるものでは無い。

【０７４８】

例えば、切替装置Ｋ４６０を左右両側に配置するように構成し、上側部材Ｋ５３０を左右いずれでも途中停止させられるものであれば、右第１傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の配置と左第１傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の配置との上下位置を同じにすることは可能である。なお、切替装置Ｋ４６０を左側にのみ配置するよう構成すれば、右第１傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の配置と左第１傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の配置の上下関係が、本実施形態における上下関係とは逆となる演出装置を構成することが可能となる。

【０７４９】

また、落下のように急速な変位を必要としない場合には、切替装置Ｋ４６０の有無に関わらず、上側部材Ｋ５３０の配置を片側落下状態における下側の配置（図８４に図示される右側（矢印Ｒ側）の上側部材Ｋ５３０の配置）にすることが、回転部材Ｋ４３０の回転制御により可能とされる（図５１参照）。

【０７５０】

そのため、左右一対の回転部材Ｋ４３０の制御の設定次第で、長尺装置Ｋ５４０の上下配置を異ならせることなく右第１傾斜姿勢にしたり左第１傾斜姿勢にしたりすることもできるし、長尺装置Ｋ５４０の上下配置を異ならせて右第１傾斜姿勢にしたり左第１傾斜姿勢にしたりすることもできる（図８４参照）。

【０７５１】

ここで、スライドラックＫ５４５が利用されることなく、長尺装置Ｋ５４０の左右いずれか（図８４に図示される右側（矢印Ｒ側））の端部が回転軸部Ｋ５３４を軸に回転動作するのみである場合（例えば、スライドラックＫ５４５と本体部Ｋ５４１（図３９参照）

とが一体成形される場合）、その回転軸部Ｋ５３４を中心とする長尺装置Ｋ５４０の回転動作により姿勢が傾斜することに伴い、移動装置Ｋ４５６０の移動範囲の左右側終端（上述の回転軸部Ｋ５３４側終端）で、移動装置Ｋ４５６０と支持部材Ｋ４１０とが干渉する可能性がある。

【０７５２】

この場合、移動装置Ｋ４５６０の移動幅が、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が傾斜していない場合と、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が傾斜している場合とで異なることから、演出効果を低下させる可能性がある。

【０７５３】

また、長尺装置Ｋ５４０の回転先端側（図８４に図示される左側（矢印Ｌ側））への移動装置Ｋ４５６０の移動終端位置は、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が水平に近づく程に回転先端側に寄ることからも、移動装置Ｋ４５６０が支持部材Ｋ４１０と干渉する可能性があり、移動装置Ｋ４５６０の移動範囲を狭める原因となり得る。

【０７５４】

これに対し、本実施形態では、上記各実施形態同様、片側落下状態（図５３参照）から長尺装置Ｋ５４０が図８４に図示される状態に変化するまでの間にスライドラックＫ５４５がスライド変位する。即ち、まず長尺装置Ｋ５４０が水平姿勢になるまでに、案内突設部Ｋ５４４に対して、移動量ＫＳＤａ，ＫＳＤｂ（図５３参照）だけスライドラックＫ５４５が左右内側へスライド移動される。次に、長尺装置Ｋ５４０が図８４に図示される左第１傾斜姿勢になるまでに、案内突設部Ｋ５４４に対して、移動量ＫＳＤａ，ＫＳＤｂ（図５３参照）だけスライドラックＫ５４５が左右外側へスライド移動される。

【０７５５】

これにより、移動装置Ｋ４５６０の役物移動幅ＫＳＤＦの左右配置も調整される。即ち、役物移動幅ＫＳＤＦが、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が水平姿勢に近づく程、回転軸としての（図８４に図示される右側（矢印Ｒ側）の）回転軸部Ｋ５３４に近づく側に移動されるよう構成されている。

【０７５６】

これにより、長尺装置Ｋ５４０が傾斜された状態においては、移動装置Ｋ４５６０と支持部材Ｋ４１０とを離すことができ、これらが干渉することを避けることができるので、移動装置Ｋ４５６０を一対の支持部材Ｋ４１０の間（第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側（図２７参照）の領域からはみ出させることなく、十分な移動幅を確保することができる。

【０７５７】

加えて、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が水平に近づく際に役物移動幅ＫＳＤＦの左右配置を回転軸部Ｋ５３４に寄せることにより、長尺装置Ｋ５４０の回転先端側（図８４に図示される左側（矢印Ｌ側））が、その回転先端側の支持部材Ｋ４１０に入り込むことを防止することができる。これにより、長尺装置Ｋ５４０の傾斜の有無に関わらず、一対の支持部材Ｋ４１０の間（第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側（図２７参照））の領域の左右幅を大きく使った演出を構成可能とすることができる。

【０７５８】

本実施形態では、上記各実施形態と同様、移動装置Ｋ４５６０の配置は、回転駆動されるネジ軸Ｋ５５４とナットＫＮＴ６１（図３９及び図４１参照）とにより制御される。ネジ軸Ｋ５５４及びナットＫＮＴ６１はボールネジの構造を構成しているので、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が傾斜したとしても、自重で下降変位する（ネジ軸Ｋ５５４の延びる方向、即ち、長尺装置Ｋ５４０の長手方向に変位する）ことは防止される。

【０７５９】

即ち、ネジ軸Ｋ５５４（図３９参照）が駆動モータＫＭＴ５１の駆動により回転されれば、移動装置Ｋ４５６０はネジ軸Ｋ５５４の延びる方向（長尺装置Ｋ５４０の長手方向）に変位される一方、ネジ軸Ｋ５５４が回転されることが無ければ、移動装置Ｋ４５６０の配置がネジ軸Ｋ５５４の延びる方向（長尺装置Ｋ５４０の長手方向）に対して変位するこ

とが防止される。
【０７６０】
図８５（ａ）から図８５（ｃ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図であり、図８６は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。図８５（ａ）では、長尺装置Ｋ５４０が右第１傾斜姿勢（図３２参照）とされた場合における視認態様の一例が図示され、図８５（ｂ）では、長尺装置Ｋ５４０が右第２傾斜姿勢（図８３参照）とされた場合における視認態様の一例が図示され、図８５（ｃ）では、長尺装置Ｋ５４０が左第２傾斜姿勢とされた場合における視認態様の一例が図示される。なお、図８５の説明では、図１２を適宜参照する。
【０７６１】
図８５（ａ）に図示される状態は、第１可動装置Ｋ４４０１の第１の動作パターンの途中状態として図示される。即ち、第１可動装置Ｋ４４０１の第１の動作パターンでは、まず第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図５２参照）から、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りに回転動作される状態で長尺装置Ｋ５４０が右第１傾斜姿勢となるように制御され（図５３参照）、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は継続したまま移動装置Ｋ４５６０が移動可能範囲の右端までスライド移動される（図８５（ａ）参照）。
【０７６２】
更にその後、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転される（反時計回りにされる）と共に移動装置Ｋ４５６０が左右中央までスライド移動されて戻り（図５３参照）、その後、第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図５２参照）へ戻るように右側の上側部材Ｋ５３０を上昇させるよう制御されることで、第１の動作パターンが完了される。
【０７６３】
図８５（ａ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域に右第１傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の傾斜に平行な矢印形状の第１背面表示Ｋ８１ａが複数表示されると共に、表示装置Ｋ４５８０にはローマ字の「Ｖ」を意味する第１前面表示Ｋ４５８０ａが表示される（第１前面表示Ｋ４５８０ａは「Ｖを狙え」を意味する表示でも良い）。これにより、遊技者に第１可変入賞装置Ｋ６５の第１特定入賞口Ｋ６５ａへ向けて遊技球を発射させ、特定領域Ｋ６５ｃ（図１２参照）の通過を狙わせるように報知することができる。
【０７６４】
なお、表示装置Ｋ４５８０の表示態様と、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示態様とが連動するように構成しても良い。例えば、表示装置Ｋ４５８０に第１前面表示Ｋ４５８０ａが表示される状態で、特定領域Ｋ６５ｃに遊技球が入球することに基づいて、表示装置Ｋ４５８０における第１前面表示Ｋ４５８０ａは消えて、第３図柄表示装置Ｋ８１に「Ｖ」の表示が移動されるように構成しても良い（例えば、第１前面表示Ｋ４５８０ａが、表示装置Ｋ４５８０から第３図柄表示装置Ｋ８１に移動するように見えるように第３図柄表示装置Ｋ８１と表示装置Ｋ４５８０とで描画の設定をして、遊技者に視認させるようにしても良い）。
【０７６５】
上述の報知の実行中において、回転装飾部材Ｋ４５７８は、時計回り方向に回転動作される。これにより、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様を視認した遊技者に対して、遊技球の流下する方向を直感的に把握させることが可能となる。
【０７６６】
即ち、第１可変入賞装置Ｋ６５（図１２参照）へ向けて遊技球を発射するように右打ちする状況において、回転装飾部材Ｋ４５７８の上側をセンターフレームＫ８６（図１２参照）に沿って右方に通過した遊技球は、回転装飾部材Ｋ４５７８の右側を流下することを、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様と対応させて遊技者に直感的に把握させることができるので、遊技球を遊技者が目で追うことを容易にさせることができる。
【０７６７】
図８５（ａ）に図示されるように、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０が右側へ移動されることにより、右打ちされた遊技球が流下する範囲（第３図柄表示装置Ｋ

８１の表示領域よりも右側の範囲）と、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０とを近づけることができるので、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０と、流下する遊技球とを遊技者の視界に同時に収め易くすることができる。

【０７６８】

これにより、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０を視認する遊技者に対して、遊技球の発射が問題なく実行されていることを目視で確認させることができるので、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０と遊技球の流下範囲とが離れており同時に視認することができない場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【０７６９】

なお、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転の継続と停止との態様は、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、反時計回りに反転するまでは時計回りの回転動作が継続されるようにしても良いし、時計回りの回転動作が間欠的に生じるようにしても良い。

【０７７０】

時計回りの回転動作が間欠的に生じる場合、その回転動作の開始の間隔は、例えば、一定の期間を開けて回転動作が再開始されるようにしても良いし、遊技球の流下態様と対応させて回転動作の開始時期が設定されるものでも良い。

【０７７１】

遊技球の流下態様と対応させて回転動作の開始時期が設定される場合、例えば、スルーゲートＫ６７（図１２参照）を遊技球が通過したことを検出したことに基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８が回転開始されるようにすることで、回転装飾部材Ｋ４５７８の近傍を遊技球が流下するタイミングと、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転開始タイミングとを合わせることができる。これにより、遊技球自体を視認しなくても、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作を視認することで、遊技球の流下位置の予想を立てることができる。

【０７７２】

なお、右打ちされた遊技球がスルーゲートＫ６７（図１２参照）を通過する確率は、そのスルーゲートＫ６７の上流側の釘配置などの条件によるが、右打ちされた遊技球が全てスルーゲートＫ６７を通過する場合には、回転装飾部材Ｋ４５７８の右側を遊技球が流下する場合に、もれなく回転装飾部材Ｋ４５７８を回転動作させることができる。

【０７７３】

また、右打ちされた遊技球が全てはスルーゲートＫ６７（図１２参照）を通過するものではない（一部はスルーゲートＫ６７を外れ得る）場合であっても、スルーゲートＫ６７を遊技球が通過した特定の時点を契機として、パチンコ機Ｋ４０１０の球発射間隔を空けて回転装飾部材Ｋ４５７８を間欠的に回転動作させる（例えば、０．６秒間隔で回転動作させる）ことで、スルーゲートＫ６７を通過するか否かに関わらずスルーゲートＫ６７付近を遊技球が流下するタイミングに合わせて回転装飾部材Ｋ４５７８を間欠的に回転動作させることができる。

【０７７４】

従って、右打ちされた遊技球がスルーゲートＫ６７（図１２参照）を通過する確率に関わらず、スルーゲートＫ６７付近を遊技球が流下するタイミングと、回転装飾部材Ｋ４５７８を回転動作させるタイミングとをおおよそ合致させることができるので、遊技者は、遊技球自体を視認しなくても、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作を視認することで、遊技球の流下位置の予想を立てることができる。

【０７７５】

遊技球の流下態様と対応させて回転動作の開始時期が設定される場合、例えば、遊技球が第１特定入賞口Ｋ６５ａ又は特定領域Ｋ６５ｃ（図１２参照）に入球することに基づいて、回転装飾部材Ｋ４５７８を回転動作させるようにしても良い。この場合、遊技者は、第１特定入賞口Ｋ６５ａ又は特定領域Ｋ６５ｃに注視していなくても、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様を視認することで、遊技球が第１特定入賞口Ｋ６５ａ又は特定領域Ｋ６

５ｃに入球したことを把握することができる。
【０７７６】
これにより、遊技球が第１特定入賞口Ｋ６５ａ又は特定領域Ｋ６５ｃ（図１２参照）に入球したことを、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域から目を逸らすことなく把握することができるので、第１特定入賞口Ｋ６５ａ又は特定領域Ｋ６５ｃへ向けて遊技球を発射するように要求される期間において、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示される種々の報知を見逃す可能性を低くすることができる。
【０７７７】
なお、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示される種々の報知の態様は何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、保留個数に係る報知（特に、保留が満タンか否か）でも良いし、オーバー入賞（規定個数以上の入賞による超過賞球払い出しの発生）の報知でも良いし、遊技モード選択に係る報知でも良いし、大当たり遊技終了後の遊技状態に係る報知でも良いし、大当たり遊技中におけるラウンド数に係る報知や入賞個数（又は払い出し個数）に係る報知でも良い。
【０７７８】
図８５（ａ）に図示される状態から移動装置Ｋ４５６０が左方向へスライド移動するタイミングは、何ら限定されるものではない。例えば、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１２参照）の開放期間が終了するタイミングと対応させても良いし、特定領域Ｋ６５ｃ（図１２参照）を遊技球が通過するタイミングと対応させても良いし、入球態様に関わらない特定のタイミングでスライド移動するように制御しても良い。
【０７７９】
特に、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１２参照）の開放期間が終了するタイミングと対応させる場合、移動装置Ｋ４５６０の動作態様を視認する遊技者に対して、移動装置Ｋ４５６０が移動した場合に右打ちを終了すると無駄球を減少させられる可能性があることを報知する手段として移動装置Ｋ４５６０を機能させることができる。
【０７８０】
また、この場合には、遊技球を右打ちしないタイミングに、回転装飾部材Ｋ４５７８が反時計回りに回転動作されることになる。そのため、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りで回転動作する状況と、右打ちを継続する状況とを関連付けて把握している遊技者に対して、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１２参照）の開放期間が終了した後にまで遊技球を右打ち発射しないようにさせるための報知を回転装飾部材Ｋ４５７８で実行することができる。
【０７８１】
図８５（ｂ）に図示される状態は、図８５（ａ）に図示される状態よりも水平に対する長尺装置Ｋ５４０の傾斜角度が大きい状態であり、第１可動装置Ｋ４４０１の第２の動作パターンの途中状態として図示される。即ち、第１可動装置Ｋ４４０１の第２の動作パターンでは、まず第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図５２参照）から、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りに回転動作される状態で長尺装置Ｋ５４０が右第２傾斜姿勢となるように制御され（図８３参照）、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は継続したまま移動装置Ｋ４５６０が移動可能範囲の右端までスライド移動される（図８５（ｂ）参照）。
【０７８２】
更にその後、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転される（反時計回りにされる）と共に移動装置Ｋ４５６０が左右中央までスライド移動されて戻り（図８３参照）、その後、第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図５２参照）へ戻るように右側の上側部材Ｋ５３０を上昇させるよう制御されることで、第２の動作パターンが完了される。
【０７８３】
図８５（ｂ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域に右第２傾斜姿勢における長尺装置Ｋ５４０の傾斜に平行な矢印形状の第２背面表示Ｋ８１ｂが複数表示されると共に、表示装置Ｋ４５８０にローマ字の「Ｒ」を意味する第２前面表示Ｋ４５８０ｂが表示される。

【０７８４】
図８５（ａ）に図示される状態よりも水平に対する長尺装置Ｋ５４０の傾斜角度が大きくされることで、図８５（ａ）に図示される状態よりも、遊技者の視線を斜め下方向（本実施形態では、左斜め下方向）に誘導することができる。これにより、遊技者に、第１特定入賞口Ｋ６５ａの左斜め下方向に位置する第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１２参照）へ向けて遊技球を発射させるように報知することができる。
【０７８５】
この場合、表示装置Ｋ４５８０に描画される第２前面表示Ｋ４５８０ｂの「Ｒ」をラウンド遊技と対応付けることができるので、ラウンド数と対応付けて、第２前面表示Ｋ４５８０ｂを「Ｒ１」や「Ｒ５」等に表示を切り替えることで、表示装置Ｋ４５８０の表示により遊技の進行度合いを報知することができる。
【０７８６】
また、第２特定入賞口Ｋ６５０ａと第２入賞口Ｋ６４０との配置関係から、図８５（ｂ）に図示される状態で、遊技者に第２入賞口Ｋ６４０（図１２参照）へ向けて遊技球を発射させるように報知することもできる。
【０７８７】
この場合、表示装置Ｋ４５８０に描画される第２前面表示Ｋ４５８０ｂの「Ｒ」をラッシュ（確変遊技等）と対応付けることができるので、確変状態や時短状態の残り抽選回数と対応付けて「Ｒ１００」や「Ｒ２」等に第２前面表示Ｋ４５８０ｂを切り替えることで、表示装置Ｋ４５８０の表示により遊技の進行度合いを報知することができる。
【０７８８】
上述の報知の実行中において、回転装飾部材Ｋ４５７８は、時計回り方向に回転動作される。これにより、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様を視認した遊技者に対して、遊技球の流下する方向を直感的に把握させることが可能となる。
【０７８９】
即ち、第２入賞口Ｋ６４０又は第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１２参照）へ向けて遊技球を発射するように右打ちする状況において、回転装飾部材Ｋ４５７８の上側をセンターフレームＫ８６（図１２参照）に沿って右方に通過した遊技球は、回転装飾部材Ｋ４５７８の右側を流下することを、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様と対応させて遊技者に直感的に把握させることができるので、遊技球を遊技者が目で追うことを容易にさせることができる。
【０７９０】
図８５（ｂ）に図示されるように、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０が右側へ移動されることにより、右打ちされた遊技球が流下する範囲（第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域よりも右側の範囲）と、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０とを近づけることができるので、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０と、流下する遊技球とを遊技者の視界に同時に収め易くすることができる。
【０７９１】
これにより、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０を視認する遊技者に対して、遊技球の発射が問題なく実行されていることを目視で確認させることができるので、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０と遊技球の流下範囲とが離れており同時に視認することができない場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減させることができる。
【０７９２】
なお、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転の継続と停止との態様は、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、反時計回りに反転するまでは時計回りの回転動作が継続されるようにしても良いし、時計回りの回転動作が間欠的に生じるようにしても良い。
【０７９３】
時計回りの回転動作が間欠的に生じる場合、その回転動作の開始の間隔は、例えば、一

定の期間を開けて回転動作が再開始されるようにしても良いし、遊技球の流下態様と対応させて回転動作の開始時期が設定されるものでも良い。

【０７９４】

遊技球の流下態様と対応させて回転動作の開始時期が設定される場合、例えば、スルーゲートＫ６７（図１２参照）を遊技球が通過したことを検出したことに基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８が回転開始されるようにすることで、回転装飾部材Ｋ４５７８の近傍を遊技球が流下するタイミングと、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転開始タイミングとを合わせることができる。これにより、遊技球自体を視認しなくても、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作を視認することで、遊技球の流下位置の予想を立てることができる。

【０７９５】

なお、右打ちされた遊技球がスルーゲートＫ６７（図１２参照）を通過する確率は、そのスルーゲートＫ６７の上流側の釘配置などの条件によるが、右打ちされた遊技球が全てスルーゲートＫ６７を通過する場合には、回転装飾部材Ｋ４５７８の右側を遊技球が流下する場合に、もれなく回転装飾部材Ｋ４５７８を回転動作させることができる。

【０７９６】

また、右打ちされた遊技球が全てはスルーゲートＫ６７（図１２参照）を通過するものではない（一部はスルーゲートＫ６７を外れ得る）場合であっても、スルーゲートＫ６７を遊技球が通過した特定の時点を契機として、パチンコ機Ｋ４０１０の球発射間隔を空けて回転装飾部材Ｋ４５７８を間欠的に回転動作させる（例えば、０．６秒間隔で回転動作させる）ことで、スルーゲートＫ６７を遊技球が通過したか否かに関わらずスルーゲートＫ６７付近を遊技球が流下するタイミングに合わせて回転装飾部材Ｋ４５７８を間欠的に回転動作させることができる。

【０７９７】

従って、右打ちされた遊技球がスルーゲートＫ６７（図１２参照）を通過する確率に関わらず、スルーゲートＫ６７付近を遊技球が流下するタイミングと、回転装飾部材Ｋ４５７８を回転動作させるタイミングとをおおよそ合致させることができるので、遊技者は、遊技球自体を視認しなくても、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作を視認することで、遊技球の流下位置の予想を立てることができる。

【０７９８】

なお、遊技球の流下態様と対応させて回転動作の開始時期が設定される場合、例えば、遊技球が第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１２参照）に入球することに基づいて、回転装飾部材Ｋ４５７８を回転動作させるようにしても良い。この場合、遊技者は、第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａに注視していなくても、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様を視認することで、遊技球が第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球したことを把握することができる。

【０７９９】

これにより、遊技球が第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１２参照）に入球したことを、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域から目を逸らすことなく把握することができるので、第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａへ向けて遊技球を発射するように要求される期間において、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示される種々の報知を見逃す可能性を低くすることができる。

【０８００】

なお、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示される種々の報知の態様は何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、保留個数に係る報知（特に、保留が満タンか否か）でも良いし、オーバー入賞（規定個数以上の入賞による超過賞球払い出しの発生）の報知でも良いし、遊技モード選択に係る報知でも良いし、大当たり遊技終了後の遊技状態に係る報知でも良いし、大当たり遊技中におけるラウンド数に係る報知や入賞個数（又は払い出し個数）に係る報知でも良い。

【０８０１】

図８５（ｂ）に図示される状態から移動装置Ｋ４５６０が左方向へスライド移動するタ

イミングは、何ら限定されるものではない。例えば、第２入賞口Ｋ６４０ａ（図１２参照）に遊技球が入球し易い期間（時短中または確変中の期間）が終了するタイミングと対応させても良いし、第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１２参照）が開放される期間（大当たり遊技におけるラウンド中の期間または大当たり遊技中の期間）が終了するタイミングと対応させても良いし、入球態様に関わらない特定のタイミングでスライド移動するように制御しても良い。

【０８０２】

特に、第２入賞口Ｋ６４０ａ（図１２参照）に遊技球が入球し易い期間（時短中または確変中の期間）が終了するタイミングと対応させる場合、又は、第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１２参照）が開放される期間（大当たり遊技におけるラウンド中の期間または大当たり遊技中の期間）が終了するタイミングと対応させる場合、移動装置Ｋ４５６０の動作態様を視認する遊技者に対して、移動装置Ｋ４５６０が移動した場合に右打ちを終了すると無駄球を減少させられる可能性があることを報知する手段として移動装置Ｋ４５６０を機能させることができる。

【０８０３】

また、この場合には、遊技球を右打ちしないタイミングに、回転装飾部材Ｋ４５７８が反時計回りに回転動作されることになる。そのため、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りで回転動作する状況と、遊技球が回転装飾部材Ｋ４５７８の上方位置を通り回転装飾部材Ｋ４５７８の右側を流れる状況（右打ちを継続する状況）とを関連付けて把握している遊技者に対して、第２入賞口Ｋ６４０ａ又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１２参照）の開放期間が終了した後にまで遊技球を右打ち発射しないようにさせるための報知を回転装飾部材Ｋ４５７８で実行することができる。

【０８０４】

なお、第３図柄表示装置Ｋ８１に、長尺装置Ｋ５４０の傾斜に対応した第１背面表示Ｋ８１ａや第２背面表示Ｋ８１ｂを表示する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域自体が傾斜したように遊技者に見得るように第３図柄表示装置Ｋ８１内の表示を構成しても良い。即ち、第３図柄表示装置Ｋ８１による表示を全体的に傾ける。これにより、あたかも長尺装置Ｋ５４０の姿勢が傾斜すると共に第３図柄表示装置Ｋ８１の姿勢も傾斜したかのように見せる演出を実行することができる。

【０８０５】

なお、図８５（ａ）及び図８５（ｂ）についての上述の説明では、第１の動作パターンと第２の動作パターンとを独立した動作パターンとして説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、図８５（ａ）に図示される状態から、長尺装置Ｋ５４０が上昇されるのではなく、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁される（図４３（ｂ）参照）ことにより更に落下され、図８５（ｂ）に図示される状態に変化し、その後で長尺装置Ｋ５４０の右側が上昇されることで演出待機状態（図５２参照）に戻るといった動作パターンを設定しても良い。

【０８０６】

この動作パターンは、例えば、右打ち遊技における遊技の一組の流れが、遊技球を第１特定入賞口Ｋ６５ａに入球させ、特定領域Ｋ６５ｃ（図１２参照）を通過させた後で、第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１２参照）に遊技球が入球し易くなる期間や、第２入賞口Ｋ６４０（図１２参照）に遊技球が入球し易くなる期間が開始されるものである場合に、特に有効である。

【０８０７】

この遊技の一組の流れとしては、例えば、特定領域Ｋ６５ｃに遊技球が入球することに基づいて特別遊技が開始され、第２特定入賞口Ｋ６５０ａが開放されるという遊技の流れや、特別遊技の期間の終了後に第２入賞口Ｋ６４０が開放されるという遊技（特別遊技の終了後に時短状態となる遊技）の流れ等が想定される。

【０８０８】

この場合、上述の右打ち遊技における遊技の一組の流れでは、遊技球の入賞箇所としての注目箇所が変化（即ち、第１特定入賞口Ｋ６５ａ及び特定領域Ｋ６５ｃ近傍から第２特定入賞口Ｋ６５０ａ及び第２入賞口Ｋ６４０近傍へ変化）することになるが、この変化のタイミングで、図８５（ａ）の状態から図８５（ｂ）の状態に変化させるようにすれば、遊技者に対して注目箇所が変化したことをリアルタイムに報知することができる。これにより、遊技者が注目箇所の変化に対応できず、遊技球の入賞を見逃すという事態を避け易くすることができる。

【０８０９】

図８５（ｃ）に図示される状態は、図８５（ｂ）に図示される状態と長尺装置Ｋ５４０の傾斜が左右対称である状態であり、第１可動装置Ｋ４４０１の第３の動作パターンの途中状態として図示される。即ち、第１可動装置Ｋ４４０１の第３の動作パターンでは、まず第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図５２参照）から、回転装飾部材Ｋ４５７８が反時計回りに回転動作される状態で長尺装置Ｋ５４０が左第２傾斜姿勢となるように制御され（図８５（ｃ）参照）、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は継続したまま移動装置Ｋ４５６０が移動可能範囲の左端までスライド移動される（図８５（ｃ）参照）。

【０８１０】

更にその後、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転される（時計回りにされる）と共に移動装置Ｋ４５６０が左右中央までスライド移動されて戻り、その後、第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図５２参照）へ戻るように左側の上側部材Ｋ５３０を上昇させるよう制御されることで、第３の動作パターンが完了される。

【０８１１】

図８５（ｃ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域に左右方向で左側を向く大きな矢印形状の第３背面表示Ｋ８１ｃが一つ表示されると共に、表示装置Ｋ４５８０には漢字の「左」を意味する第３前面表示Ｋ４５８０ｃが表示される。これにより、遊技者に、左打ちで遊技球を発射させるように報知することができる。

【０８１２】

この報知の実行中において、回転装飾部材Ｋ４５７８は、反時計回り方向に回転動作される。これにより、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様を視認した遊技者に対して、遊技球の流下する方向を直感的に把握させることが可能となる。

【０８１３】

即ち、遊技領域の左側に配置される一般入賞口Ｋ６３や第１入賞口Ｋ６４（図１２参照）へ向けて遊技球を発射するように左打ちする状況において、回転装飾部材Ｋ４５７８の上側をセンターフレームＫ８６（図１２参照）に沿って左方に流下した遊技球は、回転装飾部材Ｋ４５７８の左側を流下することを、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様と対応させて遊技者に直感的に把握させることができるので、遊技球を遊技者が目で追うことを容易にさせることができる。

【０８１４】

図８５（ｃ）に図示されるように、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０が左側へ移動されることにより、左打ちされた遊技球が流下する範囲（第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域よりも左側の範囲）と、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０とを近づけることができるので、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０と、流下する遊技球とを遊技者の視界に同時に収め易くすることができる。

【０８１５】

これにより、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０を視認する遊技者に対して、遊技球の発射が問題なく実行されていることを目視で確認させることができるので、回転装飾部材Ｋ４５７８及び表示装置Ｋ４５８０と遊技球の流下範囲とが離れており同時に視認することができない場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【０８１６】

なお、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転の継続と停止との態様は、何ら限定されるもので

はなく、種々の態様が例示される。例えば、時計回りに反転するまでは反時計回りの回転動作が継続されるようにしても良いし、反時計回りの回転動作が間欠的に生じるようにしても良い。

【０８１７】

反時計回りの回転動作が間欠的に生じる場合、その回転動作の開始の間隔は、例えば、一定の期間を開けて回転動作が再開始されるようにしても良いし、遊技球の流下態様と対応させて回転動作の開始時期が設定されるものでも良い。

【０８１８】

遊技球の流下態様と対応させて回転動作の開始時期が設定される場合の一例について説明する。例えば、内レールＫ６１と外レールＫ６２との間を通過する遊技球を検出可能な検出装置を設けると共に、遊技領域に入球した遊技球が図８５（ｃ）に図示される状態における移動装置Ｋ４５６０の左方を通過するまでにかかる概略の必要流下期間を予め設定する。

【０８１９】

この場合において、上述の検出装置により遊技球の通過が検出されてから、上述の必要流下期間だけ遅延させたタイミングで回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作を開始させることで、遊技球が移動装置Ｋ４５６０の左方を通過するタイミングと、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作を開始するタイミングとを合わせることができる。これにより、遊技球自体を視認しなくても、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作を視認することで、遊技球の流下位置の予想を立てることができる。

【０８２０】

また、遊技球の流下態様に対応させて回転動作の開始時期が設定される場合について、例えば、遊技球が第１入賞口Ｋ６４又は一般入賞口Ｋ６３（図１２参照）に入球することに基づいて、回転装飾部材Ｋ４５７８を回転動作させるようにしても良い。この場合、遊技者は、第１入賞口Ｋ６４又は一般入賞口Ｋ６３に注視していなくても、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様を視認することで、遊技球が第１入賞口Ｋ６４又は一般入賞口Ｋ６３に入球したことを把握することができる。

【０８２１】

これにより、遊技球が第１入賞口Ｋ６４又は一般入賞口Ｋ６３（図１２参照）に入球したことを、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域から目を逸らすことなく把握することができるので、第１入賞口Ｋ６４又は一般入賞口Ｋ６３へ向けて遊技球を発射するように要求される期間において、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示される種々の報知を見逃す可能性を低くすることができる。

【０８２２】

なお、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示される種々の報知の態様は何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、保留個数に係る報知（特に、保留が満タンか否か）でも良いし、オーバー入賞（規定個数以上の入賞による超過賞球払い出しの発生）の報知でも良いし、遊技モード選択に係る報知でも良いし、大当たり遊技終了後の遊技状態に係る報知でも良いし、大当たり遊技中におけるラウンド数に係る報知や入賞個数（又は払い出し個数）に係る報知でも良い。

【０８２３】

図８５（ｃ）に図示される状態から移動装置Ｋ４５６０が右方向へスライド移動するタイミングは、何ら限定されるものではない。例えば、第１入賞口Ｋ６４（図１２）に数球（１個でも良いし、複数個でも良い）の遊技球が入球したタイミングと対応させても良いし、第１入賞口Ｋ６４の保留が数個溜まったタイミングと対応させても良いし、アウト口７１（図１２参照）を数球の遊技球が通過したタイミングと対応させても良いし（この場合において、スルーゲートＫ６７で遊技球の通過が検出されないことを前提としても良いし、その前提を不要としても良い）、入球態様に関わらない特定のタイミングでスライド移動するように制御しても良い。

【０８２４】

なお、移動装置Ｋ４５６０がスライド移動する場合に回転装飾部材Ｋ４５７８が回転され、その回転方向がスライド移動の方向に対応する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作と移動装置Ｋ４５６０のスライド移動とは、独立した駆動装置により実行されるので、動作態様の対応関係は制御プログラム次第である。

【０８２５】

例えば、図８５（ｃ）で図示した第３の動作パターンにおいて、演出待機状態に戻る途中動作として移動装置Ｋ４５６０が右方にスライド移動する場合における回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向を、反時計回り方向にしても良い（維持しても良い）。これにより、移動装置Ｋ４５６０を演出待機状態における配置（図５２参照）に戻す動作を実行しながら、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向により、左打ち遊技を継続させるように遊技者に仕向けることができる。

【０８２６】

また、例えば、図８５（ｃ）で図示した第３の動作パターンにおいて、演出待機状態に戻る途中動作として移動装置Ｋ４５６０が右方にスライド移動する場合における回転装飾部材Ｋ４５７８の回転を、停止させても良い。これにより、移動装置Ｋ４５６０を演出待機状態における配置（図５２参照）に戻す動作を実行しながら、回転装飾部材Ｋ４５７８の状態と、遊技球の流下方向との関係性を切断させるように演出することができる。

【０８２７】

また、例えば、上述の回転装飾部材Ｋ４５７８の回転を停止させる制御を、第１入賞口Ｋ６４又は第２入賞口Ｋ６４０への入球に基づく特別図柄の抽選で大当たりが生じた場合に実行可能に制御しても良い。特別図柄の抽選で大当たりが生じていれば、その大当たりの告知まで特別図柄の保留が減少しないので、保留が満タンとなった以降は遊技球をいくら第１入賞口Ｋ６４又は第２入賞口Ｋ６４０に入球させても特別図柄の抽選を得られず、無駄球が生じ易い状況が生じ得る。

【０８２８】

そのため、遊技者は早急に球の発射を停止し、大当たりが告知されることを待つ方が得な場合が多い。即ち、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転が停止された状態と、回転装飾部材Ｋ４５７８の左右いずれにも遊技球が流下しない状態とを対応付けて報知することで、遊技者に遊技球の発射を停止するように仕向けることができる。

【０８２９】

更には、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転が一度停止された状況において、第１入賞口Ｋ６４又は第２入賞口Ｋ６４０に遊技球が入球された場合に、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作を再開させるようにしても良い。これにより、遊技者の意図によらず発射が継続されている場合（例えば、操作ハンドルＨ５１（図１及び図１１参照）の回動位置は戻しておらず発射停止スイッチＨ５１ｂ（図１参照）で球の発射を停止させる操作をしている場合に、発射停止スイッチＨ５１ｂの押し込みが甘い場合）であっても、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様を遊技者に視認させることで、発射が継続されていることを遊技者に気づかせることができる。これに気付いた遊技者は、操作の改良をする（例えば、発射停止スイッチＨ５１ｂを強く押し込む）ことで、球の発射を停止させることで、無駄球の発射個数を抑えることができる。

【０８３０】

これにより、回転装飾部材Ｋ４５７８の左右いずれにも遊技球を流下させることなく、演出に注視し、大当たりの告知のタイミングを待つように遊技者に仕向けることができる。そのため、遊技者は、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転が停止していることを確認できれば、遊技球の発射を停止することにより無駄球を低減させることができることに加え、大当たりが得られることを把握することができる。従って、回転装飾部材Ｋ４５７８への遊技者の注目力を向上させることができる。

【０８３１】

なお、図８５（ａ）から図８５（ｃ）に図示した表示態様は例示であり、何ら限定され

るものではない。例えば、図８５（ｂ）で図示される第２背面表示Ｋ８１ｂの矢印を、左右反転させたうえで、図８５（ｃ）に図示される状態における第３図柄表示装置Ｋ８１の表示に採用しても良いし、図８５（ｃ）で図示される第３背面表示Ｋ８１ｃの矢印を、左右反転させたうえで、図８５（ａ）又は図８５（ｂ）に図示される状態における第３図柄表示装置Ｋ８１の表示に採用しても良い。

【０８３２】

また、図８５（ａ）から図８５（ｃ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１において、矢印が下降傾斜する姿勢で表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、矢印が上昇傾斜する姿勢で表示されるようにしても良い。

【０８３３】

この表示（例えば、第２背面表示Ｋ８１ｂの上下を反転した形状の表示）を図８５（ｃ）に図示される左第２傾斜姿勢で採用することで、正面枠Ｋ１４の表示ランプＫ９００の一部として右上隅に配設される右上ランプＫ９４０へ向けた矢印として視認させることができる。

【０８３４】

右上ランプＫ９４０は、例えば、通常は消灯されているが、特別図柄の抽選が大当たりとなった場合等の遊技者にとって利益となる事象が生じた場合や、球の払い出しが生じている場合等に基づいて点灯または点滅するよう制御される。そのため、遊技者にとって興味関心の大きな発光部であるが、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域に注目力が集中する通常の遊技態様では、視界に収まりにくいほど外側の位置（正面枠Ｋ１４の右上隅）に配置されているので、きっかけが無ければ、右上ランプＫ９４０が点灯または点滅したことに遊技者が気づけない可能性がある。

【０８３５】

これに対し、右上ランプＫ９４０が点灯または点滅するタイミングに合わせて、上述の表示（例えば、第２背面表示Ｋ８１ｂの上下を反転した形状の表示）を図８５（ｃ）に図示される左第２傾斜姿勢で採用することで、第３図柄表示装置Ｋ８１における表示により、正面枠Ｋ１４に配設される右上ランプＫ９４０へ向けて遊技者の視線を誘導することができる。

【０８３６】

これにより、遊技者の視線を第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域よりも外方であって、正面枠Ｋ１４に配設される右上ランプＫ９４０に誘導することができるので、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域を遊技者が見続ける場合に比較して、遊技者の目の疲労を低減させることができる。

【０８３７】

この場合、遊技者の視界を、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域および遊技領域の一部が収まる程度の狭い範囲から、正面枠Ｋ１４も含めた範囲まで広げさせるように仕向けることで、遊技者の目の位置を後退させることができる。これにより、遊技者の目の疲労を低減することができる。

【０８３８】

なお、右上ランプＫ９４０に視線誘導するための表示を、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の前方に収める必要はない。例えば、上側装飾部材Ｋ３３０の内部に配置されるＬＥＤの内、右上ランプＫ９４０から離れた側のＬＥＤから右上ランプＫ９４０に近い側のＬＥＤの順番でＬＥＤを光らせることで光の筋（帯）を形成し、右上ランプＫ９４０側に視線を誘導するようにしても良い。

【０８３９】

また同様の発光のさせ方を、遊技領域の後方から前方へ向けて光を照射するＬＥＤや、ガラスユニットＨ１６の外方に配置される表示ランプＫ９００において実行させるようにしても良い。これにより、右上ランプＫ９４０への視線誘導を広い範囲で行うことができる。

【０８４０】

なお、演出効果の観点から、長尺装置Ｋ５４０の移動時に回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作している場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。例えば、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転していない状態で長尺装置Ｋ５４０の移動を実行させても良い。この場合、長尺装置Ｋ５４０の落下時に回転装飾部材Ｋ４５７８が破損するという事態を避け易くすることができる。

【０８４１】

また、回転装飾部材Ｋ４５７８の停止中における移動装置Ｋ４５６０のスライド移動を可能に構成しても良い。この場合、移動装置Ｋ４５６０のスライド移動にバリエーションを持たせることができるので、移動装置Ｋ４５６０の演出効果を向上させることができる。

【０８４２】

また、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転駆動制御の設定は、上述したものに限られるものではない。例えば、表示装置Ｋ４５８０の表示や、移動装置Ｋ４５６０の移動方向に関わらず、電源投入から一定の方向の回転が継続されるように制御してもいいし、等間隔で回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転されるように制御しても良い。

【０８４３】

また、遊技球の流下に対応して回転装飾部材Ｋ４５７８が回転されるように構成しても良い。この場合、遊技球が特定の範囲を流下した場合に回転装飾部材Ｋ４５７８が回転するように構成することで、遊技者は、回転装飾部材Ｋ４５７８を視認したままで、遊技球が特定の範囲を流下したことを把握することができるので、遊技負担の軽減を図ることができる。

【０８４４】

なお、遊技球が特定の範囲を流下した場合の検出は、遊技球の通過を検出するためのセンサを設けても良いし、特定の範囲を流下する遊技球からの荷重により、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転が生じるように構成されても良い。後者の場合において、遊技球の重さが伝達されることで回転装飾部材Ｋ４５７８の回転力が生じるように構成しても良いし、遊技球の荷重により回転装飾部材Ｋ４５７８の回転を規制するためのロックが解除され、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転が許容される構成でも良い。

【０８４５】

特に、四角形状の回転装飾部材Ｋ４５７８の外形には、回転軸から遠い部分と、近い部分とが形成されていることから、引っかかりとなり、荷重を回転方向に伝達させ易くすることができる。

【０８４６】

また、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）における遊技球の通過が検出されることに基づいて、表示装置Ｋ４５８０の表示領域が発光したり、スピーカー等の音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）から入賞用の音声が出力されたりするように制御しても良い。

【０８４７】

表示装置Ｋ４５８０の表示領域が発光される場合において、その発光態様の設定については何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）の何れで遊技球の通過が検出されたかに関わらず表示装置Ｋ４５８０の表示領域の全範囲を発光させるようにしても良いし、発光を入賞位置に対応させたものに設定しても良い。

【０８４８】

前者の場合、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光に気付いた遊技者は、その発光態様のみからでは、遊技球が入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）のどこを通過したのかを把握することができないので、遊技者の注目力を入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａの配置位置側へ移させることができる。これにより、遊技者の目線を表示装置Ｋ４５８０の表示領域から遊技領域側へ誘導させることができる。

【０８４９】

後者の場合、例えば、比較的右側に配置される第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１２参照）で遊技球の通過が検出された場合には表示装置Ｋ４５８０の表示領域の右側部を発光させる一方、第１特定入賞口Ｋ６５ａよりも左側に配置される第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１２参照）で遊技球の通過が検出された場合には表示装置Ｋ４５８０の表示領域の左側部を発光させるようにしても良い。この場合、表示装置Ｋ４５８０の発光態様（発光範囲）を視認した遊技者に対して、遊技球がどこを通過したのかを予想させ易くさせることができる。

【０８５０】

なお、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）を通過する遊技球を一律に扱っても良いし、又は、遊技球を区別して扱い、その区別に対応して発光の有無および音声出力の有無を切り替えるようにしても良い。

【０８５１】

例えば、第１特定入賞口Ｋ６５ａ又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１２参照）を通過する遊技球を、特別遊技状態におけるラウンド遊技の規定個数（本実施形態では１０個）に収まる遊技球か、それを超えて通過する遊技球（オーバー入賞の遊技球）かで区別可能に構成しても良い。

【０８５２】

この場合において、規定個数に収まる遊技球の通過である場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を発光させず、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）から入賞用の音声を出力させない一方、規定個数を超えた遊技球の通過である場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を発光させ、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）から入賞用の音声を出力させるように制御しても良い。

【０８５３】

この制御態様の場合、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光や、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの入賞用の音声の出力を遊技者に確認させた場合に、規定個数を超えた遊技球の通過が第１特定入賞口Ｋ６５ａ又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１２参照）において生じることに伴う賞球の払い出しが得られることを同時に把握させることができるので、遊技の興趣の向上を図ることができる。

【０８５４】

または、規定個数に収まる遊技球の通過である場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を発光させ、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）から入賞用の音声を出力させる一方、規定個数を超えた遊技球の通過である場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を発光させず、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）から入賞用の音声を出力させないように制御しても良い。

【０８５５】

この制御態様の場合、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光や、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの入賞用の音声の出力を遊技者に確認させたとしても、規定個数を超えた遊技球の通過が第１特定入賞口Ｋ６５ａ又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１２参照）において生じているか否かを遊技者に把握させ難くすることができる。そのため、オーバー入賞球の発生により、特別遊技状態で払い出される賞球にばらつきが生じる場合であっても、そのばらつきが遊技者に気付かれ難くすることができ、遊技者の不満が蓄積される事態を避け易くすることができる。

【０８５６】

例えば、第２入賞口Ｋ６４０（図１２参照）を通過する遊技球を、第２入賞口Ｋ６４０の入賞により抽選される第１図柄（例えば、特別図柄２）の保留球数に空きがある場合に通過した遊技球か、特別図柄２の保留球数が満タンである場合に通過した遊技球（オーバーフローの遊技球）かで区別可能に構成しても良い。

【０８５７】

この場合において、特別図柄２の保留球数が満タンである場合の遊技球の通過である場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を発光させず、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照

）から入賞用の音声を出力させない一方、特別図柄２の保留球数に空きがある場合の遊技球の通過である場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を発光させ、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）から入賞用の音声を出力させるように制御しても良い。

【０８５８】

この制御態様の場合、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光や、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの入賞用の音声の出力を遊技者に確認させることで、第２入賞口Ｋ６４０（図１２参照）の遊技球の通過により特別図柄２の抽選を得られたことを遊技者に把握させることができる。

【０８５９】

または、特別図柄２の保留球数が満タンである場合の遊技球の通過である場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を発光させ、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）から入賞用の音声を出力させる一方、特別図柄２の保留球数に空きがある場合の遊技球の通過である場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を発光させず、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）から入賞用の音声を出力させないように制御しても良い。

【０８６０】

この制御態様の場合、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光や、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの入賞用の音声の出力を遊技者に確認させることで、第２入賞口Ｋ６４０（図１２参照）を遊技球が通過したにも関わらず特別図柄２の抽選が得られていないことを遊技者に把握させることができる。

【０８６１】

この場合、遊技者に対して、このまま球の発射を継続するか（球の発射を継続しておけば特別図柄２の保留球数に空きが出るや否や第２入賞口Ｋ６４０（図１２参照）に入球を生じさせて特別図柄２の抽選を得られる可能性があるので遊技の迅速さが高まる一方でアウト球の個数が多くなり易い）、特別図柄２の保留球数に空きが出るまで球の発射を一時中断するか（球の発射を停止すればアウト球は発生しなくなるが入球間隔は長くなる可能性が高く遊技の迅速さは低下し易い）の、遊技態様の選択に役立つ情報を提供することができ、遊技者の遊技負担を低減することができる。

【０８６２】

なお、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光と、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの入賞用の音声の出力とは、必ずしもセットで生じさせる必要はない。例えば、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光は生じるが音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの入賞用の音声の出力は生じない場合や、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光は生じずに音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの入賞用の音声の出力のみが生じる場合等が設定されても良い。

【０８６３】

なお、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）の通過により表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光と、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの入賞用の音声の出力がされる場合に限られるものではない。例えば、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａの通過により、対応するＬＥＤが発光されるようにしても良い。

【０８６４】

即ち、例えば、第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１２参照）に遊技球が入球した場合に、その後方から光を照射する発光部Ｋ２１２（図１５参照）から光が照射されるようにしても良い。これにより、明るく視認される箇所と、遊技球の入球箇所とを対応づけることができるので、遊技者は、明るく視認される箇所から、入球により得られる利益を予想し易くなる。

【０８６５】

また、表示装置Ｋ４５８０の表示と明るくされる入賞ユニットＫ２００とが近づけられている場合（図８５（ｂ）参照）、表示装置Ｋ４５８０における表示と入賞ユニットＫ２００の前側における意匠（「Ｅ」の記号）とを一連で視認させることができる。これにより、表示装置Ｋ４５８０だけで視認される態様とも、入賞ユニットＫ２００だけで視認さ

れる態様とも異なる態様で視認させることができるので、演出のバリエーションを増加させることができる。

【０８６６】

なお、上述のように、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光や、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの入賞用の音声の出力のタイミングが、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）を遊技球が通過した場合に限定されるものではなく、種々の態様が例示される。

【０８６７】

例えば、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）の上流側に配置される開閉板（例えば、入賞口Ｋ６５ａを開閉する開閉板Ｋ６５ｂ、第２入賞口Ｋ６４０を開閉する電動役物Ｋ６４０ａ（図１２参照）、第２特定入賞口Ｋ６５０ａを開閉する第２電動役物Ｋ２５０（図１７参照））の何れかが、対応する入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａへ遊技球を流下させることができる開放状態とされた場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域において発光され、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）から特定の音声が出力される一方、対応する入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａへ遊技球を流下させ難くする閉鎖状態とされた場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域において発光されず、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）から特定の音声が出力されないように制御しても良い。

【０８６８】

この場合、遊技者に対して、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における発光態様や、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの特定の音声の出力態様を確認させることで、遊技球を右打ちで発射させる期間と、遊技球の打ち出しを停止させる期間とを、判別させ易くすることができる。

【０８６９】

即ち、遊技者は、表示装置Ｋ４５８０の表示領域において発光され、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）から特定の音声が出力された場合に、遊技球を発射する一方で、表示装置Ｋ４５８０の表示領域において発光されず、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）から特定の音声が出力されない場合に、遊技球の発射を停止させることで、発射された球が入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）のいずれにも入球せず遊技領域から排出されるという事態が生じる可能性を低くすることができ、遊技における無駄球の個数を削減させることができる。

【０８７０】

または、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａの上流側に配置される開閉板（例えば、入賞口Ｋ６５ａを開閉する開閉板Ｋ６５ｂ、第２入賞口Ｋ６４０を開閉する電動役物Ｋ６４０ａ（図１２参照）、第２特定入賞口Ｋ６５０ａを開閉する第２電動役物Ｋ２５０（図１７参照））の何れかが、対応する入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａへ遊技球を流下させることができる開放状態とされた場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域において発光されず、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）から特定の音声が出力されない一方、対応する入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａへ遊技球を流下させ難くする閉鎖状態とされた場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域において発光され、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）から特定の音声が出力されるように制御しても良い。

【０８７１】

この場合であっても、発光の有無や音声の出力の有無と、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）の何れかへの入球とを関連づけることができるので、遊技者に対して、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における発光態様や、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの特定の音声の出力態様を確認させることで、遊技球を右打ちで発射させる期間と、遊技球の打ち出しを停止させる期間とを、判別させ易くすることができる。

【０８７２】

なお、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａの上流側に配置される開閉板（例えば、入賞口Ｋ６５ａを開閉する開閉板Ｋ６５ｂ、第２入賞口Ｋ６４０を開閉する電動役物Ｋ６４０ａ（図１２参照）、第２特定入賞口Ｋ６５０ａを開閉する第２電動役物Ｋ２５０（図

１７参照））の何れかが、現在、開放状態か閉鎖状態かに関連して、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における発光態様や、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの特定の音声の出力態様を切り替える制御に限らず、種々の制御態様が例示される。なお、音声の出力態様の切り替えとは、音の発生は継続している上で変化を生じさせることでも良いし、音が発生される状態と消音される状態（ミュート）との変化でも良い。

【０８７３】

例えば、開閉板の状態が切り替えられるよりも前における一時点から、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における発光態様や、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの特定の音声の出力態様を切り替えるように制御しても良い。

【０８７４】

この場合において、例えば、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）の上流側に配置される開閉板が閉鎖状態から開放状態に切り替えられる数秒前に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における発光態様や、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの特定の音声の出力態様が切り替えられるようにしても良い。

【０８７５】

この場合、その切り替え時点を遊技球の発射開始の目安とすることで、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）が開放状態となってから球を発射する場合に生じ易い、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａが開放状態となってからの一球目の遊技球の入賞タイミングが、発射球が入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａに到達するまでの移動時間（タイムラグ）分だけ遅れるという事態を解消することができる。

【０８７６】

特に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における発光態様や、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの特定の音声の出力態様が切り替えられるタイミングを、開閉板が閉鎖状態から開放状態に切り替えられる時点よりも、発射球が入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）に到達するまでの移動時間（タイムラグ）分だけ前の時点とすることで、発射球が入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａに到達する直前に、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａの上流側に配置される開閉板が開放状態に切り替えられる状況を生じさせることができることから、遊技をスムーズに進行させることができる。

【０８７７】

また、例えば、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）の上流側に配置される開閉板が開放状態から閉鎖状態に切り替えられる数秒前に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における発光態様や、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの特定の音声の出力態様が切り替えられるようにしても良い。

【０８７８】

この場合、その切り替え時点を遊技球の発射停止の目安とすることで、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）が閉鎖状態となってから球の発射を停止する場合には防ぐことのできない、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａの何れもが閉鎖状態となっているにも関わらず、既に発射してしまっている球が第３図柄表示装置Ｋ８１の右側を流下し、何れの入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａにも入球せずにアウト口Ｋ７１（図１２参照）から排出されるという事態を解消することができる。

【０８７９】

特に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における発光態様や、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの特定の音声の出力態様が切り替えられるタイミングを、開閉板が開放状態から閉鎖状態に切り替えられる時点よりも、発射球が入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）に到達するまでの移動時間（タイムラグ）分だけ前の時点とすることで、その時点で球の発射を停止すれば、その前に発射された球については入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａが開放状態の時に到達させることができることから、無駄球の低減を図ることができる。

【０８８０】

なお、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）を特定せず、いずれかの

入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａが開放された場合に報知を行うようにしても良いし、開放された入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａに対応した報知を行っても良い。例えば、開放された入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａに対応するＬＥＤが発光されるようにしても良い。

【０８８１】

即ち、例えば、第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１２参照）が開放された場合に、その後方から光を照射する発光部Ｋ２１２（図１５参照）から光が照射されるようにしても良い。これにより、明るく視認される箇所と、遊技球の入球可能箇所とを対応づけることができるので、遊技者は、明るく視認される箇所から、入球により得られる利益を予想し易くなる。

【０８８２】

図８７を参照して、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）の上流側に配置される開閉板の状態が切り替えられるよりも前における一時点から、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における発光態様や、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの特定の音声の出力態様を切り替えるように制御される第３の演出制御例について説明する。なお、以下では便宜的に、第１特定入賞口Ｋ６５ａの開閉板の状態が切り替えられるよりも前における一時点からの演出態様について説明するが、同様の演出を、第２入賞口Ｋ６４０や第２特定入賞口Ｋ６５０ａでも適用させることは可能である。

【０８８３】

図８７（ａ）及び図８７（ｂ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の部分正面図である。図８７（ａ）及び図８７（ｂ）では、第３の演出制御例が実行される場合における、第１特定入賞口Ｋ６５ａの開閉板Ｋ６５ｂ（図１２参照）が開放状態に変化される数秒前における第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域内における変化が時系列で図示される。

【０８８４】

即ち、図８７（ａ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域にサイズが縮小されたパチンコ機Ｋ４０１０の正面図Ｋ４０１０Ｆが表示され、図８７（ｂ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１よりも手前側の層において長尺装置Ｋ５４０が右第２傾斜姿勢（図８３参照）に変化された後、移動装置Ｋ４５６０が移動範囲の右端に到達したことが右側検出センサＫ５５６ａ（図４０参照）により検出された状態が図示される。

【０８８５】

この場合において、移動装置Ｋ４５６０の回転装飾部材Ｋ４５７８の環形状が所謂虫眼鏡のレンズ枠に見立てられ、表示装置Ｋ４５８０には、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示されるパチンコ機Ｋ４０１０の正面図Ｋ４０１０Ｆにおける第１可変入賞装置Ｋ６５（図１２参照）付近の拡大正面図Ｋ６５Ｆが表示される。

【０８８６】

表示装置Ｋ４５８０の表示は、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示されるパチンコ機Ｋ４０１０との位置関係に合わせて変化されるように制御されており、図８７（ｂ）の位置では、第１可変入賞装置Ｋ６５（図１２参照）付近の拡大正面図Ｋ６５Ｆが表示される。

【０８８７】

このように、表示装置Ｋ４５８０の表示が、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示されるパチンコ機Ｋ４０１０の全体から一部に寄っていくように変化されることで、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示される正面図Ｋ４０１０Ｆと、表示装置Ｋ４５８０に表示される拡大正面図Ｋ６５Ｆとを一連で視認させ易くすることができ、遊技者に対して、表示装置Ｋ４５８０の表示がパチンコ機Ｋ４０１０の一部を意味することを理解させ易くすることができる。

【０８８８】

これにより、表示装置Ｋ４５８０の表示が何を意味しているのか、又は、表示装置Ｋ４５８０の表示がパチンコ機Ｋ４０１０を意味していることが理解できても表示がパチンコ機Ｋ４０１０のどの部分を意味しているかについて、遊技者が理解できないために、表示装置Ｋ４５８０の表示が意味をなさなくなるという事態の発生を回避し易くすることがで

きる。
【０８８９】
更に、第３図柄表示装置Ｋ８１に正面図Ｋ４０１０Ｆが表示される前後位置よりも、拡大正面図Ｋ６５Ｆが表示される前後位置の方が前側（遊技者側）とされることで、パチンコ機Ｋ４０１０の全体から、一部に変化される際に、表示が遊技者側に近づいてきているように、遊技者に錯覚させることができる。これにより、臨場感のある表示演出を構成することができる。
【０８９０】
図８７（ｂ）に図示される状態において、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の内、長尺装置Ｋ５４０の右上側の範囲において、表示装置Ｋ４５８０に向かう矢印と「狙え」との文字が表示され、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からは「ここを狙って球を打ち出せ」との音声が出力される。
【０８９１】
これにより、第１特定入賞口Ｋ６５ａの開閉板Ｋ６５ｂ（図１２参照）が開放状態に変化される前から、遊技球をどこに向かって発射すれば良いのか、どのタイミングで発射すれば良いのかを遊技者に把握させ易くなるため、遊技者の遊技負担を低減させることができる。以降、第３の演出制御例について続けて説明する。
【０８９２】
第３の演出制御例では、図８７（ｂ）の表示に基づいて遊技者が右打ちで球を発射し、その球が第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１２参照）に入球されると（１球目の入球検出に基づいて）、表示装置Ｋ４５８０の表示が、上述したように右向きの矢印の模様（図８６参照）に切り替えられ、第３図柄表示装置Ｋ８１における正面図Ｋ４０１０Ｆの表示が消される。代わりに、第３図柄表示装置Ｋ８１では、第１特定入賞口Ｋ６５ａへの入球が検出される度に、「＋１５」等の賞球の払い出しを想起させる数字表示（他に、「ポイントＧＥＴ」や、コインの表示等でも良い）が表示される。
【０８９３】
第３の演出制御例では、第１特定入賞口Ｋ６５ａへの入球が検出される度に表示装置Ｋ４５８０に矢印形状（図８６参照）が表示され、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りに回転動作されるが、その表示態様および回転動作態様が一定ではなく、変化し得るように制御される。
【０８９４】
即ち、第３の演出制御例では、先の遊技球の入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０に表示される矢印形状（図８６参照）の大きさおよび回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度に比較して、その後の遊技球の入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０に表示される矢印形状の大きさおよび回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が、同じか、それ以上となるように制御される。
【０８９５】
これにより、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１２参照）に入球される球数が多くなるほど、表示装置Ｋ４５８０に表示される矢印形状（図８６参照）の大きさ及び回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が大きくなり易い状況を構成することができる。更に、第１特定入賞口Ｋ６５ａに入球される球数が多くなるほど、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示される「＋１５」等の賞球の払い出しを想起させる数字表示の表示数が多くなるため、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転と数字表示の表示（数）とを一連で視認させることができる。
【０８９６】
従って、遊技者は、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１２参照）への入球個数と、表示装置Ｋ４５８０に表示される矢印形状（図８６参照）の大きさ及び回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度とを対応付けて把握することができる。この場合、表示装置Ｋ４５８０に表示される矢印形状の大きさ及び回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度から、払い出される賞球個数の多少を予想し易くすることができるので、表示装置Ｋ４５８０の表示および回転装飾部材Ｋ４５７８に対する注目力を向上させることができる。

【０８９７】
なお、第３の演出制御例において、先の遊技球の入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０に表示される矢印形状（図８６参照）の大きさ及び回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度に対する、その後の遊技球の入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０に表示される矢印形状の大きさ及び回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度の変化量（速度上昇量）は、毎回同じでも良いし、異なるようにしても良い。
【０８９８】
例えば、矢印形状（図８６参照）の大きさ及び回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度として、第１段階（遅速）から第５段階（高速）まで５種類の速度を設定可能に構成されている場合に、先の遊技球の入球に基づく矢印形状の大きさ及び回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が第１段階だった場合に、その後の遊技球の入球に基づく矢印形状の大きさ及びおよび回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が第２段階に変化するパターンのみならず、第３～５段階に変化するパターンをも実行可能に構成しても良い。
【０８９９】
この場合に、例えば、表示される矢印形状（図８６参照）の大きさが変化しきる前に、次の球が入球した（短時間で２球連続入球した）場合に矢印形状の大きさ及び回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が一段階増加し、更に次の球に基づいて表示される矢印形状の大きさが変化しきる前に更に次の球が入球した（短時間で３球連続入球した）場合に矢印形状の大きさ及び回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が二段階増加するように構成しても良い。この場合、矢印形状の大きさ及び回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度の変化態様から、高頻度の入球が生じたことを遊技者に把握させることができる。
【０９００】
なお、上述の第３の演出制御例では、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１２参照）への入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１特定入賞口Ｋ６５ａに入球されず、第２電動役物Ｋ２５０の可動板Ｋ２５１の上面を左方へ流されることで第２特定入賞口Ｋ６５０ａにも入球されなかった球が、左側の球案内部Ｋ２１０（図１７参照）に入球した場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作されるように構成しても良い。
【０９０１】
右側の球案内部Ｋ２１０（図１７参照）がアウト口Ｋ７１（図１２参照）と同様の機能を備える一方で、左側の球案内部Ｋ２１０（図１７参照）は一般入賞口Ｋ６３（図１２参照）と同様の機能を備えており、入球に基づき賞球の払い出しが行われる。即ち、左側の球案内部Ｋ２１０（図１７参照）への入球と同様、一般入賞口Ｋ６３に入球した場合にも、表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作される。
【０９０２】
この場合、表示装置Ｋ４５８０の表示や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作により、遊技者に対して、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１２参照）に入球せずに下流に流れた球の存在に気付かせることができるので、開閉板Ｋ６５ｂが閉鎖状態の時に球の発射をしていないか、球の発射強度は適切か、といった、操作ハンドルＨ５１（図１１参照）の操作の見直しを遊技者に促すことができる。
【０９０３】
即ち、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１２参照）に発射球の全てが入球される状況下では、表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えは生じずに図８７（ｂ）に図示される状態が維持され、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作も生じない一方で、第１特定入賞口Ｋ６５ａに発射球の一部が入球されない状況下においては、表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えを生じ、回転装飾部材Ｋ４５７８も回転動作される。
【０９０４】
これにより、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８を、第１特定入賞口Ｋ６

５ａに適切に入球させられているかを遊技者に報知するためのバロメーターとして利用することができるので、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【０９０５】

なお、上述の第３の演出制御例では、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１２参照）への入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左側の球案内部Ｋ２１０（図１７参照）への入球では表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えや回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作を生じさせず、一般入賞口Ｋ６３（図１２参照）への入球に基づいて、表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作されるように構成しても良い。

【０９０６】

この場合、表示装置Ｋ４５８０の表示や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作により、遊技者に対して、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１２参照）側、即ち、回転装飾部材Ｋ４５７８の上側を右方へ案内されずに、回転装飾部材Ｋ４５７８の左側へ案内され流れた球の存在に気付かせることができるので、球の発射強度が弱くなっていないか、といった、操作ハンドルＨ５１（図１１参照）の操作の見直しを遊技者に促すことができる。

【０９０７】

即ち、回転装飾部材Ｋ４５７８の上流側の位置を遊技球が右方に流下し続ける状況が維持される時には表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えや回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が実行されることはなく、回転装飾部材Ｋ４５７８の上流側の位置を遊技球が一つでも左方に流下する場合に表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えや回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が実行され得る。

【０９０８】

そのため、表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えや回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が実行された場合、回転装飾部材Ｋ４５７８の上流側の位置を遊技球が左方に流下する程度に、発射強度が弱まっている証拠になるので、表示装置Ｋ４５８０の表示や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作を視認した遊技者に対して、操作ハンドルＨ５１（図１１参照）の操作強度を見直させるよう促すことができる。

【０９０９】

これにより、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８を、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１２参照）に適切に入球させられているかを遊技者に報知するためのバロメーターとして利用することができるので、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【０９１０】

なお、上述の第３の演出制御例では、表示装置Ｋ４５８０の表示および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が、遊技球の入球に基づいて生じる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。例えば、表示装置Ｋ４５８０の表示または回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作の少なくとも一方が、遊技球の入球に因らず発生するようにしても良い。

【０９１１】

この場合において、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が、操作ボタン部材Ｈ１８１（図１１参照）の操作（押し込み、連打、長押し等）に基づいて増加可能に構成されても良い。例えば、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度として、第１段階（遅速）から第５段階（高速）まで５種類の速度を設定可能に構成されている場合に、操作ボタンＨ１８１の操作によりどの段階まで増加するのか（増加上限）と、遊技者が得られる利益の期待値（大当たり遊技における払い出し賞球個数の多少（獲得した大当たりのラウンド数の多少）、特図抽選の大当たり期待度など）とを対応させることにより、操作ボタン部材Ｈ１８１の操作意欲を向上させることができる。

【０９１２】

なお、上述した増加上限の設定を、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１２参照）への入球に

基づいて表示装置Ｋ４５８０の表示や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が生じる場合の、矢印形状（図８６参照）の大きさや回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度の増加上限に適用しても良い。これにより、表示装置Ｋ４５８０や回転装飾部材Ｋ４５７８に対する注目力を向上させることができる。

【０９１３】

上述した第３の演出制御例では、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１２参照）への入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０に表示される矢印形状（図８６参照）の大きさや、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が変化され得る（増加され得る）場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上述の大きさや回転速度が減少され得るように制御しても良いし、増加と減少との両方の変化が可能とされるように制御しても良い。

【０９１４】

また、表示装置Ｋ４５８０の表示領域で表示される色彩や、回転装飾部材Ｋ４５７８を発光させる電極基板Ｋ５６４（図４１参照）のＬＥＤからの発光色の変化が生じるようにしても良い。即ち、色彩の変化に段階（例えば、初めは青色で発光されていたものが、青の次が緑色の発光、緑色の次が紫色の発光、紫色の次が赤色の発光、赤色の次が虹色の発光と、変化する順番）が設けられ、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１２参照）への入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０で表示される色彩が変化されるように制御しても良い。

【０９１５】

この場合、遊技者は、表示装置Ｋ４５８０で表示される内容や、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度といった、一瞬での認識が困難となる可能性がある情報よりも、容易に一瞬で認識できる色彩という情報により、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１２参照）への入球態様に基づく情報を得ることができるので、遊技者の遊技負担を軽減させることができる。

【０９１６】

なお、入球により、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光や、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの入賞用の音声の出力の切り替えが生じる入球口として、上流側に開閉板のある入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）を例に説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板の無い、第１入賞口Ｋ６４、一般入賞口Ｋ６３、スルーゲートＫ６７、アウト口Ｋ７１等（図１２参照）でも良い。

【０９１７】

この場合、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光や、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの入賞用の音声の出力の切り替えの態様から、対応する入賞口への入球頻度（通過頻度）を遊技者に把握させることができる。これにより、遊技者に対して遊技を継続するか否かの判断に有用な情報を提供することができる。

【０９１８】

また、入球に基づいて光が照射される位置は、必ずしも表示装置Ｋ４５８０の表示領域に限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、対応する入賞口の上流側の位置（遊技領域内の位置）でも良いし、対応する入賞口に案内される球が貯留され得る（一時滞留され得る）位置（例えば、第１特定入賞口Ｋ６５ａよりも上流側であり開閉板Ｋ６５ｂよりも下流側の位置や、第２入賞口Ｋ６４０よりも上流側であり電動役物Ｋ６４０ａ上方の位置や、第２特定入賞口Ｋ６５０ａよりも上流側であり可動板Ｋ２５１よりも下流側の位置（図１２，図１７参照））でも良い。この場合、対応する入賞口に未だ入球していない球が配置され得る位置が明るく照らされることにより、遊技球に対する視界を明るくすることができ、遊技球の視認性を向上させることができる。

【０９１９】

この場合において、上述した表示装置Ｋ４５８０で実行される発光制御を、上述の対応する入賞口の上流側の位置や、対応する入賞口に案内される球が貯留され得る位置に光を照射する装置でも実行可能に構成される場合、発光制御を実行する位置を、表示装置Ｋ４５８０か、その他の位置かで状況に応じて切り替えることで、遊技者に注目させる位置を切り替えさせることができる。

【０９２０】

上述のように、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）への入球により、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の発光や、音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）からの入賞用の音声の出力の切り替えが生じることで、入球したことを遊技者に把握させることが可能となる。

【０９２１】

一方で、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａ（図１２参照）に遊技球がこれから入球する可能性があることを報知することによっても、遊技者の期待感を高めることができる。以下では、遊技球がこれから入球し得ることを報知する報知態様の一例について説明する。

【０９２２】

図８８は、図１２のＺ０１ｍ部に対応する範囲における遊技盤Ｋ１３の部分拡大正面図である。図８８では、入賞ユニットＫ２００が図示されており、化粧カバーＫ２２０の内部形状が想像線で図示され、電飾基板Ｋ２１１，Ｋ２２７の発光部Ｋ２１２，Ｋ２２８が、隠れ線で図示される（図１５及び図１６参照）。

【０９２３】

発光部Ｋ２１２，Ｋ２２８はＬＥＤから形成されており、正面側へ光軸が向けられる。即ち、化粧カバーＫ２２０の板状本体Ｋ２２１に対して照射される光は、図８８で図示される発光部Ｋ２１２，Ｋ２２８の配置を中心とする略円形の範囲において、その中心から離れるほど光量が落ちるような視認態様で視認される。

【０９２４】

光が視認される範囲（円の直径）は、採用するＬＥＤ次第であるが、本実施形態では、隣り合う円の直径同士が外接する程度の関係となるように発光部Ｋ２１２，Ｋ２２８を構成する。なお、円の直径が、隣の発光部Ｋ２１２，Ｋ２２８と重なるほど広いと淡く弱い光で視認され易く、円の直径が、隣の発光部Ｋ２１２，Ｋ２２８には届かない程度の大きさとすると中心部は強力な光となるが各個独立した光として視認され易い。ＬＥＤの採用時には、これらのバランスを考えて、演出効果の観点から選択するようにすれば良い。

【０９２５】

本実施形態では、上記各実施形態と同様に、化粧カバーＫ２２０に大形意匠Ｋ２２１ａ及び小形意匠Ｋ２２１ｂ（図１５参照）が施されている分、意匠による演出効果を高めることができる一方で、化粧カバーＫ２２０の背面側を流下する遊技球の視認性が低下する可能性がある。

【０９２６】

これに対し、本実施形態では、上記各実施形態と同様に、球の流下経路よりも背面側から化粧カバーＫ２２０側（正面側）へ向けて照射される光により、遊技球がどこへ向かって流下しているのかを遊技者に把握させることができるように構成される。

【０９２７】

まず、球の流下態様の種類について説明する。遊技領域の右側を流下して第１可変入賞装置Ｋ６５（図１２参照）側から入賞ユニットＫ２００に入球した遊技球は、まず第１流下態様ＫＦＬ５１で流下する。

【０９２８】

第１流下態様ＫＦＬ５１で流下した遊技球は、分岐形成部Ｋ２２３に到達し、左右方向に分岐される。分岐形成部Ｋ２２３で遊技球が左側へ流れた場合に、電動役物Ｋ６４０ａが開放状態で維持される場合（図２０参照）、遊技球は第２流下態様ＫＦＬ５２で流下する。第２流下態様ＫＦＬ５２で流下した遊技球は、案内開口Ｋ２０３を通過し、第２入賞口Ｋ６４０（図１２参照）に入球する。

【０９２９】

分岐形成部Ｋ２２３で遊技球が左側へ流れた場合に、遊技球が通過しきる前に電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖状態に変化されると（図１９参照）、遊技球は第３流下態様ＫＦＬ５３で流下する。第３流下態様ＫＦＬ５３で流下した遊技球は、減速凹部Ｋ２０７の正面側に到達する。

【０９３０】
分岐形成部Ｋ２２３で遊技球が右側へ流れた場合において、延設形成部Ｋ２２２の一部であって球案内部Ｋ２１０に連結される排出延設部Ｋ２２２ａから逸れた場合、遊技球は第４流下態様ＫＦＬ５４で流下する。第４流下態様ＫＦＬ５４で流下した遊技球は、可動板Ｋ２５１に上流側端部から到達するように流れ、第３流下態様ＫＦＬ５３と合流し得る。
【０９３１】
分岐形成部Ｋ２２３で遊技球が右側へ流れた場合において、延設形成部Ｋ２２２の一部であって球案内部Ｋ２１０に連結される排出延設部Ｋ２２２ａに導入された場合、遊技球は第５流下態様ＫＦＬ５５で流下する。第５流下態様ＫＦＬ５５で流下した遊技球は、右側の球案内部Ｋ２１０を通り遊技領域から排出される。
【０９３２】
第３流下態様ＫＦＬ５３又は第４流下態様ＫＦＬ５４で遊技球が流下している場合に、可動板Ｋ２５１が閉鎖状態で維持されると（図１９参照）、球は第６流下態様ＫＦＬ５６で流下する。第６流下態様ＫＦＬ５６で流下した遊技球は、入賞ユニットＫ２００の左側から遊技領域へ排出される。
【０９３３】
第３流下態様ＫＦＬ５３又は第４流下態様ＫＦＬ５４で遊技球が流下している場合に、可動板Ｋ２５１が開放状態にされると（図２１及び図２２参照）、球は第７流下態様ＫＦＬ５７で流下する。第７流下態様ＫＦＬ５７で流下した遊技球は、第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球する。
【０９３４】
上述のように、入賞ユニットＫ２００に入球した遊技球の流下態様には複数のバリエーションがあるので、各バリエーションに対応させるものとして、遊技球の流下範囲の後方に複数の発光部Ｋ２１２（各発光部Ｋ２１２ａ～Ｋ２１２ｗ）が配置される。
【０９３５】
発光部Ｋ２１２からの光は、その前方（光照射方向）に球が位置する場合には球により部分的に遮られる一方、前方に球が位置しない場合には化粧カバーＫ２２０の板状本体Ｋ２２１に投影される。
【０９３６】
本実施形態では、球に当接して影響を与える凹凸形状の構成をベース部材Ｋ２０１の板状本体Ｋ２０２の前面側に集めて、板状本体Ｋ２２１の後面は大部分が平滑面となるように構成している。
【０９３７】
これにより、板状本体Ｋ２２１に投影された光が凹凸形状により屈折する部分を狭めることができ、板状本体Ｋ２２１に投影された光を最大限に広い範囲で視認させることができる。更に、板状本体Ｋ２２１の板厚のばらつきを抑えることで、化粧カバーＫ２２０の明るさをほぼ均一にすることができる。
【０９３８】
また、第４流下態様ＫＦＬ５４で流下する遊技球を可動板Ｋ２５１へ案内する位置において後方へ向かうほど下降傾斜する形状で形成される傾斜面部Ｋ２２９（図１６参照）が形成されている。
【０９３９】
傾斜面部Ｋ２２９は、流下中の球の前後配置を後方側寄りに修正することで、その下流側における流下態様を調整し易くできる。即ち、可動板Ｋ２５１の上面を球が流下し始める当初から減速凹部Ｋ２０７側に球を寄せることで、十分な減速作用を生じさせることができる。
【０９４０】
また、可動板Ｋ２５１が開放状態とされていた場合（図２１及び図２２参照）に第７流下態様ＫＦＬ５７で流下し始める当初から球を後方側に寄せることで、可動板Ｋ２５１の

下流側で球が滞留することを回避でき、第２特定入賞口Ｋ６５０ａの通過を迅速に生じさせることができる。

【０９４１】

傾斜面部Ｋ２２９に発光部Ｋ２１２から光が照射された場合には、傾斜面部Ｋ２２９の面で反射させることにより発光部Ｋ２１２からの光の向きを上方へ変化させることができるが、詳しくは後述する。

【０９４２】

発光部Ｋ２１２は、黄色の光を照射可能な上流側発光部Ｋ２１２ａ，Ｋ２１２ｂと、赤色の光を照射可能な下流側発光部Ｋ２１２ｃ，Ｋ２１２ｄと、白色の光を照射可能な分散発光部Ｋ２１２ｇ，Ｋ２１２ｗと、を備える。

【０９４３】

第１上流側発光部Ｋ２１２ａは、第１流下態様ＫＦＬ５１で流下する球に照射光の少なくとも一部が照射され得る位置に配置される。そのため、第１上流側発光部Ｋ２１２ａから光が照射されている状態において第１流下態様ＫＦＬ５１で球が流下する場合、球により光が遮られ、化粧カバーＫ２２０に到達する光の黄色成分が弱められることにより、化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の視認態様が変化される。

【０９４４】

即ち、遊技者は、光の黄色成分の強弱が変化するように化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の視認態様が変化したことを視認することで、入賞ユニットＫ２００に遊技球が入球したことを把握することができる。

【０９４５】

第２上流側発光部Ｋ２１２ｂは、第２流下態様ＫＦＬ５２で流下する球に照射光の少なくとも一部が照射され得る位置に配置される。そのため、第２上流側発光部Ｋ２１２ｂから光が照射されている状態において第２流下態様ＫＦＬ５２で球が流下する場合、球により光が遮られ、化粧カバーＫ２２０に到達する光の黄色成分が弱められることにより、化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の視認態様が変化される。

【０９４６】

即ち、遊技者は、入賞ユニットＫ２００に遊技球が入球したことを把握した後も継続して光の黄色成分の強弱が変化するように化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の視認態様が変化される場合に、遊技球が第２流下態様ＫＦＬ５２で流下していると予測を立てることができる。

【０９４７】

第１下流側発光部Ｋ２１２ｃは、第３流下態様ＫＦＬ５３で流下する球に照射光の少なくとも一部が照射され得る位置に配置される。そのため、第１下流側発光部Ｋ２１２ｃから光が照射されている状態において第３流下態様ＫＦＬ５３で球が流下する場合、球により光が遮られ、化粧カバーＫ２２０に到達する光の赤色成分が弱められることにより、化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の視認態様が変化される。

【０９４８】

即ち、遊技者は、入賞ユニットＫ２００に遊技球が入球したことを把握した後に光の赤色成分の強弱が変化するように化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の視認態様が変化される場合に、遊技球が可動板Ｋ２５１側へ流下していると予測を立てることができる。

【０９４９】

第２下流側発光部Ｋ２１２ｄは、第４流下態様ＫＦＬ５４で流下する球に照射光の少なくとも一部が照射され得る位置に配置される。そのため、第２下流側発光部Ｋ２１２ｄから光が照射されている状態において第４流下態様ＫＦＬ５４で球が流下する場合、球により光が遮られ、化粧カバーＫ２２０に到達する光の赤色成分が弱められることにより、化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の視認態様が変化される。

【０９５０】

即ち、遊技者は、入賞ユニットＫ２００に遊技球が入球したことを把握した後に光の赤色成分の強弱が変化するように化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の視認態様が変化され

る場合に、遊技球が可動板Ｋ２５１側へ流下していると予測を立てることができる。
【０９５１】
ここで、入賞ユニットＫ２００に遊技球が入球したことを把握した後に光の赤色成分の強弱が変化するように化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の視認態様が変化されたことを視認したとしても、それだけでは、遊技球が第３流下態様ＫＦＬ５３で流下しているのか、遊技球が第４流下態様ＫＦＬ５４で流下しているのかを区別することは困難である。
【０９５２】
一方で、第３流下態様ＫＦＬ５３で流下した球は可動板Ｋ２５１の左右長さの途中位置に到達するのに対し、第４流下態様ＫＦＬ５４で流下した球は可動板Ｋ２５１の上流側端部から到達するため、球が可動板Ｋ２５１に到達してから可動板Ｋ２５１が開放されるまでの時間が同じ場合、第３流下態様ＫＦＬ５３で流下した球に比較して第４流下態様ＫＦＬ５４で流下した球の方が第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球され易い。
【０９５３】
そのため、遊技球が第３流下態様ＫＦＬ５３で流下しているのか、遊技球が第４流下態様ＫＦＬ５４で流下しているのかを区別できた方が、化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の視認態様と可動板Ｋ２５１の動作態様とを共に把握した場合に、球が第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球し得るか否かを正確に把握できるようになる。
【０９５４】
この観点から、本実施形態では、第１下流側発光部Ｋ２１２ｃから照射される光の見え方と、第２下流側発光部Ｋ２１２ｄから照射される光の見え方とを異ならせることにより、化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の視認態様の変化が第１下流側発光部Ｋ２１２ｃからの光が遮蔽されたことによるものなのか、第２下流側発光部Ｋ２１２ｄからの光が遮蔽されたことによるものなのかを区別可能に構成される。
【０９５５】
即ち、第１下流側発光部Ｋ２１２ｃからの光は、前後方向で照射される光が化粧カバーＫ２２０に到達されるものなので、正面視で第１下流側発光部Ｋ２１２ｃを中心に広がる略円形の光として視認される一方、第２下流側発光部Ｋ２１２ｄからの光は、傾斜面部Ｋ２２９で反射されて上方へ延びて化粧カバーＫ２２０に到達されるものなので、正面視で第２下流側発光部Ｋ２１２ｄを下端して上方に延びる帯状に視認される。
【０９５６】
そのため、光の赤色成分の強弱が変化するように化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の視認態様が変化されることは同じであっても、その視認態様が変化される光により視認される形状が略円形であれば、球は第３流下態様ＫＦＬ５３で流下していることを遊技者が把握でき、視認態様が変化される光により視認される形状が帯状であれば、球は第４流下態様ＫＦＬ５４で流下していることを遊技者が把握できる。
【０９５７】
このように、本実施形態によれば、化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の視認態様を、球が第３流下態様ＫＦＬ５３で流下している場合と、球が第４流下態様ＫＦＬ５４で流下している場合とで、異ならせることができる。
【０９５８】
第１分散発光部Ｋ２１２ｇは、第５流下態様ＫＦＬ５５又は第６流下態様ＫＦＬ５６で流下する球に照射光の少なくとも一部が照射され得る位置に配置される。そのため、第１分散発光部Ｋ２１２ｇから光が照射されている状態において第５流下態様ＫＦＬ５５又は第６流下態様ＫＦＬ５６で球が流下する場合、球により光が遮られ、化粧カバーＫ２２０に到達する光の白色成分が弱められることにより、化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の視認態様が変化される。
【０９５９】
即ち、遊技者は、入賞ユニットＫ２００に遊技球が入球したことを把握した後に光の白色成分の強弱が変化するように化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の視認態様が変化される場合に、遊技球が入賞ユニットＫ２００から排出されていると予測を立てることができ

る。
【０９６０】
なお、分散発光部Ｋ２１２ｇは、第５流下態様ＫＦＬ５５で流下する球に光を照射可能な位置に配置されるＬＥＤと、第６流下態様ＫＦＬ５６で流下する球に光を照射可能な位置に配置されるＬＥＤとがある。これらは、第５流下態様ＫＦＬ５５で流下する球は球案内部Ｋ２１０を通して遊技領域から排出される一方、第６流下態様ＫＦＬ５６で流下する球は遊技領域に戻されるという点で異なるが、入賞ユニットＫ２００から排出されることは共通である。
【０９６１】
即ち、遊技者は、入賞ユニットＫ２００に遊技球が入球したことを把握した後に光の白色成分の強弱が変化するように化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の視認態様が変化される場合に、入賞ユニットＫ２００に入球した遊技球が第２入賞口Ｋ６４０にも第２特定入賞口Ｋ６５０ａにも入球されずに化粧カバーＫ２００から排出されると予測をたてることができる。
【０９６２】
第２分散発光部Ｋ２１２ｗは、入賞ユニットＫ２００を流下する球に照射光が遮られない（正面視で球と重ならない）位置に配置される。そのため、第２分散発光部Ｋ２１２ｗから照射される光は、入賞ユニットＫ２００の内部を流下する遊技球の影響を受けることなく化粧カバーＫ２２０に到達する。これにより、入賞ユニットＫ２００の内部における球の流下の有無に因らず、化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の正面視での明るさを確保することができる。
【０９６３】
即ち、化粧カバーＫ２２０（図１５参照）に最低限の明るさを確保させることにより、化粧カバーＫ２２０の内部を球が流下する際に生じる上述した化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の視認態様の変化（色の強弱を伴う変化）を認識し易くすることができる。
【０９６４】
なお、第２分散発光部Ｋ２１２ｗの発光制御は、球の入球によらず一定のパターンで発光制御されるものでも良いし、球の入球によって発光の強弱が変化されるように制御されても良い。
【０９６５】
例えば、球が案内開口Ｋ２０３を通過して第２入賞口Ｋ６４０（図１２参照）を通過したことが検出された場合に、約０．２秒、第２分散発光部Ｋ２１２ｗの発光強度が強くなるように発光制御することで、化粧カバーＫ２２０（図１５参照）を介した白色の光の視認態様の変化から、第入賞口Ｋ６４０に遊技球が入球したことを遊技者が把握することができる。
【０９６６】
同様のことを、発光部Ｋ２２８の発光制御で行っても良い。即ち、球が第２特定入賞口Ｋ６５０ａを通過したことが検出された場合に、約０．２秒、発光部Ｋ２２８の発光強度が強くなるように発光制御することで、化粧カバーＫ２２０（図１５参照）を介した白色の光の視認態様の変化から、第２特定入賞口Ｋ６５０ａに遊技球が入球したことを遊技者が把握することができる。
【０９６７】
上述した入賞ユニットＫ２００の構成によれば、化粧カバーＫ２２０の後方を流下する球自体を視認せずとも、化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の視認態様の変化により、入賞ユニットＫ２００に球が入球したことを把握させることができる。
【０９６８】
入賞ユニットＫ２００に球が入球した後、後方からの光により化粧カバーＫ２２０に球の影が形成され、その影が大形意匠Ｋ２２１ａや小形意匠Ｋ２２１ｂといった、他の領域よりも透過性の低い領域と重なることで化粧カバーＫ２２０の視認性を変化させ、演出効果の向上が図られている。

【０９６９】
更に、球の影が大形意匠Ｋ２２１ａや小形意匠Ｋ２２１ｂと重なる位置を流下している間において第２入賞口Ｋ６４０（図１２参照）や第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの入球の可能性が残されている一方、球の影が大形意匠Ｋ２２１ａや小形意匠Ｋ２２１ｂから離れる（球が第５流下態様ＫＦＬ５５や第６流下態様ＫＦＬ５６で流下する）と第２入賞口Ｋ６４０や第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの入球の可能性が無くなる。
【０９７０】
従って、球の影が大形意匠Ｋ２２１ａや小形意匠Ｋ２２１ｂの近くを流下するか否かについて注目させることができるので、球の影のみではなく、大形意匠Ｋ２２１ａや小形意匠Ｋ２２１ｂの注目力をも向上させることができる。
【０９７１】
また、球がどこへ向けて流下しているのかを把握させることができる。即ち、光の黄色成分の強弱が変化するように化粧カバーＫ２２０（図１５参照）の視認態様が変化される状態が維持される場合には、球は第２入賞口Ｋ６４０（図１２参照）へ向かっており、光の赤色成分の強弱が変化する状態に化粧カバーＫ２２０の視認態様が変化された場合には、球が第２特定入賞口Ｋ６５０ａに向かうようになっており、光の白色成分の強弱が変化する状態に化粧カバーＫ２２０の視認態様が変化された場合には、球が第２入賞口Ｋ６４０や第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球されず入賞ユニットＫ２００から排出されるようになっていることを、遊技者に把握させることができる。
【０９７２】
なお、傾斜面部Ｋ２２９を球が衝突可能な位置に形成する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球の流下範囲からは離して、球と衝突しない位置に傾斜面部Ｋ２２９と同様の形状部を構成しても良い。この場合、球との衝突により傾斜面部Ｋ２２９が破損する可能性が低いので、傾斜面部Ｋ２２９による光屈折の作用を長期に亘り生じさせることができる。
【０９７３】
また、傾斜面部Ｋ２２９の傾斜面を、後方へ向かうほど下降傾斜する傾斜面としたが、光の屈折を生じさせる目的からすれば、これに限られるものではなく、後方へ向かうほど左右方向に傾斜するでも良いし、後方へ向かうほど上昇傾斜する傾斜面としても良い。
【０９７４】
例えば、減速突起Ｋ２０４（図１７参照）が位置する範囲の正面側において、化粧カバーＫ２２０の背面に後方へ向かうほど上昇傾斜する傾斜面を形成すると、減速突起Ｋ２０４が位置する範囲において正面側へ照射される光を下方へ屈折させることで、化粧カバーＫ２２０に沿う上下方向に延びる帯状の光を遊技者に視認させることができる。即ち、傾斜面部Ｋ２２９で屈折され上方へ進行する光とは逆に、屈折した後で光を下方に進行させることによる光の帯を視認させることができる。
【０９７５】
なお、上述の実施形態では発光部Ｋ２１２，Ｋ２２８は基本的には発光したままで維持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、大当たり遊技のラウンド遊技において発光部Ｋ２１２，Ｋ２２８を点灯させる場合に、ラウンド間インターバルでも点灯を継続させても良いし、ラウンド間インターバルにおいては点灯を止めても良い。
【０９７６】
前者の場合、ラウンド間インターバルを遊技者に意識させることなく、楽に遊技させることができる。後者の場合、ラウンド間インターバルを遊技者に意識させることで、大当たり遊技における区切りを分かり易くし、大当たり遊技があとどれくらいで終了するのかを予測させ易くすることができる。これにより、遊技者が大当たり遊技のエンディング演出時にまで球の発射を継続して多量の無駄球が発生する事態を回避させ易くすることができる。
【０９７７】

また、上述の実施形態では発光部Ｋ２１２，Ｋ２２８は基本的には発光したままで維持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２入賞口Ｋ６４０や第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの入賞時に発光態様が変更され、入賞ユニットＫ２００の視認態様を変更可能に構成しても良い。

【０９７８】

この場合において、第２入賞口Ｋ６４０への入賞においては、第２入賞口Ｋ６４０の入賞に対応する特別図柄の保留個数が満タンの時の入賞の場合にも発光態様が変更されるように構成されても良いし、特別図柄の保留個数が満タンの時の入賞では発光態様の変更が生じないようにしても良い。

【０９７９】

前者の場合、発光態様の変更が賞球の払い出しと対応するので、遊技者に対して、賞球の払い出しが生じることを認識させることができる。後者の場合、発光態様の変更と特別図柄の抽選の発生とを対応づけることができるので、遊技者に対して、特別図柄の抽選が生じることを認識させることができる。

【０９８０】

第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの入賞においては、第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの入賞がラウンド遊技における規定個数を超えた入賞の場合に発光態様が変更されるように構成されても良いし、規定個数を超えた入賞では発光態様の変更が生じないようにしても良い。

【０９８１】

前者の場合において、規定個数を超えた入賞の場合の発光態様の変化を、規定個数までの入賞と同様の態様としておけば発光態様の変更と賞球の払い出しの発生とを対応させることができ遊技者に賞球の払い出しの発生を認識させることができるが、規定個数までの入賞とは異なる態様で行うようにしても良い。

【０９８２】

規定個数を超えた入賞の場合の発光態様の変化を、規定個数までの入賞とは異なる態様で行うようにする場合、第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの超過入賞が発生したことを遊技者に意識させ易くすることができる。なお、規定個数を超えた入賞の場合の変化については、第３図柄表示装置Ｋ８１での表示に反映させても良い。

【０９８３】

後者の場合、超過入賞については遊技者に意識させないようすることができるので、超過入賞が発生し易いのか、し難いのかを、遊技者に認識させ難くすることができ、大当たり遊技において超過入賞を狙って遊技球の発射間隔を変える等の特殊な発射態様を促す事態の発生を回避し易くすることができる。

【０９８４】

なお、上述の入賞ユニットＫ２００では、小形意匠Ｋ２２１ｂの視認性が正面視よりも斜め方向視からの方が向上し得ることで、遊技者に斜め方向視から視認しての遊技を促すことができる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、斜め方向視では、入賞ユニットＫ２００内を流下する遊技球を視認し難くなるように構成しても良い。

【０９８５】

即ち、例えば、小形意匠Ｋ２２１ｂが背面側に張り出して形成されることで、正面視では小形意匠Ｋ２２１ｂ同士の隙間から奥側が視認し易い一方で、斜め方向視では小形意匠Ｋ２２１ｂの張り出した部分が重なって見えることで隙間が狭まり（無くなり）奥側が視認し難くなるように構成しても良い。

【０９８６】

この場合、斜め方向視から視認したとしても入賞ユニットＫ２００の内部の状態を把握し難くすることができるので、遊技者に対して、斜め方向視から視認することを意識させないようにし、正面視での遊技を促すことができる。これにより、正面視で意匠性が最も高まるように設計されている小形意匠Ｋ２２１ｂと大形意匠Ｋ２２１ａとの組合せによる意匠を、綺麗に視認させる状態を維持することができる。このように遊技者の視線を誘導

できる場合には、大形意匠Ｋ２２１ａ又は小形意匠Ｋ２２１ｂの一方を遊技球の流下範囲よりも後方に形成した場合であっても、小形意匠Ｋ２２１ｂと大形意匠Ｋ２２１ａとの組合せによる意匠を綺麗に見せることができる。

【０９８７】

図８９（ａ）から図８９（ｃ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。なお、図８９（ａ）から図８９（ｃ）では、第１可動装置Ｋ４４０１の水平落下動作パターンが時系列で図示されており、対応する状態における一対の回転部材Ｋ４３０の状態が模式的に図示されると共に、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態（図４３（ｂ）参照）とされることが拡大図示される。

【０９８８】

水平落下動作パターンでは、図８９（ａ）に図示されるように、まず第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図２６，図４４参照）から、左側の回転部材Ｋ４３０が時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０が反時計回りに、同期して回転動作され、左右の回転部材Ｋ４３０が第１解除姿勢（図４７参照）とされる。

【０９８９】

図８９（ｂ）に図示されるように、切替装置Ｋ４６０のストッパ部材Ｋ４６２が連結部材Ｋ４４５の移動軌跡から退避する退避位置に配置されており（図４３（ｂ）参照）、第１可動装置Ｋ４４０１が切替装置Ｋ４６０に支持される状態ではない。そのため、昇降装置Ｋ４５００の左右両側の支持が解除され、落下動作が生じることで、図８９（ｂ）に図示されるように、第１可動装置Ｋ４４０１は演出待機状態から落下位置状態（図２７参照）に変化される。

【０９９０】

この場合、昇降装置Ｋ４５００において生じる衝撃が大きくなる可能性がある。これに対し、本動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が予め移動範囲の中間位置（図８９（ｂ）参照）に位置されることから、移動装置Ｋ４５６０に伝達される衝撃を小さくすることができる。即ち、左右両端部で両持ち支持される長尺装置５４０の中間位置に移動装置Ｋ４５６０を配置させることにより、長尺装置Ｋ５４０の撓みによる衝撃吸収効果を利用して移動装置Ｋ４５６０に伝達される衝撃を低減させることができる。

【０９９１】

図８９（ｃ）に図示されるように、図８９（ｂ）に図示される状態から、左側の回転部材Ｋ４３０は時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０は反時計回りに、同期して回転動作され、演出待機状態まで戻される。これにより、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平を保ちながら、長尺装置Ｋ５４０を上昇させることができる。

【０９９２】

なお、水平落下動作パターンの動作中、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回り方向に回転動作を継続するよう制御される、表示装置Ｋ４５８０の表示領域においても、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転と同方向および同速度で回転する態様で表示されるように制御される。これにより、左右の回転部材Ｋ４３０の片側に動作不良が生じ、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平が崩れた場合であっても、移動装置Ｋ４５６０の見映えの低下を最低限に抑えることができる。

【０９９３】

即ち、移動装置Ｋ４５６０が傾いて視認される場合に比較して、移動装置Ｋ４５６０の傾きを目立たせなくすることができるので、移動装置Ｋ４５６０の演出効果を向上させることができる。

【０９９４】

図９０（ａ）から図９０（ｃ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。なお、図９０（ａ）から図９０（ｃ）では、第１可動装置Ｋ４４０１の水平下降動作パターンが時系列で図示されており、対応する状態における一対の回転部材Ｋ４３０の状態が模式的に図示されると共に、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態（図４３（ｂ）参照）とされることが拡大図示される。

【０９９５】
水平下降動作パターンでは、図９０（ａ）に図示されるように、まず第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図２６，図４４参照）から、左側の回転部材Ｋ４３０が反時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０が時計回りに、同期して回転動作され、左右の回転部材Ｋ４３０が第２解除姿勢（図５０参照）とされる（図９０（ｂ）参照）。
【０９９６】
回転部材Ｋ４３０の第２解除姿勢では、上側回転部材Ｋ４７６が退避状態とされることから（図５０参照）、左側の回転部材Ｋ４３０を反時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０を時計回りに更に回転させることで、昇降装置Ｋ４５００を下降させることができる（図５１参照）。左右の回転部材Ｋ４３０の回転を同期させていることから、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平を保ちながら、長尺装置Ｋ５４０を代表途中停止位置まで下降させることができる（図９０（ｃ）参照）。
【０９９７】
図９０（ｃ）に図示される状態から、左側の回転部材Ｋ４３０は時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０は反時計回りに、同期して回転動作され、演出待機状態まで戻される。これにより、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平を保ちながら、長尺装置Ｋ５４０を上昇させることができる。
【０９９８】
なお、水平下降動作パターンの動作中、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回り方向に回転動作を継続するよう制御される、表示装置Ｋ４５８０の表示領域においても、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転と同方向および同速度で回転する態様で表示されるように制御される。これにより、左右の回転部材Ｋ４３０の片側に動作不良が生じ、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平が崩れた場合であっても、移動装置Ｋ４５６０の見映えの低下を最低限に抑えることができる。
【０９９９】
即ち、移動装置Ｋ４５６０が傾いて視認される場合に比較して、移動装置Ｋ４５６０の傾きを目立たせなくすることができるので、移動装置Ｋ４５６０の演出効果を向上させることができる。
【１０００】
なお、図９０（ａ）から図９０（ｃ）では、切替装置Ｋ４６０のストッパ部材Ｋ４６２が連結部材Ｋ４４５の移動軌跡から退避する退避位置に配置される（図４３（ｂ）参照）場合を説明したが、回転部材Ｋ４３０が図９０（ｃ）に図示される姿勢に到達するまでは、ストッパ部材Ｋ４６２が連結部材Ｋ４４５の移動を妨げることはなく（図５１参照）、ストッパ部材Ｋ４６２の配置が昇降装置Ｋ４５００の姿勢に影響を与えるものではない。そのため、切替装置Ｋ４６０を非励磁（図４３（ａ）参照）としたままで長尺装置Ｋ５４０を、水平下降動作パターンで動作させることも可能である。
【１００１】
一方、下降動作としては、図９０（ｃ）で図示される代表途中停止位置で長尺装置Ｋ５４０を停止させる態様に限らず、回転部材Ｋ４３０の回転を更に継続させて長尺装置Ｋ５４０を下降させる動作も可能であるところ、この場合には、切替装置Ｋ４６０が非励磁（図４３（ａ）参照）であると、ストッパ部材Ｋ４６２が連結部材Ｋ４４５の移動の妨げとなり、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平が崩れることになる。
【１００２】
このように、水平下降動作パターンでは、回転部材Ｋ４３０の回転の反転位置（図９０（ｃ）参照）にバリエーションを設けることにより長尺装置Ｋ５４０の下降到達位置を異ならせることができるところ、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態（図４３（ｂ）参照）とされることで、長尺装置Ｋ５４０の下降到達位置の自由度を向上させることができる（より低い位置まで水平姿勢で到達できる）。
【１００３】
なお、回転部材Ｋ４３０が図９０（ａ）に図示される状態から、第２解除姿勢（図９０

（ｂ）参照）に到達するまでに、長尺装置Ｋ５４０が上昇されるので（図４９参照）、長尺装置Ｋ５４０の配置を通して、回転部材Ｋ４３０が回転動作していることが遊技者に把握される可能性がある。

【１００４】

この場合、回転部材Ｋ４３０の状態が把握されてしまうと、この後に水平落下動作パターンで動作が生じるのか、水平下降動作パターンで動作が生じるのかを予測される可能性があり、第１可動装置Ｋ４４０１の演出効果が低減する可能性がある。前カバー部材Ｋ４４０の板状本体Ｋ４４１により回転部材Ｋ４３０への視界が遮蔽され（図２６，図３３参照）、回転部材Ｋ４３０の状態を正面視で視認することはできないようにされる本実施形態でも、回転部材Ｋ４３０の回転に連動される長尺装置Ｋ５４０の動作を視認することで、回転部材Ｋ４３０の状態が予想される可能性がある。

【１００５】

これに対し、本実施形態では、上記各実施形態同様、図９０で図示される水平下降動作パターンの他に、図９０（ａ）に図示される状態から、左側の回転部材Ｋ４３０が反時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０が時計回りに、同期して回転動作され、図９０（ｂ）に図示される状態に到達する前の第１反転姿勢（図４９参照）で回転方向が反転され、図９０（ａ）に図示される状態に戻る第１途中反転動作パターンも実行可能とされる。

【１００６】

ここで、第１反転姿勢（図４９参照）は、回転部材Ｋ４３０が長尺装置Ｋ５４０を移動範囲の上方端位置に到達させる姿勢であるので、第１反転姿勢に到達後も回転部材Ｋ４３０が同方向に回転を継続する水平下降動作パターンと、第１反転姿勢に到達後に回転部材Ｋ４３０が回転方向を反転させる第１途中反転動作パターンとで、長尺装置Ｋ５４０の配置および移動方向は変化しない。

【１００７】

従って、長尺装置Ｋ５４０を視認可能である一方、回転部材Ｋ４３０を視認不可能とされる遊技者に対して、現在、回転部材Ｋ４３０が何れの姿勢とされているのか（即ち、第１反転姿勢から何れの方向に回転したのか）を把握し難くさせることができる。

【１００８】

なお、水平下降動作パターンでの動作か、第１途中反転動作パターンでの動作かに関わらず、回転部材Ｋ４３０の第１反転姿勢に到達した時に回転部材Ｋ４３０の回転を一時停止させるように駆動制御しても良い。この場合、回転部材Ｋ４３０の反転時に必然的に生じる長尺装置Ｋ５４０の停止状態を、回転部材Ｋ４３０を第１反転姿勢で反転させない場合にも生じさせることができるので、遊技者が回転部材Ｋ４３０の姿勢の予想をすることをより困難にさせることができる。

【１００９】

また、第１反転姿勢で回転部材Ｋ４３０の回転方向を反転させる以外にも、第２解除姿勢（図９０（ｂ）参照）で回転部材Ｋ４３０の回転方向を反転させて、図９０（ａ）に図示される状態に戻る第２途中反転動作パターンも実行可能にしても良い。

【１０１０】

本実施形態では、上記各実施形態同様、図９０（ａ）に図示される状態における長尺装置Ｋ５４０の上下位置（図４４参照）と、図９０（ｂ）に図示される状態における長尺装置Ｋ５４０の上下位置（図５０参照）とが同一とされる。

【１０１１】

遊技中においては、遊技者が常に長尺装置Ｋ５４０に注目するということは無く、遊技者の注目力は遊技領域を流下する遊技球や、賞球の払い出し位置や、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示内容等に移り動く。そのため、回転部材Ｋ４３０を図９０（ａ）に図示される状態と図９０（ｂ）に図示される状態とで行き来させる動作を単に繰り返すだけでも、それにより生じる長尺装置Ｋ５４０の上下動作の回数を遊技者が逐一計測しているわけではないので、遊技者に対して、回転部材Ｋ４３０が図９０（ａ）に図示される状態なのか、図９０（ｂ）に図示される状態なのかを、把握させ難くすることができる。

【１０１２】
　このように、第１途中反転動作パターンや、第２途中反転動作パターンでの動作を実行可能とすることで、長尺装置Ｋ５４０の配置高さが同じであっても、それが図８９（ａ）に図示される状態なのか、図９０（ｂ）に図示される状態なのかを、遊技者に把握され難くすることができる。尚且つ、長尺装置Ｋ５４０の配置高さが同じ状態から、水平落下動作パターンでの動作も、水平下降動作パターンでの動作も、実行可能に構成されているので、第１可動装置Ｋ４４０１の演出効果を向上させることができる。
【１０１３】
　なお、上述のように長尺装置Ｋ５４０が演出待機状態の高さ位置に配置される場合における回転部材Ｋ４３０の姿勢（位相）が複数態様想定される場合において、回転部材Ｋ４３０の姿勢（位相）に対応した報知が実行可能となるように構成しても良い。この報知は、遊技者側には報知されないシステム内部における報知でも良いし、遊技者側に認識される光照射を伴う報知でも良いし、スピーカー等の音声出力装置Ｈ２２６（図１０参照）から音声が出力される報知でも良い。
【１０１４】
　図９１（ａ）から図９１（ｃ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。なお、図９１（ａ）から図９１（ｃ）では、第１可動装置Ｋ４４０１の第１１の動作パターン及び第１２の動作パターンの一部（下降方向期間）が時系列で図示されており、対応する状態における一対の回転部材Ｋ４３０の状態が模式的に図示されると共に、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁の状態（図４３（ａ）参照）とされることが拡大図示される。
【１０１５】
　第１１の動作パターン及び第１２の動作パターンでは、図８５（ａ）に図示されるように、まず第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図２６参照）から、右側の回転部材Ｋ４３０が反時計回りに回転され、第１解除姿勢（図４７参照）とされる。
【１０１６】
　これにより、昇降装置Ｋ４５００の右側の支持が解除され、右側が下降（落下）された後で、ストッパ部材Ｋ４６２に支持されることで、図９１（ａ）に図示されるように、第１可動装置Ｋ４４０１は演出待機状態から片側落下状態（図３１参照）に変化される。この間、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回り方向に回転動作を継続するよう制御されており、この回転動作を維持したまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って右側へ向けてスライド移動される。
【１０１７】
　移動装置Ｋ４５６０が移動範囲の右端に到達したことが右側検出センサＫ５５６ａ（図４０参照）により検出されることに基づいて、左側の回転部材Ｋ４３０が時計回りに回転され、第１解除姿勢（図４７参照、回転部材Ｋ４３０が左右逆なので図４７の左右対称姿勢に対応）とされる。
【１０１８】
　これにより、昇降装置Ｋ４５００の左側の支持が解除され、左側が下降（落下）されることで、図９１（ｂ）に図示されるように、長尺装置Ｋ５４０が左第１傾斜姿勢（図８４参照）とされる。
【１０１９】
　この場合、昇降装置Ｋ４５００の右側の変位に比較して左側の変位量（落下距離）が長く、昇降装置Ｋ４５００の左側において生じる衝撃が大きくなる可能性がある。これに対し、本動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が予め移動範囲の右端に位置されることから、移動装置Ｋ４５６０に伝達される衝撃を小さくすることができる。
【１０２０】
　昇降装置Ｋ４５６０の左側が下降（落下）されることに基づいて、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転され、反時計回り方向の回転動作が開始される。この回転動作を維持したまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って左側へ向けてスライド移動

される。移動装置Ｋ４５６０は、移動範囲の左端に到達したことが左側検出センサＫ５５６ｃ（図４０参照）により検出されるまでスライド移動され、移動範囲の左端に到達することに基づいて停止される（図９１（ｃ）参照）。

【１０２１】

図９２（ａ）から図９２（ｃ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。なお、図９２（ａ）から図９２（ｃ）では、第１可動装置Ｋ４４０１の第１１の動作パターンの一部（上昇方向期間）が時系列で図示されており、対応する状態における一対の回転部材Ｋ４３０の状態が模式的に図示されると共に、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁の状態（図４３（ａ）参照）とされることが拡大図示される。

【１０２２】

第１１の動作パターンでは、図９１（ｃ）に図示される状態の後、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転され、時計回り方向の回転動作が開始される。この回転動作を維持したまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って右側へ向けてスライド移動される。移動装置Ｋ４５６０は、移動範囲の中間に到達したことが中央検出センサＫ５５６ｂ（図４０参照）により検出されるまでスライド移動され、移動範囲の中央に到達することに基づいてスライド移動が停止される（図９２（ａ）参照）。スライド移動の停止後も、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は継続される。

【１０２３】

その後、左側の回転部材Ｋ４３０は時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０は反時計回りに、同期して回転動作され、中間支持姿勢（図５１参照）とされる。この過程において、昇降装置Ｋ４５６０の左側では、伝達筒状部Ｋ４３４を介して下側部材Ｋ５１０（図４７参照）が押し上げられることで、長尺装置Ｋ５４０の左側が上昇される。

【１０２４】

一方、昇降装置Ｋ４５６０の右側は、ストッパ部材Ｋ４６２に支持された状態であり、回転部材Ｋ４３０が中間支持姿勢（図５１参照）となるまでは伝達筒状部Ｋ４３４を介する下側部材Ｋ５１０への荷重の伝達は生じない。そのため、図９２（ａ）に図示される状態と図９２（ｂ）に図示される状態とで、昇降装置Ｋ４５６０の右側の上下位置は維持される。

【１０２５】

即ち、左右一対の回転部材Ｋ４３０が同期して回転動作するが、左側の回転部材Ｋ４３０では昇降装置Ｋ４５６０の左側を押し上げる負荷が生じるが、右側の回転部材Ｋ４３０では昇降装置Ｋ４５６０を押し上げる関係にはならず、負荷が生じない。

【１０２６】

その後、左右一対の回転部材Ｋ４３０の同期回転が継続され、第１可動装置Ｋ４４０１が演出待機状態に戻ることで（図９２（ｃ）参照）、第１１の動作パターンが完了される。図９２（ｂ）に図示される状態からは、左右両側で、伝達筒状部Ｋ４３４を介して下側部材Ｋ５１０（図４７参照）が押し上げられ、長尺装置Ｋ５４０が上昇される。

【１０２７】

ここで、左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転は同期されているので、伝達筒状部Ｋ４３４の配置は左右対称ではあるものの、上下位置は同じとされる。そのため、下側部材Ｋ５１０（図４７参照）の上下位置は左右で同一とされることから、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平を保ちながら、長尺装置Ｋ５４０を上昇させることができる。

【１０２８】

このように、第１１の動作パターンによれば、左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転開始のタイミングをずらして制御するのではなく、同時に回転開始させることにより、昇降装置Ｋ４５６０の動作態様を、左右の上昇タイミングがずれる態様とすることができる。

【１０２９】

図９３（ａ）から図９３（ｃ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。なお、図９３（ａ）から図９３（ｃ）では、第１可動装置Ｋ４４０１の第１２の動作パターンの一部（上昇方向期間）が時系列で図示されており、対応する状態における一対の回転部材

Ｋ４３０の状態が模式的に図示されると共に、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態（図４３（ｂ）参照）とされることが拡大図示される。

【１０３０】

第１２の動作パターンでは、図９１（ｃ）に図示される状態の後、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁される（図４３（ｂ）参照）と共に、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転され、時計回り方向の回転動作が開始される（図９３（ａ）参照）。この状態において、長尺装置Ｋ５４０の姿勢は略左右水平とされる。

【１０３１】

図９３（ａ）に図示される状態からの移動装置Ｋ４５６０の右方への移動に先立って、第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態における第２可動装置Ｋ７０１に相当）が、演出待機状態（図２６参照）から下降配置状態（図２７参照）へ変化される。これにより、移動装置Ｋ４５６０と第２可動装置Ｋ４７０１とが衝突する事態を回避することができる。第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態における第２可動装置Ｋ７０１に相当）が下降配置状態に変化したことは、検出センサＫ７１１ｅの出力が切り替えられることにより判別可能とされる（図５９参照）。

【１０３２】

検出センサＫ７１１ｅの出力が切り替えられ、第２可動装置Ｋ４７０１が下降配置状態に変化したと判定されたら、回転装飾部材Ｋ４５７８の時計回りの回転動作が維持されたまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って右側へ向けてスライド移動される。移動装置Ｋ４５６０は、移動範囲の中間に到達したことが中央検出センサＫ５５６ｂ（図４０参照）により検出されるまでスライド移動され、移動範囲の中央に到達することに基づいてスライド移動が停止される（図９３（ｂ）参照）。スライド移動の停止後も、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は継続される。

【１０３３】

その後、図９３（ｃ）に図示されるように、図９３（ｂ）に図示される状態から、左側の回転部材Ｋ４３０は時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０は反時計回りに、同期して回転動作され、演出待機状態まで戻され、第１２の動作パターンが完了される。

【１０３４】

このように、左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転は同期されているので、伝達筒状部Ｋ４３４の配置は左右対称ではあるものの、上下位置は同じとされる。そのため、下側部材Ｋ５１０（図４７参照）の上下位置は左右で同一とされることから、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平を保ちながら、長尺装置Ｋ５４０を上昇させることができる。

【１０３５】

このように、第１２の動作パターンによれば、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１を励磁させることにより動作パターンを第１１の動作パターンとは異ならせながら、長尺装置Ｋ５４０の上昇時に必要とされる左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転動作パターンは第１１の動作パターンと同様とすることができる。即ち、異なる動作パターン間で、左右一対の回転部材Ｋ４３０の動作パターンを部分的にでも兼用させることにより、制御プログラムの容量の削減を図ることができる。

【１０３６】

切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１を励磁させる際に長尺装置Ｋ５４０の重量が抵抗になり、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１に必要とされる駆動力が過大となる可能性があるが、本実施形態では、上記各実施形態同様、移動装置Ｋ４５６０をスライド移動させる駆動力を発生させる駆動モータＫＭＴ５１（図３９参照）とは左右反対側に駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が配設されている。

【１０３７】

これにより、駆動モータＫＭＴ５１の重さで長尺装置Ｋ５４０の重心を左側に寄せながら、その反対側（右側）において駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１を動作させるよう構成することにより、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１にかけられる長尺装置Ｋ５４０の重さを低減させることができ、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１に必要とされる駆動力を低減させることが

できる。
【１０３８】
図９４（ａ）から図９４（ｃ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。なお、図９４（ａ）から図９４（ｃ）では、第１可動装置Ｋ４４０１の第１３の動作パターンの一部（下降方向期間）が時系列で図示されており、対応する状態における一対の回転部材Ｋ４３０の状態が模式的に図示されると共に、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態（図４３（ｂ）参照）とされることが拡大図示される。
【１０３９】
第１３の動作パターンでは、図９４（ａ）に図示されるように、まず第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図２６参照）から、右側の回転部材Ｋ４３０が反時計回りに回転され、第１解除姿勢（図４７参照）とされる。
【１０４０】
これにより、昇降装置Ｋ４５００の右側の支持が解除され、右側が下降（落下）される。この時、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁されており、連結部材Ｋ４４５（図４３（ｂ）参照）の下方からストッパ部材Ｋ４６２が退避されることで連結部材Ｋ４４５がストッパ部材Ｋ４６２に支持されないので、図９４（ａ）に図示されるように、第１可動装置Ｋ４４０１は演出待機状態から、長尺装置Ｋ５４０が右第２傾斜姿勢（図８３参照）に変化される。この間、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回り方向に回転動作を継続するよう制御されており、この回転動作を維持したまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って右側へ向けてスライド移動される。
【１０４１】
移動装置Ｋ４５６０が移動範囲の右端に到達したことが右側検出センサＫ５５６ａ（図４０参照）により検出されることに基づいて、左側の回転部材Ｋ４３０が時計回りに回転され、第１解除姿勢（図４７参照、回転部材Ｋ４３０が左右逆なので図４７の左右対称姿勢に対応）とされる。
【１０４２】
これにより、昇降装置Ｋ４５００の左側の支持が解除され、左側が下降（落下）されることで、図９４（ｂ）に図示されるように、長尺装置Ｋ５４０の姿勢は略左右水平とされる。
【１０４３】
図９４（ａ）から図９４（ｂ）への変化では、昇降装置Ｋ４５００の右側の変位に比較して左側の変位量（落下距離）が長く、昇降装置Ｋ４５００の左側において生じる衝撃が大きくなる可能性がある。これに対し、本動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が予め移動範囲の右端に位置されることから、移動装置Ｋ４５６０に伝達される衝撃を小さくすることができる。
【１０４４】
昇降装置Ｋ４５６０の左側が下降（落下）されることに基づいて、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転され、反時計回り方向の回転動作が開始される。この回転動作を維持したまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って左側へ向けてスライド移動される。移動装置Ｋ４５６０は、移動範囲の左端に到達したことが左側検出センサＫ５５６ｃ（図４０参照）により検出されるまでスライド移動され、移動範囲の左端に到達することに基づいて停止される（図９４（ｃ）参照）。
【１０４５】
図９４（ｂ）に図示される状態からの移動装置Ｋ４５６０の左方への移動に先立って、第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態における第２可動装置Ｋ７０１に相当）が、演出待機状態（図２６参照）から下降配置状態（図２７参照）へ変化される。これにより、移動装置Ｋ４５６０と第２可動装置Ｋ４７０１とが衝突する事態を回避することができる。第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態における第２可動装置Ｋ７０１に相当）が下降配置状態に変化したことは、検出センサＫ７１１ｅの出力が切り替えられることにより判別可能とされる（図５９参照）。

【１０４６】
検出センサＫ７１１ｅの出力が切り替えられ、第２可動装置Ｋ４７０１が下降配置状態に変化したと判定されたら、回転装飾部材Ｋ４５７８の反時計回りの回転動作が維持されたまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って左側へ向けてスライド移動される。
【１０４７】
移動装置Ｋ４５６０は、移動範囲の左端に到達したことが左側検出センサＫ５５６ｃ（図４０参照）により検出されるまでスライド移動され、移動範囲の左端に到達することに基づいてスライド移動が停止される（図９４（ｃ）参照）。
【１０４８】
なお、スライド移動の停止後も回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が継続されるように制御しても良いし、スライド移動の停止に基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が停止されるように制御しても良い。
【１０４９】
図９４（ｃ）に図示される状態の後は、上述の第１２の動作パターンと同様、図９３（ｂ）及び図９３（ｃ）に図示される状態を経て、演出待機状態まで戻され、第１３の動作パターンが完了される。
【１０５０】
即ち、第１３の動作パターンでは、図９４（ｃ）に図示される状態から、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転され、時計回り方向の回転動作が開始され、回転装飾部材Ｋ４５７８の時計回りの回転動作が維持されたまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って右側へ向けてスライド移動される。移動装置Ｋ４５６０は、移動範囲の中間に到達したことが中央検出センサＫ５５６ｂ（図４０参照）により検出されるまでスライド移動され、移動範囲の中央に到達することに基づいてスライド移動が停止される（図９３（ｂ）参照）。スライド移動の停止後も、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は継続される。
【１０５１】
その後、図９３（ｃ）に図示されるように、図９３（ｂ）に図示される状態から、左側の回転部材Ｋ４３０は時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０は反時計回りに、同期して回転動作され、長尺装置Ｋ５４０が演出待機状態まで戻され、第１３の動作パターンが完了される。
【１０５２】
このように、左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転は同期されているので、伝達筒状部Ｋ４３４の配置は左右対称ではあるものの、上下位置は同じとされる。そのため、下側部材Ｋ５１０（図４７参照）の上下位置は左右で同一とされることから、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平を保ちながら、長尺装置Ｋ５４０を上昇させることができる。
【１０５３】
このように、第１３の動作パターンによれば、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１を励磁させることにより動作パターンを第１１の動作パターンとは異ならせながら、長尺装置Ｋ５４０の上昇時に必要とされる左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転動作パターンは第１１の動作パターン（及び第１２の動作パターン）と同様とすることができる。即ち、異なる動作パターン間で、左右一対の回転部材Ｋ４３０の動作パターンを部分的にでも兼用させることにより、制御プログラムの容量の削減を図ることができる。
【１０５４】
図９５（ａ）から図９５（ｃ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。なお、図９５（ａ）から図９５（ｃ）では、第１可動装置Ｋ４４０１の第２１の動作パターンの一部（下降方向期間）が時系列で図示されており、対応する状態における一対の回転部材Ｋ４３０の状態が模式的に図示されると共に、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁の状態（図４３（ａ）参照）とされることが拡大図示される。
【１０５５】

第２１の動作パターンでは、図９５（ａ）に図示されるように、まず第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図２６参照）から、左側の回転部材Ｋ４３０が時計回りに回転され、第１解除姿勢（図４７参照、回転部材Ｋ４３０が左右逆なので図４７の左右対称姿勢に対応）とされる。

【１０５６】

これにより、昇降装置Ｋ４５００の左側の支持が解除され、左側が下降（落下）される。これにより、第１可動装置Ｋ４４０１は演出待機状態から、長尺装置Ｋ５４０が左第２傾斜姿勢（図８５（ｃ）参照）に変化される。この間、回転装飾部材Ｋ４５７８が反時計回り方向に回転動作を継続するよう制御されており、この回転動作を維持したまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って左側へ向けてスライド移動される。

【１０５７】

移動装置Ｋ４５６０が移動範囲の左端に到達したことが左側検出センサＫ５５６ｃ（図４０参照）により検出されることに基づいて、右側の回転部材Ｋ４３０が反時計回りに回転され、第１解除姿勢（図４７参照）とされる。

【１０５８】

これにより、昇降装置Ｋ４５００の右側の支持が解除され、右側が下降（落下）される。この時、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁とされており、連結部材Ｋ４４５（図４３（ｂ）参照）の下方にストッパ部材Ｋ４６２が配置されることで連結部材Ｋ４４５がストッパ部材Ｋ４６２に支持されることで、図９５（ｂ）に図示されるように、長尺装置Ｋ５４０が左第１傾斜姿勢（図８４参照）に変化される。

【１０５９】

図９５（ａ）から図９５（ｂ）への変化では、昇降装置Ｋ４５００の左側の変位に比較して右側の変位量（落下距離）が長く、昇降装置Ｋ４５００の右側において生じる衝撃が大きくなる可能性がある。これに対し、本動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が予め移動範囲の左端に位置されることから、移動装置Ｋ４５６０に伝達される衝撃を小さくすることができる。

【１０６０】

昇降装置Ｋ４５６０の右側が下降（落下）されることに基づいて、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転され、時計回り方向の回転動作が開始される。この回転動作を維持したまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って右側へ向けてスライド移動される。移動装置Ｋ４５６０は、移動範囲の中間位置に到達したことが中央検出センサＫ５５６ｂ（図４０参照）により検出されるまでスライド移動され、移動範囲の中間位置に到達することに基づいて停止される（図９５（ｃ）参照）。

【１０６１】

なお、スライド移動の停止後も回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が継続されるように制御しても良いし、スライド移動の停止に基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が停止されるように制御しても良い。

【１０６２】

なお、第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態における第２可動装置Ｋ７０１に相当）が演出待機状態（図２６参照）である場合に、図９５（ｂ）に図示される状態から図９５（ｃ）に図示される状態に変化しても、移動装置Ｋ４５６０と第２可動装置Ｋ４７０１との衝突は生じないので、図９５（ｃ）に図示されるように、第２可動装置Ｋ４７０１は演出待機状態で維持される。

【１０６３】

図９５（ｃ）に図示される状態の後は、上述の第１１の動作パターンと同様、図９２（ｂ）及び図９２（ｃ）に図示される状態を経て、演出待機状態まで戻され、第２１の動作パターンが完了される。

【１０６４】

即ち、第２１の動作パターンでは、図９５（ｃ）に図示される状態から、回転装飾部材Ｋ４５７８の時計回りの回転動作が維持されたまま、左側の回転部材Ｋ４３０は時計回り

に、右側の回転部材Ｋ４３０は反時計回りに、同期して回転動作され、長尺装置Ｋ５４０が演出待機状態まで戻され、第２１の動作パターンが完了される。

【１０６５】

このように、第２１の動作パターンによれば、動作パターンを第１１～１３の動作パターンとは異ならせながら、長尺装置Ｋ５４０の上昇時に必要とされる左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転動作パターンは第１１～１３の動作パターンと同様とすることができる。即ち、異なる動作パターン間で、左右一対の回転部材Ｋ４３０の動作パターンを部分的にでも兼用させることにより、制御プログラムの容量の削減を図ることができる。

【１０６６】

なお、第２１の動作パターンにおいて、図９５（ｂ）に図示される状態以降において、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態（図４３（ｂ）参照）を維持されることで、図９５（ｂ）に図示される長尺装置Ｋ５４０の左第１傾斜姿勢から、長尺装置Ｋ５４０の右側が落下して姿勢が水平にされた後で、長尺装置Ｋ５４０が上昇移動される動作パターンを第２２の動作パターンとして設定しても良い。

【１０６７】

即ち、第２２の動作パターンにおいても、動作パターンを第１１～１３，２１の動作パターンとは異ならせながら、長尺装置Ｋ５４０の上昇時に必要とされる左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転動作パターンは第１１～１３，２１の動作パターンと同様とすることができる。即ち、異なる動作パターン間で、左右一対の回転部材Ｋ４３０の動作パターンを部分的にでも兼用させることにより、制御プログラムの容量の削減を図ることができる。

【１０６８】

第２２の動作パターンの場合、連結部材Ｋ４４５（図４３（ｂ）参照）がストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄに上下方向で当接し、重みがかかった状態でストッパ部材Ｋ４６２が回転動作するのに十分な駆動力を生じさせる必要があるが、本実施形態では、上述の各実施形態同様、連結部材Ｋ４４５の下側先端が湾曲面から形成されているので、連結部材Ｋ４４５と突設受部Ｋ４６２ｄとの接触面積を小さくすることができる。これにより、摩擦抵抗を低減することができ、ストッパ部材Ｋ４６２の回転動作に要する駆動力を低減させることができる。

【１０６９】

図９６（ａ）から図９６（ｃ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。なお、図９６（ａ）から図９６（ｃ）では、第１可動装置Ｋ４４０１の第２３の動作パターンの一部（下降方向期間）が時系列で図示されており、対応する状態における一対の回転部材Ｋ４３０の状態が模式的に図示されると共に、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態（図４３（ｂ）参照）とされることが拡大図示される。

【１０７０】

第２３の動作パターンでは、図９６（ａ）に図示されるように、まず第１可動装置Ｋ４４０１の演出待機状態（図２６参照）から、左側の回転部材Ｋ４３０が時計回りに回転され、第１解除姿勢（図４７参照、回転部材Ｋ４３０が左右逆なので図４７の左右対称姿勢に対応）とされる。

【１０７１】

これにより、昇降装置Ｋ４５００の左側の支持が解除され、左側が下降（落下）される。これにより、第１可動装置Ｋ４４０１は演出待機状態から、長尺装置Ｋ５４０が左第２傾斜姿勢（図８５（ｃ）参照）に変化される。この間、回転装飾部材Ｋ４５７８が反時計回り方向に回転動作を継続するよう制御されており、この回転動作を維持したまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って左側へ向けてスライド移動される。

【１０７２】

移動装置Ｋ４５６０が移動範囲の左端に到達したことが左側検出センサＫ５５６ｃ（図４０参照）により検出されることに基づいて、右側の回転部材Ｋ４３０が反時計回りに回転され、第１解除姿勢（図４７参照）とされる。

【１０７３】

これにより、昇降装置Ｋ４５００の右側の支持が解除され、右側が下降（落下）される。この時、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁されており、連結部材Ｋ４４５（図４３（ｂ）参照）の下方からストッパ部材Ｋ４６２が退避されることで連結部材Ｋ４４５がストッパ部材Ｋ４６２に支持されないので、図９６（ｂ）に図示されるように、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が略左右水平の姿勢に変化される。

【１０７４】

図９６（ａ）から図９６（ｂ）への変化では、昇降装置Ｋ４５００の左側の変位に比較して右側の変位量（落下距離）が長く、昇降装置Ｋ４５００の右側において生じる衝撃が大きくなる可能性がある。これに対し、本動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が予め移動範囲の左端に位置されることから、移動装置Ｋ４５６０に伝達される衝撃を小さくすることができる。

【１０７５】

昇降装置Ｋ４５００の右側が下降（落下）されることに基づいて、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が反転され、時計回り方向の回転動作が開始される。この回転動作を維持したまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って右側へ向けてスライド移動される。

【１０７６】

図９６（ｂ）に図示される状態からの移動装置Ｋ４５６０の右方への移動に先立って、第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態における第２可動装置Ｋ７０１に相当）が、演出待機状態（図２６参照）から下降配置状態（図２７参照）へ変化される。これにより、移動装置Ｋ４５６０と第２可動装置Ｋ４７０１とが衝突する事態を回避することができる。第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態における第２可動装置Ｋ７０１に相当）が下降配置状態に変化したことは、検出センサＫ７１１ｅの出力が切り替えられることにより判別可能とされる（図５９参照）。

【１０７７】

検出センサＫ７１１ｅの出力が切り替えられ、第２可動装置Ｋ４７０１が下降配置状態に変化したと判定されたら、回転装飾部材Ｋ４５７８の時計回りの回転動作が維持されたまま、移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０に沿って右側へ向けてスライド移動される。

【１０７８】

なお、図９６（ｂ）では、昇降装置Ｋ４５００の右側が下降（落下）される時点において第２可動装置Ｋ４７０１が下降配置状態に変化している場合が図示されているが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、昇降装置Ｋ４５００の右側が下降（落下）された後で第２可動装置Ｋ４７０１が下降配置状態に変化するように制御されても良い。

【１０７９】

この場合、昇降装置Ｋ４５００の右側が下降（落下）した時点においては、第２可動装置Ｋ４７０１が移動装置Ｋ４５６０の移動と干渉する位置に配置されていることから、移動装置Ｋ４５６０が右に移動するのか、それとも移動せずに昇降装置Ｋ４５００が上昇動作するのかを、遊技者に予測させ難くすることができる。これにより、第２可動装置Ｋ４７０１及び移動装置Ｋ４５６０に対する注目力を向上させることができる。

【１０８０】

移動装置Ｋ４５６０は、移動範囲の中間位置に到達したことが中央検出センサＫ５５６ｂ（図４０参照）により検出されるまでスライド移動され、移動範囲の中間位置に到達することに基づいて停止される（図９６（ｃ）参照）。

【１０８１】

なお、スライド移動の停止後も回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が継続されるように制御しても良いし、スライド移動の停止に基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が停止されるように制御しても良い。

【１０８２】

図９６（ｃ）に図示される状態の後は、上述の第１２の動作パターンと同様である。即

ち、図９３（ｃ）に図示されるように、図９６（ｃ）に図示される状態から、左側の回転部材Ｋ４３０は時計回りに、右側の回転部材Ｋ４３０は反時計回りに、同期して回転動作され、演出待機状態まで戻され、第２３の動作パターンが完了される。

【１０８３】

このように、左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転は同期されているので、伝達筒状部Ｋ４３４の配置は左右対称ではあるものの、上下位置は同じとされる。そのため、下側部材Ｋ５１０（図４７参照）の上下位置は左右で同一とされることから、長尺装置Ｋ５４０の姿勢の水平を保ちながら、長尺装置Ｋ５４０を上昇させることができる。

【１０８４】

このように、第２３の動作パターンによれば、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１を励磁させることにより動作パターンを第２１，２２の動作パターンとは異ならせながら、長尺装置Ｋ５４０の上昇時に必要とされる左右一対の回転部材Ｋ４３０の回転動作パターンは第１１～１３，２１，２２の動作パターンと同様とすることができる。即ち、異なる動作パターン間で、左右一対の回転部材Ｋ４３０の動作パターンを部分的にでも兼用させることにより、制御プログラムの容量の削減を図ることができる。

【１０８５】

なお、上述した実施形態では、回転装飾部材Ｋ４５７８等を備える移動装置Ｋ４５６０が正面視でセンターフレームＫ８６（図１２参照）の内方に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【１０８６】

例えば、正面視でセンターフレームＫ８６（図１２参照）の外方に配置されるようにしても良い。この場合、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転中心を固定した方が、センターフレームＫ８６の外方を流下する遊技球と前後方向視で重なる範囲を限定することができるので、遊技球が回転装飾部材Ｋ４５７８と前後方向で重なることで遊技球を見失う事態の発生を回避し易くすることができる。

【１０８７】

また、例えば、正面視で右上ランプＫ９４０とセンターフレームＫ８６（図１２参照）との間に移動装置Ｋ４５６０が配置される場合、移動装置Ｋ４５６０が第３図柄表示装置Ｋ８１の表示と右上ランプＫ９４０の発光態様とを繋ぐ役割を果たし、右上ランプＫ９４０、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示および表示装置Ｋ４５８０の表示を一連で視認させ易くすることができる。

【１０８８】

これらは、右上ランプＫ９４０との間に限らず、他の表示ランプＫ９００との間に移動装置Ｋ４５６０が配置される場合にも、同様のことが言える。例えば、移動装置Ｋ４５６０が左側サイドランプＫ９３０と第３図柄表示装置Ｋ８１との間に配置される場合に、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りに回転され、左側サイドランプＫ９３０において光が上方に立ち昇るように視認させるように左側サイドランプＫ９３０の内部に配置されるＬＥＤの発光タイミングが制御され、第３図柄表示装置Ｋ８１の左側範囲において光が下方に下げられるように視認させるような動画表示を行う場合、あたかも、左側サイドランプＫ９３０及び第３図柄表示装置Ｋ８１により視認される光が回転装飾部材Ｋ４５７８を回転させているかのように遊技者に視認させることができる。このように、左側サイドランプＫ９３０による光と、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作と、第３図柄表示装置Ｋ８１による表示とを、一連で視認させることができる。

【１０８９】

また、例えば、移動装置Ｋ４５６０を左側装飾装置Ｋ３５０の正面側に配置される場合、左側装飾装置Ｋ３５０の内部の発光基板からの光により、移動装置Ｋ４５６０の外形部の明るさを確保することができる。これにより、移動装置Ｋ４５６０の演出効果を向上させることができる。

【１０９０】

また、移動装置Ｋ４５６０が正面視でセンターフレームＫ８６（図１２参照）の外方に

配置される場合、ベース板Ｋ１３（図８６参照）の背面側に配置されるようにしても良いし、ベース板Ｋ１３の正面側に配置されるようにしても良い。

【１０９１】

ベース板Ｋ１３の正面側に移動装置Ｋ４５６０が配置される場合、ガラスユニットＨ１６（図８６参照）の背面側に配置されても良いし、ガラスユニットＨ１６の正面側に配置されるようにしても良い。遊技者に対して近い方が、より遊技者に認識させ易く、演出性の向上を図ることができる。

【１０９２】

移動装置Ｋ４５６０がガラスユニットＨ１６（図８６参照）の正面側に配置される場合に、移動装置Ｋ４５６０がガラスユニットＨ１６に回転可能に固定されるように構成しても良く、第３図柄表示装置Ｋ８１（図８６参照）から照射される光により照らされ得るようにしても良い。これにより、第３図柄表示装置Ｋ８１の光により、ガラスユニットＨ１６の背面側に配置される動作ユニットＫ３００（図１３参照）を構成する可動部だけでなく、ガラスユニットＨ１６の正面側に配置される可動部（移動装置Ｋ４５６０）をも照らすことができる。

【１０９３】

図９７（ａ）、図９７（ｂ）及び図９８は、第２可動装置Ｋ４７０１の正面図である。なお、図９７（ａ）、図９７（ｂ）及び図９８では、第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態における第２可動装置Ｋ７０１に相当）が下降配置状態（図５９（ｂ）参照）からアーム部材Ｋ７３５が正面視時計回りに回転動作されることで上下スライド部材Ｋ４７２０が上昇移動される突破上昇動作パターンが時系列で図示されており、第２可動装置Ｋ４７０１の構成の内、上下スライド部材Ｋ４７２０が想像線で図示され、その上下スライド部材Ｋ４７２０よりも手前側に配置される追従可能部材Ｋ７４０、連動部材Ｋ７５０及び主装飾部材Ｋ７６０（図５５参照）の図示が省略される。

【１０９４】

図９７（ａ）、図９７（ｂ）及び図９８では、理解を容易とするために、正面視で重なる伝達終端部材Ｋ４７３７、アーム部材Ｋ７３５及び駆動側二層ギアＫ７３１が部分的に破断されたり、想像線で図示されたりすることで、奥側の構成が視認可能となるように図示される。

【１０９５】

本実施形態における第２可動装置Ｋ４７０１は、上述の第２可動装置Ｋ７０１から多くの構成を流用しながらも、第２可動装置Ｋ７０１では不可能とされていた下降配置状態からのアーム部材Ｋ７３５の時計回り方向の回転動作を可能とするために、一部の構成が変更されている。

【１０９６】

例えば、金属棒Ｋ７１３の配置が、下降配置状態から時計回り方向に回転動作するアーム部材Ｋ７３５と干渉しないように左方に移動されている。これに伴い、上下スライド部材Ｋ４７２０の左右幅も拡大されている。

【１０９７】

加えて、案内孔Ｋ４７３７ｂは終端が延長されており、下降配置状態から伝達終端部材Ｋ４７３７が正面視時計回り方向に回転動作しても、上下スライド部材Ｋ４７２０（上記各実施形態における上下スライド部材Ｋ７２０に相当）の第２支持部Ｋ７２５ｂ（図５６参照）と干渉しない構成としている。

【１０９８】

上記各実施形態では、金属棒Ｋ７１３の右側においてベース部材Ｋ７１０の本体部Ｋ７１１から正面側に延設されるストッパ部Ｋ７１１ｇの右側面がアーム部材Ｋ７３５に回転方向から当接する（左右方向で当接する）ことで、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ４７３７の回転動作を下降配置状態で停止させる（せき止める）ように構成されていたが（図５９（ｂ）参照）、本実施形態では、ストッパ部Ｋ７１１ｇとアーム部材Ｋ７３５とは当接しないため、この作用は望めない。

【１０９９】
一方で、本実施形態においても、上記各実施形態と同様に、下降配置状態において、ベース部材Ｋ７１０の第４支持部Ｋ７１２ｄの中心（円形状の中心）、アーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂの中心（円形状の中心）及び伝達終端部材Ｋ４７３７の基端側支持孔Ｋ７３７ａの中心（円形状の中心）が、略上下方向に延びる直線ＫＶＬ７８と正面視で重なる位置に配置される。
【１１００】
そのため、第４支持部Ｋ７１２ｄを中心にアーム部材Ｋ７３５が下降配置状態から左右どちらの方向に回転動作した（振れた）場合、その回転動作に伴い基端側支持孔Ｋ７３７ａの高さ位置が上昇することになるが、その上昇変位を押し戻す方向（基端側支持孔Ｋ７３７ａの高さ位置を下げる方向）に、上下スライド部材Ｋ４７２０や、その上下スライド部材Ｋ４７２０に配置される追従可能部材Ｋ７４０、連動部材Ｋ７５０及び主装飾部材Ｋ７６０（図５５参照）の自重がかけられるので、アーム部材Ｋ７３５の姿勢を下降配置状態における姿勢（図９７（ａ）参照）で安定させることができる。
【１１０１】
即ち、演出待機状態（図５７（ａ）参照）からアーム部材Ｋ７３５を正面視時計回り方向に回転動作させ下降配置状態に変化させる動作制御において、アーム部材Ｋ７３５を９０度回転させるための回転量で駆動ギアＫＭＧ７２を回転させるように制御されるところ、制御不良が生じてアーム部材Ｋ７３５の回転角度に８８度～９２度といったばらつきが生じたとしても、そのばらつきが上下スライド部材Ｋ４７２０（上記各実施形態における上下スライド部材Ｋ７２０に相当）、追従可能部材Ｋ７４０、連動部材Ｋ７５０及び主装飾部材Ｋ７６０（図５５参照）の自重で修正されることで、アーム部材Ｋ７３５の姿勢を下降配置状態における姿勢（図９７（ａ）参照）で安定させることができる。
【１１０２】
図９７（ｂ）では、アーム部材Ｋ７３５の鉛直方向に対する傾斜角度が、図５９（ａ）に図示される状態と同じであり、左右が反転された状態が図示される。即ち、基端側支持孔Ｋ７３７ａ及び上下スライド部材Ｋ４７２０（上記各実施形態における上下スライド部材Ｋ７２０に相当）の高さ位置は、図５９（ａ）に図示される状態と同じである。
【１１０３】
図９８では、突破上昇動作パターンの動作終端状態が図示される。即ち、突破上昇動作パターンの動作終端状態は、後層伝達部Ｋ７３１ｂのギア歯と伝達側二層ギアＫ７３３の後層伝達部Ｋ７３３ｂのギア歯との噛み合いが解消する直前の回転角度の状態として設定される。
【１１０４】
図９８に図示される状態において、アーム部材Ｋ７３５は上昇配置状態（図５８参照）における配置までは到達しない。即ち、下降配置状態からアーム部材Ｋ７３５を時計回りに回転動作させる突破上昇動作パターンの動作終端状態における基端側支持孔Ｋ７３７ａ及び上下スライド部材Ｋ４７２０（上記各実施形態における上下スライド部材Ｋ７２０に相当）の高さ位置は、下降配置状態からアーム部材Ｋ７３５を反時計回りに回転動作させる階段上昇動作パターンの動作終端状態における基端側支持孔Ｋ７３７ａ及び上下スライド部材Ｋ４７２０（上記各実施形態における上下スライド部材Ｋ７２０に相当）の高さ位置（図５８（ｂ）参照）よりも低い。
【１１０５】
このような構成により、第２可動装置Ｋ４７０１によれば、下降配置状態を中心としてアーム部材Ｋ７３５を左右方向に往復回動させる（振動させる）ことにより、基端側支持孔Ｋ７３７ａ及び上下スライド部材Ｋ４７２０（上記各実施形態における上下スライド部材Ｋ７２０に相当）を上下に往復動作（振動）させることができる。更に、下降配置状態を起点とした２通りの動作態様を、駆動モータＫＭＧ７１（図５６参照）を一定の速さで駆動継続させることは同一としながら、アーム部材Ｋ７３５の回転方向を異ならせる（駆動モータＫＭＧ７１の駆動方向を異ならせる）ことにより生じさせることができる。

【１１０６】
　第１に、下降配置状態からアーム部材Ｋ７３５を反時計回り方向に回転動作させる階段上昇動作パターンの場合、下降配置状態から基端側支持孔Ｋ７３７ａ及び上下スライド部材Ｋ４７２０（上記各実施形態における上下スライド部材Ｋ７２０に相当）が上昇された後（図５９（ａ）参照）、演出待機状態における配置で上昇動作が一時停止され（図５７（ａ）参照）、その後で上昇配置状態における高さ位置まで上昇移動される（図５７（ｂ），図５８（ａ），図５８（ｂ）参照）。
【１１０７】
　第２に、下降配置状態からアーム部材Ｋ７３５を時計回り方向に回転動作させる突破上昇動作パターンの場合、下降配置状態から基端側支持孔Ｋ７３７ａ及び上下スライド部材Ｋ４７２０（上記各実施形態における上下スライド部材Ｋ７２０に相当）が上昇されるまでは階段上昇動作パターンと同じであるが（図５９（ａ）及び図９７（ｂ）参照）、上昇動作が一時停止されることはなく、動作終端状態まで一気に上昇移動される（図９８参照）。
【１１０８】
　第２可動装置Ｋ４７０１によれば、特に下降配置状態付近では、アーム部材Ｋ７３５の前側に配置される上下スライド部材Ｋ４７２０によりアーム部材Ｋ７３５への視界が遮られることで、下降配置状態からアーム部材Ｋ７３５が時計回り方向に回転したのか、反時計回り方向に回転したのかを、遊技者が判別困難となるように構成されている。
【１１０９】
　そのため、第２可動装置Ｋ４７０１が下降配置状態から上昇移動された場合に、ある程度の上昇高さまでは（図５９（ａ）及び図９７（ｂ）参照）、第２可動装置Ｋ４７０１が階段上昇動作パターンで動作されているのか、突破上昇動作パターンで動作されているのかを判別できないようにすることができる。
【１１１０】
　この場合において、第２可動装置Ｋ４７０１が階段上昇動作パターンで動作するか、突破上昇動作パターンで動作するかによって、その後の演出展開が変化したり、特図変動の大当たり期待度が変化したりするような設定を設けることで、第２可動装置Ｋ４７０１に対する注目力を向上させることができる。
【１１１１】
　ここで、途中停止させる動作パターンと、途中停止させない動作パターンとの切替は、上下スライド部材Ｋ４７２０に上下方向で当接可能な状態と、上下スライド部材Ｋ４７２０の移動軌跡から退避する状態とで切り替え可能な可動のストッパ部材を設けることでも実現可能である。この場合、円弧状部Ｋ７３２，Ｋ７３４を構成する必要もなくなる。
【１１１２】
　一方、ストッパ部材との当接により上下スライド部材Ｋ４７２０を停止させる構成の場合、動作速度が高速であるほど生じる負荷は大きくなるので、上下スライド部材Ｋ４７２０又はストッパ部材が破損する可能性が高くなる。破損を避けるために当接前にブレーキを生じさせたり、動作速度を遅くしたりする場合、途中停止させる動作パターンと、途中停止させない動作パターンとの違いが分かり難くなるため、演出効果が低くなる可能性がある。
【１１１３】
　これに対し、本実施形態によれば、階段上昇動作パターンにおいて上下スライド部材Ｋ４７２０（上記各実施形態における上下スライド部材Ｋ７２０に相当）が途中停止する状態は、円弧状部Ｋ７３４に対して円弧状部Ｋ７３２が擦れている状態であり（図５７（ａ）参照）、動作速度がどれだけ高速になったとしても破損する程の衝撃が生じるものではなく、むしろ回転方向の荷重が駆動力の伝達方向下流側（駆動側二層ギアＫ７３１よりも下流側の伝達側二層ギアＫ７３３、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ４７３７等）に伝達されにくいように構成されているため、途中位置（図５９（ａ）及び図９７（ｂ）参照）でのブレーキの必要は無く、高速動作が可能となる。

【１１１４】
これにより、階段上昇動作パターンでは、高速で上昇動作していたものが突然止まるように演出できる一方、階段上昇動作パターンにおいて上昇速度を高めることができることに基づいて、その階段上昇動作パターンと紛らわしくさせる突破上昇動作パターンの上昇速度も高めることが可能となる。これにより、上昇移動の動作速度の設定自由度を向上させることができ、第２可動装置Ｋ４７０１の演出効果を向上させることができる。
【１１１５】
図９９は、後層側可動装置Ｋ４８００の後側開閉部材Ｋ４８１０の板状部Ｋ４８１１、中側開閉部材Ｋ４８２０の板状部Ｋ４８２１及び前側開閉部材Ｋ４８３０の板状部Ｋ４８３１を模式的に示す正面模式図である。後側開閉部材Ｋ４８１０、中側開閉部材Ｋ４８２０及び前側開閉部材Ｋ４８３０は、上記各実施形態で上述した後層可動装置Ｋ８００の後側開閉部材Ｋ８１０、中側開閉部材Ｋ８２０及び前側開閉部材Ｋ８３０と略同一の構造を備えている一方で、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に施される装飾に違いがあるので、改めて説明する。
【１１１６】
板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１には、各板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１と正面視で外形が同一形状のシールが貼り付けられることに因り、正面視において略全体がそのシールの色で視認される。
【１１１７】
板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に施される装飾は、シールに印刷された形状によるものである。左側の板状部Ｋ４８２１，Ｋ４８３１にローマ字の「Ｓ」の形状の輪郭ＫＯＬ４８１が施されるのは上記各実施形態と同様である（図７１（ｂ）参照）。
【１１１８】
更に、本実施形態では、右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１にローマ字の「Ｇ」の形状の内側輪郭ＫＯＬ４８２ａと、その内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの外側を囲うローマ字の「Ｇ」の形状の外側輪郭ＫＯＬ４８２ｂとが施され、右側の板状部Ｋ４８２１にローマ字の「Ｏ」の形状の輪郭ＫＯＬ４８３が施され、右側の板状部Ｋ４８３１に図形の「王冠」の形状の輪郭ＫＯＬ４８４が施される。
【１１１９】
本実施形態では、無色透明のシールに赤色で形状部分が印刷される。輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の外側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの内側における範囲が赤色で印刷されていることから、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の外側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの内側においては赤色で視認され、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの外側においては無色透明で視認される。
【１１２０】
実際の遊技中においては、閉塞状態（図９９参照）における板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は、それ単体で視認されるものではなく、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の後方にある第３図柄表示装置Ｋ８１も透けて見える（図７１（ｂ）及び図７１（ｃ）参照）。そのため、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の視認態様は、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示に対応して変化し得る。
【１１２１】
図１００（ａ）は、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面図であり、図１００（ｂ）は、図１００（ａ）に図示される第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側に配置された板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の正面図であり、図１０１（ａ）は、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面図であり、図１０１（ｂ）は、図１０１（ａ）に図示される第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側に配置された板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の正面図である。
【１１２２】
図１００（ａ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において、板状部Ｋ４８１１

，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に貼り付けられたシールと同じ赤色（同じ濃さの赤色）の光で一面発光されるように表示される（第１態様）。

【１１２３】

この場合、図１００（ｂ）に図示されるように、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側に配置された板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの外側が表示領域の表示と同様に赤色で視認されることになり、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の外側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの内側の赤色と区別がつき難くなり、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４が判別し難くなる。

【１１２４】

従って、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４に遊技者の注目力が行き難くなり、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の視認態様としては、単に一面赤色で塗りつぶされているような印象を与える。

【１１２５】

図１０１（ａ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に貼り付けられたシールの赤色に対して、赤以外の色も含む光（例えば、白色光）で一面発光されるように表示される（第２態様）。

【１１２６】

この場合、図１０１（ｂ）に図示されるように、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側に配置された板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの外側では第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域で照射される（赤以外の色も含む）光の色で視認される一方で、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の外側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの内側では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域で照射される光の色の内、赤以外の色がシールに吸収され、赤色で視認される。

【１１２７】

そのため、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの外側における（赤以外の色も含む）光の色と、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の外側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの内側における赤色とで、区別させ易くなり、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４を判別させ易くなる。

【１１２８】

従って、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４に遊技者の注目力を向かわせ易くなり、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の視認態様としては、遊技者に対する何らかの示唆が生じているような印象を与える。

【１１２９】

このように、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における表示を一面同色の表示とする態様（図１００（ａ）及び図１０１（ａ）参照）を採用しながらも、色の異なる第１態様と第２態様とでは、表示される光と板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１のシールに印刷される色との関係から、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を通した視認態様の印象を異ならせることができる。

【１１３０】

なお、上述の実施形態では、無色透明の樹脂材料から形成される板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に色付きのシールが貼り付けられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、非透過のプリントシールを貼り付けるようにしても良いし、色付きの樹脂材料（透明の樹脂材料でも良いし、非透過の樹脂材料でも良い）から板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を形成しても良い。

【１１３１】

この場合に、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，Ｋ

ＯＬ４８４による形状の構成は、２色成形により作っても良いし、形状に合わせたリール部材を貼り付けるようにしても良いし、形状に合わせた凹部や凸部を形成することで光の透過性を異ならせ視認態様を調整するようにしても良い。

【１１３２】

樹脂材料に付けられる色は、硬化剤の色である場合等、無色透明の樹脂材料に比較して材料強度や材料の粘りを向上させる場合が多い。そのため、色付きの樹脂材料から板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を形成する場合、形状の設計自由度を向上させたままで十分な材料強度を発揮させることができる。

【１１３３】

また、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に形成される輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４を、貼り付けられるシールに形成される形状として説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の形状により輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４を視認させるようにしても良い。

【１１３４】

即ち、例えば、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４に沿う形状で板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の背面側から後方に突条状に突設形成されるリブ部を形成しても良い。

【１１３５】

リブ部が形成される箇所において、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の厚み寸法が大きくなるので、透過性が低くされ、暗く視認される。即ち、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４に沿って暗く視認されるラインが形成されることで、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内側との境界部を認識させ易くすることができ、演出性を向上させることができる。

【１１３６】

更に、リブ部により、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の材料強度を向上させることができ、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の曲げ変形や、折れ変形を防止し易くすることができる。

【１１３７】

このように、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４に沿ったリブ部を形成することで、演出性を向上させつつ、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の耐久性の向上も図ることができる。

【１１３８】

上述の構成によれば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態とされているままで、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の表示態様を切り替えることで、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を通した視認態様の印象を瞬時に切り替えることができる。

【１１３９】

例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態とされているままで、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の表示態様を一面赤色の表示（図１００（ａ）参照）から一面多色（例えば、赤色以外を含む色）の表示（図１０１（ａ）参照）に切り替えることで、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を通した視認態様を図１００（ｂ）に図示される態様から図１０１（ｂ）に図示される態様に瞬時に切り替えることができる。

【１１４０】

このように、本実施形態によれば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態という同じ状態を構成している場合において、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４

８４が判別され易く、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内側および内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの外側を通して見える表示に注目させ易い（第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域に注目させ易い）場合と、輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４が判別され難く一面同じ色で視認されるために手前側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に注目させ易い場合とを切り替えることができる。

【１１４１】

即ち、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が透過性の材料から形成される場合に特有の、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１よりも後側に配置される第３図柄表示装置Ｋ８１による表示に注目させるという機能（図１０１（ｂ）参照）に加えて、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が非透過の材料から形成される場合に特有の、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１自体に注目させて後側の第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域には注目させ難くするという機能（図１００（ｂ）参照）をも生じさせることができる。

【１１４２】

図１０１（ａ）及び図１０１（ｂ）を参照して、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における表示態様の設定の一例を説明する。上述した説明では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域で一面同じ態様（色味）の光を見せるように制御する場合を説明したが、例えば、図１０１（ａ）に図示されるように、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域を複数の範囲に分割し、それぞれの範囲で別々の表示態様で表示可能に構成しても良い。

【１１４３】

例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態とされている場合において、輪郭ＫＯＬ４８１を正面視で含む範囲において第１扉演出表示ＫＥＲ４８１が実行可能とされ、外側輪郭ＫＯＬ４８２ｂを正面視で含む範囲において第２扉演出表示ＫＥＲ４８２が実行可能とされ、輪郭ＫＯＬ４８３を正面視で含む範囲において第３扉演出表示ＫＥＲ４８３が実行可能とされ、輪郭ＫＯＬ４８４を正面視で含む範囲において第４扉演出表示ＫＥＲ４８４が実行可能とされるように設定する。

【１１４４】

各扉演出表示ＫＥＲ４８１，ＫＥＲ４８２，ＫＥＲ４８３，ＫＥＲ４８４として、赤以外の色を含む表示を行う場合、その表示範囲は対応する各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４よりも大きいが、各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の外側においてはシールに赤色以外の色が吸収されることにより、赤以外の色の表示が視認されるのは各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内側に限定される。

【１１４５】

例えば、第１扉演出表示ＫＥＲ４８１において、虹色の七色を等間隔で縞状に並べたような表示を行うようにしても良い。この場合、輪郭ＫＯＬ４８１の内側のみを虹色で視認させ、輪郭ＫＯＬ４８１の外側は赤色で視認させることができるので、遊技者に対して、ローマ字の「Ｓ」を虹色で視認させることができる。これにより、遊技者に対して、何らかの利益を獲得可能であること（例えば、特別図柄の抽選で大当たりとなったこと）を示唆することができる。

【１１４６】

例えば、第２扉演出表示ＫＥＲ４８２において、縦方向に延びる黄色の帯状部が左方に移動する表示が等間隔で実行され、第３扉演出表示ＫＥＲ４８３において、横方向に延びる黄色の帯状部が上方に移動する表示が等間隔で実行されるようにしても良い。

【１１４７】

この場合、内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの外側および外側輪郭ＫＯＬ４８２ｂの内側のみで黄色部が左方に移動し、輪郭ＫＯＬ４８３の内側のみで黄色部が上方に移動するように視認させ、内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの内側、外側輪郭ＫＯＬ４８２ｂの外側および輪郭ＫＯＬ４８３の外側は赤色で視認させることができるので、遊技者に対して、ローマ字の「Ｇ

Ｏ」を黄色部が動く態様で視認させることができると共に、黄色部の移動方向として視線を左上方向に誘導させることができる。

【１１４８】

これにより、遊技者の視線が第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の右半分に偏っていたとしても、遊技者の視線を左方側へ誘導することができるので、輪郭ＫＯＬ４８１を視界に入れさせることで、虹色のローマ字の「Ｓ」の表示に気付かせることができる。

【１１４９】

例えば、第４扉演出表示ＫＥＲ４８４において、一面金色で、表示したり、消したりを交互に繰り返す（点滅させる）ように制御しても良い。この場合、表示中には、輪郭ＫＯＬ４８４の内側のみを金色で視認させることで、「王冠」を印象付ける一方で、表示を消した場合には、「王冠」が無いかのように視認させることができる。

【１１５０】

この場合において、表示する時間と、表示が消される時間との比を異ならせることにより、その印象を異ならせることができる。即ち、表示する時間の方が、表示が消される時間に比較して長い場合、「王冠」は濃く視認され、より実体化される。一方、表示する時間の方が、表示が消される時間に比較して短い場合、「王冠」は薄く視認され（透けて視認され）、残像のような印象を与える。

【１１５１】

このように、各扉演出表示ＫＥＲ４８１，ＫＥＲ４８２，ＫＥＲ４８３，ＫＥＲ４８４の外縁形状を単なる矩形という単純な形状としながらも、各扉演出表示ＫＥＲ４８１，ＫＥＲ４８２，ＫＥＲ４８３，ＫＥＲ４８４の表示態様にのっとった形で各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の形状を遊技者に視認させることができる。

【１１５２】

従って、第３図柄表示装置Ｋ８１における表示態様を、前方に配置される各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の形状を表示する場合に比較して簡素なパターンとすることができるので、描画に要する時間を短くしつつ、遊技者には、各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の形状に対応した模様を視認さえることができる。

【１１５３】

各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内側の発光は、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の発光を利用していることから、面発光で視認させることができる。そのため、点光源により発光される移動装置Ｋ４５６０（上述の各実施形態における移動装置Ｋ５６０に相当、図４１参照）等に比較して、各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内側を、より明るく、より均一に光らせることができ、視認性を向上させることができる。

【１１５４】

なお、本実施形態では、各扉演出表示ＫＥＲ４８１，ＫＥＲ４８２，ＫＥＲ４８３，ＫＥＲ４８４を開閉動作する板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４のみに対応させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【１１５５】

例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１と同様に開閉動作可能な第２扉状可動役物が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の前層側（又は後層側）に配設されても良い。その第２扉状可動役物の板状部にもシールが貼り付けられ、第２扉状可動役物の閉塞状態において正面視で各扉演出表示ＫＥＲ４８１，ＫＥＲ４８２，ＫＥＲ４８３，ＫＥＲ４８４と重なる位置において、シールに各輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４とは異なる輪郭が施される。

【１１５６】

この場合、各扉演出表示ＫＥＲ４８１，ＫＥＲ４８２，ＫＥＲ４８３，ＫＥＲ４８４の

表示態様が同じであっても、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態（図２８参照）であって第２扉状可動役物が演出待機状態（図２６参照）とされる場合と、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態（図２６参照）であって第２扉状可動役物が閉塞状態（図２８参照）とされる場合とで、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側における視認態様を異ならせることができる。

【１１５７】

板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は、上述の各実施形態における板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１と同様に、閉塞状態（図６５（ｃ）及び図６９参照）における停止と、連動切替状態（図６５（ｂ）及び図６８参照）における停止とを容易に行うことができる。即ち、駆動力の停止タイミングが若干ずれた場合であっても、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を、閉塞状態または連動切替状態で停止させることを容易に行うことができる。

【１１５８】

左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は、上述の各実施形態における板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１と同様に、左右それぞれで独立の駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２（図６２参照）により駆動されるため、左右それぞれで動作タイミングを合わせた駆動や、左右独立で動作させる駆動が可能とされる。

【１１５９】

即ち、上述の各実施形態における板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１の状態として説明した、演出待機状態（図６７参照）、連動切替状態（図６８参照）、閉塞状態（図６９参照）は、左右同時に動作される場合に限らず、左右いずれかが取り得る状態としても構成され得る。

【１１６０】

ここで、左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が、相手側の扉と当接して停止される場合には、片側だけを動作させた場合の停止位置が定まらない可能性がある。これに対して、本実施形態では、上述の各実施形態と同様に、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を、閉塞状態または連動切替状態で停止させることを、相手側の部材（左右反対側の部材）との当接に因ることなく行うことができるので、左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の左右一方のみを動作させる場合でも、閉塞状態または連動切替状態で正確に停止させることができる。

【１１６１】

左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の動作速度について説明する。上述の各実施形態における板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１への駆動力伝達の上流側に位置する基端側スライド部材Ｋ８８０（図６５及び図６６参照）と同様に、駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２（図６２参照）が一定の駆動速度で駆動されている場合であっても、基端側スライド部材Ｋ８８０の移動速度を連動切替状態（図６５（ｂ）参照）において最大とすることができる。

【１１６２】

図１０２は、後層側可動装置Ｋ４８００の後側開閉部材Ｋ４８１０の板状部Ｋ４８１１、中側開閉部材Ｋ４８２０の板状部Ｋ４８２１及び前側開閉部材Ｋ４８３０の板状部Ｋ４８３１を模式的に示す正面模式図である。図１０２では、連動切替状態（図６５（ｂ）及び図６８参照）における視認態様が図示される。

【１１６３】

後層側可動装置Ｋ４８００は、動作により、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が、おおよそ重なることなく輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４の内容が明確に理解できる状態（図９９参照）と、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が、部分的に重なることで輪郭ＫＯＬ４８１，ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ，ＫＯＬ４８３，ＫＯＬ４８４（例えば、輪郭ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂ）が見え難くなる状態（図１０２参照）とで、切替可能とされる。これにより、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１による視認態様のバリエーションを増

やして、注目力の向上および演出効果の向上を図ることができる。
【１１６４】
図１０２に図示されるように、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の少なくとも一部が前後で重ねられることにより全体の左右幅が縮められることに加え、板状部Ｋ４８１１に形成される内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの外側および外側輪郭ＫＯＬ４８２ｂの内側（無色透明）と板状部Ｋ４８２１に形成される輪郭ＫＯＬ４８２の外側（赤色）との重なる位置、及び、板状部Ｋ４８１１に形成される内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの内側および外側輪郭ＫＯＬ４８２ｂの外側（赤色）と板状部Ｋ４８２１に形成される輪郭ＫＯＬ４８２の内側（無色透明）との重なる位置では、板状部Ｋ４８１１に形成される内側輪郭ＫＯＬ４８２ａの内側および外側輪郭ＫＯＬ４８２ｂの外側の色（赤色）で視認されることになることから、輪郭ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂとして判別し易い（無色透明で視認される）部分の面積が減少される。
【１１６５】
従って、図９９に図示される状態に比較して、輪郭ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂとして形成される装飾の判別をし難くすることができる。仮に、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の前後方向の重なり加減が変化することなく左右にスライド移動することがあった場合に比較して、本実施形態では輪郭ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂが第３図柄表示装置Ｋ８１の前方の外方へ退避する前から重なり始める分、本実施形態の方が、輪郭ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂとして視認される（無色透明で視認される）面積の減少が早期に生じることになり、輪郭ＫＯＬ４８２の判別をし難くさせることができる。
【１１６６】
これにより、図９９に図示される状態と、図１０２に図示される状態との、輪郭ＫＯＬ４８２ａ，ＫＯＬ４８２ｂの判別のし易さの違いを、より際立たせることができ、視認態様のバリエーションの差を大きくすることができる。
【１１６７】
図１０２に図示される状態で、太い幅の想像線で図示される第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の内、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の後方に位置する範囲において上述の第１態様の表示を実行することにより、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の左右側に配置される左右幅の長い枠構成部（フレームの一部）として視認させることができ、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示を視認させる領域を板状部Ｋ４８１１の間隔に狭めることができる（縮小表示態様）。
【１１６８】
即ち、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の大きさが変化したように見せることができるので、遊技者に対して、第３図柄表示装置Ｋ８１自体の表示領域の大きさに適した表示演出だけではなく、見かけ上変化された（小さくされた）表示領域の大きさに適した表示演出を見せることを、同一の第３図柄表示装置Ｋ８１により実行することができる。
【１１６９】
一方、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の内、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の後方に位置する範囲において、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１のシールの色よりも濃い赤での濃淡による形状を視認させる表示（第３態様の表示）を行い（赤はシールにより吸収されないので板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１越しに濃淡による形状を遊技者が視認可能）、板状部Ｋ４８１１の間隔に置いても赤の濃淡による形状を視認させる表示を行うようにしても良い。
【１１７０】
例えば、図１０２に図示されるように、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の上側範囲において左右方向に帯状に延びる第４背面表示Ｋ８１ｄを板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１のシールと同じ濃さの赤色で表示し、その第４背面表示Ｋ８１ｄの内側に右方向を向く矢印形状の第５背面表示Ｋ８１ｅを板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１のシールの赤色よりも濃い赤色で表示する。
【１１７１】

この場合、板状部Ｋ４８１１の内側端部で第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域が仕切られているような印象を与えることはなく、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１越しに第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における第４背面表示Ｋ８１ｄ及び第５背面表示Ｋ８１ｅを透けて見せることができる。

【１１７２】

この態様によれば、第５背面表示Ｋ８１ｅが板状部Ｋ４８１１の内側縁部と重なっていても遊技者に違和感を与えることがないので、第５背面表示Ｋ８１ｅを左右方向（例えば、矢印の向く右方向）にスライド移動する動的表示として表示する場合においても、遊技者に違和感を与えることが無い。

【１１７３】

このように、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を第３図柄表示装置Ｋ８１の正面側に配置したまま、第３図柄表示装置Ｋ８１自体の表示領域の大きさに適した表示演出を実行することができる（非縮小表示態様）。

【１１７４】

このように、本実施形態では、上述の各実施形態と同様に、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が第３図柄表示装置Ｋ８１の正面側に配置された状態において、遊技者に対して、第３図柄表示装置Ｋ８１自体の表示領域の大きさに適した表示演出だけではなく、見かけ上変化された（小さくされた）表示領域の大きさに適した表示演出を見せることができ、これらは、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示態様を切り替えることにより実現される。

【１１７５】

なお、上述した縮小表示態様や、非縮小表示態様において、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の後方の表示範囲の指定は、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の投影範囲に限られるものではない。

【１１７６】

例えば、縮小表示態様において、上述した第１態様の表示を実行させる範囲の左右内側端は、板状部Ｋ４８１１の左右内側先端側（互いに対向配置される側）縁部よりも左右外側にずらすようにしても良い。この場合、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の動作（停止位置）が不安定となったとしても、第１態様の表示が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に覆われずに露出する事態の発生を回避し易くすることができる。

【１１７７】

また、縮小表示態様において、板状部Ｋ４８１１の左右内側先端側において上下方向に延びる帯状の表示を行うことで、左右の板状部Ｋ４８１１の間隔における第３図柄表示装置Ｋ８１の表示範囲と、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の後方における表示範囲とを区別させ易くすることができるが、この帯状の表示の位置についても、板状部Ｋ４８１１の左右内側先端の投影範囲に限られるものではない。

【１１７８】

例えば、左右の板状部Ｋ４８１１の対向する側（左右内側）にずらすようにしても良い。この場合、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の動作（停止位置）が不安定となったとしても、帯状の表示が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に覆われて、帯状の表示が視認され難くなる事態を回避し易くすることができる。

【１１７９】

図１０３（ａ）、図１０３（ｂ）及び図１０３（ｃ）は、第３図柄表示装置Ｋ８１及び後層側可動装置Ｋ４８００の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の上面図である。図１０３（ａ）、図１０３（ｂ）及び図１０３（ｃ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１と板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１との位置関係が模式的に図示される。

【１１８０】

図１０３（ａ）に図示されるように、本実施形態では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域を覆う大きさで第３図柄表示装置Ｋ８１の正面側に配設され、左右側端部が第３図柄表示装置Ｋ８１の左右側の枠に接着される透明フィルムＫ４８９１と、その透明フィルム

Ｋ４８９１の上下両側に一対で配設され透明フィルムＫ４８９１を把持する把持部Ｋ４８９２と、その把持部Ｋ４８９２を前後方向にスライド変位させる第１駆動装置Ｋ４８９３と、その第１駆動装置Ｋ４８９３を左右方向にスライド変位させる第２駆動装置Ｋ４８９４と、が第３図柄表示装置Ｋ８１に配設される。

【１１８１】

把持部Ｋ４８９２が初期位置（図１０３（ａ）参照）に配置されている状態では、透明フィルムＫ４８９１の前面は第３図柄表示装置Ｋ８１の表示面Ｋ８１ｓと平行とされており、透明フィルムＫ４８９１を通して視認される表示は、透明フィルムＫ４８９１が配設されていない場合と大きな変化はない。

【１１８２】

図１０３（ｂ）に図示されるように、上下一対の把持部Ｋ４８９２が前方位置に配置される場合、透明フィルムＫ４８９１は、上面視で把持部Ｋ４８９２を頂点とする三角形状の２辺を形成する態様で変形され、透明フィルムＫ４８９１の前面が形成される平面ＫＳ４９は第３図柄表示装置Ｋ８１の表示面Ｋ８１ｓと非平行とされる。この場合、透明フィルムＫ４８９１を通して視認される表示は、透明フィルムＫ４８９１が配設されていない場合と変化し得る。

【１１８３】

図１０３（ｃ）では、上下一対の把持部Ｋ４８９２が前方位置に配置され、後層側可動装置Ｋ４８００の右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は演出待機状態における配置とされる一方で、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は閉塞状態における配置とされた状態が図示される。

【１１８４】

図１０３（ｃ）に図示されるように、上下一対の把持部Ｋ４８９２が前方位置に配置されることで、正面視における、透明フィルムＫ４８９１の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１側の縁と、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の透明フィルムＫ４８９１側の縁との前後間隔が狭められている。

【１１８５】

更に、上下一対の把持部Ｋ４８９２が前方位置に配置される場合における透明フィルムＫ４８９１の前面が形成される平面ＫＳ４９と、閉塞状態における配置とされた板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が並べられる方向ＫＬ５０とが略平行とされる。

【１１８６】

透明フィルムＫ４８９１は、第３図柄表示装置Ｋ８１側から入射された光を屈折させることで、平面ＫＳ４９と垂直な方向に進行させ、遊技者に視認させる。これにより、透明フィルムＫ４８９１の前面を視認面として視認される第３図柄表示装置Ｋ８１からの表示と、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の前面を通して視認される装飾とを、一連で視認させ易くすることができる。

【１１８７】

なお、透明フィルムＫ４８９１を通して視認させる第３図柄表示装置Ｋ８１側の表示は、遊技者が平面ＫＳ４９と直交する方向視で視認する可能性を考慮して、把持部Ｋ４８９２の左右位置よりも若干左右方向に超えて（図１０３（ｃ）において左側にまで超えて）連続的に形成されるようにしても良い。この場合、遊技者が平面ＫＳ４９と直交する方向視で視認した場合であっても、透明フィルムＫ４８９１と板状部Ｋ４８１１との間に隙間が視認されることを防止し易くすることができると共に、遊技者が正面視で視認している場合には、把持部Ｋ４８９２よりも左側の範囲においては板状部Ｋ４８１１とオーバーラップすることで、ほぼ板状部Ｋ４８１１の色（本実施形態では、赤色）で視認されることにより、把持部Ｋ４８９２の配置される左右中央位置で視認態様を区切ることができる。

【１１８８】

なお、把持部Ｋ４８９２の前後位置は、第１駆動装置Ｋ４８９３を駆動させることにより変更可能とされる。そのため、透明フィルムＫ４８９１の前面が形成される平面ＫＳ４９の傾斜角度は、任意に設定可能である。即ち、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８

３１と透明フィルムＫ４８９１との前後間隔を調整することで視認性（一連で視認されるか、一連ではないように視認されるか）を調整したり、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が並べられる方向に対する平面ＫＳ４９の角度を敢えて傾斜させたりすることができる。

【１１８９】

なお、把持部Ｋ４８９２の左右位置は、第２駆動装置Ｋ４８９４を駆動させることにより変更可能とされる。そのため、板状部Ｋ４８１１の端部が配置される左右位置と、把持部Ｋ４８９２の左右位置を合わせることで、板状部Ｋ４８１１の左右位置に関わらず、正面視における、透明フィルムＫ４８９１の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１側の縁と、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の透明フィルムＫ４８９１側の縁との前後間隔を狭めることができる。

【１１９０】

なお、本実施形態では、透明フィルムＫ４８９１が第３図柄表示装置Ｋ８１の左右端を頂点として延ばされた場合に板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の並ぶ方向ＫＬ５０に沿う位置関係で構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１と第３図柄表示装置Ｋ８１との前後間隔が図１０３に図示される配置よりも短い場合には、透明フィルムＫ４８９１が第３図柄表示装置Ｋ８１の左右端部よりも左右内側の部分を頂点として延ばされるよう構成することで、平面ＫＳ４９と方向ＫＬ５０とが平行な状態を構成することができる。

【１１９１】

また、例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１と第３図柄表示装置Ｋ８１との前後間隔が図１０３に図示される配置よりも長い場合には、透明フィルムＫ４８９１の端が固定される位置を第３図柄表示装置Ｋ８１の外枠から前方に離れた位置とすることで、平面ＫＳ４９と方向ＫＬ５０とが平行な状態を構成することができる。

【１１９２】

なお、本実施形態では、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の移動方向が左右方向であることに基づいて透明フィルムＫ４８９１の変形方向を設計したが、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の移動方向が変われば、透明フィルムＫ４８９１の変形方向も変わり得るのは当然である。例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が前後方向にスライド移動するのであれば、把持部Ｋ４８９２を第３図柄表示装置Ｋ８１の左右に配置して透明フィルムＫ４８９１の変形を生じさせることも考えられる。

【１１９３】

また、把持部Ｋ４８９２が上下片側に一つずつ配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、把持部Ｋ４８９２が上下片側に複数配置されるようにしても良い。この場合、変位する把持部Ｋ４８９２を場合ごとに切り替えることで透明フィルムＫ４８９１の変形態様を切り替えることができるし、複数の把持部Ｋ４８９２を同時に変位させることでも透明フィルムＫ４８９１の変形態様を異ならせることができる。

【１１９４】

なお、本実施形態では、板状部Ｋ４８１１の厚み分、平面ＫＳ４９と方向ＫＬ５０との間に間隔が生じる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部Ｋ４８１１のスライド先端側（把持部Ｋ４８９２側）端部において、延ばされた透明フィルムＫ４８９１（図１０３（ｂ）参照）と干渉しないように傾斜形成（鋭利に形成）されることで、平面ＫＳ４９と方向ＫＬ５０とが上面視で面一となるように構成しても良い。この場合、透明フィルムＫ４８９１と板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１とを一連で視認させ易くすることができる。

【１１９５】

図１０４（ａ）、図１０４（ｂ）、図１０４（ｃ）、図１０４（ｄ）、図１０４（ｅ）、図１０４（ｆ）、図１０４（ｇ）、図１０４（ｈ）及び図１０４（ｉ）は、図８５（ａ）のＺ０４ｍ部におけるパチンコ機Ｋ４０１０の部分拡大正面図である。

【１１９６】
図１０４（ａ）では、左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態（図６７参照）とされた場合が図示される。図１０４（ｂ）では、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態（図６７参照）とされると共に右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態（図６９参照）とされた場合が図示される。
【１１９７】
図１０４（ｃ）では、右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態（図６７参照）とされると共に左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態（図６９参照）とされた場合が図示される。図１０４（ｄ）では、左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態（図６９参照）とされた場合が図示される。
【１１９８】
図１０４（ｅ）では、右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が連動切替状態（図６８参照）とされると共に左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態（図６７参照）とされた場合が図示される。
【１１９９】
図１０４（ｆ）では、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が連動切替状態（図６８参照）とされると共に右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態（図６７参照）とされた場合が図示される。図１０４（ｇ）では、左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が連動切替状態（図６８参照）とされた場合が図示される。
【１２００】
図１０４（ｈ）では、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が連動切替状態（図６８参照）とされると共に右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態（図６９参照）とされた場合が図示される。
【１２０１】
図１０４（ｉ）では、右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が連動切替状態（図６８参照）とされると共に左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態（図６９参照）とされた場合が図示される。
【１２０２】
このように、後層側可動装置Ｋ４８００（図９９参照）への電圧印加の態様に対応する状態の違いにより、左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の配置態様が変化される。これにより、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における視認態様が変化されることになる。
【１２０３】
本実施形態では、上記各実施形態と同様に、図１０４（ａ）から図１０４（ｉ）に図示される状態を切り替えることで、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の見せ方を切り替えることができる。
【１２０４】
例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１で覆われる範囲において、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示を上述の第１態様で設定する場合、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１で覆われる範囲では一面同じ濃さの赤色で視認されることになり動的表示を視認させることができないので、図１０４（ｂ）～図１０４（ｉ）に図示される状態で動的表示を視認させることができる実質的な表示範囲（例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１や表示装置Ｋ４５８０等のように、枠状に囲まれて視認される表示範囲）は、図１０４（ａ）に図示される表示範囲よりも狭くなる。
【１２０５】
また、例えば、図１０４（ａ）に図示される状態から図１０４（ｂ）に図示される状態に変化することで、右側の範囲が隠されるところ、その後で図１０４（ａ）に図示される

状態に再び変化された場合に、右側の範囲に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【１２０６】

また、例えば、図１０４（ｅ）に図示される状態と図１０４（ｆ）に図示される状態とが交互に生じるように変化させることで、動的表示を視認させることができる実質的な表示範囲が左右に往復変位されているように遊技者に視認させることができる。この場合に、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における表示が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の変位と連動して左右にスライド移動されるように見えるように描画の設定を行うことで、実際に第３図柄表示装置Ｋ８１を左右にスライド移動させることをしなくても、あたかも第３図柄表示装置Ｋ８１が左右にスライド移動しているかのように見える演出を実現することができる。

【１２０７】

これに限らず、図１０４（ｂ）に図示される状態と図１０４（ｃ）に図示される状態とが交互に生じるように変化させる場合や、図１０４（ｈ）に図示される状態と図１０４（ｉ）に図示される状態とが交互に生じるように変化させる場合においても、同様の演出を実現することができる。

【１２０８】

図１０５（ａ）、図１０５（ｂ）及び図１０５（ｃ）は、図８５（ａ）のＺ０４ｍ部におけるパチンコ機Ｋ４０１０の部分拡大正面図である。図１０５（ａ）、図１０５（ｂ）及び図１０５（ｃ）では、パチンコ機Ｋ４０１０の変化の一例が時系列で図示される。なお、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の模様や、色彩の図示が省略される。

【１２０９】

図１０５（ａ）では、上述した第１１の動作パターン（図９１及び図９２参照）の左右対称の動作パターンで第１可動装置Ｋ４４０１が動作され、後層側可動装置Ｋ４８００の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は左右共が閉塞状態（図９９参照）で維持される第１の複合動作パターンが時系列で図示される。このような動作パターンは、切替装置Ｋ４６０（図９１参照）を左側にも配置して、第１１の動作パターンにならって切替装置Ｋ４６０を適切に制御することで実現可能である。

【１２１０】

移動装置Ｋ４５６０は、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の後方に配置される第３図柄表示装置Ｋ８１から照射される光を板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を介して受ける。

【１２１１】

板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は、シール部材により赤色で視認されるものであり、この板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を介する第３図柄表示装置Ｋ８１からの光は、赤みがかった色となるので、移動装置Ｋ４５６０も外周あたりが赤みがかった色で視認されることになる。

【１２１２】

図１０５（ｂ）では、第２の複合動作パターンが時系列で図示される。第２の複合動作パターンは、途中まで（上から１，２枚目の図に対応）は、上述した第１の複合動作パターン（図９１及び図９３参照）で第１可動装置Ｋ４４０１が動作される。

【１２１３】

一方、左右共が閉塞状態における後層側可動装置Ｋ４８００の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の内、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態（図６７参照）に途中で変化され（上から３枚目の図に対応）、その直後に左側の切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁されることで、長尺装置Ｋ５４０の左側が落下され、長尺装置Ｋ５４０が水平姿勢となる（上から４枚目の図に対応）。

【１２１４】

上述した第１２の動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が移動範囲の左端に到達した後で駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１（図９３（ａ）参照）が励磁されたが、第２の複合動作

パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が右端に到達するよりも早いタイミングで駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁される。

【１２１５】

即ち、移動装置Ｋ４５６０が移動範囲の左端と中央との間を移動中とされるタイミング（上から３枚目の図に対応）において、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が駆動されるのと合わせて駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１（図９３（ａ）参照）が励磁される。

【１２１６】

この場合、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態とされる間は移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０の長手方向に沿って右下方向にスライド移動されるが、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化されることに合わせて、まず移動装置Ｋ４５６０が下方へ変位し、その後の移動装置Ｋ４５６０の移動方向の傾斜も水平寄りになる。

【１２１７】

これにより、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の動作が生じる側（左側）と、移動装置Ｋ４５６０の移動方向の変化（右下方向から下方向への変化）が生じる側とを合わせることができるので、遊技者に対して、移動装置Ｋ４５６０と板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１とを一体的に視認させる動作演出を実行させることができる。

【１２１８】

移動装置Ｋ４５６０は、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の後方に配置される第３図柄表示装置Ｋ８１から照射される光を、途中までは板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を介して受ける。

【１２１９】

板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は、シール部材により赤色で視認されるものであり、この板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を介する第３図柄表示装置Ｋ８１からの光は、赤みがかった色となるので、移動装置Ｋ４５６０も外周あたりが赤みがかった色で視認されることになる。

【１２２０】

一方、移動装置Ｋ４５６０は、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化した後においては、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を介することなく第３図柄表示装置Ｋ８１から照射される光を受ける。

【１２２１】

そのため、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１により生じていた赤みがかった変色が無くなり、移動装置Ｋ４５６０の外周あたりが第３図柄表示装置Ｋ８１からの光で発光され、その光の色の影響を受けた態様で視認されることになる。

【１２２２】

これにより、第３図柄表示装置Ｋ８１による表示が切り替えられなくても、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態から演出待機状態に切り替えられることで、移動装置Ｋ４５６０の見映えを変化させる演出を実行することができる。

【１２２３】

図１０５（ｃ）では、第３の複合動作パターンが時系列で図示される。第３の複合動作パターンは、途中まで（上から１，２枚目の図に対応）は、図１０５（ｂ）に図示される第２の複合動作パターンと同様に第１可動装置Ｋ４４０１が動作されるものであり、上述した第１１の動作パターンに沿う図１０５（ａ）とも同様である。

【１２２４】

一方、左右共が閉塞状態における後層側可動装置Ｋ４８００の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の内、右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態（図６７参照）に途中で変化され（上から３枚目の図に対応）、その直後に左側の切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁されることで（図９３（ａ）参照）、長尺装置Ｋ５４０の左側が落下され、長尺装置Ｋ５４０が水平姿勢となる（上から４枚

目の図に対応）。
【１２２５】
上述した第１２の動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が移動範囲の左端に到達した後で駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１（図９３（ａ）参照）が励磁されたが、第３の複合動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が右端に到達するよりも早いタイミングで駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁される。
【１２２６】
即ち、移動装置Ｋ４５６０が移動範囲の中央と右端との間を移動中とされるタイミング（上から３枚目の図に対応）において、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が駆動されるのと合わせて駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１（図９３（ａ）参照）が励磁される。
【１２２７】
この場合、右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態とされる間は移動装置Ｋ４５６０が長尺装置Ｋ５４０の長手方向に沿って右下方向にスライド移動されるが、右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化されることに合わせて、まず移動装置Ｋ４５６０が下方へ変位し、その後の移動装置Ｋ４５６０の移動方向の傾斜も水平寄りになる。
【１２２８】
これにより、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の動作が生じる側（右側）と、移動装置Ｋ４５６０の移動方向の変化（右下方向から下方向への変化）が生じる側とを合わせることができるので、遊技者に対して、移動装置Ｋ４５６０と板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１とを一体的に視認させる動作演出を実行させることができる。
【１２２９】
移動装置Ｋ４５６０は、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の後方に配置される第３図柄表示装置Ｋ８１から照射される光を、途中までは板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を介して受ける。
【１２３０】
板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は、シール部材により赤色で視認されるものであり、この板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を介する第３図柄表示装置Ｋ８１からの光は、赤みがかった色となるので、移動装置Ｋ４５６０も外周あたりが赤みがかった色で視認されることになる。
【１２３１】
一方、移動装置Ｋ４５６０は、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化した後においては、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を介することなく第３図柄表示装置Ｋ８１から照射される光を受ける。
【１２３２】
そのため、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１により生じていた赤みがかった変色が無くなり、移動装置Ｋ４５６０の外周あたりが第３図柄表示装置Ｋ８１からの光で発光され、その光の色の影響を受けた態様で視認されることになる。
【１２３３】
これにより、第３図柄表示装置Ｋ８１による表示が切り替えられなくても（同様の発光状態を維持した状態でも）、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態から演出待機状態に切り替えられることで、移動装置Ｋ４５６０の見映えを変化させる演出を実行することができる。
【１２３４】
上述した第１～３の複合動作パターンでの移動装置Ｋ４５６０及び板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の動作演出を可能とすることで、閉塞状態における板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の前を移動装置Ｋ４５６０が斜め右方向に流下する態様の変位に対する遊技者の注目力を向上させることができる。なお、移動装置Ｋ４５６０及び板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の動作を全て左右対称に変更することで、移

動装置Ｋ４５６０が斜め左方向に流下する態様の変位を実行することもできる。
【１２３５】
更に、移動装置Ｋ４５６０の斜め右方向への変位が、右側終端まで継続される場合（図１０５（ａ）参照）に比較して、移動装置Ｋ４５６０の変位方向が途中で変化される場合（図１０５（ｂ）及び図１０５（ｃ）参照）の方が、遊技者が得られる利益が高い（例えば、大当たりの可能性が高かったり、払い出される賞球が多かったりする）ように演出される場合、遊技者に対して、斜め右方向に流下する態様で変位する移動装置Ｋ４５６０を変位方向が変わるように願いながら目で追うように仕向けることができる。
【１２３６】
これにより、移動装置Ｋ４５６０に視線を合わせさせながらも、それだけでなく、その視界（移動装置Ｋ４５６０を中心とする視界）の後方にある板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に対する注目力をも向上させることができる。
【１２３７】
なお、図１０５（ａ）から図１０５（ｃ）では、移動装置Ｋ４５６０の後方に位置する板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が変位し得る場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動装置Ｋ４５６０の後方から外れた位置に配置される板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が変位する場合を構成しても良い。
【１２３８】
例えば、移動装置Ｋ４５６０が図１０５（ｂ）の上から２枚目の位置から、図１０５（ｂ）の上から３枚目の位置まで変位した状態において、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態のまま維持され、右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化される動作パターンを構成しても良い。
【１２３９】
この場合において、左側の切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１は非励磁で維持される（図９１（ｃ）参照）。更に、この動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が左右中央位置（図１０５（ａ）の３枚目の位置に相当）に到達する前に右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態に変化されることから、移動装置Ｋ４５６０が左右中央位置に到達した後は、第１の複合動作パターンと同様に右下方向へスライド移動される。
【１２４０】
これにより、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が変位した場合であっても、移動装置Ｋ４５６０の移動方向の変化が生じない状況を構成することができるので、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は視界に入れながらも移動装置Ｋ４５６０については注目しないという遊技を避けさせ易くすることができる。
【１２４１】
また、例えば、移動装置Ｋ４５６０が図１０５（ｃ）の上から２枚目の位置から、図１０５（ｃ）の上から３枚目の位置まで変位した状態において、右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態のまま維持され、左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化される動作パターンを構成しても良い。
【１２４２】
この場合において、切替装置Ｋ４６０の駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１は非励磁で維持される（図９１（ｃ）参照）。そのため、この動作パターンでは、移動装置Ｋ４５６０が左右中央位置に到達した後は、第１の複合動作パターンと同様に右下方向へスライド移動される。
【１２４３】
これにより、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が変位した場合であっても、移動装置Ｋ４５６０の移動方向の変化が生じない状況を構成することができるので、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は視界に入れながらも移動装置Ｋ４５６０については注目しないという遊技を避けさせ易くすることができる。
【１２４４】

なお、図１０５（ｂ）及び図１０５（ｃ）では、閉塞状態から演出待機状態に変化する板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が左右片側である場合として第２の複合動作パターン及び第３の複合動作パターンを説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、異なる複合動作パターンとして、第２，３の複合動作パターンにおいて、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が左右共に閉塞状態から演出待機状態に変化する複合動作パターンで動作可能に構成しても良い。

【１２４５】

この複合動作パターンであれば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態から演出待機状態に変化するタイミングにおける移動装置Ｋ４５６０の配置が限定されるものではない。例えば、左右中央に配置される場合（図１０５（ａ）の３枚目参照）でも良いし、スライド移動範囲の任意の配置で良い。

【１２４６】

この複合動作パターンの場合、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の状態が変化しさえすれば、移動装置Ｋ４５６０の配置に因らず、移動装置Ｋ４５６０の変位方向が途中で変化されることになるので、移動装置Ｋ４５６０に対する注目力よりも板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に対する注目力の方が高い状況を構成することができる。

【１２４７】

板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の方が正面視での面積が大きいことから、視界に収める際のストレスは低くなるので、移動装置Ｋ４５６０を目で追う必要がある場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【１２４８】

なお、上述した各複合動作パターンは、それぞれ独立した制御態様で限定されるものではなく、各複合動作パターンの部分同士を組み合わせて別の複合動作パターンとすることは当然可能である。

【１２４９】

なお、上述した各複合動作パターンを実行している際に、第３図柄表示装置Ｋ８１から正面側へ向けて光が照射されるようにしても良い。この場合において、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の全体から光が照射されるようにしても良いし、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の状態に対応して光を照射するようにしても良い。

【１２５０】

例えば、閉塞状態の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に覆われる範囲においては光を照射せず（又は、目立たない赤色の光を照射するようにして）、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変位され正面側が覆われなくなった箇所から鮮やかな光（例えば、白色光）を照射するようにしても良い。

【１２５１】

即ち、例えば、図１０５（ｂ）の３枚目の状態において第３図柄表示装置Ｋ８１の左半分の領域において前方へ向けて光が照射されるようにしたり、図１０５（ｃ）の３枚目の状態において第３図柄表示装置Ｋ８１の右半分の領域において前方へ向けて光が照射されるようにしたりしても良い。

【１２５２】

ここで、第３図柄表示装置Ｋ８１側からの照射される光により移動装置Ｋ４５６０が照らされることで、移動装置Ｋ４５６０の視認態様（例えば、色味）が変化される。特に、回転装飾部材Ｋ４５７８の外形付近が、第３図柄表示装置Ｋ８１側からの照射される光の色で視認されることになり、回転装飾部材Ｋ４５７８の演出効果の向上を図ることができる。

【１２５３】

回転装飾部材Ｋ４５７８の内部にまで第３図柄表示装置Ｋ８１側からの照射される光による色の影響が生じるものではないが、例えば、表示装置Ｋ４５８０の見え方を考慮して、第３図柄表示装置Ｋ８１側からの照射される光の態様を設計するようにしても良い。

【１２５４】
例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１側から赤色の光が照射されている場合に、表示装置Ｋ４５８０からも赤色の光を照射するようにすることで、あたかも、第３図柄表示装置Ｋ８１側からの光が回転装飾部材Ｋ４５７８の内側を透過したかのように視認させることができる。
【１２５５】
また、例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１側から白色の光が照射されている場合に、表示装置Ｋ４５８０からは黒色（又は銀色）の光を照射するようにし、回転装飾部材Ｋ４５７８の電飾を白色の光で点灯させることで、白色の背景（第３図柄表示装置Ｋ８１側からの光および回転装飾部材Ｋ４５７８からの光）の中でひときわ目立つ黒色（又は銀色）の球体が斜め下方へ移動しているような印象を遊技者に与える演出を実行することができる。
【１２５６】
即ち、表示装置Ｋ４５８０の視認態様に基づいて、移動装置Ｋ４５６０がより目立つように第３図柄表示装置Ｋ８１側から照射される光の色を設計することで、移動装置Ｋ４５６０に対する注目力をより向上させることができ、移動装置Ｋ４５６０による演出効果を向上させることができる。
【１２５７】
なお、図１０５（ｂ）及び図１０５（ｃ）で上述した各複合動作パターンにおいて、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化することに基づいて移動装置Ｋ４５６０が落下した後で、移動装置Ｋ４５６０が演出待機状態における配置に戻る前に板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が再び閉塞状態（例えば、図１０５（ｂ）の２枚目の状態を参照）に変化するように動作させるようにしても良い。
【１２５８】
この場合に、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の配置により、第３図柄表示装置Ｋ８１側からの光が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を通り移動装置Ｋ４５６０に到達するか、第３図柄表示装置Ｋ８１側からの光が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を通らずに移動装置Ｋ４５６０に到達するかの違いが生じ、同じ位置に移動装置Ｋ４５６０が配置される場合であってもその視認態様が変化される。これにより、移動装置Ｋ４５６０の演出効果を向上させることができる。
【１２５９】
また、図１０５（ｂ）及び図１０５（ｃ）で上述した各複合動作パターンにおいて、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化した後で再び閉塞状態に戻る態様を採用し、閉塞状態に戻るまでの期間にバリエーション（長短）を設けても良い。
【１２６０】
この場合において、期間の長短に関わらず、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化することに基づいて移動装置Ｋ４５６０が落下方向に変位するようにしても良いし、又は、閉塞状態に戻るまでの期間が基準（例えば、０．２秒や１秒等、短期間）よりも短い場合には、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が演出待機状態に変化しても長尺装置Ｋ５４０の傾斜姿勢が維持され、移動装置Ｋ４５６０は落下されずに斜め下方への移動を継続するように構成しても良い。
【１２６１】
これにより、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の動作と移動装置Ｋ４５６０の落下とが一対一で対応する場合に比較して、移動装置Ｋ４５６０の変位がどのような態様で実行されるかの予測をされ難くすることができるので、移動装置Ｋ４５６０への注目力を向上させることができる。
【１２６２】
なお、上述の実施形態では、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を照らす広範囲の光が第３図柄表示装置Ｋ８１から照射される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に貼り付けられ

るシール部材の赤色よりも濃い赤色の、長尺装置Ｋ５４０の傾斜と平行な直線状の帯状の模様が、長尺装置Ｋ５４０の上方または下方に少し離れて重ならない位置に表示されるようにしても良い。

【１２６３】

これにより、長尺装置Ｋ５４０の左側部が落下した後においても、帯状の模様が残る（板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を通して視認される）ことにより、移動装置Ｋ４５６０の元の移動経路を遊技者が継続して視認可能にすることができる。そのため、遊技者が演出の時系列（例えば、移動装置Ｋ４５６０がどのような動きをして落下位置状態の位置に至ったか）を見失うことを避け易くすることができ、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【１２６４】

更に、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が変位した場合には、この帯状の模様も板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の変位に付き従って左右方向に変位するように表示態様を制御しても良い。

【１２６５】

この場合において、移動装置Ｋ４５６０の落下前において、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態に変化するように変位した場合に、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の帯状の模様と移動装置Ｋ４５６０とが正面視で重なり始める位置関係となった場合に、あたかも帯状の模様と移動装置Ｋ４５６０とが干渉する（衝突する）ように移動装置Ｋ４５６０及び板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１を動作させる制御をしても良い。

【１２６６】

例えば、閉塞状態へ向けて左右内側に進行する板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の進行側端部に移動装置Ｋ４５６０が押されて、移動装置Ｋ４５６０が加速されるように動作させても良い。

【１２６７】

又は、移動装置Ｋ４５６０と帯状の模様とが離れている時に比較して、移動装置Ｋ４５６０と帯状の模様とが正面視で重なり始める状態の方が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の移動速度が減速されるようにしても良い。この場合、あたかも板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が移動装置Ｋ４５６０から荷重を受けて、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の移動抵抗が増加されているかのように視認させることができる。

【１２６８】

なお、図１０５（ａ）から図１０５（ｃ）では、長尺装置Ｋ５４０の傾斜が、左端部を切替装置Ｋ４６０に支持される場合の姿勢で維持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、長尺装置Ｋ５４０の傾斜が僅かにずらされるようにして、移動装置Ｋ４５６０の移動方向が一直線方向だけではなく、その直線方向と交差する方向をも含むようにしても良い。

【１２６９】

例えば、左側の回転部材Ｋ４３０が、中間支持姿勢（図５１参照）と、その中間支持姿勢から回転部材Ｋ４３０が約１５度時計回りに回転された姿勢とで、交互に切り替えられるような動作制御を行っても良い。この場合、長尺装置Ｋ５４０の左側端部が上下に往復変位されることから、移動装置Ｋ４５６０の移動方向の傾斜角度を、移動装置Ｋ４５６０のスライド移動中に変化させることができる。

【１２７０】

また、例えば、右側の回転部材Ｋ４３０が、第１解除姿勢（図９２（ａ）参照）と、その第１解除姿勢から回転部材Ｋ４３０が中間支持姿勢（図９２（ｂ）参照）とで、交互に切り替えられるような動作制御を行っても良い。この場合、長尺装置Ｋ５４０の右側端部が上下に往復変位されることから、移動装置Ｋ４５６０の移動方向の傾斜角度を、移動装置Ｋ４５６０のスライド移動中に変化させることができる。

【１２７１】
この場合において、右側の回転部材Ｋ４３０が中間支持姿勢とされた場合、左右の回転部材Ｋ４３０の姿勢が合致されることで長尺装置Ｋ５４０が水平姿勢とされる。即ち、移動装置Ｋ４５６０の移動方向を、水平方向に対して下降傾斜する方向と、水平方向とで、変化させることができる。
【１２７２】
また、例えば、左右の回転部材Ｋ４３０を共に動作させて、長尺装置Ｋ５４０に両側から作用するようにしても良い。この場合、移動装置Ｋ４５６０の移動方向のバリエーションを増加させることができる。左右の回転部材Ｋ４３０の動作タイミングを合わせることで長尺装置Ｋ５４０に作用するタイミングをずらしても良いし、片側の回転部材Ｋ４３０の動作中にもう片方の回転部材Ｋ４３０を動作させるようにしても良い。
【１２７３】
また、回転部材Ｋ４３０の回転を、長尺装置Ｋ５４０が落下位置状態における位置（図１０５（ｂ）の４枚目参照）に配置されている状態で実行するようにしても良い。例えば、図１０５（ｂ）の４枚目に図示される状態から、左右両側の回転部材Ｋ４３０を中間支持姿勢（図９２（ｂ）参照）にしてから、再び第１解除姿勢（図９２（ａ）参照）にするように動作させるようにしても良い。
【１２７４】
この場合、第２可動装置Ｋ４７０１が下降配置状態（図９４（ｃ）参照）における配置に位置しておらず演出待機状態（図９４（ｂ）参照）における配置に位置している場合であっても、移動装置Ｋ４５６０が第２可動装置Ｋ４７０１の上方を離れて移動することになるので、移動装置Ｋ４５６０が第２可動装置Ｋ４７０１に移動を妨げられることを防止しつつ、移動装置Ｋ４５６０を右下の領域に到達させることができる。
【１２７５】
言い換えれば、移動装置Ｋ４５６０を右下の領域に到達させる場合の経路として、長尺装置Ｋ５４０が落下位置状態における配置に位置した後で移動装置Ｋ４５６０が上昇方向へ移動することは無い上述の経路とは異なる移動経路を構成することができる。
【１２７６】
なお、上記説明では、移動装置Ｋ４５６０の移動方向が回転部材Ｋ４３０の回転動作に基づいて変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、長尺装置Ｋ５４０と対向配置される板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１（図８１参照）から、長尺装置Ｋ５４０が移動する領域側（正面側）へ向けて障害部が棒状に突設され、その障害部がスライド移動中の移動装置Ｋ４５６０と干渉するように作用することで、移動装置Ｋ４５６０の移動方向が変化するように構成しても良い。
【１２７７】
即ち、例えば、図１０５（ｂ）の２枚目に図示される移動装置Ｋ４５６０の回転装飾部材Ｋ４５７８の右下側から当接する位置に第１の障害部が配置されている場合、移動装置Ｋ４５６０が図１０５（ｂ）の２枚目に図示される状態から更に右下方向へスライド移動される場合、第１の障害部と移動装置Ｋ４５６０とが干渉するので、第１の障害部を避けるように長尺装置Ｋ５４０ごと上方に変位される。そして、第１の障害部を右側へ越えると、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が自重により図１０５（ｂ）の２枚目に図示される状態に戻される。
【１２７８】
又は、自重による復帰では動きが不安定になる場合等、長尺装置Ｋ５４０の姿勢変化を安定させたい場合には、上述の第１の障害部と同様の作用を生じさせる第２の障害部を、移動装置Ｋ４５６０の右上側から当接する位置に配置するようにすれば良い。これにより、第２の障害部を移動装置Ｋ４５６０と干渉させることができ、長尺装置Ｋ５４０の姿勢を図１０５（ｂ）の２枚目の状態（元の姿勢）に確実に戻すことができるので、移動装置Ｋ４５６０のスライド移動方向を戻すことができる。
【１２７９】

なお、上述の第１の障害部や第２の障害部は、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１（図８１参照）から突設されるものに限定されるものではない。例えば、移動装置Ｋ４５６０よりも前側の層に配置される板状部から移動装置Ｋ４５６０側へ張り出すように設けられても良い。この場合、移動装置Ｋ４５６０との衝突で板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に荷重が加えられることを回避することができるので、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の耐久性を向上させることができると共に、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の動作をスムーズにさせることができる。

【１２８０】

この場合において、移動装置Ｋ４５６０よりも前側の層に配置される板状部から張り出す正面視での形状は、移動装置Ｋ４５６０の移動する方向（左右方向に対して傾斜する方向）に対して交差する方向（直交する方向または略上下に延びる方向）に長尺の突条形状でも良い。この場合、移動装置Ｋ４５６０と障害物との衝突により、移動装置Ｋ４５６０のスライド方向を、前後方向の成分を有する方向に変化させることができ、立体感のある演出を実行することができる。

【１２８１】

また、同様の障害物が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１から移動装置Ｋ４５６０側へ形成されても良い。この場合において、前方向に突設される障害物の正面視での配置と、後方向に突設される障害物の正面視での配置とは、重なるものでも良いし、ずれがあっても良い。重なる場合には移動装置Ｋ４５６０の前後位置のずれを修正し易くすることができ、ずれがある場合には移動装置Ｋ４５６０の前後変位を促進させることができる。

【１２８２】

図１０６（ａ）及び図１０６（ｂ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。図１０６（ａ）では、演出待機状態（図２６参照）における第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態における第２可動装置Ｋ７０１に相当）が実線で図示され、その第２可動装置Ｋ４７０１が上昇配置状態（図３０参照）とされた場合における外形の輪郭ＫＧ４７０１が想像線で図示され、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において演出待機状態における第２可動装置Ｋ４７０１の周囲の一部分を囲むように範囲表示される影状（又は、例えば、オーラ状、炎状、集中線状、放射線状）の第１下側演出表示ＫＥＲ４７１が図示される。

【１２８３】

また、図１０６（ｂ）では、上昇配置状態（図３０参照）における第２可動装置Ｋ４７０１が実線で図示され、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において上昇配置状態における第２可動装置Ｋ４７０１の周囲の一部分を囲むように範囲表示される影状（又は、例えば、オーラ状、炎状、集中線状、放射線状）の第２下側演出表示ＫＥＲ４７２が図示される。

【１２８４】

第１下側演出表示ＫＥＲ４７１及び第２演出表示ＫＲＥＲ４７２を利用する第４の演出制御例について説明する。第４の演出制御例では、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１及び第２演出表示ＫＲＥＲ４７２が、第２可動装置Ｋ４７０１の駆動の実行と対応して表示される。

【１２８５】

第１下側演出表示ＫＥＲ４７１及び第２演出表示ＫＲＥＲ４７２の表示のタイミングと、第２可動装置Ｋ４７０１の駆動実行のタイミングとは、同時でも、ずれがあって良い。例えば、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１及び第２演出表示ＫＲＥＲ４７２の表示のタイミングの方が早い場合、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１及び第２演出表示ＫＲＥＲ４７２を表示させ、遊技者に視認させることにより、遊技者に対して、第２可動装置Ｋ４７０１が動作されるかもしれないという期待感を持たせることができる。

【１２８６】

また、第４の演出制御例では、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１及び第２演出表示ＫＲＥ

Ｒ４７２の表示が、第２可動装置Ｋ４７０１の動作に連動して切り替えられる。即ち、第２可動装置Ｋ４７０１が演出待機状態の場合には第１下側演出表示ＫＥＲ４７１が表示される（図１０６（ａ）参照）一方、第２可動装置Ｋ４７０１が上昇配置状態に変化されるのに合わせて第２下側演出表示ＫＥＲ４７２が表示される（図１０６（ｂ）参照）。

【１２８７】

これにより、第２可動装置Ｋ４７０１が動作される場合に、遊技者に視認される動作対象を、第２可動装置Ｋ４７０１の実際の大きさよりも大きく見せることができる。これにより、動作演出の迫力を増加させることができる。

【１２８８】

第２可動装置Ｋ４７０１の動作中における外形に対応した形状の中間表示を、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１と第２下側演出表示ＫＥＲ４７２との間の位置で表示可能に構成する場合、演出待機状態から上昇配置状態へ向けた第２可動装置Ｋ４７０１の移動に合わせて第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域で表示する対象を、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１から、中間表示、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２の順に変化させることで、第２可動装置Ｋ４７０１の近傍における表示を、第２可動装置Ｋ４７０１と共に移動しているように視認させることができる。

【１２８９】

また、同様に、上昇配置状態から演出待機状態へ向けた第２可動装置Ｋ４７０１の移動に合わせて第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域で表示する対象を、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２から、中間表示、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１の順に変化させることで、第２可動装置Ｋ４７０１の近傍における表示を、第２可動装置Ｋ４７０１と共に移動しているように視認させることができる。

【１２９０】

なお、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１が表示される層と、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２が表示される層とは、同じでも良いし、前後で異なるようにしても良い。例えば、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１が表示される層よりも前側の層に第２下側演出表示ＫＥＲ４７２が表示されるように構成する場合には、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１を表示しながら第２下側演出表示ＫＥＲ４７２を表示したとしても、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２に第１下側演出表示ＫＥＲ４７１が隠されるように視認されることから（図１０６（ｂ）参照）、表示が重なることで見映えが悪くなるという事態が生じない。これにより、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２を第１下側演出表示ＫＥＲ４７１との切り替えの制御を簡素化することができる。

【１２９１】

なお、第４の演出制御例では、第２可動装置Ｋ４７０１の動作タイミングに合わせて第１下側演出表示ＫＥＲ４７１と第２下側演出表示ＫＥＲ４７２とが切り替えられる場合を説明したが、演出制御は必ずしもこれに限られるものではなく、種々の態様が例示される。

【１２９２】

例えば、第２可動装置Ｋ４７０１が演出待機状態で維持されている状態において、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２の表示が開始される状況を構成可能としても良い。この場合、遊技者に対して、第２可動装置Ｋ４７０１が上昇配置状態へ向けた動作を開始するかもしれないという期待感を遊技者に持たせることができ、第２可動装置Ｋ４７０１に対する注目力を向上させることができる。

【１２９３】

この場合において、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２の表示の透明度にバリエーションを持たせ、透明度が低い（実体に近い）程、第２可動装置Ｋ４７０１が上昇配置状態へ向けた動作を開始する可能性が高いように構成することで、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２に対する注目力をも向上させることができる。

【１２９４】

また、例えば、第２可動装置Ｋ４７０１が上昇配置状態から演出待機状態に変化した後

において、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２が消えずに維持される状況を構成可能としても良い。この場合、第２可動装置Ｋ４７０１が上昇配置状態に位置されている状態では部材同士が干渉するために実行不能とされている第１可動装置Ｋ４４０１の水平落下動作パターン（図２７及び図８９参照）を、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２を維持することであたかも第２可動装置Ｋ４７０１が上昇配置状態に残っているかのように見せながら実行することができる。

【１２９５】

これにより、動作役物同士では動作軌跡の干渉が生じることで実現不可能な動作態様を、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示を利用して疑似的に実現させることができるので、演出の迫力を向上させることができる。

【１２９６】

なお、第４の演出制御例では、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１及び第２下側演出表示ＫＥＲ４７２の輪郭を、第２可動装置Ｋ４７０１の外形に対応した形状として形成したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２可動装置Ｋ４７０１を含む範囲として、第３図柄表示装置Ｋ８１の枠の内周に沿って帯状に延びる輪郭の表示として形成しても良い。

【１２９７】

この場合において、表示が第２可動装置Ｋ４７０１を起点として左右両側へ向けて第３図柄表示装置Ｋ８１の枠に沿って延びるように移動し、合流した後で枠状（環状）に形成されても良い。また、表示が枠状（環状）に形成されている状態で、第２可動装置Ｋ４７０１の変化（動作や発光等）に合わせて、追加の表示が枠状（環状）の表示に重なり延びるように形成されたり、枠状（環状）の表示の幅が変化するように制御されたり、枠状（環状）の表示の色や明るさが変化するように制御されても良い。

【１２９８】

この場合、第２可動装置Ｋ４７０１の変化の影響を、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の全周に生じさせることができるので、遊技者が第２可動装置Ｋ４７０１を視認しておらず第２可動装置Ｋ４７０１の変化に気づかないという事態を回避し易くすることができる。

【１２９９】

図１０７（ａ）から図１０７（ｃ）、図１０８（ａ）及び図１０８（ｂ）は、パチンコ機Ｋ４０１０の模式正面図である。図１０７（ａ）では、下降配置状態（図２７参照）における第２可動装置Ｋ４７０１が実線で図示され、第１可動装置Ｋ４４０１は演出待機状態に位置されており、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において第１下側演出表示ＫＥＲ４７１と、演出待機状態における移動装置Ｋ４５６０の周囲の一部分を囲むように範囲表示される影状（又は、例えば、オーラ状、炎状、集中線状、放射線状）の第１上側演出表示ＫＥＲ４５１が図示される。

【１３００】

更に、図１０７（ａ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の中央において、制限時間を示すバーとボタン部材Ｈ１８１とを模式的に表示して、ボタン部材Ｈ１８１（図１１参照）の操作を促す演出表示が実行される。

【１３０１】

第１下側演出表示ＫＥＲ４７１及び第１上側演出表示ＫＥＲ４５１を利用する第５の演出制御例について説明する。第５の演出制御例では、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１及び第１上側演出表示ＫＥＲ４５１が、後に動作が実行される可能性がある可動部材を示唆する位置に表示される。即ち、第１上側演出表示ＫＥＲ４５１は、第１可動装置Ｋ４４０１の動作可能性を示唆する表示として表示され、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１は、第２可動装置Ｋ４７０１の動作可能性を示唆する表示として表示される。

【１３０２】

第１可動装置Ｋ４４０１又は第２可動装置Ｋ４７０１の動作は、遊技者がボタン部材Ｈ１８１（図１１参照）を操作することに応じて実行される。そのため、遊技者に対して、

第１可動装置Ｋ４４０１又は第２可動装置Ｋ４７０１が動作することを願いながらボタン部材Ｈ１８１を操作させるように促すことができるので、ボタン部材Ｈ１８１の操作タイミングにおける遊技者の注目を、第１可動装置Ｋ４４０１又は第２可動装置Ｋ４７０１が移動して来得る位置（例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の内方位置）に集めることができる。

【１３０３】

なお、遊技者がボタン部材Ｈ１８１（図１１参照）の操作を実行しなかった場合における制御態様は種々の態様が例示される。例えば、操作待ち期間の終了後に第１可動装置Ｋ４４０１又は第２可動装置Ｋ４７０１の動作が実行されるようにしても良いし、予め遊技者が操作を実行しないという意思表示をしている場合（自動操作を有効としている場合）等において、操作待ち期間の途中で第１可動装置Ｋ４４０１又は第２可動装置Ｋ４７０１の動作が実行されるようにしても良いし、ボタン部材Ｈ１８１の操作が実行されなかった場合には第１可動装置Ｋ４４０１又は第２可動装置Ｋ４７０１の動作が実行されないようにしても良い。

【１３０４】

図１０７（ｂ）では、第５の演出制御例における第１操作後報知態様が図示される。第１操作後報知態様では、図１０７（ａ）で図示される状態を経て、第１可動装置Ｋ４４０１が代表途中停止位置（図９０（ｃ）参照）よりも上方の位置まで変位され、第１上側演出表示ＫＥＲ４５１が消され、第２可動装置Ｋ４７０１が上昇配置状態に変化され、第２下側演出表示ＫＥＲ４７２が表示される。

【１３０５】

これにより、第２可動装置Ｋ４７０１に形成される「Ｍ」の模様が遊技者に注目されることになる。「Ｍ」は、例えば「ＭＡＸ」の頭文字と意味づけることができ、入賞ユニットＫ２００の「Ｅ」と合わせて「ＭＡＸ－Ｅｎｅｒｇｙ」と読めることから大きな利益を得られる可能性を遊技者に示唆できる。

【１３０６】

一方、図１０７（ｃ）では、第５の演出制御例における第２操作後報知態様が図示される。第２操作後報知態様では、図１０７（ａ）で図示される状態を経て、第２可動装置Ｋ４７０１は演出待機状態における位置まで変位され、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１が消され、第１可動装置Ｋ４４０１が代表途中停止位置（図９０（ｃ）参照）に変化され、代表途中停止位置における移動装置Ｋ４５６０の周囲の一部分を囲むように範囲表示される影状（又は、例えば、オーラ状、炎状、集中線状、放射線状）の第２上側演出表示ＫＥＲ４５２が表示される。

【１３０７】

これにより、移動装置Ｋ４５６０の表示装置Ｋ４５８０に表示される「Ｐ」の表示が遊技者に注目されることになる。「Ｐ」は、例えば「Ｐｅｔｉｔ」の頭文字と意味づけることができ、入賞ユニットＫ２００の「Ｅ」と合わせて「Ｐｅｔｉｔ－Ｅｎｅｒｇｙ」と読めることから小さな利益を得られる可能性を遊技者に示唆できる。

【１３０８】

第５の演出制御例による演出が、第１操作後報知態様へ進むか、第２操作後報知態様へ進むかによって、遊技者が得られる利益に差を設けるように制御することで、第１可動装置Ｋ４４０１又は第２可動装置Ｋ４７０１が移動して来得る位置（例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の内方位置）に対する遊技者の注目力をより向上させることができ、ボタン部材Ｈ１８１（図１１参照）の操作に対する操作意欲を上昇させることができる。

【１３０９】

図１０８（ａ）では、第５の演出制御例における第３操作後報知態様が図示される。第３操作後報知態様では、図１０７（ａ）で図示される状態を経て、第１可動装置Ｋ４４０１（上記各実施形態の第１可動装置Ｋ４０１に相当）が落下位置状態（図２７参照）に変化され、第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態の第２可動装置Ｋ７０１に相当）が下

降配置状態（図２７参照）で維持され、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１（上記各実施形態の板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１に相当）が閉塞状態に変化される。

【１３１０】

この場合、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の正面側で「ＳＰＭＥ」と視認させ、「ＳＰｅｃｉａｌ－ＭＡＸ－Ｅｎｅｒｇｙ」と読めることから多大に大きな利益を得られる可能性を遊技者に示唆できる。

【１３１１】

第５の演出制御例において、第２可動装置Ｋ４７０１が下降配置状態で維持されるのは第３操作後報知態様のみに設定されている。これに対応して、例えば、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１（図１０６（ａ）参照）で表示される影状（又は、例えば、オーラ状、炎状、集中線状、放射線状）の表示の変動方向が通常は上方向（立ち昇る方向）であるところ、第３操作後報知態様が予定されている状況においては表示の変動方向が下方向になる場合がある（例えば、２回に１回は下方向になる）ように設定することで、第１下側演出表示ＫＥＲ４７１を視認した遊技者に対して、ボタン部材Ｈ１８１（図１１参照）の操作前から、第３操作後報知態様の演出動作が実行される可能性があるという期待感を持たせることができる。

【１３１２】

図１０８（ｂ）では、第５の演出制御例における第４操作後報知態様が図示される。第４操作後報知態様では、図１０７（ａ）で図示される状態を経て、第１可動装置Ｋ４４０１（上記各実施形態の第１可動装置Ｋ４０１に相当）が代表途中停止位置（図９０（ｃ）参照）よりも上方の位置まで変位され、第２可動装置Ｋ４７０１（上記各実施形態の第２可動装置Ｋ７０１に相当）が突破上昇動作パターンの動作終端状態（図９８参照）に変化され、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１（上記各実施形態の板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１に相当）が連動切替状態（図６８参照）に変化され、第３図柄表示装置Ｋ８１ではガラス板が割れたような表示がされる。

【１３１３】

このような表示を行うことで、遊技者に対して、抽選の外れを報知すると共に、あたかも第３図柄表示装置Ｋ８１の周囲の可動役物の動作による衝撃で第３図柄表示装置Ｋ８１の表示面Ｋ８１ｓ（図１０３参照）が割れたかのように視認させることで、遊技者を驚かせ、遊技者の集中力を高めることができる。

【１３１４】

第５の演出制御例による演出が、第１操作後報知態様へ進むか、第２操作後報知態様へ進むか、第３操作後報知態様へ進むか、第４操作後報知態様へ進むかによって、遊技者が得られる利益に差を設けるように制御することで、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の内方位置に対する遊技者の注目力をより向上させることができ、ボタン部材Ｈ１８１（図１１参照）の操作に対する操作意欲を上昇させることができる。

【１３１５】

なお、第３図柄表示装置Ｋ８１の周囲の可動役物の動作と第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における表示とを関連させる表示態様は、上述のものに限られるものでない。例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１にゴム状の部材が表示され、可動役物が第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の前方に張り出すと共に、あたかも可動役物によりゴム状の部材が曲げられる（押し縮められる）ように動画表示しても良い。これにより、可動役物と表示とを一連で視認させることができる。

【１３１６】

また、例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１に回転するルーレットが表示され、可動役物が第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の前方に張り出すことに合わせてルーレットが停止されるように動画表示しても良い。これにより、あたかも可動役物から表示領域におけるルーレットに荷重がかけられたような状況を表現することができ、遊技者に対して可動役物と表示とを一連で視認させることができる。

【１３１７】

また、例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が閉塞状態における配置から演出待機状態における配置へ向けて移動される際に、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において板状部Ｋ４８１１の内側端部に左右内側から掌を当てる人間の手が表示され、板状部Ｋ４８１１の移動速度と同じ移動速度で同方向に移動されるように動画表示しても良い。これにより、あたかも表示領域における表示から可動役物（板状部Ｋ４８１１）に荷重がかけられたような状況を表現することができ、遊技者に対して可動役物と表示とを一連で視認させることができる。

【１３１８】

なお、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の背面側に配置され、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１側へ光を照射するのは、第３図柄表示装置Ｋ８１に限定されるものではない。例えば、電飾基板が配置されＬＥＤ光が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１側へ照射されるものでも良い。また、電飾基板が移動不能に固定されているものでも良いし、移動可能（例えば、可動役物に配置されることで移動可能）に構成されているものでも良い。また、パトランプや警告灯のように、ランプ状の発光手段から板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１側へ光が照射されるように構成しても良い。

【１３１９】

また、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１は、センターフレームＫ８６内に配置される場合に限られるものではない。例えば、遊技盤Ｋ１３（図８８参照）のベース板Ｋ６０の（開口部の）前側に配置され、その開口部を開閉するように構成しても良いし、ベース板Ｋ６０の背面側で開閉することで遊技領域の背景を変更可能に構成しても良い。いずれの場合でも、開閉される領域の視認態様を変更することで演出効果の向上を図ることができる。

【１３２０】

図１０９から図１１６を参照して、第６実施形態について説明する。上記各実施形態では、遊技球が流下する遊技領域がセンターフレーム８６の外方に形成される場合を説明したが、第６実施形態では、正面視でセンターフレームＫ５０８６の内側の位置においても遊技球が流下可能に構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１３２１】

図１０９及び図１１０は、第６実施形態におけるパチンコ機Ｋ５０１０の正面図である。図１０９では、長尺装置Ｋ５５４０（上記各実施形態における長尺装置Ｋ５４０に相当）が右第１傾斜姿勢（図３２参照）とされた状態が図示され、図１１０では、長尺装置Ｋ５５４０が右第２傾斜姿勢（図８３参照）とされた状態が図示される。

【１３２２】

長尺装置Ｋ５５４０は、上述した長尺装置Ｋ５４０に内方されていた電飾基板Ｋ５５２（図４０参照）が取り除かれ、各構成部材が光透過性の樹脂材料から形成されており、移動装置Ｋ４５６０がスライド移動可能に配設される。

【１３２３】

この場合、長尺装置Ｋ５５４０がセンターフレームＫ５０８６の正面視内方に登場した場合（図１０９及び図１１０参照）に、移動装置Ｋ４５６０の配置位置を通して後方の第３図柄表示装置Ｋ８１が視認されることは無い（視線が遮断される）が、長尺装置Ｋ５５４０の配置位置では長尺装置Ｋ５５４０が透けることにより、第３図柄表示装置Ｋ８１による表示が視認される。

【１３２４】

これにより、遊技者に対して、移動装置Ｋ４５６０が浮いているように視認させることができ、移動装置Ｋ４５６０の四方八方において第３図柄表示装置Ｋ８１からの報知態様（光や、表示）を視認させることができるので、移動装置Ｋ４５６０及び第３図柄表示装置Ｋ８１による視認態様のバリエーションを増加させることができる。

【１３２５】

センターフレームＫ５０８６は、演出待機状態における移動装置Ｋ４５６０の配置位置

（左右中央位置、図５２参照）よりも左側において遊技球が流下可能に形成される左側流路Ｋ５０８６Ｌと、演出待機状態における移動装置Ｋ４５６０の配置位置よりも右側において遊技球が流下可能に形成される右側流路Ｋ５０８６Ｒと、を備える。

【１３２６】

左側流路Ｋ５０８６Ｌは、少なくとも後側面が光透過性の樹脂材料から形成される流路構造であって、センターフレームＫ５０８６の内方位置に遊技球を受け入れる第１流路Ｋ５０８６ａと、その第１流路Ｋ５０８６ａの下流側端部の分岐位置から遊技球を左側へ案内する第２流路Ｋ５０８６ｂと、その第２流路Ｋ５０８６ｂにおける遊技球の流下を検出可能な左側検出センサＫ５０８６ｃと、第１流路Ｋ５０８６ａの下流側端部の分岐位置から遊技球を右側へ案内する第３流路Ｋ５０８６ｄと、その第３流路Ｋ５０８６ｄにおける遊技球の流下を検出可能な右側検出センサＫ５０８６ｅと、を備える。

【１３２７】

左側流路Ｋ５０８６Ｌを流下した遊技球の内、第２流路Ｋ５０８６ｂを流下した遊技球は、遊技領域の左右方向中央位置よりも左側においてベース板Ｋ５０６０（上記各実施形態におけるベース板Ｋ６０に相当、図１２参照）の前方に排出され、一般入賞口Ｋ６３又はアウト口Ｋ７１（図１２参照）を通して遊技領域から排出される。

【１３２８】

左側流路Ｋ５０８６Ｌを流下した遊技球の内、第３流路Ｋ５０８６ｄを流下した遊技球は、遊技領域の左右方向中央位置に位置する第１入賞口Ｋ６４（図１２参照）の上方においてベース板Ｋ５０６０（上記各実施形態におけるベース板Ｋ６０に相当、図１２参照）の前方に排出される。第３流路Ｋ５０８６ｄの排出孔は、遊技球の排出位置を左右でばらつかせることができる程度に横長に形成されており、第３流路Ｋ５０８６ｄから排出された遊技球は、第１入賞口Ｋ６４に入球するか、又は第１入賞口Ｋ６４の左右側を逸れて流下しアウト口Ｋ７１（図１２参照）を通して遊技領域から排出される。

【１３２９】

右側流路Ｋ５０８６Ｒは、少なくとも後側面が光透過性の樹脂材料から形成される流路構造であって、センターフレームＫ５０８６の内方位置に遊技球を受け入れる受入流路Ｋ５０８６ｊと、その受入流路Ｋ５０８６ｊにおける遊技球の流下を検出可能な検出センサＫ５０８６ｋと、受入流路Ｋ５０８６ｊの下流側端部の分岐位置から左側へ流れた遊技球を左側流路Ｋ５０８６Ｌの第３流路Ｋ５０８６ｄに案内可能となるように第３流路Ｋ５０８６ｄに連結される連結流路Ｋ５０８６ｌと、受入流路Ｋ５０８６ｊの下流側端部の分岐位置から右側へ流れた遊技球をスルーゲートＫ６７（図１２参照）の上流側において遊技領域に排出する右排出流路Ｋ５０８６ｍと、を備える。

【１３３０】

右側流路Ｋ５０８６Ｒを流下した遊技球の内、連結流路Ｋ５０８６ｌを流下した遊技球は、上述の左側流路Ｋ５０８６Ｌの第３流路Ｋ５０８６ｄを流下した遊技球と同様に、第１入賞口Ｋ６４に入球するか、又は第１入賞口Ｋ６４の左右側を逸れて流下しアウト口Ｋ７１（図１２参照）を通して遊技領域から排出される。

【１３３１】

右側流路Ｋ５０８６Ｒを流下した遊技球の内、右排出流路Ｋ５０８６ｍを流下した遊技球は、上述した「右打ち」で発射された遊技球と同様に、第３図柄表示装置Ｋ８１よりも右側を流下し、第１特定入賞口Ｋ６５ａ、第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図１２参照）に入球する可能性がある。また、第１特定入賞口Ｋ６５ａ、第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａのいずれの入賞口にも入球しなかった場合には、アウト口Ｋ７１（図１２参照）を通して遊技領域から排出され得る。

【１３３２】

左側流路Ｋ５０８６Ｌ及び右側流路Ｋ５０８６Ｒは、遊技球が入球しさえすれば内部の振分け次第で第１入賞口Ｋ６４へ遊技球が入球する可能性があるので、第３図柄表示装置Ｋ８１の左側において遊技球を流下させる「左打ち」と同じ目的の別の球発射方法として、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒへ入球させる球発射方法をするように

遊技者に促すことができる。
【１３３３】
本実施形態では、左側流路Ｋ５０８６Ｌや右側流路Ｋ５０８６Ｒの上流側端部に一定間隔で前後方向にスライド動作し左側流路Ｋ５０８６Ｌ及び右側流路Ｋ５０８６Ｒを開閉する開閉弁Ｋ５０８６Ｖが配設される。即ち、開閉弁Ｋ５０８６Ｖが開放状態の時に遊技球を左側流路Ｋ５０８６Ｌや右側流路Ｋ５０８６Ｒに入球させることができる一方、開閉弁Ｋ５０８６Ｖが閉鎖状態の時には遊技球を左側流路Ｋ５０８６Ｌや右側流路Ｋ５０８６Ｒに入球させるができないように構成される。
【１３３４】
開閉弁Ｋ５０８６Ｖの開閉動作のパターンは、電源投入から一定動作であればよく、種々の態様が例示される。例えば、閉鎖状態を１０秒維持した後で０．５秒だけ開放状態となり再び閉鎖状態を維持することの繰り返しの動作パターンでも良い。
【１３３５】
また、閉鎖状態の時間間隔が同一である必要は無く、１０秒閉鎖され開閉弁Ｋ５０８６Ｖが開放された直後の閉鎖状態は２０秒間維持され、そこから開閉弁Ｋ５０８６Ｖが開放された直後の閉鎖状態は３０秒間維持され、そこから開閉弁Ｋ５０８６Ｖが開放された直後の閉鎖状態は１０秒間維持されるという繰り返しの動作パターンでも良い。
【１３３６】
また、開放状態で維持される時間間隔が毎回０．５秒であっても良いし、０．５秒の場合と１．０秒の場合とが交互に生じるようにしても良いし、一定のパターンに準じて開放状態で維持される時間間隔が変化されるようにしても良い。
【１３３７】
なお、左側流路Ｋ５０８６Ｌや右側流路Ｋ５０８６Ｒの上流側の構成はこれに限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、左側流路Ｋ５０８６Ｌや右側流路Ｋ５０８６Ｒの上流側における遊技領域において、不図示の複数本の釘により、左側流路Ｋ５０８６Ｌや右側流路Ｋ５０８６Ｒ側に案内される遊技球の個数が過多とならないように調整されるようにしても良い。
【１３３８】
遊技者としては、「左打ち」で球を発射した方が第１入賞口Ｋ６４に球を入球させ易いのか（発射球数に対する入球の割合が高いのか）、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒを狙って球を発射した方が第１入賞口Ｋ６４に球を入球させ易いのか、を確認しながら球発射方法を変えることができる。これにより、遊技者の遊技態様のバリエーションを増加させることができ、好みの球発射方法を選択させることが可能となる。
【１３３９】
ここで、「左打ち」を推奨される遊技状態においては、遊技者は第１入賞口Ｋ６４に入球させ大当たりを獲得することを目的としているので、遊技球が左側流路Ｋ５０８６Ｌや右側流路Ｋ５０８６Ｒに入球することで生じる不利益は無い場合が多い。
【１３４０】
一方、「右打ち」を推奨される遊技状態（時短中や、確変中等）では、第２入賞口Ｋ６４０へ入球させ、抽選においてより有利な振分を獲得して、有利な状態を継続させる（連荘させる）ことが可能であるところ、この状態において第１入賞口Ｋ６４へ入球した場合に不利な振分の大当たりを獲得する可能性があり、場合によっては有利な状態が途切れる危険性がある。即ち、「右打ち」を推奨させる遊技状態（時短中や、確変中等）では、左側流路Ｋ５０８６Ｌや右側流路Ｋ５０８６Ｒに遊技球を入球させることで遊技者に不利益が生じる可能性がある。
【１３４１】
そのため、遊技者に対して、「右打ち」を推奨させる遊技状態（時短中や、確変中等）における球の発射強度を、最強に維持して、球が左側流路Ｋ５０８６Ｌや右側流路Ｋ５０８６Ｒに入球することを防止させるように仕向けることができる。
【１３４２】

これにより、「右打ち」を推奨させる遊技状態（時短中や、確変中等）における球の発射強度が遊技者によって変化するという事態を回避し易くすることができ、遊技領域の球の流下として想定される流下態様での遊技を実現させ易くすることができる。

【１３４３】

例えば、スルーゲートＫ６７の上流側の釘（不図示）の配置が、最強の発射強度で球を発射した場合にスルーゲートＫ６７に球が案内され易いよう設計されているにも関わらず、遊技者が８０％程度の発射強度で発射を継続していることによりスルーゲートＫ６７にあまり球が案内されないという事態が生じ、遊技者に不満を持たせてしまうことを回避し易くすることができる。

【１３４４】

本実施形態では、遊技球が左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒを流下することに基づいて、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作可能に構成されるところ、球の流下態様が同じでも、回転装飾部材Ｋ４５７８に対する遊技球の流下位置が異なれば回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作の態様が異なるように構成される。

【１３４５】

例えば、図１０９に図示されるように、長尺装置Ｋ５５４０が右第１傾斜姿勢（図３２参照）とされ、移動装置Ｋ４５６０が移動可能範囲の右端に配置されている場合には、左側検出センサＫ５０８６ｃで遊技球の通過が検出されることに基づいては回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は生じず、右側検出センサＫ５０８６ｅで遊技球の通過が検出されることに基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８が反時計回りに回転動作され、検出センサＫ５０８６ｋで遊技球の通過が検出されることに基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りに回転動作される。

【１３４６】

即ち、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒを流下する遊技球が、回転装飾部材Ｋ４５７８から十分に離れている場合（回転装飾部材Ｋ４５７８の外形の外方で視認される場合）には、遊技球の流下に基づく回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は生じない。一方で、回転装飾部材Ｋ４５７８に近い位置を流下する場合（回転装飾部材Ｋ４５７８の外形の内方で視認される場合）には、遊技球の流下に基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作され、その回転動作の方向は回転装飾部材Ｋ４５７８の回転軸に対して遊技球が流下する方向に対応する回転方向とされる。

【１３４７】

これにより、遊技者は、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒの全体（広範囲）を注視せずとも、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様を視認することにより、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒにおける遊技球の流下の有無や、遊技球の流下位置を把握することができる。

【１３４８】

例えば、図１１０に図示されるように、長尺装置Ｋ５５４０が右第２傾斜姿勢（図８３参照）とされ、移動装置Ｋ４５６０が移動可能範囲の右端に配置されている場合には、左側検出センサＫ５０８６ｃで遊技球の通過が検出されることに基づいては回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は生じず、右側検出センサＫ５０８６ｅで遊技球の通過が検出されることに基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りに回転動作され、検出センサＫ５０８６ｋで遊技球の通過が検出されることに基づいては回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は生じない。

【１３４９】

即ち、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒを流下する遊技球が、回転装飾部材Ｋ４５７８から十分に離れている場合（回転装飾部材Ｋ４５７８の外形の外方で視認される場合）には、遊技球の流下に基づく回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作は生じない。一方で、回転装飾部材Ｋ４５７８に近い位置を流下する場合（回転装飾部材Ｋ４５７８の外形の内方で視認される場合）には、遊技球の流下に基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作され、その回転動作の方向は回転装飾部材Ｋ４５７８の回転軸に対して遊技球

が流下する方向に対応する回転方向とされる。
【１３５０】
これにより、遊技者は、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒの全体（広範囲）を注視せずとも、回転装飾部材Ｋ４５７８の動作態様を視認することにより、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒにおける遊技球の流下の有無や、遊技球の流下位置を把握することができる。
【１３５１】
例えば、図１１０に図示される状態で「右打ち」遊技が実行される場合において、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が生じるのは遊技球が左側流路Ｋ５０８６Ｌに入球した場合のみとされるので、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作を視認した遊技者に対して、遊技球の発射強度が低下している可能性を示唆することができる。
【１３５２】
上述したように、同じ位置を流下する遊技球が検出センサＫ５０８６ｋに検出される場合であっても、検出センサＫ５０８６ｋによる検出に基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作されない場合（図１１０参照）と、検出センサＫ５０８６ｋによる検出に基づいて回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作される場合（図１０９参照）とを、構成することができる。
【１３５３】
換言すれば、回転装飾部材Ｋ４５７８に対する遊技球の位置が異なる場合に、遊技球の流下と回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作の態様との関係が変化されるということである。又は、流下する遊技球の後方に配置される長尺装置Ｋ５５４０の長手方向に対する遊技球の流下方向（傾斜）が異なる場合に遊技球の流下と回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作の態様との関係が変化されるということでもある。
【１３５４】
これにより、回転装飾部材Ｋ４５７８を漫然と視認するのではなく、回転装飾部材Ｋ４５７８の配置を意識しながら、回転装飾部材Ｋ４５７８を視認したり、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒを視認したりするように仕向けることができるので、遊技者の視線を一箇所に集中させるのではなく、複数箇所に動かすことができる。
【１３５５】
なお、検出センサＫ５０８６ｅ，Ｋ５０８６ｋで遊技球の通過が検出されることに基づく回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作の態様は、種々の態様が例示される。例えば、検出センサＫ５０８６ｅ，Ｋ５０８６ｋでの遊技球の通過が検出されることに基づいて、一定速度で回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作されても良いし、既に回転動作されている場合に追加で検出センサＫ５０８６ｅ，Ｋ５０８６ｋでの遊技球の通過が検出された場合に回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が増減（同一方向への回転動作であれば加速、相反する方向の回転動作であれば減速）されるようにしても良い。
【１３５６】
即ち、図１０９に図示される状態において検出センサＫ５０８６ｋで遊技球の通過が検出されたことに基づく回転装飾部材Ｋ４５７８の時計回り方向の回転動作が生じている場合に、検出センサＫ５０８６ｋで遊技球の通過が検出される場合には、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が増加され時計回り方向に回転動作される。
【１３５７】
一方、図１０９に図示される状態において検出センサＫ５０８６ｋで遊技球の通過が検出されたことに基づく回転装飾部材Ｋ４５７８の時計回り方向の回転動作が生じている場合に、右側検出センサＫ５０８６ｅで遊技球の通過が検出される場合には、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が相反するため、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が減速された後、反時計回り方向に回転動作される。
【１３５８】
図１１１は、遊技盤Ｋ５０１３の背面図であり、図１１２は、図１１１のＸ０５ｍ－Ｘ０５ｍ線における遊技盤Ｋ５０１３の部分断面図である。なお、図１１１では、ベース板

Ｋ５０６０の形状の把握を用意とするために、入賞ユニットＫ２００（図１４参照）等の構成部材や樋用前側部材Ｋ９１等の排出経路構成部材（図２４参照）等の図示が省略される。また、図１１２では、センターフレームＫ５０８６の図示が省略される。

【１３５９】

ベース板Ｋ５０６０では、上記各実施形態で上述したベース板Ｋ６０の形状を流用しながら、上記各実施形態で上述したベース板Ｋ２０６０の外形傾斜部Ｋ２０６０ｅ及び傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの形状を流用する。

【１３６０】

図１１１及び図１１２に図示されるように、遊技盤Ｋ５０１３では、ベース板Ｋ５０６０の後側面に板状の導光部材Ｋ５１５０が固定されており、その導光部材Ｋ５１５０が端部から光を受光した場合にその光を導光部材Ｋ５１５０の内方位置において正面側に屈折させることで遊技者に対して光による形状を視認可能に構成される。

【１３６１】

ベース板Ｋ５０６０の形成凹部Ｋ６０ａ，Ｋ６０ｂの内側には、光照射装置Ｋ５１００が配設される。即ち、光照射装置Ｋ５１００は、遊技領域を形成する領域の背面側におけるベース板Ｋ５０６０の厚み寸法内で収まるように第１形成凹部Ｋ６０ａ及び第２形成凹部Ｋ６０ｂに配設されている。

【１３６２】

光照射装置Ｋ５１００は、上述の光照射装置Ｋ２１００（図７４及び図７５参照）と同様に、ＬＥＤ等からなる複数の発光手段Ｋ２１１１が配設される電飾基板Ｋ２１１０と、その電飾基板Ｋ２１１０が締結固定される部材であり、光透過性の樹脂材料から形成されベース板Ｋ５０６０に締結固定される中間部材Ｋ２１２０と、を備え、更に、電飾基板Ｋ２１１０の背面側に配設され電飾基板Ｋ２１１０の背面に沿う方向に光を照射可能とされるＬＥＤ等からなる複数の第２発光手段Ｋ５１１２を備える。

【１３６３】

電飾基板Ｋ２１１０の正面視外形形状は、ベース板Ｋ５０６０の形成凹部Ｋ６０ａ，Ｋ６０ｂに収まるように形状が設計されており、遊技領域の外縁を構成する外形傾斜部Ｋ２０６０ｅに沿って複数の発光手段Ｋ２１１１が間隔を空けて配置されている。この発光手段Ｋ２１１１が電飾基板Ｋ２１１０の正面側に配設されており、電飾基板Ｋ２１１０を挟んで発光手段Ｋ２１１１の前後反対側（前後方向で対応する位置）に第２発光手段Ｋ５１１２が配設される。

【１３６４】

なお、便宜上、第２発光手段Ｋ５１１２と発光手段Ｋ２１１１とが前後方向で重なる位置に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。第２発光手段Ｋ５１１２の配置は、導光部材Ｋ５１５０により実現させる光演出の態様次第で変わり得る。

【１３６５】

導光部材Ｋ５１５０は、センターフレームＫ５０８６（図１０９参照）が配設されるベース板Ｋ５０６０の中央開口を覆うような大きさで形成されており、所々に光を屈折させるために切り欠き形成される光屈折部Ｋ５１５１を備える。

【１３６６】

第２発光手段Ｋ５１１２から照射される光は、導光部材Ｋ５１５０に端部から受光され得るように構成されており、全反射されながら導光部材Ｋ５１５０の内部を導光される。導光される光が光屈折部Ｋ５１５１で屈折されることで、光は導光部材Ｋ５１５０の正面側に進行方向を変えられることになり、遊技者の目に届く。

【１３６７】

即ち、第２発光手段Ｋ５１１２が点灯している状態において、光屈折部Ｋ５１５１が発光しているように遊技者に視認させることができる。そのため、第２発光手段Ｋ５１１２の配置は正面視で形成凹部Ｋ６０ａ，Ｋ６０ｂに収まる位置におさえながら、光屈折部Ｋ５１５１を広い範囲で形成することで大きな形状の光を遊技者に視認させることができる

。
【１３６８】
　また、第２発光手段Ｋ５１１２の並びは外形傾斜部Ｋ２０６０ｅに沿うライン状としながら、光屈折部Ｋ５１５１の形状の設計次第で、複雑な形状の光を遊技者に視認させることができる。
【１３６９】
　本実施形態では、光照射装置Ｋ５１００がベース板Ｋ５０６０の正面側に形成される遊技領域の後方領域の外方に配設されていることから、遊技領域後方の視認性が光照射装置Ｋ５１００により低下されたり、視線が遮断されたりすることを防止することができる。即ち、光照射装置Ｋ５１００の有無に関わらず、遊技者は、ベース板Ｋ５０６０を透視してベース板Ｋ５０６０の背面側の構造（例えば、動作ユニットＫ４３００（図８１参照））を視認し易くすることができる。
【１３７０】
　また、光照射装置Ｋ５１００がベース板Ｋ５０６０の正面側に形成される遊技領域の正面視内方に配設されている場合、電飾基板Ｋ２１１０を遊技者に直接視認させないようにするための目隠し部材（例えば、電飾基板Ｋ２１１０を囲うケース部材や、視認性を悪くするためにシボ加工を形成した板状部材）を配設するスペースが余分に必要となり、演出に利用できるスペースが制限される可能性があった。
【１３７１】
　これに対し、本実施形態では、光照射装置Ｋ５１００がベース板Ｋ５０６０の正面側に形成される遊技領域の後方領域の外方に配設されていることから、そもそも遊技者の目線が光照射装置Ｋ５１００自体に向けられる可能性が低く、敢えて新たに目隠し部材を配設する必要はない。これにより、演出に利用できるスペースを確保することができる。
【１３７２】
　ここで、光照射装置Ｋ５１００に代替される光照射部が正面視でセンターフレームＫ５０８６（図１０９参照）の内方に配置され、導光部材Ｋ５１５０も正面視でセンターフレームＫ５０８６の内方に配置されることで、光照射装置Ｋ５１００による視線の遮断作用が遊技領域と重なる位置で生じないようにする場合には、光屈折部Ｋ５１５１の配置がセンターフレームＫ５０８６の内方に制限されるため、例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１（図１０９参照）の表示領域がセンターフレームＫ５０８６よりも大きいと、光屈折部Ｋ５１５１の配置や形状が第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の全域には届かなくなり、演出効果が低下する可能性がある。
【１３７３】
　一方、本実施形態によれば、光照射装置Ｋ５１００がベース板Ｋ５０６０の正面側に形成される遊技領域の後方領域の外方に配設されていることから、導光部材Ｋ５１５０の大きさがセンターフレームＫ５０８６の大きさに制限されることが無い。そのため、第３図柄表示装置Ｋ８１（図１０９参照）の表示領域がセンターフレームＫ５０８６の大きさよりも大きい場合でも、光屈折部Ｋ５１５１の配置や形状を第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の全域に届かせることが可能となるので、演出効果を向上させることができる。
【１３７４】
　上述のように、本実施形態では、導光部材Ｋ５１５０がセンターフレームＫ５０８６の外方にまで広がっているので、光屈折部Ｋ５１５１の形成次第で、センターフレームＫ５０８６の外方において、第２発光手段Ｋ５１１２からの光を遊技者に視認させることができる。以下で、複数の態様を例示して説明する。
【１３７５】
　まず、第２発光手段Ｋ５１１２の組を分ける。即ち、図１１１に図示されているように、複数の第２発光手段Ｋ５１１２は、右側の光照射装置Ｋ５１００における第１範囲ＫＧ５１、第２範囲ＫＧ５２、第３範囲ＫＧ５３及び第４範囲ＫＧ５４と、左側の光照射装置Ｋ５１００における第５範囲ＫＧ５５、第６範囲ＫＧ５６及び第７範囲ＫＧ５７に分けられる。

【１３７６】
各範囲ＫＧ５１～ＫＧ５４からの光は左下方向へ、各範囲ＫＧ５５～ＫＧ５７からの光は右下方向へ、導光部材Ｋ５１５０に沿って直線方向で進行されるところ、導光部材Ｋ５１５０には、線状の切り欠き部Ｋ５１５５ａ～Ｋ５１５５ｄが形成されており、交差する光の進行を遮断する。
【１３７７】
第１切り欠き部Ｋ５１５５ａは、第２範囲ＫＧ５２から照射される光の進行範囲の左側において光の進行方向（直線方向）に沿って形成されており、その形成範囲は、第６範囲ＫＧ５６から照射される光の進行範囲に対応した長さ及び位置とされる。
【１３７８】
即ち、第１切り欠き部Ｋ５１５５ａにより、第２範囲ＫＧ５２から照射される光が第１切り欠き部Ｋ５１５５ａよりも左上側に漏れることが防止され、第６範囲ＫＧ５６から照射される光が第１切り欠き部Ｋ５１５５ａよりも右下側に通過することが防止される。
【１３７９】
第２切り欠き部Ｋ５１５５ｂは、第４範囲ＫＧ５４から照射される光の進行範囲の右側において光の進行方向（直線方向）に沿って形成されており、その形成範囲は、第４範囲ＫＧ５４側の端部から第７範囲ＫＧ５７から照射される光の進行範囲に到達する直前までとされる。
【１３８０】
即ち、第２切り欠き部Ｋ５１５５ｂにより、第３範囲ＫＧ５３から照射される光が第２切り欠き部Ｋ５１５５ｂよりも左上側に漏れることが防止され、第４範囲ＫＧ５４から照射される光が第２切り欠き部Ｋ５１５５ｂよりも右下側に漏れることが防止される一方、第７範囲ＫＧ５７から照射される光は遮断されることなく進行可能とされる。
【１３８１】
第３切り欠き部Ｋ５１５５ｃは、第７範囲ＫＧ５７から照射される光の進行範囲の右側において光の進行方向（直線方向）に沿って形成されており、その形成範囲は、第２切り欠き部Ｋ５１５５ｂにつながる端部から、第３範囲ＫＧ５３から照射される光の進行範囲に対応した長さ及び位置とされる。
【１３８２】
即ち、第３切り欠き部Ｋ５１５５ｃにより、第７範囲ＫＧ５７から照射される光が第３切り欠き部Ｋ５１５５ｃよりも右上側に漏れることが防止され、第３範囲ＫＧ５３から照射される光が第３切り欠き部Ｋ５１５５ｃよりも左下側に通過することが防止される。
【１３８３】
第４切り欠き部Ｋ５１５５ｄは、第７範囲ＫＧ５７から照射される光の進行範囲の左側において光の進行方向（直線方向）に沿って形成されており、その形成範囲は、第７範囲ＫＧ５７側の端部から第４範囲ＫＧ５４から照射される光の進行範囲に到達する直前までとされる。
【１３８４】
即ち、第４切り欠き部Ｋ５１５５ｄにより、第６範囲ＫＧ５６から照射される光が第４切り欠き部Ｋ５１５５ｄよりも右上側に漏れることが防止され、第７範囲ＫＧ５７から照射される光が第４切り欠き部Ｋ５１５５ｄよりも左下側に漏れることが防止される一方、第４範囲ＫＧ５４から照射される光は遮断されることなく進行可能とされる。
【１３８５】
導光部材Ｋ５１５０の光屈折部Ｋ５１５１は、第２発光手段Ｋ５１１２の配置に対応して異なる位置に異なる形状で形成される複数の屈折形状部Ｋ５１５１ａ～Ｋ５１５１ｆを備える。
【１３８６】
第１屈折形状部Ｋ５１５１ａは、第１範囲ＫＧ５１から照射される光の進行範囲に形成され、左斜め下方向へ向く矢印形状で凹設形成される。また、第１屈折形状部Ｋ５１５１ａは、前後方向視でセンターフレームＫ５０８６の内方かつ右側の範囲に形成される。

【１３８７】
第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂは、第２範囲ＫＧ５２から照射される光の進行範囲に形成され、第２範囲ＫＧ５２側端部近傍から左下方向に広がる放射線状で凹設形成される。また、第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂは、前後方向視でセンターフレームＫ５０８６（図１０９参照）の内外両側に亘って形成される横断部Ｋ５１５１ｂ１と、第７範囲ＫＧ５７から照射される光の進行範囲を挟んで横断部Ｋ５１５１ｂ１の反対側に横断部Ｋ５１５１ｂ１の延長線上に形成される延長部Ｋ５１５１ｂ２と、を備える。
【１３８８】
このように、第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂは、第７範囲ＫＧ５７から照射される光の進行範囲において凹設形成されていないので、第７範囲ＫＧ５７から光が照射された場合に第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂが光って見えることを防止し易くすることができる。
【１３８９】
第３屈折形状部Ｋ５１５１ｃは、第３範囲ＫＧ５３から照射される光の進行範囲に形成され、右斜め下方向へ向く矢印形状で凹設形成される。また、第３屈折形状部Ｋ５１５１ｃは、前後方向視でセンターフレームＫ５０８６（図１０９参照）の外方かつ右側の範囲に形成される。
【１３９０】
第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄは、第４範囲ＫＧ５４から照射される光の進行範囲に形成され、右斜め下側に頂点を有する三角形形状で凹設形成される。また、第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄは、前後方向視でセンターフレームＫ５０８６（図１０９参照）の内方かつ上側の範囲に形成される。
【１３９１】
第５屈折形状部Ｋ５１５１ｅは、第５範囲ＫＧ５５から照射される光の進行範囲に形成され、右斜め下方向へ向く矢印形状で凹設形成される。また、第５折形状部Ｋ５１５１ｅは、前後方向視でセンターフレームＫ５０８６（図１０９参照）の内方かつ左側の範囲に形成される。
【１３９２】
第６屈折形状部Ｋ５１５１ｆは、第６範囲ＫＧ５６から照射される光の進行範囲に形成され、左斜め下方向へ向く矢印形状で凹設形成される。また、第６屈折形状部Ｋ５１５１ｆは、前後方向視でセンターフレームＫ５０８６（図１０９参照）の外方かつ左側の範囲に形成される。
【１３９３】
第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇは、第７範囲ＫＧ５７から照射される光の進行範囲に形成され、左斜め下側に頂点を有する三角形形状で凹設形成される。また、第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇは、前後方向視でセンターフレームＫ５０８６（図１０９参照）の内方かつ上側の範囲に形成される。
【１３９４】
上述した導光部材Ｋ５１５０の形成態様により、光照射装置Ｋ５１００からの光の照射態様の違いに対応して、異なる形状の光を遊技者に視認させることができる。以下、光の形状の視認態様の一例について説明する。
【１３９５】
図１１３は、パチンコ機Ｋ５０１０の正面図である。図１１３では、長尺装置Ｋ５５４０（上記各実施形態における長尺装置Ｋ５４０に相当）が右第１傾斜姿勢（図３２参照）とされた状態が図示されると共に、第１の光演出態様が図示される。なお、図１１３では、理解を容易とするために左側流路Ｋ５０８６Ｌ及び右側流路Ｋ５０８６Ｒの図示を省略している。
【１３９６】
図１１３に図示される第１の光演出態様では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の左側において、右上方向を指す矢印形状の第６背面表示Ｋ８１ｆが表示される。更に、第２発光手段Ｋ５１１２（図１１１参照）の第１範囲ＫＧ５１と第２範囲ＫＧ５３とから光が

照射されることによって、導光部材Ｋ５１５０（図１１１参照）の第１屈折形状部Ｋ５１５１ａ及び第３屈折形状部Ｋ５１５１ｃの形状で光って視認される。

【１３９７】

更に、移動装置Ｋ４５６０の回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りに回転動作され、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に、右斜め下方向を向く矢印形状からなる第４前面表示Ｋ４５８０ｄが表示される。

【１３９８】

この場合、図１１３に図示されるように、各矢印形状によって、第６背面表示Ｋ８１ｆの下側終端を始点として、第３屈折形状部Ｋ５１５１ｃ、第４前面表示Ｋ４５８０ｄ、第１屈折形状部Ｋ５１５１ａの順で、時計回り方向に視線を誘導する作用を生じさせることができる。これにより、遊技者に対して、視線誘導の方向に沿って、遊技球を遊技領域の右側へ向けて発射するように促すことができる。

【１３９９】

このように、本実施形態によれば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域だけでなく、表示領域の前方に配置される移動装置Ｋ４５６０及び導光部材Ｋ５１５０の第１屈折形状部Ｋ５１５１ａや、表示領域の外方に形成される第３屈折形状部Ｋ５１５１ｃをも同時に発光させることにより、遊技者に対して一連の装飾として視認させることができる。

【１４００】

特に、第３屈折形状部Ｋ５１５１ｃは、遊技領域に重なる矢印形状を遊技者に視認させることができるので、正面視でセンターフレームＫ５０８６（図１０９参照）の内方に表示領域が収まる第３図柄表示装置Ｋ８１で矢印を表示する場合に比較して、遊技球を発射して狙うべき位置を、遊技者に正確に把握させることができる。

【１４０１】

図１１４は、パチンコ機Ｋ５０１０の正面図である。図１１４では、長尺装置Ｋ５５４０（上記各実施形態における長尺装置Ｋ５４０に相当）が上方に退避された状態（演出待機状態）が図示されると共に、第２の光演出態様が図示される。

【１４０２】

図１１４に図示される第２の光演出態様では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において第３背面表示Ｋ８１ｃが表示される。更に、第２発光手段Ｋ５１１２（図１１１参照）の第５範囲ＫＧ５５と第６範囲ＫＧ５６とから光が照射されることによって、導光部材Ｋ５１５０（図１１１参照）の第５屈折形状部Ｋ５１５１ｅ及び第６屈折形状部Ｋ５１５１ｆの形状で光って視認される。

【１４０３】

この場合、図１１４に図示されるように、各矢印形状によって、遊技領域の右側への球の発射を止めて、第３図柄表示装置Ｋ８１の左側を流下させるように遊技者の球発射強度を誘導する作用を生じさせることができる。これにより、遊技者に対して、遊技球を遊技領域の左側へ向けて発射するように促すことができる。

【１４０４】

このように、本実施形態によれば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域だけでなく、表示領域の前方に配置される導光部材Ｋ５１５０の第５屈折形状部Ｋ５１５１ｅや、表示領域の外方に形成される第６屈折形状部Ｋ５１５１ｆをも同時に発光させることにより、遊技者に対して一連の装飾として視認させることができる。

【１４０５】

特に、第６屈折形状部Ｋ５１５１ｆは、遊技領域に重なる矢印形状を遊技者に視認させることができるので、正面視でセンターフレームＫ５０８６（図１０９参照）の内方に表示領域が収まる第３図柄表示装置Ｋ８１で矢印を表示する場合に比較して、遊技球を発射して狙うべき位置を、遊技者に正確に把握させることができる。

【１４０６】

図１１５は、パチンコ機Ｋ５０１０の正面図である。図１１５では、長尺装置Ｋ５５４０（上記各実施形態における長尺装置Ｋ５４０に相当）が右第２傾斜姿勢（図１１０参照

）とされた状態が図示されると共に、第３の光演出態様が図示される。なお、図１１５では、理解を容易とするために左側流路Ｋ５０８６Ｌ及び右側流路Ｋ５０８６Ｒの図示を省略している。

【１４０７】

図１１５に図示される第３の光演出態様では、表示装置Ｋ４５８０の表示領域においてエクスクラメーションマークからなる第５前面表示Ｋ４５８０ｅが表示される。更に、第２発光手段Ｋ５１１２（図１１１参照）の第２範囲ＫＧ５２から光が照射されることによって、導光部材Ｋ５１５０（図１１１参照）の第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂの形状で光って視認される。更に、右上ランプＫ９４０が点灯制御される。

【１４０８】

この場合、図１１５に図示されるように、第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂが正面視でセンターフレームＫ５０８６を突き抜けて右上方向に延びるように視認されるため、第５前面表示Ｋ４５８０ｅに注目した遊技者の視線を、第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂにより形成されるラインにより右上方向に誘導することができ、右上ランプＫ９４０の点灯に気付かせることができる。

【１４０９】

このように、本実施形態によれば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域だけでなく、表示領域の前方に配置される移動装置Ｋ４５６０や、表示領域の内外に亘って形成される導光部材Ｋ５１５０の第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂをも同時に発光させることにより、遊技者に対して一連の装飾として視認させることができ、遊技者の視線を遊技領域の外方にまで誘導することができる。

【１４１０】

特に、第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂは、遊技領域に重なる位置においてもライン状の形状に沿った光を遊技者に視認させることができるので、正面視でセンターフレームＫ５０８６の内方に表示領域が収まる第３図柄表示装置Ｋ８１での表示を遊技者に視認させる場合に比較して、第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂによるラインが遊技領域で遮断されない分、遊技者の視線をガラスユニットＨ１６の外方に配設される右上ランプＫ９４０まで遊技者の視線を誘導させ易くすることができる。

【１４１１】

なお、表示装置Ｋ４５８０における表示の実行タイミングと、第２範囲ＫＧ５２からの光の照射タイミングとの関係は、種々の態様が例示される。例えば、同時にでも良いし、時間差があっても良い。

【１４１２】

例えば、表示装置Ｋ４５８０で第５前面表示Ｋ４５８０ｅを実行した後で第２範囲ＫＧ５２からの光照射を実行することで、遊技者の視線を、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に一端集めてから第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂに映すように演出することができる。これにより、表示装置Ｋ４５８０による表示と第２屈折形状部Ｋ５１５１ｂでの光の形状とが生じた後においては右上ランプＫ９４０を含めた一連の視認態様を形成する一方で、その形成過程において、遊技者の視線を右上ランプＫ９４０に効果的に誘導することができる。

【１４１３】

図１１６は、パチンコ機Ｋ５０１０の正面図である。図１１６では、長尺装置Ｋ５５４０（上記各実施形態における長尺装置Ｋ５４０に相当）が上方に退避された状態（演出待機状態）が図示されると共に、第４の光演出態様が図示される。

【１４１４】

図１１６に図示される第４の光演出態様では、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において「光ればオーブンだ」とのコメントからなる第７背面表示Ｋ８１ｇが表示される。更に、第２発光手段Ｋ５１１２（図１１１参照）の第４範囲ＫＧ５４と第７範囲ＫＧ５７とから光が照射されることによって、導光部材Ｋ５１５０（図１１１参照）の第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄ及び第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇの形状で光って視認される。

【１４１５】

第２発光手段Ｋ５１１２（図１１１参照）の第４範囲ＫＧ５４と第７範囲ＫＧ５７におけるＬＥＤは、開閉弁Ｋ５０８６Ｖ（図１０９参照）の開放時に点灯制御される。この場合、遊技者は、図１１６に図示されるように、第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄ及び第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇの形状の光を視認できれば、開閉弁Ｋ５０８６Ｖの状態変化を視認し難い場合であっても、左側流路Ｋ５０８６Ｌ又は右側流路Ｋ５０８６Ｒ（図１０９参照）に遊技球を入球させられるタイミングを把握することができる。これにより、遊技者に対して、第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄ及び第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇの光り方に注目して、球を発射させるという遊技態様を提供することができる。

【１４１６】

このように、本実施形態によれば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域だけでなく、表示領域の前方に配置され、且つ、表示領域の外方に形成される第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄ及び第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇを発光制御させることにより、遊技者に対してこれらを一連の装飾として視認させることができる。

【１４１７】

特に、第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄ及び第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇは、ベース板Ｋ５０６０の背面側に固定されているから（図１１２参照）、第３図柄表示装置Ｋ８１よりも、左側流路Ｋ５０８６Ｌ及び右側流路Ｋ５０８６Ｒ（図１０９参照）との距離が近い（前後方向でも近いし、前後方向と交差する方向でも近い）。

【１４１８】

そのため、遊技者に対して、第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄ及び第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇに注目させつつ、第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄ及び第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇが光ったら第４屈折形状部Ｋ５１５１ｄ及び第７屈折形状部Ｋ５１５１ｇめがけて球を発射させるように促すことができるので、注目箇所と発射球で狙う箇所とが異なる場合に比較して、遊技者に違和感を持たれにくくすることができる。

【１４１９】

図１１７から図１１８を参照して、第７実施形態について説明する。上記各実施形態では、第２入賞口Ｋ６４０や第２特定入賞口Ｋ６５０ａの正面側に配置される化粧カバーＫ２２０に大形意匠Ｋ２２１ａや小形意匠Ｋ２２１ｂが施される場合を説明したが、第７実施形態では、スルーゲートＫ６７から第１特定入賞口Ｋ６５ａまでの経路の正面側に装飾が施される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１４２０】

図１１７は、第７実施形態における遊技盤Ｋ５０１３の正面図である。図１１７に示すように、遊技盤Ｋ５０１３では、スルーゲートＫ６７の下流側において第１特定入賞口Ｋ６５ａへの流路を構成する第２入賞ユニットＫ５２７０が配設される。

【１４２１】

第２入賞ユニットＫ５２７０は、スルーゲートＫ６７よりも下流に流下した遊技球を、第１特定入賞口Ｋ６５ａ、又は、より下流の入賞ユニットＫ２００に振り分け可能に構成される。

【１４２２】

第２入賞ユニットＫ５２７０は、遊技球の流路を構成すると共にベース板Ｋ６０に固定される流路構成部材Ｋ５２７１と、その流路構成部材Ｋ５２７１の正面側に固定され流路構成部材Ｋ５２７０と共に流路の前側部を構成する化粧カバーＫ５２８０と、を備える。

【１４２３】

流路構成部材Ｋ５２７１及び化粧カバーＫ５２８０は、光透過性の樹脂材料から構成されており、背面側に配置される電飾基板Ｋ４０５（図３３参照）からの光照射により、流路構成部材Ｋ５２７１及び化粧カバーＫ５２８０が明るくされる光演出が実行される。

【１４２４】

図１１８（ａ）は、図１１７のＺ０６ａ部における遊技盤Ｋ５０１３の部分拡大正面図であり、図１１８（ｂ）は、図１１８（ａ）の部分拡大正面図である。図１１８（ｂ）で

は、各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４の非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃが図示される。

【１４２５】

図１１８（ａ）に図示されるように、流路構成部材Ｋ５２７１により構成される遊技球の流路の正面側において、化粧カバーＫ５２８０に記号（本実施形態では、「Ａ」、「Ｂ」等の記号）を視認させる模様が施されることにより、遊技球の流下に伴う演出性の向上を図っている。以下、詳述する。

【１４２６】

流路構成部材Ｋ５２７１は、スルーゲートＫ６７（図１１７参照）の下流に流下した遊技球を着地させるよう左右に亘って配置形成されると共に右方へ向けて下降傾斜する第１傾斜部Ｋ５２７２と、その第１傾斜部Ｋ５２７２の下流側端部に到達した遊技球を下方に流下させるよう鉛直方向に延びる鉛直構成部Ｋ５２７３と、その鉛直構成部Ｋ５２７３の下流側端部に到達した遊技球を着地させた後で左方へ流下させるように左方へ向けて下降傾斜する第２傾斜部Ｋ５２７４と、を備える。

【１４２７】

即ち、スルーゲートＫ６７の下流側には、流路構成部材Ｋ５２７１により、遊技球を右方に迂回させて流下させる迂回流路が形成されるので、遊技球が鉛直下方に落下される場合に比較して、化粧カバーＫ５２８０を通して遊技球が視認される期間が長くされると共に、遊技球が視認される範囲も広くなる。

【１４２８】

化粧カバーＫ５２８０は、光透過性の樹脂材料から形成されるシールが前側面に貼り付けられており、そのシールに印刷される模様として、「Ａ」との記号を形成する第１輪郭部Ｋ５２８１と、その第１輪郭部Ｋ５２８１の内側に形成される第１形成部Ｋ５２８２と、「Ｂ」との記号を形成する第２輪郭部Ｋ５２８３と、その第２輪郭部Ｋ５２８３の内側に形成される第２形成部Ｋ５２８４と、「！！」との記号を形成する第３輪郭部Ｋ５２８５と、その第３輪郭部Ｋ５２８５の内側に形成される第３形成部Ｋ５２８６と、を備え、「ＡＢ」、「Ａ！！」、「Ｂ！！」又は「ＡＢ！！」という一連の装飾を視認させることが可能となるように構成している。

【１４２９】

化粧カバーＫ５２８０側に流路構造の一部を設けることも可能だが、本実施形態では、化粧カバーＫ５２８０を単純な板部材として構成している。これにより、装飾を変更する（例えば、「ＡＢ」を「ＣＤ」に変更する。「ＡＢ」が数字の場合は、別の数字に変更する等）希望が生じた場合に、化粧カバーＫ５２８０を、別の装飾が形成される化粧カバーＫ５２８０と取り替えることで対処できるので、装飾の変更に伴う労力を低減させることができる。

【１４３０】

なお、一連で視認させたい記号の選択は、遊技者に委ねるようにしても良いが、例えば、特定の記号（の組）に光を照射し、他の記号には光を照射しないようにして、特定の記号を一連で視認させ易いように構成しても良い。この場合に、「Ａ」、「Ｂ」の全体ではなく、一部に光をあてることで、「Ａ」、「Ｂ」とは異なる記号を視認させることが可能に構成しても良いし、同時に「！！」に光をあてて、一連の装飾として視認させても良い。

【１４３１】

本実施形態では、第１輪郭部Ｋ５２８１、第２輪郭部Ｋ５２８３及び第３輪郭部Ｋ５２８５が黒色とされ、透過性が低く形成される一方、第１形成部Ｋ５２８２、第２形成部Ｋ５２８４及び第３形成部Ｋ５２８６は、黄色とされ、第１輪郭部Ｋ５２８１、第２輪郭部Ｋ５２８３及び第３輪郭部Ｋ５２８５に比較して光が透過し易いように形成される。

【１４３２】

第１輪郭部Ｋ５２８１及び第２輪郭部Ｋ５２８３の幅は、球の直径よりも短くされる。これにより、化粧カバーＫ５２８０の背面側を球が流下し、第１輪郭部Ｋ５２８１又は第

２輪郭部Ｋ５２８３の後方に球が位置する場合に、正面視で第１輪郭部Ｋ５２８１又は第２輪郭部Ｋ５２８３の内側に球が全て入り、球の視認性が極端に悪くなる事態が発生することを避けることができる。

【１４３３】

このように構成することで、例えば、第１輪郭部Ｋ５２８１と第２輪郭部Ｋ５２８３とが隣り合って配置されている場合に、第１輪郭部Ｋ５２８１と第２輪郭部Ｋ５２８３との間に若干でも隙間がありさえすれば、その後方の第１流下位置ＫＰＤ５１に球が位置したとしても、正面視で第１輪郭部Ｋ５２８１及び第２輪郭部Ｋ５２８３の内側に球が全て入り、球の視認性が極端に悪くなる事態が発生することを避けることができる。

【１４３４】

更に、本実施形態では、第１輪郭部Ｋ５２８１及び第２輪郭部Ｋ５２８３の幅が、球の半径よりも短くされている。これにより、例えば、第１輪郭部Ｋ５２８１との間に隙間を空けずに第２輪郭部Ｋ５２８３が配置された場合において、その後方の第２流下位置ＫＰＤ５２に球が位置したとしても、正面視で第１輪郭部Ｋ５２８１及び第２輪郭部Ｋ５２８３の内側に球が全て入り、球の視認性が極端に悪くなる事態が発生することを避けることができる。

【１４３５】

第３輪郭部Ｋ５２８５及び第３形成部Ｋ５２８６により構成される模様は、流路構成部材Ｋ５２７１により構成される流路とはずれた位置に配置される。そのため、第３輪郭部Ｋ５２８５及び第３形成部Ｋ５２８６により化粧カバーＫ５２８０を介した球が隠される事態は生じ得ないので、設計の自由度が高い。現に、本実施形態では、第３輪郭部Ｋ５２８５が、左右方向の寸法が球の直径よりも長くなるように構成されており、装飾性の向上が図られている。

【１４３６】

以上の構成から、図１１８（ａ）に図示されるように、第１輪郭部Ｋ５２８１、第１形成部Ｋ５２８２、第２輪郭部Ｋ５２８３及び第２形成部Ｋ５２８４の後方を球が流下可能に構成されていることから、無色透明の板を介して視認する場合に比較して、背面側の流路を球が通っているのか否かを分かり難くさせることができると共に、化粧カバーＫ５２８０のシールに印刷される模様を強調させて、化粧カバーＫ５２８０を目立たせることができる。

【１４３７】

また、化粧カバーＫ５２８０の背面側を実際に球が通ると、化粧カバーＫ５２８０を介して視認される球の透け具合として、透過され易い場合と、透過されにくい場合とが繰り返されることで、長期に亘る球の見え方の変化を生じさせることができ、演出性を向上させることができる。

【１４３８】

更に、化粧カバーＫ５２８０に球の影が映されることで、化粧カバーＫ５２８０の背面側を流下する球を遊技者が見失う事態の発生を回避し易くすることができる。この球の影と、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３や各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４とが重ねて視認されることにより、球が流下していない状況とは異なる模様を遊技者に視認させることができる。

【１４３９】

流路構成部材Ｋ５２７１により構成される流路が迂回する略コの字状の流路とされ、左右方向および上下方向に球が流下する各位置において、第１輪郭部Ｋ５２８１や第２輪郭部Ｋ５２８３と球とが交差される。即ち、一球の遊技球が流下する場合であっても、透過され易い場合と、透過されにくい場合との変化を複数回生じさせることができるので、球が複数個流下して初めて球の見え方の変化が繰り返し生じる場合に比較して、演出性の向上をより容易に図ることができる。

【１４４０】

背面側に配置される電飾基板Ｋ４０５（図３３参照）から白色光が照射される場合、流

路構成部材Ｋ５２７１及び化粧カバーＫ５２８０が明るくされる。一方で、球が流路構成部材Ｋ５２７１により形成される流路を流下している場合には、球の影が化粧カバーＫ５２８０に映されることで、化粧カバーＫ５２８０に形成される模様の見え方が変化する。

【１４４１】

まず、球が流下していない時には、第１輪郭部Ｋ５２８１及び第２輪郭部Ｋ５２８３と、第１形成部Ｋ５２８２及び第２形成部Ｋ５２８４との色の差が大きいため、「ＡＢ」との記号が鮮明に視認される。この「ＡＢ」との記号は、「ＡｄｖａｎｃｅＢａｓｅ（有利状態）」の頭文字を意味しており、この「ＡＢ」との記号を明るく視認させることで、遊技者に対して、通常状態よりも有利な状態であることを報知することができる。

【１４４２】

一方で、球が流下している時には、球の影と、第１輪郭部Ｋ５２８１及び第２輪郭部Ｋ５２８３との色の違いが小さいため、球の影と第１輪郭部Ｋ５２８１及び第２輪郭部Ｋ５２８３との見分けがつきにくく、第１形成部Ｋ５２８２及び第２形成部Ｋ５２８４に球形状の影の虫食いができたように視認される。この虫食いを視認することで、遊技者は、球が流下していることを把握することができる。

【１４４３】

第１形成部Ｋ５２８２及び第２形成部Ｋ５２８４は、後方を球が流下することで球形状の影の虫食いができたように視認され得る変化領域Ｋ５２８２ｂ，Ｋ５２８４ｂと、球の流下経路とは重ならないことでそもそも後方を球が流下することは無く、球形状の虫食いが生じ得ない非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃと、を備える。

【１４４４】

非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃは、上述の「ＡＢ」との記号の一部をなす領域である一方で、図１１８（ｂ）に図示されるように、「ＨＫ」との記号をなす領域でもある。この「ＨＫ」との記号は、「ＨｏｌｅＫｅｅｐ（開口維持）」の頭文字を意味しており、この「ＨＫ」との記号を明るく視認させることで、遊技者に対して、例えば、下流側の第１特定入賞口Ｋ６５ａ（図１１７参照）が開放され、球が入球可能な状態であることを報知することができる。

【１４４５】

上述のように、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃには球の影が生じ無いので、流下する複数の球の間隔に関わらず、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃを完全な状態（虫食いの無い状態）で視認させ易くすることができる。

【１４４６】

ここで、第２傾斜部Ｋ５２７４を球が流下している最中において既に、第１形成部Ｋ５２８２及び第２形成部Ｋ５２８４に球形状の影の虫食いができたように視認されるところ、この状況において第１傾斜部Ｋ５２７２を球が流下する場合がある。即ち、化粧カバーＫ５２８０の後方位置を球が流下する場合、その個数が一球の場合も複数球の場合も、第１形成部Ｋ５２８２及び第２形成部Ｋ５２８４に球形状の影の虫食いができたように視認されることは同じであり、結局何球の球が流下しているのかを判別し難い場合がある。

【１４４７】

これに対して、本実施形態では、第１形成部Ｋ５２８２の下端部に非透過形成部Ｋ５２８２ａが形成される。非透過形成部Ｋ５２８２ａは、略矩形の形状で非透過（透過性の低い）で白色に形成される。隣接する第１形成部Ｋ５２８２の色（本実施形態では、黄色）と色の区別がつき難い色関係であり、背面側に配置される電飾基板Ｋ４０５（図３３参照）が消灯されている場合や、背面側に配置される電飾基板Ｋ４０５（図３３参照）からの白色光により照らされている場合には非透過形成部Ｋ５２８２ａが遊技者に認識され難い。

【１４４８】

一方、背面側に配置される電飾基板Ｋ４０５（図３３参照）からの白色光により照らされている場合に、非透過形成部Ｋ５２８２ａの後方に遊技球が配置されると、球の影が非透過形成部Ｋ５２８２ａの周囲に映されることになる。この場合、非透過形成部Ｋ５２８

２ａの色（本実施形態では白）に対して、球の影が黒色なので、色の区別がつき易くなり、非透過形成部Ｋ５２８２ａが遊技者に認識され易くなる。即ち、遊技者は、非透過形成部Ｋ５２８２ａを認識した回数をカウントすることで、化粧カバーＫ５２８０の後方を流下した遊技球の個数を正確に計数することができる。

【１４４９】

なお、上述の各実施形態では、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３が同じ幅で形成され、各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４が同じ幅で形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３をそれぞれ異なる幅で形成しても良いし、各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４をそれぞれ異なる幅で形成しても良いし、各幅を部位ごとに異ならせるデザインとしても良い。

【１４５０】

また、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３の方が各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４よりも幅が広い場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４の方が各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３よりも幅が広くなるように模様が形成されても良い。この場合において、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３は、その内外に関わらず、隣り合う部分と隙間を生じても良いし、隙間が埋められることで各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３の間の構成が排斥されるように構成しても良い。

【１４５１】

なお、上記各実施形態では、化粧カバーＫ５２８０に「ＡＢ」との記号が形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、「波模様」、「波紋」、「星形状」、「稲妻形状」など、広がりのある形状でも良い。

【１４５２】

なお、上記各実施形態では、化粧カバーＫ５２８０の背面側に形成される流路がベース板Ｋ６０の前側面よりも前側に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ベース板Ｋ６０の前側面よりも後ろ側に形成される流路の前側に模様が形成されても良い。

【１４５３】

即ち、例えば、球が流下する樋を構成する樋用前側部材Ｋ９１（図２４参照）に模様が形成されても良い。この場合、模様の背面側を球が通ることもできるし、模様の前面側を球が通ることもできるので、模様の視認態様の変化のバリエーションを増加させることができる。

【１４５４】

なお、上記各実施形態では、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３と各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４との透過性の違いを色の違い実現した（黄色よりも黒色の方が、光を遮光するフィルターとしてより多くの色の光を遮光できる）が、必ずしもこれに限られるものではない。

【１４５５】

例えば、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３の板厚の方が各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４の板厚よりも分厚く構成されることで、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３の方が各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４よりも光を透過し難いように構成されても良い。この場合、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３と各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４との色を同じとしても、板厚が大きい方が光の吸収がされ易いことから、透過性の違いを生じさせることができる。

【１４５６】

この場合に、各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４に対して各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３が前後方向に突設形成されることになるが、その形成方向は、前側でも、後側でも、前後両側でも良い。球が流下する領域側に形成される場合には球の流下方向に影響を与えることができるし、逆に、球が流下する領域とは反対側に形成されるようにすれば、球との衝突で削られることが無いので、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３と各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４との透過性の違いを長期に亘り維持することができる。

【１４５７】
　また、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３を挟んで各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４の反対側の領域（無色透明の領域）の板厚については、各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４と同様としても良いし、各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４よりも薄く形成しても良い。各形成部Ｋ５２８２，Ｋ５２８４よりも薄い方が、各輪郭部Ｋ５２８１，Ｋ５２８３の内側の領域に対する注目力を向上させ易くすることができる。
【１４５８】
　なお、上記各実施形態では、化粧カバーＫ５２８０の背面側に配置される電飾基板Ｋ４０５（図３３参照）から白色光が照射され化粧カバーＫ５２８０が明るくされる場合を説明したが、そのバリエーションの一例について説明する。
【１４５９】
　例えば、右打ち遊技を促すものとして、大当たり遊技中や時短中において電飾基板Ｋ４０５（図３３参照）から白色光を照射する一方で、右打ち遊技を促さない通常状態においては、電飾基板Ｋ４０５は消灯させるようにして、「ＡＢ」との記号を暗くして視認し難くしても良い。
【１４６０】
　この場合、電飾基板Ｋ４０５（図３３参照）から常時光が照射される場合に比較して、遊技者が化粧カバーＫ５２８０の「ＡＢ」との記号を見て、有利状態であると勘違いし、誤って右打ち遊技を行う事態を回避し易くすることができる。
【１４６１】
　また、例えば、変化領域Ｋ５２８２ｂ，Ｋ５２８４ｂを照らすＬＥＤと、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃを照らすＬＥＤとを別で用意しても良い。この場合、「ＡＢ」との記号の全体が明るくされる状況の他に、ＬＥＤの点灯パターン次第で、変化領域Ｋ５２８２ｂ，Ｋ５２８４ｂのみが照らされる状況や、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃのみが照らされる状況を構成することができる。
【１４６２】
　この場合において、例えば、下流側の第１特定入賞口Ｋ６５ａ（又は、第２入賞口Ｋ６４０、第２特定入賞口Ｋ６５０ａ、図１１７参照）が開放されている期間において、変化領域Ｋ５２８２ｂ，Ｋ５２８４ｂのみを照らすＬＥＤを消灯し、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃのみを照らすＬＥＤを点灯させるようにしても良い。これにより、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃにより形成される「ＨＫ」を遊技者に認識させ易くでき、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（又は、第２入賞口Ｋ６４０、第２特定入賞口Ｋ６５０ａ、図１１７参照）へ向けた球の発射を実行するタイミングであることを容易に把握させることができる。
【１４６３】
　また、例えば、光の色は白に限られるものではなく、色付きの光を照射しても良いし、各記号で照射する光の色を異ならせても良いし、色が順番に変化する（例えば、虹の七色で順番（赤橙黄緑青藍紫）に変化する）ように照射する光を制御しても良い。
【１４６４】
　また、例えば、光の照射態様（タイミング）は、化粧カバーＫ５２８０の「ＡＢ」との記号の全体を同時に明るくさせるように複数のＬＥＤが同時に点灯されても良いし、記号を読ませる順序を考慮して、左から右の順で明るくなるように、複数のＬＥＤの点灯タイミングをずらすようにしても良い。
【１４６５】
　以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図１１９から図２２２を参照し、第８実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｈ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。
【１４６６】
　図１１９は、第８実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図１２０は、パチンコ機Ｈ１０の背面図であり、図１２１は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放（展

開）した状態を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図１２２は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放した状態で裏パックユニットＨ９４を内枠Ｈ１２に対して開放した状態（展開）を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図１２３は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を閉鎖すると共に正面枠Ｈ１４を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図１２４は、正面枠Ｈ１４を取り外した状態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図１２５は、遊技盤Ｈ１３及び内枠Ｈ１２の分解正面斜視図であり、図１２６は、正面枠Ｈ１４の分解正面斜視図であり、図１２７は、正面枠Ｈ１４の分解背面斜視図である。なお、図１２４では、発射位置送球ユニットＨ１７０から球発射ユニットＨ１１２ａに球を送球するための背面側開口Ｈ１７２が２点鎖線で図示される。

【１４６７】

また、以下の説明では、図１１９に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図１１９に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図１１９参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ｈ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【１４６８】

また、特段の説明がない限り、パチンコ機Ｈ１０を遊技する遊技者は、パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置し、パチンコ機Ｈ１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に視線を向けた状態（パチンコ機Ｈ１０の正面側と対面した状態）で遊技するものとして説明する。

【１４６９】

図１１９～図１２７に示すように、パチンコ機Ｈ１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠Ｈ１１と、その外枠Ｈ１１と略同一の外形形状に形成され外枠Ｈ１１に対して開閉可能に支持された内枠Ｈ１２と、その内枠Ｈ１２と略同一の外形形状に形成され内枠Ｈ１２に対して開閉可能に支持された正面枠Ｈ１４とを主に備えている。

【１４７０】

外枠Ｈ１１には、内枠Ｈ１２を支持するために正面視（図１１９参照）左側（矢印Ｌ方向側）の上下（矢印Ｕ－Ｄ方向）２カ所に金属製のヒンジＨ１８が取り付けられ、そのヒンジＨ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠Ｈ１２が正面枠Ｈ１４と共に正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている。

【１４７１】

パチンコ機Ｈ１０は、外枠Ｈ１１を島設備に取り付け固定することにより遊技場に設置される。なお、パチンコ機Ｈ１０において外枠Ｈ１１は必須の構成ではなく、外枠Ｈ１１又は外枠Ｈ１１と同一の内形を有し、外枠Ｈ１１の内枠Ｈ１２支持構造（ヒンジＨ１８等）及び施錠構造を有する部材が遊技場に備え付けられた構成としても良い。

【１４７２】

外枠Ｈ１１は、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される上方板Ｈ１１ａと、下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される下方板Ｈ１１ｂと、それら上方板Ｈ１１ａ及び下方板Ｈ１１ｂの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両端同士を上下方向に連結する左方板Ｈ１１ｃ及び右方板Ｈ１１ｄとを組み合わせて枠状に形成される。

【１４７３】

なお、外枠Ｈ１１は、木材で形成されるものに限られるものではなく、アルミ等の金属材料やプラスチック等の樹脂材料で形成されていても良く、それら木材、金属材料、又は、樹脂材料から形成される部材（上方板Ｈ１１ａ，下方板Ｈ１１ｂ，左方板Ｈ１１ｃ，右方板Ｈ１１ｄ）を組み合わせて形成されるものであっても良い。

【１４７４】

また、本実施形態では、外枠Ｈ１１の正面視左側（矢印Ｌ方向側）にヒンジＨ１８が取

り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視右側（矢印Ｒ方向側）を正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能とされるが、外枠Ｈ１１の正面視右側にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視左側を正面手前側へ開閉可能としても良く、又、ヒンジＨ１８を外枠Ｈ１１の正面視下側（矢印Ｄ方向側）の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に取り付け、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視上側（矢印Ｕ方向側）を正面手前側へ開閉可能とするものであっても良い。

【１４７５】

内枠Ｈ１２は、外枠Ｈ１１と外形がほぼ同一の長方形状に形成される枠形成ユニットＨ１２ａと、その枠形成ユニットＨ１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に回動可能に支持される裏パックユニットＨ９４とを主に備えて形成され、裏パックユニットＨ９４が正面視で左側（矢印Ｌ方向側）を回動基端側（開閉基端側）とし、右側（矢印Ｒ方向側）を回動先端側（開閉先端側）として後方へ回動可能とされている（図１２２参照）。

【１４７６】

また、内枠Ｈ１２には、枠形成ユニットＨ１２ａと裏パックユニットＨ９４とで正面側（矢印Ｆ方向側）が開放する略箱状に形成された内側に多数の釘や入賞口Ｈ６３，Ｈ６４等を有する遊技盤Ｈ１３（図１２４及び図１２５参照）が配設される。この遊技盤Ｈ１３の正面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。

【１４７７】

なお、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、左側（矢印Ｌ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の左端部を支持する目的の左端支持部Ｈ１２ａ１と、右側（矢印Ｒ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の右端部を支持する目的の盤面支持装置Ｈ１２ａ２が配設される。遊技盤Ｈ１３は、左端支持部Ｈ１２ａ１にベース板Ｈ６０の左側端部が挿入されつつ内枠Ｈ１２の背面側（矢印Ｂ方向側）に押し込まれた後、盤面支持装置Ｈ１２ａ２が操作されて盤面支持装置Ｈ１２ａ２がベース板Ｈ６０の正面と係合する（ベース板Ｈ６０の正面を支持する）ことで内枠Ｈ１２の内側に固定される。

【１４７８】

また、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａは、球を遊技盤Ｈ１３の正面領域（遊技領域）に発射する球発射ユニットＨ１１２ａ（図１２４参照）と、正面枠Ｈ１４（上下皿ユニットＨ１５）に球を送球する皿通路形成部材Ｈ１６０と（図１２４参照）を主に備えて形成される。

【１４７９】

さらに、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、正面枠Ｈ１４を支持するために正面視左側（矢印Ｌ方向側）の上下２カ所に金属製のヒンジＨ１９が取り付けられ、そのヒンジＨ１９が設けられた側を開閉の軸として正面枠Ｈ１４が正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている（図１２３参照）。なお、内枠Ｈ１２の施錠と正面枠Ｈ１４の施錠とは、枠形成ユニットＨ１２ａに配設されるシリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。なお、シリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１は、振動または動作可能に構成されると共に変位可能に構成される。

【１４８０】

なお、ヒンジＨ１９による内枠Ｈ１２と正面枠Ｈ１４との開錠は、シリンダ錠Ｈ２０に専用の鍵を差し込むものではなく、後述する操作ユニットＨ１８０、機能調整操作部Ｈ１９０、操作ハンドルＨ５１、球抜きレバーＨ５２、球排出レバーＨ５４、又は、貸球操作部Ｈ４０等の正面枠Ｈ１４に配設される操作ユニットを操作することで行われるようにしても良い。また、内枠Ｈ１２又は正面枠Ｈ１４を開放した後で、開放されたの内側から操作ユニットＨ１８０、機能調整操作部Ｈ１９０、操作ハンドルＨ５１、球抜きレバーＨ５２、球排出レバーＨ５４、又は、貸球操作部Ｈ４０等の正面枠Ｈ１４に配設される操作ユニットを操作することで、所定の部材（例えば、上側装飾ユニットＨ１４ａ、左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃの化粧板）の係合が解除され所定の部材が取り外されるようにしても良い。

【１４８１】

球発射ユニットＨ１１２ａは、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０を介して１球ずつ所定のタイミングで送球される球を受け入れ可能に形成され、遊技盤Ｈ１３（内レールＨ６１及び外レールＨ６２）への球の送球方向に延設される発射レールＨ１１２ａ１と、回転可能に軸支され発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転して当接可能に形成される回転体Ｈ１１２ａ２と、その回転体Ｈ１１２ａ２を回転させるための駆動モータＨ８５０（図１８９参照）とを主に備えて形成される。

【１４８２】

即ち、球発射ユニットＨ１１２ａは、変位可能に構成される回転体Ｈ１１２ａ２を変位させて遊技球を発射可能に構成される。なお、回転体Ｈ１１２ａ２は、駆動または動作可能に構成される。

【１４８３】

球発射ユニットＨ１１２ａから遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）への球の発射（送球）は、発射レールＨ１１２ａ１上に球が送球された後、回転体Ｈ１１２ａ２を回転させて発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転体Ｈ１１２ａ２を衝突させることで行われる。

【１４８４】

なお、本実施形態では、回転する回転体Ｈ１１２ａ２により球発射ユニットＨ１１２ａから球が発射（送球）されるが、球を発射する構造は回転する部材（回転体Ｈ１１２ａ２）に限られるものではない。例えば、球の発射方向にスライド変位可能なスライド体と、そのスライド体をスライド変位させるソレノイドとを備え、ソレノイドの励磁によりスライド体を変位させて球に衝突させることで球の発射（送球）が行われるように構成しても良い。

【１４８５】

なお、駆動モータＨ８５０は、振動または動作可能に構成される。即ち、駆動モータＨ８５０は、変位可能に構成される。これより、回転体Ｈ１１２ａ２を回転させ、遊技球を発射することが可能とされる。

【１４８６】

また、球発射ユニットＨ１１２ａは、内枠Ｈ１２に配設されるものに限られるものでなく、パチンコ機Ｈ１０の演出装置としてベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に（遊技盤Ｈ１３に）配設することも可能である。例えば、センターフレームＨ８６やベース板Ｈ６０に開口した開口部からベース板Ｈ６０の背面側に配設される発射レールＨ１１２ａ１上に球を送球して、その球を回転体Ｈ１１２ａ２により発射して第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側を球が通過するように構成しても良い。

【１４８７】

皿通路形成部材Ｈ１６０は、図１２４に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１と本体側下皿通路部Ｈ１６２とを有している。本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路部Ｈ１６２は、背面側（矢印Ｂ方向側）の端部が内枠Ｈ１２に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通される貫通孔と連通可能となるように背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて開放され、正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が下方（矢印Ｄ方向）へ向けて開放されるように、内部で通路の方向が９０度変化する（前後方向から上下方向に変化する）湾曲通路を形成する。この構成において、払出装置Ｈ１３３から払い出された球は内枠Ｈ１２の貫通孔を通り、皿通路形成部材Ｈ１６０の背面側の端部から皿通路形成部材Ｈ１６０に進入し、正面側の端部から排出される。

【１４８８】

なお、皿通路形成部材Ｈ１６０の下側部分には、図１２４に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路部Ｈ１６２からの球の流出を規制するシャッタＨ１６３が設けられている。シャッタＨ１６３は、両通路の出口部分を狭め球の流出を阻止する阻止位置と、球の流出を許容する許容位置との両位置に切り替え可能に設けられており、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を閉鎖した状態とされる場合に許容位置に配置され、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を開放した状態（図１２３に示す状態）とされる場合に阻止

位置に配置される。これにより、本体側上皿通路部Ｈ１６１又は本体側下皿通路部Ｈ１６２に球が貯留されている状態で正面枠Ｈ１４を開放した場合に、その貯留球がこぼれ落ちてしまうといった不都合が回避されている。

【１４８９】

正面枠Ｈ１４は、金属板によって縦長の矩形枠状に形成される本体枠Ｈ１４ｄと、その本体枠Ｈ１４ｄに配設され、その本体枠Ｈ１４ｄの上方側（矢印Ｕ方向側）の正面に配設される上側装飾ユニットＨ１４ａと、その上側装飾ユニットＨ１４ａの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側から下方（矢印Ｄ方向側）に向けて延設される左側装飾ユニットＨ１４ｂ及び右側装飾ユニットＨ１４ｃと、本体枠Ｈ１４ｄの下方側の正面を覆う上下皿ユニットＨ１５と、本体枠Ｈ１４ｄを介して上下皿ユニットＨ１５の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０と、その通路形成ユニットＨ１４０の背面側に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０とを主に備えて構成され、内枠Ｈ１２に回動可能に取り付けられている。

【１４９０】

また、正面枠Ｈ１４の回動基端側には、図１２６及び図１２７に示すように、前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８が設けられ、この前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８（前扉取付金具Ｈ５７は円柱状部、前扉取付金具Ｈ５８は軸孔を有する金属板）が内枠Ｈ１２に係合することにより、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４が回動可能に支持される。

【１４９１】

詳細には、前扉取付金具Ｈ５７は、内枠Ｈ１２の上側のヒンジＨ１９の下方位置において内枠Ｈ１２の正面側端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ延設され先端から背面側（矢印Ｂ方向側）へ前扉取付金具Ｈ５７が内嵌可能な大きさで凹設される嵌合凹部Ｈ１２ｅ１（図１２５参照）を有する軸支板部Ｈ１２ｅに軸支される。また、前扉取付金具Ｈ５８は、内枠Ｈ１２の下側のヒンジＨ１９から上方（矢印Ｕ方向）に突設される段付き円柱形状（直径の違う円柱が上下に連設される構成において上側の円柱の直径の方が小さい形状）の支持ピンＨ１９ａに外嵌されることで軸支される。

【１４９２】

また、正面枠Ｈ１４には、上側装飾ユニットＨ１４ａと左側装飾ユニットＨ１４ｂと右側装飾ユニットＨ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｈ１４ｅが形成され、その窓部Ｈ１４ｅを塞ぐように正面枠Ｈ１４（本体枠Ｈ１４ｄ）の背面側（矢印Ｂ方向側）に２枚の板ガラスを有し光を透過可能に構成されるガラスユニットＨ１６が配設される（図１１９参照）。なお、パチンコ機Ｈ１０は、ガラスユニットＨ１６（窓部Ｈ１４ｅ）を介してパチンコ機Ｈ１０の正面側から遊技盤Ｈ１３の正面が視認可能となっている。

【１４９３】

ガラスユニットＨ１６は、図１１９及び図１２３に示すように、窓部Ｈ１４ｅより大きな外形で光透過性（透明性）を有する前後一対の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂと、これら透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを一体化する固定枠（図示せず）と、を備えている。固定枠は、樹脂材料により透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂより一回り大きな環状に形成され、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの外周縁が固定枠に接着されることでガラスユニットＨ１６は一体化された複層ガラスとされている。

【１４９４】

なお、ガラスユニットＨ１６は、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂによって光を透過可能に構成される（無色透明に形成されている）が、これに限定されることはなく樹脂材料によって無色透明に形成されていてもよく、パチンコ機Ｈ１０前方からガラスユニットＨ１６を通じて遊技領域を視認可能であれば無色透明でなく有色透明に形成されていても良い。

【１４９５】

また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂは、それら２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態で配設しても良い。透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１

６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態とする場合には、それら２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に変位可能な変位手段を配設して、遊技盤Ｈ１３よりも前方側（矢印Ｆ方向側）で変位手段による演出を可能にしても良い。この場合の変位手段とは、例えば、紙やナイロン等の部材から形成される複数の変位部材を固定枠に形成した孔から送り出す風により吹き飛ばす演出をするものや、固定枠に変位可能に配設した変位部材を音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図１２８参照）により２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間で変位させるものである。また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを固定する固定板に発光手段を配設し、その発光手段から出射される光を前方側の透明ガラスＨ１６ａまたは背面側（矢印Ｂ方向側）の透明ガラスＨ１６ｂの一方に照射して、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの一方に照射された光を遊技者に視認させる演出をするようにしても良い。

【１４９６】

正面枠Ｈ１４（上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃ）において窓部Ｈ１４ｅの周囲には、図１１９に示すようにＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が複数設けられている。これら電飾部Ｈ２９～Ｈ３３では、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて点灯や点滅が行われる。また、窓部Ｈ１４ｅの上側（矢印Ｕ方向側）の電飾部Ｈ３０には、払出球が不足する等の所定のエラー時に点灯する発光手段と、賞球払出中に点灯する発光手段とが内蔵されている。

【１４９７】

また、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃの電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３から出射される光を非透過とする非透過性の樹脂材料から形成される。これにより、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の発光（点灯や点滅）を遊技者に注目させやすい構造となっている。

【１４９８】

なお、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、非透過に形成されるものに限られず、透過性の樹脂材料から形成して電飾部Ｈ２９～Ｈ３３に発光（点灯や点滅）があった場合に正面枠Ｈ１４の全体から光を出射（透過）可能に構成しても良い。また、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材を配設して煌びやかさを醸し出すように構成しても良い。

【１４９９】

上側装飾ユニットＨ１４ａの左側（矢印Ｌ方向側）及び右側（矢印Ｒ方向側）には（窓部Ｈ１４ｅの右上側及び左上側には）、遊技状態に応じた効果音などが出力されるスピーカー組立体（音声出力装置Ｈ２２６（図１２８参照））を覆うスピーカーカバーＨ２７（パンチングメタルから形成される薄板部材）が設けられており、スピーカーカバーＨ２７を介してスピーカーの音をパチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に放音可能に構成されている。

【１５００】

窓部Ｈ１４ｅの下方（矢印Ｂ方向）には、図１１９に示すように、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とが手前側へ膨出して配置されると共にそれら上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とが上下に並設される上下皿ユニットＨ１５が配設される。

【１５０１】

上皿Ｈ１７は、上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿Ｈ１７に賞球や貸出球などが排出される。また、上皿Ｈ１７は、払出装置Ｈ１３３（図１２０参照）より払い出された球を一旦貯留し、一列に整列させながら球発射ユニットＨ１１２ａ（図１２４参照）側へ導く機能を有しており、底面が正面視右側（矢印Ｒ方向側）に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿Ｈ１７に投入された球を発射位置送球ユニットＨ１７０へと案内可能に形成される。なお、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０に送球された球は、発射位置送球ユニットＨ１７０の動作により１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａへ案内される。即ち、遊技球が通過可能に構成される発射位置送球ユニットＨ１７０により

遊技球を球発射ユニットＨ１１２ａに送球可能とされる。言い換えると、遊技球を送球可能に構成される発射位置送球ユニットＨ１７０により遊技球を球発射ユニットＨ１１２ａに送球可能とされる。

【１５０２】

下皿Ｈ５０は、上面を開放した略箱状に形成され、上皿Ｈ１７内にて余剰となった球を貯留する機能を有している。また、下皿Ｈ５０の背面側（矢印Ｂ方向側）側面には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口され球が下皿Ｈ５０に案内される球案内開口Ｈ５３が形成される。

【１５０３】

下皿Ｈ５０の正面側（矢印Ｆ方向側）の下方（矢印Ｄ方向）部には、下皿Ｈ５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバーＨ５２が設けられている。この球抜きレバーＨ５２は、常時、右方向（矢印Ｒ方向）に付勢されており、その付勢に抗して左方向（矢印Ｌ方向）へスライドさせることにより、下皿Ｈ５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバーＨ５２の操作は、通常、下皿Ｈ５０の下方に下皿Ｈ５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。

【１５０４】

なお、球抜きレバーＨ５２の操作により、千両箱に球を排出するものに限らず、島設備に連通する回収口に球を排出するものであっても良い。また、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とに分けて複数箇所に球を貯留する部位を設ける必要はなく、下皿Ｈ５０を廃止して上皿Ｈ１７のみとした１つの貯留部のみを有する構成としても良い。

【１５０５】

また、下皿Ｈ５０から球を排出する球抜きレバーＨ５２の操作を駆動モータにより制御することも可能である。これによれば、下皿Ｈ５０に球が払い出されたことや下皿Ｈ５０に所定数の球数が払い出されたこと起因して、球抜きレバーＨ５２を駆動モータにより変位させることで、下皿Ｈ５０からの球の排出を遊技者が忘れて下皿Ｈ５０の貯留領域に球が溢れることを抑制できる。

【１５０６】

特に、最近では、パチンコ機Ｈ１０が設置される店舗の島設備に連通する回収口に下皿Ｈ５０から球を排出する店舗が多くなっており、所定数の球数しか貯留できない千両箱に下皿Ｈ５０から排出される球を排出する店舗が少なくなっている。店舗の島設備に連通する回収口に下皿Ｈ５０から球を排出する店舗では、下皿Ｈ５０から球が払い出されている最中に千両箱の交換等が必要ないので、下皿Ｈ５０への球の払い出しに伴って駆動モータにより球抜きレバーＨ５２を変位させる構成とすることで、遊技者の球抜きレバーＨ５２の操作を不要とできる。

【１５０７】

即ち、後述する主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１により大当たりの演出がされることに伴って、下皿Ｈ５０の球抜きレバーＨ５２を駆動モータにより変位させることで、大当たりにより下皿Ｈ５０に払い出される球を回収口に排出することができ、遊技者の球抜きレバーＨ５２の操作を不要とできる。その結果、遊技者をパチンコ機Ｈ１０の演出（特に大当たりの演出）に集中させることができ、遊技者の興趣を向上できる。

【１５０８】

上皿Ｈ１７（球の貯留領域）の手前側（矢印Ｆ方向側）には、変位可能に構成され、遊技者らにより手動操作される操作ユニットＨ１８０が設けられている。操作ユニットＨ１８０は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面等にて遊技者の操作に対応した演出が行われる場合に使用される操作装置である。なお、操作ユニットＨ１８０は、振動または動作可能に構成される。

【１５０９】

この操作ユニットＨ１８０には、上面側にボタン部Ｈ１８１が配設される。ボタン部Ｈ１８１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される軸を中心に下方側に向けて押圧操作

可能とされ、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１（図１２４参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。

【１５１０】

なお、操作ユニットＨ１８０は、上皿Ｈ１７以外に下皿Ｈ５０周辺等の別の部位に設けられても良いし、複数箇所に設けられても良く、また、操作方法として押しボタン式のスイッチであっても良く、タッチセンサ、非接触式のセンサ等の別の操作方法によって情報入力可能な構成としても良い。

【１５１１】

また、操作ユニットＨ１８０は、上皿Ｈ１７の手前側でなく、上側装飾ユニットＨ１４ａ、左側装飾ユニットＨ１４ｂ、右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設しても良く、この場合、上皿Ｈ１７の手前側と別の操作ユニットＨ１８０を配設して、それぞれ別の演出でそれぞれの操作ユニットＨ１８０を遊技者に操作させるようにしても良い。

【１５１２】

操作ユニットＨ１８０の右側には、上下皿ユニットＨ１５の上面側に貸球操作部Ｈ４０（図１２６参照）と機能調整操作部Ｈ１９０と、球排出レバーＨ５４とが配設されている。貸球操作部Ｈ４０には、度数表示部Ｈ４１と、球貸しボタンＨ４２と、返却ボタンＨ４３とが設けられている。パチンコ機Ｈ１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部Ｈ４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部Ｈ４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。

【１５１３】

球貸しボタンＨ４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿Ｈ１７に供給される。返却ボタンＨ４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿Ｈ１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部Ｈ４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部Ｈ４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。

【１５１４】

機能調整操作部Ｈ１９０は、決定ボタンＨ１９１と、その決定ボタンＨ１９１を中心とする十字状の４方向外側の位置に配設される上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５と備える。

【１５１５】

機能調整操作部Ｈ１９０は、上側装飾ユニットＨ１４ａに配設されるスピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面の明るさ、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設される電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさなどを変更するための操作部である。遊技者は、決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５を操作することで、自身（遊技者）の好みに合うように音量や明るさを変更可能とされる。

【１５１６】

また、音量や明るさを変更する際には、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部に音量や明るさの調整度合いが数値やボリューム等で表示されるようになっている。これにより、遊技者が別のパチンコ機Ｈ１０を遊技し始める場合に音量や明るさの調整を簡易に行うことができる。

【１５１７】

なお、機能調整操作部Ｈ１９０による変更は、音量や明るさに限られるものではなく、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される演出等を変更可能とするものであっても良い。また

、音量や明るさの調整度合いを第３図柄表示装置Ｈ８１に表示するものに限られるものではなく、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示しなくても操作と同時に変更（調整）後の音や表示をして調整させるものでも良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に調整度合いを表示するものであっても良い。

【１５１８】

球排出レバーＨ５４は、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に送球する際に遊技者が操作するレバーであり、図示しない付勢手段（バネ）により上方側（矢印Ｕ方向側）に付勢された状態で配設される。なお、球排出レバーＨ５４は、操作される（下方側（矢印Ｄ方向側）に押し込まれる）ことにより上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０に連通される通路を上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０（ファール球通路部Ｈ１４５）に連通する状態に切替可能に構成される。これにより、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に排出することができる。

【１５１９】

下皿Ｈ５０の右側（矢印Ｒ方向側）には、変位可能に構成され、遊技者が遊技時に操作する操作ハンドルＨ５１が配設される。なお、操作ハンドルＨ５１は、振動または動作可能に構成される。操作ハンドルＨ５１の内部には、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサＨ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチＨ５１ｂと、操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。操作ハンドルＨ５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサＨ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤Ｈ１３の正面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドルＨ５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサＨ５１ａおよび発射停止スイッチＨ５１ｂがオフとなっている。

【１５２０】

なお、操作ハンドルＨ５１は、操作ユニットＨ１８０や機能調整操作部Ｈ１９０や貸球操作部Ｈ４０の操作ボタンに置き換え可能である。例えば、操作ボタンの押し込み量を可変抵抗器で検出して操作ボタンの押し込み量に対応した球の打ち出し速度で遊技盤Ｈ１３の正面へ球を打ち込むようにしても良い。また、機能調整操作部Ｈ１９０に球の打ち出し速度を調整する制御を設け、遊技者が設定した打ち出し速度で球を遊技盤Ｈ１３の正面へ打ち込むようにしても良い。

【１５２１】

さらに、操作ハンドルＨ５１を、上述した球排出レバーＨ５２に置き換えても良い。即ち、下皿Ｈ５０からの球の排出を許容する役割と、遊技盤Ｈ１３の正面への球の打ち出しを許容する役割と球排出レバーＨ５２に兼用させても良い。この場合、遊技盤Ｈ１３の正面へ球が打ち出されると下皿Ｈ５０から球の排出を許容でき、遊技盤Ｈ１３の正面へ球の打ち出しが停止されると下皿Ｈ５０からの球の排出を規制できるので、下皿Ｈ５０に球が溜まり過ぎることを抑制できる。

【１５２２】

通路形成ユニットＨ１４０は、樹脂材料により成形されており、上皿Ｈ１７に通じる前扉側上皿通路部Ｈ１４１と、下皿Ｈ５０に通じる前扉側下皿通路部Ｈ１４２と、ファール球通路部Ｈ１４５と、を有している。

【１５２３】

通路形成ユニットＨ１４０の上側隅部（正面枠Ｈ１４の回動基端側の隅部）には後方（矢印Ｂ方向）に突出し上方に開放された払出球受口部Ｈ１４３が形成されており、その払出球受口部Ｈ１４３が仕切壁Ｈ１４４によって左右に仕切られることで前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口と前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口とがそれぞれ形成されている（図１２６参照）。

【１５２４】

なお、前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側上皿通路部Ｈ１６１（図１２４参照）が連通されており、前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側下皿通路部Ｈ１６２（図１２４参照）が連通される。これにより、払出装置Ｈ１３３から送球される球は、上皿Ｈ１７又は下皿Ｈ５０に送球されることとなる。

【１５２５】

ファール球通路部Ｈ１４５（図１２６参照）は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球のうち遊技領域まで至らなかった球をファール球として下皿Ｈ５０に排出する通路を形成する部位である。

【１５２６】

ファール球通路部Ｈ１４５には、図１２７に示すように、上方側（矢印Ｕ方向側）が開放したファール球受口部Ｈ１４６が設けられる。このファール球受口部Ｈ１４６に受け入れられたファール球は、ファール球通路部Ｈ１４５（図１２６参照）の内部通路を流下した後で、下皿Ｈ５０に排出される。なお、ファール球通路部Ｈ１４５は、下皿Ｈ５０でなく、上皿Ｈ１７に接続され、ファール球が上皿Ｈ１７に排出される構成としても良い。

【１５２７】

また、ファール球通路部Ｈ１４５は、遊技者が球排出レバーＨ５４を操作することにより上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０に流下する未発射球が案内される通路である球抜き通路（図示しない）と合流するように形成される。

【１５２８】

発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７に貯留される球を１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａに送球するためのユニットである。発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７の送球経路の開口部に連なる正面側開口Ｈ１７１と、その正面側開口Ｈ１７１から流入した球を背面側から排出可能な背面側開口Ｈ１７２と、それら正面側開口Ｈ１７１から背面側開口Ｈ１７２までを通過する通路上に変位可能に配設される切替手段（図示しない）と、その切替手段を駆動させるソレノイド（図示しない）とを主に備えて形成される。

【１５２９】

発射位置送球ユニットＨ１７０の切替手段は、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが可能な位置と、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置とに変位可能に構成されており、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置に変位された場合に発射位置送球ユニットＨ１７０の通路上にある球を背面側開口Ｈ１７２から球発射ユニットＨ１１２ａ（発射レールＨ１１２ａ１）に流入可能に形成される。これにより、切替手段の位置の切り替え（１往復の変位）に伴って１球ずつ球を背面側開口Ｈ１７２から排出することが可能となっている。

【１５３０】

なお、背面側開口Ｈ１７２は、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１の上方（矢印Ｕ方向）の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する（図１２４参照）。従って、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１に発射位置送球ユニットＨ１７０から１球ずつ球が送球されることとなる。

【１５３１】

また、図１２４に示すように、背面側開口Ｈ１７２は、発射レールＨ１１２ａ１の球の送球方向における発射レールＨ１１２ａ１の両端部の間に形成される。従って、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１上に送球される球は、発射レールＨ１１２ａ１上を左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両方向に転動可能となるが、発射レールＨ１１２ａ１は一方側（回転体Ｈ１１２ａ２から離れる側）が上方（矢印Ｕ方向）に向かって傾斜した状態で配設されるので、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球された球（回転体Ｈ１１２ａ２により発射前の球）が回転体Ｈ１１２ａ２から離れる方向に転動することが抑制される。

【１５３２】

図１２４に示すように、遊技盤Ｈ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｈ

６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）の他、レール部材Ｈ６１，Ｈ６２、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５、スルーゲートＨ６７、可変表示装置ユニットＨ８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠Ｈ１２の裏面側に取り付けられる。なお、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５は、光を透過可能に構成される。

【１５３３】

ベース板Ｈ６０は、光を透過可能に構成される（光透過性の）樹脂材料からなり、その正面側（矢印Ｆ方向側）からベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変表示装置ユニットＨ８０は、ルータ加工によってベース板Ｈ６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤Ｈ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。

【１５３４】

なお、ベース板Ｈ６０は、光透過性の樹脂材料から形成されるものに限られるものではなく、薄い板材を張り合わせた木材から形成されるものであっても良いし、非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても良い。なお、これらの場合、装飾がされたシール等をベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）の全域に貼付してベース板Ｈ６０の装飾性を確保することが好ましい。

【１５３５】

遊技盤Ｈ１３の正面中央部分は、正面枠Ｈ１４の窓部Ｈ１４ｅ（図１１９参照）の一部を通じて内枠Ｈ１２の正面側（矢印Ｆ方向側）から視認することができる。以下に、主に図１２４を参照して、遊技盤Ｈ１３の構成について説明する。

【１５３６】

遊技盤Ｈ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レールＨ６２が植立され、その外レールＨ６２の内側位置には外レールＨ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＨ６１が植立される。この内レールＨ６１と外レールＨ６２とにより遊技盤Ｈ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ｈ１３とガラスユニットＨ１６（図１１９参照）とにより前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）が囲まれることにより、遊技盤Ｈ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ｈ１３の正面であって２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｈ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。なお、２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２、金属板である必要なく、樹脂材料から帯状に形成されるものであっても良い。

【１５３７】

２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球を遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）へ案内するために設けられたものである。内レールＨ６１の先端部分（図１２４の左上部）には戻り球防止部材Ｈ６８が取り付けられる。

【１５３８】

戻り球防止部材Ｈ６８は、内レールＨ６１側から外レールＨ６２側に延設される樹脂製の板部材から形成され、内レールＨ６１側の一端側を軸に他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転可能とされる。また、戻り球防止部材Ｈ６８は、一端側に錘を備え、その錘により他端側が外レールＨ６２に近づく方向に付勢される。

【１５３９】

これにより、遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）に案内される球の勢いで戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転させることができると共に、戻り球防止部材Ｈ６８を超える位置（遊技盤Ｈ１３の上方側）に球が案内された際に戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２に近づく方向に回転させることができ、一旦、遊技盤Ｈ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。

【１５４０】

なお、戻り球防止部材Ｈ６８は、樹脂材料から形成される必要はなく、金属材料から形成されていても良い。また、錘以外に磁石などの磁力やねじりバネなどの付勢力によって戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２側に付勢する構成としても良い。

【１５４１】

また、戻り球防止部材Ｈ６８は、後述する風車のように、一方向に継続して回転できるもの（１球ずつ所定位置に戻らないもの）であっても良い。この場合、遊技盤Ｈ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻らないように、遊技盤Ｈ１３の上部への球の案内によって回転する方向（一方向）とは反対の方向（他方向）に回転することを規制するワンウェイクラッチを配設することが好ましい。

【１５４２】

外レールＨ６２の先端部（図１２４の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＨ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＨ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【１５４３】

遊技領域の正面視左側下部（図１２４の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、主制御装置Ｈ１１０（図１２８参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機Ｈ１０の遊技状態の表示が行われる。本実施形態では、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞したか、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａが作動し、一方で、球が、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂが作動するように構成されている。

【１５４４】

また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機Ｈ１０が確変中か時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が確変大当たりに対応した図柄か普通大当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機Ｈ１０の各種遊技状態を示唆することができる。

【１５４５】

尚、本パチンコ機Ｈ１０では、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ｈ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ確変大当たり、４Ｒ確変大当たり、１５Ｒ通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【１５４６】

ここで、「１５Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことであり、「４Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことである。また、「１５Ｒ通常大当たり」は、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となる大当たりのことである。

【１５４７】

なお、大当たりのラウンド数は、１５Ｒと４Ｒに限られるものではなく、パチンコ機Ｈ１０の機種により他のラウンド数に変更しても良く、又、２種以上のラウンド数を有する

ものであっても良い。また、時短状態における所定の変動回数は、１００変動回数に限られるものではなく、例えば、１変動回数や１０００変動回数に設定しても良い。

【１５４８】

また、「高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。本実施形態における高確率状態（確変中）は、後述する第２図柄の当たり確率がアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態を含む。「低確率状態」とは、確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、確変の時より大当たり確率が低い状態をいう。また、「低確率状態」のうちの時短状態（時短中）とは、大当たり確率が通常の状態であると共に、大当たり確率がそのままで第２図柄の当たり確率のみがアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。一方、パチンコ機Ｈ１０が通常中とは、確変中でも時短中でもない遊技の状態（大当たり確率も第２図柄の当たり確率もアップしていない状態）である。

【１５４９】

確変中や時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物Ｈ６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、確変中や時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。

【１５５０】

なお、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数を通常中よりも増やす変更を行うものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２図柄の当たり確率は変更せず、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間および１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数の少なくとも一方を変更するものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間や、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａを開放する回数は変更せず、第２図柄の当たり確率だけを、通常中と比してアップするよう変更するものであっても良い。

【１５５１】

遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口Ｈ６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニットＨ８０が配設されている。可変表示装置ユニットＨ８０には、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置Ｈ８１と、スルーゲートＨ６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成され、光を発光可能に構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、可変表示装置ユニットＨ８０には、第３図柄表示装置Ｈ８１の外周を囲むようにして、センターフレームＨ８６が配設されている。

【１５５２】

なお、センターフレームＨ８６は、遊技領域を流下する球がベース板Ｈ６０の中央開口を介して第３図柄表示装置Ｈ８１側に流下することを防止するための部材であり、ベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出して形成される。また、センターフレームＨ８６は光を透過可能に構成される。

【１５５３】

また、センターフレームＨ８６の一部には、遊技領域を流下する球を受け入れると共に第３図柄表示装置Ｈ８１の周囲を通過させて第１入賞口Ｈ６４側から排出するワープ通路（図示せず）が一部に形成される。センターフレームＨ８６に形成されるワープ通路は、

遊技球が通過可能に構成される。言い換えると、ワープ通路は、遊技球を送球可能に構成される。

【１５５４】

また、センターフレームＨ８６には、ワープ通路から排出された遊技球が通過可能に構成されるステージを備える。即ち、ワープ通路から排出される遊技球を送球可能に構成されるステージを備える。センターフレームＨ８６のステージは、遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される凹部を備え、その凹部により遊技球をベース板Ｈ６０の所定の領域に送球可能に構成される。

【１５５５】

本実施形態では、ベース板Ｈ６０よりも正面側を球が通過するようにワープ通路が構成されるが、ベース板Ｈ６０よりも背面側を球が通過するようにワープ通路を形成することも可能である。例えば、ベース板Ｈ６０よりも背面側を通る通路をベース板Ｈ６０よりも背面側に配設される円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００よりも背面を通過するように構成して、その円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００の変位に伴ってワープ通路を通過する遊技球を遊技者から視認できるようにしても良い。

【１５５６】

なお、センターフレームＨ８６には、遊技領域まで突出して遊技領域の背面側を区画する部分に、所定の幅を隔てた状態で正面側に向かって立設される一対の立設部を形成して、それら一対の立設部により区画される領域に沿って遊技球を流下させるようにしても良い。即ち、センターフレームに遊技球が通過可能に構成される流下経路（一対の立設部）を形成しても良い。

【１５５７】

また、センターフレームＨ８６で遊技球の流下経路を形成した場合には、一対の立設部の対向面（流下経路の内面側）に凹設される凹部または凸設される凸部を形成して、一対の立設部の対向間に沿って流下される遊技球を凹部または凸部に当接させることで、一対の立設部の対向間を流下する遊技球に流下方向（一対の立設部の延設方向）以外の方向の力成分を付与して、一対の立設部の対向間を流下する遊技球における流下方向の速度を低下するようにしても良い。即ち、一対の立設部に形成される凹部または凸部は、遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される。これによれば、球の流下速度を遅くすることで、流下する遊技球を遊技者に視認させやすくできると共に、球発射ユニットＨ１１２ａにより遊技領域に送球（発射）された遊技球がその発射された速度を維持したまま（流下速度が速いまま）釘や突起に当接することで釘や突起が曲がったりすることを抑制できる。

【１５５８】

なお、一対の立設部をセンターフレームＨ８６と別体で構成することも可能である。即ち、遊技球が通過可能に構成される一対の立設部を有する部材をベース板Ｈ６０に別途配設しても良い。これによれば、遊技球を送球可能に構成される一対の立設部により、遊技球を所定の方向に流下させることができる。

【１５５９】

第３図柄表示装置Ｈ８１は９インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置Ｈ１１４（図１２８参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。なお、第３図柄表示装置Ｈ８１は、９インチ以外のサイズで構成されていても、２枚以上の複数の液晶ディスプレイを並設して構成されていても良い。また、第３図柄表示装置Ｈ８１は、後述する円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００に配設され、その円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００の変位に伴って第３図柄表示装置Ｈ８１の表示を切り替える（表示を変更する）ものであっても良い。

【１５６０】

また、第８実施形態では、第３図柄表示装置Ｈ８１の周囲（上方）に退避位置における花弁動作装置Ｇ８００が配置され、その花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に変位されると花弁動作装置Ｇ８００が第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に変位される。よって、花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に変位される際には、第３図柄表示装置Ｈ８１の演出を花弁動作装置Ｇ８００と共に遊技者に視認させることができる。

【１５６１】

なお、花弁動作装置Ｇ８００は、花回転ユニットＧ４００の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第２装飾ユニットＧ４８０が光透過性の材料から形成される。従って、花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に配置された状態においては、第２装飾ユニットＧ４８０の第２装飾ユニットＧ４８０を介して第３図柄表示装置Ｈ８１の少なくとも一部が遊技者に視認される。

【１５６２】

第３図柄表示装置Ｈ８１の各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置Ｈ８１は、主制御装置Ｈ１１０（図１２８参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。即ち、第３図柄表示装置Ｈ８１は、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた光を発光可能に構成される。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置Ｈ８１を構成するようにしても良い。

【１５６３】

第２図柄表示装置は、球がスルーゲートＨ６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機Ｈ１０では、球がスルーゲートＨ６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。なお、第２図柄表示装置は、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて図柄を表示されるものであって良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１と別の表示装置とのどちらにも図柄を表示させるものであっても良く、本実施形態では、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示される。

【１５６４】

パチンコ機Ｈ１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｈ６４０に付随された電動役物Ｈ６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【１５６５】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、確変中または時短中の方が短くなるように設定される。これにより、確変中および時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、確変中および時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【１５６６】

なお、確変中または時短中において、当たり確率を高める、１回に当たりに対する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、確変中または時短中に第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としても良い。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、確変中または時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしても良いし、また、１回の当たりに対する電動

役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしても良い。
【１５６７】
スルーゲートＨ６７は、可変表示装置ユニットＨ８０の左右の領域において遊技盤Ｈ１３に組み付けられ、遊技盤Ｈ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲートＨ６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。
【１５６８】
球のスルーゲートＨ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。なお、本実施形態では、光を発光可能に構成される第２図柄保留ランプは、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示されるように構成されるが、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に点灯表示するものであっても良い。例えば、スルーゲートＨ６７への球の通過に伴って点灯する４つのＬＥＤを第３図柄表示装置Ｈ８１の下方に配設して点灯表示するものであっても良い。
【１５６９】
また、スルーゲートＨ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け数は２つに限定されるものではなく、例えば１つであっても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＨ８０の左右に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の下方でも良い。また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしても良い。
【１５７０】
可変表示装置ユニットＨ８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口Ｈ６４が配設されている。この第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図１２８参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａで示される。
【１５７１】
一方、第１入賞口Ｈ６４の正面視下方には、球が入賞し得る第２入賞口Ｈ６４０が配設されている。この第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図１２８参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂで示される。
【１５７２】
また、第１入賞口Ｈ６４および第２入賞口Ｈ６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成しても良い。
【１５７３】
第２入賞口Ｈ６４０には電動役物Ｈ６４０ａが付随されている。この電動役物Ｈ６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖状態（縮小状態）となって、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲートＨ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２

図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となり、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しやすい状態となる。

【１５７４】

なお、本実施形態では、第２入賞口Ｈ６４０の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に開閉する羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設され、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となった場合に第２入賞口Ｈ６４０の左右両側から球が第２入賞口Ｈ６４０に入賞可能に構成されるが、左右方向の一方側の流路を塞ぐ壁を形成して、他方側からのみ第２入賞口Ｈ６４０に球が入賞可能となるように構成しても良い。この場合、第２入賞口Ｈ６４０の他方側にのみ開閉する羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設される。

【１５７５】

また、電動役物Ｈ６４０ａは、回転する羽部材に限られるものではなく、第２入賞口Ｈ６４０を開放する位置と閉鎖する位置とに移動するものであればスライド変位するものであっても良い。例えば、電動役物Ｈ６４０ａは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にスライド変位するものや、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向側）にスライド変位するものであっても良い。

【１５７６】

上述した通り、確変中および時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となる回数が増える。更に、確変中および時短中は、電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。

【１５７７】

本実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０は、遊技盤Ｈ１３の構成が左右対称とされるため、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「右打ち」）、第１入賞口Ｈ６４を狙うことも、可変表示装置ユニットＨ８０の左方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「左打ち」）第２入賞口Ｈ６４０を狙うこともできる。そのため、本実施形態のパチンコ機Ｈ１０は、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることを不要にできる。よって、球の打ち方を変化させる煩わしさを解消することができる。

【１５７８】

なお、低確率状態であっても高確率状態でも大当たりとなる確率が変わらない（低確率状態の大当たり確率と高確率状態の大当たり確率とが同じ確率である）構成としても良い。この場合には、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ確変大当たりとなる確率が、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されるように構成すると共に、「左打ち」側の流路に第１入賞口Ｈ６４を配設し、「右打ち」側の流路に第２入賞口Ｈ６４０を配設する構成（遊技盤Ｈ１３の構成を左右非対称）とすることが好ましい。

【１５７９】

この構成によれば、通常中においては、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物が閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しづらいので、電動役物のない第１入賞口Ｈ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の左方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射し（「左打ち」）、第１入賞口Ｈ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１５８０】

一方、確変中や時短中は、スルーゲートＨ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｈ６４０へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射し（「右打ち」）、スルーゲートＨ

６７を通過させて電動役物を開放状態にすると共に、第２入賞口Ｈ６４０への入賞によって１５Ｒ確変大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１５８１】

従って、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることができ、遊技者の興趣を維持できる。

【１５８２】

第１入賞口Ｈ６４の下方には可変入賞装置Ｈ６５（図１２４参照）が配設されており、その略中央部分に特定入賞口Ｈ６５ａが設けられている。パチンコ機Ｈ１０においては、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｈ６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）開放される。

【１５８３】

この特定入賞口Ｈ６５ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放される。この特定入賞口Ｈ６５ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。

【１５８４】

なお、上記した形態に特別遊技状態は限定されるものではない。特定入賞口Ｈ６５ａとは別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおいて大当たりに対応したＬＥＤが点灯した場合に、特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放され、その特定入賞口Ｈ６５ａの開放中に、球が特定入賞口Ｈ６５ａ内へ入賞することを契機として特定入賞口Ｈ６５ａとは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。また、特定入賞口Ｈ６５ａは１つに限るものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｈ６４の下方右側や、第１入賞口Ｈ６４の下方左側に限らず、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の左方でも良い。

【１５８５】

遊技盤Ｈ１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＫ１が設けられ、貼着スペースＫ１に貼られた証紙等は、正面枠Ｈ１４のガラスユニットＨ１６を介して視認することができる。

【１５８６】

遊技盤Ｈ１３には、アウト口Ｈ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０にも入賞しなかった球は、アウト口Ｈ７１を通って図示しない球排出路へと案内される。アウト口Ｈ７１は、特定入賞口Ｈ６５ａの下方（矢印Ｄ方向側）に配設される。

【１５８７】

また、遊技盤Ｈ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車（図示しない）等の各種部材（役物）とが配設されている。さらに、第３図柄表示装置Ｈ８１を取り囲む態様でベース板Ｈ６０の中央開口部に配設されるセンターフレームＨ８６の一部は、上方側（矢印Ｕ方向側）の遊技領域まで背面側（矢印Ｂ方向側）の側面が延設され、その延設された領域に正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突出する突出部を複数備える。遊技盤Ｈ１３の遊技領域を流下する球は、多数の釘や、センターフレームＨ８６の突出部、風車等に衝突しつつ流下されることで、球の落下方向が適宜分散される。

【１５８８】
なお、本実施形態では、センターフレームＨ８６の一部が延設される方向が上方側（矢印Ｕ方向）に設定されているが、右側（矢印Ｒ方向側）や左側（矢印Ｌ方向側）に延設されていても良く、その延設部分に突出部だけでなくスルーゲートＨ６７や各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０を配置する構成としても良い。また、センターフレームＨ８６は、延設部分や突出部を備えない構成としても良い。
【１５８９】
風車は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の軸を中心に回転可能に形成される。また、風車は、正面視において回転軸を中心とする円形に形成されベース板Ｈ６０の正面から１球分の距離を隔てた位置に配設される円盤部材と、その円盤部材の一部からベース板Ｈ６０側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出され風車の回転方向に沿って所定の角度（本実施形態では１２０度）で分散配置される複数（本実施形態では３枚）の球当接部とを備えて形成されており、遊技盤Ｈ１３を流下する球が球当接部に当接した衝撃で回転しつつ当接した球を複数（２以上）の方向に案内可能に形成される。
【１５９０】
また、風車は、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。これにより、球当接部に当接した球の流下方向を遊技者に視認させやすくできると共に、風車の回転方向を遊技者に認識させにくくできる。
【１５９１】
なお、遊技盤Ｈ１３は、ベース板Ｈ６０に必ずしも風車を備えている必要はなく風車を備えない構成としても良い。また、センターフレームＨ８６のワープ通路（図示しない）や、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ入球した球が通過する通路（図示しない）の通路途中に風車を配設して、風車により球の通路を変更するように構成することも可能である。さらに、風車は、一部が非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても、全部が非透過性のアルミ等の金属製の材料から形成されるものであっても良く、球が当接した際に球を複数の方向に案内可能であれば形状、色、材質は何でも良い。例えば、風車は、１球ずつ交互に異なる方向に球を振り分け可能に構成されていても良い。また、風車に変えて、上述した戻り球防止部材Ｈ６８を配設して、遊技領域を流下する球を一方向に流下させる（球が戻らない）ように構成しても良い。
【１５９２】
また、上記第８実施形態では、遊技盤Ｈ１３のベース板Ｈ６０に配設した風車に遊技領域を流下する遊技球を当接（衝突）させて風車を回転させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、風車に駆動手段の駆動力を伝達するように構成しても良い。
【１５９３】
例えば、上記第８実施形態における風車に置き換えて左側円環部材Ｇ７１０、右側円環部材Ｇ７２０、アーム部Ｇ８１２、第１回転ベースＧ４１０、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ６４２０、花弁側伝達部材Ｇ４３０、第２回転ベースＧ４６０、第２装飾ユニットＧ４８０をベース板Ｈ６０に配設するように構成して、それら回転する左側円環部材Ｇ７１０、右側円環部材Ｇ７２０、アーム部Ｇ８１２、第１回転ベースＧ４１０、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ６４２０、花弁側伝達部材Ｇ４３０、第２回転ベースＧ４６０、第２装飾ユニットＧ４８０に遊技領域を流下する遊技球を衝突させて、遊技球の流下方向を変更するように構成しても良い。
【１５９４】
図１２０に示すように、パチンコ機Ｈ１０の背面側には、制御基板ユニットＨ９０，Ｈ９１と、裏パックユニットＨ９４とが主に備えられている。制御基板ユニットＨ９０は、主基板（主制御装置Ｈ１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置Ｈ１１３）と表示制御基板（表示制御装置Ｈ１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニットＨ９１は、払出制御基板（払出制御装置Ｈ１１１）と発射制御基板（発射制御装置Ｈ１１２）と電源基板（電源装置Ｈ１１５）とカードユニット接続基板Ｈ１１６とが搭

載されてユニット化されている。
【１５９５】
裏パックユニットＨ９４は、保護カバー部を形成する裏パックＨ９２と払出ユニットＨ９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとしてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。
【１５９６】
なお、主制御装置Ｈ１１０、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び表示制御装置Ｈ１１４、払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２、電源装置Ｈ１１５、カードユニット接続基板Ｈ１１６は、それぞれ基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４に収納されている。基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。
【１５９７】
また、基板ボックスＨ１００（主制御装置Ｈ１１０）及び基板ボックスＨ１０２（払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２が開封されたかどうかを知ることができる。
【１５９８】
払出ユニットＨ９３は、裏パックユニットＨ９４の最上部に位置して上方に開口したタンクＨ１３０と、タンクＨ１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレールＨ１３１と、タンクレールＨ１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレールＨ１３２と、ケースレールＨ１３２の最下流部に設けられ、払出モータＨ２１６（図１２８参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置Ｈ１３３とを備えている。タンクＨ１３０には、遊技ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置Ｈ１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレールＨ１３１には、当該タンクレールＨ１３１に振動を付加するためのバイブレータＨ１３４が取り付けられており、このバイブレータＨ１３４の振動によりタンクレールＨ１３１内に球が詰まることが抑制される。なお、バイブレータＨ１３４は、タンクレールＨ１３１に取り付けられるだけでなく、他のレール部分（通路）に取り付けることも可能である。例えば、上皿Ｈ１７や下皿Ｈ５０に球を送球する球送通路（皿通路形成部材Ｈ１６０）や、上皿Ｈ１７から球発射ユニットＨ１１２ａに球を送球する送球通路（発射位置送球ユニットＨ１７０）に配設しても良い。
【１５９９】
また、払出制御装置Ｈ１１１には状態復帰スイッチＨ１２０が設けられ、発射制御装置Ｈ１１２には可変抵抗器の操作つまみＨ１２１が設けられ、電源装置Ｈ１１５にはＲＡＭ消去スイッチＨ１２２が設けられている。状態復帰スイッチＨ１２０は、例えば、払出モータＨ２１６（図１２８参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみＨ１２１は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）から放音される音の大きさを店舗側で調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２は、パチンコ機Ｈ１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。
【１６００】

なお、タンクＨ１３０に上述した球発射ユニットＨ１１２ａを別途配設して、球発射ユニットＨ１１２ａにより球を打ち出すことでタンクＨ１３０に送球される球が詰まることや、タンクＨ１３０からタンクレールＨ１３１に送球される球が詰まることを抑制しても良い。

【１６０１】

次に、図１２８を参照して、本パチンコ機Ｈ１０の電気的構成について説明する。図１２８は、パチンコ機Ｈ１０の電気的構成を示すブロック図である。

【１６０２】

主制御装置Ｈ１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ（マイクロプロセッサー）Ｈ２０１が搭載されている。ＭＰＵＨ２０１には、該ＭＰＵＨ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ（半導体メモリ）Ｈ２０２と、そのＲＯＭＨ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ（ランダムアクセスメモリ）Ｈ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置Ｈ１１０では、ＭＰＵＨ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｈ８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機Ｈ１０の主要な処理を実行する。

【１６０３】

なお、払出制御装置Ｈ１１１や音声ランプ制御装置Ｈ１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置Ｈ１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置Ｈ１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。

【１６０４】

ＲＡＭＨ２０３は、各種エリア、カウンタ、フラグのほか、ＭＰＵＨ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。なお、ＲＡＭＨ２０３は、パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。

【１６０５】

停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭＨ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭＨ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機Ｈ１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭＨ２０３への書き込みはメイン処理（図示せず）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭＨ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図示せず）において実行される。なお、ＭＰＵＨ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路Ｈ２５２からの停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【１６０６】

主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２０４を介して入出力ポートＨ２０５が接続されている。入出力ポートＨ２０５には、払出制御装置Ｈ１１１、音声ランプ制御装置Ｈ１１３、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ、第２図柄表示装置、第２図柄保留ランプ、特定入賞口Ｈ６５ａの開閉板の下辺を軸として正面側に開閉駆動するための大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドなどからなるソレノイドＨ２０９が接続され、ＭＰＵＨ２０１は、入出力ポートＨ２０５を介してこれらに対し各種コマンドや制御信号を送信する。

【１６０７】

なお、ソレノイドＨ２０９は、大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドだけでなく、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源（駆動モータ）や、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、上皿Ｈ１７へ球を送球するための払出装置Ｈ１３３を駆動する駆動モータ（図示しない）等を含む構成としても良い。

【１６０８】

入出力ポートＨ２０５には、図示しないスイッチ群およびスルーゲートＨ６７を通過したことを検出するセンサ（スルーゲートＨ６７）、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ球が入賞したことを検知する入賞検出センサ（図示しない）、パチンコ機Ｈ１０に振動が入力されたことを検出する振動検出センサ（図示しない）、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に磁石等が近づけられたことを検出する磁力検出センサ等のセンサ群などからなる各種スイッチＨ２０８、電源装置Ｈ１１５に設けられた後述のＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３が接続され、ＭＰＵＨ２０１は各種スイッチＨ２０８から出力される信号や、ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３より出力されるＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２に基づいて各種処理を実行する。

【１６０９】

なお、各種スイッチＨ２０８は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における枠ボタンＨ２２（操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１や機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）を含む構成としても良い。

【１６１０】

払出制御装置Ｈ１１１は、払出モータＨ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵＨ２１１は、そのＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２１３とを有している。

【１６１１】

払出制御装置Ｈ１１１のＲＡＭＨ２１３は、主制御装置Ｈ１１０のＲＡＭＨ２０３と同様に、ＭＰＵＨ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭＨ２１３は、パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１と同様、ＭＰＵＨ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路Ｈ２５２から停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【１６１２】

払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２１４を介して入出力ポートＨ２１５が接続されている。入出力ポートＨ２１５には、主制御装置Ｈ１１０や払出モータＨ２１６、発射制御装置Ｈ１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置Ｈ１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置Ｈ１１１に接続されるが、主制御装置Ｈ１１０には接続されていない。

【１６１３】

発射制御装置Ｈ１１２は、主制御装置Ｈ１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニットＨ１１２ａを制御するものである。

【１６１４】

球発射ユニットＨ１１２ａの回転体Ｈ１１２ａ２は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドルＨ５１に触れていることをタッチセン

サＨ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための発射停止スイッチＨ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）に対応して駆動モータから駆動力が伝達され、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた速度で回転体Ｈ１１２ａ２が回転される。これにより、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた強さで球発射ユニットＨ１１２ａから内レールＨ６１及び外レールＨ６２の対向間に球が発射される。

【１６１５】

音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカーなど）Ｈ２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部Ｈ２９～Ｈ３３など）Ｈ２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置Ｈ１１４で行われる第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵＨ２２１は、そのＭＰＵＨ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２２３とを有している。

【１６１６】

音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２２４を介して入出力ポートＨ２２５が接続されている。入出力ポートＨ２２５には、主制御装置Ｈ１１０、表示制御装置Ｈ１１４、音声出力装置Ｈ２２６、ランプ表示装置Ｈ２２７、その他装置Ｈ２２８、ボタン部Ｈ１８１などがそれぞれ接続されている。その他装置Ｈ２２８には、駆動モータＧ９１０、駆動モータＧ８４０、及び、駆動手段Ｈ７５０が含まれる。

【１６１７】

なお、その他装置Ｈ２２８には、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源だけでなく、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａを含む構成としても良い。

【１６１８】

音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置Ｈ１１４へ通知する。

【１６１９】

また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、ボタン部Ｈ１８１からの入力を監視し、遊技者によってボタン部Ｈ１８１が操作された場合は、第３図柄表示装置Ｈ８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた背面画像を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた背面画像変更コマンドを表示制御装置Ｈ１１４へ送信する。ここで、背面画像とは、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させる主要な画像である第３図柄の背面側に表示される画像のことである。表示制御装置Ｈ１１４は、この音声ランプ制御装置Ｈ１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置Ｈ８１に各種の画像を表示する。

【１６２０】

さらに、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、機能調整操作部Ｈ１９０（決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）からの入力を監視し、遊技者によって機能調整操作部Ｈ１９０が操作された場合は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量を変更したり、第３図柄表示装置Ｈ８１の明るさを変更したり、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさを変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。音量や明るさが変更される場合は、音量や明るさの調整度合いが第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される主要な表示の前方側に数値やボリューム等で一時的に表示される。

【１６２１】

なお、図１２８では、操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１や機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５をまとめて枠ボタンＨ２２として図示している。

【１６２２】

また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、表示制御装置Ｈ１１４から第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１３では、表示制御装置Ｈ１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置Ｈ２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置Ｈ２２７の点灯および消灯を制御する。

【１６２３】

表示制御装置Ｈ１１４は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び第３図柄表示装置Ｈ８１が接続され、音声ランプ制御装置Ｈ１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置Ｈ１１４は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置Ｈ１１３へ送信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置Ｈ２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示と音声出力装置Ｈ２２６からの音声出力とをあわせることができる。

【１６２４】

なお、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８が、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に接続されるように構成して、ＭＰＵＨ２２１が、各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいて各種処理を実行しても良い。また、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８とは別に音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に各種スイッチを接続しても良い。この場合には、主に遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の位置検出センサ等のセンサ群を各種スイッチとして構成することが好ましい。

【１６２５】

電源装置Ｈ１１５は、パチンコ機Ｈ１０の各部に電源を供給するための電源部Ｈ２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路Ｈ２５２と、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図１２８参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３とを有している。電源部Ｈ２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部Ｈ２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチＨ２０８などの各種スイッチや、ソレノイドＨ２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧及びバックアップ電圧を各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対して必要な電圧を供給する。

【１６２６】

停電監視回路Ｈ２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１及び払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＨＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路Ｈ２５２は、電源部Ｈ２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＨＳＧ１を主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１へ出力する。停電信号ＨＳＧ１の出力によって、主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部Ｈ２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置Ｈ１１０

及び払出制御装置Ｈ１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。

【１６２７】

ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３は、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図１２８参照）が押下された場合に、主制御装置Ｈ１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置Ｈ１１０は、パチンコ機Ｈ１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置Ｈ１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置Ｈ１１１に対して送信する。

【１６２８】

次いで、図１２９から図１３５を参照して、上側装飾ユニットＨ１４ａについて説明する。図１２９は、上側装飾ユニットＨ１４ａの分解正面斜視図であり、図１３０は、上側装飾ユニットＨ１４ａの分解背面斜視図であり、図１３１は、化粧ユニットＨ３２０の分解正面斜視図であり、図１３２は、化粧ユニットＨ３２０の分解背面斜視図である。

【１６２９】

初めに、図１２９及び図１３０を参照して、上側装飾ユニットＨ１４ａ、及び、上側装飾ユニットＨ１４ａのベースユニットＨ３１０について説明する。図１２９及び図１３０に示すように、上側装飾ユニットＨ１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ３２０とを主に備える。

【１６３０】

ベースユニットＨ３１０は、正面視において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長い矩形状のベース部材Ｈ３１１と、そのベース部材Ｈ３１１の左右両側に配設されるスピーカー組立体Ｈ３１２と、それら一対のスピーカー組立体Ｈ３１２の間に配設される検出装置Ｈ３１３と、ベース部材Ｈ３１１の左側端部に配設される前扉取付金具Ｈ５７とを主に備える。

【１６３１】

ベース部材Ｈ３１１は、後述する化粧ユニットＨ３２０の背面側（矢印Ｂ方向側）の空間を覆う部材であり、正面視において化粧ユニットＨ３２０と略同一の形状に形成される。また、ベース部材Ｈ３１１は、長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の中央部に前後方向に開口する開口Ｈ３１１ａと、化粧ユニットＨ３２０及びスピーカー組立体Ｈ３１２に接続される配線を係止するための係止部Ｈ３１１ｂと、上方側（矢印Ｕ方向側）の縁部に沿って背面側に向かって立設される覆設部Ｈ３１１ｄと、その覆設部Ｈ３１１ｄよりも下方側に所定の間隔を隔てる位置から正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって立設される立設部Ｈ３１１ｅと、それら覆設Ｈ３１１ｄおよび立設部Ｈ３１１ｅの間の位置において背面側に向かって溝状に形成される係合凹部Ｈ３１１ｃとを主に備える。なお、ベースユニットＨ３１０は、ベース部材Ｈ３１１の背面側から挿通される螺子が化粧ユニットＨ３２０に螺入されることで、化粧ユニットＨ３２０の背面側に締結される。

【１６３２】

開口Ｈ３１１ａは、化粧ユニットＨ３２０及びスピーカー組立体Ｈ３１２に連結される配線を通すための開口であり、複数の配線が挿通可能な大きさに形成される。なお、本実施形態では、化粧ユニットＨ３２０及びスピーカー組立体Ｈ３１２に連結される配線が同じ開口から挿通されるが、これに限られるものではなく、それぞれの配線が異なる開口から挿通されるよう複数の開口を備えるものであっても良い。

【１６３３】

なお、本実施形態では、開口Ｈ３１１ａがベース部材Ｈ３１１の中央部の一か所に形成されることで、ベース部材Ｈ３１１の剛性を確保して、ベース部材Ｈ３１１が破損することを抑制できる。

【１６３４】

係止部Ｈ３１１ｂは、開口Ｈ３１１ａから挿通されスピーカー組立体Ｈ３１２に接続さ

れる配線を係止するためのものであり、ベース部材Ｈ３１１の正面側（矢印Ｆ方向側）から略Ｌ字状に突出して形成される。また、係止部Ｈ３１１ｂは、開口Ｈ３１１ａの下方側からスピーカー組立体Ｈ３１２に向かう直線に沿って複数個形成される。

【１６３５】

覆設部Ｈ３１１ｄは、上側装飾ユニットＨ１４ａが本体枠Ｈ１４ｄに配設される際に、本体枠Ｈ１４ｄの上端面を覆う部分であり、背面側（矢印Ｂ方向側）に向かう立設寸法が本体枠Ｈ１４ｄの前後方向の厚みよりも大きく設定される。これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａを本体枠Ｈ１４ｄに配設した際に本体枠Ｈ１４ｄの上端面を上側装飾ユニットＨ１４ａにより隠すことができる。

【１６３６】

立設部Ｈ３１１ｅは、化粧ユニットＨ３２０とベースユニットＨ３１０とが組み付けられた際に、化粧ユニットＨ３２０の上面板Ｈ３３２を支持する部分であり、上面板Ｈ３３２の厚み分、ベース部材Ｈ３１１の上端面よりも下方側（矢印Ｄ方向側）の位置に形成される。即ち、上面板Ｈ３３２は、背面側（矢印Ｂ方向側）の端部が立設部Ｈ３１１ｅに載置された状態で配設される。また、上面板Ｈ３３２は、背面側の端部に形成される背面側凸部Ｈ３３２ｂがベース部材Ｈ３１１の係合凹部Ｈ３１１ｃに挿入されており、これにより、上面板Ｈ３３２も上方側（矢印Ｕ方向側）への移動が抑制される。

【１６３７】

なお、ベース部材Ｈ３１１は、非透過の樹脂材料から形成されており、これにより、正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される化粧ユニットＨ３２０の光がベース部材Ｈ３１１側（矢印Ｂ方向側）に反射した場合に、その光がベース部材Ｈ３１１側から漏れ出ることを抑制できる。

【１６３８】

スピーカー組立体Ｈ３１２は、電気信号を可聴音波に変換して聴こえるようにする音響機器であるスピーカー（コーン型スピーカー）Ｈ３１２ａと、そのスピーカーＨ３１２ａの前面フランジＨ３１２ａ１をベース部材Ｈ３１１に締結固定する締結部材Ｈ３１２ｂとを主に備える。

【１６３９】

スピーカーＨ３１２ａは、遊技に関連して演出音（録音された音楽、効果音、音声など）を発するものであり、ベース部材Ｈ３１１の開口Ｈ３１１ａを通した配線が接続されることで、音声ランプ制御装置Ｈ１１３に接続されるように構成される（図１２８参照）。音声ランプ制御装置Ｈ１１３によりスピーカーＨ３１２ａに電気振動が伝達されることで、スピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）および背面側から遊技に関連した演出音を放音（出力）することができる。

【１６４０】

なお、スピーカーＨ３１２ａの前面部には、スピーカーＨ３１２ａから発せられる音声の通過を許容する合成繊維素材からなる保護カバーが被覆されている。そして、この保護カバーが被覆されてなるスピーカーＨ３１２ａは、前面部の保護カバーが後述するスピーカーカバーＨ２７を介して外部の大気と直接接触することで、前面部側に放音（出力）された音を篭らせることなく、高音質にして再生出力できる。即ち、スピーカーＨ３１２ａは、前面部から放音（出力）される音が遊技者にとって聞こえやすい周波数帯の音を放音可能に構成される。

【１６４１】

また、スピーカーＨ３１２ａは、振動（動作）して音を発生させる振動板（前面部側）が締結部材Ｈ３１２ｂにより遊技者側（正面視において遊技盤Ｈ１３の中央下方側）に向けた姿勢で配設される。これにより、スピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）から放音（出力）される音を遊技者に聞こえやすくできる。

【１６４２】

締結部材Ｈ３１２ｂは、スピーカーＨ３１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）を覆う形状に形成されると共に、ベース部材Ｈ３１１の正面側（矢印Ｆ方向側）とスピーカーＨ３１２

ａとの間に所定の隙間を形成するようにスピーカーＨ３１２ａを支持した状態でベース部材Ｈ３１１に配設される。これにより、後述する装飾ユニットＨ３３０の配設空間Ｈ３００Ｆにスピーカーを配設した際に、スピーカーＨ３１２ａの背面側に空間（第２空間Ｈ３００Ｂを形成できる。

【１６４３】

また、締結部材Ｈ３１２ｂは、背面側（矢印Ｂ方向側）を覆う複数個所に開口される開口部Ｈ３１２ｂ１を備え、その開口部Ｈ３１２ｂ１を介してスピーカーＨ３１２ａの背面側から放音（出力）される音を第２空間Ｈ３００Ｂに放音することが可能とされる。

【１６４４】

検出装置Ｈ３１３は、光を照射する発光部およびその発光部から照射され対象物によって反射する光を受光する受光部を備える光センサとして形成され、ガラスユニットＨ１６の透明ガラスＨ１６ａの前方における遊技者の手指の有無を検出可能に形成される。なお、遊技者の手指の有無を検出する検出装置Ｈ３１３（各種スイッチＨ２０８（図１２８参照））は、入出力ポートＨ２０５（図１２８参照）に接続され、その各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいてＭＰＵＨ２０１が各種処理（音声出力や液晶表示）を実行可能とされる。

【１６４５】

検出装置Ｈ３１３の発光部は、光を遊技盤Ｈ１３（図１２５参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に出射できるように、上側装飾ユニットＨ１４ａの下方側（矢印Ｄ方向側）に向けて配設される。また、検出装置Ｈ３１３は、後述する化粧ユニットＨ３２０の内部空間に配設されると共に、化粧ユニットＨ３２０に形成される検出用開口部Ｈ３３３ａから発光部の光を上側装飾ユニットＨ１４ａの下方側に出射可能となっている。これにより、検出装置Ｈ３１３は、上側装飾ユニットＨ１４ａの内側の奥まった位置に配設され、遊技者が検出装置Ｈ３１３に直接触れることを抑制できる。

【１６４６】

次いで、図１３１及び図１３２を参照して化粧ユニットＨ３２０について説明する。図１３１及び図１３２に示すように、化粧ユニットＨ３２０は、背面側（矢印Ｂ方向側）が開放した箱状（図１３０参照）に形成される装飾ユニットＨ３３０と、その装飾ユニットＨ３３０の内側に配設される発光ユニットＨ３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０とを主に備える。

【１６４７】

装飾ユニットＨ３３０は、ベースユニットＨ３１０（図１２９参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔（上面板Ｈ３３２、下面板Ｈ３３３及び左面板Ｈ３３４を配設するための間隔）を隔てて配設される正面板Ｈ３３１と、その正面板Ｈ３３１の上方側（矢印Ｕ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）の縁部に沿う位置に配設される上面板Ｈ３３２と、正面板Ｈ３３１の下方側（矢印Ｄ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される下面板Ｈ３３３と、正面板Ｈ３３１の左側（矢印Ｌ方向側）の縁部に沿って配設され上面板Ｈ３３２及び下面板Ｈ３３３の左側（矢印Ｌ方向側）端部を連結する左面板Ｈ３３４と、正面板Ｈ３３１の中央部正面側に配設される装飾板Ｈ３３５とを主に備える。

【１６４８】

正面板Ｈ３３１は、後述する発光ユニットＨ３４０及び音伝達ユニットＨ３５０が配設される部材であり、発光ユニットＨ３４０の光を透過可能な透明な樹脂材料から形成される。また、正面板Ｈ３３１は、ベース部材Ｈ３１１の正面側（矢印Ｆ方向側）に対向配置される本体部Ｈ３３１ａと、その本体部Ｈ３３１ａの外縁部から背面側に向かって撓む外縁部Ｈ３３１ｂとを備え、背面側の中央部が凹む椀型に形成される。なお、正面板Ｈ３３３１は、正面視においてベースユニットＨ３１０の正面側を塞ぐ大きさに形成される。

【１６４９】

本体部Ｈ３３１ａには、正面視おける左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央部に装飾板Ｈ３

３５が配設される領域が形成されると共に、その領域の外側に音伝達ユニットＨ３５０のスピーカーカバーＨ２７を通過する音を上側装飾ユニットＨ１４ａの外側（正面側）に放音可能なスリットＨ３３１ａ１が形成される。

【１６５０】

スリットＨ３３１ａ１は、ベースユニットＨ３１０のスピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に開口して形成される。これにより、スピーカーＨ３１２ａから正面側に放音（出力）される音をスリットＨ３３１ａ１を介して正面側に放音できる。

【１６５１】

また、スリットＨ３３１ａ１は、正面視において一方向に長い長孔に形成され、その幅が遊技球よりも小さく設定される。これにより化粧ユニットＨ３２０の内部に指や遊技球などが挿入されることを抑制できると共に、スピーカーＨ３１２ａからの音の放音性を確保できる。なお、本実施形態では、スリットＨ３３１ａ１は、正面視において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長い長孔に形成される。よって、パチンコ機Ｈ１０に対する上下方向の放音性を確保できる。

【１６５２】

外縁部Ｈ３３１ｂは、本体部Ｈ３３１ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される取付部材Ｈ３４１を正面板Ｈ３３１の内側に収容するための部分であり、外縁部Ｈ３３１ｂの背面側への延設距離が、取付部材Ｈ３４１の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における厚みよりも大きく設定される。これにより、正面板Ｈ３３１の外縁部Ｈ３３１ｂと取付部材Ｈ３４１とが上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる状態で配設される。

【１６５３】

なお、本実施形態では、外縁部Ｈ３３１ｂは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において取付部材Ｈ３４１と所定の隙間を隔てる位置に形成され、これにより、外縁部Ｈ３３１ｂと取付部材Ｈ３４１との対向間に第１連通路Ｈ３００Ｃ（図１３５（ａ）参照）が形成される。

【１６５４】

上面板Ｈ３３２、下面板Ｈ３３３、及び、左面板Ｈ３３４は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に、発光ユニットＨ３４０、音伝達ユニットＨ３５０、及び、一対のスピーカー組立体Ｈ３１２を配設するための空間を形成（区画）するための部材であり、正面板Ｈ３３１の外縁部Ｈ３３１ｂに沿う形状に形成されると共に、上面板Ｈ３３２及び下面板Ｈ３３３の端部同士が左面板Ｈ３３４により連結される。また、正面板Ｈ３３１の右側（矢印Ｒ方向側）縁部には、後述する右側装飾ユニットＨ１４ｃが配設される。これにより、化粧ユニットＨ３２０は、右側が右側装飾ユニットＨ１４ｃにより塞がれることで、背面側のみが開放する箱状に形成される。なお、右側装飾ユニットＨ１４ｃについての詳しい説明は後述する。

【１６５５】

また、化粧ユニットＨ３２０には、箱状に形成される内側に後述する発光ユニットＨ３４０が配設される。なお、発光ユニットＨ３４０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における寸法が化粧ユニットＨ３２０よりも小さく形成される。従って、化粧ユニットＨ３２０に発光ユニットＨ３４０を配設することで、発光ユニットＨ３４０の左右両側（スリットＨ３３１ａ１）の背面側に一対の配設空間Ｈ３００Ｆを形成し、それら一対の配設空間Ｈ３００Ｆを利用して一対のスピーカー組立体Ｈ３１２を化粧ユニットＨ３２０の内側に配設することができる。

【１６５６】

また、上面板Ｈ３３２、下面板Ｈ３３３、及び、左面板Ｈ３３４は、非透過の樹脂材料から形成されており、発光ユニットＨ３４０から出射される光が上側装飾ユニットＨ１４ａの正面板Ｈ３３１からのみ抜け出るように構成される。これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａの発光位置を限定して、遊技者の注目を一部（装飾板Ｈ３３５）に集めやすくできる。

【１６５７】

上面板Ｈ３３２は、正面側（矢印Ｆ方向側）の縁部に沿って正面側に突出する正面側凸部Ｈ３３２ａと、背面側（矢印Ｂ方向側）の縁部に沿って背面側に突出する背面側凸部Ｈ３３２ｂと、螺子を挿通可能な貫通孔を有する締結部Ｈ３３２ｃと、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における両端部の下面側から突設される被係合部Ｈ３３２ｇと、を主に備える。

【１６５８】

正面側凸部Ｈ３３２ａ及び背面側凸部Ｈ３３２ｂは、それぞれ上面板Ｈ３３２の正面側に配設される正面板Ｈ３３１及び上面板Ｈ３３２の背面側に配設されるベース部材Ｈ３１１に係合される部分であり、上面板Ｈ３３２の上方側（矢印Ｕ方向側）の端部よりも一段低い位置から突出される。

【１６５９】

なお、正面側凸部Ｈ３３２ａは、正面板Ｈ３３１の上方側の外縁部Ｈ３３１ｂよりも内側（下方側）に挿入されることで正面板Ｈ３３１と係合され、背面側凸部Ｈ３３２ｂは、ベース部材Ｈ３１１の係合凹部Ｈ３１１ｃに挿入されることでベース部材Ｈ３１１と係合可能とされる。これにより、上面板Ｈ３３２が上側装飾ユニットＨ１４ａに配設された状態で、上面板Ｈ３３２の正面側端部または背面側端部が正面板Ｈ３３１またはベース部材Ｈ３１１に対して浮き上がることを抑制できる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａが組み上げられた状態で、不正な部材が上面板Ｈ３３２側から挿入されることを抑制できる。

【１６６０】

締結部Ｈ３３２ｃは、上面板Ｈ３３２の背面側（矢印Ｂ方向側）の端部から下方側（矢印Ｄ方向側）に向けて突出して形成される。また、締結部Ｈ３３２ｃは、螺子を挿通可能な貫通孔を備えており、その貫通孔に背面側から挿通した螺子を覆設部材Ｈ３４３に螺入することで、正面板Ｈ３３１に配設された覆設部材Ｈ３４３に上面板Ｈ３３２を締結できる。即ち、上面板Ｈ３３２は、正面板Ｈ３３１に覆設部材Ｈ３４３が配設された後、覆設部材Ｈ３４３に締結される。

【１６６１】

被係合部Ｈ３３２ｇは、上面板Ｈ３３２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における両端部から下方側（矢印Ｄ方向側）に向かって突出して形成されており、上面板Ｈ３３２の左右方向外側端部に形成される第１片Ｈ３３２ｇ１と、その第１片Ｈ３３２ｇ１よりも上面板Ｈ３３２の内側に形成される第２片Ｈ３３２ｇ２とを備える。

【１６６２】

第１片Ｈ３３２ｇ１及び第２片Ｈ３３２ｇ２は、後述する右側装飾ユニットＨ１４ｃの屈曲部Ｈ４５２の係合部Ｈ４５２ｂを対向間に挿入する部分であり（図１４２参照）、屈曲部Ｈ４５２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における厚みよりも、若干大きい隙間を隔てて配設される。

【１６６３】

下面板Ｈ３３３は、上側装飾ユニットＨ１４ａの下面を構成する部分であり、正面側（矢印Ｆ方向側）から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かうに連れて上方側（矢印Ｕ方向側）に傾斜する状態で正面板Ｈ３３１に配設される。言い換えると、下面板Ｈ３３３は遊技盤Ｈ１３（ベースユニットＨ３１０）から正面側に向かって離れるほど下方側（矢印Ｄ方向側）に張り出す状態で配設される。

【１６６４】

これにより、正面板Ｈ３３１の正面視における外形（特に上下方向の大きさ）を大きくした場合であっても、遊技盤Ｈ１３の遊技領域が小さくなることを抑制できる。よって、遊技盤Ｈ１３の遊技領域を確保したまま、正面板Ｈ３３１の装飾性（意匠性）を向上（正面板Ｈ３３１の装飾可能な領域を大きく）できる。

【１６６５】

また、下面板Ｈ３３３は、ベース部材Ｈ３１１に配設される検出装置Ｈ３１３の発光部および受光部と対向する位置に開口される検出用開口部Ｈ３３３ａと、正面側（矢印Ｆ方向側）の縁部に沿って複数位置に開口される放音用開口部Ｈ３３３ｂと、それら検出用開

口部Ｈ３３３ａ及び放音用開口部Ｈ３３３ｂの間の位置から上方側（矢印Ｕ方向側）に向かって立設される区画壁Ｈ３３３ｃとを備える。

【１６６６】

検出用開口部Ｈ３３３ａは、上述したように検出装置Ｈ３１３の検出光を通過させるための開口であり、検出装置Ｈ３１３の発光部および受光部と対応する大きさに形成される。これにより、ガラスユニットＨ１６の透明ガラスＨ１６ａの前方における遊技者の手指の有無を検出装置Ｈ３１３により検出可能とされる。

【１６６７】

また、検出用開口部Ｈ３３３ａは、検出装置Ｈ３１３側に向かって立設される立設部Ｈ３３３ａ１を備え、その立設部Ｈ３３３ａ１の立設先端側に検出装置Ｈ３１３が配設される。これにより、検出用開口部Ｈ３３３ａと検出装置Ｈ３１３との接続部分を上側装飾ユニットＨ１４ａの内側に形成できる。その結果、検出装置Ｈ３１３と検出用開口部Ｈ３３３ａの開口端との隙間を上側装飾ユニットＨ１４ａの内側に設定でき（遊技者から視認しにくくでき）、検出装置Ｈ３１３と検出用開口部Ｈ３３３ａの開口端との間の隙間から不正な部材が上側装飾ユニットＨ１４ａの内部に挿入されることを抑制できる。

【１６６８】

なお、本実施形態では、検出装置Ｈ３１３が、光により遊技者の手指を検出するものとして説明したが、これに限らず、パチンコ機Ｈ１０に振動が入力されたことを検出する振動検出センサ、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に磁石等が近づけられたことを検出する磁力検出センサ等が配設されるものであっても良い。

【１６６９】

放音用開口部Ｈ３３３ｂは、スピーカーＨ３１２ａから放音（出力）される音を、ガラスユニットＨ１６の正面側（上側装飾ユニットＨ１４ａの下方側）に放音して、正面側からスピーカーＨ３１２ａの音が遊技者に伝達されるようにするための開口であり、正面視においてスピーカーＨ３１２ａと遊技盤Ｈ１３の第３図柄表示装置Ｈ８１（図１２５参照）とを繋ぐ位置に形成される。

【１６７０】

区画壁Ｈ３３３ｃは、下面板Ｈ３３３の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に亘って立設される。また、区画壁Ｈ３３３ｃの上方側（矢印Ｕ方向側）への立設距離は、上側装飾ユニットＨ１４ａを組み立てた際に、先端部が覆設部材Ｈ３４３の下面に当接される長さに設定される。よって、上側装飾ユニットＨ１４ａを組み立てた状態では、区画壁Ｈ３３３ｃの正面側（矢印Ｆ方向側）と区画壁Ｈ３３３ｃの背面側（矢印Ｂ方向側）とが区画壁Ｈ３３３ｃにより区画される。

【１６７１】

装飾板Ｈ３３５は、模様やキャラクターや文字等の情報を表示する板部材であり、全体が透明な樹脂材料から形成されると共に、正面側（矢印Ｆ方向側）の表面に模様やキャラクターや文字等の情報が描かれる。これにより、複数機種のパチンコ機Ｈ１０がある場合には、装飾板Ｈ３３５の装飾を見ることで遊技者にどのパチンコ機Ｈ１０であるのか認識させやすくなっている。

【１６７２】

なお、パチンコ機Ｈ１０の機種（遊技機の仕様）を変更する場合には、上側装飾ユニットＨ１４ａの全部を変更しなくても、装飾板Ｈ３３５のみを該当の模様やキャラクターや文字等の情報が描かれる装飾板Ｈ３３５に変更することで、変更先のパチンコ機Ｈ１０に該当する装飾に切り替えることが可能となっている。

【１６７３】

なお、本実施形態では、上面板Ｈ３３２、下面板Ｈ３３３、及び、左面板Ｈ３３４は、非透過の樹脂材料から形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上面板Ｈ３３２が透明な樹脂材料で形成され、下面板Ｈ３３３及び左面板Ｈ３３４が非透過の樹脂材料で形成され、発光ユニットＨ３４０から出射される光を正面板Ｈ３３１側から出射するだけでなく、上面板Ｈ３３２が配設される上方側からも出

射可能に構成されていても良い。
【１６７４】
　また、上面板Ｈ３３２、下面板Ｈ３３３、及び、左面板Ｈ３３４を透明な樹脂材料から形成しても良く、この場合には、装飾ユニットＨ３３０の全体から発光ユニットＨ３４０の光を出射することができる。
【１６７５】
　発光ユニットＨ３４０は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に締結固定される取付部材Ｈ３４１と、その取付部材Ｈ３４１の背面側に配設され光を発光可能に構成される基板部材Ｈ３４２と、基板部材Ｈ３４２との背面側を覆う覆設部材Ｈ３４３とを主に備える。
【１６７６】
　取付部材Ｈ３４１は、装飾ユニットＨ３３０の正面板Ｈ３３１の背面と対向する位置に配設され、正面視において装飾ユニットＨ３３０の装飾板Ｈ３３５と同形状に形成される板状の正面側板部Ｈ３４１ａと、その正面側板部Ｈ３４１ａの上方側（矢印Ｕ方向側）の縁部に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって立設される上側縁部Ｈ３４１ｂと、正面側板部Ｈ３４１ａの下方側（矢印Ｄ方向側）の縁部に沿って正面側に向かって立設される下側縁部Ｈ３４１ｃと、その下側縁部Ｈ３４１ｃと所定の間隔を隔てて下側縁部Ｈ３４１ｃに沿って延設される区画部Ｈ３４１ｄとを主に備え、正面側板部Ｈ３４１ａの背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子により、正面板Ｈ３３１の背面に締結される。なお、取付部材Ｈ３４１は、非透過性の樹脂材料から形成される。
【１６７７】
　正面側板部Ｈ３４１ａは、後述する基板部材Ｈ３４２のＬＥＤ（発光ダイオード）Ｈ３４２ａの光の照射領域を区画する部材であり、基板部材Ｈ３４２のＬＥＤＨ３４２ａと対応する位置に開口する複数の開口部Ｈ３４１ａ１を備える。
【１６７８】
　取付部材Ｈ３４１は、非透過性の樹脂材料から形成されるので、基板部材Ｈ３４２のＬＥＤＨ３４２ａの光を開口部Ｈ３４１ａ１を介して正面側（矢印Ｆ方向側）に出射することで、基板部材Ｈ３４２のＬＥＤＨ３４２ａの光の照射領域が広がりすぎることを抑制できる。その結果、複数のＬＥＤの発光色が混ざり合うことを抑制して、領域ごとに色違いの発光表示を装飾ユニットＨ３３０（装飾板Ｈ３３５）にさせることができる。
【１６７９】
　なお、取付部材Ｈ３４１の正面側板部Ｈ３４１ａは、正面板Ｈ３３１を介して装飾板Ｈ３３５の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されており、装飾板Ｈ３３５に描かれる模様やキャラクターや文字等（本実施形態では文字）の情報の表示を部分的に色違いで発光させられるようになっている。
【１６８０】
　上側縁部Ｈ３４１ｂは、正面側板部Ｈ３４１ａの開口部Ｈ３４１ａ１を介してＬＥＤＨ３４２ａから出射される光が上方側（矢印Ｕ方向側）に漏れ出ることを抑制する部分であり、正面板Ｈ３３１の背面に正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が当接する大きさに形成される。
【１６８１】
　また、上側縁部Ｈ３４１ｂの上方側の側面には、凹凸状に形成される凹凸面Ｈ３４１ｂ１が形成される。凹凸面Ｈ３４１ｂ１は、凸部の頂点が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延びて形成され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に向かって複数の凹凸が現れるように形成される。
【１６８２】
　下側縁部Ｈ３４１ｃは、正面側板部Ｈ３４１ａの開口部Ｈ３４１ａ１を介してＬＥＤＨ３４２ａから出射される光が下方側（矢印Ｄ方向側）に漏れ出ることを抑制する部分であり、正面板Ｈ３３１の背面に正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が当接する大きさに形成される。

【１６８３】
　また、下側縁部Ｈ３４１ｃの下方側の側面には、凹凸状に形成される凹凸面Ｈ３４１ｃ１が形成される。凹凸面Ｈ３４１ｂ１は、凸部の頂点が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延びて形成され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に向かって複数の凹凸が現れるように形成される。
【１６８４】
　区画部Ｈ３４１ｄは、正面側板部Ｈ３４１ａの開口部Ｈ３４１ａ１を介して区画部Ｈ３４１ｄと下側縁部Ｈ３４１ｃとの間に出射されるＬＥＤＨ３４２ａの光を区画する部分であり、下側縁部Ｈ３４１ｃと上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の間隔を隔てる位置に形成されると共に、正面板Ｈ３３１の背面に正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が当接する大きさに形成される。これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａを正面視した際に、上方側の領域と下方側の領域とで上側装飾ユニットＨ１４ａの発光態様を変更（区画）することができる。
【１６８５】
　また、区画部Ｈ３４１ｄは、正面側（矢印Ｆ方向側）への立設距離が下側縁部Ｈ３４１ｃの正面側への立設距離よりも大きく設定される。これにより、区画部Ｈ３４１ｄと下側縁部Ｈ３４１ｃとの間に出射される光を区画部Ｈ３４１ｄにより下方側へ反射させやすくできる。即ち、パチンコ機Ｈ１０の上方側に配設される上側装飾ユニットＨ１４ａから遊技者側（下方側）に向かって光を照射させやすくできる。その結果、光による演出で遊技者の興趣を高めやすくできる。
【１６８６】
　基板部材Ｈ３４２は、光を出射するＬＥＤ（発光ダイオード）Ｈ３４２ａが正面側（矢印Ｆ方向側）に複数個配設される。このＬＥＤＨ３４２ａにより基板部材Ｈ３４２の正面側に向けて光を出射可能に形成される。また、基板部材Ｈ３４２の背面側（矢印Ｂ方向側）には、基板部材Ｈ３４２に接続される配線を繋ぐコネクタＨ３４２ｂが配設される。
【１６８７】
　基板部材Ｈ３４２は、コネクタＨ３４２ｂにベース部材Ｈ３１１の開口Ｈ３１１ａを通した配線が接続されることにより、ＬＥＤＨ３４２ａから光を出射することが可能となっている。また、基板部材Ｈ３４２は、取付部材Ｈ３４１の正面側板部Ｈ３４１ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される係合部に係止されることにより、取付部材Ｈ３４１の背面側に配設される。
【１６８８】
　覆設部材Ｈ３４３は、基板部材Ｈ３４２の背面側（矢印Ｂ方向側）を覆う部材であり、正面視における外形が基板部材Ｈ３４２よりも大きく形成され、背面側から挿通される螺子により取付部材Ｈ３４１に締結される。
【１６８９】
　また、覆設部材Ｈ３４３は、正面視における中央部が背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって膨出し、正面側（矢印Ｆ方向側）の中央部が開口する箱状に形成される。さらに、覆設部材Ｈ３４３は、正面視における上方側（矢印Ｕ方向側）の側面から上方に向かって立設される区画壁Ｈ３４３ｂを備え、上側装飾ユニットＨ１４ａを組み立てた際に区画壁Ｈ３４３ｂの先端部が上面板Ｈ３３２と当接される。
【１６９０】
　なお、区画壁Ｈ３４３ｂは左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設されており、上側装飾ユニットＨ１４ａを組み立てた状態において、区画壁Ｈ３４３ｂの正面側（矢印Ｆ方向側）と区画壁Ｈ３４３ｂの背面側とが区画壁Ｈ３４３ｂにより区画される。
【１６９１】
　正面視における覆設部材Ｈ３４３の中央部の開口形状は、基板部材Ｈ３４２の正面視における外形と酷似した形状に形成される。よって、覆設部材Ｈ３４３を取付部材Ｈ３４１に配設した場合に、取付部材Ｈ３４１の背面側に配設される基板部材Ｈ３４２の背面に覆設部材Ｈ３４３が当接することを抑制できる。これにより、ＬＥＤＨ３４２ａを発光する

ことにより基板部材Ｈ３４２に生じる熱を覆設部材Ｈ３４３の内部空間に逃がすことができる。その結果、基板部材Ｈ３４２（ＬＥＤＨ３４２ａ）が破損することを抑制できる。

【１６９２】

また、覆設部材Ｈ３４３は、背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって膨出した端部に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通する貫通孔（図示しない）が形成され、その貫通孔を介して、基板部材Ｈ３４２により発生する熱を覆設部材Ｈ３４３の外側に逃がすことができると共に、基板部材Ｈ３４２のコネクタＨ３４２ｂに接続される配線を挿通できる。

【１６９３】

なお、覆設部材Ｈ３４３は、非透過性の樹脂材料から形成される。これにより、基板部材Ｈ３４２のＬＥＤＨ３４２ａから照射される光が背面側に向かって反射したとしても、覆設部材Ｈ３４３を介して光が背面側に出射されることを抑制できる。その結果、ＬＥＤＨ３４２ａの光を所定の領域から出射させやすくでき、光による演出効果を向上しやすくできる。

【１６９４】

音伝達ユニットＨ３５０は、正面視においてベースユニットＨ３１０に一対配設されるスピーカー組立体Ｈ３１２と対応する位置に配設されるものであり、一対のスピーカー組立体Ｈ３１２の正面側（矢印Ｆ方向側）にそれぞれ１組ずつ配設される。

【１６９５】

なお、本実施形態では、一対配設される音伝達ユニットＨ３５０の形状が左右で若干異なるが主要な構成は左右で同一であるため、左右で同一の符号を付すと共に正面視において左側に配設される音伝達ユニットＨ３５０を参照して説明する。

【１６９６】

音伝達ユニットＨ３５０は、パンチングメタルから形成される薄板部材のスピーカーカバーＨ２７と、そのスピーカーカバーＨ２７の前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）に配設される第１保持部材Ｈ３５１及び第２保持部材Ｈ３５２とを主に備え、装飾ユニットＨ３３０に一対形成される配設空間Ｈ３００Ｆの内部に配設される。

【１６９７】

スピーカーカバーＨ２７は、スピーカーＨ３１２ａから正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって放音（出力）される音を通過させると共に、スピーカーＨ３１２ａ側へ物体が挿通されることを抑制するための保護部材であり、スピーカーＨ３１２ａの振動板（音を発生させる部分）に沿って配設される。

【１６９８】

また、スピーカーカバーＨ２７には、スピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる部分に複数の貫通孔が形成され、その貫通孔を介してスピーカーＨ３１２ａの正面側から放音（出力）される音を上側装飾ユニットＨ１４ａの外側に放音可能とされる。

【１６９９】

なお、スピーカーカバーＨ２７の貫通孔の穴径は、直径２ミリほどで形成されており、遊技者の指や不正な部材が挿通されにくいように形成される。その結果、スピーカーＨ３１２ａの振動板にいたずらがされることを抑制して、スピーカーＨ３１２ａが破損することを抑制できる。

【１７００】

また、本実施形態では、スピーカーカバーＨ２７の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔を隔てて正面板Ｈ３３１のスリットＨ３３１ａ１が配置されるように構成される。これにより、スリットＨ３３１ａ１を介してスピーカーＨ３１２ａ側に不正な部材を挿通できたとしても、スピーカーカバーＨ２７までの所定の隙間により不正な部材を撓ませることで、不正な部材がそのままスピーカーカバーＨ２７の貫通孔に挿通されることを抑制できる。その結果、スピーカーＨ３１２ａの振動板にいたずらがされることを抑制して、スピーカーＨ３１２ａが破損することを抑制できる。

【１７０１】

第１保持部材Ｈ３５１及び第２保持部材Ｈ３５２は、スピーカーカバーＨ２７を保持す

る部材であり、スピーカーカバーＨ２７よりも大きい外形に形成され、スピーカーカバーＨ２７の前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）にそれぞれ配設される。

【１７０２】

また、第１保持部材Ｈ３５１及び第２保持部材Ｈ３５２は、スピーカーカバーＨ２７を通して放音される音が遮られないよう中央部（スピーカーカバーＨ２７の貫通孔が形成される領域と対応する部分）に開口する第１開口部Ｈ３５１ａ、第２開口部Ｈ３５２ａを備え、それら第１開口部Ｈ３５１ａ、第２開口部Ｈ３５２ａ及びスピーカーカバーＨ２７の貫通孔を介して、スピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）から放音（出力）される音を上側装飾ユニットＨ１４ａの外部に放音できる。

【１７０３】

さらに、スピーカーカバーＨ２７は、スピーカーＨ３１２ａの前面フランジＨ３１２ａ１と当接する位置に配設される。これにより、スピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）から放音（出力）される音をスピーカーカバーＨ２７の貫通孔を介して、音伝達ユニットＨ３５０の正面側に放音することができる。

【１７０４】

一方、スピーカーＨ３１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）から放音（出力）される音は、スピーカーＨ３１２ａよりも正面側（矢印Ｆ方向側）が音伝達ユニットＨ３５０により塞がれる（スピーカーＨ３１２ａの正面側と背面側とが音伝達ユニットＨ３５０により区画される）ことにより、音伝達ユニットＨ３５０の正面側に回り込むことが抑制される。即ち、スピーカーＨ３１２ａの背面側から放音（出力）され、開口部Ｈ３１２ｂ１を介して第２空間Ｈ３００Ｂに放音される音は、後述する第１空間Ｈ３００Ａ側に回り込むことが抑制される。

【１７０５】

即ち、装飾ユニットＨ３００の一対の配設空間Ｈ３００Ｆのそれぞれに音伝達ユニットＨ３５０及びスピーカーＨ３１２ａが配設されることで、配設空間Ｈ３００Ｆの正面側と背面側とが区画され、スピーカーＨ３１２ａの正面側に第１空間Ｈ３００Ａが形成されると共にスピーカーＨ３１２ａの背面側に第２空間Ｈ３００Ｂが形成される。

【１７０６】

なお、音伝達ユニットＨ３５０は、第１保持部材Ｈ３５１及び第２保持部材Ｈ３５２の間にスピーカーカバーＨ２７を挟持した状態で、第２保持部材Ｈ３５２の背面側から挿通される螺子を第１保持部材Ｈ３５１に螺入することで、１組のユニットとして構成される。また、１組のユニットとして構成された音伝達ユニットＨ３５０は、第２保持部材Ｈ３５２の背面側から挿通される螺子を覆設部材Ｈ３４３に螺入することで、発光ユニットＨ３４０と共に装飾ユニットＨ３３０に締結できる。

【１７０７】

次いで、図１３３を参照して、放音用開口部Ｈ３３３ｂからの音の放音について説明する。図１３３は、上側装飾ユニットＨ１４ａの正面図である。なお、図１３３では、装飾ユニットＨ３３０が透明視された状態で図示される。

【１７０８】

図１３３に示すように、上側装飾ユニットＨ１４ａは、正面視におけるスピーカーカバーＨ２７の周囲を取り囲む態様で第１保持部材Ｈ３５１及び第２保持部材Ｈ３５２が配設される（即ち、スピーカーＨ３１２ａの正面側と背面側とが音伝達ユニットＨ３５０及びスピーカーＨ３１２ａにより区画され、配設空間Ｈ３００Ｆの正面側を区画した第１空間Ｈ３００Ａが形成されると共に、配設空間Ｈ３００Ｆの背面側を区画した第２空間Ｈ３００Ｂが形成される）。

【１７０９】

これにより、スピーカーＨ３１２ａから正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって放音（出力）され、スピーカーカバーＨ２７の貫通孔を介してスピーカーカバーＨ２７の正面側に放音される音が音伝達ユニットＨ３５０（第１保持部材Ｈ３５１及び第２保持部材Ｈ３５２）の背面側（矢印Ｂ方向側）に回り込むことを抑制できる。

【１７１０】
　また、音伝達ユニットＨ３５０及び発光ユニットＨ３４０の正面側（矢印Ｆ方向側）を取り囲む態様で装飾ユニットＨ３３０（図１３１参照）が配設されると共に、左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）に一対配設される音伝達ユニットＨ３５０の間に発光ユニットＨ３４０が配設される。これにより、それぞれのスピーカーカバーＨ２７の正面側に装飾ユニットＨ３３０、発光ユニットＨ３４０、音伝達ユニットＨ３５０で囲まれた第１空間Ｈ３００Ａ（図１３３参照）が形成される。
【１７１１】
　よって、左側のスピーカーカバーＨ２７の貫通孔を介してスピーカーカバーＨ２７の正面側（矢印Ｆ方向側）に放音される音を左側の第１空間Ｈ３００Ａに伝達させることができると共に、右側のスピーカーカバーＨ２７の貫通孔を介してスピーカーカバーＨ２７の正面側に放音される音を右側の第１空間Ｈ３００Ａに伝達させることができる。
【１７１２】
　また、図１３３に示すように第１空間Ｈ３００Ａを形成する領域における下面板Ｈ３３３には、放音用開口部Ｈ３３３ｂが形成される。これにより、スピーカーカバーＨ２７の貫通孔を介して第１空間Ｈ３００Ａに放音される音を、正面板Ｈ３３１のスリットＨ３３１ａ１からだけではなく、放音用開口部Ｈ３３３ｂからも放音させることができる。これにより、スピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）から放音される音を、上側装飾ユニットＨ１４ａの正面側（スリットＨ３３１ａ１側）及び下方側（放音用開口部Ｈ３３３ｂ側）から放音させることができる。
【１７１３】
　即ち、第８実施形態における上側装飾ユニットＨ１４ａでは、スピーカーＨ３１２ａから放音（出力）した音をスピーカーＨ３１２ａの正面側のスリットＨ３３１ａ１と、スピーカーＨ３１２ａの下方側の放音用開口部Ｈ３３３ｂの２箇所から放音することができる。これにより、パチンコ機Ｈ１０の外側に音を好適に拡散する（広げる）ことができ、音の出力の態様を改善できる。その結果、音による演出効果を高めることができる。
【１７１４】
　また、第８実施形態では、スリットＨ３３１ａ１と放音用開口部Ｈ３３３ｂとが第１空間Ｈ３００Ａに対して異なる方向に開口されるので、第１空間Ｈ３００Ａから異なる２方向に向けて音を放音することができる。これにより、音を立体的に拡散する（広げる）ことができ、音の出力の態様を改善できる。その結果、音による演出効果を高めることができる。
【１７１５】
　なお、放音用開口部Ｈ３３３ｂは、スピーカーＨ３１２ａが配設される位置よりも上側装飾ユニット（パチンコ機Ｈ１０）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に形成される。これにより、放音用開口部Ｈ３３３ｂを介して上側装飾ユニットＨ１４ａの下方側から放音される音を正面視におけるパチンコ機Ｈ１０の中央側に伝達しやすくできる。その結果、パチンコ機Ｈ１０を遊技する遊技者に上側装飾ユニットＨ１４ａから放音される音を聞かせやすくできる。
【１７１６】
　また、放音用開口部Ｈ３３３ｂは、上述したように正面視においてスピーカーＨ３１２ａ（スピーカーカバーＨ２７）と遊技盤Ｈ１３の第３図柄表示装置Ｈ８１（図１２５参照）とを繋ぐ位置に形成される。即ち、放音用開口部Ｈ３３３ｂは、正面視においてスピーカーＨ３１２ａ（スピーカーカバーＨ２７）と第３図柄表示装置Ｈ８１との間の位置に形成される。
【１７１７】
　これにより、スピーカーＨ３１２ａ（放音用開口部Ｈ３３３ｂ）から放音（出力）される音が遊技者に聞こえるタイミングと、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される演出が遊技者に視認されるタイミングとに差ができることを抑制できる。よって、スピーカーＨ３１２ａ（放音用開口部Ｈ３３３ｂ）から放音（出力）される音と第３図柄表示装置Ｈ８１の

表示による演出とを遊技者に関連付けやすくできる。
【１７１８】
なお、第８実施形態における放音用開口部Ｈ３３３ｂは、スピーカーＨ３１２ａ（スピーカーカバーＨ２７）と第３図柄表示装置Ｈ８１との間の位置に形成される場合について説明したが、第３図柄表示装置Ｈ８１でなく他の表示装置との間に放音用開口部Ｈ３３３ｂを形成しても良い。例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側（矢印Ｆ方向側）を変位可能に形成される花回転ユニットＧ４００（図１９６参照）の変位領域との間に放音用開口部Ｈ３３３ｂを形成して、花回転ユニットＧ４００の変位に合わせてスピーカーＨ３１２ａ（放音用開口部Ｈ３３３ｂ）から音を出力しても良い。
【１７１９】
次いで、図１３４及び図１３５を参照して、上側装飾ユニットＨ１４ａの内部に形成される音の伝達経路について説明する。図１３４は、上側装飾ユニットＨ１４ａ及び右側装飾ユニットＨ１４ｃの正面図であり、図１３５（ａ）は、図１３４におけるＸ０７ａ線における上側装飾ユニットＨ１４ａの断面模式図であり、図１３５（ｂ）は、図１３４におけるＸ０７ｂ線における上側装飾ユニットＨ１４ａの断面模式図である。なお、図１３４及び図１３５では、右側装飾ユニットＨ１４ｃが上側装飾ユニットＨ１４ａに配設された状態が図示される。なお、図１３４及び図１３５では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。
【１７２０】
図１３４及び図１３５（ａ）に示すように、上側装飾ユニットＨ１４ａの正面板Ｈ３３１と取付部材Ｈ３４１とは、外縁部Ｈ３３１ｂの上方側（矢印Ｕ方向側）の内面と取付部材Ｈ３４１の上側縁部Ｈ３４１ｂとの間に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の隙間（第１連通路Ｈ３００Ｃ（図１３５（ａ）参照））を有した状態で正面板Ｈ３３１に取付部材Ｈ３４１が配設される。
【１７２１】
また、外縁部Ｈ３３１ｂの上方側（矢印Ｕ方向側）の内面と取付部材Ｈ３４１の上側縁部Ｈ３４１ｂとの間に形成される隙間は、正面側（矢印Ｆ方向側）が正面板Ｈ３３１の本体部Ｈ３３１ａにより塞がれ、背面側（矢印Ｂ方向側）が覆設部材Ｈ３４３の区画壁Ｈ３４３ｂにより塞がれており、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）にも所定の隙間を有した状態とされる。これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａの上方側に、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される空間の第１連通路Ｈ３００Ｃが形成される。
【１７２２】
第１連通路Ｈ３００Ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される両端が、スピーカーカバーＨ２７の正面側（矢印Ｆ方向側）に形成される第１空間Ｈ３００Ａに連通される。これにより、一対のスピーカーカバーＨ２７の正面側に形成されるそれぞれの第１空間Ｈ３００Ａが、第１連通路Ｈ３００Ｃにより連通される。
【１７２３】
よって、それぞれのスピーカーＨ３１２ａから正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって放音（出力）され、スピーカーカバーＨ２７の貫通孔を介してスピーカーカバーＨ２７の正面側の第１空間Ｈ３００Ａに放音される音を、第１連通路Ｈ３００Ｃを介して隣の第１空間Ｈ３００Ａのスリット状Ｈ３３１ａ１又は放音用開口部Ｈ３３３ｂから上側装飾ユニットＨ１４ａの外側に放音することができる。
【１７２４】
即ち、一方側（例えば、左側）に配設されるスピーカーＨ３１２ａから放音（出力）される音を、他方側（例えば、右側）のスピーカーＨ３１２ａの正面側に迂回させて、上側装飾ユニットＨ１４ａから放音することができる。
【１７２５】
ここで、第１連通路Ｈ３００Ｃを備えていない（即ち、一対の配設空間Ｈ３００Ｆが連通されていない）場合には、それぞれのスピーカーＨ３１２ａから放音（出力）される音を、それぞれのスピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）の第１空間Ｈ３００Ａを

介して上側装飾ユニットＨ１４ａからしか放音できない。そのため、第１連通路Ｈ３００Ｃを備えていない場合には、一対のスピーカーＨ３１２ａのどちらか一方側が破損した場合に、上側装飾ユニットＨ１４ａの他方側からしか音が放音されなくなる。そのため、遊技者に違和感を与える可能性がある。

【１７２６】

これに対し、第８実施形態では、一方側に配設されるスピーカーＨ３１２ａから放音（出力）される音を他方側に配設されるスピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に迂回させて上側装飾ユニットＨ１４ａから放音することができるので、一対のスピーカーＨ３１２ａのどちらか一方側が破損した場合でも、他方側のスピーカーＨ３１２ａから放音される音を上側装飾ユニットＨ１４ａの両側から放音させることができる。その結果、一対のスピーカーＨ３１２ａのどちらか一方側が破損した場合でも、遊技者が違和感を感じることを抑制でき、遊技者が遊技を行わなくなることを抑制できる。

【１７２７】

次いで、図１３３及び図１３４（ｂ）に示すように、下面板Ｈ３３３と覆設部材Ｈ３４３とは、下面板Ｈ３３３と覆設部材Ｈ３４３との間に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の隙間（第２連通路Ｈ３００Ｄ（図１３５（ｂ）参照））を有した状態で覆設部材Ｈ３４３に下面板Ｈ３３３が配設される。

【１７２８】

また、下面板Ｈ３３３と覆設部材Ｈ３４３との間に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に形成される隙間は、正面側（矢印Ｆ方向側）が下面板Ｈ３３３の区画壁Ｈ３３３ｃにより塞がれており、背面側（矢印Ｂ方向側）がベース部材Ｈ３１１により塞がれる。即ち、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）にも所定の隙間（第２連通路Ｈ３００Ｄ）を有した状態とされ、上側装飾ユニットＨ１４ａの下方側に、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される第２連通路Ｈ３００Ｄが形成される。

【１７２９】

第２連通路Ｈ３００Ｄは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される両端が、スピーカーＨ３１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される第２空間Ｈ３００Ｂに連通される。これにより、一対のスピーカーＨ３１２ａの背面側に形成されるそれぞれの第２空間Ｈ３００Ｂが、第２連通路Ｈ３００Ｄにより連通される。

【１７３０】

これにより、それぞれのスピーカーＨ３１２ａから背面側に向かって放音され、開口部Ｈ３１２ｂ１を介して第２空間Ｈ３００Ｂに放音される音を第２連通路Ｈ３００Ｄ内に伝達させることができる。

【１７３１】

下面板Ｈ３３３の第２連通路Ｈ３００Ｄの下面側の内壁を形成する部分には、検出用開口部Ｈ３３３ａが形成される。これにより、第２空間Ｈ３００Ｂ内を伝わる音は、検出用開口部Ｈ３３３ａから放音され、上側装飾ユニットＨ１４ａの下方側から放音されることとなる。

【１７３２】

これにより、一方側に配設されるスピーカーＨ３１２ａの背面側から放音（出力）される音と、他方側に配設されるスピーカーＨ３１２ａの背面側から放音（出力）される音とを、第２空間Ｈ３００Ｂ内で合わせて検出用開口部Ｈ３３３ａから放音することができる。そのため、一方側に配設されるスピーカーＨ３１２ａ、又は、他方側に配設されるスピーカーＨ３１２ａのどちらか（例えば、一方側）が破損して音が一方側のスピーカーＨ３１２ａから放音（出力）されなくなったとしても、破損していない他方側のスピーカーＨ３１２ａから放音（出力）される音を検出用開口部Ｈ３３３ａから放音することができるので、遊技者が違和感を感じることを抑えることができる。

【１７３３】

また、第８実施形態における検出用開口部Ｈ３３３ａでは、検出装置Ｈ３１３の検出光及び反射光を通過させる役割と、音を上側装飾ユニットＨ１４ａの外側に放音させるため

の役割とをさせることができる。従って、下面板Ｈ３３３に形成する開口部の数を少なくすることができる。その結果、下面板Ｈ３３３の剛性が低下することを抑制できる。

【１７３４】

さらに、スピーカーＨ３１２ａには、背面側（矢印Ｂ方向側）から配線等がコネクタにより連結されため、スピーカーＨ３１２ａの背面側に不正な部材が挿入されると不正な部材によりパチンコ機Ｈ１０の不正がされやすいところ、スピーカーＨ３１２ａの背面側に形成される第２連通路Ｈ３００Ｄからの音の放音部分に検出装置Ｈ３１３が配設される構造であるので、検出装置Ｈ３１３により上側装飾ユニットＨ１４ａの内部に不正な部材が挿入されたことを検出装置Ｈ３１３により検出させることができる。その結果、不正部材が挿入されたまま遊技が継続されることを抑制できる。

【１７３５】

なお、検出装置Ｈ３１３により不正がされていないか確認するタイミングとしては、パチンコ機Ｈ１０の電源投入時や、パチンコ機Ｈ１０の大当たりの終了時等、検出装置Ｈ３１３により遊技盤Ｈ１３の正面側（矢印Ｆ方向側）の人の手や指を検知していない時に、不正部材が検出用開口部内に挿入されていないかを検出するように構成される。

【１７３６】

ここで、コーン型のスピーカーＨ３１２ａは、スピーカーの特性上、正面側（矢印Ｆ方向側）から放音される音と背面側（矢印Ｂ方向側）から放音される音とが逆位相の関係になる。そのため、正面側から放音される音と背面側から放音される音とを合わせる（混ぜる）とそれらの音が打ち消し合う恐れがある。

【１７３７】

これに対し、本実施形態では、スピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）から放音される音と、スピーカーＨ３１２ａの背面側から放音される音とを、上側装飾ユニットＨ１４ａの異なる経路を通じて上側装飾ユニットＨ１４ａから放音させることができるので、正面側から放音される音と、背面側から放音される音とが打ち消し合うことを抑制できる。

【１７３８】

特に、第８実施形態におけるスピーカーＨ３１２ａでは、前面側に保護カバーがされ正面側の第１空間Ｈ３００Ａに放音（出力）される音が背面側の第２空間Ｈ３００Ｂに放音（出力）される音に比べて高周波となり遊技者とって聞き取りやすい音とされる。上記したように、背面側の第２空間Ｈ３００Ｂに放音（出力）される音が、正面側の第１空間Ｈ３００Ａ側に回り込むことを抑制することで、第１空間Ｈ３００Ａに放音（出力）される聞き取りやすい音が聞こえにくくなることを抑制できる。その結果、音による演出効果を高めることができる。

【１７３９】

また、スピーカーＨ３１２ａの背面側から放音される音をスピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）から放音される音と異なる経路（第２連通路Ｈ３００Ｄ）を伝達させることで、スピーカーＨ３１２ａの正面側から放音される音と、スピーカーＨ３１２ａの背面側から放音される音との音域を変更することができる。その結果、遊技者に聞こえる音の音域を増やすことができ、遊技者の興趣を高めることができる。

【１７４０】

なお、第８実施形態では、スピーカーＨ３１２ａの背面側に形成される第２空間Ｈ３００Ｂに音を放音するスリットＨ３３１ａ１（開口部）が形成されるのではなく、スピーカーＨ３１２ａの正面側に形成される第１空間Ｈ３００Ａにスリット Ｈ３３１ａ１が形成され（配設空間Ｈ３００Ｆに配設されるスピーカーＨ３１２ａの正面側にスリットＨ３３１ａ１（開口部）が形成され）、そのスリットＨ３３１ａ１が形成される側の第１空間Ｈ３００Ａ同士が第１連通路Ｈ３００Ｃにより連通されるので、第１空間Ｈ３００Ａから第１連通路Ｈ３００Ｃを通して、遊技者が聞き取りやすい周波数帯の音（高音質な音）を他方側の第１空間Ｈ３００Ａに導くことができる。

【１７４１】

よって、一対のスピーカーＨ３１２ａのうち一方側のスピーカーＨ３１２ａが故障した場合に、他方側のスピーカーＨ３１２ａから放音（出力）され第１連通路Ｈ３００Ｃを介して一方側のスピーカーＨ３１２ａが配設される第１空間Ｈ３００Ａから放音される音を遊技者が聞き取りやすくできる。その結果、一対のスピーカーＨ３１２ａの一方が故障した場合において、遊技者が違和感を感じることを抑制できる。

【１７４２】

次いで、図１３６から図１４３を参照して、右側装飾ユニットＨ１４ｃについて説明する。初めに図１３６から図１３９を参照して、右側装飾ユニットＨ１４ｃの全体構成について説明する。

【１７４３】

図１３６（ａ）は、右側装飾ユニットＨ１４ｃの正面図であり、図１３６（ｂ）は、右側装飾ユニットＨ１４ｃの側面図であり、図１３７（ａ）は、右側装飾ユニットＨ１４ｃの分解正面斜視図であり、図１３７（ｂ）は、右側装飾ユニットＨ１４ｃの分解背面斜視図であり、図１３８（ａ）は、重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ４００Ｒの分解正面斜視図であり、図１３８（ｂ）は、重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ４００Ｒの分解背面斜視図であり、図１３９は、支持板部Ｈ４１０の正面図である。

【１７４４】

なお、図１３６（ｂ）では、パチンコ機Ｈ１０の内側から外側（矢印Ｒ方向側）を視認した状態における右側装飾ユニットＨ１４ｃの側面が図示される。また、図１３９では、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０の背面側（矢印Ｂ方向側）端部の外形が２点鎖線で図示される。

【１７４５】

図１３６から図１３８に示すように、右側装飾ユニットＨ１４ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）で重ね合わされる左重板ユニットＨ４００Ｌ及び右重板ユニットＨ４００Ｒと、それら重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ４００Ｒが締結固定されると共に、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）に締結固定される上下に長尺な板状の支持板部Ｈ４１０と、を主に備える。

【１７４６】

重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ４００Ｒは、支持板部Ｈ４１０の背面側（矢印Ｂ方向側）から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて挿通される螺子により支持板部Ｈ４１０に締結固定される。右側装飾ユニットＨ１４ｃは、重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ４００Ｒが支持板部Ｈ４１０に締結固定された状態で本体枠Ｈ１４ｄに背面側から正面側へ向けて挿通される螺子により本体枠Ｈ１４ｄに締結固定される。

【１７４７】

支持板部Ｈ４１０は、組立状態において本体枠Ｈ１４ｄの右側（矢印Ｒ方向側）の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される固定板Ｈ４１１と、その固定板Ｈ４１１の上下方向に延設された領域の正面側に配設される基板部材Ｈ４１２と、を主に備える。

【１７４８】

固定板Ｈ４１１は、正面視（矢印Ｂ方向視）において上下（矢印Ｕ－Ｄ方向）左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）を反転させた略Ｌ字状に形成される延設部Ｈ４１１ａと、本体枠Ｈ１４ｄと対向する背面側（矢印Ｂ方向側）の外縁に沿って背面側へ向かって立設される内縁部Ｈ４１１ｃ，外縁部Ｈ４１１ｄとを主に備え、延設部Ｈ４１１ａ、外縁部Ｈ４１１ｄ、及び、内縁部Ｈ４１１ｃにより断面が略Ｃ字状に形成される。

【１７４９】

なお、内縁部Ｈ４１１ｃは、正面視におけるパチンコ機Ｈ１０の内方側の延設部Ｈ４１１ａの外縁に沿って形成され、外縁部Ｈ４１１ｄは、正面視におけるパチンコ機Ｈ１０の外方側の延設部Ｈ４１１ａの外縁に沿って形成される。

【１７５０】

また、内縁部Ｈ４１１ｃの背面側（矢印Ｂ方向側）への立設距離は、外縁部Ｈ４１１ｄの延設部Ｈ４１１ａからの背面側（矢印Ｂ方向側）への立設距離よりもガラスユニットＨ

１６（図１２３参照）の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の厚み分小さく設定される。これにより、内縁部Ｈ４１１ｃ（本体枠Ｈ１４ｄ）にガラスユニットＨ１６を配設した際に、正面枠Ｈ１４に対してガラスユニットＨ１６が背面側に部分的に飛び出ることが抑制される。

【１７５１】

さらに、正面枠Ｈ１４の組立状態（図１２３参照）において、外縁部Ｈ４１１ｄの内壁（左側壁および下側壁）が本体枠Ｈ１４ｄの外側面に当接され、内縁部Ｈ４１１ｃの内壁（右側壁）が本体枠Ｈ１４ｄの内側面に所定の間隔を隔てた状態で配設される。即ち、固定板Ｈ４１１は、本体枠Ｈ１４ｄの右側部分を外縁部Ｈ４１１ｄと内縁部Ｈ４１１ｃとで挟んだ状態で本体枠Ｈ１４ｄに配設される。

【１７５２】

また、固定板Ｈ４１１は、基板部材Ｈ４１２が取り付けられる領域の右側（矢印Ｒ方向側）において穿設される複数の右側用締結孔Ｈ４１１ａ１と、その右側用締結孔Ｈ４１１ａ１よりも右側において固定板Ｈ４１１に穿設される支持孔Ｈ４１１ａ２と、基板部材Ｈ４１２が取り付けられる領域の左側（矢印Ｌ方向側）において固定板Ｈ４１１に穿設される左側用締結孔Ｈ４１１ａ３と、を主に備える。

【１７５３】

延設部Ｈ４１１ａは、正面視において基板部材Ｈ４１２が重なる大きさに形成される。また、延設部Ｈ４１１ａには、基板部材Ｈ４１２が配設される領域に正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて台状にせり出す台部Ｈ４１１ｂが形成され、その台部Ｈ４１１ｂの正面に面当たりする状態で基板部材Ｈ４１２が固定板Ｈ４１１に締結固定される。なお、本実施形態では、基板部材Ｈ４１２は、正面側から挿入される螺子が延設部Ｈ４１１ａに螺入されることで台部Ｈ４１１ｂに締結固定される。

【１７５４】

台部Ｈ４１１ｂは、正面枠Ｈ１４の組立状態（図１３６（ａ）参照）において、幅方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側の側面が重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ４００Ｒに当接可能とされる。これにより、重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ４００Ｒの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）への傾倒を抑制できる。即ち、支持板部Ｈ４１０に対する重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ４００Ｒの姿勢を維持しやすくできる。

【１７５５】

固定板Ｈ４１１の右側（矢印Ｒ方向側）側面においては、台部Ｈ４１１ｂよりも延設部Ｈ４１１ａの方が、後述する右重板ユニットＨ４００Ｒの外カバー部材Ｈ４７０、第１外レンズ部材Ｈ４５０、及び、第２外レンズ部材Ｈ４６０を組み合わせた厚み分、右側にずれた位置に形成される。これにより、延設部Ｈ４１１ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に外カバー部材Ｈ４７０、第１外レンズ部材Ｈ４５０、及び、第２外レンズ部材Ｈ４６０の背面側（矢印Ｂ方向側）端部を支持板部Ｈ４１０に当接させることができる。

【１７５６】

一方、固定板Ｈ４１１の左側（矢印Ｌ方向側）側面においては、台部Ｈ４１１ｂの側面と内縁部Ｈ４１１ｃの側面とが略同一の面位置に形成され、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において後述する左重板ユニットＨ４００Ｌの内カバー部材Ｈ４２０の背面側（矢印Ｂ方向側）端部が内縁部Ｈ４１１ｃの背面側端部と同一の面位置に配置可能とされ、組立状態では内カバー部材Ｈ４２０の背面側端部Ｈ４２１ｂの内縁部が固定板Ｈ４１１の内縁部Ｈ４１１ｃの一部と当接される。

【１７５７】

基板部材Ｈ４１２は、正面側に複数のＬＥＤ（発光ダイオード）Ｈ４１２ａが配置される電子基板（プリント基板）である。複数のＬＥＤＨ４１２ａは、上下方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の間隔を空けて配設されると共に、後述する導光部材Ｈ４４０の湾曲形状に合わせて湾曲する列状に配置される（図１３９参照）。即ち、複数のＬＥＤＨ４１２ａは、導光部材Ｈ４４０が正面側から投影された形状の内側に配置され、導光部材Ｈ４４０の背面側（矢印Ｂ方向側）から導光部材Ｈ４４０へ向けて互いの光軸を平行にする姿勢で光

を照射する。
【１７５８】
なお、ＬＥＤＨ４１２ａの幅（発光部分の左右幅）よりも、導光部材Ｈ４４０のＬＥＤＨ４１２ａ側の端面の幅は長く形成される。よって、ＬＥＤＨ４１２ａから照射される光は、導光部材Ｈ４４０の幅方向外側に漏れることなく導光部材Ｈ４４０に入射し、導光部材Ｈ４４０のいずれかの面から出射される。
【１７５９】
また、列状に配置される複数のＬＥＤＨ４１２ａの上端に配設されるＬＥＤＨ４１２ａ１は、導光部材Ｈ４４０よりも上方に配置されており、その光を外カバー部材Ｈ４７０の区画壁Ｈ４７８に照射可能とされる。なお、区画壁Ｈ４７８に照射される光については後述する。
【１７６０】
右側用締結孔Ｈ４１１ａ１は、後述する右重板ユニットＨ４００Ｒの外カバー部材Ｈ４７０に形成される背面側締結部Ｈ４７６と、第１外レンズ部材Ｈ４５０に形成される背面側締結部Ｈ４５６と、第２外レンズ部材Ｈ４６０に形成される背面側締結部Ｈ４６５とを位置決めすると共に、それら背面側締結部Ｈ４５６，Ｈ４６５，Ｈ４７６に締結される螺子が背面側から挿通される孔である。背面側締結部Ｈ４５６，Ｈ４６５，Ｈ４７６に螺子が螺入されることにより、外カバー部材Ｈ４７０，第１外レンズ部材Ｈ４５０，第２外レンズ部材Ｈ４６０が支持板部Ｈ４１０に締結固定される。
【１７６１】
左側用締結孔Ｈ４１１ａ３は、後述する左重板ユニットＨ４００Ｌの内カバー部材Ｈ４２０に形成される背面側締結部Ｈ４２８及び内レンズ部材Ｈ４３０に形成される背面側締結部Ｈ４３１ｂ１を位置決めすると共に、それら背面側締結部Ｈ４２８，Ｈ４３１ｂ１に締結される螺子が背面側から挿通される孔である。背面側締結部Ｈ４２８，Ｈ４３１ｂ１に螺子が螺入されることにより、内カバー部材Ｈ４２０及び内レンズ部材Ｈ４３０が支持板部Ｈ４１０に締結固定される。
【１７６２】
支持孔Ｈ４１１ａ２は、外カバー部材Ｈ４７０の突出部Ｈ４７９が挿通される貫通孔である。支持孔Ｈ４１１ａ２は、正面視において上下方向（矢印Ｕ－Ｂ方向）に長い矩形状に貫通形成されると共に、突出部Ｈ４７９の外形よりも若干大きく形成される。これにより、外カバー部材Ｈ４７０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の位置を規定しながら、外カバー部材Ｈ４７０の背面側（矢印Ｂ方向側）の端部を延設部Ｈ４１１ａの正面側に当接させることができる。
【１７６３】
次いで、図１３８及び図１４０を参照して、左重板ユニットＨ４００Ｌについて説明する。図１４０は、左重板ユニットＨ４００Ｌの分解正面斜視図である。図１３８及び図１４０に示すように、左重板ユニットＨ４００Ｌは、窓部Ｈ１４ｅ（図１１９参照）の右側を構成すると共に光を透過可能な開口を有する内カバー部材Ｈ４２０と、その内カバー部材Ｈ４２０に右側から締結固定されると共に光透過性の無色の樹脂材料から形成される内レンズ部材Ｈ４３０と、右重板ユニットＨ４００Ｒと対向配置される導光部材Ｈ４４０と、を主に備える。
【１７６４】
内カバー部材Ｈ４２０は、上下（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長尺の板状に形成される本体板部Ｈ４２１と、その本体板部Ｈ４２１の上端および下端に穿設される上側開口部Ｈ４２２及び下側開口部Ｈ４２３と、本体板部Ｈ４２１に開口される複数の開口部Ｈ４２４と、導光部材Ｈ４４０に挿通される円筒部であって導光部材Ｈ４４０を内カバー部材Ｈ４２０に固定する螺子が螺入される複数の第１締結部Ｈ４２５と、内レンズ部材Ｈ４３０に挿通される円筒部であって内レンズ部材Ｈ４３０を内カバー部材Ｈ４２０に固定する螺子が螺入される複数の第２締結部Ｈ４２６と、第１締結部Ｈ４２５及び第２締結部Ｈ４２６よりも長尺に形成され内レンズ部材Ｈ４３０及び導光部材Ｈ４４０に挿通される円筒部であって内

レンズ部材Ｈ４３０及び導光部材Ｈ４４０を内カバー部材Ｈ４２０に固定する螺子が螺入される複数の第３締結部Ｈ４２７と、本体板部Ｈ４２１の右側に突設されると共に背面側から支持板部Ｈ４１０を固定するネジが螺入される複数の背面側締結部Ｈ４２８と、を主に備える。

【１７６５】

本体板部Ｈ４２１は、側面視（パチンコ機Ｈ１０の内側から外側に向かう方向視）において正面側（矢印Ｆ方向側）の端部を形成する正面側端部Ｈ４２１ａが波を模した形状とされ、全体が有色の非透過の樹脂材料から形成される。また、本体板部Ｈ４２１の背面側（矢印Ｂ方向側）の端部を形成する背面側端部Ｈ４２１ｂは、側面視において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に略直線状に延設され、右側装飾ユニットＨ１４ｃの組立状態では背面側端部Ｈ４２１ｂが固定板Ｈ４１１の内縁部Ｈ４１１ｃの背面側端部と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において略同一となる位置に配置される。

【１７６６】

また、本体板部Ｈ４２１は、正面側端部Ｈ４２１ａの上方側の一部（内レンズ部材Ｈ４３０の下側レンズ部Ｈ４３２よりも上方側に位置する部分）において、右重板ユニットＨ４００Ｒに向かって立設される上側カバー部Ｈ４２１ａ１を備える。上側カバー部Ｈ４２１ａ１は、右重板ユニットＨ４００Ｒと左重板ユニットＨ４００Ｌとを組み合わせた場合に、右重板ユニットＨ４００Ｒ（外カバー部材Ｈ４７０）に立設先端部が当接する大きさに形成される。即ち、左重板ユニットＨ４００Ｌは、上方側の正面が上側カバー部Ｈ４２１ａ１により覆われた状態とされる。

【１７６７】

一方、本体板部Ｈ４２１の上側カバー部Ｈ４２１ａ１よりも下方側（矢印Ｄ方向側）においては、正面側端部Ｈ４２１ａと右重板ユニットＨ４００Ｒ（第２外レンズ部材Ｈ４６０）との間に所定の隙間が形成され、その隙間に内レンズ部材Ｈ４３０が介在される。即ち、右側装飾ユニットＨ１４ｃの下方側は、内カバー部材Ｈ４２０と外カバー部材Ｈ４７０との間から正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって内レンズ部材Ｈ４３０と第２外レンズ部材Ｈ４６０とが張り出した状態とされる。

【１７６８】

なお、本体板部Ｈ４２１は、非透過に形成されるものに限られることはなく、全部を光が透過可能な樹脂材料から形成したり、一部を光が透過可能な樹脂材料から形成したりしても良く、無色透明な樹脂材料から形成しても、半透明の樹脂材料から形成しても良い。

【１７６９】

上側開口部Ｈ４２２及び下側開口部Ｈ４２３は、外カバー部材Ｈ４７０（締結部Ｈ４７２）に螺入される螺子が挿通される開口であり、本体板部Ｈ４２１に配設される内レンズ部材Ｈ４３０及び導光部材Ｈ４４０よりも上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の外側にずれた位置に形成される。これら上側開口部Ｈ４２２及び下側開口部Ｈ４２３に挿通される螺子が外カバー部材Ｈ４７０の締結部Ｈ４７２に螺入されることで、内カバー部材Ｈ４２０が外カバー部材Ｈ４７０に固定される。

【１７７０】

開口部Ｈ４２４は、上下３箇所に並設されると共に組立状態において内レンズ部材Ｈ４３０の視認窓として機能する。各開口部Ｈ４２４は、側面視において撓んだ略半月状に形成され、下方側の開口部Ｈ４２４から上方側の開口部Ｈ４２４に向かって開口される領域が大きくされる。なお、本体板部Ｈ４２１の開口部Ｈ４２４が形成される縁部は、内レンズ部材Ｈ４３０（矢印Ｒ方向側）に向かって撓んで形成されており、これにより、内カバー部材Ｈ４２０と内レンズ部材Ｈ４３０との間に隙間が形成されることが抑制される。

【１７７１】

第１締結部Ｈ４２５は、本体板部Ｈ４２１の正面側（矢印Ｆ方向側）の縁部に主に形成されており、導光部材Ｈ４４０と内レンズ部材Ｈ４３０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に重ねた場合に、内レンズ部材Ｈ４３０から張り出した導光部材Ｈ４４０の一部が締結される。即ち、第１締結部Ｈ４２５には、内レンズ部材Ｈ４３０を介さず導光部材Ｈ４４０が

締結固定される。
【１７７２】
第２締結部Ｈ４２６は、側面視における本体板部Ｈ４２１の中央領域に主に形成されており、内レンズ部材Ｈ４３０が締結される。即ち、第２締結部Ｈ４２６には、内レンズ部材Ｈ４３０のみが締結固定される。
【１７７３】
第３締結部Ｈ４２７は、本体板部Ｈ４２１の背面側（矢印Ｂ方向側）の縁部に主に形成されており、導光部材Ｈ４４０と内レンズ部材Ｈ４３０とを左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に重ねた場合に、内レンズ部材Ｈ４３０と導光部材Ｈ４４０とが重なる領域に形成される。また、第３締結部Ｈ４２７は、左右に重ねた状態の内レンズ部材Ｈ４３０と導光部材Ｈ４４０を挿通可能な長さに形成されており、内レンズ部材Ｈ４３０と導光部材Ｈ４４０とを挿通した状態で締結される。
【１７７４】
即ち、内レンズ部材Ｈ４３０は、第２締結部Ｈ４２６と第３締結部Ｈ４２７とにより内カバー部材Ｈ４２０に締結固定され、導光部材Ｈ４４０は、第１締結部Ｈ４２５と第３締結部Ｈ４２７とにより内カバー部材Ｈ４２０に締結固定される。
【１７７５】
内レンズ部材Ｈ４３０は、内カバー部材Ｈ４２０と導光部材Ｈ４４０との間に配設され、導光部材Ｈ４４０から出射される光を透過して内カバー部材Ｈ４２０の開口部Ｈ４２４及び内カバー部材Ｈ４２０の正面側（矢印Ｆ方向側）から出射する部材であり、全体が透明の樹脂材料から形成される。
【１７７６】
また、内レンズ部材Ｈ４３０は、内カバー部材Ｈ４２０の３箇所の開口部Ｈ４２４を覆う位置に形成される上側レンズ部Ｈ４３１と、その上側レンズ部Ｈ４３１の下方側に配設される下側レンズ部Ｈ４３２と、を主に備える。なお、上側レンズ部Ｈ４３１と、下側レンズ部Ｈ４３２とは、下側レンズ部Ｈ４３２側から挿通される螺子が上側レンズ部Ｈ４３１に螺入されることで締結固定されており、下側レンズ部Ｈ４３２が上側レンズ部Ｈ４３１よりも導光部材Ｈ４４０側（右重板ユニットＨ４００Ｒ）に近接する位置に配設される。
【１７７７】
上側レンズ部Ｈ４３１は、開口部Ｈ４２４の内側から視認される部分あり、３箇所の開口部Ｈ４２４を覆う大きさに形成される。また、上側レンズ部Ｈ４３１は、開口部Ｈ４２４と対応する位置に開口部Ｈ４２４の内側に向かって椀型に膨出する膨出部Ｈ４３１ａと、背面側（矢印Ｂ方向側）の縁部に沿って導光部材Ｈ４４０側に向かって立設される背面側立設部Ｈ４３１ｂと、その背面側立設部Ｈ４３１ｂに連なる位置で穿設される第１開口部Ｈ４３１ｃ及び第２開口部Ｈ４３１ｄと、背面側立設部Ｈ４３１ｂから背面側から円柱状に突設される背面側締結部Ｈ４３１ｂ１と、を主に備える。
【１７７８】
膨出部Ｈ４３１ａは、開口部Ｈ４２４に嵌り込む部分であり、それぞれの開口部Ｈ４２４と対応する形状の外形に形成される。即ち、右側装飾ユニットＨ１４ｃが組み立てられた状態において、開口部Ｈ４２４から膨出部Ｈ４３１ａが右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側へ張り出した状態とされる。
【１７７９】
また、膨出部Ｈ４３１ａは、導光部材Ｈ４４０と対向する側の側面に凹凸が形成されており、この凹凸により膨出部Ｈ４３１ａ（上側レンズ部Ｈ４３１）に入射する光を開口部Ｈ４２４から拡散して右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側に出射することができる。
【１７８０】
一方、膨出部Ｈ４３１ａは、開口部Ｈ４２４に嵌り込む側の側面（即ち、開口部Ｈ４２４から右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側に突出する部分）が凹凸の少ない滑らかな面として形成される。これにより、膨出部Ｈ４３１ａの光拡散性を維持しつつ、膨出部Ｈ４３１

ａの外面に異物（ちりやほこり等）が溜まる（入り込む）ことを抑制して膨出部Ｈ４３１ａの清掃性を向上できる。

【１７８１】

背面側立設部Ｈ４３１ｂは、導光部材Ｈ４４０の側面に当接する高さに設定される。これにより、導光部材Ｈ４４０の背面側（矢印Ｂ方向側）を上側レンズ部Ｈ４３１（内レンズ部材Ｈ４３０）に当接させて配設することで、右側装飾ユニットＨ１４ｃの前後方向における中央部（内レンズ部材Ｈ４３０と導光部材Ｈ４４０との間）に所定の空間を形成できる。これにより、右側装飾ユニットＨ１４ｃの内部に熱がこもることを抑制できる。

【１７８２】

第１開口部Ｈ４３１ｃは、内カバー部材Ｈ４２０の第２締結部Ｈ４２６と対応する位置に形成される。これにより、第１開口部Ｈ４３１ｃを挿通した螺子を内カバー部材Ｈ４２０の第２締結部Ｈ４２６に螺入させて、内カバー部材Ｈ４２０と内レンズ部材Ｈ４３０とを締結することができる。

【１７８３】

第２開口部Ｈ４３１ｄは、内カバー部材Ｈ４２０の第３締結部Ｈ４２７と導光部材Ｈ４４０の第２開口部Ｈ４４５と対応する位置に形成されると共に、第３締結部Ｈ４２７の外形よりも大きい内径に形成される。また、第３締結部Ｈ４２７は、上述したように内レンズ部材Ｈ４３０の第２開口部Ｈ４３１ｄを挿通可能な長さに形成されており、第２開口部Ｈ４３１ｄの内側に挿入された状態で、導光部材Ｈ４４０の第２開口部Ｈ４４５から挿通される螺子が螺入される。

【１７８４】

なお、上側レンズ部Ｈ４３１は、内カバー部材Ｈ４２０の第１締結部Ｈ４２５よりも正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が背面側（矢印Ｂ方向側）に位置する大きさに形成される。従って、右側装飾ユニットＨ１４ｃを組み立てた状態では、上側レンズ部Ｈ４３１の正面側端部と内カバー部材Ｈ４２０の上側カバー部Ｈ４２１ａ１との間に所定の隙間が形成され、その隙間に内カバー部材Ｈ４２０の第１締結部がＨ４２５が配置される。これにより、導光部材Ｈ４４０の第１開口部Ｈ４４４を挿通した螺子を上側レンズ部Ｈ４３１（内レンズ部材Ｈ４３０）を介さず内カバー部材Ｈ４２０の第１締結部Ｈ４２５に螺入させることができる。

【１７８５】

下側レンズ部Ｈ４３２は、上述したように、右側装飾ユニットＨ１４ｃを組み立てた状態において、内カバー部材Ｈ４２０と外カバー部材Ｈ４７０との間から正面側に張り出す部分であり、正面側の端部が波形状に形成される。

【１７８６】

また、下側レンズ部Ｈ４３２の正面側（矢印Ｆ方向側）の端部には、外カバー部材Ｈ４７０側（矢印Ｒ方向側）に向かって立設される立設部Ｈ４３２ａが形成される。立設部Ｈ４３２ａは、内カバー部材Ｈ４２０に導光部材Ｈ４４０を配設した状態において、導光部材Ｈ４４０よりも右重板ユニット側（矢印Ｒ方向側）に立設先端部が位置する大きさに形成される。即ち、立設部Ｈ４３２ａの内側に導光部材Ｈ４４０が収容される。これにより、導光部材Ｈ４４０から正面側（矢印Ｆ方向側）に出射される光を立設部Ｈ４３２ａを介して右側装飾ユニットＨ１４ｃの正面側に出射させることが可能とされる。

【１７８７】

さらに、下側レンズ部Ｈ４３２には、上側レンズ部Ｈ４３１の第２開口部Ｈ４３１ｄと同様の機能を有する開口部Ｈ４３２ｂが正面側の一部に形成される。これにより、右側装飾ユニットＨ１４ｃの組立状態において、内カバー部材Ｈ４２０と導光部材Ｈ４４０との間に下側レンズ部Ｈ４３２を挟んだ状態とすることができる。従って、内カバー部材Ｈ４２０から下側レンズ部Ｈ４３２が離れることを抑制でき、内カバー部材Ｈ４２０と下側レンズ部Ｈ４３２との間に隙間が形成されることを抑制できる。

【１７８８】

導光部材Ｈ４４０は、上述したように、基板部材Ｈ４１２のＬＥＤＨ４１２ａから照射

される光を導光させる部材であり、全体が無色透明の熱可塑性樹脂材料から形成される。また、導光部材Ｈ４４０は、内カバー部材Ｈ４２０と内レンズ部材Ｈ４３０とを組み合わせた状態の左重板ユニットＨ４００Ｌよりも一回り小さく形成されており、内カバー部材Ｈ４２０と内レンズ部材Ｈ４３０の内側に収容された状態で内カバー部材Ｈ４２０に締結される。

【１７８９】

なお、導光部材Ｈ４４０に用いられる熱可塑性樹脂は特に限定されないが、透明性を有するものが好ましく、アクリル系樹脂（メタクリル系樹脂）、ポリカーボネート樹脂、ポリ塩化ビニル樹脂、非晶性ポリエステル樹脂、非晶性オレフィン系樹脂、ポリスチレン系樹脂、ＡＳ樹脂（アクリロニトリル、スチレン共重合化合物）を例示することができる。このうち、特にアクリル系樹脂を用いることで、平均輝度が高く、輝度分布の低下が少ない導光部材Ｈ４４０を得ることができる。

【１７９０】

導光部材Ｈ４４０は、側面に第１の凹凸で形成される第１凹凸面Ｈ４４１と、第１の凹凸とは異なる第２の凹凸で形成される第２凹凸面Ｈ４４２と、背面側（矢印Ｂ方向側）の端部に突出して形成される複数の入射部Ｈ４４３と、正面側の縁部に沿う位置に穿設される複数の第１開口部Ｈ４４４と、背面側の縁部に沿う位置に穿設される複数の第２開口部Ｈ４４５と、正面側の縁部から正面側に向かって突出して形成される複数の係合部Ｈ４４６と、を主に備える。

【１７９１】

第１凹凸面Ｈ４４１は、内レンズ部材Ｈ４３０の膨出部Ｈ４３１ａ及び下側レンズ部Ｈ４３２と対応する位置に主に形成される。即ち、第１凹凸面Ｈ４４１は、ＬＥＤＨ４１２ａから入射する光を内カバー部材Ｈ４２０及び外カバー部材Ｈ４７０が配設される方向（左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ主に反射可能に構成される。これにより、上側レンズ部Ｈ４３１の膨出部Ｈ４３１ａおよび下側レンズ部Ｈ４３２から出射される光を遊技者に認識させやくできる。

【１７９２】

なお、本実施形態における第１凹凸面Ｈ４４１は、底面に対する傾斜角度４５°且つ底円の直径約１ｍｍの円錐形状部が、約３ｍｍ間隔で格子状に分散配置されるパターンを有する型板を熱可塑性樹脂に押し当てる（熱プレスする）ことにより形成される。ＬＥＤＨ４１２ａから照射された光の内、凹状部に到達した光は、凹状部により反射し、導光部材Ｈ４４０の左右側面から概略垂直な方向へ出射される。

【１７９３】

第２凹凸面Ｈ４４２は、内レンズ部材Ｈ４３０の上側レンズ部Ｈ４３１および下側レンズ部Ｈ４３２を連結する部分と対応する位置に主に形成される。即ち、内カバー部材Ｈ４２０より覆設され遊技者から視認されにくい位置に形成される。

【１７９４】

また、第２凹凸面Ｈ４４２は、内レンズ部材Ｈ４３０の膨出部Ｈ４３１ａと対応する位置に形成される側の第１凹凸面Ｈ４４１の周囲を取り囲むように形成されると共に、凸部の頂点が上下に延設される凹凸状に形成される。これにより、第２凹凸面Ｈ４４２は、導光部材Ｈ４４０の背面側から正面側に向けて入射する光を上下に反射して、第１凹凸面Ｈ４４１側に拡散できるようになっている。その結果、第１凹凸面Ｈ４４１から遊技者に向けて出射される光量を増やすことができる。

【１７９５】

入射部Ｈ４４３は、導光部材Ｈ４４０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される基板部材Ｈ４１２のＬＥＤＨ４１２ａと対応する位置に一個ずつ形成される。また、入射部Ｈ４４３の突出先端は、側面視において背面側に向かって湾曲する形状に形成されており、この湾曲形状によりＬＥＤＨ４１２ａから入射される光を上下方向に拡散できる。これにより、ＬＥＤＨ４１２ａの上下方向における配設間隔を空けても導光部材Ｈ４４０の全体に光を透過することができ、ＬＥＤＨ４１２ａの配設数を少なくすることができる。

【１７９６】
第１開口部Ｈ４４４は、内カバー部材Ｈ４２０の第１締結部Ｈ４２５に螺入される螺子が挿通される開口であり、第１締結部Ｈ４２５と対応する位置に形成される。よって、第１開口部Ｈ４４４を挿通させた螺子を第１締結部Ｈ４２５に螺入させることで、導光部材Ｈ４４０の正面側を内カバー部材Ｈ４２０に締結させることができる。
【１７９７】
第２開口部Ｈ４４５は、内カバー部材Ｈ４２０の第３締結部Ｈ４２７に締結される螺子が挿通される開口であり、第３締結部Ｈ４２７と対応する位置に形成される。よって、第２開口部Ｈ４４５を挿通させた螺子を第３締結部Ｈ４２７に螺入させることで、導光部材Ｈ４４０の背面側を内カバー部材Ｈ４２０に締結させることができる。
【１７９８】
係合部Ｈ４４６は、後述する右重板ユニットＨ４００Ｒの被係合部Ｈ４５７と係合する部分であり、被係合部Ｈ４５７の内側に挿入可能な大きさに形成される。なお、係合部Ｈ４４６と被係合部Ｈ４５７との係合は、左重板ユニットＨ４００Ｌと右重板ユニットＨ４００Ｒとが組み立てられた状態で行われ、右重板ユニットＨ４００Ｒの背面側から左重板ユニットＨ４００Ｌが正面側にスライドされることで、被係合部Ｈ４５７に係合部Ｈ４４６が挿入されるようになっている。これにより、右重板ユニットＨ４００Ｒと左重板ユニットＨ４００Ｌとの正面側が互いに離れる左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位することを抑制できる。
【１７９９】
次いで、左重板ユニットＨ４００Ｌの組み立て方法について説明する。
【１８００】
初めに、左重板ユニットＨ４００Ｌは、内カバー部材Ｈ４２０の右側（矢印Ｒ方向側）から内レンズ部材Ｈ４３０が内カバー部材Ｈ４２０に配設される。この場合、内カバー部材Ｈ４２０の第３締結部Ｈ４２７の先端が第１開口部Ｈ４３１ｃに挿入されることで、内カバー部材Ｈ４２０に内レンズ部材Ｈ４３０を位置決めした状態で配設することができる。
【１８０１】
内カバー部材Ｈ４２０に内レンズ部材Ｈ４３０を配設した後は、内カバー部材Ｈ４２０の第２締結部Ｈ４２６に内レンズ部材Ｈ４３０の第２開口部Ｈ４３１ｄを挿通した螺子が螺入されることで、内レンズ部材Ｈ４３０が内カバー部材Ｈ４２０に固定される。
【１８０２】
次に、内レンズ部材Ｈ４３０が内カバー部材Ｈ４２０に固定された状態で、導光部材Ｈ４４０が内カバー部材Ｈ４２０の右側（矢印Ｒ方向側）から内カバー部材Ｈ４２０に配設された後、導光部材Ｈ４４０の第２開口部Ｈ４４５を挿通させた螺子が内カバー部材Ｈ４２０の第３締結部Ｈ４２７に螺入され、導光部材Ｈ４４０の第１開口部Ｈ４４４を挿通させた螺子が内カバー部材Ｈ４２０の第１締結部Ｈ４２５に螺入されることで、内レンズ部材Ｈ４３０に導光部材Ｈ４４０が固定される。これにより、左重板ユニットＨ４００Ｌが組み立てられる。
【１８０３】
次いで、図１３８及び図１４１を参照して、右重板ユニットＨ４００Ｒについて説明する。図１４１は、右重板ユニットＨ４００Ｒの分解正面斜視図である。図１３８及び図１４１に示すように、右重板ユニットＨ４００Ｒは、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０の右側に配設される第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０と、それら第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０の右側に配設され、光を非透過な樹脂材料から形成されると共に、第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０が締結固定される外カバー部材Ｈ４７０と、を主に備える。
【１８０４】
外カバー部材Ｈ４７０は、上下に長尺の板状に形成される本体板部Ｈ４７１と、その本体板部Ｈ４７１の上端および下端に形成される２箇所の締結部Ｈ４７２と、本体板部Ｈ４

７１に開口される複数の開口部Ｈ４７３と、第１外レンズ部材Ｈ４５０に先端が挿入される円筒部であって第１外レンズ部材Ｈ４５０を外カバー部材Ｈ４７０に固定する螺子が螺入される複数の第１締結部Ｈ４７４と、その第１締結部Ｈ４７４よりも短く形成される円筒部であって、第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０を外カバー部材Ｈ４７０に固定する螺子が螺入される複数の第２締結部Ｈ４７５と、本体板部Ｈ４７１の左側側面から突設されると共に背面側から支持板部Ｈ４１０を固定する螺子が螺入される複数の背面側締結部Ｈ４７６と、本体板部Ｈ４７１の背面側から突設され支持板部Ｈ４１０の支持孔Ｈ４１１ａ２に挿入される突出部Ｈ４７９と、を主に備える。

【１８０５】

本体板部Ｈ４７１は、側面視（矢印Ｌ方向視）において、正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が湾曲した円弧形状に形成されると共に、背面側の端部が上下方向に直線状に延設され、全体が非透過の樹脂材料から形成される。また、本体板部Ｈ４７１は、上端から左重板ユニットＨ４００Ｌ側に向かって立設される立設部Ｈ４７７を備えており、正面視において上下（矢印Ｕ－Ｄ方向）左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）を反転した略Ｌ字状に形成される。

【１８０６】

なお、本体板部Ｈ４７１の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における延設長さは、支持板部Ｈ４１０と対応する長さに形成されており、右重板ユニットＨ４００Ｒを支持板部Ｈ４１０に配設した場合に固定板Ｈ４１１の正面側に重なる状態とされる。

【１８０７】

立設部Ｈ４７７は、正面視における正面枠Ｈ１４の上部右側を構成する部分であり、正面枠Ｈ１４の組立状態において上側装飾ユニットＨ１４ａ側に向かって立設される先端部が上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２の右端部と当接する大きさに設定される。

【１８０８】

また、立設部Ｈ４７７には、後述する第１外レンズ部材Ｈ４５０に形成される貫通孔Ｈ４５２ａに挿通される挿通部Ｈ４７７ａが複数個形成される。この挿通部Ｈ４７７ａを貫通孔Ｈ４５２ａに挿通した状態で、第１外レンズ部材Ｈ４５０を外カバー部材Ｈ４７０に配設することで、立設部Ｈ４７７と対向する第１外レンズ部材Ｈ４５０の屈曲部Ｈ４５２が立設部Ｈ４７７に対して相対変位することを抑制できる。

【１８０９】

締結部Ｈ４７２は、左重板ユニットＨ４００Ｌを右重板ユニットＨ４００Ｒに固定するための螺子を螺入する部分であり、内カバー部材Ｈ４２０の本体板部Ｈ４２１に形成される上側開口部Ｈ４２２及び下側開口部Ｈ４２３と対応する位置に形成される。左重板ユニットＨ４００Ｌと右重板ユニットＨ４００Ｒとは、それぞれが組み立てられた状態で内カバー部材Ｈ４２０の上側開口部Ｈ４２２及び下側開口部Ｈ４２３に挿入される螺子を外カバー部材Ｈ４７０の締結部Ｈ４７２に螺入することで左重板ユニットＨ４００Ｌが右重板ユニットＨ４００Ｒに固定される。

【１８１０】

複数の開口部Ｈ４７３は、第１外レンズ部材Ｈ４５０の複数の膨出部Ｈ４５５と対応する位置および形状に形成され、組立状態において第１外レンズ部材Ｈ４５０の視認窓として機能する。また、本体板部Ｈ４７１には、各開口部Ｈ４７３の開口縁に沿って第１外レンズ部材Ｈ４５０側にリブが立設され、そのリブの内側に膨出部Ｈ４５５が挿入された状態で配設される。これにより、外カバー部材Ｈ４７０と第１外レンズ部材Ｈ４５０との間に隙間が形成されることが抑制される。

【１８１１】

なお、本体板部Ｈ４２１の上部に形成される開口部Ｈ４７３（以下「上端開口部Ｈ４７３ａ」と称す（図１４３（ｂ）参照））の縁部に沿って形成されるリブには、下方側を形成するリブから左重板ユニットＨ４００Ｌ側に向かって立設される区画壁Ｈ４７８が形成される。

【１８１２】

区画壁Ｈ４７８は、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０の上方に立設先端部

が位置する大きさに形成される。これにより、上端開口部Ｈ４７３ａと対向する位置から出射される導光部材Ｈ４４０から出射される光と、他の領域から出射される光とが混ざることを抑制できる。その結果、上端開口部Ｈ４７３ａから出射される光を他の光を区別しやすくできる。

【１８１３】

第１締結部Ｈ４７４は、第１外レンズ部材Ｈ４５０を外カバー部材Ｈ４７０に固定するための螺子を螺入する部分であり、第１外レンズ部材Ｈ４５０に形成される第１挿通孔Ｈ４５３と対応する位置に形成される。

【１８１４】

第２締結部Ｈ４７５は、第１外レンズ部材Ｈ４５０または第２外レンズ部材Ｈ４６０を外カバー部材Ｈ４７０に固定するための螺子を螺入する部分であり、第１外レンズ部材Ｈ４５０に形成される第２挿通孔Ｈ４５４又は第２外レンズ部材Ｈ４６０に形成される挿通部Ｈ４６４と対応する位置に形成される。

【１８１５】

第１挿通孔Ｈ４５３に挿通される螺子が第１締結部Ｈ４７４に螺入され、第２挿通孔Ｈ４５４又は挿通部Ｈ４６４に挿通される螺子が第２締結部Ｈ４７５に締結されることにより、第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０が外カバー部材Ｈ４７０に固定される。

【１８１６】

背面側締結部Ｈ４７６は、外カバー部材Ｈ４７０を支持板部Ｈ４１０に固定するための螺子を螺入する部分であり、支持板部Ｈ４１０の固定板Ｈ４１１に形成される右側用締結孔Ｈ４１１ａ１と対応する位置に形成される。外カバー部材Ｈ４７０は、右側用締結孔Ｈ４１１ａ１を挿通した螺子が背面側締結部Ｈ４７６に螺入されることで、支持板部Ｈ４１０に固定される。

【１８１７】

第１外レンズ部材Ｈ４５０は、上下に長尺の板状に形成される本体板部Ｈ４５１と、その本体板部Ｈ４５１の上端部から内カバー部材Ｈ４２０側に向かって屈曲する屈曲部Ｈ４５２と、外カバー部材Ｈ４７０に締結される螺子が挿通される貫通孔として構成される複数の第１挿通孔Ｈ４５３，第２挿通孔Ｈ４５４と、第１挿通孔Ｈ４５３で囲まれる領域において外カバー部材Ｈ４７０側（右側（矢印Ｒ方向側））に張り出し、外カバー部材Ｈ４７０越しに視認可能とされる膨出部Ｈ４５５と、本体板部Ｈ４５１の背面側に穿設されると共に背面側から支持板部Ｈ４１０に固定する螺子が螺入される背面側締結部Ｈ４５６と、正面側の縁部に沿って複数個形成される被係合部Ｈ４５７と、を主に備える。

【１８１８】

また、第１外レンズ部材Ｈ４５０は、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０と外カバー部材Ｈ４７０との間に配設され導光部材Ｈ４４０から出射される光を透過して外カバー部材Ｈ４７０の開口部Ｈ４７３及び外カバー部材Ｈ４７０の正面側から出射する部分であり、全体が半透明の樹脂材料から形成される。

【１８１９】

本体板部Ｈ４５１は、前後端部の形状が外カバー部材のＨ４７０の前後端部の形状に倣って形成されると共に、下方側の端部から下方側に張り出す張出部Ｈ４５１ａを備えて形成される。

【１８２０】

張出部Ｈ４５１ａは、外カバー部材Ｈ４７０の下方側から外カバー部材Ｈ４７０よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出す部分であり、背面側の端部が外カバー部材Ｈ４７０の正面側の端面に沿って形成される。即ち、張出部Ｈ４５１ａは、外カバー部材Ｈ４７０の下方側において外カバー部材Ｈ４７０と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に隣り合う位置に配置される。

【１８２１】

屈曲部Ｈ４５２は、外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７と所定の間隔を隔てて配

設され、外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７と共に正面枠Ｈ１４の正面視における上部右側を構成する部分であり、正面視において右側から左側への立設距離が立設部Ｈ４７７よりも大きく設定される。即ち、外カバー部材Ｈ４７０に第１外レンズ部材Ｈ４５０を配設した状態では、第１外レンズ部材Ｈ４５０の屈曲部Ｈ４５２が、外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７よりも張り出した状態とされる。

【１８２２】

また、屈曲部Ｈ４５２は、本体板部Ｈ４５１に連結される基端部Ｈ４５２ｃと、その基端部Ｈ４５２ｃの先端側に連なって形成されると共に基端部Ｈ４５２ｃよりも一段高く形成される先端部Ｈ４５２ｄと、その基端部Ｈ４５２ｃと先端部Ｈ４５２ｄとの段差部分に開口する貫通孔Ｈ４５２ａと、先端部Ｈ４５２ｄの先端側端部から上方側（矢印Ｕ方向側）に向かって屈曲する係合部Ｈ４５２ｂと、を主に備える。なお、屈曲部Ｈ４５２は、先端部Ｈ４５２ｄが外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７よりも張り出した状態とされる。

【１８２３】

貫通孔Ｈ４５２ａは、上述したように外カバー部材Ｈ４７０の挿通部Ｈ４７７ａが挿通される部分であり、複数の挿通部Ｈ４７７ａと対応する位置にそれぞれ形成される。これにより、外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７に対して、第１外レンズ部材Ｈ４５０の屈曲部Ｈ４５２の位置がずれることを抑制できる。

【１８２４】

なお、挿通部Ｈ４７７ａは、右側（矢印Ｒ方向側）から左側（矢印Ｌ方向側）に向かって突出して形成され、貫通孔Ｈ４５２ａは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に貫通して形成される。これにより、外カバー部材Ｈ４７０に対して、左側から第１外レンズ部材Ｈ４５０を配設する際に、貫通孔Ｈ４５２ａの内側に挿通部Ｈ４７７ａを挿通させることができる。

【１８２５】

係合部Ｈ４５２ｂは、上述した上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２（被係合部Ｈ３３２ｇ）と係合する部分であり、上面板Ｈ３３２との係合により、上面板Ｈ３３２に対して屈曲部Ｈ４５２が離間することを抑制して、上面板Ｈ３３２に対して立設部Ｈ４７７が離間することを抑制できる。なお、上側装飾ユニットＨ１４ａと右側装飾ユニットＨ１４ｃとの組み立て方法についての詳しい説明は後述する。

【１８２６】

第１挿通孔Ｈ４５３は、上述したように外カバー部材Ｈ４７０の第１締結部Ｈ４７４に螺入される螺子が挿通される部分であり、第１締結部Ｈ４７４と対応する位置に形成される。また、第１挿通孔Ｈ４５３は、外カバー部材Ｈ４７０側（矢印Ｒ方向側）から導光部材Ｈ４４０側（矢印Ｌ方向側）に向かって円形状に凹設される凹設底面に形成されており、凹設部に第１締結部Ｈ４７４の先端部を挿入可能とされる。これにより、外カバー部材Ｈ４７０に対して第１外レンズ部材Ｈ４５０を位置決めしつつ、外カバー部材Ｈ４７０に第１外レンズ部材Ｈ４５０を固定することができる。

【１８２７】

第２挿通孔Ｈ４５４は、上述したように外カバー部材Ｈ４７０の第２締結部Ｈ４７５に螺入される螺子が挿通される部分であり、第２締結部Ｈ４７５と対応する位置に形成される。なお、第２挿通孔Ｈ４５４は、第１挿通孔Ｈ４５３のように第２締結部Ｈ４７５の先端部を挿入可能な凹設部を備えておらず、本体板部Ｈ４５１の側面に第２締結部Ｈ４７５の先端部を当接させた状態で螺子が挿通される。

【１８２８】

膨出部Ｈ４５５は、開口部Ｈ４７３に嵌り込む部分であり、それぞれの開口部Ｈ４７３と対応する形状の外形に形成される。即ち、右側装飾ユニットＨ１４ｃが組み立てられた状態において、開口部Ｈ４７３から膨出部Ｈ４５５が右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側へ張り出した状態とされる。なお、上端開口部Ｈ４７３ａに挿入される上端側の膨出部Ｈ４５５（以下「上方側膨出部Ｈ４５５ａ」と称す）は、上端開口部Ｈ４７３ａの内縁と若干

の隙間を隔てた状態で形成される。
【１８２９】
背面側締結部Ｈ４５６は、第１外レンズ部材Ｈ４５０を支持板部Ｈ４１０に固定するための螺子を螺入する部分であり、支持板部Ｈ４１０の固定板Ｈ４１１に形成される右側用締結孔Ｈ４１１ａ１と対応する位置に形成される。第１外レンズ部材Ｈ４５０は、右側用締結孔Ｈ４１１ａ１を挿通した螺子が背面側締結部Ｈ４５６に螺入されることで、支持板部Ｈ４１０に固定される。
【１８３０】
被係合部Ｈ４５７は、導光部材Ｈ４４０の係合部Ｈ４４６と係合する部分であり、右側装飾ユニットＨ１４ｃを組み立てた状態において、係合部Ｈ４４６と対応する位置に形成される。また、被係合部Ｈ４５７は、本体板部Ｈ４５１の正面側端部にブリッジ状に形成されており、そのブリッジにより前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口する空間が形成される。
【１８３１】
第２外レンズ部材Ｈ４６０は、全体が透明の樹脂材料から形成され、第１外レンズ部材Ｈ４５０の張出部Ｈ４５１ａを除いた部分の下側（矢印Ｄ方向側）に配設される。また、第２外レンズ部材Ｈ４６０は、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０と外カバー部材Ｈ４７０との間に配設される挟持部Ｈ４６１と、その挟持部Ｈ４６１よりも正面側に張り出される張出部Ｈ４６２と、挟持部Ｈ４６１及び張出部Ｈ４６２との間を連結する連結部Ｈ４６３と、を主に備える。
【１８３２】
挟持部Ｈ４６１及び連結部Ｈ４６３は、第２外レンズ部材Ｈ４６０を外カバー部材Ｈ４７０に固定するための部分であり、外カバー部材Ｈ４７０の第２締結部Ｈ４７５と対応する位置に開口する複数の挿通部Ｈ４６４を備える。挿通部Ｈ４６４に挿通した螺子を外カバー部材Ｈ４７０の第２締結部Ｈ４７５に螺入することで、第２外レンズ部材Ｈ４６０を第１外レンズ部材Ｈ４５０と共に外カバー部材Ｈ４７０に固定できる。
【１８３３】
また、挟持部Ｈ４６１には、背面側の端部に背面側締結部Ｈ４６５が形成される。背面側締結部Ｈ４６５は、第２外レンズ部材Ｈ４６０を支持板部Ｈ４１０に固定するための螺子を螺入する部分であり、支持板部Ｈ４１０の固定板Ｈ４１１に形成される右側用締結孔Ｈ４１１ａ１と対応する位置に形成される。第２外レンズ部材Ｈ４６０は、右側用締結孔Ｈ４１１ａ１を挿通した螺子が背面側締結部Ｈ４６５に螺入されることで、支持板部Ｈ４１０に固定される。
【１８３４】
なお、上述した外カバー部材Ｈ４７０、第１外レンズ部材Ｈ４５０、及び、第２外レンズ部材Ｈ４６０の支持板部Ｈ４１０への固定は、外カバー部材Ｈ４７０に第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０を固定した状態（即ち、右重板ユニットＨ４００Ｒの組立状態）で行われる。より詳しくは、左重板ユニットＨ４００Ｌと右重板ユニットＨ４００Ｒとを組み付けた状態で行われる。
【１８３５】
連結部Ｈ４６３は、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０と第１外レンズ部材Ｈ４５０の張出部Ｈ４５１ａとの間に配設される部分であり、挟持部Ｈ４６１及び張出部Ｈ４６２よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における厚みが薄く形成される。これにより、右重板ユニットＨ４００Ｒの組立状態において、第１外レンズ部材Ｈ４５０の張出部Ｈ４５１ａは、第２外レンズ部材Ｈ４６０の挟持部Ｈ４６１と張出部Ｈ４６２とにより前後が挟まれた状態とされる。
【１８３６】
張出部Ｈ４６２は、右側装飾ユニットＨ１４ｃを組み立てた状態において、上述した下側レンズ部Ｈ４３２と共に内カバー部材Ｈ４２０と外カバー部材Ｈ４７０との間から正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出す部分であり、正面側の端部が下側レンズ部Ｈ４３２と同形

状の波形状に形成される。
【１８３７】
　また、張出部Ｈ４６２には、正面側の端部に内カバー部材Ｈ４２０側（矢印Ｌ方向側）に向かって立設される立設部Ｈ４６２ａが形成される。立設部Ｈ４６２ａは、右側装飾ユニットＨ１４ｃを組み立てた状態において、下側レンズ部Ｈ４３２の立設部Ｈ４３２ａの正面側に重なる大きさに形成される。即ち、組立状態における右側装飾ユニットＨ１４ｃの下側レンズ部Ｈ４３２の立設部Ｈ４３２ａの正面側には、第２外レンズ部材Ｈ４６０の立設部Ｈ４６２ａが重なる状態で配設される。
【１８３８】
　第２外レンズ部材Ｈ４６０の立設部Ｈ４６２ａには、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成される被係合部Ｈ４６２ａ１が形成され、下側レンズ部Ｈ４３２の立設部Ｈ４３２ａには、被係合部Ｈ４６２ａ１に向かって突出する係合部Ｈ４３２ａ１が形成される。これにより、右側装飾ユニットＨ１４ｃの組立状態において、被係合部Ｈ４６２ａ１に係合部Ｈ４３２ａ１が挿入された状態とされ、左重板ユニットＨ４００Ｌの正面側と右重板ユニットＨ４００Ｒの正面側とが互いに離れる左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位することが規制される。
【１８３９】
　なお、本実施形態では、第２外レンズ部材Ｈ４６０及び下側レンズ部Ｈ４３２が透明の樹脂材料から形成されると共に、導光部材Ｈ４４０から出射される光を透過可能に形成されるので、立設部Ｈ４６２ａ及び立設部Ｈ４３２ａに光を透過させることで被係合部Ｈ４６２ａ１及び係合部Ｈ４３２ａ１を遊技者に認識させにくくできる。その結果、遊技者の興趣が低下することを抑制できる。
【１８４０】
　次いで、右重板ユニットＨ４００Ｒの組み立て方法について説明する。初めに、右重板ユニットＨ４００Ｒは、外カバー部材Ｈ４７０の左側から第１外レンズ部材Ｈ４５０が重ね合わされる。この際、第１外レンズ部材Ｈ４５０の貫通孔Ｈ４５２ａに外カバー部材Ｈ４７０の挿通部Ｈ４７７ａが挿通されると共に、第１外レンズ部材Ｈ４５０の第１挿通孔Ｈ４５３が形成される凹部に第１外レンズ部材Ｈ４５０の第１締結部Ｈ４７４の先端部が挿入される。これにより、外カバー部材Ｈ４７０に対して第１外レンズ部材Ｈ４５０を位置決めしつつ配置することができる。
【１８４１】
　次に、外カバー部材Ｈ４７０に第１外レンズ部材Ｈ４５０が配置された状態で、第２外レンズ部材Ｈ４６０が外カバー部材Ｈ４７０の左側から第１外レンズ部材Ｈ４５０に配設される。この場合、第２外レンズ部材Ｈ４６０の挟持部Ｈ４６１と張出部Ｈ４６２との間に第１外レンズ部材Ｈ４５０の張出部Ｈ４５１ａを挟み込まれる。これにより、第２外レンズ部材Ｈ４６０を第１外レンズ部材Ｈ４５０に対して位置決めしつつ配設できる。
【１８４２】
　最後に、外カバー部材Ｈ４７０に第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０が配設された状態で、外カバー部材Ｈ４７０の第１締結部Ｈ４７４及び第２締結部Ｈ４７５に螺子が螺入されることで、右重板ユニットＨ４００Ｒを組み立てることができる。
【１８４３】
　なお、本実施形態では、第１外レンズ部材Ｈ４５０と第２外レンズ部材Ｈ４６０とが色違いの樹脂材料から形成されるため、第１外レンズ部材Ｈ４５０と第２外レンズ部材Ｈ４６０とが別部材から構成されるが、必ずしもこれに限られるものではなく、第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０を同色（例えば、無色透明）の樹脂材料から１の部材として構成しても良い。
【１８４４】
　次いで、図１４２及び図１４３を参照をして、右側装飾ユニットＨ１４ｃと上側装飾ユニットＨ１４ａとについて説明する。図１４２（ａ）は、正面枠Ｈ１４の分解正面斜視図

であり、図１４２（ｂ）は、正面枠Ｈ１４の正面斜視図であり、図１４３（ａ）は、図１３６（ｂ）に示すＸ０８ａ線における右側装飾ユニットＨ１４ｃ及び上側装飾ユニットＨ１４ａの断面模式図であり、図１４３（ｂ）は、図１３６（ｂ）に示すＸ０８ｂ線における右側装飾ユニットＨ１４ｃ及び上側装飾ユニットＨ１４ａの断面模式図である。

【１８４５】

なお、図１４２（ａ）では、本体枠Ｈ１４ｄから上側装飾ユニットＨ１４ａを取り外した状態における正面枠Ｈ１４が図示される。また、図１４３（ａ）及び図１４３（ｂ）では、正面枠Ｈ１４が組み立てられた状態における右側装飾ユニットＨ１４ｃ及び上側装飾ユニットＨ１４ａの一部（上面板Ｈ３３２）の断面が模式的に図示される。

【１８４６】

図１４２（ａ）及び図１４２（ｂ）に示すように、右側装飾ユニットＨ１４ｃと上側装飾ユニットＨ１４ａとは、右側装飾ユニットＨ１４ｃを本体枠Ｈ１４ｄに固定した後、正面側から上側装飾ユニットＨ１４ａが本体枠Ｈ１４ｄに配設されて螺子により固定される。

【１８４７】

この場合、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２が、右側装飾ユニットＨ１４ｃの外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７と隣り合う位置に配設される。なお、ここで説明する隣り合う位置とは、上面板Ｈ３３２と立設部Ｈ４７７とが当接している状態から組立公差や部品の寸法公差などにより若干の隙間を有した状態を含む位置である。

【１８４８】

本実施形態においては、上側装飾ユニットＨ１４ａと右側装飾ユニットＨ１４ｃとを、正面視における左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に分割する（正面視における本体枠Ｈ１４ｄの上下両端の間の位置で分割）のではなく、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に分割する（正面視における本体枠Ｈ１４ｄの左右両端の間の位置で分割する）ことで、右側装飾ユニットＨ１４ｃの上下方向における装飾領域を増やすことができる。

【１８４９】

即ち、右側装飾ユニットＨ１４ｃの外カバー部材Ｈ４７０の視認窓（開口部Ｈ４７３）を介して視認される領域を大きくすることができる。その結果、右側装飾ユニットＨ１４ｃによる発光態様をパチンコ機Ｈ１０の周囲にいる人に見せやすくできる。即ち、パチンコ機Ｈ１０を遊技していない人に右側装飾ユニットＨ１４ｃ（パチンコ機Ｈ１０）を注目させやすくできる。

【１８５０】

また、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７とが左右方向に隣り合って配置され、上下方向に分割される（正面視における本体枠Ｈ１４ｄの左右両端の間の位置で分割する）ので、右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設される基板部材Ｈ４１２や、上側装飾ユニットＨ１４ａに配設される基板部材Ｈ３４２に生じる熱を上面板Ｈ３３２と立設部Ｈ４７７との隙間から逃がしやすくできる。その結果、右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設される基板部材Ｈ４１２や、上側装飾ユニットＨ１４ａに配設される基板部材Ｈ３４２が熱により破損することを抑制できる。

【１８５１】

しかしながら、上側装飾ユニットＨ１４ａと右側装飾ユニットＨ１４ｃとを、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に隣り合って配設するので、組立公差や部品の寸法公差などに起因して上側装飾ユニットＨ１４ａと右側装飾ユニットＨ１４ｃとの境界に隙間が形成されたり、上側装飾ユニットＨ１４ａ又は右側装飾ユニットＨ１４ｃに作用された外力に起因して上側装飾ユニットＨ１４ａと右側装飾ユニットＨ１４ｃとの境界に隙間が形成される虞がある。隙間が形成されると、隙間から異物（例えば、不正行為を行うための針金等、ちりやほこり等、液体）が侵入して内部の機械的構成や電気的構成に悪影響を及ぼす虞がある。特に、液体（例えば、遊技中に飲用するもの）は、微小な隙間であっても侵入しやすく、また、電気的構成に悪影響を及ぼしやすい。

【１８５２】

なお、機械的構成に悪影響を及ぼす例としては、摺動する変位部材の間に異物が噛み込み変位部材の摺動が停止される場合や、光を透過する透過面が異物により汚れて光の発光態様が悪くなる場合や、異物が侵入することで異音が発生する場合や、異物によりセンサ等の検出態様が悪くなる（誤検出する）場合等が挙げられ、電気的構成に悪影響を及ぼす例としては、異物が基板部材に付着し基板部材がショートする場合や、異物が駆動モータ等の駆動源となる電気部品に付着しショートする場合や、異物が配線のコネクタ等に入り込むことで誤った信号が電気部品に送信される場合等が挙げられる。

【１８５３】

また、上側装飾ユニットＨ１４ａは、上面（上面板Ｈ３３２）が略平坦な面に形成されており、遊技者が物を置きやすい構造となっている。そのため、遊技者が上側装飾ユニットＨ１４ａの上面に置いた物が上側装飾ユニットＨ１４ａの上面に溜まりやすくなっている。よって、正面枠Ｈ１４の上側に上側装飾ユニットＨ１４ａと右側装飾ユニットＨ１４ｃとの隙間から異物が入り込む可能性が高くなる。

【１８５４】

これに対し、第８実施形態における右側装飾ユニットＨ１４ｃには、図１４３（ａ）及び図１４３（ｂ）に示すように、立設部Ｈ４７７の下方側に配設される第１外レンズ部材Ｈ４５０の屈曲部Ｈ４５２（先端部Ｈ４５２ｄ）が立設部Ｈ４７７よりも立設部Ｈ４７７の立設方向（即ち、上側装飾ユニットＨ１４ａ側）に張り出されて形成される。

【１８５５】

即ち、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）の重力方向下方側（矢印Ｕ方向側）に、第１外レンズ部材Ｈ４５０の屈曲部Ｈ４５２（先端部Ｈ４５２ｄ）が配置される。これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界に隙間が形成され、その隙間から侵入する異物を屈曲部Ｈ４５２で受け止めることができる。従って、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界から入った異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。

【１８５６】

また、屈曲部Ｈ４５２は、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）の下方に先端部Ｈ４５２ｄが配設される共に、その先端部Ｈ４５２ｄに連なって境界（連結部）から離間する方向に延設される基端部Ｈ４５２ｃを備える。これにより、境界（連結部）に隙間が形成された場合に、その隙間から侵入した異物を先端部Ｈ４５２ｄで受け止めると共に、その受け止めた異物を機械的構成や電気的構成に悪影響を及ぼしにくい位置（本実施形態では、右側装飾ユニットＨ１４ｃの内部）へ向けて基端部Ｈ４５２ｃにより案内できる。これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）から侵入した異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。

【１８５７】

なお、先端部Ｈ４５２ｄ及び基端部Ｈ４５２ｃ（屈曲部Ｈ４５２）は、それぞれ屈曲部Ｈ４５２の基端側（本体板部Ｈ４５１側）に向かって上面が下降傾斜して形成される。また、先端部Ｈ４５２ｄ及び基端部Ｈ４５２ｃと所定の間隔を隔てる位置で先端部Ｈ４５２ｄ及び基端部Ｈ４５２ｃの上方側を覆設する位置に外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７が配設される。

【１８５８】

即ち、先端部Ｈ４５２ｄ及び基端部Ｈ４５２ｃ（屈曲部Ｈ４５２）と、立設部Ｈ４７７との対向間に右側装飾ユニットＨ１４ｃの右側に向かって延設される通路空間Ｈ４００Ａ（図１４３（ａ）及び（ｂ）参照）が形成される。先端部Ｈ４５２ｄで受け止めた異物は、通路空間Ｈ４００Ａを介して所定の方向に案内されるので、異物の通過方向が通路空間Ｈ４００Ａにより規定される。よって、異物を機械的構成や電気的構成に悪影響を及ぼし

にくい位置（本実施形態では、右側装飾ユニットＨ１４ｃの内部）へ向けて案内しやすくできる。これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）から侵入した異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。

【１８５９】

また、本実施形態では、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）の下方に位置する屈曲部Ｈ４５２が、光を透過する第１外レンズ部材Ｈ４５０の一部により形成されるので、上面板Ｈ３３２に対する立設部Ｈ４７７の配置がずれて境界（連結部）の隙間が大きくなった場合に境界（連結部）の隙間から光を漏れ出させることができる。この光により、パチンコ機Ｈ１０を設置するパチンコ店（ホール）の管理者（店員）にパチンコ機Ｈ１０に異常がある（上面板Ｈ３３２と立設部Ｈ４７７との間に隙間が形成された）ことを認識させることができる。その結果、境界（連結部）の隙間が大きくなった状態のままパチンコ機Ｈ１０が放置される（遊技可能な状態のままにされる）ことを抑制できる。

【１８６０】

なお、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）から侵入する液体を先端部Ｈ４５２ｄで受け止めた場合には、基板部材Ｈ４１２のＬＥＤＨ４１２ａの発光に伴う熱により、その液体を蒸発させて上面板Ｈ３３２と立設部Ｈ４７７との境界（連結部）からパチンコ機Ｈ１０の外部へ排出することができる。これにより、上面板Ｈ３３２と立設部Ｈ４７７との境界（連結部）から侵入した液体により機械的構成や電気的構成（特に、液体による部品のショート）に悪影響が生じることを抑制できる。

【１８６１】

さらに、右側装飾ユニットＨ１４ｃの屈曲部Ｈ４５２には、その先端に係合部Ｈ４５２ｂが形成されており、この係合部Ｈ４５２ｂが、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２に形成される被係合部Ｈ３３２ｇに係合する（第１片Ｈ３３２ｇ１と第２片Ｈ３３２ｇ２との間に挿入される）ように形成される。よって、係合部Ｈ４５２ｂは、右側装飾ユニットＨ１４ｃと上側装飾ユニットＨ１４ａとが本体枠Ｈ１４ｄに配設された際に、上面板Ｈ３３２の第１片Ｈ３３２ｇ１及び第２片Ｈ３３２ｇ２の対向間に挿入され、上面板Ｈ３３２の被係合部Ｈ３３２ｇに係合される。

【１８６２】

これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａ及び右側装飾ユニットＨ１４ｃを本体枠Ｈ１４ｄに配設した後で、上側装飾ユニットＨ１４ａに対して右側装飾ユニットＨ１４ｃの位置がずれることを抑制できる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）の隙間が大きくなることを抑制して、その境界（連結部）の隙間から異物が入りやすくなることを抑制できる。

【１８６３】

被係合部Ｈ３３２ｇは、右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との連結部分となる上面板Ｈ３３２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両端部に形成される。よって、上面板Ｈ３３２の左右方向の両端部から離れた位置に別部材で被係合部Ｈ３３２ｇが形成される場合に比べて、部品の製造公差や組立公差により被係合部の（係合部Ｈ４５２ｂと係合する）位置がずれることを抑制できる。よって、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）の隙間が大きくなることを抑制して、その境界（連結部）の隙間から異物が入りやすくなることを抑制できる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａの視認性が悪くなることを抑制できる。

【１８６４】

また、屈曲部Ｈ４５２の係合部Ｈ４５２ｂを上側装飾ユニットＨ１４ａに係合させるので、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）に対して、屈曲部Ｈ４５２の位置がずれることを抑制できる。よって、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設

部Ｈ４７７との境界（連結部）から異物が入った場合に、その異物を屈曲部Ｈ４５２で確実に受け止めることができる。

【１８６５】

なお、第１片Ｈ３３２ｇ１と第２片Ｈ３３２ｇ２とは、上側装飾ユニットＨ１４ａの背面側（矢印Ｂ方向側）の端部が開放されて（所定の隙間を隔てて）形成される。これにより、第１片Ｈ３３２ｇ１と第２片Ｈ３３２ｇ２との間への係合部Ｈ４５２ｂの配設は、本体枠Ｈ１４ｄに上側装飾ユニットＨ１４ａを配設する際に、上側装飾ユニットＨ１４ａを本体枠Ｈ１４ｄの正面側から背面側に向かって挿入することで、第１片Ｈ３３２ｇ１と第２片Ｈ３３２ｇ２との間に係合部Ｈ４５２ｂを挿入することができる。その結果、第１片Ｈ３３２ｇ１と第２片Ｈ３３２ｇ２との間に係合部Ｈ４５２ｂを挟み込んだ状態で、上側装飾ユニットＨ１４ａを本体枠Ｈ１４ｄに配設することができる。

【１８６６】

なお、図１４３に示すように、屈曲部Ｈ４５２は、外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７と上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の隙間を隔てて配設される（通路空間Ｈ４００Ａを備える）と共に、上面側が本体板部Ｈ４５１側（矢印Ｒ方向側）に向かって下方側（矢印Ｄ方向側）に傾斜して形成される。これにより、屈曲部Ｈ４５２で受け止めた異物を屈曲部Ｈ４５２の上面を転動させて（滑り落として）本体板部Ｈ４５１側（矢印Ｒ方向側）に移動させることができる。よって、外カバー部材Ｈ４７０の本体板部Ｈ４７１と第１外レンズ部材Ｈ４５０の本体板部Ｈ４５１との間の隙間に異物を落下させることができる。その結果、異物を上側装飾ユニットＨ１４ａの装飾と関係のない位置に流下させることができ、異物により上側装飾ユニットＨ１４ａの視認性が悪くなることを抑制できる。

【１８６７】

また、屈曲部Ｈ４５２には、本体板部Ｈ４５１からの屈曲先端部に形成される係合部Ｈ４５２ｂが屈曲部Ｈ４５２の屈曲先端部に沿って屈曲先端部の全域に形成される。そのため、屈曲部Ｈ４５２で受け止めた異物が屈曲部Ｈ４５２の屈曲先端側（矢印Ｌ方向側）に転動した（滑り落ちた）としても、屈曲部Ｈ４５２の屈曲先端部を超えて異物が下方に落下することを抑制できる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａの視認性が悪くなることを抑制できる。

【１８６８】

また、本実施形態では、屈曲部Ｈ４５２に段差が形成され、その段差に貫通孔Ｈ４５２ａが形成される。上述したように、右側装飾ユニットＨ１４ｃの上部は、上側装飾ユニットＨ１４ａのスピーカーＨ３１２ａの背面側を覆う状態で配設される。従って、貫通孔Ｈ４５２ａによりスピーカーＨ３１２ａの背面側から放音される音を貫通孔Ｈ４５２ａを介して立設部Ｈ４７７と屈曲部Ｈ４５２との間の隙間に放音させることができ、この音により屈曲部Ｈ４５２を微振動させることができる。

【１８６９】

このスピーカーＨ３１２ａの音による屈曲部Ｈ４５２の微振動により、屈曲部Ｈ４５２の上面に乗る異物を上面に沿って滑りやすく（移動させやすく）できる。その結果、外カバー部材Ｈ４７０の本体板部Ｈ４７１と第１外レンズ部材Ｈ４５０の本体板部Ｈ４５１との間の隙間に異物を落下させやすくできる。

【１８７０】

また、本実施形態では、貫通孔Ｈ４５２ａを介して放音される音が、スピーカーＨ３１２ａの背面側から放音（出力）される音であるので、スピーカーＨ３１２ａの正面側から放音される音に比べて低音となりやすい。そのため、スピーカーＨ３１２ａの音により屈曲部Ｈ４５２を振動させやすくできる。その結果、外カバー部材Ｈ４７０の本体板部Ｈ４７１と第１外レンズ部材Ｈ４５０の本体板部Ｈ４５１との間の隙間に異物を落下させやすくできる。

【１８７１】

次いで、外カバー部材Ｈ４７０の本体板部Ｈ４７１と、第１外レンズ部材Ｈ４５０の本体板部Ｈ４５１とについて説明する。図１４３に示すように、本体板部Ｈ４７１には、開

口部Ｈ４７３が形成され、その開口部Ｈ４７３の内側に所定の隙間を空けた状態で本体板部Ｈ４５１の膨出部Ｈ４５５が挿入される。従って、本体板部Ｈ４７１と本体板部Ｈ４５１との対向間（通路空間Ｈ４００Ａ）は、開口部Ｈ４７３（特に上端開口部Ｈ４７３ａ）を介して右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側の空間に連通される。即ち、通路空間Ｈ４００Ａとパチンコ機Ｈ１０の外部とを連通可能な開口部Ｈ４７３を備える。

【１８７２】

よって、外カバー部材Ｈ４７０の本体板部Ｈ４７１と第１外レンズ部材Ｈ４５０の本体板部Ｈ４５１との間の隙間に異物が落下する場合には、開口部Ｈ４７３（特に上端開口部Ｈ４７３ａ）を介して異物を右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側に排出することができる。

【１８７３】

即ち、本実施形態では、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）と、右側装飾ユニットＨ１４ｃの開口部Ｈ４７３とを連通する通路（本体板部Ｈ４７１及び本体板部Ｈ４５１の隙間と、立設部Ｈ４７７及び屈曲部Ｈ４５２の隙間）を備える。これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）から異物が入った場合に、その異物が右側装飾ユニットＨ１４ｃの内部を下端まで落下することを抑制できる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部）から侵入した異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。

【１８７４】

また、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２及び右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７の境界（連結部）と、右側装飾ユニットＨ１４ｃの開口部Ｈ４７３とを連通する通路空間Ｈ４００Ａは、右側装飾ユニットＨ１４ｃのＬＥＤＨ４１２ａの光を拡散する導光部材Ｈ４４０のとは別の部材（第１外レンズ部材Ｈ４５０及び外カバー部材Ｈ４７０）に形成される。従って、通路を異物や液体が流れる場合にＬＥＤＨ４１２ａから出射される光の拡散性が悪くなることを抑制できる。その結果、異物を流す通路を有する右側装飾ユニットＨ１４ｃの装飾が視認されにくくなることを抑制できる。

【１８７５】

さらに、第８実施形態では、通路空間Ｈ４００Ａの下方側（流下方向側）において第１外レンズ部材Ｈ４５０に膨出部Ｈ４５５が形成され、その膨出部Ｈ４５５が開口部Ｈ４７３に挿入される。これにより、外カバー部材Ｈ４７０の本体板部Ｈ４７１と第１外レンズ部材Ｈ４５０の本体板部Ｈ４５１との間の隙間に落下する（通路空間Ｈ４００Ａを通過する）異物を膨出部Ｈ４５５に当接させると共に、膨出部Ｈ４５５の外面に沿って落下させることができる。その結果、開口部Ｈ４７３から異物を右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側へ排出しやすくできる。異物が右側装飾ユニットＨ１４ｃの内部に留まることを抑制できる。

【１８７６】

即ち、外カバー部材Ｈ４７０に対する第１外レンズ部材Ｈ４５０の位置決めとして膨出部Ｈ４５５を利用できるだけでなく、通路空間Ｈ４００を通過する異物を受け止めてパチンコ機Ｈ１０の外側に排出する手段としても膨出部Ｈ４５５を利用（兼用）できる。

【１８７７】

特に、第１外レンズ部材Ｈ４５０の上方側に形成される上方側膨出部Ｈ４５５ａは、屈曲部Ｈ４５２の基端部Ｈ４５２ｃと連続する高さに形成されるので、通路空間Ｈ４００Ａ内を通過する異物を基端部Ｈ４５２ｃ上を通過させてそのまま上方側膨出部Ｈ４５５ａに案内することができる。その結果、上端開口部Ｈ４７３ａから異物を右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側へ排出しやすくできる。

【１８７８】

なお、通路空間Ｈ４００Ａの基端部Ｈ４５２ｃは、上端開口部Ｈ４７３ａに向かって傾斜して形成される。これより、第８実施形態における上端開口部Ｈ４７３ａは、外カバー部材Ｈ４７０に対して前後方向における寸法が１／５以下に小さく設定されるが、通路空

間Ｈ４００Ａ内を通過する異物を上端開口部Ｈ４７３ａを通して右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側へ排出しやすくできる。

【１８７９】

これにより、外カバー部材Ｈ４７０に対して異物が排出される部分を一部に限定して、異物が排出されていることを遊技者に分かりにくくできる。また、異物が排出される領域を外カバー部材Ｈ４７０の背面側に偏る位置に設定できるので、遊技者に視認されにくい位置から異物を排出することができる。その結果、遊技者の興趣が定価することを抑制できる。

【１８８０】

また、上端開口部Ｈ４７３ａの下方に位置する開口部Ｈ４７３は、少なくとも一部が上端開口部Ｈ４７３ａと上下方向に重なる位置に形成されており、上端開口部Ｈ４７３ａに案内されず落下する異物を他の開口部Ｈ４７３を通して右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側へ排出しやすくされる。

【１８８１】

なお、上記第８実施形態では、上端開口部Ｈ４７３ａの前後方向の大きさが外カバー部材Ｈ４７０に対して十分に小さく設定される場合について説明したが、上端開口部Ｈ４７３ａの前後方向における大きさを外カバー部材Ｈ４７０の前後方向における大きさと略同一に設定しても良い。この場合には、上端開口部Ｈ４７３ａからほとんどの異物を右側装飾ユニットＨ１４ｃの外側に排出することができ、上端開口部Ｈ４７３ａの下方側に他の開口部Ｈ４７３を不要とできる。その結果、設計の自由度を向上できる。

【１８８２】

また、外カバー部材Ｈ４７０の上部に形成される上端開口部Ｈ４７３ａ（図１５０（ｂ）参照）に上端開口部Ｈ４７３ａの下方側縁部に連なって区画壁Ｈ４７８が突設され、上端開口部Ｈ４７３ａに挿入される上方側膨出部Ｈ４５５ａの周囲に、区画壁Ｈ４７８と対応する形状の開口Ｈ４５５ａ１が形成され、その開口Ｈ４５５ａ１に区画壁Ｈ４７８が挿通される。

【１８８３】

即ち、通路空間Ｈ４００Ａと上端開口部Ｈ４７３ａとが連通される下方側端部に区画壁Ｈ４７８が形成され、その区画壁Ｈ４７８が開口Ｈ４５５ａ１に挿入されるので、外カバー部材Ｈ４７０に第１外レンズ部材Ｈ４５０を組付ける際には、開口Ｈ４５５ａ１への区画壁Ｈ４７８の挿入により、外カバー部材Ｈ４７０と第１外レンズ部材Ｈ４５０とを位置決めできる。これにより、外カバー部材Ｈ４７０への第１外レンズ部材Ｈ４５０への組付け作業を容易とできる。

【１８８４】

また、外カバー部材Ｈ４７０に第１外レンズ部材Ｈ４５０が配設された状態では、区画壁Ｈ４７８が通路空間Ｈ４００の下方に位置するので、通路空間Ｈ４００を上流（上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界（連結部））側から通過する異物を区画壁Ｈ４７８で受け止めると共に、その受け止めた異物を上端開口部Ｈ４７３ａに向けて案内できる。

【１８８５】

従って、外カバー部材Ｈ４７０に対する第１外レンズ部材Ｈ４５０の位置決めとして区画壁Ｈ４７８を利用できるだけでなく、通路空間Ｈ４００を通過する異物を受け止めてパチンコ機Ｈ１０の外側に排出する手段としても区画壁Ｈ４７８を利用（兼用）できる。

【１８８６】

次いで、図１４４から図１６３を参照して、上下皿ユニットＨ１５について説明する。初めに、図１４４から図１４６を参照して、上下皿ユニットＨ１５の全体構成について説明する。図１４４は、上下皿ユニットＨ１５の正面図であり、図１４５は、上下皿ユニットＨ１５の分解正面斜視図であり、図１４６は、上下皿ユニットＨ１５の分解背面斜視図である。

【１８８７】

図１４４から図１４６に示すように、上下皿ユニットＨ１５は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベース部材Ｈ５１０と、そのベース部材Ｈ５１０の正面側に配設される上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ハンドルＨ５１と、ベース部材Ｈ５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側に配設される下皿形成部材Ｈ５３０と、上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｈ５３０の間に配設される操作ユニットＨ１８０と、を主に備える。

【１８８８】

ベース部材Ｈ５１０は、上下皿ユニットＨ１５を本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設するための部材であり、正面視において本体枠Ｈ１４ｄよりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に大きく形成されると共に、下方側の縁部が本体枠Ｈ１４ｄよりも下方側に位置して配設される。

【１８８９】

上皿形成部材Ｈ５２０は、遊技領域に打ち出される球を貯留する上皿Ｈ１７を上下皿ユニットの上部に形成するための部材であり、ベース部材Ｈ５１０の上方側の縁部に沿ってベース部材Ｈ５１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。

【１８９０】

操作ユニットＨ１８０は、上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｈ５３０の間に配設されると共に、遊技者に操作されるボタン部Ｈ１８１を上皿形成部材Ｈ５２０の上面よりも上方側に突出させた状態で配設される。

【１８９１】

下皿形成部材Ｈ５３０は、上下皿ユニットＨ１５の化粧面を構成する部材であり、正面視においてベース部材Ｈ５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０を覆う位置に配設される。また、下皿形成部材Ｈ５３０は、下皿Ｈ５０の貯留空間を形成する下皿構成ユニットＨ５５０と、その下皿構成ユニットＨ５５０に貯留された球を抜く球抜きユニットＨ５６０とを備える。

【１８９２】

本体枠Ｈ１４ｄへのベース部材Ｈ５１０の配設は、ベース部材Ｈ５１０に上皿形成部材Ｈ５２０、下皿形成部材Ｈ５３０、操作ユニットＨ１８０、及び、操作ハンドルＨ５１を配設し、上下皿ユニットＨ１５を組み立てた状態で取り付けられる。

【１８９３】

次いで、図１４７及び図１４８を参照して、ベース部材Ｈ５１０について説明する。図１４７（ａ）は、ベース部材Ｈ５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面図であり、図１４７（ｂ）は、ベース部材Ｈ５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の背面図であり、図１４８（ａ）は、図１４７（ａ）のＸ１２ａ線におけるベース部材Ｈ５１０の断面図であり、図１４８（ｂ）は、図１４７（ａ）のＸ１２ｂ線におけるベース部材Ｈ５１０の断面図であり、図１４８（ｃ）は、図１４７（ａ）のＸ１２ｃ線におけるベース部材Ｈ５１０の断面図である。

【１８９４】

図１４７に示すように、ベース部材Ｈ５１０は、本体枠Ｈ１４ｄの下部正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う板状に形成されると共に、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の縁部および下方向の縁部に背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって屈曲する側壁部を有し、その側壁部の内側に本体枠Ｈ１４ｄを収容する状態で本体枠Ｈ１４ｄに配設される。

【１８９５】

また、ベース部材Ｈ５１０は、本体枠Ｈ１４ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子を螺入可能に穿設される複数の締結孔Ｈ５１１と、本体枠Ｈ１４ｄの背面側から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて螺子を挿通可能に穿設される複数の挿通孔Ｈ５１２と、上皿Ｈ１７の貯留領域の背面側に開口する上皿用球流入部Ｈ５１３及び送球用球流出部Ｈ５１６と、下皿Ｈ５０の貯留領域の背面側に開口する下皿用球流入部Ｈ５１４と、正面側に向かって凸状に突出する凸状部Ｈ５１５と、シリンダ錠Ｈ２０が内側に配設されるベース側保持孔Ｈ５１７と、を主に備え、有色（第８実施形態では黒色）の非透過性の樹脂材料

から形成される。
【１８９６】
上皿用球流入部Ｈ５１３は、ベース部材Ｈ５１０（上下皿ユニットＨ１５）の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０（図１２５参照）の前扉側上皿通路部Ｈ１４１から送球される球を上皿Ｈ１７に流入させるための開口であり、前扉側上皿通路部Ｈ１４１と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に対向する位置に形成される。これにより、パチンコ機Ｈ１０が遊技状態とされる際に通路形成ユニットＨ１４０の前扉側上皿通路部Ｈ１４１から送球される球を上皿Ｈ１７に流入させることができる。
【１８９７】
下皿用球流入部Ｈ５１４は、ベース部材Ｈ５１０（上下皿ユニットＨ１５）の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０（図１２５参照）の前扉側下皿通路部Ｈ１４２から送球される球を下皿Ｈ５０に流入させるための開口であり、前扉側下皿通路部Ｈ１４２と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に対向する位置に形成される。これにより、パチンコ機Ｈ１０が遊技状態とされる際に通路形成ユニットＨ１４０の前扉側下皿通路部Ｈ１４２から送球される球を下皿Ｈ５０に流入させることができる。
【１８９８】
送球用球流出部Ｈ５１６は、ベース部材Ｈ５１０（上下皿ユニットＨ１５）の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０（図１２５参照）を介して、上皿Ｈ１７に貯留される球を発射位置送球ユニットＨ１７０に送球するための開口であり、発射位置送球ユニットＨ１７０の正面側開口Ｈ１７１と連通する位置に形成される。
【１８９９】
また、送球用球流出部Ｈ５１６の下方には、送球用球流出部Ｈ５１６と同様にベース部材Ｈ５１０の前後方向に開口する排出用球流出部Ｈ５１８が形成される。排出用球流出部Ｈ５１８は、球排出レバーＨ５４の操作により開放される開口であり、通路形成ユニットＨ１４０のファール球受口部Ｈ１４６（図１２６参照）に連通される。これにより、遊技者が球排出レバーＨ５４を操作した際に、上皿Ｈ１７に貯留した球を排出用球流出部Ｈ５１８を介して下皿Ｈ５０に球を送球することができる。
【１９００】
締結孔Ｈ５１１は、ベース部材Ｈ５１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）とベース部材Ｈ５１０とを締結固定するための螺子を螺入するための孔であり、本体枠Ｈ１４ｄに形成される螺子挿通用の貫通孔と対応する位置に形成される。
【１９０１】
また、一部の締結孔Ｈ５１１は、本体枠Ｈ１４ｄの下部背面側（矢印Ｂ方向側）に締結固定される通路形成ユニットＨ１４０の背面側から本体枠Ｈ１４ｄを介して挿通される螺子を螺入可能に形成される。即ち、通路形成ユニットＨ１４０を上下皿ユニットＨ１５に締結可能に構成される。これにより、上下皿ユニットＨ１５に対する通路形成ユニットＨ１４０の位置ずれを抑え、上皿用球流入部Ｈ５１３に対する前扉側上皿通路部Ｈ１４１の連通状態と、下皿用球流入部Ｈ５１４に対する前扉側下皿通路部Ｈ１４２の連通状態とを安定させることができる。その結果、通路形成ユニットＨ１４０の前扉側上皿通路部Ｈ１４１から上皿Ｈ１７への球の流入、及び、前扉側下皿通路部Ｈ１４２から下皿Ｈ５０への球の流入を安定させることができる。なお、ベース部材Ｈ５１０への通路形成ユニットＨ１４０の配設は、上下皿ユニットＨ１５が組み立てられた状態で行われる。
【１９０２】
挿通孔Ｈ５１２は、ベース部材Ｈ５１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される上皿形成部材Ｈ５２０、下皿形成部材Ｈ５３０、操作ユニットＨ１８０、及び、操作ハンドルＨ５１を締結するための螺子を挿通するための孔であり、上皿形成部材Ｈ５２０、下皿形成部材Ｈ５３０、操作ユニットＨ１８０、及び、操作ハンドルＨ５１のそれぞれに形成されるねじ穴と対応する位置に形成される。これにより、ベース部材Ｈ５１０に上皿形成部材Ｈ５２０、下皿形成部材Ｈ５３０、操作ユニットＨ１８０、及び、操作ハンドルＨ５１を

締結固定できる。
【１９０３】
次いで、上皿形成部材Ｈ５２０について説明する。上皿形成部材Ｈ５２０は、ベース部材Ｈ５１０との対向間に上皿Ｈ１７の貯留空間を形成する部材であり、ベース部材Ｈ５１０側（背面側（矢印Ｂ方向側））から正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって上方に湾曲するお椀型に形成され（図１４５参照）、背面側がベース部材Ｈ５１０に当接した状態でベース部材Ｈ５１０に配設される。これにより、上皿形成部材Ｈ５２０とベース部材Ｈ５１０とで上方側が開口された空間（上皿Ｈ１７の貯留領域）が形成される。
【１９０４】
また、上皿形成部材Ｈ５２０は、正面側（矢印Ｆ方向側）の一部がベース部材Ｈ５１０の上皿用球流入部Ｈ５１３の正面側に重なる位置に形成されており、上皿用球流入部Ｈ５１３を介して通路形成ユニットＨ１４０の前扉側上皿通路部Ｈ１４１からベース部材Ｈ５１０の正面側に送球される球を上皿形成部材Ｈ５２０に当接させて上皿Ｈ１７の貯留空間に貯留できるように構成される。
【１９０５】
なお、上皿形成部材Ｈ５２０は、上皿Ｈ１７に貯留される遊技球を正面視において右側（矢印Ｒ方向側）に１球ずつ流下可能に構成されており、これにより、ベース部材Ｈ５１０（上下皿ユニットＨ１５）の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０に１球ずつ球を送球することができる。
【１９０６】
また、上皿形成部材Ｈ５２０は、正面視における右側（矢印Ｒ方向側）の上面に機能調整操作部Ｈ１９０、貸球操作部Ｈ４０、及び、球排出レバーＨ５４を備え、パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から機能調整操作部Ｈ１９０、貸球操作部Ｈ４０、及び、球排出レバーＨ５４を操作可能とされる。
【１９０７】
なお、第８実施形態では、遊技者が操作する機能調整操作部Ｈ１９０、貸球操作部Ｈ４０、及び、球排出レバーＨ５４が、上皿形成部材Ｈ５２０の１箇所にまとまって構成されるので、遊技者に各操作部を探す手間を省かせることができる。また、機能調整操作部Ｈ１９０及び貸球操作部Ｈ４０がまとまって構成されるので、それら機能調整操作部Ｈ１９０及び貸球操作部Ｈ４０に繋がる配線を一か所にまとめることができ、配線を作業を簡易にできる。
【１９０８】
次いで、図１４８を参照して、ベース部材Ｈ５１０の凸状部Ｈ５１５について説明する。凸状部Ｈ５１５は、後述する下皿形成部材Ｈ５３０の被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入され、ベース部材Ｈ５１０に対する下皿形成部材Ｈ５３０の位置決めを行う部分であり、被挿入部Ｈ５５５ｅにより形成される挿入空間と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に対向する位置に形成される。また、凸状部Ｈ５１５は、下方側に作用する力により若干弾性変形可能な樹脂材料から形成される。
【１９０９】
図１４８に示すように、凸状部Ｈ５１５は、正面視において横長矩形に形成されると共に、突出先端に向かうほど正面視における上下左右の厚みが薄く（先細り形状に）形成され、上面側の上面側傾斜部Ｈ５１５ａと、下面側の下面側傾斜部Ｈ５１５ｂと、左右の側面の側面側傾斜部Ｈ５１５ｃと、を備える。凸状部Ｈ５１５は、それら上面側傾斜部Ｈ５１５ａと、下面側の下面側傾斜部Ｈ５１５ｂと、左右の側面の側面側傾斜部Ｈ５１５ｃとの傾斜により、凸状部Ｈ５１５を下皿形成部材Ｈ５３０に挿入しやすくなっている。
【１９１０】
また、下面側傾斜部Ｈ５１５ｂには、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における中央部に凸状部Ｈ５１５の突出先端から基端側に向かう溝状の凹部Ｈ５１５ｂ１が凹設されると共に、その凹部Ｈ５１５ｂ１の凹設底面の一部に被係合部Ｈ５１５ｂ２が開口形成される。
【１９１１】

被係合部Ｈ５１５ｂ２は、後述する下皿形成部材Ｈ５３０の係合部Ｈ５５５ｂ１が係合される開口であり、凸状部Ｈ５１５の突出先端から基端側に向かって溝状に形成される凹部Ｈ５１５ｂ１の基端側の端部に形成される。

【１９１２】

凹部Ｈ５１５ｂ１は、後述する下皿形成部材Ｈ５３０の係合部Ｈ５５５ｂ１が形成される突設部Ｈ５５５ｂを被係合部Ｈ５１５ｂ２まで案内する案内溝であり、突設部Ｈ５５５ｂの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における厚み寸法よりも溝幅が大きく形成される。なお、凹部Ｈ５１５ｂ１に突設部Ｈ５５５ｂを案内することで、被係合部Ｈ５１５ｂ２に対する係合部Ｈ５５５ｂ１の位置ずれを抑えることができ、係合部Ｈ５５５ｂ１の被係合部Ｈ５１５ｂ２への係合を簡易にさせることができる。

【１９１３】

なお、係合部Ｈ５５５ｂ１が被係合部Ｈ５１５ｂ２の内部に挿入され、係合部Ｈ５５５ｂ１と被係合部Ｈ５１５ｂ２とが係合状態とされた場合には、被係合部Ｈ５１５ｂ２の正面側（矢印Ｆ方向側）の内面に係合部Ｈ５５５ｂ１が当接することで、下皿形成部材Ｈ５３０に対してベース部材Ｈ５１０が離れる方向（対向間を広げる方向）に変位することが規制される。これにより、ベース部材Ｈ５１０と下皿形成部材Ｈ５３０との間に無理に隙間を形成して、その隙間から不正な部材が挿入されたりする（即ち、不正がされる）ことを抑制できる。

【１９１４】

次いで、図１４９から図１５１を参照して下皿形成部材Ｈ５３０について説明する。初めに図１４９から図１５１を参照して下皿形成部材Ｈ５３０の全体構成について説明する。図１４９（ａ）は、下皿形成部材Ｈ５３０の正面図であり、図１４９（ｂ）は、下皿形成部材Ｈ５３０の背面図であり、図１５０は、下皿形成部材Ｈ５３０の分解正面斜視図であり、図１５１は、下皿形成部材Ｈ５３０の分解背面斜視図である。

【１９１５】

図１４９から図１５１に示すように、下皿形成部材Ｈ５３０は、ベース部材Ｈ５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う形状に形成され上下皿ユニットＨ１５の正面側の化粧面を形成する化粧ユニットＨ５４０と、下皿Ｈ５０を構成する下皿構成ユニットＨ５５０と、下皿Ｈ５０に貯留される球を排出するための球抜きユニットＨ５６０と、を主に備えて形成される。

【１９１６】

化粧ユニットＨ５４０は、ベース部材Ｈ５１０に締結固定される第１化粧板Ｈ５４１と、その第１化粧板Ｈ５４１に締結固定されると共に第１化粧板Ｈ５４１と共に上下皿ユニットＨ１５の化粧面を形成する第２化粧板Ｈ５４２と、第１化粧板Ｈ５４１の正面側（矢印Ｆ方向側）の一部を覆って配設される上側保護板Ｈ５７０及び下側保護板Ｈ５８０と、を主に備える。

【１９１７】

第１化粧板Ｈ５４１は、正面側（矢印Ｆ方向側）が凸状に湾曲する板状に形成され、上端の一部が上皿形成部材Ｈ５２０の正面側の外縁と当接する形状に形成されると共に、下端がベース部材Ｈ５１０の正面と当接する形状に形成される。また、第１化粧板Ｈ５４１は、正面側の化粧面の一部に開口する第１開口部Ｈ５４１ａと、第２開口部Ｈ５４１ｂとを備え、全体が有色（桃色）の非透過性の樹脂材料から形成される。

【１９１８】

第１開口部Ｈ５４１ａは、下皿Ｈ５０の貯留領域に正面側（矢印Ｆ方向側）からのアクセスを可能にするための開口であり、遊技者の手が挿入可能な大きさに形成される。また、第１開口部Ｈ５４１ａの背面側（矢印Ｂ方向側）には、下皿Ｈ５０を構成するための下皿構成ユニットＨ５５０が配設される。

【１９１９】

第２開口部Ｈ５４１ｂは、下皿Ｈ５０の貯留領域に貯留される球を排出するための球抜きユニットＨ５６０を配設するための開口であり、下皿Ｈ５０の貯留用域の下方側に形成

される。また、第２開口部Ｈ５４１ｂは、球抜きユニットＨ５６０を内側に収容可能な大きさに形成される。なお、球抜きユニットＨ５６０の詳細な構成については後述する。

【１９２０】

第２化粧板Ｈ５４２は、上皿形成部材Ｈ５２０と下皿形成部材Ｈ５３０との間に配設される操作ユニットＨ１８０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、操作ユニットＨ１８０の正面側の化粧面を形成する部材であり、上端が操作ユニットＨ１８０及び上皿形成部材Ｈ５２０の一部と当接する形状に形成され、下方側が第１化粧板Ｈ５４１の背面側（矢印Ｂ方向側）に締結固定される。

【１９２１】

また、第２化粧板Ｈ５４２は、全体が光を透過可能な無色透明の樹脂材料から形成される。これにより、背面側（矢印Ｂ方向側）の操作ユニットＨ１８０から出射される光を第２化粧板Ｈ５４２を介して上下皿ユニットＨ１５の正面側（矢印Ｆ方向側）に出射することができる。

【１９２２】

よって、例えば、操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１を操作が必要な場合に第２化粧板Ｈ５４２の正面側（矢印Ｆ方向側）から光を出射することで、遊技者にボタン部Ｈ１８１の操作が必要であることを認識させやすくできる。また、操作ユニットＨ１８０の光による演出を遊技者に視認させることができるので、操作ユニットＨ１８０光による演出効果を向上させやすくできる。

【１９２３】

なお、第８実施形態では、第１化粧板Ｈ５４１を非透過性の材料から形成して、第２化粧板Ｈ５４２を透過性の材料から形成する場合について説明したが、第１化粧板Ｈ５４１及び第２化粧板Ｈ５４２の両方を透過性の材料から形成することも可能である。この場合、上下皿ユニットＨ１５の光の透過領域を増やすことができるので、光による演出態様を増やすことができる。その結果、遊技者に与える興趣を向上させやすくできる。

【１９２４】

上側保護板Ｈ５７０および下側保護板Ｈ５８０は、第１化粧板Ｈ５４１を保護する部材であり、第１化粧板Ｈ５４１の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に形成される。なお、上側保護板Ｈ５７０及び下側保護板Ｈ５８０の詳細については後述する。

【１９２５】

下皿構成ユニットＨ５５０は、下皿Ｈ５０の底面を形成する底板Ｈ５５１と、下皿Ｈ５０の上面の一部を形成すると共に底板Ｈ５５１の背面側（矢印Ｂ方向側）の外縁に当接する側面板Ｈ５５２と、を主に備える。

【１９２６】

底板Ｈ５５１は、底面を形成する底面部Ｈ５５３と、その底面部Ｈ５５３の正面側（矢印Ｆ方向側）の外縁に沿って上方側に向かって立設される正面側側壁Ｈ５５４と、底面部Ｈ５５３の外側であって正面側側壁Ｈ５５４に連なって形成される連結部Ｈ５５５と、を主に備える。

【１９２７】

底面部Ｈ５５３は、下皿Ｈ５０に貯留される遊技球を支持する支持面であり、その一部に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に開口する底面口Ｈ５５３ａが形成される。また、底面部Ｈ５５３は、上面が底面口Ｈ５５３ａに向かって下降傾斜する形状に形成されており、球抜きレバーＨ５２の操作により底面口Ｈ５５３ａが開放された際に、下皿Ｈ５０に貯留された球を底面口Ｈ５５３ａに向かって転動可能とされる。

【１９２８】

正面側側壁Ｈ５５４は、下皿Ｈ５０の正面側（矢印Ｆ方向側）の側面を形成する部分であり、第１化粧板Ｈ５４１の背面に沿って形成されると共に、第１開口部Ｈ５４１ａの開口縁に上端が沿う形状に形成される。また、正面側側壁Ｈ５５４は、底面部Ｈ５５３から上方に向かって少なくとも遊技球の２球分の直径よりも高く立設される。これにより、下皿Ｈ５０の貯留領域に貯留される遊技球を積み重ねて保持することが可能とされる。

【１９２９】
連結部Ｈ５５５は、前後方向に所定の厚みを有し第１化粧板Ｈ５４１側（正面側）に配設される本体部Ｈ５５５ｄと、背面視において下方側が開放された門型に形成され本体部Ｈ５５５ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）に連なって形成される被挿入部Ｈ５５５ｅとを主に備え、全体が非透過性の樹脂材料から形成される。なお、連結部Ｈ５５５は、下方側に作用される力により若干弾性変形可能に形成される。
【１９３０】
被挿入部Ｈ５５５ｅは、背面視において下方側が開放された門型に形成されると共に、前後方向に所定の厚みを有した形状に形成される。また、被挿入部Ｈ５５５ｅは、ベース部材Ｈ５１０に下皿構成ユニットＨ５５０を配設した際に、ベース部材Ｈ５１０の凸状部Ｈ５１５が挿入される部分であり、凸状部Ｈ５１５と対応する位置に配置される。なお、被挿入部Ｈ５５５ｅについての詳細な説明は後述する。
【１９３１】
側面板Ｈ５５２は、下皿Ｈ５０の貯留領域の上部を覆う上板Ｈ５５６と、その上板Ｈ５５６の背面側（矢印Ｂ方向側）の外縁から下方に向かって延設される背面側側壁Ｈ５５７と、を主に備える。
【１９３２】
上板Ｈ５５６は、第１化粧板Ｈ５４１の第１開口部Ｈ５４１ａの上方側の開口縁に沿う湾曲形状に形成されると共に、正面側（矢印Ｆ方向側）の外縁が第１化粧板Ｈ５４１の背面に当接される。
【１９３３】
背面側側壁Ｈ５５７は、下皿Ｈ５０の背面側（矢印Ｂ方向側）の側面を形成する部材であり、上板Ｈ５５６の背面側の縁部から底面部Ｈ５５３を超える下方側まで延設され、底面部Ｈ５５３の背面側の縁部に背面側側壁Ｈ５５７の正面を当接した状態で配設される。
【１９３４】
また、背面側側壁Ｈ５５７は、ベース部材Ｈ５１０の下皿用球流入部Ｈ５１４と対向する位置に前後方向に開口する球案内開口Ｈ５３を備える。これにより、通路形成ユニットＨ１４０の前扉側下皿通路部Ｈ１４２から送球される球を下皿用球流入部Ｈ５１４及び球案内開口Ｈ５３を介して下皿Ｈ５０に流入させることができる。
【１９３５】
なお、球案内開口Ｈ５３は、下方側の開口縁が正面側側壁Ｈ５５４の上端よりも低い位置に形成される。これにより、下皿Ｈ５０の貯留領域に球が貯留された際に、球案内開口Ｈ５３から流入される球が貯留領域に積み重なる球の上部を転動して、第１化粧板Ｈ５４１の第１開口部Ｈ５１４ａから流出することを抑制できる。
【１９３６】
球抜きユニットＨ５６０は、上方側が開口する箱状に形成される収容部材Ｈ５６１と、その収容部材Ｈ５６１の内側に配設されるスライド板Ｈ５６２と、そのスライド板Ｈ５６２に連結され正面側（矢印Ｆ方向側）の少なくとも一部が収容部材Ｈ５６１の外側に配置される球抜きレバーＨ５２と、スライド板Ｈ５６２及び球抜きレバーＨ５２を一方向に付勢するコイルバネ（図示せず）と、を主に備える。
【１９３７】
収容部材Ｈ５６１は、第１化粧板Ｈ５４１の第２開口部Ｈ５４１ｂの内側に収容可能な大きさに形成され、第２開口部Ｈ５４１ｂの上方に配設される下皿構成ユニットＨ５５０の下方側に隣り合う状態で配設される。また、収容部材Ｈ５６１は、箱状に形成される内部に後述するスライド板Ｈ５６２の変位を案内する案内機構を備えており、その案内機構によりスライド板Ｈ５６２の変位方向が一方向に規定される。
【１９３８】
スライド板Ｈ５６２は、底面部Ｈ５５３の底面口Ｈ５５３ａの開口よりも大きい板状に形成され、底面口Ｈ５５３ａの下側縁部を塞ぐ閉塞位置と、その閉塞位置から変位して底面口Ｈ５５３ａを開放する開放位置とに変位可能に形成される。スライド板Ｈ５６２が閉

塞位置に配置される場合には、下皿Ｈ５０の貯留領域に球を貯留可能な状態とされ、スライド板Ｈ５６２が開放位置に配置される場合には、下皿Ｈ５０の貯留領域にある球を底面口Ｈ５５３ａから払い出す状態とされる。なお、収容部材Ｈ５６１には、スライド板Ｈ５６２を開放位置に配置した場合に、球を下方に挿通させるための排出口Ｈ５６１ａが底面口Ｈ５５３ａと対応する位置に形成される。

【１９３９】

球抜きレバーＨ５２は、下皿Ｈ５０に貯留された球を下方へ排出する際に遊技者が操作するためのレバーであり、スライド板Ｈ５６２に連なって形成される。この球抜きレバーＨ５２は、常時、右方向（矢印Ｒ方向）に付勢されており、その付勢に抗して左方向（矢印Ｌ方向）へスライドさせることにより、スライド板Ｈ５６２が閉鎖位置（排出口Ｈ５６１ａを塞ぐ位置）から開放位置（排出口Ｈ５６１ａを開放する位置）に変位される。

【１９４０】

次いで、図１５２を参照して、下皿構成ユニットＨ５５０の被挿入部Ｈ５５５ｅについて説明する。図１５２（ａ）は、連結部Ｈ５５５の上面図であり、図１５２（ｂ）は、連結部Ｈ５５５の下面図であり、図１５２（ｃ）は、図１５２（ｂ）のＸ１３ｃ線における連結部Ｈ５５５の断面図である。

【１９４１】

上述したように、連結部Ｈ５５５は、前後方向に所定の厚みを有し第１化粧板Ｈ５４１側（正面側）に配設される本体部Ｈ５５５ｄと、背面視において下方側が開放された門型に形成され本体部Ｈ５５５ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）に連なって形成される被挿入部Ｈ５５５ｅとを主に備える。

【１９４２】

図１５２に示すように、被挿入部Ｈ５５５ｅは、上面にＴ状に開口する開口部Ｈ５５５ａと、その開口部Ｈ５５５ａの下方側に位置し本体部Ｈ５５５ｄから突設される突設部Ｈ５５５ｂと、被挿入部Ｈ５５５ｅの側面から被挿入部Ｈ５５５ｅの内側に向かって立設される複数のガイド壁Ｈ５５５ｃと、を主に備える。

【１９４３】

開口部Ｈ５５５ａは、被挿入部Ｈ５５５ｅを形成する際に後述する突設部Ｈ５５５ｂを形成するための金型を挿通するための開口であり、突設部Ｈ５５５ｂの上面視における外形よりも若干大きい開口に形成される。

【１９４４】

突設部Ｈ５５５ｂは、本体部Ｈ５５５ｄから背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって突設されており、その突設先端部の上面に凸状に形成される係合部Ｈ５５５ｂ１を備える。また、突設部Ｈ５５５ｂは、ベース部材Ｈ５１０の凸状部Ｈ５１５が被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入される際に凸状部Ｈ５１５の凹部Ｈ５１５ｂ１に案内される部分であり、凹部Ｈ５１５ｂ１により形成される溝と対応する位置に形成される。

【１９４５】

係合部Ｈ５５５ｂ１は、ベース部材Ｈ５１０の被係合部Ｈ５１５ｂ２に係合する部分であり、突設部Ｈ５５５ｂの上面から上方に向かって突設されると共に、前後方向に切断した断面が略三角形状に形成される。この断面における傾斜により、ベース部材Ｈ５１０の凸状部Ｈ５１５が被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入される際、又は、ベース部材Ｈ５１０の凸状部Ｈ５１５から被挿入部Ｈ５５５ｅから引き抜かれる際に、突設部Ｈ５５５ｂを撓ませやすくできる。その結果、ベース部材Ｈ５１０に下皿形成部材Ｈ５３０を取り付ける作業、及び、ベース部材Ｈ５１０から下皿形成部材Ｈ５３０を取り外す作業を簡易にできる。

【１９４６】

ガイド壁Ｈ５５５ｃは、ベース部材Ｈ５１０の凸状部Ｈ５１５が被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入される際に、凸状部Ｈ５１５の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における位置を調整する部分であり、被挿入部Ｈ５５５ｅの左右の両側壁に前後方向に所定の間隔で複数個並設される。

【１９４７】

また、ガイド壁Ｈ５５５ｃは、背面側（凸状部Ｈ５１５の挿入部側）に形成されるガイド壁Ｈ５５５ｃに対して、正面側（凸状部Ｈ５１５の挿入方向側）に形成されるガイド壁Ｈ５５５ｃの方が被挿入部Ｈ５５５ｅの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の中央側に張り出される（図１５２（ｂ）参照）。

【１９４８】

これにより、凸状部Ｈ５１５を被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入し始めたタイミングでの凸状部Ｈ５１５とガイド壁Ｈ５５５ｃとの隙間を大きくして、凸状部Ｈ５１５を被挿入部Ｈ５５５ｅの内側に挿入しやすくできると共に、凸状部Ｈ５１５を被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入し終えるタイミングでの凸状部Ｈ５１５とガイド壁Ｈ５５５ｃとの隙間を小さくして、凸状部Ｈ５１５に対する被挿入部Ｈ５５５ｅの配置を調整することができる。その結果、ベース部材Ｈ５１０に下皿形成部材Ｈ５３０を取り付ける作業を簡易にできる。

【１９４９】

次いで、図１５３から図１５５を参照して、ベース部材Ｈ５１０への下皿形成部材Ｈ５３０の配設方法について説明する。図１５３は、上下皿ユニットＨ１５の分解斜視図であり、図１５４（ａ）及び（ｂ）は、ベース部材Ｈ５１０から下皿形成部材Ｈ５３０を取り外した状態における上下皿ユニットＨ１５の断面図であり、図１４４のＸ０９ａ線における上下皿ユニットＨ１５の断面と対応し、図１５５（ａ）は、図１４４のＸ０９ａ線における上下皿ユニットＨ１５の断面図であり、図１５５（ｂ）は、図１５５（ａ）のＸ１４ｂ線における上下皿ユニットＨ１５の断面図である。

【１９５０】

なお、図１５４（ａ）では、ベース部材Ｈ５１０から下皿形成部材Ｈ５３０が完全に取り外された状態における上下皿ユニットＨ１５の断面が図示され、図１５４（ｂ）では、ベース部材Ｈ５１０に下皿形成部材Ｈ５３０を取り付け途中における上下皿ユニットＨ１５の断面が図示される。

【１９５１】

図１５３から図１５５に示すように、ベース部材Ｈ５１０への下皿形成部材Ｈ５３０の配設は、ベース部材Ｈ５１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ユニットＨ１８０が配設された状態で行われる。なお、上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ユニットＨ１８０は、ベース部材Ｈ５１０の背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子が上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ユニットＨ１８０のそれぞれに螺入されることでベース部材Ｈ５１０の正面側に締結固定される。

【１９５２】

上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ユニットＨ１８０が配設された状態におけるベース部材Ｈ５１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から下皿形成部材Ｈ５３０が押し込まれると、ベース部材Ｈ５１０の凸状部Ｈ５１５の正面側端部が下皿形成部材Ｈ５３０の被挿入部Ｈ５５５ｅの背面側端部と初めに重なり合い、凸状部Ｈ５１５が被挿入部Ｈ５５５ｅの内側に挿入される。

【１９５３】

即ち、突設部Ｈ５５５ｂ及び係合部Ｈ５５５ｂ１は、被挿入部Ｈ５５５ｅの内側（被挿入部Ｈ５５５ｅの背面側端部よりも正面側）に位置し、被挿入部Ｈ５５５ｅよりも背面側（矢印Ｂ方向側）に突出されないので、ベース部材Ｈ５１０の凸状部Ｈ５１５の正面側端部が下皿形成部材Ｈ５３０の被挿入部Ｈ５５５ｅの背面側端部に初めに当接（案内）可能とされる。これにより、連結部Ｈ５５５に対する凸状部Ｈ５１５の所定以上の位置ずれが抑えられる。

【１９５４】

図１５４（ｂ）に示すように、被挿入部Ｈ５５５ｅの内側への凸状部Ｈ５１５の挿入がさらに行われると、凸状部Ｈ５１５の凹部Ｈ５１５ｂ１の溝内に連結部Ｈ５５５に形成される突設部Ｈ５５５ｂが挿入され、凹部Ｈ５１５ｂ１の案内溝に沿って突設部Ｈ５５５ｂが移動されることで、ベース部材Ｈ５１０に対する下皿形成部材Ｈ５３０の左右の配設位置が位置決めされる。

【１９５５】
即ち、連結部Ｈ５５５は、凸状部Ｈ５１５を位置決めする位置決め手段（突設部Ｈ５５５ｂ）を備え、凸状部Ｈ５１５は、突設部Ｈ５５５ｂによって位置決めされる被位置決め手段（凹部Ｈ５１５ｂ１）を備えるので、ベース部材Ｈ５１０へ下皿形成部材Ｈ５３０を組付ける作業において、凹部Ｈ５１５ｂ１と突設部Ｈ５５５ｂとによって、ベース部材Ｈ５１０と下皿形成部材Ｈ５３０とを位置決めすることができる。これにより、ベース部材Ｈ５１０と下皿形成部材Ｈ５３０とを螺子止めする際に、両者の部材の相対位置を位置合わせすることなく螺子止めすることができ、組付け作業を効率化できる。
【１９５６】
図１５５に示すように、ベース部材Ｈ５１０に対し下皿形成部材Ｈ５３０が所定位置（組立位置）に配置されると、突設部Ｈ５５５ｂの突設先端側（背面側）に形成される係合部Ｈ５５５ｂ１が、凹部Ｈ５１５ｂ１に形成される被係合部Ｈ５１５ｂ２の内部に挿入される。これにより、ベース部材Ｈ５１０に対し下皿形成部材Ｈ５３０が所定位置（組立位置）に配置された後、ベース部材Ｈ５１０と下皿形成部材Ｈ５３０との相対変位が規制される。
【１９５７】
これにより、ベース部材Ｈ５１０へ下皿形成部材Ｈ５３０を組付ける作業において、ベース部材Ｈ５１０と下皿形成部材Ｈ５３０とを螺子止めする際に、両者の部材を仮固定することができるので、両者の部材を抑えることなく螺子止めすることができ、組付け作業を効率化できる。
【１９５８】
従って、ベース部材Ｈ５１０に下皿形成部材Ｈ５３０を組付ける際には、位置決めを可能とする凹部Ｈ５１５ｂ１及び突設部Ｈ５５５ｂにそれぞれ係合部Ｈ５５５ｂ１及び被係合部Ｈ５１５ｂ２が形成されるので、凹部Ｈ５１５ｂ１及び突設部Ｈ５５５ｂにより位置決めされた状態で、係合部Ｈ５５５ｂ１及び被係合部Ｈ５１５ｂ２が係合可能とされる。その結果、係合部Ｈ５５５ｂ１及び被係合部Ｈ５１５ｂ２の係合を容易に行うことができる。
【１９５９】
なお、ベース部材Ｈ５１０に対し下皿形成部材Ｈ５３０が所定位置（組立位置）に配置された場合には、被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入された凸状部Ｈ５１５の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に被挿入部Ｈ５５５ｅのガイド壁Ｈ５５５ｃが当接され（図１５５（ｂ）参照）、ガイド壁Ｈ５５５ｃに対して凸状部Ｈ５１５の左右方向への変位が規制される。
【１９６０】
即ち、凹部Ｈ５１５ｂ１と突設部Ｈ５５５ｂとによるベース部材Ｈ５１０と下皿形成部材Ｈ５３０との左右方向の位置決めに加えて、ガイド壁Ｈ５５５ｃと凸状部Ｈ５１５ｂｂ１とにより左右方向の位置決めがされる。これにより、ベース部材Ｈ５１０と下皿形成部材Ｈ５３０とを螺子止めする際に、両者の部材の相対位置を位置合わせを確実にできる。
【１９６１】
一方、被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入された凸状部Ｈ５１５の上面および下面は、被挿入部Ｈ５５５ｅの上方側の内壁および突設部Ｈ５５５ｂの上面側傾斜部Ｈ５１５ａとの間に所定の隙間を空けて配設される（図１５５（ａ）参照）。即ち、凸状部Ｈ５１５に対して被挿入部Ｈ５５５ｅ（連結部Ｈ５５５）が上下方向に変位可能な状態で配設される。
【１９６２】
また、ベース部材Ｈ５１０に下皿形成部材Ｈ５３０が配設された（被係合部Ｈ５１５ｂ２に係合部Ｈ５５５ｂ１が係合された）後では、ベース部材Ｈ５１０の挿通孔Ｈ５１２を介してベース部材Ｈ５１０の背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子を下皿形成部材Ｈ５３０（第１化粧板Ｈ５４１）の背面側に螺入することで下皿形成部材Ｈ５３０がベース部材Ｈ５１０に締結固定される。この場合、ベース部材Ｈ５１０と下皿形成部材Ｈ５３０とを締結する螺子は、凸状部Ｈ５１５及び被挿入部Ｈ５５５ｅ（連結部Ｈ５５５）を避けた位置に締結される。これにより、凸状部Ｈ５１５に対して被挿入部Ｈ５５５ｅ（連結

部Ｈ５５５）が上下方向に変位可能な状態でベース部材Ｈ５１０と下皿形成部材Ｈ５３０とが締結固定される。即ち、被挿入部Ｈ５５５ｅ（連結部Ｈ５５５）は、下皿形成部材Ｈ５３０の背面側に片持ち支持された状態とされると共に、凸状部Ｈ５１５は、ベース部材Ｈ５１０に片持ち支持された状態される。

【１９６３】

また、被挿入部Ｈ５５５ｅを有する連結部Ｈ５５５には、操作ユニットＨ１８０の下面が当接した状態で配設される。よって、操作ユニットＨ１８０を連結部Ｈ５５５により支持させることができる。これにより、操作ユニットＨ１８０がぐらつかないように姿勢を安定させ、操作ユニットＨ１８０の操作を安定させることができる。

【１９６４】

また、上述したように、被挿入部Ｈ５５５ｅ（連結部Ｈ５５５）は、下皿形成部材Ｈ５３０の背面側（矢印Ｂ方向側）に片持ち支持された状態とされる。そのため、操作ユニットＨ１８０（ボタン部Ｈ１８１）を過剰に押圧する力が連結部Ｈ５５５に作用する場合には、連結部Ｈ５５５の非支持側（矢印Ｆ方向側）を操作ユニットＨ１８０の操作方向（下方）に変位させることで操作ユニットＨ１８０に作用する力を連結部Ｈ５５５で逃がすことができる。

【１９６５】

詳しく説明すると、両側で支持される支持部材に操作ユニットＨ１８０が支持されたり、支持部材に操作ユニットＨ１８０が締結固定されるものであると、操作ユニットＨ１８０が過剰に押圧操作される場合にその押圧力を逃がすことができず、操作ユニットＨ１８０を支持する支持部材や操作ユニットＨ１８０に破損が生じやすいという問題がある。

【１９６６】

これに対し、第８実施形態では、下皿形成部材Ｈ５３０の背面側（矢印Ｂ方向側）に片持ち支持された連結部Ｈ５５５に操作ユニットＨ１８０が支持されるので、操作ユニットＨ１８０を過剰に押圧する力が連結部Ｈ５５５に作用した場合に連結部Ｈ５５５を弾性変形させることができる。この場合、操作ユニットＨ１８０と連結部Ｈ５５５とが被締結とされるので、連結部Ｈ５５５の弾性変形に伴って操作ユニットＨ１８０と連結部Ｈ５５５との当接位置（当接状態）を変更することができる。即ち、操作ユニットＨ１８０を連結部Ｈ５５５の上面に対して滑らす（摺動させる）ことができる。その結果、操作ユニットＨ１８０に作用する力が連結部Ｈ５５５に作用する場合に、連結部Ｈ５５５が破損したり操作ユニットＨ１８０が破損することを抑制できる。

【１９６７】

即ち、第８実施形態では、操作ユニットＨ１８０を配設するための配設スペースを前後に隔てて配置される下皿形成部材Ｈ５３０及びベース部材Ｈ５１０と、下皿形成部材Ｈ５３０から突出され、下皿形成部材Ｈ５３０及びベース部材Ｈ５１０の対向間に位置する連結部Ｈ５５５と、下皿形成部材Ｈ５３０及びベース部材Ｈ５１０の対向間に配置されると共にベース部材Ｈ５１０に配設される操作ユニットＨ１８０とを備え、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）が連結部Ｈ５５５に当接可能とされるので、操作ユニットに操作に伴い作用される操作方向側（下方側）の操作力が所定の範囲内である場合には、操作ユニットＨ１８０を連結部Ｈ５５５により支持させることができる。これにより、操作ユニットＨ１８０がぐらつかないように姿勢を安定させ、操作ユニットＨ１８０の操作を安定させることができる。

【１９６８】

一方、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力が所定の範囲を超える場合には、連結部Ｈ５５５を弾性変形させて外力を逃がすことができる（操作力をベース部材Ｈ５１０と連結部Ｈ５５５とに分散させることができる。これにより、操作ユニットＨ１８０、下皿形成部材Ｈ５３０、及び、ベース部材Ｈ５１０の破損を抑制できる。

【１９６９】

また、この場合、弾性変形される連結部Ｈ５５５が、上下皿ユニットＨ１５の正面側に配置される（即ち、装飾側となる）下皿形成部材Ｈ５３０に形成されるので、連結部Ｈ５

５５を弾性変形させて外力を逃がした場合に、下皿形成部材Ｈ５３０の装飾面が撓むことを抑制できる。即ち、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力が所定の範囲を超える場合に、その操作力をベース部材Ｈ５１０と連結部Ｈ５５５とに分散させると、連結部Ｈ５５５の弾性変形に伴って、操作ユニットＨ１８０が配設されるベース部材Ｈ５１０も弾性変形されやすい。そのため、ベース部材Ｈ５１０が装飾面とされると、操作ユニットＨ１８０の操作に伴って装飾面の外観が悪化する（装飾面が撓んで部品同士の間に隙間が形成される）恐れがあるところ、連結部Ｈ５５５が形成される下皿形成部材Ｈ５３０が装飾面とされることで、遊技機の外観が悪化することを抑制できる。

【１９７０】

さらに、第８実施形態では、被挿入部Ｈ５５５ｅを有する連結部Ｈ５５５には、本体部Ｈ５５５ｄの上面側に弾性部材Ｈ５５８が配設され、その弾性部材Ｈ５５８に操作ユニットＨ１８０の下面が当接した状態で配設される。詳しく説明すると、操作ユニットＨ１８０の下面が弾性部材Ｈ５５８を介して本体部Ｈ５５５ｄの上面に当接した状態で配設される。

【１９７１】

従って、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力により、連結部Ｈ５５５を弾性変形させた場合に、操作ユニットＨ１８０と連結部Ｈ５５５との間に介在する弾性部材Ｈ５５８を弾性変形させることで、操作ユニットＨ１８０の下面と、連結部Ｈ５５５の上面とが擦れることを抑制できる。即ち、弾性部材Ｈ５５８を操作ユニットＨ１８０の下面および連結部Ｈ５５５の上面に当接させた状態で、操作ユニットＨ１８０を連結部Ｈ５５５の上面に対して滑らす（摺動させる）ことができる。その結果、操作ユニットＨ１８０の下面と連結部Ｈ５５５の上面とが擦れて異音が発生したり、それらの当接面が破損（摩耗）したりすることを抑制できる。

【１９７２】

なお、第８実施形態では、操作ユニットＨ１８０が上方側から下方側に向かって操作され、その操作方向側に連結部Ｈ５５５が配置されるが、操作ユニットＨ１８０の操作方向は前後左右のどちらでもよく、その方向側に連結部Ｈ５５５が操作ユニットＨ１８０に当接した状態で配設される構造であればよい。

【１９７３】

また、第８実施形態では、遊技者に操作される操作ユニットＨ１８０の下端が連結部Ｈ５５５に当接した状態で配設されるが、操作ユニットＨ１８０の操作により変位する変位部材（例えば、花弁動作装置Ｇ８００のベースユニットＧ６００）を連結部Ｈ５５５に当接した状態で配設しても良い。

【１９７４】

この場合には、花弁動作装置Ｇ８００が変位基端でベースユニットＧ６００に当接した際に、ベースユニットＧ６００に作用する力を連結部Ｈ５５５を弾性変形させることで逃がすことができる。その結果、花弁動作装置Ｇ８００及びベースユニットＧ６００が破損することを抑制できる。

【１９７５】

次いで、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力により、連結部Ｈ５５５が所定範囲を超えて弾性変形される場合について説明する。

【１９７６】

上記したように、連結部Ｈ５５５の被挿入部Ｈ５５５ｅには、ベース部材Ｈ５１０から突設される凸状部Ｈ５１５が内側に挿入されると共に、被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入された凸状部Ｈ５１５の上面側傾斜部Ｈ５１５ａが、被挿入部Ｈ５５５ｅの上方側の内壁との間に所定の隙間を空けて配設される。従って、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力により、連結部Ｈ５５５が所定範囲を超えて弾性変形される場合には、連結部Ｈ５５５の上方側の内壁を凸状部Ｈ５１５の上面に当接させて、連結部Ｈ５５５の弾性変形を抑制することができる。これにより、連結部Ｈ５５５の破損を抑制できる。

【１９７７】

また、連結部Ｈ５５５（被挿入部Ｈ５５５ｅ）と凸状部Ｈ５１５とは、非固定とされるので、連結部Ｈ５５５が拘束されず、連結部Ｈ５５５が凸状部Ｈ５１５に対して摺動できる。よって、連結部Ｈ５５５及び凸状部Ｈ５１５の弾性変形性を確保できる。これにより、連結部Ｈ５５５が凸状部Ｈ５１５に当接した際に、連結部Ｈ５５５と凸状部Ｈ５１５との間で作用する反力が急激に増加することを抑制でき、連結部Ｈ５５５及び凸状部Ｈ５１５の破損を抑制できる。

【１９７８】

なお、第８実施形態では、操作ユニットＨ１８０は、凸状部Ｈ５１５に係合する係合部Ｈ５５５ｂ１に当接されず、係合部Ｈ５５５ｂ１が形成される本体部Ｈ５５５ｄの上面に当接されるので、操作ユニットＨ１８０を操作した力が係合部Ｈ５５５ｂ１（突設部Ｈ５５５ｂ）に直接作用することを抑制できる。そのため、突設部Ｈ５５５ｂのみが撓んで、係合部Ｈ５５５ｂ１と被係合部Ｈ５１５ｂ２との係合が解除されることを抑制できる。

【１９７９】

また、係合部Ｈ５５５ｂ１が形成される連結部Ｈ５５５には、本体部Ｈ５５５ｄの上面側に弾性部材Ｈ５５８が配設され、その弾性部材Ｈ５５８に操作ユニットＨ１８０の下面が当接した（弾性部材Ｈ５５８を弾性変形させた）状態で配設されるので、弾性部材Ｈ５５８により、操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１が押圧操作された際の所定の範囲（連結部Ｈ５５５が弾性変形されない程度）の押圧力を吸収できる。

【１９８０】

さらに、弾性部材Ｈ５５８を弾性変形させた状態で操作ユニットＨ１８０を配設するので、操作ユニットＨ１８０や下皿形成部材Ｈ５３０の配置に誤差がある場合でも、弾性部材Ｈ５５８と操作ユニットＨ１８０との当接状態を維持することができる。よって、操作ユニットＨ１８０と弾性部材Ｈ５５８との間に隙間が形成されることを抑制でき、操作ユニットＨ１８０の操作した力により操作ユニットＨ１８０が下方に移動して操作ユニットＨ１８０の下面が弾性部材Ｈ５５８に当接することを抑制できる。その結果、操作ユニットＨ１８０を操作した際に衝撃が発生することを抑制できる。

【１９８１】

次いで、図１５６からＬ１５を参照して、第１化粧板Ｈ５４１に配設される下側保護板Ｈ５８０について説明する。図１５６（ａ）は、上下皿ユニットＨ１５の下面図であり、図１５６（ｂ）は、下側保護板Ｈ５８０の正面図であり、図１５７（ａ）は、下側保護板Ｈ５８０の正面斜視図であり、図１５７（ｂ）は、下側保護板Ｈ５８０の背面斜視図であり、図１５８（ａ）は、図１５６（ａ）のＸ１５ａ線における上下皿ユニットＨ１５の断面図であり、図１５８（ｂ）は、図１５６（ａ）のＸ１５ｂ線における上下皿ユニットＨ１５の断面図である。

【１９８２】

図１５６から図１５８に示すように、下側保護板Ｈ５８０は、第１化粧板Ｈ５４１の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う正面側保護部Ｈ５８１と、その正面側保護部Ｈ５８１の下側縁部から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって屈曲される底面側保護部Ｈ５８２と、その底面側保護部Ｈ５８２の下面から下方側に向かって突出される突出部Ｈ５８３と、正面側保護部Ｈ５８１の左右方向一方側（第８実施形態では正面視左側（矢印Ｌ方向側））の上端部から背面側に向かって突出して形成される係合部Ｈ５８５と、正面側保護部Ｈ５８１の左右方向他方側（第８実施形態では正面視右側（矢印Ｒ方向側）の背面から背面側に向かって突出して形成される締結部Ｈ５８４と、を主に備え、光透過性の半透明な樹脂材料から形成される。

【１９８３】

正面側保護部Ｈ５８１は、第１化粧板Ｈ５４１の下部前面を覆う位置に形成されると共に、第１化粧板Ｈ５４１の前面に沿う形状に形成される。また、底面側保護部Ｈ５８２は、第１化粧板Ｈ５４１の下面を覆う位置に形成され、第１化粧板Ｈ５４１の底面に沿う形状に形成される。これら正面側保護部Ｈ５８１及び底面側保護部Ｈ５８２により、第１化粧板Ｈ５４１の下部に直接、遊技者の手や物が当接することを抑制して、第１化粧板Ｈ５

４１の下部が破損することを抑制できる。
【１９８４】
ここで、パチンコ機Ｈ１０は、上述したように下皿Ｈ５０の前方に遊技者が操作する球抜きレバーＨ５２が配置されており、球抜きレバーＨ５２を操作する遊技者の手が第１化粧板Ｈ５４１の下部に当接しやすく、また、下皿Ｈ５０の下方に下皿Ｈ５０から払い出された球を貯留する千両箱が配置され千両箱を交換する際に、その千両箱や遊技者の手が第１化粧板Ｈ５４１の下部に当接しやすくなっている。そのため、第１化粧板Ｈ５４１の下部は、他の装飾面を形成する部分（上側装飾ユニットＨ１５ａ、左側装飾ユニットＨ１５ｂ、又は、右側装飾ユニットＨ１５ｃ）に比べて破損しやすいという問題がある。
【１９８５】
これに対し、第８実施形態では、正面側保護部Ｈ５８１と底面側保護部Ｈ５８２とにより第１化粧板Ｈ５４１の下部を覆うことができるので、第１化粧板Ｈ５４１の下部が破損することを抑制できる。
【１９８６】
また、仮に、遊技者の手や物が当接することにより下側保護板Ｈ５８０が破損する場合には、第１化粧板Ｈ５４１に配置される下側保護板Ｈ５８０を交換するだけでよいので、第１化粧板Ｈ５４１を交換する場合に比べて、第１化粧板Ｈ５４１に配置される他の部材（例えば、球抜きユニットＨ５６０など）を第１化粧板Ｈ５４１から取り外す必要がなくなる。その結果、破損時の部品交換作業を簡易に行うことができる。
【１９８７】
さらに、正面側保護部Ｈ５８１は、第１化粧板Ｈ５４１の前面に対して所定の隙間を少なくとも一部に有した状態で配設される（図１５８参照）。従って、パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって比較的大きな力が作用される場合には、第１化粧板Ｈ５４１との隙間の分、正面側保護部Ｈ５８１を撓ませることができる。よって、パチンコ機Ｈ１０の正面側から作用する力が第１化粧板Ｈ５４１の下部に直接作用することを抑制して、第１化粧板Ｈ５４１の破損を抑制できる。
【１９８８】
なお、第８実施形態では、正面側保護部Ｈ５８１の背面側に所定の隙間を有した状態で第１化粧板Ｈ５４１が配設される場合について説明したが、正面側保護部Ｈ５８１の背面側に所定の隙間を有した状態でＬＥＤを配置するものであってもよい。
【１９８９】
底面側保護部Ｈ５８２は、第１化粧板Ｈ５４１の下面に上面の全域が当接した状態で配設される（図１５８参照）。また、底面側保護部Ｈ５８２には、背面側（矢印Ｂ方向側）の外縁部に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に貫通形成される被係合部Ｈ５８２ａが２箇所に形成される。
【１９９０】
被係合部Ｈ５８２ａは、第１化粧板Ｈ５４１の下面から下方に向かって突出する係合部Ｈ５４１ｃと係合する部分であり、係合部Ｈ５４１ｃをその内部に収容可能な大きさに開口される。なお、係合部Ｈ５４１ｃへの被係合部Ｈ５８２ａの係合方法については後述する。
【１９９１】
突出部Ｈ５８３は、下皿Ｈ５０に貯留された球を排出口Ｈ５６１ａから千両箱に排出する際に球が飛び散ることを防止する部分であり、下皿Ｈ５０の排出口Ｈ５６１ａよりも正面側（矢印Ｆ方向側）に形成されると共に、下皿Ｈ５０の排出口Ｈ５６１ａよりもパチンコ機Ｈ１０の右側（矢印Ｒ方向側）に偏る位置に形成される。
【１９９２】
ここで、下皿Ｈ５０には、その貯留領域に球を流入させる球案内開口Ｈ５３が貯留領域に対して正面視左側（矢印Ｌ方向側）に偏る位置に形成されると共に、下皿Ｈ５０から球を排出する排出口Ｈ５６１ａが、下皿Ｈ５０の貯留領域において中央よりも正面側（矢印Ｆ方向側）であって正面視右側（矢印Ｒ方向側）に偏る位置に形成される。これにより、

下皿Ｈ５０の貯留用域から排出される球に前方および右方に向かう方向成分を持たせて、千両箱の全体に散らばって排出させることができる。

【１９９３】

しかしながら、千両箱にまだ球が貯留されていない場合など、千両箱に落下球が落下した際の衝撃が大きいと、千両箱に落下して跳ね上がる球が千両箱の上端を超える位置まで跳ね上がる場合がある。この場合、前方に向かう方向成分が球に付与されていると、その球が千両箱の正面側（矢印Ｆ方向側）から飛び出て遊技者側に落下し、遊技者がその球に注目することで遊技者に遊技を継続させることが困難となる恐れがある。

【１９９４】

これに対し、第８実施形態では、正面視において突出部Ｈ５８３が排出口Ｈ５６１ａを挟んで球案内開口Ｈ５３と左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）反対側（千両箱の正面右側の上部）に形成されるので、下皿Ｈ５０から排出された球が千両箱に衝突して跳ね上がる場合に、その球を突出部Ｈ５８３に当接させることができる。その結果、下皿Ｈ５０から排出される球が千両箱の上部から遊技者側に飛び出ることを抑制して、遊技者に遊技を継続させやすくできる。

【１９９５】

また、突出部Ｈ５８３は、下皿Ｈ５０から球を排出する排出口Ｈ５６１ａよりも正面側（即ち、正面枠Ｈ１４（図１２３参照）の底面の正面側に偏る位置）に形成されるので、下皿Ｈ５０から排出された球が千両箱に衝突して跳ね上がって正面から飛び出ようとする場合に、その球を突出部Ｈ５８３に当接させやすくできる。その結果、下皿Ｈ５０から排出される球が千両箱の上部から遊技者側に飛び出ることを抑制して、遊技者に遊技を継続させやすくできる。

【１９９６】

さらに、突出部Ｈ５８３は、正面視におけるパチンコ機Ｈ１０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設されると共に、正面視における排出口Ｈ５６１ａ側に近い左側（矢印Ｌ方向側）から排出口Ｈ５６１ａから離れる右側（矢印Ｒ方向側）に向かって背面側（矢印Ｂ方向側）に傾斜して延設される。これにより、下皿Ｈ５０から排出された球が千両箱に衝突して跳ね上がる場合に、千両箱の右方から飛び出ることを抑制することができ、遊技者に遊技を継続させやすくできる。

【１９９７】

なお、第８実施形態における突出部Ｈ５８３は、正面側（矢印Ｆ方向側）に凸状に湾曲する湾曲壁Ｈ５８３ａを複数個（４個）左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に連結させた形状に形成され、下皿Ｈ５０から球を排出する排出口Ｈ５６１ａよりも正面側（即ち、正面枠Ｈ１４（図１２３参照）の底面の正面側に偏る位置）に形成される。これにより、下皿Ｈ５０から排出された球が突出部Ｈ５８３に当接する場合に、その当接により跳ね返る方向を分散させる（ばらけさせる）ことができる。その結果、球を千両箱の全体に散らばって排出させやすくできる（即ち、一か所に集中して払い出されることを抑制できる）。

【１９９８】

係合部Ｈ５８５及び締結部Ｈ５８４は、下側保護板Ｈ５８０を第１化粧板Ｈ５４１配設する際に、下側保護板Ｈ５８０の上部が第１化粧板Ｈ５４１から脱落することを抑制する部分であり、正面側保護部Ｈ５８１の上部に形成される。

【１９９９】

係合部Ｈ５８５は、背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出されると共にその突出先端が上方に向かって屈曲するＬ字状に形成されており、第１化粧板Ｈ５４１に下側保護板Ｈ５８０が配設された際に、第１化粧板Ｈ５４１と下皿構成ユニットＨ５５０の正面側側壁Ｈ５５４との間に形成される隙間に配置可能に構成される。これにより、係合部Ｈ５８５が形成される下側保護板Ｈ５８０の左側上部が前後方向に動くことを抑制できるようになっている。

【２０００】

なお、係合部Ｈ５８５の形状は、第１化粧板Ｈ５４１又は下皿構成ユニットＨ５５０に

係合するものであればなんでもよく、例えば下方に向かって屈曲するＬ字状に形成されてもよい。

【２００１】

締結部Ｈ５８４は、第１化粧板Ｈ５４１の背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通した螺子が螺入される部分であり、これにより、係合部Ｈ５８５及び被係合部Ｈ５８２ａにより第１化粧板Ｈ５４１に係合させた下側保護板Ｈ５８０を第１化粧板Ｈ５４１に締結固定できる。

【２００２】

なお、第１化粧板Ｈ５４１への下側保護板Ｈ５８０の配設方法は、下側保護板Ｈ５８０の上部に形成される係合部Ｈ５８５を第１化粧板Ｈ５４１及び下皿構成ユニットＨ５５０の隙間に挿入した後で、下側保護板Ｈ５８０の下部に形成される被係合部Ｈ５８２ａを第１化粧板Ｈ５４１の係合部Ｈ５４１ｃに係合させることで配設できる。

【２００３】

この場合、第１化粧板Ｈ５４１の係合部Ｈ５４１ｃは、下側保護板Ｈ５８０の配設方向と対向する側（正面側（矢印Ｆ方向側））の側面の一部が突出基端側に向かって正面側に傾斜して形成される。これにより、第１化粧板Ｈ５４１の係合部Ｈ５４１ｃに下側保護板Ｈ５８０の被係合部Ｈ５８２ａを係合させる際に、下側保護板Ｈ５８０の底面側保護部Ｈ５８２を係合部Ｈ５４１ｃの傾斜面に沿って変形させて係合部Ｈ５４１ｃを乗り越えさせることができる。その結果、第１化粧板Ｈ５４１の係合部Ｈ５４１ｃに下側保護板Ｈ５８０の被係合部Ｈ５８２ａを係合させやすくできる。

【２００４】

次いで、図１５９を参照して、正面枠Ｈ１４を床に立てて仮置きする場合について説明する。図１５９（ａ）及び（ｂ）は、正面枠Ｈ１４の側面図である。なお、図１５９（ａ）及び（ｂ）では、正面枠Ｈ１４の下部が拡大して図示されると共に、床面が２点鎖線で図示される。また、図１５９（ａ）では、正面枠Ｈ１４のベース部材Ｈ５１０及び第１化粧板Ｈ５４１の下面が床面に当接した状態で配置された状態が図示され、図１５９（ｂ）では、図１５９（ａ）に示す状態から正面枠Ｈ１４が前方に傾倒された状態が図示される。

【２００５】

なお、正面枠Ｈ１４を床に立てて仮置きする場合とは、パチンコ機Ｈ１０の製造時における工場の製造ラインでの一時的な仮置きや、パチンコ店（ホール）での設置作業や点検作業において正面枠Ｈ１４を一時的にパチンコ機Ｈ１０から取り外して仮置きする場合である。

【２００６】

この仮置き時において、ベース部材Ｈ５１０及び第１化粧板Ｈ５４１の下面が平坦面として構成されると、床面に凹凸があると、その凹凸を受けて正面枠Ｈ１４の姿勢が安定せず、正面枠Ｈ１４が倒れやすいという問題がある。

【２００７】

なお、正面枠Ｈ１４の正面側（矢印Ｆ方向側）の面または背面側（矢印Ｂ方向側）の面を床面に載置することは、正面枠Ｈ１４の正面側の装飾面や正面枠Ｈ１４の背面側に配設されるガラスユニットＨ１６に傷が生じる可能性や、正面枠Ｈ１４の背面側から連結される配線が挟み込まれて断線する可能性があるため、行うことができない上、載置するためのスペースが嵩む。そのため、工場での製造工程やパチンコ店での設置作業や点検作業においては、載置するためのスペースを最小とするために、正面枠Ｈ１４の長手方向一側（上面側または下面側）の面が床面に載置される。

【２００８】

これに対し、第８実施形態における正面枠Ｈ１４では、図１５９（ａ）に示すように、ベース部材Ｈ５１０がその正面側に配設される下皿形成部材Ｈ５３０よりも下方側に突出する位置に配設され（即ち、下皿形成部材Ｈ５３０がベース部材Ｈ５１０の下端よりも上方側に配設されると共に、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における幅が下皿形成部材Ｈ５３

０の前後方向における幅よりも小さくされる。
【２００９】
これにより、図１５９（ａ）に示すように、ベース部材Ｈ５１０の下面が床面に当接する状態で正面枠Ｈ１４が仮置きされる場合には、下皿形成部材Ｈ５３０の荷重により正面枠Ｈ１４を前方側に傾けて、図１５９（ｂ）に示すように、下皿形成部材Ｈ５３０に配設される下側保護板Ｈ５８０の突出部Ｈ５８３を床面に当接させることができる。
【２０１０】
即ち、第８実施形態における正面枠Ｈ１４は、正面枠Ｈ１４の長手方向一側（下面側）の面から突出される突出部Ｈ５８３を備え、その突出部Ｈ５８３がベース部材Ｈ５１０から正面側に離れた位置（正面枠Ｈ１４の下面における前後方向の前方側に偏る位置）に形成されるので、ベース部材Ｈ５１０の下端と突出部Ｈ５８３の突出先端とを床面に当接させて、正面枠Ｈ１４を自立させることができる。これにより、正面枠Ｈ１４の長手方向一側（下面側）の面が平坦面に形成される場合に比べて、床面の凹凸の影響を受けにくくすることができ、正面枠Ｈ１４の自立時の姿勢を安定させることができる。その結果、正面枠Ｈ１４を倒れにくくできる。
【２０１１】
また、突出部Ｈ５８３は、ベース部材Ｈ５１０の下端と突出部Ｈ５８３の突出先端とが床面に当接される前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、正面枠Ｈ１４の下面の前後方向における中央よりも（正面枠Ｈ１４の重心よりも）正面側（矢印Ｆ方向側）に偏る位置に形成される。
【２０１２】
これにより、正面枠Ｈ１４は、ベース部材Ｈ５１０の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における幅が下皿形成部材Ｈ５３０の前後方向における幅よりも小さくされるので、重心位置が正面側に偏りやすいところ、その重心よりも正面側に突出部Ｈ５８３が形成されるので、正面枠Ｈ１４の自立時における重心の偏りを抑制できる。即ち、当接位置の前後方向外側に正面枠Ｈ１４の重心位置が位置して正面枠Ｈ１４の自立時に正面枠Ｈ１４が正面側に倒れやすくなることを抑制できる。
【２０１３】
なお、突出部Ｈ５８３は、ベース部材Ｈ５１０の下端よりも突出先端が上方（矢印Ｕ方向）に位置するように構成される。従って、突出部Ｈ５８３を床面に当接させて正面枠Ｈ１４を仮置きする場合に、正面枠Ｈ１４を正面側（矢印Ｆ方向側）に傾けた状態で保持することができる。よって、突出部Ｈ５８３が床面に支持される点と、ベース部材Ｈ５１０及び第１化粧板Ｈ５４１が床面に支持される点との間に正面枠Ｈ１４の重心を配置しやすくでき、正面枠Ｈ１４を床面に立てて仮置きした場合に立てた状態での保持を安定させることができる。
【２０１４】
また、突出部Ｈ５８３は、第１化粧板Ｈ５４１の下部に配設される球抜きユニットＨ５６０よりも突出先端が下方に位置するように構成される。これにより、突出部Ｈ５８３を床面に当接させて正面枠Ｈ１４を仮置きする場合に、球抜きユニットＨ５６０が床面に当接することを抑制できる。従って、球抜きユニットＨ５６０に力が作用することを抑制して、球抜きユニットＨ５６０のスライド機構（スライド板Ｈ５６２のスライド変位）が破損することを抑制できる。
【２０１５】
さらに、突出部Ｈ５８３は、正面視において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の幅がベース部材Ｈ５１０及び下皿形成部材Ｈ５３０の左右方向の幅よりも小さく設定される。これにより、正面枠Ｈ１４を床に仮置きした場合に突出部Ｈ５８３の突出先端と床面との当接面積を小さくすることができる。よって、正面枠Ｈ１４を床に仮置きした場合に床面の凹凸の影響を受けにくくできる。その結果、正面枠Ｈ１４の自立時の姿勢を安定させ、正面枠Ｈ１４を倒れにくくすることができる。
【２０１６】

なお、第８実施形態における突出部Ｈ５８３は、正面側（矢印Ｆ方向側）に凸状に湾曲する湾曲壁Ｈ５８３ａを複数個（４個）左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に連結させた形状に形成されるので、正面枠Ｈ１４を床に仮置きした場合に湾曲壁Ｈ５８３ａの一部が床面に当接される。これにより、正面枠Ｈ１４を床に仮置きした場合に突出部Ｈ５８３の突出先端と床面との当接面積を小さくすることができる。よって、正面枠Ｈ１４を床に仮置きした場合に床面の凹凸の影響を受けにくくできる。その結果、正面枠Ｈ１４の自立時の姿勢を安定させ、正面枠Ｈ１４を倒れにくくすることができる。

【２０１７】

次いで、床面に仮置きした正面枠Ｈ１４持ち上げる場合について説明する。正面枠Ｈ１４を持ち上げる際には、次工程で正面枠Ｈ１４をパチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に取り付けることが多い。そのため、正面枠Ｈ１４を持ち上げる作業者は、正面枠Ｈ１４の正面側から正面枠Ｈ１４の下面に手を差し込んで正面枠Ｈ１４を持ち上げる。

【２０１８】

この場合、図１５９（ｂ）に示すように、突出部Ｈ５８３は、正面枠Ｈ１４の下面の正面側（矢印Ｆ方向側）端部よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に所定の間隔を隔てて配設されるので、正面枠Ｈ１４の正面側の下面と床面との間に所定の隙間を形成できる。これにより、作業者は、正面枠Ｈ１４の正面側の下面と床面との間に指を差し入れて、突出部Ｈ５８３よりも正面側の部分に指を掛けることができる。その結果、作業者が正面枠Ｈ１４を持ち上げやすくできる。

【２０１９】

また、突出部Ｈ５８３が正面枠Ｈ１４の下面の正面側（矢印Ｆ方向側）端部よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に所定の間隔を隔てて配設されることで、突出部Ｈ５８３が正面枠Ｈ１４の下面の正面側端部に形成される場合に比べて、自立状態における正面枠Ｈ１４の傾きを変更することなく、突出部Ｈ５８３の下方への突出距離を短くすることができる。従って、突出部Ｈ５８３を使用しない場合（例えば、遊技中）に突出部Ｈ５８３が邪魔になることを抑制できる。

【２０２０】

さらに、突出部Ｈ５８３が正面枠Ｈ１４の下面の正面側端部に形成される場合に比べて背面側に突出部Ｈ５８３が形成されるので、遊技者から突出部Ｈ５８３が視認されることを抑制できる。その結果、突出部Ｈ５８３が遊技者の興味を無駄に引き付けることを抑制して、遊技者を遊技に集中させることができる。

【２０２１】

次いで、図１６０を参照して、外枠Ｈ１１（図１２１参照）に配設された正面枠Ｈ１４を外枠Ｈ１１に対して回転させる場合について説明する。図１６０（ａ）は、正面枠Ｈ１４の下面図であり、図１６０（ｂ）は、正面枠Ｈ１４の側面図である。なお、図１６０（ａ）及び（ｂ）では、作業者の手が２点鎖線で図示されると共に、正面枠Ｈ１４以外（例えば外枠Ｈ１１）の図示が省略される。

【２０２２】

正面枠Ｈ１４は、上述したように正面視において外枠Ｈ１１（図１２１参照）の正面視左側上下の２箇所に取り付けられたヒンジＨ１８を軸に正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている。また、上下皿ユニットＨ１５に形成される突出部Ｈ５８３は、正面枠Ｈ１４の正面視において、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の中央よりも右側に偏る位置に形成されると共に、正面枠Ｈ１４の回転軸から径方向外側に向かって延設される（一端側が回転軸に近い側に形成され、他端側が回転軸から離れる位置に形成される）。

【２０２３】

よって、図１６０（ａ）及び（ｂ）に示すように、外枠Ｈ１１（図１２１参照）に対して正面枠Ｈ１４を開放する場合には、突出部Ｈ５８３に作業者の手を把持させやすくできる。従って、外枠Ｈ１１に対して正面枠Ｈ１４を作業者が開放しやすくできる。

【２０２４】

また、突出部Ｈ５８３は、複数の湾曲壁Ｈ５８３ａを連結した形状とされるので、１の

湾曲壁Ｈ５８３ａの湾曲部分（凹部分）に遊技者の指を引っ掛けさせることができる。従って、外枠Ｈ１１（図１２１参照）に対して正面枠Ｈ１４を開放する場合に遊技者の指が突出部Ｈ５８３に対して左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に滑ることを抑制できる。その結果、外枠Ｈ１１に対して正面枠Ｈ１４を開放させやすくできる。

【２０２５】

さらに、複数の湾曲壁Ｈ５８３ａには、その前後の側面に底面側保護部Ｈ５８２の下面と連結されるリブＨ５８３ｂが形成される。これにより、突出部Ｈ５８３の強度を確保して、突出部Ｈ５８３の破損を抑制できる。また、作業者が突出部Ｈ５８３に指を引っ掛けた場合に、突出部Ｈ５８３が底面側保護部Ｈ５８２に対して変形する（倒れる）ことを抑制できる。その結果、外枠Ｈ１１（図１２１参照）に対して正面枠Ｈ１４を開放する場合に遊技者の指が突出部Ｈ５８３に引っ掛かりにくくなることを抑制できる。

【２０２６】

また、突出部Ｈ５８３は、正面側保護部Ｈ５８１よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に形成されるので、突出部Ｈ５８３に指を引っ掛ける作業者の指を上下皿ユニットＨ１５の背面側に入れさせやすくできる。よって、作業者の指を上下皿ユニットＨ１５の下部に配置する面積を増やすことができ、外枠Ｈ１１（図１２１参照）に対して正面枠Ｈ１４を開放する場合に正面枠Ｈ１４を持ち上げる方向の力を作用させやすくできる。これにより、外枠Ｈ１１に対して正面枠Ｈ１４を開放する場合には、正面枠Ｈ１４の正面視右側を持ち上げつつ正面枠Ｈ１４を開放することができる。その結果、外枠Ｈ１１の回転軸から離間する正面枠Ｈ１４の右側がその自重により傾いて下面が外枠Ｈ１１に当接している（回転抵抗が大きい）場合であっても、外枠Ｈ１１に対して正面枠Ｈ１４を開放させやすくできる。

【２０２７】

次いで、図１６１から図１６３を参照して、上側保護板Ｈ５７０について説明する。初めに、図１６１及び図１６２を参照して、上側保護板Ｈ５７０の構成について説明する。図１６１（ａ）は、上側保護板Ｈ５７０の正面図であり、図１６１（ｂ）は、図１６１（ａ）のＸ１６ｂ線における上側保護板Ｈ５７０の断面図であり、図１６１（ｃ）は、図１６１（ａ）のＸ１６ｃ線における上側保護板Ｈ５７０の断面図であり、図１６２（ａ）は、図１４４のＸ１０ａ線における上下皿ユニットＨ１５の断面図であり、図１６２（ｂ）は、図１４４のＸ１０ｂ線における上下皿ユニットＨ１５の断面図である。

【２０２８】

なお、図１６２（ａ）における断面位置と図１６１（ｂ）における断面位置とは、同じ位置における断面が図示され、図１６２（ｂ）における断面位置と図１６１（ｂ）における断面位置とは、同じ位置における断面が図示される。

【２０２９】

Ｌ２１及び図１６２に示すように、上側保護板Ｈ５７０は、第１化粧板Ｈ５４１の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う形状の正面側保護部Ｈ５７１と、その正面側保護部Ｈ５７１の対向する縁部から第１化粧板Ｈ５４１側に向かって立設される挿入部Ｈ５７２と、正面側保護部Ｈ５７１の下端から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって屈曲して形成される屈曲部Ｈ５７３とを主に備える。

【２０３０】

正面側保護部Ｈ５７１は、第１化粧板Ｈ５４１の前面に沿う形状の板状体から形成され、正面視において上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０との間の第１化粧板Ｈ５４１の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う位置に形成される。正面側保護部Ｈ５７１が第１化粧板Ｈ５４１の前面側に配置されることにより、第１化粧板Ｈ５４１に直接、遊技者の手や物が当接することを抑制して、第１化粧板Ｈ５４１が破損することを抑制できる。

【２０３１】

ここで、下皿Ｈ５０や下皿Ｈ５０の下方に配置される千両箱に貯留された球を、パチンコ機Ｈ１０の上皿Ｈ１７に送るには、下皿Ｈ５０や千両箱に貯留された球を遊技者が把持して上皿Ｈ１７の貯留領域に送る必要がある。また、パチンコ機Ｈ１０の遊技中には、右手で操作ハンドルＨ５１を把持しておく必要があり、遊技中に上皿Ｈ１７に球を送るには

、左手で球をつかみ上皿Ｈ１７に球を送る必要がある。
【２０３２】
従って、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０との間および上皿Ｈ１７の左側は、遊技者の左手の動線上に位置しやすく、遊技者の手や物（例えば、遊技者が把持する球）が当接しやすくなっている。そのため、第１化粧板Ｈ５４１の正面視における上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０との間および上皿Ｈ１７の左側は、他の装飾面を形成する部分（上側装飾ユニットＨ１５ａ、左側装飾ユニットＨ１５ｂ、又は、右側装飾ユニットＨ１５ｃ）に比べて破損しやすいという問題がある。
【２０３３】
これに対し、第８実施形態では、第１化粧板Ｈ５４１の正面視における上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０との間および上皿Ｈ１７の左側を覆う位置に正面側保護部Ｈ５７１が配置されるので、第１化粧板Ｈ５４１に遊技者の手や物が直接当接することを抑制して、第１化粧板Ｈ５４１が破損することを抑制できる。
【２０３４】
また、仮に、遊技者の手や物が当接することにより上側保護板Ｈ５７０が破損する場合には、第１化粧板Ｈ５４１に配置される上側保護板Ｈ５７０を交換するだけでよいので、第１化粧板Ｈ５４１を交換する場合に比べて、第１化粧板Ｈ５４１に配置される他の部材（例えば、球抜きユニットＨ５６０など）を第１化粧板Ｈ５４１から取り外す必要がなくなる。その結果、破損時の部品交換作業を簡易に行うことができる。
【２０３５】
挿入部Ｈ５７２は、正面視において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長く形成されると共に左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の厚みが小さく形成される正面側保護部Ｈ５７１の左右両側の縁部に沿って延設されると共に、背面側に向かって立設される。
【２０３６】
また、第１化粧板Ｈ５４１には、上側保護板Ｈ５７０の正面側保護部Ｈ５７１が配設される部分に背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって凹む凹部Ｈ５４１ｄが形成されると共に、挿入部Ｈ５７２と対応する位置にその挿入部Ｈ５７２を挿入可能な被挿入部Ｈ５４１ｄ１が形成される（図１６２（ｂ）参照）。
【２０３７】
凹部Ｈ５４１ｄは、正面側保護部Ｈ５７１の前後方向における厚みより少し大きく背面側（矢印Ｂ方向側）に凹設された形状に形成される。これにより、正面側保護部Ｈ５７１が正面側に配設した際に、正面側保護部Ｈ５７１の正面を第１化粧板Ｈ５４１の化粧面に沿って配置する（正面側保護部Ｈ５７１と第１化粧板Ｈ５４１との化粧面の繋ぎ目の段差を少なくする）ことができる。その結果、上下皿ユニットＨ１５の化粧面を触る遊技者に違和感を感じさせにくくできる。
【２０３８】
被挿入部Ｈ５４１ｄ１は、挿入部Ｈ５７２の厚みよりも若干大きい溝状に形成されており、その溝の内部に挿入部Ｈ５７２を挿入可能に形成される。また、被挿入部Ｈ５４１ｄ１は、その凹設底面に挿入部Ｈ５７２の背面側（矢印Ｂ方向側）の端部が当接可能な長さに設定される。即ち、正面側保護部Ｈ５７１の背面と凹部Ｈ５４１ｄの正面との隙間は、被挿入部Ｈ５４１ｄ１の凹設底面に挿入部Ｈ５７２を当接させることで形成される。よって、正面側保護部Ｈ５７１の背面と凹部Ｈ５４１ｄの正面との隙間の形成を簡易にできると共に、その隙間を維持しやすくできる。
【２０３９】
なお、被挿入部Ｈ５４１ｄ１は、第１化粧板Ｈ５４１を背面側に曲げて形成されており、被挿入部Ｈ５４１ｄ１が形成される領域の第１化粧板Ｈ５４１の板厚と、被挿入部Ｈ５４１ｄ１以外の領域の第１化粧板Ｈ５４１の板厚とが略同一に形成される。これにより、被挿入部Ｈ５４１ｄ１の剛性を確保することができる。その結果、被挿入部Ｈ５４１ｄ１に挿入して配設される上側保護板Ｈ５７０に所定の力が作用される場合に、被挿入部Ｈ５４１ｄ１が破損することを抑制できる。

【２０４０】
一対形成されるうちの一方の被挿入部Ｈ５４１ｄ１は、上端の凹設底面が切り欠かれる被係合部（図示せず）を備え、その被係合部に一方の挿入部Ｈ５７２の上端部から下方に向かって突設される係合部Ｈ５７２ａが挿入可能とされる。これにより、第１化粧板Ｈ５４１の正面側（矢印Ｆ方向側）に上側保護板Ｈ５７０を配設した際に、上側保護板Ｈ５７０の上側右部が背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって移動することを抑制できる。
【２０４１】
なお、正面側保護部Ｈ５７１には、係合部Ｈ５７２ａが形成される一方と左右方向反対側の背面側（矢印Ｂ方向側）から被締結部Ｈ５７１ａ（図１６１（ｂ）参照）が突設される。被締結部Ｈ５７１ａは、第１化粧板Ｈ５４１側から正面側（矢印Ｆ方向側）に挿通される螺子を螺入させる部分であり、これにより、第１化粧板Ｈ５４１に対して上側保護板Ｈ５７０の上側左部を締結固定できる。
【２０４２】
即ち、第８実施形態では、上側保護板Ｈ５７０の上側は、右側部分が係合部Ｈ５７２ａにより第１化粧板Ｈ５４１に係合され、左側部分が被締結部Ｈ５７１ａにより第１化粧板Ｈ５４１に締結される。これらの係合および締結により、上側保護板Ｈ５７０の上側部分が第１化粧板Ｈ５４１に対して正面側（矢印Ｆ方向側）に移動すること（脱落すること）を抑制できる。
【２０４３】
本実施形態では、被締結部Ｈ５７１ａが正面視における正面側保護部Ｈ５７１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の他方側に偏る位置に形成されるので、後述するように、正面側保護部Ｈ５７１に所定の力が作用する場合に正面側保護部Ｈ５７１を背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって撓ませることが可能とされる。
【２０４４】
即ち、正面側保護部Ｈ５７１の左右の両端が締結固定されては、正面側保護部Ｈ５７１に所定の力が作用する場合に正面側保護部Ｈ５７１が左右方向に変形できなくなるところ、第８実施形態では、左右方向の一方側が係合部Ｈ５７２ａによる係合とされるので、正面側保護部Ｈ５７１の一方側への変形を可能とできる。
【２０４５】
屈曲部Ｈ５７３は、第１化粧板Ｈ５４１の第１開口部Ｈ５４１ａの内縁に沿って背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって屈曲して形成され、屈曲先端側の少なくとも一部が下皿Ｈ５０の貯留空間に入り込んだ位置に形成される。また、屈曲部Ｈ５７３は、第１開口部Ｈ５４１ａの内縁に沿って形成されることにより、正面視において上方側（正面側保護部Ｈ５７１の内側）に向かって凹状に湾曲して形成される。
【２０４６】
また、屈曲部Ｈ５７３には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に開口する被係合部Ｈ５７３ａが形成され、その被係合部Ｈ５７３ａが第１化粧板Ｈ５４１の第１開口部Ｈ５４１ａの上側内縁から下方に向かって突出する係合部Ｈ５４１ｅに係合される。なお、係合部Ｈ５４１ｅへの被係合部Ｈ５７３ａの係合方法については後述する。
【２０４７】
次いで、正面側保護部Ｈ５７１が第１化粧板Ｈ５４１の前面に配設された状態について説明する。図１６２に示すように正面側保護部Ｈ５７１は、第１化粧板Ｈ５４１の前面に対して所定の隙間を少なくとも一部に有した状態で配設される。
【２０４８】
パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって比較的大きな力が作用される場合には、第１化粧板Ｈ５４１に対する正面側保護部Ｈ５７１の所定の隙間により正面側保護部Ｈ５７１を背面側に向かって撓ませることができる。よって、パチンコ機Ｈ１０の正面側から作用する力が第１化粧板Ｈ５４１に直接作用することを抑制して、第１化粧板Ｈ５４１の破損を抑制できる。
【２０４９】

しかしながら、上側保護板Ｈ５７０の下方側は、第１化粧板Ｈ５４１から下方に向かって突出する係合部Ｈ５４１ｅに被係合部Ｈ５７３ａが係合されるだけであるので、第１化粧板Ｈ５４１に対する正面側保護部Ｈ５７１の所定の隙間により正面側保護部Ｈ５７１を背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって撓ませた際に、正面視において正面側保護部Ｈ５７１の外側に向かって屈曲部Ｈ５７３が広がり、被係合部Ｈ５７３ａと係合部Ｈ５４１ｅとの係合が解除される恐れがある。

【２０５０】

これに対し、第８実施形態では、挿入部Ｈ５７２が形成される正面側保護部Ｈ５７１の左右の両端から中央側に向かって正面側（矢印Ｆ方向側）に凸状に湾曲した形状に形成されるので、正面側保護部Ｈ５７１に正面側から所定の力が作用される場合に、正面側保護部Ｈ５７１を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側に広がる方向に撓ませることができ被係合部Ｈ５７３ａと係合部Ｈ５４１ｅとの係合が解除されることを抑制できる。

【２０５１】

即ち、第８実施形態では、正面側保護部Ｈ５７１に正面側（矢印Ｆ方向側）から所定の力が作用する場合に、重力方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における弾性変形量に比べて、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における弾性変形量を大きくすることができると共に、弾性変形量が小さい重力方向外側に第１化粧板Ｈ５４１（係合部Ｈ５４１ｅ）と係合する被係合部Ｈ５７３ａが形成されるので、正面側保護部Ｈ５７１が弾性変形した場合に、被係合部Ｈ５７３ａの位置がずれることを抑制できる。その結果、被係合部Ｈ５７３ａと係合部Ｈ５４１ｅとの係合が解除されることを抑制できる。

【２０５２】

なお、上側保護板Ｈ５７０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側に形成される挿入部Ｈ５７２が第１化粧板Ｈ５４１の被挿入部Ｈ５４１ｄ１に挿入されるので、正面側保護部Ｈ５７１に作用する力により正面側保護部Ｈ５７１が左右方向に変形する場合に正面側保護部Ｈ５７１が第１化粧板Ｈ５４１の化粧面に当接することを抑制できる。

【２０５３】

また、挿入部Ｈ５７２が第１化粧板Ｈ５４１の被挿入部Ｈ５４１ｄ１に挿入されるので、正面側保護部Ｈ５７１に作用する力により正面側保護部Ｈ５７１が左右方向に変形する場合に、正面側保護部Ｈ５７１の位置がずれることを抑制できる。その結果、上下皿ユニットＨ１５の見た目が変わることを抑制できる。

【２０５４】

また、第８実施形態では、屈曲部Ｈ５７３が、正面視において一対の挿入部Ｈ５７２の対向方向に延設されると共に、上方側（正面側保護部Ｈ５７１の内側）に向かって凹状に湾曲して形成されるので、正面側保護部Ｈ５７１が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に弾性変形する場合に、その正面側保護部Ｈ５７１の撓みにより屈曲部Ｈ５７３の左右両側が引っ張られる力を、屈曲部Ｈ５７３の被係合部Ｈ５７３ａが形成される部分を正面視における正面側保護部Ｈ５７１の中央側に傾倒させる方向の力に変換しやすくできる。

【２０５５】

これにより、第８実施形態では、正面側保護部Ｈ５７１に正面側（矢印Ｆ方向側）から所定の力が作用して正面側保護部Ｈ５７１が弾性変形する場合に、被係合部Ｈ５７３ａが係合部Ｈ５４１ｅとの係合を解除する方向に変位することを抑制できる。その結果、被係合部Ｈ５７３ａと係合部Ｈ５４１ｅとの係合が解除されることを抑制できる。

【２０５６】

また、係合部Ｈ５４１ｅは、第１開口部Ｈ５４１ａの内側に形成される。即ち、下皿Ｈ５０の内側に形成されるので、被係合部Ｈ５７３ａと係合部Ｈ５４１ｅとの係合箇所を遊技者から視認されにくくできる。その結果、被係合部Ｈ５７３ａと係合部Ｈ５４１ｅとの係合が遊技者により解除されることを抑制できる。

【２０５７】

なお、第８実施形態では、第１化粧板Ｈ５４１に突出形成される係合部Ｈ５４１ｅを上側保護板Ｈ５７０の被係合部Ｈ５７３ａに係合される場合について説明したが、係合部Ｈ

５４１ｅと被係合部Ｈ５７３ａとが反対に形成されていてもよく、第１化粧板Ｈ５４１に凹設される被係合部に上側保護板Ｈ５７０に突出形成される係合部を係合させても良い。

【２０５８】

この場合には、上側保護板Ｈ５７０に被係合部Ｈ５７３ａの開口を形成する必要がなくなるので、第１化粧板Ｈ５４１に上側保護板Ｈ５７０を配設した際に、上下皿ユニットＨ１５の化粧面に開口が現れなくなるので、遊技者が上側保護板Ｈ５７０と第１化粧板Ｈ５４１との係合を外そうとすることを抑制できる。その結果、被係合部Ｈ５７３ａと係合部Ｈ５４１ｅとの係合が解除されることを抑制できる。

【２０５９】

次いで、図１６３を参照して、第１化粧板Ｈ５４１への上側保護板Ｈ５７０の配設方法について説明する。図１６３（ａ）及び（ｂ）は、第１化粧板Ｈ５４１から上側保護板Ｈ５７０を分解した状態における上下皿ユニットＨ１５の断面図である。

【２０６０】

なお、図１６３（ａ）及び（ｂ）は、図１４４のＸ１０ａ線における上下皿ユニットＨ１５の断面と対応する。また、図１６３（ａ）では、第１化粧板Ｈ５４１から上側保護板Ｈ５７０が完全に取り外された状態における上下皿ユニットＨ１５の断面が図示され、図１６３（ｂ）では、第１化粧板Ｈ５４１に上側保護板Ｈ５７０を取り付け途中における上下皿ユニットＨ１５の断面が図示される。

【２０６１】

図１６３（ａ）及び（ｂ）に示すように、上側保護板Ｈ５７０を第１化粧板Ｈ５４１に取り付ける際には、第１化粧板Ｈ５４１の被挿入部Ｈ５４１ｄ１に上側保護板Ｈ５７０の挿入部Ｈ５７２を挿入しつつ、上側保護板Ｈ５７０を第１化粧板Ｈ５４１に向かって押し込むことで、屈曲部Ｈ５７３が第１化粧板Ｈ５４１の第１開口部Ｈ５４１ａの内縁に当接する上下位置に合わせられる。

【２０６２】

この場合、第１化粧板Ｈ５４１の係合部Ｈ５４１ｅは、上側保護板Ｈ５７０の配設方向と対向する側（正面側（矢印Ｆ方向側）の側面の一部が突出基端側に向かって正面側に傾斜して形成される。これにより、第１化粧板Ｈ５４１の係合部Ｈ５４１ｅに上側保護板Ｈ５７０の被係合部Ｈ５７３ａを係合させる際に、上側保護板Ｈ５７０の屈曲部Ｈ５７３を係合部Ｈ５４１ｅの傾斜面に沿って変形させて係合部Ｈ５４１ｅを乗り越えさせることができる。その結果、第１化粧板Ｈ５４１の係合部Ｈ５４１ｅに上側保護板Ｈ５７０の被係合部Ｈ５７３ａを係合させやすくできる。

【２０６３】

次いで、図１６４から図１８６を参照して、操作ユニットＨ１８０について説明する。初めに、図１６４から図１６６を参照して、操作ユニットＨ１８０の全体構成について説明する。図１６４（ａ）は、操作ユニットＨ１８０の正面斜視図であり、図１６４（ｂ）は、操作ユニットＨ１８０の背面斜視図であり、図１６５は、操作ユニットＨ１８０の分解正面斜視図であり、図１６６は、操作ユニットＨ１８０の分解背面斜視図である。

【２０６４】

図１６４から図１６６に示すように、操作ユニットＨ１８０は、上面にボタン部Ｈ１８１を有する傾倒装置Ｈ７１０と、その傾倒装置Ｈ７１０が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に揺動可能な状態で内側に配設される下枠部材Ｈ７２０と、その下枠部材Ｈ７２０の内側に配設される揺動装置Ｈ７３０と、傾倒装置Ｈ７１０のリング部材Ｈ７１３を上方側（矢印Ｕ方向側）から支持し下枠部材Ｈ７２０と向かい合わせで配置される上枠部材Ｈ７４０と、下枠部材Ｈ７２０の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設されアーム部材Ｈ７５５を介して傾倒装置Ｈ７１０に駆動力を伝達する駆動手段Ｈ７５０と、下枠部材Ｈ７２０の下方側に配設され駆動手段Ｈ７５０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）と後方（矢印Ｆ方向）との三方から覆う箱状に形成される保護カバー部材Ｈ７６０と、を主に備える。

【２０６５】

下枠部材Ｈ７２０は、下方側（矢印Ｄ方向側）に向かって凹状のカップ型に形成される

と共に、光を透過可能な透明な樹脂材料で形成される。これにより、下枠部材Ｈ７２０の内側に揺動装置Ｈ７３０を配設できると共に、その揺動装置Ｈ７３０から正面側（矢印Ｆ方向側に向かって出射される光を正面側に透過できる。

【２０６６】

また、下枠部材Ｈ７２０は、上述した上下皿ユニットＨ１５の第２化粧板Ｈ５４２の背面に沿って湾曲した形状に形成される正面板Ｈ７２１と、その正面板Ｈ７２１の背面側（矢印Ｂ方向側）端部に連なって形成され、正面板Ｈ７２１の背面側の縁部から背面側に向かって上昇傾斜する形状に形成される背面板Ｈ７２２と、その背面板Ｈ７２２の背面側の上端から上方（矢印Ｕ方向）に突設される一対の突設部Ｈ７２３と、背面板Ｈ７２２から背面側に向かって延設され、下方側に駆動手段Ｈ７５０が保持される保持部形成板Ｈ７２４と、その保持部形成板Ｈ７２４の下方側に左右一対で配置される左側検出センサＨ７２５Ｌと、右側検出センサＨ７２５Ｒと、背面板Ｈ７２２の右側（矢印Ｒ方向側）の下端部に配設されるボタン検出センサＨ７２６と、を主に備える。

【２０６７】

正面板Ｈ７２１は、操作ユニットＨ１８０を上下皿ユニットＨ１５（ベース部材Ｈ５１０）に配設した際に、第２化粧板Ｈ５４２（図１４５参照）の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される部分であり、第２化粧板Ｈ５４２の背面に沿う湾曲形状に形成される。また、正面板Ｈ７２１は、正面側の外縁に沿って正面側に向かって立設される壁部Ｈ７２１ａと、下端の一部に前後方向に開口される開口部Ｈ７２１ｂとを備える。

【２０６８】

壁部Ｈ７２１ａは、正面側の立設先端部が第２化粧板Ｈ５４２の背面に当接可能な立設距離に設定される。よって、操作ユニットＨ１８０を上下皿ユニットＨ１５（ベース部材Ｈ５１０）に配設した際に、壁部Ｈ７２１ａを除く正面板Ｈ７２１の正面と、第２化粧板Ｈ５４２の背面との間に空間を形成することができる。その空間により、第２化粧板Ｈ５４２の正面に入力される衝撃が正面板Ｈ７２１（操作ユニットＨ１８０）に直接作用することを抑制できる。その結果、後述する揺動装置Ｈ７３０の駆動手段Ｈ７８０及び変位部材Ｈ７９０が第２化粧板Ｈ５４２に入力される衝撃で揺動することを抑制できる。

【２０６９】

開口部Ｈ７２１ｂは、後述する傾倒装置Ｈ７１０との隙間から下枠部材Ｈ７２０の内側にゴミ（埃等）や液体が流入された場合に、傾倒装置Ｈ７１０の外側に排出するための空間であり正面板Ｈ７２１の下方側端部に形成される。従って、下枠部材Ｈ７２０の内側に流入したゴミ（埃等）や液体を開口部Ｈ７２１ｂを介して操作ユニットＨ１８０の外側に排出することができる。

【２０７０】

これにより、下枠部材Ｈ７２０の内側にゴミ（埃等）や液体が溜まって、操作ユニットＨ１８０の傾倒装置Ｈ７１０や揺動装置Ｈ７３０の変位が規制されたり、揺動装置Ｈ７３０の基板部材Ｈ７７３がショートしたりすることを抑制できる。

【２０７１】

背面板Ｈ７２２は、後述する揺動装置Ｈ７３０を配設するためのベース板であり、揺動装置Ｈ７３０に螺入される螺子を挿通するための挿通孔Ｈ７２２ａが前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口される。なお、揺動装置Ｈ７３０は、背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって上昇傾斜する背面板Ｈ７２２に配設されることで、正面側（矢印Ｆ方向側）を上方側（矢印Ｕ方向側）に傾けた姿勢で配置される。

【２０７２】

また、背面板Ｈ７２２は、左右の両外側に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口される一対の開口部Ｈ７２２ｂと、一方の開口部Ｈ７２２ｂ（正面視において右側の開口部Ｈ７２２ｂ）と隣り合う位置に配置されるボタン検出センサＨ７２６を下枠部材Ｈ７２０に締結固定するための螺子を螺入するねじ穴（図示しない）と、を備える。

【２０７３】

一対の開口部Ｈ７２２ｂは、下枠部材Ｈ７２０の外側に配置される駆動手段Ｈ７５０と

、下枠部材Ｈ７２０の内側に配設される傾倒装置Ｈ７１０とを連結するための一対のアーム部材Ｈ７５５を挿通するための開口であり、それぞれのアーム部材Ｈ７５５の変位軌跡上に開口されると共に、アーム部材Ｈ７５５が変位された際にアーム部材Ｈ７５５と干渉しない程度の大きさに形成される。

【２０７４】

一対の突設部Ｈ７２３は、背面板Ｈ７２２の上端から上方側（矢印Ｕ方向側）に向かって突設されると共に、その突設先端に傾倒装置Ｈ７１０のリング部材Ｈ７１３を上方側から挿入可能に上方側が開放される下側軸受け部Ｈ７２３ａを備える。

【２０７５】

下側軸受け部Ｈ７２３ａは、一対の突設部Ｈ７２３のそれぞれの突設先端側を半円形状に凹設して形成されると共に、一対の突設部Ｈ７２３の対向面側を開放した形状に形成される。なお、下側軸受け部Ｈ７２３ａは、その凹設部分の内側に傾倒装置Ｈ７１０のリング部材Ｈ７１３を配置可能に形成されており、円柱状に形成されるリング部材Ｈ７１３の直径よりも若干大きい直径の半円形状に形成される。

【２０７６】

保持部形成板Ｈ７２４は、背面板Ｈ７２２の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される駆動手段Ｈ７５０を変位可能に保持するための部分であり、背面板Ｈ７２２の上方側（矢印Ｕ方向側）の縁部から背面側に延出して形成される。また、保持部形成板Ｈ７２４には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における中央部の下面側に駆動手段Ｈ７５０を駆動する駆動力を発生させる駆動モータＨ７２７が配設用ブラケットＨ７２８を介して取り付けられると共に、その駆動モータＨ７２７の左右方向外側に左側検出センサＨ７２５Ｌ及び右側検出センサＨ７２５Ｒが配設される。

【２０７７】

また、保持部形成板Ｈ７２４には、駆動手段Ｈ７５０の伝達軸棒Ｈ７５３の前後を保持する保持部Ｈ７２４ａが左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に離れた位置に一対形成される。それぞれの保持部Ｈ７２４ａは、前後方向に所定の間隔を隔てた一対の突出部を備え、その一対の突出部の対向間に伝達軸棒Ｈ７５３を挟んで保持可能に形成される。

【２０７８】

左側検出センサＨ７２５Ｌは、後述する駆動手段Ｈ７５０の左円板カムＨ７５４Ｌの回転位置を検出するセンサであり、右側検出センサＨ７２５Ｒは、駆動手段Ｈ７５０の右円板カムＨ７５４Ｒの回転位置を検出するセンサである。左側検出センサＨ７２５Ｌ及び右側検出センサＨ７２５Ｒは、それぞれの円板カムＨ７５４Ｌ，Ｈ７５４Ｒと対応する位置に配設される。なお、左側検出センサＨ７２５Ｌ及び右側検出センサＨ７２５Ｒは、円板カムＨ７５４Ｌ，Ｈ７５４Ｒに切り欠き形成される検出部Ｈ７５４ｇＬ，Ｈ７５４ｇＲにより検出光が遮られなくなることで、それぞれの円板カムＨ７５４Ｌ，Ｈ７５４Ｒの回転位置を検出することができる。

【２０７９】

ボタン検出センサＨ７２６は、上下一対の上方側センサＨ７２６ａと下方側センサＨ７２６ｂとを備えて形成され、上方側センサＨ７２６ａにより傾倒位置に配置される傾倒装置Ｈ７１０を検出可能とされ、下方側センサＨ７２６ｂにより傾倒位置から押し込まれた傾倒装置Ｈ７１０を検出可能とされる。即ち、上方側センサＨ７２６ａは、傾倒位置に配置される傾倒装置Ｈ７１０の検出片Ｈ７１５を検出可能とされ、下方側センサＨ７２６ｂは、傾倒位置から押し込まれた位置の傾倒装置Ｈ７１０の検出片Ｈ７１５を検出可能とされる。

【２０８０】

なお、操作ユニットＨ１８０の操作を検出する各センサ（左側検出センサＨ７２５Ｌ、右側検出センサＨ７２５Ｒ、ボタン検出センサＨ７２６）の各種スイッチＨ２０８（図１２８参照）は、入出力ポートＨ２０５（図１２８参照）に接続され、その各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいてＭＰＵＨ２０１が各種処理（音声出力や液晶表示）を実行可能とされる。

【２０８１】
傾倒装置Ｈ７１０は、上面にボタン部Ｈ１８１と、そのボタン部Ｈ１８１の正面側の外縁から下方側に向かって延設される正面側透過部Ｈ７１１と、ボタン部Ｈ１８１の左右両外側の外縁から下方側に向かって延設される側面側反射部Ｈ７１２と、ボタン部Ｈ１８１の背面側の外縁に沿って配設される軸部材Ｈ７１６（図１７４参照）と、その軸部材Ｈ７１６の両端に配設されるリング部材Ｈ７１３と、軸部材Ｈ７１６に巻き付けされるねじりバネＨ７１７と、側面側反射部Ｈ７１２の下端の縁部に沿って配設されるブラケットＨ７１４と、側面側反射部Ｈ７１２の正面側の下端に配設され、下方側に突出する検出片Ｈ７１５と、を主に備え、ボタン部Ｈ１８１、正面側透過部Ｈ７１１、及び、側面側反射部Ｈ７１２により下方側が開口する箱状に形成される。
【２０８２】
なお、傾倒装置Ｈ７１０は、リング部材Ｈ７１３を回転軸として回転可能に形成されており、上述した傾倒位置と、その傾倒位置から正面側を上方側に回転させた起立位置との間で変位可能とされ、傾倒位置においてボタン部Ｈ１８１、正面側透過部Ｈ７１１、及び、側面側反射部Ｈ７１２の内側に揺動装置Ｈ７３０を配置可能とされる。なお、第８実施形態では、リング部材Ｈ７１３（回転軸）が傾倒装置Ｈ７１０の背面側に配置されるが、リング部材Ｈ７１３（回転軸）を正面側や左右のどちらか一方側に配置して、傾倒装置Ｈ７１０の背面側が上昇する形態や、左右のどちらか他方側が上昇する形態としても良い。
【２０８３】
ボタン部Ｈ１８１は、遊技者が押圧操作する部材であり、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置された状態において、上述した上皿形成部材Ｈ５２０と下皿形成部材Ｈ５３０（図１４５参照）との対向間から上方側（矢印Ｕ方向側）に突出する位置に配置される。また、ボタン部Ｈ１８１は、無色透明の樹脂材料から形成されており、下方側（矢印Ｄ方向側）に配置される揺動装置Ｈ７３０から出射される光を上方側に向かって透過可能とされる。なお、第８実施形態におけるボタン部Ｈ１８１は、貝を模した形状に形成されており、上面視において左右方向に広がる扇状に形成される。なお、第８実施形態では、ボタン部Ｈ１８１が無色透明の樹脂材料から形成されるが、ボタン部Ｈ１８１を有色の光を透過可能な樹脂材料から形成して、ボタン部Ｈ１８１を透過する光にボタン部Ｈ１８１の色味を付与する構造であっても良い。
【２０８４】
正面側透過部Ｈ７１１は、傾倒装置Ｈ７１０が起立位置に配置された状態において、ボタン部Ｈ１８１の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う部材であり、起立位置において上皿形成部材Ｈ５２０と下皿形成部材Ｈ５３０との対向間に下方側の端部が配置される。これにより、傾倒装置Ｈ７１０が起立位置に配置された状態において、傾倒装置Ｈ７１０と下皿形成部材Ｈ５３０との対向間から針金やピアノ線等の不正な部材が挿入されることを抑制できる。
【２０８５】
なお、正面側透過部Ｈ７１１（傾倒装置Ｈ７１０）は、光を透過可能な無色透明の樹脂材料から形成されるので、傾倒装置Ｈ７１０が起立位置に配置された状態においては、下方側（矢印Ｄ方向側）に配置される揺動装置Ｈ７３０から出射される光を正面側透過部Ｈ７１１を介して正面上方側（即ち、遊技者側）に出射できる。また、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置された状態においては、正面側透過部Ｈ７１１が正面板Ｈ７２１と対向する位置に配置されると共に後述する揺動装置Ｈ７３０の正面側に配置される。これにより、揺動装置Ｈ７３０から出射する光を正面側透過部Ｈ７１１及び正面板Ｈ７２１を介して正面側に出射できる。
【２０８６】
さらに、正面側透過部Ｈ７１１は、遊技者により傾倒装置Ｈ７１０が下方に押し込まれた場合に、下方側の端部が後述する揺動装置Ｈ７３０に当接可能な大きさに形成され、傾倒装置Ｈ７１０を押圧操作に伴って揺動装置Ｈ７３０を変位可能とされる。これにより、傾倒装置Ｈ７１０の押圧操作に伴って揺動装置Ｈ７３０から出射される光の方向を変更で

きるので、揺動装置Ｈ７３０による光の態様を傾倒装置Ｈ７１０の押圧操作に伴って変更できる。なお、傾倒装置Ｈ７１０の当接による揺動装置Ｈ７３０の動作についての詳しい説明は後述する。

【２０８７】

なお、第８実施形態では、揺動装置Ｈ７３０の正面板Ｈ７２１が透明の樹脂材料から形成され、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置される場合に基板部材Ｈ７７３から出射される正面側透過部Ｈ７１１が正面板Ｈ７２１を介して正面側に出射される場合について説明したが、正面板Ｈ７２１を有色の不透明（光を非透過）の樹脂材料から形成しても良い。この場合には、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置では、基板部材Ｈ７７３から出射される光の正面側への光の透過が規制され、傾倒装置Ｈ７１０が起立位置では、基板部材Ｈ７７３から出射される光の正面側への透過の規制が解除される。

【２０８８】

即ち、傾倒装置Ｈ７１０が起立位置に配置される場合にのみ、正面側透過部Ｈ７１１から透過される基板部材Ｈ７７３の光を遊技者が視認可能とされる。これによれば、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置される場合と起立位置に配置される場合とで遊技者側に出射される光の光量に差を設けやすくでき、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置される場合に遊技者に傾倒装置Ｈ７１０に注目させやすくできる。

【２０８９】

側面側反射部Ｈ７１２は、傾倒装置Ｈ７１０が起立位置に配置された状態において、ボタン部Ｈ１８１の左右両側面を覆う部材であり、上皿形成部材Ｈ５２０と下皿形成部材Ｈ５３０との対向間に下方側の端部が配置される。これにより、傾倒装置Ｈ７１０が起立位置に配置された状態において、傾倒装置Ｈ７１０と下皿形成部材Ｈ５３０との対向間から針金やピアノ線等の不正な部材が挿入されることを抑制できる。

【２０９０】

また、側面側反射部Ｈ７１２は、下方側の端部に配設されるブラケットＨ７１４と重ない位置における左右両側に上方側に向かって凹設される被係合凹部Ｈ７１２ａを備える。被係合凹部Ｈ７１２ａは、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置された状態から傾倒装置Ｈ７１０がねじりバネＨ７１７の付勢力で起立位置に変位することを抑制する（傾倒装置Ｈ７１０を傾倒位置に保持する）ために、後述する回転爪部材Ｈ７５７と係合する部分であり、回転爪部材Ｈ７５７と対応する位置に形成される。

【２０９１】

また、側面側反射部Ｈ７１２は、傾倒装置Ｈ７１０の内部空間側に光を反射可能な塗装がされ、側面側反射部Ｈ７１２に照射される光を反射可能に形成される。ここで、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置された状態において、側面側反射部Ｈ７１２が後述する揺動装置Ｈ７３０の背面側に配置される。これにより、揺動装置Ｈ７３０から側面側反射部Ｈ７１２側に光が出射される場合に、その光を正面側透過部Ｈ７１１側に反射させることができる。その結果、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置される状態において、傾倒装置Ｈ７１０の正面側透過部Ｈ７１１から正面側に出射される光量を増加して、遊技者の興趣を向上できる。

【２０９２】

リング部材Ｈ７１３は、傾倒装置Ｈ７１０の回転軸となる部分であり、円柱状に形成される。また、リング部材Ｈ７１３は、左右方向に軸を有しボタン部Ｈ１８１の背面側の縁部に沿って配設される。これにより、ボタン部Ｈ１８１の正面側の端部を下方に配置した傾倒位置と、その傾倒位置からボタン部Ｈ１８１の正面側の端部を上方に配置した起立位置との間で傾倒装置Ｈ７１０を回転させることができる。

【２０９３】

なお、傾倒装置Ｈ７１０の軸部材Ｈ７１６には、ねじりバネＨ７１７が配設されており、そのねじりバネＨ７１７が下枠部材Ｈ７２０と傾倒装置Ｈ７１０とに係合される。これにより、傾倒装置Ｈ７１０は、下枠部材Ｈ７２０に対して正面側の端部を上方に押し上げる方向（起立位置に変位する方向）に付威された状態で下枠部材Ｈ７２０に配設される。

【２０９４】
ブラケットＨ７１４は、アルミ等の金属材料を屈曲して構成され、下面視において側面側反射部Ｈ７１２の下縁部に沿う（正面側が開放された）コ字形状に形成される。ブラケットＨ７１４が傾倒装置Ｈ７１０の下面に配設されることで、ボタン部Ｈ１８１の押圧操作時に傾倒装置Ｈ７１０が下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２に当接して傾倒装置Ｈ７１０が破損することを抑制できる。
【２０９５】
また、ブラケットＨ７１４は、コ字形状の対向する板部分から下方側に屈曲して形成される連結部Ｈ７１４ａを備える。連結部Ｈ７１４ａは、傾倒装置Ｈ７１０に駆動力を伝達する駆動手段Ｈ７５０のアーム部材Ｈ７５５が連結される部分であり、アーム部材Ｈ７５５の連結棒Ｈ７５５ｂを挿通可能な貫通孔が形成される。アーム部材Ｈ７５５の連結棒Ｈ７５５ｂが連結部Ｈ７１４ａに挿通されることで、アーム部材Ｈ７５５の変位に連動して傾倒装置Ｈ７１０を変位させることができる。
【２０９６】
検出片Ｈ７１５は、ボタン検出センサＨ７２６の検出光を遮る部材であり、ボタン検出センサＨ７２６の上方側センサＨ７２６ａを遮る部分と下方側センサＨ７２６ｂを遮る部分とが異なる突出長さで形成される。詳しく説明すると、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置から押し込まれた位置を検出する下方側センサＨ７２６ｂを遮る部分の突出距離が、傾倒装置Ｈ７１０の傾倒位置を検出する上方側センサＨ７２６ａを遮る部分の突出距離よりも短く形成される。
【２０９７】
上枠部材Ｈ７４０は、上面視において傾倒装置Ｈ７１０の側面側反射部Ｈ７１２の下端に屈曲形成される係合片Ｈ７１２ｂが引っかかる（上下方向に重なる）大きさの半円弧形状に形成される。これにより、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置から起立位置に変位した際に、傾倒装置Ｈ７１０が起立位置を超えて上方側に張り出し変位することを抑制できる。
【２０９８】
また、上枠部材Ｈ７４０は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２と上下方向に対向配置されると共に下側が開放された半円形状に形成され、傾倒装置Ｈ７１０のリング部材Ｈ７１３を支持する上側軸受け部Ｈ７４１を備える。
【２０９９】
上側軸受け部Ｈ７４１は、下側軸受け部Ｈ７２３ａとの対向間に傾倒装置Ｈ７１０のリング部材Ｈ７１３を収容してリング部材Ｈ７１３を保持する部分であり、円柱状に形成されるリング部材Ｈ７１３の半径よりも若干大きい半径の半円形状に形成される。
【２１００】
駆動手段Ｈ７５０は、傾倒装置Ｈ７１０の回転を制御する部分であり、下枠部材Ｈ７２０に配設される駆動モータＨ７２７の駆動力により駆動して、傾倒装置Ｈ７１０の回転を制御することができる。なお、駆動手段Ｈ７５０についての詳しい説明については後述する。また、駆動手段Ｈ７５０を駆動する駆動モータＨ７２７（その他装置Ｈ２２８（図１２８参照））は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３の入出力ポートＨ２２５に接続され、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて駆動される。
【２１０１】
保護カバー部材Ｈ７６０は、上面視において略矩形状に形成される底面部Ｈ７６１と、その底面部Ｈ７６１の外縁に沿って延設され上方側に向かって立設される側壁部Ｈ７６２とを備え、上方側が開放する箱状に形成され、その内側に駆動手段Ｈ７５０を収容した状態で下枠部材Ｈ７２０の下面側に配置可能に構成される。
【２１０２】
底面部Ｈ７６１は、正面側の端部から突出されると共に下方側に屈曲するＬ字形状に形成される係合部Ｈ７６３と、上方側に向かって突出され駆動手段Ｈ７５０の伝達軸棒Ｈ７５３を下方から支持する凸状部Ｈ７６４とを備える。

【２１０３】
係合部Ｈ７６３は、駆動手段Ｈ７５０の第１スプリングＨ７５８の下端を係合させる部分である。第１スプリングＨ７５８は、保護カバー部材Ｈ７６０に対して軸支される回転爪部材Ｈ７５７の第１係合部Ｈ７５７ｄと、保護カバー部材Ｈ７６０の係合部Ｈ７６３とに両端が係合されることで、回転爪部材Ｈ７５７の第１係合部Ｈ７５７ｄを下方側に引っ張る方向に付勢することができる。
【２１０４】
次いで、図１６７から図１７１を参照して、駆動手段Ｈ７５０について説明する。初めに図１６７及び図１６８を参照して、駆動手段Ｈ７５０の全体構成について説明する。図１６７（ａ）は、駆動手段Ｈ７５０の正面図であり、図１６７（ｂ）は、図１６７（ａ）のＹ１７ｂ線における駆動手段Ｈ７５０の側面図であり、図１６８は、駆動手段Ｈ７５０の正面分解斜視図である。
【２１０５】
図１６７及び図１６８に示すように、駆動手段Ｈ７５０は、板状の板金部材を折り曲げることにより骨組みを構成する本体部材Ｈ７５１と、その本体部材Ｈ７５１の左右両側に配設される軸部材Ｈ７５２と、駆動モータＨ７２７の駆動力を伝達する伝達軸棒Ｈ７５３と、その伝達軸棒Ｈ７５３の両端に回転不能に固定される一対の円板カムＨ７５４（左円板カムＨ７５４Ｌ、右円板カムＨ７５４Ｒ）と、その円板カムＨ７５４の連結ピンＨ７５４ｅが挿通されるアーム部材Ｈ７５５と、軸部材Ｈ７５２に軸支されると共に円板カムＨ７５４の第１突出部Ｈ７５４ｃ１や第２突出部Ｈ７５４ｃ２と回転方向で当接する解除部材Ｈ７５６と、その解除部材Ｈ７５６と同軸で軸支され解除部材Ｈ７５６の回転に伴って相対動作する回転爪部材Ｈ７５７と、その回転爪部材Ｈ７５７を下倒れさせる方向へ向けた付勢力を発生するコイルスプリング状のバネ部材である第１スプリングＨ７５８と、解除部材Ｈ７５６と回転爪部材Ｈ７５７との間で互いに離反させる方向の付勢力を発生するねじりバネ状のバネ部材である第２スプリングＨ７５９と、を主に備える。
【２１０６】
本体部材Ｈ７５１は、アルミ等の金属材料から形成され、左右両端から上方へ向かって折曲され正面視コ字形状に形成される。また、本体部材Ｈ７５１は、対向配置される板部分の対向位置（同軸上）に穿設される軸支孔Ｈ７５１ｂと、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される板部分に穿設される挿通孔Ｈ７５１ｃと、を主に備える。なお、駆動モータＨ７２７は、正面時コ字状形状に形成される本体部材Ｈ７５１の内側に配置される。
【２１０７】
軸支孔Ｈ７５１ｂは、軸部材Ｈ７５２の一端が圧入される孔であり、軸部材Ｈ７５２の外径と略同一の内径に形成される。軸支孔Ｈ７５１ｂに軸部材Ｈ７５２が圧入されることで、本体部材Ｈ７５１の左右両外側に軸部材Ｈ７５２が突出した状態で配設され、本体部材Ｈ７５１の左右両外側に解除部材Ｈ７５６及び回転爪部材Ｈ７５７を配設可能とされる。
【２１０８】
次いで、図１６９を参照して、伝達軸棒Ｈ７５３について説明する。図１６９（ａ）は、伝達軸棒Ｈ７５３の正面分解斜視図であり、図１６９（ｂ）は、伝達軸棒Ｈ７５３の背面分解斜視図である。
【２１０９】
図１６９に示すように、伝達軸棒Ｈ７５３は、両端に円板カムＨ７５４（図１６８参照）が固定される柱部材Ｈ７５３ａと、その柱部材Ｈ７５３ａに軸支されると共に駆動モータＨ７２７の回転ギヤと歯合する伝達ギヤＨ７５３ｂと、その伝達ギヤＨ７５３ｂと柱部材Ｈ７５３ａとの間で駆動力を伝達するか否かを軸方向の移動により切り替え可能な可動クラッチＨ７５３ｃと、その可動クラッチＨ７５３ｃを伝達ギヤＨ７５３ｂに押し付けるコイルバネＨ７５３ｄと、伝達ギヤＨ７５３ｂの軸部に挿入される挿入部材Ｈ７５３ｅと、を主に備える。
【２１１０】

柱部材Ｈ７５３ａは、金属性の材料から形成されると共に、断面六角形の柱状体に形成される。また、柱部材Ｈ７５３ａは、その両端部に円板カムＨ７５４を係合させる溝状の係合溝Ｈ７５３ａ１を備える。

【２１１１】

伝達ギヤＨ７５３ｂは、柱部材Ｈ７５３ａが挿通される円形状の挿通孔Ｈ７５３ｂ１と、可動クラッチＨ７５３ｃと対向配置される面から軸中心の円周位置において軸心方向に沿った凹凸が形成されるクラッチ部Ｈ７５３ｂ２と、を主に備える。

【２１１２】

挿入部材Ｈ７５３ｅは、柱部材Ｈ７５３ａに対する伝達ギヤＨ７５３ｂの軸位置を決める部材であり、伝達ギヤＨ７５３ｂの挿通孔Ｈ７５３ｂ１に挿入可能な円柱状に形成される。また、挿入部材Ｈ７５３ｅは、柱部材Ｈ７５３ａが挿通される六角形状の挿通孔Ｈ４７５３ｅ１が形成され、柱部材Ｈ７５３ａに対して回転（空回り）不能な状態で配設される。

【２１１３】

伝達ギヤＨ７５３ｂは、挿通孔Ｈ７５３ｂ１に挿入部材Ｈ７５３ｅが挿入された状態で柱部材Ｈ７５３ａに挿入されることで、柱部材Ｈ７５３ａが固定された場合にでも、柱部材Ｈ７５３ａ（挿入部材Ｈ７５３ｅ）に対して回転（空回り）することができる。

【２１１４】

可動クラッチＨ７５３ｃは、柱部材Ｈ７５３ａが挿通される六角形状の挿通孔Ｈ７５３ｃ１と、伝達ギヤＨ７５３ｂと対向配置される面から軸中心の円周位置において軸方向に沿った凹凸が形成されると共にクラッチ部Ｈ７５３ｂ２と係合可能に構成されるクラッチ部Ｈ７５３ｃ２と、を主に備える。なお、本実施形態では、両クラッチ部Ｈ７５３ｂ２，Ｈ７５３ｃ２の頂部の角度が約１００°の山形の凸部および凹部から構成される。

【２１１５】

柱部材Ｈ７５３ａの外形と同様の六角形状に挿通孔Ｈ７５３ｃ１が形成されることで、挿通孔Ｈ７５３ｂ１に柱部材Ｈ７５３ａを挿通させた状態では、柱部材Ｈ７５３ａに対する伝達ギヤＨ７５３ｂの回転（空振り）が規制される。

【２１１６】

また、両クラッチ部Ｈ７５３ｂ２，Ｈ７５３ｃ２とが係合されることで、駆動モータＨ７２７から伝達ギヤＨ７５３ｂに伝達される駆動力が、可動クラッチＨ７５３ｃを介して柱部材Ｈ７５３ａに伝達される。これにより、円板カムＨ７５４（図１６８参照）を回転させることが可能になる。

【２１１７】

なお、可動クラッチＨ７５３ｃは、通常はコイルバネＨ７５３ｄの付勢力により伝達ギヤＨ７５３ｂに近接する位置に配置され、両クラッチ部Ｈ７５３ｂ２，Ｈ７５３ｃ２の係合関係が保たれる。一方で、可動クラッチＨ７５３ｃに軸方向の負荷がかけられることにより、柱部材Ｈ７５３ａの軸方向に沿って伝達ギヤＨ７５３ｂから離反する態様で移動可能に構成される。

【２１１８】

アーム部材Ｈ７５５は、樹脂材料から構成され、一方向に長い板状に形成される。またアーム部材Ｈ７５５は、長手方向一方側の端部に長手方向に沿って長孔状に穿設されると共に円板カムＨ７５４の連結ピンＨ７５４ｅが挿通される案内孔Ｈ７５５ａと、長手方向他方側の端部に配設されると共に傾倒装置Ｈ７１０の連結部Ｈ７１４ａに挿通される円柱状の連結棒Ｈ７５５ｂと、を主に備える。

【２１１９】

アーム部材Ｈ７５５は、傾倒装置Ｈ７１０の連結部Ｈ７１４ａに連結棒Ｈ７５５ｂが回転可能な状態で軸支される。また、案内孔Ｈ７５５ａの長手方向における距離は、円板カムＨ７５４が回転された際の連結ピンＨ７５４ｅの回転軌跡の直径よりも大きく形成される。これらにより、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置された状態において、円板カムＨ７５４が一回転以上回転した際に、円板カムＨ７５４の連結ピンＨ７５４ｅの変位に伴っ

て連結ピンＨ７５４ｅを案内孔Ｈ７５５ａに沿って摺動させられると共に、軸部Ｈ７１１ｅを軸に回転させられる。

【２１２０】

次いで、図１７０を参照して、円板カムＨ７５４について説明する。図１７０（ａ）は、図１６８の矢印Ｙ１８ａ方向視における右円板カムＨ７５４Ｒの側面図であり、図１７０（ｂ）は、図１６８の矢印Ｙ１８ｂ方向視における右円板カムＨ７５４Ｒの側面図であり、図１７０（ｃ）は、図１６８の矢印Ｙ１８ｃ方向視における左円板カムＨ７５４Ｌの側面図であり、図１７０（ｄ）は、図１６８の矢印Ｙ１８ｄ方向視における左円板カムＨ７５４Ｌの側面図である。

【２１２１】

なお、以下の説明では、左円板カムＨ７５４Ｌと右円板カムＨ７５４Ｒとのそれぞれにおいて、対向する側を「対向方向内側」と称し、対向する側と反対側を「対向方向外側」と称して説明する。

【２１２２】

図１７０（ａ）及び（ｂ）に示すように、右円板カムＨ７５４Ｒは、略円板状に形成される円板部Ｈ７５４ａと、その円板部Ｈ７５４ａの軸心部分に穿設される中心軸部Ｈ７５４ｂと、円板部Ｈ７５４ａの軸心部分が対向方向内側に向かって屈曲されることで対向方向内側に向かって凸状に膨出される第１膨出部Ｈ７５４ｃと、その第１膨出部Ｈ７５４ｃの径方向外側部分から対向方向外側に向かって屈曲されることで対向方向外側に向かって凸状に膨出される第２膨出部Ｈ７５４ｄと、その第２膨出部Ｈ７５４ｄから対向方向外側に向かって円柱状に突出されアーム部材Ｈ７５５（図１６９参照）に連結される連結ピンＨ７５４ｅと、第２膨出部Ｈ７５４ｄよりも軸心側から対向方向外側に突設して形成される係合部Ｈ７５４ｆと、円板部Ｈ７５４ａの外周面の一部を軸心側に向かって切り欠いて形成される右検出部Ｈ７５４ｇＲと、を主に備える。

【２１２３】

なお、右円板カムＨ７５４Ｒは、右検出部Ｈ７５４ｇＲが、左円板カムＨ７５４Ｌの左検出部Ｈ７５４ｇＬと６０°の角度をなす位置に配置されることのみが異なり、その他は右円板カムＨ７５４Ｒの形状を鏡写しした形状から構成される。

【２１２４】

中心軸部Ｈ７５４ｂは、内周が柱部材Ｈ７５３ａと対応する六角形状に形成される。これにより、中心軸部Ｈ７５４ｂに柱部材Ｈ７５３ａを挿通させた状態では、柱部材Ｈ７５３ａに対する右円板カムＨ７５４Ｒの回転（空回り）が規制される。

【２１２５】

第１膨出部Ｈ７５４ｃは、中心軸部Ｈ７５４ｂの軸を中心に円環形状に膨出して形成されると共に、外周面の一部から径方向の外側に突出する２箇所の第１突出部Ｈ７５４ｃ１と、第２突出部Ｈ７５４ｃ２とを備える。

【２１２６】

第１突出部Ｈ７５４ｃ１と第２突出部Ｈ７５４ｃ２とは、後述する解除部材Ｈ７５６と当接する部分であり、同一の形状に形成されると共に中心軸部Ｈ７５４ｂの中心から径方向外側に同じ距離突出する位置に形成される。また、第１突出部Ｈ７５４ｃ１と第２突出部Ｈ７５４ｃ２とは、それぞれ円板部Ｈ７５４ａの軸を中心に公転方向に約１５０°ずれた位置に形成され、円板カムＨ７５４の回転時に異なるタイミングで解除部材Ｈ７５６に当接可能に構成される。

【２１２７】

連結ピンＨ７５４ｅは、駆動手段Ｈ７５０の第１初期状態において、傾倒状態における傾倒装置Ｈ７１０の軸部Ｈ７１１ｅと最も離間距離の長い位置に配置される。即ち、中心軸部Ｈ７５４ｂに対して傾倒状態における傾倒装置Ｈ７１０の軸部Ｈ５１１ｅの反対側に連結ピンＨ７５４ｅが配設される。

【２１２８】

係合部Ｈ７５４ｆは、円板部Ｈ７５４ａの中心軸部Ｈ７５４ｂを挟んで一対形成される

。また、係合部Ｈ７５４ｆは、突出先端が略Ｌ字状に屈曲され、その屈曲部分の先端が柱部材Ｈ７５３ａの係合溝Ｈ７５３ａ１に挿入される。これにより、柱部材Ｈ７５３ａを右円板カムＨ７５４Ｒの中心軸部Ｈ７５４ｂに挿入した状態では、柱部材Ｈ７５３ａに対して右円板カムＨ７５４Ｒの軸方向への変位が規制される。

【２１２９】

次いで、図１７１を参照して、解除部材Ｈ７５６と回転爪部材Ｈ７５７とについて説明する。なお、解除部材Ｈ７５６と回転爪部材Ｈ７５７とは左右一対で配設され、それらの構成は左右で同一なので、一方のみを説明する。

【２１３０】

図１７１（ａ）及び図１７１（ｂ）は、図１６８の矢印Ｙ１９ａ方向視における解除部材Ｈ７５６及び回転爪部材Ｈ７５７の側面図である。なお、図１７１（ａ）では、解除部材Ｈ７５６に対して回転爪部材Ｈ７５７が第２スプリングＨ７５９の付勢方向終端位置まで回転した角度大状態が図示され、図１７１（ｂ）では、解除部材Ｈ７５６に対して回転爪部材Ｈ７５７が第２スプリングＨ７５９の付勢力に抗して終端位置まで回転した角度小状態が図示される。

【２１３１】

図１７１（ａ）及び図１７１（ｂ）に示すように、解除部材Ｈ７５６は、軸部材Ｈ７５２に軸支される軸支孔Ｈ７５６ａを有する円環状に形成される本体部Ｈ７５６ｂ（図１６８参照）と、軸支孔Ｈ７５６ａの中心軸を中心とする円弧形状で回転爪部材Ｈ７５７側に向かって本体部Ｈ７５６ｂから凸設される凸設ピンＨ７５６ｃと、本体部Ｈ７５６ｂから最大径で張り出す部分として構成される被当接部Ｈ７５６ｄと、を主に備え、樹脂材料から形成される。

【２１３２】

解除部材Ｈ７５６は、軸支孔Ｈ７５６ａが軸部材Ｈ７５２に軸支されることで、本体部材Ｈ７５１に対して回転可能に保持され、被当接部Ｈ７５６ｄに円板カムＨ７５４が当接しない状態では、第２スプリングＨ７５９の付勢力により回転爪部材Ｈ７５７に対して軸部材Ｈ７５２を軸に図１７１に示す状態において右回り方向に最大位置まで回転され、角度大状態とされる。

【２１３３】

凸設ピンＨ７５６ｃは、回転爪部材Ｈ７５７に当接して、回転爪部材Ｈ７５７に駆動力を伝達する部分であり、回転爪部材Ｈ７５７に当接可能な長さに設定される。また、凸設ピンＨ７５６ｃには、第２スプリングＨ７５９の一端が係合されており、これにより、第２スプリングＨ７５９の付勢力が解除部材Ｈ７５６に伝達される。

【２１３４】

被当接部Ｈ７５６ｄは、組立状態において、円板カムＨ７５４の第１突出部Ｈ７５４ｃ１及び第２突出部Ｈ７５４ｃ２が当接可能に構成される部分である。被当接部Ｈ７５６ｄに第１突出部Ｈ７５４ｃ１及び第２突出部Ｈ７５４ｃ２が当接されることで、解除部材Ｈ７５６を本体部材Ｈ７５１に対して回転させることができる。

【２１３５】

回転爪部材Ｈ７５７は、軸部材Ｈ７５２に軸支される軸支孔Ｈ７５７ａを有する本体部Ｈ５７５ｂと、軸支孔Ｈ７５７ａの中心軸を中心とする円弧形状に沿って解除部材Ｈ７５６の凸設ピンＨ７５６ｃを案内可能な大きさで本体部Ｈ７５７ｂに穿設される（凸設ピンＨ７５６ｃの移動軌跡を内側に含む大きさで穿設される）案内長孔Ｈ７５７ｃと、本体部Ｈ７５７ｂから突設され第１スプリングＨ７５８の上端を係合可能に湾曲して形成される第１係合部Ｈ７５７ｄと、軸支孔Ｈ７５７ａの中心軸から径方向外側に最大径で張り出した位置から軸支孔Ｈ７５７ａを軸とする周方向に沿って本体部Ｈ７５７ｂから凸設される鉤状部Ｈ７５７ｅと、軸支孔Ｈ７５７ａを軸とする周方向に沿って本体部Ｈ５７５ｂに凹設され第２スプリングＨ７５９の端部が係合される第２係合部Ｈ７５７ｆと、を主に備える。

【２１３６】

本実施形態では、図１７１（ａ）に示す角度大状態において、解除部材Ｈ７５６が回転爪部材Ｈ７５７に対して後転方向（図１７１（ａ）時計回り方向）の終端位置に配置される。そのため、角度大状態において、被当接部Ｈ７５６ｄに押し下げ方向の負荷がかけられると、解除部材Ｈ７５６及び回転爪部材Ｈ７５７が一体となって後転方向に回転する。一方、角度大状態において、被当接部Ｈ７５６ｄに押し下げ方向の負荷がかけられると、図１７１（ｂ）に示す角度小状態に至るまでは解除部材Ｈ７５６のみを回転させ回転爪部材Ｈ７５７の姿勢を維持することができる。

【２１３７】

次いで、操作ユニットＨ１８０の動作について説明する。初めに、図１７２及び図１７３を参照して、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置された状態において、遊技者が押し込み操作する場合に動作について説明する。

【２１３８】

図１７２及び図１７３は、図１４４のＸ１１ｍ線における操作ユニットＨ１８０の断面図である。なお、図１７２では、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置された状態が図示され、図１７３では、図１７２の状態から遊技者が傾倒装置Ｈ７１０を終端位置まで押し込んだ状態が図示される。また、図１７２及び図１７３では、傾倒装置Ｈ７１０を押圧操作する遊技者の手の一例が２点鎖線で図示される。

【２１３９】

図１７２に示すように、傾倒装置Ｈ７１０は、ねじりバネＨ７１７により後転方向（図１７２時計周り）の付勢力を受けると共に、側面側反射部Ｈ７１２の被係合凹部Ｈ７１２ａが回転爪部材Ｈ７５７の鉤状部Ｈ７５７ｅに引っ掛けられる。これにより、傾倒位置に配置された状態で傾倒装置Ｈ７１０が姿勢維持される。即ち、傾倒位置に配置された状態において傾倒装置Ｈ７１０には、後転方向（図１７２時計回り）の付勢力が常時作用される。

【２１４０】

図１７２に示す状態において、傾倒装置Ｈ７１０の検出片Ｈ７１５ｇは、ボタン検出センサＨ７２６の上方側センサＨ７２６ａの検出溝に挿通されると共に、ボタン検出センサＨ７２６の下方側センサＨ７２６ｂの検出溝の手前に配置される。これにより、パチンコ機Ｈ１０は、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置されることと、遊技者による押圧操作がされていないこととを認識することができる。

【２１４１】

図１７３に示すように、遊技者が傾倒装置Ｈ７１０を押し込む操作を行うと、傾倒装置Ｈ７１０が前転方向（図１７２反時計周り）に約３°回転する。この状態において、傾倒装置Ｈ７１０の検出片Ｈ７１５ｇは、ボタン検出センサＨ７２６の上方側センサＨ７２６ａの検出溝に挿通されると共に、ボタン検出センサＨ７２６の下方側センサＨ７２６ｂの検出溝に挿通される。

【２１４２】

従って、ボタン検出センサＨ７２６の上方側センサＨ７２６ａ及び下方側センサＨ７２６ｂの検出状態の変化を判定することにより、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置から遊技者に押し込み操作されたことを判定することができる。

【２１４３】

次いで、図１７２、図１７４及び図１７５を参照して、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置から起立位置に第１の速度（円板カムＨ７５４の回転速度）で変位する場合の動作について説明する。図１７４及び図１７５は、図１４４のＸ１１ｍ線における操作ユニットＨ１８０の断面図である。なお、図１７４及び図１７５では、図１７２に示す状態から円板カムＨ７５４が所定量だけ前転方向（図１７４反時計回り方向）に回転し回転爪部材Ｈ７５７が姿勢変化した状態が図示される。

【２１４４】

図１７４及び図１７５に示すように、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置され、かつ、駆動手段Ｈ７５０が第１初期状態とされる図１７２に示す状態から、円板カムＨ７５４を

前転方向（図１７２反時計回り方向）に回転させると、円板カムＨ７５４の第１突出部Ｈ７５４ｃ１が解除部材Ｈ７５６の被当接部Ｈ７５６ｄを押し下げることで解除部材Ｈ７５６が後転方向（図１７２時計回り方向）に回転し、その回転に伴い回転爪部材Ｈ７５７が傾倒装置Ｈ７１０の被係合凹部Ｈ７１２ａとの係合が外れる位置まで後転方向に回転する。

【２１４５】

このとき、傾倒装置Ｈ７１０に連結されるアーム部材Ｈ７５５の案内孔Ｈ７５５ａの一方の終端位置（傾倒装置Ｈ７１０に連結される側から遠い側の終端位置）に円板カムＨ７５４の連結ピンＨ７５４ｅが配置される。よって、傾倒装置Ｈ７１０の上昇方向の（起立位置への）動作は、アーム部材Ｈ７５５により規制されるので、傾倒装置Ｈ７１０の上昇動作が、円板カムＨ７５４の回転角度に対応した動作態様とされる。

【２１４６】

そして、図１７５に示すように、円板カムＨ７５４の連結ピンＨ７５４ｅが、傾倒装置Ｈ７１０の連結部Ｈ７１４ａ（アーム部材Ｈ７５５の連結棒Ｈ７５５ｂが連結される位置）と円板カムＨ７５４の回転軸とを繋ぐ直線上まで回転されることで、傾倒装置Ｈ７１０が起立位置まで変位される。

【２１４７】

なお、円板カムＨ７５４の第１突出部Ｈ７５４ｃ１と解除部材Ｈ７５６との当接が解除され、解除部材Ｈ７５６が図１７４に示す状態から前転方向（図１７４反時計回り方向）に回転し、その回転に伴い回転爪部材Ｈ７５７が傾倒位置における傾倒装置Ｈ７１０の被係合凹部Ｈ７１２ａと係合可能な位置（図１７２に示す位置と同じ位置）まで前転方向に回転される。

【２１４８】

よって、図１７５に示す起立位置に配置された状態から、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１が遊技者に押圧操作される場合には、傾倒装置Ｈ７１０に連結されるアーム部材Ｈ７５５を円板カムＨ７５４の連結ピンＨ７５４ｅに倣って（案内孔Ｈ７５５ａに沿って連結ピンＨ７５４ｅを摺動させて）変位させることで、傾倒装置Ｈ７１０を傾倒位置まで変位させると共に、傾倒装置Ｈ７１０を傾倒位置に保持することができる。

【２１４９】

また、図１７５に示す起立位置に配置された状態から、円板カムＨ７５４が前転方向（図１７５反時計回り方向）にさらに回転される場合には、円板カムＨ７５４の連結ピンＨ７５４ｅが前転方向に回転することで、アーム部材Ｈ７５５が下方に向けて引っ張られ、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に向けて変位される。即ち、円板カムＨ７５４の回転角度に対応した下降動作を傾倒装置Ｈ７１０にさせることができる。

【２１５０】

次いで、図１７６及び図１７７を参照して、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置から起立位置に第２の速度（傾倒装置Ｈ７１０の軸部材Ｈ７１６に配設されるねじりバネＨ７１７の付勢力）で変位する場合の動作について説明する。図１７６及び図１７７は、図１４４のＸ１１ｍ線における操作ユニットＨ１８０の断面図である。なお、図１７６では、図１７１に示す状態から円板カムＨ７５４が回転され、第２突出部Ｈ７５４ｃ２が被当接部Ｈ７５６ｄに当接された状態が図示され、図１７７では、図１７６に示す状態から円板カムＨ７５４が所定量だけ前転方向（図１７６の反時計回り方向）に回転し回転爪部材Ｈ７５７が姿勢変化した状態が図示される。

【２１５１】

図１７６及び図１７７に示すように、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置され、かつ、駆動手段Ｈ７５０が第２初期状態とされる図１７６に示す状態から、円板カムＨ７５４を前転方向（図１７６反時計回り方向）に回転させると、円板カムＨ７５４の第２突出部Ｈ７５４ｃ２が解除部材Ｈ７５６の被当接部Ｈ７５６ｄを押し下げることで解除部材Ｈ７５６が後転方向（図１７６時計回り方向）に回転し、その回転に伴い回転爪部材Ｈ７５７が傾倒装置Ｈ７１０の被係合凹部Ｈ７１２ａとの係合が外れる位置まで後転方向に回転する

。
【２１５２】
このとき、傾倒装置Ｈ７１０に連結されるアーム部材Ｈ７５５の案内孔Ｈ７５５ａの他方の終端位置（傾倒装置Ｈ７１０に連結される側に近い終端位置）に近い位置に円板カムＨ７５４の連結ピンＨ７５４ｅが配置される（即ち、一方の終端位置との間に距離を隔てた位置に配置される）。よって、傾倒装置Ｈ７１０の上昇方向の動作は、上記した第１の速度（円板カムＨ７５４の回転速度）に伴って変位されず、傾倒装置Ｈ７１０に配置されるねじりバネＨ７１７の付勢力による変位速度に伴って変位される。
【２１５３】
なお、第８実施形態では、ねじりバネＨ７１７の付勢力による傾倒装置Ｈ７１０の変位速度は、第１の速度よりも速く設定される（即ち、付勢力が十分に強く設定される）。従って、第８実施形態では、第１の速度と第２の速度とで、傾倒装置Ｈ７１０の上昇方向への動作速度を変更することができるので、傾倒装置Ｈ７１０の変位による演出態様を増やすことができる。その結果、傾倒装置Ｈ７１０の変位による演出効果を向上できる。
【２１５４】
また、第８実施形態では、円板カムＨ７５４を後転方向（図１７２～図１７７時計回り方向）に回転させて、円板カムＨ７５４の第１突出部Ｈ７５４ｃ１及び第２突出部Ｈ７５４ｃ２を被当接部Ｈ７５６ｄに当接させて解除部材Ｈ７５６を前転方向（図１７２～図１７７反時計回り方向）に回転させた場合には、上記したように回転爪部材Ｈ７５７が非変位とされる（図１７１（ｂ）参照）。これにより、回転爪部材Ｈ７５７が傾倒装置の被係合凹部Ｈ７１２ａとの係合を解除しない態様で、円板カムＨ７５４の位置を変更することができる。その結果、第１の速度または第２の速度で連続して傾倒装置Ｈ７１０を起立位置に変位させることが可能となり、傾倒装置Ｈ７１０の変位による演出効果を向上することができる。
【２１５５】
次いで、図１７８から図１８６を参照して、揺動装置Ｈ７３０について説明する。初めに、図１７８から図１８１を参照して、揺動装置Ｈ７３０の全体構成について説明する。図１７８（ａ）は、揺動装置Ｈ７３０上面図であり、図１７８（ｂ）は、図１７８（ａ）の矢印Ｙ２０ｂ方向視における揺動装置Ｈ７３０の側面図であり、図１７９（ａ）は、図１７８（ｂ）のＸ２１ａ線における揺動装置Ｈ７３０の断面図であり、図１７９（ｂ）は、図１７８（ａ）のＸ２１ｂ線における揺動装置Ｈ７３０の断面図であり、図１８０は、揺動装置Ｈ７３０の分解正面斜視図であり、図１８１は、揺動装置Ｈ７３０の分解背面斜視図である。
【２１５６】
なお、上記したように、揺動装置Ｈ７３０はパチンコ機Ｈ１０に対して変位部材Ｈ７９０を正面側上方に傾けた状態で下枠部材Ｈ７２０に配置される（図１６５参照）が、揺動装置Ｈ７３０における以下の説明では、ベース手段Ｈ７７０、駆動手段Ｈ７８０、及び、変位部材Ｈ７９０が配設される方向（図１７８（ａ）の上下方向）を前後方向として説明する。
【２１５７】
図１７８から図１８１に示すように、揺動装置Ｈ７３０は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１６５参照）に配設されるベース手段Ｈ７７０と、そのベース手段Ｈ７７０の背面側（矢印Ｂ方向側）に軸支される駆動手段Ｈ７８０と、ベース手段Ｈ７７０を介して駆動手段Ｈ７８０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される変位部材Ｈ７９０と、を主に備える。
【２１５８】
なお、変位部材Ｈ７９０は、ベース手段Ｈ７７０及び駆動手段Ｈ７８０に対して相対変位可能に配設されており、第１コイルバネＨ７９３及び第２コイルバネＨ７９４により駆動手段Ｈ７８０に対して正面側に平行に張り出した状態（図１７８（ａ）に示す状態）を駆動手段Ｈ７８０に対する変位部材Ｈ７９０の初期位置として説明する。

【２１５９】
変位部材Ｈ７９０は、光を透過可能な無色透明な樹脂材料から形成されており、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるベース手段Ｈ７７０から出射される光を正面側に透過可能に構成される。また、変位部材Ｈ７９０は、正面側に向かって半球状に湾曲して形成される透過部Ｈ７９１と、その透過部Ｈ７９１の背面側の縁部３箇所から背面側に向かって突出する係合部Ｈ７９２と、を主に備える。
【２１６０】
透過部Ｈ７９１は、背面側（矢印Ｂ方向側）から入射される光を拡散して正面側から出射させるための光拡散部であり、半円形状に形成される内方側の側面（背面側の側面）に凹凸状に形成される凹凸部Ｈ７９１ａを備え、無色透明の光を透過可能な樹脂材料から形成される。
【２１６１】
なお、透過部Ｈ７９１の凹凸部Ｈ７９１ａは、透過部Ｈ７９１の外方側の側面（正面側の側面）に形成されても良いし、透過部Ｈ７９１の内方側および外方側の両側面に形成しても良い。また、透過部Ｈ７９１が平坦面を有する平板状に形成され、その平坦面の少なくとも一方の側面に凹凸部Ｈ７９１ａが形成されても良い。また、凹凸形状の凹凸部Ｈ７９１ａにより光を拡散するものでなく、レーザー光等により透過部Ｈ７９１の内部に形成した傷により光を拡散するものであっても良い。
【２１６２】
係合部Ｈ７９２は、上方側の同一高さ位置に形成される一対の上側係合部Ｈ７９２ａと、下方側の縁部に形成される下側係合部Ｈ７９２ｂと、を備え、それら一対の上側係合部Ｈ７９２ａ及び下側係合部Ｈ７９２ｂがベース手段Ｈ７７０または駆動手段Ｈ７８０に変位可能な状態で連結される。これにより、変位部材Ｈ７９０は、ベース手段Ｈ７７０及び駆動手段Ｈ７８０に対して変位可能とされる。
【２１６３】
一対の上側係合部Ｈ７９２ａは、背面側の突出先端部から屈曲する屈曲部Ｈ７９２ａ１と、その屈曲部Ｈ７９２ａ１から背面側に向かって円柱状に突出する円柱部Ｈ７９２ａ２と、を主に備える。
【２１６４】
屈曲部Ｈ７９２ａ１は、駆動手段Ｈ７８０に係合される部分であり、組み立て状態では駆動手段Ｈ７８０の内側に配設され、変位部材Ｈ７９０が正面側（矢印Ｆ方向側）へ所定距離変位する場合に、駆動手段Ｈ７８０に当接して変位部材Ｈ７９０の正面側への変位を規制可能とされる。これにより、駆動手段Ｈ７８０からの変位部材Ｈ７９０の脱落を抑制できる。なお、第８実施形態では、一対の上側係合部Ｈ７９２ａのそれぞれの屈曲部Ｈ７９２ａ１が、それぞれ反対方向となる左右方向外側に向けて屈曲される。
【２１６５】
円柱部Ｈ７９２ａ２は、上側係合部Ｈ７９２ａと駆動手段Ｈ７８０との間に配設される第１コイルバネＨ７９３を案内する部分であり、第１コイルバネＨ７９３の内径よりも小さい外径に形成され、第１コイルバネＨ７９３の内部に挿入可能とされる。なお、上側係合部Ｈ７９２ａは、円柱部Ｈ７９２ａ２に案内される第１コイルバネＨ７９３の付勢力により正面側に向かって付勢された状態で駆動手段Ｈ７８０に配設される。
【２１６６】
下側係合部Ｈ７９２ｂは、ベース手段Ｈ７７０と係合される屈曲部Ｈ７９２ｂ１を備える。組み立て状態では、ベース手段Ｈ７７０に形成される溝部の内側に屈曲部Ｈ７９２ｂ１が挿入され、正面側（矢印Ｆ方向側）または背面側（矢印Ｂ方向側）へ変位部材Ｈ７９０が所定距離変位する場合に、ベース手段Ｈ７７０に当接して変位部材Ｈ７９０の正面側または背面側への変位を規制可能とされる。これにより、ベース手段Ｈ７７０からの変位部材Ｈ７９０の脱落を抑制できる。
【２１６７】
なお、下側係合部Ｈ７９２ｂとベース手段Ｈ７７０との間には、第２コイルバネＨ７９

４が配設されており、その第２コイルバネＨ７９４の付勢力により、下側係合部Ｈ７９２ｂは正面側に向かって付勢された状態で配設される。

【２１６８】

変位部材Ｈ７９０は、第１コイルバネＨ７９３及び第２コイルバネＨ７９４により正面側に付勢されることで、ベース手段Ｈ７７０及び駆動手段Ｈ７８０に対して相対変位した後で初期位置に変位することができる。即ち、変位部材Ｈ７９０に負荷がかけられていない状態（例えば、駆動手段Ｈ７８０からの駆動力が作用していない状態）では、駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０が初期位置に配置される。

【２１６９】

次いで、図１８２を参照して、ベース手段Ｈ７７０について説明する。図１８２（ａ）は、ベース手段Ｈ７７０の分解正面斜視図であり、図１８２（ｂ）は、ベース手段Ｈ７７０の分解背面斜視図である。

【２１７０】

図１８２（ａ）及び図１８２（ｂ）に示すように、ベース手段Ｈ７７０は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１６５参照）に締結固定される上側ベース部材Ｈ７７１と、その上側ベース部材Ｈ７７１の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される下側ベース部材Ｈ７７２と、上側ベース部材Ｈ７７１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される基板部材Ｈ７７３と、基板部材Ｈ７７３の正面側を覆う態様で上側ベース部材Ｈ７７１の正面側に配設される第１拡散部材Ｈ７７４と、を主に備える。

【２１７１】

上側ベース部材Ｈ７７１は、正面側に基板部材Ｈ７７３が取り付けられる正面部Ｈ７７１ａと、その正面部Ｈ７７１ａの上方側の縁部から背面側に向かって延設される上面部Ｈ７７１ｂと、正面部Ｈ７７１ａの下方側の縁部の左右両端から背面側に向かって突出される第１係合部Ｈ７７１ｃと、正面部Ｈ７７１ａの下方側の縁部から下方側に向かって突出される第２係合部Ｈ７７１ｄと、正面部Ｈ７７１ａの左右両側に位置し前後方向に開口する円環形状に形成される挿通孔Ｈ７７１ｅと、を主に備え、光を透過可能な透明な樹脂材料から形成される。

【２１７２】

正面部Ｈ７７１ａは、正面視において上方側が開放される略コ字形状に形成され、開放部分を介して正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される基板部材Ｈ７７３に配線を連結することができる。また、正面部Ｈ７７１ａの開放部分を覆設する位置に基板部材Ｈ７７３を配設可能に形成され、開放部分を介して基板部材Ｈ７７３の発光により生じる熱を放温することが可能とされる。これにより、基板部材Ｈ７７３が熱により破損することを抑制できる。

【２１７３】

また、正面部Ｈ７７１ａには、左右両側に一対形成される挿通孔Ｈ７７１ｅの内側部分に第１拡散部材Ｈ７７４を挿通した螺子を螺入可能な締結部Ｈ７７１ａ１が円柱状に形成される。これにより、正面部Ｈ７７１ａの正面側に第１拡散部材Ｈ７７４を締結固定することができる。

【２１７４】

なお、基板部材Ｈ７７３は、正面部Ｈ７７１ａに円柱状に形成される締結部Ｈ７７１ａ１を避けるように円弧状に凹設される凹部Ｈ７７３ａを備え、その凹部Ｈ７７３ａの内側に締結部Ｈ７７１ａ１を挿入した状態で正面部Ｈ７７１ａの正面側に配設される。これにより、上側ベース部材Ｈ７７１に対する基板部材Ｈ７７３の上下左右方向への移動を規制でき、また、正面側に第１拡散部材Ｈ７７４が配設されることで、上側ベース部材Ｈ７７１に対する基板部材Ｈ７７３の前後方向の移動が規制される。

【２１７５】

上面部Ｈ７７１ｂは、後述する駆動手段Ｈ７８０を軸支する部分であり、上下方向に円形状に貫通され駆動手段Ｈ７８０の軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂが挿通される上側軸支部Ｈ７７１ｂ１を備える。これにより、駆動手段Ｈ７８０がベース手段Ｈ７７０に対して相

対変位可能な状態で保持される。
【２１７６】
第１係合部Ｈ７７１ｃは、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１６５参照）に係合する部分であり、下枠部材Ｈ７２０に係合するように先端が屈曲される略Ｌ字状に形成される。下枠部材Ｈ７２０に揺動装置Ｈ７３０を配設する際には、第１係合部Ｈ７７１ｃを下枠部材Ｈ７２０に係合させることで、挿通孔Ｈ７７１ｅを挿通した螺子を下枠部材Ｈ７２０に締結させやすくできる。
【２１７７】
なお、ベース手段Ｈ７７０は、挿通孔Ｈ７７１ｅを挿通した螺子を下枠部材Ｈ７２０に締結することにより、下枠部材Ｈ７２０に対して固定される。これにより、後述するように駆動手段Ｈ７８０が動作される際に、ベース手段Ｈ７７０が下枠部材Ｈ７２０に対して非変位とされる。
【２１７８】
第２係合部Ｈ７７１ｄは、下側ベース部材Ｈ７７２に係合する部分であり、下側ベース部材Ｈ７７２に係合するように先端が屈曲される略Ｌ字状に形成される。上側ベース部材Ｈ７７１に下側ベース部材Ｈ７７２を配設する際には、第２係合部Ｈ７７１ｄを下側ベース部材Ｈ７７２に係合させることで、下側ベース部材Ｈ７７２を挿通した螺子を上側ベース部材Ｈ７７１に締結させやすくできる。
【２１７９】
下側ベース部材Ｈ７７２は、上側ベース部材Ｈ７７１の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設され、第２係合部Ｈ７７１ｄが係合される底面部Ｈ７７２ａと、その底面部Ｈ７７２ａの背面側（矢印Ｄ方向側）の縁部から上方側に延設され、上側ベース部材Ｈ７７１の背面側の一部を覆う背面部Ｈ７７２ｂと、を主に備え、光を非透過の樹脂材料から形成される。
【２１８０】
底面部Ｈ７７２ａは、第２係合部Ｈ７７１ｄを挿入させると共に第２係合部Ｈ７７１ｄの先端を係合可能な形状に凹設される被係合部Ｈ７７２ａ１と、矩形状に開口され変位部材Ｈ７９０の下側係合部Ｈ７９２ｂの屈曲部Ｈ７９２ｂ１を挿入可能な開口部Ｈ７７２ａ２と、を主に備える。
【２１８１】
開口部Ｈ７７２ａ２は、変位部材Ｈ７９０を駆動手段Ｈ７８０に対して初期位置から変位させる場合に、その変位を許容すると共に所定以上の変位を規制する部分であり、屈曲部Ｈ７９２ｂ１に対して所定の隙間を有する大きさに形成される。
【２１８２】
背面部Ｈ７７２ｂは、上下方向に円形状に貫通され駆動手段Ｈ７８０の軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂが挿通される下側軸支部Ｈ７７２ｂ１と、前後方向に穿設され上側ベース部材Ｈ７７１に螺入する螺子を背面側から挿入可能な挿通孔Ｈ７７２ｂ２と、を主に備える。
【２１８３】
下側軸支部Ｈ７７２ｂ１は、上面部Ｈ７７１ｂに形成される上側軸支部Ｈ７７１ｂ１と同軸上に形成される。これにより、駆動手段Ｈ７８０は、ベース手段Ｈ７７０に対して上下の軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂが軸支され、上側軸支部Ｈ７７１ｂ１及び下側軸支部Ｈ７７２ｂ１の中心を軸として回転可能とされる。
【２１８４】
基板部材Ｈ７７３は、正面側に複数の発光手段Ｈ７７３ｂが配置される電子基板（プリント基板）であり、正面側に配設される第１拡散部材Ｈ７７４に向けて光を発光可能とされる。なお、第１拡散部材Ｈ７７４に出射される光は、第１拡散部材Ｈ７７４を透過して変位部材Ｈ７９０の背面側に出射され、変位部材Ｈ７９０を介し操作ユニットＨ１８０の正面側から出射される。
【２１８５】
第１拡散部材Ｈ７７４は、正面視において基板部材Ｈ７７３を覆設する大きさに形成さ

れる。これにより、操作ユニットＨ１８０の内部に不正部材を挿入できたとしても、基板部材Ｈ７７３まで、その不正部材が挿入されることを抑制できる。即ち、基板部材Ｈ７７３は、遊技者の操作が不可能な領域に配置される。

【２１８６】

また、第１拡散部材Ｈ７７４は、発光手段Ｈ７７３ｂの光が照射される領域が正面側に向かって部分的に膨出され、その膨出部分の正面側の側面に凹凸状に形成される凹凸部Ｈ７７４ａが形成される。発光手段Ｈ７７３ｂから出射される光は、凹凸部Ｈ７７４ａを介して正面側に出射されることにより左右上下方向に拡散される。これにより、第１拡散部材Ｈ７７４の正面側に配設される変位部材Ｈ７９０に発光手段Ｈ７７３ｂの光を照射しやすくできる。

【２１８７】

また、第１拡散部材Ｈ７７４は、上側ベース部材Ｈ７７１の締結部Ｈ７７１ａ１に螺入する螺子を挿通可能に前後方向に挿通する挿通孔Ｈ７７４ｂを備え、正面側から挿通孔Ｈ７７４ｂを挿通した螺子を上側ベース部材Ｈ７７１に締結することで、上側ベース部材Ｈ７７１に締結固定される。

【２１８８】

次いで、図１８３を参照して、駆動手段Ｈ７８０について説明する。図１８３（ａ）は、駆動手段Ｈ７８０の分解正面斜視図であり、図１８３（ｂ）は、駆動手段Ｈ７８０の分解背面斜視図である。

【２１８９】

図１８３（ａ）及び図１８３（ｂ）に示すように、駆動手段Ｈ７８０は、駆動軸Ｈ７８１ａを背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出させた状態で配設される駆動モータＨ７８１と、その駆動モータＨ７８１の駆動軸Ｈ７８１ａに連結される錘部材Ｈ７８２と、駆動モータＨ７８１及び錘部材Ｈ７８２の上方側を覆設する上側カバー部材Ｈ７８３と、駆動モータＨ７８１及び錘部材Ｈ７８２の下方側を覆設する下側カバー部材Ｈ７８４と、を主に備える。

【２１９０】

錘部材Ｈ７８２は、駆動モータＨ７８１の駆動軸Ｈ７８１ａの回転により回転される部材であり、駆動軸Ｈ７８１ａが挿入される挿入孔Ｈ７８２ａを備える。また、錘部材Ｈ７８２は、半円形状に形成されると共に、挿入孔Ｈ７８２ａが円形部分の中心位置に形成される。即ち、錘部材Ｈ７８２は、駆動軸Ｈ７８１ａの軸に対して一方に偏る位置に配置される。

【２１９１】

そのため、錘部材Ｈ７８２を駆動軸Ｈ７８１ａの軸を中心に回転させた際には、錘部材Ｈ７８２の回転に伴って錘部材Ｈ７８２の重心が駆動軸Ｈ７８１ａの軸回りを回転変位することとなり、錘部材Ｈ７８２の回転に伴って錘部材Ｈ７８２の遠心力が作用する方向を変更することができる。この遠心力の作用する方向の変化により、駆動手段Ｈ７８０をベース手段Ｈ７７０に対して変位させることができる。なお、ベース手段Ｈ７７０に対する駆動手段Ｈ７８０の変位についての詳しい説明は後述する。

【２１９２】

上側カバー部材Ｈ７８３は、駆動モータＨ７８１及び錘部材Ｈ７８２の上方側（矢印Ｕ方向側）を覆設するために下方側（矢印Ｄ方向側）が開放された箱状に形成されるカバー部Ｈ７８３ａと、そのカバー部Ｈ７８３ａの左右両側から上方側に向かって突設されると共に上方側の端部に背面側に向かって凹設される収容凹部Ｈ７８３ｂ１が形成される突設部Ｈ７８３ｂと、カバー部Ｈ７８３ａの上面から上方に向かって円柱状に突設されベース手段Ｈ７７０の上側軸支部Ｈ７７１ｂ１に挿入される上側軸部Ｈ７８３ｃと、を主に備え、光を非透過の樹脂材料から形成される。

【２１９３】

収容凹部Ｈ７８３ｂ１は、上述した変位部材Ｈ７９０（図１８１参照）の上側係合部Ｈ７９２ａが挿入される部分であり、左右外側の側面に上側係合部Ｈ７９２ａの屈曲部Ｈ７

９２ａ１と係合可能な凸部Ｈ７８３ｂ２が内側に向かって突出される。
【２１９４】
　また、凸部Ｈ７８３ｂ２と上下に隣り合う部分には、収容凹部Ｈ７８３ｂ１の一部が背面側に向かって切り欠かれる。これにより、凸部Ｈ７８３ｂ２を左右外側に変形可能とされ、収容凹部Ｈ７８３ｂ１の内側に上側係合部Ｈ７９２ａを挿入する際には、凸部Ｈ７８３ｂ２を左右外側に変形させて上側係合部Ｈ７９２ａを挿入可能な大きさの開口を形成できる。
【２１９５】
　一方で、収容凹部Ｈ７８３ｂ１の内側に上側係合部Ｈ７９２ａを挿入した後では、凸部Ｈ７８３ｂ２を元の位置に戻すことで、凸部Ｈ７８３ｂ２を上側係合部Ｈ７９２ａの屈曲部Ｈ７９２ａ１と前後方向に重なる位置に配置できる。その結果、変位部材Ｈ７９０が上側カバー部材Ｈ７８３（駆動手段Ｈ７８０）から抜け出ることを抑制できる。
【２１９６】
　なお、収容凹部Ｈ７８３ｂ１の内側部分における左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の開口幅は、屈曲部Ｈ７９２ａ１を除く上側係合部Ｈ７９２ａの左右方向における厚みよりも若干大きく形成される。これにより、所定の駆動力が変位部材Ｈ７９０に作用する場合に変位部材Ｈ７９０が駆動手段Ｈ７８０に対して左右方向に変位可能とされる。なお、駆動手段Ｈ７８０に対する変位部材Ｈ７９０の変位ついての詳しい説明は後述する。
【２１９７】
　下側カバー部材Ｈ７８４は、駆動モータＨ７８１及び錘部材Ｈ７８２の下方側（矢印Ｄ方向側）を覆設するために上方側（矢印Ｕ方向側）が開放された箱状に形成されるカバー部Ｈ７８４ａと、カバー部Ｈ７８４ａの下面から下方に向かって円柱状に突設されベース手段Ｈ７７０の下側軸支部Ｈ７７２ｂ１に挿入される下側軸部Ｈ７８４ｂと、下側カバー部材Ｈ７８４の背面側の縁部から下方側に向かって突設され正面側に弾性体Ｈ７８５が配設される被当接部Ｈ７８４ｃと、を主に備え、無色透明の樹脂材料から形成される。
【２１９８】
　被当接部Ｈ７８４ｃは、上述したボタン部Ｈ１８１が遊技者に押圧操作され傾倒装置Ｈ７１０が下方側に押し込まれる位置に変位した場合に、傾倒装置Ｈ７１０の正面側透過部Ｈ７１１の下端が弾性体Ｈ７８５を介して当接される部分である。これにより、遊技者がボタン部Ｈ１８１を押圧操作した場合には、その遊技者の操作力が駆動手段Ｈ７８０に作用される。従って、ボタン部Ｈ１８１の操作に伴って傾倒装置Ｈ７１０の内側に配設される揺動装置Ｈ７３０を変位させることができる。その結果、ボタン部Ｈ１８１を操作する遊技者の興趣を向上できる。なお、ボタン部Ｈ１８１の押圧操作に伴う揺動装置Ｈ７３０の変位についての詳しい説明は後述する。
【２１９９】
　次いで、図１８４から図１８６を参照して、ベース手段Ｈ７７０に対して駆動手段Ｈ７８０および変位部材Ｈ７９０を変位させた場合について説明する。初めに、図１８４及び図１８５を参照して、ベース手段Ｈ７７０に対する駆動手段Ｈ７８０の変位について説明する。図１８４（ａ）は、ベース手段Ｈ７７０及び駆動手段Ｈ７８０の上面図であり、図１８４（ｂ）は、図１８４（ａ）のＸ２２ｂ線における駆動手段Ｈ７８０の断面図であり、図１８５（ａ）は、ベース手段Ｈ７７０及び駆動手段Ｈ７８０の上面図であり、図１８５（ｂ）は、図１８５（ａ）のＸ２３ｂ線における駆動手段Ｈ７８０の断面図である。
【２２００】
　なお、図１８４（ａ）及び図１８４（ｂ）では、駆動手段Ｈ７８０がベース手段Ｈ７７０に対して、軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂを軸に時計回り方向（正面側を左方向）に回転させた状態（以下「左向き状態」と称す）が図示され、図１８５（ａ）及び図１８５（ｂ）では、駆動手段Ｈ７８０がベース手段Ｈ７７０に対して、軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂを軸に反時計回り方向（正面側を右方向）に回転させた状態（以下「右向き状態」と称す）が図示される。また、以下の説明では、左向き状態と右向き状態との間の中間位置に駆動手段Ｈ７８０が配置される状態（図１７８に示す状態）を「中間配置状態」と称して説

明する。また、図１８４（ｂ）及び図１８５（ｂ）では、錘部材Ｈ７８２の変位により作用する遠心力の方向が矢印Ｈ７８２ｂの符号を付して図示される。

【２２０１】

また、錘部材Ｈ７８２を駆動する駆動モータＨ７８１（その他装置Ｈ２２８（図１２８参照））は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３の入出力ポートＨ２２５に接続され、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて駆動される。

【２２０２】

図１８４に示すように、駆動手段Ｈ７８０の駆動モータＨ７８１が回転されて、錘部材Ｈ７８２が駆動軸Ｈ７８１ａに対して右側に位置する際には、その錘部材Ｈ７８２の遠心力が右方向に作用される（図１８４（ｂ）の矢印Ｈ７８２ｂ参照）。これにより、駆動手段Ｈ７８０の背面側が右方向に引っ張られ、駆動手段Ｈ７８０がベース手段Ｈ７７０に対して、軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂを軸に反時計回り方向（正面側を右方向）に回転される。

【２２０３】

一方、図１８５に示すように、駆動手段Ｈ７８０の駆動モータＨ７８１が回転されて、錘部材Ｈ７８２が駆動軸Ｈ７８１ａに対して左側に位置する際には、その錘部材Ｈ７８２の遠心力が左方向に作用される（図１８５（ｂ）の矢印Ｈ７８２ｂ参照）。これにより、駆動手段Ｈ７８０の背面側が左方向に引っ張られ、駆動手段Ｈ７８０がベース手段Ｈ７７０に対して、軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂを軸に時計回り方向（正面側を左方向）に回転される。

【２２０４】

この場合、上記したように駆動手段Ｈ７８０には、変位部材Ｈ７９０が配設されるので、ベース手段Ｈ７７０に対して駆動手段Ｈ７８０を変位させた場合には、ベース手段Ｈ７７０に対して変位部材Ｈ７９０を変位させることができる。よって、ベース手段Ｈ７７０の第１拡散部材Ｈ７７４及び基板部材Ｈ７７３に対する変位部材Ｈ７９０の姿勢を変化させることができるので、変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を介して遊技者側に出射される光の態様を変更することができる。その結果、光の態様の変化による演出効果を向上することができる。

【２２０５】

即ち、発光手段の正面に透過手段を配設し、発光手段から発光された光を透過手段に入射させ、透過手段を透過する光を遊技者に視認させることで、演出効果を得るものがある。この場合、発光手段の発光の態様（例えば、発光強度や点滅の間隔など）を変化させ、視認される光の態様を変化させるものもあるが、演出効果が十分ではない。また、発光手段と透過手段とを一体化（ユニット化）して、それら発光手段および透過手段から構成されるユニットを変位させることで、ユニットの変位に伴う光の移動を視認させるものもあるが、発光手段と透過手段との関係は一定であるため、透過手段を介して視認される光の態様（発光手段から透過手段に入射され、透過手段を透過する光の態様）自体は一様であり、演出効果が十分ではない。

【２２０６】

これに対し、第８実施形態における操作ユニットＨ１８０では、発光手段Ｈ７７３ｂを有する基板部材Ｈ７７３の正面側に配設され光を拡散可能な凹凸部Ｈ７９１ａを有する変位部材Ｈ７９０が、発光手段Ｈ７７３ｂの光の出射方向と交差する方向に発光手段Ｈ７７３ｂに対して変位することができるので、変位部材Ｈ７９０に対する光の入射位置を変更することができる。これにより、変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を介して視認される光の演出を変位部材Ｈ７９０の変位により変更できる。その結果、発光手段Ｈ７７３ｂによる光の演出を向上できる。

【２２０７】

即ち、発光手段Ｈ７７３ｂに対して光を透過可能な変位部材Ｈ７９０が相対変位可能に配設されるので、発光手段Ｈ７７３ｂから変位部材Ｈ７９０への光の入射態様（入射角度

）及び、変位部材Ｈ７９０を透過する光の態様（遊技者が視認する光の態様）を変化させることができる。その結果、変位部材Ｈ７９０を介して視認される光の態様を変化させ、演出効果を高めることができる。

【２２０８】

さらに、第８実施形態における操作ユニットＨ１８０では、発光手段Ｈ７７３ｂを有する基板部材Ｈ７７３が下枠部材Ｈ７２０に固定され、変位部材Ｈ７９０が基板部材Ｈ７７３及び下枠部材Ｈ７２０に対して変位可能とされるので、変位部材Ｈ７９０を介して視認される光の態様を変化させる演出に加え、発光手段Ｈ７７３ｂの発光状態（発光、非発光）に関わらず、変位部材Ｈ７９０を変位させて変位部材Ｈ７９０の変位を視認させる演出も行うことができる。

【２２０９】

また、発光手段Ｈ７７３ｂを有する基板部材Ｈ７７３が下枠部材Ｈ７２０に固定され、変位部材Ｈ７９０が基板部材Ｈ７７３及び下枠部材Ｈ７２０に対して変位可能とされるので、変位部材Ｈ７９０を介して視認される光の態様を変更する際に、基板部材Ｈ７７３が振動することを抑制できる。その結果、発光手段Ｈ７７３ｂ（基板部材Ｈ７７３）の破損を抑制できる。

【２２１０】

さらに、上記したように、変位部材Ｈ７９０は、凹凸部Ｈ７９１ａを備え、変位部材Ｈ７９０に入射する光を拡散可能とされるので、凹凸部Ｈ７９１ａが形成されていない場合に比べて、発光手段Ｈ７７３ｂ（基板部材Ｈ７７３）に対する変位部材Ｈ７９０の変位による光の態様の変化を大きくできる。その結果、変位部材Ｈ７９０を介して視認される光の態様を変化させ、演出効果を向上できる。

【２２１１】

なお、第８実施形態における変位部材Ｈ７９０は、凹凸部Ｈ７９１ａを有する場合について説明したが、変位の前後で発光手段Ｈ７７３ｂから出射される光の入射角を変更できるものであれば、変位部材Ｈ７９０が凹凸部Ｈ７９１ａを備えず平坦面に形成されるものであっても良い。

【２２１２】

また、第８実施形態における操作ユニットＨ１８０では、駆動手段Ｈ７８０がベース手段Ｈ７７０に対して軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂを軸に変位可能に構成されるので、駆動手段Ｈ７８０に伴って変位する変位部材Ｈ７９０も同様に回転変位される。従って、変位部材Ｈ７９０が基板部材Ｈ７７３に対して左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位される際に、変位部材Ｈ７９０は前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）にも変位される。これにより、発光手段Ｈ７７３ｂから出射される光が変位部材Ｈ７９０に入射するまでの距離を変更することができるので、変位部材Ｈ７９０の変位に伴って、変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を介して遊技者側に出射される光の態様を変更しやすくできる。その結果、発光手段による光の演出を向上できる。

【２２１３】

なお、第８実施形態における揺動装置Ｈ７３０では、錘部材Ｈ７８２を駆動モータＨ７８１により回転させることで、錘部材Ｈ７８２の遠心力が作用する向きを変更してベース手段Ｈ７７０に対して駆動手段Ｈ７８０の位置を左向き状態および右向き状態の間で変更することができると共に、駆動手段Ｈ７８０に配設される変位部材Ｈ７９０をベース手段Ｈ７７０に対して変位することができる。よって、駆動モータＨ７８１の駆動を継続させることで、ベース手段Ｈ７７０に対して駆動手段Ｈ７８０の位置を左向き状態および右向き状態に繰り返し変位させることができる。

【２２１４】

即ち、揺動装置Ｈ７３０に連結される（揺動装置Ｈ７３０と一緒に変位される）変位部材Ｈ７９０は、駆動モータＨ７８１が配設され、駆動モータＨ７８１の駆動力により変位される。従って、駆動モータＨ７８１の駆動力を利用して、発光手段Ｈ７７３ｂ（基板部材Ｈ７７３）に対して変位部材Ｈ７９０を変位させることができるので、任意のタイミン

グ（駆動モータＨ７８１を駆動するタイミング）で発光手段Ｈ７７３ｂ（基板部材Ｈ７７３）に対して変位部材Ｈ７９０を変位させることができる。

【２２１５】

また、揺動装置Ｈ７３０に駆動モータＨ７８１が配設されるので、駆動モータＨ７８１が下枠部材Ｈ７２０に固定される基板部材Ｈ７７３に配設される場合に比べて、変位部材Ｈ７９０に駆動力を伝達するまでの介在部品を少なくできる。従って、駆動モータＨ７８１の駆動力を揺動装置Ｈ７３０（変位部材Ｈ７９０）に使えやすくできる。

【２２１６】

また、第８実施形態における揺動装置Ｈ７３０は、上述したように、揺動装置Ｈ７３０はパチンコ機Ｈ１０に対して変位部材Ｈ７９０を正面側上方に傾けた状態で下枠部材Ｈ７２０に配置される（図１６５参照）ので、ベース手段Ｈ７７０に対して駆動手段Ｈ７８０を中間配置状態となる位置に変位させる場合には、錘部材Ｈ７８２を駆動軸Ｈ７８１ａに対して下方側に配置することで、錘部材Ｈ７８２の重力によりベース手段Ｈ７７０に対して駆動手段Ｈ７８０を中間配置状態とされる位置まで回転させることができる。即ち、駆動手段Ｈ７８０の錘部材Ｈ７８２の停止位置を変更する（錘部材Ｈ７８２を所定位置に停止させる）ことで、ベース手段Ｈ７７０に対する駆動手段Ｈ７８０の停止位置を変更することができる。

【２２１７】

さらに、第８実施形態における操作ユニットＨ１８０では、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１が押圧操作された際に、傾倒装置Ｈ７１０の正面側透過部Ｈ７１１の下端が弾性体Ｈ７８５を介して駆動手段Ｈ７８０に当接され、その当接により駆動手段Ｈ７８０をベース手段Ｈ７７０に対して中間配置状態の位置に変位させることができる。

【２２１８】

また、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１が押圧操作された場合には、変位部材Ｈ７９０が駆動手段Ｈ７８０と共に所定位置（駆動手段Ｈ７８０が中間位置状態とされる位置）に変位される。従って、遊技者のボタン部Ｈ１８１の押圧操作に連動して、変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を介して視認される光の演出態様を変更することができる。

【２２１９】

即ち、第８実施形態における操作ユニットＨ１８０では、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１を押圧操作した際に、駆動手段Ｈ７８０及び変位部材Ｈ７９０を変位させることができ、変位部材Ｈ７９０の少なくとも一部を第１拡散部材Ｈ７７４（基板部材Ｈ７７３）に対して近づける方向（第１拡散部材Ｈ７７４の正面側）に変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を変位させることができる。従って、第１拡散部材Ｈ７７４（基板部材Ｈ７７３）に透過部Ｈ７９１が近づくので、透過部Ｈ７９１を介して基板部材Ｈ７７３から出射される光を拡散しやすくできる。その結果、ボタン部Ｈ１８１が操作されたことを光により遊技者に認識させやすくでき、遊技者の興趣を向上できる。

【２２２０】

なお、遊技者がボタン部Ｈ１８１の押圧操作に際に、変位部材Ｈ７９０の少なくとも一部が第１拡散部材Ｈ７７４（基板部材Ｈ７７３）に対して離れる方向（第１拡散部材Ｈ７７４の正面側から退避する方向）に変位するように構成しても良い。これによれば、透過部Ｈ７９１を第１拡散部材Ｈ７７４の正面側から退避させることができるので、上記した第１拡散部材Ｈ７７４の正面側に透過部Ｈ７９１が変位される場合に比べて、透過部Ｈ７９１による基板部材Ｈ７７３の光の拡散を抑えることができる。その結果、基板部材Ｈ７７３から出射される光を遊技者の手（ボタン部Ｈ１８１）に照射しやすくでき、遊技者の手に光を当てることでボタン部Ｈ１８１を押圧操作する際の興趣を向上できる。

【２２２１】

また、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）に当接可能に変位される傾倒装置Ｈ７１０を備え、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）に当接された傾倒装置Ｈ７１０の変位に伴って駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）が変位可能とされるので、発光手段Ｈ７７３ｂ（基板部材Ｈ７７３）に対する駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）の変位を傾

倒装置Ｈ７１０の変位に連動させることができる。これにより、発光手段Ｈ７７３ｂ（基板部材Ｈ７７３）に対する駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）の変位による演出効果を高めることができる。

【２２２２】

なお、傾倒装置Ｈ７１０は、遊技者により操作される操作ユニットＨ１８０を備え、その操作ユニットＨ１８０）操作により、傾倒装置Ｈ７１０の変位に伴って駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）を変位させることができるので、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）の変位を所望のタイミングで変位させることができる。これにより、変位部材Ｈ７９０を介して視認される光の態様と遊技者のボタン部Ｈ１８１の操作とを関連付けて、演出効果を高めることができる。

【２２２３】

例えば、遊技者のボタン部Ｈ１８１の押圧操作に連動して、変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を介して視認される光の演出態様を変更することができるので、光の演出態様の変更によりボタン部Ｈ１８１を所定位置まで押下したことを遊技者に認識させることができる。これにより、遊技者がボタン部Ｈ１８１を何度も押圧操作したり、遊技者がボタン部Ｈ１８１を必要以上に押圧操作し続けることを抑制できる。その結果、遊技者の間違った認識の操作によりボタン部Ｈ１８１が破損することを抑制できる。

【２２２４】

また、第８実施形態では、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）が駆動モータＨ７８１の駆動力により変位可能とされるので、駆動モータＨ７８１の駆動力により駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）が変位される態様に加え、傾倒装置Ｈ７１０の当接により駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）が変位（連動）される態様とを形成できる。これにより、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）の変位の態様のバリエーションを増やすことができる。

【２２２５】

なお、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１の押圧操作がされて傾倒装置Ｈ７１０が駆動手段Ｈ７８０に当接された場合には（当接状態では）、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）の変位が規制される。即ち、傾倒装置Ｈ７１０を駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）に当接させることで、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）の変位を規制することができるので、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）の変位を所望のタイミングで停止させることができる。

【２２２６】

また、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１は、遊技者により操作されるので、ボタン部Ｈ１８１の操作によって、傾倒装置Ｈ７１０の変位に伴う駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）の変位を構成できる。よって、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）の変位の規制を遊技者の所望のタイミングで行わせることができる。これにより、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０）を介して視認される光の態様の変化と、ボタン部Ｈ１８１の操作とを関連付けて、演出効果を高めることができる。

【２２２７】

なお、第８実施形態における操作ユニットＨ１８０では、左向き状態や右向き状態とされる際に遊技者にボタン部Ｈ１８１を押下させて駆動手段Ｈ７８０を中間配置状態とする位置に変位させる態様や、遊技者のボタン部Ｈ１８１の操作前に、駆動手段Ｈ７８０を中間配置状態とする位置に変位させて、ボタン部Ｈ１８１の押下持に駆動手段Ｈ７８０が変位しない態様を形成することができる。

【２２２８】

また、遊技者がボタン部Ｈ１８１を押圧操作し続けた場合には、変位部材Ｈ７９０の変位を規制した状態を維持することができるので、変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を介して視認される光の演出態様が変更しない演出態様を形成することができる。その結果、変位部材Ｈ７９０による光を演出態様（演出態様が変更される形態の他に演出態様が変更されない形態）を増やすことができ遊技者の興趣を向上できる。

【２２２９】
さらに、遊技者がボタン部Ｈ１８１を押圧操作し続けた場合に、駆動手段Ｈ７８０の駆動モータＨ７８１を駆動することで、錘部材Ｈ７８２の回転により駆動手段Ｈ７８０に作用する遠心力を駆動手段Ｈ７８０に当接する傾倒装置Ｈ７１０に作用させることができる。これにより、ボタン部Ｈ１８１を押圧操作する感触を変更することができ、その結果、ボタン部Ｈ１８１を操作する遊技者の興趣を向上できる。
【２２３０】
なお、第８実施形態における変位部材Ｈ７９０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に揺動される場合について説明したが、変位部材Ｈ７９０が上下または前後方向または上下方向に揺動されるように構成しても良い。
【２２３１】
また、第８実施形態では、操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１の操作により変位部材Ｈ７９０を変位させる場合について説明したが、操作ユニットＨ１８０の操作に連動するものではなく、機能調整操作部Ｈ１９０の各ボタンＨ１９１～Ｈ１９５の操作により変位部材Ｈ７９０を変位させるようにしても良い。この場合、各ボタンＨ１９１～Ｈ１９５の操作に合わせて、変位部材Ｈ７９０を変位させて光の態様を変更できるので、遊技者に各ボタンＨ１９１～Ｈ１９５を操作できていることを認識させやすくできる。特に、決定ボタンＨ１９１に連動させるようにした場合には、変位部材Ｈ７９０の変位により光の態様の変化で調整後の設定に変更されたことを認識させやすくできる。
【２２３２】
次いで、図１８６を参照して、駆動手段Ｈ７８０に対する変位部材Ｈ７９０の変位について説明する。図１８６（ａ）及び図１８６（ｂ）は、揺動装置Ｈ７３０の断面図であり、図１７８（ｂ）のＸ２１ａ線における断面に対応する。なお、図１８６（ａ）では、駆動手段Ｈ７８０が左向き状態に変位された状態が図示され、図１８６（ｂ）では、駆動手段Ｈ７８０が右向き状態に変位された状態が図示される。なお、左向き状態に変位された状態と、右向き状態に変位された状態とは、その変位方向が反対向きになるだけであるので、以下の説明では、左向き状態とされる場合についてのみ説明し、右向き状態とされる場合についての説明は省略する。
【２２３３】
図１８６（ａ）に示すように、駆動手段Ｈ７８０が左向き状態に変位される場合には、ベース手段Ｈ７７０に対して軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂを軸に時計回り方向（正面側を左方向）に駆動手段Ｈ７８０が回転された際の慣性力が変位部材Ｈ７９０に伝達され、駆動手段Ｈ７８０に対して左方側（矢印Ｌ方向側）に変位する力が変位部材Ｈ７９０に作用する。
【２２３４】
この場合、正面視における右方側（矢印Ｒ方向側）の上側係合部Ｈ７９２ａが収容凹部Ｈ７８３ｂ１の内壁側に当接されることで、その当接部分を軸に回転され正面視における左方側（矢印Ｌ方向側）の上側係合部Ｈ７９２ａが収容凹部Ｈ７８３ｂ１の背面側に向かって押し込まれる。即ち、変位部材Ｈ７９０は、駆動手段Ｈ７８０に対して正面視における左方側が背面側に押し込まれ、透過部Ｈ７９１を左側に向かうにつれて背面側に傾けた姿勢とされる。
【２２３５】
従って、第８実施形態では、ベース手段Ｈ７７０に対する駆動手段Ｈ７８０の変位と連動して変位部材Ｈ７９０を軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂの軸回りに変位させるだけでなく、駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０を相対変位させることができる。
【２２３６】
ここで、変位部材を変位するためにリンク構造等を変位部材に連結して、そのリンク構造により駆動手段の駆動力を変位部材に伝達して変位部材を変位させる構造では、変位部材の変位が駆動手段の駆動と一致（連動）するため、変位手段の変位の態様を複雑にすることが難しくなり、変位手段の変位による演出効果が低下する可能性があった。また、駆

動手段の駆動力を変更して変位手段の変位態様を複雑にすることもできるが、この場合には駆動手段の制御が複雑になるという問題があった。

【２２３７】

これに対し、第８実施形態における揺動装置Ｈ７３０では、ベース手段Ｈ７７０に対して変位する駆動手段Ｈ７８０と、その駆動手段Ｈ７８０に対して変位可能に配設される変位部材Ｈ７９０を備え、駆動手段Ｈ７８０をベース手段Ｈ７７０に対して変位させた際の慣性力により変位部材Ｈ７９０を駆動手段Ｈ７８０に対して変位可能に構成されるので、駆動手段Ｈ７８０の駆動モータＨ７８１の駆動力を一定とした場合であっても、変位部材Ｈ７９０の変位速度にばらつきを持たせることができる。その結果、駆動モータＨ７８１の制御を複雑化することなく、変位部材Ｈ７９０の変位態様を複雑にして、変位部材Ｈ７９０の変位による演出効果を向上できる。

【２２３８】

また、ベース手段Ｈ７７０に変位可能に配設される駆動手段Ｈ７８０と、その駆動手段Ｈ７８０に変位可能に配設される変位部材Ｈ７９０を備え、駆動手段Ｈ７８０に対して変位された変位部材Ｈ７９０を透過して光を出射することができるので、変位部材Ｈ７９０の変位の態様が一様になることを抑制できると共に、第２手段から出射される光の態様（遊技者が視認する光の態様）の変化を大きくすることができる。

【２２３９】

なお、駆動手段Ｈ７８０に対して相対変位された変位部材Ｈ７９０は、駆動手段Ｈ７８０の収容凹部Ｈ７８３ｂ１と変位部材Ｈ７９０との間に配設される第１コイルバネＨ７９３により駆動手段Ｈ７８０に対して所定位置に変位するように構成される。これにより、駆動手段Ｈ７８０をベース手段Ｈ７７０に対して左向き状態にして変位部材Ｈ７９０の左側を背面側に傾けた後、第１コイルバネＨ７９３によりその傾きを戻すことができる。

【２２４０】

即ち、変位部材Ｈ７９０は、ベース手段Ｈ７７０に対する駆動手段Ｈ７８０が変位した際の所定以上の慣性力が作用した場合に駆動手段Ｈ７８０に対して相対変位可能とされる一方、駆動手段Ｈ７８０から慣性力が作用していない（駆動手段Ｈ７８０が停止した状態の）場合に第１コイルバネＨ７９３により駆動手段Ｈ７８０に対して所定位置に規定可能に構成される。

【２２４１】

これにより、駆動手段Ｈ７８０が変位した際の慣性力が所定以下の場合には、駆動手段Ｈ７８０と変位部材Ｈ７９０とを一体に変位させることができる一方、所定以上の慣性力が駆動手段Ｈ７８０から作用する場合には駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０を相対変位させることができる。よって、変位部材Ｈ７９０を態様な態様で変位させることができる。

【２２４２】

また、駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０を所定位置に付勢する第１コイルバネＨ７９３は、弾性変形に伴って付勢力が大きくされるバネ部材で構成されるので、駆動手段Ｈ７８０をベース手段Ｈ７７０に対して回転させた際に生じる外力の強度（ベース手段Ｈ７７０に対して駆動手段Ｈ７８０が回転した際に変位部材Ｈ７９０に作用する慣性力の強さ）によって、駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０を変位させる態様と変位させない態様と切り替えることができる（即ち、錘部材Ｈ７８２の回転速度を変更して駆動手段Ｈ７８０のベース手段Ｈ７７０に対する回転速度を変更することで、駆動手段Ｈ７８０に対する変位部材Ｈ７９０の変位量を変更することができる）。これにより、変位部材Ｈ７９０を多用な態様で変位させることができる。その結果、演出効果を高めることができる。

【２２４３】

なお、駆動手段Ｈ７８０に対する変位部材Ｈ７９０の姿勢を戻すための復帰手段としては、第１コイルバネＨ７９３の付勢力だけでなく、ゴムの弾性力、磁石の磁力、重力によるものであっても良い。しかしながら、磁力により駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ

７９０の位置を規定する場合には、磁力線が直線でないため駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０を規定位置に変位させる方向が定まりにくく、又、重力により駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０の位置を規定する場合には、力が重力方向に作用するので駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０の位置を規制することが難しい。従って、第８実施形態のように、弾性変形するバネやゴムにより、駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０の位置を規定することが好ましい。

【２２４４】

また、上記したように、揺動装置Ｈ７３０は、基板部材Ｈ７７３に対して変位することで、変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を介して視認される光の演出を変更して、発光手段Ｈ７７３ｂによる光の演出効果を向上できる。この場合、第８実施形態における揺動装置Ｈ７３０では、ベース手段Ｈ７７０に対する駆動手段Ｈ７８０の変位と連動して変位部材Ｈ７９０を軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂの軸回りに変位させるだけでなく、駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０を相対変位させることができるので、単に変位部材Ｈ７９０が回転変位する場合に比べて、基板部材Ｈ７７３に対する変位部材Ｈ７９０の変位態様を変更しやすくできる。従って、変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を介して視認される光の演出を変更しやすくできる。その結果、発光手段Ｈ７７３ｂによる光の演出効果を向上できる。

【２２４５】

即ち、駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０が相対変位可能な方向は、駆動手段Ｈ７８０の変位に伴って回転変位される方向と異なる前後方向（駆動手段Ｈ７８０に対して前後方向）に設定される。これにより、変位部材Ｈ７９０を多方向に変位させることができるので、変位部材Ｈ７９０による光の演出態様を変更しやすくできる。その結果、発光手段Ｈ７７３ｂによる光の演出効果を向上できる。

【２２４６】

また、第８実施形態における揺動装置Ｈ７３０では、駆動手段Ｈ７８０が回転変位された際の慣性力で変位部材Ｈ７９０を駆動手段Ｈ７８０に対して相対変位させるので、変位部材Ｈ７９０を変位させるための別の駆動手段を配設することなく、変位部材Ｈ７９０の変位態様を複雑にすることができる。その結果、製造コストを削減できる。

【２２４７】

次いで、図１８７から図１９５を参照して、球発射ユニットＨ１１２ａについて説明する。初めに、図１８７及び図１８８を参照して、球発射ユニットＨ１１２ａが配設される内枠Ｈ１２について説明する。図１８７は、内枠Ｈ１２の正面図であり、図１８８は、内枠Ｈ１２の分解正面斜視図である。なお、図１８７では、発射位置送球ユニットＨ１７０から球発射ユニットＨ１１２ａに遊技球を送球するための背面側開口Ｈ１７２が２点鎖線で図示される。

【２２４８】

図１８７及び図１８８に示すように、内枠Ｈ１２の外形を形成する枠形成ユニットＨ１２ａは、上方側（矢印Ｕ方向側）及び左右外側（矢印Ｌ－Ｒ方向側）の三方を囲うコ字形状に金属製の材料から構成される上側ベースユニットＨ１２ｂと、そのコ字形状に構成される上側ベースユニットＨ１２ｂの下方側（矢印Ｄ方向側）の開放部分に配設され上側ベースユニットＨ１２ｂと共に枠状を形成する下側ベースユニットＨ１２ｃと、下側ベースユニットＨ１２ｃの正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される球発射ユニットＨ１１２ａと、下側ベースユニットＨ１２ｃの背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される鉤ユニットＨ１２ｄと、を主に備える。

【２２４９】

球発射ユニットＨ１１２ａは、下側ベースユニットＨ１２ｃの正面側（矢印Ｆ方向側）に凹設される収容凹部Ｈ１２ｃ１に球発射ユニットＨ１１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される駆動モータＨ８５０を収容した状態で下側ベースユニットＨ１２ｃの正面側に配設されると共に、正面側に配設される発射レールＨ１１２ａ１が枠形成ユニットＨ１２ａ（図１２５参照）に配設される遊技盤Ｈ１３（図１２４参照）の遊技領域と前後方向

（矢印Ｆ－Ｂ方向）に一致する位置に配置され、発射レールＨ１１２ａ１から発射される遊技球を遊技盤Ｈ１３の遊技領域に発射することができる。

【２２５０】

なお、球発射ユニットＨ１１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）には、外枠Ｈ１１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０が配設され、発射位置送球ユニットＨ１７０を介して上皿Ｈ１７から球発射ユニットＨ１１２ａに１球ずつ遊技球を送球可能とされる。

【２２５１】

次いで、図１８９から図１９１を参照して、発射位置送球ユニットＨ１７０及び球発射ユニットＨ１１２ａについて説明する。図１８９は、球発射ユニットＨ１１２ａの分解正面斜視図であり、図１９０は、発射位置送球ユニットＨ１７０の分解斜視図であり、図１９１（ａ）は、図１８７のＸ２４ａ線における球発射ユニットＨ１１２ａ及び発射位置送球ユニットＨ１７０の断面図であり、図１９１（ｂ）は、図１８７のＸ２４ｂ線における球発射ユニットＨ１１２ａ及び発射位置送球ユニットＨ１７０の断面図である。なお、図１９０では、正面側ケースＨ８６０及び送球手段Ｈ８８０が正面斜視図で図示されると共に、背面側ケースＨ８７０が背面斜視図で図示される。

【２２５２】

図１８９に示すように、球発射ユニットＨ１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ８１０と、そのベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射（打ち出し）可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手段Ｈ８２０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０と、を主に備える。

【２２５３】

なお、駆動モータＨ８５０には、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサＨ５１ａの検出、及び、操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化を検出する可変抵抗器の抵抗の検出があった場合に、それらが接続される入出力ポートＨ２０５を介して駆動モータＨ８５０を駆動する制御信号が駆動モータＨ８５０に送信される。これにより、所定の駆動力（操作ハンドルＨ５１の回動操作量に応じた駆動力）で駆動モータＨ８５０が駆動される。

【２２５４】

ベース部材Ｈ８１０は、下側ベースユニットＨ１２ｃの収容凹部Ｈ１２ｃ１と対応する大きさの板状に形成され、収容凹部Ｈ１２ｃ１を覆設する状態で下側ベースユニットＨ１２ｃに配設される。また、ベース部材Ｈ８１０は、正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって膨出され案内手段Ｈ８２０及び当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を配設する基部となる第１膨出部Ｈ８１１と、正面側に向かって膨出して形成され当接手段Ｈ８４０の第２弾性部材Ｈ８４２を配設する基部となる第２膨出部Ｈ８１２と、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に穿設され駆動モータＨ８５０の軸部Ｈ８５２が挿通される貫通孔Ｈ８１３と、を主に備える。

【２２５５】

発射手段Ｈ８３０は、金属材料から矩形状の板状に形成されると共に一端側に駆動モータＨ８５０の軸部Ｈ８５２が挿入される挿入部Ｈ１１２ａ３を有する回転体Ｈ１１２ａ２と、弾性材料から形成され回転体Ｈ１１２ａ２の他端側の周囲を取り囲む状態で配設される発射部Ｈ８３１と、回転体Ｈ１１２ａ２と駆動モータＨ８５０の軸部Ｈ８５２とを締結固定するための締結部材Ｈ８３２と、を主に備える。

【２２５６】

回転体Ｈ１１２ａ２は、ベース部材Ｈ８１０の貫通孔Ｈ８１３を正面側（矢印Ｆ方向側）に挿通された駆動モータＨ８５０の軸部Ｈ８５２が挿入部Ｈ１１２ａ３に挿入されると

共に締結部材Ｈ８３２により軸部Ｈ８５２と締結され、駆動モータＨ８５０の駆動力により軸部Ｈ８５２を軸に回転可能とされる。これにより、発射手段Ｈ８３０は、退避位置（図１９２（ａ）参照）と発射位置（図１９２（ｃ）参照との間で回転可能とされる。

【２２５７】

発射部Ｈ８３１は、駆動モータＨ８５０により回転される回転体Ｈ１１２ａ２が回転された際に後述する球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１上に送球される遊技球に当接する部分であり、正面視における反時計回り側の側面に発射レールＨ１１２ａ１上の球に当接する当接面Ｈ８３１ａを備え、弾性変形可能な弾性材料が形成される。

【２２５８】

当接面Ｈ８３１ａは、発射手段Ｈ８３０が発射位置から退避位置側に若干退避した初期位置（図１９２（ｂ）参照）で発射レールＨ１１２ａ１上の遊技球に当接可能に構成されており、初期位置を超えて発射位置まで発射手段Ｈ８３０が回転されることで当接面Ｈ８３１ａに当接する遊技球を発射することが可能とされる。

【２２５９】

なお、発射部Ｈ８３１が弾性変形可能な樹脂材料から形成され、当接面Ｈ８３１ａに遊技球を当接した際に発射部Ｈ８３１を変形させることができるので、遊技球に当接した衝撃が発射手段Ｈ８３０側に伝わることを抑制できると共に、発射部Ｈ８３１を遊技球に当接させた際の当接音を小さくすることができる。

【２２６０】

案内手段Ｈ８２０は、樹脂材料から形成されベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第１案内部材Ｈ８２１と、金属材料から形成され第１案内部材Ｈ８２１の正面側に配設される第２案内部材Ｈ８２２とを主に備え、第１案内部材Ｈ８２１と第１膨出部Ｈ８１１との間に当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を挟んだ状態でベース部材Ｈ８１０に配設される。

【２２６１】

第１案内部材Ｈ８２１は、ベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に沿って形成される背面部Ｈ８２１ａと、その背面部Ｈ８２１ａから正面側に向かって立設され遊技球の転動面となる転動部Ｈ８２１ｂと、その転動部Ｈ８２１ｂに連なって形成され第２案内部材Ｈ８２２が正面側に配設される配設部Ｈ８２１ｃと、その配設部Ｈ８２１ｃよりも上方側（矢印Ｕ方向側）から背面部Ｈ８２１ａの正面側に向かって立設され発射位置送球ユニットＨ１７０から第２案内部材Ｈ８２２（発射レールＨ１１２ａ１）に送球される遊技球をガイドする上方側ガイド部Ｈ８２１ｄとを主に備える。

【２２６２】

背面部Ｈ８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の背面側（矢印Ｂ方向側）の送球面となる部分であり、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの球の転動方向に沿って背面側に凹設される凹部Ｈ８２１ａ１を備える。

【２２６３】

凹部Ｈ８２１ａ１は、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の送球が不安定となる（遊技球が前後方向に暴れる）際に、遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１の内側に受け入れることで、遊技球の送球を安定させるためのガイド部であり、遊技球の一部を受け入れ可能な大きさに形成される。また、凹部Ｈ８２１ａ１は、遊技球の半径よりも大きい半径の湾曲形状に凹設される。なお、凹部Ｈ８２１ａ１による遊技球の案内についての詳しい説明は後述する。

【２２６４】

第２案内部材Ｈ８２２は、発射位置送球ユニットＨ１７０から送球される遊技球を初期位置の発射手段Ｈ８３０と当接する位置に案内すると共に、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が転動される発射レールＨ１１２ａ１を上面に有する。

【２２６５】

発射レールＨ１１２ａ１は、前後方向における略中央部が下方側（矢印Ｄ方向側）に断面三角形状に凹んで形成されており、その凹部に沿って遊技球を案内可能とされる。なお

、断面三角形状に凹設される下方側の頂部Ｈ１１２ａ４は、遊技球の発射方向視（図１９１（ａ）参照）において転動部Ｈ８２１ｂと連なる略同一の高さ、もしくは転動部Ｈ８２１ｂよりも若干高い位置に設定される。これにより、球発射方向視において発射レールＨ１１２ａ１を案内される遊技球の方が、転動部Ｈ８２１ｂを案内される遊技球よりも上方を案内され、発射レールＨ１１２ａ１から転動部Ｈ８２１ｂに案内される遊技球が詰まる（転動部Ｈ８２１ｂの端部に当接する）ことを抑制できる。その結果、発射レールＨ１１２ａ１から転動部Ｈ８２１ｂへの遊技球の送球を安定させることができる。

【２２６６】

上方側ガイド部Ｈ８２１ｄは、発射位置送球ユニットＨ１７０から送球される遊技球が上方側（矢印Ｕ方向側）に弾むことを抑制するための部分であり、発射位置送球ユニットＨ１７０の背面側開口Ｈ１７２と正面視において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に隣り合う位置に形成されると共に、第２案内部材Ｈ８２２と上下方向に１球分以上離れた位置に形成される（図１８７参照）。

【２２６７】

当接手段Ｈ８４０は、弾性部材から形成される第１弾性部材Ｈ８４１及び第２弾性部材Ｈ８４２を備え、第１弾性部材Ｈ８４１が初期位置の発射手段Ｈ８３０の回転体Ｈ１１２ａ２と当接可能な位置に配設され、第２弾性部材Ｈ８７２が退避位置の発射手段Ｈ８３０の回転体Ｈ１１２ａ２と当接可能な位置に配設される。これにより、発射手段Ｈ８３０を回転させる際に発射手段Ｈ８３０を発射位置および退避位置で停止させやすくできると共に、停止させた際の衝撃を吸収することが可能とされる。なお、発射手段Ｈ８３０は、初期位置で回転体Ｈ１１２ａ２が第１弾性部材Ｈ８４１に当接された後、第１弾性部材Ｈ８４１を弾性変形させつつ発射位置まで回転されることで遊技球を発射することが可能とされる。

【２２６８】

次いで、図１９０を参照して、発射位置送球ユニットＨ１７０について説明する。図１９０に示すように、発射位置送球ユニットＨ１７０は、正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され正面側開口Ｈ１７１を有する正面側ケースＨ８６０と、その正面側ケースＨ８６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され背面側開口Ｈ１７２を有する背面側ケースＨ８７０と、それら正面側ケースＨ８６０および背面側ケースＨ８７０の間に配設される送球手段Ｈ８８０とを主に備える。

【２２６９】

送球手段Ｈ８８０は、ソレノイドＨ８８１と、そのソレノイドＨ８８１の駆動より第１位置および第２位置との間で変位可能な変位部材Ｈ８８２とを主に備え、第１位置に変位部材Ｈ８８２が変位されることにより上皿Ｈ１７（正面側開口Ｈ１７１）から１球の遊技球を正面側ケースＨ８６０及び背面側ケースＨ８７０の内側に流入させて保持し、第２位置に変位部材Ｈ８８２が変位されることにより正面側ケースＨ８６０及び背面側ケースＨ８７０の内側に流入させて保持した１球の遊技球を背面側開口Ｈ１７２から排出して発射レールＨ１１２ａ１上に送球可能に構成される。これにより、１球ずつ遊技球を発射レールＨ１１２ａ１上に送球可能とされる。

【２２７０】

なお、変位部材Ｈ８８２は、ソレノイドＨ８８１により変位されるものに限られず、例えば、モータ等の駆動手段により変位させても良い。また、変位部材Ｈ８８２は、駆動手段等の駆動源を備えず、球発射ユニットＨ１１２ａにより発射される球の送球により一方向（第１位置）に変位され、自重により他方向（第２位置）に変位されるものであっても良い。

【２２７１】

また、遊技球を送球するソレノイドＨ８８１（その他装置Ｈ２２８（図１２８参照））は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３の入出力ポートＨ２２５に接続され、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて駆動される。これにより、１球ずつ遊技球を発射レールＨ１１２ａ１上に送球可能とさ

れる。
【２２７２】
次いで、図１９１を参照して、発射位置送球ユニットＨ１７０及び球発射ユニットＨ１１２ａの配置について説明する。図１９１に示すように、発射位置送球ユニットＨ１７０及び球発射ユニットＨ１１２ａは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に隣り合う位置に配置されると共に、発射位置送球ユニットＨ１７０の背面側開口Ｈ１７２が、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１よりも若干上方に配置される。これにより、発射位置送球ユニットＨ１７０から発射レールＨ１１２ａ１に送球される遊技球が発射レールＨ１１２ａ１に当接して（遮られて）詰まることなく、発射レールＨ１１２ａ１上に送球される。
【２２７３】
また、発射位置送球ユニットＨ１７０の背面側開口Ｈ１７２は、球発射ユニットＨ１１２ａの凹部Ｈ８２１ａ１と少なくとも一部が前後方向に重なる位置に形成される。これにより、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球される遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１に受け入れることができると共に、凹部Ｈ８２１ａ１の湾曲面に沿って流下させることができる。
【２２７４】
ここで、球発射ユニットＨ１１２ａの背面部Ｈ８２１ａが平面状に形成される（背面部Ｈ８２１ａに凹部Ｈ８２１ａ１が形成されていない）場合には、発射位置送球ユニットＨ１７０の背面側開口Ｈ１７２から遊技球が送球され背面部Ｈ８２１ａに当接すると、その当接した反力が正面側に向かって作用する。よって、背面部Ｈ８２１ａに当接した遊技球は、正面側に向かって跳ね返り発射位置送球ユニットＨ１７０の背面側に当接し背面側に向かって跳ね返る。即ち、発射位置送球ユニットＨ１７０から送球される遊技球が前後に暴れた状態で発射レールＨ１１２ａ１上（初期位置の発射手段Ｈ８３０と当接される位置）に案内される。
【２２７５】
そのため、発射手段Ｈ８３０により発射される（打ち出される）遊技球が前後に暴れた状態で発射される虞があり、この場合、遊技球は発射レールＨ１１２ａ１に沿って真っ直ぐに送球されず、流路の内面（遊技球が転動する転動面の側方の内面）に衝突することがある。このように、流路の内面に遊技球が衝突すると、内面から受ける反力により遊技球が暴れ、発射手段Ｈ８３０により発射された遊技球の軌跡が安定しないという問題がある。
【２２７６】
これに対し、第８実施形態における球発射ユニットＨ１１２ａは、背面側開口Ｈ１７２の背面側に重なる位置に凹部Ｈ８２１ａ１を備え、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球される遊技球を湾曲状に形成される凹部Ｈ８２１ａ１の内面に当接させることができるので、凹部Ｈ８２１ａ１の内面に当接した遊技球に作用する反力を正面側だけでなく上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に作用させることができる。よって、背面部Ｈ８２１ａに当接した遊技球が正面側に向かって跳ね返ることを抑制できる。従って、初期位置の発射手段Ｈ８３０と当接される位置に送球される遊技球が暴れることを抑制できる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される（打ち出される）遊技球の軌跡を安定させやすくできる。
【２２７７】
また、凹部Ｈ８２１ａ１の下方側（矢印Ｄ方向側）の縁部は、背面側開口Ｈ１７２よりも下方側に配置されており、これにより、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球される遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１に当接させやすくできる。
【２２７８】
なお、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の転動面となる発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）には、背面側（矢印Ｂ方向側）に第１案内部材Ｈ８２１の背面部Ｈ８２１ａが配設され、正面側（矢印Ｆ方向側）に背面側ケー

スＨ８７０が配設される。これにより、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球は、背面部Ｈ８２１ａと背面側ケースＨ８７０と発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂとに囲われた空間（流路）を転動して、遊技盤Ｈ１３に送球される。

【２２７９】

また、凹部Ｈ８２１ａ１は、正面視において背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１上に送球される遊技球（図１９２（ｂ）参照）と重なる背面側から発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂとの連結部分を超える長さに形成される。

【２２８０】

これにより、発射手段Ｈ８３０に打ち出された遊技球がすぐに前後方向に暴れた場合でもその遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１の内側に受け入れることができると共に、発射レールＨ１１２ａ１上を転動する遊技球が転動部Ｈ８２１ｂに送球された衝撃で前後方向に暴れた場合でも球を凹部Ｈ８２１ａ１の内側に受け入れることができる。　即ち、凹部Ｈ８２１ａ１は、遊技球に外力が加わりやすい転動面の切り替わり部分や発射位置の背面側に形成される。これにより、第８実施形態では、発射される遊技球が前後に暴れることを抑制しやすくできる。

【２２８１】

次いで、図１９２を参照して、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射について説明する。図１９２（ａ）は、退避位置における発射手段Ｈ８３０の正面図であり、図１９２（ｂ）は、初期位置における発射手段Ｈ８３０の正面図であり、図１９２（ｃ）は、発射位置における発射手段Ｈ８３０の正面図である。なお、発射手段Ｈ８３０は、駆動モータＨ８５０の駆動力が働いていない状態（即ち、操作ハンドルＨ５１が操作されていない状態）では、初期位置に配置される。

【２２８２】

図１９２に示すように、発射手段Ｈ８３０は、操作ハンドルＨ５１が遊技者に操作されると、駆動モータＨ８５０が駆動され初期位置から退避位置に変位される。この場合、同時に発射位置送球ユニットＨ１７０の背面側開口Ｈ１７２から１球の遊技球が発射レールＨ１１２ａ１上に送球され、初期位置の発射手段Ｈ８３０と当接可能な位置に保持される。

【２２８３】

図１９２（ａ）に示す退避位置に発射手段Ｈ８３０が変位された後は、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた強さで発射手段Ｈ８３０が図１９２（ｃ）に示す発射位置に向けて変位される。この場合、図１９２（ｂ）に示す初期位置で、発射レールＨ１１２ａ１上に保持される遊技球に発射手段Ｈ８３０の当接面Ｈ８３１ａが当接されつつ、発射手段Ｈ８３０が発射位置まで変位されることで、当接面Ｈ８３１ａが当接した遊技球が所定の発射強さで発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂ上を転動して遊技盤Ｈ１３に送球される。

【２２８４】

発射手段Ｈ８３０により遊技盤Ｈ１３へ遊技球を発射した（打ち出した）後は、再度図１９２（ａ）に示す退避位置に発射手段Ｈ８３０を変位した後、図１９２（ｃ）に示す発射位置に発射手段Ｈ８３０を変位させる動作が継続される。これにより、遊技盤Ｈ１３に１球ずつ所定の間隔で遊技球を送球できる。

【２２８５】

次いで、図１９３を参照して、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを送球される遊技球について説明する。図１９３（ａ）及び図１９３（ｂ）は、図１９１（ｂ）のＭＣＭＶＩＩ部における球発射ユニットＨ１１２ａ及び発射位置送球ユニットＨ１７０の部分拡大断面図である。なお、図１９３（ａ）及び図１９３（ｂ）では、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の遷移状態が順に図示される。

【２２８６】

図１９３（ａ）に示すように、発射位置送球ユニットＨ１７０から発射レールＨ１１２ａ１に送球される遊技球は、通常、発射レールＨ１１２ａ１の凹みの頂部Ｈ１１２ａ４に

沿って発射レールＨ１１２ａ１の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における中央部に案内される。

【２２８７】

よって、図１９３（ｂ）に示すように、発射手段Ｈ８３０の当接面Ｈ８３１ａが当接して発射される遊技球は、発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４に沿って転動し第１案内部材Ｈ８２１の転動部Ｈ８２１ｂに案内され、転動部Ｈ８２１ｂの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における中央部を転動して遊技盤Ｈ１３まで送球される。

【２２８８】

次いで、図１９４及び図１９５を参照して、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを送球される遊技球が前後方向に暴れる場合について説明する。図１９４（ａ）及び図１９４（ｂ）は、図１９１（ｂ）のＭＣＭＶＩＩ部における球発射ユニットＨ１１２ａ及び発射位置送球ユニットＨ１７０の部分拡大断面図であり、図１９５は、図１９１（ａ）のＭＣＭＩＸ部における球発射ユニットＨ１１２ａ及び発射位置送球ユニットＨ１７０の部分拡大断面図である。なお、図１９４（ａ）及び図１９４（ｂ）では、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の遷移状態が順に図示される。また、図１９５では、図１９４（ｂ）に対応する位置に送球された遊技球が図示される。

【２２８９】

図１９４（ａ）に示すように、発射位置送球ユニットＨ１７０から発射レールＨ１１２ａ１に送球される遊技球が発射レールＨ１１２ａ１の凹みの頂部Ｈ１１２ａ４に対して前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に偏る位置に配置された（前後に暴れた）状態で、発射手段Ｈ８３０の当接面Ｈ８３１ａが遊技球に当接される場合には、遊技球に対して前後に偏る位置に当接面Ｈ８３１ａが当接される（例えば、発射位置送球ユニットＨ１７０から送球される遊技球が発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４に向かう傾斜面に沿って発射レールＨ１１２ａ１の前後方向における中央部に案内される前に、発射手段Ｈ８３０の当接面Ｈ８３１ａが遊技球に当接される場合には、遊技球に対して正面側に偏る位置に当接面Ｈ８３１ａが当接される）。

【２２９０】

これにより、発射レールＨ１１２ａ１に対して前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に向かう方向の力成分が遊技球に付与された状態で発射手段Ｈ８３０から遊技球が発射され（打ち出され）、案内手段Ｈ８２０を転動して遊技盤Ｈ１３に送球される遊技球が前後に暴れる恐れがあった。この場合、上述したように遊技球は発射レールＨ１１２ａ１に沿って真っ直ぐに送球されず、流路の内面（遊技球が転動する転動面の側方の内面）に衝突することがある。このように、流路の内面に遊技球が衝突すると、内面から受ける反力により遊技球が暴れ、発射手段Ｈ８３０により発射された遊技球の軌跡が安定しないという問題がある。

【２２９１】

これに対し、第８実施形態における案内手段Ｈ８２０は、遊技球の発射経路における背面側（矢印Ｂ方向側）の壁部を形成する背面部Ｈ８２１ａに凹部Ｈ８２１ａ１が形成され、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に遊技球が暴れる場合には、図１９４及び図１９５に示すように、遊技球の一部を凹部Ｈ８２１ａ１に受け入れて、凹部Ｈ８２１ａ１の内面に遊技球を当接させることができる。

【２２９２】

ここで、凹部Ｈ８２１ａ１は、上記したように遊技球の半径よりも大きい半径の湾曲形状に形成されるので、凹部Ｈ８２１ａ１の内面に当接する遊技球に作用する反力に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に向かう方向成分を付与することができる。即ち、凹部Ｈ８２１ａ１の内面に当接した反力を正面側（矢印Ｆ方向側）に跳ね返る成分と、上方側または下方側に変位させる成分とに分散することができる。よって、正面側（矢印Ｆ方向側）に跳ね返る方向成分の反力を弱めることができる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制でき、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【２２９３】
なお、第８実施形態における案内手段Ｈ８２０の凹部Ｈ８２１ａ１は、湾曲状に凹設される背面側の凹設底部が、発射レールＨ１１２ａ１上を転動する遊技球の中心部よりも上方側に配置され、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が背面側に向かって暴れる場合に、その遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１の凹設底部よりも下方側に当接させることができる。即ち、上方側に向かって背面側に湾曲する領域に遊技球を当接させることができる。
【２２９４】
従って、凹部Ｈ８２１ａ１の内面に当接する遊技球に上方に向かう方向の反力を付与することができ、下方側に向かう方向の力成分が付与されて、発射レールＨ１１２ａ１と遊技球との転動部分の抵抗が増加することを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。
【２２９５】
即ち、発射手段Ｈ８３０により発射された遊技球が流路（発射レールＨ１１２ａ１、背面部Ｈ８２１ａ、背面側ケースＨ８７０により囲まれる通路）の内面（背面部Ｈ８２１ａに当接する場合に、遊技球に作用する当接方向（前後方向）の反力を凹部Ｈ８２１ａ１により抑制可能とされるので、内面（背面部Ｈ８２１ａ）から受ける反力により遊技球が暴れることを抑制できる。その結果、遊技球の軌跡を安定させることができる。
【２２９６】
また、凹設して形成される凹部Ｈ８２１ａ１により遊技球に作用する当接方向（前後方向）の反力を抑制できるので、弾性変形可能な弾性部材に当接させて遊技球に作用する当接方向の反力を抑制する場合に比べて、転動（送球）方向の抵抗が増加することを抑制できる。即ち、凹部Ｈ８２１ａ１に当接させることで遊技球に作用する反力を分散（上下方向の反力を付与）して、当接方向の反力を小さくできるので、転動方向の抵抗が増加することを抑制できる。その結果、遊技球の軌跡を安定させることができる。
【２２９７】
さらに、凹部Ｈ８２１ａ１は、凹設して形成されるので、凸設して形成される場合に比べて、球発射ユニットＨ１１２ａの前後方向の小型化を図ることができると共に、流路の空間を増加させることができるので流路内に遊技球が詰まることを抑制できる。
【２２９８】
案内手段Ｈ８２０の背面部Ｈ８２１ａは、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向側（矢印Ｌ方向側）に向かって（発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４に対して）背面側（矢印Ｂ方向側）に傾斜して正面側（矢印Ｆ方向側）の側面が形成される。即ち、背面部Ｈ８２１ａは、遊技盤Ｈ１３（図１２４参照）の盤面に対して正面側の少なくとも一部が傾斜して形成される。一方、凹部Ｈ２７８２１ａ１は、背面側の凹設底部が発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向に（発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４）に対して平行に形成される。
【２２９９】
即ち、凹部Ｈ８２１ａ１の背面側（矢印Ｂ方向側）への凹設深さが遊技球の発射方向に沿って浅くなるように構成され、発射方向における凹部Ｈ８２１ａ１の端部が背面部Ｈ８２１ａの正面と連なるように形成される。これにより、凹部Ｈ８２１ａ１の発射方向側の端部に段差ができることを抑制でき、凹部Ｈ８２１ａ１の端部で凹部Ｈ８２１ａ１の内面に当接する遊技球が凹部Ｈ８２１ａ１の端部から発射方向に抜け出る際に発射方向と反対方向の抵抗が増大することを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に安定して遊技球を送球することができる。
【２３００】
また、第８実施形態における発射位置送球ユニットＨ１７０は、変位部材Ｈ８８２の背面側開口Ｈ１７２から遊技球を発射レールＨ１１２ａ１に送球する球送球部Ｈ８８２ａ（図１９０参照）が背面側開口Ｈ１７２から背面側（矢印Ｂ方向側）に飛び出た位置に配置されると共に、変位部材Ｈ８８２が第２位置（発射レールＨ１１２ａ１に遊技球を送球する位置）に配置される際に発射レールＨ１１２ａ１上を転動する遊技球の中心部よりも若

干下方に位置される。
【２３０１】
よって、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が正面側（矢印Ｆ方向側）に暴れる場合には、その遊技球を球送球部Ｈ８８２ａの上方側（矢印Ｕ方向側）の端部に当接させることができる。これにより、球送球部Ｈ８８２ａに当接する遊技球に作用する反力に上方に向かう方向成分を付与することができる。即ち、球送球部Ｈ８８２ａに当接した反力を背面側（矢印Ｂ方向側）に跳ね返る成分と、上方に向かう成分とに分散することができる。よって、背面側（矢印Ｂ方向側）に跳ね返る方向成分の反力を弱めることができる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制でき、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。
【２３０２】
また、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が正面側（矢印Ｆ方向側）に暴れる場合に遊技球を球送球部Ｈ８８２ａに当接させることができるので、正面側に暴れる遊技球がそのまま背面側開口Ｈ１７２の内部に流入（即ち、逆流）することを抑制できる。その結果、発射位置送球ユニットＨ１７０から発射レールＨ１１２ａ１への球の送球を安定させることができる。
【２３０３】
さらに、凹部Ｈ８２１ａ１は、発射方向側の終端側に向かうに従って狭く（幅が小さく）形成される。これにより、凹部Ｈ８２１ａ１に遊技球が当接して案内される際に、その遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１に当接した状態を維持しやすくできる。即ち、凹部Ｈ８２１ａ１は、遊技球の発射（送球）方向に向かうに従って幅が小さくなるように構成されるので、遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１の内側に受け入れた状態（凹部Ｈ８２１ａ１により支持した状態）に維持しやすくできる。これにより、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとを遊技球が転動（通過）している間、その遊技球に対して凹部Ｈ８２１ａ１の作用を継続させ、遊技球の暴れを抑えやすくできる。その結果、遊技盤Ｈ１３への遊技球の送球を安定させることができる。
【２３０４】
なお、第８実施形態では、凹部Ｈ８２１ａ１の終端でのみ幅が狭く形成されるが、凹部Ｈ８２１ａ１は、全体に亘って溝幅が発射方向に向かって狭く形成されるものであっても良い。
【２３０５】
また、第８実施形態では、発射方向側の終端側に向かうに従って凹部Ｈ８２１ａ１の幅が狭く（幅が小さく）形成される場合について説明したが、発射方向の終端側に向かうに従って凹部Ｈ８２１ａ１の幅が広く（幅が大きく）形成されても良い。
【２３０６】
この場合には、比較的暴れが大きな遊技球に対して凹部を徐々に作用させることができる。即ち、遊技球と凹部Ｈ８２１ａ１との重なり（当接可能な）面積を徐々に大きくすることができる。これにより、凹部Ｈ８２１ａ１への遊技球の衝突により遊技球の暴れが増幅することを抑制できる。即ち、遊技球が当接方向と異なる方向に暴れる（例えば、上側に弾んだり）することを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３への遊技球の送球を安定させることができる。
【２３０７】
次いで、図１９６から図１９８を参照して、動作ユニットＧ２００について説明する。図１９６は、遊技盤Ｈ１３の正面図であり、図１９７は、遊技盤Ｈ１３の分解正面斜視図であり、図１９８は、動作ユニットＧ２００の分解正面斜視図である。
【２３０８】
図１９６から図１９８に示すように、動作ユニットＧ２００は、箱状に形成される背面ケースＧ３００を備え、その背面ケースＧ３００の内部空間には、上方に演出動作ユニットＧ１０００が、下方に発光装飾ユニットＧ５００が、それぞれ配設される。

【２３０９】
背面ケースＧ３００は、正面視略矩形の底壁部Ｇ３０１と、その底壁部Ｇ３０１の４辺の外縁から正面へ向けて立設される外壁部Ｇ３０２とを備え、それら各壁部Ｇ３０１，Ｇ３０２により一面側（正面側）が開放された箱状に形成される。底壁部Ｇ３０１には、その中央に正面視矩形の開口Ｇ３０１ａが開口形成され、その開口Ｇ３０１ａを通じて、底壁部Ｇ３０１の背面に配設される第３図柄表示装置Ｈ８１が視認可能とされる。
【２３１０】
演出動作ユニットＧ１０００は、背面ケースＧ３００の底壁部Ｇ３０１に配設される門型のベースユニットＧ６００（ベース部材Ｇ６１０）と、そのベースユニットＧ６００（ベース部材Ｇ６１０）に変位可能に配設される花弁動作装置Ｇ８００とを備え、その花弁動作装置Ｇ８００をベースユニットＧ６００（ベース部材Ｇ６１０）の前方（背面ケースＨ３００の上方（矢印Ｕ方向））に退避させる退避位置と、背面ケースＧ３００の開口Ｇ３０１ａ（即ち、第３図柄表示装置Ｈ８１）の正面側に張り出す張出位置との間で変位させることができる（図２０４参照）。即ち、演出動作ユニットＧ１０００は、変位可能に構成される花弁動作装置Ｇ８００を備える。
【２３１１】
また、図１９６では、花弁動作装置Ｇ８００が退避位置に配置された状態が図示されており、図１９６に示すように、花弁動作装置Ｇ８００が退避位置に配置された状態では、センターフレームＨ８６の上枠部から花弁動作装置Ｇ８００が視認可能とされる。また、花弁動作装置Ｇ８００の退避位置と張出位置との間の変位に連動して後述する円環形成ユニットＧ７００が変位するように形成されており、以下の説明では、花弁動作装置Ｇ８００が退避位置に配置された状態の円環形成ユニットＧ７００及び進退動作ユニットＧ９００の位置を円環形成ユニットＧ７００及び進退動作ユニットＧ９００の退避位置、花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に配置された状態の円環形成ユニットＧ７００及び進退動作ユニットＧ９００の位置を円環形成ユニットＧ７００及び進退動作ユニットＧ９００の張出位置として説明する。
【２３１２】
なお、円環形成ユニットＧ７００及び花弁動作装置Ｇ８００は、変位可能に構成され、円環形成ユニットＧ７００及び花弁動作装置Ｇ８００の変位により花弁動作装置Ｇ８００が変位可能に構成される。また、円環形成ユニットＧ７００及び花弁動作装置Ｇ８００は、振動または動作可能に構成され、その振動または動作により花弁動作装置Ｇ８００が振動または動作可能に構成される。
【２３１３】
発光装飾ユニットＧ５００は、樹脂材料から形成されるベース体Ｇ５１０と、そのベース体Ｇ５１０の正面側に配設される発光装置Ｇ５２０とを主に備え、発光装置Ｇ５２０の内部に配設された複数のＬＥＤ（発光ダイオード）Ｇ５２１から発光する光の様態（例えば、照射するＬＥＤＧ５２１の数やＬＥＤ５２１の発光色）を変更することで、発光による演出を行う。
【２３１４】
次いで、図１９９から図２２２を参照して、演出動作ユニットＧ１０００について説明する。
【２３１５】
初めに、図１９９から図２０３を参照して、演出動作ユニットＧ１０００の全体構成について説明する。図１９９（ａ）は、演出動作ユニットＧ１０００の正面図であり、図１９９（ｂ）は、演出動作ユニットＧ１０００の背面図であり、図２００は、演出動作ユニットＧ１０００の花弁動作装置Ｇ８００側の分解正面斜視図であり、図２０１は、演出動作ユニットＧ１０００の花弁動作装置Ｇ８００側の分解背面斜視図であり、図２０２は、演出動作ユニットＧ１０００の円環形成ユニットＧ７００側の分解正面斜視図であり、図２０３は、演出動作ユニットＧ１０００の円環形成ユニットＧ７００側の分解背面斜視図である。

【２３１６】
図１９９から図２０３に示すように、演出動作ユニットＧ１０００は、門型に形成されるベースユニットＧ６００と、そのベースユニットＧ６００に配設される進退動作ユニットＧ９００と、ベースユニットＧ６００に配設され進退動作ユニットＧ９００の駆動力により上下動される花弁動作装置Ｇ８００と、ベースユニットＧ６００に配設され花弁動作装置Ｇ８００の上下動に連動して円環状態を形成する円環形成ユニットＧ７００とを主に備えて形成される。
【２３１７】
なお、第８実施形態では、演出動作ユニットＧ１０００は、花弁動作装置Ｇ８００が上方の退避位置から下方に変位して張出位置に変位されるが、退避位置は必ずしも上方でなくても良く、下方の退避位置から上方に変位して張出位置に変位されるものであっても良い。即ち、正面視における演出動作ユニットＧ１０００を上下反対に配置しても良い。また、上下だけでなく、正面視における演出動作ユニットＧ１０００を９０度回転した状態で配置して、左右方向に花弁動作装置Ｇ８００が変位するように構成しても良い。
【２３１８】
ベースユニットＧ６００は、背面ケースＧ３００底壁部Ｇ３０１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されるベース部材Ｇ６１０と、そのベース部材Ｇ６１０の正面側に配設される左側保持部材Ｇ６２０、右側保持部材Ｇ６３０、左側配線部材Ｇ６４０と、右側配線部材Ｇ６５０と、を主に備えて形成される。なお、本実施形態では、ベースユニットＧ６００が、主に光を透過可能な樹脂材料から形成されるが、金属製の板材をプレス加工して形成するものであっても良い。
【２３１９】
ベース部材Ｇ６１０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長い矩形の本体板部Ｇ６１１と、その本体板部Ｇ６１１の左右両端から下方に向かって延設される左側延設部Ｇ６１２と、右側延設部Ｇ６１３と、を主に備える。
【２３２０】
本体板部Ｇ６１１は、後述する進退動作ユニットＧ９００及び花弁動作装置Ｇ８００が配設される部分であり、進退動作ユニットＧ９００の各従動ギヤＧ９２１～Ｇ９２８及びアーム側従動ギヤＧ９２９を軸支するピン部Ｇ６１１ａ～Ｇ６１１ｈと、進退動作ユニットＧ９００の左側アームユニットＧ９３０を軸支する軸支部Ｇ６１１ｊと、花弁動作装置Ｇ８００の正面側ベース部材Ｇ８１０の摺動面の一部を形成する摺動部Ｇ６１１ｋとが正面側（矢印Ｆ方向側）に形成される。
【２３２１】
また、本体板部Ｇ６１１の背面側（矢印Ｂ方向側）には、背面ケースＧ３００にベースユニットＧ６００を締結固定するためのめねじが形成され、背面ケースＧ３００の底壁部Ｇ３０１に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通する貫通孔を通して螺子が締結される。これにより、背面ケースＧ３００にベースユニットＧ６００（演出動作ユニットＧ１０００）を固定した状態で配設可能とされる。
【２３２２】
なお、本実施形態では、本体板部Ｇ６１１の背面側にめねじが形成され、背面ケースＧ３００の底壁部Ｇ３０１に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ）方向に貫通する貫通孔が形成されるが、これに限らず、本体板部Ｇ６１１に前後方向に貫通する貫通孔が形成され、背面ケースＧ３００の底壁部Ｇ３０１にめねじが形成されてもよい。この場合、背面ケースＧ３００の正面側（矢印Ｆ方向側）に演出動作ユニットＧ１０００を配設した後、背面ケースＧ３００の背面側（矢印Ｂ方向側）に作業者が移動しなくても、演出動作ユニットＧ１０００を背面ケースＧ３００に配設作業した正面側から演出動作ユニットＧ１０００を背面ケースＧ３００にねじ止めすることができる。そのため、演出動作ユニットＧ１０００の背面ケースＧ３００への配設作業を簡易にすることができる。
【２３２３】
ピン部Ｇ６１１ａ～Ｇ６１１ｈは、上述したように進退動作ユニットＧ９００の各従動

ギヤＧ９２１～Ｇ９２８及びアーム側従動ギヤＧ９２９を軸支する部分であり、円形状に形成され正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突設される。

【２３２４】

また、ピン部Ｇ６１１ａ～Ｇ６１１ｅ，Ｇ６１１ｈには、突設先端部にめねじが形成されており、対応する各ギヤＧ９２１～Ｇ９２５，Ｇ９２８を軸支した状態で立設先端部に螺子が締結される。これにより、ピン部Ｇ６１１ａ～Ｇ６１１ｅ，Ｇ６１１ｈから各従動ギヤＧ９２１～Ｇ９２５，Ｇ９２８が抜け落ちることを抑制できる。

【２３２５】

一方、ピン部Ｇ６１１ｆ，Ｇ６１１ｇは、所定の内径を有する円環状に突設され、その外周側でギヤＧ９２６，Ｇ９２７を軸支可能に形成される。また、ピン部Ｇ６１１ｆ，Ｇ６１１ｇには、その中心部に金属製の棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎがそれぞれ嵌め込まれ、その金属製の棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎにより、後述する円環形成ユニットＧ７００（左側円環部材Ｇ７１０および右側円環部材Ｇ７２０）を軸支可能とされる。

【２３２６】

なお、ピン部Ｇ６１１ｆ，Ｇ６１１ｇに軸支されるギヤＧ９２６，Ｇ９２７は、金属製の棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎに軸支される左側円環部材Ｇ７１０および右側円環部材Ｇ７２０と、本体板部Ｇ６１１との間に挟まれることで、棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎから抜け落ちることが抑制される。

【２３２７】

棒状部材Ｇ６１１ｍには、円形状に形成された小径部と、その小径部の軸方向一端側から径方向外側に張り出した大径部とを備えたカラーＧ６１１ｉａが先端部に締結固定される。カラーＧ６１１ｉａは、円環状に形成されるアーム側従動ギヤＧ９２９の内側に小径部が挿入して配設される。また、カラーＧ６１１ｉａの小径部とアーム側従動ギヤＧ９２９の内側との間には、若干の隙間が形成される。これにより、ピン部Ｇ６１１ｉからアーム側従動ギヤＧ９２９が抜け落ちることを抑制できると共に、アーム側従動ギヤＧ９２９がピン部Ｇ６６１ｉ（カラーＧ６１１ｉａ）に対して回転可能とされる。

【２３２８】

棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎは、後述する円環形成ユニットＧ７００の左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０を軸支する部分であり、本体板部Ｇ６１１の正面側に配設される左側保持部材Ｇ６２０との間で挟持される。なお、ピン部Ｇ６１１ｆ，Ｇ６１１ｇに軸支される進退動作ユニットＧ９００のギヤＧ９２６，Ｇ９２７は、棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎに軸支される左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０によりピン部Ｇ６１１ｆ，Ｇ６１１ｇから抜け出ることが規制される。

【２３２９】

軸支部Ｇ６１１ｊは、正面視（矢印Ｂ方向視）において本体板部Ｇ６１１の左側（矢印Ｌ方向側）に形成される。軸支部Ｇ６１１ｊは、上述したように進退動作ユニットＧ９００の本体部材Ｇ９３１を軸支する部分であり、正面視円形状に形成されると共に正面側に向かって突設される。この軸支部Ｇ６１１ｊにより、進退動作ユニットＧ９００の本体部材Ｇ９３１が軸支部Ｇ６１１ｊを軸として回転可能とされ、その軸支部Ｇ６１１ｊを中心（回転軸）とする本体部材Ｇ９３１の回転により進退動作ユニットＧ９００に配設される花弁動作装置Ｇ８００が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位可能とされる。

【２３３０】

摺動部Ｇ６１１ｋは、正面視において本体板部Ｇ６１１の右側（矢印Ｒ方向側）の上端、下端、及び右端の縁部を囲うように正面側に立設される壁部Ｇ６１１ｐの上端部と下端部との左端同士を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に結んだ直線状に形成されており、壁部Ｇ６１１ｐよりも正面側への立設距離が低く設定される。これにより、壁部Ｇ６１１ｐと摺動部Ｇ６１１ｋとにより囲まれる領域の前方側に後述する右側保持部材Ｇ６３０を配設した際に、摺動部Ｇ６１１ｋと右側保持部材Ｇ６３０の背面側との対向間に溝を形成することができ、その溝に後述する花弁動作装置Ｇ８００の正面側ベース部材Ｇ８１０を摺動可能な状態で保持することができる。

【２３３１】
なお、正面視（矢印Ｂ方向視）において本体板部Ｇ６１１の壁部Ｇ６１１ｐと摺動部Ｇ６１１ｋとにより囲まれる領域は、他の領域に比べて正面側に位置して（即ち、摺動部Ｇ６１１ｋの形成部分で正面側に向かって段差が形成されて）おり、摺動部Ｇ６１１ｋと右側保持部材Ｇ６３０の背面側との間に花弁動作装置Ｇ８００のカラーＧ８１５を配設した場合に、カラーＧ８１５の大径部の外周面が本体板部Ｇ６１１の正面に当接することを抑制できる。これにより、花弁動作装置Ｇ８００の正面側ベース部材Ｇ８１０が摺動部Ｇ６１１ｋに沿って摺動する際の抵抗が増加すること抑制でき、花弁動作装置Ｇ８００を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にスムーズに変位させることができる。なお、花弁動作装置Ｇ８００の動作についての詳しい説明は後述する。

【２３３２】
左側延設部Ｇ６１２は、後述する円環形成ユニットＧ７００が配設される部分であり、下方（矢印Ｄ方向）端部側に左側リンク軸支部Ｇ６１２ａと、その左側リンク軸支部Ｇ６１２ａよりも上方側（矢印Ｕ方向側）に左側保持部Ｇ６１２ｂとを備える。

【２３３３】
左側リンク軸支部Ｇ６１２ａは、円環形成ユニットＧ７００の左側リンク部材Ｇ７３０の一端が軸支される部分であり、正面視円形状に形成されると共に正面側に立設して形成される。これにより、左側リンク部材Ｇ７３０の一端が左側リンク軸支部Ｇ６１２ａを軸に回転可能な状態で保持される。

【２３３４】
左側保持部Ｇ６１２ｂは、退避位置に配設される円環形成ユニットＧ７００の左側円環部材Ｇ７１０の背面が当接可能な位置に形成されると共に、その円環形成ユニットＧ７００の左側円環部材Ｇ７１０に連結される左側リンク部材Ｇ７３０の側面が当接可能な位置に形成される。これにより、退避位置に配置される左側円環部材Ｇ７１０に外部からの振動が作用した際に、左側円環部材Ｇ７１０が揺れ動いて、退避位置に配設される左側円環部材Ｇ７１０が遊技者から視認可能とされる位置（遊技盤Ｈ１３のセンターフレームＧ８６の内側領域）に変位することを抑制できる。

【２３３５】
右側延設部Ｇ６１３は、左側延設部Ｇ６１２と同様に、後述する円環形成ユニットＧ７００が配設される部分であり、下方（矢印Ｄ方向）の端部側に右側リンク軸支部Ｇ６１３ａと、その右側リンク軸支部Ｇ６１３ａよりも上方側（矢印Ｕ方向側）に右側保持部Ｇ６１３ｂとを備える。なお、右側リンク軸支部Ｇ６１３ａは、上述した左側リンク軸支部Ｇ６１２ａと連結される部材（右側リンク部材Ｇ７４０）が異なるだけであり、右側保持部Ｇ６１３ｂは、上述した左側保持部Ｇ６１２ｂと当接可能な部材（右側円環部材Ｇ７２０及び右側リンク部材Ｇ７４０）が異なるだけであり、その他の構成は同じであるので、それらの詳しい説明は省略する。

【２３３６】
また、左側延設部Ｇ６１２と右側延設部Ｇ６１３との正面側には、左側延設部Ｇ６１２の左側リンク軸支部Ｇ６１２ａ、左側保持部Ｇ６１２ｂ、右側リンク軸支部Ｇ６１３ａ、及び、右側保持部Ｇ６１３ｂを避けて左側配線部材Ｇ６４０と右側配線部材Ｇ６５０とが左側延設部Ｇ６１２の正面と右側延設部Ｇ６１３の正面との間に所定の空間を形成した状態で配設される。これら左側配線部材Ｇ６４０及び左側延設部Ｇ６１２の間の空間と、右側配線部材Ｇ６５０及び右側延設部Ｇ６１３の間の空間とを介して、後述する円環形成ユニットＧ７００および花弁動作装置Ｇ８００に連結される電気配線が挿通される。これにより、退避位置と張出位置との間で変位する円環形成ユニットＧ７００及び花弁動作装置Ｇ８００に電気配線が接触して、電気配線が断線したり電気配線の被覆が剥がれたりすることを抑制できる。

【２３３７】
左側保持部材Ｇ６２０は、本体板部Ｇ６１１の正面視左側端部から上端部に沿って本体板部Ｇ６１１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の中央を超えた位置まで延設される板状に形

成され、後述する進退動作ユニットＧ９００の各従動ギヤＧ９２１～Ｇ９２８及びアーム側従動ギヤＧ９２９の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う状態で本体板部Ｇ６１１に配設される。

【２３３８】

また、左側保持部材Ｇ６２０は、後述する進退動作ユニットＧ９００の駆動モータＧ９１０の軸を挿通する貫通孔Ｇ６２１と、その貫通孔Ｇ６２１の周囲に駆動モータＧ９１０を左側保持部材Ｇ６２０に締結するためのめねじ部Ｇ６２２と、本体板部Ｇ６１１に配設される棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎの正面側（矢印Ｆ方向側）を保持する凹部Ｇ６２３とを主に備え、本体板部Ｇ６１１に締結される。

【２３３９】

貫通孔Ｇ６２１は、左側保持部材Ｇ６２０の正面視において左側（矢印Ｌ方向側）上部の背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって一段低く形成される領域に形成される。これにより、左側保持部材Ｇ６２０に駆動モータＧ９１０を配設した際に、左側保持部材Ｇ６２０よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に駆動モータＧ９１０が張り出すことを抑制できる。その結果、後述する円環形成ユニットＧ７００が退避位置に変位されて、その円環形成ユニットＧ７００が左側保持部材Ｇ６２０の正面側に位置する場合に、円環形成ユニットＧ７００が駆動モータＧ９１０に当接することを抑制できる。

【２３４０】

また、駆動モータＧ９１０は、正面側（矢印Ｆ方向側）から軸を貫通孔Ｇ６２１に挿通された後、駆動モータＧ９１０に形成された貫通孔を介して左側保持部材Ｇ６２０のめねじ部Ｇ６２２に螺子が締結されることで、左側保持部材Ｇ６２０に配設される。なお、左側保持部材Ｇ６２０に配設された駆動モータＧ９１０には、貫通孔Ｇ６２１を挿通した軸に背面側から駆動ギヤＧ９１１が配設される。

【２３４１】

凹部Ｇ６２３は、本体板部Ｇ６１１の背面側（矢印Ｂ方向側）から正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって円形状に凹設され、凹設された内縁が本体板部Ｇ６１１に配設される棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎと対応する形状（内径）に形成される。これにより、左側保持部材Ｇ６２０を本体板部Ｇ６１１に配設した際に、棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎの先端部を凹部Ｇ６２３の内部空間に収容して保持することができる。

【２３４２】

ここで、棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎには、後述する円環形成ユニットＧ７００の被軸支部Ｇ７１２ｂａ，Ｇ７２２ｂａが配設される（挿入される）。従って、円環形成ユニットＧ７００は、被軸支部Ｇ７１２ｂａ，Ｇ７２２ｂａが棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎに挿入された状態で、正面側（矢印Ｆ方向側）から左側保持部材Ｇ６２０がベース部材Ｇ６１０に配設されることで、ベースユニットＧ６００に保持される。

【２３４３】

右側保持部材Ｇ６３０は、上述したように、本体板部Ｇ６１１に形成される壁部Ｇ６１１ｐと摺動部Ｇ６１１ｋとの正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う部材であり、壁部Ｇ６１１ｐの正面側への立設先端部に形成されるめねじに螺子で締結固定される。これにより、摺動部Ｇ６１１ｋと右側保持部材Ｇ６３０の背面との間に空間を形成でき、その空間に後述する花弁動作装置Ｇ８００のアーム部Ｇ８１２（カラーＧ８１５）を摺動可能な状態で配設できる。

【２３４４】

次いで、進退動作ユニットＧ９００について説明する。進退動作ユニットＧ９００は、駆動モータＧ９１０と、その駆動モータＧ９１０の軸に配設される駆動ギヤＧ９１１と、その駆動ギヤＧ９１１の回転により駆動モータＧ９１０の駆動力を伝達する複数の従動ギヤＧ９２１～Ｇ９２８，アーム側従動ギヤＧ９２９と、本体板部Ｇ６１１の軸支部Ｇ６１１ｊに軸支されると共にアーム側従動ギヤＧ９２９の回転により回転変位する左側アームユニットＧ９３０と、その左側アームユニットＧ９３０に連結され左側アームユニットＧ９３０の回転により変位可能なスライド板Ｇ９４０と、そのスライド板Ｇ９４０のスライ

ド方向を規定するスライドレールＧ９５０とを主に備える。
【２３４５】
なお、本実施形態では、従動ギヤＧ９２１～Ｇ９２８，アーム側従動ギヤＧ９２９，左側アームユニットＧ９３０，スライド板Ｇ９４０が主に、樹脂材料から形成される。また、進退動作ユニットＧ９００の張出位置において、第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に配設されるスライド板Ｇ９４０は、光を透過可能な材料から形成される。これにより、第３図柄表示装置Ｈ８１から出射される光が張出位置における進退動作ユニットＧ９００のスライド板Ｇ９４０より第３図柄表示装置Ｈ８１に反射して、スライド板Ｇ９４０と重ならない位置から視認される第３図柄表示装置Ｈ８１の表示が認識されにくくなることを抑制できる。
【２３４６】
駆動モータＧ９１０は、上述したように、ベースユニットＧ６００の左側保持部材Ｇ６２０の貫通孔Ｇ６２１に軸を通して配設され、その軸に左側保持部材Ｇ６２０の背面側（矢印Ｂ方向側）から駆動ギヤＧ９１１が配設される。即ち、駆動モータＧ９１０の本体部分と駆動ギヤＧ９１１との間に左側保持部材Ｇ６２０を挟んだ状態で配設される。
【２３４７】
従動ギヤＧ９２１は、駆動ギヤＧ９１１に刻設される歯に歯合されており、駆動ギヤＧ９１１が回転されることにより回転される。従動ギヤＧ９２１から順に歯合される従動ギヤＧ９２２～Ｇ９２８は、従動ギヤＧ９２１が駆動ギヤＧ９１１により回転されることで、中間のギヤＧ９２３から終端のギヤＧ９２８までが同期して回転される。
【２３４８】
また、従動ギヤＧ９２５及び従動ギヤＧ９２８は、後述する円環形成ユニットＧ７００の左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０に駆動力を伝達可能に構成されており、正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突設される突設部Ｇ９２５ａ，Ｇ９２８ａと、それら突設部Ｇ９２５ａ，Ｇ９２８ａに軸支されるカラーＧ９２５ｂ，Ｇ９２８ｂとを主に備えて形成される。
【２３４９】
突設部Ｇ９２５ａ，Ｇ９２８ａは、従動ギヤＧ９２５及び従動ギヤＧ９２８の回転軸と異なる位置（回転軸から径方向に離れた位置）に形成される。また、突設部Ｇ９２５ａ，Ｇ９２８ａは、後述する左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０の摺動溝Ｇ７１２ｂｂ，Ｇ７２２ｂｂに挿通され、その挿通された先端側にカラーＧ９２５ｂ，Ｇ９２８ｂが配設される。これにより、従動ギヤＧ９２５及び従動ギヤＧ９２８が回転される（駆動モータＧ９１０から駆動力が伝達される）と、その従動ギヤＧ９２５及び従動ギヤＧ９２８の回転に伴って突設部Ｇ９２５ａ，Ｇ９２８ａの位置が変位され、この変位に伴って左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０が変位される（即ち、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０に駆動力が伝達される）。
【２３５０】
アーム側従動ギヤＧ９２９は、従動ギヤＧ９２２が従動ギヤＧ９２１と歯合する位置とは異なる位置で従動ギヤＧ９２１と歯合されており、駆動ギヤＧ９１１が回転されることで従動ギヤＧ９２１を介して回転可能に構成される。
【２３５１】
また、アーム側従動ギヤＧ９２９は、正面側に向かって円柱状に突設される突設部Ｇ９２９ａと、その突設部Ｇ９２９ａの突設先端部に軸支されるカラーＧ９２９ｂと、外周面の正面側端部から径方向外側に向かって突設されると共に周方向に延設される壁部Ｇ９２９ｃと、その壁部Ｇ９２９ｃの一部から径方向外側に向かって突出して形成される被検出部Ｇ９２９ｄと、歯が刻設される外周面および壁部の間に膨出される膨出部Ｇ９２９ｅとを主に備え、左側アームユニットＧ９３０に駆動力を伝達可能に構成される。
【２３５２】
突設部Ｇ９２９ａは、アーム側従動ギヤＧ９２９の回転軸と異なる位置から突設され、後述する左側アームユニットＧ９３０の被軸支部Ｇ９３１ａに挿通される。また、突設部

Ｇ９２９ａには、左側アームユニットＧ９３０の被軸支部Ｇ９３１ａに挿通される先端側にカラーＧ９２９ｂが配設される。これにより、アーム側従動ギヤＧ９２９が回転される（駆動モータＧ９１０から駆動力が伝達される）と、そのアーム側従動ギヤＧ９２９の回転に伴って突設部Ｇ９２９ａの位置が変位され、この変位に伴って左側アームユニットＧ９３０が変位される（即ち、左側アームユニットＧ９３０に駆動モータＧ９１０の駆動力が伝達される）。

【２３５３】

壁部Ｇ９２９ｃは、アーム側従動ギヤＧ９２９の歯面を保護する部分であり、アーム側従動ギヤＧ９２９の歯面の側端面に連なって形成される。これにより、アーム側従動ギヤＧ９２９の歯の剛性を向上して、アーム側従動ギヤＧ９２９の歯が破損することを抑制できる。また、壁部Ｇ９２９ｃにより、アーム側従動ギヤＧ９２９の歯面に対して、軸方向に従動ギヤＧ９２１が相対変位することを抑制できるので、従動ギヤＧ９２１がピン部Ｇ６１１ａから抜け落ちることを抑制できると共に、アーム側従動ギヤＧ９２９と従動ギヤＧ９２１との歯合状態が悪くなる（噛み合い位置が軸方向にずれる）ことを抑制できる。

【２３５４】

また、突設部Ｇ９２９ａは、壁部Ｇ９２９ｃから突設される。これにより、動作不良等で通常の動作よりも大きな駆動モータＧ９１０の駆動力が突設部Ｇ９２９ａに作用する場合に、壁部Ｇ９２９ｃを撓ませてその力を逃がすことができる。そのため、通常の動作よりも大きな駆動力が作用する場合に、アーム側従動ギヤＧ９２９とギヤＧ９２２との歯合位置がずれることを抑制でき、歯合位置がずれたまま駆動してアーム側従動ギヤＧ９２９又はギヤＧ９２２の歯に過大が力が作用することを抑制できる。その結果、アーム側従動ギヤＧ９２９及びギヤＧ９２２の歯が破損すること抑制できる。

【２３５５】

被検出部Ｇ９２９ｄは、アーム側従動ギヤＧ９２９の回転位置を検出するための突起であり、ベースユニットＧ６００のベース部材Ｇ６１０に配設される検出装置Ｇ６６０に検出可能に配設される。本実施形態では、花弁動作装置Ｇ８００が退避位置に配置される際に、被検出部Ｇ９２９ｄが検出装置Ｇ６６０に検出可能とされる。これにより、退避位置に花弁動作装置Ｇ８００がその自重や外部から入力される振動で張出位置に変位しようとした場合に、退避位置から移動したことを検出して、花弁動作装置Ｇ８００を退避位置に戻すための制御を行うことができる。その結果、花弁動作装置Ｇ８００が誤って張出位置に変位して、遊技者の興趣が低下することを抑制できる。

【２３５６】

なお、本実施形態では、花弁動作装置Ｇ８００が退避位置に配置される際に被検出部Ｇ９２９ｄが検出装置Ｇ６６０に検出される場合について説明したが、これに限らず、花弁動作装置が張出位置に配置される際に被検出部Ｇ９２９ｄを検出する検出装置を別途備えてもよいし、花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に配置される際に被検出部Ｇ９２９ｄが検出されるように検出装置Ｇ６６０を配置してもよい。

【２３５７】

この場合には、花弁動作装置Ｇ８００が退避位置から張出位置に変位された際に、その変位を検出装置で検出することができるので、その検出に伴い張出位置に変位する直前で花弁動作装置Ｇ８００の変位速度を低下させることで、張出位置に停止させることに伴い花弁動作装置Ｇ８００に作用する振動を抑えることができる。よって、花弁動作装置Ｇ８００を張出位置に張り出して花弁動作装置Ｇ８００を遊技者から視認しやすい状態とした際に、花弁動作装置Ｇ８００を遊技者に効果的に視認させることができる。その結果、遊技者の興趣を高めやすくできる。

【２３５８】

膨出部Ｇ９２９ｅは、アーム側従動ギヤＧ９２９の回転範囲を規定する部材であり、花弁動作装置Ｇ８００が退避位置と張出位置とに変位された際に、本体板部Ｇ６１１から張り出した規制部Ｇ６１１ｒに当接可能とされる。なお、規制部Ｇ６１１ｒは、花弁動作装置Ｇ８００が退避位置と張出位置とのそれぞれに配置される場合の膨出部Ｇ９２９ｅの対

応する位置に形成される（即ち、２か所に形成される）。これにより、制御不良等により、アーム側従動ギヤＧ９２９が回転しすぎることを抑制して、突設部Ｇ９２９ａと左側アームユニットＧ９３０との連結部分が破損することを抑制できる。

【２３５９】

左側アームユニットＧ９３０は、従動ギヤＧ９２１から伝達される駆動力をスライド板Ｇ９４０を介して花弁動作装置Ｇ８００に伝達する部材であり、正面視においてＴ字状に形成される本体部材Ｇ９３１と、その本体部材Ｇ９３１をベースユニットＧ６００に軸支するためのベース側カラーＧ９３２と、本体部材Ｇ９３１の背面側に配設されベース側カラーＧ９３２と同軸上の円環形状に形成されるバネ配設部材Ｇ９３３と、そのバネ配設部材Ｇ９３３の外周側に配設され本体部材Ｇ９３１に付勢力を作用させるねじりバネＧ９３４と、本体部材Ｇ９３１をスライド板Ｇ９４０に連結させるためのスライド側カラーＧ９３５とを主に備える。

【２３６０】

本体部材Ｇ９３１は、正面視においてＴ字の上部側を左側（矢印Ｌ方向側）から右側（矢印Ｒ方向側）に向かって上方（矢印Ｕ方向側）に傾倒させた状態で配設され、左側（矢印Ｌ方向側）の端部が本体板部Ｇ６１１と左側保持部材Ｇ６２０との対向間に配設される。また、本体部材Ｇ９３１は、正面視においてＴ字に形成される下部側がスライド板Ｇ９４０の背面側に配設される。

【２３６１】

本体部材Ｇ９３１は、正面視において左側（矢印Ｌ方向側）端部に形成される被軸支部Ｇ９３１ａと、その被軸支部Ｇ９３１ａの上方側（矢印Ｕ方向側）に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿った溝状に形成される摺動溝Ｇ９３１ｂと、スライド板Ｇ９４０の背面側に位置しスライド板Ｇ９４０（正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突設される突設部Ｇ９３１ｃとを主に備えて形成される。

【２３６２】

被軸支部Ｇ９３１ａは、本体板部Ｇ６１１に形成される軸支部Ｇ６１１ｊが挿通可能に形成される貫通孔であり、軸支部Ｇ６１１ｊの外径よりも若干大きな円形状に形成される。また、被軸支部Ｇ９３１ａには、ベース側カラーＧ９３２の小径部が若干の隙間を隔てた状態で配設される。これにより、本体部材Ｇ９３１は、本体板部Ｇ６１１の軸支部Ｇ６１１ｊの軸を中心に回転可能な状態で本体板部Ｇ６１１（ベース部材Ｇ６１０）に配設される。

【２３６３】

摺動溝Ｇ９３１ｂは、上述したようにアーム側従動ギヤＧ９２９の突設部Ｇ９２９ａが挿通される部分であり、突設部Ｇ９２９ａがアーム側従動ギヤＧ９２９の回転に伴って回転された場合に、突設部Ｇ９２９ａが摺動溝Ｇ９３１ｂの内部を摺動可能な大きさに形成される。

【２３６４】

突設部Ｇ９３１ｃは、スライド板Ｇ９４０に連結される部分であり、後述するスライド板Ｇ９４０の摺動溝Ｇ９４２に挿入可能な長さに形成される。また、突設部Ｇ９３１ｃは、突設先端にスライド側カラーＧ９３５が配設され、スライド側カラーＧ９３５の外周面が摺動溝Ｇ９４２の内縁に当接した状態とされる。これにより、被軸支部Ｇ９３１ａ（軸支部Ｇ６１１ｊ）を軸として本体部材Ｇ９３１を回転させた際に、本体部材Ｇ９３１に対してスライド板Ｇ９４０を相対変位させることができる。

【２３６５】

バネ配設部材Ｇ９３３は、本体部材Ｇ９３１の背面側とベース部材Ｇ６１０の本体板部Ｇ６１１の正面側との間に配設され、円環状に形成された内側の空間に本体板部Ｇ６１１の軸支部Ｇ６１１ｊが挿通される。

【２３６６】

また、バネ配設部材Ｇ９３３は、円環状に形成された軸方向の両端が径方向外側に立設されており、その両端に立設される対向間にねじりバネＧ９３４が配設される。これによ

り、ねじりバネＧ９３４が、本体部材Ｇ９３１の背面側や、ベース部材Ｇ６１０の本体板部Ｇ６１１の正面側に当接することを抑制できる。

【２３６７】

ねじりバネＧ９３４は、本体部材Ｇ９３１を退避位置側に付勢する付勢力をアーム部材に作用させるバネであり、弾性変形された状態でバネ配設部材Ｇ９３３の外周側に配設される。また、ねじりバネＧ９３４は、一端がベース部材Ｇ６１０に係止されると共に他端が本体部材Ｇ９３１の背面側に係止される。

【２３６８】

なお、ねじりバネＧ９３４は、弾性変形させていない状態では、複数回旋回して形成されるバネ部分の内径が、バネ配設部材Ｇ９３３の軸方向両端に立設される部分の外径よりも大きく形成される。これにより、ねじりバネＧ９３４をバネ配設部材Ｇ９３３に簡易に配設することができる。

【２３６９】

また、ねじりバネＧ９３４は、一端がベース部材Ｇ６１０に係止されると共に他端が本体部材Ｇ９３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に係止されて弾性変形された状態では、その弾性変形によりバネ部分の内径がバネ配設部材Ｇ９３３の軸方向両端に立設される部分の外径よりも小さくされる。これにより、ベース部材Ｇ６１０と本体部材Ｇ９３１とにねじりバネＧ９３４の両端が係合された状態とされた場合にねじりバネＧ９３４がベース部材Ｇ６１０や本体部材Ｇ９３１から脱落することを抑制できる。

【２３７０】

本実施形態では、左側アームユニットＧ９３０を退避位置側に付勢するために、ねじりバネＧ９３４を配設したが、ねじりバネに限らず、コイルバネ、ゴム、磁石により左側アームユニットＧ９３０を退避位置側に付勢するように構成しても良い。また、退避位置側に左側アームユニットＧ９３０を付勢する形態でなく、張出位置側に付勢する形態や、退避位置と張出位置の間の位置に付勢する形態として、付勢される位置を基準位置として左側アームユニットＧ９３０を変位させても良い。

【２３７１】

スライド板Ｇ９４０は、左側アームユニットＧ９３０に伝達される駆動力を花弁動作装置Ｇ８００に伝達するための伝達部材である。スライド板Ｇ９４０は、背面側（矢印Ｂ方向側）から螺子を挿通可能に貫通形成される第１貫通孔Ｇ９４１と、本体部材Ｇ９３１が連結される摺動溝Ｇ９４２と、正面側（矢印Ｆ方向側）から螺子を挿通可能に貫通形成される第２貫通孔Ｇ９４３とを主に備える。

【２３７２】

第１貫通孔Ｇ９４１は、後述する花弁動作装置Ｇ８００にスライド板Ｇ９４０を締結するための螺子を挿通する孔であり、花弁動作装置Ｇ８００の背面側ベース部材Ｇ８２０のねじ穴（雌ねじ）と対応する位置に形成される。第１貫通孔Ｇ９４１を介してスライド板Ｇ９４０と花弁動作装置Ｇ８００とが締結されることで、スライド板Ｇ９４０の変位を介して左側アームユニットＧ９３０に伝達される駆動力を花弁動作装置Ｇ８００に伝達することができ、花弁動作装置Ｇ８００を退避位置と張出位置との間で変位させることが可能とされる。

【２３７３】

摺動溝Ｇ９４２は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長い溝状に形成されており、その溝に本体部材Ｇ９３１のスライド側カラーＧ９３５が摺動可能な状態で配設される。なお、スライド側カラーＧ９３５は、上述したように本体部材Ｇ９３１の突設部Ｇ９３１ｃの突設先端に配設される。また、摺動溝Ｇ９４２は、本体部材Ｇ９３１の突設部Ｇ９３１ｃの円弧状の変位軌跡と異なる方向に溝が延設される。

【２３７４】

従って、本体部材Ｇ９３１が被軸支部Ｇ９３１ａ（軸支部Ｇ６１１ｊ）を軸として回転されることに伴って突設部Ｇ９３１ｃが変位されると、スライド側カラーＧ９３５が摺動溝Ｇ９４２の内部を摺動しつつスライド板Ｇ９４０を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に押し

出し、スライド板Ｇ９４０を後述するスライドレールＧ９５０に沿って上下方向に変位させる。

【２３７５】

スライドレールＧ９５０は、伸縮式の直線案内機構であり、その伸縮方向を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿わせた姿勢で配設される。スライドレールＧ９５０は、ベース部材Ｇ６１０の本体板部Ｇ６１１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される基部側レールＧ９５１と、その基部側レールＧ９５１の正面側に基部側レールＧ９５１に対して上下方向にスライド可能に配設される摺動側レールＧ９５２とを備える。

【２３７６】

また、摺動側レールＧ９５２は、スライド板Ｇ９４０の背面側に第２貫通孔を介して締結固定される。これにより、スライド板Ｇ９４０は、摺動側レールＧ９５２に対する姿勢が固定されると共に、基部側レールＧ９５１に対する摺動側レールＧ９５２のスライド方向にスライド可能とされる。即ち、スライド板Ｇ９４０は、その変位方向が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に限定される。上述したように、スライド板Ｇ９４０には、花弁動作装置Ｇ８００が締結固定されるので、スライド板Ｇ９４０の上下方向の変位に伴って花弁動作装置Ｇ８００を上下方向に変位させることが可能とされる。

【２３７７】

なお、本実施形態では、スライドレールＧ９５０の基部側レールＧ９５１及び摺動側レールＧ９５２がアルミの金属材料から形成されるが、これに限らず、スライドレールＧ９５０が樹脂材料から形成されるものであっても良い。

【２３７８】

円環形成ユニットＧ７００は、正面視半円弧状に形成され、左右方向に対称に配設される一対の左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０と、それら一対の左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０のそれぞれの一端側に配設される左側リンク部材Ｇ７３０及び右側リンク部材Ｇ７４０とを主に備えて形成される。なお、円環形成ユニットＧ７００の左側円環部材Ｇ７１０、右側円環部材Ｇ７２０、左側リンク部材Ｇ７３０、右側リンク部材Ｇ７４０は主に樹脂材料から形成される。

【２３７９】

なお、それぞれ一対形成される左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０と、左側リンク部材Ｇ７３０及び右側リンク部材Ｇ７４０とは、正面視において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央部を軸に線対称に形成されるので、以下の説明では左側（矢印Ｌ方向側）に配設される左側円環部材Ｇ７１０及び左側リンク部材Ｇ７３０を説明し、右側（矢印Ｒ方向側）に配設される右側円環部材Ｇ７２０と、右側リンク部材Ｇ７４０との説明は省略する。また、符号については、左側円環部材Ｇ７１０の頭のＧ７１を右側円環部材Ｇ７２０でＧ７２と表記し、左側リンク部材Ｇ７３０の頭のＧ７３を右側リンク部材Ｇ７４０でＧ７４と表記する。

【２３８０】

左側円環部材Ｇ７１０は、正面側（矢印Ｆ方向側）が遊技者に視認可能な化粧面として形成されており、正面側に蝶や波や花等の装飾が形成されると共に、正面側の一部が光を透過可能な樹脂材料で形成される。詳しく説明すると、正面側に蝶や波や花等の輪郭線が光を非透過の樹脂材料で形成されると共に、それら蝶や波や花等の輪郭線の内側および外側が光を透過可能な樹脂材料で形成される。また、左側円環部材Ｇ７１０は、内部に光を出射可能なＬＥＤ（発光ダイオード）を有する発光基板を備えており、光を透過可能な材料から形成される部分を介してＬＥＤの光を遊技者側に照射可能に構成される。

【２３８１】

また、左側円環部材Ｇ７１０は、半円環状に形成される一端側（正面視下方側（矢印Ｄ方向側））の背面に背面側に向かって円柱状に突出する突出部Ｇ７１１と、半円環状に形成される他端側（正面視上方側（矢印Ｕ方向側）の背面に背面側に向かって立設される連結部Ｇ７１２とを主に備えて形成される。

【２３８２】

突出部Ｇ７１１は、後述する左側リンク部材Ｇ７３０に連結される部分であり、左側リンク部材Ｇ７３０よりも背面側に突出されると共に、その突出先端部にカラーＧ７１１ａが突設部に対して回転可能な状態で配設される。

【２３８３】

連結部Ｇ７１２は、左側円環部材Ｇ７１０の背面側から立設される立設部Ｇ７１２ａと、その立設部Ｇ７１２ａの立設先端部から左側円環部材Ｇ７１０の背面に沿う方向に屈曲される屈曲部Ｇ７１２ｂとを主に備える。

【２３８４】

立設部Ｇ７１２ａは、左側円環部材Ｇ７１０の背面とベース部材Ｇ６１０との間に進退動作ユニットＧ９００の左側アームユニットＧ９３０を配設するための空間を形成する部分であり、左側アームユニットＧ９３０の本体部材Ｇ９３１の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の厚みよりも背面側（矢印Ｂ方向側）への立設距離が大きく設定される。これにより、左側円環部材Ｇ７１０を本体部材Ｇ９３１よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設することができ、左側円環部材Ｇ７１０の装飾面が本体部材Ｇ９３１に隠れることを抑制できる。なお、上記で説明する左側円環部材Ｇ７１０の背面とは、左側円環部材Ｇ７１０から突出部Ｇ７１１及び連結部Ｇ７１２を除いた部分における左側円環部材Ｇ７１０の背面である。

【２３８５】

屈曲部Ｇ７１２ｂは、円環状に貫通形成される被軸支部Ｇ７１２ｂａと、その被軸支部Ｇ７１２ｂａと異なる位置に一方向に長い溝状に形成される摺動溝Ｇ７１２ｂｂとを主に備えて形成される。

【２３８６】

被軸支部Ｇ７１２ｂａは、左側円環部材Ｇ７１０の回転軸が挿通される貫通孔であり、上述したベース部材Ｇ６１０の棒状部材Ｇ６１１ｍが挿通可能な大きさに貫通形成される（右側の右側円環部材Ｇ７２０はベース部材Ｇ６１０のピン部Ｇ６１２ｎが挿通可能な大きさに貫通形成される）。これにより、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０は、被軸支部Ｇ７１２ｂ１が棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎに軸支されることで、それぞれ棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎを軸に回転可能な状態で配設される。

【２３８７】

摺動溝Ｇ７１２ｂｂは、進退動作ユニットＧ９００の従動ギヤＧ９２５から進退動作ユニットＧ９００から伝達される駆動モータＧ９１０の駆動力が伝達される部分であり、従動ギヤＧ９２５の突設部Ｇ９２５ａ（カラーＧ９２５ｂ）が挿通可能な大きさに形成される（右側円環部材Ｇ７２０には摺動溝Ｇ７２２ｂｂに突設部Ｇ９２８ａ（カラーＧ９２８ｂ）が挿通される）。よって、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０は、駆動モータＧ９１０の駆動力で従動ギヤＧ９２５，Ｇ９２８（カラーＧ９２５ｂ，Ｇ９２８ｂ）が変位されることにより、駆動モータＧ９１０の駆動力が伝達される。

【２３８８】

左側リンク部材Ｇ７３０は、左側円環部材Ｇ７１０の一端側を支持して、左側円環部材Ｇ７１０が前後方向に揺れ動くことを抑制する部材であり、ベース部材Ｇ６１０の左側延設部Ｇ６１２と左側円環部材Ｇ７１０とに連結される。

【２３８９】

左側リンク部材Ｇ７３０は、正面視矩形の板状に形成されると共に、正面視における一端側に長手方向に沿う溝状に形成される溝部Ｇ７３１と、他端側に円環状に貫通形成される貫通孔Ｇ７３２とを主に備える。

【２３９０】

貫通孔Ｇ７３２は、ベース部材Ｇ６１０の正面に対して平行な平面上を左側リンク部材Ｇ７３０が回転可能とするために、左側リンク部材Ｇ７３０の被軸支部となる貫通孔であり、ベース部材Ｇ６１０の正面に対して直交する前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通形成される。

【２３９１】

また、貫通孔Ｇ７３２には、ベース部材Ｇ６１０から前後方向に突設される左側リンク軸支部Ｇ６１２ａが挿通可能に形成される。これにより、左側リンク軸支部Ｇ６１２ａが挿通された状態では、左側リンク軸支部Ｇ６１２ａを軸に左側リンク部材Ｇ７３０が回転可能とされる。

【２３９２】

なお、貫通孔Ｇ７３２の内径と左側リンク軸支部Ｇ６１２ａの外径とは、貫通孔Ｇ７３２に左側リンク軸支部Ｇ６１２ａを挿通可能とする分の若干の隙間を有する大きさに形成される。これにより、左側リンク部材Ｇ７３０が回転した際に、左側リンク部材Ｇ７３０の一端側が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に揺れ動くことを抑制できる。従って、左側リンク部材Ｇ７３０の一端側に連結される左側円環部材Ｇ７１０の一端側が前後方向に揺れ動くことを抑制できる。

【２３９３】

溝部Ｇ７３１は、左側円環部材Ｇ７１０の突出部Ｇ７１１（カラーＧ７１１ａ）が挿通される部分であり、突出部Ｇ７１１と対応する位置に形成されると共に、カラーＧ７１１ａが摺動可能な溝幅に形成される。これにより、棒状部材Ｇ６１１ｍを軸に左側円環部材Ｇ７１０が回転された際に、溝部Ｇ７３１の内縁に沿って突出部Ｇ７１１を変位させることができると共に、貫通孔Ｇ７３２に挿通される左側リンク軸支部Ｇ６１２ａを軸に左側リンク部材Ｇ７３０を回転させることができる。

【２３９４】

次いで、図２０４を参照して、ベース部材Ｇ６１０に対する花弁動作装置Ｇ８００の動作および円環形成ユニットＧ７００の動作について説明する。図２０４（ａ）及び（ｂ）は、演出動作ユニットＧ１０００の正面図である。なお、図２０４（ａ）では、花弁動作装置Ｇ８００及び円環形成ユニットＧ７００が退避位置に配置され、図２０４（ｂ）では、花弁動作装置Ｇ８００及び円環形成ユニットＧ７００が張出位置に配置された状態が図示される。

【２３９５】

また、図２０４（ａ）及び図２０４（ｂ）では、理解を容易とするために、円環形成ユニットＧ７００の外形および摺動溝Ｇ７１２ｂｂ、突出部Ｇ７１１が破線で図示されると共に、ベースユニットＧ６００の左側保持部材Ｇ６２０を透明視した状態で図示される。

【２３９６】

図２０４に示すように、駆動モータＧ９１０の駆動力により駆動ギヤＧ９１１が回転されると、その駆動ギヤＧ９１１に歯合される従動ギヤＧ９２１が回転される。これにより、従動ギヤＧ９２１に歯合されるアーム側従動ギヤＧ９２９が回転され、そのアーム側従動ギヤＧ９２９の回転に伴ってアーム側従動ギヤＧ９２９の突設部Ｇ９２９ａに配設されるカラーＧ９２９ｂがアーム側従動ギヤＧ９２９の回転軸を中心に変位される。

【２３９７】

カラーＧ９２９ｂは、上述したように本体部材Ｇ９３１の摺動溝Ｇ９３１ｂの内縁側を摺動可能に配設される。これにより、カラーＧ９２９ｂが変位されることで駆動モータＧ９１０の駆動力が本体部材Ｇ９３１に伝達され、被軸支部Ｇ９３１ａを軸支する軸支部Ｇ６１１ｊ（図２００参照）を軸として（中心に）本体部材Ｇ９３１が回転される。

【２３９８】

この本体部材Ｇ９３１の回転により、本体部材Ｇ９３１に連結されるスライド板Ｇ９４０（図２００参照）を介して花弁動作装置Ｇ８００が退避位置（図２０４（ａ）に示す位置）から下方（矢印Ｄ方向）に変位され張出位置（図２０４（ｂ）に示す位置）まで変位される。

【２３９９】

なお、花弁動作装置Ｇ８００の背面側に連結されるスライド板Ｇ９４０は、上述したようにスライドレールＧ９５０により変位方向が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に規定される。よって、左側アームユニットＧ９３０の回転変位を直線変位に変換して花弁動作装置Ｇ８００を上下方向に変位させることができる。

【２４００】
　また、花弁動作装置Ｇ８００の正面側ベース部材Ｇ８１０は、一端側（矢印Ｒ方向側）の端部にカラーＧ８１５が配設され、そのカラーＧ８１５が右側保持部材Ｇ６３０と本体板部Ｇ６１１の摺動部Ｇ６１１ｋとの対向間を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に摺動可能な状態で挟まれる。これにより、正面側ベース部材Ｇ８１０が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に揺れ動くことを抑制できる。従って、花弁動作装置Ｇ８００が上下方向に変位される際に花弁動作装置Ｇ８００が前後方向に揺れ動くことを抑制できる。
【２４０１】
　次いで、円環形成ユニットＧ７００の変位について説明する。上述した花弁動作装置Ｇ８００の変位と同様に、駆動モータＧ９１０の駆動力により駆動ギヤＧ９１１が回転されると、駆動ギヤＧ９１１に歯合する従動ギヤＧ９２１が回転される。従動ギヤＧ９２１には、従動ギヤＧ９２２～Ｇ９２８が歯合されるので、従動ギヤＧ９２１が回転されることにより、従動ギヤＧ９２２～Ｇ９２８が連動して回転される。
【２４０２】
　ここで上述したように、従動ギヤＧ９２５，Ｇ９２８には、その回転軸と異なる位置に突設部Ｇ９２５ａ，Ｇ９２８ａが配設されており、従動ギヤＧ９２５，Ｇ９２８が回転されることに伴って突設部Ｇ９２５ａ，Ｇ９２８ａに配設されるカラーＧ９２５ｂ，Ｇ９２８ｂが変位される。
【２４０３】
　カラーＧ９２５ｂ，Ｇ９２８ｂは、円環形成ユニットＧ７００の摺動溝Ｇ７１２ｂｂ，Ｇ７２２ｂｂに挿入されるので、カラーＧ９２５ｂ，Ｇ９２８ｂの変位によりカラーＧ９２５ｂ，Ｇ９２８ｂが摺動溝Ｇ７１２ｂｂ，Ｇ７２２ｂｂの内縁に沿って摺動しつつ、円環形成ユニットＧ７００の左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０に駆動モータＧ９１０の駆動力を伝達する。
【２４０４】
　このように、従動ギヤＧ９２５，Ｇ９２８を介して円環形成ユニットＧ７００に駆動モータＧ９１０の駆動力が伝達されることで、被軸支部Ｇ７１２ｂａ，Ｇ７２２ｂａを軸支する棒状部材Ｇ６１１ｍ，Ｇ６１１ｎを軸として（中心に）円環形成ユニットＧ７００の左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０が回転される。
【２４０５】
　これら左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０の回転により、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０の突出部Ｇ７１１，Ｇ７２１が連結される左側リンク部材Ｇ７３０及び右側リンク部材Ｇ７４０が、貫通孔Ｇ７３２，Ｇ７４２に挿通される左側リンク軸支部Ｇ６１２ａ及び右側リンク軸支部Ｇ６１３ａを軸として回転される。
【２４０６】
　この左側リンク部材Ｇ７３０及び右側リンク部材Ｇ７４０により、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０の回転軸側から離れた位置の左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０をベースユニットＧ６００に連結することができる。これにより、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０が回転された際に、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０の回転軸から離れた位置が回転軸方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に揺れ動くことを抑制できる。その結果、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０の変位を遊技者に視認させやすくできる。
【２４０７】
　なお、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０（円環形成ユニットＧ７００）は、駆動モータＧ９１０の駆動力により、半円環状に形成される装飾面の下方側（矢印Ｄ方向側）端部を中央から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の外側に開いた退避位置（図２０４（ａ）に示す位置）と、半円環状に形成される装飾面の下方側端部を左右方向の中央側に移動させて閉じた（退避位置よりも近づけた状態の）張出位置（図２０４（ｂ）に示す位置）との間で変位可能に形成される。
【２４０８】

また、上述したように、円環形成ユニットＧ７００及び花弁動作装置Ｇ８００は、同じ駆動モータＧ９１０（駆動源）の駆動力により変位可能に構成され、連動するように構成される。よって、円環形成ユニットＧ７００が退避位置に配置された状態では、上述した花弁動作装置Ｇ８００が退避位置に配置される。これにより、演出動作ユニットＧ１０００の背面側に配設される第３図柄表示装置Ｈ８１を遊技者に視認させやすくできる。

【２４０９】

また、円環形成ユニットＧ７００が張出位置に配置された状態では、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０が正面視において１の円環を形成する位置に配置されると共に、花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に配置され、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０により円環を形成した内側に花弁動作装置Ｇ８００が配置される。これにより、円環形成ユニットＧ７００及び花弁動作装置Ｇ８００の演出を合わせて遊技者に視認させやすくできる。その結果、演出効果を向上できる。

【２４１０】

さらに、円環形成ユニットＧ７００及び花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に配置された状態では、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０と花弁動作装置Ｇ８００とが演出動作ユニットＧ１０００の背面側に配設される第３図柄表示装置Ｈ８１（図１２４参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に配置され、左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０と花弁動作装置Ｇ８００とに合わせた表示が第３図柄表示装置Ｈ８１の表示面に表示される。これにより、第３図柄表示装置Ｈ８１と左側円環部材Ｇ７１０及び右側円環部材Ｇ７２０と花弁動作装置Ｈ８００とによる演出効果を向上できる。

【２４１１】

なお、本実施形態では、円環形成ユニットＧ７００及び花弁動作装置Ｇ８００が、同じ駆動モータＧ９１０（駆動源）の駆動力により変位される場合について説明したが、円環形成ユニットＧ７００と花弁動作装置Ｇ８００とで異なる２つの駆動源を備えるように構成しても良い。即ち、円環形成ユニットＧ７００と花弁動作装置Ｇ８００とを別々に変位させるように構成しても良い。この場合、円環形成ユニットＧ７００の変位態様を複数形成することができるので、円環形成ユニットＧ７００及び花弁動作装置Ｇ８００による演出効果を向上できる。

【２４１２】

次いで、図２０５及び図２０６を参照して、花弁動作装置Ｇ８００の全体構成について説明する。図２０５は、花弁動作装置Ｇ８００の分解正面斜視図であり、図２０６は、花弁動作装置Ｇ８００の分解背面斜視図である。

【２４１３】

図２０５及び図２０６に示すように、花弁動作装置Ｇ８００は、正面側に配設される正面側ベース部材Ｇ８１０と、その正面側ベース部材Ｇ８１０の背面側の一部を覆設した状態で配設される背面側ベース部材Ｇ８２０と、正面側ベース部材Ｇ８１０の背面側から軸を正面側に挿通した状態で正面側ベース部材Ｇ８１０の背面側に配設される駆動モータＧ８３０と、その駆動モータＧ８３０に連結され駆動モータＧ８３０の駆動力が伝達されるギヤ列Ｇ８４１～Ｇ８４８と、正面側ベース部材Ｇ８１０の正面側の一部の覆設した状態で正面側ベース部材Ｇ８１０に配設されるカバー部材Ｇ８５０と、正面側ベース部材Ｇ８１０の正面側に配設されると共にギヤ列Ｇ８４１～Ｇ８４８から駆動力が伝達される花回転ユニットＧ４００とを主に備える。なお、本実施形態では、花弁動作装置Ｇ８００の駆動モータＧ８３０を除いた他の部分が主に光を非透過の樹脂材料から成型される。

【２４１４】

正面側ベース部材Ｇ８１０は、正面視略円環の板状に形成される円環部Ｇ８１１と、その円環部Ｇ８１１から径方向外側に突出するアーム部Ｇ８１２とを主に備え、それら円環部Ｇ８１１及びアーム部Ｇ８１２が背面側（矢印Ｂ方向側）を開放した箱状に形成される。なお、背面側が開放した箱状の円環部Ｇ８１１及びアーム部Ｇ８１２は、背面側の空間に後述する従動ギヤＧ８４３～Ｇ８４８を配設可能に形成されており、開放された底面から解放部（背面側端部）までの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における距離が従動ギヤＧ８

４３～Ｇ８４８の歯面の厚みよりも大きく設定される。
【２４１５】
円環部Ｇ８１１には、円環状に形成された内縁に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）に刻設される刻設部Ｇ８１１ａと、背面側（矢印Ｂ方向側）の開放された底面から背面側に向かって円形状に突出される複数の軸支部Ｇ８１１ｂ，Ｇ８１１ｃと、それら軸支部Ｇ８１１ｂ，Ｇ８１１ｃと同様に背面側に向かって円形状に突出される複数の締結部Ｇ８１１ｄ～Ｇ８１１ｆとが形成される。
【２４１６】
また、円環部Ｇ８１１には、円環状に形成された内側に背面側（矢印Ｂ方向側）からカラーＧ８１３が挿入されると共に、後述する従動ギヤＧ８４７の回転位置を検出する検出センサＧ８１４が開放された底面に配設される。
【２４１７】
アーム部Ｇ８１２には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通形成される第１貫通孔Ｇ８１２ａと、その第１貫通孔Ｇ８１２ａの近傍で第１貫通孔Ｇ８１２ａよりも大きい内径で貫通形成される第２貫通孔Ｇ８１２ｂと、その第２貫通孔Ｇ８１２ｂの縁部に沿って背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって円環状に立設される壁部Ｇ８１２ｃと、背面側の開放された底面から背面側に向かって円形状に突出される複数の軸支部Ｇ８１２ｄ，Ｇ８１２ｅと、箱状に形成された側面に略円環状に立設される支持部Ｇ８１２ｆとが形成される。
【２４１８】
刻設部Ｇ８１１ａは、後述する花回転ユニットＧ４００の回転ギヤＧ４２１（図２１０参照）が歯合される歯面であり、歯底が円環部Ｇ８１１の中心から径方向外側に向かって延設されると共に円環状に形成された円環部Ｇ８１１の内縁に沿って歯面が円環状に連なって形成される。
【２４１９】
軸支部Ｇ８１１ｂ，Ｇ８１１ｃ，Ｇ８１２ｄ，Ｇ８１２ｅは、後述する従動ギヤＧ８４６，Ｇ８４８が軸支される部分であり、従動ギヤＧ８４４～Ｇ８４６，Ｇ８４８の軸部と対応する位置に形成される。また、軸支部Ｇ８１１ｂ，Ｇ８１１ｃ，Ｇ８１２ｄ，Ｇ８１２ｅには、背面側（矢印Ｂ方向側）の突出先端に螺子締結用の雌ねじが形成されており、背面側から螺子を締結することにより従動ギヤＧ８４４～Ｇ８４６，Ｇ８４８を正面側ベース部材Ｇ８１０に配設可能とされる。
【２４２０】
なお、軸支部Ｇ８１１ｂ，Ｇ８１２ｄ，Ｇ８１２ｅは、突出先端部が軸支部Ｇ８１１ｃよりも背面側（矢印Ｂ方向側）に位置され、正面側ベース部材Ｇ８１０に背面側ベース部材Ｇ８２０を配設した際に背面側ベース部材Ｇ８２０の正面に軸支部Ｇ８１１ｂ，Ｇ８１２ｄ，Ｇ８１２ｅの突出先端面を当接可能とされる。そして、背面側ベース部材Ｇ８２０の貫通孔Ｇ８２２を背面側から挿通させた螺子を軸支部Ｇ８１１ｂ，Ｇ８１２ｄ，Ｇ８１２ｅの突出先端に締結することにより、従動ギヤＧ８４４～Ｇ８４６を正面側ベース部材Ｇ８１０に配設できると共に、正面側ベース部材Ｇ８１０に背面側ベース部材Ｇ８２０を配設（締結）可能とされる。
【２４２１】
締結部Ｇ８１１ｄ～Ｇ８１１ｆは、背面側ベース部材Ｇ８２０を正面側ベース部材Ｇ８１０に配設するための螺子を締結する部分であり、背面側（矢印Ｂ方向側）の先端に雌ねじが形成される。よって、背面側ベース部材Ｇ８２０の背面側から背面側ベース部材Ｇ８２０の貫通孔Ｇ８２２を挿通させた螺子を締結部Ｇ８１１ｄ～Ｇ８１１ｆに締結することで、正面側ベース部材Ｇ８１０に背面側ベース部材Ｇ８２０を配設（締結）可能とされる。
【２４２２】
即ち、締結部Ｇ８１１ｄ～Ｇ８１１ｆだけでなく、従動ギヤＧ８４４～Ｇ８４６を正面側ベース部材Ｇ８１０に配設するための軸支部Ｇ８１１ｂ，Ｇ８１２ｄ，Ｇ８１２ｅでも正面側ベース部材Ｇ８１０に背面側ベース部材Ｇ８２０が締結される。よって、正面側ベ

ース部材Ｇ８１０に背面側ベース部材Ｇ８２０を締結するための締結部を少なくすることができる。

【２４２３】

第１貫通孔Ｇ８１２ａは、駆動モータＧ８３０の駆動軸を挿通するための挿通孔であり、駆動モータＧ８３０の軸が回転した際に内周面に駆動モータＧ８３０の軸が当接しない程度の内径に形成される。

【２４２４】

第２貫通孔Ｇ８１２ｂは、従動ギヤＧ８４３の連結部Ｇ８４３ａを挿通させて、正面側ベース部材Ｇ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される従動ギヤＧ８２と正面側ベース部材の背面側に配設される従動ギヤＧ８４２とを連結するための貫通孔であり、従動ギヤＧ８４３の連結部Ｇ８４３ａの外径よりも若干大きな内径に形成される。

【２４２５】

また、第２貫通孔Ｇ８１２ｂに沿って正面側ベース部材Ｇ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって壁部Ｇ８１２ｃが立設される。これにより、第２貫通孔Ｇ８１２ｂに対して連結部Ｇ８４３ａがぶれることを抑制できる。その結果、従動ギヤＧ８４２，Ｇ８４３に歯合される駆動ギヤＧ８４１及び従動ギヤＧ８４４の歯合状態を安定させることができる。

【２４２６】

支持部Ｇ８１２ｆは、アーム部Ｇ８１２の右側（矢印Ｒ方向）側の側面から右側に向かって円環状に突出して形成され、外周側にカラーＧ８１５が配設される。これにより、カラーＧ８１５が支持部Ｇ８１２ｆに対して回転可能な状態で支持される。

【２４２７】

なお、カラーＧ８１５は、上述したようにベースユニットＧ６００の摺動部Ｇ６１１ｋと右側保持部材Ｇ６３０との対向間に小径部が配設されると共に、大径部が摺動部Ｇ６１１ｋと右側保持部材Ｇ６３０との対向間の外側に配設される。これにより、カラーＧ８１５が摺動部Ｇ６１１ｋと右側保持部材Ｇ６３０との対向間を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に摺動可能とされる。

【２４２８】

背面側ベース部材Ｇ８２０は、正面側ベース部材Ｇ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される従動ギヤＧ８４３～Ｇ８４８の背面側を覆って、従動ギヤＧ８４３～Ｇ８４８の背面側への移動を規制する部材であり、従動ギヤＧ８４３～Ｇ８４８の背面側を覆設可能な大きさに形成される。

【２４２９】

また、背面側ベース部材Ｇ８２０には、正面側ベース部材Ｇ８１０の円環部Ｇ８１１の正面視における中心と対応する位置に背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって凹設される凹部Ｇ８２１と、背面側ベース部材Ｇ８２０を正面側ベース部材Ｇ８１０に配設するための螺子を挿通する複数の貫通孔Ｇ８２２とが形成される。

【２４３０】

凹部Ｇ８２１は、後述する花回転ユニットＧ４００の棒部材Ｇ４５１の背面側（矢印Ｂ方向側）端部（Ｄ字カット部Ｇ４５１ａ）を挿入するための凹みであり、棒部材Ｇ４５１の背面側端部のＤ形状の外形と略同一の内形に形成される。

【２４３１】

駆動モータＧ８３０は、後述する花回転ユニットＧ４００の駆動源である。また、上述したように駆動モータＧ８３０は、正面側ベース部材Ｇ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）から第１貫通孔Ｇ８１２ａを介して駆動軸を正面側（矢印Ｆ方向側）に突出させた状態で配設される。

【２４３２】

また、駆動モータＧ８３０は、背面側（矢印Ｂ方向側）が開放する箱状に形成される正面側ベース部材Ｇ８１０の底面に配設される。これにより、駆動モータＧ８３０の背面側への突出距離を抑えることができ、花弁動作装置Ｇ８００（駆動モータＧ８３０）が背面

側に部分的に突出することを抑制できる。
【２４３３】
駆動ギヤＧ８４１は、駆動モータＧ８４０の駆動軸に連結されるギヤであり、正面側ベース部材Ｇ８１０の正面側で駆動モータＧ８４０の駆動軸に連結される。また、駆動ギヤＧ８４１は、従動ギヤＧ８４２に歯合されており、駆動ギヤＧ８４１が回転することにより従動ギヤＧ８４２を回転させることができる。
【２４３４】
従動ギヤＧ８４２は、上述したように従動ギヤＧ８４３から正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突出する連結部Ｇ８４３ａを介して、正面側ベース部材Ｇ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される従動ギヤＧ８４３と連結される。これにより、従動ギヤＧ８４２が回転されることに伴って従動ギヤＧ８４３を回転させることができる。また、従動ギヤＧ８４３は、それぞれ順に歯合される従動ギヤＧ８４４～Ｇ８４８の従動ギヤＧ８４４に歯合される。
【２４３５】
よって、駆動モータＧ８４０の駆動力により駆動ギヤＧ８４１が回転されると、従動ギヤＧ８４２～Ｇ８４７を介して駆動モータＧ８４０の駆動力が終端の従動ギヤＧ８４８まで伝達される。
【２４３６】
なお、終端の従動ギヤＧ８４８は、後述する花回転ユニットＧ４００の花弁側伝達部材Ｇ４３０に連結される従動ギヤＧ８４７の回転位置を検出するためのギヤであり、背面側の端部に径方向外側に突出する板状の被検出部Ｇ８４８ａを備える。この被検出部Ｇ８４８ａが、正面側ベース部材Ｇ８１０に配設される検出センサＧ８１４の検出光を遮ることで、従動ギヤＧ８４７の回転位置を検出可能とされる。
【２４３７】
また、従動ギヤＧ８４７には、花回転ユニットＧ４００の花弁側伝達部材Ｇ４３０に従動ギヤＧ８４７を締結するための螺子を挿通可能な貫通孔Ｇ８４７ａが複数個形成されており、これにより従動ギヤＧ８４７と花回転ユニットＧ４００（花弁側伝達部材Ｇ４３０）とが締結される。従って、従動ギヤＧ８４７が回転されることに伴って花回転ユニットＧ４００に駆動モータＧ８３０の駆動力を伝達することができる。また、従動ギヤＧ８４７と花回転ユニットＧ４００とが締結されるので、上述したように従動ギヤＧ８４８の被検出部Ｇ８４８ａと検出センサＧ８１４とにより従動ギヤＧ８４７の回転位置を検出できる。従って、花回転ユニットＧ４００の回転位置を検出センサＧ８１４により検出可能とされる。なお、花回転ユニットＧ４００についての詳しい説明は後述する。
【２４３８】
カバー部材Ｇ８５０は、正面側ベース部材Ｇ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される駆動ギヤＧ８４１及び従動ギヤＧ８４２を正面側から視認不能にするための部材であり、光を非透過の樹脂材料から形成されると共に正面視において駆動ギヤＧ８４１及び従動ギヤＧ８４２の正面側を覆う状態で正面側ベース部材Ｇ８１０の正面側に配設される。
【２４３９】
次いで、図２０７から図２０９を参照して、花回転ユニットＧ４００について説明する。図２０７（ａ）は、花回転ユニットＧ４００の正面図であり、図２０７（ｂ）は、図２０７（ａ）のＸ２５ｂ線における花回転ユニットＧ４００の断面図であり、図２０８は、花回転ユニットＧ４００の分解正面斜視図であり、図２０９は、花回転ユニットＧ４００の分解背面斜視図である。なお、以下の説明では、理解を容易とするために、第１回転ベースＧ４１０、第１装飾ユニットＧ４２０、花弁側伝達部材Ｇ４３０、第２回転ベースＧ４６０、第２装飾ユニットＧ４８０の正面視における中央の（棒部材Ｇ４５１を軸（中心）とする）回転軸を軸ＧＯの符号を付して２点鎖線で図示している。
【２４４０】
なお、花回転ユニットＧ４００は、第１装飾ユニットＧ４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０が変位可能に構成され、それら第１装飾ユニットＧ４２０及び第２装飾ユニットＧ

４８０の変位により花回転ユニットＧ４００が変位可能に構成される。また、第１装飾ユニットＧ４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０は、振動または動作可能に構成され、それら第１装飾ユニットＧ４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０の振動または動作により花回転ユニットＧ４００が振動または動作可能に構成される。

【２４４１】

図２０７から図２０９に示すように、花回転ユニットＧ４００は、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第１回転ベースＧ４１０と、その第１回転ベースＧ４１０の正面視における周囲を取り囲む態様で第１回転ベースＧ４１０の周囲に複数個配設される第１装飾ユニットＧ４２０と、第１回転ベースＧ４１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される花弁側伝達部材Ｇ４３０と、その花弁側伝達部材Ｇ４３０の正面側に配設される第１固定ユニットＧ４５０と、その第１固定ユニットＧ４５０の背面側に配設され光を発光可能に構成される基板部材Ｇ４４０と、第１固定ユニットＧ４５０の正面側に配設される第２回転ベースＧ４６０と、第２回転ベースＧ４６０の正面側に配設される第２固定ユニットＧ４７０と、その第２固定ユニットＧ４７０の正面側に配設される第２装飾ユニットＧ４８０とを主に備えて形成される。

【２４４２】

なお、第８実施形態における花回転ユニットＧ４００は、主に樹脂材料から形成されると共に、光を透過可能な材料から形成され、基板部材Ｇ４４０から出射される光を正面側（矢印Ｆ方向側）に透過可能に構成される。

【２４４３】

また、第８実施形態における花回転ユニットＧ４００では、第１回転ベースＧ４１０の周囲に５個の第１装飾ユニットＧ４２０が配設されるが、第１装飾ユニットＧ４２０の個数は５個以外の個数であっても良い。さらに、第１装飾ユニットＧ４２０は、第１回転ベースＧ４１０の周囲に等間隔で配設されるものでなくても良く、不等間隔で第１回転ベースＧ４１０の周囲に配設されるものであっても良い。

【２４４４】

第１固定ユニットＧ４５０は、背面側ベース部材Ｇ８２０の凹部Ｇ８２１に背面側（矢印Ｂ方向側）の先端が挿入されて背面側ベース部材Ｇ８２０と螺合される棒状の棒部材Ｇ４５１と、その棒部材Ｇ４５１の正面側（矢印Ｆ方向側）の先端に配設される円盤状の固定部材Ｇ４５２とを主に備えて形成される。

【２４４５】

棒部材Ｇ４５１は、金属製の材料から形成され、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の長さを有する円柱形状に形成される。また、棒部材Ｇ４５１は、前後方向の両側端に外周面の一部を凹設したＤ字カット部Ｇ４５１ａを備えており、上端の外縁形状がＤ字形状に形成される。また、背面側の端部が挿入される背面側ベース部材Ｇ８２０の凹部Ｇ８２１と、正面側の端部が挿入される固定部材Ｇ４５２の貫通孔Ｇ４５２ｅとの内縁形状は、棒部材Ｇ４５１の両端部の外縁形状に対応したＤ字形状に形成される。これにより、棒部材Ｇ４５１が、背面側ベース部材Ｇ８２０及び固定部材Ｇ４５２に対して回転することが規制され、背面側ベース部材Ｇ８２０に対して固定部材Ｇ４５２の相対位置が規定（固定）される。

【２４４６】

固定部材Ｇ４５２は、正面視（矢印Ｂ方向視）において略円形の板状に形成されると共に、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される基板部材Ｇ４４０よりも正面視における外形が大きく形成される。また、固定部材Ｇ４５２は、全体が光を透過可能な透明な樹脂材料から形成される。これにより、背面側に配設される基板部材Ｇ４４０のＬＥＤＧ４４１の光を透過して外側に出射可能とされる。

【２４４７】

また、固定部材Ｇ４５２は、正面視における略中央部に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通する貫通孔Ｈ４５２ｅと、背面側（矢印Ｂ方向側）の一面に正面側に向かって凹設される収容凹部Ｇ４５２ａと、その収容凹部Ｇ４５２ａの凹設底面に形成される雌ねじの締

結孔Ｇ４５２ｂと、正面側の一面に背面側に向かって凹設される３箇所の凹設部Ｇ４５２ｃと、基板部材Ｇ４４０に接続される配線（図示しない）を挿通するための開口部Ｇ４５２ｄとを主に備える。

【２４４８】

収容凹部Ｇ４５２ａは、固定部材Ｇ４５２の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される基板部材Ｇ４４０を内側に収容するための凹部であり、基板部材Ｇ４４０の外形と対応した円形状で背面側から正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって凹設される。なお、収容凹部Ｇ４５２ａの正面側における凹設深さは、基板部材Ｇ４４０の板厚よりも大きく設定される。これにより、基板部材Ｇ４４０は、固定部材Ｇ４５２の内側に収容した状態で配設される。

【２４４９】

締結孔Ｇ４５２ｂは、基板部材Ｇ４４０を固定部材Ｇ４５２の背面側に固定するための螺子を締結するための雌ねじであり、基板部材Ｇ４４０を挿通した螺子が螺合される。これにより、基板部材Ｇ４４０が固定部材Ｇ４５２の背面側に固定される。

【２４５０】

凹設部Ｇ４５２ｃは、後述する第２固定ユニットＧ４７０のカラーＧ４７６ａを収容するための凹部であり、中央に螺子を挿通するための貫通孔が形成される。カラーＧ４７６ａを凹設部Ｇ４５２ｃに収容した状態で、凹設部Ｇ４５２ｃに背面側から挿通した螺子を第２固定ユニットＧ４７０に螺合することで、固定部材Ｇ４５２（第１固定ユニットＧ４５０）と第２固定ユニットＧ４７０とが締結固定される。

【２４５１】

なお、カラーＧ４７６ａは、第１固定ユニットＧ４５０（固定部材Ｇ４５２）と第２固定ユニットＧ４７０との間に配設される第２回転ベースＧ４６０を回転可能な状態で保持するための部材であり、中央に貫通孔が形成される円盤状に形成される第２回転ベースＧ４６０の円盤部Ｇ４６１の貫通孔の内縁に沿って（当接した状態で）等間隔に３箇所に配設される。これにより、第１固定ユニットＧ４５０及び第２固定ユニットＧ４７０に対して第２回転ベースＧ４６０が軸ＧＯを中心に相対回転可能な状態で配設される。

【２４５２】

基板部材Ｇ４４０は、発光手段となるＬＥＤ（発光ダイオード）Ｇ４４１が配設される基板であり、正面側（矢印Ｆ方向側）にＬＥＤＧ４４１が複数個（本実施形態では１３個）分散配置されると共に、背面側（矢印Ｂ方向側）にＬＥＤＧ４４２が複数個（本実施形態では１５個）分散配置される。なお、ＬＥＤＧ４４１は、正面側および軸ＧＯから離間する方向に向けて光を照射可能に配設され、ＬＥＤＧ４４２は、背面側および軸ＧＯから離間する方向に向けて光を照射可能に配設される。

【２４５３】

また、基板部材Ｇ４４０には、固定部材Ｇ４５２の凹設部Ｇ４５２ｃと対応する位置の３か所に開口部Ｇ４４３が開口形成される。これにより、基板部材Ｇ４４０を第１固定ユニットＧ４５０に配設した状態で、凹設部Ｇ４５２ｃに基板部材Ｇ４４０側（背面側）から螺子を挿通させることができる。

【２４５４】

さらに、開口部Ｇ４４３を利用してＬＥＤＧ４４１，Ｇ４４２の発光（特に、固定部材Ｇ５０との対向間に配設される正面側（矢印Ｆ方向側）のＬＥＤＧ４４１の発光）で基板部材Ｇ４４０に溜まる熱を放熱することができる。その結果、基板部材Ｇ４４０が破損することを抑制できる。

【２４５５】

花弁側伝達部材Ｇ４３０は、正面視（矢印Ｂ方向視）において略円形状の板状に形成される伝達部Ｇ４３１と、その伝達部Ｇ４３１の背面側（矢印Ｂ方向側）から円柱状に突出する軸支部Ｇ４３２とを主に備え、全体が光を透過可能な樹脂材料から形成される。また、伝達部Ｇ４３１と軸支部Ｇ４３２との中心部には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口する被挿通部Ｇ４３３が形成される。

【２４５６】

伝達部Ｇ４３１は、正面視（矢印Ｂ方向視）において湾曲状に開口形成される摺動溝Ｇ４３１ａが周方向に５か所に形成され、被挿通部Ｇ４３３により中心が開口した円環形状に形成される。また、円環形状に形成された伝達部Ｇ４３１の正面視における外径は、花弁側伝達部材Ｇ４３０の正面側に配設される第２回転ベースＧ４６０の円盤部Ｇ４６１の外径よりも若干小さく形成される。即ち、花弁側伝達部材Ｇ４３０は、第２回転ベースＧ４６０の背面側に重なる大きさに設定される。

【２４５７】

摺動溝Ｇ４３１ａは、後述する第１装飾ユニットＧ４２０の摺動部Ｇ４２５ａが挿通される部分であり、溝幅が摺動部Ｇ４２５ａよりも若干大きく形成される。また、摺動溝Ｇ４３１ａは、径方向内側の内側端部Ｇ４３１ａ１（図２１３（ａ）参照）から径方向外側の外側端部Ｇ４３１ａ２（図２１３（ａ）参照）に向かうに従って、反時計回りの湾曲形状に形成される。これにより、伝達部Ｇ４３１（花弁側伝達部材Ｇ４３０）の回転に伴って、摺動溝Ｇ４３１ａに挿通される摺動部Ｇ４２５ａを摺動させて、第１装飾ユニットＧ４２０を変位させることができる。

【２４５８】

また、摺動溝Ｇ４３１ａは、正面視において湾曲して形成される摺動溝Ｇ４３１ａの内側の内面の第１摺動面Ｇ４３１ａ３により、摺動溝Ｇ４３１ａに挿通される摺動部Ｇ４２５ａを軸ＧＯから径方向外側に押し出すことができると共に、正面視において湾曲して形成される摺動溝Ｇ４３１ａの外側の内面の第２摺動面Ｇ４３１ａ４により、摺動溝Ｇ４３１ａに挿通される摺動部Ｇ４２５ａを軸ＧＯに向かって径方向内側に押し出すことができる。なお、第１装飾ユニットＧ４２０（摺動部Ｇ４２５ａ）の変位についての詳しい説明は後述する。

【２４５９】

軸支部Ｇ４３２は、正面側ベース部材Ｇ８１０と背面側ベース部材Ｇ８２０との対向間に配設される従動ギヤＧ８４７（図２０５参照）に締結される部分であり、背面側（矢印Ｂ方向側）の端部に締結孔Ｇ４３２ａが形成され、その締結孔Ｇ４３２ａに従動ギヤＧ８４７の貫通孔Ｇ８４７ａを挿通した螺子が螺合される。これにより、従動ギヤＧ８４７と軸支部Ｇ４３２とが締結され、従動ギヤＧ８４７の回転に伴って花弁側伝達部材Ｇ４３０を回転させることができる。

【２４６０】

また、軸支部Ｇ４３２は、円環状の外径が正面側ベース部材Ｇ８１０のカラーＧ８１３（図２０５参照）の内径よりも小さく形成され、正面側ベース部材Ｇ８１０に対して回転可能な状態で配設される。

【２４６１】

被挿通部Ｇ４３３は、上述した花弁動作装置Ｇ８００の正面側ベース部材Ｇ８１０と背面側ベース部材Ｇ８２０（図２０５参照）との対向間に挿通される配線（図示しない）を花回転ユニットＧ４００の内側に通すための空間であり、前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通形成される。これにより、第１回転ベースＧ４１０、花弁側伝達部材Ｇ４３０、及び、第１固定ユニットＧ４５０の間に配設される基板部材Ｇ４４０に配線を繋ぐことができる。

【２４６２】

第１回転ベースＧ４１０は、正面側（矢印Ｆ方向側）に円盤状に形成される溝形成部Ｇ４１１と、その溝形成部Ｇ４１１の背面側（矢印Ｂ方向側）に円環状に突出する軸形成部Ｇ４１２と、それら溝形成部Ｇ４１１及び軸形成部Ｇ４１２の中心を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成される被軸支部Ｇ４１３とを主に備える。なお、本実施形態では、第１回転ベースＧ４１０の溝形成部Ｇ４１１と軸形成部Ｇ４１２とは、それぞれ異なる２の部材から形成され、溝形成部Ｇ４１１が光を透過可能な樹脂材料から形成されると共に軸形成部Ｇ４１２が光を非透過の樹脂材料から形成される。

【２４６３】

溝形成部Ｇ４１１は、正面視において軸ＧＯから径方向外側に向かって延設して形成される第２摺動溝Ｇ４１１ａと、正面視における径方向外側の外縁部に所定の間隔で貫通形

成される螺子挿通部Ｇ４１１ｂとを主に備え、被軸支部Ｇ４１３により中心が開口した円環形状に形成される。

【２４６４】

第２摺動溝Ｇ４１１ａは、後述する第１装飾ユニットＧ４２０の摺動部Ｇ４２５ａが挿通される部分であり、溝幅が摺動部Ｇ４２５ａよりも若干大きく形成される。また、第２摺動溝Ｇ４１１ａは、径方向内側の端部から径方向外側の端部に向かって直線状に形成される。即ち、上述した摺動溝Ｇ４３１ａと異なる溝形状に形成される。これにより、摺動部Ｇ４２５ａが摺動溝Ｇ４３１ａの変位に伴って摺動される際に、摺動部Ｇ４２５ａを第２摺動溝Ｇ４１１ａに沿って変位させることができる（摺動部Ｇ４２５ａを摺動溝Ｇ４３１ａと第２摺動溝Ｇ４１１ａとに沿って変位させることができる）。

【２４６５】

螺子挿通部Ｇ４１１ｂは、第１回転ベースＧ４１０と第２回転ベースＧ４６０とを締結するための螺子を挿通するための挿通孔である。第１回転ベースＧ４１０の背面側（矢印Ｂ方向側）から螺子挿通部Ｇ４１１ｂに挿通させた螺子を第２回転ベースＧ４６０の螺子締結部Ｇ４６５に螺合させることで、第１回転ベースＧ４１０と第２回転ベースＧ４６０とを締結できる。即ち、第１回転ベースＧ４１０と第２回転ベースＧ４６０とは一体となって回転可能に構成される。

【２４６６】

軸形成部Ｇ４１２は、被軸支部Ｇ４１３により中心が開口する円環状に形成される。また、軸形成部Ｇ４１２は、円環状に形成される外周面から径方向外側に円柱状に突出する装飾側軸部Ｇ４１２ａを備える。

【２４６７】

装飾側軸部Ｇ４１２ａは、後述する第１装飾ユニットＧ４２０の回転ギヤＧ４２１を軸支する部分であり、軸形成部Ｇ４１２の周方向に所定の間隔で５個（第１装飾ユニットＧ４２０の配設個数）形成され、回転ギヤＧ４２１の第１被軸支部Ｇ４２１ａよりも若干小さい外径に形成されると共に、突出先端側に回転ギヤＧ４２１を螺子止めするための雌ねじが形成される。

【２４６８】

被軸支部Ｇ４１３は、花弁側伝達部材Ｇ４３０の軸支部Ｇ４３２が挿入される部分であり、軸支部Ｇ４３２の外径よりも若干大きい内径の円環形状に形成される。これにより、第１回転ベースＧ４１０に対して花弁側伝達部材Ｇ４３０の姿勢を維持した状態で回転させることができる。

【２４６９】

第２回転ベースＧ４６０は、正面視略円環状に形成される円盤部Ｇ４６１と、その円盤部Ｇ４６１の内周縁に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって立設される正面側立設部Ｇ４６２と、その正面側立設部Ｇ４６２の内周面に刻設される複数の歯Ｇ４６３と、円盤部Ｇ４６１の外周縁に沿って背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって立設される背面側立設部Ｇ４６４と、その背面側立設部Ｇ４６４の立設先端部の一部の複数個所（本実施形態では５か所）から背面側に向かって突出される螺子締結部Ｇ４６５とを主に備えて形成され、全体が光を透過可能な樹脂材料から形成される。

【２４７０】

円盤部Ｇ４６１は、正面視略円盤形状に形成される外径が第１固定ユニットＧ４５０の固定部材Ｇ４５２の外径よりも大きく形成される。また、背面側立設部Ｇ４６４の背面側（矢印Ｂ方向側）への立設距離は、第１固定ユニットＧ４５０の固定部材Ｇ４５２の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における厚みよりも大きく設定される。これにより、第２回転ベースＧ４６０の円盤部Ｇ４６１と背面側立設部Ｇ４６４とにより形成される空間の内側に第１固定ユニットＧ４５０の固定部材Ｇ４５２を配設することができる（図２０６（ｂ）参照）。

【２４７１】

正面側立設部Ｇ４６２は、外周面に周方向に沿って所定の間隔で凹設される係合凹部Ｇ

４６２ａ（図２１９（ａ）参照）を備える。係合凹部Ｇ４６２ａは、後述する第２固定ユニットＧ４７０の係合片Ｇ４７７ｂが係合される部分であり、正面側立設部Ｇ４６２の外周面に軸ＧＯ側に向かって凹設され、その凹設面が周方向の一方側と他方側とで異なる形状に形成される。なお、係合凹部Ｇ４６２ａについての詳しい説明は後述する。

【２４７２】

歯Ｇ４６３は、後述する第２固定ユニットＧ４７０に配設される第１従動ギヤＧ４７４ａ，抵抗ギヤＧ４７５ｂの歯が歯合される部分であり、円盤部Ｇ４６１の内周縁に沿って全周に亘って形成される。これにより、第２回転ベースＧ４６０が回転されることに伴って第２固定ユニットＧ４７０に配設される第１従動ギヤＧ４７４ａ，抵抗ギヤＧ４７５ｂを回転させることができる。

【２４７３】

なお、歯Ｇ４６３は、正面側立設部Ｇ４６２の内周面に凹設して形成されており、円盤部Ｇ４６１の内周面に非形成とされる。円盤部Ｇ４６１には歯Ｇ４６３を非形成とすることにより、円盤部Ｇ４６１の内周面を摺動面として利用することができ、カラーＧ４７６ａを円盤部Ｇ４６１の内周面に沿って配置することで、第２固定ユニットＧ４７０に対して第２回転ベースＧ４６０を回転させることができる。

【２４７４】

背面側立設部Ｇ４６４は、外周面に凹凸状に形成される光拡散部Ｇ４６４ａが形成される。また、上述したように、第２回転ベースＧ４６０の円盤部Ｇ４６１と背面側立設部Ｇ４６４とにより形成される空間の内側に第１固定ユニットＧ４５０の固定部材Ｇ４５２が配設されるので、固定部材Ｇ４５２を介して固定部材Ｇ４５２に配設される基板部材Ｇ４４０のＬＥＤＧ４４１から出射される光を第１固定ユニットＧ４５０に入射させやすくできる。この場合、背面側立設部Ｇ４６４に光拡散部Ｇ４６４ａが形成されるので、第２回転ベースＧ４６０に入射されたＬＥＤＧ４４１の光を光拡散部Ｇ４６４ａにより径方向外側に向かって拡散して出射させることができる。

【２４７５】

螺子締結部Ｇ４６５は、上述したように第１回転ベースＧ４１０の螺子挿通部Ｇ４１１ｂを挿通させた螺子を締結する部分であり、背面側（矢印Ｂ方向側）の端部に雌ねじが形成される。これにより、第１回転ベースＧ４１０と第２回転ベースＧ４６０とが締結され、第１回転ベースＧ４１０と第２回転ベースＧ４６０とを軸ＧＯを中心に一体に回転可能に構成される。

【２４７６】

第２固定ユニットＧ４７０は、正面視円環状に形成される正面側光拡散部Ｇ４７１と、その正面側光拡散部Ｇ４７１の外周縁から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって立設される側面側光拡散部Ｇ４７２と、を主に備えて形成され、全体が光を透過可能な樹脂材料から形成される。

【２４７７】

正面側光拡散部Ｇ４７１は、背面側から入射されるＬＥＤＧ４４１の光を正面側に拡散して出射するための光拡散部であり、正面側が凹凸状に形成される。側面側光拡散部Ｇ４７２は、その側面側光拡散部Ｇ４７２の径方向内側から入射される光を径方向外側に拡散して出射するための光拡散部であり、外周面が凹凸状に形成される。これら正面側光拡散部Ｇ４７１及び側面側光拡散部Ｇ４７２により、基板部材Ｇ４４０の光を花回転ユニットＧ４００の正面側および正面視における花回転ユニットＧ４００の周囲に拡散することができる。

【２４７８】

また、正面側光拡散部Ｇ４７１は、正面視（矢印Ｂ方向視）における中央部（軸ＧＯ側）に円形に形成される開口部Ｇ４７３と、背面側（矢印Ｂ方向側）から円柱状に突出するギヤ保持部Ｇ４７４と、背面側から円柱状に突出する３か所のカラー保持部Ｇ４７６と、背面側を凹設して形成される凹部Ｇ４７５とを主に備える。

【２４７９】

開口部Ｇ４７３は、第２装飾ユニットＧ４８０を転可能に保持するためのカラーＧ４７６ａが挿入される開口であり、カラーＧ４７６ａの小径部よりも若干小さい内径に形成される。なお、カラーＧ４７６ａには、第２装飾ユニットＧ４８０の連結部Ｇ４８１がカラーＧ４７６ａの内周面と若干の隙間を有した状態で挿入される。また、カラーＧ４７６ａに挿入された連結部Ｇ４８１の先端は、第２固定ユニットＧ４７０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第２従動ギヤＧ４７３ｂの側面に締結固定される。これにより、第２固定ユニットＧ４７０に対して第２装飾ユニットＧ４８０が回転可能な状態で保持される。

【２４８０】

ギヤ保持部Ｇ４７４は、後述する第１従動ギヤＧ４７４ａを軸支する部分であり、第１従動ギヤＧ４７４ａの内径よりも若干小さな外径に形成される。なお、第１従動ギヤＧ４７４ａは、第２回転ベースＧ４６０の歯Ｇ４６３に歯合される。従って、第２固定ユニットＧ４７０に対して、第２回転ベースＧ４６０が回転されると、その第２回転ベースＧ４６０の回転に伴って第１従動ギヤＧ４７４ａが回転される。

【２４８１】

また、第１従動ギヤＧ４７４ａには、第２装飾ユニットＧ４８０に締結固定される第２従動ギヤＧ４７３ｂが歯合されており、第１従動ギヤＧ４７４ａの回転に伴って第２従動ギヤＧ４７３ｂが回転可能とされる。即ち、第２回転ベースＧ４６０が第２固定ユニットＧ４７０に対して回転されると、第２装飾ユニットＧ４８０が第２回転ベースＧ４６０の回転方向と反対方向に回転される。

【２４８２】

カラー保持部Ｇ４７６は、第２回転ベースＧ４６０を回転可能に保持するためのカラーＧ４７６ａが配設される突起であり、カラーＧ４７６ａの内径よりも若干小さい外径に形成される。また、カラーＧ４７６ａは、第２回転ベースＧ４６０の円盤部Ｇ４６１の内周面に沿って（円盤部Ｇ４６１の内縁側に）配置される。これにより、第２固定ユニットＧ４７０に対して第２回転ベースＧ４６０を回転可能な状態で配設できる。

【２４８３】

さらに、カラーＧ４７６ａは、第１固定ユニットＧ４５０の凹設部Ｇ４５２ｃに背面側の大径部が収容される。また、カラーＧ４７６ａの内側に配置されるカラー保持部Ｇ４７６には、凹設部Ｇ４５２ｃを挿通した螺子が締結される。これにより、第１固定ユニットＧ４５０と第２固定ユニットＧ４７０とが締結固定される。

【２４８４】

凹部Ｇ４７５は、第２回転ベースＧ４６０が第２固定ユニットＧ４７０に対して回転しすぎることを抑制するために第２回転ベースＧ４６０の回転に抵抗を付与する抵抗手段Ｇ４７５ａが配設される凹部であり、抵抗手段Ｇ４７５ａと対応する大きさに凹設される。

【２４８５】

また、抵抗手段Ｇ４７５ａには、抵抗ギヤＧ４７５ｂが回転可能な状態で軸支されると共に、その抵抗ギヤＧ４７５ｂの歯が第２回転ベースＧ４６０の歯Ｇ４６３に歯合する位置に配設される。よって、第２回転ベースＧ４６０が第２固定ユニットＧ４７０に対して回転する場合に、抵抗ギヤＧ４７５ｂが回転される。抵抗ギヤＧ４７５ｂには抵抗手段Ｇ４７５ａから一定の回転抵抗が作用されるので、第２固定ユニットＧ４７０に対して第２回転ベースＧ４６０が回転する際に、第２回転ベースＧ４６０に抵抗手段Ｇ４６５ａから一定の回転抵抗が作用される。これにより、第２回転ベースＧ４６０が駆動モータＧ８３０の駆動力が切断された後も、その慣性力によって回転が継続されることを抑制できる。即ち、駆動モータＧ８３０の駆動力を切断持に第２回転ベースＧ４６０の回転を停止することができる。

【２４８６】

また、第２固定ユニットＧ４７０の背面側（矢印Ｂ方向側）には、逆回転規制ユニットＧ４７７が配設される。逆回転規制ユニットＧ４７７は、背面側カバーＧ４７７ａと、その背面側カバーＧ４７７ａに回転可能な状態で支持される係合片Ｇ４７７ｂと、係合片Ｇ４７７ｂを付勢するねじりバネＧ４７７ｃとを主に備えて形成される。

【２４８７】
係合片Ｇ４７７ｂは、正面視略矩形の板状に形成されると共に、第２回転ベースＧ４６０の正面側立設部Ｇ４６２の外周面に当接可能な状態で配設される。また、係合片Ｇ４７７ｂは、第２回転ベースＧ４６０の外周面に対して所定の位置で係合可能とされ、この係合により、第２回転ベースＧ４６０の第２固定ユニットに対する所定の方向（矢印ＧＬ方向（図２１９参照））への回転が規制される。なお、係合片Ｇ４７７ｂと正面側立設部Ｇ４６２との係合について詳しい説明は後述する。
【２４８８】
第２装飾ユニットＧ４８０は、正面視において略円形、詳細には花を模した形状に形成され、全体が光を透過可能な樹脂材料から形成される。また、第２装飾ユニットＧ４８０には、光を透過可能な塗料により、正面側に塗装が施される。よって、第２装飾ユニットＧ４８０は、背面側から入射する光を正面側に透過可能とされる。
【２４８９】
また、第２装飾ユニットＧ４８０は、背面側の中央部に突出する連結部Ｇ４８１を備える。連結部Ｇ４８１は、上述したように、第２固定ユニットＧ４７０のカラーＧ４７６ａに挿入されと共に、第２固定ユニットＧ４７０の第２従動ギヤＧ４７３ｂに締結される部分であり、カラーＧ４７６ａの内周面と若干の隙間を有する大きさに形成される。これにより、第２装飾ユニットＧ４８０は、連結部Ｇ４８１を軸に（軸ＧＯを中心に）第２固定ユニットＧ４７０に対して回転可能とされる。
【２４９０】
なお、第８実施形態における第２装飾ユニットＧ４８０は、正面視において略円形に形成されるが、角形状や異形状に形成されるものであっても良い。また、第２装飾ユニットＧ４８０は、光を透過可能な樹脂材料から形成されるものではなく、正面側（矢印Ｆ方向側）側面および背面側（矢印Ｂ方向側）の側面に光を反射する装飾が施され、光を非透過に形成されるものであっても良い。
【２４９１】
次いで、図２１０を参照して、第１装飾ユニットＧ４２０について説明する。図２１０（ａ）は、図２０７（ａ）のＹ２５ａ方向視における第１装飾ユニットＧ４２０の側面図であり、図２１０（ｂ）は、第１装飾ユニットＧ４２０の分解正面斜視図である。
【２４９２】
なお、以下の説明では、図２１０（ａ）に示す状態の第１装飾ユニットＧ４２０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図２１０（ａ）に示す状態の第１装飾ユニットＧ４２０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側として、それぞれ説明する。
【２４９３】
図２１０に示すように、第１装飾ユニットＧ４２０は、ギヤ歯が形成される回転ギヤＧ４２１と、その回転ギヤＧ４２１に連結される第１継手部材Ｇ４２２と、その第１継手部材Ｇ４２２に配設される変位ユニットＧ４２６と、第１継手部材Ｇ４２２と変位ユニットＧ４２６との間に配設される第２継手部材Ｇ４２３と、その第２継手部材Ｇ４２３に配設される伝達部材Ｇ４２４と、その伝達部材Ｇ４２４に配設される被摺動部材Ｇ４２５とを主に備えて形成される。
【２４９４】
回転ギヤＧ４２１は、第１回転ベースＧ４１０（図２０８参照）の装飾側軸部Ｇ４１２ａに配設されるギヤであり、装飾側軸部Ｇ４１２ａが挿通可能に貫通される第１被軸支部Ｇ４２１ａと、外周面に刻設される歯Ｇ４２１ｂと、装飾側軸部Ｇ４１２ａが挿入される側と反対面から突出する一対の連結部Ｇ４２１ｃとを主に備えて形成される。
【２４９５】
第１被軸支部Ｇ４２１ａは、装飾側軸部Ｇ４１２ａの外径よりも若干大きい内径の貫通孔として形成される。回転ギヤＧ４２１は、図２１０（ａ）に示す左側（矢印Ｌ方向側）

から第１被軸支部Ｇ４２１ａに装飾側軸部Ｇ４１２ａを挿通させると共に、第１被軸支部Ｇ４２１ａを挿通させた装飾側軸部Ｇ４１２ａの先端に第１被軸支部Ｇ４２１ａの内径よりも大きい外径の頭部を有する螺子を締結することで、装飾側軸部Ｇ４１２ａを軸として第１回転ベースＧ４１０に対して回転可能な状態で配設される。

【２４９６】

歯Ｇ４２１ｂは、正面側ベース部材Ｇ８１０（図２０５参照）の刻設部Ｇ８１１ａに歯合する歯であり、刻設部Ｇ８１１ａと対応する形状に形成される。回転ギヤＧ４２１は、第１回転ベースＧ４１０（図２０７（ｂ）参照）に軸支された状態で、第１固定ユニットＧ４５０（図２０７（ｂ）参照）の棒部材Ｇ４５１が背面側ベース部材Ｇ８２０（図２０５参照）に挿入され固定される（花回転ユニットＧ４００が正面側ベース部材Ｇ８１０及び背面側ベース部材Ｇ８２０に配設される）ことで、刻設部Ｇ８１１ａに歯合される。

【２４９７】

なお、刻設部Ｇ８１１ａは、花回転ユニットＧ４００が正面側ベース部材Ｇ８１０に対して回転した際の回転ギヤＧ４２１の回転軌跡と重なる位置に形成される。従って、回転ギヤＧ４２１は、花回転ユニットＧ４００が正面側ベース部材Ｇ８１０に対して回転することに伴って、装飾側軸部Ｇ４１２ａを軸として第１回転ベースＧ４１０に対して回転される。

【２４９８】

連結部Ｇ４２１ｃは、板状に形成されると共に、その板状に形成された一面が第１被軸支部Ｇ４２１ａを挟んで対向した状態で形成される。また、一対の連結部Ｇ４２１ｃは、対向する方向に貫通する第２被軸支部Ｇ４２１ｃ１を備えており、その第２被軸支部Ｇ４２１ｃ１に連結棒Ｇ４２１ｄが回転可能な状態で挿通される。

【２４９９】

連結棒Ｇ４２１ｄは、第１継手部材Ｇ４２２を回転ギヤＧ４２１に連結するための部材であり、第２被軸支部Ｇ４２１ｃ１に挿通可能な外径の円柱状に形成される。また、連結部Ｇ４２１ｃは、円柱状に形成される軸方向中央部に径方向に貫通する第３被軸支部Ｇ４２１ｄ１と、軸方向の両端部に周方向に沿って溝状に凹設される止め輪保持部Ｇ４２１ｄ２とを備える。

【２５００】

第３被軸支部Ｇ４２１ｄ１は、後述する第１継手部材Ｇ４２２の連結棒Ｇ４２２ｃが挿通される部分であり、連結棒Ｇ４２２ｃよりも大きい外径に形成される。この第３被軸支部Ｇ４２１ｄ１に連結棒Ｇ４２２ｃが挿通されることで、回転ギヤＧ４２１と第１継手部材Ｇ４２２とが連結される。これにより、第１継手部材Ｇ４２２は、回転ギヤＧ４２１が第１回転ベースＧ４１０に対して回転されることに伴って回転される。

【２５０１】

止め輪保持部Ｇ４２１ｄ２は、止め輪Ｇ４２１ｅが外嵌される部分であり、第２被軸支部Ｇ４２１ｃ１に連結棒Ｇ４２１ｄが挿入された状態で止め輪Ｇ４２１ｅが連結棒Ｇ４２１ｄの両端に外嵌されることで、第２被軸支部Ｇ４２１ｃ１から連結棒Ｇ４２１ｄが抜け出ることが規制される。

【２５０２】

なお、第８実施形態における連結棒Ｇ４２１ｄ及び止め輪Ｇ４２１ｅは、金属製の材料から形成されており、連結棒Ｇ４２１ｄが連結部Ｇ４２１ｃに対して回転した際に破損することが抑制される。また、第８実施形態における連結棒Ｇ４２１ｄは、止め輪Ｇ４２１ｅにより止められるが、連結棒Ｇ４２１ｄの端部に螺子を締結して第２被軸支部Ｇ４２１ｃ１から抜け出ることが規制されるものであっても良い。

【２５０３】

第１継手部材Ｇ４２２は、円盤状に形成される第１連結部Ｇ４２２ａと、その第１連結部Ｇ４２２ａの一面から突出する一対の第２連結部Ｇ４２２ｂとを主に備えて形成される。

【２５０４】

第１連結部Ｇ４２２ａは、第１継手部材Ｇ４２２と変位ユニットＧ４２６とを連結する部分であり、円盤状に形成される中央部に変位ユニットＧ４２６の軸部Ｇ４２７を挿入する凹部Ｇ４２２ａ１が凹設される。

【２５０５】

凹部Ｇ４２２ａ１は、変位ユニットＧ４２６の軸部Ｇ４２７の端部と同形状のＤ字状に凹設される。また、凹部Ｇ４２２ａ１には、変位ユニットＧ４２６の軸部Ｇ４２７の端部が圧入される。これにより、第１継手部材Ｇ４２２と変位ユニットＧ４２６とが連結され、第１継手部材Ｇ４２２の回転に伴って変位ユニットＧ４２６を回転させることができる。

【２５０６】

第２連結部Ｇ４２２ｂは、板状に形成されると共に、その板状に形成された一面が凹部Ｇ４２２ａ１を挟んで対向した状態で形成される。また、一対の第２連結部Ｇ４２２ｂは、対向する方向に貫通する被軸支部Ｇ４２２ｂ１を備えており、その被軸支部Ｇ４２２ｂ１に連結棒Ｇ４２２ｃが回転可能な状態で挿通される。

【２５０７】

連結棒Ｇ４２２ｃは、回転ギヤＧ４２１の連結棒Ｇ４２１ｄと連結される部材であり、連結棒Ｇ４２１ｄの第３被軸支部Ｇ４２１ｄ１の内径よりも小さい外径の円柱状に形成される。連結棒Ｇ４２２ｃは、上述したように第３被軸支部Ｇ４２１ｄ１に挿通されることで、回転ギヤＧ４２１の連結棒Ｇ４２１ｄに連結される。これにより、第１継手部材Ｇ４２２は、回転ギヤＧ４２１が第１回転ベースＧ４１０に対して回転されることに伴って回転される。

【２５０８】

また、連結棒Ｇ４２２ｃは、軸方向の両端部に周方向に沿って溝状に凹設される止め輪保持部Ｇ４２２ｃ１を備える。止め輪保持部Ｇ４２２ｃ１は、止め輪Ｇ４２２ｄが外嵌される部分であり、被軸支部Ｇ４２２ｂ１に連結棒Ｇ４２２ｃが挿入された状態で止め輪Ｇ４２２ｄが連結棒Ｇ４２２ｃの両端に外嵌されることで、被軸支部Ｇ４２２ｂ１から連結棒Ｇ４２２ｃが抜け出ることが規制される。

【２５０９】

なお、第８実施形態における連結棒Ｇ４２２ｃ及び止め輪Ｇ４２２ｄは、金属製の材料から形成されており、連結棒Ｇ４２２ｃが被軸支部Ｇ４２２ｂ１に対して回転した際に破損することが抑制される。また、第８実施形態における連結棒Ｇ４２２ｃは、止め輪Ｇ４２ｄにより止められるが、連結棒Ｇ４２２ｃの端部に螺子を締結して被軸支部Ｇ４２２ｂ１から抜け出ることが規制されるものであっても良い。

【２５１０】

被摺動部材Ｇ４２５は、花弁側伝達部材Ｇ４３０（図２０８参照）に連結される部材であり、花弁側伝達部材Ｇ４３０の摺動溝Ｇ４３１ａに挿通される摺動部Ｇ４２５ａと、その摺動部Ｇ４２５ａの反対側（下方側）に貫通形成される被軸支部Ｇ４２５ｂとを主に備える。

【２５１１】

摺動部Ｇ４２５ａは、花弁側伝達部材Ｇ４３０の摺動溝Ｇ４３１ａの溝幅よりも小さい外径の円柱状に形成され、摺動溝Ｇ４３１ａに挿通可能とされる。また、摺動部Ｇ４２５ａは、摺動溝Ｇ４３１ａに挿通される際に基端側に第１カラーＧ４２５ａ１（図２０８参照）が配設されると共に、摺動溝Ｇ４３１ａに挿通された先端側に第２カラーＧ４２５ａ２（図２０８参照）が配設される。即ち、花弁側伝達部材Ｇ４３０の伝達部Ｇ４３１の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）を第１カラーＧ４２５ａ１と第２カラーＧ４２５ａ２とで挟んだ状態で、摺動部Ｇ４２５ａが摺動溝Ｇ４３１ａに挿入される。これにより、摺動部Ｇ４２５ａに対して花弁側伝達部材Ｇ４３０が前後方向に揺れ動くことを抑制でき、摺動溝Ｇ４３１ａの内側を摺動部Ｇ４２５ａが摺動する際の抵抗を低減できる。

【２５１２】

被軸支部Ｇ４２５ｂは、被摺動部材Ｇ４２５と伝達部材Ｇ４２４とを連結する部分であ

り、伝達部材Ｇ４２４に配設される第１連結棒Ｇ４２４ｃを挿通可能な内径の貫通孔として形成される。

【２５１３】

伝達部材Ｇ４２４は、一対の板状の部材から形成されると共に、互い一面側を対向した状態で配設される。また、伝達部材Ｇ４２４は、被摺動部材Ｇ４２５と第２継手部材Ｇ４２３とを連結する部材であり、被摺動部材Ｇ４２５と伝達部材Ｇ４２４とを連結するための第１被軸支部Ｇ４２４ａと、第２継手部材Ｇ４２３と伝達部材Ｇ４２４とを連結するための第２被軸支部Ｇ４２４ｂとを備える。

【２５１４】

第１被軸支部Ｇ４２４ａは、第１連結棒Ｇ４２４ｃが挿通される貫通孔であり、第１連結棒Ｇ４２４ｃを挿通可能な内径に形成されると共に、一対の伝達部材Ｇ４２４の対向する方向に貫通される。

【２５１５】

第１連結棒Ｇ４２４ｃは、一対の伝達部材Ｇ４２４の間に被摺動部材Ｇ４２５（被軸支部Ｇ４２５ｂ）を挟んだ状態で、伝達部材Ｇ４２４の第１被軸支部Ｇ４２４ａと被摺動部材Ｇ４２５の被軸支部Ｇ４２５ｂとに挿通される。これにより、被摺動部材Ｇ４２５と伝達部材Ｇ４２４とが連結される。

【２５１６】

また、第１連結棒Ｇ４２４ｃは、軸方向の両端部に周方向に沿って溝状に凹設される止め輪保持部Ｇ４２４ｃ１を備える。止め輪保持部Ｇ４２４ｃ１は、止め輪Ｇ４２４ｄが外嵌される部分であり、第１被軸支部Ｇ４２４ａと被軸支部Ｇ４２５ｂとに第１連結棒Ｇ４２４ｃが挿入された状態で止め輪Ｇ４２４ｄが第１連結棒Ｇ４２４ｃの両端に外嵌されることで、第１被軸支部Ｇ４２４ａと被軸支部Ｇ４２５ｂとから第１連結棒Ｇ４２４ｃが抜け出ることが規制される。

【２５１７】

なお、伝達部材Ｇ４２４と被摺動部材Ｇ４２５とは、第１連結棒Ｇ４２４ｃに対して回転可能に連結される。従って、後述する被摺動部材Ｇ４２５の変位に伴って被摺動部材Ｇ４２５に対して伝達部材Ｇ４２４の姿勢を変更することができる。

【２５１８】

第２被軸支部Ｇ４２４ｂは、第２連結棒Ｇ４２４ｅが挿通される貫通孔であり、第２連結棒Ｇ４２４ｅを挿通可能な内径に形成されると共に、一対の伝達部材Ｇ４２４の対向する方向に貫通される。

【２５１９】

第２連結棒Ｇ４２４ｅは、一対の伝達部材Ｇ４２４の間に第２継手部材Ｇ４２３（第１貫通孔Ｇ４２３ａ）を挟んだ状態で、伝達部材Ｇ４２４の第２被軸支部Ｇ４２４ｂと第２継手部材Ｇ４２３の第１貫通孔Ｇ４２３ａとに挿通される。これにより、伝達部材Ｇ４２４と第２継手部材Ｇ４２３とが連結される。

【２５２０】

また、第２連結棒Ｇ４２４ｅは、第１連結棒Ｇ４２４ｃと同様に、軸方向の両端部に周方向に沿って溝状に凹設される止め輪保持部Ｇ４２４ｅ１を備える。止め輪保持部Ｇ４２４ｅ１は、止め輪Ｇ４２４ｆが外嵌される部分であり、第２被軸支部Ｇ４２４ｂと第１貫通孔Ｇ４２３ａとが挿入された状態で止め輪Ｇ４２４ｆが第２連結棒Ｇ４２４ｅの両端に外嵌されることで、第２被軸支部Ｇ４２４ｂと第１貫通孔Ｇ４２３ａとから第２連結棒Ｇ４２４ｅが抜け出ることが規制される。

【２５２１】

なお、伝達部材Ｇ４２４と第２継手部材Ｇ４２３とは、第２連結棒Ｇ４２４ｅに対して回転可能に連結される。従って、伝達部材Ｇ４２４の変位（被摺動部材Ｇ４２５に対する姿勢の変化）に伴って伝達部材Ｇ４２４に対して第２継手部材Ｇ４２３の姿勢を変更することができる。

【２５２２】

また、本実施形態における第１連結棒Ｇ４２４ｃ、第２連結棒Ｇ４２４ｅ、止め輪Ｇ４２４ｄ，Ｇ４２４ｆは、金属製の材料から形成されており、第１連結棒Ｇ４２４ｃ及び第２連結棒Ｇ４２４ｅが第１被軸支部Ｇ４２４ａ及び第２被軸支部Ｇ４２４ｂに対して回転した際に破損することが抑制される。

【２５２３】

第２継手部材Ｇ４２３は、伝達部材Ｇ４２４と変位ユニットＧ４２６とを連結するための部材であり、矩形の立方体から形成される。また、第２継手部材Ｇ４２３は、異なる方向に貫通する第１貫通孔Ｇ４２３ａ及び第２貫通孔Ｇ４２３ｂを備える。なお、第１貫通孔Ｇ４２３ａと第２貫通孔Ｇ４２３ｂとは、互いにずれた位置に形成される。

【２５２４】

第１貫通孔Ｇ４２３ａは、上述したように第２連結棒Ｇ４２４ｅが挿通される貫通孔であり、第２連結棒Ｇ４２４ｅを挿通可能な内径に形成される。第１貫通孔Ｇ４２３ａに伝達部材Ｇ４２４の第２被軸支部Ｇ４２４ｂを挿通した第２連結棒Ｇ４２４ｅを挿通させることで、伝達部材Ｇ４２４と第２継手部材Ｇ４２３とが連結される。

【２５２５】

第２貫通孔Ｇ４２３ｂは、変位ユニットＧ４２６の軸部Ｇ４２７が挿通される貫通孔であり、軸部Ｇ４２７を挿通可能な内径に形成される。第２貫通孔Ｇ４２３ｂに軸部Ｇ４２７を挿通することで、第２継手部材Ｇ４２３を介して伝達部材Ｇ４２４と変位ユニットＧ４２６とが連結される。これにより、伝達部材Ｇ４２４が変位されると、その伝達部材Ｇ４２４の変位に伴って変位ユニットＧ４２６を変位させることができる。

【２５２６】

変位ユニットＧ４２６は、湾曲する板状に形成され、その湾曲する内側（矢印Ｌ方向側）の第１装飾面Ｇ４２６ａと、その第１装飾面Ｇ４２６ａと反対側（矢印Ｒ方向側）の側面の第２装飾面Ｇ４２６ｂと、第１装飾面Ｇ４２６ａと第２装飾面Ｇ４２６ｂとの正面側（矢印Ｆ方向側）の端部同士を繋ぐ第１端面Ｇ４２６ｃと、その第１端面Ｇ４２６ｃの反対側（矢印Ｂ方向側）に形成され軸部Ｇ４２７に連結される連結部Ｇ４２６ｄとを主に備える。

【２５２７】

なお、変位ユニットＧ４２６は、第１装飾面Ｇ４２６ａ，第２装飾面Ｇ４２６ｂ，第１端面Ｇ４２６ｃに金や銀等の反射率の高い装飾が施される。これにより、変位ユニットＧ４２６に照射される光を反射することができる。なお、変位ユニットＧ４２６の光の反射についての詳しい説明は後述する。

【２５２８】

また、第８実施形態における変位ユニットＧ４２６は、正面視において花弁側伝達部材Ｇ４３０（第２装飾ユニットＧ４８０）に沿って湾曲する板状に形成されるが、必ずしもこれに限られるものではなく、平板状や棒状（円柱状）に形成されるものであっても良い。また、第８実施形態における変位ユニットＧ４２６は、透明な樹脂材料で形成され、第１装飾面Ｇ４２６ａ，第２装飾面Ｇ４２６ｂから入射する光を透過して第１装飾面Ｇ４２６ａ，第２装飾面Ｇ４２６ｂから出射することで、透過する光による演出を遊技者に視認させるものであっても良い。

【２５２９】

連結部Ｇ４２６ｄは、軸部Ｇ４２７を変位ユニットＧ４２６に連結するための部分であり、湾曲形成される変位ユニットＧ４２６の湾曲方向の内方側（矢印Ｌ方向側）に張り出して形成される。これにより、第１装飾面Ｇ４２６ａ，第２装飾面Ｇ４２６ｂ及び第１端面Ｇ４２６ｃを軸部Ｇ４２７の軸線上から外れた位置に配置することができる。これにより、軸部Ｇ４２７を軸に変位ユニットＧ４２６を回転させた際に、第１装飾面Ｇ４２６ａ，第２装飾面Ｇ４２６ｂ及び第１端面Ｇ４２６ｃを前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位させることができる。

【２５３０】

なお、連結部Ｇ４２６ｄには、軸部Ｇ４２７の上方側（矢印Ｕ方向側）の端部を挿入す

るための凹部（図示しない）が形成されており、その凹部に軸部Ｇ４２７の上方側の端部が圧入されることにより変位ユニットＧ４２６と軸部Ｇ４２７とが連結される。

【２５３１】

次いで、図２１１及び図２１２を参照して、第１装飾ユニットＧ４２０の変位について説明する。なお、以下の説明では、図２１１（ａ）に示す第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６の位置を起立位置として、図２１１（ｃ）に示す第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６の位置を傾倒基準位置（起立位置から第１装飾ユニットＧ４２０が倒れた状態の位置）として説明する。

【２５３２】

初めに、図２１１を参照して変位ユニットＧ４２６の起立位置から傾倒基準位置までの変位について説明する。図２１１（ａ）から図２１１（ｃ）は、第１装飾ユニットＧ４２０の側面図であり、図２０７（ａ）のＹ２５ａ方向視における側面図と対応する。なお、図２１１（ａ）から図２１１（ｃ）では、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置に変位する遷移状態が順に図示される。また、図２１１（ａ）から図２１１（ｃ）では、花弁側伝達部材Ｇ４３０（図２１３（ａ）参照）の摺動溝Ｇ４３１ａの内側端部Ｇ４３１ａ１及び外側端部Ｇ４３１ａ２の位置が２点鎖線で図示される。

【２５３３】

図２１１（ａ）に示すように、花弁側伝達部材Ｇ４３０の摺動溝Ｇ４３１ａの内側端部Ｇ４３１ａ１に当接する位置に摺動部Ｇ４２５ａが配設される状態では、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が第１端面Ｇ４２６ｃを遊技者側（正面側（矢印Ｆ方向側）に向けた状態で配設される。

【２５３４】

なお、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が起立位置に配置される状態では、変位ユニットＧ４２６の第１装飾面Ｇ４２６ａが花回転ユニットＧ４００の軸ＧＯ側に向けて配置されており、正面視における花回転ユニットＧ４００が縮小した状態とされる（図２１３参照）。

【２５３５】

図２１１（ｂ）及び図２１１（ｃ）に示すように、花弁側伝達部材Ｇ４３０の摺動溝Ｇ４３１ａの内側端部Ｇ４３１ａ１に当接した位置から摺動部Ｇ４２５ａ（被摺動部材Ｇ４２５）が外側端部Ｇ４３１ａ２側（矢印Ｒ方向側）まで移動されると、その摺動部Ｇ４２５ａ（被摺動部材Ｇ４２５）の変位に伴って、被摺動部材Ｇ４２５に連結される伝達部材Ｇ４２４が第１連結棒Ｇ４２４ｃを軸として被摺動部材Ｇ４２５に対する姿勢を変えつつ外側端部Ｇ４３１ａ２側に変位される。

【２５３６】

そして、伝達部材Ｇ４２４が変位されることにより、伝達部材Ｇ４２４に連結される第２継手部材Ｇ４２３が変位される。上述したように、第２継手部材Ｇ４２３には第２貫通孔Ｇ４２３ｂに変位ユニットＧ４２６の軸部Ｇ４２７が挿通されているので、第２継手部材Ｇ４２３の変位に伴って変位ユニットＧ４２６が変位される。

【２５３７】

変位ユニットＧ４２６は、軸部Ｇ４２７が第１継手部材Ｇ４２２に連結され、第１継手部材Ｇ４２２は、回転ギヤＧ４２１に対して連結棒Ｇ４２１ｄを軸として回転可能に配設される。従って、被摺動部材Ｇ４２５の変位に伴って駆動力が変位ユニットＧ４２６まで伝達されると、変位ユニットＧ４２６は、連結棒Ｇ４２１ｄを軸として傾倒される。

【２５３８】

連結棒Ｇ４２１ｄを軸とする変位ユニットＧ４２６の傾倒は、花弁側伝達部材Ｇ４３０の摺動溝Ｇ４３１ａの外側端部Ｇ４３１ａ２に摺動部Ｇ４２５ａが当接することで規制される。なお、本実施形態では、連結棒Ｇ４２１ｄを軸として変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置に約６０度回転され、傾倒基準位置において第１装飾面Ｇ４２６ａを正面側（矢印Ｆ方向側）に向けた状態とされる。

【２５３９】
次いで、図２１２（ａ）から図２１２（ｄ）を参照して、傾倒基準位置に配設される変位ユニットＧ４２６が軸部Ｇ４２７を軸として回転される場合について説明する。図２１２（ａ）から図２１２（ｄ）は、変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置に配置された状態における第１装飾ユニットＧ４２０の側面図であり、図２０７（ａ）のＹ２５ａ方向視における側面図と対応する。
【２５４０】
なお、図２１２（ａ）から図２１２（ｄ）では、傾倒基準位置に配置された変位ユニットＧ４２６が軸部Ｇ４２７を軸に回転された際の遷移状態が順に図示され、図２１２（ａ）に示す状態を傾倒基準位置として、順に９０度ずつ回転された状態が図示される。また、本実施形態では、変位ユニットＧ４２６が軸部Ｇ４２７を軸に回転される場合に変位ユニットＧ４２６（第１装飾ユニットＧ４２０）が第１固定ユニットＧ４５０及び第２固定ユニットＧ４７０（図２０８参照）の周囲を回転するが、ここでの説明では、図２１２（ａ）に示す図示を形式的に側面図として、図２１２（ｂ）から図２１２（ｄ）についても同様に側面図として説明する。
【２５４１】
図２１２（ａ）から図２１２（ｄ）に示すように、変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置（図２１２（ａ）に示す位置）に変位された位置から回転ギヤＧ４２１が回転されると、その回転ギヤＧ４２１の回転に伴って、回転ギヤＧ４２１に連結される第１継手部材Ｇ４２２が回転される。第１継手部材Ｇ４２２には、凹部Ｇ４２２ａ１に変位ユニットＧ４２６の軸部Ｇ４２７（図２１０（ｂ）参照）が連結されるので、第１継手部材Ｇ４２２が回転されることにより変位ユニットＧ４２６が軸部Ｇ４２７を軸として回転される。
【２５４２】
これにより、第１装飾面Ｇ４２６ａを正面側（矢印Ｆ方向側）に向けた位置（傾倒基準位置）から変位ユニットＧ４２６が回転して、第２装飾面Ｇ４２６ｂを正面側に向けた位置（以下の説明では「傾倒半回転位置」と称す）に変位ユニットＧ４２６を回転させることができる。即ち、遊技者に視認させられる変位ユニットＧ４２６の表示面を変更することができる。その結果、遊技者の興趣を向上できる。
【２５４３】
また、第１装飾面Ｇ４２６ａ及び第２装飾面Ｇ４２６ｂは、軸部Ｇ４２７の軸心とずれた位置に形成される。従って、軸部Ｇ４２７を軸に変位ユニットＧ４２６を回転させると、装飾面（第１装飾面Ｇ４２６ａ及び第２装飾面Ｇ４２６ｂ）の前後方向の位置を変位させることができる。
【２５４４】
詳しく説明すると、図２１２（ａ）に示す傾倒基準位置では、第１装飾面Ｇ４２６ａが軸部Ｇ４２７の軸心の延長線上よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に位置して遊技者に視認され、図２１２（ｃ）に示す傾倒半回転位置では、第２装飾面Ｇ４２６ｂが軸部Ｇ４２７の軸心の延長線上よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に位置して遊技者に視認される。これにより、変位ユニットＧ４２６の変位に前後方向の動きを付与することができるので、遊技者の興趣を向上できる。
【２５４５】
なお、図２１２（ａ）から図２１２（ｄ）に示す位置まで変位ユニットＧ４２６が約２７０度回転したあとは、さらに回転ギヤＧ４２１の回転が継続されることで、図２１２（ａ）に示す回転基準位置まで回転される。即ち、変位ユニットＧ４２６は、回転ギヤＧ４２１の回転により軸部Ｇ４２７を軸とする回転が継続される。
【２５４６】
次いで、図２１３及び図２１４を参照して、変位ユニットＧ４２６を起立位置から傾倒基準位置に変位させる際の駆動手段の駆動力の伝達について説明する。
【２５４７】

図２１３（ａ）は、花回転ユニットＧ４００の正面図であり、図２１３（ｂ）は、図２１３（ａ）のＸ２６ｂ線における花回転ユニットＧ４００の断面図である。図２１４（ａ）は、花回転ユニットＧ４００の正面図であり、図２１４（ｂ）は、図２１４（ａ）のＸ２７ｂ線における花回転ユニットＧ４００の断面図である。

【２５４８】

なお、図２１３及び図２１４では、理解を容易とするための花回転ユニットＧ４００の基板部材Ｇ４４０よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される部材（基板部材Ｇ４４０，第１固定ユニットＧ４５０，第２回転ベースＧ４６０，第２固定ユニットＧ４７０，第２装飾ユニットＧ４８０（図２０８参照）の図示が省略される。また、図２１３（ａ）及び図２１４（ａ）では、花弁側伝達部材Ｇ４３０の背面側の第２摺動溝Ｇ４１１ａが鎖線で図示される。さらに、図２１３及び図２１４では、軸ＧＯを中心とする正面視右回りの回転に矢印ＧＲの符号が付して図示され、軸ＧＯを中心とする正面視左回りの回転に矢印ＧＬの符号が付して図示される。

【２５４９】

初めに、上述したように、花弁側伝達部材Ｇ４３０は、軸支部Ｇ４３２（図２０８参照）が正面側ベース部材Ｇ８１０（図２０５参照）と背面側ベース部材Ｇ８２０（図２０５参照）との対向間に配設される従動ギヤＧ８４７（図２０５参照）に締結される。従って、従動ギヤＧ８４２～Ｇ８４６を介して従動ギヤＧ８４７が駆動モータＧ８３０の駆動力により回転されると、花弁側伝達部材Ｇ４３０が回転される。

【２５５０】

花弁側伝達部材Ｇ４３０の摺動溝Ｇ４３１ａには、第１装飾ユニットＧ４２０の摺動部Ｇ４２５ａが挿入されるので、図２１３（ａ）及び図２１４（ａ）に示すように、花弁側伝達部材Ｇ４３０が正面視右回り（矢印ＧＲ方向）に回転されると、摺動部Ｇ４２５ａが摺動溝Ｇ４３１ａの第１摺動面Ｇ４３１ａ３に沿って軸ＧＯの径方向外側に押し出される。

【２５５１】

この場合、第１装飾ユニットＧ４２０の摺動部Ｇ４２５ａには、花弁側伝達部材Ｇ４３０の背面側（矢印Ｂ方向側）が第１回転ベースＧ４１０の第２摺動溝Ｇ４１１ａに挿入されるので、摺動部Ｇ４２５ａが摺動溝Ｇ４３１ａの第１摺動面Ｇ４３１ａ３により押し出されると、摺動部Ｇ４２５ａは、第２摺動溝Ｇ４１１ａに沿って軸ＧＯの径方向外側に向かって移動される。これにより、上述した図２１１（ａ）から図２１１（ｃ）に示すように、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置に変位される。

【２５５２】

なお、起立位置から傾倒基準位置に変位ユニットＧ４２６が変位される場合には、第１装飾ユニットＧ４２０の摺動部Ｇ４２５ａが第１回転ベースＧ４１０の第２摺動溝Ｇ４１１ａに沿って変位される。そのため、正面視（矢印Ｂ方向視）における軸ＧＯを中心とする周方向（矢印ＧＲ方向や矢印ＧＬ方向）に第１装飾ユニットＧ４２０を変位させることなく、連結棒Ｇ４２１ｄを軸として変位ユニットＧ４２６を傾倒基準位置に変位させることができる。

【２５５３】

また、図２１３及び図２１４に示すように、本実施形態では、変位ユニットＧ４２６が遊技盤Ｈ１３（図１９６参照）の連結棒Ｇ４２１ｄを軸として回転可能に配設され、起立位置と傾倒基準位置との間で変位させることにより、正面視における変位ユニットＧ４２６の姿勢を変えることができるので、起立位置では正面視における外形を小さくできると共に、傾倒位置では正面視における外形を大きくできる。

【２５５４】

これにより、花回転ユニットＧ４００の正面視における外形を小さくするために、変位ユニットＧ４２６を他の部材（例えば、第２装飾ユニットＧ４８０）の背面側に隠す必要がなくなるので、変位ユニットＧ４２６を隠す部材の正面視における外形の大きさに関係

なく変位ユニットＧ４２６の外形の大きさを変更することができる。
【２５５５】
詳しく説明すると、花回転ユニットＧ４００（第１装飾ユニットＧ４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０）において、第２装飾ユニットＨ４８０が第１装飾ユニットＧ４２０の外側に張り出され第１装飾ユニットＧ４２０と第２装飾ユニットＧ４８０とが共に視認可能とされる拡大状態と、第２装飾ユニットＧ４８０を第１装飾ユニットＧ４２０に近づけて第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が視認不能とされる縮小状態とを形成し、第１装飾ユニットＧ４２０と第２装飾ユニットＧ４８０との全体としての視覚上の大きさを変化させる演出が行われる。
【２５５６】
しかしながら、この場合、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を第２装飾ユニットＧ４８０の背面側（矢印Ｂ方向側）にスライド変位させて、第２装飾ユニットＧ４８０により第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を視認不能として縮小状態を形成する一方、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を第２装飾ユニットＧ４８０の外方にスライド変位させて、第１装飾ユニットＧ４２０の所定の領域を視認可能として拡大状態を形成するものであると、第２装飾ユニットＧ４８０の背面側に第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を配置するため、第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の正面視における外形を第２装飾ユニットＧ４８０の正面視における外形よりも小さくする必要があり（第２装飾ユニットＧ４８０の外形の大きさに依存するため）、変位ユニットＧ４２６の外形を大型化することが困難であるという問題がある。
【２５５７】
即ち、第２装飾ユニットＧ４８０の正面視における外形を大きくすると、その分、他の部材の配設スペースが減少される。即ち、第２装飾ユニットＧ４８０の外形の大型化に伴い花回転ユニットＧ４００全体の正面視における外形が大きくなり、他の部材に干渉しやすくなる。
【２５５８】
一方、第１装飾ユニットＧ４２０の正面視における大きさを小さくしたのでは、その分遮蔽できる面積が小さくなるため、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が小さくなり、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を第２装飾ユニットＧ４８０と共に視認させる（拡大状態とした）際の大きさを大きくすることができない。
【２５５９】
これに対し、本実施形態では、花回転ユニットＧ４００の正面視における外形を小さくする際に、変位ユニットＧ４２６の姿勢を変えて、正面視における変位ユニットＧ４２６の外形を小さくすることができる。
【２５６０】
即ち、第１装飾ユニットＧ４２０が変位されることで、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外側を向く状態（起立位置に配置された状態）と、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が正面側（矢印Ｆ方向側）を向く状態（傾倒基準位置に配置された状態）とを形成可能に構成されるので、他の部材を配設するスペースを確保しつつ、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を第２装飾ユニットＧ４８０と共に視認させる際の大きさを大きくできる。
【２５６１】
具体的には、第２装飾ユニットＧ４８０の正面視における大きさ（外形）を小さくできるので、その分、他の手段（部材）を配設するスペースを確保できる。また、他の手段（部材）を相対的に変位させる際に、他の部材が第２装飾ユニットＧ４８０（第１装飾ユニットＧ４２０）と干渉し難くでき、他の部材を相対的に変位させる演出の自由度を向上できる。
【２５６２】
一方、第２装飾ユニットＧ４８０の正面視における大きさを小さくしても、第２装飾ユ

ニットＧ４８０の正面視における大きさが第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６の大きさに依存しないので、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を大きくできる。よって、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を第２装飾ユニットＧ４８０と共に視認させる際の大きさを大きくすることができる。

【２５６３】

言い換えると、パチンコ機Ｈ１０の役物が配設される空間は、上下左右方向に比べて前後方向（正面と背面とを結ぶ方向）のスペースに比較的余裕があるところ、その前後方向のスペースの利用して、第２装飾ユニットＧ４８０を前後方向に長くすることで、第２装飾ユニットＧ４８０の正面視の大きさを小さくできると共に、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６の大きさを大きくできる。これにより、他の手段（部材）を配設するスペースを確保しつつ、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を第２装飾ユニットＧ４８０と共に視認させる際の大きさを大きくできる。また、縮小状態は小さく、拡大状態は大きくでき、縮小状態と拡大状態との間の正面視における視覚上の大きさの変化をより大きくできる。

【２５６４】

また、変位ユニットＧ４２６は、起立位置で第１装飾面Ｇ４２６ａが軸ＧＯ側に向けて配置され（図２０７（ｂ）参照）、傾倒基準位置で第１装飾面Ｇ４２６ａが正面側（矢印Ｆ方向側）に向けられて配置される。上述したように第１装飾面Ｇ４２６ａには、光を反射可能な装飾が施されているため、起立位置に配置される場合と、傾倒基準位置に配置される場合とで光の反射方向を変更することができる。

【２５６５】

詳しく説明すると、変位ユニットＧ４２６が起立位置に配置され、第１固定ユニットＧ４５０、第２回転ベースＧ４６０、又は、第２回転ベースＧ４６０を介して基板部材Ｇ４４０から出射される光が第１装飾面Ｇ４２６ａに照射される場合には、第１装飾面Ｇ４２６ａが正面視において第２装飾ユニットＧ４８０側（軸ＧＯ側）に向けられているので、光が第２装飾ユニットＧ４８０側に向かって反射される。これにより、第２装飾ユニットＧ４８０を介して正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて出射する光量を増やすことができる。その結果、第２装飾ユニットＧ４８０に注目させやすくできる。

【２５６６】

一方、変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置に配置され、第１固定ユニットＧ４５０、第２回転ベースＧ４６０、又は、第２回転ベースＧ４６０を介して基板部材Ｇ４４０から出射される光が第１装飾面Ｇ４２６ａに照射される場合には、第１装飾面Ｇ４２６ａが正面側に向けられているので、光が遊技者側に反射される。これにより、第１装飾ユニットＧ４２０に注目させやすくできる。

【２５６７】

即ち、第２装飾ユニットＧ４８０の背面側に配設され、光を発光可能に構成される基板部材Ｇ４４０を備え、第２装飾手段は、光透過性材料から構成され、変位ユニットＧ４２６の第１装飾面Ｇ４２６ａが光を反射可能に構成されるので、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が正面側（矢印Ｆ方向側）を向く状態（拡大状態）とされた場合に、基板部材Ｇ４４０から発光され変位ユニットＧ４２６の第１装飾面Ｇ４２６ａで反射した光を遊技者に視認させるだけでなく、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）に向く状態とされた場合には、基板部材Ｇ４４４０から発光され変位ユニットＧ４２６で反射した光を第２装飾ユニットＧ４８０にその背面側（矢印Ｂ方向側）から入射させ、第２装飾ユニットＧ４８０を透過した光（第２装飾ユニットＧ４８０の正面側から出射される光を）遊技者に視認させることができる。これにより、光の視認態様を変化させ、演出効果を向上できる。

【２５６８】

なお、第１装飾ユニットＧ４２０を第２装飾ユニットＧ４８０の背面側にスライド変位させるものでは、縮小状態において基板部材Ｇ４４０から発光され変位ユニットＧ４２６で光を反射させても、その反射させた光が基板部材Ｇ４４０に遮られてしまい、第２装飾

ユニットＧ４８０へ入射させることができないところ、本実施形態では、変位ユニットＧ４２６で反射された光を第２装飾ユニットＧ４８０及び基板部材Ｇ４４０にの正面視外側から回り込ませることができ、基板部材Ｇ４４０に遮られることなく、第２装飾ユニットＧ４８０の背面側（矢印Ｂ方向側）へ入射させることができる。

【２５６９】

さらに、図２１３及び図２１４に示すように、起立位置から傾倒基準位置に変位する際の変位ユニットＧ４２６の回転軸（連結棒Ｇ４２１ｄ）は、花弁側伝達部材Ｇ４３０の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる位置に配置される。そのため、第１装飾ユニットＧ４２０の回転軸（連結棒Ｇ４２１ｄ）を遊技者側から視認しにくくできる。これにより、遊技者が第１装飾ユニットＧ４２０の機構を理解することで、第１装飾ユニットＧ４２０を変位させた際の遊技者の興趣が低下することを抑制できる。

【２５７０】

次いで、図２１５から図２１８を参照して、軸部Ｇ４２７を軸として変位ユニットＧ４２６を傾倒基準位置から回転させる際の駆動手段の駆動力の伝達について説明する。

【２５７１】

図２１５（ａ）は、花回転ユニットＧ４００の正面図であり、図２１５（ｂ）は、図２１５（ａ）の矢印Ｙ２８ｂ方向視における花回転ユニットＧ４００の側面図であり、図２１５（ｃ）は、図２１５（ａ）の矢印Ｙ２８ｃ方向視における花回転ユニットＧ４００の側面図である。図２１６（ａ）は、花回転ユニットＧ４００の正面図であり、図２１６（ｂ）は、図２１６（ａ）の矢印Ｙ２９ｂ方向視における花回転ユニットＧ４００の側面図であり、図２１６（ｃ）は、図２１６（ａ）の矢印Ｙ２９ｃ方向視における花回転ユニットＧ４００の側面図である。図２１７（ａ）は、花回転ユニットＧ４００の正面図であり、図２１７（ｂ）は、図２１７（ａ）の矢印Ｙ３０ｂ方向視における花回転ユニットＧ４００の側面図であり、図２１７（ｃ）は、図２１７（ａ）の矢印Ｙ３０ｃ方向視における花回転ユニットＧ４００の側面図である。図２１８（ａ）は、花回転ユニットＧ４００の正面図であり、図２１８（ｂ）は、図２１８（ａ）の矢印Ｙ３１ｂ方向視における花回転ユニットＧ４００の側面図であり、図２１８（ｃ）は、図２１８（ａ）の矢印Ｙ３１ｃ方向視における花回転ユニットＧ４００の側面図である。

【２５７２】

なお、図２１５から図２１８では、傾倒基準位置に配置される第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置から軸部Ｇ４２７を軸として９０度ずつ回転された状態が順に図示される。また、図２１５から図２１８では、理解を容易とするための花回転ユニットＧ４００の基板部材Ｇ４４０よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される部材（基板部材Ｇ４４０，第１固定ユニットＧ４５０，第２回転ベースＧ４６０，第２固定ユニットＧ４７０，第２装飾ユニットＧ４８０（図２０８参照）の図示が省略される。

【２５７３】

上述したように、起立位置から傾倒基準位置に変位する変位ユニットＧ４２６は、駆動モータＧ８３０の駆動力が伝達されて花弁側伝達部材Ｇ４３０が回転されることで、被摺動部材Ｇ４２５の摺動部Ｇ４２５ａが第１摺動面Ｇ４３１ａ３に押し出される。この変位により、摺動部Ｇ４２５ａは、摺動溝Ｇ４３１ａの外側端部Ｇ４３１ａ２に当接する位置まで変位される。

【２５７４】

この状態から、図２１５及び図２１６に示すように、駆動モータＧ８３０の駆動力の伝達を継続して軸ＧＯを中心に花弁側伝達部材Ｇ４３０を正面視右回り（矢印ＧＲ方向）に回転させると、外側端部Ｇ４３１ａ２に当接する摺動部Ｇ４２５ａが花弁側伝達部材Ｇ４３０の回転に伴って軸ＧＯを中心とする花弁側伝達部材Ｇ４３０の回転方向（矢印ＧＲ方向）に変位される。即ち、花弁側伝達部材Ｇ４３０、第１装飾ユニットＧ４２０、及び、第１回転ベースＧ４１０までが一体となって、正面側ベース部材Ｇ８１０及び背面側ベース部材Ｇ８２０に対して軸ＧＯを中心に正面視右回りに回転される。

【２５７５】

第１装飾ユニットＧ４２０の回転ギヤＧ４２１の歯Ｇ４２１ｂは、正面側ベース部材Ｇ８１０の刻設部Ｇ８１１ａに歯合されているので、正面側ベース部材Ｇ８１０（正面側ベース部材Ｇ８１０）に対して第１装飾ユニットＧ４２０が軸ＧＯを中心に回転されることで、第１装飾ユニットＧ４２０の回転ギヤＧ４２１が装飾側軸部Ｇ４１２ａ（図２１４（ｂ）参照）を軸として回転される。

【２５７６】

上述したように、第１装飾ユニットＧ４２０の回転ギヤＧ４２１が装飾側軸部Ｇ４１２ａを軸として回転されると、その回転ギヤＧ４２１の回転に伴って、第１継手部材Ｇ４２２が回転されると共に、第１継手部材Ｇ４２２に軸部Ｇ４２７を介して連結される変位ユニットＧ４２６が軸部Ｇ４２７を軸として回転される。即ち、第１装飾ユニットＧ４２０は、軸ＧＯを中心に正面視右回りに回転させられると共に、変位ユニットＧ４２６を軸部Ｇ４２７を軸として回転させられる。

【２５７７】

これにより、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を起立位置から傾倒基準位置に変位させて、花回転ユニットＧ４００の正面視における視認可能領域を広げるだけでなく、その広げた視認可能領域で第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を複雑に変位させる（軸ＧＯを中心に正面視右回りに回転させると共に、変位ユニットＧ４２６を軸部Ｇ４２７を軸として回転させる）ことができる。

【２５７８】

この場合、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を起立位置から傾倒基準位置に変位させたあと、第１装飾ユニットＧ４２０を軸ＧＯを中心に回転させる（第２装飾ユニットＧ４８０の周りを周回（公転）させる）だけでは、第１装飾ユニットＧ４２０と第２装飾ユニットＧ４８０の両者の相対変位が単調であり、十分な演出効果を得ることができない。

【２５７９】

これに対し、第８実施形態における花回転ユニットＧ４００では、第１装飾ユニットＧ４２０を軸ＧＯを中心に回転させると共に、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を軸部Ｇ４２７を軸として回転させることができる。即ち、第１装飾ユニットＧ４２０は、第２装飾ユニットＧ４８０の周りを周回（公転）する（軸ＧＯを中心に回転する）際に、軸部Ｇ４２７を軸に回転（自転）可能に構成されるので、両者の相対変位が単調となることを抑制でき、演出効果を高めることができる。

【２５８０】

また、変位ユニットＧ４２６の第１装飾面Ｇ４２６ａ及び第２装飾面Ｇ４２６ｂには、光を反射可能な装飾がされるので、変位ユニットＧ４２６を軸部Ｇ４２７を軸として回転させる場合には、第１装飾面Ｇ４２６ａ及び第２装飾面Ｇ４２６ｂにより反射される光の方向へ変更することができる。その結果、第１装飾ユニットＧ４２０の変位を遊技者に注目させやすくでき、演出効果を高めることができる。

【２５８１】

即ち、第１装飾ユニットＧ４２０は、軸部Ｇ４２７を軸に回転（自転）する際の回転中心を挟んで位置する第１装飾面Ｇ４２６ａ及び第２装飾面Ｇ４２６ｂを備え、第１装飾面Ｇ４２６ａ及び第２装飾面Ｇ４２６ｂとが異なる態様に構成されるので、第２装飾ユニットＧ４８０の周りを第１装飾ユニットＧ４２０が周回（公転）する際に、第１装飾ユニットＧ４２０の異なる装飾面（第１装飾面Ｇ４２６ａ及び第２装飾面Ｇ４２６ｂ）を交互に現出させることができる。これにより、例えば、視認される外形や反射される光の態様の変化を大きくして、演出効果を高めることができる。

【２５８２】

さらに、変位ユニットＧ４２６は、第１装飾面Ｇ４２６ａ及び第２装飾面Ｇ４２６ｂが湾曲した形状に形成されるので、第１装飾面Ｇ４２６ａと第２装飾面Ｇ４２６ｂとで光の反射態様が異ならせることができる。よって、第１装飾面Ｇ４２６ａと第２装飾面Ｇ４２６ｂとの反射光による演出を異なる態様で遊技者に視認させることができる。その結果、

第１装飾ユニットＧ４２０の変位を遊技者に注目させやすくでき、遊技者の興趣を向上できる。

【２５８３】

なお、第８実施形態では、変位ユニットＧ４２６が軸ＧＯから離れる方向に延びる軸（軸部Ｇ４２７の軸）を中心に回転（自転）される場合について説明したが、変位ユニットＧ４２６は、軸ＧＯと平行に伸びる軸を中心に回転（自転）するものであっても良い。この場合、第１装飾面Ｇ４２６ａへ光が照射される領域を一部にすることで、変位ユニットＧ４２６を回転（自転）させることで第１装飾面Ｇ４２６ａに対する光の照射領域が変更され、第１装飾面Ｇ４２６ａにより反射される反射光の反射態様を変更することができる。

【２５８４】

また、第８実施形態では、花弁側伝達部材Ｇ４３０が軸ＧＯを中心に約１８度回転することで、第１装飾ユニットＧ４２０が軸部Ｇ４２７を軸として約９０度回転するように設定される。即ち、花弁側伝達部材Ｇ４３０が軸ＧＯを中心に約７２度回転することで、第１装飾ユニットＧ４２０が軸部Ｇ４２７を軸として１回転するように設定される。

【２５８５】

さらに、第１装飾ユニットＧ４２０は花弁側伝達部材Ｇ４３０（第１回転ベースＧ４１０）の軸ＧＯを中心とする周囲に５個等間隔で配設される。即ち、隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０と約７２度の間隔を隔てて配設される。上述したように、第１装飾ユニットＧ４２０は、花弁側伝達部材Ｇ４３０が軸ＧＯを中心に約７２度回転することで、第１装飾ユニットＧ４２０が１回転するように設定されるので、正面視において変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置に配置される位置を同一にできる（即ち、変位ユニットＧ４２６の第１装飾面Ｇ４２６ａを遊技者に視認させる位置、及び、変位ユニットＧ４２６の第２装飾面Ｇ４２６ｂを遊技者に視認させる位置を同じにできる）。

【２５８６】

この場合、変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置となる位置の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる位置に正面側ベース部材Ｇ８１０のアーム部Ｇ８１２が配設される。即ち、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における幅が小さくされる位置の背面側にアーム部Ｇ８１２が配設される。これにより、アーム部Ｇ８１２と変位ユニットＧ４２６との干渉を抑えつつ、アーム部Ｇ８１２を花回転ユニットＧ４００に対して正面側に近づけて配置することができる。その結果、花弁動作装置Ｇ８００が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に大型化することを抑制できる。

【２５８７】

また、第８実施形態では、変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置までの変位と、変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置から軸部Ｇ４２７を軸として回転される場合の変位とが、同じ駆動モータＧ８３０の駆動力により行われるので、駆動手段（駆動モータＧ８３０）の配設数を少なくすることができる。その結果、製造コストを削減できると共に、花弁動作装置Ｇ８００が大型化することを抑制できる。

【２５８８】

さらに、変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置までの変位と、変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置から軸部Ｇ４２７を軸として回転される場合の変位とが、異なるタイミングで行われる（即ち、変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置までの変位をした後、変位ユニットＧ４２６が軸部Ｇ４２７を軸として回転される）ので、それぞれの駆動のタイミングが重なって、駆動力の伝達が不安となることを抑制できる。その結果、変位ユニットＧ４２６の変位が不安定となることを抑制できる。

【２５８９】

なお、第８実施形態では、変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置までの変位と、変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置から軸部Ｇ４２７を軸として回転される場合の変位とが、同じ駆動モータＧ８３０の駆動力により行われる場合について説明したが、これに限らず、変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置までの変位と、変位ユ

ニットＧ４２６が傾倒基準位置から軸部Ｇ４２７を軸として回転される場合の変位とが、それぞれ別の駆動手段の駆動力により変位されるように構成されていても良い。

【２５９０】

この場合、変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置までの変位と、変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置から軸部Ｇ４２７を軸として回転される場合の変位とに、駆動手段の駆動力を同時に付与することが可能になるので、起立位置から傾倒基準位置に変位させている途中に変位ユニットＧ４２６を軸部Ｇ４２７を軸として回転させ始めることができる。その結果、第１装飾ユニットＧ４２０に複雑な変位をさせることができ、第１装飾ユニットＧ４２０の変位による演出効果を向上できる。

【２５９１】

次いで、図２１９から図２２１を参照して、第２装飾ユニットＧ４８０の回転について説明する。図２１９（ａ）及び図２１９（ｂ）と図２２０（ａ）及び図２２０（ｂ）は、花回転ユニットＧ４００の正面図であり、図２２１（ａ）から図２２１（ｄ）は、従動ギヤＧ８４６からＧ８４８及び検出センサＧ８１４の背面図である。

【２５９２】

なお、図２１９（ａ）から図２２０（ｂ）では、第１装飾ユニットＧ４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０が軸ＧＯを中心に回転する遷移状態が順に図示され、図２２１（ａ）では、図２１９（ａ）に対応する位置に従動ギヤＧ８４６～Ｇ８４８が回転された状態が図示され、図２２１（ｂ）では、図２１９（ｂ）に対応する位置に従動ギヤＧ８４６～Ｇ８４８が回転された状態が図示され、図２２１（ｃ）では、図２２０（ａ）に対応する位置に従動ギヤＧ８４６～Ｇ８４８が回転された状態が図示され、図２２１（ｄ）では、図２２０（ｂ）に対応する位置に従動ギヤＧ８４６～Ｇ８４８が回転された状態が図示される。

【２５９３】

また、図２１９（ａ）から図２２０（ｂ）では、第２装飾ユニットＧ４８０の全体が透明視され外形のみ２点鎖線で図示されると共に、第２固定ユニットＧ４７０の正面側光拡散部Ｇ４７１及び側面側光拡散部Ｇ４７２が透明視して図示される。さらに、図２１９（ａ）から図２２０（ｂ）では、第２装飾ユニットＧ４８０の所定の１箇所を仮想点ＧＡとして図示する。

【２５９４】

上述したように、花弁側伝達部材Ｇ４３０の回転により第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置から軸ＧＯを中心に正面視右回り（矢印ＧＲ方向）に回転される際には、第１回転ベースＧ４１０に連結される第２回転ベースＧ４６０が第１回転ベースＧ４１０と共に軸ＧＯを中心に正面視右回りに回転される。

【２５９５】

第２回転ベースＧ４６０の歯Ｇ４６３には、第１従動ギヤＧ４７４ａが歯合されており、第２回転ベースＧ４６０の回転により第１従動ギヤＧ４７４ａが回転され、第１従動ギヤＧ４７４ａに歯合する第２従動ギヤＧ４７３ｂが回転される。これにより、第２従動ギヤＧ４７３ｂに締結される第２装飾ユニットＧ４８０が回転させられる。

【２５９６】

この場合、第２従動ギヤＧ４７３ｂと第２回転ベースＧ４６０の歯Ｇ４６３との間に奇数個（本実施形態では、１個）の第１従動ギヤＧ４７４ａが配設されるので、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置から軸ＧＯを中心に正面視右回り（矢印Ｒ方向側）に回転される際に、第２装飾ユニットＧ４８０が軸ＧＯを中心に正面視左回り（矢印Ｌ方向側）に回転される。即ち、正面視において第１装飾ユニットＧ４２０と第２装飾ユニットＧ４８０とは反対方向に回転される。

【２５９７】

従って、軸ＧＯを中心に第１装飾ユニットＧ４２０が回転（公転）される際には、第２装飾ユニットＧ４８０に対する第１装飾ユニットＧ４２０の回転（公転）を遊技者に視認させることができる。そのため、第２装飾ユニットＧ４８０が実際よりも速い速度で回転

しているように感じさせることができ、その結果、第１装飾ユニットＧ４２０の回転による演出効果を向上させることができる。

【２５９８】

即ち、第１装飾ユニットＧ４２０の周回の速度と、第２装飾ユニットＧ４８０の回転の速度とが異なるので、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）と第２装飾ユニットＧ４８０の回転（自転）とを関連付けることができ、演出効果を高めることができる。例えば、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）と同じ方向に第２装飾ユニットＧ４８０が回転（自転）される場合に、第１装飾ユニットＧ４２０の周回の速度が第２装飾ユニットＧ４８０の回転の速度よりも遅くすることで、第１装飾ユニットＧ４２０が第１装飾ユニットＧ４２０と逆方向に周回していると遊技者に錯覚させることができる。また、例えば、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）と反対方向に第２装飾ユニットＧ４８０が回転（自転）される場合に、第１装飾ユニットＧ４２０の周回の速度が第２装飾ユニットＧ４８０の回転の速度よりも速くすることで、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）の速度を遊技者に錯覚させやすくし（見かけの速度をより速くして）、遊技者に第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）を着目させやすくできる。

【２５９９】

なお、本実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０と第２装飾ユニットＧ４８０とが正面視において反対方向に回転される場合について説明したが、第１装飾ユニットＧ４２０と第２装飾ユニットＧ４８０とを正面視において同じ方向に回転させるものであってもよい。即ち、第２従動ギヤＧ４７３ｂと第２回転ベースＧ４６０の歯Ｇ４６３との間に偶数個（例えば２個）の第１従動ギヤＧ４７４ａを配設して、第２装飾ユニットＧ４８０を軸ＧＯを中心に正面視右回り（矢印Ｒ方向）に回転させるものであっても良い。

【２６００】

この場合には、第２装飾ユニットＧ４８０に対する第１装飾ユニットＧ４２０の変位を遊技者に視認させることで、第１装飾ユニットＧ４２０が実際よりも遅い速度で回転しているように感じさせることができる。そのため、花回転ユニットＧ４００よりも他の演出（例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示による演出）に注目させやすくできる。

【２６０１】

即ち、第２装飾ユニットＧ４８０は、第１装飾ユニットＧ４２０の周回と同じ方向または反対方向へ回転可能に構成される連結部Ｇ４８１を備え軸ＧＯを中心に回転（自転）可能に構成されるので、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）と第２装飾ユニットＧ４８０の回転（自転）とを関連付けることができ、演出効果を高めることができる。例えば、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）と同じ方向に第２装飾ユニットＧ４８０が回転（自転）される場合には、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）と第２装飾ユニットＧ４８０の回転（自転）とを一体的に視認させ、遊技者に第１装飾ユニットＧ４２０の回転（自転）を着目させやすくできる一方、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）と反対方向に第２装飾ユニットＧ４８０が回転（自転）される場合には、第２装飾ユニットＧ４８０の回転（自転）の分、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）の速度を遊技者に錯覚させ（見かけの速度を速くして）、遊技者に第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）を着目させやすくできる。

【２６０２】

また、第２従動ギヤＧ４７３ｂに対して、第１従動ギヤＧ４７３ａのギヤ比が約２倍に設定される。従って、図２１９（ａ）及び図２１９（ｂ）に示すように、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置から軸ＧＯを中心に正面視右回り（矢印Ｒ方向側）に約１８度回転される際に、第２装飾ユニットＧ４８０は軸ＧＯを中心に正面視左周り（矢印Ｌ方向側）に約３６度回転される（図２１９の仮想点ＧＡ参照）。

【２６０３】

即ち、軸ＧＯを中心とする第１装飾ユニットＧ４２０の回転量に対して、軸ＧＯを中心とする第２装飾ユニットＧ４８０の回転量が大きく設定される。そのため、第１装飾ユニットＧ４２０が複雑な（軸ＧＯを中心に正面視右回りに回転させると共に、変位ユニット

Ｇ４２６を軸部Ｇ４２７を軸として回転させる）変位をする場合であっても、第２装飾ユニットＧ４８０が回転していることを遊技者に認識させることができる。その結果、第１装飾ユニットＧ４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０の全体を遊技者に注目させることができ、第１装飾ユニットＧ４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０の変位による演出効果を向上できる。

【２６０４】

なお、本実施形態では、軸ＧＯを中心とする第１装飾ユニットＧ４２０の回転量に対して、軸ＧＯを中心とする第２装飾ユニットＧ４８０の回転量が大きく設定される場合について説明したが、軸ＧＯを中心とする第１装飾ユニットＧ４２０の回転量に対して、軸ＧＯを中心とする第２装飾ユニットＧ４８０の回転量が小さく設定されても良い。

【２６０５】

即ち、第２従動ギヤＧ４７３ｂに対して、第１従動ギヤＧ４７３ａのギヤ比が半分に設定され、軸ＧＯを中心に第１装飾ユニットＧ４２０が約１８度回転される際に、軸ＧＯを中心に第２装飾ユニットＧ４８０が約９度回転するようにしても良い。この場合には、第２装飾ユニットＧ４８０の回転を遊技者に認識させにくくできるので、第２装飾ユニットＧ４８０に対して第１装飾ユニットＧ４２０の変位を遊技者に注目させやすくできる。その結果、遊技者の視線を一部に注目させやすくできる。

【２６０６】

次いで、図２１９から図２２１を参照しつつ、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置から軸ＧＯを中心に正面視右回り（矢印ＧＲ方向）に回転され（変位ユニットＧ４２６が軸部Ｇ４２７を軸として回転され）た位置から、第１装飾ユニットＧ４２０が軸ＧＯを中心に正面視左回り（矢印ＧＬ方向）に回転されて変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置（図２１９（ａ）に示す位置）に変位される場合について説明する。

【２６０７】

図２１９（ａ）及び図２１９（ｂ）に示すように、第１装飾ユニットＧ４２０が軸部Ｇ４２７を軸として傾倒基準位置から約９０度回転された際には、第２回転ベースＧ４６０が正面側立設部Ｇ４６２の外周面に係合片Ｇ４７７ｂを当接した状態で回転して、第２回転ベースＧ４６０の係合凹部Ｇ４６２ａの内側から係合片Ｇ４７７ｂが抜け出され、正面側立設部Ｇ４６２に所定間隔を隔てて複数個所に形成される係合凹部Ｇ４６２ａの間に係合片Ｇ４７７ｂが配置された状態とされる。

【２６０８】

図２１９（ｂ）に示す状態から図２１９（ａ）に示す傾倒基準位置に第１装飾ユニットＧ４２０を戻すためには、駆動モータＧ８３０の駆動方向を反対方向にして花弁側伝達部材Ｇ４３０を正面視左回り（矢印ＧＬ方向）に回転させる。これにより、花弁側伝達部材Ｇ４３０の摺動溝Ｇ４３１ａに挿入される第１装飾ユニットＧ４２０の摺動部Ｇ４２５ａが摺動溝Ｇ４３１ａの第２摺動面Ｇ４３１ａ４に押し出されて第１回転ベースＧ４１０が正面視左回りに回転される。従って、第１回転ベースＧ４１０の正面視左回りの回転に伴って第１装飾ユニットＧ４２０を変位させて、第１装飾ユニットＧ４２０の回転ギヤＧ４２１を回転させることで、変位ユニットＧ４２６を傾倒基準位置まで戻す方向に軸部Ｇ４２７を軸として回転させることができる。

【２６０９】

この場合、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置まで回転されると第１回転ベースＧ４１０の正面視左回り（矢印ＧＬ方向）の回転に伴って第２回転ベースＧ４６０も正面視左回りに回転され、正面側立設部Ｇ４６２の係合凹部Ｇ４６２ａが係合片Ｇ４７７ｂと対応する位置に変位され、係合凹部Ｇ４６２ａと係合片Ｇ４７７ｂとが係合される。即ち、係合片Ｇ４７７ｂ及び係合凹部Ｇ４６２ａは、第２回転ベースＧ４６０が正面視右回りの回転をされる場合に係合しない（引っ掛からない）形状に形成され、第２回転ベースＧ４６０が正面視左回りに回転される場合に係合する（引っ掛かる）形状に形成される。これにより、傾倒基準位置からの第２回転ベースＧ４６０の軸ＧＯを中心とする正面視左回り（矢印ＧＬ方向）の回転が規制される。よって、第２回転ベー

スＧ４６０に連結される第１回転ベースＧ４１０の回転も規制される。
【２６１０】
なお、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置まで回転された後、駆動モータＧ８３０の同方向への駆動が継続される（花弁側伝達部材Ｇ４３０の正面視左回り（矢印ＧＬ方向）の回転が継続される）場合には、第１回転ベースＧ４１０の回転が規制されることにより、第１装飾ユニットＧ４２０の摺動部Ｇ４２５ａが摺動溝Ｇ４３１ａの第２摺動面Ｇ４３１ａ４に押し出されて傾倒基準位置から起立位置まで変位される。
【２６１１】
詳しく説明すると、第１回転ベースＧ４１０の回転が規制されることにより、花弁側伝達部材Ｇ４３０が第１回転ベースＧ４１０に対して相対変位される。これにより、花弁側伝達部材Ｇ４３０の摺動溝Ｇ４３１ａに挿入される第１装飾ユニットＧ４２０の摺動部Ｇ４２５ａが摺動溝Ｇ４３１ａの変位（花弁側伝達部材Ｇ４３０の回転）に伴って第２摺動面Ｇ４３１ａ４に当接され、摺動部Ｇ４２５ａが外側端部Ｇ４３１ａ２から内側端部Ｇ４３１ａ１まで摺動される。これにより、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置から起立位置まで変位される。
【２６１２】
即ち、第１装飾ユニットＧ４２０は、第２装飾ユニットＧ４８０の外方側（軸ＧＯ側）に近接する方向および離間する方向へそれぞれ変位可能に構成され、第２装飾ユニットＧ４８０の外方側（軸ＧＯ側）へ近接する方向への第１装飾ユニットＧ４２０の変位は、第１装飾ユニットＧ４２０の軸部Ｇ４２７を軸とする回転（自転）における回転位置が所定の回転位置（傾倒基準位置）にある場合に行われるように構成される。これにより、常に同じ姿勢で第１装飾ユニットＧ４２０を第２装飾ユニットＧ４８０の外方側（軸ＧＯ側）へ近接させることができ、第１装飾ユニットＧ４２０が第２装飾ユニットＧ４８０の外方側に干渉する（当接する）ことを抑制できる。これにより、第１装飾ユニットＧ４２０の外形形状の設計の自由度を高められると共に、第２装飾ユニットＧ４８０の外方側へ第１装飾ユニットＧ４２０をより近接させることができる。
【２６１３】
本実施形態では、軸ＧＯを中心とする第１装飾ユニットＧ４２０の正面視右回り（矢印ＧＲ方向）の回転数に関係することなく、所定の位置（係合片Ｇ４７７ｂ及び係合凹部Ｇ４６２ａが係合する位置）まで第１装飾ユニットＧ４２０を正面視左回り（矢印ＧＬ方向）に回転させることで、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を起立位置に戻すことができる。これにより、花回転ユニットＧ４００の正面視における領域を拡大して、第１装飾ユニットＧ４２０の変位による演出をした後、その演出時間よりも短いタイミングで花回転ユニットＧ４００の正面視における領域を縮小することができる。その結果、第１装飾ユニットＧ４２０の変位による演出効果を向上できる。
【２６１４】
なお、本実施形態では、軸ＧＯを中心とする第１装飾ユニットＧ４２０の配設間隔と、軸ＧＯを中心とする係合凹部Ｇ４６２ａとの形成間隔とが略同一に設定される。これにより、第１装飾ユニットＧ４２０を軸ＧＯを中心に正面視右回り（矢印ＧＲ方向）に回転させた後、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が起立位置に変位を開始する位置を同じ位置に設定できる。従って、変位ユニットＧ４２６が起立位置に配置される場合における花回転ユニットＧ４００の外形を同じすることができ、遊技者が違和感を持つことを抑制できる。
【２６１５】
即ち、第１装飾ユニットＧ４２０が第２装飾ユニットＧ４８０の外方側（軸ＧＯ側）に近接する方向に最も変位した際に、第１装飾ユニットＧ４２０の周回（公転）における周回位置が所定の周回位置となるように構成されるので、第１装飾ユニットＧ４２０が第２装飾ユニットＧ４８０の外方側（軸ＧＯ側）に最も近づいた状態において、第１装飾ユニットＧ４２０の周回位置を常に同じ周回位置とすることができる。これにより、第２装飾ユニットＧ４８０の周りを第１装飾ユニットＧ４２０が周回（公転）する構成において、

常に同じ周回位置において第１装飾ユニットＧ４２０を第２装飾ユニットＧ４８０の外方側に最も近づいた状態とすることができると共に、常に同じ周回位置を起点（始点）として第１装飾ユニットＧ４２０を第２装飾ユニットＧ４８０の外方側から離間する方向へ変位させることができる。その結果、演出効果を高めることができる。

【２６１６】

次いで、駆動モータＧ８３０の駆動方向を反対方向にして、図２２０（ａ）及び図２２０（ｂ）に示す位置から図２１９（ａ）に示す傾倒基準位置に第１装飾ユニットＧ４２０を戻した場合について説明する。

【２６１７】

図２２０（ａ）及び図２２０（ｂ）に示す位置から第２回転ベースＧ４６０を正面視左周り（矢印ＧＬ方向）に回転させた場合には、図２２０（ａ）に示す第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒半回転位置で、正面側立設部Ｇ４６２の係合凹部Ｇ４６２ａの内側に係合片Ｇ４７７ｂが係合されることとなる。即ち、第１装飾ユニットＧ４２０を傾倒基準位置まで戻すことが不能とされる。

【２６１８】

なお、本実施形態では、図２２１（ｃ）及び図２２１（ｄ）に示すように図２２０（ａ）及び図２２０（ｂ）に示す位置まで花弁側伝達部材Ｇ４３０が回転されると、検出センサＧ８１４に従動ギヤＧ８４８の被検出部Ｇ８４８ａが重なることとなる。この検出により、図２２０（ａ）及び図２２０（ｂ）に示す位置から第２回転ベースＧ４６０を正面視左周り（矢印ＧＬ方向）に回転される駆動力が駆動モータＧ８３０から入力されることが規制される。

【２６１９】

即ち、本実施形態では、図２２０（ａ）及び図２２０（ｂ）に示す位置から第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置に回転されることが規制される。従って、変位ユニットＧ４２６が起立位置とされる場合には、花回転ユニットＧ４００を同じ態様にすることができる。その結果、第１装飾ユニットＧ４２０の変位による演出効果を向上できる。

【２６２０】

また、図２２１（ａ）に示すように、図２１９（ａ）に示す傾倒基準位置においても、検出センサＧ８１４に従動ギヤＧ８４８の被検出部Ｇ８４８ａが重なるように構成される。これにより、変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置に配置される位置に対して、正面側立設部Ｇ４６２の係合凹部Ｇ４６２ａと係合片Ｇ４７７ｂとの係合位置がずれた場合に、傾倒半回転位置に配置される状態で起立位置に戻される不具合を抑制できる。

【２６２１】

一方、図２２１（ｂ）に示すように、図２１９（ｂ）に示す傾倒基準位置から変位ユニットＧ４２６が軸部Ｇ４２７を軸として少し回転される場合には、検出センサＧ８１４に従動ギヤＧ８４８の被検出部Ｇ８４８ａが重ならないように構成される。従って、本実施形態においては、変位ユニットＧ４２６を起立位置から傾倒基準位置に変位された後、少なくとも軸部Ｇ４２７を軸として変位ユニットＧ４２６を回転させてから、起立位置への変位が行われるように構成される。

【２６２２】

次いで、図２２２を参照して、第１装飾ユニットＧ４２０を傾倒基準位置から起立位置に変位させる場合について説明する。図２２２（ａ）から図２２２（ｃ）は、花回転ユニットＧ４００を正面視した模式図である。

【２６２３】

なお、図２２２（ａ）では、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置に配置された状態が模式的に図示され、図２２２（ｂ）では、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置から起立位置に変位される途中の位置にある状態が模式的に図示され、図２２２（ｃ）では、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が起立位置に配置された状態が模式的に図示される。また、図２２２（ａ）から図２２２（ｃ）で

は、第２装飾ユニットＧ４８０が透明視して図示されると共に、第２装飾ユニットＧ４８０の外形が２点鎖線で図示される。

【２６２４】

図２２２（ａ）に示すように、本実施形態における複数（５個）の第１装飾ユニットＧ４２０は、変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置に配置された場合に隣り合う変位ユニットＧ４２６どうしの間隔が小さくされた状態で花回転ユニットＧ４００のベース部分（第１回転ベースＧ４１０，花弁側伝達部材Ｇ４３０，基板部材Ｇ４４０，第１固定ユニットＧ４５０，第２回転ベースＧ４６０，第２固定ユニットＧ４７０）の周囲に配設される。これにより、第１装飾ユニットＧ４２０を傾倒基準位置に配置した場合に、正面視における花回転ユニットＧ４００の全体を大型化して花回転ユニットＧ４００の演出に注目させやすくできる。

【２６２５】

しかしながら、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を起立位置に配置する場合には、第１装飾ユニットＧ４２０を連結棒Ｇ４２１ｄを軸として回転させて、花回転ユニットＧ４００のベース部分に対する姿勢を変更するものである（即ち、軸ＧＯに対する周方向の変位ユニットＧ４２６の１辺の長さ（大きさ）を変更せず、第１装飾ユニットＧ４２０を軸ＧＯに向けて近づける）ため、変位ユニットＧ４２６を起立位置に変位させる場合に隣り合う変位ユニットＧ４２６の間隔が小さくなる。そのため、起立位置に配置する場合に隣り合う変位ユニットＧ４２６どうしが衝突して起立位置まで変位ユニットＧ４２６を変位させることができなくなる恐れがある。

【２６２６】

これに対し、本実施形態では、図２２２（ｂ）及び図２２２（ｃ）に示すように、傾倒基準位置から起立位置に変位ユニットＧ４２６を変位させる場合に、第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の矢印ＧＬ方向側の端部が、第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の矢印ＧＲ方向側の端部に比べて先行して軸ＧＯに向かって変位される。

【２６２７】

即ち、第１装飾ユニットＧ４２０は、変位ユニットＧ４２６の第１装飾面Ｇ４２６ａが正面側（矢印Ｆ方向側）を向く状態から第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）を向く状態となる際に、第１装飾ユニットＧ４２０の一側が他側よりも第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側に到着するように構成される。

【２６２８】

これにより、図２２２（ｃ）に示すように起立状態とした場合には、第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の矢印ＧＬ方向側の端部を、矢印ＧＬ方向側に隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の矢印ＧＲ方向側の端部と軸ＧＯを中心とする径方向内側に重ねた状態で配設することができる。その結果、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を傾倒基準位置から起立位置に変位させる場合に、隣り合う変位ユニットＧ４２６どうしが衝突して起立位置まで変位ユニットＧ４２６を変位させることができなくなることを抑制できる。

【２６２９】

また、第１装飾ユニットＧ４２０の一側が他側よりも第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側に到着するように構成されることで、第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）に複数配設される第１装飾ユニットＧ４２０が、変位ユニットＧ４２６が第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）を向く状態では、隣り合う第１装飾手段の一方の一側に他方の他側が軸ＧＯから径方向外側に重なるので、縮小状態において第１装飾ユニットＧ４２０の配設に要するスペースを抑制できる。言い換えると、第１装飾ユニットＧ４２０の大きさを大きくできる。一方、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が正面側を向く状態（拡大状態）では、隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０の間の隙間を小さくできる。

【２６３０】

また、図２２２（ｃ）に示すように起立状態とした場合に、全ての第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の矢印ＧＬ方向側の端部を、矢印ＧＬ方向側に隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の矢印ＧＲ方向側の端部の内側に配置でき、第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の外側端部の径方向における重なり方がそれぞれの第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）で異なる状態にならないので、正面視における花回転ユニットＧ４００の見た目をよくすることができる。

【２６３１】

さらに、図２２２（ｃ）に示すように起立位置に第１装飾ユニットＧ４２０を配置した状態では、第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の矢印ＧＬ方向側の端部の正面側（矢印Ｆ方向側）に第２装飾ユニットＧ４８０の一部を重ねた状態とされる。

【２６３２】

即ち、第２装飾ユニットＧ４８０は、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）を向く状態において隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０の一方の一側と他方の他側とが重なる部分の少なくとも一部と正面視において重なるように構成される。これにより、縮小状態において第１装飾ユニットＧ４２０どうしが重なる部分を遊技者から見えにくくできる。よって、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）を向く状態（縮小状態）から第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が正面側を向く状態（拡大状態）に遷移した際の意外性を向上できる。

【２６３３】

なお、第８実施形態では、第２装飾ユニットＧ４８０が光を透過可能な透明な樹脂材料から形成されるので、第２装飾ユニットＧ４８０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）が視認可能とされる。しかしながら、第８実施形態における第２装飾ユニットＧ４８０では、有色（赤色）の透明な樹脂材料で形成されており、これにより第２装飾ユニットＧ４８０の背面側に重なる第１装飾ユニットＧ４２０が遊技者から見えにくくされる。

【２６３４】

また、第８実施形態では、起立位置の第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）の矢印ＧＬ方向側の端部の正面側に第２装飾ユニットＧ４８０が重なる大きさに設定されるが、起立位置の第１装飾ユニットＧ４２０の全体に第２装飾ユニットＧ４８０が重なる大きさに第２装飾ユニットＧ４８０が設定されるものであっても良く、さらに、傾倒位置（拡大状態）の第１装飾ユニットＧ４２０の全体に第２装飾ユニットＧ４８０が重なる大きさに第２装飾ユニットＧ４８０が設定され、第２装飾ユニットＧ４８０を介して第１装飾ユニットＧ４２０の変位を遊技者に視認させるものであっても良い。

【２６３５】

次いで、図２２３から図２２４を参照して、第９実施形態における花回転ユニットＧ２４００について説明する。上記第８実施形態では、複数個配設される第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）が同時に変位する場合について説明したが、第９実施形態では、複数個配設される第１装飾ユニットＧ４２０（変位ユニットＧ４２６）が異なるタイミングで変位される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２６３６】

初めに、図２２３を参照して、花回転ユニットＧ２４００の花弁側伝達部材Ｇ２４３０について説明する。図２２３は、第９実施形態における花回転ユニットＧ２４００を正面視した模式図である。

【２６３７】

第９実施形態における花回転ユニットＧ２４００は、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第１回転ベースＧ４１０と、その第１回転ベースＧ４１０の正面視における周囲を取り囲む態様で第１回転ベースＧ４１０の周囲に複数個（第９実施形態では６個）配設され

る第１装飾ユニットＧ４２０と、第１回転ベースＧ４１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される花弁側伝達部材Ｇ２４３０と、その花弁側伝達部材Ｇ４３０の正面側に配設される第１固定ユニットＧ４５０と、その第１固定ユニットＧ４５０の背面側に配設される基板部材Ｇ４４０と、第１固定ユニットＧ４５０の正面側に配設される第２回転ベースＧ４６０と、第２回転ベースＧ４６０の正面側に配設される第２固定ユニットＧ４７０と、その第２固定ユニットＧ４７０の正面側に配設される第２装飾ユニットＧ４８０とを主に備えて形成される。

【２６３８】

なお、図２２３では、花弁側伝達部材Ｇ２４３０よりも正面側に配設される基板部材Ｇ４４０，第１固定ユニットＧ４５０，第２回転ベースＧ４６０，第２固定ユニットＧ４７０，第２装飾ユニットＧ４８０の図示が省略される。

【２６３９】

図２２３に示すように、第９実施形態における花弁側伝達部材Ｇ２４３０は、正面視（矢印Ｂ方向視）において略円形の板状に形成される伝達部Ｇ２４３１と、その伝達部Ｇ２４３１の背面側（矢印Ｂ方向側）から円柱状に突出する軸支部Ｇ４３２とを主に備え、全体が光を透過可能な樹脂材料から形成される。また、伝達部Ｇ４３１と軸支部Ｇ４３２との中心部には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口する被挿通部Ｇ４３３が形成される。

【２６４０】

伝達部Ｇ２４３１は、正面視（矢印Ｂ方向視）において湾曲状に開口形成される第１摺動溝Ｇ２４３４及び第２摺動溝Ｇ２４３５が軸ＧＯを中心とする周方向に所定の間隔で交互に形成される。

【２６４１】

なお、伝達部Ｇ２４３１の正面視における外径は、第８実施形態と同様に花弁側伝達部材Ｇ４３０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第２回転ベースＧ４６０の円盤部Ｇ４６１の外径よりも若干小さく形成される。即ち、花弁側伝達部材Ｇ４３０は、第２回転ベースＧ４６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる大きさに設定される。

【２６４２】

第１摺動溝Ｇ２４３４及び第２摺動溝Ｇ２４３５は、第１装飾ユニットＧ４２０の被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）が挿通される部分であり、溝幅が摺動部Ｇ４２５ａよりも若干大きく形成される。

【２６４３】

第１摺動溝Ｇ２４３４は、正面視（矢印Ｂ方向視）において伝達部Ｇ２４３１の径方向内側の内側端部Ｇ２４３４ａ１から径方向外側の外側端部Ｇ２４３４ａ２に向かうに従って、反時計周りの湾曲形状に形成される。

【２６４４】

一方、第２摺動溝Ｇ２４３５は、正面視（矢印Ｂ方向視）において、軸ＧＯを中心とする周方向に沿って延設される非変位部Ｇ２４３５ａと、その非変位部Ｇ２４３５ａの一端から径方向外側に向かうに従って反時計回りの湾曲形状に形成される変位部Ｇ２４３５ｂとを備える。

【２６４５】

また、第２摺動溝Ｇ２４３５の変位部Ｇ２４３５ｂが連結される側と反対側の非変位部Ｇ２４３５ａの内側端部Ｇ２４３５ａ１から変位部Ｇ２４３５ｂの径方向外側の外側端部Ｇ２４３５ｂ２までの軸ＧＯを中心とする形成角度は、第１摺動溝Ｇ２４３４の内側端部Ｇ２４３４ａ１から外側端部Ｇ２４３４ａ２までの軸ＧＯを中心とする形成角度と略同一に設定される。即ち、第１摺動溝Ｇ２４３４に挿入される被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）の軸ＧＯを中心とする周方向の移動距離と、第２摺動溝Ｇ２４３５に挿入される被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）の軸ＧＯを中心とする周方向の移動距離とが略同一に設定される。

【２６４６】

さらに、第２摺動溝Ｇ２４３５の内側端部Ｇ２４３５ａ１と第１摺動溝Ｇ２４３４の内

側端部Ｇ２４３４ａ１とは、正面視において軸ＧＯからの離間距離が同一に設定され、第２摺動溝Ｇ２４３５の外側端部Ｇ２４３５ｂ２と第１摺動溝Ｇ２４３４の外側端部Ｇ２４３４ａ２とは、正面視において軸ＧＯからの離間距離が同一に設定される。即ち、第１摺動溝Ｇ２４３４に挿入される被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）の径方向における移動距離と、第２摺動溝Ｇ２４３５に挿入される被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）の径方向における移動距離とが略同一に設定される。

【２６４７】

次いで、図２２４を参照して、第９実施形態における花回転ユニットＧ２４００における変位ユニットＧ４２６の起立位置から傾倒基準位置までの変位および傾倒基準位置から起立位置までの変位について説明する。

【２６４８】

図２２４（ａ）から図２２４（ｃ）は、花回転ユニットＧ２４００を正面視した模式図である。なお、図２２４（ａ）から図２２４（ｃ）では、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置まで変位する遷移状態が順に図示される。

【２６４９】

初めに、図２２４を参照して、変位ユニットＧ４２６の起立位置から傾倒基準位置までの変位について説明する。なお、変位ユニットＧ４２６が起立位置に配置される場合には、図２２３（ａ）に示すように、第１摺動溝Ｇ２４３４に連結される側の第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が第２摺動溝Ｇ２４３５に連結される側の第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６に対して軸ＧＯを中心とする径方向外側に重なった状態で配設される。

【２６５０】

また、変位ユニットＧ４２６の起立位置から傾倒基準位置までの変位は、第８実施形態と同様に、駆動モータＧ８３０（図２０５参照）の駆動力により花弁側伝達部材Ｇ２４３０が正面視右回り（矢印ＧＲ方向）に回転され、第１摺動溝Ｇ２４３４及び第２摺動溝Ｇ２４３５の移動に伴って被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａが軸ＧＯを中心とする径方向外側に変位（摺動）されることで行われる。

【２６５１】

図２２４（ａ）及び図２２４（ｂ）に示すように、変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置から変位され始めた場合には、第１摺動溝Ｇ２４３４に挿入される被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）が花弁側伝達部材Ｇ２４３０の回転に伴って第１摺動溝Ｇ２４３４の内側端部Ｇ２４３４ａ１から離間され、湾曲形成される第１摺動溝Ｇ２４３４の内側の第１摺動面Ｇ２４３４ａ３に当接して軸ＧＯを中心とする径方向外側に押し出される。これにより、第１摺動溝Ｇ２４３４に連結される第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６は、起立位置から傾倒基準位置に向けて傾倒を開始する。

【２６５２】

一方、第２摺動溝Ｇ２４３５に挿入される被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）は、花弁側伝達部材Ｇ２４３０の回転に伴って第２摺動溝Ｇ２４３５の内側端部Ｇ２４３５ａ１から離間される。この場合、第２摺動溝Ｇ２４３５の非変位部Ｇ２４３５ａは、軸ＧＯを中心とする湾曲状に形成されるので、非変位部Ｇ２４３５ａ内を摺動する被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）は、第１回転ベースＧ４１０に対して相対位置を変更しない。従って、第２摺動溝Ｇ２４３５に連結される第１装飾ユニットＧ４２０は、第１摺動溝Ｇ２４３４に連結される第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置に向けて傾倒を開始し始めた際に、起立位置から傾倒基準位置に向けて傾倒を開始しない。

【２６５３】

なお、第２摺動溝Ｇ２４３５に連結される第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６の起立位置から傾倒基準位置への変位の開始は、被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）が第２摺動溝Ｇ２４３５の非変位部Ｇ２４３５ａと変位部Ｇ２４３５ｂとの連結

部を超える位置まで変位されることで行われる。
【２６５４】
即ち、変位部Ｇ２４３５ｂは、上述したように径方向外側に向かうに従って反時計回りの湾曲形状に形成されるので、被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）が変位部Ｇ２４３５ｂまで変位されると、被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）に変位部Ｇ２４３５ｂの第１摺動面Ｇ２４３５ｂ３に当接される。これにより、被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）が軸ＧＯを中心とする径方向外側に押し出されて、起立位置から傾倒基準位置に向けて傾倒を開始する。
【２６５５】
次いで、図２２４（ｃ）を参照して、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置まで変位された場合について説明する。上記したように、第２摺動溝Ｇ２４３５の外側端部Ｇ２４３５ｂ２と第１摺動溝Ｇ２４３４の外側端部Ｇ２４３４ａ２とが、正面視において軸ＧＯからの離間距離が同一に設定されるので、第１装飾ユニットＧ４２０の傾倒基準位置までの変位された場合には、隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０同士の背面側（矢印Ｂ方向側）への傾倒角度を同一にすることができる。
【２６５６】
即ち、第１装飾ユニットＧ４２０を傾倒基準位置に配置した場合の正面視における第１装飾ユニットＧ４２０のそれぞれの見え方を同一にすることができる。その結果、第１装飾ユニットＧ４２０の変位による演出効果を向上できる。
【２６５７】
次いで、第９実施形態における第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を傾倒基準位置から起立位置に変位させる場合についての説明をする。なお、第９実施形態における第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を傾倒基準位置から起立位置まで変位させる場合には、第８実施形態と同様に駆動モータＧ８３０の駆動方向を反対して花弁側伝達部材Ｇ２４３０を正面視左回り（矢印ＧＬ方向）に回転させることで行われる。
【２６５８】
第９実施形態では、上述したように、第２摺動溝Ｇ２４３５の内側端部Ｇ２４３５ａ１から外側端部Ｇ２４３５ｂ２までの軸ＧＯを中心とする第２摺動溝Ｇ２４３５の形成角度が、第１摺動溝Ｇ２４３４の内側端部Ｇ２４３４ａ１から外側端部Ｇ２４３５ｂ２までの軸ＧＯを中心とする第１摺動溝Ｇ２４３４の形成角度と同一に設定され、かつ、第２摺動溝Ｇ２４３５の内側端部Ｇ２４３５ａ１から外側端部Ｇ２４３５ｂ２までの軸ＧＯを中心とする径方向の離間距離が、第１摺動溝Ｇ２４３４の内側端部Ｇ２４３４ａ１から外側端部Ｇ２４３４ａ２までの軸ＧＯを中心とする径方向の離間距離と同一に設定されるので、第２摺動溝Ｇ２４３５の変位部Ｇ２４３５ｂの正面視における曲率が、第１摺動溝Ｇ２４３４の正面視における曲率よりも大きく形成される。
【２６５９】
これにより、第９実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を傾倒基準位置から起立位置に変位を開始した場合に、第２摺動溝Ｇ２３４５に連結される第１装飾ユニットＧ４２０を第１摺動溝Ｇ２４３４に連結される第１装飾ユニットＧ４２０に比べて早いタイミングで起立位置まで変位させることができる。即ち、第２摺動溝Ｇ２４３５に連結される第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６は、第２摺動溝Ｇ２４３５の変位部Ｇ２４３５ｂと非変位部Ｇ２４３５ａとの連結部まで被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）が変位されることで起立位置に変位される。
【２６６０】
図２２４（ｂ）及び図２２４（ａ）に示すように、第２摺動溝Ｇ２４３５の変位部Ｇ２４３５ｂと非変位部Ｇ２４３５ａとの連結部まで被摺動部材Ｇ４２５（摺動部Ｇ４２５ａ）が変位された第２摺動溝Ｇ２４３５に連結される第１装飾ユニットＧ４２０は、花弁側伝達部材Ｇ２４３０が正面視左回り（矢印ＧＬ方向）の回転が継続されることで、非変位部Ｇ２４３５ａの内部を摺動して非変位部Ｇ２４３５ａの内側端部Ｇ２４３５ａ１まで変

位される。
【２６６１】
なお、第２摺動溝Ｇ２４３５に連結される第１装飾ユニットＧ４２０が非変位部Ｇ２４３５ａの内部を摺動して非変位部Ｇ２４３５ａの内側端部Ｇ２４３５ａ１まで変位される場合に、第１摺動溝Ｇ２４３４に連結される第１装飾ユニットＧ４２０が第１摺動溝Ｇ２４３４の内側端部Ｇ２４３４ａ１まで変位される。これにより、第２摺動溝Ｇ２４３５に連結される第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６の軸ＧＯを中心とする径方向外側に、第１摺動溝Ｇ２４３４に連結される第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が重なって当接した状態（図２２４（ａ）に示す状態）とされる。
【２６６２】
以上説明したように、第９実施形態では、隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が異なるタイミングで起立位置まで変位される。即ち、第１装飾ユニットＧ４２０は、変位ユニットＧ４２６が正面側を向く状態から変位ユニットＧ４２６がだい２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）を向く状態となる際に、隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０の一方の変位が開始された後に他方の変位が開始されるように構成されるので、第１装飾ユニットＧ４２０を複雑な軌跡で変位させることを回避しつつ、隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０同士が干渉することを抑制できる。例えば、第１装飾ユニットＧ４２０の一側が他側よりも先に第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）に到着するようにする必要がなく、第１装飾ユニットＧ４２０の一側および他側が同時に第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）に到着するようにできる。
【２６６３】
よって、第９実施形態では、傾倒基準位置から起立位置まで変位ユニットＧ４２６変位させる場合に、第８実施形態における第１装飾ユニットＧ４２０のように、変位ユニットＧ４２６の周方向の一方側（矢印ＧＬ方向側）を他方側（矢印ＧＲ方向側）に比べて先行させる必要がないので、傾倒基準位置における第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６の第１装飾面Ｇ４２６ａを遊技盤Ｈ１３の正面に対して平行に配置することができる。その結果、第９実施形態における花回転ユニットＧ２４００では、第１装飾ユニットＧ４２０を傾倒基準位置に配置した場合における花回転ユニットＧ２４００の演出効果を向上させることができる。
【２６６４】
また、第９実施形態における花回転ユニットＧ２４００では、摺動部Ｇ４２５ａが挿入される摺動溝を第１摺動溝Ｇ２４３４と第２摺動溝Ｇ２４３５との２種類で隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０が衝突することを抑制できるので、第１装飾ユニットＧ４２０の配設数分、異なる形状の摺動溝を形成する必要がないので、花弁側伝達部材Ｇ２４３０の形状が複雑になったり、第１装飾ユニットＧ４２０の変位が複雑になることを抑制できる。その結果、第１装飾ユニットＧ４２０の変位を安定して行うことができる。
【２６６５】
なお、第９実施形態における花回転ユニットＧ２４００では、第１摺動溝Ｇ２４３４に連結される第１装飾ユニットＧ４２０に対して、第２摺動溝Ｇ２４３５に連結される第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を先行して傾倒基準位置から起立位置に変位させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【２６６６】
例えば、第２摺動溝Ｇ２４３５の変位部Ｇ２４３５ｂにおいて、第２摺動面Ｇ２３４５ｂ４の正面視における曲率を、第１摺動溝Ｇ２４３４の第１摺動面Ｇ２４３４ａ３の正面視における曲率よりも大きくして、第２摺動面Ｇ２４３４ａ４により押し出されて傾倒基準位置から起立位置に変位される変位ユニットＧ４２６の変位よりも第２摺動面Ｇ２４３５ｂ４により押し出されて傾倒基準位置から起立位置に変位される変位ユニットＧ４２６の変位を遅くしても良い。
【２６６７】

この場合、起立位置から傾倒基準位置に変位させる際の第１摺動面Ｇ２４３５ｂ３については第１摺動面Ｇ２４３４ａ３と同じ形状にすることができるので、起立位置から傾倒基準位置に変位ユニットＧ４２６を変位させる際には、第１摺動溝Ｇ２４３４と第２摺動溝Ｇ２４３５とで変位ユニットＧ４２６の変位タイミングを同じにできる。その結果、第１装飾ユニットＧ４２０の変位による演出効果を向上できる。

【２６６８】

即ち、第１装飾ユニットＧ４２０は、変位ユニットＧ４２６が第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）を向く状態（縮小状態）から変位ユニットＧ４２６が正面側を向く状態（拡大状態）となる際に、隣り合う第１装飾ユニットＧ４２０の一方の変位と他方の変位とが同時に開始されるように構成されるので、拡大状態から縮小状態となる際と、縮小状態から拡大状態となる際の第１装飾ユニットＧ４２０の変位の態様を異ならせることができる。これにより、第１装飾ユニットＧ４２０を変位させることによる演出効果を向上できる。

【２６６９】

次いで、図２２５を参照して、第１０実施形態における花回転ユニットＧ３４００について説明する。上記第８実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０が軸部Ｇ４２７を軸に半回転される際に、係合片Ｇ４７７ｂが次の係合凹部Ｇ４６２ａと係合可能な状態とされる場合について説明したが、第１０実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０が軸部Ｇ４２７を軸に１回転される際に、係合片Ｇ４７７ｂが次の係合凹部Ｇ３４６２ａと係合可能な状態とされる。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２６７０】

初めに、図２２５を参照して、第１０実施形態における花回転ユニットＧ３４００の第２回転ベースＧ３４６０について説明する。図２２５（ａ）及び図２２５（ｂ）は、第１０実施形態における花回転ユニットＧ３４００の正面図である。なお、図２２５（ａ）では、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置に配置された状態が図示され、図２２５（ｂ）では、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒半回転位置に配置された状態が図示される。

【２６７１】

第１０実施形態における花回転ユニットＧ３４００は、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第１回転ベースＧ４１０と、その第１回転ベースＧ４１０の正面視における周囲を取り囲む態様で第１回転ベースＧ４１０の周囲に複数個（第１０実施形態では４個）配設される第１装飾ユニットＧ４２０と、第１回転ベースＧ４１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される花弁側伝達部材Ｇ４３０と、その花弁側伝達部材Ｇ４３０の正面側に配設される第１固定ユニットＧ４５０と、その第１固定ユニットＧ４５０の背面側に配設される基板部材Ｇ４４０と、第１固定ユニットＧ４５０の正面側に配設される第２回転ベースＧ３４６０と、第２回転ベースＧ３４６０の正面側に配設される第２固定ユニットＧ４７０と、その第２固定ユニットＧ４７０の正面側に配設される第２装飾ユニットＧ４８０とを主に備えて形成される。

【２６７２】

なお、図２２５では、第２回転ベースＧ３４６０よりも正面側に配設される第２固定ユニットＧ４７０，第２装飾ユニットＧ４８０の図示が省略される。また、第１０実施形態では、第８実施形態における花回転ユニットＧ４００に比べて、第１装飾ユニットＧ４２０の配設数が異なる（少ない）分、第１装飾ユニットＧ４２０が連結される第１回転ベースＧ４１０の装飾側軸部Ｇ４１２ａ及び花弁側伝達部材Ｇ４３０の摺動溝Ｇ４３１ａの形成数が異なる（少ない）がそれらの形成される数が異なるだけであるので、以下の説明において第１０実施形態における第１装飾ユニットＧ４２０及び花弁側伝達部材Ｇ４３０を第８実施形態と同一の符号を付して説明する。

【２６７３】

第１０実施形態における第２回転ベースＧ３４６０は、正面視略円環状に形成される円盤部Ｇ４６１と、その円盤部Ｇ４６１の内周縁に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）に向かっ

て立設される正面側立設部Ｇ３４６２と、その正面側立設部Ｇ３４６２及び円盤部Ｇ４６１の内周面に刻設される複数の歯Ｇ４６３と、円盤部Ｇ４６１の外周縁に沿って背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって立設される背面側立設部Ｇ４６４と、その背面側立設部Ｇ４６４の立設先端部の一部の複数個所から背面側に向かって突出される螺子締結部Ｇ４６５とを主に備えて形成され、全体が光を透過可能な樹脂材料から形成される。

【２６７４】

正面側立設部Ｇ３４６２は、外周面に周方向に沿って所定の間隔で４か所（即ち、９０度の間隔で４か所）に凹設される係合凹部Ｇ４６２ａを備える。係合凹部Ｇ４６２ａは、第２固定ユニットＧ４７０の係合片Ｇ４７７ｂが係合される部分であり、外周面側から径方向内側に向かって凹設され、その凹設面が周方向の一方側と他方側とで異なる形状に形成される。

【２６７５】

また、第１０実施形態では、図２２５（ａ）及び図２２５（ｂ）に示すように、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置から軸ＧＯを中心に正面視右回り（矢印ＧＲ方向）に略４５度回転されると、第１装飾ユニットＧ４２０が軸部Ｇ４２７を軸として回転され傾倒半回転位置（即ち、変位ユニットＧ４２６の第２装飾面Ｇ４２６ｂを正面側（矢印Ｆ方向側）に向けた位置）に変位するように構成される。

【２６７６】

第２回転ベースＧ３４６０は、第８実施形態における第２回転ベースＧ４６０と同様に、第１回転ベースＧ４１０に締結されるので、第１装飾ユニットＧ４２０が軸ＧＯを中心に回転される場合には、第１装飾ユニットＧ４２０の回転に伴って軸ＧＯを中心に第１装飾ユニットＧ４２０と同様に回転される。

【２６７７】

従って、図２２５（ｂ）に示すように、第１装飾ユニットＧ４２０が傾倒基準位置から傾倒半回転位置まで回転される場合には、第２回転ベースＧ３４６０が略４５度回転されるので、軸ＧＯを中心に略９０度の間隔で正面側立設部Ｇ３４６２に凹設される係合凹部Ｇ４６２ａの中間位置に第２固定ユニットＧ４７０の係合片Ｇ４７７ｂが位置される。

【２６７８】

これにより、第１０実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０を傾倒半回転位置まで軸ＧＯを中心に正面視右回り（矢印ＧＲ方向に）回転させた状態で、駆動モータＧ８３０の駆動の方向を反対にしたとしても、第８実施形態のように傾倒半回転位置で係合片Ｇ４７７ｂが係合凹部Ｇ４６２ａと係合することがなくなるので、第１装飾ユニットＧ４２０を傾倒基準位置を軸部Ｇ４２７を軸に回転させて傾倒基準位置に戻るまで、第１装飾ユニットＧ４２０を軸ＧＯを中心に正面視左回り（矢印ＧＬ方向）に回転させることができる。

【２６７９】

よって、第１０実施形態では、傾倒半回転位置（即ち、変位ユニットＧ４２６の第２装飾面Ｇ４２６ｂを正面側（矢印Ｆ方向側）に向けた状態で変位ユニットＧ４２６が連結棒Ｇ４２１ｄを軸として回転して、変位ユニットＧ４２６が起立位置に向かって変位されることを抑制できる。

【２６８０】

これにより、第１０実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６を傾倒させた状態から起立させる場合にその起立された態様を同一にすることができる。即ち、第８実施形態における花回転ユニットＧ４００のように、変位ユニットＧ４２６が第２装飾面Ｇ４２６ｂを正面側に向けた状態で起立位置に変位することを抑制するために従動ギヤＧ８４８と検出センサＧ８１４とで、第１装飾ユニットＧ４２０の回転位置を検出する必要がなくなるので、第１０実施形態では、従動ギヤＧ８４８及び検出センサＧ８１４を不要とすることができる。

【２６８１】

さらに、検出センサＧ８１４の検出による制御を不要とすることができるので、従動ギヤＧ８４８及び検出センサＧ８１４を不要とすることで製造コストを低下できるだけでな

く、花回転ユニットＧ４００の制御を簡易にできる。その結果、花回転ユニットＧ４００の変位を安定させやすくできる。

【２６８２】

次いで、図２２６を参照して、第１１実施形態における花回転ユニットＧ４００について説明する。上記第８実施形態では、従動ギヤＧ８４８及び検出センサＧ８１４が配設される場合について説明したが、第１１実施形態では、従動ギヤＧ８４８及び検出センサＧ８１４が取り外される場合について説明する。なお、第１１実施形態では、第８実施形態における花弁動作装置Ｇ８００から従動ギヤＧ８４８及び検出センサＧ８１４を取り外しただけであるので、第８実施形態と同一の符号を付してその説明は省略する。

【２６８３】

図２２６（ａ）は、第１１実施形態における花回転ユニットＧ４００の正面図であり、図２２６（ｂ）は、図２２６（ａ）のＭＣＭＸＬｂ線における花回転ユニットＧ４００の断面図である。上記したように、第８実施形態における従動ギヤＧ８４８及び検出センサＧ８１４は、軸部Ｇ４２７を中心とする第１装飾ユニットＧ４２０の回転位置を検出するためのものであり、この検出により第８実施形態では、第２装飾面Ｇ４２６ｂを正面側に向けた姿勢で起立位置に変位されることが抑制される。

【２６８４】

第１１実施形態では、上述したように従動ギヤＧ８４８及び検出センサＧ８１４が取り外されるので、図２２６（ａ）及び図２２６（ｂ）に示すように、変位ユニットＧ４２６の第２装飾面Ｇ４２６ｂを正面側（矢印Ｆ方向側）に向けた状態（即ち、変位ユニットＧ４２６を傾倒半回転位置に配置した状態）で変位ユニットＧ４２６を起立位置に変位させることができる。なお、変位ユニットＧ４２６を傾倒半回転位置から起立位置に変位させる駆動については、変位ユニットＧ４２６を傾倒基準位置から起立位置に変位させる駆動と同じであるため、その詳しい説明は省略する。

【２６８５】

図２２６（ａ）及び図２２６（ｂ）に示すように、変位ユニットＧ４２６が傾倒半回転位置から起立位置に変位された場合には、第２装飾面Ｇ４２６ｂを軸ＧＯ側に向けた姿勢で配置される。

【２６８６】

ここで、変位ユニットＧ４２６は、第１装飾面Ｇ４２６ａ側を中心に湾曲する板状に形成されるので、第２装飾面Ｇ４２６ｂを軸ＧＯ側に向けた姿勢で配置される場合には、変位ユニットＧ４２６の軸ＧＯを中心とする周方向の両端が軸ＧＯから径方向外側に離間する方向に湾曲した状態で配設される。

【２６８７】

従って、傾倒基準位置から起立位置に変位された場合と正面視における態様を変更することができる。その結果、第１１実施形態では、起立位置における第１装飾ユニットＧ４２０の配設態様を複数形成することができ、第１装飾ユニットＧ４２０による演出効果を向上できる。

【２６８８】

また、変位ユニットＧ４２６は、第１装飾面Ｇ４２６ａ，第２装飾面Ｇ４２６ｂ，第１端面Ｇ４２６ｃに金や銀等の反射率の高い装飾が施されるので、傾倒基準位置から起立位置に変位ユニットＧ４２６が変位された態様と、傾倒半回転位置から起立位置に変位ユニットＧ４２６が変位された態様とで、変位ユニットＧ４２６により光が反射される方向を変更することができる。

【２６８９】

詳しく説明すると、傾倒基準位置から起立位置に変位ユニットＧ４２６が変位された態様では、変位ユニットＧ４２６の第１装飾面Ｇ４２６ａが軸ＧＯを中心とする周方向に湾曲した態様で配置されるので、基板部材Ｇ４４０から発光され第１固定ユニットＧ４５０及び第２固定ユニットＧ４７０を介して変位ユニットＧ４２６に照射される光を軸ＧＯ側に向けて反射させることができる。その結果、第２装飾ユニットＧ４８０を介して正面側

に出射される光の光量を多くすることができ、花回転ユニットＧ４００が縮小状態（変位ユニットＧ４２６が起立位置に配置された場合）でも花回転ユニットＧ４００に注目させやすくできる。

【２６９０】

一方、傾倒半回転位置から起立位置に変位ユニットＧ４２６が変位された態様では、第２装飾面Ｇ４２６ｂの正面視における周方向の両端が軸ＧＯから径方向に離れる方向に湾曲した態様で配置されるので、基板部材Ｇ４４０から発光され第１固定ユニットＧ４５０及び第２固定ユニットＧ４７０を介して変位ユニットＧ４２６に照射される光を花回転ユニットＧ４００の外側へ向けて反射させることができる。これにより、花回転ユニットＧ４００の外側に配設される他の部材に花回転ユニットＧ４００の基板部材Ｇ４４０から出射される光を照射することができる。例えば、張出位置で花回転ユニットＧ４００を取り囲む態様で配設される円環形成ユニットＧ７００（図１９９参照）に花回転ユニットＧ４００の基板部材Ｇ４４０から出射される光を照射することができる。その結果、花回転ユニットＧ４００以外（円環形成ユニットＧ７００）の演出効果を向上させることができる。

【２６９１】

次いで、図２２７を参照して、第１２実施形態における花回転ユニットＧ５４００について説明する。上記第８実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が傾倒基準位置から起立位置に変位される場合について説明したが、第１２実施形態では、第１装飾ユニットＧ５４２０の変位ユニットＧ５４２６がどの位置からであっても起立位置に変位可能とされる場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２６９２】

図２２７（ａ）及び図２２７（ｂ）は、第１２実施形態における花回転ユニットＧ５４００の正面図である。なお、図２２７（ａ）では、変位ユニットＧ５４２６が起立位置に変位された状態の花回転ユニットＧ５４００が図示され、図２２７（ｂ）では、変位ユニットＧ５４２６が傾倒位置に変位された状態の花回転ユニットＧ５４００が図示される。

【２６９３】

図２２７に示すように、第１２実施形態における花回転ユニットＧ５４００は、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第１回転ベースＧ４１０と、その第１回転ベースＧ４１０の正面視における周囲を取り囲む態様で第１回転ベースＧ４１０の周囲に複数個配設される第１装飾ユニットＧ５４２０と、第１回転ベースＧ４１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される花弁側伝達部材Ｇ４３０と、その花弁側伝達部材Ｇ４３０の正面側に配設される第１固定ユニットＧ４５０と、その第１固定ユニットＧ４５０の背面側に配設される基板部材Ｇ４４０と、第１固定ユニットＧ４５０の正面側に配設される第２回転ベースＧ５４６０と、第２回転ベースＧ４６０の正面側に配設される第２固定ユニットＧ４７０と、その第２固定ユニットＧ４７０の正面側に配設される第２装飾ユニットＧ４８０とを主に備えて形成される。

【２６９４】

第１装飾ユニットＧ５４２０は、ギヤ歯が形成される回転ギヤＧ４２１と、その回転ギヤＧ４２１に連結される第１継手部材Ｇ４２２と、その第１継手部材Ｇ４２２に配設される変位ユニットＧ５４２６と、第１継手部材Ｇ４２２と変位ユニットＧ４２６との間に配設される第２継手部材Ｇ４２３と、その第２継手部材Ｇ４２３に配設される伝達部材Ｇ４２４と、その伝達部材Ｇ４２４に配設される被摺動部材Ｇ４２５とを主に備えて形成される。

【２６９５】

変位ユニットＧ５４２６は、６角形の柱状に形成され、柱状に形成された一端側の中央部に軸部Ｇ４２７が連結される。また、６角形の柱状に形成される変位ユニットＧ５４２６の外周面には、６面のそれぞれに異なる文字が装飾される。なお、異なる文字とは、例えば、「チャンス」、「激熱」、「もしかしたら・・」、「期待度５０パーセント」等の

大当たりの期待度を表現するものである。また、文字に限らず異なる絵柄や色をそれぞれ６面に装飾されるものであっても良い。

【２６９６】

第２回転ベースＧ５４６０は、正面視略円環状に形成される円盤部Ｇ４６１と、その円盤部Ｇ４６１の内周縁に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって立設される正面側立設部Ｇ５４６２と、その正面側立設部Ｇ５４６２及び円盤部Ｇ４６１の内周面に刻設される複数の歯Ｇ４６３と、円盤部Ｇ４６１の外周縁に沿って背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって立設される背面側立設部Ｇ４６４と、その背面側立設部Ｇ４６４の立設先端部の一部の複数個所から背面側に向かって突出される螺子締結部Ｇ４６５とを主に備えて形成され、全体が光を透過可能な樹脂材料から形成される。

【２６９７】

正面側立設部Ｇ５４６２は、外周面に周方向に沿って連続して形成される係合凹部Ｇ４６２ａを備える。係合凹部Ｇ４６２ａは、第２固定ユニットＧ４７０の係合片Ｇ４７７ｂが係合される部分であり、外周面側から径方向内側に向かって凹設され、その凹設面が周方向の一方側と他方側とで異なる形状に形成される。

【２６９８】

次いで、第１装飾ユニットＧ５４２０が軸ＧＯを中心に正面視右回り（矢印ＧＲ方向）に回転される場合について説明する。なお、第１２実施形態における第１装飾ユニットＧ５４２０の変位ユニットＧ５４２６が起立位置から傾倒位置に変位する駆動は、第８実施形態における第１装飾ユニットＧ４２０の変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置に変位する駆動と同じであるため、その詳しい説明は省略する。

【２６９９】

第１装飾ユニットＧ５４２０が軸ＧＯを中心に正面視右回りに回転される場合には、第８実施形態における第１装飾ユニットＧ４２０と同様に、第１装飾ユニットＧ５４２０の回転ギヤＧ４２１が正面側ベース部材Ｇ８１０の刻設部Ｇ８１１ａに歯合することで、軸部Ｇ４２７を軸として回転される。即ち、６角形の柱状に形成される変位ユニットＧ５４２６の外周面の装飾を切り替えながら変位される。

【２７００】

一方、第１装飾ユニットＧ５４２０の変位ユニットＧ５４２６を傾倒位置から起立位置に変位させるために、駆動モータＧ８３０の駆動の方向を反対方向に切り替えた場合には、正面側立設部Ｇ５４６２に係合凹部Ｇ４６２ａが連続して形成されることにより、第２回転ベースＧ５４６０の軸ＧＯを中心とする正面視左回り（矢印ＧＬ方向）の回転が規制される。これにより、駆動モータＧ８３０の駆動の方向を反対方向に切り替えた位置で、変位ユニットＧ５４２６を傾倒位置から起立位置に変位させることができる。

【２７０１】

従って、第１２実施形態では、変位ユニットＧ５４２６のそれぞれの外周面に装飾される装飾を所定の外周面に切り替えた状態のまま起立位置に変位ユニットＧ５４２６を変位させることができる。その結果、起立位置における態様を複数形成することができ、第１装飾ユニットＧ５４２０の変位による演出効果を向上できる。

【２７０２】

なお、第１２実施形態では、第１装飾ユニットＧ５４２０が軸ＧＯを中心に正面視右回りに回転されて、正面視における変位ユニットＧ５４２６の装飾面が切り替えられる場合に、係合片Ｇ４７７ｂが隣りの係合凹部Ｇ４６２ａに係合する位置に配置されるように構成される。これにより、所定の装飾面を正面側に向けた状態に変位ユニットＧ５４２６が変位された場合に、その位置で変位ユニットＧ５４２６を傾倒位置から起立位置に変位させることができる。

【２７０３】

次いで、図２２８を参照して、第１３実施形態における第１装飾ユニットＧ６４２０について説明する。上記第８実施形態では、変位ユニットＧ４２６が起立位置から傾倒基準位置に変位される場合に、その回転軸からの変位ユニットＧ４２６の距離が一定（変わら

ない）状態とされる場合について説明したが、第１３実施形態における変位ユニットＧ６４２６は、起立位置から傾倒基準位置に変位される場合に、その回転軸からの変位ユニットＧ５４２６の距離が変化される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２７０４】

図２２８（ａ）は、第１３実施形態における第１装飾ユニットＧ６４２０の側面図であり、図２０７（ａ）のＹ２５ａ方向視における側面図と対応し、図２２８（ｂ）は、第１装飾ユニットＧ６４２０の分解正面斜視図であり、図２２９（ａ）及び図２２９（ｂ）は、第１装飾ユニットＧ６４２０の側面図である。

【２７０５】

なお、図２２９（ａ）及び図２２９（ｂ）では、第１装飾ユニットＧ６４２０の変位ユニットＧ６４２６が傾倒基準位置まで変位される際の遷移状態が順に図示される。また、図２２８（ａ）、図２２９（ａ）、及び、図２２９（ｂ）では、花弁側伝達部材Ｇ４３０（図２１３（ａ）参照）の摺動溝Ｇ４３１ａの内側端部Ｇ４３１ａ１及び外側端部Ｇ４３１ａ２の位置が２点鎖線で図示される。

【２７０６】

図２２８（ａ）及び図２２９（ｂ）に示すように、第１３実施形態における第１装飾ユニットＧ６４２０は、ギヤ歯が形成される回転ギヤＧ４２１と、その回転ギヤＧ４２１に連結される第１継手部材Ｇ４２２と、その第１継手部材Ｇ４２２に配設される変位ユニットＧ６４２６と、変位ユニットＧ６４２６の一部を挟持した状態で配設される第２継手部材Ｇ６４２３と、その第２継手部材Ｇ６４２３に配設される伝達部材Ｇ４２４と、その伝達部材Ｇ４２４に配設される被摺動部材Ｇ４２５とを主に備えて形成される。

【２７０７】

第２継手部材Ｇ６４２３は、伝達部材Ｇ４２４と変位ユニットＧ６４２６とを連結するための部材であり、矩形の立方体から形成される。また、第２継手部材Ｇ６４２３は、異なる方向に貫通する第１貫通孔Ｇ４２３ａ及び第２貫通孔Ｇ４２３ｂと、第２貫通孔Ｇ４２３ｂに連通するように側面を凹設して形成される凹設部Ｇ６４２３ｃとを備える。なお、第１貫通孔Ｇ４２３ａと第２貫通孔Ｇ４２３ｂとは、互いにずれた位置に形成される。

【２７０８】

凹設部Ｇ６４２３ｃは、後述する変位ユニットＧ６４２６の連結部Ｇ６４２６ｄが挿入される部分であり、連結部Ｇ６４２６ｄの厚みに対して少し幅が広い溝状に形成される。また、凹設部Ｇ６４２３ｃは、第２貫通孔Ｇ６４２３ｂを上下に分断する位置まで凹設される。

【２７０９】

変位ユニットＧ６４２６は、湾曲する板状に形成され、その湾曲する内側（矢印Ｌ方向側）の第１装飾面Ｇ４２６ａと、その第１装飾面Ｇ４２６ａと反対側（矢印Ｒ方向側）の側面の第２装飾面Ｇ４２６ｂと、第１装飾面Ｇ４２６ａと第２装飾面Ｇ４２６ｂとの正面側（矢印Ｆ方向側）の端部同士を繋ぐ第１端面Ｇ４２６ｃと、その第１端面Ｇ４２６ｃの反対側（矢印Ｂ方向側）に形成され、第２継手部材Ｇ６４２３の凹設部Ｇ６４２３ｃに挿入される連結部Ｇ６４２６ｄとを主に備える。

【２７１０】

連結部Ｇ６４２６ｄは、側面視略Ｌ字に形成されると共に、第２継手部材Ｇ６４２３の凹設部Ｇ６４２３ｃに挿入される部分に軸部Ｇ６４２７を挿入可能な大きさに形成される摺動孔Ｇ６４２６ｄ１を備える。なお、連結部Ｇ６４２６ｄが、凹設部Ｇ６４２３ｃに挿入される（凹設部Ｇ６４２３ｃの内側面に挟まれる）ことで、第２継手部材Ｇ６４２３が軸部Ｇ６４２７に対して摺動変位した場合に、その第２継手部材Ｇ６４２３の変位に伴って変位ユニットＧ６４２６を変位させることができる。

【２７１１】

軸部Ｇ６４２７は、金属製の棒部材から形成されると共に、その断面の一部が切り欠かれ断面がＤ字状に形成される。また、軸部Ｇ６４２７は、第１継手部材Ｇ４２２の凹部Ｇ

４２２ａ１に一端が連結可能に構成されると共に、第２継手部材Ｇ６４２３の第２貫通孔Ｇ６４２３ｂ及び連結部Ｇ６４２６ｄの摺動孔Ｇ６４２６ｄ１に挿入可能に形成される。

【２７１２】

なお、摺動孔Ｇ６４２６ｄ１は、軸部Ｇ６４２７の断面形状と同一のＤ字状に形成されると共に、軸部Ｇ６４２７の外形よりも若干大きく形成される。これにより、軸部Ｇ６４２７の軸方向に沿って変位ユニットＧ６４２６を摺動させることができると共に、軸部Ｇ６４２７が軸回りに回転される場合には、その回転に伴って変位ユニットＧ６４２６を回転させることができる。

【２７１３】

一方、第２継手部材Ｇ６４２３の第２貫通孔Ｇ４２３ｂは、軸部Ｇ６４２７の外形よりも大きい円形状の貫通孔として形成される。これにより、軸部Ｇ６４２７の軸回りに第２継手部材Ｇ６４２３を回転させることができると共に、軸部Ｇ６４２７の軸方向に沿って第２継手部材を摺動させることができる。

【２７１４】

次いで、図２２９を参照して、第１３実施形態における第１装飾ユニットＧ６４２０の傾倒基準位置までの変位について説明する。

【２７１５】

図２２９（ａ）に示すように、第１３実施形態における変位ユニットＧ６４２６は、摺動部Ｇ４２５ａが摺動溝Ｇ４３１ａの外側端部Ｇ４３１ａ２まで変位する手前で、第１装飾面Ｇ４２６ａが正面側（矢印Ｆ方向側）に向けられた姿勢とされる。

【２７１６】

図２２９（ｂ）に示すように、図２２９（ａ）に示す位置から摺動部Ｇ４２５ａが摺動溝Ｇ４３１ａの外側端部Ｇ４３１ａ２まで変位される場合には、第２継手部材Ｇ６４２３が軸部Ｇ６４２７の軸方向に押し出されることで、第２継手部材Ｇ４２３が軸部Ｇ６４２７の軸方向に沿って変位される。そして、変位ユニットＧ６４２６は、第２継手部材Ｇ６４２３の凹設部Ｇ６４２３ｃに収容されるので、第２継手部材Ｇ６４２３の変位に伴って軸部Ｇ６４２７の軸方向に沿って変位される。

【２７１７】

即ち、第１３実施形態における第１装飾ユニットＧ６４２０は、変位ユニットＧ６４２６が第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方側（軸ＧＯ側）を向く状態（縮小状態）から変位ユニットＧ４２６が正面側を向く状態（拡大状態）とされた後、第２装飾ユニットＧ４８０の正面視外方へ変位可能に構成されるので、第１装飾ユニットＧ４２０の正面視における大きさを拡大状態よりも更に大きく見せることができる。よって、正面視における視覚上の大きさの変化をより大きくできる。

【２７１８】

次いで、図２３０（ａ）を参照して、第１４実施形態における上側装飾ユニットＨ７０１４ａについて説明する。上記第８実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃが上側装飾ユニットＨ１４ａの上方側に形成される場合について説明したが、第１４実施形態における上側装飾ユニットＨ７０１４ａでは、第１連通路Ｈ７３００Ｃが上側装飾ユニットＨ７０１４ａの下方側に形成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２７１９】

図２３０（ａ）は、第１４実施形態における上側装飾ユニットＨ７０１４ａの断面模式図であり、図１３４のＸ０７ａ線における断面に対応する。なお、図２３０（ａ）では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【２７２０】

図２３０（ａ）に示すように、第１４実施形態における上側装飾ユニットＨ７０１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ７３２０とを主に備える。

【２７２１】
化粧ユニットＨ７３２０は、第８実施形態における装飾ユニットＨ３３０（図１３０参照）のように背面側（矢印Ｂ方向側）が開放した箱状に形成される装飾ユニットＨ３３０と、その装飾ユニットＨ３３０の内側に配設される発光ユニットＨ７３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０とを主に備える。
【２７２２】
発光ユニットＨ７３４０は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に締結固定される取付部材Ｈ３４１と、その取付部材Ｈ３４１の背面側に配設される基板部材Ｈ３４２と、基板部材Ｈ３４２との背面側を覆う覆設部材Ｈ７３４３とを主に備える。
【２７２３】
覆設部材Ｈ７３４３は、基板部材Ｈ３４２の背面側（矢印Ｂ方向側）を覆う部材であり、正面視における外形が基板部材Ｈ３４２よりも大きく形成され、背面側から挿通される螺子により取付部材Ｈ３４１に締結される。
【２７２４】
また、覆設部材Ｈ７３４３は、正面視における中央部が背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって膨出し、正面側（矢印Ｆ方向側）の中央部が開口する箱状に形成される。さらに、覆設部材Ｈ７３４３は、正面視における下方側（矢印Ｄ方向側）の側面から下方に向かって立設される区画壁Ｈ７３４３ｂを備え、上側装飾ユニットＨ７０１４ａが組み立てられた状態において区画壁Ｈ７３４３ｂの先端部が下面板Ｈ３３３と当接される。なお、区画壁Ｈ７３４３ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設されており、上側装飾ユニットＨ７０１４ａが組み立てられた状態において区画壁Ｈ７３４３ｂの正面側と区画壁Ｈ７３４３ｂの背面側とが区画壁Ｈ７３４３ｂにより区画される。
【２７２５】
なお、第１４実施形態における取付部材Ｈ３４１は、第８実施形態における取付部材Ｈ３４１よりも上方側（矢印Ｕ方向側）に配設され、正面板Ｈ３３１の外縁部Ｈ３３１ｂの上方側の内面と取付部材Ｈ３４１の上側縁部Ｈ３４１ｂとが当接した状態で配設される。即ち、第１４実施形態では、第８実施形態における第１連通路Ｈ３００Ｃが非形成とされる。
【２７２６】
一方、取付部材Ｈ３４１の下方側は、上側装飾ユニットＨ１４ａの下面板Ｈ３３３と、取付部材Ｈ３４１との間に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の隙間（第１連通路Ｈ７３００Ｃ）を有した状態とされる。
【２７２７】
また、上側装飾ユニットＨ１４ａの下面板Ｈ３３３と取付部材Ｈ３４１との間に形成される隙間は、正面側（矢印Ｆ方向側）が正面板Ｈ３３１の本体部Ｈ３３１ａにより塞がれ、背面側（矢印Ｂ方向側）が覆設部材Ｈ７３４３の区画壁Ｈ７３４３ｂにより塞がれており、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）にも所定の隙間（第１連通路Ｈ７３００Ｃ）を有した状態とされる。即ち、上側装飾ユニットＨ７０１４ａの下方側には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される第１連通路Ｈ７３００Ｃが形成される。
【２７２８】
第１連通路Ｈ７３００Ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される両端が、スピーカーカバーＨ２７の正面側（矢印Ｆ方向側）に形成される第１空間Ｈ３００Ａ（装飾ユニットＨ３３０、発光ユニットＨ７３４０、音伝達ユニットＨ３５０で囲まれた空間）に連通される。これにより、一対のスピーカーカバーＨ２７の正面側に形成されるそれぞれの第１空間Ｈ３００Ａが、第１連通路Ｈ７３００Ｃにより連通される。
【２７２９】
従って、それぞれのスピーカーＨ３１２ａから正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって放音（出力）され、スピーカーカバーＨ２７の貫通孔を介してスピーカーカバーＨ２７の正面側の第１空間Ｈ３００Ａに放音される音を、第１連通路Ｈ７３００Ｃを介して隣の第１空間Ｈ３００Ａのスリット Ｈ３３１ａ１又は放音用開口部Ｈ３３３ｂから上側装飾ユニット

Ｈ７０１４ａの外側に放音することができる。
【２７３０】
即ち、一方側に配設されるスピーカーＨ３１２ａから放音（出力）される音を他方側に配設されるスピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に迂回させて上側装飾ユニットＨ１４ａから放音することができるので、一対のスピーカーＨ３１２ａのどちらか一方側が破損した場合でも、他方側のスピーカーＨ３１２ａから放音される音を上側装飾ユニットＨ１４ａの両側から放音させることができる。その結果、一対のスピーカーＨ３１２ａのどちらか一方側が破損した場合でも、遊技者が違和感を感じることを抑制でき、遊技者が遊技を行わなくなることを抑制できる。
【２７３１】
また、第１４実施形態では、第１連通路Ｈ７３００Ｃに放音用開口部Ｈ３３３ｂが形成されるので、第１連通路Ｈ７３００Ｃ内を伝達される音を放音用開口部Ｈ３３３ｂから放音させやすくできる。即ち、放音用開口部Ｈ３３３ｂから放音される音を第１連通路Ｈ７３００Ｃ内に伝達された音にできるので、第８実施形態のように、第１連通路Ｈ３００Ｃと異なる位置に放音用開口部Ｈ３３３ｂが形成される場合に比べて、放音用開口部Ｈ３３３ｂから放音される音を大きくすることができる。その結果、遊技者にスピーカーＨ３１２ａの音を聞かせやすくできる。
【２７３２】
さらに、第１４実施形態では、第１連通路Ｈ７３００Ｃと第２連通路Ｈ３００Ｄとが、下面板Ｈ３３３の区画壁Ｈ３３３ｃと覆設部材Ｈ７３４３の区画壁Ｈ７３４３ｂとにより、前後に所定の空間を隔てて配設される。即ち、上側装飾ユニットＨ７０１４ａの下面板Ｈ３３３に沿って形成される第１連通路Ｈ７３００Ｃと第２連通路Ｈ３００Ｄとが前後方向に所定の隙間を有して形成される。
【２７３３】
これにより、区画壁Ｈ３３３ｃが振動して伝わる音が第１連通路Ｈ７３００Ｃ内に伝達されることを抑制できると共に、区画壁Ｈ７３４３ｂが振動して伝わる音が第２連通路Ｈ３００Ｄ内に伝達されること抑制できる。その結果、第１連通路Ｈ７３００Ｃ及び第２連通路Ｈ３００Ｄ内を伝達して上側装飾ユニットＨ７０１４ａの外側に放音される音が小さくなることを抑制できる。
【２７３４】
なお、第１４実施形態では、上側装飾ユニットＨ７０１４ａの下面板Ｈ３３３に沿って形成される第１連通路Ｈ７３００Ｃと第２連通路Ｈ３００Ｄとが前後方向に所定の隙間を有して形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第１連通路Ｈ７３００Ｃと第２連通路Ｈ３００Ｄとを隣り合う状態で配設しても良い。
【２７３５】
次いで、図２３０（ｂ）を参照して、第１５実施形態における上側装飾ユニットＨ８０１４ａについて説明する。上記第８実施形態では、第２連通路Ｈ３００Ｄ内を伝達される音が検出用開口から形成される場合について説明したが、第１５実施形態における上側装飾ユニットＨ８０１４ａでは、第２連通路Ｈ３００Ｄ内を伝達される音が、第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄを介して放音される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【２７３６】
図２３０（ｂ）は、第１５実施形態における上側装飾ユニットＨ８０１４ａの断面模式図であり、図１３４のＸ０７ａ線における断面に対応する。なお、Ｎ１０（ｂ）では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。
【２７３７】
図２３０（ｂ）に示すように、第１５実施形態における上側装飾ユニットＨ８０１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ８３２０とを主に備える。

【２７３８】
化粧ユニットＨ８３２０は、第８実施形態における装飾ユニットＨ３３０（図１３０参照）のように背面側（矢印Ｂ方向側）が開放した箱状に形成される装飾ユニットＨ８３３０と、その装飾ユニットＨ８３３０の内側に配設される発光ユニットＨ３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０（図１３０参照）とを主に備えて形成される。
【２７３９】
装飾ユニットＨ８３３０は、ベースユニットＨ３１０（図１２９参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔（上面板Ｈ３３２、下面板Ｈ３３３、及び、左面板Ｈ３３４を配設するための間隔）を隔てて配設される正面板Ｈ３３１と、その正面板Ｈ３３１の上方側（矢印Ｕ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される上面板Ｈ３３２と、正面板Ｈ３３１の下方側（矢印Ｄ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される下面板Ｈ８３３３と、正面板Ｈ３３１の左側（矢印Ｌ方向側）の縁部に沿って配設され上面板Ｈ３３２及び下面板Ｈ３３３の左側（矢印Ｌ方向側）端部を連結する左面板Ｈ３３４と、正面板Ｈ３３１の中央部正面側に配設される装飾板Ｈ３３５とを主に備える。
【２７４０】
下面板Ｈ８３３３は、上側装飾ユニットＨ１４ａの下面を構成する部分であり、正面側（矢印Ｆ方向側）から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かうに連れて上方側（矢印Ｕ方向側）に傾斜する状態で正面板Ｈ３３１に配設される。言い換えると、下面板Ｈ８３３３は遊技盤Ｈ１３（ベースユニットＨ３１０）から正面側に向かって離れるほど下方側（矢印Ｄ方向側）に張り出す状態で配設される。これにより、正面板Ｈ３３１の正面視における外形（特に上下方向の大きさ）を大きくした場合であっても、遊技盤Ｈ１３の遊技領域が小さくなることを抑制できる。よって、遊技盤Ｈ１３の遊技領域を確保したまま、正面板Ｈ３３１の装飾性（意匠性）を向上（正面板Ｈ３３１の装飾可能な領域を大きく）できる。
【２７４１】
また、下面板Ｈ８３３３は、正面側（矢印Ｆ方向側）の縁部に沿って複数位置に開口される放音用開口部Ｈ３３３ｂと、背面側（矢印Ｂ方向側）の縁部に沿って複数位置に開口される第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄと、それら検出用開口部Ｈ３３３ａ及び第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄの間の位置に上方側に向かって突設され、それら検出用開口部Ｈ３３３ａ及び放音用開口部Ｈ３３３ｂの間の位置に上方側に向かって立設される区画壁Ｈ３３３ｃとを備える。
【２７４２】
第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄは、スピーカーＨ３１２ａの背面側（矢印Ｆ方向側）から放音され、第２連通路Ｈ３００Ｄ内を伝達される音をガラスユニットＨ１６の正面側（上側装飾ユニットＨ１４ａの下方側）に放音して、正面側からスピーカーＨ３１２ａの音が遊技者に伝達されるようにするための開口であり、下面板Ｈ８３３３の第２連通路Ｈ３００Ｄを形成する領域に形成される。
【２７４３】
また、第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄは、放音用開口部Ｈ３３３ｂよりも下面板Ｈ８３３３の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の中央側に形成される。これにより、放音用開口部Ｈ３３３ｂから放音される音と、第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄから放音される音とが混ざり合うことを抑制できる。その結果、第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄから放音される音を遊技者に聞かせやすくできる。
【２７４４】
なお、第１５実施形態においては、下面板Ｈ８３３３に検出用開口部Ｈ３３３ａが形成されない場合について説明したが、下面板Ｈ３３３に検出用開口部Ｈ３３３ａが形成されていても良い。この場合には、検出用開口部Ｈ３３３ａの立設部Ｈ３３３ａ１に検出装置Ｈ３１３を当接した状態で配設して、検出用開口部Ｈ３３３ａから第２連通路Ｈ３００Ｄ内を伝達される音が漏れ出ないようにすることが好ましい。

【２７４５】
　また、第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄを下面板Ｈ８３３３の中央部の１箇所に形成しても良い。この場合、左右のスピーカーＨ３１２ａの背面側から放音され第２連通路Ｈ３００Ｄ内を伝達される音を混ぜて第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄから上側装飾ユニットＨ８０１４ａの外側へ放音することができる。その結果、第２放音用開口部Ｈ８３３３ｄから放音される音を左右で均一の音量で遊技者に聞かせやすくでき、遊技者の興趣が低下することを抑制できる。
【２７４６】
　次いで、図２３１～図２３３を参照して、第１６実施形態における上側装飾ユニットＨ９０１４ａについて説明する。上記第８実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃが閉じた通路として形成される場合について説明したが、第１６実施形態における上側装飾ユニットＨ９０１４ａでは、第１連通路Ｈ３００Ｃが閉じた状態から開放される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【２７４７】
　初めに、図２３１を参照して、第１６実施形態における上側装飾ユニットＨ９０１４ａの全体構成について説明する。図２３１は、第１６実施形態における上側装飾ユニットＨ９０１４ａの分解背面斜視図である。
【２７４８】
　図２３１に示すように、第１６実施形態における上側装飾ユニットＨ９０１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ９３２０とを主に備える。
【２７４９】
　化粧ユニットＨ９３２０は、第８実施形態における装飾ユニットＨ３３０（図１３０参照）のように背面側（矢印Ｂ方向側）が開放した箱状に形成される装飾ユニットＨ９３３０と、その装飾ユニットＨ９３３０の内側に配設される発光ユニットＨ３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０とを主に備えて形成される。
【２７５０】
　装飾ユニットＨ９３３０は、ベースユニットＨ３１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔（上面板Ｈ３３２、下面板Ｈ３３３、及び、左面板Ｈ３３４を配設するための間隔）を隔てて配設される正面板Ｈ３３１と、その正面板Ｈ３３１の上方側（矢印Ｕ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される上面板Ｈ９３３２と、正面板Ｈ３３１の下方側（矢印Ｄ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される下面板Ｈ３３３と、正面板Ｈ３３１の左側（矢印Ｌ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設され、上面板Ｈ９３３２及び下面板Ｈ３３３の左側（矢印Ｌ方向側）端部を連結する左面板Ｈ９３３４と、正面板Ｈ３３１の右側（矢印Ｒ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側に隣り合う位置に配設され、上面板Ｈ９３３２及び下面板Ｈ３３３の右側（矢印Ｒ方向側）端部を連結する右面板Ｈ９３３６と、上面板Ｈ９３３２を変位させる駆動力を付与する駆動ユニットＨ９３３７とを主に備える。
【２７５１】
　上面板Ｈ９３３２、下面板Ｈ３３３、左面板Ｈ９３３４、及び、右面板Ｈ９３３６は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に、発光ユニットＨ３４０及び音伝達ユニットＨ３５０を配設するための空間を形成（区画）するための部材であり、正面板Ｈ３３１の縁部に沿う形状に形成されると共に、上面板Ｈ９３３２及び下面板Ｈ３３３の両端がそれぞれ左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６により連結される。
【２７５２】
　上面板Ｈ９３３２は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端部に下方側に向かって延設され

る側面板Ｈ９３３２ｄと、それら一対の側面板Ｈ９３３２ｄの対向間に配設される網部材Ｈ９３３２ｅと、背面側（矢印Ｂ方向側）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両外側から円柱状に突出される軸部Ｈ９３３２ｆとを主に備える。

【２７５３】

なお、第１６実施形態における上面板Ｈ９３３２には、第８実施形態における上面板Ｈ３３２の正面側凸部Ｈ３３２ａ、背面側凸部Ｈ３３２ｂ、及び、締結部Ｈ３３２ｃが非形成とされる。これにより、第１６実施形態では、上面板Ｈ９３３２を正面板Ｈ３３１に対して回転させることが可能となる。

【２７５４】

側面板Ｈ９３３２ｄは、上面板Ｈ９３３２が後述する軸部Ｈ９３３２ｆを軸として回転された際にその回転を案内すると共に上面板Ｈ９３３２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の側面を塞ぐ板状の部材であり、上面板Ｈ９３３２の左右両側の端部から軸部Ｈ９３３２ｆを軸とする回転軌跡に沿って下方側に向かって延設される。これにより、一対の側面板Ｈ９３３２ｄの対向間に空間Ｈ９３３２ｄ２（図２３３（ｂ）参照）が形成される。

【２７５５】

また、一対の側面板Ｈ９３３２ｄの一方側の対向面には、駆動ユニットＨ９３３７の駆動力が伝達されるピン部Ｈ９３３２ｄ１（図２３３参照）が他方側の側面板Ｈ９３３２ｄに向かって円柱形状に突設される。ピン部Ｈ９３３２ｄ１に駆動ユニットＨ９３３７の連結部材Ｈ９３３７ｂが連結されることで、駆動ユニットＨ９３３７の駆動力により上面板Ｈ９３３２を軸部Ｈ９３３２ｆを軸として回転させることができる。

【２７５６】

網部材Ｈ９３３２ｅは、上面板Ｈ９３３２を回転させた際に上側装飾ユニットＨ９０１４ａ（側面板Ｈ９３３２ｄの対向間の空間Ｈ９３３２ｄ２）に不正な部材が挿入されることを抑制する部材であり、一対の側面板Ｈ９３３２ｄを繋ぐ状態で側面板Ｈ９３３２ｄの正面側縁部に沿って配設される。なお、網部材Ｈ９３３２ｅは、パンチングメタルや網状に編み込んだ金属材料から形成され、その金属材料の開口を介して網部材Ｈ９３３２ｅの音の通過が許容される。また、網部材Ｈ９３３２ｅは、側面板Ｈ９３３２ｄに締結固定されており、上面板Ｈ９３３２の変位に伴って変位可能とされる。

【２７５７】

軸部Ｈ９３３２ｆは、後述する左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６に形成される被軸支部Ｈ９３３４ａ，Ｈ９３３６ａに軸支される。これにより、上面板Ｈ９３３２は、軸部Ｈ９３３２ｆを中心に回転可能な状態で左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６に配設される。なお、上面板Ｈ９３３２の回転についての詳しい説明は後述する。

【２７５８】

左面板Ｈ９３３４は、上述したように、正面板Ｈ３３１の背面側に連なる形状に形成されると共に、上面板Ｈ９３３２の右側の軸部Ｈ９３３２ｆを軸支する被軸支部Ｈ９３３４ａを備える。また、右面板Ｈ９３３６も同様に、正面板Ｈ３３１の背面側に連なる形状に形成されると共に、上面板Ｈ９３３２の左側の軸部Ｈ９３３２ｆを軸支する被軸支部Ｈ９３３６ａを備える。これにより、上面板Ｈ９３３２を回転可能な状態で上側装飾ユニットＨ９０１４ａに配設できる。

【２７５９】

なお、一対の被軸支部Ｈ９３３４ａ，Ｈ９３３６ａは、背面側が開放される形状に形成されており、上面板Ｈ９３３２は、左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６を正面板Ｈ３３１に配設した後で、軸部Ｈ９３３２ｆを被軸支部Ｈ９３３４ａ，Ｈ９３３６ａに挿入することで配設される。

【２７６０】

駆動ユニットＨ９３３７は、上面板Ｈ９３３２を回転させる駆動力を発生させるソレノイドＨ９３３７ａと、そのソレノイドＨ９３３７ａに連結される連結部材Ｈ９３３７ｂとを主に備え、ソレノイドＨ９３３７ａの駆動力により連結部材Ｈ９３３７ｂを上下方向に変位可能に配設される。

【２７６１】
なお、上面板Ｈ９３３２を駆動するソレノイドＨ９３３７ａ（その他装置Ｈ２２８（図１２８参照））は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３の入出力ポートＨ２２５に接続され、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて駆動される。
【２７６２】
連結部材Ｈ９３３７ｂは、柱状体の背面側の一部を切り欠いたコ字状に形成され、その切り欠かれた内側に上面板Ｈ９３３２のピン部Ｈ９３３２ｄ１が収容可能に構成される。なお、連結部材Ｈ９３３７ｂは、背面側が切り欠かれるので、上面板Ｈ９３３２を左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６の対向間に背面側から挿入して配設する際に、ピン部Ｈ９３３２ｄ１を連結部材Ｈ９３３７ｂの切り欠き部分に収容することができる。
【２７６３】
次いで、図２３２及び図２３３を参照して、第１６実施形態における上面板Ｈ９３３２の変位について説明する。図２３２（ａ）及び（ｂ）は、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの正面図であり、図２３３（ａ）は、図２３２（ａ）のＸ３２ａ線における上側装飾ユニットＨ９０１４ａの断面模式図であり、図２３３（ｂ）は、図２３２（ｂ）のＸ３２ｂ線における上側装飾ユニットＨ９０１４ａの断面模式図である。なお、図２３２（ａ）及び図２３３（ａ）では、上面板Ｈ９３３２が正面板Ｈ３３１に対して閉じた状態が図示され、図２３２（ｂ）及び図２３３（ｂ）では、上面板Ｈ９３３２が正面板Ｈ３３１に対して開放された状態が図示される。なお、図２３２及び図２３３では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。
【２７６４】
図２３２（ａ）及び図２３３（ａ）に示すように、ソレノイドＨ９３３７ａの軸が引き込まれた状態では、上面板Ｈ９３３２の上面が正面板Ｈ３３１の上面と略面一となる位置に配設される。即ち、上面板Ｈ９３３２が正面板Ｈ３３１に対して閉じた位置に配置される。
【２７６５】
これに対し、図２３２（ｂ）及び図２３３（ｂ）に示すように、ソレノイドＨ９３３７ａの軸が突出された状態では、連結部材Ｈ９３３７ｂの移動に伴って、上面板Ｈ９３３２のピン部Ｈ９３３２ｄ１が連結部材Ｈ９３３７ｂの切り欠き内部を摺動しつつ上方に変位される。これにより、上面板Ｈ９３３２は、軸部Ｈ９３３２ｆを軸として回転され、網部材Ｈ９３３２ｅが配設される正面側（矢印Ｆ方向側）が上方に向けて変位される。
【２７６６】
これにより、網部材Ｈ９３３２ｅ（空間Ｈ９３３２ｄ２）が上側装飾ユニットＨ９０１４ａの上方側に突出した状態とされ、正面板Ｈ３３１と取付部材Ｈ３４１との間の隙間により形成される第１連通路Ｈ３００Ｃが網部材Ｈ９３３２ｅの開口を介して開放（空間Ｈ９３３２ｄ２を介して外部空間と連通される）される。これにより、スピーカーＨ３１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）から放音され、第１連通路Ｈ３００Ｃ内を伝達される音を網部材Ｈ９３３２ｅの開口（空間Ｈ９３３２ｄ２）を介して上側装飾ユニットＨ９０１４ａの外側に放音することができる。
【２７６７】
即ち、第１６実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を上面板Ｈ９３３２により塞いで第１空間Ｈ３００Ａ（図１３５参照）同士を第１連通路Ｈ３００Ｃで連通する態様と、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を開放して上側装飾ユニットＨ９０１４ａの上方側からパチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）の外部空間に第１連通路Ｈ３００Ｃに伝達される音を放音する態様とを形成できる。従って、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した通路として、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの上方側から放音する態様とした場合には、音の放射角度を大きくすることができる。その結果、音による演出態様を複数形成できるので、音による演出効果を高めることができる。
【２７６８】

なお、第１６実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を上面板Ｈ９３３２により塞いだ場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃの両端部に側面板Ｈ９３３２ｄが配設されるが、第１空間Ｈ３００Ａ（図１３５参照）から第１連通路Ｈ３００Ｃに向かって放音される音は、第１連通路Ｈ３００Ｃと側面板Ｈ９３３ｄとの間に形成される隙間を介して第１連通路Ｈ３００Ｃに伝達される。

【２７６９】

また、第１連通路Ｈ３００Ｃの開放とは、空間Ｈ９３３２ｄ２の上方への突出面積（開口面積）が、少なくとも組立時の部品同士の隙間により生じる開口面積（最小の隙間）よりも、３倍以上とされることが好ましく、３倍以上の開口面積とされることで第１連通路Ｈ３００Ｃから空間Ｈ９３３２ｄ２を介して音を好適に放音できるからである。

【２７７０】

さらに、網部材Ｈ９３３２ｅは、第１連通路Ｈ３００Ｃが閉鎖状態とされる際に第１連通路Ｈ３００Ｃの正面側に沿って配設され、第１連通路Ｈ３００Ｃが開放された際に、空間Ｈ９３３２ｄ２の正面側に配置される。これにより、不正部材が第１連通路Ｈ３００Ｃの内部に挿入されることを抑制しつつ、網部材Ｈ９３３２ｅの開口を介して第１連通路Ｈ３００Ｃと外部空間とを連通させることができる。

【２７７１】

また、第１６実施形態では、上面板Ｈ９３３２の変位により第１連通路Ｈ３００Ｃが開放される際に、第１連通路Ｈ３００Ｃの開放幅（空間Ｈ９３３２ｄ２の上方への突出幅）が変化するので、空間Ｈ９３３２ｄ２から放音される音の態様を上面板Ｈ９３３２の変位に応じて変位させることができる。即ち、第１連通路Ｈ３００Ｃの開放幅を変更して空間Ｈ９３３２ｄ２から出る音の音域や音量を変更することができる。その結果、音による演出効果を高めることができる。

【２７７２】

さらに、第１６実施形態では、図２３２（ａ）及び図２３３（ａ）に示すように第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする場合に、上面板Ｈ９３３２を区画壁Ｈ３４３ｂに当接した状態とされる一方、図２３２（ｂ）及び図２３３（ｂ）に示すように第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合に、上面板Ｈ９３３２を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とされる。これにより、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする場合に対して、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの剛性を低下させることができる。

【２７７３】

この剛性の変化により上側装飾ユニットＨ９０１４ａの内部に配設されるスピーカーＨ３１２ａ（図１２９参照）から放音され、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの外部に出力される音の態様を変化させることができる。

【２７７４】

即ち、スピーカーＨ３１２ａ（図１２９参照）の音量を変更するだけでは、上側装飾ユニットＨ９０１４ａから放音される音の態様の変化が乏しくなるところ、第１６実施形態における上側装飾ユニットＨ９０１４ａでは、上側装飾ユニットＨ９０１４ａ（区画壁Ｈ３４３ｂ）に対する上面板Ｈ９３３２の当接状態を変化させることで、スピーカーＨ３１２ａの音量を一定とした場合でも、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの剛性の変化に伴い、上側装飾ユニットＨ９０１４ａから出力される音の態様を変化させることができる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【２７７５】

ここで、出力される音の態様の変化について詳しく説明する。上面板Ｈ９３３２を区画壁Ｈ３４３ｂに当接した状態とされる場合には、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの剛性を高めることができるので、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの内部を音が伝わりやすくして音を装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１２９参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１３１参照），検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１３２参照））から放音させやすくできる。

【２７７６】
一方、上面板Ｈ９３３２を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とされる場合には、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの剛性が低下するので、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの内部を音が伝わりにくくできる。これにより、装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１２９参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１３１参照），検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１３２参照））から放音される音の音量を小さくして、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側から放音される音を遊技者に聞かせやすくできる。その結果、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの全体から音が放音されているように聞かせることができる。
【２７７７】
また、上面板Ｈ９３３２は、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの装飾面（外壁）の一部であるので、上面板Ｈ９３３２を変位させた際にその上面板Ｈ９３３２の変位前の空間を利用して音を放音することができる。これにより、上面板Ｈ９３３２を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とした際に、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。
【２７７８】
さらに、上面板Ｈ９３３２は、上面板Ｈ９３３２を区画壁Ｈ３４３ｂに当接した状態とされる場合に、スピーカーＨ３１２ａが配設される配設空間Ｈ３００Ｆを連通する第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を塞ぐ壁部として構成されるので、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側からスピーカーＨ３１２ａの音を放音して上側装飾ユニットＨ９０１４ａから放音される音の態様を変化させることができる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。
【２７７９】
また、正面視において上面板Ｈ９３３２は、２箇所に配設されるスピーカーＨ３１２ａの間に配設される、即ち、２箇所のスピーカーＨ３１２ａの間で上面板Ｈ９３３２と区画壁Ｈ３４３ｂとの当接状態が変化されるので、スピーカーＨ３１２ａから出力される音の態様を変化させやすくできる。言い換えると、２箇所のスピーカーＨ３１２ａの音の出力態様に変化を与えやすい領域（正面視における間の位置）に上面板Ｈ９３３２が配設されるので、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。
【２７８０】
さらに、上面板Ｈ９３３２は、背面側に形成される軸部Ｈ９３３２ｆを中心に回転可能な板状体として構成されるので、区画壁Ｈ３４３ｂから離間させた際に上側装飾ユニットＨ９０１４ａとの当接面積を最小とすることができる。即ち、軸部Ｈ９３３２ｆ以外の領域を非当接とすることができるので、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの剛性を低くしやすくできる（上側装飾ユニットＨ９０１４ａの剛性の変化を大きくできる）。これにより、上側装飾ユニットＨ９０１４ａから放音される音の態様を変化させやすくできる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。
【２７８１】
なお、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする状態と、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した通路とする状態の切り替えは、遊技者のボタン部Ｈ１８１（図１１９参照）の操作に連動して行われる。即ち、操作ユニットＨ１８０（図１１９参照）のボタン部Ｈ１８１の操作（入力）を各種スイッチＨ２０８（図１２８参照）で検出し、その検出結果に基づき上面板Ｈ９３３２を変位させる信号を音声ランプ制御装置Ｈ１１３からその他装置Ｈ２２８（上面板Ｈ９３３２を変位させるソレノイドＨ９３３７ａ（図１２８参照））を出力するように構成される。
【２７８２】
よって、ボタン部Ｈ１８１（図１１９参照）が操作された場合に上面板Ｈ９３３２が変位されるので、音の放音態様が変化されるタイミングをボタン部Ｈ１８１の操作と関係付けることができる。その結果、操作ユニットＨ１８０（図１１９参照）の操作による演出効果を向上でき、遊技者の興趣を向上できる。
【２７８３】

なお、第１６実施形態における放音態様の変化は、ボタン部Ｈ１８１（図１１９参照）の操作に限られるものではなく、例えば、パチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）が第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０（図１２４参照）へ入賞があったことを契機としてする抽選において大当たりとなった場合に、上面板Ｈ９３３２を変位させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放することで音をパチンコ機Ｈ１０から放音させやすくしても良い。

【２７８４】

この場合には、大当たりとなった場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放してパチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）から放音される音を遊技者に聞こえやすくできるので、遊技者に大当たり中の遊技に注目させやすくできる。

【２７８５】

一方、非大当たり時（抽選が外れ、又は、抽選中）では、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とすることで、遊技者が無駄にパチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）に注目することを抑制して、店内放送の音や、他のパチンコ機Ｈ１０（例えば隣りのパチンコ機Ｈ１０）の音を遊技者に聞かせやすくできる。なお、この場合には、第１空間Ｈ３００Ａ（図１３５（ａ）参照）から第１連通路Ｈ３００Ｃに伝達される音どうしが打ち消し合うように第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅、第１連通路Ｈ３００Ｃの通路長さを設定して、第１連通路Ｈ３００Ｃが閉じられた通路とされる場合にパチンコ機Ｈ１０から放音される音を小さくしても良い。

【２７８６】

また、大当たりでなく、所定の（例えば、大当たりの期待度が高い）リーチ演出がされる場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放して、遊技者にリーチ演出を注目させやすくしても良い。

【２７８７】

さらに、第１６実施形態における放音態様の変化は、所定の入球（例えば、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０（図１２４参照）への球の入球）や操作ハンドルＨ５１（図１１９参照）の操作がされる場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とした状態から上面板Ｈ９３３２を変位させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放することで音をパチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）から放音させやすくしても良い。

【２７８８】

この場合には、遊技者が遊技を開始する（遊技球を遊技領域に打ち出す、又は、その打ち出した遊技球を所定の入球口に入れる）場合に第１連通路Ｈ３００Ｃを開放してパチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）から放音される音を遊技者に聞こえやすくできるので、遊技者に遊技中の音を聞こえやすくできると共に、遊技者が遊技をしていない（遊技球が遊技領域に打ち出されていない、又は、その打ち出された遊技球が所定の入球口に入っていない）他のパチンコ機Ｈ１０（例えば隣りのパチンコ機Ｈ１０）の音が遊技者に聞こえることを抑制できる。その結果、自身が遊技しているパチンコ機Ｈ１０の演出を遊技者に注目させやすくできる。

【２７８９】

また、第１６実施形態では、上面板Ｈ９３３２を変位させることで、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、上面板Ｈ９３３２を変位させることで、第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅を変更するものであっても良い。

【２７９０】

例えば、第１６実施形態では、上面板Ｈ９３３２に貫通孔を有する網部材Ｈ９３３２ｅが配設される場合について説明したが、網部材Ｈ９３３２ｅに変えて貫通孔を有していない板部材を上面板Ｈ９３３２（側面板Ｈ９３３２ｄの対向間）に配設するように構成してもよい。この場合には、上面板Ｈ９３３２を上方側に変位させた際に、上面板Ｈ９３３２が上側装飾ユニットＨ９０１４ａの外側に変位する分、第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅を変更（大きく）できる。

【２７９１】

この場合、音が伝達される通路の幅が変更されるので、第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅を変更する前と後とで、第１連通路Ｈ３００Ｃ内を伝達される音の音域を変更することができる。その結果、遊技者に聞こえる音を変更することができ、遊技者の興趣を向上できる。

【２７９２】

また、第１６実施形態における網部材Ｈ９３３２ｅに変えて貫通孔を有していない板部材を上面板Ｈ９３３２（側面板Ｈ９３３２ｄの対向間）に配設するように構成した場合には、上面板Ｈ９３３２が第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅を狭める方向に変位された際に、上面板Ｈ９３３２が第１連通路Ｈ３００Ｃの内部空間に配設され、上面板Ｈ９３３２が第１連通路Ｈ３００Ｃを区画する（第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅をなくす）ように構成しても良い。

【２７９３】

これによれば、一方の配設空間Ｈ３００Ｆに配設されるスピーカーＨ３１２ａから放音（出力）される音が、第１連通路Ｈ３００Ｃを介して他方の配設空間Ｈ３００Ｆの第１空間Ｈ３００Ａ（図１３５（ａ）参照）に伝達される音の態様を上面板Ｈ９３３２の変位に応じて変化させることができる。その結果、スピーカーＨ３１２ａの音による演出効果を高めることができる。

【２７９４】

さらに、上記第１６実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路として構成する場合に、上面板Ｈ９３３２を区画壁Ｈ３４３ｂに直接当接させる場合について説明したが、上面板Ｈ９３３２と区画壁Ｈ３４３ｂとの間に弾性体から構成される弾性体を配設しても良い。これによれば、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする場合に、上面板Ｈ９３３２を区画壁Ｈ３４３ｂに密着させることができる。よって、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とした場合に上面板Ｈ９３３２と区画壁Ｈ３４３ｂとの間から音が漏れ出ることを抑制することができる。従って、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とした場合と、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合とで、上側装飾ユニットＨ９０１４ａから放音される音の態様を変化させやすくできる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【２７９５】

次いで、図２３４を参照して、第１７実施形態における右側装飾ユニットＨ１００１４ｃについて説明する。上記第８実施形態では、スピーカーＨ３１２ａの音による振動で屈曲部Ｈ４５２の上面に乗る異物を上面に沿って滑りやすく（移動させやすく）する場合について説明したが、第１７実施形態では、ファンＨ１０４８０の風による風圧で屈曲部Ｈ４５２の上面に乗る異物を上面に沿って滑りやすくする場合について説明する。

【２７９６】

初めに、図２３４（ａ）を参照して、第１７実施形態における右側装飾ユニットＨ１００１４ｃについて説明する。図２３４（ａ）は、第１７実施形態における右側装飾ユニットＨ１００１４ｃの分解正面斜視図である。

【２７９７】

図２３４（ａ）に示すように、第１７実施形態における上側装飾ユニットＨ１００１４ａは、右側装飾ユニットＨ１４ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）で重ね合わされる左重板ユニットＨ４００Ｌ及び右重板ユニットＨ４００Ｒと、それら重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ４００Ｒが締結固定されると共に、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）に締結固定される上下に長尺な板状の支持板部Ｈ１０４１０と、を主に備える。

【２７９８】

支持板部Ｈ１０４１０は、組立状態において本体枠Ｈ１４ｄの右側（矢印Ｒ方向側）の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される固定板Ｈ４１１と、その固定板Ｈ４１１の上下方向に延設された領域の正面側に配設される基板部材Ｈ４１２と、固定板Ｈ４１１の上端から左右方向に延設された領域の正面側に配設されるファンＨ１０４８０と、を主に備える。

【２７９９】

ファンＨ１０４８０は、内部に配設される羽を回転させて風を発生させる部材であり、上方向けて風を送れるように基板部材Ｈ４１２に配設される。また、ファンＨ１０４８０は、外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７及び第１外レンズ部材Ｈ４５０の屈曲部Ｈ４５２の下方に配置され（図２３４（ｂ）参照）、屈曲部Ｈ４５２の段差部に形成される貫通孔Ｈ４５２ａに主に風を送ることができるように配置される。

【２８００】

これにより、第１７実施形態では、ファンＨ１０４８０から送られる風を屈曲部Ｈ４５２の貫通孔Ｈ４５２ａを通して屈曲部Ｈ４５２と立設部Ｈ４７７との対向間に送ることができる。

【２８０１】

次いで、図２３４（ｂ）を参照して、屈曲部Ｈ４５２と立設部Ｈ４７７との対向間に送られる風について説明する。図２３４（ｂ）は、右側装飾ユニットＨ１００１４ｃ及び上側装飾ユニットＨ１４ａの断面模式図である。なお、図２３４（ｂ）は、第８実施形態の図１４３（ｂ）における断面と対応する。また、図２３４（ｂ）では、ファンＨ１０４８０から送られる風が矢印で模式的に図示される。

【２８０２】

図２３４（ｂ）に示すように、ファンＨ１０４８０から送られる風は、主に、貫通孔Ｈ４５２ａを介して屈曲部Ｈ４５２と立設部Ｈ４７７との対向間に送られる風と、貫通孔Ｈ４５２ａ内に送風されず上側装飾ユニットＨ１４ａ側または右側装飾ユニットＨ１４ｃ側に送風される風とに分散される。

【２８０３】

貫通孔Ｈ４５２ａ内に挿通される風は、屈曲部Ｈ４５２及び立設部Ｈ４７７の間と、本体板部Ｈ４５１及び本体板部Ｈ４７１の間とに形成される異物の通路を通過して、主に上端開口部Ｈ４７３ａから右側装飾ユニットＨ１００１４ｃの外部に送風されるように構成される。この風により、屈曲部Ｈ４５２の上面に乗る異物を上面に沿って滑りやすくして、異物を上端開口部Ｈ４７３ａから排出しやすくできる。その結果、右側装飾ユニットＨ１００１４ｃの内部に異物が溜まることを抑制しやすくできる。

【２８０４】

即ち、第１７実施形態では、空気を流動させるファンＨ１０４８０を備えて、そのファンＨ１０４８０により通路空間Ｈ４００Ａの空気を外カバー部材Ｈ４７０の本体板部Ｈ４７１と第１外レンズ部材Ｈ４５０の本体板部Ｈ４５１との間の隙間から離間する方向に流動させることができる。これにより、基端部Ｈ４５２ｃを流下する異物を開口部Ｈ４７３からパチンコ機Ｈ１０の外部に排出しやすくできる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１４ｃの立設部Ｈ４７７との境界から入った異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。

【２８０５】

また、貫通孔Ｈ４５２ａ内に挿通される風の一部は、屈曲部Ｈ４５２及び立設部Ｈ４７７の間を通過して、上面板Ｈ３３２と立設部Ｈ４７７との境界（連結部）の隙間から正面枠Ｈ１４の外部に送風される。この風により、上面板Ｈ３３２と立設部Ｈ４７７との境界（連結部）の隙間に入り込もうとする異物を正面枠Ｈ１４の外側に吹き飛ばすことができる。その結果、上面板Ｈ３３２と立設部Ｈ４７７との境界（連結部）の隙間から異物が上側装飾ユニットＨ１４ａの内部に侵入することを抑制できる。

【２８０６】

また、第１７実施形態では、貫通孔Ｈ４５２ａ内に送風されず右側装飾ユニットＨ１４ｃ側に送風される風は、右側装飾ユニットＨ１００１４ｃの導光部材Ｈ４４０の周囲を通過して送風されるように構成される。

【２８０７】

上記したように、導光部材Ｈ４４０は、基板部材Ｈ４１２のＬＥＤＨ４１２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に配置される。従って、導光部材Ｈ４４０の周囲を通過する風を基板部材Ｈ４１２に当てることができる。これにより、ＬＥＤＨ４１２ａの発光により基板部材

Ｈ４１２に蓄えられる熱を冷ますことができる。その結果、基板部材Ｈ４１２が破損することを抑制できる。

【２８０８】

なお、第１７実施形態では、ファンＨ１０４８０の回転（送風）は、パチンコ機Ｈ１０の電源投入時や、操作ハンドルＨ５１のタッチセンサＨ５１ａが所定期間操作されていない場合に行われる。即ち、第１７実施形態では、遊技者がパチンコ機Ｈ１０を遊技していない状態の場合に、ファンＨ１０４８０による風の送風が行われる。これにより、上端開口部Ｈ４７３ａから飛び出す異物が遊技者側に飛び出る場合にその異物や遊技者に当たることを抑制できる。

【２８０９】

また、ファンＨ１０４８０の回転（送風）が遊技者がパチンコ機Ｈ１０を遊技していない状態の場合だけでなく、常に（遊技中）に回転されるように形成されていても良い。これにより、上面板Ｈ３３２と立設部Ｈ４７７との境界（連結部）の隙間から正面枠Ｈ１４の外部に送風される風を遊技者に感じさせて、パチンコ機Ｈ１０の上部（上側装飾ユニットＨ１４ａの上面）に遊技者が物を置くことを抑制させることができる。その結果、屈曲部Ｈ４５２及び立設部Ｈ４７７の間に侵入しようとする異物を減らして、上側装飾ユニットＨ１４ａの視認性が悪くなることを抑制できる。

【２８１０】

次いで、図２３５（ａ）を参照して、第１８実施形態における右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃについて説明する。上記第８実施形態では、屈曲部Ｈ４５２で受け止めた異物を右側装飾ユニットＨ１４ｃの内部に形成される通路を介して右側装飾ユニットＨ１４ｃ（正面枠Ｈ１４）の外側に排出する場合について説明したが、第１８実施形態では、右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃの内部を通過させずに異物を正面枠Ｈ１４の外側に排出する場合について説明する。

【２８１１】

初めに、図２３５（ａ）を参照して、第１８実施形態における右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃについて説明する。図２３５（ａ）は、第１８実施形態における右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃ及び上側装飾ユニットＨ１４ａの断面模式図である。なお、図２３５（ａ）は、第８実施形態における図１４３（ｂ）の断面と対応する。

【２８１２】

図２３５（ａ）に示すように、第１８実施形態における右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）で重ね合わされる左重板ユニットＨ４００Ｌ及び右重板ユニットＨ１１４００Ｒと、それら重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ１１４００Ｒが締結固定されると共に、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）に締結固定される上下に長尺な板状の支持板部Ｈ４１０と、を主に備える。

【２８１３】

重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ１１４００Ｒは、支持板部Ｈ４１０の背面側（矢印Ｂ方向側）から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて挿通される螺子により支持板部Ｈ４１０に締結固定される。右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃは、重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ１１４００Ｒが支持板部Ｈ４１０に締結固定された状態で本体枠Ｈ１４ｄに背面側から正面側へ向けて挿通される螺子により本体枠Ｈ１４ｄに締結固定される。

【２８１４】

右重板ユニットＨ１１４００Ｒは、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０の右側に配設される第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０と、それら第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０の右側に配設され、光を非透過な樹脂材料から形成されると共に、第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０が締結固定される外カバー部材Ｈ１１４７０と、を主に備える。

【２８１５】

外カバー部材Ｈ１１４７０は、上下に長尺の板状に形成される本体板部Ｈ１１４７１と、その本体板部Ｈ１１４７１の上端および下端に形成される２箇所の締結部Ｈ４７２と、

本体板部Ｈ１１４７１に開口される複数の開口部Ｈ４７３と、第１外レンズ部材Ｈ４５０に先端が挿入される円筒部であって第１外レンズ部材Ｈ４５０を外カバー部材Ｈ４７０に固定する螺子が螺入される複数の第１締結部Ｈ４７４と、その第１締結部Ｈ４７４よりも短く形成される円筒部であって、第１外レンズ部材Ｈ４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０を外カバー部材Ｈ１１４７０に固定する螺子が螺入される複数の第２締結部Ｈ４７５と、本体板部Ｈ４７１の左側側面から突設されると共に背面側から支持板部Ｈ４１０を固定する螺子が螺入される複数の背面側締結部Ｈ４７６と、を主に備える。

【２８１６】

本体板部Ｈ１１４７１は、側面視（矢印Ｌ方向視）において、正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が湾曲した円弧形状に形成されると共に、背面側の端部が上下方向に直線状に延設され、全体が非透過の樹脂材料から形成される。また、本体板部Ｈ１１４７１は、上端から左重板ユニットＨ４００Ｌ側に向かって立設される立設部Ｈ１１４７７を備えており、正面視において上下（矢印Ｕ－Ｄ方向）左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）を反転した略Ｌ字状に形成される。

【２８１７】

なお、本体板部Ｈ１１４７１の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における延設長さは、支持板部Ｈ４１０と対応する長さに形成されており、右重板ユニットＨ１１４００Ｒを支持板部Ｈ４１０に配設した場合に固定板Ｈ４１１の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる状態とされる。

【２８１８】

立設部Ｈ１１４７７は、正面視における正面枠Ｈ１４の上部右側を構成する部分であり、正面枠Ｈ１４の組立状態において上側装飾ユニットＨ１４ａ側に向かって立設される先端部が上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２の右端部と当接する大きさに設定される。

【２８１９】

また、立設部Ｈ１１４７７には、第１外レンズ部材Ｈ４５０に形成される貫通孔Ｈ４５２ａに挿通される挿通部Ｈ４７７ａが複数個形成される。この挿通部Ｈ４７７ａをＨ４５２ａに挿通した状態で、第１外レンズ部材Ｈ４５０を外カバー部材Ｈ４７０に配設することで、立設部Ｈ１１４７７と対向する第１外レンズ部材Ｈ４５０の屈曲部Ｈ４５２が立設部Ｈ１１４７７に対して相対変位することを抑制できる。

【２８２０】

さらに、立設部Ｈ１１４７７には、立設先端側（矢印Ｌ方向側）から下方側に向かって突出して形成される係合部Ｈ１１４７７ｂが形成される。なお、第１８実施形態における係合部Ｈ１１４７７ｂは、第８実施形態における係合部Ｈ４５２ｂと同様に、上面板Ｈ３３２の被係合部Ｈ３３２ｇに係合する部分であり、先端側が被係合部Ｈ３３２ｇの第１片Ｈ３３２ｇ１及び第２片Ｈ３３２ｇ２の間に挿入されるように構成される。

【２８２１】

なお、第１８実施形態では、被係合部Ｈ３３２ｇと係合する部分を立設部Ｈ１１４７７に形成したことにより、屈曲部Ｈ４５２の係合部Ｈ４５２ｂの形成が省略される。

【２８２２】

係合部Ｈ１１４７７ｂは、立設部Ｈ１１４７７の立設先端部よりも本体板部Ｈ１１４７１側に引いた（近い）位置に形成され、立設部Ｈ１１４７７に連なる基端側から被係合部Ｈ３３２ｇに係合する先端側までを繋ぐ領域が、右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃの立設部Ｈ１１４７７と上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２との境界（連結部）の下方に配置される。

【２８２３】

これにより、右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃの立設部Ｈ１１４７７と上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２の境界（連結部）の隙間から異物が正面枠Ｈ１４の内部に侵入する場合に、その異物を係合部Ｈ１１４７７ｂで受け止めることができる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａの内部に異物が入って上側装飾ユニットＨ１４ａの視認性が悪

くなることを抑制できる。
【２８２４】
なお、第１８実施形態では、連結部分における立設部Ｈ１１４７７と上面板Ｈ３３２と係合部Ｈ１１４７７ｂとにより形成される通路空間Ｈ１１４００Ａ（図２３５ａ参照）が正面枠Ｈ１４の正面側まで開口される。これにより、第１８実施形態では、右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃの立設部Ｈ１１４７７と上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２の境界（連結部）から正面枠Ｈ１４に侵入する異物を、右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃの内部を通過させずに正面枠Ｈ１４の外側に排出することができる。その結果、右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃに異物を通過させるための通路を形成しなくてよくなるので、右側装飾ユニットＨ１１０１４ｃを小型化（薄型化）しやすくできる。
【２８２５】
次いで、図２３５（ｂ）を参照して、第１９実施形態における右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃについて説明する。上記第８実施形態では、立設部Ｈ４７７と上面板Ｈ３３２との隙間から異物が正面枠Ｈ１４の内部に侵入する場合について説明したが、第１９実施形態では、立設部Ｈ４７７と上面板Ｈ３３２との隙間から異物が侵入することが規制される。
【２８２６】
初めに、図２３５（ｂ）を参照して、第１９実施形態における右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃについて説明する。図２３５（ｂ）は、第１９実施形態における右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃ及び上側装飾ユニットＨ１４ａの断面模式図である。なお、図２３５（ｂ）は、第８実施形態における図１４３（ｂ）の断面と対応する。
【２８２７】
図２３５（ｂ）に示すように、第１９実施形態における右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）で重ね合わされる左重板ユニットＨ４００Ｌ及び右重板ユニットＨ１２４００Ｒと、それら重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ１２４００Ｒが締結固定されると共に、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）に締結固定される上下に長尺な板状の支持板部Ｈ４１０と、を主に備える。
【２８２８】
重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ１２４００Ｒは、支持板部Ｈ４１０の背面側（矢印Ｂ方向側）から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて挿通される螺子により支持板部Ｈ４１０に締結固定される。右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃは、重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ１２４００Ｒが支持板部Ｈ４１０に締結固定された状態で本体枠Ｈ１４ｄに背面側から正面側へ向けて挿通される螺子により本体枠Ｈ１４ｄに締結固定される。
【２８２９】
右重板ユニットＨ１２４００Ｒは、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０の右側に配設される第１外レンズ部材Ｈ１２４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０と、それら第１外レンズ部材Ｈ１２４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０の右側に配設され、光を非透過な樹脂材料から形成されると共に、第１外レンズ部材Ｈ１２４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０が締結固定される外カバー部材Ｈ４７０と、を主に備える。
【２８３０】
第１外レンズ部材Ｈ１２４５０は、上下に長尺の板状に形成される本体板部Ｈ４５１と、その本体板部Ｈ４５１の上端部から内カバー部材Ｈ４２０側に向かって屈曲する屈曲部Ｈ１２４５２と、外カバー部材Ｈ４７０に締結される螺子が挿通される貫通孔として構成される複数の第１挿通孔Ｈ４５３，第２挿通孔Ｈ４５４と、それら第１挿通孔Ｈ４５３，第２挿通孔で囲まれる領域において外カバー部材Ｈ４７０側（右側（矢印Ｒ方向側））に張り出し、外カバー部材Ｈ４７０越しに視認可能とされる膨出部Ｈ４５５と、本体板部Ｈ４５１の背面側に穿設されると共に背面側から支持板部Ｈ４１０に固定する螺子が螺入される背面側締結部Ｈ４５６と、正面側の縁部に沿って複数個形成される被係合部Ｈ４５７と、を主に備える。
【２８３１】

また、第１外レンズ部材Ｈ１２４５０は、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０と外カバー部材Ｈ４７０との間に配設され導光部材Ｈ４４０から出射される光を透過して外カバー部材Ｈ４７０の開口部Ｈ４７３及び外カバー部材Ｈ４７０の正面側から出射する部分であり、全体が半透明の樹脂材料から形成される。

【２８３２】

第１９実施形態における屈曲部Ｈ１２４５２は、屈曲先端側（先端部Ｈ１２４５２ｄ）が外カバー部材Ｈ４７０の立設部Ｈ４７７の下面と当接した状態で配設されると共に、先端が立設部Ｈ４７７を超える長さに設定される。

【２８３３】

なお、第１９実施形態では、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２に形成される被係合部Ｈ３３２ｇが上面板Ｈ３３２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の内側に距離を隔てた位置に形成され、その被係合部Ｈ３３２ｇの第１片Ｈ３３２ｇ１を収容可能な収容部Ｈ１２４５２ｅが屈曲部Ｈ１２４５２に形成される。

【２８３４】

第１９実施形態における正面枠Ｈ１４の組立状態では、第１片Ｈ３３２ｇ１が収容部Ｈ１２４５２ｅに収容されることで、上側装飾ユニットＨ１４ａと右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃとを係合させることができる。これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａに対して右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃの位置がずれることを抑制できる。よって、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃの外カバー部材Ｈ４７０との境界（連結部）の隙間が大きくなることを抑制できる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａと右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃとの間に異物が侵入することを抑制でき、上側装飾ユニットＨ１４ａの視認性が悪くなることを抑制できる。

【２８３５】

また、第１９実施形態では、外カバー部材Ｈ４７０の下面と当接した状態で屈曲部Ｈ１２４５２が配設されるので、上側装飾ユニットＨ１４ａと右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃとを本体枠Ｈ１４ｄに配設した際に、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃの外カバー部材Ｈ４７０との境界（連結部）の下部に屈曲部Ｈ１２４５２の上面を配置することができる。

【２８３６】

これにより、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃの外カバー部材Ｈ４７０との境界（連結部）に異物が侵入したとしても、屈曲部Ｈ１２４５２の上面により境界（連結部）の間から上側装飾ユニットＨ１４ａ又は右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃの内部に異物が侵入することを抑制できる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａ及び右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃの視認性が悪くなることを抑制できる。

【２８３７】

なお、第１９実施形態では、外カバー部材Ｈ４７０の下面に屈曲部Ｈ１２４５２が単に当接した状態で配設される場合について説明したが、屈曲部Ｈ１２４５２が外カバー部材Ｈ４７０側に付勢される状態で配設されていても良い。この場合、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃの外カバー部材Ｈ４７０との境界（連結部）の下方に隙間ができることを抑制できる。よって、境界（連結部）に異物が侵入したとしてもその異物を屈曲部Ｈ１２４５２により確実に受け止めて、上側装飾ユニットＨ１４ａ又は右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃの内部に異物が侵入することを抑制できる。その結果、上側装飾ユニットＨ１４ａ及び右側装飾ユニットＨ１２０１４ｃの視認性が悪くなることを抑制できる。

【２８３８】

次いで、図２３６を参照して、第２０実施形態における右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃについて説明する。上記第８実施形態では、膨出部Ｈ４５５が本体板部Ｈ４５１と一体に形成される場合について説明したが、第２０実施形態では、膨出部Ｈ１３４５５が本体板部Ｈ１３４５１から取り外し可能に形成される。

【２８３９】
初めに、図２３６（ａ）及び図２３６（ｂ）を参照して、第２０実施形態における右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃについて説明する。図２３６（ａ）及び図２３６（ｂ）は、第２０実施形態における右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃ及び上側装飾ユニットＨ１４ａの断面模式図である。なお、図２３６（ａ）及び図２３６（ｂ）は、第８実施形態における図１４３（ｂ）の断面と対応する。また、図２３６（ａ）では、膨出部Ｈ１３４５５が本体板部Ｈ１３４５１に取り付けられた状態図示され、図２３６（ｂ）では、膨出部Ｈ１３４５５が本体板部Ｈ１３４５１から取り外された状態が図示される。
【２８４０】
図２３６（ａ）及び図２３６（ｂ）に示すように、第２０実施形態における右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）で重ね合わされる左重板ユニットＨ４００Ｌ及び右重板ユニットＨ１３４００Ｒと、それら重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ１３４００Ｒが締結固定されると共に、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）に締結固定される上下に長尺な板状の支持板部Ｈ４１０と、を主に備える。
【２８４１】
重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ１３４００Ｒは、支持板部Ｈ４１０の背面側（矢印Ｂ方向側）から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて挿通される螺子により支持板部Ｈ４１０に締結固定される。右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃは、重板ユニットＨ４００Ｌ，Ｈ１３４００Ｒが支持板部Ｈ４１０に締結固定された状態で本体枠Ｈ１４ｄに背面側から正面側へ向けて挿通される螺子により本体枠Ｈ１４ｄに締結固定される。
【２８４２】
右重板ユニットＨ１３４００Ｒは、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０の右側に配設される第１外レンズ部材Ｈ１３４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０と、それら第１外レンズ部材Ｈ１３４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０の右側に配設され、光を非透過な樹脂材料から形成されると共に、第１外レンズ部材Ｈ１３４５０及び第２外レンズ部材Ｈ４６０が締結固定される外カバー部材Ｈ４７０と、を主に備える。
【２８４３】
第１外レンズ部材Ｈ１３４５０は、上下に長尺の板状に形成される本体板部Ｈ１３４５１と、その本体板部Ｈ１３４５１の上端部から内カバー部材Ｈ４２０側に向かって屈曲する屈曲部Ｈ４５２と、外カバー部材Ｈ４７０に締結される螺子が挿通される貫通孔として構成される複数の第１挿通孔Ｈ４５３，第２挿通孔Ｈ４５４と、第１挿通孔Ｈ４５３で囲まれる領域において外カバー部材Ｈ４７０側（右側（矢印Ｒ方向側））に張り出し、外カバー部材Ｈ４７０越しに視認可能とされる膨出部Ｈ４５５，Ｈ１３４５５と、本体板部Ｈ４５１の背面側に穿設されると共に背面側から支持板部Ｈ４１０に固定する螺子が螺入される背面側締結部Ｈ４５６と、正面側の縁部に沿って複数個形成される被係合部Ｈ４５７と、を主に備える。
【２８４４】
また、第１外レンズ部材Ｈ１３４５０は、左重板ユニットＨ４００Ｌの導光部材Ｈ４４０と外カバー部材Ｈ４７０との間に配設され導光部材Ｈ４４０から出射される光を透過して外カバー部材Ｈ４７０の開口部Ｈ４７３及び外カバー部材Ｈ４７０の正面側から出射する部分であり、全体が半透明の樹脂材料から形成される。
【２８４５】
第２０実施形態における第１外レンズ部材Ｈ１３４５０は、図２３６に示すように本体板部Ｈ１３４５１の上端部に形成される膨出部Ｈ１３４５５が着脱可能に形成されており、その膨出部Ｈ１３４５５と対応する位置の本体板部Ｈ１３４５１に開口Ｈ１３４５１ｂが穿設される。
【２８４６】
開口Ｈ１３４５１ｂは、膨出部Ｈ１３４５５の外径と対応する内径に形成されると共に、その内縁の一部から開口Ｈ１３４５１ｂの内側に向けて張り出す係合片Ｈ１３４５１ｂ１が形成される。

【２８４７】
膨出部Ｈ１３４５５は、一方側（矢印Ｒ方向側）の端部が塞がった円筒形状に形成される。また、膨出部Ｈ１３４５５は、他方側（矢印Ｌ方向側）の端部に繋がるＬ字状に凹設される第１溝部Ｈ１３４５５ａと、一方側の端面に十字状に凹設される第２溝部Ｈ１３４５５ｂとを備える。
【２８４８】
第１溝部Ｈ１３４５５ａは、開口Ｈ１３４５１ｂの係合片Ｈ１３４５１ｂ１を受け入れる部分であり、係合片Ｈ１３４５１ｂ１よりも溝幅に形成される。なお、第１溝部Ｈ１３４５５ａへの係合片Ｈ１３４５１ｂ１の挿入は、第１溝部Ｈ１３４５５ａの他方側の端部と係合片Ｈ１３４５１ｂ１との位置を合わせつつ、膨出部Ｈ１３４５５を本体板部Ｈ１３４５１側に押し込むことで行われる。
【２８４９】
この挿入された状態で、膨出部Ｈ１３４５５を本体板部Ｈ１３４５１に対して、膨出部Ｈ１３４５５の軸回りに回転させることで、係合片Ｈ１３４５１ｂ１がＬ字状に形成される第１溝部Ｈ１３４５５ａの凹設先端側まで挿入される。これにより、膨出部Ｈ１３４５５を本体板部Ｈ１３４５１から離れる方向に引き抜いた場合、膨出部Ｈ１３４５５が本体板部Ｈ１３４５１から取り外されることを抑制できる。
【２８５０】
なお、本体板部Ｈ１３４５１に対する膨出部Ｈ１３４５５の軸回りの回転は、膨出部Ｈ１３４５５の一方側の端面に形成される第２溝部Ｈ１３４５５ｂに専用の工具（第２０実施形態では、マイナスドライバー）を挿入することで簡易に行えるようになっている。即ち、第２溝部Ｈ１３４５５ｂは、膨出部Ｈ１３４５５の取り外しのための工具を引っ掛ける部分（着脱する部分）として形成される。
【２８５１】
以上のように構成される右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃによれば、膨出部Ｈ１３４５５を本体板部Ｈ１３４５１から取り外すことができるので、上側装飾ユニットＨ１４ａの上面板Ｈ３３２と右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃの外カバー部材Ｈ４７０との境界（連結部）の隙間から侵入した異物が外カバー部材Ｈ４７０の開口部Ｈ４７３まで落下した後、開口部Ｈ４７３から右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃの外側に排出されなかった（区画壁Ｈ４７８の上面に留まる）場合に、膨出部Ｈ１３４５５を取り外して、異物を右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃの外側に排出することが可能となる。その結果、右側装飾ユニットＨ１３０１４ｃの内部に異物が溜まり続けることを抑制できる。
【２８５２】
次いで、図２３７から図２３９を参照して、第２１実施形態における上下皿ユニットＨ１４０１５について説明する。上記第８実施形態では、突出部Ｈ５８３が固定される場合について説明したが、第２１実施形態では、突出部Ｈ１４５６３ｂが張り出し変位される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【２８５３】
初めに、図２３７を参照して、第２１実施形態における上下皿ユニットＨ１４０１５の全体構成について説明する。図２３７は、第２１実施形態における上下皿ユニットＨ１４０１５の分解正面斜視図である。
【２８５４】
図２３７に示すように、第２１実施形態における上下皿ユニットＨ１４０１５は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベース部材Ｈ５１０（図２３８参照）と、そのベース部材Ｈ５１０の正面側に配設される上皿形成部材Ｈ５２０（図２３８参照）及び操作ハンドルＨ５１（図２３８参照）と、ベース部材Ｈ５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側に配設される下皿形成部材Ｈ１４５３０と、上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｈ５３０の間に配設される操作ユニットＨ１８０（図２３８参照）とを主に備える。

【２８５５】
下皿形成部材Ｈ１４５３０は、ベース部材Ｈ５１０（図２３８参照）及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う形状に形成され上下皿ユニットＨ１４０１５の正面側の化粧面を形成する化粧ユニットＨ５４０と、下皿Ｈ５０（図１４４参照）を構成する下皿構成ユニットＨ５５０と、下皿Ｈ５０に貯留される球を排出するための球抜きユニットＨ１４５６０と、を主に備えて形成される。
【２８５６】
球抜きユニットＨ１４５６０は、上方側が開口する箱状に形成される収容部材Ｈ５６１と、その収容部材Ｈ５６１の内側に配設されるスライド板Ｈ１４５６２と、そのスライド板Ｈ１４５６２に連結され正面側（矢印Ｆ方向側）の少なくとも一部が収容部材Ｈ５６１の外側に配置される球抜きレバーＨ５２と、スライド板Ｈ１４５６２及び球抜きレバーＨ５２を一方向に付勢するコイルバネ（図示せず）と、スライド板Ｈ１４５６２の少なくとも一部の下方に重なる位置に配設される第２スライド板Ｈ１４５６３と、を主に備える。
【２８５７】
収容部材Ｈ５６１は、第１化粧板Ｈ５４１の第２開口部Ｈ５４１ｂの内側に収容可能な大きさに形成され、第２開口部Ｈ５４１ｂの上方に配設される下皿構成ユニットＨ５５０の下方側に隣り合う状態で配設される。また、収容部材Ｈ５６１は、箱状に形成される内部に後述するスライド板Ｈ１４５６２の変位を案内する案内機構を備えており、その案内機構によりスライド板Ｈ１４５６２の変位方向が一方向に規定される。
【２８５８】
スライド板Ｈ１４５６２は、底面部Ｈ５５３の底面口Ｈ５５３ａの開口よりも大きい板状に形成され、底面口Ｈ５５３ａの下側縁部を塞ぐ閉塞位置と、その閉塞位置から変位して底面口Ｈ５５３ａを開放する開放位置とに変位可能に形成される。スライド板Ｈ１４５６２が閉塞位置に配置される場合には、下皿Ｈ５０（図１４４参照）の貯留領域に球を貯留可能な状態とされ、スライド板Ｈ１４５６２が開放位置に配置される場合には、下皿Ｈ５０の貯留領域にある球を底面口Ｈ５５３ａから払い出す状態とされる。なお、収容部材Ｈ５６１には、スライド板Ｈ１４５６２を開放位置に配置した場合に、球を下方に挿通させるための排出口Ｈ５６１ａが底面口Ｈ５５３ａと対応する位置に形成される。
【２８５９】
また、第２１実施形態におけるスライド板Ｈ１４５６２には、スライド板Ｈ１４５６２の閉鎖位置（排出口Ｈ５６１ａを塞ぐ位置）から開放位置（排出口Ｈ５６１ａを開放する位置）への変位方向と反対方向に収容部材Ｈ５６１から突出される押圧片Ｈ１４５６２ａが形成され、その押圧片Ｈ１４５６２ａの下方に第２スライド板Ｈ１４５６３が配設される。
【２８６０】
第２スライド板Ｈ１４５６３は、第１化粧板Ｈ５４１の底面部に沿った板状に形成されると共に、収容部材Ｈ５６１の右側外方に配設される。また、第２スライド板Ｈ１４５６３は、上面側から上方に膨出する膨出部Ｈ１４５６３ａと、下面側から下方に張り出される突出部Ｈ１４５６３ｂ（Ｌ３３参照）と、第２スライド板Ｈ１４５６３の下面に当接する位置に配設され第２スライド板Ｈ１４５６３を第１化粧板Ｈ５４１に対して上方側に付勢するコイルバネＨ１４５６４（図２３９参照）と、を主に備え、第１化粧板Ｈ５４１の底面側の上方に重なる位置に配置される。
【２８６１】
膨出部Ｈ１４５６３ａは、スライド板Ｈ１４５６２が閉塞位置から開放位置に変位される際に、スライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａが当接する部分であり、閉塞位置におけるスライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａと上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重ならない位置に形成されると共に、閉塞位置におけるスライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａと少なくとも一部が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に重なる位置に形成される。
【２８６２】

これにより、スライド板Ｈ１４５６２が閉塞位置から開放位置にスライド変位された際に、スライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａを第２スライド板Ｈ１４５６３の膨出部Ｈ１４５６３ａに当接させることができる。なお、この当接により第２スライド板Ｈ１４５６３が下方に変位されるが、その変位についての詳しい説明は後述する。

【２８６３】

突出部Ｈ１４５６３ｂは、第２スライド板Ｈ１４５６３の後述する上下動の変位に伴って第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０の底面から下方に張り出される部分であり、第２スライド板Ｈ１４５６３が上方に位置する場合（図２３９（ａ）に示す状態の場合）に第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０の底面から突出部Ｈ１４５６３ｂの突出先端（下端）が張り出さない長さに設定される。

【２８６４】

なお、第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０には、突出部Ｈ１４５６３ｂが形成される位置に突出部Ｈ１４５６３ｂと対応する形状の開口が形成される。突出部Ｈ１４５６３ｂは、第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０の開口を介して突出部Ｈ１４５６３ｂを張出変位される。

【２８６５】

また、突出部Ｈ１４５６３ｂは、第８実施形態における突出部Ｈ５８３と同様に正面側（矢印Ｆ方向側）に凸状に湾曲する湾曲壁Ｈ５８３ａを複数個（４個）左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に連結させた形状に形成されており、湾曲形状による機能および作用は第８実施形態における突出部Ｈ５８３と同様であるので、その詳しい説明は省略する。

【２８６６】

次いで、図２３８及び図２３９を参照して、突出部Ｈ１４５６３ｂの変位について説明する。図２３８（ａ）及び（ｂ）は、上下皿ユニットＨ１４０１５の側面図であり、図２３９（ａ）は、図２３８（ａ）のＸ３３ａにおける上下皿ユニットＨ１４０１５の断面図であり、図２３９（ｂ）は、図２３８（ｂ）のＸ３３ｂ線における上下皿ユニットＨ１４０１５の断面図である。

【２８６７】

なお、図２３８（ａ）及び図２３９（ａ）では、突出部Ｈ１４５６３ｂが上方に退避された状態（以下「退避状態」と称す）が図示され、図２３８（ｂ）では、突出部Ｈ１４５６３ｂが下方に張り出した状態（以下「張出状態」と称す）が図示される。

【２８６８】

図２３８（ａ）及び図２３９（ａ）に示すように、スライド板Ｈ１４５６２が閉塞位置に配置される場合には、スライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａが第２スライド板Ｈ１４５６３の膨出部Ｈ１４５６３ａの右側に位置し、押圧片Ｈ１４５６２ａと膨出部Ｈ１４５６３ａとが上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重ならない位置に配置される。

【２８６９】

よって、第２スライド板Ｈ１４５６３は、第２スライド板Ｈ１４５６３と第１化粧板Ｈ５４１との間に配設されるコイルバネＨ１４５６４により上方に付勢され、膨出部Ｈ１４５６３ａが形成される部分を除く第２スライド板Ｈ１４５６３の上面が押圧片Ｈ１４５６２ａに当接する位置に配置される。これにより、第２スライド板Ｈ１４５６３の下面に形成される突出部Ｈ１４５６３ｂは、第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０に形成される開口の内側に配置される（即ち、退避状態とされる）。

【２８７０】

一方、図２３９（ｂ）及び図２３９（ｂ）に示すように、スライド板Ｈ１４５６２が開放位置に配置される場合には、スライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａが第２スライド板Ｈ１４５６３の膨出部Ｈ１４５６３ａと上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に配置される。

【２８７１】

よって、第２スライド板Ｈ１４５６３は、スライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａの下面と膨出部Ｈ１４５６３ａとの当接により下方に向かって押し出される。これに

より、第２スライド板Ｈ１４５６３の下面に形成される突出部Ｈ１４５６３ｂは、第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０に形成される開口から下方に張り出される（即ち、張出状態とされる）。

【２８７２】

即ち、第２１実施形態では、正面枠Ｈ１４（上下皿ユニットＨ１４０１５）の下面側から張り出される突出部Ｈ１４５６３ｂの張り出し量を変更可能に構成される。これにより、突出部Ｈ１４５６３ｂの張り出しが不要の場合には、突出部Ｈ１４５６３ｂを第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０の内側に退避させて、突出部Ｈ１４５６３ｂの突出高さを低くできる。よって、突出部Ｈ１４５６３ｂが遊技の邪魔になることやパチンコ機Ｈ１０（上下皿ユニットＨ１４０１５）の外観が悪化することを抑制できる。

【２８７３】

特に、第２１実施形態では、遊技者が球抜きレバーＨ５２（図２３７参照）を操作して、スライド板Ｈ１４５６２を開放位置に変位させ下皿Ｈ５０（図１４４参照）に貯留される球を千両箱に排出する際に、突出部Ｈ１４５６３ｂを上下皿ユニットＨ１４０１５の底面から張り出させることができ、下皿Ｈ５０に貯留される球が排出されない状態持（スライド板Ｈ１４５６２が閉鎖位置（排出口Ｈ５６１ａを塞ぐ位置）に突出部Ｈ１４５６３ｂを上下皿ユニットＨ１４０１５の内側に退避させることができる。即ち、遊技者の球吹きレバーＨ５２の操作により、突出部Ｈ１４５６３ｂをスライド変位させることができ、遊技者の任意のタイミング（球抜きタイミング）で突出部Ｈ１４５６３ｂの突出高さを変更できる。

【２８７４】

従って、第２１実施形態では、球が排出されていない状態持に突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させて突出部Ｈ１４５６３ｂが邪魔になることを抑制できる。よって、例えば、千両箱に払い出される球が一杯になり千両箱を交換する場合に、交換前後の千両箱が突出部Ｈ１４５６３ｂに引っ掛かることを抑制できる。その結果、下皿Ｈ５０（図１４４参照）の周囲の作業性を向上できる。

【２８７５】

なお、第２１実施形態では、図２３８（ａ）に示すように、突出部Ｈ１４５６３ｂを第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０の内側に退避させた場合に、突出部Ｈ１４５６３ｂの先端が正面枠Ｈ１４（上下皿ユニットＨ１４０１５）から非突出とされる（即ち、正面枠Ｈ１４（上下皿ユニットＨ１４０１５）の内側に突出先端が配置される）。これにより、突出部Ｈ１４５６３ｂの突出先端が遊技の邪魔になることや、突出部Ｈ１４５６３ｂの突出先端が見えてパチンコ機Ｈ１０の外観が悪化することを確実に抑制できる。

【２８７６】

また、下皿Ｈ５０（図１４４参照）から球を排出する際には、突出部Ｈ１４５６３ｂが張り出された状態とされるので、上記第８実施形態における突出部Ｈ５８３同様に、千両箱に落下して跳ね返る球を当接させることができ、下皿Ｈ５０から排出される球が千両箱の前方から飛び出ることを抑制できる。

【２８７７】

なお、第２１実施形態における突出部Ｈ１４５６３ｂを上記１実施形態における突出部Ｈ５８３のように、正面枠Ｈ１４（図１２３参照）を開放する際の持ち手として利用させる場合には、作業者に球抜きレバーＨ５２（図２３７参照）を操作させて、スライド板Ｈ１４５６２を開放位置に変位させることで、第８実施形態における突出部Ｈ５８３と同様に、突出部Ｈ１４５６３ｂを持ち手として利用させることができる。

【２８７８】

また、第２１実施形態における突出部Ｈ１４５６３ｂを上記第８実施形態における突出部Ｈ５８３のように、正面枠Ｈ１４（図１２３参照）を仮置きする場合の床の支持部として利用する場合も同様に、作業者に球抜きレバーＨ５２（図２３７参照）を操作させて、スライド板Ｈ１４５６２を開放位置に変位させることで、第８実施形態における突出部Ｈ５８３と同様に、正面枠Ｈ１４を仮置きする場合の床の支持部として利用することができ

る。
【２８７９】
この場合、第２１実施形態では、突出部Ｈ１４５６３ｂ（第２スライド板Ｈ１４５６３）の上部にスライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａが配置される。従って、突出部Ｈ１４５６３ｂを床面に当接させた状態で正面枠Ｈ１４（図１２３参照）を仮置きした場合に、突出部Ｈ１４５６３ｂが変形または破損することをスライド板Ｈ１４５６２（押圧片Ｈ１４５６２ａ）で抑制できる。
【２８８０】
即ち、突出部Ｈ１４５６３ｂは、他の部材の配置の邪魔にならないよう上下皿ユニットＨ１４０１５に対して比較的小さく形成される。そのため、突出部Ｈ１４５６３ｂに力が集中すると突出部Ｈ１４５６３ｂが変形または破損する恐れがあった。
【２８８１】
これに対し、第２１実施形態では、突出部Ｈ１４５６３ｂをスライド板Ｈ１４５６２で支持できるので、突出部Ｈ１４５６３ｂに力が集中しすぎることを抑制して、突出部Ｈ１４５６３ａが変形または破損することを抑制できる。即ち、スライド板Ｈ１４５６２を突出部Ｈ１４５６３ｂの支持部（補強）として利用できる。
【２８８２】
なお、第２１実施形態では、スライド板Ｈ１４５６２が突出部Ｈ１４５６３ｂ（第２スライド板Ｈ１４５６３）の上方に重なるだけであるが、スライド板Ｈ１４５６２を突出部Ｈ１４５６３ｂの前後に重なる大きさに形成（即ち、押圧片Ｈ１４５６２ａの前後幅を第２スライド板Ｈ１４５６３の前後幅よりも大きく形成して、押圧片Ｈ１４５６２ａに第２スライド板Ｈ１４５６３と前後に重なる領域を形成）しても良い。この場合には、突出部Ｈ１４５６３ｂに前後方向における力が作用する場合であっても、突出部Ｈ１４５６３ｂをスライド板Ｈ１４５６２で支持することができる。その結果、突出部Ｈ１４５６３ａが変形または破損することを抑制できる。
【２８８３】
また、第２１実施形態では、球抜きレバーＨ５２（図２３７参照）の操作に伴うスライド板Ｈ１４５６２の変位により、第２スライド板Ｈ１４５６３を上下にスライド変位させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、正面枠Ｈ１４（図１２３参照）を外枠Ｈ１１（図１２１参照）から開放（取り外し）た際にスライド変位するスライド板を設け、そのスライド板の変位により第２スライド板Ｈ１４５６３を下方に変位させるように構成しても良い。
【２８８４】
この場合、正面枠Ｈ１４（図１２３参照）が外枠Ｈ１１（図１２１参照）から取り外された場合に、突出部Ｈ１４５６３ｂを張り出させることができるので、上記第８実施形態における突出部Ｈ５８３のように正面枠Ｈ１４を床に仮置きする場合の支持部として突出部Ｈ１４５６３ｂを利用することができる。
【２８８５】
また、第２１実施形態では、第８実施形態における突出部Ｈ５８３が非形成とされる場合について説明したが、突出部Ｈ５８３を備えるものであっても良い。この場合には、第２スライド板Ｈ１４５６３の突出部Ｈ１４５６３ｂが突出部Ｈ５８３の正面側に沿って（正面側に隣り合う位置に）突出可能に形成されることが好ましい。これによれば、外枠Ｈ１１（図１２１参照）に対して正面枠Ｈ１４（図１２３参照）を開放する場合に突出部Ｈ５８３を正面枠Ｈ１４の開放方向に引っ張る場合に、その力で突出部Ｈ５８３が変形または破損することを突出部Ｈ１４５６３ｂにより抑制できる。即ち、突出部Ｈ１４５６３ｂを突出部Ｈ５８３の支持部（補強）として利用できる。
【２８８６】
次いで、図２４０を参照して、第２２実施形態における上下皿ユニットＨ３５０１５について説明する。上記第２１実施形態では、スライド板Ｈ１４５６２（球抜きレバーＨ５２）の変位に連動して第２スライド板Ｈ１４５６３が変位される場合について説明したが

、第２２実施形態では、スライド板Ｈ１４５６２（球抜きレバーＨ５２）の変位に第２スライド板Ｈ１４５６３が非連動とされる場合を形成可能に構成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２８８７】

図２４０（ａ）から（ｄ）は、第２２実施形態における上下皿ユニットＨ１５０１５の断面図であり、図２３８（ａ）のＸ３３ａ線における断面と対応する。また、図２４０（ａ）から図２４０（ｄ）では、第２スライド板Ｈ１４５６３又は係合片Ｈ１５５４３が変位された際の遷移状態が順に図示される。さらに、図２４０（ａ）及び（ｄ）では、突出部Ｈ１４５６３ｂが上下皿ユニットＨ１５０１５の内側に退避した退避状態が図示され、図２４０（ｂ）及び（ｃ）では、突出部Ｈ１４５６３ｂが上下皿ユニットＨ１５０１５の下方から張り出した張出状態が図示される。

【２８８８】

図２４０に示すように、第２２実施形態における上下皿ユニットＨ１５０１５は、上述した第２１実施形態における上下皿ユニットＨ１４０１５の第１化粧板Ｈ５４１の底面側に係合片Ｈ１５５４３が配設される。

【２８８９】

係合片Ｈ１５５４３は、第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０の開口を介して張出変位された位置の（張出状態となる位置に変位された）第２スライド板Ｈ１４５６３の上面と係合する部材であり、一端側（上方側）に鉤状に形成される係合部Ｈ１５５４３ａを備える。

【２８９０】

また、係合片Ｈ１５５４３は、第１化粧板Ｈ５４１に形成される軸受部Ｈ１５５４１ｆに軸支され、第１化粧板Ｈ５４１に対して回転可能な状態で配設されると共に、係合部Ｈ１５５４３ａが形成される側と反対側の他端側が第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０に形成された開口（図示せず）を介して上下皿ユニットＨ１５０１５の下方側に突出される。即ち、係合片Ｈ１５５４３は、上下皿ユニットＨ１５０１５の下方側から突出される部分により操作可能とされる。

【２８９１】

さらに、係合片Ｈ１５５４３は、第１化粧板Ｈ５４１の軸受部Ｈ１５５４１ｆとの間に配設されるねじりバネ（図示せず）により、係合部Ｈ１５５４３ａ側が第２スライド板Ｈ１４５６３側に近づく方向に付勢される。

【２８９２】

係合部Ｈ１５５４３ａは、突出部Ｈ１４５６３ｂを第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０の内側に退避させた状態（退避状態）において、突出部Ｈ１４５６３ｂの非形成部分における第２スライド板Ｈ１４５６３の下面側端部に当接する位置に配置される。また、第２スライド板Ｈ１４５６３の下面側端部が当接される係合部Ｈ１５５４３ａの当接面は、傾斜して形成される。これにより、第２スライド板Ｈ１４５６３が退避状態から張出状態に変位される際には、第２スライド板Ｈ１４５６３の下面側端部が係合部Ｈ１５５４３ａの当接面を外側に押し出すことで、係合片Ｈ１５５４３が回転される。

【２８９３】

以上のように構成される第２２実施形態における上下皿ユニットＨ１５０１５によれば、図２４０（ａ）及び図２４０（ｂ）に示すように、遊技者が球抜きレバーＨ５２（図２３７参照）を操作して第２スライド板Ｈ１４５６３が張出位置にスライド変位されると、第２スライド板Ｈ１４５６３の張出変位に伴って係合片Ｈ１５５４３の係合部Ｈ１５５４３ａが第２スライド板Ｈ１４５６３から離れる方向に回転された後、突出部Ｈ１４５６３ｂの非形成部分における第２スライド板Ｈ１４５６３が係合部Ｈ１５５４３ａを超えて下方側まで変位されることで、ねじりバネの付勢力により係合部Ｈ１５５４３ａが再び第２スライド板Ｈ１４５６３に近づく方向に回転される。

【２８９４】

この場合、突出部Ｈ１４５６３ｂの非形成部分における第２スライド板Ｈ１４５６３が

係合部Ｈ１５５４３ａを超えて下方側に位置することで、係合部Ｈ１５５４３ａが第２スライド板Ｈ１４５６３の上面に係合して、第２スライド板Ｈ１４５６３の上方側への変位が規制される（以下の説明では「規制状態」と称す）。

【２８９５】

この規制状態では、図２４０（ｃ）に示すように、遊技者が球抜きレバーＨ５２（図２３７参照）を操作してスライド板Ｈ１４５６２を閉鎖位置（排出口Ｈ５６１ａ（図２３９参照）を塞ぐ位置）に変位させたとしても、係合部Ｈ１５５３ａが第２スライド板Ｈ１４５６３に引っ掛かることで、第２スライド板Ｈ１４５６３の退避方向への変位が規制される。

【２８９６】

一方、図２４０（ｄ）に示すように、第２２実施形態における上下皿ユニットＨ１５０１５は、上下皿ユニットＨ１５０１５の下方側から突出される係合片Ｈ１５５４３を遊技者が操作することで、係合部Ｈ１５５４３ａと第２スライド板Ｈ１４５６３との係合が解除される。これにより、第２スライド板Ｈ１４５６３が退避方向に変位され、第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０の内側に突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させた状態（即ち、図２４０（ａ）に示す状態）とされる。

【２８９７】

即ち、第２２実施形態では、遊技者の球抜き操作（球抜きレバーＨ５２（図２３７参照）の操作）により突出部Ｈ１４５６３ｂを上下皿ユニットＨ１５０１５の下方側から張り出させる（張出状態とする）ことができると共に、球抜き操作を終えた後（球抜きレバーＨ５２を元の位置に戻した後）においても突出部Ｈ１４５６３ｂを上下皿ユニットＨ１５０１５の下方側から張り出した状態（張出状態）に維持することができる。

【２８９８】

また、上下皿ユニットＨ１５０１５の下方側から突出部Ｈ１４５６３ｂを張り出した状態においては、遊技者の任意のタイミングで突出部Ｈ１４５６３ｂを下側保護板Ｈ５８０の内側に退避させた状態にできる。

【２８９９】

さらに、球抜きレバーＨ５２（図２３７参照）を操作した状態（スライド板Ｈ１４５６２を開放位置に変位させて遊技球を下皿Ｈ５０（図１４４参照）から払出可能な状態）においては、図２４０（ｂ）に示すように第２スライド板Ｈ１４５６３の膨出部Ｈ１４５６３ａの上方にスライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａが位置される。従って、遊技者が係合片Ｈ１５５４３を操作したとしても突出部Ｈ１４５６３ｂが下側保護板Ｈ５８０の内側に退避されることを抑制できる。よって、下皿Ｈ５０から遊技球を払い出し可能な場合に、突出部Ｈ１４５６３ｂが不用意に退避方向に変位することを抑制できる。その結果、千両箱に落下して跳ね返る球を突出部Ｈ１４５６３ｂに当接させることができ、下皿Ｈ５０から排出される球が千両箱の前方から飛び出ることを抑制できる。

【２９００】

また、突出部Ｈ１４５６３ｂに係合部Ｈ１５５４３ａを係合させて維持状態にし、球抜きレバーＨ５２（図２３７参照）を初期位置に戻した（スライド板Ｈ１４５６２を閉鎖位置（排出口Ｈ５６１ａ（図２３９参照）を塞ぐ位置）に変位させた）後、再度球抜きレバーＨ５２を操作してスライド板Ｈ１４５６２を開放位置（排出口Ｈ５６１ａを開放する位置）に変位させる場合には、第２スライド板Ｈ１４５６３の下方側への変位が必要なくなるので、スライド板Ｈ１４５６２と第２スライド板Ｈ１４５６３との接触抵抗を小さくすることができる。即ち、第２スライド板Ｈ１４５６３を下方側に維持した状態とすることができるので、第２スライド板Ｈ１４５６３を下方側に変位させるためにスライド板Ｈ１４５６２を第２スライド板Ｈ１４５６３に当接させる必要がなくなり、その分、スライド板Ｈ１４５６２の操作抵抗を減らすことができる。

【２９０１】

従って、下皿Ｈ５０（図１４４参照）からの非球抜き時（スライド板Ｈ１４５６２を閉鎖位置（排出口Ｈ５６１ａ（図２３９参照）を塞ぐ位置）に配置した状態）において、退

避状態とされる位置への突出部Ｈ１４５６３ｂの変位を必要としない（突出部Ｈ１４５６３ｂが張出状態とされた状態で良い）遊技者の場合には、球抜きレバーＨ５２（図２３７参照）の操作抵抗を小さくすることができ、球抜きレバーＨ５２を操作させやすくできる。即ち、遊技者の好みにより、突出部Ｈ１４５６３ｂを張出状態とするか否かを遊技者に選択させることができる。

【２９０２】

さらに、第２２実施形態においては、上記第８実施形態における突出部Ｈ５８３のように突出部Ｈ１４５６３ｂを正面枠Ｈ１４（図１２３参照）を仮置きする場合の床の支持部として利用する際には、球抜きレバーＨ５２（図２３７参照）を初期位置に戻してスライド板Ｈ１４５６２を排出口Ｈ５６１ａ（図２３９参照）を塞ぐ閉鎖位置に配置することができるので、正面枠Ｈ１４を仮置きする場合に球が下皿Ｈ５０の貯留領域に払い出されたとしても、下皿Ｈ５０から球が払い出されることを抑制できる。これにより、床面に球が散らばることを抑制できる。

【２９０３】

次いで、図２４１及び図２４２を参照して、第２３実施形態における上下皿ユニットＨ１６０１５及び上側装飾ユニットＨ１６０１４ａについて説明する。上記第２１実施形態では、第２スライド板Ｈ１４５６３を上下皿ユニットＨ１４０１５の下方側から突出させる場合について説明したが、第２３実施形態では、第２スライド板Ｈ１６５６２を上側装飾ユニットＨ１６０１４ａから突出させる場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２９０４】

図２４１（ａ）及び（ｂ）は、第２３実施形態における正面枠Ｈ１６０１４の正面模式図であり、図２４２（ａ）は、図２４１（ａ）のＸ３４ａ線における上側装飾ユニットＨ１６０１４ａの断面模式図であり、図２４２（ｂ）は、図２４１（ｂ）のＸ３４ｂ線における上側装飾ユニットＨ１６０１４ａの断面模式図である。なお、図２４１（ａ）及び図２４２（ａ）では、基板ユニットＨ１６３４４が上側装飾ユニットＨ１６０１４ａの内側に退避した退避状態が図示され、図２４１（ｂ）及び図２４２（ｂ）では、基板ユニットＨ１６３４４が上側装飾ユニットＨ１６０１４ａから張り出した張出状態が図示される。なお、図２４１及び図２４２では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【２９０５】

図２４１及び図２４２に示すように、第２３実施形態における正面枠Ｈ１６０１４は、金属板によって縦長の矩形枠状に形成される本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）と、その本体枠Ｈ１４ｄに配設され、その本体枠Ｈ１４ｄの上方側（矢印Ｕ方向側）の正面に配設される上側装飾ユニットＨ１６０１４ａと、その上側装飾ユニットＨ１６０１４ａの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側から下方（矢印Ｄ方向側）に向けて延設される左側装飾ユニットＨ１４ｂ及び右側装飾ユニットＨ１４ｃと、本体枠Ｈ１４ｄの下方側の正面を覆う上下皿ユニットＨ１６０１５と、本体枠Ｈ１４ｄを介して上下皿ユニットＨ１６０１５の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０（図１２６参照）と、その通路形成ユニットＨ１４０の背面側に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０（図１２６参照）とを主に備えて構成され、内枠Ｈ１２（図１２５参照）に回動可能に取り付けられている。

【２９０６】

上下皿ユニットＨ１６０１５は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベース部材Ｈ５１０（図１４５参照）と、そのベース部材Ｈ５１０の正面側に配設される上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ハンドルＨ５１と、ベース部材Ｈ５１０の正面側に配設される下皿形成部材Ｈ１６５３０と、上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｈ１６５３０の間に配設される操作ユニットＨ１８０（図１４５参照）と、を主に備える。

【２９０７】

下皿形成部材Ｈ１６５３０は、上下皿ユニットＨ１６０１５の化粧面を構成する部材であり、正面視においてベース部材Ｈ５１０を覆う位置に配設される。また、下皿形成部材Ｈ１６５３０は、下皿Ｈ５０（図１４４参照）の貯留空間を形成する下皿構成ユニットＨ５５０（図１５０参照）と、その下皿構成ユニットＨ５５０に貯留された球を抜く球抜きユニットＨ１６５６０（図１５０参照）とを備える。

【２９０８】

球抜きユニットＨ１６５６０は、上方側が開口する箱状に形成される収容部材Ｈ５６１（図１５０参照）と、その収容部材Ｈ５６１の内側に配設されるスライド板Ｈ５６２（図１５０参照）と、そのスライド板Ｈ５６２に連結され正面側（矢印Ｆ方向側）の少なくとも一部が収容部材Ｈ５６１の外側に配置される球抜きレバーＨ１６０５２と、スライド板Ｈ５６２及び球抜きレバーＨ１６０５２を一方向に付勢するコイルバネ（図示せず）と、を主に備える。

【２９０９】

球抜きレバーＨ１６０５２は、下皿Ｈ５０（図１４４参照）に貯留された球を下方へ排出する際に遊技者が操作するためのレバーであり、スライド板Ｈ５６２（図１５０参照）に連なって形成されると共に、常時、右方向（矢印Ｒ方向）に付勢されており、その付勢に抗して左方向（矢印Ｌ方向）へスライドさせることにより、スライド板Ｈ５６２が閉鎖位置（排出口Ｈ５６１ａを塞ぐ位置）から開放位置（排出口Ｈ５６１ａを開放する位置）に変位される。また、球抜きレバーＨ１６０５２には、上下皿ユニットＨ１６０１５の化粧面よりも背面側の位置に連結部材Ｈ１６５０１が連結される。

【２９１０】

連結部材Ｈ１６５０１は、金属製の棒部材を曲げて形成されており、上下皿ユニットＨ１６０１５、右側装飾ユニットＨ１４ｃ及び上側装飾ユニットＨ１６０１４ａの背面側を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）にスライド変位可能に構成され、球抜きレバーＨ１６０５２の操作に伴って左右方向にスライド変位可能とされる。

【２９１１】

また、連結部材Ｈ１６５０１は、球抜きレバーＨ１６０５２に連結される側と反対側の端部に、スライド板Ｈ１６５０２が連結され、球抜きレバーＨ１６０５２の操作により左右方向にスライド変位されることで、スライド板Ｈ１６５０２を左右方向にスライド変位可能とされる。

【２９１２】

次いで、上側装飾ユニットＨ１６０１４ａについて説明する。上側装飾ユニットＨ１６０１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ１６３２０とを主に備える。

【２９１３】

化粧ユニットＨ１６３２０は、背面側（矢印Ｂ方向側）が開放される箱状に形成される装飾ユニットＨ３３０と、その装飾ユニットＨ３３０の内側に配設される発光ユニットＨ１６３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０（図１３１参照）とを主に備える。

【２９１４】

発光ユニットＨ１６３４０は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に締結固定される取付部材Ｈ３４１と、その取付部材Ｈ３４１の背面側に上下方向に変位可能な状態で配設され光を発光可能に構成される基板ユニットＨ１６３４４と、その基板ユニットＨ１６３４４及び取付部材Ｈ３４１との背面側を覆う覆設部材Ｈ３４３とを主に備える。

【２９１５】

基板ユニットＨ１６３４４は、光を出射するＬＥＤ（発光ダイオード）Ｈ３４２ａが正面側（矢印Ｆ方向側）に複数個配設される基板部材Ｈ３４２と、その基板部材Ｈ３４２の正面側を覆う正面カバーＨ１６３４５と、基板部材Ｈ３４２の背面側を覆う背面カバーＨ１６３４６と、その背面カバーＨ１６３４６の背面側に連結される伝達部材Ｈ１６３４７とを主に備える。

【２９１６】
なお、正面カバーＨ１６３４５は、光を透過可能な透明な樹脂材料から形成され、背面側に配設される基板部材Ｈ３４２のＬＥＤＨ３４２ａから出射される光を正面側に向けて透過可能とされる。これにより、ＬＥＤＨ３４２ａから出射される光を取付部材Ｈ３４１の開口部Ｈ３４１ａ１（図１３３参照）を介して装飾板Ｈ３３５に出射し、装飾板Ｈ３３５をＬＥＤＨ３４２ａの光で発光させることができる。
【２９１７】
伝達部材Ｈ１６３４７は、基板ユニットＨ１６３４４に駆動力を伝達する部材であり、上下皿ユニットＨ１６０１５の球抜きレバーＨ１６０５２に連結される連結部材Ｈ１６５０１のスライド板Ｈ１６５０２に当接可能な位置に形成される。また、伝達部材Ｈ１６３４７は、下方側の一部がスライド板Ｈ１６５０２の傾斜面により支持されており、スライド板Ｈ１６５０２が変位されることにより傾斜面に沿って上方側に変位可能とされる。この伝達部材Ｈ１６３４７の変位により基板ユニットＨ１６３４４が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位可能とされる。
【２９１８】
なお、第２３実施形態では、伝達部材Ｈ１６３４７が下方に位置する（退避状態とされる）場合（図２４１（ａ）に示す位置に配置される場合）に、基板ユニットＨ１６３４４の上端面が装飾ユニットＨ３３０の上面と略一致する高さに設定されると共に、伝達部材Ｈ１６３４７が上方に位置する（張出状態とされる）場合（図２４１（ｂ）に示す位置に配置される場合）に基板ユニットＨ１６３４４の上端面が装飾ユニットＨ３３０から上方側に張り出すように設定される。
【２９１９】
以上のように構成される第２３実施形態における正面枠Ｈ１６０１４によれば、球抜きレバーＨ１６０５２の操作に伴って、正面枠Ｈ１６０１４の上方側から基板ユニットＨ１６３４４を張り出させることができる。従って、遊技者や遊技直前の遊技者に排出口Ｈ５６１ａが開放されていることを認識させることができる。その結果、遊技者が排出口Ｈ５６１ａを開放したことを忘れて、下皿Ｈ５０（図１４４参照）に遊技球を貯留しようとした場合（例えば、上皿Ｈ１７の貯留が一杯になり、払い出される遊技球が下皿Ｈ５０の貯留領域に迂回した場合）に下皿Ｈ５０から遊技球が払い出されてしまうことを抑制できる。
【２９２０】
また、正面枠Ｈ１６０１４の上方側から張り出す基板ユニットＨ１６３４４には、ＬＥＤＨ３４２ａが配設されるので、正面枠Ｈ１６０１４の外側から光を出射することができる。これにより、基板ユニットＨ１６３４４が張り出していることを遊技者に認識させやすくできる（即ち、排出口Ｈ５６１ａが開放されていることを遊技者に認識させやすくできる）。
【２９２１】
さらに、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態が大当たりとなり遊技球が下皿Ｈ５０（図１４４参照）から払い出され、遊技者が球抜きレバーＨ１６０５２を操作した際に、光を出射するＬＥＤＨ３４２を正面枠Ｈ１６０１４から張り出させることができるので、大当たり時にパチンコ機Ｈ１０の演出領域を増やすことができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【２９２２】
また、第２３実施形態では、正面枠Ｈ１６０１４から基板ユニットＨ１６３４４を張り出した場合の上方側への張出距離が、正面視における正面枠Ｈ１６０１４よりも若干大きく形成される外枠Ｈ１１（図１２１参照）よりも先端が外方側に張り出す距離に設定される。これにより、組み立てた状態のパチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）を床に仮置きする場合には、基板ユニットＨ１６３４４と外枠Ｈ１１の上面の一部との２点を床面に当接させた状態にできる。その結果、床面の影響を受けることなく仮置きすることができ、パチンコ機Ｈ１０が倒れることを抑制できる。

【２９２３】
なお、第２３実施形態では、基板ユニットＨ１６３４４が張出状態とされる（図２４１に示す状態とされる）場合に、伝達部材Ｈ１６３４７の下方側にスライド板Ｈ１６５０２が配置される。即ち、基板ユニットＨ１６３４４の下方側がスライド板Ｈ１６５０２により支持（補強）される。これにより、基板ユニットＨ１６３４４を張出状態としてパチンコ機Ｈ１０を床面に仮置きする場合に、基板ユニットＨ１６３４４が変形または破損することを抑制できる。
【２９２４】
さらに、外枠Ｈ１１（図１２１参照）よりも基板ユニットＨ１６３４４の先端が外方側に張り出すので、パチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）を背面側に傾倒させた状態で仮置きすることができる。これにより、基板ユニットＨ１６３４４に作用する自重に比べて、外枠Ｈ１１に作用する自重を大きくできる。その結果、装飾面となる上側装飾ユニットＨ１６０１４ａが破損することを抑制できる。また、仮置きしたパチンコ機Ｈ１０が倒れる場合には、正面側よりも背面側に倒れやすくできるので、仮にパチンコ機Ｈ１０が倒れた場合に装飾面となる正面側に倒れることを抑制して、装飾面が破損する（ヒビや傷が入る）ことを抑制できる。
【２９２５】
また、正面枠Ｈ１６０１４からの基板ユニットＨ１６３４４の張り出し量が大きくされることで、パチンコ店においてパチンコ機Ｈ１０の上方に配置されるデータ表示器（大当たり回数や遊技回数のデータ表示器）を遊技中や遊技直前の遊技者に視認させにくくできる。これにより、基板ユニットＨ１６３４４が張り出していることを遊技者に認識させやすくできる（即ち、排出口Ｈ５６１ａが開放されていることを遊技者に認識させやすくできる）。
【２９２６】
なお、上記第２３実施形態では、変位する基板ユニットＨ１６３４４にのみ基板部材Ｈ３４２が配置される場合について説明したが、基板ユニットＨ１６３４４の基板部材Ｈ３４４の他に固定された基板部材Ｈ３４２を別途配設して、基板ユニットＨ１６３４４の変位に関わらず他に固定された基板部材Ｈ３４２により装飾板Ｈ３４５を常に発光させるものとし、基板ユニットＨ１６３４４を張出状態とした際に正面視における発光領域を増やすものであっても良い。
【２９２７】
また、上記第２３実施形態では、変位する基板ユニットＨ１６３４４に光を出射可能なＬＥＤＨ３４２ａを備えた基板部材Ｈ３４２を配置する場合について説明したが、基板ユニットＨ１６３４４に基板部材Ｈ３４２を非搭載のものであっても良い。例えば、背面カバーＨ１６３４６のみで構成される基板ユニットＨ１６３４４であっても良い。
【２９２８】
さらに、上記第２３実施形態では、基板ユニットＨ１６３４４が上側装飾ユニットＨ１６０１４ａから張り出されていない（図２４１（ａ）に示す状態）場合に、ＬＥＤＨ３４２ａから出射される光を取付部材Ｈ３４１の開口部Ｈ３４１ａ１（図１３３参照）を介して装飾板Ｈ３３５に出射し、装飾板Ｈ３３５をＬＥＤＨ３４２ａの光で発光させることについて説明したが、基板ユニットＨ１６３４４が上側装飾ユニットＨ１６０１４ａから張り出されていない場合に、装飾板Ｈ３３５や取付部材Ｈ３４１に光を反射させて、上側装飾ユニットＨ１６０１４ａの下方側（下面板Ｈ３３３）から光を出射可能に構成しても良い。
【２９２９】
次いで、図２４３（ａ）を参照して第２４実施形態における上下皿ユニットＨ１７０１５について説明する。上記第８実施形態では、操作ユニットＨ１８０の下面が被挿入部Ｈ５５５ｅに当接される場合について説明したが、第２４実施形態における上下皿ユニットＨ１７０１５では、操作ユニットＨ１８０の下面が凸状部Ｈ１７５１５に当接される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明

は省略する。
【２９３０】
図２４３（ａ）は、第２４実施形態における上下皿ユニットＨ１７０１５の断面図である。なお、図２４３（ａ）は、図１４４のＸ０９ａ線における上下皿ユニットＨ１５の断面図と対応する。
【２９３１】
図２４３（ａ）に示すように、第２４実施形態における上下皿ユニットＨ１７０１５は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベース部材Ｈ１７５１０と、そのベース部材Ｈ１７５１０の正面側に配設される上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ハンドルＨ５１と、ベース部材Ｈ１７５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側に配設される下皿形成部材Ｈ１７５３０と、上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｈ１７５３０の間に配設される操作ユニットＨ１８０と、を主に備える。
【２９３２】
ベース部材Ｈ１７５１０は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う板状に形成されると共に、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の縁部および下方向の縁部に背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって屈曲する側壁部を有し、その側壁部の内側に本体枠Ｈ１４ｄを収容する状態で本体枠Ｈ１４ｄに配設される。
【２９３３】
また、ベース部材Ｈ１７５１０は、本体枠Ｈ１４ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子を螺入可能に穿設される複数の締結孔Ｈ５１１と、本体枠Ｈ１４ｄの背面側から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて螺子を挿通可能に穿設される複数の挿通孔Ｈ５１２と、上皿Ｈ１７の貯留領域の背面側に開口する上皿用球流入部Ｈ５１３及び送球用球流出部Ｈ５１６と、下皿Ｈ５０（図１４４参照）の貯留領域の背面側に開口する下皿用球流入部Ｈ５１４と、正面側に向かって凸状に突出する凸状部Ｈ１７５１５と、シリンダ錠Ｈ２０が内側に配設されるベース側保持孔Ｈ５１７と、を主に備え、有色（第８実施形態では黒色）の非透過性の樹脂材料から形成される。
【２９３４】
凸状部Ｈ１７５１５は、後述する下皿形成部材Ｈ１７５３０の一対の側壁Ｈ１７５５５ｆに挿入され、ベース部材Ｈ５１０に対する下皿形成部材Ｈ５３０の位置決めを行う部分であり、一対の側壁Ｈ１７５５５ｆにより形成される挿入空間と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に対向する位置に形成される。
【２９３５】
また、凸状部Ｈ１７５１５は、正面視において横長矩形に形成され、上面を形成する上面部Ｈ１７５１５ｄと、下面を形成する下面側傾斜部Ｈ５１５ｂと、左右の側面を形成する側面側傾斜部Ｈ５１５ｃと、を主に備える。なお、凸状部Ｈ５１５は、下方側に作用する力により若干弾性変形可能な樹脂材料から形成される。
【２９３６】
上面部Ｈ１７５１５ｄは、前後方向に延設され、下面側傾斜部Ｈ５１５ｂは、正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって上方に傾斜して形成される。また、一対の側面側傾斜部Ｈ５１５ｃは、正面側に向かって近づく方向に傾斜して形成される。これら上面部Ｈ１７５１５ｄと下面側傾斜部Ｈ５１５ｂと側面側傾斜部Ｈ５１５ｃとにより、凸状部Ｈ１７５１５は、突出先端側に向かって正面視における上下左右の厚みが薄く（先細り形状）に形成される。
【２９３７】
また、上面部Ｈ１７５１５ｄには、正面側（矢印Ｆ方向側）の上部に弾性変形可能な弾性部材Ｈ１７５１５ｅが配置されており、その弾性部材Ｈ１７５１５ｅに上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｈ１７５３０の間に配設される操作ユニットＨ１８０の下面が当接した状態で配置される。
【２９３８】
下面側傾斜部Ｈ５１５ｂには、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における中央部に凸状部Ｈ

５１５の突出先端から基端側に向かう溝状の凹部Ｈ５１５ｂ１が凹設されると共に、その凹部Ｈ５１５ｂ１の凹設底面の一部に被係合部Ｈ５１５ｂ２が開口形成される。

【２９３９】

被係合部Ｈ５１５ｂ２は、後述する下皿形成部材Ｈ１７５３０の係合部Ｈ５５５ｂ１が係合される開口であり、凸状部Ｈ５１５の突出先端から基端側に向かって溝状に形成される凹部Ｈ５１５ｂ１の基端側の端部に形成される。

【２９４０】

下皿形成部材Ｈ１７５３０は、ベース部材Ｈ１７５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う形状に形成され上下皿ユニットＨ１７０１５の正面側の化粧面を形成する化粧ユニットＨ５４０と、下皿Ｈ５０（図１４４参照）を構成する下皿構成ユニットＨ１７５５０と、下皿Ｈ５０に貯留される球を排出するための球抜きユニットＨ５６０と、を主に備えて形成される。

【２９４１】

下皿構成ユニットＨ１７５５０は、下皿Ｈ５０（図１４４参照）の底面を形成する底板Ｈ１７５５１と、下皿Ｈ５０の上面の一部を形成すると共に底板Ｈ１７５５１の背面側（矢印Ｂ方向側）の外縁に当接する側面板Ｈ５５２と、を主に備える。

【２９４２】

底板Ｈ１７５５１は、底面部Ｈ５５３と、その底面部Ｈ５５３の正面側（矢印Ｆ方向側）の外縁に沿って上方側に向かって立設される正面側側壁Ｈ５５４と、底面部Ｈ５５３の外側であって正面側側壁Ｈ５５４に連なって形成される連結部Ｈ１７５５５と、を主に備える。

【２９４３】

連結部Ｈ１７５５５は、前後方向に所定の厚みを有し第１化粧板Ｈ５４１側（正面側）に配設される本体部Ｈ１７５５５ｄと、その本体部Ｈ１７５５５ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）の左右両側の縁部に沿って背面側に向かって突出される一対の側壁Ｈ１７５５５ｆと、本体部Ｈ１７５５５ｄの背面側の下方側の縁部から背面側に向かって突出される突設部Ｈ５５５ｂと、を主に備え、全体が非透過性の樹脂材料から形成される。なお、連結部Ｈ１７５５５は、下方側に作用される力により若干弾性変形可能に形成される。

【２９４４】

一対の側壁Ｈ１７５５５ｆは、その対向間の幅が凸状部Ｈ１７５１５を挿入可能な大きさに形成され、その対向面にガイド壁Ｈ５５５ｃが複数個並設される。下皿形成部材Ｈ１７５３０をベース部材Ｈ１７５１０に配設した際には、一対の側壁Ｈ１７５５５ｆの対向間に凸状部Ｈ１７５１５が挿入可能とされる。

【２９４５】

ガイド壁Ｈ５５５ｃは、ベース部材Ｈ１７５１０の凸状部Ｈ１７５１５が被挿入部Ｈ５５５ｅに挿入される際に、凸状部Ｈ５１５の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における位置を調整する部材であり、被挿入部Ｈ５５５ｅの左右の両側壁に前後方向に所定の間隔で複数個並設される。

【２９４６】

また、突設部Ｈ５５５ｂは、背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって突設されており、その突設先端部の上面に凸状に形成される係合部Ｈ５５５ｂ１を備える。また、突設部Ｈ５５５ｂは、ベース部材Ｈ１７５１０の凸状部Ｈ１７５１５が一対の側壁Ｈ１７５５５ｆの対向間に挿入される際に凸状部Ｈ１７５１５の凹部Ｈ５１５ｂ１に案内される部分であり、凹部Ｈ５１５ｂ１により形成される溝と対応する位置に形成される。

【２９４７】

係合部Ｈ５５５ｂ１は、ベース部材Ｈ１７５１０の被係合部Ｈ５１５ｂ２に係合する部分であり、突設部Ｈ５５５ｂの上面から上方に向かって突設されると共に、前後方向に切断した断面が略三角形状に形成される。この断面における傾斜により、ベース部材Ｈ１７５１０の凸状部Ｈ１７５１５が一対の側壁Ｈ１７５５５ｆの対向間に挿入される際、又は、ベース部材Ｈ１７５１０の凸状部Ｈ１７５１５が一対の側壁Ｈ１７５５５ｆの対向間か

ら引き抜かれる際に、突設部Ｈ５５５ｂを撓ませやすくできる。その結果、ベース部材Ｈ１７５１０に下皿形成部材Ｈ１７５３０を取り付ける作業、及び、ベース部材Ｈ１７５１０から下皿形成部材Ｈ１７５３０を取り外す作業を簡易にできる。

【２９４８】

以上のように構成される上下皿ユニットＨ１７０１５によれば、下方側（下面側傾斜部Ｈ５１５ｂ）に被係合部Ｈ５１５ｂ２が形成される凸状部Ｈ１７５１５の上方（上面部Ｈ１７５１５ｄ）に操作ユニットＨ１８０が載置され、凸状部Ｈ１７５１５の下方から被係合部Ｈ５１５ｂ２に係合部Ｈ５５５ｂ１が係合されるので、操作ユニットＨ１８０が遊技者に操作された場合や操作ユニットＨ１８０が駆動された場合に、被係合部Ｈ５１５ｂ２と係合部Ｈ５５５ｂ１との係合が解除されることを抑制できる。

【２９４９】

詳しく説明すると、操作ユニットＨ１８０が遊技者に操作された場合や操作ユニットＨ１８０が駆動された場合には、操作ユニットＨ１８０の下方側に向かう方向の力が入力されやすく、操作ユニットＨ１８０が載置される凸状部Ｈ１７５１５が下方側に向かって変形しやすい。

【２９５０】

第２４実施形態では、操作ユニットＨ１８０により凸状部Ｈ１７５１５の変位しやすい方向側から係合部Ｈ５５５ｂ１が挿入されるので、操作ユニットＨ１８０により凸状部Ｈ１７５１５が下方側に向かって変位した際に、被係合部Ｈ５１５ｂ２の内側に係合部Ｈ５５５ｂ１を挿入する嵌る方向に被係合部Ｈ５１５ｂ２を変位させることができる。その結果、係合部Ｈ５５５ｂ１と被係合部Ｈ５１５ｂ２との係合が解除されることを抑制できる。

【２９５１】

次いで、図２４３（ｂ）を参照して第２５実施形態における上下皿ユニットＨ１８０１５について説明する。上記第８実施形態では、係合部Ｈ５５５ｂ１が被係合部Ｈ５１５ｂ２に下方側から係合する場合について説明したが、第２５実施形態では、係合部Ｈ１８５５５ｂ１が被係合部Ｈ１８５１５ａ２に上方側から係合する場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２９５２】

図２４３（ｂ）は、第２５実施形態における上下皿ユニットＨ１８０１５の断面図である。なお、図２４３（ｂ）は、図１４４のＸ０９ａ線における上下皿ユニットＨ１５の断面図と対応する。

【２９５３】

図２４３（ｂ）に示すように、第２５実施形態における上下皿ユニットＨ１８０１５は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベース部材Ｈ１８５１０と、そのベース部材Ｈ１８５１０の正面側に配設される上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ハンドルＨ５１と、ベース部材Ｈ１８５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側に配設される下皿形成部材Ｈ１８５３０と、上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｈ１８５３０の間に配設される操作ユニットＨ１８０と、を主に備える。

【２９５４】

ベース部材Ｈ１８５１０は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う板状に形成されると共に、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の縁部および下方向の縁部に背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって屈曲する側壁部を有し、その側壁部の内側に本体枠Ｈ１４ｄを収容する状態で本体枠Ｈ１４ｄに配設される。

【２９５５】

また、ベース部材Ｈ１８５１０は、本体枠Ｈ１４ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子を螺入可能に穿設される複数の締結孔Ｈ５１１と、本体枠Ｈ１４ｄの背面側から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて螺子を挿通可能に穿設される複数の挿通孔Ｈ５１２と、上皿Ｈ１７の貯留領域の背面側に開口する上皿用球流入部Ｈ５１３及び送球用球流出部Ｈ５１６と、下皿Ｈ５０（図１４４参照）の貯留領域の背面側に開口する下皿用球流入部

Ｈ５１４と、正面側に向かって凸状に突出する凸状部Ｈ１８５１５と、シリンダ錠Ｈ２０が内側に配設されるベース側保持孔Ｈ５１７と、を主に備え、有色（第８実施形態では黒色）の非透過性の樹脂材料から形成される。

【２９５６】

凸状部Ｈ１８５１５は、後述する下皿形成部材Ｈ１８５３０の一対の側壁Ｈ１７５５５ｆの対向間に挿入され、ベース部材Ｈ５１０に対する下皿形成部材Ｈ５３０の位置決めを行う部分であり、被挿入部Ｈ１８５５５ｅにより形成される挿入空間と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に対向する位置に形成される。

【２９５７】

また、凸状部Ｈ１８５１５は、正面視において横長矩形に形成され、上面を形成する上面側傾斜部Ｈ１８５１５ａと、下面を形成する下面側傾斜部Ｈ１８５１５ｂと、左右の側面を形成する側面側傾斜部Ｈ５１５ｃと、を主に備える。なお、凸状部Ｈ１８５１５は、下方側に作用する力により若干弾性変形可能な樹脂材料から形成される。

【２９５８】

上面側傾斜部Ｈ１８５１５ａは、正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって下方に傾斜して形成され、下面側傾斜部Ｈ１８５１５ｂは、正面側に向かって上方に傾斜して形成される。また、一対の側面側傾斜部Ｈ５１５ｃは、正面側に向かって近づく方向に傾斜して形成される。これら上面側傾斜部Ｈ１８５１５ａと下面側傾斜部Ｈ１８５１５ｂと側面側傾斜部Ｈ５１５ｃとにより、凸状部Ｈ１８５１５は、突出先端側に向かって正面視における上下左右の厚みが薄く（先細り形状）に形成される。

【２９５９】

また、上面側傾斜部Ｈ１８５１５ａには、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における中央部に凸状部Ｈ１８５１５の突出先端から基端側に向かう溝状の凹部Ｈ１８５１５ａ１が凹設されると共に、その凹部Ｈ５１５ｂ１の凹設底面の一部に被係合部Ｈ１８５１５ａ２が開口形成される。

【２９６０】

被係合部Ｈ１８５１５ａ２は、後述する下皿形成部材Ｈ１８５３０の係合部Ｈ１８５５５ｂ１が係合される開口であり、凸状部Ｈ１８５１５の突出先端から基端側に向かって溝状に形成される凹部Ｈ５１５ｂ１の基端側の端部に形成される。

【２９６１】

凹部Ｈ１８５１５ａ１は、後述する下皿形成部材Ｈ１８５３０の係合部Ｈ１８５５５ｂ１が形成される突設部Ｈ１８５５５ｂを被係合部Ｈ１８５１５ａ２まで案内する案内溝であり、突設部Ｈ１８５５５ｂの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における厚み寸法よりも溝幅が大きく形成される。なお、凹部Ｈ１８５１５ａ１に突設部Ｈ１８５５５ｂを案内することで、被係合部Ｈ１８５１５ａ２に対する係合部Ｈ１８５５５ｂ１の位置ずれを抑えることができ、係合部Ｈ１８５５５ｂ１の被係合部Ｈ１８５１５ａ２への係合を簡易にさせることができる。

【２９６２】

下皿形成部材Ｈ１８５３０は、ベース部材Ｈ１８５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う形状に形成され上下皿ユニットＨ１８０１５の正面側の化粧面を形成する化粧ユニットＨ５４０と、下皿Ｈ５０（図１４４参照）を構成する下皿構成ユニットＨ１８５５０と、下皿Ｈ５０に貯留される球を排出するための球抜きユニットＨ５６０と、を主に備えて形成される。

【２９６３】

下皿構成ユニットＨ１８５５０は、下皿Ｈ５０（図１４４参照）の底面を形成する底板Ｈ１８５５１と、下皿Ｈ５０の上面の一部を形成すると共に底板Ｈ１８５５１の背面側（矢印Ｂ方向側）の外縁に当接する側面板Ｈ５５２と、を主に備える。

【２９６４】

底板Ｈ１８５５１は、底面部Ｈ５５３と、その底面部Ｈ５５３の正面側（矢印Ｆ方向側）の外縁に沿って上方側に向かって立設される正面側側壁Ｈ５５４と、底面部Ｈ５５３の

外側であって正面側側壁Ｈ５５４に連なって形成される連結部Ｈ１８５５５と、を主に備える。

【２９６５】

連結部Ｈ１８５５５は、前後方向に所定の厚みを有し第１化粧板Ｈ５４１側（正面側）に配設される本体部Ｈ１８５５５ｄと、背面視において上方側が開放された門型に形成され本体部Ｈ１８５５５ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）に連なって形成される被挿入部Ｈ１８５５５ｅと、本体部Ｈ１８５５５ｄの上方側の縁部から背面側に向かって突出される突設部Ｈ１８５５５ｂと、を主に備え、全体が非透過性の樹脂材料から形成される。なお、連結部Ｈ１８５５５は、下方側に作用される力により若干弾性変形可能に形成される。

【２９６６】

被挿入部Ｈ１８５５５ｅは、背面視において上方側が開放された門型に形成されると共に、前後方向に所定の厚みを有した形状に形成される。また、被挿入部Ｈ１８５５５ｅは、ベース部材Ｈ１８５１０に下皿構成ユニットＨ１８５５０を配設した際に、ベース部材Ｈ１８５１０の凸状部Ｈ１８５１５が挿入される部分であり、凸状部Ｈ１８５１５と対応する位置に配置される。

【２９６７】

また、被挿入部Ｈ１８５５５ｅは、対向する側面から被挿入部Ｈ１８５５５ｅの内側に向かって立設される複数のガイド壁Ｈ５５５ｃ、を備え、そのガイド壁Ｈ５５５ｃにより凸状部Ｈ１８５１５の位置を左右位置を位置決めすることが可能に形成される。

【２９６８】

突設部Ｈ１８５５５ｂは、本体部Ｈ１８５５５ｄの背面側端部から上方側に向かって突設されると共に背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって屈曲される断面略Ｌ字状に形成され、背面側の突設先端部の下面に凸状に形成される係合部Ｈ１８５５５ｂ１を備える。また、突設部Ｈ１８５５５ｂは、ベース部材Ｈ１８５１０の凸状部Ｈ１８５１５が被挿入部Ｈ１８５５５ｅに挿入される際に凸状部Ｈ１８５１５の凹部Ｈ１８５１５ａ１に案内される部分であり、凹部Ｈ１８５１５ａ１により形成される溝と対応する位置に形成される。

【２９６９】

係合部Ｈ１８５５５ｂ１は、ベース部材Ｈ１８５１０の被係合部Ｈ１８５１５ａ２に係合する部分であり、突設部Ｈ１８５５５ｂの下面から下方に向かって突設されると共に、前後方向に切断した断面が略三角形状に形成される。この断面における傾斜により、ベース部材Ｈ１８５１０の凸状部Ｈ１８５１５が被挿入部Ｈ１８５５５ｅに挿入される際、又は、ベース部材Ｈ１８５１０の凸状部Ｈ１８５１５が被挿入部Ｈ１８５５５ｅから引き抜かれる際に、突設部Ｈ１８５５５ｂを撓ませやすくできる。その結果、ベース部材Ｈ１８５１０に下皿形成部材Ｈ１８５３０を取り付ける作業、及び、ベース部材Ｈ１８５１０から下皿形成部材Ｈ１８５３０を取り外す作業を簡易にできる。

【２９７０】

以上のように構成される上下皿ユニットＨ１８０１５によれば、上方側から被係合部Ｈ１８５１５ａ２に挿入される係合部Ｈ１８５５５ｂ１が挿入可能に形成され、その係合部Ｈ１８５５５ｂ１が形成される突設部Ｈ１８５５５ｂの上方側に操作ユニットＨ１８０が載置されるので、操作ユニットＨ１８０を連結部Ｈ１８５５５により支持することができる。これにより、操作ユニットＨ１８０がぐらつかないように姿勢を安定させ、操作ユニットＨ１８０の操作を安定させることができる。

【２９７１】

また、被挿入部Ｈ１８５５５ｅ（連結部Ｈ１８５５５）は、下皿形成部材Ｈ１８５３０の背面側（矢印Ｂ方向側）に片持ち支持された状態とされる。そのため、操作ユニットＨ１８０（ボタン部Ｈ１８１）を過剰に押圧する力が連結部Ｈ１８５５５に作用する場合には、連結部Ｈ１８５５５の非支持側（矢印Ｆ方向側）を操作ユニットＨ１８０の操作方向（下方）に変位させることで操作ユニットＨ１８０に作用する力を連結部Ｈ１８５５５で逃がすことができる。

【２９７２】

即ち、下皿形成部材Ｈ１８５３０の背面側（矢印Ｂ方向側）に片持ち支持された連結部Ｈ１８５５５に操作ユニットＨ１８０が支持されるので、操作ユニットＨ１８０を過剰に押圧する力が連結部Ｈ１８５５５に作用した場合に連結部Ｈ１８５５５を弾性変形させることができる。この場合、操作ユニットＨ１８０と連結部Ｈ１８５５５とが被締結とされるので、連結部Ｈ１８５５５の弾性変形に伴って操作ユニットＨ１８０と連結部Ｈ１８５５５との当接位置（当接状態）を変更することができる。即ち、操作ユニットＨ１８０を連結部Ｈ１８５５５の上面に対して滑らす（摺動させる）ことができる。その結果、操作ユニットＨ１８０に作用する力が連結部Ｈ１８５５５に作用する場合に、連結部Ｈ１８５５５が破損したり操作ユニットＨ１８０が破損することを抑制できる。

【２９７３】

従って、操作ユニットに操作に伴い作用される操作方向側（下方側）の操作力が所定の範囲内である場合には、操作ユニットＨ１８０を連結部Ｈ１８５５５により支持させることができる。これにより、操作ユニットＨ１８０がぐらつかないように姿勢を安定させ、操作ユニットＨ１８０の操作を安定させることができる。

【２９７４】

一方、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力が所定の範囲を超える場合には、連結部Ｈ１８５５５を弾性変形させて外力を逃がすことができる（操作力をベース部材Ｈ１８５１０と連結部Ｈ１８５５５とに分散させることができる。これにより、操作ユニットＨ１８０、下皿形成部材Ｈ１８５３０、及び、ベース部材Ｈ１８５１０の破損を抑制できる。

【２９７５】

また、この場合、弾性変形される連結部Ｈ１８５５５が、上下皿ユニットＨ１５の正面側に配置される（即ち、装飾側となる）下皿形成部材Ｈ１８５３０に形成されるので、連結部Ｈ１８５５５を弾性変形させて外力を逃がした場合に、下皿形成部材Ｈ１８５３０の装飾面が撓むことを抑制できる。即ち、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力が所定の範囲を超える場合に、その操作力をベース部材Ｈ１８５１０と連結部Ｈ１８５５５とに分散させると、連結部Ｈ１８５５５の弾性変形に伴って、操作ユニットＨ１８０が配設されるベース部材Ｈ１８５１０も弾性変形されやすい。そのため、ベース部材Ｈ１８５１０が装飾面とされると、操作ユニットＨ１８０の操作に伴って装飾面の外観が悪化する（装飾面が撓んで部品同士の間に隙間が形成される）恐れがあるところ、連結部Ｈ１８５５５が形成される下皿形成部材Ｈ１８５３０が装飾面とされることで、遊技機の外観が悪化することを抑制できる。

【２９７６】

さらに、第２５実施形態では、被挿入部Ｈ１８５５５ｅを有する連結部Ｈ１８５５５には、本体部Ｈ１８５５５ｄの上面側に弾性部材Ｈ５５８が配設され、その弾性部材Ｈ５５８に操作ユニットＨ１８０の下面が当接した状態で配設される。詳しく説明すると、操作ユニットＨ１８０の下面が弾性部材Ｈ５５８を介して本体部Ｈ１８５５５ｄの上面に当接した状態で配設される。

【２９７７】

従って、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力により、連結部Ｈ１８５５５を弾性変形させた場合に、操作ユニットＨ１８０と連結部Ｈ１８５５５との間に介在する弾性部材Ｈ５５８を弾性変形させることで、操作ユニットＨ１８０の下面と、連結部Ｈ１８５５５の上面とが擦れることを抑制できる。即ち、弾性部材Ｈ５５８を操作ユニットＨ１８０の下面および連結部Ｈ１８５５５の上面に当接させた状態で、操作ユニットＨ１８０を連結部Ｈ１８５５５の上面に対して滑らす（摺動させる）ことができる。その結果、操作ユニットＨ１８０の下面と連結部Ｈ１８５５５の上面とが擦れて異音が発生したり、それらの当接面が破損（摩耗）したりすることを抑制できる。

【２９７８】

次いで、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力により、連結部Ｈ１８５５５が所定範囲を超えて弾性変形される場合について説明する。

【２９７９】
上記したように、連結部Ｈ１８５５５の突設部Ｈ１８５５５ｂは、凸状部Ｈ１８５１５の上方側に配置されると共に、凸状部Ｈ１８５１５の凹部Ｈ１８５１５ａ１に沿って挿入される。この場合、突設部Ｈ１８５５５ｂは、下面側が凹部Ｈ１８５１５ａ１の内面との間に所定の隙間が設けられた状態で配設されるとされる。従って、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力により、連結部Ｈ１８５５５が所定範囲を超えて弾性変形される場合には、突設部Ｈ１８５５５ｂの下面を凹部Ｈ１８５１５ａ１の内面に当接させて、連結部Ｈ１８５５５の弾性変形を抑制することができる。これにより、連結部Ｈ１８５５５の破損を抑制できる。
【２９８０】
また、第２５実施形態では、突設部Ｈ１８５５５ｂに形成される係合部Ｈ１８５５５ｂ１が下方側に向かって突出して形成され、その係合部Ｈ１８５５５ｂ１が係合される被係合部Ｈ１８５１５ａ２が凸状部Ｈ１８５１５の上方側に形成されるので、係合部Ｈ１８５５５ｂ１を上方側から被係合部Ｈ１８５１５ａ２に係合させることができる。
【２９８１】
これにより、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力により、連結部Ｈ１８５５５が所定範囲を超えて弾性変形される場合には、係合部Ｈ１８５５５ｂ１が被係合部Ｈ１８５１５ａ２に挿入される方向に変位される。
【２９８２】
即ち、第２５実施形態では、被係合部Ｈ１８５１５ａ２が係合部Ｈ１８５５５ｂ１よりも操作ユニットＨ１８０の操作方向側に形成されるので、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力により、連結部Ｈ１８５５５が所定範囲を超えて弾性変形されると、係合部Ｈ１８５５５ｂ１が被係合部Ｈ１８５１５ａ２に対し係合する方向に変位する。これにより係合部Ｈ１８５５５ｂ１と被係合部Ｈ１８５１５ａ２との係合状態を維持しやすくできる。その結果、操作ユニットＨ１８０を押圧操作することで、係合部Ｈ１８５５５ｂ１と被係合部Ｈ１８５１５ａ２との係合を解除する不正を抑制できる。
【２９８３】
さらに、第２５実施形態では、連結部Ｈ１８５５５の本体部Ｈ１８５５５ｄが係合部Ｈ１８５５５ｂ１よりも下方側に配置される。これにより、連結部Ｈ１８５５５に操作ユニットＨ１８０の押圧力が作用して連結部Ｈ１８５５５が基部側（本体部Ｈ１８５５５ｄ側）を起点に下方側に撓む場合に、係合部Ｈ１８５５５ｂ１の下方側への変位と共に係合部Ｈ１８５５５ｂ１を背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって変位させることができる。
【２９８４】
これにより、操作ユニットＨ１８０の操作方向側の変位により連結部Ｈ１８５５５が弾性変形される場合の係合部Ｈ１８５５５ｂ１の変位方向を被係合部Ｈ１８５１５ａ２との隙間が大きくなる方向とできる。即ち、係合部Ｈ１８５５５ｂ１が、被係合部Ｈ１８５１５ａ２の正面側（矢印Ｆ方向側）の内面に当接することで、係合部Ｈ１８５５５ｂ１が正面側に向かって変位することを抑制できるところ、連結部Ｈ１８５５５の弾性変形により係合部Ｈ１８５５５ｂ１の正面側の内面から係合部Ｈ１８５５５ｂ１を離間させることができる。
【２９８５】
そのため、連結部Ｈ１８５５５が弾性変形される前（即ち、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力が所定の範囲内）の状態における係合部Ｈ１８５５５ｂ１と被係合部Ｈ１８５１５ａ２との間隔を小さくして、下皿形成部材Ｈ１８５３０とベース部材Ｈ１８５１０との対向間隔を大きくする方向に変位される不正を抑制できる一方、連結部Ｈ１８５５５が弾性変形される（即ち、操作ユニットＨ１８０の操作方向側（下方側）の操作力が所定の範囲外とされる）際には、係合部Ｈ１８５５５ｂ１と被係合部Ｈ１８５１５ａ２とが干渉して連結部Ｈ１８５５５の凸状部Ｈ１８５１５に対する相対変位が規制されることを抑制できる。
【２９８６】

次いで、図２４４（ａ）を参照して、第２６実施形態における上下皿ユニットＨ１９０１５について説明する。上記第８実施形態では、操作ユニットＨ１８０と連結部Ｈ５５５とが非締結とされる場合について説明したが、第２６実施形態では、操作ユニットＨ１８０と連結部Ｈ１９５５５とが締結される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２９８７】

図２４４（ａ）は、第２６実施形態における上下皿ユニットＨ１９０１５の断面図である。なお、図２４４（ａ）は、図１４４のＸ０９ａ線における上下皿ユニットＨ１５の断面図と対応する。

【２９８８】

図２４４（ａ）に示すように、第２６実施形態における上下皿ユニットＨ１９０１５は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベース部材Ｈ５１０と、そのベース部材Ｈ５１０の正面側に配設される上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ハンドルＨ５１と、ベース部材Ｈ５１０の正面側に配設される下皿形成部材Ｈ１９５３０と、上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｈ１９５３０の間に配設される操作ユニットＨ１８０と、を主に備える。

【２９８９】

下皿形成部材Ｈ１９５３０は、ベース部材Ｈ５１０の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う形状に形成され上下皿ユニットＨ１９０１５の正面側の化粧面を形成する化粧ユニットＨ５４０と、下皿Ｈ５０（図１４４参照）を構成する下皿構成ユニットＨ１９５５０と、下皿Ｈ５０に貯留される球を排出するための球抜きユニットＨ５６０と、を主に備えて形成される。

【２９９０】

下皿構成ユニットＨ１９５５０は、下皿Ｈ５０（図１４４参照）の底面を形成する底板Ｈ１９５５１と、下皿Ｈ５０の上面の一部を形成すると共に底板Ｈ１９５５１の背面側（矢印Ｂ方向側）の外縁に当接する側面板Ｈ５５２と、を主に備える。

【２９９１】

底板Ｈ１９５５１は、底面部Ｈ５５３と、その底面部Ｈ５５３の正面側（矢印Ｆ方向側）の外縁に沿って上方側に向かって立設される正面側側壁Ｈ５５４と、底面部Ｈ５５３の外側であって正面側側壁Ｈ５５４に連なって形成される連結部Ｈ１９５５５と、を主に備える。

【２９９２】

連結部Ｈ１９５５５は、前後方向に所定の厚みを有し第１化粧板Ｈ５４１側（正面側）に配設される本体部Ｈ１９５５５ｄと、背面視において下方側が開放された門型に形成され本体部Ｈ５５５ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）に連なって形成される被挿入部Ｈ５５５ｅとを主に備える。

【２９９３】

本体部Ｈ１９５５５ｄには、下方側から挿入される螺子を挿通可能な挿通孔Ｈ１９５５５ｄ１が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に開口され、その挿通孔Ｈ１９５５５ｄ１を挿通した螺子が操作ユニットＨ１８０の下方に螺入される。これにより、連結部Ｈ１９５５５と操作ユニットＨ１８０とが締結固定される。

【２９９４】

従って、第２６実施形態における上下皿ユニットＨ１９０１５では、連結部Ｈ１９５５５と操作ユニットＨ１８０とが締結されるので、操作ユニットＨ１８０と連結部Ｈ１９５５５とを一体化することができる。そのため、操作ユニットＨ１８０を押し込んだ後に連結部Ｈ１９５５５により上方に押し返される力が作用する場合に、操作ユニットＨ１８０のみが上方に変位して、操作ユニットＨ１８０と連結部Ｈ１９５５５との間に隙間が形成されることを抑制できる。その結果、操作ユニットＨ１８０の操作による変形を抑えやすくできる。

【２９９５】

次いで、図２４４（ｂ）を参照して、第２７実施形態における上下皿ユニットＨ２００１５について説明する。上記第８実施形態では、連結部Ｈ５５５と凸状部Ｈ５１５とが係合される場合について説明したが、第２７実施形態では、連結部Ｈ２０５５５と凸状部Ｈ２０５１５とが締結固定される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【２９９６】

図２４４（ｂ）は、第２７実施形態における上下皿ユニットＨ２００１５の断面図である。なお、図２４４（ｂ）は、図１４４のＸ０９ａ線における上下皿ユニットＨ１５の断面図と対応する。

【２９９７】

図２４４（ｂ）に示すように、第２７実施形態における上下皿ユニットＨ２００１５は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベース部材Ｈ２０５１０と、そのベース部材Ｈ２０５１０の正面側に配設される上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ハンドルＨ５１と、ベース部材Ｈ２０５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側に配設される下皿形成部材Ｈ２０５３０と、上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｈ２０５３０の間に配設される操作ユニットＨ１８０と、を主に備える。

【２９９８】

ベース部材Ｈ２０５１０は、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う板状に形成されると共に、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の縁部および下方向の縁部に背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって屈曲する側壁部を有し、その側壁部の内側に本体枠Ｈ１４ｄを収容する状態で本体枠Ｈ１４ｄに配設される。

【２９９９】

また、ベース部材Ｈ２０５１０は、本体枠Ｈ１４ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子を螺入可能に穿設される複数の締結孔Ｈ５１１と、本体枠Ｈ１４ｄの背面側から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて螺子を挿通可能に穿設される複数の挿通孔Ｈ５１２と、上皿Ｈ１７の貯留領域の背面側に開口する上皿用球流入部Ｈ５１３及び送球用球流出部Ｈ５１６と、下皿Ｈ５０（図１４４参照）の貯留領域の背面側に開口する下皿用球流入部Ｈ５１４と、正面側に向かって凸状に突出する凸状部Ｈ２０５１５と、シリンダ錠Ｈ２０が内側に配設されるベース側保持孔Ｈ５１７と、を主に備え、有色（第８実施形態では黒色）の非透過性の樹脂材料から形成される。

【３０００】

凸状部Ｈ２０５１５は、後述する下皿形成部材Ｈ２０５３０の連結部Ｈ２０５５５と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に対向配置され、その連結部Ｈ２０５５５に締結される部分であり、正面視における中央部に前後方向に開口して螺子を挿通可能な挿通孔Ｈ２０５１５ｆを備える。

【３００１】

下皿形成部材Ｈ２０５３０は、ベース部材Ｈ２０５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う形状に形成され上下皿ユニットＨ２００１５の正面側の化粧面を形成する化粧ユニットＨ５４０と、下皿Ｈ５０（図１４４参照）を構成する下皿構成ユニットＨ２０５５０と、下皿Ｈ５０に貯留される球を排出するための球抜きユニットＨ５６０と、を主に備えて形成される。

【３００２】

下皿構成ユニットＨ２０５５０は、下皿Ｈ５０（図１４４参照）の底面を形成する底板Ｈ２０５５１と、下皿Ｈ５０の上面の一部を形成すると共に底板Ｈ２０５５１の背面側（矢印Ｂ方向側）の外縁に当接する側面板Ｈ５５２と、を主に備える。

【３００３】

底板Ｈ２０５５１は、底面部Ｈ５５３と、その底面部Ｈ５５３の正面側（矢印Ｆ方向側）の外縁に沿って上方側に向かって立設される正面側側壁Ｈ５５４と、底面部Ｈ５５３の外側であって正面側側壁Ｈ５５４に連なって形成される連結部Ｈ２０５５５と、を主に備える。

【３００４】
連結部Ｈ２０５５５は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の厚みを有して形成され、背面側（矢印Ｂ方向側）に螺子を螺入可能な締結孔Ｈ２０５５５ｇを備える。また、連結部Ｈ２０５５５は、上面に操作ユニットＨ１８０が当接されると共に、背面側がベース部材Ｈ２０５１０の凸状部Ｈ２０５１５の突設先端面に当接可能な大きさに設定される。
【３００５】
締結孔Ｈ２０５５５ｇは、凸状部Ｈ５１５に形成される挿通孔Ｈ２０５１５ｆを介してベース部材Ｈ２０５１０の背面側から挿通される螺子を螺入する部分であり、挿通孔Ｈ２０５１５ｆと対応する位置に形成される。挿通孔Ｈ２０５１５ｆを介して締結孔Ｈ２０５５５ｇに螺子止めされることにより、連結部Ｈ２０５５５と凸状部Ｈ２０５１５とが締結固定される。
【３００６】
第２７実施形態における上下皿ユニットＨ２００１５によれば、連結部Ｈ２０５５５と凸状部Ｈ２０５１５とが締結固定されるので、連結部Ｈ２０５５５及び凸状部Ｈ２０１５の前後の両側が保持される。そのため、操作ユニットＨ１８０が下方側に押し込まれる場合に、操作ユニットＨ１８０を連結部Ｈ２０５５５と凸状部Ｈ２０５１５とで支持して操作ユニットＨ１８０を押し込んだ力で操作ユニットＨ１８０が下方側に変位することを抑制できる。
【３００７】
次いで、図２４５及び図２４６を参照して、第２８実施形態における揺動装置Ｈ２１７３０について説明する。上記第８実施形態では、駆動手段Ｈ７８０の錘部材Ｈ７８２の遠心力により駆動手段Ｈ７８０をベース手段Ｈ７７０に対して回転させる場合について説明したが、第２８実施形態では、駆動手段Ｈ２１７８０の当接手段Ｈ２１７８６を上側カバー部材Ｈ２１７８３及び下側カバー部材Ｈ２１７８４に当接させた衝撃で駆動手段Ｈ２１７８０をベース手段Ｈ７７０に対して回転させる。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【３００８】
図２４５（ａ）は、第２８実施形態における揺動装置Ｈ２１７３０の断面図であり、図１８４（ａ）のＸ２２ｂ線における断面に対応し、図２４５（ｂ）は、駆動モータＨ７８１及び当接手段Ｈ２１７８６の分解正面斜視図であり、図２４６（ａ）から図２４６（ｄ）は、揺動装置Ｈ２１７３０の断面図であり、図１８４（ａ）のＸ２２ｂ線における断面に対応する。
【３００９】
なお、図２４６（ａ）から図２４６（ｄ）では、当接手段Ｈ２１７８６の遷移状態が順に図示され、図２４６（ａ）では、当接手段Ｈ２１７８６が上側カバー部材Ｈ２１７８３に当接した状態が図示され、図２４６（ｃ）では、当接手段Ｈ２１７８６が下側カバー部材Ｈ２１７８４に当接した状態が図示される。また、図２４６（ａ）及び図２４６（ｃ）では、当接手段Ｈ２１７８６による衝撃が作用する方向が矢印で図示される。
【３０１０】
図２４６に示すように、第２８実施形態における揺動装置Ｈ２１７３０は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１６５参照）に配設されるベース手段Ｈ７７０と、そのベース手段Ｈ７７０の背面側（矢印Ｂ方向側）に軸支される駆動手段Ｈ２１７８０と、ベース手段Ｈ７７０を介して駆動手段Ｈ２１７８０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される変位部材Ｈ７９０と、を主に備える。
【３０１１】
駆動手段Ｈ２１７８０は、駆動軸Ｈ７８１ａを背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出させた状態で配設される駆動モータＨ７８１と、その駆動モータＨ７８１の駆動軸Ｈ７８１ａに連結される当接手段Ｈ２１７８６と、駆動モータＨ７８１及び当接手段Ｈ２１７８６の上方側を覆設する上側カバー部材Ｈ２１７８３と、駆動モータＨ７８１及び当接手段Ｈ２１７８５の下方側を覆設する下側カバー部材Ｈ２１７８４と、を主に備える。

【３０１２】
当接手段Ｈ２１７８６は、駆動モータＨ７８１の駆動軸Ｈ７８１ａが挿通される挿通孔Ｈ２１７８６ａ１を有する第１部材Ｈ２１７８６ａと、その第１部材Ｈ２１７８６ａの挿通孔Ｈ２１７８６ａ１が形成される側と反対側の端部に第１部材Ｈ２１７８６ａに対して相対変位可能な状態で連結される第２部材Ｈ２１７８６ｂと、それら第１部材Ｈ２１７８６ａ及び第２部材Ｈ２１７８６ｂを相対変位可能な状態で軸支する軸部材Ｈ２１７８６ｃと、第１部材Ｈ２１７８６ａに対して第２部材Ｈ２１７８６ｂを所定位置に復帰させる方向に付勢するバネ部材Ｈ２１７８６ｄと、を主に備える。
【３０１３】
第１部材Ｈ２１７８６ａは、駆動モータＨ７８１の駆動軸Ｈ７８１ａに連結されており、駆動軸Ｈ７８１ａの回転に伴って駆動軸Ｈ７８１ａの回転軸回りに回転可能とされる。
【３０１４】
第２部材Ｈ２１７８６ｂは、第１部材Ｈ２１７８６ａの挿通孔Ｈ２１７８６ａ１が形成される側と反対側の端部に軸部材Ｈ２１７８６ｃにより第１部材Ｈ２１７８６ａに対して回転可能な状態で配設されると共に、第２部材Ｈ２１７８６ｂに外力が作用していない状態ではバネ部材Ｈ２１７８６ｄにより第１部材Ｈ２１７８６ａの挿通孔Ｈ２１７８６ａ１の中心から径方向外側に直線状に配置される。
【３０１５】
上側カバー部材Ｈ２１７８３は、駆動モータＨ７８１及び当接手段Ｈ２１７８６の上方側（矢印Ｕ方向側）を覆設するために下方側（矢印Ｄ方向側）が開放された箱状に形成されるカバー部Ｈ２１７８３ａと、そのカバー部Ｈ２１７８３ａの左右両側から上方側に向かって突設されると共に上方側の端部に背面側に向かって凹設される収容凹部Ｈ７８３ｂ１が形成される突設部Ｈ７８３ｂと、カバー部Ｈ２１７８３ａの上面から上方に向かって円柱状に突設されベース手段Ｈ７７０の上側軸支部Ｈ７７１ｂ１に挿入される上側軸部Ｈ７８３ｃと、カバー部Ｈ２１７８３ａの下面から下方側に向かって突設され先端が第２部材Ｈ２１７８６ｂの変位軌跡上に配設される上側突設部Ｈ２１７８３ａ１と、を主に備え、光を非透過の樹脂材料から形成される。
【３０１６】
下側カバー部材Ｈ２１７８４は、駆動モータＨ７８１及び当接手段Ｈ２１７８６の下方側（矢印Ｄ方向側）を覆設するために上方側（矢印Ｕ方向側）が開放された箱状に形成されるカバー部Ｈ２１７８４ａと、カバー部Ｈ２１７８４ａの下面から下方に向かって円柱状に突設されベース手段Ｈ７７０の下側軸支部Ｈ７７２ｂ１に挿入される下側軸部Ｈ７８４ｂと、下側カバー部材Ｈ７８４の背面側の縁部から下方側に向かって突設され正面側に弾性体Ｈ７８５が配設される被当接部Ｈ７８４ｃと、カバー部Ｈ２１７８４ａの上面から上方側に向かって突設され先端が第２部材Ｈ２１７８６ｂの変位軌跡上に配設される下側突設部Ｈ２１７８４ａ１とを主に備え、無色透明の樹脂材料から形成される。
【３０１７】
次いで、図２４６を参照して、第２８実施形態における揺動装置Ｈ２１７３０の動作について説明する。
【３０１８】
図２４６（ａ）から図２４６（ｄ）に示すように、第２８実施形態における揺動装置Ｈ２１７３０では、駆動モータＨ７８１の駆動により当接手段Ｈ２１７８６が回転されると、当接手段Ｈ２１７８６の第２部材Ｈ２１７８６ｂが、上側カバー部材Ｈ２１７８３の上側突設部Ｈ２１７８３ａ１及び下側カバー部材Ｈ２１７８４の下側突設部Ｈ２１７８４ａ１に当接しつつ変位される（図２４６（ａ）及び図２４６（ｃ）参照）。
【３０１９】
この場合、第２部材Ｈ２１７８６ｂが上側突設部Ｈ２１７８３ａ１及び下側突設部Ｈ２１７８４ａ１に当接する衝撃により、駆動手段Ｈ２１７８０の背面側が第２部材Ｈ２１７８６ｂの当接方向に変位される。
【３０２０】

詳しく説明すると、図２４６（ａ）に示すように、上側突設部Ｈ２１７８３ａ１に第２部材Ｈ２１７８６ｂが正面視において左方側（矢印Ｌ方向側）から右方側（矢印Ｒ方向側）に向かって当接する場合には、駆動手段Ｈ２１７８０の背面側が右方側に変位される。これにより、駆動手段Ｈ２１７８０がベース手段Ｈ７７０に対して、軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂを軸に上面視反時計回り方向（正面側を左方向）に回転され、駆動手段Ｈ２１７８０が左向き状態とされる。

【３０２１】

一方、図２４６（ｃ）に示すように、上側突設部Ｈ２１７８３ａ１に第２部材Ｈ２１７８６ｂが正面視において右方側（矢印Ｒ方向側）から左方側（矢印Ｌ方向側）に向かって当接する場合には、駆動手段Ｈ２１７８０の背面側が左方側に変位される。これにより、駆動手段Ｈ２１７８０がベース手段Ｈ７７０に対して、軸部Ｈ７８３ｃ，Ｈ７８４ｂを軸に上面視時計回り方向（正面側を右方向）に回転され、駆動手段Ｈ２１７８０が右向き状態とされる。

【３０２２】

なお、第２部材Ｈ２１７８６ｂは、上側突設部Ｈ２１７８３ａ１及び下側突設部Ｈ２１７８４ａ１に当接した後、それら上側突設部Ｈ２１７８３ａ１及び下側突設部Ｈ２１７８４ａ１を乗り越える位置まで第１部材Ｈ２１７８６ａの変位に伴って変位されることで、図２４６（ｂ）及び図２４６（ｄ）に示すように、バネ部材Ｈ２１７８６ｄの付勢力により第１部材Ｈ２１７８６ａの挿通孔Ｈ２１７８６ａ１の中心から径方向外側に直線状に配置され、上側突設部Ｈ２１７８３ａ１及び下側突設部Ｈ２１７８４ａ１に当接可能な位置に再び配置される。

【３０２３】

従って、第２８実施形態における揺動装置Ｈ２１７３０では、駆動モータＨ７８１の駆動を継続して、第１部材Ｈ２１７８６ａを一方向回転させることで、第２部材Ｈ２１７８６ｂを上側突設部Ｈ２１７８３ａ１及び下側突設部Ｈ２１７８４ａ１に繰り返し当接させることができ、ベース手段Ｈ７７０に対する駆動手段Ｈ２１７８０の位置を右向き状態と左向き状態とに繰り返し変更することができる。

【３０２４】

次いで、図２４７及び図２４８を参照して、第２９実施形態における揺動装置Ｈ２２７３０について説明する。上記第８実施形態では、駆動軸Ｈ７８１ａに対して錘部材Ｈ７８２の位置が変わらない場合について説明したが、第２９実施形態では、駆動軸Ｈ７８１ａに対して錘部材Ｈ２２７８７ｂの位置が変更される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【３０２５】

図２４７（ａ）は、第２９実施形態における揺動装置Ｈ２２７３０の断面図であり、図１８４（ａ）のＸ２２ｂ線における断面に対応し、図２４７（ｂ）は、駆動モータＨ７８１及び変位手段Ｈ２２７８７の分解正面斜視図であり、図２４８（ａ）から図２４８（ｃ）は、揺動装置Ｈ２２７３０の断面図であり、図１８４（ａ）のＸ２２ｂ線における断面に対応する。なお、図２４８（ａ）から図２４８（ｃ）では、変位手段Ｈ２２７８７の遷移状態が順に図示される。

【３０２６】

図２４７に示すように、第２９実施形態における揺動装置Ｈ２２７３０は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１６５参照）に配設されるベース手段Ｈ７７０と、そのベース手段Ｈ７７０の背面側（矢印Ｂ方向側）に軸支される駆動手段Ｈ２２７８０と、ベース手段Ｈ７７０を介して駆動手段Ｈ２１７８０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される変位部材Ｈ７９０と、を主に備える。

【３０２７】

駆動手段Ｈ２２７８０は、駆動軸Ｈ７８１ａを背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出させた状態で配設される駆動モータＨ７８１と、その駆動モータＨ７８１の駆動軸Ｈ７８１ａに連結される変位手段Ｈ２２７８７と、駆動モータＨ７８１及び変位手段Ｈ２２７８

７の上方側を覆設する上側カバー部材Ｈ７８３と、駆動モータＨ７８１及び当接手段Ｈ２１７８５の下方側を覆設する下側カバー部材Ｈ７８４と、を主に備える。

【３０２８】

変位手段Ｈ２２７８７は、駆動モータＨ７８１の駆動軸Ｈ７８１ａが挿通される挿通孔Ｈ２２７８７ａ１を中心に有する円柱状の回転ベースＨ２２７８７ａと、その回転ベースＨ２２７８７ａの外側に配設される錘部材Ｈ２２７８７ｂと、回転ベースＨ２２７８７ａの外周面側に連結される棒状の案内部材Ｈ２２７８７ｄと、その案内部材Ｈ２２７８７ｄが挿通されるコイルバネＨ２２７８７ｃと、を主に備える。

【３０２９】

案内部材Ｈ２２７８７ｄは、一端側が回転ベースＨ２２７８７ａの外周面に連結されると共に、他端側の端部に拡径して形成される係合部Ｈ２２７８７ｄ１を備える。係合部Ｈ２２７８７ｄ１は、コイルバネＨ２２７８７ｃが案内部材Ｈ２２７８７ｄから抜け出ることを規制するための部材であり、コイルバネＨ２２７８７ｃの外径よりも大きく形成される。

【３０３０】

錘部材Ｈ２２７８７ｂは、駆動手段Ｈ２２７８０に回転するための遠心力を作用させる部材であり、鉛等の比較的重い金属材料から形成される。また、錘部材Ｈ２２７８７ｂは、案内部材Ｈ２２７８７ｄが挿通される挿通孔Ｈ２２７８７ｂ１を備え、案内部材Ｈ２２７８７ｄに沿って摺動可能な状態で配設される。また、錘部材Ｈ２２７８７ｂは、コイルバネＨ２２７８７ｃにより、回転ベースＨ２２７８７ａに近づく方向に付勢されており、錘部材Ｈ２２７８７ｂに遠心力が作用していない状態では、回転ベースＨ２２７８７ａの外周面に当接した状態で配設される。

【３０３１】

次いで、図２４８を参照して、第２９実施形態における揺動装置Ｈ２２７３０の動作について説明する。

【３０３２】

図２４８（ａ）から図２４８（ｃ）に示すように、第２９実施形態における揺動装置Ｈ２１７３０では、駆動モータＨ７８１の駆動により回転ベースＨ２２７８７ａが回転されることで錘部材Ｈ２２７８７ｂが回転される。

【３０３３】

この場合、錘部材Ｈ２２７８７ｂの回転に伴って、錘部材Ｈ２２７８７ｂに遠心力が作用することで、コイルバネＨ２２７８７ｃの付勢力に抗して回転軸から離れる方向に変位される。この錘部材Ｈ２２７８７ｂの変位により錘部材Ｈ２２７８７ｂを回転させた際に錘部材Ｈ２２７８７ｂから駆動手段Ｈ２２７８０に作用する遠心力を大きくすることができる。

【３０３４】

また、第２９実施形態では、錘部材Ｈ２２７８７ｂの回転速度を遅くして、錘部材Ｈ２２７８７ｂに作用する遠心力を小さくすることで、回転軸に対して錘部材Ｈ２２７８７ｂが離れにくくすることで、錘部材Ｈ２２７８７ｂを回転させた際に錘部材Ｈ２２７８７ｂから駆動手段Ｈ２２７８０に作用する遠心力を小さくすることができる。

【３０３５】

これにより、例えば、変位手段Ｈ２２７８７の回転速度を遅くして、駆動手段Ｈ２２７８０に作用する錘部材Ｈ７８７ｂの遠心力を小さくして、駆動手段Ｈ２２７８０のベース手段Ｈ７７０に対する変位速度を遅くしたり、反対に、変位手段Ｈ２２７８７の回転速度を早くして、駆動手段Ｈ２２７８０に作用する錘部材Ｈ７８７ｂの遠心力を大きくして、駆動手段Ｈ２２７８０のベース手段Ｈ７７０に対する変位速度を早くするといった変更の調整幅を大きくすることができる。

【３０３６】

次いで、図２４９を参照して、第３０実施形態における発射位置送球ユニットＨ２３１７０について説明する。上記第８実施形態では、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射経

路における背面側（矢印Ｂ方向側）に凹部Ｈ８２１ａ１が形成される場合について説明したが、第３０実施形態では、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射経路における正面側（矢印Ｆ方向側）にも第２凹部Ｈ２３８７１が形成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【３０３７】

図２４９（ａ）は、第３０実施形態における発射位置送球ユニットＨ２３１７０及び球発射ユニットＨ１１２ａにおける断面図であり、図１８７のＸ２４ａ線における断面図と対応し、図２４９（ｂ）は、発射位置送球ユニットＨ２３１７０及び球発射ユニットＨ１１２ａにおける断面図であり、図１８７のＸ２４ｂ線における断面図と対応する。

【３０３８】

図２４９（ａ）及び図２４９（ｂ）に示すように、第３０実施形態における発射位置送球ユニットＨ２３１７０は、正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され正面側開口Ｈ１７１を有する正面側ケースＨ８６０と、その正面側ケースのＨ８６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され背面側開口Ｈ１７２を有する背面側ケースＨ２３８７０と、それら正面側ケースＨ８６０および背面側ケースＨ２３８７０の間に配設される送球手段Ｈ８８０とを主に備える。

【３０３９】

第３０実施形態における背面側ケースＨ２３８７０は、球発射ユニットＨ１１２ａの背面部Ｈ８２１ａと対面し、発射手段Ｈ８３０による発射経路の正面側（矢印Ｆ方向側）を形成する面が、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向側（矢印Ｌ方向側）に向かうに従って背面側（矢印Ｂ方向側）に傾斜して形成されると共に、遊技球の発射方向に沿って正面側に溝状に凹設される第２凹部Ｈ２３８７１を備える。

【３０４０】

第２凹部Ｈ２３８７１は、遊技球の半径よりも大きい半径で正面側に向かって背面側ケースＨ２３８７０の背面側に凹設されると共に、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向（矢印Ｌ方向）と平行に形成される。また、球発射ユニットＨ１１２ａの背面部Ｈ８２１ａに形成される凹部Ｈ８２１ａ１と前後方向に一部が重なる位置に形成される。

【３０４１】

以上のように形成される発射位置送球ユニットＨ２３１７０及び球発射ユニットＨ１１２ａによれば、発射手段Ｈ８３０により発射された遊技球が流路（発射レールＨ１１２ａ１、背面部Ｈ８２１ａ、背面側ケースＨ２３８７０により囲まれる通路）の内面（背面部Ｈ８２１ａ又は背面側ケースＨ２３８７０に当接する場合に、遊技球に作用する当接方向（前後方向）の反力を凹部Ｈ８２１ａ１又は第２凹部Ｈ２３８７１により抑制可能とされる。内面（背面部Ｈ８２１ａ又は背面側ケースＨ２３８７０）から受ける反力により遊技球が暴れることを抑制できる。その結果、遊技球の軌跡を安定させることができる。

【３０４２】

即ち、流路（発射レールＨ１１２ａ１、背面部Ｈ８２１ａ、背面側ケースＨ２３８７０により囲まれる通路）の内面の両側（背面部Ｈ８２１ａ及び背面側ケースＨ２３８７０）に形成されるので、遊技球が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）のどちらに暴れた場合においても遊技球が暴れることを抑制でき、遊技球の軌跡を安定させることができる。

【３０４３】

また、球発射ユニットＨ１１２ａの凹部Ｈ８２１ａ１の内側に当接して正面側に跳ね返る遊技球の反力が依然として大きく発射位置送球ユニットＨ２３１７０と当接する位置まで跳ね返る場合には、その遊技球を第２凹部Ｈ２３８７１の内面に当接させて凹部Ｈ８７１と同様、遊技球に作用する反力に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に向かう方向成分を付与することができる。

【３０４４】

即ち、第２凹部Ｈ２３８７１の内面に当接した反力を背面側（矢印Ｂ方向側）に跳ね返る成分と、上方側または下方側に変位させる成分とに分散することができる。よって、背面側（矢印Ｂ方向側）に跳ね返る力方向成分の反力を弱めることができる。その結果、発

射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制でき、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【３０４５】

また、第３０実施形態では、球発射ユニットＨ１１２ａの背面部Ｈ８２１ａに形成される凹部Ｈ８２１ａ１と前後方向に一部が重ならない位置に第２凹部Ｈ２３８７１が形成される。これにより、凹部Ｈ８２１ａ１と第２凹部Ｈ２３８７１とが重なっていない領域を利用して背面側開口Ｈ１７２を形成することができる。

【３０４６】

次いで、図２５０（ａ）を参照して、第３１実施形態における球発射ユニットＨ２４１１２ａについて説明する。上記第８実施形態では、背面部Ｈ８２１ａに凹部Ｈ８２１ａ１が凹設される場合について説明したが、第３１実施形態における球発射ユニットＨ２４１１２ａでは、背面部Ｈ２４８２１ａに凸部Ｈ２４８２１ａ２が凸設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【３０４７】

図２５０（ａ）は、第３１実施形態における発射位置送球ユニットＨ１７０及び球発射ユニットＨ２４１１２ａにおける断面図であり、図１８７のＸ２４ａ線における断面図と対応する。

【３０４８】

図２５０（ａ）に示すように、第３１実施形態における球発射ユニットＨ２４１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ８１０と、そのベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手段Ｈ２４８２０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０と、を主に備えて形成される。

【３０４９】

案内手段Ｈ２４８２０は、樹脂材料から形成されベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第１案内部材Ｈ２４８２１と、金属材料から形成され第１案内部材Ｈ２４８２１の正面側に配設される第２案内部材Ｈ８２２とを主に備え、第１案内部材Ｈ２４８２１と第１膨出部Ｈ８１１との間に当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を挟んだ状態でベース部材Ｈ８１０に配設される。

【３０５０】

第１案内部材Ｈ２４８２１は、ベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に沿って形成される背面部Ｈ２４８２１ａと、その背面部Ｈ２４８２１ａから正面側に向かって立設され遊技球の転動面となる転動部Ｈ８２１ｂと、その転動部Ｈ８２１ｂに連なり第２案内部材Ｈ８２２が配設される配設部Ｈ８２１ｃと、その配設部Ｈ８２１ｃよりも上方側（矢印Ｕ方向側）から背面部Ｈ８２１ａの正面側に向かって立設され第２案内部材Ｈ８２２に送球される遊技球をガイドする上方側ガイド部Ｈ８２１ｄとを主に備える。

【３０５１】

背面部Ｈ２４８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の背面側（矢印Ｂ方向側）の送球面となる部分であり、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの遊技球の転動方向に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって凸設される凸部Ｈ２４８２１ａ２を備える。

【３０５２】

凸部Ｈ２４８２１ａ２は、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の送球が不安定となる（遊技球が前後方向に暴れる）際に、遊技球を当接させることで遊技球の前後方向の暴れを抑える部分であり、正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって湾曲状に突出される。

【３０５３】
なお、凸部Ｈ２４８２１ａ２の正面側への突出先端部は、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に遊技球を送球するための球送球部Ｈ８８２ａ上を転動する遊技球の中心部よりも若干高い位置に形成される。
【３０５４】
これにより、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球される遊技球が凸部Ｈ２４８２１ａ２に当接する場合に、下方側に向かって背面側に湾曲する領域に遊技球を当接させることができる。そのため、当接した遊技球に作用する反力を正面側に跳ね返る方向だけでなく下方側に向く方向にも作用させることができる。よって、背面部Ｈ２４８２１ａに当接した遊技球が正面側に向かって跳ね返ることを抑制できる。その結果、初期位置の発射手段Ｈ８３０と当接される位置に送球される遊技球が暴れることを抑制でき、発射手段Ｈ８３０により発射される（打ち出される）遊技球を安定させやすくできる。
【３０５５】
また、凸部Ｈ２４８２１ａ２の正面側への突出先端部は、発射手段Ｈ８３０により発射されて発射レールＨ１１２ａ１上を転動する遊技球の中心部よりも若干高い位置に形成されるので、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れて、凸部Ｈ２４８２１ａ２に当接する場合に、凸部Ｈ２４８２１ａ２に当接する遊技球に作用する反力に下方に向かう方向成分を付与することができる。即ち、凸部Ｈ２４８２１ａ２に当接した反力を背面側（矢印Ｂ方向側）に跳ね返る成分と、下方側に向かう成分とに分散することができる。よって、正面側に跳ね返る方向成分の反力を弱めることができる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制でき、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。
【３０５６】
また、第３１実施形態における凸部Ｈ２４８２１ａ２は、その突出先端部か発射位置送球ユニットＨ１７０の背面までの距離が遊技球の直径よりも小さくされる。これにより、発射手段Ｈ８３０に発射される遊技球が上下方向に暴れた場合に、その遊技球が凸部Ｈ２４８２１ａ２の突出先端部よりも上方に変位することを抑制でき、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。
【３０５７】
次いで、図２５０（ｂ）を参照して、第３２実施形態における球発射ユニットＨ２５１１２ａについて説明する。上記第８実施形態では、凹部Ｈ８２１ａ１が円弧形状に凹設される場合について説明したが、第３２実施形態における球発射ユニットＨ２５１１２ａでは、凹部Ｈ２５８２１ａ１が角形状に凹設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【３０５８】
なお、図２５０（ｂ）は、第３２実施形態における発射位置送球ユニットＨ１７０及び球発射ユニットＨ２５１１２ａにおける断面図であり、図１８７のＸ２４ａ線における断面図と対応する。
【３０５９】
図２５０（ｂ）に示すように、第３２実施形態における球発射ユニットＨ２５１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ８１０と、そのベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手段Ｈ２５８２０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０と、を主に備えて形成される。
【３０６０】
案内手段Ｈ２５８２０は、樹脂材料から形成されベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ

方向側）に配設される第１案内部材Ｈ２５８２１と、金属材料から形成され第１案内部材Ｈ２５８２１の正面側に配設される第２案内部材Ｈ８２２とを主に備え、第１案内部材Ｈ２５８２１と第１膨出部Ｈ８１１との間に当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を挟んだ状態でベース部材Ｈ８１０に配設される。

【３０６１】

第１案内部材Ｈ２５８２１は、ベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に沿って形成される背面部Ｈ２５８２１ａと、その背面部Ｈ２５８２１ａから正面側に向かって立設され遊技球の転動面となる転動部Ｈ８２１ｂと、その転動部Ｈ８２１ｂに連なり第２案内部材Ｈ８２２が配設される配設部Ｈ８２１ｃと、その配設部Ｈ８２１ｃよりも上方側（矢印Ｕ方向側）から背面部Ｈ８２１ａの正面側に向かって立設され第２案内部材Ｈ８２２に送球される遊技球をガイドする上方側ガイド部Ｈ８２１ｄとを主に備える。

【３０６２】

背面部Ｈ２５８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の背面側（矢印Ｂ方向側）の送球面となる部分であり、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの遊技球の転動方向に沿って背面側に凹設される凹部Ｈ２５８２１ａ１を備える。

【３０６３】

凹部Ｈ２５８２１ａ１は、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の送球が不安定となる（遊技球が前後方向に暴れる）際に、遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１の内側に沿って案内させることで、遊技球の送球を安定させるためのガイド部であり、遊技球の半径よりも大きい溝幅の溝状に形成される。

【３０６４】

また、第３２実施形態における凹部Ｈ２５８２１ａ１は、溝幅に対する凹設深さが十分に深く形成されており、凹部Ｈ２５８２１ａ１に遊技球を受け入れた際に、上端および下端の２点が遊技球に当接可能な形状に形成される。さらに、凹部Ｈ２５８２１ａ１は、発射手段Ｈ８３０により発射され発射レールＨ１１２ａ１上を転動する遊技球が凹部Ｈ２５８２１ａ１の内側に受け入れられる場合に、初めに凹部Ｈ２５８２１ａ１の下端（段差部分）に遊技球が当接する位置に設定される。

【３０６５】

これにより、発射手段Ｈ８３０により発射された遊技球が前後方向に暴れる場合に、凹部Ｈ２５８２１ａ１の下端（段差部分）に遊技球を当接させることで、遊技球に作用する反力を正面側（矢印Ｆ方向側）に跳ね返る方向だけでなく上方側に持ち上がる方向にも作用させることができる。即ち、凹部Ｈ２５８２１ａ１の下端に当接した反力を正面側に跳ね返る成分と、上方側に向かう成分とに分散することができる。よって、正面側に跳ね返る方向成分の反力を弱めることができる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制でき、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【３０６６】

なお、背面側へ向かう方向の力が大きく（前後方向に暴れる力が大きく）、凹部Ｈ２５８２１ａ１の下端（段差部分）に遊技球を当接させた際の上方側に向かう力で遊技球が持ち上がる場合には、その遊技球を凹部Ｈ２５８２１ａ１の上端（段差部分）側にも当接させることができる。即ち、遊技球の背面側の一部を凹部Ｈ２５８２１ａ１の上端と下端との間に挟み込むことができる。これにより、遊技球が正面側へ跳ね返ることを抑制できる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制でき、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【３０６７】

次いで、図２５１及び図２５２を参照して、第３３実施形態における球発射ユニットＨ２６１１２ａについて説明する。上記第８実施形態では、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後に暴れる場合に凹部Ｈ８２１ａ１に遊技球を受け入れる場合について説明したが、第３３実施形態では、経路変更部材Ｈ２６８９０により遊技球を凹部Ｈ８２１

ａ１に受け入れる場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【３０６８】

図２５１は、第３３実施形態における内枠Ｈ１２の正面図であり、図２５２（ａ）は、経路変更部材Ｈ２６８９０の背面図であり、図２５２（ｂ）は、図２５２（ａ）の矢印Ｙ３５ｂ方向視における経路変更部材Ｈ２６８９０の側面図であり、図２５２（ｃ）は、図２５２（ｂ）のＸ３５ｃ線における経路変更部材Ｈ２６８９０の断面図であり、図２５２（ｄ）は、図２５２（ａ）のＸ３５ｄ線における経路変更部材Ｈ２６８９０の断面図である。

【３０６９】

図２５１及び図２５２に示すように、第３３実施形態における球発射ユニットＨ２６１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ８１０と、そのベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手段Ｈ８２０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０（図１８９参照）と、案内手段Ｈ８２０の遊技球の発射経路上に回転可能に配設される経路変更部材Ｈ２６８９０と、を主に備えて形成される。

【３０７０】

経路変更部材Ｈ２６８９０は、図２５２に示すように、円板状に形成され正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第１部Ｈ２６８９１と、その第１部Ｈ２６８９１の軸回りに等間隔の３箇所から径方向に延設される３箇所の区画壁Ｈ２６８９２と、その区画壁Ｈ２６８９２を挟んで第１部Ｈ２６８９１と対向配置される扇形状の第２部Ｈ２６８９３と、を主に備える。

【３０７１】

第２部Ｈ２６８９３は、円板状に形成される板の一部を切り欠いた凹欠部Ｈ２６８９３ａを有する扇形状に形成され、３箇所の区画壁Ｈ２６８９２に区画される内の２箇所の区画領域の背面側（矢印Ｂ方向側）を覆って形成され、１箇所の区画領域の背面側を空けた状態で配設される。また、凹欠部Ｈ２６８９３ａが形成される領域において正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第１部Ｈ２６８９１は他の部分における板厚よりも厚く形成される。

【３０７２】

以上のように形成される球発射ユニットＨ２６１１２ａによれば、球発射ユニットＨ１１２ａにより発射され、発射レールＨ１１２ａ１を転動する遊技球が第１部Ｈ２６８１と第２部Ｈ２６８９３（凹欠部Ｈ２６８９３ａ以外の部分）との間を通過する場合には、その遊技球を発射レールＨ１１２ａ１に沿って（即ち、遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１に受け入れず）、遊技領域に送球することができる。即ち、凹部Ｈ８２１ａ１と当接不能となる方向へ案内することができるので、凹部Ｈ８２１ａ１を利用せずに遊技球を送球する態様を形成できる。従って、送球される遊技球が暴れて、遊技球の軌跡が不安定となる態様で遊技球を送球できる。これにより、遊技の興趣を向上できる。

【３０７３】

一方で、球発射ユニットＨ１１２ａにより発射され、発射レールＨ１１２ａ１を転動する遊技球が第１部Ｈ２６８１と第２部Ｈ２６８９３の凹欠部Ｈ２６８９３ａとの間を通過する場合には、その遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１に受け入れて遊技領域に送球することができる。即ち、凹部Ｈ８２１ａ１と当接可能となる方向へ案内する態様を形成することができる。従って、送球される遊技球の暴れを抑制して、遊技球の軌跡を安定させた態様で遊技球を送球できる。

【３０７４】

よって、第３３実施形態では、経路変更部材Ｈ２６８９０により、凹部Ｈ８２１ａ１を利用せずに遊技球を送球する態様と、凹部Ｈ８２１ａ１を利用して遊技球を送球する態様とを形成できる。これにより、遊技盤Ｈ１３に送球される遊技球がどちらによって案内された遊技球であるのかを遊技者に注目させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【３０７５】

次いで、図２５３（ａ）を参照して、第３４実施形態における球発射ユニットＨ２７１１２ａについて説明する。上記第８実施形態では、球発射ユニットＨ１１２ａが枠形成ユニットＨ１２ａの下側ベースユニットＨ１２ｃに配設される場合について説明したが、第３４実施形態では、球発射ユニットＨ２７１１２ａが遊技盤Ｈ２７０１３に配設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【３０７６】

図２５３（ａ）は、第３４実施形態における内枠Ｈ２７０１２の正面図である。なお、図２５３（ａ）では、球発射ユニットＨ２７１１２ａが配設される領域が部分的に拡大されて図示される。

【３０７７】

図２５３（ａ）に示すように、第３４実施形態における内枠Ｈ２７０１２は、外枠Ｈ１１（図１２５参照）と外形がほぼ同一の長方形状に形成される枠形成ユニットＨ１２ａ（図１２５参照）と、その枠形成ユニットＨ１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に回動可能に支持される裏パックユニットＨ９４（図１２０参照）とを主に備えて形成され、裏パックユニットＨ９４が正面視で左側（矢印Ｌ方向側）を回動基端側（開閉基端側）とし、右側（矢印Ｒ方向側）を回動先端側（開閉先端側）として後方へ回動可能とされている（図１２２参照）。

【３０７８】

なお、内枠Ｈ２７０１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、左側（矢印Ｌ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ２７０１３の左端部を支持する目的の左端支持部Ｈ１２ａ１（図１２５参照）と、右側（矢印Ｒ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ２７０１３の右端部を支持する目的の盤面支持装置Ｈ１２ａ２（図１２５参照）が配設される。遊技盤Ｈ２７０１３は、左端支持部Ｈ１２ａ１にベース板Ｈ２７０６０の左側端部が挿入されつつ内枠Ｈ２７０１２の背面側（矢印Ｂ方向側）に押し込まれた後、盤面支持装置Ｈ１２ａ２が操作されて盤面支持装置Ｈ１２ａ２がベース板Ｈ２７０６０の正面と係合する（ベース板Ｈ２７０６０の正面を支持する）ことで内枠Ｈ２７０１２の内側に固定される。

【３０７９】

また、第３４実施形態における遊技盤Ｈ２７０１３は、正面視略正方形状に形成されると共に、下方側の縁部の一部から下方側に向かって突出する突出部Ｈ２７０６０ａを有するベース板Ｈ２７０６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）の他、レールＨ６１，Ｈ６２、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５、スルーゲートＨ６７、可変表示装置ユニットＨ８０等（図１２４参照）を組み付けて構成される。

【３０８０】

突出部Ｈ２７０６０ａは、球発射ユニットＨ２７１１２ａが配設される領域であり、その球発射ユニットＨ２７１１２ａから送球される球を受け入れる側の外レールＨ６２の延長線上に形成される。

【３０８１】

また、突出部Ｈ２７０６０ａが形成される領域の背面側においては、内枠Ｈ２７０１２の下側ベースユニットＨ２７０１２ｃに凹部Ｈ２７０１２ｃ２が形成され、その凹部Ｈ２７０１２ｃ２の内側に突出部Ｈ２７０６０ａが配設される。

【３０８２】

球発射ユニットＨ２７１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ８１０と、そ

のベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射（打ち出し）可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手段Ｈ２７８２０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０（図１８９参照）と、を主に備えて形成される。

【３０８３】

案内手段Ｈ２７８２０は、樹脂材料から形成されベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第１案内部材Ｈ２７８２１と、金属材料から形成され第１案内部材Ｈ２７８２１の正面側に配設される第２案内部材Ｈ８２２とを主に備え、第１案内部材Ｈ２７８２１と第１膨出部Ｈ８１１との間に当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を挟んだ状態でベース部材Ｈ８１０に配設される。

【３０８４】

第１案内部材Ｈ２７８２１は、ベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に沿って形成される背面部Ｈ２７８２１ａと、その背面部Ｈ２７８２１ａから正面側に向かって立設され遊技球の転動面となる転動部Ｈ８２１ｂと、その転動部Ｈ８２１ｂに連なって形成され第２案内部材Ｈ８２２が正面側に配設される配設部Ｈ８２１ｃ（図１８９参照）と、その配設部Ｈ８２１ｃよりも上方側（矢印Ｕ方向側）から背面部Ｈ２７８２１ａの正面側に向かって立設される上方側ガイド部Ｈ２７８２１ｄとを主に備える。

【３０８５】

背面部Ｈ２７８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の背面側（矢印Ｂ方向側）の送球面となる部分であり、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの球の転動方向に沿って背面側に凹設される凹部Ｈ２７８２１ａ１を２箇所に備える。なお、第３４実施形態では、凹部Ｈ２７８２１ａ１が転動面の影響を受けやすい２箇所に形成されるが、凹部Ｈ２７８２１ａ１は１箇所であっても３箇所以上に形成されていても良い。また、第３４実施形態では、複数形成される凹部Ｈ２７８２１ａ１が正面視において同一直線状に形成されるが、それぞれの凹部Ｈ２７８２１ａ１が転動面に対し異なる高さに形成されても良い。さらに、それぞれの凹部Ｈ２７８２１ａ１が正面視において非平行に延設されるものであってよい。

【３０８６】

また、背面部Ｈ２７８２１ａは、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向側（矢印Ｌ方向側）に向かって（発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４（図１９１（ａ）参照）に対して）背面側（矢印Ｂ方向側）に傾斜して正面側（矢印Ｆ方向側）の側面が形成される。即ち、背面部Ｈ２７８２１ａは、遊技盤Ｈ２７０１３の盤面に対して正面側の少なくとも一部が傾斜して形成される。一方、凹部Ｈ２７８２１ａ１は、背面側の凹設底部が発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向に（発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４）に対して平行に形成される。

【３０８７】

即ち、凹部Ｈ２７８２１ａ１の背面側（矢印Ｂ方向側）への凹設深さが遊技球の発射方向に沿って浅くなるように構成され、発射方向における凹部Ｈ２７８２１ａ１の端部が背面部Ｈ２７８２１ａの正面と連なるように形成される。これにより、凹部Ｈ２７８２１ａ１の発射方向側の端部に段差ができることを抑制でき、凹部Ｈ２７８２１ａ１の端部で凹部Ｈ２７８２１ａ１の内面に当接する遊技球が凹部Ｈ２７８２１ａ１の端部から発射方向に抜け出る際に発射方向と反対方向の抵抗が増大することを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ２７０１３の遊技領域に安定して遊技球を送球することができる。

【３０８８】

凹部Ｈ２７８２１ａ１は、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の送球が不安定となる（遊技球が暴れる）際に、遊技球を凹部Ｈ２７８２１ａ１の内側に受け入れることで、遊技球の送球を安定させるためのガイド部であり、遊技球が暴れやすくなる部分に形成

される。
【３０８９】
即ち、凹部Ｈ２７８２１ａ１は、転動部Ｈ８２１ｂと発射レールＨ１１２ａ１との連結部の上方に亘って形成され、転動部Ｈ８２１ｂと発射レールＨ１１２ａ１との連結部により形成される隙間（段差）等により球が弾む（暴れる）場合に、凹部に球を受け入れることで遊技球の送球を安定させることができる。
【３０９０】
なお、発射レールＨ１１２ａ１は、発射当初の遊技球が暴れやすいため転動面が略Ｖ字状に凹設される一方、転動部Ｈ８２１ｂは、発射レールＨ１１２ａ１のように転動面を凹設した形状に形成すると、遊技球が転動する際に遊技球と転動面との当接面が増える（２点支持となる）ため、遊技球の転動面に凹設面が非形成（即ち、平面形状に形成される）とされる。そのため、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとがそれぞれ別の部材から形成される。
【３０９１】
また、発射位置送球ユニットＨ１７０の背面側開口Ｈ１７２と正面視において重なる位置では、凹部Ｈ２７８２１ａ１が非形成とされ、上方側に上方側ガイド部Ｈ２７８２１ｄが形成される。これにより、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１上に送球される遊技球は、上方側ガイド部Ｈ２７８２１ｄと発射レールＨ１１２ａ１との対向間を案内される。
【３０９２】
ここで、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１上に送球される遊技球の発射方向は、遊技球と発射手段Ｈ８３０（発射部Ｈ８３１）との当接状態に起因するため、発射直後の遊技球は暴れやすく不安定となりやすい。第３４実施形態では、発射直後における位置（背面側開口Ｈ１７２と正面視において重なる位置）の背面部Ｈ２７８２１ａに凹部Ｈ２７８２１ａ１が非形成とされることで、前後の空間を狭めて発射直後における遊技球が前後に暴れることを抑制できる。
【３０９３】
特に、第３４実施形態では、遊技盤Ｈ２７０１３に球発射ユニットＨ２７１１２ａを配設するためにベース板Ｈ２７０６０の下方側に突出部Ｈ２７０６０ａが形成される。即ち、ベース板Ｈ２７０６０は、第８実施形態におけるベース板Ｈ６０に比べて上下方向に長く形成される。そのため、球発射ユニットＨ２７１１２ａをベース板Ｈ２７０６０に配設した場合には、ベース板Ｈ２７０６０が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に撓みやすく、その場合に球発射ユニットＨ２７１１２ａの配置も前後にずれやすいという問題がある。
【３０９４】
この場合、球発射ユニットＨ２７１１２ａの正面側には発射位置送球ユニットＨ１７０が配設されるため、ベース板Ｈ２７０６０が正面側に撓む場合には、発射直後における前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の間隔が変更されにくいが、ベース板Ｈ２７０６０が背面側に撓む場合には、ベース板Ｈ２７０６０のみが背面側に変位して、発射位置送球ユニットＨ１７０と球発射ユニットＨ２７１１２ａとの前後の間隔が開くことで、発射直後における遊技球が前後に暴れる可能性が高くなる。
【３０９５】
これに対し、第３４実施形態では、上述したように発射直後（発射位置送球ユニットＨ１７０からの遊技球の送球位置）における背面部Ｈ２７８２１ａに凹部Ｈ２７８２１ａ１が非形成とされることで、前後の空間を狭めて発射直後における遊技球が前後に暴れることを抑制できる。
【３０９６】
また、発射位置送球ユニットＨ１７０からの遊技球の送球位置における背面部Ｈ２７８２１ａに凹部Ｈ２７８２１ａ１が非形成とされる、即ち、発射位置送球ユニットＨ１７０の球送球部Ｈ８８２ａにより背面側開口Ｈ１７２から送球され、背面側開口Ｈ１７２から一部が突出される球送球部Ｈ８８２ａ（図１９０参照）により発射位置送球ユニットＨ１

７０への遊技球の逆流が規制される領域よりも遊技球の発射方向側に凹部Ｈ２７８２１ａ１が形成されるので、背面側開口Ｈ１７２から突出した球送球部Ｈ８８２ａにより前後の空間を狭めやすくできる。その結果、発射直後における遊技球が前後に暴れることを抑制しやすくできる。

【３０９７】

また、上方側ガイド部Ｈ２７８２１ｄは、発射レールＨ１１２ａ１との対向面側に段差部Ｈ２７８２１ｄ１が形成され、発射位置側における発射レールＨ１１２ａ１からの離間距離（上下幅）よりも、凹部Ｈ２７８２１ａ１が形成される手前の発射レールＨ１１２ａ１からの離間距離が小さくされる。この段差部Ｈ２７８２１ｄ１の段差により、発射手段Ｈ８３０により発射された遊技球が上方に暴れた場合においても、転動部Ｈ８２１ｂと発射レールＨ１１２ａ１との連結部の手前で遊技球を下方側に落ち着かせることができる。

【３０９８】

即ち、遊技球の転動面となる発射レールＨ１１２ａ１と対向する位置に配設される上方側ガイド部Ｈ２７８２１ｄに段差部Ｈ２７８２１ｄ１が形成されることで、発射手段Ｈ８３０により発射された遊技球が上方側に暴れた状態のまま送球されることを抑制できる。なお、段差部Ｈ２７８２１ｄ１により発射位置側の転動面との間隔を大きくすることにより、発射手段Ｈ８３０により発射される球が発射位置で詰まることを抑制できる。

【３０９９】

さらに、段差部Ｈ２７８２１ｄ１により発射レールＨ１１２ａ１からの離間距離が小さくされた部分は、転動部Ｈ８２１ｂ及び発射レールＨ１１２ａ１の連結部と対向する位置まで延設される。これにより、転動部Ｈ８２１ｂと発射レールＨ１１２ａ１との連結部で遊技球が上方側に暴れて（遊技球が上方に弾んで）凹部Ｈ２７８２１ａ１に受け入れられなくなることを抑制できる。その結果、転動部Ｈ８２１ｂと発射レールＨ１１２ａ１との連結部で遊技球が暴れることを抑制しやすくできる。

【３１００】

また、第３４実施形態では、凹部Ｈ２７８２１ａ１が転動部Ｈ８２１ｂの終端側（発射位置から離れる側）の上方にも形成される。この２箇所目の凹部Ｈ２７８２１ａ１は、転動部Ｈ８２１ｂの終端の前後に亘って形成される共に、発射方向における端部が正面視におけるベース部材Ｈ８１０の外縁部まで形成される。

【３１０１】

これにより、転動部Ｈ８２１ｂを転動して転動部Ｈ８２１ｂの終端からレールＨ６１，Ｈ６２の対向間（外レールＨ６２の上部）に向かって送球される遊技球が前後に暴れることを抑制できる。よって、遊技盤Ｈ２７０１３（ベース板Ｈ２７０６０）の正面とベース部材Ｈ８１０の正面との前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における配置がずれた場合や、遊技盤Ｈ２７０１３（ベース板Ｈ２７０６０）とベース部材Ｈ８１０との上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における配置がずれた場合に、遊技盤Ｈ２７０１３（ベース板Ｈ２７０６０）とベース部材Ｈ８１０との境界に形成される段差に遊技球が引っ掛かり（当接して）、遊技球がレールＨ６１，Ｈ６２の対向間から外れた位置に送球されることを抑制できる。

【３１０２】

なお、第３４実施形態では、２箇所目の凹部Ｈ２７８２１ａ１が正面視におけるベース部材Ｈ８１０の外縁部まで形成される場合について説明したが、正面視におけるベース部材Ｈ８１０の外縁の内側に２箇所目の凹部Ｈ２７８２１ａ１の発射方向側の端部が設定されるものであっても良い。さらに、２箇所目の凹部Ｈ２７８２１ａ１がベース部材Ｈ８１０の外縁部で背面部Ｈ２７８２１ａの正面と連なるものでなく、２箇所の凹部Ｈ２７８２１ａ１がベース部材Ｈ８１０の外縁部で背面部Ｈ２７８２１ａよりも背面側に凹設され、その２箇所目の凹部Ｈ２７８２１ａ１が、遊技盤Ｈ２７０１３に凹設した凹部や遊技盤Ｈ２７０１３に配設された別のベース部材Ｈ８１０の凹部に連なる構成とされても良い。

【３１０３】

また、第３４実施形態では、遊技盤Ｈ２７０１３に球発射ユニットＨ２７１１２ａが配設されるので、第８実施形態における球発射ユニットＨ１１２ａのように遊技盤Ｈ１３と

別部材に配置されるものに比べて、遊技盤Ｈ２７０１３に対する球発射ユニットＨ２７１１２ａの配置のずれを抑えることができる。従って、遊技盤Ｈ２７０１３と球発射ユニットＨ２７１１２ａとの間に（球発射ユニットＨ２７１１２ａから発射される遊技球の送球路上に）段差が形成されることを抑制できる。その結果、球発射ユニットＨ２７１１２ａから遊技盤Ｈ２７０１３への遊技球の送球を安定させられる。

【３１０４】

次いで、図２５３（ｂ）を参照して、第３５実施形態における球発射ユニットＨ２８１１２ａについて説明する。上記２７実施形態では、球発射ユニットＨ２７１１２ａの全部が遊技盤Ｈ２７０１３に配設される場合について説明したが、第３５実施形態では、球発射ユニットＨ２８１１２ａの遊技球の送球部分が遊技盤Ｈ２８０１３に配設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその詳しい説明は省略する。

【３１０５】

図２５３（ｂ）は、第３５実施形態における内枠Ｈ２８０１２の正面図である。なお、図２５３（ｂ）では、球発射ユニットＨ２８１１２ａが配設される領域が部分的に拡大されて図示される。

【３１０６】

図２５３（ａ）に示すように、第３５実施形態における内枠Ｈ２８０１２は、外枠Ｈ１１（図１２５参照）と外形がほぼ同一の長方形状に形成される枠形成ユニットＨ１２ａ（図１２５参照）と、その枠形成ユニットＨ１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に回動可能に支持される裏パックユニットＨ９４（図１２０参照）とを主に備えて形成され、裏パックユニットＨ９４が正面視で左側（矢印Ｌ方向側）を回動基端側（開閉基端側）とし、右側（矢印Ｒ方向側）を回動先端側（開閉先端側）として後方へ回動可能とされている（図１２２参照）。

【３１０７】

なお、内枠Ｈ２８０１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、左側（矢印Ｌ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ２８０１３の左端部を支持する目的の左端支持部Ｈ１２ａ１（図１２５参照）と、右側（矢印Ｒ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ２８０１３の右端部を支持する目的の盤面支持装置Ｈ１２ａ２（図１２５参照）が配設される。遊技盤Ｈ２８０１３は、左端支持部Ｈ１２ａ１にベース板Ｈ２８０６０の左側端部が挿入されつつ内枠Ｈ２８０１２の背面側（矢印Ｂ方向側）に押し込まれた後、盤面支持装置Ｈ１２ａ２が操作されて盤面支持装置Ｈ１２ａ２がベース板Ｈ２８０６０の正面と係合する（ベース板Ｈ２７０６０の正面を支持する）ことで内枠Ｈ２８０１２の内側に固定される。

【３１０８】

また、第３５実施形態における遊技盤Ｈ２８０１３は、正面視略正方形状に形成されると共に、下方側の縁部の一部から下方側に向かって突出する突出部Ｈ２８０６０ａを有するベース板Ｈ２８０６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）の他、レールＨ６１，Ｈ６２、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５、スルーゲートＨ６７、可変表示装置ユニットＨ８０等（図１２４参照）を組み付けて構成される。

【３１０９】

突出部Ｈ２８０６０ａは、球発射ユニットＨ２８１１２ａの案内手段Ｈ２８８２０側が配設される領域であり、その球発射ユニットＨ２８１１２ａから送球される球を受け入れる側の外レールＨ６２の延長線上に形成される。

【３１１０】

また、突出部Ｈ２８０６０ａが形成される領域の背面側においては、内枠Ｈ２８０１２の下側ベースユニットＨ２８０１２ｃに凹部Ｈ２８０１２ｃ２が形成され、その凹部Ｈ２８０１２ｃ２の内側に突出部Ｈ２８０６０ａが配設される。

【３１１１】

球発射ユニットＨ２８１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ２８８１０と

、そのベース部材Ｈ２８８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射（打ち出し）可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ２８８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手段Ｈ２７８２０と、ベース部材Ｈ２８８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ２８８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０（図１８９参照）と、を主に備えて形成される。

【３１１２】

ベース部材Ｈ２８８１０は、ベース板Ｈ２８０６０の突出部Ｈ２８０６０ａの正面側に配設される第１ベース部材Ｈ２８８１４と、その第１ベース部材Ｈ２８８１４の下方側に隣り合う位置に配設され、下側ベースユニットＨ２８０１２ｃの収容凹部Ｈ２８０１２ｃ１に配設される第２ベース部材Ｈ２８８１５とを主に備える。

【３１１３】

第１ベース部材Ｈ２８８１４は、正面視において突出部Ｈ２８０６０ａと対応する大きさの板状に形成される。また、第１ベース部材Ｈ２８８１４は、正面側に向かって膨出され案内手段Ｈ２７８２０及び当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を配設する基部となる第１膨出部Ｈ８１１（図１８９参照）を備え、正面側に案内手段Ｈ２７８２０及び当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１が配設される。

【３１１４】

第２ベース部材Ｈ２８１１５は、正面視において収容凹部Ｈ２８０１２ｃ１と対応する大きさの板状に形成される。また、第２ベース部材Ｈ２８８１５は、正面側に向かって膨出して形成され当接手段Ｈ８４０の第２弾性部材Ｈ８４２を配設する基部となる第２膨出部Ｈ８１２（図１８９参照）と、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に穿設され駆動モータＨ８５０（図１８９参照）の軸部Ｈ８５２が挿通される貫通孔Ｈ８１３（図１８９参照）と、を主に備え、正面側に発射手段Ｈ８３０及び当接手段Ｈ８４０の第２弾性部材Ｈ８４２が配設され、背面側に駆動モータＨ８５０が配設される。

【３１１５】

即ち、第３５実施形態におけるベース部材Ｈ２８８１０は、第３４実施形態におけるベース部材Ｈ８１０に対して、遊技球を案内する案内手段Ｈ２７８２０と、遊技球を発射する発射手段Ｈ８３０とが異なる部材（第１ベース部材Ｈ２８８１４、第２ベース部材Ｈ２８８１５）に配設される。

【３１１６】

これにより、第３４実施形態における遊技盤Ｈ２７０１３のベース板Ｈ２７０６０に比べて、第３５実施形態における遊技盤Ｈ２８０１３のベース板Ｈ２８０６０では、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における長さを短くできる。これにより、ベース板Ｈ２８０６０が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に撓むことを抑制して、球発射ユニットＨ２７１１２ａの配置が前後にずれることを抑制できる。その結果、発射直後における遊技球が前後に暴れることを抑制しやすくできる。

【３１１７】

なお、案内手段Ｈ２７８２０による遊技球の送球については、第３４実施形態における案内手段Ｈ２７８２０と同様であるため、その詳しい説明は省略する。

【３１１８】

また、第３５実施形態では、発射位置送球ユニットＨ１７０の背面側開口Ｈ１７２と正面視において重なる位置に凹部Ｈ２７８２１ａ１が非形成とされる場合について説明したが、凹部Ｈ２７８２１ａ１が非形成とされる領域を切り欠いて、発射位置送球ユニットＨ１７０の背面側開口Ｈ１７２と対向する位置に遊技盤Ｈ２８０１３（ベース板Ｈ２８０６０）の正面を配置しても良い。即ち、遊技球の発射当初において、遊技盤Ｈ２８０１３の盤面に沿って遊技球を送球した後で、遊技盤Ｈ２８０１３に配設した案内手段Ｈ２７８２０に遊技球を送球するものであっても良い。

【３１１９】

なお、凹部Ｈ２７８２１ａ１が非形成とされる領域を切り欠いた場合には、Ｖ字状に凹設される発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４（図１９１（ａ）参照）を遊技盤Ｈ２８０１３側へ寄せて形成することで、凹部Ｈ２７８２１ａ１が非形成とされる領域を送球される遊技球が遊技盤Ｈ２８０１３と当接するように構成しても良い。この場合には、遊技盤Ｈ２８０１３に遊技球が当接することで遊技球の暴れを抑制しやすくできる。

【３１２０】

また、凹部Ｈ２７８２１ａ１が非形成とされる領域を切り欠いた場合には、その切り欠いた領域と隣り合う位置における背面部Ｈ２８８２１ａの端部を遊技盤Ｈ２８０１３に向かって傾斜して形成しても良い。これにより、遊技盤Ｈ２８０１３から背面部Ｈ２８８２１ａの正面側に送球される場合に、背面部Ｈ２８８２１ａと遊技盤Ｈ２８０１３との境界に形成される前後方向の段差に引っ掛かることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ２８０１３の遊技球の送球を安定させることができる。

【３１２１】

なお、背面部Ｈ２８８２１ａと遊技盤Ｈ２８０１３との境界に形成される前後方向の段差に引っ掛かることを抑制するために、背面部Ｈ２８８２１ａ１の厚み分、遊技盤Ｈ１３を凹設して、その遊技盤に凹設した凹みに背面部Ｈ２８８２１ａ１を配設して、背面部Ｈ２８８２１ａと遊技盤Ｈ２８０１３との境界に前後方向の段差が形成されることを抑制しても良い。

【３１２２】

次いで、図２５４（ａ）を参照して、第３６実施形態における球発射ユニットＨ２９１１２ａについて説明する。上記第８実施形態では、正面視において遊技球の発射方向（発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂ）と平行に凹部Ｈ８２１ａ１が形成される場合について説明したが、第３６実施形態では、正面視において遊技球の発射方向と非平行に凹部Ｈ２９８２１ａ１が形成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその詳しい説明は省略する。

【３１２３】

図２５４（ａ）は、第３６実施形態における球発射ユニットＨ２９１１２ａの正面図である。図２５４（ａ）に示すように、第３６実施形態における球発射ユニットＨ２９１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ８１０と、そのベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射（打ち出し）可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手段Ｈ２９８２０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０（図１８９参照）と、を主に備える。

【３１２４】

案内手段Ｈ２９８２０は、樹脂材料から形成されベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第１案内部材Ｈ２９８２１と、金属材料から形成され第１案内部材Ｈ２９８２１の正面側に配設される第２案内部材Ｈ８２２とを主に備え、第１案内部材Ｈ２９８２１と第１膨出部Ｈ８１１との間に当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を挟んだ状態でベース部材Ｈ８１０に配設される。

【３１２５】

第１案内部材Ｈ２９８２１は、ベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に沿って形成される背面部Ｈ２９８２１ａと、その背面部Ｈ２９８２１ａから正面側に向かって立設され遊技球の転動面となる転動部Ｈ８２１ｂと、その転動部Ｈ８２１ｂに連なって形成され第２案内部材Ｈ８２２が正面側に配設される配設部Ｈ８２１ｃ（図１８９参照）と、その配設部Ｈ８２１ｃよりも上方側（矢印Ｕ方向側）から背面部Ｈ８２１ａの正面側に向かって立設され発射位置送球ユニットＨ１７０（図１９０参照）から第２案内部材Ｈ８２２（発射レールＨ１１２ａ１）に送球される遊技球をガイドする上方側ガイド部Ｈ８２１

ｄとを主に備える。
【３１２６】
背面部Ｈ２９８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の送球が不安定となる（遊技球が前後方向に暴れる）際に、遊技球を凹部Ｈ２９８２１ａ１の内側に受け入れることで、遊技球の送球を安定させるためのガイド部であり、遊技球の一部を受け入れ可能な大きさに形成される。また、凹部Ｈ２９８２１ａ１は、遊技球の半径よりも大きい半径の湾曲形状に凹設される。
【３１２７】
背面部Ｈ２９８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の背面側（矢印Ｂ方向側）の送球面となる部分であり、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの球の転動方向に沿って背面側に凹設される凹部Ｈ２９８２１ａ１を１箇所に備える。
【３１２８】
なお、第３６実施形態では、凹部Ｈ２９８２１ａ１が１箇所に形成されるが、凹部Ｈ２９８２１ａ１は２箇所以上の複数個所に形成されていても良い。また、第３６実施形態では、複数形成される凹部Ｈ２９８２１ａ１が正面視において転動面に対し異なる高さに形成されても良い。
【３１２９】
また、背面部Ｈ２９８２１ａは、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向側（矢印Ｌ方向側）に向かって（発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４（図１９１（ａ）参照）に対して）背面側（矢印Ｂ方向側）に傾斜して正面側（矢印Ｆ方向側）の側面が形成される。即ち、背面部Ｈ２９８２１ａは、遊技盤Ｈ１３（図１２４参照）の盤面に対して正面側の少なくとも一部が傾斜して形成される。一方、凹部Ｈ２７８２１ａ１は、背面側の凹設底部が発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向に（発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４）に対して平行に形成される。
【３１３０】
即ち、凹部Ｈ２９８２１ａ１の背面側（矢印Ｂ方向側）への凹設深さが遊技球の発射方向に沿って浅くなるように構成され、発射方向における凹部Ｈ２９８２１ａ１の端部が背面部Ｈ２９８２１ａの正面と連なるように形成される。これにより、凹部Ｈ２９８２１ａ１の発射方向側の端部に段差ができることを抑制でき、凹部Ｈ２９８２１ａ１の端部で凹部Ｈ２９８２１ａ１の内面に当接する遊技球が凹部Ｈ２９８２１ａ１の端部から発射方向に抜け出る際に発射方向と反対方向の抵抗が増大することを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に安定して遊技球を送球することができる。
【３１３１】
凹部Ｈ２９８２１ａ１は、遊技球の転動面となる発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの上方側に形成され、遊技球の発射方向と反対側の背面部Ｈ２９８２１ａの端部（遊技球の初期位置側の端部）から発射方向側の背面部Ｈ２９８２１ａの端部の手前まで延設される。
【３１３２】
また、凹部Ｈ２９８２１ａ１は、正面視において発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部に向かうにつれて発射レールＨ１１２ａ１に対して発射初期位置から上昇傾斜される。一方、凹部Ｈ２９８２１ａ１は、正面視において発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部から発射終端位置に向かうにつれて転動部Ｈ８２１ｂに対して下降傾斜される。
【３１３３】
即ち、発射レールＨ１１２ａ１の上方では、発射レールＨ１１２ａ１（遊技球の転動面）に対して凹部Ｈ２９８２１ａ１が上昇傾斜される一方、転動部Ｈ８２１ｂの上方では、転動部Ｈ８２１ｂ（遊技球の転動面）に対して凹部Ｈ２９８２１ａ１が下降傾斜される。
【３１３４】
なお、発射される遊技球の初期位置に対応する位置（遊技球の発射方向と反対側の端部）の凹部Ｈ２９８２１ａ１の発射レールＨ１１２ａ１からの高さは、凹部Ｈ２９８２１ａ

１に遊技球が受け入れられる際に発射レールＨ１１２ａ１から離間した遊技球が凹部Ｈ２９８２１ａ１の背面側への凹設底部よりも下面側に当接するように構成される。即ち、凹部Ｈ２９８２１ａ１の背面側への凹設底部は、発射レールＨ１１２ａ１の転動面から遊技球の半径よりも高い位置に設定される。

【３１３５】

これにより、凹部Ｈ２９８２１ａ１の内面に当接する遊技球に作用する反力に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に向かう方向成分を付与することができる。即ち、凹部Ｈ２９８２１ａ１の内面に当接した反力を正面側（矢印Ｆ方向側）に跳ね返る成分と、上方側に変位させる成分とに分散することができる。よって、正面側（矢印Ｆ方向側）に跳ね返る方向成分の反力を弱めることができる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。

【３１３６】

即ち、第３６実施形態では、遊技球の送球方向に対して凹部Ｈ２９８２１ａ１が非平行に形成されるので、非平行な凹部Ｈ２９８２１ａ１に遊技球を当接させることで遊技球が暴れることを抑制できる。その結果、遊技球の軌跡を安定させることができ、遊技球の送球を改善できる。

【３１３７】

また、第３６実施形態では、凹部Ｈ２９８２１ａ１の内面に当接した遊技球に転動面から離れる上方側に反力を付与することができると共に、発射レールＨ１１２ａ１（遊技球の転動面）に対して凹部Ｈ２９８２１ａ１が上昇傾斜されるので、発射レールＨ１１２ａ１上で遊技球が凹部Ｈ２９８２１ａ１に受け入れられた場合に、その遊技球に凹部Ｈ２９８２１ａ１の上昇傾斜に沿って上方に持ち上げることができる。これにより、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部で遊技球を浮かせやすくすることができる。

【３１３８】

ここで、上記したように発射レールＨ１１２ａ１は、発射当初の遊技球が暴れやすいため転動面が略Ｖ字状に凹設される一方、転動部Ｈ８２１ｂは、発射レールＨ１１２ａ１のように転動面を凹設した形状に形成すると、遊技球が転動する際に遊技球と転動面との当接面が増える（２点支持となる）ため、遊技球の転動面に凹設面が非形成（即ち、平面形状に形成される）とされる。そのため、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとがそれぞれ別の部材から形成される。よって、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部に段差が形成されやすく、その段差により遊技球が暴れる恐れがある。

【３１３９】

これに対し、第３６実施形態では、発射レールＨ１１２ａ１（遊技球の転動面）に対する凹部Ｈ２９８２１ａ１の上昇傾斜により、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部で遊技球を浮かせやすくすることができるので、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を越える遊技球が段差に引っ掛かって暴れることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【３１４０】

なお、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を超えた位置（転動部Ｈ８２１ｂの上方）における凹部Ｈ２９８２１ａ１が、転動部Ｈ８２１ｂ（遊技球の転動面）に対して下降傾斜されるので、凹部Ｈ２９８２１ａ１の上昇傾斜により転動面から離れた遊技球を凹部Ｈ２９８２１ａ１の下降傾斜により転動面側に向かわせることができる。これにより、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が凹部Ｈ２９８２１ａ１の上昇傾斜により上下方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。

【３１４１】

また、凹部Ｈ２９８２１ａ１の発射方向側の終端は、転動部Ｈ８２１ｂの終端よりも手前に設定される。即ち、転動部Ｈ８２１ｂの終端から遊技盤Ｈ１３に送球される遊技球は、転動部Ｈ８２１ｂの転動面に沿って送球される。これにより、転動部Ｈ８２１ｂの終端から送球される遊技球が凹部Ｈ２９８２１ａ１の下降傾斜の影響を受けることを抑制して

、遊技盤Ｈ１３への遊技球の送球が不安定となることを抑制できる。
【３１４２】
さらに、凹部Ｈ２９８２１ａ１は、発射方向側の終端側に向かうに従って狭く（幅が小さく）形成される。これにより、凹部Ｈ２９８２１ａ１に遊技球が当接して案内される際に、その遊技球を凹部Ｈ２９８２１ａ１に当接した状態を維持しやすくできる。即ち、凹部Ｈ２９８２１ａ１は、遊技球の発射（送球）方向に向かうに従って幅が小さくなるように構成されるので、凹部Ｈ２９８２１ａ１の内側に受け入れた状態（凹部Ｈ８２１ａ１により支持した状態）に維持しやすくできる。これにより、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとを遊技球が転動（通過）している間、その遊技球に対して凹部Ｈ２９８２１ａ１の作用を継続させ、遊技球の暴れを抑えやすくできる。その結果、遊技盤Ｈ１３への遊技球の送球を安定させることができる。なお、第３６実施形態では、凹部Ｈ２９８２１ａ１の終端でのみ幅が狭く形成されるが、凹部Ｈ８２１ａ１は、全体に亘って溝幅が発射方向に向かって狭く形成されるものであっても良い。
【３１４３】
なお、正面視において転動部Ｈ８２１ｂと遊技盤Ｈ１３のレールＨ６１，Ｈ６２の間の下方には、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球のうち遊技領域まで至らなかった球をファール球として受け入れるファール球受口部Ｈ１４６（図２５５、図１２３参照）が配設される。即ち、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された遊技球が遊技盤Ｈ１３に到達するまでの送球経路上に分岐する経路が形成される。
【３１４４】
第３６実施形態では、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を超えた位置（転動部Ｈ８２１ｂの上方）における凹部Ｈ２９８２１ａ１が、転動部Ｈ８２１ｂ（遊技球の転動面）に対して下降傾斜され、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を超えた遊技球を転動面側に送球することができるので、遊技球が前後方向に暴れることにより転動速度が遅くなり過ぎた場合に、その遊技球をファール球受口部Ｈ１４６に受け入れることができる。その結果、転動速度が遅すぎる遊技球が遊技領域まで至らず、ファール球となることを抑制できる。その結果、遊技が一時的に停止することを抑制できる。
【３１４５】
また、上記第３６実施形態では、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を超えた位置（転動部Ｈ８２１ｂの上方）における凹部Ｈ２９８２１ａ１が、転動部Ｈ８２１ｂ（遊技球の転動面）に対して下降傾斜される場合について説明したが、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を超えた位置（転動部Ｈ８２１ｂの上方）においては、凹部Ｈ２９８２１ａ１を遊技球の発射方向に平行（遊技球の転動面と平行）に形成されていても良い（即ち、第８実施形態における、凹部Ｈ８２１ａ１を第３６実施形態における凹部Ｈ２９８２１ａ１と組み合わせても良い）。
【３１４６】
この場合には、比較的暴れる要因の少ない、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を超えた位置（転動部Ｈ８２１ｂの上方）で、遊技球の発射方向と平行に形成される凹部Ｈ８２１ａ１により遊技球を発射（送球）方向に沿って案内することができる。これにより遊技球の軌跡を安定させることができる。
【３１４７】
なお、上記の説明では、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を超えた位置（転動部Ｈ８２１ｂの上方）における凹部Ｈ２９８２１ａ１を遊技球の発射方向に平行（遊技球の転動面と平行）に形成する場合について説明したが、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部の手前側が遊技球の発射方向に平行（遊技球の転動面と平行）に形成されていても良い。
【３１４８】
この場合には、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部に形成される段差で遊技球が暴れる場合に、発射方向に対して傾斜して形成される凹部Ｈ２９８２１ａ１

により遊技球の暴れを抑制しやすくできると共に、発射方向に対して平行に形成される凹部Ｈ８２１ａ１により発射直後の遊技球の暴れを抑制しやすくできる。

【３１４９】

また、第３６実施形態では、発射方向側の終端側に向かうに従って凹部Ｈ２９８２１ａ１の幅が狭く（幅が小さく）形成される場合について説明したが、発射方向の終端側に向かうに従って凹部Ｈ２９８２１ａ１の幅が広く（幅が大きく）形成されても良い。

【３１５０】

この場合には、比較的暴れが大きな遊技球に対して凹部を徐々に作用させることができる。即ち、遊技球と凹部Ｈ２９８２１ａ１との重なり（当接可能な）面積を徐々に大きくすることができる。これにより、凹部Ｈ２９８２１ａ１への遊技球の衝突により遊技球の暴れが増幅することを抑制できる。即ち、遊技球が当接方向と異なる方向に暴れる（例えば、上側に弾んだり）することを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３への遊技球の送球を安定させることができる。

【３１５１】

次いで、図２５４（ｂ）を参照して、第３７実施形態における球発射ユニットＨ３０１１２ａについて説明する。上記第３６実施形態では、凹部Ｈ２９８２１ａ１が転動面に対して上昇傾斜および下降傾斜して形成される場合について説明したが、第３７実施形態では、凹部Ｈ３０８２１ａ１が転動面に対して下降傾斜して形成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその詳しい説明は省略する。

【３１５２】

図２５４（ｂ）は、第３７実施形態における球発射ユニットＨ３０１１２ａの正面図である。図２５４（ｂ）に示すように、第３７実施形態における球発射ユニットＨ３０１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ８１０と、そのベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射（打ち出し）可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手段Ｈ３０８２０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０（図１８９参照）と、を主に備える。

【３１５３】

案内手段Ｈ３０８２０は、樹脂材料から形成されベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第１案内部材Ｈ３０８２１と、金属材料から形成され第１案内部材Ｈ３０８２１の正面側に配設される第２案内部材Ｈ８２２とを主に備え、第１案内部材Ｈ３０８２１と第１膨出部Ｈ８１１との間に当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を挟んだ状態でベース部材Ｈ８１０に配設される。

【３１５４】

第１案内部材Ｈ３０８２１は、ベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に沿って形成される背面部Ｈ３０８２１ａと、その背面部Ｈ３０８２１ａから正面側に向かって立設され遊技球の転動面となる転動部Ｈ８２１ｂと、その転動部Ｈ８２１ｂに連なって形成され第２案内部材Ｈ８２２が正面側に配設される配設部Ｈ８２１ｃ（図１８９参照）と、その配設部Ｈ８２１ｃよりも上方側（矢印Ｕ方向側）から背面部Ｈ８２１ａの正面側に向かって立設され発射位置送球ユニットＨ１７０（図１９０参照）から第２案内部材Ｈ８２２（発射レールＨ１１２ａ１）に送球される遊技球をガイドする上方側ガイド部Ｈ８２１ｄとを主に備える。

【３１５５】

背面部Ｈ３０８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の送球が不安定となる（遊技球が前後方向に暴れる）際に、遊技球を凹部Ｈ３０８２１ａ１の内側に受け入れることで、遊技球の送球を安定させるためのガイド部であり、遊技球の一部を受け入れ

可能な大きさに形成される。また、凹部Ｈ３０８２１ａ１は、遊技球の半径よりも大きい半径の湾曲形状に凹設される。

【３１５６】

背面部Ｈ３０８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の背面側（矢印Ｂ方向側）の送球面となる部分であり、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの球の転動方向に沿って背面側に凹設される凹部Ｈ３０８２１ａ１を２箇所に備える。

【３１５７】

また、背面部Ｈ３０８２１ａは、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向側（矢印Ｌ方向側）に向かって（発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４（図１９１（ａ）参照）に対して）背面側（矢印Ｂ方向側）に傾斜して正面側（矢印Ｆ方向側）の側面が形成される。即ち、背面部Ｈ３０８２１ａは、遊技盤Ｈ１３（図１２４参照）の盤面に対して正面側の少なくとも一部が傾斜して形成される。一方、凹部Ｈ２７８２１ａ１は、背面側の凹設底部が発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向に（発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４）に対して平行に形成される。

【３１５８】

即ち、凹部Ｈ３０８２１ａ１の背面側（矢印Ｂ方向側）への凹設深さが遊技球の発射方向に沿って浅くなるように構成され、発射方向における凹部Ｈ３０８２１ａ１の端部が背面部Ｈ３０８２１ａの正面と連なるように形成される。これにより、凹部Ｈ３０８２１ａ１の発射方向側の端部に段差ができることを抑制でき、凹部Ｈ３０８２１ａ１の端部で凹部Ｈ３０８２１ａ１の内面に当接する遊技球が凹部Ｈ３０８２１ａ１の端部から発射方向に抜け出る際に発射方向と反対方向の抵抗が増大することを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に安定して遊技球を送球することができる。

【３１５９】

凹部Ｈ３０８２１ａ１は、遊技球の転動面となる発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの上方側に形成され、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部の上方に亘って形成される。また、凹部Ｈ３０８２１ａ１は、正面視において発射レールＨ１１２ａ１側から転動部Ｈ８２１ｂ側に（遊技球の発射方向に）向かって遊技球の転動面に対して下降傾斜して形成される。

【３１６０】

なお、発射レールＨ１１２ａ１側の凹部Ｈ３０８２１ａ１の端部（遊技球の発射方向と反対側の端部）における発射レールＨ１１２ａ１からの高さは、発射レールＨ１１２ａ１上を転動する遊技球の中心よりも高い位置に形成されており、発射レールＨ１１２ａ１の転動面に対して上方側に所定の距離弾んだ遊技球が受け入れる位置に設定される。

【３１６１】

また、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部における凹部Ｈ３０８２１ａ１は、背面側への凹設底部の位置が転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球の中心と略一致する位置に設定される。

【３１６２】

これにより、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を越える遊技球が発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部に形成された段差に引っ掛かって暴れた場合にその遊技球を凹部Ｈ３０８２１ａ１に受け入れられると共に、その受け入れた遊技球を凹部Ｈ３０８２１ａ１の背面側の凹設底部よりも高い位置の内面に当接させることができる。

【３１６３】

よって、凹部Ｈ３０８２１ａ１の内面に当接する遊技球に作用する反力に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に向かう方向成分を付与することができる。即ち、凹部Ｈ３０８２１ａ１の内面に当接した反力を正面側（矢印Ｆ方向側）に跳ね返る成分と、下方側に変位させる成分とに分散することができる。よって、正面側（矢印Ｆ方向側）に跳ね返る方向成分の反力を弱めつつ、転動面側に向かわせることができる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されること

を抑制しつつ、上下方向に暴れることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【３１６４】

即ち、第３７実施形態では、遊技球の送球方向に対して凹部Ｈ３０８２１ａ１が非平行に形成されるので、非平行な凹部Ｈ３０８２１ａ１に遊技球を当接させることで遊技球が暴れることを抑制できる。その結果、遊技球の軌跡を安定させることができ、遊技球の送球を改善できる。

【３１６５】

また、凹部Ｈ３０８２１ａ１は、発射方向側の終端側に向かうに従って狭く（幅が小さく）形成される。これにより、凹部Ｈ３０８２１ａ１に遊技球が当接して案内される際に、その遊技球を凹部Ｈ３０８２１ａ１に当接した状態を維持しやすくできる。即ち、凹部Ｈ３０８２１ａ１は、遊技球の発射（送球）方向に向かうに従って幅が小さくなるように構成されるので、凹部Ｈ２９８２１ａ１の内側に受け入れた状態（凹部Ｈ８２１ａ１により支持した状態）に維持しやすくできる。これにより、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとを遊技球が転動（通過）している間、その遊技球に対して凹部Ｈ２９８２１ａ１の作用を継続させ、遊技球の暴れを抑えやすくできる。その結果、遊技盤Ｈ１３への遊技球の送球を安定させることができる。

【３１６６】

さらに、正面視において転動部Ｈ８２１ｂと遊技盤Ｈ１３のレールＨ６１，Ｈ６２の間の下方には、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球のうち遊技領域まで至らなかった球をファール球として受け入れるファール球受口部Ｈ１４６が配設される。即ち、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された遊技球が遊技盤Ｈ１３に到達するまでの送球経路上に分岐する経路が形成される。

【３１６７】

第３７実施形態では、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部の上方に凹部Ｈ３０８２１ａ１が下降傾斜して形成され、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を超えた遊技球を転動面側に送球することができるので、遊技球が前後方向に暴れることにより転動速度が遅くなり過ぎた場合に、その遊技球をファール球受口部Ｈ１４６に受け入れることができる。その結果、転動速度が遅すぎる遊技球が遊技領域まで至らず、ファール球となることを抑制できる。その結果、遊技が一時的に停止することを抑制できる。

【３１６８】

次いで、図２５４（ｃ）を参照して、第３８実施形態における球発射ユニットＨ３１１１２ａについて説明する。上記第３７実施形態では、凹部Ｈ３０８２１ａ１が転動面に対して下降傾斜しつつ凹設される場合について説明したが、第３８実施形態では、凸部Ｈ３１８２１ａ２が転動面に対して直交する方向に突設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には、同一の符号を付してその詳しい説明は省略する。

【３１６９】

図２５４（ｃ）は、第３８実施形態における球発射ユニットＨ３１１１２ａの正面図である。図２５４（ｃ）に示すように、第３８実施形態における球発射ユニットＨ３１１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ８１０と、そのベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射（打ち出し）可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手段Ｈ３１８２０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０（図１８９参照）と、を主に備える。

【３１７０】

案内手段Ｈ３１８２０は、樹脂材料から形成されベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ

方向側）に配設される第１案内部材Ｈ３１８２１と、金属材料から形成され第１案内部材Ｈ３１８２１の正面側に配設される第２案内部材Ｈ８２２とを主に備え、第１案内部材Ｈ３１８２１と第１膨出部Ｈ８１１との間に当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を挟んだ状態でベース部材Ｈ８１０に配設される。

【３１７１】

第１案内部材Ｈ３１８２１は、ベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に沿って形成される背面部Ｈ３１８２１ａと、その背面部Ｈ３１８２１ａから正面側に向かって立設され遊技球の転動面となる転動部Ｈ８２１ｂと、その転動部Ｈ８２１ｂに連なって形成され第２案内部材Ｈ８２２が正面側に配設される配設部Ｈ８２１ｃ（図１８９参照）と、その配設部Ｈ８２１ｃよりも上方側（矢印Ｕ方向側）から背面部Ｈ８２１ａの正面側に向かって立設され発射位置送球ユニットＨ１７０（図１９０参照）から第２案内部材Ｈ８２２（発射レールＨ１１２ａ１）に送球される遊技球をガイドする上方側ガイド部Ｈ８２１ｄとを主に備える。

【３１７２】

背面部Ｈ３１８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の背面側（矢印Ｂ方向側）の送球面となる部分であり、正面視において発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂの遊技球の転動方向と直交する方向に延設されつつ正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって凸設される凸部Ｈ３１８２１ａ２を備える。

【３１７３】

凸部Ｈ３１８２１ａ２は、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の送球が不安定となる（遊技球が前後方向に暴れる）際に、遊技球を当接させることで遊技球の前後方向の暴れを抑える部分であり、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部の上方に形成される。また、凸部Ｈ３１８２１ａ２は、正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって湾曲状に突出されると共に、その湾曲形状が正面視において遊技球の発射方向と直交する方向に延設される。即ち、発射方向に沿って前後方向に平行な平面で切断した凸部Ｈ３１８２１ａ２の断面は、半円形状に形成される。なお、凸部Ｈ３１８２１ａ２の断面は、半円形状に限られるものではなく、三角形状や、矩形状に形成されるものであっても良い。

【３１７４】

また、凸部Ｈ３１８２１ａ２は、詳細には、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部の上方を起点に発射方向側（即ち、遊技球の発射方向と反対側における転動部Ｈ８２１ｂの端部上方）に形成される。さらに、凸部Ｈ３１８２１ａ２は、転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球の中心よりも若干高い位置に形成され、転動部Ｈ８２１ｂの上部に当接しつつ転動する遊技球が当接しない位置に形成される。

【３１７５】

以上のように形成される凸部Ｈ３１８２１ａ２によれば、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を越える遊技球が発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部に形成された段差に引っ掛かって上方側に弾む場合にその遊技球を凸部Ｈ３１８２１ａ２に当接させることができる。

【３１７６】

これにより、凸部Ｈ３１８２１ａ２に当接する遊技球に作用する反力に発射方向と反対方向に向かう方向成分を付与することができる。よって、転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球の転動速度を弱めて、凸部Ｈ３１８２１ａ２に当接した遊技球（即ち、上方に弾んだ遊技球）を落ち着かせることができる。従って、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を越えて送球される遊技球が上下方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【３１７７】

次いで、図２５５（ａ）及び（ｂ）を参照して、第３９実施形態における球発射ユニットＨ３２１１２ａ及び発射位置送球ユニットＨ３２１７０について説明する。上記第３０実施形態では、背面部Ｈ８２１ａに凹部Ｈ８２１ａ１が形成され、背面側ケースＨ２３８

７０に第２凹部Ｈ２３８２１が形成される場合について説明したが、第３９実施形態では、背面部Ｈ３２８２１ａ及び背面側ケースＨ３２８７０に凸部Ｈ３２８２１ａ２及び第２凸部Ｈ３２８７２が形成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には、同一の符号を付してその詳しい説明は省略する。

【３１７８】

図２５５（ａ）は、第３９実施形態における球発射ユニットＨ３２１１２ａ及び発射位置送球ユニットＨ３２１７０の断面図であり、図１８７のＸ２４ｂ線における断面図と対応し、図２５５（ｂ）は、図２５５（ａ）におけるＭＣＭＬＸＩＸｂ方向視における球発射ユニットＨ３２１１２ａの正面図である。

【３１７９】

図２５５（ａ）及び図２５５（ｂ）に示すように、第３９実施形態における球発射ユニットＨ３２１１２ａは、樹脂材料から形成されるベース部材Ｈ８１０と、そのベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されると共に回転して遊技球を遊技領域に発射（打ち出し）可能な発射手段Ｈ８３０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球を案内する案内手段Ｈ３２８２０と、ベース部材Ｈ８１０の正面側に配設され発射手段Ｈ８３０の回転基端で発射手段Ｈ８３０と当接可能に配設される当接手段Ｈ８４０と、ベース部材Ｈ８１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され発射手段Ｈ８３０が回転する駆動力を発生させる駆動モータＨ８５０（図１８９参照）と、を主に備える。

【３１８０】

案内手段Ｈ３２８２０は、樹脂材料から形成されベース部材Ｈ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第１案内部材Ｈ３２８２１と、金属材料から形成され第１案内部材Ｈ３２８２１の正面側に配設される第２案内部材Ｈ８２２とを主に備え、第１案内部材Ｈ３２８２１と第１膨出部Ｈ８１１との間に当接手段Ｈ８４０の第１弾性部材Ｈ８４１を挟んだ状態でベース部材Ｈ８１０に配設される。

【３１８１】

背面部Ｈ３２８２１ａは、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の背面側（矢印Ｂ方向側）の送球面となる部分であり、正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって凸設される凸部Ｈ３２８２１ａ２を遊技球の発射方向に沿って複数個（第３９実施形態では５個）備える。

【３１８２】

凸部Ｈ３２８２１ａ２は、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の送球が不安定となる（遊技球が前後方向に暴れる）際に、遊技球を当接させることで遊技球の前後方向の暴れを抑える部分であり、正面視において略矩形状に形成されると共に、正面側の端面が遊技球の発射方向に沿って正面側に向かって傾斜して形成される。

【３１８３】

発射位置送球ユニットＨ３２１７０は、正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され正面側開口Ｈ１７１を有する正面側ケースＨ８６０と、その正面側ケースＨ８６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され背面側開口Ｈ１７２を有する背面側ケースＨ３２８７０と、それら正面側ケースＨ８６０および背面側ケースＨ３２８７０の間に配設される送球手段Ｈ８８０とを主に備える。

【３１８４】

背面側ケースＨ３２８７０は、球発射ユニットＨ３２１１２ａの背面部Ｈ３２８２１ａと対面し、発射手段Ｈ８３０による発射経路の正面側（矢印Ｆ方向側）を形成する面が、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向側（矢印Ｌ方向側）に平行に形成されると共に、背面側に向かって突出する第２凸部Ｈ３２８７２を遊技球の発射方向に沿って複数個（第３９実施形態では４個）備える。

【３１８５】

第２凸部Ｈ３２８７２は、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の送球が不安定となる（遊技球が前後方向に暴れる）際に、遊技球を当接させることで遊技球の前後方向の

暴れを抑える部分であり、背面側の端面が遊技球の発射方向に沿って背面側に向かって傾斜して形成される。また、第２凸部Ｈ３２８７２は、背面側ケースＨ３２８７０と対向する背面部Ｈ３２８２１ａに形成される複数の凸部Ｈ３２８２１ａ２と前後方向に重ならない位置に形成され、遊技球の発射方向において凸部Ｈ３２８２１ａ２の間に形成される。

【３１８６】

なお、凸部Ｈ３２８２１ａ２と第２凸部Ｈ３２８７２とは、遊技球の発射方向に沿って遊技球の半径分離れて形成されると共に、正面側または背面側の傾斜面が略２０度傾斜して形成される。また、凸部Ｈ３２８２１ａ２と第２凸部Ｈ３２８７２とは、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球の半径分の高さに位置するように形成され、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球が当接可能とされる。

【３１８７】

以上のように構成される球発射ユニットＨ３２１１２ａ及び発射位置送球ユニットＨ３２１７０によれば、発射手段Ｈ８３０により発射され、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球が前後に暴れる場合に、その遊技球を凸部Ｈ３２８２１ａ２または第２凸部Ｈ３２８７２に当接させることができる。上述したように凸部Ｈ３２８２１ａ２と第２凸部Ｈ３２８７２とは、発射方向に沿って送球路の内側に向かって傾斜して形成される。そのため、凸部Ｈ３２８２１ａ２または第２凸部Ｈ３２８７２に当接する遊技球は、凸部Ｈ３２８２１ａ２または第２凸部Ｈ３２８７２の傾斜面に沿って転動面の前後方向における中央部に寄せられる。従って、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【３１８８】

また、第３９実施形態では、発射方向側における凸部Ｈ３２８２１ａ２の側面および第２凸部Ｈ３２８７２の側面が発射方向と直交する方向（前後方向）に延設される。これにより、遊技球が発射方向と反対側に流下する場合にその遊技球を発射方向側における凸部Ｈ３２８２１ａ２の側面または第２凸部Ｈ３２８７２の側面に当接させて遊技球の流下速度を低下させることができる。

【３１８９】

従って、遊技盤Ｈ１３のレールＨ６１，Ｈ６２に送球された遊技球が遊技領域まで送球されず（戻り球防止部材Ｈ６８を通過せず）外レールＨ６２に沿って球発射ユニットＨ３２１１２ａ側まで逆流（流下）する場合には、その遊技球の流下速度を低下させることができる。これにより、遊技球が発射初期位置まで流下して、その遊技球が発射位置送球ユニットＨ３２１７０から発射レールＨ１１２ａ１上に送球された第２の遊技球（次に発射される遊技球）や発射手段Ｈ８３０に当接した際の衝撃を小さくできる。

【３１９０】

その結果、衝突音を小さくして不具合が起きた際の音が遊技者に聞こえることを抑制できる。また、第２の遊技球（次に発射される遊技球）に当接した際の衝撃を小さくすることで、第２の遊技球が発射初期位置からずれた位置に跳ねることを抑制でき、第２の遊技球の送球が不安定となることを抑制できる。

【３１９１】

また、第３９実施形態では、発射方向において転動部Ｈ８２１ｂを超えた位置に凸部Ｈ３２８２１ａ２と第２凸部Ｈ３２８７２とが配置される。これにより、逆流する遊技球が転動部Ｈ８２１ｂまで流下する前に遊技球の流下速度を低下させることができる。

【３１９２】

ここで、正面視において転動部Ｈ８２１ｂと遊技盤Ｈ１３のレールＨ６１，Ｈ６２の間の下方には、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球のうち遊技領域まで至らなかった球をファール球として受け入れるファール球受口部Ｈ１４６が配設される。

【３１９３】

従って、逆流（流下）する遊技球が転動部Ｈ８２１ｂまで流下する前に遊技球の流下速

度を低下させることで、逆流した遊技球をファール球受口部Ｈ１４６に案内することができる。これにより、逆流する遊技球が発射初期位置（遊技球を発射する送球路）まで流下して、第２の遊技球（次に発射される球）と当接することを抑制できる。その結果、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された遊技球が遊技領域まで至らなかった場合でも、第２の球の送球を安定させることができる。その結果、球の送球が不安定となり遊技が一時的に停止することを抑制できる。

【３１９４】

なお、逆流した遊技球をファール球受口部Ｈ１４６に案内するために凸部Ｈ３２８２１ａ２の発射方向側の側面をファール球受口部Ｈ１４６側に向く（ファール球受口部Ｈ１４６に対向する方向に向く）傾斜面として形成したり、凸部Ｈ３２８２１ａ２の全体を遊技球の発射（送球）方向に対して傾斜する方向に延設しても良い。

【３１９５】

次いで、図２５５（ｃ）を参照して、第４０実施形態における凸部Ｈ３３８２１ａ２について説明する。上記第３９実施形態では、凸部Ｈ３２８２１ａ２が正面視略矩形に形成される場合について説明したが、第４０実施形態では、凸部Ｈ３３８２１ａ２が正面視略三角形状に形成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には、同一の符号を付してその詳しい説明は省略する。

【３１９６】

図２５５（ｃ）は、第４０実施形態における球発射ユニットＨ３３１１２ａの正面図であり、図２５５（ａ）のＭＣＭＬＸＩＸｂ方向視における正面図と対応する。なお、第４０実施形態では、第３９実施形態における球発射ユニットＨ３２１１２ａの凸部Ｈ３２８２１ａ２の形状が異なるだけであるので、その他の詳しい説明は省略する。

【３１９７】

第４０実施形態における凸部Ｈ３３８２１ａ２は、正面視において略三角形状に形成され、そのうちの第１辺Ｈ３３８２１ａ３が転動面と平行に形成されると共に、第２辺Ｈ３３８２１ａ４が第１辺Ｈ３３８２１ａ３の発射方向側の端部から転動面（転動部Ｈ８２１ｂ）に向かって発射方向と直交する方向に延設され、残りの第３辺Ｈ３３８２１ａ５がそれら２辺の端部同士を連結する方向に延設され、発射方向に沿って下降傾斜する形状とされる。

【３１９８】

また、第１辺Ｈ３３８２１ａ３が、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球の中心よりも転動面から離れる位置に形成されると共に、第２辺Ｈ３３８２１ａ４の下端（転動部Ｈ８２１ｂ側の端部）が発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球の中心よりも転動面に近い位置に形成される。さらに、凸部Ｈ３３８２１ａ２は、正面側の端面が遊技球の発射方向に沿って正面側に向かって傾斜して形成される。

【３１９９】

以上のように形成される凸部Ｈ３３８２１ａ２よれば、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球が前後に暴れて凸部Ｈ３３８２１ａ２に当接した場合に、その遊技球を正面側の傾斜面により転動面の前後方向における中央部に寄せられる。従って、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【３２００】

また、第４０実施形態における凸部Ｈ３３８２１ａ２によれば、第１辺Ｈ３３８２１ａ３が、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球の中心よりも転動面から離れる位置に形成されると共に、第２辺Ｈ３３８２１ａ４の下端（転動部Ｈ８２１ｂ側の端部）が発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球の中心よりも転動面に近い位置に形成されるので、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球が上下に暴れて（上方に跳ねて）凸部Ｈ３３８２１ａ２に当接した場合

に、その遊技球を下方側に向けて送球することができる。よって、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が上下方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【３２０１】

なお、遊技盤Ｈ１３のレールＨ６１，Ｈ６２に送球された遊技球が遊技領域まで送球されず（戻り球防止部材Ｈ６８を通過せず）外レールＨ６２に沿って球発射ユニットＨ３３１１２ａ側まで逆流（流下）する場合については、第３９実施形態における凸部Ｈ３３８２１ａ２と同様であるので、その詳しい説明については省略する。

【３２０２】

また、第４０実施形態においては、球発射ユニットＨ３３１１２ａの正面側に配設される発射位置送球ユニットＨ３２１７０の第２凸部Ｈ３２８７２が、凸部Ｈ３３８２１ａ２を前後方向に反転した形状に形成され、凸部Ｈ３３８２１ａ２と同様に、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向および上下方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【３２０３】

さらに、第４０実施形態では、凸部Ｈ３３８２１ａ２が正面視において略三角形状に形成される場合について説明したが、凸部Ｈ３３８２１ａ２が正面視において四角形状に形成され、そのうちの一片が転動面に対して傾斜する方向に形成されても良い。この場合も同様に、凸部Ｈ３３８２１ａ２に当接する遊技球を転動面の中央部に寄せることができる。

【３２０４】

次いで、図２５５（ｄ）を参照して、第４１実施形態における凸部Ｈ３４８２１ａ２について説明する。上記第３９実施形態では、凸部Ｈ３２８２１ａ２が発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂから離間して形成される場合について説明したが、第４１実施形態では、凸部Ｈ３４８２１ａ２が発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂに連続して形成される。

【３２０５】

図２５５（ｄ）は、第４１実施形態における球発射ユニットＨ３４１１２ａの正面図であり、図２５５（ａ）のＭＣＭＬＸＩＸｂ方向視における正面図と対応する。なお、第４１実施形態では、第３９実施形態における球発射ユニットＨ３２１１２ａの凸部Ｈ３２８２１ａ２の形状が異なるだけであるので、その他の詳しい説明は省略する。

【３２０６】

第４１実施形態における凸部Ｈ３４８２１ａ２は、正面視において発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂと連なる（隣り合う）位置から発射方向と直交する方向に延設され、上方側が発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球よりも高い位置に設定される（即ち、送球経路の上下方向全域に亘って延設される）。また、凸部Ｈ３４８２１ａ２は、断面が略三角形状に形成され、正面側の端面が遊技球の発射方向に沿って正面側に向かって傾斜して形成される。

【３２０７】

以上のように形成される凸部Ｈ３４８２１ａ２よれば、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球が前後に暴れて凸部Ｈ３３８２１ａ２に当接した場合に、その遊技球を正面側の傾斜面により転動面の前後方向における中央部に寄せられる。従って、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【３２０８】

また、第４１実施形態における凸部Ｈ３４８２１ａ２によれば、送球経路の上下方向全域に亘って延設されるので、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動する遊技球が上下に暴れる（上方に跳ねる）場合でも凸部Ｈ３４８２１ａ２に当接させることが

できる。即ち、前後に暴れる遊技球が凸部Ｈ３４８２１ａ２に当接せずに送球されることを抑制できる。よって、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が上下方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【３２０９】

なお、遊技盤Ｈ１３のレールＨ６１，Ｈ６２に送球された遊技球が遊技領域まで送球されず（戻り球防止部材Ｈ６８を通過せず）外レールＨ６２に沿って球発射ユニットＨ３４１１２ａ側まで逆流（流下）する場合については、第３９実施形態における凸部Ｈ３３８２１ａ２と同様であるので、その詳しい説明については省略する。

【３２１０】

また、第４１実施形態においては、球発射ユニットＨ３４１１２ａの正面側に配設される発射位置送球ユニットＨ３２１７０の第２凸部Ｈ３２８７２が、凸部Ｈ３３８２１ａ２を前後方向に反転した形状に形成され、凸部Ｈ３４８２１ａ２と同様に、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向および上下方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【３２１１】

さらに、上記第４１実施形態では、凸部Ｈ３４８２１ａ２の断面が略三角形状に形成される場合について説明したが、凸部Ｈ３４８２１ａ２の断面形状が半円形に形成されるものであっても良い。この場合も同様に、凸部Ｈ３４８２１ａ２に当接する遊技球を転動面の中央部に寄せることができる。

【３２１２】

次いで、図２５６を参照して、第４２実施形態における上側装飾ユニットＨ３５０１４ａについて説明する。上記第２３実施形態では、球抜きレバーＨ１６０５２が操作された場合に上側装飾ユニットＨ１６０１４ａから基板ユニットＨ１６３４４が張り出される場合について説明したが、第４２実施形態では、シリンダ錠Ｈ２０の開錠操作により上側装飾ユニットＨ１６０１４ａから基板ユニットＨ１６３４４が張り出される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【３２１３】

図２５６（ａ）及び（ｂ）は、第４２実施形態における正面枠Ｈ３５０１４の正面模式図である。なお、図２５６（ａ）では、基板ユニットＨ１６３４４が上側装飾ユニットＨ３５０１４ａの内側に退避した退避状態が図示され、図２５６（ｂ）では、基板ユニットＨ１６３４４が上側装飾ユニットＨ３５０１４ａから張り出した張出状態が図示される。なお、図２５６（ａ）及び（ｂ）では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【３２１４】

図２５６に示すように、第４２実施形態における正面枠Ｈ３５０１４は、金属板によって縦長の矩形枠状に形成される本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）と、その本体枠Ｈ１４ｄに配設され、その本体枠Ｈ１４ｄの上方側（矢印Ｕ方向側）の正面に配設される上側装飾ユニットＨ３５０１４ａと、その上側装飾ユニットＨ３５０１４ａの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側から下方（矢印Ｄ方向側）に向けて延設される左側装飾ユニットＨ１４ｂ及び右側装飾ユニットＨ１４ｃと、本体枠Ｈ１４ｄの下方側の正面を覆う上下皿ユニットＨ１５と、本体枠Ｈ１４ｄを介して上下皿ユニットＨ１５の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０（図１２６参照）と、その通路形成ユニットＨ１４０の背面側に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０（図１２６参照）とを主に備えて構成され、内枠Ｈ１２（図１２５参照）に回動可能に取り付けられている。

【３２１５】

なお、正面枠Ｈ３５０１４には、内枠Ｈ１２（図１２３参照）に配設される際に内枠Ｈ１２の係合片Ｈ１２ｆ（図１２３参照）が係合可能な開口（図示しない）が本体枠Ｈ１４

ｄ（図１２６参照）に形成される。正面枠Ｈ３５０１４と内枠Ｈ１２とは、係合片Ｈ１２ｆが係合されることで、内枠Ｈ１２に対する正面枠Ｈ３５０１４の開放が規制される。なお、係合片Ｈ１２ｆの係合の解除は、シリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行い係合片Ｈ１２ｆを持ち上げることで解除される。

【３２１６】

第４２実施形態における上側装飾ユニットＨ３５０１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０（図１２９参照）と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ１６３２０とを主に備える。

【３２１７】

化粧ユニットＨ１６３２０は、背面側（矢印Ｂ方向側）が開放される箱状に形成される装飾ユニットＨ３３０と、その装飾ユニットＨ３３０の内側に配設される発光ユニットＨ１６３４０（図２４２参照）及び一対の音伝達ユニットＨ３５０（図１３１参照）とを主に備える。

【３２１８】

発光ユニットＨ１６３４０は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に締結固定される取付部材Ｈ３４１と、その取付部材Ｈ３４１の背面側に上下方向に変位可能な状態で配設される基板ユニットＨ１６３４４と、その基板ユニットＨ１６３４４及び取付部材Ｈ３４１との背面側を覆う覆設部材Ｈ３４３とを主に備える。

【３２１９】

基板ユニットＨ１６３４４は、光を出射するＬＥＤ（発光ダイオード）Ｈ３４２ａが正面側（矢印Ｆ方向側）に複数個配設される基板部材Ｈ３４２と、その基板部材Ｈ３４２の正面側を覆う正面カバーＨ１６３４５と、基板部材Ｈ３４２の背面側を覆う背面カバーＨ１６３４６と、その背面カバーＨ１６３４６の背面側に連結される伝達部材Ｈ１６３４７とを主に備える。

【３２２０】

なお、第４２実施形態における伝達部材Ｈ１６３４７には、金属性の連結部材Ｈ３５３４７が連結され、その反対側の端部が係合片Ｈ１２ｆの上方に当接した状態で配設される。従って、係合片Ｈ１２ｆが上方に変位される（即ち、シリンダ錠Ｈ２０が開錠される）ことに伴って伝達部材Ｈ１６３４７を上方に変位可能とされる。

【３２２１】

また、上側装飾ユニットＨ３５０１４ａの上面板Ｈ３３２には、伝達部材Ｈ１６３４７が上方に変位した場合に、伝達部材Ｈ１６３４７の下面と係合して、伝達部材Ｈ１６３４７を支持可能な係合片Ｈ３５３３１ｃが配設される。これにより、伝達部材Ｈ１６３４７が上方に変位され、基板ユニットＨ１６３４４が上方に張り出した状態で基板ユニットＨ１６３４４をその張り出した位置に維持することができる。なお、係合片Ｈ３５３３１ｃの動作態様については、上記第２２実施形態における係合片Ｈ１５５４３と同様であるので、その詳しい説明は省略する。

【３２２２】

以上のように構成される第４２実施形態における正面枠Ｈ３５０１４によれば、正面枠Ｈ３５０１４を内枠Ｈ１２から開放する際に基板ユニットＨ１６３４４を上方から突出させることができるので、正面枠Ｈ３５０１４（上側装飾ユニットＨ３５０１４ａ）の上部に物が乗っていた場合に、正面枠Ｈ３５０１４を内枠Ｈ１２から開放する前に正面枠Ｈ３５０１４（上側装飾ユニットＨ３５０１４ａ）の上部に乗せられたものを移動させる（落とす）ことができる。

【３２２３】

これにより、パチンコ店において正面枠Ｈ３５０１４を内枠Ｈ１２（図１２３参照）から開放する際に、正面枠Ｈ３５０１４（上側装飾ユニットＨ３５０１４ａ）の上部に物が乗せられていることを作業者に認識させることができる。従って、正面枠Ｈ３５０１４を内枠Ｈ１２から開放した際に、物が遊技領域内に落下することを抑制でき、遊技領域内に

物が落下することでパチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）が破損する（特に飲料等の液体が流入して電気的な制御基板に不具合が起こる）ことを抑制できる。

【３２２４】

また、内枠Ｈ１２（図１２３参照）から正面枠Ｈ３５０１４を開放する際に基板ユニットＨ１６３４４を張り出させ、その張出状態を係合片Ｈ３５３３１ｃにより維持することができるので、パチンコ店にて正面枠Ｈ３５０１４を内枠Ｈ１２から取り外して床面に仮置きする場合に、内枠Ｈ１２から正面枠Ｈ３５０１４を取り外した際に基板ユニットＨ１６３４４を張り出した状態にさせやすくできる。これにより、内枠Ｈ１２から正面枠Ｈ３５０１４を取り外した後で、基板ユニットＨ１６３４４を上側装飾ユニットＨ３５０１４ａから張り出す作業を不要とできる。その結果、内枠Ｈ１２から正面枠Ｈ３５０１４を取り外した際に正面枠Ｈ３５０１４をすぐに仮置きさせることができ、正面枠Ｈ３５０１４を内枠Ｈ１２から取り外す作業を簡易にできる。

【３２２５】

上記第４２実施形態では、係合片Ｈ３５３３１ｃを正面枠Ｈ３５０１４の外方から操作可能に構成する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、係合片Ｈ３５３３１ｃの操作部分を上側装飾ユニットＨ３５０１４ａの内部に配置して、遊技者の操作を不能としパチンコ店の作業者（店員）のみが操作可能としても良い。

【３２２６】

この場合、正面枠Ｈ３５０１４が内枠Ｈ１２（図１２３参照）に対して不正に開放された場合に、基板ユニットＨ１６３４４を上側装飾ユニットＨ３５０１４ａから張り出させることができるので、パチンコ店の作業者（店員）に不正に開放され不正がされた可能性があることを認識させやすくできる。その結果、遊技者の不正を抑制しやすくできる。

【３２２７】

次いで、図２５７を参照して、第４３実施形態における内枠Ｈ３６０１２について説明する。上記第２２実施形態では、球抜きレバーＨ１６０５２が操作された場合に上側装飾ユニットＨ１６０１４ａから基板ユニットＨ１６３４４が張り出される場合について説明したが、第４３実施形態では、ケースレールＨ１３２の遊技球の送球が停止された場合にタンクＨ３６１３０の内方から張出部材Ｈ３６１３０ａが張り出される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【３２２８】

図２５７（ａ）及び（ｂ）は、第４３実施形態における内枠Ｈ１２の背面模式図である。なお、図２５７（ａ）では、タンクＨ３６１３０の内方に張出部材Ｈ３６１３０ａが退避した退避状態が図示され、図２５７（ｂ）では、タンクＨ３６１３０の内方から張出部材Ｈ３６１３０ａが張り出された状態が図示される。なお、図２５７（ａ）及び（ｂ）では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【３２２９】

図２５７に示すように、第４３実施形態における内枠Ｈ３６０１２は、外枠Ｈ１１（図１２１参照）と外形がほぼ同一の長方形状に形成される枠形成ユニットＨ１２ａと、その枠形成ユニットＨ１２ａ（図１２０参照）の背面側（矢印Ｂ方向側）に回動可能に支持される裏パックユニットＨ９４とを主に備えて形成され、裏パックユニットＨ９４が正面視で左側（矢印Ｌ方向側）を回動基端側（開閉基端側）とし、右側（矢印Ｒ方向側）を回動先端側（開閉先端側）として後方へ回動可能とされている（図１２２参照）。

【３２３０】

また、内枠Ｈ３６０１２の背面側には、裏パックユニットＨ９４の最上部に位置して上方に開口したタンクＨ３６１３０と、そのタンクＨ３６１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレールＨ１３１と、タンクレールＨ１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレールＨ１３２と、ケースレールＨ１３２の最下流部に設けられ、払出モータＨ２１６（図１２８参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置Ｈ１３３（図１２５参照）とを備えている。

【３２３１】

タンクＨ３６１３０には、遊技ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置Ｈ１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。また、タンクＨ３６１３０は、その内縁部に沿って形成される略枠状の張出部材Ｈ３６１３０ａがタンクＨ３６１３０の内縁に沿って上下方向に変位可能に配設される。

【３２３２】

また、張出部材Ｈ３６１３０ａには、駆動力が伝達される伝達部Ｈ３６１３０ａ１が連結され、その伝達部Ｈ３６１３０ａ１がタンクＨ３６１３０の下面の一部に形成された開口（図示しない）を介してタンクＨ３６１３０の下方側に突出される。

【３２３３】

伝達部Ｈ３６１３０ａ１は、後述する連結部材Ｈ３６１３２ｂの一端に連結されるスライド板Ｈ３６１３２ｃの傾斜面に下面が当接されスライド板Ｈ３６１３２ｃに支持され、スライド板Ｈ３６１３２ｃがスライド変位されることで、傾斜面によって上方側にスライド変位可能とされる。

【３２３４】

ケースレールＨ１３２は、パチンコ機Ｈ１０のメンテナンス時などに送球を停止する送球停止レバーＨ１３２ａを備え、変位可能に構成される送球停止レバーＨ１３２ａをケースレールＨ１３２の送球経路内に変位させることで、遊技球の送球を一時的に停止可能に構成される。

【３２３５】

第４３実施形態における送球停止レバーＨ１３２ａには、反対側にスライド板Ｈ３６１３２ｃが配設された連結部材Ｈ３６１３２ｂが連結される。よって、送球停止レバーＨ１３２ａが操作され、送球が停止された場合にスライド板Ｈ３６１３２ｃをスライド変位させることができる。

【３２３６】

この場合、上記したように、スライド板Ｈ３６１３２ｃのスライド変位により張出部材Ｈ３６１３０ａの伝達部Ｈ３６１３０ａ１が上方に変位可能とされる。よって、第４３実施形態では、ケースレールＨ１３２の遊技球の送球を送球停止レバーＨ１３２ａにより停止した場合に、張出部材Ｈ３６１３０ａをタンクＨ３６１３０から張り出させることができる。

【３２３７】

このタンクＨ３６１３０からの張出部材Ｈ３６１３０ａの張出変位により、タンクＨ３６１３０の貯留空間を大きくすることができる。従って、ケースレールＨ１３２を送球を停止した後で、遊技ホールの島設備からタンクＨ３６１３０に遊技球が供給され続けた場合に、タンクＨ３６１３０の遊技球が溢れることを抑制できる。

【３２３８】

また、タンクＨ３６１３０の張出部材Ｈ３６１３０ａにより高くすることができるので、遊技ホールの島設備からタンクＨ３６１３０に遊技球が供給された際に、遊技球がタンクＨ３６１３０の外方に飛び出ることを張出部材Ｈ３６１３０ａにより規制できる。

【３２３９】

なお、遊技球がタンクＨ３６１３０に貯留された状態からケースレールＨ１３２の送球を許容した場合には、その送球に伴ってタンクＨ３６１３０に貯留された遊技球を送球させることができる。これにより、タンクＨ３６１３０に遊技球が貯留された状態から張出部材Ｈ３６１３０ａをタンクＨ３６１３０の内側に退避した場合に遊技球がタンクＨ３６１３０から溢れることを抑制できる。

【３２４０】

また、第４３実施形態では、張出部材Ｈ３６１３０ａの上方側への張出し距離は、内枠Ｈ３６０１２が配設される外枠Ｈ１１（図１２１参照）の外形よりも先端が外側へ突出させる。これにより、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ３６０１２を開放してメンテナンスのためケースレールＨ１３２の送球を送球停止レバーＨ１３２ａにより停止した場合に、送球停止レバーＨ１３２ａを戻し忘れて内枠Ｈ３６０１２が閉鎖されることを抑制できる。

【３２４１】
即ち、送球停止レバーＨ１３２ａによりケースレールＨ１３２の送球を停止した状態では、外枠Ｈ１１に対する内枠Ｈ１２の閉鎖が張出部材Ｈ３６１３０ａにより規制される。その結果、遊技ができない（遊技球が送球されない）状態で、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２が閉鎖され遊技可能な状態として放置される（遊技者が遊技を開始可能な状態とされる）ことを抑制できる。
【３２４２】
次いで、図２５８を参照して、第４４実施形態における上側装飾ユニットＨ３７０１４ａについて説明する。上記第１６実施形態では、上面板Ｈ９３３２の正面側縁部に沿って配設した網部材Ｈ９３３２ｅの開口を介して第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する（網部材Ｈ９３３２ｅの開口を介して第１連通路Ｈ３００Ｃと外部空間とを連通する）場合について説明したが、第１７実施形態では、開口が非形成の板部材Ｈ３７３３２ｈを上面板Ｈ９３３に備える場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【３２４３】
図２５８（ａ）は、第４４実施形態における上側装飾ユニットＨ３７０１４ａの断面模式図であり、図２３２（ａ）のＸ３２ａ線における断面に対応し、図２５８（ｂ）は、上側装飾ユニットＨ３７０１４ａの断面模式図であり、図２３２（ｂ）のＸ３２ｂ線における断面に対応する。なお、図２５８（ａ）では、第１連通路Ｈ３００Ｃが上面板Ｈ３７３３２により閉鎖された状態が図示され、Ｎ１４（ｂ）では、第１連通路Ｈ３００Ｃが上面板Ｈ３７３３２により開放された状態が図示される。また、図２５８では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。
【３２４４】
図２５８に示すように、第４４実施形態における上側装飾ユニットＨ３７０１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ３７３２０とを主に備える。
【３２４５】
化粧ユニットＨ３７３２０は、第８実施形態における装飾ユニットＨ３３０（図１３０参照）のように背面側（矢印Ｂ方向側）が開放した箱状に形成される装飾ユニットＨ３７３３０と、その装飾ユニットＨ３７３３０の内側に配設される発光ユニットＨ３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０（図１３０参照）とを主に備えて形成される。
【３２４６】
装飾ユニットＨ３７３３０は、ベースユニットＨ３１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔（上面板Ｈ３７３３２、下面板Ｈ３３３、左面板Ｈ９３３４（図２３２参照）及び右面板Ｈ９３３６（図２３２参照）を配設するための間隔）を隔てて配設される正面板Ｈ３３１と、その正面板Ｈ３３１の上方側（矢印Ｕ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される上面板Ｈ３７３３２と、正面板Ｈ３３１の下方側（矢印Ｄ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される下面板Ｈ３３３と、正面板Ｈ３３１の左側（矢印Ｌ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設され、上面板Ｈ３７３３２及び下面板Ｈ３３３の左側（矢印Ｌ方向側）端部を連結する左面板Ｈ９３３４（図２３２参照）と、正面板Ｈ３３１の右側（矢印Ｒ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側に隣り合う位置に配設され、上面板Ｈ３７３３２及び下面板Ｈ３３３の右側（矢印Ｒ方向側）端部を連結する右面板Ｈ９３３６（図２３２参照）と、上面板Ｈ３７３３２を変位させる駆動力を付与する駆動ユニットＨ９３３７とを主に備える。
【３２４７】
上面板Ｈ３７３３２、下面板Ｈ３３３、左面板Ｈ９３３４、及び、右面板Ｈ９３３６は

、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に、発光ユニットＨ３４０及び音伝達ユニットＨ３５０（図１３０参照）を配設するための空間を形成（区画）するための部材であり、正面板Ｈ３３１の縁部に沿う形状に形成されると共に、上面板Ｈ３７３３２及び下面板Ｈ３３３の両端がそれぞれ左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６（図２３２参照）により連結される。

【３２４８】

上面板Ｈ３７３３２は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端部に下方側に向かって延設される側面板Ｈ９３３２ｄと、それら一対の側面板Ｈ９３３２ｄの対向間に配設される板部材Ｈ３７３３２ｈと、背面側（矢印Ｂ方向側）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両外側から円柱状に突出される軸部Ｈ９３３２ｆとを主に備える。

【３２４９】

なお、第４４実施形態における上面板Ｈ３７３３２には、第８実施形態における上面板Ｈ３３２の正面側凸部Ｈ３３２ａ、背面側凸部Ｈ３３２ｂ、及び、締結部Ｈ３３２ｃが非形成とされる。これにより、第４４実施形態では、上面板Ｈ３７３３２を正面板Ｈ３３１に対して回転させることが可能となる。

【３２５０】

板部材Ｈ３７３３２ｈは、上面板Ｈ３７３３２を回転させた際に上側装飾ユニットＨ３７０１４ａ（側面板Ｈ９３３２ｄの対向間の空間Ｈ９３３２ｄ２）に不正な部材が挿入されることを抑制する部材であり、第１連通路Ｈ３００Ｃの背面側（矢印Ｂ方向側）の内壁（内面）に沿う位置に形成される。また、板部材Ｈ３７３３２ｈは、一対の側面板Ｈ９３３２ｄの正面側端部どうしを繋いで形成される。

【３２５１】

なお、第４４実施形態では、上面板Ｈ３７３３２の下面から板部材Ｈ３７３３２ｈが突出され、上面板Ｈ３７３３２と一体の樹脂材料で板部材Ｈ３７３３２ｈが形成されるが、板部材Ｈ３７３３２ｈを上面板Ｈ３７３３２と別体の樹脂材料で形成しても良い。この場合には、上面板Ｈ３７３３２に対する板部材Ｈ３７３３２ｈの取付位置に若干の調整幅を持たせることが好ましい。これによれば、第１連通路Ｈ３００Ｃの形成位置が製造誤差等によりずれたとしても上面板Ｈ３７３３２の取付位置を調整することが可能となり、側面板Ｈ９３３２ｄの対向間の空間Ｈ９３３２ｄ２に隙間ができることを抑制できる。

【３２５２】

次いで、第４４実施形態における上面板Ｈ３７３３２の変位について説明する。なお、ソレノイドＨ９３３７ａの駆動により上面板Ｈ３７３３２が軸部Ｈ９３３２ｆを中心に回転する変位については、第１６実施形態に上面板Ｈ９３３２と同一であるので、その変位についての詳しい説明は省略する。

【３２５３】

図２５８（ａ）に示すように、第１連通路Ｈ３００Ｃの上部に沿って上面板Ｈ３７３３２が配設され、第１連通路Ｈ３００Ｃを上面板Ｈ３７３３２の下面が塞ぐ状態では、第１連通路Ｈ３００Ｃの背面側の内面に沿って板部材Ｈ３７３３２ｈが配設される。

【３２５４】

この状態から図２５８（ｂ）に示すように、上面板Ｈ３７３３２が軸部Ｈ９３３２ｆを中心に上方側に回転された状態では、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側と上面板Ｈ３７３３２との間に空間が形成される。これにより、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する（第１連通路Ｈ３００Ｃと外部空間とを連通する）ことができる。

【３２５５】

一方、上面板Ｈ３７３３２の板部材Ｈ３７３３２ｈは、区画壁Ｈ３４３ｂの上端と板部材Ｈ３７３３２ｈの下端とが前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に隣り合う位置に配置され、一対の側面板Ｈ９３３２ｄの対向間に形成される空間Ｈ９３３２ｄ２と外部空間とが非連通とされる。これにより、上面板Ｈ３７３３２を回転させた際に上側装飾ユニットＨ３７０１４ａ（側面板Ｈ９３３２ｄの対向間の空間Ｈ９３３２ｄ２）に不正な部材が挿入されることを抑制できる。

【３２５６】
　また、板部材Ｈ３７３３２ｈは、第１連通路Ｈ３００Ｃの背面側の側面と連なって位置する（一対の側面板Ｈ９３３２ｄの対向間に形成される空間Ｈ９３３２ｄ２と外部空間とが板部材Ｈ３７３３２ｈにより非連通とされる）ので、第１連通路Ｈ３００Ｃに放音される音が空間Ｈ９３３２ｄ２側に回り込むことを抑制できる。これにより、第８実施形態における上面板Ｈ９３３２に比べて第１連通路Ｈ３００Ｃから外部空間に効率的に音を放音することができる。その結果、音による演出効果を高めることができる。
【３２５７】
　なお、第４４実施形態における上面板Ｈ３７３３２の変位タイミングについては、第１６実施形態と同様であるので、その詳しい説明は省略する。
【３２５８】
　次いで、図２５９を参照して、第４５実施形態における上側装飾ユニットＨ３８０１４ａについて説明する。上記第４４実施形態では、上側装飾ユニットＨ３７０１４ａの上部に樹脂の板部材から形成される上面板Ｈ３７３３２が配設される場合について説明したが、第４５実施形態では、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの上部に発光手段を有する光照射ユニットＨ３８３３６が配設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【３２５９】
　図２５９（ａ）は、第４５実施形態における上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの断面模式図であり、図２３２（ａ）のＸ３２ａ線における断面に対応し、図２５９（ｂ）は、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの断面模式図であり、図２３２（ｂ）のＸ３２ｂ線における断面に対応する。なお、図２５９（ａ）では、第１連通路Ｈ３００Ｃが発光ユニットＨ３７３３６により閉鎖された状態が図示され、Ｎ１６（ｂ）では、第１連通路Ｈ３００Ｃが光照射ユニットＨ３８３３６の変位により開放された状態が図示される。また、図２５９では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。
【３２６０】
　図２５９に示すように、第４５実施形態における上側装飾ユニットＨ３８０１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ３８３２０とを主に備える。
【３２６１】
　化粧ユニットＨ３８３２０は、第８実施形態における装飾ユニットＨ３３０（図１３０参照）のように背面側（矢印Ｂ方向側）が開放した箱状に形成される装飾ユニットＨ３８３３０と、その装飾ユニットＨ３８３３０の内側に配設される発光ユニットＨ３８３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０（図１３０参照）とを主に備えて形成される。
【３２６２】
　装飾ユニットＨ３８３３０は、ベースユニットＨ３１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔（光照射ユニットＨ３８３３６、下面板Ｈ３３３、左面板Ｈ９３３４（図２３２参照）及び右面板Ｈ９３３６（図２３２参照）を配設するための間隔）を隔てて配設される正面板Ｈ３３１と、その正面板Ｈ３３１の上方側（矢印Ｕ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される光照射ユニットＨ３８３３６と、正面板Ｈ３３１の下方側（矢印Ｄ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される下面板Ｈ３３３と、正面板Ｈ３３１の左側（矢印Ｌ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設され、光照射ユニットＨ３８３３６及び下面板Ｈ３３３の左側（矢印Ｌ方向側）端部を連結する左面板Ｈ９３３４（図２３２参照）と、正面板Ｈ３３１の右側（矢印Ｒ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側に隣り合う位置に配設され、光照射ユニットＨ３８３３６及び下面板Ｈ３３３の右側（矢印Ｒ方向側）端部を連結する右面板Ｈ９３３６（図２３２参照）と、光照射ユニットＨ３８３３６を

変位させる駆動力を付与する駆動ユニットＨ９３３７とを主に備える。
【３２６３】
光照射ユニットＨ３８３３６、左面板Ｈ９３３４、及び、右面板Ｈ９３３６は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に、発光ユニットＨ３４０及び音伝達ユニットＨ３５０を配設するための空間を形成（区画）するための部材であり、正面板Ｈ３３１の縁部に沿う形状に形成されると共に、光照射ユニットＨ３８３３６及び下面板Ｈ３３３の両端がそれぞれ左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６により連結される。
【３２６４】
光照射ユニットＨ３８３３６は、ＬＥＤ（発光ダイオード）Ｈ３８３３６ａ１を有し光を発光可能に構成される基板部材Ｈ３８３３６ａと、その基板部材Ｈ３８３３６ａの発光側に配設される第１ケース部材Ｈ３８３３６ｂと、基板部材Ｈ３８３３６ａを第１ケース部材Ｈ３８３３６ｂとの間に挟む態様で配設される第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃとを主に備える。
【３２６５】
第１ケース部材Ｈ３８３３６ｂは、基板部材Ｈ３８３３６ａに配設した基板部材Ｈ３８３３６ａのＬＥＤＨ３８３３６ａ１から出射される光を透過可能な樹脂材料から形成される。これにより、基板部材Ｈ３８３３６ａから出射される光を第１ケース部材Ｈ３８３３６ｂ側から出射可能とされる。
【３２６６】
なお、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１の光の照射方向は、基板部材Ｈ３８３３６ａの配設面と直交する方向に設定されており、第４５実施形態においては、光照射ユニットＨ３８３５６が第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を覆設する状態（図２５９（ａ）に示す状態）の場合に、下方側（矢印Ｄ方向側）に向けて設定されており、光照射ユニットＨ３８３５６が第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する状態（図２５９（ｂ）に示す状態）の場合に、下方側から若干前方側（矢印Ｆ方向側）に傾いた方向に向けて設定される。
【３２６７】
第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃは、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの上方を覆う板部材であり、第１ケース部材Ｈ３８３３６ｂ及び基板部材Ｈ３８３３６ａよりも上面視における外形が大きく形成される。また、第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端部に下方側に向かって延設される側面板Ｈ９３３２ｄと、それら一対の側面板Ｈ９３３２ｄの対向間に配設される板部材Ｈ３７３３２ｈと、背面側（矢印Ｂ方向側）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両外側から円柱状に突出される軸部Ｈ９３３２ｆとを主に備える。
【３２６８】
なお、第４５実施形態における第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃには、第８実施形態における上面板Ｈ３３２の正面側凸部Ｈ３３２ａ、背面側凸部Ｈ３３２ｂ、及び、締結部Ｈ３３２ｃが非形成とされる。これにより、第３８施形態では、光照射ユニットＨ３８３３６を正面板Ｈ３３１に対して回転させることが可能となる。
【３２６９】
また、第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃには、下面から板部材Ｈ３７３３２ｈが突出され、第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃと一体の樹脂材料で板部材Ｈ３７３３２ｈが形成される。なお、第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃと板部材Ｈ３７３３２ｈとを別体の樹脂材料から形成しても良い。
【３２７０】
発光ユニットＨ３８３４０は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に締結固定される取付部材Ｈ３４１と、その取付部材Ｈ３４１の背面側を覆う覆設部材Ｈ３８３４３とを主に備える。
【３２７１】
覆設部材Ｈ３８３４３は、正面視において取付部材Ｈ３４１と略同一の形状に形成され、背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子により取付部材Ｈ３４１に締結される。ま

た、覆設部材Ｈ３８３４３は、正面視における中央部が背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって膨出し、正面側（矢印Ｆ方向側）の中央部が開口する箱状に形成される。
【３２７２】
　また、覆設部材Ｈ３８３４３は、光を非透過であって光の反射率の高い白色の樹脂材料から形成されると共に、下方側（矢印Ｄ方向側）の内面が背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって上方側（矢印Ｕ方向側）に傾斜して形成される。これにより、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１から照射される光を反射して正面板Ｈ３３１側に照射可能とされる。
【３２７３】
　さらに、覆設部材Ｈ３８３４３は、正面視における上方側（矢印Ｕ方向側）の側面から上方に向かって立設される区画壁Ｈ３４３ｂと、光照射ユニットＨ３８３３６の閉鎖時においてＬＥＤＨ３８３３６ａ１と対向する位置に開口される上方側開口部Ｈ３８３４３ｃ及び下方側開口部Ｈ３８３４３ｄとを備え、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａを組み立てた際に（第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を光照射ユニットＨ３８３３６で塞いだ（覆設した）状態では）区画壁Ｈ３４３ｂの先端部が光照射ユニットＨ３８３３６の第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃに当接される。
【３２７４】
　上方側開口部Ｈ３８３４３ｃは、主に第１連通路Ｈ３００Ｃを覆設した状態における光照射ユニットＨ３８３３６のＬＥＤＨ３８３３６ａ１と対向する位置に形成されており、これにより、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１から照射された光を覆設部材Ｈ３８３４３の内部に照射可能とされる。
【３２７５】
　下方側開口部Ｈ３８３４３ｄは、上方側開口部Ｈ３８３４３ｃと同様に第１連通路Ｈ３００Ｃを覆設した状態おける光照射ユニットＨ３８３３６のＬＥＤＨ３８３３６ａ１と対向する位置に形成されており、これにより、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１から照射された光を下面板Ｈ３３３に照射可能とされる。
【３２７６】
　よって、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を光照射ユニットＨ３８３３６により覆設した状態において、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１から照射される光を上方側開口部Ｈ３８３４３ｃ及び下方側開口部Ｈ３８３４３ｄを通して下面板Ｈ３３３に照射することができる。なお、第４５実施形態では、下面板Ｈ３３３が光透過性の樹脂材料から形成される。これにより、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を光照射ユニットＨ３８３３６により覆設した状態において、下面板Ｈ３３３の一部（上方側開口部Ｈ３８３４３ｃ及び下方側開口部Ｈ３８３４３ｄと対応する位置）から出射することができる。
【３２７７】
　なお、上方側開口部Ｈ３８３４３ｃは、下方側開口部Ｈ３８３４３ｄに比べて、正面側に長い長孔に形成される。これにより、第１連通路Ｈ３００Ｃを光照射ユニットＨ３８３３６により開放（光照射ユニットＨ３８３３６を起立させて第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を開放）した場合に、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１から出射される光を覆設部材Ｈ３８３４３の内部に照射できる。さらに、下方側開口部Ｈ３８３４３ｄは、第１連通路Ｈ３００Ｃを光照射ユニットＨ３８３３６により開放した場合に、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１と非対向となる位置に形成される。
【３２７８】
　従って、第１連通路Ｈ３００Ｃを光照射ユニットＨ３８３３６により開放した場合には、上方側開口部Ｈ３８３４３ｃから覆設部材Ｈ３８３４３の内部に照射された光が覆設部材Ｈ３８３４３の下方側の内面により反射され正面板Ｈ３３１側に照射される。
【３２７９】
　即ち、第４５実施形態においては、光照射ユニットＨ３８３３６を変位させることで、第１連通路Ｈ３００Ｃの開放状態を切り替える（音の放音状態を変える）だけでなく、光による演出面を変更（光を正面板Ｈ３３１に照射するか、下面板Ｈ３３３に照射するかを変更）することができる。その結果、遊技者の興趣を向上できる。

【３２８０】
なお、第４５実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を光照射ユニットＨ３８３３６により覆設した場合に、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１の光を下面板Ｈ３３３に照射し、第１連通路Ｈ３００Ｃを光照射ユニットＨ３８３３６により開放した場合に、ＬＥＤＨ３８３３６ａ２の光を正面板Ｈ３３１に照射する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、光の照射対象を反対にしたり、光の照射対象を変更しても良い。また、光を通過させる覆設部材Ｈ３８３４３の上方側開口部Ｈ３８３４３ｃ又は下方側開口部Ｈ３８３４３ｄの開口位置を変更しても良い。
【３２８１】
例えば、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を光照射ユニットＨ３８３３６により覆設した場合に、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１の光を正面板Ｈ３３１に照射（反射）可能な位置に上方側開口部Ｈ３８３４３ｃ及び下方側開口部Ｈ３８３４３ｄを形成すると共に、第１連通路Ｈ３００Ｃを光照射ユニットＨ３８３３６により開放した場合に、ＬＥＤＨ３８３３６ａ２の光を下面板Ｈ３３３に照射可能な位置に上方側開口部Ｈ３８３４３ｃ及び下方側開口部Ｈ３８３４３ｄを形成しても良い。
【３２８２】
この場合には、通常の遊技状態（第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を光照射ユニットＨ３８３３６により閉鎖した状態）では、正面板Ｈ３３１の装飾を遊技者に視認させることができ、遊技者が無駄に大当たりの期待をすることを抑制できる。
【３２８３】
また、第１連通路Ｈ３００Ｃを光照射ユニットＨ３８３３６により開放した場合に、上方側開口部Ｈ３８３４３ｃから覆設部材Ｈ３８３４３の内側に出射される光を覆設部材Ｈ３８３４３の内面に照射せず下方側開口部Ｈ３８３４３ｄを介して正面板Ｈ３３１の下面側から出射可能となる位置に下方側開口部Ｈ３８３４３ｄを形成しても良い。
【３２８４】
また、第４５実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする状態と、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した通路とする状態の切り替えが、遊技者のボタン部Ｈ１８１（図１１９参照）の操作に連動して行われる。即ち、操作ユニットＨ１８０（図１１９参照）のボタン部Ｈ１８１の操作（入力）を各種スイッチＨ２０８（図１２８参照）で検出し、その検出結果に基づき光照射ユニットＨ３８３３６を変位させる信号を音声ランプ制御装置Ｈ１１３からその他装置Ｈ２２８（光照射ユニットＨ３８３３６を変位させるソレノイドＨ９３３７ａ（図１２８参照））を出力するように構成される。
【３２８５】
よって、ボタン部Ｈ１８１（図１１９参照）が操作された場合に光照射ユニットＨ３８３３６が変位されるので、音の放音態様が変化されるタイミングをボタン部Ｈ１８１の操作と関係付けることができる。その結果、操作ユニットＨ１８０（図１１９参照）の操作による演出効果を向上でき、遊技者の興趣を向上できる。
【３２８６】
さらに、第４５実施形態では、Ｎ１６（ａ）に示すように第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする場合に、光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）を区画壁Ｈ３４３ｂに当接した状態とされる一方、図２５９（ｂ）に示すように第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合に、光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とされる。これにより、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする場合に対して、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの剛性を低下させることができる。
【３２８７】
この剛性の変化により上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの内部に配設されるスピーカーＨ３１２ａ（図１２９参照）から放音され、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの外部に出力される音の態様を変化させることができる。
【３２８８】

即ち、スピーカーＨ３１２ａ（図１２９参照）の音量を変更するだけでは、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａから放音される音の態様の変化が乏しくなるところ、第４５実施形態における上側装飾ユニットＨ３８０１４ａでは、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａ（区画壁Ｈ３４３ｂ）に対する光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）の当接状態を変化させることで、スピーカーＨ３１２ａの音量を一定とした場合でも、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの剛性の変化に伴い、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａから出力される音の態様を変化させることができる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【３２８９】

ここで、出力される音の態様の変化について詳しく説明する。光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）を区画壁Ｈ３４３ｂに当接した状態とされる場合には、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの剛性を高めることができるので、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの内部を音が伝わりやすくして音を装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１２９参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１３１参照），検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１３２参照））から放音させやすくできる。

【３２９０】

一方、光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とされる場合には、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの剛性が低下するので、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの内部を音が伝わりにくくできる。これにより、装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１２９参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１３１参照），検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１３２参照））から放音される音の音量を小さくして、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側から放音される音を遊技者に聞かせやすくできる。その結果、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの全体から音が放音されているように聞かせることができる。

【３２９１】

また、光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）は、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの装飾面（外壁）の一部であるので、光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）を変位させた際にその光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）の変位前の空間を利用して音を放音することができる。これにより、光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とした際に、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【３２９２】

さらに、光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）は、光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）を区画壁Ｈ３４３ｂに当接した状態とされる場合に、スピーカーＨ３１２ａが配設される配設空間Ｈ３００Ｆを連通する第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を塞ぐ壁部として構成されるので、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側からスピーカーＨ３１２ａの音を放音して上側装飾ユニットＨ３８０１４ａから放音される音の態様を変化させることができる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【３２９３】

また、正面視において光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）は、２箇所に配設されるスピーカーＨ３１２ａの間に配設される、即ち、２箇所のスピーカーＨ３１２ａの間で光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）と区画壁Ｈ３４３ｂとの当接状態が変化されるので、スピーカーＨ３１２ａから出力される音の態様を変化させやすくできる。言い換えると、２箇所のスピーカーＨ３１２ａの音の出力態様に変化を与えやすい領域（正面視における間の位置）に光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）が配設されるので、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【３２９４】

さらに、光照射ユニットＨ３８３３６（第２ケース部材Ｈ３８３３６ｃ）は、背面側に形成される軸部Ｈ９３３２ｆを中心に回転可能な板状体として構成されるので、区画壁Ｈ３４３ｂから離間させた際に上側装飾ユニットＨ３８０１４ａとの当接面積を最小とすることができる。即ち、軸部Ｈ９３３２ｆ以外の領域を非当接とすることができるので、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの剛性を低くしやすくできる（上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの剛性の変化を大きくできる）。これにより、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａから放音される音の態様を変化させやすくできる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【３２９５】

また、第４５実施形態における光照射ユニットＨ３８３３６は、光を出射可能に構成されるので、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放するために上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの上部に突出された場合に遊技者に視認されやすくなる。そのため、上側装飾ユニットＨ３８０１４ａの剛性が変化されることを光照射ユニットＨ３８３３６の変化を視認させることによって遊技者に認識させることができる。

【３２９６】

なお、第４５実施形態における放音態様の変化は、ボタン部Ｈ１８１（図１１９参照）の操作に限られるものではなく、例えば、パチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）が第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０（図１２８参照）へ入賞があったことを契機としてする抽選において大当たりとなった場合に、光照射ユニットＨ３８３３６を変位させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放して音をパチンコ機Ｈ１０から放音させやすくしても良い。

【３２９７】

この場合には、大当たりとなった場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放してパチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）から放音される音を遊技者に聞こえやすくできるので、遊技者に大当たり中の遊技に注目させやすくできる。また、第４５実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した空間の背面側から光照射ユニットＨ３８３３６の光を遊技者側に照射することができるので、音による演出と光による演出とを遊技者に認識させることができ、遊技者に大当たり中の遊技に注目させやすくできる。

【３２９８】

一方、非大当たり時（抽選が外れ、又は、抽選中）では、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とすることで、遊技者が無駄にパチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）に注目することを抑制できる。これにより、店内放送の音や、他のパチンコ機Ｈ１０（例えば、隣りのパチンコ機Ｈ１０）の音を遊技者に聞かせやすくできる。なお、この場合には、第１空間Ｈ３００Ａ（図１３５（ａ）参照）から第１連通路Ｈ３００Ｃに伝達される音同士が打ち消し合うように第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅、第１連通路Ｈ３００Ｃの通路長さを設定して、第１連通路Ｈ３００Ｃが閉じられた通路とされる場合にパチンコ機Ｈ１０から放音される音を小さくしても良い。

【３２９９】

また、大当たりでなく、所定の（例えば、大当たりの期待度が高い）リーチ演出がされる場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放して、遊技者にリーチ演出を注目させやすくしても良い。

【３３００】

さらに、第４５実施形態における放音態様の変化は、所定の入球（例えば、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０（図１２４参照）への球の入球）や操作ハンドルＨ５１（図１１９参照）の操作がされる場合に、光照射ユニットＨ３８３３６を変位させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放することで音をパチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）から放音させやすくしても良い。

【３３０１】

この場合には、遊技者が遊技を開始する（遊技球を遊技領域に打ち出す、又は、その打ち出した遊技球を所定の入球口に入れる）場合に第１連通路Ｈ３００Ｃを開放してパチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）から放音される音を遊技者に聞こえやすくできるので、遊技

者に遊技中の音を聞こえやすくできると共に、遊技者が遊技をしていない（遊技球が遊技領域に打ち出されていない、又は、遊技領域に打ち出された遊技球が所定の入球口に入っていない）他のパチンコ機Ｈ１０（例えば隣りのパチンコ機Ｈ１０）の音が遊技者に聞こえることを抑制できる。その結果、自身が遊技しているパチンコ機Ｈ１０の演出を遊技者に注目させやすくできる。

【３３０２】

次いで、図２６０を参照して、第４６実施形態における上側装飾ユニットＨ３９０１４ａについて説明する。上記第４４実施形態では、上面板Ｈ３７３３２が軸部Ｈ９３３２ｆにより回転される場合について説明したが、第４６実施形態では、上面板Ｈ３９３３２が軸部Ｈ９３３２ｆの他に第２軸部Ｈ３９３３２ｎにより回転される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【３３０３】

図２６０（ａ）は、第４６実施形態における上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの断面模式図であり、図２３２（ａ）のＸ３２ａ線における断面に対応し、図２６０（ｂ）は、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの断面模式図であり、図２３２（ｂ）のＸ３２ｂ線における断面に対応する。なお、図２６０（ａ）では、第１連通路Ｈ３００Ｃが上面板Ｈ３９３３２により閉鎖された状態が図示され、Ｎ１７（ｂ）では、第１連通路Ｈ３００Ｃが上面板Ｈ３９３３２により開放された状態が図示される。また、図２６０では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【３３０４】

図２６０に示すように、第４６実施形態における上側装飾ユニットＨ３９０１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ３９３２０とを主に備える。

【３３０５】

化粧ユニットＨ３９３２０は、第８実施形態における装飾ユニットＨ３３０（図１３０参照）のように背面側（矢印Ｂ方向側）が開放した箱状に形成される装飾ユニットＨ３９３３０と、その装飾ユニットＨ３９３３０の内側に配設される発光ユニットＨ３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０（図１３０参照）とを主に備えて形成される。

【３３０６】

装飾ユニットＨ３９３３０は、ベースユニットＨ３１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔（上面板Ｈ３９３３２、下面板Ｈ３３３、左面板Ｈ９３３４（図２３２参照）及び右面板Ｈ９３３６（図２３２参照）を配設するための間隔）を隔てて配設される正面板Ｈ３３１と、その正面板Ｈ３３１の上方側（矢印Ｕ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される上面板Ｈ３９３３２と、正面板Ｈ３３１の下方側（矢印Ｄ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される下面板Ｈ３３３と、正面板Ｈ３３１の左側（矢印Ｌ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設され、上面板Ｈ３９３３２及び下面板Ｈ３３３の左側（矢印Ｌ方向側）端部を連結する左面板Ｈ９３３４（図２３２参照）と、正面板Ｈ３３１の右側（矢印Ｒ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側に隣り合う位置に配設され、上面板Ｈ３９３３２及び下面板Ｈ３３３の右側（矢印Ｒ方向側）端部を連結する右面板Ｈ９３３６（図２３２参照）と、上面板Ｈ３９３３２を変位させる駆動力を付与する駆動ユニットＨ９３３７とを主に備える。

【３３０７】

上面板Ｈ３９３３２、下面板Ｈ３３３、左面板Ｈ９３３４、及び、右面板Ｈ９３３６は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に、発光ユニットＨ３４０及び音伝達ユニットＨ３５０を配設するための空間を形成（区画）するための部材であり、正面板Ｈ３３１の縁部に沿う形状に形成されると共に、上面板Ｈ３９３３２及び下面板Ｈ３３３の両端が

それぞれ左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６により連結される。
【３３０８】
上面板Ｈ３９３３２は、板状に形成される第１部材Ｈ３９３３２ｋと、その第１部材Ｈ３９３３２ｋに回転可能に配設される板状の第２部材Ｈ３９３３２ｍと、を主に備え、上面板Ｈ３９３３２により第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を塞いだ状態において、第１部材Ｈ３９３３２ｋの正面側に第２部材Ｈ３９３３２ｍが配設され、それらの上面が略同一の高さ（平行）に配設される。
【３３０９】
また、第１部材Ｈ３９３３２ｋと第２部材Ｈ３９３３２ｍとは、第１部材Ｈ３９３３２ａと第２部材Ｈ３９３３２ｍとの間に配設したねじりバネ（図示しない）により常に第１部材Ｈ３９３３２ｋの上面と第２部材Ｈ３９３３２ｍの上面とが平行に位置する状態に付勢される。これにより、駆動ユニットＨ９３３７のソレノイドＨ９３３７ａから駆動力が第２部材Ｈ３９３３２ｍに伝達される際には、第１部材Ｈ３９３３２ｋの上面と第２部材Ｈ３９３３２ｍの上面とを平行にした状態で第１部材Ｈ３９３３２ｋと第２部材Ｈ３９３３２ｍとを回転させることができる。
【３３１０】
また、第１部材Ｈ３９３３２ｋにソレノイドＨ９３３７ａによる駆動の方向（上方）と反対の方向（下方）に力が作用してねじりバネが弾性変形される場合には、第１部材Ｈ３９３３２ｋに対して第２部材Ｈ３９３３２ｍを回転させることができる。
【３３１１】
第１部材Ｈ３９３３２ｋは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端部に下方側に向かって延設される側面板Ｈ９３３２ｄと、背面側（矢印Ｂ方向側）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両外側から円柱状に突出される軸部Ｈ９３３２ｆとを主に備える。
【３３１２】
第２部材Ｈ３９３３２ｍは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端部に下方側に向かって延設される側面板Ｈ３９３３２ｄと、それら一対の側面板Ｈ３９３３２ｄの対向間に配設される板部材Ｈ３７３３２ｈと、側面板Ｈ３９３３２ｄの一方に配設され駆動ユニットＨ９３３７の駆動力が伝達されるピン部Ｈ９３３２ｄ１と、第１部材Ｈ３９３３２ｋと連結される第２軸部Ｈ３９３３２ｎとを主に備える。
【３３１３】
なお、第１部材Ｈ３９３３２ｋと第２部材Ｈ３９３３２ｍとの上面が平行に配置された状態においては、第１部材Ｈ３９３３２ｋの側面板Ｈ９３３２ｄと第２部材Ｈ３９３３２ｍの側面板Ｈ３９３３２ｄとが前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に隣り合う位置に配設される。
【３３１４】
次いで、第４５実施形態における上面板Ｈ３９３３２の変位について説明する。第４５実施形態における上面板Ｈ３９３３２は、上面板Ｈ３９３３２の上方側に外力が作用していない場合には、ソレノイドＨ９３３７ａの駆動により第２部材Ｈ３９３３２ｍが上方へ持ち上げられることにより第１部材Ｈ３９３３２ｋと第２部材Ｈ３９３３２ｍとがそれらの上面を平行にした状態で第１部材Ｈ３９３３２ｋの軸部Ｈ９３３２ｆを中心に回転される。
【３３１５】
一方、上面板Ｈ３９３３２の上方側に外力が作用する場合（例えば、上面板Ｈ３９３３２の上面に遊技者の私物（財布や携帯電話や飲料物）が乗せられた場合）には、ソレノイドＨ９３３７ａの駆動により第２部材Ｈ３９３３２ｍが上方へ持ち上げられることにより、第２部材Ｈ３９３３２ｍの第２軸部Ｈ３９３３２ｎを中心に回転され、第１部材Ｈ３９３３２ｋの変位が規制される。
【３３１６】
詳しく説明すると、ソレノイドＨ９３３７ａの駆動力が作用し始めた状態では、第１部材Ｈ３９３３２ｋと第２部材Ｈ３９３３２ｍとがそれらの上面を平行にした状態で第１部

材Ｈ３９３３２ｋの軸部Ｈ９３３２ｆを中心に回転され、第１部材Ｈ３９３３２ｋと第２部材Ｈ３９３３２ｍとの上面が背面側から正面側に向かって上昇傾斜した状態とされる。この傾斜により、上面板Ｈ３９３３２の上面に乗せられた遊技者の私物を背面側（第１部材Ｈ３９３３２ｋ側）にスライドさせることで、正面側の第２部材Ｈ３９３３２ｍに遊技者の私物が乗っていない状態を形成できる。

【３３１７】

第２部材Ｈ３９３３２ｍの上方側に外力が作用せず、第１部材Ｈ３９３３２ｋの上方側に外力が作用する状態とすることで、第２部材Ｈ３９３３２ｍを第１部材Ｈ３９３３２ｋに対して第２軸部Ｈ３９３３２ｎを中心に上方側に向かって回転させることができる。これにより、第４５実施形態では、上面板Ｈ３９３３２の上方側に外力が作用する場合であっても、ソレノイドＨ９３３７ａの駆動力により第１連通路Ｈ３００Ｃを開放可能とされる。

【３３１８】

即ち、第４６実施形態では、上面板Ｈ３９３３２を回転させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する際の回転軸（回転中心）の位置を変更可能に形成されるので、上面板Ｈ３９３３２の上方側に水平となる面（第１部材Ｈ３９３３２ｋの上面）を形成しやすくできる。これにより、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの上方に遊技者の私物を乗せておける領域を形成することができる。従って、上面板Ｈ３９３３２の回転により上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの上方側に乗せた遊技者の私物が落下したり、上面板Ｈ３９３３２の回転が遊技者の私物により回転しなくなることを抑制できる。その結果、上面板Ｈ３９３３２を回転して第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した際の音の変化による演出を安定させることができる。

【３３１９】

また、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの上方に遊技者の私物を乗せておける領域を形成した場合（即ち、第２部材Ｈ３９３３２ｍのみが変位された場合）には、第１部材Ｈ３９３３２ｋを上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの外面側に維持することができるので、第１部材Ｈ３９３３２ｋと第２部材Ｈ３９３３２ｍとの両者を変位させた場合に比べて、第１連通路Ｈ３００Ｃから放音される音が第１部材Ｈ３９３３２ｋの下方側に逃げることを抑制できる。これにより、第１連通路Ｈ３００Ｃから放音される音を遊技者に聞かせやすくできる。従って、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａに遊技者の視線を注目させやすくできる。その結果、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの上方に乗せられた遊技者の私物を退かことを遊技者に促すことができる（上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの上方に私物が乗っていることを遊技者に認識させることができる）。

【３３２０】

さらに、第４６実施形態では、図２６０（ａ）に示すように第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする場合に、上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）を区画壁Ｈ３４３ｂに当接した状態とされる一方、図２６０（ｂ）に示すように第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合に、上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とされる。これにより、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする場合に対して、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの剛性を低下させることができる。

【３３２１】

この剛性の変化により上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの内部に配設されるスピーカーＨ３１２ａ（図１２９参照）から放音され、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの外部に出力される音の態様を変化させることができる。

【３３２２】

即ち、スピーカーＨ３１２ａ（図１２９参照）の音量を変更するだけでは、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａから放音される音の態様の変化が乏しくなるところ、第４６実施形態における上側装飾ユニットＨ３９０１４ａでは、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａ（区画壁Ｈ３４３ｂ）に対する上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）の当接状態を

変化させることで、スピーカーＨ３１２ａの音量を一定とした場合でも、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの剛性の変化に伴い、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａから出力される音の態様を変化させることができる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【３３２３】

ここで、出力される音の態様の変化について詳しく説明する。上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）を区画壁Ｈ３４３ｂに当接した状態とされる場合には、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの剛性を高めることができるので、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの内部を音が伝わりやすくして音を装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１２９参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１３１参照），検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１３２参照））から放音させやすくできる。

【３３２４】

一方、上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とされる場合には、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの剛性が低下するので、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの内部を音が伝わりにくくできる。これにより、装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１２９参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１３１参照），検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１３２参照））から放音される音の音量を小さくして、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側から放音される音を遊技者に聞かせやすくできる。その結果、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの全体から音が放音されているように聞かせることができる。

【３３２５】

また、上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）は、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの装飾面（外壁）の一部であるので、上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）を変位させた際にその上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）の変位前の空間を利用して音を放音することができる。これにより、上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とした際に、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【３３２６】

さらに、上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）は、上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）を区画壁Ｈ３４３ｂに当接した状態とされる場合に、スピーカーＨ３１２ａが配設される配設空間Ｈ３００Ｆを連通する第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を塞ぐ壁部として構成されるので、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側からスピーカーＨ３１２ａの音を放音して上側装飾ユニットＨ３９０１４ａから放音される音の態様を変化させることができる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【３３２７】

また、正面視において上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）は、２箇所に配設されるスピーカーＨ３１２ａの間に配設される、即ち、２箇所のスピーカーＨ３１２ａの間で上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）と区画壁Ｈ３４３ｂとの当接状態が変化されるので、スピーカーＨ３１２ａから出力される音の態様を変化させやすくできる。言い換えると、２箇所のスピーカーＨ３１２ａの音の出力態様に変化を与えやすい領域（正面視における間の位置）に上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）が配設されるので、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【３３２８】

さらに、上面板Ｈ３９３３２（第２部材Ｈ３９３３２ｍ）は、背面側に形成される軸部Ｈ９３３２ｆを中心に回転可能な板状体として構成されるので、区画壁Ｈ３４３ｂから離間させた際に上側装飾ユニットＨ３９０１４ａとの当接面積を最小とすることができる。即ち、軸部Ｈ９３３２ｆ以外の領域を非当接とすることができるので、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの剛性を低くしやすくできる（上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの剛性の変化を大きくできる）。これにより、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａから放音される音の態様を変化させやすくできる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態

様を改善できる。
【３３２９】
　また、第４６実施形態では、上面板Ｈ３９３３２を回転させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する際の回転軸（回転中心）の位置を変更可能に形成され（第１部材Ｈ３９３３２ｋを上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの外面に配置した状態を形成可能とされ）るので、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した状態とした場合に上側装飾ユニットＨ３９０１４ａと上面板Ｈ３９３３２との当接面積を変更することができる。これにより、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの剛性の変化態様を複数形成することができる（即ち、中間の剛性となる状態を形成できる）。よって、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａから放音される音の態様を変化させやすくできる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。
【３３３０】
　なお、第４６実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする状態と、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した通路とする状態の切り替えが、遊技者のボタン部Ｈ１８１（図１１９参照）の操作に連動して行われる。即ち、操作ユニットＨ１８０（図１１９参照）のボタン部Ｈ１８１の操作（入力）を各種スイッチＨ２０８（図１２８参照）で検出し、その検出結果に基づき上面板Ｈ３９３３２を変位させる信号を音声ランプ制御装置Ｈ１１３からその他装置Ｈ２２８（上面板Ｈ３９３３２を変位させるソレノイドＨ９３３７ａ（図１２８参照））を出力するように構成される。
【３３３１】
　よって、ボタン部Ｈ１８１（図１１９参照）が操作された場合に上面板Ｈ３９３３２が変位されるので、音の放音態様が変化されるタイミングをボタン部Ｈ１８１の操作と関係付けることができる。その結果、操作ユニットＨ１８０（図１１９参照）の操作による演出効果を向上でき、遊技者の興趣を向上できる。
【３３３２】
　なお、第４６実施形態における放音態様の変化は、ボタン部Ｈ１８１（図１１９参照）の操作に限られるものではなく、例えば、パチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）が第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０（図１２８参照）へ入賞があったことを契機としてする抽選において大当たりとなった場合に、上面板Ｈ３９３３２を変位させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放して音をパチンコ機Ｈ１０から放音させやすくしても良い。
【３３３３】
　この場合には、大当たりとなった場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放してパチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）から放音される音を遊技者に聞こえやすくできるので、遊技者に大当たり中の遊技に注目させやすくできる。
【３３３４】
　一方、非大当たり時（抽選が外れ、又は、抽選中）では、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とすることで、遊技者が無駄にパチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）に注目することを抑制できる。これにより、店内放送の音や、他のパチンコ機Ｈ１０（例えば、隣りのパチンコ機Ｈ１０）の音を遊技者に聞かせやすくできる。なお、この場合には、第１空間Ｈ３００Ａ（図１３５（ａ）参照）から第１連通路Ｈ３００Ｃに伝達される音同士が打ち消し合うように第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅、第１連通路Ｈ３００Ｃの通路長さを設定して、第１連通路Ｈ３００Ｃが閉じられた通路とされる場合にパチンコ機Ｈ１０から放音される音を小さくしても良い。
【３３３５】
　また、大当たりでなく、所定の（例えば、大当たりの期待度が高い）リーチ演出がされる場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放して、遊技者にリーチ演出を注目させやすくしても良い。
【３３３６】
　さらに、第４６実施形態における放音態様の変化は、所定の入球（例えば、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０（図１２４参照）への球の入球）や操作ハンドルＨ５１（

図１１９参照）の操作がされる場合に、上面板Ｈ３９３３２を変位させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放することで音をパチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）から放音させやすくしても良い。

【３３３７】

この場合には、遊技者が遊技を開始する（遊技球を遊技領域に打ち出す、又は、その打ち出した遊技球を所定の入球口に入れる）場合に第１連通路Ｈ３００Ｃを開放してパチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）から放音される音を遊技者に聞こえやすくできるので、遊技者に遊技中の音を聞こえやすくできると共に、遊技者が遊技をしていない（遊技球が遊技領域に打ち出されていない、又は、遊技領域に打ち出された遊技球が所定の入球口に入っていない）他のパチンコ機Ｈ１０（例えば隣りのパチンコ機Ｈ１０）の音が遊技者に聞こえることを抑制できる。その結果、自身が遊技しているパチンコ機Ｈ１０の演出を遊技者に注目させやすくできる。

【３３３８】

なお、第４６実施形態では、上面板Ｈ３９３３２が２箇所の回転軸（軸部Ｈ９３３２ｆと第２軸部Ｈ３９３３２ｎ）を備える場合について説明したが、１箇所の回転軸を前後にスライド変位させて、上側装飾ユニットＨ３９０１４ａの上方に遊技者の私物を乗せておける領域を形成するように構成しても良い。また、上面板Ｈ３９３３２が３箇所以上の回転軸を備えて形成されても良い。

【３３３９】

次いで、図２６１を参照して第４７実施形態における上側装飾ユニットＨ４００１４ａについて説明する。上記第４４実施形態では、上面板Ｈ３７３３２により第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を閉鎖した場合に第１連通路Ｈ３００Ｃを介して第１空間Ｈ３００Ａ（図１３５（ａ）参照）同士が連通される場合について説明したが、第４７実施形態では、上面板Ｈ４０３３２により第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を閉鎖した場合に第１連通路Ｈ３００Ｃによる第１空間Ｈ３００Ａ同士の連通が規制される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【３３４０】

図２６１（ａ）から図２６１（ｃ）は、第４７実施形態における上側装飾ユニットＨ４００１４ａの断面模式図であり、図２３２（ａ）のＸ３２ａ線における断面に対応する。なお、図２６１（ａ）から図２６１（ｃ）では、上面板Ｈ４０３３２の遷移状態が順に図示され、図２６１（ａ）では、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉鎖した状態が図示され、図２６１（ｂ）では、第１連通路Ｈ３００Ｃと第１空間Ｈ３００Ａ（図１３５（ａ）参照）とを連通した状態が図示され、図２６１（ｃ）では、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した状態が図示される。なお、図２６１では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【３３４１】

図２６１に示すように、第４８実施形態における上側装飾ユニットＨ４００１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ４０３２０とを主に備える。

【３３４２】

化粧ユニットＨ４０３２０は、第８実施形態における装飾ユニットＨ３３０（図１３０参照）のように背面側（矢印Ｂ方向側）が開放した箱状に形成される装飾ユニットＨ４０３３０と、その装飾ユニットＨ４０３３０の内側に配設される発光ユニットＨ３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０（図１３０参照）とを主に備えて形成される。

【３３４３】

装飾ユニットＨ４０３３０は、ベースユニットＨ３１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔（上面板Ｈ４０３３２、下面板Ｈ３３３、左面板Ｈ９３３４（図２３２参照）及び右面板Ｈ９３３６（図２３２参照）を配設するための間隔）を隔てて配設される正面板Ｈ３３１と、その正面板Ｈ３３１の上方側（矢印Ｕ方向側）の背面側端部に沿う形状に形

成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される上面板Ｈ４０３３２と、正面板Ｈ３３１の下方側（矢印Ｄ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される下面板Ｈ３３３と、正面板Ｈ３３１の左側（矢印Ｌ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設され、上面板Ｈ４０３３２及び下面板Ｈ３３３の左側（矢印Ｌ方向側）端部を連結する左面板Ｈ９３３４（図２３２参照）と、正面板Ｈ３３１の右側（矢印Ｒ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側に隣り合う位置に配設され、上面板Ｈ４０３３２及び下面板Ｈ３３３の右側（矢印Ｒ方向側）端部を連結する右面板Ｈ９３３６（図２３２参照）と、上面板Ｈ４０３３２を変位させる駆動力を付与する駆動ユニットＨ９３３７と、上面板Ｈ４０３３２の下面側に連結され上面板Ｈ４０３３２の変位に伴って変位可能な第２変位部材Ｈ４０３３７と、を主に備える。

【３３４４】

上面板Ｈ４０３３２、下面板Ｈ３３３、左面板Ｈ９３３４、及び、右面板Ｈ９３３６は、正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に、発光ユニットＨ３４０及び音伝達ユニットＨ３５０を配設するための空間を形成（区画）するための部材であり、正面板Ｈ３３１の縁部に沿う形状に形成されると共に、上面板Ｈ４０３３２及び下面板Ｈ３３３の両端がそれぞれ左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６により連結される。

【３３４５】

上面板Ｈ４０３３２は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端部に下方側に向かって延設される側面板Ｈ９３３２ｄと、それら一対の側面板Ｈ９３３２ｄの対向間に配設される閉鎖部Ｈ４０３３２ｐと、背面側（矢印Ｂ方向側）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両外側から円柱状に突出される軸部Ｈ９３３２ｆと、一端が上面板Ｈ４０３３２の下面に連結されると共に他端が第２変位部材Ｈ４０３３７の上面に連結されるリンク部材Ｈ４０３３２ｑとを主に備える。

【３３４６】

閉鎖部Ｈ４０３３２ｐは、上面板Ｈ４０３３２を第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側に配置した際に、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉鎖する部材であり、第１連通路Ｈ３００Ｃの内部空間と略同一の形状に形成される。上面板Ｈ４０３３２を第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側に配置した状態においては、閉鎖部Ｈ４０３３２ｐが第１連通路Ｈ３００Ｃの内部を塞ぐことで第１連通路Ｈ３００Ｃによる第１空間Ｈ３００Ａ（図１３５（ａ）参照）同士の連通が解除される。

【３３４７】

リンク部材Ｈ４０３３２ｑは、第２変位部材Ｈ４０３３７に連結されるリンク部材であり、上面板Ｈ４０３３２に対して回転可能な状態で配置される。また、リンク部材Ｈ４０３３２ｑの第２変位部材Ｈ４０３３７との連結側は、第２変位部材Ｈ４０３３７に対して回転可能な状態とされると共に、第２変位部材Ｈ４０３３７に対してスライド変位可能に連結される。これにより、上面板Ｈ４０３３２が回転変位された際には、リンク部材Ｈ４０３３２ｑの一端および他端が上面板Ｈ４０３３２及び第２変位部材Ｈ４０３３７に対して回転され、上面板Ｈ４０３３２及び第２変位部材Ｈ４０３３７に対するリンク部材Ｈ４０３３２ｑの姿勢を変化させることができると共に、第２変位部材Ｈ４０３３７に対してリンク部材Ｈ４０３３２ｑの他端をスライド変位させることで、第２変位部材Ｈ４０３３７を上下方向にスライド変位させることができる。

【３３４８】

次いで、第４７実施形態における上面板Ｈ４０３３２の変位について説明する。なお、ソレノイドＨ９３３７ａの駆動により上面板Ｈ４０３３２が軸部Ｈ９３３２ｆを中心に回転する変位については、第１６実施形態の上面板Ｈ９３３２と同一であるので、その変位についての詳しい説明は省略する。

【３３４９】

図２６１（ｂ）に示すように、閉鎖部Ｈ４０３３２ｐが第１連通路Ｈ３００Ｃから抜け

出る直前の位置まで上面板Ｈ４０３３２を変位させた場合には、閉鎖部Ｈ４０３３２ｐの下面が第１連通路Ｈ３００Ｃの下面から離間されると共に、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を塞ぐ位置に配置される。これにより、上方側が閉鎖部Ｈ４０３３２ｐにより閉鎖された空間の第１連通路Ｈ３００Ｃが形成され、第１空間Ｈ３００Ａ（図１３５（ａ）参照）同士が第１連通路Ｈ３００Ｃにより連通される。

【３３５０】

また、図２６１（ｃ）に示すように、閉鎖部Ｈ４０３３２ｐが第１連通路Ｈ３００Ｃから抜け出る位置まで上面板Ｈ４０３３２を変位させた場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側が開放され第１連通路Ｈ３００Ｃと外部空間とが連通される。これにより、第１連通路Ｈ３００Ｃに放音される音を第１連通路Ｈ３００Ｃを介して外部空間に放音することができる。その結果、音による演出効果を高めることができる。

【３３５１】

即ち、第４７実施形態では、上面板Ｈ４０３３２により、第１連通路Ｈ３００Ｃの空間を非形成な（第１連通路Ｈ３００Ｃを閉鎖部Ｈ４０３３２ｐにより閉鎖した）状態と、第１連通路Ｈ３００Ｃを形成した（第１連通路Ｈ３００Ｃの上方を閉鎖部Ｈ４０３３２ｐにより塞いだ）状態と、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した状態とを形成することができる。その結果、音による演出態様を複数形成することができ、音による演出効果を高めることができる。

【３３５２】

さらに、図２６１（ｃ）に示すように、閉鎖部Ｈ４０３３２ｐが第１連通路Ｈ３００Ｃから抜け出る位置まで上面板Ｈ４０３３２が変位されるので、開放時には第１連通路Ｈ３００Ｃの内部空間にアクセスしやすくできる。その結果、第１連通路Ｈ３００Ｃのメンテナンス性（清掃性）を向上することができる。

【３３５３】

なお、第４７実施形態では、図２６１（ｃ）に示すように閉鎖部Ｈ４０３３２ｐが第１連通路Ｈ３００Ｃから抜け出る位置まで上面板Ｈ４０３３２が変位された状態では、第２変位部材Ｈ４０３３７が上面板Ｈ４０３３２の変位に伴ってリンク部材Ｈ４０３３２ｑにより上方側に変位され、駆動前の上面板Ｈ４０３３２が配置された位置（図２６１（ａ）に示す位置）と重なる位置に第２変位部材Ｈ４０３３７が変位される。これにより、上面板Ｈ４０３３２を変位させたこと（第１連通路Ｈ３００Ｃを開放したこと）により、上側装飾ユニットＨ４００１４ａに隙間が形成されることを抑制できる。

【３３５４】

即ち、第４７実施形態では、上面板Ｈ４０３３２を変位させることによる隙間を第２変位部材Ｈ４０３３７により埋めることができる。従って、上面板Ｈ４０３３２の変位後において形成される隙間から不正な部材が挿入されることを抑制できる。

【３３５５】

なお、第１連通路Ｈ３００Ｃの正面側の内面および背面側の内面は、第１連通路Ｈ３００Ｃの空間を非形成な（第１連通路Ｈ３００Ｃを閉鎖部Ｈ４０３３２ｐにより閉鎖した）状態における閉鎖部Ｈ４０３３２ｐの正面側の側面および背面側の側面と平行に形成されていても良く、第１連通路Ｈ３００Ｃの空間を非形成な状態において、第１連通路Ｈ３００Ｃの正面側の内面および背面側の内面が閉鎖部Ｈ４０３３２ｐの正面側の側面および背面側の側面と当接する状態としても良い。これによれば、第１連通路Ｈ３００Ｃの空間を非形成な状態において、第１連通路Ｈ３００Ｃの内面と閉鎖部Ｈ４０３３２ｐの正面側の側面または背面側の側面との間を音が通過することを抑制できる。

【３３５６】

さらに、第４７実施形態では、図２６１（ａ）に示すように第１連通路Ｈ３００Ｃの空間を非形成な状態とする場合に、上面板Ｈ４０３３２の閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを第１連通路Ｈ３００Ｃの内面に当接した状態とされ、図２６１（ｂ）に示すように第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とした状態とする場合に、上面板Ｈ４０３３２の閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを第１連通路Ｈ３００Ｃの内面の一部に当接した状態とされ、図２６１（ｃ）に示すよ

うに、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合に、上面板Ｈ４０３３２の閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを第１連通路Ｈ３００Ｃから離間した状態にすることができる。これにより、上面板Ｈ４０３３２を上方側に変位させた際に、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの剛性を上面板Ｈ４０３３２の変化に伴って低下させることができる。

【３３５７】

この剛性の変化により上側装飾ユニットＨ４００１４ａの内部に配設されるスピーカーＨ３１２ａ（図１２９参照）から放音され、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの外部に出力される音の態様を変化させることができる。

【３３５８】

即ち、スピーカーＨ３１２ａ（図１２９参照）の音量を変更するだけでは、上側装飾ユニットＨ４００１４ａから放音される音の態様の変化が乏しくなるところ、第４７実施形態における上側装飾ユニットＨ４００１４ａでは、上側装飾ユニットＨ４００１４ａ（区画壁Ｈ３４３ｂ）に対する上面板Ｈ４０３３２の当接状態を変化させることで、スピーカーＨ３１２ａの音量を一定とした場合でも、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの剛性の変化に伴い、上側装飾ユニットＨ４００１４ａから出力される音の態様を変化させることができる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【３３５９】

ここで、出力される音の態様の変化について詳しく説明する。

【３３６０】

第１連通路Ｈ３００Ｃの空間を非形成な状態とする場合には、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの剛性を高めることができることに加えて、第１連通路Ｈ３００Ｃに伝達される音をなくすことができるので、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの内部を音が伝わりやすくして音を装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１２９参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１３１参照），検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１３２参照））から放音させやすくできる。

【３３６１】

第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とした状態とする場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃの空間を非形成な状態とする場合に比べて、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの剛性が低下するので、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの内部を音が伝わりにくくできる。これにより、装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１２９参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１３１参照），検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１３２参照））から放音される音の音量を小さくできる。

【３３６２】

一方、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とした状態とする場合に比べて、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの剛性が低下するので、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの内部を音が伝わりにくくできる。これにより、装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１２９参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１３１参照），検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１３２参照））から放音される音の音量を小さくして、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側から放音される音を遊技者に聞かせやすくできる。その結果、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの全体から音が放音されているように聞かせることができる。

【３３６３】

また、上面板Ｈ４０３３２は、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの装飾面（外壁）の一部であるので、上面板Ｈ４０３３２を変位させた際にその上面板Ｈ４０３３２の変位前の空間を利用して音を放音することができる。これにより、上面板Ｈ４０３３２を区画壁Ｈ３４３ｂから離間した状態とした際に、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【３３６４】

さらに、上面板Ｈ４０３３２の閉鎖部Ｈ４０３３２ｐは、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とした状態とされる場合に、スピーカーＨ３１２ａが配設される配設空間Ｈ３００

Ｆを連通する第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を塞ぐ壁部として構成されるので、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側からスピーカーＨ３１２ａの音を放音して上側装飾ユニットＨ４００１４ａから放音される音の態様を変化させることができる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【３３６５】

また、正面視において上面板Ｈ４０３３２は、２箇所に配設されるスピーカーＨ３１２ａの間に配設される、即ち、２箇所のスピーカーＨ３１２ａの間で上面板Ｈ４０３３２と区画壁Ｈ３４３ｂとの当接状態が変化されるので、スピーカーＨ３１２ａから出力される音の態様を変化させやすくできる。言い換えると、２箇所のスピーカーＨ３１２ａの音の出力態様に変化を与えやすい領域（正面視における間の位置）に上面板Ｈ４０３３２が配設されるので、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【３３６６】

さらに、上面板Ｈ４０３３２は、背面側に形成される軸部Ｈ９３３２ｆを中心に回転可能な板状体として構成されるので、区画壁Ｈ３４３ｂから離間させた際に上側装飾ユニットＨ４００１４ａとの当接面積を最小とすることができる。即ち、軸部Ｈ９３３２ｆ以外の領域を非当接とすることができるので、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの剛性を低くしやすくできる（上側装飾ユニットＨ４００１４ａの剛性の変化を大きくできる）。これにより、上側装飾ユニットＨ４００１４ａから放音される音の態様を変化させやすくできる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【３３６７】

また、上記したように第４７実施形態では、上面板Ｈ４０３３２の閉鎖部Ｈ４０３３２ｐと第１連通路Ｈ３００Ｃの内面との当接面積を上面板Ｈ４０３３２の変位に伴って変化させることができるので、上面板Ｈ４０３３２の変位に伴って上側装飾ユニットＨ４００１４ａの剛性を変化させることができる。よって、上側装飾ユニットＨ４００１４ａから放音される音の態様を変化させやすくできる。その結果、スピーカーＨ３１２ａから放音される音の態様を改善できる。

【３３６８】

なお、第４７実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とする状態と、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した通路とする状態の切り替えが、遊技者のボタン部Ｈ１８１（図１１９参照）の操作に連動して行われる。即ち、操作ユニットＨ１８０（図１１９参照）のボタン部Ｈ１８１の操作（入力）を各種スイッチＨ２０８（図１２８参照）で検出し、その検出結果に基づき上面板Ｈ４０３３２を変位させる信号を音声ランプ制御装置Ｈ１１３からその他装置Ｈ２２８（上面板Ｈ４０３３２を変位させるソレノイドＨ９３３７ａ（図１２８参照））を出力するように構成される。

【３３６９】

よって、ボタン部Ｈ１８１（図１１９参照）が操作された場合に上面板Ｈ４０３３２が変位されるので、音の放音態様が変化されるタイミングをボタン部Ｈ１８１の操作と関係付けることができる。その結果、操作ユニットＨ１８０（図１１９参照）の操作による演出効果を向上でき、遊技者の興趣を向上できる。

【３３７０】

なお、第４６実施形態における放音態様の変化は、ボタン部Ｈ１８１（図１１９参照）の操作に限られるものではなく、例えば、パチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）が第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０（図１２８参照）へ入賞があったことを契機としてする抽選において大当たりとなった場合に、上面板Ｈ４０３３２を変位させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放して音をパチンコ機Ｈ１０から放音させやすくしても良い。

【３３７１】

この場合には、大当たりとなった場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放してパチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）から放音される音を遊技者に聞こえやすくできるので、遊技者に大当たり中の遊技に注目させやすくできる。

【３３７２】

一方、非大当たり時（抽選が外れ、又は、抽選中）では、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路とすることで、遊技者が無駄にパチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）に注目することを抑制できる。これにより、店内放送の音や、他のパチンコ機Ｈ１０（例えば、隣りのパチンコ機Ｈ１０）の音を遊技者に聞かせやすくできる。なお、この場合には、第１空間Ｈ３００Ａ（図１３５（ａ）参照）から第１連通路Ｈ３００Ｃに伝達される音同士が打ち消し合うように第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅、第１連通路Ｈ３００Ｃの通路長さを設定して、第１連通路Ｈ３００Ｃが閉じられた通路とされる場合にパチンコ機Ｈ１０から放音される音を小さくしても良い。

【３３７３】

また、大当たりでなく、所定の（例えば、大当たりの期待度が高い）リーチ演出がされる場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放して、遊技者にリーチ演出を注目させやすくしても良い。

【３３７４】

さらに、第４６実施形態における放音態様の変化は、所定の入球（例えば、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０（図１２４参照）への球の入球）や操作ハンドルＨ５１（図１１９参照）の操作がされる場合に、上面板Ｈ４０３３２を変位させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放することで音をパチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）から放音させやすくしても良い。

【３３７５】

この場合には、遊技者が遊技を開始する（遊技球を遊技領域に打ち出す、又は、その打ち出した遊技球を所定の入球口に入れる）場合に第１連通路Ｈ３００Ｃを開放してパチンコ機Ｈ１０（図１１９参照）から放音される音を遊技者に聞こえやすくできるので、遊技者に遊技中の音を聞こえやすくできると共に、遊技者が遊技をしていない（遊技球が遊技領域に打ち出されていない、又は、遊技領域に打ち出された遊技球が所定の入球口に入っていない）他のパチンコ機Ｈ１０（例えば隣りのパチンコ機Ｈ１０）の音が遊技者に聞こえることを抑制できる。その結果、自身が遊技しているパチンコ機Ｈ１０の演出を遊技者に注目させやすくできる。

【３３７６】

次いで、図２６２を参照して、第４８実施形態における上側装飾ユニットＨ４１０１４ａについて説明する。上記第４４実施形態では、空間Ｈ９３３２ｄ２への不正部材の挿入を板部材Ｈ３７３３２ｈにより規制する場合について説明したが、第４８実施形態では、第１空間Ｈ３００Ａの第１連通路Ｈ３００Ｃとの連通部分に設けた検出装置（検出光出射装置Ｈ４１３６１及び検出光検出装置Ｈ４１３６２）により空間Ｈ９３３２ｄ２への不正部材の挿入を規制する場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【３３７７】

図２６２（ａ）は、第４８実施形態における上側装飾ユニットＨ４１０１４ａの断面模式図であり、図１３４におけるＸ０７ａ線における断面に対応し、図２６２（ｂ）は、図２６２（ａ）の矢印Ｘ３６ｂ方向視における上側装飾ユニットＨ４１０１４ａの上面模式図である。なお、図２６２（ｂ）では、上面板Ｈ３７３３２が透明視された状態で図示される。また、図２６２では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【３３７８】

図２６２に示すように、第４８実施形態における上側装飾ユニットＨ４１０１４ａは、本体枠Ｈ１４ｄ（図１２６参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＨ３１０と、そのベースユニットＨ３１０の正面側に配設される化粧ユニットＨ４１３２０とを主に備える。

【３３７９】

化粧ユニットＨ４１３２０は、第８実施形態における装飾ユニットＨ３３０（図１３０参照）のように背面側（矢印Ｂ方向側）が開放した箱状に形成される装飾ユニットＨ４１

３３０と、その装飾ユニットＨ４１３３０の内側に配設される発光ユニットＨ３４０及び一対の音伝達ユニットＨ３５０（図１３０参照）とを主に備えて形成される。

【３３８０】

装飾ユニットＨ４１３３０は、ベースユニットＨ３１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔（上面板Ｈ３７３３２、下面板Ｈ３３３、左面板Ｈ９３３４及び右面板Ｈ９３３６を配設するための間隔）を隔てて配設される正面板Ｈ３３１と、その正面板Ｈ３３１の上方側（矢印Ｕ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される上面板Ｈ３７３３２と、正面板Ｈ３３１の下方側（矢印Ｄ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される下面板Ｈ３３３と、正面板Ｈ３３１の左側（矢印Ｌ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設され、上面板Ｈ３７３３２及び下面板Ｈ３３３の左側（矢印Ｌ方向側）端部を連結する左面板Ｈ９３３４と、正面板Ｈ３３１の右側（矢印Ｒ方向側）の背面側端部に沿う形状に形成されると共に正面板Ｈ３３１の背面側に隣り合う位置に配設され、上面板Ｈ３７３３２及び下面板Ｈ３３３の右側（矢印Ｒ方向側）端部を連結する右面板Ｈ９３３６と、上面板Ｈ３７３３２を変位させる駆動力を付与する駆動ユニットＨ９３３７（図２５８参照）と、と主に備える。

【３３８１】

また、第４８実施形態における上側装飾ユニットＨ４１０１４ａに形成される第１空間Ｈ３００Ａには、第１連通路Ｈ３００Ｃとの連通部分の一方側に検出光出射装置Ｈ４１３６１が配設され、第１連通路Ｈ３００Ｃとの連通部分の他方側に検出光検出装置Ｈ４１３６２が配設され、検出光出射装置Ｈ４１３６１から出射された光を第１連通路Ｈ３００Ｃを介して検出光検出装置Ｈ４１３６２により検出可能に構成される。

【３３８２】

なお、第４８実施形態では、上側装飾ユニットＨ４１０１４ａに形成される第１連通路Ｈ３００Ｃが左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に略直線状に延設され、その直線部分を通して検出光出射装置Ｈ４１３６１の光を検出光検出装置Ｈ４１３６２により検出可能とされ、それら検出光出射装置Ｈ４１３６１及び検出光検出装置Ｈ４１３６２により第１連通路Ｈ３００Ｃの内部空間の物の有無を検出可能とされる。

【３３８３】

このように、第４８実施形態では、検出光出射装置Ｈ４１３６１及び検出光検出装置Ｈ４１３６２により第１連通路Ｈ３００Ｃの内部空間を検出することで、上面板Ｈ３７３３２が第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を閉鎖する位置に配設される場合には、上面板Ｈ３７３３２の板部材Ｈ３７３３２ｈを第１連通路Ｈ３００Ｃの内部に配置することで、上面板Ｈ３７３３２が規定の位置に配置されている（無理やり開口されていない）ことを検出することができる。

【３３８４】

一方、上面板Ｈ３７３３２が第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃから板部材Ｈ３７３３２ｈが張り出すことで、検出光出射装置Ｈ４１３６１及び検出光検出装置Ｈ４１３６２による上面板Ｈ３７３３２の検出が不要とされる。よって、第１連通路Ｈ３００Ｃの内部に挿入される不正な部材を検出光出射装置Ｈ４１３６１及び検出光検出装置Ｈ４１３６２により検出することが可能とされる。

【３３８５】

従って、第４８実施形態では、第１連通とＨ３００Ｃを開放した場合に、第１連通路Ｈ３００Ｃを介して空間Ｈ９３３２ｄ２（図２５８参照）の内部空間に不正な部材が挿入されることを抑制できると共に、第１連通路Ｈ３００Ｃの両端を介して第１空間Ｈ３００Ａに不正な部材が挿入されることを抑制できる。その結果、遊技者に不正行為がされることを抑制できる。

【３３８６】

なお、検出光出射装置Ｈ４１３６１の光を検出する検出光検出装置Ｈ４１３６２（各種

スイッチＨ２０８（図１２８参照））は、入出力ポートＨ２０５（図１２８参照）に接続され、その各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいてＭＰＵＨ２０１が各種処理（音声出力や液晶表示）を実行可能とされる。

【３３８７】

次いで、図２６３を参照して第４９実施形態における揺動装置Ｈ４２７３０について説明する。上記第８実施形態では、変位部材Ｈ７９０を介して基板部材Ｈ７７３から出射される光を遊技者側に出射する場合について説明した、第４９実施形態では、変位部材Ｈ４０７７３により基板部材Ｈ７７３から出射される光を遮る場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【３３８８】

図２６３（ａ）及び図２６３（ｃ）は、第４９実施形態における揺動装置Ｈ４２７３０の正面模式図であり、図２６３（ｂ）は、図２６３（ａ）のＸ３７ｂ線における揺動装置Ｈ４２７３０の断面模式図であり、図２６３（ｄ）は、図２６３（ｃ）のＸ３７ｄ線における揺動装置Ｈ４２７３０の断面模式図である。なお、図２６３（ａ）及び（ｂ）では、変位部材Ｈ４２７９０の変位前の状態が図示され、図２６３（ｃ）および（ｄ）では、変位部材Ｈ４２７９０の変位後の状態が図示される。なお、図２６３では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【３３８９】

図２６３に示すように、第４９実施形態における揺動装置Ｈ４２７３０は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１６５参照）に配設されるベース手段Ｈ７７０と、そのベース手段Ｈ７７０の背面側（矢印Ｂ方向側）に軸支される駆動手段Ｈ７８０と、ベース手段Ｈ７７０を介して駆動手段Ｈ７８０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される変位部材Ｈ４２７９０と、を主に備える。

【３３９０】

なお、第４９実施形態における変位部材Ｈ４２７９０も第８実施形態における変位部材Ｈ７９０と同様にベース手段Ｈ７７０及び駆動手段Ｈ７８０に対して相対変位可能に配設される（図１２０１－２参照）が、図２６３では、理解を容易とするために変位部材Ｈ４２７９０が駆動手段Ｈ７８０に対して固定した状態で図示される。

【３３９１】

変位部材Ｈ４２７９０は、光を非透過の有色材料（白色）から形成されており、背面側に配設されるベース手段Ｈ７７０（基板部材Ｈ７７３）から出射される光を遮ることが可能とされる。また、変位部材Ｈ４２７９０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における寸法がベース手段Ｈ７７０よりも小さく形成されており、ベース手段Ｈ７７０の正面側に重なって配置される際（例えば、図２６３（ａ）及び（ｂ）に示す位置に配置される際）に、ベース手段Ｈ７７０の一部を隠すことが可能とされる。

【３３９２】

なお、変位部材Ｈ４２７９０は、全体が光を非透過の有色材料から形成されるものに限られるものではなく、一部が光を透過可能な透明材料から形成されるもので形成され、光を非透過な領域と、光を透過可能な領域とを備えるものであっても良い。例えば、正面視において光を非透過な領域の周囲に光を透過可能な領域を形成して、非透過な領域の周囲から出射される光の出射角度を変更しても良い。これによれば、非透過な領域の周囲の光の態様を変更できるので、非透過な領域の装飾面に遊技者の視線を注目させることができる。

【３３９３】

また、正面視において光を透過可能な領域の周囲に光を非透過な領域を形成して、非透過な領域の中央から出射される光の出射角度を変更しても良い。この場合には、非透過な領域の中央の光の態様を変更できるので、光を透過可能な領域から出射される光に遊技者の視線を注目させることができる。

【３３９４】

さらに、変位部材Ｈ４２７９０の左右方向における寸法をベース手段Ｈ７７０よりも大

きく形成したり、複数の変位部材Ｈ４２７９０を左右方向に並べて配置して、正面視におけるベース手段Ｈ７７０の全部を変位部材Ｈ４２７９０で隠すようにしても良い。この場合には、変位部材Ｈ４２７９０を変位させることで、基板部材Ｈ７７３から出射される光を視認可能な状態と、基板部材Ｈ７７３から出射される光を視認不可能な状態とを形成することができ、基板部材Ｈ７７３の光を視認不可な状態とすることで、基板部材Ｈ７７３の光を視認可能とする状態を形成した場合の遊技者の視線を基板部材Ｈ７７３の光に注目させやすくできる。

【３３９５】

基板部材Ｈ７７３に配設される発光手段Ｈ７７３ｂは、正面視において上下左右に整列した状態で配設され、変位部材Ｈ４２７９０がベース手段Ｈ７７０の正面側に重なって配設される際に、同列の発光手段Ｈ７７３ｂが変位部材Ｈ４２７９０により隠された状態とされる。

【３３９６】

なお、発光手段Ｈ７７３ｂは、正面視において千鳥状に配設されるものや、正面視において一部に集まって配置されるものであっても良い。例えば、正面視において左右方向両外側の発光手段Ｈ７７３ｂの数を、左右方向中央部の発光手段Ｈ７７３ｂの数よりも多くして、左右両外側の発光量を多くしても良い。また、正面視における変位部材Ｈ４２７９０の形状を異形に形成して、同列の発光手段Ｈ７７３ｂの内の一部の発光手段Ｈ７７３ｂを隠しても良い。

【３３９７】

また、第４９実施形態では、図２６３（ｃ）及びＳ４０（ｄ）に示すように、変位部材Ｈ４２７９０が駆動手段Ｈ７８０の駆動力（慣性力）により上側軸支部Ｈ７７１ｂ１及び下側軸支部Ｈ７７２ｂ１を中心に回転された際に、変位部材Ｈ４２７９０がベース手段Ｈ７７０と正面視において重ならない位置まで回転可能に設定される。

【３３９８】

即ち、第４９実施形態では、変位部材Ｈ４２７９０がベース手段Ｈ７７０（基板部材Ｈ７７３）の正面側に重なって配置される状態と、変位部材Ｈ４２７９０がベース手段Ｈ７７０と重ならない位置に退避する状態とを形成することができる。

【３３９９】

これにより、第４９実施形態では、変位部材Ｈ４２７９０の変位と基板部材Ｈ７７３の発光とを合わせて視認させる状態と、変位部材Ｈ４２７９０を基板部材Ｈ７７３の正面側から退避させ、基板部材Ｈ７７３の発光のみを視認させる状態とを形成することができる。よって、演出の形態を複数形成することができ、遊技の興趣を向上できる。

【３４００】

なお、第４９実施形態では、変位部材Ｈ４２７９０は、ベース手段Ｈ７７０の上側軸支部Ｈ７７１ｂ１及び下側軸支部Ｈ７７２ｂ１を中心に正面視において左右方向に回転可能に軸支されるが、左右方向に延設される軸を中心に上下方向に回転されるものであっても良い。

【３４０１】

また、変位部材Ｈ４２７９０の変位位置を検出装置により検出して、基板部材Ｈ７７３の発光態様を変更しても良い。即ち、変位部材Ｈ４２７９０により隠れる領域に配置される発光手段Ｈ７７３ｂの光の照射をオフ、又は、照射量を少なくしても良い。この場合には、変位部材Ｈ４２７９０の背面側に照射される光を少なくすることができるので、変位部材Ｈ４２７９０の背面側で光が反射して他の領域にその光が入ることを抑制できる。これにより、発光手段Ｈ７７３ｂの列ごとに発光色を分けた場合に反射光が混ざることを抑制して、光による演出効果を向上できる。

【３４０２】

さらに、変位部材Ｈ４２７９０の変位位置を検出装置により検出する場合には、変位部材Ｈ４２７９０を発光手段Ｈ７７３ｂにより注目させるために、正面視において変位部材Ｈ４２７９０と隣り合う位置（正面視において近い位置）の発光手段Ｈ７７３ｂの発光量

を多くする一方、正面視において変位部材Ｈ４２７９０から離れる位置の発光手段の発光量をオフ、又は、少なくしても良い。これによれば、正面視において変位部材Ｈ４２７９０の周囲の発光量が多くなるので、変位部材Ｈ４２７９０に注目させやすくできる。

【３４０３】

なお、変位部材Ｈ４２７９０の変位位置を検出する検出装置（各スイッチＨ２０８（図１２８参照））は、入出力ポートＨ２０５（図１２８参照）に接続され、その各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいてＭＰＵＨ２０１が各種処理（発光手段Ｈ７７３ｂの光の照射量を調整する）を実行可能とされる。

【３４０４】

また、第４９実施形態では、揺動装置Ｈ４２７３０の正面側を覆設した状態で配設される傾倒装置Ｈ７１０（図１６５参照）に光を非透過の領域が形成され、その非透過の領域が正面視において基板部材Ｈ７７３の左右両外側に形成される。これにより、ベース手段Ｈ７７０（基板部材Ｈ７７３）と正面視において重ならない領域に変位部材Ｈ４２７９０が変位された場合には、変位部材Ｈ４２７９０を傾倒装置Ｈ７１０の非透過の領域により隠すことができる。

【３４０５】

即ち、基板部材Ｈ７７３の全域を視認させる場合には、揺動装置Ｈ４２７３０の正面側に配設した別部材により、変位部材Ｈ４２７９０を遊技者から視認されにくくすることができる。これにより、発光手段Ｈ７７３ｂの発光に注目させることができ、発光手段Ｈ７７３ｂによる演出効果を向上できる。

【３４０６】

さらに、第８実施形態における操作ユニットＨ１８０では、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１が押圧操作された際に、傾倒装置Ｈ７１０の正面側透過部Ｈ７１１の下端が弾性体Ｈ７８５を介して駆動手段Ｈ７８０に当接され、その当接により駆動手段Ｈ７８０をベース手段Ｈ７７０に対して中間配置状態の位置に変位させることができる。

【３４０７】

また、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１が押圧操作された場合には、変位部材Ｈ７９０が駆動手段Ｈ７８０と共に所定位置（駆動手段Ｈ７８０が中間位置状態とされる位置）に変位される。従って、遊技者のボタン部Ｈ１８１の押圧操作に連動して、変位部材Ｈ７９０の透過部Ｈ７９１を介して視認される光の演出態様を変更することができる。

【３４０８】

なお、第４９実施形態では、変位部材Ｈ４２７９０が光を非透過の樹脂材料から形成される場合について説明したが、変位部材Ｈ４２７９０を光を透過可能な透明の樹脂材料から形成すると共にその変位部材Ｈ４２７９０に凹凸形成して、変位部材Ｈ４２７９０を介して視認される光を、他の領域（変位部材Ｈ４２７９０を介さず視認される領域）の光と異なる態様で遊技者に視認させるものであっても良い。

【３４０９】

また、変位部材Ｈ４２７９０は、光を非透過の白色ではなく、光を非透過の黒色の樹脂材料から形成され、正面側に装飾が施されるものであっても良い。即ち、発光手段の光を照射可能な位置の変位部材Ｈ４２７９０の側面（背面）が黒色に形成されるものであっても良い。この場合には、変位部材Ｈ４２７９０の背面側に発光手段Ｈ７７３ｂの光が照射されたとしても、その光を変位部材Ｈ４２７９０により吸収しやすくできる。即ち、変位部材Ｈ４２７９０が光を吸収しやすい色で構成されていても良い。これによれば、変位部材Ｈ４２７９０の背面から反射される光が他の領域の光に干渉することを抑制できる。

【３４１０】

さらに、変位部材Ｈ４２７９０を、光の透過量を電気（印加電圧の変更）により変更可能な調光ガラス等で構成して、所定の演出の際に光の透過量を変更するように構成しても良い。例えば、ボタン部Ｈ１８１の押圧操作が必要な場合には、光の透過量を多くして遊技者にボタン部Ｈ１８１の操作が必要なことを認識させやすくする一方、ボタン部Ｈ１８１の操作が必要のない場合には、基板部材Ｈ７７３から出射される一部の光の透過量を変

更して（又は遮って）視認される光の色合いを変更する演出を遊技者に視認させても良い。

【３４１１】

なお、この場合には、変位不能に構成される複数の調光ガラスを並べて配置して、それぞれの調光ガラスの光の透過量を変更する（例えば、左右方向に複数枚配置される調光ガラスの光の透過量を左側から順に少なくして、左側の発光量を多くする）ことで、遊技者に視認される光の態様を変更してもよい。

【３４１２】

また、上記第４９実施形態における揺動装置Ｈ４２７３０は、第８実施形態における揺動装置Ｈ７３０と同様に、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１が押圧操作された際に傾倒装置Ｈ７１０の下端が当接されることで揺動装置Ｈ４２７３０を変位可能に構成される。また第４９実施形態では、傾倒装置Ｈ７１０の下端が当接されることで、変位部材Ｈ４２７９０が第１拡散部材Ｈ７７４（基板部材Ｈ７７３）に近づく方向に変位するように構成される。

【３４１３】

これによれば、第１拡散部材Ｈ７７４（基板部材Ｈ７７３）に変位部材Ｈ４２７９０を近づけることができるので、正面側に配設される変位部材Ｈ４２７９０で発光手段Ｈ７７３ｂから出射される光を遮りやすくできる。即ち、発光手段Ｈ７７３ｂの照射範囲を変位部材Ｈ４２７９０により狭くしやすくできる。第４９実施形態では、基板部材Ｈの照射範囲を区画しやすくできる。

【３４１４】

次いで、図２６４及び図２６５を参照して第５０実施形態における揺動装置Ｈ４３７３０について説明する。上記第４９実施形態では、光を非透過の変位部材Ｈ４２７９０により基板部材Ｈ７７３の光を遮る場合について説明したが、第５１実施形態における揺動装置Ｈ４３７３０では、変位部材Ｈ４２７９０の背面側に配置した第２変位部材Ｈ４３７９５により、基板部材Ｈ７７３の光が遮られる場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【３４１５】

初めに、図２６４を参照して、第５０実施形態における揺動装置Ｈ４３７３０の全体構成について説明する。図２６４（ａ）は、第５０実施形態における揺動装置Ｈ４３７３０の正面模式図であり、図２６４（ｂ）は、図２６４（ａ）のＸ３８ｂ線における揺動装置Ｈ４３７３０の断面模式図である。なお、図２６４では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【３４１６】

図２６４に示すように、第５０実施形態における揺動装置Ｈ４３７３０は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１６５参照）に配設されるベース手段Ｈ４３７７０と、そのベース手段Ｈ４３７７０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配置され、ベース手段Ｈ４３７７０に軸支される駆動手段Ｈ７８０と、ベース手段Ｈ４３７７０を介して駆動手段Ｈ７８０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される変位部材Ｈ４２７９０と、ベース手段Ｈ７７０の内部空間（第１拡散部材Ｈ４３７７４と基板部材Ｈ７７３との対向間）を変位可能な状態で駆動手段Ｈ７８０の正面側に配設される第２変位部材Ｈ４３７９５と、を主に備える。

【３４１７】

なお、第５０実施形態における変位部材Ｈ４２７９０も第８実施形態における変位部材Ｈ７９０と同様にベース手段Ｈ７７０及び駆動手段Ｈ７８０に対して相対変位可能に配設されるが、図２６４及び図２６５では、理解を容易とするために変位部材Ｈ４２７９０が駆動手段Ｈ７８０に対して固定した状態で図示される。また、以下の説明では、変位部材Ｈ４２７９０が駆動手段Ｈ７８０に相対変位可能に配設される部分を「連結部分」と称して説明する。

【３４１８】

第２変位部材Ｈ４３７９５は、光を非透過の樹脂材料から形成されると共に、変位部材

Ｈ４２７９０の駆動手段Ｈ７８０との連結部分側（即ち、上側係合部Ｈ７９２ａ（図１８１参照）に配設される。即ち、変位部材Ｈ４２７９０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。よって、第２変位部材Ｈ４３７９５は、変位部材Ｈ４２７９０の変位に伴って変位可能とされる。なお、第４９実施形態における第２変位部材Ｈ４２７９５は、上方側の一端側のみが変位部材Ｈ４２７９０に接続（配設）され、ベース手段Ｈ７７０内部空間（第１拡散部材Ｈ４３７７４及び基板部材Ｈ７７３の対向間）を変位可能とされる。

【３４１９】

ベース手段Ｈ４３７７０は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１６５参照）に締結固定される上側ベース部材Ｈ７７１と、その上側ベース部材Ｈ７７１の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される下側ベース部材Ｈ７７２と、上側ベース部材Ｈ７７１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される基板部材Ｈ７７３と、基板部材Ｈ７７３の正面側を覆う態様で上側ベース部材Ｈ７７１の正面側に配設される第１拡散部材Ｈ４３７７４と、を主に備える。

【３４２０】

第１拡散部材Ｈ４３７７４には、正面側の一面に左右方向に３分割され、それぞれ異なる色が付与されたフィルムが配設（貼付）される。なお、図２６５及び図２６６では、第１拡散部材Ｈ４３７７４に貼付された各フィルム（中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅ）がそれぞれ異なる位置に貼付され、それぞれ所定の模様を付して図示される。各フィルムに装飾される色としては、例えば、各色に危険、注意、正常等の意味を持たせるために「赤、黄、青」の信号機等の配色や、各色を混ぜて他の色を形成するために「赤、黄、緑」の光の３原色の配色がされる。

【３４２１】

なお、第１拡散部材Ｈ４３７７４に貼付される各フィルムは、第１拡散部材Ｈ４３７７４の背面側に配設（貼付）されても良く、また、３分割に限らず２分割や４分割以上に分割されるものであっても良い。さらに、第１拡散部材Ｈ４３７７４に貼付される各フィルムは、正面側の一面に上下方向に分割されていても良い。

【３４２２】

また、第１拡散部材Ｈ４３７７４は、基板部材Ｈ７７３の正面と所定の隙間（第２変位部材Ｈ４３７９５を変位可能な隙間）を隔てた状態で配設されると共に、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側に第２変位部材Ｈ４３７９５を挿通可能な開口部Ｈ４３７７４ｆが形成される。

【３４２３】

なお、開口部Ｈ４３７７４ｆは、第１拡散部材Ｈ４３７７４の上方側の縁部から下方側に沿って延設されており、これにより、上方側が連結される第２変位部材Ｈ４３７９５を開口部Ｈ４３７７４ｆを介して第１拡散部材Ｈ４３７７４の内側から張出変位可能とされる。

【３４２４】

また、変位部材Ｈ４２７９０がベース手段Ｈ４３７７０に対して回転されていない状態（即ち、図２６４に示す位置に配置される場合には）では、変位部材Ｈ４２７９０の背面側に第２変位部材Ｈ４３７９５が重なって配設されると共に、変位部材Ｈ４２７９０に対して変位部材Ｈ４２７９０における左右方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の寸法が若干小さくされる。

【３４２５】

また、変位部材Ｈ４２９０がベース手段Ｈ４３７７０に対して回転されていない状態（即ち、図２６４に示す位置に配置される場合）には、中央フィルムＨ３７７４ｃの正面側に変位部材Ｈ４２７９０が配設されると共に、中央フィルムＨ４３７７４ｃの背面側に第２変位部材Ｈ４３７９５が配設される。

【３４２６】

これにより、発光手段Ｈ７７３ｂから中央フィルムＨ４３７７４ｃの背面側に照射される光を第２変位部材Ｈ４３７９５で遮ることができる。その結果、遊技者に第１フィルム

Ｈ４３７７４ｄと第２フィルムＨ４３７７４ｅとを介した発光手段Ｈ７７３ｂの光を視認させやすくできる。

【３４２７】

即ち、第２変位部材Ｈ４３７９５により発光手段Ｈ７７３ｂの光を遮らず、変位部材Ｈ４２７９０により中央フィルムＨ４３７７４ｃを介して出射される光を遮る場合には、変位部材Ｈ４２７９０の背面に照射される光が変位部材Ｈ４２７９０の背面で反射することにより、第１フィルムＨ４３７７４ｄ又は第２フィルムＨ４３７７４ｅを介して出射される光と混ざり、第１フィルムＨ４３７７４ｄ及び第２フィルムＨ４３７７４ｅを介した光が正しく遊技者に認識されない可能性がある。

【３４２８】

また、変位部材Ｈ４２７９０の変位を検出センサ等により検出して、変位部材Ｈ４２７９０の変位に合わせて変位部材Ｈ４２７９０の背面側に位置する発光手段Ｈ７７３ｂの発光を弱くする、又は、オフにすることも可能であるが、この場合には、変位部材Ｈ４２７９０の変位を常に監視する必要があるため、制御が複雑になり変位部材Ｈ４２７９０の変位に合わせて発光手段Ｈ７７３ｂの光を弱めることが困難とされる。

【３４２９】

これに対し、第５０実施形態では、異なる色を付した中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅの背面側で、発光手段Ｈ７７３ｂから出射される光を第２変位部材Ｈ４３７９５により遮ることができるので、中央フィルムＨ４３７７４ｃを介して光が出射されることを抑制して、中央フィルムＨ４３７７４ｃを介した光が他の領域の光を混ざることを抑制できる。その結果、第１フィルムＨ４３７７４ｄと第２フィルムＨ４３７７４ｅとを介した発光手段Ｈ７７３ｂの光を正しく遊技者に視認させることができる。

【３４３０】

即ち、第５０実施形態では、中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅの背面側で、発光手段Ｈ７７３ｂから出射される光を第２変位部材Ｈ４３７９５により遮ることにより、発光手段Ｈ７７３ｂから同じ発光がされている（即ち、複数の発光手段Ｈ７７３ｂからの光の出射量が制御により変更されていない（全ての発光手段Ｈ７７３ｂが同様に発光している））場合でも、第１拡散部材Ｈ４３７７４（各フィルム（中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅ））を介して視認される光の態様を変更できる。その結果、遊技者の興趣を向上できる。

【３４３１】

また、第５０実施形態では、第２変位部材Ｈ４３７９５により光の出射を遮られた領域の中央フィルムＨ４３７７４ｃを変位部材Ｈ４２７９０により遊技者に視認させにくくできる（即ち、光が出射されていない領域の正面側に変位部材Ｈ４２７９０が配置される）ので、遊技者が中央フィルムＨ４３７７４ｃに注目することを抑制できる。その結果、遊技者に第１フィルムＨ４３７７４ｄと第２フィルムＨ４３７７４ｅとを介した発光手段Ｈ７７３ｂの光を視認させやすくできる。

【３４３２】

なお、第５０実施形態では、第２変位部材Ｈ４３７９５が光を非透過の樹脂材料から形成される場合について説明したが、第２変位部材Ｈ４３７９５は、発光手段Ｈ７７３ｂから出射される光の透過量を変えるものであれば良い。

【３４３３】

即ち、第２変位部材Ｈ４３７９５が半透明の樹脂材料から形成され、第２変位部材Ｈ４３７９５に照射される基板部材Ｈ７７３の光の一部が第２変位部材Ｈ４３７９５を透過して第１拡散部材Ｈ４３７７４の各フィルム（中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅ）側に出射されるようにしても良い。この場合には、各フィルムの一部からの発光量を少なくすることができる。これにより、各フィルムを介して視認される光の色合いを複雑に変更できる。

【３４３４】
　また、第２変位部材Ｈ４３７９５を、光の透過量を電気より変更可能な調光ガラス等で構成して、所定の演出の際に光の透過量を変更するように構成しても良い。例えば、ボタン部Ｈ１８１の押圧操作が必要な場合には、光の透過量を多くして遊技者にボタン部Ｈ１８１の操作が必要なことを認識させやすくする一方、ボタン部Ｈ１８１の操作が必要のない場合には、基板部材Ｈ７７３から出射される一部の光の透過量を変更して（又は遮って）各フィルム（中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅ）を介して視認される光の色合いを変更する演出を遊技者に視認させても良い。
【３４３５】
　なお、この場合には、変位不能に構成される複数の調光ガラスを並べて配置して、それぞれの調光ガラスの光の透過量を変更する（例えば、左右方向に複数枚配置される調光ガラスの光の透過量を左側から順に少なくして、左側の第１フィルムＨ４３３７４ｄを介して照射される光の透過量を多くする）ことで、遊技者に視認される光の態様を変更してもよい。
【３４３６】
　次いで、図２６５を参照して、第５０実施形態における揺動装置Ｈ４３７３０の変位について説明する。図２６５（ａ）及び図２６５（ｃ）は、第５０実施形態における揺動装置Ｈ４３７３０の正面模式図であり、図２６５（ｂ）は、図２６５（ａ）のＸ３９ｂ線における揺動装置Ｈ４３７３０の断面模式図であり、図２６５（ｄ）は、図２６５（ｃ）のＸ３９ｄ線における揺動装置Ｈ４３７３０の断面模式図である。なお、図２６５では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。
【３４３７】
　図２６５（ａ）及び（ｂ）に示すように、第２変位部材Ｈ４３７９５は、駆動手段Ｈ７８０の駆動により変位部材Ｈ４２７９０が変位されることで、変位部材Ｈ４２７９０の変位方向に変位され、第２変位部材Ｈ４３７９５が第１フィルムＨ４３７７４ｄの背面側に配置される場合には、第１フィルムＨ４３７７４ｄ側の中央フィルムＨ４３７７４ｃの略半分と第２変位部材Ｈ４３７９５が重なる位置に配置される。
【３４３８】
　これにより、第２フィルムＨ４３７７４ｅの中央フィルムＨ４３７７４ｃ側の略半分から中央フィルムＨ４３７７４ｃを介した光を正面側に出射できると共に、第２フィルムＨ４３７７４ｅを介した光を正面側に出射できる。
【３４３９】
　なお、中央フィルムＨ４３７７４ｃの左右方向における幅は、第１フィルムＨ４３７７４ｄ及び第２フィルムＨ４３７７４ｅの略２倍に設定されており、中央フィルムＨ４３７７４ｃを介した光と、第１フィルムＨ４３７７４ｄ又は第２フィルムＨ４３７７４ｅのどちらか一方を介した光とを遊技者に視認させる際に、中央フィルムＨ４３７７４ｃを介した光の領域と、第１フィルムＨ４３７７４ｄ又は第２フィルムＨ４３７７４ｅを介した光の領域とを略同一にすることができる。
【３４４０】
　一方、図２６５（ｃ）及び（ｄ）に示すように、第２変位部材Ｈ４３７９５が第１拡散部材Ｈ４３７７４の開口部Ｈ４３７７４ｆから第１拡散部材Ｈ４３７７４の外側へ張り出される場合には、第２変位部材Ｈ４３７９５が中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅと重ならない状態とされ、正面視において変位部材Ｈ４２７９０が第１拡散部材Ｈ４３７７４と重ならない位置に配置される。
【３４４１】
　これにより、中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅを介して正面側に出射されるそれぞれの光を遊技者に視認させることができる。
【３４４２】

従って、第５０実施形態では、中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅの背面側に配設される第２変位部材Ｈ４３７９５により、中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅのうち２枚のフィルムを介して出射される光の形態や、全てのフィルムを介して出射される光の形態を形成することができる。これにより、例えば、２色または３色に発光される色を遊技者に視認されるまでに各フィルムの境界部分や各フィルムの全体で混ざり合わせることで、遊技者に複数の色を視認させることができる。その結果、基板部材Ｈ７７の光による演出効果を向上できる。

【３４４３】

なお、上記第５０実施形態では、第１拡散部材Ｈ４３７７４の正面側に３個のフィルムが配設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、４個以上のフィルムから構成しても良いし、２個のフィルムにより基板部材Ｈ７７３から出射される光の色を変更しても良い。例えば、２個のフィルムにより基板部材Ｈ７７３から出射される光の色を変更する場合には、フィルムを介した色の光を遊技者にそのまま視認させて良い。

【３４４４】

また、上記第５０実施形態では、第２変位部材Ｈ４３７９５が変位部材Ｈ４３７９０の変位に連動される場合について説明したが、第２変位部材Ｈ４３７９５を変位するための駆動手段を別途配設しても良い。

【３４４５】

さらに、上記第５０実施形態では、中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅを隣り合う状態で配設したが、それらフィルムの間に発光色を区画するための区画部材（例えば黒色のシール等）を配設しても良い。この場合には、区画部材により中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅから出射される光を区画することができるので、それぞれのフィルムを介して視認される色を区画することができ、隣り合う色同士が混ざることを抑制できる。

【３４４６】

なお、本実施形態のように、区画部材を備えず、中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅを隣り合う状態で配設した場合には、それらの隣り合う領域を介して出射される光を混ぜることができる。これにより、複数の発光色を形成することができ、光による演出効果を向上できる。

【３４４７】

また、第５０実施形態における揺動装置Ｈ４３７３０は、傾倒装置Ｈ７１０のボタン部Ｈ１８１が押圧操作された際に傾倒装置Ｈ７１０の下端が当接されることで、変位部材Ｈ４３７９０が第１拡散部材Ｈ７７４（基板部材Ｈ７７３）から離れる方向に変位されるように構成される。

【３４４８】

これによれば、変位部材Ｈ４３７９０に配設される第２変位部材Ｈ４３７９５を基板部材Ｈ７７３から離れる方向に変位させることができるので、第１拡散部材Ｈ７７４と基板部材Ｈ７７３との間を変位可能に配設される第２変位部材Ｈ４３７９５を第１拡散部材Ｈ７７４に近づける（基板部材Ｈ７７３から離す）ことができる。即ち、第２変位部材Ｈ４３７９５を第１拡散部材Ｈ７７４に貼付される各フィルム（中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅ）に近づけることができる。よって、第２変位部材Ｈ４３７９５と各フィルムとの対向間の距離を狭めることができ、その対向間に光が入射することを抑制しやすくできる。その結果、各フィルムへの光の照射領域を区画しやすくできる。

【３４４９】

次いで、図２６６を参照して、第５１実施形態における揺動装置Ｈ４４７４０について説明する。上記第８実施形態では、揺動装置Ｈ７３０のベース手段Ｈ７７０が下枠部材Ｈ

７２０に固定される場合について説明したが、第５１実施形態では、揺動装置Ｈ４４７４０の変位部材Ｈ４４７９０が下枠部材Ｈ７２０に配設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【３４５０】

図２６６（ａ）は、第５１実施形態における操作ユニットＨ４４１８０の断面模式図であり、図２６６（ｂ）は、図２６６（ａ）のＸ４０ｂ線における操作ユニットＨ４４１８０の断面模式図である。なお、図２６６（ａ）では、操作ユニットＨ４４１８０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）略中央部で切断した断面が模式的に図示される。また、図２６６では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【３４５１】

図２６６に示すように、第５１実施形態における揺動装置Ｈ４４７４０は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１６５参照）に配設される変位部材Ｈ４４７９０と、その変位部材Ｈ４４７９０の背面側に軸支されるベース手段Ｈ４４７７０と、そのベース手段Ｈ４４７７０の背面側に配設される駆動手段Ｈ７８０と、を主に備える。

【３４５２】

変位部材Ｈ４４７９０は、光を透過可能な無色透明な樹脂材料から形成されており、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるベース手段Ｈ４４７７０から出射される光を正面側に透過可能に構成される。また、変位部材Ｈ４４７９０は、正面側に向かって半球状に湾曲して形成される透過部Ｈ７９１と、その透過部Ｈ７９１の背面側の縁部３箇所から背面側に向かって突出する係合部Ｈ４４７９２と、を主に備える。

【３４５３】

係合部Ｈ４４７９２は、下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２（図１６５参照）に係合された後、螺子により背面板Ｈ７２２に締結される部分であり、背面側の先端が背面板Ｈ７２２を超える長さに設定されると共に、先端が背面板Ｈ７２２と係合可能な鉤形状に形成される。

【３４５４】

ベース手段Ｈ４４７７０は、上側軸支部Ｈ７７１ｂ１を有する上側ベース部材Ｈ４４７７１と、下側軸支部Ｈ７７２ｂ１を有する下側ベース部材Ｈ４４７７２と、上側ベース部材Ｈ４４７７１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される基板部材Ｈ７７３と、基板部材Ｈ７７３の正面側を覆う態様で上側ベース部材Ｈ４４７７１の正面側に配設される第１拡散部材Ｈ７７４と、を主に備え、上側軸支部Ｈ７７１ｂ１及び下側軸支部Ｈ７７２ｂ１が変位部材Ｈ４４７９０の係合部Ｈ４４７９２に軸支されることで、変位部材Ｈ４４７９０に対して回転可能に構成される。

【３４５５】

なお、ベース手段Ｈ４４７７０の上側ベース部材Ｈ４４７７１及び下側ベース部材Ｈ４４７７２には、背面側に駆動手段Ｈ７８０が配設される。よって、駆動手段Ｈ７８０の駆動力により変位部材Ｈ４４７９０に対してベース手段Ｈ４４７７０が回転される。

【３４５６】

第５１実施形態における揺動装置Ｈ４４７４０によれば、光を透過する変位部材Ｈ４４７９０（透過部Ｈ７９１）に対して、光を出射する基板部材Ｈ７７３を有するベース手段Ｈ４４７７０が変位されるので、第８実施形態における変位部材Ｈ７９０のように変位部材Ｈ７９０を変位させる場合に比べて、基板部材Ｈ７７３から出射される光の照射角度を大きくしやすくできる。

【３４５７】

即ち、第８実施形態では、変位部材Ｈ７９０を透過させることで基板部材Ｈ７７３から出射される光の出射方向を変更することができなかったのに対して、第５１実施形態では、光源の出射方向を変更することができるので、光の出射角度を変更しやすくできる。その結果、基板部材Ｈ７７３の光の照射角度を広くして、基板部材Ｈ７７３の光による演出領域を大きくすることができる。

【３４５８】

なお、第５１実施形態では、揺動装置Ｈ４４７４０を変位させる場合について説明したが、第５１実施形態における変位部材Ｈ４４７９０を第８実施形態における変位部材Ｈ７９０に置き換えて（即ち、変位可能な変位部材Ｈ７９０として）、揺動装置Ｈ４４７４０と変位部材Ｈ７９０との両方を変位させても良い。なお、この場合、揺動装置Ｈ４４７４０と変位部材Ｈ７９０とのそれぞれを独立して変位可能とする構成とすることが好ましい。光を出射する基板部材Ｈ７７３に対して変位部材Ｈ７９０の位置を変位させて、変位部材Ｈ７９０を介して視認される光の態様を変更しやすくできるからである。

【３４５９】

次いで、図２６７を参照して、第５２実施形態における操作ユニットＨ４５１８０について説明する。上記第８実施形態では、揺動装置Ｈ７３０の基板部材Ｈ７７３から出射される光をボタン部Ｈ１８１を介して出射する場合について説明したが、第５２実施形態では、ボタン部Ｈ１８１に配設される第２基板部材Ｈ４５７１８の光をボタン部Ｈ１８１を介して出射する場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【３４６０】

図２６７（ａ）及び図２６７（ｂ）は、第５２実施形態における操作ユニットＨ４５１８０の断面模式図である。なお、図２６７（ａ）及び図２６７（ｂ）では、操作ユニットＨ４５１８０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）略中央部で切断した断面が模式的に図示される。また、図２６７（ａ）は、傾倒装置Ｈ４５７１０が傾倒位置に配置された状態が図示され、図２６７（ｂ）では、傾倒装置Ｈ４５７１０が起立位置に配置された状態が図示される。なお、図２６７では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【３４６１】

図２６７に示すように、第５２実施形態における操作ユニットＨ４５１８０は、上面にボタン部Ｈ１８１を有する傾倒装置Ｈ４５７１０と、その傾倒装置Ｈ４５７１０が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に揺動可能な状態で内側に配設される下枠部材Ｈ７２０と、その下枠部材Ｈ７２０の内側に配設される揺動装置Ｈ７３０と、傾倒装置Ｈ４５７１０のリング部材Ｈ７１３（図１６５参照）を上方側（矢印Ｕ方向側）から支持し下枠部材Ｈ７２０と向かい合わせで配置される上枠部材Ｈ７４０と、下枠部材Ｈ７２０の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設されアーム部材Ｈ７５５（図１６５参照）を介して傾倒装置Ｈ７１０に駆動力を伝達する駆動手段Ｈ７５０（図１６５参照）と、下枠部材Ｈ７２０の下方側に配設され駆動手段Ｈ７５０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）と後方（矢印Ｆ方向）との三方から覆う箱状に形成される保護カバー部材Ｈ７６０と、を主に備える。

【３４６２】

傾倒装置Ｈ４５７１０は、上面にボタン部Ｈ１８１と、そのボタン部Ｈ１８１の正面側の外縁から下方側に向かって延設される正面側透過部Ｈ７１１と、ボタン部Ｈ１８１の左右両外側の外縁から下方側に向かって延設される側面側反射部Ｈ７１２と、ボタン部Ｈ１８１の背面側の外縁に沿って配設される軸部材Ｈ７１６（図１７４参照）と、その軸部材Ｈ７１６の両端に配設されるリング部材Ｈ７１３（図１６６参照）と、軸部材Ｈ７１６に巻き付けされるねじりバネＨ７１７（図１６６参照）と、側面側反射部Ｈ７１２の下端の縁部に沿って配設されるブラケットＨ７１４（図１６６参照）と、側面側反射部Ｈ７１２の正面側の下端に配設され、下方側に突出する検出片Ｈ７１５（図１６６参照）と、ボタン部Ｈ１８１の背面側であって軸部材Ｈ７１６の正面側に配設される第２基板部材Ｈ４５７１８と、を主に備え、ボタン部Ｈ１８１、正面側透過部Ｈ７１１、及び、側面側反射部Ｈ７１２により下方側が開口する箱状に形成される。

【３４６３】

なお、傾倒装置Ｈ４５７１０は、リング部材Ｈ７１３（図１６６参照）を回転軸として回転可能に形成されており、上述した傾倒位置（図２６７（ａ）に示す位置）と、その傾倒位置から正面側を上方側に回転させた起立位置（図２６７（ｂ）に示す位置）との間で変位可能とされ、傾倒位置においてボタン部Ｈ１８１、正面側透過部Ｈ７１１、及び、側

面側反射部Ｈ７１２の内側に揺動装置Ｈ７３０を配置可能とされる。
【３４６４】
第２基板部材Ｈ４５７１８は、光を出射可能な発光手段Ｈ４５７１８ａを備え、その発光手段Ｈ４５７１８ａから出射される光をボタン部Ｈ１８１の上面に出射可能に形成される。なお、第２基板部材Ｈ４５７１８は、ボタン部Ｈ１８１の上面に対して鋭角となる交差角度で発光手段Ｈ４５７１８ａの光を出射可能に形成される。
【３４６５】
また、ボタン部Ｈ１８１は、上述したように貝を模した形状に形成されており、図２６７に示すように、上面に貝の装飾に沿った凹凸が形成される。よって、第５２実施形態では、上面に対して鋭角となる方向（即ち、揺動装置Ｈ７３０の基板部材Ｈ７７３の光の照射方向と異なる方向）からボタン部Ｈ１８１の装飾面（上面の凹凸）に光を照射することで、ボタン部Ｈ１８１の装飾を目立たせることができる。
【３４６６】
即ち、第５２実施形態では、ボタン部Ｈ１８１の上面に対して直交する方向に近い方向から（鈍角となる交差角度で）光を入射させる基板部材Ｈ７７３と、ボタン部Ｈ１８１の上面に対して鋭角となる交差角度で光を入射させる第２基板部材Ｈ４５７１８とを備えることで、ボタン部Ｈ１８１の凹凸を介して視認される光の態様を変更することができる。その結果、光による演出効果を向上できる。
【３４６７】
また、第５２実施形態では、第２基板部材Ｈ４５７１８が傾倒装置Ｈ４５７１０に配設されるので、図２６７（ｂ）に示すように傾倒装置Ｈ４５７１０が傾倒位置に配設された場合には、ボタン部Ｈ１８１の変位に伴って第２基板部材Ｈ４５７１８を変位させることができる。従って、傾倒装置Ｈ４５７１０の配置によって、基板部材Ｈ７７３から出射される光をボタン部Ｈ１８１に入射しにくくできると共に、第２基板部材Ｈ４５７１８から出射される光のボタン部Ｈ１８１へ入射量は略一定にすることができる。その結果、ボタン部Ｈ１８１の発光態様を複数形成することができ、光による演出効果を向上できる。
【３４６８】
なお、第２基板部材Ｈ４５７１８は、傾倒装置Ｈ４５７１０でなく、例えば、下枠部材Ｈ７２０に配設され、傾倒位置または起立位置のどちらかにおける傾倒装置Ｈ４５７１０のボタン部Ｈ１８１に光を照射可能に構成されても良い。
【３４６９】
また、第５２実施形態では、ボタン部Ｈ１８１が光を透過可能に構成される場合について説明したが、ボタン部Ｈ１８１に光を反射可能な反射部材を設けて、傾倒装置Ｈ７１０が傾倒位置に配置される場合には、ボタン部Ｈ１８１の反射部材により傾倒装置Ｈ７１０を介して揺動装置Ｈ７３０を遊技者から視認不能としつつ、ボタン部Ｈ１８１に設けた反射部材により基板部材Ｈ７７３から出射される光を正面側透過部Ｈ７１１側から出射するように構成しても良い。なお、傾倒装置Ｈ７１０を起立位置に配置した場合には、正面側透過部Ｈ７１１を介して揺動装置Ｈ７３０を遊技者に視認可能とすることができる。
【３４７０】
次いで、図２６８を参照して第５３実施形態における操作ユニットＨ４６１８０について説明する。上記第５２実施形態では、傾倒装置Ｈ４５７１０に第２基板部材Ｈ４５７１８が配設される場合について説明したが、第５３実施形態では、第２基板部材Ｈ４６７４２が上枠部材Ｈ４６７４０に配設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【３４７１】
図２６８（ａ）及び図２６８（ｂ）は、第５３実施形態における操作ユニットＨ４６１８０の断面模式図である。なお、図２６８（ａ）及び図２６８（ｂ）では、操作ユニットＨ４６１８０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）略中央部で切断した断面が模式的に図示される。また、図２６８（ａ）は、傾倒装置Ｈ４６７１０が傾倒位置に配置された状態が図示され、図２６８（ｂ）では、傾倒装置Ｈ４６７１０が起立位置に配置された状態が図示さ

れる。さらに、図２６８では、理解を容易とするために各部材の構造が簡略化して図示される。

【３４７２】

図２６８に示すように、第５３実施形態における操作ユニットＨ４６１８０は、上面にボタン部Ｈ１８１を有する傾倒装置Ｈ４６７１０と、その傾倒装置Ｈ４６７１０が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に揺動可能な状態で内側に配設される下枠部材Ｈ７２０と、その下枠部材Ｈ７２０の内側に配設される揺動装置Ｈ７３０と、傾倒装置Ｈ４６７１０のリング部材Ｈ７１３を上方側（矢印Ｕ方向側）から支持し下枠部材Ｈ７２０と向かい合わせで配置される上枠部材Ｈ４６７４０と、下枠部材Ｈ７２０の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設されアーム部材Ｈ７５５（図１６６参照）を介して傾倒装置Ｈ４６７１０に駆動力を伝達する駆動手段Ｈ７５０（図１６６参照）と、下枠部材Ｈ７２０の下方側に配設され駆動手段Ｈ７５０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）と後方（矢印Ｆ方向）との三方から覆う箱状に形成される保護カバー部材Ｈ７６０と、を主に備える。

【３４７３】

傾倒装置Ｈ４６７１０は、上面にボタン部Ｈ１８１と、そのボタン部Ｈ１８１の正面側の外縁から下方側に向かって延設される正面側透過部Ｈ７１１と、ボタン部Ｈ１８１の左右両外側の外縁から下方側に向かって延設される側面側反射部Ｈ７１２と、ボタン部Ｈ１８１の背面側の外縁に沿って配設される軸部材Ｈ７１６（図１７４参照）と、その軸部材Ｈ７１６の両端に配設されるリング部材Ｈ７１３（図１６６参照）と、軸部材Ｈ７１６に巻き付けされるねじりバネＨ７１７（図１６６参照）と、側面側反射部Ｈ７１２の下端の縁部に沿って配設されるブラケットＨ７１４（図１６６参照）と、側面側反射部Ｈ７１２の正面側の下端に配設され、下方側に突出する検出片Ｈ７１５（図１６６参照）と、ボタン部Ｈ１８１の下面側にスライド変位可能に配設される変位部材Ｈ４６１８２と、を主に備え、ボタン部Ｈ１８１、正面側透過部Ｈ７１１、及び、側面側反射部Ｈ７１２により下方側が開口する箱状に形成される。

【３４７４】

なお、傾倒装置Ｈ４６７１０は、リング部材Ｈ７１３（図１６６参照）を回転軸として回転可能に形成されており、上述した傾倒位置と、その傾倒位置から正面側を上方側に回転させた起立位置との間で変位可能とされ、傾倒位置においてボタン部Ｈ１８１、正面側透過部Ｈ７１１、及び、側面側反射部Ｈ７１２の内側に揺動装置Ｈ７３０を配置可能とされる。

【３４７５】

変位部材Ｈ４６１８２は、光を透過可能な透明な樹脂材料から形成され、ボタン部Ｈ１８１の下面に沿う板状に形成され、ボタン部Ｈ１８１にスライド変位可能な状態で配設される。また、変位部材Ｈ４６１８２には、一端が下枠部材Ｈ７２０の背面板Ｈ７２２に軸支されるリンク部材Ｈ４６１８２ａの他端が連結される。

【３４７６】

このリンク部材Ｈ４６１８２ａにより傾倒装置Ｈ４６７１０が傾倒位置から起立位置に変位される駆動力に伴って、変位部材Ｈ４６１８２がボタン部Ｈ１８１に対して引っ張られる。即ち、ボタン部Ｈ１８１に対し変位部材Ｈ４６１８２が追従して変位することをリンク部材Ｈ４６１８２ａにより規制して、ボタン部Ｈ１８１に対し変位部材Ｈ４６１８２を変位させることができる。これにより、傾倒装置Ｈ４６７１０が傾倒位置から起立位置に変位される際に、変位部材Ｈ４６１８２がボタン部Ｈ１８１に対して変位される。なお、第５３実施形態では、図２６８（ｂ）に示すように、ボタン部Ｈ１８１に対して変位部材Ｈ４６１８２が変位した際に、ボタン部Ｈ１８１の背面側（軸部材Ｈ７１６側）に形成した開口から変位部材Ｈ４６１８２がボタン部Ｈ１８１の外側に張出変位される。

【３４７７】

また、変位部材Ｈ４６１８２は、ボタン部Ｈ１８１に対して張り出す側の端部からＬ字状に屈曲される屈曲部Ｈ４６１８２ｂと、レーザー加工等により変位部材の内部に凹凸加工される反射部Ｈ４６１８２ｃとを備える。

【３４７８】
屈曲部Ｈ４６１８２ｂは、ボタン部Ｈ１８１に対して変位部材Ｈ４６１８２が内側に入り込み過ぎることを抑制する部分であり、ボタン部Ｈ１８１の背面側（軸部材Ｈ７１６側）に形成される開口の開口幅よりも厚く設定される。また、屈曲部Ｈ４６１８２ｂの屈曲先端面は、凹凸の少ない平坦面に形成され、後述する第２基板部材Ｈ４６７４２からの光を内部に導光可能に形成される。
【３４７９】
上枠部材Ｈ４６７４０は、上面視において傾倒装置Ｈ４６７１０の側面側反射部Ｈ７１２の下端に屈曲形成される係合片Ｈ７１２ｂ（図１６５参照）が引っかかる（上下方向に重なる）大きさの半円弧形状に形成される。これにより、傾倒装置Ｈ４６７１０が傾倒位置から起立位置に変位した際に、傾倒装置Ｈ４６７１０が起立位置を超えて上方側に張り出し変位することを抑制できる。
【３４８０】
また、上枠部材Ｈ４６７４０には、発光手段Ｈ４６７４２ａを有する第２基板部材Ｈ４６７４２が内側に配設される。第２基板部材Ｈ４６７４２は、傾倒装置Ｈ４６７１０が傾倒位置に配置される状態において、第２基板部材Ｈ４６７４２から出射される光がボタン部Ｈ１８１に向けた状態で配設される。なお、第２基板部材Ｈ４６７４２は、ボタン部Ｈ１８１の上面に対して鋭角となる交差角度で発光手段Ｈ４６７４２ａの光を出射可能に形成される。
【３４８１】
また、ボタン部Ｈ１８１は、上述したように貝を模した形状に形成されており、図２６８に示すように、上面に貝の装飾に沿った凹凸が形成される。よって、第５３実施形態では、上面に対して鋭角となる方向（即ち、揺動装置Ｈ７３０の基板部材Ｈ７７３の光の照射方向と異なる方向）からボタン部Ｈ１８１の装飾面（上面の凹凸）に光を照射することで、ボタン部Ｈ１８１の装飾を目立たせることができる。
【３４８２】
即ち、第５３実施形態では、ボタン部Ｈ１８１の上面に対して直交する方向に近い方向から（鈍角となる交差角度で）光を入射させる基板部材Ｈ７７３と、ボタン部Ｈ１８１の上面に対して鋭角となる交差角度で光を入射させる第２基板部材Ｈ４６７４２とを備えることで、ボタン部Ｈ１８１の凹凸を介して視認される光の態様を変更することができる。その結果、光による演出効果を向上できる。
【３４８３】
さらに、第５３実施形態では、傾倒装置Ｈ４６７１０を起立位置に配置した場合に、図２６８に示すように、変位部材Ｈ４６１８２の屈曲部Ｈ４６１８２ｂが第２基板部材Ｈ４６７４２の正面側に配設される。これにより、第２基板部材Ｈ４６７４２から出射される光を変位部材Ｈ４６１８２の内部を透過させると共に、内部に形成した反射部により所定の模様を表示することができる。
【３４８４】
この場合、変位部材Ｈ４６１８２に表示される模様を、正面側透過部Ｈ７１１を介して遊技者に視認させることができる。従って、正面側透過部Ｈ７１１を介して揺動装置Ｈ７３０から出射される光を遊技者に視認させることができると共に、正面側透過部Ｈ７１１を介して変位部材Ｈ４６１８２に表示される模様を遊技者に視認させることができる。その結果、光による演出効果を向上できる。
【３４８５】
なお、所定の模様としては、傾倒装置Ｈ４６７１０を遊技者に操作させるために表示する文字（例えば「押せ」）や、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態を表す表示（例えば「チャンス」や、キャラクター等の表示である。
【３４８６】
さらに、傾倒装置Ｈ４６７１０を起立位置に配置した場合には、揺動装置Ｈ７３０の基板部材Ｈ７７３から出射された光の一部を傾倒装置Ｈ７１０の正面側透過部Ｈ７１１の下

端側から入射させてボタン部Ｈ１８１の内部を透過させることができる。よって、ボタン部Ｈ１８１の上面に形成した装飾部（貝を模した凹凸）を発光させることができる。

【３４８７】

即ち、第５３実施形態では、傾倒装置Ｈ４６７１０を起立位置に配置した状態において、基板部材Ｈ７７３の光と第２基板部材Ｈ４６７４２との光とで傾倒装置Ｈ４６７１０の異なる領域を発光させることができる。その結果、光による演出効果を向上できる。

【３４８８】

なお、第５３実施形態では、変位部材Ｈ４６１８２の内部に形成される反射部Ｈ４６１８２ｃは、傾倒装置Ｈ４６７１０が傾倒位置に配置された状態において第２基板部材Ｈ４６７４２から出射される光に対して、反射しにくい（そのまま透過させやすい）形状に形成される。これにより、傾倒装置Ｈ４６７１０が傾倒位置に配置される場合には、変位部材Ｈ４６１８２が発光しにくく（模様を形成しにくく）して、変位部材Ｈ４６１８２が所定の変位をした場合にのみ、変位部材Ｈ４６１８２で光の演出をすることができる。

【３４８９】

以上、上記実施形態に基づき本発明を説明したが、本発明は上記形態に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲内で種々の変形改良が可能であることは容易に推察できるものである。

【３４９０】

上記各実施形態において、一の実施形態における構成の一部または全部を、他の実施形態における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の実施形態としても良い。以下に示す変形例（別実施形態）においても同様であり、一の変形例における構成の一部または全部を、他の変形例における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の変形例としても良い。以下に示す変形例の適用対象となる実施形態は任意であり、いずれの変形例（変形例の組み合わせ又は置き換え）をいずれの実施形態に適用しても良い。

【３４９１】

上記各実施形態において、一の実施形態における構成の一部または全部を、他の実施形態における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の実施形態としても良い。

【３４９２】

上記第１０実施形態では、回転動作ユニットＡ４００ｂが傾倒と拡大とを合わせたような動作態様で構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、基礎板部材Ａ４３０の移動と移動部材Ａ４４０の移動とを利用して、左右方向にスライド移動する扉状の扉部材を移動させるようにしても良い。

【３４９３】

この場合、基礎板部材Ａ４３０の回転先端部から前方へ向けて突設される円柱状部を基礎板部材Ａ４３０の正面側に配置される第１扉部材に形成される上下方向に延びる長孔形状の第１支持部に支持させ、移動部材Ａ４４０の回転先端部から前方へ向けて突設される円柱状部を移動部材Ａ４４０の正面側に配置される第２扉部材に形成される上下方向に延びる長孔形状の第２支持部に支持させることで、回転動作ユニットＡ４００ｂの傾倒動作と連動させる形で第１扉部材および第２扉部材を左右方向にスライド移動させることができる。

【３４９４】

第１扉部材は第２扉部材よりも第３図柄表示装置８１の表示領域の外方側に配置され、第１扉部材および第２扉部材のスライド移動中において、基礎板部材Ａ４３０の回転先端部は第１支持部を上下方向に案内され、移動部材Ａ４４０の回転先端部は第２支持部を上下方向に案内される。

【３４９５】

この場合における第１扉部材および第２扉部材の左右位置および移動速度は、基礎板部材Ａ４３０及び移動部材Ａ４４０の回転先端部の左右位置および移動速度に対応する。そ

のため、回転軸棒ＡＪ１を中心とする回転変位の左右方向成分に基づいて移動する第１扉部材に対して、回転軸棒ＡＪ１を中心とする回転変位の左右方向成分に加えて移動部材Ａ４４０の長手方向の延びの分だけ移動量が大きくなることから、第１扉部材の移動速度よりも第２扉部材の移動速度を大きく構成することができる。

【３４９６】

基礎板部材Ａ４３０が演出待機状態から張出状態へ向かうにつれて回転軸棒ＡＪ１を中心とする回転変位の左右方向成分が徐々に小さくなることから、第１扉部材が左右外側に退避する位置からの第１扉部材の左右方向の移動速度も徐々に小さくなるように構成される（駆動モータＭＴ１の駆動速度が一定の場合に第１扉部材の左右方向の移動速度が徐々に小さくなる）。

【３４９７】

一方、移動部材Ａ４４０の回転軸棒ＡＪ１を中心とする回転変位の左右方向成分も、基本的には張出状態へ向かうにつれて徐々に小さくなるが、移動部材Ａ４４０は傾倒終端側に近づくほど長手方向に延びる量が大きくなる。そのため、第２扉部材が左右外側に退避する位置からの第２扉部材の左右方向の移動速度は、移動部材Ａ４４０の延びが生じる傾倒終端側で大きくなる（駆動モータＭＴ１の駆動速度が一定の場合に第２扉部材の左右方向の移動速度が駆動モータＭＴ１寄りに大きくなる）。

【３４９８】

そのため、特に回転動作ユニットＡ４００ｂの傾倒終端側において、同時点における第１扉部材の移動速度と第２扉部材の移動速度とを大きく異ならせることができ、扉部材を利用した演出の演出効果を向上させることができる。

【３４９９】

なお、本実施形態では、第１動作ユニットＡ４００と第２動作ユニットＡ５００とが左右一対で構成されているので、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００でそれぞれ扉部材を動かすように構成し、第３図柄表示装置８１の正面側で扉を閉める（左右の扉部材の移動方向先端側の縁部の間に正面視で隙間が無い状態とする）演出を実行可能な演出装置を構成しても良い。

【３５００】

また、第１動作ユニットＡ４００で左右方向に移動させる扉部材により第３図柄表示装置８１の表示領域の大部分（又は全体）を隠すことができるように構成しても良い。この場合において、第２動作ユニットＡ５００で左右方向に移動させる扉部材によっても第３図柄表示装置８１の表示領域の大部分（又は全体）を隠すことができるように構成しても良い。

【３５０１】

本実施形態では、第１動作ユニットＡ４００の方が第２動作ユニットＡ５００の手前側に配置されるので、例えば、第１動作ユニットＡ４００により移動される扉部材により第３図柄表示装置８１の表示領域の全体が隠されている状態で、第２動作ユニットＡ５００の配置を遊技者に分からせない（隠す）ように構成することもできる。これにより、第１動作ユニットＡ４００により移動される扉部材が第３図柄表示装置８１の手前側から退避するように動いたとしても、第２動作ユニットＡ５００により移動される扉部材によって第３図柄表示装置８１が隠されていたことで、第３図柄表示装置８１の表示を依然として見せない状態を構成することができる。これにより、遊技者の扉部材に対する注目力を向上させることができる。

【３５０２】

上記第１０実施形態では、演出待機状態からの回転動作ユニットＡ４００ｂの外形の変化が、機能長孔Ａ４４４の形状により、移動部材Ａ４４０の長手方向への変位が先に生じ、その後で、移動部材Ａ４４０の長手方向と交差する方向への方向切替部材Ａ４５０の変位が生じたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、機能長孔Ａ４４４の形状を、第１平行部Ａ４４４ａを省略して、第１平行部Ａ４４４ａの長さ分だけ傾斜部Ａ４４４ｂの形成位置を移動部材Ａ４４０の回転先端側へ平行移動させ、同様に第２平行部Ａ４

４４ｃも傾斜部Ａ４４４ｂの端部と連結されるように延ばすようにしても良い。このような形状によれば、演出待機状態からの回転動作ユニットＡ４００ｂの外形の変化が、移動部材Ａ４４０の変位と方向切替部材Ａ４５０の変位とが同時に生じる状態から開始され、その後で、移動部材Ａ４４０の変位のみ生じる状態へ移行するような変位を生じさせることができる。

【３５０３】

また、傾斜部Ａ４４４ｂの回転軸棒ＡＪ１側端部から、回転軸棒ＡＪ１に近づくほど移動部材Ａ４４０の短手方向中心側へ向けて傾斜する長孔により形成される逆傾斜部が形成されるようにしても良い。このような形状によれば、演出待機状態からの回転動作ユニットＡ４００ｂの外形の変化が、移動部材Ａ４４０が長手方向に延びる方向の変位と方向切替部材Ａ４５０が短手方向に広がる方向の変位とが同時に生じる状態から開始され、その後で、移動部材Ａ４４０が長手方向に延びる方向の変位と方向切替部材Ａ４５０が短手方向に近づく（中心側に寄る）方向の変位とが同時に生じる状態へ移行するような変位を生じさせることができる。

【３５０４】

上記第１０実施形態では、機能長孔Ａ４４４の形状が、一対が対称形状で構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、一対を非対称で構成しても良い。この場合、左側の方向切替部材Ａ４５０が変位開始するタイミングや変位量と、右側の方向切替部材Ａ４５０が変位開始するタイミングや変位量とが異なる演出役物を構成することができるので、周囲の状況に合った変位態様を構成することができる（障害物に当たらないような変位量や変位タイミングを考慮して、左右で異なる変位を生じさせることができる）。

【３５０５】

上記第１０実施形態では、回転動作ユニットＡ４００ｂが回転動作する際に、移動部材Ａ４４０が基礎板部材Ａ４３０に対する直線方向に移動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転動作ユニットＡ４００ｂが回転動作する際に、回転動作ユニットＡ４００ｂに配設される別の回転部材が回転動作するように構成しても良い。この場合、回転動作ユニットＡ４００ｂの外形の変化とは異なる視認態様の変化を生じさせることができる。

【３５０６】

上記第１０実施形態では、傾倒開始時において回転動作ユニットＡ４００ｂの外形が変化しない場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、傾倒開始時から回転動作ユニットＡ４００ｂの外形が変化されるように案内長孔Ａ４１４の形状を設計することで、傾倒開始時における回転動作ユニットＡ４００ｂの動作抵抗を増加させることができるので、傾倒開始時の姿勢での回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢維持を容易とすることができる。

【３５０７】

上記第１０実施形態では、回転動作ユニットＡ４００ｂの傾倒方向動作および起き上がり方向動作の双方を駆動力により動作させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、途中位置からは駆動力の発生を解除して自重で傾倒を実行させるなど、駆動力によらない移動態様を実行可能としても良い。この場合、駆動力で動作させる場合と駆動力に因らずに動作させる場合とで、回転動作ユニットＡ４００ｂの動作態様を異ならせ、動作のバリエーションを増やすことができる。更に、駆動の継続時間を短くすることができることから、駆動モータＡＭＴ１の耐用年数を延ばすことができる。

【３５０８】

上記第１０実施形態では、基礎板部材Ａ４３０の正面側に移動部材Ａ４４０が部分的に重なるように配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、基礎板部材Ａ４３０に回転先端方向へ延びる金属棒が配設されており、その金属棒の回転先端側に、金属棒の延びる方向にスライド変位可能に案内されるように移動部材Ａ４４０が配設されるようにすることで、基礎板部材Ａ４３０と移動部材Ａ４４０とが正面視

で重ならないようにしても良い。この場合、基礎板部材Ａ４３０の正面側が移動部材Ａ４４０に隠されないので、基礎板部材Ａ４３０の正面側部分を演出に利用することができる。

【３５０９】

上記第１０実施形態では、回転動作ユニットＡ４００ｂの外形の変化が回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢に対応して生じる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、外形の変化の有無を切り替えるための別の駆動装置を用意しても良い。この駆動装置により、案内長孔Ａ４１４の形状を切り替えたり、機能長孔Ａ４４４の形状を切り替えたりすることにより、回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢に対応した回転動作ユニットＡ４００ｂの外形の態様を複数種類用意することができる。

【３５１０】

また別の駆動装置により、移動部材Ａ４４０と方向切替部材Ａ４５０とを駆動変位させるように構成することで、回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢の変化が生じていない時に移動部材Ａ４４０及び方向切替部材Ａ４５０を同時に変位可能に構成しても良い。例えば、回転動作ユニットＡ４００ｂが外形の変化を伴わずに傾倒終端に到達し、傾倒終端において別の駆動装置で移動部材Ａ４４０と方向切替部材Ａ４５０とを同時に駆動変位させることもできるように構成することで、回転動作ユニットＡ４００ｂの演出効果の向上を図ることができる。

【３５１１】

上記第１０実施形態では、駆動モータＡＭＴ１の動作速度を一定とし、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作の角速度が漸減する態様で動作する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、角速度の減少量を考慮して、駆動モータＡＭＴ１の駆動速度を漸増させることで、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作の角速度が一定となる制御態様でも、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作を実行可能にしても良い。

【３５１２】

上記第１０実施形態では、回転板部材Ａ６６２にかかる空気抵抗の変化により、回転板部材Ａ６６２の動作抵抗が変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転板部材Ａ６６２にかけられる摩擦抵抗（例えば、移動方向と直交する方向から当接する板部材による接触抵抗）が変化するようにしても良いし、回転板部材Ａ６６２にかけられる粘性抵抗（例えば、ダンパ部材等による抵抗）が変化するようにしても良い。

【３５１３】

上記第１０実施形態では、前側板部材Ａ７３０と後側板部材Ａ７４０に挟まれる発光基板Ａ７２０からの光照射について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、発光基板の照射面側が前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０の端面と対向配置されるように配置されても良い。

【３５１４】

この場合において、前側板部材Ａ７３０（又は後側板部材Ａ７４０）には、発光基板Ａ７２０からの光照射（板の延びる方向に沿う方向への照射）が行われる一方、後側板部材Ａ７４０（又は前側板部材Ａ７３０）へは、その後側板部材Ａ７４０（又は前側板部材Ａ７３０）の光入射端面に光照射部の配置面が対向配置される別の発光基板（発光基板Ａ７２０に対して姿勢が９０度異なる発光基板）からの光照射が行われるように構成しても良い。これにより、発光基板Ａ７２０によっては対応が難しいと考えられる、前側板部材Ａ７３０又は後側板部材Ａ７４０の厚みが大きい場合にでも、適切な位置に光を入射させ易くすることができる。

【３５１５】

上記第１０実施形態では、前カバー部材Ａ７５０の突設部Ａ７５１ａと発光基板Ａ７２０とは間隔を空けて配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、突設部Ａ７５１ａが発光基板Ａ７２０に押圧力を付与し得る寸法関係で設計しても良い。この場合、発光基板Ａ７２０にかけられる押圧力を突設部Ａ７５１ａの数だけ

分割させることができるので、発光基板Ａ７２０の配置を安定させることができる。
【３５１６】
前カバー部材Ａ７５０の突設部Ａ７５１ａは、光を拡散させることを一つの目的とし、それぞれ同形状で形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限定されるものではない。例えば、正面発光部Ａ７２４よりも左側位置（照射方向の逆側位置、前側板部材Ａ７３０の外方側）における突設部Ａ７５１ａの曲率よりも、正面発光部Ａ７２４よりも右側位置（照射方向側の位置、前側板部材Ａ７３０の内方側）における突設部Ａ７５１ａの曲率を大きくするように構成しても良い。この場合、前側板部材Ａ７３０に近い側における突設部Ａ７５１ａの拡散角を小さくできるので、拡散した光が前側板部材Ａ７３０を広く照らしてしまい、ライン状溝部Ａ７３２によるライン状の光の視認性を低下させることを避けることができる。
【３５１７】
上記第１０実施形態では、発光基板Ａ７２０には前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０に光を照射する発光部Ａ７２４，Ａ７２５が配設されることについて説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。例えば、発光基板Ａ７２０から前カバー部材Ａ７５０に光を照射する発光部が配設されても良い。この場合、発光部Ａ７２４，Ａ７２５が発光基板Ａ７２０の端部付近に配設されていることから、発光部Ａ７２４，Ａ７２５から照射される光と干渉しない位置に前カバー部材Ａ７５０に光を照射する発光部を設けることを容易とすることができ、光の干渉を避けることができる。
【３５１８】
上記第１０実施形態では、薄肉樹脂板Ａ７４３に形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状に合わせて前側板部材Ａ７３０のライン状溝部Ａ７３２が形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ライン状溝部Ａ７３２を、薄肉樹脂板Ａ７４３に形成されるイラストとは別の図形やイラストの形状で形成しても良い。この場合、ライン状溝部Ａ７３２が発光される場合（ライン状溝部Ａ７３２の形状が発光される場合）と、ライン状溝部Ａ７３２が発光されない場合（薄肉樹脂板Ａ７４３に形成されるイラストが見える場合）との見映えの違いを大きくすることができる。
【３５１９】
なお、前側板部材Ａ７３０のみではなく薄肉樹脂板Ａ７４３にもライン状溝部Ａ７３２を形成するようにしても良い（又は、発光基板Ａ７２０の前後に前側板部材Ａ７３０を配置しても良い）。この場合に、背面発光部Ａ７２５にも指向性の高いＬＥＤを採用すれば、薄肉樹脂板Ａ７４３においてもライン状の光を視認させる光演出を実現することができる。
【３５２０】
また、薄肉樹脂板Ａ７４３のみではなく前側板部材Ａ７３０にも特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストが形成されるようにしても良い（又は、発光基板Ａ７２０の前後に後側板部材Ａ７４０を配置しても良い）し、前側板部材Ａ７３０と後側板部材Ａ７４０の前後配置を逆にしても良い。
【３５２１】
これらの各場合において、正面発光部Ａ７２４や背面発光部Ａ７２５の指向性は目的に合わせて選択すれば良い（指向性を高くすれば全反射をさせ易く、指向性を低くすればば全反射が生じにくいので板部材の側面の広い範囲を光らせやすい）。また、発光基板Ａ７２０の前側に配置される部材と後側に配置される部材とで、形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状を同じにしても良いし、異ならせても良い。
【３５２２】
上記第１０実施形態では、前カバー部材Ａ７５０から突設される部分により、前側板部材Ａ７３０、発光基板Ａ７２０及び後側板部材Ａ７４０が位置決めされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、前側板部材Ａ７３０から前後に突設される部分により、前カバー部材Ａ７５０、発光基板Ａ７２０及び後側板部材Ａ７４０が

位置決めされても良い。この場合、前側板部材Ａ７３０から突設される部分の突設長さを短くすることができるので、組立中に前側板部材Ａ７３０を落とす等して誤って突設部分を破損する可能性を低めることができる。

【３５２３】

また、後側板部材Ａ７４０から突設される部分により前側板部材Ａ７３０、発光基板Ａ７２０及び前カバー部材Ａ７５０が位置決めされるようにしても良い。後側板部材Ａ７４０はライン状溝部が形成される部材とは異なるので、突設される部分の位置がライン状溝部により制限されることが無い。そのため、突設される部分の配置自由度を向上させることができる。

【３５２４】

また、発光基板Ａ７２０、前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０の位置決めのみを行い、前カバー部材Ａ７５０との間では位置決めを行わないようにしても良い。この場合、発光基板Ａ７２０、前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０の位置は合わせたままで前カバー部材Ａ７５０を取り外すことができる。これにより、装飾部分としての前カバー部材Ａ７５０の取り替え（汚れた場合の取り替え、スペック変更に伴う取り替え等）を容易に行うことができる。

【３５２５】

位置決めのために突設される部分の形成位置は、種々の態様が例示される。例えば、前カバー部材Ａ７５０との位置決めを想定するのであれば前カバー部材Ａ７５０の後方位置に形成される方が良い。一方で、前カバー部材Ａ７５０との位置決めを想定しないのであれば、締結部Ａ７３３がそうであるように、前カバー部材Ａ７５０の後方位置とは異なる位置に形成しても良い。

【３５２６】

上記第１０実施形態では、視認態様変化シートＡ８０６により左右方向での視線の方向の傾斜角度の違いにより、下流側案内部材Ａ８０３の後方流路を流下する球の視認性が変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。左右方向での視線の方向の傾斜角度の違いで視認性を変化させる場合には、隣で遊技している遊技者に球の流下をのぞき見される可能性を低くできるという効果があるが、例えば、視認態様変化シートＡ８０６を、上下方向での視線の方向の傾斜角度の違いにより下流側案内部材Ａ８０３の後方流路を流下する球の視認性が変化するように構成する場合には、遊技者の後ろ側で立っている他者にのぞき見される可能性を低くできるという効果がある。

【３５２７】

上記第１０実施形態では、前側部材Ａ８０３ｚの板状本体Ａ８０３ａの正面側に視認態様変化シートＡ８０６が貼り付けられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、延設板Ａ８０３ｂの左右外側面に視認態様変化シートＡ８０６を貼り付けるようにしても良い。この場合、左側流路ＡＴＬ１や右側流路ＡＴＬ２に対して左右方向側からの方向視で視認する場合に、左側流路ＡＴＬ１や右側流路ＡＴＬ２を視認し易い方向視と、左側流路ＡＴＬ１や右側流路ＡＴＬ２を視認し難い方向視とをつくることができる。

【３５２８】

上記第１０実施形態では、視認態様変化シートＡ８０６により、第３図柄表示装置８１の正面側に頭を配置した遊技者が横目で下流側案内部材Ａ８０３側を見る場合における球の視認性の低下について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３図柄表示装置８１の表示面全体に視認態様変化シートＡ８０６と同様の機能を生じるシートを貼り付け、下流側案内部材Ａ８０３の正面側に頭を配置した遊技者が横目で第３図柄表示装置８１の表示を見難い（視認態様変化シートＡ８０６に遮光される）ように構成しても良い。この場合、下流側案内部材Ａ８０３の後方を流下する球に注目している状況において第３図柄表示装置８１の表示を視認させないことで遊技者の気を散らさないようにすることができ、更に、第３図柄表示装置８１から照射される光が遊技者に到達しないような構成とすることができるので、遊技者は、眩しい光を目に受ける状況を回避するこ

とができ、目を休めることができる。
【３５２９】
上記第１０実施形態では、視認態様変化シートＡ８０６により、左側流路ＡＴＬ１を視認し難い場合を構成するようにしたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、視認し難い場合を構成するのは右側流路ＡＴＬ２としても良いし、左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２としても良く、その選択は任意である。右側流路ＡＴＬ２は第２入賞口６４０へ球を案内する流路であるところ、左側流路ＡＴＬ１の形状を変形して左側流路ＡＴＬ１を流下した球が特定入賞口６５ａへ案内されるように構成することで、視認態様変化シートＡ８０６の設計次第で、第２入賞口６４０へ案内される球のみを視認し易くしたり、特定入賞口６５ａへ案内される球のみを視認し易くしたりするといった演出が可能となる。
【３５３０】
例えば、視認態様変化シートＡ８０６を左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の正面側を覆うように配置する前提において、左側流路ＡＴＬ１の正面側を覆う視認態様変化シートＡ８０６は正面視と左斜め方向からの方向視とでは透過性が高い一方で右斜め方向からの方向視では透過性が低くなるように設計され、右側流路ＡＴＬ２の正面側を覆う視認態様変化シートＡ８０６は正面視と右斜め方向からの方向視とでは透過性が高い一方で左斜め方向からの方向視では透過性が低くなるように設計される場合、正面視では左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の透過性を高くし、左斜め方向からの方向視では左側流路ＡＴＬ１の透過性は高くする一方で右側流路ＡＴＬ２の透過性を低くし、右斜め方向からの方向視では左側流路ＡＴＬ１の透過性は低くする一方で右側流路ＡＴＬ２の透過性を高くすることができる。
【３５３１】
また、この場合において、正面視では左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の透過性を低くするように構成しても良い。この場合、左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の両方共を同時に視認可能な状況を排除することができるので、左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の双方を同時に見たい遊技者に対して下流側案内部材Ａ８０３を上側から覗き込ませるという遊技をさせるように仕向けることができる。
【３５３２】
視認態様変化シートＡ８０６の表面には、特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状等の装飾を付すようにしても良い。
【３５３３】
上記第１０実施形態では、流下する球の視認性を視認態様変化シートＡ８０６により変化させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、前後一対の光透過性板の間に光を非透過のルーバー板部が配置され、そのルーバーが首振り動作したり、撓んだりすることで、遊技者の視線を遮る場合と、透過させる場合とを切り替えられるようにしても良い。
【３５３４】
また、前後一対の非透過の板部材に開口が形成されており、例えば前側の板部材が後側の板部材に対して平行移動できるよう構成される場合に、各板部材に形成される開口の位置の正面視でのずれにより、前後の開口の内部を通る方向視については奥側を視認することができる一方で、前後いずれかの開口から外れる方向視については板部材に視線が遮られることで奥側を視認することができないように構成しても良い。
【３５３５】
上記第１０実施形態では、検出センサＳＥ１に球が検出されることで賞球が払い出される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、賞球の払い出しは無くても良い。賞球の払い出しが無い場合の用途として、例えば、検出センサＳＥ１での球の検出に基づいて大当たり遊技の種類（ラウンド数等）を選択させるような遊技機への利用が想定される。このような遊技機では、大当たり遊技の種類を選択させるタイミング以外では検出センサＳＥ１に対する注目力は極端に下がることが考えられるため、

その前側に視認態様変化シートＡ８０６を配置して検出センサＳＥ１を隠すことに意味がある。

【３５３６】

また、賞球の払い出しが無い場合の別の用途として、例えば、検出センサＳＥ１が特定入賞口６５ａの下流側に配置され、大当たり遊技中に特定入賞口６５ａに入球した球の通過が検出された場合に大当たり終了後の遊技状態が所定の有利状態に移行するように制御される「Ｖ入賞口（特定領域）」として利用される遊技機への利用が想定される。このような遊技機では、大当たり遊技中以外では検出センサＳＥ１に球が案内されることは無いので、大当たり遊技中以外では検出センサＳＥ１に対する注目力は極端に下がることが考えられるため、その前側に視認態様変化シートＡ８０６を配置して検出センサＳＥ１を隠すことに意味がある。

【３５３７】

なお、大当たり中において、視認態様変化シートＡ８０６の正面位置に遊技者が頭を移動させれば、視認態様変化シートＡ８０６を透視して、その背面側の検出センサＳＥ１を視認することが可能となるので、大当たり遊技中において検出センサＳＥ１が見難いという不満を解消することができる。

【３５３８】

また、例えば、賞球の払い出しがある場合に、球の検出に対応して第３図柄表示装置８１において払い出し個数に対応した数字（「＋１」や「＋３」等）を表示するようにしても良い。この場合、遊技者は、下流側案内部材Ａ８０３の後方を流下する球を視認できない場合であっても、第３図柄表示装置８１の表示から賞球の払い出しが生じたことを理解することができ、遊技者の興趣の向上を図ることができる。

【３５３９】

上記第１０実施形態では、補助導光板ユニットＡ８１０において、前側板部材Ａ８４０がライン状溝部Ａ８４２を備えることで光の輪郭を視認させるような光演出を可能とする一方で、後側板部材Ａ８５０にはライン状溝部Ａ８４２は形成されず、均一な面発光での光演出を行う場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【３５４０】

例えば、前側板部材Ａ８４０のみではなく後側板部材Ａ８５０にもライン状溝部Ａ８４２を形成するようにしても良い。この場合に、エッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７にも指向性の高いＬＥＤを採用すれば、後側板部材Ａ８５０においてもライン状の光を視認させる光演出を実現することができる。

【３５４１】

また、後側板部材Ａ８５０のみではなく前側板部材Ａ８４０にも特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストが形成されるようにしても良いし、前側板部材Ａ８４０と後側板部材Ａ８５０の前後配置を逆にしても良い。

【３５４２】

これらの各場合において、エッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７，Ａ８３３，Ａ８３７の指向性は目的に合わせて選択すれば良い（指向性を高くすれば全反射をさせ易く、指向性を低くすればば全反射が生じにくいので板部材の側面の広い範囲を光らせやすい）。また、前側板部材Ａ８４０と後側板部材Ａ８５０とで、形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状を同じにしても良いし、異ならせても良い。

【３５４３】

上記第１０実施形態では、正面発光部Ａ７２４及び背面発光部Ａ７２５は、複数のＬＥＤの光軸がそれぞれ互いに平行とされるよう構成され、エッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７及びエッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７は、複数のＬＥＤの光軸がそれぞれ互いに放射状となる関係で構成される（進行方向先端側ほど隣の光軸との間隔が広がる態様で設定される）場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、これらの光軸の関係を、逆にしても良い。

【３５４４】

上記第１１実施形態では、案内長孔Ａ２４１４の直線状部が傾斜する方向に延びる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、直線状部の延びる方向が水平方向に延びるよう構成しても良い。この場合、往路と復路とでの動作抵抗の違いを小さくすることができる。

【３５４５】

上記第１３実施形態では、導光変位部材Ａ４９２０を駆動させるソレノイドＡ４９４０を個別に用意する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、電動役物６４０ａの駆動装置を兼用しても良い。この場合、電動役物６４０ａの動作タイミングと導光変位部材Ａ４９２０の動作タイミングとを合わせ易くすることができる。

【３５４６】

また、導光変位部材Ａ４９２０の代わりに、主には第３図柄表示装置８１の正面側に張り出す動作を行う可動役物（例えば、第１動作ユニットＡ４００）をセンターフレームＡ８６の内部領域を通してベース板Ａ６０の前側に張り出し可能に構成し、球の流路への視線を遮る位置まで移動可能に構成することで、可動役物を球の流路への視線を遮るために利用しても良い。この場合、可動役物に個別の駆動装置を、球の流路への視線を遮るための駆動装置に兼用すれば良いので、ソレノイドＡ４９４０を不要とすることができる。

【３５４７】

上記第１３実施形態において、覆設部材Ａ４９３０の前側案内板部Ａ４９３１に特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストを形成するようにすれば、そのイラストによりライン状溝部Ａ４９２１ａを見え難くすることができる。これにより、発光手段Ａ４９３３ａを点灯させていない場合における球案内ユニットＡ４９００の見映えを良くすることができる。また、前側案内板部Ａ４９３１に形成されるイラストに対応した形状でライン状溝部Ａ４９２１ａを形成することで、演出効果を向上させることができる。

【３５４８】

上記第１３実施形態において、導光変位部材Ａ４９２０の被案内板部Ａ４９２１に視認態様変化シートＡ８０６を貼り付けるようにしても良い。この場合、遊技者の視線が変化しなくても、導光変位部材Ａ４９２０が変位することで遊技者の視線と視認態様変化シートＡ８０６との相対的な位置関係が変化するので、遊技者が視線を変化させていないにも関わらず、導光変位部材Ａ４９２０の後方を流下する球の視認性を変化させる場合を生じさせることができる。

【３５４９】

上記第１３実施形態において、導光変位部材Ａ４９２０の被案内板部Ａ４９２１への光の入射、発光手段の個数や配置、点灯させる発光手段の選択、及び構造の設計に、第１０実施形態で説明した補助導光板ユニットＡ７００ｂや補助導光板ユニットＡ８１０の構造の全て又は全部を流用するようにしても良い。

【３５５０】

上記第１４実施形態では、延設案内部Ａ５４３８に柱状突設部材Ａ５４４８が押進されることで移動部材Ａ５４４０に対して相対変位する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転動作ユニットＡ５４００ｂの傾倒角度に基づいて歯合回転するギア及びラックと柱状突設部材Ａ５４４８とが連動するように構成することで、回転動作ユニットＡ５４００ｂの傾倒角度に対応して柱状突設部材Ａ５４４８を変位させても良いし、柱状突設部材Ａ５４４８を駆動させるための駆動装置を回転動作ユニットＡ５４００ｂに配設させて駆動装置の駆動制御により柱状突設部材Ａ５４４８を駆動変位させても良い。

【３５５１】

上記第１６実施形態から第４９実施形態では、背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０に一つの係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが連結（配設）され、正面壁部Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０に

一対の（二つの）係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが連結（配設）される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａ或いは係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが省略されても良い。

【３５５２】

上記第１６実施形態から第４９実施形態において、凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂが平面部Ｗ３２０，Ｗ４３２０，Ｗｅ３２０，Ｗｊ３２０，Ｗｍ３２０，Ｗｓ３２０の係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂ側における正面に凹設され、正面視おいて、係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂの連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂに重なる位置に配設されても良い。

【３５５３】

上記第１６実施形態から第４９実施形態において、保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００の背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０において正面壁部Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０と対向する側の面に立設部Ｗ２２２が立設されても良い。立設部Ｗ２２２が背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０における先端側（左壁部Ｗ５０２とは反対側）に配設されることにより、保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００を取り外す際、立設部Ｗ２２２により封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【３５５４】

上記第１６実施形態から第４９実施形態において、立設部Ｗ５４０，Ｗｃ５４０，Ｗｄ５４０を用いて封印シールＷＳＬを切断しても良く、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａ，Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂの傾斜部Ｗ５３２（突出先端部）を用いて封印シールＷＳＬを切断しても良い。これにより、傾斜部Ｗ５３２に係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａ，Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂを弾性変形させ易くさせる機能と封印シールＷＳＬを切断する機能とを兼用させることができ、製造コストを低減できる。

【３５５５】

上記第１６実施形態から第４９実施形態において、立設部Ｗ５４０，Ｗｃ５４０，Ｗｄ５４０が非成形とされ、保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗ

ｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００が前後反対とされた状態でボックスカバーＷ２００，Ｗ２２００，Ｗ４２００，Ｗ７２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００，Ｗｊ２００，Ｗｌ２００，Ｗｍ２００，Ｗｏ２００，Ｗｑ２００，Ｗｒ２００，Ｗｔ２００，Ｗｖ２００のカバー側被係合部Ｗ２１０及びボックスベースＷ３００，Ｗ２３００，Ｗ４３００，Ｗ５３００，Ｗ６３００，Ｗｂ３００，Ｗｅ３００，Ｗｊ３００，Ｗｋ３００，Ｗｍ３００，Ｗｎ３００，Ｗｓ３００，Ｗｕ３００のベース側被係合部Ｗ３１０に受け入れ可能とされても良い。これにより、不正を行う者が誤って保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００が前後反対とされた状態でボックスカバーＷ２００，Ｗ２２００，Ｗ４２００，Ｗ７２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００，Ｗｊ２００，Ｗｌ２００，Ｗｍ２００，Ｗｏ２００，Ｗｑ２００，Ｗｒ２００，Ｗｔ２００，Ｗｖ２００のカバー側被係合部Ｗ２１０及びボックスベースＷ３００，Ｗ２３００，Ｗ４３００，Ｗ５３００，Ｗ６３００，Ｗｂ３００，Ｗｅ３００，Ｗｊ３００，Ｗｋ３００，Ｗｍ３００，Ｗｎ３００，Ｗｓ３００，Ｗｕ３００のベース側被係合部Ｗ３１０に係合させようと試み、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａ，Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂと封印シールＷＳＬとを当接させ、封印シールＷＳＬを破損させる機会を付与できる。

【３５５６】

上記第１６実施形態から第４９実施形態では、一つの係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、二つ以上（複数）の係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが配設されても良い。係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが複数配設される場合、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａの少なくとも一つが第４２実施形態おけるカバー部Ｗｒ２１４の突起Ｗｒ２１４ｂにより係合される構成としても良い。即ち、複数の係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａにおいて、弾性変形させる方向を反対方向とできる。従って、例えば、第１６実施形態おける突起Ｗ２２１との係合を解除させるために突起Ｗ２２１に係合される係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａを弾性変形（変位）させることにより、第４２実施形態おける突起Ｗｒ２１４ｂに係合される係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａを突起Ｗｒ２１４ｂとの係合が維持させる方向へ向けて変位させることができる。その結果、ボックスカバーＷ２００，Ｗ２２００，Ｗ４２００，Ｗ７２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００，Ｗｊ２００，Ｗｌ２００，Ｗｍ２００，Ｗｏ２００，Ｗｑ２００，Ｗｒ２００，Ｗｔ２００，Ｗ

ｖ２００及びボックスベースＷ３００，Ｗ２３００，Ｗ４３００，Ｗ５３００，Ｗ６３００，Ｗｂ３００，Ｗｅ３００，Ｗｊ３００，Ｗｋ３００，Ｗｍ３００，Ｗｎ３００，Ｗｓ３００，Ｗｕ３００から保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００が不正に取り外されることを抑制できる。

【３５５７】

上記第１６実施形態から第４９実施形態では、一対（二つ）の係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが一つ配設されても良く、三つ以上配設されても良い。係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが三つ以上配設される場合、係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂの少なくとも一つが第４３実施形態おける平面部Ｗｓ３２０の突起Ｗｓ３２８により係合される構成としても良い。即ち、複数の係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂにおいて、弾性変形させる方向を反対方向とできる。従って、例えば、第１６実施形態おける突起Ｗ３１２ｃとの係合を解除させるために突起Ｗ３１２ｃに係合される係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂを弾性変形（変位）させることにより、第４３実施形態おける突起Ｗｓ３２８に係合される係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂを突起Ｗｓ３２８との係合が維持させる方向へ向けて変位させることができる。その結果、ボックスカバーＷ２００，Ｗ２２００，Ｗ４２００，Ｗ７２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００，Ｗｊ２００，Ｗｌ２００，Ｗｍ２００，Ｗｏ２００，Ｗｑ２００，Ｗｒ２００，Ｗｔ２００，Ｗｖ２００及びボックスベースＷ３００，Ｗ２３００，Ｗ４３００，Ｗ５３００，Ｗ６３００，Ｗｂ３００，Ｗｅ３００，Ｗｊ３００，Ｗｋ３００，Ｗｍ３００，Ｗｎ３００，Ｗｓ３００，Ｗｕ３００から保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００が不正に取り外されることを抑制できる。

【３５５８】

上記第１６実施形態から第４９実施形態では、保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００における背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０側には一つの係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが配設され、正面壁部Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０側には一対（二つ）の係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが配設され、背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０側と正面壁部Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０側とで異なる数の係合部が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、背面壁部Ｗ５１０，

Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０側と正面壁部Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０側とで係合部が同数だけ配設されても良い。例えば、背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０側に係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが二つ配設され、正面壁部Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０側に係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが二つ配設されても良い。

【３５５９】

上記第１６実施形態から第４９実施形態では、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において一対の係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂの間に係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、背面視において、一対の係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂの一方に重なる位置に係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが配設されても良い。即ち、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが上下方向において、一方に偏って配設されても良い。

【３５６０】

上記第１６実施形態から第４９実施形態において、切欠き部Ｗ２２６，Ｗｅ２２６，Ｗ３２５，Ｗｅ３２５により形成される傾斜面が直線状に形成されても良く、封印シールＷＳＬの貼着面とは反対側へ向けて凹となる湾曲状に形成されても良い。

【３５６１】

上記第１９実施形態では、突起Ｗ４５３４が係合部Ｗ４５３０ａ，Ｗ４５３０ｂから背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０の対向側へ向けて四角錐状に突出して形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、三角錐状等の多角錐状、円錐状、四角柱や三角柱状等の多角柱状、円柱状に形成されても良い。多角柱状や円柱状に形成される場合、封印シールＷＳＬの破断面を引きちぎった形状とでき、破断（破損）された封印シールＷＳＬが再利用された場合、破断（破損）の痕跡を作業者に認識させ易くできる。

【３５６２】

上記第１９実施形態から第２１実施形態、第４１実施形態および第４６実施形態において、ボックスカバーＷ２００，Ｗ４２００，Ｗｑ２００，Ｗｖ２００及びボックスベースＷ３００，Ｗ５３００，Ｗ６３００に保護カバーＷ４５００，Ｗ５５００，Ｗｑ５００，Ｗｖ５００を取り付ける際、突起Ｗ４５３４，Ｗ５５３４，Ｗｑ５３４，Ｗｖ５３４により、封印シールＷＳＬが破損されても良い。

【３５６３】

上記第２０実施形態および第２１実施形態において、一対の両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１の一部が非形成とされても良い。例えば、一対の両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１において、封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）における一部が非形成とされる場合、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００，Ｗ６３００への保護カバーＷ５５００の取り付けにおいて係合部Ｗ５５３０ｂの係合孔Ｗ５３３と突起Ｗ３１２ｃとが係合される前の状態、又は、またはボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００，Ｗ６３００からの保護カバーＷ５５００の取り外しにおいて係合孔Ｗ５３３と突起Ｗ３１２ｃとの係合が解除された後の状態では、保護カバーＷ５５００を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）へ変位可能とされる。これにより、突起Ｗ５５３４を封印シールＷＳＬに当接

させることができ、封印シールＷＳＬを破損させることができる。
【３５６４】
上記第２０実施形態および第２１実施形態において、保護カバーＷ５５００から切断された係合部Ｗ５５３０ｂの突起Ｗ５５３４を利用して封印シールＷＳＬを切断しても良い。これにより、切断工具（図示せず）の携行を不要とでき、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の開封作業を容易とできる。
【３５６５】
上記第２１実施形態では、凹部Ｗ６３２６が規制状態において、突起Ｗ５５３４と上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、突起Ｗ５５３４よりも突起Ｗ３１２ｃとは反対側（矢印Ｌ方向側）に延びて形成されても良い。例えば、凹部Ｗ６３２６が突起Ｗ３１２ｃと係合孔Ｗ５３３との係合を解除させるために保護カバーＷ５５００が変位される範囲のうちの突起Ｗ３１２ｃ側（矢印Ｒ方向側）の半分（不正に取り外すために変位させる範囲のうちの前半部分）まで伸びて形成されることで、封印シールＷＳＬに痕跡（破損）を形成することと、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ６３００から保護カバーＷ５５００が取り外されることを抑制することを両立させることができる。
【３５６６】
即ち、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂを切断せずに係合部５５３０ｂを弾性変形させて突起Ｗ３１２ｃと係合孔Ｗ５３３との係合が解除された際には、突起Ｗ５５３４が凹部Ｗ６３２６に受け入れられるので、係合部５５３０ｂを突起Ｗ３１２ｃとは反対側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位させることで、封印シールＷＳＬに痕跡（破損）を形成できる。一方で、突起Ｗ５５３４が凹部Ｗ６３２６の突起Ｗ３１２ｃとは反対側の内壁に当接されることで、係合部５５３０ｂの突起Ｗ３１２ｃとは反対側（矢印Ｌ方向側）へ向けての変位が規制され、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ６３００から保護カバーＷ５５００が取り外されることを抑制できる。
【３５６７】
上記第２１実施形態では、凹部Ｗ６３２６が規制状態において、突起Ｗ５５３４と上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、突起Ｗ５５３４よりも突起Ｗ３１２ｃとは反対側（矢印Ｌ方向側）において突起Ｗ３１２ｃ側（矢印Ｒ方向側）へ延びて形成されても良い。例えば、凹部Ｗ６３２６が突起Ｗ３１２ｃと係合孔Ｗ５３３との係合を解除させるために保護カバーＷ５５００が変位される範囲のうちの突起Ｗ３１２ｃとは反対側（矢印Ｌ方向側）の半分（不正に取り外すために変位させる範囲のうちの後半部分）まで伸びて形成されても良い。
【３５６８】
上記第２１実施形態では、凹部Ｗ６３２６が規制状態において、突起Ｗ５５３４と上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、突起Ｗ５５３４よりも突起Ｗ３１２ｃとは反対側（矢印Ｌ方向側）となる位置に形成されても良い。突起Ｗ３１２ｃと係合孔Ｗ５３３との係合を解除させるために保護カバーＷ５５００が変位される範囲のうちの途中に形成されても良い。
【３５６９】
上記第２３実施形態において、連結片Ｗ８５３１ｂの封印シールＷＳＬに対向する面または封印シールＷＳＬに対向する側とは反対側の面が封印シールＷＳＬに対し非平行に形成されても良い。
【３５７０】
上記第２３実施形態において、連結片Ｗ８５３１ｂにおける一対の側面の少なくとも一方が対向する側とは反対側へ向けて凸となる曲面に形成されても良い。これにより、連結片Ｗ８５３１ｂの一対の側面の少なくとも一方に形成される曲面に沿って切断工具を回転させ易くでき、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。
【３５７１】
上記第２３実施形態において、連結片Ｗ８５３１ｂにおける一対の側面の少なくとも一

方が対向する側へ向けて凹となる曲面に形成されても良い。
【３５７２】
上記第２３実施形態では、連結片Ｗ８５３１ｂの一対の側面が封印シールＷＳＬ（平面部Ｗ２２０）に対し傾斜して形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、連結片Ｗ８５３１ｂの一対の側面の一方が封印シールＷＳＬ（平面部Ｗ２２０）に対し傾斜して形成され、一対の側面の他方が封印シールＷＳＬ（平面部Ｗ２２０）に対し直交して形成されても良い。
【３５７３】
上記第２４実施形態において、断面視では、連結片Ｗ９５３１ｂの第１部Ｗ９５３１ｂ１及び第２部Ｗ９５３１ｂ２が略楕円形に形成されても良い。これにより、曲面に沿って切断工具を回転させ易くでき、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。
【３５７４】
上記第２４実施形態において、連結片Ｗ９５３１ｂの第１部Ｗ９５３１ｂ１及び第２部Ｗ９５３１ｂ２の境界に段部が形成される（第１部Ｗ９５３１ｂ１と第２部Ｗ９５３１ｂ２とが直接連結される）場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、第１部Ｗ９５３１ｂ１と第２部Ｗ９５３１ｂ２との間に、滑らかに連結する連結部が介設されても良い。即ち、介設部は、第１部Ｗ９５３１ｂ１から第２部Ｗ９５３１ｂ２へ向かうに従い、その介設部の断面形状が第１部Ｗ９５３１ｂ１の断面形状から第２部Ｗ９５３１ｂ２の断面形状に徐々に変化する形状の部位として形成される。これにより、第１部Ｗ９５３１ｂ１及び第２部Ｗ９５３１ｂ２の連結部に応力集中が生じることを抑制でき、連結片ＷＶ９５３１ｂの強度を確保できる。また、介設部により切断工具を第２部Ｗ９５３１ｂ２から第１部Ｗ９５３１ｂ１へ向けて変位させ易くできる。
【３５７５】
上記第２４実施形態において、係合部Ｗ５３０ａが不正に弾性変形された場合、第１部Ｗ９５３１ｂ１により封印シールＷＳＬを破損させても良い。
【３５７６】
上記第２５実施形態において、切断部Ｗａ５５０が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における左壁部Ｗ５０２の略中央から正面壁部Ｗ５２０側（矢印Ｆ方向側）へ偏った位置に配設され、正面壁部Ｗ５２０と背面壁部Ｗ５１０とが反対の姿勢（正面壁部Ｗ５２０の正面側に背面壁部Ｗ５１０が対向される姿勢）保護カバーＷａ５００がボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に取り付けられた場合、切断部Ｗａ５５０が切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に対向される位置に配設されても良い。これにより、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが切断され、保護カバーＷａ５００が封印ユニットＷ４００側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させた状態においても、封印シールＷＳＬが切断させることを抑制できる。一方で、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷａ５００を取り外し、正面壁部Ｗ５２０と背面壁部Ｗ５１０とが反対の姿勢で保護カバーＷａ５００がボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に取り付けられることにより切断部Ｗａ５５０を切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に対向される位置に配設でき、切断部Ｗａ５５０を用いて封印シールＷＳＬを切断できる。その結果、不正を行う者に切断部Ｗａ５５０を利用させ難くできる。
【３５７７】
上記第２５実施形態では、切断部Ｗａ５５０が鋸刃状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、直線状に形成されても良く、切断部Ｗａ５５０の突出先端部が、０度から１８０度までのｓｉｎ波を連結した形状から形成されても良い。なお、切断部Ｗａ５５０が直線状に形成される場合、封印シールＷＳＬに対し平行に形成されても良く、少なくとも一部が傾斜して形成されても良い。切断部Ｗａ５５０が封印シールＷＳＬに対し平行に形成されることにより、封印シールＷＳＬを切断する際、封印シールＷＳＬの破断面が引きちぎられた態様に形成できる。これにより、不正を行う者が封印シールＷＳＬの破断面どうしを隙間なく接合し、封印シールＷＳＬを再利用することを行い難

くできる。
【３５７８】
上記第２５実施形態では、切断部Ｗａ５５０に形成される鋸刃状の全体が切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に受け入れられ、封印シールＷＳＬが平面部Ｗ２２０側と平面部Ｗ３２０側とに分離される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、平面部Ｗ２２０側および平面部Ｗ３２０側における封印シールＷＳＬが一部において連結されても良い（少なくとも一部が切断されれば良い）。言い換えると、切断部Ｗａ５５０により封印シールＷＳＬにミシン目（上下方向において、所定の間隔を隔てて切断部と連結部とが形成される形状）が形成されても良い。これにより、封印シールＷＳＬを切断（平面部Ｗ２２０側と平面部Ｗ３２０側とに分離）させ易くできる。一方で、封印シールＷＳＬに形成される連結部を切断（破断）させる際、その破断面を引きちぎった形状とでき、切断（破断）された封印シールＷＳＬが再利用された場合、切断の痕跡を作業者に認識させ易くできる。また、保護カバーＷａ５００を側壁部Ｗ２１２側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより封印シールＷＳＬにミシン目を形成することを容易に行うことができる。
【３５７９】
上記第２６実施形態では、刃部Ｗｂ５５２が円錐状に形成される先端部を備える場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではい。例えば、刃部Ｗｂ５５２の先端部が円柱状に形成され、刃部Ｗｂ５５２の先端部における断面形状が突出方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において一定とされても良い。言い換えると、刃部Ｗｂ５５２の先端部が鋭利に形成されなくても良い。これにより、刃部Ｗｂ５５２を用いて封印シールＷＳＬを切断する際、封印シールＷＳＬの破断面が引きちぎられた態様に形成できる。これにより、不正を行う者が封印シールＷＳＬの破断面どうしを隙間なく接合し、封印シールＷＳＬを再利用することを行い難くできる。また、刃部Ｗｂ５５２の先端部が三角錐や四角錐等の多角錐状に形成されても良く、刃部Ｗｂ５５２の先端部が三角柱や四角柱等の多角柱状に形成されても良い。
【３５８０】
上記第２６実施形態から第２９実施形態、第３３実施形態および第４９実施形態において、ボックスカバーＷ２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００の平面部Ｗ２２０，Ｗｅ２２０又はボックスベースＷ３００，Ｗｅ３００の平面部Ｗ３２０，Ｗｅ３２０における封印シールＷＳＬが貼着される面（ガイド部Ｗｂ５６０，Ｗｄ５６０、下壁部Ｗ５０１又は連結片Ｗｅ５３１ａを沿わせる面）に凹凸が形成されても良い。これにより、ボックスカバーＷ２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００の平面部Ｗ２２０，Ｗｅ２２０又はボックスベースＷ３００，Ｗｅ３００の平面部Ｗ３２０，Ｗｅ３２０に沿ってガイド部Ｗｂ５６０，Ｗｄ５６０、下壁部Ｗ５０１又は連結片Ｗｅ５３１ａを一対の両端壁部Ｗ２２３の一方から他方へ向けて変位させた場合、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における封印シールＷＳＬの一端と他端との間において封印シールＷＳＬに形成される破断面の位置を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変化させることができる。その結果、不正を行う者が封印シールＷＳＬの破断面どうしを隙間なく接合し、封印シールＷＳＬを再利用することを行い難くできる。
【３５８１】
上記第２８実施形態において、立設部Ｗｄ５４０と係合孔Ｗ５３３との嵌合（係合）に加え、保護カバーＷｄ５００が係合部Ｗｄ５３０ａを係合するための係合部を備えても良い。例えば、保護カバーＷｄ５００の背面壁部Ｗ５１０に係合部が形成され、係合部Ｗｄ５３０ａの連結片Ｗ５３１ａとは反対側（傾斜部Ｗ５３２側）の端部が背面壁部Ｗ５１０に形成される係合部に係合されても良い。これにより、保護カバーＷｄ５００の異なる２箇所において係合部Ｗｄ５３０ａを係合でき、保護カバーＷｄ５００に対する係合部Ｗｄ５３０ａの取り付けを強固にできる。また、係合部Ｗｄ５３０ａの姿勢を維持し易くできる。その結果、係合部Ｗｄ５３０ａを用いることによる封印シールＷＳＬの切断作業を容易に行うことができる。
【３５８２】

上記第３４実施形態では、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０（第１規制部Ｗｊ２４０及び第２規制部Ｗｊ２５０）が平面部Ｗｊ２２０に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０が平面部Ｗｊ３２０の背面側（矢印Ｂ方向側）の面に形成され、ボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷｊ３００が組み合わされることにより、規制状態において、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０が係合部Ｗｊ５３０ａの係合孔Ｗ５３３の内側となる位置に配設されても良い。ボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷｊ３００が組み合わされることにより、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０と係合部Ｗｊ５３０ａとが係合される。ボックスカバーＷｊ２００は、カバー部Ｗｊ２１４及び弾性変形規制手段Ｗｊ２３０を備えるため、ボックスカバーＷｊ２００の樹脂成形型が複雑化するのに対し、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０がボックスベースＷｊ３００に形成されることにより、ボックスカバーＷｊ２００の樹脂成形型を簡略化できる。その結果、製造コストを低減できる。

【３５８３】

上記第３５実施形態において、係合部Ｗ５３０ｂ２の先端部が係止部Ｗｋ３１２ｆの傾斜部Ｗｋ３１２ｇに非当接とされても良い（係合部Ｗ５３０ｂ２が弾性変形されなくても良い）。これにより、一対の係合部Ｗ５３０ｂの一方と他方とが異なる方向にそれぞれ弾性変形されることを抑制できる。その結果、一対の係合部Ｗ５３０ｂの一方（他方）の弾性変形量を小さくでき、一対の係合部Ｗ５３０ｂの一方（他方）破損させ難くできる。

【３５８４】

上記第３５実施形態では、カバー部Ｗｋ３１２の係止部Ｗｋ３１２ｆがボックスベースＷｋ３００に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、係止部Ｗｋ３１２ｆが側壁部Ｗ２１２の正面側（矢印Ｆ方向側）の面に形成され、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００が組み合わされることにより、規制状態において、係止部Ｗｋ３１２ｆが係合部Ｗ５３０ｂ２の先端部に当接される位置に配設されても良い。ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００が組み合わされることにより、係合部Ｗ５３０ｂ２の先端部が係止部Ｗｋ３１２ｆの傾斜部Ｗｋ３１２ｇに当接される。ボックスベースＷｋ３００は、カバー部Ｗｋ３１２を備えるため、ボックスベースＷｋ３００の樹脂成形型が複雑化するのに対し、係止部Ｗｋ３１２ｆがボックスカバーＷ２００に形成されることにより、ボックスベースＷｋ３００の樹脂成形型を簡略化できる。その結果、製造コストを低減できる。

【３５８５】

上記第３５実施形態において、保護カバーＷ５００に係合部Ｗ５３０ｂ１又は係合部Ｗ５３０ｂ２が２箇所以上に形成され、ボックスベースＷｋ３００に突起Ｗ３１２ｃ又は突起Ｗｋ３１２ｃが２箇所以上に形成されても良い。例えば、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における保護カバーＷ５００の両端側に係合部Ｗ５３０ｂ２が一対形成され、それら一対の係合部Ｗ５３０ｂ２の間に係合部Ｗ５３０ｂ１が形成される場合、係合部Ｗ５３０ｂ１のボックスカバーＷ２００側（矢印Ｂ方向側）への弾性変形が係合部Ｗ５３０ｂ１の両端において抑制され易くでき、係合部Ｗ５３０ｂ１が不正に弾性変形され、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００から保護カバーＷ５００を不正に取り外し難くできる。また、例えば、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における保護カバーＷ５００の両端側に係合部Ｗ５３０ｂ１が一対形成され、それら一対の係合部Ｗ５３０ｂ１の間に係合部Ｗ５３０ｂ２が形成される場合、背面視において、係合部Ｗ５３０ｂ２を係合部Ｗ５３０ａに重なる位置に配設できる。これにより、係合部Ｗ５３０ａを不正に弾性変形され、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００から保護カバーＷ５００を不正に取り外し難くできる。

【３５８６】

上記第３６実施形態において、連結部Ｗｌ５３５に切欠きが形成されても良い。これにより、連結部Ｗｌ５３５を回転させ（捩じられ）易くできる。

【３５８７】

上記第３７実施形態では、規制突起Ｗｍ２２８が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において

延設部Ｗｍ３３２の略中央に重なる位置に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、規制部Ｗｍ３３４の下方に配設されても良い。これにより、係合部Ｗｍ５３０ｂを不正に弾性変形させ難くできる。

【３５８８】

上記第４３実施形態では、一対の突起Ｗｓ３２８を備える場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、一対の突起Ｗｓ３２８の一方（他方）のみが形成され、一対の突起Ｗｓ３２８の他方（一方）に対応する位置には、第１６実施形態における突起Ｗ３１２ｃが形成されても良い。言い換えると、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における一方（他方）には突起Ｗｓ３２８が形成され、他方（一方）には突起Ｗ３１２ｃが形成されても良い。これにより、保護カバーＷ５００の一対の係合部Ｗ５３０ｂの一方と他方とで弾性変形させる方向を反対方向とできる。従って、一方（他方）の係合部Ｗ５３０ｂと突起Ｗｓ３２８（突起Ｗ３１２ｃ）との係合を解除させるために一方（他方）の係合部Ｗ５３０ｂを弾性変形（変位）させることにより、他方（一方）の係合部Ｗ５３０ｂと突起Ｗ３１２ｃ（突起Ｗｓ３２８）との係合を維持させる方向へ向けて変位させることができる。その結果、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｓ３００から保護カバーＷ５００が不正に取り外されることを抑制できる。

【３５８９】

上記第４４実施形態において、突部Ｗｔ２２４ｂに形成される一対の切欠きＷｔ２２４ｂ１に突部Ｗｔ２２４ｂどうしを連結する連結部が形成されても良い。これにより、突部Ｗｔ２２４ｂの強度を確保できる。

【３５９０】

上記第４４実施形態では、突部Ｗｔ２２４ｂが断面視において、略矩形状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、断面視において、平面部Ｗｔ２２０とは反対側へ向けて凸となる湾曲状に形成されても良い。これにより、突部Ｗｔ２２４ｂに封印シールＷＳＬを貼着させ易くできる（突部Ｗｔ２２４ｂから封印シールＷＳＬが剥がれ難くできる）。

【３５９１】

上記第４４実施形態では、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、突部Ｗｔ２２４ｂの寸法が係合部Ｗ５３０ａの連結片Ｗ５３１ｂの寸法と略同一に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、突部Ｗｔ２２４ｂの寸法が連結片Ｗ５３１ｂの寸法よりも小さく形成されても良く、大きく形成されても良い。

【３５９２】

左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における突部Ｗｔ２２４ｂの寸法が連結片Ｗ５３１ｂの寸法よりも小さく形成される場合、突部Ｗｔ２２４ｂに貼着された封印シールＷＳＬが連結片Ｗ５３１ｂにより遮蔽され、不正を行う者から視認不能とできる。これにより、不正を行う者が切断工具により封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【３５９３】

左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における突部Ｗｔ２２４ｂの寸法が連結片Ｗ５３１ｂの寸法よりも大きく形成される場合、切断工具の先端を連結片Ｗ５３１ｂの一対の側面に対向させることにより、連結片Ｗ５３１ｂを切断する操作を行うことなく切断工具を封印シールＷＳＬに当接させることができ、封印シールＷＳＬを破損させることができる。

【３５９４】

上記第４６実施形態において、凹部Ｗｖ２２９が一対の突起Ｗｖ５３４とは反対側（矢印Ｄ方向側）へ向けて延びて形成されても良い。これにより、保護カバーＷｖ５００から分離された係合部Ｗｖ５３０ａをボックスカバーＷｖ２００から取り外す際、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）を回転軸として突起Ｗｖ５３４が平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて回転され、突起Ｗｖ５３４が封印シールＷＳＬに当接した状態を維持しつつ係合部Ｗｖ５３０ａを凹部Ｗｖ２２９の延びる方向（矢印Ｄ方向）へ向けて変位させることができる。その結果、封印シールＷＳＬに形成される痕跡（破損）を大きくできる。

【３５９５】

上記第４８実施形態において、第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１及び第２連結片Ｗｘ５３１ｂ２が異なる樹脂材料を用いて二色成形により成形されても良い。例えば、第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１が第２連結片Ｗｘ５３１ｂ２よりも高い剛性を有する樹脂材料を用いて成形される場合、第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１の形状（第２連結片Ｗｘ５３１ｂ２よりも正面壁部Ｗ５２０から背面壁部Ｗ５１０へ向かう方向における寸法が大きく形成される形状）に加え、剛性の高い樹脂材料を用いて成形されるため、第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１に対し第２連結片Ｗｘ５３１ｂ２を切断させ易くでき、切断工具の刃を一層回転させ易くできる。これにより、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【３５９６】

上記第４８実施形態では、連結片Ｗｘ５３１ｂが断面視において、略Ｌ字状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、断面視において、略コ字状に形成され、開放される側が封印シールＷＳＬに対向する姿勢で配設されても良い。これにより、切断中において、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における連結片Ｗｘ５３１ｂの切断抵抗を変化させることができ、切断工具（図示せず）を回転させ易くできる。

【３５９７】

上記各実施形態では、第１入賞口６４に入球した球が可動の電動役物６４０ａ又は羽部材９４５により第２入賞口６４０側に案内される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１入賞口６４に入球した球の流下経路に、球の流下のランダム性を上昇させるための釘が配設し、釘との衝突により確率で球が第２入賞口６４０側に案内されるようにしても良い。

【３５９８】

上記各実施形態では、電動役物６４０ａ又は羽部材９４５の動作は、普通図柄の抽選により決定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、パチンコ機１０の電源投入から一定パターンで動作するように制御されるものでも良い。この場合、電動役物６４０ａ又は羽部材９４５に対する注目力を向上させることができる。

【３５９９】

また、電動役物６４０ａ又は羽部材９４５が一定動作する場合において、スルーゲート７６５や検出装置ＳＥ４，ＳＥ５を依然として配置するようにしても良い。例えば、球の通過が検出されることにより、第３図柄表示装置８１や音響装置やＬＥＤ等により、球が通過したことを遊技者に報知するように制御しても良い。この場合、球が電動役物６４０ａ又は羽部材９４５の近くを流下するタイミングであることを遊技者が把握し易くすることができる。

【３６００】

上記各実施形態では、普通図柄の抽選を保留可能に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、普通図柄の抽選が保留されず、普通図柄の変動中に普通入賞口６６等で球の通過が検出されたとしても、普通図柄の抽選がされないように構成しても良い。

【３６０１】

上記各実施形態では、球の流下経路の分岐位置にシーソー部材７６２又は振分け部９８３が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、分岐位置に釘を配置しても良いし、分岐位置に樹脂材料から形成される突設部を配置しても良い。これらと球とが衝突することで、球の流下経路を分岐させることができる。この場合、球が交互に流下する場合だけでなく、片側に連続で流下する場合（タイミング）を生じさせることができる。

【３６０２】

上記各実施形態では、電動役物６４０ａ又は羽部材９４５の動作時間を、０．５秒～３秒程度の短い時間で設定したが、必ずしもこれに限れるものではない。例えば、通常状態における普通図柄の抽選の内の約１０％の確率で、３秒よりも長い時間（例えば、５秒間）において、電動役物６４０ａが進入状態で維持され、又は、羽部材９４５が開放状態で維持されるような長開放作動パターンで動作されるよう設定しても良い。

【３６０３】
長開放作動パターンで動作されている場合、第１入賞口６４に入球した球を電動役物６４０ａ又は羽部材９４５により第２入賞口６４０側に案内し易くすることができる。そのため、長開放作動パターンで動作している時に発射した球（１分に１００球が上限という発射間隔から考えて限られた球数の球）の内、第１入賞口６４に入球した球が、第２入賞口６４０側へは案内されないという事態を回避することができる。
【３６０４】
長開放作動パターンで電動役物６４０ａ又は羽部材９４５が動作している場合には、電動役物６４０ａ又は羽部材９４５にめがけて球を発射する方が、特別図柄２の抽選を獲得し易いので遊技者にとって有利である。そのため、長開放作動パターンで電動役物６４０ａ又は羽部材９４５が動作開始する前に、第３図柄表示装置８１や、音響装置や、ＬＥＤ等の手段により、遊技者に電動役物６４０ａ又は羽部材９４５めがけて球を発射させるように、予め報知するように制御しても良い。
【３６０５】
報知は、電動役物６４０ａ又は羽部材９４５の配置次第で変更されるものであるが、第５０実施形態では、右打ちを示唆するよう報知する方が、球が電動役物６４０に到達し易いので望ましい。
【３６０６】
一方、第５１実施形態では、左打ち又は右打ちのどちらで球を発射しても羽部材９４５に到達し易さに差は無いが、それまでの発射状態を継続する意味で、左打ちを示唆するように報知する方が望ましい。なお、通常状態から右打ち遊技を行う遊技者向けに、発射を継続させるような内容で報知しても良い。
【３６０７】
上記第５０実施形態では、センサＳＥで通過が検出されることにより特別図柄１の抽選を獲得可能とされ、第２入賞口６４０を球が通過して下流側のスイッチに球が検出されることで特別図柄２の抽選を獲得可能とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左側のセンサＳＥで通過が検出される場合および第２入賞口６４０の下流側のスイッチで球が検出される場合に特別図柄１の抽選を獲得可能とし、右側のセンサＳＥで通過が検出される場合に特別図柄２の抽選を獲得可能にしても良い。
【３６０８】
この場合、シーソー部材７６２により球が右側に流された場合に、電動役物６４０ａの退避状態において球が第１送球経路ＫＲ１を通過した方が遊技者の利益が大きくなるという遊技性を構成することができる。
【３６０９】
上記第５０実施形態では、シーソー部材７６２の回転動作（左右傾倒動作）が０．５秒よりも短い時間で完了する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転軸部のクリアランスを小さくする等して、動作抵抗を増加させ、シーソー部材７６２の回転動作にかかる時間を１．０秒以上に設定しても良い。この場合、第１入賞口６４に球が連球で入球したとしても、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球が検出されたことによる変動表示が終了してから、次の球がシーソー部材７６２により左側に流されるという遊技性を構成することができる。
【３６１０】
上記第５０実施形態では、案内部７４２が上側突出部７４１の内部に形成される流路の左右中央位置に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、案内部７４２が左右に並列されるよう構成しても良い。この場合、互いの突出先端面は、互いの対向する面に近づくほど、基部側に向かって傾斜して形成されるようにすることで、２つの案内部７４２と当接して案内（背面側に折り返し）される球が、左右方向に位置ずれすることを効果的に抑制できる。
【３６１１】
上記第５０実施形態では、普通入賞口（スルーゲート）７６５と屈曲部材７４０との間

が樹脂製の経路でつながれる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、釘で球を案内する経路を構成しても良い。この場合、球の流下速度をばらつかせることができる。

【３６１２】

上記第５０実施形態では、第１傾斜溝７５５及び第２傾斜溝７５７が平行な直線形状溝として形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１傾斜溝７５５及び第２傾斜溝７５７が、非平行でも良い。また、湾曲経路で形成されても良い。湾曲の場合は、金属レールのように球の下側の案内面が湾曲する態様でも良いし、前後に蛇行する態様で湾曲するものでも良い。

【３６１３】

上記第５０実施形態では、移動板部材６４１が進入状態の時に左側案内部６４５が覆設板部７１１の正面側に配置され、その上面を球が転動可能となる場合を説明した。この場合において、覆設板部７１１の正面側に球の転動経路と交差する方向に延びる突条が突設されても良い。これにより、左側案内部６４５の上面を転動する球を突条に衝突させることによる球の減速を図ることができる。

【３６１４】

上記第５０実施形態では、右側案内部６４３により右側に流された球は漏れなく第２球送球部７３６に受け入れられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、右側案内部６４３が第２球送球部７３６の上側位置まで延長して形成されており、第２球送球部７３６の右隣に一般入賞口６３が配設されるようにしても良い。

【３６１５】

この場合、第２球送球部７３６の鉛直上方に球が配置されているタイミングで移動板部材６４１が退避状態に変化すれば球は第２球送球部７３６に受け入れられるが、第２球送球部７３６の鉛直上方に球が配置されているタイミングで移動板部材６４１が依然として進入状態で維持される場合には、球は第２球送球部７３６を右側に通過し、一般入賞口６３に受け入れられる。

【３６１６】

即ち、右側案内部６４３により球が右側に流された時点では、球が第２球送球部７３６に案内されるのか、一般入賞口６３に案内されるのか判別できないので、球に対する注目力を向上させることができる。

【３６１７】

上記第５０実施形態では、大当たり種別に対応した電動役物６４０ａの作動パターンが一つで制御される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、大当たり種別に対応して複数の作動パターンが予め設定されており、普通入賞口（スルーゲート）７６５での球通過検出時にいずれの作動パターンで制御されるかが確率で選択され、選択された作動パターンで電動役物６４０ａの動作が実行されるようにしても良い。

【３６１８】

上記第５０実施形態では、高確率状態における電動役物６４０ａの作動パターンが第１の作動パターンか第２の作動パターンで設定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、高確率状態における電動役物６４０ａの作動パターンが第４の作動パターンとなる場合を含むようにしても良い。この場合、高確率状態なのか、低確率状態なのかの判別をし難くすることができる。

【３６１９】

上記第５０実施形態では、第１入賞口６４に入球した球がシーソー部材７６２を経由して下流側に流れる場合を説明したが必ずしもこれに限られるものではない。例えば、シーソー部材７６２及び左側流路の形成を省略するようにしても良い。即ち、第１入賞口６４及び右側経路のみから流路が構成去れるようにしても良い。

【３６２０】

この場合、連球で入球する場合を排除し難くなるが、例えば、センターフレーム８６から第１入賞口６４までの流下経路上に、前後方向の回転軸で一定速度で回転する回転体で

あって外周円の所定位置で球を収容可能な凹設部が配設される回転体を配設して、凹設部に収容された球が回転体の回転により第１入賞口６４の上方に到達した場合にのみ第１入賞口６４に球が受け入れられるように構成することで、第１入賞口６４への連球での入球を防止することができる。

【３６２１】

即ち、任意のタイミングでの第１入賞口６４への入球を回転体によって防止することができるので、第１入賞口６４への入球間隔を回転体の回転速度で規定することができる。

【３６２２】

上記第５０実施形態では、第１入賞口６４に入球した球は、右側案内部６４３に乗り、左側案内部６４５とは反対側に流下する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、右側案内部６４３の傾斜が左側案内部６４５側に下降傾斜する形状とされ、第１入賞口６４に入球した球が右側案内部６４３から左側案内部６４５側に流れ、第１球送球部７３４に案内されるように構成しても良い。

【３６２３】

この場合、十分長く移動板部材６４１が進入状態で維持された場合に、第１送球経路ＫＲ１に配置されていた球を第１球送球部７３４に案内することができ、特別図柄２の抽選を獲得することができる。

【３６２４】

一方で、移動板部材６４１の進入状態が短い場合には第１球送球部７３４と屈曲部材７４０との間に球が落下することになるが、この位置に、球を受け入れることで遊技者に所定の利益を付与する受入口を配置しても良い。

【３６２５】

その受入口に球が入球した場合における利益は、賞球の払い出しでも良いし、特別図柄１又は特別図柄２の抽選でも良いし、普通図柄の抽選でも良いし、転落抽選（高確率状態から低確率状態へ遊技状態を変化させる抽選）でも良いし、その他の利益でも良い。いずれにせよ、移動板部材６４１の上面を転動する球に対する注目力を向上することができる。

【３６２６】

なお、右側案内部６４３の右端からより右側に上昇傾斜するように板を延長して、屈曲部材７４０の右側において落下した球を受け止め可能に構成しても良い。この場合において、屈曲部材７４０の右側から移動板部材６４１の上面を転動する球が第１送球経路ＫＲ１に到達するように構成される場合、球が第１送球経路ＫＲ１に配置されている状態で移動板部材６４１が退避状態となるように動作することで、球が第１送球経路ＫＲ１で落下してセンサＳＥに検出され、特別図柄１の抽選を獲得可能となる。

【３６２７】

上記第５０実施形態では、遊技領域の左側に普通入賞口（スルーゲート）６６が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左側に配置される普通入賞口（スルーゲート）６６の配設を省略しても良い。この場合、左打ちで普通図柄の抽選を獲得するのは普通入賞口（スルーゲート）７６５に限定され、右打ちで普通図柄の抽選を獲得するのは普通入賞口（スルーゲート）６７，７６５とされる。

【３６２８】

即ち、左打ちで球を発射させることで、電動役物６４０ａの動作を普通入賞口（スルーゲート）７６５での普通図柄の抽選による動作に限定することができるので、第１の作動パターン又は第２の作動パターンで電動役物６４０ａが動作する場合に、右側案内部６４３に案内されずにセンサＳＥに検出される事態の発生を回避し易くすることができる。

【３６２９】

一方で、右打ちで球を発射させた方が、普通図柄の抽選は獲得し易いので、遊技効率を上げやすい。即ち、遊技者は、遊技効率は低下するがセンサＳＥに球が検出される事態の発生を回避し易いように遊技を実行するか、遊技効率は上がるがセンサＳＥに球が検出される可能性が若干上がる遊技を実行するか、好みで選択することができる。

【３６３０】
上記第５０実施形態では、移動板部材６４１が屈曲部材７４０の外方まで張り出す場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左側案内部６４５の形成が省略されても良い。この場合において、第２球送球部７３６を第２入賞口６４０として機能させても良い。
【３６３１】
上記第５０実施形態では、右側案内部６４３へ球が振分け部材７６０により形成される経路から案内される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ベース板６０の正面側から右側案内部６４３に案内されるものでも良い。この場合、右側案内部６４３の左端部から同一傾斜で左側に板部が延設され、その板部の上面を転動する球が屈曲部材７４０の内部に進入できるように屈曲部材７４０の左側面に開口を形成すればよい。
【３６３２】
上記第５０実施形態では、移動板部材６４１の上面を転動し左右異なる方向に転動した球の経路が下流側で合流する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１傾斜溝７５５の下端側において球の通過を検出する検出装置が配設され、その検出装置に球が検出されることで特別図柄２の抽選を獲得可能にしても良いし、第２送球部７３６の後方に球の通過を検出する検出装置が配設され、その検出装置に球が検出されることで特別図柄２の抽選を獲得可能にしても良い。
【３６３３】
即ち、第２傾斜溝７５７の形成を省略する等して、左側案内部６４５の上面を転動した球を検出する位置と、右側案内部６４３の上面を転動した球を検出する位置とを別々に設けるようにしても良い。
【３６３４】
上記第５１実施形態では、羽部材９４５の上面を前後異なる位置で転動した球の経路が下流側で合流する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３分岐通路ＢＫ３の後方に球通過孔が形成され、その下流側に検出装置が配設され、その検出装置により球の通過が検出されることで、検出装置ＳＥ６と同様に、特別図柄２の抽選を獲得可能としても良い。
【３６３５】
即ち、送球孔９４１ｋ及び送球開口９８２ｋの形成を省略する等して、羽状本体９４５ｍの上面を転動した球を検出する位置と、板状部９４５ｅの上面を転動した球を検出する位置とを別々に設けるようにしても良い。
【３６３６】
上記第５１実施形態では、板状部９４５ｅが羽部材９４５の回転先端側で羽状本体９４５ｍに連結固定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、延設部９４５ｄが羽部材９４５の回転基端側に形成されても良いし、回転径方向の中間位置で形成されても良い。特に、延設部９４５ｄの回転基端側に形成される場合には、第４貫通孔９４１ｊや回転許容開口９８２ｍの形成幅を小さくすることができ、孔形成に伴い生じる背面ベース９４１や膨出部９８２の強度低下を最小限に抑えることができる。
【３６３７】
なお、板状部９４５ｅに球が乗る場合、延設部９４５ｄを起点として板状部９４５ｅは撓み変形される可能性があるが、延設部９４５ｄが羽部材９４５の回転先端側に形成されている場合には、板状部９４５ｅが撓み変形から弾性回復する際に生じる弾性力が、球を第３分岐通路ＢＫ３側へ入れ込む方向で生じる。これにより、板状部９４５ｅの上面に到達した球を安定して第３分岐通路ＢＫ３側へ案内することができる。
【３６３８】
上記第５１実施形態では、一対の羽部材９４５の両方に延設部９４５ｄ及び板状部９４５ｅが形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、片方の羽部材９４５にのみ延設部９４５ｄ及び板状部９４５ｅが形成されても良い。

【３６３９】
上記第５１実施形態では、羽部材９４５の開放状態において、羽状本体９４５ｍの転動面と、板状部９４５ｅの転動面とが、同一の傾斜面で形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部９４５ｅの傾斜角度の方が、羽状本体９４５ｍの傾斜角度に比較して、浅い（水平との角度が小さい）ように形成しても良い。
【３６４０】
この場合、羽状本体９４５ｍを転動する球の速度の方が、板状部９４５ｅを転動する球の速度よりも速くなり易くすることができる。そのため、前後に配置された球が正面視で重なった状態が維持される事態を回避し易くすることができる。
【３６４１】
また、羽状本体９４５ｍに１個の球が乗っている場合に比較して、板状部９４５ｅに１個の球が乗っている場合の方が、球から羽部材９４５にかけられる動作抵抗が大きくなるようにすることができ、羽部材９４５の動作速度を低下させることができる。
【３６４２】
また、羽部材９４５が前後方向のスライド移動で出没するよう構成される場合において、同様に、羽状本体９４５ｍの傾斜角度と板状部９４５ｅの傾斜角度とを異ならせても良い。この場合、板状部９４５ｅ及び羽状本体９４５ｍに同時に球が乗った場合であっても、羽部材９４５の動作長さによっては、板状部９４５ｅ又は羽状本体９４５ｍの一方で転動する球が転動板部９４１ｌに到達する一方で、板状部９４５ｅ又は羽状本体９４５ｍの他方で転動する球が転動板部９４１ｌに到達する前に落下する状態を生じさせることができる。
【３６４３】
上記第５１実施形態では、羽部材９４５の開放状態における羽状本体９４５ｍの上面近傍から延設部９４５ｄが延設されることで羽状本体９４５ｍの上面と板状部９４５ｅの上面とが前後で重なって見える場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部９４５ｅの上面と、羽状本体９４５ｍの上面とを、上下でずらすように形成しても良い。この場合、板状部９４５ｅに球が乗っている状態で羽状本体９４５ｍに球が乗ったとしても、その上下位置にずれがあるので、前側の球で後側の球が完全に隠される事態を回避し易くすることができる。
【３６４４】
上記第５１実施形態では、板状部９４５ｅが左右対称位置に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、羽状本体９４５ｍを左右対称形状としながら、左側の板状部９４５ｅよりも右側の板状部９４５ｅの方が上側に配置される（左右非対称で配置される）ように構成しても良い。この場合、正面から見易い羽状本体９４５ｍの見映えは左右対称を維持しながら、その背面側においてに配設される板状部９４５ｅの上面を転動する球の流下経路を左右非対称とすることができる。これにより、対称線上に球が到達した場合に左右方向の負荷がバランスして球詰まりが生じる事態を回避し易くすることができる。
【３６４５】
上記第５１実施形態では、磁性体９８８ｂ，９８８ｃを利用して振分け部９８３の動作抵抗を設計し、球の流下間隔の最短側を規定する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、センターフレーム８６から第１入賞口６４までの流下経路上に、前後方向の回転軸で一定速度で回転する回転体であって外周円の所定位置で球を収容可能な凹設部が配設される回転体を配設しても良い。この場合、凹設部に収容された球が回転体の回転により第１入賞口６４の上方に到達した場合にのみ第１入賞口６４に球が受け入れられるように構成することで、第１入賞口６４への連球での入球を防止することができる。
【３６４６】
即ち、任意のタイミングでの第１入賞口６４への入球を回転体によって防止することができるので、第１入賞口６４への入球間隔を回転体の回転速度で規定することができる。

【３６４７】
上記第５３実施形態では、上流側案内部４６４５の傾斜面４６４５ａと右側案内部６４３の傾斜面６４３ａとが、同一傾斜である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【３６４８】
例えば、傾斜面４６４５ａの傾斜角度が、傾斜面６４３ａの傾斜角度よりも大きくしても良い。この場合、傾斜面４６４５ａ上を転動する球の右側への加速を大きくすることができるので、第１送球経路ＫＲ１に球が配置されている状態で電動役物４６４０ａが退避状態となったとしても、勢いで第２球送球部７３６側に流れるという状態を構成することができる。即ち、右方向の加速が大きくなることで、球が回収孔７５２に流下する事態を回避し易くすることができる。この意味で、第１入賞口６４に入球した球に比較して、傾斜面４６４５ａを転動して流下する球の方が、第２球送球部７３６に入球し易くすることができる。
【３６４９】
また、例えば、傾斜面４６４５ａの傾斜角度が、傾斜面６４３ａの傾斜角度よりも小さくしても良い。この場合、傾斜面６４３ａ上に球が滞在する時間を長くすることができるので、球が第１送球経路ＫＲ１に配置されている時に電動役物４６４０ａが退避状態に変化し、球が回収孔７５２に流下する事態が生じ易くなる。
【３６５０】
上記第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００の動作を複数態様で制御することで、入賞ユニットＢ４００の内部を通る球が、ほぼ第２入賞口Ｂ６４０に案内される状態と、ほぼ第３入賞口Ｂ６４ｂに案内される状態とを切り替え可能とされることを利用して、大当たり遊技後の遊技状態として、小当たり遊技が頻繁に生じる（ほぼ毎回の特別図柄の変動で生じる）よう設定され、小当たり遊技において開放された特定入賞口Ｂ６５ａに球を入賞させることで大当たり遊技に移行される前から多量の賞球の払い出しを受けることができる特殊確変状態と、小当たり遊技は頻繁には生じない確変状態とを構成可能な場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、小当たり遊技が頻繁に生じるような設定とはされず（必ずしも特定入賞口Ｂ６５ａは必要とはされず）、入賞ユニットＢ４００を利用して、特別図柄１の抽選を受けるための入賞口（第３入賞口Ｂ６４ｂに相当）側に球を案内し易い状態と、特別図柄２の抽選を受けるための入賞口（第２入賞口Ｂ６４０に相当）側に球を案内し易い状態とで切り替え可能とされても良い。
【３６５１】
この場合、大当たり遊技終了後に移行される遊技状態において、遊技としては入賞ユニットＢ４００へ向けて球を発射するという共通の遊技態様としながら、大当たりを獲得した場合に期待される大当たりの大当たり種別の振分けを変えられるパチンコ機を構成することができる。
【３６５２】
上記第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００が、第２入賞口Ｂ６４０にも第３入賞口Ｂ６４ｂにも球を案内し難い第１の作動パターンか、第３入賞口Ｂ６４ｂに球を案内し易い第２の作動パターンか、第２入賞口Ｂ６４０に球を案内し易い第３の作動パターンか、で電動役物Ｂ６４０ａが動作可能に構成させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２入賞口Ｂ６４０及び第３入賞口Ｂ６４ｂの双方に球を案内し易い作動パターンで電動役物Ｂ６４０ａが動作可能としても良い。
【３６５３】
そのための実現手段としては、例えば、第３の作動パターンにおける基準の作動パターンＢＲＰ３の動作時間Ｂｔ３ｂを１．０秒として、残りの１．０秒はスライド部材Ｂ４５０が非励磁状態で維持されるようにすれば、待機時間Ｂｔ３ａの間に先端部Ｂ４５１に拾われた球が第２入賞口Ｂ６４０に案内される場合と、第３入賞口Ｂ６４ｂに案内される場合とを生じさせることができる。
【３６５４】

上記第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００において、前進位置に配置されたスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１に球が乗っている状態でソレノイドＢＳＯＬ４１を駆動させた場合に、先端部Ｂ４５１に乗っている球が先端部Ｂ４５１の上面に押し込まれる形で球通過開口Ｂ４１４を通過可能に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置された状態では、先端部Ｂ４５１の上面と球通過開口Ｂ４１４の上縁との間の寸法が球の直径未満の長さに設計するようにしても良い。

【３６５５】

即ち、先端部Ｂ４５１の上面は、前方へ向かう程に上昇傾斜する傾斜面として形成されているところ、スライド部材Ｂ４５０の変位方向は前後方向なので、先端部Ｂ４５１の上面と球通過開口Ｂ４１４の上縁との間の寸法は、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置される場合よりも、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置される場合の方が短くなる。

【３６５６】

これを利用して、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置される場合には球が球通過開口Ｂ４１４を通過可能とされる一方で、スライド部材Ｂ４５０が前進位置から後退位置に変位する際に先端部Ｂ４５１に乗っている球については、球通過開口Ｂ４１４の上縁部に球が引っかかる寸法関係で設計することで、スライド部材Ｂ４５０が前進位置から後退位置に変位する際に先端部Ｂ４５１に乗っている球が球通過開口Ｂ４１４を通過することを防止することができる。これにより、球通過開口Ｂ４１４への球の入球確率を下げることができる。

【３６５７】

上記第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００において、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３が球の左右方向の通過を遮る程度の高さで形成されており、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３から中央流路Ｂ４３１側への球の導入は、左壁部Ｂ４３２又は右壁部Ｂ４３３の後側に配置される左開口部ＢＬＴ又は右開口部ＢＲＴを通る態様に限定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上下高さを低く設計して、球が左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上側を通過可能にしても良い。

【３６５８】

また、例えば、スライド部材Ｂ４５０の上面の上下位置が、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置される場合と後退位置に配置される場合とで異なることを利用して、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の高さを、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置される場合（上面の上下位置が低い場合）には、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上側を球が通過することを遮るのに十分とする（例えば、スライド部材Ｂ４５０の上面の上下位置よりも左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上端の上下位置の方が上側となるように設計する）一方で、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置される場合（上面の上下寸法が高い場合）には、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上側を球が通過することを許容できる（球が通過可能とする、例えば、スライド部材Ｂ４５０の上面の上下位置よりも左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上端の上下位置の方が下側となるように設計する）ようにしても良い。

【３６５９】

この場合、スライド部材Ｂ４５０の上面を転動して中央流路Ｂ４３１側へ流下する球の流下経路のバリエーションとして、左壁部Ｂ４３２又は右壁部Ｂ４３３の後側に配置される左開口部ＢＬＴ又は右開口部ＢＲＴを通る流下経路の他に、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置された状態において左壁部Ｂ４３２又は右壁部Ｂ４３３の上側を通る流下経路を構成することができる。

【３６６０】

また、スライド部材Ｂ４５０の上面の上下位置と、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上端の上下位置との関係を、左右で異ならせるようにしても良い。例えば、左壁部Ｂ４３２の上側を球が通過することを許容する状態で右壁部Ｂ４３３の上側を球が通過するこ

とは制限するように構成したり、右壁部Ｂ４３３の上側を球が通過することを許容する状態で右壁部４３２の上側を球が通過することは制限するように構成したりしても良い。
【３６６１】
この場合、スライド部材Ｂ４５０に案内される球の流下経路を、球が左側を流下するか、球が右側を流下するかで大きく異ならせることができる。
【３６６２】
上記第５４実施形態では、球を拾うための構造としてスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１と傾倒部材Ｂ４７０の板状部Ｂ４７１とを備え、先端部Ｂ４５１が正面視で板状部Ｂ４７１の左右外側かつ上側に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、スライド部材Ｂ４５０の二股の構造をやめて、先端部Ｂ４５１に対応する部分が板状部Ｂ４７１の真上に配置されるようにしても良い。
【３６６３】
この場合、ベース板Ｂ６０とガラスユニットＢ１６との間の領域における先端部Ｂ４５１と板状部Ｂ４７１との間の位置に、球の通過を規制する固定の規制板を設けることで、先端部Ｂ４５１に拾われなかった球が板状部Ｂ４７１に拾われる入賞態様を避けることができる。
【３６６４】
これにより、入賞ユニットＢ４００の左右方向寸法を低減することができる。また、先端部Ｂ４５１を１つとすることで、入賞ユニットＢ４００内の経路において球の合流が生じることを無くせるので、入賞ユニットＢ４００の設計自由度を向上することができる（設計を簡素化することができる）。
【３６６５】
上記第５４実施形態では、スライド部材Ｂ４５０の上側に配置される天井面Ｂ４４７が水平方向に延びるように形成されており、中央流路Ｂ４３１の上側に配置される天井構成部Ｂ４４４の傾斜面部Ｂ４４４ａが正面側へ向かうほど上昇傾斜する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【３６６６】
例えば、スライド部材Ｂ４５０の上側に配置される天井面Ｂ４４７が、後方へ向かう程に下降傾斜する面として構成しても良い。この場合、スライド部材Ｂ４５０の上面を流下する球の流下経路の下流側における球の流下領域（球の通過可能な面積）が大きくなりすぎて、流下中の球がバタつくことを避けることができる。
【３６６７】
例えば、スライド部材Ｂ４５０の上側に配置される天井面Ｂ４４７が、後方へ向かう程に上昇傾斜する面として構成しても良い。この場合、スライド部材Ｂ４５０の上面を流下する球の流下経路の下流側における球の流下領域（球の通過可能な面積）を大きく確保することができるので、スライド部材Ｂ４５０が後方へ変位する際に、スライド部材Ｂ４５０の上面に乗っていた球が後方へ押し込まれてスライド部材Ｂ４５０の後方側位置における球の密度が高くなったとしても、それによってスライド部材Ｂ４５０の上側で球詰まりが生じる可能性を低くすることができる。
【３６６８】
例えば、中央流路Ｂ４３１の上側に配置される天井構成部Ｂ４４４が、正面側へ向かうほど下降傾斜するように構成しても良いし、水平方向に延びるように構成しても良い。この場合、中央流路Ｂ４３１の下流側における球の流下領域（球の通過可能な面積）が大きくなりすぎて、流下中の球がバタつくことを避けることができる。
【３６６９】
上記第５４実施形態では、スライド部材Ｂ４５０に拾われた球が通過する球通過開口Ｂ４１４や、傾倒部材Ｂ４７０に拾われた球が通過する中央開口部Ｂ４１３の左右幅が、球の直径よりも若干長い程度とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球通過開口Ｂ４１４や中央開口部Ｂ４１３の左右幅を球の直径の複数倍（例えば、２倍）よりも若干長い程度の寸法で設計し、合わせて、スライド部材Ｂ４５０の

左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３、中央流路Ｂ４３１及び傾倒部材Ｂ４７０の左右幅も同様の左右幅で設計しても良い。この場合、スライド部材Ｂ４５０や傾倒部材Ｂ４７０で一度に拾うことができる球の個数を増加させることができるので、入賞効率を上げることができる。

【３６７０】

上記第５４実施形態では、球通過開口Ｂ４１４の左右幅と、中央開口部Ｂ４１３の左右幅とを合わせている場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球通過開口Ｂ４１４の左右幅を球の直径よりも若干長い程度で設計し、中央開口部Ｂ４１３の左右幅を球の直径の複数倍よりも若干長い程度の寸法で設計するようにしても良く、合わせて中央流路Ｂ４３１の左右幅および傾倒部材Ｂ４７０の左右幅を中央開口部Ｂ４１３の左右幅と同様の思想で設計しても良い。

【３６７１】

この場合、中央流路Ｂ４３１から下流側の領域において球が左右に並んで流下できるようになるので、左右一対の球通過開口Ｂ４１４を同時に球が通過した場合であっても、中央流路Ｂ４３１で球が合流してしまい流下抵抗が増加するという事態を避け易くすることができる。

【３６７２】

また、例えば、球通過開口Ｂ４１４の左右幅を球の直径の複数倍よりも若干長い程度の寸法で設計し、中央開口部Ｂ４１３の左右幅を球の直径よりも若干長い程度で設計するようにしても良く、合わせてスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の左右幅を球通過開口Ｂ４１４の左右幅と同様の思想で設計しても良い。

【３６７３】

この場合、スライド部材Ｂ４５０と傾倒部材Ｂ４７０とが連動するという条件下において、入賞ユニットＢ４００の内部経路の最上流側（入口側）における第１入球効率（スライド部材Ｂ４５０に球が拾われる効率）を向上しながら、その第１入球効率よりも入賞ユニットＢ４００の内部経路の最下流側（出口側）における第２入球効率（傾倒部材Ｂ４７０に球が拾われる効率）を低減することができる。

【３６７４】

これにより、遊技者に対して、入賞ユニットＢ４００の入口に入る見かけ上の入球効率（第１入球効率）が高いように見せて、実際に傾倒部材Ｂ４７０に球が拾われる確率（第２入球効率）は低減されるよう構成することができる。これにより、遊技者の入賞ユニットＢ４００への入球効率についての印象を良くすることができ、遊技者が遊技を継続するように仕向けることができる。

【３６７５】

上記第５４実施形態では、スライド部材Ｂ４５０の左案内板部Ｂ４５２の傾斜角度と、右案内板部Ｂ４５３の傾斜角度とが同じとなる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、右案内板部Ｂ４５３の傾斜角度を左案内板部Ｂ４５２の傾斜角度よりも大きくしても良いし、左案内板部Ｂ４５２の傾斜角度を右案内板部Ｂ４５３の傾斜角度よりも大きくしても良い。

【３６７６】

特に、後者の場合、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の前後長さの違いによる球の流下時間の差を、球の流下速度で補わせることができるので、左右の先端部Ｂ４５１が同時に球を受けた場合に、それらの球が中央流路Ｂ４３１に到達するタイミングを合わせ易くすることができる。

【３６７７】

また、前者の場合は逆に、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の前後長さの違いによる球の流下時間の差を、球の流下速度が助長することになるので、左右の先端部Ｂ４５１が同時に球を受けた場合に、それらの球が中央流路Ｂ４３１に到達するタイミングを異ならせ易くすることができる。

【３６７８】
上記第５４実施形態では、スライド部材Ｂ４５０が、遊技領域から球を受ける先端部Ｂ４５１のみでなく、その後方流路においても球を転動させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、先端部Ｂ４５１のみで球と接触し、先端部Ｂ４５１の下流側へ流れた球は、左案内板部Ｂ４５２や右案内板部Ｂ４５３等を上から覆う固定板部（変位しない部分）の上面を転動するようにしても良い。この場合、スライド部材Ｂ４５０の変位により球が加速されたり減速されたりする範囲を狭くすることができる。
【３６７９】
また、この場合、先端部Ｂ４５１の構成および動作態様を変更し、前方に傾倒する動作態様（傾倒部材Ｂ４７０で例示される動作態様）としても良い。即ち、非励磁状態において、傾倒部材Ｂ４７０で説明した開放位置とされ、励磁状態において、傾倒部材Ｂ４７０で説明した閉鎖位置とされるように構成しても良い。
【３６８０】
上記第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００において、先端部Ｂ４５１に拾われた球が傾倒部材Ｂ４７０に到達するまでの経路において固定の底面部Ｂ４３１ａを転動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、底面部Ｂ４３１ａがスライド部材Ｂ４５０の動作と連動して動作するように構成しても良い。この場合、入賞ユニットＢ４００の内部流路において球詰まりが生じていたとしても、内部流路の全体で動作が生じることから、球をほぐすことができ、球詰まりの解消を図ることができる。なお、底面部Ｂ４３１ａの動作としては、スライド部材Ｂ４５０の逆方向に動作するものでも良いし、スライド部材Ｂ４５０と一体的に構成する等して同方向に動作するものでも良い。
【３６８１】
上記第５４実施形態では、固定の底面部Ｂ４３１ａが球を直線的に転動させる傾斜面として形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限定されるものではない。例えば、底面部Ｂ４３１ａが湾曲形成されることで球の流下方向が湾曲するようにして球の流下速度の変化が顕著になるように構成しても良いし、流下中に球が落下する範囲を有するよう構成し球が跳ねることで流下態様がばらつくようにしても良いし、球が蛇行して流下するよう流路を繰り返し屈曲させることで球が通過するまでの時間を長くするようにしても良い。
【３６８２】
上記第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００において、球通過開口Ｂ４１４が単なる開口部である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球通過開口Ｂ４１４に球通過を検出する検出センサが配設され、球通過開口Ｂ４１４への入球を検出可能に構成しても良い。この場合、球通過開口Ｂ４１４への入球を検出した場合に、第３図柄表示装置Ｂ８１等で遊技者に対して報知することで、遊技者に対して球通過開口Ｂ４１４を球が通過したことに気付かせることができ、入賞ユニットＢ４００の注目力を向上させることができる。
【３６８３】
上記第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００において、先端部Ｂ４５１に拾われた球が必ず傾倒部材Ｂ４７０側まで案内される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、内部流路に排出用開口が形成され、一部の球は排出用開口を通り排出されることで、先端部Ｂ４５１に拾われた球の一部しか傾倒部材Ｂ４７０まで案内されることは無いように構成しても良い。この場合において、スライド部材Ｂ４５０は排出用開口を開閉させる部材としても機能するように構成しても良い。
【３６８４】
上記第５４実施形態では、スライド部材Ｂ４５０の左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３が、前後方向で同一傾斜の板状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、途中で傾斜が変わるようにしても良いし、上面が階段状に形成されるようにしても良い。この場合、スライド部材Ｂ４５０上における球の配置次

第で、スライド部材Ｂ４５０が後方に変位した際に球が受ける負荷の大きさを変化させることができる（例えば、階段状に形成される場合に、段の近くに球が配置されており段の側面から負荷を受けるか、段から離れて球が配置されており段の上面と滑るようにして負荷を受けるかで異ならせることができる）。

【３６８５】

例えば、上流側（前側）における左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の水平面に対する傾斜角度に比較して、下流側（後側）における左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の水平面に対する傾斜角度を小さく形成する場合、上流側においてスライド部材Ｂ４５０の後方への変位により球が受ける負荷を、下流側においてスライド部材Ｂ４５０の後方への変位により球が受ける負荷よりも大きくすることができる。これにより、スライド部材Ｂ４５０上の上流側および下流側に配置される複数の球の間隔を、スライド部材Ｂ４５０の変位により狭める（縮める、密にする）ことができる。

【３６８６】

また、例えば、上流側（前側）における左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の水平面に対する傾斜角度に比較して、下流側（後側）における左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の水平面に対する傾斜角度を大きく形成する場合、上流側においてスライド部材Ｂ４５０の後方への変位により球が受ける負荷を、下流側においてスライド部材Ｂ４５０の後方への変位により球が受ける負荷よりも小さくすることができる。これにより、スライド部材Ｂ４５０上の上流側および下流側に配置される複数の球の間隔を、スライド部材Ｂ４５０の変位により広げる（拡大する、疎にする）ことができる。

【３６８７】

また、例えば、流下経路に沿って左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の水平面に対する傾斜の大小が複数回変化するように構成しても良い。この場合、球の配置によって、スライド部材Ｂ４５０の変位により球同士の間隔が縮まる場合と、球同士の間隔が広がる場合との両方を生じさせることができる。

【３６８８】

また、例えば、左案内板部Ｂ４５２における上面の傾斜角度と、右案内板部４５２における上面の傾斜角度とを異ならせるようにしても良い。即ち、左案内板部Ｂ４５２の上面は前後方向で水平面に対する傾斜が同一の板状に形成される一方で、右案内板部Ｂ４５３の上面は水平面に対する傾斜が途中で変化するように形成されても良い。この場合、スライド部材Ｂ４５０の変位により球が受ける負荷の態様を、球が左案内板部Ｂ４５２上に配置されているか、球が右案内板部４５２上に配置されているかで異ならせることができる。

【３６８９】

上記第５４実施形態では、スライド部材Ｂ４５０と傾倒部材Ｂ４７０とが、伝達部材Ｂ４８０が間に介在することにより連動するものであり、スライド部材Ｂ４５０又は傾倒部材Ｂ４７０の一方で球噛み等の不具合が生じると、他方の動作にも影響を与える場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【３６９０】

例えば、伝達部材Ｂ４８０の第２部材Ｂ４８５の部分であってスライド部材Ｂ４５０と対向配置される回動先端部の前側と、スライド部材Ｂ４５０の中央固定部Ｂ４５４とが対向する位置（間の位置）に前後方向で伸縮可能なコイルスプリングを介在させるように構成する。常には、第２部材Ｂ４８５側にスライド部材Ｂ４５０がコイルスプリングの付勢力で押し付けられており第２部材Ｂ４８５とスライド部材Ｂ４５０とが連動するように構成する一方で、スライド部材Ｂ４５０の前端と前意匠部材Ｂ４２０との間に球が挟み込まれた（球噛みした）場合には、スライド部材Ｂ４５０の前方への変位が妨害される分だけコイルスプリングが縮むことでカバーされるように構成することで、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されていなくても第２部材Ｂ４８５を前方に傾倒させることができる。

【３６９１】

これにより、第１部材Ｂ４８１の動作が第２部材Ｂ４８５に妨害されることを回避することができるので、スライド部材Ｂ４５０側で生じた球噛みにより、傾倒部材Ｂ４７０の動作が途中で停止することを回避し易くすることができる。

【３６９２】

このように、伝達部材Ｂ４８０を利用して駆動力の伝達経路を複数設けるような場合であっても、一の伝達経路にコイルスプリング等の部材（緩衝材などでも良い）を介在させることで、一の伝達経路で生じた不具合が、他の伝達経路にまで伝わることを避けることができる。

【３６９３】

上記第５４実施形態では、電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態から非励磁状態へ切替動作される場合に、下板部Ｂ４８２ｂに係止突設部Ｂ４８７が押し下げられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【３６９４】

例えば、係止突設部Ｂ４８７の形成を省略しても良い。電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態では、下板部Ｂ４８２ｂが第２部材Ｂ４８５の偏心突部Ｂ４８６と当接される一方で、上板部Ｂ４８２ａと偏心突部Ｂ４８６との間に隙間が確保されている。

【３６９５】

第２部材Ｂ４８５の自重による回転方向の負荷は、回転径方向外端部において第２部材Ｂ４８５に当接されるスライド部材Ｂ４５０と中段部材Ｂ４３０との間の静止摩擦を下回っており、第２部材Ｂ４８５が自重で前転方向に変位することは防止される。即ち、下板部Ｂ４８２ｂと偏心突部Ｂ４８６との当接が解除されても、第２部材Ｂ４８５の姿勢は維持される。

【３６９６】

そのため、電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態から非励磁状態へ切替動作される場合に、上板部Ｂ４８２ａに偏心突部Ｂ４８６が押し下げられるまでスライド部材Ｂ４５０が後退位置で維持され、傾倒部材Ｂ４７０のみが起き上がり動作する。即ち、ソレノイドＢＳＯＬ４１の駆動力は傾倒部材Ｂ４７０に集中して伝達される。この場合、スライド部材Ｂ４５０の動作開始タイミングと傾倒部材Ｂ４７０の動作開始タイミングとがずれることになる。

【３６９７】

即ち、動作開始から途中位置までは傾倒部材Ｂ４７０のみが動作し、途中位置からは傾倒部材Ｂ４７０及びスライド部材Ｂ４５０が動作する。第１部材Ｂ４８１が下降する過程において、上板部Ｂ４８２ａと偏心突部Ｂ４８６とが当接した後は、上板部Ｂ４８２ａに偏心突部Ｂ４８６が押し下げられる態様で第２部材Ｂ４８５が回転軸部Ｂ４８５ａを中心に前転方向に回転動作する。動作終了タイミングは、スライド部材Ｂ４５０と傾倒部材Ｂ４７０とでほぼ同時となる。

【３６９８】

この場合、励磁状態から非励磁状態への切替動作において、スライド部材Ｂ４５０と前意匠部材Ｂ４２０との間に球が挟まり、スライド部材Ｂ４５０の変位が抑制され得る事態が生じたとしても、スライド部材Ｂ４５０の変位に先行して傾倒部材Ｂ４７０の起き上がり動作が開始されているので、傾倒部材Ｂ４７０の起き上がり動作まで抑制されることを防止することができる。

【３６９９】

これにより、スライド部材Ｂ４５０の変位が抑制されることと連動して、傾倒部材Ｂ４７０の起き上がり動作が遅れ、予期せぬタイミングで球が傾倒部材Ｂ４７０に拾われる事態を回避し易くすることができる。

【３７００】

なお、第２部材Ｂ４８５の自重による回転方向の負荷は、回転径方向外端部において第２部材Ｂ４８５に当接されるスライド部材Ｂ４５０と中段部材Ｂ４３０との間の静止摩擦を下回っており、第２部材Ｂ４８５が自重で前転方向に変位することは防止される場合を

例にしたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２部材Ｂ４８５の重心が傾倒先端側に寄るように設計されることで、第２部材Ｂ４８５が自重で前転方向に変位し得るようにしても良い。

【３７０１】

上記第５４実施形態では、スライド部材Ｂ４５０と傾倒部材Ｂ４７０とが単一のソレノイドＢＳＯＬ４１の駆動力により連動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、スライド部材Ｂ４５０を駆動する駆動装置と、傾倒部材Ｂ４７０を駆動する駆動装置とを別々に構成し、非連動で動作可能に構成しても良い。

【３７０２】

この場合において、例えば、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置されてから約３秒経過（入賞ユニットＢ４００の内部に流入した球が通過しきるのに十分な時間が経過）してから傾倒部材Ｂ４７０が開放位置に変位されるようにし、その後でスライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置される際には傾倒部材Ｂ４７０が閉鎖位置に配置されるような作動パターンを追加しても良い。この場合、傾倒部材Ｂ４７０に球が拾われることを防止し易くすることができる。

【３７０３】

上記第５４実施形態では、傾倒部材Ｂ４７０が閉鎖する際に球を挟んだ場合においても先端部Ｂ４５１で球を拾い難く構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、そもそも、傾倒部材Ｂ４７０に球が到達し得るタイミングにおいて傾倒部材Ｂ４７０の閉鎖動作が生じないようにソレノイドＢＳＯＬ４１を駆動させるように設定しても良い。この場合、傾倒部材Ｂ４７０の閉鎖をスムーズに実行することができる。

【３７０４】

また、傾倒部材Ｂ４７０に球が到達し得るタイミングにおいては、傾倒部材Ｂ４７０は開放動作のみが生じるようにソレノイドＢＳＯＬ４１を駆動させるように設定しても良い。この場合、球の重みが傾倒部材Ｂ４７０を開放させる方向に作用することから、傾倒部材Ｂ４７０の開放を補助することができると共に、傾倒部材Ｂ４７０から第１部材Ｂ４８１及び第２部材Ｂ４８５を介してスライド部材Ｂ４５０に負荷を伝達させることにより、スライド部材Ｂ４５０の後退位置へ向けた動作をスムーズに行わせることができる。

【３７０５】

上記第５４実施形態では、待機時間Ｂｔ１ａ～Ｂｔ３ａ及び動作時間Ｂｔ１ｂ～Ｂｔ３ｂから設定される作動パターンＢＲＰ１～ＢＲＰ３が繰り返し実行されることにより、入賞ユニットＢ４００を流下する球の流下経路が切り替えられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、基準の作動パターンとしては動作時間のみが設定され、待機時間の代わりに第２図柄の変動表示にかかる時間が設定されるようにしても良い。

【３７０６】

例えば、基準の作動パターンとして動作時間を３．９秒で設定し、第２図柄の変動表示にかかる時間を０．１秒で設定する場合、その０．１秒が非励磁状態で維持される時間となるので、結果的に第１の作動パターンで動作するのと同様の動作態様を実現できる。

【３７０７】

また、例えば、基準の作動パターンとして動作時間を０．２秒で設定し、第２図柄の変動表示にかかる時間を１．８秒で設定する場合、その１．８秒が非励磁状態で維持される時間となるので、結果的に第２の作動パターンで動作するのと同様の動作態様を実現できる。

【３７０８】

また、例えば、基準の作動パターンとして動作時間を２．０秒で設定し、第２図柄の変動表示にかかる時間を２．０秒で設定する場合、その２．０秒が非励磁状態で維持される時間となるので、結果的に第３の作動パターンで動作するのと同様の動作態様を実現できる。

【３７０９】
上記第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００と第３入賞口Ｂ６４ｂとの間に釘ＢＫＧ１が配設され、釘ＢＫＧ１の状態次第で、入賞ユニットＢ４００の内部流路から下方へ流下した球の第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球確率が変化される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【３７１０】
例えば、入賞ユニットＢ４００と第３入賞口Ｂ６４ｂとの間に、第５８実施形態で説明した切替装置Ｂ５７７０が配設され、切替装置Ｂ５７７０の動作に対する球の入球タイミング次第で、第３入賞口Ｂ６４ｂに入球されるか否かが決定されるものでも良い。この場合、釘ＢＫＧ１の状態に左右されずに第３入賞口Ｂ６４ｂへ入球させることができる。
【３７１１】
また、例えば、入賞ユニットＢ４００と第３入賞口Ｂ６４ｂとの間に、２個（又はＮ個）に１個の割合で第３入賞口Ｂ６４ｂ側に球を導入する振分装置（例えば、シーソー機構）を配設しても良い。この場合、釘ＢＫＧ１の状態に左右されずに、振分装置により２個（又はＮ個）に１個は第３入賞口Ｂ６４ｂに入球させることができるので、遊技者は安心して遊技を行うことができる。
【３７１２】
上記第５４実施形態では、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７の上側を流下する球が、釘ＢＫＧ１によりスルーゲートＢ６６，Ｂ６７に導かれるように構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。例えば、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７への案内に、釘ＢＫＧ１に代えて、又は釘ＢＫＧ１と組み合わせて、樹脂材料による構造物を使用しても良い。この場合、樹脂材料による構造体が釘ＢＫＧ１よりも状態の変化が生じにくいので、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７への球の案内を安定させることができる。
【３７１３】
また、例えば、釘ＢＫＧ１の配設個数を減らしたり、配設位置を変えたりすることにより、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７の上側を流下する球が全てスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を通過するのではなく、一部の球はスルーゲートＢ６６，Ｂ６７から逸れて流下するように構成しても良い。
【３７１４】
上記第５４実施形態では、傾倒部材Ｂ４７０に拾われた球が検出されることで特別図柄２の抽選を獲得可能であり、傾倒部材Ｂ４７０に拾われなかった球が第３入賞口Ｂ６４ｂに入球することで特別図柄１の抽選を獲得可能とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【３７１５】
例えば、抽選を獲得可能な特別図柄の割り振りを逆転させる（傾倒部材Ｂ４７０に拾われた球が検出されることで特別図柄１の抽選を獲得可能であり、傾倒部材Ｂ４７０に拾われなかった球が第３入賞口Ｂ６４ｂに入球することで特別図柄２の抽選を獲得可能とされる）ようにしても良い。この場合、大当たり終了後の電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンを、大当たりＡ，ａの場合に第２の作動パターンとして、大当たりＢ，Ｃ，ｂ，ｃの場合に第３の作動パターンとすれば、第５４実施形態で説明した遊技性と同様の遊技性を保つことができる。更に、第５４実施形態で説明した場合と異なり、第３入賞口Ｂ６４ｂに球が入球し易い状態において小当たり遊技が発生し易く、特定入賞口Ｂ６５ａに球が入球し易いよう構成されることから、第３入賞口Ｂ６４ｂから零れた球が特定入賞口Ｂ６５ａに拾われる事態を生じさせ易くすることができる。
【３７１６】
また、例えば、傾倒部材Ｂ４７０に拾われた球が検出されることで特別図柄２の抽選を獲得可能な条件下で、第３入賞口Ｂ６４ｂに入球することでも特別図柄２の抽選を獲得可能としても良い。この場合、特定入賞口Ｂ６５ａを入賞ユニットＢ４００の左右外端よりも左右方向外側に張り出さない寸法および位置で配設するようにしても良い。
【３７１７】

電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで駆動される場合には、先端部Ｂ４５１に拾われて入賞ユニットＢ４００の内部を流下したほとんどの球が入賞ユニットＢ４００から排出され第３入賞口Ｂ６４ｂ側へ流下する。一方で、電動役物Ｂ６４０ａが第３の作動パターンで駆動される場合には、先端部Ｂ４５１に拾われて入賞ユニットＢ４００の内部を流下したほとんどの球が傾倒部材Ｂ４７０に拾われることで、第３入賞口Ｂ６４ｂ側へは流れ出ない。そして、特定入賞口Ｂ６５ａは、入賞ユニットＢ４００から排出され第３入賞口Ｂ６４ｂ側へ流下した球の内、第３入賞口Ｂ６４ｂから零れた球を受け入れるよう配設されることで、新たな遊技性を構成することができる。

【３７１８】

即ち、電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで駆動されるか、第３の作動パターンで駆動されるかに関わらず、特別図柄２の抽選を獲得可能とされる。そのため、小当たり遊技として特定入賞口Ｂ６５ａの開閉が頻繁に生じ得る。

【３７１９】

ここで、電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで駆動される場合には、先端部Ｂ４５１に拾われて入賞ユニットＢ４００の内部を流下した球のほとんどが第３入賞口Ｂ６４ｂ側へ流下するので、その内の何割かが第３入賞口Ｂ６４ｂから零れて特定入賞口Ｂ６５ａに入球することで、遊技者は多量の賞球の払い出しを受けることができる。

【３７２０】

一方、電動役物Ｂ６４０ａが第３の作動パターンで駆動される場合には、ほとんどの球が特定入賞口Ｂ６５ａ側に向かわない（傾倒部材Ｂ４７０に拾われる）ので、特定入賞口Ｂ６５ａへの入球が生じ難く、遊技者は多量の賞球の払い出しを受けることはできない。

【３７２１】

このように、電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで駆動されるか、第３の作動パターンで駆動されるかに関わらず、遊技者は特別図柄２の抽選を獲得可能とされることから特定入賞口Ｂ６５ａの開閉が頻繁に生じるが、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンの違いによって特定入賞口Ｂ６５ａへ球が案内される確率が変化することで、特定入賞口Ｂ６５ａの開放時（小当たり遊技発生時）に特定入賞口Ｂ６５ａに入球させ多量の賞球が得られる場合と、そうでない場合とを生じさせるという遊技性を構成することができる。

【３７２２】

上記第５４実施形態では、入賞ユニットＢ４００に流入した球により遊技者が得られる利益として、球が検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過した場合には特別図柄の抽選はされず、賞球の払い出しのみがされる一方で、球が第３入賞口Ｂ６４ｂを通過した場合には特別図柄１の抽選がされ、賞球の払い出しもされるよう設定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球が検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過した場合に特別図柄１の抽選がされ、賞球の払い出しもされる一方で、球が第３入賞口Ｂ６４ｂを通過した場合に特別図柄の抽選はされず、賞球の払い出しのみがされるよう設定しても良い。

【３７２３】

この場合、第１の作動パターンでは、球が稀に開口Ｂ４３５ａを通過することで、第１入賞口Ｂ６４への入球数に加えて開口Ｂ４３５ａを通過することで特別図柄１の抽選頻度が増加する。

【３７２４】

第２の作動パターンでは、球は先端部Ｂ４５１に拾われ電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態において傾倒部材Ｂ４７０の正面側を通り第３入賞口Ｂ６４ｂに入賞しやすくされるので、入賞ユニットＢ４００に流入した球によって特別図柄の抽選頻度は増加されず、賞球の払い出しが多くなる。入賞ユニットＢ４００は、開口Ｂ４３５ａを球が通過可能に開放されている場合においても開口Ｂ４３５ａの球の通過は１０個に１個の割合とされることから、動作時間Ｂｔ２ｂの開口Ｂ４３５ａの開放では球が開口Ｂ４３５ａ側に流入することはほとんどない。そのため、第２の作動パターンにおいて、特別図柄１の抽選頻度の上昇はほとんど起きない。

【３７２５】
第３の作動パターンでは、待機時間Ｂｔ３ａにおいて先端部Ｂ４５１に拾われた球は、動作時間Ｂｔ３ｂにおいて傾倒部材Ｂ４７０に拾われ易いので、特別図柄２の抽選頻度が増加する。また、動作時間Ｂｔ３ｂにおいては、先端部Ｂ４５１の正面側を球が通り開口Ｂ４３５ａを通過し得るので、特別図柄１の抽選頻度も増加する。
【３７２６】
また、検出センサＢ４３５ａの開口Ｂ４３５ａを、アウト口（賞球の払い出し無し、図柄抽選無しであり、遊技領域から球を排出する開口部）として、単に球の通過を計数するためのセンサとして利用しても良い。この場合、開口Ｂ４３５ａにより、開口Ｂ４３５ａを球が通過する頻度を計測することができる。
【３７２７】
また、第２入賞口Ｂ６４０の機能と、第３入賞口Ｂ６４ｂの機能とを逆で設定しても良い。この場合、特殊確変状態とする場合の作動パターンを第２の作動パターンとし、確変状態とする場合の作動パターンを第３の作動パターンに設定すれば良く、第３入賞口Ｂ６４ｂに球が入球する抽選で小当たりを発生させ、第３入賞口Ｂ６４ｂから逸れた球が特定入賞口Ｂ６５ａに入球し得るパチンコ機を構成することができる。
【３７２８】
これにより、第３入賞口Ｂ６４ｂの真上に配置される釘ＢＫＧ１の状態として、球が第３入賞口Ｂ６４ｂに入り易ければ、小当たりは生じ易いが第３入賞口Ｂ６４ｂから逸れる球は少ないために特定入賞口Ｂ６５ａの入賞数が過多となることは抑制できる一方で、第３入賞口Ｂ６４ｂの真上に配置される釘ＢＫＧ１の状態として、球が第３入賞口Ｂ６４ｂに入り難ければ、小当たりは生じ難いが第３入賞口Ｂ６４ｂから逸れる球は多いために一旦特定入賞口Ｂ６５ａが開放されれば多量の球を特定入賞口Ｂ６５ａに入球させ得る。即ち、第３入賞口Ｂ６４ｂへ入球し易いかどうか（有利不利）と、特定入賞口Ｂ６５ａへ入球し易いかどうか（不利有利）とがバランスするパチンコ機を構成することができる。
【３７２９】
上記第５４実施形態では、上側可変入賞装置Ｂ７００において、貯留板部Ｂ７１５間に球が４個まで貯留可能な場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、貯留板部Ｂ７１５が間に球を１個だけ配置可能な形状で形成されるようにしても良い。この場合、貯留板部Ｂ７１５間で停留される球は移動床部材Ｂ７４０に乗っており、その球に衝突した球を検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１に流入させることができる。この場合、球が検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を通り易い状態にあるか否かを、貯留板部Ｂ７１５間における球の有無を確認することで容易に把握することができるので、貯留板部Ｂ７１５間の球の個数を数える必要がある場合に比較して遊技者の遊技負担を低減することができる。
【３７３０】
上記第５４実施形態では、上側可変入賞装置Ｂ７００において、貯留板部Ｂ７１５の左右両側において複数の検出センサＢ７５０が配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、検出センサＢ７５０の配設個数は１個でも良い。また、１個配置する場合において、貯留板部Ｂ７１５の左右に配置されるいずれかを残し、何れかを除外するようにしても良いし、貯留板部Ｂ７１５の前後に位置ずれして検出センサＢ７５０が配置されるようにしても良い。
【３７３１】
貯留板部Ｂ７１５の正面側に検出センサＢ７５０が配置される場合には開口部Ｂ７５１を通過する球を遊技者に見せ易くすることができる。一方、貯留板部Ｂ７１５の背面側に検出センサＢ７５０が配置される場合には開口部Ｂ７５１を通過する球が貯留板部Ｂ７１５に貯留される球に隠される作用を付加することができるので、開口部Ｂ７５１に対する遊技者の注目力を向上させることができる。
【３７３２】
上記第５４実施形態では、上側可変入賞装置Ｂ７００において、ラウンド遊技における

規定個数と貯留板部Ｂ７１５間に貯留可能な球の個数との関係が、１０個対４個である場合を説明したが、個数の関係は任意に定められるものであり、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、１０個対１０個とする場合、上側可変入賞装置Ｂ７００に対して、規定個数を超える個数の球の入賞（１１個以上の入賞、オーバー入賞）があった場合に、開口部Ｂ７５１を球が通過するパチンコ機を構成することができる。この場合、規定個数の入球に留まる場合に比較してラウンド遊技において得られる賞球個数が増加する喜びと、大当たり遊技が終了した後に移行される遊技状態が有利な状態になることに対する喜びとを、遊技者に同時に与えることができる。

【３７３３】

上記第５４実施形態では、移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが連動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０を駆動する駆動装置とは別で移動床部材Ｂ７４０を駆動する駆動装置を設けるようにしても良い。

【３７３４】

この場合の動作パターンは、上記第５４実施形態で説明したような動作パターンに加えて、多種多様な動作パターンを構成することができる。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置された場合に、移動床部材Ｂ７４０を後退位置に配置することもできる。この場合、移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を通過した球が貯留板部Ｂ７１５の間の位置に貯留されないようにすることができるので、球が開口部Ｂ７５１に入球する可能性を低めることができる。

【３７３５】

また、例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置された場合に、移動床部材Ｂ７４０を単独で前後（繰り返し）動作させるようにしても良い。この場合において、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に維持される期間が０．２秒よりも長い場合には貯留板部Ｂ７１５の間の位置から球を排出させることができ、一方、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に維持される期間が０．２秒よりも短い場合には貯留板部Ｂ７１５の間の位置に球を留めることができる。

【３７３６】

また、例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置された場合に、移動床部材Ｂ７４０を前進位置に配置することもできる。この場合、ラウンド遊技中に移動上蓋部材Ｂ７３０が開閉を繰り返すような駆動態様であっても、貯留板部Ｂ７１５の間の位置に球が貯留される状態を維持することができる。更に、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置されてから、移動床部材Ｂ７４０を前進位置から後退位置に変位させるまでに数秒のタイムラグが生じるようにすることで、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される直前に多数の球がまとまって入球したような場合に、それらの球が開口部Ｂ７５１側に到達し、開口部Ｂ７５１を通過し得るタイミングまで貯留板部Ｂ７１５の間の位置から球を排出しないようにすることができる。

【３７３７】

上記第５４実施形態では、上側可変入賞装置Ｂ７００は、大当たり遊技において開閉される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上側可変入賞装置Ｂ７００が小当たり遊技において開閉されるよう構成し、検出センサＢ７５０を、開口部Ｂ７５１を球が通過することにより大当たり遊技を実行可能とするための検出センサとして構成しても良い。

【３７３８】

ここで、小当たり遊技における上側可変入賞装置Ｂ７００の開放時間の合計が１．８秒までとされる場合において、移動上蓋部材Ｂ７３０を後退位置に配置したら０．１２秒経過する度に前進位置に配置させるという規則で移動上蓋部材Ｂ７３０を前後に繰り返し変位させる状態において、移動上蓋部材Ｂ７３０を後退位置に１５回まで配置することができる（０．１２×１５＝１．８）。

【３７３９】

移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される場合において貯留板部Ｂ７１５の間の位置に配置される球が排出されないよう移動床部材Ｂ７４０が駆動される場合、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置される状態で移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を流下した球を貯留板部Ｂ７１５の間の位置に貯留することができ、球を開口部Ｂ７５１に入球させ易い。移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが連動する場合には、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒未満とされる駆動態様に対応する。

【３７４０】

一方、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される場合において貯留板部Ｂ７１５の間の位置に配置される球が排出され得るよう移動床部材Ｂ７４０が駆動される場合、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置される状態で移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を流下した球が貯留板部Ｂ７１５の間の位置から次々に排出され、球を開口部Ｂ７５１に入球させ難い。移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが連動する場合には、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒以上とされる駆動態様に対応する。

【３７４１】

小当たり遊技は、予め規定された駆動パターンで移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０が開閉されることになる。移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが連動する場合には、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒未満の状態が繰り返される期間に多数の球を上側可変入賞装置Ｂ７００に入球させることが好ましいが、例えば、０．１秒と０．３秒との違いを見分けることは困難である。

【３７４２】

そこで、小当たり遊技の駆動パターンとして、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒未満の状態が繰り返される期間よりも、発射した球が到達するまでの期間だけ前倒ししたタイミングで、上側可変入賞装置Ｂ７００へ向けて球を発射することを促す報知を実行するようにしても良い。この報知に従い球を発射すれば、貯留板部Ｂ７１５の間の位置に球を貯留させ開口部Ｂ７５１に球を入球させ易くすることができる。このように、球の発射の適切なタイミングを報知するようにすることで、報知外のタイミングで球を発射することによる球損の発生を回避し易くすることができる。

【３７４３】

小当たり遊技の駆動パターンとして、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒未満の状態が繰り返される期間が２回用意され、その間に移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒以上の状態が繰り返される期間が配置されるようにする場合、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒未満の状態が繰り返される１回目の期間において球が開口部Ｂ７５１に入球しなかった場合に、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒未満の状態が繰り返される２回目の期間の前に、上側可変入賞装置Ｂ７００へ向けて球を発射することを促す報知を実行するようにしても良い。

【３７４４】

この場合、例えば、球発射装置の詰まりなどで球を発射できていなかった場合においても、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒以上の状態が繰り返される期間が長めに（例えば、１５秒で）設定される場合には、その間に球発射装置の詰まりを修復できる可能性を高めることができる。

【３７４５】

なお、発射した球が到達するまでの期間だけ前倒ししたタイミングは、上側可変入賞装置Ｂ７００の配置次第で変更され得る。上記第５４実施形態のように遊技領域の上端部付近に配置される場合には１～２秒とされるが、遊技領域の右下端位置等に配置される場合にはもっと長く、その上流側における球経路（釘ＢＫＧ１により形成される経路または樹脂部材により流路形成される経路）の長さによっては、５～１０秒程度の長さまで幅が生じる。

【３７４６】

また、移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが連動する場合を例示したが、移

動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが独立で駆動するように構成される場合において、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に配置される期間が０．２秒未満となる駆動態様で繰り返し動作される期間を狙って、上述の報知を行うようにしても良い。

【３７４７】

この場合、移動床部材Ｂ７４０の動作態様と、移動上蓋部材Ｂ７３０の動作態様とは対応しないので、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される期間の長さを見て、移動床部材Ｂ７４０の動作と対応付けることは困難となる。従って、上述の報知に対する注目力を向上させることができる。

【３７４８】

上記第５４実施形態では、一対の貯留板部Ｂ７１５の間に球が貯留されている間において、球を開口部Ｂ７５１に入球させ易い場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、動作により、開口部Ｂ７５１に球を誘導する誘導状態と、誘導しない非誘導状態とで状態が変化される状態変化手段が配設され、その状態変化手段の動作は、一対の貯留板部Ｂ７１５から排出された球の運動エネルギーにより行われるよう構成しても良い。この場合、一対の貯留板部Ｂ７１５の間から球が排出された後において開口部Ｂ７５１に入球させ易くできる遊技機を構成することができる。

【３７４９】

上記第５４実施形態では、一対の貯留板部Ｂ７１５への球の進入を、球によって妨害する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域への球の入球の可否を切り替える開閉手段を配設しても良い。この場合、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置が球で満タンになる前においても、開閉手段により一対の貯留板部Ｂ７１５の間に球が進入できない状態を構成することができ、球が開口部Ｂ７５１を通過する事態を生じさせることができる。

【３７５０】

この場合において、開閉手段の大きさとして種々の態様を例示することができるが、正面視における大きさが球の大きさよりも小さくすることで、開閉手段を目立たせないようにすることができ、球が開口部Ｂ７５１へ流入するタイミングを遊技者に予測され難くすることができる。

【３７５１】

また、開閉手段の正面視における大きさを球の大きさよりも大きくすることで、開閉手段の状態を遊技者に把握させ易くすることができ、球が開口部Ｂ７５１へ流入するか否かを判別し易くすることができる。

【３７５２】

上記第５４実施形態では、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球は一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域に高確率で案内される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、貯留板部Ｂ７１５と第２特定入賞口Ｂ７００ａとの間に球と接触可能な配置で釘ＢＫＧ１が配設されるようにしても良い。

【３７５３】

これにより、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域が満タンになる前に、釘ＢＫＧ１と衝突した球が検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を通過するイレギュラー入賞が誘発され易くなるようにすることができる。特に、第２特定入賞口Ｂ７００ａを複数の球が連なって通過した時など、球同士の接触により流下が乱れた場合にイレギュラー入賞が誘発され易くなる。

【３７５４】

一方で、釘ＢＫＧ１は、一対の貯留板部Ｂ７１５に貯留されている球とは非接触となるような位置に配置される。これにより、一対の貯留板部Ｂ７１５に貯留された球の排出をスムーズに行わせることができる。

【３７５５】

なお、球と接触可能な配置で配設されるのは、必ずしも釘である必要はない。例えば、基礎板部材Ｂ７１０から前側に突設される突設部を構成し、この突設部と球とが衝突する

ようにしても良い。この場合、釘ＢＫＧ１の場合に比較して、突設部の形状の設計自由度を向上させることができる。例えば、左右方向に長く開口部Ｂ７５１に近づく程に下降傾斜する突条状に形成することで、開口部Ｂ７５１に球が案内される可能性を高めることができる。

【３７５６】

また、例えば、基礎板部材Ｂ７１０の正面側に可動部材を配設するようにし、その可動部材に衝突した球が、可動部材により勢いを付けられることで、球が開口部Ｂ７５１に案内され得るようにしても良い。可動部材の動作は、回転動作でも良いし、直線方向のスライド動作でも良いし、それらの組合せによる動作でも良い。

【３７５７】

また、例えば、第２特定入賞口Ｂ７００ａが左右方向に往復変位したり、検出センサＢ７５０及び貯留板部Ｂ７１５が左右方向に往復変位したりすることで、タイミング次第で、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球が一対の貯留板部Ｂ７１５側ではなく、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１側に流れる場合が生じるようにしても良い。

【３７５８】

上記第５４実施形態では、第２特定入賞口Ｂ７００ａの真下に球が貯留される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２特定入賞口Ｂ７００ａの下流側に斜め下方に延びる球通路が形成され、その球通路の下流側端部に検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１が形成され、球通路の途中位置において球貯留部が下方に延び、その球貯留部の下端に移動床部材Ｂ７４０が配設される構成において、球貯留部が満タンになると後追いの球が球貯留部の最上部の球の上を転動して球通路を下流側に流れ、その球が検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を通過するように構成しても良い。

【３７５９】

また、第２特定入賞口Ｂ７００ａの開口方向は斜め方向に向いていても良く、その第２特定入賞口Ｂ７００ａを開閉する部材はスライド変位するものでなくても、回動変位するもの（例えば、一対の開閉部材で構成されるチューリップタイプの一の開閉部材を利用したもの）でも良い。

【３７６０】

なお、第２特定入賞口Ｂ７００ａの下流側に斜め下方に延びる球通路の方向は何ら限定されるものではない。例えば、正面視で斜め下方（左右側へ向かうにつれて下方へ向かう斜め）でも良いし、左右方向視で斜め下方（前後側へ向かうにつれて下方へ向かう斜め）でも良い。

【３７６１】

特に、後側へ向かうにつれて下方へ向かう斜めの場合、開口部Ｂ７５１を、球貯留部よりも手前側に配置することができる。これにより、球貯留部に貯留される球よりも、開口部Ｂ７５１を通過する球を目立たせることができるので、開口部Ｂ７５１における球の通過を遊技者が視認し易くすることができる。

【３７６２】

上記第５４実施形態では、一対の貯留板部Ｂ７１５の上端部に球が配置されるために一対の貯留板部Ｂ７１５の間に配置する必要のある球の個数が一定である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、時間経過に合わせて移動床部材Ｂ７４０の上面の上下位置が上下方向に変化することや、移動床部材Ｂ７４０として貯留板部Ｂ７１５の下端の球を乗せる板部材が複数枚で上下方向に並設され上から順に開放されるように動作すること等により、一対の貯留板部Ｂ７１５の間に配置される複数の球の内、最下端に配置される球の上下位置を変化させることで、一対の貯留板部Ｂ７１５の上端部に球が配置されるために一対の貯留板部Ｂ７１５の間に配置する必要のある球の個数が変化するようにしても良い。

【３７６３】

また、一対の貯留板部Ｂ７１５の左右間隔が変化するように貯留板部Ｂ７１５が変位可能に構成されても良い。この場合において、左右間隔が球の直径よりも若干長い間隔であ

る場合には４個で満タンになるとしても、左右間隔が球の直径の２倍よりも若干長い間隔である場合には８個で満タンになるので、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１に球を通過させる難易度を変化させることができる。

【３７６４】

また、４個で満タンになるように構成する場合であっても、一対の貯留板部Ｂ７１５の左右間隔が球の直径よりも若干長い間隔である場合に比較して、一対の貯留板部Ｂ７１５の左右間隔が球の直径の２倍よりも若干長い間隔である場合の方が、貯留板部Ｂ７１５の上下長さを半分にすることができるので、球を貯留するための高さ寸法を短くすることができる。これにより、貯留板部Ｂ７１５の設計自由度を向上させることができる。

【３７６５】

上記第５４実施形態では、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に配置される球を常に視認できるよう構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、貯留板部Ｂ７１５の間の位置における球の視認性を低下可能に構成する（例えば、可動部材で目隠しするように構成したり、光の加減で見え難くするように構成したりする）ようにしても良い。この場合、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置で球が満タンになるタイミングを遊技者に予想され難くすることができる。

【３７６６】

なお、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に貯留される球の個数が４個の場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。０個でも良いし、１個でも良いし、３個でも良いし、５個以上でも良い。例えば８個（規定個数に近い数字）とすることで、第３の特別作動パターンにおいて検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１に球が通過する可能性を大きく低下させることができる。

【３７６７】

上記第５４実施形態では、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に貯留され、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に配置されることで流下される球は球抜き開口Ｂ７８２を通り遊技領域から排出される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に配置されることで流下される球が、複数孔を有するクルーンに排出されるようにしても良い。

【３７６８】

このクルーンは、複数孔の内の１つを検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１と同様の機能を有する特定孔とすることで、ラウンド遊技中に球が開口部Ｂ７５１を通過することが確認できないままに移動床部材Ｂ７４０が後退位置に配置され、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置から球が流されたとしても、遊技者はクルーンの特定孔に球が入球することによる利益を獲得できる可能性があるので、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置から流された球に対する注目力を向上させることができる。

【３７６９】

上記第５４実施形態では、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に貯留された球ではなく、その貯留された球の後追いの球が開口部Ｂ７５１を通過し得る場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、貯留板部Ｂ７１５の途中部分が開閉可能に構成されており、その開閉部分の下流側にも検出センサＢ７５０が配設されており、貯留板部Ｂ７１５の途中部分が開放されることで、一対の貯留板部Ｂ７１５の間に貯留された球の内のいずれかが流され、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を通過し得るように構成しても良い。

【３７７０】

上記第５４実施形態では、移動上蓋部材Ｂ７３０の駆動装置と移動床部材Ｂ７４０の駆動装置とが共にソレノイドＢ７６３であり、移動上蓋部材Ｂ７３０の動作と移動床部材Ｂ７４０の動作とが連動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動床部材Ｂ７４０の駆動用にソレノイドＢ７６３とは別の駆動装置を設け、互いに独立して動作可能にしても良い。この場合、上記第５４実施形態で説明した動作態様に加えて、移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の双方が前進位置に配置される場

合や、移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の双方が後退位置に配置される場合を構成可能となる。

【３７７１】

上記第５４実施形態では、移動上蓋部材Ｂ７３０が左右両側に下降傾斜する板形状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０を一方向に傾斜する平板形状で形成しても良い。この場合であっても、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置へ向けて変位開始するよりも若干早く移動床部材Ｂ７４０が前進位置へ変位するという動作の順番が好適に機能して、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に変位するのと同時に移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を流れた球が、移動床部材Ｂ７４０が前進位置に配置されるよりも前に移動床部材Ｂ７４０の正面側を通過するという事態を避けることができる。

【３７７２】

上記第５４実施形態では、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置へ向けて変位開始するよりも若干早く移動床部材Ｂ７４０が前進位置へ変位する動作順序である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが同時に変位しても良いし、動作順序が逆でも良い。

【３７７３】

また、移動床部材Ｂ７４０が後退位置へ向けて変位開始するよりも若干早く移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置へ変位する動作順序である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが同時に変位しても良いし、動作順序が逆でも良い。

【３７７４】

上記第５４実施形態では、前進位置に配置される移動上蓋部材Ｂ７３０の上面を転動する球の背面側に配設される基礎板部材Ｂ７１０の前面が平滑面である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０の上面を転動する球の流下方向と交差する方向（例えば、上下方向）に長尺な突条形状で基礎板部材Ｂ７１０の前面から正面側へ突設される複数の減速突起が、球の流下方向に沿って並べられるようにしても良い。この代わりに、又はこれに加えて、移動上蓋部材Ｂ７３０の上面を階段状に形成して、球の流下速度を減速させるように構成しても良い。

【３７７５】

これにより、移動上蓋部材Ｂ７３０の上面を転動流下する球の流下速度を低下させることができるので、移動上蓋部材Ｂ７３０の一度の開放（前進位置から後退位置に変位すること）で移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を通過する球の個数を多くすることができるので、移動上蓋部材Ｂ７３０が閉鎖状態（前進位置に配置された状態）とされた場合に一対の貯留板部Ｂ７１５の間から球が抜けていくという構成であっても、一対の貯留板部Ｂ７１５の間に球を溜めやすくすることができ、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を球が通過する可能性を高めることができる。

【３７７６】

上記第５４実施形態では、移動上蓋部材Ｂ７３０の下流側に一対の貯留板部Ｂ７１５や移動床部材Ｂ７４０や検出センサＢ７５０が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０の構成を省略し、球が一対の貯留板部Ｂ７１５や移動床部材Ｂ７４０や検出センサＢ７５０の側へ常に流下可能な状態とされていても良い。

【３７７７】

上記第５４実施形態では、大当たり遊技において、１ラウンド目では移動上蓋部材Ｂ７３０が動作され第２特定入賞口Ｂ７００ａに入球可能とされ、２ラウンド目以降のラウンド遊技では特定入賞口Ｂ６５ａが開放され特定入賞口Ｂ６５ａに入球可能とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。どのラウンド遊技でどちらの特定入賞口Ｂ６５ａ，Ｂ７００ａに入球可能となるように制御するかは任意に設定可能とされる。

【３７７８】
例えば、２ラウンド目以降のラウンド遊技においても移動上蓋部材Ｂ７３０が動作され第２特定入賞口Ｂ７００ａに入球可能となるように制御されても良い。この場合、特定入賞口Ｂ６５ａへの入球が小当たり遊技でのみ生じるように構成することができる（全ラウンド遊技において移動上蓋部材Ｂ７３０が動作され第２特定入賞口Ｂ７００ａに入球可能となるように制御される場合に相当）ので、特定入賞口Ｂ６５ａへの入球に対する賞球の払い出し個数の設定が、大当たり遊技における賞球個数に影響を与えることを回避することができる。
【３７７９】
そのため、例えば、第２特定入賞口Ｂ７００ａへの入球に対する賞球の払い出し個数よりも、特定入賞口Ｂ６５ａへの入球に対する賞球の払い出し個数を多く設定することで、大当たり遊技による賞球個数を抑える一方で、小当たり遊技による賞球個数が増大される遊技機を構成することができる。
【３７８０】
また、例えば、第２特定入賞口Ｂ７００ａへの入球に対する賞球の払い出し個数よりも、特定入賞口Ｂ６５ａへの入球に対する賞球の払い出し個数を少なく設定することで、小当たり遊技による賞球個数を抑える（例えば、発射球と同等の賞球個数を維持する程度に抑える）一方で、大当たり遊技による賞球個数が増大される遊技機を構成することができる。
【３７８１】
なお、複数のラウンド遊技において移動上蓋部材Ｂ７３０が動作され第２特定入賞口Ｂ７００ａに入球可能となるように制御される場合、大当たり遊技後の遊技状態が開口部Ｂ７５１に遊技球が通過するか否かで変化するという事象については、第２特定入賞口Ｂ７００ａに入球可能となるように制御される少なくとも１のラウンド遊技において遊技球が開口部Ｂ７５１を通過すれば、開口部Ｂ７５１に遊技球が通過したと認められる。
【３７８２】
上記第５４実施形態では、特別図柄１の抽選で小当たりと判定されない場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない、例えば、特別図柄１でも特別図柄２でも小当たりと判定され得るようにしても良いし、特別図柄１で小当たりと判定され得る一方で特別図柄２では小当たりと判定され得ないように構成しても良い。
【３７８３】
上記第５４実施形態では、通常中の電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第１の作動パターンとされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、通常中の電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第３の作動パターンとなるように構成しても良い。
【３７８４】
この場合、通常中（特別図柄の低確率状態）から第２入賞口Ｂ６４０に球が入球し得ることになるが、特別図柄の低確率状態における特別図柄２の変動時間は、大当たりを除き長期間（本実施形態では１０分）で設定されるので、特別図柄２の抽選で大当たりを獲得するようなことは稀であり、基本的には第１入賞口Ｂ６４への入球による特別図柄１の抽選で大当たりを目指す遊技性を構築することができる。
【３７８５】
この場合において、例えば、大当たりＢの大当たり遊技を実行した後における遊技状態が次に大当たりを獲得するまでは高確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態が特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続するように設定すると、１０１回目の特別図柄の抽選以降において電動役物Ｂ６４０ａを第３の作動パターンで動作させることになり、これは大当たりＡの大当たり遊技を実行した後における遊技状態と同じである。即ち、大当たり遊技終了後に規定回数（上記第５４実施形態では１００回）の特別図柄の抽選を挟んで特殊確変状態に移行する場合を構成可能とすることができる。

【３７８６】
なお、大当たりＣの場合も、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態が特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続するように構成され、１０１回目の特別図柄の抽選以降において電動役物Ｂ６４０ａは第３の作動パターンで動作するように制御されるが、特別図柄の低確率状態なので、単に通常状態へ移行することになる。
【３７８７】
上記第５４実施形態では、大当たり種別の振分けが特別図柄１と特別図柄２とで異なる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、特別図柄１と特別図柄２とで大当たり種別の振分けが同じとなるように設定しても良い。この場合、どちらの特別図柄で大当たりを獲得したとしても差が生じないので、特別図柄１の大当たりに係る抽選と特別図柄２の大当たりに係る抽選とを同一視することができる。この場合、例えば、特別図柄２の抽選が長時間変動で実行される場合（例えば、１０分の変動）を除外し、特別図柄１の抽選で選択される変動時間と同様の変動時間とすることで、あたかも、特別図柄の保留球数が８個（特別図柄１の保留球数４個と特別図柄２の保留球数４個との合計）である遊技機を構成することができる。
【３７８８】
また、例えば、特別図柄１の大当たりの内、大当たり遊技終了後の遊技状態が高確率状態となる大当たり種別と、大当たり遊技終了後の遊技状態が低確率状態となる大当たり種別との比率（上記第５４実施形態において１：１）と、特別図柄２の大当たりの内、大当たり遊技終了後の遊技状態が高確率状態となる大当たり種別と、大当たり遊技終了後の遊技状態が低確率状態となる大当たり種別との比率（上記第５４実施形態において１：１）とを異ならせるように構成しても良い。
【３７８９】
この場合において、特別図柄２の大当たりの方が、特別図柄１の大当たりに比較して、大当たり遊技終了後の遊技状態が高確率状態となる大当たり種別の割合が大きいように構成することで、特別図柄２の大当たりが連続して発生し易い状態に移行可能な遊技機を構成することができる。
【３７９０】
上記第５４実施形態では、社名表示演出やカード忘れ防止表示演出の表示と同時に方向操作部表示Ｂ８１６を表示可能とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、社名表示演出やカード忘れ防止表示演出の後に、方向操作部表示Ｂ８１６を表示して音量光量を調整可能となる調整期間を設けるようにしても良い。この場合、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングは、調整期間の終了タイミングを意味すると同時に、大当たり遊技終了後の変動演出の開始タイミングを意味するので、遊技者は時間表示Ｂ８１１を視認しておけば、調整期間における音量光量の調整から変動演出の開始タイミング後の球発射までの行動を、適切なタイミングでスムーズに行うことができる。
【３７９１】
エンディング演出の期間は大当たり種別により規定されるところ、エンディング演出の内部構成については大当たり種別が同じであっても変更可能となる。調整期間を設ける場合、調整期間が設けられていない場合に比較して、エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出を実行する期間が狭められることになるが、いずれかの演出の継続時間を短くしたり、複数の演出を同時に行ったりすることで、遊技者に違和感を与えることなくエンディング演出を実行することができる。
【３７９２】
調整期間を設けるか否かは、任意に設定することができるが、例えば、大当たり遊技中に実行される演出が、複数のバリエーションの内、特に光量が強くなり易い（光量最強）演出または特に音量が大きくなり易い（音量最大）とされた場合に、エンディング演出において調整期間を設けるようにしても良い。これにより、遊技者の遊技負担を低下させる

ことができる。
【３７９３】
調整期間を設けるかどうかとは無関係に、エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出の長さを変更することができる。例えば、大当たりが連荘している最中において、短期間に何度も見ても情報量が増加するわけではない社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出の長さを短くしたり同時に表示したりすれば、その分だけエンディング表示演出を長くすることができる。エンディング表示演出は、実際に獲得できた賞球個数（現在実行中の大当たり遊技のみでも良いし、連荘中における累積でも良い）や、大当たり遊技終了後の遊技状態という、遊技者にとっての重要性が高い情報が表示されるので、表示期間を長くすることで、遊技者がその情報を見逃す可能性を低くすることができる。
【３７９４】
例えば、大当たり遊技終了後の遊技状態が低確率状態となる場合、連荘が途絶える可能性が高いので、その後遊技者が遊技を終えて離席する可能性が高い。そのため、エンディング演出においてカード忘れ防止表示演出の長さを長くすることで、遊技者がカードを持ち帰り忘れる可能性を低くすることができる。
【３７９５】
例えば、大当たり遊技終了後の遊技状態が特殊確変状態へ移行する場合、遊技者の出玉への期待感が最も高まっているタイミングであるので、このタイミングにおいて社名表示演出を視認させることで、現在遊技しているパチンコ機および製造会社への印象が良くなるように図ることができる。また、大当たりが連荘すれば、ますます遊技者の期待感が高まっていくことから、連荘数が上がっていくほどに社名表示演出を長くするように設定することで、印象をよりよくさせることができる。
【３７９６】
上記第５４実施形態では、エンディング演出において音量光量の調整が可能とされる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング演出において音量光量の調整が実行されたかを判定し、その判定結果が、エンディング演出終了後の変動演出の決定に影響を与えるよう構成しても良い。
【３７９７】
例えば、変動演出として、通常の主図柄停止の報知に比較して、光量や音量が大きくなり易い特定演出（一発告知演出など）が用意されている場合に、直前のエンディング演出中に光量を下げる調整が実行されたにも関わらず、特定演出を実行すると、ただでさえ光で目が疲労していると考えられる遊技者に対して、更なる疲労を与える可能性があり、途中で遊技を中断する可能性がある。そこで、直前のエンディング演出中に光量を下げる調整が実行された場合には、特定演出は実行されないように制御することで、遊技者の疲労の回復を待ちながら遊技を継続させることができる。
【３７９８】
また、大当たり遊技中において、大当たり遊技の終了後の遊技状態で流れる曲を変更する操作を遊技者が行った場合には、遊技者はその曲を聞きたいと感じているはずなので、現在実行中の大当たり遊技のエンディング演出において、方向操作部表示Ｂ８１６を表示する期間を確保するようにしても良い。
【３７９９】
上記第５４実施形態では、エンディング演出の終了タイミングで時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するように構成する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング演出の終了タイミングにおいて普通図柄の変動表示が継続中であり、エンディング演出の終了タイミングと普通図柄の次変動の開始タイミングとの間に時間差がある場合には、その時間差の分、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングをエンディング演出の終了タイミングに対してずらす（遅らせる）ようにしても良い。これにより、エンディング演出の後で球を発射しているにも関わらず、大当たり遊技中から継続中の作動パターン（通常状態における作動パ

ターン、第１の作動パターン）で電動役物Ｂ６４０ａが動作している状態の入賞ユニットＢ４００に球が入球するという事態を回避することができる。

【３８００】

即ち、エンディング演出の後で発射した球を、大当たり遊技終了後から移行した後の作動パターン（第２の作動パターン又は第３の作動パターン）で電動役物Ｂ６４０ａが動作している状態の入賞ユニットＢ４００に入球させることができる。

【３８０１】

この場合においても、エンディング演出が終了したら、特別図柄の保留球があれば、エンディング演出の終了後に特別図柄の変動が開始される。一方で、時間表示Ｂ８１１の表示は継続して残したいので、例えば、主表示領域ＢＤｍにおいてはエンディング演出の表示を継続し、副表示領域ＢＤｓの小領域ＢＤｓ３において特別図柄の変動を表示し、普通図柄の次変動が開始されるタイミングとなり次第、小領域ＢＤｓ３の表示が主表示領域ＢＤｍ３に拡大されながら移動するように構成しても良い。

【３８０２】

画面上で特別図柄を移動させることになるので、低速変動中（リーチ等）になる前段階で移動させることが好ましい。そのため、上述のような表示態様（特別図柄の移動）は、エンディング演出の終了タイミングから普通図柄の次変動の開始タイミングまでの時間差の方が、特別図柄の低速変動中に移行するまでにかかる時間よりも短いという特定の条件が整った場合にのみ行うようにしても良い。

【３８０３】

但し、変動演出の決定は、変動開始時にされるので、エンディング演出の終了よりも後になる。そのため、上述のような表示態様を行うことができるかどうかは、エンディング演出中には不明となるので、エンディング演出終了後に、上記特定の条件が整っていると音声ランプ制御装置Ｂ１１３に判定された場合に、終端位置Ｂ８１２を右方に移動させたり、「＋２秒」等の数字を表示させたりすることで、球発射タイミングが後倒れしたことを報知するように構成しても良い。この場合、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達することで遊技者は球の発射を開始すると考えられるが、その直後に球発射タイミングが後倒れしたことの報知がされれば、それを見た遊技者は球の発射を停止させることができる。これにより、球損を最小限とさせることができる。

【３８０４】

上記第５４実施形態では、特定表示Ｂ８１０や枠ボタン表示Ｂ８１３等の表示が、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面の一部に表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、表示画面の全体に表示される（全画面表示される）ように構成しても良いし、表示画面の異なる部分に表示されるようにしても良い。

【３８０５】

上記第５４実施形態では、エンディング演出において時間表示Ｂ８１１が初めから表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング演出の途中から表示されても良いし、枠ボタンＢ２２の操作により表示されるようにしても良い。また、枠ボタンＢ２２の操作を行う度に、時間表示Ｂ８１１が表示されたり、時間表示Ｂ８１１の表示が消えたりするようにしても良い。

【３８０６】

上記第５４実施形態では、時間表示Ｂ８１１がバーとして表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、表示画面に任意の数字を表示し、その数字を目標値（例えば０（ゼロ））までカウントダウンさせていく表示としたり、目標値（例えば、６００）までカウントアップさせていく表示としても良い。この場合、表示が目標値となるタイミング（時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングに相当）を遊技者が図り易くすることができる。

【３８０７】

また、この表示は、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面において表示する場合に限られるものではない。例えば、第３図柄表示装置Ｂ８１とは別の第２の表示装置や、７セグメ

ント表示器を用意して、それら第２の表示装置や、７セグメント表示器においてカウントダウン又はカウントアップさせる表示を実行しても良い。

【３８０８】

なお、時間表示Ｂ８１１を、バーとカウントダウン（カウントアップ）との両方で表現するようにしても良い。例えば、時間表示Ｂ８１１をバーとして表示することに加えて、時間表示Ｂ８１１が終端位置Ｂ８１２に到達する数秒前（例えば３秒前）から、表示画面に数字（例えば３）を表示し、その数字をカウントダウンさせていく表示を実行しても良い。この場合、表示が０（ゼロ）となるタイミング（時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングに相当）を遊技者が図り易くすることができる。

【３８０９】

上記第５４実施形態では、枠ボタン表示Ｂ８１３が表示画面に表示されている場合において、枠ボタンＢ２２の操作が有効になる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタン表示Ｂ８１３が表示されていなくても枠ボタンＢ２２の操作が有効となる状態を構成可能としても良い。

【３８１０】

上記第５４実施形態では、枠ボタン表示Ｂ８１３が表示画面に表示されている場合において、枠ボタンＢ２２の操作が有効になる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタンＢ２２の内部に発光手段が配設され、枠ボタンＢ２２が操作可能なタイミングで発光手段が発光するように制御しても良い。この場合、操作対象（枠ボタンＢ２２）の位置を遊技者に把握させ易くすることができる。

【３８１１】

上記第５４実施形態では、エンディング演出において、社名表示演出は、大当たり遊技終了後に突入する遊技状態が、遊技者にとって最も有利な状態となる場合に実行され、カード忘れ防止表示演出は、大当たり遊技における払い出し個数が８ラウンド分の個数以上（所定の個数以上）である場合に実行される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、社名表示演出が実行される条件と、カード忘れ防止表示演出が実行される条件とを入れ替えても良い。

【３８１２】

また、社名表示演出またはカード忘れ防止表示演出の少なくとも一方は、大当たり種別によらず、大当たり遊技の度に常に実行されるように設定しても良いし、所定の大当たり回数目（例えば、連荘中において奇数回目の大当たりとか、３の倍数の大当たり等）で実行されるように設定しても良い。

【３８１３】

なお、エンディング演出の内容は、社名表示演出やカード忘れ防止表示演出に限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、「パチンコは遊技です。のめり込みに注意しましょう」という、遊技者を落ち着かせるための文字列を表示したり、不慣れな遊技者等に向けて店員呼び出しボタンの説明をする動画を表示したり、可動役物を待機位置に復帰させるためのボタン操作について説明する動作を表示したりしても良い。これらいずれの表示を実行している間においても、枠ボタン表示Ｂ８１３を表示して枠ボタンＢ２２の操作を促したり、時間表示Ｂ８１１を表示して次演出への移行タイミングを報知したりすることができる。

【３８１４】

上記第５４実施形態では、遊技者にとって最も有利な状態は、特殊確変状態である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、大当たり遊技終了後の状態が、確変状態か時短状態（通常状態）かで異なる場合（特殊確変状態には移行しない場合）には、遊技者にとって最も有利な状態は確変状態とされる。

【３８１５】

また、大当たり遊技終了後の状態が時短状態のみであり、時短状態が継続する抽選回数に差がある場合には、時短状態が継続する抽選回数が最も多くなる状態が、遊技者にとって最も有利な状態とされる。

【３８１６】
　また、大当たり遊技終了後の状態が確変状態のみであり、一方の大当たり種別では次回大当たりまで確変状態が継続される一方で、他方の大当たり種別では所定の抽選回数後は特殊確変状態に移行される場合（通常状態の電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第３の作動パターンとされる場合等）には、他方の大当たり種別の方が特殊確変状態において小当たり遊技中に得られる賞球分有利なので、遊技者にとって最も遊技な状態とされるのは他方の大当たり種別の大当たり終了後の状態とされる。
【３８１７】
　上記第５４実施形態では、エンディング演出において、エンディング表示演出が常に実行される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング表示演出が実行されない大当たり種別を構成しても良い。特に、賞球の払い出し個数が他の大当たり種別に比較して極端に少ない大当たり種別（例えば、突然確変大当たりや、突然通常大当たり等）の時には、エンディング表示演出を省略した方が賞球の払い出しが極端に少ないことを遊技者に意識させないようにすることができ、且つ、大当たり遊技終了後の図柄の変動を早期に開始させることができる。
【３８１８】
　また、特に、特殊確変状態と大当たり遊技との境目を目立たせずに遊技を行わせるための演出（例えば、小当たり遊技における賞球個数と大当たり遊技における賞球個数とを合算して表記する演出）を構成する際には、連荘中にはエンディング表示演出を省略し、連荘の終了時にエンディング表示演出を実行することで、遊技者に対して特殊確変状態と大当たり遊技とをまとめて一つの有利状態として見せることができる。
【３８１９】
　また、上述の内容はエンディング表示演出に限られるものではない。例えば、社名表示演出やカード忘れ防止表示演出についても、連荘に突入する最初の大当たりのエンディング表示において表示させる一方で、連荘中は大当たり種別に関わらず表示させないようにしても良い。
【３８２０】
　上記第５４実施形態では、賞球表示Ｂ８０１と識別表示Ｂ８０２とが同じタイミングで画面に表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、賞球表示Ｂ８０１が画面に表示されてから、表示が切り替わった後で識別表示Ｂ８０２が表示されるようにしても良い。この場合、大当たり遊技で獲得した利益と、大当たり遊技から移行された後で獲得できる利益とを、分けて遊技者に理解させることができるので、遊技者の遊技負担を軽減することができる。
【３８２１】
　上記第５４実施形態では、エンディング演出におけるエンディング表示演出と、社名表示演出と、カード忘れ防止表示演出との長さをそれぞれ同一（５秒）に設定したが、必ずしもこれに限られるものではなく、各演出の長さは、大当たり種別ごとに任意に設定することができる。例えば、カード忘れ防止表示演出の実行期間を他の演出に比較して長くする（例えば、１０秒等）ようにしても良いし、カード忘れ防止表示演出を繰り返し実行するように構成しても良い。
【３８２２】
　また、繰り返し実行する場合には、連続で繰り返しても良いし、他の演出を挟んで繰り返すようにしても良い。例えば、カード忘れ防止表示演出の終了後に、エンディング表示演出（２回目）を表示させるように構成しても良い。この時、１回目のエンディング表示演出では賞球表示Ｂ８０１は表示するが識別表示Ｂ８０２及び信頼度表示Ｂ８０３を表示せず、２回目のエンディング表示演出において識別表示Ｂ８０２及び信頼度表示Ｂ８０３を表示して賞球表示は表示しないようにしても良い。
【３８２３】
　これにより、大当たり遊技で遊技者が獲得できた利益（賞球個数）を報知するタイミングと、大当たり遊技の終了後における遊技の状態を報知するタイミングとを分けることが

できるので、遊技者の遊技負担を低減することができる。また、エンディング演出の終盤に遊技者の興味関心の高い内容（上述の例では識別表示Ｂ８０２）を表示することで、エンディング演出に対する遊技者の注目力を高い状態で維持することができる。

【３８２４】

また、エンディング演出の所定のタイミングにおいて遊技者の興味関心の高い内容（上述の例では識別表示Ｂ８０２を表示可能とする場合に、その表示への切り替えタイミングの前に枠ボタンＢ２２の操作を実行させるように演出しても良い。即ち、枠ボタン表示Ｂ８１３を行うことで、第３図柄表示装置Ｂ８１に対する遊技者の注目力を高めると共に、枠ボタンＢ２２の操作により遊技に参加している感覚を遊技者に与えることができ、枠ボタンＢ２２の操作直後に識別表示Ｂ８０２を表示することで遊技者が識別表示Ｂ８０２を見逃す事態を回避し易くすることができる。

【３８２５】

なお、エンディング演出の長さは数秒間に限定されるものではなく、その長さは任意に（例えば、大当たり種別に応じて）設定可能である。即ち、数秒で終了するエンディング演出の他に、数分を要するエンディング演出が用意されても良い。

【３８２６】

上記第５４実施形態では、エンディング演出におけるエンディング表示演出と、社名表示演出と、カード忘れ防止表示演出との長さをそれぞれ同一（５秒）に設定し、実行される演出の組合せ次第でエンディング演出の実行期間が変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング演出の実行期間は固定にして、社名表示演出が短く設定される場合には、代わりにカード忘れ防止表示演出が長くなるように構成しても良い。

【３８２７】

この場合、社名表示演出が短い期間で終了したことを把握できた遊技者は、その時点でカード忘れ防止表示演出が長くなることを知ることができるので、音量や光量の設定変更にかけられる時間が長くなることを把握することができ、遊技者の枠ボタンＢ２２を操作する意欲を向上させることができる。

【３８２８】

上記第５４実施形態では、エンディング表示演出の後に社名表示演出が実行され、その社名表示演出の後に、カード忘れ防止表示演出が実行される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出の表示順は任意に設定可能であり、社名表示演出の前にカード忘れ防止表示演出が実行されるようにしても良い。

【３８２９】

また、エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出のいずれか２つの演出が同時に実行される（並列で実行される）ように構成しても良い。この場合、表示の重なりを避けるために、第３図柄表示装置Ｂ８１における表示位置を分けるようにすると良い。これによれば、エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出が順に実行される（直列で実行される）場合に比較して、演出を同時に実行させている分だけエンディング演出に要する時間を短くすることができる。

【３８３０】

上記第５４実施形態では、社名表示演出が実行されるとカード忘れ防止表示演出が実行される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング表示演出と社名表示演出とが実行され、カード忘れ防止表示演出が省略される大当たり種別を用意しても良い。

【３８３１】

上記第５４実施形態では、エンディング表示演出の後で枠ボタン表示Ｂ８１３や方向操作部表示Ｂ８１６が表示され、設定を変更することができようになる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタン表示Ｂ８１３や方向操作部表示Ｂ８１６が表示され設定を変更することができる期間が経過した後で、エンディング表示

演出が実行されるようにしても良い。
【３８３２】
この場合において、枠ボタン表示Ｂ８１３や方向操作部表示Ｂ８１６が表示される期間は、エンディング演出に入ってから（最終ラウンドのラウンド遊技が終了してから）開始されるようにしても良いし、大当たり遊技における終盤のラウンド遊技の消化中から開始されるようにしても良い。いずれの場合でも、エンディング表示演出から変動演出への移行をスムーズにすることができる。
【３８３３】
なお、方向操作部表示Ｂ８１６が表示され方向操作部Ｂ４５を操作可能となるタイミングは、枠ボタンＢ２２を操作した後に限られるものではない。例えば、枠ボタン表示Ｂ８１３が表示されず、枠ボタンＢ２２の操作を介することなく、方向操作部表示Ｂ８１６が表示され方向操作部Ｂ４５を操作可能とする場合があっても良い。
【３８３４】
上記第５４実施形態では、方向操作部表示Ｂ８１６が表示画面の中央に表示され、音量や光量の調整を行っている最中にも特定表示Ｂ８１０が表示画面の端側に移動した状態で視認可能とされており、カード忘れ防止表示演出が継続される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、離席しようとしている遊技者が音量や光量を改めて調整するはずがないという判断から、音量や光量の調整が実行されたらカード忘れ防止表示演出が消えるように構成しても良い。
【３８３５】
上記第５４実施形態では、枠ボタン表示Ｂ８１３の表示中に枠ボタンＢ２２を操作したら調整画面に移行するように説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタンＢ２２を押している間は調整画面に移行し、枠ボタンＢ２２を離すと操作前の画面に戻るようにしても良い。これにより、音量や光量の設定変更のためには両手操作が最適であることを遊技者に分からせることができ、ハンドルＢ５１から手を離させることができるので、エンディング演出中における球発射を抑制することができる。
【３８３６】
なお、遊技者が枠ボタンＢ２２を操作するまえから、「枠ボタンを押した状態で光量や音量の設定変更が可能です」と表示させても良い。これにより、両手操作が必要であることを遊技者に一度で把握させることができる。エンディング演出において両手操作をさせることで、発射しても遊技者にとって利益率の悪いタイミングにおける球の発射を抑制することができる。即ち、報知は、遊技球の発射を抑えた方が遊技者にとって利益が高くなる可能性があるタイミングにおいて、複数の操作手段を同時に操作させる態様で行うようにすれば良い。
【３８３７】
また、例えば、枠ボタンＢ２２を操作する度に、音量の設定変更が可能な状態（表示態様）と、光量の設定変更が可能な状態（表示態様）とを、切り替えられるようにしても良い。
【３８３８】
また、例えば、エンディング演出中は、枠ボタンＢ２２を押している間は調整画面に移行し、枠ボタンＢ２２を離すと操作前の画面に戻るように制御される一方で、エンディング演出が終了して変動演出の表示画面に移行したら、枠ボタンＢ２２を押していなくても音量や光量の調整を実行できるように制御しても良い。これにより、エンディング演出の終了後にまで両手操作が強いられることを防止することができるので、遊技者は、ハンドルＢ５１を操作しながら音量や光量の設定変更をすることができる。
【３８３９】
上記第５４実施形態では、カード忘れ防止表示演出の実行中に枠ボタン表示Ｂ８１３に従って枠ボタンＢ２２を操作した場合に特定表示Ｂ８１０が画面の端側に移動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、社名表示演出の実行中に枠ボタン表示Ｂ８１３に従って遊技者が枠ボタンＢ２２を操作した場合には、特定表示Ｂ８

１０としての製造会社名（Ａカンパニー）が第３図柄表示装置Ｂ８１の画面の左上隅（端側）に移動され、それに続けて、特定表示Ｂ８１０にカード取り忘れ防止表示が表示されるようにしても良い。社名表示演出の実行中に、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面中央に方向操作部表示Ｂ８１６を表示させ、遊技者に対して音量や光量の設定変更が可能であることを報知するようにしても良い。

【３８４０】

また、特定表示Ｂ８１０が表示画面の端側に表示された状態となっても、規定時間以内（例えば２秒以内）に音量や光量の設定変更が実行されなかった場合には、特定表示Ｂ８１０が画面中央（移動前の配置）に戻るように設定しても良い。

【３８４１】

上記第５４実施形態では、エンディング演出において音量や光量の設定の変更を行うことができるよう構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング演出から移行する特殊確変中、確変中や時短中における特別図柄の変動演出のパターンにバリエーション（第１の態様、第２の態様）が設けられている場合に、そのいずれを選択するかの設定の変更を行うことができるようにしても良い。ここで、第１の態様と第２の態様との組合せとしては、任意に設定可能であるが、例えば、白黒表示態様とカラー表示態様との組合せや、漫画的な表示態様とアニメ的な表示態様との組合せや、枠ボタンＢ２２の連打操作を要求する表示態様と枠ボタンＢ２２の長押し操作を要求する表示態様との組合せ等が例示される。

【３８４２】

また、例えば、大当たり演出中や、変動演出中に流れる曲（主題歌等）の設定を変更可能な場合は、エンディング演出において曲の設定の変更を行うことができるようにしても良い。エンディング演出ではなく、ファンファーレ演出中でも良いし、ラウンド遊技中でも良いし、ラウンド間インターバル中でも良いし、それらを跨いだ期間でも良い。

【３８４３】

上記第５４実施形態では、エンディング演出中に、時間表示Ｂ８１１及び終端位置Ｂ８１２によってエンディング演出の終了タイミングを報知したり、枠ボタンＢ２２の操作に伴って表示演出が変化したりすることを説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、演出の終了タイミング又は発生タイミングの報知や、枠ボタンＢ２２の操作に伴う表示される演出の変化は、図柄の変動中やリーチ中に行われても良いし、エンディング演出を除く大当たり遊技中の演出中に行われても良い。

【３８４４】

例えば、図柄の変動中やリーチ中に行われる場合において、報知される演出の終了タイミングは、特別図柄の変動が停止されるタイミングでも良いし、演出としての疑似連続変動が開始されるタイミングでも良い。前者の場合、特別図柄の保留球数が１減ることで新たな特別図柄の抽選を獲得できるようになるので、遊技者に対して球の発射を促すタイミングとして適切である。後者の場合、特別図柄の変動自体は数分にわたる場合に、その途中のタイミングで短く区切ることで、遊技者の集中力を保つことができる。

【３８４５】

リーチ終盤での枠ボタン表示Ｂ８１３に伴う枠ボタンＢ２２の操作が行われると、大当たりであれば大当たり用の表示画面に移行し、はずれであれば、はずれ用の表示画面に移行するように構成することで、枠ボタン表示Ｂ８１３を見ている遊技者に対して特別図柄の変動の結果を分からせ易くすることができる。

【３８４６】

例えば、エンディング演出を除く大当たり遊技中の演出中に行われるようにしても良い。ラウンド中における、枠ボタン表示Ｂ８１３及び枠ボタンＢ２２の操作は、例えば、昇格演出（例えば、ファンファーレ演出では４ラウンド大当たりであると演出上報知したが実際は１５ラウンド大当たりであることを報知する演出など、ファンファーレ演出での報知により遊技者が得られると予想される利益よりも高い利益を遊技者が得られる大当たりであることを報知する演出）に利用することができる。

【３８４７】
特に、上記第５４実施形態のように、ラウンド遊技において開口部Ｂ７５１を球が通過するか否かで大当たり遊技終了後の遊技状態が変化する場合において、そのラウンド遊技中に枠ボタン表示Ｂ８１３を表示するようにし、遊技者に対して枠ボタンＢ２２の操作を促すことで、遊技者の注意を開口部Ｂ７５１から逸らし、開口部Ｂ７５１を球が通過したか否かの確認をし損なう事態を生じさせることができる。
【３８４８】
パチンコ機Ｂ１０が、表示画面の正面側に張り出す可動役物を備える場合に、ラウンド中の枠ボタン表示Ｂ８１３に従う枠ボタンＢ２２の操作があり、昇格演出を実行する時に可動役物が表示画面の正面側に張り出すように制御されると、遊技者としては可動役物の動きで昇格演出に成功したことが分かり易い。ラウンド中の枠ボタン表示Ｂ８１３に従う枠ボタンＢ２２の操作があったとしても、昇格演出を実行しない時（ファンファーレ演出での報知と実際の報知が同じである場合）には可動役物が表示画面の正面側に張り出さないように制御することで遊技者に対して昇格演出に失敗したことを分からせ易い。
【３８４９】
また、例えば、演出の終了タイミングの報知や、枠ボタンＢ２２の操作に伴う表示される演出の変化は、所定時間第１図柄の抽選が行われないと実行される遊技説明表示演出（デモ画面）中に実行するようにしても良い。この場合、報知により、遊技説明表示演出が一巡したことを遊技者に分からせることができる。
【３８５０】
また、例えば、演出の終了タイミングの報知や、枠ボタンＢ２２の操作に伴う表示される演出の変化は、所定時間内で所定の検出口に球を通過させる遊技に関する演出において、所定時間内において所定の検出口を依然として球が通過していない場合に実行するようにしても良い。この場合、報知により、遊技者に球が検出口を通過していないことに気付かせることができる。
【３８５１】
また、例えば、演出の終了タイミングの報知や、枠ボタンＢ２２の操作に伴う表示される演出の変化は、大当たり遊技におけるファンファーレ演出中や、ラウンド間インターバルにおいて実行するようにしても良い。この場合、演出の終了タイミングで特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａが開放されることになるので、遊技者は、球を発射するのに適したタイミングを容易に把握することができる。
【３８５２】
また、例えば、演出の終了タイミングの報知や、枠ボタンＢ２２の操作に伴う表示される演出の変化は、大当たり遊技におけるラウンド遊技およびラウンド間インターバルを複数含む期間中に行われるようにしても良い。これにより、単一のラウンド遊技やラウンド間インターバルとして設定される時間よりも長時間の演出を構成することができ、その長時間の演出の終了タイミングの報知や、枠ボタンＢ２２の操作に伴う表示される演出の変化を実行可能とすることにより、遊技者を飽きさせることなく遊技に集中させることができる。
【３８５３】
上記第５４実施形態では、カード忘れ防止表示演出がエンディング演出において実行される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１図柄の保留球数が０になってから、所定時間が経過した時に実行されるようにしても良い。この場合、大当たりを獲得する前の遊技者に対しても、カード忘れ防止表示演出を視認させることができる。
【３８５４】
また、例えば、長時間（例えば、６０秒以上）の第１図柄の変動開始時に実行されるようにしても良い。この場合、空き時間で飲み物等の購入をしようと考えている遊技者に対して、長時間の第１図柄の変動が開始されることを報知できると共に、離席時にカード忘れを起こさないように注意喚起することができる。

【３８５５】
上記第５４実施形態では、方向操作部表示Ｂ８１６が表示され光量や音量が調整可能とされる期間は、エンディング演出の終了までや、エンディング演出終了後の初回の変動中等までとされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１図柄の変動中における第３図柄の高速変動表示中や、第３図柄の中速変動表示中に設定されても良い。この場合、方向操作部表示Ｂ８１６が表示され光量や音量が調整可能とされる期間が終了するタイミングから、高速変動表示中から中速変動表示中へ移行するタイミングや、中速変動表示中から低速変動表示中（リーチ表示中等）へ移行するタイミングを、遊技者は把握可能となる。
【３８５６】
また、特別図柄の変動中に亘って（低速変動表示中も含めて）、方向操作部表示Ｂ８１６が表示され光量や音量が調整可能とされる期間を構成可能としても良い。この場合において、方向操作部表示Ｂ８１６を小領域ＢＤｓ３に表示するようにしても良いし、小領域ＢＤｓ３と主表示領域ＢＤｍとで表示を入替可能としても良い。
【３８５７】
この場合において、特別図柄の変動表示中において、調整可能とされる期間が用意されていることを示唆する報知が実行され、その後でその期間の報知が実行され、枠ボタン表示Ｂ８１３等がされ、方向操作部表示Ｂ８１６を表示可能となり音量や光量の調整が可能とされるというように、報知を段階的に行うように構成しても良い。この場合、特別図柄の変動表示中であっても、遊技者の興味を段階的に移すことができるので、調整可能とされる期間が用意されていることに遊技者が気づかない事態が生じることを回避し易くすることができる。
【３８５８】
これに加えて、音量光量の調整が次変動以降も有効となるように制御しても良いし、音量光量の調整を行った際に変動していた特別図柄が大当たりとなった場合に、音量光量の調整を維持した状態で大当たり遊技を行うことができるように制御しても良い。
【３８５９】
また、例えば、初回の変動中までに限られず、複数回目の変動が終了するまでは光量や音量が調整可能とされる期間が継続するように構成しても良いし、第１図柄の変動が所定の態様（例えば、長時間の変動や、大当たりを獲得する変動など）となるまでは光量や音量が調整可能とされる期間が継続するように構成しても良い。
【３８６０】
また、大当たりとなった変動演出の後半においてや、ファンファーレ演出において、方向操作部表示Ｂ８１６が表示され光量や音量が調整可能とされる期間が用意されても良い。この場合、大当たり中の音量設定を行うことができ、期間の終了のタイミングから大当たり遊技の開始タイミングを遊技者は把握することができる。
【３８６１】
上記第５４実施形態では、終端位置Ｂ８１２が固定されており、時間表示Ｂ８１１が時間経過と共に移動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、時間表示Ｂ８１１の移動速度は一定速度とされても良いし、時間表示Ｂ８１１の移動速度が途中で変化可能に構成されても良い。また、例えば、時間表示Ｂ８１１の右端部が逆方向（左側）に移動する場合があるように構成しても良い。
【３８６２】
また、例えば、終端位置Ｂ８１２が動くことができるように構成しても良い。即ち、時間表示Ｂ８１１の移動中に、終端位置Ｂ８１２も移動することで、時間表示Ｂ８１１が終端位置Ｂ８１２に到達するまでの時間を予想し難くすることができる。
【３８６３】
なお、終端位置Ｂ８１２の移動は、時間表示Ｂ８１１が到達するのを待って、時間表示Ｂ８１１が到達した直後に移動するように構成しても良いし、時間表示Ｂ８１１が終端位置Ｂ８１２に到達する前において移動するように構成しても良い。

【３８６４】
　また、時間表示Ｂ８１１の移動先としての終端位置Ｂ８１２の移動方向は、左右方向に限定されるものではない。例えば、上下方向に移動しても良いし、渦を巻くように移動しても良い。これにより、時間表示Ｂ８１１が終端位置Ｂ８１２に到達するまでの時間を予想され難くすることができる。
【３８６５】
　上記第５４実施形態では、エンディング演出において枠ボタンＢ２２を操作することで、方向操作部８１６が表示画面の中央に表示され、特定表示Ｂ８１０は表示画面に隅に移動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタンＢ２２を操作する前から特定表示Ｂ８１０が表示画面の隅に配置されていても良い。また、例えば、枠ボタンＢ２２を操作することで表示画面の中央付近まで可動役物が張り出し、その可動役物に隠されない位置に特定表示Ｂ８１０の表示位置が変化するようにしても良い。
【３８６６】
　また、例えば、エンディング演出において枠ボタンＢ２２を操作することで、特定表示Ｂ８１０が消えるように設定しても良いし、エンディング演出において枠ボタンＢ２２を操作することで始めて時間表示Ｂ８１１および終端位置Ｂ８１２が表示されるように構成しても良いし、これらの組合せでも良い。
【３８６７】
　上記第５４実施形態では、エンディング演出において音量を変更した場合、表示画面における横目盛り表示Ｂ８１８の表示態様が変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、これに加えて、又はこれに代えて、音量を変更した場合に所定のセリフが出力されるようにしても良い。
【３８６８】
　例えば、「カードの取り忘れにご注意下さい」というセリフが出力されるように構成する場合、遊技者が音量を変更する度に、遊技者に対してカード忘れに対する注意喚起を行うことができる。
【３８６９】
　また、セリフの内容、音量または音声（声色）が、変更後の音量に対応して変化するようにしても良い。特に、セリフの内容（例えば、「カードの取り忘れにご注意下さい」又は「カードを確実にお持ち帰り下さい」）や声色が変わる場合（例えば、異なるキャラクターの声色）には、遊技者が自分の好みの音量に設定することを容易にすることができる。
【３８７０】
　上記第５４実施形態では、エンディング演出で注意コメント表示Ｂ８１５や第２注意コメント表示Ｂ８１９に表示されるコメントが、遊技者が設定変更できる対象と一致する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技者が設定変更できる対象と一致しないコメントが表示されるようにしても良い。
【３８７１】
　この場合において、保留されている始動入賞の内に大当たりとなるものがある場合に、注意コメント表示Ｂ８１５又は第２注意コメント表示Ｂ８１９に「大当たり！？」や「大チャンス発生中」という期待表示（大当たりが獲得可能であるかもしれないと遊技者に期待させるコメント表示）を行うことで、遊技者はエンディング演出中に次の大当たりの獲得に期待することができるので、エンディング演出に対する遊技者の注目力を向上させることができると共に、遊技者の枠ボタンＢ２２の操作意欲を高めることができる。
【３８７２】
　注意コメント表示Ｂ８１５又は第２注意コメント表示Ｂ８１９に期待表示がされ、既に大当たりの獲得が期待できる場合、球の無駄打ちを避けるため、大当たり遊技が開始されるまでは球の発射を控えることが通常である。そのため、エンディング演出の終了時点に合わせて時間表示Ｂ８１１を終端位置Ｂ８１２に到達させるようにしても、遊技者の注目

力を高めることができない可能性が高い。
【３８７３】
そこで、時間表示Ｂ８１１を、エンディング演出の終了時点で終端位置Ｂ８１２に到達させる態様ではなく、大当たりとなる抽選の変動演出が終了するタイミングで終端位置Ｂ８１２に到達させる態様で構成しても良い。この場合、時間表示Ｂ８１１及び終端位置Ｂ８１２に対する遊技者の注目力を向上させることができる。
【３８７４】
この場合において、時間表示Ｂ８１１及び終端位置Ｂ８１２は、エンディング演出において表示開始され大当たりとなる抽選の変動演出が終了するタイミングまで表示が継続されるようにしても良いし、エンディング演出においては表示されずにその後の変動演出への移行後に表示されるようにしても良い。
【３８７５】
前者の場合、エンディング演出を見ている段階から既に大当たりを獲得できていることに遊技者は気付けるので、大当たり遊技の終了直後に球を発射する必要性はないことを遊技者は把握することができる。そのため、遊技者は球の打ち出しを抑えることができる。
【３８７６】
後者の場合、エンディング演出から変動演出へ移行されたら大当たりとなる抽選の変動演出を待たずに時間表示Ｂ８１１及び終端位置Ｂ８１２が表示されても良いし、大当たりとなる抽選の変動演出が開始された後または変動演出の開始と同時に表示されるようにしても良い。いずれの場合であっても、遊技者は、変動演出が終了する前から大当たりとなることを把握することができるので、例えば、変動演出が長時間となる（例えば、１変動に１０分を要する）場合であっても、遊技者は球の打ち出しを抑えることができるし、保留している始動入賞に大当たりがあることに気付かずに遊技機を離席するという事態を回避し易くすることができる。
【３８７７】
なお、保留されている始動入賞の内に大当たりとなるものがある場合に、エンディング演出では期待表示を表示しないが、変動演出中に時間表示Ｂ８１１及び終端位置Ｂ８１２が表示され、大当たりとなる抽選の変動演出が終了するタイミングで終端位置Ｂ８１２に到達させる態様で構成しても良い。
【３８７８】
なお、保留されている始動入賞の内に大当たりとなるものがある場合において、大当たりとなる始動入賞の個数に対応して表示態様を変えるようにしても良い。例えば、大当たりとなる始動入賞の個数が２個の場合に、「大当たり×２！？」との期待表示を注意コメント表示Ｂ８１５又は第２注意コメント表示Ｂ８１９に表示するようにしても良いし、「複数回大当たり！？」との期待表示として、複数の大当たりとなるが、大当たりとなる始動入賞が何個あるかは不明とするようにしても良い。これにより、遊技者の興趣の向上を図ることができる。
【３８７９】
この時、時間表示Ｂ８１１を、大当たりとなる抽選の変動演出が終了するタイミングで終端位置Ｂ８１２に到達させる態様で構成する場合には、エンディング演出の終了から最初に大当たりとなる抽選の変動演出が終了するタイミングとすることで、遊技者の気持ちを大当たり遊技へスムーズに移行させることができる。
【３８８０】
また、遊技者が設定変更できる対象と一致しないコメントの表示位置を、小領域ＢＤｓ３に設定し、枠ボタン表示Ｂ８１３の表示中に枠ボタンＢ２２が操作されることで枠ボタン表示Ｂ８１３が消えたら、そのコメントを視認可能とするように構成しても良いし、コメントの表示を表示画面全体（全画面表示）に設定しても良い。この場合、遊技者の枠ボタンＢ２２の操作意欲を高めることができる。
【３８８１】
上記第５４実施形態では、カード忘れ防止表示演出から次の変動演出に移行する場合を

説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、カード忘れ防止表示演出と次の変動表示画面との間に、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に一枚絵（静止画）を表示させるようにしても良い。この場合において、一枚絵の表示開始時点で、図柄変動が開始される場合には、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングは、一枚絵が表示開始される時点に合うように設定すると良い。

【３８８２】

また、大当たり遊技終了後の変動表示画面に移行してから暫くしてから図柄変動が開始されるようにしても良い。この場合には、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングは、大当たり遊技終了後の変動表示画面に移行してからのタイミングに設定すると良い。

【３８８３】

上記第５４実施形態では、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達したタイミングを、遊技者が球を発射開始するのに適したタイミングとして構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、時間表示Ｂ８１１が、遊技者が球を発射することで所定の利益を得られる期間中に表示され、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達したタイミングを、遊技者が球の発射を終了するのに適したタイミングとして構成するようにしてもいい。この場合、時間表示Ｂ８１１が右方に移動している期間中において、遊技者に球を発射させることを促すことができ、且つ、適切なタイミングで球の発射を止めるように遊技者に促すことができる。

【３８８４】

また、この場合において、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達する前のタイミングにおいて規定の条件が満たされた場合には、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に「準備完了」等の文字列を表示したり、表示画面の表示を切り替えたりして、規定の条件が満たされたことを遊技者に報知するようにしても良い。この場合において、規定の条件が満たされた後においても時間表示Ｂ８１１の表示を維持したままにしても良いし、規定の条件が満たされた場合には時間表示Ｂ８１１の表示を消すようにしても良い。

【３８８５】

例えば、特別図柄１（特別図柄２、又は両方）の保留球数が４個（満タン）になることを条件として表示画面に文字列が表示されるように遊技機が制御されていれば、遊技者は文字列を確認することで、球をこれ以上発射しても特別図柄１（特別図柄２、又は両方）の抽選を獲得することができないことを把握することができる。これにより、時間表示Ｂ８１１の移動速度を急激に変化させる等の制御をすることなく、適切なタイミングで球の発射を止めるように遊技者に促すことができる。

【３８８６】

上記第５４実施形態では、枠ボタンＢ２２を押す前は注意コメント表示Ｂ８１５が表示されており、枠ボタンＢ２２を押した後で第２注意コメント表示Ｂ８１９が表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【３８８７】

例えば、枠ボタンＢ２２を押した後も注意コメント表示Ｂ８１５のみが表示され、方向操作部８１６及び縦目盛り表示Ｂ８１７は表示されるが、横目盛り表示Ｂ８１８の表示はされないように制御しても良い。この場合、枠ボタンＢ２２を押す前から表示されていた注意コメント８１５の内容と、枠ボタンＢ２２を操作することで設定の変更が可能になる対象（光量）が一致するので、枠ボタンＢ２２の操作に対する遊技者の満足感を高めることができる。

【３８８８】

例えば、枠ボタンＢ２２を押す前において注意コメント表示Ｂ８１５が消えており第２注意コメント表示Ｂ８１９のみが表示されている場合には、枠ボタンＢ２２を押した後も第２注意コメント表示Ｂ８１９が表示され注意コメント表示Ｂ８１５の表示はされず、方向操作部８１６及び横目盛り表示Ｂ８１８は表示されるが、縦目盛り表示Ｂ８１７の表示はされないように制御しても良い。この場合、枠ボタンＢ２２を押す前から表示されてい

た第２注意コメント８１９の内容と、枠ボタンＢ２２を操作することで設定の変更が可能になる対象（音量）が一致するので、枠ボタンＢ２２の操作に対する遊技者の満足感を高めることができる。

【３８８９】

これにより、遊技者は、自分が設定を変更したい対象（音量または光量）の設定を変更できるか否かを予め確認した上で、枠ボタンＢ２２を操作するか否かを選択することができるので、枠ボタンＢ２２の操作負担を低減することができる。

【３８９０】

また、枠ボタン表示Ｂ８１３と、枠ボタンＢ２２を操作した場合における操作対象とが別箇所に表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタン表示Ｂ８１３の三角マークが音符になっている場合には、枠ボタンＢ２２の操作により音量の調整が可能である一方で、枠ボタン表示Ｂ８１３の三角マークが電球マークになっている場合には、枠ボタンＢ２２の操作により光量の調整が可能となるように制御しても良い。即ち、枠ボタン表示Ｂ８１３自体の表示態様を変化させることで、枠ボタンＢ２２の操作により調整可能となる対象を報知するようにしても良い。

【３８９１】

また、枠ボタンＢ２２に対応する操作手段が複数あり、それぞれ形状が異なる場合には、枠ボタン表示Ｂ８１３として異なる形状に対応した表示を構成することができるので、枠ボタン表示Ｂ８１３によりどの操作手段を操作すればよいかを遊技者に報知することができる。この場合において、操作される操作手段に対応して、調整可能となる対象が変わるように構成しても良い。

【３８９２】

上記第５５実施形態では、スライド部材Ｂ２４５０が前突設部Ｂ２４５７と一体成形される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、前突設部Ｂ２４５７とスライド部材Ｂ２４５０とが別体で成形され、スライド部材Ｂ２４５０が前後方向にスライド移動することに伴う負荷伝達により、前突設部Ｂ２４５７が上下方向に出没変位することで、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂが底面部Ｂ４３１ａの上面から張り出す場合と、底面部Ｂ４３１ａの上面から張り出さない場合とが切り替えられるように構成しても良い。

【３８９３】

この場合、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂが前後方向に変位する場合に比較して、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂから球に対して与えられる負荷の、中央流路Ｂ２４３１における球の流下方向に沿う成分を小さくすることができるので、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂが前方へ変位した際に誤って球を加速させる事態が生じることを避け易くすることができる。

【３８９４】

上記第５７実施形態では、転動板部Ｂ４４２１と妨害棒部Ｂ４４２５とが一体形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、転動板部Ｂ４４２１に妨害棒部Ｂ４４２５を組み付け可能に構成することで、妨害棒部Ｂ４４２５を組み付けずに使用する場合と、妨害棒部Ｂ４４２５を転動板部Ｂ４４２１に組み付けて使用する場合とで、転動板部Ｂ４４２１を兼用することができ、転動板部Ｂ４４２１を共通部品化することによるコストダウンを図ることができる。

【３８９５】

また、例えば、転動板部Ｂ４４２１と妨害棒部Ｂ４４２５とを別体で形成し、転動板部Ｂ４４２１の動作時に妨害棒部Ｂ４４２５が連動するよう構成しても良い。これにより、転動板部Ｂ４４２１と妨害棒部Ｂ４４２５との配置の自由度を向上することができる。なお、この場合において、転動板部Ｂ４４２１を駆動する駆動装置を、妨害棒部Ｂ４４２５を駆動する駆動装置と兼用するようにしても良いし、別の駆動装置を用意しても良い。

【３８９６】

上記第５７実施形態では、転動板部Ｂ４４２１の下流側端部が、案内部Ｂ４４１３の右

端部よりも右側に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、転動板部Ｂ４４２１の下流側端部が左方に延長され、案内部Ｂ４４１３の上面に被さるように形成されても良い。この場合、転動板部Ｂ４４２１の上面を転動して流下する球をスムーズに案内部Ｂ４４１３に乗せることができる。即ち、球の重みで転動板部Ｂ４４２１の高さ位置が下がり（沈み込み）、転動板部Ｂ４４２１の上面が案内部Ｂ４４１３の上面よりも低位置に配置され、転動板部Ｂ４４２１の下流側に到達した球が案内部Ｂ４４１３側に移る際の流下抵抗が大きくなる事態が生じることを防止することができる。転動板部Ｂ４４２１の上流側端部や、可変入賞装置Ｂ６５の開閉部材の両端部においても同様のことがいえる。

【３８９７】

上記第５７実施形態では、電動役物Ｂ４４２０が前後方向にスライド変位する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回動変位するように構成しても良い。回動変位の回転軸は、例えば、上記第５７実施形態において転動板部Ｂ４４２１が出没する開口部（流路構成部Ｂ４４１０の背面側に形成される横長の開口部）において開口部に沿う方向に延びるように配設されても良い。

【３８９８】

その回転軸から下方に垂れ下がるように横長矩形状の開閉板を形成する。開閉板が垂れ下がった状態が非案内状態に対応し、この状態において開閉板の下流側端部において妨害棒部Ｂ４４２５に対応するように球の通過を妨害可能な妨害部分が形成される。非案内状態から開閉板が起き上がる方向（後転方向）に９０度回動されることで、開閉板が案内部Ｂ４４１３側に球を案内可能な状態とされ、この状態が案内状態に対応する。この状態において、妨害部分は流路構成部Ｂ４４１０の背面側に退避される。

【３８９９】

このように構成することで、非案内状態において回転軸よりも板状部Ｂ４４１２側へ球が流れた場合であっても、開閉板が後転方向に変位する際の球の配置次第で、球を回転軸よりも上側に救い上げることができる。

【３９００】

また、回動変位の回転軸は、例えば、上記第５７実施形態において転動板部Ｂ４４２１が出没する開口部の下端部において前後方向に延びるように配設されるようにしても良い。回転軸から、第５７実施形態における案内状態と同様の方向に開閉板が延びる状態を案内状態として構成する。案内状態から、回転軸を中心に反時計回りに９０度回転する状態（非案内状態に対応する）にまで開閉板が回動変位できるように、球入口Ｂ４４１１及び天井部Ｂ４４１４の上下配置が上方に引き上げられている。即ち、本構成によれば、案内状態から、開閉板が反時計回りに９０度回動された状態が非案内状態として構成されることとなり、第５７実施形態における転動板部Ｂ４４２１と、妨害棒部Ｂ４４２５とが、同じ部分により構成されることになる。

【３９０１】

このように構成することで、開閉板が案内状態から非案内状態へ向けて回動される場合に、案内状態において開閉板の上面に乗っている球を、残らず案内部Ｂ４４１３側へ案内することができる。これにより、第５７実施形態において電動役物Ｂ４４２０が案内状態から非案内状態へ向けてスライド変位される場合に、案内状態において転動板部Ｂ４４２１の上面に乗っている球がほとんど板状部Ｂ４４１２側に流下することに比較して、案内部Ｂ４４１３側へ球を容易に案内させることができる。

【３９０２】

上記第５８実施形態では、第２特定入賞口Ｂ７００ａと開口部Ｂ７５１との間に回転変位する球受回転部材Ｂ５７７１が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右に首振り可能に構成される回動部から形成され、球の流下経路を左右いずれかに振り分けるように動作可能としても良い。

【３９０３】

また、例えば、スライド変位する開閉板を配設するようにしても良い。この場合におい

て、開閉板を、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域への流路または開口部Ｂ７５１の開閉に利用するようにしても良い。

【３９０４】

また、開閉板が、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域への流路または開口部Ｂ７５１上に配置されるように構成することで、球の流下経路を切り替えるように構成しても良い。即ち、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域への流路が開放される一方で開口部Ｂ７５１が閉鎖される状態と、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域への流路が閉鎖される一方で開口部Ｂ７５１が開放される状態と、を開閉板により切り替え可能に構成しても良い。

【３９０５】

上記第５８実施形態では、球受凹部Ｂ５７７２に球が１個ずつ受け入れられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、１を超える所定数（例えば、２個ずつ）受け入れられるように構成しても良い。この場合、球受回転部材Ｂ５７７１が一定速度で回転動作する場合に、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に複数個（所定数）の球をまとめて入球させることができる。

【３９０６】

上記第５８実施形態では、球受回転部材Ｂ５７７１が時計回り方向に常に回転動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、常時回転動作することは同じとして、所定間隔で反時計回り方向に回転する動作タイミングを入れるようにしても良い。この場合、例えば、球受凹部Ｂ５７７２と流下規制部材Ｂ５７７８との間で球噛みが生じた場合であっても、回転方向が反転することにより球噛みの解消を図ることができる。

【３９０７】

また、所定の大当たり種別の場合に、ラウンド遊技の初めの１０秒間は球受回転部材Ｂ５７７１が停止され、１０秒間が経過した後で球受回転部材Ｂ５７７１が回転動作されるようにしても良い。この場合、初めの１０秒間において一対の貯留板部Ｂ７１５側（開口部Ｂ７５１側）に球が流下しないようにすることができるので、釘ＢＫＧ１の状態として移動上蓋部材Ｂ７３０側に導かれる球よりも逸れる球の方が多いような状態の方が、初めの１０秒間における第２特定入賞口Ｂ７００ａの入球個数を減らせることから、開口部Ｂ７５１を球が通過する可能性を高めることができる。

【３９０８】

また、大当たり種別ごとに、球受回転部材Ｂ５７７１の回転方向や、回転速度（一定か可変かも含めて）や、回転方向の反転の有無等を設定するようにしても良い。この場合、球受回転部材Ｂ５７７１に対する注目力を向上させることができる。

【３９０９】

上記第５８実施形態では、第２特定入賞口Ｂ７００ａと球受回転部材Ｂ５７７１との間の距離が、第２特定入賞口Ｂ７００ａから球受凹部Ｂ５７７２に球が流れる際に球が横に零れない程度に狭い場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２特定入賞口Ｂ７００ａと球受回転部材Ｂ５７７１との間の距離が球の直径よりも長くされ、球受凹部Ｂ５７７２が球で満たされている場合に第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球は横に零れて傾斜板部Ｂ５７１８ｂへ流れるように構成しても良い。

【３９１０】

この場合、球受回転部材Ｂ５７７１の回転が停止されても第２特定入賞口Ｂ７００ａへの入球が滞ることが無いので、球受回転部材Ｂ５７７１を所定のタイミングで停止させる制御を行うことができる。

【３９１１】

ラウンド遊技中において球受回転部材Ｂ５７７１を停止させる時には、次に球受回転部材Ｂ５７７１が動作開始されるまで球が一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に流入しないようにすることができるので、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に球が導入されるタイミングや、開口部Ｂ７５１を球が通過するタイミングを遅らせることができる。

【３９１２】

上記第５９実施形態では、発射時間表示Ｂ６８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングから、時間表示Ｂ８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングまでに経過する所定の時間長さは、球が発射されてからスルーゲートＢ６６，Ｂ６７（目標示唆表示Ｂ６８２２により指し示される位置）に到達するまでに経過する平均的な長さよりも若干長くなるように設計される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球が発射されてからスルーゲートＢ６６，Ｂ６７に到達するまでに経過する平均的な長さを比較対象として、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７への入球確率を加味して、より長い時間で上述の所定の時間長さを設計するようにしても良い。

【３９１３】

上記第５９実施形態では、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に目標示唆表示Ｂ６８２２としてスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を狙うことを促す表示を構成したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、大当たり遊技や、時短状態、確変状態または特殊確変状態における遊技が右打ちで行われる遊技機では、目標示唆表示Ｂ６８２２の代わりに「右打ち」との表示を表示画面に表示させるようにしても良い。また、目標示唆表示Ｂ６８２２が拡大されるタイミングでは、「右打ち」の表示が全体として大型化されるように構成しても良い。または、エンディング演出中に亘り「右打ち」の表示が第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面のどこかにされるよう構成しても良いし、エンディング演出の途中から「右打ち」の表示が第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面のどこかにされるよう構成しても良い。

【３９１４】

例えば、目標示唆表示Ｂ６８２２がファンファーレ演出で表示される場合、上側可変入賞装置Ｂ７００の第２特定入賞口Ｂ７００ａや開口部Ｂ７５１を狙うことを示唆するように目標示唆表示Ｂ６８２２を設計しても良い。この場合において、開口部Ｂ７５１で球の通過が検出されるまで、目標示唆表示Ｂ６８２２が、１ラウンド目のラウンド遊技中において表示画面に維持されるように設定される場合、遊技者は目標示唆表示Ｂ６８２２が消えることで球が開口部Ｂ７５１を通過したことを把握することができるため、目標示唆表示Ｂ６８２２に対する注目力を向上させることができる。

【３９１５】

また、目標示唆表示Ｂ６８２２のように表示画面においてスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を狙うことを促す方法の他に、例えば、遊技盤Ｂ１３のスルーゲートＢ６６，Ｂ６７付近を発光させる発光手段を配設させておき、目標示唆表示Ｂ６８２２がされるタイミングに倣って発光手段を発光させるようにしても良い。これにより、遊技者は、光を頼りにして球を狙う位置を把握することができる。

【３９１６】

また、目標示唆表示Ｂ６８２２は、エンディング演出において表示される場合を説明したが、これに限られるものではない。例えば、エンディング演出から変動演出に移行する場合に、その変動演出においても、所定期間は継続して目標示唆表示Ｂ６８２２の表示を維持するように構成しても良い。また、目標示唆表示Ｂ６８２２の表示期間は、所定の時間幅で設定されても良いし、目標とされる入球口での球の入球が（所定個数、例えば第１図柄の保留球数として許容される個数、本実施形態では４個）検出されるまで継続されても良い。

【３９１７】

上記第５９実施形態では、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１が球の発射の停止を促すために使用される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１を、枠ボタンＢ２２の操作の停止を促すために使用するようにしても良い。これにより、枠ボタンＢ２２の操作として不適切なタイミングとは知らずに枠ボタンＢ２２を操作するような遊技者に対して、不適切なタイミングで枠ボタンＢ２２を操作していることを分からせることができるので、遊技負担を低減させることができる。

【３９１８】

また、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１を、「右打ち」の実行を停止させることを促し、「

左打ち」については停止させないような表記（例えば、「左打ちに戻してください」というコメント）で構成しても良い。

【３９１９】

また、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１の代わりに、電飾部Ｂ２９～Ｂ３３や表示ランプＢ３４等を強烈に発光させたり、異常色（例えば、濃赤色）で発光させたりしても良いし、スピーカーから大音量で「球の発射を止めてください」とか「左打ちに戻してください」等のコメントを出力したりしても良い。

【３９２０】

上記第５９実施形態では、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１が、エンディング演出の終了前にスルーゲートＢ６６，Ｂ６７での球の通過が検出された場合に表示されると説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。即ち、所定の入球口への球の入球が予定されていない期間であるにも関わらず、所定の入球口での入球が検出された場合に表示するようにしても良い。

【３９２１】

所定の入球口としては、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７に限られるものではなく、様々な入球口（一般入賞口Ｂ６３、第１入賞口Ｂ６４、第２入賞口Ｂ６４０、スルーゲートＢ６７、特定入賞口Ｂ６５ａ、第２特定入賞口Ｂ７００ａ、開口部Ｂ７５１等）が例示される。

【３９２２】

例えば、球の入球が予定されていない期間としては、エンディング演出の実行中の他に、右打ち機（時短状態など所定の期間において右打ちで遊技を行う遊技機）において、所定の期間以外の期間が例示される。即ち、所定の期間以外の期間に、遊技領域の右側に配置される入球口での入球が検出された場合に遊技停止示唆表示Ｂ６８３１が表示されるように設定することで、不適切なタイミングで遊技者が右打ちすることを抑止することができる。

【３９２３】

また、例えば、球の入球が予定されていない期間としては、大当たり遊技におけるファンファーレ演出中やラウンド間第１インターバル時間ＢＩｎｔ１が例示される。即ち、ファンファーレ演出中やラウンド間第１インターバル時間ＢＩｎｔ１に、入球口での入球が検出された場合に遊技停止示唆表示Ｂ６８３１が表示されるように設定することで、特定入賞口Ｂ６５ａや第２特定入賞口Ｂ７００ａへの流下経路が開放されていない（閉鎖されている）タイミングにおける球の発射を抑制でき、無駄球の発生を最小限に抑えることができる。

【３９２４】

上記第５９実施形態では、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１により即時の球の発射の停止を促す場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、所定の始動口（例えば、第２入賞口Ｂ６４０）の入球に伴う抽選の保留球数に対応して表示を変えるようにしても良い。

【３９２５】

即ち、例えば、球の発射により所定の始動口への入球が期待できるよう制御され、保留球数が満タン（４個）となるまで余裕がある場合には（例えば、保留球数が２個の場合には）、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１としてその余裕分として遊技者が把握できるコメントを表示したり（例えば、「あと２個」）、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１は表示せずに遊技準備示唆表示Ｂ６８４１を表示したりして、保留球数が満タンとなったら、上記第５９実施形態で説明したような遊技停止示唆表示Ｂ６８３１や、「準備完了」等のコメントのように球の発射が不要であることを示唆するように構成しても良い。

【３９２６】

上記第５９実施形態では、球の発射が検出された場合に遊技停止示唆表示Ｂ６８３１が表示され、球の発射の停止を促す場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１の代わりに、又は遊技停止示唆表示Ｂ６８３１

に合わせて、遊技者に利益の有る情報が表示（報知）されるように構成しても良い。これにより、球を無駄打ちしたという残念感だけが遊技者に与えられる場合に比較して、遊技者の残念感を低減させることができる。そればかりか、場合によっては、エンディング演出において遊技者が好んで球を発射するように仕向けることができる。

【３９２７】

この場合において、遊技者に利益の有る情報としては、例えば、大当たり遊技終了後の遊技状態が第１図柄の低確率状態なのか第１図柄の高確率状態なのかという情報や、大当たり遊技終了後の遊技状態が通常状態なのか時短状態なのか確変状態なのか特殊確変状態なのかという情報や、大当たり遊技終了後に所定の抽選回数が経過した後に電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが変化するのか変化しないのかという情報や、現在保留されている第１図柄の抽選の保留球の中に大当たりとなるものがあるのか無いのかという情報や、遊技機が第１図柄の大当たり確率の設定を変更できる（例えば、低確率状態の大当たり確率を、１／３２０で設定する（設定１）か、１／２５６で設定する（設定２）かを変更でき、高確率状態の大当たり確率を、１／３２で設定する（設定１）か、１／２６で設定する（設定２）かを変更できる）よう構成される場合に現在の大当たり確率の設定が示唆される情報などが例示される。

【３９２８】

上記第６０実施形態では、光量や音量の設定変更を実行してから規定の時間が経過すると、設定変更がキャンセル（初期化）される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、設定変更がキャンセルされる条件としては種々の態様が例示される。例えば、遊技が開始される前に表示画面において実行される遊技説明表示（所謂デモ画面）への移行を設定変更がキャンセルされる条件としても良いし、時刻を判定できるように制御しておいて規定の時刻になることを設定変更がキャンセルされる条件としても良いし、当日または複数日での大当たり回数が規定の大当たり回数とることを設定変更がキャンセルされる条件としても良い。

【３９２９】

また、所定のタイミング（例えば、遊技開始前における遊技説明表示において枠ボタン表示Ｂ８１３が表示されているタイミングや、遊技中において枠ボタン表示Ｂ８１３が表示されていないタイミング等）において枠ボタンＢ２２が操作されることを設定変更がキャンセルされる条件としても良いし、エンディング演出中に所定の入賞口またはスルーゲートＢ６６，Ｂ６７で球の通過が検出されることを設定変更がキャンセルされる条件としても良いし、所定の大当たり種別の大当たりを獲得することを設定変更がキャンセルされる条件としても良いし、上皿Ｂ１７に貯留される球の量が許容量を超えた場合に報知される球抜き報知が実行されることを設定変更がキャンセルされる条件としても良い。

【３９３０】

また、右打ち遊技すべきではないタイミングにおいてスルーゲートＢ６７で球の通過が検出されるなど球が右側遊技領域Ｂ３０３を流下していると判定された場合に行われるよう設定される報知であって、遊技者に左打ちで遊技を行うことを促すための報知（例えば、「左打ちに戻してください」等の音声を出力する報知、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に左向きの矢印と「左打ちに戻してください」というコメントを表示する報知）が実行されることを設定変更がキャンセルされる条件としても良い。

【３９３１】

上記第６０実施形態では、エンディング演出において音量も光量も設定変更可能である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、音量のみを変更できる状態と、光量のみを変更できる状態と、音量も光量も変更できる状態と、を切り替え可能に構成しても良い。この切り替えは、枠ボタンＢ２２の操作で切り替えても良いし、実行される演出に対応して音声ランプ制御装置Ｂ１１３により切り替えられるようにしても良い。

【３９３２】

上記第６０実施形態では、音量や光量の設定変更がキャンセルされる直前における音量

や光量の設定が過去光量表示Ｂ７８１７や過去音量表示Ｂ７８１８により遊技者が把握可能とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、現在の状態と、直前の設定値との差を表す数値を、「＋１」や「－２」等の表示や音声で報知しても良い。この場合、キャンセルされる前の設定に戻すために必要な操作を遊技者に把握させ易くすることができる。

【３９３３】

上記第６０実施形態では、音量や光量の設定がキャンセルされる前の状態における設定を示唆する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技者が音量や光量の設定変更を実行している際に、設定変更前の設定が示唆されるように構成しても良い。この場合、遊技者が意図的に変更をかけたとしても、実際変更してみたら気に入らなかったというのであれば、元の設定に容易に戻すことができる。そのため、音量や光量の設定変更に対するハードルを下げることができる。

【３９３４】

上記第６１実施形態では、点在する枠ボタン表示Ｂ８８１３が合体したら実体化し、枠ボタンＢ２２の操作が有効となる表示態様を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタンＢ２２の操作を促す表示としてではなく（操作に関わる表示であるか否かに関わらず）、エンディング演出の経過時間の目安となる演出として、半透明の枠ボタン表示Ｂ８８１３が所定のタイミングで実体化するように構成しても良い。

【３９３５】

また、例えば、半透明な単一の枠ボタン表示Ｂ８８１３が移動または停止しており、所定のタイミングで半透明な状態と実体化される状態とで切り替えられるように表示しても良い。この場合、枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化されるタイミングを遊技者が予想し難くすることができるので、枠ボタン表示Ｂ８８１３に対する注目力を向上させることができる。

【３９３６】

上記第６１実施形態では、枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化するタイミングを枠ボタンＢ２２の操作タイミングとして表示する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、時間表示Ｂ８１１が移動する横長形状の枠に枠ボタンＢ２２の操作タイミングを示唆するマークやコメント（「ＰＵＳＨ」等）などを表示するようにしても良い。この場合、時間表示Ｂ８１１を、エンディング演出の終了タイミングを示唆する目的と、枠ボタンＢ２２の操作タイミングを示唆する目的とで兼用することができる。

【３９３７】

上記第６１実施形態では、点在している枠ボタン表示Ｂ８８１３が、移動して合体した後で更に離れる方向に移動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタン表示Ｂ８８１３が合体して実体化した後、枠ボタンＢ２２の操作が有効となる期間を過ぎたら、枠ボタン表示Ｂ８８１３が消えるように制御しても良い。

【３９３８】

上記第６１実施形態では、枠ボタン表示Ｂ８８１３が半透明か実体化しているかが、枠ボタンＢ２２の操作が有効となるか無効となるかに対応する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化している期間において、枠ボタンＢ２２の操作が無効となる状態と、枠ボタンＢ２２の操作が有効となる状態とを構成しても良い。

【３９３９】

例えば、枠ボタンＢ２２の操作の有効または無効の切替のタイミングは上記第６１実施形態で説明した態様と同じに設定しながら、カード忘れ防止表示演出が開始された直後から枠ボタン表示Ｂ８８１３が表示画面の中央で実体化されて表示されるように構成しても良い。

【３９４０】

上記第６１実施形態では、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３が枠ボタンＢ２２の操作が無効になる期間と有効になる期間との区切りとして設定される場合を説明したが、必

ずしもこれに限られるものではない。例えば、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３はそれぞれ枠ボタンＢ２２の操作が有効とされ、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３の違いは、枠ボタンＢ２２の操作により移行する演出態様の違いとして設定されるようにしても良い。

【３９４１】

即ち、第１期間ＢＴ８１において枠ボタンＢ２２を操作した場合には、音量の設定変更が可能となるが光量の設定変更は可能とならない調整表示画面に移行し、第２期間ＢＴ８２において枠ボタンＢ２２を操作した場合には、音量の設定変更も光量の設定変更も可能となる調整表示画面に移行し、第３期間ＢＴ８３において枠ボタンＢ２２を操作した場合には、音量の設定変更が可能とならず光量の設定変更は可能となる調整表示画面に移行するようにしても良い。また、これとは別に、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３の違いを、枠ボタンＢ２２の操作により移行する演出表示（表示が実行される動画）の違いとして設定されるようにしても良い。

【３９４２】

上記第６１実施形態では、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３が同じ長さに設定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３の長さは任意に設定可能であり、その設定内容は種々の条件に対応させることができる。

【３９４３】

例えば、大当たり種別ごとに各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３の長さの設定を変えるようにしても良いし、確変状態が複数回続く連荘継続中においては今更設定を変更する可能性は少ないとして第２期間ＢＴ８２を短くするように設定しても良い。

【３９４４】

また、特に音量や光量が大きくなる大当たり種別（最大ラウンドの大当たりや、格別に演出が激しい（長い）大当たり）の場合には設定変更を実行し易いように第２期間ＢＴ８２を長くするように設定しても良い。この場合において、第１期間ＢＴ８１を短く設定しておくと、エンディング演出において音量や光量の設定変更を実行する期間を長く確保することができるので、遊技者の遊技負担を低減することができる。

【３９４５】

上記第６１実施形態では、枠ボタン表示Ｂ８８１３の表示態様に従い枠ボタンＢ２２を操作することで光量や音量の設定変更を実行可能となる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタンＢ２２を操作することで、遊技者に利益の有る情報が表示されるようにしても良い。

【３９４６】

この場合において、遊技者に利益の有る情報としては、上述したのと同様に、例えば、大当たり遊技終了後の遊技状態が第１図柄の低確率状態なのか第１図柄の高確率状態なのかという情報や、大当たり遊技終了後の遊技状態が通常状態なのか時短状態なのか確変状態なのか特殊確変状態なのかという情報や、大当たり遊技終了後に所定の抽選回数が経過した後に電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが変化するのか変化しないのかという情報や、現在保留されている第１図柄の抽選の保留球の中に大当たりとなるものがあるのか無いのかという情報や、遊技機が第１図柄の大当たり確率の設定を変更できる（例えば、低確率状態の大当たり確率を、１／３２０で設定する（設定１）か、１／２５６で設定する（設定２）かを変更でき、高確率状態の大当たり確率を、１／３２で設定する（設定１）か、１／２６で設定する（設定２）かを変更できる）よう構成される場合に現在の大当たり確率の設定が示唆される情報などが例示される。

【３９４７】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第１中間部材Ｃ１４０，Ｃ２１４０の底面部Ｃ１４２，Ｃ２１４２を球が直列に転動し、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０，Ｃ３１７０（受入部Ｃ１７２，Ｃ２１７２，Ｃ３１７２又は転動部Ｃ１７３，Ｃ２１７３，Ｃ３１７３）に同時に１球のみが流入される場合を説明したが、第１中間部材Ｃ１４０，Ｃ

２１４０の底面部Ｃ１４２，Ｃ２１４２を２球以上が並列に転動可能とし、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０，Ｃ３１７０（受入部Ｃ１７２，Ｃ２１７２，Ｃ３１７２又は転動部Ｃ１７３，Ｃ２１７３，Ｃ３１７３）に同時に２球以上が流入される構成であっても良い。

【３９４８】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、遊技領域のうちの正面視左側（図１５６５左側）の領域（センターフレームＣ８６（上側フレームＣ８６ａ）とレール６１との間の領域）を流下される球が下側フレームＣ８６ｂ，Ｃ２０８６ｂ，Ｃ３０８６ｂに流入（入球）される場合を説明したが、これに代えて、又は、これに加えて、遊技領域のうちの正面視右側（図１５６５右側）の領域を流下される球が下側フレームＣ８６ｂ，Ｃ２０８６ｂ，Ｃ３０８６ｂに流入（入球）される構成であっても良い。

【３９４９】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、受入口ＣＯＰｉｎ，ＣＯＰ２０００ｉｎに１本の上側フレーム通路ＣＲｔ０が連通される場合を説明したが、上側フレームＣ８６ｂに複数本の上側フレーム通路ＣＲｔ０を形成し、それらが受入口ＣＯＰｉｎ，ＣＯＰ２０００ｉｎに連通される構成であっても良い。

【３９５０】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０，Ｃ３１７０が自重により第１位置へ復帰される場合を説明したが、付勢手段を設け、その付勢手段の付勢力を、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０，Ｃ３１７０が第１位置へ復帰する際の補助力として付与しても良い。或いは、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０，Ｃ３１７０が第２位置へ変位する際の補助力として付与しても良い。なお、付勢手段としては、コイルばね、ねじりばね、板ばね等が例示される。

【３９５１】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０が軸Ｃ１９２，Ｃ２１７４に直接軸支される場合を説明したが、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０をリンク機構により変位可能としても良い。この場合、リンク機構は、平行リンク機構であっても良い、不等長リンク機構であっても良い。

【３９５２】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分部材Ｃ２１７０の転動部Ｃ２１７３を転動した球が通過する通路（第４通路ＣＲｔ２００４）が磁性部Ｃ２４００により形成される場合を説明したが、他の通路と同様に、球を転動面に沿って転動させて通過（流下）させる通路として第４通路ＣＲｔ２００４を形成しても良い。

【３９５３】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、案内溝Ｃ３１３１ｃが直線状に形成される場合を説明したが、曲線状に湾曲して形成されていても良い。また、直線と曲線とを組み合わせた形状であっても良い。

【３９５４】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、下側底面部Ｃ４１２２の円弧部Ｃ４１２２ｂは、上面視における円弧形状が一様（同一の曲率）に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、異なる半径を有する円弧形状が組み合わされて形成されてもよい。例えば、円弧部Ｃ４１２２ｂの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の一端側および他端側における円弧の曲率が、それら一端側および他端側の間の領域（流出面Ｃ１２２ａを含む領域）における円弧の曲率よりも大きくされる、即ち、流出面Ｃ１２２ａを含む領域における円弧の曲率が小さくされてもよい。この場合、初期段階（下側底面部Ｃ４１２２の長手方向の一端側および他端側またはその近傍まで球が往復動する段階）では、球を往復動させ易くすると共に先行する球に後行する球を追いつかせ易くしつつ、往復動する球の転動速度が低くなった段階（下側底面部Ｃ４１２２の長手方向の一端側および他端側またはその近傍までは球が到達せず、流出面Ｃ１２２ａを含む比較的狭い領域で球が往復動する段階）では、先行する球と後行する球とが連なった状態を維持させ易くできる。その結果、両球が連なった状態を維持させつつ、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３

）へ流出（流下）させ易くできる。
【３９５５】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、下側底面部Ｃ４１２２の延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、円弧部Ｃ４１２２ｂでは、略水平に形成される、即ち、円弧部Ｃ４１２２ｂの上面（転動面）は、鉛直方向に直交する平面として形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成されてもよい。または、一対の直線部Ｃ４１２２ａと同様の下降傾斜する平面として形成されてもよく、一対の直線部Ｃ４１２２ａと異なる下降傾斜する平面として形成されてもよい。これらにより、初期段階（下側底面部Ｃ４１２２の長手方向の一端側および他端側またはその近傍まで球が往復動する段階）では、球を往復動させ易くすると共に先行する球に後行する球を追いつかせ易くしつつ、往復動する球の転動速度が低くなった段階（下側底面部Ｃ４１２２の長手方向の一端側および他端側またはその近傍までは球が到達せず、流出面Ｃ１２２ａを含む比較的狭い領域で球が往復動する段階）では、先行する球と後行する球とが連なった状態を維持させ易くできる。その結果、両球が連なった状態を維持させつつ、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）させ易くできる。
【３９５６】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、下側底面部Ｃ４１２２（直線部Ｃ４１２２ａ及び円弧部Ｃ４１２２ｂ）が切り欠き部Ｃ１２４ａから離間する方向（矢印Ｌ方向）へ向けて下降傾斜して形成されてもよい。これにより、切り欠き部Ｃ１２４ａと反対側（対向する側）に位置する下側側壁部Ｃ４１２４に球を押し付けつつ、かかる球を下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）で転動（往復動）させることができる。
【３９５７】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、流出面Ｃ１２２ａの周囲に鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）へ向けて突部が突設されてもよい。これにより、流出面Ｃ１２２ａから下側底面部Ｃ１２２，Ｃ２１２２，Ｃ４１２２の延設方向両端側へ球が転動することを抑制でき、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）させ易くできる。
【３９５８】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、磁性部Ｃ５４００の底面の断面形状は、幅方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に直線状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、磁性部Ｃ５４００の突部の底面の断面形状は、円弧状に湾曲して形成されてもよい。その円弧形状が、球の半径と略同一の半径を有し、鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）へ向けて凸となる場合、球と磁性部Ｃ５４００との接触面積を増やすことができ、球が磁性部Ｃ５４００の下流端へ移動する前に落下することを抑制できる。一方、円弧形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる場合、流下する際に球が揺れる態様を形成できると共に、球が磁性部Ｃ５４００から落下される可能性（第５通路ＣＲｔ２００５に到達できない可能性）を高くできる。その結果、球の挙動を遊技者に注目させ、遊技の興趣を高めることができる。
【３９５９】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、磁性部Ｃ６４００の突部の底面が、背面部材Ｃ２１３０を向く傾斜面（即ち、鉛直方向上方ほど背面部材Ｃ２１３０に近接する面）として形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、背面部材Ｃ２１３０とは反対側を向く傾斜面（即ち、鉛直方向上方ほど背面部材Ｃ２１３０から離間する面）として形成されてもよい。これにより、磁性部Ｃ６４００に吸着された球と背面部材Ｃ２１３０とが離間する位置に配設させることができ、磁性部Ｃ６４００に沿って流下される球と背面部材Ｃ２１３０とが当接することを抑制できる。
【３９６０】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、背面部材Ｃ２１３０の本体部Ｃ２１３１が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に向かうに従い磁性部Ｃ２４００，Ｃ６４００側（矢印Ｆ方向側）に近づく傾斜面（即ち、鉛直方向下方ほど磁性部Ｃ２４００，Ｃ６４００側に

近接する面）として形成されてもよい。これにより、磁性部Ｃ２４００，Ｃ６４００と背面部材Ｃ２１３０とで磁性部Ｃ２４００，Ｃ６４００に沿って流下される球を挟み込むことができ、球が磁性部Ｃ２４００，Ｃ６４００の下流端へ移動する前に落下することを抑制できる。

【３９６１】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、背面部材Ｃ２１３０の背面に配設される磁石Ｃ２３００に加え、その鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に磁石Ｃ２３００が追加して配設されてもよい。追加された磁石Ｃ２３００が、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００に吸着された球の中心よりも鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に配設される場合、追加された磁石Ｃ２３００により球に作用する磁力の向きが鉛直方向上方側となるため、球が磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００の下流端へ移動する前に落下することを抑制できる。一方、追加された磁石Ｃ２３００が、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００に吸着された球の中心よりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に配設される場合、追加された磁石Ｃ２３００により球に作用する磁力の向きが鉛直方向下方側となるため、球が磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００から落下される可能性（第５通路ＣＲｔ２００５に到達できない可能性）を高くできる。

【３９６２】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、背面部材Ｃ２１３０の背面に配設される磁石Ｃ２３００が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に延設して形成されてもよい。これにより、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００に加え、磁石Ｃ２３００から直接作用される磁力の効果により球を吸着でき、球が磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００の下流端へ移動する前に落下することを抑制できる。

【３９６３】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００の長手方向に沿って配列される複数の磁石Ｃ２３００の磁力に強弱の差を設けてもよい。例えば、上流側に配設される磁石Ｃ２３００の磁力がその他の磁石Ｃ２３００の磁力に比べて強い場合、転動部Ｃ２１７３の上面（転動面）を転動した球を磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００に吸着させ易くできる、即ち、第４通路ＣＲｔ２００４へ案内し易くできる。また、例えば、複数の磁石Ｃ２３００の一の磁石Ｃ２３００の磁力がその他の磁石Ｃ２３００の磁力に比べて弱い場合、その一の磁石Ｃ２３００を通過する球を磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００から落下される可能性（第５通路ＣＲｔ２００５に到達できない可能性）を高くできる。これにより、遊戯の興趣を高めることができる。

【３９６４】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００の長手方向に沿って配列される複数の磁石Ｃ２３００の配列方向が変化されてもよい。例えば、上流側に配列される磁石Ｃ２３００の配列方向に対し、下流側に配列される磁石Ｃ２３００の配列方向が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に傾斜して配列される、言い換えると、磁石Ｃ２３００が凸形状となる態様に配列される場合、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００に沿って流下する球を下流側に配列される磁石Ｃ２３００へ向かわせ易くでき、球が磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００から落下することを抑制できる。一方、上流側に配列される磁石Ｃ２３００の配列方向に対し、下流側に配列される磁石Ｃ２３００の配列方向が鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に傾斜して配列される、言い換えると、磁石Ｃ２３００が凹形状となる態様に配列される場合、磁石Ｃ２３００の上流側と下流側との境界において球を磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００から落下される可能性（第５通路ＣＲｔ２００５に到達できない可能性）を高くできる。また、磁石Ｃ２３００の配列形状は直線状に形成されてもよく、円弧状に形成されてもよい。また、磁石Ｃ２３００に代えて、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００が上記の形状（凸形状もしくは凹形状、且つ、直線状もしくは円弧状）に配列されてもよい。

【３９６５】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００の長手方向に沿って配列される複数の磁石Ｃ２３００の隣り合う磁石Ｃ２３００が離間して形成されてもよい。この場合、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００の延設方向において球に磁力が作用されない区間を作ることができ、この区間において球を磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００から落下される可能性（第５通路ＣＲｔ２００５に到達できない可能性）を高くできる。

【３９６６】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０に球の重量が作用されると、変位部材Ｄ１８０が開放位置へ変位（回転）される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０に球の重量が作用されると、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置へ変位（回転）されるように形成しても良い。即ち、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０が初期位置（第１位置）に配置された状態では、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置され、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０が第２位置に配置された状態では、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置されるように形成しても良い。この場合には、第６通路ＤＲｔ６に球が流下（入球）されると、第６通路ＤＲｔ６に球が流下（入球）され難くなる側へ変位部材Ｄ１８０が変位（回転）される。よって、第１の球が第６通路ＤＲｔ６に流下（入球）し、その第１の球が第６通路ＤＲｔ６の終端に達するまでの間に、第２の球が第６通路ＤＲｔ６に流下（入球）されることを、第１の球が第６通路ＤＲｔ６に流下（入球）される場合よりも困難として、遊技の興趣を高めることができる。

【３９６７】

なお、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０に球の重量が作用されると、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置へ変位（回転）されるように形成する場合には、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０の初期位置（第１位置）から第２位置への変位（回転）が、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０に伝達される構造を、上述した場合（第６８実施形態から第７５実施形態の場合）と逆向きとすれば良い。即ち、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０が初期位置（第１位置）から第２位置へ変位（回転）される場合に、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０が上述した場合と逆方向に回転されるように、伝達部Ｄ１７３，Ｄ３１７３と被伝達部Ｄ１９３，Ｄ３１９３の位置関係を設定すれば良い。

【３９６８】

具体的には、被伝達部Ｄ１９３を転動部材Ｄ１７０から離間する方向（図１６１２（ａ）右側、矢印Ｒ方向）へ延設させると共に、その被伝達部Ｄ１９３の上方まで伝達部Ｄ１７３を延設し、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）から第２位置へ変位（回転）される場合に、伝達部Ｄ１７３が被伝達部Ｄ１９３を下方（矢印Ｄ方向）へ押し下げる（即ち、第６８実施形態の場合とは逆回り（図１６１２（ａ）において時計回り）に伝達部材Ｄ１９０を回転させる）構成とすれば良い。

【３９６９】

また、被伝達部Ｄ３１９３を転動部材Ｄ１７０側（図１６１７（ａ）左側、矢印Ｌ方向）へ延設させると共に、その被伝達部Ｄ３１９３の下方まで伝達部Ｄ３１７３を延設し、転動部材Ｄ３１７０が初期位置（第１位置）から第２位置へ変位（回転）される場合に、伝達部Ｄ３１７３が被伝達部Ｄ３１９３を上方（矢印Ｕ方向）へ押し上げる（即ち、第７０実施形態の場合とは逆回り（図１６１７（ａ）において時計回り）に伝達部材Ｄ３１９０を回転させる）構成とすれば良い。

【３９７０】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、一対の変位部材Ｄ１８０を１の伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０により変位させる（転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の変位を１の伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０により一対の変位部材Ｄ１８０へ伝達する）場合を説明したが、２の伝達部材を設け、一対の変位部材Ｄ１８０の

一方を第１の伝達部材により、他方を第２の伝達部材により、それぞれ変位させる（転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の変位を第１の伝達部材および第２の伝達部材により一対の変位部材Ｄ１８０の一方および他方へそれぞれ伝達する）構成としても良い。

【３９７１】

この場合、例えば、転動部材Ｄ１７０の変位を第１の伝達部材により、第２転動部材Ｄ４２２０の変位を第２の伝達部材により、それぞれ伝達する構成としても良い。これにより、変位部材Ｄ１８０の変位態様を多様化して、遊技の興趣を向上できる。

【３９７２】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第６通路ＤＲｔ６において、背面部材Ｄ１３０，Ｄ４１３０，Ｄ８１３０の本体部Ｄ１３１の正面と中間部材Ｄ１４０，Ｄ６１４０の本体部Ｄ１４１の背面との間の対向間隔（矢印Ｆ－Ｂ方向の間隔）が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って一定とされ、また、複数の突部Ｄ１３１ｆの先端を連ねた仮想面（平面）と、複数の突部Ｄ１４１ｇの先端を連ねた仮想面（平面）との間の対向間隔（矢印Ｆ－Ｂ方向の間隔）が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って一定とされる場合を説明したが、これら両対向間隔のうちの少なくとも一方の対向間隔を上下方向に沿って変化させても良い。

【３９７３】

例えば、上方（矢印Ｕ方向、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２）の上面（転動面）から離間する方向）へ向かうに従って、対向間隔が狭くされるようにしても良い。これにより、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２）の上面（転動面）から跳ね上がった球を速やかに下降させ、球の重量を作用させやすくできる。かかる技術思想は、第８通路ＤＲｔ８における対向間隔においても同様である。

【３９７４】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、背面部材Ｄ１３０，Ｄ４１３０，Ｄ８１３０の本体部Ｄ１３１の正面および中間部材Ｄ１４０，Ｄ６１４０の本体部Ｄ１４１の背面から突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇをそれぞれ突設する場合を説明したが、背面部材Ｄ１３０，Ｄ４１３０，Ｄ８１３０の本体部Ｄ１３１の正面および中間部材Ｄ１４０，Ｄ６１４０の本体部Ｄ１４１の背面に凹部をそれぞれ凹設する構成としても良い。凹部によっても球の通過（転動）を遅延させることができる。

【３９７５】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、球の通過を遅延させる遅延手段の一例として、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇを例示したが、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、例えば、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２，Ｄ４２２２の上面（転動面）を通過（転動）する球が当接可能な位置に配設され、その当接により変位または変形される手段（例えば、風車、金属製の弾性ばね（板ばねやコイルばね）、樹脂製の弾性片、ゴムシートなど）が例示される。即ち、球との当接により発生するエネルギー（運動エネルギーや粘性抵抗）を利用して、球の通過を遅延させる手段が例示される。

【３９７６】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２，Ｄ４２２２の上面（転動面）を平坦面とする場合を説明したが、その上面（転動面）に凹凸や段差を設けても良い。これにより、球に抵抗を付与して、その通過（転動）を遅延させられる。

【３９７７】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０に対して球の重量が作用されると、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）へ球が流入（入球）しやすくされる場合を説明したが、これとは逆の構成としても良い。即ち、変位部材Ｄ１８０の初期位置を開放位置とし

、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０に対して球の重量が作用されると、変位部材Ｄ１８０を閉鎖位置へ配置することで、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）へ球が流入（入球）され難くなるようにしても良い。この場合には、第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）よりも第４通路ＤＲｔ４又は第５通路ＤＲｔ５への球の流入（入球）の方が有利な遊技状態としても良い。

【３９７８】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の変位を変位部材Ｄ１８０へ伝達する伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０を設ける場合を説明したが、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０を省略しても良い。即ち、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０と変位部材Ｄ１８０（変位部材Ｄ１８０ユニット）とを直接連結し、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の変位を変位部材Ｄ１８０へ直接伝達する構成としても良い。

【３９７９】

例えば、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０に、伝達部材Ｄ１９０（本体部Ｄ１９４）の溝Ｄ１９４Ｌ，Ｄ１９４Ｒを設け、その溝Ｄ１９４Ｌ，Ｄ１９４Ｒに軸支部材Ｄ２１０の連結ピンＤ２１３を連結（挿通）させる。これにより、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０が省略される分、部品点数を削減して、製品コストを低減できる。

【３９８０】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、初期位置（変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態）において、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０の被伝達部Ｄ１９３と転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３との間には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の隙間が形成される一方、伝達部材Ｄ３１９０の被伝達部Ｄ３１９３と転動部材Ｄ３１７０の伝達部Ｄ３１７３との間、及び、伝達部材Ｄ１９０の錘部Ｄ１９５と第２転動部材Ｄ４２２０の伝達部Ｄ４２２３との間には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の隙間が形成されない場合を説明したが、これらを逆としても良い。

【３９８１】

即ち、初期位置（変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態）において、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０の被伝達部Ｄ１９３と転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３との間には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の隙間が形成されず、伝達部材Ｄ３１９０の被伝達部Ｄ３１９３と転動部材Ｄ３１７０の伝達部Ｄ３１７３との間、及び、伝達部材Ｄ１９０の錘部Ｄ１９５と第２転動部材Ｄ４２２０の伝達部Ｄ４２２３との間には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の隙間が形成される構成としても良い。

【３９８２】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、一対の変位部材Ｄ１８０が回転可能とされる場合を説明したが、一対の変位部材Ｄ１８０の少なくとも一方（又は両方）がスライド変位可能とされる構成でも良い。スライド変位される構成であっても、第６通路ＤＲｔ６への球の入球のしやすさを変化させ、遊技の興趣を向上できる。なお、スライド変位の態様としては、直線に沿って変位される態様、曲線に沿って変位される態様、直線と曲線とを組み合わせた形状に沿って変位される態様が例示される。

【３９８３】

この変位態様については、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０、第２転動部材Ｄ４２２０、及び、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０についても同様であり、これらのうちの少なくとも１つ（又は全部）がスライド変位可能とされる構成でも良い。

【３９８４】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０、第２転動部材Ｄ４２２０、及び、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，

Ｄ５１９０，Ｄ７１９０が自重により初期位置へ復帰可能に構成される場合を説明したが、初期位置へ復帰させる方向へ付勢力を付与する付勢手段を設けても良い。これらの初期位置への復帰を速やかに行わせることができれば、変位部材Ｄ１８０の閉鎖位置への速やかな配置を可能とでき、遊技の興趣を向上できる。なお、付勢手段としては、コイルばね、板ばね、ねじりばね、ゴム状弾性体などが例示される。

【３９８５】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、変位部材Ｄ１８０が一対配設される場合を説明したが、変位部材Ｄ１８０の配設数は、１個であっても良く、３個以上であっても良い。即ち、変位部材Ｄ１８０の変位によって第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）のしやすさが変化されれば足りる。

【３９８６】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、一対の変位部材Ｄ１８０の対向間隔が変化されることで、第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）のしやすさが変化される場合を説明したが、一対の変位部材Ｄ１８０の対向間隔が変化されない形態であっても良い。例えば、一対の変位部材Ｄ１８０の一方と他方との変位（回転）方向が同方向とされる形態（対向間隔を一定としつつ、変位部材Ｄ１８０の先端側の開放部分の位置が左右（矢印Ｌ－Ｄ方向）に変位される形態）であっても良い。即ち、変位部材Ｄ１８０の変位によって第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）のしやすさが変化されれば足りる。

【３９８７】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、一対の変位部材Ｄ１８０の一方が伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０の変位に常に連動し、一対の変位部材Ｄ１８０の他方が伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０の変位に所定の期間は非連動となる場合を説明したが、一対の変位部材Ｄ１８０の両方が伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０の変位に常に連動する構成としても良く、或いは、一対の変位部材Ｄ１８０の両方が伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０の変位に所定の期間は非連動となる構成としても良い。

【３９８８】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇが延設方向（上下方向）に沿って連続して形成される場合を説明したが、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇを延設方向（上下方向）に沿って非連続に形成（断続的に形成）しても良い。球の上方への跳ね上がりに対して抵抗を付与しやすくできる。この場合、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇを延設方向（上下方向）に沿って千鳥状に配置しても良い。球の上方への跳ね上がりに対して抵抗をより付与しやすくできる。

【３９８９】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、説明を省略したが、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入（入球）され、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２の上面へ落下した球が、本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２における転動方向と逆方向（矢印Ｒ方向）へ移動することを規制する規制手段を設けても良い。規制手段は、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０、背面部材Ｄ１３０，Ｄ４１３０，Ｄ８１３０、又は、中間部材Ｄ１４０，Ｄ６１４０のいずれに設けても良い。また、規制手段としては、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０、背面部材Ｄ１３０，Ｄ４１３０，Ｄ８１３０、又は、中間部材Ｄ１４０，Ｄ６１４０のいずれかから立設され、球に当接可能に形成される形状の部位が例示される。

【３９９０】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入（入球）された球が、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２の上面へ落下される場合を説明したが、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入（入球）された球が、背面部材Ｄ１３０，Ｄ４１３０，Ｄ８１３０、又は、中間部材Ｄ１４０，Ｄ６１４０に形成される部位（受け

部）の上面に落下され、その受け部から転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２へ球が流入（転動）される構成でも良い。落下の衝撃が収まった（小さくなった）状態で、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２が球を受け取れるので、球の重量が作用する初期段階での変位部材Ｄ１８０のばたつき（振動）を抑制できる。

【３９９１】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第６通路ＤＲｔ６と第８通路ＤＲｔ８（上流側部分）とが、上面視（矢印Ｄ方向視）において並列に配設（並設）される（即ち、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に位置を違えて配設される）場合を説明した。この場合には、下側フレームＤ８６ｂ～Ｄ８０８６ｂの上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の寸法を抑制できる。但し、第６通路ＤＲｔ６と第８通路ＤＲｔ８（上流側部分）とを、正面視（矢印Ｂ方向視）において並列に配設（並設）する（即ち、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に位置を違えて配設する）構成でも良い。この場合、第６通路ＤＲｔ６と第８通路ＤＲｔ８（上流側部分）とは、上面視（矢印Ｄ方向視）において、重なることが好ましい。その分、下側フレームＤ８６ｂ～Ｄ８０８６ｂの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の寸法を抑制できる。

【３９９２】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、転動部材Ｄ１７０と第２転動部材Ｄ４２２０とが上面視（矢印Ｄ方向視）において並列に配設（並設）される場合を説明したが、転動部材Ｄ１７０と第２転動部材Ｄ４２２０とを上面視（矢印Ｄ方向視）において直列に配設（長手方向に沿って直線状に配設）しても良い。

【３９９３】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、表示部Ｄ７１９７を本体部Ｄ１９４に配設する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、表示部Ｄ７１９７を錘部Ｄ１９５に配設しても良い。即ち、表示部Ｄ７１９７を、錘部Ｄ１９５の外縁に配設し、その錘部Ｄ１９５の外縁から軸Ｄ１９１の軸方向と直交する方向へ延設させても良い。

【３９９４】

この場合には、表示部Ｄ９１９７の配置を上述した場合とは逆の配置とする（変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態で表示部Ｄ７１９７を遊技者から視認不能とし、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態で、表示部Ｄ７１９７の突出量を最大とする）ことができる。また、表示部Ｄ７１９７の重量を利用して、錘部Ｄ１９５に埋設する金属製の錘の量を減らす（又は省略する）ことができ、その分、部品点数を低減して、材料コストの低減を図ることができる。

【３９９５】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第２突部Ｄ１３１ｆａが複数（本実施形態では５本）の突部Ｄ１３１ｆのうちの一部（本実施形態では２本）のみに形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第２突部Ｄ１３１ｆａの形成本数は任意であり、１本であっても良く、３本以上であっても良い。複数の突部Ｄ１３１ｆの全部に第２突部Ｄ１３１ｆａを形成しても良い。また、正面視において中間部材Ｄ１４０の開口Ｄ６１４８と重なる突部Ｄ１３１ｆのみに第２突部Ｄ１３１ｆａを形成しても良く、正面視において中間部材Ｄ１４０の開口Ｄ６１４８と重ならない突部Ｄ１３１ｆのみに第２突部Ｄ１３１ｆａを形成しても良い。

【３９９６】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、転動部材Ｄ８１７０が第１位置に配置された状態において、第２突部Ｄ１３１ｆａの上面が本体部Ｄ１７２の上面（転動面）から突出する寸法は、上流側（軸Ｄ１７１から遠い側）に位置する第２突部Ｄ１３１ｆａほど大きな寸法とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、各第２突部Ｄ１３１ｆａにおいて同一の寸法としても良い。或いは、下流側（軸Ｄ１７１に近い側）に位置する第２突部Ｄ１３１ｆａほど大きな寸法としても良い。

【３９９７】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、介設部材Ｅ１４０の転動部Ｅ１４１の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における湾曲部Ｅ１３４ａと流路調整ブロックＥ１７０との間に対応する位置には、転動部Ｅ１４１の上面が背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される傾斜面が形成されても良い。これにより、介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）を往復動する球を第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ送球する可能性を生じさせることができる。第５通路ＥＲｔ５へ送球された球は、第７通路ＥＲｔ７へ案内される可能性があるため、遊技の興趣を高めることができる。

【３９９８】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、中央通路Ｅ１６０の架設通路Ｅ１６１には背面壁Ｅ１６１ａが形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、背面壁Ｅ１６１ａに加え、架設通路Ｅ１６１の前端側（矢印Ｆ方向側）の縁から鉛直方向上方（矢印Ｆ方向）へ向けて立設される前面壁が形成されてもよい。これにより、架設通路Ｅ１６１に案内された球が、架設通路Ｅ１６１の前端側の縁を通過して第２斜面部Ｅ１３５へ流下（落下）されることを抑制できる。従って、架設通路Ｅ１６１に案内された球が上方孔Ｅ１６２を通過し易くできる、即ち、第４通路ＥＲｔ４を流下して第１入賞口６４へ入賞し易く（第１入賞口６４へ入賞する確率が高く）できる。

【３９９９】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、正面板Ｅ１１１に張出し部Ｅ１１１ｂが突設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、張出し部Ｅ１１１ｂが突設されなくても良い。これにより、介設部材Ｅ１４０の転動部Ｅ１４１を転動する球が第１入賞口６４へ送球される可能性を生じさせることができる。即ち、転動部Ｅ１４１を転動する球が第１入賞口６４へ入賞する確率を高くできる。

【４０００】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、駆動モータＥ１９１により振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が変位（往復動）し、上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、弾性ばねＥ２１９０により振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０が変位（回動）する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、バイブレータにより振分通路Ｅ１５０，Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１１１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が変位されても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０，Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１１１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ変位（往復動）できるのに加え、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）へも変位（往復動）できる。その結果、振分通路Ｅ１５０，Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１１１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０上を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向を変更（変化）させ易くできる。また、上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、背面板Ｅ１３７と突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１との間に球が挟持されることを抑制できる。

【４００１】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間において一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、一対の第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に並設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間において一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１

５０、一対の第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に並設されても良い。

【４００２】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第１伝達部材Ｅ１９４の第１ラック部Ｅ１９４ｄと第２伝達部材Ｅ１９５の第２ラック部Ｅ１９５ｂとの間にピニオンギヤＥ１９６が一つ配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、複数のピニオンギヤが配設されてもよい。この場合、各ピニオンギヤの歯数を異ならせる、即ち、減速機として作用させることで、第１伝達部材Ｅ１９４に係合される振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０（第３通路ＥＲｔ３）の変位速度と第２伝達部材Ｅ１９５に係合される振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０（第３通路ＥＲｔ３）の変位速度とを異ならせることができる。また、ピニオンギヤが偶数個配設されることで、第１伝達部材Ｅ１９４に係合される振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０（第３通路ＥＲｔ３）と第２伝達部材Ｅ１９５に係合される振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０（第３通路ＥＲｔ３）との変位方向を同一にできる。

【４００３】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、挿通孔Ｅ１３３ａ，Ｅ９１３３ａ，Ｅ１０１３３ａを挟んで左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に形成される溝部Ｅ１３３ｃ，Ｅ９１３３ｃ，Ｅ１０１３３ｃが、同一形状である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、非同一形状に形成されても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に往復動させると共に、上面視において鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）を回動軸として回動する態様に変位させることができる。詳細には、被係合部Ｅ１５３（係合凹部Ｅ１５３ａ）を回動軸として振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０の湾曲部Ｅ１３１側と中央通路Ｅ１６０側とで前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に異なる方向に変位させることができる。

【４００４】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１は、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０の上面から突設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０の上面に凹設される凹部に形成されても良い。また、凹部は、その外縁が不連続とされても良く、突出される突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１どうしの間に形成される空間が凹部とされても良い。

【４００５】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、突起部Ｅ１５１，Ｅ１５１５１は、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０に垂直な方向視において略六角形状に形成され、第８７実施形態では、突起部Ｅ１２１５１は、球状に形成され、第８８実施形態では、突起部Ｅ１３１５１は、振分通路Ｅ１３１５０に垂直な方向視において略ひし形（四角形）状に形成され、第８９実施形態では、突起部Ｅ１４１５１は、振分通路Ｅ１４１５０に垂直な方向視において円状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものでは

なく、略五角形状や略七角形状など略多角形状、もしくは、多角錐状に形成されても良い。また、円柱状に形成されても良い。また、直線と曲線とを組み合わせた形状に形成されても良い。また、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０に対する突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の側面の傾斜角度は同一に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の側面の傾斜角度が各側面でそれぞれ異なっていても良い。例えば、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面に対して傾斜方向下降側に形成される側面の傾斜角度を略直交とさせることで、球が傾斜方向上昇側へ変位（逆流、転動）することを抑制できる。また、例えば、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面に対して傾斜方向下降側に形成される側面の傾斜角度を傾斜方向上昇側に形成される側面の傾斜角度よりも小さくすることで、球を傾斜方向上昇側へ変位（逆流、転動）させ易くできる。その結果、球の移動（流下、落下）方向が変化（変更）される態様を遊技者に視認させやすくでき、遊技の興趣を向上できる。

【４００６】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）に複数の突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、少なくとも一つの突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１がそれぞれ配設されれば良い。

【４００７】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）の上面に突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）の上面の一部に突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１がそれぞれ配設されても良い。

【４００８】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面への突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の配設間隔は一定とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、各突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の配設間隔がそれぞれ異なっても良い。例えば、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）中央側に配設される突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の配設間隔を大きくすることで、前後方向両端側に送球された場合と比較して、球が突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１に当接する回数を減らすことができる。これにより、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０

，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の前後方向中央側において、球は、傾斜方向に沿って流下し易くなる。即ち、球の流下方向が変更（変化）され難くできる。その結果、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の前後方向中央側に送球された球を架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）へ案内し易くできる。また、突起部Ｅ１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の対向間距離（配設間隔）が、球の直径の略４分の１より大きくてもよく、球の直径の略４分の１より小さくても良い。対向間距離（配設間隔）を大きくすることで、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面を移動（流下、転動）する球の流下速度を大きくした状態で球を突起部Ｅ１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１に当接させることができ、球の移動（流下、転動）方向が変化される態様を遊技者に視認させやすくできる。

【４００９】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が連続的に変位される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動モータＥ１９１の駆動を断続的に行うことで、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が断続的に変位されても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０を流下する球に慣性力を付与でき、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１に当接する際の衝撃力を変更（変化）でき、球の移動（流下、転動）方向の変更（変化）を多様とできる。

【４０１０】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が駆動モータＥ１９１により駆動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、ソレノイドや弾性ばねにより駆動されても良い。

【４０１１】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、駆動モータＥ１９１の軸に駆動力伝達部材Ｅ１９３が固着され、駆動モータＥ１９１の一方向への回動により振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が往復動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動モータＥ１９１の駆動方向を切り換えることで振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０を往復動させても良い。

【４０１２】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、球が流下可能に振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０に突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１により球の流下が抑制されても良い。これにより、後行する

球は、流下が抑制された先行する球に当接することができ、後行する球の流下方向を変更（変化）できる。即ち、流下が抑制された先行する球は、後行する球に対して突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１と同様の効果を奏することができ、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０を流下する球の移動（流下、転動）方向を変更（変化）できる。また、球の流下方向を不規則に変更（変化）できる。なお、流下が抑制された先行する球に後行して流下する球が当接することで、先行する球が流下を再開できる。

【４０１３】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の側面は、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面に対して略４５度傾斜して形成され、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の突設高さは、球の半径の略２分の１とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面に対して突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の側面が４５度よりも大きく傾斜しても良く、４５度よりも小さく傾斜しても良い。また、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の突設高さは、球の半径の略２分の１よりも高く形成されても良く、球の半径の略２分の１よりも低く形成されてもよい。振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面に対する突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の側面の傾斜角度を大きく、もしくは、突設高さを高くすることで振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）時間を長くできる。一方、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面に対する突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の側面の傾斜角度を小さく、もしくは、突設高さを低くすることで振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）時間を長くできる。また、球が突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１を乗り越えて振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０を移動（流下、転動）し易くでき、球の移動（流下、転動）方向を多様とできる。

【４０１４】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０に規制片Ｅ１５３ｂが形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、規制片Ｅ１５３ｂが形成されなくても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０はその傾斜面に対し垂直な方向に変位できる。詳細に説明すると、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０に流下（落下）する球の自重が作用することで、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ

１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０は、第１伝達部材Ｅ１９４，Ｅ４１９４，Ｅ５１９４、第２伝達部材Ｅ１９５，Ｅ４１９５，Ｅ５１９５、第３伝達部材Ｅ４１９８及び第４伝達部材Ｅ４１９９に係合される係合部Ｅ１９４ｃを軸として回動できる。その結果、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の傾斜角度を変更（変化）でき、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下する球の移動（流下、転動）時間を延長（変化）できる。

【４０１５】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０に切欠き部Ｅ１５０ａが形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、切欠き部Ｅ１５０ａが形成されなくても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０の上面に形成される突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の数を増やすことができる。また、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０から中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ送球し易くできる、即ち、第１入賞口６４へ入賞し易く（第１入賞口６４へ入賞する確率が高く）できる。

【４０１６】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び一対の第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の一方と他方とが同一の態様に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び一対の第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の一方と他方とで、配設される突起部Ｅ１５１の配設個数又は配設間隔が異なっていても良い。これにより、一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の一方と他方とで流下する球の流下時間や流下方向を異ならせることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【４０１７】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び一対の第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０がそれぞれ遊技盤Ｅ１３の幅方向（図１６２８左右方向）における中心に対し線（面）対称（図１６２８左右対称）に変位する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び一対の第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の一方と他方とが非対称に変位しても良い。これにより、一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０（第３通路ＥＲｔ３）の一方と他方とで流下する球の流下時間や流下方向を異ならせることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【４０１８】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０の上面に突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１が形成されても良い。これにより、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向の変化を多様とできる。

【４０１９】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０が弾性ばねＥ２１９０により変位される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０に加え、湾曲部Ｅ１３１及び壁板Ｅ１３２が弾性ばねＥ２１９０により変位されても良い。これにより、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）を移動（流下、転動）する球の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の変位速度を変化（変更）させることができ、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向の変化を多様とできる。
【４０２０】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０とが当接される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０とが当接しなくても良い。この場合、湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０との対向間距離を球の直径よりも小さくすることで、球が湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０との間から流出することを抑制できる。
【４０２１】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、平面部Ｅ２１３３と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０との間に弾性ばねＥ２１９０が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、湾曲部Ｅ１３１と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０との間に弾性ばねＥ２１９０が配設されても良い。この場合、弾性ばねＥ２１９０は伸びた状態で配設され、弾性ばねＥ２１９０の弾性回復力を利用して湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０との当接状態が維持される、もしくは、湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０との対向間距離を球の直径より小さい状態に維持される。
【４０２２】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、弾性ばねＥ２１９０により振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０が変位される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動モータやソレノイドにより変位されても良い。
【４０２３】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、支持軸Ｅ２０ｊにより平面部Ｅ２１３３と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０とが係合され、弾性ばねＥ２１９０がコイルばねとして構成され、弾性ばねＥ２１９０により振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０を鉛直方向上方側（矢印Ｕ方向側）へ変位（回動）させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、弾性ばねＥ２１９０がねじりばねとして構成されても良い。この場合、ねじりばねを支持軸Ｅ２０ｊに係合しておけばよく、これにより、弾性ばねＥ２１９０を係合するための支持突起Ｅ２１３３ａ，Ｅ２１５０ａの配設を抑制できる。その結果、製品コストの削減を図ることができる。
【４０２４】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）を回動軸として回動され、第８６実施形態では、振分通路Ｅ１１１５０が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）を回動軸として回動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）を回動軸として回動されても良い。これにより、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０を移動（流下、転動）する球を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に移動させ易くでき、球の移動（流下、転動）方向の変化を多様化できる。その結果、球の移動（流下、転動）方向の変化が単調となることを抑制でき、遊技の興趣を向上できる。
【４０２５】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、平面部Ｅ２１３３の支持突起Ｅ２１３３ａが長手方向両端側にそれぞれ形成され、支持部Ｅ２１３３ｂが支持突起Ｅ２１３３ａよりも中央通路Ｅ１６０側に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、支持部Ｅ２１３３ｂが長手方向両端側にそれぞれ形成され、支持突起Ｅ２１３３ａが支持部Ｅ２１３３ｂよりも中央通路Ｅ１６０側に形成されても良い。また、支持突起Ｅ２１３３ａが長手方向両端側と、その支持突起Ｅ２１３３ａよりも長手方向中央側に形成され、長手方向におけるそれら支持突起Ｅ２１３３ａの間に支持部Ｅ２１３３ｂが形成されても良い。

【４０２６】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）に突起部Ｅ１５１が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、突起部Ｅ１５１が配設されなくても良い。即ち、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）の上面が平坦に形成されても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０から流下（落下）される球の変位を遊技者に予測し易くできる。また、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）の一部には突起部Ｅ１５１が配設され、残りの他部には突起部Ｅ１５１が配設されなくても良い。

【４０２７】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第２振分通路Ｅ４１５０が、振分通路Ｅ１５０に対し、傾斜方向における長さが短く形成され、その他は同一とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第２振分通路Ｅ４１５０の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における長さが、振分通路Ｅ１５０の前後方向における長さよりも大きく形成されても良い。これにより、第２振分通路Ｅ４１５０に移動（流下、転動）された球を介設部材Ｅ１４０へ案内（送球）し易くできる。

【４０２８】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態において第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の傾斜方向下降側の端部は、振分通路Ｅ１５０の傾斜方向下降側の端部よりも壁板Ｅ１３２側に位置する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の傾斜方向下降側の端部は、振分通路Ｅ１５０の傾斜方向下降側の端部よりも上方孔Ｅ１６２（中央通路Ｅ１６０）側に位置しても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０を流下（落下）した球を第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０へ送球させ易くでき、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）へ振り分けられた球を第１入賞口６４（図１６２８参照）へ入賞し易くできる（第１入賞口６４へ入賞する確率を高くできる）。

【４０２９】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が第４位置に配設されると、少なくとも第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０の一部が上面視、中央通路Ｅ１６０に重なる位置に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０は、短手方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における全部が上面視、中央通路Ｅ１６０に重なる位置に配設されても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０から送球された球を中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）へ案内し難くできる。

【４０３０】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が第４位置に配設されると、少なくとも第３振分通路Ｅ５１５０の一部が上面視、中央通路Ｅ１６０に重なる位置に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が、中央通路Ｅ１６０よりも介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）に配設されても良い。これにより、第３振分通路Ｅ５１５０が第３位置に配設される場合と同様、第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）に案内された球が架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ

４）に振り分けられることを遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。
【４０３１】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、斜面部Ｅ７１５４が直線状に形成され、第８３実施形態では、湾曲ガイド部Ｅ８１３３ｄが円弧状に湾曲して形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、斜面部Ｅ７１５４が円弧状に湾曲して形成され、湾曲ガイド部Ｅ８１３３ｄが直線状に形成されても良い。また、斜面部Ｅ７１５４又は湾曲ガイド部Ｅ８１３３ｄが直線と円弧を組み合わせた形状に形成されても良い。
【４０３２】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、下側フレームＥ９０８６ｂは、遊技盤Ｅ１３の幅方向（図１６２８左右方向）における中心に対し線（面）対称（図１６２８左右対称）に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、下側フレームＥ９０８６ｂが非対称に形成されても良い。例えば、ベース部材Ｅ９１３０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一方に形成される溝部Ｅ９１３３ｃは、湾曲部Ｅ１３１側から中央通路Ｅ１６０側へ向かうにつれて介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）に傾斜して形成され、ベース部材Ｅ９１３０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の他方に形成される溝部Ｅ９１３３ｃは、中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側へ向かうにつれて介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）に傾斜して形成されても良い。例えば、上面視においてベース部材Ｅ９１３０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一方と他方とで溝部Ｅ９１３３ｃが同一に形成され、振分通路Ｅ１５０の変位の態様が同一であっても良い。
【４０３３】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、溝部Ｅ１０１３３ｃは、第１斜面部Ｅ１０１３３に垂直な方向視において曲線が組み合わされた形状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、単一の曲線から形成されても良く、また、直線と曲線とが組み合わされた形状に形成されても良い。
【４０３４】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第２振分通路Ｅ１６１５０、第３振分通路Ｅ１７１５０の外縁には、案内切欠き部Ｅ１６１５４ａ，Ｅ１７１５４ａを除き、案内部Ｅ１６１５４，Ｅ１７１５４が立設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、少なくとも外縁の一部に形成されれば良い。これにより、第２振分通路Ｅ１６１５０、第３振分通路Ｅ１７１５０の外縁に案内部Ｅ１６１５４，Ｅ１７１５４が非形成の場合と比較して、第１入賞口６４へ入賞し易く（第１入賞口６４へ入賞する確率を高く）でき、遊技の興趣を高めることができる。
【４０３５】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、変位部材Ｆ１３０の壁部Ｆ１３２の背面または転動面Ｆ１３１ｂの上面に突部が形成されても良い。これにより、転動面Ｆ１３１ｂ（第３通路ＦＲｔ３）を移動（流下、転動）する球が凹部Ｆ１３１ｃへ振り分けられる（案内される）ことを遅延させることができる。
【４０３６】
上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、球の重量を利用して下側フレームＦ８６ｂ，Ｆ２０８６ｂ，Ｆ３０８６ｂ，Ｆ４０８６ｂを閉塞状態から開放状態、或いは、開放状態から閉塞状態へ向けて動作させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動装置により下側フレームＦ８６ｂ，Ｆ２０８６ｂ，Ｆ３０８６ｂ，Ｆ４０８６ｂ（確定通路Ｆ１４０，Ｆ２１４０，Ｆ３１４０の遮断部Ｆ１４３ａ）が変位（回転）されても良い。例えば、変位部材Ｆ１３０に検出手段が配設され、変位部材Ｆ１３０の転動面Ｆ１３１ｂへ球が案内された、又は、変位部材Ｆ１３０が変位（回転）されたことを検出手段が検出することで、駆動装置を駆動させても良い。
【４０３７】
なお、検出手段としては、カメラ、重量センサ、変位センサ、トルクセンサ等が挙げられる。また、例えば、ソレノイドがスライド部材Ｆ１４４のスライド本体部Ｆ１４４ａを

左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて押進することや、駆動モータが開閉部材Ｆ１４３を回転させることで遮断部Ｆ１４３ａが変位（回転）される。

【４０３８】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、一方側に配設される変位部材Ｆ１３０の変位（回転）により、他方側に配設される確定通路Ｆ１４０，Ｆ２１４０，Ｆ３１４０の遮断部Ｆ１４３ａが変位しても良く、一対の遮断部Ｆ１４３ａが変位しても良い。例えば、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される変位部材Ｆ１３０の変位（回転）により、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される確定通路Ｆ１４０，Ｆ２１４０，Ｆ３１４０の遮断部Ｆ１４３ａが変位しても良く、一対の遮断部Ｆ１４３ａが変位しても良い。

【４０３９】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、伝達軸Ｆ１８３の偏心軸Ｆ１８３ｃが伝達部Ｆ１８３ｂの軸心（軸部Ｆ１８３ａ）に偏心して配設され、伝達部Ｆ１８３ｂの軸心を中心とした円状に変位されることで、演出手段Ｆ１２０の可動部材Ｆ１２２が動作（上下方向に往復動）される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動手段Ｆ１８０がラックアンドピニオン機構（ラック部材およびピニオン部材）から構成されることで可動部材Ｆ１２２が動作されても良い。

【４０４０】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、確定通路Ｆ１４０，Ｆ２１４０，Ｆ３１４０の遮断部Ｆ１４３ａが一対配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、遮断部Ｆ１４３ａが１個配設されても良い。例えば、一方側に配設される変位部材Ｆ１３０の変位（回転）により、遮断部Ｆ１４３ａが一方側へ向けて変位され、他方側に配設される変位部材Ｆ１３０の変位（回転）により、遮断部Ｆ１４３ａが他方側へ向けて変位されることで遮断部Ｆ１４３ａの変位の態様を増やすことができる。

【４０４１】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、上側フレーム通路ＦＲｔ０，ＦＲｔ５０に流入（入球）した球は、上側通路Ｆ１１４，Ｆ５１１４、或いは、下側通路Ｆ１１２，Ｆ５１１２へ送球されても良い。これにより、下側通路Ｆ１１２，Ｆ５１１２へ球が振り分けられ易くなり、下側フレームＦ８６ｂ，Ｆ２０８６ｂ，Ｆ３０８６ｂ，Ｆ４０８６ｂ，Ｆ５０８６ｂが開放状態に動作されることを遊技者に一層期待させることができる。

【４０４２】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、上側フレーム通路ＦＲｔ０，ＦＲｔ５０は、遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３の幅方向における中心に対し線（面）対称に配設される、即ち、遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３のの右方側に配設されても良く、遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３の幅方向における中心に対し線（面）対称にそれぞれ配設されても良い。従って、遊技領域から上側フレーム通路ＦＲｔ０，ＦＲｔ５０に流入（入球）した球は、遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３の右方側に配設された上側フレーム通路ＦＲｔ０，ＦＲｔ５０から遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３の右方側に配設される第１通路ＦＲｔ１，ＦＲｔ５１へ流入（入球）されても良く、遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３の左方側または右方側に配設された上側フレーム通路ＦＲｔ０，ＦＲｔ５０の一方から遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３の左方側または右方側に配設される第１通路ＦＲｔ１，ＦＲｔ５１の一方へ流入（入球）されても良い。

【４０４３】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、不正に開閉部材Ｆ２１４３が操作（開放方向へ変位（回転））された場合、かかる開閉部材Ｆ２１４３の変位（回転）を抑制する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、不正に開閉部材Ｆ２１４３が操作（開放方向へ変位（回転））された場合には、開閉部材Ｆ２１４３の変位（回転）に連動して変位（スライド又は回転）可能とされ、且つ、変位部材Ｆ１３０が球

の重量により変位されることで、開閉部材Ｆ２１４３が変位（回転）された場合には、開閉部材Ｆ２１４３に連動せず、非変位とされる所定部材を流入口ＦＯＰｆ１よりも上流に設け、不正に開閉部材Ｆ２１４３が操作（開放方向へ変位（回転））された場合、所定部材が変位（スライド又は回転）され、かかる所定部材によって、流入口ＦＯＰｆ１へ球が流入し難くなるように構成しても良い。

【４０４４】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、球の重量を利用して下側フレームＦ５０８６ｂを閉塞状態から開放状態、或いは、開放状態から閉塞状態へ向けて動作させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動装置により変位手段Ｆ５１５０の開閉部材Ｆ５１５８が変位（回転）されても良い。例えば、変位部材Ｆ５１５５に検出手段が配設され、変位部材Ｆ５１５５の本体部Ｆ５１５５ｄへ球が案内された、又は、変位部材Ｆ５１５５が変位（回転）されたことを検出手段が検出することで、駆動装置を駆動させても良い。

【４０４５】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒの被係合部Ｆ５１５７ｄと維持手段Ｆ５１６０の磁性体Ｆ５１６４とが磁着されることで右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒ（右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒ）の動作（回転、変位）が規制される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａとスライド部材Ｆ５１５７のスライド本体部Ｆ５１５７ａとの対向間にソレノイドが突出されることでスライド部材Ｆ５１５７の変位が規制されることや、スライド本体部Ｆ５１５７ａに磁性体が配設され、その磁性体が第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａに配設される電磁石に着磁されることで右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒ（右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒ）の動作（回転、変位）が規制されても良い。

【４０４６】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、球ＣＢ５１に作用する慣性力を利用して球ＣＢ５１の移動（流下、転動）が再開される（保持部Ｆ５１５５ｅによる保持が解除される）場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、下側フレームＦ５０８６ｂの開放状態における保持部Ｆ５１５５ｅの下方（上方）となる位置に磁性体が配設され、その磁性体と球ＣＢ５１との間に作用する反発力により、球ＣＢ５１の移動（流下、転動）が再開されても良い。また、下側フレームＦ５０８６ｂに駆動装置（例えば、ソレノイドや駆動モータ）が配設され、駆動装置の駆動により球ＣＢ５１が変位されることで球ＣＢ５１の移動（流下、転動）が再開されても良い。

【４０４７】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、変位部材Ｆ５１５５のうちの左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ及び右側変位部材Ｆ５１５５Ｒが同時に球を受け取り可能（第２通路ＦＲｔ５２から球が流入可能）に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。

【４０４８】

例えば、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌと右側変位部材Ｆ５１５５Ｒとが連動するように構成し、且つ、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ又は右側変位部材Ｆ５１５５Ｒの一方が球を受け取り可能な位置（初期位置）に配置された状態では、他方が球を受け取り不能な位置（球の重量が作用した場合に変位可能な範囲の終端）に配置されるようにしても良い。即ち、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ又は右側変位部材Ｆ５１５５Ｒの一方が球を受け取ると、その球の重量により、上記変位可能な範囲の終端へ向けて一方が変位されると共に、球を受け取り可能な位置（初期位置）へ向けて他方が変位され、球を受け取り可能な位置（初期位置）に配置された他方が球を受け取ると、その球の重量により、上記変位可能な範囲の終端へ向けて他方が変位されると共に、球を受け取り可能な位置（初期位置）へ向けて一方が変位される。

【４０４９】

この場合、球を受け取り可能な位置（初期位置）に配置された変位部材Ｆ５１５５（左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ又は右側変位部材Ｆ５１５５Ｒの一方）に対応する開閉部材Ｆ５１５８（左側開閉部材Ｆ５１５８Ｌ又は右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒの一方）は、流入口ＦＯＰｆ５１へ球を流入し難くさせる位置へ配置され、上記変位可能な範囲の終端に配置された変位部材Ｆ５１５５（左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ又は右側変位部材Ｆ５１５５Ｒの他方）に対応する開閉部材Ｆ５１５８（左側開閉部材Ｆ５１５８Ｌ又は右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒの他方）は、流入口ＦＯＰｆ５１へ球が流入し易くする位置へ配置される。但し、その逆の配置であっても良い。

【４０５０】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ１と挿通孔Ｆ６１６２ａ２とが前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に並設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に並設され、例えば、挿通孔Ｆ６１６２ａ１が挿通孔Ｆ６１６２ａ２よりも左右方向両端側に並設されても良い。これにより、球が挿通孔Ｆ６１６２ａ１へ流入される、或いは、挿通孔Ｆ６１６２ａ２へ流入されることを遊技者に視認させ易くできる。

【４０５１】

この場合、下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）を正面側（背面側）へ向けて下降傾斜される。これにより、一方側の挿通孔Ｆ６１６２ａ１へ流入した球は一方側の挿通孔Ｆ６１６２ａ２へ流入した球と比較して正面側（背面側）へ向けての変位量が大きく、立て壁部Ｆ６１１３の正面側（矢印Ｆ方向側）を通過して他方側の上側通路Ｆ６１１４へ案内（送球）され、挿通孔Ｆ６１６２ａ２へ流入した球は、立て壁部Ｆ６１１３の正面側（矢印Ｆ方向側）を通過せずに一方側の上側通路Ｆ６１１４へ案内（送球）される。

【４０５２】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、球が上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）の第１傾斜部Ｆ６１１４ｃと第２傾斜部Ｆ６１１４ｄとを往復動可能となる位置に当接部Ｆ６１７３ｂが配設されても良い。これにより、当接部Ｆ６１７３ｂと当接可能となる位置に球を複数回到達させることができ、球を流入口ＦＯＰｆ６１へ流入させ易くできる。

【４０５３】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂの動作後状態において、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを上昇する（左右方向中央側へ向けて移動する）球ＣＢ６１が当接部Ｆ６１７３ｂの湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に当接することで、球ＣＢ６１が第１傾斜部Ｆ６１１４ｃから第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ振り分けられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）の第１傾斜部Ｆ６１１４ｃが正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜される、背面部材Ｆ６１５０の背面板Ｆ６１５１に電磁石が配設される、又は、背面板Ｆ６１５１に正面側へ向けて風を送る送風装置が配設されることにより、球ＣＢ６１が第１傾斜部Ｆ６１１４ｃから第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ振り分けられても良い。

【４０５４】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、変位通路部材Ｆ６１７４の通路部Ｆ６１７４ａ又は第２変位通路Ｆ７１８０の転動面Ｆ７１８１ａ１の上面に突部が形成されても良い。これにより、通路部Ｆ６１７４ａ又は転動面Ｆ７１８１ａ１から球が流出（流下、排出）されることを遅延させることができる。

【４０５５】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、球の重量を利用して下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂを動作前状態から動作後状態、或いは、動作後状態から動作前状態へ向けて動作される

場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動装置により下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂが動作され（振分手段Ｆ６１７０の変位部材Ｆ６１７３，Ｆ１０１７３が変位され）ても良い。例えば、変位通路部材Ｆ６１７４又は第２変位通路Ｆ７１８０に検出手段が配設され、変位通路部材Ｆ６１７４の通路部Ｆ６１７４ａ又は第２変位通路Ｆ７１８０の転動面Ｆ７１８１ａ１へ球が案内された、又は、変位通路部材Ｆ６１７４又は第２変位通路Ｆ７１８０が変位（回転）したことを検出手段が検出することで、駆動装置が駆動されても良い。

【４０５６】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、動作後状態における振分手段Ｆ６１７０の状態を維持する（変位を規制する）ための維持手段が下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂに形成されても良い。これにより、変位通路部材Ｆ６１７４から球が流出（流下、排出）された場合、言い換えると、変位通路部材Ｆ６１７４に球の重量が作用されない状態においても、下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂを動作後状態に維持でき、遊技の興趣を高めることができる。例えば、変位通路部材Ｆ６１７４の底面に磁性体が配設され、貫通孔Ｆ６１４３の内周面に電磁石が配設され、それら磁性体と電磁石とが着磁されることで振分手段Ｆ６１７０の変位が規制される。

【４０５７】

なお、かかる維持手段が下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂに形成される場合、少なくとも１球が流入口ＦＯＰｆ６１へ流入されることを契機として維持手段による振分手段Ｆ６１７０の変位の規制を解除する解除手段が下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂに形成されても良い。これにより、流入口ＦＯＰｆ６１への球の流入が確実化される。即ち、少なくとも１球が流入口ＦＯＰｆ６１へ流入されるまでの間、遊技者に安心感が付与され、興趣を高めることができる。

【４０５８】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂの動作後状態から動作前状態への動作における当接部Ｆ６１７３ｂ，Ｆ１０１７３ｂの変位方向には、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを当接部Ｆ６１７３ｂ，Ｆ１０１７３ｂへ向けて移動する球ＣＢ６１の移動方向成分が含まれる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、動作前状態から動作後状態への動作における当接部Ｆ６１７３ｂ，Ｆ１０１７３ｂの変位方向に、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを当接部Ｆ６１７３ｂ，Ｆ１０１７３ｂへ向けて移動する球ＣＢ６１の移動方向成分が含まれても良い。これにより、球ＣＢ６１と当接部Ｆ６１７３ｂ，Ｆ１０１７３ｂとの当接により当接部Ｆ６１７３ｂ，Ｆ１０１７３ｂが動作前状態における配設位置へ変位されることを抑制でき、球ＣＢ６１を第１傾斜部Ｆ６１１４ｃから第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ確実に振り分けることができる。

【４０５９】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂの動作前状態から動作後状態への動作において、変位部材Ｆ６１７３，Ｆ１０１７３が第１軸Ｆ６１７２に沿って左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて変位される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、変位部材Ｆ６１７３，Ｆ１０１７３が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）を軸として回転されても良い。これにより、変位部材Ｆ６１７３，Ｆ１０１７３を左右方向に変位させるための空間を不要とでき、設計の自由度を向上させることができる。

【４０６０】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、センサＦ１１００１により球の通過が検出された場合（又は球の通過が検出され、所定の条件を満たす場合）に、ソレノイドＦ１１００２の駆動力により変位部材Ｆ６１７３を変位させ、流入口ＦＯＰｆ６１への球の流入のし易さを変化させる形態を説明したが、かかる形態を他の実施形態に適用しても良い。

【４０６１】

例えば、所定位置（例えば、上側フレーム通路ＦＲｔ０よりも上流（遊技盤Ｆ１３上の遊技領域（球の流下加納な領域））、又は、上側フレーム通路ＦＲｔ０よりも下流（下側フレームＦ８６ｂの遊技領域（球の流下加納な領域））にセンサＦ１１００１を配設し、センサＦ１１００１により球の通過が検出された場合（又は球の通過が検出され、所定の条件を満たす場合）に、ソレノイドＦ１１００２の駆動力により開閉部材Ｆ１４３を変位（開放または閉鎖）させ、流入口ＦＯＰｆ１への球の流入のし易さを変化（流入し易くする、又は、流入し難くする）させても良い。

【４０６２】

また、例えば、所定位置（例えば、上側フレーム通路ＦＲｔ０よりも上流（遊技盤Ｆ１３上の遊技領域（球の流下加納な領域））、又は、上側フレーム通路ＦＲｔ０よりも下流（下側フレームＦ８６ｂの遊技領域（球の流下加納な領域））にセンサＦ１１００１を配設し、センサＦ１１００１により球の通過が検出された場合（又は球の通過が検出され、所定の条件を満たす場合）に、ソレノイドＦ１１００２の駆動力により抑制部Ｆ４１３４（変位部材Ｆ４１３０）を変位（開放または閉鎖）させ、第２振り分け孔Ｆ１６１ｂ（第１振り分け孔Ｆ１６１ａ、即ち、流入口ＦＯＰｆ１）への球の流入のし易さを変化（流入し易くする、又は、流入し難くする）させても良い。

【４０６３】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、センサＦ１１００１を挿通孔Ｆ６１６２ａ２に配設したが、その配設位置は任意に設定できる。例えば、挿通孔Ｆ６１６２ａ１に配設しても良い。

【４０６４】

上記第６２実施形態から第１０３実施形態では、球の重量を利用して、所定の部材を変位させ、かかる所定の部材の変位により、他の球が第１の流入口へ入球し易くされ、その結果、かかる他の球が第２の流入口へ入球し易くなる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。例えば、球の重量を利用して、所定の部材を変位させ、かかる所定の部材の変位により、他の球が第１の流入口へ「入球し難く」され、その結果、かかる他の球が第２の流入口へ入球し易くなるように構成しても良い。

【４０６５】

例えば、第１入賞口６４を第５通路ＦＲｔ５の流出面Ｆ１１２ｂの鉛直方向下方に配置し、且つ、変位部材Ｆ１３０に球の重量が作用した場合、開閉部材Ｆ１４３（遮断部Ｆ１４３ａ）が流入口ＦＯＰｆ１を閉鎖させる（球を流入し難くさせる）方向へ変位される形態が例示される。かかる形態によれば、流入口ＦＯＰｆ１に流入した球よりも、流入口ＦＯＰｆ１に流入せず流出面Ｆ１１２ｂから流出する球の方が第１入賞口６４へ入球する確率が高くなる。即ち、球の重量を利用して、変位部材Ｆ１３０を変位させ、かかる変位部材Ｆ１３０の変位（開閉部材Ｆ１４３による流入口ＦＯＰｆ１の閉鎖）により、他の球が流入口ＦＯＰｆ１へ「入球し難く」され、その結果、かかる他の球が、流出面Ｆ１１２ｂを利用して、第１入賞口６４へ入球し易くされる。

【４０６６】

また、例えば、第１入賞口６４を第４通路ＦＲｔ５４の流出面Ｆ５１１２ｂの鉛直方向下方に配置し、且つ、変位部材Ｆ５１３０に球の重量が作用した場合、開閉部材Ｆ５１５８が流入口ＦＯＰｆ５１を閉鎖させる（球を流入し難くさせる）方向へ変位される形態が例示される。かかる形態によれば、流入口ＦＯＰｆ５１に流入した球よりも、流入口ＦＯＰｆ５１に流入せず流出面Ｆ５１１２ｂから流出する球の方が第１入賞口６４へ入球する確率が高くなる。即ち、球の重量を利用して、変位部材Ｆ５１３０を変位させ、かかる変

位部材Ｆ５１３０の変位（開閉部材Ｆ５１５８による流入口ＦＯＰｆ５１の閉鎖）により、他の球が流入口ＦＯＰｆ５１へ「入球し難く」され、その結果、かかる他の球が、流出面Ｆ５１１２ｂを利用して、第１入賞口６４へ入球し易くされる。

【４０６７】

また、例えば、第１入賞口６４を流出口ＦＯＰｏｕｔ６２の鉛直方向下方に配置し、且つ、変位通路部材Ｆ６１７４に球の重量が作用した場合、変位部材Ｆ６１７３が球に作用（当接）不能な位置に方向へ変位される（変位通路部材Ｆ６１７４に球の重量が作用していない状態では、変位部材Ｆ６１７３が球に作用（当接）可能な位置に配置（上側通路Ｆ６１１４の上面から突出されている）形態が例示される。かかる形態によれば、流入口ＦＯＰｆ６１に流入した球よりも、流入口ＦＯＰｆ６１に流入せず流出口ＦＯＰｏｕｔ６２から流出する球の方が第１入賞口６４へ入球する確率が高くなる。即ち、球の重量を利用して、変位通路部材Ｆ６１７４を変位させ、かかる変位通路部材Ｆ６１７４の変位（変位部材Ｆ６１７３に当接した他の球の進行方向が変更されることの回避）により、他の球が流入口ＦＯＰｆ６１へ「入球し難く」され、その結果、かかる他の球が、流出口ＦＯＰｏｕｔ６２から第１入賞口６４へ入球し易くされる。

【４０６８】

上記各実施形態では、入賞ユニットＫ２００の第１電動役物Ｋ２４０や第２電動役物Ｋ２５０の状態に応じて入賞ユニットＫ２００の見え方が変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２２８から照射される光の色や、光の強弱を変化させるように制御することにより、入賞ユニットＫ２００の見え方が変化するように構成しても良い。

【４０６９】

この時、入賞ユニットＫ２００の第１電動役物Ｋ２４０や第２電動役物Ｋ２５０の状態に対応させるようにして、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２２８から照射される光の色や、光の強弱を変化させるように制御しても良いし、第１電動役物Ｋ２４０や第２電動役物Ｋ２５０の状態とは無関係に発光部Ｋ２２８から照射される光の色や、光の強弱を変化させるように制御しても良い。

【４０７０】

例えば、第１電動役物Ｋ２４０の電動役物Ｋ６４０ａが開放状態の時に光を強化するようにしたり、第２電動役物Ｋ２５０の可動板Ｋ２５１が開放状態の時に光を強化するようにしたりしても良いし、逆に弱くするようにしても良い。

【４０７１】

また、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２２８から照射される光の色や、光の強弱を、球が第２入賞口Ｋ６４０や第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球した場合に変化させるように制御しても良い。この場合、入賞ユニットＫ２００の見え方の違いから、第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの入賞を把握させることができる。

【４０７２】

上記各実施形態では、入賞ユニットＫ２００の板状本体Ｋ２０２の裏側に拡散形状が形成されている場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状本体Ｋ２０２の裏側面または表裏面が平滑に形成されても良い。この場合、板状本体Ｋ２０２の透過性を向上させることができるので、入賞ユニットＫ２００内を流下する球や、第１電動役物Ｋ２４０の電動役物Ｋ６４０ａや、第２電動役物Ｋ２５０の可動板Ｋ２５１等の視認性を向上させることができる。

【４０７３】

上記各実施形態では、発光部Ｋ２２８からの光が電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球に遮られないものとして説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、発光部Ｋ２２８を、電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球の経路の後方や、可動板Ｋ２５１上を転動する球の経路の後方に配置しても良い。この場合、発光部Ｋ２２８からの光が、電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球や、可動板Ｋ２５１上を転動する球に遮られ得る。

【４０７４】

これにより、発光部Ｋ２２８を点灯制御させている場合に、光が明滅しているように視認させることができ、発光部Ｋ２２８からの光の見え方を変化させることができる。この時、電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球による光の明滅により、第２入賞口Ｋ６４０へ入球することを示唆することができる一方、可動板Ｋ２５１上を転動する球による光の明滅により、第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球せずに球が可動板Ｋ２５１上を左方に通過し得ることを示唆することができる。

【４０７５】

上記各実施形態では、電動役物Ｋ６４０ａや、可動板Ｋ２５１が、有色で不透明である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１の少なくとも一方が、有色透明の樹脂材料から形成されても良い。この場合、化粧カバーＫ２２０と重ねて視認される場合の作用は維持しながら、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１を通過する光により入賞ユニットＫ２００の視認態様を変化させ易くすることができる。また、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１の少なくとも一方が、無色透明の樹脂材料から形成されても良い。この場合であっても、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１を通過する光により入賞ユニットＫ２００の視認態様を変化させ易くすることができる。

【４０７６】

上記各実施形態では、可動板Ｋ２５１から反射した光が上縁部Ｋ２０７ａを介して視認可能に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、電動役物Ｋ６４０ａから反射した光を電動役物Ｋ６４０ａとは異なる位置で反射させて遊技者に視認させ、電動役物Ｋ６４０ａの状態を把握可能とさせるための反射部を上縁部Ｋ２０７ａとは別で設けても良い。

【４０７７】

なお、反射部は入賞ユニットＫ２００の内側に配置されても良いし、入賞ユニットＫ２００の外方に配置されるようにしても良い。この場合、入賞ユニットＫ２００とは異なる位置を視認して、電動役物Ｋ６４０ａの状態を把握させることができる。また、上縁部Ｋ２０７ａの機能を奏する部分についても、入賞ユニットＫ２００の内側に限らず、入賞ユニットＫ２００の外方に配置されるようにしても良い。

【４０７８】

上記各実施形態では、電動役物Ｋ６４０ａや可動板Ｋ２５１が前後方向でスライドし、遊技者側に見せる面が変化しない場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右方向に沿う回転軸で前後方向に回転動作するように構成しても良い。この場合、閉状態で遊技者に見せる面（前面）と、開状態で遊技者に見せる面（閉状態での後面、開状態での上面）とが異なるので、表裏の面の態様を異ならせる（例えば、色を変える）ことで、開状態か閉状態かで、化粧カバーＫ２２０（小形意匠Ｋ２２１ｂ等）の背景色を変化させることができる。

【４０７９】

上記各実施形態では、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１が赤色で形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、電動役物Ｋ６４０ａと可動板Ｋ２５１とが異なる色で形成されても良いし、赤以外の青や黄色等あらゆる色を採用可能である。また、小形意匠Ｋ２２１ｂの色は白色に限定されるものでなく、金や黄色等あらゆる色を採用可能である。何れの色を採用した場合であっても、小形意匠Ｋ２２１ｂの背景色となる場合と、ならない場合とを構成でき、小形意匠Ｋ２２１ｂの見え方を変化させることができる。この時、色の選択として、相対的に判別しやすい関係で色を選択した方が、演出効果を向上させることができる。

【４０８０】

上記各実施形態では、昇降装置Ｋ５００の上下変位が回転部材Ｋ４３０の変位に対して増大されるように構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、昇降装置Ｋ５００の変位量が回転部材Ｋ４３０の変位量と一致しても良い。この場合、昇降装置Ｋ５００の動作をより安定させることができる。

【４０８１】
上記各実施形態では、切替装置Ｋ４６０により昇降装置Ｋ５００の右側構成部の下降が制限されることで、昇降装置Ｋ５００が右側を下方にする傾斜姿勢で片側落下状態を構成可能であることを説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、昇降装置Ｋ５００が右側を下方にする傾斜姿勢から、左側構成部を落下位置状態まで変位させることで、左側を下方にする第２の傾斜姿勢を構成可能にしても良い。この場合、演出待機状態から第２の傾斜姿勢に変化するように制御しても良い、片側落下状態を経由して第２の傾斜姿勢に変化するように制御しても良い。前者の方が、昇降装置Ｋ５００による状態変化を顕著にすることができる一方で、後者の方が、状態変化後の昇降装置Ｋ５００の姿勢を安定させ易くすることができる。
【４０８２】
上記各実施形態では、回転装飾部材Ｋ５７８の回転速度を方向に因らず一定として、移動装置Ｋ５６０の左右方向のスライド速度を変化させるよう制御する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転装飾部材Ｋ５７８の回転速度または移動装置Ｋ５６０の左右方向のスライド速度の少なくとも一方を、方向に対応して変化させるように制御するようにできれば良い。
【４０８３】
上記各実施形態では、回転装飾部材Ｋ５７８の回転速度が予め規定される設計値に収まっている場合の動作制御について説明したが、回転装飾部材Ｋ５７８の動作制御は必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転装飾部材Ｋ５７８の回転速度が予め規定される設計値に収まらなかった場合にエラー信号を出して演出役物の動作を実行しないようにするのではなく、回転装飾部材Ｋ５７８の回転速度から新たに駆動モータＫＭＴ５１の回転速度を算出して、その新たに算出された回転速度により移動装置Ｋ５６０を左右方向にスライド移動させるようにしても良い。これにより、回転装飾部材Ｋ５７８の回転後の停止位置と、移動装置Ｋ５６０の移動後の停止位置とを対応付けやすくすることができ、回転装飾部材Ｋ５７８の回転速度が予め規定される設計値に収まる場合と同様に、連動を適切に実行させることができる。
【４０８４】
なお、速度の再計算をするのではなく、回転装飾部材Ｋ５７８を停止させるタイミングを、移動装置Ｋ５６０のスライド移動を停止させるタイミングとずらすことができるように制御しても良い。
【４０８５】
上記各実施形態では、昇降装置Ｋ５００の昇降動作と、状態変化装置Ｋ４７０の動作とが、共通の回転部材Ｋ４３０の動作に基づいて生じる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、昇降装置Ｋ５００の昇降動作と、状態変化装置Ｋ４７０の動作とが、異なる駆動装置からの駆動力で動作されるように制御しても良い。
【４０８６】
上記各実施形態では、第２可動装置Ｋ７０１において、アーム部材Ｋ７３５が回転動作する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上下方向にスライド移動する可動ラックを構成し、この可動ラックの昇降量が主装飾部材Ｋ７６０に伝達されるようにしても良い。この場合、可動ラックにより左右幅を抑えて構成することができる。
【４０８７】
上記各実施形態では、第２可動装置Ｋ７０１において、円弧状部Ｋ７３２，Ｋ７３４が面で当接することでアーム部材Ｋ７３５の回転を抑制する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、アーム部材Ｋ７３５を途中位置で停止させる位置に配置可能な可動のストッパ部材を設けるようにしても良い。この場合、ストッパ部材の配置により、アーム部材Ｋ７３５を途中位置で停止させ易い場合と、途中停止させない場合とを構成することができる。
【４０８８】

上記各実施形態では、第３可動装置Ｋ８０１において、延設回転部材Ｋ８７４の回転開始は、延設回転部材Ｋ８７４の長尺方向が左右方向に沿う姿勢から生じる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、延設回転部材Ｋ８７４の長尺方向が上方向を向く姿勢から生じさせるものでも良い。この場合、延設回転部材Ｋ８７４の長尺方向が下方向を向くまでの回転角度を大きくすることができる。

【４０８９】

上記各実施形態では、第３可動装置Ｋ８０１において、延設回転部材Ｋ８７４の過回転を小さく抑えることで、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１の戻り動作が生じないように構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、長孔Ｋ８８４の短手方向幅を十分に確保して円柱突部Ｋ８７６ａとの間に隙間を確保したり、円柱突部Ｋ８７６ａの回転軸側の肉部を削ることで長孔Ｋ８８４との隙間を確保したり、長孔Ｋ８８４の先端部に円柱突部Ｋ８７６ａの移動軌跡に沿う円弧形状部を設けることで円柱突部Ｋ８７６ａと長孔Ｋ８８４との干渉を避けるようにしても良い。

【４０９０】

上記各実施形態では、第３可動装置Ｋ８０１において、延設回転部材Ｋ８７４が回転終端で面と当接して止まる場合を説明したが必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転終端で円柱突部Ｋ８７６ａが凹部に収容させることで止まるように構成しても良い。

【４０９１】

上記各実施形態では、ベース板Ｋ２０６０の外形傾斜部Ｋ２０６０ｅや、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗや、光照射装置Ｋ２１００の傾斜面Ｋ２１２１や、光照射装置Ｋ３１００の傾斜面Ｋ３１２２等の傾斜角度として一例を記載したが、必ずしもこれに限られるものではなく、光を屈折させたり反射させたりして、光らせる対象に光が届くような形状から形成されていればよい。

【４０９２】

上記各実施形態では、発光手段Ｋ２１１１，Ｋ３１１１が湾曲線に沿って並ぶ場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右や上下等の所定の方向に延びる直線上に並ぶように構成しても良い。

【４０９３】

上記各実施形態では、発光手段Ｋ２１１１，Ｋ３１１１からの光が正面側に進行する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技領域内方へ向けて光が進行するように形成されても良い。この場合、正面視では隠される範囲（遊技領域外方の範囲）からの光によっても遊技領域を照らすことができるので、遊技領域をより明るくすることができる。

【４０９４】

上記各実施形態では、光がベース板Ｋ２０６０の開口を通過する前における傾斜開口部Ｋ２０６０ｗにおいて光が反射または屈折し正面側に進行する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ベース板Ｋ２０６０の開口を通過した後における傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの縁部における反射または屈折によっても光を正面側へ進行させるようにしても良い。また、ベース板Ｋ２０６０の開口内に、光を反射または屈折可能な物体を配置して、その物体によりベース板Ｋ２０６０の開口内で光の進行方向を変化させて正面側に光を進行させるようにしても良い。この場合、ベース板Ｋ２０６０の開口縁部以外の箇所からも遊技者へ光を届けることができる。

【４０９５】

上記各実施形態では、第１可動装置Ｋ４０１，Ｋ４４０１、第２可動装置Ｋ７０１，Ｋ４７０１及び後層側可動装置Ｋ８００，Ｋ４８００のそれぞれで、駆動力の伝達機構について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、一の装置の伝達機構を、他の装置の伝達機構に流用することは可能である。この場合において、左右方向を上下方向に変えて採用することは当然可能であるし、左右一対のものを片方だけで利用したり、その逆を採用したりすることも可能である。

【４０９６】
上記各実施形態では、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘと第２視認対象物Ｋ４５８０ｙとが、異なる形状である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、同一形状の対象物として視認させても良い。
【４０９７】
上記各実施形態では、回転装飾部材Ｋ４５７８の外形形状が四角形とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、六角形や、八角形でも良い。この場合において、中心を特定できる多角形とすることで、回転させた場合の視認態様を美しくすることができる。また、中心と特定できる形状であれば多角形でなくてもよく、外形が曲線で構成された形状でも良い。
【４０９８】
また、視認される物は表示される対象に限られるものではない。例えば、移動装置Ｋ４５６０の内部に収容されるか、又は、移動装置Ｋ４５６０に外方（例えば、長尺装置Ｋ５４０を介する経路）から供給される物体が視認窓部Ｋ４５７８ａを通して視認可能な位置（回転装飾部材Ｋ４５７８の後方位置）に適切なタイミングで移動可能に構成されても良い。
【４０９９】
上記各実施形態では、視認窓部Ｋ４５７８ａが回転装飾部材Ｋ４５７８に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転装飾部材Ｋ４５７８の内周の内側における表示装置Ｋ４５８０の表示領域に、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘや第２視認対象物Ｋ４５８０ｙを視認可能な視認部が表示されるように構成しても良い。
【４１００】
上記各実施形態では、視認窓部Ｋ４５７８ａが開口形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、視認窓部Ｋ４５７８ａとして形成される範囲の板厚を、他の部分の板厚よりも薄くして、透過性を高くすることで背面側を視認可能とするように構成しても良い。
【４１０１】
上記各実施形態では、視認窓部Ｋ４５７８ａが回転移動される第１の演出制御例および第２の演出制御例で、一方向への回転角度が９０度である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、９０度より大きい角度（例えば、１２０度）でも良いし、９０度より小さい角度でも良い。この場合に、流下する球の速度に対応して回転角度が変化するようにしても良い。
【４１０２】
上記各実施形態では、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘが回転装飾部材Ｋ４５７８の回転軸の右側に、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが回転装飾部材Ｋ４５７８の回転軸の左側に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右逆でも良いし、回転軸の上と下とに配置されるものでも良い。どの場合であっても、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転軸を基準として正反対となる異なる位置で異なる視認対象物Ｋ４５８０ｘ，Ｋ４５８０ｙを視認させることができるので、遊技者の見間違いを避け易くすることができる。
【４１０３】
上記各実施形態では、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に右側を向いた矢印形状が表示される第３の演出制御例と、第１の演出用途例とを別で説明したが、これらを同時に実行しても良いし、別個独立で実行するようにしても良い。同時に実行する場合には、ラウンド遊技中においては、入球の検出のたびに回転装飾部材Ｋ４５７８が回転され、表示装置Ｋ４５８０の中央部付近に矢印形状を点灯表示し、ラウンド遊技の終了時になったら第１の演出用途例における制御を実行するようにしても良い。これにより、回転装飾部材Ｋ４５７８の内側における視認態様を複雑にすることができる。
【４１０４】
上記各実施形態では、表示装置Ｋ４５８０を介して、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘ又は

第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが表示される場合と、矢印形状が表示される場合とを説明したが、表示態様は、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘ又は第２視認対象物Ｋ４５８０ｙの表示の代わりに矢印形状を表示するようにしても良いし、矢印形状の表示の代わりに第１視認対象物Ｋ４５８０ｘ又は第２視認対象物Ｋ４５８０ｙを表示するようにしても良い。これにより、視認態様のバリエーションを増やすことができる。

【４１０５】

上記各実施形態では、表示装置Ｋ４５８０を介して、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘ又は第２視認対象物Ｋ４５８０ｙが表示される場合と、矢印形状が表示される場合とを説明したが、視認態様は必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動装置Ｋ４５６０の内側が空洞に形成されており、その空洞の内側において、回転装飾部材Ｋ４５７８（又は回転装飾部材Ｋ４５７８の内周側を閉塞する透過性板が形成される場合にその透過性板）を通して視認可能な位置に、第１視認対象物Ｋ４５８０ｘ、第２視認対象物Ｋ４５８０ｙと同様の形状の物体を配置可能に構成されていても良い。この場合、物体同士が衝突することによる視認態様の変化により、演出効果を向上させることができる。

【４１０６】

上記各実施形態では、長尺装置Ｋ５４０が前後方向の回転軸を中心として姿勢を傾斜させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右方向の回転軸や、上下方向の回転軸を中心として姿勢を傾斜させられるように構成しても良い。この場合、移動装置Ｋ５６０，Ｋ４５６０の前面側の見え方（見える角度）を変化させることができ、演出効果を向上させることができる。

【４１０７】

また、例えば、上下方向の回転軸を中心として姿勢を傾斜させるように構成する場合において、透明フィルムＫ４８９１による平面ＫＳ４９と長尺装置Ｋ５４０の長手方向とが平行となるような姿勢を構成可能としても良い。

【４１０８】

上記各実施形態では、上側部材Ｋ５３０の湾曲受部Ｋ５３７を上側回転部材Ｋ４７６が下側から支えることで長尺装置Ｋ５４０を演出待機状態における配置で維持する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上側回転部材Ｋ４７６とは別で、上側部材Ｋ５３０を上側から挟むように支持する部材を構成しても良い。この部材に、上側回転部材Ｋ４７６側へ向かう付勢力を与えることで、上側部材Ｋ５３０の上向きの変位に対する抵抗力を生じさせることができる。これにより、搬送時における長尺装置Ｋ５４０の位置変化を防止することができる。

【４１０９】

上記各実施形態では、上側回転部材Ｋ４７６の全体が樹脂材料により構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上側部材Ｋ５３０と当接する回転先端部Ｋ４７６ｂには樹脂材料を構成し、上側部材Ｋ５３０と当接しない支持孔Ｋ４７６ａ付近は金属材料により構成するようにしても良い。これにより、金属材料により耐久性を向上させることができると共に、回転先端部Ｋ４７６ｂと当接する上側部材Ｋ５３０の摩耗を最小限に抑えることができる。

【４１１０】

上記各実施形態では、回転装飾部材Ｋ４５７８が、中央側に開口が形成されるものとして説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転装飾部材Ｋ４５７８が光透過性の樹脂材料から、内側の開口が閉塞するような形状で構成され、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を前側から覆うように構成しても良い。この場合、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転による光の反射による視認性の変化を、表示装置Ｋ４５８０の表示領域全体に及ぼすことができるので、演出性を向上させることができる。

【４１１１】

上記各実施形態では、遊技球の入賞に対応して、表示装置Ｋ４５８０に矢印形状が表示される場合を説明したが、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に表示される内容は、上述の態

様に限られるものではない。例えば、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に、球状体が流れる様子が表示されても良い。

【４１１２】

この球状体は、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の中央を真下に流下するように表示されても良いし、表示領域の中央に対して左右にずれた位置を流下するように表示されても良い。左右にずれた位置を流下するようにすれば、遊技者に対して、方向を示唆する視認態様を報知することができる。また、球状体の流下には、転動面上を球状体が転動する場合も含まれる。

【４１１３】

この場合において、左右いずれか一方を流下する球状体の速度と、その直後に左右いずれか他方を流下する球状体の速度とが異なるように構成しても良い。例えば、右側を流下する球状体の速度よりも、その直後に左側を流下する球状体の方がゆっくりと流下するように表示させても良い。

【４１１４】

表示装置Ｋ４５８０の表示領域に表示される球状体の流下方向は、真下方向でも良いし、左右成分を持つ方向でも良い。例えば、右側を流下する球状体は右下方向へ流下し、左側を流下する球状体は左下方向へ流下するように表示される場合、球状体が表示領域の右側を流下する場合と、表示領域の左側を流下する場合との、表示領域の視認態様の違いを大きくすることができる。

【４１１５】

また、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転駆動制御の設定として、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に表示される球状体が流下する位置と、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向とを対応させるように制御しても良い。

【４１１６】

例えば、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の左右中央よりも右側を球状体が流下する場合に回転装飾部材Ｋ４５７８が正面視時計回りに回転され、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の左右中央よりも左側を球状体が流下する場合に回転装飾部材Ｋ４５７８が正面視反時計回りに回転されるようにしても良い。または、球状体の流下方向と回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向との関係が上述の逆に設定されるものでも良い。

【４１１７】

この場合、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を視認せずとも、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向から、表示装置Ｋ４５８０の表示領域のどこを球状体が流下しているのかを予想することができる。従って、表示装置Ｋ４５８０の表示領域を無理に大きくする必要を無くすことができるので、表示装置Ｋ４５８０を低コストで実装できると共に、表示装置Ｋ４５８０の背面側に配置される第３図柄表示装置Ｋ８１の視認面積を大きく確保することができる。

【４１１８】

この場合において、球状体の流下速度と、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度とを対応させるようにしても良い。例えば、球状体がゆっくり流下する場合には回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度がゆっくりとなり、球状体が高速で流下する場合には回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度も高速となるように構成しても良い。これにより、表示装置Ｋ４５８０の表示領域と、回転装飾部材Ｋ４５７８とで、一体感のある動作態様を遊技者に視認させることができる。

【４１１９】

また、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の表示態様を、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転時と停止時とで異ならせるようにしても良い。例えば、上述のように、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転される場合には、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に流下する球状体を表示させる一方で、回転装飾部材Ｋ４５７８が停止される場合には、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に流下する球状体とは異なる形状のロゴ、キャラクター又は装飾形状が静止画として表示されるように構成しても良い。または、静止画ではなく動画表示されるように構成して

も良い。
【４１２０】
この場合、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８によって、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に球状体が流下される態様を伴う視認態様と、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に球状体が流下される態様を伴わない視認態様とを創出することができるので、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８の演出効果を向上させることができる。
【４１２１】
また、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に表示される球状体の流れる位置、流下速度、流下方向を、遊技球が実際に通過した遊技領域の位置、実際の流下速度、実際の流下方向と対応させるようにしても良い。
【４１２２】
例えば、右打ち遊技の期間において長尺装置Ｋ５４０が右第２傾斜姿勢となるように制御され、右打ちした遊技球が流下する経路上に配置される第１特定入賞口Ｋ６５ａ、第２入賞口Ｋ６４０及び第２特定入賞口Ｋ６５０ａを遊技球が通過したと検出されることに基づいて、表示装置Ｋ４５８０の表示領域に球状体が表示されるように制御しても良い。
【４１２３】
この場合において、入賞口の実際の配置、及び入賞口に入球した遊技球の実際の流下方向に対応させて球状体を表示させることで、遊技者に対して、実際に遊技球が流下した位置を把握させ易くすることができる。
【４１２４】
即ち、第１特定入賞口Ｋ６５ａで遊技球が検出された場合には、検出される度に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の右側範囲において、鉛直下方へ流下し、その後で右斜め下方へ流下する経路で、球状体が表示され、同時に、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りに回転されるように駆動される。
【４１２５】
また、第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａで遊技球が検出された場合には、検出される度に、表示装置Ｋ４５８０の表示領域の左側範囲において、鉛直下方へ流下し、その後で左斜め下方へ流下する経路で、球状体が表示され、同時に、回転装飾部材Ｋ４５７８が反時計回りに回転されるように駆動される。
【４１２６】
これにより、遊技者は、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａを注視しなくても、表示装置Ｋ４５８０の表示態様や、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向を視認することで、遊技球がどこを流下してどの入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａを通過したのかを把握することができることから、遊技者の遊技負担を低減することができる。
【４１２７】
遊技球の流下速度は、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａの配置高さから、力学的エネルギーに基づき検討すると、配置高さの同等な入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０を通過する際の遊技球の流下速度の絶対値は概ね同じと考えられる。配置高さの低い第２特定入賞口Ｋ６５０ａを通過する際の遊技球の流下速度の絶対値は、位置エネルギーが運動エネルギーに変換される分、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０を通過する際の遊技球の流下速度の絶対値よりも大きいと考えられる。
【４１２８】
従って、第１特定入賞口Ｋ６５ａ又は第２入賞口Ｋ６４０を遊技球が通過したことが検出された場合における、表示装置Ｋ４５８０の表示領域で表示される球状体の流下速度の絶対値および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度の絶対値に比較して、第２特定入賞口Ｋ６５０ａを遊技球が通過したことが検出された場合における、表示装置Ｋ４５８０の表示領域で表示される球状体の流下速度の絶対値および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度の絶対値が大きくなるように（高速になるように）制御される。
【４１２９】
これにより、第２入賞口Ｋ６４０を遊技球が通過した場合と第２特定入賞口Ｋ６５０ａ

を遊技球が通過した場合とで、表示装置Ｋ４５８０の表示領域における球状体の表示位置や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向が同じであっても、球状体の流下速度や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度を遊技者に把握させることで、遊技球が第２入賞口Ｋ６４０を通過したのか、第２特定入賞口Ｋ６５０ａを通過したのかを遊技者に判別させることができる。

【４１３０】

そのため、遊技者は、入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａを注視しなくても、表示装置Ｋ４５８０の表示態様や、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転方向および回転速度を視認することで、遊技球がどこを流下してどの入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａを通過したのかを把握することができることから、遊技者の遊技負担を低減することができる。

【４１３１】

上記各実施形態では、第３の演出制御例として、第１特定入賞口Ｋ６５ａへの入球が検出される度に表示装置Ｋ４５８０に矢印形状が表示され、回転装飾部材Ｋ４５７８が時計回りに回転動作され、その表示態様および回転動作態様が一定ではなく、変化し得るように制御される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【４１３２】

即ち、第３の演出制御例では、先の遊技球の入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０に表示される球状体の速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度に比較して、その後の遊技球の入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０に表示される球状体の速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が、同じか、それ以上となるように制御される。

【４１３３】

これにより、第１特定入賞口Ｋ６５ａに入球される球数が多くなるほど、表示装置Ｋ４５８０に表示される球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が大きくなり易い状況を構成することができる。更に、第１特定入賞口Ｋ６５ａに入球される球数が多くなるほど、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示される「＋１５」等の賞球の払い出しを想起させる数字表示の表示数が多くなるため、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転と数字表示の表示（数）とを一連で視認させることができる。

【４１３４】

従って、遊技者は、第１特定入賞口Ｋ６５ａへの入球個数と、表示装置Ｋ４５８０に表示される球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度とを対応付けて把握することができる。この場合、表示装置Ｋ４５８０に表示される球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度から、払い出される賞球個数の多少を予想し易くすることができるので、表示装置Ｋ４５８０の表示および回転装飾部材Ｋ４５７８に対する注目力を向上させることができる。

【４１３５】

なお、第３の演出制御例において、先の遊技球の入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０に表示される球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度に対する、その後の遊技球の入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０に表示される球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度の変化量（速度上昇量）は、毎回同じでも良いし、異なるようにしても良い。

【４１３６】

例えば、球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度として、第１段階（遅速）から第５段階（高速）まで５種類の速度を設定可能に構成されている場合に、先の遊技球の入球に基づく球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が第１段階だった場合に、その後の遊技球の入球に基づく球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が第２段階に変化するパターンのみならず、第３～５段階に変化するパターンをも実行可能に構成しても良い。

【４１３７】

この場合に、例えば、表示される球状体が表示装置Ｋ４５８０の下方へ流れきる前に、次の球が入球した（短時間で２球連続入球した）場合に球状体の流下速度および回転装飾

部材Ｋ４５７８の回転速度が一段階増加し、更に次の球に基づいて表示される球状体が表示装置Ｋ４５８０の下方へ流れきる前に更に次の球が入球した（短時間で３球連続入球した）場合に球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が二段階増加するように構成しても良い。この場合、球状体の流下速度および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度の変化態様から、高頻度の入球が生じたことを遊技者に把握させることができる。

【４１３８】

なお、上述の第３の演出制御例では、第１特定入賞口Ｋ６５ａへの入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１特定入賞口Ｋ６５ａに入球されず、第２電動役物Ｋ２５０の可動板Ｋ２５１の上面を左方へ流されることで第２特定入賞口Ｋ６５０ａにも入球されなかった球が、左側の球案内部Ｋ２１０に入球した場合に、表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作されるように構成しても良い。

【４１３９】

右側の球案内部Ｋ２１０がアウトロＫ７１と同様の機能を備える一方で、左側の球案内部Ｋ２１０は一般入賞口Ｋ６３と同様の機能を備えており、入球に基づき賞球の払い出しが行われる。即ち、左側の球案内部Ｋ２１０への入球と同様、一般入賞口Ｋ６３に入球した場合にも、表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作される。

【４１４０】

この場合、表示装置Ｋ４５８０の表示や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作により、遊技者に対して、第１特定入賞口Ｋ６５ａに入球せずに下流に流れた球の存在に気付かせることができるので、開閉板Ｋ６５ｂが閉鎖状態の時に球の発射をしていないか、球の発射強度は適切か、といった、操作ハンドルＨ５１の操作の見直しを遊技者に促すことができる。

【４１４１】

即ち、第１特定入賞口Ｋ６５ａに発射球の全てが入球される状況下では、表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えは生じず、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作も生じない一方で、第１特定入賞口Ｋ６５ａに発射球の一部が入球されない状況下においては、表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えを生じ、回転装飾部材Ｋ４５７８も回転動作される。

【４１４２】

これにより、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８を、第１特定入賞口Ｋ６５ａに適切に入球させられているかを遊技者に報知するためのバロメーターとして利用することができるので、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【４１４３】

なお、上述の第３の演出制御例では、第１特定入賞口Ｋ６５ａへの入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左側の球案内部Ｋ２１０への入球では表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えや回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作を生じさせず、一般入賞口Ｋ６３への入球に基づいて、表示装置Ｋ４５８０の表示が切り替えられ、回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作されるように構成しても良い。

【４１４４】

この場合、表示装置Ｋ４５８０の表示や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作により、遊技者に対して、第１特定入賞口Ｋ６５ａ側、即ち、回転装飾部材Ｋ４５７８の上側を右方へ案内されずに、回転装飾部材Ｋ４５７８の左側へ案内され流れた球の存在に気付かせることができるので、球の発射強度が弱くなっていないか、といった、操作ハンドルＨ５１の操作の見直しを遊技者に促すことができる。

【４１４５】

即ち、回転装飾部材Ｋ４５７８の上流側の位置を遊技球が右方に流下し続ける状況が維

持される時には表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えや回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が実行されることはなく、回転装飾部材Ｋ４５７８の上流側の位置を遊技球が一つでも左方に流下する場合に表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えや回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が実行され得る。

【４１４６】

そのため、表示装置Ｋ４５８０の表示の切り替えや回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が実行された場合、回転装飾部材Ｋ４５７８の上流側の位置を遊技球が左方に流下する程度に、発射強度が弱まっている証拠になるので、表示装置Ｋ４５８０の表示や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作を視認した遊技者に対して、操作ハンドルＨ５１の操作強度を見直させるよう促すことができる。

【４１４７】

これにより、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８を、第１特定入賞口Ｋ６５ａに適切に入球させられているかを遊技者に報知するためのバロメーターとして利用することができるので、表示装置Ｋ４５８０及び回転装飾部材Ｋ４５７８に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【４１４８】

なお、上述の第３の演出制御例では、表示装置Ｋ４５８０の表示および回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が、遊技球の入球に基づいて生じる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。例えば、表示装置Ｋ４５８０の表示または回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作の少なくとも一方が、遊技球の入球に因らず発生するようにしても良い。

【４１４９】

この場合において、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度が、操作ボタン部材Ｈ１８１の操作（押し込み、連打、長押し等）に基づいて増加可能に構成されても良い。例えば、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度として、第１段階（遅速）から第５段階（高速）まで５種類の速度を設定可能に構成されている場合に、操作ボタンＨ１８１の操作によりどの段階まで増加するのか（増加上限）と、遊技者が得られる利益の期待値（大当たり遊技における払い出し賞球個数の多少（獲得した大当たりのラウンド数の多少）、特図抽選の大当たり期待度など）とを対応させることにより、操作ボタン部材Ｈ１８１の操作意欲を向上させることができる。

【４１５０】

なお、上述した増加上限の設定を、第１特定入賞口Ｋ６５ａへの入球に基づいて表示装置Ｋ４５８０の表示や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作が生じる場合の、球状体の流下速度や回転装飾部材Ｋ４５７８の回転速度の増加上限に適用しても良い。これにより、表示装置Ｋ４５８０や回転装飾部材Ｋ４５７８に対する注目力を向上させることができる。

【４１５１】

上記各実施形態では、球状体が表示装置Ｋ４５８０の中央部付近に表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球状体が、回転装飾部材Ｋ４５７８の視認窓部Ｋ４５７８ａを通して視認されるようにしても良い。この場合、例えば、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転と共に球状体が回転移動するように構成しても良い。これにより、球状体の移動態様を大きな円弧で構成することができる。

【４１５２】

また、例えば、球状体の移動態様は上下方向に流下した後で、斜め左右方向に流下する態様を維持しつつも、斜め左右方向に流下する球の通過経路に視認窓部Ｋ４５７８ａが配置されるように回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作された後で停止されるようにしても良い。これにより、表示としての球状体と、回転装飾部材Ｋ４５７８とが一体動作しているように視認させることができる。

【４１５３】

上記各実施形態では、電動役物Ｋ６４０ａの開放状態において、背景色との違いから小形意匠Ｋ２２１ｂの視認性が向上される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、電動役物Ｋ６４０ａの閉鎖状態における小形意匠Ｋ２２１ｂの視認性

が向上されるものでも良い。例えば、方向視ＫＤＲ２１で視認する遊技者が視認可能な光を照射するＬＥＤとして、下流側発光部Ｋ２１２ｃがあるが、下流側発光部Ｋ２１２ｃから照射される光の色が赤色であるため、電動役物Ｋ６４０ａの開放状態と同様に小形意匠Ｋ２２１ｂの背景色を赤色（光の色）とすることができ、これにより小形意匠Ｋ２２１ｂの視認性を向上させることができる。

【４１５４】

なお、電動役物Ｋ６４０ａの開放状態において、下流側発光部Ｋ２１２ｃからの光が電動役物Ｋ６４０ａを透過して遊技者の目に届く場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、電動役物Ｋ６４０ａにより下流側発光部Ｋ２１２ｃからの光が遮蔽されるようにしても良い。

【４１５５】

この場合、電動役物Ｋ６４０ａの状態の切り替えのたびに、電動役物Ｋ６４０ａによる背景色が視認される場合と、下流側発光部Ｋ２１２ｃからの光による背景色が視認される場合とが切り替えられるので、それらの背景色の違いによる視認態様の変化を利用した演出を実行することができる。これにより、電動役物Ｋ６４０ａの状態の切り替えの態様に対応した視認態様の変化（バリエーション）を生じさせることができる。

【４１５６】

なお、下流側発光部Ｋ２１２ｃからの光により小形意匠Ｋ２２１ｂの視認性が向上される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、下流側発光部Ｋ２１２ｃからの光の色が白色とされる場合、小形意匠Ｋ２２１ｂの色と背景色（光の色）との差が小さくされることで、小形意匠Ｋ２２１ｂの識別性を低下させることができる。

【４１５７】

なお、発光部Ｋ２１２の発光態様は、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、入賞ユニットＫ２００における開閉の状態に関わらず常時点灯（消灯）されるようにされても良いし、入球検出で態様変更（色変化、光強さ変化）するような制御でも良いし、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示演出と連関して、態様変更（色変化、光強さ変化）するような制御でも良い。

【４１５８】

上記各実施形態では、入賞ユニットＫ２００に入球した球による光の遮り方により、光の視認態様が変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、流下経路に複数の検出センサを設けて、その検出センサを球が通過することに基づいて光の照射態様が変化されるように制御しても良い。この場合、球の流下経路以外の部分においても、光の視認態様を変化させることができる。

【４１５９】

上記各実施形態では、可動板Ｋ２５１や電動役物Ｋ６４０ａが有色の樹脂材料から形成されることで、有色樹脂に特有の粘り、丈夫さを利用できることから、厚みの設計自由度や、形状の自由度も向上させつつ、耐久性を向上させることで、球からの衝突による破損を抑制できる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、無色透明の樹脂材料から形成されるようにしても良い。この場合、可動板Ｋ２５１や電動役物Ｋ６４０ａと球とが重なったとしても、球が見えなくなることが無いので、流下する球の視認性を向上させることができる。

【４１６０】

上記各実施形態では、小形意匠Ｋ２２１ｂを球が左右方向に下降傾斜して流下する位置の前方に配置する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、案内開口Ｋ２０３のように、球が前後方向に下降傾斜して流下する位置の前方に配置するようにしても良い。この場合、鉛直方向の落下に比べて球の上下位置の変化がゆっくりとされることに加え、球の左右位置も変化されないことから、正面視で小形意匠Ｋ２２１ｂと球とが重なる期間をより長くすることができ、小形意匠Ｋ２２１ｂによる模様の見映えの変化を長く生じさせることができる。

【４１６１】

上記各実施形態では、後層側可動装置Ｋ８００の傾斜形成部Ｋ８６７が固定片として構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、延設回転部材Ｋ８７４の回転方向に数度移動可能に構成され、延設回転部材Ｋ８７４の停止時の位相を変更可能に構成しても良い。この場合、延設回転部材Ｋ８７４の戻りが防止される状態（傾斜形成部Ｋ８６７が延設回転部材Ｋ８７４の回転軸よりも上側に配置されている状態）と、延設回転部材Ｋ８７４の戻りが防止されない状態（傾斜形成部Ｋ８６７が延設回転部材Ｋ８７４の回転軸よりも下側に配置されている状態）とを切り替えることができる。

【４１６２】

上記各実施形態では、左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が左右から同じ距離張出可能に構成され、閉塞時には左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の対向辺が左右中央位置付近に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の境界位置が、左右中央部から左右いずれかにずれる状態を構成可能にしても良い。

【４１６３】

この場合、境界位置が左右中央部よりも左側にあれば、第２可動装置Ｋ４７０１は右側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１により開閉される範囲の下側に配置され、境界位置が左右中央部よりも右側にあれば、第２可動装置Ｋ４７０１は左側の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１により開閉される範囲の下側に配置される。これにより、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１と第２可動装置Ｋ４７０１との設計自由度を向上させることができる。

【４１６４】

上記各実施形態では、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が背面からの光を透過可能に構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の背面側に電飾基板が配設され、その電飾基板に配設されるＬＥＤの発光態様により、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の視認態様（色や模様）が変更可能に構成されても良い。この場合、開閉により第３図柄表示装置Ｋ８１の目隠しを形成する作用を生じさせ易くすることができる。

【４１６５】

上記各実施形態では、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の背面側にリブが形成され、透過性を異ならせる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の背面側が湾曲面で構成されることで、厚みが不均一とされても良い。この場合、背面側の形状（例えばレンズ形状）により光を屈折させる態様を部分ごとに異ならせることができ、演出効果を向上させることができる。

【４１６６】

また、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１では、輪郭ＫＯＬ４８１等に沿ってリブが形成される（内側部においてリブが形成される）場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の外形に沿ってリブが形成されるようにしても良い。この場合において、全外形に沿うリブが形成される場合ばかりではなく、平行な２辺にリブが形成されるようにしても良く、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の剛性を高めることで、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の移動抵抗を低減することができる。

【４１６７】

上記各実施形態では、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が光透過性の樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の代わりに、矩形の枠に複数枚のルーバーを備える開閉可能部材を配設しても良い。この場合、ルーバーを非透過性の材料から形成するようにすれば、ルーバーの状態次第で、ルーバーの板面の模様を視認させる状態と、ルーバーの板間から背面側に配置される第３図柄表示装置Ｋ８１の表示を視認させる状態とを切り替えることができる。

【４１６８】
　また、ルーバーを透過性の材料から形成するようにすれば、ルーバーの状態次第で、ルーバーの板面の模様を第３図柄表示装置Ｋ８１からの光で照らす状態と、ルーバーの板間から背面側に配置される第３図柄表示装置Ｋ８１の表示を視認させる状態とを切り替えることができる。
【４１６９】
　上記各実施形態では、左右スライドする板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が、複数枚の板状部材が一連で連動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右スライドする板状部材は一枚でも良い。この場合、連動させる構成よりも故障する可能性を低くすることができる。
【４１７０】
　また、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１のスライド方向は、左右方向に限られるものではなく、上下方向でも良いし、斜め方向でも良いし、前後方向成分を有する方向でも良い。即ち、直線方向でも良いし、所定の軸を中心とする曲線方向でも良い。
【４１７１】
　上記各実施形態では、移動装置Ｋ４５６０が斜めにスライド移動している際に、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の閉塞状態からの変位に基づいて長尺装置Ｋ５４０の右側端部が落下され、移動装置Ｋ４５６０の移動方向が変化する場合を説明したが、この場合に、移動装置Ｋ４５６０の移動速度は、移動方向の変化前後で同じでも良いし、変わるようにしても良い。例えば、移動方向の変化前の方が移動装置Ｋ４５６０の移動速度を遅くする場合、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の変位を望ませながら移動装置Ｋ４５６０が左側端部まで移動しきるまでの期間を長くすることができるので、移動装置Ｋ４５６０への注目力を向上させることができる。
【４１７２】
　上記各実施形態では、左右一対の板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の移動方向は左右対称にしたが、必ずしもこれに限れるものではない。例えば、上下方向でも良い。この場合に、上下対称でも良いし、配置位置は左右のままで、共に上方（又は下方）に移動することで退避されるように構成しても良い。また、移動方向が前後方向の成分を有するようにしても良い。
【４１７３】
　上記各実施形態における移動装置Ｋ４５６０の大きさは何ら限定されるものではない。直径１０ｍｍ程度の大きさから、センターフレームＫ８６を超える程の大きさまで、任意に設定可能である。
【４１７４】
　また、表示装置Ｋ４５８０による表示は、何ら限定されるものではない。一面同色で表示されても良いし、遊技者側に光を反射するように視認される態様（ミラー状等）に形成されても良い。この場合、遊技者に対して表示装置Ｋ４５８０の表示領域を介して自分の表情を視認させることができ、演出効果を向上させることができる。
【４１７５】
　上記各実施形態では、移動装置Ｋ４５６０が単体でスライド移動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動装置Ｋ４５６０が前後に複数ならべて配置され、複数の移動装置Ｋ４５６０が板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の正面側を順番にスライド移動するように構成しても良い。この場合、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１の変位に伴う複数の移動装置Ｋ４５６０の変位態様のバリエーションを増やすことができ、移動装置Ｋ４５６０の視認態様のバリエーションを増やすことができる。
【４１７６】
　上記各実施形態では、第３図柄表示装置Ｋ８１が正面視でセンターフレームＫ８６の内方に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の少なくとも一部がセンターフレームＫ８６の外方に位置

するようにしても良い。この場合、流下する遊技球を、第３図柄表示装置Ｋ８１からの光により照らして演出効果を向上させることができる。

【４１７７】

上記各実施形態では、一連で視認させる態様として、例えば、「ＳＦＭＥ」といったように、特定の意味を有する記号を順番に視認させる態様を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、４文字である必要は無く、「ＳＦ」、「ＳＭＥ」、「ＦＥ」といった、任意の文字列に注目させて一連で視認させるようにしても良い。また、任意の文字列には、上側装飾部材Ｋ３３０に形成される「Ｆ」の記号も採用可能である。注目させたい部分を発光させ、それ以外の部分を発光させないようにすることで、任意の文字列に注目させ易くすることができ、遊技者に読み間違いをさせないようにすることができる。

【４１７８】

また、記号の内で、方向性を有する２つ以上の記号（例えば、矢印）をつなげて視認させる態様でも良い。また、記号同士のつながりでなく、可動役物同士のつながりとして、互いに近づく方向または遠ざかる方向に移動される連動を視認させる態様でも良い。この場合において、片方が停止されていても構わない。

【４１７９】

例えば、第２背面表示Ｋ８１ｂは、長尺装置Ｋ５４０の傾斜に平行な表示として説明したが、これを、長尺装置Ｋ５４０が演出待機状態に位置する（水平姿勢）場合には、傾斜されずに右方向に向く矢印として表示され、長尺装置Ｋ５４０の動作に連動して、傾斜する方向の表示に切り替えられるようにしても良い。これにより、長尺装置Ｋ５４０の動作前から第２背面表示Ｋ８１ｂを表示するように演出することができる。

【４１８０】

また、例えば、一連で視認させる態様には、同種の対象がまとまって視認される視認態様や、関連する視認態様を別領域に分ける仕切りとなるように視認される視認態様が含まれ得る。例えば、長尺装置Ｋ５４０が第３図柄表示装置Ｋ８１の正面側に配置され、長尺装置Ｋ５４０を挟む各領域における表示が互いに関連する表示である場合、それらは一連の視認態様で視認される。

【４１８１】

なお、互いに関連する表示とは、例えば、一連の視認態様で視認される表示（例えば、記号のまとまり、大人同士、見方同士、等）の組や、相対する関係にある表示（例えば、男女、敵味方、勝ち負け、等）の組等が想定される。

【４１８２】

上記各実施形態では、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に模様が形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、長尺装置Ｋ５４０の正面側において模様が形成されるようにしても良い。この場合において、長尺装置Ｋ５４０の正面側に形成される模様と、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に形成される模様とを一連の視認態様で視認可能に構成しても良い。

【４１８３】

また、長尺装置Ｋ５４０の視認される範囲は、長尺装置Ｋ５４０そのものの配置や姿勢に加え、移動装置Ｋ４５６０により隠される範囲によっても変わり得る。移動装置Ｋ４５６０の配置に対応して、視認される一連の視認態様が切り替えられ得るように構成しても良い。

【４１８４】

また、長尺装置Ｋ５４０の配置により、長尺装置Ｋ５４０の上側または下側のみに板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が視認される場合も、長尺装置Ｋ５４０の上側にも下側にも板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１が視認される場合も生じ得るところ、少なくともその一方において、長尺装置Ｋ５４０の正面側に形成される模様と、板状部Ｋ４８１１，Ｋ４８２１，Ｋ４８３１に形成される模様とを一連の視認態様で視認可能に構成しても良い。

【４１８５】
上記各実施形態では、演出表示ＫＥＲ４７１，ＫＥＲ４７２が、第２可動装置Ｋ４７０１の周囲の一部分を囲むように範囲表示される影状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２可動装置Ｋ４７０１の正面視における視認態様を動画表示するようにしても良い。この場合、第２可動装置Ｋ４７０１の故障により第２可動装置Ｋ４７０１が動かなくなっても、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示により第２可動装置Ｋ４７０１の動作態様を視認させることができる。また、第２可動装置Ｋ４７０１を動作させる場合と異なり、駆動音や、振動が生じないという利点がある。
【４１８６】
上記各実施形態では、動作ユニットＫ４３００に配置される動作ユニットと、入賞ユニットＫ２００に形成される模様とを一連の視認態様で視認させ得る場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左側装飾装置Ｋ３５０の正面側に、動作ユニットＫ４３００に配置される動作ユニットに形成される模様と一連の視認態様で視認され得る模様が形成されるようにしても良いし、動作ユニットＫ４３００に配置される動作ユニットに形成される模様や入賞ユニットＫ２００に形成される模様と、第２入賞ユニットＫ５２７０に形成される模様とが、一連の視認態様で視認され得るよう構成しても良い。これにより、一連の視認態様で視認され得る領域を広げることができる。
【４１８７】
上記各実施形態では、板状部Ｋ４８１１，４８２１，４８３１が第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の上下に亘る長さで形成され、板状部Ｋ４８１１，４８２１，４８３１の動作と連動して長尺装置Ｋ５４０が動作する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右の板状部Ｋ４８１１，４８２１，４８３１が、特定の傾斜姿勢の長尺装置Ｋ５４０の上側または下側の領域を覆うことができるよう形成され（即ち、傾斜姿勢の長尺装置Ｋ５４０の下側に形成される三角形を、閉塞状態において全体で形成する形状から構成され）るようにしても良い。
【４１８８】
この場合、長尺装置Ｋ５４０を挟んで左右の板状部Ｋ４８１１，４８２１，４８３１が配設されていない側において、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において動画表示を行うことで、移動装置Ｋ４５６０のスライド移動と対応した動画表示を実行させることができる。
【４１８９】
また、この場合において、左右の板状部Ｋ４８１１，４８２１，４８３１を挟んで長尺装置Ｋ５４０の反対側において、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示が視認可能となるように、左右の板状部Ｋ４８１１，４８２１，４８３１の長尺装置Ｋ５４０の長手方向と交差する方向における形成長さを短くするようにしても良い。これにより、左右の板状部Ｋ４８１１，４８２１，４８３１を挟んで長尺装置Ｋ５４０の反対側の領域においても、移動装置Ｋ４５６０のスライド移動と対応した動画表示を実行させることができる。
【４１９０】
上記各実施形態において、球の検出位置に対応して回転装飾部材Ｋ４５７８が回転動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転動作を、時計回りの動作が、第１の演出用途例において説明した第１の演出制御例とし、反時計回りの動作が第１の演出用途例において説明した第２の演出制御例としても良い。これにより、遊技球の流下が頻度高く生じても、回転装飾部材Ｋ４５７８の回転を小刻みに生じさせることができる。なお、第１の演出制御例および第２の演出制御例における動作の反転位置において、視認窓部Ｋ４５７８ａを通して第１視認対象物Ｋ４５８０が視認されるように表示制御される。
【４１９１】
上記各実施形態において、導光部材Ｋ５１５０に入射された光を正面側に屈折させる光屈折部Ｋ５１５１について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ベース板Ｋ５０６０の背面に光屈折部を形成して、その屈折部を利用してベース板Ｋ５０

６０に入射された光を正面側に屈折させるように構成しても良い。この場合、屈折された光の視認される位置を導光部材Ｋ５１５０よりも前側に位置させることができるので、遊技者にとって視認させ易くすることができる。

【４１９２】

また、ベース板Ｋ５０６０自体に光屈折部が配設されるので、ベース板Ｋ５０６０の背面側に樋用前側部材Ｋ９１が締結固定されることで導光部材Ｋ５１５０を配設できない範囲においても光屈折による演出効果を生じさせることができる。

【４１９３】

なお、光屈折部の配置を、光を一連の視認態様で視認させることを目的とするばかりではなく、特定の位置に注目させるために設計しても良い。例えば、光屈折部Ｋ５１５１を介して視認される光が、第１入賞口Ｋ６４や第１特定入賞口Ｋ６５ａ等の入賞口やスルーゲートＫ６７、入賞ユニットＫ２００等の付近を光らせるように光屈折部Ｋ５１５１が配置されても良い。

【４１９４】

上記各実施形態では、化粧カバーＫ５２８０にローマ字による記号を視認可能に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、数字による記号を視認可能に構成しても良い。この場合において、「８０％」等、遊技性（例えば、スペック表示）に関連する数字とすると、遊技者が遊技をする前に、ガラスユニットＨ１６越しに遊技性の報知を行うことができる。

【４１９５】

その上で、化粧カバーＫ５２８０の背面を遊技球が流下することで影が生じ、数字による記号の見え方が変化する（例えば、上下中央部の左隅部が暗く視認され、見え方が「３０％」に変化する）ように構成することで、遊技を開始して初めて把握できる数字による報知も行うことができる。

【４１９６】

例えば、初めに見えた「８０％」は、化粧カバーＫ５２８０側を流下させない左打ち遊技を行う際に入球可能な第１入賞口Ｋ６４で抽選が開始される第１特別図柄の大当たりの確変割合を示し、右打ち遊技により化粧カバーＫ５２８０の背面側を球が流下する場合に見える「３０％」は、右打ち遊技で入球可能な第２入賞口Ｋ６４０で抽選が開始される第２特別図柄の大当たりの内の最高ラウンド大当たりの割合を示すようにすれば、視認される数字の変化を有効に利用して、遊技者に意味のある報知を行うことができる。

【４１９７】

なお、「％」は、第３輪郭部Ｋ５２８５や第３形成部Ｋ５２８６と同様に、球の流下経路と正面視で重ならない位置に形成することで、遊技球の流下の有無に因らず同様の視認態様で視認させることができる。

【４１９８】

また、上述の「８０％」の内、輪郭で囲まれる領域に、白色の小さな文字で「設定６の場合の値」と形成しておいて、遊技球が化粧カバーＫ５２８０の背面を遊技球が流下しない内は白色光を白色の文字に当てて認識し難いようにし、遊技球が化粧カバーＫ５２８０の背面を遊技球が流下する場合における球の影で白い文字を認識できるように構成しても良い。報知の内容は、「設定６と、それとは異なる設定とを選択できるが、設定６の時には８０％で、他の設定の時のことまでは言及しない」というものである。この場合、はじめから報知している内容は「設定６の場合に８０％」で共通であるが、球を右打ちで発射する前においては「設定６の場合」の部分を見え難くすることで、設定が判別された後か前かに関わらず、遊技機を魅力的に飾ることができる。

【４１９９】

上記各実施形態では、流路構成部材Ｋ５２７１により屈曲経路が形成される前方に化粧カバーＫ５２８０が配置され、流下する球と重なる位置に模様が形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、流下経路が形成されず、遊技球が自由落下可能な範囲の正面側に化粧カバーＫ５２８０を配設するようにしても良い。この

場合、流下する球と化粧カバーＫ５２８０の模様とが重なる期間を短くすることができるので、模様の視認性を維持し易くすることができる。

【４２００】

また、流路構成部材Ｋ５２７１により形成される流路は、左右方向に傾斜する直線経路が複数組み合わされた屈曲経路として構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、経路に曲線部が含まれても良いし、流下経路が曲線のみで構成されても良い。

【４２０１】

また、流下経路が前後方向に延びる（前後方向に向かう程に傾斜する）部分を有しても良い。この場合、流下する遊技球の正面視における変位をゆっくりとさせることができるので、遊技球と化粧カバーＫ５２８０の模様とが重なる期間を長くすることができる。

【４２０２】

上記各実施形態では、非透過形成部Ｋ５２８２ａが矩形状に形成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、矢印形状で形成されても良いし、その他の任意の記号で形成されるようにしても良い。これにより、遊技者に対して、記号の意味するところを報知することができ、遊技者の遊技負担を軽減することができる。

【４２０３】

また、非透過形成部Ｋ５２８２ａは光を透過させないものとして説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、形成部Ｋ５２８２よりも透過性が低いが、非透過ではなく、光を透過するものとしても良い。これにより、非透過形成部Ｋ５２８２ａを利用した光演出を実行可能とすることができる。

【４２０４】

上記各実施形態では、流路構成部材Ｋ５２７１の正面側で化粧カバーＫ５２８０が固定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、化粧カバーＫ５２８０が第１輪郭部Ｋ５２８１の左下端部付近を軸に時計回りに回転動作可能に構成されることで、模様が球流路の前方に配置される状態と、模様が球流路の前方から退避される状態と、を構成可能にしても良い。これにより、流路構成部材Ｋ５２７１により流下される球の視認性を切り替えることができる。

【４２０５】

この場合において、模様全体が回転動作されても良いし、模様の一部が回転動作されても良い。例えば、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃの下側における変化領域Ｋ５２８２ｂ，Ｋ５２８４ｂのみが回転動作され、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃ及び非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃの上側における変化領域Ｋ５２８２ｂ，Ｋ５２８４ｂは配置が維持されても良い。この場合、回転動作によらず、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃにおける模様の位置を不変とすることができ、非変化領域Ｋ５２８２ｃ，Ｋ５２８４ｃによる報知を常時実行することができる。

【４２０６】

上記各実施形態では、枝分かれ分岐の無い球流路の前に化粧カバーＫ５２８０が配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２傾斜部Ｋ５２７４の下流側端部において流路が分岐するようにしても良い。この場合において、分岐流路の全ての前側に非透過形成部Ｋ５２８２ａが配置されるようにしても良いし、一方の分岐流路の前側に非透過形成部Ｋ５２８２ａが配置され、他方の分岐流路の前側には非透過形成部Ｋ５２８２ａが配置されないようにしても良い。後者の場合、非透過形成部Ｋ５２８２ａと球の影とが重なることを視認することで、球が、どちらの分岐流路を流下したかを遊技者に把握させ易くすることができる。

【４２０７】

上記各実施形態では、第１輪郭部Ｋ５２８１を代表例として、背後を通る遊技球の視認性を維持するための種々の特定を行ったが、必ずしもこれに限られるものでは無い。例えば、同様の特定を、大形意匠Ｋ２２１ａや小形意匠Ｋ２２１ｂに行うようにしても良い。この場合、入賞ユニットＫ２００を球が流下する場合に、第１輪郭部Ｋ５２８１で説明し

たと同様の効果を生じさせることができる。

【４２０８】

本発明を上記各実施形態とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される）として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の領域に球を入賞させることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるパチンコ機として実施してもよい。また、Ｖゾーン等の特別領域を有する入賞装置を有し、その特別領域に球を入賞させることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機に実施してもよい。更に、パチンコ機以外にも、アレパチ、雀球、スロットマシン、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機などの各種遊技機として実施するようにしても良い。

【４２０９】

なお、スロットマシンは、例えばコインを投入して図柄有効ラインを決定させた状態で操作レバーを操作することにより図柄が変動され、ストップボタンを操作することにより図柄が停止されて確定される周知のものである。従って、スロットマシンの基本概念としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を変動表示した後に識別情報を確定表示する表示装置を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の変動表示が停止して確定表示され、その停止時の識別情報の組合せが特定のものであることを必要条件として、遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるスロットマシン」となり、この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【４２１０】

また、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する表示装置を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく所定量の球の投入の後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技が発生させられ、遊技者には、下部の受皿に多量の球が払い出されるものである。かかる遊技機をスロットマシンに代えて使用すれば、遊技ホールでは球のみを遊技価値として取り扱うことができるため、パチンコ機とスロットマシンとが混在している現在の遊技ホールにおいてみられる、遊技価値たるメダルと球との別個の取扱による設備上の負担や遊技機設置個所の制約といった問題を解消し得る。

【４２１１】

上記第８実施形態では、一対のスピーカー組立体Ｈ３１２がベース部材Ｈ３１１の左右両側に配設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、右側装飾ユニットＨ１４ｃに一対のスピーカー組立体Ｈ３１２を別途配設して、それら一対のスピーカー組立体Ｈ３１２が配設される空間同士を連通する連通路を右側装飾ユニットＨ１４ｃに形成しても良い。

【４２１２】

上記第８実施形態では、スピーカー組立体Ｈ３１２が配設される配設空間Ｈ３００Ｆが化粧ユニットＨ３２０に一対形成される場合について説明したが、配設空間Ｈ３００Ｆが３個以上形成され、それら配設空間が連通路によって連通されるものであっても良い。

【４２１３】

上記第８実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃ及び第２連通路Ｈ３００Ｄが複数の部材を組み合わせて形成する（隙間を空けて配設する）場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、中空形状の棒部材を一対の配設空間Ｈ３００Ｆ（第

１空間Ｈ３００Ａ又は第２空間Ｈ３００Ｂ）に両端が配置されるように配設して、棒部材の内部空間を利用して音を伝達可能に構成しても良い。

【４２１４】

また、正面側が開放されるお椀型状に形成される覆設部材Ｈ３４３の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側の一部を切り欠いて、覆設部材Ｈ３４３の内部空間を音が伝達するように構成しても良い。この場合、一対の配設空間Ｈ３００Ｆ（第１空間Ｈ３００Ａ又は第２空間Ｈ３００Ｂ）を連通する連通路（第１連通路Ｈ３００Ｃ又は第２連通路Ｈ３００Ｄ）が装飾ユニットＨ３３０の中央部に形成され、連通路の外側を化粧ユニットＨ３２０で取り囲むことができるので、連通路を通過する音が連通路の内壁を伝わり連通路の外側に放音されたとしても、その音が装飾ユニットＨ３３０の外側まで伝わることを抑制できる。その結果、装飾ユニットＨ３３０に形成される開口部（スリットＨ３３１ａ１（図１２９参照），放音用開口部Ｈ３３３ｂ（図１３１参照），検出用開口部Ｈ３３３ａ（図１３２参照））以外から音が放音されることを抑制できる。

【４２１５】

上記第８実施形態および第１４実施形態から第１６実施形態、第４４実施形態から第４８実施形態では、一方のスピーカーＨ３１２ａから放音（出力）された音を第１連通路Ｈ３００Ｃ，Ｈ７３００Ｃ及び第２連通路Ｈ３００Ｄを通して、他方のスピーカーＨ３１２ａが配設される配設空間Ｈ３００Ｆ（第１空間Ｈ３００Ａ、第２空間Ｈ３００Ｂ）に放音する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、変位部材が変位された際の駆動音や衝突音を第１連通路Ｈ３００Ｃ，Ｈ７３００Ｃ及び第２連通路Ｈ３００Ｄを通して、他方のスピーカーＨ３１２ａが配設される配設空間Ｈ３００Ｆ（第１空間Ｈ３００Ａ、第２空間Ｈ３００Ｂ）に伝達して駆動音や衝突音がパチンコ機Ｈ１０の外部に漏れ出にくくしても良い。

【４２１６】

上記第１６実施形態、第４４実施形態から第４８実施形態では、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの上方側（矢印Ｕ方向側）に形成される第１連通路Ｈ３００Ｃが上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６を変位させることで開放される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、上側装飾ユニットＨ９０１４ａの下方側（矢印Ｄ方向側）に形成される第２連通路Ｈ３００Ｄが下面板Ｈ３３３を変位させることで開放されるように構成しても良い。

【４２１７】

さらに、第１６実施形態では、上面板Ｈ９３３２を回転させる場合について説明したが、上面板Ｈ９３３２をスライド変位させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放するように構成しても良く、また、上面板Ｈ９３３２が第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する位置に変位できるものであれば、例えば、上面板Ｈ９３３２を上側装飾ユニットＨ９０１４ａの内側に向かって変位させて第１連通路Ｈ３００Ｃを開放しても良い。

【４２１８】

上記第１６実施形態、第４４実施形態から第４８実施形態では、上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６が操作ユニットＨ１８０の操作に連動して変位される場合について説明したが、操作ユニットＨ１８０の操作ではなく、機能調整操作部Ｈ１９０の操作により上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６を変位させても良い。この場合には、機能調整操作部Ｈ１９０の操作により遊技者が上面板Ｈ９３３２の状態を常に変更することができる。その結果、遊技者の好みに合った放音態様に調整することが可能となり、遊技者の興趣を向上できる。

【４２１９】

また、上記第１６実施形態、第４４実施形態から第４８実施形態では、上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６が操作ユニットＨ１８０の操作に連動して変位される場合について説明したが、遊技球を発射を制御する操作ハンドルＨ５１の操作（遊技領域への遊技球の打ち出し）や、遊技領域の所

定のセンサ（スルーゲート）の通過に伴って、上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６を変位させても良い。

【４２２０】

なお、遊技球を発射を制御する操作ハンドルＨ５１の操作や、遊技領域の所定のセンサの通過や、操作ユニットＨ１８０の操作を検出する各種スイッチＨ２０８は、入出力ポートＨ２０５（図１２８参照）に接続され、その各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいてＭＰＵＨ２０１が各種処理（張出部材Ｈ３６１３０ａを張り出させる）を実行可能とされる。

【４２２１】

上記第１６実施形態、第４４実施形態から第４８実施形態では、上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６を変位して第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する（第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅を変更する）場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、下面板Ｈ３３３を変位して第２連通路Ｈ３００Ｄを開放するものであっても良い。

【４２２２】

第４４実施形態および第４５実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合に板部材Ｈ３７３３２ｈが空間Ｈ９３３２ｄ２の外部空間との連通を規制する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した場合に、板部材Ｈ３７３３２ｈの先端が第１連通路Ｈ３００Ｃよりも上方に位置し、空間Ｈ９３３２ｄ２が外部空間と連通されるものであっても良い。

【４２２３】

また、この場合、第４５実施形態のように光照射ユニットＨ３８３３６に配設したＬＥＤＨ３８３３６ａ１の光を、空間Ｈ９３３２ｄ２と外部空間とを連通する開口を介して遊技者が視認できるように、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１の光の向きを調整しても良い。これにより、ＬＥＤＨ３８３３６ａ１の光を遊技者に直接視認させることができ、光により第１連通路Ｈ３００Ｃの放音状態が変更されたことを遊技者に認識させやすくできる。

【４２２４】

さらに、光照射ユニットＨ３８３３６に配設したＬＥＤＨ３８３３６ａ１の光が、外部空間と連通された第１連通路Ｈ３００Ｃを介して遊技者に視認されるようにＬＥＤＨ３８３３６ａの光の向きを調整しても良い。この場合も同様に、光により第１連通路Ｈ３００Ｃの放音状態が変更されたことを遊技者に認識させやすくできる。

【４２２５】

上記第１６実施形態、第４４実施形態、第４６実施形態、第４７実施形態、及び、第４８実施形態では、上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２が板部材から形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第４５実施形態のように、光を照射可能な基板部材Ｈ３８３３６ａを有する光照射ユニットＨ３８３３６から形成されるものであっても良い。

【４２２６】

上記第１６実施形態、第４４実施形態から第４７実施形態では、パチンコ機Ｈ１０の演出に注目させる際に第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する場合について説明したが、これに限られるものではなく、パチンコ機Ｈ１０の演出に注目させる際に第１連通路Ｈ３００Ｃを閉じた通路として、パチンコ機Ｈ１０から放音される音を小さくして、遊技者にパチンコ機Ｈ１０の音を集中して聞かせるように構成しても良い。

【４２２７】

第４７実施形態では、上面板Ｈ４０３３２が変位され第１連通路Ｈ３００Ｃを開放する場合に、上面板Ｈ４０３３２が正面側に向かって上昇傾斜した状態に配置される場合について説明したが、上面板Ｈ４０３３２が鉛直となる位置まで（約９０度）回転させるものであっても良い。なお、この場合には、第４５実施形態のように光を照射可能な基板部材Ｈ３８３３６ａを有する光照射ユニットＨ３８３３６で構成されることが好ましい。これによれば、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した際に光照射ユニットＨ３８３３６から出射す

る光を上側装飾ユニットＨ４００１４ａの内部を通さず遊技者に直接視認させることができ、光による演出態様を複数形成できるからである。

【４２２８】

なお、上面板Ｈ４０３３２の回転角度については、第４７実施形態に限られず、第４４実施形態から第４７実施形態における上面板Ｈ３７３３２、Ｈ３９３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６においても同様である。即ち、第４４実施形態から第４７実施形態における上面板Ｈ３７３３２、Ｈ３９３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６を鉛直となる位置まで（約９０度）回転可能に構成しても良い。

【４２２９】

上記第４７実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃの内部空間の全体に上面板Ｈ４０３３２の閉鎖部Ｈ４０３３２ｐが配置され、第１連通路Ｈ３００Ｃによる第１空間Ｈ３００Ａ同士の連通が規制される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第１連通路Ｈ３００Ｃの一部を遮るように第１連通路Ｈ３００Ｃの内側面と同形状の板部材から形成される閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを第１連通路Ｈ３００Ｃの内側に配置して、第１空間Ｈ３００Ａ同士の連通を規制するものであっても良い。

【４２３０】

この場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃの内部に配設される閉鎖部Ｈ４０３３２ｐの配設スペースを小さくできる（即ち、閉鎖部Ｈ４０３３２ｐの外形を小さくできる）ので、上面板Ｈ４０３３２に光を発光可能な基板部材Ｈ３８３３６ａが配設される場合に、閉鎖部Ｈ４０３３２ｐにより光が遮られることを抑制できる。その結果、光による演出効果が低下することを抑制できる。

【４２３１】

また、上面板Ｈ４０３３２に閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを配設するものではなく、上面板Ｈ４０３３２とは関係ない位置に閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを配設するものであっても良い。例えば、遊技者やパチンコ店の作業者（店員）が操作可能な位置に閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを配設して、遊技者やパチンコ店の作業者（店員）の操作により第１連通路Ｈ３００Ｃの内部に閉鎖部Ｈ４０３３２ｐが変位されるものであっても良い。

【４２３２】

例えば、パチンコ店の作業者（店員）のみが閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを操作可能として、パチンコ機Ｈ１０のスピーカーＨ３１２ａの破損時（故障時）にのみ閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを第１連通路Ｈ３００Ｃの内部に変位させて、スピーカーＨ３１２ａの破損時に一方側のスピーカーＨ３１２ａから他方側のスピーカーＨ３１２ａ側に音を伝達するように構成しても良い。

【４２３３】

また、例えば、パチンコ機Ｈ１０の演出により、第１連通路Ｈ３００Ｃの内部に閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを変位させたり、第１連通路Ｈ３００Ｃの外側に閉鎖部Ｈ４０３３２ｐを変位させるようにしても良い。即ち、パチンコ機Ｈ１０の演出に連動して第１連通路Ｈ４０３３２ｂの連通状態を変更（制御）するものであっても良い。これによれば、パチンコ機Ｈ１０の演出に合わせて音の態様を変化させることができるので遊技の興趣を向上できる。

【４２３４】

また、上記第４７実施形態では、第１連通路Ｈ３００Ｃの内部空間が埋まる形状に閉鎖部Ｈ４０３３２ｐが形成される場合について説明したが、第１連通路Ｈ３００Ｃの一部の領域を開放する（連通可能な空間が空いた）形状に閉鎖部Ｈ４０３３２ｐが形成されても良い。

【４２３５】

第４４実施形態、第４６実施形態、及び、第４８実施形態では、上面板Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２が板状に形成される場合について説明したが、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を閉鎖する上面板Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２の下面側から装飾部を張り出し形成しても良い。この場合には、第１連通路Ｈ３００Ｃを開放した際に、装飾部を遊技者に視認さ

せることができ、正面視における装飾の形成領域を増やすことができる。なお、装飾部は第１連通路Ｈ３００Ｃの通路幅よりも小さく形成されることが好ましく、これによれば、第１連通路Ｈ３００Ｃの上方側を上面板Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２で閉鎖した場合に第１連通路Ｈ３００Ｃの内部に装飾部を収容することができる。その結果、装飾部を形成した分、上側装飾ユニットＨ３７０１４ａ，Ｈ３９０１４ａ，Ｈ４１０１４ａを上下方向に大きくする必要がなくなり、上側装飾ユニットＨ３７０１４ａ，Ｈ３９０１４ａ，Ｈ４１０１４ａを大型化させず、装飾領域を増やすことができる。

【４２３６】

上記第４７実施形態では、第２変位部材Ｈ４０３３７が上下方向に変位される場合について説明したが、第２変位部材Ｈ４０３３７は、前後方向にスライド変位されるものでも、回転変位されるものでもよい。例えば、第１連通路Ｈ３００Ｃを閉鎖する上面板Ｈ４０３３２に沿って第２変位部材Ｈ４０３３７を前後方向にスライド変位させる場合には、上側装飾ユニットＨ４００１４ａの内部空間における第２変位部材Ｈ４０３３７の変位領域を最小にすることができる。これにより、第２変位部材Ｈ４０３３７を配設するためのスペースを確保できる。

【４２３７】

上記第１６実施形態、第４４実施形態から第４８実施形態では、上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６を例に説明したが、上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６に加えて、或いは、上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６に変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、変位可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。変位可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合（上面板Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２又は光照射ユニットＨ３８３３６）と同様の効果が得られる。

【４２３８】

上記第１６実施形態、第４４実施形態から第４８実施形態では、スピーカーＨ３１２ａを例に説明したが、スピーカーＨ３１２ａに加えて、或いは、スピーカーＨ３１２ａに変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、振動または動作が可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。振動または動作が可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合（スピーカーＨ３１２ａ）と同様の効果が得られる。

【４２３９】

上記第１７実施形態では、遊技者がパチンコ機Ｈ１０を遊技していない状態時にファンＨ１０４８０の回転（送風）が行われる場合について説明したが、遊技者が風を発生させるか否か選択できるように構成しても良い。

【４２４０】

なお、この場合、上端開口部Ｈ４７３ａの開口をパチンコ機Ｈ１０を遊技する遊技者側に向けて開口させる（即ち、右側装飾ユニットＨ１００１４ｃの内カバー部材Ｈ４２０側に開口を形成する）ことが好ましく、これにより、パチンコ機Ｈ１０を遊技する遊技者にファンＨ１０４８０の風を当てることができる。よって、遊技者が店舗の室温を高いと感じる場合には、ファンＨ１０４８０を遊技者にオンさせてファンＨ１０４８０の風が当たるようにすることで、快適に遊技できるようになる。

【４２４１】

また、遊技者が風を発生させるか否か選択するものではなく、パチンコ機Ｈ１０の演出に合わせてファンＨ１０４８０を回転させるように構成してもよい。例えば、「大当たり」の期待が高い演出を行う場合に、ファンＨ１０４８０を回転させることでファンＨ１０４８０の風を感じる遊技者の「大当たり」への期待感を高めることができる。

【４２４２】

なお、上記第１７実施形態では、ファンＨ１０４８０により風を送る場合について説明したが、風を送ることが可能であれば良く、例えば、スライド変位する機構により空気を

押し出して風を送るものであっても良い。また、スピーカーＨ３１２ａから音を放音（出力）した際のスピーカーＨ３１２ａの振動により発生する風により、通路空間Ｈ４００Ａの空気を流動させて異物を開口部Ｈ４７３から排出するようにしても良い。

【４２４３】

上記第１８実施形態では、立設部Ｈ１１４７７と上面板Ｈ３３２と係合部Ｈ１１４７７ｂとにより形成される通路空間Ｈ１１４００Ａ（図２３５（ａ）参照）が正面枠Ｈ１４の正面側まで開口される場合について説明したが、通路空間Ｈ１１４００Ａが、正面枠Ｈ１４の背面側まで開口されるものであっても良い。

【４２４４】

この場合には、立設部Ｈ１１４７７と上面板Ｈ３３２との隙間から侵入する異物を正面枠Ｈ１４の背面側に案内することができる。即ち、異物を遊技者から視認されない位置に排出することができる。その結果、遊技者の興趣が低下擦ることを抑制できる。

【４２４５】

上記第８実施形態では、通路空間Ｈ４００Ａを異物が通過する案内面となる屈曲部Ｈ４５２が、光を透過可能な第１外レンズ部材Ｈ４５０から形成される場合について説明したが、第１外レンズ部材Ｈ４５０とは別部材から形成されていても良い。この場合には、異物により第１外レンズ部材Ｈ４５０が汚れることを抑制でき、第１外レンズ部材Ｈ４５０を介して照射される光の光量を安定させることができる。

【４２４６】

なお、第８実施形態では、ベース部材Ｈ５１０を下皿形成部材Ｈ５３０よりも下方側に設定したが、下皿形成部材Ｈ５３０をベース部材Ｈ５１０の下方側に位置する状態で配設し、ベース部材Ｈ５１０の下面側に突出する突出部を形成し、下皿形成部材Ｈ５３０の下端とベース部材の突出部の突出先端とを床面に当接させて、正面枠Ｈ１４を自立させる構成としても良い。この場合には、正面枠Ｈ１４をベース部材Ｈ５１０に対して下方に配設できる分、遊技者が視認可能とされる面積を増加させることができる。その結果、遊技領域を増加させたり装飾面を増加させることができ、遊技者の興趣を向上させやすくできる。

【４２４７】

上記第８実施形態では、正面枠Ｈ１４の下面側を床面に当接させて正面枠Ｈ１４を自立させる場合について説明したが、正面枠Ｈ１４の上面側を床面に当接させて正面枠Ｈ１４を自立させても良い。この場合には、上側装飾ユニットＨ１４ａの化粧ユニットＨ３２０（上面板Ｈ３３２）の上面に突出部Ｈ５８３を形成すると共に、化粧ユニットＨ３２０をベースユニットＨ３１０の上端よりも下方側に配置することが好ましい。これによれば、正面枠Ｈ１４の上面側を床面に当接させた際に、ベースユニットＨ３１０の上端と化粧ユニットＨ３２０に形成した突出部Ｈ５８３の突出先端とを床面に当接させて、正面枠Ｈ１４を自立させることができる。

【４２４８】

上記第２１実施形態では、球抜きレバーＨ５２の操作に伴ってスライド板Ｈ１４５６２を変位させることで、第２スライド板Ｈ１４５６３（突出部Ｈ１４５６３ｂ）を張出状態とする場合について説明したが、第２スライド板Ｈ１４５６３を備えず、突出部Ｈ５８３を備える構成としても良い。

【４２４９】

この場合には、球抜きレバーＨ５２の操作に伴ってスライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａを突出部Ｈ５８３の上方に（第１化粧板Ｈ５４１を挟んで突出部Ｈ５８３の反対側）に配置することで、突出部Ｈ５８３に力が作用する場合に突出部Ｈ５８３をスライド板Ｈ１４５６２の押圧片Ｈ１４５６２ａで支持（補強）することができる。下皿Ｈ５０から球を排出する際に球が突出部Ｈ５８３に当接した場合や、正面枠Ｈ１４を外枠Ｈ１１に対して開放する際に突出部Ｈ５８３を把持した場合や、正面枠Ｈ１４を床面に仮置きする場合に、突出部Ｈ５８３が変形することや破損することを抑制できる。

【４２５０】

上記第８実施形態、第２１実施形態および第２２実施形態では、突出部Ｈ５８３，Ｈ１４５６３ｂが下皿Ｈ５０から球を払い出す底面口Ｈ５５３ａよりも右側に偏る位置に形成する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、底面口Ｈ５５３ａの左右両側に一対形成されるものであっても良い。

【４２５１】

上記第８実施形態、第２１実施形態および第２２実施形態では、突出部Ｈ５８３，Ｈ１４５６３ｂが湾曲して形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、突出部Ｈ５８３，Ｈ１４５６３ｂは、一端から他端に向かって直線状に形成されるものや、突出部Ｈ５８３，Ｈ１４５６３ｂは、円柱状に突出形成されるものであっても良い。

【４２５２】

上記第８実施形態、第２１実施形態および第２２実施形態では、球抜き時に球が飛び散ることを抑制するために突出部Ｈ５８３，Ｈ１４５６３ｂを利用する場合について説明したが、球抜き時の球の当接面としての利用だけなく、演出部分として利用しても良い。例えば、突出部Ｈ５８３，Ｈ１４５６３ｂに光を出射可能な発光手段を配設して、遊技者により球抜き操作等の所定の操作がされる際に突出部Ｈ５８３，Ｈ１４５６３ｂから光を照射するものであっても良い。これによれば、光により遊技者に所定の操作が正しくされていることを認識させることができる。また、光による演出で球が排出されている高揚感を遊技者に与えることができる。

【４２５３】

上記第２１実施形態および第２２実施形態では、突出部Ｈ１４５６３ｂを第１化粧板Ｈ５４１及び下側保護板Ｈ５８０の内側に退避させた場合に、突出部Ｈ１４５６３ｂの先端が正面枠Ｈ１４（上下皿ユニットＨ１４０１５）から非突出とされる場合について説明したが、突出部Ｈ１４６５３ｂを退避させた場合に、突出部Ｈ１４５６３ｂの先端が正面枠Ｈ１４（上下皿ユニットＨ１４０１５）から突出されても良い。

【４２５４】

即ち、突出部Ｈ１４５６３ｂを上下皿ユニットＨ１４０１５から最大限張り出した第１の突出状態と、その第１の突出状態よりも上下皿ユニットＨ１４０１５の突出距離が少ない第２の突出状態との間で、突出部Ｈ１４５６３ｂを変位させるものであっても良い。この場合には、第１の突出状態または第２の突出状態における突出部Ｈ１４５６３ｂの突出高さを、正面枠Ｈ１４を自立させるのに適した高さ（重心位置を適切な位置に配置できる高さ）、排出口Ｈ５６１ａから排出される球が千両箱から飛び出ることを抑制する高さ、又は、千両箱を出し入れしやすい高さ等、適宜適した状態の突出高さに設定できる。

【４２５５】

上記第２１実施形態および第２２実施形態では、球抜きレバーＨ５２の操作により変位するスライド板Ｈ１４５６２が突出部Ｈ１４５６３ｂを有する第２スライド板Ｈ１４５６３に当接することで突出部Ｈ１４５６３ｂが変位される場合について説明したが、遊技者の操作（例えば、操作ユニットＨ１８０の操作）をセンサで検出して、第２スライド板Ｈ１４５６３を別途配設する駆動手段により変位させて突出部Ｈ１４５６３ｂの突出高さを変更するように構成しても良い。この場合には、遊技者が操作する操作部材に第２スライド板Ｈ１４５６３を変位する際の抵抗が作用しないので、遊技者に操作部材の操作をさせやすくできる。

【４２５６】

なお、操作ユニットＨ１８０の操作を検出する各種スイッチＨ２０８は、入出力ポートＨ２０５（図１２８参照）に接続され、その各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいてＭＰＵＨ２０１が各種処理（突出部Ｈ１４５６３ｂを変位させる）を実行可能とされる。

【４２５７】

上記第２１実施形態および第２２実施形態では、突出部Ｈ１４５６３ｂが上下方向に変位して上下皿ユニットＨ１４０１５の下面から突出される場合について説明したが、上下

方向の変位に限定されるものではなく、回転されることで上下皿ユニットＨ１４０１５の下面から突出されるものであっても良い。なお、この場合、突出部Ｈ１４５６３ｂは、直線状に形成されることが好ましく、これによれば、非突出とされる場合に突出部Ｈ１４５６３ｂを上下皿ユニットＨ１４０１５の下面に沿って配設しやすくできる。

【４２５８】

上記第２１実施形態では、突出部Ｈ１４５６３ｂを有する第２スライド板Ｈ１４５６３が上下皿ユニットＨ１４０１５に配設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない、例えば、右側装飾ユニットＨ１４ｃや上側装飾ユニットＨ１４ａに配設しても良い。

【４２５９】

右側装飾ユニットＨ１４ｃ又は上側装飾ユニットＨ１４ａに配設する場合には、球抜きレバーＨ５２に変わって正面枠Ｈ１４に配設する機能調整操作部Ｈ１９０の操作等により第２スライド板Ｈ１４５６３を変位させて突出部Ｈ１４５６３ｂを正面視右側から突出させることで、正面枠Ｈ１４を床に仮置きする場合に右側装飾ユニットＨ１４ｃの右側側面を設置面として利用することができる。

【４２６０】

上記第８実施形態では、リブＨ５８３ｂが湾曲壁Ｈ５８３ａの湾曲面の前後に形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、リブＨ５８３ｂを各湾曲壁Ｈ５８３ａの連結部に形成しても良い。例えば、湾曲壁Ｈ５８３ａの凹側の側面の各湾曲壁Ｈ５８３ａの連結部にリブＨ５８３ｂを形成した場合には、外枠Ｈ１１（図１２１参照）に対して正面枠Ｈ１４を開放する場合に遊技者の指が突出部Ｈ５８３に対して滑ることをリブＨ５８３ｂで抑制できる。その結果、外枠Ｈ１１に対して正面枠Ｈ１４を開放させやすくできる。

【４２６１】

また、リブＨ５８３ｂは、湾曲壁Ｈ５８３ａの正面側の片面のみに形成されていても良い。これによれば、外枠Ｈ１１（図１２１参照）に対して正面枠Ｈ１４を開放する場合に遊技者の指がリブＨ５８３ｂにより湾曲壁Ｈ５８３ａに引っ掛かりにくくなることを抑制できる。その結果、外枠Ｈ１１に対して正面枠Ｈ１４を開放させやすくできる。

【４２６２】

上記第８実施形態、第２４実施形態、及び、第２５実施形態では、操作ユニットＨ１８０が連結部Ｈ５５５，Ｈ１８５５５又は凸状部Ｈ１７５１５に載置される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、連結部Ｈ５５５，Ｈ１８５５５又は凸状部Ｈ１７５１５に機能調整操作部Ｈ１９０を載置しても良い。

【４２６３】

上記第２３実施形態、第４２実施形態では、基板ユニットＨ１６３４４が上下方向に変位して上側装飾ユニットＨ１６０１４ａ，Ｈ３５０１４ａの下面から突出される場合について説明したが、上下方向にスライド変位されるものに限られるものではなく、回転されるものあっても良い。即ち、回転により上側装飾ユニットＨ１６０１４ａ，Ｈ３５０１４ａの下面から突出されるものであっても良い。

【４２６４】

上記第２３実施形態、第４２実施形態および第４３実施形態では、基板ユニットＨ１６３４４、又は、張出部材Ｈ３６１６０ａが遊技者や作業者の所定の操作により突出される場合について説明したが、遊技者の操作（例えば、操作ユニットＨ１８０の操作）をセンサで検出して、基板ユニットＨ１６３４４、又は、張出部材Ｈ３６１６０ａを別途配設する駆動手段により変位させて基板ユニットＨ１６３４４、又は、張出部材Ｈ３６１６０ａの突出高さを変更するように構成しても良い。この場合には、遊技者が操作する操作部材に基板ユニットＨ１６３４４、又は、張出部材Ｈ３６１６０ａの操作抵抗が作用しないので、遊技者に操作部材の操作をさせやすくできる。

【４２６５】

なお、遊技者の操作を検出するセンサ（各スイッチＨ２０８（図１２８参照））は、入

出力ポートＨ２０５（図１２８参照）に接続され、その各種スイッチＨ２０８から出力される信号や基づいてＭＰＵＨ２０１が各種処理を実行可能とされる（例えば、基板ユニットＨ１６３４４、又は、張出部材Ｈ３６１６０ａを変位させる）。

【４２６６】

上記第２２実施形態および第４２実施形態では、係合片Ｈ１５４４３，Ｈ３５３３１ｃを遊技者または作業者（店員）が操作可能に形成される場合について説明したが、係合片Ｈ１５４４３，Ｈ３５３３１ｃを別途配設する駆動モータにより駆動させても良い。この場合には、突出部Ｈ１４５６３ｂ又は基板ユニットＨ１６３４４を所定のタイミングで退避させることができる。なお、所定のタイミングとは、例えば、所定の時間経過のタイミングや、所定の遊技状態とされたタイミングや、所定の操作がされたタイミングである。

【４２６７】

例えば、第２２実施形態において、所定の時間経過のタイミングで突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させるように構成した場合には、球抜きレバーＨ５２が操作された後、所定の時間経過で突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させることができるので、突出部Ｈ１４５６３ｂが張り出された状態で放置される（非遊技状態とされる）ことを抑制できる。その結果、次に遊技する遊技者が遊技を開始する際に、球抜き孔が開放された状態となっていることを抑制でき、遊技球を貸し出し操作した際に下皿Ｈ５０に送球された遊技球がそのまま千両箱に払い出されて遊技者の手間（千両箱内の遊技球を拾い集めること）が増えることを抑制できる。

【４２６８】

なお、係合片Ｈ１５４４３，Ｈ３５３３１ｃを駆動する駆動モータ（その他装置Ｈ２２８（図１２８参照））は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３の入出力ポートＨ２２５に接続され、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて駆動される。

【４２６９】

また、第２２実施形態において、所定の遊技状態とされたタイミングで突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させるように構成する場合には、例えば、大当たりが終了し、通常の遊技状態に戻った状態とされた際に突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させるように構成する。この場合には、大当たりが終了して遊技球が下皿Ｈ５０に払い出されなくなったタイミングで、突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させることができる。そのため、突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させる遊技者の操作を不要とできる。なお、この場合には、球抜きレバーＨ５２を別途駆動モータにより駆動して、大当たりの開始に伴って球抜きレバーＨ５２を変位させることで、大当たり時の球抜きレバーＨ５２の操作を不要とできる。その結果、パチンコ機Ｈ１０の演出に集中させることができる。

【４２７０】

なお、この場合の球抜きレバーＨ５２を駆動する駆動モータ（その他装置Ｈ２２８（図１２８参照））は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３の入出力ポートＨ２２５に接続され、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて駆動される。

【４２７１】

さらに、第２２実施形態において、所定の操作がされた場合に突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させるように構成する場合には、例えば、状態復帰スイッチＨ１２０（図１２０参照）の操作がされた際に突出部Ｈ１４５６３ｂを退避させるように構成する。この場合には、遊技中に突出部Ｈ１４５６３ｂが戻らなくなった場合に、状態復帰スイッチＨ１２０の操作により突出部Ｈ１４５６３ｂを退避位置に戻すことができる。

【４２７２】

また、第４３実施形態において、所定の操作がされたタイミングで基板ユニットＨ１６３４４を退避させるように構成する場合には、例えば、正面枠Ｈ３５０１４が内枠Ｈ１２に対して閉じた位置に配置された場合（図１２１参照）に退避するように構成する。この場合には、正面枠Ｈ３５０１４が内枠Ｈ１２に配設された後、基板ユニットＨ１６３４４

を退避位置へ変位させる操作を必要としないので、正面枠Ｈ３５０１４を内枠Ｈ１２に組み付ける作業を簡易にできる。

【４２７３】

上記第２１実施形態および第２２実施形態では、球抜きレバーＨ５２の操作に連動して上下皿ユニットＨ１４０１５，Ｈ１５０１５の下面から突出部Ｈ１４５６３ｂを張り出させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球排出レバーＨ５４の操作に連動して上下皿ユニットＨ１４０１５，Ｈ１５０１５の下面から突出部Ｈ１４５６３ｂを張り出させても良い。

【４２７４】

この場合には、遊技をやめる際に上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０に球を払い出す球排出レバーＨ５４の操作に伴って突出部Ｈ１４５６３ｂを張り出させることができるので、遊技をやめる場合に突出部Ｈ１４５６３ｂを張り出させて、下皿Ｈ５０から千両箱に払い出される遊技球が飛び散ることを抑制できる。

【４２７５】

また、上記第２３実施形態では、基板ユニットＨ１６３４４を球抜きレバーＨ１６０５２の操作に連動して上側装飾ユニットＨ１６０１４ａから張り出す場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球排出レバーＨ５４の操作に連動して上側装飾ユニットＨ１６０１４ａから基板ユニットＨ１６３４４ａを張り出させても良い。

【４２７６】

この場合には、球排出レバーＨ５４が押圧されたままの状態で放置された場合に、次に遊技しようとする遊技者に球排出レバーＨ５４が押圧されたままの状態になっていることを認識させて、球排出レバーＨ５４を所定の位置に戻させることができる。これにより、次に遊技する遊技者が球を貸し出し操作した際に、その遊技球が上皿Ｈ１７に貯留されず上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０に払い出されることを抑制できる。その結果、遊技者の手間（下皿Ｈ５０に払い出された遊技球を上皿Ｈ１７に戻すこと）が増えることを抑制できる。

【４２７７】

第２１実施形態、第２２実施形態、第２３実施形態、第４２実施形態では、突出部Ｈ１４５６３ｂ又は基板ユニットＨ１６３４４を、球抜きレバーＨ５２，Ｈ１６０５２又はシリンダ錠Ｈ２０の操作で張り出させる場合について説明したが、例えば、遊技球を発射を制御する操作ハンドルＨ５１の操作（遊技領域への遊技球の打ち出し）や、遊技領域の所定のセンサ（スルーゲート）の通過や、操作ユニットＨ１８０の操作に伴って、突出部Ｈ１４５６３ｂ又は基板ユニットＨ１６３４４を張り出させても良い。この場合には、遊技状態により突出部Ｈ１４５６３ｂ又は基板ユニットＨ１６３４４を張り出させることができるので、突出部Ｈ１４５６３ｂ又は基板ユニットＨ１６３４４の張り出しを演出の一部として利用できる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【４２７８】

なお、遊技球を発射を制御する操作ハンドルＨ５１の操作や、遊技領域の所定のセンサの通過や、操作ユニットＨ１８０の操作を検出する各種スイッチＨ２０８は、入出力ポートＨ２０５（図１２８参照）に接続され、その各種スイッチＨ２０８から出力される信号やに基づいてＭＰＵＨ２０１が各種処理（突出部Ｈ１４５６３ｂ又は基板ユニットＨ１６３４４を張り出させる）を実行可能とされる。

【４２７９】

また、第２１実施形態および第２２実施形態では、遊技状態とされた場合に、突出部Ｈ１４５６３ｂを張り出させることができるので、遊技球が下皿Ｈ５０から払い出される場合に確実に突出部Ｈ１４５６３ｂを張り出した状態にできる。その結果、千両箱に払い出された遊技球が飛び散ることを抑制できる。

【４２８０】

上記第４３実施形態では、張出部材Ｈ３６１３０ａを送球停止レバーＨ１３２ａの操作で張り出させる場合について説明したが、例えば、遊技球を発射を制御する操作ハンドル

Ｈ５１の操作（遊技領域への遊技球の打ち出し）や、遊技領域の所定のセンサ（スルーゲート）の通過や、操作ユニットＨ１８０の操作に伴って、張出部材Ｈ３６１３０ａを張り出させても良い。

【４２８１】

なお、遊技球を発射を制御する操作ハンドルＨ５１の操作や、遊技領域の所定のセンサの通過や、操作ユニットＨ１８０の操作を検出する各種スイッチＨ２０８は、入出力ポートＨ２０５（図１２８参照）に接続され、その各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいてＭＰＵＨ２０１が各種処理（張出部材Ｈ３６１３０ａを張り出させる）を実行可能とされる。

【４２８２】

上記第２１実施形態から第２３実施形態、第４２実施形態、第４３実施形態では、第２スライド板Ｈ１４５６３、基板ユニットＨ１６３４４、張出部材Ｈ３６１３０ａを例に説明したが、第２スライド板Ｈ１４５６３、基板ユニットＨ１６３４４、張出部材Ｈ３６１３０ａに加えて、或いは、第２スライド板Ｈ１４５６３、基板ユニットＨ１６３４４、張出部材Ｈ３６１３０ａに変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、変位可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。変位可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合（第２スライド板Ｈ１４５６３、基板ユニットＨ１６３４４、張出部材Ｈ３６１３０ａ）と同様の効果が得られる。

【４２８３】

上記第２１実施形態から第２３実施形態、第４２実施形態、第４３実施形態では、球抜きレバーＨ５２、シリンダ錠Ｈ２０、送球停止レバーＨ１３２ａについて説明したが、球抜きレバーＨ５２、シリンダ錠Ｈ２０、送球停止レバーＨ１３２ａに加えて、或いは、球抜きレバーＨ５２、シリンダ錠Ｈ２０、送球停止レバーＨ１３２ａに変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、変位可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。変位可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合（球抜きレバーＨ５２、シリンダ錠Ｈ２０、送球停止レバーＨ１３２ａ）と同様の効果が得られる。

【４２８４】

上記第８実施形態では、下枠部材Ｈ７２０に固定される発光手段Ｈ７７３ｂ（基板部材Ｈ７７３）に対して、変位部材Ｈ７９０を相対変位させる場合について説明したが、下枠部材Ｈ７２０に変位部材Ｈ７９０を固定し、発光手段Ｈ７７３ｂを変位部材Ｈ７９０に対して相対変位させてもよい。この場合、発光手段Ｈ７７３ｂの光源の位置を変更することができるので、発光手段Ｈ７７３ｂの変位に伴って光源の移動を遊技者に注目（視認）させることができ、光源の移動に伴う光の態様の変化を遊技者に見せやすくできる。その結果、演出効果を高めることができる。

【４２８５】

なお、下枠部材Ｈ７２０に発光手段Ｈ７７３ｂ（基板部材Ｈ７７３）と変位部材Ｈ７９０とのどちらも固定せず、下枠部材Ｈ７２０に対して発光手段Ｈ７７３ｂ（基板部材Ｈ７７３）と変位部材Ｈ７９０とをそれぞれ独立して変位させても良い。

【４２８６】

上記第８実施形態、及び、第５０実施形態から第５３実施形態では、駆動手段Ｈ７８０がベース手段Ｈ７７０に対して回転変位される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、ベース手段Ｈ７７０にレール部材を配設して、そのレール部材に沿って駆動手段Ｈ７８０を左右方向に直線変位させるようにしても良い。

【４２８７】

上記第８実施形態、及び、第５０実施形態から第５３実施形態では、駆動手段Ｈ７８０を変位させた際の慣性力で駆動手段Ｈ７８０に対して変位部材Ｈ７９０を変位させる場合について説明したが、必ずしもこれに限るものではなく、例えば、駆動手段Ｈ７８０にソレノイドを別途配設して、そのソレノイドの駆動により駆動手段Ｈ７８０に配設される変位部材Ｈ７９０を変位させるようにしても良い。

【４２８８】

なお、この場合の駆動手段Ｈ７８０を駆動するソレノイド（その他装置Ｈ２２８（図１２８参照））は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３の入出力ポートＨ２２５に接続され、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて駆動される。

【４２８９】

上記第８実施形態では、変位部材Ｈ７９０が駆動手段Ｈ７８０に対して前後方向に変位可能に配設される場合について説明したが、変位部材Ｈ７９０を駆動手段Ｈ７８０に対して左右方向に変位可能に配設しても良い。この場合には、駆動手段Ｈ７８０が回転する慣性力により変位部材Ｈ７９０を駆動手段Ｈ７８０の回転方向にスライド変位させることができる。従って、駆動手段Ｈ７８０の回転範囲を狭くしつつ、駆動手段Ｈ７８０の先端に配設される変位部材Ｈ７９０の変位量を大きくできる。その結果、駆動手段Ｈ７８０の配設スペースを小さくしつつ、変位部材Ｈ７９０の変位量を確保して変位部材Ｈ７９０の変位による演出効果を高めることができる。

【４２９０】

上記第８実施形態、第４９実施形態、及び、第５０実施形態では、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０）がベース手段Ｈ７７０に対して回転される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０）がベース手段Ｈ７７０に対してスライド変位されるように構成されても良い。また、この場合には、駆動手段Ｈ７８０（変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０）がベース手段Ｈ７７０の基板部材Ｈ７７３の光の照射方向に対して直交する平面上を回転または直線変位されるように構成することが好ましい。変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０の変位により光の態様を変更しやすくできるからである。

【４２９１】

上記第８実施形態では、変位部材Ｈ７９０が基板部材Ｈ７７３と正面視において重なる範囲を変位可能に構成される場合について説明したが、変位部材Ｈ７９０（駆動手段Ｈ７８０）の変位領域を発光手段Ｈ７７３ｂと正面視において重ならない範囲を含む領域に設定しても良い。即ち、変位部材Ｈ７９０（駆動手段Ｈ７８０）の変位範囲を左右方向に大きくして、正面視において発光手段Ｈ７７３ｂと重ならない状態と、正面視において発光手段Ｈ７７３ｂと重なる状態とを形成可能に構成しても良い。この場合には、発光手段Ｈ７７３ｂの視認態様を増やすことができるので、変位部材Ｈ７９０の変位による演出効果を向上できる。

【４２９２】

上記第８実施形態、第４９実施形態、及び、第５０実施形態では変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０が上側ベース部材Ｈ７７１及び下側ベース部材Ｈ７７２に連結され、基板部材Ｈ７７３が上側ベース部材Ｈ７７１及び下側ベース部材Ｈ７７２に配設される場合について説明したが、変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０を下枠部材Ｈ７２０に連結し、基板部材Ｈ７７３を下枠部材Ｈ７２０に配設するものであっても良い（即ち、変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０及び基板部材Ｈ７７３が配設される対象が下枠部材Ｈ７２０とされても良い）。

【４２９３】

上記第４９実施形態、第５０実施形態では、一個の揺動装置Ｈ４２７３０，Ｈ４３７３０が配設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、揺動装置Ｈ４２７３０，Ｈ４３７３０が複数個整列して配設されるものであっても良い。これによれば、複数色を同時に表示することができるので、揺動装置Ｈ４２７３０，Ｈ４３７３０の光による演出を複数形成できるので、光による演出効果を向上できる。

【４２９４】

また、この場合に、各揺動装置Ｈ４２７３０，Ｈ４３７３０に配設される変位部材Ｈ４２７９０を、各揺動装置Ｈ４２７３０，Ｈ４３７３０の基板部材Ｈ７７３（第１拡散部材Ｈ４３７７４）と異なる個数（例えば、１個）にしても良い。

【４２９５】
これによれば、１個の変位部材Ｈ４２７９０に対して、各基板部材Ｈ７７３から発光され第１拡散部材Ｈ４３７７４の各フィルム（中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅ）で色分けされた各発光色を１個の変位部材Ｈ４２７９０の周囲から遊技者に視認させることができる。そのため、変位部材Ｈ４２７９０の変位と、基板部材Ｈ７７３の光とによる演出効果を向上できる。なお、変位部材Ｈ４２７９０は、１個に限られるものではなく第１拡散部材Ｈ４３７７４の数に対して少ないものであれば良い（即ち、１個の変位部材Ｈ４２７９０に対して複数色の発光を視認させることが可能であれば良い）。
【４２９６】
また、２個以上の変位部材Ｈ４２７９０を配設した場合には、各変位部材Ｈ４２７９０を基板部材Ｈ７７３の正面側で隣り合わせ（合体させ）、１個の変位部材Ｈ４２７９０が基板部材Ｈ７７３の正面側に配置されているように遊技者に視認させても良い。
【４２９７】
この場合には、各変位部材Ｈ４２７９０の間に光を照射可能な位置の発光手段Ｈ７７３ｂの光の出射をオフにする、又は、各変位部材Ｈ４２７９０の間に照射される光を第２変位部材Ｈ４３７９５で遮ることで、各変位部材Ｈ４２７９０の間から光が漏れ出ることを抑制できる。これにより、隣り合わせた（合体させた）状態の各変位部材Ｈ４２７９０を１個の変位部材Ｈ４２７９０として遊技者に視認させやすくできる。
【４２９８】
上記第４９実施形態、第５０実施形態では、変位部材Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０が光を非透過の樹脂材料から形成される場合について説明したが、変位部材Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０の一部が光を透過可能な樹脂材料から形成されても良い。この場合には、光非透過の領域で背面側の第１拡散部材Ｈ７７４，Ｈ４３７７４を視認させにくくできる一方、光を透過可能な領域で第１拡散部材Ｈ７７４，Ｈ４３７７４を介して照射される光を遊技者に視認させることができる。
【４２９９】
上記第５０実施形態では、第２変位部材Ｈ４３７９５が光を非透過の樹脂材料から形成される場合について説明したが、光を透過可能な透明な樹脂材料から形成され、光を集光可能なレンズ部材や光を拡散可能な拡散部材を第２変位部材Ｈ４３７９５の両端部に配置して、変位部材Ｈ７９０の縁部（両端部）を介して視認される光の見え方を変更しても良い。これにより、変位部材Ｈ７９０の周囲から出射される光を目立たせることができる。
【４３００】
上記第４９実施形態、第５０実施形態では、正面視において変位部材Ｈ４２７９０の左右幅が第１拡散部材Ｈ７７４，Ｈ４３７７４の左右幅よりも小さく形成される場合について説明したが、変位部材Ｈ４２７９０の左右幅を第１拡散部材Ｈ７７４，Ｈ４３７７４の左右幅よりも大きく形成しても良い。
【４３０１】
上記第４９実施形態、第５０実施形態では、変位部材Ｈ４２７９０及び第２変位部材Ｈ４３７９５が回転変位される場合について説明したが、変位部材Ｈ４２７９０及び第２変位部材Ｈ４３７９５をスライド変位させるものであっても良い。これによれば、第１拡散部材Ｈ７７４，Ｈ４３７７４（基板部材Ｈ７７３）に対する変位部材Ｈ４２７９０及び第２変位部材Ｈ４３７９５の姿勢を維持することができるので、変位部材Ｈ４２７９０及び第２変位部材Ｈ４３７９５に遮られて反射する光が他の発光領域に入射することで不具合が起きることを抑制できる。
【４３０２】
なお、上記第４９実施形態、第５０実施形態では、変位部材Ｈ４２７９０及び第２変位部材Ｈ４３７９５が回転変位されるので、変位部材Ｈ４２７９０及び第２変位部材Ｈ４３７９５を変位させた際の左右方向における変位領域を小さくすることができる。これにより、揺動装置Ｈ４２７３０，Ｈ４３７３０を傾倒装置Ｈ７１０の内側に配設しやすくでき

る。
【４３０３】
上記第５０実施形態では、第２変位部材Ｈ４３７９５を変位させて、発光手段Ｈ７７３ｂの光が第１拡散部材Ｈ４３７７４に照射される領域を変更する場合について説明したが、第２変位部材を備えず第１拡散部材Ｈ４３７７４を基板部材Ｈ７７３に対して変位させることで、第１拡散部材Ｈ４３７７４の各フィルム（中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅ）に照射される発光手段Ｈ７７３ｂの光の領域を変位するものであっても良い。
【４３０４】
即ち、第１拡散部材Ｈ４３７７４を基板部材Ｈ７７３に対して変位させることで、第１拡散部材Ｈ４３７７４の光が非透過とされる領域のフィルムを基板部材Ｈ７７３の正面側から退避させるものであっても良い。
【４３０５】
上記第５３実施形態では、変位部材Ｈ４６１８２がボタン部Ｈ１８１から張り出される場合（傾倒装置Ｈ４６７１０が傾倒位置に配置される場合）に、変位部材Ｈ４６１８２の屈曲部Ｈ４６１８２ｂに第２基板部材Ｈ４６７４２から出射される光を入射可能に構成されるが、変位部材Ｈ４１６８２をボタン部Ｈ１８１の内部に収容した場合に、変位部材Ｈ４６１８２の屈曲部Ｈ４６８１２ｂから第２基板部材Ｈ４６７４２の光を変位部材Ｈ４６１８２の内部に入射させるように第２基板部材Ｈ４６７４２の配置を変更しても良い。
【４３０６】
上記第４９実施形態から第５３実施形態では、揺動装置Ｈ４２７３０，Ｈ４３７３０，Ｈ４４７３０，Ｈ４５７００，Ｈ４６７００が１箇所に配設される場合について説明したが、揺動装置Ｈ４２７３０，Ｈ４３７３０，Ｈ４４７３０，Ｈ４５７００，Ｈ４６７００を複数個並べて配置して、複数の揺動装置Ｈ４２７３０，Ｈ４３７３０，Ｈ４４７３０，Ｈ４５７００，Ｈ４６７００による演出を遊技者に視認させるものであっても良い。
【４３０７】
上記第８実施形態、第２８実施形態、第２９実施形態では、錘部材Ｈ７８７ｂ，Ｈ２２７８７ｂを回転させた際の慣性力や、当接手段Ｈ２１７８６を当接させた際の慣性力で駆動手段Ｈ７８０，Ｈ２１７８０，Ｈ２２７８０を変位させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、駆動モータＨ７８１の駆動軸に連結するクランクにより駆動手段Ｈ７８０，Ｈ２１７８０，Ｈ２２７８０を変位させても良い。この場合には、駆動モータＨ７８１の駆動に伴った変位を駆動手段Ｈ７８０，Ｈ２１７８０，Ｈ２２７８０にさせることができるので、慣性力により変位させる場合に比べて駆動手段Ｈ７８０，Ｈ２１７８０，Ｈ２２７８０の位置を制御しやすくできる。
【４３０８】
また、上記第８実施形態、第２８実施形態、第２９実施形態では、駆動手段Ｈ７８０，Ｈ２１７８０，Ｈ２２７８０がベース手段Ｈ７７０に対して回転変位される場合について説明したが、スライドレールにより駆動手段Ｈ７８０，Ｈ２１７８０，Ｈ２２７８０がベース手段Ｈ７７０に対してスライド可能に連結されるものであっても良い。
【４３０９】
上記第５０実施形態では、操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１の操作により変位部材Ｈ４３７９０を変位させる場合について説明したが、操作ユニットＨ１８０の操作に連動するものではなく、機能調整操作部Ｈ１９０の各ボタンＨ１９１～Ｈ１９５の操作により変位部材Ｈ４３７９０を変位させるようにしても良い。即ち、機能調整操作部Ｈ１９０の各ボタンＨ１９１～Ｈ１９５の操作により、第２変位部材Ｈ４３７９５を第１拡散部材Ｈ７７４に貼付される各フィルム（中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅ）に近づけるように構成しても良い。この場合には、機能調整操作部Ｈ１９０の操作により第２変位部材Ｈ４３７９５と各フィルムとの対向間の距離を調整することができる。従って、第２変位部材Ｈ４３７９５と各フィルムとの対向間への光の入射量を遊技者が制御することができ、遊技者の好みに合わせた発光を

遊技者に視認させることができる。

【４３１０】

上記第８実施形態、第４９実施形態から第５３実施形態では、図示および説明を省略したが、操作ユニットＨ１８０，Ｈ４５１８０，Ｈ４６１８０とガラスユニットＨ１６の間に導光板を配設しても良い。なお、導光板は、所定の方向からの光のみを所定の方向に反射可能な反射部を有し、光を透過可能に構成される。また、導光版は、変位可能に構成されても良い。

【４３１１】

上記第８実施形態、第４９実施形態から第５３実施形態では、変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０を例に説明したが、変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０に加えて、或いは、変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０に変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、変位可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。変位可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合（変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０）と同様の効果が得られる（第４９実施形態、第５０実施形態では、変位部材Ｈ４２７９０の一部が光を透過可能に構成された場合）。

【４３１２】

上記第８実施形態、第４９実施形態から第５３実施形態では、基板部材Ｈ７７３を例に説明したが、基板部材Ｈ７７３に加えて、或いは、基板部材Ｈ７７３に変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、光を発光可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。光を発光可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合（基板部材Ｈ７７３）と同様の効果が得られる。

【４３１３】

上記第８実施形態、第４９実施形態から第５３実施形態では、発光手段Ｈ７７３ｂ、第２変位部材Ｈ４３７９５を例に説明したが、発光手段Ｈ７７３ｂ、第２変位部材Ｈ４３７９５に加えて、或いは、発光手段Ｈ７７３ｂ、第２変位部材Ｈ４３７９５に変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、光の光量を変更可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。光の光量を変更可能に構成される手段であれば上述した実施形態の場合と同様の効果が得られる。

【４３１４】

上記第５０実施形態では、各フィルム（中央フィルムＨ４３７７４ｃ、第１フィルムＨ４３７７４ｄ、第２フィルムＨ４３７７４ｅ）を例に説明したが、各フィルムに加えて、或いは、各フィルムに変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、出射される光の色を変更可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。出射される光の色を変更可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合と同様の効果が得られる。

【４３１５】

上記第５１実施形態から第５３実施形態では、傾倒装置Ｈ７１０，Ｈ４６７１０を例に説明したが、傾倒装置Ｈ７１０，Ｈ４６７１０に変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、光を透過可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。光を透過可能に構成される手段であれば上述した実施形態の場合と同様の効果が得られる。

【４３１６】

上記第５２実施形態および第５３実施形態では、第２基板部材Ｈ４５７１８を例に説明したが、第２基板部材Ｈ４５７１８に変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、光を発光可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。光を発光可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合と同様の効果が得られる。

【４３１７】

上記第８実施形態、第４９実施形態から第５３実施形態では、傾倒装置Ｈ７１０，Ｈ４６７１０を例に説明したが、傾倒装置Ｈ７１０，Ｈ４６７１０に変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０を変位可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。変位部材Ｈ７９０，Ｈ４２７９

０，Ｈ４３７９０を変位可能に構成される手段であれば、上述した実施形態と同様の効果が得られる。

【４３１８】

上記第８実施形態、第３０実施形態、及び、第２５実施形～第３７実施形態では、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２４８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１及び第２凹部Ｈ２３８７１が凹設した溝状に形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、凹部Ｈ８２１ａ１を前後に貫通した開口で形成しても良い。なお、この場合には、凹部Ｈ８２１ａ１の溝幅が遊技球の直径よりも小さい形状に形成され、前後に暴れる遊技球が凹部Ｈ８２１ａ１の開口縁に当接されるように構成される。

【４３１９】

また、上記第８実施形態、第３０実施形態から第３７実施形態では、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２４８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１、第２凹部Ｈ２３８７１、凸部Ｈ２４８２１ａ２により、流路の内面に当接する遊技球が内面から受ける前後方向の反力を小さくする場合について説明したが、流路の内面に弾性部材を配設して流路の内面から受ける前後方向の反力を小さくしても良い。

【４３２０】

上記第８実施形態、第３０実施形態から第４１実施形態では、回転体Ｈ１１２ａ２の他端側に配設される発射部Ｈ８３１が弾性変形可能な弾性材料から形成される場合について説明したが必ずしもこれに限られるものではなく、発射レールＨ１１２ａ１上の遊技球に当接した際の衝撃を吸収できるものであれば、例えば、金属製のコイルスプリングで構成され、遊技球と当接した際にスプリング部分で当接した際の衝撃を吸収するものであっても良い。

【４３２１】

上記第８実施形態、第３０実施形態、及び、第３３実施形態では、案内手段Ｈ８２０の凹部Ｈ８２１ａ１の湾曲状に凹設される背面側の凹設底部が発射レールＨ１１２ａ１上を転動する遊技球の中心部よりも上方側に配置される場合について説明したが、案内手段Ｈ８２０の凹部Ｈ８２１ａ１の湾曲状に凹設される背面側の凹設底部が発射レールＨ１１２ａ１上を転動する遊技球の中心部よりも下方側に配置しても良い。

【４３２２】

この場合には、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が背面側に向かって暴れる場合に、その遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１の凹設底部よりも上方側に当接させることができる。即ち、下方側に向かって背面側に湾曲する領域に遊技球を当接させることができる。従って、凹部Ｈ８２１ａ１の内面に当接する遊技球に下方に向かう方向の反力を付与することができ、遊技球が発射レールＨ１１２ａ１の転動面から上方に離れることを抑制できる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が上下方向に暴れることを抑制できる。

【４３２３】

上記第８実施形態では、変位部材Ｈ８８２が第２位置（発射レールＨ１１２ａ１に遊技球を送球する位置）に配置される際に発射レールＨ１１２ａ１上を転動する遊技球の中心部よりも球送球部Ｈ８８２ａ（図１９０参照）が若干下方に配置される場合について説明したが、変位部材Ｈ８８２が第２位置（発射レールＨ１１２ａ１に遊技球を送球する位置）に配置される際に発射レールＨ１１２ａ１上を転動する遊技球の中心部よりも若干上方に位置されてもよい。

【４３２４】

この場合には、正面側（矢印Ｆ方向側）に暴れる遊技球を球送球部Ｈ８８２ａの下方側（矢印Ｄ方向側）の端部に当接させることができる。これにより、球送球部Ｈ８８２ａに当接する遊技球に作用する反力に下方に向かう方向成分を付与することができる。即ち、球送球部Ｈ８８２ａに当接した反力を背面側（矢印Ｂ方向側）に跳ね返る成分と、下方に向かう成分とに分散することができる。よって、背面側（矢印Ｂ方向側）に跳ね返る方向

成分の反力を弱めることができる。その結果、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が前後方向に暴れた状態で遊技盤Ｈ１３の遊技領域に送球されることを抑制でき、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球できる。

【４３２５】

さらに、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球が正面側（矢印Ｆ方向側）に暴れる場合に遊技球が球送球部Ｈ８８２ａの下方側の端部に当接するので、遊技球が背面側開口Ｈ１７２の上方側に乗って背面側開口Ｈ１７２内に逆流することを抑制できる。その結果、発射位置送球ユニットＨ１７０から発射レールＨ１１２ａ１への球の送球を安定させることができる。

【４３２６】

上記第８実施形態および第３３実施形態～第３７実施形態では、案内手段Ｈ８２０，Ｈ２４８２０，Ｈ２５８２０，Ｈ２７８２０，Ｈ２９８２０，Ｈ３０８２０の背面部Ｈ８２１ａ，Ｈ２４８２１ａ，Ｈ２５８２１ａ，Ｈ２７８２１ａ，Ｈ２９８２１ａ，Ｈ３０８２１ａが、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向側（矢印Ｌ方向側）に向かって（発射レールＨ１１２ａ１の頂部Ｈ１１２ａ４（図１９１（ａ）参照）に対して）背面側（矢印Ｂ方向側）に傾斜して形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。例えば、案内手段Ｈ８２０，Ｈ２７８２０，Ｈ２９８２０，Ｈ３０８２０の背面部Ｈ８２１ａ，Ｈ２７８２１ａ，Ｈ２９８２１ａ，Ｈ３０８２１ａが、発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向側（矢印Ｌ方向側）と平行に形成され、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１の凹設深さが遊技球の発射方向に沿って浅く形成されても良い。即ち、凹部Ｈ８２１ａ１の凹設底部が遊技球の発射方向に沿って正面側に傾斜しても良い。

【４３２７】

この場合には、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１の傾斜により凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１に受け入れた遊技球に対して発射方向と反対方向の抵抗を付与しやすくできる。そのため、遊技球の発射方向の速度を低下させやすくでき、遊技球を発射レールＨ１１２ａ１上（前後方向における転動面の中央部）に戻しやすくできる。その結果、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に遊技球を安定して送球しやすくできる。

【４３２８】

上記第８実施形態では、凹部Ｈ８２１ａ１の下方側（矢印Ｄ方向側）の縁部が背面側開口Ｈ１７２よりも下方側に配置され、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球される遊技球を凹部Ｈ８２１ａ１に当接させやすくする場合について説明したが、凹部Ｈ８２１ａ１の上方側（矢印Ｕ方向）の縁部を背面側開口Ｈ１７２よりも上方側に配置して、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球される遊技球が勢いのある状態で送球される場合でも遊技球を確実に凹部Ｈ８２１ａ１に当接させるようにしても良い。

【４３２９】

上記第８実施形態、第３３実施形態から第３６実施形態、及び、第３０実施径形態では、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１が背面部Ｈ８２１ａ，Ｈ２７８２１ａ，Ｈ２９８２１ａ，Ｈ３０８２１ａに形成される場合について説明したが、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１をベース板Ｈ６０の端部（球発射ユニットＨ１１２ａ，Ｈ２６１１２ａ，Ｈ２７１１２ａ，Ｈ２８１１２ａ，Ｈ２９１１２ａ，Ｈ３０１１２ａとの境界部分）に形成しても良い。

【４３３０】

この場合には、内枠Ｈ１２に対する遊技盤Ｈ１３の配置が前後に位置ずれしたとしても、ベース板Ｈ６０に形成される凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１によりベース板Ｈ６０と球発射ユニットＨ１１２ａ，Ｈ２６１１２ａ，Ｈ２７１１２ａ，Ｈ２８１１２ａ，Ｈ２９１１２ａ，Ｈ３０１１２ａとの境界部分に前

後方向の段差が形成されることを抑制できる。その結果、球発射ユニットＨ１１２ａ，Ｈ２６１１２ａ，Ｈ２７１１２ａ，Ｈ２８１１２ａ，Ｈ２９１１２ａ，Ｈ３０１１２ａから遊技盤Ｈ１３への遊技球の送球を安定させることができる。

【４３３１】

なお、ベース板Ｈ６０に凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１を直接凹設するものではなく、ベース板Ｈ６０に別途配設したベース部材に凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１を形成するものであっても良い。

【４３３２】

上記第３０実施形態では、凹部Ｈ８２１ａ１と第２凹部Ｈ２３８７１との一部が前後方向に重なって形成される場合について説明したが、凹部Ｈ８２１ａ１と第２凹部Ｈ２３８７１とが遊技球の発射方向において互い違いに形成されていても良い。この場合には、凹部Ｈ８２１ａ１により前後方向に暴れる力を抑えることができない場合に、第２凹部Ｈ２３８７１により継続して前後方向に暴れる力を抑えることができる。その結果、前後に暴れた状態で案内手段Ｈ８２０から遊技盤Ｈ１３に遊技球が送球されることを抑制でき、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に安定して遊技球を送球することができる。

【４３３３】

なお、上記第３１実施形態では、凸部Ｈ２４８２１ａ２が正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって湾曲状に凸設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、凸部Ｈ２４８２１ａ２に当接する遊技球に作用する反力に上下方向の力成分を付与できるものであれば、例えば、凸部Ｈ２４８１ａ２は、発射方向と直交する方向における断面が略三角形状に形成されていても良い。

【４３３４】

上記第８実施形態、第３３実施形態から第３７実施形態では、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１が、遊技球の半径よりも大きい半径の湾曲形状に凹設される場合について説明したが、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１が遊技球の半径よりも小さい半径の湾曲形状に形成され、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１の内側に遊技球が受け入れる場合に、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１の下端部または上端部に遊技球を当接させるものであっても良い。

【４３３５】

また、上記第８実施形態、第３３実施形態から第３７実施形態では、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１が、遊技球の一部を受け入れ可能な大きさに凹設される場合について説明したが、遊技球の全部を受け入れ可能な大きさに凹設されても良い。

【４３３６】

上記第８実施形態、第３１実施形態から第４１実施形態では、遊技球の転動面となる発射レールＨ１１２ａ１がＶ字状に形成される場合について説明したが、発射レールＨ１１２ａ１の転動面に第８実施形態、第３１実施形態から第４１実施形態における凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１又は凸部Ｈ２４８２１ａ２，Ｈ３１８２１ａ２，Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２を形成して、遊技球が転動面に形成された凹部または凸部によって所定の軌跡で送球されるように構成されても良い。

【４３３７】

上記第８実施形態、第３１実施形態から第４１実施形態において、内枠Ｈ１２に対する遊技盤Ｈ１３の配置状態により、それぞれの球発射ユニットＨ１１２ａ，Ｈ２４１１２ａ，Ｈ２５１１２ａ，Ｈ２６１１２ａ，Ｈ２７１１２ａ，Ｈ２８１１２ａ，Ｈ２９１１２ａ，Ｈ３０１１２ａ，Ｈ３１１１２ａ，Ｈ３２１１２ａ，Ｈ３３１１２ａ，Ｈ３４１１２ａを取り換え可能に構成しても良い。これによれば、各パチンコ機Ｈ１０の遊技盤Ｈ１３の

配設態様に合わせて球発射ユニットＨ１１２ａ，Ｈ２４１１２ａ，Ｈ２５１１２ａ，Ｈ２６１１２ａ，Ｈ２７１１２ａ，Ｈ２８１１２ａ，Ｈ２９１１２ａ，Ｈ３０１１２ａ，Ｈ３１１１２ａ，Ｈ３２１１２ａ，Ｈ３３１１２ａ，Ｈ３４１１２ａを配設するので、パチンコ機Ｈ１０毎による遊技球の発射のばらつきを抑えることができる。

【４３３８】

また、上記第８実施形態、第３１実施形態から第４１実施形態において、第１案内部材Ｈ８２１，Ｈ２４８２１，Ｈ２５８２１，Ｈ２６８２１，Ｈ２７８２１，Ｈ２８８２１，Ｈ２９８２１，Ｈ３０８２１，Ｈ３１８２１，Ｈ３２８２１，Ｈ３３８２１のベース部材Ｈ８１０に対する配置を調整可能に形成しても良い。例えば、第１案内部材Ｈ８２１，Ｈ２４８２１，Ｈ２５８２１，Ｈ２６８２１，Ｈ２７８２１，Ｈ２８８２１，Ｈ２９８２１，Ｈ３０８２１，Ｈ３１８２１，Ｈ３２８２１，Ｈ３３８２１の螺子による締結部を長孔に形成して、ベース部材Ｈ８１０に対する配設位置を調整可能に形成されるものであっても良い。これによれば、遊技盤Ｈ１３への遊技球の送球状態に応じて、第１案内部材Ｈ８２１，Ｈ２４８２１，Ｈ２５８２１，Ｈ２６８２１，Ｈ２７８２１，Ｈ２８８２１，Ｈ２９８２１，Ｈ３０８２１，Ｈ３１８２１，Ｈ３２８２１，Ｈ３３８２１の配置を変更して、遊技盤Ｈ１３への遊技球の発射強度を調整することができる。

【４３３９】

上記第３２実施形態では、凹部Ｈ２５８２１ａ１の溝幅に対して凹部Ｈ２５８２１ａ１の凹設深さが十分に深く形成されており、凹部Ｈ２５８２１ａ１に遊技球を受け入れた際に、上端および下端の２点が遊技球に当接可能に形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、凹部Ｈ２５８２１ａ１に遊技球を受け入れた際に、凹部Ｈ２５８２１ａ１の下端と凹設底面との２点が当接するように、凹部Ｈ２５８２１ａ１の溝幅および凹設深さを設定しても良い。

【４３４０】

上記第８実施形態、及び、第２４～第３８実施形態では、発射手段Ｈ８３０により発射される遊技球の流路における球発射ユニットＨ１１２ａ，Ｈ２３１１２ａ，Ｈ２５１１２ａの背面部Ｈ８２１ａ，Ｈ２４８２１ａ，Ｈ２５８２１ａ，Ｈ２７８２１ａ，Ｈ２９８２１ａ，Ｈ３０８２１ａ，Ｈ３１８２１ａにのみ凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１が形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１は、発射レールＨ１１２ａ１及び転動部Ｈ８２１ｂを転動した後の遊技盤Ｈ１３に凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１が形成されていても良い。なお、第３１実施形態および第３８実施形態から第４１実施形態における凸部Ｈ２４８２１ａ２，Ｈ３１８２１ａ２，Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２においても同様である。

【４３４１】

例えば、遊技盤Ｈ１３の遊技領域へ送球される遊技球を案内する内レールＨ６１及び外レールＨ６２の間の送球領域に凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１を凹設して、遊技領域に流入する手前で前後方向における遊技球の暴れを抑制するようにしても良い。即ち、所定の領域に送球される手前の位置に凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１を凹設して、所定の領域における遊技球の送球を安定させるようにしても良い。

【４３４２】

上記第３６実施形態では、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部を境界にして発射方向側の凹部Ｈ２９８２１ａ１が正面視において発射方向に対し下降傾斜して形成され、発射方向と反対側の凹部Ｈ２９８２１ａ１が正面視において発射方向に対し上昇傾斜して形成される場合について説明したが、発射方向側の凹部Ｈ２９８２１ａ１が正面視において発射方向に対し上昇傾斜して形成され、発射方向と反対側の凹部Ｈ２９８

２１ａ１が正面視において発射方向に対し下降傾斜して形成されても良い。
【４３４３】
上記第３７実施形態では、凹部Ｈ３０８２１ａ１が発射方向に対して下降傾斜して形成される場合について説明したが、上昇傾斜して形成されるものであっても良い。この場合には、凹部Ｈ３０８２１ａ１に受け入れた遊技球を発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部から上方に離間させる方向に送球することができるので、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部の段差で遊技球が上下方向に暴れることを抑制できる。
【４３４４】
また、上記第３６実施形態および第３７実施形態では、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部の上方側に凹部Ｈ２９８２１ａ１、Ｈ３０８２１ａ１が形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、他の連結部や送球経路の分岐点などに凹部Ｈ２９８２１ａ１、Ｈ３０８２１ａ１を形成して、凹部Ｈ２９８２１ａ１、Ｈ３０８２１ａ１に遊技球を受け入れることにより遊技球を所定の方向に流下しやすくしても良い。
【４３４５】
上記第３９実施形態から第４１実施形態では、凸部Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２がそれぞれ正面視略矩形状、正面視略三角形状に形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、正面視略円形や半円形状に形成されても良い。
【４３４６】
また、上記第３９実施形態から第４１実施形態では、背面側の凸部Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２と、正面側の第２凸部Ｈ３２８７１とが発射手段Ｈ８３０による遊技球の発射方向に異なる位置（互い違い）に形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、背面側の凸部Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２と、正面側の第２凸部Ｈ３２８７１と正面視において重なる位置に配置されて良い。この場合、それら背面側の凸部Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２と、正面側の第２凸部Ｈ３２８７１との対向間が遊技球の直径よりも若干大きい形状に形成される。
【４３４７】
さらに、上記第３９実施形態から第４１実施形態では、背面側の凸部Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２と、正面側の第２凸部Ｈ３２８７１とが送球経路の内側に向かって突設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第８実施形態における凹部Ｈ８２１ａ１のように凹設して形成されていても良い。
【４３４８】
上記第３４実施形態および第３５実施形態では、球発射ユニットＨ２７１１２ａ，Ｈ２８１１２ａの案内手段Ｈ２７８２０，Ｈ２８８２０が遊技盤Ｈ２７０１３，Ｈ２８０１３に配設され、その案内手段Ｈ２７８２０，Ｈ２８８２０により発射手段Ｈ８３０により発射された球を案内する場合について説明したが、案内手段Ｈ２７８２０は、発射手段Ｈ８３０から離れた位置に形成されても良い。
【４３４９】
例えば、球発射ユニットＨ２７１１２ａ，Ｈ２８１１２ａから発射され、転動部Ｈ８２１ｂの端部から外レールＨ６２まで遊技球が発射される領域の一部に球発射ユニットＨ２７１１２ａ，Ｈ２８１１２ａに配設される案内手段Ｈ２７８２０，Ｈ２８８２０とは別の案内手段Ｈ２７８２０，Ｈ２８８２０を配設しても良い。この場合には、転動部Ｈ８２１ｂの端部から外レールＨ６２まで飛んで送球される遊技球の姿勢（送球方向）を案内手段Ｈ２７８２０により正すことができる。その結果、遊技球が外レールＨ６２まで飛ばず、転動部Ｈ８２１ｂと外レールＨ６２との間から落下して、ファール球受口部Ｈ１４６に回収されることを抑制できる。
【４３５０】

上記第３４実施形態から上記第３８実施形態では、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部の上方に凹部Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１及び凸部Ｈ３１８２１ａ２が形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部に対して遊技球の送球方向にずれた位置に凹部Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１及び凸部Ｈ３１８２１ａ２を形成しても良い。

【４３５１】

これによれば、発射レールＨ１１２ａ１と転動部Ｈ８２１ｂとの連結部に形成される段差により遊技球が暴れた場合に、遊技球が発射方向に送球されつつ最大の暴れ量となる位置で遊技球を凹部Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１に受け入れる又は、凸部Ｈ３１８２１ａ２に当接させることができる。

【４３５２】

これにより、送球に影響のない（遊技領域までの安定して送球される）程度の暴れ量で送球される遊技球は、凹部Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１に受け入れず、又は、凸部Ｈ３１８２１ａ２に当接させず送球させることができる一方、送球に影響がある（遊技領域までの送球が不安定となる）暴れ量の大きい状態で送球される遊技球は、凹部Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１に受け入れ、又は、凸部Ｈ３１８２１ａ２に当接させて送球することで、遊技領域までの送球を安定させることができる。従って、遊技領域までの送球を安定して行える遊技球まで、凹部Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１に受け入れられ、又は、凸部Ｈ３１８２１ａ２に当接されて、遊技球により遊技領域の到達位置が変わることを抑制できる。

【４３５３】

上記第３９実施形態では、凸部Ｈ３２８２１ａ２と第２凸部Ｈ３２８７２とは、遊技球の発射方向に沿って遊技球の半径分離れて形成される場合について説明したが、凸部Ｈ３２８２１ａ２と第２凸部Ｈ３２８７２とが遊技球の発射方向に沿って遊技球の直径分離れて形成されても良い。また、凸部Ｈ３２８２１ａ２と第２凸部Ｈ３２８７２との発射方向において離れる距離が遊技球の発射方向に沿って短く又は長く設定されるものであっても良い。

【４３５４】

例えば、凸部Ｈ３２８２１ａ２と第２凸部Ｈ３２８７２との発射方向において離れる距離が長く設定される場合には、発射当初における遊技球の暴れを抑制しやすくできると共に、転動部Ｈ８２１ｂを遊技球が送球される位置で遊技球が凸部Ｈ３２８２１ａ２と第２凸部Ｈ３２８７２に当接する回数を少なくして遊技球の送球速度が遅くなることを抑制できる。その結果、遊技盤Ｈ１３（図１２４参照）への遊技球の送球を安定させることができる。

【４３５５】

上記第３９実施形態から第４１実施形態では、凸部Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２が突出して形成される場合について説明したが、凹設されるものであっても良い。例えば、第８実施形態、第３４実施形態から第３９実施形態における凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１であっても良い。

【４３５６】

また、第３６実施形態および第３７実施形態における凹部Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１のように遊技球の発射（送球）方向に対して非平行に形成されるものであっても良い。

【４３５７】

上記第８実施形態、第３０実施形態から第３９実施形態では、それぞれ別形状に形成される凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１及び凸部Ｈ２４８２１ａ２，Ｈ３１８２１ａ２，Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２を例に説明したが、それぞれ凹部または凸部を組み合わせ

て構成されるものであっても良い。例えば、遊技球の発射（送球）方向に対して平行に形成される凹部Ｈ８２１ａ１と、遊技球の発射（送球）方向に対して平行に形成される凹部Ｈ２９８２１ａ１とを組み合わせて凹部を構成しても良い。

【４３５８】

上記第８実施形態、第３０実施形態から第３９実施形態では、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１及び凸部Ｈ２４８２１ａ２，Ｈ３１８２１ａ２，Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２を例に説明したが、凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１及び凸部Ｈ２４８２１ａ２，Ｈ３１８２１ａ２，Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２に加えて、或いは、変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、例えば、遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合（凹部Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１ａ１及び凸部Ｈ２４８２１ａ２，Ｈ３１８２１ａ２，Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２）と同様の効果が得られる。

【４３５９】

上記第８実施形態、第３０実施形態から第３９実施形態では、背面部Ｈ８２１ａ，Ｈ２４８２１ａ，Ｈ２５８２１ａ，Ｈ２７８２１ａ，Ｈ２９８２１ａ，Ｈ３０８２１ａ，Ｈ３１８２１ａ，Ｈ３２８２１ａ，Ｈ３３８２１ａ，Ｈ３４８２１ａを例に説明したが、背面部Ｈ８２１ａ，Ｈ２４８２１ａ，Ｈ２５８２１ａ，Ｈ２７８２１ａ，Ｈ２９８２１ａ，Ｈ３０８２１ａ，Ｈ３１８２１ａ，Ｈ３２８２１ａ，Ｈ３３８２１ａ，Ｈ３４８２１ａに加えて、或いは、変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、例えば、遊技球が通過可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。遊技球が通過可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合（背面部Ｈ８２１ａ，Ｈ２４８２１ａ，Ｈ２５８２１ａ，Ｈ２７８２１ａ，Ｈ２９８２１ａ，Ｈ３０８２１ａ，Ｈ３１８２１ａ，Ｈ３２８２１ａ，Ｈ３３８２１ａ，Ｈ３４８２１ａ）と同様の効果が得られる。

【４３６０】

上記第８実施形態、第３０実施形態から第３９実施形態では、発射手段Ｈ８３０を例に説明したが、発射手段Ｈ８３０に加えて、或いは、発射手段Ｈ８３０に変えて、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、例えば、遊技球を送球可能に構成される手段なら任意の手段が採用可能である。遊技球を送球可能に構成される手段であれば、上述した実施形態の場合（発射手段Ｈ８３０）と同様の効果が得られる。

【４３６１】

上記第８実施形態から第１３実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０の回転軸となる軸ＧＯが前後方向に向いた状態で配設される場合について説明したが、軸ＧＯを左右方向や上下方向に向けた状態で第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０を配置しても良い。

【４３６２】

上記第８実施形態から第１３実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０が正面視においてセンターフレームＨ８６の内側に配置される場合について説明したが、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０をセンターフレームＨ８６を介して視認可能となる位置や、正面視においてセンターフレームＨ８６の外側に配置して、遊技領域の一部に第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０が配置されるものであっても良い。

【４３６３】

上記第８実施形態から第１３実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０が回転する演出を遊技者に視認させる場合につ

いて説明したが、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０を円環形成ユニットＧ７００に当接可能に構成して、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０を円環形成ユニットＧ７００に当接させて円環形成ユニットＧ７００を変位させる演出を遊技者に視認させるものであっても良い。即ち、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０を他の部材に当接させて、他の部材を変位させるように構成しても良い。

【４３６４】

上記第８実施形態から第１３実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０が軸ＧＯを中心に右方向に回転する際に、第２装飾ユニットＧ４８０が軸ＧＯを中心に左方向に回転する場合について説明したが、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０の軸ＧＯを中心とする回転方向は左右のどちらであっても良い。

【４３６５】

上記第８実施形態から第１３実施形態では、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０の変位ユニットＧ４２６，Ｇ５４２６が光を非透過の装飾がされる場合について説明したが、変位ユニットＧ４２６，Ｇ５４２６を光を透過可能な樹脂材料から形成して、入射する光を透過可能に構成して、背面側に配設される液晶等の表示を変位ユニットＧ４２６，Ｇ５４２６を介して視認可能に構成しても良い。

【４３６６】

本発明を上記各実施形態とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される）として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の領域に球を入賞させることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるパチンコ機として実施してもよい。また、Ｖゾーン等の特別領域を有する入賞装置を有し、その特別領域に球を入賞させることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機に実施してもよい。更に、パチンコ機以外にも、アレパチ、雀球、スロットマシン、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機などの各種遊技機として実施するようにしても良い。

【４３６７】

なお、スロットマシンは、例えばコインを投入して図柄有効ラインを決定させた状態で操作レバーを操作することにより図柄が変動され、ストップボタンを操作することにより図柄が停止されて確定される周知のものである。従って、スロットマシンの基本概念としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を変動表示した後に識別情報を確定表示する表示装置を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の変動表示が停止して確定表示され、その停止時の識別情報の組合せが特定のものであることを必要条件として、遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるスロットマシン」となり、この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【４３６８】

また、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する表示装置を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく所定量の球の投入の後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技が発生させられ、遊技者には、下部の受皿に多量の球が払い出されるものである。かかる遊技機をスロットマシンに代えて使用す

れば、遊技ホールでは球のみを遊技価値として取り扱うことができるため、パチンコ機とスロットマシンとが混在している現在の遊技ホールにおいてみられる、遊技価値たるメダルと球との別個の取扱による設備上の負担や遊技機設置個所の制約といった問題を解消し得る。

【４３６９】

以下に、本発明の遊技機に加えて上述した実施形態に含まれる各種発明の概念を示す。

【４３７０】

＜回転中に外形が変化する変位手段＞

所定の回転軸を中心に傾倒可能に構成される変位手段を有する演出手段を備え、前記演出手段は、前記変位手段の傾倒中に、少なくとも前記回転軸から離れる方向に延びるような外形の変化を視認させることが可能に構成されることを特徴とする遊技機Ａ１。

【４３７１】

パチンコ機等の遊技機において、第１軸線を中心として回転動作可能に構成される変位手段と、その変位手段を動作させる駆動手段と、を備え、変位手段が終端位置において付勢力を受けて制動されるよう構成される遊技機がある（例えば、特開２０１４－１４４２８３号公報を参照）。

【４３７２】

しかし、上述した従来の遊技機では、変位手段が勢いよく傾倒するように演出したとしても、傾倒時に変位手段の外形が変化することはないので、迫力に欠け、演出効果の面で改善の余地があるという問題点があった。

【４３７３】

これに対し、遊技機Ａ１によれば、演出手段が、変位手段の傾倒中に外形を変化可能に構成されることから、変位手段が勢いよく傾倒している最中に外形を変化させるという迫力ある演出を実行することができ、演出効果を高めることができる。

【４３７４】

遊技機Ａ１において、前記変位手段の傾倒中に、傾倒中の前記変位手段の前記外形を維持させる第１状態から傾倒中の前記変位手段の前記外形を変化させる第２状態へ移行可能に構成されることを特徴とする遊技機Ａ２。

【４３７５】

遊技機Ａ２によれば、遊技機Ａ１の奏する効果に加え、変位手段の傾倒動作が進むほど、外形が維持される第１状態から外形が変化する第２状態へ移行されるので、傾倒し始めにおいて必要となる力を抑えることができ、傾倒動作をスムーズに開始し易くすることができる。

【４３７６】

遊技機Ａ２において、前記変位手段は、傾倒を開始する側の変位終端位置において前記第１状態となるように構成されることを特徴とする遊技機Ａ３。

【４３７７】

遊技機Ａ３によれば、遊技機Ａ２の奏する効果に加え、傾倒開始時に外形を変化させるための力を不要とできるので、傾倒開始時に必要となる力を傾倒に必要な力のみにできることから、必要とされる力を低減することができる。

【４３７８】

遊技機Ａ２又はＡ３おいて、前記第１状態から前記第２状態へ移行する方向で前記変位手段が傾倒する過程で、前記変位手段の傾倒角度に対する前記外形の変化の度合いが増大する区間を備えることを特徴とする遊技機Ａ４。

【４３７９】

遊技機Ａ４によれば、遊技機Ａ２又はＡ３の奏する効果に加え、第２状態における変位手段の傾倒中における外形の変化が、第１状態で配置されていた側から離れる程に（傾倒する程に）大きくなるので、変位手段の傾倒の度合いと、変位手段の外形の変化の度合いとを対応付けることができる。

【４３８０】

遊技機Ａ１からＡ４のいずれかにおいて、前記変位手段は、前記所定の回転軸を中心に傾倒可能に支持される軸側手段と、その軸側手段に対して相対変位可能に構成される構成手段と、を備え、第１姿勢から傾倒することで第２姿勢となるよう構成され、前記第１姿勢よりも前記第２姿勢の方が、前記構成手段と前記所定の回転軸との距離が長くなるよう構成されることを特徴とする遊技機Ａ５。

【４３８１】

遊技機Ａ５によれば、遊技機Ａ１からＡ４のいずれかの奏する効果に加え、傾倒の方向に対応して、構成手段と所定の回転軸との距離の変化の方向が一方向に定められることで、傾倒の角度が大きくなるほど効果の度合いを大きくさせることができる。

【４３８２】

即ち、変位手段が傾倒するほど、構成手段が所定の回転軸から離れていくことになるので、変位手段の重心位置を傾倒先端側に移動させることができ、傾倒の勢いを変位手段の自重により補助することができるので、勢いよい傾倒動作を実現できることから、演出効果を高めることができる。

【４３８３】

更に、変位手段が傾倒の逆方向（起き上がり方向）に変位するほど、構成手段が所定の回転軸に近づいていくことになるので、変位手段の重心位置を回転軸側に移動させることができ、起き上がり動作に必要となる力を減少させることができる。

【４３８４】

遊技機Ａ５において、前記第１姿勢を終端姿勢とする所定角度の傾倒に対する前記構成手段と前記所定の回転軸との距離の変化の度合いよりも、前記第２姿勢を終端姿勢とする前記所定角度の傾倒に対する前記構成手段と前記所定の回転軸との距離の変化の度合いを大きくさせる度合い変化手段を備えることを特徴とする遊技機Ａ６。

【４３８５】

遊技機Ａ６によれば、遊技機Ａ５の奏する効果に加え、第２姿勢付近において、小さな傾倒角度であっても構成手段の所定の回転軸との距離を大きく変化させることができることから、所定の回転軸に対する変位手段の配置を大きくは変えずに、変位手段の外形を大きく変化させるという演出を行うことができる。

【４３８６】

更に、第２姿勢から第１姿勢へ起き上がる変位（傾倒とは逆方向の変位）を変位手段に生じさせる場合に、変位の開始後において構成手段と所定の回転軸との距離を大きく変化させる（短くする）ことができるので、変位手段の重心を早期に所定の回転軸側に寄せることができ、起き上がる変位に必要となる力を低減することができる。

【４３８７】

遊技機Ａ５又はＡ６において、前記構成手段は、前記所定の回動軸を中心とする円の径方向に変位可能な第１構成手段と、前記径方向と直交する方向に変位可能な第２構成手段と、を備えることを特徴とする遊技機Ａ７。

【４３８８】

遊技機Ａ７によれば、遊技機Ａ５又はＡ６の奏する効果に加え、第１姿勢と第２姿勢とで、変位手段の外形を更に異ならせることができる。

【４３８９】

遊技機Ａ７において、前記変位手段の傾倒中において、前記第１構成手段の変位開始から遅れて、前記第２構成手段の変位が開始されることを特徴とする遊技機Ａ８。

【４３９０】

遊技機Ａ８によれば、遊技機Ａ７の奏する効果に加え、第１構成手段の変位と第２構成手段の変位とが同時に開始される場合に比較して、必要とされる力を低減させることができる。

【４３９１】

遊技機Ａ７又はＡ８において、前記第２構成手段は、前記軸側手段に配設されることを特徴とする遊技機Ａ９。

【４３９２】
遊技機Ａ９によれば、遊技機Ａ７又はＡ８の奏する効果に加え、所定の回転軸側が膨らんだ外観形状で、変位手段を視認させることができる。
【４３９３】
遊技機Ａ７又はＡ８において、前記第２構成手段は、前記構成手段に配設されることを特徴とする遊技機Ａ１０。
【４３９４】
遊技機Ａ１０によれば、遊技機Ａ７又はＡ８の奏する効果に加え、構成手段側の広い外観形状で、変位手段を視認させることができる。
【４３９５】
＜回転軸から離れた位置で駆動力伝達＞
所定の回転軸を中心に傾倒可能に構成される変位手段と、その変位手段を変位させる駆動手段と、を備え、前記所定の回転軸よりも前記変位手段の傾倒先端側に配置される配置部を介して前記駆動手段の駆動力が前記変位手段に伝達されるよう構成されることを特徴とする遊技機Ｂ１。
【４３９６】
パチンコ機等の遊技機において、第１軸線を中心として回転動作可能に構成される変位手段と、その変位手段を動作させる駆動手段と、を備え、変位手段が終端位置において付勢力を受けて制動されるよう構成される遊技機がある（例えば、特開２０１４－１４４２８３号公報を参照）。
【４３９７】
しかし、上述した従来の遊技機では、第１軸線の側における変位手段の構造が大型化し易く、第１軸線を配置空間の隅に寄せて変位手段を配置することが困難となるという問題点があった。即ち、変位手段の配置に改善の余地があるという問題点があった。
【４３９８】
これに対し、遊技機Ｂ１によれば、駆動手段の駆動力が、変位手段の傾倒先端側に配置される配置部を介して伝達されることから、第１軸線の側における変位手段の構造を簡素化することができ、第１軸線を配置空間の隅に寄せて変位手段を配置することが容易となる。これにより、変位手段の配置を改善することができる。
【４３９９】
遊技機Ｂ１において、前記変位手段の傾倒中において、前記駆動手段による駆動力の方向を所定方向に維持しながら、前記配置部の変位方向を変化可能に構成されることを特徴とする遊技機Ｂ２。
【４４００】
遊技機Ｂ２によれば、遊技機Ｂ１の奏する効果に加え、駆動手段の駆動力の方向を維持している状態で、配置部の変位方向を変化可能に構成されるので、駆動手段の動作が単調であっても、配置部の変位を複雑にすることができる。
【４４０１】
遊技機Ｂ１又はＢ２において、前記変位手段が傾倒側の変位終端位置に近づくほど、前記配置部に与えられる駆動力の方向が、前記所定の回転軸と前記配置部とを通る直線方向に近づくことを特徴とする遊技機Ｂ３。
【４４０２】
遊技機Ｂ３によれば、遊技機Ｂ１又はＢ２の奏する効果に加え、傾倒中に配置部に与えられる駆動力の方向を変化させることにより、変位手段が傾倒側の変位終端位置に近づく場合に、傾倒方向に生じる荷重が過大となることを避けることができる。
【４４０３】
これにより、変位手段の傾倒が高速で生じる場合であっても、変位手段が傾倒側の変位終端位置に到達する際の衝撃を和らげ易くすることができるので、変位手段の耐久性を向上することができる。また、衝撃吸収用の緩衝材を不要とできる。
【４４０４】

遊技機Ｂ１からＢ３のいずれかにおいて、前記駆動手段の駆動力の方向は、前記変位手段に対して所定の直線方向の負荷を生じるよう構成されることを特徴とする遊技機Ｂ４。

【４４０５】

遊技機Ｂ４によれば、遊技機Ｂ１からＢ３のいずれかの奏する効果に加え、駆動力を安定させ易くすることができる。また、駆動力のうち、変位手段の傾倒方向へ向く成分と変位手段の傾倒方向に対して直交する方向へ向く成分との比は、変位手段の位置（姿勢）に対応して定まるので、変位手段の傾倒方向への負荷の大小を、変位手段の位置（姿勢）に対応させることができる。

【４４０６】

遊技機Ｂ４において、前記所定の直線方向と、前記配置部に当接される前記変位手段の当接部の移動方向のうちの前記所定の回転軸を中心とする回転方向成分との間の角度が大きくなるほど、前記配置部と、前記所定の回転軸との間の距離が長くなるよう構成されることを特徴とする遊技機Ｂ５。

【４４０７】

遊技機Ｂ５によれば、遊技機Ｂ４の奏する効果に加え、駆動力の方向と傾倒する変位手段の変位方向との間の角度が大きいという、傾倒方向の負荷を伝達し難い状況であっても、駆動力が伝達される配置部と所定の回転軸との間の距離を長くすることにより、変位手段の傾倒のための駆動力が不足することを回避し易くすることができる。

【４４０８】

即ち、変位手段の傾倒範囲において、傾倒に必要となる駆動力が局所的に増減することを抑制することにより、必要となる駆動力の変化幅を小さく抑え、駆動手段の選定を容易とすることができる。

【４４０９】

遊技機Ｂ４又はＢ５において、前記変位手段は、表示装置の前方位置と、表示装置の外方位置とで変位可能とされ、前記前方位置における前記所定の回転軸を中心とする前記配置部の移動方向と前記所定の直線方向との間の角度は、前記外方位置における前記所定の回転軸を中心とする前記配置部の移動方向と前記所定の直線方向との間の角度よりも大きいことを特徴とする遊技機Ｂ６。

【４４１０】

遊技機Ｂ６によれば、遊技機Ｂ４又はＢ５の奏する効果に加え、前方位置における回転方向の勢いを低減させることができるので、回転動作の停止を狙いの位置でさせ易い。そのため、回転途中では高速で回転動作させる一方、前方位置では回転をスムーズに止めるという動作を、容易に行うことができる。

【４４１１】

遊技機Ｂ６において、前記外方位置から前記前方位置へ向かう程、前記所定の回転軸を中心とする前記配置部の移動方向と前記所定の直線方向との間の角度が大きくなることを特徴とする遊技機Ｂ７。

【４４１２】

遊技機Ｂ７によれば、遊技機Ｂ６の奏する効果に加え、回転動作を段階的に減速させることができる。

【４４１３】

遊技機Ｂ１からＢ７のいずれかにおいて、前記変位手段に接続させる電気配線は、前記所定の回転軸側から接続されることを特徴とする遊技機Ｂ８。

【４４１４】

遊技機Ｂ８によれば、遊技機Ｂ１からＢ７のいずれかの奏する効果に加え、駆動手段の配置を傾倒先端側にずらしたことにより空いたスペースを、電気配線の配置スペースとして有効利用することができる。

【４４１５】

遊技機Ｂ１からＢ８のいずれかにおいて、前記配置部は、第２の所定の直線方向で移動されることで前記所定の回転軸との距離が変化可能に構成され、前記配置部を通る前記第

２の所定の直線方向は、前記所定の回転軸を通らないように構成されることを特徴とする遊技機Ｂ９。
【４４１６】
遊技機Ｂ９によれば、遊技機Ｂ１からＢ８のいずれかの奏する効果に加え、配置部を第２の所定の直線方向で移動させるための力を、変位手段を所定の回転軸を中心に回転動作させるためにも利用することができる。
【４４１７】
遊技機Ｂ１からＢ９のいずれかにおいて、前記駆動手段の駆動力を伝達可能な無端ベルトを備えることを特徴とする遊技機Ｂ１０。
【４４１８】
遊技機Ｂ１０によれば、遊技機Ｂ１からＢ９のいずれかの奏する効果に加え、変位手段の変位幅を大きく確保し易くすることができる。
【４４１９】
＜抵抗感を範囲ごとに変化させる＞
変位可能な変位手段と、その変位手段を変位させる駆動手段と、を備える遊技機において、変位中の前記変位手段が受ける力の態様を、前記変位手段の位置に対応して変化させる態様変化手段を備えることを特徴とする遊技機Ｃ１。
【４４２０】
パチンコ機等の遊技機において、第１軸線を中心として回転動作可能に構成される変位手段と、その変位手段を動作させる駆動手段と、を備え、変位手段が終端位置において付勢力を受けて制動されるよう構成される遊技機がある（例えば、特開２０１４－１４４２８３号公報を参照）。
【４４２１】
しかし、上述した従来の遊技機では、変位中の変位手段が受ける力について何ら考慮されておらず、変位途中において駆動手段に与えられる負荷が急激に変化する等する可能性があり、改良の余地があるという問題点があった。即ち、変位手段の変位について改良の余地があるという問題点があった。
【４４２２】
これに対し、遊技機Ｃ１によれば、態様変化手段により、変位中の変位手段が受ける力の態様を、変位手段の位置に対応して変化させることができることから、変位途中において変位手段に与えられる力を適切に調整することができ、駆動手段に与えられる負荷が急激に変化することを防止できる。これにより、変位手段の変位を改良することができる。
【４４２３】
遊技機Ｃ１において、前記変位手段は、第１範囲と、その第１範囲と異なる第２範囲とを変位可能であって、前記態様変化手段により前記変位手段が受ける力は、前記第１範囲に配置される場合よりも、前記変位手段が前記第２範囲に配置される場合の方が大きくなることを特徴とする遊技機Ｃ２。
【４４２４】
遊技機Ｃ２によれば、遊技機Ｃ１の奏する効果に加え、変位手段が受ける力の態様を範囲ごとに変化させることができる。
【４４２５】
遊技機Ｃ２において、前記第１範囲または前記第２範囲は、前記変位手段の少なくとも一方の変位終端を含む範囲とされることを特徴とする遊技機Ｃ３。
【４４２６】
遊技機Ｃ３によれば、遊技機Ｃ２の奏する効果に加え、変位終端において変位手段が受ける力が変化することを防止することができる。
【４４２７】
遊技機Ｃ３において、前記第１範囲は、前記変位手段の前記変位終端を含むことを特徴とする遊技機Ｃ４。
【４４２８】

遊技機Ｃ４によれば、遊技機Ｃ３の奏する効果に加え、変位手段の変位終端からの変位に要する駆動力を低減させることができる。

【４４２９】

遊技機Ｃ４において、前記態様変化手段は、前記変位手段に対して相対変位可能な相対変位手段を備え、前記第２範囲において相対変位する前記相対変位手段の個数が、前記第１範囲において相対変位する前記相対変位手段の個数よりも多くされることを特徴とする遊技機Ｃ５。

【４４３０】

遊技機Ｃ５によれば、遊技機Ｃ４の奏する効果に加え、相対変位する相対変位手段の個数を変化させることで演出効果を高めながら、態様変化手段から生じる力の増減を生じさせることができる。

【４４３１】

遊技機Ｃ５において、前記相対変位手段は、第１の態様で相対変位する第１相対変位手段と、第２の態様で相対変位する第２相対変位手段と、を備え、前記変位手段が一方の変位終端から変位開始する場合に、前記第１相対変位手段の相対変位から生じることを特徴とする遊技機Ｃ６。

【４４３２】

遊技機Ｃ６によれば、遊技機Ｃ５の奏する効果に加え、複数態様で相対変位する相対変位手段が同時に相対変位を開始するのではなく、相対変位のタイミングがずらされることにより、変位手段の変位を安定させることができる。

【４４３３】

遊技機Ｃ６において、前記変位手段が他方の変位終端から変位開始する場合に、前記第２相対変位手段の相対変位から生じることを特徴とする遊技機Ｃ７。

【４４３４】

遊技機Ｃ７によれば、遊技機Ｃ６の奏する効果に加え、変位手段が変位を開始する終端ごとに、先に相対変位する相対変位手段を異ならせることで、演出効果の向上を図ることができる。

【４４３５】

遊技機Ｃ３において、前記第１範囲は、前記変位手段の少なくとも一方の変位終端を含むことを特徴とする遊技機Ｃ８。

【４４３６】

遊技機Ｃ８によれば、遊技機Ｃ３の奏する効果に加え、少なくとも一方の変位終端において、変位手段を減速させ易くすることができる。

【４４３７】

遊技機Ｃ８において、前記変位手段が受ける前記力は、所定の抵抗力であることを特徴とする遊技機Ｃ９。

【４４３８】

遊技機Ｃ９によれば、遊技機Ｃ８の奏する効果に加え、変位手段が受ける所定の抵抗力を変位終端で大きくし、変位途中で小さくするように構成することで、変位手段の変位の迅速化を図ることができる。

【４４３９】

遊技機Ｃ８又はＣ９において、前記第１範囲は、前記変位手段の両方の変位終端を含むことを特徴とする遊技機Ｃ１０。

【４４４０】

遊技機Ｃ１０によれば、遊技機Ｃ８又はＣ９の奏する効果に加え、両変位終端において変位手段を減速させ易くすることができるので、両変位方向において変位手段の変位の迅速化を図ることができる。

【４４４１】

遊技機Ｃ１０において、前記変位手段は一対で構成され、その一対の前記変位手段から前記駆動手段側に伝達される荷重は、前記両方の変位終端において同じとされることを特

徴とする遊技機Ｃ１１。
【４４４２】
遊技機Ｃ１１によれば、遊技機Ｃ１０の奏する効果に加え、両方の変位終端からの変位開始に要する駆動力を同じにすることができる。
【４４４３】
＜基板に位置合わせされる導光板に平行に光を照射＞
板状部材から構成される第１手段と、その第１手段の所定面側に配設される第１発光手段と、その第１発光手段の光を受光可能な板状の第１受光手段と、を備え、前記第１受光手段は、前記所定面と対向配置される側面が前記第１手段の前記所定面と当接されることを特徴とする遊技機Ｄ１。
【４４４４】
パチンコ機等の遊技機において、発光手段が配設される板状部材と、その板状部材の発光手段に対向配置され、発光手段の光が入射されるよう構成される板状部を有する受光手段と、を備える遊技機がある（例えば、特開２０１５－１９８６７５号公報を参照）。
【４４４５】
しかし、上述した従来の遊技機では、受光手段を位置合わせするための他の部材が必要であり、構造が複雑化するという問題点があった。即ち、受光手段の配置に関して改善の余地があるという問題点があった。
【４４４６】
これに対し、遊技機Ｄ１によれば、第１手段と第１受光手段との当接により第１受光手段の第１手段に対する位置合わせを行うことができるので、第１受光手段を位置合わせするための構造を簡素化することができる。即ち、受光手段の配置に関して改善することができる。
【４４４７】
遊技機Ｄ１において、前記第１手段の前記所定面側とは反対側の反対面側に配設される第２発光手段と、前記第２発光手段の光を受光可能な板状の第２受光手段と、を備え、前記第２受光手段は、前記反対面と対向配置される側面が前記反対面と当接されることを特徴とする遊技機Ｄ２。
【４４４８】
遊技機Ｄ２によれば、遊技機Ｄ１の奏する効果に加え、第２受光手段についても第１手段との当接により第１手段に対する位置合わせを行うことができるので、第１受光手段および第２受光手段を位置合わせするための構造を簡素化することができる。即ち、受光手段の配置に関して更に改善することができる。
【４４４９】
遊技機Ｄ２において、前記第１受光手段および前記第２受光手段は、前記第１手段に、所定の押圧手段からの押圧により固定可能とされることを特徴とする遊技機Ｄ３。
【４４５０】
遊技機Ｄ３によれば、遊技機Ｄ２の奏する効果に加え、押圧手段からの押圧により３部材を固定可能とされるので、複数部材を固定するための固定箇所を減らすことができ、製造工数を削減できる。
【４４５１】
遊技機Ｄ１からＤ３のいずれかにおいて、前記第１手段および前記第１受光手段を支持可能に構成される支持手段を備え、その支持手段は、前記第１手段に嵌合可能な第１突設部と、前記第１受光手段に嵌合可能な第２突設部と、を備えることを特徴とする遊技機Ｄ４。
【４４５２】
遊技機Ｄ４によれば、遊技機Ｄ１からＤ３のいずれかの奏する効果に加え、支持手段によって第１手段および第１受光手段を支持することで、第１手段の板面と平行な方向における第１手段と第１受光手段との位置ずれを防ぐことができる。
【４４５３】

なお、第２受光手段が配設される場合において、第２突設部が第２受光手段にも嵌合可能に構成するようにしても良い。この場合、第１手段の板面と平行な方向における第１受光手段と第２受光手段との位置ずれを防ぐことができる。

【４４５４】

遊技機Ｄ３又はＤ４において、前記第１手段の前記所定面側とは反対側の反対面側に配設される第２発光手段と、前記第２発光手段の光を受光可能な板状の第２受光手段と、を備え、前記第２受光手段は、前記反対面と対向配置される側面が前記反対面と当接され、前記第１手段は、前記第２突設部の外方に配置され、前記第１受光手段および前記第２受光手段は、前記第２突設部において所定の押圧手段により押圧され固定可能とされることを特徴とする遊技機Ｄ５。

【４４５５】

遊技機Ｄ５によれば、遊技機Ｄ３又はＤ４の奏する効果に加え、手段からの押圧力が第１手段の端部にかけられるようにすることができる。これにより、押圧力が過大になった場合でも、第１手段の端部が破損することで留めることができ、発光手段が配設される中央部側が破損することを避け易くすることができる。

【４４５６】

遊技機Ｄ５において、前記第１受光手段または前記第２受光手段は、第１手段と当接する当接部の形状が対応するように構成されることを特徴とする遊技機Ｄ６。

【４４５７】

遊技機Ｄ６によれば、遊技機Ｄ５の奏する効果に加え、所定の押圧手段からの押圧により第１受光手段を介して第１手段に力がかけられる部分と、第２受光手段を介して第１手段に力がかけられる部分とを対応させることができるので、第１手段にかけられる力の方向を面直方向にしやすく、表裏にかけられる力のバランスを良くすることができる。これにより、第１手段の面と傾斜する方向に力がかけられることによる第１手段の割れを防止することができる。

【４４５８】

遊技機Ｄ３からＤ６のいずれかにおいて、前記第１手段の前記所定面側とは反対側の反対面側に配設される第２発光手段と、前記第２発光手段の光を受光可能な板状の第２受光手段と、を備え、前記第２受光手段は、前記反対面と対向配置される側面が、前記反対面と当接され、前記第１発光手段は、前記第２発光手段に対応する位置に配置され、前記第２発光手段の照射方向に対して平行な方向に光を照射するよう構成されることを特徴とする遊技機Ｄ７。

【４４５９】

遊技機Ｄ７によれば、遊技機Ｄ３からＤ６のいずれかの奏する効果に加え、第１発光手段から第１受光手段に光が照射される位置と、第２発光手段から第２受光手段に光が照射される位置とを、対応させることができる。これにより、異なる発光部により照らされる位置を合わせることができるので、第１受光手段および第２受光手段の平面と直交する方向視における発光演出を良好とすることができる。

【４４６０】

遊技機Ｄ７において、前記第１発光手段は、複数の発光部を備え、それら複数の発光部からの光の光軸方向が互いに平行とされることを特徴とする遊技機Ｄ８。

【４４６１】

遊技機Ｄ８によれば、遊技機Ｄ７の奏する効果に加え、第１発光手段の光により第１手段を広範囲で均一に光らせることができる。

【４４６２】

遊技機Ｄ１からＤ８のいずれかにおいて、前記第１手段および前記第１発光手段を支持可能に構成される支持手段、を備え、前記第１受光手段は、前記第１手段が配設される側の反対側の被支持面が前記支持手段の支持面に支持されるよう構成され、前記被支持面または前記支持面は、複数の突起部を備え、その複数の突起部は、所定の発光手段からの光を受けて演出可能に構成されることを特徴とする遊技機Ｄ９。

【４４６３】
遊技機Ｄ９によれば、遊技機Ｄ１からＤ８のいずれかの奏する効果に加え、複数の突起部を、光を受けて演出する演出面と、押圧力を分割可能な構造面とで利用することができる。
【４４６４】
遊技機Ｄ９において、前記所定の発光手段は、前記第１発光手段に対する前記第１受光手段の反対側に配置されることを特徴とする遊技機Ｄ１０。
【４４６５】
遊技機Ｄ１０によれば、遊技機Ｄ９の奏する効果に加え、所定の発光手段からの光と第１発光手段からの光とが干渉することを避けることができる。
【４４６６】
遊技機Ｄ１からＤ１０のいずれかにおいて、前記第１手段は、複数枚の板状部材を備えることを特徴とする遊技機Ｄ１１。
【４４６７】
遊技機Ｄ１１によれば、遊技機Ｄ１からＤ１０のいずれかの奏する効果に加え、第１受光手段へ光を照射する第１発光手段の配設箇所を増やすことができるので、第１受光手段の大きさの設計自由度を向上させることができる。
【４４６８】
遊技機Ｄ１からＤ１１のいずれかにおいて、前記第１受光手段の受光側端部は、前記第１発光手段の照射方向側の前記第１手段の端部よりも前記発光手段側に配置されることを特徴とする遊技機Ｄ１２。
【４４６９】
遊技機Ｄ１２によれば、遊技機Ｄ１からＤ１１のいずれかの奏する効果に加え、第１手段を遮蔽部材として利用することで、第１受光手段に受光される前の光が漏れることを防止することができる。
【４４７０】
＜光を通す方向を制限する制限手段＞
前面側に遊技球が流下可能な領域を構成する流下手段と、その流下手段よりも正面側に設けられ、背面側に位置する前記領域を遊技球が流下する場合がある正面側手段と、を備え、前記正面側手段は、第１方向の方向視と、その第１方向の方向視よりも前記領域を流下する遊技球を視認し易い第２方向の方向視とで視認可能に構成されることを特徴とする遊技機Ｅ１。
【４４７１】
パチンコ機等の遊技機において、遊技球の流下経路の正面側に装飾用の文字や図形等が描かれた透明板が配設される遊技機がある（例えば、特開２０１７－２３５４３号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、装飾用の文字や図形越しに流下経路を流れる遊技球を視認することになるが、どちらか一方を見易くすると（例えば、装飾用の文字や図形を濃くすると）、他方の視認性が悪くなる（例えば、遊技球が見え難くなる）といった事態が生じ得ることになり、遊技中における遊技球の視認性について改善の余地があるという問題点があった。
【４４７２】
これに対し、遊技機Ｅ１によれば、正面側手段は、見る方向によって、流下手段を流下する遊技球を視認し易い状態と、視認し難い状態とを構成できる。即ち、第１方向視においては正面側手段の正面側を視認させる一方で、第２方向視において正面側手段越しに遊技球を視認させるようにすることで、正面側手段を採用したまま、遊技中における遊技球の視認性を改善することができる。
【４４７３】
遊技機Ｅ１において、前記正面側手段は、光透過性の樹脂材料から形成され、前記領域へ向かう前記第１方向の光を遮り、前記第２方向の光が前記領域へ向かうことを許容する方向選択手段を備えることを特徴とする遊技機Ｅ２。

【４４７４】
遊技機Ｅ２によれば、遊技機Ｅ１の奏する効果に加え、方向選択手段により、光が透過可能な方向を制限することにより、方向の違いによる視認性の程度の違いをより明確にすることができる。
【４４７５】
遊技機Ｅ２において、前記流下手段よりも正面側に配置され、遊技球が流下する領域の前側面を構成する前側面構成手段を備え、前記方向選択手段は、前記正面側手段と前記前側面構成手段との間の領域に配置され所定の厚みを有するよう構成されることを特徴とする遊技機Ｅ３。
【４４７６】
遊技機Ｅ３によれば、遊技機Ｅ２の奏する効果に加え、方向視の違いによる視認性の変化を、正面側手段と前側面構成手段との間という厚みの薄い領域に配置される方向選択手段により実現できるので、方向選択手段自体による光の減衰の影響を受け難くすることができ、第１方向の方向視と、第２方向の方向視との見え方の違いを顕著にすることができる。
【４４７７】
遊技機Ｅ１からＥ３のいずれかにおいて、前記方向選択手段により視認される方向で遊技球の視認性が変化する第１の流路と、視認される方向で遊技球の視認性が変化しない第２の流路とが隣り合って設けられることを特徴とする遊技機Ｅ４。
【４４７８】
遊技機Ｅ４によれば、遊技機Ｅ１からＥ３のいずれかの奏する効果に加え、所定範囲を視認する遊技者の視線の方向の違いにより、第２の流路に注目させ易い状態と、第１の流路および第２の流路の両方に同程度に注目させ易い状態とを生じさせることができる。
【４４７９】
遊技機Ｅ４において、前記第１の流路を流下する遊技球を検出可能な検出手段を備えることを特徴とする遊技機Ｅ５。
【４４８０】
遊技機Ｅ５によれば、遊技機Ｅ４の奏する効果に加え、方向選択手段により遊技球が第１の流路を流下したことを視認できない事態が生じても、検出手段により遊技球の流下が検出された場合に遊技者側に報知を行うように制御することが可能となるので、第１の流路を遊技球が流下したか否かを遊技者に把握させ易くすることができる。
【４４８１】
遊技機Ｅ４又はＥ５において、前記第１の流路に流入した遊技球は、前記第１の流路を介して遊技領域から排出されることを特徴とする遊技機Ｅ６。
【４４８２】
遊技機Ｅ６によれば、遊技機Ｅ４又はＥ５の奏する効果に加え、遊技領域から排出される予定の第１の流路を流下する遊技球に比較して、流下した後も遊技領域を流下し得る第２の流路を流下する遊技球に対して、より注目させることができる。
【４４８３】
遊技機Ｅ１からＥ６のいずれかにおいて、前記正面側手段は、前記領域へ向かう前記第１方向の光を遮り、前記第２方向の光が前記領域へ向かうことを許容する方向選択手段を備え、その方向選択手段は、その表面側を覆うように光透過性の樹脂部材が配置され、その樹脂部材の表面に装飾図形が形成されることを特徴とする遊技機Ｅ７。
【４４８４】
遊技機Ｅ７によれば、遊技機Ｅ１からＥ６のいずれかの奏する効果に加え、第１方向から領域側へ視線を送る遊技者に対して、樹脂部材の表面の装飾図形を視認させることができるので、正面側手段の演出効果を向上させることができる。
【４４８５】
遊技機Ｅ７において、前記方向選択手段は、積層配置される複数の板状部を有する板状手段から形成されることを特徴とする遊技機Ｅ８。

【４４８６】
遊技機Ｅ８によれば、遊技機Ｅ７の奏する効果に加え、前後方向の隙間寸法が大きい場合に、その隙間を方向選択手段により埋め易くすることができる。
【４４８７】
遊技機Ｅ１からＥ８のいずれかにおいて、光照射手段を備え、その光照射手段の光により前記正面側手段の視認性が変化されることを特徴とする遊技機Ｅ９。
【４４８８】
遊技機Ｅ９によれば、遊技機Ｅ１からＥ８のいずれかの奏する効果に加え、光照射手段の光を点灯させる場合と、消灯させる場合とで、正面側手段の視認性に変化を生じさせることができるので、領域を流下する遊技球の視認性の切り替えを、演出に対応させて実行させることができる。
【４４８９】
遊技機Ｅ９において、前記光照射手段の光により前記正面側手段の視認性が変化される範囲を切り替え可能に構成されることを特徴とする遊技機Ｅ１０。
【４４９０】
遊技機Ｅ１０によれば、遊技機Ｅ９の奏する効果に加え、光照射手段の照射態様を切り替えることにより、正面側手段の範囲ごとの視認性を変化させることができる。これにより、遊技球が流下する領域を視認性良く視認できる方向を、光照射手段により切り替えることができる。
【４４９１】
遊技機Ｅ１からＥ１０のいずれかにおいて、前記正面側手段は、変位可能に構成されることを特徴とする遊技機Ｅ１１。
【４４９２】
遊技機Ｅ１１によれば、遊技機Ｅ１からＥ１０のいずれかの奏する効果に加え、遊技者が目線を動かさなくても、正面側手段が変位することにより遊技者の目線と正面側手段との間の角度が変化する場合を生じさせることができ、領域の視認性を変化させることができる。
【４４９３】
＜基板ボックスＷ１００～Ｗ３１００，Ｗ７００～Ｗ９１００を一例とする発明の概念について＞
第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備え、前記係合部材が取り外されて、前記配設部材が取り外される遊技機において、前記係合部材が取り外されると、前記配設部材が取り外されたのと同等の状況が形成可能とされることを特徴とする遊技機ＷＡ１－０。
【４４９４】
第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。
【４４９５】
ここで、取り外した配設部材が再び配設される場合がある。この場合には、配設部材の状態を確認できることが好ましいが、上述した遊技機では、配設部材の状態を確認可能とする上で未だ改善の余地がある。
【４４９６】
本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、配設部材の状態を確認可能とすることができる遊技機を提供することを目的とする。
【４４９７】
遊技機ＷＡ１－０によれば、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【４４９８】
この場合、係合部材が取り外されると、前記配設部材が取り外されたのと同等の状況が形成可能とされる。これにより、その状況に基づいて、配設部材の状態（配設部材が新品であるか再利用したものであるか、或いは、不正な操作の対象となったものか）を確認可能とできる。
【４４９９】
遊技機ＷＡ１－０において、前記係合部材は、本体部と、前記第１部材に係合される係合部と、前記本体部および前記係合部を連結する連結部と、を備え、前記第１部材の前記配設部材が配設される部位には、前記連結部に対応する位置に凹部が形成されることを特徴とする遊技機ＷＡ１－１。
【４５００】
遊技機ＷＡ１－１によれば、第１部材の配設部材が配設される部位には、凹部が形成されるので、配設部材と第１部材との間に空間を形成でき、また、凹部は、連結部に対応する位置に形成されるので、連結部が切断される際に、凹部（空間）を利用して（連結部を切断するための工具の先端を凹部に受け入れ可能として）、配設部材を破損させやすくできる。即ち、切断部が切断された場合に、配設部材に痕跡を形成できる。これにより、配設部材の痕跡の有無に基づいて、配設部材の状態（配設部材が新品であるか再利用したものであるか、或いは、不正な操作の対象となったものか）を確認可能とできる。
【４５０１】
また、配設部材に痕跡が形成されることで、係る配設部材が再利用されることを抑制できる。
【４５０２】
なお、配設部材に痕跡が無い場合には、その配設部材が新品である可能性が高いと判断できる。配設部材に痕跡が有る場合には、第１部材および第２部材から係合部材が取り外される際に配設部材に痕跡が形成され、第１部材および第２部材から取り外されて、同一または別の第１部材および第２部材に再度配設（再利用）された配設部材である、又は、第１部材および第２部材または収納物に対して不正な操作を行うために、第１部材および第２部材から係合部材のみが取り外され、その係合部材の取り外しの際に痕跡が形成された配設部座合である可能性が高いと判断できる。
【４５０３】
遊技機ＷＡ１－１において、前記第１部材と前記第２部材とは、ねじの締結により連結され、前記ねじの頭部は、前記凹部に位置することを特徴とする遊技機ＷＡ１－２。
【４５０４】
遊技機ＷＡ１－２によれば、遊技機ＷＡ１－１の奏する効果に加え、第１部材と前記第２部材とは、ねじの締結により連結され、ねじの頭部は、凹部に位置するので、連結部が切断される際に形成される配設部材の痕跡を、ねじの頭部に対応する位置に形成することができる。よって、配設部材によりねじの頭部が隠れている場合でも、配設部材の痕跡に基づいて、ねじの位置を把握できる。その結果、ねじの締結を解除する作業の作業性を向上できる。
【４５０５】
遊技機ＷＡ１－１又はＷＡ１－２において、前記係合部材は、前記本体部と前記配設部材との間の対向間隔よりも前記連結部と前記配設部材との間の対向間隔が小さくされることを特徴とする遊技機ＷＡ１－３。
【４５０６】
遊技機ＷＡ１－３によれば、遊技機ＷＡ１－１又はＷＡ１－２の奏する効果に加え、係合部材は、本体部と配設部材との間の対向間隔よりも連結部と配設部材との間の対向間隔が小さくされるので、連結部を切断するための工具の先端を配設部材に近づけることができ、連結部が切断される際に、配設部材を破損させやすくできる。
【４５０７】
遊技機ＷＡ１－１からＷＡ１－３のいずれかにおいて、前記連結部は、少なくとも一方

の側面が傾斜して形成されることを特徴とする遊技機ＷＡ１－４。
【４５０８】
遊技機ＷＡ１－４によれば、遊技機ＷＡ１－１からＷＡ１－３のいずれかの奏する効果に加え、連結片は、少なくとも一方の側面が傾斜して形成されるので、連結片が切断される際に、側面の傾斜に沿って工具を移動させることができる。よって、工具の先端を配設部材に当接させ、配設部材を破損させやすくできる。
【４５０９】
例えば、一対の刃の間に連結片を挟み込んで（一対の刃を両側面に当接させて）、連結片を切断する工具を使用する場合には、連結片が切断される際に、側面の傾斜に沿って工具を回転させ、その回転に伴って、工具の先端を配設部材に当接させやすくできる。
【４５１０】
遊技機ＷＡ１－１からＷＡ１－４のいずれかにおいて、前記連結部は、第１部分と、その第１部分よりも両側面の間の距離が小さくされる第２部分とを備え、前記第１部分と前記配設部材との間の対向間隔よりも前記第２部分と前記配設部材との間の対向間隔が小さくされることを特徴とする遊技機ＷＡ１－５。
【４５１１】
遊技機ＷＡ１－５によれば、遊技機ＷＡ１－１からＷＡ１－４のいずれかの奏する効果に加え、第２部分は、第１の部分よりも両側面間の距離が小さくされるので、第２部分の切断により、連結部の切断を容易とできる。
【４５１２】
この場合、第１部分と配設部材との間の対向間隔よりも第２部分と配設部材との間の対向間隔が小さくされるので、第２部分を切断するための工具の先端を配設部材に近づけることができ、第２部分が切断される際に、配設部材を破損させやすくできる。
【４５１３】
また、このように、第１部分と配設部材との間の対向間隔よりも第２部分と配設部材との間の対向間隔が小さくされる（即ち、第２部分を配設部材側へ延長できる）ことで、その分、第１部分と第２部分との横断面の面積の差を抑制できる。よって、係合部材を樹脂材料から形成する場合には、その成形性を確保できる。
【４５１４】
＜基板ボックスＷ４１００～Ｗ６１００を一例とする発明の概念について＞
第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機において、前記係合部材は、本体部と、前記第１部材に係合される係合部と、前記本体部および前記係合部を連結する連結部と、を備え、前記係合部材の係合部は、前記配設部材へ向けて突設される突部を備えることを特徴とする遊技機ＷＡ２－１。
【４５１５】
第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。
【４５１６】
ここで、取り外した配設部材が再び配設される場合がある。この場合には、配設部材の状態を確認できることが好ましいが、上述した遊技機では、配設部材の状態を確認可能とする上で未だ改善の余地がある。
【４５１７】
本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、配設部材の状態を確認可能とすることができる遊技機を提供することを目的とする。
【４５１８】
遊技機ＷＡ２－１によれば、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【４５１９】
この場合、係合部材は、配設部材へ向けて突設される突部を備えるので、連結部を切断せずに、係合部の操作により第１部材との係合を解除しようとすると、突部により配設部材を破損させることができる。即ち、係合が解除されたか否かに関わらず、係合部が不正に操作された場合に、配設部材に痕跡を形成できる。これにより、配設部材の痕跡の有無に基づいて、配設部材の状態（配設部材が新品であるか再利用したものであるか、或いは、不正な操作の対象となったものか）を確認可能とできる。
【４５２０】
また、配設部材に痕跡が形成されることで、係る配設部材が再利用されることを抑制できる。
【４５２１】
なお、配設部材に痕跡が無い場合には、その配設部材が新品である可能性が高いと判断できる。配設部材に痕跡が有る場合には、第１部材および第２部材から係合部材が取り外される際に配設部材に痕跡が形成され、第１部材および第２部材から取り外されて、同一または別の第１部材および第２部材に再度配設（再利用）された配設部材である、又は、第１部材および第２部材または収納物に対して不正な操作を行うために、第１部材および第２部材から係合部材のみが取り外され、その係合部材の取り外しの際に痕跡が形成された配設部座合である可能性が高いと判断できる。
【４５２２】
遊技機ＷＡ２－１において、前記突部は、前記係合部の外縁側に位置されることを特徴とする遊技機ＷＡ２－２。
【４５２３】
遊技機ＷＡ２－２によれば、遊技機ＷＡ２－１の奏する効果に加え、突部は、係合部の外縁側に位置されるので、第１部材に係合部材が係合された状態であっても、配設部材の痕跡を視認しやすくできる。即ち、配設部材の状態（配設部材が新品であるか再利用したものであるか、或いは、不正な操作の対象となったものか）の確認を行いやすくできる。
【４５２４】
遊技機ＷＡ２－１又はＷＡ２－２において、前記第１部材の前記配設部材が配設される部位には、前記突部に対応する位置に凹部が形成されることを特徴とする遊技機ＷＡ２－３。
【４５２５】
遊技機ＷＡ２－３によれば、遊技機ＷＡ２－１又はＷＡ２－２の奏する効果に加え、第１部材の配設部材が配設される部位には、凹部が形成されるので、配設部材と第１部材との間に空間を形成でき、また、凹部は、突部に対応する位置に形成されるので、連結部を切断せずに、係合部の操作（弾性変形）により第１部材との係合が解除される際には、凹部（空間）を利用して（突部の先端を凹部に受け入れ可能として）、配設部材を突部により破損させやすくできる。即ち、係合部が不正に操作された場合に、配設部材に痕跡を形成しやすくできる。
【４５２６】
遊技機ＷＡ２－３において、前記係合部材は、前記配設部材に近づく方向へ前記係合部が操作された状態で、所定方向へ所定距離を変位されることで、前記第１部材から取り外し可能とされ、前記凹部は、前記配設部材に近づく方向へ前記係合部が操作された状態で、前記係合部材が前記所定方向へ前記所定距離を変位される際の前記突部に対応する範囲に少なくとも形成されていることを特徴とする遊技機ＷＡ２－４。
【４５２７】
遊技機ＷＡ２－４によれば、遊技機ＷＡ２－３の奏する効果に加え、係合部材は、配設部材に近づく方向へ係合部が操作された状態で、所定方向へ所定距離を変位されることで、第１部材から取り外し可能とされ、凹部は、配設部材に近づく方向へ係合部が操作された状態で、係合部材が所定方向へ所定距離を変位される際の前記突部に対応する範囲に少なくとも形成されているので、配設部材の破損範囲を確保できる。

【４５２８】
即ち、連結部を切断せずに、係合部の操作により第１部材と係合部材との係合が解除される際には、突部の先端が凹部に受け入れられた状態で、係合部材が所定方向へ変位されるので、その係合部材が所定方向へ所定距離を変位される間、凹部に受け入れられた突部の先端により配設部材を破損し続けることができる。よって、配設部材の破損範囲を確保できる。
【４５２９】
遊技機ＷＡ２－３において、前記係合部材は、前記配設部材に近づく方向へ前記係合部が操作された状態で、所定方向へ所定距離を変位されることで、前記第１部材から取り外し可能とされ、前記凹部は、前記配設部材に近づく方向へ前記係合部が操作された状態で、前記係合部材が前記所定方向へ前記所定距離を変位される際の前記突部に対応する範囲のうちの前半部分のみに形成されていることを特徴とする遊技機ＷＡ２－５。
【４５３０】
遊技機ＷＡ２－５によれば、遊技機ＷＡ２－３の奏する効果に加え、係合部材は、配設部材に近づく方向へ係合部が操作された状態で、所定方向へ所定距離を変位されることで、第１部材から取り外し可能とされ、凹部は、配設部材に近づく方向へ係合部が操作された状態で、係合部材が所定方向へ所定距離を変位される際の突部に対応する範囲のうちの前半部分のみに形成されているので、配設部材の破損範囲の確保と、係合部材が第１部材から不正に取り外されることの抑制とを図ることができる。
【４５３１】
即ち、連結部を切断せずに、係合部の操作により第１部材と係合部材との係合が解除される際には、突部の先端が凹部に受け入れられた状態で、係合部材が所定方向へ変位されるので、その係合部材が所定方向へ所定距離の前半部分を変位される間、凹部に受け入れられた突部の先端により配設部材を破損し続けることができる。よって、配設部材の破損範囲を確保できる。
【４５３２】
一方で、係合部材が所定方向へ所定距離の前半部分を変位された後は、凹部に受け入れられた突部の先端を凹部の終端に係合させることができる。これにより、係合部材の所定方向への変位を規制することができるので、係合部材が第１部材から不正に取り外されることを抑制できる。
【４５３３】
＜基板ボックスＷａ１００～Ｗｃ１００，Ｗｉ１００を一例とする発明の概念について＞
第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機において、前記係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される係合部と、を備え、前記係合部が分離された前記本体部を使用して、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成されることを特徴とする遊技機ＷＢ１－１。
【４５３４】
第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。
【４５３５】
上述した遊技機では、配設部材の配設状態を変更する上で未だ改善の余地がある。
【４５３６】
本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、配設部材の配設状態の変更を好適に行うことができる遊技機を提供することを目的とする。
【４５３７】
遊技機ＷＢ１－１によれば、係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され第１部材に係合される係合部と、を備え、係合部が分離された本体部を使用して、配設

部の配設状態を変更可能に形成されるので、配設部材の配設状態を変更するための工具（例えば、カッターナイフ）の携行を不要とできる。また、係合部材の本体部は、比較的大きく、把持がしやすいので、配設部材の配設状態を変更する作業を行いやすい。よって、配設部材の配設状態の変更を好適に行うことができる。

【４５３８】

遊技機ＷＢ１－１において、前記係合部材は、前記本体部および前記係合部を連結する連結部を備え、前記本体部は、前記配設部材の所定領域に対応する位置に配設される変更手段を備え、前記連結部が切断された状態では、前記配設部材の所定領域に前記変更手段が少なくとも当接する位置まで前記本体部が前記第１部材および前記第２部材に対して変位可能とされることを特徴とする遊技機ＷＢ１－２。

【４５３９】

遊技機ＷＢ１－２によれば、遊技機ＷＢ１－１の奏する効果に加え、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【４５４０】

この場合、本体部は、配設部材の所定領域に対応する位置に配設される変更手段を備え、連結部が切断された状態では、配設部材の所定領域に変更手段が少なくとも当接する位置まで本体部が第１部材および第２部材に対して変位可能とされるので、連結部を切断した後であって、第１部材および第２部材から本体部を取り外す前に、本体部を変位させて、配設部材の所定領域に変更手段を少なくとも当接させる（配設部材の配設状態を変更する）ことができる。即ち、連結部を切断し、本体部を第１部材および第２部材から取り外す作業と、取り外した本体部（変更手段）を使用して配設部材の配設状態を変更する作業とを別々に行う必要がなく、これらの作業を一連の作業として効率的に行うことができるので、配設部材の配設状態の変更を容易に行うことができる。

【４５４１】

また、変更手段が配設部材の所定領域に対応する位置に配設されるので、作業者の手が変更手段に触れることを抑制できる。よって、係合部材の製造時やその運搬時、第１部材および第２部材への係合部材の取り付け（取り外し）作業時、或いは、連結部材の切断により係合部が分離された本体部の廃棄処理時に、作業者が変更手段で負傷することを抑制できる。

【４５４２】

また、変更手段が本体部に形成される分、本体部の剛性を高めることができる。

【４５４３】

遊技機ＷＢ１－２において、前記本体部の前記変更手段は、前記配設部材の前記所定領域に対して少なくとも一部が傾斜して形成されていることを特徴とする遊技機ＷＢ１－３。

【４５４４】

遊技機ＷＢ１－３によれば、遊技機ＷＢ１－２の奏する効果に加え、本体部の変更手段は、配設部材の所定領域に対して少なくとも一部が傾斜して形成されているので、本体部を変位させて、配設部材の所定領域に変更手段を少なくとも当接させた際に、配設部材の配設状態を変更しやすくできる。

【４５４５】

遊技機ＷＢ１－１において、前記係合部材は、前記本体部および前記係合部を連結する連結部を備え、前記本体部は、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成され前記係合部に対向する位置に配設される変更手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＢ１－４。

【４５４６】

遊技機ＷＢ１－４によれば、遊技機ＷＢ１－１の奏する効果に加え、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を

取り外すことができる。
【４５４７】
本体部は、配設部材の配設状態を変更可能に形成され係合部に対向する位置に配設される変更手段を備えるので、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで、変更手段を使用して配設部材の配設状態を変更することが可能となる。
【４５４８】
この場合、変更手段は、係合部に対向する位置に配設され、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで変更手段が使用可能とされるので、係合部が係合部材（本体部）から分離される前の状態では、作業者の手が変更手段に触れることを抑制できる。よって、係合部材の製造時やその運搬時、第１部材および第２部材への係合部材の取り付け作業時に、作業者が変更手段で負傷することを抑制できる。
【４５４９】
また、変更手段が本体部に形成される分、本体部の剛性を高めることができる。
【４５５０】
遊技機ＷＢ１－４において、前記第１部材または前記第２部材の少なくとも一方は、被当接部を備え、前記本体部は、前記被当接部に当接可能に形成される当接部を備え、前記被当接部に前記当接部が当接されると、前記配設部材の所定領域に前記変更手段が少なくとも当接されることを特徴とする遊技機ＷＢ１－５。
【４５５１】
遊技機ＷＢ１－５によれば、遊技機ＷＢ１－４の奏する効果に加え、被当接部に当接部が当接されると、配設部材の所定領域に変更手段が少なくとも当接されるので、変更手段を使用して配設部材の配設状態を変更する（配設部材の所定領域に変更手段を少なくとも当接させる）際に、配設部材の所定領域の位置を探す手間を抑制できる。
【４５５２】
遊技機ＷＢ１－５において、前記被当接部は、その被当接部に当接された前記当接部が前記被当接部に沿って変位可能に形成され、前記被当接部に沿って前記当接部が変位されると、前記配設部材の所定領域に沿って前記変更手段が変位されることを特徴とする遊技機ＷＢ１－６。
【４５５３】
遊技機ＷＢ１－６によれば、遊技機ＷＢ１－５の奏する効果に加え、被当接部に沿って当接部が変位されると、配設部材の所定領域に沿って変更手段が変位されるので、被当接部をガイドとして利用して、配設部材の配設状態を変更する（配設部材の所定領域を変更手段で切断する）作業を容易とできる。
【４５５４】
＜基板ボックスＷｅ１００～Ｗｇ１００を一例とする発明の概念について＞
第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機において、前記係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される係合部と、を備え、前記本体部から分離された前記係合部を使用して、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成されることを特徴とする遊技機ＷＢ２－１。
【４５５５】
第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。
【４５５６】
上述した遊技機では、配設部材の配設状態を変更する上で未だ改善の余地がある。
【４５５７】
本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、配設部材の配設状態の変更を好適に行うことができる遊技機を提供することを目的とする。
【４５５８】

遊技機ＷＢ２－１によれば、係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され第１部材に係合される係合部と、を備え、本体部から分離された係合部を使用して、配設部の配設状態を変更可能に形成されるので、配設部材の配設状態を変更するための工具（例えば、カッターナイフ）の携行を不要とできる。また、係合部材の係合部は、比較的小さく、配設部材の周辺（第１部材または第２部材）との干渉を抑制できるので、配設部材の配設状態を変更する作業を行いやすい。よって、配設部材の配設状態の変更を好適に行うことができる。

【４５５９】

遊技機ＷＢ２－１において、前記係合部材は、前記本体部および前記係合部を連結する連結部を備え、前記係合部は、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成され前記本体部に対向する位置に配設される変更手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＢ２－２。

【４５６０】

遊技機ＷＢ２－２によれば、遊技機ＷＢ２－１の奏する効果に加え、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【４５６１】

係合部は、配設部材の配設状態を変更可能に形成され本体部に対向する位置に配設される変更手段を備えるので、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで、変更手段を使用して配設部材の配設状態を変更することが可能となる。

【４５６２】

この場合、変更手段は、本体部に対向する位置に配設され、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで変更手段が使用可能とされるので、係合部が係合部材（本体部）から分離される前の状態では、作業者の手が変更手段に触れることを抑制できる。よって、係合部材の製造時やその運搬時、第１部材および第２部材への係合部材の取り付け作業時に、作業者が変更手段で負傷することを抑制できる。

【４５６３】

遊技機ＷＢ２－１において、前記係合部材は、前記本体部および前記係合部を連結する連結部を備え、前記係合部は、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成され前記配設部材へ向けて突設される変更手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＢ２－３。

【４５６４】

遊技機ＷＢ２－３によれば、遊技機ＷＢ２－１の奏する効果に加え、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【４５６５】

係合部は、配設部材の配設状態を変更可能に形成され配設部材へ向けて突設される変更手段を備えるので、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで、変更手段を使用して配設部材の配設状態を変更することが可能となる。

【４５６６】

この場合、変更手段は、配設部材へ向けて突設され（即ち、配設部材に対向する位置に配設され）、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで変更手段が使用可能とされるので、係合部が係合部材（本体部）から分離される前の状態では、作業者の手が変更手段に触れることを抑制できる。よって、係合部材の製造時やその運搬時、第１部材および第２部材への係合部材の取り付け作業時に、作業者が変更手段で負傷することを抑制できる。

【４５６７】

また、係合手段は、係合部から配設部材へ向けて突設されるので、連結部を切断せずに、係合部の操作により第１部材との係合を解除しようとすると、係合手段により配設部材を破損させることができる。即ち、係合が解除されたか否かに関わらず、係合部が不正に

操作された場合に、配設部材に痕跡を形成できる。これにより、配設部材の痕跡の有無に基づいて、配設部材の状態（配設部材が新品であるか再利用したものであるか、或いは、不正な操作の対象となったものか）を確認可能とできる。

【４５６８】

また、配設部材に痕跡が形成されることで、係る配設部材が再利用されることを抑制できる。

【４５６９】

遊技機ＷＢ２－２又はＷＢ２－３において、前記第１部材または前記第２部材の少なくとも一方は、被当接部を備え、前記係合部は、前記被当接部に当接可能に形成される当接部を備え、前記被当接部に前記当接部が当接されると、前記配設部材の所定領域に前記変更手段が少なくとも当接されることを特徴とする遊技機ＷＢ２－４。

【４５７０】

遊技機ＷＢ２－４によれば、遊技機ＷＢ２－２又はＷＢ２－３の奏する効果に加え、被当接部に当接部が当接されると、配設部材の所定領域に変更手段が少なくとも当接されるので、変更手段を使用して配設部材の配設状態を変更する（配設部材の所定領域に変更手段を少なくとも当接させる）際に、配設部材の所定領域の位置を探す手間を抑制できる。

【４５７１】

遊技機ＷＢ２－４において、前記被当接部は、その被当接部に当接された前記当接部が前記被当接部に沿って変位可能に形成され、前記被当接部に沿って前記当接部が変位されると、前記配設部材の所定領域に沿って前記変更手段が変位されることを特徴とする遊技機ＷＢ２－５。

【４５７２】

遊技機ＷＢ２－５によれば、遊技機ＷＢ２－４の奏する効果に加え、被当接部に沿って当接部が変位されると、配設部材の所定領域に沿って変更手段が変位されるので、被当接部をガイドとして利用して、配設部材の配設状態を変更する（配設部材の所定領域を変更手段で切断する）作業を容易とできる。

【４５７３】

遊技機ＷＢ２－１において、前記係合部材は、前記本体部および前記係合部を連結する連結部を備え、前記係合部は、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成される変更手段を備え、前記変更手段は、切断された前記連結部により形成されることを特徴とする遊技機ＷＢ２－６。

【４５７４】

遊技機ＷＢ２－６によれば、遊技機ＷＢ２－１の奏する効果に加え、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【４５７５】

係合部は、配設部材の配設状態を変更可能に形成される変更手段を備え、変更手段は、切断された連結部により形成されるので、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで、変更手段を使用して配設部材の配設状態を変更することが可能となる。

【４５７６】

この場合、係合部材の係合部は、比較的小さく、連結部は係合部よりも更に小さいので、配設部材の周辺（第１部材または第２部材）との干渉を抑制できると共に、配設部材の配設状態を変更することに適した形状（例えば、鋭利な形状）を形成しやすい。よって、配設部材の配設状態を変更する作業を行いやすくできる。

【４５７７】

また、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで変更手段が使用可能とされる（即ち、切断された連結部が変更手段となる）ので、係合部が係合部材（本体部）から分離される前の状態では、作業者の手が変更手段に触れることを抑制できる。よって、係合部材の製造時やその運搬時、第１部材および第２部材への係合部材の取り付け作業時に、

作業者が変更手段で負傷することを抑制できる。

【４５７８】

遊技機ＷＢ２－６において、前記連結部は、前記係合部の一辺の一側の端部を前記本体部に連結する一側連結部と、前記係合部の前記一辺の前記一側と反対側の他側の端部を前記本体部に連結する他側連結部とを備えることを特徴とする遊技機ＷＢ２－７。

【４５７９】

遊技機ＷＢ２－７によれば、連結部は、係合部の一辺の一側の端部を本体部に連結する一側連結部と、係合部の一辺の一側と反対側の他側の端部を本体部に連結する他側連結部とを備えるので、配設部材の所定領域における一側には一側連結部を使用して係合部を一側へ変位させると共に、配設部材の所定領域における他側には他側連結部を使用して係合部を他側へ変位させることで、所定領域の配設状態を変更できる。即ち、係合部を持ち替えて係合部の向きを反転させなくても、周囲の部材（第１部材または第２部材）との干渉を抑制しつつ、所定領域の一側の端部および他側の端部まで、その配設状態を変更（切断）できる。よって、配設部材の所定領域における配設状態を効率的に変更できる。

【４５８０】

遊技機ＷＢ２－６又はＷＢ２－７において、前記連結部は、前記本体部に連結される側と前記係合部に連結される側との間に断面積が小さくされる部位を備えることを特徴とする遊技機ＷＢ２－８。

【４５８１】

遊技機ＷＢ２－８によれば、遊技機ＷＢ２－６又はＷＢ２－７の奏する効果に加え、連結部は、本体部に連結される側と係合部に連結される側との間に断面積が小さくされる所定部位を備えるので、所定部位の切断により、連結部の切断を容易とできる。また、配設部材の配設状態を変更することに適した形状（例えば、鋭利な形状）を、切断された連結部（所定部位）に形成しやすくできる。

【４５８２】

＜基板ボックスＷｄ１００を一例とする発明の概念について＞

第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機において、前記係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される係合部と、を備え、前記本体部とその本体部から分離された前記係合部とが連結可能に形成され、前記本体部に連結された前記係合部を使用して、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成されることを特徴とする遊技機ＷＢ３－１。

【４５８３】

第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。

【４５８４】

上述した遊技機では、配設部材の配設状態を変更する上で未だ改善の余地がある。

【４５８５】

本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、配設部材の配設状態の変更を好適に行うことができる遊技機を提供することを目的とする。

【４５８６】

遊技機ＷＢ３－１によれば、係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され第１部材に係合される係合部と、を備え、本体部とその本体部から分離された係合部とが連結可能に形成され、本体部に連結された係合部を使用して、配設部の配設状態を変更可能に形成されるので、配設部材の配設状態を変更するための工具（例えば、カッターナイフ）の携行を不要とできる。また、係合部材の本体部は、比較的大きく、把持がしやすい一方、係合部材の係合部は、比較的小さく、配設部材の周辺（第１部材または第２部材）との干渉を抑制できるので、配設部材の配設状態を変更する作業を行いやすい。よって、配設部材の配設状態の変更を好適に行うことができる。

【４５８７】
遊技機ＷＢ３－１において、前記係合部は、前記第１部材に係合される部位が前記本体部に連結されることを特徴とする遊技機ＷＢ３－２。
【４５８８】
遊技機ＷＢ３－２によれば、遊技機ＷＢ３－１の奏する効果に加え、係合部は、第１部材に係合される部位が本体部に連結されるので、本体部と連結するための部位を係合部に別途設ける必要がない。即ち、第１部材に係合される部位を、本体部に連結される部位としても兼用できる。よって、係合部の形状を簡素化できる。
【４５８９】
遊技機ＷＢ３－１又はＷＢ３－２において、前記係合部材は、前記第１部材と係合する姿勢を規定可能に前記本体部に形成される規定部を備え、前記本体部は、前記規定部が前記係合部に連結されることを特徴とする遊技機ＷＢ３－２。
【４５９０】
遊技機ＷＢ３－３によれば、遊技機ＷＢ３－１又はＷＢ３－２の奏する効果に加え、係合部材は、第１部材と係合する姿勢を規定可能に本体部に形成される規定部を備え、本体部は、規定部が係合部に連結されるので、係合部と連結するための部位を本体部に別途設ける必要がない。即ち、係合部材の姿勢を規定する部位（規定部）を、係合部に連結される部位としても兼用できる。よって、係合部の形状を簡素化できる。
【４５９１】
＜基板ボックスＷｊ１００を一例とする発明の概念について＞
第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および前記第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機において、前記係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される係合部と、を備え、前記係合部が前記第１部材に係合された状態で、所定方向へ変位可能に形成され、前記第１部材または前記第２部材は、前記所定方向へ変位された前記係合部材に対し、前記第１部材との係合が解除される方向への前記係合部の変位を抑制可能に形成される抑制手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＣ１－１。
【４５９２】
第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。
【４５９３】
上述した遊技機では、係合部材が不正に取り外されることを抑制する上で未だ改善の余地がある。
【４５９４】
本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、係合部材が不正に取り外されることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。
【４５９５】
遊技機ＷＣ１－１によれば、本体部から係合部を分離（切断）することで、係合部が第１部材に係合された状態であっても、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。
【４５９６】
ここで、第１部材との係合が解除される方向へ係合部を変位（弾性変形）させることで、第１部材と係合部との係合を解除して、第１部材および第２部材から係合部材を取り外す不正が行われる虞があるところ、係合部材は、係合部が第１部材に係合された状態で、所定方向へ変位可能に形成され、第１部材または第２部材は、所定方向へ変位された係合部材に対し、第１部材との係合が解除される方向への係合部の変位を抑制可能に形成される抑制手段を備えるので、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。
【４５９７】

遊技機ＷＣ１－１において、前記第１部材または前記第２部材は、前記抑制手段による前記係合部の変位の抑制が可能な位置から前記係合部材が前記所定方向と反対方向へ変位することを規制する規制手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＣ１－２。

【４５９８】

遊技機ＷＣ１－２によれば、遊技機ＷＣ１－１の奏する効果に加え、第１部材または第２部材は、抑制手段による係合部の変位の抑制が可能な位置から係合部材が所定方向と反対方向へ変位することを規制する規制手段を備えるので、係合部と第１部材との係合が不正に解除されることを抑制できる。その結果、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。

【４５９９】

遊技機ＷＣ１－２において、前記規制手段は、前記所定方向へ変位された前記係合部材の前記係合部と係合可能に形成され、前記係合部と係合することで、前記係合部材が前記所定方向と反対方向へ変位することを規制可能とされることを特徴とする遊技機ＷＣ１－３。

【４６００】

遊技機ＷＣ１－３によれば、遊技機ＷＣ１－２の奏する効果に加え、規制手段は、所定方向へ変位された係合部材の係合部と係合可能に形成され、係合部と係合することで、係合部材が所定方向と反対方向へ変位することを規制可能とされるので、係合部材を所定方向へ変位させるだけで、係合部材の変位が規制手段により規制された状態を形成でき、係合部材の組み付け作業の作業性を向上できる。

【４６０１】

遊技機ＷＣ１－３において、前記第１部材または前記第２部材は、前記規制手段を遮蔽する遮蔽手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＣ１－４。

【４６０２】

遊技機ＷＣ１－４によれば、遊技機ＷＣ１－３の奏する効果に加え、１部材または第２部材は、規制手段を遮蔽する遮蔽手段を備えるので、係合部と規制手段との係合が不正に解除されることを抑制できる。その結果、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。

【４６０３】

＜基板ボックスＷｋ１００，Ｗｌ１００，Ｗｒ１００を一例とする発明の概念について＞

第１部材および第２部材と、前記第１部材または前記第２部材の少なくとも一方に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および前記第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機において、前記第１部材または前記第２部材の少なくとも一方と前記係合部材とは、複数箇所で係合され、それら複数箇所の係合の相互作用により係合が解除され難く形成されることを特徴とする遊技機ＷＣ２－１。

【４６０４】

第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。

【４６０５】

上述した遊技機では、係合部材が不正に取り外されることを抑制する上で未だ改善の余地がある。

【４６０６】

本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、係合部材が不正に取り外されることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。

【４６０７】

遊技機ＷＣ２－１によれば、第１部材または第２部材の少なくとも一方と係合部材とは、複数箇所で係合され、それら複数箇所の係合の相互作用により係合が解除され難く形成されるので、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制でき

る。
【４６０８】
遊技機ＷＣ２－１において、前記係合部材は、本体部と、前記本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される第１係合部および第２係合部と、を備え、前記第１係合部および前記第２係合部は、前記係合部材の変位に伴って、前記第１係合部材が前記第１部材に係合された後に、前記第２係合部が前記第１部材に係合可能に形成され、前記第１部材は、前記第１部材との係合が解除される方向への前記第１係合部の変位を規制する規制手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＣ２－２。
【４６０９】
遊技機ＷＣ２－２によれば、本体部から第１係合部および第２係合部を分離（切断）することで、第１係合部および第２係合部が第１部材に係合された状態であっても、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。
【４６１０】
ここで、第１部材との係合が解除される方向へ第１係合部および第２係合部を変位（弾性変形）させることで、第１部材と第１係合部および第２係合部との係合を解除して、第１部材および第２部材から係合部材を取り外す不正が行われる虞があるところ、遊技機ＷＣ２－２によれば、遊技機ＷＣ２－１の奏する効果に加え、第１係合部および第２係合部は、係合部材の変位に伴って、第１係合部材が第１部材に係合された後に、第２係合部が前記第１部材に係合可能に形成され、第１部材は、前記第１部材との係合が解除される方向への前記第１係合部の変位を規制する規制手段を備えるので、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。
【４６１１】
即ち、第１部材との係合が解除される方向への第１係合部の変位は、規制手段により規制でき、規制手段による第１係合部の変位の規制を解除する方向への係合部材の変位は、第１部材と第２係合部との係合により規制できる。その結果、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。
【４６１２】
遊技機ＷＣ２－２において、前記第１係合部が前記第１部材に係合される際の前記係合部材の変位の方向と、前記第２係合部が前記第１部材に係合される際の前記係合部材の変位の方向とは、略同一の方向であることを特徴とする遊技機ＷＣ２－３。
【４６１３】
遊技機ＷＣ２－３によれば、遊技機ＷＣ２－２の奏する効果に加え、第１係合部が第１部材に係合される際の係合部材の変位の方向と、第２係合部が第１部材に係合される際の係合部材の変位の方向とは、略同一の方向であるので、例えば、第１の方向へ係合部材を変位させて、第１係合部を係合させた後、第２の方向へ係合部材を変位させて、第２係合部を係合させる２段階の操作を行う必要がなく、第１部材および第２部材へ係合部材を取り付ける際の一方向への操作のみで第１係合部と第２係合部との係合を行うことができる。よって、係合部材の取り付け操作を簡素化して、作業効率を高めることができる。
【４６１４】
また、２段階の操作が必要となる構成では、第２の方向への操作を作業者が失念すると、第２係合部が係合されず、第１部材および第２位部材から係合部材が不正に取り外される虞があるところ、第１部材および第２部材へ係合部材を取り付ける際の一方向への操作のみで第１係合部と第２係合部との係合を行うことができることで、必要な操作を作業者が失念することを抑制でき、第２係合部を確実に係合させることができる。
【４６１５】
遊技機ＷＣ２－１において、前記係合部材は、本体部と、前記本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される第１係合部と、前記本体部から分離可能に形成され前記第２部材に係合される第２係合部と、を備え、前記第１係合部と前記第１部材との係合が解除される前記第１係合部の変位の方向と、前記第２係合部と前記第２部材との係合が解除される前記第２係合部の変位の方向とが反対の方向とされることを特徴とする遊技機Ｗ

Ｃ２－４。
【４６１６】
遊技機ＷＣ２－４によれば、本体部から第１係合部および第２係合部を分離（切断）することで、第１係合部および第２係合部が第１部材に係合された状態であっても、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。
【４６１７】
ここで、第１部材および第２部材との係合が解除される方向へ第１係合部および第２係合部を変位（弾性変形）させることで、第１部材および第２部材と第１係合部および第２係合部との係合を解除して、第１部材および第２部材から係合部材を取り外す不正が行われる虞があるところ、遊技機ＷＣ２－４によれば、遊技機ＷＣ２－１の奏する効果に加え、第１係合部と第１部材との係合が解除される第１係合部の変位の方向と、第２係合部と第２部材との係合が解除される第２係合部の変位の方向とが反対の方向とされるので、第１係合部または第２係合部の一方を係合が解除される方向へ変位させると、その一方の変位に伴う係合部材の変位によって、第１係合部または第２係合部の他方を係合が維持される方へ変位させることができる。その結果、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。
【４６１８】
遊技機ＷＣ２－１において、前記係合部材は、本体部と、前記本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される係合部と、を備え、前記係合部は、前記係合部の第１部分および第２部分の２箇所が前記第１部材に係合され、前記第１部分または前記第２部分の一方と前記第１部材との係合が解除される方向へ前記係合部が変位されると、前記第１部分または前記第２部分の他方と前記第１部材との係合が維持される方向へ前記係合部が変位されることを特徴とする遊技機ＷＣ２－５。
【４６１９】
遊技機ＷＣ２－５によれば、本体部から係合部を分離（切断）することで、係合部が第１部材に係合された状態であっても、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。
【４６２０】
ここで、第１部分および第２部分と第１部材との係合が解除される方向へ係合部を変位（弾性変形）させることで、第１部材と係合部（第１部分および第２部分）との係合を解除して、第１部材および第２部材から係合部材を取り外す不正が行われる虞があるところ、遊技機ＷＣ２－５によれば、遊技機ＷＣ２－１の奏する効果に加え、第１部分または第２部分の一方と第１部材との係合が解除される方向へ係合部が変位されると、第１部分または第２部分の他方と第１部材との係合が維持される方向へ係合部が変位されるので、第１部材と係合部との係合を解除し難くできる。その結果、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。
【４６２１】
＜基板ボックスＷｏ１００～Ｗｑ１００を一例とする発明の概念について＞
第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、を備えた遊技機において、取付部材を備え、前記係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される係合部と、を備え、前記取付部材は、前記係合部に取り付け可能に形成され、前記第１部材と前記係合部との係合が解除される方向への前記係合部の変位が前記取付部材により抑制可能に形成されることを特徴とする遊技機ＷＤ１－１。
【４６２２】
第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。
【４６２３】
上述した遊技機では、係合部材が不正に取り外されることを抑制する上で未だ改善の余地がある。

【４６２４】
本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、係合部材が不正に取り外されることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。
【４６２５】
遊技機ＷＤ１－１によれば、本体部から係合部を分離（切断）することで、係合部が第１部材に係合された状態であっても、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。
【４６２６】
ここで、第１部材との係合が解除される方向へ係合部を変位（弾性変形）させることで、第１部材と係合部との係合を解除して、第１部材および第２部材から係合部材を取り外す不正が行われる虞があるところ、取付部材は、係合部に取り付け可能に形成され、第１部材と係合部との係合が解除される方向への係合部の変位が取付部材により抑制可能に形成されるので、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。
【４６２７】
一方で、係合部に取付部材が取り付けられていても、本体部から係合部を分離（切断）することは可能であるので、正規の作業においては、係合部の分離（切断）により、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を容易に取り外すことができる。
【４６２８】
遊技機ＷＤ１－１において、前記係合部は、前記第１部材との係合が解除される方向へ変位されると、前記係合部の第１面側が前記第１部材へ近接され、前記取付部材は、前記係合部に取り付けられると、前記取付部材の一部が前記係合部の前記第１面と前記第１部材との間に配置されることを特徴とする遊技機ＷＤ１－２。
【４６２９】
遊技機ＷＤ１－２によれば、遊技機ＷＤ１－１の奏する効果に加え、係合部は、第１部材との係合が解除される方向へ変位されると、係合部の第１面側が第１部材へ近接され、取付部材は、係合部に取り付けられると、取付部材の一部が係合部の第１面と第１部材との間に配置されるので、第１部材との係合が解除される方向へ係合部が変位可能な距離を、取付部材の一部が配置される分、短くすることができる。その結果、第１部材と係合部との係合を解除され難くできるので、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。
【４６３０】
遊技機ＷＤ１－２において、前記取付部材は、第１部材に係合された前記係合部に取り付け可能に形成されることを特徴とする遊技機ＷＤ１－３。
【４６３１】
遊技機ＷＤ１－３によれば、遊技機ＷＤ１－２の奏する効果に加え、取付部材は、第１部材に係合された係合部に取り付け可能に形成されるので、第１部材に係合部を係合させる際に、係合部の変位が取付部材の一部によって阻害されない。よって、第１部材への係合部の係合（即ち、第１部材および第２部材への係合部材の装着）をスムーズに行うことができる。また、第１部材と係合部との係合代を大きくできるので、第１部材と係合部との係合が解除されることを抑制しやすくできる。
【４６３２】
遊技機ＷＤ１－２又はＷＤ１－３において、前記第１部材および前記第２部材に配設される配設部材を備え、前記係合部の取り付けられた前記取付部材の一部は、前記第１面から突設される突部として形成され、前記突部は、前記第１部材に配設される前記配設部材に向けて突設されることを特徴とする遊技機ＷＤ１－４。
【４６３３】
遊技機ＷＤ１－４によれば、遊技機ＷＤ１－２又はＷＤ１－３の奏する効果に加え、第１部材および第２部材に配設される配設部材を備え、係合部の取り付けられた取付部材の一部は、第１面から突設される突部として形成され、突部は、第１部材に配設される配設

部材に向けて突設されるので、本体部から係合部を分離（切断）せずに、第１部材と係合部との係合を解除しようとすると（即ち、第１部材との係合が解除される方向へ係合部を変位させようとすると）、突部により配設部材を破損させることができる。即ち、配設部材に痕跡を形成できる。これにより、配設部材の痕跡の有無に基づいて、配設部材の状態（配設部材が新品であるか再利用したものであるか、或いは、不正な操作の対象となったものか）を確認可能とできる。

【４６３４】

また、配設部材に痕跡が形成されることで、係る配設部材が再利用されることを抑制できる。

【４６３５】

遊技機ＷＤ１－４において、前記第１部材の前記配設部材が配設される部位には、前記突部に対応する位置に凹部が形成されることを特徴とする遊技機ＷＤ１－５。

【４６３６】

遊技機ＷＤ１－５によれば、遊技機ＷＤ１－４の奏する効果に加え、第１部材の配設部材が配設される部位には、凹部が形成されるので、配設部材と第１部材との間に空間を形成でき、また、凹部は、突部に対応する位置に形成されるので、本体部から係合部を分離（切断）せずに、第１部材と係合部との係合を解除しようとすると（即ち、第１部材との係合が解除される方向へ係合部を変位させようとすると）、凹部（空間）を利用して（突部の先端を凹部に受け入れ可能として）、配設部材を突部により破損させやすくできる。即ち、係合部が不正に操作された場合に、配設部材に痕跡を形成しやすくできる。

【４６３７】

＜無駄球を減らすための構成＞

遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、前記遊技領域に配設され遊技球の通過を検出する検出手段と、その検出手段で遊技球の通過が検出されたことに基づいて所定パターンで動作制御される動作手段と、を備える遊技機において、前記検出手段を通過した遊技球を前記動作手段まで所定経路で案内する案内手段を備えることを特徴とする遊技機ＹＡ１。

【４６３８】

パチンコ機等の遊技機において、検出領域で遊技球の通過を検出してから規定の時間経過後に開閉動作する可動役物を備える遊技機がある（例えば、特開２０１７－０００５６２号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、検出領域を通過した遊技球の流下経路は複数通りの流下態様で流下するので、遊技球の流下態様次第で、検出領域を通過した遊技球が可動役物に拾われる場合と、可動役物から零れる場合とがランダムに生じることになることから、可動役物から零れる遊技球が多い場合には、遊技者は遊技機店が遊技者に不利になる調整を行っているのではないかと誤解し易く、平等な環境で遊技することができていないと不満に思う可能性があるという問題点があった。

【４６３９】

これに対し、遊技機ＹＡ１によれば、検出手段を通過してからの遊技球の流下はランダムではなく、案内手段により遊技球が動作手段まで案内されるので、検出手段を通過した遊技球が動作手段に拾われるか、動作手段から零れるかの違いが、動作制御（入賞時に予め行われた抽選の当否に基づく制御）によるものであると遊技者に理解させることができる。即ち、案内手段の構成により規定される流下時間に基づいて、動作手段の動作制御のパターンが設定されているのであり、遊技機店の調整によるものではないと理解することができるので、平等な環境で遊技していると感じさせることができる。

【４６４０】

なお、遊技領域は、流下した遊技球により遊技者に与えられる利益が確定するまでの遊技球の流下領域を意味し、例えば、遊技盤の正面側の領域に限られるものではない。例えば、遊技球の通過を検出することで第１図柄の抽選がされる検出装置の上流側に形成される流路であって、遊技盤の内部や遊技盤の背面側に配設される流路も遊技領域に含まれる

。
【４６４１】
遊技機ＹＡ１において、前記案内手段は、前記遊技領域の背面側を通るように配設されることを特徴とする遊技機ＹＡ２。
【４６４２】
遊技機ＹＡ２によれば、遊技機ＹＡ１の奏する効果に加え、案内手段で案内される遊技球を、遊技領域で流下する遊技球により隠すことができるので、案内手段から動作手段までの領域における注目力を向上することができる。
【４６４３】
遊技機ＹＡ２において、前記案内手段に案内される遊技球は、所定範囲において遊技領域を構成する遊技盤の正面側に向けて流下することを特徴とする遊技機ＹＡ３。
【４６４４】
遊技機ＹＡ３によれば、遊技機ＹＡ２の奏する効果に加え、案内手段に案内される遊技球が遊技盤の正面側に流下することから、遊技者に遊技球が近づいてくるように視認させることができる。そのため、通常の下方に流下するだけの遊技球との比較において、案内手段に案内される遊技球を目立たせることができる。
【４６４５】
遊技機ＹＡ１からＹＡ３のいずれかにおいて、前記案内手段は、遊技球が前記検出手段から前記動作手段まで流下するのに要する時間を管理可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＡ４。
【４６４６】
遊技機ＹＡ４によれば、遊技機ＹＡ１からＹＡ３のいずれかの奏する効果に加え、遊技球を動作手段で拾うパターンの動作制御と、零すパターンの動作制御とを、容易に設定することができる。
【４６４７】
遊技機ＹＡ１からＹＡ４のいずれかにおいて、前記動作手段は、閉鎖状態または開放状態において遊技球を転動させる態様で流下を案内するよう構成され、遊技球の流下方向の幅寸法が、遊技球の直径の２倍以下に設定される第１動作部を備え、その第１動作部に前記案内手段に案内された遊技球が誘導されることを特徴とする遊技機ＹＡ５。
【４６４８】
遊技機ＹＡ５によれば、遊技機ＹＡ１からＹＡ４のいずれかの奏する効果に加え、第１動作部によって、遊技球が動作手段に案内される時間を短縮することができると共に、動作手段で遊技球を１球ずつ案内することができる。動作手段の幅を短くすることができる。
【４６４９】
遊技機ＹＡ５において、前記動作手段は、第１動作部よりも長い第２動作部を備え、遊技球が前記第１動作部を転動するのに要する期間よりも、遊技球が前記第２動作部を転動するのに要する期間の方が長く構成されることを特徴とする遊技機ＹＡ６。
【４６５０】
遊技機ＹＡ６によれば、遊技機ＹＡ５の奏する効果に加え、同様に動作手段に到達した遊技球の案内態様として、動作手段が同様の動作パターンで動作している場合に、遊技球が第１動作部に到達するか、第２動作部に到達するかによって、遊技球が下流側にどのように流下するかを変えることができる。
【４６５１】
遊技機ＹＡ６において、前記第１動作部に案内される遊技球と、前記第２動作部に案内される遊技球とは、異なる流下領域に案内されることを特徴とする遊技機ＹＡ７。
【４６５２】
遊技機ＹＡ７によれば、遊技機ＹＡ６の奏する効果に加え、一の動作手段を利用して、球の案内方向を複数方向構成することができるので、動作手段による遊技球の案内時の見映えを複数通りで実現することができる。

【４６５３】
遊技機ＹＡ７において、前記検出手段を通過した遊技球は、前記第１動作部に案内され得るよう構成され、前記検出手段を通過せずに流下した遊技球は、前記第２動作部に案内され得ることを特徴とする遊技機ＹＡ８。
【４６５４】
遊技機ＹＡ８によれば、遊技機ＹＡ７の奏する効果に加え、検出手段を通過した遊技球が、その他の遊技球に弾かれて案内不良が生じる不具合を防止することができる。
【４６５５】
遊技機ＹＡ６からＹＡ８のいずれかにおいて、前記第１動作部に案内される遊技球と、前記第２動作部に案内される遊技球とは、動作手段上での衝突が抑制されることを特徴とする遊技機ＹＡ９。
【４６５６】
遊技機ＹＡ９によれば、遊技機ＹＡ６からＹＡ８のいずれかの奏する効果に加え、動作手段上を転動する遊技球が衝突して、流下態様の不均一が生じることを回避し易くすることができる。
【４６５７】
なお、第１動作部上に配置される遊技球と、第２動作部上に配置される遊技球との間に壁が配置されることで隔離されても良いし、壁は無いとしても衝突しないような流下態様に管理されても良い。
【４６５８】
遊技機ＹＡ９において、前記第１動作部に案内される遊技球は、前記第２動作部に案内される遊技球の流下方向とは逆側へ流下することを特徴とする遊技機ＹＡ１０。
【４６５９】
遊技機ＹＡ１０によれば、遊技機ＹＡ９の奏する効果に加え、第１動作部に案内される遊技球と、第２動作部に案内される遊技球とが、同方向に流下する場合と異なり、遊技球の流下速度に関わらず遊技球の衝突を回避することができる。
【４６６０】
なお、遊技球の流下方向は、左右逆方向でも良いし、前後逆方向でも良い。また、所定軌跡（例えば、円形状軌跡）に沿う逆方向でも良い。
【４６６１】
遊技機ＹＡ１からＹＡ１０のいずれかにおいて、前記案内手段は、前記所定経路として複数経路を備えることを特徴とする遊技機ＹＡ１１。
【４６６２】
遊技機ＹＡ１１によれば、遊技機ＹＡ１からＹＡ１０のいずれかの奏する効果に加え、動作手段の動作パターンの種類は少なくしながら、遊技球の流下パターンを増やすことができる。
【４６６３】
＜８チャンスの経路にセンサが配置され不利側から有利側に球を引き抜く構成＞
遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、遊技球の流下経路を構成する構成手段と、その構成手段の下流側に配設され遊技球が第１入球口に案内される第１経路と、前記構成手段の下流側に配設され遊技球が第２入球口に案内される第２経路と、を備える遊技機において、前記第１経路を流下する遊技球を前記第２経路側へ移動させる移動手段を備えることを特徴とする遊技機ＹＢ１。
【４６６４】
パチンコ機等の遊技機において、入球口に遊技球が通る順番で、遊技球がどの経路に向かうかが周期的に変化する遊技機がある（例えば、特開２０１５－１４４７４１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、入球口への入球の有利不利は遊技球が入球する周期でのみ変化することになり、全般的に有利な状態や、全般的に不利な状態を形成することが困難であるという問題点があった。換言すれば、遊技者の有利度合いの変化幅

が制限されるという問題点があった。

【４６６５】

これに対し、遊技機ＹＢ１によれば、移動手段によって、構成手段に構成される経路を流下した遊技球が第１入球口に入球するか、第２入球口に入球するかを無秩序に生じさせることができるので、遊技球が入球する入球口が周期的に変化する場合に比較して、遊技者の有利度合いの変化幅を拡大することができる。

【４６６６】

遊技機ＹＢ１において、前記構成手段に構成される経路は、分岐経路であることを特徴とする遊技機ＹＢ２。

【４６６７】

遊技機ＹＢ２によれば、遊技機ＹＢ１の奏する効果に加え、移動手段の作用により遊技球の流下態様に変化が生じるだけでなく、経路の分岐によっても遊技球の流下態様に変化を生じさせることができるので、構成手段に入球した遊技球に対する注目力を向上させることができる。

【４６６８】

遊技機ＹＢ１又はＹＢ２において、前記経路を流下する遊技球の通過を検出可能に構成される検出手段を備え、前記移動手段は、前記経路内における遊技球の流下に影響を与える態様で動作可能に構成される動作手段を備え、その動作手段は、第１状態の場合に遊技球が第１入球口へ向けて送球され、第２状態の場合に遊技球が第２入球口へ向けて送球されるよう構成され、前記検出手段で遊技球の通過が検出されることに基づいて動作制御可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＢ３。

【４６６９】

遊技機ＹＢ３によれば、遊技機ＹＢ１又はＹＢ２の奏する効果に加え、動作手段の動作パターン次第で、構成手段に入球した遊技球が第１入球口に入球するか、第２入球口に入球するかが切り替えられるので、遊技球が入球する入球口の周期性を低くし易くすることができる。これにより、遊技球が入球する入球口が周期的に変化する場合に比較して、遊技者の有利度合いの変化幅を拡大することができる。

【４６７０】

遊技機ＹＢ３において、前記動作手段は、前記構成手段の外側を流下する遊技球を案内可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＢ４。

【４６７１】

遊技機ＹＢ４によれば、遊技機ＹＢ３の奏する効果に加え、構成手段に構成される流路を流下する遊技球を案内する手段と、構成手段に構成される流路外で流下する遊技球を案内する手段と、を動作手段で兼用することができる。

【４６７２】

遊技機ＹＢ３又はＹＢ４において、前記構成手段の前記経路外に配設される第２検出手段を備え、前記検出手段を通過した遊技球の前記動作手段への案内態様と、前記第２検出手段を通過した遊技球の前記動作手段への案内態様と、が異なることを特徴とする遊技機ＹＢ５。

【４６７３】

遊技機ＹＢ５によれば、遊技機ＹＢ３又はＹＢ４の奏する効果に加え、動作手段への案内態様を複数種類で構成することができる。

【４６７４】

なお、案内態様の違いについては、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、遊技球の経路の違いであっても良いし、遊技球の流下速度の違いであっても良い。

【４６７５】

遊技機ＹＢ３からＹＢ５のいずれかにおいて、前記動作手段は、前記第１状態と前記第２状態との切り替えにより、遊技球の流下方向を上下方向と左右方向とで変化させることを特徴とする遊技機ＹＢ６。

【４６７６】
遊技機ＹＢ６によれば、遊技機ＹＢ３からＹＢ５のいずれかの奏する効果に加え、遊技球の流下方向の変化を遊技者が把握し易いようにすることができる。
【４６７７】
遊技機ＹＢ３からＹＢ６のいずれかにおいて、前記検出手段は、遊技球の通過に基づいて所定の図柄が所定期間変動するように制御され、前記所定期間は、遊技球が前記経路に入球してから前記検出手段を通過するまでに要する期間よりも短く設定されることを特徴とする遊技機ＹＢ７。
【４６７８】
遊技機ＹＢ７によれば、遊技機ＹＢ３からＹＢ６のいずれかの奏する効果に加え、構成手段の経路の入口から検出手段までの間に配置される遊技球が１個以下の状態を維持することにより、検出手段を遊技球が通過する時点において図柄が変動中であるという事態を回避することができる。従って、検出手段を遊技球が通過した直後に所定の図柄の変動を開始させることができる。
【４６７９】
従って、遊技球が検出手段を通過するタイミングと、遊技球が検出手段を通過したことに基づく動作手段の動作制御を開始するタイミングと、を合わせることができる。
【４６８０】
遊技機ＹＢ７において、前記動作手段は、前記検出手段で検出された遊技球を案内しない第１制御態様と、前記検出手段で検出された遊技球を案内する第２制御態様とで、制御態様が切替可能とされることを特徴とする遊技機ＹＢ８。
【４６８１】
遊技機ＹＢ８によれば、遊技機ＹＢ７の奏する効果に加え、動作手段の動作が実行されたとしても、制御態様の違いにより、動作手段に遊技球が案内される場合と、案内されない場合とを構成できるので、動作手段の動作に対する遊技者の注目力を向上させることができる。
【４６８２】
遊技機ＹＢ８において、前記制御態様の切替は、前記検出手段での検出の度に実行可能に構成され、切替可能な前記制御態様の種類は、大当たり遊技の度に変化可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＢ９。
【４６８３】
遊技機ＹＢ３からＹＢ９のいずれかにおいて、遊技球が前記第１入球口に入球することで遊技者が得られる利益と、遊技球が前記第２入球口に入球することで遊技者が得られる利益とが異なることを特徴とする遊技機ＹＢ１０。
【４６８４】
遊技機ＹＢ１０によれば、遊技機ＹＢ３からＹＢ９のいずれかの奏する効果に加え、動作手段に対する注目力を向上させることができる。
【４６８５】
＜動作手段に複数位置で流下する構成＞
遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、前記遊技領域に配設され遊技球の通過を検出する検出手段と、その検出手段で遊技球の通過が検出されたことに基づいて動作制御される動作手段と、を備える遊技機において、前記動作手段は、遊技球が流下可能な第１流下位置と、その第１流下位置とは異なる第２流下位置と、を備え、前記第１流下位置を流下する遊技球の流下態様と前記第２流下位置を流下する遊技球の流下態様とが異なるように構成されることを特徴とする遊技機ＹＣ１。
【４６８６】
パチンコ機等の遊技機において、検出手段に遊技球が検出されることに基づいて可動役物が開放し、その可動役物により遊技球が入賞口へ案内される遊技機がある（例えば、特開２０１５－１８１５７２号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、遊技球

が可動役物に案内される態様は単調であり、可動役物の注目力を向上するという観点で改良の余地があるという問題点があった。

【４６８７】

これに対し、遊技機ＹＣ１によれば、動作手段が遊技球を流下させる複数の流下位置を備えており、遊技球がどの流下位置を流下するかで流下態様が異なるように構成されるので、遊技球が可動役物に案内される態様にバリエーションを設けることができ、可動役物の注目力を向上させることができる。

【４６８８】

遊技機ＹＣ１において、前記流下態様は、遊技球の流下速度、流下方向または流下間隔であることを特徴とする遊技機ＹＣ２。

【４６８９】

遊技機ＹＣ２によれば、遊技機ＹＣ１の奏する効果に加え、動作手段に沿って流下する遊技球の流れをばらつかせることができ、その遊技球への注目力を向上させることができる。

【４６９０】

遊技機ＹＣ１又はＹＣ２において、前記第１流下位置は、前記検出手段を通過した遊技球が流下可能な位置として設定されることを特徴とする遊技機ＹＣ３。

【４６９１】

遊技機ＹＣ３によれば、遊技機ＹＣ１又はＹＣ２の奏する効果に加え、第１流下位置に遊技球が到達していることを確認することで、遊技球が検出手段を通過したことを把握できるので、検出手段を視認する必要をなくすことができる。

【４６９２】

また、検出手段を通過した遊技球と、検出手段を通過しなかった遊技球とが、動作手段の別位置で流下するようにすることで、動作手段に同時に乗せることができる遊技球の個数を、全球が検出手段を通過するように狙う発射態様か、一部の遊技球は検出手段を逸らすことを狙う発射態様かで、変化させることができる。

【４６９３】

遊技機ＹＣ３において、前記検出手段を通過した遊技球の流下経路は、分岐しない経路として構成されることを特徴とする遊技機ＹＣ４。

【４６９４】

遊技機ＹＣ４によれば、遊技機ＹＣ３の奏する効果に加え、第１流下位置に遊技球が到達したことを確認することで、その遊技球が検出手段を通過したことを把握することができる。

【４６９５】

遊技機ＹＣ１からＹＣ４のいずれかにおいて、前記第１流下位置を流下した遊技球の流下経路と、前記第２流下位置を流下した遊技球の流下経路とは、前記動作手段の下流側における所定の合流位置において合流することを特徴とする遊技機ＹＣ５。

【４６９６】

遊技機ＹＣ５によれば、遊技機ＹＣ１からＹＣ４のいずれかの奏する効果に加え、動作手段により流下された遊技球により遊技球が得られる利益を、その流下位置によらず同じとすることができる。

【４６９７】

遊技機ＹＣ５において、前記合流位置は、前記動作手段から離れた位置に配置されることを特徴とする遊技機ＹＣ６。

【４６９８】

遊技機ＹＣ６によれば、遊技機ＹＣ５の奏する効果に加え、合流時に遊技球で生じる負荷が動作手段の動作に与える影響を小さくすることができる。これにより、動作手段の動作を円滑に実行することができる。

【４６９９】

遊技機ＹＣ５において、前記合流位置は、前記動作手段に近接配置されることを特徴と

する遊技機ＹＣ７。
【４７００】
遊技機ＹＣ７によれば、遊技機ＹＣ５の奏する効果に加え、動作手段に沿って流下する遊技球の通過を検出する検出装置を、より上流側に配置することができるので、利益を早期に生じさせることができる。従って、動作手段に沿って遊技球が流下してから利益発生までの待ち時間を短縮することができる。
【４７０１】
遊技機ＹＣ５からＹＣ７のいずれかにおいて、前記合流位置で遊技球が下方に落下するよう構成されることを特徴とする遊技機ＹＣ８。
【４７０２】
遊技機ＹＣ８によれば、遊技機ＹＣ５からＹＣ７のいずれかの奏する効果に加え、合流した後の球が逆流したり、球詰まりが生じたりする事態の発生を回避することができる。
【４７０３】
遊技機ＹＣ１からＹＣ８のいずれかにおいて、前記第１流下位置を流下する遊技球と、前記第２流下位置を流下する遊技球との、流下方向が同じように構成されることを特徴とする遊技機ＹＣ９。
【４７０４】
遊技機ＹＣ９によれば、遊技機ＹＣ１からＹＣ８のいずれかの奏する効果に加え、動作手段に到達した遊技球に注目する側を統一することができるので、遊技者が注目すべき箇所を容易に把握させることができる。
【４７０５】
遊技機ＹＣ１からＹＣ８のいずれかにおいて、前記第１流下位置を流下する遊技球と、前記第２流下位置を流下する遊技球との、流下方向が異なるように構成されることを特徴とする遊技機ＹＣ１０。
【４７０６】
遊技機ＹＣ１０によれば、遊技機ＹＣ１からＹＣ８のいずれかの奏する効果に加え、遊技球の流下する方向を視認することで、遊技球が第１流下位置を流下したか、遊技球が第２流下位置を流下したかを、判断することができるので、動作手段に近接配置される遊技球が前後に重なり見難い構成においても、動作手段よりも下流側において遊技球の流下方向を把握することができる。
【４７０７】
遊技機ＹＣ１からＹＣ１０のいずれかにおいて、遊技球が入球することで遊技者に第１の利益を付与可能に構成される第１入球口と、遊技球が入球することで遊技者に第１の利益よりも大きな第２の利益を付与可能に構成される第２入球口と、を備え、前記第１流下位置は、前記第１入球口に入球した遊技球の流下経路に配置され、前記動作手段は、前記第１流下位置を流下する遊技球を前記第２入球口側に案内可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＣ１１。
【４７０８】
遊技機ＹＣ１１によれば、遊技機ＹＣ１からＹＣ１０のいずれかの奏する効果に加え、動作手段によって、第１入球口に入球した遊技球により利益が付与される前に、その遊技球を第２入球口側に引き抜くことができる。
【４７０９】
これにより、例えば、左右対称盤面の遊技機（特別図柄の抽選のための入賞口や、特別遊技において開閉する入賞口が、左右中央位置に縦並びに配置され、それらの入賞口に左打ちでも右打ちでも入球させることができる盤面構成の遊技機）であっても、動作手段の動作によって、第１入球口への入球により利益が生じる頻度を落とすことができる。
【４７１０】
そのため、第１入球口への入球頻度を落とすために、第１入球口へ遊技球が案内されない右打ち経路を構成する必要性を下げることができ、遊技領域の設計自由度を向上させることができる。

【４７１１】
＜分岐手段で分岐する第１流路と第２流路との有利不利を変化可能＞
遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、所定の入球領域の下流側に第１流路および第２流路を構成する構成手段と、を備え、遊技球が前記第１流路を流下する場合に遊技者が得られる第１の利益と、遊技球が前記第２流路を流下する場合に遊技者が得られる第２の利益と、の大小関係を変化可能に構成される変化手段を備えることを特徴とする遊技機ＹＤ１。
【４７１２】
パチンコ機等の遊技機において、所定の入球領域を流下した遊技球が左側に流下した場合と、右側に流下した場合とで、遊技者が得られると期待される利益に違いがある遊技機がある（例えば、特開２０１５－１４４７４１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、遊技球が流下した場合に有利な方向が固定されているため、分岐位置における遊技球の流下方向さえ確認できればその後で得られる利益が予想できてしまい、実際に利益が確定する確定領域に遊技球が到達する前に遊技者の集中力のピークが来てしまうので、分岐位置から確定領域までの経路に対する注目力が低下することになり、遊技領域を演出領域として利用するという観点から改良の余地があるという問題点があった。
【４７１３】
これに対し、遊技機ＹＤ１によれば、変化手段によって、第１の利益と第２の利益との大小関係が切替可能とされることから、遊技者の集中力のピークを、遊技球が第１流路または第２流路に入球する時点ではなく、実際に利益が確定する確定領域に遊技球が入球する時点に持ってくることができるので、分岐領域から確定領域までの経路に対する注目力を高く維持することができる。これにより、遊技境域を演出領域として有効利用することができる。
【４７１４】
なお、利益が確定する時点としては、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、遊技球が検出口（検出領域、特定領域等）を通過する時点としても良いし、遊技球が検出口を通過したことで確定した利益が遊技者側に報知される時点（遊技者が利益を認識できる時）としても良い。
【４７１５】
遊技機ＹＤ１において、前記第１の利益または前記第２の利益の内、大側の利益が遊技者に付与される場合に、遊技球を正面側に流下させる流下領域を備えることを特徴とする遊技機ＹＤ２。
【４７１６】
遊技機ＹＤ２によれば、遊技機ＹＤ１の奏する効果に加え、遊技球が通常の流下態様（下方に流下する流下態様）と異なる際に大側の利益が遊技者に付与されることから、遊技球を視認させることで、大側の利益が付与されたことを遊技者に把握させ易くすることができる。
【４７１７】
遊技機ＹＤ１又はＹＤ２において、前記第１流路および前記第２流路は合流可能に構成され、その合流位置への進入位置に上下方向の位置差があることを特徴とする遊技機ＹＤ３。
【４７１８】
遊技機ＹＤ３によれば、遊技機ＹＤ１又はＹＤ２の奏する効果に加え、第１流路および第２流路から、遊技球が合流位置に同時に進入した場合であっても、衝突時の負荷が上下方向（第１流路および第２流路と交差する方向）で生じるので、遊技球が逆流することを回避し易くすることができる。
【４７１９】
遊技機ＹＤ３において、前記進入位置は、遊技球の通過頻度が高い側が下側配置されることを特徴とする遊技機ＹＤ４。

【４７２０】
遊技機ＹＤ４によれば、遊技機ＹＤ３の奏する効果に加え、高頻度で所定の進入位置を通過する遊技球が、他の進入位置に誤って入球することを避け易くすることができる。
【４７２１】
遊技機ＹＤ１からＹＤ４のいずれかにおいて、前記第１流路および前記第２流路は、遊技球の通過を検出する検出手段と、その検出手段で遊技球の通過が検出されたことに基づいて所定パターンで動作制御される動作手段と、を備え、前記第１流路における前記検出手段と前記動作手段との間隔と、前記第２流路における前記検出手段と前記動作手段との間隔と、が異なるように構成されることを特徴とする遊技機ＹＤ５。
【４７２２】
遊技機ＹＤ５によれば、遊技機ＹＤ１からＹＤ４のいずれかの奏する効果に加え、動作手段の動作制御は同一としながら、第１流路を遊技球が流下する場合と、第２流路を遊技球が流下する場合とで、動作手段が遊技球に作用するか否かを異ならせることができる。
【４７２３】
＜３状態で切替＞
遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、前記遊技領域を流下した遊技球が入球可能に構成される第１入球口および第２入球口と、前記遊技領域に配設され遊技球の通過を検出する検出手段と、その検出手段で遊技球の通過が検出されたことに基づいて動作する動作手段と、を備える遊技機において、前記動作手段の動作態様に対応して、遊技球が第１入球口に入球し易い第１状態と、遊技球が第２入球口に入球し易い第２状態と、遊技球が第１入球口および第２入球口に入球し易い第３状態と、で状態を切り替え可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＥ１。
【４７２４】
パチンコ機等の遊技機において、第１始動口および第２始動口を備える遊技機がある（例えば、特開２０１５－１４４７４１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、第１始動口および第２始動口（第１の第２始動口）に入球し易い状態と、第２始動口（第２の第２始動口）のみに入球し易い状態と、で状態を切り替えることはできるが、第１始動口のみに入球し易い状態に切り替えることはできず、遊技球の入球態様の自由度が制限されるという問題点があった。
【４７２５】
これに対し、遊技機ＹＥ１によれば、動作手段の動作態様に対応して、第１入球口および第２入球口に入球し易い第３状態と、第２入球口に入球し易い第２状態だけでなく、第１入球口に入球し易い第１状態にも状態を切り替えることができるので、遊技球の入球態様の自由度を向上させることができる。
【４７２６】
遊技機ＹＥ１において、前記第３状態では、流下した遊技球が第１入球口に入球する場合と、第２入球口に入球する場合とが、交互に生じることを特徴とする遊技機ＹＥ２。
【４７２７】
遊技機ＹＥ２によれば、遊技機ＹＥ１の奏する効果に加え、第３状態における第１入球口への入球個数と第２入球口への入球個数とを均一化することができる。
【４７２８】
遊技機ＹＥ１又はＹＥ２において、流下した遊技球が、前記第１入球口または前記第２入球口に入球可能に形成される所定流路を備えることを特徴とする遊技機ＹＥ３。
【４７２９】
遊技機ＹＥ３によれば、遊技機ＹＥ１又はＹＥ２の奏する効果に加え、所定流路を遊技球が流下している時点では、その遊技球は第１入球口に入球する可能性も、第２入球口に入球する可能性も残されているので、所定流路を流下している遊技球に対する注目力を向上することができる。
【４７３０】

＜サポートで特１特２の両方が貯まる＞
遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、前記遊技領域を流下した遊技球が入球可能に構成される第１入球口および第２入球口と、前記遊技領域に配設され遊技球の通過を検出する検出手段と、その検出手段で遊技球の通過が検出されたことに基づいて動作制御される動作手段と、を備える遊技機において、前記動作手段は、前記動作手段が配置される位置まで流下した遊技球の流下経路を、前記第１入球口側へ向かう第１経路と、前記第２入球口側へ向かう第２経路と、その他の経路と、に分岐可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＦ１。
【４７３１】
パチンコ機等の遊技機において、第１始動口および第２始動口を備える遊技機がある（例えば、特開２０１５－１４４７４１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、可動片の開状態において第２始動口（第２の第２始動口）に入球し易い状態を形成することができるが、第１始動口へ入球し易い状態を形成することはできず、可動片による遊技球の案内態様に改良の余地があるという問題点があった。
【４７３２】
これに対し、遊技機ＹＦ１によれば、動作手段から下流側の流下経路として、第１経路と第２経路とが形成されることで、第１入球口へ遊技球を案内することも第２入球口へ遊技球を案内することもできるので、動作手段による遊技球の案内態様を改良することができる。
【４７３３】
遊技機ＹＦ１において、前記第１入球口に遊技球が入球した場合に遊技者に付与可能な利益よりも、前記第２入球口に遊技球が入球した場合に遊技者に付与可能な利益が大きく設定され、前記第１入球口は前記動作手段の中央側の下方に配置され、前記第２入球口は前記動作手段の端側の下方に配置されることを特徴とする遊技機ＹＦ２。
【４７３４】
遊技機ＹＦ２によれば、遊技機ＹＦ１の奏する効果に加え、動作手段の端側まで遊技球が流れきれば第２入球口に入球可能となるので、途中位置で落下する（タイミングよく動作手段が動作する）ことで第１入球口に入球する事態に比較して、第２入球口に遊技球が入球する事態を発生し易くすることができる。
【４７３５】
遊技機ＹＦ１又はＹＦ２において、動作手段の端部からの遊技球の零れを防止するための零れ防止手段を備えることを特徴とする遊技機ＹＦ３。
【４７３６】
遊技機ＹＦ３によれば、遊技機ＹＦ１又はＹＦ２の奏する効果に加え、零れ防止手段によって動作手段から遊技球が勢い余って零れる事態を回避することができるので、動作手段に遊技球が到達した場合の遊技者の安心感を高めることができる。
【４７３７】
また、零れ防止手段で遊技球が高反発で跳ね返るようにすることで、動作手段の上面における遊技球の転動速度を高め、動作手段の上面を遊技球が短時間で通過し易くすることができる。
【４７３８】
＜振分け左右で構成違い＞
遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、前記遊技領域に配設され遊技球の通過を検出する複数の検出手段と、その検出手段で遊技球の通過が検出されたことに基づいて動作する動作手段と、その動作手段に案内された遊技球が入球可能に構成される被案内入球口と、を備える遊技機において、前記複数の検出手段は、前記動作手段の上流側に配設される第１検出手段と、その第１検出手段とは異なる位置に配設される第２検出手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＹＧ１。

【４７３９】
パチンコ機等の遊技機において、普図始動口を備える遊技機がある（例えば、特開２０１６－５４９７０号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、普図始動口に案内される経路と、開閉部材側に案内される経路とが、別経路とされ、それぞれの経路を遊技球が交互に流下するため、普図始動口の真上に配置される釘に遊技球が衝突して普図始動口から逸れる事態が生じると、次に普図始動口に遊技球が案内されるまでに期間が開いてしまうことから、開閉部材が閉じている時に開閉部材側に遊技球が流下するという、期待感の薄い状態になり易い。この場合、遊技が間延びしてしまい、遊技者の興趣を低下させる可能性があるという問題点があった。
【４７４０】
これに対し、遊技機ＹＧ１によれば、動作手段の上流側に配設される第１検出手段と、動作手段の上流側とは異なる位置に配設される第２検出手段と、を備えるので、遊技球が検出手段に検出される状況を頻繁に生じさせることができる。これにより、動作手段の動作頻度を向上させることができるので、遊技者の興趣を向上させることができる。
【４７４１】
遊技機ＹＧ１において、前記第１検出手段と前記動作手段との間に所定の流路が形成されることを特徴とする遊技機ＹＧ２。
【４７４２】
遊技機ＹＧ２によれば、遊技機ＹＧ１の奏する効果に加え、第１検出手段から動作手段への遊技球の流れを整流化することができる。
【４７４３】
遊技機ＹＧ１又はＹＧ２において、前記動作手段は、前記第２検出手段を通過する遊技球の流下経路側へ延びるように形成されることを特徴とする遊技機ＹＧ３。
【４７４４】
遊技機ＹＧ３によれば、遊技機ＹＧ１又はＹＧ２の奏する効果に加え、第２検出手段側の注目力が第１検出手段側の注目力との比較において低くなり過ぎることを回避することができる。
【４７４５】
＜遊技球を案内する手段が長い＞
入球領域と、その入球領域に入球した遊技球を案内する案内手段と、その案内手段の下流側に配設され遊技球の通過を検出する第１検出手段と、前記案内手段の下流側に配設され遊技球の通過を検出した場合に、前記第１検出手段に遊技球の通過が検出されることに基づいて遊技者に与え得る利益とは異なる利益を遊技者に与え得る第２検出手段と、を備え、前記案内手段は、前記入球領域から流下した遊技球を受けるための所定部と、その所定部よりも下流側に配置され前記所定部の変位に対応して変位する下流側部と、を備え、少なくとも前記下流側部の配置に応じて、遊技球を前記第１検出手段に案内し易い第１状態と、遊技球を前記第２検出手段に案内し易い第２状態と、で状態変化可能に構成されることを特徴とする遊技機ＢＡ１。
【４７４６】
パチンコ機等の遊技機において、所定の検出領域（第２始動入賞口２７）において遊技球の通過が検出された場合において、一定確率で開放されて奥側に配設される賞球口への遊技球の案内が可能となる可動役物（第２可変入賞装置３１）が配設され、その可動役物の開放動作を頻繁に生じさせて賞球口への入球が頻繁に生じることにより多量の賞球の払い出しを遊技者が獲得できる遊技状態が、通常状態よりも有利な遊技状態として設定される遊技機がある（例えば、特開２０１７－１６９６３０号公報を参照）。
【４７４７】
しかし、上述した従来の遊技機では、別の検出領域（可変始動入賞口２８ａ）に可動部材（開閉部材２８ｂ）が配設されていることを理由に、所定の検出領域を開閉する可動部材が配設されておらず、常に遊技球を所定の検出領域に通過可能に構成されている。通常状態では遊技領域の左側に遊技球を流下させる遊技方法が推奨されているが、遊技初心者

などは特に、誤って遊技領域の右側に遊技球を流下させるように発射してしまう場合がある。

【４７４８】

所定の検出領域において遊技球の通過が検出された場合、可動役物の開放動作の抽選（小当たりの抽選）の他に、特別図柄の抽選（大当たりの抽選）も行われ、特別図柄の抽選による大当たりが発生すると、大当たり終了後の遊技状態としてペナルティが課され、通常状態よりも不利な遊技を強いられることとなる。遊技初心者からすれば、理由もわからずペナルティを課されたと疑念を抱きかねず、遊技機に対する興味関心が薄れ、新規の遊技者を獲得し損なる状況を生み出しかねない。即ち、遊技初心者に優しくなく、平等性に欠けるという問題点があった。

【４７４９】

これに対し、遊技機ＢＡ１によれば、案内手段が第１状態で維持されることで、第１検出手段へ遊技球が案内され易い状態を構成することができ、この状態において第２検出手段（所定の検出領域）への遊技球の案内を抑制することができる。これにより、案内手段を利用することで、第２検出手段に遊技球を通過させることを防ぐことができ、遊技の平等性を高めることができる。

【４７５０】

なお、案内手段は、所定部と下流側部とが一体的に形成されるよう構成されても良いし、所定部と下流側部とが別体で形成されるよう構成されても良い。

【４７５１】

遊技機ＢＡ１において、前記下流側部は、前記第１状態において前記第２検出手段への遊技球の案内を防止可能とされ、前記第２状態において前記第１検出手段への遊技球の案内を防止可能とされるよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＡ２。

【４７５２】

遊技機ＢＡ２によれば、遊技機ＢＡ１の奏する効果に加え、下流側部により、案内手段を介して流下する遊技球が通過する検出手段を切り替えることができる。

【４７５３】

遊技機ＢＡ１又はＢＡ２において、前記案内手段は、前記所定部が受けた遊技球を前記下流側部へ向けて流下させる中間部を備えることを特徴とする遊技機ＢＡ３。

【４７５４】

遊技機ＢＡ３によれば、遊技機ＢＡ１又はＢＡ２の奏する効果に加え、中間部により、案内手段を介して流下する遊技球が第１検出手段に案内されるのか、第２検出手段に案内されるのかが、不明確な状態を引き延ばすことができる。

【４７５５】

なお、中間部は、下流側部の変位に対応して変位可能に構成しても良いし、下流側部の変位に関わらず変位しないように構成しても良い。

【４７５６】

遊技機ＢＡ３において、前記中間部は、前記第１状態でも前記第２状態でも遊技球の流下方向が変化しないよう構成され、下流側において前記第１検出手段または前記第２検出手段への案内が行われることを特徴とする遊技機ＢＡ４。

【４７５７】

遊技機ＢＡ４によれば、遊技機ＢＡ３の奏する効果に加え、入球領域に入球した後の遊技球が中間部を案内されている時に案内手段が第１状態と第２状態とで切り替わったとしても、中間部における遊技球の流下方向に影響を与えないので、中間部を案内されている遊技球の流下態様の変化から案内手段の状態変化を把握されるという事態の発生を避けることができる。

【４７５８】

遊技機ＢＡ１からＢＢＡ４のいずれかにおいて、前記案内手段は、前記第１状態において、前記所定部が前記入球領域から前記案内手段への入球を制限する位置に配置され、前記第２状態において、前記所定部が前記入球領域から前記案内手段への入球を許容する位

置に配置されることを特徴とする遊技機ＢＡ５。
【４７５９】
遊技機ＢＡ５によれば、遊技機ＢＡ１からＢＢＡ４のいずれかの奏する効果に加え、案内手段の状態の切り替えによって、案内手段への新たな遊技球の入球の可否を切り替えることができる。
【４７６０】
また、所定部における遊技球の通過と、下流側部における遊技球の通過と、のそれぞれに注目させることができる。即ち、遊技者の視線を複数位置で集めることができ、案内手段の注目箇所を増加させることができる。
【４７６１】
遊技機ＢＡ５において、前記所定部の配置の切り替えと、前記下流側部の配置の切り替えとは、同時に実行されることを特徴とする遊技機ＢＡ６。
【４７６２】
遊技機ＢＡ６によれば、遊技機ＢＡ５の奏する効果に加え、異なる位置で同時に切替が実行されることから、遊技者に、所定部における切り替えか、下流側部における切り替えか、いずれかを選択して視認させるという遊技性を付与することができる。
【４７６３】
遊技機ＢＡ５において、前記所定部の配置の切り替えと、前記下流側部の配置の切り替えとは、タイミングがずれて実行されることを特徴とする遊技機ＢＡ７。
【４７６４】
遊技機ＢＡ７によれば、遊技機ＢＡ５の奏する効果に加え、別タイミングで異なる位置における切り替えが実行されることから、遊技者に、所定部における切り替えと、下流側部における切り替えと、が視線をずらすことで視認することができるという遊技性を付与することができる。加えて、遊技者の視線の動きを誘導することができる。
【４７６５】
遊技機ＢＡ１からＢＢＡ７のいずれかにおいて、前記所定部は、前後方向にスライド変位することを特徴とする遊技機ＢＡ８。
【４７６６】
遊技機ＢＡ８によれば、遊技機ＢＡ１からＢＢＡ７のいずれかの奏する効果に加え、正面視における所定部の動きが目立つことを避けることができる。所定部は、案内手段への入球の可否を切り替える部分であり、第１検出手段に案内されるか、第２検出手段に案内されるかが決定される箇所ではないので、目立つことを避けることで、相対的に下流側部の動作を目立たせることができる。
【４７６７】
遊技機ＢＡ１からＢＢＡ８のいずれかにおいて、前記下流側部は、回転動作する態様で変位することを特徴とする遊技機ＢＡ９。
【４７６８】
遊技機ＢＡ９によれば、遊技機ＢＡ１からＢＢＡ８のいずれかの奏する効果に加え、第１検出手段に案内されるか、第２検出手段に案内されるかが決定される箇所としての下流側部の動きを目立たせることができる。
【４７６９】
遊技機ＢＡ１からＢＢＡ９のいずれかにおいて、前記案内手段は、前記所定部と前記下流側部との間の正面視における距離よりも、前記所定部から前記下流側部へ流下する遊技球の流下距離が長くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＡ１０。
【４７７０】
遊技機ＢＡ１０によれば、遊技機ＢＡ１からＢＢＡ９のいずれかの奏する効果に加え、所定部から流れた遊技球が下流側部に到達する前に、遊技者が所定部から下流側部に視線を移動させ易くすることができる。
【４７７１】
遊技機ＢＡ１からＢＢＡ１０のいずれかにおいて、前記案内手段は、前記所定部を介さ

ない遊技球が前記下流側部へ到達することを防止するための防止手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＡ１１。

【４７７２】

遊技機ＢＡ１１によれば、遊技機ＢＡ１からＢＢＡ１０のいずれかの奏する効果に加え、防止手段により、下流側部へ到達する遊技球の流下経路を制限することができるので、遊技球が意図しない経路で下流側部に到達し、誤った検出手段に入球する事態の発生を避けることができる。

【４７７３】

遊技機ＢＡ１からＢＢＡ１１のいずれかにおいて、前記案内手段は、前記入球領域からの複数の遊技球を前記所定部が受ける第１期間よりも、その第１期間に前記所定部が受けた前記複数の遊技球が前記下流側部を通過する第２期間を短縮可能に構成されることを特徴とする遊技機ＢＡ１２。

【４７７４】

遊技機ＢＡ１２によれば、遊技機ＢＡ１からＢＢＡ１１のいずれかの奏する効果に加え、案内手段により、所定部が遊技球を受けるタイミングのずれよりも、下流側部における遊技球の通過タイミングのずれを小さくすることができるので、下流側部での遊技球の流下方向の切替の精度を保ちながら、所定部において遊技球を受けるタイミングのずれの許容幅を拡大することができ、快適な遊技を提供し易くすることができる。

【４７７５】

遊技機ＢＡ１２において、前記所定部は、変位する際に、遊技球を加速させる方向の負荷を遊技球に負荷する形状から構成されることを特徴とする遊技機ＢＡ１３。

【４７７６】

遊技機ＢＡ１３によれば、遊技機ＢＡ１２の奏する効果に加え、所定部の変位が生じる際に遊技球を加速させる方向の負荷が生じることになるので、所定部が変位する前に所定部を通過した遊技球へ向けて、所定部が変位する際に所定部上に配置された遊技球を加速させることで、遊技球同士の間隔が縮まる状況を生じさせることができる。

【４７７７】

＜流下経路を引き延ばす＞

入球領域と、その入球領域に入球した遊技球を下流側領域へ流下させる流下手段と、前記下流側領域を流下する遊技球の通過を検出する検出手段と、を備える遊技機において、前記流下手段は、遊技球を流下させる第１可動部と、その第１可動部よりも下流側に配置され遊技球を流下させる第２可動部と、前記第１可動部および前記第２可動部の間に配置され遊技球を流下させる所定部と、を備えることを特徴とする遊技機ＢＢ１。

【４７７８】

パチンコ機等の遊技機において、遊技球が入球可能な検出センサと、その検出センサに遊技球を案内する可動部材と、を備える遊技機がある（例えば、特開２０１５－１８１５７２号公報を参照）。

【４７７９】

しかし、上述した従来の遊技機では、検出センサへ向けた遊技球の流下経路が可動部材の長さに限定されるので、遊技球の流下が単調となり易いので遊技者を飽きさせ易い可能性があることから、遊技球の流下態様について改良の余地があるという問題点があった。

【４７８０】

これに対し、遊技機ＢＢ１によれば、検出手段の上流側に配置される流下手段が、所定部を挟む複数の可動部を備えることから、可動部の長さや形状にバリエーションを持たせ易くでき、遊技球の流下態様について改良することができる。

【４７８１】

遊技機ＢＢ１において、前記第１可動部は、少なくとも下流側端部において前記所定部と上下方向で重なる重なり部を備えることを特徴とする遊技機ＢＢ２。

【４７８２】

遊技機ＢＢ２によれば、遊技機ＢＢ１の奏する効果に加え、重なり部を介して所定部へ

遊技球を流すことができるので、第１可動部と所定部との間で遊技球が脱落することを防止し易くすることができる。

【４７８３】

遊技機ＢＢ１又はＢＢ２において、前記第１可動部は、少なくとも下流側端部において、遊技球の流下する向きを前記所定部側へ向けさせるための傾斜部を備えることを特徴とする遊技機ＢＢ３。

【４７８４】

遊技機ＢＢ３によれば、遊技機ＢＢ１又はＢＢ２の奏する効果に加え、傾斜部によって遊技球の流下向きを所定部側へ寄せることができるので、遊技球の流下が乱れた場合であっても、第１可動部と所定部との間で遊技球が脱落することを防止し易くすることができる。

【４７８５】

＜下流側において遊技球を密集させる＞

入球領域と、その入球領域に入球した遊技球を下流側領域へ流下させる流下手段と、前記下流側領域を流下する遊技球の通過を検出する検出手段と、を備える遊技機において、前記流下手段は、前記入球領域に所定間隔で入球した複数の遊技球が、前記下流側領域を流下する間隔を、前記所定間隔よりも短くするための所定手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＢＺ１。

【４７８６】

パチンコ機等の遊技機において、所定の入球領域から遊技球が流下した場合において、その遊技球から与えられる負荷により第１検出手段または前記第２検出手段への遊技球の案内が可能となる２種類の開放状態を構成可能な複数の可動役物が配設され、その可動役物は、それぞれ賞球口に所定個数の遊技球が入球した場合に機械的な負荷の伝達により開放状態から閉鎖するよう構成される遊技機がある（例えば、特開２０１６－２０２３３８号公報を参照）。

【４７８７】

しかし、上述した従来の遊技機では、通常時は第１検出手段にも第２検出手段にも遊技球を案内しない状態で維持されているので、遊技球を第１検出手段に案内する第１状態と、遊技球を第２検出手段に案内する第２状態と、合計で３つの状態に切り替えられるが、いずれの状態においても、入球領域に入球した後の遊技球の流下経路は一本道とされており、入球領域に入球するタイミング（間隔）と、その入球に伴う賞球の払い出しのタイミング（間隔）とがほぼ同じとされるので、遊技者に与えられる利益が発生するタイミングが遊技球の発射間隔（一定間隔）に制限されてしまい、遊技に緩急をつけることが難しく、遊技者の興趣を高めることが難しいという問題点があった。

【４７８８】

これに対し、遊技機ＢＢＺ１によれば、流下手段の所定手段により、遊技球が入球領域に入球する間隔よりも、遊技球が下流側領域を流下する間隔が短くなる場合を生じさせることができるので、遊技球の発射間隔よりも短い間隔で遊技球が下流側領域を流下する場合を生じさせることができる。これにより、遊技球が入球領域に入球したことで遊技者に与えられる利益の発生タイミングが一定間隔となることを避け易くすることができ、遊技に緩急をつけることで、遊技者の興趣を高めることができる。

【４７８９】

遊技機ＢＢＺ１において、前記所定手段は、前記入球領域側における遊技球の流下速度を、前記下流側領域側における遊技球の流下速度よりも大きくさせるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＢＺ２。

【４７９０】

遊技機ＢＢＺ２によれば、遊技機ＢＢＺ１の奏する効果に加え、所定手段により、下流側領域側を流下する遊技球が、入球領域側における遊技球に追いつかれるような状態を構成することができる。

【４７９１】

遊技機ＢＢＺ１又はＢＢＺ２において、前記流下手段は、一方向または他方向に変位可能に構成され、前記一方向における変位または前記他方向における変位によって、前記入球領域に入球した遊技球に対して前記下流側領域へ向けた所定の負荷を与え得るよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＢＺ３。

【４７９２】

遊技機ＢＢＺ３によれば、遊技機ＢＢＺ１又はＢＢＺ２の奏する効果に加え、流下手段が往復変位可能に構成されており、遊技手段は、流下手段が一方向に変位する場合に流下手段を流下するか、流下手段が他方向に変位する場合に流下手段を流下するかによって、流下態様を変化させることができる。

【４７９３】

遊技機ＢＢＺ３において、前記流下手段を流下する遊技球は、遊技球の流下方向に分岐が生じない非分岐位置と、遊技球の流下方向に分岐が生じ得る分岐位置と、のいずれかに配置されることを特徴とする遊技機ＢＢＺ４。

【４７９４】

遊技機ＢＢＺ４によれば、遊技機ＢＢＺ３の奏する効果に加え、遊技球が流下手段を流下している間中において、遊技球が分岐位置に配置されている場合に比較して、遊技球を注視する遊技者の疲労を軽減させることができる。

【４７９５】

遊技機ＢＢＺ４において、前記分岐位置は、前記非分岐位置よりも視認性が高くなる側に配置されることを特徴とする遊技機ＢＢＺ５。

【４７９６】

遊技機ＢＢＺ５によれば、遊技機ＢＢＺ４の奏する効果に加え、遊技球を注視する遊技者の疲労を軽減させることができる。

【４７９７】

なお、視認性が高くなる側としては、種々の態様が例示される。例えば、遊技者に近い側（前側）であっても良いし、遊技領域を流下する遊技球に隠され難い位置側であっても良いし、ＬＥＤ等の発光演出が生じた場合に眩しくならない側であっても良い。

【４７９８】

遊技機ＢＢＺ４又はＢＢＺ５において、前記分岐位置は、前記入球領域側の第１位置と、その第１位置よりも下流側の第２位置と、に配置され、前記第１位置と前記第２位置との間に前記非分岐位置が配置されることを特徴とする遊技機ＢＢＺ６。

【４７９９】

遊技機ＢＢＺ６によれば、遊技機ＢＢＺ４又はＢＢＺ５の奏する効果に加え、遊技球が流下手段上を流下する場合において、分岐位置に２回、間隔をあけて配置されることから、１個の遊技球が流下手段に案内される場合に遊技者の注目力を２回のタイミングで向上させることができる。これにより、遊技球への注目力を効率よく向上させることができる。

【４８００】

遊技機ＢＢＺ１からＢＢＺ６のいずれかにおいて、前記流下手段は、前記入球領域側の水平面に対する傾斜角度が、前記下流側領域側の水平面に対する傾斜角度よりも大きくされることを特徴とする遊技機ＢＢＺ７。

【４８０１】

遊技機ＢＢＺ７によれば、遊技機ＢＢＺ１からＢＢＺ６のいずれかの奏する効果に加え、流下手段を流下する遊技球が、入球領域側でより加速され、下流側領域側における遊技球との間隔と短くすることができる。

【４８０２】

遊技機ＢＢＺ１からＢＢＺ７のいずれかにおいて、前記入球領域は、前記下流側領域よりも大きいことを特徴とする遊技機ＢＢＺ８。

【４８０３】

遊技機ＢＢＺ８によれば、遊技機ＢＢＺ１からＢＢＺ７のいずれかの奏する効果に加え

、入球領域に同時に複数の遊技球が入球し易くすることができ、それらの遊技球が下流側領域で密集する（連なる）状態が生じ易くなるようにすることができる。
【４８０４】
遊技機ＢＢＺ８において、前記入球領域は複数箇所に分割配置可能に構成されることを特徴とする遊技機ＢＢＺ９。
【４８０５】
遊技機ＢＢＺ９によれば、遊技機ＢＢＺ８の奏する効果に加え、遊技球の流下手段への入球箇所が複数用意されているので、流下手段への遊技球の入球頻度を高めることができる。
【４８０６】
遊技機ＢＢＺ９において、遊技球が入球する前記入球領域の違いに対応して、前記流下手段に流下される遊技球の流下経路が異なることを特徴とする遊技機ＢＢＺ１０。
【４８０７】
遊技機ＢＢＺ１０によれば、遊技機ＢＢＺ９の奏する効果に加え、遊技球が流下手段を通過するまでの期間や、流下手段上の遊技球の配置等が、遊技球がいずれの入球領域に入球するかに対応して変化し得ることから、流下手段に入球した遊技球が、いずれの入球領域から入球したかについての遊技者の興味関心を高めることができ、入球領域への注目力を向上することができる。
【４８０８】
遊技機ＢＢＺ１からＢＢＺ１０のいずれかにおいて、前記流下手段を流下する遊技球が、前記下流側領域へ向けた流下経路から外れないようにするための流下経路制限手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＢＺ１１。
【４８０９】
遊技機ＢＢＺ１１によれば、遊技機ＢＢＺ１からＢＢＺ１０のいずれかの奏する効果に加え、流下経路制限手段により、入球領域に入球した遊技球が確実に下流側領域に到達するように構成することができる。
【４８１０】
＜入球領域から離れた位置で遊技球を受ける技術思想＞
遊技球を入球領域へ案内可能とする第１状態と、前記入球領域への遊技球の入球を制限する第２状態とで状態を切り替え可能とされる切替手段と、その切替手段へ向けて遊技球が流下可能な流下領域と、を備え、前記流下領域は、前記切替手段の前記入球領域から離れた側に配置されることを特徴とする遊技機ＢＣ１。
【４８１１】
パチンコ機等の遊技機において、賞球口へ遊技球を案内可能とする状態と賞球口への遊技球の入球を制限する状態とで切り替えられる可動役物への、遊技球の着地位置が、賞球口付近の下流側位置と、その下流側位置よりも上流側の上流側位置とで複数あり、下流側位置に着地するか上流側位置に着地するかに関わらず、遊技球が賞球口を通過可能に構成される遊技機がある（例えば、特開２０１７－０２９５３１号公報を参照）。
【４８１２】
しかし、上述した従来の遊技機では、上流側位置に着地した遊技球が賞球口に近接するタイミングで下流側位置に別の遊技球が着地して、複数の遊技球がかたまって賞球口を通過しようとする場合に、球詰まりが生じたり、遊技球の流下抵抗が大きくなったりする可能性があるという問題点があった。換言すれば、遊技球の流下態様を向上するという観点で改良の余地があるという問題点があった。
【４８１３】
これに対し、遊技機ＢＣ１によれば、入球領域から離れた側において遊技球が切替手段に流下されるよう構成されているので（切替手段への遊技球の着地位置が制限されているので）、切替手段を流下する間に遊技球を整列させることができ、入球領域を通過しようとする場合に、球詰まりが生じたり、遊技球の流下抵抗が大きくなったりすることを回避することができるので、遊技球の流下態様を向上するという観点で改良を図ることができ

る。
【４８１４】
遊技機ＢＣ１において、前記流下領域の外方における前記切替手段への流下を防止する防止手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＣ２。
【４８１５】
遊技機ＢＣ２によれば、遊技機ＢＣ１の奏する効果に加え、防止手段によって、遊技球が流下領域の外方を通って切替手段へ到達することを防止することができる。
【４８１６】
遊技機ＢＣ２において、前記切替手段は、遊技領域を構成する遊技盤前面よりも後側に少なくとも一部が配設されることを特徴とする遊技機ＢＣ３。
【４８１７】
遊技機ＢＣ３によれば、遊技機ＢＣ２の奏する効果に加え、遊技球が切替手段に着地する位置を少なくとも遊技領域側（遊技盤前面）に登場させ、その他の少なくとも一部を遊技盤前面よりも後側に配設することで、切替手段上の遊技球の流下長さを遊技盤前面よりも後側に確保しながら、切替手段が遊技領域を侵食する長さを狭めることができる。これにより、他の構成を配置する領域を広く確保し、遊技領域の設計自由度を向上させることができる。
【４８１８】
遊技機ＢＣ１からＢＣ３のいずれかにおいて、前記切替手段は、遊技球が転動可能な第１部と、その第１部よりも下流側に配置される第２部とを備え、前記流下領域から前記切替手段に着地する遊技球は、前記第１部に着地し易く構成されることを特徴とする遊技機ＢＣ４。
【４８１９】
遊技機ＢＣ４によれば、遊技機ＢＣ１からＢＣ３のいずれかの奏する効果に加え、切替手段上を長距離で転動させることで遊技球の跳ねを抑え流下を落ち着かせることができると共に、入球領域までの流下長さを確保でき、遊技球への注目力を向上させることができる。
【４８２０】
遊技機ＢＣ４において、前記切替手段は、前記第１部と前記第２部との間に、前記第１状態および前記第２状態において遊技球を橋渡し可能な案内経路を備えることを特徴とする遊技機ＢＣ５。
【４８２１】
遊技機ＢＣ５によれば、遊技機ＢＣ４の奏する効果に加え、切替手段の第１部に着地した後の遊技球について、切替手段の状態に関係なく遊技球の転動を維持させる箇所としての案内経路が配設されることから、切替手段の状態切替と、遊技球の流下態様の変化とが一対一で対応する場合に比較して、遊技球の流下のバリエーションを増加させることができる。
【４８２２】
遊技機ＢＣ５において、前記案内経路における遊技球の流下長さが複数種類構成されることを特徴とする遊技機ＢＣ６。
【４８２３】
遊技機ＢＣ６によれば、遊技機ＢＣ５の奏する効果に加え、遊技球の流下のバリエーションを増加させることができる。
【４８２４】
なお、案内経路における遊技球の流下長さが変化する要因としては、種々の態様が例示される。例えば、切替手段への入球位置の違いで変化するよう構成されても良いし、切替手段への入球のタイミングと切替手段の状態が切り替えられるタイミングとの相対的な関係により変化するよう構成されても良い。
【４８２５】
遊技機ＢＣ５又はＢＣ６において、前記切替手段は、前記案内経路よりも上流側におけ

る所定範囲に亘って、遊技球を案内経路側に接近するように移動させる接近手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＣ７。
【４８２６】
遊技機ＢＣ７によれば、遊技機ＢＣ５又はＢＣ６の奏する効果に加え、接近手段により、案内経路に遊技球が乗るタイミングよりも事前に案内経路側に遊技球を寄せることができるので、案内経路への橋渡し部分における遊技球の滞留を回避することができる。
【４８２７】
遊技機ＢＣ７において、前記接近手段は、前記切替手段の第１部または前記案内経路における遊技球の流下方向と直交する方向に遊技球を移動させる傾斜面であることを特徴とする遊技機ＢＣ８。
【４８２８】
遊技機ＢＣ８によれば、遊技機ＢＣ７の奏する効果に加え、切替手段の第１部または案内部における遊技球の流下方向と、傾斜面の傾斜方向とが直交することから、傾斜面により遊技球に与えられる負荷が、切替手段の第１部または案内部における遊技球の流下速度を加速も減速もさせず、影響を最小限に抑えることができる。
【４８２９】
遊技機ＢＣ４からＢＣ８のいずれかにおいて、前記第２部は、同時の複数個の遊技球の受入を制限するよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＣ９。
【４８３０】
遊技機ＢＣ９によれば、遊技機ＢＣ４からＢＣ８のいずれかの奏する効果に加え、第２部に想定以上の遊技球が入球する事態を回避し易くすることができる。
【４８３１】
遊技機ＢＣ１からＢＣ９のいずれかにおいて、前記切替手段は、前記流下領域側の端部側の所定区間に遊技球が着地してから、その遊技球が前記所定区間を通過するまでの間に状態が切り替えられた場合に、その遊技球が前記案内経路側に入球することを制限する入球制限手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＣ１０。
【４８３２】
遊技機ＢＣ１０によれば、遊技機ＢＣ１からＢＣ９のいずれかにおいて、切替手段が微小時間での状態切替を実行した場合に、遊技球が案内経路側に誤って入球することを回避し易くすることができる。
【４８３３】
遊技機ＢＣ１からＢＣ１０のいずれかにおいて、前記切替手段は、下流側部において遊技球の流下速度を減速させる減速手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＣ１１。
【４８３４】
遊技機ＢＣ１１によれば、遊技機ＢＣ１からＢＣ１０のいずれかの奏する効果に加え、切替手段の下流側において遊技球の流下態様を落ち着かせる（整流させる）ことができる。
【４８３５】
＜複数個目の入球が、先の入球に影響されて検出手段を通過し易い＞
遊技球が流下可能な流下領域と、その流下領域の下流側に配設される下流側領域と、その下流側領域を通った遊技球が流下可能な第１流下領域と、前記下流側領域を通った遊技球であって前記第１流下領域を流下しない遊技球が流下可能に構成される第２流下領域と、を備え、前記第２流下領域を遊技球が流下した場合に所定の利益を遊技者に付与可能とされ、前記下流側領域に遊技球が配置されていない状態で前記流下領域から前記下流側領域に遊技球が流下する第１の場合よりも、前記下流側領域に遊技球が配置されている状態で前記流下領域から前記下流側領域に遊技球が流下する第２の場合の方が、遊技球が前記第２流下領域を流下し易くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ１。
【４８３６】
パチンコ機等の遊技機において、開閉手段の奥に入球口と特定入球口とが配置され、その特定入球口は、スライド動作する板部材に塞がれる状態と、板部材が退避して遊技球の

入球を許容する状態とで切り替えられるよう構成され、板部材が入球を許容する状態の場合には、開閉手段に受け入れられたほとんどの遊技球が特定入球口に入球するよう構成され、特定入球口への入球により後の遊技状態が遊技者にとって有利な遊技状態に設定される遊技機がある（例えば、特開２０１５－１５０１２２号公報の段落００３０～００３２を参照）。

【４８３７】

しかし、上述した従来の遊技機では、開閉手段に遊技球が１個受け入れられた時点で特定入球口へ入球するものと考えられるので、遊技者が安心できてしまい、２個目以降の開閉手段への入球に注目させることが困難であるという問題点があった。換言すれば、開閉手段に受け入れられる遊技球への注目力を持続させることが困難であるという問題点があった。

【４８３８】

これに対し、遊技機ＢＤ１によれば、下流側領域に受け入れられた遊技球の内、複数個目に受け入れられた遊技球の方が、１個目に受け入れられた遊技球よりも、第２流下領域に受け入れられる可能性が高くなるよう構成されるので、下流側領域に流下した遊技球に対する注目力を持続させることができる。

【４８３９】

遊技機ＢＤ１において、前記下流側領域に１球目で入球した遊技球よりも、２球目以降で入球した遊技球の方が、第２流下領域に入球し易くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ２。

【４８４０】

遊技機ＢＤ２によれば、遊技機ＢＤ１の奏する効果に加え、流下領域に流下した遊技球に対する遊技者の注目力を長い間維持することができる。

【４８４１】

遊技機ＢＤ１又はＢＤ２において、前記下流側領域に遊技球が複数個同時に配置されている場合に、前記第２流下領域を遊技球が流下し易くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ３。

【４８４２】

遊技機ＢＤ３によれば、遊技機ＢＤ１又はＢＤ２の奏する効果に加え、流下領域に流下した遊技球に対する遊技者の注目力を、遊技球が下流側領域に配置されている間において維持することができる。また、遊技球の発射態様を遊技者に意識させることができる。

【４８４３】

遊技機ＢＤ１からＢＤ３のいずれかにおいて、前記下流側領域に複数の遊技球が停留することで、第２流下領域に遊技球が受け入れられ易くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ４。

【４８４４】

遊技機ＢＤ４によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ３のいずれかの奏する効果に加え、下流側領域における遊技球の配置態様に注目させることができる。

【４８４５】

遊技機ＢＤ１からＢＤ４のいずれかにおいて、流下領域からの遊技球の流下経路を開放する第１状態とその第１状態よりも経路を狭める第２状態とで切り替え可能な開閉手段を備え、前記下流側領域は、前記開閉手段が前記第２状態から前記第１状態へ切り替えられた直後において、前記第２流下領域側に遊技球が案内され難いように構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ５。

【４８４６】

遊技機ＢＤ５によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ４のいずれかの奏する効果に加え、開閉手段が第１状態に切り替えられた後における下流側領域に対する遊技者の注目力の維持期間を長くすることができる。

【４８４７】

遊技機ＢＤ５において、前記開閉手段が前記第１状態に切り替えられた時点から、前記

下流側領域に所定期間に入球した遊技球よりも、前記所定期間経過後に入球した遊技球の方が、第２流下領域を流下し易くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ６。
【４８４８】
遊技機ＢＤ６によれば、遊技機ＢＤ５の奏する効果に加え、下流側領域に対する注目力を開閉手段が第１状態に切り替えられた時点から長く持続させることができる。
【４８４９】
遊技機ＢＤ６において、前記開閉手段が前記第１状態に切り替えられた時点から前記所定期間が経過した後においては、前記流下領域を流下した遊技球が前記第２流下領域を流下するまでの期間の変化を抑制可能とされることを特徴とする遊技機ＢＤ７。
【４８５０】
遊技機ＢＤ７によれば、遊技機ＢＤ６の奏する効果に加え、開閉手段が第１状態に切り替えられ所定期間が経過した後における遊技球の流下態様（流下期間）を一定とすることで、下流側領域における注目力を下げ、遊技者をリラックスさせることができる。
【４８５１】
遊技機ＢＤ５からＢＤ７のいずれかにおいて、前記流下領域に、前記開閉手段が前記第２状態から前記第１状態に切り替えられてから数えて１個目で入球した遊技球を、前記第２流下領域側へ案内しないように構成される案内球選択手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＤ８。
【４８５２】
遊技機ＢＤ８によれば、遊技機ＢＤ５からＢＤ７のいずれかの奏する効果に加え、第２流下領域に遊技球を受け入れさせるために、開閉手段の第１状態において複数個の遊技球を入球させる必要が生じるので、開閉手段および開閉手段を通過する遊技球の個数に対する注目力を向上させることができる。
【４８５３】
遊技機ＢＤ１からＢＤ８のいずれかにおいて、前記第２流下領域に受け入れられる遊技球の個数と、前記第２流下領域に受け入れられない遊技球の個数とを同等とするよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ９。
【４８５４】
遊技機ＢＤ９によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ８のいずれかの奏する効果に加え、第２流下領域に全球入球する場合のように、過度に多くの遊技球が受け入れられる場合が生じることで、遊技者に過度な期待を持たせることを回避することができる。
【４８５５】
遊技機ＢＤ１からＢＤ９のいずれかにおいて、前記下流側領域が受入可能な遊技球の最大個数が設定され、その最大個数を超えた遊技球が前記第２流下領域に受け入れられるよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ１０。
【４８５６】
遊技機ＢＤ１０によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ９のいずれかの奏する効果に加え、下流側領域および第２流下領域に対する注目力を向上させることができる。
【４８５７】
遊技機ＢＤ１からＢＤ１０のいずれかにおいて、通過した遊技球が前記第１流下領域側に流入し易い位置に、流下領域を配置可能とされることを特徴とする遊技機ＢＤ１１。
【４８５８】
遊技機ＢＤ１１によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ１０のいずれかの奏する効果に加え、下流側領域に配置された遊技球が第１流下領域側に流入し易い状態が構成され易い。
【４８５９】
遊技機ＢＤ１からＢＤ１１のいずれかにおいて、前記下流側領域に配置された遊技球を前記下流側領域で留めるための滞留手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＤ１２。
【４８６０】
遊技機ＢＤ１２によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ１１のいずれかの奏する効果に加え、第１流下領域に配置された遊技球が第２流下領域側へ流れることを滞留手段により制限す

ることができる。
【４８６１】
遊技機ＢＤ１からＢＤ１２のいずれかにおいて、前記第２流下領域は、前記第１流下領域よりも上側に配置されることを特徴とする遊技機ＢＤ１３。
【４８６２】
遊技機ＢＤ１３によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ１２のいずれかの奏する効果に加え、第１流下領域に配置された遊技球が第２流下領域側へ流れることを、配置の高低差で防止することができる。
【４８６３】
＜遊技球との当接、非当接の切り替え＞
遊技球が流下可能な流下領域と、その流下領域を通過する遊技球の経路を開放する第１状態とその第１状態よりも経路を狭める第２状態とで切り替え可能な開閉手段と、前記流下領域の下流側に配設される下流側領域と、その下流側領域を通過した遊技球が流下可能に構成される第１流下領域と、前記下流側領域を通った遊技球であって前記第１流下領域を流下しない遊技球が流下可能に構成される第２流下領域と、前記下流側領域を通った遊技球に当接可能な当接状態と、非当接となる非当接状態とで切り替え可能な当接可能手段と、を備え、前記第２流下領域を遊技球が流下した場合に所定の利益を遊技者に付与可能とされ、前記当接可能手段に遊技球が当接している状態で前記開閉手段を前記第１状態から前記第２状態に切り替え可能に構成されることを特徴とする遊技機ＢＥ１。
【４８６４】
パチンコ機等の遊技機において、開閉部材により開閉される入球口に入球した遊技球の流下経路において複数の可動部材が配設され、可動部材からの負荷を受けて遊技球の流下経路が変化し得る遊技機がある（例えば、特開２０１７－０００５６２号公報を参照）。
【４８６５】
しかし、上述した従来の遊技機では、可動部材は流下した遊技球と必ず当接し得るよう構成されているので、入球口に入球した遊技球の流下態様が変わり映えせず、遊技者を飽きさせる可能性が高く、遊技者の興趣を向上させる観点で改良の余地があるという問題点があった。
【４８６６】
これに対し、遊技機ＢＥ１によれば、当接可能手段が、下流側領域を通った遊技球に当接可能な当接状態と、非当接となる非当接状態とで切り替え可能とされるので、遊技球が当接可能手段に当接する場合と、当接可能手段に当接しない場合とで、遊技球の流下態様を大きく異ならせることができる。これにより、遊技球の流下態様のバリエーションを多くすることができ、遊技者の興趣を向上させる観点で改良することができる。
【４８６７】
遊技機ＢＥ１において、前記当接可能手段に当接している遊技球を介して負荷を受けた遊技球が、前記第２流下領域を流下し得るよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＥ２。
【４８６８】
遊技機ＢＥ２によれば、遊技機ＢＥ１の奏する効果に加え、下流側領域における遊技球の流下態様に対する注目力を向上させることができる。
【４８６９】
遊技機ＢＥ１又はＢＥ２において、前記当接可能手段に遊技球が当接している状態で前記開閉手段が前記第２状態から前記第１状態に切り替えられた場合において、前記流下領域から前記下流側領域に流下した遊技球が前記第２流下領域を流下し得るよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＥ３。
【４８７０】
遊技機ＢＥ３によれば、遊技機ＢＥ１又はＢＥ２の奏する効果に加え、開閉手段が開放されるタイミングで当接可能手段に遊技球が当接している場合に、開閉手段が開放された後で開閉手段を通過した遊技球が第２流下領域を流下し易くなることから、当接可能手段

に対する注目力を向上させることができる。
【４８７１】
＜遊技球の通過を止められる状態を経て第２遊技領域に遊技球が受け入れられる＞
遊技球が流下可能な流下領域と、その流下領域を通過する遊技球の経路を開放する第１状態とその第１状態よりも経路を狭める第２状態とで切り替え可能な開閉手段と、前記流下領域の下流側に配設される下流側領域と、その下流側領域を通過した遊技球が流下可能に構成される第１流下領域と、前記下流側領域を通った遊技球であって前記第１流下領域を流下しない遊技球が流下可能に構成される第２流下領域と、を備え、前記第２流下領域を遊技球が流下した場合に所定の利益を遊技者に付与可能とされ、前記下流側領域の所定部における遊技球の通過が防止される状態から、前記第２流下領域に遊技球が流下可能な状態へ移行されることを特徴とする遊技機ＢＥＺ１。
【４８７２】
パチンコ機等の遊技機において、開閉手段の奥に入球口と特定入球口とが配置され、その特定入球口は、スライド動作する板部材に塞がれる状態と、板部材が退避して遊技球の入球を許容する状態とで切り替えられるよう構成され、板部材が入球を許容する状態の場合には、開閉手段に受け入れられたほとんどの遊技球が特定入球口に入球するよう構成され、特定入球口への入球により遊技状態が遊技者にとって有利な遊技状態に設定される遊技機がある（例えば、特開２０１５－１５０１２２号公報の段落００３０～００３２を参照）。
【４８７３】
しかし、上述した従来の遊技機では、入球口と特定入球口との位置が、左右の違いがあるだけでほとんど変わらないので、遊技球が特定入球口に入球したかどうかを開閉手段越しには一目で把握させ難い。特定入球口へ遊技球が入球したことに起因して液晶装置に報知がされる場合には、液晶装置での表示の方が分かり易いので、遊技者の注目力が液晶装置に集中してしまうという問題点があった。換言すれば、開閉手段に受け入れられた遊技球への注目力を持続させることが困難であるという問題点があった。
【４８７４】
これに対し、遊技機ＢＥＺ１によれば、下流側領域の所定部において遊技球の通過が防止される状態を経て、第２流下領域に遊技球が流下するように構成されるので、第２流下領域への入球準備状態として下流側領域で停止している遊技球に遊技者の視線を集めることができ、開閉手段に受け入れられた遊技球への注目力を持続させることができる。
【４８７５】
遊技機ＢＥＺ１において、前記所定部は、前記第１流下領域に位置することを特徴とする遊技機ＢＥＺ２。
【４８７６】
遊技機ＢＥＺ２によれば、遊技機ＢＥＺ１の奏する効果に加え、所定の利益の付与には影響しない領域としての第１流下領域への入球に対する注目力を向上させることができる。
【４８７７】
遊技機ＢＥＺ１又はＢＥＺ２において、前記所定部は、所定の遊技球によって、遊技球の通過が防止されることを特徴とする遊技機ＢＥＺ３。
【４８７８】
遊技機ＢＥＺ３によれば、遊技機ＢＥＺ１又はＢＥＺ２の奏する効果に加え、遊技球が第２流下領域から逸れて流下した場合であっても、所定部を塞ぐかもしれないという期待感から、その遊技球に対する注目力を高い状態で維持することができる。
【４８７９】
遊技機ＢＥＺ１又はＢＥＺ２において、前記所定部は、遊技球とは異なる所定部材によって、遊技球の通過が防止され、前記所定部材の正面視における大きさは、遊技球の大きさよりも小さく設定されることを特徴とする遊技機ＢＥＺ４。
【４８８０】

遊技機ＢＥＺ４によれば、遊技機ＢＥＺ１又はＢＥＺ２の奏する効果に加え、遊技球の通過を防止する所定部材が、遊技球よりも目立たないようにすることができるので、遊技球に対する注目力を向上させることができる。

【４８８１】

遊技機ＢＥＺ１からＢＥＺ４のいずれかにおいて、前記第１流下領域が遊技球で満たされた状態を経て、後追いで到達する遊技球が前記第２流下領域へ受け入れられるよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＥＺ５。

【４８８２】

遊技機ＢＥＺ５によれば、遊技機ＢＥＺ１からＢＥＺ４のいずれかの奏する効果に加え、遊技者の目線を第１流下領域に留める状態から、第２流下領域へ移行させることができるので、当初から第２流下領域に注目される場合に比較して、第２流下領域が視認される期間を長くすることができる。

【４８８３】

更に、第２流下領域への入球時には、第１流下領域が遊技球で満たされることから、第２流下領域へ入球した遊技球を見失ったとしても、一目で第２流下領域へ入球可能な状態であると把握することができる。

【４８８４】

遊技機ＢＥＺ５において、前記第１流下領域に遊技球を留める滞留状態と、前記第１流下領域から遊技球を排出する排出状態と、で切替可能とされる状態切替手段を備え、前記開閉手段の状態の切り替えに対応して、前記状態切替手段の状態が切り替えられることを特徴とする遊技機ＢＥＺ６。

【４８８５】

遊技機ＢＥＺ６によれば、遊技機ＢＥＺ５の奏する効果に加え、開閉手段と状態切替手段との状態の切り替えを関連付けることができるので、いずれか一方を視認することで、他方の状態を予測し易くすることができる。

【４８８６】

遊技機ＢＥＺ５又はＢＥＺ６において、前記第１流下領域に受け入れ可能な遊技球の上限個数が設定されていることを特徴とする遊技機ＢＥＺ７。

【４８８７】

遊技機ＢＥＺ７によれば、遊技機ＢＥＺ５又はＢＥＺ６の奏する効果に加え、第１流下領域に配置されている遊技球の個数を確認することで、あと何球の遊技球を流下領域に通過させれば第２流下領域に遊技球が受け入れられるかの予測を立て易くすることができる。

【４８８８】

遊技機ＢＥＺ１からＢＥＺ７のいずれかにおいて、変位可能に構成される変位手段を備え、その変位手段は、受け入れた遊技球を前記下流側領域に排出可能な排出可能状態と、受け入れた遊技球を前記下流側領域に排出不能な排出不能状態とで状態を切り替えるように変位することを特徴とする遊技機ＢＥＺ８。

【４８８９】

遊技機ＢＥＺ８によれば、遊技機ＢＥＺ１からＢＥＺ７のいずれかの奏する効果に加え、第２流下領域への遊技球の受入の前提として遊技者の注目力の高い下流側領域へ遊技球が排出されるか否かが、変位手段の状態により変化するように構成されることから、下流側領域および変位手段に対する注目力を向上させることができる。

【４８９０】

即ち、流下領域を通過した遊技球が下流側領域に確実に流下する場合には、遊技球が流下領域を通過する個数を把握すれば第２流下領域に遊技球が流下するタイミングを経験から予測することができるので、下流側領域にまでは視線をやらずに遊技をしても不利益は大きくない可能性があった。

【４８９１】

これに対し、変位手段の状態次第で下流側領域への遊技球の流下の有無が切り替えられ

る状況下では、流下領域を通過する遊技球の個数と、下流側領域に流下する遊技球の個数にずれが生じることから、下流側領域にも視線を向ける必要がある。これにより、下流側領域に対する注目力を向上させることができる。

【４８９２】

遊技機ＢＥＺ８において、前記変位手段は、受け入れた遊技球の流下速度を、流下領域を流下する遊技球の流下速度に比較して減速可能に構成されることを特徴とする遊技機ＢＥＺ９。

【４８９３】

遊技機ＢＥＺ９によれば、遊技機ＢＥＺ８の奏する効果に加え、変位手段に受け入れられた遊技球の流下速度を落とすことができるので、変位手段に受け入れられた遊技球を遊技者が見失う事態の発生を回避し易くすることができる。

【４８９４】

遊技機ＢＥＺ８又はＢＥＺ９において、前記変位手段は、遊技球を所定数まで受け入れ可能な球受部を備え、前記変位手段の変位により前記球受部に受け入れられた遊技球が変位することを特徴とする遊技機ＢＥＺ１０。

【４８９５】

遊技機ＢＥＺ１０によれば、遊技機ＢＥＺ８又はＢＥＺ９の奏する効果に加え、変位手段の変位に伴い変位する遊技球の個数を、球受部に対して所定数までに制限することができるので、変位手段の変位速度を所定の範囲に設定することで、所定期間において変位手段から下流側領域に排出され得る遊技球の個数を所定の範囲に抑えることができる。

【４８９６】

＜エンディングにおいて終了時点を知らせる報知手段＞

遊技に関する所定の演出を実行可能な演出実行手段と、前記所定の演出の継続期間の終わりを遊技者が把握可能に報知する報知手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＢＧ１。

【４８９７】

パチンコ機等の遊技機において、大当たり遊技が終了したら特図変動遊技が可能な状態へ移行する遊技機がある（例えば、特開２０１５－０１９７４３号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、大当たり遊技の終了時点が分かり難く、特図変動遊技が可能な状態に切り替わった直後に特別図柄の抽選を開始させたいという遊技者にとって、不満の元となっていた。

【４８９８】

例えば、一般的な遊技進行として、特別図柄１の抽選で大当たりとなった後で、大当たり遊技終了後に特別図柄１よりも有利な特別図柄２の抽選を獲得容易な状態に移行する振分けが存在する遊技機があるが、このような遊技機では、大当たり遊技終了直後は特別図柄２の抽選が未獲得な状態で始まるので、特別図柄１の抽選が保留されていると、大当たり遊技終了後に特別図柄１の抽選が実行されてしまい、万が一その抽選で大当たりを獲得すると、遊技者に不利益が生じる可能性があった。

【４８９９】

この事態を回避するため、大当たり終了後の特別図柄１の抽選による大当たりを獲得するよりも前に、大当たり終了後になるべく間隔を空けずに特別図柄２の抽選を獲得することが好ましいので、特別図柄２の抽選を獲得できる状態になるや否や遊技球の発射を開始することが望まれる。

【４９００】

一方で、特別図柄２の抽選を獲得するために入球口は電動役物により開閉される場合が一般的であるが、その電動役物は大当たり遊技中には閉鎖状態で維持されており、大当たり遊技終了後に開放可能な状態となる。そのため、電動役物が開放される前に遊技球を発射しても、その多くは無駄球となり易い。

【４９０１】

このような事情から、大当たり遊技中に電動役物側へ遊技球を発射しても電動役物が閉

鎖状態を維持しており特別図柄２の抽選を獲得できないので遊技球の発射は避けたいが、それにも増して特別図柄１の抽選による大当たりを獲得するよりも前に特別図柄２の抽選を獲得するために大当たり遊技が終了するや否や開放された電動役物の下流側にある入球口に遊技球を打ち込みたいと遊技者は思うと考えられる。

【４９０２】

これに対し、従来の遊技機では、いつ大当たり遊技が終了するのかが分かり難く、遊技球を発射させるタイミングを図りがたいという問題点があった。

【４９０３】

これに対し、遊技機ＢＧ１によれば、所定の演出の終了時点を遊技者が把握可能に報知する報知手段を備えるようにしたので、その報知手段の報知を目安として遊技球を発射させるタイミングを図り易くすることができる。

【４９０４】

遊技機ＢＧ１において、前記所定の演出は、第１演出またはその第１演出とは報知の内容が異なる第２演出の少なくとも一方が実行され、報知の組み合わせによって前記継続期間が変化可能とされ、前記報知手段は、前記所定の演出の前記継続期間の違いを遊技者に伝達可能に構成され、所定の演出の終了時点を示す終了手段と、現時点から前記終了時点までに経過する時間を示す時間報知手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＢＧ２。

【４９０５】

遊技機ＢＧ２によれば、遊技機ＢＧ１の奏する効果に加え、所定の演出の継続期間が複数種類用意されている場合においても、現在行われている所定の演出の継続期間と、その終了時点とを把握することができる。

【４９０６】

遊技機ＢＧ２において、前記時間報知手段は、現時点から前記所定の演出の終了時点までに経過する時間と、所定の時間差を設けた疑似時間を示す疑似時間報知手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＧ３。

【４９０７】

遊技機ＢＧ３によれば、遊技機ＢＧ２の奏する効果に加え、疑似時間報知手段により、所定の演出の終了時点よりも前の好ましいタイミングを遊技者に報知することができる。これにより、例えば、遊技球が発射されてから所定の入球口に到達するまでに経過し得る時間を所定の演出の実行中に消化することができ、所定の演出の終了直後に所定の入球口に遊技球を流入させるという遊技を実現させ易くすることができる。

【４９０８】

遊技機ＢＧ１からＢＧ３のいずれかにおいて、前記所定の演出は、少なくとも所定の特典遊技の終了直前に実行可能とされるものであり、前記特典遊技の種別に対応して、実行の態様が変化されることを特徴とする遊技機ＢＧ４。

【４９０９】

遊技機ＢＧ４によれば、遊技機ＢＧ１からＢＧ３のいずれかの奏する効果に加え、特典遊技の種別と、所定の演出とを対応付けることができる。

【４９１０】

遊技機ＢＧ１からＢＧ４のいずれかにおいて、前記報知手段は、前記所定の演出期間の終了時の所定期間前の時点を報知することを特徴とする遊技機ＢＧ５。

【４９１１】

遊技機ＢＧ５によれば、遊技機ＢＧ１からＢＧ４のいずれかの奏する効果に加え、報知手段により所定演出期間の終了時を前もって把握させることができる。

【４９１２】

なお、所定の演出期間のタイミングは、何ら限定されるものではなく種々の態様が例示される。例えば、所定の特定遊技中でも良いし、図柄変動中でも良いし、図柄変動待機中でも良い。

【４９１３】

遊技機ＢＧ１からＢＧ５のいずれかにおいて、前記所定の演出の終了時に、表示手段の

表示領域に遊技者を冷静にさせるための所定の静止画または動画が表示されることを特徴とする遊技機ＢＧ６。

【４９１４】

遊技機ＢＧ６によれば、遊技機ＢＧ１からＢＧ５のいずれかの奏する効果に加え、遊技者の遊技に対するのめり込みを効果的に抑制することができる。

【４９１５】

遊技機ＢＧ１からＢＧ６のいずれかにおいて、前記所定の演出の終了時の後において、表示手段の表示が切り替えられることを特徴とする遊技機ＢＧ７。

【４９１６】

遊技機ＢＧ７によれば、遊技機ＢＧ１からＢＧ６のいずれかの奏する効果に加え、表示が切り替えられることにより所定の演出の終了時を過ぎたことを遊技者に把握させ易くすることができる。

【４９１７】

遊技機ＢＧ７において、前記所定の演出の終了時の後において、前記所定の演出から継続して特定の演出を実行可能とされることを特徴とする遊技機ＢＧ８。

【４９１８】

遊技機ＢＧ８によれば、遊技機ＢＧ７の奏する効果に加え、所定の演出の終了時の後において新規で演出を実行する場合に比較して、所定の演出の実行中から特定の演出を実行することができるので、演出時間を長く確保することができる。

【４９１９】

遊技機ＢＧ１からＢＧ８のいずれかにおいて、前記所定の演出は、表示手段の表示領域の少なくとも一部において視認可能に実行されることを特徴とする遊技機ＢＧ９。

【４９２０】

遊技機ＢＧ９によれば、遊技機ＢＧ１からＢＧ８のいずれかの奏する効果に加え、表示手段の表示領域を視認すれば所定の演出を確認することができるので、表示手段の表示領域外（例えば、遊技領域の外方等）で所定の演出が実行される場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減することができる。

【４９２１】

遊技機ＢＧ８又はＢＧ９において、表示手段の表示領域における表示の、所定のタイミングにおける態様が異なる場合を構成可能とされることを特徴とする遊技機ＢＧ１０。

【４９２２】

遊技機ＢＧ１０によれば、遊技機ＢＧ８又はＢＧ９の奏する効果に加え、所定のタイミングにおける態様に対する注目力を向上させることができる。

【４９２３】

なお、所定のタイミングにおける異なる態様については、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、所定のタイミングで動作開始する場合と、所定のタイミングで停止維持される場合とで異なる場合や、所定のタイミングで操作可能となる場合と、所定のタイミングで操作不能とされる場合とで異なる場合等が例示される。

【４９２４】

遊技機ＢＧ８又はＢＧ９において、前記所定の演出の終了時よりも前において、終了時であるように錯覚させる錯覚演出を実行させることを特徴とする遊技機ＢＧ１１。

【４９２５】

遊技機ＢＧ１１によれば、遊技機ＢＧ８又はＢＧ９の奏する効果に加え、錯覚演出ごとに遊技者の集中力を高めることができる。

【４９２６】

遊技機ＢＧ８からＢＧ１１のいずれかにおいて、前記所定の演出の終了時から、所定の条件が満たされるまで表示手段の表示領域において遊技球の発射により所定の利益を獲得可能であることを示唆する示唆表示がされることを特徴とする遊技機ＢＧ１２。

【４９２７】

遊技機ＢＧ１２によれば、遊技機ＢＧ８からＢＧ１１のいずれかの奏する効果に加え、

表示領域を視認する遊技者に対して、示唆表示により遊技球の発射に適したタイミングを知らせることができるので、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【４９２８】

なお、所定の条件の態様は、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、所定期間が経過することでも良いし、所定の入球口を所定個数の遊技球が通過したことや、その通過を検出したことでも良い。

【４９２９】

遊技機ＢＧ１２において、前記示唆表示は、所定の入球口またはその所定の入球口を開閉する電動役物の開閉の抽選を実行する開閉抽選入球口を狙うことを示唆する表示であることを特徴とする遊技機ＢＧ１３。

【４９３０】

遊技機ＢＧ１３によれば、遊技機ＢＧ１２の奏する効果に加え、示唆表示により、発射した遊技球の狙いが明確にされるので、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【４９３１】

遊技機ＢＧ１２又はＢＧ１３において、前記所定の演出において、所定の発射可能タイミングまで継続される表示が構成され、前記所定の発射タイミングを過ぎても発射がされない場合または所定の検出口で遊技球が検出されない場合、そのいずれかがされるまで所定の報知が継続されることを特徴とする遊技機ＢＧ１４。

【４９３２】

遊技機ＢＧ１４によれば、遊技機ＢＧ１２又はＢＧ１３の奏する効果に加え、所定の報知が継続されていることを確認すれば、所定の発射タイミングを過ぎてから、遊技球の発射がされていないか、所定の検出口で遊技球が検出されていないかのいずれかであることを、遊技者に把握させることができる。

【４９３３】

遊技機ＢＧ１２からＢＧ１４のいずれかにおいて、前記所定の演出中に所定個数の入球または前記所定個数以上の入球を検出した場合に、所定の報知をすることを特徴とする遊技機ＢＧ１５。

【４９３４】

遊技機ＢＧ１５によれば、遊技機ＢＧ１２からＢＧ１４のいずれかの奏する効果に加え、所定の報知により、所定の演出中に所定個数以上に入球が生じていることを遊技者に知らせることができるので、それをヒントに遊技者は遊技球の発射強度の調整等を行うことができ、遊技負担を軽減させることができる。

【４９３５】

なお、所定の報知の態様は何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、所定の四字熟語が表示されるものでも良いし、遊技球の発射を躊躇させるための表示がされるものでも良いし、所定の発光手段を発光させるものでも良いし、所定の音声を出力するものでも良い。

【４９３６】

遊技機ＢＧ１からＢＧ１５のいずれかにおいて、前記所定の演出は、遊技者により行われる音量の設定に関わらず所定の音量で実行されるか、又は、遊技者により行われる発光強度の設定に関わらず所定の発光強度や所定の発光色で実行されることを特徴とする遊技機ＢＧ１６。

【４９３７】

遊技機ＢＧ１６によれば、遊技機ＢＧ１からＢＧ１５のいずれかの奏する効果に加え、遊技者の設定により、音や光に遊技者が気づかない事態が発生することを防止することができる。

【４９３８】

＜エンディングにおいて音量光量の変更期間を設定する＞

遊技に関する所定の演出を実行可能な演出実行手段と、前記所定の演出の実行中に、遊技に関わる所定の設定を変更可能な変更可能状態を構成可能な変更手段と、を備えること

を特徴とする遊技機ＢＨ１。
【４９３９】
パチンコ機等の遊技機において、大当たり遊技が終了して特図変動遊技が可能な状態へ移行する遊技機がある（例えば、特開２０１５－０１９７４３号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、大当たり遊技におけるラウンド遊技の終了から特図変動遊技が可能な状態へ移行するまでの間に遊技者が手持無沙汰となるため、ハンドルを握ったままとなり易いが、この場合に誤って遊技球を発射してしまう事態が生じ易いという問題点があった。即ち、遊技球を有効に利用するという観点で改良の余地があるという問題点があった。
【４９４０】
これに対し、遊技機ＢＨ１によれば、所定の演出中に、変更可能状態を構成可能とされているので、所定の演出中における暇な時間を、所定の設定を変更させる時間に当てることができる。これにより、遊技者の手をハンドルから離させ易くすることができるので、遊技球の誤発射を防止し易くすることができる。即ち、遊技球を有効に利用するという観点で改良することができる。
【４９４１】
遊技機ＢＨ１において、前記所定の演出の継続期間の終わりを遊技者が把握可能に報知する報知手段を備え、前記変更可能状態において、前記報知手段による演出が継続されることを特徴とする遊技機ＢＨ２。
【４９４２】
遊技機ＢＨ２によれば、遊技機ＢＨ１の奏する効果に加え、所定の設定を変更させた後で、ハンドルを再び握ることが好ましいタイミングを遊技者に知らせることができる。これにより、適切なタイミングで遊技球を発射しないことによる不利益を遊技者が受けることを避け易くすることができる。
【４９４３】
遊技機ＢＨ１又はＢＨ２において、前記変更可能状態において、変更可能な前記所定の設定が切り替え可能な状態を構成可能であることを特徴とする遊技機ＢＨ３。
【４９４４】
遊技機ＢＨ３によれば、遊技機ＢＨ１又はＢＨ２の奏する効果に加え、変更可能な所定の設定が複数あることで、遊技者が暇となる時間が長い場合であっても、遊技者が手持無沙汰となることを避け易くすることができる。
【４９４５】
遊技機ＢＨ３において、前記変更可能状態において、変更可能な前記所定の設定または変更中の前記所定の設定が表示手段により表示されることを特徴とする遊技機ＢＨ４。
【４９４６】
遊技機ＢＨ４によれば、遊技機ＢＨ３の奏する効果に加え、遊技に関わる所定の設定の内の、変更される対象を表示により明確とすることができる。これにより、遊技者の遊技負担を低減することができる。
【４９４７】
遊技機ＢＨ１からＢＨ４のいずれかにおいて、前記変更可能状態において実行された所定の操作により、表示手段における所定の表示の視認可能領域が変化することを特徴とする遊技機ＢＨ５。
【４９４８】
遊技機ＢＨ５によれば、遊技機ＢＨ１からＢＨ４のいずれかの奏する効果に加え、遊技者が行った所定の操作により、表示手段における所定の表示の視認可能領域を変化させることで、遊技者が興味を持つと考えられる表示を遊技者の視線の先に配置させることができる。これにより、遊技者に視線を動かす煩わしさを感じさせることなく、遊技に集中させることができる。
【４９４９】
遊技機ＢＨ５において、前記変更可能状態において実行された所定の操作により、表示

手段の表示領域の一部が視認不能とされる状態を構成可能とされることを特徴とする遊技機ＢＨ６。

【４９５０】

遊技機ＢＨ６によれば、遊技機ＢＨ５の奏する効果に加え、所定の操作により表示手段の表示領域の一部が視認不能となることから、視認不能となる可能性がある表示を視認できる状態で維持したいと考える遊技者に対して、所定の操作を行うか否かを考えさせることができる。これにより、遊技者がむやみに所定の操作を行う事態を回避し易くすることができる。

【４９５１】

遊技機ＢＨ１からＢＨ６のいずれかにおいて、前記変更可能状態で前記所定の設定を変更した場合に、その変更が所定条件で戻される、又は前記変更が所定条件で無効化されるよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＨ７。

【４９５２】

遊技機ＢＨ７によれば、遊技機ＢＨ１からＢＨ６のいずれかの奏する効果に加え、所定条件の成立により所定の設定が戻される、又は無効化されるので、違和感から、所定条件が成立したことを遊技者に把握させることができる。

【４９５３】

なお、所定条件としては、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、大当たり遊技が開始されることでも良いし、大当たり遊技が所定回数継続されることでも良いし、所定期間に所定個数以上の遊技球を所定の検出手段で検出することでも良いし、所定のタイミングで所定の操作手段を操作することでも良い。

【４９５４】

遊技機ＢＨ７において、前記所定条件は、前記所定の設定の変更を実行するために操作した所定の操作手段の操作により達成されることを特徴とする遊技機ＢＨ８。

【４９５５】

遊技機ＢＨ８によれば、遊技機ＢＨ７の奏する効果に加え、所定の操作手段の操作をすることで所定の設定の変更を戻す、又は無効化することができるので、所定の設定の変更を戻す、又は無効化することを意図的に行うことを容易にすることができる。

【４９５６】

遊技機ＢＨ７において、前記所定条件は、前記所定の設定の変更を実行したタイミングによらず、所定のタイミングで達成されることを特徴とする遊技機ＢＨ９。

【４９５７】

遊技機ＢＨ９によれば、遊技機ＢＨ７の奏する効果に加え、所定条件が所定のタイミングで達成されるので、所定条件がいつまでたっても達成されないという事態を回避することができる。

【４９５８】

なお、所定のタイミングは、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、特図変動が所定回数実行された場合でも良いし、所定の内容の報知がされた場合でも良いし、正午など所定の時刻とされても良い。

【４９５９】

遊技機ＢＨ７において、前記所定条件は、所定の状態が所定時間経過することにより達成されることを特徴とする遊技機ＢＨ１０。

【４９６０】

遊技機ＢＨ１０によれば、遊技機ＢＨ７の奏する効果に加え、所定の設定の変更が戻ること、又は無効化されることにより、所定の状態が所定時間経過したことを遊技者に把握させることができる。

【４９６１】

なお、所定の状態については何ら限定されるものではない。例えば、大当たり遊技が連荘した場合において獲得した大当たりの大当たり種別が同じ（又は所定のラウンド数以上や以下）で繰り返されることでも良いし、操作手段の操作がされないことでも良いし、特

図変動が実行されないことでも良い。
【４９６２】
遊技機ＢＨ１からＢＨ１０のいずれかにおいて、前記所定の設定に予め所定の目標量を設定可能とされ、前記変更可能状態において、前記所定の設定と前記目標量との差分を把握可能とする差分報知手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＨ１１。
【４９６３】
遊技機ＢＨ１１によれば、遊技機ＢＨ１からＢＨ１０のいずれかの奏する効果に加え、所定の設定の変更が戻された、又は無効となった場合であっても、遊技を行う遊技者が同じであれば、差分報知手段により目標量との差分を把握しながら所定の設定を変更することで、所定の設定を戻される前、又は無効とされる前の状態に容易に戻すことができる。
【４９６４】
これにより、遊技を行う遊技者が交代した場合に、所定の設定が前の遊技者の設定のままで維持されることで後の遊技者に与える遊技負担を考慮して所定の設定の変更が戻される、又は無効化されるよう遊技機が制御されている場合においても、所定の設定を前の状態に容易に戻すことができることから、遊技を行う遊技者が交代していないにも関わらず意図せず所定の設定が戻された、又は無効化されたとしても、所定の設定を前の状態に容易に戻すことができるので、遊技者に与える遊技負担を軽減することができる。
【４９６５】
＜同一の表示を状況によって表示態様変更＞
遊技に関する所定の表示演出を実行可能な演出実行手段を備え、前記所定の表示演出の実行中に前記所定の表示演出の表示位置または表示される大きさの変更が可能に構成されることを特徴とする遊技機ＢＩ１。
【４９６６】
パチンコ機等の遊技機において、表示装置の正面側に配置される可動役物と、表示装置の表示とを組み合わせて一体的な形状を視認させることができる遊技機がある（例えば、特開２０１５－０１９７４３号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、可動役物の配置位置、大きさ及び形状に合わせて、表示の配置位置、大きさ及び形状を決める必要があるので、表示装置の表示領域を有効に活用する観点で改良の余地があるという問題点があった。
【４９６７】
これに対し、遊技機ＢＩ１によれば、所定の表示演出の実行中に、所定の表示演出の表示位置または表示される大きさの変更が可能に構成されるので、可動役物の形状の影響を受けることなく、表示装置の表示領域を有効に活用する観点で改良することができる。
【４９６８】
遊技機ＢＩ１において、前記所定の表示演出は、表示領域の中央側に表示される場合よりも、表示領域の端側に表示される場合の方が、識別性が低下するよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＩ２。
【４９６９】
遊技機ＢＩ２によれば、遊技機ＢＩ１の奏する効果に加え、表示領域のどの位置に表示されるかによって、所定の表示演出に対する注目力の調整を行うことができる。
【４９７０】
なお、識別性を低下させる態様は何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、半透明で表示するようにしても良いし、表示の大きさを小さくするようにしても良い。
【４９７１】
遊技機ＢＩ１又はＢＩ２において、前記変更は、所定の操作手段が操作されることにより実行されることを特徴とする遊技機ＢＩ３。
【４９７２】
遊技機ＢＩ３によれば、遊技機ＢＩ１又はＢＩ２の奏する効果に加え、所定の表示演出の表示態様の変更を実行するか否かを、遊技者に選択させることができる。これにより、

遊技者の遊技への参加意欲を高めることができる。
【４９７３】
＜ボタン操作絡み＞
遊技に関する所定の演出を実行可能な演出実行手段と、前記所定の演出の実行中に所定の操作手段が操作されることにより、前記所定の演出を第１の状態から第２の状態に切り替え可能に構成される演出切替手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＢＩＺ１。
【４９７４】
パチンコ機等の遊技機において、大当たり遊技が終了して特図変動遊技が可能な状態へ移行する遊技機がある（例えば、特開２０１５－０１９７４３号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、大当たり遊技におけるラウンド遊技の終了から特図変動遊技が可能な状態へ移行するまでの間に遊技者が手持無沙汰となるため、ハンドルを握ったままとなり易いが、この場合に誤って遊技球を発射してしまう事態が生じ易いという問題点があった。
【４９７５】
これに対し、遊技機ＢＩＺ１によれば、所定の演出中に、所定の操作手段を操作することで実行される演出を切り替え可能とされるので、所定の演出中における暇な時間を、所定の操作手段を操作する時間に当てることができる。操作手段を操作することにより演出が切替可能とされるので、遊技者の操作手段の操作意欲を効果的に高めることができる。これにより、遊技者の手をハンドルから離させ易くすることができるので、遊技球の誤発射を防止し易くすることができる。
【４９７６】
遊技機ＢＩＺ１において、前記所定の操作手段を操作可能であることを報知可能な操作報知手段を備え、前記操作報知手段の報知に従い前記所定の操作手段を操作することで、前記所定の演出の態様が切り替えられることを特徴とする遊技機ＢＩＺ２。
【４９７７】
遊技機ＢＩＺ２によれば、遊技機ＢＩＺ１の奏する効果に加え、所定の操作手段の操作が操作報知手段により補助されることから、不慣れな遊技者であっても迷うことなく所定の操作手段を操作することができる。
【４９７８】
遊技機ＢＩＺ２において、前記操作報知手段からの報知は、前記所定の演出の継続期間の一部の時間において実行されることを特徴とする遊技機ＢＩＺ３。
【４９７９】
遊技機ＢＩＺ３によれば、遊技機ＢＩＺ２の奏する効果に加え、操作報知手段からの報知が所定の演出の継続時間の一部の時間で実行されるので、その他の時間においては所定の演出を視認させる余裕を持たせることができる。
【４９８０】
なお、操作報知手段からの報知のタイミングは何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、所定の演出の途中から操作報知手段からの報知が実行されるようにしても良いし、所定の演出の途中まで操作報知手段からの報知が実行されるようにしても良いし、所定の演出の実行中に亘り操作報知手段からの報知が実行されるようにしても良い。また、所定の演出の実行中に亘り操作報知手段からの報知が実行される場合において、その報知の実行中に亘って操作が有効となっても良いし、操作が無効となる時間を含むようにしても良い。
【４９８１】
遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ３のいずれかにおいて、前記所定の演出の後半の所定期間において、前記所定の操作手段の操作により演出が切り替えられないよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＩＺ４。
【４９８２】
遊技機ＢＩＺ４によれば、遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ３のいずれかの奏する効果に加え、所定の演出の後半の所定期間における所定の操作手段の操作を無効とすることで、後半

の所定期間における所定の演出に注目させることができる。
【４９８３】
遊技機ＢＩＺ４において、前記所定の演出の後半の前記所定期間において、表示手段の表示領域における前記操作報知手段の表示を非表示とすることを特徴とする遊技機ＢＩＺ５。
【４９８４】
遊技機ＢＩＺ５によれば、遊技機ＢＩＺ４の奏する効果に加え、所定の操作手段の操作が無効となる期間に入ったことを、表示手段の表示領域を視認することで把握することができる。
【４９８５】
遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ５のいずれかにおいて、前記所定の操作手段の操作により切り替えられる演出が複数種類用意されている場合において、前記所定の操作手段の操作により実行される演出を予測させるための付属報知手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＩＺ６。
【４９８６】
遊技機ＢＩＺ６によれば、遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ５のいずれかの奏する効果に加え、付属報知手段により所定の操作手段の操作により実行される演出が予測できるので、所定の操作手段を操作したにも関わらず予想外の演出に切り替えられたという残念感や徒労感を低減することができ、遊技者は好みの演出に切り替えられる時にのみ所定の操作手段を操作すれば良いので、繰り返し所定の操作手段を操作する煩わしさを解消することができる。
【４９８７】
遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ６のいずれかにおいて、前記所定の操作手段の操作は、前記所定の演出の途中から可能となることを特徴とする遊技機ＢＩＺ７。
【４９８８】
遊技機ＢＩＺ７によれば、遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ６のいずれかの奏する効果に加え、所定の操作手段の操作が可能となるまでの間は、所定の演出に注目させることができる。
【４９８９】
遊技機ＢＩＺ６又はＢＩＺ７において、前記付属報知手段は、特定の操作タイミングを示唆するための表示を備えており、前記特定の操作タイミングは、前記所定の演出の終了時点までに所定の調整期間を確保可能なタイミングとして設定されることを特徴とする遊技機ＢＩＺ８。
【４９９０】
遊技機ＢＩＺ８によれば、遊技機ＢＩＺ６又はＢＩＺ７の奏する効果に加え、調整期間の長さ次第で特定の操作タイミングが変化し得るので、特定の操作タイミングから、所定の操作手段を操作した後の演出の展開を予想させることができる。
【４９９１】
遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ８のいずれかにおいて、前記所定の操作手段を操作したことで切り替えられた演出の態様は、所定の条件で、切り替えられる前の態様に戻されることを特徴とする遊技機ＢＩＺ９。
【４９９２】
遊技機ＢＩＺ９によれば、遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ８のいずれかの奏する効果に加え、所定の条件で演出の態様が切り替えられる前の状態に戻されるので、再び所定の操作手段を操作させることができる。これにより、所定の操作手段の操作回数を多くすることができ、遊技者が遊技に参加している雰囲気を高めることができる。
【４９９３】
遊技機ＢＩＺ２から遊技機ＢＩＺ９のいずれかにおいて、前記操作報知手段からの報知は、同時に操作される前記所定の操作手段の個数が異なる複数種類の態様が設けられていることを特徴とする遊技機ＢＩＺ１０。

【４９９４】
遊技機ＢＩＺ１０によれば、遊技機ＢＩＺ２からＢＩＺ９のいずれかの奏する効果に加え、同時に操作される所定の操作手段の個数が１個の場合と、２個以上となる場合とが設けられることになるので、敢えて２個の所定の操作手段を操作させるようにすることで、遊技球を発射する必要のないタイミングでの暇を紛らわせて遊技に熱中させることができる。この場合、遊技者の手を球発射用のハンドルから離させることができるので、遊技球の誤発射を抑制でき、発射した遊技球が無駄になることによる不要な不利益の発生を回避することができる。
【４９９５】
遊技機ＢＩＺ２からＢＩＺ１０のいずれかにおいて、前記操作報知手段からの報知は、所定の入球口に入球した場合に得られる所定の利益が上限となった場合に実行される報知を含むことを特徴とする遊技機ＢＩＺ１１。
【４９９６】
遊技機ＢＩＺ１１によれば、遊技機ＢＩＺ２からＢＩＺ１０のいずれかの奏する効果に加え、操作報知手段からの報知を視認させることで、所定の入球口に入球した場合に得られる所定の利益が上限となったことを遊技者に把握させることができる。
【４９９７】
＜振分部材Ｃ１７０～Ｃ３１７０を一例とする発明の概念について＞
球の通過経路に少なくとも一部が配設され球の重量で変位可能に形成される変位部材を備えた遊技機において、前記通過経路を通過する第１の球が前記変位部材に達すると、前記第１の球の重量で前記変位部材が所定位置から変位され、前記第１の球が第１の通路へ案内され、前記変位部材が前記第１の球の重量で前記所定位置から変位された状態では、前記第１の球の後続となる第２の球が第２の通路へ案内され、前記変位部材は、前記球の重量が作用されていない状態では、前記所定位置に配置されることを特徴とする遊技機ＣＡ１。
【４９９８】
ここで、遊技球の重さで動作して、遊技球を第１の通路と第２の通路とに振り分ける振分部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１７－１４８１８９号公報）。しかしながら、上述した従来の技術では、到達した遊技球の状態に関わらず、到達した順番に第１の通路と第２の通路へ交互に振り分けるのみであるので、かかる振り分け動作を遊技者に着目させることができず、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。
【４９９９】
これに対し、遊技機ＣＡ１によれば、通過経路を通過する第１の球が変位部材に達すると、第１の球の重量で変位部材が所定位置から変位され、第１の球が第１の通路へ案内され、変位部材が第１の球の重量で変位された状態では、第１の球の後続となる第２の球が第２の通路へ案内され、変位部材は、球の重量が作用されていない状態では、所定位置に配置されるので、第１の球に第２の球が所定量以下の間隔を隔てて連なる場合には、第１の球を第１の通路へ案内し、且つ、第１の球の重量で所定位置から変位されている変位部材により第２の球を第２の通路へ案内することができる一方、第１の球に第２の球が所定量を越える間隔を隔てて連なる場合には、第１の球を第１の通路へ案内し、且つ、第２の球が到達する前に変位部材が所定位置へ配置されることで、第２の球も第１の通路へ案内することができる。このように、球の連なりの状態（先行の球と後行の球との間隔）に応じて案内する通路を変化させられるので、球の状態を遊技者に着目させて、遊技の興趣を向上することができる。
【５０００】
なお、第１の球の後続となる第２の球とは、第１の球に対して所定量よりも小さい間隔を隔てて後行する球を意味する。よって、第２の球は第１の球に当接した状態で転動や流下するものであっても良い。
【５００１】
遊技機ＣＡ１において、前記変位部材の前記所定位置への変位は、前記変位部材の重量

により行われることを特徴とする遊技機ＣＡ２。
【５００２】
遊技機ＣＡ２によれば、遊技機ＣＡ１の奏する効果に加え、変位部材の前記所定位置への変位は、変位部材の重量により行われるので、付勢ばねを利用する場合と比較して、構造を簡素化できる。また、付勢ばねを利用する場合と比較して、変位部材への変位を低速とできるので、第２の球を第２の通路へ案内する前に変位部材が所定位置へ配置されることを抑制できる。更に、第２の球の後続となる第３の球も第２の通路へ案内できる可能性を付与できる。
【５００３】
遊技機ＣＡ２において、前記変位部材は、前記球を前記第１の通路または第２の通路へ案内する本体部と、その本体部に連結され前記本体部を前記所定位置へ変位させる錘として機能する錘部とを備え、前記錘部の少なくとも一部が遊技者から視認可能とされることを特徴とする遊技機ＣＡ３。
【５００４】
遊技機ＣＡ３によれば、遊技機ＣＡ２の奏する効果に加え、球を第１の通路または第２の通路へ案内する本体部と、その本体部に連結され本体部を所定位置へ変位させる錘として機能する錘部とを備え、錘部の少なくとも一部が遊技者から視認可能とされるので、錘部の位置（状態）に基づいて、球が案内される方向を遊技者に認識させることができる。また、本体部を変位させるための錘としての役割と球の案内方向を認識させる部位としての役割とを錘部に兼用させることができ、その分、製品コストを低減できる。
【５００５】
遊技機ＣＡ１からＣＡ３において、前記変位部材は、前記第１の通路へ案内される前記第１の球が転動する第１面を備えることを特徴とする遊技機ＣＡ４。
【５００６】
遊技機ＣＡ４によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ３のいずれかにおいて、変位部材は、第１の通路へ案内される第１の球が転動する第１面を備えるので、第１の球が第１面を転動している間、その球の重量を変位部材に作用させることができる。よって、第１の球の重量で変位部材が所定位置から変位された状態（即ち、第２の球を第２の通路へ案内可能な状態）を維持しやすくできる。
【５００７】
遊技機ＣＡ４において、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、前記変位部材は、前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面を備え、前記第２面は、前記軸と鉛直方向において重なる位置に配設されることを特徴とする遊技機ＣＡ５。
【５００８】
遊技機ＣＡ５によれば、遊技機ＣＡ４の奏する効果に加え、変位部材は、第２の通路へ案内される第２の球が転動する第２面を備え、第２面は、軸と鉛直方向において重なる位置に配設されるので、第２面を転動する第２の球の重量によって変位部材が所定位置へ向けて変位されることを抑制できる。よって、第２の球を安定して転動させることができる。また、第２の球の後続となる第３の球も第２の通路へ案内できる可能性を確保できる。
【５００９】
遊技機ＣＡ４又はＣＡ５において、前記変位部材は、前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面を備え、前記第１面が前記第２面よりも長くされることを特徴とする遊技機ＣＡ６。
【５０１０】
遊技機ＣＡ６によれば、遊技機ＣＡ４又はＣＡ５の奏する効果に加え、変位部材は、第２の通路へ案内される第２の球が転動する第２面を備え、第１面が第２面よりも長くされるので、第２の球が第２面を転動する間、同時に、第１の球が第１面を転動する状態を形成しやすくできる。即ち、第２の球が第２面を転動する間、第１の球の重量を変位部材に作用させておくことで、第２面を転動する第２の球の重量によって変位部材が所定位置へ

向けて変位されることを抑制できる。よって、第２の球を安定して転動させることができる。また、第２の球の後続となる第３の球も第２の通路へ案内できる可能性を確保できる。

【５０１１】

遊技機ＣＡ４からＣＡ６のいずれかにおいて、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、前記変位部材は、前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面を備え、前記第１面は、前記軸から離間する方向へ延設されることを特徴とする遊技機ＣＡ７。

【５０１２】

遊技機ＣＡ７によれば、遊技機ＣＡ４からＣＡ６のいずれかの奏する効果に加え、変位部材は、第２の通路へ案内される第２の球が転動する第２面を備え、第１面は、軸から離間する方向へ延設されるので、第１の球が第１の通路へ向けて転動するに従って、その第１の球の重量を変位部材に効果的に作用させることができる。よって、第２面を転動する第２の球の重量によって変位部材が所定位置へ向けて変位されることを抑制できる。従って、第２の球を安定して転動させることができる。また、第２の球の後続となる第３の球も第２の通路へ案内できる可能性を確保できる。

【５０１３】

遊技機ＣＡ４からＣＡ７のいずれかにおいて、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、前記変位部材は、前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面を備え、前記第１面と第２面とは、少なくとも一部が前記軸を挟んで配置されることを特徴とする遊技機ＣＡ８。

【５０１４】

遊技機ＣＡ８によれば、遊技機ＣＡ４からＣＡ７のいずれかの奏する効果に加え、ベース部材と、そのベース部材に変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、変位部材は、第２の通路へ案内される第２の球が転動する第２面を備え、第１面と第２面とは、少なくとも一部が軸を挟んで配置されるので、変位部材の配置の自由度を高めることができる。

【５０１５】

遊技機ＣＡ４からＣＡ７のいずれかにおいて、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、前記変位部材は、前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面を備え、前記第１面と第２面とは、少なくとも一部が前記軸に対して同じ側に配置されることを特徴とする遊技機ＣＡ９。

【５０１６】

遊技機ＣＡ９によれば、遊技機ＣＡ４からＣＡ７のいずれかの奏する効果に加え、ベース部材と、そのベース部材に変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、変位部材は、第２の通路へ案内される第２の球が転動する第２面を備え、第１面と第２面とは、少なくとも一部が軸に対して同じ側に配置されるので、第１の球が第１面から排出されたとしても、第２の球の重量を利用して、変位部材の姿勢を、第２の球を第２の通路へ案内するための姿勢とすることができる。その結果、第１面の長さを短くすることができ、その分、変位部材の配置の自由度を高めることができる。

【５０１７】

遊技機ＣＡ４からＣＡ９のいずれかにおいて、前記第１面へ向けて球が転動する上流面を備え、前記第１面は、前記上流面から転動された前記第１の球の転動方向を反転させることを特徴とする遊技機ＣＡ１０。

【５０１８】

遊技機ＣＡ１０によれば、遊技機ＣＡ４からＣＡ９のいずれかの奏する効果に加え、第１面へ向けて第１の球が転動する上流面を備え、第１面は、上流面から転動された第１の球の転動方向を反転させるので、その反転に要する時間の分、第１の球が第１面に滞留する時間を確保できる。よって、第２の球が第２面を転動する間、第１の球の重量を変位部材に作用させておくことで、第２面を転動する第２の球の重量によって変位部材が所定位置へ向けて変位されることを抑制できる。従って、第２の球を安定して転動させることが

できる。また、第２の球の後続となる第３の球も第２の通路へ案内できる可能性を確保できる。更に、第１面の長さを短くすることができ、その分、変位部材の配置の自由度を高めることができる。

【５０１９】

遊技機ＣＡ１からＣＡ１０のいずれかにおいて、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸と、前記ベース部材に配設され前記第１面へ向けて球が転動する上流面とを備え、前記軸は、前記上流面を前記球が転動する方向と鉛直方向とに直交する姿勢で配設されることを特徴とする遊技機ＣＡ１１。

【５０２０】

遊技機ＣＡ１１によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ１０のいずれかの奏する効果に加え、軸は、上流面を球が転動する方向と鉛直方向とに直交する姿勢で配設されるので、ベース部材に変位部材が配設されたユニットの小型化を図ることができる。特に、上流面を球が転動する方向を遊技機の幅方向に沿わせてベース部材を配設することで、遊技機の幅方向を有効活用して、変位部材を配設するスペースを確保しやすくできる。

【５０２１】

遊技機ＣＡ１からＣＡ１０のいずれかにおいて、ベース部材を備え、そのベース部材に前記変位部材がスライド変位可能に配設されることを特徴とする遊技機ＣＡ１２。

【５０２２】

遊技機ＣＡ１２によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ１０のいずれかの奏する効果に加え、ベース部材に変位部材がスライド変位可能に配設されるので、例えば、変位部材が回転可能にベース部材に軸支される場合と比較して、変位部材を小型化でき、その分、ベース部材における他の部材の配設スペースを確保できる。

【５０２３】

遊技機ＣＡ１からＣＡ１２のいずれかにおいて、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸と、前記ベース部材に配設され前記第１面へ向けて球が転動する上流面とを備え、前記変位部材は、前記第１の球の重量で前記変位部材が前記所定位置から変位された状態で前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面を備え、前記第１の球の重量で前記変位部材が前記所定位置から変位された状態では、前記上流面の下流端よりも前記第２面の上流端が鉛直方向下方に位置することを特徴とする遊技機ＣＡ１３。

【５０２４】

ここで、第１の球の重量で変位部材が所定位置から変位されると、その変位された際の衝撃で変位部材が跳ね上がることがあり、この変位部材の跳ね上がりにより、上流面の下流端よりも第２面の上流端が上方に位置すると、第２の球を上流面から第２面へ転動させることができなくなる虞がある。特に、跳ね上がった変位部材の上流端（第２面の上流端）に第２の球が衝突すると、その衝撃で変位部材が更に跳ね上げられ（第２の球で変位部材が押し上げられ）、第１の球が転動するべき通路（第１面）へ第２の球が流入する虞がある。

【５０２５】

これに対し、遊技機ＣＡ１３によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ１２のいずれかの奏する効果に加え、第１の球の重量で変位部材が所定位置から変位された状態では、上流面の下流端よりも第２面の上流端が鉛直方向下方に位置するので、その分、第１の球の重量で所定位置から変位された際の衝撃で変位部材が跳ね返った場合に、上流面の下流端よりも第２面の上流端が上方へ位置することを抑制できる。よって、第２の球を上流面から第２面へスムーズに転動させることができる。

【５０２６】

遊技機ＣＡ１３において、前記第２面の上流端は、前記上流面へ向けて下降傾斜されることを特徴とする遊技機ＣＡ１４。

【５０２７】

遊技機ＣＡ１４によれば、遊技機ＣＡ１３の奏する効果に加え、第２面の上流端は、上

流面へ向けて下降傾斜されるので、第１の球の重量で所定位置から変位された際の衝撃で変位部材が跳ね返り（跳ね上がり）、その跳ね上がった変位部材の上流端（第２面の上流端）に第２の球が衝突した際に、第２の球から変位部材へ作用する力を、変位部材を押し下げる方向の力として作用させることができる。その結果、第２の球を上流面から第２面へスムーズに転動させることができる。

【５０２８】

遊技機ＣＡ１からＣＡ１４のいずれかにおいて、前記第１面へ向けて球が転動する上流面を備え、前記変位部材は、前記第１の通路へ案内される前記第１の球が転動する第１面を備え、前記第１面は、前記上流面から転動された前記第１の球の転動方向を反転させ、前記変位部材が第１の球の重量で前記所定位置から変位される際には、前記第１面の反転する位置にある前記第１の球の前記上流面側の変位軌跡よりも前記変位部材の前記上流面側の変位軌跡が前記上流面から離間された位置とされることを特徴とする遊技機ＣＡ１５。

【５０２９】

遊技機ＣＡ１５によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ１４のいずれかの奏する効果に加え、変位部材が第１の球の重量で所定位置から変位される際には、第１面の反転する位置にある第１の球の上流面側の変位軌跡よりも変位部材の上流面側の変位軌跡が上流面から離間された位置とされるので、第２の球が第１面に誤って流入される（受け入れられる）ことを抑制できる。即ち、第１の球に第２の球を当接させて第２の球を第１面から離間させておくと共に、第１の球の重量で所定位置から変位する変位部材の上流面側の端部で第２の球を第１面から離間する方向へ押しのけることができる。

【５０３０】

遊技機ＣＡ１５において、前記変位部材は、前記第１の球の重量で前記所定位置から所定以上の変位がされるまでは、前記第１面の転動方向を反転させる位置に前記第１の球を留めることを特徴とする遊技機ＣＡ１６。

【５０３１】

遊技機ＣＡ１６によれば、遊技機ＣＡ１５の奏する効果に加え、変位部材は、第１の球の重量で所定位置から所定以上の変位がされるまでは、第１面の転動方向を反転させる位置に第１の球を留めるので、第２の球が第１面に誤って流入される（受け入れられる）ことをより確実に抑制できる。即ち、第１の球に第２の球を当接させて第２の球を第１面から離間させておくと共に、第１の球の重量で所定位置から変位する変位部材の上流面側の端部で第２の球を第１面から離間する方向へ押しのける動作をより確実に実行できる。

【５０３２】

遊技機ＣＡ１からＣＡ１６のいずれかにおいて、流入部と、その流入部から流入された球が往復変位可能に転動する往復面と、その往復面から球を流出させる流出部とを備え、前記流出部が前記通過経路において前記変位部材よりも上流側に位置することを特徴とする遊技機ＣＡ１７。

【５０３３】

遊技機ＣＡ１７によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ１６のいずれかの奏する効果に加え、流入部と、その流入部から流入された球が往復変位可能に転動する往復面と、その往復面から球を流出させる流出部とを備え、流出部が通過経路において変位部材よりも上流側に位置するので、第１の球と第２の球とを所定量以下の間隔で連ならせ、これら第１の球と第２の球とを所定量以下の間隔で連なった状態で変位部材に到達させやすくできる。即ち、流入部から流入される際の第１の球と第２の球との間隔が所定量よりも大きな間隔であっても、往復面を往復変位されることで、これら第１の球と第２の球との間隔を詰まらせる（間隔を所定量以下とする）ことができる。

【５０３４】

遊技機ＣＡ１７において、前記往復面の幅寸法は、１の球が通過可能な幅寸法に設定されることを特徴とする遊技機ＣＡ１８。

【５０３５】

遊技機ＣＡ１８によれば、遊技機ＣＡ１７の奏する効果に加え、往復面の幅寸法は、１の球が通過可能な幅寸法に設定されるので、流入部から往復面へ流入され往復面を往復変位される第１の球と第２の球とがすれ違うことを抑制できる。よって、第１の球と第２の球とが往復面を往復変位される際に、それら第１の球と第２の球との間隔を詰まらせやすく（間隔を所定量以下としやすく）できる。

【５０３６】

遊技機ＣＡ１８において、前記往復面は、一側および他側のそれぞれへ向かうに従って上昇傾斜され、前記流出部は、前記往復面の最下方に配置されることを特徴とする遊技機ＣＡ１９。

【５０３７】

遊技機ＣＡ１９によれば、遊技機ＣＡ１８の奏する効果に加え、往復面は、一側および他側のそれぞれへ向かうに従って上昇傾斜され、流出部は、往復面の最下方に配置されるので、往復面を往復変位される慣性が弱まった状態で第１の球と第２の球とを流出部から流出させることができる。即ち、第１の球と第２の球とを所定量以下の間隔で連ならせた状態を維持して流出させやすくできる。

【５０３８】

遊技機ＣＡ１９において、前記往復面は、上面視直線状に形成されることを特徴とする遊技機ＣＡ２０。

【５０３９】

遊技機ＣＡ２０によれば、遊技機ＣＡ１９の奏する効果に加え、往復面は、上面視直線状に形成されるので、第１の球と第２の球とが往復面を往復変位される際に、それら第１の球と第２の球との間隔を詰まらせやすく（間隔を所定量以下としやすく）できる。

【５０４０】

遊技機ＣＡ１からＣＡ２０のいずれかにおいて、磁石の吸着力を球に作用可能に形成され少なくとも下面を下降傾斜させた姿勢で配設される吸着部材を備えることを特徴とする遊技機ＣＡ２１。

【５０４１】

遊技機ＣＡ２１によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ２０のいずれかの奏する効果に加え、磁石の吸着力を球に作用可能に形成され少なくとも下面を下降傾斜させた姿勢で配設される吸着部材を備えるので、かかる吸着部材により球の通過経路を形成して、遊技の興趣を向上できる。即ち、吸着部材の下降傾斜した下面に球を吸着させると、球を自重により摺動させ吸着部材の下面に沿って変位させることができる。この場合、球の状態（球に作用される慣性力と吸着力との関係）によって、吸着部材の下面から球が落下する可能性（即ち、通過経路（吸着部材の下面）の終端まで球が到達できない可能性）を持たせた不安定な状態とできる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【５０４２】

遊技機ＣＡ２１において、前記吸着部材は、磁性体から板状に形成される下面形成部材と、その下面形成部材に磁力を作用させる磁石とを備えることを特徴とする遊技機ＣＡ２２。

【５０４３】

遊技機ＣＡ２２によれば、遊技機ＣＡ２１の奏する効果に加え、吸着部材は、磁性体から板状に形成される下面形成部材と、その下面形成部材に磁力を作用させる磁石とを備えるので、球が摺動する面を下面形成部材の下面により形成する構造とすることで、吸着力の調整と摩擦力の適正化を容易として、球の通過経路を簡素な構造で確実に形成できる。

【５０４４】

遊技機ＣＡ２１又はＣＡ２２において、前記吸着部材は、前記第２の通路の少なくとも一部を形成することを特徴とする遊技機ＣＡ２３。

【５０４５】

遊技機ＣＡ２３によれば、遊技機ＣＡ２１又はＣＡ２２の奏する効果に加え、吸着部材は、第２の通路の少なくとも一部を形成するので、遊技の興趣を向上できる。即ち、第２

の球が変位部材により案内されて第２の通路へ到達できるのは、第１の球に第２の球が所定量以下の間隔を隔てて連なった状態で変位部材に到達した場合のみであり、その可能性は比較的低い。そのような低い可能性を経て到達した第２の球を、落下する可能性（吸着部材の下面の終端まで到達できない可能性）がある不安定を状態で変位させることで、無事に通過することを遊技者に期待させて、遊技の興趣を向上できる。

【５０４６】

遊技機ＣＡ２３において、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、前記変位部材は、前記第１の通路へ案内される前記第１の球が転動する第１面と、前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面とを備え、前記第１面と第２面とは、少なくとも一部が前記軸を挟んで配置されることを特徴とする遊技機ＣＡ２４。

【５０４７】

遊技機ＣＡ２４によれば、遊技機ＣＡ２３の奏する効果に加え、ベース部材と、そのベース部材に変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、変位部材は、第１の通路へ案内される第１の球が転動する第１面と、第２の通路へ案内される第２の球が転動する第２面とを備え、第１面と第２面とは、少なくとも一部が軸を挟んで配置されるので、変位部材が第１の球の重量で所定位置から変位される（第１面の位置が下方へ変位される）ことで、第２面の位置を上方へ変位させることができる。よって、第２面を転動する第２の球を吸着部材の下面に吸着させやすくできる。

【５０４８】

遊技機ＣＡ２４において、前記第２面は、前記軸と鉛直方向において重なる位置に配設されることを特徴とする遊技機ＣＡ２５。

【５０４９】

遊技機ＣＡ２５によれば、遊技機ＣＡ２４の奏する効果に加え、第２面は、軸と鉛直方向において重なる位置に配設されるので、第２面を転動する第２の球の重量によって変位部材が所定位置へ向けて変位される（第２面の位置が下方へ変位される）ことを抑制できる。よって、第２面を転動する第２の球を吸着部材の下面に吸着させやすくできる。

【５０５０】

遊技機ＣＡ２４又はＣＡ２５において、前記第１面が前記第２面よりも長くされることを特徴とする遊技機ＣＡ２６。

【５０５１】

遊技機ＣＡ２６によれば、遊技機ＣＡ２４又はＣＡ２５の奏する効果に加え、第１面が第２面よりも長くされるので、第２の球が第２面を転動する間、同時に、第１の球が第１面を転動する状態を形成しやすくできる。即ち、第２の球が第２面を転動する間、第１の球の重量を変位部材に作用させておくことで、第２面を転動する第２の球の重量によって変位部材が所定位置へ向けて変位される（第２の面の位置が下方へ変位される）ことを抑制できる。よって、第２面を転動する第２の球を吸着部材の下面に吸着させやすくできる。

【５０５２】

＜皿部材Ｃ１２０，Ｃ２１２０，Ｃ４１２０を一例とする発明の概念について＞

球の通路を備えた遊技機において、前記通路は、前後方向に球を往復動可能とする第１の通路と、その第１の通路に連通され、球を左右方向に沿って通過させる第２の通路と、を備えることを特徴とする遊技機ＣＢ１。

【５０５３】

ここで、球を往復動可能とする通路部材（ステージ）を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７号公報）。しかしながら、上述した遊技機では、遊技の興趣が十分ではないという問題点があった。

【５０５４】

これに対し、遊技機ＣＢ１によれば、通路は、前後方向に球を往復動可能とする第１の通路と、その第１の通路に連通され、球を左右方向に沿って通過させる第２の通路と、を

備えるので、遊技の興趣を高めることができる。
【５０５５】
遊技機ＣＢ１において、前記第２の通路を第１の球とその第１の球の後続となる第２の球とが通過する場合に、それら第１の球と第２の球との間隔に応じて、前記第１の球および前記第２の球の案内先となる通路が変化されることを特徴とする遊技機ＣＢ２。
【５０５６】
遊技機ＣＢ２によれば、遊技機ＣＢ１の奏する効果に加え、第２の通路を第１の球とその第１の球の後続となる第２の球とが通過する場合に、それら第１の球と第２の球との間隔に応じて、第１の球および第２の球の案内先となる通路が変化されるので、球が所定の通路へ案内されること（即ち、第１の球と第２の球との間隔が所定の間隔となること）を遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。
【５０５７】
この場合、第１の通路における往復動によって第１の球と第２の球の間隔とが決定されるところ、それら第１の球および第２の球が、球を左右方向に沿って通過させる第２の通路へ第１の通路から流下されるので、第１の球と第２の球との間隔を遊技者に視認させ易くできる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【５０５８】
遊技機ＣＢ２において、前記第２の通路を通過する際の第１の球と第２の球との間隔が所定量以下の場合には、前記間隔が所定量を超える場合に案内される通路よりも有利な通路へ少なくとも第２の球が案内され、前記第１の通路は、第１の球と第２の球とが前記往復動されることで、それら第１の球と第２の球との間隔を減少可能に形成されることを特徴とする遊技機ＣＢ３。
【５０５９】
遊技機ＣＢ３によれば、遊技機ＣＢ２の奏する効果に加え、第２の通路を通過する際の第１の球と第２の球との間隔が所定量以下の場合には、間隔が所定量を超える場合に案内される通路よりも有利な通路へ少なくとも第２の球が案内され、第１の通路は、第１の球と第２の球とが往復動されることで、それら第１の球と第２の球との間隔を減少可能に形成されるので、第２の通路を通過する際の第１の球と第２の球との間隔を所定量以下とし易くできる。その結果、有利な通路へ案内されることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【５０６０】
遊技機ＣＢ１からＣＢ３のいずれかにおいて、中央が開口された遊技盤を備え、前記第２の通路は、前記遊技盤の開口に配置されることを特徴とする遊技機ＣＢ４。
【５０６１】
遊技機ＣＢ４によれば、遊技機ＣＢ１からＣＢ３のいずれかに記載の遊技機の奏する効果に加え、中央が開口された遊技盤を備え、第２の通路は、遊技盤の開口に配置されるので、前後方向のスペースを有効に活用できる。よって、第２の通路の全長を確保し易くできる。
【５０６２】
＜磁性部Ｃ２４００，ｃ５４００，ｃ６４００（通路部ＣＲｔ２００４）を一例とする発明の概念について＞
球の通過経路に少なくとも一部が配設され球の重量で変位可能に形成される変位部材を備えた遊技機において、前記通過経路を通過する第１の球が前記変位部材に達すると、前記第１の球の重量で前記変位部材が所定位置から変位され、前記変位部材が前記第１の球の重量で前記所定位置から変位された状態では、前記第１の球の後続となる第２の球が前記変位部材の上方へ持ち上げられる部分を通過して前記第１の球とは異なる通路へ案内されることを特徴とする遊技機ＣＣ１。
【５０６３】
ここで、遊技球の重さで動作して、遊技球を第１の通路と第２の通路とに振り分ける振分部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１７－１４８１８９号公報）。しかしな

がら、上述した従来の技術では、球は重量方向下方へ流下するのみであるので、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。

【５０６４】

これに対し、遊技機ＣＣ１によれば、通過経路を通過する第１の球が変位部材に達すると、第１の球の重量で変位部材が所定位置から変位され、変位部材が第１の球の重量で所定位置から変位された状態では、第１の球の後続となる第２の球が変位部材の上方へ持ち上げられる部分を通過して第１の球とは異なる通路へ案内されるので、遊技の興趣を高めることができる。

【５０６５】

遊技機ＣＣ１において、前記変位部材の上方へ持ち上げられる部分を通過して前記第２の球が案内される通路は、球を磁力により吸着可能な磁性部により形成されることを特徴とする遊技機ＣＣ２。

【５０６６】

遊技機ＣＣ２によれば、遊技機ＣＣ１の奏する効果に加え、変位部材の上方へ持ち上げられる部分を通過して第２の球が案内される通路は、球を磁力により吸着可能な磁性部により形成されるので、かかる通路の途中で球が落下される態様を形成できる。よって、遊技の興趣を高めることができる。

【５０６７】

遊技機ＣＣ２において、前記磁性部は、前記変位部材の上方へ持ち上げられる部分よりも上方に位置することを特徴とする遊技機ＣＣ３。

【５０６８】

遊技機ＣＣ３によれば、遊技機ＣＣ２の奏する効果に加え、磁性部は、変位部材の上方へ持ち上げられる部分よりも上方に位置するので、変位部材が第１の球の重量で所定位置から変位されていない場合には、上方へ持ち上げられるべき部分を第２の球が通過したとしても、その第２の球を磁性部に吸着させない態様を確実に形成できる。

【５０６９】

遊技機ＣＣ２又はＣＣ３において、前記変位部材は、回転可能に軸支され、その回転軸を挟んで、前記第１の球の重量が作用される部分と、前記上方へ持ち上げられる部分とが位置することを特徴とする遊技機ＣＣ４。

【５０７０】

遊技機ＣＣ４によれば、遊技機ＣＣ２又はＣＣ３の奏する効果に加え、変位部材は、回転可能に軸支され、その回転軸を挟んで、第１の球の重量が作用される部分と、上方へ持ち上げられる部分とが位置するので、上方へ持ち上げられる部分を第２の球が通過する際に、第１の球の重量を利用して、第２の球が通過する部分を上方へ持ち上げられた状態に維持しやすくできる。

【５０７１】

＜下側フレームＤ８６ｂ～Ｄ８０８６ｂを一例とする発明の概念について＞

球が入球可能な通路と、変位可能に形成され前記通路への球の入球のされやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機において、前記変位部材は、前記通路に球が入球された場合に変位され、前記通路への球の入球されやすさを変化させることを特徴とする遊技機ＤＡ１。

【５０７２】

球が入球可能な通路と、変位可能に形成され、通路への球の入球のしやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機が知られている（特開２０１７－１２４１６９）。該先行文献には、電動式チューリップ（開閉爪１５ａ）を開閉させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。

【５０７３】

これに対し、遊技機ＤＡ１によれば、変位部材は、通路に球が入球された場合に変位され、通路への球の入球されやすさを変化させるので、よって、第１の球が通路へ入球され、更に、第２の球が通路へ入球されることを期待する場合、或いは逆に、第１の球が通路

へ入球された状態では、第２の球が通路へ入球されないことを期待する場合に、通路へ第２の球が入球されるか否かを着目させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【５０７４】

遊技機ＤＡ１において、前記変位部材は、前記通路に球が入球された場合に、前記通路へ球が入球されやすくなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＡ２。

【５０７５】

遊技機ＤＡ２によれば、遊技機ＤＡ１の奏する効果に加え、変位部材は、通路に球が入球された場合に、通路へ球が入球されやすくなる側へ変位されるので、通路へ入球された球に後行する球（通路へ入球されていない他の球、後続の球）を通路へ入球されやすくできる。即ち、通路へ１の球が入球されれば、後行する球が連続して通路へ入球されやすい状態を形成でき、後行する球が通路へ入球されれば、その後行する球の通路への入球に起因して、次の後行する球が通路へ入球されやすい状態を形成できる。よって、通路への球の入球により、通路への入球の連鎖の発生を遊技者に期待させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【５０７６】

遊技機ＤＡ１において、前記変位部材は、前記通路に球が入球された場合に、前記通路へ球が入球され難くなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＡ３。

【５０７７】

遊技機ＤＡ３によれば、遊技機ＤＡ１の奏する効果に加え、変位部材は、通路に球が入球された場合に、通路へ球が入球され難くなる側へ変位されるので、第１の球が通路へ入球された状態では、第２の球が通路へ入球されないことを期待する場合に、第２の球が通路へ入球され難くできる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【５０７８】

遊技機ＤＡ１からＤＡ３のいずれかにおいて、前記変位部材は、前記通路に入球された球の重量を利用して、前記通路へ球が入球されやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＡ４。

【５０７９】

遊技機ＤＡ４によれば、遊技機ＤＡ１からＤＡ３のいずれかの奏する効果に加え、変位部材は、通路に入球された球の重量を利用して、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位されるので、変位部材を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。

【５０８０】

遊技機ＤＡ２又はＤＡ３において、前記通路に入球された球が転動可能とされ前記転動される球の重さで変位される転動部材と、その転動部材の変位を前記変位部材へ伝達する伝達手段とを備え、前記変位部材は、前記転動する球の重さで前記転動部材が変位され、その転動部材の変位が前記伝達手段により伝達されることで、前記通路へ球が入球されやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＡ５。

【５０８１】

遊技機ＤＡ５によれば、遊技機ＤＡ２又はＤＡ３の奏する効果に加え、通路に入球された球が転動可能とされ、転動される球の重さで変位される転動部材と、その転動部材の変位を変位部材へ伝達する伝達手段とを備え、変位部材は、転動する球の重さで転動部材が変位され、その転動部材の変位が前記伝達手段により伝達されることで、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位されるので、球が転動部材を転動している間、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位部材を変位させておくことができる。即ち、通路へ球が入球されやい状態または通路へ球が入球され難い状態を維持しやすく（長く）できる。

【５０８２】

遊技機ＤＡ５において、前記転動部材を複数備えることを特徴とする遊技機ＤＡ６。
【５０８３】
遊技機ＤＡ６によれば、遊技機ＤＡ５の奏する効果に加え、転動部材を複数備えるので、その分、球が転動する区間（転動可能距離）を確保して、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位部材が変位されている期間を長くできる。即ち、通路へ球が入球されやい状態または通路へ球が入球され難い状態を維持しやすく（長く）できる。
【５０８４】
遊技機ＤＡ５又はＤＡ６において、前記通路へ入球された球は、前記転動部材をその転動部材の下降傾斜によって転動され、前記転動部材は、回転可能に軸支され、球が転動されている状態における前記転動部材の下降傾斜が、球が非転動の状態における前記転動部材の下降傾斜よりも小さくされることを特徴とする遊技機ＤＡ７。
【５０８５】
遊技機ＤＡ７によれば、遊技機ＤＡ５又はＤＡ６の奏する効果に加え、通路へ入球された球は、転動部材をその転動部材の下降傾斜によって転動され、転動部材は、回転可能に軸支され、球が転動されている状態における転動部材の下降傾斜が、球が非転動の状態における転動部材の下降傾斜よりも小さくされるので、転動部材を転動する球に勢いが付与されることを抑制できる。よって、球が転動部材を通過するのに要する時間を長くできる。その結果、通路へ球が入球されやい状態または通路へ球が入球され難い状態を維持しやすく（長く）できる。
【５０８６】
遊技機ＤＡ５からＤＡ７のいずれかにおいて、前記転動部材は、前記球の重量で変位される前の状態に自重により復帰されることを特徴とする遊技機ＤＡ８。
【５０８７】
遊技機ＤＡ８によれば、遊技機ＤＡ５からＤＡ７のいずれかの奏する効果に加え、転動部材は、球の重量で変位される前の状態に自重により復帰されるので、転動部材を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。
【５０８８】
遊技機ＤＡ５からＤＡ８のいずれかにおいて、前記転動部材を転動する球に作用する作用手段を備えることを特徴とする遊技機ＤＡ９。
【５０８９】
遊技機ＤＡ９によれば、遊技機ＤＡ５からＤＡ８のいずれかの奏する効果に加え、転動部材を転動する球に作用する作用手段を備えるので、球の転動に影響を与えることができる。即ち、作用手段の作用により球の転動に抵抗を付与し、その転動の速度を低くすることができる。これにより、球が転動部材を通過するのに要する時間を長くできる。その結果、通路へ球が入球されやい状態または通路へ球が入球され難い状態を維持しやすく（長く）できる。
【５０９０】
遊技機ＤＡ９において、前記作用手段は、前記通路の内側面から突設され鉛直方向に沿って延設される突部として形成され、前記転動面を転動する球の転動方向に沿って所定間隔を隔てつつ複数が配設されることを特徴とする遊技機ＤＡ１０。
【５０９１】
遊技機ＤＡ１０によれば、遊技機ＤＡ９の奏する効果に加え、作用手段は、通路の内側面から突設され鉛直方向に沿って延設される突部として形成され、転動面を転動する球の転動方向に沿って所定間隔を隔てつつ複数が配設されるので、球が転動面を転動する際には、突部（作用手段）が当接されることで、球の転動に抵抗を付与して、その転動速度を低くすることができる。これにより、球が転動部材を通過するのに要する時間を長くできる。その結果、通路へ球が入球されやい状態または通路へ球が入球され難い状態を維持しやすく（長く）できる。

【５０９２】
一方で、突部（作用手段）は、鉛直方向に沿って延設されるので、鉛直方向へ移動する球には抵抗が付与され難くできる。よって、転動部材の転動面から球が上方へ跳ね上がった場合には、その球を下方（転動面）へ速やかに落下させることができる。従って、球の上方への跳ね上がりに伴って、転動部材が上方へ変位した場合でも、かかる転動部材が球の重量により変位された状態に速やかに復帰させることができる。その結果、通路へ球が入球されやすくなる側へ球の重量によって変位されていた変位部材が、転動面からの球の跳ね上がりによって、初期位置（通路へ球が入球する前の位置）へ復帰される不具合の発生を抑制できる。
【５０９３】
遊技機ＤＡ１０において、前記転動部材は、球が転動する転動面が球の転動方向に沿って滑らかに連なる平滑面として形成されることを特徴とする遊技機ＤＡ１１。
【５０９４】
遊技機ＤＡ１１によれば、遊技機ＤＡ１０の奏する効果に加え、転動部材は、球が転動する転動面が球の転動方向に沿って滑らかに連なる平滑面として形成されるので、転動面を転動する球が上方（鉛直方向）へ跳ね上がることを抑制できる。よって、通路へ球が入球されやすくなる側へ球の重量によって変位されていた変位部材が、転動面からの球の跳ね上がりによって、初期位置（通路へ球が入球する前の位置）へ復帰される不具合の発生を抑制できる。
【５０９５】
なお、転動面は、平坦面である必要はなく、起伏を有する面（断面形状が円弧を滑らかに連ねて形成される面）であっても良い。即ち、転動面は、少なくとも球の直径の１／１０以上の高さの段差を有していなければ良い。
【５０９６】
遊技機ＤＡ１０又はＤＡ１１において、前記突部は、前記通路の内側面であって前記転動面を挟んだ両側に形成され、一方の内側面の突部と他方の内側面の突部とが前記転動部材の転動面に沿って千鳥状に配置されることを特徴とする遊技機ＤＡ１２。
【５０９７】
遊技機ＤＡ１２によれば、遊技機ＤＡ１０又はＤＡ１１の奏する効果に加え、突部は、通路の内側面であって転動面を挟んだ両側に形成され、一方の内側面の突部と他方の内側面の突部とが転動部材の転動面に沿って千鳥状に配置されるので、球が転動面を転動する際に、球を突部に当接させやすくできる。これにより、球が転動部材を通過するのに要する時間を長くできる。その結果、通路へ球が入球されやい状態または通路へ球が入球され難い状態を維持しやすく（長く）できる。
【５０９８】
遊技機ＤＡ５からＤＡ１２のいずれかにおいて、前記転動部材は、回転可能に軸支され、前記通路へ入球された球は、前記軸支された部位へ向けて前記転動部材を転動することを特徴とする遊技機ＤＡ１３。
【５０９９】
遊技機ＤＡ１３によれば、遊技機ＤＡ５からＤＡ１２のいずれかの奏する効果に加え、転動部材は、回転可能に軸支され、通路へ入球された球は、軸支された部位へ向けて転動部材を転動するので、球が転動部材を転動する際には、その初期段階において転動部材の変位を最大とできる。即ち、通路へ球が入球されやすくなる側への変位部材の変位を、球が通路へ入球し転動部材に達した際に速やかに行わせることができる。よって、通路へ入球された球と、その球に後行する球（通路へ入球されていない他の球、後続の球）との間の間隔が比較的小さい場合（例えば、両球が連なって流下される場合）に、後行する球を通路へ入球されやすく又は通路へ入球され難くできる。
【５１００】
また、球の転動が進行するに従って、転動部材の変位量を徐々に小さくできる。即ち、球の転動が進行するに従って、通路へ球が入球されやすくなる側にあった変位部材を初期

位置（通路へ球が入球され難くされる側）へ向けて徐々に変位させることができる。これにより、通路へ球が入球する期待を変化させ、遊技の興趣を高めることができる。

【５１０１】

更に、通路へ入球された球が転動部材に落下される場合には、落下された球を、転動部材の変位量が大きい位置（軸支された部位から離れた位置）で受け止めることができる。よって、落下された球の運動エネルギーを、転動部材の変位により吸収（消費）して、球が上方へ跳ね上がることを抑制できる。その結果、球の重量を転動部材に安定して作用させ、変位部材の状態を安定させる（例えば、通路へ球が入球され難くされる側または通路へ球が入球され易くなる側へ変位部材が一時的に変位されることを抑制）できる。

【５１０２】

遊技機ＤＡ１３において、前記通路へ入球された球は、前記転動部材に落下されることを特徴とする遊技機ＤＡ１４。

【５１０３】

遊技機ＤＡ１４によれば、遊技機ＤＡ１３の奏する効果に加え、通路へ入球された球は、転動部材に落下されるので、落下された球の運動エネルギーを利用して、転動部材を速やかに変位させることができる。その結果、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側への変位部材の変位を速やかに行わせることができる。よって、通路へ入球された球と、その球に後行する球（通路へ入球されていない他の球、後続の球）との間の間隔が比較的小さい場合（例えば、両球が連なって流下される場合）でも、後行する球を通路へ入球されやすく又は通路へ入球され難くできる。

【５１０４】

また、通路部材へ入球した球を、転動部材とは別の部材（固定された非変位の部材）に落下させる場合には、別の部材の破損を招きやすくなるところ、本発明によれば、落下された球の運動エネルギーを、転動部材の変位により吸収（消費）して、破損を抑制できる。よって、球の落下を許容できる分、通路の設計の自由度を高めることができる。

【５１０５】

遊技機ＤＡ１３において、前記転動部材を転動する球は、少なくとも前記転動部材の前記軸支された部位まで転動されることを特徴とする遊技機ＤＡ１４。

【５１０６】

遊技機ＤＡ１４によれば、遊技機ＤＡ１３の奏する効果に加え、転動部材を転動する球は、少なくとも転動部材の軸支された部位（回転軸）まで転動されるので、転動部材の軸支された部位（回転軸）に到達する前に球が排球される場合と比較して、球の排球に伴う慣性力の影響（球の重量が作用されなくなる影響）を抑制して、転動部材が回転方向にばたつくことを抑制できる。よって、変位部材の状態を安定させる（例えば、通路へ球が入球されやすくされる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位部材が一時的に変位されることを抑制）できる。

【５１０７】

遊技機ＤＡ５からＤＡ１２のいずれかにおいて、前記転動部材は、回転可能に軸支され、前記通路へ入球された球は、前記軸支された部位から離間される方向へ向けて前記転動部材を転動することを特徴とする遊技機ＤＡ１６。

【５１０８】

遊技機ＤＡ１６によれば、遊技機ＤＡ５からＤＡ１２のいずれかの奏する効果に加え、転動部材は、回転可能に軸支され、通路へ入球された球は、軸支された部位から離間される方向へ向けて転動部材を転動するこので、球が転動部材を転動する際には、その後期段階（所定量を越えて転動した段階）において転動部材の変位を最大とできる。即ち、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位部材が変位するタイミングを遅らせることができる。よって、通路へ入球された球と、その球に後行する球（通路へ入球されていない他の球、後続の球）との間の間隔が比較的大きい場合に、後行する球を通路へ入球されやすく又は通路へ入球され難くできる。

【５１０９】

また、球の転動が進行するに従って、転動部材の変位量を徐々に大きくできる。即ち、球の転動が進行するに従って、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ向けて変位部材を徐々に変位させることができる。これにより、通路へ球が入球する期待を変化させ、遊技の興趣を高めることができる。

【５１１０】

遊技機ＤＡ５からＤＡ１６のいずれかにおいて、前記変位部材は、前記転動部材が球の重量により変位されていない状態では、前記通路へ球が入球がされやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側への変位が規制されることを特徴とする遊技機ＤＡ１７。

【５１１１】

遊技機ＤＡ１７によれば、遊技機ＤＡ５からＤＡ１６の奏する効果に加え、変位部材は、転動部材が球の重量により変位されていない状態では、通路へ球が入球がされやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側への変位が規制されるので、変位部材を、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ強制的に変位させる不正を抑制できる。

【５１１２】

遊技機ＤＡ１７において、前記転動部材が球の重量により変位されていない状態では、前記伝達手段の変位が前記転動部材に規制されることで、前記通路へ球が入球されやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側への前記変位部材の変位が規制されることを特徴とする遊技機ＤＡ１８。

【５１１３】

遊技機ＤＡ１８によれば、遊技機ＤＡ１７の奏する効果に加え、転動部材が球の重量により変位されていない状態では、伝達手段の変位が転動部材に規制されることで、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側への変位部材の変位が規制されるので、変位部材の強制的変位を規制するための部品を別途設ける必要がなく、伝達手段を流用することができる。即ち、変位部材を強制的に変位させる不正を抑制するための構造を簡素化できる。

【５１１４】

遊技機ＤＡ５からＤＡ１８のいずれかにおいて、前記転動部材と前記伝達手段との間には、所定の隙間が形成され、球の重量で変位された前記転動部材は、前記隙間を埋めた後に前記伝達手段に当接されることを特徴とする遊技機ＤＡ１９。

【５１１５】

遊技機ＤＡ１９によれば、遊技機ＤＡ５からＤＡ１８のいずれかの奏する効果に加え、転動部材と伝達手段との間には、所定の隙間が形成され、球の重量で変位された転動部材は、隙間を埋めた後に伝達手段に当接されるので、転動部材の変位が比較的小さい場合には、伝達手段を介して、転動部材の変位を変位部材へ伝達することができない。即ち、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位部材を変位させるためには、隙間を越える変位を転動部材に形成する必要があり、よって、遊技機を叩いて転動部材を変位させることや、針金等の異物で転動部材を変位させようとする不正を成功し難くできる。

【５１１６】

＜下側フレームＤ８６ｂ～Ｄ８０８６ｂを一例とする発明の概念について＞

球が入球可能な通路と、変位可能に形成され前記通路への球の入球のされやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機において、前記変位部材の変位速度が変化可能に形成されることを特徴とする遊技機ＤＢ１。

【５１１７】

球が入球可能な通路と、変位可能に形成され、通路への球の入球のしやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機が知られている（特開２０１７－１２４１６９）。該先行文献には、電動式チューリップ（開閉爪１５ａ）を開閉させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。

【５１１８】
これに対し、遊技機ＤＢ１によれば、変位部材の変位速度が変化可能に形成されるので、通路への球の入球のされやすさの変化速度を変化させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【５１１９】
遊技機ＤＢ１において、前記変位部材は、前記通路へ球が入球されやすくなる側への変位速度が、前記通路へ球が入球され難くなる側への変位速度よりも速くされることを特徴とする遊技機ＤＢ２。
【５１２０】
遊技機ＤＢ２によれば、遊技機ＤＢ１の奏する効果に加え、変位部材は、通路へ球が入球されやすくなる側への変位速度が、通路へ球が入球され難くなる側への変位速度よりも速くされるので、通路へ球が入りやすくされた状態を素早く形成して、通路への球の入球を期待する遊技者に対し、テンポの良い演出を行うことができる。また、通路へ球が入球され難くなる側への変位速度が相対的に遅くされることで、通路へ球が入りやすくされた状態の期間を確保して、通路への球の入球を期待する遊技者に対し、通路への入球が間に合うか否かを着目させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【５１２１】
遊技機ＤＢ１において、前記変位部材は、前記通路へ球が入球されやすくなる側への変位速度が、前記通路へ球が入球され難くなる側への変位速度よりも遅くされることを特徴とする遊技機ＤＢ３。
【５１２２】
遊技機ＤＢ３によれば、遊技機ＤＢ１の奏する効果に加え、変位部材は、通路へ球が入球されやすくなる側への変位速度が、通路へ球が入球され難くなる側への変位速度よりも遅くされるので、通路への球の入りやすさを徐々に増加させ、通路への球の入球を期待する遊技者に対し、その期待を徐々に高まらせることができる。また、通路へ球が入球され難くされた状態を素早く形成して、通路への球の入球を期待する遊技者に対し、テンポの良い演出を行うことができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【５１２３】
遊技機ＤＢ１からＤＢ３のいずれかにおいて、前記変位部材は、前記通路に入球された球の重量を利用して、前記通路へ球が入球されやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＢ４。
【５１２４】
遊技機ＤＢ４によれば、遊技機ＤＢ１からＤＢ３のいずれかの奏する効果に加え、変位部材は、通路に入球された球の重量を利用して、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位されるので、変位部材を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。
【５１２５】
＜下側フレームＤ８６ｂ～Ｄ８０８６ｂを一例とする発明の概念について＞
球が入球可能な通路と、変位可能に形成され前記通路への球の入球のされやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機において、前記変位部材を複数備え、前記複数の変位部材のうちの一の前記変位部材は、他の前記変位部材と変位態様が異なることを特徴とする遊技機ＤＣ１。
【５１２６】
球が入球可能な通路と、変位可能に形成され、通路への球の入球のしやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機が知られている（特開２０１７－１２４１６９）。該先行文献には、電動式チューリップ（開閉爪１５ａ）を開閉させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。
【５１２７】
これに対し、遊技機ＤＣ１によれば、変位部材を複数備え、複数の変位部材のうちの一

の変位部材は、通路他の変位部材と変位態様が異なるので、それら複数の変位部材の変位態様の組み合わせにより、通路への球の入球のされやすさの変化を大きくできる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【５１２８】

なお、変位態様としては、変位を開始する時期（タイミング）、変位方向、変位速度、これらの組み合わせが例示される。

【５１２９】

遊技機ＤＣ１において、前記一の変位部材の変位の開始は、前記他の変位部材の変位が開始され、所定時間の経過後とされることを特徴とする遊技機ＤＣ２。

【５１３０】

遊技機ＤＣ２によれば、遊技機ＤＣ１の奏する効果に加え、一の変位部材の変位の開始は、他の変位部材の変位が開始され、所定時間の経過後とされるので、通路への球の入球のされやすさが変化される位置を異ならせると共にそのタイミングを異ならせることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【５１３１】

遊技機ＤＣ１又はＤＣ２において、前記通路へ球を流下させる上流通路を備え、前記変位部材の変位方向は、前記上流通路における球の転動方向と略平行とされることを特徴とする遊技機ＤＣ３。

【５１３２】

遊技機ＤＣ３によれば、遊技機ＤＣ１又はＤＣ２の奏する効果に加え、通路へ球を流下させる上流通路を備え、変位部材の変位方向は、上流通路における球の転動方向と略平行とされるので、上流通路を転動する球の転動方向や転動位置と変位部材の変位方向や変位位置とを、通路への球の入球のしやすさに関係づけることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。

【５１３３】

遊技機ＤＣ１からＤＣ３のいずれかにおいて、前記変位部材は、前記通路に入球された球の重量を利用して、前記通路へ球が入球されやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＣ４。

【５１３４】

遊技機ＤＣ４によれば、遊技機ＤＣ１からＤＣ３のいずれかの奏する効果に加え、変位部材は、通路に入球された球の重量を利用して、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位されるので、変位部材を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。

【５１３５】

＜下側フレームＤ８６ｂ～Ｄ８０８６ｂを一例とする発明の概念について＞

球が入球可能な通路と、変位可能に形成され前記通路への球の入球のされやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機において、前記通路に入球された球が転動可能に形成される転動部材を備え、前記変位部材は、前記転動部材を転動する球の重量を利用して、前記通路へ球が入球されやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側へ変位され、前記転動部材は、球の転動経路の途中で球が落下可能に形成されることを特徴とする遊技機ＤＤ１。

【５１３６】

球が入球可能な通路と、変位可能に形成され、通路への球の入球のしやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機が知られている（特開２０１７－１２４１６９）。該先行文献には、電動式チューリップ（開閉爪１５ａ）を開閉させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。

【５１３７】

これに対し、遊技機ＤＤ１によれば、通路に入球された球が転動可能に形成される転動部材を備え、変位部材は、転動部材を転動する球の重量を利用して、通路へ球が入球され

やすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位され、転動部材は、球の転動経路の途中で球が落下可能に形成されるので、球が転動経路を転動する距離に応じて、球の重量を利用できる期間を変化させることができる。即ち、転動部材を転動する球の状態に応じて、通路への球の入球のされやすさを変化させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【５１３８】

遊技機ＤＤ１において、前記変位部材は、前記転動部材を転動する球の重量を利用して、前記通路へ球が入球されやすくなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＡ２。

【５１３９】

遊技機ＤＤ２によれば、遊技機ＤＤ１の奏する効果に加え、変位部材は、転動部材を転動する球の重量を利用して、通路へ球が入球されやすくなる側へ変位されるので、通路へ入球された球が転動部材を転動する間、その球に後行する球（通路へ入球されていない他の球、後続の球）を通路へ入球されやすくできる。

【５１４０】

即ち、通路へ１の球が入球され、その球が転動部材を転動している間は、後行する球が通路へ入球されやすい状態を形成でき、後行する球が通路へ入球され転動部材を転動すれば、次の後行する球が通路へ入球されやすい状態を形成できる。よって、通路への球の入球により、通路への入球の連鎖の発生を遊技者に期待させることができる。一方で、通路へ入球された球が転動部材の転動経路の途中で落下されると、球の重量を利用できなくなり、後行する球が通路へ入球されやすい状態を形成できなくなる。これにより、球の転動状態（転動経路の終端に達することができるか否か）を遊技者に注目させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【５１４１】

遊技機ＤＤ１において、前記転動部材を所定数以上の球が転動する場合に、前記転動する球を前記転動部材から落下させやすくする落下手段を備えることを特徴とする遊技機ＤＤ３。

【５１４２】

遊技機ＤＤ３によれば、遊技機ＤＤ１の奏する効果に加え、転動部材を所定数以上の球が転動する場合に、転動する球を転動部材から落下させやすくする落下手段を備えるので、転動部材を球が転動している状態において、別の球が更に通路へ流下されるか否かを遊技者に着目させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【５１４３】

なお、遊技機ＤＤ３における変位部材は、転動部材を転動する球の重量を利用して、通路へ球が入球されやすくなる側へ変位されるものであっても良く、通路へ球が入球され難くなる側へ変位されるものであっても良い。前者の場合には、転動部材を球が転動している状態において、別の球が更に通路へ流下される可能性が高くなるので、かかる別の球が通路へ流下されるか否かを行方を遊技者に着目させやすくできる。後者の場合には、転動部材を球が転動している状態において、別の球が更に通路へ流下される可能性を低くできるので、遊技者に安心感を付与できる。

【５１４４】

遊技機ＤＤ２又はＤＤ３において、前記転動部材の転動経路の途中で落下した球が通過する落下通路を備え、前記落下通路を通過した球には、前記通路を通過した球よりも有利な遊技条件が付与されることを特徴とする遊技機ＤＤ４。

【５１４５】

遊技機ＤＤ４によれば、遊技機ＤＤ２又はＤＤ３の奏する効果に加え、転動部材の転動経路の途中で落下した球が通過する落下通路を備え、落下通路を通過した球には、通路を通過した球よりも有利な遊技条件が付与されるので、転動部材の転動経路の途中で球が落下するか否かをより強く遊技者に着目させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【５１４６】

＜下側フレームＥ８６ｂ～Ｅ１７０８６ｂを一例とする発明の概念について：下降傾斜されたトゲトゲステージが往復駆動、ステージを下降傾斜に沿って流下する際にトゲトゲで流下先にランダム性を持たせる。トゲトゲによる球の保持を往復駆動で抑制＞

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機において、前記通路部材の少なくとも一部を変位させ球の移動方向に変化を付与可能に形成される変位手段を備えることを特徴とする遊技機ＥＡ１。

【５１４７】

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、球の移動方向の変化が単調であり、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。

【５１４８】

これに対し、遊技機ＥＡ１によれば、通路部材の少なくとも一部を変位させ球の移動方向に変化を付与可能に形成される変位手段を備えるので、変位手段により通路部材が変位されることで、通路部材を移動する球の移動方向の変化を多様化できる。これにより、球の移動方向の変化が単調となることを抑制できる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【５１４９】

遊技機ＥＡ１において、前記通路部材に配設され前記球の移動方向に変化を付与する付与手段を備え、前記通路部材は、球が転動可能に形成される転動部を備え、前記付与手段は、前記通路部材の転動部から突出される複数の突部または前記転動部に凹設される複数の凹部を備えることを特徴とする遊技機ＥＡ２。

【５１５０】

遊技機ＥＡ２によれば、遊技機ＥＡ１の奏する効果に加え、通路部材に配設され球の移動方向に変化を付与する付与手段を備え、通路部材は、球が転動可能に形成される転動部を備え、付与手段は、通路部材の転動部から突出される複数の突部または転動部に凹設される複数の凹部を備えるので、通路部材（転動部）を転動する際の球の移動方向の変化を多様化して、球の移動方向の変化が単調となることを抑制できる。

【５１５１】

また、球の移動方向が変化される態様を遊技者に視認させやすくできる。即ち、転動部を転動する球は比較的移動速度が低く、転動部の移動に比較的時間を要するところ、突部または凹部から受ける作用により球の移動に要する時間を更に嵩ませることができる。その結果、球の移動方向が変化される態様を遊技者に視認させやすくでき、遊技の興趣を向上できる。

【５１５２】

遊技機ＥＡ２において、前記変位手段は、前記通路部材の転動部を転動する球の転動方向と平行な変位成分を少なくとも備える変位方向に前記通路部材を変位させることを特徴とする遊技機ＥＡ３。

【５１５３】

遊技機ＥＡ３によれば、遊技機ＥＡ２の奏する効果に加え、変位手段は、通路部材の転動部を転動する球の転動方向と平行な変位成分を少なくとも備える変位方向に通路部材を変位させるので、球の転動方向と平行な変位成分を突部に形成することができる。その結果、球の移動方向に変化を付与しやすくできる。また、球の移動方向の変化を多様とできる。

【５１５４】

遊技機ＥＡ２又はＥＡ３において、前記突部は、前記突部どうしの間を球が移動可能な間隔を少なくとも備えて配置されることを特徴とする遊技機ＥＡ４。

【５１５５】

遊技機ＥＡ４によれば、遊技機ＥＡ２又はＥＡ３の奏する効果に加え、突部は、突部どうしの間を球が移動可能な間隔を少なくとも備えて配置されるので、球が通路部材（転動部）に留まることを抑制できる。よって、球が通路部材（転動部）に留まることを抑制す

るために、通路部材（転動部）を複雑な軌跡で変位させることや、大きな変位量や変位速度で変位させることを抑制できる。その結果、変位手段を簡素化できる。

【５１５６】

＜下側フレームＥ８６ｂ～Ｅ１７０８６ｂを一例とする発明の概念について：ステージを通過したら所定の価値付与＞

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機において、前記通路部材の球の通過のしやすさを変化させる変化手段を備え、前記通路部材を通過した球に対して所定の価値を付与可能に形成されることを特徴とする遊技機ＥＢ１。

【５１５７】

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、球が通過できるか否か（ステージを渡り切って終端に到達できるか否か）を楽しむ遊技性を遊技者に付与することができず、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。

【５１５８】

これに対し、遊技機ＥＢ１によれば、通路部材の球の通過のしやすさを変化させる変化手段を備え、通路部材を通過した球に対して所定の価値を付与可能に形成されるので、球が通路部材を通過できるか否か（通路部材を渡り切って、所定の価値が付与される可能性を得ることができるか否か）を楽しむ遊技性を遊技者に付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【５１５９】

遊技機ＥＢ１において、前記変化手段は、前記通路部材の少なくとも一部を変位させる変位手段を備えることを特徴とする遊技機ＥＢ２。

【５１６０】

遊技機ＥＢ２によれば、遊技機ＥＢ１の奏する効果に加え、変化手段は、通路部材の少なくとも一部を変位させる変位手段を備えるので、球が通路部材を移動する際に、変位手段により通路部材が変位されることで、球の移動方向にランダム性を付与することができる。即ち、球が通路部材を通過する（通路部材を渡り切って、所定の価値が付与される可能性を得る）ことを阻害する又は補助する手段として、変位手段（通路部材の変位）を機能させることができるので、球が通路部材を通過できるか否か（通路部材を渡り切って、所定の価値が付与される可能性を得ることができるか否か）を楽しむ遊技性を高めることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【５１６１】

遊技機ＥＢ２において、前記通路部材は、球が転動可能に形成される転動部を備え、前記変化手段は、前記通路部材の転動部から突出される複数の突部または前記転動部に凹設される複数の凹部を備えることを特徴とする遊技機ＥＢ３。

【５１６２】

遊技機ＥＢ３によれば、遊技機ＥＢ２の奏する効果に加え、通路部材は、球が転動可能に形成される転動部を備え、変化手段は、前記通路部材の転動部から突出される複数の突部または転動部に凹設される複数の凹部を備えるので、転動部を転動する球の転動方向（移動方向）にランダム性を付与することができる。即ち、球が通路部材を通過する（通路部材を渡り切って、所定の価値が付与される可能性を得る）ことを阻害する又は補助する手段として突部や凹部を機能させることができるので、球が通路部材を通過できるか否か（通路部材を渡り切って、所定の価値が付与される可能性を得ることができるか否か）を楽しむ遊技性を高めることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【５１６３】

遊技機ＥＢ１からＥＢ３のいずれかにおいて、前記通路部材は、第１通路部材と、その第１通路部材を通過した球が移動可能に形成される第２通路部材と、を備え、前記所定の価値は、前記第２通路部材を通過した球に対して付与可能に形成され、前記変化手段は、前記第１通路部材において球の通過のしやすさを変化させる態様と、前記第２通路部材に

おいて球の通過のしやすさを変化させる態様とを異ならせることが可能に形成されることを特徴とする遊技機ＥＢ４。

【５１６４】

遊技機ＥＢ４によれば、遊技機ＥＢ１からＥＢ３のいずれかの奏する効果に加え、通路部材は、第１通路部材と、その第１通路部材を通過した球が移動可能に形成される第２通路部材と、を備え、所定の価値は、第２通路部材を通過した球に対して付与可能に形成され、変化手段は、第１通路部材において球の通過のしやすさを変化させる態様と、第２通路部材において球の通過のしやすさを変化させる態様とを異ならせることが可能に形成されるので、球が通路部材を通過できるか否か（通路部材を渡り切って、所定の価値が付与される可能性を得ることができるか否か）を楽しむ遊技性を、第１通路部材と第２通路部材とにおいて異なる態様として、遊技者に付与することができる。その結果、かかる遊技性を多様化して、遊技の興趣を向上できる。

【５１６５】

なお、球の通過のしやすさを変化させる手段としては、例えば、通路部材の形状や姿勢（傾斜）、通路部材の変位態様（変位の種類（回転、直線変位、曲線変位、これらの組み合わせ）、変位方向、変位速度、往復動作の態様（周期、振幅）など）、通路部材の球が移動する面（転動面）の態様（突部や凹部の有無、突部や凹部の態様（大きさ、形状、配置など））が例示される。即ち、第１通路部材において球の通過のしやすさを変化させる態様と、第２通路部材において球の通過のしやすさを変化させる態様とが異なるとは、上述した手段の少なくとも一部または全部が、第１通路部材と第２通路部材とにおいて異なることを意味する。

【５１６６】

＜下側フレームＥ８６ｂ～Ｅ１７０８６ｂを一例とする発明の概念について：球を滞留させる滞留手段＞

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機において、入球された球に対して所定の価値を付与可能に形成される入球手段と、前記通路部材を通過した球が移動可能に形成される第２通路部材と、を備え、前記通路部材および前記第２通路部材は、球の移動経路の途中で球が落下可能に形成され、前記第２通路部材を通過した球は、前記通路部材を通過した球よりも前記入球手段へ入球されやすくされることを特徴とする遊技機ＥＣ１。

【５１６７】

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、ステージの所定位置から流下された球は、入賞口（入球口）へ直接入球されるため、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。

【５１６８】

これに対し、遊技機ＥＣ１によれば、入球された球に対して所定の価値を付与可能に形成される入球手段と、通路部材を通過した球が移動可能に形成される第２通路部材と、を備えるので、通路部材を通過した球が第２通路部材を移動することで、その分、入球手段に球が入球されるまでに要する時間を嵩ませることができる。即ち、入球手段への入球を期待できる期間を長くして、遊技者の期待感を盛り上げることができる。特に、第２通路部材を通過した球は、通路部材を通過した球よりも入球手段へ入球されやすくされるので、入球手段へ球が今から入球されるという高揚感を遊技者に持たせて、球の行方を追わせることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【５１６９】

遊技機ＥＣ１において、前記第２通路部材は、球が転動可能に形成される転動部と、その転動部から突出される複数の突部または前記転動部に凹設される複数の凹部を備えることを特徴とする遊技機ＥＣ２。

【５１７０】

遊技機ＥＣ２によれば、遊技機ＥＣ１の奏する効果に加え、第２通路部材は、球が転動

可能に形成される転動部と、その転動部から突出される複数の突部または転動部に凹設される複数の凹部を備えるので、第２通路部材（転動部）を転動する際の球の移動方向を変化させ、球が第２通路部材を通過できるか否か（第２通路部材を渡り切って、入球手段に入球される可能性を得ることができるか否か）を楽しむ遊技性を遊技者に付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【５１７１】

また、球の移動を遊技者に視認させやすくできる。即ち、転動部を転動する球は比較的移動速度が低く、転動部の移動に比較的時間を要するところ、突部や凹部から受ける作用により球の移動に要する時間を更に嵩ませることができる。その結果、球の行方を遊技者に追わせやすくできると共に、入球手段への入球を期待できる期間を長くして、遊技者の期待感を盛り上げることができる。

【５１７２】

遊技機ＥＣ１又はＥＣ２において、前記通路部材を変位させ球の移動方向に変化を付与可能に形成される変位手段を備えることを特徴とする遊技機ＥＣ３。

【５１７３】

遊技機ＥＣ３によれば、遊技機ＥＣ１又はＥＣ２の奏する効果に加え、通路部材を変位させ球の移動方向に変化を付与可能に形成される変位手段を備えるので、球の移動方向にランダム性を付与することができる。即ち、球が通路部材を通過して第２通路部材に到達することを阻害する又は補助する手段として、変位手段（通路部材の変位）を機能させることができる。よって、球が通路部材を通過できるか否か（球が第２通路部材に到達できるか否か、ひいては、入球手段に入球できるか否か）を楽しむ遊技性を形成することができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【５１７４】

遊技機ＥＣ３において、前記第２通路部材を変位させ球の移動方向に変化を付与可能に形成される第２変位手段を備えることを特徴とする遊技機ＥＣ４。

【５１７５】

遊技機ＥＣ４によれば、遊技機ＥＣ３の奏する効果に加え、第２通路部材を変位させ球の移動方向に変化を付与可能に形成される第２変位手段を備えるので、球の移動方向にランダム性を付与することができる。即ち、球が通路部材を通過して第２通路部材に到達すること、及び、球が第２通路部材と通過して入球手段に入球すること、を阻害する又は補助する手段として、第２変位手段（第２通路部材の変位）を機能させることができる。よって、通路部材を通過した球が第２通路部材へ到達できるか否か、及び、その到達した球が第２通路部材を通過できるか否か（球が入球手段に入球できるか否か）を楽しむ遊技性を形成することができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【５１７６】

遊技機ＥＣ４において、前記変位手段による前記通路部材の変位態様と、前記第２変位手段による前記第２通路部材の変位態様とが異なる態様であることを特徴とする遊技機ＥＣ５。

【５１７７】

遊技機ＥＣ５によれば、遊技機ＥＣ４の奏する効果に加え、変位手段による通路部材の変位態様と、第２変位手段による第２通路部材の変位態様とが異なる態様であるので、球の変位態様を多様化できる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【５１７８】

なお、変位手段による通路部材の変位態様と、第２変位手段による第２通路部材の変位態様とが異なる態様であるとは、例えば、変位の種類（回転、直線変位、曲線変位、これらの組み合わせ）、変位方向、変位速度、往復動作の態様（周期、振幅）などの少なくとも一部または全部が、第１通路部材と第２通路部材とにおいて異なることを意味する。

【５１７９】

＜下側フレームＦ８６ｂ～Ｆ５０８６ｂを一例とする発明の概念について＞

球が流入可能な被流入部を備えた遊技機において、球を受け取り可能に形成される第１

手段と、前記第１手段が受け取った球の重量により変位される第２手段と、を備え、前記第２手段は、前記被流入部の大きさを変更する方向へ変位可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＡ１。

【５１８０】

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７号公報）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、球の移動方向の変化が単調であり、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上することができる遊技機を提供することを目的とする。

【５１８１】

遊技機ＦＡ１によれば、所定の球が被流入部へ向かう場合に、第１手段が球（所定の球に先行または後行する球）を受け取ると、第２手段が被流入部の大きさを変更する方向へ変位されるので、所定の球を被流入部へ流入させ易く又は流入させ難くできる。よって、第１手段による球の受け入れの有無を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【５１８２】

遊技機ＦＡ１において、前記被流入部の大きさを変更する方向へ前記第２手段が変位された状態を維持する維持手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＡ２。

【５１８３】

遊技機ＦＡ２によれば、遊技機ＦＡ１の奏する効果に加え、第１手段に球の重量が作用しなくなっても、所定の球を被流入部へ流入させ易く又は流入させ難くした状態を維持できる。よって、球の流入を期待できる期間または期待し難い期間を確保でき、遊技の興趣を高めることができる。

【５１８４】

遊技機ＦＡ２において、前記維持手段による維持を解除する解除手段を備え、前記維持手段は、前記第１手段が受け取った球の重量により前記第２手段が前記被流入部の大きさを大きくする方向へ変位された状態を維持し、前記解除手段による解除は、前記被流入部に少なくとも１の球が流入された場合に行われることを特徴とする遊技機ＦＡ３。

【５１８５】

遊技機ＦＡ３によれば、遊技機ＦＡ２の奏する効果に加え、少なくとも１の球が被流入部に流入されるまでの間、被流入部の大きさが大きくされる方向へ第２手段が変位された状態が維持されるので、被流入部への球の流入を確実化できる。よって、遊技者に安心感を付与できる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。

【５１８６】

遊技機ＦＡ３において、前記維持手段により維持された状態では、球を受け取ることで変位された位置に前記第１手段が維持されることを特徴とする遊技機ＦＡ４。

【５１８７】

遊技機ＦＡ４によれば、遊技機ＦＡ３の奏する効果に加え、維持手段による維持がされた状態（被流入部の大きさが大きくされる方向へ第２手段が変位された状態）であることを、第１手段の変位位置からも遊技者に理解させやすくできる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。

【５１８８】

遊技機ＦＡ１から遊技機ＦＡ４のいずれかにおいて、前記第１手段から球が流下することを遅延させる遅延手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＡ５。

【５１８９】

遊技機ＦＡ５によれば、遊技機ＦＡ１から遊技機ＦＡ４の奏する効果に加え、球の重量が第１手段に作用している期間（第１手段が所定位置（球を受け取る前の位置、初期位置）から変位されている期間）を長くできる。よって、被流入部の大きさが大きくされている期間を長くできる。

【５１９０】
遊技機ＦＡ５において、前記遅延手段は、前記第１手段に形成される開口と、その開口の周囲に沿って球が転動可能とされ前記第１手段に形成される第１転動部とを備え、前記第１転動部を転動し前記開口へ流入されることで、球が前記第１手段から流下されることを特徴とする遊技機ＦＡ６。
【５１９１】
遊技機ＦＡ６によれば、遊技機ＦＡ５の奏する効果に加え、開口の周囲に沿って第１転動部を転動することで、球の速度を低下させられるので、その分、第１手段からの球の流下を遅延させられる。即ち、球の重量が第１手段に作用している期間（第１手段が所定位置（球を受け取る前の位置、初期位置）から変位されている期間）を長くできる。よって、被流入部の大きさが大きくされている期間を長くできる。
【５１９２】
遊技機ＦＡ６において、前記第１転動部は、前記開口の周囲に沿って連続して形成され、前記遅延手段は、前記第１転動部における前記開口から偏心した位置へ向けて球が転動可能とされ前記第１手段に形成される第２転動部を備えることを特徴とする遊技機ＦＡ７。
【５１９３】
遊技機ＦＡ７によれば、遊技機ＦＡ６の奏する効果に加え、第１転動部が、開口の周囲に沿って連続して形成されるので、第１転動部において球を周回させることができる。また、第２転動部が、第１転動部における開口から偏心した位置へ向けて球が転動可能とされるので、第１転動部における球の周回を形成しやすくできる。その結果、球の重量が第１手段に作用している期間（第１手段が所定位置（球を受け取る前の位置、初期位置）から変位されている期間）を長くできる。よって、被流入部の大きさが大きくされている期間を長くできる。
【５１９４】
遊技機ＦＡ７において、前記第１転動部を球が転動する状態では、前記第１転動部の鉛直方向における高さが前記開口の周囲に沿って略同一に設定されることを特徴とする遊技機ＦＡ８。
【５１９５】
遊技機ＦＡ８によれば、遊技機ＦＡ７の奏する効果に加え、高低差が形成されることを抑制して、第１転動部において球を周回させやすくできる。
【５１９６】
遊技機ＦＡ５から遊技機ＦＡ８のいずれかにおいて、前記遅延手段は、球が転動可能とされ前記第１手段に形成される転動部と、その転動部に球を保持する保持手段と、を備え、前記保持手段に保持された球は、前記第１手段が球の重量により所定量だけ変位されることで、前記保持手段を乗り越えて転動可能とされることを特徴とする遊技機ＦＡ９。
【５１９７】
遊技機ＦＡ９によれば、遊技機ＦＡ５から遊技機ＦＡ８のいずれかの奏する効果に加え、球の転動を一時的に停止させることができる。よって、第１手段が球の重量により所定位置（球を受け取る前の位置、初期位置）から変位されている期間を長くできる。その分、被流入部が大きくされている期間を長くできる。また、第１手段の姿勢変化を利用して保持手段の保持が解除される（球が転動を再開する）ので、解除する手段を設けることを不要とできる。
【５１９８】
遊技機ＦＡ９において、前記遅延手段は、前記第１手段が球の重量により所定量だけ変位された場合に、前記保持手段により保持された球に作用する作用手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＡ１０。
【５１９９】
遊技機ＦＡ１０によれば、遊技機ＦＡ９の奏する効果に加え、作用手段の作用により、保持手段による球の保持の解除を確実化できる（球が保持手段を乗り越えやすくすること

ができる）。
【５２００】
遊技機ＦＡ９又は遊技機ＦＡ１０において、前記第１手段へ球が流下可能に形成される流下部を備え、球の重量により前記第１手段が変位される方向は、少なくとも前記転動部が前記流下部から離間される方向であることを特徴とする遊技機ＦＡ１１。
【５２０１】
遊技機ＦＡ１１によれば、遊技機ＦＡ９又は遊技機ＦＡ１０の奏する効果に加え、流下部から流下した後行の球の衝突により、保持手段による保持が解除されることを抑制できる。
【５２０２】
遊技機ＦＡ１から遊技機ＦＡ１１のいずれかにおいて、前記第１手段の変位を前記第２手段へ伝達する伝達手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＡ１２。
【５２０３】
遊技機ＦＡ１２によれば、遊技機ＦＡ１から遊技機ＦＡ１１のいずれかの奏する効果に加え、第１手段の変位（即ち、球の重量）を利用して、第２手段を変位させられる。よって、第２手段を変位させるための駆動源を不要とできる。
【５２０４】
遊技機ＦＡ１２において、前記第１手段に球の重量が非作用となる状態では、前記第１手段および前記第２手段の重量により、前記第１手段および前記第２手段が初期位置へ変位可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＡ１３。
【５２０５】
遊技機ＦＡ１３によれば、遊技機ＦＡ１２の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を復帰させるための手段を不要として、製品コストを抑制できる。
【５２０６】
＜下側フレームＦ６０８６ｂ～Ｆ１１０８６ｂを一例とする発明の概念について＞
球が流入可能な被流入部と、その被流入部へ向けて球が移動可能に形成される経路と、を備えた遊技機において、球を受け取り可能に形成される第１手段と、前記第１手段が受け取った球の重量により変位され前記経路を移動する球に作用可能に形成される第２手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＢ１。
【５２０７】
球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７号公報）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、球の移動方向の変化が単調であり、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上することができる遊技機を提供することを目的とする。
【５２０８】
遊技機ＦＢ１によれば、所定の球が経路を移動する場合に、第１手段が球（所定の球に先行または後行する球）を受け取ると、経路を移動する所定の球に第２手段が作用可能とされる。よって、経路を移動する所定の球の被流入部への流入の可能性が第２手段の作用により変化させることができる。その結果、第１手段による球の受け入れの有無を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【５２０９】
遊技機ＦＢ１において、前記第１手段球が受け取った球の重量により変位された位置から変位される前の位置へ向かう前記第２手段の変位方向には、前記経路を前記第２手段へ向けて移動する球の移動方向成分が含まれることを特徴とする遊技機ＦＢ２。
【５２１０】
遊技機ＦＢ２によれば、遊技機ＦＢ１の奏する効果に加え、経路を第２手段へ向けて移動する球が第２手段へ当接した際に、その球の移動方向へ第２手段も変位（初期位置へ向けて後退）して、衝撃を吸収できる。よって、第２手段の破損を抑制できる。

【５２１１】
遊技機ＦＢ２において、前記第１手段が受け取った球の重量により変位された前記第２変位手段は、前記経路を移動する球に対して、前記被流入部へ流入され易くなるように作用することを特徴とする遊技機ＦＢ３。
【５２１２】
遊技機ＦＢ３によれば、遊技機ＦＢ２の奏する効果に加え、被流入部へ球を流入させ易くできるので、第１手段による球の受け入れの有無を遊技者に意識させることができる。よって、遊技の興趣を高めることができる。
【５２１３】
遊技機ＦＢ２又はＦＢ３において、前記経路は、傾斜して形成される傾斜部を備え、前記第２手段は、前記傾斜部を上昇する球に作用可能な位置に変位可能とされることを特徴とする遊技機ＦＢ４。
【５２１４】
遊技機ＦＢ４によれば、遊技機ＦＢ２又はＦＢ３の奏する効果に加え、傾斜部を上昇する球は徐々に速度を低下させるので、球の移動と、その球への第２手段の作用とを遊技者に視認させやすくできる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【５２１５】
遊技機ＦＢ４において、前記傾斜部は、傾斜して形成される第１傾斜部と、その第１傾斜部と反対方向へ傾斜して形成される第２傾斜部とを備え、前記第１傾斜部および前記第２傾斜部を球が往復移動可能に形成され、前記第２手段は、前記第１傾斜部または前記第２傾斜部を上昇する球に作用可能な位置に変位可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＢ５。
【５２１６】
遊技機ＦＢ５によれば、遊技機ＦＢ４の奏する効果に加え、傾斜部（第１傾斜部および第２傾斜部）における球の往復移動により、第２手段からの作用を受けることが可能な位置に球を複数回到達させることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【５２１７】
遊技機ＦＢ４又は遊技機ＦＢ５において、前記第２手段が前記傾斜部を上昇する球に作用可能とされる位置は、前記傾斜部を上昇する球が到達可能な最大到達位置よりも下方となる位置であることを特徴とする遊技機ＦＢ６。
【５２１８】
ここで、最大到達位置では、球の速度が低く（又は速度が０となり）、球の勢いが弱いため、傾斜部を上昇する球に作用可能な位置に第２手段が変位され、第２手段に球が当接したとしても、被流入部へ流入されやすくなる方向へ球を案内できない虞がある。これに対し、遊技機ＦＢ６によれば、遊技機ＦＢ４又は遊技機ＦＢ５の奏する効果に加え、最大到達位置よりも下方となる位置において、傾斜部を上昇する球に第２手段が作用可能とされることで、球の速度が確保されている状態で、球を第２手段に当接させることができる。よって、球の勢いを利用して、被流入部へ流入されやすくなる方向へ案内しやすくできる。
【５２１９】
また、第１傾斜部および第２傾斜部を球が往復移動する構成においては、第２手段からの作用を受けることが可能な位置に球を複数回到達させやすくできる。
【５２２０】
遊技機ＦＢ６において、前記第２手段は、前記傾斜部を上昇する球に作用可能とされる位置に変位された状態では、前記傾斜部を下降する球に作用可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＢ７。
【５２２１】
遊技機ＦＢ７によれば、遊技機ＦＢ６の奏する効果に加え、傾斜部を上昇する球が通過した後に、第２手段が球に作用可能な位置に変位された場合であっても、傾斜部の頂部に達して下降する球に作用を与える可能性を形成できる。

【５２２２】
遊技機ＦＢ４から遊技機ＦＢ７のいずれかにおいて、前記第２手段は、円弧状の湾曲に沿って球を案内可能に形成される案内部を備え、前記傾斜部を上昇する球は、前記案内部に沿って移動されることで、前記被流入部へ流入されやすくなる方向へ案内されることを特徴とする遊技機ＦＢ８。
【５２２３】
遊技機ＦＢ８によれば、遊技機ＦＢ４から遊技機ＦＢ７のいずれかの奏する効果に加え、傾斜部を上昇する球を、湾曲に沿って徐々に案内（移動方向を転換）することができる。即ち、被流入部へ流入されやすくなる方向へ確実に案内できる。
【５２２４】
遊技機ＦＢ８において、前記第２手段は、前記傾斜部から突出可能に形成され、前記第２手段が前記傾斜部から非突出とされた状態では、前記第２手段が前記傾斜部の一部とされることを特徴とする遊技機ＦＢ９。
【５２２５】
ここで、傾斜部の側方から傾斜部の幅方向（傾斜部を球が上昇する方向と直交する方向）に沿って第２手段（案内部）を突出させる構成では、第２手段（案内部）を収納するためのスペースとして傾斜部の幅と同等のスペースを傾斜部の側方に確保する必要があり、大型化する。これに対し、遊技機ＦＢ９によれば、遊技機ＦＢ８の奏する効果に加え、第２手段（案内部）の収容に必要なスペースを傾斜部の側方に確保する必要がなく、また、傾斜部の厚み方向のデッドスペースを有効に活用できるので、その分、小型化できる。
【５２２６】
また、傾斜部の側方から傾斜部の幅方向（傾斜部を球が上昇する方向と直交する方向）に沿って第２手段（案内部）を突出させる構成では、第２手段（案内部）に必要な変位量が大きい分、第２手段を変位させるのに要する時間が嵩む。これに対し、遊技機ＦＢ８によれば、遊技機ＦＢ７の奏する効果に加え、第２手段（案内部）に必要な変位量が抑制できる分、第２手段を変位させるのに要する時間を短縮できるので、傾斜部を上昇する球に作用する位置に第２手段を速やかに配置できる。
【５２２７】
遊技機ＦＢ１から遊技機ＦＢ９のいずれかにおいて、前記経路を移動する球に作用可能な位置に前記第２手段が変位された状態を維持する維持手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＢ１０。
【５２２８】
遊技機ＦＢ１０によれば、遊技機ＦＢ１から遊技機ＦＢ９のいずれかの奏する効果に加え、第１手段に球の重量が作用しなくなっても、所定の球を被流入部へ流入させやすくした状態を維持できる。よって、球の流入を期待しやすくでき、遊技の興趣を高めることができる。
【５２２９】
遊技機ＦＢ１０において、前記維持手段による維持を解除する解除手段を備え、その解除手段による解除は、前記被流入部に少なくとも１の球が流入された場合に行われることを特徴とする遊技機ＦＢ１１。
【５２３０】
遊技機ＦＢ１１によれば、遊技機ＦＢ１０の奏する効果に加え、被流入部への球の流入を確実化できる。即ち、被流入部の大きさが大きくされる方向へ第２手段が変位されれば、少なくとも１の球が流入されるまでの間、安心感を付与できる。よって、遊技の興趣を高めることができる。
【５２３１】
遊技機ＦＢ１から遊技機ＦＢ１１のいずれかにおいて、前記第１手段の変位を前記第２手段へ伝達する伝達手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＢ１２。
【５２３２】
遊技機ＦＢ１２によれば、遊技機ＦＢ１から遊技機ＦＢ１１のいずれかの奏する効果に

加え、第１手段の変位（即ち、球の重量）を利用して、第２手段を変位させられる。よって、第２手段を変位させるための駆動源を不要とできる。

【５２３３】

遊技機ＦＢ１２において、前記第１手段に球の重量が非作用となる状態では、前記第１手段および前記第２手段の重量により、前記第１手段が前記所定位置へ変位可能に形成され、前記第２手段が初期位置へ変位可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＢ１３。

【５２３４】

遊技機ＦＢ１３によれば、遊技機ＦＢ１２の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を復帰させるための手段を不要として、コストを抑制できる。

【５２３５】

＜下側フレームＦ８６ｂ～Ｆ１１０８６ｂを一例とする発明の概念について＞

球が流入可能な被流入部を備えた遊技機において、球を受け取り可能に形成され前記受け取った球の重量により前記被流入部への球の流入のし易さを変化させるための第１手段と、前記受け取った球の重量が前記第１手段に作用された状態で前記受け取った球とは別の球の影響を前記第１手段が受けることを抑制する抑制手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＣ１。

【５２３６】

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７号公報）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、球の移動方向の変化が単調であり、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上することができる遊技機を提供することを目的とする。

【５２３７】

遊技機ＦＣ１によれば、所定の球が被流入部へ向かう場合に、第１手段が球（所定の球に先行または後行する球）を受け取ると、被流入部への所定の球の流入のし易さを変化させることができる。よって、第１手段による球の受け入れの有無を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。この場合、第１手段が別の球の影響を受ける（例えば、別の球が第１手段に衝突し、第１手段に重量を作用させていた球が第１手段から脱落する）ことを抑制手段で抑制できる。よって、被流入部への球の流入のし易さの変化が途中で中断されることを抑制でき、遊技の興趣を高めることができる。

【５２３８】

遊技機ＦＣ１において、前記第１手段へ向けて球が移動可能に形成される経路を備え、前記抑制手段は、前記受け取った球の重量が前記第１手段に作用された状態において、前記経路を移動する球が前記第１手段へ向けて移動し難くする第１規制手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＣ２。

【５２３９】

遊技機ＦＣ２によれば、遊技機ＦＣ１の奏する効果に加え、受け取った球の重量が第１手段に作用された状態では、第１規制手段により、経路を移動する球が第１手段へ向けて移動し難くすることができるので、第１手段が別の球の影響を受ける（例えば、別の球が第１手段に衝突し、第１手段に重量を作用させていた球が第１手段から脱落する）ことを抑制できる。よって、被流入部への球の流入のし易さの変化が途中で中断されることを抑制でき、遊技の興趣を高めることができる。

【５２４０】

遊技機ＦＣ２において、球を受け取り可能に形成され前記受け取った球の重量により前記被流入部への球の流入のし易さを変化させるための第２手段を備え、前記経路は、前記第１手段および前記第２手段へ向けて球が移動可能に形成され、前記第１規制手段は、前記受け取った球の重量が前記第１手段に作用された状態において、前記経路を移動する球が前記第１手段よりも前記第２手段へ移動し易くすることを特徴とする遊技機ＦＣ３。

【５２４１】

遊技機ＦＣ３によれば、遊技機ＦＣ２の奏する効果に加え、受け取った球の重量が第１手段に作用された状態では、第１規制手段により、経路を移動する球を第２手段へ向けて移動し易くできるので、被流入部への所定の球の流入のし易さの変化を継続させ易くできる。即ち、第１手段に球の重量が作用されている状態では、その状態が中断される（例えば、経路を移動する球が第１手段に衝突し、第１手段に重量を作用させていた球が第１手段から脱落する）ことを抑制しつつ、経路を移動する球を第２手段に受け取らせ、その受け取った球の重量が第２手段に作用された状態を形成することで、第２手段によっても、被流入部への所定の球の流入のし易さが変化された状態を形成できる。よって、遊技の興趣を高めることができる。

【５２４２】

遊技機ＦＣ３において、前記第１手段または前記第２手段が受け取った球の重量により変位される第３手段を備え、前記第３手段は、前記被流入部の大きさを変更する方向へ変位可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＣ４。

【５２４３】

遊技機ＦＣ４によれば、遊技機ＦＣ２又はＦＣ３の奏する効果に加え、第３手段の変位により球を被流入部へ流入させ易く又は流入させ難くできる。よって、第１手段および第２手段による球の受け入れの有無を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【５２４４】

遊技機ＦＣ１から遊技機ＦＣ４のいずれかにおいて、前記抑制手段は、前記受け取った球の重量が作用された状態において、前記第１手段の少なくとも側面に前記別の球が当接し難くする第２規制手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＣ５。

【５２４５】

遊技機ＦＣ５によれば、遊技機ＦＣ１から遊技機ＦＣ３のいずれかの奏する効果に加え、受け取った球の重量が第１手段に作用された状態では、第２規制手段により、第１手段の少なくとも側面に球が当接し難くすることができるので、第１手段が別の球の影響を受ける（例えば、別の球が第１手段の側面に衝突し、第１手段に重量を作用させていた球が第１手段から脱落する）ことを抑制できる。よって、被流入部への球の流入のし易さの変化が途中で中断されることを抑制でき、遊技の興趣を高めることができる。

【５２４６】

なお、第１手段に重量を作用させていた球に別の球が当接する場合には、重量を作用させていた球が第１手段から脱落しても、その球に代わって、別の球が第１手段に重量を作用させることができる場合がある。また、第１手段の上面（重量を作用させる球が保持または転動される部位）に別の球が当接する場合には、重量を作用させていた球に加え、別の球も第１手段に重量を作用させることができる場合がある。よって、別の球が少なくとも第１手段の側面へ当接し難くできれば有効となる。

【５２４７】

遊技機ＦＣ２において、前記第１手段の変位を前記第１規制手段へ伝達する伝達手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＣ６。

【５２４８】

遊技機ＦＣ６によれば、遊技機ＦＣ２の奏する効果に加え、第１手段の変位（即ち、球の重量）を利用して、第１規制手段を変位させられる。よって、第１規制手段を変位させるための駆動源を不要とできる。

【５２４９】

遊技機ＦＣ６において、前記第１手段に球の重量が非作用となる状態では、前記第１手段および前記第１規制手段の重量により、前記第１手段および前記第１規制手段が初期位置へ変位可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＣ７。

【５２５０】

遊技機ＦＣ７によれば、遊技機ＦＣ６の奏する効果に加え、第１手段および第１規制手段を復帰させるための手段を不要として、製品コストを抑制できる。

【５２５１】
遊技機ＦＣ５において、前記第１手段へ球が流下可能に形成される流下部を備え、球の重量により前記第１手段が変位される方向は、少なくとも前記第１手段が前記流下部から離間される方向であることを特徴とする遊技機ＦＣ８。
【５２５２】
遊技機ＦＣ８によれば、遊技機ＦＣ５の奏する効果に加え、流下部から流下した後行の球が第１手段の側面に当接することを抑制できる。
【５２５３】
＜下側フレームＦ１１０８６ｂを一例とする発明の概念について＞
球が流入可能な被流入部を備えた遊技機において、前記被流入部へ球が移動可能に形成される経路と、前記被流入部への球の流入のし易さを変化させる変化手段と、を備え、第１位置から前記経路へ流入し前記経路を移動する球が、第２位置から前記経路へ流入し前記経路を移動する球よりも前記被流入部へ流入し易くされることを特徴とする遊技機ＦＤ１。
【５２５４】
球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７号公報）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、球の移動方向の変化が単調であり、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上することができる遊技機を提供することを目的とする。
【５２５５】
遊技機ＦＤ１によれば、被流入部への球の流入のし易さを変化手段により変化させることができるので、経路を移動する球に対する変化手段の影響を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【５２５６】
この場合、第１位置から経路へ流入し経路を移動する球が、第２位置から経路へ流入し経路を移動する球よりも被流入部へ流入し易くされるので、球が経路へ流入する位置（第１位置または第２位置）を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【５２５７】
なお、第１位置からの球が入り易くする構成としては、例えば、当接部Ｆ６１５４が例示される。
【５２５８】
遊技機ＦＤ１において、前記第１位置から前記経路へ流入する球を検出可能に形成される検出手段を備え、少なくとも前記検出手段により球が検出されることを条件に、前記被流入部へ球が流入し易くなるように前記変化手段による変化が行われることを特徴とする遊技機ＦＤ２。
【５２５９】
遊技機ＦＤ２によれば、遊技機ＦＤ１が奏する効果に加え、遊技者に期待感を持たせて、遊技の興趣を高めることができる。即ち、第１位置から経路へ流入し経路を移動する球は、第２位置から経路へ流入し経路を移動する球よりも被流入部へ流入し易くされるところ、更に、被流入部へ球が流入し易くなるように変化手段による変化が行われるので、被流入部への流入の期待を遊技者に持たせることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【５２６０】
なお、変化手段による変化（被流入部へ球が流入し易くなる動作）が行われる条件としては、検出手段により球が検出されることに加え、所定時間の経過、抽選の当選、或いは、これらの組み合わせを条件としても良い。また、変化手段による変化が行われる期間としては、所定時間で区切っても良く、動作の回数で区切っても良い。

【５２６１】
遊技機ＦＤ２において、前記第１位置および前記第２位置が形成される形成手段を備え、前記形成手段は、前記第１位置と前記第２位置との間を球が移動可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＤ３。
【５２６２】
遊技機ＦＤ３によれば、遊技機ＦＤ２の奏する効果に加え、第１位置と第２位置との間を球が移動可能に形成されるので、第１位置または第２位置のどちらから経路へ球が流下するか、形成手段における球の移動を遊技者に注視させることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【５２６３】
遊技機ＦＤ２又はＦＤ３において、前記経路は、前記第１位置から流下した球が移動可能に形成される第１経路と、前記第２位置から流下した球が移動可能に形成される第２経路とを備え、前記第１経路と前記第２経路との間を球が移動可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＤ４。
【５２６４】
遊技機ＦＤ４によれば、遊技機ＦＤ２又は遊技機ＦＤ３の奏する効果に加え、第１経路と第２経路との間を球が移動可能に形成されるので、第１位置（第２位置）から流入した球が第１経路（第２経路）のみを移動可能に形成される場合と比較して、一定のスペース内に形成できる球の移動可能な経路の種類をより多く確保できる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【５２６５】
遊技機ＦＤ４において、前記第１経路または前記第２経路から突設され球が当接可能に形成される１又は複数の当接手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＤ５。
【５２６６】
遊技機ＦＤ５によれば、遊技機ＦＤ４の奏する効果に加え、第１経路または第２経路を移動する球が当接手段に当接されることで、球の移動方向に変化を付与して、第１経路と第２経路との間での球の移動を形成し易くできる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【５２６７】
＜複数の手段を異なる契機で動作させる構造＞
第１位置と第２位置とを変位可能な変位手段と、その変位手段を変位させ得る第１手段と、前記変位手段の変位を防止できる第１状態と前記変位手段の変位を防止できない第２状態とで状態変化可能な第２手段と、前記第１手段の動作に基づいて前記第２手段の状態を前記第１状態と前記第２状態とで変化可能に構成される変化手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＫＡ１。
【５２６８】
パチンコ機等の遊技機において、変位手段を所定位置から変位させる演出を行う演出役物において、変位手段を所定位置に保持する保持手段と、変位手段を所定位置に変位させるための駆動力を伝達する伝達手段と、を備える遊技機がある（例えば、特開２０１５－２３１４３４号公報を参照）。
【５２６９】
しかし、上述した従来の遊技機では、保持手段と伝達手段とで、駆動装置が別であることから、例えば、伝達手段の駆動装置が故障している時に、保持手段の駆動装置が動かされ変位手段が所定位置から移動（落下）された場合に、変位手段を所定位置に復帰させることができなくなるので、変位手段の演出効果を低下させる可能性があるという問題点があった。即ち、上述した従来の遊技機では、変位手段の演出効果の面で改善の余地があるという問題点があった。
【５２７０】
これに対し、遊技機ＫＡ１によれば、変化手段により、第２手段の状態の変化が第１手段の動作に基づくので、第１手段が動作し得ない状態において、第２手段が第１状態から

第２状態に変化されることを防止することができる。これにより、変位手段が所定位置に復帰できないにも関わらず第２手段が第１状態から第２状態に変化されてしまい変位手段が所定位置から変位させられる事態が生じることを防止することができるので、変位手段の演出効果の向上を図ることができる。

【５２７１】

遊技機ＫＡ１において、前記第１位置は前記第２位置よりも上側に位置し、前記第２手段は、前記変位手段が所定位置よりも前記第１位置側に配置されている状態で前記所定位置よりも前記第２位置側に進入することで前記第１状態に変化されることを特徴とする遊技機ＫＡ２。

【５２７２】

遊技機ＫＡ２によれば、遊技機ＫＡ１の奏する効果に加え、第２手段が第１状態にされる際に変位手段と第２手段との間に隙間を生じさせることで、摩擦力が生じることを回避でき、動作不良を防止することができる。

【５２７３】

更に、変位手段と第２手段とは第１手段により連動することから、動作タイミングがずれることを避け易いことに加え、第２手段を別の駆動機構で動作させる場合には必要となる変位手段が所定位置よりも第１位置側に位置したことを検出する検出センサを不要とすることができる。

【５２７４】

遊技機ＫＡ１又はＫＡ２において、前記第２手段は、所定の回転軸を中心に回転動作可能に構成され、前記第１状態において、前記変位手段からの荷重を前記回転軸へ向けさせる形状から構成されることを特徴とする遊技機ＫＡ３。

【５２７５】

遊技機ＫＡ３によれば、遊技機ＫＡ１又はＫＡ２の奏する効果に加え、変位手段からの荷重で第２手段の状態が変化される事態を回避し易くすることができる。

【５２７６】

遊技機ＫＡ１からＫＡ３のいずれかにおいて、前記第１手段は、前記第２手段の状態が前記第１状態から前記第２状態へ変化する場合に、前記変位手段と前記第２手段との間に隙間を空ける第１連動状態を構成可能とされることを特徴とする遊技機ＫＡ４。

【５２７７】

遊技機ＫＡ４によれば、遊技機ＫＡ１からＫＡ３のいずれかの奏する効果に加え、第２手段を第１状態から第２状態へ変化させる場合における変位手段と第２手段との間の動作抵抗を小さくすることができる。

【５２７８】

遊技機ＫＡ１からＫＡ４のいずれかにおいて、前記第１手段は、前記第２手段の状態が前記第１状態から前記第２状態へ変化する場合に、前記第２手段を前記変位手段に擦らせる第２連動状態を構成可能とされることを特徴とする遊技機ＫＡ５。

【５２７９】

遊技機ＫＡ５によれば、遊技機ＫＡ１からＫＡ４のいずれかの奏する効果に加え、第２手段の位置を基準にして変位手段の位置を特定することができるので、変位手段の変位開始位置を安定させることができる。

【５２８０】

遊技機ＫＡ４又は遊技機ＫＡ５において、前記第１連動状態と前記第２連動状態とでは、前記第１手段の動作方向が反転されることを特徴とする遊技機ＫＡ６。

【５２８１】

遊技機ＫＡ６によれば、遊技機ＫＡ４又は遊技機ＫＡ５の奏する効果に加え、第１手段の停止状態から、第１連動状態での連動が生じるのか、第２連動状態での連動が生じるのかを遊技者に分からせ難くすることができる。

【５２８２】

遊技機ＫＡ１からＫＡ６のいずれかにおいて、前記変位手段が前記第１位置に配置され

ている状態において前記第２手段が前記第１状態から前記第２状態へ変化された場合に、変位手段は、前記第１手段に支持されない状態での非支持変位を実行可能に構成されることを特徴とする遊技機ＫＡ７。

【５２８３】

遊技機ＫＡ７によれば、遊技機ＫＡ１からＫＡ６のいずれかの奏する効果に加え、変化手段に支持されていないことから第２手段との連動ではない動作態様で変位手段を動作させることができる。

【５２８４】

遊技機ＫＡ７において、前記変位手段に前記非支持変位をさせる場合に、前記変位手段と前記第１手段との間を仕切るように配設される接触防止部を備えることを特徴とする遊技機ＫＡ８。

【５２８５】

遊技機ＫＡ８によれば、遊技機ＫＡ７の奏する効果に加え、非支持変位において第１手段と変位手段とが誤って接触し、破損することを避けることができる。

【５２８６】

遊技機ＫＡ１からＫＡ８のいずれかにおいて、前記第２手段を前記第１状態から前記第２状態に変化させる場合に、前記変化手段が重力方向に下降変位されることを特徴とする遊技機ＫＡ９。

【５２８７】

遊技機ＫＡ９によれば、遊技機ＫＡ１からＫＡ８のいずれかの奏する効果に加え、第２手段が第１状態から第２状態へ変化する際に、変化手段の変位に要する力を重力で補助させることができる。

【５２８８】

遊技機ＫＡ１からＫＡ９のいずれかにおいて、前記変位手段の変位量を、前記第１手段の変位量に対して第１の比で変化させる第１変位量変化手段と、前記第２手段の変位量を、前記第１手段の変位量に対して第２の比で変化させる第２変位量変化手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＫＡ１０。

【５２８９】

遊技機ＫＡ１０によれば、遊技機ＫＡ１からＫＡ９のいずれかにおいて、第１手段の変位に伴う変位手段の変位量と第２手段の変位量とを異ならせることができるので、連動の設計自由度を向上させることができる。

【５２９０】

＜付勢力での移動の停止位置が複数あるように構成＞

移動可能な第１移動手段と、その第１移動手段の移動に連動して第１位置から第２位置へ移動可能な第２移動手段と、その第２移動手段を前記第１位置から前記第２位置へ向けて付勢する付勢手段と、を備える遊技機において、前記第２移動手段が前記第１位置と前記第２位置との間の所定位置に配置された場合の前記第１移動手段の移動を防止可能な防止手段を備えることを特徴とする遊技機ＫＢ１。

【５２９１】

パチンコ機等の遊技機において、付勢力により液晶表示装置の前側に張り出す移動手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００９－２４０３８６号公報を参照）。

【５２９２】

しかし、上述した従来の遊技機では、移動手段の配置は、液晶表示装置の前側か、液晶表示装置の前側とは異なる位置かの２位置に限定されており、取り得る状態のバリエーションが少ないことから遊技者が飽きてしまう可能性があり、移動手段を利用した演出効果に関して改善の余地があるという問題点があった。

【５２９３】

これに対し、遊技機ＫＢ１によれば、防止手段が第１移動手段の移動を防止することにより、第２移動手段を第１位置と第２位置との間の所定位置で止めることができるので、第２移動手段の停止位置として、第１位置または第２位置の２種類だけでなく、所定位置

も使うことができる。これにより、第２移動手段の取り得る状態のバリエーションを増やすことができ、第２移動手段の演出効果を向上させることができる。

【５２９４】

遊技機ＫＢ１において、駆動手段と、その駆動手段の駆動力を前記第１移動手段に伝達可能な伝達手段と、を備え、前記伝達手段は、前記第２移動手段が前記所定位置に配置された状態を維持しながら所定範囲で動作可能に構成されることを特徴とする遊技機ＫＢ２。

【５２９５】

遊技機ＫＢ２によれば、遊技機ＫＢ１の奏する効果に加え、所定範囲においては伝達手段の配置が定まっていなくても第２移動手段を所定位置に維持することができるので、駆動手段の制御を簡素化することができる。

【５２９６】

遊技機ＫＢ２において、前記伝達手段は、駆動手段の駆動方向に因らず、前記所定範囲における動作が生じた場合に前記第２移動手段が前記所定位置に配置された状態を維持させるように構成されることを特徴とする遊技機ＫＢ３。

【５２９７】

遊技機ＫＢ３によれば、遊技機ＫＢ２の奏する効果に加え、付勢手段の付勢力に沿う方向の動作か、付勢力に抗する方向の動作かによらず、第２移動手段を所定位置に維持し易くすることができる。これにより、第２移動手段を高速移動させた後に所定位置で急速停止させる動作態様を、動作方向に因らず、簡素な制御で実現可能とすることができる。

【５２９８】

遊技機ＫＢ２又はＫＢ３において、前記伝達手段は、前記第１移動手段側に配設される第１伝達手段と、前記駆動手段側に配設される第２伝達手段と、を備え、前記第２伝達手段は、前記第１伝達手段の凹設部に進入した状態において第１伝達手段の動作を停止させる動作停止手段を備え、前記遊技機は、前記動作停止手段の配置を検出する検出手段を備えることを特徴とする遊技機ＫＢ４。

【５２９９】

遊技機ＫＢ４によれば、遊技機ＫＢ２又はＫＢ３の奏する効果に加え、動作停止手段に複数の機能を兼用させることができ、動作停止手段の形状を簡素化させることができる。

【５３００】

遊技機ＫＢ４において、前記第２移動手段が所定位置に配置されるか否かで、前記検出手段の出力が切り替えられるよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＢ５。

【５３０１】

遊技機ＫＢ５によれば、遊技機ＫＢ４の奏する効果に加え、検出手段の出力から第２移動手段が所定位置に配置されているか否かを判定することができる。

【５３０２】

遊技機ＫＢ１からＫＢ５のいずれかにおいて、前記第２移動手段が前記第１位置に配置された状態において、前記第１移動手段の移動可能方向と、前記第２移動手段の移動可能方向とが直交することを特徴とする遊技機ＫＢ６。

【５３０３】

遊技機ＫＢ６によれば、遊技機ＫＢ１からＫＢ５のいずれかの奏する効果に加え、第２移動手段が第１位置に配置された状態における、第２移動手段からの力による第１移動手段の移動を防止することができる。これにより、第２移動手段を第１位置で停止させることができる。

【５３０４】

遊技機ＫＢ１からＫＢ６のいずれかにおいて、前記第２移動手段が前記第２位置に配置された状態において、前記第１移動手段の移動可能方向と、前記第２移動手段の移動可能方向とが直交することを特徴とする遊技機ＫＢ７。

【５３０５】

遊技機ＫＢ７によれば、遊技機ＫＢ１からＫＢ６のいずれかの奏する効果に加え、第２

移動手段が第２位置に配置された状態における、第２移動手段からの力による第１移動手段の移動を防止することができる。これにより、第２移動手段を第２位置で停止させることができる。

【５３０６】

遊技機ＫＢ１からＫＢ７のいずれかにおいて、前記第２移動手段が前記所定位置に配置された状態において、前記第１移動手段の移動可能方向と、前記第２移動手段の移動可能方向とが平行となることを特徴とする遊技機ＫＢ８。

【５３０７】

遊技機ＫＢ８によれば、遊技機ＫＢ１からＫＢ７のいずれかの奏する効果に加え、所定位置に配置された第２移動手段への力の伝達効率を向上させることができる。

【５３０８】

＜スライド移動する部材のスライド開始時までの助走範囲を構成＞

所定軸を中心に回転移動可能に支持される第１手段と、その第１手段の回転移動と連動して第１位置から第２位置へ移動可能な第２手段と、を備え、前記第２手段を前記第１位置から前記第２位置へ移動開始させる場合に、予め移動を開始されている前記第１手段の移動方向が、前記第２手段の移動方向に沿う方向になるよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ１。

【５３０９】

パチンコ機等の遊技機において、回転移動する第１手段と移動する第２手段とを備え、第１手段の周方向の力を第２手段に伝達させることで、第２手段を移動させる遊技機がある（例えば、特開２００７－０９８０２７号公報を参照）。

【５３１０】

しかし、上述した従来の遊技機では、第２手段としての扉部材に力を伝達させる第１手段としてのピニオンは、第２手段の配置に関係なく荷重を与えるものであり、扉部材および自身の慣性に打ち勝って回転するために必要な駆動力が大きいことから、駆動装置が励磁されてからピニオンの回転が開始されるまでの時間差が長くなり易いという問題点があった。即ち、第２手段の動作に改善の余地があるという問題点があった。

【５３１１】

そのため、遊技機の演出に合わせたタイミングで駆動装置が励磁されても、ピニオン及び扉部材の動作タイミングが遅れることになるので、演出に合致しないタイミングでピニオン及び扉部材が動作することになり、演出効果が低下する可能性がある。即ち、上述した従来の遊技機では、第２手段の演出効果に改善の余地があるという問題点があった。

【５３１２】

これに対し、遊技機ＫＣ１によれば、第２手段を第１位置から第２位置へ移動させる際に、第１手段の移動方向が第２手段の移動方向に沿うので、第１手段の回転の勢いを利用して第２手段の慣性に容易に打ち勝つことができ、第２手段の移動タイミングの時間遅れを短くすることができるので、第２手段の動作を改善することができ、第２手段の演出効果を改善することができる。

【５３１３】

遊技機ＫＣ１において、前記第１手段の移動方向が前記第２手段の移動方向に沿う場合に、前記第１手段の回転先端が前記所定軸よりも下側に位置するよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ２。

【５３１４】

遊技機ＫＣ２によれば、遊技機ＫＣ１の奏する効果に加え、第１手段の移動方向が第２手段の移動方向に沿う姿勢で第１手段を安定させ易くすることができる。

【５３１５】

遊技機ＫＣ１又はＫＣ２において、前記第１手段に所定方向で当接し得る当接手段を備え、前記第１手段が前記当接手段と当接し停止されることに基づいて、前記第２手段が前記第２位置に維持可能とされることを特徴とする遊技機ＫＣ３。

【５３１６】

遊技機ＫＣ３によれば、遊技機ＫＣ１又はＫＣ２の奏する効果に加え、第１手段が当接手段と当接し停止されることに基づいて、第２手段が第２位置に配置されることから、第２手段を係止する必要を無くすことができるので、第２手段を第２位置で停止させるために第２手段に大きな荷重がかけられるという事態を避けることができ、第２手段の破損を防止することができる。

【５３１７】

遊技機ＫＣ３において、前記当接手段は、前記第１手段に回転方向から当接する面であって、前記第２手段の移動方向に対して傾斜する傾斜面として構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ４。

【５３１８】

遊技機ＫＣ４によれば、遊技機ＫＣ３の奏する効果に加え、傾斜面に第１手段が当接している状態で、第１手段に第２手段の移動方向の荷重が加えられた場合に、その荷重を、所定軸へ向かう方向と、第１手段の回転方向とに分散させることができる。これにより、所定軸が受ける荷重を低減することができる。

【５３１９】

遊技機ＫＣ１からＫＣ４のいずれかにおいて、前記第１手段が所定方向に回転動作され前記第２手段が前記第１位置から前記第２位置まで移動された後に継続される前記第１手段の回転動作により、前記第２手段が移動されないように構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ５。

【５３２０】

遊技機ＫＣ５によれば、遊技機ＫＣ１からＫＣ４のいずれかの奏する効果に加え、第１手段の過回転による第２手段の配置のずれを回避し易くすることができる。

【５３２１】

遊技機ＫＣ１からＫＣ５のいずれかにおいて、前記第２手段を前記第２位置から前記第１位置へ移動開始させる場合に、予め移動を開始されている前記第１手段の移動方向が、前記第２手段の移動方向に沿う方向になるよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ６。

【５３２２】

遊技機ＫＣ６によれば、遊技機ＫＣ１からＫＣ５のいずれかの奏する効果に加え、第１移動手段の移動方向に因らず第２手段の移動タイミングの時間遅れを短くすることができるので、第２手段の演出効果を改善することができる。

【５３２３】

遊技機ＫＣ１からＫＣ６のいずれかにおいて、前記第１手段の回転量に比例して前記第２手段の移動方向で移動可能とされる第３手段を備えることを特徴とする遊技機ＫＣ７。

【５３２４】

遊技機ＫＣ７によれば、遊技機ＫＣ１からＫＣ６のいずれかの奏する効果に加え、第２手段の移動を開始させる前に予め第１手段を回転させている状態において、第３手段を移動させることができるので、遊技機の演出効果を向上させることができる。

【５３２５】

遊技機ＫＣ３からＫＣ７のいずれかにおいて、前記第１手段の回転量には、前記第３手段の移動が生じない程度の限界値が設定されており、前記第２手段が前記第２位置に到達してから前記第１手段が前記当接手段に当接するまでの回転量は、前記限界値以下となるように構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ８。

【５３２６】

遊技機ＫＣ８によれば、遊技機ＫＣ３からＫＣ７のいずれかの奏する効果に加え、第１手段の過回転により第３手段が位置ずれすることを回避することができる。

【５３２７】

遊技機ＫＣ７又はＫＣ８において、前記第２手段を移動させない範囲における前記第１手段の往復動作を可能に構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ９。

【５３２８】

遊技機ＫＣ９によれば、遊技機ＫＣ７又はＫＣ８の奏する効果に加え、第２手段の移動が生じる場合に比較して、第３手段を抵抗少なく移動させることができる。

【５３２９】

遊技機ＫＣ９において、前記第１手段への駆動力伝達が、第１手段の所定量の移動を待たずに停止されるよう制御されることを特徴とする遊技機ＫＣ１０。

【５３３０】

遊技機ＫＣ１０によれば、遊技機ＫＣ９の奏する効果に加え、駆動力による勢いで移動した第１手段が、第２手段の慣性抵抗（静止摩擦）により停止されることになるので、第１手段の所定量の移動中において駆動力伝達を生じさせ続ける場合に比較して、第２手段の誤動作を回避し易くすることができる。

【５３３１】

＜球に対する光の見え方を演出に利用するように発光手段を配置する＞

遊技球が入球可能な入球領域と、遊技球を前記入球領域へ向かわせる状態を形成可能な形成手段と、所定の照射範囲に光を照射可能な光照射手段と、を備え、前記入球領域へ向かう第１流下態様または前記入球領域へ向かわない第２流下態様で遊技球を流下させ得るよう構成され、遊技球が前記第１流下態様で流下している場合における前記所定の照射範囲における視認態様と、遊技球が前記第２流下態様で流下している場合における前記所定の照射範囲における視認態様とを異ならせるよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＤ１。

【５３３２】

パチンコ機等の遊技機において、入球領域に遊技球を案内可能な状態と案内不能な状態とを切り替える可動体よりも上流側の下側領域に光照射手段を配置し、発光演出を行う遊技機がある（例えば、特開２０１６－１２０２２０号公報を参照）。

【５３３３】

しかし、上述した従来の遊技機では、光照射手段の上側に形成される坂の上を遊技球が流下するものであり、光照射手段からの光が照射される領域には遊技球が入り込まないよう構成されているので、遊技球が流下した場合に光の見え方が変化することは無く光照射手段の付近では遊技球が明るく見えるのだが、可動体と光照射手段との間に若干の距離があるために可動体側に光が届きにくく、可動体付近が暗く視認されてしまい、通常の注目力で行う遊技では入球領域に遊技球が入っているのかどうかが判別し難い。

【５３３４】

そのため、遊技者に可動体付近を覗き込む遊技を強いることになり、遊技者の遊技負担を大きくさせ、興趣の向上を図れなくなる可能性があった。即ち、上述した従来の遊技機では、遊技者の興趣の向上の観点で改善の余地があるという問題点があった。

【５３３５】

これに対し、遊技機ＫＤ１によれば、遊技球が入球領域へ向かう第１流下態様で流下しているか、遊技球が入球領域へ向かわない第２流下態様で流下しているかによって、光照射手段からの光の見え方を異ならせることができるので、光照射手段からの光を視認することにより、遊技球が入球領域へ向かっているか否かを遊技者に把握させることができる。これにより、遊技者の遊技負担を低減させることができ、遊技者の興趣の向上を図ることができる。

【５３３６】

遊技機ＫＤ１において、前記光照射手段は、前記第１流下態様で流下する遊技球に光が遮蔽されない位置に配置されることを特徴とする遊技機ＫＤ２。

【５３３７】

遊技機ＫＤ２によれば、遊技機ＫＤ１の奏する効果に加え、遊技球が入球領域に入球を継続している場合においても、光照射手段からの光による演出効果を維持することができる。

【５３３８】

遊技機ＫＤ１又はＫＤ２において、前記光照射手段は、前記形成手段を光で照らす位置

に配置されることを特徴とする遊技機ＫＤ３。
【５３３９】
遊技機ＫＤ３によれば、遊技機ＫＤ１又はＫＤ２の奏する効果に加え、形成手段の視認性が低下することを回避し易くすることができる。
【５３４０】
遊技機ＫＤ３において、前記形成手段よりも正面側に配置され遊技球の流下経路を覆う覆設手段を備え、前記覆設手段の正面側に描かれる形状は、前記形成手段の形状に沿う形状とされることを特徴とする遊技機ＫＤ４。
【５３４１】
遊技機ＫＤ４によれば、遊技機ＫＤ１からＫＤ３のいずれかの奏する効果に加え、形成手段の視認性が向上されることに伴って、覆設手段の視認性を向上させることができる。即ち、形成手段を介して視認される光により覆設手段の正面側に描かれる形状を明るく照らすことができ、演出効果を向上させることができる。
【５３４２】
遊技機ＫＤ４において、前記覆設手段に描かれる前記形状は、後方を視認し易い第１視認部と、その視認容易部よりも視認性が劣る第２視認部とから形成され、前記第１視認部は、少なくとも前記第１流下態様における遊技球の流下経路の前方に形成され、前記形成手段を介して進行する光は、前記第１視認部を通過することを特徴とする遊技機ＫＤ５。
【５３４３】
遊技機ＫＤ５によれば、遊技機ＫＤ４の奏する効果に加え、第１流下態様で流下する遊技球に対する注目力を向上させることができると共に、第１視認部を明るくすることで後方の視認性を向上させることができる。
【５３４４】
遊技機ＫＤ１からＫＤ５のいずれかにおいて、形成手段を支持する支持手段を備え、その支持手段は、形成手段から反射する光を正面側へ向けて反射可能に形成される反射部を備えることを特徴とする遊技機ＫＤ６。
【５３４５】
遊技機ＫＤ６によれば、遊技機ＫＤ１からＫＤ５のいずれかの奏する効果に加え、形成手段の色味が反射部を介しても視認されるように構成することができる。
【５３４６】
遊技機ＫＤ６において、前記反射部は、前記形成手段が遊技球を前記入球領域へ向かわせる状態では形成手段から反射する光を正面側へ向けて反射可能とされ、前記形成手段が遊技球を前記入球領域へ向かわせない状態では形成手段から反射する光を正面側へ向けて反射不可能とされることを特徴とする遊技機ＫＤ７。
【５３４７】
遊技機ＫＤ７によれば、遊技機ＫＤ６の奏する効果に加え、反射部の視認態様と、形成手段の状態とが対応づけられる。これにより、形成手段の状態の変化が分かり難い場合であっても、反射部を視認することで形成手段の状態を把握することができるので、遊技者の遊技負担を軽減させることができる。
【５３４８】
遊技機ＫＤ６又はＫＤ７において、前記反射部は、遊技球の流下経路よりも上側に形成されることを特徴とする遊技機ＫＤ８。
【５３４９】
遊技機ＫＤ８によれば、遊技機ＫＤ６又はＫＤ７の奏する効果に加え、流下経路を流下する遊技機により反射部が隠される事態を回避し易くすることができる。
【５３５０】
遊技機ＫＤ３からＫＤ８のいずれかにおいて、前記覆設手段は、前記形成手段を背景として視認可能な位置に前記形成手段よりも小さな形状部を備えることを特徴とする遊技機ＫＤ９。
【５３５１】

遊技機ＫＤ９によれば、遊技機ＫＤ３からＫＤ８のいずれかの奏する効果に加え、形成手段を背景とした形状部の視認態様と、形成手段を背景としない形状部の視認態様とを異ならせることで、固定の覆設手段の見え方を変化させることができる。

【５３５２】

遊技機ＫＤ９において、前記形状部が、前記形成手段の上流側位置に配置されることを特徴とする遊技機ＫＤ１０。

【５３５３】

遊技機ＫＤ１０によれば、遊技機ＫＤ９の奏する効果に加え、形状部により注目させる箇所を形成手段の上流側位置とすることで、形状部付近で遊技者に視認された遊技球が入球領域に入球するまでの時間を長く確保することができる。これにより、遊技者に入球領域への入球を確認させる時間的余裕を与えることができる。

【５３５４】

＜化粧板の背後の変位手段の見え方が配置によって異なる＞

遊技球が入球可能な入球領域と、遊技球を前記入球領域へ向かわせる第１位置と遊技球を前記入球領域へ向かわせない第２位置とに変位可能な変位手段と、光透過性材料から形成され、所定方向視で前記変位手段の少なくとも一部と重なるよう配置される透過手段と、を備え、前記透過手段には所定の装飾が施され、前記変位手段が前記第１位置に配置されるか前記第２位置に配置されるかによって、前記所定方向視における前記変位手段と前記透過手段との重なる領域が変化し得ることを特徴とする遊技機ＫＥ１。

【５３５５】

パチンコ機等の遊技機において、入球領域の正面側に覆設される化粧部材が可動とされ、その化粧部材を動かすことで入球領域付近の見え方を変化させる遊技機がある（例えば、特開２０１５－１０７２９３号公報を参照）。

【５３５６】

しかし、上述した従来の遊技機では、化粧部材を動作させるための駆動手段や伝達機構が別途必要となることから、入球領域付近の領域が駆動手段や伝達機構により圧迫され易く、入球領域付近の設計自由度が低くなるという問題点があった。

【５３５７】

これに対し、遊技機ＫＥ１によれば、透過手段を通して変位手段が視認される構造において、変位手段の配置が変化することで透過手段と変位手段とが重なる領域が変化することから、透過手段を動作させなくても透過手段の所定の装飾を異なる態様で視認させることができる。これにより、駆動手段や伝達機構が配設されるスペースを空けることができ、入球領域付近の設計自由度を向上させることができる。

【５３５８】

遊技機ＫＥ１において、前記変位手段が前記第１位置に配置された状態で、前記変位手段が前記所定の装飾の背景とされることで、前記変位手段が前記第２位置に配置された状態に比較して前記所定の装飾を判別し易いように構成されることを特徴とする遊技機ＫＥ２。

【５３５９】

遊技機ＫＥ２によれば、遊技機ＫＥ１の奏する効果に加え、変位手段が第１位置に配置された状態で所定の装飾を判別し易くなるので、所定の装飾に注目することで、変位手段の状態を把握し易くすることができる。更に、判別し易い状態において変位手段が遊技球を入球領域に向かわせることで、更に入球領域付近への注目力を上昇させることができる。

【５３６０】

遊技機ＫＥ１又はＫＥ２において、前記所定の装飾は、前記入球領域と関連する形状とされることを特徴とする遊技機ＫＥ３。

【５３６１】

遊技機ＫＥ３によれば、遊技機ＫＥ１又はＫＥ２の奏する効果に加え、所定の装飾への注目を、入球領域への注目へと誘導させ易くすることができる。

【５３６２】
遊技機ＫＥ１からＫＥ３のいずれかにおいて、前記入球領域は、前記所定方向視とは異なる方向視であって、前記所定の装飾と前記変位手段とが重ならない方向視において視認可能な位置に配置されることを特徴とする遊技機ＫＥ４。
【５３６３】
遊技機ＫＥ４によれば、遊技機ＫＥ１からＫＥ３のいずれかの奏する効果に加え、所定の装飾における視認態様の変化を煩わしく感じる遊技者に対して、遊技負担を低減させることができる。
【５３６４】
遊技機ＫＥ１において、前記変位手段が前記第１位置に配置された状態で、前記変位手段が前記所定の装飾の後方から退避されることで、前記変位手段が前記第２位置に配置された状態に比較して前記所定の装飾を判別し易いように構成されることを特徴とする遊技機ＫＥ５。
【５３６５】
遊技機ＫＥ５によれば、遊技機ＫＥ１の奏する効果に加え、変位手段が第１位置に配置された状態で所定の装飾を判別し易くなるので、所定の装飾に注目することで、変位手段の状態を把握し易くすることができる。更に、判別し易い状態において変位手段が遊技球を入球領域に向かわせることで、更に入球領域付近への注目力を上昇させることができる。
【５３６６】
遊技機ＫＥ１からＫＥ５のいずれかにおいて、前記入球領域を複数備え、前記所定の装飾が、各入球領域に対応して複数設けられることを特徴とする遊技機ＫＥ６。
【５３６７】
遊技機ＫＥ６によれば、遊技機ＫＥ１からＫＥ５のいずれかの奏する効果に加え、所定の装飾を視認することで、複数の入球領域のどこに遊技球が案内されるのかを把握し易くすることができる。
【５３６８】
遊技機ＫＥ６において、複数の前記所定の装飾は、異なる大きさで形成されることを特徴とする遊技機ＫＥ７。
【５３６９】
遊技機ＫＥ７によれば、遊技機ＫＥ６の奏する効果に加え、所定の装飾による遊技球の入球先の判別をしやすくすることができる。また、複数の入球領域の利益差に応じて、所定の装飾の大小関係が設定されることで、遊技者に直感的に得られる利益を把握させることができる。
【５３７０】
遊技機ＫＥ６又はＫＥ７において、複数の前記所定の装飾は、一方の内部に他方が配置される態様で設けられることを特徴とする遊技機ＫＥ８。
【５３７１】
遊技機ＫＥ８によれば、遊技機ＫＥ６又はＫＥ７の奏する効果に加え、複数の所定の装飾に注目させる場合に、遊技者が目線を変えることを不要することができる。これにより、遊技者の遊技負担を軽減することができる。
【５３７２】
遊技機ＫＥ１からＫＥ８のいずれかにおいて、前記透過手段は、前記変位手段の位置を合わせる位置合わせ部を備えることを特徴とする遊技機ＫＥ９。
【５３７３】
遊技機ＫＥ９によれば、遊技機ＫＥ１からＫＥ８のいずれかの奏する効果に加え、位置合わせ部により、変位手段が第１状態とされた場合における変位手段と所定の装飾との位置ずれを抑制することができる。
【５３７４】
遊技機ＫＥ９において、前記位置合わせ部は、前記所定の装飾とは異なる位置に配設さ

れることを特徴とする遊技機ＫＥ１０。
【５３７５】
遊技機ＫＥ１０によれば、遊技機ＫＥ９の奏する効果に加え、所定の装飾の視認性を確保することができる。
【５３７６】
＜複数の層を組み合わせて一連の装飾となる構造＞
第１の層に第１手段が配置可能とされ、所定方向視において前記第１の層と重なる第２の層に第２手段が配置可能とされる遊技機において、前記第２手段と、前記第１手段とは、独立して変位可能であり、前記所定方向視において所定領域に配置される前記第１手段および前記第２手段が、一連の視認態様で視認され得ることを特徴とする遊技機ＫＦ１。
【５３７７】
パチンコ機等の遊技機において、はさみの刃を模した形状から形成される第１手段および第２手段を備え、第１手段および第２手段により一連の視認態様で視認される遊技機がある（例えば、特開２０１１－１１０２５５号公報を参照）。
【５３７８】
しかし、上述した従来の遊技機では、第１手段および第２手段が互いに連動しているため、動作速度が遅くなり、第１手段および第２手段が液晶表示装置の外方に配置された状態から、第１手段および第２手段が液晶表示装置の前方に配置されて一連の視認態様で視認させる状態に変化するまでに時間が長くかかることになり、演出の自由度が低くなる可能性があるという問題点があった。即ち、第１手段および第２手段の演出効果に改善の余地があるという問題点があった。
【５３７９】
これに対し、遊技機ＫＦ１によれば、第１手段が、第２手段に対して独立して変位可能に構成されているので、第１手段の動作速度が第２手段の重さにより制限されることを避けることができ、第１手段および第２手段の動作の迅速化を図ることができ、第１手段および第２手段の演出効果を向上させることができる。
【５３８０】
遊技機ＫＦ１において、前記第１手段が視認態様の異なる可動状態と非可動状態とを切替可能に構成され、非可動状態において前記一連の視認態様で視認されることを特徴とする遊技機ＫＦ２。
【５３８１】
遊技機ＫＦ２によれば、遊技機ＫＦ１の奏する効果に加え、第１手段で動的に演出する状態と、第１手段を非可動として一連の形状に注目させる状態とを切り替えることができる。
【５３８２】
遊技機ＫＦ１又はＫＦ２において、前記第１手段は、動作手段と被動作手段とを備え、動作手段の変位が、被動作手段の状態に対応して生じるよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＦ３。
【５３８３】
遊技機ＫＦ３によれば、遊技機ＫＦ１又はＫＦ２のいずれかの奏する効果に加え、動作手段と被動作手段とが独立動作する場合のように互いに衝突することを防止することができる。
【５３８４】
遊技機ＫＦ１からＫＦ３のいずれかにおいて、前記第１手段が非可動状態とされる場合において前記第２手段が可動とされることを特徴とする遊技機ＫＦ４。
【５３８５】
遊技機ＫＦ４によれば、遊技機ＫＦ１からＫＦ３のいずれかの奏する効果に加え、第２手段についても第１手段に独立して変位可能とされることから、動作演出のバリエーションを増加させることができる。
【５３８６】

遊技機ＫＦ１からＫＦ４のいずれかにおいて、前記第１手段と前記第２手段とが一連の視認態様で視認されない状態から、前記第１手段と前記第２手段とが移動することで互いに近づいた近接状態において一連の視認態様で視認されることを特徴とする遊技機ＫＦ５。

【５３８７】

遊技機ＫＦ５によれば、遊技機ＫＦ１からＫＦ４のいずれかの奏する効果に加え、一連の視認態様で視認される範囲を狭めることができるので、遊技者の遊技負担を低減することができる。

【５３８８】

遊技機ＫＦ１からＫＦ５のいずれかにおいて、前記第１手段または前記第２手段は、前記所定領域で動作が停止され、前記所定領域以外の領域では動作が継続され得ることを特徴とする遊技機ＫＦ６。

【５３８９】

遊技機ＫＦ６によれば、遊技機ＫＦ１からＫＦ５のいずれかの奏する効果に加え、所定領域において一連の視認態様で視認される場合以外における第１手段または第２手段の視認態様を継続動作により変化させることができるので、一連の視認態様で視認される態様への注目力を向上させることができる。

【５３９０】

遊技機ＫＦ１からＫＦ６のいずれかにおいて、前記第１手段で囲われる領域に前記第２手段が配置され、前記第２手段の発光態様に対応して、前記第１手段の発光態様が変化されることを特徴とする遊技機ＫＦ７。

【５３９１】

遊技機ＫＦ７によれば、遊技機ＫＦ１からＫＦ６のいずれかの奏する効果に加え、発光態様を対応させることにより第１手段および第２手段による演出効果を向上させることができる。

【５３９２】

遊技機ＫＦ１からＫＦ７のいずれかにおいて、前記所定方向視において前記第１手段または前記第２手段と重なり得る位置に表示領域を有する表示装置を備え、前記表示領域からの光が、前記第１手段または前記第２手段に対応する領域で照らされることを特徴とする遊技機ＫＦ８。

【５３９３】

遊技機ＫＦ８によれば、遊技機ＫＦ１からＫＦ７のいずれかの奏する効果に加え、表示装置の表示領域からの光により第１手段または第２手段を明るく照らすことができ、演出効果を向上させることができる。

【５３９４】

遊技機ＫＦ８において、前記表示領域からの光の態様が、前記第１手段または前記第２手段の変位中と、前記第１手段または前記第２手段の非変位中とで変化可能とされることを特徴とする遊技機ＫＦ９。

【５３９５】

遊技機ＫＦ９によれば、遊技機ＫＦ８の奏する効果に加え、第１手段または第２手段の見せ方を、変位中と非変位中とで異ならせることができるので、一連の視認態様で視認させる状態と、それ以外の状態とで、第１手段または第２手段の見せ方にバリエーションを設けることができる。

【５３９６】

遊技機ＫＦ８又はＫＦ９において、前記表示領域で、前記第１手段または前記第２手段の視認態様に対応した表示がされることを特徴とする遊技機ＫＦ１０。

【５３９７】

遊技機ＫＦ１０によれば、遊技機ＫＦ８又はＫＦ９の奏する効果に加え、第１手段または第２手段が透過性材料で構成されている場合に、表示領域における表示と第１手段または第２手段自体の装飾とが組み合わされた視認態様で視認させることができる。

【５３９８】
　また、第１手段または第２手段に動作不良が生じた場合であっても、表示領域における表示を第１手段または第２手段に代替させることができ、演出効果の低下を最小限に留めることができる。
【５３９９】
　遊技機ＫＦ８からＫＦ１０のいずれかにおいて、前記表示装置による表示と、前記第１手段または前記第２手段とが連動されることを特徴とする遊技機ＫＦ１１。
【５４００】
　遊技機ＫＦ１１によれば、第１手段または第２手段が配置されていない層における表示装置の表示領域全体を利用して、第１手段または第２手段に連動される対象を遊技者に視認させることができる。これにより、遊技者に注目させる領域を広げられる。
【５４０１】
　遊技機ＫＦ８からＫＦ１１のいずれかにおいて、前記表示装置による表示を視認させる第１視認範囲と、前記第１視認範囲とは異なる態様で視認させる第２視認範囲と、を備え、前記第２視認範囲は、前記第１視認範囲よりも前側の層に形成されることを特徴とする遊技機ＫＦ１２。
【５４０２】
　遊技機ＫＦ１２によれば、遊技機ＫＦ８からＫＦ１１のいずれかの奏する効果に加え、第１視認範囲と、第２視認範囲とを、前後配置の関係する視認態様で視認させることができるので、立体感または積層感のある演出を実現できる。
【５４０３】
　遊技機ＫＦ１２において、前記第１視認範囲と、前記第２視認範囲との隙間を狭める隙間防止手段を備えることを特徴とする遊技機ＫＦ１３。
【５４０４】
　遊技機ＫＦ１３によれば、遊技機ＫＦ１２の奏する効果に加え、第１視認範囲における視認態様と、第２視認範囲における視認態様とを一連の視認態様で視認させ易くすることができる。
【５４０５】
　遊技機ＫＦ８からＫＦ１３のいずれかにおいて、前記第１手段または前記第２手段の変位に伴って変位される発光手段を備えることを特徴とする遊技機ＫＦ１４。
【５４０６】
　遊技機ＫＦ１４によれば、遊技機ＫＦ８からＫＦ１３のいずれかの奏する効果に加え、第１手段または第２手段の変位に対する、光演出の時間遅れを回避し易くすることができる。
【５４０７】
　遊技機ＫＦ８からＫＦ１４のいずれかにおいて、前記第１の層における視認態様は、電圧制御に基づく前記第２の層における状態に対応して変化し得ることを特徴とする遊技機ＫＦ１５。
【５４０８】
　遊技機ＫＦ１５によれば、遊技機ＫＦ８からＫＦ１４のいずれかの奏する効果に加え、第２の層における第２手段の状態に対応して第１手段の視認態様の変化を生じさせることができる。
【５４０９】
　遊技機ＫＦ１５において、前記第２の層における状態に対応して、所定の光を遮断する遮断範囲と、所定の光を遮断しない非遮断範囲と、を構成可能とされることを特徴とする遊技機ＫＦ１６。
【５４１０】
　遊技機ＫＦ１６によれば、遊技機ＫＦ１５の奏する効果に加え、第２の層における状態によって背面からの光の透過態様を変化させることにより、第２の層および第１の層とを重ねた視認態様を変化させることができる。

【５４１１】
＜ベース板の裏側に基板を配置＞
正面側に遊技領域が形成される遊技盤と、その遊技盤に光を照射する光照射手段と、を備え、前記光照射手段は、前記遊技盤の厚さ方向に対して交差する方向で光が前記遊技盤に進入し得る位置に配置されることを特徴とする遊技機ＫＧ１。
【５４１２】
パチンコ機等の遊技機において、遊技盤の背面側に発光基板が配設され、発光基板に配設されるＬＥＤ等の発光手段から正面側へ向けて光が照射されることで、遊技盤や遊技盤に組み付けられる光透過性の部材を明るく照らすように構成される遊技機がある（例えば、特開２００６－３３３８８７号公報を参照）。
【５４１３】
しかし、上述した従来の遊技機では、限られた発光手段で遊技盤や遊技盤に組み付けられる光透過性の部材の広い範囲を明るく照らすために、発光基板を遊技盤からある程度離して配設する必要があるため、そのためのスペースを遊技盤の背面側に確保する必要がある一方で、発光基板と遊技盤との間に演出用の可動役物を配設してしまうと、遊技盤や遊技盤に組み付けられる光透過性の部材に可動役物の影が映ることで暗くなってしまうため、この観点からは発光手段を遊技盤側に寄せて可動役物の配設スペースを作りたいという、相反する課題があった。即ち、光照射手段の配置に関して改善の余地があるという問題点があった。
【５４１４】
これに対し、遊技機ＫＧ１によれば、光照射手段からの光は遊技盤の厚さ方向に対して交差する方向で遊技盤に進入し得る位置に配置されることから、遊技盤の厚さ幅の内側で光の照射範囲を拡げられ、光により照らす面積を増大させることができることから遊技盤を明るく視認させることができると共に、光照射手段を遊技盤の後方に離して配置する必要がないので、遊技盤の背面側に可動役物の配設スペースを十分確保することができる。即ち、光照射手段の配置を改善することができる。
【５４１５】
遊技機ＫＧ１において、前記光照射手段は、前記遊技盤の後方に配設されることを特徴とする遊技機ＫＧ２。
【５４１６】
遊技機ＫＧ２によれば、遊技機ＫＧ１の奏する効果に加え、光照射手段を遊技盤で隠すように配設することができ、見栄えを良くすることができる。
【５４１７】
遊技機ＫＧ１又はＫＧ２において、前記遊技盤は前記遊技領域が形成される範囲外において背面側に凹設される凹設部を備え、その凹設部により形成される空間に前記光照射手段が配置されることを特徴とする遊技機ＫＧ３。
【５４１８】
遊技機ＫＧ３によれば、遊技機ＫＧ１又はＫＧ２の奏する効果に加え、光照射手段を遊技盤の厚み寸法内に収めることができるので、遊技盤の背面側のスペースを確保し易くすることができる。
【５４１９】
遊技機ＫＧ１からＫＧ３のいずれかにおいて、前記遊技盤は、背面側面に前記光照射手段からの光を正面側へ向けさせるための変化部を備えることを特徴とする遊技機ＫＧ４。
【５４２０】
遊技機ＫＧ４によれば、遊技機ＫＧ１からＫＧ３のいずれかの奏する効果に加え、変化部の配置により正面視における光の見え方を容易に設計することができる。
【５４２１】
遊技機ＫＧ４において、前記遊技盤は、前記変化部にシボ加工が形成されることを特徴とする遊技機ＫＧ５。
【５４２２】

遊技機ＫＧ５によれば、遊技機ＫＧ４の奏する効果に加え、変化部で光を拡散させることができ、変化部を明るく視認させるためのＬＥＤ等の光照射部の個数を削減させることができる。

【５４２３】

遊技機ＫＧ４又はＫＧ５において、前記変化部は、前記光照射手段から所定の光軸で発射される光が到達し得る複数位置に形成されることを特徴とする遊技機ＫＧ６。

【５４２４】

遊技機ＫＧ６によれば、遊技機ＫＧ４又はＫＧ５の奏する効果に加え、所定の光軸で発射される光により変化部が明るく視認される範囲を広げることができる。

【５４２５】

遊技機ＫＧ４からＫＧ６のいずれかにおいて、前記変化部は、前記遊技盤の内側の開口部の縁部に周状に形成されることを特徴とする遊技機ＫＧ７。

【５４２６】

遊技機ＫＧ７によれば、遊技機ＫＧ４からＫＧ６のいずれかの奏する効果に加え、遊技盤の内側の開口部の縁部を略円環状に照らすことができる。これにより、開口部内側に配置される表示装置への視線誘導をし易くすることができる。

【５４２７】

遊技機ＫＧ７において、前記変化部は、前記開口部の縁部前端よりも縁部後端の方が開口が大きくなるように構成されることを特徴とする遊技機ＫＧ８。

【５４２８】

遊技機ＫＧ８によれば、遊技機ＫＧ７の奏する効果に加え、開口部の縁部前端を基準として遊技盤にセンターフレームを配設することができ、変化部を介する光によりセンターフレームを明るく照らすことができる。

【５４２９】

遊技機ＫＧ１からＫＧ８のいずれかにおいて、前記光照射手段から前記遊技盤に進入した光の進行方向が正面側へ向けられるまでの間、その光は前記遊技盤の厚み寸法内を進行することを特徴とする遊技機ＫＧ９。

【５４３０】

遊技機ＫＧ９によれば、遊技機ＫＧ１からＫＧ８のいずれかの奏する効果に加え、正面側へ向けられる前の光が遊技領域内を進行する場合と異なり、遊技領域を流下する球に光が遮られることを回避することができる。

【５４３１】

遊技機ＫＧ９において、前記光照射手段から前記遊技盤に進入した光は、前記遊技領域に配設される入球領域に入球した遊技球の通過経路を通過可能に構成されることを特徴とする遊技機ＫＧ１０。

【５４３２】

遊技機ＫＧ１０によれば、遊技機ＫＧ９の奏する効果に加え、光照射手段から進入した光が遮蔽された場合と、遊技球が入球領域に入球したこととを対応付けることができるので、光照射手段から照射される光に対する注目力を向上させることができる。

【５４３３】

＜視認部の視認態様が変化し得る回転動作手段＞

視認態様が変化し得る所定の視認部を有する動作手段を備え、前記所定の視認部が回転移動し得ることを特徴とする遊技機ＫＫＨ１。

【５４３４】

パチンコ機等の遊技機において、演出効果を高める動きを生じ得る動作手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００７－９８０２７号公報を参照）。

【５４３５】

しかし、上述した従来の遊技機では、図柄の変動に対応して連動される動作手段が、遊技機中央部に固定された表示装置の手前側で開閉される動作をするに過ぎず、この場合、表示装置への注目力は向上されるが、動作手段を目で追わせるように注目させることは難

しい。即ち、動作手段の演出効果について改善の余地があった。
【５４３６】
これに対し、遊技機ＫＫＨ１によれば、所定の視認部が回転移動し得ることから、動作手段の回転動作が所定の一点を中心に継続される場合に、所定の視認部の視認態様の変化を確認するために、動作手段への注目力を向上させることができる。その場合に、回転中心からある程度の範囲を視界に収めておけば済むので、所定の視認部の視認態様の変化を確認しようとする遊技者の遊技負担を低減させることができる。
【５４３７】
遊技機ＫＫＨ１において、前記動作手段は、回転移動することに伴って前記所定の視認部を通した視認態様が変化されることを特徴とする遊技機ＫＫＨ２。
【５４３８】
遊技機ＫＫＨ２によれば、遊技機ＫＫＨ１の奏する効果に加え、所定の視認部の視認態様の変化に注目させるタイミングを動作手段の回転移動中に限定させることができるので、所定の視認部の視認態様の変化がいつ生じるか分からない場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減させることができる。
【５４３９】
遊技機ＫＫＨ１又はＫＫＨ２において、前記所定の視認部の視認態様は、前記動作手段の回転軸を挟んで位置する第１位置および第２位置で少なくとも変わり得ることを特徴とする遊技機ＫＫＨ３。
【５４４０】
遊技機ＫＫＨ３によれば、遊技機ＫＫＨ１又はＫＫＨ２の奏する効果に加え、所定の視認部の視認態様が変化する箇所が１箇所である場合に比較して、所定の視認部の視認態様の変化の確認の難易度を上げることができるので、遊技者の動作手段に対する注目力をより向上させることができる。
【５４４１】
遊技機ＫＫＨ３において、前記第１位置での前記所定の視認部の視認態様の変化が生じた場合と、前記第２位置での前記所定の視認部の視認態様の変化が生じた場合とで、遊技者が得られる利益が変化し得ることを特徴とする遊技機ＫＫＨ４。
【５４４２】
遊技機ＫＫＨ４によれば、遊技機ＫＫＨ３の奏する効果に加え、所定の視認部の視認態様の変化に対する遊技者の興味関心を向上させることができ、動作手段に対する注目力を増大させることができる。
【５４４３】
遊技機ＫＫＨ１からＫＫＨ４のいずれかにおいて、前記所定の視認部の視認態様が、第１の視認態様で変化する場合と、第２の視認態様で変化する場合とがあることを特徴とする遊技機ＫＫＨ５。
【５４４４】
遊技機ＫＫＨ５によれば、遊技機ＫＫＨ１からＫＫＨ４のいずれかの奏する効果に加え、所定の視認態様が、どのように変化するかに対する遊技者の興味を向上させることができ、遊技者の動作手段に対する注目力を向上させることができる。
【５４４５】
＜球流下と回転動作手段とを関連させる演出＞
遊技機ＫＫＨ１からＫＫＨ５のいずれかにおいて、遊技者に視認され得るよう構成され、遊技球の流下に対応して動かされ得る動作手段を備える遊技機ＫＨ１。
【５４４６】
パチンコ機等の遊技機において、演出効果を高める動きを生じ得る動作手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００７－９８０２７号公報を参照）。
【５４４７】
しかし、上述した従来の遊技機では、図柄の変動に対応して動作手段の演出動作が実行されることに留まり、その動作態様から実際の遊技球の流下についての情報を得ることは

難しかった。そのため、遊技者の目線が動作手段に注目している場合には遊技球の流下態様を把握することはできず、遊技球の流下の感じを見ながら遊技球の発射強度の調整をリアルタイムで行うことが困難であった。

【５４４８】

この場合、液晶表示装置でのロングリーチを視認しながら遊技球の発射を継続することが困難であり、特別図柄の保留を満タンまで溜めた状態で遊技を行いたい遊技者の遊技負担を増加させる可能性が高く、興趣が低下する可能性がある。このように、上述した従来の遊技機では、動作手段に改善の余地があるという問題点があった。

【５４４９】

これに対し、遊技機ＫＨ１によれば、遊技機ＫＫＨ１からＫＫＨ５のいずれかの奏する効果に加え、動作手段の動きを遊技者が視認することにより、遊技球の流下について遊技者に把握させることができる。これにより、動作手段を改善することができる。

【５４５０】

遊技機ＫＨ１において、遊技球の流下に基づく所定条件が成立した場合に前記動作手段が動かされることを特徴とする遊技機ＫＨ２。

【５４５１】

遊技機ＫＨ２によれば、遊技機ＫＨ１の奏する効果に加え、遊技領域に遊技球が流下してさえいれば動作手段に動きが生じる場合に比較して、動作手段の動きから、遊技者が遊技球の流下態様を予測し易くすることができる。

【５４５２】

遊技機ＫＨ１又はＫＨ２において、前記動作手段が動き得る状態で支持され、一側端部を支点とする変位が可能に構成される支持手段と、その支持手段の変位を許容する許容状態と、前記支持手段の変位を規制する規制状態とを構成可能な規制手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＫＨ３。

【５４５３】

遊技機ＫＨ３によれば、遊技機ＫＨ１又はＫＨ２の奏する効果に加え、支持手段の配置に対応して、動作手段の配置にバリエーションを持たせることができるので、流下態様の状態の把握を容易にすることができる。

【５４５４】

遊技機ＫＨ２又はＫＨ３において、遊技領域を流下する遊技球が所定部位を通過した場合に前記前記所定条件が成立し得ることを特徴とする遊技機ＫＨ４。

【５４５５】

遊技機ＫＨ４によれば、遊技機ＫＨ２又はＫＨ３の遊技機の奏する効果に加え、動作手段の動きを視認することで、遊技球が所定部位を通過したことを遊技者に把握させることができる。

【５４５６】

なお、所定部位としては、種々の態様が例示される。例えば、遊技球の流下が検出されることで所定の賞球の払い出しが実行される賞球口であっても良いし、賞球の払い出しは生じないが何らかの抽選が実行される開口でも良いし、賞球の払い出しも何らかの抽選も実行されず単に遊技球の流下を検出する検出センサであっても良いし、遊技球からのエネルギーの伝達により動作される動作部材の被衝突部であっても良い。

【５４５７】

遊技機ＫＨ４において、前記動作手段の上側の第１所定部位を遊技球が右方に通過する場合には、前記動作手段が動かされない一方、前記第１所定部位よりも左側を遊技球が流下する場合には、前記動作手段が動かされ得ることを特徴とする遊技機ＫＨ５。

【５４５８】

遊技機ＫＨ５によれば、遊技機ＫＨ４の奏する効果に加え、動作手段を視認することで、動作手段を基準にして、遊技球が左右どちら側を流下しているのかを遊技者に把握させることができる。これにより、例えば、右打ち遊技を実行しているつもりの遊技者に対して、遊技球が左側に流下していることに気付かせ易くすることができる。

【５４５９】
遊技機ＫＨ４において、前記動作手段の上側の第２所定部位を遊技球が右方に通過する場合には、前記動作手段が右方側に動かされる一方、前記第２所定部位よりも左側を遊技球が流下する場合には、前記動作手段が左方側に動かされ得ることを特徴とする遊技機ＫＨ６。
【５４６０】
遊技機ＫＨ６によれば、遊技機ＫＨ４の奏する効果に加え、動作手段の動きの方向と、遊技球の流下する方向とが対応しているので、動作手段を視認した遊技者に対して、遊技球の流下について直感的に理解させ易くすることができる。
【５４６１】
遊技機ＫＨ６において、前記第２所定部位よりも上側に位置する第３所定部位を遊技球が右方に通過する場合には、前記動作手段が動かされないことを特徴とする遊技機ＫＨ７。
【５４６２】
遊技機ＫＨ７によれば、遊技機ＫＨ６の奏する効果に加え、動作手段との離間幅と、動作手段の動きの有無とが対応しているので、動作手段が動いていないことを視認した遊技者に対して、遊技球が動作手段と離れた位置を流下していることを把握させ易くすることができる。
【５４６３】
遊技機ＫＨ４から遊技機ＫＨ７のいずれかにおいて、前記所定部位を遊技球が通過したことに基づいて前記動作手段が動いている状態において、前記所定部位を遊技球が通過した場合に、前記動作手段の動く速度が変化されることを特徴とする遊技機ＫＨ８。
【５４６４】
遊技機ＫＨ８によれば、遊技機ＫＨ４からＫＨ７のいずれかの奏する効果に加え、頻度や流下方向にランダム性を有する遊技球の流下を動作手段の動きに反映させることで、ランダム性の高い演出を動作手段で実行させることができる。更に、動作手段の動く速度の変化を視認した遊技者に対して、所定部位を再び遊技球が通過したことを把握させることができるので、遊技球の流下のパターン（流下態様のばらつきの程度）を遊技者が把握し易くすることができる。
【５４６５】
遊技機ＫＨ３からＫＨ８のいずれかにおいて、前記支持手段は、前記規制手段が前記許容状態か前記規制状態かに関わらず、前記動作手段が動き得る状態で支持することを特徴とする遊技機ＫＨ９。
【５４６６】
遊技機ＫＨ９によれば、遊技機ＫＨ３からＫＨ８のいずれかの奏する効果に加え、支持手段が変位される状態か、支持手段の変位が規制される状態かのいずれかでのみ動作手段が動き得る場合に比較して、動作手段による見映えの向上の効果を生じさせることができる状態を増やすことができる。
【５４６７】
遊技機ＫＨ３からＫＨ９のいずれかにおいて、前記規制手段の前記許容状態から前記規制状態への変化は、前記支持手段の変位に連動して生じることを特徴とする遊技機ＫＨ１０。
【５４６８】
遊技機ＫＨ１０によれば、遊技機ＫＨ３からＫＨ９のいずれかの奏する効果に加え、規制手段の状態の変化が支持手段の変位に連動して生じることから、規制手段と支持手段とがそれぞれ独立の基準で動作し得る場合に比較して、誤動作（例えば、動作タイミングが合わずに、干渉し合う等）の発生を回避し易くすることができる。
【５４６９】
遊技機ＫＨ３からＫＨ９のいずれかにおいて、前記規制手段が前記許容状態とされる場合に、前記支持手段が前記規制手段の前記規制状態において配置される上下位置に、前記

支持手段を維持可能に構成されることを特徴とする遊技機ＫＨ１１。
【５４７０】
遊技機ＫＨ１１によれば、遊技機ＫＨ３からＫＨ９のいずれかの奏する効果に加え、規制手段の許容状態からの支持手段の変位と、規制手段の規制状態からの支持手段の変位とを、同じ上下位置から開始させることができるので、遊技者に注目させる高さ位置を統一することができ、遊技者の遊技負担を低減させることができる。
【５４７１】
遊技機ＫＨ３からＫＨ１１のいずれかにおいて、前記動作手段は、前記支持手段の変位に基づいて変位することを特徴とする遊技機ＫＨ１２。
【５４７２】
遊技機ＫＨ１２によれば、遊技機ＫＨ３からＫＨ１１のいずれかの奏する効果に加え、遊技球の流下に対応する動きの他に、支持手段の変位に基づく変位による動きをも生じさせることができるので、動作手段の視認態様のバリエーションを増加させることができる。
【５４７３】
遊技機ＫＨ３からＫＨ１２のいずれかにおいて、前記支持手段の前記一側端部を支点とする変位は、前記動作手段が、前記支持手段の中心位置よりも前記一側端部側に配置された状態で生じることを特徴とする遊技機ＫＨ１３。
【５４７４】
遊技機ＫＨ１３によれば、遊技機ＫＨ３からＫＨ１２のいずれかの奏する効果に加え、支持手段の変位時における変位が小さい側に動作手段が配置されることから、支持手段が急に停止される等の衝撃が生じた場合に動作手段が受ける衝撃（荷重）を小さくすることができる。
【５４７５】
＜遊技球の流下範囲の正面側に装飾を形成するポイント＞
遊技球が流下する所定の流下領域の正面側に配設され所定の厚みを有する光透過部を備え、前記光透過部は、第１の光の透過率で構成される第１透過率部と、その第１透過率部よりも高い透過率で光を透過する第２透過率部と、を備え、正面視で前記第１透過率部と重なる遊技球の一部は、前記第２透過率部と重なるように構成されることを特徴とする遊技機ＫＩ１。
【５４７６】
パチンコ機等の遊技機において、遊技盤に模様が形成される遊技機がある（例えば、特開２０１１－８３３８１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、流下する遊技球により模様が隠されることで演出効果の妨げとなる可能性があるところ、単純に遊技領域の前側に模様を形成するだけでは、今度は逆に模様により遊技球が隠されてしまい遊技球を見失う事態を生じさせる可能性があることから、遊技球を見失わせることなく演出効果を向上させる観点から改善の余地があるという問題点があった。
【５４７７】
これに対し、遊技機ＫＩ１によれば、遊技球が第１透過率部と重なる場合に、第２透過率部とも重なるように構成されているので、第１透過率部に遊技球が完全に覆われる状況を避けることにより遊技者が遊技球を見失う事態が生じることを避け易くしながら、光透過部の背面側を遊技球が流下する場合と流下しない場合とで視認態様を変化させることにより演出効果を向上させることができる。
【５４７８】
遊技機ＫＩ１において、前記第１透過率部は、所定の記号の少なくとも一部を構成することを特徴とする遊技機ＫＩ２。
【５４７９】
遊技機ＫＩ２によれば、遊技機ＫＩ１の奏する効果に加え、流下領域における遊技球の流下の有無に関わらず、所定の記号による何らかの意味合いを遊技者に認識させることができるので、演出性の向上を図ることができる。

【５４８０】
遊技機ＫＩ２において、前記第１透過率部は、前記所定の記号の輪郭の少なくとも一部を構成することを特徴とする遊技機ＫＩ３。
【５４８１】
遊技機ＫＩ３によれば、遊技機ＫＩ２の奏する効果に加え、所定の記号の識別を容易とさせることができる。
【５４８２】
遊技機ＫＩ１からＫＩ３のいずれかにおいて、前記第１透過率部の、遊技球の流下方向の寸法または遊技球の流下方向に対して交差する方向の寸法の少なくとも一方は、遊技球の直径よりも短くされることを特徴とする遊技機ＫＩ４。
【５４８３】
遊技機ＫＩ４によれば、遊技機ＫＩ１からＫＩ３のいずれかの奏する効果に加え、第１透過率部の設計自由度を向上させることができ、構成される模様の種類を増加させることによる演出効果の向上を図ることができる。
【５４８４】
遊技機ＫＩ４において、前記第１透過率部が前記所定の記号の輪郭の少なくとも一部を構成する場合に、前記輪郭の幅が遊技球の半径未満とされることを特徴とする遊技機ＫＩ５。
【５４８５】
遊技機ＫＩ５によれば、遊技機ＫＩ４の奏する効果に加え、所定の記号の輪郭が複数近接して隣り合うような場合においても、遊技球が輪郭により完全に隠される事態を避けることができる。
【５４８６】
即ち、複数の輪郭が隙間なく並べられる場合には、複数の輪郭の外側において遊技球を視認させることができる一方で、複数の輪郭の間に隙間が生じる場合には、その隙間を通して遊技球を視認させることができる。
【５４８７】
遊技機ＫＩ１からＫＩ５のいずれかにおいて、前記所定の流下領域における遊技球の流下方向は、水平方向成分を有することを特徴とする遊技機ＫＩ６。
【５４８８】
遊技機ＫＩ６によれば、遊技機ＫＩ１からＫＩ５のいずれかの奏する効果に加え、自由落下する遊技球に比較して、所定の流下領域における遊技球の流下速度を遅くすることができるので、光透過部を介して遊技球を視認させる期間を長くすることができる。これにより、第１透過率部および第２透過率部により構成される模様の見え方が変化する状態を長く保ち易くすることができる。
【５４８９】
遊技機ＫＩ１からＫＩ６のいずれかにおいて、前記所定の流下領域は、第１流下領域と、その第１流下領域とは異なる方向に遊技球を流下させる第２流下領域と、を備えることを特徴とする遊技機ＫＩ７。
【５４９０】
遊技機ＫＩ７によれば、遊技機ＫＩ１からＫＩ６のいずれかの奏する効果に加え、遊技球が第１流下領域を流下している場合において光透過部と重なる遊技球が変位する方向と、遊技球が第２流下領域を流下している場合において光透過部と重なる遊技球が変位する方向とが異なることから、光透過部に視認される模様に対する遊技球による影響の変位方向を複数種類生じさせることができるので（模様が動的に変化する状態における光透過部の視認態様を複数種類構成することができるので）、光透過部による演出効果の向上を図ることができる。
【５４９１】
遊技機ＫＩ１からＫＩ７のいずれかにおいて、前記第１透過率部により構成される輪郭の内側に、前記第１透過率部よりも低い透過率で構成される構成部を備えることを特徴と

する遊技機ＫＩ８。
【５４９２】
遊技機ＫＩ８によれば、遊技機ＫＩ１からＫＩ７のいずれかの奏する効果に加え、構成部を配置することにより、第１透過率部を通して視認される光の視認性を相対的に向上させることができ、構成部の識別性を向上させることができる。
【５４９３】
遊技機ＫＩ１からＫＩ８のいずれかにおいて、前記光透過部の前方に向けて光を照射する光照射装置を備え、前記光透過部を透過した前記光照射装置から照射される光により視認される模様を変更可能に構成されることを特徴とする遊技機ＫＩ９。
【５４９４】
遊技機ＫＩ９によれば、遊技機ＫＩ１からＫＩ８のいずれかの奏する効果に加え、光透過部を透過した光照射装置から照射される光により視認される模様が変更可能に構成されることにより、光透過部による演出効果を向上させることができる。
【５４９５】
遊技機ＫＩ９において、遊技球が前記光照射装置から照射される光により前記第２透過率部に影を映しながら流下する場合があることを特徴とする遊技機ＫＩ１０。
【５４９６】
遊技機ＫＩ１０によれば、遊技機ＫＩ９の奏する効果に加え、光照射装置から光が照射されることにより第２透過率部に映される遊技球の影を濃くすることができ、遊技者が遊技球を見失う事態を避け易くすることができる。
【５４９７】
遊技機ＫＩ１からＫＩ１０のいずれかにおいて、正面視で前記所定の流下領域と重ならない所定範囲に配設される補助部を備え、その補助部により形成される模様は、前記第１透過率部により形成される模様と一連の視認態様で視認され得ることを特徴とする遊技機ＫＩ１１。
【５４９８】
遊技機ＫＩ１１によれば、遊技機ＫＩ１からＫＩ１０のいずれかの奏する効果に加え、第１透過率部と一連の視認態様で視認さ得る補助部により演出効果を向上させることができると共に、遊技球の流下によらず補助部の視認性を高く維持することができる。
【５４９９】
＜変位手段に光を照射する照射手段を備えるポイント＞
所定の領域を開閉可能な開閉部材と、その開閉部材の所定面側の領域を照らし得る光を照射可能な照射手段と、前記所定面側を変位可能な変位手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＫＪ１。
【５５００】
パチンコ機等の遊技機において、開閉部材を備える遊技機がある（例えば、特開２００７－９８０２７号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、閉じた状態における開閉部材に対して背面側の表示装置から光が照射されることで開閉部材の視認態様が変化し得るところ、開閉部材の正面側を変位する他の部材があるわけではなく、開閉部材の視認態様のバリエーションが少ないことから、開閉部材の視認態様に改善の余地があるという問題点があった。
【５５０１】
これに対し、遊技機ＫＪ１によれば、照射手段から光が照射される所定の開閉部材の所定面側において変位可能な変位手段を備えるので、変位手段が開閉部材と重なって視認される状態と、変位手段が開閉部材と重ならずに視認される状態とを構成できることから、開閉部材の視認態様のバリエーションを増加させることができ、開閉部材の視認態様を改善することができる。
【５５０２】
遊技機ＫＪ１において、前記変位手段は、所定の直線に沿う方向で変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＫＪ２。

【５５０３】
遊技機ＫＪ２によれば、遊技機ＫＪ１の奏する効果に加え、変位手段の変位を予測し易くすることで、変位手段を視認する遊技者の遊技負担を軽減することができる。
【５５０４】
遊技機ＫＪ１又はＫＪ２において、前記変位手段と前記開閉部材とが連動され得ることを特徴とする遊技機ＫＪ３。
【５５０５】
遊技機ＫＪ３によれば、遊技機ＫＪ１又はＫＪ２の奏する効果に加え、開閉部材の変位と変位手段の変位とを、独立したものではなく、互いに関連し合うものとして遊技者に視認させることができることから、開閉部材の視認態様の改善を図ることができる。
【５５０６】
遊技機ＫＪ１からＫＪ３のいずれかにおいて、前記開閉部材が開閉移動されることに基づいて、前記照射手段から照射される光の視認態様が変化されることを特徴とする遊技機ＫＪ４。
【５５０７】
遊技機ＫＪ４によれば、遊技機ＫＪ１からＫＪ３のいずれかの奏する効果に加え、開閉部材の開閉移動と、照射手段から照射される光の視認態様の変化とを関連づけることにより、遊技者が開閉部材の開閉移動に気付き易い状態を構成することができる。
【５５０８】
遊技機ＫＪ１からＫＪ４のいずれかにおいて、前記変位手段の変位の方向が変化されることに基づいて、前記照射手段から照射される光の視認態様が変化されることを特徴とする遊技機ＫＪ５。
【５５０９】
遊技機ＫＪ５によれば、遊技機ＫＪ１からＫＪ４のいずれかの奏する効果に加え、変位手段の変位の方向の変化と、照射手段から照射される光の視認態様の変化とを関連づけることにより、遊技者が変位手段の変位の方向の変化に気付き易い状態を構成することができる。
【５５１０】
遊技機ＫＪ１からＫＪ５のいずれかにおいて、前記開閉部材を閉鎖状態から開放状態に変化させる方向の荷重に対する抵抗を生じさせる抵抗発生手段を備えることを特徴とする遊技機ＫＪ６。
【５５１１】
遊技機ＫＪ６によれば、遊技機ＫＪ１からＫＪ５のいずれかの奏する効果に加え、開閉部材に予期せぬ荷重がかけられたとしても開閉部材を閉鎖状態で維持し易くすることができるので、開閉部材の視認態様が予期せず変化されることを回避し易くすることができる。
【５５１２】
遊技機ＫＪ１からＫＪ６のいずれかにおいて、前記変位手段が所定位置を所定方向に通過可能な第１状態と、前記変位手段が前記所定位置を前記所定方向に通過不能な第２状態と、を構成し得る切替手段を備えることを特徴とする遊技機ＫＪ７。
【５５１３】
遊技機ＫＪ７によれば、遊技機ＫＪ１からＫＪ６のいずれかの奏する効果に加え、切替手段の状態を視認することで、変位手段の変位を予想させることができる。これにより、切替手段に対する注目力を向上させることができる。
【５５１４】
遊技機ＫＪ７において、前記切替手段の状態変化は、前記所定方向に通過する前記変位手段が到達する前に生じるよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＪ８。
【５５１５】
遊技機ＫＪ８によれば、遊技機ＫＪ７の奏する効果に加え、変位手段が所定位置に到達する前から切替手段の状態変化を把握させることができるので、切替手段の注目力を長期

間に亘り向上させることができる。
【５５１６】
遊技機ＫＪ１からＫＪ８のいずれかにおいて、前記変位手段の変位の方向を、第１の方向から、その第１の方向に対して交差する第２の方向に変化させる方向変化手段を備えることを特徴とする遊技機ＫＪ９。
【５５１７】
遊技機ＫＪ９によれば、遊技機ＫＪ１からＫＪ８のいずれかの奏する効果に加え、方向変化手段により変位手段の変位の方向をずらし得るので、変位手段の変位の方向が一定とされる場合に比較して、変位手段の視認態様のバリエーションを増やすことができる。
【５５１８】
遊技機ＫＪ９において、前記方向変化手段は変位手段を挟むようにして両側に配設されることを特徴とする遊技機ＫＪ１０。
【５５１９】
遊技機ＫＪ１０によれば、遊技機ＫＪ９の奏する効果に加え、方向変化手段が変位手段に両側から作用することにより、方向変化手段による変位手段の変位の方向の変化を複数態様で生じさせることができる。
【５５２０】
遊技機ＫＪ１０において、前記両側に配置される前記方向変化手段は、変位手段に対して交互に作用することを特徴とする遊技機ＫＪ１１。
【５５２１】
遊技機ＫＪ１１によれば、遊技機ＫＪ１０の奏する効果に加え、方向変化手段が変位手段に作用するタイミングがずらされることにより、方向変化手段による変位手段の変位の方向の変化が高頻度で生じるようにすることができる。
【５５２２】
＜上側装飾ユニットＨ１４ａの第１連通路Ｈ３００Ｃを一例とする発明の概念について＞
音声を出力可能に構成される第１音声出力手段および第２音声出力手段と、前記第１音声出力手段が配設される第１配設空間および前記第２音声出力手段が配設される第２配設空間と、を備えた遊技機において、前記第１配設空間と前記第２配設空間とを連通可能に形成される連通空間を備えることを特徴とする遊技機ＸＡ１。
【５５２３】
音声を出力可能な複数の音声出力手段を備えた遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。
【５５２４】
しかしながら、上述した遊技機では、音声の出力の態様に関し、改善の余地があった。
【５５２５】
即ち、遊技者からみて左右に所定の間隔を隔てて配設される第１音声出力手段と第２音声出力手段とを備えた遊技機において、第１音声出力手段または第２音声出力手段の一方が故障した場合、一方からのみ音声が出力され、他方から音声が出力されない態様となり、遊技者に違和感を与える虞がある。
【５５２６】
本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、音声の出力の態様を改善できる遊技機を提供することを目的とする。
【５５２７】
遊技機ＸＡ１によれば、音声の出力の態様を改善できる。
【５５２８】
即ち、第１配設空間と第２配設空間とを連通可能に形成される連通空間を備えるので、第１音声出力手段（第２音声出力手段）から出力される音声を、連通空間を介して、第２配設空間（第１配設空間）へ導くことができる。よって、例えば、第２音声出力手段の故障時において、第１配設空間に加え、第２配設空間からも音声を出力できる。その結果、

遊技者の違和感を抑制できる。
【５５２９】
遊技機ＸＡ１において、前記第１配設空間および前記第２配設空間は、前記遊技機の正面側に形成される一又は複数の第１開口部をそれぞれ備え、
前記連通空間は、前記第１音声出力手段および前記第２音声出力手段よりも前記第１開口部側となる位置において、前記第１配設空間と前記第２配設空間とを連通可能に形成されることを特徴とする遊技機ＸＡ２。
【５５３０】
遊技機ＸＡ２によれば、遊技機ＸＡ１の奏する効果に加え、音声の出力の態様を改善できる。
【５５３１】
即ち、連通空間は、第１音声出力手段および第２音声出力手段よりも第１配設空間および第２配設空間の開口部側となる位置において、第１配設空間と第２配設空間とを連通可能に形成されるので、第１配設空間または第２配設空間から連通空間を介して第２配設空間または第１配設空間へ導かれる音声として、遊技者が聞き取りやすい音声（周波数帯）を導きやすくできる。よって、例えば、第２音声出力手段の故障時において、遊技者の違和感を抑制できる。
【５５３２】
遊技機ＸＡ２において、前記連通空間は、一又は複数の第２開口部を備えることを特徴とする遊技機ＸＡ３。
【５５３３】
遊技機ＸＡ３によれば、遊技機ＸＡ２の奏する効果に加え、音声の出力の態様を改善できる。
【５５３４】
即ち、連通空間は、一又は複数の第２開口部を備えるので、第２開口部からも音声を出力できる。その結果、音声による演出効果を高めることができる。
【５５３５】
遊技機ＸＡ３において、液晶表示手段を備え、前記第２開口部は、前記遊技機の正面視において、前記第１音声出力手段と前記液晶表示手段との間となる位置、又は、前記第２音声出力手段と前記液晶表示手段との間となる位置の少なくとも一方に形成されることを特徴とする遊技機ＸＡ４。
【５５３６】
遊技機ＸＡ４によれば、遊技機ＸＡ３の奏する効果に加え、音声の出力の態様を改善できる。
【５５３７】
即ち、第２開口部は、遊技機の正面視において、第１音声出力手段と液晶表示手段との間となる位置、又は、第２音声出力手段と液晶表示手段との間となる位置の少なくとも一方に形成されるので、第２開口部から出力される音声と液晶表示装置の表示による演出とを遊技者に関連付けやすくできる。その結果、演出効果を高めることができる。
【５５３８】
遊技機ＸＡ１からＸＡ４のいずれかにおいて、前記第１配設空間および前記第２配設空間のそれぞれを、前記第１音声出力手段および前記第２音声出力手段よりも前記第１開口部側となる正面側配設空間と前記第１音声出力手段および前記第２音声出力手段よりも前記第１開口部と反対側となる背面側配設空間とに区画する区画手段を備えることを特徴とする遊技機ＸＡ５。
【５５３９】
遊技機ＸＡ５によれば、遊技機ＸＡ１からＸＡ４のいずれかの奏する効果に加え、音声の出力の態様を改善できる。
【５５４０】
即ち、第１配設空間および第２配設空間のそれぞれを、第１音声出力手段および第２音

声出力手段よりも第１開口部側となる正面側配設空間と第１音声出力手段および第２音声出力手段よりも第１開口部と反対側となる背面側配設空間とに区画する区画手段を備えるので、正面側配設空間における比較的高周波の音声と背面側配設空間における比較的低周波の音声とが重なり合い、前者の音声により後者の音声が打ち消されることを抑制できる。

【５５４１】

遊技機ＸＡ１からＸＡ５のいずれかにおいて、変位可能に構成される変位手段を備え、前記変位手段は、前記連通空間の少なくとも一部を区画可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＡ６。

【５５４２】

遊技機ＸＡ６によれば、遊技機ＸＡ１からＸＡ５のいずれかの奏する効果に加え、音声の出力の態様を改善できる。

【５５４３】

即ち、変位可能に構成される変位手段を備え、変位手段は、連通空間の少なくとも一部を区画可能に構成されるので、変位手段の変位により連通空間の形態を変化させることができる。これにより、第１音声出力手段（第２音声出力手段）から出力される音声が、連通空間を介して、第２配設空間（第１配設空間）へ導かれる際の態様を変位手段の変位に応じて変化させることができる。即ち、第２配設空間（第１配設空間）から出力される音声の態様を変位手段の変位に応じて変化させることができる。その結果、音声による演出効果を高めることができる。

【５５４４】

遊技機ＸＡ６において、前記連通空間は、一又は複数の第２開口部を備え、一又は複数の前記第２開口部の大きさが前記変位手段の変位により変化可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＡ７。

【５５４５】

遊技機ＸＡ７によれば、遊技機ＸＡ６の奏する効果に加え、音声の出力の態様を改善できる。

【５５４６】

即ち、連通空間は、一又は複数の第２開口部を備え、一又は複数の第２開口部の大きさが変位手段の変位により変化可能に構成されるので、変位手段の変位により第２開口部の大きさを変化させることができる。これにより、第２開口部から出力される音声の態様を変位手段の変位に応じて変化させることができる。その結果、音声による演出効果を高めることができる。

【５５４７】

遊技機ＸＡ７において、前記変位手段が所定位置に変位された状態では、前記連通空間が開放されることを特徴とする遊技機ＸＡ８。

【５５４８】

遊技機ＸＡ８によれば、遊技機ＸＡ７の奏する効果に加え、音声の出力の態様を改善できる。

【５５４９】

即ち、変位手段が所定位置に変位された状態では、連通空間が開放されるので、第１配設空間または第２配設空間から連通空間に導かれた音声の出力方向を広くできる。即ち、指向性（音の放射角度）を小さくできる。その結果、音声による演出効果を高めることができる。

【５５５０】

なお、連通空間の開放とは、第２開口部の大きさ（開口面積）が、最小の大きさ（最小の開口面積）の３倍以上とされることをいう。

【５５５１】

遊技機ＸＡ６からＸＡ８のいずれかにおいて、遊技者により操作可能に構成される操作手段を備え、前記操作手段が操作された場合に前記変位手段が変位可能に構成されること

を特徴とする遊技機ＸＡ９。
【５５５２】
遊技機ＸＡ９によれば、遊技機ＸＡ６からＸＡ８のいずれかの奏する効果に加え、音声の出力の態様を改善できる。
【５５５３】
即ち、操作手段が操作された場合に変位手段が変位可能に構成されるので、出力される音声の態様が変化されるタイミングを操作手段の操作と関係付けることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【５５５４】
＜上下皿ユニットＨ１５の突出部Ｈ５８３を一例とする発明の概念について＞
正面視略矩形に形成される前扉手段を備えた遊技機において、前記前扉手段の長手方向一側の面から突出可能に形成される突出手段を備え、前記突出手段の突出位置は、前記前扉手段の長手方向一側の面における短手方向中央よりも前記前扉手段の正面側または背面側とされることを特徴とする遊技機ＸＢ１。
【５５５５】
正面視略矩形に形成される前扉手段を備えた遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。
【５５５６】
しかしながら、上述した遊技機では、前扉手段に関し、改善の余地があった。
【５５５７】
即ち、工場での製造工程やホールでの設置・点検作業において、前扉手段の長手方向一側（上方または下方）の面を床面に載置して前扉手段を一時的に自立させる（仮置きする）ことがあるところ、前扉手段の長手方向一側の面の全面が平坦面とされる構成では、床面に凹凸があると、その凹凸の影響を受けて前扉手段の姿勢が安定せず、前扉手段が倒れる虞があった。
【５５５８】
なお、前扉手段の正面（遊技者側の面）又は背面を床面に載置することは、正面側のガラスや装飾手段（部材）または背面側の電気的構成に破損や傷が生じる虞があるため、行うことができないだけでなく、載置するためのスペースが嵩む。そのため、工場での製造工程やホールでの設置・点検作業においては、載置するためのスペースを最小とするために、前扉手段の長手方向一側（上方または下方）の面を床面に載置される。
【５５５９】
本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、前扉手段を改善できる遊技機を提供することを目的とする。
【５５６０】
遊技機ＸＢ１によれば、前扉手段を改善できる。
【５５６１】
即ち、前扉手段の長手方向一側の面から突出可能に形成される突出手段を備え、突出手段の突出位置は、前扉手段の長手方向一側の面における短手方向中央よりも前記前扉手段の正面側または背面側とされるので、前扉手段の長手方向一側の面における前扉手段の背面側または正面側の外縁と突出手段とを床面に当接させて、前扉手段を自立させることができる。これにより、前扉手段の長手方向一側の面の全面が平坦面とされる構成と比較して、床面の凹凸の影響を受け難くでき、前扉手段の自立時の姿勢を安定させることができる。よって、前扉手段を倒れ難くできる。
【５５６２】
遊技機ＸＢ１において、前記突出手段の突出位置は、前記前扉手段の長手方向一側の面における短手方向中央よりも前記前扉手段の正面側とされることを特徴とする遊技機ＸＢ２。
【５５６３】
遊技機ＸＢ２によれば、遊技機ＸＢ１の奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。

【５５６４】
即ち、前扉手段は、その重心が正面側に偏って位置するところ、突出手段の突出位置は、前扉手段の長手方向一側の面における短手方向中央よりも前扉手段の正面側とされるので、前扉手段の自立時における重心の偏りを抑制できる。よって、前扉手段の自立時の姿勢を安定させ、前扉手段を倒れ難くできる。
【５５６５】
遊技機ＸＢ２において、前記突出手段の突出位置は、前記前扉手段の長手方向一側の面における前記前扉手段の正面側の外縁との間に間隔を隔てた位置とされることを特徴とする遊技機ＸＢ３。
【５５６６】
遊技機ＸＢ３によれば、遊技機ＸＢ２の奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。
【５５６７】
即ち、突出手段の突出位置は、前扉手段の長手方向一側の面における前扉手段の正面側の外縁との間に間隔を隔てた位置とされるので、自立時の前扉手段を作業者が持ち上げる場合に、前扉手段の長手方向一側の面と床面との間に指を差し入れて、突出手段よりも前扉手段の正面側の部分に指をかけることができる。また、突出手段の突出位置が前扉手段の長手方向一側の面における前扉手段の正面側の外縁と接する位置（即ち、外縁と間隔を隔てない位置）とされる場合と比較して、突出手段の突出高さを低くすることができると共に突出手段の突出位置を遊技者から見え難い位置とできる。
【５５６８】
遊技機ＸＢ１において、前記前扉手段の正面視において、前記前扉手段の幅寸法よりも前記突出手段の幅寸法が小さくされることを特徴とする遊技機ＸＢ２。
【５５６９】
遊技機ＸＢ２によれば、遊技機ＸＢ１の奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。
【５５７０】
即ち、前扉手段の正面視において、前扉手段の幅寸法よりも突出手段の幅寸法が小さくされるので、突出手段が床面に当接される面積を抑制して、床面の凹凸の影響を受け難くできる。よって、前扉手段の自立時の姿勢を安定させ、前扉手段を倒れ難くできる。
【５５７１】
遊技機ＸＢ１からＸＢ４のいずれかにおいて、遊技球を貯留可能な貯留手段と、前記貯留手段へ遊技球を流入させる流入口手段と、前記貯留手段に貯留された遊技球を前記前扉手段の長手方向一側の面から流出させる流出口手段と、を備え、前記突出手段の少なくとも一部は、前記前扉手段の正面視において、前記流出口手段に対して前記流入口手段と反対側に位置されることを特徴とする遊技機ＸＢ５。
【５５７２】
遊技機ＸＢ５によれば、遊技機ＸＢ１からＸＢ４のいずれかの奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。
【５５７３】
即ち、突出手段の少なくとも一部は、前扉手段の正面視において、流出口手段に対して流入口手段と反対側に位置されるので、貯留手段の遊技球を流出口手段から流出させる際に、遊技球を突出手段に当接させることができる。これにより、遊技球が飛び散ることを抑制できる。
【５５７４】
遊技機ＸＢ５において、前記突出手段の突出位置は、前記前扉手段の長手方向一側の面における短手方向中央よりも前記前扉手段の正面側とされ、前記突出手段は、前記前扉手段の長手方向一側の面の正面視において、前記前扉手段の背面側が凹となる湾曲形状の湾曲部を複数連結した形状に形成されることを特徴とする遊技機ＸＢ６。
【５５７５】
遊技機ＸＢ６によれば、遊技機ＸＢ５の奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。
【５５７６】

即ち、突出手段は、前扉手段の長手方向一側の面の正面視において、前扉手段の背面側が凹となる湾曲形状の湾曲部を複数連結した形状に形成されるので、突出手段（湾曲部の凹）に手指をかけやすくできる。また、流出口手段から流出され突出手段に当接された遊技球の跳ね返り方向を分散させることができる。これにより、流出口手段から千両箱へ流出された遊技球が千両箱の一か所（所定箇所）に集中することを抑制できる。

【５５７７】

遊技機ＸＢ６において、前記前扉手段の長手方向一側の面と前記突出手段の側面とを連結するリブを備えることを特徴とする遊技機ＸＢ７。

【５５７８】

遊技機ＸＢ７によれば、遊技機ＸＢ６の奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。

【５５７９】

即ち、前扉手段の長手方向一側の面と突出手段の側面とを連結するリブを備えるので、突出手段の強度を確保して、突出手段の破損を抑制できる。

【５５８０】

遊技機ＸＢ７において、前記リブは、前記湾曲部の凹となる側の側面であって、前記湾曲部同士が連結される部位に位置されることを特徴とする遊技機ＸＢ８。

【５５８１】

遊技機ＸＢ８によれば、遊技機ＸＢ７の奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。

【５５８２】

即ち、リブは、湾曲部の凹となる側の側面であって、湾曲部同士が連結される部位に位置されるので、突出手段（湾曲部の凹）にかけた手指が滑ることをリブにより抑制できる。

【５５８３】

遊技機ＸＢ１からＸＢ８のいずれかにおいて、前記前扉手段の長手方向一側の面からの前記突出手段の突出高さが変更可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＢ９。

【５５８４】

遊技機ＸＢ９によれば、遊技機ＸＢ１からＸＢ８のいずれかの奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。

【５５８５】

即ち、前扉手段の長手方向一側の面からの突出手段の突出高さが変更可能に構成されるので、突出手段の突出が不要の場合には、突出手段の突出高さを低くできる。よって、突出手段が遊技の邪魔になることや遊技機の外観が悪化することを抑制できる。

【５５８６】

なお、突出手段の突出高さを変更する構成は、遊技者や作業者による操作により行われる構成であっても良く、駆動手段（モータ等のアクチュエータ）の駆動力により行われる構造であっても良い。遊技者等の操作により行われる構成は、遊技者等が突出手段を直接操作する構成するであっても良く、突出手段とは別の操作手段を遊技者等が操作した場合に、操作手段の操作（変位）が直接または間接的に突出手段に伝達され、突出手段の突出高さが変更される構成であっても良い。

【５５８７】

また、突出手段の突出高さが変更されるタイミングは任意であり、所定の遊技状態が発生した場合に、制御により自動で（即ち、遊技者の操作とは無関係に）突出手段の突出高さが変更可能とされる構成であっても良い。

【５５８８】

遊技機ＸＢ９において、前記前扉手段の長手方向一側の面から前記突出手段が非突出とされる状態を形成可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＢ１０。

【５５８９】

遊技機ＸＢ１０によれば、遊技機ＸＢ９の奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。

【５５９０】

即ち、前扉手段の長手方向一側の面から突出手段が非突出とされる状態を形成可能に構

成されるので、突出手段が遊技の邪魔になることや遊技機の外観が悪化することをより確実に抑制できる。

【５５９１】

遊技機ＸＢ９又はＸＢ１０において、遊技者により操作可能に構成される操作手段を備え、前記操作手段が操作された場合に前記突出手段の突出高さが変更可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＢ１１。

【５５９２】

遊技機ＸＢ１１によれば、遊技機ＸＢ９又はＸＢ１０の奏する効果に加え、前扉手段を改善できる。

【５５９３】

即ち、操作手段が操作された場合に突出手段の突出高さが変更可能に構成されるので、突出手段の達出高さを任意のタイミングで変更することができる。

【５５９４】

例えば、流出口手段（球抜き孔）を開閉するための操作手段（球抜きレバー）が操作された場合に、その操作に連動して突出手段の突出高さが変更可能に構成される場合には、操作手段（球抜きレバー）が非操作とされ流出口手段（球抜き孔）が閉じた状態では、突出手段の突出高さが第１の高さとされ、操作手段（球抜きレバー）が操作され流出口手段（球抜き孔）が開いた状態では、突出手段の突出高さが第１の高さと異なる高さの第２の高さに変更される構成としても良い。これにより、前扉手段を自立させるのに適した高さ（重心位置を適切な位置に配置できる高さ）と、流出口手段から遊技球を流出させるのに適した高さ（遊技球を跳ね返しやすい高さ、千両箱を出し入れしやすい高さ）とを適宜設定できる。第１の高さと第２の高さはどちらが大きな寸法であっても良い。

【５５９５】

なお、操作手段の操作を検出する検出手段（センサ）と、駆動力を発生する駆動手段（アクチュエータ）と、その駆動手段の駆動力を突出手段に伝達する伝達手段（歯車やリンク等）とを配設し、検出手段により操作手段の操作が検出された場合に、駆動手段を駆動させ、駆動力を伝達手段により突出手段に伝達させることで、突出手段の突出高さを変更するように構成しても良い。

【５５９６】

＜上下皿ユニットＨ１５の連結部Ｈ５５５を一例とする発明の概念について＞

遊技者により操作可能に構成される操作手段を備えた遊技機において、第１手段と、前記第１手段との間に間隔を隔てて位置する第２手段と、前記第２手段から突出され、前記第１手段および前記第２手段の対向間に位置する突出手段と、を備え、前記第１手段および前記第２手段の対向間には前記操作手段の少なくとも一部が位置し、前記操作手段は、前記第１手段に配設され、前記遊技者による前記操作手段の操作は、少なくとも第１方向へ向けた操作が可能とされ、前記突出手段は、前記操作手段の前記第１方向側の部位に当接可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＣ１。

【５５９７】

遊技者により操作可能に構成される操作手段を備えた遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。

【５５９８】

しかしながら、上述した遊技機では、操作手段を支持する構造に関し、改善の余地があった。

【５５９９】

即ち、遊技者により操作される操作手段には、操作に伴う外力が作用されるため、操作手段またはその操作手段を支持する手段に破損が生じやすいという問題点があった。

【５６００】

本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、操作手段を支持する構造を改善できる遊技機を提供することを目的とする。

【５６０１】

遊技機ＸＣ１によれば、操作手段を支持する構造を改善できる。

【５６０２】

即ち、第１手段と、第１手段との間に間隔を隔てて位置する第２手段と、第２手段から突出され、第１手段および第２手段の対向間に位置する突出手段と、を備え、第１手段および第２手段の対向間には操作手段の少なくとも一部が位置し、操作手段は、第１手段に配設され、遊技者による操作手段の操作は、少なくとも第１方向へ向けた操作が可能とされ、突出手段は、操作手段の第１方向側の部位に当接可能に構成されるので、操作手段の操作に伴い作用される第１方向への外力が所定の範囲内である場合には、操作手段を突出手段により支持させることができる。これにより、操作手段がぐらつかないように姿勢を安定させ、操作手段の操作感を向上できる。一方、上記第１方向への外力が所定の範囲を超える場合は、突出手段を弾性変形させて、外力を逃がす（外力を第１手段と第２手段とに分散させる）ことができる。これにより、操作手段およびその操作手段を支持する手段（第１手段および第２手段、突出手段）の破損を抑制できる。

【５６０３】

なお、突出手段は、操作手段の第１方向側の部位に当接可能に構成され、突出手段と操作手段とは非固定（相対変位可能）であるので、突出手段が拘束されず、突出手段が操作手段に対して摺動できる。よって、突出手段の弾性変形性を確保して、上記第１方向への外力を逃がしやすくできる。

【５６０４】

遊技機ＸＣ１において、前記第２手段が前記遊技機の正面側に配設されることを特徴とする遊技機ＸＣ２。

【５６０５】

遊技機ＸＣ２によれば、遊技機ＸＣ１の奏する効果に加え、操作手段を支持する構造を改善できる。

【５６０６】

即ち、上記第１方向への外力が所定の範囲を超える場合、第２手段側では、主に突出手段が弾性変形されるのに対し、第１手段側では、突出手段の弾性変形に伴う操作手段の第１方向への変位に伴って、第１手段も弾性変形されやすい。このように、第２手段の弾性変形は、第１手段の弾性変形よりも抑制されるので、第２手段が遊技機の正面側に配設されることで、操作手段が操作される際に遊技機の外観が悪化する（例えば、第２手段が変位して、第２手段と他の手段（部材）との境界に隙間が形成される）ことを抑制できる。

【５６０７】

遊技機ＸＣ１又はＸＣ２において、前記第１手段から突出され、前記突出手段の前記第１方向側の部位との間に所定の間隔を隔てて位置する第２突出手段を備え、前記突出手段の前記第１方向側の部位が前記第２突出手段に当接可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＣ３。

【５６０８】

遊技機ＸＣ３によれば、遊技機ＸＣ１又はＸＣ２の奏する効果に加え、操作手段を支持する構造を改善できる。

【５６０９】

即ち、第１手段から突出され、突出手段の第１方向側の部位との間に所定の間隔を隔てて位置する第２突出手段を備え、突出手段の第１方向側の部位が第２突出手段に当接可能に構成されるので、上記第１方向への外力が所定の範囲を超え、突出手段を弾性変形させる場合に、初期段階（突出手段の第１方向側の部位と第２突出手段との間に間隔が形成されている間）は、第２突出手段が突出手段の弾性変形を阻害せず、突出手段の弾性変形性を確保できる一方、より大きな外力が上記第１方向へ入力された場合には、突出手段の第１方向側の部位を第２突出手段に当接させ、突出手段の弾性変形を抑制することができる。これにより、操作手段およびその操作手段を支持する手段（第１手段および第２手段、突出手段）だけでなく、突出手段の破損を抑制できる。

【５６１０】

なお、第２突出手段は、突出手段の第１方向側の部位に当接可能に構成され、突出手段と第２突出手段とは非固定（相対変位可能）であるので、突出手段が拘束されず、突出手段が第２突出手段に対して摺動できる。よって、突出手段および第２突出手段の弾性変形性を確保できる。これにより、突出手段が第２突出手段に当接した際に、突出手段と第２突出手段との間で作用する反力が急激に増加することを抑制でき、突出手段および第２突出手段の破損を抑制できる。

【５６１１】

遊技機ＸＣ３において、前記突出手段は、位置決め手段を備え、前記第２突出手段は、前記位置決め手段によって所定位置に位置決めされる被位置決め手段を備えることを特徴とする遊技機ＸＣ４。

【５６１２】

遊技機ＸＣ４によれば、遊技機ＸＣ３の奏する効果に加え、操作手段を支持する構造を改善できる。

【５６１３】

即ち、突出手段は、位置決め手段を備え、第２突出手段は、位置決め手段によって所定位置に位置決めされる被位置決め手段を備えるので、第１手段および第２手段の一方を他方に組み付ける作業において、位置決め手段と被位置決め手段とによって第１手段と第２手段とを位置決めすることができる。これにより、例えば、ねじによる締結作業を容易として、組付け作業を効率化できる。

【５６１４】

遊技機ＸＣ３又はＸＣ４において、前記突出手段は、係合手段を備え、前記第２突出手段は、前記係合手段に係合可能に構成される被係合手段を備え、前記係合手段と前記被係合手段とが係合した状態において、前記突出手段と前記第２突出手段とが相対変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＣ５。

【５６１５】

遊技機ＸＣ５によれば、遊技機ＸＣ３又はＸＣ４の奏する効果に加え、操作手段を支持する構造を改善できる。

【５６１６】

即ち、突出手段は、係合手段を備え、第２突出手段は、係合手段に係合可能に構成される被係合手段を備えるので、第１手段および第２手段の一方を他方に組み付ける作業において、係合手段と被係合手段との係合によって、第１手段および第２手段を仮固定できる。これにより、例えば、ねじによる締結作業を容易として、組付け作業を効率化できる。

【５６１７】

この場合、係合手段と被係合手段とが係合した状態において、突出手段と第２突出手段とが相対変位可能に構成されるので、突出手段および第２突出手段が拘束されず、それら突出手段および第２突出手段の弾性変形性を確保できる。よって、上記第１方向への外力を逃がしやすくできると共に、突出手段と第２突出手段との間で作用する反力の急激な増加を抑制して、突出手段および第２突出手段の破損を抑制できる。

【５６１８】

遊技機ＸＣ５において、前記係合手段および前記被係合手段は、前記第１手段および前記第２手段の対向間隔が大きくなる方向に前記第１手段または前記第２手段が変位されることを規制可能となるように係合可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＣ６。

【５６１９】

遊技機ＸＣ６によれば、遊技機ＸＣ５の奏する効果に加え、操作手段を支持する構造を改善できる。

【５６２０】

即ち、係合手段および被係合手段は、第１手段および第２手段の対向間隔が大きくなる方向に第１手段または第２手段が変位されることを規制可能となるように係合可能に構成されるので、第１手段または第２手段がそれらの対向間隔を大きくする方向に変位される不正（例えば、第１手段または第２手段の上記方向への変位により隙間を形成し、その隙

間から異物を挿入する不正）を抑制できる。
【５６２１】
なお、突出手段が第２手段から突出され、操作手段が第１手段に配設される、即ち、突出手段と第１手段とが非固定とされ、操作手段と第２手段とが非固定とされるため、第１手段または第２手段がそれらの対向間隔を大きくする方向へ変位されやすい。よって、遊技機ＸＣ６の構成が特に有効となる。
【５６２２】
遊技機ＸＣ５又はＸＣ６において、前記突出手段は、位置決め手段を備え、前記第２突出手段は、前記位置決め手段によって所定位置に位置決めされる被位置決め手段を備え、前記係合手段および前記被係合手段は、前記位置決め部により前記被位置決め部が位置決めされた状態で係合可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＣ７。
【５６２３】
遊技機ＸＣ７によれば、遊技機ＸＣ５又はＸＣ６の奏する効果に加え、操作手段を支持する構造を改善できる。
【５６２４】
即ち、係合手段および被係合手段は、位置決め部により被位置決め部が位置決めされた状態で係合可能に構成されるので、係合手段および被係合手段の係合を容易に行うことができる。
【５６２５】
遊技機ＸＣ５からＸＣ６のいずれかにおいて、前記被係合手段は、前記係合手段よりも前記第１方向側に位置することを特徴とする遊技機ＸＣ８。
【５６２６】
遊技機ＸＣ８によれば、遊技機ＸＣ５からＸＣ６のいずれかの奏する効果に加え、操作手段を支持する構造を改善できる。
【５６２７】
即ち、被係合手段は、係合手段よりも第１方向側に位置するので、操作手段の操作に伴い作用される第１方向への外力により突出手段が第１方向へ弾性変形された状態において、係合手段および被係合手段の係合を維持しやすくできる。よって、操作手段を第１方向へ変位させ、突出手段を弾性変形させることで、係合手段および被係合手段の係合を解除する不正を抑制できる。
【５６２８】
なお、突出手段は、操作手段の第１方向側の部位に当接可能に構成されるものであり、操作手段に固定されていないため、操作手段を第１方向と反対方向へ変位させても、突出手段は変位（弾性変形）されない。よって、操作手段を第１方向と反対方向へ変位させても、係合手段および被係合手段の係合に影響はなく、かかる係合が維持される。
【５６２９】
遊技機ＸＣ８において、前記突出手段の前記第２手段側の基端は、前記係合手段および前記被係合手段よりも前記第１方向側に位置することを特徴とする遊技機ＸＣ９。
【５６３０】
遊技機ＸＣ９によれば、遊技機ＸＣ８の奏する効果に加え、操作手段を支持する構造を改善できる。
【５６３１】
即ち、突出手段の第２手段側の基端は、係合手段および被係合手段よりも第１方向側に位置するので、上記第１方向への外力により突出手段が弾性変形される場合の係合手段の変位の方向を、被係合手段との間の間隔が大きくなる方向とできる。これにより、初期（突出手段が弾性変形される前）における係合手段と被係合手段との間の間隔を小さくして、第１手段または第２手段がそれらの対向間隔を大きくする方向に変位される不正（例えば、第１手段または第２手段の上記方向への変位により隙間を形成し、その隙間から異物を挿入する不正）を抑制できる一方、上記第１方向の外力により突出手段が弾性変形される場合に係合手段と被係合手段とが干渉（係合）して、突出手段の第２突出手段に対する

相対変位（突出手段の弾性変形）が規制（阻害）されることを抑制できる。
【５６３２】
＜右側装飾ユニットＨ１４ｃの屈曲部Ｈ４５２を一例とする発明の概念について＞
第１手段と、前記第１手段に隣り合って配設される第２手段とを備えた遊技機において、前記第１手段の縁部と前記第２手段の縁部との境界における重力方向下方に位置し、前記第１手段に配設される配設手段を備えることを特徴とする遊技機ＸＤ１。
【５６３３】
第１手段と、前記第１手段に隣り合わせて配設される第２手段とを備えた遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。
【５６３４】
しかしながら、上述した遊技機では、第１手段と前記第２手段とが隣り合って配設される構造に改善の余地があった。
【５６３５】
即ち、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造では、第１手段および第２手段の寸法公差や組付け公差に起因して、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界に隙間が形成される虞がある。また、第１手段または第２手段の一方または両方に作用された外力によっても隙間が形成される虞がある。隙間が形成されると、隙間から異物（例えば、不正行為を行うための針金等、ちりやほこり等、液体）が侵入して内部の機械的構成や電気的構成に悪影響を及ぼす虞がある。特に、液体（例えば、遊技者が遊技中に飲用するもの）は、微小な隙間からであっても侵入しやすく、また、電気的機器に悪影響を及ぼしやすい。
【５６３６】
本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる遊技機を提供することを目的とする。
【５６３７】
遊技機ＸＤ１によれば、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる。
【５６３８】
即ち、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界における重力方向下方に位置し、第１手段に配設される配設手段を備えるので、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界に隙間が形成された場合に、その隙間から侵入した異物を配設手段で受け止めることができる。これにより、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界から侵入した異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。
【５６３９】
遊技機ＸＤ１において、前記配設手段は、前記第１手段の縁部と前記第２手段の縁部との境界の重力方向下方に位置する下方手段と、その下方部に連なり前記境界から離間する方向へ延設される延設手段とを備えることを特徴とする遊技機ＸＤ２。
【５６４０】
遊技機ＸＤ２によれば、遊技機ＸＤ１の奏する効果に加え、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる。
【５６４１】
即ち、配設手段は、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界の重力方向下方に位置する下方手段と、その下方手段に連なり境界から離間する方向へ延設される延設手段とを備えるので、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界に隙間が形成された場合に、その隙間から侵入した異物を配設手段の下方手段により受け止めると共に、その受け止めた異物を機械的構成や電気的構成に悪影響を及ぼしにくい位置へ向けて延設手段により案内できる。これにより、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界から侵入した異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。
【５６４２】
遊技機ＸＤ２において、前記配設手段の延設部と前記第１手段との間には、前記境界か

ら離間する方向へ通過可能に形成される通路手段が形成されることを特徴とする遊技機ＸＤ３。
【５６４３】
遊技機ＸＤ３によれば、遊技機ＸＤ２の奏する効果に加え、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる。
【５６４４】
即ち、配設手段の延設部と第１手段との間には、境界から離間する方向へ通過可能に形成される通路手段が形成されるので、延設手段により異物を案内する際に、その通過方向を通路手段により規定でき、異物を所望の位置まで到達させやすくできる。これにより、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界から侵入した異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。
【５６４５】
遊技機ＸＤ３において、前記第１手段には、前記通路手段と外部とを連通可能に形成される連通手段が形成されることを特徴とする遊技機ＸＤ４。
【５６４６】
遊技機ＸＤ４によれば、遊技機ＸＤ３の奏する効果に加え、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる。
【５６４７】
即ち、第１手段には、通路手段と外部とを連通可能に形成される連通手段が形成されるので、延設手段により案内された異物を連通手段から第１手段の外部へ排出できる。これにより、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界から侵入した異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。
【５６４８】
遊技機ＸＤ１からＸＤ４のいずれかにおいて、光を発光可能に形成される発光手段を備え、前記配設手段は、導光材料から構成され、前記発光手段から発光される光を受光可能に位置することを特徴とする遊技機ＸＤ５。
【５６４９】
遊技機ＸＤ５によれば、遊技機ＸＤ１からＸＤ４のいずれかの奏する効果に加え、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる。
【５６５０】
即ち、光を発光可能に形成される発光手段を備え、配設手段は、導光材料から構成され、発光手段から発光される光を受光可能に位置するので、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界に隙間が形成された場合に、発光手段から発光され配設手段を導光（透過）された光で隙間を照射することができる。これにより、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界に隙間が形成された場合に、隙間から外部へ光が漏れることで、隙間が形成されたことをホールの店員に認識させやすくできる。
【５６５１】
また、発光手段および配設手段の発光に伴う熱により、発光手段（下方手段）に受け止められた液体を蒸発させて、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界の隙間から外部へ排出できる。これにより、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界から侵入した異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。
【５６５２】
遊技機ＸＤ４において、空気を流動させることが可能に形成される流動手段を備え、前記流動手段は、前記通路手段の空気を前記境界から離間させる方向へ流動させることが可能に形成されることを特徴とする遊技機ＸＤ６。
【５６５３】
遊技機ＸＤ６によれば、遊技機ＸＤ４の奏する効果に加え、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる。
【５６５４】
即ち、空気を流動させることが可能に形成される流動手段を備え、前記流動手段は、前

記通路手段の空気を前記境界から離間させる方向へ流動させることが可能に形成されるので、延設手段により案内された異物を連通手段から第１手段の外部へ排出しやすくできる。これにより、第１手段の縁部と第２手段の縁部との境界から侵入した異物により機械的構成や電気的構成に悪影響が生じることを抑制できる。

【５６５５】

遊技機ＸＤ４において、前記第１手段または前記延設手段から突出される突出手段と、前記突出手段が挿入可能に前記延設手段または前記第１手段に形成される被挿入手段とを備え、前記被挿入手段に前記突出手段が挿入された状態では、前記突出手段が前記連通手段の下方に位置することを特徴とする遊技機ＸＤ７。

【５６５６】

遊技機ＸＤ７によれば、遊技機ＸＤ４の奏する効果に加え、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる。

【５６５７】

即ち、第１手段または延設手段から突出される突出手段と、突出手段が挿入可能に延設手段または第１手段に形成される被挿入手段とを備えるので、第１手段に配設手段を配設する（組み付ける）際に、突出手段の被挿入手段への挿入により、両者を位置決めできる。これにより、第１手段への配設手段の配設（組み付け）作業を容易とできる。

【５６５８】

この場合、被挿入手段に突出手段が挿入された状態では、突出手段が連通手段の下方に位置するので、延設手段により案内される異物を突出手段により受け止めると共に、その受け止めた異物を連通手段へ向けて突出手段により案内できる。即ち、突出手段を、位置決めのための手段として利用できるだけでなく、異物を第１手段の外部へ排出させるための手段としても兼用できる。

【５６５９】

遊技機ＸＤ７において、前記突出手段は、前記延設手段から突出され、前記被挿入手段は、前記第１手段に形成されることを特徴とする遊技機ＸＤ８。

【５６６０】

遊技機ＸＤ８によれば、遊技機ＸＤ７の奏する効果に加え、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる。

【５６６１】

即ち、突出手段は、延設手段から突出され、被挿入手段は、第１手段に形成されるので、突出手段により受け止めた異物を第１手段の外部へ確実に排出できる。即ち、被挿入手段が延設手段に形成される場合、被挿入手段と突出手段との間に隙間が形成されていると、突出手段により受け止めた異物が被挿入手段と突出手段との間の隙間を通過して第１手段の内部に留まる虞がある。これに対し、被挿入手段が第１手段に形成されることで、突出手段で受け止めた異物が、被挿入手段と突出手段との間の隙間を通過したとしても、かかる異物を第１手段の外部へ排出することができる。

【５６６２】

遊技機ＸＤ８において、前記連通手段の一部が前記被挿入手段とされることを特徴とする遊技機ＸＤ９。

【５６６３】

遊技機ＸＤ９によれば、遊技機ＸＤ８の奏する効果に加え、第１手段と第２手段とが隣り合って配設される構造を改善できる。

【５６６４】

即ち、連通手段の一部が被挿入手段とされるので、連通手段を、異物を第１手段の外部へ排出させるための手段としてだけでなく、位置決めのための手段としても兼用できる。

【５６６５】

＜球発射ユニットＨ１１２ａの凹部Ｈ８２１ａ１を一例とする発明の概念について＞

遊技球を送球可能に構成される送球手段と、その送球手段により送球された遊技球の流路となる流路手段とを備えた遊技機において、前記流路手段の内面に当接された遊技球に

作用される当接方向の反力を抑制可能に構成される抑制手段を備えることを特徴とする遊技機ＸＥ１。

【５６６６】

遊技球を送球可能に構成される送球手段と、その送球手段により送球された遊技球の流路となる流路手段とを備えた遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。

【５６６７】

しかしながら、上述した遊技機では、遊技球の送球に関し、改善の余地があった。

【５６６８】

即ち、送球手段により遊技球が送球される際、遊技球の初期位置（送球手段に対する相対位置）にはばらつきが生じるため、遊技球は、流路手段に沿って真っ直ぐに送球されず、流路手段の内面（遊技球が転動する転動面の側方の内面）に衝突（当接）することがある。このように、流路手段の内面に遊技球が衝突（当接）すると、内面から受ける反力により遊技球が暴れ、その軌跡が安定しないという問題点があった。

【５６６９】

本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、遊技球の送球を改善できる遊技機を提供することを目的とする。

【５６７０】

遊技機ＸＥ１によれば、遊技球の送球を改善できる。

【５６７１】

即ち、流路手段の内面に当接された遊技球に作用される当接方向の反力を抑制可能に構成される抑制手段を備えるので、流路手段の内面（遊技球が転動する転動面の側方の内面）に遊技球が衝突（当接）した際に、内面から受ける反力により遊技球が暴れることを抑制でき、遊技球の軌跡を安定させることができる。

【５６７２】

遊技機ＸＥ１において、前記抑制手段は、前記流路手段の内面の少なくとも一部に凹設される凹部として構成されることを特徴とする遊技機ＸＥ２。

【５６７３】

遊技機ＸＥ２によれば、遊技機ＸＥ１の奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。

【５６７４】

即ち、抑制手段は、流路手段の内面の少なくとも一部に凹設される凹部として構成されるので、凹部に遊技球が衝突（当接）した際に、内面から受ける反力の成分として、遊技球の当接方向の成分と、遊技球の当接方向に直交する方向（遊技球を転動面に押し付ける方向または転動面から持ち上げる方向）の成分とを形成できる。これにより、遊技球の当接方向に直交する方向の成分の分、遊技球の当接方向の成分を小さくできるので、内面から受ける反力により遊技球が暴れることを抑制でき、遊技球の軌跡を安定させることができる。

【５６７５】

また、抑制手段を流路手段の内面の少なくとも一部から突設される突部として構成する場合と比較して、流路手段を備えるユニットの小型化を図ることができる。

【５６７６】

遊技機ＸＥ２において、前記凹部は、前記流路手段の一方側の内面の少なくとも一部と、前記流路手段の他方側の内面の少なくとも一部とにそれぞれ凹設されることを特徴とする遊技機ＸＥ３。

【５６７７】

遊技機ＸＥ３によれば、遊技機ＸＥ２の奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。

【５６７８】

即ち、凹部は、流路手段の一方側の内面の少なくとも一部と、流路手段の他方側の内面

の少なくとも一部とにそれぞれ凹設されるので、流路手段の内面（遊技球が転動する転動面の側方の内面）の内の一方側または他方側のどちらに遊技球が衝突（当接）した場合でも、内面から受ける反力により遊技球が暴れることを抑制でき、遊技球の軌跡を安定させることができる。

【５６７９】

遊技機ＸＥ３において、前記流路手段の一方側の内面における凹部と、前記流路手段の他方側の内面における凹部とは、遊技球の送球方向に位置を異ならせていることを特徴とする遊技機ＸＥ４。

【５６８０】

遊技機ＸＥ４によれば、遊技機ＸＥ３の奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。

【５６８１】

即ち、流路手段の一方側の内面における凹部と、流路手段の他方側の内面における凹部とは、遊技球の送球方向に位置を異ならせているので、設計の自由度を高めることができる。例えば、他方側の凹部が位置を異ならせたことで空いたスペースに他の手段（例えば、流入手段）を配設することができる。

【５６８２】

遊技機ＸＥ２からＸＥ４において、前記流路手段へ向かう遊技球が通過可能に構成される通過口手段を備え、通過口手段を通過して前記流路手段に流入された遊技球が前記凹部に当接可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＥ５。

【５６８３】

遊技機ＸＥ５によれば、遊技機ＸＥ２からＸＥ４の奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。

【５６８４】

即ち、流路手段へ向かう遊技球が通過可能に構成される通過口手段を備え、通過口手段を通過して流路手段に流入された遊技球が凹部に当接可能に構成されるので、凹部を利用して、流路手段上の遊技球の動きを早期に収束させることができる。これにより、遊技球の姿勢のばらつきを抑制して、送球手段により安定して送球できる。その結果、遊技球の暴れを抑制でき、遊技球の軌跡を安定させることができる。

【５６８５】

遊技機ＸＥ５において、少なくとも前記凹部の下方側の縁部は、前記通過口手段よりも下方側に位置することを特徴とする遊技機ＸＥ６。

【５６８６】

遊技機ＸＥ６によれば、遊技機ＸＥ５の奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。

【５６８７】

即ち、少なくとも凹部の下方側の縁部は、通過口手段よりも下方側に位置するので、通過口手段を通過して流路手段に流入された遊技球を凹部に確実に当接させることができる。

【５６８８】

遊技機ＸＥ５において、少なくとも前記凹部の上方側の縁部は、前記通過口手段よりも上方側に位置することを特徴とする遊技機ＸＥ７。

【５６８９】

遊技機ＸＥ７によれば、遊技機ＸＥ５の奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。

【５６９０】

即ち、少なくとも凹部の上方側の縁部は、通過口手段よりも上方側に位置するので、通過口手段を通過して流路手段に流入された遊技球に勢いがあり流路手段で暴れる場合でも、かかる遊技球を凹部に確実に当接させることができる。

【５６９１】

遊技機ＸＥ２からＸＥ７のいずれかにおいて、前記送球手段により送球される遊技球を前記凹部と当接不能となる方向へ案内可能に構成される案内手段を備えることを特徴とする遊技機ＸＥ８。

【５６９２】

遊技機ＸＥ８によれば、遊技機ＸＥ２からＸＥ７のいずれかの奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。

【５６９３】

即ち、送球手段により送球される遊技球を凹部と当接不能となる方向へ案内可能に構成される案内手段を備えるので、凹部を利用せずに遊技球を送球手段により送球する態様を形成できる。即ち、遊技球が暴れて、その軌跡が不安定となる態様で遊技球を送球できる。これにより、遊技の興趣を向上できる。

【５６９４】

遊技機ＸＥ８において、前記案内手段は、前記送球手段により送球される遊技球を前記凹部と当接不能となる方向へ案内する態様と、前記送球手段により送球される遊技球を前記凹部と当接可能となる方向へ案内する態様とを構成可能とされることを特徴とする遊技機ＸＥ９。

【５６９５】

遊技機ＸＥ９によれば、遊技機ＸＥ８の奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。

【５６９６】

即ち、案内手段は、送球手段により送球される遊技球を凹部と当接不能となる方向へ案内する態様と、送球手段により送球される遊技球を凹部と当接可能となる方向へ案内する態様とを構成可能とされるので、凹部を利用せずに遊技球を送球手段により送球する態様と、凹部を利用して遊技球を送球手段により送球する態様とを形成できる。即ち、遊技球が暴れて、その軌跡が不安定となる遊技球の送球の態様と、遊技球の暴れを抑制して、その軌跡を安定させた遊技球の送球の態様とを形成できる。これにより、遊技の興趣を向上できる。

【５６９７】

＜操作ユニットＨ１８０の揺動装置Ｈ７３０を一例とする発明の概念について＞

光を発光可能に構成される発光手段と、入射された光を透過可能に構成される透過手段とを備えた遊技機において、発光手段に対して透過手段が相対変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＦ１。

【５６９８】

光を発光可能に構成される発光手段と、入射された光を透過可能に構成される透過手段とを備えた遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。

【５６９９】

しかしながら、上述した遊技機では、視認される光の態様に関し、改善の余地があった。

【５７００】

即ち、発光手段の正面に透過手段を配設し、発光手段から発光された光を透過手段に入射させ、透過手段を透過する光を遊技者に視認させることで、演出効果を得るものがある。この場合、発光手段の発光の態様（例えば、発光強度や点滅の間隔など）を変化させ、視認される光の態様を変化させるものもあるが、演出効果が十分ではない。発光手段と透過手段とを一体化（ユニット化）して、それら発光手段および透過手段から構成されるユニットを変位させることで、ユニットの変位に伴う光の移動を視認させるものもあるが、発光手段と透過手段との関係は一定であるため、透過手段を介して視認される光の態様（発光手段から透過手段に入射され、透過手段を透過する光の態様）自体は一様であり、演出効果が十分ではない。

【５７０１】

本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、視認される光の態様を改善できる遊技機を提供することを目的とする。

【５７０２】

遊技機ＸＦ１によれば、視認される光の態様を改善できる。

【５７０３】

即ち、発光手段に対して透過手段が相対変位可能に構成されるので、発光手段と透過手段との関係を変化させることができる。これにより、発光手段から透過手段への光の入射の態様、及び、透過手段を透過する光の態様（遊技者が視認する光の態様）を変化させることができる。その結果、透過手段を介して視認される光の態様を変化させ、演出効果を高めることができる。

【５７０４】

遊技機ＸＦ１において、ベース手段を備え、前記発光手段は、前記ベース手段に固定され、前記透過手段は、前記ベース手段に変位可能に配設されることを特徴とする遊技機ＸＦ２。

【５７０５】

遊技機ＸＦ２によれば、遊技機ＸＦ１の奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。

【５７０６】

即ち、ベース手段を備え、発光手段は、ベース手段に固定され、透過手段は、ベース手段に変位可能に配設されるので、発光手段から透過手段への光の入射の態様、及び、透過手段を透過する光の態様を変化させ、透過手段を介して視認される光の態様を変化させる演出に加え、発光手段の状態（発光状態、非発光状態）に関わらず、透過手段を変位させ、その透過手段の変位を視認させる演出も行うことができる。

【５７０７】

また、発光手段がベース手段に固定されるので、変位（振動）に伴う発光手段の破損（例えば、断線）を抑制できる。

【５７０８】

遊技機ＸＦ１又はＦＸ２において、前記透過手段は、光を拡散可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＦ３。

【５７０９】

遊技機ＸＦ３によれば、遊技機ＸＦ１又はＸＦ２の奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。

【５７１０】

即ち、透過手段は、光を拡散可能に構成されるので、発光手段に対する透過手段の相対変位を利用して、透過手段を透過する光の態様（遊技者が視認する光の態様）の変化をより大きくすることができる。その結果、透過手段を介して視認される光の態様を変化させ、演出効果を高めることができる。

【５７１１】

遊技機ＸＦ２又はＸＦ３において、前記透過手段に配設され、駆動力を発生可能に構成される駆動手段を備えることを特徴とする遊技機ＸＦ４。

【５７１２】

遊技機ＸＦ４によれば、遊技機ＸＦ２又はＸＦ３の奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。

【５７１３】

即ち、透過手段に配設され、駆動力を発生可能に構成される駆動手段を備えるので、駆動手段の駆動力を利用して、透過手段の変位（発光手段に対する透過手段の相対変位）を形成しやすくできると共に、駆動手段の駆動状態を切り替えることで、透過手段の変位（発光手段に対する透過手段の相対変位）を所望のタイミングで開始または停止させることができる。

【５７１４】

また、駆動手段が透過手段に配設されることで、駆動手段の駆動力を透過手段に伝えやすくでき、透過手段の変位（発光手段に対する透過手段の相対変位）を形成しやすくできる。なお、駆動手段を発光手段に配設し、駆動手段の駆動力が間接的に透過手段に伝わるようにしても良い。この場合でも、駆動手段の駆動力を利用して、透過手段の変位（発光手段に対する透過手段の相対変位）を形成できる。

【５７１５】

遊技機ＸＦ２からＸＦ４のいずれかにおいて、変位可能かつ前記透過手段に当接可能に構成される当接手段を備え、前記透過手段に当接された前記当接手段の変位に伴って前記透過手段が変位可能とされることを特徴とする遊技機ＸＦ５。

【５７１６】

遊技機ＸＦ５によれば、遊技機ＸＦ２からＸＦ４のいずれかの奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。

【５７１７】

即ち、透過手段に当接された当接手段の変位に伴って前記透過手段が変位可能とされるので、透過手段の変位（発光手段に対する透過手段の相対変位）を当接手段の変位に連動させることができ、演出効果を高めることができる。また、駆動手段を備える場合には、透過手段の変位（発光手段に対する透過手段の相対変位）の態様として、駆動手段の駆動力による変位の態様に加え、当接手段との連動による変位の態様を形成することができ、変位の態様のバリエーションを増やすことができる。

【５７１８】

遊技機ＸＦ２からＸＦ５のいずれかにおいて、変位可能かつ前記透過手段に当接可能に構成される当接手段を備え、前記当接手段の前記透過手段との当接により前記透過手段の変位が規制可能とされることを特徴とする遊技機ＸＦ６。

【５７１９】

遊技機ＸＦ６によれば、遊技機ＸＦ２からＸＦ５のいずれかの奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。

【５７２０】

即ち、当接手段の透過手段との当接により透過手段の変位が規制可能とされるので、当接手段を透過手段に当接させることで、透過手段の変位（発光手段に対する透過手段の相対変位）を所望のタイミングで停止させることができる。

【５７２１】

遊技機ＸＦ５において、遊技者により操作可能に構成される操作手段を備え、前記操作手段の操作によって、前記当接手段の変位に伴う前記透過手段の変位を構成可能とされることを特徴とする遊技機ＸＦ７。

【５７２２】

遊技機ＸＦ７によれば、遊技機ＸＦ５の奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。

【５７２３】

即ち、操作手段の操作によって、当接手段の変位に伴う前記透過手段の変位を構成可能とされるので、透過手段の変位（発光手段に対する透過手段の相対変位）を遊技者の所望の態様（例えば、変位のタイミングや変位速度など）で形成できる。即ち、視認される光の態様（透過手段の変位）と遊技者の操作とを関連付けて、演出効果を高めることができる。

【５７２４】

遊技機ＸＦ５において、遊技者により操作可能に構成される操作手段を備え、前記操作手段の操作によって、前記当接手段の当接による前記透過手段の変位の規制が構成可能とされることを特徴とする遊技機ＸＦ７。

【５７２５】

遊技機ＸＦ７によれば、遊技機ＸＦ５の奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。

【５７２６】
即ち、操作手段の操作によって、当接手段の当接による透過手段の変位の規制が構成可能とされるので、透過手段の変位（発光手段に対する透過手段の相対変位）の規制（停止）を遊技者の所望のタイミングで形成できる。即ち、透過手段の変位の規制（停止）と遊技者の操作とを関連付けて、演出効果を高めることができる。
【５７２７】
遊技機ＸＦ２からＸＦ８のいずれかにおいて、前記透過手段は、ベース手段に変位可能に配設される第１手段と、前記第１手段に変位可能に配設される第２手段とを備え、少なくとも前記第２手段は、入射された光を透過可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＦ９。
【５７２８】
遊技機ＸＦ９によれば、遊技機ＸＦ２からＸＦ８のいずれかの奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。
【５７２９】
即ち、透過手段は、ベース手段に変位可能に配設される第１手段と、第２手段に変位可能に配設される第２手段とを備え、少なくとも第２手段は、入射された光を透過可能に構成されるので、第２手段の変位（発光手段に対する第２手段の相対変位）の態様が一様となることを抑制でき、第２手段を透過する光の態様（遊技者が視認する光の態様）の変化をより大きくすることができる。その結果、演出効果を高めることができる。
【５７３０】
遊技機ＸＦ９において、前記透過手段は、前記ベース手段に対する前記第１手段の変位と、前記第１手段に対する前記第２手段の変位とが異なる態様で変位可能となるように構成されることを特徴とする遊技機ＸＦ１０。
【５７３１】
遊技機ＸＦ１０によれば、遊技機ＸＦ９の奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。
【５７３２】
即ち、透過手段は、ベース手段に対する第１手段の変位と、第１手段に対する第２手段の変位とが異なる態様で変位可能となるように構成されるので、それら第１手段および第２手段の異なる変位態様を組み合わせて、第２手段を多様な態様で変位させることができる。その結果、第２手段を透過する光の態様（遊技者が視認する光の態様）の変化を多様として、演出効果を高めることができる。
【５７３３】
遊技機ＸＦ１０において、所定以上の外力が作用された状態では前記第１手段に対する前記第２手段の相対変位を許容可能に構成され、少なくともとも外力が作用されていない状態では前記第１手段に対する前記第２手段の相対位置を所定位置に規定可能に構成される規定手段を備えることを特徴とする遊技機ＸＦ１１。
【５７３４】
遊技機ＸＦ１１によれば、遊技機ＸＦ１０の奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。
【５７３５】
即ち、所定以上の外力が作用された状態では第１手段に対する第２手段の相対変位を許容可能に構成される規定手段を備えるので、所定以下の外力では第１手段および第２手段を一体に変位させる一方、所定以上の外力では第１手段に対して第２手段を相対変位させることができ、第２手段を多様な態様で変位させることができる。
【５７３６】
この場合、規定手段は、少なくともとも外力が作用されていない状態では第１手段に対する第２手段の相対位置を所定位置に規定可能に構成されるので、外力の作用が終了した際に、第１手段に対する第２手段の相対位置が所定位置と異なる位置である場合には、第２手段の相対位置を規定手段により所定位置に規定する（第２手段を所定位置に変位させ

る）ことができる。即ち、外力の作用が終了した後であっても、少なくとも第２手段を変位させることができる。これにより、第２手段を多様な態様で変位させることができ、第２手段を透過する光の態様（遊技者が視認する光の態様）の変化を多様とできる。その結果、演出効果を高めることができる。

【５７３７】

遊技機ＸＦ１１において、前記規定手段は、弾性材料から弾性変形可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＦ１２。

【５７３８】

遊技機ＸＦ１２によれば、遊技機ＸＦ１１の奏する効果に加え、視認される光の態様を改善できる。

【５７３９】

即ち、規定手段は、弾性材料から弾性変形可能に構成されるので、外力の大きさに応じた（比例した）大きさの弾性変形を規定手段に生じさせ、この弾性変形を利用して、第１手段に対する第２手段の相対変位を外力の大きさに応じた（比例した）大きさで形成できる。例えば、重力や磁力を利用する場合と比較して、第１手段に対して第２手段が急激に相対変位することを抑制できる。

【５７４０】

＜第１装飾ユニットＧ４２０及び第２装飾ユニットＧ４８０を一例とする発明の概念について＞

第１手段および第２手段を備え、少なくとも前記第２手段が変位可能に構成された遊技機において、前記第２手段が変位されることで、前記第２手段の所定領域が前記第１手段の正面視外方側を向く状態と、前記第２手段の前記所定領域が正面側を向く状態とを形成可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＧ１。

【５７４１】

第１手段および第２手段を備え、少なくとも第２手段が変位可能に構成された遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。

【５７４２】

しかしながら、上述した遊技機では、第１手段および第２手段に関し、改善の余地があった。

【５７４３】

即ち、第２手段が変位されることで、正面視において、第２手段の所定領域が第１手段と共に視認可能とされる状態（以下「拡大状態」と称す）と、第２手段の所定領域が視認不能される状態（以下「縮小状態」と称す）とを形成して、第１手段および第２手段の全体としての視覚上の大きさを変化させる演出が行われる。

【５７４４】

具体的には、第２手段を第１手段の背面側（正面視において重なる位置）にスライド変位させることで、正面視において、第２手段の所定領域を第１手段により遮蔽して、第２手段の所定領域を視認不能とする（縮小状態を形成する）。また、第２手段を第１手段の背面側から外方（正面視において重ならない位置）にスライド変位させることで、第２手段の所定領域を第１手段と共に視認可能とする（拡大状態を形成する）。

【５７４５】

しかしながら、このような従来の構成では、第２手段の所定領域の大きさが第１手段の正面視における大きさ（外形）に依存するため、第２手段の所定領域の大きさを十分に大きくすることができなかった。

【５７４６】

即ち、第１手段の正面視における大きさ（外形）を大きくすると、その分、他の手段（部材）を配設するスペースが減少される。また、他の手段（部材）を相対的に変位させる際に、第１手段と干渉しやすくなり、他の部材を相対的に変位させる演出の自由度が阻害される。

【５７４７】

一方、第１手段の正面視における大きさを小さくしたのでは、その分、遮蔽できる面積が小さくなるため、第２手段の所定領域が小さくなり、第２手段の所定領域を第１手段と共に視認させる際の大きさを大きくすることができない。

【５７４８】

本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、第１手段および第２手段を改善できる遊技機を提供することを目的とする。

【５７４９】

遊技機ＸＧ１によれば、第１手段および第２手段を改善できる。

【５７５０】

即ち、第２手段が変位されることで、第２手段の所定領域が第１手段の正面視外方側を向く状態と、第２手段の所定領域が正面側を向く状態とを形成可能に構成されるので、他の手段（部材）を配設するスペースを確保しつつ、第２手段の所定領域を第１手段と共に視認させる際の大きさを大きくできる。

【５７５１】

具体的には、第１手段の正面視における大きさ（外形）を小さくできるので、その分、他の手段（部材）を配設するスペースを確保できる。また、他の手段（部材）を相対的に変位させる際に、第１手段（第２手段）と干渉し難くでき、他の部材を相対的に変位させる演出の自由度を向上できる。一方、第１手段の正面視における大きさを小さくしても、第１手段の正面視における大きさが第２手段の所定領域の大きさに依存しないので、第２手段の所定領域を大きくできる。よって、第２手段の所定領域を第１手段と共に視認させる際の大きさを大きくすることができる。

【５７５２】

言い換えると、遊技機の役物が配設される空間は、前後方向（正面と背面とを結ぶ方向）のスペースに比較的余裕があるところ、遊技機ＸＧ１によれば、上述した前後方向のスペースに着目し、第１手段を前後方向に長くすることで、第１手段の正面視の大きさを小さくできると共に、第２手段の所定領域の大きさを大きくできる。これにより、他の手段（部材）を配設するスペースを確保しつつ、第２手段の所定領域を第１手段と共に視認させる際の大きさを大きくできる。また、縮小状態は小さく、拡大状態は大きくでき、縮小状態と拡大状態との間の正面視における視覚上の大きさの変化をより大きくできる。

【５７５３】

遊技機ＸＧ１において、前記第１手段の背面側に配設され、光を発光可能に構成される発光手段を備え、前記第１手段は、少なくとも一部が光透過性材料から構成され、前記所定領域は、少なくとも一部が光を反射可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＧ２。

【５７５４】

遊技機ＸＧ２によれば、遊技機ＸＧ１の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。

【５７５５】

即ち、第１手段の背面側に配設され、光を発光可能に構成される発光手段を備え、第１手段は、少なくとも一部が光透過性材料から構成され、所定領域は、少なくとも一部が光を反射可能に構成されるので、第２手段の所定領域が正面側を向く状態（拡大状態）とされた場合に、発光手段から発光され所定領域で反射した光を遊技者に視認させることができるだけでなく、第２手段の所定領域が第１手段の正面視外方側を向く状態（縮小状態）とされた場合には、発光手段から発光され所定領域で反射した光を、第１手段にその背面側から入射させ、第１手段を透過した光（第１手段の正面側から出射される光）を遊技者に視認させることができる。これにより、光の視認態様を変化させ、演出効果を向上できる。

【５７５６】

なお、第２手段を第１手段の背面側（正面視において重なる位置）にスライド変位させる上述した従来の構成では、縮小状態においては、発光手段から発光され所定領域で光を反射させても、その反射させた光が発光手段（発光手段の基板）に遮られてしまい、第１

手段へ入射させることができない。これに対し、遊技機ＸＧ２によれば、所定領域で反射された光を、第１手段および発光手段の正面視外方側から回り込ませることができ、発光手段（発光手段の基板）に遮られることなく、第１手段の背面側へ入射させることができる。

【５７５７】

遊技機ＸＧ１又はＸＧ２において、前記第２手段は、前記第１手段の正面視外方側に複数が配設され、前記第２手段の前記所定領域が前記第１手段の正面視外方側を向く状態では、隣り合う前記第２手段の一方の一側に他方の他側が重なることを特徴とする遊技機ＸＧ３。

【５７５８】

遊技機ＸＧ３によれば、遊技機ＸＧ１又はＸＧ２の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。

【５７５９】

即ち、第２手段の所定領域が第１手段の正面視外方側を向く状態（縮小状態）では、隣り合う第２手段の一方の一側に他方の他側が重なるので、縮小状態において第２手段の配設に要するスペースを抑制できる。言い換えると、第２手段の大きさを大きくできる。一方、第２手段の所定領域が正面側を向く状態（拡大状態）では、隣り合う第２手段の間の隙間を小さくできる。

【５７６０】

遊技機ＸＧ３において、前記第１手段は、前記第２手段の前記所定領域が前記第１手段の正面視外方側を向く状態において隣り合う前記第２手段の一方の一側と他方の他側とが重なる部分の少なくとも一部と正面視において重なるように構成されることを特徴とする遊技機ＸＧ４。

【５７６１】

遊技機ＸＧ４によれば、遊技機ＸＧ３の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。

【５７６２】

即ち、第１手段は、第２手段の所定領域が第１手段の正面視外方側を向く状態（縮小状態）において隣り合う第２手段の一方の一側と他方の他側とが重なる部分の少なくとも一部と正面視において重なるように構成されるので、縮小状態において第２手段どうしが重なる部分を遊技者から見えにくくできる。よって、第２手段の所定領域が第１手段の正面視外方側を向く状態（縮小状態）から第２手段の所定領域が正面側を向く状態（拡大状態）に遷移した際の意外性を向上できる。

【５７６３】

遊技機ＸＧ４において、前記第２手段は、前記第２手段の前記所定領域が正面側を向く状態から前記第２手段の前記所定領域が前記第１手段の正面視外方側を向く状態となる際に、前記第２手段の一側が他側よりも先に前記第１手段の正面視外方側に到着するように構成されることを特徴とする遊技機ＸＧ５。

【５７６４】

遊技機ＸＧ５によれば、遊技機ＸＧ４の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。

【５７６５】

即ち、第２手段は、第２手段の所定領域が正面側を向く状態（拡大状態）から第２手段の所定領域が第１手段の正面視外方側を向く状態（縮小状態）となる際に、第２手段の一側が他側よりも先に第１手段の正面視外方側に到着するように構成されるので、隣り合う第２手段の一方および他方の変位を同じ態様としつつ、これら隣り合う第２手段同士が干渉することを抑制できる。

【５７６６】

遊技機ＸＧ４において、前記第２手段は、前記第２手段の前記所定領域が正面側を向く状態から前記第２手段の前記所定領域が前記第１手段の正面視外方側を向く状態となる際

に、前記隣り合う前記第２手段の一方の変位が開始された後に他方の変位が開始されるように構成されることを特徴とする遊技機ＸＧ６。

【５７６７】

遊技機ＸＧ６によれば、遊技機ＸＧ４の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。

【５７６８】

即ち、第２手段は、第２手段の所定領域が正面側を向く状態（拡大状態）から第２手段の所定領域が第１手段の正面視外方側を向く状態（縮小状態）となる際に、隣り合う前記第２手段の一方の変位が開始された後に他方の変位が開始されるように構成されるので、第２手段を複雑な軌跡で変位させることを回避しつつ、隣り合う第２手段同士が干渉することを抑制できる。例えば、第２手段の一側が他側よりも先に第１手段の正面視外方側に到着するようにする必要がなく、第２手段の一側および他側が同時に第１手段の正面視外方側に到着するようにできる。

【５７６９】

遊技機ＸＧ６において、前記第２手段は、前記第２手段の前記所定領域が前記第１手段の正面視外方側を向く状態から前記第２手段の前記所定領域が正面側を向く状態となる際に、前記隣り合う前記第２手段の一方の変位と他方の変位とが同時に開始されるように構成されることを特徴とする遊技機ＸＧ７。

【５７７０】

遊技機ＸＧ７によれば、遊技機ＸＧ６の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。

【５７７１】

即ち、第２手段は、第２手段の所定領域が第１手段の正面視外方側を向く状態（縮小状態）から第２手段の所定領域が正面側を向く状態（拡大状態）となる際に、隣り合う第２手段の一方の変位と他方の変位とが同時に開始されるように構成されるので、拡大状態から縮小状態となる際と、縮小状態から拡大状態となる際の第２手段の変位の態様を異ならせることができる。これにより、第２手段を変位させることによる演出効果を向上できる。

【５７７２】

遊技機ＸＧ１からＸＧ７において、前記第２手段は、前記第２手段の前記所定領域が前記第１手段の正面視外方側を向く状態から前記第２手段の前記所定領域が正面側を向く状態とされた後、前記第１手段の正面視外方へ変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＧ８。

【５７７３】

遊技機ＸＧ８によれば、遊技機ＸＧ１からＸＧ７のいずれかの奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。

【５７７４】

即ち、第２手段は、第２手段の所定領域が第１手段の正面視外方側を向く状態（縮小状態）から第２手段の所定領域が正面側を向く状態（拡大状態）とされた後、第１手段の正面視外方へ変位可能に構成されるので、第２手段の正面視における大きさを拡大状態よりも更に大きく見せることができる。よって、正面視における視覚上の大きさの変化をより大きくできる。

【５７７５】

＜花回転ユニットＧ４００の第１装飾ユニットＧ４２０を一例とする発明の概念について＞

第１手段と、前記第１手段の周りを周回可能に構成された第２手段とを備えた遊技機において、前記第２手段は、前記第１手段の周りを周回する際に、回転可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＨ１。

【５７７６】

第１手段と、第１手段の周りを周回可能に構成された第２手段とを備えた遊技機が知ら

れている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。
【５７７７】
しかしながら、上述した遊技機では、第１手段および第２手段に関し、改善の余地があった。
【５７７８】
即ち、第１手段の周りを第２手段が周回（公転）する演出では、両者の相対変位が単調であり、十分な演出効果を得ることができない。
【５７７９】
本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、第１手段および第２手段を改善できる遊技機を提供することを目的とする。
【５７８０】
遊技機ＸＨ１によれば、第１手段および第２手段を改善できる。
【５７８１】
即ち、第２手段は、第１手段の周りを周回（公転）する際に、回転（自転）可能に構成されるので、両者の相対変位が単調となることを抑制でき、演出効果を高めることができる。
【５７８２】
遊技機ＸＨ１において、前記第２手段は、前記回転の際の回転中心を挟んで位置する一側領域および他側領域を備え、前記一側領域と前記他側領域とが異なる態様に構成されることを特徴とする遊技機ＸＨ２。
【５７８３】
遊技機ＸＨ２によれば、遊技機ＸＨ１の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。
【５７８４】
即ち、第２手段は、回転の際の回転中心を挟んで位置する一側領域および他側領域を備え、一側領域と他側領域とが異なる態様に構成されるので、第１手段の周りを第２手段が周回する際に、第２手段の異なる態様（一側領域、他側領域）を交互に現出させることができる。これにより、例えば、視認される外形や反射される光の態様の変化を大きくして、演出効果を高めることができる。
【５７８５】
なお、異なる態様とは、例えば、視認される形状（外形）が異なるもの、外面の粗さや色が異なるもの（即ち、光の反射態様が異なるもの）、材質が異なるもの、これらを組み合わせたもの等が例示される。
【５７８６】
遊技機ＸＨ１又はＸＨ２において、前記第２手段は、前記第１手段の外方側に近接する方向および離間する方向へそれぞれ変位可能に構成され、前記第１手段の外方側へ近接する方向への前記第２手段の変位は、前記第２手段の前記回転における回転位置が所定の回転位置にある場合に行われるように構成されることを特徴とする遊技機ＸＨ３。
【５７８７】
遊技機ＸＨ３によれば、遊技機ＸＨ１又はＸＨ２の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。
【５７８８】
即ち、第１手段の外方側へ近接する方向への第２手段の変位は、第２手段の回転（自転）における回転位置が所定の回転位置にある場合に行われるので、常に同じ姿勢で第２手段を第１手段の外方側へ近接させることができ、第２手段が第１手段の外方側に干渉する（当接する）ことを抑制できる。これにより、第２手段の外形形状の設計の自由度を高められると共に、１手段の外方側へ第２手段をより近接させることができる。
【５７８９】
遊技機ＸＨ１からＸＨ３のいずれかにおいて、前記第２手段は、前記第１手段の外方側に近接する方向および離間する方向へそれぞれ変位可能に構成され、前記第２手段が前記

第１手段の外方側に近接する方向に最も変位した際に、前記第２手段の前記周回における周回位置が所定の周回位置となるように構成されることを特徴とする遊技機ＸＨ４。
【５７９０】
遊技機ＸＨ４によれば、遊技機ＸＨ１からＸＨ３のいずれかの奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。
【５７９１】
即ち、第２手段が第１手段の外方側に近接する方向に最も変位した際に、第２手段の周回（公転）における周回位置が所定の周回位置となるように構成されるので、第２手段が第１手段の外方側に最も近づいた状態において、第２手段の周回位置を常に同じ周回位置とすることができる。これにより、第１手段の周りを第２手段が周回（公転）する構成において、常に同じ周回位置において第２手段を第１手段の外方側に最も近づいた状態とすることができると共に、常に同じ周回位置を起点（始点）として第２手段を第１手段の外方側から離間する方向へ変位させることができる。その結果、演出効果を高めることができる。
【５７９２】
遊技機ＸＨ１からＸＨ４のいずれかにおいて、前記第１手段は、前記第２手段の周回と同じ方向または反対方向へ回転可能に構成される回転手段を備えることを特徴とする遊技機ＸＨ５。
【５７９３】
遊技機ＸＨ５によれば、遊技機ＸＨ１からＸＨ４のいずれかの奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。
【５７９４】
即ち、第１手段は、第２手段の周回と同じ方向または反対方向へ回転可能に構成される回転手段を備えるので、第２手段の周回（公転）と回転手段の回転（自転）とを関連付けることができ、演出効果を高めることができる。例えば、第２手段の周回（公転）と同じ方向に回転手段が回転（自転）される場合には、第２手段の周回（公転）と回転手段の回転（自転）とを一体的に視認させ、遊技者に第２手段の回転（自転）を着目させやすくできる一方、第２手段の周回（公転）と反対方向に回転手段が回転（自転）される場合には、回転手段の回転（自転）の分、第２手段の周回（公転）の速度を遊技者に錯覚させ（見かけの速度を速くして）、遊技者に第２手段の周回（公転）を着目させやすくできる。
【５７９５】
遊技機ＸＨ５において、前記第２手段の周回の速度と、前記回転手段の回転の速度とが異なることを特徴とする遊技機ＸＨ６。
【５７９６】
遊技機ＸＨ６によれば、遊技機ＸＨ５の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を改善できる。
【５７９７】
即ち、第２手段の周回の速度と、前記回転手段の回転の速度とが異なるので、第２手段の周回（公転）と回転手段の回転（自転）とを関連付けることができ、演出効果を高めることができる。例えば、第２手段の周回（公転）と同じ方向に回転手段が回転（自転）される場合に、第２手段の周回の速度が回転手段の回転の速度よりも遅くすることで、第２手段が第２手段と逆方向に周回していると遊技者に錯覚させることができる。また、例えば、第２手段の周回（公転）と反対方向に回転手段が回転（自転）される場合に、第２手段の周回の速度が回転手段の回転の速度よりも速くすることで、第２手段の周回（公転）の速度を遊技者に錯覚させやすくし（見かけの速度をより速くして）、遊技者に第２手段の周回（公転）を着目させやすくできる。
【５７９８】
＜上側装飾ユニットＨ１４ａの第１連通路Ｈ３００Ｃを一例とする発明の概念について＞
動作可能に構成される動作手段と、その動作手段が配設される配設手段とを備えた遊技

機において、変位可能に構成され前記配設手段との当接状態を変化可能に構成される変位手段を備えることを特徴とする遊技機ＸＩ１。

【５７９９】

動作可能に構成される動作手段と、その動作手段が配設される配設手段とを備えた遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。

【５８００】

しかしながら、上述した遊技機では、動作に伴う出力に改善の余地があった。

【５８０１】

即ち、動作手段の動作に伴い音を出力する場合、動作手段の動作態様（例えば、動作（振動）の振動数や波形）を変化させることで、出力される音の態様を変化させることができる。しかしながら、動作手段の動作態様を変化させるのみでは、出力される音の態様の変化が不十分であるという問題点があった。

【５８０２】

本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、動作に伴う出力を改善できる遊技機を提供することを目的とする。

【５８０３】

遊技機ＸＩ１によれば、動作に伴う出力を改善できる。

【５８０４】

即ち、変位可能に構成され配設手段との当接状態を変化可能に構成される変位手段を備えるので、変位手段の配設手段との当接状態を変化させることで、配設手段の剛性を変化させることができる。これにより、動作手段の動作態様を一定とした場合でも、配設手段の剛性の変化に伴い、出力させる音の態様を変化させることができる。その結果、動作に伴う出力を改善できる。

【５８０５】

遊技機ＸＩ１において、前記動作手段は、所定間隔を隔てて前記配設手段に配設される第１動作手段および第２動作手段を備え、所定方向視において前記変位部材の一側に前記第１動作手段が位置されると共に前記変位部材の他側に前記第２動作手段が位置されることを特徴とする遊技機ＸＩ２。

【５８０６】

遊技機ＸＩ２によれば、動作に伴う出力を改善できる。

【５８０７】

即ち、動作手段は、所定間隔を隔てて配設手段に配設される第１動作手段および第２動作手段を備え、所定方向視において変位部材の一側に第１動作手段が位置されると共に変位部材の他側に第２動作手段が位置されるので、所定方向視において第１動作手段と第２動作手段との間となる領域を含む領域において、変位手段の配設手段に対する当接状態を変化させることができる。即ち、出力される音の態様に変化を与えやすい領域において、変位手段の配設手段に対する当接状態（配設手段の剛性）を変化させることができる。これにより、配設手段の剛性を変化させた際に、出力させる音の態様を効率的に変化させることができる。その結果、動作に伴う出力を改善できる。

【５８０８】

遊技機ＸＩ１又はＸＩ２において、前記変位手段は、前記配設手段の外側の壁部の一部を構成することを特徴とする遊技機ＸＩ３。

【５８０９】

遊技機ＸＩ３によれば、遊技機ＸＩ１又はＸＩ２の奏する効果に加え、動作に伴う出力を改善できる。

【５８１０】

即ち、変位手段は、配設手段の外側の壁部の一部を構成するので、出力される音の態様に変化を与えやすい領域において、変位手段の配設手段に対する当接状態（配設手段の剛性）を変化させることができる。これにより、配設手段の剛性を変化させた際に、出力させる音の態様を効率的に変化させることができる。その結果、動作に伴う出力を改善でき

る。
【５８１１】
なお、変位手段が構成する壁部（配設手段の外側の壁部の一部）は、遊技者から視認可能に構成されることが好ましい。変位手段の変位を遊技者に視認させることで、配設手段の剛性が変化されること（即ち、出力される音の態様が変化されること）を聴覚だけでなく視覚によっても認識させることができる。
【５８１２】
遊技機ＸＩ２において、前記配設手段は、前記第１動作手段が配設される第１配設空間および前記第２動作手段が配設される第２配設空間と、前記第１配設空間および前記第２配設空間を連通可能に形成される連通空間とを備え、前記変位手段は、前記連通空間を区画する壁部の一部を構成することを特徴とする遊技機ＸＩ４。
【５８１３】
遊技機ＸＩ４によれば、遊技機ＸＩ２の奏する効果に加え、動作に伴う出力を改善できる。
【５８１４】
即ち、第１配設空間と第２配設空間とを連通可能に形成される連通空間を備え、変位手段は、連通空間を区画する壁部の一部を構成するので、変位手段の配設手段との当接状態の変化により配設手段の剛性を変化させることで、出力させる音の態様を変化させることができるだけでなく、変位手段の変位に伴い連通空間の外部への開放量（閉塞も含む）を変化させることで、出力される音の態様を変化させることもできる。特にこれら剛性の変化と開放量の変化とを同時に行わせることができるので、出力される音の態様の変化をより大きくすることができる。
【５８１５】
遊技機ＸＩ１からＸＩ４のいずれかにおいて、前記変位手段は、前記配設手段に一辺側が回転可能に軸支された板状体として構成されることを特徴とする遊技機ＸＩ５。
【５８１６】
遊技機ＸＩ５によれば、遊技機ＸＩ１からＸＩ４のいずれかの奏する効果に加え、動作に伴う出力を改善できる。
【５８１７】
即ち、変位手段は、配設手段に一辺側が回転可能に軸支された板状体として構成されるので、変位手段を配設手段から離間する方向に変位（回転）させることで、変位手段が配設手段に対して当接されている領域を最小限とすることができる。即ち、軸支された部分以外を非当接とすることができる。これにより、配設手段の剛性の変化を大きくでき、出力させる音の態様をより変化させやすくできる。その結果、動作に伴う出力を改善できる。
【５８１８】
遊技機ＸＩ１からＸＩ５のいずれかにおいて、前記変位手段と前記配設手段との当接部分には、弾性材料から構成される弾性体が介設されることを特徴とする遊技機ＸＩ６。
【５８１９】
遊技機ＸＩ６によれば、遊技機ＸＩ１からＸＩ５のいずれかの奏する効果に加え、動作に伴う出力を改善できる。
【５８２０】
即ち、変位手段と配設手段との当接部分には、弾性材料から構成される弾性体が介設されるので、変位手段を配設手段に密着させ、両者の間の滑りを抑制できる。これにより、配設手段の剛性を変化させやすくでき、出力させる音の態様をより大きく変化させることができる。その結果、動作に伴う出力を改善できる。
【５８２１】
遊技機ＸＩ１からＸＩ６のいずれかにおいて、遊技者により操作可能に構成される操作手段を備え、前記操作手段が操作された場合に前記変位手段が変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＩ７。

【５８２２】
遊技機ＸＩ７によれば、遊技機ＸＩ１からＸＩ６のいずれかの奏する効果に加え、動作に伴う出力を改善できる。
【５８２３】
即ち、操作手段が操作された場合に変位手段が変位可能に構成されるので、配設手段の剛性が変化されるタイミング（即ち、出力される音の態様が変化されるタイミング）を操作手段の操作と関係付けることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【５８２４】
＜球発射ユニットＨ２９１１２ａの凹部Ｈ２９８２１ａ１を一例とする発明の概念について＞
遊技球を送球可能に構成される送球手段と、その送球手段により送球された遊技球の流路となる流路手段とを備えた遊技機において、前記流路手段を通過する遊技球に作用可能に構成される凹部または凸部を備え、前記凹部または凸部は、前記送球手段による送球方向に対して非平行に構成される非平行部を備えることを特徴とする遊技機ＸＪ１。
【５８２５】
遊技球を送球可能に構成される送球手段と、その送球手段により送球された遊技球の流路となる流路手段とを備えた遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－２２１８４７号公報）。
【５８２６】
しかしながら、上述した遊技機では、遊技球の送球に関し、改善の余地があった。
【５８２７】
即ち、送球手段により遊技球が送球される際、遊技球の初期位置（送球手段に対する相対位置）にはばらつきが生じるため、遊技球は、流路手段に沿って真っ直ぐに送球されず、流路手段の内面（遊技球が転動する転動面の側方の内面）に衝突（当接）することがある。このように、流路手段の内面に遊技球が衝突（当接）すると、内面から受ける反力により遊技球が暴れ、その軌跡が安定しないという問題点があった。
【５８２８】
本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、遊技球の送球を改善できる遊技機を提供することを目的とする。
【５８２９】
遊技機ＸＪ１によれば、遊技球の送球を改善できる。
【５８３０】
即ち、流路手段を通過する遊技球に作用可能に構成される凹部または凸部を備え、凹部または凸部は、送球手段による送球方向に対して非平行に構成される非平行部を備えるので、非平行部に遊技球を衝突（当接）させて、遊技球が暴れることを抑制できる。これにより、遊技球の軌跡を安定させることができ、遊技球の送球を改善できる。
【５８３１】
遊技機ＸＪ１において、前記凹部または凸部は、前記送球手段による送球方向に対して略平行に構成される平行部を備えることを特徴とする遊技機ＸＪ２。
【５８３２】
遊技機ＸＪ２によれば、遊技機ＸＪ１の奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。
【５８３３】
即ち、凹部または凸部は、送球手段による送球方向に対して略平行に構成される平行部を備えるので、比較的暴れが小さい遊技球を送球方向に沿って案内することができる。これにより、遊技球の軌跡を安定させることができ、遊技球の送球を改善できる。
【５８３４】
遊技機ＸＪ１又はＸＪ２において、前記凹部または凸部の少なくとも一部は、前記送球手段による送球方向へ向かうに従って幅が大きくなるように構成されることを特徴とする遊技機ＸＪ３。

【５８３５】
遊技機ＸＪ３によれば、遊技機ＸＪ１又はＸＪ２の奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。
【５８３６】
即ち、前記凹部または凸部の少なくとも一部は、前記送球手段による送球方向へ向かうに従って幅が大きくなるように構成されるので、比較的暴れが大きな遊技球に対して凹部または凸部を徐々に作用させることができる。即ち、凹部または凸部への遊技球の衝突（当接）により遊技球の暴れが増幅することを抑制できる。これにより、遊技球の軌跡を安定させることができ、遊技球の送球を改善できる。
【５８３７】
遊技機ＸＪ１からＸＪ３のいずれかにおいて、前記凹部または凸部の少なくとも一部は、前記送球手段による送球方向へ向かうに従って幅が小さくなるように構成されることを特徴とする遊技機ＸＪ４。
【５８３８】
遊技機ＸＪ４によれば、遊技機ＸＪ１からＸＪ３のいずれかの奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。
【５８３９】
即ち、前記凹部または凸部の少なくとも一部は、前記送球手段による送球方向へ向かうに従って幅が小さくなるように構成されるので、遊技球が通過している間、かかる遊技球に対して凹部または凸部の作用を継続させ、遊技球の暴れを収束させやすくできる。これにより、遊技球の軌跡を安定させることができ、遊技球の送球を改善できる。
【５８４０】
遊技機ＸＪ１からＸＪ４のいずれかにおいて、前記凹部または凸部は、前記送球手段の送球方向に通過する遊技球と、前記送球手段の送球方向と反対方向に通過する遊技球とに対して、異なる作用を付与可能に構成されることを特徴とする遊技機ＸＪ５。
【５８４１】
遊技機ＸＪ５によれば、遊技機ＸＪ１からＸＪ４のいずれかの奏する効果に加え、遊技球の送球を改善できる。
【５８４２】
即ち、凹部または凸部は、送球手段の送球方向に通過する遊技球と、送球手段の送球方向と反対方向に通過する遊技球とに対して、異なる作用を付与可能に構成されるので、送球手段の送球方向に通過する遊技球に対しては、その軌跡を安定化させる一方、送球手段の送球方向とは反対方向に通過する遊技球（例えば、発射強度が弱く、発射手段へ戻ってくる遊技球）に対しては、遊技球の通過方向を変更させる（例えば、遊技球を回収口へ案内し、発射装置まで戻らないようにする）ことができる。その結果、遊技球の送球を改善できる。
【５８４３】
遊技機Ａ１からＡ１０、Ｂ１からＢ１０、Ｃ１からＣ１１、Ｄ１からＤ１２、Ｅ１からＥ１１、ＷＡ１－０からＷＡ１－５、ＷＡ２－１からＷＡ２－５、ＷＢ１－１からＷＢ１－６、ＷＢ２－１からＷＢ２－８、ＷＢ３－１からＷＢ３－３、ＷＣ１－１からＷＣ１－４、ＷＣ２－１からＷＣ２－５及びＷＤ１－１からＷＤ１－５、遊技機ＹＡ１からＹＡ１１、ＹＢ１からＹＢ１０、ＹＣ１からＹＣ１１、ＹＤ１からＹＤ５、ＹＥ１からＹＥ３、ＹＦ１からＹＦ３及びＹＧ１からＹＧ３、遊技機ＢＡ１からＢＡ１３、ＢＢ１からＢＢ３、ＢＢＺ１からＢＢＺ１１、ＢＣ１からＢＣ１１、ＢＤ１からＢＤ１３、ＢＥ１からＢＥ３、ＢＥＺ１からＢＥＺ１０、ＢＧ１からＢＧ１６、ＢＨ１からＢＨ１１、ＢＩ１からＢＩ３及びＢＩＺ１からＢＩＺ１１、遊技機ＣＡ１からＣＡ２６、ＣＢ１からＣＢ４、ＣＣ１からＣＣ４、ＤＡ１からＤＡ１９、ＤＢ１からＤＢ４、ＤＣ１からＤＣ４、ＤＤ１からＤＤ４、ＥＡ１からＥＡ４、ＥＢ１からＥＢ４及びＥＣ１からＥＣ５、遊技機ＦＡ１からＦＡ１３、ＦＢ１からＦＢ１２、ＦＣ１からＦＣ８又はＦＤ１からＦＤ５、遊技機ＫＡ１からＫＡ１０、ＫＢ１からＫＢ８、ＫＣ１からＫＣ１０、ＫＤ１からＫＤ１０、ＫＥ１か

らＫＥ１０、ＫＦ１からＫＦ１６、ＫＧ１からＫＧ１０、ＫＫＨ１からＫＫＨ５、ＫＨ１からＫＨ１３、ＫＩ１からＫＩ１１及びＫＪ１からＫＪ１１、ＸＡ１からＸＡ９、ＸＢからＸＢ１１、ＸＣ１からＸＣ９、ＸＤ１からＸＤ９、ＸＥ１からＸＥ９、ＸＦ１からＸＦ１２、ＸＧ１からＸＧ８、ＸＨ１からＸＨ６ＸＩ１からＸＩ７、ＸＪ１からＸＪ５のいずれかにおいて、前記遊技機はスロットマシンであることを特徴とする遊技機Ｚ１。中でも、スロットマシンの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段（ストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備えた遊技機」となる。この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【５８４４】

遊技機Ａ１からＡ１０、Ｂ１からＢ１０、Ｃ１からＣ１１、Ｄ１からＤ１２、Ｅ１からＥ１１、ＷＡ１－０からＷＡ１－５、ＷＡ２－１からＷＡ２－５、ＷＢ１－１からＷＢ１－６、ＷＢ２－１からＷＢ２－８、ＷＢ３－１からＷＢ３－３、ＷＣ１－１からＷＣ１－４、ＷＣ２－１からＷＣ２－５及びＷＤ１－１からＷＤ１－５、遊技機ＹＡ１からＹＡ１１、ＹＢ１からＹＢ１０、ＹＣ１からＹＣ１１、ＹＤ１からＹＤ５、ＹＥ１からＹＥ３、ＹＦ１からＹＦ３及びＹＧ１からＹＧ３、遊技機ＢＡ１からＢＡ１３、ＢＢ１からＢＢ３、ＢＢＺ１からＢＢＺ１１、ＢＣ１からＢＣ１１、ＢＤ１からＢＤ１３、ＢＥ１からＢＥ３、ＢＥＺ１からＢＥＺ１０、ＢＧ１からＢＧ１６、ＢＨ１からＢＨ１１、ＢＩ１からＢＩ３及びＢＩＺ１からＢＩＺ１１、遊技機ＣＡ１からＣＡ２６、ＣＢ１からＣＢ４、ＣＣ１からＣＣ４、ＤＡ１からＤＡ１９、ＤＢ１からＤＢ４、ＤＣ１からＤＣ４、ＤＤ１からＤＤ４、ＥＡ１からＥＡ４、ＥＢ１からＥＢ４及びＥＣ１からＥＣ５、遊技機ＦＡ１からＦＡ１３、ＦＢ１からＦＢ１２、ＦＣ１からＦＣ８又はＦＤ１からＦＤ５、遊技機ＫＡ１からＫＡ１０、ＫＢ１からＫＢ８、ＫＣ１からＫＣ１０、ＫＤ１からＫＤ１０、ＫＥ１からＫＥ１０、ＫＦ１からＫＦ１６、ＫＧ１からＫＧ１０、ＫＫＨ１からＫＫＨ５、ＫＨ１からＫＨ１３、ＫＩ１からＫＩ１１及びＫＪ１からＫＪ１１、ＸＡ１からＸＡ９、ＸＢからＸＢ１１、ＸＣ１からＸＣ９、ＸＤ１からＸＤ９、ＸＥ１からＸＥ９、ＸＦ１からＸＦ１２、ＸＧ１からＸＧ８、ＸＨ１からＸＨ６ＸＩ１からＸＩ７、ＸＪ１からＸＪ５のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機であることを特徴とする遊技機Ｚ２。中でも、パチンコ遊技機の基本構成としては操作ハンドルを備え、その操作ハンドルの操作に応じて球を所定の遊技領域へ発射し、球が遊技領域内の所定の位置に配設された作動口に入賞（又は作動口を通過）することを必要条件として、表示手段において動的表示されている識別情報が所定時間後に確定停止されるものが挙げられる。また、特別遊技状態の発生時には、遊技領域内の所定の位置に配設された可変入賞装置（特定入賞口）が所定の態様で開放されて球を入賞可能とし、その入賞個数に応じた有価価値（景品球のみならず、磁気カードへ書き込まれるデータ等も含む）が付与されるものが挙げられる。

【５８４５】

遊技機Ａ１からＡ１０、Ｂ１からＢ１０、Ｃ１からＣ１１、Ｄ１からＤ１２、Ｅ１からＥ１１、ＷＡ１－０からＷＡ１－５、ＷＡ２－１からＷＡ２－５、ＷＢ１－１からＷＢ１－６、ＷＢ２－１からＷＢ２－８、ＷＢ３－１からＷＢ３－３、ＷＣ１－１からＷＣ１－４、ＷＣ２－１からＷＣ２－５及びＷＤ１－１からＷＤ１－５、遊技機ＹＡ１からＹＡ１１、ＹＢ１からＹＢ１０、ＹＣ１からＹＣ１１、ＹＤ１からＹＤ５、ＹＥ１からＹＥ３、ＹＦ１からＹＦ３及びＹＧ１からＹＧ３、遊技機ＢＡ１からＢＡ１３、ＢＢ１からＢＢ３、ＢＢＺ１からＢＢＺ１１、ＢＣ１からＢＣ１１、ＢＤ１からＢＤ１３、ＢＥ１からＢＥ３、ＢＥＺ１からＢＥＺ１０、ＢＧ１からＢＧ１６、ＢＨ１からＢＨ１１、ＢＩ１からＢＩ３及びＢＩＺ１からＢＩＺ１１、遊技機ＣＡ１からＣＡ２６、ＣＢ１からＣＢ４、ＣＣ１からＣＣ４、ＤＡ１からＤＡ１９、ＤＢ１からＤＢ４、ＤＣ１からＤＣ４、ＤＤ１からＤＤ４、ＥＡ１からＥＡ４、ＥＢ１からＥＢ４及びＥＣ１からＥＣ５、遊技機ＦＡ１から

ＦＡ１３、ＦＢ１からＦＢ１２、ＦＣ１からＦＣ８又はＦＤ１からＦＤ５、遊技機ＫＡ１からＫＡ１０、ＫＢ１からＫＢ８、ＫＣ１からＫＣ１０、ＫＤ１からＫＤ１０、ＫＥ１からＫＥ１０、ＫＦ１からＫＦ１６、ＫＧ１からＫＧ１０、ＫＫＨ１からＫＫＨ５、ＫＨ１からＫＨ１３、ＫＩ１からＫＩ１１及びＫＪ１からＫＪ１１、ＸＡ１からＸＡ９、ＸＢからＸＢ１１、ＸＣ１からＸＣ９、ＸＤ１からＸＤ９、ＸＥ１からＸＥ９、ＸＦ１からＸＦ１２、ＸＧ１からＸＧ８、ＸＨ１からＸＨ６ＸＩ１からＸＩ７、ＸＪ１からＸＪ５のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機とスロットマシンとを融合させたものであることを特徴とする遊技機Ｚ３。中でも、融合させた遊技機の基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備え、遊技媒体として球を使用すると共に、前記識別情報の動的表示の開始に際しては所定数の球を必要とし、特別遊技状態の発生に際しては多くの球が払い出されるように構成されている遊技機」となる。

【５８４６】

以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図２６９から図３２６を参照し、第５４実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｈ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。

【５８４７】

図２６９は、第５４実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図２７０は、パチンコ機Ｈ１０の背面図であり、図２７１は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図２７２は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放した状態で裏パックユニットＨ９４を内枠Ｈ１２に対して開放した状態（展開）を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図２７３は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を閉鎖すると共に正面枠Ｈ１４を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図２７４は、正面枠Ｈ１４を取り外した状態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図２７５は、遊技盤Ｈ１３及び内枠Ｈ１２の分解正面斜視図であり、図２７６は、正面枠Ｈ１４の分解正面斜視図であり、図２７７は、正面枠Ｈ１４の分解背面斜視図である。なお、図２７４では、発射位置送球ユニットＨ１７０から球発射ユニットＨ１１２ａに球を送球するための背面側開口Ｈ１７２が２点鎖線で図示される。

【５８４８】

また、以下の説明では、図２６９に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図２６９に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図２６９参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ｈ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【５８４９】

また、特段の説明がない限り、パチンコ機Ｈ１０を遊技する遊技者は、パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置し、パチンコ機Ｈ１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に視線を向けた状態（パチンコ機Ｈ１０の正面側と対面した状態）で遊技するものとして説明する。

【５８５０】

図２６９～図２７７に示すように、パチンコ機Ｈ１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠Ｈ１１と、その外枠Ｈ１１と略同一の外形形状に形成され外枠Ｈ１１に対して開閉可能に支持された内枠Ｈ１２と、その内枠Ｈ１２と略同一の外形形状に形成され内枠Ｈ１２に対して開閉可能に支持された正面枠Ｈ１４とを主に備えている

。
【５８５１】
外枠Ｈ１１には、内枠Ｈ１２を支持するために正面視（図２６９参照）左側（矢印Ｌ方向側）の上下（矢印Ｕ－Ｄ方向）２カ所に金属製のヒンジＨ１８が取り付けられ、そのヒンジＨ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠Ｈ１２が正面枠Ｈ１４と共に正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている。
【５８５２】
パチンコ機Ｈ１０は、外枠Ｈ１１を島設備に取り付け固定することにより遊技場に設置される。なお、パチンコ機Ｈ１０において外枠Ｈ１１は必須の構成ではなく、外枠Ｈ１１又は外枠Ｈ１１と同一の内形を有し、外枠Ｈ１１の内枠Ｈ１２支持構造（ヒンジＨ１８等）及び施錠構造を有する部材が遊技場に備え付けられた構成としても良い。
【５８５３】
外枠Ｈ１１は、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される上方板Ｈ１１ａと、下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される下方板Ｈ１１ｂと、それら上方板Ｈ１１ａ及び下方板Ｈ１１ｂの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両端同士を上下方向に連結する左方板Ｈ１１ｃ及び右方板Ｈ１１ｄとを組み合わせて枠状に形成される。
【５８５４】
なお、外枠Ｈ１１は、木材で形成されるものに限られるものではなく、アルミ等の金属材料やプラスチック等の樹脂材料で形成されていても良く、それら木材、金属材料、又は、樹脂材料から形成される部材（上方板Ｈ１１ａ，下方板Ｈ１１ｂ，左方板Ｈ１１ｃ，右方板Ｈ１１ｄ）を組み合わせて形成されるものであっても良い。
【５８５５】
また、本実施形態では、外枠Ｈ１１の正面視左側（矢印Ｌ方向側）にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視右側（矢印Ｒ方向側）を正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能とされるが、外枠Ｈ１１の正面視右側にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視左側を正面手前側へ開閉可能としても良く、又、ヒンジＨ１８を外枠Ｈ１１の正面視下側（矢印Ｄ方向側）の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に取り付け、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視上側（矢印Ｕ方向側）を正面手前側へ開閉可能とするものであっても良い。
【５８５６】
内枠Ｈ１２は、外枠Ｈ１１と外形がほぼ同一の長方形状に形成される枠形成ユニットＨ１２ａと、その枠形成ユニットＨ１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に回動可能に支持される裏パックユニットＨ９４とを主に備えて形成され、裏パックユニットＨ９４が正面視で左側（矢印Ｌ方向側）を回動基端側（開閉基端側）とし、右側（矢印Ｒ方向側）を回動先端側（開閉先端側）として後方へ回動可能とされている（図２７２参照）。
【５８５７】
また、内枠Ｈ１２には、枠形成ユニットＨ１２ａと裏パックユニットＨ９４とで正面側（矢印Ｆ方向側）が開放する略箱状に形成された内側に多数の釘や入賞口Ｈ６３，Ｈ６４等を有する遊技盤Ｈ１３（図２７４及び図２７５参照）が配設される。この遊技盤Ｈ１３の正面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。
【５８５８】
なお、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、左側（矢印Ｌ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の左端部を支持する目的の左端支持部Ｈ１２ａ１と、右側（矢印Ｒ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の右端部を支持する目的の盤面支持装置Ｈ１２ａ２が配設される。遊技盤Ｈ１３は、左端支持部Ｈ１２ａ１にベース板Ｈ６０の左側端部が挿入されつつ内枠Ｈ１２の背面側（矢印Ｂ方向側）に押し込まれた後、盤面支持装置Ｈ１２ａ２が操作されて盤面支持装置Ｈ１２ａ２がベース板Ｈ６０の正面と係合する（ベース板Ｈ６０の正面を支持する）ことで内枠Ｈ１２の内側に固定される。
【５８５９】
また、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａは、球を遊技盤Ｈ１３の正面領域（遊技領

域）に発射する球発射ユニットＨ１１２ａ（図２７４参照）と、正面枠Ｈ１４（上下皿ユニットＨ１５）に球を送球する皿通路形成部材Ｈ１６０と（図２７４参照）を主に備えて形成される。

【５８６０】

さらに、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、正面枠Ｈ１４を支持するために正面視左側（矢印Ｌ方向側）の上下２カ所に金属製のヒンジＨ１９が取り付けられ、そのヒンジＨ１９が設けられた側を開閉の軸として正面枠Ｈ１４が正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている（図２７３参照）。なお、内枠Ｈ１２の施錠と正面枠Ｈ１４の施錠とは、枠形成ユニットＨ１２ａに配設されるシリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。なお、シリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１は、振動または動作可能に構成されると共に変位可能に構成される。

【５８６１】

なお、ヒンジＨ１９による内枠Ｈ１２と正面枠Ｈ１４との開錠は、シリンダ錠Ｈ２０に専用の鍵を差し込むものではなく、後述する操作ユニットＨ１８０、機能調整操作部Ｈ１９０、操作ハンドルＨ５１、球抜きレバーＨ５２、球排出レバーＨ５４、又は、貸球操作部Ｈ４０等の正面枠Ｈ１４に配設される操作ユニットを操作することで行われるようにしても良い。また、内枠Ｈ１２又は正面枠Ｈ１４を開放した後で、開放されたの内側から操作ユニットＨ１８０、機能調整操作部Ｈ１９０、操作ハンドルＨ５１、球抜きレバーＨ５２、球排出レバーＨ５４、又は、貸球操作部Ｈ４０等の正面枠Ｈ１４に配設される操作ユニットを操作することで、所定の部材（例えば、上側装飾ユニットＨ１４ａ、左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃの化粧板）の係合が解除され所定の部材が取り外されるようにしても良い。

【５８６２】

球発射ユニットＨ１１２ａは、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０を介して１球ずつ所定のタイミングで送球される球を受け入れ可能に形成され、遊技盤Ｈ１３（内レールＨ６１及び外レールＨ６２）への球の送球方向に延設される発射レールＨ１１２ａ１と、回転可能に軸支され発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転して当接可能に形成される回転体Ｈ１１２ａ２と、その回転体Ｈ１１２ａ２を回転させるための駆動モータＨ８５０（図１８９参照）とを主に備えて形成される。

【５８６３】

即ち、球発射ユニットＨ１１２ａは、変位可能に構成される回転体Ｈ１１２ａ２を変位させて被案内物体である遊技球を発射可能に構成される。なお、回転体Ｈ１１２ａ２は、駆動または動作可能に構成される。

【５８６４】

球発射ユニットＨ１１２ａから遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）への球の発射（送球）は、発射レールＨ１１２ａ１上に球が送球された後、回転動作物体である回転体Ｈ１１２ａ２を回転させて発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転体Ｈ１１２ａ２を衝突させることで行われる。

【５８６５】

なお、本実施形態では、回転する回転体Ｈ１１２ａ２により球発射ユニットＨ１１２ａから球が発射（送球）されるが、球を発射する構造は回転する部材（回転体Ｈ１１２ａ２）に限られるものではない。例えば、球の発射方向にスライド変位可能なスライド体と、そのスライド体をスライド変位させるソレノイドとを備え、ソレノイドの励磁によりスライド体を変位させて球に衝突させることで球の発射（送球）が行われる伸縮装置として構成しても良い。

【５８６６】

なお、駆動モータＨ８５０は、振動または動作可能に構成される。即ち、駆動主体としての駆動モータＨ８５０は、変位可能に構成される。これより、被回転物体である回転軸棒と一体的に回転体Ｈ１１２ａ２を回転させ、遊技球を発射することが可能とされる。

【５８６７】

また、球発射ユニットＨ１１２ａは、内枠Ｈ１２に配設されるものに限られるものでなく、パチンコ機Ｈ１０の演出装置としてベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に（遊技盤Ｈ１３に）配設することも可能である。例えば、センターフレームＨ８６やベース板Ｈ６０に開口した開口部からベース板Ｈ６０の背面側に配設される発射レールＨ１１２ａ１上に球を送球して、その球を回転体Ｈ１１２ａ２により発射して第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側を球が通過するように構成しても良い。

【５８６８】

皿通路形成部材Ｈ１６０は、図２７４に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１と本体側下皿通路部Ｈ１６２とを有している。本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路部Ｈ１６２は、背面側（矢印Ｂ方向側）の端部が内枠Ｈ１２に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通される貫通孔と連通可能となるように背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて開放され、正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が下方（矢印Ｄ方向）へ向けて開放されるように、内部で通路の方向が９０度変化する（前後方向から上下方向に変化する）湾曲通路を形成する。この構成において、払出装置Ｈ１３３から払い出された球は内枠Ｈ１２の貫通孔を通り、皿通路形成部材Ｈ１６０の背面側の端部から皿通路形成部材Ｈ１６０に進入し、正面側の端部から排出される。

【５８６９】

なお、皿通路形成部材Ｈ１６０の下側部分には、図２７４に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路部Ｈ１６２からの球の流出を規制するシャッタＨ１６３が設けられている。シャッタＨ１６３は、両通路の出口部分を狭め球の流出を阻止する阻止位置と、球の流出を許容する許容位置との両位置に切り替え可能に設けられており、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を閉鎖した状態とされる場合に許容位置に配置され、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を開放した状態（図２７３に示す状態）とされる場合に阻止位置に配置される。これにより、本体側上皿通路部Ｈ１６１又は本体側下皿通路部Ｈ１６２に球が貯留されている状態で正面枠Ｈ１４を開放した場合に、その貯留球がこぼれ落ちてしまうといった不都合が回避されている。

【５８７０】

正面枠Ｈ１４は、金属板によって縦長の矩形枠状に形成される本体枠Ｈ１４ｄと、その本体枠Ｈ１４ｄに配設され、その本体枠Ｈ１４ｄの上方側（矢印Ｕ方向側）の正面に配設される上側装飾ユニットＨ１４ａと、その上側装飾ユニットＨ１４ａの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側から下方（矢印Ｄ方向側）に向けて延設される左側装飾ユニットＨ１４ｂ及び右側装飾ユニットＨ１４ｃと、本体枠Ｈ１４ｄの下方側の正面を覆う上下皿ユニットＨ１５と、本体枠Ｈ１４ｄを介して上下皿ユニットＨ１５の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０と、その通路形成ユニットＨ１４０の背面側に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０とを主に備えて構成され、内枠Ｈ１２に回動可能に取り付けられている。

【５８７１】

また、正面枠Ｈ１４の回動基端側には、図２７６及び図２７７に示すように、前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８が設けられ、この前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８（前扉取付金具Ｈ５７は円柱状部、前扉取付金具Ｈ５８は軸孔を有する金属板）が内枠Ｈ１２に係合することにより、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４が回動可能に支持される。

【５８７２】

詳細には、前扉取付金具Ｈ５７は、内枠Ｈ１２の上側のヒンジＨ１９の下方位置において内枠Ｈ１２の正面側端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ延設され先端から背面側（矢印Ｂ方向側）へ前扉取付金具Ｈ５７が内嵌可能な大きさで凹設される嵌合凹部Ｈ１２ｅ１（図２７５参照）を有する軸支板部Ｈ１２ｅに軸支される。また、前扉取付金具Ｈ５８は、内枠Ｈ１２の下側のヒンジＨ１９から上方（矢印Ｕ方向）に突設される段付き円柱形状（直径の違う円柱が上下に連設される構成において上側の円柱の直径の方が小さい形状）の支持ピンＨ１９ａに外嵌されることで軸支される。

【５８７３】

また、正面枠Ｈ１４には、上側装飾ユニットＨ１４ａと左側装飾ユニットＨ１４ｂと右側装飾ユニットＨ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｈ１４ｅが形成され、その窓部Ｈ１４ｅを塞ぐように正面枠Ｈ１４（本体枠Ｈ１４ｄ）の背面側（矢印Ｂ方向側）に２枚の板ガラスを有し光を透過可能に構成されるガラスユニットＨ１６が配設される（図２６９参照）。なお、パチンコ機Ｈ１０は、ガラスユニットＨ１６（窓部Ｈ１４ｅ）を介してパチンコ機Ｈ１０の正面側から遊技盤Ｈ１３の正面が視認可能となっている。

【５８７４】

ガラスユニットＨ１６は、図２６９及び図２７３に示すように、窓部Ｈ１４ｅより大きな外形で光透過性（透明性）を有する前後一対の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂと、これら透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを一体化する固定枠（図示せず）と、を備えている。固定枠は、樹脂材料により透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂより一回り大きな環状に形成され、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの外周縁が固定枠に接着されることでガラスユニットＨ１６は一体化された複層ガラスとされている。

【５８７５】

なお、ガラスユニットＨ１６は、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂによって光を透過可能に構成される（無色透明に形成されている）が、これに限定されることはなく樹脂材料によって無色透明に形成されていてもよく、パチンコ機Ｈ１０前方からガラスユニットＨ１６を通じて遊技領域を視認可能であれば無色透明でなく有色透明に形成されていても良い。

【５８７６】

また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂは、それら２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態で配設しても良い。透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態とする場合には、それら２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に変位可能な変位手段を配設して、遊技盤Ｈ１３よりも前方側（矢印Ｆ方向側）で変位手段による演出を可能にしても良い。この場合の変位手段とは、例えば、紙やナイロン等の部材から形成される複数の変位部材を固定枠に形成した孔から送り出す風により吹き飛ばす演出をするものや、固定枠に変位可能に配設した変位部材を音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図２７８参照）により２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間で変位させるものである。また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを固定する固定板に発光手段を配設し、その発光手段から出射される光を前方側の透明ガラスＨ１６ａまたは背面側（矢印Ｂ方向側）の透明ガラスＨ１６ｂの一方に照射して、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの一方に照射された光を遊技者に視認させる演出をするようにしても良い。

【５８７７】

正面枠Ｈ１４（上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃ）において窓部Ｈ１４ｅの周囲には、図２６９に示すようにＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が複数設けられている。これら電飾部Ｈ２９～Ｈ３３では、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて点灯や点滅が行われる。また、窓部Ｈ１４ｅの上側（矢印Ｕ方向側）の電飾部Ｈ３０には、遊技球が通過可能に構成される被通過進入物体である検出センサにより検出される払出球が不足する等の所定のエラー時に点灯する発光手段と、賞球払出中に点灯する発光手段とが内蔵されている。

【５８７８】

また、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃに独立して配置される独立配置物体である電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３から出射される光を非透過とする非透過性の樹脂材料から形成される。これにより、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の発光（点灯や点滅）を遊技者に注目させやすい構造となっている。

【５８７９】

なお、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、非透過に形成されるものに限られず、透過性の樹脂材料から形成して電飾部Ｈ２９～Ｈ３３に発光（点灯や点滅）があった場合に正面枠Ｈ１４の全体から光を出射（透過）可能に構成しても良い。また、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材を配設して煌びやかさを醸し出すように構成しても良い。

【５８８０】

上側装飾ユニットＨ１４ａの左側（矢印Ｌ方向側）及び右側（矢印Ｒ方向側）には（窓部Ｈ１４ｅの右上側及び左上側には）、遊技状態に応じた効果音などが出力されるスピーカー組立体（音声出力装置Ｈ２２６（図２７８参照））を覆うスピーカーカバーＨ２７（パンチングメタルから形成される薄板部材）が設けられており、スピーカーカバーＨ２７を介してスピーカーの音をパチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に放音可能に構成されている。

【５８８１】

窓部Ｈ１４ｅの下方（矢印Ｂ方向）には、図２６９に示すように、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とが手前側へ膨出して配置されると共にそれら上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とが上下に並設される上下皿ユニットＨ１５が配設される。

【５８８２】

上皿Ｈ１７は、上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿Ｈ１７に賞球や貸出球などが排出される。また、上皿Ｈ１７は、払出装置Ｈ１３３（図２７０参照）より払い出された球を一旦貯留し、一列に整列させながら球発射ユニットＨ１１２ａ（図２７４参照）側へ導く機能を有しており、底面が正面視右側（矢印Ｒ方向側）に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿Ｈ１７に投入された球を発射位置送球ユニットＨ１７０へと案内可能に形成される。なお、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０に送球された球は、発射位置送球ユニットＨ１７０の動作により１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａへ案内される。即ち、遊技球が通過可能に構成される発射位置送球ユニットＨ１７０により遊技球を球発射ユニットＨ１１２ａに送球可能とされる。言い換えると、遊技球を送球可能に構成される発射位置送球ユニットＨ１７０により遊技球を球発射ユニットＨ１１２ａに送球可能とされる。

【５８８３】

下皿Ｈ５０は、上面を開放した略箱状に形成され、上皿Ｈ１７内にて余剰となった球を貯留する機能を有している。また、下皿Ｈ５０の背面側（矢印Ｂ方向側）側面には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口され球が下皿Ｈ５０に案内される球案内開口Ｈ５３が形成される。

【５８８４】

下皿Ｈ５０の正面側（矢印Ｆ方向側）の下方（矢印Ｄ方向）部には、下皿Ｈ５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバーＨ５２が設けられている。この球抜きレバーＨ５２は、常時、右方向（矢印Ｒ方向）に付勢されており、その付勢に抗して左方向（矢印Ｌ方向）へスライドさせることにより、下皿Ｈ５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバーＨ５２の操作は、通常、下皿Ｈ５０の下方に下皿Ｈ５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。

【５８８５】

なお、球抜きレバーＨ５２の操作により、千両箱に球を排出するものに限らず、島設備に連通する回収口に球を排出するものであっても良い。また、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とに分けて複数箇所に球を貯留する部位を設ける必要はなく、下皿Ｈ５０を廃止して上皿Ｈ１７のみとした１つの貯留部のみを有する構成としても良い。

【５８８６】

また、下皿Ｈ５０から球を排出する球抜きレバーＨ５２の操作を駆動モータにより制御することも可能である。これによれば、下皿Ｈ５０に球が払い出されたことや下皿Ｈ５０に所定数の球数が払い出されたこと起因して、球抜きレバーＨ５２を駆動モータにより変

位させることで、下皿Ｈ５０からの球の排出を遊技者が忘れて下皿Ｈ５０の貯留領域に球が溢れることを抑制できる。

【５８８７】

特に、最近では、パチンコ機Ｈ１０が設置される店舗の島設備に連通する回収口に下皿Ｈ５０から球を排出する店舗が多くなっており、所定数の球数しか貯留できない千両箱に下皿Ｈ５０から排出される球を排出する店舗が少なくなっている。店舗の島設備に連通する回収口に下皿Ｈ５０から球を排出する店舗では、下皿Ｈ５０から球が払い出されている最中に千両箱の交換等が必要ないので、下皿Ｈ５０への球の払い出しに伴って駆動モータにより球抜きレバーＨ５２を変位させる構成とすることで、遊技者の球抜きレバーＨ５２の操作を不要とできる。

【５８８８】

即ち、後述する主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１により大当たりの演出がされることに伴って、下皿Ｈ５０の球抜きレバーＨ５２を駆動モータにより変位させることで、大当たりにより下皿Ｈ５０に払い出される球を回収口に排出することができ、遊技者の球抜きレバーＨ５２の操作を不要とできる。その結果、遊技者をパチンコ機Ｈ１０の演出（特に大当たりの演出）に集中させることができ、遊技者の興趣を向上できる。

【５８８９】

上皿Ｈ１７（球の貯留領域）の手前側（矢印Ｆ方向側）には、変位可能に構成され、遊技者らにより手動操作される操作ユニットＨ１８０が設けられている。操作ユニットＨ１８０は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面等にて遊技者の操作に対応した演出が行われる場合に使用される操作装置である。なお、操作ユニットＨ１８０は、振動または動作可能に構成される。

【５８９０】

この操作ユニットＨ１８０には、上面側にボタン部Ｈ１８１が配設される。ボタン部Ｈ１８１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される軸を中心に下方側に向けて押圧操作可能とされ、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１（図２７４参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。

【５８９１】

なお、操作ユニットＨ１８０は、上皿Ｈ１７以外に下皿Ｈ５０周辺等の別の部位に設けられても良いし、複数箇所に設けられても良く、また、操作方法として押しボタン式のスイッチであっても良く、タッチセンサ、非接触式のセンサ等の別の操作方法によって情報入力可能な構成としても良い。

【５８９２】

また、操作ユニットＨ１８０は、上皿Ｈ１７の手前側でなく、上側装飾ユニットＨ１４ａ、左側装飾ユニットＨ１４ｂ、右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設しても良く、この場合、上皿Ｈ１７の手前側と別の操作ユニットＨ１８０を配設して、それぞれ別の演出でそれぞれの操作ユニットＨ１８０を遊技者に操作させるようにしても良い。

【５８９３】

操作ユニットＨ１８０の右側には、上下皿ユニットＨ１５の上面側に貸球操作部Ｈ４０（図２７６参照）と機能調整操作部Ｈ１９０と、球排出レバーＨ５４とが配設されている。貸球操作部Ｈ４０には、度数表示部Ｈ４１と、球貸しボタンＨ４２と、返却ボタンＨ４３とが設けられている。パチンコ機Ｈ１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部Ｈ４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部Ｈ４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。

【５８９４】

球貸しボタンＨ４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿Ｈ

１７に供給される。返却ボタンＨ４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿Ｈ１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部Ｈ４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部Ｈ４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。

【５８９５】

機能調整操作部Ｈ１９０は、決定ボタンＨ１９１と、その決定ボタンＨ１９１を中心とする十字状の４方向外側の位置に配設される上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５と備える。

【５８９６】

機能調整操作部Ｈ１９０は、上側装飾ユニットＨ１４ａに配設されるスピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面の明るさ、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設される電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさなどを変更するための操作部である。遊技者は、決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５を操作することで、自身（遊技者）の好みに合うように音量や明るさを変更可能とされる。

【５８９７】

また、音量や明るさを変更する際には、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部に音量や明るさの調整度合いが数値やボリューム等で表示されるようになっている。これにより、遊技者が別のパチンコ機Ｈ１０を遊技し始める場合に音量や明るさの調整を簡易に行うことができる。

【５８９８】

なお、機能調整操作部Ｈ１９０による変更は、音量や明るさに限られるものではなく、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される演出等を変更可能とするものであっても良い。また、音量や明るさの調整度合いを第３図柄表示装置Ｈ８１に表示するものに限られるものではなく、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示しなくても操作と同時に変更（調整）後の音や表示をして調整させるものでも良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に調整度合いを表示するものであっても良い。

【５８９９】

球排出レバーＨ５４は、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に送球する際に遊技者が操作するレバーであり、図示しない付勢手段（バネ）により上方側（矢印Ｕ方向側）に付勢された状態で配設される。なお、球排出レバーＨ５４は、操作される（下方側（矢印Ｄ方向側）に押し込まれる）ことにより上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０に連通される通路を上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０（ファール球通路部Ｈ１４５）に連通する状態に切替可能に構成される。これにより、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に排出することができる。

【５９００】

下皿Ｈ５０の右側（矢印Ｒ方向側）には、変位可能に構成され、遊技者が遊技時に操作する操作ハンドルＨ５１が配設される。なお、操作ハンドルＨ５１は、振動または動作可能に構成される。操作ハンドルＨ５１の内部には、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサＨ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチＨ５１ｂと、回転移動物体である操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。操作ハンドルＨ５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサＨ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤Ｈ１３の正面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドルＨ５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサＨ５１ａおよび発射停止スイッチＨ５１ｂがオフとなっている。

【５９０１】
なお、操作ハンドルＨ５１は、操作ユニットＨ１８０や機能調整操作部Ｈ１９０や貸球操作部Ｈ４０の操作ボタンに置き換え可能である。例えば、操作ボタンの押し込み量を可変抵抗器で検出して操作ボタンの押し込み量に対応した球の打ち出し速度で遊技盤Ｈ１３の正面へ球を打ち込むようにしても良い。また、機能調整操作部Ｈ１９０に球の打ち出し速度を調整する制御を設け、遊技者が設定した打ち出し速度で球を遊技盤Ｈ１３の正面へ打ち込むようにしても良い。
【５９０２】
さらに、操作ハンドルＨ５１を、上述した球排出レバーＨ５２に置き換えても良い。即ち、下皿Ｈ５０からの球の排出を許容する役割と、遊技盤Ｈ１３の正面への球の打ち出しを許容する役割と球排出レバーＨ５２に兼用させても良い。この場合、遊技盤Ｈ１３の正面へ球が打ち出されると下皿Ｈ５０から球の排出を許容でき、遊技盤Ｈ１３の正面へ球の打ち出しが停止されると下皿Ｈ５０からの球の排出を規制できるので、下皿Ｈ５０に球が溜まり過ぎることを抑制できる。
【５９０３】
通路形成ユニットＨ１４０は、樹脂材料により成形されており、上皿Ｈ１７に通じる前扉側上皿通路部Ｈ１４１と、下皿Ｈ５０に通じる前扉側下皿通路部Ｈ１４２と、ファール球通路部Ｈ１４５と、を有している。
【５９０４】
通路形成ユニットＨ１４０の上側隅部（正面枠Ｈ１４の回動基端側の隅部）には後方（矢印Ｂ方向）に突出し上方に開放された払出球受口部Ｈ１４３が形成されており、その払出球受口部Ｈ１４３が仕切壁Ｈ１４４によって左右に仕切られることで前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口と前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口とがそれぞれ形成されている（図２７６参照）。
【５９０５】
なお、前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側上皿通路部Ｈ１６１（図２７４参照）が連通されており、前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側下皿通路部Ｈ１６２（図２７４参照）が連通される。これにより、払出装置Ｈ１３３から送球される球は、上皿Ｈ１７又は下皿Ｈ５０に送球されることとなる。
【５９０６】
ファール球通路部Ｈ１４５（図２７６参照）は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球のうち遊技領域まで至らなかった球をファール球として下皿Ｈ５０に排出する通路を形成する部位である。
【５９０７】
ファール球通路部Ｈ１４５には、図２７７に示すように、上方側（矢印Ｕ方向側）が開放したファール球受口部Ｈ１４６が設けられる。このファール球受口部Ｈ１４６に受け入れられたファール球は、ファール球通路部Ｈ１４５（図２７６参照）の内部通路を流下した後で、下皿Ｈ５０に排出される。なお、ファール球通路部Ｈ１４５は、下皿Ｈ５０でなく、上皿Ｈ１７に接続され、ファール球が上皿Ｈ１７に排出される構成としても良い。
【５９０８】
また、ファール球通路部Ｈ１４５は、遊技者が球排出レバーＨ５４を操作することにより上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０に流下する未発射球が案内される通路である球抜き通路（図示しない）と合流するように形成される。
【５９０９】
発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７に貯留される球を１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａに送球するためのユニットである。発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７の送球経路の開口部に連なる正面側開口Ｈ１７１と、その正面側開口Ｈ１７１から流入した球を背面側から排出可能な背面側開口Ｈ１７２と、それら正面側開口Ｈ１７１から背面側開口Ｈ１７２までを通過する通路上に変位可能に配設される切替手段（図示しない）と、その切替手段を駆動させるソレノイド（図示しない）とを主に備えて形成される

。
【５９１０】
発射位置送球ユニットＨ１７０の切替手段は、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが可能な位置と、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置とに変位可能に構成されており、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置に変位された場合に発射位置送球ユニットＨ１７０の通路上にある球を背面側開口Ｈ１７２から球発射ユニットＨ１１２ａ（発射レールＨ１１２ａ１）に流入可能に形成される。これにより、切替手段の位置の切り替え（１往復の変位）に伴って１球ずつ球を背面側開口Ｈ１７２から排出することが可能となっている。
【５９１１】
なお、背面側開口Ｈ１７２は、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１の上方（矢印Ｕ方向）の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する（図２７４参照）。従って、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１に発射位置送球ユニットＨ１７０から１球ずつ球が送球されることとなる。
【５９１２】
また、図２７４に示すように、背面側開口Ｈ１７２は、発射レールＨ１１２ａ１の球の送球方向における発射レールＨ１１２ａ１の両端部の間に形成される。従って、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１上に送球される球は、発射レールＨ１１２ａ１上を左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両方向に転動可能となるが、発射レールＨ１１２ａ１は一方側（回転体Ｈ１１２ａ２から離れる側）が上方（矢印Ｕ方向）に向かって傾斜した状態で配設されるので、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球された球（回転体Ｈ１１２ａ２により発射前の球）が回転体Ｈ１１２ａ２から離れる方向に転動することが抑制される。
【５９１３】
図２７４に示すように、遊技盤Ｈ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｈ６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）の他、レール部材Ｈ６１，Ｈ６２、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５、スルーゲートＨ６７、可変表示装置ユニットＨ８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠Ｈ１２の裏面側に取り付けられる。なお、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５は、光を透過可能に構成される。
【５９１４】
ベース板Ｈ６０は、光を透過可能に構成される（光透過性の）樹脂材料からなり、その正面側（矢印Ｆ方向側）からベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変表示装置ユニットＨ８０は、ルータ加工によってベース板Ｈ６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤Ｈ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。
【５９１５】
なお、ベース板Ｈ６０は、光透過性の樹脂材料から形成されるものに限られるものではなく、薄い板材を張り合わせた木材から形成されるものであっても良いし、非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても良い。なお、これらの場合、装飾がされたシール等をベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）の全域に貼付してベース板Ｈ６０の装飾性を確保することが好ましい。
【５９１６】
遊技盤Ｈ１３の正面中央部分は、正面枠Ｈ１４の窓部Ｈ１４ｅ（図２６９参照）の一部を通じて内枠Ｈ１２の正面側（矢印Ｆ方向側）から視認することができる。以下に、主に図２７４を参照して、遊技盤Ｈ１３の構成について説明する。
【５９１７】
遊技盤Ｈ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した領域構成部である外レールＨ６２が植立され、その外レールＨ６２の内側位置には外レールＨ６２と

同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＨ６１が植立される。この内レールＨ６１と外レールＨ６２とにより遊技盤Ｈ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ｈ１３とガラスユニットＨ１６（図２６９参照）とにより前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）が囲まれることにより、遊技盤Ｈ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ｈ１３の正面であって２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｈ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。なお、２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２、金属板である必要なく、樹脂材料から帯状に形成されるものであっても良い。

【５９１８】

２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球を遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）へ案内するために設けられたものである。内レールＨ６１の先端部分（図２７４の左上部）には戻り球防止部材Ｈ６８が取り付けられる。

【５９１９】

戻り球防止部材Ｈ６８は、内レールＨ６１側から外レールＨ６２側に延設される樹脂製の板部材から形成され、内レールＨ６１側の一端側を軸に他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転可能とされる。また、戻り球防止部材Ｈ６８は、一端側に錘を備え、その錘により被押進物体である他端側が外レールＨ６２に近づく方向に付勢される。

【５９２０】

これにより、遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）に案内される球の勢いで戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転させることができると共に、抑制物体としての壁部によって回転角度を抑制されており、戻り球防止部材Ｈ６８を超える位置（遊技盤Ｈ１３の上方側）に球が案内された際に戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２に近づく方向に回転させることができ、一旦、遊技盤Ｈ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。

【５９２１】

なお、戻り球防止部材Ｈ６８は、樹脂材料から形成される必要はなく、金属材料から形成されていても良い。また、対象物の動作を抑制する錘以外に磁石などの磁力やねじりバネなどの付勢力によって戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２側に付勢する構成としても良い。

【５９２２】

また、戻り球防止部材Ｈ６８は、後述する風車のように、一方向に継続して回転できるもの（１球ずつ所定位置に戻らないもの）であっても良い。この場合、遊技盤Ｈ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻らないように、遊技盤Ｈ１３の上部への球の案内によって回転する方向（一方向）とは反対の方向（他方向）に回転することを規制するワンウェイクラッチを配設することが好ましい。

【５９２３】

外レールＨ６２の先端部（図２７４の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＨ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＨ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【５９２４】

遊技領域の正面視左側下部（図２７４の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、主制御装置Ｈ１１０（図２７８参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機Ｈ１０の遊技状態の表示が行われる。本実施形態では、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞したか、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａが作動し、一方で、球が、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂが作動するように構成されている。

【５９２５】

また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機Ｈ１０が確変中か時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が確変大当たりに対応した図柄か普通大当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機Ｈ１０の各種遊技状態を示唆することができる。

【５９２６】

尚、本パチンコ機Ｈ１０では、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ｈ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ確変大当たり、４Ｒ確変大当たり、１５Ｒ通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【５９２７】

ここで、「１５Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数（例えば、可変入賞装置Ｈ６５（図２７４参照）が連続開放される最大回数）が１５ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことであり、「４Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことである。また、「１５Ｒ通常大当たり」は、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となる大当たりのことである。

【５９２８】

大当たり中において、最大ラウンド数や現在のラウンド数は、数字の変更を視認させる状態で表示が可能な視認変更物体である表示層（ラウンド数が表示される表示層またはその表示層よりも後方の表示層）での表示と共に第３図柄表示装置Ｍ８１においても表示される。大当たりが終了する際には、ラウンド数の表示が第３図柄表示装置Ｍ８１においてされる表示層よりも前側に位置する視認可能物体である表示層においてエンディング表示（静止画または動画）が実行される。

【５９２９】

このエンディング表示によりラウンド数の表示が隠されることで、遊技者は、大当たりが終了したことを視覚的に把握することができ、戸惑うことなく大当たり後の遊技が開始されることを理解することができる。

【５９３０】

また、ラウンド間において、ラウンド数の表示が第３図柄表示装置Ｍ８１においてされる表示層よりも前側に位置する表示層においてインターバル表示（静止画または動画）が実行される。このインターバル表示によりラウンド数の表示が隠されることで、遊技者は、ラウンドの切れ目であることを視覚的に把握することができる。

【５９３１】

なお、大当たりのラウンド数は、１５Ｒと４Ｒに限られるものではなく、パチンコ機Ｈ１０の機種により他のラウンド数に変更しても良く、又、２種以上のラウンド数を有するものであっても良い。また、時短状態における所定の変動回数は、１００変動回数に限られるものではなく、例えば、１変動回数や１０００変動回数に設定しても良い。

【５９３２】

また、「高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。本実施形態における高確率状態（確変中）は、後述する第２図柄の当たり確率がアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状

態を含む。「低確率状態」とは、確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、確変の時より大当たり確率が低い状態をいう。また、「低確率状態」のうちの時短状態（時短中）とは、大当たり確率が通常の状態であると共に、大当たり確率がそのままで第２図柄の当たり確率のみがアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。一方、パチンコ機Ｈ１０が通常中とは、確変中でも時短中でもない遊技の状態（大当たり確率も第２図柄の当たり確率もアップしていない状態）である。

【５９３３】

確変中や時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａを駆動する駆動主体としてのソレノイドの制御態様が変更され、電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物Ｈ６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、確変中や時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。

【５９３４】

なお、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数を通常中よりも増やす変更を行うものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２図柄の当たり確率は変更せず、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間および１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数の少なくとも一方を変更するものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間や、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａを開放する回数は変更せず、第２図柄の当たり確率だけを、通常中と比してアップするよう変更するものであっても良い。

【５９３５】

遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口Ｈ６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニットＨ８０が配設されている。可変表示装置ユニットＨ８０には、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置Ｈ８１と、スルーゲートＨ６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成され、光を発光可能に構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、可変表示装置ユニットＨ８０には、第３図柄表示装置Ｈ８１の外周を囲むようにして、センターフレームＨ８６が配設されている。

【５９３６】

なお、センターフレームＨ８６は、遊技領域を流下する球がベース板Ｈ６０の中央開口を介して第３図柄表示装置Ｈ８１側に流下することを防止するための部材であり、ベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出して形成される。また、センターフレームＨ８６は光を透過可能に構成される。

【５９３７】

また、センターフレームＨ８６の一部には、遊技領域を流下する球を受け入れると共に第３図柄表示装置Ｈ８１の周囲を通過させて第１入賞口Ｈ６４側から排出するワープ通路（図示せず）が一部に形成される。センターフレームＨ８６に形成されるワープ通路は、遊技球が通過可能に構成される。言い換えると、ワープ通路は、遊技球を送球可能に構成される。

【５９３８】

また、センターフレームＨ８６には、ワープ通路から排出された遊技球が通過可能に構成されるステージを備える。即ち、ワープ通路から排出される遊技球を送球可能に構成されるステージを備える。センターフレームＨ８６のステージは、遊技球が当接した際に別

方向の反力を付与可能に構成される凹部を備え、その凹部により遊技球をベース板Ｈ６０の所定の領域に送球可能に構成される。

【５９３９】

本実施形態では、ベース板Ｈ６０よりも正面側を球が通過するようにワープ通路が構成されるが、ベース板Ｈ６０よりも背面側を球が通過するようにワープ通路を形成することも可能である。例えば、ベース板Ｈ６０よりも背面側を通る通路をベース板Ｈ６０よりも背面側に配設される円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００よりも背面を通過するように構成して、その円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００の変位に伴ってワープ通路を通過する遊技球を遊技者から視認できるようにしても良い。

【５９４０】

なお、センターフレームＨ８６には、遊技領域まで突出して遊技領域の背面側を区画する部分に、所定の幅を隔てた状態で正面側に向かって立設される一対の立設部を形成して、それら一対の立設部により区画される領域に沿って遊技球を流下させるようにしても良い。即ち、センターフレームに遊技球が通過可能に構成される流下経路（一対の立設部）を形成しても良い。

【５９４１】

また、センターフレームＨ８６で遊技球の流下経路を形成した場合には、一対の立設部の対向面（流下経路の内面側）に凹設される凹部または凸設される凸部を形成して、一対の立設部の対向間に沿って流下される遊技球を凹部または凸部に当接させることで、一対の立設部の対向間を流下する遊技球に流下方向（一対の立設部の延設方向）以外の方向の力成分を付与して、一対の立設部の対向間を流下する遊技球における流下方向の速度を低下するようにしても良い。即ち、一対の立設部に形成される凹部または凸部は、遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される。これによれば、球の流下速度を遅くすることで、流下する遊技球を遊技者に視認させやすくできると共に、球発射ユニットＨ１１２ａにより遊技領域に送球（発射）された遊技球がその発射された速度を維持したまま（流下速度が速いまま）釘や突起に当接することで釘や突起が曲がったりすることを抑制できる。

【５９４２】

なお、一対の立設部をセンターフレームＨ８６と別体で構成することも可能である。即ち、遊技球が通過可能に構成される一対の立設部を有する部材をベース板Ｈ６０に別途配設しても良い。これによれば、遊技球を送球可能に構成される一対の立設部により、遊技球を所定の方向に流下させることができる。

【５９４３】

第３図柄表示装置Ｈ８１は９インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置Ｈ１１４（図２７８参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。なお、第３図柄表示装置Ｈ８１は、９インチ以外のサイズで構成されていても、２枚以上の複数の液晶ディスプレイを並設して構成されていても良い。また、第３図柄表示装置Ｈ８１は、後述する円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００に配設され、その円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００の変位に伴って第３図柄表示装置Ｈ８１の表示を切り替える（表示を変更する）ものであっても良い。

【５９４４】

また、第８実施形態では、第３図柄表示装置Ｈ８１の周囲（上方）に退避位置における花弁動作装置Ｇ８００が配置され、その花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に変位されると花弁動作装置Ｇ８００が第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に変位される。よって、花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に変位される際には、第３図柄表示装置Ｈ８１の演出を花弁動作装置Ｇ８００と共に遊技者に視認させることができる。

【５９４５】

なお、花弁動作装置Ｇ８００は、花回転ユニットＧ４００の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第２装飾ユニットＧ４８０が光透過性の材料から形成される。従って、花弁動作装置Ｇ８００が張出位置に配置された状態においては、第２装飾ユニットＧ４８０の第２装飾ユニットＧ４８０を介して第３図柄表示装置Ｈ８１の少なくとも一部が遊技者に視認される。

【５９４６】

第３図柄表示装置Ｈ８１の各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置Ｈ８１は、主制御装置Ｈ１１０（図２７８参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。即ち、第３図柄表示装置Ｈ８１は、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた光を発光可能に構成される。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置Ｈ８１を構成するようにしても良い。

【５９４７】

第２図柄表示装置は、球がスルーゲートＨ６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機Ｈ１０では、球がスルーゲートＨ６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。なお、第２図柄表示装置は、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて図柄を表示されるものであって良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１と別の表示装置とのどちらにも図柄を表示させるものであっても良く、本実施形態では、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示される。

【５９４８】

パチンコ機Ｈ１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｈ６４０に付随された電動役物Ｈ６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【５９４９】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、確変中または時短中の方が短くなるように設定される。これにより、確変中および時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、確変中および時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【５９５０】

なお、確変中または時短中において、当たり確率を高める、１回に当たりに対する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、確変中または時短中に第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としても良い。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、確変中または時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしても良いし、また、１回の当たりに対する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしても良い。

【５９５１】

スルーゲートＨ６７は、可変表示装置ユニットＨ８０の左右の領域において遊技盤Ｈ１３に組み付けられ、遊技盤Ｈ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲートＨ６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示

の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【５９５２】

球のスルーゲートＨ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。なお、本実施形態では、光を発光可能に構成される第２図柄保留ランプは、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示されるように構成されるが、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に点灯表示するものであっても良い。例えば、スルーゲートＨ６７への球の通過に伴って点灯する４つのＬＥＤを第３図柄表示装置Ｈ８１の下方に配設して点灯表示するものであっても良い。

【５９５３】

また、スルーゲートＨ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け数は２つに限定されるものではなく、例えば１つであっても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＨ８０の左右に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の下方でも良い。また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしても良い。

【５９５４】

可変表示装置ユニットＨ８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口Ｈ６４が配設されている。この第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図２７８参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａで示される。

【５９５５】

一方、第１入賞口Ｈ６４の正面視下方には、球が入賞し得る第２入賞口Ｈ６４０が配設されている。この第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図２７８参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂで示される。

【５９５６】

また、第１入賞口Ｈ６４および第２入賞口Ｈ６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成しても良い。

【５９５７】

第２入賞口Ｈ６４０には電動役物Ｈ６４０ａが付随されている。この電動役物Ｈ６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖状態（縮小状態）となって、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲートＨ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となり、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しやすい状態となる。

【５９５８】

なお、本実施形態では、第２入賞口Ｈ６４０の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に開閉する羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設され、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となった場合に第２入賞口Ｈ６４０の左右両側から球が第２入賞口Ｈ６４０に入賞可能に構成されるが

、左右方向の一方側の流路を塞ぐ壁を形成して、他方側からのみ第２入賞口Ｈ６４０に球が入賞可能となるように構成しても良い。この場合、第２入賞口Ｈ６４０の他方側にのみ開閉する羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設される。

【５９５９】

また、電動役物Ｈ６４０ａは、回転する羽部材に限られるものではなく、第２入賞口Ｈ６４０を開放する位置と閉鎖する位置とに移動するものであればスライド変位するものであっても良い。例えば、電動役物Ｈ６４０ａは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にスライド変位するものや、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向側）にスライド変位するものであっても良い。

【５９６０】

上述した通り、確変中および時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となる回数が増える。更に、確変中および時短中は、電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。

【５９６１】

本実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０は、遊技盤Ｈ１３の構成が左右対称とされるため、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「右打ち」）、第１入賞口Ｈ６４を狙うことも、可変表示装置ユニットＨ８０の左方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「左打ち」）第２入賞口Ｈ６４０を狙うこともできる。そのため、本実施形態のパチンコ機Ｈ１０は、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることを不要にできる。よって、球の打ち方を変化させる煩わしさを解消することができる。

【５９６２】

なお、低確率状態であっても高確率状態でも大当たりとなる確率が変わらない（低確率状態の大当たり確率と高確率状態の大当たり確率とが同じ確率である）構成としても良い。この場合には、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ確変大当たりとなる確率が、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されるように構成すると共に、「左打ち」側の流路に第１入賞口Ｈ６４を配設し、「右打ち」側の流路に第２入賞口Ｈ６４０を配設する構成（遊技盤Ｈ１３の構成を左右非対称）とすることが好ましい。

【５９６３】

この構成によれば、通常中においては、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物が閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しづらいので、電動役物のない第１入賞口Ｈ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の左方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射し（「左打ち」）、第１入賞口Ｈ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【５９６４】

一方、確変中や時短中は、スルーゲートＨ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｈ６４０に付随する被押進物体である電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｈ６４０へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射し（「右打ち」）、スルーゲートＨ６７を通過させて電動役物を開放状態にすると共に、第２入賞口Ｈ６４０への入賞によって１５Ｒ確変大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【５９６５】

従って、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせ

ることができ、遊技者の興趣を維持できる。
【５９６６】
第１入賞口Ｈ６４の下方には可変入賞装置Ｈ６５（図２７４参照）が配設されており、その略中央部分に特定入賞口Ｈ６５ａが設けられている。パチンコ機Ｈ１０においては、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｈ６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞することが配置検出センサである不図示の入賞検出センサに検出されるまで）開放される。
【５９６７】
この特定入賞口Ｈ６５ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放される。この特定入賞口Ｈ６５ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。
【５９６８】
なお、上記した形態に特別遊技状態は限定されるものではない。特定入賞口Ｈ６５ａとは別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおいて大当たりに対応したＬＥＤが点灯した場合に、特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放され、その特定入賞口Ｈ６５ａの開放中に、球が特定入賞口Ｈ６５ａ内へ入賞することを契機として特定入賞口Ｈ６５ａとは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。また、特定入賞口Ｈ６５ａは１つに限るものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｈ６４の下方右側や、第１入賞口Ｈ６４の下方左側に限らず、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の左方でも良い。
【５９６９】
遊技盤Ｈ１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＫ１が設けられ、貼着スペースＫ１に貼られた証紙等は、正面枠Ｈ１４のガラスユニットＨ１６を介して視認することができる。
【５９７０】
遊技盤Ｈ１３には、アウト口Ｈ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０にも入賞しなかった球は、アウト口Ｈ７１を通って図示しない球排出路へと案内される。アウト口Ｈ７１は、特定入賞口Ｈ６５ａの下方（矢印Ｄ方向側）に配設される。
【５９７１】
また、遊技盤Ｈ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車（図示しない）等の各種部材（役物）とが配設されている。さらに、第３図柄表示装置Ｈ８１を取り囲む態様でベース板Ｈ６０の中央開口部に配設されるセンターフレームＨ８６の一部は、上方側（矢印Ｕ方向側）の遊技領域まで背面側（矢印Ｂ方向側）の側面が延設され、その延設された領域に正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突出する突出部を複数備える。遊技盤Ｈ１３の遊技領域を流下する球は、多数の釘や、センターフレームＨ８６の突出部、風車等に衝突しつつ流下されることで、球の落下方向が適宜分散される。
【５９７２】
なお、本実施形態では、センターフレームＨ８６の一部が延設される方向が上方側（矢印Ｕ方向）に設定されているが、右側（矢印Ｒ方向側）や左側（矢印Ｌ方向側）に延設されていても良く、その延設部分に突出部だけでなくスルーゲートＨ６７や各入賞口Ｈ６３

，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０を配置する構成としても良い。また、センターフレームＨ８６は、延設部分や突出部を備えない構成としても良い。

【５９７３】

風車は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の軸を中心に回転可能に形成される。また、風車は、正面視において回転軸を中心とする円形に形成されベース板Ｈ６０の正面から１球分の距離を隔てた位置に配設される円盤部材と、その円盤部材の一部からベース板Ｈ６０側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出され風車の回転方向に沿って所定の角度（本実施形態では１２０度）で分散配置される複数（本実施形態では３枚）の球当接部とを備えて形成されており、遊技盤Ｈ１３を流下する球が球当接部に当接した衝撃で回転しつつ当接した球を複数（２以上）の方向に案内可能に形成される。

【５９７４】

また、風車は、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。これにより、球当接部に当接した球の流下方向を遊技者に視認させやすくできると共に、風車の回転方向を遊技者に認識させにくくできる。

【５９７５】

なお、遊技盤Ｈ１３は、ベース板Ｈ６０に必ずしも風車を備えている必要はなく風車を備えない構成としても良い。また、センターフレームＨ８６のワープ通路（図示しない）や、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ入球した球が通過する通路（図示しない）の通路途中に風車を配設して、風車により球の通路を変更するように構成することも可能である。さらに、風車は、一部が非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても、全部が非透過性のアルミ等の金属製の材料から形成されるものであっても良く、球が当接した際に球を複数の方向に案内可能であれば形状、色、材質は何でも良い。例えば、風車は、１球ずつ交互に異なる方向に球を振り分け可能に構成されていても良い。また、風車に変えて、上述した戻り球防止部材Ｈ６８を配設して、遊技領域を流下する球を一方向に流下させる（球が戻らない）ように構成しても良い。

【５９７６】

また、上記第５４実施形態では、遊技盤Ｈ１３のベース板Ｈ６０に配設した風車に遊技領域を流下する遊技球を当接（衝突）させて風車を回転させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、風車に駆動手段の駆動力を伝達するように構成しても良い。

【５９７７】

例えば、上記第５４実施形態における風車に置き換えて左側円環部材Ｇ７１０、右側円環部材Ｇ７２０、アーム部Ｇ８１２、第１回転ベースＧ４１０、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ６４２０、花弁側伝達部材Ｇ４３０、第２回転ベースＧ４６０、第２装飾ユニットＧ４８０をベース板Ｈ６０に配設するように構成して、それら回転する左側円環部材Ｇ７１０、右側円環部材Ｇ７２０、アーム部Ｇ８１２、第１回転ベースＧ４１０、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ６４２０、花弁側伝達部材Ｇ４３０、第２回転ベースＧ４６０、第２装飾ユニットＧ４８０に遊技領域を流下する遊技球を衝突させて、遊技球の流下方向を変更するように構成しても良い。

【５９７８】

図２７０に示すように、パチンコ機Ｈ１０の背面側には、制御基板ユニットＨ９０，Ｈ９１と、裏パックユニットＨ９４とが主に備えられている。制御基板ユニットＨ９０は、主基板（主制御装置Ｈ１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置Ｈ１１３）と表示制御基板（表示制御装置Ｈ１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニットＨ９１は、払出制御基板（払出制御装置Ｈ１１１）と発射制御基板（発射制御装置Ｈ１１２）と電源基板（電源装置Ｈ１１５）とカードユニット接続基板Ｈ１１６とが搭載されてユニット化されている。

【５９７９】

裏パックユニットＨ９４は、保護カバー部を形成する裏パックＨ９２と払出ユニットＨ９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコン

としてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。

【５９８０】

なお、主制御装置Ｈ１１０、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び表示制御装置Ｈ１１４、払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２、電源装置Ｈ１１５、カードユニット接続基板Ｈ１１６は、それぞれ基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４に収納されている。基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。

【５９８１】

また、基板ボックスＨ１００（主制御装置Ｈ１１０）及び基板ボックスＨ１０２（払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２が開封されたかどうかを知ることができる。

【５９８２】

払出ユニットＨ９３は、裏パックユニットＨ９４の最上部に位置して上方に開口したタンクＨ１３０と、タンクＨ１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレールＨ１３１と、タンクレールＨ１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレールＨ１３２と、ケースレールＨ１３２の最下流部に設けられ、払出モータＨ２１６（図２７８参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置Ｈ１３３とを備えている。タンクＨ１３０には、遊技ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置Ｈ１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレールＨ１３１には、当該タンクレールＨ１３１に振動を付加するためのバイブレータＨ１３４が取り付けられており、このバイブレータＨ１３４の振動によりタンクレールＨ１３１内に球が詰まることが抑制される。なお、バイブレータＨ１３４は、タンクレールＨ１３１に取り付けられるだけでなく、他のレール部分（通路）に取り付けることも可能である。例えば、上皿Ｈ１７や下皿Ｈ５０に球を送球する球送通路（皿通路形成部材Ｈ１６０）や、上皿Ｈ１７から球発射ユニットＨ１１２ａに球を送球する送球通路（発射位置送球ユニットＨ１７０）に配設しても良い。

【５９８３】

また、払出制御装置Ｈ１１１には状態復帰スイッチＨ１２０が設けられ、発射制御装置Ｈ１１２には可変抵抗器の操作つまみＨ１２１が設けられ、電源装置Ｈ１１５にはＲＡＭ消去スイッチＨ１２２が設けられている。状態復帰スイッチＨ１２０は、例えば、払出モータＨ２１６（図２７８参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみＨ１２１は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）から放音される音の大きさを店舗側で調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２は、パチンコ機Ｈ１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。

【５９８４】

遊技機が配置されるホール（遊技機店舗）では、払出エラーの発生時において、パチンコ機Ｈ１０の設定に影響を与えないように構成される非調整部である店員呼び出しボタンを遊技者が操作することで、ホールの店員が払出エラーに気付くことができるように構成されている。

【５９８５】
なお、タンクＨ１３０に上述した球発射ユニットＨ１１２ａを別途配設して、球発射ユニットＨ１１２ａにより球を打ち出すことでタンクＨ１３０に送球される球が詰まることや、タンクＨ１３０からタンクレールＨ１３１に送球される球が詰まることを抑制しても良い。
【５９８６】
次に、図２７８を参照して、本パチンコ機Ｈ１０の電気的構成について説明する。図２７８は、パチンコ機Ｈ１０の電気的構成を示すブロック図である。
【５９８７】
主制御装置Ｈ１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ（マイクロプロセッサー）Ｈ２０１が搭載されている。ＭＰＵＨ２０１には、該ＭＰＵＨ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ（半導体メモリ）Ｈ２０２と、そのＲＯＭＨ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ（ランダムアクセスメモリ）Ｈ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置Ｈ１１０では、ＭＰＵＨ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｈ８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機Ｈ１０の主要な処理を実行する。
【５９８８】
なお、払出制御装置Ｈ１１１や音声ランプ制御装置Ｈ１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置Ｈ１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置Ｈ１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。
【５９８９】
ＲＡＭＨ２０３は、各種エリア、カウンタ、フラグのほか、ＭＰＵＨ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。なお、ＲＡＭＨ２０３は、パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。
【５９９０】
停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭＨ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭＨ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機Ｈ１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭＨ２０３への書き込みはメイン処理（図示せず）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭＨ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図示せず）において実行される。なお、ＭＰＵＨ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路Ｈ２５２からの停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。
【５９９１】
主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２０４を介して入出力ポートＨ２０５が接続されている。入出力ポートＨ２０５には、払出制御装置Ｈ１１１、音声ランプ制御装置Ｈ１１３、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ、第２図柄表示装置、第２図柄保留ランプ、特定入賞口Ｈ６５ａの被押進物体である開閉板の下辺を軸として正面側に開閉駆動するための駆動主体としての大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドなどからなるソレノイドＨ２０９が接続され、ＭＰＵＨ２０１は、入出力ポートＨ２０５を介してこれらに対し各種コマンド

や制御信号を送信する。
【５９９２】
なお、ソレノイドＨ２０９は、大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドだけでなく、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源（駆動モータ）や、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、上皿Ｈ１７へ球を送球するための払出装置Ｈ１３３を駆動する駆動モータ（図示しない）等を含む構成としても良い。
【５９９３】
入出力ポートＨ２０５には、図示しないスイッチ群およびスルーゲートＨ６７を通過したことを検出するセンサ（スルーゲートＨ６７）、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ入賞した球が進入可能な被進入物体であって、球が入賞したことを検知する入賞検出センサ（図示しない）、パチンコ機Ｈ１０に振動が入力されたことを検出する振動検出センサ（図示しない）、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に磁石等が近づけられたことを検出する磁力検出センサ等のセンサ群などからなる各種スイッチＨ２０８、電源装置Ｈ１１５に設けられた後述のＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３が接続され、ＭＰＵＨ２０１は各種スイッチＨ２０８から出力される信号や、ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３より出力されるＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２に基づいて各種処理を実行する。
【５９９４】
なお、各種スイッチＨ２０８は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における枠ボタンＨ２２（操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１や機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）を含む構成としても良い。
【５９９５】
払出制御装置Ｈ１１１は、払出モータＨ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵＨ２１１は、そのＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２１３とを有している。
【５９９６】
払出制御装置Ｈ１１１のＲＡＭＨ２１３は、主制御装置Ｈ１１０のＲＡＭＨ２０３と同様に、ＭＰＵＨ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭＨ２１３は、パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１と同様、ＭＰＵＨ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路Ｈ２５２から停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。
【５９９７】
払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２１４を介して入出力ポートＨ２１５が接続されている。入出力ポートＨ２１５には、主制御装置Ｈ１１０や払出モータＨ２１６、発射制御装置Ｈ１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置Ｈ１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置Ｈ１１１に接続されるが、主制御装置Ｈ１１０には接続されていない。
【５９９８】
発射制御装置Ｈ１１２は、主制御装置Ｈ１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニットＨ１１２ａを制御するものである。
【５９９９】

球発射ユニットＨ１１２ａの回転体Ｈ１１２ａ２は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドルＨ５１に触れていることをタッチセンサＨ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための発射停止スイッチＨ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）に対応して駆動モータから駆動力が伝達され、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた速度で回転体Ｈ１１２ａ２が回転される。これにより、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた強さで球発射ユニットＨ１１２ａから内レールＨ６１及び外レールＨ６２の対向間に球が発射される。

【６０００】

音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカーなど）Ｈ２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部Ｈ２９～Ｈ３３など）Ｈ２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置Ｈ１１４で行われる第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵＨ２２１は、そのＭＰＵＨ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２２３とを有している。

【６００１】

音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２２４を介して入出力ポートＨ２２５が接続されている。入出力ポートＨ２２５には、主制御装置Ｈ１１０、表示制御装置Ｈ１１４、音声出力装置Ｈ２２６、ランプ表示装置Ｈ２２７、その他装置Ｈ２２８、ボタン部Ｈ１８１などがそれぞれ接続されている。その他装置Ｈ２２８には、駆動モータＧ９１０、駆動モータＧ８４０、及び、駆動手段Ｈ７５０が含まれる。

【６００２】

なお、その他装置Ｈ２２８には、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源だけでなく、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａを含む構成としても良い。

【６００３】

音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置Ｈ１１４へ通知する。

【６００４】

また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、ボタン部Ｈ１８１からの入力を監視し、遊技者によってボタン部Ｈ１８１が操作された場合は、第３図柄表示装置Ｈ８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた背面画像を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた背面画像変更コマンドを表示制御装置Ｈ１１４へ送信する。ここで、背面画像とは、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させる主要な画像である第３図柄の背面側に表示される画像のことである。表示制御装置Ｈ１１４は、この音声ランプ制御装置Ｈ１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置Ｈ８１に各種の画像を表示する。

【６００５】

さらに、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、機能調整操作部Ｈ１９０（決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）からの入力を監視し、遊技者によって機能調整操作部Ｈ１９０が操作された場合は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量を変更したり、第３図柄表示装置Ｈ８１の明るさを変更したり、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさを変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。音量や明るさが変更される場合は、音量や明るさの調整度合いが第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される主要な表示の前方側に数値やボリューム等で一時的に表示さ

れる。
【６００６】
なお、図２７８では、操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１や機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５をまとめて枠ボタンＨ２２として図示している。
【６００７】
また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、表示制御装置Ｈ１１４から第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１３では、表示制御装置Ｈ１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置Ｈ２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置Ｈ２２７の点灯および消灯を制御する。
【６００８】
表示制御装置Ｈ１１４は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び第３図柄表示装置Ｈ８１が接続され、音声ランプ制御装置Ｈ１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置Ｈ１１４は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置Ｈ１１３へ送信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置Ｈ２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示と音声出力装置Ｈ２２６からの音声出力とをあわせることができる。
【６００９】
なお、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８が、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に接続されるように構成して、ＭＰＵＨ２２１が、各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいて各種処理を実行しても良い。また、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８とは別に音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に各種スイッチを接続しても良い。この場合には、主に遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の位置検出センサ等のセンサ群を各種スイッチとして構成することが好ましい。
【６０１０】
電源装置Ｈ１１５は、パチンコ機Ｈ１０の各部に電源を供給するための電源部Ｈ２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路Ｈ２５２と、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図２７８参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３とを有している。電源部Ｈ２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部Ｈ２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチＨ２０８などの各種スイッチや、ソレノイドＨ２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧及びバックアップ電圧を各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対して必要な電圧を供給する。
【６０１１】
停電監視回路Ｈ２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１及び払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＨＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路Ｈ２５２は、電源部Ｈ２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＨＳＧ１を主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１へ出力する。停電信号ＨＳＧ１の出力によって、主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部Ｈ２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった

後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。

【６０１２】

ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３は、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図２７８参照）が押下された場合に、主制御装置Ｈ１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置Ｈ１１０は、パチンコ機Ｈ１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置Ｈ１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置Ｈ１１１に対して送信する。

【６０１３】

図２７９はパチンコ機Ｈ１０の遊技盤Ｍ１３の正面図である。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。本実施形態では、パチンコ機Ｈ１０は、少なくとも、正面枠Ｈ１４（図２７３参照）と、ベース板Ｍ６０（ベース板Ｈ６０に相当、図２７３参照）と、内レールＭ６１（内レールＨ６１に相当、図２７３参照）と、外レールＭ６２（外レールＨ６２に相当、図２７３参照）と、一般入賞口Ｍ６３（一般入賞口Ｈ６３に相当、図２７５参照）と、第１入賞口Ｍ６４（第１入賞口Ｈ６４に相当、図２７４参照）と、第２入賞口Ｍ６４０（第２入賞口Ｈ６４０に相当、図２７５参照）と、電動役物Ｍ６４０ａ（電動役物Ｈ６４０ａに相当、図２７４参照）と、第１可変入賞装置Ｍ６５（可変入賞装置Ｈ６５に相当、図２７４参照）と、第１特定入賞口Ｍ６５ａ（特定入賞口Ｈ６５ａに相当、図２７４参照）と、スルーゲートＭ６７（スルーゲートＨ６７に相当、図２７４参照）と、戻り球防止部材Ｍ６８（戻り球防止部材Ｈ６８に相当、図２７４参照）と、返しゴムＭ６９（返しゴムＨ６９に相当、図２７４参照）と、アウトロＭ７１（アウトロＨ７１に相当、図２７４参照）と、を備える。

【６０１４】

更に、本実施形態では、パチンコ機Ｈ１０は、少なくとも、外縁部材Ｍ７３（外縁部材Ｈ７３に相当、図２７４参照）と、可変表示装置ユニットＭ８０（可変表示装置ユニットＨ８０に相当、図２７４参照）と、第３図柄表示装置Ｍ８１（第３図柄表示装置Ｈ８１に相当、図２７４参照）と、センターフレームＭ８６（センターフレームＨ８６に相当、図２７４参照）と、を備える。

【６０１５】

図２７９に示すように、遊技盤Ｍ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｍ６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車ＭＷＦの他、レールＭ６１，Ｍ６２、一般入賞口Ｍ６３、第１入賞口Ｍ６４、第２入賞口Ｍ６４０、第１可変入賞装置Ｍ６５、第２可変入賞装置Ｍ６５０、スルーゲートＭ６７、可変表示装置ユニットＭ８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠Ｈ１２（図２７４参照）の裏面側（又は表面側）に取り付けられる。

【６０１６】

ベース板Ｍ６０は、木製の板部材から形成される。一般入賞口Ｍ６３、第１入賞口Ｍ６４、第２入賞口Ｍ６４０、可変表示装置ユニットＭ８０は、ルータ加工によってベース板Ｍ６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤Ｍ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。なお、ベース板Ｍ６０を光透過性の樹脂材料から構成しても良い。この場合、その正面側からベース板Ｍ６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能となる。

【６０１７】

遊技盤Ｍ１３の正面中央部分は、正面枠Ｈ１４に配設されるガラスユニットＨ１６（図２７６参照）を通じて内枠Ｈ１２の正面側から視認することができる。以下に、主に図２７９を参照して、遊技盤Ｍ１３の構成について説明する。

【６０１８】

遊技盤Ｍ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レールＭ６２が植立され、その外レールＭ６２の内側位置には外レールＭ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＭ６１が植立される。この内レールＭ６１と外レールＭ６２とにより遊技盤Ｍ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ｍ１３とガラスユニットＨ１６（図１１参照）とにより前後が囲まれることにより、遊技盤Ｍ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ｍ１３の正面であって２本のレールＭ６１，Ｍ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｍ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。

【６０１９】

２本のレールＭ６１，Ｍ６２は、球発射ユニットＨ１１２ａ（図２７４参照）から発射された球を遊技盤Ｍ１３上部へ案内するために設けられたものである。内レールＭ６１の先端部分（図２７９の左上部）には戻り球防止部材Ｍ６８が取り付けられ、一旦、遊技盤Ｍ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。外レールＭ６２の先端部（図２７９の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＭ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＭ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【６０２０】

遊技領域の正面視左側下部（図２７９の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの機能は上述したので、ここでは説明を省略する。

【６０２１】

尚、本パチンコ機Ｈ１０では、第１入賞口Ｍ６４及び第２入賞口Ｍ６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ｈ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ時短有通常大当たり、４Ｒ時短有通常大当たり、１５Ｒ時短無し通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【６０２２】

本パチンコ機Ｈ１０では、時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口Ｍ６４０に付随する電動役物Ｍ６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物Ｍ６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物Ｍ６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、時短中は、第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。

【６０２３】

電動役物Ｍ６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化は、前後にスライド変位可能な開閉板の開閉動作により生じる。電動役物Ｍ６４０ａが開放状態の時は、開閉板がベース板Ｍ６０の前面よりも前方に張り出すことで、開閉板の上面を遊技球が転動可能となり、その転動した遊技球が第２入賞口Ｍ６４０へ入球可能となり、電動役物Ｍ６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板がベース板Ｍ６０の前面よりも後方に退避され、遊技球を第２入賞口Ｍ６４０まで橋渡しすることができなくなることで遊技球が第２入賞口Ｍ６４０に入球し難くなるように構成される。

【６０２４】

なお、電動役物Ｍ６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化が前後にスライド変位可能な開閉板の開閉動作により生じる例として、電動役物Ｍ６４０ａの下方に第２入賞口Ｍ６４０が配置され、電動役物Ｍ６４０ａが開放状態の時に開閉板が後方に退避され、電動

役物Ｍ６４０ａが閉鎖状態の時に開閉板が前方に張り出すように構成しても良い。即ち、電動役物Ｍ６４０ａが開放状態の時は、開閉板がベース板Ｍ６０の前面よりも後方に退避され、遊技球が第２入賞口Ｍ６４０側へ入球可能となり、電動役物Ｍ６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板が遊技領域と第２入賞口Ｍ６４０との間を塞ぐことで球が第２入賞口Ｍ６４０に入球し難くなる（左方へ流される）ように構成されるようにしても良い。

【６０２５】

また、電動役物Ｍ６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化は、下端部に回転軸を備え、遊技領域側へ傾倒または起立する態様で回転変位する開閉板の開閉動作により生じるようにしても良い。この場合、電動役物Ｍ６４０ａが開放状態の時は、開閉板の上面に拾われた遊技球が第２入賞口Ｍ６４０に案内され易く、電動役物Ｍ６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板が遊技領域と第２入賞口Ｍ６４０との間を塞ぐことで球が第２入賞口Ｍ６４０に入球し難くなるように構成することができる。

【６０２６】

遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口Ｍ６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分を通して視認可能な位置（ベース板Ｍ６０の窓部の後方）に、可変表示装置ユニットＭ８０が配設されている。可変表示装置ユニットＭ８０には、第１入賞口Ｍ６４及び第２入賞口Ｍ６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置Ｍ８１と、スルーゲートＭ６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、ベース板Ｍ６０には、第３図柄表示装置Ｍ８１を正面視で囲むようにして、センターフレームＭ８６が配設されている。

【６０２７】

第３図柄表示装置Ｍ８１は９インチサイズから１９インチサイズ程度の大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置Ｈ１１４（図２７８参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置Ｍ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置Ｍ８１は、主制御装置Ｈ１１０（図２７８参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置Ｍ８１を構成するようにしても良い。

【６０２８】

第２図柄表示装置は、球がスルーゲートＭ６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機Ｈ１０では、球がスルーゲートＭ６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。

【６０２９】

パチンコ機Ｈ１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｍ６４０に付随された電動役物Ｍ６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【６０３０】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、時短中の方が短くなるように設定される。これにより、時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選におい

て当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｍ６４０の電動役物Ｍ６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、時短中は、第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【６０３１】

なお、時短中において、当たり確率を高める、１回の当たりに対する電動役物Ｍ６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、時短中に第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、また、１回の当たりに対する電動役物Ｍ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。

【６０３２】

スルーゲートＭ６７は、可変表示装置ユニットＭ８０の右側の領域において遊技盤Ｍ１３に組み付けられ、遊技盤Ｍ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲートＭ６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【６０３３】

球のスルーゲートＭ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。第２図柄保留ランプは、最大保留数分の４つ設けられ、第３図柄表示装置Ｍ８１の下方に左右対称に配設されている。

【６０３４】

なお、第２図柄の変動表示は、本実施形態のように、第２図柄表示装置において複数のランプの点灯と非点灯を切り換えることにより行うものの他、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｍ８１の一部を使用して行うようにしても良い。同様に、第２図柄保留ランプの点灯を第３図柄表示装置Ｍ８１の一部で行うようにしても良い。

【６０３５】

また、スルーゲートＭ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲートＭ６７の組み付け数は１つに限定されるものではなく、例えば２つであっても良い。

【６０３６】

また、スルーゲートＭ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＭ８０の右側に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＭ８０の左右や、下方でも良い。また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより保留球数が示される場合等には、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしてもよい。

【６０３７】

可変表示装置ユニットＭ８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口Ｍ６４が配設されている。この第１入賞口Ｍ６４へ球が入賞すると遊技盤Ｍ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図２７８参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａで示される。

【６０３８】

一方、スルーゲートＭ６７の正面視左下側には、球が入賞し得る第２入賞口Ｍ６４０が配設されている。この第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ｍ１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図２７８参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂで示される。なお、第２入賞口Ｍ６４０の配置

は、これに限られるものではない。例えば、第１入賞口Ｍ６４の正面視下方でも良いし、遊技領域の左右中央よりも左側（例えば、第１入賞口Ｍ６４よりも正面視左下側）でも良い。

【６０３９】

また、第１入賞口Ｍ６４および第２入賞口Ｍ６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｍ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口Ｍ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口Ｍ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成してもよい。この場合の賞球個数の大小関係は逆転しても良い。

【６０４０】

第２入賞口Ｍ６４０には電動役物Ｍ６４０ａが付随されている。この電動役物Ｍ６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物Ｍ６４０ａが閉鎖状態（退避状態）となって、球が第２入賞口Ｍ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲートＭ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ｍ６４０ａが開放状態（張出状態）となり、球が第２入賞口Ｍ６４０へ入賞しやすい状態となる。

【６０４１】

上述した通り、時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物Ｍ６４０ａが開放状態（張出状態）となる回数が増える。更に、時短中は、電動役物Ｍ６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。

【６０４２】

ここで、第１入賞口Ｍ６４に球が入賞した場合と第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞した場合とで、大当たりとなる確率は同一（約１／３１９）である。しかしながら、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ時短有通常大当たりとなる確率は、第２入賞口Ｍ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｍ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されている。一方、第１入賞口Ｍ６４は、第２入賞口Ｍ６４０にあるような電動役物Ｍ６４０ａは有しておらず、球が常時入賞可能な状態となっている。

【６０４３】

よって、通常中においては、第２入賞口Ｍ６４０に付随する電動役物Ｍ６４０ａが閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｍ６４０に入賞しづらいので、電動役物Ｍ６４０ａのない第１入賞口Ｍ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＭ８０の左方を球が通過するように球を発射し（所謂「左打ち」）、第１入賞口Ｍ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【６０４４】

一方、時短中は、スルーゲートＭ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｍ６４０に付随する電動役物Ｍ６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口Ｍ６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｍ６４０へ向けて、可変表示装置８０の右方を球が通過するように球を発射し（所謂「右打ち」）、スルーゲートＭ６７を通過させて電動役物Ｍ６４０ａを開放状態にすると共に、第２入賞口Ｍ６４０への入賞によって１５Ｒ時短有通常大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【６０４５】

なお、本実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０とは異なり、遊技盤Ｍ１３の構成が左右対称とされる場合には、「右打ち」で第１入賞口Ｍ６４を狙うことも、「左打ち」で第２入賞口Ｍ６４０を狙うこともできる。この場合、遊技者から球の打ち方を変化させる煩わし

さを取り去ることができる。
【６０４６】
一方で、本実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０では、「右打ち」では第１入賞口Ｍ６４を狙うことはできないように構成され、「左打ち」で発射された球はスルーゲートＭ６７を通過しないように構成されている。そのため、本実施形態のパチンコ機Ｈ１０は、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えることを要求することができる。よって、球の打ち方を変化させる遊技性を付加することで遊技が緩慢となることを防止することができる。
【６０４７】
第１入賞口Ｍ６４の右方には第２可変入賞装置Ｍ６５０（図２７９参照）が配設されており、その下流側位置に第２特定入賞口Ｍ６５０ａが設けられている。パチンコ機Ｈ１０においては、第１入賞口Ｍ６４又は第２入賞口Ｍ６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｍ８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている第２特定入賞口Ｍ６５０ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）開放される。
【６０４８】
この第２特定入賞口Ｍ６５０ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その第２特定入賞口Ｍ６５０ａが所定時間開放される。この第２特定入賞口Ｍ６５０ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。
【６０４９】
抽選された大当たりが時短有通常大当たりだった場合、大当たり遊技終了後の時短中に右打ち遊技を行うことで、第２入賞口Ｍ６４０へ遊技球を入賞させることができる。本実施形態では、付与される時短の回数は３回とされ、第２入賞口Ｍ６４０に遊技球が入賞すると、約１／２の確率で小当たりが発生し、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおいて小当たりに対応したＬＥＤが点灯する。この小当たりにより、第２特定入賞口Ｍ６５０ａよりも上流側に配置され、第１特定入賞口Ｍ６５ａを前後方向への変位により開放する退避位置と閉鎖する張出位置とが切り替えられることで開閉させる張出物体である開閉板Ｍ６５ｂが所定時間開放され（後方側へ退避され）、その第１特定入賞口Ｍ６５ａの開放中に、球が第１特定入賞口Ｍ６５ａ内へ入賞し、その特定入賞口Ｍ６５ａの下流側の特定領域Ｍ６５ｃを通過することを契機として特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。
【６０５０】
この場合において、第１特定入賞口Ｍ６５ａへ向けて流下する遊技球の有無によって、開閉板Ｍ６５ｂの可動範囲が変化する場合（遊技球が開閉板Ｍ６５ｂの張出先端側（前側）に位置することで開閉板Ｍ６５ｂの移動を阻害する場合等）が生じても良い。
【６０５１】
特定領域Ｍ６５ｃの上流側であって第１特定入賞口Ｍ６５ａの下流側の位置には、第１特定入賞口Ｍ６５ａに入球した遊技球を特定領域Ｍ６５ｃに入球させる入球状態と、特定領域Ｍ６５ｃに入球することを防止する防止状態とで切り替え可能に変位される下側変位物体である不図示の切替手段が配設される。
【６０５２】
このように、本パチンコ機Ｈ１０では、右打ち遊技において、第２入賞口Ｍ６４０へ遊

技球が入球すると約１／２の確率で特別遊技状態へ遊技状態を遷移させることが可能になり、これは左打ち遊技における大当たり確率（約１／３１９）よりも著しく高い確率となるので、右打ち遊技状態に対する遊技者の興趣を向上させることができる。

【６０５３】

また、特定入賞口Ｍ６５ａ，Ｍ６５０ａの個数は限定されるものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｍ６４の右方に限らず、例えば、第１入賞口Ｍ６４の下方右側や、第１入賞口Ｍ６４の下方左側や、可変表示装置ユニットＭ８０の左方または右方や、上方でも良い。

【６０５４】

遊技盤Ｍ１３には、アウト口Ｍ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｍ６３，Ｍ６４，Ｍ６５ａ，Ｍ６４０，Ｍ６５０ａにも入賞しなかった球は、アウト口Ｍ７１を通って図示しない球排出路へと案内される。

【６０５５】

遊技盤Ｍ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車等の各種部材（役物）とが配設されている。

【６０５６】

なお、本実施形態におけるその他装置Ｈ２２８（図２７８参照）には、駆動ソレノイドＭ４８７や駆動モータＭ４４２，Ｍ５０１，Ｍ７２０，Ｍ８２０や、回転クルーンＭ９５０を駆動させる駆動モータ等が含まれる。

【６０５７】

なお、本実施形態においても、その他装置Ｈ２２８（図２７８参照）には、上述の役物装置の駆動源だけではなく、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示せず）や、第２入賞口Ｍ６４０の電動役物Ｍ６４０ａの駆動源等を含む構成としても良い。

【６０５８】

また、本実施形態における各種スイッチＨ２０８（図２７８参照）には、検出センサＭ４５３，Ｍ４８３，Ｍ５１６，Ｍ７１３，Ｍ８１５，Ｍ９４２，Ｍ３４８９等が含まれる。なお、各種スイッチＨ２０８の接続先は、主制御装置Ｈ１１０に限られるものではなく、用途に応じて直接的に音声ランプ制御装置Ｈ１１３に接続されても良い。どちらに接続するかは、個別に任意に選択可能とされる。

【６０５９】

次いで、遊技盤Ｍ１３及び動作ユニットＭ３００の構造について説明する。図２８０は、遊技盤Ｍ１３及び動作ユニットＭ３００の分解正面斜視図であり、図２８１は、遊技盤Ｍ１３及び動作ユニットＭ３００の分解背面斜視図である。なお、図２８０及び図２８１では、背面ケースＭ３１０の開口Ｍ３１１ａに配設される液晶表示装置（可変表示装置ユニットＭ８０）の図示が省略され、開口Ｍ３１１ａを通して奥側を視認可能に図示される。

【６０６０】

動作ユニットＭ３００は、正面視で第３図柄表示装置Ｍ８１（図２７９参照）の表示領域の左右側領域および上側領域に配設される複合動作役物ユニットＭ４００と、その複合動作役物ユニットＭ４００の後方側に配置され正面視で第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域の上側領域に配設されるスライド動作役物ユニットＭ７００と、そのスライド動作役物ユニットＭ７００と同様の前後位置において複合動作役物ユニットＭ４００の後方側に配置され正面視で第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域の下側領域に配設される昇降動作役物ユニットＭ８００と、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００が収容され締結固定された前側の層において複合動作役物ユニットＭ４００が収容され締結固定される背面ケースＭ３１０と、を備える。

【６０６１】

背面ケースＭ３１０は、底壁部Ｍ３１１と、その底壁部Ｍ３１１の外縁から立設される外壁部Ｍ３１２とを備え、底壁部Ｍ３１１及び外壁部Ｍ３１２から正面側が開放された箱状に形成される。

【６０６２】
背面ケースＭ３１０は、底壁部Ｍ３１１の中央に矩形状の開口Ｍ３１１ａが開口形成されることで、正面視矩形の枠状に形成される。開口Ｍ３１１ａは、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域の外形（外縁）に対応した（即ち、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域を正面視で区切ることが可能な）大きさに形成される。
【６０６３】
背面ケースＭ３１０は、外壁部Ｍ３１２の正面側端部に遊技盤Ｍ１３の背面に対して平行に配置される板状部として延設され、遊技盤Ｍ１３に面で支持される支持板部Ｍ３１３を備える。
【６０６４】
その支持板部Ｍ３１３が遊技盤Ｍ１３に面で支持された状態で、遊技盤Ｍ１３のベース板Ｍ６０に締結ネジを螺入することにより、遊技盤Ｍ１３と動作ユニットＭ３００とを一体的に固定することができるので、遊技盤Ｍ１３及び動作ユニットＭ３００の全体としての剛性の向上を図ることができる。
【６０６５】
ベース板Ｍ６０は、光透過性の樹脂材料から形成される板状部材から形成されており、その板状部材が中央部において前後方向に貫通形成されており、その貫通形成された箇所には、光透過性の樹脂材料から形成され光を導光可能に構成される板状の導光板Ｍ２６０が配設されている。
【６０６６】
ベース板Ｍ６０及び導光板Ｍ２６０が光透過性の樹脂材料から形成されていることにより、正面側からベース板Ｍ６０の背面側に配設された各種構造体（動作ユニットＭ３００に配設される複合動作役物ユニットＭ４００、スライド動作役物ユニットＭ７００、昇降動作役物ユニットＭ８００及び第３図柄表示装置Ｍ８１等）を遊技者に視認させ易いように構成される。これにより、ベース板Ｍ６０の貫通部分の形状や導光板Ｍ２６０の配置に関わらず、その背面側に配設される構造体を視認させ易くすることができ、各種演出に利用することができる。
【６０６７】
なお、遊技者に対して見せたくない箇所がある場合には、光透過性の低い（又は光不透過の）シール部材を貼り付ける等して対処すれば良い。また、ベース板Ｍ６０を木製の板部材（ベニヤ等）から形成するようにしても良い。
【６０６８】
導光板Ｍ２６０は、板状部の端部側（上側および右側）において略等間隔に配置される複数のＬＥＤから入射された光を複数の位置で正面側へ屈曲させ、正面視において特定の装飾模様やキャラクターが光で描画されているように視認させ得る一般的な導光板であって、背後に配置される各種構造体（複合動作役物ユニットＭ４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００等）の動作中に発光させる制御や、各種構造体の停止中において発光させる制御が、実行可能とされる。
【６０６９】
各種構造体（複合動作役物ユニットＭ４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００等）が退避され、停止されている場合には、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域と視認可能物体である導光板Ｍ２６０とが正面視で重ねられることで、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域における表示と導光板Ｍ２６０により描画される形状とを合わせて視認させることができ、立体的な表示態様を実現可能となる。
【６０７０】
本実施形態では、導光板Ｍ２６０に端部側から入射される光により描画される形状は、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０に描画される形状に対応するものとして設計される。即ち、演出動作ユニットＭ５００の手前側においてスライド動作役物ユニットＭ７００に対応する特定表示（例えば、スライド動作役物ユニットＭ７００に装飾されているキャラクターに関連する絵が拡大して描画される表示）を視認させること

が可能に構成される。
【６０７１】
なお、導光板Ｍ２６０に端部側から入射される光により描画される形状は、スライド動作役物ユニットＭ７００に描画される形状に対応するものに限られるものではない。例えば、複合動作役物ユニットＭ４００の形状に対応するものでも良いし、昇降動作役物ユニットＭ８００の形状に対応するものでも良いし、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域に（一時的に）表示される形状に対応するものでも良い。
【６０７２】
図２８２は、複合動作役物ユニットＭ４００の分解正面斜視図であり、図２８３は、複合動作役物ユニットＭ４００の分解背面斜視図である。複合動作役物ユニットＭ４００は、背面ケースＭ３１０に直接締結固定されるか又は背面ケースＭ３１０に締結固定された物体に締結固定されることで間接的に固定されることにより背面ケースＭ３１０（図Ｚ１参照）に対して位置が固定される部分（左側支持装飾部Ｍ４１０、背面側支持部Ｍ４３０、昇降駆動部Ｍ４４０、切替動作部Ｍ４８０）と、当該部分に変位可能に支持されており背面ケースＭ３１０に対して相対変位可能に構成される部分（演出動作ユニットＭ５００）とにより構成される。
【６０７３】
即ち、複合動作役物ユニットＭ４００は、最前面の左側部において背面ケースＭ３１０（図２８２参照）に締結固定される左側支持装飾部Ｍ４１０と、その左側支持装飾部Ｍ４１０の背面側において間隔を空けて対向配置されておりスライド動作役物ユニットＭ７００（図２８２参照）に締結固定されることで背面ケースＭ３１０に対する位置が固定される背面側支持部Ｍ４３０と、最前面の右側部において背面ケースＭ３１０に締結固定される昇降駆動部Ｍ４４０と、その昇降駆動部Ｍ４４０と背面ケースＭ３１０との間の位置において背面ケースＭ３１０の底壁部Ｍ３１１に締結固定されると共に昇降駆動部Ｍ４４０が締結固定される切替動作部Ｍ４８０と、その切替動作部Ｍ４８０に上下端部が支持され上下方向に延びている金属棒Ｍ４０１と、その金属棒Ｍ４０１により被案内部Ｍ５５０の変位が案内される演出動作ユニットＭ５００と、を主に備える。
【６０７４】
図２８２及び図２８３に図示されるように、複合動作役物ユニットＭ４００は、演出動作ユニットＭ５００の左右端部を前後両側で支持可能に構成されている。これにより、演出動作ユニットＭ５００の前後方向への変位を抑制することができる。
【６０７５】
即ち、第１に、演出動作ユニットＭ５００は、左端部の前側突部Ｍ５１１が左側支持装飾部Ｍ４１０の板状ベースＭ４１１の案内長孔Ｍ４１２に変位可能に支持され、左端部の後側突部Ｍ５３１が背面側支持部Ｍ４３０の板状ベースＭ４３１において案内長孔Ｍ４１２の後方位置に貫通形成され案内長孔Ｍ４１２と平行に形成される案内長孔Ｍ４３２に変位可能に支持されることにより、前後両側から支持されている。
【６０７６】
第２に、金属棒Ｍ４０１に案内される被案内部Ｍ５５０の前側には昇降駆動部Ｍ４４０が対向配置され、被案内部Ｍ５５０の後側には切替動作部Ｍ４８０が対向配置されている。被案内部Ｍ５５０と昇降駆動部Ｍ４４０及び切替動作部Ｍ４８０との間は、通常、僅かな隙間が空くように構成されており、変位の抵抗が生じることを防止している。一方で、意図せず演出動作ユニットＭ５００の被案内部Ｍ５５０が前後方向に大きく変位した場合には、その変位を当接により防止可能に構成されている。
【６０７７】
演出動作ユニットＭ５００は、被案内部Ｍ５５０の背面側から検出片Ｍ５５４が突設されており、その検出片Ｍ５５４が切替動作部Ｍ４８０の上端側において検出可能に構成される。
【６０７８】
図２８４は、演出動作ユニットＭ５００の分解正面斜視図であり、図２８５は、演出動

作ユニットＭ５００の分解背面斜視図である。演出動作ユニットＭ５００は、金属棒Ｍ４０１によって上下方向への変位を案内される部分（板状本体部Ｍ５１０、被案内部Ｍ５５０等）と、その部分に変位可能に支持される部分（可動装飾ユニットＭ６００）とにより構成される。

【６０７９】

即ち、演出動作ユニットＭ５００は、樹脂材料から略長方形状の板状に形成され骨格を成す板状本体部Ｍ５１０と、その板状本体部Ｍ５１０の背面側に左側寄りで配置され板状本体部Ｍ５１０との間に空間を形成するように板状本体部Ｍ５１０に対して締結固定される左側蓋部Ｍ５３０と、板状本体部Ｍ５１０の背面側に右側寄りで配置され板状本体部Ｍ５１０との間に空間を形成するように板状本体部Ｍ５１０に対して締結固定される右側蓋部Ｍ５４０と、を主に備える。

【６０８０】

更に、演出動作ユニットＭ５００は、右側蓋部Ｍ５４０を回転移動可能に支持する被案内部Ｍ５５０と、右側蓋部Ｍ５４０に対して回転移動可能に支持される扇形状の扇形状構成部Ｍ５６０と、右側蓋部Ｍ５４０に配設される駆動モータＭ５０１と、その駆動モータＭ５０１の駆動力を伝達可能に構成される伝達部Ｍ５８０と、板状本体部Ｍ５１０に回転移動可能に支持され伝達部Ｍ５８０により駆動モータＭ５０１の駆動力が伝達可能とされる可動装飾ユニットＭ６００と、を主に備える。

【６０８１】

板状本体部Ｍ５１０は、大部分が有色（例えば、赤色）で透明の樹脂材料から形成されており、左側端部において前方へ向けて円柱状に突設される前側突部Ｍ５１１と、中央よりも左側の領域における複数位置において点在され無色透明の略星状に形成される透過部Ｍ５１２と、その透過部Ｍ５１２に対応する位置にＬＥＤ等の発光手段を配置可能となるように内部において締結固定される電飾基板Ｍ５１３と、可動装飾ユニットＭ６００の回転軸を形成する部分であって前方に延設される筒状部Ｍ５１４と、その筒状部Ｍ５１４を中心とする円弧に沿って形成されており可動装飾ユニットＭ６００の変位を案内可能な領域を構成する領域構成部である円弧状貫通部Ｍ５１５と、その円弧状貫通孔Ｍ５１５の上端部側において検出溝が前側を向く姿勢で配設されており可動装飾ユニットＭ６００を検出可能な検出センサＭ５１６と、筒状部Ｍ５１４に対して円弧状貫通部Ｍ５１５の反対側の領域において筒状部Ｍ５１４を中心とする円弧に沿って形成される複数の補助貫通部Ｍ５１７と、筒状部Ｍ５１４と円弧状貫通部Ｍ５１５との間の領域において前後方向に貫通形成される伝達用貫通孔Ｍ５１８と、を主に備える。

【６０８２】

前側突部Ｍ５１１は、左側支持装飾部Ｍ４１０（図２８２参照）の案内長孔Ｍ４１２に挿通され、その案内長孔Ｍ４１２の延びる直線方向（水平方向、左右方向）に変位が案内される。前側突部Ｍ５１１は、左側支持装飾部Ｍ４１０を挟むように配置される一対の円環形状のカラー部材（図示せず）に挿通される。これにより、左側支持装飾部Ｍ４１０と板状本体部Ｍ５１０との間に円環形状のカラー部材が介在することになるので、変位を滑らかにすることができる。

【６０８３】

電飾基板Ｍ５１３に配置されるＬＥＤから照射される光のうち、透過部Ｍ５１２を通して遊技者に視認される光は、透過部Ｍ５１２以外（周囲）の位置を通って遊技者に視認される光に比較して、明るく視認される。即ち、電飾基板Ｍ５１３に配置されるＬＥＤを発光させることにより、板状本体部Ｍ５１０の前面を全体的に明るくしながら、点在する透過部Ｍ５１２をより明るく視認させることができる。

【６０８４】

円弧状貫部Ｍ５１５は、前面側における開口として形成されている。板状本体部Ｍ５１０は、円弧状貫通部Ｍ５１５を囲む位置から円弧状貫通部Ｍ５１５の外形よりも若干大きな形状で背面側へ向けて延設される枠状部Ｍ５２１を備える。即ち、円弧状貫通部Ｍ５１５と枠状部Ｍ５２１との間には段部が形成される。

【６０８５】
検出センサＭ５１６は、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端位置に配置されている場合に検出溝に被検出部Ｍ６１６が位置するように配設される。
【６０８６】
左側蓋部Ｍ５３０は、主に樹脂材料から形成される板状部であって、左端端部において後方へ向けて円柱状に突設される後側突部Ｍ５３１と、右側端部において湾曲面として形成される湾曲縁部Ｍ５３２と、を備える。
【６０８７】
後側突部Ｍ５３１は、背面側支持部Ｍ４３０（図２８２参照）の案内長孔Ｍ４３２に挿通され、その案内長孔Ｍ４３２の延びる直線方向（水平方向、左右方向）に変位が案内される。後側突部Ｍ５３１は、背面側支持部Ｍ４３０を挟むように配置される一対の円環形状のカラー部材（図示せず）に挿通される。これにより、背面側支持部Ｍ４３０と左側蓋部Ｍ５３０との間に円環形状のカラー部材が介在することになるので、変位を滑らかにすることができる。
【６０８８】
本実施形態では、後側突部Ｍ５３１と前側突部Ｍ５１１とが前後方向に延びる同一直線上に配置されており、案内長孔Ｍ４１２と案内長孔Ｍ４３２とが同一の直線に対して平行に延びていることから、演出動作ユニットＭ５００の左端部は、前側突部Ｍ５１１及び後側突部Ｍ５３１を介して前後から両持ちで支持される。
【６０８９】
湾曲縁部Ｍ５３２は、枠状部Ｍ５２１の後方に位置し、その枠状部Ｍ５２１と共通の湾曲面を構成するよう形成される。即ち、湾曲縁部Ｍ５３２の湾曲面は、筒状部Ｍ５１４の中心軸を中心とする円弧に合致する形状とされる。
【６０９０】
右側蓋部Ｍ５４０は、主に樹脂材料から形成される板状部であって、右端側において背面側に突設され被案内部Ｍ５５０に支持される金属製の突設軸部Ｍ５４１と、その突設軸部Ｍ５４１に対して平行に突設され被案内部Ｍ５５０に挿通される金属製の補助突設部Ｍ５４２と、断面が突設軸部Ｍ５４１よりも大きな円形に類似する形状の柱形状で背面側へ突設される大径支持部Ｍ５４３と、その大径支持部Ｍ５４３に支持される扇形状構成部Ｍ５６０の抜け止めが可能となるように大径支持部Ｍ５４３の外形よりも直径の大きな円形板状に形成され大径支持部Ｍ５４３の突設先端側から金属製の締結ネジＭ５０２で締結固定される脱落防止部Ｍ５４４と、大径支持部Ｍ５４３の円形状の中心と同軸の円弧形状に沿う位置に突設される突設補助部Ｍ５４５と、その突設補助部Ｍ５４５の外周側において大径支持部Ｍ５４３を中心とする円弧に沿う形状で凹設形成（背面側の面が前方側へ変位されるよう形成）される段部Ｍ５４６と、伝達部Ｍ５８０の構成部材を回転可能に支持する複数の突設部Ｍ５４７と、を主に備える。
【６０９１】
大径支持部Ｍ５４３は、その外形を構成する円形状が、筒状部Ｍ５１４を構成する円形状の中心との関係で同心円とされる。即ち、扇形状構成部Ｍ５６０の回転中心と、可動装飾ユニットＭ６００の回転中心とが同一となるように構成される。
【６０９２】
大径支持部Ｍ５４３は、脱落防止部Ｍ５４４を締結固定する締結ネジＭ５０２が内部に位置することから、樹脂材料のみから形成される場合に比較して強度が向上される。これにより、扇形状構成部Ｍ５６０を安定的に支持することができ、扇形状構成部Ｍ５６０の動作を長期間にわたって安定させることができる。このように扇形状構成部Ｍ５６０は、大径支持部Ｍ５４３という一点での支持でありながら、扇形状構成部Ｍ５６０の動作を長期間にわたって安定させることができる。
【６０９３】
段部Ｍ５４６は、扇形状構成部Ｍ５６０の回転先端側部と対向配置される。扇形状構成部Ｍ５６０の段部Ｍ５４６に対する当接面積が小さくなるように（抑制されるように）、

段部Ｍ５４６の形状や配置および扇形状構成部Ｍ５６０の形状や配置が設計されることで、扇形状構成部Ｍ５６０の変位時の抵抗を抑制することができ、扇形状構成部Ｍ５６０の動作不良を防止し易くすることができる。

【６０９４】

被案内部Ｍ５５０は、上下方向一直線上に貫通形成されており金属棒Ｍ４０１（図２８２参照）が挿通可能とされる直線貫通部Ｍ５５１と、右側蓋部Ｍ５４０の突設軸部Ｍ５４１を回転可能に軸支する貫通孔Ｍ５５２と、その貫通孔Ｍ５５２を中心とする円弧形状で貫通形成され右側蓋部Ｍ５４０の補助突設部Ｍ５４２が挿通される円弧状孔Ｍ５５３と、背面側から後方へ向けて板状に突設され切替動作部Ｍ４８０（図２８２参照）により検出され得る検出片Ｍ５５４と、右側寄り下端位置から下方へ向けて延設される下方延設部Ｍ５５５と、上端部付近から前方へ向けて突設される被支持突部Ｍ５５６と、を主に備える。

【６０９５】

演出動作ユニットＭ５００は、被案内物体である被案内部Ｍ５５０を備えていれば何でも良く、樹脂材料から構成される部材に限定されるものではなく、金属材料から構成される部材であってもよい。

【６０９６】

扇形状構成部Ｍ５６０は、主に光透過性の低い（不透明な）樹脂材料から形成されており、右側蓋部Ｍ５４０の大径支持部Ｍ５４３に回転可能に軸支される円筒部Ｍ５６１と、円筒部の外周側に扇形状で延設される板状本体部Ｍ５６２と、その板状本体部Ｍ５６２の周方向端部において直線に沿って前方へ突設される突条部Ｍ５６３と、板状本体部Ｍ５６２の回転先端側に肉厚の形状で形成される円弧状肉厚部Ｍ５６４と、その円弧状肉厚部Ｍ５６４の内周側において回転中心を中心とする円弧形状で貫通形成される円弧状孔Ｍ５６５と、その円弧状孔Ｍ５６５よりも外周側において円弧状肉厚部Ｍ５６４よりも肉厚に形成される外周側増厚部Ｍ５６６と、その外周側増厚部Ｍ５６６の前面側から回転中心を中心とする円弧形状に沿って突設される円弧突条Ｍ５６７と、外周側増厚部Ｍ５６６の周方向端部から径方向に延設される延設部Ｍ５６８と、を主に備える。

【６０９７】

扇形状構成部Ｍ５６０が樹脂材料から形成されていることから、扇形状構成部Ｍ５６０の軽量化を図ることができるので、駆動モータＭ５０１の駆動力で可動装飾ユニットＭ６００を押し上げる場合に扇形状構成部Ｍ５６０の自重による動作抵抗を小さくすることができ、駆動モータＭ５０１の負担を低減させることができる。また、扇形状構成部Ｍ５６０が樹脂材料から形成されていることから、設計自由度を向上させることができる。

【６０９８】

円弧状孔Ｍ５６５は、右側蓋部Ｍ５４０の突設補助部Ｍ５４５が挿通されることで、扇形状構成部Ｍ５６０の回転移動を安定させる。突設補助部Ｍ５４５には先端側から雌ネジが形成されており、突設補助部Ｍ５４５の幅長さよりも直径の大きな頭部を有する雄ネジを螺入することや、円環状のカラーが嵌められた雄ネジを螺入することにより、突設補助部Ｍ５４５からの扇形状構成部Ｍ５６０の脱落を防止することができる。即ち、扇形状構成部Ｍ５６０の回転移動を安定させつつ、軸方向の変位（脱落）を規制することができる。

【６０９９】

外周側増厚部Ｍ５６６は、対向配置される右側蓋部Ｍ５４０の段部Ｍ５４６の凹設深さに対応して、増厚形成されている。即ち、扇形状構成部Ｍ５６０と右側蓋部Ｍ５４０との間隔は、円弧状肉厚部Ｍ５６４の位置においても、外周側増厚部Ｍ５６６の位置においても、ほぼ同様となるように構成されている。これにより、扇形状構成部Ｍ５６０の回転先端側が意図せず右側蓋部Ｍ５４０に近接する方向で変位した場合に、円弧状肉厚部Ｍ５６４ばかりが右側蓋部Ｍ５４０と当接し負荷が与えられ外周側増厚部Ｍ５６６には負荷が与えられないという事態を避けることができ、外周側増厚部Ｍ５６６にも負荷を分担させることができる。

【６１００】
円弧突条Ｍ５６７は、外周側増厚部Ｍ５６６において右側蓋部Ｍ５４０の段部Ｍ５４６と優先して当接する部分となっており、少なくとも円弧突条Ｍ５６７が残存している（すり減っていない）状況において外周側増厚部Ｍ５６６は右側蓋部Ｍ５４０と離間するよう構成されている。また、この場合、設計寸法から円弧状肉厚部Ｍ５６４においても右側蓋部Ｍ５４０と離間する。
【６１０１】
延設部Ｍ５６８は、略正方形の断面を構成する形状で延設される。即ち、前後方向幅と上下方向（周方向）幅とが同じ長さで構成される。これにより、延設部Ｍ５６８が特定の方向に撓む事態を避けることができ、全方位で十分な剛性を有するよう構成することができる。更に、特定の方向の幅が小さい（薄い）場合に比較して、荷重（繰り返し荷重や衝撃荷重）を受けた場合に破損する可能性を低くすることができる。
【６１０２】
伝達部Ｍ５８０は、駆動モータＭ５０１の駆動軸に固定される被回転物体であるモータギアＭ５８１と、そのモータギアＭ５８１に歯合可能となるように一つ目の突設部Ｍ５４７に回転可能に支持されるピン付きギアＭ５８２と、そのピン付きギアＭ５８２に歯合可能となるように二つ目の突設部Ｍ５４７に回転可能に支持される増厚ギアＭ５８３と、その増厚ギアＭ５８３と歯合可能となるように背面側に突設される三つ目の突設部Ｍ５４７に回転可能に支持される円板付きギアＭ５８４と、を主に備える。
【６１０３】
円板付きギアＭ５８４は、扇形状構成部Ｍ５６０の動作と関連して動作可能に構成されており、扇形状構成部Ｍ５６０の上方向への動作を抑制する抑制物体であれば何でも良く、樹脂材料から構成されるものに限らず、金属材料から構成されてもよい。
【６１０４】
図２８６は、可動装飾ユニットＭ６００の分解正面斜視図であり、図２８７は、可動装飾ユニットＭ６００の分解背面斜視図である。可動装飾ユニットＭ６００は、板状本体部Ｍ５１０の筒状部Ｍ５１４を中心として回転移動する動作が可能な部分（板状本体部Ｍ６１０、前側蓋部Ｍ６２０、右側装飾部Ｍ６７０等）と、その部分を基準として直線方向にスライドする動作が可能な部分（前側スライド移動体Ｍ６４０、左側装飾部Ｍ６８０等）とにより構成される。
【６１０５】
即ち、可動装飾ユニットＭ６００は、樹脂材料から略長方形状の板状に形成され骨格を成す板状本体部Ｍ６１０と、外周縁部において背面側に向けて突設されるリブ部によって板状本体部Ｍ６１０の外周縁部を封じるように板状本体部Ｍ６１０に締結固定され光透過性の樹脂材料から形成される前側蓋部Ｍ６２０と、その前側蓋部Ｍ６２０と板状本体部Ｍ６１０とにより間に収納される電飾基板Ｍ６３０と、前側蓋部Ｍ６２０の前側平面に沿ってスライド移動可能に構成され光透過性の樹脂材料から形成される前側スライド移動体Ｍ６４０と、を主に備える。
【６１０６】
また、可動装飾ユニットＭ６００は、回転動作物体である板状本体部Ｍ６１０の後側平面に沿ってスライド移動体Ｍ６４０と一体的にスライド移動可能に構成される樹脂製の後側スライド移動体Ｍ６５０と、その後側スライド移動体Ｍ６５０と板状本体部Ｍ６１０とを変位可能に連結する樹脂製のリンク部材Ｍ６６０と、光透過性の樹脂材料から形成され前側蓋部Ｍ６２０の右側寄り領域を前側から覆う形状から構成され前側蓋部Ｍ６２０に締結固定される右側装飾部Ｍ６７０と、光透過性の樹脂材料から形成され前側スライド移動体Ｍ６４０を前側から覆う形状から構成され前側スライド移動体Ｍ６４０に締結固定される左側装飾部Ｍ６８０と、を主に備える。
【６１０７】
板状本体部Ｍ６１０は、右上端部付近において貫通形成される円形開口部Ｍ６１１と、その円形開口部Ｍ６１１の近傍において貫通形成される矩形状開口部Ｍ６１２と、左側端

部付近において左右方向に延びる長孔状に貫通形成される複数の長孔状開口部Ｍ６１３と、上縁部における左右方向略中央位置から後方へ向けて延設される延設支持部Ｍ６１４と、右側端部から後方へ向けて突設される複数の補助突設部Ｍ６１５と、を主に備える。

【６１０８】

また、板状本体部Ｍ６１０は、円形開口部Ｍ６１１及び延設支持部Ｍ６１４の間の位置において円形開口部Ｍ６１１を中心とする円に沿う板形状で後方へ向けて突設される被検出部Ｍ６１６と、円柱形状で後方へ向けて突設されリンク部材Ｍ６６０を回転移動可能に支持する突設支持部Ｍ６１７と、長孔状開口部Ｍ６１３の延びる方向と平行に延びる長尺形状で後方へ向けて突設され前側スライド移動体Ｍ６４０の右端における前後方向の位置に左端が合致するように配置される補助突設部Ｍ６１８と、その補助突設部Ｍ６１８の上方において背面側へ向けて延設され右端部に鉤状部が形成される鉤状支持部Ｍ６１９と、外周側を縁取る枠状部の外側において前面に沿って左方に延設される延設当接部Ｍ６０５と、を主に備える。

【６１０９】

円形開口部Ｍ６１１は、内径が、板状本体部Ｍ５１０の筒状部Ｍ５１４（図２８４参照）の外径よりも長くなるように設計されている。即ち、円形開口部Ｍ６１１は、筒状部Ｍ５１４との間には若干の隙間が生じるように構成されていることから、可動装飾ユニットＭ６００が板状本体部Ｍ５１０に対して適切に支持されている場合には何ら抵抗を与えるものではない一方で、可動装飾ユニットＭ６００が板状本体部Ｍ５１０に対して位置ずれする場合であっても、その位置ずれの度合いを抑制可能に構成される。

【６１１０】

延設支持部６１４は、樹脂材料からリング状に形成されるカラー部材Ｍ６０１を介して板状本体部Ｍ５１０の円弧状貫通部Ｍ５１５（図２８４参照）に挿通される部分であって、先端側において樹脂製（又は金属製）の当接部材Ｍ６０２が締結固定される。当接部材Ｍ６０２の形状が円弧状貫通部Ｍ５１５よりも大きく形成されていることから、当接部材Ｍ６０２は延設支持部Ｍ６１４の板状本体部Ｍ５１０からの脱落を防止する機能を有する。

【６１１１】

補助突設部Ｍ６１５は、板状本体部Ｍ５１０の補助貫通部Ｍ５１７に挿通される部分であって、一方（下側）の補助突設部Ｍ６１５の先端側にフランジ付きのネジが固定されることで補助貫通部Ｍ５１７からの脱落が防止され、他方（上側）の補助突設部Ｍ６１５の先端には鉤形状部が形成されている。この鉤形状部に弾性バネＭ６０３（図２８５参照）の端部が引っかけられることにより、板状本体部Ｍ６１０は、正面視時計回り方向に付勢されることになる。

【６１１２】

被検出部Ｍ６１６は、板状本体部Ｍ５１０の検出センサＭ５１６の検出溝に進入可能とされている。本実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端位置に配置されている場合に検出センサＭ５１６の検出溝に進入するよう配置されているが、配置位置については任意に設定可能であり、また、配置個数も自由に設定可能である。

【６１１３】

突設支持部Ｍ６１７は、板状本体部Ｍ６１０の上側寄りの領域において背面側へ向けて増厚形成される荷重付与部Ｍ６０４の下側の空間に配置されており、この空間においてリンク部材Ｍ６６０を回転移動可能に支持する。突設支持部Ｍ６１７の先端部にはツバ付きネジが螺入固定されており、リンク部材Ｍ６６０の後方への変位（板状本体部Ｍ６１０から離間する方向への変位）を抑制できる。

【６１１４】

前側蓋部Ｍ６２０は、板状本体部Ｍ６１０の円形開口部Ｍ６１１に挿通されるように後方へ向けて円柱形状で延設される回転軸部Ｍ６２１と、右寄りの領域において前側に増厚形成される増厚部Ｍ６２２と、その増厚部Ｍ６２２とは異なる箇所（増厚されていない箇所）において板状本体部Ｍ６１０の長孔状開口部Ｍ６１３に対応する形状で貫通形成され

る複数の長孔状開口部Ｍ６２３と、その長孔状開口部Ｍ６２３と増厚部Ｍ６２２との間の位置において上下方向に亘って複数の星状の模様が形成される装飾部Ｍ６２４と、を主に備える。

【６１１５】

回転軸部Ｍ６２１は、板状本体部Ｍ６１０及び電飾基板Ｍ６３０を通過した状態で、板状本体部Ｍ５１０の筒状部Ｍ５１４に挿通されることで板状本体部Ｍ５１０に対する回転移動の回転軸部を構成する。また、回転軸部Ｍ６２１は、その先端側において大径の円形板部Ｍ６２１ａが締結ネジＭ５０２に締結固定されることで、板状本体部Ｍ５１０からの脱落が防止される。

【６１１６】

増厚部Ｍ６２２は、左端部の形状が、短手方向に延びる当接端部Ｍ６２２ａの間に長手方向（長孔状開口部Ｍ６１３が延設される方向と平行）に延びる修正部Ｍ６２２ｂが形成される（所謂「イナズマ状」に形成される）。これにより、対応して配置される前側スライド移動体Ｍ６４０の配置を良好に修正することができる。

【６１１７】

長孔状開口部Ｍ６２３は、背面側へ延設される外周縁部Ｍ６２３ａを有しており、この外周縁部Ｍ６２３ａの延設端部が板状本体部Ｍ６１０の長孔状開口部Ｍ６１３の内周面に当接するよう構成されている。

【６１１８】

これにより、長孔状開口部Ｍ６２３と板状本体部Ｍ６１０との間に生じ得る隙間が埋められるので、電飾基板Ｍ６３０からの光が長孔状開口部Ｍ６２３の内側に漏れることを避け易くすることができる。更に、外周縁部Ｍ６２３ａの延設端部が長孔状開口部Ｍ６１３の内周面と当接することにより補強され、前側スライド移動体Ｍ６４０の動作を安定的に支持することができる。

【６１１９】

装飾部Ｍ６２４は、前側に若干盛り上がって模様が形成されており、その形成範囲は、前側スライド移動体Ｍ６４０が移動された場合に露出し得る領域に渡るように構成されている。即ち、前側スライド移動体Ｍ６４０が増厚部Ｍ６２２から離れる離間位置に配置されている場合における増厚部ＭＭ６２２と前側スライド移動体Ｍ６４０との間の領域に少なくとも形成される。そのため、装飾部Ｍ６２４は前側スライド移動体Ｍ６４０が増厚部Ｍ６２２に近接配置されている場合には前側スライド移動体Ｍ６４０に覆われる。

【６１２０】

電飾基板Ｍ６３０は、前側蓋部Ｍ６２０の領域全体を背面側からカバーする形状から形成されており前側蓋部Ｍ６２０に複数位置でネジ留めされる板状本体部Ｍ６３１と、その板状本体部Ｍ６３１の右側寄り位置において前側蓋部Ｍ６２０の回転軸部Ｍ６２１が挿通される円形開口部Ｍ６３３と、板状本体部Ｍ６３１の左側寄り位置において前側蓋部Ｍ６２０の外周縁部Ｍ６２３ａが挿通される複数の長孔状開口部Ｍ６３４と、を主に備える。

【６１２１】

板状本体部Ｍ６３１は、正面側にＬＥＤ等の発光部Ｍ６３２が複数個分散配置されている。発光部Ｍ６３２は、無数の矩形状で図示されており、その位置は、広い面を構成している箇所に限らず、円形開口部Ｍ６３３と板状本体部Ｍ６３１の右上角部との間や、上側の長孔状開口部Ｍ６３４と板状本体部Ｍ６３１の上縁部との間や、下側の長孔状開口部Ｍ６３４と板状本体部Ｍ６３１の下縁部との間や、複数の長孔状開口部Ｍ６３４の間等にも漏れなく配置されている。

【６１２２】

円形開口部Ｍ６３３は、前側蓋部Ｍ６２０の回転軸部Ｍ６２１と同心であって、板状本体部Ｍ６１０の円形開口部Ｍ６１１よりも直径の大きな円形状から形成される。内周側に板状本体部Ｍ５１０の筒状部Ｍ５１４（図２８５参照）が挿通され遮蔽部として機能することにより、発光部Ｍ６３２から出射される光が円形開口部Ｍ６３３の内周側の領域に漏れ出すことを防止することができる。

【６１２３】
長孔状開口部Ｍ６３４は、前側蓋部Ｍ６２０の外周縁部Ｍ６２３ａの外形よりも大きな形状で貫通形成されており、外周縁部Ｍ６２３ａが挿通される。そのため、発光部Ｍ６３２から出射される光のうち、正面視で長孔状開口部Ｍ６３４の内周側へ向かう成分は外周縁部Ｍ６２３ａにより反射または吸収（減衰）されることになるので、発光部Ｍ６３２から出射される光が長孔状開口部Ｍ６３４の内周側の領域に漏れ出すことを防止することができる。
【６１２４】
なお、電飾基板Ｍ６３０は、第３図柄表示装置の表示領域と正面視で重なり得る位置に配置されるものに限られるものではなく、演出動作ユニットＭ５００の変位とは独立して配置を設定可能に構成される独立配置物体として電飾基板Ｍ４２１のように常時第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域の外方（表示領域と重ならない位置）に配置されても良く、背後からＬＥＤ等の発光手段から光が照射されることで視認される明るさが変化され得るものでも良く、上下左右または前方からの光照射により視認される明るさが変化され得るものでも良い。
【６１２５】
前側スライド移動体Ｍ６４０は、前側蓋部Ｍ６２０の前側において増厚部Ｍ６２２を除く領域を埋める形状から形成される板状本体部Ｍ６４１と、その板状本体部Ｍ６４１の右端側において背面側から厚みを減らすように凹設形成される凹設形成部Ｍ６４２と、左右一対で後方へ向けて突設され前側蓋部Ｍ６２０の長孔状開口部Ｍ６２３に挿通される複数の突設案内部Ｍ６４３と、を主に備える。
【６１２６】
板状本体部Ｍ６４１は、前側蓋部Ｍ６２０の正面側における平面状部に背面側が面で支持されていることで、前側スライド移動体Ｍ６４０の前側蓋部Ｍ６２０に対する安定した移動を可能としている。
【６１２７】
凹設形成部Ｍ６４２により前側スライド移動体Ｍ６４０の背面の位置が前側へ変化しており、これにより生じた前側蓋部Ｍ６２０との間の隙間領域に、装飾部Ｍ６２４が配置される。即ち、凹設形成部Ｍ６４２により、装飾部Ｍ６２４を盛り上げ形成した場合であっても装飾部Ｍ６２４と前側スライド移動体Ｍ６４０とが擦れることを避けることができる。
【６１２８】
突設案内部Ｍ６４３は、前側蓋部Ｍ６２０の長孔状開口部Ｍ６２３及び板状本体部Ｍ６１０の長孔状開口部Ｍ６１３に挿通され、その端部において後側スライド移動体Ｍ６５０に締結固定される。即ち、前側スライド移動体Ｍ６４０の移動は、長孔状開口部Ｍ６２３及び長孔状開口部Ｍ６１３により、その延設される直線方向に案内される。
【６１２９】
後側スライド移動体Ｍ６５０は、左右方向に延びる長尺本体部Ｍ６５１と、その長尺本体部Ｍ６５１の左側端部から上方へ延びる延設部Ｍ６５２と、長尺本体部Ｍ６５１の右側端部において上下方向に延びる長孔状に開口形成される伝達開口部Ｍ６５３と、長尺本体部Ｍ６５１の中間部において左右方向に延びる長孔状に開口形成される案内開口部Ｍ６５４と、延設部Ｍ６５２に一端が支持される弾性バネＭ６５５と、を主に備える。
【６１３０】
長尺本体部Ｍ６５２は、前側蓋部Ｍ６２０の長孔状開口部Ｍ６２３及び板状本体部Ｍ６１０の長孔状開口部Ｍ６１３に挿通された前側スライド移動体Ｍ６４０の突設案内部Ｍ６４３が締結固定される。即ち、後側スライド移動体Ｍ６５０及び前側スライド移動体Ｍ６４０は、長孔状開口部Ｍ６２３が延設される直線方向に沿ってスライド移動可能に案内される。
【６１３１】
伝達開口部Ｍ６５３には、リンク部材Ｍ６６０の端部が挿通され、その挿通端において

ツバ付きネジが螺入固定されることで、リンク部材Ｍ６６０の後側スライド移動体Ｍ６５０からの脱落が防止される。

【６１３２】

案内開口部Ｍ６５４は、板状本体部Ｍ６１０の補助突設部Ｍ６１８が挿通される。補助突設部Ｍ６１８が左右方向に延びた形状とされていることから、案内開口部Ｍ６５４の形状と合わせて、後側スライド移動体Ｍ６５０の変位を左右方向に案内する。補助突設部Ｍ６１８は、その端部においてツバ付きネジが螺入固定される場合、後側スライド移動体Ｍ６５０の板状本体部Ｍ６１０に対する後方への変位（離間する方向への変位）を抑制できるので採用しても良いが、本実施形態では、リンク部材Ｍ６６０側（端側）にネジを採用することで、補助突設部Ｍ６１８でのネジの採用を省略している。これにより、省略されるネジ頭部の分、可動装飾ユニットＭ６００と板状本体部Ｍ５１０との間隔を狭めることができる。

【６１３３】

弾性バネＭ６５５は、延設部Ｍ６５２に一方の端部が支持されており、他方の端部が板状本体部Ｍ６１０の鉤状支持部Ｍ６１９に支持されており、後側スライド移動体Ｍ６５０に対して右方向の付勢力を作用させる。

【６１３４】

弾性バネＭ６５５は、後側スライド移動体Ｍ６５０が移動可能範囲の右側終端位置に配置されている状態において既に付勢力を生じさせる（自然長よりも延ばされている）状態となるように長さが設定されている。これにより、後側スライド移動体Ｍ６５０に対して常時右向きの付勢力が生じるようにすることができるので、後側スライド移動体Ｍ６５０を移動可能範囲の右側終端位置に安定させることができる。

【６１３５】

リンク部材Ｍ６６０は、板状本体部Ｍ６１０の突設支持部Ｍ６１７に回転移動可能に支持される長尺板状に形成される板状本体部Ｍ６６１と、その板状本体部Ｍ６６１の一方の端部において後方へ円柱形状に突設され後側スライド移動体Ｍ６５０の伝達開口部Ｍ６５３に挿通される伝達突設部Ｍ６６２と、板状本体部Ｍ６６１の他方の端部において中央部が割れた二股形状に形成される伝達爪部Ｍ６６３と、を主に備える。

【６１３６】

伝達突設部Ｍ６６２に対して伝達開口部Ｍ６５３が挿通される場合、後側スライド移動体Ｍ６５０の長尺本体部Ｍ６５１はリンク部材Ｍ６６０に後側から被せられる。伝達突設部Ｍ６６２は、その端部においてツバ付きネジが螺入固定される。これにより、後側スライド移動体Ｍ６５０のリンク部材Ｍ６６０に対する後方への変位（離間する方向への変位）を抑制できる。

【６１３７】

伝達爪部Ｍ６６３は、伝達部Ｍ５８０のピン付きギアＭ５８２（図２８５参照）の回転を受けて荷重が伝達される。伝達爪部Ｍ６６３に荷重が伝達されることで被押進物体であるリンク部材Ｍ６６０が回転移動すると、一体形成されている伝達突設部Ｍ６６２の位置も変化することになり、連動して後側スライド移動体Ｍ６５０がスライド移動される。

【６１３８】

右側装飾部Ｍ６７０は、前側蓋部Ｍ６２０の増厚部Ｍ６２２の前方に配置され、前側蓋部Ｍ６２０に後方側から挿通される締結ネジにより締結固定される。これにより、締結ネジを右側装飾部Ｍ６７０で隠すことができる。

【６１３９】

左側装飾部Ｍ６８０は、前側スライド移動体Ｍ６４０の前方に配置され、板状本体部Ｍ６４１に後方側から挿通される締結ネジにより締結固定される。これにより、締結ネジを左側装飾部Ｍ６８０で隠すことができる。

【６１４０】

図２８８（ａ）、図２８８（ｂ）、図２８９（ａ）及び図２８９（ｂ）は、演出動作ユニットＭ５００の正面図である。演出動作ユニットＭ５００に対して可動装飾ユニットＭ

６００が反時計回り方向に回転動作開始する動作が時系列で図示される。
【６１４１】
図２８８（ａ）には、可動装飾ユニットＭ６００が演出動作ユニットＭ５００に対して動作範囲の正面視時計回り方向終端に位置する起き上がり側終端状態が図示され、図２８８（ｂ）には、起き上がり側終端状態から可動装飾ユニットＭ６００が正面視反時計回り方向に回転移動された後における中間状態が図示され、図２８９（ａ）には、可動装飾ユニットＭ６００が演出動作ユニットＭ５００に対して動作範囲の正面視反時計回り方向終端に位置する傾倒側終端状態が図示され、図２８９（ｂ）には、傾倒側終端状態から前側スライド移動体Ｍ６４０が平行移動した伸長状態が図示される。
【６１４２】
図２８８（ａ）、図２８８（ｂ）、図２８９（ａ）及び図２８９（ｂ）に図示されるように、演出動作ユニットＭ５００に対する可動装飾ユニットＭ６００の動作は、回転移動と平行移動とが一連の流れの中の異なるタイミングで実行されるよう構成される。
【６１４３】
即ち、図２８８（ａ）、図２８８（ｂ）及び図２８９（ａ）では、平行移動は停止される一方、下側変位物体である可動装飾ユニットＭ６００が回転移動する様子が時系列で図示されており、図２８９（ａ）及び図２８９（ｂ）では、回転移動は停止される一方、可動装飾ユニットＭ６００が平行移動される様子が時系列で図示されている。
【６１４４】
可動装飾ユニットＭ６００は、図２８８（ａ）、図２８８（ｂ）、図２８９（ａ）及び図２８９（ｂ）に時系列で図示される状態を逆向きに移行することで、伸長状態から、傾倒側終端状態、中間状態を経て起き上がり側終端状態まで復帰することができる（復帰制御により復帰する動作が実行される）。
【６１４５】
本実施形態では、復帰制御は、可動装飾ユニットＭ６００の動作のみに使用されるものではなく、他の動作ユニット（演出動作ユニットＭ５００、可動装飾ユニットＭ６００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００等）と兼用される。
【６１４６】
復帰制御では、まず検出センサＭ５１６の検出溝に可動装飾ユニットＭ６００の被検出部Ｍ６１６（図２８７参照）が進入している状態かがＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別され、検出センサＭ５１６の検出溝に被検出部Ｍ６１６が進入している状態ではない場合には、駆動モータＭ５０１が逆方向（正面視反時計回り方向）に９０［ｒｐｍ］の速さ（ピン付きギアＭ５８２が３０［ｒｐｍ］で回転する速さ）で回転駆動され、その回転駆動が検出センサＭ５１６の検出溝に可動装飾ユニットＭ６００の被検出部Ｍ６１６が進入していると判別されるまで（可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態となるまで）継続される。
【６１４７】
可動装飾ユニットＭ６００の回転移動は、ほとんどの場合、可動装飾ユニットＭ６００の回転の中心軸線ＭＪ１の位置が固定された状態で実行される。これにより、可動装飾ユニットＭ６００が平行移動している最中に可動装飾ユニットＭ６００が回転移動される場合のように、可動装飾ユニットＭ６００の速度方向が複雑となる場合に比較して、可動装飾ユニットＭ６００及び可動装飾ユニットＭ６００と連動される扇形状構成部Ｍ５６０の動作を制御し易くすることができ、可動装飾ユニットＭ６００及び扇形状構成部Ｍ５６０の動作不良を回避することができる。
【６１４８】
＜発光制御＞
演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００の動作に基づいて電飾基板Ｍ５１３（図２８４参照）及び電飾基板Ｍ６３０（図２８６参照）のＬＥＤを点灯させたり消灯させたりする制御の一例について説明する。

【６１４９】
電飾基板Ｍ５１３（図２８４参照）及び電飾基板Ｍ６３０（図２８６参照）のＬＥＤの制御は、被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図２８５参照）が切替動作部Ｍ４８０（図２８２参照）に検出されているかどうか（被案内部Ｍ５５０が移動可能範囲の上端位置に配置されているかどうか）で切り替えられる。ここでは、検出片Ｍ５５４が切替動作部Ｍ４８０に検出され被案内部Ｍ５５０が移動可能範囲の上端位置に配置されている場合を説明する。
【６１５０】
可動装飾ユニットＭ６００の起き上がり側終端状態（図２８８（ａ）参照）では、検出センサＭ５１６の検出溝に被検出部Ｍ６１６が配置される。この状態においては、電飾基板Ｍ５１３（図２８４参照）及び電飾基板Ｍ６３０（図２８６参照）のＬＥＤは、中程度の発光強度の点灯が維持される通常発光で制御される。
【６１５１】
可動装飾ユニットＭ６００の起き上がり側終端状態（図２８８（ａ）参照）では、可動装飾ユニットＭ６００が複数の透過部Ｍ５１２と重なっており、この重なっている透過部Ｍ５１２を通る光については可動装飾ユニットＭ６００に隠されて効果的に視認させることが難しいが、可動装飾ユニットＭ６００に隠されていない透過部Ｍ５１２については光を視認させることができる。
【６１５２】
可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態（図２８８（ａ）参照）から変化し、検出センサＭ５１６から被検出部Ｍ６１６（図２８７参照）が離れたことが検出されると、可動装飾ユニットＭ６００に隠されていた透過部Ｍ５１２が露出されるので（図２８９（ｂ）参照）、電飾基板Ｍ５１３（図２８４参照）及び電飾基板Ｍ６３０（図２８６参照）のＬＥＤは、電飾基板Ｍ５１３（図２８４参照）のＬＥＤの発光強度のみが強化される露出発光で制御される。
【６１５３】
駆動主体としての駆動モータＭ５０１（図２８５参照）の動作速度および動作時間を音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図２７８参照）において計測し、可動装飾ユニットＭ６００が伸長状態（図２８９（ｂ）参照）とされた場合に、電飾基板Ｍ５１３（図２８４参照）及び電飾基板Ｍ６３０（図２８６参照）のＬＥＤは、露出発光からの変化として電飾基板Ｍ６３０（図２８６参照）のＬＥＤが通常発光の時よりも強く発光される強発光で制御される。この場合、装飾部Ｍ６２４が露出される態様で左側装飾部Ｍ６８０がスライド移動しており、可動装飾ユニットＭ６００の正面視での面積が大きくされていることからも、可動装飾ユニットＭ６００を目立たせることができる。
【６１５４】
＜検出＞
可動装飾ユニットＭ６００の姿勢が検出センサＭ５１６により検出されることから、当接部材Ｍ６０２の位置について音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図２７８参照）が把握することが可能とされる。可動装飾ユニットＭ６００については、遊技者に注目させることが多く、連動して第３図柄表示装置Ｍ８１における表示を切り替えることもあり、この連動が適切に実行されるか否かが遊技者の興趣の向上に大きく関わるためである。
【６１５５】
一方、扇形状構成部Ｍ５６０は、上述のように回転動作可能に構成されているが、その姿勢を検出するようには構成されていない。遊技者に見えない部分であるので検出の重要性が低いためであり、検出センサを配設しないことで製品コストの削減を図ることができる。更に、扇形状構成部Ｍ５６０は、当接部材Ｍ６０２と連動することから、一方の検出で足り、必要不可欠な箇所にのみ検出センサを配置することで省コスト化を図ることができる。
【６１５６】
図２９０（ａ）、図２９０（ｂ）、図２９１（ａ）、図２９１（ｂ）、図２９２（ａ）

及び図２９２（ｂ）は、伝達部Ｍ５８０の動作について時系列で図示される可動装飾ユニットＭ６００の部分正面図である。

【６１５７】

図２９０（ａ）、図２９０（ｂ）、図２９１（ａ）、図２９１（ｂ）、図２９２（ａ）及び図２９２（ｂ）では、伝達部Ｍ５８０の動作の理解を容易とするために、駆動モータＭ５０１、扇形状構成部Ｍ５６０、伝達部Ｍ５８０、後側スライド移動体Ｍ６５０及びリンク部材Ｍ６６０等が実線で図示される一方、それらの部材に重なる演出動作ユニットＭ５００や可動装飾ユニットＭ６００については大部分において図示が省略され、外形線が想像線で図示される。

【６１５８】

なお、外形線として図示される演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００は、図２９０（ａ）が図２８８（ａ）の状態（起き上がり側終端状態）に対応し、図２９１（ｂ）が図２８８（ｂ）の状態（中間状態）に対応し、図２９２（ａ）が図２８９（ａ）の状態（傾倒側終端状態）に対応し、図２９２（ｂ）が図２８９（ｂ）の状態（伸長状態）に対応する。

【６１５９】

＜自重動作＞

図２９０（ａ）に図示されるように、可動装飾ユニットＭ６００は、ピン付きギアＭ５８２の回転軸と平行に突設される柱状部Ｍ５８２ａに、荷重付与部Ｍ６０４が下から支えられることにより板状本体部Ｍ５１０に対する姿勢が保たれる。荷重付与部Ｍ６０４は、起き上がり側終端状態におけるピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａの回転開始方向（柱状部Ｍ５８２ａの中心軸とピン付きギアＭ５８２の回転軸とを通る直線に対して直交する直線方向）に沿って延びる平面形状から形成されることから、柱状部Ｍ５８２ａと荷重付与部Ｍ６０４とが連動する場合に滑らかに連動させることができる（柱状部Ｍ５８２ａの荷重付与部Ｍ６０４による案内を滑らかにすることができる）。

【６１６０】

柱状部Ｍ５８２ａは、外周の一部が平面状とされ正面視における断面Ｄ字形状とされており、その平面状部が、起き上がり側終端状態（図２９０（ａ）参照）において可動装飾ユニットＭ６００の荷重付与部Ｍ６０４の下面と面で接触するようにされている。これにより、荷重付与部Ｍ６０４に対してピン付きギアＭ５８２が滑り回転することを避けることができる。

【６１６１】

可動装飾ユニットＭ６００は、大径支持部Ｍ５４３及び筒状部Ｍ５１４（図２８４参照）において共通の中心軸線ＭＪ１を中心とした回転移動が鉛直下方へ向けた移動により開始されるものであり、水平方向に延びる荷重付与部Ｍ６０４の下面と直角に交差する直線であって起き上がり側終端状態（図２９０（ａ）参照）において柱状部Ｍ５８２ａの中心を通る直線がピン付きギアＭ５８２の回転軸を通るよう構成される。

【６１６２】

これにより、起き上がり側終端状態において、可動装飾ユニットＭ６００から柱状部Ｍ５８２ａに上下方向で付与される荷重がピン付きギアＭ５８２の回転軸へ向かうようになるので、可動装飾ユニットＭ６００の自重による荷重によりピン付きギアＭ５８２が回転する事態を避け易くすることができる。

【６１６３】

図２９０（ａ）に図示される状態から駆動モータＭ５０１を正方向（正面視時計回り方向）に駆動開始させ、ピン付きギアＭ５８２及び柱状部Ｍ５８２ａを正面視反時計回りに回転移動させることで荷重付与部Ｍ６０４を介する支持力が効かなくなると、可動装飾ユニットＭ６００は、自らの自重により回転移動される（図２９０（ｂ））。

【６１６４】

駆動モータＭ５０１の動作制御としては、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態である場合における駆動モータＭ５０１の正方向への駆動が、荷重付与部Ｍ６０４

を介する支持力が効かなくなる角度までに限定される場合（可動装飾ユニットＭ６００の下方への移動は自重に因る移動）と、指定した角度（例えば、可動装飾ユニットＭ６００の中間状態（図２９１（ｂ）参照）の角度）まで継続される場合とを設定可能とされる。前者の場合、駆動モータＭ５０１の駆動継続時間を短くすることができることから駆動モータＭ５０１の寿命の長期化を図ることができ、後者の場合、可動装飾ユニットＭ６００の停止位置の安定を図ることができる。

【６１６５】

可動装飾ユニットＭ６００は、当接部材Ｍ６０２が案内される円弧状貫通部Ｍ５１５の形成される範囲において回転動作可能に構成されているが、図２９１（ｂ）に図示される中間状態において停止し易くされている。これは、可動装飾ユニットＭ６００の回転動作開始後における駆動モータＭ５０１のみによるものではなく、回転動作開始後に駆動モータＭ５０１の通電を解除した場合であっても機能する工夫にもよるものであって、扇形状構成部Ｍ５６０と円板付きギアＭ５８４とが機能する。

【６１６６】

図２９０（ａ）に図示されるように、駆動モータＭ５０１により回転駆動されるピン付きギアＭ５８２は、可動装飾ユニットＭ６００から荷重を受けるだけでなく、増厚ギアＭ５８３を介して円板付きギアＭ５８４からも荷重を受ける。

【６１６７】

円板付きギアＭ５８４は、背面側へ円弧状に突出され、回転動作中に扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３を押進可能となるように形成される円弧形成部Ｍ５８４ａを備える。起き上がり側終端状態（図２９０（ａ）参照）において、円弧形成部Ｍ５８４ａは、突条部Ｍ５６３と接触しておらず扇形状構成部Ｍ５６０から離間されていることにより、円板付きギアＭ５８４が空回りする態様とされ、回転抵抗が低い。これにより、起き上がり側終端状態からの可動装飾ユニットＭ６００の回転移動をスムーズに開始させることができる。

【６１６８】

駆動モータＭ５０１を正方向（正面視時計回り方向）に駆動開始させることで可動装飾ユニットＭ６００の下方向への回転動作が開始された直後に、駆動モータＭ５０１の通電が解除される場合、可動装飾ユニットＭ６００の荷重付与部Ｍ６０４が柱状部Ｍ５８２ａを押し下げることでピン付きギアＭ５８２が正面視反時計回り方向に回転され、その回転に伴って正面視時計回り方向に回転される増厚ギアＭ５８３を介して円板付きギアＭ５８４が正面視反時計回り方向に回転される。

【６１６９】

扇形状構成部Ｍ５６０は、段部Ｍ５４６（図２８５参照）から円弧突条Ｍ５６７が受ける摩擦力により、自重による回転動作が生じ難いようにされている。即ち、可動装飾ユニットＭ６００が回転動作して当接部材Ｍ６０２が扇形状構成部Ｍ５６０の延設部Ｍ５６８から離れたとしても、静止摩擦により扇形状構成部Ｍ５６０の姿勢は維持される。そのため、扇形状構成部Ｍ５６０の下降方向の回転移動は、自重により開始されるものではなく、円弧形成部Ｍ５８４ａに押進されることにより開始されることになる。

【６１７０】

即ち、円板付きギアＭ５８４の正面視反時計回り方向への回転により扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３が円弧形成部Ｍ５８４ａに当接された後で押進開始され（図２９１（ａ））、扇形状構成部Ｍ５６０が静止摩擦以上の荷重を受けた場合に扇形状構成部Ｍ５６０の動作が開始される。

【６１７１】

円板付きギアＭ５８４が扇形状構成部Ｍ５６０を押進する際に受ける抵抗は、そのまま、増厚ギアＭ５８３を介してピン付きギアＭ５８２の回転動作の抵抗として作用する。ピン付きギアＭ５８２の回転動作の抵抗は柱状部Ｍ５８２ａで下支えされる可動装飾ユニットＭ６００の回転動作の抵抗と言い替えることができる。この抵抗は一定では無く、互いの接触の仕方や、接触が生じる位置によって異なる。

【６１７２】
図２９０（ａ）に図示される状態から駆動モータＭ５０１を正方向（正面視時計回り方向）に駆動開始させる場合、円板付きギアＭ５８４は正面視反時計回り方向に回転されることで円弧形成部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３から遠ざかるため、可動装飾ユニットＭ６００の回転移動が開始される時点（当接部材Ｍ６０２が延設部Ｍ５６８から離れ始める時点）においては、扇形状構成部Ｍ５６０は静止した状態で維持され、円板付きギアＭ５８４も空転される（図２９０（ａ）、図２９０（ｂ））。
【６１７３】
その後の円板付きギアＭ５８４の正面視反時計回り方向の回転中において円弧形成部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３に当接し（図２９１（ａ））、押進することにより扇形状構成部Ｍ５６０が回転移動して、中間状態（図２９１（ｂ）参照）に至る。即ち、下降方向への回転動作において、当接部材Ｍ６０２の移動と扇形状構成部Ｍ５６０との移動は同時に開始されるものではなく、当接部材Ｍ６０２の移動開始から遅れて扇形状構成部Ｍ５６０の移動が開始されるよう構成される。これにより、可動装飾ユニットＭ６００（当接部材Ｍ６０２）の下降方向への移動開始が遅れることを回避し易くすることができる。
【６１７４】
可動装飾ユニットＭ６００の中間状態（図２９１（ｂ）参照）では、扇形状構成部Ｍ５６０が抑制物体としての突設補助部Ｍ５４５により規定される動作終端に位置されていると共に、円弧形成部Ｍ５８４ａが寸法の長い外周側で扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３と当接していることから、円板付きギアＭ５８４が受ける摩擦抵抗が大きくなっており、扇形状構成部Ｍ５６０の上昇方向への戻りが防止される（変位が抑制される）。
【６１７５】
即ち、可動装飾ユニットＭ６００の動作速度が高速になっている場合であっても、その動作に追従して回転移動される扇形状構成部Ｍ５６０の円弧状孔Ｍ５６５の上側内側面が突設補助部Ｍ５４５に衝突して扇形状構成部Ｍ５６０が跳ね返る（跳ね戻る）動作が防止される（変位が抑制される）。
【６１７６】
更に、可動装飾ユニットＭ６００がピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａに下支えされるのみの構成であるから、柱状部Ｍ５８２ａの変位速度によっては柱状部Ｍ５８２ａと可動装飾ユニットＭ６００が離間する（可動装飾ユニットＭ６００の荷重付与部Ｍ６０４が柱状部Ｍ５８２ａに対して浮く）事態が生じ得るところ、扇形状構成部Ｍ５６０が跳ね返る（跳ね戻る）動作が防止される（変位が抑制される）ことにより、扇形状構成部Ｍ５６０の延設部Ｍ５６８の下面と当接する当接部材Ｍ６０２を具備する可動装飾ユニットＭ６００が浮くような事態を避けることができ、柱状部Ｍ５８２ａの変位速度に関わらず可動装飾ユニットＭ６００を中間状態（図２９１（ｂ）参照）で安定させ易くすることができる。
【６１７７】
円板付きギアＭ５８４が受ける摩擦抵抗が大きくされることにより、駆動モータＭ５０１の駆動力の伝達経路において上流側に位置するピン付きギアＭ５８２の回転抵抗も大きくされる。これにより、円板付きギアＭ５８４及びピン付きギアＭ５８２を停止させ易くすることができることから、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａに支えられている可動装飾ユニットＭ６００を中間状態（図２９１（ｂ）参照）で停止させ易くすることができる。なお、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態から中間状態まで回転移動する際におけるピン付きギアＭ５８２の回転角度は９０度とされる。
【６１７８】
＜駆動＞
可動装飾ユニットＭ６００の起き上がり側終端状態（図２９０（ａ）参照）から、可動装飾ユニットＭ６００の回転動作開始後に駆動モータＭ５０１の駆動を正方向で継続させる場合について説明する。駆動モータＭ５０１の駆動を正方向で継続させる場合において

も、ピン付きギアＭ５８２を可動装飾ユニットＭ６００の中間状態に対応する状態（図２９１（ｂ）参照）に至る直前まで回転させた直後に、通電を解除するよう制御することで、残りは惰性で、可動装飾ユニットＭ６００の自重によりピン付きギアＭ５８２が回転され、中間状態（図２９１（ｂ）参照）で停止させ易くすることができる。

【６１７９】

このように駆動モータＭ５０１を制御することで、惰性で中間状態（図２９１（ｂ）参照）に落ち着くことになるので、中間状態までピン付きギアＭ５８２を駆動モータＭ５０１の駆動力により回転させる駆動態様に比較して、可動装飾ユニットＭ６００の回転し過ぎを避けられる。即ち、慣性で、可動装飾ユニットＭ６００が中間状態を超えて回転動作することを避け易くすることができる。

【６１８０】

中間状態（図２９１（ｂ）参照）に到達した後もピン付きギアＭ５８２が継続回転するように駆動モータＭ５０１の正方向の駆動を継続すれば、円板付きギアＭ５８４が更に回転して円弧形成部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３から離れることになり、駆動モータＭ５０１にかけられる回転抵抗を低減させることができる。これにより、駆動モータＭ５０１の駆動力をピン付きギアＭ５８２の回転に集中させた状態で（増厚ギアＭ５８３及び円板付きギアＭ５８４は空転させた状態で）、当接部材Ｍ６０２が扇形状構成部Ｍ５６０から離間する方向に変位する形で傾倒側終端状態（図２９２（ａ）参照）へ向けて可動装飾ユニットＭ６００を回転移動させることができる。

【６１８１】

中間状態から更に駆動モータＭ５０１が正方向で駆動されピン付きギアＭ５８２が回転されると、可動装飾ユニットＭ６００は円弧状貫通部Ｍ５１５に移動を規制されることにより傾倒側終端状態で停止され、柱状部Ｍ５８２ａは荷重付与部Ｍ６０４から離れてリンク部材Ｍ６６０の伝達爪部Ｍ６６３と接触可能となる（図２９２（ａ）参照）。

【６１８２】

なお、柱状部Ｍ５８２ａが荷重付与部Ｍ６０４から離れてからリンク部材Ｍ６６０の伝達爪部Ｍ６６３に接触する（図２９２（ａ）参照）までの間、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００の外形は傾倒側終端状態で維持される。

【６１８３】

即ち、可動装飾ユニットＭ６００の傾倒側終端状態（図２８９（ａ）参照）におけるピン付きギアＭ５８２の状態は、図２９２（ａ）に図示される状態に限定されるものではなく、可動装飾ユニットＭ６００の荷重付与部Ｍ６０４との間の領域において柱状部Ｍ５８２ａは配置され得る。

【６１８４】

傾倒側終端状態（図２９２（ａ）参照）から更に駆動モータＭ５０１が正方向で駆動されピン付きギアＭ５８２が回転されると、柱状部Ｍ５８２ａによりリンク部材Ｍ６６０の伝達爪部Ｍ６６３が押進され、突設支持部Ｍ６１７を中心にリンク部材Ｍ６６０が回転移動され、これに連動して後側スライド移動体Ｍ６５０がスライド移動される（図２９２（ｂ）参照）。柱状部Ｍ５８２ａがリンク部材Ｍ６６０の伝達爪部Ｍ６６３に当接する伝達爪部Ｍ６６３の部位は、当接開始時（図２９２（ａ）参照）及び方向転換時（図２９２（ｂ）参照）において同じであり、この部位が、当接する部位として伝達爪部Ｍ６６３の最も先端側にあたる。そのため、当接開始時の部位において強度を確保できるように設計すれば良いので、当接開始時の部位よりも先端側において柱状部Ｍ５８２ａが当接し得る場合に比較して、伝達爪部Ｍ６６３の設計難易度を低減させることができる。

【６１８５】

これにより、後側スライド移動体Ｍ６５０に締結固定される前側スライド移動体Ｍ６４０（図２８７参照）及びその前側スライド移動体Ｍ６４０に締結固定される左側装飾部Ｍ６８０がスライド移動され、伸長状態を構成する（図２８９（ｂ）参照）。

【６１８６】

このように、左側装飾部Ｍ６８０がスライド移動される際において、ピン付きギアＭ５

８２の柱状部Ｍ５８２ａが可動装飾ユニットＭ６００の荷重付与部Ｍ６０４と離れているため、スライド移動を実行している際に可動装飾ユニットＭ６００が回転移動することを防止することができる。

【６１８７】

即ち、左側装飾部Ｍ６８０をスライド移動させる際に、駆動モータＭ５０１の駆動力が可動装飾ユニットＭ６００の回転移動に使用される可能性を無くすことができ、駆動力をスライド移動に集中させることができる。

【６１８８】

＜往復＞

これは、往復スライド動作させるように駆動する場合も同様である。即ち、可動装飾ユニットＭ６００の傾倒側終端状態（図２９２（ａ）参照）と身長状態（図２９２（ｂ）参照）とが交互に切り替えられるように駆動モータＭ５０１の駆動を正逆で交互に切り替える制御を行うことで、可動装飾ユニットＭ６００の傾倒姿勢（角度）は維持したままで、左側装飾部Ｍ６８０を往復移動させることができる。

【６１８９】

この往復移動において、駆動モータＭ５０１が逆方向（正面視反時計回り方向）に駆動される移動（伸長状態（図２９２（ｂ）参照）から傾倒側終端状態（図２９２（ａ）参照）へ変化する向きの移動）は、弾性バネＭ６５５（図２８７参照）の付勢力に補助されることにより必要な駆動力が低減される。

【６１９０】

この弾性バネＭ６５５が配設されていることにより、駆動モータＭ５０１の駆動の切替の制御は、駆動モータＭ５０１の駆動方向を正回転と逆回転とで切り替える反転態様でも良いし、駆動モータＭ５０１へ通電させる状態と通電を解除させる状態とで切り替える入切態様でも良い。

【６１９１】

即ち、伸長状態（図２９２（ｂ）参照）において駆動モータＭ５０１の通電を解除した場合、弾性バネＭ６５５の付勢力により後側スライド移動体Ｍ６５０が傾倒側終端状態（図２９２（ａ）参照）へ向けて移動され、これに伴ってリンク部材Ｍ６６０が回転移動され、そのリンク部材Ｍ６６０に被案内物体である柱状部Ｍ５８２ａが押進されることでピン付きギアＭ５８２が正面視時計回りに回転移動される。

【６１９２】

そのため、逆方向に駆動される前段階（反転時において回転方向速度＝０となる段階）において既にピン付きギアＭ５８２の回転を開始させることができるので、左側装飾部Ｍ６８０の動作方向の反転を迅速に行わせることができる。

【６１９３】

また、ピン付きギアＭ５８２の正面視時計回り方向の回転と連動して、円板付きギアＭ５８４も正面視時計回り方向に回転されるところ、後側スライド移動体Ｍ６５０のスライド移動途中において、円板付きギアＭ５８４の円弧形成部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３と擦れる位置に到達する。

【６１９４】

これにより、後側スライド移動体Ｍ６５０のスライド移動が弾性バネＭ６５５（図２８７参照）の付勢力により終端まで加速度的に移動しきるものに限定されるものではく、途中位置で制動させることができるので、この制動を利用することで後側スライド移動体Ｍ６５０の伸長状態近傍での往復スライド動作（伸縮動作）をさせる場合においても駆動モータＭ５０１への負荷が大きくなることを避けることができる。

【６１９５】

即ち、伸縮動作では、伸長状態（図２９２（ｂ）参照）において駆動モータＭ５０１の通電を解除し、その解除中において弾性バネＭ６５５（図２８７参照）の付勢力で後側スライド移動体Ｍ６５０、ピン付きギアＭ５８２及び円板付きギアＭ５８４が動作されることで円弧形成部Ｍ５８４ａが突条部Ｍ５６３と擦れる位置に到達するのを待ち、その到達

後に再び駆動モータＭ５０１を正方向（正面視時計回り方向）に駆動させ伸長状態とすることを繰り返すように制御される。

【６１９６】

後側スライド移動体Ｍ６５０は、そのスライド方向が、可動装飾ユニットＭ６００の回転移動における移動方向に対して傾斜されている。これにより、後側スライド移動体Ｍ６５０のスライド移動による荷重（反力）を可動装飾ユニットＭ６００の回転方向にかけられる成分と、可動装飾ユニットＭ６００の回転方向と直角の方向にかけられる成分とに分けることができる。

【６１９７】

駆動モータＭ５０１の駆動方向を交互に逆転させることで生じさせる往復動作は、傾倒側終端状態（図２９２（ａ）参照）及び伸長状態（図２９２（ｂ）参照）間でのみ生じさせることができるわけではなく、傾倒側終端状態（図２９２（ａ）参照）から起き上がり側終端状態（図２９０（ａ）参照）までも可能であるし、伸長状態（図２９２（ｂ）参照）から傾倒側終端状態（図２９２（ａ）参照）を経て起き上がり側終端状態（図２９０（ａ）参照）に戻すことも可能である。

【６１９８】

＜下から上＞

図２９３（ａ）、図２９３（ｂ）、図２９４（ａ）及び図２９４（ｂ）は、伝達部Ｍ５８０の動作について時系列で図示される可動装飾ユニットＭ６００の部分正面図である。図２９３（ａ）、図２９３（ｂ）、図２９４（ａ）及び図２９４（ｂ）では、可動装飾ユニットＭ６００が上昇方向に回転移動される様子が時系列で図示される。

【６１９９】

図２９３（ａ）、図２９３（ｂ）、図２９４（ａ）及び図２９４（ｂ）では、伝達部Ｍ５８０の動作の理解を容易とするために、駆動モータＭ５０１、扇形状構成部Ｍ５６０、伝達部Ｍ５８０、後側スライド移動体Ｍ６５０及びリンク部材Ｍ６６０等が実線で図示される一方、それらの部材に重なる演出動作ユニットＭ５００や可動装飾ユニットＭ６００については大部分において図示が省略され、外形線が想像線で図示される。

【６２００】

なお、外形線として図示される演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００は、図２９３（ａ）が図２８９（ａ）の状態（傾倒側終端状態）に対応し、図２９３（ｂ）が図２８８（ｂ）の状態（中間状態）に対応し、図２９４（ｂ）が図２８８（ａ）の状態（起き上がり側終端状態）に対応する。

【６２０１】

駆動モータＭ５０１を逆方向（正面視反時計回り方向）に駆動させる場合、傾倒側終端状態（図２９３（ａ）参照）では、円板付きギアＭ５８４の円弧形成部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３から離れているので、抵抗の少ない状態でピン付きギアＭ５８２の正面視時計回り方向の回転を生じさせ、柱状部Ｍ５８２ａで荷重付与部Ｍ６０４を押し上げることで可動装飾ユニットＭ６００を正面視反時計回りに回転移動させることができる。

【６２０２】

この場合において、円弧形成部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３に最接近する中間状態（図２９３（ｂ）参照）から、更にピン付きギアＭ５８２が可動装飾ユニットＭ６００を上昇させる方向（正面視時計回り方向）に回転されることに対応して、円弧形成部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０から離間する方向（正面視時計回り方向）へ変位される。これにより、扇形状構成部Ｍ５６０と円板付きギアＭ５８４とを連動させることができ、扇形状構成部Ｍ５６０の回転移動が円板付きギアＭ５８４に妨害されることを回避することができる。

【６２０３】

傾倒側終端状態（図２９３（ａ）参照）から、可動装飾ユニットＭ６００の当接部材Ｍ６０２が扇形状構成部Ｍ５６０の延設部Ｍ５６８に接近する方向で変位され、当接された

場合、更に可動装飾ユニットＭ６００が同方向に回転移動されると、当接部材Ｍ６０２に延設部Ｍ５６８が押進されることになり、当接部材Ｍ６０２と共に扇形状構成部Ｍ５６０が変位される。なお、当接部材Ｍ６０２に当接されるまでの間、扇形状構成部Ｍ５６０は停止されるよう構成されているので、当接部材Ｍ６０２と扇形状構成部Ｍ５６０との当接位置を安定させることができ、動作の再現性を高くさせることができる。

【６２０４】

扇形状構成部Ｍ５６０は、当接部材Ｍ６０２に押進されることで変位される被押進物体であれば何でも良く、外形は偏心した形状に関わらず対称形状でもよく、配置が固定される部材に配設される物体であってもよく、一の部材から構成されるものに限られるものではなく複数部材から構成されても良く、対象物から荷重が与えられない位置に退避可能に構成されても良く、幅長さが一定となる形状でも良く、箇所によって幅広、幅狭が生じるような形状でも良く、対象物から荷重が長期間継続して与えられるよう構成されても良く、対象物から荷重が衝突の一時点で与えられるよう構成されても良く、これらの組合せでも良い。

【６２０５】

駆動モータＭ５０１が逆方向で駆動され、中間状態（図２９３（ｂ）参照）から起き上がり側終端状態（図２９４（ｂ）参照）へ向けて可動装飾ユニットＭ６００が回転移動される場合、駆動モータＭ５０１の駆動力は、可動装飾ユニットＭ６００の当接部材Ｍ６０２を介して扇形状構成部Ｍ５６０に伝達される。つまり、可動装飾ユニットＭ６００と扇形状構成部Ｍ５６０とが共に（一体的に）回転動作される。

【６２０６】

このように、扇形状構成部Ｍ５６０の動作態様は、下方向移動時（正面視反時計回り方向移動時）と、上方向移動時（正面視時計回り方向移動時）とで、当接部材Ｍ６０２との関係が異なる。即ち、下方向移動時においては、当接部材Ｍ６０２のみが先に下方向へ移動し扇形状構成部Ｍ５６０は少し遅れて下方向へ移動するといったように当接部材Ｍ６０２と扇形状構成部Ｍ５６０とが離れたが、上方向移動時においては、当接部材Ｍ６０２が扇形状構成部Ｍ５６０を押し上げる態様となることから、離れずに一体的な動作とされる。

【６２０７】

特に上方向移動時において当接部材Ｍ６０２の移動に対する扇形状構成部Ｍ５６０の動作遅れを低減させられることにより、可動装飾ユニットＭ６００の上方向移動（復帰制御による退避動作）を迅速に行うことができることから、俊敏な動作を遊技者に視認させることができる。

【６２０８】

中間状態（図２９３（ｂ）参照）において、円板付きギアＭ５８４の円弧形状部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３と当接することから、駆動モータＭ５０１の駆動力の強弱により動作態様を変化させることができる。即ち、円弧形状部Ｍ５８４ａと突条部Ｍ５６３との間の摩擦力よりも弱い駆動力で駆動モータＭ５０１を駆動させる場合、中間状態（図２９３（ｂ）参照）で停止され姿勢が維持され得る一方、突条部Ｍ５６３との間の摩擦力を超える駆動力で駆動モータＭ５０１を駆動させる場合、円板付きギアＭ５８４を更に回転させることができ、中間状態を超えて当接部材Ｍ６０２を介して扇形状構成部Ｍ５６０を押し上げることができる。

【６２０９】

当接部材Ｍ６０２は、円弧状貫通部Ｍ５１５に案内される被案内物体として可動装飾ユニットＭ６００の一部として構成される物体であれば何でも良く、外形は矩形状（非球体形状）でも、球体形状でもよい。

【６２１０】

上述したように、当接部材Ｍ６０２と扇形状構成部Ｍ５６０の延設部Ｍ５６８とが当接可能に構成されているところ、可動装飾ユニットＭ６００の動作中において延設部Ｍ５６８が視認可能に構成されている（図２８８、図２８９参照）。これにより、当接部材Ｍ６

０２との当接により延設部Ｍ５６８が破損する不良が発生した場合に、正面視で不良に気付かせ易い。そのため、延設部Ｍ５６８が破損しているのにも関わらず遊技を継続する事態を防止し易くすることができる。

【６２１１】

この作用は、扇形状構成部Ｍ５６０が光透過性の低い（不透明）な樹脂材料から形成されることからも補完されている。即ち、扇形状構成部Ｍ５６０が透明である場合、円弧状貫通部Ｍ５１５を通して延設部Ｍ５６８が露出しているとしても、背後の構造が透き通って視認されるだけであり、延設部Ｍ５６８の状態の変化に気づかせることが難しい。

【６２１２】

これに対し、扇形状構成部Ｍ５６０が不透明で構成されることで、延設部Ｍ５６８の状態の変化に気づき易くすることができる。なお、延設部Ｍ５６８を黒色の樹脂材料から形成することで、背後の構造と同時に視認された場合であっても違和感なく視認させることができる。

【６２１３】

なお、上述した説明は、中間状態（図２９３（ｂ）参照）から起き上がり側終端状態（図２９４（ｂ）参照）までの間、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａが可動装飾ユニットＭ６００の荷重付与部Ｍ６０４に常時接触することを前提としているが、ピン付きギアＭ５８２の回転が高速でされ、可動装飾ユニットＭ６００がピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａから離間されるように回転動作しても良い。

【６２１４】

この場合において、当接部材Ｍ６０２が扇形状構成部Ｍ５６０の延設部Ｍ５６８を押し上げる場合、円板付きギアＭ５８４の円弧形成部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０を下降側終端姿勢に押し下げる位相（図２９３（ｂ）参照）まで到達する前に扇形状構成部Ｍ５６０を上向きに回転移動させることができるので、より上方まで回転移動させることができる。即ち、駆動モータＭ５０１の駆動態様により、当接部材Ｍ６０２及び扇形状構成部Ｍ５６０の動作態様を変化させることができる。

【６２１５】

なお、この場合においても、円弧形成部Ｍ５８４ａにより扇形状構成部Ｍ５６０の変位が抑制される。また、扇形状構成部Ｍ５６０と当接部材Ｍ６０２とが接触している状態において、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａが可動装飾ユニットＭ６００の荷重付与部Ｍ６０４を下支えしているわけでは無いので、上向きの勢いが失われれば、当接部材Ｍ６０２は扇形状構成部Ｍ５６０から離間する方向に変位される。

【６２１６】

図２９５は、左側支持装飾部Ｍ４１０の分解正面斜視図であり、図２９６は、左側支持装飾部Ｍ４１０の分解背面斜視図である。左側支持装飾部Ｍ４１０は、演出動作ユニットＭ５００よりも前側（即ち、扇形状構成部Ｍ５６０と当接部材Ｍ６０２とが近接離反する動作が実行される領域よりも前側）において演出動作ユニットＭ５００の動作を案内可能な箇所を有し、且つ、その案内可能となる部分以外の箇所において発光演出を実行可能とされる。

【６２１７】

左側支持装飾部Ｍ４１０は、光透過性の材料（樹脂やガラス）から上下方向に長い板状に形成される板状ベースＭ４１１と、その板状ベースＭ４１１に長孔状に開口形成される案内長孔Ｍ４１２と、その案内長孔Ｍ４１２とは異なる領域（外側の領域）に配置される装飾受け部Ｍ４１３と、その装飾受け部Ｍ４１３の前側に配設される電飾基板Ｍ４２１と、を主に備える。

【６２１８】

また、左側支持装飾部Ｍ４１０は、電飾基板Ｍ４２１を被覆するように無色の光透過性の樹脂材料から形成され装飾受け部Ｍ４１３に締結固定される被覆部Ｍ４２４と、その被覆部Ｍ４２４の一部を被覆可能な形状とされ被覆部Ｍ４２４よりも透過率の低い有色（本実施形態では赤色）の樹脂材料から形成される低透過率部Ｍ４２６と、被覆部Ｍ４２４及

び低透過率部Ｍ４２６によりカバーされない位置において電飾基板Ｍ４２１の前側に配設される六角形状の枠状部Ｍ４２７と、無色の光透過性樹脂材料から枠状部Ｍ４２７の内側部の隙間を埋める有底カップ形状に形成されるカップ形状部Ｍ４２８と、を主に備える。

【６２１９】

左側支持装飾部Ｍ４１０は、案内長孔Ｍ４１２において背面側に位置する演出動作ユニットＭ５００の板状本体部Ｍ５１０を支持することから、板状ベースＭ４１１によって板状本体部Ｍ５１０の少なくとも一部を隠し得る。

【６２２０】

一方で、延設部Ｍ５６８（図２８９（ａ）参照）を備える扇形状構成部Ｍ５６０は、左側支持装飾部Ｍ４１０と前後方向で重なり得る位置に無く、左側支持装飾部Ｍ４１０によっては隠されないようになっている。これにより、演出動作ユニットＭ５００及び扇形状構成部Ｍ５６０の配置や変位に関わらず、左側支持装飾部Ｍ４１０によって扇形状構成部Ｍ５６０が視認し難くなることを避けることができ、扇形状構成部Ｍ５６０の破損等の不良に正面視で気づき易くすることができる。

【６２２１】

板状ベースＭ４１１には、背面ケースＭ３１０（図２８０参照）に締結固定される被固定孔部Ｍ４１４ａが形成され、装飾受け部Ｍ４１３の後面側には、背面側支持部Ｍ４３０（図２８３参照）に締結固定される雌ネジ部Ｍ４１４ｂが形成される。

【６２２２】

案内長孔Ｍ４１２は、演出動作ユニットＭ５００の前側突部Ｍ５１１（図２８２参照）が左側支持装飾部Ｍ４１０の背面側平面に沿って変位可能に挿通される。これにより、可動装飾ユニットＭ６００（当接部材Ｍ６０２）を含む演出動作ユニットＭ５００が、左側支持装飾部Ｍ４１０の背面側平面に沿って変位可能とされる。

【６２２３】

案内長孔Ｍ４１２の縁部は板状ベースＭ４１１の背面部よりも後方へ向けて突条状に突設形成されている。これにより、左側支持装飾部Ｍ４１０と演出動作ユニットＭ５００との接触面積を減らすことができ（面接触では無いようにすることができ）、演出動作ユニットＭ５００の左側支持装飾部Ｍ４１０に対する動作抵抗を低減させることができる。

【６２２４】

また、案内長孔Ｍ４１２の前後両側には、演出動作ユニットＭ５００の前側突部Ｍ５１１（図２８４参照）が挿通される円形環状のカラー部材Ｍ４０２が配置される。後側に配置されるカラー部材Ｍ４０２は、板状ベースＭ４１１及び演出動作ユニットＭ５００の板状本体部Ｍ５１０（図２８４参照）に挟まれ、前側に配置されるカラー部材Ｍ４０２は、前側突部Ｍ５１１の先端側に螺入されるツバ付きネジ（図示せず）により脱落が防止される。

【６２２５】

このカラー部材Ｍ４０２が案内長孔Ｍ４１２と演出動作ユニットＭ５００との間に介在し、案内長孔Ｍ４１２との当接により演出動作ユニットＭ５００の前側突部Ｍ５１１の変位に伴って適宜回転することにより、変位抵抗を低減し、案内長孔Ｍ４１２が受ける摩擦力を低減することができる。

【６２２６】

被覆部Ｍ４２４は、案内長孔Ｍ４１２の一部（左側部）と重なり、その他の部分（右側部）と重ならないように構成される。即ち、案内長孔Ｍ４１２は、一部が被覆部Ｍ４２４に隠されており、その他の部分が被覆部Ｍ４２４に隠されずに露出される。

【６２２７】

上側の被覆部Ｍ４２４の前方には、可動装飾ユニットＭ６００の延設当接部Ｍ６０５（図２８７参照）が重なり得る。即ち、演出動作ユニットＭ５００の配置として、案内長孔Ｍ４１２の右側端部に板状本体部Ｍ５１０の前側突部Ｍ５１１が位置する状態では延設当接部Ｍ６０５は被覆部Ｍ４２４の前方から外れる（右側に離れる）一方で、前側突部Ｍ５１１の配置が左側へ移行するにつれて、延設当接部Ｍ６０５が被覆部Ｍ４２４の前方に重

なるようになる。
【６２２８】
この場合、延設当接部Ｍ６０５は、正面視で被覆部Ｍ４２４と重なる位置において被覆部Ｍ４２４に背面側から当接され得る。これにより、可動装飾ユニットＭ６００の前後位置のずれを戻すことができる。また、この当接位置は、案内長孔Ｍ４１２のうち、被覆部Ｍ４２４に隠されて露出していない位置に対応する。
【６２２９】
図２９７は、昇降駆動部Ｍ４４０の分解正面斜視図であり、図２９８は、昇降駆動部Ｍ４４０の分解背面斜視図である。昇降駆動部Ｍ４４０は、演出動作ユニットＭ５００の被案内部Ｍ５５０に作用することで、演出動作ユニットＭ５００に対して上下方向の変位を生じさせる。
【６２３０】
昇降駆動部Ｍ４４０は、金属材料から上下方向に延設されボールネジのネジ軸を構成するように形成されるネジ軸部Ｍ４４１と、そのネジ軸部Ｍ４４１との間にギアが介在されておりネジ軸部Ｍ４４１を回転させる駆動力を発生させる駆動モータＭ４４２と、ネジ軸部Ｍ４４１が挿通される内部にネジ軸部Ｍ４４１に対応する固定ネジが形成されネジ軸部Ｍ４４１の回転方向および回転量に対応して上下方向に移動される昇降移動体Ｍ４４３と、を主に備える。
【６２３１】
また、昇降駆動部Ｍ４４０は、ネジ軸部Ｍ４４１を支持するようにネジ軸部Ｍ４４１の前後に配設され樹脂材料から形成される支持部Ｍ４５０と、その支持部Ｍ４５０に変位可能に支持される変位部Ｍ４６０と、その変位部Ｍ４６０を挟んで支持部Ｍ４５０の前側に配設される前側蓋部Ｍ４７０と、を主に備える。
【６２３２】
ネジ軸部Ｍ４４１は、ボールネジのリード（ネジ軸の一回転に伴いナット（本実施形態では昇降移動体Ｍ４４３に相当）が軸方向に進む距離）が５［ｍｍ］となるように形成される。本実施形態では、このリードの長さが、変位部Ｍ４６０に許容される上下方向スライド変位量に対応する。
【６２３３】
昇降移動体Ｍ４４３は、略直方体状で樹脂材料から形成され、ネジ軸部Ｍ４４１が上下方向に挿通されており、上下方向に長尺の板形状で前方へ突設される前方突設部Ｍ４４４と、右方へ突設される右方突設部Ｍ４４５と、上下方向に長尺の板形状が二股で形成され後方へ突設される後方二股部Ｍ４４６と、その後方二股部Ｍ４４６の上側に配設され後方二股部Ｍ４４６よりも柔軟な樹脂材料から形成されるクッション部材Ｍ４４７と、を主に備える。
【６２３４】
昇降移動体Ｍ４４３は、樹脂材料から形成されているため、軽量化を図ることができる。これにより、昇降移動体Ｍ４４３の動作方向が上下方向という自重の影響を受けやすい方向でありつつも、その影響を最小限に抑えることができる。即ち、上昇移動させる場合における移動抵抗を低減させることができるので、駆動源としての駆動モータＭ４４２にかかる負荷を低減することができるし、下降移動させる場合においても自重による加速を抑制することができるので、停止位置を安定させることができる。
【６２３５】
後方二股部Ｍ４４６は、金属棒Ｍ４０１（図２８２参照）に対して左右側から対向配置される。即ち、昇降移動体Ｍ４４３は、金属棒Ｍ４０１に沿って昇降動作するように構成されており、その左右方向への過変位や、ネジ軸部Ｍ４４１を中心とする回転が、金属棒Ｍ４０１との当接により防止される（姿勢を維持させる）。
【６２３６】
クッション部材Ｍ４４７は、上下方向視で被案内部Ｍ５５０（図２８８参照）と少なくとも一部が重なるように形成されている。そのため、昇降移動体Ｍ４４３が昇降移動（上

昇移動）される場合に、クッション部材Ｍ４４７が被案内部Ｍ５５０と当接すれば（押し上げれば）、被案内部Ｍ５５０を昇降移動（上昇移動）させることが可能とされる。

【６２３７】

支持部Ｍ４５０は、ネジ軸部Ｍ４４１を両端部でベアリングを介して支持可能に構成される板状本体部Ｍ４５１と、その板状本体部Ｍ４５１の上端部において後方側からネジ軸部Ｍ４４１を挟み込むように配置され板状本体部Ｍ４５１に締結固定される後方蓋部Ｍ４５６と、を主に備える。

【６２３８】

板状本体部Ｍ４５１は、上下方向に延びる溝形状で後方側から凹設形成される凹設溝部Ｍ４５２と、その凹設溝部Ｍ４５２と検出溝が一致するように配設される検出センサＭ４５３と、前方側へ柱状に突設され変位部Ｍ４６０を変位可能に支持する複数の支持突設部Ｍ４５４と、弾性バネＭ４４８の一端を支持する鉤状部Ｍ４５５と、を主に備える。

【６２３９】

凹設溝部Ｍ４５２は、昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が進入可能な左右幅で形成される。即ち、凹設溝部Ｍ４５２は昇降移動体Ｍ４４３の上下方向変位幅に対応する長さで凹設形成されており、被案内物体の所定部としての前方突設部Ｍ４４４を介して昇降移動体Ｍ４４３の上下方向変位を案内すると共に、昇降移動体Ｍ４４３がネジ軸部Ｍ４４１を中心に回転することを防止する（姿勢を維持させる）。

【６２４０】

このように構成されていることから、検出センサＭ４５３の検出溝には、昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が進入可能とされる。即ち、前方突設部Ｍ４４４は、昇降移動体Ｍ４４３の変位方向の案内や回転の防止をする部分として用いられると共に、昇降移動体Ｍ４４３の位置を配置検出センサである検出センサＭ４５３に検出させる部分にも用いられる（兼用される）。

【６２４１】

凹設溝部Ｍ４５２及び検出センサＭ４５３の検出溝による昇降移動体Ｍ４４３の移動可能方向が上下方向で一致されていることから、昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３の検出溝に進入する前段階から前方突設部Ｍ４４４の移動方向を検出センサＭ４５３の検出溝を移動する際と同じ上下方向とすることができる。これにより、前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３と接触する可能性を低くすることができ、接触による破損が生じる可能性を低くすることができる。

【６２４２】

検出センサＭ４５３は、図２９８に図示されるように、検出溝が凹設溝部Ｍ４５２の開放側（後方側）に向けられる姿勢で、凹設溝部Ｍ４５２の左右側両側壁に断面コの字形状で切り欠き形成される切欠き部Ｍ４５２ａの内部に左右端部が収容される形で配設される。この場合、検出センサＭ４５３の上面の少なくとも一部（左右端部）は、切欠き部Ｍ４５２ａの上側部と対向配置され、切欠き部Ｍ４５２ａの上側部に被覆されることになる。これにより、前方突設部Ｍ４４４と検出センサＭ４５３との衝突をより生じさせ難くすることができる。

【６２４３】

後方蓋部Ｍ４５６は、変位部Ｍ４６０の回転連動部Ｍ４６６を回転可能に支持する支持軸部Ｍ４５７と、その支持軸部Ｍ４５７を中心とする円弧状に穿設される円弧状補助孔Ｍ４５８と、を主に備える。

【６２４４】

変位部Ｍ４６０は、上下に長い金属棒部の両端に樹脂板部が固定される長尺本体部Ｍ４６１と、その長尺本体部Ｍ４６１の下端位置から後方に突設され板状本体部Ｍ４５１の貫通孔Ｍ４５１ａを通って後方に張り出す受動突設部Ｍ４６２と、支持突設部Ｍ４５４が挿通可能な大きさの上下方向に長い長孔状で長尺本体部Ｍ４６１の樹脂板部に穿設される複数の案内長孔Ｍ４６３と、支持軸部Ｍ４５７に支持される回転連動部Ｍ４６６と、その回転連動部Ｍ４６６の前面から円弧状補助孔Ｍ４５８に挿通されるように突設される複数の

円柱状挿通部Ｍ４６７と、下端側の円柱状挿通部Ｍ４６７が挿通されるように長尺本体部Ｍ４６１の上端部において前後方向に穿設される左右方向に長い長孔形状の連動孔Ｍ４６４と、を主に備える。

【６２４５】

長尺本体部Ｍ４６１は、弾性バネＭ４４８の一端が支持される鉤状部Ｍ４６１ａを備える。弾性バネＭ４４８の付勢力が常時上向きに掛けられることにより、通常、長尺本体部Ｍ４６１は変位可能範囲の上端位置に配置される。

【６２４６】

受動突設部Ｍ４６２は、昇降移動体Ｍ４４３の右方突設部Ｍ４４５に押し下げられる部分である。即ち、昇降移動体Ｍ４４３が下降して右方突設部Ｍ４４５が受動突設部Ｍ４６２を押し下げると、変位部Ｍ４６０の長尺本体部Ｍ４６１は変位可能範囲の上端位置から下降変位する。

【６２４７】

案内長孔Ｍ４６３に挿通される支持突設部Ｍ４５４の先端側には、リング形状のカラー部材Ｍ４５４ａに挿通されるネジ部材（図示せず）が螺入される。このカラー部材Ｍ４５４ａが案内長孔Ｍ４６３の幅よりも長い直径で形成されているので、カラー部材Ｍ４５４ａにより長尺本体部Ｍ４６１の脱落を防止することができる。

【６２４８】

連動孔Ｍ４６４に回転連動部Ｍ４６６が変位可能に連結されていることで、長尺本体部Ｍ４６１の上下動作に伴って回転連動部Ｍ４６６が回転動作される。回転連動部Ｍ４６６は、左上端部において左方へ向けて嘴形状で張出形成される部分を有しており、その嘴形状部の上側部Ｍ４６６ａが支持軸部Ｍ４５７を中心とする円弧形状で形成され、嘴形状部の下側先端部において下方に垂下部Ｍ４６６ｂが突設される。

【６２４９】

ここで、回転連動部Ｍ４６６に支持される被案内部Ｍ５５０（図２８４参照）の被支持突部Ｍ５５６は、上面が水平な面状に形成されており、下面が回転連動部Ｍ４６６の上側部Ｍ４６６ａと面で当接可能な湾曲形状で形成される。

【６２５０】

回転連動部Ｍ４６６に垂下部Ｍ４６６ｂが形成されていることにより、被案内部Ｍ５５０が上昇移動され回転連動部Ｍ４６６を下側から押し上げる場合に、被支持突部Ｍ５５６の上面と回転連動部Ｍ４６６の下面とが面で当接することを避け、摩擦抵抗を低減することができる。

【６２５１】

一方で、回転連動部Ｍ４６６を押し上げた後においては、被案内部Ｍ５５０の被支持突部Ｍ５５６の下面に沿って回転連動部Ｍ４６６の上側部Ｍ４６６ａが滑り込むように回転連動部Ｍ４６６を回転させることができる。これにより、被案内部Ｍ５５０が上昇移動されることに伴う、回転連動部Ｍ４６６の回転動作（制限状態への移行）をスムーズに実行させることができる。

【６２５２】

上側の円弧状補助孔Ｍ４５８に挿通される円柱状挿通部Ｍ４６７の先端側には、リング形状のカラー部材Ｍ４６７ａに挿通されるネジ部材（図示せず）が螺入される。このカラー部材Ｍ４６７ａが円弧状補助孔Ｍ４５８の幅よりも長い直径で形成されているので、カラー部材Ｍ４６７ａにより回転連動部Ｍ４６６の後方蓋部Ｍ４５６からの脱落を防止することができる。

【６２５３】

前側蓋部Ｍ４７０は、変位部Ｍ４６０の長尺本体部Ｍ４６１を前側から覆い得る大きさで形成され板状本体部Ｍ４５１に前側から締結固定され、その下側寄りの位置においてＬＥＤ等の発光手段が配設される電飾基板Ｍ４７１が締結固定される。

【６２５４】

図２９９（ａ）、図２９９（ｂ）及び図２９９（ｃ）は、昇降駆動部Ｍ４４０の背面図

である。図２９９（ａ）、図２９９（ｂ）及び図２９９（ｃ）では、昇降移動体Ｍ４４３及び変位部Ｍ４６０の一方向（解除状態へ向かう方向）の変位が時系列で図示されており、変位部Ｍ４６０の変位に付いての理解を容易とするために板状本体部Ｍ４５１の図示が一部省略され（破られて図示され）、特に省略された箇所においてカラー部材Ｍ４５４ａのみが図示され、そのカラー部材Ｍ４５４ａを支持する支持突設部Ｍ４５４の図示が省略される。

【６２５５】

図２９９（ａ）及び図２９９（ｂ）では、制限状態における変位部Ｍ４６０が図示され、図２９９（ｃ）では、解除状態における変位部Ｍ４６０が図示される。即ち、変位部Ｍ４６０は、通常は弾性バネＭ４４８の付勢力で長尺本体部Ｍ４６１が変位可能範囲の上端位置に配置される制限状態とされる一方で、駆動モータＭ４４２が逆方向に駆動されることで下降変位される昇降移動体Ｍ４４３により弾性バネＭ４４８の付勢力を超える力で受動突設部Ｍ４６２が押し下げられることで長尺本体部Ｍ４６１が変位可能範囲の下端位置に配置される解除状態に変化される。

【６２５６】

この長尺本体部Ｍ４６１の上下方向の変位に伴い、回転連動部Ｍ４６６が、制限状態における左方に張り出す姿勢（図２９９（ａ）及び図２９９（ｂ）参照）から、解除状態における右側へ退避する姿勢（図２９９（ｃ）参照）へ向けて回転移動される。

【６２５７】

図２９９（ａ）で図示される状態では、検出センサＭ４５３の検出溝に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が進入しておらず（検出センサＭ４５３で昇降移動体Ｍ４４３を検出不可能とされており）、図２９９（ｂ）で図示される状態および図２９９（ｃ）で図示される状態では、検出センサＭ４５３の検出溝に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が進入している（検出センサＭ４５３で昇降移動体Ｍ４４３を検出可能とされている）。

【６２５８】

つまり、昇降移動体Ｍ４４３の右方突設部Ｍ４４５が受動突設部Ｍ４６２に当接する前段階において昇降移動体Ｍ４４３が受動突設部Ｍ４６２に近接配置されていることが検出可能となるように構成されているので、検出センサＭ４５３の検出を駆動モータＭ４４２の駆動停止制御に利用することで、受動突設部Ｍ４６２を変位させる直前の位置に昇降移動体Ｍ４４３を容易に待機させておくことができる。

【６２５９】

受動突設部Ｍ４６２を変位させる直前の位置（待機位置、図２９９（ｂ）参照）に昇降移動体Ｍ４４３を待機させておく場合の制御態様は何ら限定されるものではなく種々の態様が例示される。一例として、本実施形態では、昇降移動体Ｍ４４３が変位しないように停止させておくようにされている。この場合、昇降移動体Ｍ４４３の誤動作により意図せず回転連動部Ｍ４６６が制限状態から解除状態に切り替えられるという不具合を回避することができる。

【６２６０】

また、例えば、定期的（又は不定期）に、昇降移動体Ｍ４４３を前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３の検出溝から退避する程度に上昇させ、その上昇した後の位置（図２９９（ａ）参照）から下降させることで昇降移動体Ｍ４４３を元の位置（図２９９（ｂ）参照）に戻すという動作を繰り返すように制御しても良い。この場合、回転連動部Ｍ４６６の動作を生じさせることなく、昇降移動体Ｍ４４３の動作が可能であることを定期的（又は不定期）に把握させることができ、昇降移動体Ｍ４４３（又はその駆動源となる駆動モータＭ４４２）に動作不良が生じていないことを主制御装置Ｈ１１０や音声ランプ制御装置Ｈ１１３に把握させることができる。

【６２６１】

この動作により検出センサＭ４５３からの出力が切り替えられることになるが、本実施形態では、検出センサＭ４５３からの出力の切り替えを、他の特定の装置の出力の切り替

えに利用しないようにしている。この場合、昇降移動体Ｍ４４３の動作が開始されていることを遊技者に予想させ難くすることができるので、昇降移動体Ｍ４４３の動作を起点とする演出動作ユニットＭ５００（図２８２参照）の演出動作の開始タイミングを図り難くすることができ、演出動作に対する注目力を向上させることができる。

【６２６２】

なお、検出センサＭ４５３からの出力の切り替えを他の特定の装置の出力の切り替えに利用しても良い。他の特定の装置の出力の切り替えとしては、例えば、発光手段（電飾基板Ｍ４２１（図２９５参照）に配置されるＬＥＤ、電飾基板Ｍ５１３（図２８４参照）に配置されるＬＥＤ、発光部Ｍ６３２（図２８６参照）等）の制御（点灯消灯の切り替え等）に利用しても良いし、第３図柄表示装置Ｍ８１（図２７９参照）における表示の制御（エフェクトの発生消滅の切り替え等）に利用しても良いし、音声出力装置Ｈ２２６（図２７８参照）からの音声出力の制御（切り替えのタイミングで音声を出力する等）に利用しても良い。

【６２６３】

この場合、遊技者に視認させるものではない昇降移動体Ｍ４４３の動作を検出する検出センサＭ４５３を、遊技者に知覚させて演出を行う装置としての、発光手段や、第３図柄表示装置Ｍ８１や、音声出力装置Ｈ２２６等の制御に兼用することができる。

【６２６４】

他の特定の装置の出力の切り替えが生じる頻度については、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、検出センサＭ４５３からの出力の切り替えが生じたら毎回、他の特定の装置の出力の切り替えを実行するようにしても良い。この場合、昇降移動体Ｍ４４３の昇降移動を他の特定の装置を利用した演出に効率的に作用させることができる。

【６２６５】

また、例えば、特定のタイミングに検出センサＭ４５３の出力の切り替えが生じたら（例えば、被案内部Ｍ５５０が他の位置から上昇端位置に配置が変化され、可動装飾ユニットＭ６００が他の状態から起き上がり側終端状態に変化された後における初回の検出の切り替えが生じたら）他の特定の装置の出力の切り替えを実行するようにしても良い。この場合、初回の検出以降は、昇降移動体Ｍ４４３による検出センサＭ４５３の出力の切り替えが生じても、他の特定の装置の出力の切り替えは生じないようにできるので、昇降移動体Ｍ４４３がどう動作制御されていても他の特定の装置で実行される演出を邪魔することがない。これにより、昇降移動体Ｍ４４３の昇降移動の制御の自由度を向上させることができる。

【６２６６】

なお、回転動作しながらの落下移動が可能な演出動作ユニットＭ５００は、見映えの変更がされる視認変更物体であればよく、配置が固定されるように構成しても良いし、透過率が高くされることで背面側が透けて視認できるよう構成されても良いし、非透過とされることで背面側を視認できなく構成しても良い。

【６２６７】

図２９９（ｃ）に図示される状態から、受動突設部Ｍ４６２から離間するように昇降移動体Ｍ４４３を上昇させると、弾性バネＭ４４８の付勢力により長尺本体部Ｍ４６１が再び上昇変位される。長尺本体部Ｍ４６１が上昇変位されることに伴って回転連動部Ｍ４６６が解除状態における姿勢から制限状態における姿勢となるように回転移動される。

【６２６８】

なお、ここでは昇降移動体Ｍ４４３による変位部Ｍ４６０の状態変化の説明を行ったが、本実施形態では、昇降移動体Ｍ４４３が受動突設部Ｍ４６２を押し下げること以外にも、回転連動部Ｍ４６６が回転方向の荷重を受けることで状態が変化され得る。

【６２６９】

図３００、図３０１及び図３０２は、複合動作役物ユニットＭ４００の正面図である。図３００、図３０１及び図３０２では、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置から下降する動作

の一例（第１の上下移動制御）が時系列で図示されており、理解を容易とするために、左側支持装飾部Ｍ４１０の図示が省略され、昇降駆動部Ｍ４４０については回転連動部Ｍ４６６のみが実線で図示され、クッション部材Ｍ４４７の外形が想像線で図示され、クッション部材Ｍ４４７及び回転連動部Ｍ４６６を除き図示が省略される。

【６２７０】

複合動作役物ユニットＭ４００は、通常、演出動作ユニットＭ５００の被案内部Ｍ５５０が上昇端位置で回転連動部Ｍ４６６に下支えされているが（図３００参照）、回転連動部Ｍ４６６が回転移動されると支えが解除され、上下方向に移動可能とされる。

【６２７１】

第１の上下移動制御の実行は、検出センサＭ４５３に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出されている状態（待機位置、図２９９（ｂ）参照）において昇降移動体Ｍ４４３が下降方向に変位される方向（逆方向）にＭＰＵＨ２２１により駆動モータＭ４４２が駆動制御されると同時に開始される。これにより、回転連動部Ｍ４６６が回転移動され変位部Ｍ４６０が解除状態とされ（図２９９（ｃ）参照）、被案内部Ｍ５５０が金属棒Ｍ４０１に沿った落下を開始する。

【６２７２】

図３０１及び図３０２で図示されるように、回転連動部Ｍ４６６が回転移動され変位部Ｍ４６０が解除状態とされると、被案内部Ｍ５５０が金属棒Ｍ４０１に沿って落下する。この落下に伴い第３図柄表示装置Ｍ８１（図２７９参照）の正面側位置に張り出す張出物体である演出動作ユニットＭ５００の左端側では前側突部Ｍ５１１が案内長孔Ｍ４１２に沿って案内されることで直線方向（水平方向、左右方向）にスライド移動される。

【６２７３】

即ち、演出動作ユニットＭ５００は、右端部では被案内部Ｍ５５０が上下方向にスライド移動され、左端部では前側突部Ｍ５１１が案内長孔Ｍ４１２に沿って右下方向にスライド移動される。

【６２７４】

なお、図３００、図３０１及び図３０２では、切替動作部Ｍ４８０の回転切替部Ｍ４９０が停止姿勢とされ、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置までは落下せず、中間位置まで落下される動作が図示される。図３００及び図３０２で図示されるように、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００が下降移動されることにより、より上下方向中央側（第３図柄表示装置Ｍ８１の前方側（図２７９参照））へ進出することになり、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００に対する遊技者の注目力を高めることができる。本実施形態では、これとは別に、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置まで落下する動作が実行可能とされる。

【６２７５】

図３００及び図３０１では、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態（図２８８（ａ）参照）とされている様子が図示され、図３０２では、可動装飾ユニットＭ６００が中間状態（図２８８（ｂ）参照）とされている様子が図示される。

【６２７６】

ＭＰＵＨ２２１により駆動モータＭ４４２が駆動制御されることで第１の上下移動制御が開始されてから、８５［ｍｓｅｃ］後に検出センサＭ４８３の検出結果として検出溝から被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図２８５参照）が退避されている状態であるかが判断され、検出片Ｍ５５４が検出センサＭ４８３の検出溝から退避されている状態である場合には、第１の上下移動制御の開始から２５０［ｍｓｅｃ］後に駆動モータＭ５０１（図２８４参照）が正方向（正面視時計回り方向）に駆動開始されることで、可動装飾ユニットＭ６００が中間状態にされる。

【６２７７】

第１の上下移動制御では駆動モータＭ５０１（図２８４参照）の回転速度は１８０［ｒｐｍ］（ピン付きギアＭ５８２が６０［ｒｐｍ］で回転する速度）に設定されているので、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態から中間状態となるまでに２５０［

ｍｓｅｃ］経過する。従って、第１の上下移動制御の開始から５００［ｍｓｅｃ］経過した状態が、図３０２で図示されている状態に対応する。

【６２７８】

中間状態は可動装飾ユニットＭ６００が回転移動可能な範囲の途中位置であり駆動制御のみで位置決めをすると位置ずれが生じ得るが、本実施形態では図２９０及び図２９２で上述したように円板付きギアＭ５８４の円弧形成部Ｍ５８４ａが扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３と擦れ制動されることにより位置ずれを生じさせることなく中間状態における停止位置（可動装飾ユニットＭ６００の姿勢）を安定させることができる。これにより、図３０２に図示されるような、可動装飾ユニットＭ６００の姿勢が水平とされる状態で容易に維持することができる。

【６２７９】

図３０３は、切替動作部Ｍ４８０の分解正面斜視図であり、図３０４は、切替動作部Ｍ４８０の分解背面斜視図である。なお、図３０３及び図３０４では、内部形状を視認し易くするために、カップ状本体部Ｍ４８１が、実際の形状（図２８２参照）から一部破断された（図示を省略された）状態で図示される。切替動作部Ｍ４８０は、被案内部Ｍ５５０（図３００参照）の移動可能範囲を切り替える部分として機能する。

【６２８０】

図３０３及び図３０４に図示されるように、切替動作部Ｍ４８０は、前側が開放されるカップ形状で形成されるカップ状本体部Ｍ４８１と、そのカップ状本体部Ｍ４８１に締結固定される駆動ベースＭ４８５と、その駆動ベースＭ４８５及びカップ状本体部Ｍ４８１に締結固定される蓋部Ｍ４８６と、その蓋部Ｍ４８６及び駆動ベース部Ｍ４８５の間に配置される駆動ソレノイドＭ４８７と、その駆動ソレノイドＭ４８７のプランジャに連結されスライド動作可能に構成されるスライド体Ｍ４８８と、そのスライド体Ｍ４８８のスライド動作に基づいて回転移動下方に構成される回転切替部Ｍ４９０と、を主に備える。

【６２８１】

カップ状本体部Ｍ４８１は、カップ形状部が樹脂材料から形成されており、金属棒Ｍ４０１（図２８２参照）を配置可能に上下端部において凹設形成される凹設支持部Ｍ４８２と、検出溝が前方に向けられる姿勢で配設される検出センサＭ４８３と、下端側において被案内部Ｍ５５０の下方延設部Ｍ５５５（図２８４参照）と対応する位置（移動方向視で重なる位置）に配設されカップ形状部よりも柔軟な樹脂材料から形成されるクッション部材Ｍ４８４と、を主に備える。

【６２８２】

凹設支持部Ｍ４８２は、下側に形成される箇所においては手前側に蓋部（脱落防止板）が一体形成されることで配置された金属棒Ｍ４０１の脱落が防止され、上側に形成される箇所においては後方蓋部Ｍ４５６（図２９８参照）の上端位置から後方に張り出し形成される箇所により蓋をされることで金属棒Ｍ４０１の脱落が防止される。

【６２８３】

即ち、金属棒Ｍ４０１の組立においては、先に下側の凹設支持部Ｍ４８２に先端を差し込むようにし、反対側の先端を上側の凹設支持部Ｍ４８２に入れてから昇降駆動部Ｍ４４０を切替動作部Ｍ４８０に締結固定することで、組立を容易に行うことができる。

【６２８４】

検出センサＭ４８３は、検出溝に被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図２８５参照）が進入可能とされる位置に配設されており、検出結果により、被案内部Ｍ５５０が移動可能範囲の上端位置に位置しているか否かを音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図２７８参照）が把握可能に構成される。

【６２８５】

検出センサＭ４８３は、被案内物体である被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４を検出可能に構成されていれば何でも良く、移動範囲の終端において検出するものでも良く、対象物を移動範囲の途中において検出するものでも良い。また、被案内部Ｍ５５０が検出時に停止するものでもよく、被案内部Ｍ５５０が検出時に停止しないものでも良い。

【６２８６】
駆動ベースＭ４８５は、浅い皿状に形成されており、その皿状の底面部において回転切替部Ｍ４９０の回転軸となる金属軸棒部Ｍ４８５ａが前方へ延びる姿勢で支持されており、皿形状の内側に駆動ソレノイドＭ４８７、スライド体Ｍ４８８及び回転切替部Ｍ４９０が配置された上で、蓋部Ｍ４８６に蓋をされる構成となっている。回転切替部Ｍ４９０は蓋部Ｍ４８６の円弧開口部Ｍ４８６ａを通って一部が前方に張り出される。
【６２８７】
蓋部Ｍ４８６は、上下端部に締結ネジが挿通可能に開口形成される開口部Ｍ４８６ｂが形成されており、その開口部Ｍ４８６ｂに挿通された締結ネジにより駆動ベースＭ４８５と締結固定されるが、同様にしてカップ状本体部Ｍ４８１にも締結固定される。
【６２８８】
即ち、開口部Ｍ４８６ｂは、挿通された締結ネジが駆動ベースＭ４８５の被締結部Ｍ４８５ｂに螺入される開口と、挿通された締結ネジがカップ状本体部Ｍ４８１の被締結部Ｍ４８１ａに螺入される開口と、を備えており、蓋部Ｍ４８６の固定に必要な数の締結ネジを螺入することにより、駆動ベースＭ４８５も同時にカップ状本体部Ｍ４８１に固定されるよう設計されている。
【６２８９】
この設計によれば、カップ状本体部Ｍ４８１、駆動ベースＭ４８５及び蓋部Ｍ４８６を前後方向に積層するという配置としつつも、カップ状本体部Ｍ４８１に駆動ベースＭ４８５を締結固定し、蓋部Ｍ４８６を駆動ベースＭ４８５のみに締結固定する（積層順に固定する）場合に比較して、駆動ベースＭ４８５又は蓋部Ｍ４８６がカップ状本体部Ｍ４８１に対して位置ずれする程度を低減することができる。
【６２９０】
即ち、蓋部Ｍ４８６がカップ状本体部Ｍ４８１の被締結部Ｍ４８１ａに締結固定されることから、複数部材を積層配置した場合において間に他の部材が挟まる蓋部Ｍ４８６とカップ状本体部Ｍ４８１との間における位置ずれを最小限に抑えることができる。
【６２９１】
蓋部Ｍ４８６は、上述した円弧開口部Ｍ４８６ａ、開口部Ｍ４８６ｂの他、更に、駆動ソレノイドＭ４８７の本体部の位置ずれを当接により防止可能に形成される位置ずれ防止部Ｍ４８６ｃと、金属軸棒部Ｍ４８５ａの先端部（駆動ベースＭ４８５に支持される側とは反対側の端部）を受け入れ可能に開口形成される受入部Ｍ４８６ｄと、を主に備える。
【６２９２】
回転切替部Ｍ４９０は、非透過の樹脂材料から形成され金属軸棒部Ｍ４８５ａに回転可能に支持されており、金属軸棒部Ｍ４８５ａが挿通される円形開口部である支持孔Ｍ４９１と、その支持孔Ｍ４９１の軸線と平行に背面側へ突設される突設部Ｍ４９２と、その突設部Ｍ４９２の突設方向と平行な方向に延びる姿勢で固定される金属棒部Ｍ４９３と、開放部が上側に位置するコの字形状で前方へ向けて延設される延設支持部Ｍ４９４と、その延設支持部Ｍ４９４の開放部から一部がはみ出す態様で支持されるクッション部材Ｍ４９５と、を主に備える。
【６２９３】
突設部Ｍ４９２は、スライド体Ｍ４８８の移動先端側から前方へ突設される突設爪部Ｍ４８８ａよりも上側に位置するように形成されており、上下方向視で突設爪部Ｍ４８８ａと重なる長さで形成される。
【６２９４】
延設支持部Ｍ４９４は、コの字形状の下側板部からの長さが、左側板よりも右側板の方が長い（右側板が左側板よりも長く張り出す）形状で形成されている。これにより、クッション部材Ｍ４９５の露出が右側よりも左側の方が多くされる。
【６２９５】
クッション部材Ｍ４９５は、延設支持部Ｍ４９４よりも柔軟な樹脂材料から形成されており、延設支持部Ｍ４９４と共に円弧開口部Ｍ４８６ａを通って円弧開口部Ｍ４８６ａよ

りも前側に位置するよう構成される。これにより、クッション部材Ｍ４９５は、演出動作ユニットＭ５００の下方延設部Ｍ５５５と同程度の前後方向位置に位置することになる。

【６２９６】

図３０５（ａ）及び図３０５（ｂ）は、駆動ベースＭ４８５、駆動ソレノイドＭ４８７、スライド体Ｍ４８８及び回転切替部Ｍ４９０の正面図である。図３０５（ａ）では、駆動ソレノイドＭ４８７に通電されていない状態が図示され、図３０５（ｂ）では、駆動ソレノイドＭ４８７に通電されている状態が図示される。

【６２９７】

図３０５（ａ）及び図３０５（ｂ）に図示されるように、駆動ソレノイドＭ４８７が通電されると、ボディの中央部で上下方向に延びるプランジャが上方へ引き込まれることで、スライド体Ｍ４８８が上方へスライド移動される（図３０５（ｂ）参照）。

【６２９８】

駆動ベースＭ４８５には上下方向に延びる長孔形状で穿設される一対の案内長孔Ｍ４８５ｃが形成されており、スライド体Ｍ４８８の後方から突設される補助突部Ｍ４８８ｂが案内長孔Ｍ４８５ｃに摺動されるよう支持されていることで、スライド体Ｍ４８８の変位方向が上下方向に案内される。

【６２９９】

図３０５（ａ）に図示される回転切替部Ｍ４９０の停止姿勢とされる状態から、駆動ソレノイドＭ４８７が通電され、スライド体Ｍ４８８が上方へ変位されると、突設爪部Ｍ４８８ａにより突設部Ｍ４９２が押進されることで、回転切替部Ｍ４９０は持ち上げられる態様で回転移動され、解除姿勢とされる。駆動ソレノイドＭ４８７の通電が維持されている限り、回転切替部Ｍ４９０は解除姿勢で維持される。

【６３００】

図３０５（ｂ）に図示される回転切替部Ｍ４９０の解除姿勢とされる状態から、駆動ソレノイドＭ４８７の通電が解除されると、駆動ソレノイドＭ４８７に内蔵される戻りバネ（図示せず）の付勢力によりスライド体Ｍ４８８が下方へ変位される。スライド体Ｍ４８８が下方へ変位されると、突設爪部Ｍ４８８ａにより金属棒部Ｍ４９３が押進されることで、回転切替部Ｍ４９０は押し下げられる態様で回転移動され、停止姿勢とされる。

【６３０１】

駆動ソレノイドＭ４８７が通電されていない状態では、突設爪部Ｍ４８８ａの左端平面（左右方向に直交する平面）が金属棒部Ｍ４９３の右端曲面と当接することで、回転切替部Ｍ４９０の戻り動作（右方へ戻るように回転する動作）を防止することができ、回転切替部Ｍ４９０を停止姿勢で安定的に維持させることができる。

【６３０２】

即ち、スライド体Ｍ４８８の変位は案内長孔Ｍ４８５ｃにより上下方向のみが許容されており左右方向へは規制されているところ、そのスライド体Ｍ４８８に金属棒部Ｍ４９３が左右方向で当接されることで、被案内物体である回転切替部Ｍ４９０の回転が規制される。

【６３０３】

図３０６、図３０７及び図３０８は、複合動作役物ユニットＭ４００の正面図である。図３０６、図３０７及び図３０８では、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置から下降する動作の一例（第２の上下移動制御（第１動作パターン））が時系列で図示されており、理解を容易とするために、左側支持装飾部Ｍ４１０の図示が省略され、昇降駆動部Ｍ４４０については回転連動部Ｍ４６６のみが実線で図示され、クッション部材Ｍ４４７の外形が想像線で図示され、クッション部材Ｍ４４７及び回転連動部Ｍ４６６を除き図示が省略される。

【６３０４】

第２の上下移動制御における第１の上下移動制御（図３００から図３０２参照）との違いとして、図３０６に図示されるように、駆動ソレノイドＭ４８７（図３０３参照）に通電され回転切替部Ｍ４９０が解除姿勢とされる。即ち、第２の上下移動制御では、回転連

動部Ｍ４６６の回転移動よりも前に予め駆動ソレノイドＭ４８７に通電されるよう制御され、通電された状態が維持される（図３０６、図３０７及び図３０８参照）。
【６３０５】
駆動ソレノイドＭ４８７（図３０３参照）に通電されると回転切替部Ｍ４９０は解除姿勢とされる。この解除姿勢において回転切替部Ｍ４９０のクッション部材Ｍ４９５は被案内部Ｍ５５０の下方延設部Ｍ５５５の移動軌跡から退避される。
【６３０６】
これにより、回転連動部Ｍ４６６が回転移動され変位部Ｍ４６０が解除状態とされ、被案内部Ｍ５５０が金属棒Ｍ４０１に沿って落下した場合であっても、切替動作部Ｍ４８０の回転切替部Ｍ４９０が停止姿勢とされていた場合（図３０１参照）と異なり、被案内部Ｍ５５０が中間位置で停止されず、落下終端位置（図３０８参照）まで落下される。
【６３０７】
即ち、被案内部Ｍ５５０が回転切替部Ｍ４９０のクッション部材Ｍ４９５と当接されることはなく、クッション部材Ｍ４９５が配置され得る位置を通過して、クッション部材Ｍ４８４に停止される。
【６３０８】
図３０９は、第２の上下移動制御（第１動作パターン）における検出センサＭ４５３、駆動モータＭ４４２、被案内部Ｍ５５０、検出センサＭ４８３、駆動モータＭ５０１、検出センサＭ５１６及び対応表示ＭＥ５９０の計時変化を示した図である。なお、図３０９において、検出センサＭ４５３，Ｍ４８３，Ｍ５１６について、ＯＮは検出センサＭ４５３，Ｍ４８３，Ｍ５１６の検出溝に検出対象が進入している状態を意味する。
【６３０９】
なお、図３０９では、駆動モータＭ５０１の動作開始から検出センサＭ５１６の検出結果の切り替えまで、実際には微少な時間ずれが生じるが、その時間ずれについての図示が省略され、駆動モータＭ５０１の動作開始と同時点で検出センサＭ５１６の検出結果が切り替えられるよう図示される。
【６３１０】
また、図３０９では、被案内部Ｍ５５０の上昇端位置からの落下動作開始（又は上昇移動後の上昇端位置への到達）と検出センサＭ４８３の検出結果の切り替えとに、実際には微少な時間ずれが生じるが、その時間ずれについての図示が省略され、被案内部Ｍ５５０の上昇端位置からの落下動作開始（又は上昇移動後の上昇端位置への到達）と同時点で検出センサＭ４８３の検出結果が切り替えられるよう図示される。
【６３１１】
また、駆動モータＭ４４２の回転速度は正方向および逆方向において一定速度で制御されるので、図３０９ではその向きのみが示される。一方で、駆動モータＭ５０１の回転速度には大小があるので、図３０９ではその向きのみではなく、駆動モータＭ５０１の回転速度の大小がタイミングチャートの上下方向の幅長さに対応して図示される。なお、駆動モータＭ４４２のものとして図示されるタイミングチャートの上下方向幅長さと、駆動モータＭ５０１のものとして図示されるタイミングチャートの上下方向幅長さとに対応関係は無い。以下では、第２の上下移動制御（第１動作パターン）について、図３０６、図３０７、図３０８に基づいて、図３０９を参照しながら説明する。
【６３１２】
第２の上下移動制御における演出動作ユニットＭ５００の動作開始は、昇降駆動部Ｍ４４０の検出センサＭ４５３（図２９９参照）の検出状態を把握して準備がされる。即ち、検出センサＭ４５３の検出状態は、第２の上下移動制御での動作開始前に音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図２７８参照）において把握される。
【６３１３】
即ち、第２の上下移動制御の実行は、検出センサＭ４５３に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出されている状態（待機位置、図２９９（ｂ）参照）において昇降移動体Ｍ４４３が下降方向に変位される方向（逆方向）にＭＰＵＨ２２１により駆動モータ

Ｍ４４２が駆動制御されることに基づいて開始される（図３０９におけるタイミングａ参照）。駆動モータＭ４４２は、ネジ軸部Ｍ４４１を６００［ｒｐｍ］で回転させる回転速度で１００［ｍｓｅｃ］駆動され停止されるが（ネジ軸部Ｍ４４１を１回転させ停止されるが）、この駆動により回転連動部Ｍ４６６が回転移動され変位部Ｍ４６０が解除状態とされる（図２９９（ｃ）参照）変位を受動突設部Ｍ４６２（図２９９（ｃ）参照）に生じさせる長さで昇降移動体Ｍ４４３が下降されるようネジ軸部Ｍ４４１（図２９９（ｃ）参照）が形成されており、第２の上下移動制御の実行開始から１００［ｍｓｅｃ］後に変位部Ｍ４６０が解除状態とされることに基づいて被案内部Ｍ５５０が金属棒Ｍ４０１に沿った落下を開始する。

【６３１４】

なお、検出センサＭ４５３（図２９９参照）による検出状態は、演出動作ユニットＭ５００の戻り動作（上昇動作）の開始時においても音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図２７８参照）において把握されるものであるため、検出センサＭ４５３は重要性が高い。この検出センサＭ４５３についての制御を、主制御装置Ｈ１１０（図２７８参照）で行うようにしても良い。

【６３１５】

図３０８に図示されるように、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に配置されている場合、被案内部Ｍ５５０の下縁部と、昇降移動体Ｍ４４３のクッション部材Ｍ４４７の上面部との間には、若干の隙間が生じる。即ち、昇降移動体Ｍ４４３が動作範囲の下端位置に配置されている場合（図２９９（ｃ）参照）には十分な隙間が生じるようにされ、その下端位置から昇降移動体Ｍ４４３が上昇して変位部Ｍ４６０が制限状態に切り替えられた場合（図２９９（ｂ）参照）であっても僅かな隙間が生じるようにされる。

【６３１６】

昇降移動体Ｍ４４３が上昇して変位部Ｍ４６０が制限状態に切り替えられた場合（図２９９（ｂ）参照）には、依然として昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３に検出されており、前方突設部Ｍ４４４を検出センサＭ４５３（図２９９参照）の検出溝から退避させるためには昇降移動体Ｍ４４３を更に上昇させる必要があるが、その上昇中に被案内部Ｍ５５０の下縁部に昇降移動体Ｍ４４３のクッション部材Ｍ４４７が押し当てられることになるため、検出センサＭ４５３での検出の切り替えに先立って被案内部Ｍ５５０が昇降移動体Ｍ４４３により押し上げ開始される。

【６３１７】

そのため、検出センサＭ４５３（図２９９参照）での検出の切り替えによって、昇降移動体Ｍ４４３の上昇動作が開始されたことのみではなく、被案内部Ｍ５５０の落下終端位置からの上昇動作も開始されることを音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図２７８参照）に把握させることができる。

【６３１８】

第２の上下移動制御では、検出センサＭ４５３に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出されている状態（図２９９（ｂ）参照）から、昇降移動体Ｍ４４３が下降方向に変位されるように駆動モータＭ４４２が駆動制御されることで、回転連動部Ｍ４６６が回転移動され変位部Ｍ４６０が解除状態とされ（図２９９（ｃ）参照）、被案内部Ｍ５５０が金属棒Ｍ４０１に沿って落下を開始する（図３０７参照）。

【６３１９】

この落下に伴い演出動作ユニットＭ５００の左端側では前側突部Ｍ５１１が案内長孔Ｍ４１２に沿って案内されることで直線方向（水平方向、左右方向）にスライド移動され、演出動作ユニットＭ５００の右端部では被案内部Ｍ５５０が上下方向にスライド移動されることは第１の上下移動制御（図３００から図３０２参照）と同様である。

【６３２０】

一方で、第２の上下移動制御では、検出センサＭ４８３の検出結果に関わらず、昇降移動体Ｍ４４３を下降方向に変位させる駆動モータＭ４４２（図２９９（ｂ）参照）の駆動開始（逆方向への駆動開始）に基づいて可動装飾ユニットＭ６００に予備的な回転移動を

実行させるように制御されることが、第１の上下移動制御とは異なる。
【６３２１】
即ち、図３０７に図示されるように、回転連動部Ｍ４６６は回転移動され被案内部Ｍ５５０の落下が開始はされているが前側突部Ｍ５１１はほとんど変位していない状態となるまでの予備期間において、可動装飾ユニットＭ６００に水平な姿勢をとらせる程度の駆動量で駆動モータＭ５０１（図２９０（ａ）参照）を駆動させる制御（低速の第１動作の制御）が昇降移動体Ｍ４４３を下降方向に変位させる駆動モータＭ４４２（図２９９（ｂ）参照）の駆動開始に基づいて（駆動開始から１００［ｍｓｅｃ］遅れて）実行される（図３０９におけるタイミングｂ参照）。
【６３２２】
本実施形態では、第１動作における駆動モータＭ５０１の回転速度は、約２３４［ｒｐｍ］に設定される。これは、落下開始からの経過時間（被案内部Ｍ５５０が自由落下により図３０７まで移動する（実寸で約３６［ｍｍ］移動する）のに要する期間（約８５［ｍｓｅｃ］））で、可動装飾ユニットＭ６００を水平とさせるために若干の角度（約５［度］）だけ傾倒させるためにピン付きギアＭ５８２を若干の角度（約４０［度］、図２９０（ａ）及び図２９０（ｂ）参照）調度回転させられる回転速度として設定される。
【６３２３】
即ち、駆動モータＭ５０１が第１動作で駆動されることにより回転動作される可動装飾ユニットＭ６００は、自由落下する被案内部Ｍ５５０の移動に対応して動作され、被案内部Ｍ５５０が図３０７で図示される位置を通過するのと同時に図３０７に図示される姿勢（水平姿勢）にされる。
【６３２４】
この低速な第１動作が予備的に実行されることで、被案内部Ｍ５５０の落下よりも先に可動装飾ユニットＭ６００が下方へ移動する等、演出動作ユニットＭ５００における可動装飾ユニットＭ６００の位置（相対位置）が不安定になることを避け、可動装飾ユニットＭ６００が水平状態を保ったまま下降変位するように遊技者に視認させる演出を実行可能となる。
【６３２５】
第２の上下移動制御において、予備期間における検出センサＭ４８３の検出結果が把握される。即ち、ＭＰＵＨ２２１により駆動モータＭ４４２が駆動制御されることで第２の上下移動制御が開始されてから、１５０［ｍｓｅｃ］後に検出センサＭ４８３の検出結果として検出溝から被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図２８５参照）が退避されている状態であるかが判断され、検出片Ｍ５５４が検出センサＭ４８３の検出溝から退避されている状態である場合には、被案内部Ｍ５５０が問題なく落下開始されたと判断され、第２の上下移動制御の開始から１８５［ｍｓｅｃ］後（図３０９におけるタイミングｃ参照）から駆動モータＭ５０１（図２９０（ａ）参照）に同方向かつ速度を上げた駆動制御（高速の第２動作の制御）が実行され、可動装飾ユニットＭ６００が中間状態を超えて傾倒側終端状態まで動作される。
【６３２６】
本実施形態では、第２動作における駆動モータＭ５０１の回転速度は、約４２３［ｒｐｍ］に設定される。これは、図３０７に図示される状態から被案内部Ｍ５５０が落下終端位置（図３０８参照）に到達するまでの経過時間（被案内部Ｍ５５０が自由落下により上昇端位置から落下終端位置まで移動する（実寸で約２１６［ｍｍ］移動する）のに要する期間（約２１５［ｍｓｅｃ］と被案内部Ｍ５５０が自由落下により図３０７まで移動する（実寸で約３６［ｍｍ］移動する）のに要する期間（約８５［ｍｓｅｃ］）との差である約１３０［ｍｓｅｃ］）で、被案内部Ｍ５５０の動作に対応して可動装飾ユニットＭ６００を水平とさせるために必要な角度（約３３［度］）だけ傾倒させるためにピン付きギアＭ５８２を必要な角度（約１１０［度］、図２９０（ｂ）及び図２９３（ｂ）参照）調度回転させられる回転速度として設定される。
【６３２７】

即ち、駆動モータＭ５０１が第１動作から第２動作での駆動に切り替えられることにより回転動作される可動装飾ユニットＭ６００は、自由落下する被案内部Ｍ５５０の移動に対応して動作され、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に到達するのと同時に傾倒側終端状態（図３０８参照）にされる。

【６３２８】

この第１動作よりも長期間で高速の第２動作が実行されることで、被案内部Ｍ５５０の落下速度の上昇に合わせた可動装飾ユニットＭ６００の回転移動速度の上昇を図ることができ、可動装飾ユニットＭ６００が水平状態を保ったまま下降変位するように遊技者に視認させる演出を実行可能となる。

【６３２９】

第２動作において、上述したように駆動モータＭ５０１が約１３０［ｍｓｅｃ］駆動継続された後で停止される（図３０９におけるタイミングｄ参照）ことで可動装飾ユニットＭ６００が傾倒側終端状態で維持されることになるが、駆動モータＭ５０１の停止が若干遅れた（勢いで過回転した）場合であっても、ピン付きギアＭ５８２は可動装飾ユニットＭ６００から柱状部Ｍ５８２ａを離間させる方向へ回転動作するに留まるので（図２９２（ａ）参照）、可動装飾ユニットＭ６００を傾倒側終端状態で維持させることができる。

【６３３０】

上述した通り、第２の上下移動制御における可動装飾ユニットＭ６００の動作は、制御を実行開始後まず検出センサＭ４８３の検出結果によらず予備期間において第１動作を実行し、予備期間の終了時に検出センサＭ４８３の検出が切り替えられていたことが判断できたことを条件として、第２動作が継続的に実行される。

【６３３１】

このように、第２の上下移動制御では、演出動作ユニットＭ５００も可動装飾ユニットＭ６００も、最初の動作は予め決められたタイミングで開始される。この場合に、可動装飾ユニットＭ６００の動作は第１動作からの開始とされており、先に第２動作が実行されるものではない。

【６３３２】

また、第２の上下移動制御は、昇降移動体Ｍ４４３が下降方向に変位されるように駆動モータＭ４４２（図２９９（ｂ）参照）が駆動制御されることをきっかけに開始されることから、可動装飾ユニットＭ６００の動作開始よりも先に演出動作ユニットＭ５００の被案内部Ｍ５５０の下降動作が開始されるよう制御される。

【６３３３】

＜表示＞

第２の上下移動制御が開始される場合、その開始と同時（図３０９におけるタイミングａ参照）に第３図柄表示装置Ｍ８１（図２７９参照）において演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００の外形の形状に対応する対応表示ＭＥ５９０（オーラのように演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００から外側に放射されているように視認される表示）が表示される。

【６３３４】

第２の上下移動制御によって、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００が高速で下降方向に移動されることに加えて、対応表示ＭＥ５９０が表示されることで、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００に対する注目力を向上させることができる。

【６３３５】

＜発光＞

落下が検出センサＭ４８３により検出されたことに基づいて、可動装飾ユニットＭ６００の電飾基板Ｍ６３０の発光態様が変化される。即ち、第１動作の実行中は全体で均一な白色ベースの発光が継続されるところ、検出センサＭ４８３により被案内部Ｍ５５０の落下が確認された直後、電飾基板Ｍ６３０が消灯するよう制御される。

【６３３６】

その後、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に到達するまでの期間において消灯が維持され、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に到達した直後において全体で均一な白色ベースの発光を再開するよう制御される。この時、再開した時の光量は、再開前と同じでも良いし、異なっていても良い。再開時の方が光量を大きくすると、動作演出の迫力を増すことができる。

【６３３７】

図３０７から図３０８に図示される第２動作では、被案内部Ｍ５５０が落下移動する際に、何ら対策しなければ、可動装飾ユニットＭ６００が慣性で板状本体部Ｍ５１０に追従するだけであり姿勢が傾斜しがちであるところを、落下中の被案内部Ｍ５５０の位置に合わせて可動装飾ユニットＭ６００を水平な姿勢とできるように駆動モータＭ５０１（図２９０（ａ）参照）を駆動させるよう制御される。

【６３３８】

第１動作の終了時点として図３０７に図示されるのが、駆動モータＭ５０１が図２９０（ａ）の状態から回転駆動された後において図２９１（ｂ）までは至らない状態であることから、第２動作が開始され駆動モータＭ５０１が高速回転されると、駆動モータＭ５０１に連動されて高速回転される円板付きギアＭ５８４の円弧形成部Ｍ５８４ａからの荷重により扇形状構成部Ｍ５６０が図２９１（ｂ）の状態に変位される。

【６３３９】

この場合、円弧形成部Ｍ５８４ａによる負荷により扇形状構成部Ｍ５６０（図２９０（ａ）参照）が傾倒方向に回転移動され、これに伴い延設部Ｍ５６８が可動装飾ユニットＭ６００の当接部材Ｍ６０２を押し下げるように作用することで、可動装飾ユニットＭ６００が慣性により板状本体部Ｍ５１０に追従した傾斜姿勢（右下傾斜の姿勢）となることを回避し易くすることができる。

【６３４０】

図３０２に図示される可動装飾ユニットＭ６００の姿勢が水平であり、図３０８でも水平姿勢とされる。つまり、単に上下スライド動作のみを実行するエレベーター態様の移動役物と同様に、姿勢を水平に維持した状態での段階別の位置移動を実行することができる。

【６３４１】

回転切替部Ｍ４９０は、姿勢が切り替えられることにより、被案内部Ｍ５５０の移動幅を切り替えて演出動作ユニットＭ５００の動作態様を切り替えるように機能する。このうち、被案内部Ｍ５５０に対して移動方向（上下方向）から当接する場合と（図３０１及び図３０２参照）、被案内部Ｍ５５０に対して側方から当接可能となる場合とがある。

【６３４２】

即ち、図３０８に図示されるように、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に配置されている場合、被案内部Ｍ５５０は回転切替部Ｍ４９０の移動軌跡内に配置される。即ち、回転切替部Ｍ４９０の駆動ソレノイドＭ４８７（図３０５（ａ）参照）の通電を解除して回転切替部Ｍ４９０が被案内部Ｍ５５０に接近するように移動可能とすると、回転切替部Ｍ４９０が延設支持部Ｍ４９４において被案内部Ｍ５５０と当接可能となる。

【６３４３】

回転切替部Ｍ４９０が延設支持部Ｍ４９４において被案内部Ｍ５５０と当接している場合、被案内部Ｍ５５０を制動させる荷重がかけられることで被案内部Ｍ５５０の動作速度が若干低下し得るが、動作自体を妨げるものではなく、被案内部Ｍ５５０を上昇方向へ動作させることが可能である。

【６３４４】

可動装飾ユニットＭ６００は、配置によらず遊技者が視認可能とされる。これにより、可動装飾ユニットＭ６００に対しては、動作により張り出した状態に関わらず、上方に退避している状態においても、常に注目力の向上を図ることができる。

【６３４５】

図３１０及び図３１１は、複合動作役物ユニットＭ４００の正面図である。図３１０及

び図３１１では、理解を容易とするために、左側支持装飾部Ｍ４１０の図示が省略され、昇降駆動部Ｍ４４０については回転連動部Ｍ４６６のみが図示され、回転連動部Ｍ４６６を除き図示が省略される。

【６３４６】

図３１２は、第２の上下移動制御（第２動作パターン）における検出センサＭ４５３、駆動モータＭ４４２、被案内部Ｍ５５０、検出センサＭ４８３、駆動モータＭ５０１、検出センサＭ５１６及び対応表示ＭＥ５９０の計時変化を示した図である。なお、図３１２において、検出センサＭ４５３，Ｍ４８３，Ｍ５１６について、ＯＮは検出センサＭ４５３，Ｍ４８３，Ｍ５１６の検出溝に検出対象が進入している状態を意味する。

【６３４７】

なお、図３１２では、駆動モータＭ５０１の動作開始から検出センサＭ５１６の検出結果の切り替えまで、実際には微少な時間ずれが生じるが、その時間ずれについての図示が省略され、駆動モータＭ５０１の動作開始と同時点で検出センサＭ５１６の検出結果が切り替えられるよう図示される。

【６３４８】

また、駆動モータＭ４４２の回転速度は正方向および逆方向において一定速度で制御されるので、図３１２ではその向きのみが示される。一方で、駆動モータＭ５０１の回転速度には大小があるので、図３１２ではその向きのみではなく、駆動モータＭ５０１の回転速度の大小がタイミングチャートの上下方向の幅長さに対応して図示される。なお、駆動モータＭ４４２のものとして図示されるタイミングチャートの上下方向幅長さと、駆動モータＭ５０１のものとして図示されるタイミングチャートの上下方向幅長さとに対応関係は無い。以下では、第２の上下移動制御（第２動作パターン）について、図３１０、図３１１に基づいて、図３１２を参照しながら説明する。

【６３４９】

図３１０では、第２の上下移動制御における動作制御が実行されたものの、何らかの理由（例えば、駆動の不良や、動作不良）によって回転連動部Ｍ４６６の動作が完全にはされず、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に残存した場合（第２の上下移動制御（第２動作パターン））が図示される。この場合、可動装飾ユニットＭ６００については、第２の上下移動制御における第１動作は実行されている。

【６３５０】

この場合においても、既に対応表示ＭＥ５９０が表示されていることから、このままでは遊技者に違和感を与えることになる。対応表示ＭＥ５９０を即座に別の表示に切り替えるように制御しても良いが、一瞬でも表示が実行されてしまうと、遊技者に与える違和感を薄らげることは難しい。

【６３５１】

これに対して本実施形態では、ＭＰＵＨ２２１により駆動モータＭ４４２が駆動制御されることで第２の上下移動制御が開始されてから、１５０［ｍｓｅｃ］後に検出センサＭ４８３の検出結果として検出溝から被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図２８５参照）が退避されている状態であるかが判断され、検出片Ｍ５５４が検出センサＭ４８３の検出溝から退避されていない状態である場合には、第２の上下移動制御の開始から１８５［ｍｓｅｃ］後（図３１２におけるタイミングａ参照）から、駆動モータＭ５０１を第１の上下移動制御の時と同じ１８０［ｒｐｍ］の回転速度で往復回転させることで可動装飾ユニットＭ６００を起き上がり側終端状態と傾倒側終端状態（図３１１参照）とで往復動作させる制御が実行される。

【６３５２】

即ち、初回は可動装飾ユニットＭ６００を３３度傾倒させるため、ピン付きギアＭ５８２を１１０度回転させるために駆動モータＭ５０１が正方向に約３１０［ｍｓｅｃ］回転駆動され、その後（図３１２におけるタイミングｂ参照）は、正逆交互に４２０［ｍｓｅｃ］回転駆動されることで、ピン付きギアＭ５８２が１５０度正逆回転され、可動装飾ユニットＭ６００の往復動作が実行される。

【６３５３】
これにより、対応表示ＭＥ５９０を、前方を回転移動する可動装飾ユニットＭ６００そのものや可動装飾ユニットＭ６００の残像により隠すことができるので、対応表示ＭＥ５９０のみが視認されることによる違和感を遊技者に与えることを避けることができ、更には、対応表示ＭＥ５９０を可動装飾ユニットＭ６００の動作に対応した表示であるかのように遊技者に視認させることができる。これにより、演出効果を向上させることができる。
【６３５４】
本実施形態では、演出動作ユニットＭ５００、可動装飾ユニットＭ６００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００という少なくとも４種類の動作ユニットが備えられているが（図２８０参照）、中には動作領域が互いに重なる動作ユニットがあるため、全動作ユニットを自由に動作させると不具合が生じる可能性が有る。そのため、復帰制御では、可動装飾ユニットＭ６００を動作させる場合において、他の動作ユニットの状況を把握するための制御が実行される。
【６３５５】
以下では、第２の上下移動制御後の復帰制御について、図３０６、図３０７、図３０８、図３１０、図３１１に基づいて、図３１１及び図３１２を参照しながら説明する。
【６３５６】
復帰制御では、被案内部Ｍ５５０の上昇移動と可動装飾ユニットＭ６００の回転移動とが順次実行される。即ち、可動装飾ユニットＭ６００の回転移動の制御が先に実行開始され、続いて被案内部Ｍ５５０の上昇移動の制御が実行開始される。
【６３５７】
詳細には、復帰制御では、まず検出センサＭ５１６の検出溝に可動装飾ユニットＭ６００の被検出部Ｍ６１６（図２８７参照）が進入している状態かがＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別され、検出センサＭ５１６の検出溝に被検出部Ｍ６１６が進入している状態ではない場合（図３０９におけるタイミングｅ、図３１２におけるタイミングｃ参照）には、駆動モータＭ５０１が逆方向（正面視反時計回り方向）に９０［ｒｐｍ］の速さ（ピン付きギアＭ５８２が３０［ｒｐｍ］で回転する速さ）で回転駆動され、その回転駆動が検出センサＭ５１６の検出溝に可動装飾ユニットＭ６００の被検出部Ｍ６１６が進入していると判別されるまで（可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態となるまで）継続される。
【６３５８】
復帰制御では、検出センサＭ５１６の検出溝に可動装飾ユニットＭ６００の被検出部Ｍ６１６が進入している状態であるかがＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別され、検出センサＭ５１６の検出溝に被検出部Ｍ６１６が進入している状態である場合には、駆動モータＭ５０１が停止される（停止していた場合は停止状態が維持され、回転していた場合は停止される。図３０９におけるタイミングｆ、図３１２におけるタイミングｄ参照）。
【６３５９】
その駆動モータＭ５０１が停止された状態において検出センサＭ４８３の検出溝に被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図２８５参照）が進入している状態かがＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別される。検出センサＭ４８３の検出溝に検出片Ｍ５５４が進入している状態ではない場合には、昇降移動体Ｍ４４３が上昇方向に変位される方向（正方向）にＭＰＵＨ２２１により駆動モータＭ４４２が回転駆動され、その回転駆動は、検出センサＭ４８３の検出溝に、昇降移動体Ｍ４４３により上昇される被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４が進入しているとＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別されるまで（被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置されるまで、図３０９におけるタイミングｇ参照）継続される。被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置されると、被案内部Ｍ５５０は回転連動部Ｍ４６６に下支えされるため（図３０６参照）、昇降移動体Ｍ４４３によらずとも被案内部Ｍ５５０は上昇端位置で維持される。

【６３６０】
次に、復帰制御では、検出センサＭ４８３の検出溝に被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図２８５参照）が進入している状態であるかが判別され、検出センサＭ４８３の検出溝に検出片Ｍ５５４が進入している状態である場合には、ＭＰＵＨ２２１により駆動モータＭ４４２が逆方向（昇降移動体Ｍ４４３が下降方向に変位される方向）に回転駆動される。
【６３６１】
この駆動モータＭ４４２の逆方向への回転駆動は、昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３の検出溝に進入しているとＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別されるまで（昇降移動体Ｍ４４３が受動突設部Ｍ４６２を変位させる直前の位置（待機位置、図２９９（ｂ）参照）に配置されるまで（図３０９におけるタイミングｈ参照）継続される。
【６３６２】
次に、復帰制御では、検出センサＭ４５３の検出溝に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が進入している状態であるかがＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別され、検出センサＭ４５３の検出溝に前方突設部Ｍ４４４が進入している状態である場合（昇降移動体Ｍ４４３が待機位置に配置されている場合）には、駆動モータＭ４４２が停止される（停止していた場合は停止状態が維持され、回転していた場合は停止される）。
【６３６３】
本実施形態では、復帰制御により被案内部Ｍ５５０及び可動装飾ユニットＭ６００が上方向に移動開始した後においても、対応表示ＭＥ５９０（図３０８参照）が維持される。対応表示ＭＥ５９０は、駆動モータＭ４４２の動作が停止された後において消され、第３図柄表示装置Ｍ８１では別の表示が実行される。この場合、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置され、且つ可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態とされた状態（図３０６参照）と併せて、対応表示ＭＥ５９０を視認させることができる。
【６３６４】
これにより、復帰制御が開始される前の被案内部Ｍ５５０及び可動装飾ユニットＭ６００に実行される動作態様に関わらず、停止された可動装飾ユニットＭ６００（図３０６参照）に対応する表示として対応表示ＭＥ５９０を視認させることができ、対応表示ＭＥ５９０の演出効果を向上させることができる。
【６３６５】
上述のように、復帰制御では、被案内部Ｍ５５０の上昇移動と可動装飾ユニットＭ６００の回転移動とが順次実行されるが、図３１０の状態では、被案内部Ｍ５５０は既に上昇端位置に配置されているので、可動装飾ユニットＭ６００を起き上がり側終端状態に戻す動作制御（第２の上下移動制御の第１動作を実行させるよう制御される駆動モータＭ５０１（図２９０（ａ）参照）を第１動作の逆方向に駆動させる制御）のみが実行されるようにしても良い。
【６３６６】
なお、図３１０に図示されるように被案内部Ｍ５５０が下降移動を開始していなかった場合に、第１動作のみの実行で終了し、即座に復帰制御を実行させるようにしても良い。第１動作は低速かつ短時間の動作であるので、第２動作まで実行された場合に比較して、遊技者に動作前の状態（図３０６参照）との違いを把握させ難くすることができ、可動装飾ユニットＭ６００が動作を開始したという印象を最小限に抑えることができる。
【６３６７】
復帰制御では、被案内部Ｍ５５０の上昇移動と可動装飾ユニットＭ６００の回転移動とが順次実行される（可動装飾ユニットＭ６００の回転移動の制御が先に実行開始され、続いて被案内部Ｍ５５０の上昇移動の制御が実行開始される）が、図３１０の状態では、被案内部Ｍ５５０は既に上昇端位置に配置されているので、可動装飾ユニットＭ６００を起き上がり側終端状態に戻す動作制御のみが完全な態様で実行され、被案内部Ｍ５５０を上昇させる動作制御は簡略化される。

【６３６８】
即ち、検出センサＭ５１６の検出溝に可動装飾ユニットＭ６００の被検出部Ｍ６１６が進入している状態であるかがＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別され、検出センサＭ５１６の検出溝に被検出部Ｍ６１６が進入している状態である場合には、駆動モータＭ５０１が停止される（停止していた場合は停止状態が維持され、回転していた場合は停止される）ことは、復帰制御についての上述の説明と同じ（完全な態様）であるが、駆動モータＭ４４２の動作制御が簡略化される。
【６３６９】
詳細には、駆動モータＭ５０１が停止された状態（図３１２におけるタイミングｄ参照）において検出センサＭ４８３の検出溝に被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図２８５参照）が進入している状態かがＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別された結果、駆動モータＭ４４２により昇降移動体Ｍ４４３が上昇されるのに要する最短期間として設定される予定期間（約１００［ｍｓｅｃ］）が経過する前に検出センサＭ４８３の検出溝に検出片Ｍ５５４が進入している状態である場合には、更に、検出センサＭ４５３の検出溝に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が進入している状態であるかがＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別され、検出センサＭ４５３の検出溝に前方突設部Ｍ４４４が進入している状態である場合、駆動モータＭ４４２の正方向（昇降移動体Ｍ４４３が下降方向に変位される方向）への回転駆動が、昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３の検出溝に進入していない位置（図２９９（ａ）参照）まで上昇されたとＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別される（図３１２におけるタイミングｅ参照）まで継続される。
【６３７０】
この駆動モータ４４２が正方向に回転駆動されている状態において昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３の検出溝に進入していない位置まで上昇されたとＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別された場合、駆動モータＭ４４２は停止され、続いて駆動モータＭ４４２が逆方向（昇降移動体Ｍ４４３が下降方向に変位される方向）に回転駆動される（図３１２におけるタイミングｆ参照）。
【６３７１】
この駆動モータＭ４４２の逆方向への回転駆動は、昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３の検出溝に進入しているとＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別されるまで（昇降移動体Ｍ４４３が受動突設部Ｍ４６２を変位させる直前の位置（待機位置、図２９９（ｂ）参照）に配置されるまで）継続される。
【６３７２】
そして、検出センサＭ４５３の検出溝に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が進入している状態であるかがＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別され、検出センサＭ４５３の検出溝に前方突設部Ｍ４４４が進入している状態である場合（昇降移動体Ｍ４４３が待機位置に配置されている場合）には、駆動モータＭ４４２が停止される（停止していた場合は停止状態が維持され、回転していた場合は停止される）。
【６３７３】
このように、図３１０及び図３１１に図示される状態からの復帰制御では、昇降移動体Ｍ４４３により被案内部Ｍ５５０を上昇端位置まで押し上げる場合に比較して、昇降移動体Ｍ４４３の動作距離が短くなるように制御されているため（簡略化されているため）、被案内部Ｍ５５０の配置に関わらず昇降移動体Ｍ４４３を同じ距離で上下に昇降移動（往復移動）させる場合に比較して、復帰制御に要する時間を短縮化することができる。
【６３７４】
本実施形態では、復帰制御により可動装飾ユニットＭ６００が上方向に移動開始した後においても、対応表示ＭＥ５９０（図３０８参照）が維持される。対応表示ＭＥ５９０は、駆動モータＭ４４２の動作が停止された（図３０９におけるタイミングｈ、図３１２におけるタイミングｇ参照）後において消され、第３図柄表示装置Ｍ８１では別の表示が実行される。この場合、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置され、且つ可動装飾ユニット

Ｍ６００が起き上がり側終端状態とされた状態（図３０６参照）と併せて、対応表示ＭＥ５９０を視認させることができる。

【６３７５】

これにより、復帰制御が開始される前の被案内部Ｍ５５０及び可動装飾ユニットＭ６００に実行される動作態様に関わらず、停止された可動装飾ユニットＭ６００（図３０６参照）に対応する表示として対応表示ＭＥ５９０を視認させることができ、対応表示ＭＥ５９０の演出効果を向上させることができる。

【６３７６】

本実施形態では、検出センサＭ４５３の検出溝に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が進入している状態であるかがＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別され、検出センサＭ４５３の検出溝に前方突設部Ｍ４４４が進入している状態である場合（昇降移動体Ｍ４４３が待機位置に配置されている場合（図３０９におけるタイミングｈ、図３１２におけるタイミングｇ参照））に、駆動モータＭ４４２が停止され、且つ、対応表示ＭＥ５９０も消えるよう制御される。

【６３７７】

そのため、昇降移動体Ｍ４４３の動作距離が長いか短いかによって、対応表示ＭＥ５９０の維持期間が異なる場合を構成することができ、対応表示ＭＥ５９０を利用した演出の演出効果を向上させることができる。

【６３７８】

即ち、可動装飾ユニットＭ６００に第２動作が実行された後、可動装飾ユニットＭ６００が復帰制御により退避された後において対応表示ＭＥ５９０の維持期間を長く確保することができることから、遊技者が対応表示ＭＥ５９０を見逃す事態を避けることができる。

【６３７９】

一方、可動装飾ユニットＭ６００に第２動作が実行されなかった場合（往復移動する可動装飾ユニットＭ６００そのものや可動装飾ユニットＭ６００の残像により対応表示ＭＥ５９０を隠す動作が実行された場合、図３１２参照）対応表示ＭＥ５９０については可動装飾ユニットＭ６００の往復動作により隠されてはいるものの、第２動作が実行された場合に比較して、露出される箇所が多く、対応表示ＭＥ５９０に対する遊技者の視認の程度も大きい。

【６３８０】

そのため、可動装飾ユニットＭ６００が復帰制御により退避された後において対応表示ＭＥ５９０の維持期間を短く設定することにより、遊技者が対応表示ＭＥ５９０を視認する期間が過度に長くなることを避け、遊技者が対応表示ＭＥ５９０に飽きることを避けることができる。

【６３８１】

なお、対応表示ＭＥ５９０を維持する期間の設定はこれに限られるものではなく、種々の態様が設定可能とされる。例えば、対応表示ＭＥ５９０が維持される条件として、復帰制御により被案内部Ｍ５５０及び可動装飾ユニットＭ６００が復帰されてから予め設定される特定の秒数だけ維持されるよう設定されても良いし、被案内部Ｍ５５０又は可動装飾ユニットＭ６００が次に動作されるまで維持されるよう設定されても良い。

【６３８２】

なお、第２の上下移動制御において第３図柄表示装置Ｍ８１に表示される表示は対応表示ＭＥ５９０に限られるものではなく、例えば、対応表示ＭＥ５９０とは異なる第２対応表示ＭＥ５９２（図３１０参照）が対応表示ＭＥ５９０の代替または対応表示ＭＥ５９０と併せて表示されようにしても良い。この第２対応表示ＭＥ５９２の意味合いについては何ら限定されるものではないが、本実施形態では、表示される場合の方が、表示されない場合に比較して、大当たり期待度（即ち、抽選が大当たりである割合）が高いことを示唆する。

【６３８３】

第２対応表示ＭＥ５９２は、対応表示ＭＥ５９０の内部領域の一部に表示され、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に配置されている場合（図３０８参照）には板状本体部Ｍ５１０に隠される一方で、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置されている場合（図３１０参照）には板状本体部Ｍ５１０には隠されないが、可動装飾ユニットＭ６００には隠され得る（図３１１参照）位置に構成される。

【６３８４】

即ち、可動装飾ユニットＭ６００が往復回転動作される場合において、可動装飾ユニットＭ６００が傾倒側終端状態の場合には第２対応表示ＭＥ５９２が隠れ、傾倒側終端状態における位置から退避すると第２対応表示ＭＥ５９２が露出されることから、可動装飾ユニットＭ６００が往復回転動作をしている最中に遊技者は第２対応表示ＭＥ５９２を視認することができる。

【６３８５】

第２対応表示ＭＥ５９２の表示開始タイミングは、対応表示ＭＥ５９０の表示開始タイミングよりも遅らせる。詳しくは、第２の上下移動制御が開始されて所定時間（約２５０［ｍｓｅｃ］）経過した時に表示される。これにより、被案内部Ｍ５５０が落下する場合において、落下終端位置に到達する前に第２対応表示ＭＥ５９２が実行されることを避けることができる。また、第２対応表示ＭＥ５９２の表示終了タイミングは、対応表示ＭＥ５９０の表示終了タイミングと同じとしている。

【６３８６】

これにより、第２対応表示ＭＥ５９２が視認されるタイミングを、被案内部Ｍ５５０が落下したか否かで異ならせることができる。即ち、被案内部Ｍ５５０が落下した場合（図３０８参照）、復帰制御により被案内部Ｍ５５０が上昇され板状本体部Ｍ５１０が上方に退避されることで始めて第２対応表示ＭＥ５９２を視認可能となる。

【６３８７】

一方で、被案内部Ｍ５５０が落下しなかった場合（図３１０及び図３１１参照）、復帰制御が開始される前に可動装飾ユニットＭ６００が往復動作している最中において第２対応表示ＭＥ５９２が視認可能とされる。従って、第２対応表示ＭＥ５９２に注目させるタイミングを複数構成することができるので、第３図柄表示装置Ｍ８１に対する注目力を向上させることができる。

【６３８８】

上述したように、第２の上下移動制御において、第１動作の後の第２動作は、検出センサＭ４８３により被案内部Ｍ５５０が下降移動を開始したことが検出された場合に実行される。即ち、検出センサＭ４８３は、演出動作ユニットＭ５００の動作状況を把握可能なセンサとしての機能を有する。

【６３８９】

なお、被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４が進入可能に構成される被進入物体である検出センサＭ４８３は、検出片Ｍ５５４を移動範囲の終端において検出するものに限られるものではなく、検出片Ｍ５５４を移動範囲の途中において検出するものでも良い。

【６３９０】

このように、本実施形態では、第２の上下移動制御の途中であっても、検出センサＭ４８３の検出状況に基づき、第２の上下移動制御が中断され、可動装飾ユニットＭ６００を戻す動作を含む復帰制御に切り替えられ得るよう構成される。

【６３９１】

＜発光制御＞

電飾基板Ｍ６３０のＬＥＤの発光パターンの一例として、光が横一文字で視認されるよう制御可能（点灯させるＬＥＤを選択可能）に構成されている。即ち、電飾基板Ｍ６３０のＬＥＤの発光態様として、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置された場合における可動装飾ユニットＭ６００の起き上がり側終端状態（図３０６参照）において光が横一文字で視認される第１横ライン発光態様と、可動装飾ユニットＭ６００が第１動作され姿勢が傾斜した場合（図３１０参照）において光が横一文字で視認される第２横ライン発光態様

とが、用意されている。
【６３９２】
本実施形態では、第２の上下移動制御において可動装飾ユニットＭ６００の第１動作が実行された後で、検出センサＭ４８３により被案内部Ｍ５５０が落下を開始していないと判断された場合、第２の上下移動制御の開始時において電飾基板Ｍ６３０が第１横ライン発光態様で制御されていた場合に電飾基板Ｍ６３０の発光態様を第２横ライン発光態様に変化可能に制御される。
【６３９３】
これにより、可動装飾ユニットＭ６００の動作に不具合が生じた場合であっても、可動装飾ユニットＭ６００を通した光の視認態様は正常な状態と変わりなく視認されることから、可動装飾ユニットＭ６００に不具合が生じたことを遊技者に気付かれないようにすることができる。
【６３９４】
また、検出センサＭ４８３の検出の切り替わりが生じていないことから、電飾基板Ｍ６３０を消灯する制御が開始されないので、電飾基板Ｍ６３０の発光が維持される。そのため、可動装飾ユニットＭ６００の状態の変化を目立たせ難くでき、遊技者に違和感を与え難くすることができる。
【６３９５】
図３１３は、スライド動作役物ユニットＭ７００の分解正面斜視図であり、図３１４は、スライド動作役物ユニットＭ７００の分解背面斜視図である。スライド動作役物ユニットＭ７００は、左右長尺に形成されており左端部から垂下する垂下部を有し背面ケースＭ３１０の底壁部Ｍ３１１（図２８０参照）に締結固定される本体部Ｍ７１０と、その本体部Ｍ７１０に締結固定される駆動モータＭ７２０と、その駆動モータＭ７２０の駆動力が伝達されることで直線方向にスライド変位可能に本体部Ｍ７１０に支持される第１スライド部Ｍ７３０と、を主に備える。
【６３９６】
また、スライド動作役物ユニットＭ７００は、第１スライド部Ｍ７３０が本体部Ｍ７１０との前後方向間に位置するように配置され本体部Ｍ７１０に締結固定される固定伝達部Ｍ７４０と、その固定伝達部Ｍ７４０の下方に配置され第１スライド部Ｍ７３０のスライド移動に連動されて第１スライド部Ｍ７３０の移動方向と平行な直線方向にスライド変位可能に本体部Ｍ７１０に支持される第２スライド部Ｍ７５０と、第１スライド部Ｍ７３０、固定伝達部Ｍ７４０及び第２スライド部Ｍ７５０を本体部Ｍ７１０との間に配置させるように本体部Ｍ７１０に締結固定される前カバー部Ｍ７６０と、その前カバー部Ｍ７６０に一部が重なるように前カバー部Ｍ７６０の前方に配置され第２スライド部Ｍ７５０に締結固定される移動装飾部Ｍ７７０と、を主に備える。
【６３９７】
本体部Ｍ７１０は、左右両端まで亘って右下傾斜の長孔状に穿設される主案内開口Ｍ７１１と、その主案内開口Ｍ７１１の上側において主案内開口Ｍ７１１と平行であって主案内開口Ｍ７１１よりも短い長孔状に穿設される補助案内開口Ｍ７１２と、その補助案内開口Ｍ７１２の左端部側に検出溝が向けられる検出センサＭ７１３と、左端の垂下部に締結固定される中継基板Ｍ７１４と、その中継基板Ｍ７１４に接続され移動装飾部Ｍ７７０に電力を供給する帯状ケーブルＭ７０１を折り返し位置（左右長さの半分の位置）の長さまで本体部Ｍ７１０に固定するケーブル固定部Ｍ７１５と、垂下部において中継基板Ｍ７１４の前方の開放部に蓋をする蓋部Ｍ７１６と、帯状ケーブルＭ７０１を下面に沿って案内可能となるように前側に張り出す平面壁状部Ｍ７１７と、を主に備える。
【６３９８】
駆動モータＭ７２０は、本体部Ｍ７１０の背後に締結固定されており、本体部Ｍ７１０を前方へ貫通される駆動軸に駆動ギアＭ７２１が固定されており、その駆動ギアＭ７２１に歯合されており互いに連動して回転可能に構成される伝達ギアＭ７２２が本体部Ｍ７１０に回転可能に支持される。

【６３９９】
第１スライド部Ｍ７３０は、上面にギア歯（複数の凹部および凸部）が形成される板状部材であって、背面側へ円柱状に突設形成され補助案内開口Ｍ７１２に挿通される複数の案内突部Ｍ７３１と、左端部から上方へ板状に延設され検出センサＭ７１３の検出溝に進入可能とされる検出片Ｍ７３２と、左側寄りの位置から前方へ円柱形状で突設される支持突設部Ｍ７３３と、その支持突設部Ｍ７３３に回転可能に支持される移動伝達ギアＭ７３４と、を主に備える。
【６４００】
案内突部Ｍ７３１には、先端から雌ネジが形成されており、補助案内開口Ｍ７１２の上下幅よりも長い直径で形成されるリング状のカラー部材Ｍ７３１ａを介して締結ネジが螺入される。これにより、第１スライド部Ｍ７３０の補助案内開口Ｍ７１２からの脱落が防止されると共に、スライド移動時に生じる抵抗をカラー部材Ｍ７３１ａの滑り回転により低減させることができる。
【６４０１】
支持突設部Ｍ７３３には、先端から雌ネジが形成されており、その先端にツバ付きのネジが螺入固定されることにより、移動伝達ギアＭ７３４が支持突設部Ｍ７３３から脱落することを防止する。
【６４０２】
固定伝達部Ｍ７４０は、下面に形成されるギア歯（複数の凹部および凸部）が主案内開口Ｍ７１１の延びる方向と平行な方向に延びるように形成される板状部材であって、本体部Ｍ７１０に締結固定された状態において移動伝達ギアＭ７３４が歯合可能とされる。
【６４０３】
第２スライド部Ｍ７５０は、移動伝達ギアＭ７３４に歯合されるギア歯（複数の凹部および凸部）が上面に形成される板状部材であって、背面側へ円柱状に突設形成され主案内開口Ｍ７１１に挿通される複数の案内突部Ｍ７５１と、移動装飾部Ｍ７７０が締結固定可能に開口形成される複数の締結孔Ｍ７５２と、を主に備える。
【６４０４】
案内突部Ｍ７５１には、先端から雌ネジが形成されており、主案内開口Ｍ７１１の上下幅よりも長い直径で形成されるリング状のカラー部材Ｍ７５１ａを介して締結ネジが螺入される。これにより、第２スライド部Ｍ７５０の主案内開口Ｍ７１１からの脱落が防止されると共に、スライド移動時に生じる抵抗をカラー部材Ｍ７５１ａの滑り回転により低減させることができる。
【６４０５】
締結孔Ｍ７５２の間には、締結孔Ｍ７５２の中心間を通る直線方向に沿う凹部を形成する上下一対のリブ部が形成される。このリブ部により、第２スライド部Ｍ７５０の剛性が向上される。
【６４０６】
前カバー部Ｍ７６０は、主案内開口Ｍ７１１と平行な直線方向に延びる形状の突条として前方へ突設される突条部Ｍ７６１を備える。突条部Ｍ７６１は、移動装飾部Ｍ７７０が後方変位したり、移動装飾部Ｍ７７０が後倒れ方向に姿勢変化したりした場合に背面が当接可能とされており、その形成方向が移動方向と合致されていることから、当接が生じた場合であっても移動装飾部Ｍ７７０の移動抵抗の上昇を抑制することができる。
【６４０７】
移動装飾部Ｍ７７０は、正面視において、人の頭部を模した意匠として設計される。この頭部に対応する胴体部等については、第３図柄表示装置Ｍ８１（図２７９参照）での表示に補完される。移動装飾部Ｍ７７０は、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域の外方に位置することから、換言すれば、第３図柄表示装置Ｍ８１のみで表示する場合には第３図柄表示装置Ｍ８１の表示枠の内側で表示を完結させなければみっともない場合が多いところ、移動装飾部Ｍ７７０により表示を補完するように構成することで、実質的に、表示枠の大きさを拡大することができ、演出の自由度を向上させることができる。

【６４０８】
移動装飾部Ｍ７７０は、背面側から円柱状に突設され中心部に雌ネジを有し第２スライド部Ｍ７５０の締結孔Ｍ７５２に締結固定される複数の締結突設部Ｍ７７１と、その締結突設部Ｍ７７１の間に形成される突条部Ｍ７７２と、下端部から後方に張り出す部分を有することで右面視Ｌ字形状で右方に延設される配線案内部Ｍ７７３と、帯状ケーブルＭ７０１を基板に接続する直前において留める配線留め部Ｍ７７４と、内部に配設され帯状ケーブルＭ７０１が接続される電飾基板Ｍ７７５と、を主に備える。
【６４０９】
突条部Ｍ７７２は、第２スライド部Ｍ７５０の締結孔Ｍ７５２の中心間に形成される凹部に嵌め込まれる。これにより、互いに締結固定される第２スライド部Ｍ７５０及び移動装飾部Ｍ７７０の剛性の向上を図ることができる。
【６４１０】
配線案内部Ｍ７７３は、帯状ケーブルＭ７０１を案内すると共に帯状ケーブルＭ７０１が下方へ垂れることを防止可能な形状とされている。即ち、本実施形態によれば、移動装飾部Ｍ７７０がスライド移動しても帯状ケーブルＭ７０１が下方に垂れることが防止される。
【６４１１】
電飾基板Ｍ７７５は、正面側に光を照射するＬＥＤ等の発光手段を有する基板であって、移動装飾部Ｍ７７０の明るさや色合いを変化可能に制御される。発光態様の制御は、停止時だけでなく、移動装飾部Ｍ７７０の移動中において移動態様に対応した制御が可能とされる。
【６４１２】
図３１５（ａ）及び図３１５（ｂ）は、スライド動作役物ユニットＭ７００の正面図である。なお、図３１５（ａ）及び図３１５（ｂ）では、内部構造の理解を容易とするために前カバー部Ｍ７６０の図示が省略され、移動装飾部Ｍ７７０については外形のみが想像線で図示される。
【６４１３】
図３１５（ａ）及び図３１５（ｂ）に図示されるように、スライド動作役物ユニットＭ７００は、移動装飾部Ｍ７７０が移動可能範囲の左端位置（上端位置）に配置される第１の状態と、移動装飾部Ｍ７７０が移動可能範囲の右端位置（下端位置）に配置される第２の状態とを往復移動可能に構成される。
【６４１４】
移動装飾部Ｍ７７０の第１の状態は、検出センサＭ７１３の検出溝に検出片Ｍ７３２が位置していることから、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図２７８参照）により把握される。移動装飾部Ｍ７７０の第１の状態から駆動モータＭ７２０（図３１３参照）が正方向（正面視時計回り）に駆動回転されることで、移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態へ向けて移動される。
【６４１５】
本実施形態では、移動装飾部Ｍ７７０の移動速度が、第１の状態から第２の状態へ向けて移動される場合には第１の速度（本実施形態では、駆動モータＭ７２０が１５０［ｒｐｍ］で回転される際の速度）とされ、第２の状態から第１の状態へ向けて移動される場合には第２の速度（本実施形態では、駆動モータＭ７２０が１００［ｒｐｍ］で回転される際の速度）とされるように、駆動モータＭ７２０（図３１３参照）は動作制御される。これにより移動装飾部Ｍ７７０の移動態様を画一化することができるので、例えば、稀に移動装飾部Ｍ７７０が超高速で移動するような場合と異なり、遊技者が移動装飾部Ｍ７７０を見失う事態を避けることができる。
【６４１６】
移動装飾部Ｍ７７０の第１の状態と第２の状態との間の変位は、主案内開口Ｍ７１１及び補助案内開口Ｍ７１２に沿う直線方向の変位であり、第２スライド部Ｍ７５０の上面に形成されるギア歯に歯合される移動伝達ギアＭ７３４を介して第１スライド部Ｍ７３０と

連動される。
【６４１７】
ここで移動伝達ギアＭ７３４は、第１スライド部Ｍ７３０の移動に伴い固定伝達部Ｍ７４０に対して歯合回転されるので、第１スライド部Ｍ７３０の移動速度に対して移動伝達ギアＭ７３４に歯合される第２スライド部Ｍ７５０の移動速度が増速される。これにより、第２スライド部Ｍ７５０に締結固定される移動装飾部Ｍ７７０の移動速度も増速可能とされる。
【６４１８】
移動伝達ギアＭ７３４は、伝達ギアＭ７２２と同形状で形成されるギア部材である。また、第２スライド部Ｍ７５０の上面に形成されるギア歯は、固定伝達部Ｍ７４０の下面に形成されるギア歯および第１スライド部Ｍ７３０の上面に形成されるギア歯と同形状で形成されている。
【６４１９】
これにより、第１スライド部Ｍ７３０の移動速度に対する第２スライド部Ｍ７５０（及び移動装飾部Ｍ７７０）の増速の程度は、２倍となる。即ち、第２スライド部Ｍ７５０（及び移動装飾部Ｍ７７０）の変位量は、第１スライド部Ｍ７３０の変位量の２倍となる。
【６４２０】
これにより、第１スライド部Ｍ７３０の移動量を抑えながら、第２スライド部Ｍ７５０の移動量を大きく確保することができる。本実施形態によれば、移動装飾部Ｍ７７０の第１の状態では、第１スライド部Ｍ７３０の左右方向位置を固定伝達部Ｍ７４０と同程度としながら第２スライド部Ｍ７５０を固定伝達部Ｍ７４０よりも左側に引き込んだ位置とする一方で、移動装飾部Ｍ７７０の第２の状態では、第１スライド部Ｍ７３０及び第２スライド部Ｍ７５０の左右位置を固定伝達部Ｍ７４０よりも右側に同程度張り出した位置とすることができる。即ち、移動装飾部Ｍ７７０は、所定の直線方向に平行移動することで退避した第１の状態と張出した第２の状態とで変位する張出物体として構成される。
【６４２１】
図３１６（ａ）、図３１６（ｂ）及び図３１６（ｃ）は、導光板Ｍ２６０の正面図である。図３１６（ａ）、図３１６（ｂ）及び図３１６（ｃ）では、光の導光態様が異なる場合が図示される。
【６４２２】
図３１６（ａ）に図示されるように、導光板Ｍ２６０は、上面側に第１電飾基板Ｍ２６１が配置され、右面側に第２電飾基板Ｍ２６２及び第３電飾基板Ｍ２６３が配置される。第１電飾基板Ｍ２６１、第２電飾基板Ｍ２６２及び第３電飾基板Ｍ２６３は、対向配置される導光板Ｍ２６０の各面に対して平行に延びる板状基板であって、導光板Ｍ２６０に対向する位置にＬＥＤ等の発光手段が等間隔に配置される。
【６４２３】
第１電飾基板Ｍ２６１、第２電飾基板Ｍ２６２又は第３電飾基板Ｍ２６３に配置されるＬＥＤ等の発光手段から照射される光は導光板Ｍ２６０の端部から導光板Ｍ２６０へ導光され、導光板Ｍ２６０面上に楔形状で凹設される凹設部で屈折されることで、凹設部により形成される形状が光により描かれる態様で遊技者に視認される。
【６４２４】
第１電飾基板Ｍ２６１、第２電飾基板Ｍ２６２及び第３電飾基板Ｍ２６３に配置されるＬＥＤ等の発光手段の点灯、消灯は、それぞれ独立して実行可能に制御される。例えば、第１電飾基板Ｍ２６１、第２電飾基板Ｍ２６２及び第３電飾基板Ｍ２６３に配置されるＬＥＤ等の発光手段を全て消灯させている状態（図３１６（ａ）参照）から、第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３に配置されるＬＥＤ等の発光手段を同時に点灯させ、第２電飾基板Ｍ２６２に配置されるＬＥＤ等の発光手段については消灯したままの状態（図３１６（ｂ）参照）としたり、第２電飾基板Ｍ２６２に配置されるＬＥＤ等の発光手段を点灯させ第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３に配置されるＬＥＤ等の発光手段については消灯したままの状態（図３１６（ｃ）参照）としたりする制御が可能であ

る。
【６４２５】
第１電飾基板Ｍ２６１、第２電飾基板Ｍ２６２又は第３電飾基板Ｍ２６３を任意のタイミングで個別に点灯、消灯させる制御は当然可能である。また、第１電飾基板Ｍ２６１、第２電飾基板Ｍ２６２又は第３電飾基板Ｍ２６３のうち任意の基板を組み合わせて同時に点灯、消灯させる制御が可能とされる。
【６４２６】
また、第１電飾基板Ｍ２６１（第２電飾基板Ｍ２６２、第３電飾基板Ｍ２６３）に配置されるＬＥＤ等の発光手段は、全てを同時に点灯、消灯させる制御に限られず、一部のＬＥＤのみを点灯させるといった制御も可能とされる。
【６４２７】
この場合において、例えば、第１電飾基板Ｍ２６１に配置されるＬＥＤ等の発光手段のうち、左側半分のみを点灯させる状態と、右側半分のみを点灯させる状態とを構成したり、それらを切り替えたりするように制御することが可能である。同様に、例えば、第１電飾基板Ｍ２６１に配置されるＬＥＤ等の発光手段のうち、左端のＬＥＤを点灯させた直後に、隣のＬＥＤを点灯させ、またその直後に更に隣のＬＥＤを点灯させ、といったふうに点灯させるＬＥＤを動的に変化させるように制御することが可能である。
【６４２８】
図３１６（ｂ）に図示されるように、本実施形態では、導光板Ｍ２６０が複雑な形状であって、第１電飾基板Ｍ２６１が導光板Ｍ２６０の上面全体を覆ってはいない態様であるにも関わらず、第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３に配置されるＬＥＤ等の発光手段を点灯させることにより、導光板Ｍ２６０の全体で光により描かれる第１発光形状Ｍ２７１を視認させることができる。
【６４２９】
第１発光形状Ｍ２７１は、動作ユニットＭ３００（図２８０参照）で遊技者に視認されるいずれかの意匠と関係のある形状とされている。そのため、動作ユニットＭ３００における動作と、第１発光形状Ｍ２７１を視認させる第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３の制御とを対応付けることにより、一体的な演出として遊技者に視認させることができる。
【６４３０】
第１発光形状Ｍ２７１が遊技者に視認される場合（第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３に配置されるＬＥＤ等の発光手段が点灯制御される場合）、導光板Ｍ２６０の全域が発光しているように視認させ、導光板Ｍ２６０を透過して後方を視認することを困難とすることができる。
【６４３１】
図３１６（ｃ）に図示されるように、第２電飾基板Ｍ２６２に配置されるＬＥＤ等の発光手段を点灯させることにより、導光板Ｍ２６０の上端側のみで光により描かれる第２発光形状Ｍ２７２を視認させることができる。
【６４３２】
第２発光形状Ｍ２７２は、第１発光形状Ｍ２７１とは異なり、動作ユニットＭ３００（図２８０参照）で遊技者に視認されるいずれかの意匠に関わらず、遊技者が意味内容を把握可能となる態様で形成される（本実施形態では、「大チャンス」の文字が形成される）。そのため、動作ユニットＭ３００における動作の実行の有無に関わらず、第２電飾基板Ｍ２６２に配置されるＬＥＤ等の発光手段を点灯させることで遊技者の注目力を第２発光形状Ｍ２７２に集めることができ、特定の意味内容の報知を実行することができる。
【６４３３】
第２発光形状Ｍ２７２を構成する位置で導光板Ｍ２６０面上に楔形状で凹設される凹設部は、第１電飾基板Ｍ２６１から照射される光は屈折させず、第２電飾基板Ｍ２６２から照射される光は屈折させる形状で形成される。
【６４３４】

これにより、第１発光形状Ｍ２７１と第２発光形状Ｍ２７２とを、独立して遊技者に視認させることができる。また、第１電飾基板Ｍ２６１、第２電飾基板Ｍ２６２及び第３電飾基板Ｍ２６３に配置されるＬＥＤ等の発光手段を全て点灯させれば、第１発光形状Ｍ２７１と第２発光形状Ｍ２７２とを同時に視認させることができる。

【６４３５】

図３１７、図３１８及び図３１９は、第３図柄表示装置Ｍ８１、複合動作役物ユニットＭ４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００の正面図である。図３１７、図３１８及び図３１９では、関連動作制御の一例（第１の関連動作制御）が時系列で図示される。第１の関連動作制御は、上述した第２の上下移動制御を含んで構成される。

【６４３６】

図３１７では、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に位置し可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態とされ移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態とされており、図３１８では、被案内部Ｍ５５０が中間位置に位置し可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態とされ移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態とされており、図３１９では、被案内部Ｍ５５０が中間位置に位置し可動装飾ユニットＭ６００が伸長状態とされ移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態とされている。

【６４３７】

第１の関連動作制御では、第３図柄表示装置Ｍ８１において、移動装飾部Ｍ７７０の意匠を補完する意匠であって移動装飾部Ｍ７７０の意匠と一体的に把握可能な連動意匠Ｍ７８１が表示され、移動装飾部Ｍ７７０が移動することに基づいて共に移動する態様で動的に表示される。即ち、移動装飾部Ｍ７７０が左側終端（第１の状態）から右側終端（第２の状態）まで移動する一連の動作に合わせて、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示が更新（可変）される。

【６４３８】

連動意匠Ｍ７８１は、移動装飾部Ｍ７７０に描かれる「人」に対応する胴体と、両腕と、その両腕に装着された「ボクシング用グローブ」と、を備えており、右腕は構え、左腕は正面側に延ばして突きを出している態様から構成される。

【６４３９】

移動装飾部Ｍ７７０の移動が、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示面と平行な同一平面内でのスライド移動とされており、移動装飾部Ｍ７７０の移動前後で正面視における移動装飾部Ｍ７７０の形状が不変とされることから、第３図柄表示装置Ｍ８１で表示される連動意匠Ｍ７８１においても同じ形状を表示しておき移動装飾部Ｍ７７０の移動に合わせて表示を変位させるように制御すれば移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１とを一体的に視認させることが可能となるので、動作制御および表示の制御の難易度を低くすることができる。

【６４４０】

図３１７に図示される状態は、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に位置し可動装飾ユニットＭ６００が傾倒側終端状態とされた状態（図３０８参照）から、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態へ回転移動された状態に相当する。

【６４４１】

図３１７において、可動装飾ユニットＭ６００が第３図柄表示装置Ｍ８１の表示と重なる位置にあるので、前後の位置関係の分、表示よりも、可動装飾ユニットＭ６００に遊技者の注目を集め易くすることができる（目立たせることができる）。

【６４４２】

図３１７及び図３１８に図示されるように、被案内部Ｍ５５０の上昇移動は、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態になった後で実行される。これは、可動装飾ユニットＭ６００が傾倒側終端状態（図３０８参照）や伸長状態（図２８９（ｂ）参照）の時に被案内部Ｍ５５０の上昇移動を行うと、その上昇移動に伴う板状本体部Ｍ５１０の姿勢変化の影響で可動装飾ユニットＭ６００の回転先端側がより下側へ張り出し、他の役物

（昇降動作役物ユニットＭ８００、球案内ユニットＭ９００等、図２８１参照）と衝突し得るためであり、その衝突を未然に防ぐためである。

【６４４３】

図３１７及び図３１８に図示されるように、可動装飾ユニットＭ６００の起き上がり方向への回転移動は、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が停止している時に実行される。

【６４４４】

図３１８及び図３１９に図示されるように、スライド動作ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０の移動は、被案内部Ｍ５５０が中間位置で停止された後で実行される。このように制御される理由の一つは、移動中における移動装飾部Ｍ７７０の縁を演出動作ユニットＭ５００の板状本体部Ｍ５１０で覆うことで、その視認性を低下させることにある。

【６４４５】

本実施形態では、移動装飾部Ｍ７７０の第１の状態と第２の状態との間の変位は、第１スライド部Ｍ７３０が駆動ギアＭ７２１に歯合される伝達ギアＭ７２２を介してスライド移動され、第２スライド部Ｍ７５０が上面に形成されるギア歯に歯合される移動伝達ギアＭ７３４を介して第１スライド部Ｍ７３０と連動されることにより生じるようになっており、介在されるギアがいくつもあるため、動作時におけるバックラッシを避けることが困難であり、駆動モータＭ７２０に実行される駆動制御と、移動装飾部Ｍ７７０の変位態様とにずれが生じ得る。更には、ギアを歯合回転させるために必要となる隙間が各歯合箇所に設けられるため、バックラッシの発生箇所もバラバラとなり得るため、連動意匠Ｍ７８１の動的表示を、駆動モータＭ７２０の駆動制御から想定される移動装飾部Ｍ７７０の変位に対応させたとしても、実際の移動装飾部Ｍ７７０の変位と連動意匠Ｍ７８１の動的表示との間でずれが生じ得る。

【６４４６】

これに対し、スライド動作ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０と第３図柄表示装置Ｍ８１との境界領域が遊技者に視認され易くなることを避け、移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１とを分断して視認させることで、第１の関連動作制御において第３図柄表示装置Ｍ８１において移動装飾部Ｍ７７０の配置に合わせて連動意匠Ｍ７８１を表示させる場合において、移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との間に多少の位置ずれが生じたとしても、遊技者に与える違和感を最小限に抑えることができる。

【６４４７】

スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態（図３１８参照）から第２の状態（図３１９参照）に変化するまでの期間に、同時に可動装飾ユニットＭ６００が回転移動される。

【６４４８】

即ち、移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態から移動開始すると同時に可動装飾ユニットＭ６００が回転移動を開始し、移動装飾部Ｍ７７０及び可動装飾ユニットＭ６００は共に等速で移動され、移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態に到達すると同時に可動装飾ユニットＭ６００が傾倒側終端状態に到達する。

【６４４９】

この可動装飾ユニットＭ６００の回転移動により遊技者の注目が可動装飾ユニットＭ６００に誘導されることにより、板状本体部Ｍ５１０の内側に形成される円弧状貫通部Ｍ５１５を通して第３図柄表示装置Ｍ８１の表示が視認され得るよう構成されている場合であっても、遊技者が移動装飾部Ｍ７７０と表示との間の領域を視認する可能性を低くすることができる。これにより、移動装飾部Ｍ７７０と表示との間に多少の位置ずれが生じたとしても、遊技者に与える違和感を最小限に抑えることができる。

【６４５０】

図３１８に図示される状態から図３１９に図示される状態への可動装飾ユニットＭ６００の回転移動により、板状本体部Ｍ５１０の下側において視認される第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域の面積が小さくされる。これにより、第３図柄表示装置Ｍ８１における動

的表示を更に視認させにくい状態を構成可能となる。
【６４５１】
このように、演出動作ユニットＭ５００において、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に配置される場合か、中間位置に配置される場合かに関わらず、可動装飾ユニットＭ６００が同様の最大動作幅で動作可能となるよう構成される。
【６４５２】
ここで、可動装飾ユニットＭ６００の回転移動は、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０の移動と同時に実行されるので、移動装飾部Ｍ７７０の移動開始時には、板状本体部Ｍ５１０の下側において視認される第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域の面積は十分大きくされているため、第３図柄表示装置Ｍ８１に表示される連動意匠Ｍ７８１を遊技者に明確に視認させることができる。
【６４５３】
スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０の移動が開始されると、可動装飾ユニットＭ６００が回転移動を開始することで連動意匠Ｍ７８１が表示される面積が徐々に小さくされることになるが、移動装飾部Ｍ７７０が右下方向へ移動するのと共に同方向に一体的に移動を開始する連動意匠Ｍ７８１の移動開始時点においては連動意匠Ｍ７８１が表示される面積は小さくされていないので、移動開始時点における連動意匠Ｍ７８１を遊技者が視認し易く構成される。
【６４５４】
そのため、遊技者に対して、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１とが一体的に移動しているという印象を持たせることができ、連動意匠Ｍ７８１が見え難くなった後においても、移動装飾部Ｍ７７０を視認させることにより連動意匠Ｍ７８１の存在を遊技者に想像させ続けることができる。
【６４５５】
即ち、可動装飾ユニットＭ６００に隠されているにも関わらず、その隠されている部分については、遊技者に記憶を基に補完させるように図ることにより、演出動作ユニットＭ５００に連動意匠Ｍ７８１が分断されて表示範囲（表示の内容）の大きさが制限されることを回避することができる。
【６４５６】
第１の関連動作制御では、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態まで到達した後、第１の状態側に所定量（約２ｃｍ）戻された後で再び第２の状態まで到達する繰り返し往復動作が実行される。この繰り返し往復動作と同時に、第３図柄表示装置Ｍ８１では、連動意匠Ｍ７８１が移動装飾部Ｍ７７０と移動タイミング、移動速度、移動量および移動方向を同じとして平行移動されるように制御される。
【６４５７】
これにより、移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態に到達した後においても、移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１とが一体的な意匠であるとの印象を遊技者に想起させることができ、板状本体部Ｍ５１０及び可動装飾ユニットＭ６００に隠されている箇所の裏側に表示されているだろう内容を遊技者が自ら補完し易くすることができる。
【６４５８】
移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１の繰り返し往復移動と同時に、可動装飾ユニットＭ６００の伸縮動作が実行される。これにより、移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１の意匠と、可動装飾ユニットＭ６００との関連性を遊技者に想起させ、広範囲での演出動作を遊技者に視認させることができる。
【６４５９】
上述したように、第１の関連動作制御では、演出動作ユニットＭ５００の上昇動作開始前に可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態まで変位され（図３１７参照）、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態に到達した後で演出動作ユニットＭ５００の被案内部Ｍ５５０が上昇され（図３１８参照）、その後で可動装飾ユニットＭ６００が最大動作幅（傾倒側終端状態、伸長状態）となるまで演出動作ユニットＭ５００に対

して相対的に回転移動される（図３１９参照）。
【６４６０】
このように、被案内部Ｍ５５０が移動される際には可動装飾ユニットＭ６００の演出動作ユニットＭ５００に対する移動（相対移動）が停止され、可動装飾ユニットＭ６００が演出動作ユニットＭ５００に対して移動（相対移動）する場合には被案内部Ｍ５５０が移動されずに停止されるように構成されており、互いの動作が独立している。
【６４６１】
これにより、被案内部Ｍ５５０の移動中に可動装飾ユニットＭ６００が回転移動される場合（第２の上下移動制御等）と異なり、被案内部Ｍ５５０と可動装飾ユニットＭ６００とが、互いに、動作の影響を受けることを回避できる（反動や助走が生じないように構成できる）。
【６４６２】
図３１９に図示される状態からの第１の関連動作制御における復帰制御は、スライド動作役物ユニットＭ７００の動作に対応して複合動作役物ユニットＭ４００の動作タイミングが設定されている。
【６４６３】
まず、第１の関連動作制御における復帰制御では、駆動モータＭ５０１（図２８４参照）の駆動と駆動モータＭ７２０（図３１３参照）の駆動とが同時に開始される。即ち、駆動モータＭ５０１が逆方向（正面視反時計回り方向）に駆動回転されることによる可動装飾ユニットＭ６００の起き上がり側終端状態へ向かう動作と、駆動モータＭ７２０が逆方向（正面視反時計回り）に駆動回転されることによるスライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態（図３１９参照）から第１の状態へ向かう動作とが同時に実行される。
【６４６４】
詳細には、第１の関連動作制御における復帰制御では、開始時にまず検出センサＭ５１６の検出溝に可動装飾ユニットＭ６００の被検出部Ｍ６１６（図２８７参照）が進入している状態かがＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別され、検出センサＭ５１６の検出溝に被検出部Ｍ６１６が進入している状態ではない場合には、駆動モータＭ５０１（図２８４参照）が逆方向（正面視反時計回り方向）に９０［ｒｐｍ］の速さ（ピン付きギアＭ５８２が３０［ｒｐｍ］で回転する速さ）で回転駆動され、その回転駆動が検出センサＭ５１６の検出溝に可動装飾ユニットＭ６００の被検出部Ｍ６１６が進入していると判別されるまで（可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態となるまで）継続される。
【６４６５】
また、第１の関連動作制御における復帰制御では、上述の制御と平行して、開始時にまず検出センサＭ７１３の検出溝に第１スライド部Ｍ７３０の検出片Ｍ７３２（図３１３参照）が進入している状態かがＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別され、検出センサＭ７１３の検出溝に検出片Ｍ７３２が進入している状態ではない場合には、駆動モータＭ７２０（図３１３参照）が逆方向（正面視反時計回り方向）に回転駆動され、その回転駆動が検出センサＭ７１３の検出溝に第１スライド部Ｍ７３０の検出片Ｍ７３２が進入していると判別されるまで（移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態となるまで）継続される。
【６４６６】
次いで、第１の関連動作制御における復帰制御では、検出センサＭ５１６の検出溝に可動装飾ユニットＭ６００の被検出部Ｍ６１６（図２８７参照）が進入している状態であるかがＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別され、検出センサＭ５１６の検出溝に被検出部Ｍ６１６が進入している状態である場合には、駆動モータＭ５０１（図２８４参照）が停止される（停止していた場合は停止状態が維持され、回転していた場合は停止される）。
【６４６７】
また、第１の関連動作制御における復帰制御では、上述の制御と平行して、検出センサ

Ｍ７１３の検出溝に第１スライド部Ｍ７３０の検出片Ｍ７３２（図３１３参照）が進入している状態かがＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別され、検出センサＭ７１３の検出溝に検出片Ｍ７３２が進入している状態である場合には、駆動モータＭ７２０（図３１３参照）が停止される（停止していた場合は停止状態が維持され、回転していた場合は停止される）。

【６４６８】

次いで、上述のように駆動モータＭ５０１（図２８４参照）及び駆動モータＭ７２０（図３１３参照）が停止された状態（検出センサＭ５１６の検出溝に被検出部Ｍ６１６が進入しており、検出センサＭ７１３の検出溝に検出片Ｍ７３２が進入している状態）において、検出センサＭ４８３の検出溝に被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図２８５参照）が進入している状態かがＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別される。

【６４６９】

検出センサＭ４８３の検出溝に検出片Ｍ５５４が進入している状態ではない場合には、昇降移動体Ｍ４４３が上昇方向に変位される方向（正方向）にＭＰＵＨ２２１により駆動モータＭ４４２が回転駆動され、その回転駆動は、検出センサＭ４８３の検出溝に、昇降移動体Ｍ４４３により上昇される被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４が進入しているとＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別されるまで（被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置されるまで）継続される。被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置されると、被案内部Ｍ５５０は回転連動部Ｍ４６６に下支えされるため（図３０６参照）、昇降移動体Ｍ４４３によらずとも被案内部Ｍ５５０は上昇端位置で維持される。

【６４７０】

復帰制御では、検出センサＭ４８３の検出溝に被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図２８５参照）が進入している状態であるかが判別され、検出センサＭ４８３の検出溝に検出片Ｍ５５４が進入している状態である場合には、記憶された複数の態様から制御態様を選択可能なＭＰＵＨ２２１により駆動モータＭ４４２が逆方向（昇降移動体Ｍ４４３が下降方向に変位される方向）に回転駆動される。

【６４７１】

この駆動モータＭ４４２の逆方向への回転駆動は、昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３の検出溝に進入しているとＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別されるまで（昇降移動体Ｍ４４３が受動突設部Ｍ４６２を変位させる直前の位置（待機位置、図２９９（ｂ）参照）に配置されるまで）継続される。

【６４７２】

次いで、復帰制御では、検出センサＭ４５３の検出溝に昇降移動体Ｍ４４３の前方突設部Ｍ４４４が進入している状態であるかがＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）により判別され、検出センサＭ４５３の検出溝に前方突設部Ｍ４４４が進入している状態である場合（昇降移動体Ｍ４４３が待機位置に配置されている場合）には、駆動モータＭ４４２が停止される（停止していた場合は停止状態が維持され、回転していた場合は停止される）。

【６４７３】

このように、第１の関連動作制御における復帰制御では、移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態に到達したことが検出センサＭ７１３（図３１５参照）により検出され、且つ、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態へ向けて移動され、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態に到達したことが検出センサＭ５１６により検出された後で、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置へ向けて移動される。

【６４７４】

第３図柄表示装置Ｍ８１に表示される連動意匠Ｍ７８１は、移動装飾部Ｍ７７０と一体的に移動され、移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態で停止することに伴い異なる表示に切り替えられる。

【６４７５】

このような制御とすることで、移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１を退避させる場合において、移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１よりも前側に配置される演出動

作ユニットＭ５００の可動装飾ユニットＭ６００についても同時に動作させることで注目させることができ、遊技者の視線（注目力）が退避する移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１のみに集中することを避けることができる。これにより、移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１の動作にずれが生じた場合であっても、そのずれを遊技者が視認する可能性を低くすることができる。

【６４７６】

図３２０は、第３図柄表示装置Ｍ８１、複合動作役物ユニットＭ４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００の正面図である。図３２０では、手前側に導光板Ｍ２６０が配置され第１発光形状Ｍ２７１で発光されている様子が図示される。

【６４７７】

導光板Ｍ２６０は、複合動作役物ユニットＭ４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００の手前側において第１発光形状Ｍ２７１を視認させることが可能に構成される。第１発光形状Ｍ２７１は、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０（図３１９参照）の意匠に対応する形状とされている。

【６４７８】

即ち、第１発光形状Ｍ２７１では、移動装飾部Ｍ７７０の胴体等が表示された連動意匠Ｍ７８１の備えるグローブが拡大された状態で描かれ、中央に「Ｋ．Ｏ．」の文字が表記され、中央部へ向けた直線が無数に描かれる。導光板Ｍ２６０が第１発光形状Ｍ２７１により全体が密に埋められているため、第１発光形状Ｍ２７１を介して光が視認されている状態では、導光板Ｍ２６０の背後の状態が見え難くなる。

【６４７９】

第１発光形状Ｍ２７１を介する光を照射するのは、第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３（図３１６参照）である。第１の関連動作制御では、第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３からの光照射が、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態（図３１９参照）とされてから時間を空けて実行される。

【６４８０】

これにより、移動装飾部Ｍ７７０の第２の状態へ向けた移動中や、移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態とされるのと同時に第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３（図３１６参照）からの光照射が実行される場合に比較して、スライド移動中や移動終了直後における移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１の視認性を向上させ、遊技者が見逃すことを回避し易くすることができる。

【６４８１】

なお、第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３からの光照射が、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態（図３１９参照）とされると同時に実行されるようにしても良い。この場合、移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態となるや否や第１発光形状Ｍ２７１に注目させることができるので、移動装飾部Ｍ７７０から遊技者の視線を早期に外すことができ、移動装飾部Ｍ７７０の復帰制御を実行させるタイミングを早めることができる。

【６４８２】

第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３（図３１６参照）からの光照射が実行された後は、第１発光形状Ｍ２７１で導光板Ｍ２６０が埋められることになり遊技者は移動装飾部Ｍ７７０（図３１９参照）や第３図柄表示装置Ｍ８１を視認し難くなる。

【６４８３】

第１の関連動作制御では、第１電飾基板Ｍ２６１及び第３電飾基板Ｍ２６３（図３１６参照）からの光照射が実行されている状態において移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態から第１の状態へ向けてスライド移動され、このスライド移動と共に連動意匠Ｍ７８１が平行移動される。これにより、移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との境界が多少ずれた場合であっても、そもそも視認が困難なので、遊技者に違和感を与えることを避けることができる。

【６４８４】
＜顔がスライド移動しなかった場合のエラー制御＞
第１の関連動作制御では、第３図柄表示装置Ｍ８１に表示される連動意匠Ｍ７８１（図３１９参照）の平行移動が、移動装飾部Ｍ７７０を駆動させる駆動モータＭ７２０（図３１３参照）の駆動開始と連動するように実行される。
【６４８５】
駆動モータＭ７２０（図３１３参照）の駆動開始後において、検出センサＭ７１３（図３１３参照）により検出態様が切り替われば、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図２７８参照）は駆動モータＭ７２０が正常に駆動されていると判断し、連動意匠Ｍ７８１の平行移動を継続させる。
【６４８６】
一方で、駆動モータＭ７２０（図３１３参照）の駆動開始後において、検出センサＭ７１３（図３１３参照）により検出態様が切り替わらなかった場合、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図２７８参照）は駆動モータＭ７２０に動作不良が生じていると判断し、連動意匠Ｍ７８１の移動態様を変更することで対処するよう構成されている。
【６４８７】
即ち、移動方向（傾斜角度）をより下向き側へ変化させ、連動意匠Ｍ７８１の上側に空いた領域に移動装飾部Ｍ７７０の意匠と同様の表示（立体的な移動装飾部Ｍ７７０を正面視での平面的な意匠で変換した表示）をさせるように制御される。これにより、駆動モータＭ７２０に動作不良が生じた場合であっても遊技者に与える違和感を少なくすることができる。
【６４８８】
移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との関連動作は、これに限られるものではない。例えば、移動装飾部Ｍ７７０の移動方向と連動意匠Ｍ７８１の移動方向とを非平行とする場合を構成可能としても良いし、逆方向とする場合を構成可能としても良い。
【６４８９】
また、基準となるタイミングからの移動装飾部Ｍ７７０の動作回数をカウントし、その動作回数に対応して連動意匠Ｍ７８１として表示される態様を切り替えるようにしても良い。例えば、胴体に数字が描かれ、それが「１」、「２」、「３」と順に増えていくように切り替えても良いし、連動意匠Ｍ７８１の衣服の装飾が徐々に豪華になっていく態様で切り替えても良い。
【６４９０】
また、移動装飾部Ｍ７７０の動作は、第１の状態から第２の状態へ到達する動作に限定されるものではなく、第１の状態から第２の状態の手前まで行って、第１の状態に戻るような動作を構成することも可能である。この場合において、連動意匠Ｍ７８１が移動装飾部Ｍ７７０に常に追従するように構成しても良いし、連動意匠Ｍ７８１だけは移動範囲の端まで移動する（移動装飾部Ｍ７７０と分離される）ように表示されても良いし、これらを場合によって切り替えても良い。
【６４９１】
図３２１、図３２２及び図３２３は、昇降動作役物ユニットＭ８００の正面図である。図３２１、図３２２及び図３２３では、昇降動作役物ユニットＭ８００の昇降移動部材Ｍ８６０が、下端位置状態（図３２１参照）から中間位置状態（図３２２参照）を経て上端位置状態（図３２３参照）へ向けて変化される様子が時系列で図示される。なお、図３２１、図３２２及び図３２３では、理解を容易とするために前カバー部材Ｍ８０１（図２８０参照）の図示が省略される。
【６４９２】
図３２１、図３２２及び図３２３に図示されるように、昇降動作役物ユニットＭ８００は、背面ケースＭ３１０（図２８０参照）に締結固定されるＬ字形状のベース板Ｍ８１０と、そのベース板Ｍ８１０の左下端部において背面側に締結固定される駆動モータＭ８２０と、その駆動モータＭ８２０の駆動力が伝達されるように前カバー部材Ｍ８０１（図２

８０参照）に固定される金属棒部Ｍ８０２に回転可能に支持される扇形状ギアＭ８３０と、その扇形状ギアＭ８３０の回転移動に伴って回転移動されるようにベース板Ｍ８１０に支持される回転アーム部材Ｍ８４０と、その回転アーム部材Ｍ８４０に一端が支持され他端が前カバー部材Ｍ８０１（図２８０参照）のバネ支持部Ｍ８０３に支持される弾性バネＭ８５０と、回転アーム部材Ｍ８４０の先端部が摺動可能に支持される昇降移動部材Ｍ８６０と、を主に備える。

【６４９３】

ベース板Ｍ８１０は、左端部において上下方向に延びる姿勢で締結固定され昇降移動部材Ｍ８６０の移動を案内する金属棒部Ｍ８１１と、その下方において前方へ向けて円柱状に突設される支持突設部Ｍ８１２と、その支持突設部Ｍ８１２の右方において前方へ向けて延びる姿勢で固定される金属棒部Ｍ８１３と、右端部において上下方向に伸縮可能に配設される金属製の伸縮可能ガイドレールＭ８１４と、その伸縮可能ガイドレールＭ８１４側（右側）に検出溝を向けて配設され昇降移動部材Ｍ８６０の位置を検出可能に構成される検出センサＭ８１５と、を主に備える。

【６４９４】

駆動モータＭ８２０は、駆動軸に固定される駆動ギアＭ８２１と、その駆動ギアＭ８２１に歯合されベース板Ｍ８１０の支持突設部Ｍ８１２に回転可能に支持される伝達ギアＭ８２２と、を主に備える。

【６４９５】

駆動モータＭ８２０は、駆動力を回転移動に変換できるものであれば何でも良く、駆動モータＭ４４２、駆動ソレノイドＭ４８７又は駆動モータＭ７２０のように配置が固定されているものでも良く、駆動モータＭ５０１のように配置位置が変化し得るものでも良く、駆動モータＭ５０１のように駆動力を平行移動に変換できる伸縮装置でも良く、駆動力を回転移動にも平行移動にも変換できる伸縮回転装置でも良く、これらの組合せでも良い。

【６４９６】

扇形状ギアＭ８３０は、円弧状に並んで形成されるギア歯が伝達ギアＭ８２２に歯合されると共に金属棒部Ｍ８０２に回転可能に支持されており、回転により変位する位置において金属棒部Ｍ８３１が回転軸と平行に後方へ突設される姿勢で配置される。

【６４９７】

回転アーム部材Ｍ８４０は、金属棒部Ｍ８１３に回転可能に支持される本体部Ｍ８４１と、その本体部Ｍ８４１において金属棒部Ｍ８１３の中心を通る直線に沿う長孔状に穿設される連動長孔Ｍ８４２と、本体部Ｍ８４１の回転先端側において昇降移動部材Ｍ８６０が配置される後方側へ向けて延びる姿勢で固定される金属棒部Ｍ８４３と、金属棒部Ｍ８１３と金属棒部Ｍ８４３との間に配設され弾性バネＭ８５０の一端が支持されるバネ支持部Ｍ８４４と、を主に備える。

【６４９８】

昇降移動部材Ｍ８６０は、移動先端側の装飾体が「チャンピオンベルト」の意匠を模した横長の形状から形成されており、金属棒部Ｍ８１１が挿通されることにより上下方向に移動可能に案内される案内部Ｍ８６１と、回転アーム部材Ｍ８４０の金属棒部Ｍ８４３が挿通可能となるように左右方向に延びる長孔状に穿設される伝達長孔Ｍ８６２と、検出センサＭ８１５の検出溝に配置可能となるように下端部から延設される検出片Ｍ８６３と、内部に配設され正面側に光を照射するＬＥＤ等の発光手段を備える電飾基板Ｍ８６４と、を主に備える。

【６４９９】

昇降移動部材Ｍ８６０の上端位置状態（図３２３参照）又は下端位置状態（図３２１参照）では、正面視において、金属棒部Ｍ８０２及び金属棒部Ｍ８３１を通る直線と、金属棒部Ｍ８３１及び金属棒部Ｍ８１３を通る直線とが直角に交差する。

【６５００】

これにより、昇降移動部材Ｍ８６０側から回転アーム部材Ｍ８４０に伝達される荷重が

扇形状ギアＭ８３０の金属棒部Ｍ８３１から金属棒部Ｍ８０２（扇形状ギアＭ８３０の回転軸）に向けられることになり、扇形状ギアＭ８３０が回転することを防止でき、昇降移動部材Ｍ８６０が移動することを防止することができる。

【６５０１】

一方、昇降移動部材Ｍ８６０の中間位置状態（図３２２参照）では、金属棒部Ｍ８０２及び金属棒部Ｍ８３１を通る直線と、金属棒部Ｍ８３１及び金属棒部Ｍ８１３を通る直線とが一直線上に配置され、その直線上に連動長孔Ｍ８４２が配置される。

【６５０２】

昇降移動部材Ｍ８６０の中間位置状態（図３２２参照）では、下端位置状態（図３２１参照）や上端位置状態（図３２３参照）に比較して、扇形状ギアＭ８３０の小さな角度の回転を、同様に小さな角度の回転移動として回転アーム部材Ｍ８４０に伝達させ易い。そのため、昇降移動部材Ｍ８６０を小幅で上下往復移動させる場合には、中間位置状態（図３２２参照）を基準として実行することで、応答性良く上下往復移動を実行させることができる。

【６５０３】

本実施形態では、扇形状ギアＭ８３０の金属棒部Ｍ８３１が回転軸としての金属棒部Ｍ８０２と回転アーム部材Ｍ８４０の回転軸としての金属棒部Ｍ８１３との間に位置する。これにより、回転アーム部材Ｍ８４０の回転先端の移動量に必要な扇形状ギアＭ８３０の回転角度を低減させることができる。

【６５０４】

図３２３には、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に配置され可動装飾ユニットＭ６００が傾倒側終端状態とされた場合（図３０８参照）における可動装飾ユニットＭ６００の配置が最下端領域ＭＥ６００として想像線で図示される。

【６５０５】

図３２３に図示される通り、本実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００が正面視で視認される最下端領域ＭＥ６００と、上端位置状態における昇降移動部材Ｍ８６０が正面視で視認される領域とが重複されるように構成される。

【６５０６】

従って、可動装飾ユニットＭ６００を到達させる位置に、昇降移動部材Ｍ８６０を到達させることが可能であるので、例えば、第３図柄表示装置Ｍ８１において最下端領域ＭＥ６００に注目させるための表示を可能とし、その表示をした後で、その最下端領域ＭＥ６００に可動装飾ユニットＭ６００が到達する動作制御か、又は昇降移動部材Ｍ８６０が到達する動作制御かを、選択的に実行可能に構成することで、遊技者の注目力を最下端領域ＭＥ６００に集中させることができる。

【６５０７】

更に、この場合において、可動装飾ユニットＭ６００が到達するか、昇降移動部材Ｍ８６０が到達するかによって、対応する抽選が大当たりである確率が異なる場合、遊技者の注目力を最下端領域ＭＥ６００に更に集中させることができる。

【６５０８】

なお、関係する意匠を視認させる視認可能物体であって平行移動可能な昇降移動部材Ｍ８６０は、非透過とされることで背面側を視認できなくするものに限られず、透過率が高くされることで背面側が透けて視認できるものでもよい。

【６５０９】

また、関係する意匠を視認させる視認可能物体であって回転移動可能な可動装飾ユニットＭ６００は、非透過とされることで背面側を視認できなくするものに限られず、透過率が高くされることで背面側が透けて視認できるものでもよい。

【６５１０】

＜制御＞

昇降動作役物ユニットＭ８００の動作は、例えば、第１の関連動作制御において制御される。即ち、第１の関連動作制御では、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部

Ｍ７７０が第２の状態（図３１９参照）とされてから時間を空けて駆動モータＭ８２０が制御されることで昇降移動部材Ｍ８６０が下端位置状態から上端位置状態へ向けて上昇移動される。

【６５１１】

これにより、移動装飾部Ｍ７７０の第２の状態へ向けた移動中や、移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態とされるのと同時に駆動モータＭ８２０が制御される場合に比較して、スライド移動中や移動終了直後における移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１の視認性を向上させ、遊技者が見逃すことを回避し易くすることができる。

【６５１２】

そして、移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１をしっかり視認させた後において、第３図柄表示装置Ｍ８１の手前側において連動意匠Ｍ７８１を部分的に隠す位置に昇降移動部材Ｍ８６０を上昇させることで、遊技者の視線を連動意匠Ｍ７８１から昇降移動部材Ｍ８６０に誘導することができることから、移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１が退避する時にまで注目させることを避けることができる。

【６５１３】

本実施形態では、昇降移動部材Ｍ８６０が「チャンピオンベルト」を模した意匠とされていることから、連動意匠Ｍ７８１におけるボクシング用グローブとの関連性を遊技者に想像させることができる。これにより、移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１に注目していた遊技者の視線を、昇降移動部材Ｍ８６０に自然に誘導することができる。

【６５１４】

図３２４は、遊技盤Ｍ１３及び動作ユニットＭ３００の部分正面斜視図である。図３２４では、導光板Ｍ２６０及び風車ＭＷＦの図示が省略され、球案内ユニットＭ９００の構造が視認可能とされる。球案内ユニットＭ９００は、センターフレームＭ８６（図２７９参照）の開口部を通った遊技球を前後に蛇行させながら流下させる第１流路Ｍ９１０と、その第１流路Ｍ９１０の下流側において右方へ向けて下降傾斜され遊技球の流下方向を分岐させる分岐部Ｍ９２０と、その分岐部Ｍ９２０から右方に向けて延設される第２流路Ｍ９３０と、分岐部Ｍ９２０から前方へ向けて延設開始された後で２回屈曲される第３流路Ｍ９４０と、を主に備える。

【６５１５】

また、球案内ユニットＭ９００は、第２流路Ｍ９３０又は第３流路Ｍ９４０を流下した遊技球を受け入れ可能な股構成部を有し固定の回転軸Ｍ９５１を中心に円周方向に係属回転可能に構成される６股の回転クルーンＭ９５０と、その回転クルーンＭ９５０の所定の股部に受け入れられた遊技球が流入可能とされ、流入した遊技球が第１入賞口Ｍ６４の真上位置から前方へ排出される流入排出経路Ｍ９６０と、分岐部Ｍ９２０における遊技球の流下方向を変化可能に動作される動作部Ｍ９７０と、を主に備える。

【６５１６】

回転クルーンＭ９５０及び動作部Ｍ９７０は、電源投入から一定のパターンでの動作が継続されるよう制御される。即ち、回転クルーンＭ９５０は、一定の速度（本実施形態では６秒間で１回転する速度）で上面視時計回りに継続的に回転動作され、動作部Ｍ９７０は、実線で図示される状態と想像線で図示される状態とで１０秒毎に切り替えられる。

【６５１７】

第２流路Ｍ９３０では、等間隔で突条Ｍ９３１が前後から突設されている。これにより、第２流路Ｍ９３０を流下する遊技球の流下速度が過大となることを避けることができるので、第２流路Ｍ９３０の終端から回転クルーンＭ９５０の後方に位置する股部へ向けた遊技球の落下を落ち着いた状況（遊技球の流下速度が小さい状況）で生じさせることができる。これにより、第２流路Ｍ９３０の終端で遊技球が逆流方向（左方向）に跳ね返ってしまい落下するまでの時間が長くなる不具合や、回転クルーンＭ９５０の股部から遊技球が跳ね飛ばされる不具合を回避し易くすることができる。

【６５１８】

第３流路Ｍ９４０においても、上述の突条Ｍ９３１と同様に、等間隔で突条Ｍ９４１が

突設されており、更に流入位置において遊技球を検出可能に構成される検出センサＭ９４２が配設される。

【６５１９】

回転クルーンＭ９５０は、受け入れた遊技球を流入排出経路Ｍ９６０に流入させることができる２箇所の有利股部Ｍ９５２（図３２４において回転軸Ｍ９５１の前方および後方に位置）と、受け入れた遊技球を流入排出経路Ｍ９６０に流入させないよう底面が閉じられている４箇所の不利股部Ｍ９５３と、を備える。

【６５２０】

不利股部Ｍ９５３に到達した遊技球は、回転クルーンＭ９５０の回転に基づいて不利股部Ｍ９５３が回転軸Ｍ９５１の正面に到達した時に前方に流されてステージ前側上面Ｍ９０１を転動するか、又は回転クルーンＭ９５０の回転に基づいて不利股部Ｍ９５３が回転軸Ｍ９５１の左前側に到達した時に左前方に流されてステージ中側上面Ｍ９０２を転動して段差を落ちてステージ前側上面Ｍ９０１を転動して、前方（ベース板Ｍ６０の前方）へ流下される。

【６５２１】

動作部Ｍ９７０は、一方の端部を軸として回転可能に構成される羽状動作部Ｍ９７１と、第３流路Ｍ９４０の途中位置において前後方向にスライド移動可能に構成される板状動作部Ｍ９７２と、を主に備える。

【６５２２】

羽状動作部Ｍ９７１は、第２流路Ｍ９３０側へ遊技球が流下可能とし第３流路Ｍ９４０側への遊技球の流下を防止する第１状態（図３２４において実線で図示）と、第３流路Ｍ９４０側へ遊技球が流下可能とし第２流路Ｍ９３０側への遊技球の流下を防止する第２状態（図３２４において想像線で図示）とで切り替えられる。

【６５２３】

板状動作部Ｍ９７２は、羽状動作部Ｍ９７１と同期して状態が切り替えられる。即ち、羽状動作部Ｍ９７１が第１状態（図３２４において実線で図示）の場合には、第３流路Ｍ９４０から退避して遊技球の流下を許容する第１状態（図３２４において実線で図示）とされ、羽状動作部Ｍ９７１が第２状態（図３２４において想像線で図示）の場合には、第３流路Ｍ９４０内に張り出して遊技球の流下をせき止める第２状態（図３２４において想像線で図示）とされる。

【６５２４】

板状動作部Ｍ９７２の配置は、検出センサＭ９４２を基準として設定される。即ち、本実施形態では、板状動作部Ｍ９７２が第２状態（図３２４において想像線で図示）の場合において、板状動作部Ｍ９７２に複数個の遊技球が流下をせき止められる状況において、そのせき止められた４個目の遊技球が検出センサＭ９４２に検出される（継続的に検出される）ように、板状動作部Ｍ９７２に配置が設定される。

【６５２５】

即ち、板状動作部Ｍ９７２が第２状態（図３２４において想像線で図示）で維持される１０秒間において４個の遊技球が第３流路Ｍ９４０側に案内された場合、４個目の遊技球が検出センサＭ９４２に検出された状態が継続される。

【６５２６】

＜報知＞

第３図柄表示装置Ｍ８１における表示制御において本実施形態が有する制御の一例（発射状況表示）について説明する。発射状況表示では、羽状動作部Ｍ９７１及び板状動作部Ｍ９７２が第１状態とされているか第２状態とされているかが把握可能とされており、第２状態とされている場合において検出センサＭ９４２で遊技球の検出がされた場合に、その検出が極短期間（例えば、１秒未満）であれば遊技球の流下であると判断し、検出が長期間（例えば、１秒以上）であれば遊技球の滞留であると判断する。

【６５２７】

検出センサＭ９４２において長期間の検出がされた場合、板状動作部Ｍ９７２の上流側

に４個の遊技球が滞留しており、板状動作部Ｍ９７２が第１状態（図３２４において実線で図示）に切り替えられた場合、滞留していた４個の遊技球が一度に回転クルーンＭ９５０に案内され、それらの遊技球が第１入賞口Ｍ６４に入球し得る。

【６５２８】

ここで、遊技球の個数（４個）は、第１特別図柄の変動を保留させる個数（保留個数、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａによる表示に対応）と関係して設定されている。即ち、本実施形態では、第１特別図柄の保留個数が４個であることを基に、検出センサＭ９４２までの滞留可能個数が４個となるように板状動作部Ｍ９７２の配置が設定されている。

【６５２９】

４個の遊技球が一度に回転クルーンＭ９５０に案内される場合、この時点で第１特別図柄の保留個数が満タンになる可能性が有る。そのため、検出センサＭ９４２において長期間の検出がされた場合には、第３図柄表示装置Ｍ８１において、球案内ユニットＭ９００へ向けた遊技球の発射を停止するように促す表示がされるよう制御される。

【６５３０】

一方、検出センサＭ９４２において長期間の検出がされていない場合（板状動作部Ｍ９７２の上流側に４個の遊技球が滞留していない場合）には、球案内ユニットＭ９００へ向けた遊技球の発射を促す表示を実行可能に制御される。即ち、球案内ユニットＭ９００における遊技球の流下状態の検出に基づいて、異なる報知を実行可能に制御される。

【６５３１】

これらの報知が実行される第３図柄表示装置Ｍ８１は、球案内ユニットＭ９００を流下した遊技球が排出される流入排出経路Ｍ９６０よりも上側に配置されているので、遊技者が報知に気付き易くすることができる。

【６５３２】

＜演出制御＞

図３２５は、第３図柄表示装置Ｍ８１、複合動作役物ユニットＭ４００及び昇降動作役物ユニットＭ８００の正面図である。図３２５に図示される状態は、複合動作役物ユニットＭ４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００が、それぞれ第３図柄表示装置Ｍ８１と重なる位置には配置されず、退避している状態に相当する。図３２５では、関連動作制御の一例（第２の関連動作制御）について説明する。

【６５３３】

図３２５では、複合動作役物ユニットＭ４００の被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に位置し可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態とされており、昇降動作役物ユニットＭ８００の昇降移動部材Ｍ８６０が下端位置状態とされている。

【６５３４】

第２の関連動作制御の開始時には、図３２５に図示されるように、第３図柄表示装置Ｍ８１において、正面視で最下端領域ＭＥ６００（図３２３参照）と重なる領域において到達領域表示Ｍ８１ａが表示される。到達領域表示Ｍ８１ａは、背景表示を透視可能な態様で背景表示の手前の層でされるものであって、可動装飾ユニットＭ６００の意匠と昇降移動部材Ｍ８６０の意匠とが交互に出現するような動的な表示として構成される。

【６５３５】

第２の関連動作制御の開始後は、演出待機動作として、到達領域表示Ｍ８１ａの表示態様に合わせて、可動装飾ユニットＭ６００又は昇降移動部材Ｍ８６０が動作するよう制御される。

【６５３６】

即ち、第２の関連動作制御の演出待機動作では、到達領域表示Ｍ８１ａにおいて可動装飾ユニットＭ６００の意匠が表示されている期間において可動装飾ユニットＭ６００が低速の第１動作と復帰動作とを繰り返し実行されることで繰り返し往復移動される。これにより、可動装飾ユニットＭ６００及び到達領域表示Ｍ８１ａに対する注目力を向上させることができる。

【６５３７】

一方、第２の関連動作制御の演出待機動作では、到達領域表示Ｍ８１ａにおいて昇降移動部材Ｍ８６０の意匠が表示されている期間において昇降移動部材Ｍ８６０が中間位置状態への上昇移動と下端位置状態への下降移動とを繰り返し実行されることで繰り返し往復移動される。

【６５３８】

到達領域表示Ｍ８１ａの表示期間が終了されると、第２の関連動作制御は３通りに分岐する。即ち、可動装飾ユニットＭ６００が到達領域表示Ｍ８１ａと重なる位置まで移動し停止して演出実行後に復帰制御が実行されることで退避される第１演出動作、昇降移動部材Ｍ８６０が到達領域表示Ｍ８１ａと重なる位置まで移動し停止して演出実行後に退避（下端位置状態まで下降変位）される第２演出動作、又は可動装飾ユニットＭ６００も昇降移動部材Ｍ８６０も到達領域表示Ｍ８１ａと重なる位置まで移動せずに退避される第３演出動作のいずれかが実行される。

【６５３９】

これにより、第２の関連動作制御において、到達領域表示Ｍ８１ａが表示される領域に対する注目力を、到達領域表示Ｍ８１ａの表示期間が終了されるまで維持し続けることができる。

【６５４０】

なお、第２の関連動作制御では、可動装飾ユニットＭ６００が退避された状態で昇降移動部材Ｍ８６０が上昇移動する場合を説明しているが、昇降移動部材Ｍ８６０の上昇移動は、これに限られるものではない。例えば、第１の関連動作制御において説明したように（図３１８、図３１９参照）、被案内部Ｍ５５０が中間位置に配置されている状態において昇降移動部材Ｍ８６０が上昇移動可能に構成される。

【６５４１】

即ち、昇降移動部材Ｍ８６０と可動装飾ユニットＭ６００とが前後に位置ずれされていることから、正面視で重なる配置となっても衝突することはなく、傾倒側終端状態や伸長状態の可動装飾ユニットＭ６００の背後において昇降移動部材Ｍ８６０が上昇移動可能とされる。

【６５４２】

換言すれば、最下端領域ＭＥ６００において、昇降移動部材Ｍ８６０と可動装飾ユニットＭ６００とを共に視認させることができる。この場合において、昇降移動部材Ｍ８６０の上流側に可動装飾ユニットＭ６００が配置される関係は維持されることから、遊技者に視認させる意匠の上下関係まで変化することは防止することができる。

【６５４３】

図３２６は、第３図柄表示装置Ｍ８１、複合動作役物ユニットＭ４００及び昇降動作役物ユニットＭ８００の正面図である。図３２６では、複合動作役物ユニットＭ４００の被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に位置し可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態とされており、昇降動作役物ユニットＭ８００の昇降移動部材Ｍ８６０が下端位置状態とされている。

【６５４４】

第２の関連動作制御において、到達領域表示Ｍ８１ａの表示期間中において、その到達領域表示Ｍ８１ａ（図３２５参照）よりも前側の層で重なるように操作示唆表示Ｍ８１ｂを実行可能とされる。操作示唆表示Ｍ８１ｂは、「ボタンを押せ」との表示の下に、操作対象を分かり易くするため操作を促される操作対象としてのボタン部Ｈ１８１（図２６９参照）を表すイラストが表示され、そのイラストの下に操作可能期間をカウントダウンするバーが表示される。

【６５４５】

操作可能期間のカウントダウンは、バーの網掛け部Ｍ８１ｃの右端が左端に徐々に（一定速度で）近づくアニメーションとして表示され、網掛け部Ｍ８１ｃの右端が左端に到達するタイミングが、操作示唆表示Ｍ８１ｂにおける操作可能期間の終期と一致するように制御される。

【６５４６】
操作示唆表示Ｍ８１ｂが表示されているにも関わらず、遊技者がボタン部Ｈ１８１（図２６９参照）を操作しなかった場合、網掛け部Ｍ８１ｃの右端が左端に到達するタイミングで到達領域表示Ｍ８１ａ（図３２５参照）の表示期間が終了し、そのタイミングで第２の関連動作制御における第１演出動作、第２演出動作または第３演出動作が実行される。
【６５４７】
一方、操作示唆表示Ｍ８１ｂが表示されている期間において遊技者がボタン部Ｈ１８１（図２６９参照）を操作した場合、その操作が検出されたタイミングで到達領域表示Ｍ８１ａ（図３２５参照）の表示期間が終了し、そのタイミングで第２の関連動作制御における第１演出動作、第２演出動作または第３演出動作が実行される。
【６５４８】
可動装飾ユニットＭ６００の復帰制御は、第１の関連動作制御における復帰制御と同様であって、移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態となっていることが検出センサＭ７１３（図３１５参照）により検出されている状態であれば、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態へ向けて移動され、可動装飾ユニットＭ６００が起き上がり側終端状態に到達したことが検出センサＭ５１６（図３１９参照）により検出された後で、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置へ向けて移動され、上昇端位置に到達したことが検出センサＭ４８３（図３０８参照）に検出されることで音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図２７８参照）に把握される。
【６５４９】
このように、操作示唆表示Ｍ８１ｂが表示されている期間に遊技者がボタン部Ｈ１８１（図２６９参照）を操作したことに基づいて、第１演出動作が実行された場合に、可動装飾ユニットＭ６００が復帰制御された場合において、検出センサＭ５１６（図３１９参照）及び検出センサＭ４８３（図３０８参照）の検出結果から可動装飾ユニットＭ６００の復帰制御が終了したことを音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図２７８参照）に把握させることができる。この復帰の検出までに、ボタン部Ｈ１８１の操作から少し時間が空けられる。
【６５５０】
なお、遊技者は、操作示唆表示Ｍ８１ｂが表示される期間以外でもボタン部Ｈ１８１を押し込み操作することは可能であるが、本実施形態では、操作示唆表示Ｍ８１ｂが表示される期間以外の期間にボタン部Ｈ１８１が操作されたとしても、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００の動作に影響が与えられないように制御される（演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００がボタン部Ｈ１８１の操作と独立して制御される）。これにより、遊技者がボタン部Ｈ１８１を手当たり次第に操作した場合であっても、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００の動作に不具合が生じることを避けることができる。
【６５５１】
なお、ボタン部Ｈ１８１は、遊技者が操作可能な操作物体であれば何でも良く、発光制御されても良く、発光制御されなくても良く、所定の直線方向で変位可能とされ押し込み又は引き抜き操作がされるスライド操作物体でも良く、所定の回転軸を中心とした回転移動が可能とされ回転移動させる操作がされる回転移動物体でも良く、パチンコ機に配設されていても良く、操作によりパチンコ機に作用を与えるものであればパチンコ機とは離れた位置に配設されても良く、これらの組合せでも良い。
【６５５２】
＜上書動作制御（検出結果で動作制御を上書）＞
第２の関連動作制御では、第３図柄表示装置Ｍ８１における到達領域表示Ｍ８１ａ（図３２５参照）と重なる動作部材が有ることを前提として制御される。即ち、第１演出動作では可動装飾ユニットＭ６００により到達領域表示Ｍ８１ａが隠され、第２演出動作では昇降移動部材Ｍ８６０により到達領域表示Ｍ８１ａが隠されることを前提として設計されている。

【６５５３】
一方で、経年劣化等により動作不良が生じる等、様々な理由によって、制御通りに可動装飾ユニットＭ６００又は昇降移動部材Ｍ８６０が動作されない場合があり、この場合には隠される前提の到達領域表示Ｍ８１ａが遊技者に視認されることになり、みっともない場合がある。
【６５５４】
これに対し、本実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００又は昇降移動部材Ｍ８６０の一方に動作不良が疑われた場合に、代わりに可動装飾ユニットＭ６００又は昇降移動部材Ｍ８６０の他方を動作させることで到達領域表示Ｍ８１ａを隠すように実行される上書動作制御を備える。
【６５５５】
第１の上書動作制御は、可動装飾ユニットＭ６００側に動作不良が疑われた場合に昇降移動部材Ｍ８６０を動作させる制御である。即ち、第２の関連動作制御において第１演出動作が実行されたにも関わらず、検出センサＭ４８３（図３０８参照）の検出が２秒間切り替わらなかった場合に、被案内部Ｍ５５０が下降しない不具合が生じたと判断し、第１演出動作を第２演出動作に切り替えて実行するよう構成される。これにより、２秒のタイムラグは生じるものの、昇降移動部材Ｍ８６０によって到達領域表示Ｍ８１ａを隠すことができる。
【６５５６】
第２の上書動作制御は、昇降移動部材Ｍ８６０側に動作不良が疑われた場合に可動装飾ユニットＭ６００を動作させる制御である。即ち、第２の関連動作制御において第２演出動作が実行されたにも関わらず、検出センサＭ８１５（図３２１参照）の検出が２秒間切り替わらなかった場合に、昇降移動部材Ｍ８６０が上昇しない不具合が生じたと判断し、第２演出動作を第１演出動作に切り替えて実行するよう構成される。これにより、２秒のタイムラグは生じるものの、可動装飾ユニットＭ６００によって到達領域表示Ｍ８１ａを隠すことができる。
【６５５７】
本実施形態（及び各実施形態）において例示される各動作制御は、抽選にかかる変動ごとに割り当てられたタイミングで実行されるか、抽選の非実行時において、所定のタイミング（時間間隔、時刻等）で実行される。後者の場合において、例えば、演出動作ユニットＭ５００、可動装飾ユニットＭ６００又は昇降移動部材Ｍ８６０が第３図柄表示装置Ｍ８１の正面側に重なった状態で維持されてもよく、遊技者が着席して遊技を開始したことが検出されることにより第３図柄表示装置Ｍ８１の正面側から退避されるように制御しても良い。この場合、演出動作ユニットＭ５００、可動装飾ユニットＭ６００又は昇降移動部材Ｍ８６０により隠されている箇所における表示の実行を省略することができるので、第３図柄表示装置Ｍ８１の処理負担を下げることができる（低電力モード）。
【６５５８】
本実施形態（及び各実施形態）において例示される各動作制御は、大当たり中において実行されるように構成されても良い。例えば、ラウンド遊技の切り替えのタイミングに合わせて動作制御が実行されることで、遊技者がラウンド遊技の切り替えのタイミングを把握し易くすることができる。この場合において、実際は「１０ラウンド」の大当たり遊技であるにもかかわらず第３図柄表示装置Ｍ８１においては「３ラウンド」の大当たり遊技であるように表示しておき、途中で「１０ラウンド」の大当たり遊技であることを報知する場合（所謂、昇格演出）、「３ラウンド」の終了時に動作制御が実行されることで、大当たり遊技が終了してしまうと思い込んでいた遊技者に対して、意外性と、「まだ大当たりが続く」という歓喜を付与することができる。
【６５５９】
本実施形態（及び各実施形態）において例示される各動作制御は、一の抽選に係る変動中（又は大当たり中）において、複数の動作制御が実行される場合があっても良いし、一の動作制御が複数回実行される場合があっても良い。また、各動作制御の説明は、理解を

容易とするためにまとまりよい範囲で説明したものであるので、例えば、各動作制御として説明した動作の一部だけが実行される場合があっても良い。

【６５６０】

本実施形態（及び各実施形態）において説明した主制御装置Ｈ１１０と音声ランプ制御装置Ｈ１１３の機能は、一例であって、これに限られるものではない。例えば、主制御装置Ｈ１１０の機能の少なくとも一部を音声ランプ制御装置Ｈ１１３が備えるようにしても良いし、音声ランプ制御装置Ｈ１１３の機能の少なくとも一部を主制御装置Ｈ１１０が備えるようにしても良い。

【６５６１】

図３２７から図３２８を参照し、第５５実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｈ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。図３２７は、第５５実施形態における可動装飾ユニットＭ２６００の分解背面斜視図であり、図３２８（ａ）及び図３２８（ｂ）は、演出動作ユニットＭ２５００及び可動装飾ユニットＭ２６００の部分正面図である。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【６５６２】

図３２７に図示されるように、可動装飾ユニットＭ２６００は、上述した可動装飾ユニットＭ６００に対して、延設支持部Ｍ６１４（図２８７参照）が左側の円筒部のみから形成される延設支持部Ｍ２６１４に変更され、その延設支持部Ｍ２６１４の直径方向に穿設される開口を通って一端側の腕部が延びており他端側は延設支持部Ｍ２６１４に巻きつけられるねじりバネＭ２６１４ａと、延設支持部Ｍ２６１４に変位可能に支持される当接部材Ｍ２６０２と、を主に備える。

【６５６３】

当接部材Ｍ２６０２は、樹脂材料から形成されており、内側開口Ｍ２６０２ａが長孔形状（外形が長円形状）で形成される筒状部材であって、長手方向に穿設される受入孔部Ｍ２６０２ｂと、長孔形状の左端部側を含む円柱形状領域と右端部側を含む長孔形状領域とで分けるように上下から突設される一対の突条部Ｍ２６０２ｃとを備え、開口方向視における外周の４隅が円弧で形成される。

【６５６４】

一対の突条部Ｍ２６０２ｃ同士の間隔は、延設支持部Ｍ２６１４の直径未満とされ、且つねじりバネＭ２６１４ａを構成する金属線材の太さ以上とされる。従って、ねじりバネＭ２６１４ａの一端側の腕部は一対の突条部Ｍ２６０２ｃ間を通過可能とされる一方で、延設支持部Ｍ２６１４は一対の突条部Ｍ２６０２ｃ間を通過することができない。

【６５６５】

当接部材Ｍ２６０２は、内側開口Ｍ２６０２ａにおける突条部Ｍ２６０２ｃの左側の領域（円柱形状領域）に延設支持部Ｍ２６１４が挿通され、受入孔部Ｍ２６０２ｂにねじりバネＭ２６１４ａの一端側の腕部が挿通される。

【６５６６】

これにより、当接部材Ｍ２６０２は、延設支持部Ｍ２６１４を軸に回転移動可能な態様で延設支持部Ｍ２６１４に支持されることになり、回転移動が生じても、ねじりバネＭ２６１４ａの弾性回復力により、長手方向がねじりバネＭ２６１４ａの一端側の腕部の延びる方向に合う姿勢に復帰される。

【６５６７】

また、当接部材Ｍ２６０２が延設支持部Ｍ２６１４の延設方向（前後方向）の変位が生じたとしても、ねじりバネＭ２６１４ａの弾性回復力により復帰される。そのため、本実施形態では、延設支持部Ｍ２６１４の先端側には脱落防止用のツバ付きのネジは非配設とし、当接部材Ｍ２６０２の延設支持部Ｍ２６１４に対する変位を許容している。

【６５６８】

これにより、当接部材Ｍ２６０２と、扇形状構成部Ｍ２５６０との当接位置がばらつき得るように構成することができるので、扇形状構成部Ｍ２５６０に荷重がかけられること

で生じる疲労の蓄積の程度を低減することができる。

【６５６９】

図３２８（ａ）及び図３２８（ｂ）に図示されるように、扇形状構成部Ｍ２５６０は、上述した扇形状構成部Ｍ５６０（図２８４参照）に対して、延設部Ｍ５６８が短くされ延設部Ｍ２５６８に変更されたことのみが異なる。

【６５７０】

図３２８（ａ）では、扇形状構成部Ｍ２５６０の延設部Ｍ２５６８の下側から当接部材Ｍ２６０２が上昇してきて当接した状態が図示されており、図３２８（ｂ）では、延設部Ｍ２５６８の先端側と擦れる当接部材Ｍ２６０２に与えられる荷重による回転移動により当接部材Ｍ２６０２の姿勢が変化し、当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８の先端側を通り抜けようとする状態が図示される。

【６５７１】

このように、延設部Ｍ２５６８に当接部材Ｍ２６０２が当接する前と、当接している最中とで、円弧状貫通部Ｍ５１５の幅方向における当接部材Ｍ２６０２の長さに対する円弧状貫通部Ｍ５１５の幅方向の長さが変化し得るよう構成されており、当接部材Ｍ２６０２は円弧状貫通部Ｍ５１５の幅方向に変位可能とされる。

【６５７２】

なお、当接部材Ｍ２６０２は、円弧状貫通部Ｍ５１５に案内される被案内物体として可動装飾ユニットＭ２６００の一部として構成される物体であれば何でも良く、図３２８（ａ）に図示される形状に限らず、外形は矩形状（非球体形状）でも、球体形状でもよい。

【６５７３】

本実施形態では、可動装飾ユニットＭ２６００の上昇速度が大きい場合において、図３２８（ｂ）のような状態となる。即ち、可動装飾ユニットＭ２６００の上昇速度が小さい場合には、ねじりバネＭ２６１４ａの弾性力により姿勢維持される当接部材Ｍ２６０２を介する荷重により、可動装飾ユニットＭ２６００に対する当接部材Ｍ２６０２の姿勢が維持されたままで扇形状構成部Ｍ２５６０が上昇方向に回転移動される。

【６５７４】

一方で、可動装飾ユニットＭ２６００の上昇速度が大きい場合には、当接部材Ｍ２６０２を介する荷重により扇形状構成部Ｍ２５６０が静止摩擦に打ち勝ち上昇方向に回転移動される前に（又は、回転移動の開始後に）、当接部材Ｍ２６０２の姿勢変化が生じ、当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８の先端側を通り抜け得る。これらは、上昇方向の移動に関わらず、下降方向の移動も同様である。

【６５７５】

当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８に近い側の先端側で延設部Ｍ２５６８と擦れながら回転する態様で姿勢変化することになるが、当接部材Ｍ２６０２の４隅が円弧形状とされているので、当接部材Ｍ２６０２と延設部Ｍ２５６８との擦れによる延設部Ｍ２５６８側の損耗を抑制することができる。

【６５７６】

この場合、延設部Ｍ２５６８から当接部材Ｍ２６０２にかけられる荷重の方向は、延設支持部Ｍ２６１４の周囲を回転する方向とされる。そのため、延設支持部Ｍ２６１４に対して軸直方向の荷重が生じる場合に比較して、延設支持部Ｍ２６１４の耐久性を向上させ易くすることができる。更に、延設部Ｍ２５６８と当接部材Ｍ２６０２とが当接したとしても、当接部材Ｍ２６０２の姿勢変化が生じれば延設部Ｍ２５６８にかけられる荷重が低減されるので、延設部Ｍ２５６８の耐久性を向上させることができる。

【６５７７】

当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８の先端側を通り抜ける場合には、当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８の先端側に対して面で当接する（図３２８（ｂ）参照）。そのため、当接部材Ｍ２６０２及び延設部Ｍ２５６８とで相互に生じる荷重が一点に生じる場合（例えば、当接部材Ｍ２６０２の外形が真円形状とされる場合）に比較して、荷重を分散させることができるので、当接部材Ｍ２６０２及び延設部Ｍ２５６８の疲労の蓄積を回

避し易く、破損を防止し易く、耐久性を向上させ易くすることができる。
【６５７８】
当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８の先端側を通り抜ける場合には、扇形状構成部Ｍ２５６０が停止される場合に限らず、当接部材Ｍ２６０２の動作速度によっては当接部材Ｍ２６０２が通り抜ける際に扇形状構成部Ｍ２５６０が動かされる（当接部材Ｍ２６０２が動作する扇形状構成部Ｍ２５６０を追い越す）挙動も生じ得る。
【６５７９】
この場合、当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８から離れた時には扇形状構成部Ｍ２５６０の姿勢が中途半端な位置で維持されることになるが、その後、円板付きギアＭ５８４の回転により円弧形成部Ｍ５８４ａが突条部Ｍ５６３を介して扇形状構成部Ｍ５６０を押し下げる。
【６５８０】
当接部材Ｍ２６０２の動作速度は、柱状部Ｍ５８２ａに荷重付与部Ｍ６０４が持ち上げられることから多くの場合においてピン付きギアＭ５８２の回転速度に一対一で対応するが、ピン付きギアＭ５８２の回転態様によっては、非対応となる。
【６５８１】
例えば、ピン付きギアＭ５８２が極端に高速で回転動作された場合（例えば、駆動モータＭ５０１の回転が６００［ｍｓｅｃ］で生じた場合）、柱状部Ｍ５８２ａと荷重付与部Ｍ６０４との衝突により可動装飾ユニットＭ２６００が跳ね上げられ得る（柱状部Ｍ５８２ａと荷重付与部Ｍ６０４とが離間する）し、柱状部Ｍ５８２ａにより荷重付与部Ｍ６０４を途中位置まで持ち上げた後でピン付きギアＭ５０１の回転方向を反転させて極端に高速で回転させると、可動装飾ユニットＭ２６００の姿勢変化を置き去りにして柱状部Ｍ５８２ａが回転移動し得る（柱状部Ｍ５８２ａと荷重付与部Ｍ６０４とが離間する）。
【６５８２】
特に、柱状部Ｍ５８２ａと荷重付与部Ｍ６０４との衝突により可動装飾ユニットＭ２６００が跳ね上げられる場合、例えば、ピン付きギアＭ５８２の姿勢が可動装飾ユニットＭ２６００の中間状態に対応している場合（図３２８（ａ）参照）において、可動装飾ユニットＭ２６００の姿勢が中間状態の姿勢よりも起き上がり終端状態の姿勢（図３２８（ｂ）参照）側に変化され得る。
【６５８３】
この場合において、ピン付きギアＭ５８２と円板付きギアＭ５８４とはギアの歯合により位相関係が一対一で対応しているので、扇形状構成部Ｍ２５６０の上方への回転動作は、突条部Ｍ５６３が円板付きギアＭ５８４の円弧形成部Ｍ５８４ａと当接することにより抑制される。そのため、当接部材Ｍ２６０２との当接により扇形状構成部Ｍ２５６０が上方へ回転動作することを抑制することができ、当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８の先端側を通り抜け、当接部材Ｍ２６０２が扇形状構成部Ｍ２５６０から離間する態様で上方へ移動する状況を構成し易くすることができる。
【６５８４】
なお、扇形状構成部Ｍ２５６０について、静止摩擦で姿勢を維持する構成ではなく、追加の錘が付けられることで自重により動作範囲の下側終端（図３２８（ａ）参照）に付勢されるようにしても良い。この場合、円板付きギアＭ８８４の回転によらずとも扇形状構成部Ｍ２５６０の姿勢を下げることができる。この場合において、錘の位置は、延設部Ｍ２５６８に位置しても良いし、延設部Ｍ２５６８と中心軸線ＭＪ１との間に位置しても良いし、中心軸線ＭＪ１に対して延設部Ｍ２５６８の反対側に位置しても良い。
【６５８５】
当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８の先端側を上方に通り抜けた場合、再度当接部材Ｍ２６０２が下降する方向で移動すると延設部Ｍ２５６８と当接し得る。ここで、当接部材Ｍ２６０２がゆっくりと下降される場合、ねじりバネＭ２６１４ａの弾性回復力により可動装飾ユニットＭ２６００に対する当接部材Ｍ２６０２の姿勢が維持されることから、可動装飾ユニットＭ２６００の姿勢を当接部Ｍ２６０２が、突設補助部Ｍ５４５にそれ

以上の下降変位を規制された場合における扇形状構成部Ｍ２５６０の延設部Ｍ２５６８の上面に当接した状態（起き上がり側終端状態と中間状態との間の状態）で維持することができる。これにより、可動装飾ユニットＭ２６００で姿勢を容易に停止させられる状態（下降動作からの姿勢維持が容易となる状態）を増やすことができることから、可動装飾ユニットＭ２６００に注目させる位置を増やすことができ、可動装飾ユニットＭ２６００による演出効果を向上させることができる。

【６５８６】

一方、第２の上下移動制御における第２動作のように高速で可動装飾ユニットＭ２６００を下降動作させる場合には、ねじりバネＭ２６１４ａの弾性回復力に抗して当接部材Ｍ２６０２の姿勢が変化され、当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８の先端側を下方向へ通り抜け得る。

【６５８７】

図３２９から図３３０を参照し、第５６実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｈ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。上述した第５４実施形態では、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が実際に表示できる領域全体におよぶ表示（通常表示）とされる場合を説明したが、第５６実施形態では、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示を通常表示から切り替え可能とされる。

【６５８８】

図３２９は、第５６実施形態における正面枠Ｈ３０１４の分解正面斜視図である。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。正面枠Ｈ３０１４では、上述した正面枠Ｈ１４（図２７６参照）との比較において、上下皿ユニットＨ１５における度数表示部Ｈ４１の右隣位置に、遊技者が操作可能に構成される調整ボタンＨ３０４４が配設されていることが異なる。

【６５８９】

調整ボタンＨ３０４４は、抽選に係る変動表示に合わせて操作タイミングを報知されるボタン部Ｈ１８１とは異なり、任意のタイミングで操作が可能とされる。そのため、抽選に係る変動表示とは独立したタイミングで、遊技者に注目させるための制御が実行可能とされる。

【６５９０】

例えば、抽選に係る変動表示がされていない状況において調整ボタンＨ３０４４の内部に配置されるＬＥＤを発光制御して調整ボタンＨ３０４４自体を明るく照らしたり、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３におけるＬＥＤを特定の発光態様（例えば、ＬＥＤを順に点灯させて光が調整ボタンＨ３０４４に徐々に近づく等の態様）で発光させたりすることで、操作有効状態であることを示唆し、調整ボタンＨ３０４４への操作を促すようにする制御が可能とされる。

【６５９１】

調整ボタンＨ３０４４が操作有効状態である場合には上述のような発光をさせるように制御され、調整ボタンＨ３０４４が操作無効状態である場合には、上述の発光を止めるよう制御される。例えば、上述した第１の関連動作制御等、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示と複合動作役物ユニットＭ３４００の動作とが関連する制御が実行される場合には、演出の都合上、調整を不可能とするように制御されるため、調整ボタンＨ３０４４が操作無効状態とされる。

【６５９２】

図３３０は、第３図柄表示装置Ｍ８１、複合動作役物ユニットＭ３４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００の正面図である。図３３０では、遊技者により調整ボタンＨ３０４４（図３２９参照）が操作された後の状態が図示される。

【６５９３】

図３３０に図示されるように、調整ボタンＨ３０４４が操作有効状態において操作されると、被案内部Ｍ５５０が中間位置まで下降し、可動装飾ユニットＭ６００が中間状態ま

で回転移動するように制御されると共に、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示の大きさが、実際の表示領域よりも小さい調整領域Ｍ３０８１ａに変化する。

【６５９４】

調整ボタンＨ３０４４が操作有効状態において操作されると、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が通常表示であった場合に、調整表示に切り替えられる。調整表示では、調整ボタンＨ３０４４の操作前における表示（通常表示）が調整領域Ｍ３０８１ａの上下幅に収まる程度に上下方向および左右方向が等比となるように縮小された表示が調整領域Ｍ３０８１ａの左右中央に配置され、調整領域Ｍ３０８１ａの左端位置には、調整ボタンＨ３０４４の操作後であることが容易に把握できるように「調整中」の文字が表示される（明るく表示される）。

【６５９５】

このように、調整表示によれば、表示自体が小さくされる一方で、表示位置が第３図柄表示装置Ｍ８１の下方に寄せられる。これにより、第３図柄表示装置Ｍ８１の下方に配置される第１入賞口Ｍ６４（図２７９参照）に注目しながら、その視界の端で第３図柄表示装置Ｍ８１の表示を視認するという遊技態様（第３図柄表示装置Ｍ８１の全域はそもそも視認していない態様）においても、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示内容を見逃す可能性を低くすることができる。

【６５９６】

なお、調整ボタンＨ３０４４は、第３図柄表示装置における表示の調整が可能であれば何でも良く、他の機能が制限されるものではないので、例えば、ボタン部Ｈ１８１のように抽選に係る変動表示に合わせて操作タイミングを報知されるものでも良く、抽選に係る変動表示とは無関係に操作が報知されるものでも良く、抽選に係る変動表示が実行中において操作が出来なくなるものでも良く、抽選に係る変動表示が実行中であっても操作可能であっても良く、機能調整操作部Ｈ１９０のように遊技に関わる音声や光量の調整が可能であっても良く、操作しても遊技に関わる調整は実行されない非調整部でも良く、球貸しボタンＨ４２のように操作により遊技球が払い出されるものでも良く、操作によって遊技球が払い出されるものではなくても良く、これらの組合せでも良い。

【６５９７】

図３３０に図示される状態から、調整ボタンＨ３０４４（図３２９参照）が再び操作されると、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００は復帰制御により退避され、被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図２８５参照）が検出センサＭ４８３に検出されることに基づいて第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が縮小された表示（調整表示）から元の表示（通常表示）に戻され、「調整中」の文字の表示が消される（暗く表示される）。即ち、調整ボタンＨ３０４４を繰り返し操作することで、表示態様を切り替えることができる。

【６５９８】

即ち、調整ボタンＨ３０４４の操作前においては、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置されていることが検出センサＭ４８３により検出される。一方で、複合動作役物ユニットＭ３４００では、調整ボタンＨ３０４４の操作後において中間位置に配置された被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４（図２８５参照）を検出可能な検出センサＭ３４８９が配設される。

【６５９９】

従って、何らの駆動制御（第１の上下移動制御、第２の上下移動制御、第１の関連動作制御等）も実行されていないのに、検出センサＭ３４８９により検出片Ｍ５５４（図２８５参照）が検出された場合には、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図２７８参照）は調整ボタンＨ３０４４が操作されたと判断し、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示を通常表示から調整表示に切り替えるように制御される。

【６６００】

または、何らかの駆動制御（第１の上下移動制御、第２の上下移動制御、第１の関連動作制御等）が実行されているか否かに関わらず、各駆動制御において被案内部Ｍ５５０が

中間位置に配置される期間の最大長さを超える時間長さで検出センサＭ３４８９により検出片Ｍ５５４（図２８５参照）が検出された場合には、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図２７８参照）は調整ボタンＨ３０４４が操作されたと判断し、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示を通常表示から調整表示に切り替えるように制御される。

【６６０１】

このように制御されるので、上述した各駆動制御（第１の上下移動制御、第２の上下移動制御、第１の関連動作制御等）の実行中に検出センサＭ３４８９に検出片Ｍ５５４（図２８５参照）が検出されたとしても、その検出（上述した各駆動制御において被案内部Ｍ５５０が中間位置に配置される期間の最大長さを超えない時間長さの検出）により即座に第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が通常表示から調整表示へ切り替えられることを回避でき、各駆動制御中の第３図柄表示装置Ｍ８１における表示を、検出片Ｍ５５４（図２８５参照）が検出センサＭ４８３に検出されることに基づく通常表示で維持することができることから、一体感のある演出を実行することができる。

【６６０２】

また、このように制御することで、上述した各駆動制御において被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４を検出し得る位置に検出センサＭ３４８９を配置しても、検出センサＭ３４８９による検出が、各駆動制御の実行中における視認態様に影響を与えないようにすることができる。

【６６０３】

なお、被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４が進入可能に構成される被通過進入物体である検出センサＭ３４８９は、検出片Ｍ５５４を移動範囲の途中において検出するものに限られるものではなく、検出片Ｍ５５４を移動範囲の終端において検出するものでも良い。

【６６０４】

調整ボタンＨ３０４４の操作に基づく変化は、第３図柄表示装置Ｍ８１において生じるようにされるだけでも良いが、それ以外の報知がされても良い。例えば、通常表示である場合に調整ボタンＨ３０４４が押されることに基づいて、音声出力装置Ｈ２２６（図２７８参照）から「調整ボタンが押されました」等の報知が実行されても良い。この場合、遊技者は調整ボタンＨ３０４４を操作したことを確認できるので、操作できているか分からずに何度も押し込み操作するという事態を避けることができる。また、この報知が実行されている間に調整ボタンＨ３０４４を再操作する場合に、報知を停止する（キャンセルする）ように制御することで、調整ボタンＨ３０４４を誤操作により操作した場合に、報知だけが継続されるという事態を避けることができる。

【６６０５】

また、例えば、調整ボタンＨ３０４４自体が裏側に配置されるＬＥＤからの光で発光されるよう構成される前提において、通常表示である場合に調整ボタンＨ３０４４が押される（押し込まれる、又は長押しされる）ことに基づいて、発光のベースが白色から橙色に変更されるようにしても良い。この場合、調整ボタンＨ３０４４を視認すれば、遊技者は調整ボタンＨ３０４４を操作したことを確認できるので、操作できているか分からずに何度も押し込み操作するという事態を避けることができる。また、この報知が実行されている間に調整ボタンＨ３０４４を再操作すると、発光のベースが橙色から白色に戻るように制御することで、調整ボタンＨ３０４４を誤操作により操作したとしても、再操作すれば調整ボタンＨ３０４４の視認態様が橙色のまま維持される事態を避けることができる。この報知態様によれば、上述のように音声の報知で実行される場合に比較して、抽選に係る変動表示と連動して出力される音声と重なって聞こえ難くなる事態が生じることを回避することができる。

【６６０６】

可動装飾ユニットＭ６００の電飾基板Ｍ６３０（図２８６参照）の発光色は、第３図柄表示装置Ｍ８１で通常表示を表示するよう制御されている場合にはベースが白色の発光態様とされる一方で、第３図柄表示装置Ｍ８１で調整表示を表示するよう制御されている場合にはベースが橙色の発光態様とされる。これにより、第３図柄表示装置Ｍ８１における

表示の調整の有無について遊技者に把握させ易くすることができる。
【６６０７】
あくまで、調整表示は通常表示に対応する表示態様を縮小したものとなる。そのため、第３図柄表示装置Ｍ８１で調整表示を表示するよう制御されている場合に可動装飾ユニットＭ６００の電飾基板Ｍ６３０（図２８６参照）の発光のベースが橙色の発光態様とされるとしても、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示色のベースは橙色とはならず、通常表示と同様の色味で表示される。これにより、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示を違和感なく視認させることができる。
【６６０８】
可動装飾ユニットＭ６００の電飾基板Ｍ６３０（図２８６参照）の発光色の切替は、事前の調整では変わらないよう制御される。通常表示においては、正面枠Ｈ３０１４（図３２９参照）の機能調整操作部Ｈ１９０を操作することにより電飾基板Ｍ６３０（図２８６参照）の明るさを遊技者が任意に変更可能とされるが、この調整はあくまで通常表示における調整であって、これを調整表示において流用できるとは限らないためである。
【６６０９】
本実施形態では、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が調整表示とされる場合、表示の大きさが縮小され迫力に欠ける可能性があるので、電飾基板Ｍ６３０（図２８６参照）の発光の明るさが最大で固定される。これにより、調整表示となって表示が縮小されることで第３図柄表示装置Ｍ８１から受けとる光の量が少なくなったとしても、電飾基板Ｍ６３０（図２８６参照）からの光の量を増やすことにより、遊技者が視認する光の総量が低下することを回避することができる。
【６６１０】
第３図柄表示装置Ｍ８１における通常表示と調整表示との切替は、調整ボタンＨ３０４４の操作自体の検出ではなく、検出センサの検出結果を把握することにより実行される。ここで、調整ボタンＨ３０４４の操作実行から、検出片Ｍ５５４（図２８５参照）による検出の切替が生じるまでに当然タイムラグがある。
【６６１１】
そのため、調整ボタンＨ３０４４を誤操作した場合であっても、すぐに再操作すれば、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が変化することを避けることができるので、誤操作であっても表示が即座に切り替えられる場合に比較して、調整ボタンＨ３０４４の操作に対するストレスを低減することができる。
【６６１２】
上述した第１の関連動作制御等、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示と複合動作役物ユニットＭ３４００の動作とが関連する制御が実行開始される場合には、演出の都合上、調整表示から通常表示に切り替えられるよう制御される。
【６６１３】
即ち、第１の関連動作制御等の制御が開始される前に予め検出センサＭ３４８９により検出片Ｍ５５４（図２８５参照）が検出される位置に被案内部Ｍ５５０が配置されているか否か（即ち、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が調整表示となっているか否か）が判断され、被案内部Ｍ５５０が配置されていると判断された場合、第１の関連動作制御等の制御が開始される前に、複合動作役物ユニットＭ３４００に復帰制御が実行される。復帰制御の実行後、検出センサＭ４８３で検出片Ｍ５５４が検出されたことに基づいて、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示が調整表示から通常表示に切り替えられる。これにより、第１の関連動作制御等により動作される複合動作役物ユニットＭ３４００と第３図柄表示装置Ｍ８１における表示とを一体的に視認させることができる。
【６６１４】
そのため、第３図柄表示装置Ｍ８１において調整表示がされている時に第１の関連動作制御等の制御が開始される場合、その開始と同時期に可動装飾ユニットＭ６００の電飾基板Ｍ６３０（図２８６参照）の発光色が、ベースが橙色の発光態様からベースが白色の発光態様に切り替えられる。

【６６１５】
この第１の関連動作制御等の制御が終了した後は、通常表示が維持される。即ち、第１の関連動作制御等の制御が終了した後において調整表示での遊技を遊技者が望む場合には、改めて調整ボタンＨ３０４４（図３２９参照）を操作すればよい。
【６６１６】
遊技者が常に調整表示での遊技を望む場合には、第１の関連動作制御等の制御が実行される度に調整ボタンＨ３０４４（図３２９参照）を操作する必要があり、手間に感じる可能性はあるが、通常表示への変更が時間経過で生じるものでは無いので、比較的負担は少ない。
【６６１７】
例えば、調整表示から通常表示への変更が３０秒毎にされる場合、遊技者は３０秒毎に調整ボタンＨ３０４４（図３２９参照）を操作する必要があり、大変な手間である。一方、第１の関連動作制御等の制御は、第３図柄の変動表示と共に毎回実行されるものではなく、変動表示のうちの一部の変動表示において実行されるものである。そのため、遊技者が調整ボタンＨ３０４４を操作する機会が多くなることを避けることができ、調整表示での遊技を望む遊技者の遊技負担を低減することができる。
【６６１８】
第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が調整表示となっている場合において、第１の関連動作制御等の制御が開始される場合に、複合動作役物ユニットＭ３４００に強制的に復帰制御が実行される制御態様に代替して（又は追加して）、復帰制御させるか否かを遊技者に選択させる制御を構成可能としても良い。
【６６１９】
即ち、第１の関連動作制御等の制御が開始される前段階において、第３図柄表示装置Ｍ８１で「演出確認を望む場合はボタンを押せ」との表示の下に操作示唆表示Ｍ８１ｂ（図３２６参照）がされ、バーの網掛け部Ｍ８１ｃにより報知される操作可能期間の内に遊技者がボタン部Ｈ１８１（図３２９参照）を操作したことが音声ランプ制御装置Ｈ１１３で把握された場合に、複合動作役物ユニットＭ３４００に復帰制御が実行されるように構成しても良い。この場合、遊技者に対して、実行される演出を支配している感覚を付与することができ、遊技の興趣を高めることができる。
【６６２０】
遊技者の選択のもと、報知に従いボタン部Ｈ１８１を操作した場合には表示は通常表示に戻され、通常表示のもとで第１の関連動作制御等の制御が実行される。一方で、遊技者がボタン部Ｈ１８１を操作しなければ第３図柄表示装置Ｍ８１の表示は調整表示で維持されることから、第１の関連動作制御が終了した後に再度調整表示に戻すために調整ボタンＨ３０４４を操作するという煩わしさから遊技者を解放することができる。
【６６２１】
なお、遊技者がボタン部Ｈ１８１を操作せず調整表示で維持された場合における調整領域Ｍ３０８１ａにおける表示の内容は、種々の態様が例示される。例えば、第１の関連動作制御等の制御によって動作が実行されるべき複合動作役物ユニットＭ３４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００が縮小されたサイズで調整領域Ｍ３０８１ａにおいて表示され、第１の関連動作制御等の制御による動作と同様の動作態様で動作するように動的に表示しても良い。即ち、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示を縮小させた状態で視認させるだけではなく、表示の前方や周囲に配置される構成も含めて縮小させた状態で視認できるように構成しても良い。この場合、表示は調整表示のサイズで維持しながら、第１の関連動作制御等の制御と同様の動作により構築される演出を調整領域Ｍ３０８１ａにおける表示により視認させることができる。
【６６２２】
遊技者が通常表示での遊技を望む場合、敢えて調整ボタンＨ３０４４（図３２９参照）を操作するモチベーションが無く、調整ボタンＨ３０４４の存在が無駄になる可能性が有る。これに対し、本実施形態では、調整表示とされている場合（検出センサＭ３４８９に

より検出片Ｍ５５４（図２８５参照）が検出されている場合）に限り導光板Ｍ２６０で第２発光形状Ｍ２７２（図３１６（ｃ）参照）が発光され得るよう制御される。

【６６２３】

この第２発光形状Ｍ２７２（図３１６（ｃ）参照）の発光は、抽選に関して取得された乱数に応じて実行の有無が選択されるものであって、抽選に係る入賞の検出と同時に実行される。本実施形態では、抽選が大当たりである場合に発光される。

【６６２４】

そのため、第３図柄表示装置Ｍ８１に表示される変動を待つことなく大当たりとなったことが把握できることから、通常表示での遊技を望む遊技者に対しても、調整ボタンＨ３０４４を操作するモチベーションを与えることができる。

【６６２５】

導光板Ｍ２６０の第２発光形状Ｍ２７２（図３１６（ｃ）参照）による報知は、第２発光形状Ｍ２７２（図３１６（ｃ）参照）の配置が固定されており、且つ、第３図柄表示装置Ｍ８１の前側に配置される層状部における表示であるため、遊技者に気付かせ易くすることができる。

【６６２６】

図３３１から図３３４を参照し、第５７実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｈ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。上述した第５４実施形態では、ピン付きギアＭ５８２の回転が３６０度未満の回転角度に限定される場合を説明したが、第５７実施形態では、３６０度以上の回転角度での回転が可能とされる。

【６６２７】

図３３１は、第５７実施形態における可動装飾ユニットＭ３６００の分解背面斜視図である。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。可動装飾ユニットＭ３６００では、上述した可動装飾ユニットＭ６００（図２８７参照）との比較において、リンク部材Ｍ６６０の形状が部分的に変更されたリンク部材Ｍ３６６０が構成されており、荷重付与部Ｍ６０４が前後方向に平行移動可能に支持される変位部材Ｍ３６９０に形成されることが異なる。

【６６２８】

図３３１に図示されるように、変位部材Ｍ３６９０は、下縁部に荷重付与部Ｍ６０４が形成されており、板状本体部Ｍ３６１０に形成される案内対向面Ｍ３６０７に左右両側を案内される状態で前後方向への平行移動が可能に支持される。

【６６２９】

板状本体部Ｍ３６９０は、荷重付与部Ｍ６０４の右下端部において形成されるテーパ面Ｍ３６９１と、上端側において後方に板バネ式の被検出部が張り出す検出センサＭ３６９３と、電飾基板Ｍ６３０との間に配置されるコイルスプリングＭ３６９５と、を備える。

【６６３０】

テーパ面Ｍ３６９１は、下方へ向かう程に前方へ向かう傾斜として形成されており、下方から荷重を受けた場合に、板状本体部Ｍ３６９０を前方側へ逃がす（退避させる）ように構成される。板状本体部Ｍ３６９０の前方側への変位は、荷重付与部Ｍ６０４が板状本体部Ｍ３６１０の板部後側面よりも埋没する位置まで可能とされている。板状本体部Ｍ３６９０を前方へ変位させる荷重が取り去られるとコイルスプリングＭ３６９５の弾性力により板状本体部Ｍ３６９０が後方側へ変位され、荷重付与部Ｍ６０４が板状本体部Ｍ３６１０の板部後側面よりも後方へ張り出す。

【６６３１】

検出センサＭ３６９３は、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａの移動軌跡と重なる位置に配設される。具体的には、柱状部Ｍ５８２ａからの荷重により板状本体部Ｍ３６９０が前方側へ退避された後もピン付きギアＭ５８２が同方向に回転された場合に柱状部Ｍ５８２ａを検出センサＭ３６９３が検出可能に構成されているが、詳細は後述する。

【６６３２】

図３３２（ａ）、図３３２（ｂ）、図３３３（ａ）及び図３３３（ｂ）は、可動装飾ユニットＭ３６００の部分正面図である。図３３２（ａ）、図３３２（ｂ）、図３３３（ａ）及び図３３３（ｂ）では、伝達部Ｍ５８０の動作に基づいて可動装飾ユニットＭ３６００が動作される様子が時系列で図示される。

【６６３３】

図３３２（ａ）、図３３２（ｂ）、図３３３（ａ）及び図３３３（ｂ）では、伝達部Ｍ５８０の動作の理解を容易とするために、駆動モータＭ５０１、扇形状構成部Ｍ５６０、伝達部Ｍ５８０、後側スライド移動体Ｍ６５０及びリンク部材Ｍ３６６０等が実線で図示される一方、それらの部材に重なる演出動作ユニットＭ５００や可動装飾ユニットＭ３６００については大部分において図示が省略され、外形線が想像線で図示される。

【６６３４】

なお、外形線として図示される演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ３６００は、図３３２（ａ）では、傾倒側終端状態が図示され、図３３２（ｂ）では、伸長状態が図示され、図３３３（ａ）では、伸長状態から更に後側スライド移動体Ｍ６５０がスライド移動される超伸長状態が図示され、図３３３（ｂ）では、傾倒側終端状態が図示される。

【６６３５】

リンク部材Ｍ３６６０は、突設支持部Ｍ６１７に回転移動可能に支持される長尺板状に形成される板状本体部Ｍ６６１と、その板状本体部Ｍ６６１の一方の端部において後方へ円柱形状に突設され後側スライド移動体Ｍ６５０の伝達開口部Ｍ６５３に挿通される伝達突設部Ｍ６６２と、板状本体部Ｍ６６１の他方の端部において板状に形成されており正面視反時計回り方向にピン付きギアＭ５８２が回転される場合に柱状部Ｍ５８２ａに押進される被押進面を有する被押進板部Ｍ３６６３と、その被押進板部Ｍ３６６３に対向配置される対向突部Ｍ３６６４と、を主に備える。

【６６３６】

被押進板部Ｍ３６６３は、柱状部Ｍ５８２ａに押進されることでリンク部材Ｍ３６６０の回転動作が生じる部分として構成されている。被押進板部Ｍ３６６３は、対向突部Ｍ３６６４よりも長く形成されており、柱状部Ｍ５８２ａとの接触位置が動作中に変化する。即ち、押進開始時には被押進板部Ｍ３６６３の中腹辺り（途中部）に接触するが（図３３２（ａ）参照）、ピン付きギアＭ５８２が回転するにつれて接触位置が変化し、最終的には先端側に移る（図３３３（ａ）参照）。これにより、ピン付きギアＭ５８２から被押進板部Ｍ３６６３に付与される荷重の集中位置をずらすことで、部材の疲労の集中を避けることができる。

【６６３７】

なお、被押進板部Ｍ３６６３は、伝達爪部Ｍ６６３（図２８７参照）よりも長くされることに起因して、正面視において荷重付与部Ｍ６０４と重なる長さになったが、被押進板部Ｍ３６６３の前側部が荷重付与部Ｍ６０４と干渉しないように凹設形成される。そのため、被押進板部Ｍ３６６３が荷重付与部Ｍ６０４に荷重を付与する事態は回避することができており、干渉しないような離間配置とされる。

【６６３８】

正面視反時計回り方向のピン付きギアＭ５８２の回転が継続されると、柱状部Ｍ５８２ａにより変位部材Ｍ３６９０のテーパ面Ｍ３６９１（図３３１参照）が押進され、変位部材Ｍ３６９０が前方側へ退避されるため、柱状部Ｍ５８２ａが変位部材Ｍ３６９０の荷重付与部Ｍ６０４にせき止められなくなり、同方向へのピン付きギアＭ５８２の回転が継続可能とされる（図３３３（ａ）及び図３３３（ｂ）参照）。即ち、ピン付きギアＭ５８２は正面視反時計回り方向に１回転以上の回転動作が可能とされる。

【６６３９】

ピン付きギアＭ５８２の回転が正面視反時計回り方向で継続される場合、柱状部Ｍ５８２ａは被押進板部Ｍ３６６３の先端を越えて通過することになるが、柱状部Ｍ５８２ａからの押進力が失われることでリンク部材Ｍ３６６０の姿勢は弾性バネＭ６５５（図３３１

参照）の付勢力により時間経過で即座に戻る（図３３３（ｂ）参照）。
【６６４０】
この場合、ピン付きギアＭ５８２が正面視時計回り方向に回転しそうになったとしても、被押進板部Ｍ３６６３の背面側に柱状部Ｍ５８２ａが遮られることから、ピン付きギアＭ５８２の回転移動を防止することができる。
【６６４１】
即ち、被押進板部Ｍ３６６３の背面側に柱状部Ｍ５８２ａから荷重が与えられた場合、リンク部材Ｍ３６６０は正面視反時計回り方向へ傾倒動作され得るが、その傾倒動作は、リンク部材Ｍ３６６０と連動される後側スライド移動体Ｍ６５０に固定される左側装飾部Ｍ６８０の移動が右側装飾部Ｍ６７０（図３３１参照）により規制される（防止される）。従って、ピン付きギアＭ５８２の回転移動がリンク部材Ｍ３６６０により防止される。
【６６４２】
そのため、ピン付きギアＭ５８２の回転速度が想定以上に高速となり、変位部材Ｍ３６９０の退避方向への変位が間に合わずに柱状部Ｍ５８２ａが逆方向に跳ね返るような回転が発生した場合であっても、柱状部Ｍ５８２ａの戻りをリンク部材Ｍ３６６０により制限することができ、ピン付きギアＭ５８２の正面視反時計回り方向への回転動作をスムーズに再開させることができる。
【６６４３】
図３３４は、ピン付きギアＭ５８２及びリンク部材Ｍ３６６０の正面図である。図３３４では、ピン付きギアＭ５８２とリンク部材Ｍ３６６０との動作関係が、状態違いを想像線で描くことにより図示される。
【６６４４】
即ち、図３３４では、ピン付きギアＭ５８２が正面反時計回りで回転動作される場合における柱状部Ｍ５８２ａが被押進板部Ｍ３６６３に当接開始する状態（図３３２（ａ）参照）が実線で図示される。更にピン付きギアＭ５８２が回転動作され、ピン付きギアＭ５８２の回転軸と突設支持部Ｍ６１７の中心軸とを結ぶ直線状に柱状部Ｍ５８２ａが位置された場合における柱状部Ｍ５８２ａの外形Ｍ５８２Ｆ１及びリンク部材Ｍ３６６０の外形Ｍ３６６０Ｆ１が想像線で図示される。
【６６４５】
更にピン付きギアＭ５８２が回転動作され、可動装飾ユニットＭ３６００が伸長状態（図３３２（ｂ）参照）とされた場合における柱状部Ｍ５８２ａの外形Ｍ５８２Ｆ２及びリンク部材Ｍ３６６０の外形Ｍ３６６０Ｆ２が想像線で図示される。更にピン付きギアＭ５８２が回転動作され、可動装飾ユニットＭ３６００が超伸長状態（図３３３（ａ）参照）とされた場合における柱状部Ｍ５８２ａの外形Ｍ５８２Ｆ３及びリンク部材Ｍ３６６０の外形Ｍ３６６０Ｆ３が想像線で図示される。
【６６４６】
なお、リンク部材Ｍ３６６０の部位についても、符号の対応は同様とする。例えば、外形Ｍ３６６０Ｆ３において、被押進板部Ｍ３６６３に対応する箇所は外形Ｍ３６６３Ｆ３と図示する。
【６６４７】
図３３４に図示されるように、ピン付きギアＭ５８２が正面視反時計回りで回転される場合におけるリンク部材Ｍ３６６０の押進では、ピン付きギアＭ５８２により押進されるリンク部材Ｍ３６６０の部位が徐々に変化される。即ち、押進が開始される時点における柱状部Ｍ５８２ａと被押進板部Ｍ３６６３との当接位置よりも、外形Ｍ５８２Ｆ３と外形Ｍ３６６３Ｆ３との当接位置の方が、被押進板部Ｍ３６６３の先端側とされる。これにより、柱状部Ｍ５８２ａから被押進板部Ｍ３６６３へ付与される荷重を複数位置で分散させることができ、局所的な疲労が蓄積される事態を避け易くすることができる。
【６６４８】
外形Ｍ５８２Ｆ３の位置を柱状部Ｍ５８２ａが超えてピン付きギアＭ５８２が正面視反時計回りに回転動作されると、リンク部材Ｍ３６６０は姿勢が復帰され（図３３３（ｂ）

参照）、柱状部Ｍ５８２ａが板バネ式の被検出部を押し込むことにより検出センサＭ３６９３（図３３１参照）に検出される。

【６６４９】

検出センサＭ３６９３は、被検出部が柱状部Ｍ５８２ａに押し込まれることに基づいて検出されることに因り特定の遊技が開始される。開始される特定の遊技の態様は種々の態様が例示されるが、例えば、演出動作ユニットＭ５００の電飾基板Ｍ５１３における発光の制御でも良いし、演出動作ユニットＭ５００以外の演出役物（例えば、可動装飾ユニットＭ３６００、スライド動作役物ユニットＭ７００（図３１９参照）又は昇降動作役物ユニットＭ８００（図３２３参照））の動作制御または発光制御でも良いし、所定の変動表示でも良いし、遊技者に所定の利益（一定数貯めることで演出の開放に利用可能な仮想のポイント等）を付与するものでも良い。

【６６５０】

これにより、ピン付きギアＭ５８２の正面視反時計回り方向への回転を継続した場合に、可動装飾ユニットＭ３６００の姿勢が傾倒側終端状態から変化しない構成であっても、柱状部Ｍ５８２ａを検出センサＭ３６９３で検出させることで特定の遊技を開始させることにより、遊技者が遊技に飽きる事態を回避することができる。

【６６５１】

なお、リンク部材Ｍ３６６０の姿勢の検出は行わないことから、リンク部材Ｍ３６６０の姿勢の検出を行う場合には考慮する必要が生じる検出に必要となる時間長さの停止を考慮することなく、リンク部材Ｍ３６６０を高速動作させる制御を実行する等しても遊技に支障は無い。

【６６５２】

図３３５から図３３８を参照し、第５８実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｈ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。上述した第５４実施形態では、リンク部材Ｍ６６０が可動装飾ユニットＭ６００と共に回転移動する場合を説明したが、第５８実施形態では、可動装飾ユニットＭ４６００の回転移動がリンク部材Ｍ６６０に相当する回転移動部材Ｍ４６６０に対して独立に実行可能に構成される。

【６６５３】

図３３５は、第５８実施形態における複合動作役物ユニットＭ４４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００の正面図である。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【６６５４】

複合動作ユニットＭ４４００の可動装飾ユニットＭ４６００では、上述した可動装飾ユニットＭ６００（図２８７参照）との比較において、リンク部材Ｍ６６０に相当する回転移動部材Ｍ４６６０は回転軸が固定配置で構成されている。それに伴い、被案内部Ｍ５５０が自由落下する構成は除外されており（上昇端位置で固定とされており）、可動装飾ユニットＭ４６００の傾倒動作と、回転移動部材Ｍ４６６０の回転動作とが、単一のピン付きギアＭ５８２（図２８４参照）の回転動作により実現される。

【６６５５】

回転移動部材Ｍ４６６０を回転可能に支持する円柱状の回転軸部Ｍ４４７６が形成される支持板Ｍ４４７５が前側蓋部Ｍ４７０から左方へ延設されている。可動装飾ユニットＭ４６００の周囲側のうち右下側を構成する壁部は、支持板Ｍ４４７５と干渉しないように必要箇所が切欠き形成されている。これにより、可動装飾ユニットＭ４６００は、支持板Ｍ４４７５と干渉することなく傾倒動作が可能に構成される。

【６６５６】

図３３６（ａ）及び図３３６（ｂ）は、ピン付きギアＭ５８２の動作について時系列で図示される可動装飾ユニットＭ４６００及び回転移動部材Ｍ４６６０の部分正面図である。

【６６５７】

図３３６（ａ）及び図３３６（ｂ）では、ピン付きギアＭ５８２の動作の理解を容易とするために、駆動モータＭ５０１、扇形状構成部Ｍ５６０、ピン付きギアＭ５８２及び回転移動部材Ｍ４６６０等が実線で図示される一方、それらの部材に重なる演出動作ユニットＭ５００や可動装飾ユニットＭ４６００については大部分において図示が省略され、外形線が想像線で図示される。

【６６５８】

なお、図３３６（ａ）及び図３３６（ｂ）では、外形線として図示される可動装飾ユニットＭ４６００は傾倒側終端状態とされている。また、図３３６（ａ）では、回転移動部材Ｍ４６６０の待機状態が図示され、図３３６（ｂ）では、回転移動部材Ｍ４６６０の回動状態が図示される。

【６６５９】

回転移動部材Ｍ４６６０は、上述の板状本体部Ｍ６６１（図３３１参照）と、その板状本体部Ｍ６６１の一方の端部において後方へ円柱形状で突設される被検出部Ｍ４６６２と、上述の被押進板部Ｍ３６６３（図３３１参照）と、上述の対向突部Ｍ３６６４（図３３１参照）と、板状本体部Ｍ６６１に一体形成され一直線に延設される延設構成部Ｍ４６６５と、を主に備える。

【６６６０】

被検出部Ｍ４６６２は、伝達突設部Ｍ６６２（図３３１参照）に類似の形状から構成されているが、伝達対象としての後側スライド移動体Ｍ６５０（図３３１参照）は省略されているため、動力を伝達する部位としては機能しない。本実施形態では、被検出部Ｍ４６６２を支持板Ｍ４４７５に配設される検出センサ（図示せず）の検出溝に進入させることで、回転移動体Ｍ４６６０の姿勢を音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）に把握させるための部位として機能する。

【６６６１】

即ち、支持板Ｍ４４７５に配設される検出センサ（図示せず）に被検出部Ｍ４６６２が検出されている状態において、回転移動部材Ｍ４６６０は、延設構成部Ｍ４６６５が下方に垂下する待機状態（図３３６（ａ）参照）であることが音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）に把握される。なお、支持板Ｍ４４７５に配設される検出センサ（図示せず）は、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａの検出には利用されないため、柱状部Ｍ５８２ａの形状や大きさに制限されることなく、被検出部Ｍ４６６２が進入可能な大きさの検出溝が形成されれば良いので、検出センサの設計自由度を向上させることができる。

【６６６２】

延設構成部Ｍ４６６５は、可動装飾ユニットＭ４６００よりも後方側に配置されており、可動装飾ユニットＭ４６００が傾倒するほど隠される量が多くなるが、少なくとも一部（特に延設先端側）が常時視認可能とされる。従って、可動装飾ユニットＭ４６００の姿勢に因らず、遊技者に視認される箇所を利用した演出を実行することが可能とされる。

【６６６３】

回転移動部材Ｍ４６６０を押進する柱状部Ｍ５８２ａと当接する荷重付与部Ｍ６０４は、変位部材Ｍ３６９０の下縁部として構成される（図３３１参照）。従って、上述したように、ピン付きギアＭ５８２が正面視反時計回りで回転動作される場合には変位部材Ｍ３６９０が退避されることで、柱状部Ｍ５８２ａが被押進板部Ｍ３６６３を越える位置までピン付きギアＭ５８２を回転動作させることが可能とされ（図３３３（ｂ）参照）、ピン付きギアＭ５８２に一回転以上の回転動作を実行させることができる。

【６６６４】

なお、円板付きギアＭ５８４のギア歯の数とピン付きギアＭ５８２のギア歯の数との関係から、ピン付きギアＭ５８２が１回転することに対応して円板付きギアＭ５８４が３回転するので、ピン付きギアＭ５８２に一方向で一回転以上の回転動作を実行する場合であっても、ピン付きギアＭ５８２と円板付きギアＭ５８４との角度関係は周期的に維持される。

【６６６５】
図３３７及び図３３８は、複合動作役物ユニットＭ４４００、スライド動作役物ユニットＭ７００及び昇降動作役物ユニットＭ８００の正面図である。図３３７及び図３３８では、可動装飾ユニットＭ４６００が傾倒側終端状態とされている。
【６６６６】
また、図３３７では、回転移動部材Ｍ４６６０の待機状態が図示され、図３３８では、回転移動部材Ｍ４６６０の回動状態が図示される。即ち、図３３７に図示される状態は図３３６（ａ）に図示される状態と同じであり、図３３８に図示される状態は図３３６（ｂ）に図示される状態と同じである。
【６６６７】
図３３７及び図３３８に図示されるように、傾倒側終端状態の可動装飾ユニットＭ４６００の後方側で回転移動部材Ｍ４６６０が回転動作される場合、回転移動部材Ｍ４６６０は可動装飾ユニットＭ４６００の下側へ垂れる姿勢から、可動装飾ユニットＭ４６００を上側へ追い越す姿勢となる最大角度で回転動作されることから、回転基端側は可動装飾ユニットＭ４６００に重なって隠されることが有るのに対し、回転先端側は可動装飾ユニットＭ４６００とは重ならないため回転移動部材Ｍ４６６０の姿勢に関わらず視認させることができる。
【６６６８】
延設構成部Ｍ４６６５は、前方側へ光を照射可能に構成されるＬＥＤ等に例示される発光部Ｍ４６６６を複数備えている。発光部Ｍ４６６６が点灯または点滅制御されることにより、延設構成部Ｍ４６６５の形状を利用したライン状の発光演出を行うことができる。複数個の発光部Ｍ４６６６の発光態様を独立で制御することで、多くのバリエーションの発光演出を行うことができる。
【６６６９】
発光部Ｍ４６６６は、延設構成部Ｍ４６６５の延設方向に並んでおり、延設構成部Ｍ４６６５の延設先端側から基端側に等間隔で２６個配置されている。回転移動部材Ｍ４６６０の待機状態では、全ての発光部Ｍ４６６６が視認可能とされており（図３３７参照）、回転移動部材Ｍ４６６０の回動状態では、延設先端側における複数個（１７個）の発光部Ｍ４６６６が視認可能とされ、残り（延設基端側）は可動装飾ユニットＭ４６００に隠される。
【６６７０】
このように、発光部Ｍ４６６６の視認態様は、延設構成部Ｍ４６６５が停止された状態においても、延設構成部Ｍ４６６５の姿勢が異なれば発光部Ｍ４６６６が並ぶ方向が異なることに加え、視認される発光部Ｍ４６６６の個数にも違いが生じるので、異なった態様で視認させることができる。
【６６７１】
これに加えて、延設構成部Ｍ４６６５の往復動作の実行中に複数の発光部Ｍ４６６６の発光態様を制御することで、延設構成部Ｍ４６６５の移動軌跡において発光部Ｍ４６６６から照射される光の残像により文字や絵を視認させる演出が実行可能とされている。以下、詳しく説明する。
【６６７２】
光の残像により文字や絵を視認させる演出を実行させるためには、まず視認させたい文字や絵の仮想外形線Ｍ４６９０Ｆを延設構成部Ｍ４６６５の動作軌跡上に配置し、延設構成部Ｍ４６６５が回転動作される場合において、仮想外形線Ｍ４６９０Ｆと重なる位置の発光部Ｍ４６６６を、その重なるタイミングで発光させ、重ならなくなったら消灯させるという制御を行う。
【６６７３】
この制御のためには、発光部Ｍ４６６６の点灯および消灯のタイミングを決めるために、延設構成部Ｍ４６６５の回転速度と、待機状態からの延設構成部Ｍ４６６５の回転開始時点とを、音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）に把握させる

ことが前提となる。
【６６７４】
延設構成部Ｍ４６６５の回転動作は、駆動モータＭ５０１（図３３６（ａ）参照）の回転駆動により実行されるので、駆動モータＭ５０１の回転駆動制御により速度を任意に設定可能とされるので、音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）に延設構成部Ｍ４６６５の回転速度を把握させることができる。
【６６７５】
詳細には、駆動モータＭ５０１（図３３６（ａ）参照）が例えば３００［ｒｐｍ］で回転する場合にピン付きギアＭ５８２は１００［ｒｐｍ］で回転するよう構成されており、ピン付きギアＭ５８２が例えば５２［度］回転動作する場合に延設構成部Ｍ４６６５が７８［度］回転動作されているので（図３３６（ａ）及び図３３６（ｂ）参照）、ピン付きギアＭ５８２が１００［ｒｐｍ］で回転する場合に延設構成部Ｍ４６６５は１５０［ｒｐｍ］で回転する。従って、延設構成部Ｍ４６６５は駆動モータＭ５０１の回転数（角速度）の半分の回転数（角速度）で回転動作される。
【６６７６】
また、支持板Ｍ４４７５の検出センサ（図示せず）に被検出部Ｍ４６６２（図３３６（ａ）参照）が検出されることにより、回転移動部材Ｍ４６６０が待機状態から回転開始するタイミングが検出される。即ち、支持板Ｍ４４７５の検出センサ（図示せず）の検出結果から、待機状態からの延設構成部Ｍ４６６５の回転開始時点を、音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）に把握させることが前提となる。
【６６７７】
上述の通り、延設構成部Ｍ４６６５の回転速度と、待機状態からの延設構成部Ｍ４６６５の回転開始時点とを、音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１（図２７８参照）に把握させることができているため、回転動作する回転移動部材Ｍ４６６０に配設される複数の発光部Ｍ４６６６を適切に発光制御する（適切なタイミングで点灯消灯させる）ことで、光の残像により文字や絵を視認させる演出が実行可能とされる。
【６６７８】
光の残像により文字や絵を視認させる演出の一例について説明する。例えば、延設構成部Ｍ４６６５を約４０度の回転角度ＭＲ１で往復動作させる範囲では、可動装飾ユニットＭ４６００と重なる面積が狭いため、動作軌跡の大部分を光の残像により視認させる文字や絵を形成する領域として利用することができ、延設構成部Ｍ４６６５の延設方向に沿う縦長の残像形状Ｍ４６９１Ｆ（例えば「アツイ」との文字、図３３７参照）であっても視認させることができる。
【６６７９】
また、例えば、延設構成部Ｍ４６６５を約７８度の回転角度ＭＲ２で往復動作させる範囲では、回転基端側において可動装飾ユニットＭ４６００と重なる部分においては光の残像を視認させることは難しいが、可動装飾ユニットＭ４６００と重ならない回転先端側の大部分を光の残像により視認させる文字や絵を形成する領域として利用することができ、延設構成部Ｍ４６６５の回転方向に沿う湾曲帯状領域内に並ぶ残像形状Ｍ４６９２Ｆ（例えば「オメデトウ」との文字、図３３８参照）であっても視認させることができる。
【６６８０】
本実施形態では、残像形状Ｍ４６９１Ｆ，Ｍ４６９２Ｆは、抽選に係る変動中に視認させるように延設構成部Ｍ４６６５の動作制御がされるところ、残像形状Ｍ４６９２Ｆが視認される変動の大当たり期待度（即ち、抽選が大当たりである割合）の方が、残像形状Ｍ４６９１Ｆが視認される変動の大当たり期待度よりも高くされている。
【６６８１】
なお、残像形状Ｍ４６９１Ｆや残像形状Ｍ４６９２Ｆで視認させる形状は例示であり、これに限られるものではない。片仮名の羅列である場合を例示したが、文字の種類が限定されるものでは無く、漢字、平仮名、アルファベットでも良いし、文字では無く絵を視認させるようにしても良い。

【６６８２】
　また、残像形状Ｍ４６９１Ｆ，Ｍ４６９２Ｆがそれぞれ単独で視認される場合を例示したが、これに限られるものではない。例えば、残像形状Ｍ４６９１Ｆ，Ｍ４６９２Ｆをそれぞれ同時に視認させるようにしても良いし、交互に視認させるようにしても良いし、残像形状Ｍ４６９１Ｆが視認される期間の後で残像形状Ｍ４６９２Ｆが視認される期間が設定されても良い。
【６６８３】
　延設構成部Ｍ４６６５の回転速度は、上述の通りピン付きギアＭ５８２（図３３６（ａ）参照）の回転速度に対応する。同様に、可動装飾ユニットＭ４６００が起き上がり側終端状態から傾倒側終端状態へ回転動作する場合の回転速度もピン付きギアＭ５８２の回転速度に対応する。そのため、ピン付きギアＭ５８２を回転動作させることで可動装飾ユニットＭ４６００と延設構成部Ｍ４６６５とを同様の速度で連続的（段階的）に動作させることができる。
【６６８４】
　可動装飾ユニットＭ４６００と延設構成部Ｍ４６６５とが同様の速度で連続的に動作される場合、可動装飾ユニットＭ４６００と延設構成部Ｍ４６６５とが連動しているように遊技者に視認させることができ、可動装飾ユニットＭ４６００及び延設構成部Ｍ４６６５に対する注目力を向上させることができる。
【６６８５】
　ここで、延設構成部Ｍ４６６５により視認される残像表示Ｍ４６９１Ｆ，Ｍ４６９２Ｆは、上述した通り、残像表示Ｍ４６９１Ｆが視認される場合よりも残像表示Ｍ４６９２Ｆが視認される場合の方が遊技者にとって有利となるところ、残像表示Ｍ４６９２Ｆを視認させるために必要となる延設構成部Ｍ４６６５の回転角度は残像表示Ｍ４６９１Ｆを視認させるために必要となる延設構成部Ｍ４６６５の回転角度よりも大きいため、延設構成部Ｍ４６６５の動作速度を予測させる可動装飾ユニットＭ４６００の動作速度に高低が有る場合に、高速である方が、残像表示Ｍ４６９２Ｆが表示されるかもしれないという期待感を遊技者に持たせ易い。
【６６８６】
　本実施形態では、駆動モータＭ５０１（図３３６（ａ）参照）の駆動制御として、少なくとも、１８０［ｒｐｍ］の第１回転制御（低速制御）と、４２３［ｒｐｍ］の第２回転制御（高速制御）とが可能に構成される。駆動モータＭ５０１が第１回転制御で動作される場合に延設構成部Ｍ４６６５により残像表示Ｍ４６９１Ｆが視認され、駆動モータＭ５０１が第２回転制御で動作される場合に延設構成部Ｍ４６６５により残像表示Ｍ４６９２Ｆが視認されるように構成される。
【６６８７】
　多くの場合、駆動モータＭ５０１は第１回転制御で駆動制御される。そのため、可動装飾ユニットＭ４６００の回転動作後に延設構成部Ｍ４６６５が動作される場合に視認されるのは残像表示Ｍ４６９１Ｆとされる。
【６６８８】
　一方、稀（例えば、５０変動に１回程度の割合）に、第１回転制御での駆動制御が開始された駆動モータＭ５０１が、可動装飾ユニットＭ４６００が起き上がり側終端状態から傾倒側終端状態に至る前に第２回転制御に切り替えられる場合があり、この場合には可動装飾ユニットＭ４６００の回転動作後に延設構成部Ｍ４６６５が動作される場合に視認されるのは残像表示Ｍ４６９２Ｆとされる。そのため、可動装飾ユニットＭ４６００の動作に対する注目力を向上させることができる。
【６６８９】
　また、ごく稀（例えば、１００変動に１回程度の割合）に、可動装飾ユニットＭ４６００を起き上がり側終端状態から回転動作開始させる時点から駆動モータＭ５０１が第２回転制御で動作される。この場合には可動装飾ユニットＭ４６００の回転動作後に延設構成部Ｍ４６６５が動作される場合に視認されるのは残像表示Ｍ４６９２Ｆとされる。そのた

め、可動装飾ユニットＭ４６００の動作に対する注目力を向上させることができる。
【６６９０】
このように、可動装飾ユニットＭ４６００の動作速度は、初めから第１回転制御での速度が維持される場合、第１回転制御での速度から第２回転制御での速度に途中で切り替えられる場合、初めから第２回転制御での速度が維持される場合があるが、本実施形態では、可動装飾ユニットＭ４６００を動作させる際にボタン部Ｈ１８１（図２７６参照）を操作することに基づく所定条件が成立した場合に、可動装飾ユニットＭ４６００の速度が第１回転制御での速度から第２回転制御での速度に途中で切り替えられる場合における切り替えタイミングを早めることができるよう構成される。
【６６９１】
即ち、ボタン部Ｈ１８１の操作を行うことで、より早いタイミングで可動装飾ユニットＭ４６００を第２回転制御での速度で動作させることができ、より早いタイミングで残像表示Ｍ４６９２Ｆが視認され得るか否か（大当たり期待度が高いか否か）を知ることができるかもしれないという期待から、ボタン部Ｈ１８１に対する操作意欲を向上させることができる。
【６６９２】
ボタン部Ｈ１８１の操作に基づく所定条件の成立としては、例えば、操作有無のみの判定から成立としても良いし、操作の判定があった場合に一定確率で成立するものとしても良いし、操作回数が規定値を越えた場合に成立するものとしても良いし、連打速度（一定期間における操作回数）が規定値を越えた場合に成立するものとしても良い。
【６６９３】
また、ボタン部Ｈ１８１の操作に基づく所定条件の成立としては、例えば、操作量（押し込み量）が規定値以下の場合には第１回転制御が維持され、操作量（押し込み量）が規定値を超えると成立し第２回転制御に切り替えられるものとしても良いし、操作量が規定値以下の場合にはその操作量の大小に対応して、第２回転制御での速度よりも小さい範囲で駆動モータＭ５０１の動作速度が段階的に変化されるように構成し、操作量（押し込み量）が規定値を超えると成立し第２回転制御に切り替えられるものとしても良い。
【６６９４】
ボタン部Ｈ１８１の操作タイミングについては、報知はせず、可動装飾ユニットＭ４６００の動作を視認した遊技者が自発的に行うようにしても良いが、可動装飾ユニットＭ４６００を動作させる際に第３図柄表示装置Ｍ８１において操作示唆表示Ｍ８１ｂ（図３２６参照）を表示することで、ボタン部Ｈ１８１を操作すべきタイミングであることを遊技者が分かり易くなることからボタン部Ｈ１８１への操作意欲を向上させることができ、更に、操作示唆表示Ｍ８１ｂがされることで可動装飾ユニットＭ４６００の動作開始を遊技者に予測させることができ、可動装飾ユニットＭ４６００の動作開始前から可動装飾ユニットＭ４６００に対する注目力を向上させることができる。
【６６９５】
また、上述の通り、延設構成部Ｍ４６６５の回転速度は、ピン付きギアＭ５８２（図３３６（ａ）参照）の回転速度に対応する。同様に、可動装飾ユニットＭ４６００が起き上がり側終端状態から傾倒側終端状態へ回転動作する場合の回転速度もピン付きギアＭ５８２の回転速度に対応するが、可動装飾ユニットＭ４６００を回転させる場合と延設構成部Ｍ４６６５を回転させる場合とは独立している（柱状部Ｍ５８２ａは荷重付与部Ｍ６０４又は回転移動部材Ｍ４６６０のいずれか一方と当接する（図３３６（ａ）及び図３３６（ｂ）参照）ため、ピン付きギアＭ５８２の回転速度をタイミングよく変えることで可動装飾ユニットＭ４６００の動作速度と延設構成部Ｍ４６６５の動作速度とを変えることもできる。
【６６９６】
なお、可動装飾ユニットＭ４６００を動作させる速度とは異なる速度で延設構成部Ｍ４６６５を動作させる場合（可動装飾ユニットＭ４６００が傾倒側終端状態となった後で駆動モータＭ５０１（図３３６（ａ）参照）の回転速度を変化させる場合）、可動装飾ユニ

ットＭ４６００の動作から延設構成部Ｍ４６６５の動作内容を予測することを困難とさせることができるので、延設構成部Ｍ４６６５に対する注目力をより長く維持することができる。

【６６９７】

この場合において、延設構成部Ｍ４６６５を動作させる速度は、可動装飾ユニットＭ４６００を動作させる速度よりも遅い場合があっても良いし、可動装飾ユニットＭ４６００を動作させる速度よりも速い場合があっても良い。バリエーションが多いほど、遊技者の延設構成部Ｍ４６６５に対する注目力を向上させることができる。

【６６９８】

また、この場合において、延設構成部Ｍ４６６５の動作態様を複数構成しても良い。例えば、動作範囲の途中までの回転動作としても良いし（図３３７参照）、動作範囲の終端まで回転動作しても良いし（図３３８参照）、延設構成部Ｍ４６６５の回転はさせない角度で駆動モータＭ５０１を一旦停止させて、回転方向を反転させて可動装飾ユニットＭ４６００を起き上がり側終端状態に戻しても良い。

【６６９９】

また、その駆動モータＭ５０１を一旦停止させた後で、回転方向を反転させるのではなく、一拍おいてから、延設構成部Ｍ４６６５の回転動作を生じさせるようにしても良い。なお、延設構成部Ｍ４６６５の回転動作という場合には、回動状態へ向けて回転動作されて待機状態に復帰する一往復の動作に限らず、複数回の往復回転動作を含む。また、回動状態へ向けて回転動作されて待機状態に復帰する一往復の動作としては、ピン付きギアＭ５８２が往復動作することにより構成されるものも、ピン付きギアＭ５８２が正面視反時計回りに回転動作して柱状部Ｍ５８２ａが被押進板部Ｍ３６６３を越えることにより生じるものも含む。

【６７００】

以上、上記実施形態に基づき本発明を説明したが、本発明は上記形態に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲内で種々の変形改良が可能であることは容易に推察できるものである。

【６７０１】

上記各実施形態において、一の実施形態における構成の一部または全部を、他の実施形態における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の実施形態としても良い。

【６７０２】

上記第５４実施形態では、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置に配置されている場合には、検出センサＭ４５３での検出の切り替えに先立って被案内部Ｍ５５０が昇降移動体Ｍ４４３により押し上げ開始される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、被案内部Ｍ５５０と昇降移動体Ｍ４４３との上下間隔をより大きく確保するようにして、被案内部Ｍ５５０が押し上げられない状態（落下終端位置で維持された状態）での昇降移動体Ｍ４４３の昇降移動によって前方突設部Ｍ４４４が検出センサＭ４５３の検出溝から退避可能（検出結果を切り替え可能）としても良い。この場合、昇降移動体Ｍ４４３を昇降移動させるように制御させて、その昇降移動を検出センサＭ４５３で検出することにより、昇降移動体Ｍ４４３が動作不良を起こしていないことを定期的に確認させたり、検出センサＭ４５３の検出結果を他の特定の装置の出力の切り替えに利用したりする制御を、被案内部Ｍ５５０を落下終端位置で維持した状態でも実行することが可能となる。

【６７０３】

従って、昇降移動体Ｍ４４３の昇降移動を、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置にある場合においても落下終端位置に対して独立させることができるので、昇降移動体Ｍ４４３によって、動作不良の確認をしたり、他の特定の装置の出力の切り替えをしたりする制御を実行するタイミングの自由度を向上させることができる。換言すれば、被案内部Ｍ５５０が落下終端位置とは異なる位置にある時に限って上述の制御を実行するという煩わしさが

解消され、制御を簡素に構築することができる。
【６７０４】
上記第５４実施形態では、昇降移動体Ｍ４４３が樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、昇降移動体Ｍ４４３を金属材料から構成するようにしても良い。この場合、より硬質であって、昇降移動体Ｍ４４３の破損の可能性を低減させることができ、更に、検出センサＭ４５３による前方突設部Ｍ４４４の検出の感度を向上させることができる。
【６７０５】
上記第５４実施形態では、上下方向に延びる凹設溝部Ｍ４５２の左右幅が略均一な溝として形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、凹設溝部Ｍ４５２の左右幅が上から下に向かうにつれて縮小されていくように変化され、検出センサＭ４５３に到達する上下位置で最小（検出センサＭ４５３の検出溝の幅長さと同等）とされるように構成しても良い。この場合、上側の位置において前方突設部Ｍ４４４の左右位置が変化していたとしても凹設溝部Ｍ４５２との衝突を回避し易くすることができる一方、検出センサＭ４５３に近づく下側の位置において前方突設部Ｍ４４４の左右位置が変化していた場合には前方突設部Ｍ４４４の位置を凹設溝部Ｍ４５２の内壁に当接させることで検出センサＭ４５３の検出溝の中心側へ寄せる（案内する）ことができるので、前方突設部Ｍ４４４と検出センサＭ４５３とが真正面から衝突し破損するという事態を避けることができる。また、昇降移動体Ｍ４４３の姿勢を維持させるための後方二股部Ｍ４４６等の構成を省略することができ、姿勢維持に伴い生じていた移動抵抗を低減させることができる。
【６７０６】
上記第５４実施形態では、検出センサＭ４５３の検出溝の上部が開放されており、その開放される箇所を前方突設部Ｍ４４４が通る場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、検出センサＭ４５３の検出溝の上部を覆う柔軟な膜部材が構成され、前方突設部Ｍ４４４が下降する際にはその膜部材を引き延ばしながら変位するように構成しても良い。この場合、前方突設部Ｍ４４４と検出センサＭ４５３の検出溝との間に柔軟な膜部材を介在させることができるので、前方突設部Ｍ４４４と検出センサＭ４５３の検出溝とが直接的に接触することを回避させることができるので、前方突設部Ｍ４４４及び検出センサＭ４５３が破損する可能性を低減させることができる。
【６７０７】
上記第５４実施形態では、左側蓋部Ｍ５３０及び右側蓋部Ｍ５４０が共に樹脂材料から構成されることで軽量化が図られており演出動作ユニットＭ５００を上昇移動させる駆動モータＭ４４２の負担が低減される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左側蓋部Ｍ５３０又は右側蓋部Ｍ５４０の少なくとも一方を金属材料から構成するようにしても良い。
【６７０８】
この場合において、左側蓋部Ｍ５３０を金属材料から構成し右側蓋部Ｍ５４０を樹脂材料から構成する場合、左側蓋部Ｍ５３０を光が透過することを避けることができるので、左側蓋部Ｍ５３０が第３図柄表示装置Ｍ８１の表示と重なるように配置される場合であっても第３図柄表示装置Ｍ８１からの照射光が左側蓋部Ｍ５３０の手前側まで透けて遊技者に視認される事態を避けることができる。これにより、第３図柄表示装置Ｍ８１からの照射光の色味が板状本体部Ｍ５１０や可動装飾ユニットＭ６００に重なって視認されることを回避でき、板状本体部Ｍ５１０や可動装飾ユニットＭ６００の演出効果を向上させることができる。
【６７０９】
また、第１の関連動作制御において、移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態から第２の状態へ向けて移動を開始する時点における移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との境界部を隠す機能を向上させることができ、更に、移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態に到達した場合には右側蓋部Ｍ５４０を部分的に光が透過することにより移動装飾部Ｍ７７０と連動

意匠Ｍ７８１との境界部を隠す機能を弱めることができる。
【６７１０】
上記第５４実施形態では、板状本体部Ｍ５１０と被案内部Ｍ５５０とが互いに相対変位可能な別体で構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状本体部Ｍ５１０と被案内部Ｍ５５０とが互いに相対変位不能（例えば、一体構造）に構成されても良い。この場合、板状本体部Ｍ５１０に姿勢変化を生じさせることなく被案内部Ｍ５５０の案内される方向（直線方向）への移動を構成することができる。
【６７１１】
上記第５４実施形態では、扇形状構成部Ｍ５６０が回転軸を構成する大径支持部Ｍ５４３に支持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左側蓋部Ｍ５３０の湾曲縁部Ｍ５３２側端部の背面に扇形状構成部Ｍ５６０の回転軸を中心とする円弧形状のレール部が形成され、このレール部に扇形状構成部Ｍ５６０の延設部Ｍ５６８が移動（摺動）可能に支持されることで、円弧形状に沿って扇形状構成部Ｍ５６０が移動すると大径支持部Ｍ５４３を中心とする回転移動が生じるように構成しても良い。この場合、扇形状構成部Ｍ５６０の支持に利用される領域の面積を大きくすることができるので、扇形状構成部Ｍ５６０が高頻度で動作した場合であっても、扇形状構成部Ｍ５６０の支持に利用される箇所の損耗を抑えることができる。
【６７１２】
上記第５４実施形態では、扇形状構成部Ｍ５６０が回転軸を構成する大径支持部Ｍ５４３に支持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、大径支持部Ｍ５４３の代わりに円形孔が穿設されており、その円形孔に脱落防止部Ｍ５４４の小径円形部（前方部）が挿通されることにより脱落防止部Ｍ５４４が支持される構造としても良い。この場合、脱落防止部Ｍ５４４を、扇形状構成部Ｍ５６０の脱落を防止する役割と、扇形状構成部Ｍ５６０を支持する役割とで兼用することができる。
【６７１３】
この場合において、締結ネジＭ５０２が右側蓋部Ｍ５４０の前方まで貫通する長さとして、その締結ネジＭ５０２を右側蓋部Ｍ５４０の手前側に配設され円形孔よりも外形が大きい追加の抜け止め板に締結させることにより、脱落防止部Ｍ５４４の抜け止めを図るようにしても良い。これにより、脱落防止部Ｍ５４４の軸方向の位置ずれを防止することができる。また、脱落防止部Ｍ５４４の小径円形部（前方部）や締結ネジＭ５０２が右側蓋部Ｍ５４０だけでなく、板状本体部Ｍ５１０まで挿通される長さで構成されても良い。
【６７１４】
なお、構成材料としては、基本的には締結ネジＭ５０２が金属材料から形成され、脱落防止部Ｍ５４４が樹脂材料から形成されるが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、脱落防止部Ｍ５４４も金属材料から形成するようにしても良い。この場合、脱落防止部Ｍ５４４の強度や耐久性を向上させることができる。
【６７１５】
また、締結ネジＭ５０２を樹脂材料から形成するようにしても良い。この場合、透過性の樹脂材料を採用することにより締結ネジＭ５０２を通して光を通過させることができることから、後方から照射される光（例えば、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示による光）を締結ネジＭ５０２の位置を通して前方へ通過させることができるので、締結ネジＭ５０２の前方の位置において電飾基板Ｍ６３０に円形開口部Ｍ６３３が形成されている構成であっても、締結ネジＭ５０２の前方の位置（可動装飾ユニットＭ６００の中心軸線ＭＪ１に対応する位置）を光らせる演出を採用することができる。
【６７１６】
上記第５４実施形態では、扇形状構成部Ｍ５６０は円板付きギアＭ５８４の円弧形成部Ｍ５８４ａからの下方への荷重により下方へ押し下げられる態様で変位される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、扇形状構成部Ｍ５６０の突条部Ｍ５６３又は円板付きギアＭ５８４の円弧形成部Ｍ５８４ａの一方が鉄などの磁性体材料から形成され、他方に磁石が配設されることにより、円弧形成部Ｍ５８４ａと突条部Ｍ５

６３との間で引き合う方向の磁力が生じるようにしても良い。この場合、円板付きギアＭ５８４の回転動作により扇形状構成部Ｍ５６０を上方へ変位させる場合を構成可能とされ、当接部材Ｍ６０２の上昇方向の変位に先立って扇形状構成部Ｍ５６０を上方へ退避させることもできることから、毎回当接部材Ｍ６０２に扇形状構成部Ｍ５６０を当接させて上方へ変位させる場合に比較して当接回数を減らすことができ、耐用年数を長くすることができる。

【６７１７】

上記第５４実施形態では、荷重付与部Ｍ６０４は、起き上がり側終端状態におけるピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａの回転開始方向（柱状部Ｍ５８２ａの中心軸とピン付きギアＭ５８２の回転軸とを通る直線に対して直交する直線方向）に沿って延びる平面形状から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、凹凸形状から形成されても良い。この場合、柱状部Ｍ５８２ａの回転動作時に荷重付与部Ｍ６０４から抵抗を与えることができ、柱状部Ｍ５８２ａが滑り動作することを防止し易くすることができ、ピン付きギアＭ５８２を特定の位相で停止させ易くすることができる。また、ピン付きギアＭ５８２の回転動作時に荷重付与部Ｍ６０４の凹部および凸部に柱状部Ｍ５８２ａが交互に当接することで可動装飾ユニットＭ６００を振動変位させることができる。

【６７１８】

上記第５４実施形態では、当接部材Ｍ６０２の上面の一部に扇形状構成部Ｍ５６０の下面が当接するよう構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、扇形状構成部Ｍ５６０の延設部Ｍ５６８の延設長さを延長し、当接部材Ｍ６０２の上面の全体に扇形状構成部Ｍ５６０の下面が当接するよう構成しても良い。この場合、当接部材Ｍ６０２から扇形状構成部Ｍ５６０に与えられる荷重をより大きな面積で分散させることができ、延設部Ｍ５６８が受ける圧力を最小限とすることができるので、扇形状構成部Ｍ５６０の材料や形状の設計自由度を向上させることができると共に、扇形状構成部Ｍ５６０の耐久性を向上させることができる。

【６７１９】

上記第５４実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００の動作中において延設部Ｍ５６８が視認可能に構成されている場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、円弧状貫通部Ｍ５１５の上端縁と延設支持部Ｍ６１４の上縁とを連結するようにして不透明な膜状で伸縮可能な遮蔽膜部材が配設され、この遮蔽膜部材が円弧状貫通部Ｍ５１５の内側を覆い視線を遮蔽することにより、正面視で延設部Ｍ５６８を視認不能に構成しても良い。この場合、延設部Ｍ５６８という内部の構造を遊技者に視認させないようにすることで、可動装飾ユニットＭ６００により構成される動作演出に注目させ易くすることができる。

【６７２０】

上記第５４実施形態では、扇形状構成部Ｍ５６０が樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、扇形状構成部Ｍ５６０を金属材料から形成しても良い。この場合、扇形状構成部Ｍ５６０の強度を向上させることができ、荷重の蓄積により延設部Ｍ５６８が破損するという事態を避けることができる。

【６７２１】

上記第５４実施形態では、扇形状構成部Ｍ５６０が光透過性の低い（不透明な）樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、光透過性の高い（透明な）樹脂材料から形成しても良い。この場合、延設部Ｍ５６８が正面視で露出している場合であっても、目立たせないようにすることができ、背面側の意匠や表示を透かすことができる。これにより、演出効果を目的としない（換言すれば、装飾を意図しない）内部構造（背面側構造）としての延設部Ｍ５６８について目立たせないようにすることができる。

【６７２２】

上記第５４実施形態では、扇形状構成部Ｍ５６０の延設部Ｍ５６８が略正方形（交差す

る２方向の幅が同じ長さ）の断面を構成する形状で延設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、前後方向（中心軸線ＭＪ１と平行な方向）の幅よりも、その前後方向と交差する方向の幅（正面視で視認される方向の幅、即ち、中心軸線ＭＪ１を中心とする円の接線方向の幅）が小さい形状で延設されるようにしても良い。この場合、延設部Ｍ５６８が露出して視認される場合であっても、正面視で視認される幅が狭くなっているので、延設部Ｍ５６８が後方の意匠や表示を隠す度合を小さくすることができる。これにより、後方の意匠や表示の視認性を向上させることができる。

【６７２３】

上記第５４実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００の左右長さを十分に確保しながら、被案内部Ｍ５５０の上昇移動時における可動装飾ユニットＭ６００の動作タイミングを制限することで可動装飾ユニットＭ６００が他の役物（昇降動作役物ユニットＭ８００、球案内ユニットＭ９００等）と衝突することを未然に防ぐ場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、可動装飾ユニットＭ６００が傾倒側終端状態または伸長状態で維持されたままで被案内部Ｍ５５０を上昇移動させたとしても可動装飾ユニットＭ６００の回転先端側が他の役物と衝突しない程度に可動装飾ユニットＭ６００の左右長さを短く形成しても良い。この場合、被案内部Ｍ５５０（による演出動作ユニットＭ５００）の配置に関わらず可動装飾ユニットＭ６００を任意の状態とすることができる（動作終端まで動作可能とされる）ので、演出動作ユニットＭ５００の動作と可動装飾ユニットＭ６００の動作との組合せの設計自由度を向上させることができる。

【６７２４】

上記第５４実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００の正面視の形状の全体において光が透過して視認されるように意匠が描かれる（白地で図示される）場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転軸部Ｍ６２１の正面側の領域は黒色で塗りつぶされる意匠を描くようにしても良い。この場合、回転軸部Ｍ６２１が電飾基板Ｍ６３０を貫通する態様とされ、電飾基板Ｍ６３０から光が照射されないとしても、正面視の視認態様が違和感なく形成される。

【６７２５】

上記第５４実施形態では、円弧状貫通部Ｍ５１５の幅が一定で構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、配置に応じて異ならせても良い。例えば、扇形状構成部Ｍ５６０に近い上側ほど狭く、離れる程に広くなるようにすれば、当接部材Ｍ６０２と扇形状構成部Ｍ５６０とが当接する位置における支持を強固としつつ、当接が生じない箇所では動作抵抗を下げることができる。これを逆とすれば、当接により当接部材Ｍ６０２の配置がずれた場合であっても、下降側において円弧状貫通部Ｍ５１５に配置を修正させることができる。

【６７２６】

上記第５４実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００の検出を一側終端位置でのみ行う場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、動作範囲の両端において検出可能にしても良いし、動作範囲の途中位置で検出できるようにしても良い。

【６７２７】

上記第５４実施形態では、第２の関連動作制御の演出待機動作として、到達領域表示Ｍ８１ａにおいて可動装飾ユニットＭ６００の意匠が表示されている期間において可動装飾ユニットＭ６００が低速の第１動作と復帰動作とを繰り返し実行されることで繰り返し往復移動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１の関連動作制御においてスライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０に対して制御される、第２の状態まで到達した後、第１の状態側に所定量（約２ｃｍ）戻された後で再び第２の状態まで到達する繰り返し往復動作と同期して（周期が同じか、又は動作の始期および終期が同じ）、上述したような可動装飾ユニットＭ６００の繰り返し往復移動が実行されるように制御しても良い。この場合、移動装飾部Ｍ７７０の繰り返し往復動作と可動装飾ユニットＭ６００の繰り返し往復移動とを一体的に視認させることができ、演出効果を向上させることができる。

【６７２８】
上記第５４実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００の第１動作を、第２の上下移動制御における動作として説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、被案内部Ｍ５５０は上昇端位置に配置が維持された状態で可動装飾ユニットＭ６００に第１動作と復帰制御による動作とを順に実行しても良いし、これを連続で繰り返すように制御しても良い。この場合、可動装飾ユニットＭ６００が高頻度で上下動作している様子を遊技者に視認させることができ、何らかの抽選についての前兆演出であると想像させることができる。また、第１動作と復帰制御による動作とを順に実行する（ことを繰り返す）制御の後で第２の上下移動制御や、第１の関連動作制御や、第２の関連動作制御が実行される場合を構成しても良い。

【６７２９】
上記第５４実施形態では、第２の上下移動制御において被案内部Ｍ５５０の落下が生じていないと判断した場合において、可動装飾ユニットＭ６００の第２動作を実行せずに復帰制御を行う場合を説明したが、制御の切り替えは必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１の上下移動制御において被案内部Ｍ５５０の落下が生じていないと判断した場合においても制御の切り替えが生じるように構成しても良い。

【６７３０】
即ち、第１の上下移動制御において被案内部Ｍ５５０の落下が生じていないと判断した場合においては、可動装飾ユニットＭ６００を起き上がり側終端状態から動作させることなく、起き上がり側終端状態のままで維持させるように構成しても良い。

【６７３１】
また、例えば、検出センサＭ４８３の検出結果に因らず可動装飾ユニットＭ６００を傾倒側終端まで変位させるように駆動モータＭ５０１が駆動制御されても良い。この場合において、事後的に、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示を可動装飾ユニットＭ６００の配置（被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に配置される場合における傾倒側終端状態における配置）と重なる領域を含み若干拡大された領域に集中させる態様（可動装飾ユニットＭ６００と同時に視認して違和感のない態様）に切り替えても良い。

【６７３２】
上記第５４実施形態では、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００の動作方向が上下方向となる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００が前後方向でも良いし、前後方向の成分を含む方向でも良い。この場合、遠近感による演出効果により、迫力のある動作演出を実行することができる。

【６７３３】
上記第５４実施形態では、演出動作ユニットＭ５００の板状本体部Ｍ５１０に可動装飾ユニットＭ６００が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状本体部Ｍ５１０とは離れた位置において別の駆動源で駆動される可動装飾ユニットＭ６００が配設されており、板状本体部Ｍ５１０の動作と、可動装飾ユニットＭ６００の動作とが関連して実行されるように構成しても良い。

【６７３４】
上記第５４実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００がガラスユニットの後方に配置される場合を説明したが、同構成を利用したユニットがガラスユニットの手前側に配設されており、遊技者が触れられるように構成しても良い。この場合において、可動装飾ユニットＭ６００をボタン部Ｈ１８１のような操作部材として採用しても良い。

【６７３５】
上記第５４実施形態では、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００の動作が単一の検出センサＭ４８３の検出結果を基に開始される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、検出センサＭ４８３を上下方向に複数個並べて、複数の検出センサＭ４８３の検出結果から動作の開始を判断可能にしても良い。また、検出センサＭ４８３の個数を増やすのではなく、演出動作ユニットＭ５００の検出片Ｍ５

５４の配設個数を増やす（複数個縦に並べて配設する）ことで、検出センサＭ４８３による検出を複数回生じさせることが可能にしても良い。この場合、演出動作ユニットＭ５００が下降を開始していることを複数回の検出から判断できるので、検出の安定性を向上させることができる。

【６７３６】

上記第５４実施形態では、第２の上下移動制御における可動装飾ユニットＭ６００の動作は予定された時間設定で実行されるよう構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技者からの操作によって変更されるようにしても良い。即ち、第２の上下移動制御中において、遊技者がボタン部Ｈ１８１に所定の操作を行うことにより、復帰制御の開始が早まるようにしても良い。この場合、可動装飾ユニットＭ６００が退避して対応表示ＭＥ５９０や第２対応表示ＭＥ５９２を視認可能となるタイミングを早めることができるので、ボタン部Ｈ１８１の操作を意欲的に実行させることができる。

【６７３７】

上記第５４実施形態では、第２対応表示ＭＥ５９２の表示開始タイミングは、対応表示ＭＥ５９０の表示開始タイミングよりも遅らせる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、対応表示ＭＥ５９０が表示されるよりも前に第２対応表示ＭＥ５９２を表示させる場合を構成しても良い。この場合、遊技者は第２の上下移動制御が開始される可能性を事前に予想することができることから、第２の上下移動制御が開始されてからの注目力だけでなく、それ以前から、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【６７３８】

また、第２対応表示ＭＥ５９２の表示態様は、一つに限定されるものではなく、複数態様あっても良い。例えば、第２対応表示ＭＥ５９２が白色で表示される場合と、赤色で表示される場合とが有り、後者の方が大当たり期待度を大きく設定しても良い。この場合、第２対応表示ＭＥ５９２を注意深く視認するようになり、注目力をより向上させることができる。

【６７３９】

また、第２対応表示ＭＥ５９２の表示色として、表示が終了するまで同色であっても良いし、途中で変更されるようにしても良い。例えば、対応表示ＭＥ５９０の表示開始タイミングよりも前においては白色で第２対応表示ＭＥ５９２が表示され、対応表示ＭＥ５９０の表示開始タイミングよりも遅れて第２対応表示ＭＥ５９２が赤色に変化されるように構成しても良い。この場合、第２対応表示ＭＥ５９２が一度視認されたら注目力が低下されるものではなく、色が変化するかもしれないという期待から遊技者の注目力を維持し続けさせることができる。

【６７４０】

一方で、例えば、対応表示ＭＥ５９０の表示開始タイミングよりも前においては赤色で第２対応表示ＭＥ５９２が表示され、対応表示ＭＥ５９０の表示開始タイミングよりも遅れて第２対応表示ＭＥ５９２が白色に変化されるように構成しても良い。この場合、第２の上下移動制御が開始された後の視認では第２対応表示ＭＥ５９２が赤色で表示されたことを見逃すように構成することができるので、第２の上下移動制御が開始される前から第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域に対する注目力を向上させることができる。

【６７４１】

上記第５４実施形態では、第２の上下移動制御における可動装飾ユニットＭ６００の動作として、第１動作パターンで開始され、途中から第２動作パターンに切り替えられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２の上下移動制御の開始時点から第２動作パターンで制御が開始されるようにしても良い。この場合、対応表示ＭＥ５９０として第２動作パターンに更に適切な表示（例えば、可動装飾ユニットＭ６００の往復動作と同期して変動する表示）を設定すれば、第３図柄表示装置Ｍ８１を利用した演出の演出効果を更に高めることができる。

【６７４２】

上記第５４実施形態では、電飾基板Ｍ５１３，Ｍ６３０の発光態様として、可動装飾ユニットＭ６００の配置に対応して通常発光、露出発光、強発光とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、配置の変更は生じていなくとも、上述の通常発光、露出発光、強発光での発光態様でそれぞれ切り替えられるように構成しても良いし、点灯と消灯とを繰り返す制御が可能に構成しても良いし、発光色の規則的な変化がループされるよう構成しても良いし、他の動作ユニットの動作に対応して発光態様が切り替えられるように構成しても良い。

【６７４３】

例えば、発光色の規則的な変化がループされる場合、視認される光の変化から移動装飾部Ｍ７７０の動作タイミングを予想されることを避けることができるので、移動装飾部Ｍ７７０が動作開始するまでの間、移動装飾部Ｍ７７０の登場する位置に対する注目力を向上させることができる。

【６７４４】

例えば、第１の関連動作制御において、移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態から第２の状態へ移動する場合において、移動装飾部Ｍ７７０の左右位置と合う透過部Ｍ５１２に対応する電飾基板Ｍ５１３のＬＥＤを、移動装飾部Ｍ７７０の移動に合わせて順に発光させるように制御可能とすることで、移動装飾部Ｍ７７０の移動に伴って透過部Ｍ５１２を光らせる光が移動しているように遊技者に視認させることができる。

【６７４５】

この後、移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態に到達したら、電飾基板Ｍ５１３，Ｍ６３０の発光態様を通常発光、露出発光または強発光で維持させることで、透過部Ｍ５１２を通して視認される光の態様が変化され、遊技者は移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態に到達したことを把握し易くなる。

【６７４６】

上記第５４実施形態では、第１の関連動作制御の説明として、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態から第２の状態に変化するまでの期間に、同時に可動装飾ユニットＭ６００が回転移動され、この場合において被案内部Ｍ５５０が中間位置に維持されている場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、駆動モータＭ４４２が微少の往復動作を繰り返すことにより板状本体部Ｍ５１０が微少長さの上下往復移動を繰り返す中でスライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が移動するように構成しても良い。なお、板状本体部Ｍ５１０の繰り返し移動のタイミングは、移動装飾部Ｍ７７０の移動タイミングに対して同期する必要はない。

【６７４７】

この場合であっても、板状本体部Ｍ５１０の上下幅の内側に移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との境界（少なくとも移動装飾部Ｍ７７０の下端部）が隠されていれば、遊技者が演出に違和感を受けることを避けることができる。また、移動装飾部Ｍ７７０及び連動意匠Ｍ７８１よりも手前側で繰り返し動作する板状本体部Ｍ５１０及び可動装飾ユニットＭ６００に注目させることができるので、移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との境界に注目されることを避けることができる。

【６７４８】

上記第５４実施形態では、第１の関連動作制御の説明として、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態から第１の状態へ向けて移動され、移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態に到達したことが検出センサＭ７１３により検出された後で、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置へ向けて移動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動装飾部Ｍ７７０の第１の状態と第２の状態との往復移動が一回生じる度に被案内部Ｍ５５０が上昇位置へ復帰されるのではなく、移動装飾部Ｍ７７０の往復移動が複数回生じる間、被案内部Ｍ５５０の位置が上昇位置へ復帰されないように構成しても良い。この場合、演出動作が画一的になることを避けることができるので、移動装飾部Ｍ７７０や、被案内部Ｍ５５０により動作される可動装飾ユニットＭ６００等に対する注目力を向上させることができる。

【６７４９】
この場合において、移動装飾部Ｍ７７０に設定される往復移動の回数としては、１を最小として１ずつ増加する数（自然数）で設定されても良いし、特定の自然数（例えば、「３」「１０」）で設定されても良い。抽選に係る変動においては基本的に変動時間が長いほど大当たりの期待度が高いため、後者の設定の場合、３回目の往復移動を超えて４回目の往復移動が開始されると、この往復移動は１０回まで継続されることから、遊技者に大当たりかもという期待感を与えることができ、遊技者の興趣の向上を図ることができる。
【６７５０】
上記第５４実施形態では、スライド動作役物ユニットＭ７００は、移動装飾部Ｍ７７０の動作の際に電飾基板Ｍ７７５の発光態様が維持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態から第２の状態へ移動される場合に比較して、第２の状態から第１の状態へ移動される場合の方が発光強度を暗くする（又は消灯する）ように構成しても良い。また、その逆でも良い。
【６７５１】
上記第５４実施形態では、連動意匠Ｍ７８１が、移動装飾部Ｍ７７０の平行移動に対応して共に平行移動するよう表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、連動意匠Ｍ７８１の移動方向は移動装飾部Ｍ７７０の移動方向と平行なわけではなく、所定のラインに沿って移動装飾部Ｍ７７０に引っ張られる移動として構成されても良い。また、移動に対応する場合に限定されるものではなく、例えば、移動装飾部Ｍ７７０の発光色に対応した色味で連動意匠Ｍ７８１が表示され、移動装飾部Ｍ７７０の発光色の変化に対応して連動意匠Ｍ７８１の表示色も変化されるように構成されても良い。
【６７５２】
上記第５４実施形態では、連動意匠Ｍ７８１が、一定の形状を有する構成である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、「雲」や「雷」など不定形の構成とされても良い。この場合、移動装飾部Ｍ７７０の移動と連動意匠Ｍ７８１の変化とのずれを目立たなくすることができる。例えば、移動装飾部Ｍ７７０の移動に対応して、連動意匠Ｍ７８１としての「雲」から「雷」が落ちるといった表示をさせても良い。移動装飾部Ｍ７７０の移動速度が高速になるほど「雷」の落ちる頻度が上がったり、「雷」の落ちる範囲が広がったりすることで、対応していることを遊技者が分かり易くすることができる。
【６７５３】
上記第５４実施形態では、連動意匠Ｍ７８１が、移動装飾部Ｍ７７０の平行移動に対応して共に平行移動するよう表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、連動意匠Ｍ７８１の移動タイミング（周期）と移動装飾部Ｍ７７０の移動タイミング（周期）とが異なるように制御されても良いし、移動装飾部Ｍ７７０の停止中において、連動意匠Ｍ７８１が移動するようにしても良い。この場合において、移動装飾部Ｍ７７０側から拡大されるような動的な表示として構成されても良いし、移動装飾部Ｍ７７０の移動中において表示と非表示とが切り替えられるように構成しても良い。これにより、移動装飾部Ｍ７７０又は連動意匠Ｍ７８１の一方だけに注目される事態を避けることができ、双方に注目される機会を生じさせることができる。
【６７５４】
また、例えば、連動意匠Ｍ７８１が移動装飾部Ｍ７７０側から拡大されるような動的な表示として構成される場合において、その動的な表示の繰り返し周期は、移動装飾部Ｍ７７０の移動の周期と独立させるように制御すればよい。この場合、連動意匠Ｍ７８１と移動装飾部Ｍ７７０とを別体として視認させ易くすることができるので、連動意匠Ｍ７８１と移動装飾部Ｍ７７０との境界でずれが生じても違和感を持たれ難くすることができる。
【６７５５】
また、移動装飾部Ｍ７７０の移動が生じても連動意匠Ｍ７８１の配置は維持されるように構成しても良い。この場合、第３図柄表示装置Ｍ８１における連動意匠Ｍ７８１の描画

のためのデータを削減することができ、ロードのための時間を短くすることができる。この場合において、移動装飾部Ｍ７７０の移動方向が前後方向であれば、移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との正面視における位置ずれが生じることも無いので、より演出効果の向上を図ることができる。

【６７５６】

また、連動意匠Ｍ７８１が、グローブでパンチするような動作態様で表示されることに対応して可動装飾ユニットＭ６００が第１動作と復帰制御による動作とが繰り返される態様で動作するように制御しても良い。これにより、連動意匠Ｍ７８１と連動される動作役物の数を増やし、遊技者の注目力を広範囲に広げることができる。

【６７５７】

上記第５４実施形態では、移動装飾部Ｍ７７０と共に平行移動する連動意匠Ｍ７８１の表示態様が維持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、連動意匠Ｍ７８１におけるグローブに追加の装飾がされ、この装飾が移動装飾部Ｍ７７０の移動に合わせて変化するように構成しても良い。この場合、連動意匠Ｍ７８１における変化を視認することで、遊技者は、移動装飾部Ｍ７７０の移動タイミングを把握することができる。

【６７５８】

追加の装飾としては、種々の態様が例示される。例えば、グローブの傷が増えていくものでも良いし、パンチの打ち出し回数に対応する「１」「２」等の数字が増加される態様で追加されるものでも良い。または、グローブの傷などの特定のアイコンが徐々に減少されるものでも良い。

【６７５９】

増加される態様について代表して以下で説明する（なお、減少される態様についても同様に設計できることは言うまでもない）。追加の装飾として、この数字が、特定の変動表示における任意のタイミングにおける移動装飾部Ｍ７７０の移動に対応して「１」から開始され、同変動表示内における移動装飾部Ｍ７７０の往復移動の度に１ずつ増加するように制御する場合、移動装飾部Ｍ７７０の連続した動作の開始時期を認識させ易くすることができるし、連続した動作の途中から移動装飾部Ｍ７７０に遊技者が注目し始めた場合であっても、数字を見れば途中であることを認識することができる。この場合、移動装飾部Ｍ７７０の移動回数を遊技者にわざわざ記憶させることを強いることなく、移動装飾部Ｍ７７０の往復移動の回数を連動意匠Ｍ７８１で視認される追加の装飾と対応付けることができ、追加の装飾の数字が多くなるほど抽選に係る変動表示が長いことを認識させることで、大当たり期待度（遊技者が得られる利益）が大きいことを遊技者に予想させ、遊技者の期待感を高めることができる。

【６７６０】

この追加の装飾として数字が描かれる場合において、「１」から開始されるのではなく、「０」や、「２」以上の数字から開始されるものでも良い。この場合、連動意匠Ｍ７８１に初めから注目していた遊技者に対して、なぜ「１」から開始しないのかという違和感を抱かせることができる。そして、大当たり期待度の高い変動表示において、「０」や、「２」以上の数字から開始される場合が生じるように制御することで、追加の装飾を含めた連動意匠Ｍ７８１に対する注目力を向上させることができる。

【６７６１】

この追加の装飾として数字が描かれる場合において、移動装飾部Ｍ７７０の往復移動の度に１ずつ増加する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動装飾部Ｍ７７０の往復移動に合わせて、追加の装飾の数字において、同じ数字が繰り返される態様や、２以上増加された数字に変化される態様が生じるように制御しても良い。この場合、連動意匠Ｍ７８１に注目していた遊技者に対して、なぜ「１」ずつ増加しないのかという違和感を抱かせることができる。そして、大当たり期待度の高い変動表示において、同じ数字が繰り返される態様や、２以上増加された数字に変化される態様が生じるように制御することで、追加の装飾を含めた連動意匠Ｍ７８１に対する注目力を向上さ

せることができる。そして、この違和感は、追加の装飾をある程度の長さ見ていれば把握できるが、追加の装飾を一瞬見るだけでは把握できないため、遊技者の連動意匠Ｍ７８１に対する注目力を長期にわたり向上させることができる。また、この場合に連動意匠Ｍ７８１の色味も変化させるように制御することで、連動意匠Ｍ７８１に対する注目力を向上させることができる。

【６７６２】

なお、ここでいう追加の装飾の態様は、少なくとも「初回」か「途中」かが認識可能であればよく、数字に限定されるものではない。例えば、「スタート」から開始され、「コンティニュー」に続く態様や、「開始」から開始され、「継続」に続く態様でも良い。

【６７６３】

追加の装飾の変化の時期については、種々の態様が例示される。例えば、追加の装飾の変化は、移動装飾部Ｍ７７０の往復移動に合わせて生じるものであって、第２の関連動作制御の演出待機動作として到達領域表示Ｍ８１ａにおいて可動装飾ユニットＭ６００の意匠が表示されている期間において可動装飾ユニットＭ６００が低速の第１動作と復帰動作とを繰り返し実行する動作が実行されても生じないように制御されても良い。この場合、追加の装飾の変化を視認した遊技者に対して可動装飾ユニットＭ６００よりも移動装飾部Ｍ７７０に注目すべきタイミングであることを認識させ易くすることができる。

【６７６４】

また、例えば、追加の装飾の変化は、第２の関連動作制御の演出待機動作として到達領域表示Ｍ８１ａにおいて可動装飾ユニットＭ６００の意匠が表示されている期間において可動装飾ユニットＭ６００が低速の第１動作と復帰動作とを繰り返し実行する動作の繰り返し回数と同期して生じるように制御されても良い。この場合、追加の装飾の変化と可動装飾ユニットＭ６００の動作とを一体的に視認させることができることから、連動意匠Ｍ７８１及び可動装飾ユニットＭ６００の演出効果を向上させることができる。

【６７６５】

また、例えば、追加の装飾の変化が、電飾基板Ｍ５１３，Ｍ６３０の発光態様として、通常発光、露出発光、強発光での発光態様でそれぞれ切り替えられるタイミングと同期して生じるように構成しても良い。この場合、追加の装飾の変化と電飾基板Ｍ５１３，Ｍ６３０の発光態様の変化とを一体的に視認させることができることから、連動意匠Ｍ７８１及び電飾基板Ｍ５１３，Ｍ６３０の演出効果を向上させることができる。

【６７６６】

上記第５４実施形態では、対応表示ＭＥ５９０、第２対応表示ＭＥ５９２、到達領域表示Ｍ８１ａが可動装飾ユニットＭ６００の移動先の位置に表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技者の注目を集めるための表示であればよく、実際には第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域の前方に配置されないものでも、表示することが可能である。例えば、第１可変入賞装置Ｍ６５の形状が表示され、特定領域Ｍ６５ｃをより目立つように明るく表示するような態様での表示でも良い。この場合、遊技者の注目を特定領域Ｍ６５ｃに集めることができる。

【６７６７】

上記第５４実施形態では、連動意匠Ｍ７８１が視認可能な状態において移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態から第２の状態へ向けてスライド移動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、連動意匠Ｍ７８１の表示が別の表示に切り替えられた状態で移動装飾部Ｍ７７０が移動される場合を構成しても良い。この場合、移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との境界がそもそも生じ無いので、移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との境界を隠す必要は無く、移動装飾部Ｍ７７０の動作タイミングの自由度を向上させることができる。

【６７６８】

上記第５４実施形態では、移動装飾部Ｍ７７０の移動速度が固定され移動態様が画一化される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、駆動モータＭ７２０の駆動制御を複数パターンの速度で実行可能に構成することで、移動装飾部Ｍ７７

０の移動速度が複数生じるように構成しても良い。この場合、移動装飾部Ｍ７７０の動作速度の違いを、現在行われている変動に係る抽選の大当たり期待度と対応させることにより、移動装飾部Ｍ７７０の動作に対する注目力を向上させることができることから、演出効果の向上を図ることができる。

【６７６９】

上記第５４実施形態では、移動装飾部Ｍ７７０が直線方向で移動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動装飾部Ｍ７７０が蛇行しながら移動される構成でも良い。この場合、連動意匠Ｍ７８１も同様に蛇行した移動態様とすることで移動装飾部Ｍ７７０との対応を維持させることができるし、蛇行の方向転換時において速度が変化する（減速する）ことが通常である分、移動装飾部Ｍ７７０に生じるバックラッシによる速度変化が目立ち難くすることができ、移動装飾部Ｍ７７０と連動意匠Ｍ７８１との動作ずれについても同様に目立ち難くすることができる。

【６７７０】

上記第５４実施形態では、移動装飾部Ｍ７７０は右側へ向かうにつれて下降傾斜する直線方向でスライド移動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動装飾部Ｍ７７０が前後方向に移動するように構成しても良い。この場合、正面視では移動装飾部Ｍ７７０が移動したか否かを遊技者に気付かせ難く、視線の方向を変えることで（斜め方向から見ることで）変化に気づき易い態様とすることができるので、移動装飾部Ｍ７７０への注目力を向上させると共に、移動装飾部Ｍ７７０の移動を把握したい場合には視線の方向を変える等、遊技者に意欲的に取り組ませることができ、漫然と遊技することの解消を図ることができる。

【６７７１】

上記第５４実施形態では、第１の関連動作制御において、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が動作不良を起こしていると判断した場合に第３図柄表示装置Ｍ８１における表示を別態様に切り替える場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、それと代えて又はそれに加えて、導光板Ｍ２６０の第２発光形状Ｍ２７２を発光可能に構成しても良い。第２発光形状Ｍ２７２は、正面視で移動装飾部Ｍ７７０の動作軌跡と重なるため、発光により、移動装飾部Ｍ７７０の動作不良を目立たせ難くすることができる。

【６７７２】

上記第５４実施形態では、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が第１の関連動作制御として特定される一定のパターンで動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技待機状態（抽選に係る変動表示が停止されている状態等）において移動装飾部Ｍ７７０が第１の状態（又は第２の状態）にある場合に遊技者がボタン部Ｈ１８１を操作することに対応して移動装飾部Ｍ７７０が第２の状態（又は第１の状態）へ向けて移動するように構成しても良い。この場合、遊技者の操作によって移動装飾部Ｍ７７０の移動を生じさせることができることから、ボタン部Ｈ１８１に対する遊技者の操作意欲を高めることができる。

【６７７３】

また、例えば、遊技者がボタン部Ｈ１８１の操作をすることで移動装飾部Ｍ７７０が移動されるよう制御される期間は、遊技待機状態に限るものではない。例えば、大当たり中において上述のように制御されても良い。この場合、大当たり中における遊技の楽しみ方として、遊技球を発射させることの他に、ボタン部Ｈ１８１を操作して移動装飾部Ｍ７７０を自由に移動させることを追加することができる。

【６７７４】

この場合において、ボタン部Ｈ１８１を操作することで移動装飾部Ｍ７７０を第１の状態へ早期に移動させることができ、対応する連動意匠Ｍ７８１を第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域から退避させ、代わりに後方で隠されていた演出動作をより長い時間視認可能となることから、ボタン部Ｈ１８１に対する操作意欲を向上させることができる。

【６７７５】

上記第５４実施形態では、スライド動作役物ユニットＭ７００の移動装飾部Ｍ７７０が第３図柄表示装置Ｍ８１の上側に隣接する領域内においてスライド移動可能に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動装飾部Ｍ７７０が正面視で第３図柄表示装置Ｍ８１の表示領域の中央側（表示領域内）まで移動可能に構成しても良い。この場合、移動装飾部Ｍ７７０の全周を第３図柄表示装置Ｍ８１での表示と接する位置とすることができるので、移動装飾部Ｍ７７０と第３図柄表示装置Ｍ８１での表示との一体感を高めるように演出することができる。

【６７７６】

上記第５４実施形態では、昇降移動部材Ｍ８６０が、第１の関連動作制御の終盤において上昇移動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１の関連動作制御に関わらず、所定の契機において昇降移動部材Ｍ８６０を上昇移動させる場合を用意しても良い。所定の契機としては、例えば、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置に維持された状態において可動装飾ユニットＭ６００の第１動作と復帰制御による動作とが数回繰り返されたことが検出された場合や、被案内部Ｍ５５０が上昇端位置から離れてから上昇端位置に戻るという上下動作が数回繰り返されたことが検出された場合に、昇降移動部材Ｍ８６０が上昇移動されるように構成しても良い。これにより、意外性のある演出動作を視認させることができる。

【６７７７】

上記第５４実施形態では、昇降移動部材Ｍ８６０が、第１の関連動作制御の終盤において上昇移動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、昇降移動部材Ｍ８６０が上昇移動する代わりに又は上昇移動に加えて、第３図柄表示装置Ｍ８１において、昇降移動部材Ｍ８６０の意匠と同様の表示（立体的な昇降移動部材Ｍ８６０を正面視での平面的な意匠で変換した表示）をさせるように制御しても良い。この場合、昇降移動部材Ｍ８６０が動作不良を起こしても、それにより第１の関連動作制御の見映えが落ちることを避けることができる。また、この表示を、昇降移動部材Ｍ８６０に動作不良が生じたと主制御装置Ｈ１１０又は音声ランプ制御装置Ｈ１１３において判断した場合に実行するように構成しても良い。

【６７７８】

上記第５４実施形態では、第２の関連動作制御の演出待機動作として、可動装飾ユニットＭ６００又は昇降移動部材Ｍ８６０が動作する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、動作に代えて、又は動作に加えて、可動装飾ユニットＭ６００又は昇降移動部材Ｍ８６０が発光するよう制御されても良い。この場合において、動作の順に発光させる対象を切り替えるようにすれば、発光によっても、可動装飾ユニットＭ６００又は昇降移動部材Ｍ８６０の一方に注目させることができる。

【６７７９】

上記第５５実施形態では、延設部Ｍ２５６８の角部が略直角形状とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上隅は略直角形状とされ、下隅は面取り傾斜形状とされても良い。この場合、当接部材Ｍ２６０２が下から通り抜ける場合よりも、上から通り抜ける場合の方が通過を困難とできるので、延設部Ｍ２５６８の上側に当接部材Ｍ２６０２を維持させ易くすることができる。

【６７８０】

上記第５５実施形態では、当接部材Ｍ２６０２が正面視で細長い形状とされ姿勢変化可能に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、正面視の外形が円形の形状から構成されても良い。即ち、当接部材Ｍ２６０２の内側開口Ｍ２６０２ａが円形状で形成され、受入孔部Ｍ２６０２ｂは円の直径方向で穿設され突条部Ｍ２６０２ｃの形成は省略するよう構成すれば良い。

【６７８１】

この場合において、ねじりバネＭ２６１４ａの一端側において直線方向に伸縮するコイルスプリングが形成され、そのコイルスプリングの弾性力により、形状変形された当接部材Ｍ２６０２を可動装飾ユニットＭ２６００の回転軸を通る直線方向（動作円の直径方向

）に変位可能に構成することで、延設部Ｍ２５６８に下側から当接して当接部材Ｍ２６０２と延設部Ｍ２５６８とが共に動作する態様と、当接部材Ｍ２６０２が延設部Ｍ２５６８の先端側を通り抜けようと動作する態様とを構成することができる。

【６７８２】

この場合、ねじりバネＭ２６１４ａが屈曲変形される場合に比較してバネの変形を緩やかにできることから、ねじりバネＭ２６１４ａが折れる等の不良を防止し易く、耐久性の向上を図ることができる。更に、当接部材Ｍ２６０２の外形が円形で構成されることから、構造的に均一とすることができ、局所的に疲労が蓄積されて破損するという事態を避け易く、耐久性の向上を図ることができる。

【６７８３】

なお、当接部材Ｍ２６０２の形状は、外形が円形の筒状に限らず、外形が略球状に構成されるようにしても良い。例えば、当接部材Ｍ２６０２の外形を球状で形成した上で、延設支持部Ｍ２６１４と対向する側に延設支持部Ｍ２６１４を受け入れ可能な凹部を形成し、その凹部に延設支持部Ｍ２６１４が受け入れられるようにして当接部材Ｍ２６０２を配置しても良い。この場合、当接部材Ｍ２６０２の強度をより向上させることができる。

【６７８４】

また、当接部材Ｍ２６０２を構成する材料について、樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、当接部材Ｍ２６０２を金属材料から構成しても良い。

【６７８５】

当接部材Ｍ２６０２が樹脂材料から構成される場合には、材料的に軽量であるという利点や、安価であるという利点がある一方で、衝撃に弱く破損し易いという難点があり、それを解消するために肉厚になり易く、配置させるためのスペース確保が難しい場合があった。これに対し金属材料から形成する場合、強度的には十分であるので、無理に肉厚にする必要は無く、配置の自由度を向上させることができる。

【６７８６】

上記第５６実施形態では、可動装飾ユニットＭ６００の視認態様が、検出センサＭ４８３及び検出センサＭ３４８９により被案内部Ｍ５５０が検出されることに基づいて変化される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、検出センサＭ４８３又は検出センサＭ３４８９に検出されるはずとして設定される期間において検出センサＭ４８３又は検出センサＭ３４８９に検出されないことに基づいて、可動装飾ユニットＭ６００の視認態様が変化されるように構成しても良い。検出されることに基づくか、検出されないことに基づくかは、検出センサＭ４８３又は検出センサＭ３４８９ごとに設定が可能とされる。

【６７８７】

上記第５６実施形態では、調整表示として、縦の縮尺と横の縮尺とが同じ比率で縮小される表示となる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、縦だけ縮められた表示（表示が全体的に縦に潰された態様）となっていても良い。また、表示の大きさは変更されず、単に可動装飾ユニットＭ６００により隠される部分が生じるだけでも良い。

【６７８８】

また、調整表示について、表示位置は左右中央である必要は無く、右端または左端にあっても良いし、左右方向位置のいずれかにあっても良い。また、その位置を遊技者が設定可能とされていても良い。

【６７８９】

上記第５６実施形態では、調整表示において、電飾基板Ｍ６３０の発光態様を変化させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、調整表示として、電飾基板Ｍ６３０の発光態様を切り替えることに代えて、又はそれに加えて、導光板Ｍ２６０の発光を切り替えるようにしても良い。調整表示において導光板Ｍ２６０の第２発光形状Ｍ２７２を発光させるようにすることで、通常表示との違いを導光板Ｍ２６０の視認

態様で示すと共に、可動装飾ユニットＭ６００が下降して空いたスペース（演出跡地）が露出されることを防止することができる。

【６７９０】

上記第５６実施形態では、第１の関連動作制御等の制御が開始される前において、演出の都合上、調整表示から通常表示に切り替えられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、調整表示における縮小された表示の領域内において、第１の関連動作制御において動作される可動部（可動装飾ユニットＭ６００、移動装飾部Ｍ７７０、昇降移動部材Ｍ８６０等）の意匠が第３図柄表示装置Ｍ８１に動的に表示されることで遊技者に第１の関連動作制御と同等の動作態様を視認させるようにしても良い。また、この場合において、実際の可動体の前後関係に基づいて表示層の前後関係を設定するようにしても良い。

【６７９１】

上記第５６実施形態では、第１の関連動作制御等の制御が開始される前において、演出の都合上、調整表示から通常表示に切り替えられ、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００が動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ボタン部Ｈ１８１の操作に基づいて可動装飾ユニットＭ６００が動作されるようにしても良い。このボタン部Ｈ１８１の操作は、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示や、音声出力により示唆されるものではなくても良い。

【６７９２】

この場合において、可動装飾ユニットＭ６００の動作態様（動作速度、動作方向、動作量等）が、変動中の抽選が大当たりかどうかや、抽選の大当たり期待度の大小に基づいて変化するように構成される場合、ボタン部Ｈ１８１の操作意欲を高めると共に可動装飾ユニットＭ６００に対する注目力を向上させることができる。

【６７９３】

上記第５６実施形態では、調整表示にされることに基づいて、可動装飾ユニットＭ６００が下降されることで表示の視認範囲が狭められる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、昇降移動部材Ｍ８６０の上昇により表示範囲を上寄りで狭めるようにしても良いし、可動装飾ユニットＭ６００及び昇降移動部材Ｍ８６０を近接方向に動作させて表示範囲を上下中央位置寄りで狭めるようにしても良い。

【６７９４】

昇降移動部材Ｍ８６０の上昇により表示範囲を変える場合、通常は球案内ユニットＭ９００の背後に隠されており特定の演出動作（第１の関連動作制御等）が実行されないと視認することができない昇降移動部材Ｍ８６０を、遊技者が調整ボタンＨ３０４４を操作したタイミングで視認することが可能となる。これにより、昇降移動部材Ｍ８６０が視認される頻度を引き上げることができ、昇降移動部材Ｍ８６０の演出効果を向上させることができる。

【６７９５】

この場合において、橙色にＬＥＤの発光ベースが変更されるのを、昇降移動部材Ｍ８６０だけではなく、可動装飾ユニットＭ６００と共通で行っても良い。即ち、昇降移動部材Ｍ８６０の電飾基板Ｍ８６４と、可動装飾ユニットＭ６００の電飾基板Ｍ６３０とで行っても良い。

【６７９６】

この場合において、発光ベースが別々に変更されても良い。例えば、電飾基板Ｍ８６４は白色ベースから橙色ベースに変更され、電飾基板Ｍ６３０は白色ベースから赤色ベースに変更されても良い。

【６７９７】

または、発光ベースの発光色は変更されず、光量が明確に変化されるようにしても良い。例えば、通常は使用しないようなＬＥＤの最大光量で発光させるように制御しても良い。

【６７９８】

上記第５６実施形態では、調整表示における表示色のベースは橙色（電飾基板Ｍ６３０の発光のベースに合わせた色味）とはならず、通常表示と同様の色味で表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、調整表示における表示色のベースについても橙色に変化させても良い。この場合、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示の大小だけではなく、表示の色味からも、通常表示ではなく調整表示となっていることを遊技者に把握させ易くすることができる。そのため、先に遊技を行っていた遊技者が調整表示に変更したままで席を立った場合に、その後で遊技を開始した遊技者が、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示が通常表示ではなく調整表示とされていることに気づかずに調整表示のまま遊技を継続する事態を回避し易くすることができる。

【６７９９】

上記第５６実施形態では、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が調整表示とされる場合、電飾基板Ｍ６３０の発光の明るさが最大で固定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、機能調整操作部Ｈ１９０を操作することによる電飾基板Ｍ６３０による発光の明るさ等についての設定が、調整表示とされる場合にも流用されるように制御しても良い。この場合、調整表示とされた場合に電飾基板Ｍ６３０の発光の明るさが突然変化した際に、その変化を、抽選に係る変動表示に対応した明るさの変化であると遊技者が勘違いする事態の発生を回避し易くすることができる。

【６８００】

上記第５６実施形態では、検出センサＭ３４８９により検出片Ｍ５５４が検出される時間長さについてある条件が成立した場合に通常表示から調整表示に切り替えられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、検出センサＭ３４８９により検出片Ｍ５５４が検出されたら即座に通常表示から調整表示に切り替えられるように構成しても良い。この場合、通常表示と調整表示とを切り替える制御が容易となり、制御のためのデータ容量を縮小させることができる。

【６８０１】

上記第５６実施形態では、検出センサＭ３４８９により検出片Ｍ５５４が検出される時間長さについてある条件が成立した場合に通常表示から調整表示に切り替えられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、事前に設定された数値との比較によるものであれば十分であり、事前に設定された検出回数とのずれ（回数超過または回数未達）や、事前に設定された検出頻度とのずれ（頻度超過または頻度未達）を条件として通常表示から調整表示に切り替えられるよう構成しても良い。

【６８０２】

上記第５６実施形態では、調整ボタンＨ３０４４が操作有効状態において操作されると、被案内部Ｍ５５０が中間位置まで下降し、可動装飾ユニットＭ６００が中間状態まで回転移動するように制御されると共に、第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が調整表示に切り替えられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、調整ボタンＨ３０４４が操作されると被案内部Ｍ５５０及び可動装飾ユニットＭ６００が第１の関連動作制御で動作され、その途中で被案内部Ｍ５５０が中間位置とされ、可動装飾ユニットＭ６００が中間状態とされる状態において停止されると共に第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が調整表示に切り替えられるように構成しても良い。

【６８０３】

この場合、調整ボタンＨ３０４４が操作された場合における可動装飾ユニットＭ６００の動作範囲を大きくすることで、可動装飾ユニットＭ６００への遊技者の注目力を向上させることができる。なお、この場合においても、再び調整ボタンＨ３０４４が操作された場合における可動装飾ユニットＭ６００の動作は、復帰制御で構成されることから、通常表示への切り替えを即座に実行させることが可能とされるので、調整表示から通常表示に切り替えるのに要する待ち時間を短縮させることができる。

【６８０４】

上記第５６実施形態では、調整表示への切り替えと共に可動装飾ユニットＭ６００を動作させるための操作部として調整ボタンＨ３０４４のみを備える場合を説明したが、必ず

しもこれに限られるものではない。例えば、操作することで昇降移動部材Ｍ８６０を上昇移動または下降移動させることができる第２調整ボタンを追加で備えるようにしても良い。即ち、昇降移動部材Ｍ８６０が下端位置状態の時に第２調整ボタンが操作されると昇降移動部材Ｍ８６０が上端位置状態へ向けて上昇移動され、昇降移動部材Ｍ８６０が上端位置状態の時に第２調整ボタンが操作されると昇降移動部材Ｍ８６０が下端位置状態へ向けて下降移動される。

【６８０５】

第２調整ボタンの操作により昇降移動部材Ｍ８６０が上端位置状態とされている場合、調整ボタンＨ３０４４の操作により動作される演出動作ユニットＭ５００の動作態様によっては（例えば、第１の関連動作制御による動作の場合）、演出動作ユニットＭ５００が昇降移動部材Ｍ８６０と干渉し、移動を完了できないため、昇降移動部材Ｍ８６０が上端位置状態である場合には演出動作ユニットＭ５００の動作の実行を開始しないように制御しても良い。これにより、演出動作ユニットＭ５００と昇降移動部材Ｍ８６０とが衝突する事態を避け、破損防止を図ることができる。

【６８０６】

また、昇降移動部材Ｍ８６０が上端位置状態であることを検出する検出センサを追加し、その検出センサの検出結果により昇降移動部材Ｍ８６０が上端位置状態であると判断された場合には、演出動作ユニットＭ５００の動作が開始される前に、遊技者に対して第２調整ボタンを操作することを促す報知を実行するように構成しても良い。これに応じて遊技者が第２調整ボタンを操作した場合には、昇降移動部材Ｍ８６０が下降移動されることで、演出動作ユニットＭ５００が移動を完了できる状態となる。これにより、演出動作ユニットＭ５００と昇降移動部材Ｍ８６０とが衝突する事態を避け、破損防止を図ることができると共に、報知により遊技者の遊技に対する参加意欲を促進することができる。

【６８０７】

なお、第２調整ボタンは、新規の構成として正面枠Ｈ３０１４に追加するようにしても良いが、既にある構成を兼用するようにすれば、新規の構成を追加する場合に比較して正面枠Ｈ３０１４の外観に与える影響を少なくでき、製造用の金型を流用することができるので、製造コストの低減を図ることができる。例えば、ボタン部Ｈ１８１や、機能調整操作部Ｈ１９０や、球抜きレバーＨ５２や、球排出レバーＨ５４等に、第２調整ボタンとしての機能を兼用させるように構成することが想定される。

【６８０８】

この場合において、ボタン部Ｈ１８１が第２調整ボタンとしての機能を兼用する場合、ボタン部Ｈ１８１が上下皿ユニットＨ１５の左右中央位置において他の操作部材に比較して大きな構造物として配設されていることから、操作させ易く、遊技者が操作部を探す際のストレスを低減することができる。

【６８０９】

機能調整操作部Ｈ１９０が第２調整ボタンとしての機能を兼用する場合、特に、決定ボタンＨ１９１にその機能を持たせることで、決定ボタンＨ１９１の有効利用を図ることができる。決定ボタンＨ１９１は、音量や光量の設定をした後においては、操作されること自体が稀であり、構成として無駄となってしまう。これに対し、決定ボタンＨ１９１に第２調整ボタンとしての機能を持たせることで、音量や光量の設定をした後においても機能調整操作部Ｈ１９０を意味のある構成とすることができる。

【６８１０】

球抜きレバーＨ５２が第２調整ボタンとしての機能を兼用する場合、遊技の調整を行う主なタイミングとなる遊技開始時には下皿Ｈ５０には球が未だ貯留されていないはずなので、第２調整ボタンとして操作しても、下皿５０に貯留されている遊技球を意図せず排出することになるという事態を避け易い。

【６８１１】

更に、ファール球が下皿へ供給される関係上、気づかない間に下皿Ｈ５０に球が数球残される（溜まる）ことがあるが、上皿Ｈ１７やボタン部Ｈ１８１に視界が遮られることで

下皿Ｈ５０の内部は視認されにくくなっており、下皿Ｈ５０の残球に遊技者が気づかないことがある。これに対し、球抜きレバーＨ５２が第２調整ボタンとしての機能を兼用する場合、遊技の調整を行う主なタイミングとなる遊技開始時に積極的に球抜きレバーＨ５２を操作させることで、下皿Ｈ５０の残球の存在を遊技者に気付かせ易くすることができる。

【６８１２】

球排出レバーＨ５４が第２調整ボタンとしての機能を兼用する場合、遊技の調整を行う主なタイミングとなる遊技開始時において、球貸しボタンＨ４２を操作する前には上皿Ｈ１７には球が未だ貯留されていないはずなので、第２調整ボタンとして操作しても、上皿Ｈ１７に貯留されている遊技球を意図せず排出することになるという事態を避け易いため、せっかく上皿Ｈ１７に貯留されている球を無駄に排出するという事態を避けられる。

【６８１３】

なお、昇降移動部材Ｍ８６０が上端位置状態とされている場合に調整ボタンＨ３０４４の操作により動作される演出動作ユニットＭ５００が昇降移動部材Ｍ８６０と干渉することから、第２調整ボタンの操作を促す報知をする代わりに、又は報知をすることに加えて、昇降移動部材Ｍ８６０が上端位置状態とされている場合に調整ボタンＨ３０４４が操作された場合には昇降移動部材Ｍ８６０が演出動作ユニットＭ５００と干渉しない位置に移動する制御（下端位置状態へ向けて移動する制御）がされ、その制御が完了した後で演出動作ユニットＭ５００が動作されても良い。

【６８１４】

これにより、演出動作ユニットＭ５００と昇降移動部材Ｍ８６０とが衝突する事態を避け、破損防止を図ることができる。更に、調整ボタンＨ３０４４の操作に加え、別のボタンの操作も必要とされる場合に比較して、遊技者が煩わしく感じることを避け易く、遊技を快適とすることができる。

【６８１５】

上記第５６実施形態では、調整ボタンＨ３０４４の操作により演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００が復帰制御により退避され、被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４が検出センサＭ４８３に検出されることに基づいて第３図柄表示装置Ｍ８１における表示が縮小された表示（調整表示）から元の表示（通常表示）に戻される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、被案内部Ｍ５５０の検出片Ｍ５５４が検出センサＭ４８３に検出された場合に、調整表示のまま維持可能に構成しても良い。この場合において、更に、現在実行されている変動表示に対応する抽選の大当たり期待度が高い場合に調整表示で維持され易いように制御を構築することで、遊技者に対して調整ボタンＨ３０４４の操作を意欲的に実行させることができる。

【６８１６】

上記第５６実施形態では、第１の関連動作制御等、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示と複合動作役物ユニットＭ３４００の動作とが関連する制御が実行開始される場合には、演出の都合上、調整表示から通常表示に切り替えられるよう制御される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、制御の実行に関わらず、調整ボタンＨ３０４４の操作がされない限り調整表示から通常表示に切り替えられることは無いように構成しても良い。この場合、調整ボタンＨ３０４４を一度操作すれば、調整表示で維持した状態で遊技を継続することができるので、調整ボタンＨ３０４４を繰り返し操作する必要がある場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【６８１７】

上記第５７実施形態では、リンク部材Ｍ３６６０の復帰動作が弾性バネＭ６５５の付勢力による場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、リンク部材Ｍ３６６０の所定部に錘が配設され自重による回転で復帰しても良い。この場合、リンク部材Ｍ３６６０の復帰動作をバネ弾性に基づく弾性的な動作ではなく、重力加速度に基づく動作とすることができるので、仮に弾性バネＭ６５５が劣化したとしてもリンク部材Ｍ３６６０の動作不良が生じることを避けることができるし、更にはリンク部材Ｍ３６６０

の復帰動作が後側スライド移動体Ｍ６５０に起因する状況を回避することができ、後側スライド移動体Ｍ６５０の配設を省略することができる。また、リンク部材Ｍ３６６０に駆動力を付与する別の駆動装置を配設して、その駆動装置の駆動によってリンク部材Ｍ３６６０の回転動作を任意のタイミングで実行可能に構成することにより、駆動力で復帰するようにしても良い。この場合、駆動装置の駆動力によりリンク部材Ｍ３６６０を任意の姿勢で停止させることも可能となる。

【６８１８】

上記第５７実施形態では、ピン付きギアＭ５８２の回転が駆動モータＭ５０１の駆動制御のみ対応する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、駆動モータＭ５０１の駆動が解除されている場合においてピン付きギアＭ５８２の回転が発生する場合を構成可能としても良い。即ち、例えば、円弧形成部Ｍ５８４ａに金属材料から形成される錘部を配設することで、可動装飾ユニットＭ３６００が起き上がり側終端状態である場合からのピン付きギアＭ５８２の正面視反時計回り方向への回転角度が小さい場合（駆動力が弱い場合）に、錘部による回転動作によりピン付きギアＭ５８２が元の姿勢に戻るように構成しても良い。この場合、駆動モータＭ５０１の駆動力が意図せず弱くなった場合に、演出意図に合わない不十分な角度でピン付きギアＭ５８２が停止する事態が生じても、ピン付きギアＭ５８２を自動的に元の姿勢に戻すことができる。

【６８１９】

なお、円弧形成部Ｍ５８４ａに金属材料から形成される錘部を配設しない構成であれば、自動的にピン付きギアＭ５８２を回転させることはできないとしても、ピン付きギアＭ５８２及び円板付きギアＭ５８４の回転抵抗を低減させることができるので、ピン付きギアＭ５８２を回転動作させるのに必要となる駆動モータＭ５０１の駆動力を抑制させることができるので、駆動モータＭ５０１の駆動力が意図せず弱くなる事態が発生し難くすることができる。また、ピン付きギアＭ５８２に対して正面視時計回りに方向に付勢力を付与する付勢バネを採用することで、ピン付きギアＭ５８２に戻り動作をさせるように構成しても良い。

【６８２０】

上記第５７実施形態では、ピン付きギアＭ５８２が正面視反時計回りに回転動作中に柱状部Ｍ５８２ａが被押進板部Ｍ３６６３を越えた場合に、リンク部材Ｍ３６６０が即座に傾倒する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、弾性バネＭ６５５を省略することで、リンク部材Ｍ３６６０の回転動作は柱状部Ｍ５８２ａから付与される荷重でのみ実行され柱状部Ｍ５８２ａがリンク部材Ｍ３６６０から離間している状態ではリンク部材Ｍ３６６０の姿勢が維持されるように構成しても良い。

【６８２１】

この場合、リンク部材Ｍ３６６０に付勢力がかけられていないので、押進時における動作抵抗を低減させることができ、ピン付きギアＭ５８２の回転動作に要する駆動モータＭ５０１の駆動力を小さく抑えることができるし、更に、柱状部Ｍ５８２ａが被押進板部Ｍ３６６３を越えた後でピン付きギアＭ５８２の回転方向を反転させた場合でも被押進板部Ｍ３６６３に柱状部Ｍ５８２ａが進行を遮られることが無いので、ピン付きギアＭ５８２の回転動作の設計自由度を向上させることができる。

【６８２２】

なお、この場合であっても、ピン付きギアＭ５８２が正面視時計回り方向で回転動作する場合に柱状部Ｍ５８２ａが対向突部Ｍ３６６４を押進することでリンク部材Ｍ３６６０の姿勢を変化させることから、リンク部材Ｍ３６６０の往復回転動作は問題なく実行可能である。

【６８２３】

上記第５７実施形態では、リンク部材Ｍ３６６０が二股の爪を有するように構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、片方の爪（被押進板部Ｍ３６６３）のみが形成され、残りの爪（対向突部Ｍ３６６４）は省略しても良い。対向突部Ｍ３６６４があれば、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａの動作速度に対応した速度でリン

ク部材Ｍ３６６０を動作させることができる（追従動作させることができる）が、リンク部材Ｍ３６６０の戻り動作は付勢力や自重に任せるとして対向突部Ｍ３６６４を省略しても良い。

【６８２４】

この場合、ピン付きギアＭ５８２の動作の設計自由度を向上させることができる。即ち、ピン付きギアＭ５８２が正面視反時計回りで継続回転される場合において、仮にリンク部材Ｍ３６６０の姿勢が中途半端な状態で柱状部Ｍ５８２ａがリンク部材Ｍ３６６０に衝突しても（例えば、リンク部材Ｍ３６６０の姿勢が復帰しきる前に柱状部Ｍ５８２ａがリンク部材Ｍ３６６０に衝突するほどにピン付きギアＭ５８２の回転速度が高速とされたとしても）、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａが対向突部Ｍ３６６４と衝突する事態が生じることは無く、常に柱状部Ｍ５８２ａを被押進板部Ｍ３６６３で受けることができるので、ピン付きギアＭ５８２を高速で回転制御させることができる。また、リンク部材Ｍ３６６０の初期姿勢の設定の自由度についても向上させることができ、柱状部Ｍ５８２ａを待ち受ける際のリンク部材Ｍ３６６０の姿勢にバリエーションを増やす設計をすることができる。

【６８２５】

上記第５７実施形態では、リンク部材Ｍ３６６０が二股の爪を有するように構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、二股の爪とされている部分の先端部が連結され、柱状部Ｍ５８２ａを内周側に配置させる異形孔形状を有する構成としても良い。この場合、柱状部Ｍ５８２ａがリンク部材Ｍ３６６０から外れることを防止することができ、動作を安定させることができる。

【６８２６】

上記第５７実施形態では、検出センサＭ３６６３として接触式のセンサが採用されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、柱状部Ｍ５８２ａが進入可能な検出溝を備える非接触式のセンサを採用しても良い。この場合、センサに柱状部Ｍ５８２ａからの荷重が付与されることが無く、荷重による欠損の可能性を低くすることができるので、安定して柱状部Ｍ５８２ａの移動を検出することができる。

【６８２７】

また、検出センサＭ３６６３の配置についても、変位部材Ｍ３６９０に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、柱状部Ｍ５８２ａの移動を検出可能な位置であれば、固定配置でも良い。この場合、変位部材Ｍ３６９０の移動により検出センサＭ３６６３の位置が設計位置（変位許容位置）から外れることを避けることができるので、柱状部Ｍ５８２ａの検出を安定させることができる。

【６８２８】

上記第５８実施形態では、回転移動部材Ｍ４６６０が二股の爪を有するように構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、片方の爪（被押進板部Ｍ３６６３）のみが形成され、残りの爪（対向突部Ｍ３６６４）は省略しても良い。対向突部Ｍ３６６４があれば、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａの動作速度に対応した速度で回転移動部材Ｍ４６６０を動作させることができる（追従動作させることができる）が、回転移動部材Ｍ４６６０の戻り動作は付勢力や自重に任せるとして対向突部Ｍ３６６４を省略しても良い。

【６８２９】

この場合、ピン付きギアＭ５８２の動作の設計自由度を向上させることができる。即ち、ピン付きギアＭ５８２が正面視反時計回りで継続回転される場合において、仮に回転移動部材Ｍ４６６０の姿勢が中途半端な状態で柱状部Ｍ５８２ａが回転移動部材Ｍ４６６０に衝突しても（例えば、回転移動部材Ｍ４６６０の姿勢が復帰しきる前に柱状部Ｍ５８２ａが回転移動部材Ｍ４６６０に衝突するほどにピン付きギアＭ５８２の回転速度が高速とされたとしても）、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａが対向突部Ｍ３６６４と衝突する事態が生じることは無く、常に柱状部Ｍ５８２ａを被押進板部Ｍ３６６３で受けることができるので、ピン付きギアＭ５８２を高速で回転制御させることができる。また、

回転移動部材Ｍ４６６０の初期姿勢の設定の自由度についても向上させることができ、柱状部Ｍ５８２ａを待ち受ける際の回転移動部材Ｍ４６６０の姿勢にバリエーションを増やす設計をすることができる。

【６８３０】

上記第５８実施形態では、ピン付きギアＭ５８２は可動装飾ユニットＭ４６００に遮蔽されることで視認されないようになっており、可動装飾ユニットＭ４６００の動作速度から回転移動部材Ｍ４６６０の回転動作について遊技者に予測させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ピン付きギアＭ５８２ａと重なる位置における可動装飾ユニットＭ４６００の部品が光透過性材料から形成されており、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａが正面視で視認可能に構成されても良い。

【６８３１】

この場合、回転移動部材Ｍ４６６０を押進する柱状部Ｍ５８２ａの動作速度を直接視認させることができるので、例えば可動装飾ユニットＭ４６００から柱状部Ｍ５８２ａが離間する場合（可動装飾ユニットＭ４６００を置き去りにして柱状部Ｍ５８２ａが下方へ回転移動する場合等）であっても、回転移動部材Ｍ４６６０の動作を柱状部Ｍ５８２ａの動作態様から予測することが可能となるので、柱状部Ｍ５８２ａに対する注目力を向上させることができる。

【６８３２】

なお、柱状部Ｍ５８２ａを視認させる領域は、柱状部Ｍ５８２ａの移動軌跡の全体を含む領域として設定しても良いし、柱状部Ｍ５８２ａの移動軌跡の一部のみを含む領域として設定しても良い。例えば、回転移動部材Ｍ４６６０に近い側（例えば、ピン付きギアＭ５８２の回転軸よりも下側）においてピン付きギアＭ５８２ａが視認可能とされ、回転移動部材Ｍ４６６０から離れた側（例えば、ピン付きギアＭ５８２の回転軸よりも上側）においてピン付きギアＭ５８２ａが視認不能とされるように構成しても良い。

【６８３３】

この場合、回転移動部材Ｍ４６６０に当接する以前から当接するタイミングまで柱状部Ｍ５８２ａを視認可能とすることで、柱状部Ｍ５８２ａの動作速度を遊技者に把握させることができ、柱状部Ｍ５８２ａに対する注目力を向上させることができる一方で、回転移動部材Ｍ４６６０に当接しない場合にまで柱状部Ｍ５８２ａに注目が向かうことを避けることができる。これにより、遊技者の目線を分散させることができる。

【６８３４】

上記第５８実施形態では、可動装飾ユニットＭ４６００の起き上がり側終端状態から傾倒側終端状態へ向けた動作中においてボタン部Ｈ１８１を操作することでピン付きギアＭ５８２の動作速度が変化され得る場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、可動装飾ユニットＭ４６００が起き上がり側終端状態とされている状態でボタン部Ｈ１８１を操作すると、ピン付きギアＭ５８２が正面視反時計回り方向で回転動作される場合を構成可能としても良い。

【６８３５】

この場合において、ボタン部Ｈ１８１の操作によるピン付きギアＭ５８２の動作態様は種々の態様が例示される。例えば、ピン付きギアＭ５８２は所定の角度を往復回転動作するものでも良いし、一方向に回転動作するものでも良い。また、例えば、ボタン部Ｈ１８１を一回操作する度に一定の角度回転動作される（複数回の操作で、一定の角度と操作回数との積となる角度で回転動作される）ものでも良いし、ボタン部Ｈ１８１を操作している期間においてピン付きギアＭ５８２の動作が継続されるものでも良いし、ボタン部Ｈ１８１の操作量を検出可能に構成し操作量が大きいほどピン付きギアＭ５８２の動作速度が高速となるように構成しても良い。

【６８３６】

また、ボタン部Ｈ１８１の操作が解除された時においてピン付きギアＭ５８２が停止するものでも良いし、動作前の状態に復帰するように戻り動作するものでも良い。戻り動作するものである場合、ボタン部Ｈ１８１の操作を解除した状態でも可動装飾ユニットＭ４

６００の動作が継続されることから、ボタン部Ｈ１８１及び可動装飾ユニットＭ４６００に注目を分散させることができる。また、戻り動作の有無が、ピン付きギアＭ５８２の柱状部Ｍ５８２ａの変位量に基づいて決定されても良い。柱状部Ｍ５８２ａの変位量が僅か（例えば、回転移動部材Ｍ４６６０に到達しない量）である場合には戻り動作させる一方、それ以上に変位している場合（回転移動部材Ｍ４６６０を越える程度に変位している場合）には、同方向に回転動作させる方が戻り動作に必要な回転角度を抑えられる。

【６８３７】

上記第５８実施形態では、ピン付きギアＭ５８２の回転動作に対応して可動装飾ユニットＭ４６００が回転動作する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、可動装飾ユニットＭ４６００の回転先端側を下支え可能な出没式のストッパ装置を備え、没入状態では可動装飾ユニットＭ４６００の回転動作を許容し、突出状態では可動装飾ユニットＭ４６００を起き上がり側終端状態で固定する（回転動作を許容しない）ように構成しても良い。

【６８３８】

この場合、可動装飾ユニットＭ４６００は起き上がり側終端状態で維持したままで回転移動部材Ｍ４６６０を回転動作させることが可能となるので、動作態様として、可動装飾ユニットＭ４６００の独立動作だけでなく、回転移動部材Ｍ４６６０の独立動作も構成させることができる。なお、このストッパ装置を上記第５４実施形態～上記第５７実施形態において採用しても良い。

【６８３９】

上記第５８実施形態では、回転移動部材Ｍ４６６０の待機状態において延設構成部Ｍ４６６５が視認可能とされ、発光演出を実行可能な場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、待機状態において延設構成部Ｍ４６６５が視認不能に構成されても良い。これにより、延設構成部Ｍ４６６５へ注目させるタイミングを、延設構成部Ｍ４６６５が待機状態から動作した場合に限定させることができ、延設構成部Ｍ４６６５が待機状態にある場合には注目を他の箇所（例えば、第３図柄表示装置Ｍ８１の表示等）に向けさせることができる。

【６８４０】

上記第５８実施形態では、延設構成部Ｍ４６６５において発光部Ｍ４６６６が等間隔で配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、不等間隔でも良い。特に、可動装飾ユニットＭ４６００に隠されない回転先端側において残像を形成可能な領域は、回転動作軌跡としての円の径方向の幅が狭いため、回転先端側における発光部Ｍ４６６６の配置間隔を狭めることで、より精密な表示を可能とすることができる。

【６８４１】

上記第５８実施形態では、延設構成部Ｍ４６６５を構成したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、延設構成部Ｍ４６６５の構成を省略しても良い。この場合においても、残像形状Ｍ４６９１Ｆ，Ｍ４６９２Ｆについては、対応する透過表示を第３図柄表示装置Ｍ８１で実行させることで同様の演出効果を生じさせることができる。

【６８４２】

本発明を上記各実施形態とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される）として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の領域に球を入賞させることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるパチンコ機として実施してもよい。また、Ｖゾーン等の特別領域を有する入賞装置を有し、その特別領域に球を入賞させることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機に実施してもよい。更に、パチンコ機以外にも、アレパチ、雀球、スロットマシン、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機などの各種遊技機として実施するようにしても良い。

【６８４３】
なお、スロットマシンは、例えばコインを投入して図柄有効ラインを決定させた状態で操作レバーを操作することにより図柄が変動され、ストップボタンを操作することにより図柄が停止されて確定される周知のものである。従って、スロットマシンの基本概念としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を変動表示した後に識別情報を確定表示する表示装置を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の変動表示が停止して確定表示され、その停止時の識別情報の組合せが特定のものであることを必要条件として、遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるスロットマシン」となり、この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。
【６８４４】
また、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する表示装置を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく所定量の球の投入の後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技が発生させられ、遊技者には、下部の受皿に多量の球が払い出されるものである。かかる遊技機をスロットマシンに代えて使用すれば、遊技ホールでは球のみを遊技価値として取り扱うことができるため、パチンコ機とスロットマシンとが混在している現在の遊技ホールにおいてみられる、遊技価値たるメダルと球との別個の取扱による設備上の負担や遊技機設置個所の制約といった問題を解消し得る。
【６８４５】
以下に、本発明の遊技機に加えて上述した実施形態に含まれる各種発明の概念を示す。
【６８４６】
＜所定領域において一緒に動作させる構造＞
表示装置と、その表示装置の表示領域の正面視外方から変位され前記表示装置の前方側に位置し得る第１手段が当接可能とされる第２手段と、を備え、所定領域における前記第１手段の上方側への変位に基づく前記第１手段との当接により前記第２手段が変位される遊技機であって、前記所定領域における前記第１手段の変位を案内可能な案内手段を備え、前記遊技機は、前記第１手段の変位に基づく前記第２手段の変位を抑制する第３手段を備え、前記第２手段の変位が前記第３手段に抑制された後において、前記第１手段は前記第２手段から離間する態様で変位可能とされることを特徴とする遊技機ＭＡ１。
【６８４７】
パチンコ機等の遊技機において、変位可能な第１手段および第１手段の上方側への変位に基づいて変位される第２手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００９－８２３１１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、第１手段と第２手段とが常時接触されており、第１手段の変位を好適とする観点で改善の余地があるという問題点があった。
【６８４８】
これに対し、遊技機ＭＡ１によれば、第１手段と、第２手段とが、所定領域において共に変位されるものであって、第２手段の変位を抑制する第３手段を備え、第２手段の変位が第３手段に抑制された後において、第１手段は第２手段から離間する態様で変位可能とされることから、第１手段の変位を好適とすることができる。
【６８４９】
第１手段は、それ単体で動作可能に構成される可動装飾ユニットＭ６００自体でも良いし、可動装飾ユニットＭ６００の一部として構成される当接部材Ｍ６０２でも良いし、可動装飾ユニットＭ２６００の当接部材Ｍ２６０２でも良い。また、樹脂材料から構成され

る部材であってもよく、金属材料から構成される部材であってもよい。第２手段は、扇形状構成部Ｍ５６０でも良い。案内手段は、円弧状貫通部Ｍ５１５でも良い。第３手段は、突設補助部Ｍ５４５でも良いし、円板付きギアＭ５８４でも良い。

【６８５０】

遊技機ＭＡ１において、前記第１手段は、前記第２手段の変位が前記第３手段に抑制された後において下方へ変位される場合に前記第２手段から離間されることを特徴とする遊技機ＭＡ２。

【６８５１】

遊技機ＭＡ２によれば、遊技機ＭＡ１の奏する効果に加え、第３手段によって第２手段の変位が抑制された後においても、その抑制が第１手段にまで影響を及ぼす事態を避け易くすることができる。

【６８５２】

遊技機ＭＡ１又はＭＡ２において、前記所定領域における前記第１手段の上方側への変位に基づいて前記第２手段が変位された場合において、前記第１手段が前記第２手段を越える態様で変位されることを特徴とする遊技機ＭＡ３。

【６８５３】

遊技機ＭＡ３によれば、遊技機ＭＡ１又はＭＡ２の奏する効果に加え、第１手段の変位が、第３手段により抑制された第２手段に制限を受けないで実行されるよう構成することができる。

【６８５４】

遊技機ＭＡ１からＭＡ３のいずれかにおいて、前記所定領域における前記第１手段の上方側への変位に基づいて前記第２手段が変位され、前記第１手段が前記第２手段から離間された場合において、前記第２手段は、変位される前の位置へ復帰する動作が可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＡ４。

【６８５５】

遊技機ＭＡ４によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ３のいずれかの奏する効果に加え、第１手段により変位される前の第２手段の位置を安定させることができる。

【６８５６】

遊技機ＭＡ１からＭＡ４のいずれかにおいて、前記第２手段は前後方向の変位はせず、前記第１手段は前後方向の変位が許容されることを特徴とする遊技機ＭＡ５。

【６８５７】

遊技機ＭＡ５によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ４のいずれかの奏する効果に加え、第１手段と第２手段との当接位置を変化させることができ、当接位置における疲労の蓄積を低減させることができる。

【６８５８】

遊技機ＭＡ１からＭＡ５のいずれかにおいて、駆動手段を備え、前記第１手段は前記駆動手段の駆動力で上向きに移動されることを特徴とする遊技機ＭＡ６。

【６８５９】

遊技機ＭＡ６によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ５のいずれかの奏する効果に加え、自重による変位の他、駆動手段の駆動力による変位を構成することができる。駆動手段は駆動モータＭ５０１でも良い。

【６８６０】

遊技機ＭＡ１からＭＡ６のいずれかにおいて、検出手段を備え、前記第１手段の変位は前記検出手段により検出可能とされ、前記第２手段の変位は前記検出手段により検出されないことを特徴とする遊技機ＭＡ７。

【６８６１】

遊技機ＭＡ７によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ６のいずれかの奏する効果に加え、検出手段の配設個数を削減することができる。

【６８６２】

遊技機ＭＡ１からＭＡ７のいずれかにおいて、前記第１手段および前記第２手段は、共

通の回転軸を中心として回転移動可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＡ８。
【６８６３】
遊技機ＭＡ８によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ７のいずれかの奏する効果に加え、第１手段および第２手段の変位の方向を合わせることができる。
【６８６４】
遊技機ＭＡ１からＭＡ８のいずれかにおいて、前記第２手段は、所定の回転軸を中心とした回転移動が、前記所定の回転軸の移動中に実行可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＡ９。
【６８６５】
遊技機ＭＡ９によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ８のいずれかの奏する効果に加え、第２手段の動作態様を複数種類構成可能となる。
【６８６６】
遊技機ＭＡ１からＭＡ９のいずれかにおいて、前記第１手段は、前記第２手段に近接する方向で前記所定領域へ向けて変位され前記第２手段に当接可能に構成されており、前記第１手段が前記第２手段に近接する方向で前記所定領域へ向けて変位される場合において、前記第２手段は、前記第１手段が当接していない状態において停止されることを特徴とする遊技機ＭＡ１０。
【６８６７】
遊技機ＭＡ１０によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ９のいずれかの奏する効果に加え、第１手段が第２手段に対して近接する方向で変位される場合に第２手段が停止されることから、当接位置を安定させることができる。
【６８６８】
遊技機ＭＡ１からＭＡ１０のいずれかにおいて、前記所定領域の少なくとも一部において、前記第１手段の変位方向が所定方向からその逆方向に変化可能に構成されており、前記第２手段が前記第３手段により前記第１手段の前記逆方向への変位に対する抵抗を生じるように構成されることを特徴とする遊技機ＭＡ１１。
【６８６９】
遊技機ＭＡ１１によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ１０のいずれかの奏する効果に加え、第１手段が逆方向よりも所定方向に変位し易いようにすることができるので、第１手段の所定方向への変位を安定的に生じさせることができる。
【６８７０】
遊技機ＭＡ１からＭＡ１１のいずれかにおいて、前記第２手段は、所定の回転軸を中心に往復動作可能に構成され、前記所定の回転軸は、少なくとも金属部材を含み、皿状部を端部に有する棒状部材であることを特徴とする遊技機ＭＡ１２。
【６８７１】
遊技機ＭＡ１２によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ１１のいずれかの奏する効果に加え、第２手段を所定の回転軸で支持するという支持強度が足らなくなりがちな構成にあっても、回転軸が少なくとも金属部材を含むことで強度を確保することができ、更に回転軸の形状により第２手段の軸線方向の位置ずれを防止し易くすることができる。
【６８７２】
遊技機ＭＡ１からＭＡ１２のいずれかにおいて、前記案内手段には、前記第１手段を検出可能な検出手段が配設されることを特徴とする遊技機ＭＡ１３。
【６８７３】
遊技機ＭＡ１３によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ１２のいずれかの奏する効果に加え、案内手段を、第１手段の変位を案内するものと、検出手段を配設するものとで兼用させることができる。
【６８７４】
遊技機ＭＡ１２又はＭＡ１３において、前記案内手段は、前記所定の回転軸を配置させる孔部を備えることを特徴とする遊技機ＭＡ１４。
【６８７５】

遊技機ＭＡ１４によれば、遊技機ＭＡ１２又はＭＡ１３の奏する効果に加え、第１手段の変位を案内する案内手段の孔部に第２手段の回転軸としての所定の回転軸が配置されることから、第１手段の変位を第２手段の変位に対応させ易くすることができる。

【６８７６】

遊技機ＭＡ１からＭＡ１４のいずれかにおいて、前記第１手段の速度が大きい場合の方が、前記第１手段の速度が小さい場合に比較して、前記第１手段が前記第２手段を超えて通過され易いよう構成されることを特徴とする遊技機ＭＡ１５。

【６８７７】

遊技機ＭＡ１５によれば、遊技機ＭＡ１からＭＡ１４のいずれかの奏する効果に加え、第１手段の速度を異ならせることにより、第１手段の変位態様を異ならせることができるので、第１手段の変位のバリエーションの増加を図ることができる。

【６８７８】

＜移動手段の移動途中で動作する第２動作手段を有する構成＞

駆動手段と、移動手段へ前記駆動手段の駆動力を伝達させるための伝達手段と、前記移動手段を所定方向に移動させる場合に動作される第１動作手段と、前記移動手段の移動可能領域に少なくとも一部が位置するように構成されており前記移動手段に当接されることに基づく動作が可能に構成される第２動作手段と、を備え、前記第２動作手段は、前記第１動作手段の所定部から離間して配置されており、前記移動手段は、前記第２動作手段と当接する第１領域と、その第１領域とは異なる第２領域とを移動可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＢ１。

【６８７９】

パチンコ機等の遊技機において、駆動モータにより回転される駆動ギアに連動して回転移動される移動手段である回転移動ギアの偏心した位置から円柱状に突設される突設部を介して駆動力が伝達される動作手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００９－８２３１１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、回転移動ギアの動作により実現される動作は動作手段が往復される態様に限定されており、動作による演出が単調となっていた。一方で、単純に動作手段の動作態様を増加させるとしても、回転移動ギアの回転（抵抗）に影響を及ぼす可能性があり、それを解決するための困難性が生じることは想像に難くない。即ち、上述した従来の遊技機では、回転移動ギアにより生じる動作が複数構成される場合に、回転移動ギアである移動手段の移動を好適とする観点から改善の余地があるという問題点があった。

【６８８０】

これに対し、遊技機ＭＢ１によれば、移動手段により動作される第１動作手段と第２動作手段とが構成され、それらが離間して配置されていることから、移動手段に対する第１動作手段からの影響と、第２動作手段からの影響とが、同時に生じることを回避し易くすることができるので、移動手段の移動を好適とすることができる。

【６８８１】

なお、駆動手段は、駆動モータＭ５０１でもよく、移動手段は、柱状部Ｍ５８２ａでもよく、伝達手段は、モータギアＭ５８１でもよく、第１動作手段は、板状本体部Ｍ６１０でもよく、第２動作手段は、リンク部材Ｍ６６０でもよい。

【６８８２】

遊技機ＭＢ１において、前記第１動作手段の所定動作が実行された後で前記第２動作手段が動作され得ることを特徴とする遊技機ＭＢ２。

【６８８３】

遊技機ＭＢ２によれば、遊技機ＭＢ１の奏する効果に加え、第１動作手段の動作が実行されたことを把握させた場合に第２動作手段が動作することを事前に把握させることができるので、第２動作手段に注目させることができる。

【６８８４】

遊技機ＭＢ２において、前記所定動作が実行された後で前記第２動作手段が動作されない場合を構成可能とされており、前記所定方向に移動している前記移動手段が前記第２動

作手段に当接するよりも前の所定領域の少なくとも一部において前記移動手段が視認可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＢ３。

【６８８５】

遊技機ＭＢ３によれば、遊技機ＭＢ２の奏する効果に加え、第２動作手段が動作するか否かを所定領域の移動手段を視認することで把握することができるので、遊技者の注目力を所定領域に集めることができ、移動手段の移動に注目させることができる。

【６８８６】

遊技機ＭＢ３において、前記所定領域の少なくとも一部は、前記所定領域における前記第２動作手段に近い側に位置することを特徴とする遊技機ＭＢ４。

【６８８７】

遊技機ＭＢ４によれば、遊技機ＭＢ３の奏する効果に加え、第２動作手段に当接し得ない位置でまで移動手段に注目させることを避け、不必要な注目力の分散を防止することができる。

【６８８８】

遊技機ＭＢ１からＭＢ４のいずれかにおいて、前記第２動作手段が前記所定方向に移動する前記移動手段と一側の面で当接可能に構成され、その当接後、前記移動手段が前記第２動作手段から前記所定方向に離れる場合と、前記移動手段が前記第２動作手段から前記所定方向の逆方向に離れる場合とを構成可能であることを特徴とする遊技機ＭＢ５。

【６８８９】

遊技機ＭＢ５によれば、遊技機ＭＢ１からＭＢ４のいずれかの奏する効果に加え、第２２動作手段に当接された後の移動手段の移動のバリエーションを増やすことができ、第２動作手段および移動手段に対する注目力を向上させることができる。

【６８９０】

遊技機ＭＢ１からＭＢ５のいずれかにおいて、前記第２動作手段は、前記所定方向に移動する前記移動手段と一側の面で当接可能に構成され、その一側の面に当接し前記第１領域を通過した前記移動手段の前記所定方向の逆方向への移動を他側の面で遮ることが可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＢ６。

【６８９１】

遊技機ＭＢ６によれば、遊技機ＭＢ１からＭＢ５のいずれかの奏する効果に加え、第２動作手段により移動手段の逆方向への移動を遮ることができるので、移動手段の所定方向への移動を継続させ易くすることができる。

【６８９２】

遊技機ＭＢ１からＭＢ６のいずれかにおいて、前記第１動作手段が前記第２動作手段と一体的に変位する場合を構成可能であることを特徴とする遊技機ＭＢ７。

【６８９３】

遊技機ＭＢ７によれば、遊技機ＭＢ１からＭＢ６のいずれかの奏する効果に加え、第１動作手段と第２動作手段とが別々に動作される場合のみではなく、一体的に変位する場合を構成できることで、第１動作手段および第２動作手段を利用した動作演出のバリエーションを増やすことができる。

【６８９４】

遊技機ＭＢ１からＭＢ７のいずれかにおいて、前記第１動作手段の動作速度と第２動作手段の動作速度とが対応することを特徴とする遊技機ＭＢ８。

【６８９５】

遊技機ＭＢ８によれば、遊技機ＭＢ１からＭＢ７のいずれかの奏する効果に加え、第２動作手段の動作が開始される前から第２動作手段の動作速度を予測させることができる。

【６８９６】

遊技機ＭＢ１からＭＢ８のいずれかにおいて、前記第１動作手段の動作力と第２動作手段の動作力とが対応することを特徴とする遊技機ＭＢ９。

【６８９７】

遊技機ＭＢ９によれば、遊技機ＭＢ１からＭＢ８のいずれかの奏する効果に加え、第２

動作手段の動作が開始される前から第２動作手段の動作力（動作量）を予測させることができる。

【６８９８】

遊技機ＭＢ１からＭＢ９のいずれかにおいて、前記第２動作手段を常時視認可能とさせることを特徴とする遊技機ＭＢ１０。

【６８９９】

遊技機ＭＢ１０によれば、遊技機ＭＢ１からＭＢ９のいずれかの奏する効果に加え、第２動作手段の動きを把握させ易くすることができ、第２動作手段に対する注目力を向上させることができる。

【６９００】

＜一方の動きに合わせて他方の動きが変化＞

制御手段と、その制御手段の制御に基づいて動作可能に構成される第１可動部および第２可動部と、前記第２可動部の動作と対応した表示を実行可能に構成される表示手段と、を備え、移動手段の所定部の検出に基づいて前記第１可動部の動作開始を前記制御手段に判断させることが可能に構成され、前記第１可動部の動作開始に対応して前記第２可動部が第１の制御態様で動作可能に構成され、前記第２可動部は、所定領域側に進出している状態と、前記所定領域側から退避している状態と、を切り替え可能とされ、前記制御手段は、前記第１の制御態様における前記第２可動部の動作実行期間中に成立し得る所定の条件が成立した場合に、前記第１の制御態様での動作実行期間中であっても前記第２可動部が第２の制御態様で動作するよう構成されることを特徴とする遊技機ＭＣ１。

【６９０１】

パチンコ機等の遊技機において、第１可動部と、その第１可動部に対応する第２可動部とが、独立して動作可能に構成される遊技機がある（例えば、特開２０１５－２３１４３４号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、第１可動部の動作に対応して第２可動部が動作されることで適切な演出が実行されるものであるところ、第１可動部または第２可動部の一方に動作不良があるかに関わらず、他方の動作が実行されるものとなっており、第１可動部および第２可動部の動作を好適とする観点で改善の余地があるという問題点があった。

【６９０２】

これに対し、遊技機ＭＣ１によれば、制御手段は、第１の制御態様における第２可動部の動作実行期間中に成立し得る所定の条件が成立した場合に、第１の制御態様での動作の途中であっても第２可動部は第２の制御態様での動作を実行するよう構成されるので、第１可動部に動作不良があった場合であっても第２可動部の制御態様を変えることで、第１可動部および第２可動部の動作を好適とすることができる。

【６９０３】

なお、第１可動部は、板状本体部Ｍ５１０（演出動作ユニットＭ５００）でも良い。第２可動部は、可動装飾ユニットＭ６００でも良い。移動手段の所定部は、前方突設部Ｍ４４４でも良い。

【６９０４】

遊技機ＭＣ１において、前記表示手段による前記対応した表示は、前記第２可動部の前記第１の制御態様での動作に対応するよう構成されており、前記対応した表示は、前記第２可動部の前記第２の制御態様での動作実行期間中において継続して実行されることを特徴とする遊技機ＭＣ２。

【６９０５】

遊技機ＭＣ２によれば、遊技機ＭＣ１の奏する効果に加え、所定の条件が成立した場合に遊技者が対応した表示を視認した場合であっても、敢えて表示を消さずに継続して実行し、第２可動部の動作を第２の制御態様で継続させることにより、動作不良の発生を遊技者に気付かせ難くすることができる。

【６９０６】

遊技機ＭＣ１又はＭＣ２において、前記対応した表示は、前記第２可動部の動作停止後

において継続して実行可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＣ３。
【６９０７】
遊技機ＭＣ３によれば、遊技機ＭＣ１又はＭＣ２の奏する効果に加え、第２可動部の動作停止後において対応した表示が継続して実行可能とされていることから、第２可動部が第１の制御態様での動作を完了して停止したか、第２可動部が第２の制御態様での動作を実行した後で停止したかに関わらず、停止した第２可動部および対応した表示に基づく同様の視認態様を遊技者に視認させることができるので、動作不良の発生を遊技者に気付かせ難くすることができる。
【６９０８】
遊技機ＭＣ１からＭＣ３のいずれかにおいて、前記対応した表示の実行期間が複数構成可能とされることを特徴とする遊技機ＭＣ４。
【６９０９】
遊技機ＭＣ４によれば、遊技機ＭＣ１からＭＣ３のいずれかの奏する効果に加え、対応した表示の実行期間が複数構成可能とされるので、対応した表示を利用した演出効果を向上させることができる。
【６９１０】
遊技機ＭＣ４において、前記表示手段による前記対応した表示は、前記第２可動部の前記第１の制御態様での動作に対応するよう構成されており、前記第２可動部の前記第２の制御態様での動作が実行された場合の方が、前記第２可動部の前記第２の制御態様での動作が実行されなかった場合に比較して、前記対応した表示の実行期間が短くされることを特徴とする遊技機ＭＣ５。
【６９１１】
遊技機ＭＣ５によれば、遊技機ＭＣ４の奏する効果に加え、対応した表示を、対応する第１の制御態様での動作と視認される状態が継続して実行される場合には長く残す一方、第１の制御態様とは異なる第２の制御態様での動作と視認される状態では短くすることで、対応した表示を視認する遊技者が違和感を抱く可能性を低くすることができ、対応した表示の演出効果を向上させることができる。
【６９１２】
遊技機ＭＣ１からＭＣ５のいずれかにおいて、前記第２可動部は、発光可能に構成される発光手段を備え、前記発光手段の発光態様が前記第２可動部の移動に基づいて変化可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＣ６。
【６９１３】
遊技機ＭＣ６によれば、遊技機ＭＣ１からＭＣ５のいずれかの奏する効果に加え、移動中における第２可動部の演出効果を向上させることができる。
【６９１４】
遊技機ＭＣ１からＭＣ６のいずれかにおいて、前記所定の条件は、前記第１可動部の動作に関連することを特徴とする遊技機ＭＣ７。
【６９１５】
遊技機ＭＣ７によれば、遊技機ＭＣ１からＭＣ６のいずれかの奏する効果に加え、第１可動部と第２可動部との連動を適切に実行することができる。
【６９１６】
遊技機ＭＣ１からＭＣ７のいずれかにおいて、移動手段の所定部を検出可能な検出手段を備えることを特徴とする遊技機ＭＣ８。
【６９１７】
遊技機ＭＣ８によれば、遊技機ＭＣ１からＭＣ７のいずれかの奏する効果に加え、検出手段による検出によって第１可動部の動作開始を制御手段が判断できるので、第２可動部の動作を適切なタイミングで開始させることができる。なお、検出手段は、検出センサＭ４５３でも良い。
【６９１８】
遊技機ＭＣ８において、前記検出手段には、前記第２可動部の動作準備段階に検出可能

な第１の検出手段と、前記第２可動部の所定の動作に伴って検出可能となる第２の検出手段とがあることを特徴とする遊技機ＭＣ９。

【６９１９】

遊技機ＭＣ９によれば、遊技機ＭＣ８の奏する効果に加え、第２可動部の動作準備段階による検出と、第２可動部の動作開始後の検出とを別々の検出センサで行うことで、第２可動部の動作を正確に実行させることができる。

【６９２０】

本願発明の第２の検出手段は、検出センサＭ５１６や検出センサＭ８１５のように対象物を移動範囲の終端において検出するものでも良く、対象物を移動範囲の途中において検出するものでも良く、対象物が検出時に停止するものでもよく、対象物が検出時に停止しないものでも良い。

【６９２１】

遊技機ＭＣ９において、第１可動部の復帰動作は、前記第１の検出手段の検出に基づいて実行されることを特徴とする遊技機ＭＣ１０。

【６９２２】

遊技機ＭＣ１０によれば、遊技機ＭＣ９の奏する効果に加え、第１可動部の復帰の開始タイミングを制御手段に把握させることができるので、第１可動部の復帰動作を適切に実行することができる。例えば、第１可動部の復帰動作の時間遅れや、復帰動作が必要以上に長く実行される事態を避けることができる。

【６９２３】

遊技機ＭＣ１からＭＣ１０のいずれかにおいて、前記第２可動部は前記第１可動部とは独立した制御態様で動作するよう構成され、前記第２可動部の動作には、前記第１可動部の動作開始と合わせて動作開始される第１動作と、前記第１可動部の動作開始とずれて動作開始される第２動作とがあることを特徴とする遊技機ＭＣ１１。

【６９２４】

遊技機ＭＣ１１によれば、遊技機ＭＣ１からＭＣ１０のいずれかの奏する効果に加え、第２可動部の動作にバリエーションを持たせることで、第１可動部と第２可動部とが同一の態様で連動する場合のように、遊技者が第１可動部の視認のみで足りると感じ第２可動部の動作にまで注目しないという事態を避けることができる。

【６９２５】

遊技機ＭＣ１１において、前記第２可動部の前記第２動作は、前記検出手段により前記第１可動部の動作開始が判断された後に実行されることを特徴とする遊技機ＭＣ１２。

【６９２６】

遊技機ＭＣ１２によれば、遊技機ＭＣ１１の奏する効果に加え、第２動作が第１可動部の動作開始前に実行されるという不具合を回避し易くすることができる。

【６９２７】

遊技機ＭＣ１からＭＣ１２のいずれかにおいて、遊技者が操作可能な操作手段を備え、前記第１可動部、前記第２可動部は、終了動作のタイミングが前記操作手段の操作に基づいて可変となるよう構成されることを特徴とする遊技機ＭＣ１３。

【６９２８】

遊技機ＭＣ１３によれば、遊技機ＭＣ１からＭＣ１２のいずれかの奏する効果に加え、操作手段の操作の有無により第１可動部および第２可動部に実行される動作にバリエーションを持たせることができるので、遊技者の操作手段の操作に対する意欲を高めることができる。なお、操作手段は、遊技者が操作可能な操作物体であれば良く、ボタン部Ｈ１８１でもよい。

【６９２９】

遊技機ＭＣ１からＭＣ１３のいずれかにおいて、前記第１可動部は、終端位置まで至る終端動作と、前記終端位置までは至らない中間動作と、が構成され得ることを特徴とする遊技機ＭＣ１４。

【６９３０】

遊技機ＭＣ１４によれば、遊技機ＭＣ１からＭＣ１３のいずれかの奏する効果に加え、第１可動部の動作にバリエーションを持たせることができ、第１可動部に対する注目力を向上させることができる。

【６９３１】

遊技機ＭＣ１４において、前記第１可動部の動作を前記終端動作と前記中間動作とで変化させることが可能に構成される第２の移動手段を備え、前記第２の移動手段は、前記第１可動部の一部に動作方向で当接する場合と、前記動作方向と交差する方向で当接する場合とがあることを特徴とする遊技機ＭＣ１５。

【６９３２】

遊技機ＭＣ１５によれば、遊技機ＭＣ１４の奏する効果に加え、第２の移動手段の当接により第１可動部の動作を変えることができるので、停止位置の精度を向上させることができる。なお、第２の移動手段は回転切替部Ｍ４９０でも良い。

【６９３３】

遊技機ＭＣ１４又はＭＣ１５において、前記第１可動部が前記終端動作をする場合も、前記第１可動部が前記中間動作をする場合も、前記第２動作による動作量は同様となるように構成されることを特徴とする遊技機ＭＣ１６。

【６９３４】

遊技機ＭＣ１６によれば、遊技機ＭＣ１４又はＭＣ１５の奏する効果に加え、第１可動部の動作態様に対応して第２可動部の動作量を可変とする場合に比較して第２可動部の動作制御を容易とすることができ、第２可動部の動作を安定させることができる。

【６９３５】

＜可動部と表示とを一体で視認させる＞

所定位置から開始される動作が可能な特定手段と、視認領域において前記特定手段の動作に対応した表示を視認させることが可能な所定手段と、前記特定手段と前記対応した表示との間で所定の態様を視認させることが可能な第１手段と、を備え、前記特定手段の所定動作が終了した場合に前記対応した表示を隠すことが可能な表示がされることを特徴とする遊技機ＭＤ１。

【６９３６】

パチンコ機等の遊技機において、動作手段と一体的に視認される表示を実行可能な表示装置を備える遊技機がある（例えば、特開２０１１－１７７２３０号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、動作手段の動作の駆動伝達態様に起因する動作遅れを完全に排除することが困難なため、表示を動作手段の動作に対応させる観点で改良の余地があるという問題点があった。

【６９３７】

これに対し、遊技機ＭＤ１によれば、動作する特定手段と対応した表示との間に第１手段が所定の態様で視認されるため、特定手段と対応した表示とを分断して視認させることができ、対応した表示に対する特定手段の動作遅れが生じたとしても、目立たせなくすることができるので、表示を動作手段の動作に対応させることができる。

【６９３８】

なお、特定手段は、移動装飾部Ｍ７７０でも良い。第１手段は、演出動作ユニットＭ５００でも良いし、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００でも良い。特定手段の動作に対応した表示は、連動意匠Ｍ７８１でも良い。

【６９３９】

また、特定手段に対応した表示は、特定手段の移動に対応して特定手段の移動方向と同方向に移動しても良いし、特定手段の移動方向とは異なる方向に移動しても良いし、特定手段が停止したら表示も停止するように構成しても良いし、特定手段が移動している時に表示のみが変化しても良いし、一定の表示が視認されるようにしても良いし、一定期間において増減し得る表示が視認されるようにしても良いし、この増減が特定手段の往復動作の回数に対応して生じても良いし、特定手段とは無関係に他の対象物との関係で生じても良いし、これらの組合せでも良い。

【６９４０】
遊技機ＭＤ１において、前記特定手段を前記所定位置に位置させる場合に前記対応した表示を隠すことが可能に構成される第２手段を備える遊技機ＭＤ２。
【６９４１】
遊技機ＭＤ２によれば、遊技機ＭＤ１の奏する効果に加え、特定手段の動作と、対応した表示の変化とにずれがあっても、第２手段により遊技者の意識を逸らすことができる。第２手段は、可動装飾ユニットＭ６００でも良いし、導光板Ｍ２６０でも良いし、昇降移動部材Ｍ８６０でも良い。
【６９４２】
遊技機ＭＤ１又はＭＤ２において、前記第１手段は、少なくとも前記特定手段の動作実行期間に前記特定手段の動作の態様とは異なる態様で視認手段を視認させることを特徴とする遊技機ＭＤ３。
【６９４３】
遊技機ＭＤ３によれば、遊技機ＭＤ１又はＭＤ２の奏する効果に加え、特定手段の動作と、対応した表示の変化とにずれがあっても、視認手段により特定手段の動作の態様とは異なる態様が視認されることにより、特定手段の動作とその動作に対応した表示の変化とのずれから遊技者の意識を逸らすことができる。視認手段は、可動装飾ユニットＭ６００でも良い。
【６９４４】
遊技機ＭＤ３において、前記視認手段は、前記特定手段側から前記対応する表示側へ向けて移動する態様で視認されることを特徴とする遊技機ＭＤ４。
【６９４５】
遊技機ＭＤ４によれば、遊技機ＭＤ３の奏する効果に加え、視認手段により視認される移動態様により、遊技者の視線を対応した表示側に誘導させることができるので、特定手段に動作遅れが生じた場合であっても、対応した表示の変化の滑らかさと同様に滑らかに動作しているものであると錯覚させることができる。
【６９４６】
遊技機ＭＤ１からＭＤ４のいずれかにおいて、前記特定手段の動作に基づいて、前記特定手段の動作に対応した表示が変化可能とされることを特徴とする遊技機ＭＤ５。
【６９４７】
遊技機ＭＤ５によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ４のいずれかの奏する効果に加え、特定手段と、特定手段の動作に対応した表示との関連を強めることができる。
【６９４８】
遊技機ＭＤ１からＭＤ５のいずれかにおいて、前記特定手段が所定の直線方向に変位可能とされ、その変位を案内する案内手段を備えることを特徴とする遊技機ＭＤ６。
【６９４９】
遊技機ＭＤ６によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ５のいずれかの奏する効果に加え、特定手段を対応した表示と一体的に移動させる場合にずれを生じさせにくいようにすることができる。
【６９５０】
遊技機ＭＤ１からＭＤ６のいずれかにおいて、前記特定手段は、所定方向視において視認される外形が動作により変化しないよう構成されることを特徴とする遊技機ＭＤ７。
【６９５１】
遊技機ＭＤ７によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ６のいずれかの奏する効果に加え、対応した表示を特定手段の動作に対応して平行移動させるだけで一体的な視認を維持できる。
【６９５２】
遊技機ＭＤ１からＭＤ７のいずれかにおいて、前記特定手段の動作態様を複数構成可能であって、前記特定手段に対応した表示は、前記特定手段の各動作態様に対応されることを特徴とする遊技機ＭＤ８。
【６９５３】

遊技機ＭＤ８によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ７のいずれかの奏する効果に加え、特定手段の動作態様に関わらず特定手段と、特定手段の動作に対応した表示との関連を強めることができる。

【６９５４】

遊技機ＭＤ１からＭＤ８のいずれかにおいて、前記特定手段の前記所定位置への復帰動作において、前記特定手段が視認され難く構成されることを特徴とする遊技機ＭＤ９。

【６９５５】

遊技機ＭＤ９によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ８のいずれかの奏する効果に加え、復帰動作時にまで対応した表示を特定手段に対応させて表示する必要性を低めることができ、表示の自由度を向上させることができる。

【６９５６】

遊技機ＭＤ１からＭＤ９のいずれかにおいて、前記特定手段を前記所定位置に位置させる場合に前記対応した表示を隠すことが可能に構成される第２手段を備え、前記特定手段の動作終了から前記第２手段が前記対応した表示を隠すまでに所定の時間遅れがあることを特徴とする遊技機ＭＤ１０。

【６９５７】

遊技機ＭＤ１０によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ９のいずれかの奏する効果に加え、特定表示により特定手段を隠す前に、動作終了時における特定手段と、特定手段の動作と対応した表示とを一体的に視認させる時間を確保することで、特定手段による演出効果の向上を図ることができる。

【６９５８】

遊技機ＭＤ１からＭＤ１０のいずれかにおいて、前記第１手段は、視認領域において、前記特定手段と前記対応した表示との間に正面視で位置する所定領域上において視認され、前記所定領域が前記第１手段により後方側を視認できないように遮蔽されている状態において前記特定手段が動作可能とされることを特徴とする遊技機ＭＤ１１。

【６９５９】

遊技機ＭＤ１１によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ１０のいずれかの奏する効果に加え、特定手段と対応した表示との間に位置する所定領域上が遮蔽されている状態で特定手段が動作されることから、動作中における特定手段と対応した表示とを分断された状態で視認させることができる。

【６９６０】

遊技機ＭＤ１からＭＤ１１のいずれかにおいて、前記特定手段が動作範囲の終端に配置されている場合において、前記第２手段が視認可能とされることを特徴とする遊技機ＭＤ１２。

【６９６１】

遊技機ＭＤ１２によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ１１のいずれかの奏する効果に加え、特定手段を動作範囲の終端に配置しつつ第２手段を視認させることにより、遊技者の視線が分散されることを避けることができ、第２手段への注目力を向上させることができる。

【６９６２】

遊技機ＭＤ１からＭＤ１２のいずれかにおいて、前記特定手段の所定の動作が実行されることに基づいて、前記対応する表示が変化可能とされることを特徴とする遊技機ＭＤ１３。

【６９６３】

遊技機ＭＤ１３によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ１２のいずれかの奏する効果に加え、対応する表示を視認することで、特定手段の動作内容を把握させることができる。

【６９６４】

遊技機ＭＤ１からＭＤ１３のいずれかにおいて、前記遊技機は、前記特定手段が前記所定位置から動作したことを判断可能に構成される検出手段を備えることを特徴とする遊技機ＭＤ１４。

【６９６５】

遊技機ＭＤ１４によれば、遊技機ＭＤ１からＭＤ１３のいずれかの奏する効果に加え、特定手段の動作に対応する表示を検出手段の検出結果を基に実行させることができる。

【６９６６】

遊技機ＭＤ１４において、所定期間における前記検出手段の検出結果に基づいて、前記所定手段が異なる表示態様で前記対応する表示を実行可能とされることを特徴とする遊技機ＭＤ１５。

【６９６７】

遊技機ＭＤ１５によれば、遊技機ＭＤ１４の奏する効果に加え、所定期間において対応する表示を常には見ていなくても、途中で視認することで、その時点における検出手段の検出結果について把握することができるので、常に見ていないと対応する表示から遊技者が情報を取得できない場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【６９６８】

＜検出に基づく判断により、視認態様を変化させる＞

表示装置を備える遊技機であって、前記表示装置よりも遊技機正面側に位置する所定領域へ向けて移動可能に構成される移動手段の所定部を検出可能な複数の検出手段と、その検出手段による検出結果に基づく視認態様が複数構成される視認可能手段と、を備え、前記検出は、前記移動手段が前記所定領域から移動したことに基づく第１の検出と、その第１の検出とは異なる検出であって前記移動手段が前記所定領域側へ移動する場合に生じる第２の検出とがあり、前記視認可能手段の視認態様は、前記第１の検出の結果に基づく態様とは異なる態様で前記第２の検出の結果に基づく態様が実行可能に構成され、前記遊技機は、前記視認可能手段が前記第２の検出に基づく視認態様となっている場合に前記視認態様を解除させるために遊技者が操作可能であって操作に基づいて所定の報知が実行されるように構成される操作手段とは異なる第２の操作手段を備え、前記第２の操作手段の操作に基づく所定条件の成立により前記第１の検出が生じ得ることを特徴とする遊技機ＭＥ１。

【６９６９】

パチンコ機等の遊技機において、装飾され遊技者に視認させる視認可能手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００９－８２３１１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、上昇位置では視認可能手段が退避されており視認されず、下降位置でのみ視認されるものとなっており、その視認態様のバリエーションに乏しく、視認可能手段を好適に視認させる観点で改善の余地があるという問題点があった。

【６９７０】

これに対し、遊技機ＭＥ１によれば、視認可能手段の視認態様は、第１の検出の結果に基づく態様とは異なる態様で第２の検出の結果に基づく態様が実行可能に構成されることから、視認態様のバリエーションを多くすることができ、視認可能手段を好適に視認させる観点で改善することができる。

【６９７１】

視認可能手段は、電飾基板Ｍ６３０でも良い。移動手段は、演出動作ユニットＭ５００でも良い。第１の検出は、検出センサＭ４８３でも良い。第２の検出は、検出センサＭ３４８９でも良い。操作手段は、調整ボタンＨ３０４４でも良い。

【６９７２】

遊技機ＭＥ１において、前記視認可能手段の視認態様の変化は、前記操作手段の操作とは同期されないことを特徴とする遊技機ＭＥ２。

【６９７３】

遊技機ＭＥ２によれば、遊技機ＭＥ１の奏する効果に加え、操作手段を誤って操作しても視認可能手段の視認態様が変化されることは無いので、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【６９７４】

遊技機ＭＥ１又はＭＥ２において、前記視認可能手段による視認態様は、時間経過では変更されないように制御されることを特徴とする遊技機ＭＥ３。

【６９７５】
遊技機ＭＥ３によれば、遊技機ＭＥ１又はＭＥ２の奏する効果に加え、視認可能手段による視認態様が意図せず変化されることを避けることができる。
【６９７６】
遊技機ＭＥ１からＭＥ３のいずれかにおいて、遊技機の光量を設定可能な設定ボタンを備え、その設定ボタンによる設定変更が、前記第２の検出に基づく前記視認態様に影響を与えないように構成されることを特徴とする遊技機ＭＥ４。
【６９７７】
遊技機ＭＥ４によれば、遊技機ＭＥ１からＭＥ３のいずれかの奏する効果に加え、光量の設定の影響で第２の検出に基づく視認態様が把握され難くなる事態を避けることができる。
【６９７８】
遊技機ＭＥ１からＭＥ４のいずれかにおいて、前記視認可能手段の視認態様は、前記第２の検出が所定長さよりも長い場合に前記第２の検出の結果に基づく態様とされることを特徴とする遊技機ＭＥ５。
【６９７９】
遊技機ＭＥ５によれば、遊技機ＭＥ１からＭＥ４のいずれかの奏する効果に加え、第２の検出が生じる度に視認可能手段の視認態様が変化される場合に比較して検出手段の配置の自由度を向上させることができる。
【６９８０】
遊技機ＭＥ１からＭＥ５のいずれかにおいて、前記第２の操作手段を操作させる期間であることを報知可能な可変表示を実行可能な可変表示手段を備えることを特徴とする遊技機ＭＥ６。
【６９８１】
遊技機ＭＥ６によれば、遊技機ＭＥ１からＭＥ５のいずれかの奏する効果に加え、遊技者が第２の操作手段を操作し損ねる事態を回避し易くすることができる。
【６９８２】
遊技機ＭＥ１からＭＥ６のいずれかにおいて、前記視認可能手段は、演出ボタンとは異なる操作手段を操作させることを促す視認をさせることを特徴とする遊技機ＭＥ７。
【６９８３】
遊技機ＭＥ７によれば、遊技機ＭＥ１からＭＥ６のいずれかの奏する効果に加え、視認可能手段を視認することで操作手段の操作が示唆されていることに気づくことができるので、視認可能手段の注目力を向上させることができる。
【６９８４】
遊技機ＭＥ１からＭＥ７のいずれかにおいて、前記視認可能手段の視認態様の変化は、前記操作手段の操作とは同期されないことを特徴とする遊技機ＭＥ８。
【６９８５】
遊技機ＭＥ８によれば、遊技機ＭＥ１からＭＥ７のいずれかの奏する効果に加え、操作手段を誤って操作しても視認可能手段の視認態様が変化されることは無いので、遊技者の遊技負担を低減させることができる。
【６９８６】
遊技機ＭＥ１からＭＥ８のいずれかにおいて、前記視認可能手段による視認態様は、時間経過では変更されないように制御されることを特徴とする遊技機ＭＥ９。
【６９８７】
遊技機ＭＥ１からＭＥ９のいずれかにおいて、遊技機の光量を設定可能な設定ボタンを備え、その設定ボタンによる設定変更が、前記第２の検出に基づく前記視認態様に影響を与えないように構成されることを特徴とする遊技機ＭＥ１０。
【６９８８】
遊技機ＭＥ１からＭＥ１０のいずれかにおいて、前記視認可能手段は、前記移動手段の配置によらず遊技者が視認可能に配設されることを特徴とする遊技機ＭＥ１１。

【６９８９】
遊技機ＭＥ１からＭＥ１１のいずれかにおいて、前記移動手段は、前記遊技機に配設される第２の操作手段が操作されたことにより動作され、その動作中に所定条件が成立することに基づいて検出されることを特徴とする遊技機ＭＥ１２。
【６９９０】
遊技機ＭＥ１２において、前記遊技機は、前記第２の操作手段を操作させる期間であることを報知可能な可変表示を実行可能な可変表示手段を備えることを特徴とする遊技機ＭＥ１３。
【６９９１】
遊技機ＭＥ１３において、前記可変表示は、所定の限界幅において、最大から最小側へ向かって変化させる場合があることを特徴とする遊技機ＭＥ１４。
【６９９２】
遊技機ＭＥ１２からＭＥ１４のいずれかにおいて、前記第２の検出は、前記第２の操作手段の操作から時間遅れが生じてされることを特徴とする遊技機ＭＥ１５。
【６９９３】
遊技機ＭＥ１からＭＥ１５のいずれかにおいて、前記遊技機は、前記第２の検出に基づく視認態様を解除させる所定手段を備えることを特徴とする遊技機ＭＥ１６。
【６９９４】
遊技機ＭＥ１からＭＥ１６のいずれかにおいて、前記遊技機は、前記可変表示手段において前記移動手段による所定の目標手段を表示可能に構成され、前記所定の目標手段として表示される状態に前記移動手段が到達できない場合において、状態を切替可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＥ１７。
【６９９５】
目標手段は、到達領域表示Ｍ８１ａのように移動手段の移動先を予測させるように構成されても良く、移動手段の移動先以外であっても移動手段が登場する回数に関する数字から構成されても良く、その数字が移動手段の登場の度に増加（減少）されるように更新される登場更新手段でも良く、登場の有無に関わらず移動手段の検出に基づいて更新される検出更新手段でも良く、その数字は更新されるものではなく数字の回数だけ移動手段が登場することを予告するものでも良く、これらの組合せでも良い。
【６９９６】
＜当接位置を変えながら動作する構成＞
駆動手段と、その駆動手段により回転動作される伝達手段と、その伝達手段の所定部に当接されることにより動作される動作手段と、を備え、前記動作手段は、前記伝達手段の所定部に当接される被当接部と、その被当接部の動作方向に動作される被動作部と、を備え、前記被動作部は、所定の直線方向に案内されることを特徴とする遊技機ＭＦ１。
【６９９７】
パチンコ機等の遊技機において、駆動モータにより回転される駆動ギアに連動して回転移動される回転移動ギアの偏心した位置から円柱状に突設される突設部を介して駆動力が伝達される動作手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００９－８２３１１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、回転移動ギアの動作により実現される動作は動作手段が回転方向に往復される態様に限定されており、動作による演出が単調となっており、動作手段の動作を好適とする観点から改善の余地があるという問題点があった。
【６９９８】
これに対し、遊技機ＭＦ１によれば、伝達手段が回転動作される一方で動作手段の被動作部は所定の直線方向に案内されることから、動作方向を複数構成することができ、動作が単調となることを避けることができることから、動作手段の動作を好適とすることができる。なお、駆動手段は、駆動モータＭ５０１でもよく、伝達手段の所定部は、柱状部Ｍ５８２ａでもよく、動作手段は、リンク部材Ｍ６６０（リンク部材Ｍ３６６０又は回転移動部材Ｍ４６６０）及び後側スライド移動体Ｍ６５０でも良い。
【６９９９】

遊技機ＭＦ１において、前記被当接部に対して前記所定部が当接する位置は、前記伝達手段の回転動作に基づいて変化されることを特徴とする遊技機ＭＦ２。

【７０００】

遊技機ＭＦ２によれば、遊技機ＭＦ１の奏する効果に加え、所定部と被当接部との当接位置をばらつかせることにより、局所的な負担が生じることを避けることができる。

【７００１】

遊技機ＭＦ１又はＭＦ２において、前記被動作部に対して所定の直線方向に沿った付勢力を付与可能な付勢手段を備えることを特徴とする遊技機ＭＦ３。

【７００２】

遊技機ＭＦ３によれば、遊技機ＭＦ１又はＭＦ２の奏する効果に加え、被動作部を駆動手段の駆動力に限らず、付勢手段の付勢力によっても動作させることができるので、被動作部の動作バリエーションを増加させることができる。

【７００３】

＜一緒に動作させる所定領域がある構造＞

所定の表示装置の表示領域の正面視外方から前記表示装置の前方側に変位され得る変位手段が当接可能とされる被当接手段を備え、所定領域における前記変位手段の上方側への変位に基づく前記変位手段との当接により前記被当接手段が変位される遊技機であって、前記変位手段の変位に基づく前記被当接手段の変位を抑制する抑制手段を備え、前記被当接手段の変位が前記抑制手段に抑制された後において、前記変位手段は前記被当接手段から離間する態様で変位可能とされることを特徴とする遊技機ＭＧ１。

【７００４】

パチンコ機等の遊技機において、変位可能な変位手段および変位手段の上方側への変位に基づいて変位される被当接手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００９－８２３１１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、変位手段と被当接手段とが常時接触されており、変位手段の変位を好適とする観点で改善の余地があるという問題点があった。

【７００５】

これに対し、遊技機ＭＧ１によれば、変位手段と、被当接手段とが、所定領域において共に変位されるものであって、被当接手段の変位を抑制する抑制手段を備え、被当接手段の変位が抑制手段に抑制された後において、変位手段は被当接手段から離間する態様で変位可能とされることから、変位手段の変位を好適とすることができる。

【７００６】

変位手段は、それ単体で動作可能に構成される可動装飾ユニットＭ６００自体でも良いし、可動装飾ユニットＭ６００の一部として構成される当接部材Ｍ６０２でも良いし、可動装飾ユニットＭ２６００の当接部材Ｍ２６０２でも良い。また、樹脂材料から構成される部材であってもよく、金属材料から構成される部材であってもよい。被当接手段は、扇形状構成部Ｍ５６０でも良い。抑制手段は、突設補助部Ｍ５４５でも良いし、円板付きギアＭ５８４でも良い。

【７００７】

遊技機ＭＧ１において、前記所定領域における前記変位手段の上方側への変位に基づいて前記被当接手段が変位された場合において、前記変位手段が前記被当接手段を越える態様で変位されることを特徴とする遊技機ＭＧ２。

【７００８】

遊技機ＭＧ２によれば、遊技機ＭＧ１の奏する効果に加え、変位手段の変位が、抑制手段により抑制された被当接手段に制限を受けないで実行されるよう構成することができる。

【７００９】

遊技機ＭＧ１又はＭＧ２において、前記変位手段は、前記被当接手段の変位が前記抑制手段に抑制された後において下方へ変位される場合に前記被当接手段から離間されることを特徴とする遊技機ＭＧ３。

【７０１０】
遊技機ＭＧ３によれば、遊技機ＭＧ１又はＭＧ２の奏する効果に加え、抑制手段によって被当接手段の変位が抑制された後においても、その抑制が変位手段にまで影響を及ぼす事態を避け易くすることができる。
【７０１１】
＜移動手段の移動途中で第２動作手段を動作させる構成＞
駆動装置と、その駆動装置の駆動力を移動手段へ伝達させるための伝達手段と、前記移動手段を所定方向に移動させる場合に動作される動作手段と、前記移動手段の移動可能領域に少なくとも一部が位置するように構成されており前記移動手段に当接されることに基づく動作が可能に構成される第２動作手段と、を備え、前記移動手段は、前記第２動作手段と当接する第１領域と、その第１領域とは異なる第２領域とを移動可能に構成されていることを特徴とする遊技機ＭＨ１。
【７０１２】
パチンコ機等の遊技機において、回転移動される移動手段である回転移動ギアを介して駆動力が伝達される動作手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００９－８２３１１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、動作による演出が単調となっていた。即ち、上述した従来の遊技機では、回転移動ギアにより生じる動作を複数構成させる場合に、回転移動ギアである移動手段の移動を好適とする観点から改善の余地があるという問題点があった。
【７０１３】
これに対し、遊技機ＭＨ１によれば、移動手段により動作される動作手段と第２動作手段とが構成され、それらが異なる領域において当接されることから、移動手段に対する動作手段からの影響と、第２動作手段からの影響とが、同時に生じることを回避し易くすることができるので、移動手段の移動を好適とすることができる。
【７０１４】
なお、駆動装置は、駆動モータＭ５０１でもよく、移動手段は、柱状部Ｍ５８２ａでもよく、伝達手段は、モータギアＭ５８１でもよく、動作手段は、板状本体部Ｍ６１０でもよく、第２動作手段は、リンク部材Ｍ６６０でもよい。
【７０１５】
遊技機ＭＨ１において、前記動作手段の所定動作の実行後に前記第２動作手段の動作が実行され得ることを特徴とする遊技機ＭＨ２。
【７０１６】
遊技機ＭＨ２によれば、遊技機ＭＨ１の奏する効果に加え、動作手段の動作が生じた場合に第２動作手段が動作することを遊技者に事前に把握させることができるので、第２動作手段に注目させることができる。
【７０１７】
遊技機ＭＨ２において、前記所定動作の実行後に前記第２動作手段の動作が実行されない場合を構成可能とされており、前記所定方向へ移動中の前記移動手段が前記第２動作手段に当接するよりも前の所定領域の少なくとも一部において前記移動手段が視認可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＨ３。
【７０１８】
遊技機ＭＨ３によれば、遊技機ＭＨ２の奏する効果に加え、第２動作手段の動作の有無を所定領域において移動手段を視認することで把握することができるので、遊技者の注目力を所定領域に集めることができ、移動手段の移動に注目させることができる。
【７０１９】
＜一側の動きが変わると他側の動きも引きずられて変化＞
制御手段と、その制御手段の制御に基づいて動作可能に構成される第１動作部および第２動作部と、を備え、変位手段の所定部の検出に基づいて前記第１動作部の動作開始を前記制御手段に判断させることが可能に構成され、前記第２動作部の動作と対応した表示を実行可能に構成される表示手段を備え、前記第１動作部の動作開始に対応して前記第２動

作部が第１の制御で動作可能に構成され、前記制御手段は、前記第１の制御における前記第２動作部の動作実行期間中に成立し得る所定の条件が成立した場合に、前記第１の制御での動作実行期間中であっても前記第２動作部が第２の制御で動作するよう構成されており、前記第２動作部は、所定領域側に進出している状態と、前記所定領域側から退避している状態と、を切り替え可能とされることを特徴とする遊技機ＭＩ１。

【７０２０】

パチンコ機等の遊技機において、第１動作部と、その第１動作部に対応する第２動作部とが、独立して動作可能に構成される遊技機がある（例えば、特開２０１５－２３１４３４号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、第１動作部の動作に対応して第２動作部が動作されることで適切な演出が実行されるものであるところ、第１動作部または第２動作部の一方に動作不良があるかに関わらず、他方の動作が実行されるものとなっており、第１動作部および第２動作部の動作を好適とする観点で改善の余地があるという問題点があった。

【７０２１】

これに対し、遊技機ＭＩ１によれば、制御手段は、前記第１の制御における前記第２動作部の動作実行期間中に成立し得る所定の条件が成立した場合に、第１の制御での動作の途中であっても第２動作部は第２の制御での動作を実行するよう構成されるので、第１動作部に動作不良があった場合であっても第２動作部の制御を変えることで、第１動作部および第２動作部の動作を好適とすることができる。

【７０２２】

なお、第１動作部は、板状本体部Ｍ５１０（演出動作ユニットＭ５００）でも良い。第２動作部は、可動装飾ユニットＭ６００でも良い。変位手段の所定部は、前方突設部Ｍ４４４でも良い。

【７０２３】

遊技機ＭＩ１において、前記対応した表示は、前記第２動作部の動作停止後において継続して実行可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＩ２。

【７０２４】

遊技機ＭＩ２によれば、遊技機ＭＩ１の奏する効果に加え、第２動作部の動作停止後において対応した表示が継続して実行可能とされていることから、第２動作部が第１の制御での動作を完了して停止したか、第２動作部が第２の制御での動作を実行した後で停止したかに関わらず、停止した第２動作部および対応した表示に基づく同様の視認態様を遊技者に視認させることができるので、動作不良の発生を遊技者に気付かせ難くすることができる。

【７０２５】

遊技機ＭＩ１又はＭＩ２において、前記表示手段による前記対応した表示は、前記第２動作部の前記第１の制御での動作に対応するよう構成されており、前記対応した表示は、前記第２動作部の前記第２の制御での動作実行期間中において継続して実行されることを特徴とする遊技機ＭＩ３。

【７０２６】

遊技機ＭＩ３によれば、遊技機ＭＩ１又はＭＩ２の奏する効果に加え、所定の条件が成立した場合に遊技者が対応した表示を視認した場合であっても、敢えて表示を消さずに継続して実行し、第２動作部の動作を第２の制御で継続させることにより、動作不良の発生を遊技者に気付かせ難くすることができる。

【７０２７】

＜可動部に関連した表示を実行する＞

第１位置から動作可能な動作手段と、視認領域において前記動作手段の動作に対応した表示を視認させることが可能な手段と、前記動作手段と前記対応した表示との間で所定の態様を視認させることが可能な第１手段と、を備え、前記動作手段の所定動作が終了した場合に前記対応した表示を隠すことが可能な表示がされることを特徴とする遊技機ＭＪ１。

【７０２８】
パチンコ機等の遊技機において、動作手段に対応して視認される表示を実行可能な表示装置を備える遊技機がある（例えば、特開２０１１－１７７２３０号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、表示を動作手段の動作に対応させる観点で改良の余地があるという問題点があった。
【７０２９】
これに対し、遊技機ＭＪ１によれば、動作する動作手段と対応した表示との間に第１手段が所定の態様で視認されるため、動作手段と対応した表示とを分断して視認させることができ、対応した表示に対する動作手段の動作遅れが生じたとしても、目立たせなくすることができるため、表示を動作手段の動作に対応させることができる。
【７０３０】
なお、動作手段は、移動装飾部Ｍ７７０でも良い。第１手段は、演出動作ユニットＭ５００でも良いし、演出動作ユニットＭ５００及び可動装飾ユニットＭ６００でも良い。動作手段の動作に対応した表示は、連動意匠Ｍ７８１でも良い。
【７０３１】
また、動作手段に対応した表示は、動作手段の移動に対応して動作手段の移動方向と同方向に移動しても良いし、動作手段の移動方向とは異なる方向に移動しても良いし、動作手段が停止したら表示も停止するように構成しても良いし、動作手段が移動している時に表示のみが変化しても良いし、一定の表示が視認されるようにしても良いし、一定期間において増減し得る表示が視認されるようにしても良いし、この増減が動作手段の往復動作の回数に対応して生じても良いし、動作手段とは無関係に他の対象物との関係で生じても良いし、これらの組合せでも良い。
【７０３２】
遊技機ＭＪ１において、前記第１手段は、少なくとも前記動作手段の動作実行期間に前記動作手段とは異なる態様で視認手段を視認させることを特徴とする遊技機ＭＪ２。
【７０３３】
遊技機ＭＪ２によれば、遊技機ＭＪ１の奏する効果に加え、動作手段の動作と、対応した表示の変化とにずれがあっても、視認手段により動作手段の動作の態様とは異なる態様が視認されることにより、動作手段の動作とその動作に対応した表示の変化とのずれから遊技者の意識を逸らすことができる。視認手段は、可動装飾ユニットＭ６００でも良い。
【７０３４】
遊技機ＭＪ１又はＭＪ２において、前記動作手段を前記第１位置に位置させる場合に前記対応した表示を隠すことが可能に構成される第２手段を備える遊技機ＭＪ３。
【７０３５】
遊技機ＭＪ３によれば、遊技機ＭＪ１又はＭＪ２の奏する効果に加え、動作手段の動作と、対応した表示の変化とにずれがあっても、第２手段により遊技者の意識を逸らすことができる。第２手段は、可動装飾ユニットＭ６００でも良いし、導光板Ｍ２６０でも良いし、昇降移動部材Ｍ８６０でも良い。
【７０３６】
＜動作中に当接箇所が変化する構成＞
駆動手段と、その駆動手段により回転動作される回転動作手段と、その回転動作手段の所定部に当接されることにより変位される変位手段と、を備え、前記変位手段は、前記回転動作手段の所定部に当接される当接部と、その当接部の動作方向側に動作される動作部と、を備え、前記動作部は、所定の直線方向に案内されることを特徴とする遊技機ＭＫ１。
【７０３７】
パチンコ機等の遊技機において、駆動モータにより回転される駆動ギアに連動される回転ギアから突設される突設部を介して駆動力が伝達される変位手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００９－８２３１１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、回転ギアの動作により実現される動作は変位手段の回転方向への動作に限定されてお

り、動作による演出が単調となっており、変位手段の変位を好適とする観点から改善の余地があるという問題点があった。

【７０３８】

これに対し、遊技機ＭＫ１によれば、回転動作手段が回転動作される一方で変位手段の動作部は所定の直線方向に案内されることから、動作方向を複数構成することができ、動作が単調となることを避けることができることから、変位手段の変位を好適とすることができる。なお、駆動手段は、駆動モータＭ５０１でもよく、回転動作手段の所定部は、柱状部Ｍ５８２ａでもよく、変位手段は、リンク部材Ｍ６６０（リンク部材Ｍ３６６０又は回転移動部材Ｍ４６６０）及び後側スライド移動体Ｍ６５０でも良い。

【７０３９】

遊技機ＭＫ１において、前記動作部に対して所定の直線方向に沿った付勢力を付与可能に構成されることを特徴とする遊技機ＭＫ２。

【７０４０】

遊技機ＭＫ２によれば、遊技機ＭＫ１の奏する効果に加え、動作部を駆動手段の駆動力に限らず、付勢力によっても動作させることができるので、動作部の動作バリエーションを増加させることができる。

【７０４１】

遊技機ＭＫ１又はＭＫ２において、前記所定部に対して前記当接部が当接する位置は、前記回転動作手段の回転動作に基づいて変化されることを特徴とする遊技機ＭＫ３。

【７０４２】

遊技機ＭＫ３によれば、遊技機ＭＫ１又はＭＫ２の奏する効果に加え、所定部と当接部との当接位置をばらつかせることにより、局所的な負担が生じることを避けることができる。

【７０４３】

遊技機ＭＡ１からＭＡ１５，ＭＢ１からＭＢ１０，ＭＣ１からＭＣ１６，ＭＤ１からＭＤ１５，ＭＥ１からＭＥ１７、ＭＦ１からＭＦ３、ＭＧ１からＭＧ３、ＭＨ１からＭＨ３、ＭＩ１からＭＩ３、ＭＪ１からＭＪ３、ＭＫ１からＭＫ３のいずれかにおいて、前記遊技機はスロットマシンであることを特徴とする遊技機ＭＺ１。中でも、スロットマシンの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段（ストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備えた遊技機」となる。この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【７０４４】

遊技機ＭＡ１からＭＡ１５，ＭＢ１からＭＢ１０，ＭＣ１からＭＣ１６，ＭＤ１からＭＤ１５，ＭＥ１からＭＥ１７、ＭＦ１からＭＦ３、ＭＧ１からＭＧ３、ＭＨ１からＭＨ３、ＭＩ１からＭＩ３、ＭＪ１からＭＪ３、ＭＫ１からＭＫ３のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機であることを特徴とする遊技機ＭＺ２。中でも、パチンコ遊技機の基本構成としては操作ハンドルを備え、その操作ハンドルの操作に応じて球を所定の遊技領域へ発射し、球が遊技領域内の所定の位置に配設された作動口に入賞（又は作動口を通過）することを必要条件として、表示手段において動的表示されている識別情報が所定時間後に確定停止されるものが挙げられる。また、特別遊技状態の発生時には、遊技領域内の所定の位置に配設された可変入賞装置（特定入賞口）が所定の態様で開放されて球を入賞可能とし、その入賞個数に応じた有価価値（景品球のみならず、磁気カードへ書き込まれるデータ等も含む）が付与されるものが挙げられる。

【７０４５】

遊技機ＭＡ１からＭＡ１５，ＭＢ１からＭＢ１０，ＭＣ１からＭＣ１６，ＭＤ１からＭＤ１５，ＭＥ１からＭＥ１７、ＭＦ１からＭＦ３、ＭＧ１からＭＧ３、ＭＨ１からＭＨ３

、ＭＩ１からＭＩ３、ＭＪ１からＭＪ３、ＭＫ１からＭＫ３のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機とスロットマシンとを融合させたものであることを特徴とする遊技機ＭＺ３。中でも、融合させた遊技機の基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備え、遊技媒体として球を使用すると共に、前記識別情報の動的表示の開始に際しては所定数の球を必要とし、特別遊技状態の発生に際しては多くの球が払い出されるように構成されている遊技機」となる。

【７０４６】

以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図３３９から図３４８を参照し、第５９実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｈ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。

【７０４７】

図３３９は、第５９実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図３４０は、パチンコ機Ｈ１０の背面図であり、図３４１は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図３４２は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放した状態で裏パックユニットＨ９４を内枠Ｈ１２に対して開放した状態（展開）を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図３４３は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を閉鎖すると共に正面枠Ｈ１４を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図３４４は、正面枠Ｈ１４を取り外した状態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図３４５は、遊技盤Ｈ１３及び内枠Ｈ１２の分解正面斜視図であり、図３４６は、正面枠Ｈ１４の分解正面斜視図であり、図３４７は、正面枠Ｈ１４の分解背面斜視図である。なお、図３４４では、発射位置送球ユニットＨ１７０から球発射ユニットＨ１１２ａに球を送球するための背面側開口Ｈ１７２が２点鎖線で図示される。

【７０４８】

また、以下の説明では、図３３９に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図３３９に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図３３９参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ｈ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【７０４９】

また、特段の説明がない限り、パチンコ機Ｈ１０を遊技する遊技者は、パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置し、パチンコ機Ｈ１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に視線を向けた状態（パチンコ機Ｈ１０の正面側と対面した状態）で遊技するものとして説明する。

【７０５０】

図３３９～図３４７に示すように、パチンコ機Ｈ１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠Ｈ１１と、その外枠Ｈ１１と略同一の外形形状に形成され外枠Ｈ１１に対して開閉可能に支持された内枠Ｈ１２と、その内枠Ｈ１２と略同一の外形形状に形成され内枠Ｈ１２に対して開閉可能に支持された正面枠Ｈ１４とを主に備えている。

【７０５１】

外枠Ｈ１１には、内枠Ｈ１２を支持するために正面視（図３３９参照）左側（矢印Ｌ方向側）の上下（矢印Ｕ－Ｄ方向）２カ所に金属製のヒンジＨ１８が取り付けられ、そのヒンジＨ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠Ｈ１２が正面枠Ｈ１４と共に正面手前側

（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている。
【７０５２】
パチンコ機Ｈ１０は、外枠Ｈ１１を島設備に取り付け固定することにより遊技場に設置される。なお、パチンコ機Ｈ１０において外枠Ｈ１１は必須の構成ではなく、外枠Ｈ１１又は枠状受部である外枠Ｈ１１と同一の内形を有し、外枠Ｈ１１の内枠Ｈ１２支持構造（ヒンジＨ１８等）及び施錠構造を有する部材が遊技場に備え付けられた構成としても良い。
【７０５３】
外枠Ｈ１１は、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される上方板Ｈ１１ａと、下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される下方板Ｈ１１ｂと、それら上方板Ｈ１１ａ及び下方板Ｈ１１ｂの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両端同士を上下方向に連結する左方板Ｈ１１ｃ及び右方板Ｈ１１ｄとを組み合わせて枠状に形成される。
【７０５４】
なお、外枠Ｈ１１は、木材で形成されるものに限られるものではなく、アルミ等の金属材料やプラスチック等の樹脂材料で形成されていても良く、それら木材、金属材料、又は、樹脂材料から形成される部材（上方板Ｈ１１ａ，下方板Ｈ１１ｂ，左方板Ｈ１１ｃ，右方板Ｈ１１ｄ）を組み合わせて形成されるものであっても良い。
【７０５５】
また、本実施形態では、外枠Ｈ１１の正面視左側（矢印Ｌ方向側）にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視右側（矢印Ｒ方向側）を正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能とされるが、外枠Ｈ１１の正面視右側にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視左側を正面手前側へ開閉可能としても良く、又、ヒンジＨ１８を外枠Ｈ１１の正面視下側（矢印Ｄ方向側）の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に取り付け、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視上側（矢印Ｕ方向側）を正面手前側へ開閉可能とするものであっても良い。
【７０５６】
内枠Ｈ１２は、外枠Ｈ１１と外形がほぼ同一の長方形状に形成される枠形成ユニットＨ１２ａと、その枠形成ユニットＨ１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に回動可能に支持される裏パックユニットＨ９４とを主に備えて形成され、裏パックユニットＨ９４が正面視で左側（矢印Ｌ方向側）を回動基端側（開閉基端側）とし、右側（矢印Ｒ方向側）を回動先端側（開閉先端側）として後方へ回動可能とされている（図３４２参照）。
【７０５７】
また、対象固定部である内枠Ｈ１２には、枠形成ユニットＨ１２ａと裏パックユニットＨ９４とで正面側（矢印Ｆ方向側）が開放する略箱状に形成された内側に多数の釘や入賞口Ｈ６３，Ｈ６４等を有する遊技盤Ｈ１３（図３４４及び図３４５参照）が配設される。この遊技盤Ｈ１３の正面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。
【７０５８】
なお、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、左側（矢印Ｌ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の左端部を支持する目的の左端支持部Ｈ１２ａ１と、右側（矢印Ｒ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の右端部を支持する目的の盤面支持装置Ｈ１２ａ２が配設される。遊技盤Ｈ１３は、左端支持部Ｈ１２ａ１にベース板Ｈ６０の左側端部が挿入されつつ枠状取付部である内枠Ｈ１２の背面側（矢印Ｂ方向側）における仮置き位置に押し込まれた後、盤面支持装置Ｈ１２ａ２が操作されて盤面支持装置Ｈ１２ａ２がベース板Ｈ６０の正面と係合する（ベース板Ｈ６０の正面を支持する）ことで内枠Ｈ１２の内側に固定される。
【７０５９】
また、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａは、球を遊技盤Ｈ１３の正面領域（遊技領域）に発射する球発射ユニットＨ１１２ａ（図３４４参照）と、正面枠Ｈ１４（上下皿ユニットＨ１５）に球を送球する皿通路形成部材Ｈ１６０と（図３４４参照）を主に備えて形成される。

【７０６０】
さらに、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、正面枠Ｈ１４を支持するために正面視左側（矢印Ｌ方向側）の上下２カ所に金属製のヒンジＨ１９が取り付けられ、そのヒンジＨ１９が設けられた側を開閉の軸として正面枠Ｈ１４が正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている（図３４３参照）。なお、枠状受部である内枠Ｈ１２の施錠と正面枠Ｈ１４の施錠とは、枠形成ユニットＨ１２ａに配設されるシリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。なお、シリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１は、振動または動作可能に構成されると共に変位可能に構成される。
【７０６１】
なお、ヒンジＨ１９による内枠Ｈ１２と正面枠Ｈ１４との開錠は、シリンダ錠Ｈ２０に専用の鍵を差し込むものではなく、後述する操作ユニットＨ１８０、機能調整操作部Ｈ１９０、操作ハンドルＨ５１、球抜きレバーＨ５２、球排出レバーＨ５４、又は、貸球操作部Ｈ４０等の正面枠Ｈ１４に配設される操作ユニットを操作することで行われるようにしても良い。また、内枠Ｈ１２又は正面枠Ｈ１４を開放した後で、開放された内側から操作ユニットＨ１８０、機能調整操作部Ｈ１９０、操作ハンドルＨ５１、球抜きレバーＨ５２、球排出レバーＨ５４、又は、貸球操作部Ｈ４０等の正面枠Ｈ１４に配設される操作ユニットを操作することで、所定の部材（例えば、上側装飾ユニットＨ１４ａ、左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃの化粧板）の係合が解除され所定の部材が取り外されるようにしても良い。
【７０６２】
球発射ユニットＨ１１２ａは、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０を介して１球ずつ所定のタイミングで送球される球を受け入れ可能に形成され、遊技盤Ｈ１３（内レールＨ６１及び外レールＨ６２）への球の送球方向に延設される発射レールＨ１１２ａ１と、回転可能に軸支され発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転して当接可能に形成される回転体Ｈ１１２ａ２と、その回転体Ｈ１１２ａ２を回転させるための駆動モータＨ８５０（図１８９参照）とを主に備えて形成される。
【７０６３】
即ち、球発射ユニットＨ１１２ａは、変位可能に構成される回転体Ｈ１１２ａ２を変位させて被案内物体である遊技球を発射可能に構成される。なお、回転体Ｈ１１２ａ２は、駆動または動作可能に構成される。
【７０６４】
球発射ユニットＨ１１２ａから遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）への球の発射（送球）は、発射レールＨ１１２ａ１上に球が送球された後、回転動作物体である回転体Ｈ１１２ａ２を回転させて発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転体Ｈ１１２ａ２を衝突させることで行われる。
【７０６５】
なお、本実施形態では、回転する回転体Ｈ１１２ａ２により球発射ユニットＨ１１２ａから球が発射（送球）されるが、球を発射する構造は回転する部材（回転体Ｈ１１２ａ２）に限られるものではない。例えば、球の発射方向にスライド変位可能なスライド体と、そのスライド体をスライド変位させるソレノイドとを備え、ソレノイドの励磁によりスライド体を変位させて球に衝突させることで球の発射（送球）が行われる伸縮装置として構成しても良い。
【７０６６】
なお、駆動モータＨ８５０は、振動または動作可能に構成される。即ち、駆動主体としての駆動モータＨ８５０は、変位可能に構成される。これより、被回転物体である回転軸棒と一体的に回転体Ｈ１１２ａ２を回転させ、遊技球を発射することが可能とされる。
【７０６７】
また、球発射ユニットＨ１１２ａは、内枠Ｈ１２に配設されるものに限られるものでなく、パチンコ機Ｈ１０の演出装置としてベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に（遊

技盤Ｈ１３に）配設することも可能である。例えば、センターフレームＨ８６やベース板Ｈ６０に開口した開口部からベース板Ｈ６０の背面側に配設される発射レールＨ１１２ａ１上に球を送球して、その球を回転体Ｈ１１２ａ２により発射して第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側を球が通過するように構成しても良い。

【７０６８】

皿通路形成部材Ｈ１６０は、図３４４に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１と本体側下皿通路部Ｈ１６２とを有している。本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路部Ｈ１６２は、背面側（矢印Ｂ方向側）の端部が内枠Ｈ１２に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通される貫通孔と連通可能となるように背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて開放され、正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が下方（矢印Ｄ方向）へ向けて開放されるように、内部で通路の方向が９０度変化する（前後方向から上下方向に変化する）湾曲通路を形成する。この構成において、払出装置Ｈ１３３から払い出された球は内枠Ｈ１２の貫通孔を通り、皿通路形成部材Ｈ１６０の背面側の端部から皿通路形成部材Ｈ１６０に進入し、正面側の端部から排出される。

【７０６９】

なお、皿通路形成部材Ｈ１６０の下側部分には、図３４４に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路部Ｈ１６２からの球の流出を規制するシャッタＨ１６３が設けられている。シャッタＨ１６３は、両通路の出口部分を狭め球の流出を阻止する阻止位置と、球の流出を許容する許容位置との両位置に切り替え可能に設けられており、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を閉鎖した状態とされる場合に許容位置に配置され、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を開放した状態（図３４３に示す状態）とされる場合に阻止位置に配置される。これにより、本体側上皿通路部Ｈ１６１又は本体側下皿通路部Ｈ１６２に球が貯留されている状態で正面枠Ｈ１４を開放した場合に、その貯留球がこぼれ落ちてしまうといった不都合が回避されている。

【７０７０】

正面枠Ｈ１４は、金属板によって縦長の矩形枠状に形成される本体枠Ｈ１４ｄと、その本体枠Ｈ１４ｄに配設され、その本体枠Ｈ１４ｄの上方側（矢印Ｕ方向側）の正面に配設される上側装飾ユニットＨ１４ａと、その上側装飾ユニットＨ１４ａの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側から下方（矢印Ｄ方向側）に向けて延設される左側装飾ユニットＨ１４ｂ及び右側装飾ユニットＨ１４ｃと、本体枠Ｈ１４ｄの下方側の正面を覆う上下皿ユニットＨ１５と、本体枠Ｈ１４ｄを介して上下皿ユニットＨ１５の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０と、その通路形成ユニットＨ１４０の背面側に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０とを主に備えて構成され、内枠Ｈ１２に回動可能に取り付けられている。

【７０７１】

また、正面枠Ｈ１４の回動基端側には、図３４６及び図３４７に示すように、前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８が設けられ、この前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８（前扉取付金具Ｈ５７は円柱状部、前扉取付金具Ｈ５８は軸孔を有する金属板）が内枠Ｈ１２に係合することにより、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４が回動可能に支持される。

【７０７２】

詳細には、前扉取付金具Ｈ５７は、内枠Ｈ１２の上側のヒンジＨ１９の下方位置において内枠Ｈ１２の正面側端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ延設され先端から背面側（矢印Ｂ方向側）へ前扉取付金具Ｈ５７が内嵌可能な大きさで凹設される嵌合凹部Ｈ１２ｅ１（図３４５参照）を有する軸支板部Ｈ１２ｅに軸支される。また、前扉取付金具Ｈ５８は、内枠Ｈ１２の下側のヒンジＨ１９から上方（矢印Ｕ方向）に突設される段付き円柱形状（直径の違う円柱が上下に連設される構成において上側の円柱の直径の方が小さい形状）の支持ピンＨ１９ａに外嵌されることで軸支される。

【７０７３】

また、正面枠Ｈ１４には、上側装飾ユニットＨ１４ａと左側装飾ユニットＨ１４ｂと右側装飾ユニットＨ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｈ１４ｅが

形成され、その窓部Ｈ１４ｅを塞ぐように正面枠Ｈ１４（本体枠Ｈ１４ｄ）の背面側（矢印Ｂ方向側）に２枚の板ガラスを有し光を透過可能に構成される板状透過部であるガラスユニットＨ１６が配設される（図３３９参照）。なお、パチンコ機Ｈ１０は、ガラスユニットＨ１６（窓部Ｈ１４ｅ）を介してパチンコ機Ｈ１０の正面側から遊技盤Ｈ１３の正面が視認可能となっている。

【７０７４】

ガラスユニットＨ１６は、図３３９及び図３４３に示すように、窓部Ｈ１４ｅより大きな外形で光透過性（透明性）を有する前後一対の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂと、これら透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを一体化する固定枠（図示せず）と、を備えている。固定枠は、樹脂材料により透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂより一回り大きな環状に形成され、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの外周縁が固定枠に接着されることでガラスユニットＨ１６は一体化された複層ガラスとされている。

【７０７５】

なお、ガラスユニットＨ１６は、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂによって光を透過可能に構成される（無色透明に形成されている）が、これに限定されることはなく樹脂材料によって無色透明に形成されていてもよく、パチンコ機Ｈ１０前方からガラスユニットＨ１６を通じて遊技領域を視認可能であれば無色透明でなく有色透明に形成されていても良い。

【７０７６】

また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂは、それら２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態で配設しても良い。透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態とする場合には、それら２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に変位可能な変位手段を配設して、遊技盤Ｈ１３よりも前方側（矢印Ｆ方向側）で変位手段による演出を可能にしても良い。この場合の変位手段とは、例えば、紙やナイロン等の部材から形成される複数の変位部材を固定枠に形成した孔から送り出す風により吹き飛ばす演出をするものや、固定枠に変位可能に配設した変位部材を音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図３４８参照）により２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間で変位させるものである。また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを固定する固定板に発光手段を配設し、その発光手段から出射される光を前方側の透明ガラスＨ１６ａまたは背面側（矢印Ｂ方向側）の透明ガラスＨ１６ｂの一方に照射して、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの一方に照射された光を遊技者に視認させる演出をするようにしても良い。

【７０７７】

正面枠Ｈ１４（上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃ）において窓部Ｈ１４ｅの周囲には、図３３９に示すようにＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が複数設けられている。これら電飾部Ｈ２９～Ｈ３３では、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて点灯や点滅が行われる。また、窓部Ｈ１４ｅの上側（矢印Ｕ方向側）の電飾部Ｈ３０には、遊技球が通過可能に構成される被通過進入物体である検出センサにより検出される払出球が不足する等の所定のエラー時に点灯する発光手段と、賞球払出中に点灯する発光手段とが内蔵されている。

【７０７８】

また、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃに独立して配置される独立配置物体である電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３から出射される光を非透過とする非透過性の樹脂材料から形成される。これにより、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の発光（点灯や点滅）を遊技者に注目させやすい構造となっている。

【７０７９】

なお、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、非透過に形成されるものに限られず、透過性の樹脂材料から形成して電飾部Ｈ２９～Ｈ３３に発光（点灯や点滅）

があった場合に正面枠Ｈ１４の全体から光を出射（透過）可能に構成しても良い。また、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材を配設して煌びやかさを醸し出すように構成しても良い。

【７０８０】

上側装飾ユニットＨ１４ａの左側（矢印Ｌ方向側）及び右側（矢印Ｒ方向側）には（窓部Ｈ１４ｅの右上側及び左上側には）、遊技状態に応じた効果音などが出力されるスピーカー組立体（音声出力装置Ｈ２２６（図３４８参照））を覆うスピーカーカバーＨ２７（パンチングメタルから形成される薄板部材）が設けられており、スピーカーカバーＨ２７を介してスピーカーの音をパチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に放音可能に構成されている。窓部Ｈ１４ｅの下方（矢印Ｂ方向）には、図３３９に示すように、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とが手前側へ膨出して配置されると共にそれら上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とが上下に並設される上下皿ユニットＨ１５が配設される。

【７０８１】

上皿Ｈ１７は、上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿Ｈ１７に賞球や貸出球などが排出される。また、上皿Ｈ１７は、払出装置Ｈ１３３（図３４０参照）より払い出された球を一旦貯留し、一列に整列させながら球発射ユニットＨ１１２ａ（図３４４参照）側へ導く機能を有しており、底面が正面視右側（矢印Ｒ方向側）に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿Ｈ１７に投入された球を発射位置送球ユニットＨ１７０へと案内可能に形成される。なお、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０に送球された球は、発射位置送球ユニットＨ１７０の動作により１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａへ案内される。即ち、遊技球が通過可能に構成される発射位置送球ユニットＨ１７０により遊技球を球発射ユニットＨ１１２ａに送球可能とされる。言い換えると、遊技球を送球可能に構成される発射位置送球ユニットＨ１７０により遊技球を球発射ユニットＨ１１２ａに送球可能とされる。

【７０８２】

下皿Ｈ５０は、上面を開放した略箱状に形成され、上皿Ｈ１７内にて余剰となった球を貯留する機能を有している。また、下皿Ｈ５０の背面側（矢印Ｂ方向側）側面には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口され球が下皿Ｈ５０に案内される球案内開口Ｈ５３が形成される。

【７０８３】

下皿Ｈ５０の正面側（矢印Ｆ方向側）の下方（矢印Ｄ方向）部には、下皿Ｈ５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバーＨ５２が設けられている。この球抜きレバーＨ５２は、常時、右方向（矢印Ｒ方向）に付勢されており、その付勢に抗して左方向（矢印Ｌ方向）へスライドさせることにより、下皿Ｈ５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバーＨ５２の操作は、通常、下皿Ｈ５０の下方に下皿Ｈ５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。

【７０８４】

なお、球抜きレバーＨ５２の操作により、千両箱に球を排出するものに限らず、島設備に連通する回収口に球を排出するものであっても良い。また、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とに分けて複数箇所に球を貯留する部位を設ける必要はなく、下皿Ｈ５０を廃止して上皿Ｈ１７のみとした１つの貯留部のみを有する構成としても良い。

【７０８５】

また、下皿Ｈ５０から球を排出する球抜きレバーＨ５２の操作を駆動モータにより制御することも可能である。これによれば、下皿Ｈ５０に球が払い出されたことや下皿Ｈ５０に所定数の球数が払い出されたこと起因して、球抜きレバーＨ５２を駆動モータにより変位させることで、下皿Ｈ５０からの球の排出を遊技者が忘れて下皿Ｈ５０の貯留領域に球が溢れることを抑制できる。

【７０８６】

特に、最近では、パチンコ機Ｈ１０が設置される店舗の島設備に連通する回収口に下皿

Ｈ５０から球を排出する店舗が多くなっており、所定数の球数しか貯留できない千両箱に下皿Ｈ５０から排出される球を排出する店舗が少なくなっている。店舗の島設備に連通する回収口に下皿Ｈ５０から球を排出する店舗では、下皿Ｈ５０から球が払い出されている最中に千両箱の交換等が必要ないので、下皿Ｈ５０への球の払い出しに伴って駆動モータにより球抜きレバーＨ５２を変位させる構成とすることで、遊技者の球抜きレバーＨ５２の操作を不要とできる。

【７０８７】

即ち、後述する主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１により大当たりの演出がされることに伴って、下皿Ｈ５０の球抜きレバーＨ５２を駆動モータにより変位させることで、大当たりにより下皿Ｈ５０に払い出される球を回収口に排出することができ、遊技者の球抜きレバーＨ５２の操作を不要とできる。その結果、遊技者をパチンコ機Ｈ１０の演出（特に大当たりの演出）に集中させることができ、遊技者の興趣を向上できる。

【７０８８】

上皿Ｈ１７（球の貯留領域）の手前側（矢印Ｆ方向側）には、変位可能に構成され、遊技者らにより手動操作される操作ユニットＨ１８０が設けられている。操作ユニットＨ１８０は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面等にて遊技者の操作に対応した演出が行われる場合に使用される操作装置である。なお、操作ユニットＨ１８０は、振動または動作可能に構成される。

【７０８９】

この操作ユニットＨ１８０には、上面側にボタン部Ｈ１８１が配設される。ボタン部Ｈ１８１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される軸を中心に下方側に向けて押圧操作可能とされ、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１（図３４４参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。

【７０９０】

なお、操作ユニットＨ１８０は、上皿Ｈ１７以外に下皿Ｈ５０周辺等の別の部位に設けられても良いし、複数箇所に設けられても良く、また、操作方法として押しボタン式のスイッチであっても良く、タッチセンサ、非接触式のセンサ等の別の操作方法によって情報入力可能な構成としても良い。

【７０９１】

また、操作ユニットＨ１８０は、上皿Ｈ１７の手前側でなく、上側装飾ユニットＨ１４ａ、左側装飾ユニットＨ１４ｂ、右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設しても良く、この場合、上皿Ｈ１７の手前側と別の操作ユニットＨ１８０を配設して、それぞれ別の演出でそれぞれの操作ユニットＨ１８０を遊技者に操作させるようにしても良い。

【７０９２】

操作ユニットＨ１８０の右側には、上下皿ユニットＨ１５の上面側に貸球操作部Ｈ４０（図３４６参照）と機能調整操作部Ｈ１９０と、球排出レバーＨ５４とが配設されている。貸球操作部Ｈ４０には、度数表示部Ｈ４１と、球貸しボタンＨ４２と、返却ボタンＨ４３とが設けられている。パチンコ機Ｈ１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部Ｈ４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部Ｈ４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。

【７０９３】

球貸しボタンＨ４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿Ｈ１７に供給される。返却ボタンＨ４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿Ｈ１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部Ｈ４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部Ｈ４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通

のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。

【７０９４】

機能調整操作部Ｈ１９０は、決定ボタンＨ１９１と、その決定ボタンＨ１９１を中心とする十字状の４方向外側の位置に配設される上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５と備える。

【７０９５】

機能調整操作部Ｈ１９０は、上側装飾ユニットＨ１４ａに配設されるスピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面の明るさ、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設される電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさなどを変更するための操作部である。遊技者は、決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５を操作することで、自身（遊技者）の好みに合うように音量や明るさを変更可能とされる。

【７０９６】

また、音量や明るさを変更する際には、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部に音量や明るさの調整度合いが数値やボリューム等で表示されるようになっている。これにより、遊技者が別のパチンコ機Ｈ１０を遊技し始める場合に音量や明るさの調整を簡易に行うことができる。

【７０９７】

なお、機能調整操作部Ｈ１９０による変更は、音量や明るさに限られるものではなく、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される演出等を変更可能とするものであっても良い。また、音量や明るさの調整度合いを第３図柄表示装置Ｈ８１に表示するものに限られるものではなく、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示しなくても操作と同時に変更（調整）後の音や表示をして調整させるものでも良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に調整度合いを表示するものであっても良い。

【７０９８】

球排出レバーＨ５４は、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に送球する際に遊技者が操作するレバーであり、図示しない付勢手段（バネ）により上方側（矢印Ｕ方向側）に付勢された状態で配設される。なお、球排出レバーＨ５４は、操作される（下方側（矢印Ｄ方向側）に押し込まれる）ことにより上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０に連通される通路を上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０（ファール球通路部Ｈ１４５）に連通する状態に切替可能に構成される。これにより、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に排出することができる。

【７０９９】

下皿Ｈ５０の右側（矢印Ｒ方向側）には、変位可能に構成され、遊技者が遊技時に操作する操作ハンドルＨ５１が配設される。なお、操作ハンドルＨ５１は、振動または動作可能に構成される。操作ハンドルＨ５１の内部には、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサＨ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチＨ５１ｂと、回転移動物体である操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。接触可能部である操作ハンドルＨ５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサＨ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤Ｈ１３の正面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドルＨ５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサＨ５１ａおよび発射停止スイッチＨ５１ｂがオフとなっている。

【７１００】

なお、操作ハンドルＨ５１は、操作ユニットＨ１８０や機能調整操作部Ｈ１９０や貸球操作部Ｈ４０の操作ボタンに置き換え可能である。例えば、操作ボタンの押し込み量を可変抵抗器で検出して操作ボタンの押し込み量に対応した球の打ち出し速度で遊技盤Ｈ１３

の正面へ球を打ち込むようにしても良い。また、機能調整操作部Ｈ１９０に球の打ち出し速度を調整する制御を設け、遊技者が設定した打ち出し速度で球を遊技盤Ｈ１３の正面へ打ち込むようにしても良い。

【７１０１】

さらに、操作ハンドルＨ５１を、上述した球排出レバーＨ５２に置き換えても良い。即ち、下皿Ｈ５０からの球の排出を許容する役割と、遊技盤Ｈ１３の正面への球の打ち出しを許容する役割と球排出レバーＨ５２に兼用させても良い。この場合、遊技盤Ｈ１３の正面へ球が打ち出されると下皿Ｈ５０から球の排出を許容でき、遊技盤Ｈ１３の正面へ球の打ち出しが停止されると下皿Ｈ５０からの球の排出を規制できるので、下皿Ｈ５０に球が溜まり過ぎることを抑制できる。

【７１０２】

通路形成ユニットＨ１４０は、樹脂材料により成形されており、上皿Ｈ１７に通じる前扉側上皿通路部Ｈ１４１と、下皿Ｈ５０に通じる前扉側下皿通路部Ｈ１４２と、ファール球通路部Ｈ１４５と、を有している。

【７１０３】

通路形成ユニットＨ１４０の上側隅部（正面枠Ｈ１４の回動基端側の隅部）には後方（矢印Ｂ方向）に突出し上方に開放された払出球受口部Ｈ１４３が形成されており、その払出球受口部Ｈ１４３が仕切壁Ｈ１４４によって左右に仕切られることで前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口と前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口とがそれぞれ形成されている（図３４６参照）。

【７１０４】

なお、前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側上皿通路部Ｈ１６１（図３４４参照）が連通されており、前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側下皿通路部Ｈ１６２（図３４４参照）が連通される。これにより、払出装置Ｈ１３３から送球される球は、上皿Ｈ１７又は下皿Ｈ５０に送球されることとなる。

【７１０５】

ファール球通路部Ｈ１４５（図３４６参照）は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球のうち遊技領域まで至らなかった球をファール球として下皿Ｈ５０に排出する通路を形成する部位である。

【７１０６】

ファール球通路部Ｈ１４５には、図３４７に示すように、上方側（矢印Ｕ方向側）が開放したファール球受口部Ｈ１４６が設けられる。このファール球受口部Ｈ１４６に受け入れられたファール球は、ファール球通路部Ｈ１４５（図３４６参照）の内部通路を流下した後で、下皿Ｈ５０に排出される。なお、ファール球通路部Ｈ１４５は、下皿Ｈ５０でなく、上皿Ｈ１７に接続され、ファール球が上皿Ｈ１７に排出される構成としても良い。

【７１０７】

また、ファール球通路部Ｈ１４５は、遊技者が球排出レバーＨ５４を操作することにより上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０に流下する未発射球が案内される通路である球抜き通路（図示しない）と合流するように形成される。

【７１０８】

発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７に貯留される球を１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａに送球するためのユニットである。発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７の送球経路の開口部に連なる正面側開口Ｈ１７１と、その正面側開口Ｈ１７１から流入した球を背面側から排出可能な背面側開口Ｈ１７２と、それら正面側開口Ｈ１７１から背面側開口Ｈ１７２までを通過する通路上に変位可能に配設される切替手段（図示しない）と、その切替手段を駆動させるソレノイド（図示しない）とを主に備えて形成される。

【７１０９】

発射位置送球ユニットＨ１７０の切替手段は、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが可能な位置と、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させる

ことが不可能な位置とに変位可能に構成されており、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置に変位された場合に発射位置送球ユニットＨ１７０の通路上にある球を背面側開口Ｈ１７２から球発射ユニットＨ１１２ａ（発射レールＨ１１２ａ１）に流入可能に形成される。これにより、切替手段の位置の切り替え（１往復の変位）に伴って１球ずつ球を背面側開口Ｈ１７２から排出することが可能となっている。

【７１１０】

なお、背面側開口Ｈ１７２は、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１の上方（矢印Ｕ方向）の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する（図３４４参照）。従って、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１に発射位置送球ユニットＨ１７０から１球ずつ球が送球されることとなる。

【７１１１】

また、図３４４に示すように、背面側開口Ｈ１７２は、発射レールＨ１１２ａ１の球の送球方向における発射レールＨ１１２ａ１の両端部の間に形成される。従って、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１上に送球される球は、発射レールＨ１１２ａ１上を左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両方向に転動可能となるが、発射レールＨ１１２ａ１は一方側（回転体Ｈ１１２ａ２から離れる側）が上方（矢印Ｕ方向）に向かって傾斜した状態で配設されるので、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球された球（回転体Ｈ１１２ａ２により発射前の球）が回転体Ｈ１１２ａ２から離れる方向に転動することが抑制される。

【７１１２】

図３４４に示すように、遊技盤Ｈ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｈ６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）の他、レール部材Ｈ６１，Ｈ６２、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５、スルーゲートＨ６７、可変表示装置ユニットＨ８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠Ｈ１２の裏面側に取り付けられる。なお、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５は、光を透過可能に構成される。

【７１１３】

ベース板Ｈ６０は、光を透過可能に構成される（光透過性の）樹脂材料からなり、その正面側（矢印Ｆ方向側）からベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変表示装置ユニットＨ８０は、ルータ加工によってベース板Ｈ６０に形成された貫通穴に配設され、光透過可能部である遊技盤Ｈ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。

【７１１４】

なお、ベース板Ｈ６０は、光透過性の樹脂材料から形成されるものに限られるものではなく、薄い板材を張り合わせた木材から形成されるものであっても良いし、非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても良い。なお、これらの場合、装飾がされたシール等をベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）の全域に貼付してベース板Ｈ６０の装飾性を確保することが好ましい。

【７１１５】

遊技盤Ｈ１３の正面中央部分は、正面枠Ｈ１４の窓部Ｈ１４ｅ（図３３９参照）の一部を通じて内枠Ｈ１２の正面側（矢印Ｆ方向側）から視認することができる。以下に、主に図３４４を参照して、遊技盤Ｈ１３の構成について説明する。

【７１１６】

遊技盤Ｈ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した領域構成部である外レールＨ６２が植立され、その外レールＨ６２の内側位置には外レールＨ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＨ６１が植立される。この内レールＨ６１と外レールＨ６２とにより遊技盤Ｈ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ｈ１３とガラスユニットＨ１６（図３３９参照）とにより前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）が囲まれることにより、遊技盤Ｈ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領

域は、遊技盤Ｈ１３の正面であって２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｈ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。なお、２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２、金属板である必要なく、樹脂材料から帯状に形成されるものであっても良い。

【７１１７】

２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球を遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）へ案内するために設けられたものである。内レールＨ６１の先端部分（図３４４の左上部）には戻り球防止部材Ｈ６８が取り付けられる。

【７１１８】

戻り球防止部材Ｈ６８は、内レールＨ６１側から外レールＨ６２側に延設される樹脂製の板部材から形成され、内レールＨ６１側の一端側を軸に他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転可能とされる。また、戻り球防止部材Ｈ６８は、一端側に錘を備え、その錘により被押進物体である他端側が外レールＨ６２に近づく方向に付勢される。

【７１１９】

これにより、遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）に案内される球の勢いで戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転させることができると共に、抑制物体としての壁部によって回転角度を抑制されており、戻り球防止部材Ｈ６８を超える位置（遊技盤Ｈ１３の上方側）に球が案内された際に戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２に近づく方向に回転させることができ、一旦、遊技盤Ｈ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。

【７１２０】

なお、戻り球防止部材Ｈ６８は、樹脂材料から形成される必要はなく、金属材料から形成されていても良い。また、対象物の動作を抑制する錘以外に磁石などの磁力やねじりバネなどの付勢力によって戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２側に付勢する構成としても良い。

【７１２１】

また、戻り球防止部材Ｈ６８は、後述する風車のように、一方向に継続して回転できるもの（１球ずつ所定位置に戻らないもの）であっても良い。この場合、遊技盤Ｈ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻らないように、遊技盤Ｈ１３の上部への球の案内によって回転する方向（一方向）とは反対の方向（他方向）に回転することを規制するワンウェイクラッチを配設することが好ましい。

【７１２２】

外レールＨ６２の先端部（図３４４の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＨ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＨ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【７１２３】

遊技領域の正面視左側下部（図３４４の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、主制御装置Ｈ１１０（図３４８参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機Ｈ１０の遊技状態の表示が行われる。本実施形態では、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞したか、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａが作動し、一方で、球が、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂが作動するように構成されている。

【７１２４】

また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機Ｈ１０が確変中か時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が確変大当たりに対応した図柄か普通大当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に

、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機Ｈ１０の各種遊技状態を示唆することができる。

【７１２５】

尚、本パチンコ機Ｈ１０では、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ｈ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ確変大当たり、４Ｒ確変大当たり、１５Ｒ通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【７１２６】

ここで、「１５Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数（例えば、可変入賞装置Ｈ６５（図３４４参照）が連続開放される最大回数）が１５ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことであり、「４Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことである。また、「１５Ｒ通常大当たり」は、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となる大当たりのことである。

【７１２７】

大当たり中において、最大ラウンド数や現在のラウンド数は、数字の変更を視認させる状態で表示が可能な視認変更物体である表示層（ラウンド数が表示される表示層またはその表示層よりも後方の表示層）での表示と共に第３図柄表示装置Ｍ８１においても表示される。大当たりが終了する際には、ラウンド数の表示が第３図柄表示装置Ｍ８１においてされる表示層よりも前側に位置する視認可能物体である表示層においてエンディング表示（静止画または動画）が実行される。

【７１２８】

このエンディング表示によりラウンド数の表示が隠されることで、遊技者は、大当たりが終了したことを視覚的に把握することができ、戸惑うことなく大当たり後の遊技が開始されることを理解することができる。

【７１２９】

また、ラウンド間において、ラウンド数の表示が第３図柄表示装置Ｍ８１においてされる表示層よりも前側に位置する表示層においてインターバル表示（静止画または動画）が実行される。このインターバル表示によりラウンド数の表示が隠されることで、遊技者は、ラウンドの切れ目であることを視覚的に把握することができる。

【７１３０】

なお、大当たりのラウンド数は、１５Ｒと４Ｒに限られるものではなく、パチンコ機Ｈ１０の機種により他のラウンド数に変更しても良く、又、２種以上のラウンド数を有するものであっても良い。また、時短状態における所定の変動回数は、１００変動回数に限られるものではなく、例えば、１変動回数や１０００変動回数に設定しても良い。

【７１３１】

また、「高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。本実施形態における高確率状態（確変中）は、後述する第２図柄の当たり確率がアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態を含む。「低確率状態」とは、確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、確変の時より大当たり確率が低い状態をいう。また、「低確率状態」のうちの時短状態（時短中）とは、大当たり確率が通常の状態であると共に、大当たり確率がそのままで第２図柄の当たり確率のみがアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態

のことをいう。一方、パチンコ機Ｈ１０が通常中とは、確変中でも時短中でもない遊技の状態（大当たり確率も第２図柄の当たり確率もアップしていない状態）である。

【７１３２】

確変中や時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａを駆動する駆動主体としてのソレノイドの制御態様が変更され、電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物Ｈ６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、確変中や時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。

【７１３３】

なお、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数を通常中よりも増やす変更を行うものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２図柄の当たり確率は変更せず、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間および１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数の少なくとも一方を変更するものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間や、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａを開放する回数は変更せず、第２図柄の当たり確率だけを、通常中と比してアップするよう変更するものであっても良い。

【７１３４】

遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口Ｈ６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニットＨ８０が配設されている。可変表示装置ユニットＨ８０には、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置Ｈ８１と、スルーゲートＨ６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成され、光を発光可能に構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、可変表示装置ユニットＨ８０には、第３図柄表示装置Ｈ８１の外周を囲むようにして、センターフレームＨ８６が配設されている。

【７１３５】

なお、センターフレームＨ８６は、遊技領域を流下する球がベース板Ｈ６０の中央開口を介して第３図柄表示装置Ｈ８１側に流下することを防止するための部材であり、ベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出して形成される。また、センターフレームＨ８６は光を透過可能に構成される。

【７１３６】

また、センターフレームＨ８６の一部には、遊技領域を流下する球を受け入れると共に第３図柄表示装置Ｈ８１の周囲を通過させて第１入賞口Ｈ６４側から排出するワープ通路（図示せず）が一部に形成される。センターフレームＨ８６に形成されるワープ通路は、遊技球が通過可能に構成される。言い換えると、ワープ通路は、遊技球を送球可能に構成される。

【７１３７】

また、センターフレームＨ８６には、ワープ通路から排出された遊技球が通過可能に構成されるステージを備える。即ち、ワープ通路から排出される遊技球を送球可能に構成されるステージを備える。センターフレームＨ８６のステージは、遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される凹部を備え、その凹部により遊技球をベース板Ｈ６０の所定の領域に送球可能に構成される。

【７１３８】

本実施形態では、ベース板Ｈ６０よりも正面側を球が通過するようにワープ通路が構成

されるが、ベース板Ｈ６０よりも背面側を球が通過するようにワープ通路を形成することも可能である。例えば、ベース板Ｈ６０よりも背面側を通る通路をベース板Ｈ６０よりも背面側に配設される円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００よりも背面を通過するように構成して、その円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００の変位に伴ってワープ通路を通過する遊技球を遊技者から視認できるようにしても良い。

【７１３９】

なお、センターフレームＨ８６には、遊技領域まで突出して遊技領域の背面側を区画する部分に、所定の幅を隔てた状態で正面側に向かって立設される一対の立設部を形成して、それら一対の立設部により区画される領域に沿って遊技球を流下させるようにしても良い。即ち、センターフレームに遊技球が通過可能に構成される流下経路（一対の立設部）を形成しても良い。

【７１４０】

また、センターフレームＨ８６で遊技球の流下経路を形成した場合には、一対の立設部の対向面（流下経路の内面側）に凹設される凹部または凸設される凸部を形成して、一対の立設部の対向間に沿って流下される遊技球を凹部または凸部に当接させることで、一対の立設部の対向間を流下する遊技球に流下方向（一対の立設部の延設方向）以外の方向の力成分を付与して、一対の立設部の対向間を流下する遊技球における流下方向の速度を低下するようにしても良い。即ち、一対の立設部に形成される凹部または凸部は、遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される。これによれば、球の流下速度を遅くすることで、流下する遊技球を遊技者に視認させやすくできると共に、球発射ユニットＨ１１２ａにより遊技領域に送球（発射）された遊技球がその発射された速度を維持したまま（流下速度が速いまま）釘や突起に当接することで釘や突起が曲がったりすることを抑制できる。

【７１４１】

なお、一対の立設部をセンターフレームＨ８６と別体で構成することも可能である。即ち、遊技球が通過可能に構成される一対の立設部を有する部材をベース板Ｈ６０に別途配設しても良い。これによれば、遊技球を送球可能に構成される一対の立設部により、遊技球を所定の方向に流下させることができる。

【７１４２】

第３図柄表示装置Ｈ８１は９インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置Ｈ１１４（図３４８参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。なお、第３図柄表示装置Ｈ８１は、９インチ以外のサイズで構成されていても、２枚以上の複数の液晶ディスプレイを並設して構成されていても良い。

【７１４３】

第３図柄表示装置Ｈ８１の各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置Ｈ８１は、主制御装置Ｈ１１０（図３４８参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。即ち、第３図柄表示装置Ｈ８１は、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた光を発光可能に構成される。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置Ｈ８１を構成するようにしても良い。

【７１４４】

第２図柄表示装置は、球がスルーゲートＨ６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機Ｈ１０では、球がスルーゲートＨ６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄

表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。なお、第２図柄表示装置は、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて図柄を表示されるものであって良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１と別の表示装置とのどちらにも図柄を表示させるものであっても良く、本実施形態では、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示される。

【７１４５】

パチンコ機Ｈ１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｈ６４０に付随された電動役物Ｈ６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【７１４６】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、確変中または時短中の方が短くなるように設定される。これにより、確変中および時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、確変中および時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【７１４７】

なお、確変中または時短中において、当たり確率を高める、１回に当たりに対する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、確変中または時短中に第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としても良い。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、確変中または時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしても良いし、また、１回の当たりに対する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしても良い。

【７１４８】

スルーゲートＨ６７は、可変表示装置ユニットＨ８０の左右の領域において遊技盤Ｈ１３に組み付けられ、遊技盤Ｈ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲートＨ６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【７１４９】

球のスルーゲートＨ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。なお、本実施形態では、光を発光可能に構成される第２図柄保留ランプは、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示されるように構成されるが、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に点灯表示するものであっても良い。例えば、スルーゲートＨ６７への球の通過に伴って点灯する４つのＬＥＤを第３図柄表示装置Ｈ８１の下方に配設して点灯表示するものであっても良い。

【７１５０】

また、スルーゲートＨ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け数は２つに限定されるものではなく、例えば１つであっても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＨ８０の左右に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の下方でも良い。また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしても良い。

【７１５１】

可変表示装置ユニットＨ８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口Ｈ６４が配設され

ている。この第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図３４８参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａで示される。

【７１５２】

一方、第１入賞口Ｈ６４の正面視下方には、球が入賞し得る第２入賞口Ｈ６４０が配設されている。この第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図３４８参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂで示される。

【７１５３】

また、第１入賞口Ｈ６４および第２入賞口Ｈ６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成しても良い。

【７１５４】

第２入賞口Ｈ６４０には電動役物Ｈ６４０ａが付随されている。この電動役物Ｈ６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖状態（縮小状態）となって、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲートＨ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となり、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しやすい状態となる。

【７１５５】

なお、本実施形態では、第２入賞口Ｈ６４０の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に開閉する羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設され、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となった場合に第２入賞口Ｈ６４０の左右両側から球が第２入賞口Ｈ６４０に入賞可能に構成されるが、左右方向の一方側の流路を塞ぐ壁を形成して、他方側からのみ第２入賞口Ｈ６４０に球が入賞可能となるように構成しても良い。この場合、第２入賞口Ｈ６４０の他方側にのみ開閉する羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設される。

【７１５６】

また、電動役物Ｈ６４０ａは、回転する羽部材に限られるものではなく、第２入賞口Ｈ６４０を開放する位置と閉鎖する位置とに移動するものであればスライド変位するものであっても良い。例えば、電動役物Ｈ６４０ａは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にスライド変位するものや、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向側）にスライド変位するものであっても良い。

【７１５７】

上述した通り、確変中および時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となる回数が増える。更に、確変中および時短中は、電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。

【７１５８】

本実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０は、遊技盤Ｈ１３の構成が左右対称とされるため、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「右打ち」）、第１入賞口Ｈ６４を狙うことも、可変表示装置ユニットＨ８０の左

方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「左打ち」）第２入賞口Ｈ６４０を狙うこともできる。そのため、本実施形態のパチンコ機Ｈ１０は、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることを不要にできる。よって、球の打ち方を変化させる煩わしさを解消することができる。

【７１５９】

なお、低確率状態であっても高確率状態でも大当たりとなる確率が変わらない（低確率状態の大当たり確率と高確率状態の大当たり確率とが同じ確率である）構成としても良い。この場合には、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ確変大当たりとなる確率が、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されるように構成すると共に、「左打ち」側の流路に第１入賞口Ｈ６４を配設し、「右打ち」側の流路に第２入賞口Ｈ６４０を配設する構成（遊技盤Ｈ１３の構成を左右非対称）とすることが好ましい。

【７１６０】

この構成によれば、通常中においては、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物が閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しづらいので、電動役物のない第１入賞口Ｈ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の左方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射し（「左打ち」）、第１入賞口Ｈ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【７１６１】

一方、確変中や時短中は、スルーゲートＨ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｈ６４０に付随する被押進物体である電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｈ６４０へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射し（「右打ち」）、スルーゲートＨ６７を通過させて電動役物を開放状態にすると共に、第２入賞口Ｈ６４０への入賞によって１５Ｒ確変大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【７１６２】

従って、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることができ、遊技者の興趣を維持できる。

【７１６３】

第１入賞口Ｈ６４の下方には可変入賞装置Ｈ６５（図３４４参照）が配設されており、その略中央部分に特定入賞口Ｈ６５ａが設けられている。パチンコ機Ｈ１０においては、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｈ６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞することが配置検出センサである不図示の入賞検出センサに検出されるまで）開放される。

【７１６４】

この特定入賞口Ｈ６５ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放される。この特定入賞口Ｈ６５ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。

【７１６５】

なお、上記した形態に特別遊技状態は限定されるものではない。特定入賞口Ｈ６５ａと

は別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおいて大当たりに対応したＬＥＤが点灯した場合に、特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放され、その特定入賞口Ｈ６５ａの開放中に、球が特定入賞口Ｈ６５ａ内へ入賞することを契機として特定入賞口Ｈ６５ａとは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。また、特定入賞口Ｈ６５ａは１つに限るものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｈ６４の下方右側や、第１入賞口Ｈ６４の下方左側に限らず、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の左方でも良い。

【７１６６】

遊技盤Ｈ１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＫ１が設けられ、貼着スペースＫ１に貼られた証紙等は、正面枠Ｈ１４のガラスユニットＨ１６を介して視認することができる。

【７１６７】

遊技盤Ｈ１３には、アウト口Ｈ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０にも入賞しなかった球は、アウト口Ｈ７１を通って図示しない球排出路へと案内される。アウト口Ｈ７１は、特定入賞口Ｈ６５ａの下方（矢印Ｄ方向側）に配設される。

【７１６８】

また、遊技盤Ｈ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車（図示しない）等の各種部材（役物）とが配設されている。さらに、第３図柄表示装置Ｈ８１を取り囲む態様でベース板Ｈ６０の中央開口部に配設されるセンターフレームＨ８６の一部は、上方側（矢印Ｕ方向側）の遊技領域まで背面側（矢印Ｂ方向側）の側面が延設され、その延設された領域に正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突出する突出部を複数備える。遊技盤Ｈ１３の遊技領域を流下する球は、多数の釘や、センターフレームＨ８６の突出部、風車等に衝突しつつ流下されることで、球の落下方向が適宜分散される。

【７１６９】

なお、本実施形態では、センターフレームＨ８６の一部が延設される方向が上方側（矢印Ｕ方向）に設定されているが、右側（矢印Ｒ方向側）や左側（矢印Ｌ方向側）に延設されていても良く、その延設部分に突出部だけでなくスルーゲートＨ６７や各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０を配置する構成としても良い。また、センターフレームＨ８６は、延設部分や突出部を備えない構成としても良い。

【７１７０】

風車は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の軸を中心に回転可能に形成される。また、風車は、正面視において回転軸を中心とする円形に形成されベース板Ｈ６０の正面から１球分の距離を隔てた位置に配設される円盤部材と、その円盤部材の一部からベース板Ｈ６０側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出され風車の回転方向に沿って所定の角度（本実施形態では１２０度）で分散配置される複数（本実施形態では３枚）の球当接部とを備えて形成されており、遊技盤Ｈ１３を流下する球が球当接部に当接した衝撃で回転しつつ当接した球を複数（２以上）の方向に案内可能に形成される。

【７１７１】

また、風車は、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。これにより、球当接部に当接した球の流下方向を遊技者に視認させやすくできると共に、風車の回転方向を遊技者に認識させにくくできる。

【７１７２】

なお、遊技盤Ｈ１３は、ベース板Ｈ６０に必ずしも風車を備えている必要はなく風車を備えない構成としても良い。また、センターフレームＨ８６のワープ通路（図示しない）や、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ入球した球が通過する通路（図示しない）の通路途中に風車を配設して、風車により球の通路を変更するように構成することも可能である。さらに、風車は、一部が非透過性の樹脂材料から形成されるものであって

も、全部が非透過性のアルミ等の金属製の材料から形成されるものであっても良く、球が当接した際に球を複数の方向に案内可能であれば形状、色、材質は何でも良い。例えば、風車は、１球ずつ交互に異なる方向に球を振り分け可能に構成されていても良い。また、風車に変えて、上述した戻り球防止部材Ｈ６８を配設して、遊技領域を流下する球を一方向に流下させる（球が戻らない）ように構成しても良い。

【７１７３】

また、上記第５９実施形態では、遊技盤Ｈ１３のベース板Ｈ６０に配設した風車に遊技領域を流下する遊技球を当接（衝突）させて風車を回転させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、風車に駆動手段の駆動力を伝達するように構成しても良い。

【７１７４】

例えば、上記第５９実施形態における風車に置き換えて左側円環部材Ｇ７１０、右側円環部材Ｇ７２０、アーム部Ｇ８１２、第１回転ベースＧ４１０、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ６４２０、花弁側伝達部材Ｇ４３０、第２回転ベースＧ４６０、第２装飾ユニットＧ４８０をベース板Ｈ６０に配設するように構成して、それら回転する左側円環部材Ｇ７１０、右側円環部材Ｇ７２０、アーム部Ｇ８１２、第１回転ベースＧ４１０、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ６４２０、花弁側伝達部材Ｇ４３０、第２回転ベースＧ４６０、第２装飾ユニットＧ４８０に遊技領域を流下する遊技球を衝突させて、遊技球の流下方向を変更するように構成しても良い。

【７１７５】

図３４０に示すように、パチンコ機Ｈ１０の背面側には、制御基板ユニットＨ９０，Ｈ９１と、裏パックユニットＨ９４とが主に備えられている。制御基板ユニットＨ９０は、主基板（主制御装置Ｈ１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置Ｈ１１３）と表示制御基板（表示制御装置Ｈ１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニットＨ９１は、払出制御基板（払出制御装置Ｈ１１１）と発射制御基板（発射制御装置Ｈ１１２）と電源基板（電源装置Ｈ１１５）とカードユニット接続基板Ｈ１１６とが搭載されてユニット化されている。

【７１７６】

裏パックユニットＨ９４は、保護カバー部を形成する裏パックＨ９２と払出ユニットＨ９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとしてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。

【７１７７】

なお、主制御装置Ｈ１１０、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び表示制御装置Ｈ１１４、払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２、電源装置Ｈ１１５、カードユニット接続基板Ｈ１１６は、それぞれ基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４に収納されている。基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。

【７１７８】

また、基板ボックスＨ１００（主制御装置Ｈ１１０）及び基板ボックスＨ１０２（払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２が開封されたかどうかを知ることができ

る。
【７１７９】
払出ユニットＨ９３は、裏パックユニットＨ９４の最上部に位置して上方に開口したタンクＨ１３０と、タンクＨ１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレールＨ１３１と、タンクレールＨ１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレールＨ１３２と、ケースレールＨ１３２の最下流部に設けられ、払出モータＨ２１６（図３４８参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置Ｈ１３３とを備えている。タンクＨ１３０には、遊技ホール（以下、単にホールとも称する）の島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置Ｈ１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレールＨ１３１には、当該タンクレールＨ１３１に振動を付加するためのバイブレータＨ１３４が取り付けられており、このバイブレータＨ１３４の振動によりタンクレールＨ１３１内に球が詰まることが抑制される。なお、バイブレータＨ１３４は、タンクレールＨ１３１に取り付けられるだけでなく、他のレール部分（通路）に取り付けることも可能である。例えば、上皿Ｈ１７や下皿Ｈ５０に球を送球する球送通路（皿通路形成部材Ｈ１６０）や、上皿Ｈ１７から球発射ユニットＨ１１２ａに球を送球する送球通路（発射位置送球ユニットＨ１７０）に配設しても良い。
【７１８０】
また、払出制御装置Ｈ１１１には状態復帰スイッチＨ１２０が設けられ、発射制御装置Ｈ１１２には可変抵抗器の操作つまみＨ１２１が設けられ、電源装置Ｈ１１５にはＲＡＭ消去スイッチＨ１２２が設けられている。状態復帰スイッチＨ１２０は、例えば、払出モータＨ２１６（図３４８参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみＨ１２１は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）から放音される音の大きさを店舗側で調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２は、パチンコ機Ｈ１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。
【７１８１】
遊技機が配置されるホール（遊技機店舗）では、払出エラーの発生時において、パチンコ機Ｈ１０の設定に影響を与えないように構成される非調整部である店員呼び出しボタンを遊技者が操作することで、ホールの店員が払出エラーに気付くことができるように構成されている。
【７１８２】
なお、タンクＨ１３０に上述した球発射ユニットＨ１１２ａを別途配設して、球発射ユニットＨ１１２ａにより球を打ち出すことでタンクＨ１３０に送球される球が詰まることや、タンクＨ１３０からタンクレールＨ１３１に送球される球が詰まることを抑制しても良い。
【７１８３】
次に、図３４８を参照して、本パチンコ機Ｈ１０の電気的構成について説明する。図３４８は、パチンコ機Ｈ１０の電気的構成を示すブロック図である。
【７１８４】
主制御装置Ｈ１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ（マイクロプロセッサー）Ｈ２０１が搭載されている。ＭＰＵＨ２０１には、該ＭＰＵＨ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ（半導体メモリ）Ｈ２０２と、そのＲＯＭＨ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ（ランダムアクセスメモリ）Ｈ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置Ｈ１１０では、ＭＰＵＨ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｈ８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機Ｈ１０の主要な処理を実行する。
【７１８５】
なお、払出制御装置Ｈ１１１や音声ランプ制御装置Ｈ１１３などのサブ制御装置に対し

て動作を指示するために、主制御装置Ｈ１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置Ｈ１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。

【７１８６】

ＲＡＭＨ２０３は、各種エリア、カウンタ、フラグのほか、ＭＰＵＨ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。なお、ＲＡＭＨ２０３は、パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。

【７１８７】

停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭＨ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭＨ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機Ｈ１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭＨ２０３への書き込みはメイン処理（図示せず）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭＨ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図示せず）において実行される。なお、ＭＰＵＨ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路Ｈ２５２からの停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【７１８８】

主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２０４を介して入出力ポートＨ２０５が接続されている。入出力ポートＨ２０５には、払出制御装置Ｈ１１１、音声ランプ制御装置Ｈ１１３、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ、第２図柄表示装置、第２図柄保留ランプ、特定入賞口Ｈ６５ａの被押進物体である開閉板の下辺を軸として正面側に開閉駆動するための駆動主体としての大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドなどからなるソレノイドＨ２０９が接続され、ＭＰＵＨ２０１は、入出力ポートＨ２０５を介してこれらに対し各種コマンドや制御信号を送信する。

【７１８９】

なお、ソレノイドＨ２０９は、大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドだけでなく、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源（駆動モータ）や、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、上皿Ｈ１７へ球を送球するための払出装置Ｈ１３３を駆動する駆動モータ（図示しない）等を含む構成としても良い。

【７１９０】

入出力ポートＨ２０５には、図示しないスイッチ群およびスルーゲートＨ６７を通過したことを検出するセンサ（スルーゲートＨ６７）、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ入賞した球が進入可能な被進入物体であって、球が入賞したことを検知する入賞検出センサ（図示しない）、パチンコ機Ｈ１０に振動が入力されたことを検出する振動検出センサ（図示しない）、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に磁石等が近づけられたことを検出する磁力検出センサ等のセンサ群などからなる各種スイッチＨ２０８、電源装置Ｈ１１５に設けられた後述のＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３が接続され、ＭＰＵＨ２０１は各種スイッチＨ２０８から出力される信号や、ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３より出力されるＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２に基づいて各種処理を実行する。

【７１９１】

なお、各種スイッチＨ２０８は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における枠ボタンＨ２２（操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１や機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）を

含む構成としても良い。
【７１９２】
　払出制御装置Ｈ１１１は、払出モータＨ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵＨ２１１は、そのＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２１３とを有している。
【７１９３】
　払出制御装置Ｈ１１１のＲＡＭＨ２１３は、主制御装置Ｈ１１０のＲＡＭＨ２０３と同様に、ＭＰＵＨ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭＨ２１３は、パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１と同様、ＭＰＵＨ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路Ｈ２５２から停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。
【７１９４】
　払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２１４を介して入出力ポートＨ２１５が接続されている。入出力ポートＨ２１５には、主制御装置Ｈ１１０や払出モータＨ２１６、発射制御装置Ｈ１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置Ｈ１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置Ｈ１１１に接続されるが、主制御装置Ｈ１１０には接続されていない。
【７１９５】
　発射制御装置Ｈ１１２は、主制御装置Ｈ１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニットＨ１１２ａを制御するものである。
【７１９６】
　球発射ユニットＨ１１２ａの回転体Ｈ１１２ａ２は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドルＨ５１に触れていることをタッチセンサＨ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための発射停止スイッチＨ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）に対応して駆動モータから駆動力が伝達され、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた速度で回転体Ｈ１１２ａ２が回転される。これにより、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた強さで球発射ユニットＨ１１２ａから内レールＨ６１及び外レールＨ６２の対向間に球が発射される。
【７１９７】
　音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカーなど）Ｈ２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部Ｈ２９～Ｈ３３など）Ｈ２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置Ｈ１１４で行われる第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵＨ２２１は、そのＭＰＵＨ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２２３とを有している。
【７１９８】
　音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２２４を介して入出力ポートＨ２２５が接続されている。入出力ポートＨ２２５には、主制御装置Ｈ１１０、表示制御装置Ｈ１１４、音声出力装置Ｈ２２６

、ランプ表示装置Ｈ２２７、その他装置Ｈ２２８、ボタン部Ｈ１８１などがそれぞれ接続されている。その他装置Ｈ２２８には、駆動モータＧ９１０、駆動モータＧ８４０、駆動手段Ｈ７５０、及び、モータ装置Ｐ７７１が含まれる。

【７１９９】

なお、その他装置Ｈ２２８には、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源だけでなく、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａを含む構成としても良い。

【７２００】

音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置Ｈ１１４へ通知する。

【７２０１】

また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、ボタン部Ｈ１８１からの入力を監視し、遊技者によってボタン部Ｈ１８１が操作された場合は、第３図柄表示装置Ｈ８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた背面画像を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた背面画像変更コマンドを表示制御装置Ｈ１１４へ送信する。ここで、背面画像とは、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させる主要な画像である第３図柄の背面側に表示される画像のことである。表示制御装置Ｈ１１４は、この音声ランプ制御装置Ｈ１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置Ｈ８１に各種の画像を表示する。

【７２０２】

さらに、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、機能調整操作部Ｈ１９０（決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）からの入力を監視し、遊技者によって機能調整操作部Ｈ１９０が操作された場合は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量を変更したり、第３図柄表示装置Ｈ８１の明るさを変更したり、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさを変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。音量や明るさが変更される場合は、音量や明るさの調整度合いが第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される主要な表示の前方側に数値やボリューム等で一時的に表示される。

【７２０３】

なお、図３４８では、操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１や機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５をまとめて枠ボタンＨ２２として図示している。

【７２０４】

また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、表示制御装置Ｈ１１４から第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１３では、表示制御装置Ｈ１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置Ｈ２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置Ｈ２２７の点灯および消灯を制御する。

【７２０５】

表示制御装置Ｈ１１４は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び第３図柄表示装置Ｈ８１が接続され、音声ランプ制御装置Ｈ１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置Ｈ１１４は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置Ｈ１１３へ送信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置Ｈ２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示と音声出力装置Ｈ２２６からの音声出力とをあわせるこ

とができる。
【７２０６】
なお、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８が、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に接続されるように構成して、ＭＰＵＨ２２１が、各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいて各種処理を実行しても良い。また、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８とは別に音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に各種スイッチを接続しても良い。この場合には、主に遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の位置検出センサ等のセンサ群を各種スイッチとして構成することが好ましい。
【７２０７】
電源装置Ｈ１１５は、パチンコ機Ｈ１０の各部に電源を供給するための電源部Ｈ２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路Ｈ２５２と、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図３４８参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３とを有している。電源部Ｈ２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部Ｈ２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチＨ２０８などの各種スイッチや、ソレノイドＨ２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧及びバックアップ電圧を各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対して必要な電圧を供給する。
【７２０８】
停電監視回路Ｈ２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１及び払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＨＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路Ｈ２５２は、電源部Ｈ２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＨＳＧ１を主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１へ出力する。停電信号ＨＳＧ１の出力によって、主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部Ｈ２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。
【７２０９】
ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３は、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図３４８参照）が押下された場合に、主制御装置Ｈ１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置Ｈ１１０は、パチンコ機Ｈ１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置Ｈ１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置Ｈ１１１に対して送信する。
【７２１０】
次いで、図３４９から図３８９を参照し、第６０実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｐ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。上記第５９実施形態では、正面枠Ｈ１０が配設されるパチンコ機Ｈ１０について説明したが、第６０実施形態では、正面枠Ｐ１０が配設される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【７２１１】
図３４９は、第６０実施形態におけるパチンコ機Ｐ１０の正面図であり、図３５０は、パチンコ機Ｐ１０の上面図であり、図３５１は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を閉鎖す

ると共に正面枠Ｐ１４を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｐ１０の正面斜視図であり、図３５２は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を閉鎖すると共に正面枠Ｐ１４を開放（展開）した状態において化粧ユニットＰ３０２を本体枠Ｐ１４ｄから離間させた（取り外した）状態を示すパチンコ機Ｐ１０の分解正面斜視部であり、図３５３は、正面枠Ｐ１４の分解正面斜視図であり、図３５４は、正面枠Ｈ１４の分解背面斜視図である。

【７２１２】

また、以下の説明では、図３４９に示す状態のパチンコ機Ｐ１０について、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図３４９に示す状態のパチンコ機Ｐ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図３４９参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ｐ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【７２１３】

また、特段の説明がない限り、パチンコ機Ｐ１０を遊技する遊技者は、パチンコ機Ｐ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置し、パチンコ機Ｐ１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に視線を向けた状態（パチンコ機Ｐ１０の正面側と対面した状態）で遊技するものとして説明する。

【７２１４】

図３４９～図３５４に示すように、パチンコ機Ｐ１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠Ｈ１１と、その外枠Ｈ１１と略同一の外形形状に形成され外枠Ｈ１１に対して開閉可能に支持された内枠Ｈ１２と、その内枠Ｈ１２と略同一の外形形状に形成され内枠Ｈ１２に対して開閉可能に支持された正面枠Ｐ１４とを主に備えている。

【７２１５】

内枠Ｈ１２は、外枠Ｈ１１と外形がほぼ同一の長方形状に形成される枠形成ユニットＨ１２ａと、その枠形成ユニットＨ１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に回動可能に支持される裏パックユニットＨ９４とを主に備えて形成され、裏パックユニットＨ９４が正面視で左側（矢印Ｌ方向側）を回動基端側（開閉基端側）とし、右側（矢印Ｒ方向側）を回動先端側（開閉先端側）として後方へ回動可能とされている（図１２２参照）。

【７２１６】

さらに、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、正面枠Ｈ１４を支持するために正面視左側（矢印Ｌ方向側）の上下２カ所に金属製のヒンジＨ１９が取り付けられ、そのヒンジＨ１９が設けられた側を開閉の軸として正面枠Ｐ１４が正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている（図３５１参照）。

【７２１７】

なお、内枠Ｈ１２の施錠と正面枠Ｐ１４の施錠とは、枠形成ユニットＨ１２ａに配設されるシリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。なお、シリンダ錠Ｈ２０の操作力受部である鍵穴Ｈ２１は、振動または動作可能に構成されると共に変位可能に構成される。

【７２１８】

なお、シリンダ錠Ｈ２０の構成は何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、シリンダ部分（円筒部分）自体が正面枠Ｐ１４と内枠Ｈ１２とを開放不可能とするように構成しても良いし、シリンダ部分の動作に対応して動作される可動爪部が配設される箱状の所定ユニットが内枠Ｈ１２側に金属材料から構成されており、可動爪部が正面枠Ｐ１４の被係合部に係合されることにより正面枠Ｐ１４と内枠Ｈ１２とを開放不可能とするように構成しても良い。また、シリンダ部分は、内枠Ｈ１２側に固定されても良いし、正面枠Ｐ１４側に固定されても良い。

【７２１９】

所定ユニットからは、外枠Ｈ１１との係合に利用される後方爪部が露出されている他、前後方向に貫通形成される開口部が形成されており、その開口部を通して視認可能となる

視認可能領域を含む領域において操作連動部である可動爪部や後方爪部が動作される。
【７２２０】
被係合部は、枠の形成の際に一体的に形成されても、別部材が固定されても良く、正面枠Ｐ１４の回動先端側（右側）に上下方向に並ぶように配設されており、それに対応する位置における内枠Ｈ１２の内部に可動爪部が配設される。
【７２２１】
正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２に対して閉鎖状態とする場合、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２に接近させるように移動させていく過程で、被係合部を介する荷重により可動爪部が上下方向側に動作され、その後で被係合部が可動爪部の前後方向位置よりも後方に過ぎると、付勢力により、可動爪部が閉鎖時係合部である被係合部の後方への戻りを規制する位置に戻る。即ち、被係合部に対して可動爪部が動作されることで、正面枠Ｐ１４の内枠Ｈ１２に対する開放方向への移動が規制され、正面枠Ｐ１４が閉鎖状態となる。
【７２２２】
なお、ヒンジＨ１９による内枠Ｈ１２と正面枠Ｐ１４との開錠は、シリンダ錠Ｈ２０に専用の鍵を差し込むものではなく、後述する操作ユニットＨ１８０、機能調整操作部Ｈ１９０、操作ハンドルＨ５１、球抜きレバーＨ５２、球排出レバーＨ５４、又は、貸球操作部Ｈ４０等の正面枠Ｈ１４に配設される操作ユニットを操作することで行われるようにしても良い。
【７２２３】
また、内枠Ｈ１２又は正面枠Ｈ１４を開放した後で、開放された内側から操作ユニットＨ１８０、機能調整操作部Ｈ１９０、操作ハンドルＨ５１、球抜きレバーＨ５２、球排出レバーＨ５４、又は、貸球操作部Ｈ４０等の正面枠Ｈ１４に配設される操作ユニットを操作することで、所定の部材（例えば、上側装飾ユニットＨ１４ａ、左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃの化粧板）の係合が解除され所定の部材が取り外されるようにしても良い。
【７２２４】
正面枠Ｐ１４は、金属板によって縦長の矩形枠状に形成される本体枠Ｐ１４ｄと、その本体枠Ｐ１４ｄに配設され、その本体枠Ｐ１４ｄの上方側（矢印Ｕ方向側）の正面に配設される上側装飾ユニットＰ１４ａと、その上側装飾ユニットＰ１４ａの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側から下方（矢印Ｄ方向側）に向けて延設される左側装飾ユニットＰ１４ｂ及び右側装飾ユニットＰ１４ｃと、本体枠Ｐ１４ｄの下方側の正面を覆う上下皿ユニットＰ１５と、本体枠Ｐ１４ｄを介して上下皿ユニットＰ１５の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０と、その通路形成ユニットＨ１４０の背面側に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０とを主に備えて構成され、内枠Ｈ１２に回動可能に取り付けられている。
【７２２５】
また、正面枠Ｐ１４の回動基端側には、図３５３及び図３５４に示すように、前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８が設けられ、この前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８（前扉取付金具Ｈ５７は円柱状部、前扉取付金具Ｈ５８は軸孔を有する金属板）が仮置き位置において内枠Ｈ１２に係合することにより、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｐ１４が回動可能に支持される。
【７２２６】
また、正面枠Ｐ１４には、上側装飾ユニットＰ１４ａと左側装飾ユニットＰ１４ｂと右側装飾ユニットＰ１４ｃと上下皿ユニットＰ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｐ１４ｅが形成され、その窓部Ｈ１４ｅを塞ぐように正面枠Ｐ１４（本体枠Ｐ１４ｄ）の背面側（矢印Ｂ方向側）に２枚の板ガラスを有し、入射された光を透過して所定の方向へ向けて出射可能な部位のガラスユニットＨ１６が配設される。なお、パチンコ機Ｐ１０は、ガラスユニットＨ１６（窓部Ｐ１４ｅ）を介してパチンコ機Ｐ１０の正面側から遊技盤Ｈ１３（図３４５参照）の正面が視認可能となっている。
【７２２７】
正面枠Ｐ１４（上側装飾ユニットＰ１４ａ，左側装飾ユニットＰ１４ｂ，右側装飾ユニ

ットＰ１４ｃ）において窓部Ｐ１４ｅの周囲には、図３４９に示すようにＬＥＤ等の発光手段を内蔵し、光を発光可能に構成される部位の電飾部Ｐ２９～Ｐ３３が複数設けられている。これら電飾部Ｐ２９～Ｐ３３では、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて点灯や点滅が行われる。また、窓部Ｐ１４ｅの上側（矢印Ｕ方向側）の電飾部Ｐ３０には、払出球が不足する等の所定のエラー時に点灯する発光手段と、賞球払出中に点灯する発光手段とが内蔵されている。

【７２２８】

また、上側装飾ユニットＰ１４ａ，左側装飾ユニットＰ１４ｂ，右側装飾ユニットＰ１４ｃの電飾部Ｐ２９～Ｐ３３が配設される領域以外の部分は、電飾部Ｐ２９～Ｐ３３から出射される光を非透過とする非透過性の樹脂材料から形成される。これにより、電飾部Ｐ２９～Ｐ３３の発光（点灯や点滅）を遊技者に注目させやすい構造となっている。

【７２２９】

なお、電飾部Ｐ２９～Ｐ３３が配設される領域以外の部分は、非透過に形成されるものに限られず、透過性の樹脂材料から形成して電飾部Ｐ２９～Ｐ３３に発光（点灯や点滅）があった場合に正面枠Ｐ１４の全体から光を出射（透過）可能に構成しても良い。また、電飾部Ｐ２９～Ｐ３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材を配設して煌びやかさを醸し出すように構成しても良い。

【７２３０】

上側装飾ユニットＰ１４ａの左側（矢印Ｌ方向側）及び右側（矢印Ｒ方向側）には（窓部Ｐ１４ｅの右上側及び左上側には）、遊技状態に応じた効果音などが出力されるスピーカー組立体（音声出力装置Ｈ２２６（図１２８参照））を覆うスピーカーカバーＰ２７（パンチングメタルから形成される薄板部材）が設けられており、スピーカーカバーＰ２７を介してスピーカーの音をパチンコ機Ｐ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に放音可能に構成されている。

【７２３１】

窓部Ｐ１４ｅの下方（矢印Ｂ方向）には、図３４９に示すように、上皿Ｐ１７と下皿Ｐ５０とが手前側へ膨出して配置されると共にそれら上皿Ｐ１７と下皿Ｐ５０とが上下に並設される上下皿ユニットＰ１５が配設される。

【７２３２】

上皿Ｐ１７は、上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿Ｐ１７に賞球や貸出球などが排出される。また、上皿Ｐ１７は、払出装置Ｈ１３３（図３４０参照）より払い出された球を一旦貯留し、一列に整列させながら球発射ユニットＨ１１２ａ（図３４４参照）側へ導く機能を有しており、底面が正面視右側（矢印Ｒ方向側）に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿Ｐ１７に投入された球を発射位置送球ユニットＨ１７０へと案内可能に形成される。なお、上皿Ｐ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０に送球された球は、発射位置送球ユニットＨ１７０の動作により１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａへ案内される。即ち、遊技球が通過可能に構成される発射位置送球ユニットＨ１７０により遊技球を球発射ユニットＨ１１２ａに送球可能とされる。言い換えると、遊技球を送球可能に構成される発射位置送球ユニットＨ１７０により遊技球を球発射ユニットＨ１１２ａに送球可能とされる。

【７２３３】

下皿Ｐ５０は、上面を開放した略箱状に形成され、上皿Ｐ１７内にて余剰となった球を貯留する機能を有している。また、下皿Ｐ５０の背面側（矢印Ｂ方向側）側面には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口され球が下皿Ｐ５０に案内される球案内開口Ｐ５３が形成される。

【７２３４】

下皿Ｐ５０の正面側（矢印Ｆ方向側）の下方（矢印Ｄ方向）部には、下皿Ｐ５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバーＰ５２が設けられている。この球抜きレバーＰ５２は、常時、右方向（矢印Ｒ方向）に付勢されており、その付勢に抗して左方向（矢印Ｌ方向）へスライドさせることにより、下皿Ｐ５０の底面に形成された

底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバーＰ５２の操作は、通常、下皿Ｐ５０の下方に下皿Ｐ５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。

【７２３５】

なお、球抜きレバーＰ５２の操作により、千両箱に球を排出するものに限らず、島設備に連通する回収口に球を排出するものであっても良い。また、上皿Ｐ１７と下皿Ｐ５０とに分けて複数箇所に球を貯留する部位を設ける必要はなく、下皿Ｐ５０を廃止して上皿Ｐ１７のみとした１つの貯留部のみを有する構成としても良い。

【７２３６】

この場合において、球案内開口Ｐ５３の正面側に一端側が連通される球通過経路の他端側がパチンコ機Ｐ１０の下端面から下方へ開放されるように構成することで、上皿Ｐ１７内にて球が余剰となった場合に、その余剰となった球がパチンコ機Ｐ１０の下端面から下方へ排出されるように構成することができる。これにより、球を箱（一般に「千両箱」と称される）又は島設備に連通する回収口へ向けて効率的に排出させることができる。

【７２３７】

また、下皿Ｐ５０から球を排出する球抜きレバーＰ５２の操作を駆動モータにより制御することも可能である。これによれば、下皿Ｐ５０に球が払い出されたことや下皿Ｐ５０に所定数の球数が払い出されたこと起因して、球抜きレバーＰ５２を駆動モータにより変位させることで、下皿Ｐ５０からの球の排出を遊技者が忘れて下皿Ｐ５０の貯留領域に球が溢れることを抑制できる。

【７２３８】

特に、最近では、パチンコ機Ｐ１０が設置される店舗の島設備に連通する回収口に下皿Ｐ５０から球を排出する店舗が多くなっており、所定数の球数しか貯留できない千両箱に下皿Ｐ５０から排出される球を排出する店舗が少なくなっている。店舗の島設備に連通する回収口に下皿Ｐ５０から球を排出する店舗では、下皿Ｐ５０から球が払い出されている最中に千両箱の交換等が必要ないので、下皿Ｐ５０への球の払い出しに伴って駆動モータにより球抜きレバーＰ５２を変位させる構成とすることで、遊技者の球抜きレバーＰ５２の操作を不要とできる。

【７２３９】

即ち、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１（図３４８参照）により大当たりの演出がされることに伴って、下皿Ｐ５０の球抜きレバーＰ５２を駆動モータにより変位させることで、大当たりにより下皿Ｐ５０に払い出される球を回収口に排出することができ、遊技者の球抜きレバーＰ５２の操作を不要とできる。その結果、遊技者をパチンコ機Ｐ１０の演出（特に大当たりの演出）に集中させることができ、遊技者の興趣を向上できる。

【７２４０】

上皿Ｐ１７（球の貯留領域）の手前側（矢印Ｆ方向側）には、変位可能に構成され、遊技者らにより手動操作される操作ユニットＰ１８０が設けられている。操作ユニットＰ１８０は、第３図柄表示装置Ｈ８１（図３４４参照）の表示画面等にて遊技者の操作に対応した演出が行われる場合に使用される操作装置である。なお、操作ユニットＰ１８０は、振動または動作可能に構成される。

【７２４１】

この操作ユニットＰ１８０には、上面側にボタン部Ｐ１８１が配設される。ボタン部Ｐ１８１は、上下にスライド変位可能に構成されており、下方側に向けて押圧操作可能とされ、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１（図３４４参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。

【７２４２】

なお、ボタン部Ｐ１８１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される軸を中心に下方側に向けて押圧操作可能に構成されても良い。また、操作ユニットＰ１８０は、上皿Ｐ１７以外に下皿Ｐ５０周辺等の別の部位に設けられても良いし、複数箇所に設けられても良

く、また、操作方法として押しボタン式のスイッチであっても良く、タッチセンサ、非接触式のセンサ等の別の操作方法によって情報入力可能な構成としても良い。

【７２４３】

また、操作ユニットＰ１８０は、上皿Ｐ１７の手前側でなく、上側装飾ユニットＰ１４ａ、左側装飾ユニットＰ１４ｂ、右側装飾ユニットＰ１４ｃに配設しても良く、この場合、上皿Ｐ１７の手前側に配設される操作ユニットＰ１８０とは別の操作ユニットを配設して、それぞれ別の演出で遊技者に操作させるようにしても良い。また、複数箇所に同様の構成からなる操作ユニットＰ１８０を配設するようにしても良い。

【７２４４】

操作ユニットＰ１８０の右側には、上下皿ユニットＰ１５の上面側に貸球操作部Ｈ４０（図３５３参照）と機能調整操作部Ｈ１９０と、球排出レバーＨ５４とが配設されている。貸球操作部Ｈ４０には、度数表示部Ｈ４１と、球貸しボタンＨ４２と、返却ボタンＨ４３とが設けられている。パチンコ機Ｐ１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部Ｈ４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部Ｈ４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。

【７２４５】

球貸しボタンＨ４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿Ｐ１７に供給される。返却ボタンＨ４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿Ｐ１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部Ｈ４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部Ｈ４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。

【７２４６】

機能調整操作部Ｈ１９０は、決定ボタンＨ１９１と、その決定ボタンＨ１９１を中心とする十字状の４方向外側の位置に配設される上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５と備える。

【７２４７】

機能調整操作部Ｈ１９０は、上側装飾ユニットＰ１４ａに配設されるスピーカー（音声出力装置Ｈ２２６、図３４８参照）の音量、第３図柄表示装置Ｈ８１（図３４４参照）の表示画面の明るさ、上側装飾ユニットＰ１４ａ、左側装飾ユニットＰ１４ｂ及び右側装飾ユニットＰ１４ｃに配設される電飾部Ｐ２９～Ｐ３３の明るさなどを変更するための操作部である。遊技者は、決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５を操作することで、自身（遊技者）の好みに合うように音量や明るさを変更可能とされる。

【７２４８】

また、音量や明るさを変更する際には、第３図柄表示装置Ｈ８１（図３４４参照）の一部に音量や明るさの調整度合いが数値やボリューム等で表示されるようになっている。これにより、遊技者が別のパチンコ機Ｐ１０を遊技し始める場合に音量や明るさの調整を簡易に行うことができる。

【７２４９】

なお、機能調整操作部Ｈ１９０による変更は、音量や明るさに限られるものではなく、第３図柄表示装置Ｈ８１（図３４４参照）に表示される演出等を変更可能とするものであっても良い。また、音量や明るさの調整度合いを第３図柄表示装置Ｈ８１に表示するものに限られるものではなく、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示しなくても操作と同時に変更（調整）後の音や表示をして調整させるものでも良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に調整度合いを表示するものであっても良い。

【７２５０】
球排出レバーＨ５４は、上皿Ｐ１７に貯留された球を下皿Ｐ５０に送球する際に遊技者が操作するレバーであり、図示しない付勢手段（バネ）により上方側（矢印Ｕ方向側）に付勢された状態で配設される。なお、球排出レバーＨ５４は、操作される（下方側（矢印Ｄ方向側）に押し込まれる）ことにより上皿Ｐ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０に連通される通路を上皿Ｐ１７から下皿Ｐ５０（ファール球通路部Ｈ１４５）に連通する状態に切替可能に構成される。これにより、上皿Ｐ１７に貯留された球を下皿Ｐ５０に排出することができる。
【７２５１】
下皿Ｐ５０の右側（矢印Ｒ方向側）には、変位可能に構成され、遊技者が遊技時に操作する操作ハンドルＨ５１が配設される。なお、操作ハンドルＨ５１は、振動または動作可能に構成される。操作ハンドルＨ５１の内部には、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサＨ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチＨ５１ｂと、操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。操作ハンドルＨ５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサＨ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤Ｈ１３（図３４４参照）の正面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドルＨ５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサＨ５１ａおよび発射停止スイッチＨ５１ｂがオフとなっている。
【７２５２】
なお、操作ハンドルＨ５１は、操作ユニットＰ１８０や機能調整操作部Ｈ１９０や貸球操作部Ｈ４０の操作ボタンに置き換え可能である。例えば、操作ボタンの押し込み量を可変抵抗器で検出して操作ボタンの押し込み量に対応した球の打ち出し速度で遊技盤Ｈ１３（図３４４参照）の正面へ球を打ち込むようにしても良い。また、機能調整操作部Ｈ１９０に球の打ち出し速度を調整する制御を設け、遊技者が設定した打ち出し速度で球を遊技盤Ｈ１３の正面へ打ち込むようにしても良い。
【７２５３】
さらに、操作ハンドルＨ５１を、上述した球抜きレバーＰ５２に置き換えても良い。即ち、下皿Ｐ５０からの球の排出を許容する役割と、遊技盤Ｈ１３（図３４４参照）の正面への球の打ち出しを許容する役割と球抜きレバーＰ５２に兼用させても良い。この場合、遊技盤Ｈ１３の正面へ球が打ち出されると下皿Ｐ５０から球の排出を許容でき、遊技盤Ｈ１３の正面へ球の打ち出しが停止されると下皿Ｐ５０からの球の排出を規制できるので、下皿Ｐ５０に球が溜まり過ぎることを抑制できる。
【７２５４】
通路形成ユニットＨ１４０は、樹脂材料により成形されており、上皿Ｐ１７に通じる前扉側上皿通路部Ｈ１４１と、下皿Ｐ５０に通じる前扉側下皿通路部Ｈ１４２と、ファール球通路部Ｈ１４５と、を有している。
【７２５５】
通路形成ユニットＨ１４０の上側隅部（正面枠Ｐ１４の回動基端側の隅部）には後方（矢印Ｂ方向）に突出し上方に開放された払出球受口部Ｈ１４３が形成されており、その払出球受口部Ｈ１４３が仕切壁Ｈ１４４によって左右に仕切られることで前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口と前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口とがそれぞれ形成されている（図３５３参照）。
【７２５６】
ファール球通路部Ｈ１４５（図３５３参照）は、球発射ユニットＨ１１２ａ（図３５１参照）から発射された球のうち遊技領域まで至らなかった球をファール球として下皿Ｐ５０に排出する通路を形成する部位である。
【７２５７】

ファール球通路部Ｈ１４５には、図３５４に示すように、上方側（矢印Ｕ方向側）が開放したファール球受口部Ｈ１４６が設けられる。このファール球受口部Ｈ１４６に受け入れられたファール球は、ファール球通路部Ｈ１４５（図３５３参照）の内部通路を流下した後で、下皿Ｐ５０に排出される。なお、ファール球通路部Ｈ１４５は、下皿Ｐ５０でなく、上皿Ｐ１７に接続され、ファール球が上皿Ｐ１７に排出される構成としても良い。

【７２５８】

また、ファール球通路部Ｈ１４５は、遊技者が球排出レバーＨ５４を操作することにより上皿Ｐ１７から下皿Ｐ５０に流下する未発射球が案内される通路である球抜き通路（図示しない）と合流するように形成される。

【７２５９】

発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｐ１７に貯留される球を１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａ（図３５１参照）に送球するためのユニットである。発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｐ１７の送球経路の開口部に連なる正面側開口Ｈ１７１と、その正面側開口Ｈ１７１から流入した球を背面側から排出可能な背面側開口Ｈ１７２と、それら正面側開口Ｈ１７１から背面側開口Ｈ１７２までを通過する通路上に変位可能に配設される切替手段（図示しない）と、その切替手段を駆動させるソレノイド（図示しない）とを主に備えて形成される。

【７２６０】

発射位置送球ユニットＨ１７０の切替手段は、上皿Ｐ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが可能な位置と、上皿Ｐ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置とに変位可能に構成されており、上皿Ｐ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置に変位された場合に発射位置送球ユニットＨ１７０の内部通路上にある球を背面側開口Ｈ１７２から球発射ユニットＨ１１２ａ（発射レールＨ１１２ａ１）へ流下（落下）可能に形成される。これにより、切替手段の位置の切り替え（１往復の変位）に伴って１球ずつ球を背面側開口Ｈ１７２から排出することが可能となっている。

【７２６１】

なお、背面側開口Ｈ１７２は、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１（図３４４参照）の上方（矢印Ｕ方向）の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する。従って、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１に発射位置送球ユニットＨ１７０から１球ずつ球が送球されることとなる。

【７２６２】

パチンコ機Ｐ１０は、外枠Ｈ１１を島設備に取り付け固定することにより遊技場に設置されるところ、ホール内において島設備を構成する壁面ＰＷａ（図３５０参照）に形成される開口部を通して外枠Ｈ１１が壁内部に収納された状態で、正面枠Ｐ１４が壁面ＰＷａから手前側に張り出した状態とされる。

【７２６３】

ホール内の島設備には、通常、パチンコ機Ｐ１０の上方に間隔を空けてデータカウンターＰＤｃが設けられている（図３５０参照）。データカウンターＰＤｃの形状や配置は何ら限定されるものではないが、一般的な例として、箱状に形成されるデータカウンターＰＤｃの底面がパチンコ機Ｐ１０の上面から上方に２５［ｍｍ］離間して配置されており、データカウンターＰＤｃの前後幅が５０［ｍｍ］であるとして説明する。

【７２６４】

データカウンターＰＤｃは、パチンコ機Ｐ１０の左右幅よりも若干短い左右幅の箱状態が壁面ＰＷａに固定配置されており、パチンコ機Ｐ１０と電気的に接続されており、パチンコ機Ｐ１０から送信される抽選回数、大当たり回数、連荘数等を前面側に形成される表示画面に表示可能に構成される。

【７２６５】

次いで、図３５５から図３７０を参照して、上側装飾ユニットＰ１４ａについて説明する。図３５５は、上側装飾ユニットＰ１４ａの分解正面斜視図であり、図３５６は、上側

装飾ユニットＰ１４ａの分解背面斜視図である。

【７２６６】

図３５５及び図３５６に図示されるように、上側装飾ユニットＰ１４ａは、本体枠Ｐ１４ｄ（図３５３参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベースユニットＰ３０１と、そのベースユニットＰ３０１の正面側に配設される化粧ユニットＰ３０２とを主に備える。

【７２６７】

上側装飾ユニットＰ１４ａは、後述する内部機構により、簡単な操作手順で化粧ユニットＰ３０２をベースユニットＰ３０１に対して脱着可能に構成される。以下では、まずベースユニットＰ３０１について説明し、次いで化粧ユニットＰ３０２について説明した後で、内部機構の詳細について説明する。

【７２６８】

図３５７は、ベースユニットＰ３０１の分解正面斜視図であり、図３５８は、ベースユニットＰ３０１の分解背面斜視図である。ベースユニットＰ３０１は、正面視において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長く開放部が下方へ向く逆コの字形状のベース部材Ｐ３１０と、そのベース部材Ｐ３１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定される切替構成部Ｐ３２０と、その切替構成部Ｐ３２０の下縁部の正面側（矢印Ｆ方向側）及び下側（矢印Ｄ方向側）に配設される音響構成部Ｐ３３０と、切替構成部Ｐ３２０の正面側（矢印Ｆ方向側）において切替構成部Ｐ３２０に締結固定される発光構成部Ｐ３４０と、を主に備える。

【７２６９】

ベース部材Ｐ３１０は、有色（本実施形態では黒色）非透過の樹脂材料から形成され、後述する化粧ユニットＰ３０２の背面側（矢印Ｂ方向側）の空間を音響構成部Ｐ３３０と共同で覆う部材であり、正面視において化粧ユニットＰ３０２と略同一の形状に形成されており、左側端部に前扉取付金具Ｈ５７が配設される。

【７２７０】

ベース部材Ｐ３１０は、上縁部付近において左右方向に延びる凹部として背面側に形成される帯状凹部Ｐ３１１と、その帯状凹部Ｐ３１１よりも下側において前後方向に貫通形成される矩形状の操作部挿通孔Ｐ３１２と、その挿通孔Ｐ３１２よりも右側（及びそれと対応する左側の領域）において前後方向に貫通形成される矩形状の配線挿通孔Ｐ３１３と、上縁部から前方に突設形成される一組の板状部Ｐ３１４と、を主に備える。

【７２７１】

帯状凹部Ｐ３１１は、金属製の本体枠Ｐ１４ｄ（図３５３参照）の上辺を構成する金属板部が嵌合される箇所であって、その金属板部に間隔を空けて前後方向に貫通形成される貫通孔を通る締結ネジにより対象固定部であるベース部材Ｐ３１０は本体枠Ｐ１４ｄに締結固定される。

【７２７２】

挿通孔Ｐ３１２は、切替構成部Ｐ３２０の被操作部材Ｐ３２２が挿通される貫通孔である。正面枠Ｐ１４を開放した状態において（図３５１参照）、被操作部材Ｐ３２２の挿通孔Ｐ３１２に挿通されて突き出た箇所は、視認可能に露出される。

【７２７３】

配線挿通孔Ｐ３１３は、音響構成部Ｐ３３０及び発光構成部Ｐ３４０に電力を供給するための電気配線が挿通される貫通孔である。

【７２７４】

板状部Ｐ３１４は、隙間に切替構成部Ｐ３２０のベースカバーＰ３２１の上辺（複数段形成部Ｐ３２１ｈの最上段部）が嵌合可能な寸法で形成されている。これにより、上面視において、板状部Ｐ３１４の隙間領域を通して切替構成部Ｐ３２０の一部が露出されており、この露出部分が視認可能となっている。

【７２７５】

切替構成部Ｐ３２０は、無色透明の樹脂材料から形成されておりベース部材Ｐ３１０に締結固定されるベースカバーＰ３２１と、そのベースカバーＰ３２１に変位可能に支持さ

れており有色（本実施形態では黄色）で非透過性の樹脂材料から形成される被操作部材Ｐ３２２と、を主に備える。なお、切替構成部Ｐ３２０の詳細は、その変位のための機構と共に後述する。

【７２７６】

音響構成部Ｐ３３０は、切替構成部Ｐ３２０の右側に位置しベース部材Ｐ３１０に締結固定される右側支持部材Ｐ３３１と、ベース部材Ｐ３１０の左右両端の前方に配設される一対のスピーカー組立体Ｐ３３２と、それら一対のスピーカー組立体Ｐ３３２の下側を覆うことができるように底部Ｐ３３３ａが湾曲形成されており、その底部Ｐ３３３ａが切替構成部Ｐ３２０の下側を上下方向で対向配置される位置で覆う覆設部材Ｐ３３３と、その覆設部材Ｐ３３３に上側から締結固定された状態でベース部材Ｐ３１０に前後方向で締結固定される上蓋部材Ｐ３３４と、を主に備える。

【７２７７】

右側支持部材Ｐ３３１は、背面側板部の左右端部から前方へ板状に延設される延設壁部を有しており、背面側板部に貫通形成される配線挿通孔Ｐ３３１ａと、背面側板部の上縁から上方へ向けて突設される係合突部Ｐ３３１ｂと、を備える。

【７２７８】

配線挿通孔Ｐ３３１ａは、右側のスピーカー組立体Ｐ３３２に接続される電気配線を挿通させる貫通孔であって、ベース部材Ｐ３１０の配線挿通孔Ｐ３１３に連通される位置に形成される。

【７２７９】

係合突部Ｐ３３１ｂは、右側のスピーカー組立体Ｐ３３２の上側受部Ｐ３３２Ｒａに上下方向で差し込まれることで、右側のスピーカー組立体Ｐ３３２の位置を固定するための部分である。これと同様の関係で、右側のスピーカー組立体Ｐ３３２には下側突部Ｐ３３２Ｒｂが下方へ向けて突設形成されており、その下側突部Ｐ３３２Ｒｂを上下方向で差し込み可能な凹部（図示せず）が右側支持部材Ｐ３３１の下端部に形成される。

【７２８０】

これにより、右側のスピーカー組立体Ｐ３３２を右側支持部材Ｐ３３１に対して上側から下方へ変位させることにより、上下それぞれの位置で差し込みによる係合状態を構成させることができ、右側のスピーカー組立体Ｐ３３２を右側支持部材Ｐ３３１に保持させることができる。

【７２８１】

スピーカー組立体Ｐ３３２は、電気信号を可聴音波に変換して聴こえるようにする音響機器であるスピーカー（コーン型スピーカー）Ｐ３３２ａを左右一対で備えており、そのスピーカーＰ３３２ａを後方側から組み付け可能に構成される一対の支持部材Ｐ３３２Ｌ，Ｐ３３２Ｒを備える。

【７２８２】

スピーカーＰ３３２ａは、遊技に関連して演出音（録音された音楽、効果音、音声など）を発するものであり、ベース部材Ｐ３１０の配線挿通孔Ｐ３１３等を通した配線が接続されることで、音声ランプ制御装置Ｈ１１３に接続されるように構成される（図３４８参照）。音声ランプ制御装置Ｈ１１３によりスピーカーＰ３３２ａに電気振動が伝達されることで、スピーカーＰ３３２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）および背面側から遊技に関連した演出音を放音（出力）することができる。

【７２８３】

なお、スピーカーＰ３３２ａの前面部には、スピーカーＰ３３２ａから発せられる音声の通過を許容する合成繊維素材からなる保護カバーが被覆されている。そして、この保護カバーが被覆されてなるスピーカーＰ３３２ａは、前面部の保護カバーが後述するスピーカーカバーＨ２７を介して外部の大気と直接接触することで、前面部側に放音（出力）された音を篭らせることなく、高音質にして再生出力できる。即ち、スピーカーＰ３３２ａは、前面部から放音（出力）される音が遊技者にとって聞こえやすい周波数帯の音を放音可能に構成される。

【７２８４】
　また、スピーカーＰ３３２ａは、振動（動作）して音を発生させる振動板（前面部側）が支持部材Ｐ３３２Ｌ，Ｐ３３２Ｒにより遊技者側（正面視において遊技盤Ｈ１３の中央下方側）に向けた姿勢で配設される。これにより、スピーカーＰ３３２ａの正面側（矢印Ｆ方向側）から放音（出力）される音を遊技者に聞こえやすくできる。
【７２８５】
　支持部材Ｐ３３２Ｒに支持される右側のスピーカーＰ３３２ａは、上述の通り右側支持部材Ｐ３３１に対して上側から近づけることで組み付け可能とされる。一方で、支持部材Ｐ３３２Ｌに支持される左側のスピーカーＰ３３２ａは、支持部材Ｐ３３２Ｌが切替構成部Ｐ３２０のベースカバーＰ３２１に締結固定される。
【７２８６】
　上蓋部材Ｐ３３４は、支持部材Ｐ３３２Ｒの上方の開口部を塞ぐことで支持部材Ｐ３３２Ｒが上方に抜けることを防止可能に構成されており、上面部にコメント表示部Ｐ３３４ａが形成されている。コメント表示部Ｐ３３４ａでは、組み付け作業者に対する注意を呼び掛けるための表示がされる。本実施形態では、「挟み込み注意」というコメントが記載されたシールが添付されており、これにより作業者が安全に作業できるように図っている。
【７２８７】
　なお、コメント表示部Ｐ３３４ａの形成態様はこれに限るものではない。例えば、コメント表示部Ｐ３３４ａをディスプレイの表示面で構成し、表示内容を制御により変更可能に構成しても良い。
【７２８８】
　発光構成部Ｐ３４０は、音響構成部Ｐ３３０の覆設部材Ｐ３３３に挿通されるベースカバーＰ３２１の締結部Ｐ３２１ｅに螺入される締結ネジにより共締めされるケース下部Ｐ３４１と、そのケース下部Ｐ３４１に締結固定される第１電飾基板Ｐ３４２と、その第１電飾基板Ｐ３４２をケース下部Ｐ３４１との間に挟むようにケース下部Ｐ３４１に上側から被せられる位置関係で締結固定されるケース上部Ｐ３４３と、そのケース上部Ｐ３４３の右上側に位置しており背面側が開放される箱状に形成され覆設部材Ｐ３３３に前後方向で締結固定される小型ケースＰ３４４と、その小型ケースＰ３４４に後方から差し込また状態で締結固定される第２電飾基板Ｐ３４５と、を主に備える。
【７２８９】
　光透過可能部であるケース下部Ｐ３４１、ケース上部Ｐ３４３及び小型ケースＰ３４４は、無色で光透過性の樹脂材料から形成されており、第１電飾基板Ｐ３４２及び第２電飾基板Ｐ３４５からの光が透過可能とされる。
【７２９０】
　ケース下部Ｐ３４１及びケース上部Ｐ３４３は、上下から第１電飾基板Ｐ３４２を挟むことで第１電飾基板Ｐ３４２の前後左右の大部分を塞ぐように形成されており、後端部付近において上下外側に広がる傾斜面Ｐ３４１ａ，Ｐ３４３ａが形成される。
【７２９１】
　また、ケース上部Ｐ３４３では、後端面に開口部Ｐ３４３ｂが形成され、その開口部Ｐ３４３ｂの上方において背面側へ向けて上蓋部Ｐ３４３ｃが延設される。第１電飾基板Ｐ３４２に接続される電気配線は開口部Ｐ３４３ｂに挿通されており、上蓋部Ｐ３４３ｃによって開口部Ｐ３４３ｂの後方において上側にはみ出す事態が回避される。
【７２９２】
　第１電飾基板Ｐ３４２に電気配線が接続された状態で、第１電飾基板Ｐ３４２を中継して第２電飾基板Ｐ３４５へと電力が供給される。
【７２９３】
　第１電飾基板Ｐ３４２は、ＬＥＤからなる複数の発光部Ｐ３４２ａが上下両面に分散配置されており、前方側の縁部が右側部を先端として左側へ向かう程に後方側へずれる態様で湾曲形成されていると共に、所定間隔毎に張出突部Ｐ３４２ｂが形成され、その張出突

部Ｐ３４２ｂには上面に発光部Ｐ３４２ａが一つ配設され、下面には発光部Ｐ３４２ａは配設されない。

【７２９４】

発光部Ｐ３４２ａは、第１電飾基板Ｐ３４２の上面では、第１電飾基板Ｐ３４２の後辺と平行な後ライン上と、張出突部Ｐ３４２ｂに形成される前ライン上と、その前ライン上と後ライン上との間において前縁部の湾曲よりも浅めの湾曲線状の中ライン上とに配置される。一方、第１電飾基板Ｐ３４２の下面では、発光部Ｐ３４２ａが一直線上に形成される。

【７２９５】

第２電飾基板Ｐ３４５は、ＬＥＤからなる複数の発光部Ｐ３４５ａが上下両面に分散配置されており、前方側の縁部が左右均等に前方へ張り出しており、左右両端部から張出突部Ｐ３４５ｂが形成され、その張出突部Ｐ３４５ｂには上下両面に発光部Ｐ３４５ａが一つ配設される。

【７２９６】

発光部Ｐ３４５ａは、左右一対の張出突部Ｐ３４５ｂと、その後方と、電飾基板Ｐ３４５の前縁部近傍における左右中央位置との５箇所に、第２電飾基板Ｐ３４５の上下両面において形成される。即ち、第２電飾基板Ｐ３４５では、上下両面の同じ位置（上下方向視で重なる位置）に発光部Ｐ３４５ａが配設される。

【７２９７】

図３５９は、切替構成部Ｐ３２０の分解正面斜視図であり、図３６０は、切替構成部Ｐ３２０の分解背面斜視図である。切替構成部Ｐ３２０は、ベース部材Ｐ３１０に締結固定されるベースカバーＰ３２１と、そのベースカバーＰ３２１に左右方向に変位可能に支持される被操作部材Ｐ３２２と、ベースカバーＰ３２１に回転動作可能に支持され被操作部材Ｐ３２２の変位に連動して回転動作される回転リンクＰ３２３と、その回転リンクＰ３２３に連結されておりベースカバーＰ３２１に上下方向に変位可能に支持される追従動作部材Ｐ３２４と、ベースカバーＰ３２１の左端部付近において前面側に配設される発光構成部Ｐ３２５と、を主に備える。

【７２９８】

ベースカバーＰ３２１は、上縁部および左縁部から後方に突設される複数の被締結部Ｐ３２１ａと、その上縁部側の被締結部Ｐ３２１ａよりも下方において左右一直線のライン上に配置され後方に突設される複数の第１支持突部Ｐ３２１ｂと、そのラインよりも下側において後方に突設される回転支持部Ｐ３２１ｃと、その回転支持部Ｐ３２１ｃよりも左側において上下一直線のライン上に配置され後方に突設される複数の第２支持突部Ｐ３２１ｄと、を主に備える。

【７２９９】

被締結部Ｐ３２１ａは、ベース部材Ｐ３１０の帯状凹部Ｐ３１１（図３５８参照）に貫通される貫通孔を通して本体枠Ｐ１４ｄ（図３５３参照）の上辺を構成する金属板部と対向配置されており、対象固定部であるベースカバーＰ３２１は、その金属板部の貫通孔を通る締結ネジによりベース部材Ｐ３１０と共に本体枠Ｐ１４ｄに共締めされる。

【７３００】

第１支持突部Ｐ３２１ｂは被操作部材Ｐ３２２の変位を案内し、回転支持部Ｐ３２１ｃは回転リンクＰ３２３の回転動作を支持し、第２支持突部Ｐ３２１ｄは追従動作部材Ｐ３２４の変位を案内する。

【７３０１】

また、ベースカバーＰ３２１は、前面側の下縁部付近において左右に並ぶ複数の締結部Ｐ３２１ｅと、その締結部Ｐ３２１ｅの上方において同様に左右に並ぶ複数の締結部Ｐ３２１ｆと、左右上角部および左下角部において前後方向に貫通形成される複数の案内筒部Ｐ３２１ｇと、上辺から上側に張り出すように形成される段の左右内側において更に上側に張り出すように段が形成される複数段形成部Ｐ３２１ｈと、その複数段形成部Ｐ３２１ｆの斜め下側において前方から窪むように凹設形成される凹設形成部Ｐ３２１ｉと、を主

に備える。
【７３０２】
締結部Ｐ３２１ｅには、覆設部材Ｐ３３３の貫通孔がベースカバーＰ３２１との間に挿通された状態で発光構成部Ｐ３４０のケース下部Ｐ３４１が締結固定される。締結部Ｐ３２１ｆには、発光構成部Ｐ３４０のケース上部Ｐ３４３が締結固定される（図３５７参照）。案内筒部Ｐ３２１ｇは、所定の取付対象である化粧ユニットＰ３０２の係止棒部材Ｐ３８０を前後方向へ案内する経路を構成するが、詳細は後述する。
【７３０３】
複数段形成部Ｐ３２１ｈは、左右の低い段部にベース部材Ｐ３１０の板状部Ｐ３１４（図３５７参照）が重ねられることで視認不能とされ、左右内側の高い段部のみを通して被操作部材Ｐ３２２が視認可能となるように構成される。段に高低差があることで、ベース部材Ｐ３１０の板状部Ｐ３１４に対する位置合わせが容易となっている。
【７３０４】
凹設形成部Ｐ３２１ｉは、上縁から右下方向に抜ける貫通路を形成し、この貫通路を通して電気配線を通すことが可能に形成される。凹設形成部Ｐ３２１ｉの上端部にはケース上部Ｐ３４３の上蓋部Ｐ３４３ｃが嵌め合わされて塞がれることにより、電気配線が凹設形成部Ｐ３２１ｉの上方に抜けることが防止される。
【７３０５】
被操作部材Ｐ３２２は、左右方向に長尺で断面コの字の棒状部材であって、右端部から後方に突設される操作部Ｐ３２２ａと、上辺において本体色（本実施形態では、黄色）とは異なる色（本実施形態では、赤色）に形成（異なる色の樹脂で成形、又は、シール貼付）される目印部Ｐ３２２ｂと、ベースカバーＰ３２１の第１支持突部Ｐ３２１ｂが挿通される複数の案内長孔Ｐ３２２ｃと、一端がベースカバーＰ３２１に引っかけられるコイルスプリングＰ３２２ＳＰの他端が引っかけられる鉤爪部Ｐ３２２ｄと、左端部および右端部の前面側に締結固定される複数の金属板部Ｐ３２２ｅと、その左端部の金属板部Ｐ３２２ｅの下方位置から前方へ円柱状に突設される連結円柱部Ｐ３２２ｆと、を主に備える。
【７３０６】
操作部Ｐ３２２ａは、樹脂材料から一体成形されており、ベース部材Ｐ３１０の視認可能領域である操作部挿通孔Ｐ３１２（図３５８参照）を通して露出され、後方に突き出す長さで構成される。即ち、正面枠Ｐ１４が開放された状態において（図３５１参照）、操作部Ｐ３２２ａが操作されることで操作力受部である被操作部材Ｐ３２２が左右方向に変位される。
【７３０７】
目印部Ｐ３２２ｂは、被操作部材Ｐ３２２が変位区間の左端部にある場合（コイルスプリングＰ３２２ＳＰの付勢力による第１位置にある場合）にはベースカバーＰ３２１の複数段形成部Ｐ３２１ｈを通して視認されず、被操作部材Ｐ３２２が変位区間の左端部から位置ずれすることでベースカバーＰ３２１の複数段形成部Ｐ３２１ｈを通して視認されるよう設計される。
【７３０８】
これにより、複数段形成部Ｐ３２１ｈを通して目印部Ｐ３２２ｂが視認された場合（赤色が露出していることを視認された場合）、被操作部材Ｐ３２２が位置ずれしていることを容易に把握することができる。
【７３０９】
案内長孔Ｐ３２２ｃは、第１支持突部Ｐ３２１ｂが挿通可能な幅を有しており、被操作部材Ｐ３２２の変位量に対応した左右方向の長さの長孔として形成され、第１支持突部Ｐ３２１ｂに螺入されるネジのネジ頭よりも短い方の幅が狭く形成される。これにより、ネジ頭により被操作部材Ｐ３２２のベースカバーＰ３２１からの脱落が防止される。
【７３１０】
金属板部Ｐ３２２ｅは、被操作部材Ｐ３２２の左端部においては左側に一部はみ出す位置とされ、被操作部材Ｐ３２２の右端部においては開口部Ｐ３２２ｇに左側から一部はみ

出す位置に配設される。開口部Ｐ３２２ｇは、ベースカバーＰ３２１の右端部に形成される案内筒部Ｐ３２１ｇと前後方向視で重なる。

【７３１１】

回転リンクＰ３２３は、ベースカバーＰ３２１の回転支持部Ｐ３２１ｃが挿通される被支持円形孔Ｐ３２３ａと、その支持円形孔Ｐ３２３ａを中心とした回転動作の回転先端側に延びる第１腕部おいてＵ字の爪状に形成される受部Ｐ３２３ｂと、第１腕部とは異なる第２腕部において後方に円柱状に突設されており追従動作部材Ｐ３２４と連結される連結柱部Ｐ３２３ｃと、を主に備える。

【７３１２】

受部Ｐ３２３ｂは、被操作部材Ｐ３２２の連結円柱部Ｐ３２２ｆを緩く挟む寸法関係で構成されている。これにより、被操作部材Ｐ３２２が変位することに対応（連動）して、回転リンクＰ３２３が回転動作される。

【７３１３】

追従動作部材Ｐ３２４は、上下方向に長尺で断面コの字の棒状部材であって、ベースカバーＰ３２１の第２支持突部Ｐ３２１ｄが挿通される複数の案内長孔Ｐ３２４ａと、回転リンクＰ３２３の連結柱部Ｐ３２３ｃが挿通される連結長孔Ｐ３２４ｂと、下端部の前面側に締結固定される金属板部Ｐ３２４ｃと、を主に備える。

【７３１４】

案内長孔Ｐ３２４ａは、第２支持突部Ｐ３２１ｄが挿通可能な幅を有しており、追従動作部材Ｐ３２４の変位量に対応した上下方向の長さの長孔として形成され、第２支持突部Ｐ３２１ｄに螺入されるネジのネジ頭よりも短い方の幅が狭く形成される。これにより、ネジ頭により追従動作部材Ｐ３２４のベースカバーＰ３２１からの脱落が防止される。

【７３１５】

連結長孔Ｐ３２４ｂは、連結柱部Ｐ３２３ｃが挿通可能な幅を有しており、回転リンクＰ３２３の変位量に対応した左右方向の長さの長孔として形成される。連結柱部Ｐ３２３ｃが連結長孔Ｐ３２４ｂの内側を回転動作することにより、追従動作部材Ｐ３２４が上下方向に変位される。金属板部Ｐ３２４ｃは、追従動作部材Ｐ３２４の下端部において下側に一部はみ出す位置とされる。

【７３１６】

発光構成部Ｐ３２５は、ベースカバーＰ３２１の左端部側の前側において締結固定される電飾基板Ｐ３２５ａと、その電飾基盤Ｐ３２５ａに覆設される無色透明の樹脂材料から形成されるカバー部材Ｐ３２５ｂと、を主に備える。

【７３１７】

電飾基板Ｐ３２５ａは、左側のスピーカー組立体Ｐ３３２の左縁部に沿う形状とされており、即ち正面視において湾曲した形状とされており、配置されるＬＥＤから照射される光により、正面視において左側のスピーカー組立体Ｐ３３２よりも左側を明るく照らすことができる。

【７３１８】

図３６１（ａ）及び図３６１（ｂ）は、切替構成部Ｐ３２０の背面図である。図３６１（ａ）では、被操作部材Ｐ３２２が変位可能範囲の左端位置に位置する切替構成部Ｐ３２０の待機状態が図示され、図３６１（ｂ）では、被操作部材Ｐ３２２が変位可能範囲の右端位置に位置する切替構成部Ｐ３２０の変位状態が図示される。

【７３１９】

図３６１（ａ）に図示されるように、切替構成部Ｐ３２０の待機状態では、コイルスプリングＰ３２２ＳＰの付勢力により付勢された終端位置側で被操作部材Ｐ３２２が停止されており、背面視（前後方向視）において案内筒部Ｐ３２１ｇの一部に金属板部Ｐ３２２ｅ，Ｐ３２４ｃが重ねられる。

【７３２０】

また、切替構成部Ｐ３２０の待機状態では、目印部Ｐ３２２ｂの形成範囲Ｐ３２２ｂｒが複数段形成部Ｐ３２１ｈのうちの低い範囲に収まる。この低い範囲はベース部材Ｐ３１

０の板状部Ｐ３１４に覆われるため（図３５５参照）、切替構成部Ｐ３２０の待機状態では、目印部Ｐ３２２ｂが露出されておらず、視認し難く構成される。

【７３２１】

図３６１（ｂ）に図示されるように、切替構成部Ｐ３２０の変位状態では、コイルスプリングＰ３２２ＳＰの付勢力に対抗して動作（操作）された位置で停止されており、背面視（前後方向視）において案内筒部Ｐ３２１ｇに重ならない位置に金属板部Ｐ３２２ｅ，Ｐ３２４ｃが位置している。

【７３２２】

また、切替構成部Ｐ３２０の変位状態では、目印部Ｐ３２２ｂの形成範囲Ｐ３２２ｂｒが複数段形成部Ｐ３２１ｈのうちの低い範囲からはみ出して、高い範囲に進入している。そのため、切替構成部Ｐ３２０の変位状態では、ベース部材Ｐ３１０の視認可能領域である板状部Ｐ３１４（図３５５参照）の間の領域から、目印部Ｐ３２２ｂが露出され、視認可能に構成される。

【７３２３】

目印部Ｐ３２２ｂが露出されているか露出されていないかの違いは、目視により把握されるものだが、本実施形態では目印部Ｐ３２２ｂが被操作部材Ｐ３２２自体の色（黄色）よりも目立つ色または濃い色（赤色）とされているため、目視により容易に把握できるようになっている。

【７３２４】

図３５５及び図３５６に戻って説明する。上側装飾ユニットＰ１４ａは、ベースユニットＰ３０１に対して、化粧ユニットＰ３０２が前後方向にスライド変位されることにより、脱着可能に構成される。

【７３２５】

脱着させる際において、ベースユニットＰ３０１の複数の案内筒部Ｐ３２１ｇにより、化粧ユニットＰ３０２の変位方向が前後方向に案内されると共に、係止棒部材Ｐ３８０が切替構成部Ｐ３２０の金属板部Ｐ３２２ｅ，Ｐ３２４ｃに対応する位置に導入される。

【７３２６】

ベースカバーＰ３２１の前面側は大部分が閉塞されており、案内筒部Ｐ３２１ｇのみで前後方向に開口形成されており、案内筒部Ｐ３２１ｇを通して被操作部材Ｐ３２２の金属板部Ｐ３２２ｅ，Ｐ３２４ｃのみが視認可能に露出される（前後方向視で案内筒部Ｐ３２１ｇの内部に金属板部Ｐ３２２ｅ，Ｐ３２４ｃが見える）。そのため、化粧ユニットＰ３０２をベースユニットＰ３０１に取り付ける場合に係止棒部材Ｐ３８０を位置合わせする目安が分かりやすく、化粧ユニットＰ３０２の組み付け作業を容易とすることができる。

【７３２７】

また、化粧ユニットＰ３０２をベースユニットＰ３０１に対して近づける場合に、案内筒部Ｐ３２１ｇと重なる位置以外で化粧ユニットＰ３０２から被操作部材Ｐ３２２が荷重を受けることを避けることができる。

【７３２８】

更に、化粧ユニットＰ３０２がベースユニットＰ３０１に組付けられた状態では、枠状閉鎖部である化粧ユニットＰ３０２が切替構成部Ｐ３２０の前方を閉塞するので、前方から被操作部材Ｐ３２２に対して荷重が与えられる可能性を低減することができ、被操作部材Ｐ３２２の状態を維持しやすくすることができる。

【７３２９】

化粧ユニットＰ３０２がベースユニットＰ３０１に組付けられた状態では、後側が枠形状に構成される化粧ユニットＰ３０２の上辺側がベースユニットＰ３０１の前端面との隙間を無くすように当接される。これにより、化粧ユニットＰ３０２とベースユニットＰ３０１との隙間から異物が侵入されることを防止し易くすることができるし、隙間から光が漏れる可能性も減らすことができる。

【７３３０】

図３６２は、化粧ユニットＰ３０２の分解正面斜視図であり、図３６３は、化粧ユニッ

トＰ３０２の分解背面斜視図である。化粧ユニットＰ３０２は、骨格を形成するベース部材Ｐ３５０と、そのベース部材Ｐ３５０に前面側から組み付けられる上下反射部材Ｐ３６０と、上下反射部材Ｐ３６０を覆うようにベース部材Ｐ３５０の前方に配設される装飾構成部Ｐ３７０と、有色（本実施形態では白色）で非透過性の樹脂材料から形成されておりベース部材Ｐ３５０の背面側に配設されベース部材Ｐ３５０に回転不能に締結固定される複数の係止棒部材Ｐ３８０と、を主に備える。

【７３３１】

ベース部材Ｐ３５０は、有色（本実施形態では黒色）で非透過性の樹脂材料から形成されており、ベースユニットＰ３０１（図３５５参照）に前後方向から近接された場合に外縁部を隙間なく閉塞可能な形状から形成される。

【７３３２】

ベース部材Ｐ３５０は、上面部の後端辺から凹設形成される確認窓構成部Ｐ３５１と、その確認窓構成部Ｐ３５１の左隣に形成されるコメント表示部Ｐ３５２と、発光構成部Ｐ３４０（図３５６参照）のケース下部Ｐ３４１及びケース上部Ｐ３４３を挿通可能な大きさの矩形状（長方形状）の貫通孔として形成される第１開口部Ｐ３５３と、発光構成部Ｐ３４０（図３５６参照）の小型ケースＰ３４４を挿通可能な大きさの矩形状（長方形状）の貫通孔として形成される第２開口部Ｐ３５４と、上面部の前端側において前方側が上方へ向けて傾斜する前側傾斜部Ｐ３５５と、下縁部後側において締結固定される逆Ｕ字状の板状部材である底側覆設部材Ｐ３５６と、その底側覆設部材Ｐ３５６の左下側に締結固定されるスピーカー下カバーＰ３５７と、後方に向かうほど上向きに傾斜する摺動底平面Ｐ３５８と、を主に備える。

【７３３３】

確認窓構成部Ｐ３５１は、板状部Ｐ３１４が内側に嵌合され、複数段形成部Ｐ３２１ｈの前面を隙間なく塞ぐ形状とされる（図３５６参照）。これにより、ベース部材Ｐ３１０との間で複数段形成部Ｐ３２１ｈの周りを枠状に囲う窓部が構成される。これにより、窓部の内側に対する注目力を向上させることができる。窓部の内側では切替構成部Ｐ３２０の被操作部材Ｐ３２２が視認されるようにされており、被操作部材Ｐ３２２の配置に対応して、目印部Ｐ３２２ｂが視認される場合と、視認されない場合とを構成可能とされている。

【７３３４】

コメント表示部Ｐ３５２は、確認窓構成部Ｐ３５１の視認内容の意味についてのコメントが記載される。本実施形態では、「確認窓が黄色であればロック完了」と記載される。これにより、作業者は確認窓を一目見るだけで組み付けが正常に完了したか否かを把握することができるので、作業効率を向上させることができる。

【７３３５】

前側傾斜部Ｐ３５５は、上下反射部材Ｐ３６０や装飾構成部Ｐ３７０のうち、ベース部材Ｐ３５０の上面部よりも上方にはみ出す箇所を受けるために上方に張り出し形成される部分である。

【７３３６】

前側傾斜部Ｐ３５５の前方において上側反射部材Ｐ３６１による光の反射がされたり、主装飾部Ｐ３７１が視認されたりすることから、本実施形態では、ベース部材Ｐ３５０の上面部よりも上側の位置において光や装飾を用いた演出を実行することができる。

【７３３７】

また、接触可能部である前側傾斜部Ｐ３５５は、上側に張り出した箇所を前後から指で挟むようにして把持可能に形成されており、組み付け作業時に把持させることにより誤って落下させることが防止される。更に、組み付け時の接合位置（化粧ユニットＰ３０２の後端部）から離れた位置を把持することから、作業者が指を挟むことが回避される。

【７３３８】

底側覆設部材Ｐ３５６は、後端部から後方に突設形成される複数の係合突部Ｐ３５６ａを備える。係合突部Ｐ３５６ａは、ベースユニットＰ３０１に化粧ユニットＰ３０２を組

み付ける際に、音響構成部Ｐ３３０の覆設部材Ｐ３３３の正面側において凹設形成される係合凹部Ｐ３３３ｂに嵌合される。これにより、ベースユニットＰ３０１と化粧ユニットＰ３０２との下縁部における接合位置において隙間が生じることを抑制することができる。

【７３３９】

スピーカー下カバーＰ３５７は、後端部がベース部材Ｐ３１０の左端において下方に垂れる板部の右縁部前側と面で当接する形状とされており、ベースユニットＰ３０１と化粧ユニットＰ３０２との組立状態においてベースユニットＰ３０１と化粧ユニットＰ３０２との間に生じ得る隙間の一部（ベース部材Ｐ３１０の左端において下方に垂れる板部の右縁部に生じる隙間）を閉塞可能となっている。

【７３４０】

これにより、ベースユニットＰ３０１と化粧ユニットＰ３０２との間の隙間からピアノ線等の不正具をパチンコ機Ｐ１０の内部に進入させて実行され得る不正行為を未然に防止することができる。

【７３４１】

摺動底平面Ｐ３５８は、化粧ユニットＰ３０２の組み付け作業において、覆設部材Ｐ３３３の摺動上面Ｐ３３３ｃに仮置きされた後、前後方向に摺動される傾斜平面である。摺動上面Ｐ３３３ｃは、前方へ向かうほど下がる傾斜面となっており、上面からは間隔を空けて前後方向に延びる複数のリブが形成される。

【７３４２】

摺動底平面Ｐ３５８は摺動上面Ｐ３３３ｃの全面と当接されるのではなく、複数のリブの面積で当接されるので、摺動の摩擦力を低減することができるので、ベースユニットＰ３０１に対して化粧ユニットＰ３０２をスムーズにスライド移動させることができる。

【７３４３】

摺動上面Ｐ３３３ｃが前方へ向かうほど下がる傾斜面となっていることから、組み付け作業が完了することに気付かずに作業者が作業を終了した場合でも、摺動上面Ｐ３３３ｃの傾斜に沿って化粧ユニットＰ３０２が前方へ摺動する（ずり動作する）ことになるので、作業者に組み付け作業が完了していないことに気付かせることができる。

【７３４４】

また、摺動上面Ｐ３３３ｃが前方へ向かうほど下がる傾斜面となっていることから、化粧ユニットＰ３０２を取り外す際に切替構成部Ｐ３２０を変位状態（図３６４（ｂ）参照）とした場合に化粧ユニットＰ３０２が自重により前方へ若干摺動される（ずり動作する）ことになるので、ベースユニットＰ３０１と化粧ユニットＰ３０２とが接合された状態から取り外す場合に比較して、取り外し作業の負担を低減させることができる。

【７３４５】

上下反射部材Ｐ３６０は、ベース部材Ｐ３５０に前面側から組み付けられベース部材Ｐ３５０の上側部の下部に当接された状態で締結固定される上側反射部材Ｐ３６１と、その上側反射部材Ｐ３６１の下端部に前方から重ねられるようにベース部材Ｐ３５０に組み付けられベース部材Ｐ３５０の下側部の上部に当接された状態で締結固定される下側反射部材Ｐ３６５，Ｐ３６６から構成される。

【７３４６】

上側反射部材Ｐ３６１の前側部下面には鏡面の傾斜面が形成され、下側反射部材Ｐ３６５の前側部上面には鏡面の傾斜面が形成される。上側反射部材Ｐ３６１は、ベース部材Ｐ３５０の第１開口部Ｐ３５３及び第２開口部Ｐ３５４よりも上側に配設され、下側反射部材Ｐ３６５，Ｐ３６６は、ベース部材Ｐ３５０の第１開口部Ｐ３５３及び第２開口部Ｐ３５４よりも下側に配設される。

【７３４７】

即ち、ベース部材Ｐ３５０の第１開口部Ｐ３５３及び第２開口部Ｐ３５４を挿通される第１電飾基板Ｐ３４２及び第２電飾基板Ｐ３４５（図３５７参照）の上面側から照射される光が上側反射部材Ｐ３６１の鏡面により反射され、第１電飾基板Ｐ３４２及び第２電飾

基板Ｐ３４５（図３５７参照）の下面側から照射される光が下側反射部材Ｐ３６５，Ｐ３６６の鏡面により反射される。

【７３４８】

装飾構成部Ｐ３７０は、ベース部材Ｐ３５０に締結固定されるように構成されており、上下反射部材Ｐ３６０に対して右端揃いで配置されており正面側からロゴなどの意匠が視認可能に構成される主装飾部Ｐ３７１と、その主装飾部Ｐ３７１よりも左側においてベース部材Ｐ３５０の正面側を覆う左側覆設部Ｐ３７２と、その左側覆設部Ｐ３７２に重ねられており主装飾部Ｐ３７１に関係する模様が形成される模様構成部Ｐ３７３と、を主に備える。

【７３４９】

主装飾部Ｐ３７１は、非透過性の樹脂材料から形成される外枠部Ｐ３７１ａの内側において、光透過性の樹脂材料から形成される板状透過部である板状部Ｐ３７１ｂが配設されており、この板状部Ｐ３７１ｂを上側反射部材Ｐ３６１及び下側反射部材Ｐ３６５，Ｐ３６６に反射された光が透過することで、遊技者に光が視認される。

【７３５０】

板状部Ｐ３７１ｂは背面側にシボ加工がされており、正面視において、後方から透過された光は視認される一方で、後方側に配置される発光構成部Ｐ３４０の外形等については視認困難とさせるように構成される。

【７３５１】

左側覆設部Ｐ３７２は、非透過性の樹脂材料から形成される骨格の内側において、円弧形状に沿って窓部が形成されており、その窓部を閉塞するようにして光透過性の樹脂材料から形成される窓構成部Ｐ３７２ａが配設される。

【７３５２】

窓構成部Ｐ３７２ａは、前後方向視で発光構成部Ｐ３２５（図３５７参照）と重なる位置に形成される。これにより、発光構成部Ｐ３２５の電飾基板Ｐ３２５ａから照射された光は、窓構成部Ｐ３７２ａを通して遊技者に視認される。

【７３５３】

係止棒部材Ｐ３８０は、同様の形状の部材が、ベースユニットＰ３０１の案内筒部Ｐ３２１ｇ（図３５７参照）に対応する位置に対応する本数（本実施形態では３本）で配置され、ベース部材Ｐ３５０の背面側に締結固定される。

【７３５４】

係止棒部材Ｐ３８０は、円柱形状をベースとして先端側が先細りされた形状とされる部材であって、先端側に対向傾斜面Ｐ３８３が形成されるが、この対向傾斜面Ｐ３８３の向きは切替構成部Ｐ３２０の状態の切り替えと対応されていることから、配置部位によって異なる。

【７３５５】

即ち、上側において左右に配置される案内筒部Ｐ３２１ｇに対応される係止棒部材Ｐ３８０は、後端部において右側面から面取り形成される態様で対向傾斜面Ｐ３８３が形成されている一方で、左下側に配置される案内筒部Ｐ３２１ｇに対応される係止棒部材Ｐ３８０は、後端部において上側面から面取り形成される態様で対向傾斜面Ｐ３８３が形成されている。

【７３５６】

本実施形態では、各係止棒部材Ｐ３８０に共通の部材を用いており、対向傾斜面Ｐ３８３が上下左右の何れの側を向くかはベース部材Ｐ３５０に締結固定される際の係止棒部材Ｐ３８０の姿勢で調整される。この観点から、係止棒部材Ｐ３８０には、係止棒部材Ｐ３８０がベース部材Ｐ３５０に締結される基端側において係止棒部材Ｐ３８０の円柱形状の径方向外方へ姿勢合わせ突部が突設されており、ベース部材Ｐ３５０側には係止棒部材Ｐ３８０の姿勢を適切な姿勢とできる位置に姿勢合わせ突部が嵌合可能な凹設部が形成される。

【７３５７】

姿勢合わせ突部が凹設部に嵌合されることで係止棒部材Ｐ３８０が適切な姿勢に調整される。更に、この調整された適切な姿勢において締結固定を行う際に、係止棒部材Ｐ３８０の姿勢がずれることを嵌合により防止することができる。

【７３５８】

図３６４（ａ）から図３６４（ｃ）は、図３６１（ａ）のＸ４１ａ－Ｘ４１ａ線における正面枠Ｐ１４の部分断面図である。図３６１（ａ）では切替構成部Ｐ３２０のみが図示されているが、図３６４（ａ）及び図３６４（ｂ）では切替構成部Ｐ３２０を含む枠状取付部である正面枠Ｐ１４の各構成が図示される。なお、図３６４（ａ）から図３６４（ｃ）の説明では、図３６１（ａ）及び図３６１（ｂ）を適宜参照する。

【７３５９】

図３６４（ａ）及び図３６４（ｃ）では、切替構成部Ｐ３２０の待機状態（図３６１（ａ）参照）が図示され、図３６４（ｂ）では、切替構成部Ｐ３２０の変位状態（図３６１（ｂ）参照）が図示される。

【７３６０】

図３６４（ａ）及び図３６４（ｂ）では、化粧ユニットＰ３０２はベースユニットＰ３０１に対する組み付けが完了した組付完了位置に配置されており、図３６４（ｃ）では、化粧ユニットＰ３０２はベースユニットＰ３０１に対して組み付けられる事前準備位置に配置されている。

【７３６１】

図３６４（ａ）に図示される状態は、化粧ユニットＰ３０２がベースユニットＰ３０１に組み付けられた、遊技が安全に可能な状態（遊技可能状態）に相当する。図３６４（ａ）に図示されるように、遊技可能状態では、係止棒部材Ｐ３８０の第１嵌合凹部Ｐ３８１に切替構成部Ｐ３２０の金属板部Ｐ３２２ｅが嵌合されており、係止棒部材Ｐ３８０の前後方向への脱落が防止される。

【７３６２】

この場合において、複数の係止棒部材Ｐ３８０において同様に嵌合されており、異なる位置で化粧ユニットＰ３０２を支持する力が分散されるので、化粧ユニットＰ３０２を支持する力を各係止棒部材Ｐ３８０で平均化することができるので、閉鎖時係合部である係止棒部材Ｐ３８０にかかる疲労を低減することができ、耐久力を高めることができる。

【７３６３】

図３６４（ｂ）に図示される状態は、化粧ユニットＰ３０２をベースユニットＰ３０１から取り外し可能とされる状態（取外し可能状態）に相当する。図３６４（ｂ）では、図３６４（ａ）に図示される遊技可能状態から、切替構成部Ｐ３２０の操作部Ｐ３２２ａが左右方向へスライド操作され、金属板部Ｐ３２２ｅが係止棒部材Ｐ３８０の第１嵌合凹部Ｐ３８０から退避された状態が図示される。

【７３６４】

図３６４（ｂ）に図示される状態であれば、係止棒部材Ｐ３８０の前後方向への移動が金属板部Ｐ３２２ｅに妨害されることがないため、化粧ユニットＰ３０２をベースユニットＰ３０１から前方へ引き抜くようにして取り外すことができる。

【７３６５】

化粧ユニットＰ３０２の取り外しにおける操作部Ｐ３２２ａの操作は、その操作部Ｐ３２２ａの配設態様から、正面枠Ｐ１４が内枠Ｈ１２に対して開放された状態において実行し易くなるよう構成されているため、化粧ユニットＰ３０２の取り外し作業は、正面枠Ｐ１４を開放させた状態において行い易くされる（図３５１及び図３５２参照）。

【７３６６】

正面枠Ｐ１４を開放させた状態であれば、化粧ユニットＰ３０２の取り外し作業を行う作業者は、正面枠Ｐ１４の右端側（回動先端側）から対面して、左手で化粧ユニットＰ３０２を掴んだ状態で、右手で操作部Ｐ３２２ａを操作することができるので、操作部Ｐ３２２ａの操作により取外し可能状態にされた場合に化粧ユニットＰ３０２を誤って落下させるという事態を避け易くすることができる。

【７３６７】
化粧ユニットＰ３０２を掴む位置としては、前側傾斜部Ｐ３５５が好適である。前側傾斜部Ｐ３５５は化粧ユニットＰ３０２の上面から張り出しているため掴み易く、更には後面側は遊技者からはほとんど視認されないので、掴む際に傷や汚れが付いたとしても、装飾性に影響を与えにくいためである。
【７３６８】
図３６４（ｃ）に図示される事前準備位置から、化粧ユニットＰ３０２をベースユニットＰ３０１に対して前後方向に近づけ、押込むことで化粧ユニットＰ３０２のベースユニットＰ３０１に対する組み付けを完了させることができる。
【７３６９】
係止棒部材Ｐ３８０の先端には、金属板部Ｐ３２２ｅと対向する側に傾斜面として形成される対向傾斜面Ｐ３８３が形成される。対向傾斜面Ｐ３８３は、先端部における形成端が金属板部Ｐ３２２ｅの端部よりも左右方向外側となるように構成される。
【７３７０】
これにより、化粧ユニットＰ３０２をベースユニットＰ３０１に対して前後方向に近づけた場合に係止棒部材Ｐ３８０から金属板部Ｐ３２２ｅに与えられる荷重の方向が前後方向のみではなく、左右方向成分を有した方向とされ、この左右方向成分の荷重により被操作部材Ｐ３２２を左右方向に動作させることができる。
【７３７１】
対向傾斜面Ｐ３８３により力の方向が変化されることを利用して、係止棒部材Ｐ３８０の移動方向（前後方向）と、被操作部材Ｐ３２２の動作方向（左右方向）とが直角に交差される。これにより、係止棒部材Ｐ３８０の移動量を効率的に被操作部材Ｐ３２２の動作量に変換することができるので、取り付けのために必要となる係止棒部材Ｐ３８０の押し込み量を短くすることができ、組み付け作業時の負担を下げることができる。
【７３７２】
被操作部材Ｐ３２２の動作後も引き続き化粧ユニットＰ３０２を前後方向に押し込んだ場合、第１嵌合凹部Ｐ３８１の前後方向位置が金属板部Ｐ３２２ｅに合致した場合にコイルスプリングＰ３２２ＳＰの付勢力により被操作部材Ｐ３２２が復帰され切替構成部Ｐ３２０が待機状態とされる（図３６４（ａ）参照）ことで、化粧ユニットＰ３０２をベースユニットＰ３０１に対して組み付けることができる。
【７３７３】
また、係止棒部材Ｐ３８０から切替構成部Ｐ３２０への荷重の付与は、複数（本実施形態では、３本）の係止棒部材Ｐ３８０で同時に生じる（上側の２本の係止棒部材Ｐ３８０からは被操作部材Ｐ３２２の金属板部Ｐ３２２ｅに生じ、下側の係止棒部材Ｐ３８０からは追従動作部材Ｐ３２４の金属板部Ｐ３２４ｃに生じる）。
【７３７４】
そのため、被操作部材Ｐ３２２及び追従動作部材Ｐ３２４を動作させる荷重として１本の係止棒部材Ｐ３８０に与えられる荷重が低減される（各箇所に分散される）ことから、被操作部材Ｐ３２２及び追従動作部材Ｐ３２４に局所的な大荷重が生じることを避けることができ、又、係止棒部材Ｐ３８０の破損をさけることができる。
【７３７５】
被操作部材Ｐ３２２がコイルスプリングＰ３２２ＳＰの付勢力により動作されることに連動して、操作連動部である追従動作部材Ｐ３２４も待機状態における位置側（下側）へ移動する。この追従動作部材Ｐ３２４の移動方向は、自重による移動方向と同じである。そのため、コイルスプリングＰ３２２ＳＰの付勢力による動作が追従動作部材Ｐ３２４の自重により補助される。これにより、コイルスプリングＰ３２２ＳＰの付勢力が経年劣化により低下した場合であっても、被操作部材Ｐ３２２及び追従動作部材Ｐ３２４の待機状態における位置側への変位を安定的に生じさせることができる。
【７３７６】
係止棒部材Ｐ３８０を案内する案内筒部Ｐ３２１ｇは、内周面が前方へ向かうほど細く

なるテーパになっているので、案内筒部Ｐ３２１ｇへの差し込みを容易としつつ、化粧ユニットＰ３０２に対して前後方向の荷重が与えられた場合に、係止棒部材Ｐ３８０を金属板部Ｐ３２２ｅに対する適切な位置に案内させることができる。

【７３７７】

このように、本実施形態によれば、係止棒部材Ｐ３８０を案内筒部Ｐ３２１ｇに合わせて、化粧ユニットＰ３０２を前後方向へ押し込むだけで、係止棒部材Ｐ３８０が被操作部材Ｐ３２２の金属板部Ｐ３２２ｅに係合され、組み付け作業が完了することになるので、組み付け作業の工程数を減らすことができる。

【７３７８】

なお、係止棒部材Ｐ３８０のスライド移動の方向は水平な方向として構成されるため、所定の取付対象である正面枠Ｐ１４（図３５１参照）を開放している際に誤って操作部Ｐ３２２ａを左右方向にスライド移動させた場合であっても、化粧ユニットＰ３０２が自重で脱落することはなく、意図せぬ落下によって化粧ユニットＰ３０２が破損することを回避することができる。

【７３７９】

また、仮に係止棒部材Ｐ３８０の脱落が開始されたとしても、操作部Ｐ３２２ａからすぐに手を離せば被操作部材Ｐ３２２がコイルスプリングＰ３２２ＳＰの付勢力で待機状態（図３６４（ａ）参照）における位置側に復帰されるところ、係止棒部材Ｐ３８０において第１嵌合凹部Ｐ３８１よりも先端側において形成される第２嵌合凹部Ｐ３８２に金属板部Ｐ３２２ｅが係合されることにより、係止棒部材Ｐ３８０の脱落を防止することができるので、意図せぬ落下によって化粧ユニットＰ３０２が破損することを回避することができる。

【７３８０】

化粧ユニットＰ３０２のベースユニットＰ３０１に対する組み付け作業を行う場合、上述の通り、係止棒部材Ｐ３８０に押進されて被操作部材Ｐ３２２及び追従動作部材Ｐ３２４が一方向に動作された後で、コイルスプリングＰ３２２ＳＰの付勢力で逆方向に動作されるといった往復動作が生じる。

【７３８１】

この往復動作後において、係止棒部材Ｐ３８０が十分に押込まれて化粧ユニットＰ３０２が組付完了位置に到達している場合には、切替構成部Ｐ３２０が待機状態とされており（図３６４（ａ）参照）、目印部Ｐ３２２ｂの形成範囲Ｐ３２２ｂｒが複数段形成部Ｐ３２１ｈの低い箇所に位置されることから、目印部Ｐ３２２ｂは板状部Ｐ３１４に遮蔽されることになり作業者に視認されない（図３５６参照）。

【７３８２】

従って、板状部Ｐ３１４（図３５５参照）の間において視認される色が目印部Ｐ３２２ｂの赤ではなく被操作部材Ｐ３２２のベースカラーとしての黄色で視認されることにより、組み付け作業が完了したことを作業者に把握させることができる。

【７３８３】

本実施形態では、化粧ユニットＰ３０２をベースユニットＰ３０１に対して前後方向にスライド移動させることのみで組み付け作業を完了させることができるので、組み付け作業自体は、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２に対して開放させた状態でも、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２に対して閉鎖した状態でも、実行可能である。

【７３８４】

ここで、目印となる板状部Ｐ３１４の間の領域は、化粧ユニットＰ３０２とベースユニットＰ３０１との間において視認可能とされるが（図３５２、図３５５参照）、正面枠Ｐ１４が内枠Ｈ１２に対して閉鎖された状態では、板状部Ｐ３１４の間の領域がデータカウンターＰＤｃの下方に位置しているため（図３５０参照）、視線が通り難く、組み付け作業が完了したことの目安として機能させ難い。

【７３８５】

一方で、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２に対して開放させた状態であると、目印となる板状

部Ｐ３１４の間の領域がデータカウンターＰＤｃの下方よりも前方側に移動可能となるため、視線が通り易くなり、化粧ユニットＰ３０２の組み付け作業が完了したことを確認し易くすることができる。

【７３８６】

特に本実施形態では、目印となる板状部Ｐ３１４の間の領域が正面枠Ｐ１４の回動先端側（右側）寄りに配設されていることから、正面枠Ｐ１４を開放させた場合における前方への変位量を大きくすることができ、正面枠Ｐ１４を僅かに開放させることで目印となる板状部Ｐ３１４の間の領域をデータカウンターＰＤｃの下方よりも前方側に位置させることができる。

【７３８７】

詳細には、ヒンジＨ１９側（左端側）を回転の軸として正面枠Ｐ１４が約７［度］開放側（前方側）へ回転移動されることにより、目印となる板状部Ｐ３１４の間の領域をデータカウンターＰＤｃの下方よりも前方側に位置させることができるので、目印となる板状部Ｐ３１４の間の領域をデータカウンターＰＤｃの下方よりも前方側に位置させ易くすることができ、化粧ユニットＰ３０２の組み付け作業の作業効率を上昇させることができる。

【７３８８】

なお、目印となる板状部Ｐ３１４の間の領域を視認させ易くするのに必要となる正面枠Ｐ１４の開放の程度は、データカウンターＰＤｃの形状によって変わり得る。また、データカウンターＰＤｃが上面視で略矩形状という前提から目印となる板状部Ｐ３１４の間の領域を正面枠Ｐ１４の回動先端側（右側）寄りに配置させているが、データカウンターＰＤｃの形状によっては、目印となる板状部Ｐ３１４の間の領域に好適な位置は変わり得る。

【７３８９】

例えば、データカウンターＰＤｃが、上面視で右側部が前方に張り出している形状（Ｌ字形状や台形形状）である場合、目印となる板状部Ｐ３１４の間の領域を正面枠Ｐ１４の回動基端側に配置した方が視認し易いという場合もある。これらの事情も踏まえた上で、データカウンターＰＤｃの形状としてより一般的な形状に合わせて、目印となる板状部Ｐ３１４の間の領域の位置が設計されている。

【７３９０】

本実施形態では、右側装飾ユニットＰ１４ｃの上端が板状部Ｐ３１４の形成される上側装飾ユニットＰ１４ａの上面よりも低い位置とされていることから（図３５１参照）、右上方向からの視線が通り易くされており、内枠Ｈ１２に対して開放された状態における正面枠Ｐ１４の回動先端側に対面して作業する作業者に板状部Ｐ３１４の間の領域を視認させ易くすることができる。

【７３９１】

また、板状部Ｐ３１４が形成される上側装飾ユニットＰ１４ａの上面側は、一般的に、パチンコ機Ｐ１０から光が照射されない箇所（演出領域外）である。そのため、照射される光の影響で板状部Ｐ３１４の間の領域の色の変化を識別し難くなる事態を避けることができ、板状部Ｐ３１４の間の領域の色（視認態様）の判別をさせ易くすることができる。

【７３９２】

化粧ユニットＰ３０２のベースユニットＰ３０１に対する組み付け作業を行う場合、上述の通り、係止棒部材Ｐ３８０に押進されて操作部Ｐ３２２ａが一体形成される被操作部材Ｐ３２２及び追従動作部材Ｐ３２４が一方向に動作された後で、コイルスプリングＰ３２２ＳＰの付勢力で逆方向に動作されるといった往復動作が生じる。ここで、操作部Ｐ３２２ａは、正面枠Ｐ１４が内枠Ｈ１２に対して閉鎖される状態では、正面枠Ｐ１４に隠されるため、操作部Ｐ３２２ａを組み付け作業が完了したことの目安として機能させることはできない。一方で、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２に対して開放させた状態であると、操作部Ｐ３２２ａは正面枠Ｐ１４（上側装飾ユニットＰ１４ａのベースユニットＰ３０１）よりも後方の領域において視認可能となるため（図３５２参照）、化粧ユニットＰ３０２の

組み付け作業が完了したことを確認し易くすることができる。
【７３９３】
このように、正面枠Ｐ１４を開放させた状態であれば、操作部Ｐ３２２ａを視認することによっても、組み付け作業の完了を把握できるので、正面枠Ｐ１４が内枠Ｈ１２に対し閉鎖されている状態よりも正面枠Ｐ１４が開放された状態の方が、化粧ユニットＰ３０２の組み付け作業の作業効率を上昇させることができる。
【７３９４】
即ち、正面枠Ｐ１４を開放させた状態の方が、化粧ユニットＰ３０２の組み付け作業の完了を、目印となる板状部Ｐ３１４の間の領域の色の変化でも、操作部Ｐ３２２ａの動作でも、確認できるので、組み付け作業の完了をより分かり易くすることができ、作業効率を上昇させることができる。
【７３９５】
操作部Ｐ３２２ａは、板状部Ｐ３１４の間の領域と同様に、正面枠Ｐ１４の回動先端側（右側）寄りに配設されていることから、正面枠Ｐ１４の開放時に視認し易くされている。操作部Ｐ３２２ａ及び目印となる板状部Ｐ３１４の間の領域の配置は、どちらも、正面枠Ｐ１４の回動軸（前扉取付金具Ｈ５７に相当）から離れている（正面枠Ｐ１４の右端に近い）方が、視認に必要となる正面枠Ｐ１４の開放度合いを小さくすることができる。
【７３９６】
即ち、操作部Ｐ３２２ａであれば、正面枠Ｐ１４の回動先端側（右側）に配置されている方が正面枠Ｐ１４と内枠Ｈ１２との間の隙間が狭くても視認が可能となるし、目印となる板状部Ｐ３１４の間の領域であれば、正面枠Ｐ１４の内枠Ｈ１２に対する回転角度が同じ場合における前方への変位量がより大きくなるため、小さな回転角度でデータカウンターＰＤｃの下方よりも前方側へ位置するようになる。
【７３９７】
なお、本実施形態では、目印となる板状部Ｐ３１４の間の領域よりも操作部Ｐ３２２ａの方がより正面枠Ｐ１４の回動先端側（右側）寄りに配設されているが、これに限られるものではない。例えば、操作部Ｐ３２２ａよりも目印となる板状部Ｐ３１４の間の領域の方がより正面枠Ｐ１４の回動先端側（右側）寄りに配設されても良いし、操作部Ｐ３２２ａ及び目印となる板状部Ｐ３１４の間の領域の正面枠Ｐ１４の回動軸からの距離が同等となるように設定されても良い。
【７３９８】
また、板状部Ｐ３１４の間の領域または操作部Ｐ３２２ａの配置としての正面枠Ｐ１４の回動先端側（右側）寄りの位置としては、正面枠Ｐ１４の左右中心の位置よりも右側であれば良く、更には、正面枠Ｐ１４から張り出す部分よりも回動先端側（右側）寄りであるとなお良い。例えば、操作部Ｐ３２２ａは正面枠Ｐ１４の後方側に張り出しているが、後方側に張り出すことはガラスユニットＨ１６も同様であり、このガラスユニットＨ１６（の中心）よりも回動先端側（右側）寄りの位置に配設されることで、ガラスユニットＨ１６によって操作部Ｐ３２２ａへの視線が遮られる事態を避けることができる。
【７３９９】
本実施形態では、操作部Ｐ３２２ａの位置がガラスユニットＨ１６の上方に位置しており（図３５２参照）、これでも操作部Ｐ３２２ａへの視線がガラスユニットＨ１６に遮られることは回避されているが、操作部Ｐ３２２ａをガラスユニットＨ１６の右端部よりも回動先端側（右側）に配置させることで、正面枠Ｐ１４が開放された場合に操作部Ｐ３２２ａをより視認させ易くすることができる（開放幅が小さい場合でも操作部Ｐ３２２ａへの視線が通るようにできる）。
【７４００】
化粧ユニットＰ３０２の組み付け作業は、正面枠Ｐ１４を開放させた状態であれば、作業者は、正面枠Ｐ１４の右端側（回動先端側）から対面して、左手で化粧ユニットＰ３０２を掴むようにして把持して、化粧ユニットＰ３０２をベースユニットＰ３０１に対して前方から近接させるように後方へスライド移動させることで、ベースユニットＰ３０１に

対する化粧ユニットＰ３０２の組み付け作業を完了させることができる。
【７４０１】
化粧ユニットＰ３０２を掴む位置としては、前側傾斜部Ｐ３５５が好適である。前側傾斜部Ｐ３５５は化粧ユニットＰ３０２の上面から張り出しているため掴み易く、更には後面側は遊技者からはほとんど視認されないので、掴む際に傷や汚れが付いたとしても、装飾性に影響を与えにくいためである。
【７４０２】
更に、前側傾斜部Ｐ３５５は化粧ユニットＰ３０２とベースユニットＰ３０１とが接合する位置から離れているため、作業者が接合位置で指を挟むという事態を未然に避けることができる。
【７４０３】
この観点において、本実施形態では、コメント表示部Ｐ３３４ａに組み付け作業者に対する注意を呼び掛けるための表示として、「挟み込み注意」というコメントが記載されたシールが添付されていることから、作業者が作業方法を熟知していない場合であっても、接合位置から離れた箇所を掴むように仕向けることができ、自然と前側傾斜部Ｐ３５５を掴ませることが可能となる。これにより作業者が安全に作業できるように図っている。
【７４０４】
コメント表示部Ｐ３３４ａは、目印となる板状部Ｐ３１４の間の領域よりも更に右側に位置しており、正面枠Ｐ１４を開放させた状態において、正面枠Ｐ１４に回動先端側から対面して組み付け作業を行う作業者により近い位置に配設されているため、作業者がコメント表示部Ｐ３３４ａを視認し易くすることができる。
【７４０５】
更に、右側装飾ユニットＰ１４ｃの上端が板状部Ｐ３１４の形成される上側装飾ユニットＰ１４ａの上面よりも低い位置とされていることから（図３５１参照）、右上方向からの視線が通り易くされており、右側装飾ユニットＰ１４ｃが上側装飾ユニットＰ１４ａの上面よりも高い位置まで延びる場合と異なり、右側装飾ユニットＰ１４ｃがコメント表示部Ｐ３３４ａを隠すという事態を回避することができる。
【７４０６】
図３６５（ａ）は、第１電飾基板Ｐ３４２の正面図であり、図３６５（ｂ）は、図３６５（ａ）の矢印Ｙ４２ｂ方向視における第１電飾基板Ｐ３４２の上面図であり、図３６５（ｃ）は、図３６５（ａ）の矢印Ｙ４２ｃ方向視における第１電飾基板Ｐ３４２の下面図である。
【７４０７】
図３６５（ａ）から図３６５（ｃ）に図示されるように、第１電飾基板Ｐ３４２は、上下面に発光部Ｐ３４２ａが配設される。第１電飾基板Ｐ３４２の上面では、発光部Ｐ３４２ａとして、第１電飾基板Ｐ３４２の後辺と平行な後ライン上に配置される後列発光部Ｐ３４２ａ１と、張出突部Ｐ３４２ｂにおける湾曲前ライン上に配置される前列発光部Ｐ３４２ａ２と、前ライン上と後ライン上との間において前縁部の湾曲の曲率半径よりも大きな曲率半径で湾曲される中ライン上に配置される中列発光部Ｐ３４２ａ３と、を備える。
【７４０８】
一方、第１電飾基板Ｐ３４２の下面では、発光部Ｐ３４２ａとして、右方へ向かうほど前方側へ向かう傾斜直線ＰＬ３４２上に配置される直線上発光部Ｐ３４２ａ４を備える。このように第１電飾基板Ｐ３４２は上下両面に発光部Ｐ３４２ａが配設されるが、その配置態様が異なっている。
【７４０９】
図３６６は、上側装飾ユニットＰ１４ａの部分正面図であり、図３６７は、図３６６のＸ４３ｍ－Ｘ４３ｍ線における上側装飾ユニットＰ１４ａの部分断面図であり、図３６８は、図３６６のＸ４４ｍ－Ｘ４４ｍ線における上側装飾ユニットＰ１４ａの部分断面図であり、図３６９は、図３６６のＸ４５ｍ－Ｘ４５ｍ線における上側装飾ユニットＰ１４ａの部分断面図である。

【７４１０】
図３６７、図３６８及び図３６９では、上側反射部材Ｐ３６１の断面の配置は同一とされる。即ち、上側反射部材Ｐ３６１の反射面は、左右方向の回転軸で反射面を回転させたと仮定した場合に、第１電飾基板Ｐ３４２の面と平行になり得る形状で形成される。これは、図３６９に図示される第２下側反射部材Ｐ３６６も同様である。
【７４１１】
図３６９では、第２電飾基板Ｐ３４５の左右中心位置を通る断面が図示され、図３６７及び図３６８では、第１電飾基板Ｐ３４２の直線上発光部Ｐ３４２ａ４のうちの異なる発光部の中心を通る断面が図示される。図３６８で図示される第１電飾基板Ｐ３４２の断面の配置は、図３６７で図示される第１電飾基板Ｐ３４２の断面の配置よりもから後方にずれている。
【７４１２】
一方、図３６７に図示される第１電飾基板Ｐ３４２と下側反射部材Ｐ３６５との間の角度ＰＡ３６５は、図３６８に図示される第１電飾基板Ｐ３４２と下側反射部材Ｐ３６５との間の角度ＰＡ３６５と同様（約４０度）であり、図３６７に図示される直線上発光部Ｐ３４２ａ４から照射光が下側反射部材Ｐ３６５に反射される位置までの距離ＰＤ３６５は、図３６８に図示される直線上発光部Ｐ３４２ａ４から照射光が下側反射部材Ｐ３６５に反射される位置までの距離ＰＤ３６５と同様である。
【７４１３】
即ち、下側反射部材Ｐ３６５の反射面（鏡面）は、左右方向に垂直な平面における断面視において第１電飾基板Ｐ３４２に対する角度を角度ＰＡ３６５で一定とする形状が傾斜直線ＰＬ３４２（図３６５（ｃ）参照）に平行な方向に延設されることにより形成される平面形状として構成される。
【７４１４】
上述のように、上側反射部材Ｐ３６１及び第２下側反射部材Ｐ３６６と、下側反射部材Ｐ３６５とは、反射面（鏡面）の形成態様が異なるため、反射された後の光の正面視における視認態様も異なる。これについて図３７０を参照して説明する。
【７４１５】
図３７０は、上側装飾ユニットＰ１４ａの正面図である。図３７０では、理解を容易とするために、主装飾部Ｐ３７１の板状部Ｐ３７１ｂの図示が省略され、上下反射部材Ｐ３６０を視認可能に図示される。
【７４１６】
図３７０に図示されるように、第１電飾基板Ｐ３４２及び第２電飾基板Ｐ３４５の発光部Ｐ３４２ａ，Ｐ３４５ａから照射される光は、上下反射部材Ｐ３６０の反射位置ＰＲ３４２で反射され前方へ向けて進行される。
【７４１７】
反射位置ＰＲ３４２は、上下反射部材Ｐ３６０の全域にわたっている。そのため、ベース部材Ｐ３１０の上面よりも上側に張り出した箇所（前側傾斜部Ｐ３５５（図３６３参照）の前方に相当）にも光を届かせることができる。このように、本実施形態によれば、実際には電飾基板が配置されない箇所（ベース部材Ｐ３１０の上面よりも上方、即ち、パチンコ機Ｐ１０の外方）における反射位置ＰＲ３４２にあたかも発光部Ｐ３４２ａ，Ｐ３４５ａが配置され、その発光部Ｐ３４２ａ，Ｐ３４５ａから光が照射されているかのように遊技者に錯覚させる演出を実行することができる。
【７４１８】
図３７０に図示されるように、正面視における反射位置ＰＲ３４２の位置は、上側反射部材Ｐ３６１及び第２下側反射部材Ｐ３６６においては、おおよそ発光部Ｐ３４２ａ，Ｐ３４５ａを上面視で視認した際の視認態様に準じた配置で視認される一方、第２下側反射部材Ｐ３６６においては、発光部Ｐ３４２ａ４を下面視で視認した際の視認態様（図３６５（ｃ）参照）と異なり、左右に水平に並ぶように視認される。
【７４１９】

これは、第２下側反射部材Ｐ３６６の反射面（鏡面）が傾斜直線ＰＬ３４２に平行な方向に延設されているためであるが、本実施形態では、外枠部Ｐ３７１ａの下縁の形状（水平方向に延びる形状）と反射位置ＰＲ３４２の並ぶ方向とを合わせるために第２下側反射部材Ｐ３６６の形状を設計している。

【７４２０】

即ち、発光部Ｐ３４２ａ，Ｐ３４５ａの配置が一定の配置とされる場合であっても、上下反射部材Ｐ３６０の形成態様を変化させることで、その正面側領域を囲う外枠部Ｐ３７１ａの形状の変化に対応することができ、外枠部Ｐ３７１ａの内側領域の隅々まで反射光を行き渡らせることができる。

【７４２１】

外枠部Ｐ３７１ａの内側にはパチンコ機Ｐ１０の題材等を示す意匠が形成されるところ、外枠部Ｐ３７１ａの内側領域の隅々まで反射光を行き渡らせることができることから、パチンコ店において遊技する機種を選んでいる遊技前の客の目を引くことができ、パチンコ機Ｐ１０の商品価値を向上させることができる。

【７４２２】

本実施形態の構成によれば、第１電飾基板Ｐ３４２及び第２電飾基板Ｐ３４５を共用とした場合において、外枠部Ｐ３７１ａの形状が変化された場合であっても、上下反射部材Ｐ３６０の形成態様を変化させることで外枠部Ｐ３７１ａの形状の変化に対応することができ、外枠部Ｐ３７１ａの内側領域の隅々にまで反射光を行き渡らせることができるため、電飾基板を変更する場合に比較して製品コストを低減させることができる。

【７４２３】

ここで、電飾基板の設計には、基板の板形状の設計だけでなく、ＬＥＤ配置、コネクタ配置、プリント配線のパターニング、露光工程で用いるマスクの設計など多くの工程が必要であるため、再設計を要する場合、余計に時間がかかる。また、試作段階や量産段階に入った後で電飾基板を再設計する場合、上記した工程で製造したものが無駄となり、製品コストが増大する。

【７４２４】

本実施形態によれば、基板の共用化を図ることができるので、電飾基板の設計が済んだ後における試作段階や量産段階において、外枠部Ｐ３７１ａの設計変更が生じた場合であっても、上下反射部材Ｐ３６０の設計変更で対応することができ、設計済の電飾基板が無駄になることを避けることができる。これにより、製品コストを低減させることができる。

【７４２５】

本実施形態によれば、第１電飾基板Ｐ３４２及び第２電飾基板Ｐ３４５の両面から光が照射され、それらが前方に反射される。これにより、第１電飾基板Ｐ３４２及び第２電飾基板Ｐ３４５の面積に比較して多数のＬＥＤを余裕もって配置させることができるため、小面積の基板であっても板状部Ｐ３７１ｂを十分に明るく照らすことができる。

【７４２６】

また、上下反射部材Ｐ３６０における光の反射は鏡面反射なので、光の減衰を抑えやすい。また、上下反射部材Ｐ３６０は固定配置されているので、正面視における光の見映えを固定（安定）させ易い。言い換えれば、上下反射部材Ｐ３６０からの光の反射角度を一定に維持することができるので、各発光部Ｐ３４２ａ，Ｐ３４５ａから照射されて視認される光の光量を均一とすることができる。

【７４２７】

図３６７から図３６９に図示されるように、主装飾部Ｐ３７１の板状部Ｐ３７１ｂは、下側部Ｐ３７１ｂ１において前面が斜め下方向を向くように傾斜姿勢とされる。そのため、上下反射部材Ｐ３６０で反射され下側部Ｐ３７１ｂ１を前方に通過する光は、斜め下方向に屈折される。

【７４２８】

これにより、遊技中における光の装飾効果を向上することができる。即ち、遊技中にお

ける遊技者の頭はガラスユニットＨ１６（図３４９参照）の前方に位置されるが、その位置から遊技者が斜め上を向いた場合に、下側部Ｐ３７１ｂ１を通過する光（斜め下方向へ向かう光）を視認させ易くすることができ、光による演出効果を向上させることができる。

【７４２９】

図３６７から図３６９に図示されるように、主装飾部Ｐ３７１の板状部Ｐ３７１ｂは、上側部Ｐ３７１ｂ２において前面が斜め上方向を向くように傾斜姿勢とされる。そのため、上下反射部材Ｐ３６０で反射され上側部Ｐ３７１ｂ２を前方に通過する光は、斜め上方向に屈折される。

【７４３０】

これにより、遊技開始前の逆に対する光演出効果を向上することができる。即ち、遊技開始する前に遊技店（ホール）において徘徊している客の頭は主装飾部Ｐ３７１と同程度の高さか主装飾部Ｐ３７１よりも上側に位置するが、その位置から遊技者が目線を下げた場合に、上側部Ｐ３７１ｂ２を通過する光（斜め上方向へ向かう光）を視認させ易くすることができ、光による演出効果を向上させることができる。

【７４３１】

ここで、本実施形態では、電源投入後において化粧ユニットＰ３０２をベースユニットＰ３０１に脱着させる際に利用される発光制御を備えている。即ち、電源投入後において化粧ユニットＰ３０２がベースユニットＰ３０１に組み付けられていないと音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図３４８参照）に判断された場合、発光部Ｐ３４２ａ，Ｐ３４５ａが白色光で発光されるように制御される。

【７４３２】

これにより、化粧ユニットＰ３０２を組み付ける位置を分かり易くすることができ、組み付け作業を行う作業者が不慣れな場合であっても、組み付け作業をスムーズに行わせることができる。

【７４３３】

この発光制御は、化粧ユニットＰ３０２の組み付けが完了したと判断されるまで継続されるので、同様の発光制御が継続される間は化粧ユニットＰ３０２の組み付けが完了していないことを作業者に知らせることができる。そのため、組み付け途中（化粧ユニットＰ３０２のベースユニットＰ３０１への差し込みが不十分である場合等）で組み付け作業が完了したとの勘違いから生じる組み付け不良を未然に防ぐことができる。

【７４３４】

組み付け作業前において、発光部Ｐ３４２ａ，Ｐ３４５ａからの光は上下に直進されるだけなので、化粧ユニットＰ３０２を前方から組み付ける際に前方に光が進行する場合に比較して、作業者が眩しく感じる程度を下げることができる。これにより、発光部Ｐ３４２ａ，Ｐ３４５ａからの光により化粧ユニットＰ３０２の組み付け位置を把握させやすくしながら、作業負担は低減させることができる。

【７４３５】

この組み付け作業中において、上下反射部材Ｐ３６０が移動することから、発光部Ｐ３４２ａ，Ｐ３４５ａから照射され上下反射部材Ｐ３６０により反射される光の主装飾部Ｐ３７１への到達位置は異なる。

【７４３６】

ここで、本実施形態では、第１電飾基板Ｐ３４２の直線上発光部Ｐ３４２ａ４から照射される光（下側反射部材Ｐ３６５で反射される光）は主装飾部Ｐ３７１を通して横一直線上に視認されるように構成されており、化粧ユニットＰ３０２の前後位置が違うとその直線の高さが変化する（化粧ユニットＰ３０２が後方側に位置している方が高さ方向で位置が下がる）ため、直線上発光部Ｐ３４２ａ４からの光照射が継続される場合において、その照射光の主装飾部Ｐ３７１への到達位置（高さ）を、化粧ユニットＰ３０２の組み付け完了の目安として利用することができる。

【７４３７】

即ち、本実施形態では、主装飾部Ｐ３７１における所定の高さ位置の基準線ＰＬ３７１（図３６６参照）が設けられており、電源投入後に組み付け作業をする場合において、化粧ユニットＰ３０２が組み付けられていない場合には、第３図柄表示装置Ｈ８１（図３５１参照）の表示領域において正面視における化粧ユニットＰ３０２と基準線ＰＬ３７１に対応する線が描画されると共に「光のラインの上下位置が下がって基準線に到達したら組み付け完了」と表示される。これにより、組み付け作業者は、組み付け作業の完了を容易に把握することができる。

【７４３８】

化粧ユニットＰ３０２のベースユニットＰ３０１に対する組み付け作業において、左右位置の合わせは、上蓋部材Ｐ３３４に対してベース部材Ｐ３５０の右側部形状（矩形の切欠き形状）を合わせることで容易に実現される。

【７４３９】

化粧ユニットＰ３０２のベースユニットＰ３０１に対する組み付け作業において、左右位置を合わせ、化粧ユニットＰ３０２をベースユニットＰ３０１の前方から近づけるように移動させ、第１開口部Ｐ３５３に発光構成部Ｐ３４０の前端側を挿通させるまでは化粧ユニットＰ３０２が落下しないように把持しておく必要がある。

【７４４０】

一方で、第１開口部Ｐ３５３に発光構成部Ｐ３４０の前端側が挿通され更に化粧ユニットＰ３０２を後方に移動させると、摺動上面Ｐ３３３ｃに摺動底平面Ｐ３５８が仮置きされ、化粧ユニットＰ３０２が下支えされるため、作業者は化粧ユニットＰ３０２に対して後方への荷重を与えるだけで化粧ユニットＰ３０２の落下を防止できるようになり、作業負担が低減される。

【７４４１】

この状態では化粧ユニットＰ３０２は事前準備位置とされており（図３６４（ｃ）参照）、係止棒部材Ｐ３８０は案内筒部Ｐ３２１ｇに挿通されてはいないが、更に化粧ユニットＰ３０２を後方に押し込むことで、摺動上面Ｐ３３３ｃに摺動底平面Ｐ３５８が摺動される態様で化粧ユニットＰ３０２を斜め上に傾斜する方向で後ろ側へスライド移動させつつ、案内筒部Ｐ３２１ｇに係止棒部材Ｐ３８０を案内させることができ、化粧ユニットＰ３０２を組付完了位置（図３６４（ａ）参照）まで移動させることができる。これにより、化粧ユニットＰ３０２のベースユニットＰ３０１に対する組み付け作業を簡易なものとすることができる。

【７４４２】

摺動上面Ｐ３３３ｃ及び摺動底平面Ｐ３５８が傾斜していることから、組み付け作業中において第１開口部Ｐ３５１の上下位置は若干変化する。詳細には、後方へ向かうほど上方に変位する。

【７４４３】

これに対し、本実施形態では、ケース上部Ｐ３４３の傾斜面Ｐ３４３ａよりも前側に形成される第１電飾基板Ｐ３４２を上方から覆う部分の上面が、摺動上面Ｐ３３３ｃの傾斜と同様に傾斜し、摺動上面Ｐ３３３ｃに対して略平行な平面として形成される。

【７４４４】

これにより、摺動上面Ｐ３３３ｃが傾斜する構成であっても、組み付け作業において化粧ユニットＰ３０２をベースユニットＰ３０１に接近させる態様でスライド移動させる際に第１開口部Ｐ３５３の上縁部がケース上部Ｐ３４３の上面と擦れる事態を避けることができる。

【７４４５】

次いで、図３７１から図３７７を参照して、右側装飾ユニットＰ１４ｃについて説明する。図３７１（ａ）は、右側装飾ユニットＰ１４ｃの正面図であり、図３７１（ｂ）は、図３７１（ａ）の矢印Ｙ４６ｂ方向視における右側装飾ユニットＰ１４ｃの側面図であり、図３７２（ａ）は、右側装飾ユニットＰ１４ｃの正面斜視図であり、図３７２（ｂ）は、右側装飾ユニットＰ１４ｃの背面斜視図である。なお、図３７１（ｂ）では、パチンコ

機Ｐ１０の内側から外側（矢印Ｒ方向側）を視認した状態における右側装飾ユニットＰ１４ｃの側面が図示される。

【７４４６】

図３７３は、右側装飾ユニットＰ１４ｃの分解正面斜視図であり、図３７４は、右側装飾ユニットＰ１４ｃの分解背面斜視図である。右側装飾ユニットＰ１４ｃは、基板支持部材Ｐ４２０と、その基板支持部材Ｐ４２０の左側を覆う左側カバー部材Ｐ４４０と、基板支持部材Ｐ４２０の右側を覆う右側カバー部材Ｐ４６０と、が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）で重ね合わされて構成されており、それら基板支持部材Ｐ４２０、左側カバー部材Ｐ４４０及び右側カバー部材Ｐ４６０が締結固定されると共に、本体枠Ｐ１４ｄ（図３５３参照）に締結固定される上下に長尺な板状の支持板部（図示せず）と、を主に備える。

【７４４７】

基板支持部材Ｐ４２０、左側カバー部材Ｐ４４０及び右側カバー部材Ｐ４６０は、支持板部（図示せず）の背面側（矢印Ｂ方向側）から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて挿通される締結ネジにより支持板部に締結固定される。右側装飾ユニットＰ１４ｃは、基板支持部材Ｐ４２０、左側カバー部材Ｐ４４０及び右側カバー部材Ｐ４６０が支持板部に締結固定された状態で本体枠Ｐ１４ｄ（図３５３参照）に背面側から正面側へ向けて挿通される締結ネジにより本体枠Ｐ１４ｄに締結固定される。

【７４４８】

基板支持部材Ｐ４２０は、上下に長い板形状に形成され骨格を形成する本体板部材Ｐ４２１と、その本体板部材Ｐ４２１の右側面に対向配置される複数（本実施形態では２枚）の電飾基板Ｐ４３０と、を主に備える。

【７４４９】

本体板部材Ｐ４２１は、有色（本実施形態では白色）で非透過性の樹脂材料から形成されており、本体枠Ｐ１４ｄ（図３５３参照）の正面側に配設される支持板部（図示せず）に挿通される締結ネジが螺入される被締結部Ｐ４２２と、電飾基板Ｐ４３０の後端部を本体板部との間に挟み込むようにして受けるように突設形成される複数の突設形成部Ｐ４２３と、その突設形成部Ｐ４２３に受け入れられた電飾基板Ｐ４３０の前端部が係合可能となるように先端部が後方に張り出す鉤爪状に形成される複数の係合爪部Ｐ４２４と、電飾基板Ｐ４３０に配設されるＬＥＤの位置に対応して穿設される複数の光通過部Ｐ４２５と、を主に備える。

【７４５０】

また、本体板部材Ｐ４２１は、電飾基板Ｐ４３０が配設される右側面側において上下中間位置よりも下側が嵩上げ部Ｐ４２６の寸法分右方に張り出しており、格子状の突条のうち前後方向に沿う前後方向突条Ｐ４２７の突設量が、前方へ向かうほど小さくなるように構成される。

【７４５１】

嵩上げ部Ｐ４２６が形成されることにより、本体板部材Ｐ４２１の右側面に対向配置される２枚の電飾基板Ｐ４３０の配置は、上側の電飾基板Ｐ４３０よりも下側の電飾基板Ｐ４３０の方が右側にずれる。

【７４５２】

また、格子状の突条が電飾基板Ｐ４３０の左側面に当接することになるため、前後方向突条Ｐ４２７の形成態様に対応され、電飾基板Ｐ４３０の前端部は後端部よりも左右方向内側（左側）に位置することになり、電飾基板Ｐ４３０の両面から照射される光の進行方向は左右方向に対して傾斜下方向とされる。

【７４５３】

即ち、本実施形態では、電飾基板Ｐ４３０の姿勢は前端部の方が後端部よりも左右方向内側（左側）に位置するように上下方向の回転軸で小角度回転された姿勢とされているため、左側面に配設される第１発光部Ｐ４３１からの光は左斜め後ろ方向に進行されることとなり、ガラスユニットＨ１６や、そのガラスユニットＨ１６を通して視認される遊技領域および表示領域を明るく照らすための光量を確保できる。

【７４５４】
　また、右側面に配設される第１発光部Ｐ４３１からの光は右斜め前方向に進行し、前端側に配設される第２発光部Ｐ４３２からの光は正面枠Ｐ１４の前面に垂直な方向ではなく、その方向よりも左右方向内側（左側）に傾斜した方向であって、正面枠Ｐ１４の手前側に座る遊技者側に寄る方向に進行する。これにより、正面枠Ｐ１４の枠周辺部の正面視における明るさを増強させることができる。
【７４５５】
　電飾基板Ｐ４３０の本体板部材Ｐ４２１への装着は、電飾基板Ｐ４３０の後端部を突設形成部Ｐ４２３と本体板部との間に差し込むように近づけ、当接させた後、電飾基板Ｐ４３０を本体板部に向けて近接させる（倒す）ようにすると、係合爪部Ｐ４２４が電飾基板Ｐ４３０により押進されることにより前方へ撓むように弾性変形される。更に電飾基板Ｐ４３０を本体板部に近接させ当接させると、係合爪部Ｐ４２４が電飾基板Ｐ４３０の前端部に係合され、係合爪部Ｐ４２４の弾性復帰により電飾基板Ｐ４３０が脱落不能に支持される。
【７４５６】
　電飾基板Ｐ４３０の本体板部材Ｐ４２１からの取り外し時には、係合爪部Ｐ４２４を前方に撓ませるようにすれば電飾基板Ｐ４３０の前端部を本体板部材Ｐ４２１から離間させることができ、電飾基板Ｐ４３０を抜き取ることができる。
【７４５７】
　このように、本実施形態では、電飾基板Ｐ４３０が本体板部材Ｐ４２１に係合により固定されており、固定のためのネジを要しない。これにより、組み付け工数を削減することができると共に、製品コストを低減させることができる。
【７４５８】
　また、電飾基板Ｐ４３０の照射面が向く方向が、左右に分割される基板支持部材）４２０、左側カバー部材Ｐ４４０及び右側カバー部材Ｐ４６０を締結する締結ネジの締結方向（左右方向）により制限されることを避けることができる。
【７４５９】
　本実施形態では、電飾基板Ｐ４３０の姿勢は前端部の方が後端部よりも左右方向内側（左側）に位置するように上下方向の回転軸で小角度回転された姿勢とされているため、左側面に配設される第１発光部Ｐ４３１からの光は左斜め後ろ方向に進行し、右側面に配設される第１発光部Ｐ４３１からの光は右斜め前方向に進行する。また、第２発光部Ｐ４３２からの光は正面枠Ｐ１４の前面に垂直な方向ではなく、その方向よりも左右方向内側（左側）に傾斜した方向であって、正面枠Ｐ１４の手前側に座る遊技者側に寄る方向に進行する。
【７４６０】
　電飾基板Ｐ４３０には左右両面に複数のＬＥＤが配設されるが、左側面に配設されるＬＥＤからの光は光通過部Ｐ４２５を通して左側カバー部材Ｐ４４０に照射される。これにより、視認される光の形状を任意に操作することができる。
【７４６１】
　即ち、単にＬＥＤからの光を照射するだけの場合、光軸において視認される光の強度が最高であり、光軸から離れるにつれて視認される光の強度が低くなるため、点発光での視認がされ、遊技者にＬＥＤの位置が把握され易くなるので、光演出としては物足りないものとなる。
【７４６２】
　これに対し、本実施形態では、光通過部Ｐ４２５が略一定の大きさの円形孔で構成されているので、光軸から離れる方向へ進行した光を円形孔の内周面で反射させて、光通過部Ｐ４２５の内方で視認させる。これにより、光通過部Ｐ４２５の内方で視認される光の強度を高めることができると共に、光通過部Ｐ４２５の外方では光を通過させないことから、左側カバー部材Ｐ４４０側から光が視認される箇所（左右方向視で光通過部Ｐ４２５の内方と重なる箇所）と光が視認されない箇所との明暗の差を大きくすることができる。

【７４６３】
なお、光通過部Ｐ４２５は、貫通孔として構成されても良いし、本体板部材Ｐ４２１の外周部から凹設形成される凹設部として構成されても良い。また、内周面の形状は円形に限られるものではない。例えば、矩形状や他の多角形状でも良いし、星形状でも良いし、稲妻形状でも良い。
【７４６４】
電飾基板Ｐ４３０は、ＬＥＤ等から構成され左右側面と垂直な方向に光を照射する複数の第１発光部Ｐ４３１と、ＬＥＤ等から構成され左右側面と平行な方向に光を照射する複数の第２発光部Ｐ４３２と、本体板部材Ｐ４２１の係合爪部Ｐ４２４が挿通される複数の係合孔Ｐ４３８と、を主に備える。
【７４６５】
第１発光部Ｐ４３１は、主に電飾基板Ｐ４３０の内部領域に配設されており、第２発光部Ｐ４３２は、主に電飾基板Ｐ４３０の周縁部付近に配設される。例えば、本体板部材Ｐ４２１の光通過部Ｐ４２５の位置に対応して配設されるＬＥＤは第１発光部で構成される。また、電飾基板Ｐ４３０の前縁部付近には第２発光部Ｐ４３２が配設されており、前方や斜め上方向に光が照射されることで、右側装飾ユニットＰ１４ｃの前端部を明るく照らすことが可能となっている。
【７４６６】
左側カバー部材Ｐ４４０は、有色（本実施形態では白色）で光透過性の樹脂材料から形成される本体構成部Ｐ４４１と、その本体構成部Ｐ４４１の内側（右側）に配設されており本体構成部Ｐ４４１に締結固定される内側構成部Ｐ４４２と、本体構成部Ｐ４４１の外側（左側）に配設されており本体構成部Ｐ４４１に締結固定される外側構成部Ｐ４４３と、本体構成部Ｐ４４１の外側（左側）に配設されており右側カバー部材Ｐ４６０に締結固定される連結構成部Ｐ４４４と、を主に備える。
【７４６７】
内側構成部Ｐ４４２は、有色（本実施形態では青色）で光透過性の樹脂材料から形成されており、外側構成部Ｐ４４３は、有色（本実施形態では橙色）で非透過性の樹脂材料から形成されており、連結構成部Ｐ４４４は、有色（本実施形態では橙色）で非透過性の樹脂材料から形成されている。
【７４６８】
このように、左側カバー部材Ｐ４４０は複数の色味の樹脂材料の組合せにより構成されていることから、視認される際の色のコントラストを際立たせることができ、内側からの光照射がされない位置においても演出効果を向上させることができる。
【７４６９】
右側カバー部材Ｐ４６０は、有色（本実施形態では白色）で光透過性の樹脂材料から形成される本体構成部Ｐ４６１と、その本体構成部Ｐ４６１の上部外側（右側）に配設されており上面部が基板支持部材Ｐ４２０の上方を覆設する態様で本体構成部Ｐ４６１に締結固定される上側構成部Ｐ４６２と、本体構成部Ｐ４６１の中部外側（右側）に配設されており本体構成部Ｐ４６１に締結固定される中側構成部Ｐ４６３と、その中側構成部Ｐ４６３の内側（左側）に配設されており中側構成部Ｐ４６３と共に本体構成部Ｐ４６１に共締めされる内側構成部Ｐ４６４と、本体構成部Ｐ４６１の外側（右側）に配設されており連結構成部Ｐ４４４と共に本体構成部Ｐ４６１に締結固定される連結構成部Ｐ４６５と、連結構成部Ｐ４４４，Ｐ４６５に左右から挟まれる態様で支持される正面装飾構成部Ｐ４６６と、を主に備える。
【７４７０】
本体構成部Ｐ４６１は、上側構成部Ｐ４６２に左右方向で貫通形成される貫通孔Ｐ４６２ａに嵌合可能に突設形成される嵌合突部Ｐ４６１ａと、本体枠Ｐ１４ｄ（図３５３参照）の正面側に配設される支持板部（図示せず）に挿通される締結ネジが螺入される被締結部Ｐ４６１ｂと、を主に備える。嵌合突部Ｐ４６１ａを通って視認される光は、上側構成部Ｐ４６２の内方側を通して視認される。

【７４７１】
上側構成部Ｐ４６２は、有色（本実施形態では橙色）で非透過性の樹脂材料から形成されており、中側構成部Ｐ４６３は、有色（本実施形態では橙色）で非透過性の樹脂材料から形成されており中心部に左右方向に貫通形成される開口部Ｐ４６３ａを備え、その開口部Ｐ４６３ａを通して視認可能とされる内側構成部Ｐ４６４は有色（本実施形態では青色）で光透過性の樹脂材料から形成されており、連結構成部Ｐ４６５は、有色（本実施形態では橙色）で非透過性の樹脂材料から形成されており、正面装飾構成部Ｐ４６６は、有色（本実施形態では青色）で透過性の樹脂材料から形成される。
【７４７２】
このように、右側カバー部材Ｐ４６０は複数の色味の樹脂材料の組合せにより構成されていることから、視認される際の色のコントラストを際立たせることができ、内側からの光照射がされない位置においても演出効果を向上させることができる。
【７４７３】
図３７５（ａ）は、基板支持部材Ｐ４２０の左側面図であり、図３７５（ｂ）は基板支持部材Ｐ４２０の右側面図である。図３７５（ｂ）では、説明の便宜のため、右側カバー部材Ｐ４６０の本体構成部Ｐ４６１の外形の一部が想像線で図示される。
【７４７４】
本体板部材Ｐ４２１は、右面視において露出される傾斜面に形成される鏡面状の反射面部Ｐ４２８と、右側面に傾斜形成される樹脂傾斜形状部Ｐ４２９と、を備える。樹脂傾斜形状部Ｐ４２９は、電飾基板Ｐ４３０の右面側に配設される第２発光部Ｐ４３２のうちの上向きに光を照射する上向き第２発光部Ｐ４３２ａと、電飾基板Ｐ４３０の左面側に配設される第２発光部Ｐ４３２のうちの上側へ向かうほど後ろへ傾く傾斜方向に光を照射する傾斜第２発光部Ｐ４３２ｂと、の照射方向に配置されており、それら上向き第２発光部Ｐ４３２ａと傾斜第２発光部Ｐ４３２ｂとから照射された光を反射させる。
【７４７５】
図３７６は、図３７５（ｂ）のＸ４７ｍ－Ｘ４７ｍ線における基板支持部材Ｐ４２０、左側カバー部材Ｐ４４０及び右側カバー部材Ｐ４６０の部分断面図である。図３７６では、第２発光部Ｐ４３２から電飾基板Ｐ４３０の側面に平行な方向に照射された光が電飾基板Ｐ４３０の側面と対向配置される本体構成部Ｐ４６１に入射される仕組みを説明する。
【７４７６】
図３７６に図示されるように、上向き第２発光部Ｐ４３２ａおよび傾斜第２発光部Ｐ４３２ｂから上方へ向けて照射された光ＰＸ４３２は本体板部材Ｐ４２１の樹脂傾斜形状部Ｐ４２９に到達し、進行方向が屈曲される。
【７４７７】
これにより、第２発光部Ｐ４３２から照射された光ＰＸ４３２が本体構成部Ｐ４６１に入射される。このように、電飾基板Ｐ４３０の外方において屈曲させた光ＰＸ４３２を入射させるように構成することで、本体構成部Ｐ４６１のように外形に深めの凹凸（ジグザグ）形状が形成される場合において、電飾基板Ｐ４３０をその凹凸に大きくは重ならない位置に配置しながらも、光ＰＸ４３２の入射は本体構成部Ｐ４６１の突設先端側（ジグザグの先端側）まで到達させることができる。
【７４７８】
反射面部Ｐ４２８は電飾基板Ｐ４３０の左面側に配設される第２発光部Ｐ４３２のうちの特定第２発光部Ｐ４３２ｃの照射方向に配置されており、その特定第２発光部Ｐ４３２ｃから照射された光を反射させる。
【７４７９】
図３７７は、図３７５（ｂ）のＸ４８ｍ－Ｘ４８ｍ線における基板支持部材Ｐ４２０、左側カバー部材Ｐ４４０及び右側カバー部材Ｐ４６０の部分断面図である。図３７７では、第２発光部Ｐ４３２から電飾基板Ｐ４３０の側面に平行な方向に照射された光が電飾基板Ｐ４３０の側面と対向配置される本体構成部Ｐ４６１の嵌合突部Ｐ４６１ａに入射される仕組みを説明する。

【７４８０】
図３７７に図示されるように、特定第２発光部Ｐ４３２ｃから上方へ向けて照射された光ＰＸ４３２は本体板部材Ｐ４２１の反射面部Ｐ４２８に到達し、反射されることで進行方向が屈曲される。
【７４８１】
これにより、第２発光部Ｐ４３２から照射された光ＰＸ４３２が本体構成部Ｐ４６１に入射される。このように、電飾基板Ｐ４３０の外方において屈曲させた光ＰＸ４３２を入射させるように構成することで、本体構成部Ｐ４６１のように外形に深めの凹凸（ジグザグ）形状が形成される場合において、電飾基板Ｐ４３０をその凹凸に大きくは重ならない位置に配置しながらも、光ＰＸ４３２の入射は本体構成部Ｐ４６１の突設先端側（ジグザグの先端側）まで到達させることができる。
【７４８２】
更に、本体構成部Ｐ４６１の突設形状よりも外側において上側構成部Ｐ４６２に囲まれた領域に配置される嵌合突部Ｐ４６１ａにまでも光ＰＸ４３２を進行させることができる。この位置に反射面部Ｐ４２８（鏡面）で反射させることで、電飾基板Ｐ４３０の外形の外側においても光の減衰を抑えながら強い光を視認させることができる。
【７４８３】
次いで、図３７８から図３８９を参照して、上下皿ユニットＰ１５について説明する。初めに、図３７８から図３８０を参照して、上下皿ユニットＰ１５の全体構成について説明する。図３７８は、上下皿ユニットＰ１５の正面図であり、図３７９は、上下皿ユニットＰ１５の分解正面斜視図であり、図３８０は、上下皿ユニットＰ１５の分解背面斜視図である。
【７４８４】
図３７８から図３８０に示すように、上下皿ユニットＰ１５は、本体枠Ｐ１４ｄ（図３５３参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベース部材Ｐ５１０と、そのベース部材Ｐ５１０の正面側に配設される上皿形成部材Ｐ５２０及び操作ハンドルＨ５１と、ベース部材Ｐ５１０及び上皿形成部材Ｐ５２０の正面側に配設される下皿形成部材Ｐ５３０と、上皿形成部材Ｐ５２０及び下皿形成部材Ｐ５３０の間に配設される操作ユニットＰ１８０と、その操作ユニットＰ１８０の下側においてベース部材Ｐ５１０に締結固定されるスピーカー組立体Ｐ９００と、を主に備える。
【７４８５】
ベース部材Ｐ５１０は、上下皿ユニットＰ１５を本体枠Ｐ１４ｄ（図３５３参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設するための部材であり、正面視において本体枠Ｐ１４ｄよりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に大きく形成されると共に、下方側の縁部が本体枠Ｈ１４ｄよりも下方側に位置して配設される。即ち、左右側縁部および下方側縁部が後方に延設されており、その延設部分が本体枠Ｐ１４ｄの左右側および下側の側面に被せられるように構成される。
【７４８６】
上皿形成部材Ｐ５２０は、遊技領域に打ち出される球を貯留する上皿Ｐ１７を上下皿ユニットの上部に形成するための部材であり、ベース部材Ｐ５１０の上方側の縁部に沿ってベース部材Ｐ５１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。
【７４８７】
操作ユニットＰ１８０は、上皿形成部材Ｐ５２０及び下皿形成部材Ｐ５３０の間に配設されると共に、遊技者に操作されるボタン部Ｐ１８１を上皿形成部材Ｐ５２０の上面よりも上方側に突出させた状態で配設される。
【７４８８】
下皿形成部材Ｐ５３０は、上下皿ユニットＰ１５の化粧面を構成する部材であり、正面視においてベース部材Ｐ５１０及び上皿形成部材Ｐ５２０を覆う位置に配設される。また、下皿形成部材Ｐ５３０は、下皿Ｐ５０の貯留空間を形成する下皿構成ユニットＰ５５０と、その下皿構成ユニットＰ５５０に貯留された球を抜く球抜きユニットＰ５６０とを備

える。
【７４８９】
本体枠Ｐ１４ｄへのベース部材Ｐ５１０の配設は、ベース部材Ｐ５１０に上皿形成部材Ｐ５２０、下皿形成部材Ｐ５３０、操作ユニットＰ１８０、及び、操作ハンドルＨ５１を配設し、上下皿ユニットＰ１５を組み立てた状態で取り付けられるが、これに限られるものではない。例えば、本体枠Ｐ１４ｄに対して順番に取り付けられる部分があっても良い。
【７４９０】
また、ベース部材Ｐ５１０は、本体枠Ｐ１４ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子を螺入可能に穿設される複数の締結孔Ｐ５１１と、上皿Ｐ１７の貯留領域の背面側に開口する上皿用球流入部Ｐ５１３及び送球用球流出部Ｐ５１６と、下皿Ｐ５０の貯留領域の背面側に開口する下皿用球流入部Ｐ５１４と、シリンダ錠Ｈ２０が内側に配設されるベース側保持孔Ｐ５１７と、を主に備え、有色（本実形態では黒色）の非透過性の樹脂材料から形成される。
【７４９１】
上皿用球流入部Ｐ５１３は、ベース部材Ｐ５１０（上下皿ユニットＰ１５）の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０（図３５３参照）の前扉側上皿通路部Ｈ１４１から送球される球を上皿Ｐ１７に流入させるための開口であり、前扉側上皿通路部Ｈ１４１と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に対向する位置に形成される。これにより、パチンコ機Ｐ１０が遊技状態とされる際に通路形成ユニットＨ１４０の前扉側上皿通路部Ｈ１４１から送球される球を上皿Ｐ１７に流入させることができる。
【７４９２】
下皿用球流入部Ｐ５１４は、ベース部材Ｐ５１０（上下皿ユニットＰ１５）の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０（図３５３参照）の前扉側下皿通路部Ｈ１４２から送球される球を下皿Ｐ５０に流入させるための開口であり、前扉側下皿通路部Ｈ１４２と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に対向する位置に形成される。これにより、パチンコ機Ｐ１０が遊技状態とされる際に通路形成ユニットＨ１４０の前扉側下皿通路部Ｈ１４２から送球される球を下皿Ｐ５０に流入させることができる。
【７４９３】
送球用球流出部Ｐ５１６は、ベース部材Ｐ５１０（上下皿ユニットＰ１５）の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０（図３５３参照）を介して、上皿Ｐ１７に貯留される球を発射位置送球ユニットＨ１７０に送球するための開口であり、発射位置送球ユニットＨ１７０の正面側開口Ｈ１７１と連通する位置に形成される。
【７４９４】
また、送球用球流出部Ｐ５１６の下方には、送球用球流出部Ｐ５１６と同様にベース部材Ｐ５１０の前後方向に開口する排出用球流出部Ｐ５１８が形成される。排出用球流出部Ｐ５１８は、球排出レバーＨ５４の操作により開放される開口であり、通路形成ユニットＨ１４０のファール球受口部Ｈ１４６（図３５４参照）に連通される。これにより、遊技者が球排出レバーＨ５４を操作した際に、上皿Ｐ１７に貯留した球を排出用球流出部Ｐ５１８を介して下皿Ｐ５０に球を送球することができる。
【７４９５】
締結孔Ｐ５１１は、ベース部材Ｐ５１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される本体枠Ｐ１４ｄ（図３５３参照）とベース部材Ｐ５１０とを締結固定するための螺子を螺入するための孔であり、本体枠Ｐ１４ｄに形成される螺子挿通用の貫通孔と対応する位置に形成される。
【７４９６】
また、一部の締結孔Ｐ５１１は、本体枠Ｐ１４ｄの下部背面側（矢印Ｂ方向側）に締結固定される通路形成ユニットＨ１４０の背面側から本体枠Ｐ１４ｄを介して挿通される螺子を螺入可能に形成される。即ち、通路形成ユニットＨ１４０を上下皿ユニットＰ１５に締結可能に構成される。これにより、上下皿ユニットＰ１５に対する通路形成ユニットＨ

１４０の位置ずれを抑え、上皿用球流入部Ｐ５１３に対する前扉側上皿通路部Ｈ１４１の連通状態と、下皿用球流入部Ｐ５１４に対する前扉側下皿通路部Ｈ１４２の連通状態とを安定させることができる。その結果、通路形成ユニットＨ１４０の前扉側上皿通路部Ｈ１４１から上皿Ｐ１７への球の流入、及び、前扉側下皿通路部Ｈ１４２から下皿Ｐ５０への球の流入を安定させることができる。

【７４９７】

なお、ベース部材Ｈ５１０への通路形成ユニットＨ１４０の配設は、上下皿ユニットＨ１５が組み立てられた状態で行われるものとして構成したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上下皿ユニットＨ１５の組立前に事前に実行されても良い。

【７４９８】

また、ベース部材Ｐ５１０には、ベース部材Ｈ５１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される上皿形成部材Ｐ５２０、下皿形成部材Ｐ５３０、操作ユニットＰ１８０、スピーカー組立体Ｐ９００、及び、操作ハンドルＨ５１を締結するための螺子を挿通するための貫通孔（図示せず）が、上皿形成部材Ｐ５２０、下皿形成部材Ｐ５３０、操作ユニットＰ１８０、スピーカー組立体Ｐ９００、及び、操作ハンドルＨ５１のそれぞれに形成されるねじ穴と対応する位置に形成される。これにより、ベース部材Ｐ５１０に上皿形成部材Ｐ５２０、下皿形成部材Ｐ５３０、操作ユニットＰ１８０、スピーカー組立体Ｐ９００、及び、操作ハンドルＨ５１を締結固定できる。

【７４９９】

次いで、上皿形成部材Ｐ５２０について説明する。上皿形成部材Ｐ５２０は、ベース部材Ｐ５１０との対向間に上皿Ｐ１７の貯留空間を形成する部材であり、ベース部材Ｐ５１０側（背面側（矢印Ｂ方向側））から正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって接触可能部として上方に湾曲するお椀型に形成され（図３７９参照）、背面側がベース部材Ｐ５１０に当接した状態でベース部材Ｐ５１０に配設される。これにより、上皿形成部材Ｐ５２０とベース部材Ｐ５１０とで上方側が開口された空間（上皿Ｐ１７の貯留領域）が形成される。

【７５００】

また、上皿形成部材Ｐ５２０は、正面側（矢印Ｆ方向側）の一部がベース部材Ｐ５１０の上皿用球流入部Ｐ５１３の正面側に重なる位置に形成されており、上皿用球流入部Ｐ５１３を介して通路形成ユニットＨ１４０の前扉側上皿通路部Ｈ１４１からベース部材Ｐ５１０の正面側に送球される球を上皿形成部材Ｐ５２０に当接させて（受け止めさせて）上皿Ｐ１７の貯留空間に貯留できるように構成される。

【７５０１】

なお、上皿形成部材Ｐ５２０は、上皿Ｐ１７に貯留される遊技球を正面視において右側（矢印Ｒ方向側）に１球ずつ流下可能に構成されており、これにより、ベース部材Ｐ５１０（上下皿ユニットＰ１５）の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０（図３５３参照）に１球ずつ球を送球することができる。

【７５０２】

また、上皿形成部材Ｐ５２０は、正面視における右側（矢印Ｒ方向側）の上面に機能調整操作部Ｈ１９０、貸球操作部Ｈ４０、及び、球排出レバーＨ５４を備え、パチンコ機Ｐ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から遊技者が機能調整操作部Ｈ１９０、貸球操作部Ｈ４０、及び、球排出レバーＨ５４を操作可能とされる。

【７５０３】

なお、本実施形態では、図３７９及び図３８０においてベース部材Ｐ５１０から離間配置した状態が図示される機能調整操作部Ｈ１９０、貸球操作部Ｈ４０、及び、球排出レバーＨ５４がユニットとして構成されており、上皿形成部材Ｐ５２０の１箇所にまとまって構成されるので、遊技者に各操作部を探す手間を省かせることができる。また、機能調整操作部Ｈ１９０及び貸球操作部Ｈ４０がまとまって構成されるので、それら機能調整操作部Ｈ１９０及び貸球操作部Ｈ４０に繋がる配線を一か所にまとめることができ、配線作業を簡易にできる。

【７５０４】

次いで、図３８１から図３８３を参照して下皿形成部材Ｐ５３０について説明する。図３８１（ａ）は、下皿形成部材Ｐ５３０の正面図であり、図３８１（ｂ）は、下皿形成部材Ｐ５３０の背面図であり、図３８２は、下皿形成部材Ｐ５３０の分解正面斜視図であり、図３８３は、下皿形成部材Ｐ５３０の分解背面斜視図である。

【７５０５】

図３８１から図３８３に示すように、下皿形成部材Ｐ５３０は、ベース部材Ｐ５１０及び上皿形成部材Ｐ５２０の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う形状に形成され上下皿ユニットＰ１５の正面側の化粧面を形成する化粧ユニットＰ５４０と、下皿Ｐ５０を構成する下皿構成ユニットＰ５５０と、下皿Ｐ５０に貯留される球を排出するための球抜きユニットＰ５６０と、を主に備えて形成される。

【７５０６】

化粧ユニットＰ５４０は、ベース部材Ｐ５１０に締結固定される第１化粧部材Ｐ５４１と、第１化粧部材Ｐ５４１の正面側に配設され第１化粧部材Ｐ５４１と共に上下皿ユニットＰ１５の化粧面を形成する第２化粧部材Ｐ５４２と、第１化粧部材Ｐ５４１を第２化粧部材Ｐ５４２との間に挟み込むようにして第１化粧部材Ｐ５４１の背面側に配設される第３化粧部材Ｐ５４３と、第２化粧部材Ｐ５４２の左側においてベース部材Ｐ５４１に締結固定される第４化粧部材Ｐ５４４と、その第４化粧部材Ｐ５４４よりも下側においてベース部材Ｐ５４１の背面側に配設されベース部材Ｐ５４１に締結固定される第５化粧部材Ｐ５４５と、を主に備える。

【７５０７】

第１化粧部材Ｐ５４１は、正面側（矢印Ｆ方向側）が凸状に湾曲するように形成され、正面側の化粧面の一部に開口する第１開口部Ｐ５４１ａの下縁部が上皿形成部材Ｐ５２０の正面側の外縁と当接する形状に形成されると共に、下端がベース部材Ｐ５１０の正面と当接する形状に形成される。また、第１化粧部材Ｐ５４１は、上下方向に開口形成される第２開口部Ｐ５４１ｂを備え、全体が有色（黒色）の非透過性の樹脂材料から形成される。

【７５０８】

第１開口部Ｐ５４１ａは、下皿Ｐ５０の貯留領域に正面側（矢印Ｆ方向側）からのアクセスを可能にするための開口であり、遊技者の手が挿入可能な大きさに形成される。また、第１開口部Ｐ５４１ａの背面側（矢印Ｂ方向側）には、下皿Ｐ５０を構成するための下皿構成ユニットＰ５５０が配設される。

【７５０９】

第２開口部Ｐ５４１ｂは、下皿Ｐ５０の貯留領域に貯留される球を排出するための球抜きユニットＰ５６０を配設するための開口であり、下皿Ｐ５０の貯留領域の下方側に形成される。また、第２開口部Ｐ５４１ｂは、球抜きユニットＰ５６０を内側に収容可能な大きさに形成される。なお、球抜きユニットＰ５６０の詳細な構成については後述する。

【７５１０】

第２化粧部材Ｐ５４２は、第１化粧部材Ｐ５４１の上縁構成部と、第１開口部Ｐ５４１ａが形成されていない右側部との正面側の化粧面を形成する部材であり、鉤爪状の第１係合部Ｐ５４２ａ及び第２係合部Ｐ５４２ｂが第１化粧部材Ｐ５４１の第１係合孔部Ｐ５４１ｃ及び第２係合孔部Ｐ５４１ｄに係合された状態で第１化粧部材Ｐ５４１に締結固定される。

【７５１１】

第１係合部Ｐ５４２ａは、第１係合孔部Ｐ５４１ｃが開口部として形成されていることから、鉤爪部を第１係合孔部Ｐ５４１ｃの背面側で引っかけることで第２化粧部材Ｐ５４２の抜け止めを図ることができる。

【７５１２】

これに対し、第２係合部Ｐ５４２ｂが係合される第２係合孔部Ｐ５４１ｄは非貫通の凹部として構成されており、第１化粧部材Ｐ５４１に対する第２化粧部材Ｐ５４２の位置決めを行うことができる。

【７５１３】
　また、第２化粧部材Ｐ５４２は、全体が有色（橙色）の非透過性の樹脂材料から形成される。これにより、第１化粧部材Ｐ５４１とのコントラストを付け、正面視での意匠を鮮やかなものとすることができる。
【７５１４】
　第３化粧部材Ｐ５４３は、操作ユニットＰ１８０の右側における隙間領域を塞ぐ形状から形成され、全体が第２化粧部材Ｐ５４２と同様に有色（橙色）の非透過性の樹脂材料から形成される。前縁部が第１化粧部材Ｐ５４１の上側に被さるよう形成されており、上面視で第２化粧部材Ｐ５４２と隙間なくつながって視認される（一体的に視認させる）ことができる。
【７５１５】
　第４化粧部材Ｐ５４４は、全体が有色（白色）の非透過性の樹脂材料から形成され、第２化粧部材Ｐ５４２の第２係合部Ｐ５４２ｂに左端被係合部Ｐ５４４ａが係合された状態で第１化粧部材Ｐ５４１に締結固定される。
【７５１６】
　第５化粧部材Ｐ５４５は、全体が有色（橙色）の非透過性の樹脂材料から形成され、第１化粧部材Ｐ５４１の第１開口部Ｐ５４１ａの下側の領域に貫通形成される意匠開口Ｐ５４１ｅに背面側から嵌合される意匠模様部Ｐ５４５ａを備えており、第１化粧部材Ｐ５４１に締結固定される。
【７５１７】
　また、第１化粧部材Ｐ５４１は、ベース部材Ｐ５１０のベース側保持孔Ｐ５１７に対応して開口形成される対応保持孔Ｐ５４１ｆを備える。対応保持孔Ｐ５４１ｆは、ベース側保持孔Ｐ５１７と同様に、シリンダ錠Ｈ２０が内側に配設される貫通孔として形成される。これにより、パチンコ機Ｐ１０では、シリンダ錠Ｈ２０がベース側保持孔Ｐ５１７及び対応保持孔Ｐ５４１ｆを通って前方に露出されることとなり、枠状閉鎖部である正面枠Ｐ１４が閉鎖された状態（図３４９参照）において、シリンダ錠Ｈ２０に対して前方から施錠や解錠の操作が可能となる。
【７５１８】
　なお、本実施形態では、第１化粧部材Ｐ５４１～第５化粧部材Ｐ５４５を非透過性の材料から形成する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、いずれかの部材を透過性の材料から形成しても良いし、例えば、第１化粧部材Ｐ５４１～第５化粧部材Ｐ５４５を透過性の材料から形成することも可能である。この場合、上下皿ユニットＰ１５の光の透過領域を増やすことができるので、光による演出態様を増やすことができる。その結果、遊技者に与える興趣を向上させやすくできる。
【７５１９】
　下皿構成ユニットＰ５５０は、下皿Ｐ５０の底面を形成する底面部Ｐ５５３と、その底面部Ｐ５５３の正面側（矢印Ｆ方向側）の外縁に沿って上方側に向かって立設される正面側側壁Ｐ５５４と、底面部Ｐ５５３の外側であって正面側側壁Ｐ５５４に連なって形成される連結部Ｐ５５５と、を主に備える。
【７５２０】
　底面部Ｐ５５３は、下皿Ｐ５０に貯留される遊技球を支持する支持面であり、その一部に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に開口する底面口Ｐ５５３ａが形成される。また、底面部Ｐ５５３は、上面が底面口Ｐ５５３ａに向かって下降傾斜する形状に形成されており、球抜きレバーＰ５２の操作により底面口Ｐ５５３ａが開放された際に、下皿Ｐ５０に貯留された球を底面口Ｐ５５３ａに向かって転動可能とされる。
【７５２１】
　正面側側壁Ｐ５５４は、下皿Ｐ５０の正面側（矢印Ｆ方向側）の側面を形成する部分であり、第１化粧部材Ｐ５４１の背面に沿って形成されると共に、第１開口部Ｐ５４１ａの開口縁に上端が沿う形状に形成される。また、正面側側壁Ｐ５５４は、底面部Ｐ５５３から上方に向かって少なくとも遊技球の２球分の直径よりも高く立設される。これにより、

下皿Ｐ５０の貯留領域に貯留される遊技球を積み重ねて保持することが可能とされる。
【７５２２】
連結部Ｐ５５５は、一定の板厚で前後方向に延びる板状で下側構成ユニットＰ５５０の下縁に沿って右方に延設される。連結部Ｐ５５５の前面側において上方にフランジ形状で形成される部分に貫通形成される貫通孔Ｐ５５５ａを通して下側構成ユニットＰ５５０が第１化粧部材Ｐ５４１に締結固定され、更に、背面側に形成される締結部Ｐ５５５ｂに本体枠Ｐ１４ｄに挿通される締結ネジが螺入されることで、本体枠Ｐ１４ｄに下側構成ユニットＰ５５０が締結固定される。
【７５２３】
球抜きユニットＰ５６０は、上方側が開口する箱状に形成される収容部材Ｐ５６１と、その収容部材Ｐ５６１の内側に配設されるスライド板Ｐ５６２と、そのスライド板Ｐ５６２に連結され正面側（矢印Ｆ方向側）の少なくとも一部が収容部材Ｐ５６１の外側に配置される球抜きレバーＰ５２と、スライド板Ｐ５６２及び球抜きレバーＰ５２を一方向に付勢するコイルバネ（図示せず）と、を主に備える。
【７５２４】
収容部材Ｐ５６１は、第１化粧部材Ｐ５４１の第２開口部Ｐ５４１ｂの内側に収容可能な大きさに形成され、第２開口部Ｐ５４１ｂの上方に配設される下皿構成ユニットＰ５５０の下方側に隣り合う状態で配設される。また、収容部材Ｐ５６１は、箱状に形成される内部に後述するスライド板Ｐ５６２の変位を案内する案内機構を備えており、その案内機構によりスライド板Ｐ５６２の変位方向が一方向（本実施形態では左右方向）に規定される。
【７５２５】
スライド板Ｐ５６２は、底面部Ｐ５５３の底面口Ｐ５５３ａの開口よりも大きい板状に形成され、底面口Ｐ５５３ａの下側縁部を塞ぐ閉塞位置と、その閉塞位置から変位して底面口Ｐ５５３ａを開放する開放位置とに変位可能に形成される。スライド板Ｐ５６２が閉塞位置に配置される場合には、下皿Ｐ５０の貯留領域に球を貯留可能な状態とされ、スライド板Ｐ５６２が開放位置に配置される場合には、下皿Ｐ５０の貯留領域にある球を底面口Ｐ５５３ａから払い出す状態とされる。なお、収容部材Ｐ５６１には、スライド板Ｐ５６２を開放位置に配置した場合に、球を下方に挿通させるための排出口が底面口Ｐ５５３ａと対応する位置に形成される。
【７５２６】
球抜きレバーＰ５２は、下皿Ｐ５０に貯留された球を下方へ排出する際に遊技者が操作するためのレバーであり、スライド板Ｐ５６２に連なって形成される。この球抜きレバーＰ５２は、常時、右方向（矢印Ｒ方向）に付勢されており、その付勢に抗して左方向（矢印Ｌ方向）へスライドさせることにより、スライド板Ｐ５６２が閉鎖位置から開放位置に変位される。
【７５２７】
次いで、図３８４から図３８９を参照して、操作ユニットＰ１８０について説明する。初めに、図３８４、図３８５、図３８６及び図３６を参照して、操作ユニットＰ１８０の全体構成について説明する。
【７５２８】
図３８４及び図３８５は、操作ユニットＰ１８０の分解正面斜視図であり、図３８６及び図３８７は、操作ユニットＰ１８０の分解背面斜視図である。なお、図３８４及び図３８６では、操作ユニットＰ１８０のうち操作構成部Ｐ７１０、案内構成部Ｐ７２０及び覆設カバーＰ７４０の分解図が図示され、図３８５及び図３８７では、操作ユニットのうち、案内構成部Ｐ７２０が組み立てられた状態で図示されると共に、操作構成部Ｐ７１０、下側構成部Ｐ７５０、下側収容部Ｐ７６０及び振動構成部Ｐ７７０の分解図が図示される。図３８４、図３８５、図３８６及び図３８７に示すように、操作ユニットＰ１８０は、上面にボタン部Ｐ１８１を有する操作構成部Ｐ７１０と、その操作構成部Ｐ７１０を直線方向（上下方向と交差する方向）に変位可能に案内する案内構成部Ｐ７２０と、案内構成

部Ｐ７２０の上側におけるボタン部Ｐ１８１を除く領域に覆設される覆設カバーＰ７４０と、案内構成部Ｐ７２０の下側に配設され操作構成部Ｐ７１０に対してバネ弾性による反力を与える下側構成部Ｐ７５０と、その下側構成部Ｐ７５０を案内構成部Ｐ７２０との間に収容可能に中心部が凹設形成される下側収容部Ｐ７６０と、下側収容部Ｐ７５０の下側に配設される振動構成部Ｐ７７０と、を主に備える。

【７５２９】

操作構成部Ｐ７１０は、ボタン部Ｐ１８１の操作面を構成する略六角形状の上面部Ｐ７１１と、その上面部Ｐ７１１の周囲から環状に下方に延設される環状延設部Ｐ７１２と、その環状延設部Ｐ７１２の延設先端から六角形を形成する各辺の半分程度の幅で延設される延設板部Ｐ７１３と、その延設板部Ｐ７１３の一部から更に延設される箇所に下側構成部Ｐ７５０との係合のために開口形成される係合開口部Ｐ７１４と、を主に備える。

【７５３０】

操作構成部Ｐ７１０は、有色（本実施形態では黒色）で光透過性の樹脂材料から形成されているので、内部から光が照射されていない場合においては上面部Ｐ７１１の裏面側が視認し難くなっている。これにより、内部からの光照射が有る場合と、無い場合との視認態様の違いを大きくすることができる。

【７５３１】

案内構成部Ｐ７２０は、上下に厚みを有し上下方向に複数の貫通孔が形成される案内ベース構成部Ｐ７２１と、その案内ベース構成部Ｐ７２１の形状に合わせて形成されており案内ベース構成部Ｐ７２１の下面に上面が当接される電飾基板Ｐ７２２と、案内ベース構成部Ｐ７２１の上面側に配置されており下方に延設される複数の棒状部Ｐ７２３ａが案内ベース構成部Ｐ７２１及び電飾基板Ｐ７２２を貫通することにより位置合わせが可能に構成される内部意匠部材Ｐ７２３と、電飾基板Ｐ７２２の下側に配設されており挿通孔Ｐ７２４ａに挿通される締結ネジが棒状部Ｐ７２３ａの先端側に形成される雌ネジに螺入されることにより案内ベース構成部Ｐ７２１、電飾基板Ｐ７２２及び内部意匠部材Ｐ７２３と固定可能に構成される固定部材Ｐ７２４と、を主に備える。

【７５３２】

案内ベース構成部Ｐ７２１は、有色（本実施形態では白色）で非透過性の樹脂材料から形成されており、貫通孔として、中央部において上面視で左右に長い矩形状の中央貫通孔Ｐ７２１ａと、上面視で内部意匠部材Ｐ７２３の外形を一回り小さくしたライン形状に沿って形成される対応貫通孔Ｐ７２１ｂと、操作構成部Ｐ７１０の環状延設部Ｐ７１２の形状に対応して上側から凹設形成される凹設部の底面において延設板部Ｐ７１３が挿通可能な大きさで形成される変位案内貫通孔Ｐ７２１ｃと、その変位案内貫通孔Ｐ７２１ｃの外周側において貫通形成される上面視でライン形状の外周側貫通孔Ｐ７２１ｄと、その外周側貫通孔Ｐ７２１ｄの左右外側に並んでおり上面視で前後方向に長いライン形状の縦縞貫通孔Ｐ７２１ｅと、内部意匠部材Ｐ７２３の棒状部Ｐ７２３ａが挿通可能となる位置に貫通形成される位置合わせ貫通孔Ｐ７２１ｆと、を主に備える。

【７５３３】

中央貫通孔Ｐ７２１ａ、対応貫通孔Ｐ７２１ｂ、外周側貫通孔Ｐ７２１ｄ及び縦縞貫通孔Ｐ７２１ｅは、下面側へ向かうほど長手方向が短くなるテーパとなっており、下面側の開口部は電飾基板Ｐ７２２の対応する発光部Ｐ７２２ａと対向配置される。そのため、対応する発光部Ｐ７２２ａからの光は、テーパ形状を逆方向に進行する際に光軸に対して傾斜する方向の光が内面で反射されることにより、中央貫通孔Ｐ７２１ａ、対応貫通孔Ｐ７２１ｂ、外周側貫通孔Ｐ７２１ｄ及び縦縞貫通孔Ｐ７２１ｅの上面開口側のライン形状の領域を均一に照らす。

【７５３４】

電飾基板Ｐ７２２は、上面に配設される複数のＬＥＤにより構成される発光部Ｐ７２２ａと、案内ベース構成部Ｐ７２１の変位案内貫通孔Ｐ７２１ｃと連通する位置において貫通形成される第１連通孔Ｐ７２２ｂと、案内ベース構成部Ｐ７２１の位置合わせ貫通孔Ｐ７２１ｆと連通する位置において貫通形成される第２連通孔Ｐ７２２ｃと、下面に配設さ

れ検出溝を下方へ向ける検出センサＰ７２２ｄと、を主に備える。
【７５３５】
発光部Ｐ７２２ａは、案内ベース構成部Ｐ７２１の中央貫通孔Ｐ７２１ａ、対応貫通孔Ｐ７２１ｂ、外周側貫通孔Ｐ７２１ｄ及び縦縞貫通孔Ｐ７２１ｅに対応する位置に点在されており、照射した光が案内ベース構成部Ｐ７２１の中央貫通孔Ｐ７２１ａ、対応貫通孔Ｐ７２１ｂ、外周側貫通孔Ｐ７２１ｄ及び縦縞貫通孔Ｐ７２１ｅを通して遊技者に視認させる。
【７５３６】
第１連通孔Ｐ７２２ｂは、案内ベース構成部Ｐ７２１の変位案内貫通孔Ｐ７２１ｃと共に操作構成部Ｐ７１０の延設板部Ｐ７１３を変位可能に支持するものであって、操作構成部Ｐ７１０の変位を直線方向に緩く案内する。
【７５３７】
第２連通孔Ｐ７２２ｃは、案内ベース構成部Ｐ７２１の位置合わせ貫通孔Ｐ７２１ｆと共に内部意匠部材Ｐ７２３の棒状部Ｐ７２３ａを受け入れるものであって、これにより案内ベース構成部Ｐ７２１に対して電飾基板Ｐ７２２が適切に位置合わせされる。
【７５３８】
内部意匠部材Ｐ７２３は、有色（本実施形態では黒色）で光透過性の樹脂材料から形成されており、操作構成部Ｐ７１０の内側形状よりも一回り小さな略六角形状に形成されており、裏面側にシボ加工が形成され、上面に意匠（本実施形態では「ＰＵＳＨ」の文字）が施される。
【７５３９】
これにより、内部意匠部材Ｐ７２３に電飾基板Ｐ７２２の発光部Ｐ７２２ａから光が照射された場合における光を面発光させることができるので、光を操作構成部Ｐ７１０の上面部Ｐ７１１において均一に透過させることができると共に、内部意匠部材Ｐ７２３に施される意匠を鮮やかに視認させることができる。
【７５４０】
固定部材Ｐ７２４は、内部意匠部材Ｐ７２３の棒状部Ｐ７２３ａに対応して締結ネジが挿通可能に構成される挿通孔Ｐ７２４ａと、下面から垂直に突設される複数の金属棒部Ｐ７２４ｂと、下面から垂直に円柱状に突設され突設先端部に雌ネジが形成される複数の被締結突設部Ｐ７２４ｃと、電飾基板Ｐ７２２の検出センサＰ７２２ｄに対応する位置に貫通形成され検出センサＰ７２２ｄを露出させる露出開口部Ｐ７２４ｄと、を主に備える。
【７５４１】
挿通孔Ｐ７２４ａに挿通される締結ネジが内部意匠部材Ｐ７２３の棒状部Ｐ７２３ａに締結固定されることで、案内構成部Ｐ７２０の各構成（案内ベース構成部Ｐ７２１、電飾基板Ｐ７２２、内部意匠部材Ｐ７２３及び固定部材Ｐ７２４）が一体的に固定される。
【７５４２】
金属棒部Ｐ７２４ｂは、下側構成部Ｐ７５０の変位を案内することで、間接的に操作構成部Ｐ７１０の変位を案内可能に構成される。被締結突設部Ｐ７２４ｃは、下側構成部Ｐ７５０を貫通するように構成され、その先端部において下側収容部Ｐ７６０に挿通された締結ネジが螺入されることで、下側収容部Ｐ７６０に締結固定される。これにより、案内構成部Ｐ７２０が下側収容部Ｐ７６０に変位不能に固定される。
【７５４３】
覆設カバーＰ７４０は、有色（本実施形態では黒色）で非透過性の樹脂材料から形成される範囲形成部材Ｐ７４１と、その範囲形成部材Ｐ７４１の上面側に覆設されるカバー部材Ｐ７４２と、を主に備える。
【７５４４】
範囲形成部材Ｐ７４１は、変位案内貫通孔Ｐ７２１ｃよりも外周側を覆うように中央部が開口形成される上面部Ｐ７４１ａと、その上面部Ｐ７４１ａの前縁部から案内ベース構成部Ｐ７２１の前面側を覆う形状で下方に延設される前垂れ部Ｐ７４１ｂと、点在する複数の貫通孔Ｐ７４１ｃと、を主に備える。

【７５４５】
貫通孔Ｐ７４１ｃは、案内ベース構成部Ｐ７２１の外周側貫通孔Ｐ７２１ｄ及び縦縞貫通孔Ｐ７２１ｅに対応する位置（上下方向視で重なる位置）において貫通形成される。これにより覆設カバーＰ７４０に裏側から光が照射された場合において貫通孔Ｐ７４１ｃの内方側で光が視認されるように、光の視認可能範囲を仕切ることができる。
【７５４６】
カバー部材Ｐ７４２は、有色（本実施形態では黒色）で光透過性の樹脂材料から形成されており、変位案内貫通孔Ｐ７２１ｃよりも外周側を覆うように中央部が開口形成される上面部Ｐ７４２ａと、その上面部Ｐ７４２ａの前縁部から範囲形成部材Ｐ７４１の前垂れ部Ｐ７４１ｂの前面側を覆う形状で下方に延設される前垂れ部Ｐ７４２ｂと、を主に備える。
【７５４７】
上面部Ｐ７４２ａは、裏面にシボ加工が形成される。これにより、貫通孔Ｐ７４１ｃを通過して照射された光を面発光させることができるので、上面部Ｐ７４２ａを介して、貫通孔Ｐ７４１に対応した形状の光を遊技者に視認させることができる。
【７５４８】
下側構成部Ｐ７５０は、操作構成部Ｐ７１０の上面部に対応する略六角形状の板状部材から形成される底板部材Ｐ７５１と、その底板部材Ｐ７５１の内側において案内構成部Ｐ７２０の金属棒部Ｐ７２４ｂに挿通される複数の摺動カラー部材Ｐ７５８と、金属棒部Ｐ７２４ｂと同心で底板部材Ｐ７５１の下面側に配設される複数のコイルスプリングＰ７５０ＳＰと、を主に備える。
【７５４９】
底板部材Ｐ７５１は、外側面における操作構成部Ｐ７１０の係合開口部Ｐ７１４に対応する位置から突設形成される複数の係合突部Ｐ７５２と、摺動カラー部材Ｐ７５８の外周面と摺動可能な内周寸法で貫通形成される複数の摺動部Ｐ７５３と、案内構成部Ｐ７２０の被締結突設部Ｐ７２４ｃが挿通可能に貫通形成される複数の挿通孔Ｐ７５４と、上面部の中心側において上方へ向けて突設形成される被検出部Ｐ７５５と、下面部の後側領域において傾斜形成される振動受面部Ｐ７５６と、を主に備える。
【７５５０】
係合突部Ｐ７５２は、係合開口部Ｐ７１４に操作構成部Ｐ７１０の内方から係合される。係合時、即ち底板部材Ｐ７５１を操作構成部Ｐ７１０の開放側（下側）から近づけて嵌め合わせる時、係合凸部Ｐ７５２が延設先端側から当接することにより延設板部Ｐ７１３が外方側に弾性変形されることで底板部材Ｐ７５１が操作構成部Ｐ７１０の内方側に進入可能とされ、係合突部Ｐ７５２が係合開口部Ｐ７１４の内側に達すると延設板部Ｐ７１３が弾性復帰されることにより操作構成部Ｐ７１０に底板部材Ｐ７５１が嵌合され、合体されることで一体的に動作可能とされる。
【７５５１】
摺動部Ｐ７５３は、内周側の貫通孔が摺動カラー部材Ｐ７５８の外周の直径よりも若干大きな直径で貫通形成されており、その貫通孔を内径側とする筒状部が底板部材Ｐ７５１の下面から突設形成される形状とされる。
【７５５２】
この摺動部Ｐ７５３の筒状部がコイルスプリングＰ７５０ＳＰの上端部内側に入り込む。これにより、コイルスプリングＰ７５０ＳＰの伸縮変形を金属棒部Ｐ７２４ｂに沿った直線方向の変形とすることができ、コイルスプリングＰ７５０ＳＰから弾性力を効率的に発生させることができる。
【７５５３】
被検出部Ｐ７５５は、案内構成部Ｐ７２０の検出センサＰ７２２ｄの検出溝に進入可能な配置および形状から形成される。被検出部Ｐ７５５は、コイルスプリングＰ７５０ＳＰの付勢力により底板部材Ｐ７５１が変位可能範囲の上端側に位置している場合には検出センサＰ７２２ｄの検出溝に進入し、付勢力に反して操作構成部Ｐ７１０が押し下げられた

場合に検出センサＰ７２２ｄの検出溝から退避する。
【７５５４】
振動受面部Ｐ７５６は、下側収容部Ｐ７６０に下方から閉塞されることなく露出される位置に配置されており、下側収容部Ｐ７６０の下面側に配設される振動構成部Ｐ７７０と直接的に当接可能に構成される。
【７５５５】
下側収容部Ｐ７６０は、無色で光透過性の樹脂材料から形成され、上面側から円形に凹設形成されており内方側に金属棒部Ｐ７２４ｂが挿通される貫通孔が形成される凹設支持部Ｐ７６１と、案内構成部Ｐ７２０の被締結突設部Ｐ７２４ｃに螺入される締結ネジが挿通される挿通孔Ｐ７６２と、操作構成部Ｐ７１０の下部が露出される後側貫通孔Ｐ７６３と、案内構成部Ｐ７２０の左右側部が締結固定される一対の左右支持部Ｐ７６４と、下面側に一体形成されており振動構成部Ｐ７７０の上側受部を構成する一体形成部Ｐ７６６と、を主に備える。
【７５５６】
凹設支持部Ｐ７６１には、コイルスプリングＰ７５０ＳＰが下端を進入させる態様で支持される。挿通孔Ｐ７６２に挿通される締結ネジにより案内構成部Ｐ７２０と下側収容部Ｐ７６０とが締結固定される。この締結固定された状態において被締結突設部Ｐ７２４ｃの突設長さ分の空間が案内構成部Ｐ７２０と下側収容部Ｐ７６０との上下隙間として構成され、この空間が底板部材Ｐ７５１の変位可能領域として構成される。
【７５５７】
左右支持部Ｐ７６４は、電飾基板Ｐ７２２の下側に配設され、案内ベース構成部Ｐ７２１との間に電飾基板Ｐ７２２を収容可能となるように外周側において延設部Ｐ７６５が上方に延設されており、この延設部Ｐ７６５の上端面が案内ベース構成部Ｐ７２１の下面と当接する。
【７５５８】
一体形成部Ｐ７６６は、後側貫通孔Ｐ７６３の前方側に配設され、下側に開放される逆Ｕ字形状で形成され左右に並べられる一対の支持受部Ｐ７６６ａを備えており、この一体形成部Ｐ７６６に対応する位置において振動構成部Ｐ７７０が下側収容部Ｐ７６０に締結固定される。
【７５５９】
振動構成部Ｐ７７０は、駆動軸に錘部材Ｐ７７１ａが固定されるモータ装置Ｐ７７１と、開放されている上方部からモータ装置Ｐ７７１を受け入れ可能とされておりモータ装置Ｐ７７１の本体部が内部に固定された状態で錘部材Ｐ７７１ａに対しては接触しないようにカバー部が構成されるモータ支持部材Ｐ７７２と、そのモータ支持部材Ｐ７７２の上方部を閉塞可能に構成されモータ支持部材Ｐ７７２に締結固定される閉塞蓋部材Ｐ７７３と、開放されている上方部から支持部材Ｐ７７２を受け入れ可能とされており一体形成部Ｐ７６６に対応する位置で下側収容部Ｐ７６０に締結固定される振動支持部材Ｐ７７４と、を主に備える。
【７５６０】
モータ支持部材Ｐ７７２は、左右方向に突設される円柱部Ｐ７７２ａを軸として回転可能に支持される樹脂製でリング形状のカラー部材Ｐ７７２ｂを備える。カラー部材Ｐ７７２ｂの外形は、支持受部Ｐ７６６ａのＵ字形状の内側に進入された場合に若干の隙間が空く程度の寸法とされる。
【７５６１】
これにより、カラー部材Ｐ７７２ｂを支持受部Ｐ７６６ａに下側から進入させることができる。この進入させた状態において、振動支持部材Ｐ７７４に形成されるＵ字形状の支持受部Ｐ７７４ａがカラー部材Ｐ７７２ｂを内側に進入させる態様で接近し、この支持受部Ｐ７７４ａによりカラー部材Ｐ７７２ｂの下方への脱落が防止される。
【７５６２】
このように構成されることにより、振動支持部材Ｐ７７４が下側収容部Ｐ７６０に締結

固定された状態において、モータ装置Ｐ７７１、モータ支持部材Ｐ７７２及び閉塞蓋部材Ｐ７７３により構成されるユニットは、円柱部Ｐ７７２ａ及びカラー部材Ｐ７７２ｂを中心として回転動作可能な状態で下側収容部Ｐ７６０及び振動支持部材Ｐ７７４に支持される。

【７５６３】

閉塞蓋部材Ｐ７７３は、上面側おいて前方へ向かうほど下降傾斜する傾斜面Ｐ７７３ａを備える。傾斜面Ｐ７７３ａは、組立状態において下側収容部Ｐ７６０の後側貫通孔Ｐ７６３に対応する位置に形成される。

【７５６４】

図３８８（ａ）、図３８８（ｂ）、図３８９（ａ）及び図３８９（ｂ）は、図３７８のＸ４９ｍ－Ｘ４９ｍ線における上下皿ユニットＰ１５の部分断面図である。図３８８（ａ）及び図３８８（ｂ）では、操作構成部Ｐ７１０及び下側構成部Ｐ７５０が、コイルスプリングＰ７５０ＳＰの付勢力により変位可能範囲の上端位置に配置された状態が図示され、図３８９（ａ）及び図３８９（ｂ）では、操作構成部Ｐ７１０及び下側構成部Ｐ７５０が押し込み操作されることにより、コイルスプリングＰ７５０ＳＰの付勢力に抗して押し下げられ、変位可能範囲の下端位置に配置された状態が図示される。

【７５６５】

図３８８（ａ）及び図３８９（ａ）では、モータ装置Ｐ７７１（モータ装置Ｐ７７１、モータ支持部材Ｐ７７２及び閉塞蓋部材Ｐ７７３のユニット）の後端側（回転先端側）が振動支持部材Ｐ７７４の底部上面に当接して支持される状態（下端状態）が図示され、図３８８（ｂ）では、モータ装置Ｐ７７１が駆動され回転される錘部材Ｐ７７１ａによる遠心力によりモータ装置Ｐ７７１（モータ装置Ｐ７７１、モータ支持部材Ｐ７７２及び閉塞蓋部材Ｐ７７３のユニット）の後端側（回転先端側）が振動支持部材Ｐ７７４から離間する場合において離間幅が最大となる状態（上端状態）が図示される。

【７５６６】

図３８９（ｂ）に図示されるモータ装置Ｐ７７１（モータ装置Ｐ７７１、モータ支持部材Ｐ７７２及び閉塞蓋部材Ｐ７７３のユニット）の後端側（回転先端側）の状態は、図３８８（ｂ）に樹脂される上端状態とは異なる。

【７５６７】

即ち、図３８８（ｂ）では、下端状態からのモータ装置Ｐ７７１（モータ装置Ｐ７７１、モータ支持部材Ｐ７７２及び閉塞蓋部材Ｐ７７３のユニット）の回転動作角度が最大角度ＰＡ７７０ａとされる一方で、図３８９（ｂ）では、下端状態からのモータ装置Ｐ７７１（モータ装置Ｐ７７１、モータ支持部材Ｐ７７２及び閉塞蓋部材Ｐ７７３のユニット）の回転動作角度が中間角度ＰＡ７７０ｂとなっており、その中間角度ＰＡ７７０ｂは最大角度ＰＡ７７０ａよりも小さい。

【７５６８】

図３８８（ａ）及び図３８８（ｂ）に図示されるように、操作構成部Ｐ７１０が上端位置とされている場合、振動構成部Ｐ７７０が駆動されたとしても、傾斜面Ｐ７７３ａは下側構成部Ｐ７５０の振動受面部Ｐ７５６に直接的に当接はしない（隙間が生じる）。

【７５６９】

同様に、図３８９（ａ）で図示されるように、操作構成部Ｐ７１０が下端位置とされている場合において振動構成部Ｐ７７０が下端状態であると傾斜面Ｐ７７３ａは下側構成部Ｐ７５０の振動受面部Ｐ７５６に直接的に当接はしない（隙間が生じる）。

【７５７０】

一方で、図３８９（ｂ）に図示されるように、操作構成部Ｐ７１０が下端位置とされている場合において、振動構成部Ｐ７７０の駆動による回転動作により振動構成部Ｐ７７０の状態が下端状態から変化すると、傾斜面Ｐ７７３ａは下側構成部Ｐ７５０の振動受面部Ｐ７５６に直接的に当接し得る。

【７５７１】

即ち、振動構成部Ｐ７７０が上端状態までならずとも、図３８９（ｂ）に図示されるよ

うに中間状態まで変化することにより、傾斜面Ｐ７７３ａは下側構成部Ｐ７５０の振動受面部Ｐ７５６に直接的に当接することになる。

【７５７２】

振動構成部Ｐ７７０が中間状態で下側構成部Ｐ７５０に当接した場合、上端状態に変化する側（上側）へ向けてモータ装置Ｐ７７１（モータ装置Ｐ７７１、モータ支持部材Ｐ７７２及び閉塞蓋部材Ｐ７７３のユニット）を動作させるための駆動力が高い振動数の力として下側構成部Ｐ７５０を介して操作構成部Ｐ７１０へ伝達されることになるので、モータ装置Ｐ７７１の駆動力に基づいて、操作構成部Ｐ７１０を上方向側に移動させることができる。

【７５７３】

図３７９及び図３８０に戻って説明する。スピーカーカバーＨ２７（パンチングメタルから形成される薄板部材）の後方において遊技状態に応じた効果音などが出力されるスピーカー組立体Ｐ９００が設けられており、スピーカーカバーＨ２７を介してスピーカーの音をパチンコ機Ｐ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に放音可能に構成されている。

【７５７４】

スピーカー組立体Ｐ９００は、前後の部材が組み付けられることにより内部空間を構成する筐体Ｐ９１０と、その筐体Ｐ９１０の前面に円形の開口として構成される正面開口Ｐ９１１に振動膜が配置されるスピーカーユニットＰ９２０と、を主に備える。

【７５７５】

筐体Ｐ９１０は、正面開口Ｐ９１１と、上面のうちの前側部を構成する左右に長い帯形状の帯形状部Ｐ９１２と、その帯形状部Ｐ９１２よりも後方において帯形状部Ｐ９１２よりも一段低い上面を構成する低段面部Ｐ９１３と、正面開口Ｐ９１１よりも直径の短い円形の開口部として構成されており、スピーカーユニットＰ９２０の背面側と空間が連通されることでスピーカーユニットＰ９２０の背圧を通すことができるバフレスポートＰ９１４と、を主に備える。

【７５７６】

スピーカーユニットＰ９２０は、図３８８（ａ）に図示されるように、電気の入力により振動を生じさせるボイスコイルＰ９２１と、そのボイスコイルＰ９２１の振動により振動されるコーン形状の振動膜Ｐ９２２と、を主に備える。

【７５７７】

スピーカー組立体Ｐ９００は、操作ユニットＰ１８０よりも下側かつ後方側に配置されている。これにより、操作ユニットＰ１８０とスピーカー組立体Ｐ９００とを近接配置させる態様であっても、操作ユニットＰ１８０をより目立たせることができ、操作ユニットＰ１８０への注目力を向上させることができる。

【７５７８】

スピーカー組立体Ｐ９００は帯形状部Ｐ９１２の前端部が第１化粧部材Ｐ５４１と直接的に接している。また、振動構成部Ｐ７７０が締結固定される下側収容部Ｐ７６０は覆設カバーＰ７４０と共に第１化粧部材Ｐ５４１と間接的に接している。

【７５７９】

従って、スピーカー組立体Ｐ９００で振動が発生した場合も、振動構成部Ｐ７７０で振動が発生した場合も、第１化粧部材Ｐ５４１を介した振動伝達が可能であって、第１化粧部材Ｐ５４１に近接配置されている覆設カバーＰ７４０を介して操作構成部Ｐ７１０を振動させることができる。

【７５８０】

そのため、第１化粧部材Ｐ５４１が介在されることで、振動構成部Ｐ７７０で発生した振動をスピーカー組立体Ｐ９００に伝達させることができる。これにより、スピーカー組立体Ｐ９００から発生される音声が同じ場合であっても、振動構成部Ｐ７７０の振動が生じているか否かにより、音声の聞こえ方を変化させることができ、音声出力による演出の演出効果を向上させることができる。

【７５８１】

また、第１化粧部材Ｐ５４１が介在されることで、スピーカー組立体Ｐ９００で発生した振動を振動構成部Ｐ７７０に伝達させることができる。これにより、振動構成部Ｐ７７０の駆動態様が同じ場合であっても、スピーカー組立体Ｐ９００の振動が生じているか否かにより、振動構成部Ｐ７７０の動作態様（振動態様）を変化させることができ、操作構成部Ｐ７１０を押し込み操作した遊技者に伝達される振動による演出の演出効果を向上させることができる。

【７５８２】

操作構成部Ｐ７１０に伝達される振動の発生源を、遊技者は視認により把握することが困難とされる。一方、振動構成部Ｐ７７０で振動が生じている場合、遊技者が操作構成部Ｐ７１０を押し込み操作すると、操作構成部Ｐ７１０と一体的に構成される下側構成部Ｐ７５０に対して閉塞蓋部材Ｐ７７３が直接的に衝突するため、スピーカー組立体Ｐ９００の振動態様（膜振動）とは異なる態様の力が操作構成部Ｐ７１０を介して遊技者に伝達される。

【７５８３】

これにより、遊技者は、操作構成部Ｐ７１０を押し込み操作することで、第１化粧部材Ｐ５４１を介して伝達される振動がスピーカー組立体Ｐ９００の振動によるものなのか、振動構成部Ｐ７７０の振動によるものなのかを把握することができる。

【７５８４】

この場合において、抽選に係る変動の大当たり期待度が高い場合に振動構成部Ｐ７７０での振動が生じ易いように制御される場合、操作構成部Ｐ７１０の押し込み操作に対する操作意欲を向上させることができる。

【７５８５】

次いで、図３９０から図３９２を参照し、第６１実施形態における上側装飾ユニットＰ３０１４ａについて説明する。上記第６０実施形態では、上側装飾ユニットＰ１４ａを脱着する際に操作される操作部Ｐ３２２ａが上側装飾ユニットＰ１４ａの背面側においてのみ露出されていることから正面枠Ｐ１４の開放状態においてのみ操作可能とされる場合を説明したが、第６１実施形態では、上側装飾ユニットＰ３０１４ａから露出される回転伝達部材Ｐ３３８５が正面枠Ｐ１４の開放状態のみではなく閉鎖状態においても操作可能となる位置に配設される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【７５８６】

図３９０は、第６１実施形態における上側装飾ユニットＰ３０１４ａの正面図であり、図３９１は、上側装飾ユニットＰ３０１４ａの分解背面斜視図である。図３９０及び図３９１に図示されるように、上側装飾ユニットＰ３０１４ａは、第６０実施形態で上述したベースユニットＰ３０１に、化粧ユニットＰ３３０２が取り付け可能に構成される。

【７５８７】

化粧ユニットＰ３３０２は、係止棒部材Ｐ３８０と同様の先端側形状とされながらベース部材Ｐ３３５０の後側部に回転動作可能に支持される係止回転棒Ｐ３３８０と、その係止回転棒Ｐ３３８０の上側においてベース部材Ｐ３３５０に回転動作可能に支持されており、回転動作に基づいて係止回転棒Ｐ３３８０を連動して回転させる回転伝達部材Ｐ３３８５と、正面側に張り出し形成され遊技者が回転動作方向の操作を可能に構成される演出レバーＰ３３９０と、を主に備える。

【７５８８】

回転伝達部材Ｐ３３８５は、ベース部材Ｐ３３５０の内部に回転可能に支持される前後方向に延びる回転軸で回転動作可能とされており、係止回転棒Ｐ３３８０と対向する側に係止回転棒Ｐ３３８０と歯合する伝達ギア歯が形成され、ギア比が３：１の関係で構成される。即ち、回転伝達部材Ｐ３３８５の回転角度の３倍の回転角度で係止回転棒Ｐ３３８０が回転動作される。

【７５８９】

回転伝達部材Ｐ３３８５は、大部分がベース部材Ｐ３３５０の上面よりも下側に位置し

、遮蔽されているが、一部がベース部材Ｐ３３５０の上面から露出しており、この露出した部分に回転方向の力を加えることで、回転伝達部材Ｐ３３８５を回転動作させることができる。

【７５９０】

図３９２（ａ）及び図３９２（ｂ）は、図３６１（ａ）のＸ４１ａ－Ｘ４１ａ線に対応する平面における上側装飾ユニットＰ３０１４ａの断面図である。図３９２（ａ）では、係止回転棒Ｐ３３８０が図３９１に図示されるのと同様の姿勢とされており、図３９２（ｂ）では、係止回転棒Ｐ３３８０が１８０度回転された状態が図示される。

【７５９１】

図３９２（ａ）及び図３９２（ｂ）に図示されるように、係止回転棒Ｐ３３８０は回転軸Ｐ３３８４によりベース部材Ｐ３３５０に対する前後方向への移動がフランジにより防止されており、係止回転棒Ｐ３３８０が回転軸Ｐ３３８４を中心として１８０度回転されることにより、被操作部材Ｐ３２２がスライド移動され、係止回転棒Ｐ３３８０と金属板部Ｐ３２２ｅとの係合が解除されることから、回転伝達部材Ｐ３３８５を回転軸中心で回転動作させることにより係止回転棒Ｐ３３８０と金属板部Ｐ３２２ｅとの係合を解除させることができる。

【７５９２】

図３９１に図示されるように、係止回転棒Ｐ３３８０が切替構成部Ｐ３２０の金属板部Ｐ３２２ｅ（図３６４参照）と係合する姿勢となっている場合、回転伝達部材Ｐ３３８５には目印となる切り欠き凹部Ｐ３３８６が形成されており、この切り欠き凹部Ｐ３３８６がベース部材Ｐ３３５０上面に切り欠き形成される目印部Ｐ３３５８と合致する。

【７５９３】

したがって、組み付け作業を行う作業者は、回転伝達部材Ｐ３３８５の切り欠き凹部Ｐ３３８６が目印部Ｐ３３５８と合致していることを確認することで、係止回転棒Ｐ３３８０が切替構成部Ｐ３２０の金属板部Ｐ３２２ｅ（図３６４参照）と係合する姿勢となっていることを把握することができる。

【７５９４】

上側装飾ユニットＰ３０１４ａでは、第６０実施形態で被操作部材Ｐ３２２の操作部Ｐ３２２ａが直線方向にスライド操作されることから、構成を簡易とするとともに操作内容も簡易となっており作業者が操作に悩むことを回避できたものと異なり、回転伝達部材Ｐ３３８５が回転動作される。

【７５９５】

回転伝達部材Ｐ３３８５が回転動作されることから、姿勢違いによる状態の違いを把握し易くされており、作業者が、操作量が不十分な状態で作業を終える事態が生じることを避け易くすることができる。

【７５９６】

上側装飾ユニットＰ３０１４ａでは、第６０実施形態で被操作部材Ｐ３２２の操作部Ｐ３２２ａが露出しておらず、誤操作の防止を図ることができたものと異なり、操作部としての回転伝達部材Ｐ３３８５が露出している。

【７５９７】

回転伝達部材Ｐ３３８５が前側から視認可能であって、前側から操作可能とされる。回転伝達部材Ｐ３３８５は操作により視認態様が変化されるよう構成されており、露出される回転伝達部材Ｐ３３８５を視認すれば切替構成部Ｐ３２０の状態を把握することができる。

【７５９８】

なお、回転伝達部材Ｐ３３８５は、前側傾斜部Ｐ３５５の上端部よりも下側に位置されるので、遊技者目線では、前側傾斜部Ｐ３５５により隠されることで、回転伝達部材Ｐ３３８５は見えず、注目させることはない。

【７５９９】

上側装飾ユニットＰ３０１４ａでは、第６０実施形態で被操作部材Ｐ３２２の操作部Ｐ

３２２ａが樹脂材料から形成されており、量産性に優れていたものと異なり、回転伝達部材Ｐ３３８５が金属材料から形成される。これにより、操作部が丈夫であり、遊技者が触れたり引っ張ったりし得る外部に配置しても、容易には破損させないようにすることができる。

【７６００】

上側装飾ユニットＰ３０１４ａでは、第６０実施形態で化粧ユニットＰ３０２の係止棒部材Ｐ３８０と係合する被操作部材Ｐ３２２に操作部Ｐ３２２ａが一体成形されることから、構造を簡単とすることができ、動作不良を回避し易くできたものと異なり、操作部としての回転伝達部材Ｐ３３８５が、係止回転棒Ｐ３８０との係合部である被操作部材Ｐ３２２とは別体で構成される。このように別体で構成されることから、操作部としての回転伝達部材Ｐ３３８５が破損した場合であっても、係止回転棒Ｐ３８０との係合部である被操作部材Ｐ３２２ごと交換することを不要とし、操作部としての回転伝達部材Ｐ３３８５のみの交換で済むことから、修理にかかるコストを削減することができる。

【７６０１】

上側装飾ユニットＰ３０１４ａでは、第６０実施形態で化粧ユニットＰ３０２に可動部や駆動装置が配設されておらず、軽量化がなされていたことにより持ち運びを容易とすることができたものと異なり、化粧ユニットＰ３３０２に演出レバーＰ３３９０が配設されており、この演出レバーＰ３３９０に操作構成部Ｐ７１０の機能を代替させることが可能に構成される。

【７６０２】

この場合において、操作構成部Ｐ７１０を残せば、遊技者は好きな位置での操作を行うことができるので、遊技の自由度が向上する。また、操作構成部Ｐ７１０を上下皿ユニットＰ１５から取り去り、演出ボタンとしては演出レバーＰ３３９０のみを構成するようにすれば、上下皿ユニットＰ１５の上面側における使用可能スペースを大きく確保でき、上皿Ｐ１７をより大きく構成することができる。

【７６０３】

演出レバーＰ３３９０は、先端の球状部の上側に押し込み操作可能に構成される補助ボタンＰ３３９１を備える。補助ボタンＰ３３９１の操作は、演出レバーＰ３３９０の操作と同時に実行可能とされており、演出ボタンＰ３３９１の操作とは別の機能がある。

【７６０４】

第６１実施形態では、演出レバーＰ３３９０を回転動作させることでスピーカーユニットＰ９２０の振動が実行される場合を構成可能であって、この振動の実行中において、補助ボタンＰ３３９１の押し込みを行うことにより、スピーカーユニットＰ９２０の振動の実行を停止させるように構成される。これにより、遊技者はスピーカーユニットＰ９２０の振動の実行の有無を操作によって任意に切り替えることができるので、スピーカーユニットＰ９２０から出力される音声の有無の切替による音量の調整を自在に行うことができる。

【７６０５】

ここで、操作構成部Ｐ７１０の操作に基づいて、スピーカーＰ３３２ａの振動が実行される。即ち、下側に配置される操作構成部Ｐ７１０の操作に基づいて上側の上側装飾ユニットＰ３０１４ａに配設されるスピーカーＰ３３２ａの振動が実行され、上側に配置される演出レバーＰ３９０の操作に基づいて下側の上下皿ユニットＰ１５に配設されるスピーカーユニットＰ９２０の振動が実行されるという対応となっている。

【７６０６】

このように、操作を実行させる部分とスピーカーとを離れた位置関係とすることにより、スピーカーの振動の実行に基づいて操作を実行させる部分が微小振動されることを避けることができる。また、操作を実行させる部分と、その操作に対応したスピーカーとをパチンコ機Ｐ１０の全体（上下）に分散させることにより、遊技者の注意をパチンコ機Ｐ１０の全体に向かわせることができる。

【７６０７】

演出レバーＰ３３９０は、化粧ユニットＰ３３０２の上寄りの位置に配設される。即ち、上下方向で、係止回転棒Ｐ３３８０の配置がされる側に寄せて配設される。これにより、演出レバーＰ３３９０の操作時の荷重が係止回転棒Ｐ３３８０を介して切替構成部Ｐ３２０に負担させやすくすることができ、他の箇所の負担を減らすことができる。

【７６０８】

次いで、図３９３から図３９５を参照し、第６２実施形態における上側装飾ユニットＰ４０１４ａについて説明する。上記第６０実施形態では、上側装飾ユニットＰ１４ａにおいて光が反射される反射位置ＰＲ３４２が固定される場合を説明したが、第６２実施形態では、ベースユニットＰ３０１と化粧ユニットＰ４３０２とにより構成される上側装飾ユニットＰ４０１４ａの反射位置ＰＲ３４２が棒状部材ＰＢ４３６０の上面に形成されており、変位可能とされる。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【７６０９】

図３９３は、第６２実施形態における下側反射部材Ｐ４３６５の正面斜視図であり、図３９４は、図３６６のＸ４４ｍ－Ｘ４４ｍ線に対応する平面における上側装飾ユニットＰ４０１４ａの断面図である。

【７６１０】

図３９３では、下側反射部材Ｐ４３６５に下方から差し入れられる内部部材Ｐ４３６９の一つが下側反射部材Ｐ４３６５から分離して図示される。下側反射部材Ｐ４３６５では、各反射位置ＰＲ３４２に対応する複数位置において各反射位置ＰＲ３４２に対応する傾斜の上面を有する棒状部材ＰＢ４３６０が上下方向に移動可能に支持されており、棒状部材ＰＢ４３６０の上面が鏡面となっていることを除いて下側反射部材Ｐ４３６５は光透過性の樹脂材料から形成されている。

【７６１１】

各棒状部材ＰＢ４３６０の下側には、それぞれ任意の上下長さで形成される内部部材Ｐ４３６９が配置される。この各内部部材Ｐ４３６９の長さに対応して、各棒状部材ＰＢ４３６０の上方への張り出し長さが変化され、反射位置ＰＲ３４２を自在に変化させることが可能となる。

【７６１２】

図３９５は、上側装飾ユニットＰ４０１４ａの正面図である。図３９５では、理解を容易とするために、主装飾部Ｐ４３７１の板状部Ｐ３７１ｂの図示が省略され、上下反射部材Ｐ４３６０を視認可能に図示される。

【７６１３】

上側装飾ユニットＰ４０１４ａでは、装飾構成部Ｐ４３７０の外枠部Ｐ４３７１ａが、外枠部３７１ａと異なり、枠下部において矩形の凹凸形状が構成されており、この凹凸形状により板状部Ｐ３７１ｂが視認される範囲が狭められるところ、反射位置ＰＲ３４２が第６０実施形態で上述したままの位置であると、板状部Ｐ３７１ｂと重なってしまい光演出の演出効果が低くなる。

【７６１４】

そのため、反射位置ＰＲ３４２の位置を変える。具体的には、最も第２下側反射部材Ｐ３６６に近い反射位置ＰＲ３４２に対応する棒状部材ＰＢ４３６０の下側に配置される内部部材Ｐ４３６９の長さを短くすることで反射位置ＰＲ３４２の位置を下げ、その左隣の反射位置ＰＲ３４２に対応する棒状部材ＰＢ４３６０の下側に配置される内部部材Ｐ４３６９の長さを長くすることで反射位置ＰＲ３４２の位置を上げる。

【７６１５】

この二つの内部部材Ｐ４３６９と同様の関係で内部部材Ｐ４３６９を残りの反射位置ＰＲ３４２に対応する棒状部材ＰＢ４３６０の下側に配置することにより、反射位置ＰＲ３４２を外枠部Ｐ４３７１ａの枠下部の凹凸形状に対応させることができ、外枠部Ｐ４３７１ａの隅々を光らせることができるので、外枠部Ｐ４３７１ａの形状が変化する場合であっても光演出の演出効果を高めることができる。

【７６１６】
第６２実施形態における上側装飾ユニットＰ４０１４ａでは、第６０実施形態でベースユニットＰ３０１に発光構成部Ｐ３４０が固定配置されており、化粧ユニットＰ３０２に上下反射部材Ｐ３６０が固定配置されていることから、発光構成部Ｐ３４０から照射される光の視認位置を安定させ易くされたものと異なり、上下反射部材Ｐ３６０の反射位置ＰＲ３４２を移動させる棒状部材ＰＢ４３６０が構成される。
【７６１７】
これにより、共通の発光構成部Ｐ３４０からの光照射であっても、遊技者に視認される光の態様に動きを付けることができ、光による演出効果を向上させることができる。即ち、光照射部と光反射部との対応関係を切り替えることで、視認させる意匠の変化に対応させた光の照射を実行することができる。
【７６１８】
次いで、図３９６を参照し、第６３実施形態における上側装飾ユニットＰ５０１４ａについて説明する。上記第６０実施形態では、上側装飾ユニットＰ１４ａにおいて発光構成部Ｐ３４０が固定配置される場合を説明したが、第６３実施形態では、発光構成部Ｐ５３４０が動作可能とされる。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【７６１９】
図３９６は、図３６６のＸ４４ｍ－Ｘ４４ｍ線に対応する平面における第６３実施形態における上側装飾ユニットＰ５０１４ａの断面図である。図３９６では、発光構成部Ｐ５３４０のケース上部Ｐ３４３が押されてケース下部Ｐ５３４１に支持される第１電飾基板Ｐ３４２が傾倒された状態が図示される。
【７６２０】
ケース下部Ｐ５３４１は、傾斜面Ｐ３４１ａの前端部において前側平面部Ｐ５３４１ｂが傾倒動作可能に支持されており、前側平面部Ｐ５３４１ｂの傾倒動作に追従して、第１電飾基板Ｐ３４２及びケース上部Ｐ３４３も同じ角度で傾倒する。
【７６２１】
ケース下部Ｐ５３４１は、化粧ユニットＰ５３０２が取り外されている状態では、付勢バネ（図示せず）の弾性力により第１電飾基板Ｐ３４２が水平に配置される起き上がり状態とされており、化粧ユニットＰ５３０２が取り付けられることで化粧ユニットＰ５３０２の押進部Ｐ５３０３により押し下げられて、図３９６に図示される傾倒状態とされる。
【７６２２】
これにより、化粧ユニットＰ５３０２を取り付ける際、すなわち、化粧ユニットＰ５３０２をベースユニットＰ５３０１に対して前後方向で近接させて、化粧ユニットＰ５３０２の第１開口部Ｐ３５３及び第２開口部Ｐ３５４に発光構成部Ｐ５３４０の前側端部を進入させる際には、ケース下部Ｐ５３４１を起き上がり状態として干渉を避けつつ、化粧ユニットＰ５３０２の取り付け後においてはケース下部Ｐ５３４１を傾倒状態とすることができるので、組み付け易さと、発光構成部Ｐ５３４０からの光照射方向の設計の自由度の向上とを両立させることができる。
【７６２３】
上下反射部材Ｐ５３６０等の反射部分だけでなく、第１電飾基板Ｐ３４２等の光照射部分においても可動とすることにより、遊技者に視認させる光の態様に対応させる調整の幅を広げることができる。
【７６２４】
なお、第６３実施形態では、傾倒状態における第１電飾基板Ｐ３４２に対する下側反射部材Ｐ３６５の構成角度と同じ角度となるように上側反射部材Ｐ５３６１が構成され、化粧ユニットＰ５３０２の上面が水平面とされている。
【７６２５】
これにより、第１電飾基板Ｐ３４２から照射される光が反射された後の向きを、前方かつ斜め下方向寄りに装飾構成部Ｐ５３７０の外枠部Ｐ５３７１ａの内側における板状部Ｐ

５３７１ｂを透過する向きとすることができるので、ガラスユニットＨ１６の手前側に頭が配置される遊技者側に光を進行させることができ、光演出の演出効果を向上させることができる。

【７６２６】

第６３実施形態における上側装飾ユニットＰ５０１４ａでは、第６０実施形態でベースユニットＰ３０１に発光構成部Ｐ３４０が固定配置されていることから、その発光構成部Ｐ３４０から照射される位置において上下反射部材Ｐ３６０を適切に設計することにより光による演出効果を向上させるものと異なり、発光構成部Ｐ５３４０が可動とされる。

【７６２７】

これにより、上下反射部材Ｐ５３６０側のみで光の進行方向を変化させる場合よりも、上下反射部材Ｐ５３６０の形状変更の度合いを低減させることができるので、設計変更を容易とすることができる。

【７６２８】

第６３実施形態における上側装飾ユニットＰ５０１４ａでは、第６０実施形態で上下反射部材Ｐ３６０が鏡面で構成されており、発光構成部Ｐ３４０からの光が全反射されることで光の減衰を抑制させることができるものと異なり、下側反射部材Ｐ３６５が光透過性の樹脂材料から構成されており、発光構成部Ｐ５３４０からの光が一部屈折され、一部は透過される。

【７６２９】

この透過された光は、斜め下後方、即ち、ガラスユニットＨ１６側に進行される。これにより、ガラスユニットＨ１６を通して視認される遊技領域や、第３図柄表示装置Ｈ８１の手前側の照度が不足する事態を回避し易くすることができ、明るくすることができるので、遊技領域や第３図柄表示装置Ｈ８１の表示に対する視認性を高め、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【７６３０】

次いで、図３９７から図３９９を参照して、第６４実施形態における上側装飾ユニットＰ６０１４ａについて説明する。上記第６０実施形態では、上側装飾ユニットＰ１４ａにおいて最前面に装飾構成部Ｐ３７０が配設される場合を説明したが、第６４実施形態では、装飾構成部Ｐ３７０の板状部Ｐ３７１ｂの更に前方側に把時手段Ｐ６３９０が配設される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【７６３１】

図３９７は、第６４実施形態における上側装飾ユニットＰ６０１４ａの正面図であり、図３９８は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を閉鎖すると共に正面枠Ｐ６０１４を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｐ６０１０の正面斜視図であり、図３９９は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を閉鎖すると共に正面枠Ｐ６０１４を開放（展開）した状態において化粧ユニットＰ６３０２を本体枠Ｐ１４ｄから離間させた（取り外した）状態を示すパチンコ機Ｐ６０１０の分解正面斜視部である。

【７６３２】

把持手段Ｐ６３９０は、内側が空洞になっており、その空洞に親指以外の指を差し込むようにして把持可能な形状で板状部Ｐ３７１ｂの正面側に張出形成される形状部であって、板状部Ｐ３７１ｂの前面に固定され正面側に円柱状に突設形成される円柱状部Ｐ６３９１と、その円柱状部Ｐ６３９１よりも下側の位置において板状部Ｐ３７１ｂの前面に固定される断面円形の延設部であって右面視でＬ字形状に形成されるＬ字形状延設部Ｐ６３９２と、そのＬ字形状部Ｐ６３９２に内嵌される態様で支持される円筒形状部Ｐ６３９３と、その円筒形状部Ｐ６３９３の上下方向内側において保持されており円筒形状部Ｐ６３９３よりも直径の長い円環形状に形成される円環形状部Ｐ６３９４と、を主に備える。

【７６３３】

把持手段Ｐ６３９０は、組み付け作業において作業者が片手で把持することを想定して設計されている。即ち、正面枠Ｐ６０１４を内枠Ｈ１２に対して開放した状態において、作業者が把持手段Ｐ６３９０を片手で把持して組み付け作業または取り外し作業を実行可

能に構成されている。
【７６３４】
Ｌ字形状延設部Ｐ６３９２の延設先端部は円柱状部Ｐ６３９１の前端部に当接される位置まで延設されており、Ｌ字形状延設部Ｐ６３９２と円柱状部Ｐ６３９１とで後方に開放するＵ字形状を構成する。
【７６３５】
円柱状部Ｐ６３９１及びＬ字形状延設部Ｐ６３９２の後方基端部は、板状部Ｐ３７１ｂの前面に固定される。これにより、把持手段Ｐ６３９０を把持して加えられる作業者の力を化粧ユニットＰ６３０２に確実に伝えることができ、組み付け作業および取り外し作業を行う作業者の負担を低減させることができる。
【７６３６】
円筒形状部Ｐ６３９３は、円柱状部Ｐ６３９１及びＬ字形状延設部Ｐ６３９２の後方基端部から離れた位置に配設され、断面の外形が円柱状部Ｐ６３９１及びＬ字形状延設部Ｐ６３９２の直径よりも大きな直径の円形とされる。そのため、円筒形状部Ｐ６３９３が把持手段Ｐ６３９０を把持した作業者の手に対する引っかかりとなり、作業者の手が滑ることを避けられる。
【７６３７】
よって、把持手段Ｐ６３９０を把持して加えられる作業者の力を化粧ユニットＰ６３０２に確実に伝えることができ、組み付け作業および取り外し作業を行う作業者の負担を低減させることができると共に、作業者が誤って手を滑らして化粧ユニットＰ６３０２を脱落させる可能性を低くすることができる。
【７６３８】
円環形状部Ｐ６３９４は、円筒形状部Ｐ６３９３の外周に沿って回転動作可能に構成される。この回転動作は、化粧ユニットＰ６３０２の組み付け作業または取り外し作業が把持手段Ｐ６３９０を片手で把持して行われる場合に、作業者が手のひらを怪我する可能性を低くするために可能とされる。この観点から、３６０度未満の角度で回転可能に構成される。本実施形態では、少なくとも約１２０度の回転角度で回転可能とされる。
【７６３９】
回転動作の方向は、円環形状部Ｐ６３９４の手前側部が化粧ユニットＰ６３０２の右側に向けて回転可能に構成されており、これにより化粧ユニットＰ６３０２をベースユニットＰ３０１から離間させる場合において、把持手段Ｐ６３９０を把持している手を円環形状部Ｐ６３９４周りで容易に回すことができ、作業者が手首を化粧ユニットＰ６３０２の移動方向の逆側に移動させ易くなるので、作業者の手首が化粧ユニットＰ６３０２と平行移動する必要がある場合に比較して無理なく作業を行うことができる。
【７６４０】
なお、円環形状部Ｐ６３９４の回転動作は、少なくとも約１２０度の回転角度が満足されていれば十分であり、その構成は何ら限定されるものではない。例えば、３６０度以上の回転が可能に構成されても良いし、約１２０度までの回転角度を可能とするように回転を規制する規制部が構成され約１２０度を超える回転は不可能に構成されても良い。
【７６４１】
また、化粧ユニットＰ６３０２の取り外し作業および組み付け作業の両方において作業者が把持手段Ｐ６３９０を把持する場合、円環形状部Ｐ６３９４が正逆両方向に同様の角度で回転動作されることになるので、化粧ユニットＰ６３０２の組付完了位置における円環形状部Ｐ６３９４の位相は元通りとなり、円環形状部Ｐ６３９４の位相の違いによって正面視における意匠が変化する構成であっても化粧ユニットＰ６３０２が組付完了位置に配置された場合に正面視における意匠を安定させることができる。
【７６４２】
次いで、図４００から図４１１を参照し、第６５実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｐ７０１０に適用した場合の一実施形態について説明する。上記第６０実施形態では、正面枠Ｐ１４が配設されるパチンコ機Ｐ１０につ

いて説明したが、第６５実施形態におけるパチンコ機Ｐ７０１０では、正面枠Ｐ７０１４が配設される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【７６４３】

図４００は、第６５実施形態におけるパチンコ機Ｐ７０１０の正面図であり、図４０１は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を閉鎖すると共に正面枠Ｐ７０１４を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｐ７０１０の正面斜視図であり、図４０２は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を閉鎖すると共に正面枠Ｐ７０１４を開放（展開）した状態において化粧ユニットＰ７３０２を本体枠Ｐ１４ｄから離間させた（取り外した）状態を示すパチンコ機Ｐ７０１０の分解正面斜視部であり、図４０３は、パチンコ機Ｐ７０１０の上面図である。

【７６４４】

本体枠Ｐ１４ｄは、正面側には化粧ユニットＰ７３０２が配設される一方、背面側には内枠Ｈ１２が対向配置される。内枠Ｈ１２に面する背面の左端側には、後方へ延設され、その延設端部から左方へ延設される態様で左側が開放される断面形状が上下方向に延設される形状で形成される対向構成が備えられており、内枠Ｈ１２の左端側の上下延設部と対向配置される。

【７６４５】

図４０１に図示されるように、遊技盤Ｈ１３の下方には球発射ユニットＨ１１２ａが配設されており、正面枠Ｐ７０１４が内枠Ｈ１２に対して閉鎖された状態で往復振動手段である球発射ユニットＨ１１２ａから発射された遊技球が遊技盤Ｈ１３とガラスユニットＨ１６との間に形成される遊技領域を流下可能に構成されている。

【７６４６】

また、以下の説明では、図４００に示す状態のパチンコ機Ｐ７０１０について、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図４００に示す状態のパチンコ機Ｐ７０１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図４００参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ｐ７０１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【７６４７】

また、特段の説明がない限り、パチンコ機Ｐ７０１０を遊技する遊技者は、パチンコ機Ｐ７０１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置し、パチンコ機Ｐ７０１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に視線を向けた状態（パチンコ機Ｐ７０１０の正面側と対面した状態）で遊技するものとして説明する。

【７６４８】

本実施形態では、外枠Ｈ１１の正面視左側（矢印Ｌ方向側）にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視右側（矢印Ｒ方向側）を正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能とされるが、外枠Ｈ１１の正面視右側にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視左側を正面手前側へ開閉可能としても良く、又、ヒンジＨ１８を外枠Ｈ１１の正面視下側（矢印Ｄ方向側）の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に取り付け、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視上側（矢印Ｕ方向側）を正面手前側へ開閉可能とするものであっても良い。

【７６４９】

内枠Ｈ１２は、外枠Ｈ１１と外形がほぼ同一の長方形状に形成される枠形成ユニットＨ１２ａと、その枠形成ユニットＨ１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に回動可能に支持される裏パックユニットＨ９４とを主に備えて形成され、裏パックユニットＨ９４が正面視で左側（矢印Ｌ方向側）を回動基端側（開閉基端側）とし、右側（矢印Ｒ方向側）を回動先端側（開閉先端側）として後方へ回動可能とされている（図３４２参照）。

【７６５０】

また、内枠Ｈ１２には、枠形成ユニットＨ１２ａと裏パックユニットＨ９４とで正面側

（矢印Ｆ方向側）が開放する略箱状に形成された内側に多数の釘や入賞口Ｈ６３，Ｈ６４等を有する遊技盤Ｈ１３（図３４４及び図３４５参照）が配設されており、遊技盤Ｈ１３から離間した左前側端部において右側へ張り出す張出部が上下方向に延設される上下延設部を備えている。この遊技盤Ｈ１３の正面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。

【７６５１】

なお、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、左側（矢印Ｌ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の左端部を支持する目的の左端支持部Ｈ１２ａ１と、右側（矢印Ｒ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の右端部を支持する目的の盤面支持装置Ｈ１２ａ２が配設される。遊技盤Ｈ１３は、左端支持部Ｈ１２ａ１にベース板Ｈ６０の左側端部が挿入されつつ枠状取付部である内枠Ｈ１２の背面側（矢印Ｂ方向側）に押し込まれた後、盤面支持装置Ｈ１２ａ２が操作されて盤面支持装置Ｈ１２ａ２がベース板Ｈ６０の正面と係合する（ベース板Ｈ６０の正面を支持する）ことで内枠Ｈ１２の内側に固定される。

【７６５２】

ここで、内枠Ｈ１２側と正面枠Ｐ７０１４側とを電気的に接続する電気配線（ハーネス）の配設について説明する。ここで説明する電気配線は、既に説明した上述の実施形態でも共通の事項であって、一般的に知られた事項であるが、改めて説明する。

【７６５３】

正面枠Ｐ７０１４の背面側には、上部の左右隅部に締結固定される樹脂製のカバー部材であって、背面側へ膨出するカバー部材ＰＣＶ１，ＰＣＶ２が取り付けられている。カバー部材ＰＣＶ１，ＰＣＶ２の正面側には、電飾部Ｐ３０やスピーカー組立体Ｐ３３２に電気を導通する配線のコネクタや、電飾部Ｐ２９，Ｐ３１，Ｐ３２，Ｐ３３の内部基板と一方の端部が連結されるコネクタの他方の端部が連結される電子基板が配設され、その電子基板及びコネクタがカバー部材ＰＣＶ１，ＰＣＶ２により覆われる。

【７６５４】

内枠Ｈ１２の左側であって球発射ユニットＨ１１２ａの左方には、ハーネスが連結される複数のコネクタＣＮ１～ＣＮ３を備える基板Ｐ１６７が配設されている。

【７６５５】

基板Ｐ１６７は、コネクタＣＮ１，ＣＮ２，ＣＮ３を備える。なお、基板Ｐ１６７は、コネクタＣＮ１，ＣＮ２が配設される箇所と、コネクタＣＮ３が配設される箇所とが、別基板で構成される。これは、コネクタＣＮ１，ＣＮ２が主制御装置Ｈ１１０との伝送に使用される一方で、コネクタＣＮ３は音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図３４８参照）との伝送に使用されるように、伝送の対象が違うので、基板を別とすることで誤作動を予め防止する意図による。

【７６５６】

なお、操作ユニットＰ１８０やスピーカーユニットＰ９２０（図３７９参照）に電力を供給するハーネス（コネクタＣＮ３に接続されるハーネス）は、本体枠Ｐ１４ｄの背面側において左右に長い空間を構成する長尺カバー部材ＰＣＶ３の内部空間を案内され、その長尺カバー部材ＰＣＶ３の右端位置において本体枠Ｐ１４ｄに前後方向に穿設される配線通し孔に挿通され、本体枠Ｐ１４ｄの前方側において操作ユニットＰ１８０と接続される。

【７６５７】

正面枠Ｐ７０１４の窓部Ｐ１４ｅ（図４００参照）よりも下側では、本体枠Ｐ１４ｄの背面側における正面枠Ｐ７０１４の回動基端側において、可動式の結束可動部材Ｐ２８０が締結固定される。結束可動部材Ｐ２８０は、ハーネスを結束した状態で遊技機上下方向に延びる回転軸を中心に回転移動可能に支持されるアーム状の可動部材であって、部材自体の剛性を利用して電気配線の下方への弛みを防止するよう構成される。

【７６５８】

なお、本実施形態では、操作ハンドルＨ５１（図４００参照）に接続されるハーネス（コネクタＣＮ１に接続されるハーネス）及び貸球操作部Ｈ４０（図４００参照）に接続さ

れるハーネス（コネクタＣＮ２に接続されるハーネス）は、それぞれ中継基板なしで結束可動部材Ｐ２８０まで案内され、それぞれ結束可動部材Ｐ２８０に結束される。
【７６５９】
一方で、各電飾部Ｐ２９～Ｐ３３、操作ユニットＰ１８０又は枠ボタンＨ１９０（図４００参照）にそれぞれ接続されるハーネスは、通路形成ユニットＨ１４０の正面側の空間に配設される中継基板に接続され（集合され）、その中継基板から一束の延長ハーネス（コネクタＣＮ３に接続されるハーネス）が結束可動部材Ｐ２８０へ向かい、その延長ハーネスが結束可動部材Ｐ２８０に結束される。
【７６６０】
ハーネスの導通が不通となることを契機として、エラー信号を出力すると共に警報を鳴らすように（エラー画面を表示するように）制御すること等で、不正を迅速に発見することができる。従って、不正行為を行う者が不正の利益を得ることを防止することができる。
【７６６１】
詳述すると、コネクタＣＮ１に接続されるハーネスは上述したように操作ハンドルＨ５１（図４００参照）に接続されるので、ハーネスが焼き切れた場合には、操作ハンドルＨ５１を回転させても球を発射することができなくなる。そのため、不正行為がされた後、その不正行為が発覚するまでの期間を短くすることができる（不正行為の早期発覚を図ることができる）。
【７６６２】
また、コネクタＣＮ２に接続されるハーネスは、上述したように球貸操作部Ｈ４０（図４００参照）に接続されるので、ハーネスが焼き切れた場合には、球貸しボタンＨ４２の操作および返却ボタンＨ４３（図３５３参照）の操作が不能となる。
【７６６３】
そもそも、コネクタＣＮ２に接続されるハーネスの接続が断たれると、カードユニット（球貸しユニット）（図示せず）の断線エラー（ＣＲエラー）が出力される遊技機店では、その断線エラー（ＣＲエラー）を確認することにより、容易に不正行為の可能性を把握することができる。
【７６６４】
図４００に図示されるように、パチンコ機Ｐ７０１０の正面枠Ｐ７０１４では、パチンコ機Ｐ１０の上側装飾ユニットＰ１４ａの代わりに、上側装飾ユニットＰ７０１４ａが配設される。上側装飾ユニットＰ７０１４ａは、本体枠Ｐ１４ｄの正面側に締結固定されるベースユニットＰ７３０１と、そのベースユニットＰ７３０１の正面側に配設される化粧ユニットＰ７３０２とを主に備える。
【７６６５】
ベースユニットＰ７３０１は、特に説明しない場合は、上述したベースユニットＰ３０１の主要な構成を具備し、化粧ユニットＰ７３０２も同様に、上述した化粧ユニットＰ３０２の主要な構成を具備する。上側装飾ユニットＰ７０１４ａは、後述する内部機構により、簡単な操作手順で化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に対して脱着可能に構成される。
【７６６６】
上側装飾ユニットＰ７０１４ａは、化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に対して脱着させる際、正面枠Ｐ７０１４を内枠Ｈ１２に対して開放させた状態であると、目印となる板状部Ｐ３１４の間の領域がデータカウンターＰＤｃ（図４０３参照）の下方よりも前方側に移動可能となるため視線が通り易くなるし、正面枠Ｐ７０１４よりも後方の領域において操作部Ｐ３２２ａを視認可能となるため、正面枠Ｐ７０１４が内枠Ｈ１２に対して閉鎖された状態に比較して、化粧ユニットＰ７３０２の組み付け作業が完了したことを確認し易いことは上側装飾ユニットＰ１４ａと同様である。
【７６６７】
一方で、上側装飾ユニットＰ１４ａにおける組み付け作業は、化粧ユニットＰ３０２を

ベースユニットＰ３０１の前方からスライド移動させることで行われる。この場合、作業者は、正面枠Ｐ１４よりも後方側から板状部Ｐ３１４の間の領域や操作部Ｐ３２２ａを視認しながら、正面枠Ｐ１４の前方側において化粧ユニットＰ３０２をベースユニットＰ３０１に対して近接離間させるように化粧ユニットＰ３０２を把持している腕を動かすことになるが、作業者の腕が短い場合等、作業自体が困難となる可能性がある。

【７６６８】

また、パチンコ機は遊技ホールに左右に近接されて設置されることが通常であるところ、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２に対して開放させた状態から更に正面枠Ｐ１４の上側装飾ユニットＰ１４ａを正面枠Ｐ１４の前方側へ離間させる際に、左隣に設置されているパチンコ機との接触を避ける必要があり、作業者に窮屈な作業を強いることになったり、そもそも作業自体が困難となったりする可能性が有る。

【７６６９】

これに対し、化粧ユニットＰ７３０２は、正面枠Ｐ７０１４の前方における左側の領域への進入度合が減るような構成が採用されている。換言すれば、化粧ユニットＰ７３０２を正面枠Ｐ７０１４に対して右側から近接離間させることが可能となるように構成されている。

【７６７０】

これにより、正面枠Ｐ７０１４を内枠Ｈ１２に対して開放させることで、枠状取付部である正面枠Ｐ７０１４の前面がパチンコ機Ｐ７０１０の前方ではなく左斜め前を向く場合であっても、化粧ユニットＰ７３０２を同様にパチンコ機Ｐ７０１０の左斜め前から組み付けるのではなく、パチンコ機Ｐ７０１０の前方側から近接させて組み付けることが可能とされている。

【７６７１】

正面枠Ｐ７０１４の前方における左側の領域への進入度合が減るような構成として、例えば、正面枠Ｐ１４のように右側装飾ユニットＰ１４ｃが本体枠Ｐ１４ｄに締結固定される構成の代わりに、正面枠Ｐ７０１４では、右側装飾ユニットＰ１４ｃの後半分と同様の外形で構成される分割右側装飾ユニットＰ７０１４ｃのみが本体枠Ｐ１４ｄに締結固定され、右側装飾ユニットＰ１４ｃの前半分と同様の形状で構成される分割前板部Ｐ７４８０が化粧ユニットＰ７３０２に形成される。

【７６７２】

これにより、正面枠Ｐ１４に比較して、正面枠Ｐ７０１４の前方側右端部における分割右側装飾ユニットＰ７０１４ｃの張出長さが抑えられており、経路が空くので、化粧ユニットＰ７３０２を正面枠Ｐ７０１４に対して右側から近づけ易くすることができる。

【７６７３】

分割右側装飾ユニットＰ７０１４ｃにＬＥＤ等が配設される電飾基板が配設される一方で、分割前板部Ｐ７４８０は自ら発光するのではなく、分割右側装飾ユニットＰ７０１４ｃのカバーとして機能する。即ち、分割前板部Ｐ７４８０には電飾基板は配設されず、分割右側装飾ユニットＰ７０１４ｃから照射された光を分割前板部Ｐ７４８０で透過させたり、屈折させたりした後で遊技者に視認させるように構成される。

【７６７４】

分割前板部Ｐ７４８０は、正面枠Ｐ７０１４が開放される右側に立って作業を行う作業者に近い右側に配設されているので、作業者は所定の取付対象である化粧ユニットＰ７３０２を脱着させる作業を行う際に、分割前板部Ｐ７４８０を持ち手として利用しても良い。この場合、例えば化粧ユニットＰ７３０２の前側傾斜部Ｐ３５５の左右方向中央部を把持する場合に比較して手を伸ばす長さを短くすることができるので、腕の短い作業者であっても問題なく脱着作業を行うことが可能となる。

【７６７５】

特に、分割前板部Ｐ７４８０の背面側を突起が少なく滑らかな平面（曲面）で構成することで、持ち手として好適に利用することができる。即ち、作業者が分割前板部Ｐ７４８０を握り込んだ場合であっても、手を痛めることなく楽に作業をすることができる。また

、分割前板部Ｐ７４８０の背面側は、化粧ユニットＰ７３０２の合体状態において近接する分割右側装飾ユニットＰ７０１４ｃに対向配置されることで、遊技者からは見え難くされるため、形状設計によって意匠感を損なうことはないので、不利なく作業性の向上を図ることができる。

【７６７６】

図４０４は、上側装飾ユニットＰ７０１４ａの分解正面斜視図であり、図４０５は、上側装飾ユニットＰ７０１４ａの分解背面斜視図である。図４０４及び図４０５に図示されるように、上側装飾ユニットＰ７０１４ａは、本体枠Ｐ１４ｄ（図４０２参照）の正面側に締結固定されるベースユニットＰ７３０１と、そのベースユニットＰ７３０１の正面側に配設される化粧ユニットＰ７３０２とを主に備える。

【７６７７】

上側装飾ユニットＰ７０１４ａは、後述する内部機構により、簡単な操作手順で化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に対して脱着可能に構成される。以下では、まず化粧ユニットＰ７３０２について説明し、ベースユニットＰ７３０１について説明した後で、次いで、内部機構の詳細および操作手順について説明する。

【７６７８】

化粧ユニットＰ７３０２は、３本のうち右端の係止棒部材Ｐ３８０の形成が省略される他は、上述した化粧ユニットＰ３０２の有する基本的な構成を具備しており、追加で、前側傾斜部Ｐ３５５よりも後方側において右側から矩形状に凹設形成される受入凹部Ｐ７３９１と、その受入凹部Ｐ７３９１と面一の上面を有しており後方に張出形成される張出形成部Ｐ７３９２と、その張出形成部Ｐ７３９２の下面から下方へ向けて円柱状に突設形成される第１円柱状突部Ｐ７３９３と、受入凹部Ｐ７３０１の前側部の下面から下方へ向けて円柱状に突設形成される第２円柱状突部Ｐ７３９７と、を主に備える。

【７６７９】

また、ベース部材Ｐ３５０は、ベース部材Ｐ３５０の主要な構成を具備する樹脂材料から形成されるベース部材Ｐ７３５０に入れ替えられており、そのベース部材Ｐ７３５０は、ベース部材Ｐ３５０の構成の他に、天板から下方に突設されることで一体成形される突設形成部Ｐ７３５９を備える。

【７６８０】

また、化粧ユニットＰ７３０２は、ベース部材Ｐ７３５０の上面構成板部の下側から突設形成される回転防止突部Ｐ７３８６を備える。回転防止突部Ｐ７３８６は化粧ユニットＰ７３０２の組み付け易さに関わる構成であるが、詳細は後述する。

【７６８１】

第１円柱状突部Ｐ７３９３と第２円柱状突部Ｐ７３９７とは、共に下方へ向けて突設されていることから互いに平行に形成されており、上面視で重ならない位置（同軸ではない位置）に配設される。

【７６８２】

ベースユニットＰ７３０１は、化粧ユニットＰ７３０２において省略された右端の係止棒部材Ｐ３８０に対応するＰ３２１ｇの形成が省略される他は、上述したベースユニットＰ３０１の有する基本的な構成を具備しており、追加で、音響構成部Ｐ７３３０の右側部分において、上蓋部材Ｐ７３３４の前端側において延設される案内支持部Ｐ７３３５と、その案内支持部Ｐ７３３５よりも下側において長孔として形成される下側受部Ｐ７３３８と、を主に備える。

【７６８３】

また、切替構成部Ｐ３２０の主要な構成を具備する切替構成部Ｐ７３２０が切替構成部Ｐ３２０に代替されている。切替構成部Ｐ７３２０では、ベースカバーＰ３２１の主要な構成を具備する樹脂材料から形成されるベースカバーＰ７３２１がベースカバーＰ３２１に代替されており、ベースカバーＰ７３２１には、後方側において左側から凹設形成される凹設形成部Ｐ７３２１ｊと、その凹設形成部Ｐ７３２１ｊの上下方向の途中位置において水平方向に張り出される水平張出部Ｐ７３２１ｋと、を主に備える。

【７６８４】
案内支持部Ｐ７３３５は、内側において上下方向に開口される長孔Ｐ７３３６が形成されており、この長孔Ｐ７３３６は上下方向視で下側受部Ｐ７３３８と重ならない位置に形成される。
【７６８５】
ここで、化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に組み付ける場合において、第１円柱状突部Ｐ７３９３を長孔Ｐ７３３６で案内可能であって、第２円柱状突部Ｐ７３９７を下側受部Ｐ７３３８で案内可能に構成される。
【７６８６】
即ち、長孔Ｐ７３３６の前側端部に第１円柱状突部Ｐ７３９３が上方から挿通され、下側受部Ｐ７３３８の前側端部に第２円柱状突部Ｐ７３９７が上方から挿通されると、化粧ユニットＰ７３０２がベースユニットＰ７３０１に対して前後方向に傾斜しない姿勢（対向する姿勢）でベースユニットＰ７３０１に保持され、その姿勢を保ちながら長孔Ｐ７３３６及び下側受部Ｐ７３３８に沿って案内されることで、化粧ユニットＰ７３０２がベースユニットＰ７３０１に組み付けられるように構成される。
【７６８７】
この場合、化粧ユニットＰ７３０２は、右端部がベースユニットＰ７３０１に対して上方から近づけられるため、正面枠Ｐ７０１４が開放される右側に立って作業を行う作業者は化粧ユニットＰ７３０２の上下位置を変化させれば済むこととなり、ベースユニットＰ７３０１に対して前方から近づけられる場合のように正面枠Ｐ７０１４の前方に手を伸ばす必要が生じる場合に比較して楽に組み付け作業を行うことができる。
【７６８８】
第１円柱状突部Ｐ７３９３と第２円柱状突部Ｐ７３９７とが同軸ではないため、第１円柱状突部Ｐ７３９３を支持する案内支持部Ｐ７３３５が第２円柱状突部Ｐ７３９７と干渉することを避け易くすることができる。
【７６８９】
即ち、化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に上方から近づけるだけで、第１円柱状突部Ｐ７３９３を長孔Ｐ７３３６に位置させると同時に第２円柱状突部Ｐ７３９７を下側受部Ｐ７３３８に位置させることができるため、複数位置で化粧ユニットＰ７３０２を支持することができ、支持の安定を図ることができると共に、支持力を分散させることができる。
【７６９０】
図４０５に図示されるように、後方から見下ろす方向視では、案内支持部Ｐ７３３５は容易に視認可能であるが、下側受部Ｐ７３３８が視認されない。そのため、下側受部Ｐ７３３８を視認した上で第２円柱状突部Ｐ７３９７を下側受部Ｐ７３３８に差し込む場合は、作業者は目線を変える必要がある。
【７６９１】
これに対し、本実施形態では、作業者は下側受部Ｐ７３３８を視認せずとも、第２円柱状突部Ｐ７３９７を下側受部Ｐ７３３８に受け入れさせることができる。即ち、覆設部材Ｐ７３３３におけるスピーカーカバーＰ２７の上方側を覆う上方覆設部Ｐ７３３３ｄの上面は、左右外側へ向かうほど下降傾斜し、且つ、前方へ向かうほど下降傾斜する山形状に形成されるため、第２円柱状突部Ｐ７３９７が上方覆設部Ｐ７３３３ｄの右半部に乗りさえすれば、上方覆設部Ｐ７３３３ｄの形状に沿って第２円柱状突部Ｐ７３９７が下側受部Ｐ７３３８に案内される。
【７６９２】
そのため、下側受部Ｐ７３９３は視認できず、案内支持部Ｐ７３３５のみが視認可能な目線であっても、作業者は、第１円柱状突部Ｐ７３９３を長孔Ｐ７３３６に位置させると同時に第２円柱状突部Ｐ７３９７を下側受部Ｐ７３３８に位置させることを容易に行うことができる。
【７６９３】

このように、本実施形態によれば、作業者は、正面枠Ｐ７０１４よりも後方側から板状部Ｐ３１４の間の領域や操作部Ｐ３２２ａを視認可能な位置から頭の位置を動かすことなく、第１円柱状突部Ｐ７３９３を長孔Ｐ７３３６に位置させると同時に第２円柱状突部Ｐ７３９７を下側受部Ｐ７３３８に位置させることから開始される化粧ユニットＰ７３０２のベースユニットＰ７３０１に対する組み付けを容易に行うことができる。

【７６９４】

そのため、前後方向スライドで組み付けを行う場合のように、化粧ユニットＰ３０２の位置合わせを正面枠Ｐ１４の表側で行う一方で、組み付け完了の確認は正面枠Ｐ１４の裏側で行うことから作業者が頭の位置を変えないといけない場合に比較して、作業負担を低減することができる。

【７６９５】

化粧ユニットＰ７３０２のベースユニットＰ７３０１に対する組み付けの作業は、第１円柱状突部Ｐ７３９３を長孔Ｐ７３３６に位置させると同時に第２円柱状突部Ｐ７３９７を下側受部Ｐ７３３８に位置させることから開始され、組み付けの完了時には案内筒部Ｐ３２１ｇに係止棒部材Ｐ３８０が挿通されることになる。

【７６９６】

一方で、第１円柱状突部Ｐ７３９３及び第２円柱状突部Ｐ７３９７を、長孔Ｐ７３３６及び下側受部Ｐ７３３８に位置させることなく、係止棒部材Ｐ３８０の高さを案内筒部Ｐ３２１ｇの高さに合わせて、前後方向にスライド移動させることによっても係止棒部材Ｐ３８０を案内筒部Ｐ３２１ｇに近づけることができるが、第１円柱状突部Ｐ７３９３が案内支持部Ｐ７３３５の前側端部と干渉することで、それ以上のスライド移動が規制されることで、化粧ユニットＰ７３０２のベースユニットＰ７３０１に対する組み付けが不可能となるように構成される。

【７６９７】

これにより、ベースユニットＰ７３０１に対する化粧ユニットＰ７３０２の組み付け作業の標準化を図ることができる。即ち、不慣れな作業者がベースユニットＰ７３０１に対して化粧ユニットＰ７３０２を前後方向でのスライド移動で脱着させるように作業を行ってしまい、隣接するパチンコ機に化粧ユニットＰ７３０２を衝突させることになる事態を未然に防ぐことができる。

【７６９８】

突設形成部Ｐ７３５９は、後端部が、左側端部を基点として右側へ延設された平面形状で形成されており、上下方向の途中位置において右端から左方へ凹設される凹設部Ｐ７３５９ａと、左側端部の前側端部よりも後方側に位置する前側形成部Ｐ７３５９ｂと、を主に備える。

【７６９９】

このような形状により、突設形成部Ｐ７３５９は、切替構成部Ｐ７３２０の凹設形成部Ｐ７３２１ｊの後方側に前側形成部Ｐ７３５９ｂが入り込み、凹設部Ｐ７３５９ａにより水平張出部Ｐ７３２１ｋが受け入れられることで、互いに係合するように構成される。

【７７００】

この係合は、ベースユニットＰ７３０１に対する化粧ユニットＰ７３０２の上下方向位置を一定とした状態で化粧ユニットＰ７３０２を水平方向に移動させる場合に好適に生じるよう構成される。一方で、上下方向の変化に対しては制限を生じさせるように構成されている。

【７７０１】

例えば、化粧ユニットＰ７３０２のベースユニットＰ７３０１に対する固定状態に前後方向位置を先に合わせた後で化粧ユニットＰ７３０２を上下方向にスライド移動させることによる組み付けは、突設形成部Ｐ７３５９の下面が水平張出部Ｐ７３２１ｋの上面と衝突することで防止される。

【７７０２】

第２円柱状突部Ｐ７３９７は、第１円柱状突部Ｐ７３９３よりも太い形状で設計される

。これにより、第２円柱状突部Ｐ７３９７をより丈夫に構成することができる。組み付け作業を行う作業者の視界（例えば、図４０５の方向視）では、遮蔽物により下側受部Ｐ７３３８（図４０４参照）が見え難くなる場合があり、第２円柱状突部Ｐ７３９７が下側受部Ｐ７３３８の周辺と衝突することが多くなるが、第２円柱状突部Ｐ７３９７が太い形状で設計されていることにより、第２円柱状突部Ｐ７３９７が折れたり欠けたりする事態を避けることができる。

【７７０３】

突設形成部Ｐ７３５９は、化粧ユニットＰ７３０２のベース部材Ｐ７３５０の後方側寄りに位置される。これにより、突設形成部Ｐ７３５９が正面側から視認される可能性を低くすることができる。

【７７０４】

加えて、突設形成部Ｐ７３５９は、正面視で装飾構成部Ｐ３７０と重ならない位置（左側に離間した外方位置）に配設される。これにより、装飾構成部Ｐ３７０が透過性材料から形成される部分を有しており後ろ側が透視される態様であっても、突設形成部Ｐ７３５９が正面側から視認されることを回避することができるので、突設形成部Ｐ７３５９が化粧ユニットＰ７３０２の意匠性に影響を与えないようにすることができる。

【７７０５】

更に、対向構成である突設形成部Ｐ７３５９は、切替構成部Ｐ７３２０の凹設形成部Ｐ７３２１ｊの後方側に入り込むことから、凹設形成部Ｐ７３２１ｊによって隠されることで、突設形成部Ｐ７３５９が正面側から視認されることを回避することができるので、突設形成部Ｐ７３５９が化粧ユニットＰ７３０２の意匠性に影響を与えないようにすることができる。

【７７０６】

ベースカバーＰ７３２１は、上面部において左右方向に長い長孔として形成される案内長孔Ｐ７３２１ｌと、その案内長孔Ｐ７３２１ｌからの脱落が防止されるように基端側が支持されており上方に張り出し後方に屈曲される鉤形状部が左右方向に変位可能に案内される係止部材Ｐ７３２１ｍと、を備え、上蓋部Ｐ３４３ｃの形成長さが短くされることで凹設形成部３２１ｉとの間に構成される開口部を通して受け入れられる電気配線（ハーネス）が接続される端子部Ｐ７３２１ｎが配設される中継基板を備える。

【７７０７】

端子部Ｐ７３２１ｎが配設される中継基板には、電飾部Ｐ２９，Ｐ３１，Ｐ３２，Ｐ３３等の内部基板に一端側が接続される電気配線（ハーネス）の他端側が、上述の配線挿通孔Ｐ３１３，Ｐ３３１ａ（図３５７参照）に挿通された後で凹設形成部Ｐ３２１ｉに形成される上縁から右下方向に抜ける貫通路を通して案内された上で、端子部Ｐ７３２１ｎとは異なる端子部（図示せず）に接続される。即ち、端子部Ｐ７３２１ｎが配設される中継基板は、電飾部Ｐ２９，Ｐ３１，Ｐ３２，Ｐ３３等の内部基板と同様に、音声ランプ制御装置Ｈ１１３に接続される（図３４８参照）。

【７７０８】

化粧ユニットＰ７３０２は、受入凹部Ｐ７３９１の左端部から左奥方向へ凹設形成される収容空間に左右方向にスライド移動させることで差し込まれる挿入基板Ｐ７３９１ａと、その挿入基板Ｐ７３９１ａを前後位置から挟み込むように支持すると共に下側への移動を規制可能な断面Ｌ字の形状から形成される脱落防止部Ｐ７３９１ｂと、を備える。

【７７０９】

挿入基板Ｐ７３９１ａには一方の端部が電気的に接続される電気配線Ｐ７３９１ｃが配設されており、その電気配線Ｐ７３９１ｃの他方の端部はベースカバーＰ７３２１に配設される端子部Ｐ７３２１ｎに接続される。

【７７１０】

端子部Ｐ７３２１ｎは上方側を向いているため、後方から見下ろす方向視で作業を行う作業者が電気配線Ｐ７３９１ｃを端子部Ｐ７３２１ｎに差し込む作業を行い易くすることができる。

【７７１１】
電気配線Ｐ７３９１ｃの一方の端部の挿入基板Ｐ７３９１ａにおける接続位置は前方側寄りの位置とされる。具体的には、化粧ユニットＰ７３０２の合体状態において、端子部Ｐ７３２１ｎよりも前方側の位置に設定される。
【７７１２】
図４０６、図４０７及び図４０８は、パチンコ機Ｐ７０１０の上面図である。図４０６から図４０８では、正面枠Ｐ７０１４を開放（展開）した状態において、化粧ユニットＰ７３０２がベースユニットＰ７３０１に組み付けられる過程が時系列で図示される。
【７７１３】
即ち、図４０６では、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を閉鎖すると共に正面枠Ｐ７０１４を開放（展開）した状態において化粧ユニットＰ７３０２がベースユニットＰ７３０１の案内支持部Ｐ７３３５の前方側端部に載置された開始状態が図示され、図４０７では、図４０６に図示された状態から化粧ユニットＰ７３０２の姿勢が維持された状態で化粧ユニットＰ７３０２がベースユニットＰ７３０１に接近した中間状態が図示され、図４０８では、図４０７に図示された状態から化粧ユニットＰ７３０２が回転移動されベースユニットＰ７３０１に対して固定された合体状態が図示される。
【７７１４】
図４０６から図４０８では、作業者が、所定の取付対象である正面枠Ｐ７０１４を背面側から押さえながら、化粧ユニットＰ７３０２に対して後方側への荷重を与えた場合における変化が時系列で図示される。
【７７１５】
化粧ユニットＰ７３０２のベースユニットＰ７３０１に対する組み付けの作業は、第１円柱状突部Ｐ７３９３を案内支持部Ｐ７３３５の長孔Ｐ７３３６に位置させると同時に第２円柱状突部Ｐ７３９７を下側受部Ｐ７３３８に位置させることから開始される。
【７７１６】
作業者は、正面枠Ｐ７０１４が開放される右側に立って作業を行うことが基本とされるところ、案内支持部Ｐ７３３５及び下側受部Ｐ７３３８が正面枠Ｐ７０１４の作業者に近い側（右側）に配置されるので、化粧ユニットＰ７３０２を正面枠Ｐ７０１４の正面側に一定間隔以上に離した状態から組み付け作業を開始する場合と違って作業者が手を伸ばす必要が無く、作業者の作業負担を低減させることができる。
【７７１７】
長孔Ｐ７３３６を構成する案内支持部Ｐ７３３５の右側部および下側受部Ｐ７３３８を構成する上方覆設部Ｐ７３３３ｄの右側部は、正面枠Ｐ７０１４の回転先端側に位置するので、正面枠Ｐ７０１４の開放による前方への変位量が大きい。詳細には、正面枠Ｐ７０１４の右端よりも前方に位置することから、背面側からの方向視（例えば、図４０５参照）であっても、案内支持部Ｐ７３３５の右側部および上方覆設部Ｐ７３３３ｄの右側部が視界に入り易くでき、作業効率を向上させることができる。
【７７１８】
案内支持部Ｐ７３３５の右側部および上方覆設部Ｐ７３３３ｄの右側部は、正面枠Ｐ７０１４の開放の度合いが大きくなるほど、パチンコ機Ｐ７０１０の正面側における左右中央側に移動する。これにより、化粧ユニットＰ７３０２のベースユニットＰ７３０１に対する組み付けの作業を開始する作業スペースを広く確保することができる。
【７７１９】
特に、パチンコ機Ｐ７０１０の左右側には隣接するパチンコ機との隙間が少ないため、案内支持部Ｐ７３３５の右側部および上方覆設部Ｐ７３３３ｄの右側部の位置によっては、隣のパチンコ機との領域を分けるサイドボードとの間の狭いスペースでの窮屈な作業を強いられることになる可能性があるところ、案内支持部Ｐ７３３５の右側部および上方覆設部Ｐ７３３３ｄの右側部がパチンコ機Ｐ７０１０の正面側における左右中央側に移動する構成により、作業スペースを広く確保することができる。
【７７２０】

この案内支持部Ｐ７３３５の右側部および上方覆設部Ｐ７３３３ｄの右側部の移動量および移動方向は、正面枠Ｐ７０１４の開放による移動量および移動方向と対応しており、正面枠Ｐ７０１４に対する案内支持部Ｐ７３３５の右側部および上方覆設部Ｐ７３３３ｄの相対的な位置は維持される。

【７７２１】

即ち、正面枠Ｐ７０１４に対する第１円柱状突部Ｐ７３９３や第２円柱状突部Ｐ７３９７の相対的な配置位置は正面枠Ｐ７０１４の開放の度合いが違っても変わらないため、正面枠Ｐ７０１４の背面側からの視界において案内支持部Ｐ７３３５の右側部または上方覆設部Ｐ７３３３ｄの右側部の少なくとも一方が見えていない場合であっても、前回の作業での経験を基に第１円柱状突部Ｐ７３９３を長孔Ｐ７３３６に位置させると同時に第２円柱状突部Ｐ７３９７を下側受部Ｐ７３３８に位置させる作業を完遂することができる。これにより、化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に組み付ける作業を容易とすることができる。

【７７２２】

図４０７では、第１円柱状突部Ｐ７３９３を長孔Ｐ７３３６に位置させると同時に第２円柱状突部Ｐ７３９７を下側受部Ｐ７３３８に位置させた開始状態（図４０６参照）から、第２円柱状突部Ｐ７３９７が下側受部Ｐ７３３８の後方側終端に位置するまで化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に対して近づけるように移動させた中間状態が図示される。

【７７２３】

下側受部Ｐ７３３８は、正面枠Ｐ７０１４の前後方向に対して傾斜する直線ＰＬ７３３０に沿って延びる長孔形状に形成される。即ち、直線ＰＬ７３３０に沿って化粧ユニットＰ７３０２が移動されることにより、化粧ユニットＰ７３０２は開始状態から中間状態へ変化される。

【７７２４】

長孔Ｐ７３３６の前側領域Ｐ７３３６ａは、直線ＰＬ７３３０に沿って形成される下側受部Ｐ７３３８と平行に延びる長孔形状で形成される。そのため、化粧ユニットＰ７３０２は、ベースユニットＰ７３０１に対する姿勢を一定に保った状態でベースユニットＰ７３０１に対して接近する方向に移動される。

【７７２５】

図４０８では、第２円柱状突部Ｐ７３９７が下側受部Ｐ７３３８の後方側終端に位置された中間状態（図４０７参照）における仮置き位置から、第２円柱状突部Ｐ７３９７を中心とする円弧線ＰＣ７３３０に沿って、第２円柱状突部Ｐ７３９７を中心軸として化粧ユニットＰ７３０２が回転移動され、第１円柱状突部Ｐ７３９３が長孔Ｐ７３３６の後方側終端に位置された合体状態が図示される。

【７７２６】

長孔Ｐ７３３６の後側領域Ｐ７３３６ｂは、下側受部Ｐ７３３８の後方側終端に位置した第２円柱状突部Ｐ７３９７を中心とする円弧線ＰＣ７３３０に沿う形状の長孔として前側領域Ｐ７３３６ａの後側終端から延設される。そのため、化粧ユニットＰ７３０２は、下側受部Ｐ７３３８の後方側終端に位置した第２円柱状突部Ｐ７３９７を中心とする回転移動によってベースユニットＰ７３０１に対して接近する。

【７７２７】

このように、化粧ユニットＰ７３０２は、第１円柱状突部Ｐ７３９３が長孔Ｐ７３３６の前側領域Ｐ７３３６ａに位置するか後側領域Ｐ７３３６ｂに位置するかによって許容される移動態様が切り替えられるように長孔Ｐ７３３６の形状が設計されている。そのため、作業者は、化粧ユニットＰ７３０２の移動態様を意識的に変化させることをせずとも、開始状態として案内支持部Ｐ７３３５に載置された化粧ユニットＰ７３０２に対してベースユニットＰ７３０１に近づける方向の荷重を加えれば、図４０６から図４０８に時系列に沿って図示される状態の変化を生じさせることができる。これにより、作業者の作業負担を低減させることができる。

【７７２８】
そして、図４０６から図４０８に時系列に沿って図示される状態の変化では、化粧ユニットＰ７３０２のベースユニットＰ７３０１に対する上下位置が一定とされていることから、突設形成部Ｐ７３５９が水平張出部Ｐ７３２１ｋと干渉することなく、上下延設部である凹設形成部Ｐ７３２１ｊに入り込むと同時に、水平張出部Ｐ７３２１ｋは突設形成部Ｐ７３５９の凹設部Ｐ７３５９ａに入り込む。
【７７２９】
仮に化粧ユニットＰ７３０２の左端（回転先端側）の上下位置が自重により目標位置よりも下がっている場合であっても、この凹凸嵌合（凹部への入り込み）により、化粧ユニットＰ７３０２の左端（回転先端側）の上下位置を目標位置まで上げることができる。上下方向が逆転している場合であっても、同じ作用を生じさせることができる。
【７７３０】
図４０８に図示される化粧ユニットＰ７３０２の合体状態において、突設形成部Ｐ７３５９の前側形成部Ｐ７３５９ｂと、凹設形成部Ｐ７３２１ｊの後面とが前後方向で対向配置されることにより、化粧ユニットＰ７３０２に前方へ向けた過負荷（左端側から無理矢理こじ開けて前方に移動させる荷重。例えば、案内支持部Ｐ７３３５及び下側受部Ｐ７３３８の形成方向ではなく、あそびとして設けられる隙間部分を前方に移動させる方向の荷重）が与えられたとしても、化粧ユニットＰ７３０２の前方への移動を機械的に防止することができる。
【７７３１】
また、同様の関係により、化粧ユニットＰ７３０２を前後方向への移動だけでベースユニットＰ７３０１に組み付けることが防止される。即ち、化粧ユニットＰ７３０２を合体状態での位置に前後方向への移動のみで到達させようとする場合に、突設形成部Ｐ７３５９と、ベースカバーＰ７３２１の凹設形成部Ｐ７３２１ｊを構成する箇所とが干渉することにより、このような組み付けを防止することができる。
【７７３２】
化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に組み付ける場合における電気配線Ｐ７３９１ｃの接続について説明する。作業手順としては、化粧ユニットＰ７３０２を開始状態または中間状態とした後で、電気配線Ｐ７３９１ｃを端子部Ｐ７３２１ｎに接続し、化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に対して回転移動させることで化粧ユニットＰ７３０２を合体状態とすることができる。
【７７３３】
この場合において、電気配線Ｐ７３９１ｃの途中箇所を係止部材Ｐ７３２１ｍの鉤形状部に引っかけるようにすることで、電気配線Ｐ７３９１ｃはベースカバーＰ７３２１の上面に支えられるので、自重で下に垂れることを避けることができる。
【７７３４】
更に、電気配線Ｐ７３９１ｃの弛み方が変化することに対して係止部材Ｐ７３２１ｍが左右方向への変位により対応することができるので、電気配線Ｐ７３９１ｃに無理な荷重をかけることなく、ベースカバーＰ７３２１の上面とベース部材Ｐ７３５０の天板下面との間の隙間に電気配線Ｐ７３９１ｃを収めることができる。
【７７３５】
このように、電気配線Ｐ７３９１ｃが係止部材Ｐ７３２１ｍに支持されることで配置が規定されるので、例えば、誤って化粧ユニットＰ７３０２とベースユニットＰ７３０１との間に挟まり、断線することを防止することができる。
【７７３６】
電気配線Ｐ７３９１ｃが端子部Ｐ７３２１ｎに接続されることで、挿入基板Ｐ７３９１ａが、音声ランプ制御装置Ｈ１１３に電気的に接続される（図３４８参照）。化粧ユニットＰ７３０２に電気的接続を要する構成（例えば、演出レバーＰ３３９０、図３９０参照）が配設される場合には、その電気的接続を要する構成に、挿入基板Ｐ７３９１ａに接続される他の電気配線（図示せず）が化粧ユニットＰ７３０２の内部経路を通って案内され

接続されるよう構成される。
【７７３７】
合体状態では、化粧ユニットＰ７３０２の係止棒部材Ｐ３８０が切替構成部Ｐ７３２０に十分に押込まれて化粧ユニットＰ７３０２が組付完了位置に到達している。化粧ユニットＰ７３０２の動作は回転移動であり、係止棒部材Ｐ３８０が切替構成部Ｐ７３２０に進入する方向は直線方向に平行移動する化粧ユニットＰ３０２（図３６４参照）とは厳密には異なるが、同様の構成により被操作部材Ｐ３２２及び追従動作部材Ｐ３２４との係合を生じさせることができる。
【７７３８】
但し、回転半径の短い位置では、角度変化に対する係止棒部材Ｐ３８０の方向の変化が大きいため、右端の係止棒部材Ｐ３８０については形成を省略し、化粧ユニットＰ７３０２と切替構成部Ｐ７３２０との干渉を避けている。
【７７３９】
より望ましくは、案内筒部Ｐ３２１ｇを真円形状ではなく左右方向に長い長孔形状とすることで、化粧ユニットＰ７３０２の回転移動に伴う係止棒部材Ｐ３８０の左右方向への位置ずれに対応させ易くすることができ、化粧ユニットＰ７３０２と切替構成部Ｐ７３２０との干渉を避けることができる。
【７７４０】
化粧ユニットＰ７３０２を取り外す場合、組み付ける場合とは逆に、合体状態から中間状態を経て、開始状態としてから化粧ユニットＰ７３０２を上方に引き抜けばよい。この取り外す作業において、化粧ユニットＰ７３０２の水平方向への移動は長孔Ｐ７３３６及び下側受部Ｐ７３３８の前端部でせき止められるので、移動量を目視で確認しておく必要はなく、楽に作業を行うことができる。
【７７４１】
加えて、化粧ユニットＰ７３０２は案内支持部Ｐ７３３５に下から支えられているため、作業者が化粧ユニットＰ７３０２から手を離したとしても、化粧ユニットＰ７３０２が落下する心配をすることなく、安全に作業を行うことができる。
【７７４２】
第１円柱状突部Ｐ７３９３及び第２円柱状突部Ｐ７３９７は、正面枠Ｐ７０１４のベースユニットＰ７３０１において他の箇所よりも前方に張り出す位置に構成される案内支持部Ｐ７３３５及び下側受部Ｐ７３３８に支持される。
【７７４３】
案内支持部Ｐ７３３５及び下側受部Ｐ７３３８を構成する箇所が正面視右側端部に配設されていることにより、正面枠Ｐ７０１４を開放した場合に左隣のパチンコ機に正面枠Ｐ７０１４が衝突することを未然に防ぐことができる。
【７７４４】
凹設形成部Ｐ７３２１ｊ及び水平張出部Ｐ７３２１ｋは、化粧ユニットＰ７３０２の開始状態から中間状態に変化される場合においては突設形成部Ｐ７３５９から離間しており、化粧ユニットＰ７３０２の移動に干渉しない。そのため、化粧ユニットＰ７３０２を上下方向にスライド移動させることで、第１円柱状突部Ｐ７３９３及び第２円柱状突部Ｐ７３９７を案内支持部Ｐ７３３５及び下側受部Ｐ７３３８に差し込み、支持させることができる。
【７７４５】
一方で、化粧ユニットＰ７３０２の合体状態では、凹設形成部Ｐ７３２１ｊ及び水平張出部Ｐ７３２１ｋと、突設形成部Ｐ７３５９とが近接しており、凹設部Ｐ７３５９ａに水平張出部Ｐ７３２１ｋが受け入れられていることで、化粧ユニットＰ７３０２の上下方向への移動に干渉する。
【７７４６】
これらの構成により、化粧ユニットＰ７３０２が中間状態から合体状態へ変化する際の移動時の姿勢が制限される。詳細には、移動中に凹設部Ｐ７３５９ａが水平張出部Ｐ７３

２１ｋを受け入れる関係上、前後方向に傾倒することなく、姿勢を維持した状態で回転移動される。

【７７４７】

化粧ユニットＰ７３０２を取り外す場合における電気配線Ｐ７３９１ｃの扱いについて説明する。化粧ユニットＰ７３０２を回転移動させる間は、図４０６、図４０７及び図４０８に図示される通りであって、電気配線Ｐ７３９１ｃに無理な荷重がかけられないようになっている。

【７７４８】

化粧ユニットＰ７３０２の中間状態では、化粧ユニットＰ７３０２の右端後方部（分割前板部Ｐ７４８０の後方部）と、その右端後方部を受け入れ可能な開放空間を天板部と左右両壁部と底板部とで構成するように前方に開放形成される分割右側装飾ユニットＰ７０１４ｃの天板部とが上下方向で重なるため（図４０７参照）、化粧ユニットＰ７３０２の上方への移動が規制される。

【７７４９】

そのため、化粧ユニットＰ７３０２を取り外す場合、化粧ユニットＰ７３０２は開始状態まで移動される。そのため、化粧ユニットＰ７３０２の回転される角度が予測可能となるので、電気配線Ｐ７３９１ｃに無理な荷重をかけないために必要となる電気配線Ｐ７３９１ｃの長さや、配置の設計（電気配線の移動軌跡の設計）を容易とすることができる。

【７７５０】

一方で、電気配線Ｐ７３９１ｃが係止部材Ｐ７３２１ｍの鉤状部に引っかけられていることから、このまま化粧ユニットＰ７３０２を上方に引き抜くと、電気配線Ｐ７３９１ｃに無理な荷重がかかり断線する可能性がある。そのため、作業順序としては、電気配線Ｐ７３９１ｃを係止部材Ｐ７３２１ｍから外し、電気配線Ｐ７３９１ｃを端子部Ｐ７３２１ｎから引き抜いた後で、化粧ユニットＰ７３０２を上方に引き抜くようにされる。

【７７５１】

この作業において、本実施形態では、化粧ユニットＰ７３０２は案内支持部Ｐ７３３５に下から支えられているため、作業者が化粧ユニットＰ７３０２から手を離したとしても、化粧ユニットＰ７３０２が落下することがない。そのため、電気配線Ｐ７３９１ｃに対する作業を、両手を使って行うことができるので、作業者の作業負担を下げることができる。

【７７５２】

図４０９（ａ）は、図４００のＸ５０ａ－Ｘ５０ａ線におけるパチンコ機Ｐ７０１０の部分断面図であり、図４０９（ｂ）は、図４００のＸ５０ａ－Ｘ５０ａ線に対応する線におけるパチンコ機Ｐ７０１０の部分断面図である。

【７７５３】

図４０９（ａ）及び図４０９（ｂ）では、軸支板部Ｈ１２ｅの上面から僅かに上方に離間した位置を通る断面における断面視が図示されており、図４０９（ａ）では、図４００に図示されるように正面枠Ｐ７０１４が内枠Ｈ１２に対して閉鎖された状態が図示され、図４０９（ｂ）では、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を閉鎖すると共に正面枠Ｐ７０１４を開放（展開）した状態（内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｐ７０１４を３０度開放（展開）した状態）が図示される。

【７７５４】

図４０９（ａ）及び図４０９（ｂ）で図示される断面には、下方に延びる回転防止突部Ｐ７３８６（図４０５参照）が図示されており、軸支板部Ｈ１２ｅからは、同断面まで届く長さで突設係合部Ｐ７０１２ｇが円柱形状で上方へ向けて突設形成されている。

【７７５５】

突設係合部Ｐ７０１２ｇは、金属材料から形成される軸支板部Ｈ１２ｅと一体成形されることによって、金属材料から形成されている。そのため、回転防止突部Ｐ７３８６との衝突が生じても破損することを回避し易くすることができる。

【７７５６】

図４０９（ａ）及び図４０９（ｂ）では、円弧線ＰＣ７３３０と同様に第２円柱状突部Ｐ７３９７を中心とする補助円弧線ＰＣ７３３０ａが図示される。回転防止突部Ｐ７３８６は、化粧ユニットＰ７３０２と一体的に移動されるため、補助円弧線ＰＣ７３３０ａに沿って回転移動される。

【７７５７】

正面枠Ｐ７０１４が閉鎖されている場合と、正面枠Ｐ７０１４が展開されている場合とでは、ベースユニットＰ７３０１の配置が異なると共に第２円柱状突部Ｐ７３９７の配置が異なるため、補助円弧線ＰＣ７３３０ａの配置も異なる。

【７７５８】

図４０９（ａ）及び図４０９（ｂ）に図示されるように、正面枠Ｐ７０１４が閉鎖されている場合に比較して、正面枠Ｐ７０１４が展開されている場合の方が、補助円弧線ＰＣ７３３０ａと突設係合部Ｐ７０１２ｇとの間隔が狭まっている。

【７７５９】

図４０９（ｂ）に図示される状態から、正面枠Ｐ７０１４が更に前扉取付金具Ｈ５７の円柱状部を中心に開放（展開）されると（正面枠Ｐ７０１４が約４５度開放（展開）されると）、補助円弧線ＰＣ７３３０ａが突設係合部Ｐ７０１２ｇと重なることとなり、この場合、回転防止突部Ｐ７３８６が突設係合部Ｐ７０１２ｇと干渉するため、化粧ユニットＰ７３０２のベースユニットＰ７３０１に対する移動が阻害される。

【７７６０】

これにより、化粧ユニットＰ７３０２のベースユニットＰ７３０１に対する組み付け作業や、取り外し作業が、正面枠Ｐ７０１４を極端に大きく開放（展開）した状態で行われることを防止することができる。

【７７６１】

即ち、化粧ユニットＰ７３０２のベースユニットＰ７３０１に対する組み付け作業や、取り外し作業が、正面枠Ｐ７０１４を少し（例えば、４０度未満の開放角度で）開放（展開）した状態で実行されるように図ることができるので、パチンコ機Ｐ７０１０の正面側のスペースを有効活用させることができると共に、ホールにおいて左隣に並べられている他のパチンコ機との衝突を未然に回避させることができる。

【７７６２】

図４１０は、パチンコ機Ｐ７０１０の上面図である。図４１０では、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２が閉鎖されると共に、正面枠Ｐ７０１４が内枠Ｈ１２に対して閉鎖された状態とされ、化粧ユニットＰ７３０２の開始状態が図示される。

【７７６３】

図４１０に図示されるように、化粧ユニットＰ７３０２は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２が閉鎖されると共に、正面枠Ｐ７０１４が内枠Ｈ１２に対して閉鎖された状態においても、ベースユニットＰ７３０１に対する取り付けが可能とされる。

【７７６４】

即ち、化粧ユニットＰ７３０２が開始状態（図４０６参照）においてデータカウンターＰＤｃと上下方向視で重ならない配置となるように、案内支持部Ｐ７３３５、下側受部Ｐ７３３８、第１円柱状突部Ｐ７３９３及び第２円柱状突部Ｐ７３９７が設計される。

【７７６５】

言い換えれば、案内支持部Ｐ７３３５、下側受部Ｐ７３３８、第１円柱状突部Ｐ７３９３及び第２円柱状突部Ｐ７３９７の配置がデータカウンターＰＤｃよりも前側の位置とされ、化粧ユニットＰ７３０２の回転移動の先端側（左側）の配置は更に前側とされる。これにより、データカウンターＰＤｃと干渉することなく、化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に対して上側から近づけ、開始状態（図４０６参照）とすることができる。

【７７６６】

化粧ユニットＰ７３０２が開始状態（図４０６参照）から中間状態（図４０７参照）に変化される場合、化粧ユニットＰ７３０２は直線ＰＬ７３３０に沿って平行移動されると

ころ、その方向は正面枠Ｐ７０１４の開閉方向の角度に対応して変化される。
【７７６７】
即ち、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２が閉鎖されていることは同じであっても、正面枠Ｐ７０１４が内枠Ｈ１２に対して閉鎖された状態（図４１０参照）では、正面枠Ｐ７０１４が内枠Ｈ１２に対して開放（展開）された状態（図４０６参照）に比較して、化粧ユニットＰ７３０２が平行移動される方向（直線ＰＬ７３３０の方向）が、化粧ユニットＰ７３０２を右斜め前から近づける方向に変化する。
【７７６８】
この変化の程度は、正面枠Ｐ７０１４の開放（展開）の程度によって変化するものであって、本実施形態では、正面枠Ｐ７０１４の開放（展開）の角度と同角度で、直線ＰＬ７３３０の方向が変化する。
【７７６９】
図４１１（ａ）及び図４１１（ｂ）は、パチンコ機Ｐ７０１０の上面図である。図４１１（ａ）では、正面枠Ｐ７０１４が内枠Ｈ１２に対して開放された状態における化粧ユニットＰ７３０２の中間状態が図示されており、図４１１（ｂ）では、図４１１（ａ）に図示される状態から、化粧ユニットＰ７３０２の中間状態が維持されたまま正面枠Ｐ７０１４が内枠Ｈ１２との間の角度を小さくする方向（接近する方向）に回転移動された状態が図示される。
【７７７０】
図４１１（ａ）に図示されるように、化粧ユニットＰ７３０２の姿勢は、第１円柱状突部Ｐ７３９３と第２円柱状突部Ｐ７３９７とが同軸上に構成されていないため、長孔Ｐ７３３６及び下側受部Ｐ７３３８の形状から規定されるベースユニットＰ７３０１に対する一定の姿勢に制限される。これにより、正面枠Ｐ７０１４において化粧ユニットＰ７３０２に許容される位置を予測し易く、化粧ユニットＰ７３０２の取り付け作業をスムーズに行うことができる。
【７７７１】
例えば、化粧ユニットＰ７３０２を正面枠Ｐ７０１４の開放端側に配置される作業者と正面枠Ｐ７０１４の正面側に配置される作業者という２人の作業者で取付ける作業工程とする場合に、正面側に配置される作業者がどの程度正面枠Ｐ７０１４に近づいて良いかの予測を立て易くすることができ、化粧ユニットＰ７３０２がベースユニットＰ７３０１から離れる方向に勢いよく移動する事態が生じたとしても、作業者に化粧ユニットＰ７３０２が衝突するという事態を回避することができる。
【７７７２】
第１円柱状突部Ｐ７３９３と第２円柱状突部Ｐ７３９７とは上下方向に突設されており、互いに平行である。更に、内枠Ｈ１２に対する正面枠Ｐ７０１４の移動も、左端側に位置し上下方向に延びる回転軸を中心とする回転移動である。
【７７７３】
そのため、化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に対して接近させるための荷重の方向と、正面枠Ｐ７０１４を内枠Ｈ１２に対して接近させるための荷重の方向とは、共に前後方向成分を有する方向であるから、化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に対して接近させる移動と、正面枠Ｐ７０１４を内枠Ｈ１２に対して接近させる移動とを一の荷重で同時に実行させることも可能である。
【７７７４】
一方で、本実施形態では案内支持部Ｐ７３３５の長孔Ｐ７３３６が前側領域Ｐ７３３６ａと後側領域Ｐ７３３６ｂとで区分けされており（図４０６をご参照下さい）、荷重のかけ具合によっては、図４１１（ａ）及び図４１１（ｂ）に図示されるように、化粧ユニットＰ７３０２の状態は維持したままで、正面枠Ｐ７０１４の内枠Ｈ１２に対する開放角度を優先的に変化させることも可能である。
【７７７５】
これは、例えば、化粧ユニットＰ７３０２の開始状態から中間状態への変化を、下側受

部Ｐ７３３８の前方の対象領域ＰＴ７３０２ａから前後方向の荷重ＰＬ７３０２をかけることで行うことで実現される。
【７７７６】
この場合、化粧ユニットＰ７３０２にかけられる荷重ＰＬ７３０２は、化粧ユニットＰ７３０２の回転移動の中心である第２円柱状突部Ｐ７３９７に対して加えられるのみであり、その第２円柱状突部Ｐ７３９７を中心とした回転先端側にある第１円柱状突部Ｐ７３９３には加えられないため、化粧ユニットＰ７３０２の回転移動が抑えられる。
【７７７７】
荷重ＰＬ７３０２をかける位置が対象領域ＰＴ７３０２ａのままであって、荷重ＰＬ７３０２の方向が前後方向のままである場合、図４１１（ｂ）に図示されるように、荷重ＰＬ７３０２は第２円柱状突部Ｐ７３９７よりも右側に位置しており、むしろ化粧ユニットＰ７３０２を上面視で反時計回り方向に回転移動させる向きとなっており、その向きの移動は長孔Ｐ７３３６及び下側受部Ｐ７３３８の形状から許容されていないので、化粧ユニットＰ７３０２の回転移動がより抑えられる。
【７７７８】
図４１１（ａ）及び図４１１（ｂ）に時系列で図示されるように、荷重ＰＬ７３０２により正面枠Ｐ７０１４が内枠Ｈ１２に対して接近する方向に回転移動される場合、図４１１（ｂ）に図示される状態を経て正面枠Ｐ７０１４が内枠Ｈ１２に対して閉鎖しきる前に、戻りバネ（図示せず）による反発力が生じる。
【７７７９】
作業者は、この反発力を感じたら、荷重ＰＬ７３０２をかける位置を化粧ユニットＰ７３０２の左右中央よりも左側の変化領域ＰＴ７３０２ｂまでずらすことで、次は正面枠Ｐ７０１４よりも化粧ユニットＰ７３０２の回転移動を優先的に生じさせることができる。
【７７８０】
変化領域ＰＴ７３０２ｂが左右中央よりも左側に位置することにより、正面枠Ｐ７０１４の回転軸（左端）と変化領域ＰＴ７３０２ｂとの距離よりも、化粧ユニットＰ７３０２の回転軸（右端における第２円柱状突部Ｐ７３９７）と変化領域ＰＴ７３０２ｂとの距離の方が長いため、化粧ユニットＰ７３０２の回転移動を優先的に生じさせることができる。
【７７８１】
図４１１（ａ）では、図４１１（ａ）に図示される状態において、第２円柱状突部Ｐ７３９７を中心とする円弧であって化粧ユニットＰ７３０２の左端を通る補助円弧線ＰＣ７３３０ｂが図示され、図４１１（ｂ）では、補助円弧線ＰＣ７３３０ｂが比較対象として図示されると共に、図４１１（ｂ）に図示される状態において、第２円柱状突部Ｐ７３９７を中心とする円弧であって化粧ユニットＰ７３０２の左端を通る補助円弧線ＰＣ７３３０ｃが図示される。
【７７８２】
図４１１（ｂ）に図示されるように、補助円弧線ＰＣ７３３０ｂよりも補助円弧線ＰＣ７３３０ｃの方がパチンコ機Ｐ７０１０の左右内側に寄っているため、補助円弧線ＰＣ７３３０ｂに沿って化粧ユニットＰ７３０２を移動させる作業よりも、補助円弧線ＰＣ７３３０ｃに沿って化粧ユニットＰ７３０２を移動させるように作業する方が、左側に隣接されるパチンコ機から化粧ユニットＰ７３０２を逃がし易くすることができ、取り付け作業時における他のパチンコ機との衝突を避け易くすることができる。
【７７８３】
このように、正面枠Ｐ７０１４の開放を維持したままの（閉鎖させない）状態で、化粧ユニットＰ７３０２の左方への張出を最小限に抑えながら、化粧ユニットＰ７３０２の組み付けを行う作業を、難しい工程なく行うことができる。
【７７８４】
次いで、図４１２から図４１６を参照し、第６６実施形態におけるパチンコ機Ｐ８０１０について説明する。上記第６０実施形態では、スピーカーユニットＰ９２０から出力さ

れる音声がスピーカーカバーＨ２７を通過する態様は一定とされる場合を説明したが、第６６実施形態では、スピーカーカバーＨ２７を音声が通過する態様が変化されるよう構成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【７７８５】

図４１２は、第６６実施形態におけるパチンコ機Ｐ８０１０の正面図である。図４１２に図示されるように、パチンコ機Ｐ８０１０は、正面枠Ｐ８０１４が上側装飾ユニットＰ８０１４ａを備えており、その上側装飾ユニットＰ８０１４ａには演出レバーＰ３３９０が配設される。

【７７８６】

演出レバーＰ３３９０の操作に基づいて、上下皿ユニットＰ８０１５に配設されるスピーカーユニットＰ９２０が動作されるように制御される。演出レバーＰ３３９０の操作量に対応して、スピーカーユニットＰ９２０から出力される音の大きさ（振幅）が変化するよう制御される。

【７７８７】

演出レバーＰ３３９０の配置は、操作ユニットＰ１８０の左右位置よりも左右方向外側に設定されており、左右方向中央に位置するスピーカーユニットＰ９２０から十分に離間している。これにより、操作ユニットＰ１８０の大きさに関わらず演出レバーＰ３３９０の配置スペースを確保することができると共に、往復振動手段であるスピーカーユニットＰ９２０で発生する振動が演出レバーＰ３３９０まで伝達されることを回避することができる。

【７７８８】

演出レバーＰ３３９０は、左右方向に延びる回転軸を中心として前側先端の球状部を傾倒させるように回転移動させる操作が可能となっている。操作力が付与されていない場合、内蔵される戻りバネにより起き上げられた状態とされることから、遊技者は回転移動物体である演出レバーＰ３３９０の上側に指を引っ掛けて重力方向に下ろすことで楽に操作を行うことができる。

【７７８９】

演出レバーＰ３３９０は、前側先端の球状部または球状部に連結される棒状部の少なくとも一方は、金属材料から形成または表面に金属の鍍金が形成される。これにより、演出レバーＰ３３９０の外観を煌びやかにすることができ、意匠性を向上させることができる。

【７７９０】

図４１３（ａ）は、上下皿ユニットＰ８０１５の下皿形成部材Ｐ８５３０の正面図であり、図４１３（ｂ）は、上下皿ユニットＰ８０１５の下皿形成部材Ｐ８５３０の背面図である。正面枠Ｐ７０１４は、上下皿ユニットＰ１５の代わりとして上下皿ユニットＰ８０１５を備える。

【７７９１】

上下皿ユニットＰ８０１５は、上述した上下皿ユニットＰ１５と同様に、本体枠Ｐ１４ｄの下部正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベース部材Ｐ５１０と、そのベース部材Ｐ５１０の正面側に配設される上皿形成部材Ｐ５２０及び操作ハンドルＨ５１と、操作ユニットＰ１８０と、その操作ユニットＰ１８０の下側においてベース部材Ｐ５１０に締結固定されるスピーカー組立体Ｐ９００と、を主に備え（図３７９参照）、ベース部材Ｐ５１０及び上皿形成部材Ｐ５２０の正面側に下皿形成部材Ｐ８５３０が配設される。

【７７９２】

上皿形成部材Ｐ５２０は、正面視における右側（矢印Ｒ方向側）の上面に機能調整操作部Ｈ１９０、貸球操作部Ｈ４０、及び、球排出レバーＨ５４を備え、パチンコ機Ｐ８０１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から遊技者が機能調整操作部Ｈ１９０、貸球操作部Ｈ４０、及び、手動操作手段である球排出レバーＨ５４を操作可能とされる。

【７７９３】

下皿形成部材Ｐ８５３０は、上述した下皿形成部材Ｐ５３０の主要な構成を具備しており、下皿形成部材Ｐ５３０の構成に加えて、スピーカー組立体Ｐ９００に連通される経路を構成する経路構成部Ｐ８５７０と、スピーカー組立体Ｐ９００に対向配置される動作部Ｐ８５８３を有する動作ユニットＰ８５８０と、を主に備える。

【７７９４】

経路構成部Ｐ８５７０は、スピーカーユニットＰ９２０の振動による流体の移動経路の一つを構成し、動作ユニットＰ８５８０は、経路構成部Ｐ８５７０の入口の面積を変化させる。

【７７９５】

スピーカーユニットＰ９２０から出力される音量は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図３４８参照）によりスピーカーユニットＰ９２０の振動態様が制御されることで変化される。本実施形態では、経路構成部Ｐ８５７０の入口の面積の変化により、スピーカーユニットＰ９２０（図３７９参照）の振動による流体の経路構成部Ｐ８５７０内での移動態様を変化可能となっている。

【７７９６】

即ち、スピーカーユニットＰ９２０から出力される音量が小さくされた場合であっても、経路構成部Ｐ８５７０内を移動する流体の圧力は、音量が大の場合と同様に維持することが可能とされる。

【７７９７】

図４１４は、上下皿ユニットＰ８０１５の下皿形成部材Ｐ８５３０の分解正面斜視図であり、図４１５は、上下皿ユニットＰ８０１５の下皿形成部材Ｐ８５３０の分解背面斜視図である。

【７７９８】

下皿形成部材Ｐ８５３０において、スピーカー組立体Ｐ９００に連通される経路を構成する経路構成部Ｐ８５７０は、第２化粧部材Ｐ５４２の後方から前方へ向けて張り出し形成されることで後方側が開放された溝形状が第２化粧部材Ｐ５４２に一体的に形成される前側溝部Ｐ８５７１と、第１化粧部材Ｐ５４１の左右中央付近において前後方向に穿設される上側連通開口Ｐ８５７６と、その上側連通開口Ｐ８５７６よりも下側において前後方向に穿設される下側連通開口Ｐ８５７７と、を主に備える。

【７７９９】

また、下側形成部材Ｐ８５３０において、経路構成部Ｐ８５７０の入口の面積を変化可能な動作ユニットＰ８５８０は、第１化粧部材Ｐ５４１の背面側に固定される駆動モータＰ８５８１と、その駆動モータＰ８５８１の駆動軸に固定される駆動ギアに歯合されるラックを有し、その歯合を維持した状態で直線方向に往復変位可能となるように第１化粧部材Ｐ５４１に支持される往復変位部Ｐ８５８２と、その往復変位部Ｐ８５８２に一体形成される動作部Ｐ８５８３と、その動作部Ｐ８５８３の下端から前方に張り出す板状に形成される張出板部Ｐ８５８４と、を主に備える。

【７８００】

前側溝部Ｐ８５７１は、正面視でコの字形状に迂回する経路の前側部を構成する。上側連通開口Ｐ８５７６は、前側溝部Ｐ８５７１の上側端部に連通される（前側溝部Ｐ８５７１と前後方向視で重なる）。下側連通開口Ｐ８５７７は、前側溝部Ｐ８５７１の下側端部側において、前側溝部Ｐ８５７１の延設方向に沿って複数（本実施形態では３箇所）が間隔を空けて連通される（前側溝部Ｐ８５７１と前後方向視で重なる）。

【７８０１】

図４１６は、図４１３（ａ）のＸ５１ｍ－Ｘ５１ｍ線における上下皿ユニットＰ８０１５の部分断面図である。Ｘ５１ｍ－Ｘ５１ｍ線は、図３７８のＸ４９ｍ－Ｘ４９ｍ線と同じ位置として図示される。

【７８０２】

スピーカーユニットＰ９２０は、振動膜Ｐ９２２がボイスコイルＰ９２１と一体形成される一方、ボイスコイルＰ９２１の内方にはスピーカーユニットＰ９２０の本体に固定さ

れた磁石が配設されている。
【７８０３】
ボイスコイルに電流が流れると、ボイスコイルの外方（外周側）に配設される磁石との関係で、電流に応じた力が加えられるところ、磁石はスピーカーユニットＰ９２０の本体に固定されているので、ボイスコイルＰ９２１及び一体形成された振動膜Ｐ９２２が、電流の流れる方向の切り替えに対応して前後方向に振動され、この振動により生じる空気の振るえを遊技者が音として知覚可能となっている。
【７８０４】
振動膜Ｐ９２２の後方側には外周側に円環状のダンパ部材Ｐ９２３が形成されており、振動膜Ｐ９２２を振動前の位置に復帰させる力を生じさせる。
【７８０５】
図４１６に図示されるように、経路構成部Ｐ８５７０により構成される空間（流路）は、スピーカーユニットＰ９２０と、操作ユニットＰ１８０との間を連通する。そのため、スピーカーユニットＰ９２０の振動による圧力（空気圧）が、経路構成部Ｐ８５７０を介して操作ユニットＰ１８０に到達可能となっており、その圧力（空気圧）によって操作ユニットＰ１８０に振動を生じさせる演出を実行することが可能とされる。
【７８０６】
スピーカーユニットＰ９２０から出力される音量は、一般的に、遊技者が好みに合わせて多段階的に調整可能となっている。即ち、パチンコ機Ｐ８０１０には機能調整操作部Ｈ１９０が備えられており（図４１２参照）、この機能調整操作部Ｈ１９０を適切に操作することでスピーカーユニットＰ９２０に流れる電流の大小を変更することが可能となっている。これにより、遊技者は、音量の大小を好みの設定に調整した上で遊技を行うことができる。
【７８０７】
一方で、遊技者は音量の調整をする際、他の項目（光量等）については変更されないという前提の基で操作を行うことが通常であるが、本実施形態では、スピーカーユニットＰ９２０の振動態様が操作ユニットＰ１８０を振動させる態様に関わるところ、スピーカーユニットＰ９２０から出力される音量の調整により、操作ユニットＰ１８０の振動の大小が調整される関係にある。
【７８０８】
換言すれば、遊技者が音量を小さく調整したことにより、操作ユニットＰ１８０に生じる振動も小さくなってしまい、振動に関わる演出を十分に楽しめないという事態が生じ得る。
【７８０９】
これに対し、本実施形態では、スピーカーユニットＰ９２０の振動膜Ｐ９２２と操作ユニットＰ１８０とを連通する経路構成部Ｐ８５７０を通る経路上に動作部Ｐ８５８３が位置可能に構成されており、操作ユニットＰ１８０に生じる振動を所定の範囲内で維持可能に構成される。
【７８１０】
即ち、スピーカーユニットＰ９２０から出力される音量が大の場合には、操作ユニットＰ１８０を振動させるために利用される空気圧の割合を小とすることで、副次的に遊技者に聞かせるために利用される空気を多くして、音量を大側で維持することができ、逆に音量が小の場合には、操作ユニットＰ１８０を振動させるために利用される空気圧の割合を大とすることで、副次的に遊技者に聞かせるために利用される空気を少なくして、音量を更に小さくすることができるようにすることで、音量が遊技者によって調整されたとしても、操作ユニットＰ１８０に生じる振動の大きさを維持することができ、音量の大小に関わらず、遊技者が振動演出を楽しむことができるように構成可能とされる。
【７８１１】
また、動作部Ｐ８５８３を敢えて動作させなかった場合、スピーカーユニットＰ９２０の振動の大小の変化により、案内される圧力（空気圧）の大小が変化され、操作ユニット

Ｐ１８０の振動（に基づく音）が変化される。そのため、操作ユニットＰ１８０の振動音を聞いた遊技者に違和感を与える演出を実行することができる。

【７８１２】

スピーカーユニットＰ９２０の振動による圧力（空気圧）の内、経路構成部Ｐ８５７０に入らずに、スピーカーカバーＨ２７（パンチングメタルから形成される薄板部材）を前方に通過した分を遊技者が音として知覚することになるところ、動作部Ｐ８５８３が左右中央側に進入するほど経路構成部Ｐ８５７０に入る圧力（空気圧）を小さくすることができるので、スピーカーカバーＨ２７（パンチングメタルから形成される薄板部材）を前方に通過する分を多くすることができるため、動作部Ｐ８５８３の左右中央側への進入度合が大きいほど、遊技者が知覚可能な音が大きくなる。

【７８１３】

即ち、上述したように操作ユニットＰ１８０に生じる振動の大きさを維持するために、本実施形態では、スピーカーユニットＰ９２０による音量が大きい場合ほど動作部Ｐ８５８３を左右中央側に進入させて経路構成部Ｐ８５７０に入る圧力（空気圧）を小さくするように制御される。

【７８１４】

詳細には、機能調整操作部Ｈ１９０により複数段階（本実施形態では６段階）に設定可能とされる音量に対応して、動作部Ｐ８５８３が動作制御される。即ち、音量１又は２（音量小）の場合には最も退避する位置（下側連通開口Ｐ８５７７のいずれとも重ならない位置）、音量３又は４（音量中）の場合には右側の位置（下側連通開口Ｐ８５７７のうち右端の開口と重なる位置）、音量５又は６（音量大）の場合には中の位置（下側連通開口Ｐ８５７７のうち右端と中央の開口と重なる位置）へ向けて動作制御される。

【７８１５】

そのため、機能調整操作部Ｈ１９０の操作によって、音量が小さくなるように変化させる場合と、音量が大きくなるように変化させる場合とでは、動作部Ｐ８５８３の動作方向が異なる（反転する）。また、機能調整操作部Ｈ１９０の操作によって、音量が大きくなるように変化させる操作部を押した直後に音量が小さくなるように変化させる操作部を押した場合等、音量の変化を生じさせない場合には、動作部Ｐ８５８３の配置は維持されることとなる。

【７８１６】

なお、最も進入する左側の位置（下側連通開口Ｐ８５７７のいずれとも重なる位置、図４１３（ｂ）参照）には、動作部Ｐ８５８３の操作時とは異なるタイミングで移動されるが、詳細は後述する。

【７８１７】

これにより、音量５又は６（音量大）の場合に、スピーカーユニットＰ９２０から出力される大部分の振動がスピーカーカバーＨ２７を介して前方に通過されることから、音量が小さくなる度合を低減させることができる。

【７８１８】

また、上述の通り、スピーカーユニットＰ９２０による音量が小さい場合ほど動作部Ｐ８５８３を左右外方側に退避させて経路構成部Ｐ８５７０に入る圧力（空気圧）を大きくするように制御される。

【７８１９】

これにより、音量１又は２（音量小）の場合に、スピーカーカバーＨ２７を介して前方に通過される残りの分の空気を余計に削減させることができる。そのため、スピーカーユニットＰ９２０からの音量をより小さくすることができる。

【７８２０】

動作部Ｐ８５８３は、張出板部Ｐ８５８４が形成されていることによりＬ字形状断面を構成しており、剛性を高くすることができる。そのため、動作部Ｐ８５８３の前後方向荷重による撓みを抑制できるので、動作部Ｐ８５８３の撓みにスピーカーユニットＰ９２０から出力された空気の圧が利用されて、エネルギーが減り、遊技者に聞かせる音が減衰す

ることを避け易くすることができる。
【７８２１】
加えて、図４１６に図示されるように、張出板部Ｐ８５８４により、第１化粧部材Ｐ５４１の湾曲する後面との間の隙間が埋められることにより、動作部Ｐ８５８３がスピーカーユニットＰ９２０の前方に位置する場合において、経路構成部Ｐ８５７０への空気の進入を防ぎ易くすることができる。
【７８２２】
なお、パチンコ機Ｐ８０１０に搭載される演出制御の種類によっては、操作ユニットＰ１８０を振動させる演出を予定していない場合がある。この場合、経路構成部Ｐ８５７０を連通させておく必要はないので、スピーカーユニットＰ９２０から出力される音の大きさに関わらず、動作部Ｐ８５８３が左右中央側に進入した状態が維持される（図４１３（ｂ）参照）。
【７８２３】
これにより、スピーカーユニットＰ９２０の振動により移動する空気が経路構成部Ｐ８５７０に進入する割合を低くする（または無くす）ことができ、スピーカーカバーＨ２７を通り前方へ移動する割合を高くすることができるので、スピーカーユニットＰ９２０から出力される音声を遊技者に聞かせ易くすることができる。
【７８２４】
本実施形態では、上述した機能調整操作部Ｈ１９０により行われる調整に独立して、演出レバーＰ３３９０の操作に対応してスピーカーユニットＰ９２０の動作と駆動モータＰ８５８１の駆動による動作部Ｐ８５８３の動作とを実行させる優先調整制御が備えられている。以下、この優先調整制御について説明する。
【７８２５】
優先調整制御とは異なる遊技の状態では、スピーカーユニットＰ９２０及びスピーカーＰ３３２ａ（図３５８参照）からは同様の演出用音声が出力されるが、優先調整制御では、スピーカーＰ３３２ａからは演出用音声が出力される一方で、スピーカーユニットＰ９２０からは、演出レバーＰ３３９０の操作に対応して、予め設定された音声が出力される。予め設定される音声は任意に設定可能であるが、本実施形態では、「バスドラムを叩いた音」が設定される。
【７８２６】
優先調整制御は、パチンコ機Ｐ８０１０の調整を、音量主体ではなく、操作ユニットＰ１８０に生じる振動主体で行うことを望む遊技者に対応するための機能である。即ち、本実施形態では、上述のように、音量設定により音量が変化したとしても、その変化に対応するように動作部Ｐ８５８３が動作されることで、スピーカーユニットＰ９２０の動作に基づく操作ユニットＰ１８０の振動が過度に変化することが抑制されるものの、操作ユニットＰ１８０の振動が全く変わらないというものではなく、遊技者によっては遊技に支障が出るほどの違和感を持つ場合もある。
【７８２７】
例えば、振動が小さくなることで、遊技に物足りなさを覚える場合がある。遊技者によっては、操作ユニットＰ１８０の振動を犠牲にしてまで音量の調整を行うことは好まない場合もある（例えば、大音量に対しては耳栓を利用して対策できると考える遊技者もいる）ため、このような遊技者に対して、優先調整制御を構成することにより、事前に操作ユニットＰ１８０の振動を実感させてから、遊技を開始させることができる。
【７８２８】
優先調整制御について説明する。まず、演出レバーＰ３３９０を遊技者が操作すると、その操作角度に対応した操作量が内蔵される検出装置により検出される。その検出装置は、枠ボタンＨ２２と同様に音声ランプ制御装置Ｈ１１３に電気的に接続されており、演出レバーＰ３３９０の操作量を音声ランプ制御装置Ｈ１１３が把握可能となっている。
【７８２９】
演出レバーＰ３３９０の操作量は、角度の変化量として検出される。その角度の変化量

の、演出レバーＰ３３９０の最大回転角度に対する比が音声ランプ制御装置Ｈ１１３において把握され、その比が０～１／６（第１範囲）、１／６～２／６（第２範囲）、２／６～３／６（第３範囲）、３／６～４／６（第４範囲）、４／６～５／６（第５範囲）、５／６～６／６（第６範囲）のいずれに含まれるかを判断して、この判断に基づいてスピーカーユニットＰ９２０及びスピーカーＰ３３２ａに異なる動作量の動作を実行可能に制御される。

【７８３０】

即ち、演出レバーＰ３３９０の操作量が第１範囲に含まれていればスピーカーユニットＰ９２０及びスピーカーＰ３３２ａは音量１で動作され、演出レバーＰ３３９０の操作量が第２範囲に含まれていればスピーカーユニットＰ９２０及びスピーカーＰ３３２ａは音量２で動作され、演出レバーＰ３３９０の操作量が第３範囲に含まれていればスピーカーユニットＰ９２０及びスピーカーＰ３３２ａは音量３で動作され、演出レバーＰ３３９０の操作量が第４範囲に含まれていればスピーカーユニットＰ９２０及びスピーカーＰ３３２ａは音量４で動作され、演出レバーＰ３３９０の操作量が第５範囲に含まれていればスピーカーユニットＰ９２０及びスピーカーＰ３３２ａは音量５で動作され、演出レバーＰ３３９０の操作量が第６範囲に含まれていればスピーカーユニットＰ９２０及びスピーカーＰ３３２ａは音量６で動作される。

【７８３１】

演出レバーＰ３３９０が操作されると、スピーカーユニットＰ９２０の動作が実行される前に、動作ユニットＰ８５８０の駆動モータＰ８５８１の駆動が実行される。即ち、演出レバーＰ３３９０が操作されると、駆動モータＰ８５８１の駆動、スピーカーユニットＰ９２０の動作の順で実行される。

【７８３２】

駆動モータＰ８５８１は、音量１～６のうち、いずれの音量でスピーカーユニットＰ９２０が動作されるかに基づいて対応する位置に動作部Ｐ８５８３を移動させる動作を実行させるように駆動されるところ、演出レバーＰ３３９０の操作は常に操作量が第１範囲側から第６範囲側へ向けて実行されることから、まず演出レバーＰ３３９０の操作量に因らず動作部Ｐ８５８３の配置に関わらず動作部Ｐ８５８３を左右外方側に退避させるのに十分な駆動量で駆動モータＰ８５８１が駆動され、その後で、演出レバーＰ３３９０の操作量に基づいて設定される音量に対応した位置へ動作部Ｐ８５８３を移動させるように駆動方向が反転されて駆動モータＰ８５８１が駆動される。

【７８３３】

ここで、動作部Ｐ８５８３を左右外方側に退避させるのに十分な駆動量で駆動モータＰ８５８１を駆動させるために６００［ｍｓ］必要となり（下側連通開口Ｐ８５７７の一つの開口の後方を通過するのに約２００［ｍｓ］）、その後で動作部Ｐ８５８３を左右中央側へ進入させて、中の位置（下側連通開口Ｐ８５７７のうち右端と中央の開口と重なる位置）とされる状態とするまで４００［ｍｓ］必要となるため、演出レバーＰ３３９０の操作が実行されてから１０００［ｍｓ］経過した後でスピーカーユニットＰ９２０の動作が開始されるように制御される。

【７８３４】

上述したように、演出レバーＰ３３９０の操作量が大きい場合に動作部Ｐ８５８３が左右中央側に進入され、操作量が小さい場合に動作部Ｐ８５８３が左右外方側に退避するというように、操作量の大小によって被案内物体である動作部Ｐ８５８３の動作方向を切り替えることができるので、操作方向を切り替える場合と違って感覚的な操作で調整を行うことができる。

【７８３５】

優先調整制御は、演出レバーＰ３３９０の操作を起点として実行されることから、演出レバーＰ３３９０の操作が解除されると制御は継続されなくなる。そのため、遊技者は、好みのタイミングで優先調整制御を実行させたり、停止させたりすることができる。

【７８３６】

また、補助ボタンＰ３３９１（図３９１参照）を押し込んでいる間は、駆動モータＰ８５８１の動作のみが実行され、スピーカーユニットＰ９２０の動作が実行されないように制御される。

【７８３７】

これにより、補助ボタンＰ３３９１を押し込みながら演出レバーＰ３３９０を操作することで、意図しないタイミング（即ち、演出レバーＰ３３９０の操作量の確定前、操作途中）でスピーカーユニットＰ９２０が動作することを避けることができる。

【７８３８】

補助ボタンＰ３３９１は、演出レバーＰ３３９０を操作する遊技者が片手で操作可能となる位置に配置されているため、操作が容易となっている。遊技者は、演出レバーＰ３３９０の操作量に納得したら補助ボタンＰ３３９１の押し込みを解除することで、好みのタイミングでだけスピーカーユニットＰ９２０の動作を実行させることができる。

【７８３９】

優先調整制御におけるスピーカーユニットＰ９２０の動作は、１０［Ｈｚ］で継続可能となるように設定される。そのため、打音は１００［ｍｓ］間隔で聞こえることが基本となるので、振動数が変化する場合に比較して音量（大小）の変化を識別し易くすることができる。一方で、補助ボタンＰ３３９１の押し込みによりスピーカーユニットＰ９２０の動作を一時的に停止させることができるため、演出レバーＰ３３９０及び補助ボタンＰ３３９１の操作態様によっては、１０［Ｈｚ］未満での動作を実行させることが可能とされる。

【７８４０】

優先調整制御では、演出レバーＰ３３９０の操作に基づくスピーカーユニットＰ９２０が動作と同時または動作後において、スピーカーユニットＰ９２０の動作に対応する音量が報知される。

【７８４１】

この報知は、様々な態様で実行可能とされる。例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１（図３５２参照）で「音量は５です」等の音量に関わる表示がされても良いし、スピーカーＰ３３２ａ（図３５８参照）やスピーカーユニットＰ９２０から「音量は５です」等の音量に関わる音声が出力されても良いし、これらの組合せでも良い。

【７８４２】

遊技者は、実行されたスピーカーユニットＰ９２０の動作により出力される音や、操作ユニットＰ１８０の振動感に納得できたら、手動操作手段である機能調整操作部Ｈ１９０（図４１２参照）を操作して対応する音量に設定して遊技を開始することで、操作ユニットＰ１８０が好みの振動感で振動される状態における遊技を行うことが可能となる。

【７８４３】

なお、報知を第３図柄表示装置Ｈ８１（図３５２参照）で実行する場合、他の演出表示よりも優先して表示する（手前側のレイヤーで表示する）ように設定すれば、遊技と並行して優先調整制御を実行した場合に、報知が他の演出表示に隠されて見えなくなることを避けることができるし、優先調整制御のために遊技を一時停止する必要が無いので、遊技者の遊技時におけるストレスの低減を図ることができる。

【７８４４】

次いで、図４１７を参照し、第６７実施形態における下皿形成部材Ｐ９５３０について説明する。上記第６６実施形態では、スピーカーユニットＰ９２０の手前側で単一の動作部Ｐ８５８３が動作される場合を説明したが、第６７実施形態では、スピーカーユニットＰ９２０の手前側で動作される物体が複数で構成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【７８４５】

図４１７（ａ）及び図４１７（ｂ）は、第６７実施形態における下皿形成部材Ｐ９５３０の背面図である。下皿形成部材Ｐ９５３０は、上述した下皿形成部材Ｐ８５３０の主要な構成を具備しており、下皿形成部材Ｐ８５３０の構成に加えて、上下動作ユニットＰ９

５９０を備える。
【７８４６】
図４１７（ａ）では、上下動作ユニットＰ９５９０が下側連通開口Ｐ８５７７から退避されている退避状態が図示され、図４１７（ｂ）では、上下動作ユニットＰ９５９０が下側連通開口Ｐ８５７７の後方側に進入する進入状態が図示される。
【７８４７】
上下動作ユニットＰ９５９０は、動作ユニットＰ８５８０と同様に経路構成部Ｐ８５７０の入口の面積を変化させるためのユニットであって、第１化粧部材Ｐ５４１の背面側に固定される駆動モータＰ９５９１と、その駆動モータＰ９５９１の駆動軸に固定され、１８０度未満の角度で往復回転移動可能に構成される往復変位部Ｐ９５９２と、その往復変位部Ｐ９５９２の配置に応じて上下方向に往復変位可能となるように第１化粧部材Ｐ５４１に支持される動作部Ｐ９５９３と、を主に備える。
【７８４８】
動作部Ｐ９５９３は、左側端部が凹設形成されており、退避状態（図４１７（ａ）参照）か進入状態（図４１７（ｂ）参照）かに因らず、最も左側の下側連通開口Ｐ８５７７と重ならないように構成される。即ち、退避状態では、動作部Ｐ９５９３は全て（３箇所）の下側連通開口Ｐ８５７７と重ならないように構成され、進入状態では、動作部Ｐ９５９３は最も左側（矢印Ｌ方向側）の下側連通開口Ｐ８５７７と重ならず、残りの下側連通開口Ｐ８５７７と重なるように構成される。
【７８４９】
上述したように、動作部Ｐ８５８３は、その構造から、動作部Ｐ８５８３の動作完了までに最大で１０００［ｍｓ］必要となることに因りスピーカーユニットＰ９２０（図４１６参照）の動作の開始は演出レバーＰ３３９０（図４１２参照）の操作から１０００［ｍｓ］経過後に実行されるよう制御された。
【７８５０】
一方で、１０００［ｍｓ］必要となるのは、操作による演出レバーＰ３３９０（図４１２参照）の回転角度が大きくされ、スピーカーユニットＰ９２０から出力される音が音量６（音量最大）とされ、動作部Ｐ８５８３が左右中央側に進入するまで最大幅で移動する場合に限定されるものであり、動作部Ｐ８５８３の移動量が小さい場合は１０００［ｍｓ］を必要としない。そのため、動作部Ｐ８５８３が左右中央側に進入するまで最大幅で移動する場合を対策できれば、演出レバーＰ３３９０（図４１２参照）の操作からスピーカーユニットＰ９２０の動作の開始までを短縮することができる（例えば、約８００［ｍｓ］とすることができる）。
【７８５１】
本実施形態では、演出レバーＰ３３９０の操作量が、スピーカーユニットＰ９２０から出力する音が音量１～４（音量小～中）となる場合には動作ユニットＰ８５８０のみを駆動制御する一方で、スピーカーユニットＰ９２０から出力する音が音量５又は６（音量大）となる場合には動作ユニットＰ８５８０に加えて上下動作ユニットＰ９５９０の駆動制御を実行するように構成される。
【７８５２】
上下動作ユニットＰ９５９０の動作部Ｐ９５９３は、下降移動により下側連通開口Ｐ８５７７の右側および中央の開口と重なることは左右中央側に進入した動作部Ｐ８５８３と変わらないが、上端位置から下端位置まで２００［ｍｓ］で移動することができるので、動作部Ｐ８５８３が目標位置に到達する（４００［ｍｓ］）よりも早く目標位置に到達することができる。
【７８５３】
従って、動作ユニットＰ８５８０のみ配設されていた場合に比較して、演出レバーＰ３３９０（図４１２参照）の操作実行からスピーカーユニットＰ９２０の動作開始までの間隔を短縮化することができる。即ち、右側の位置（下側連通開口Ｐ８５７７のうち右端の開口と重なる位置）には動作部Ｐ８５８３が２００［ｍｓ］で到達し、中の位置（下側連

通開口Ｐ８５７７のうち右端と中央の開口と重なる位置）には動作部Ｐ９５９３が２００［ｍｓ］で到達するため、演出レバーＰ３３９０の操作からスピーカーユニットＰ９２０の動作までの間隔を２００［ｍｓ］短縮して、８００［ｍｓ］経過後とすることができる。これにより、演出レバーＰ３３９０の操作に基づくスピーカーユニットＰ９２０の動作を高速化することができる。

【７８５４】

動作部Ｐ９５９３は、退避状態（上側位置、図４１７（ａ）参照）においてスピーカーカバーＨ２７の一部（上側の範囲）を塞いでいるが、進入状態（下側位置、図４１７（ｂ）参照）となると下側連通開口Ｐ８５７７と重なる部分が多くなり、スピーカーカバーＨ２７を塞ぐ面積が小さくなる。そのため、スピーカーユニットＰ９２０（図４１６参照）から出力される音声がスピーカーカバーＨ２７を効率よく通過可能となる。

【７８５５】

以上、上記実施形態に基づき本発明を説明したが、本発明は上記形態に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲内で種々の変形改良が可能であることは容易に推察できるものである。

【７８５６】

上記各実施形態において、一の実施形態における構成の一部または全部を、他の実施形態における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の実施形態としても良い。

【７８５７】

例えば、化粧ユニットＰ８３０２に配設されるとして説明した演出レバーＰ３３９０が配設される化粧ユニットＰ７３０２を備え、動作ユニットＰ８５８０を有する上下皿ユニットＰ８０１５を備え、優先調整制御を実行可能に構成されたパチンコ機を構成することは、当然に可能である。

【７８５８】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、切替構成部Ｐ３２０の状態を視認可能な箇所として、板状部Ｐ３１４の間の領域に複数段形成部Ｐ３２１ｈが嵌合され、その複数段形成部Ｐ３２１ｈの透過部分を介して被操作部材Ｐ３２２を視認可能に構成されることで、被操作部材Ｐ３２２の視認は可能としながら外方からのアクセスは遮断することにより外方から不正に被操作部材Ｐ３２２を操作しようとする行為を防止可能である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、複数段形成部Ｐ３２１ｈの形成を省略して、板状部Ｐ３１４の間の領域が貫通形成されても良い。この場合、複数段形成部Ｐ３２１ｈが汚れたり、光が反射したりすることで、被操作部材Ｐ３２２の視認性が低下する事態を避けることができる。

【７８５９】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、切替構成部Ｐ３２０の状態を視認可能な箇所として、板状部Ｐ３１４の間の領域または操作部Ｐ３２２ａが、それぞれ一箇所ずつ視認可能に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部Ｐ３１４の間の領域と類似の窓部が異なる位置にも配設されることで、複数位置で切替構成部Ｐ３２０の状態を視認可能としても良い。

【７８６０】

また、操作部Ｐ３２２ａが複数位置に設けられる（例えば、被操作部材Ｐ３２２の左側寄りの位置に追加の操作部が配設され、後方に露出される）ことにより複数位置で切替構成部Ｐ３２０の状態を視認可能としても良い。この場合において、複数位置とは、左右に離間した複数位置でも良いし、上下に離間した複数位置でも良いし、正面枠Ｐ１４の後方において分散配置された複数位置でも良い。

【７８６１】

また、この場合において、露出される位置は同様に複数として、操作部として利用されない箇所があっても良いし、全ての箇所を露出のみとして操作部としては利用しなくても良い。この場合、特定の一箇所を視認しないと切替構成部Ｐ３２０の状態を把握できない

場合に比較して、切替構成部Ｐ３２０の状態を把握するために視認する位置を作業者の好みで選択することができるので、作業者の負担を低減させることができる。

【７８６２】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、切替構成部Ｐ３２０の内部において、上下方向に動作する箇所と左右方向に動作する箇所とがある場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上下方向に動作する箇所が無くても良い。この場合、自重の影響を最小限に抑えることができる。また、左右方向に動作する箇所が無くても良い。この場合、自重により動作をスムーズに行わせることができるので、例えば、動作部分の材料を金属材料とすることで部材の重みを増すことで、自重をより効率的に利用することができる。

【７８６３】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、摺動上面Ｐ３３３ｃに摺動底平面Ｐ３５８が載置され、摺動された後で、係止棒部材Ｐ３８０又は係止回転棒Ｐ３３８０が案内筒部Ｐ３２１ｇに案内される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、摺動上面Ｐ３３３ｃに摺動底平面Ｐ３５８が載置される前に係止棒部材Ｐ３８０又は係止回転棒Ｐ３３８０が案内筒部Ｐ３２１ｇに案内開始されるように設計されても良い。この場合、係止棒部材Ｐ３８０又は係止回転棒Ｐ３３８０が複数で構成されていることで化粧ユニットＰ３０２の重さを支える位置を複数点とすることができ、一箇所にかかる重みを低減させることができる。

【７８６４】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、目印となる板状部Ｐ３１４の間の領域が正面枠Ｐ１４，Ｐ６０１４の上面側に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、目印となる領域が、正面枠Ｐ１４，Ｐ６０１４の横側にあっても良い。この場合、正面枠Ｐ１４，Ｐ６０１４の上面側の形状により目印となる領域の視認性が低下することは無いので、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２の設計自由度を向上させることができる。即ち、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２の右端部から上方に張出部を設けて右方からの視界を遮るような形状とすることができる。また、このような形状において、目印となる領域の位置が依然として正面枠Ｐ１４，Ｐ６０１４の上側に設定されていても良い。この場合、目印となる領域への視界が通り難くなっていることで、ホールでの設置状態において遊技者がパチンコ機Ｐ１０，Ｐ６０１０を斜め上から視認した場合に目印となる領域が視認される可能性を低くすることができる。

【７８６５】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、被操作部材Ｐ３２２が樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、被操作部材Ｐ３２２を金属材料から形成しても良い。この場合、切替構成部Ｐ３２０の待機状態では板状部Ｐ３１４の間の領域を通して切替構成部Ｐ３２２を視認不能とし、切替構成部Ｐ３２０の変位状態では板状部Ｐ３１４の間の領域を通して切替構成部Ｐ３２２を視認可能に構成することにより、樹脂材料から形成される板状部Ｐ３１４と金属材料から形成される被操作部材Ｐ３２２との態様の違いから、切替構成部Ｐ３２２の状態の判別を明確化させることができる（色の違いに頼ることなく状態判別が可能となる）。

【７８６６】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２をベースユニットＰ３０１，Ｐ５３０１に近接移動させる場合に働くのは摩擦力だけであって、誤って化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２の被操作部材Ｐ３２２を操作しても化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２の配置は維持されることで脱落の危険がない場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２をベースユニットＰ３０１，Ｐ５３０１から離間させる方向に付勢するバネ等の付勢手段を備えていても良い

。
【７８６７】
これにより、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２を取り外す際に、作業者が、片方の手（例えば、右手）では操作部Ｐ３２２ａを操作し、もう片方の手（例えば、左手）では化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２を把持するといった正面枠Ｐ１４，Ｐ６０１４を跨いでの操作を不要とすることができるので、取り外し作業を容易とすることができる。
【７８６８】
これにより、経年使用によりコイルスプリングＰ３２２ＳＰが劣化しており被操作部材Ｐ３２２が待機状態に復帰されない場合に、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２をベースユニットＰ３０１，Ｐ５３０１から離間した状態とすることができ、コイルスプリングＰ３２２ＳＰの経年劣化に気付かせることができる。
【７８６９】
付勢手段の付勢力により、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２がベースユニットＰ３０１，Ｐ５３０１から外れるまで付勢されるものではなく、付勢力により化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２がベースユニットＰ３０１，Ｐ５３０１から離間されたとしても、案内筒部Ｐ３２１ｇに依然として係止棒部材Ｐ３８０の先端部が進入されている状態が維持されても良い。この場合、付勢手段の付勢力で化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２がベースユニットＰ３０１，Ｐ５３０１から離間されてそのまま脱落するという事態を避けることができる。
【７８７０】
上記第５９実施形態から第６４実施形態では、被操作部材Ｐ３２２に一体形成される操作部Ｐ３２２ａが操作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、被操作部材Ｐ３２２の動作を可能とするためのキー部材が別体で用意されていて、そのキー部材を操作部Ｐ３２２ａに形成される嵌合凹部に差し込むことで被操作部材Ｐ３２２を動作させることができるように構成されても良い。これにより、被操作部材Ｐ３２２の動作を専門スタッフ以外にはさせないように構成することができる。
【７８７１】
上記第５９実施形態から第６４実施形態では、複数の係止棒部材Ｐ３８０又は係止回転棒Ｐ３３８０が切替構成部Ｐ３２０の各金属板部Ｐ３２２ｅ，Ｐ３２４ｃに同時に荷重を与える場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、別々のタイミングで荷重を与える態様でも良い。この場合、特定の係止棒部材Ｐ３８０又は係止回転棒Ｐ３３８０に荷重を集中させることができるので、その他の係止棒部材Ｐ３８０又は係止回転棒Ｐ３３８０の耐久性を向上させることができる。
【７８７２】
また、係止棒部材Ｐ３８０又は係止回転棒Ｐ３３８０を形成する材料は、樹脂材料に限定されるものではなく、例えば、金属材料から形成されても良い。特に金属材料から形成すれば、剛性を高くすることができるので、形状の設計自由度も向上させる。即ち、円錐形状に限らず、板形状の先に爪部を形成するようにしても良い。
【７８７３】
上記第５９実施形態から第６４実施形態では、切替構成部Ｐ３２０の内部が動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、切替構成部Ｐ３２０は動作されず、係止棒部材Ｐ３８０又は係止回転棒Ｐ３３８０がスライド動作することで組み付けと解除とが可能とされても良いし、切替構成部Ｐ３２０及び係止棒部材Ｐ３８０又は係止回転棒Ｐ３３８０の両方が動作可能に構成しても良い。この場合、各部材に必要とされる動作量を小さくすることができる。
【７８７４】
また、切替構成部Ｐ３２０の少なくとも一部が化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ

４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２側に構成されても良い。この場合において、係止棒部材Ｐ３８０又は係止回転棒Ｐ３３８０がベースユニットＰ３０１，Ｐ５３０１側に配設され、切替構成部Ｐ３２０が化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２側に構成され、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２をベースユニットＰ３０１，Ｐ５３０１に対して押進することで組み付け可能に構成しても良い。

【７８７５】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、前側傾斜部Ｐ３５５の後方に傾斜面が形成されており、この傾斜面に指を押し当てることができるので、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２を把持し易く構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、前側傾斜部Ｐ３５５の後端部から下方へ向けて凹部が形成されており、この凹部に指をかけることで化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２を把持し易く構成しても良いし、前側傾斜部Ｐ３５５の上端部から後方へ向けて張り出す張出部に指をかけることで化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２を把持し易く構成しても良い。

【７８７６】

前側傾斜部Ｐ３５５の後方においてベース部材Ｐ３５０の上面に左右方向に延びる溝部が形成されても良い。この溝部に指をかけることで化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２を把持し易くすることができ、滑りを防止することができる。

【７８７７】

前側傾斜部Ｐ３５５の上端部から前後方向または左右方向に張り出す上端張出部が形成されても良い。この上端張出部に指を引っ掛けることで、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２を把持し易くすることができる。

【７８７８】

前側傾斜部Ｐ３５５のように前側からの張出ではなく、ベース部材Ｐ３５０の上面から複数の棒が分散配置されて上方に延設されるように構成しても良い。この複数の棒を利用して化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２を把持し易くすることができる。

【７８７９】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、前側傾斜部Ｐ３５５が上方に張り出す場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ベース部材Ｐ３５０の下面の前端側から左右に延びる帯形状部が下方に張り出しても良い。この場合、帯形状部の下に手を置き、指を掛けることで、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２を把持し易くすることができる。

【７８８０】

この帯形状部が形成されるベース部材Ｐ３５０の下面の前端側よりも後方には、帯形状部との対比として底面が上方に凹設された状態となる。この凹設部分は帯状に長く構成されても良いし、円形や矩形に構成されても良い。また、この凹設部分は有底凹部として構成されても良いし、開口形成されても良い。開口形成される場合には、指をより深くまで掛けることができるので、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２が滑って落下する可能性を低くすることができる。

【７８８１】

凹設部分が開口形成される場合において、この開口を閉鎖可能な可動蓋部を構成しても良い。化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２では、内部において第１電飾基板Ｐ３４２や第２電飾基板Ｐ３４５から光が照射されるが、可動蓋部で開口を閉鎖することで、照射光が開口から漏れることを防止することができる。

【７８８２】

一方で、開口を開放した状態で第１電飾基板Ｐ３４２や第２電飾基板Ｐ３４５からの光

を漏らしたい場合には、凹設部分を化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２の左端に設けることで、ガラスユニットＨ１６の左右中心位置付近に光を漏らすことができる。この場合において、可動蓋部を手動で開閉可能に構成しても良いし、個別の駆動手段を備えており自動で開閉するように構成しても良い。

【７８８３】

また、例えば、外枠部Ｐ３７１ａの少なくとも一部が前方へ張り出すように構成されても良い。この場合、外枠部Ｐ３７１ａの内側に指を掛けることによっても化粧ユニットＰ３０２を支持することができる。

【７８８４】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、右側装飾ユニットＰ１４ｃにおいて、反射面部Ｐ４２８で反射される光Ｘ４３２が嵌合突部Ｐ４６１ａを任意のタイミング（照射されればいつでも）で透過可能に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【７８８５】

例えば、反射面部Ｐ４２８が化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２の脱着に対応して上下方向にスライド変位可能に構成されており、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２の組み付けが完了した状態においてのみ反射面部Ｐ４２８で反射される光Ｘ４３２が嵌合突部Ｐ４６１ａを透過するようにしても良い。この場合、嵌合突部Ｐ４６１ａの視認態様から、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２の組み付けが完了したか否かを確認できるので、組み付け作業の作業負担を低減させることができる。この場合において、右側装飾ユニットＰ１４ｃの上側部分（電飾基板Ｐ４３０よりも上側の部分）が化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２側に構成され、反射面部Ｐ４２８や反射面部Ｐ４２８をスライド変位させる構成が化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２の脱着により共に脱着されるようにしても良い。この場合、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２の設計自由度を向上させることができる。

【７８８６】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、回転伝達部材Ｐ３３８５が、正面視において前側傾斜部Ｐ３５５に隠される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転伝達部材Ｐ３３８５が、正面視で視認可能とされても良い。回転伝達部材Ｐ３３８５の形状が正面視で視認可能となる形状とされても良いし、前側傾斜部Ｐ３５５の形成が省略されても良い。切欠き凹部Ｐ３３８６が前側から視認可能に構成されても良い。

【７８８７】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、回転伝達部材Ｐ３３８５が、上面側から露出する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右側面や前側面から露出されても良い。この場合、左右側面や前側面から回転伝達部材Ｐ３３８５を回転させる操作をすることができるので、化粧ユニットＰ３３０２の組み付け作業および取り外し作業をしやすくすることができる。

【７８８８】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、回転伝達部材Ｐ３３８５が、化粧ユニットＰ３３０２の後端部付近に配設されており、不正に操作されることを防止し易い場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、化粧ユニットＰ３３０２の前側位置に配設されてもいい。この場合、データカウンターＰＤｃにより操作し難くされることはなく、正面枠Ｐ１４の閉鎖状態においても回転伝達部材Ｐ３３８５を容易に操作可能となる。

【７８８９】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、補助ボタンＰ３３９１は、演出レバーＰ３３９０の上側に配設されており、傾倒操作（回転操作）に伴い、見易くなり、操作し易

くなるが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、演出レバーＰ３３９０の下についていてもいい。この場合、操作する際に意図的に操作しなければ触れないので、意図せず補助ボタンＰ３３９１を操作することを避けられる。上記第５９実施形態から第６４実施形態では、近接される係止回転棒Ｐ３３８０が回転伝達部材Ｐ３３８５と連動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転伝達部材Ｐ３３８５から離間する係止回転棒Ｐ３３８０が回転伝達部材Ｐ３３８５の回転動作と連動しても良いし、複数の係止回転棒Ｐ３３８０が連動しても良い。

【７８９０】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２に上下反射部材Ｐ３６０が配設され、軽量化が図られながら、鮮やかな発光演出を視認させることができる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２に、球貯留部を構成し、操作により、遊技球が球案内経路を通して遊技領域へ移動されるように構成されても良い。遊技球は１個ずつ移動されるよう構成されており、また、遊技球の発射が実行されているタイミングでは遊技球の移動が実行されないように構成される。

【７８９１】

この遊技球の遊技領域への移動は、払出装置Ｈ１３３（図３４０参照）の動作に基づくものではなく、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２の内部からのものなので、払出装置Ｈ１３３やその上流側において送球不良が生じている場合であっても、遊技領域への遊技球の移動を生じさせることができる。

【７８９２】

これにより、遊技球の発射を行いたい場合において上皿Ｐ１７に貯留された球が無くなる事態（球切れ）を回避し易くすることができる。特に、制限時間内に特定領域に遊技球を通過させることにより遊技者に特定の利益が付与される遊技が提供される場合において、遊技者が不足の不利益を受けることを避け易くすることができる。

【７８９３】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、上側装飾ユニットＰ３０１４ａの化粧ユニットＰ３３０２に可動部として演出レバーＰ３３９０が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２に貸出ボタンを配設しても良い。

【７８９４】

貸出ボタンを上下皿ユニットＰ１５の上面側ではなく化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２に配置することにより、上下皿ユニットＰ１５の上面側における余白のスペースを大きく確保でき、上皿Ｐ１７をより大きく構成することができる。

【７８９５】

これにより、上皿Ｐ１７が小さい場合に発生し得る、貸出ボタンの一度の操作で払い出される球数が上皿Ｐ１７に収容しきらず、下皿５０に払い出されるという事態を避け易くすることができる。

【７８９６】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、作業者が把持可能な把持手段Ｐ６３９０と、前側傾斜部Ｐ３５５とが構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、前側傾斜部Ｐ３５５の形成を省略するようにしても良い。この場合、パチンコ機Ｐ１０が誤ってデータカウンターＰＤｃに衝突する事態を避け易くすることができる。

【７８９７】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、把持手段Ｐ６３９０が化粧ユニットＰ６３０２に固定配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、円柱状部Ｐ６３９１及びＬ字形状延設部Ｐ６３９２の前後方向に延設される箇所が、

前後方向に伸縮動作可能に構成しても良い。この場合、組み付け作業時には前後方向に伸長させることで把持を容易とする一方で、組み付け作業後には縮小させることで、正面枠Ｐ６０１４を開放させた際に左隣のパチンコ機に把持手段Ｐ６３９０が衝突する可能性を低くすることができる。

【７８９８】

なお、円柱状部Ｐ６３９１及びＬ字形状延設部Ｐ６３９２の前後方向に延設される箇所の態様は何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、縮小方向または伸長方向の付勢力を生じる付勢バネが配設され、外力の付与が無ければ縮小状態または伸長状態で維持されるよう構成しても良いし、縮小状態にする方向または伸長状態にする方向（もしくは両方向）の駆動力を発生可能な駆動手段が配設され、その駆動力により、縮小状態または伸長状態での維持や、縮小状態と伸長状態との状態変化が可能となるように構成しても良い。

【７８９９】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、円環形状部Ｐ６３９４が作業者からの荷重により回転動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、円環形状部Ｐ６３９４を基準となる状態に復帰させる付勢バネを内蔵させ、作業者が手を離している場合には基準となる位相に復帰されるように構成しても良い。これにより、作業者が化粧ユニットＰ６３０２の組み付け作業または取り外し作業の一方のみ把持手段Ｐ６３９０を把持する場合であっても、正面視における意匠を安定させることができる。

【７９００】

なお、把持手段Ｐ６３９０の形状は、棒状でも良いし、板状でも良いし、半円状でも良いし、円環の一部の形状でも良い。内部が空洞な方が、作業者が掴み易いという利点がある。

【７９０１】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、円環形状部Ｐ６３９４が回転動作する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、Ｌ字形状延設部Ｐ６３９２に回転不能に固定配置されても良い。この場合、正面枠Ｐ１４を開放させる際に把持手段Ｐ６３９０を取手として利用する際に、開放方向の力をかけやすくなり、作業者の作業負担を低減させることができる。

【７９０２】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、円環形状部Ｐ６３９４が凹凸の少ない円環形状とされ、位相の違いにより正面視での意匠が変化することを回避している場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、外周側に凹凸形状が構成されても良い。この場合、把持手段Ｐ６３９０を把持する作業者の手のひらに凹凸形状を食い込ませることができるので、把持手段Ｐ６３９０が滑りにくくすることができる。

【７９０３】

凹凸形状の態様は何ら限定されるものではないが、例えば、凹部に指を掛けられる程度の寸法の凹凸形状であることが好ましい。その意味で、上限を５として複数の凹部が形成されることが好ましい。また、凹凸形状（凹形状または凸形状）の大きさについても、全てが同じ大きさというわけではなく、指の太さに対応させて大小異なる大きさとすることが好ましい。

【７９０４】

円環形状部Ｐ６３９４及び円筒形状部Ｐ６３９３を形成する材料は、何ら限定されるものではないが、交換性の高い樹脂材料をベースとしながら、全体を樹脂材料とするのではなく、少なくとも一部に金属材料が形成されていると、剛性を向上させられるという利点がある。

【７９０５】

この場合において、金属材料で形成される部分を円環状に構成すると、把持手段の剛性を全体的に向上させることができる。円環形状部Ｐ６３９４を金属材料から形成しても良

しい、円筒形状部Ｐ６３９３（の少なくとも一部）を金属材料から形成しても良い。また、金属材料から形成するとは、金属のみから形成されていることを指すものでは無く、一部でも金属材料が含まれていれば良い。その観点で、金属メッキが付されているだけでも良い。

【７９０６】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、円筒形状部Ｐ６３９３がＬ字形状延設部Ｐ６３９２の上下方向延設部分に固定配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、円筒形状部Ｐ６３９３が円柱状部Ｐ６３９１及びＬ字形状延設部Ｐ６３９２により構成されるＵ字状のラインに沿って移動可能に構成しても良い。即ち、正面枠Ｐ６０１４開放作業時にはＵ字の底部（Ｌ字形状延設部Ｐ６３９２の上下方向延設部分）に配置させ、遊技可能状態とする場合には、Ｕ字状の前後方向直線部に膨出部が配置されるようにしても良い。この場合において、より上側に位置する円柱状部Ｐ６３９１に円筒形状部Ｐ６３９３が配置されるようにすると、遊技者の視界に円筒形状部Ｐ６３９３を入れ難くすることができる。

【７９０７】

なお、円筒形状部Ｐ６３９３が円柱状部Ｐ６３９１に配置される場合において、Ｌ字形状延設部Ｐ６３９２を残存させる設計でも良いし、取外し可能に設計されても良い。即ち、Ｌ字形状延設部Ｐ６３９２については、作業時にのみ取り付けられ、遊技可能状態においては取り外されるように構成しても良い。

【７９０８】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２が前後方向にスライド移動されることでベースユニットＰ３０１，Ｐ５３０１に組み付けされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２が、左端部に配設される回転軸を中心に回転動作されるように構成しても良い。この場合、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２は回転軸を中心とする回転動作によりベースユニットＰ３０１，Ｐ５３０１から離間することが可能とされ、その離間した状態において、作業者は、右端側の隙間から化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２とベースユニットＰ３０１，Ｐ５３０１との内部領域を確認できる。

【７９０９】

この回転動作は、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２の上側部に配設され上下方向に中心軸を有する円柱状金属部が、ベースユニットＰ３０１，Ｐ５３０１の正面側端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ延設され先端から背面側（矢印Ｂ方向側）へ円柱状金属部が内嵌可能な大きさで凹設される嵌合凹部を有する軸支延設部に内嵌されることで、円柱状金属部を中心として実行される。

【７９１０】

更に、この回転動作は、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２の下側部に配設される軸孔形成金属板に穿設される軸孔部が、左側装飾ユニットＰ１４ｂの上側部において本体枠Ｐ１４ｄの前面側へ向けて延設形成される金属製の板部材から上方（矢印Ｕ方向）に突設される段付き円柱形状（直径の違う円柱が上下に連設される構成において上側の円柱の直径の方が小さい形状）の支持ピンに外嵌され軸支されることにより、実行される。

【７９１１】

化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２の組み付けにおいては、支持ピンに化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２を上から乗せて軸孔部を嵌めつつ、円柱状金属部を嵌合凹部に内嵌させることで、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２がベースユニットＰ３０１，Ｐ５３０１に対して回転動作可能に支持される。

【７９１２】

なお、円柱状金属部は、前扉取付金具Ｈ５８が軸支される回転軸線と同軸上に形成されても良いし、異なる軸上に形成されても良い。また、軸孔形成金属板の軸孔部が、前扉取付金具Ｈ５８が軸支される回転軸線と同軸上に形成されても良いし、異なる軸上に形成されても良い。

【７９１３】

この場合において、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２の組み付け作業または化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２を取り外す作業において、係止棒部材Ｐ３８０又は係止回転棒Ｐ３３８０がベースユニットＰ３０１，Ｐ５３０１から外れた場合であっても、左端側において化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２が支持されていることから、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２を誤って落下させる事態を避け易くすることができる。

【７９１４】

化粧ユニットＰ３３０２においては、演出レバーＰ３３９０が回転軸が配置される左端側から離れた側（右端側）に配設されていることで、演出レバーＰ３３９０を、化粧ユニットＰ３３０２の組み付けの際にベースユニットＰ３３０１側に近接させる回転軸とは遠い位置に位置させることができるので、演出レバーＰ３３９０がベースユニットＰ３３０１に衝突することを避けることができる。

【７９１５】

上記第５９実施形態から第６４実施形態では、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２の上面から前側傾斜部Ｐ３５５が張り出し、把持手段Ｐ６３９０が化粧ユニットＰ６３０２の右端側から板状部Ｐ３７１ｂの前方へ張り出す場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、化粧ユニットＰ６３０２の左端側から板状部Ｐ３７１ｂの後方へ指を差し込み可能な大きさで凹設される凹設部が構成されても良い。

【７９１６】

この場合、作業者は、凹設部に指を掛けて、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２の組み付け作業および取り外し作業を行うことができる。張出部であると、ホールに設置されている状態において正面枠Ｐ１４，Ｐ６０１４を開放した時に左隣のパチンコ機に衝突する可能性から配置が限定されるところ（右側部が推奨される）、凹設部であれば、そのように限定されることはないため、作業時に指を掛ける位置を任意の位置に設定することができる。

【７９１７】

この凹設部の形状は何ら限定されるものではないが、例えば、上側面または下側面が後方へ向かうほど上昇する方向に傾斜されている方が、作業者が指を掛けて下支えしている状態から化粧ユニットＰ３０２，Ｐ３３０２，Ｐ４３０２，Ｐ５３０２，Ｐ６３０２が滑り落ちることを防止し易くすることができる。

【７９１８】

この凹設部の配置は、何ら限定されるものではないが、例えば、装飾構成部Ｐ３７０の構成を、外枠部Ｐ３７１ａ及び板状部Ｐ３７１ｂが縮小され、外枠部Ｐ３７１ａの外方において凹設部が配置されるようにしても良い。

【７９１９】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、突設形成部Ｐ７３５９が化粧ユニットＰ７３０２のベース部材Ｐ７３５０に一体形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、突設形成部Ｐ７３５９がベース部材Ｐ７３５０とは別体で構成され、ベース部材Ｐ７３５０に締結固定されるように構成されても良い。この場合、突設形成部Ｐ７３５９が破損した場合であっても、ベース部材Ｐ７３５０ごと交換することは必要なく、別体の突設形成部Ｐ７３５９のみを交換すれば良いので、交換を容易とすることができる。

【７９２０】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、突設形成部Ｐ７３５９がベース部材Ｐ７３５０の後方側寄りに位置する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、突設形成部Ｐ７３５９がベース部材Ｐ７３５０の前方寄りに位置するように構成しても良い。この場合、突設形成部Ｐ７３５９はベース部材Ｐ７３５０の内部深くに位置しており、作業者が誤って触れることができないようにすることができるので、突悦形成部Ｐ７３５９を安全のために面取りする工程等を省くことができ、製造の工数を削減することができる。

【７９２１】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、突設形成部Ｐ７３５９及び凹設形成部Ｐ７３２１ｉが樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、突設形成部Ｐ７３５９及び凹設形成部Ｐ７３２１ｉの少なくとも一方を金属材料から形成しても良い。この場合、剛性の向上により突設形成部Ｐ７３５９及び凹設形成部Ｐ７３２１ｉが形状変形することを防止することができると共に、接触による破損を防止できることから、化粧ユニットＰ７３０２の作業工程を安定させることができる。

【７９２２】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、突設形成部Ｐ７３５９が正面視で装飾構成部Ｐ３７０と重ならない位置（左側に離間した外方位置）に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、正面視で装飾構成部Ｐ３７０と重なる位置に配設されても良い。この場合、装飾構成部Ｐ３７０が透過性材料から形成される部分を有しており後ろ側が透視される態様とされていれば、突設形成部Ｐ７３５９の状態を正面視で確認することができるので、化粧ユニットＰ７３０２の取り付け前において突設形成部Ｐ７３５９の破損の有無を正面視で容易に確認することができる。

【７９２３】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、第１円柱状突部Ｐ７３９３よりも第２円柱状突部Ｐ７３９７の方が太い場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１円柱状突部Ｐ７３９３よりも第２円柱状突部Ｐ７３９７の方が細い構成としても良い。この場合、移動量が長くなる第１円柱状突部Ｐ７３９３が早期に破損することを防止することができる。また、第１円柱状突部Ｐ７３９３と第２円柱状突部Ｐ７３９７とを同じ太さで形成しても良い。この場合、支持力を均等に分散させることができる。

【７９２４】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、長孔Ｐ７３３６及び下側受部Ｐ７３３８が上面視で閉空間を構成するよう構成されており、化粧ユニットＰ７３０２の水平方向への移動が長孔Ｐ７３３６及び下側受部Ｐ７３３８の前端部でせき止められる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、長孔Ｐ７３３６及び下側受部Ｐ７３３８の前端部が開放されており、第１円柱状突部Ｐ７３９３及び第２円柱状突部Ｐ７３９７の上下位置を変えずに前方側からスライド移動させることで第１円柱状突部Ｐ７３９３及び第２円柱状突部Ｐ７３９７を長孔Ｐ７３３６及び下側受部Ｐ７３３８に進入させることができるよう構成しても良い。この場合、化粧ユニットＰ７３０２の上下位置を変化させるという工程を省けるので、化粧ユニットＰ７３０２の脱着作業の工数を削減することができる。

【７９２５】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、正面枠Ｐ７０１４が内枠Ｈ１２に対して開放された状態において化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に接近させる態様の移動も、正面枠Ｐ７０１４が内枠Ｈ１２に対して開放された状態において化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に接近させる態様の移動も、実行可能である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、正面枠Ｐ７０１４が内枠Ｈ１２に対して開放された状態において化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に接近させる態様の移動、または、正面枠Ｐ７０１４が内枠Ｈ１２に対して開放された状態において化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に接近させる

態様の移動、のいずれか一方が構成されている場合に、他方は実行不可能に規制されるように構成しても良い。この場合、正面枠Ｐ７０１４や化粧ユニットＰ７３０２の動作が不安定となることを避けることができ、不慣れな作業者でも楽に作業を行うことができる。

【７９２６】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、正面枠Ｐ７０１４が内枠Ｈ１２に対して閉鎖された状態で化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に対して取り付け可能に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、データカウンターＰＤｃの下方に長孔Ｐ７３３６又は下側受部Ｐ７３３８が配設される構成とし、正面枠Ｐ７０１４が内枠Ｈ１２に対して閉鎖された状態では化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に対して取り付け不可能に構成しても良い。この場合、作業を標準化し易くすることができるので、化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に対して取り付けた後で正面枠Ｐ７０１４の裏側から板状部Ｐ３１４の間の領域を視認することを忘れることによる取り付け不良の発生を防止し易くすることができる。

【７９２７】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、スピーカーユニットＰ９２０が正面枠Ｐ８０１４に配設されることにより遊技者側に近い位置から音を出力できる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、スピーカーユニットＰ９２０が内枠Ｈ１２に配設されるように構成しても良い。この場合、パチンコ機Ｐ８０１０におけるスピーカーユニットＰ９２０の前方に正面枠Ｐ８０１４の全前後幅分が配設されることとなるため、経路構成部Ｐ８５７０や動作ユニットＰ８５８０の配設領域を大きく確保することができ、設計自由度を向上させることができる。

【７９２８】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、第１円柱状突部Ｐ７３９３及び第２円柱状突部Ｐ７３９７が形状固定の突部として構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１円柱状突部Ｐ７３９３又は第２円柱状突部Ｐ７３９７の少なくとも一方が出没動作可能に構成しても良い。この場合、化粧ユニットＰ７３０２をスライド移動させる場合に第１円柱状突部Ｐ７３９３又は第２円柱状突部Ｐ７３９７とベースユニットＰ７３０１とが干渉することがあっても、第１円柱状突部Ｐ７３９３又は第２円柱状突部Ｐ７３９７を没方向へ移動させることにより干渉を回避させることができる。

【７９２９】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、長孔Ｐ７３３６及び下側受部Ｐ７３３８の形状により、化粧ユニットＰ７３０２がベースユニットＰ７３０１に対して取り付けられる場合に、直線方向に平行移動した後で、回転移動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転移動した後で直線方向に平行移動されるように構成しても良い。この場合において、直線方向は正面枠Ｐ７０１４の前面に垂直な方向であってもよく、この場合、切替構成部Ｐ３２０を形状変形させる加工をすることなくそのまま流用することができる。

【７９３０】

また、平行移動なしで、化粧ユニットＰ７３０２を回転移動させることのみでベースユニットＰ７３０１に対する取り付けが可能となるように長孔Ｐ７３３６及び下側受部Ｐ７３３８の形状を構成しても良い。これは、長孔Ｐ７３３６は後側領域Ｐ７３３６ｂのみで構成し、下側受部Ｐ７３３８を後端位置における真円形状の開口として構成し、分割右側装飾ユニットＰ７０１４ｃの上面前端の形状を化粧ユニットＰ７３０２と干渉しない位置まで凹設を深く構成することで可能である。この場合、化粧ユニットＰ７３０２の取り付け作業の工数を削減することができる。

【７９３１】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、第１円柱状突部Ｐ７３９３と第２円柱状突部Ｐ７３９７とが同軸上には無い場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１円柱状突部Ｐ７３９３と第２円柱状突部Ｐ７３９７とが同軸上に位置

するように構成されても良い。この場合、第１円柱状突部Ｐ７３９３及び第２円柱状突部Ｐ７３９７における支持力を同一直線上で生じさせることができるので、化粧ユニットＰ７３０２を安定して支持することができる。更に、第１円柱状突部Ｐ７３９３及び第２円柱状突部Ｐ７３９７の双方が回転移動の軸として機能することから、化粧ユニットＰ７３０２の取り付け時の姿勢の自由度を向上させることができる。

【７９３２】

なお、長孔Ｐ７３３６（前側領域Ｐ７３３６ａのみ）の配置が下側受部Ｐ７３３８と上下方向視で重なる位置となるため、化粧ユニットＰ７３０２を真下に移動させるだけでは第２円柱状突部Ｐ７３９７が前側領域Ｐ７３３６ａと干渉することになるが、化粧ユニットＰ７３０２を水平方向に移動させることで第２円柱状突部Ｐ７３９７を長孔Ｐ７３３６と下側受部Ｐ７３３８との上下位置間に進入させた後で、化粧ユニットＰ７３０２を上下方向に移動させることで、第１円柱状突部Ｐ７３９３及び第２円柱状突部Ｐ７３９７を、長孔Ｐ７３３６（前側領域Ｐ７３３６ａのみ）及び下側受部Ｐ７３３８に支持させることが可能となる。

【７９３３】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、化粧ユニットＰ７３０２に第１円柱状突部Ｐ７３９３及び第２円柱状突部Ｐ７３９７が構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。凹凸嵌合が可能な組み合わせの構成があればよく、例えば、化粧ユニットＰ７３０２に凹部（又は開口）が形成され、ベースユニットＰ７３０２側に対応する突部が形成されても良い。

【７９３４】

また、上下位置において、一方では化粧ユニットＰ７３０２に突部が形成されベースユニットＰ７３０１に凹部（又は開口）が形成され、他方では化粧ユニットＰ７３０２に凹部（又は開口、長孔形状または真円形状）が形成されベースユニットＰ７３０１に突部が形成されるように構成しても良い。特に下側位置における第２円柱状突部Ｐ７３０７の代わりに凹部（又は開口）を形成する場合、作業者が化粧ユニットＰ７３０２を支える下面から突出する形状部がある場合より化粧ユニットＰ７３０２を持ち易くなるため、作業負担を軽減させることができる。

【７９３５】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、下側受部Ｐ７３３８が形成される上方覆設部Ｐ７３３３ｄが山形状に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上方覆設部Ｐ７３３３ｄの上面が水平面を形成するように構成しても良い。この場合、第２円柱状突部Ｐ７３９７が突設される下面を、上方覆設部Ｐ７３３３ｄにより面で支持することができる。

【７９３６】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、化粧ユニットＰ７３０２の回転軸としての第２円柱状突部Ｐ７３９７の形成方向（上下方向）が、正面枠Ｐ７０１４の回転軸の方向と平行である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２円柱状突部Ｐ７３９７の形成方向（上下方向）が上下方向に対して傾斜する方向でも良い。この場合、化粧ユニットＰ７３０２をベースユニットＰ７３０１に対して回転移動させる際に連動して正面枠Ｐ７０１４も移動してしまうことを回避できる。そのため、正面枠Ｐ７０１４が動かないように支えておかなくても、正面枠Ｐ７０１４の配置を維持した状態で化粧ユニットＰ７３０２を移動させ易くすることができるので、化粧ユニットＰ７３０２の脱着作業を行う際に、意図せず正面枠Ｐ７０１４が開放方向に動作してしまい、隣のパチンコ機と衝突する等の不足の事態を防止することができるので、脱着作業を容易とすることができる。

【７９３７】

また、例えば、第２円柱状突部Ｐ７３９７の形成方向（上下方向）が上下方向に対して直交する方向でも良い。この場合、化粧ユニットＰ７３０２を回転移動させる方向と正面枠Ｐ７０１４の回転移動方向とが直交するため、化粧ユニットＰ７３０２を脱着させる際

の荷重によって正面枠Ｐ７０１４が追従して移動することを防止することができる。
【７９３８】
上記第５９実施形態から第６７実施形態では、化粧ユニットＰ７３０２は個別の駆動モータは備えておらず、作業者が移動させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、化粧ユニットＰ７３０２が個別の駆動モータにより駆動されるように構成にしてもよい。この場合に、化粧ユニットＰ７３０２を移動させる手段として、ステッピングモーターを備えてもよい。そして、ステッピングモーターにより化粧ユニットＰ７３０２の位置を移動させる演出を実行させても良い。この場合、化粧ユニットＰ７３０２の位置を移動させる契機として、例えば、正面枠Ｐ７０１４が開放されている状態において、所定の操作部（操作ユニットＰ１８０等）が操作された時にしても良い。
【７９３９】
この場合、例えば取り外し作業の際に、化粧ユニットＰ７３０２を駆動により開始状態まで移動させておけると、作業者は開始状態まで化粧ユニットＰ７３０２を移動させる手間が省けるため、作業者の作業負担を低減させることができる。また、化粧ユニットＰ７３０２の駆動を演出動作に利用できるように構成しても良い。
【７９４０】
上記第５９実施形態から第６７実施形態では、回転防止突部Ｐ７３８６及び突設係合部Ｐ７０１２ｇの形成態様が、正面枠Ｐ７０１４の開閉を阻害しない位置関係で構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転防止突部Ｐ７３８６の前面が、右端部よりも左端部の方が前方へ張り出す態様で形成される傾斜面となるように形成され、正面枠Ｐ７０１４の開放中において回転防止突部Ｐ７３８６の前面が突設係合部Ｐ７０１２ｇと接触し得るよう構成しても良い。この場合、正面枠Ｐ７０１４の最大開放角度を規定することで、正面枠Ｐ７０１４が過度に開放して隣接するパチンコ機と接触することを防止することができる。
【７９４１】
また、回転防止突部Ｐ７３８６が同様の形状とされる場合、化粧ユニットＰ７３０２がベースユニットＰ７３０１に対して半開き（不完全に固定されている状態）となっていても、正面枠Ｐ７０１４を開放方向に移動させて回転防止突部Ｐ７３８６を突設係合部Ｐ７０１２ｇに押し付けるようにすることで、化粧ユニットＰ７３０２の左端側をベースユニットＰ７３０１に押し付ける荷重を生じさせることができ、半開きの状態を解消することができる。
【７９４２】
これにより、正面枠Ｐ７０１４の開放端側（右端側）に立って作業をする際に、化粧ユニットＰ７３０２の回転軸（第２円柱状突部Ｐ７３９７）が化粧ユニットＰ７３０２の右端側に位置することも合わさって、化粧ユニットＰ７３０２の左端側（回転先端側）に力を伝えにくい状況があっても、正面枠Ｐ７０１４の開放端側を開放側に移動させることで生じる回転防止突部Ｐ７３８６を突設係合部Ｐ７０１２ｇに押し付ける荷重によって化粧ユニットＰ７３０２の左端側に大きな荷重を伝えやすくすることができる。
【７９４３】
なお、化粧ユニットＰ７３０２の回転軸を正面枠Ｐ７０１４の左端側に配設するようにしても良い。この場合には、係止棒部材Ｐ３８０は、左側に形成される２本を省略し、右側に形成される側を利用する方が組み付け時の干渉を避け易い。この場合、化粧ユニットＰ７３０２の背面側の視認性が良くなるため、正面枠Ｐ７０１４の開放端側（右端側）に立って行う作業の作業負担を低減させることができる。
【７９４４】
上記第５９実施形態から第６７実施形態では、突設形成部Ｐ７３５９の上下方向に突設される断面形状が途中で変化される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、突設形成部Ｐ７３５９の断面形状が途中で変化しないように構成しても良い。この場合、上下延設部である水平張出部Ｐ７３２１ｋの形成を省略可能であって、凹設形成部Ｐ７３２１ｉの上方においてベースユニットＰ７３０１の上端部から前方に張り

出す板部を形成し、その板部がベース部材Ｐ７３５０の天面の上側に重なるように構成することによって、化粧ユニットＰ７３０２が上方へ移動することを防止することができる。

【７９４５】

また、ベース部材Ｐ７３５０の天面の内、ベースユニットＰ７３０１の上端部から前方に張り出す板部と重なる部分の形成を省略し、突設形成部Ｐ７３５９は、ベースユニットＰ７３０１の上端部から前方に張り出す板部と上下方向で重なる位置に配置されるようにベース部材Ｐ７３５０の背面側から延設形成されても良い。この場合、ベース部材Ｐ７３５０の天面の後端よりも後方に突設形成部Ｐ７３５９が張り出すように構成されるため、化粧ユニットＰ７３０２のベースユニットＰ７３０１に対する上下位置がずれていた場合に早めに接触を生じさせることができ、位置のずれを作業者に早期に気付かせることができる。

【７９４６】

また、この場合においてベースユニットＰ７３０１の上端部から前方に張り出す板部の上面と、その前方におけるベース部材Ｐ７３５０の天面の上面とを面一で合わせることもできるし、張り出す板部の前方において、ベース部材Ｐ７３５０の上面が他の部分よりも一段下がるように構成しても良い。この場合、化粧ユニットＰ７３０２を上方から視認する場合において、突設形成部Ｐ７３５９の形成位置の見当を付けやすくすることができる。

【７９４７】

また、突設形成部Ｐ７３５９の上下長さは、凹設形成部Ｐ７３２１ｉの上下長さと同じ長さで構成しても良いし、異なる長さとしても良い。同じ長さで構成する場合には、接触時に荷重をバランスよく生じさせることができる。また、突設形成部Ｐ７３５９の方が凹設形成部Ｐ７３２１ｉよりも短く形成する場合には、突設形成部Ｐ７３５９による重量増加を最低限とすることができ、化粧ユニットＰ７３０２の取り付け作業を楽にすることができる。

【７９４８】

また、突設形成部Ｐ７３５９を化粧ユニットＰ７３０２の上下方向幅のほぼ全域にわたるように構成しても良い。この場合、凹設形成部Ｐ７３２１ｉも同様に上下方向に長く形成することで、単位面積あたりの荷重を低減することができ、化粧ユニットＰ７３０２の前方への位置ずれをより強固に防止することができる。

【７９４９】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、分割右側装飾ユニットＰ７０１４ｃにＬＥＤ等が配設される電飾基板が配設される一方で、分割前板部Ｐ７４８０は自ら発光するのではなく、分割右側装飾ユニットＰ７０１４ｃのカバーとして機能する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、分割前板部Ｐ７４８０に別個の電飾基板が配設され、ＬＥＤ発光による発光演出を実行可能に構成しても良い。

【７９５０】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、化粧ユニットＰ７３０２が固定された状態において、分割右側装飾ユニットＰ７０１４ｃの前方に分割前板部Ｐ７４８０が固定配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、分割前板部Ｐ７４８０が変位可能に構成しても良い。分割前板部Ｐ７４８０が上下方向に延びる回転軸を中心として回転移動することが可能に構成されている場合、前方が左右方向内側に入るように回転移動させることで、隣接するパチンコ機との接触を避け易くすることができる。

【７９５１】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、分割前板部Ｐ７４８０が、持ち手として好適に利用可能とするために背面側に突起が少なく滑らかな平面（曲面）で構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、分割前板部Ｐ７４８０の背面側から延設体が延設形成されても良い。

【７９５２】
延設体は、分割右側装飾ユニットＰ７０１４ｃの開放空間に進入するように後方へ延設される第１延設部と、その第１延設部の先端側から外方（右方）へ向けて延設される第２延設部を備えるようにして、上面視Ｌ字形状で構成されてもいい。
【７９５３】
更に、延設体に対応する構成として分割右側装飾ユニットＰ７０１４ｃの右側壁部から分割右側装飾ユニットＰ７０１４ｃの開放空間（内部側）へ向けて内部延設部が延設される。
【７９５４】
内部延設部は、化粧ユニットＰ７３０２が開始状態から中間状態へ向けて移動される際には延設体と干渉しない配置および長さで形成されており、化粧ユニットＰ７３０２が中間状態から合体状態へ向けて移動された場合に、その移動方向において延設体と対向配置される配置および長さで形成される。
【７９５５】
これにより、分割前板部Ｐ７４８０と分割右側装飾ユニットＰ７０１４ｃとの間に隙間が生じる場合であっても、分割前板部Ｐ７４８０の背面側から連続的に形成される延設体と、分割右側装飾ユニットＰ７０１４ｃの内壁部から連続的に形成される内部延設部とが隙間を埋めるように対向配置されることによって、分割前板部Ｐ７４８０と分割右側装飾ユニットＰ７０１４ｃとの間から異物が挿入されることを抑制することができる。なお、化粧ユニットＰ７３０２が合体状態となった場合に内部延設部と延設体との間に若干の隙間が空くよう設計することで、内部延設部と延設体との間に荷重が生じることを抑制することができる。
【７９５６】
なお、延設体は、分割前板部Ｐ７４８０に一体形成される樹脂部材であっても良いし、金属材料から形成される別部材が分割前板部Ｐ７４８０に締結固定されるものであっても良い。前者の場合、量産性を向上させることができる。後者の場合、十分な剛性や強度を確保することができ、分割前板部Ｐ７４８０と分割右側装飾ユニットＰ７０１４ｃとの間から挿入された異物により破損することを防止することができる。
【７９５７】
また、延設体は、分割前板部Ｐ７４８０の上下幅において分散配置されても良いし、分割前板部Ｐ７４８０の上下幅の略全域に亘って形成されても良い。前者の場合、延設体が形成されていない箇所を持ち手として利用することができるので、作業者の作業負担の低減を図りながら、隙間からの異物の進入を防止する効果を生じさせることができる。後者の場合、分割前板部Ｐ７４８０と分割右側装飾ユニットＰ７０１４ｃとの間から異物が挿入されることを分割前板部Ｐ７４８０の上下幅の全域で抑制することが可能となる。
【７９５８】
この場合、延設体は装飾構成部Ｐ３７０の下縁よりも下側の位置にも形成される。この場合、装飾構成部Ｐ３７０を通して視認され得る位置を避けた進入経路で異物をパチンコ機に進入させることで、発覚を遅らせるような不正行為の発生を防止し易くすることができる。
【７９５９】
上記第５９実施形態から第６７実施形態では、端子部Ｐ７３２１ｎが上方から電気配線Ｐ７３９１ｃを受け入れるように構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、端子部Ｐ７３２１ｎが斜め上方から電気配線Ｐ７３９１ｃを受け入れるように構成されても良いし、前方から電気配線Ｐ７３９１ｃを受け入れるように構成されても良い。この場合、端子部Ｐ７３２１ｎよりも上方において電気配線Ｐ７３９１ｃを収容するために必要となる空間の高さを低くすることができ、端子部Ｐ７３２１ｎの位置をより正面枠Ｐ７０１４の上方側に寄せることができるので、正面枠Ｐ７０１４の上方側から電気配線Ｐ７３９１ｃの抜き差しを行う作業者の作業負担を下げることができる。
【７９６０】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、端子部Ｐ７３２１ｎが配設される基板に対して、配線の束としての電気配線Ｐ７３９１ｃが接続されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、端子部Ｐ７３２１ｎが複数用意され、各端子部Ｐ７３２１ｎが別々の基板に配設され、各端子部Ｐ７３２１ｎに対応する電気配線が接続されるようにしても良い。各基板は、主制御装置Ｈ１１０と電気的に接続される基板と、音声ランプ制御装置Ｈ１１３と電気的に接続される基板とで構成しても良い。また、各基板に対して接続される電気配線は、挿入基板Ｐ７３９１ａを介する電気配線でも良いし、演出レバーＰ３３９０に一端が接続される電気配線の他端や、分割前板部Ｐ７４８０に電飾基板が配設される場合においてその電飾基板に一端が接続される電気配線の他端でも良い。

【７９６１】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、電気配線Ｐ７３９１ｃにより化粧ユニットＰ７３０２と音声ランプ制御装置Ｈ１１３とを電気的に接続するように構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ベースユニットＰ７３０１及び化粧ユニットＰ７３０２の対向面に雄雌の端子が配設され、合体状態にされることに基づいて電気的に接続されるように構成しても良い。この場合において、各端子は、位置が完全に固定されるものではなく、若干の変位が許容されるよう構成することで、ある程度の形状の誤差に対応することが可能に構成されても良い。これにより、端子の位置を回転軸側に寄せることが不要となり、端子位置の設計自由度を向上させることができる。例えば、端子を化粧ユニットＰ７３０２の回転先端側に配設しても、作業者の作業負担が増加することを避けることができる。

【７９６２】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、ベースユニットＰ７３０１に動作可能な係止部材Ｐ７３２１ｍが配設されるよう構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、電気配線の途中位置を支持しつつ動作可能な部材が化粧ユニットＰ７３０２に配設されても良い。この場合において、ベースユニットＰ７３０１と化粧ユニットＰ７３０２とが離れた場合にその間の位置に支持位置が留まるような動作を可能とすることで、電気配線が急激に伸ばされることを避けることができ、電気配線の断線を避けることができる。

【７９６３】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、化粧ユニットＰ７３０２の内部の経路を通って挿入基板Ｐ７３９１ａに一端が接続された電気配線が案内され、その電気配線の他端が演出レバーＰ３３９０に接続される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、電気配線の他端は、分割前板部Ｐ７４８０に電飾基板が配設される場合においてその電飾基板に接続されるように構成しても良い。

【７９６４】

この場合において、化粧ユニットＰ７３０２の開始状態または中間状態において、化粧ユニットＰ７３０２の前面の向く方向と、正面枠Ｐ７０１４の前面の向く方向とが異なるため、分割前板部Ｐ７４８０から化粧ユニットＰ７３０２の前面側へ向けて照射される光の方向と、電飾部Ｐ２９や報知手段としての操作ユニットＰ１８０から正面枠Ｐ７０１４の前面側へ向けて照射される光の方向とを異ならせることができる。これにより、作業者の立ち位置によって照射される光が見え難くなることを避けることができる。なお、作業者が正面枠Ｐ７０１４の右側から正面枠Ｐ７０１４の背面側を視認する位置に立って作業する場合、操作ユニットＰ１８０からの報知は、窓部Ｐ１４ｅの内側に配設されるガラスユニットＨ１６を裏側から透視することで作業者が視認することができる。

【７９６５】

また、発光により報知される構成が、別の位置に配設されても良い。例えば、正面枠Ｐ７０１４の裏側に光を照射する構成を設けても良いし、正面枠Ｐ７０１４の上方に光を照射する構成を設けても良い。この場合、作業者が光を視認し易くすることができる。また、化粧ユニットＰ７３０２の状態に関連する報知を作業者に視認させる箇所は一箇所でも良いし、複数箇所設けるようにしても良い。

【７９６６】
上記第５９実施形態から第６７実施形態に加えて、ベースユニットＰ７３０１の前面側から出没可能なスイッチ部材が構成され、そのスイッチ部材は化粧ユニットＰ７３０２と前後方向で対向配置され、化粧ユニットＰ７３０２の合体状態において押し込まれることで化粧ユニットＰ７３０２が合体状態となっていることを検出可能に構成しても良い。この検出に基づいて、分割前板部Ｐ７４８０又は電飾部Ｐ２９や報知手段としての操作ユニットＰ１８０の報知態様が切り替えられるように構成しても良い。
【７９６７】
例えば、合体状態となっていない場合において、強烈な赤色発光を出力可能とすることで、何らかの異常が生じていることを作業者が把握し易くすることができ、化粧ユニットＰ７３０２を合体状態とする作業が不完全のまま終了することを防止し易くすることができる。
【７９６８】
化粧ユニットＰ７３０２が合体状態となっていない状態で、パチンコ機の電源が入れられた場合の制御としては、種々の態様が例示される。例えば、電源が入れられた時に一定期間エラー報知を実行し、一定期間が経過したらエラー報知を停止するようにしても良い。この場合、エラー報知が何らかの誤検出であった場合において、正常に遊技を開始させることができる。
【７９６９】
また、電源が入れられた時のみでなく、一定間隔で化粧ユニットＰ７３０２の状態を検知し、エラー報知を実行するように制御しても良い。この場合、遊技中に化粧ユニットＰ７３０２の状態が合体状態からずれた場合でも対応が可能である。
【７９７０】
化粧ユニットＰ７３０２が合体状態となっていない状態で、パチンコ機の電源が入れられた場合の制御としては、種々の態様が例示される。例えば、エラー報知に代えて又は加えて、球の発射を不可能として、遊技すること自体を防止するようにしても良い。この場合、化粧ユニットＰ７３０２の状態切替が不正行為によるものである場合に、不正の利益の発生を食い止めやすくすることができる。
【７９７１】
また、球の発射自体は可能として、遊技継続可能に制御しても良い。この場合、化粧ユニットＰ７３０２の状態の検出が何らかの誤検出であって、合体状態とされても誤検出が解消されない場合に、遊技者の利益が不当に害されることを避けることができる。
【７９７２】
優先調整制御が構成されている場合に、化粧ユニットＰ７３０２が合体状態となっていない状態で、演出レバーＰ３３９０が操作された場合に、スピーカーユニットＰ９２０が動作しないように制御しても良い。この場合、遊技者が演出レバーＰ３３９０を操作した場合に異常を発見し易くなり、異常の早期発見を図ることができる。
【７９７３】
また、優先調整制御が構成されている場合に、化粧ユニットＰ７３０２が合体状態となっていない状態で、演出レバーＰ３３９０が操作された場合に、スピーカーユニットＰ９２０が動作可能に制御しても良い。この場合、化粧ユニットＰ７３０２の状態の検出が何らかの誤検出であって、合体状態とされても誤検出が解消されない場合に、遊技者の利益が不当に害されることを避けることができる。
【７９７４】
なお、化粧ユニットＰ７３０２に電気的接続を要する構成が配設されていない場合は、挿入基板Ｐ７３９１ａの配設を省略できる。この場合、電気配線Ｐ７３９１ｃを付け外しする工程が無い分、化粧ユニットＰ７３０２を脱着させる作業を容易とすることができる。なお、挿入基板Ｐ７３９１ａの配設の省略に伴って端子部Ｐ７３２１ｎの配設も省略しても良いし、端子部Ｐ７３２１ｎについては配設するようにしても良い。こうすることで、化粧ユニットＰ７３０２として複数のバリエーションが設けられる場合において、挿入

基板Ｐ７３９１ａが配設されるパターンにも、挿入基板Ｐ７３９１ａが配設されないパターンにも、ベースユニットＰ７３０１を兼用することができる。

【７９７５】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、内枠Ｈ１２に主制御装置Ｈ１１０や音声ランプ制御装置Ｈ１１３が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、正面枠Ｐ７０１４の裏側に主制御装置Ｈ１１０や音声ランプ制御装置Ｈ１１３が配設されるようにしても良い。この場合、主制御装置Ｈ１１０や音声ランプ制御装置Ｈ１１３と第３図柄表示装置Ｈ８１の表示面とが対向配置されるため、正面枠Ｐ７０１４を開放させて、主制御装置Ｈ１１０や音声ランプ制御装置Ｈ１１３に配設されるスイッチを操作した結果が第３図柄表示装置Ｈ８１に表示されるような場合に、作業が円滑となる。

【７９７６】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、演出レバーＰ３３９０がスピーカーユニットＰ９２０よりもパチンコ機Ｐ８０１０の左右方向外側に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、演出レバーＰ３３９０の配置は任意に設定可能であり、スピーカーユニットＰ９２０と同等か、スピーカーユニットＰ９２０よりもパチンコ機Ｐ８０１０の左右方向内側に配置されるようにしても良い。これにより、パチンコ機Ｐ８０１０の外観の設計自由度を向上させることができ、演出レバーＰ３３９０の配置位置による個性を持たせることができる。

【７９７７】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、機能調整操作部Ｈ１９０の操作に対応して動作部Ｐ８５８３が動作される場合が構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、機能調整操作部Ｈ１９０を押し込み続けている長さに対応して動作部Ｐ８５８３が動作されるようにしても良い。この場合、遊技者がより直感的な操作をすることが可能となる。

【７９７８】

また、機能調整操作部Ｈ１９０の操作中ではなく機能調整操作部Ｈ１９０から手が離された操作終了後において動作部Ｐ８５８３が動作されるようにしても良い。この場合、音量調整途中であるにも関わらず、操作の度に動作部Ｐ８５８３が動作する煩わしさを解消することができる。

【７９７９】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、演出レバーＰ３３９０のスピーカーユニットＰ９２０に対する距離が操作ユニットＰ１８０よりも離れている場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、演出レバーＰ３３９０のスピーカーユニットＰ９２０に対する距離が操作ユニットＰ１８０よりも近いように構成しても良いし、演出レバーＰ３３９０と操作ユニットＰ１８０とが、スピーカーユニットＰ９２０から同じ距離だけ離れているように構成しても良い。この場合、演出レバーＰ３３９０に対してもスピーカーユニットＰ９２０からの振動を伝達させ易くすることができる。

【７９８０】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、演出レバーＰ３３９０がパチンコ機Ｐ８０１０の上側に配置され、操作ユニットＰ１８０及びスピーカーユニットＰ９２０がパチンコ機Ｐ８０１０の下側に配置されるというように、演出レバーＰ３３９０と操作ユニットＰ１８０及びスピーカーユニットＰ９２０とが離間している場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、演出レバーＰ３３９０がパチンコ機Ｐ８０１０の下側に配置される等して、演出レバーＰ３３９０と操作ユニットＰ１８０及びスピーカーユニットＰ９２０とが近接配置されても良い。この場合、遊技者はパチンコ機Ｐ８０１０の下側のみを操作すれば良いので、操作を容易とすることができる。

【７９８１】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、演出レバーＰ３３９０の操作を行った場合にスピーカーユニットＰ９２０の振動が実行される場合を説明したが、必ずしもこれに

限られるものではない。例えば、演出レバーＰ３３９０の操作を実行していなくてもスピーカーユニットＰ９２０の振動が実行され得るように構成しても良い。スピーカーＰ３３２ａの振動と対応して振動するように構成しても良いし、スピーカーＰ３３２ａの振動とは独立したタイミングで振動し、異なる用途（エラー報知等）に利用されても良い。

【７９８２】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、演出レバーＰ３３９０が補助ボタンＰ３３９１を備え、補助ボタンＰ３３９１の押し込み中には演出レバーＰ３３９０を操作してもスピーカーユニットＰ９２０の振動を生じさせない場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、補助ボタンＰ３３９１を備えない、又は、補助ボタンＰ３３９１の押し込みによる機能（振動を停止させるか否か、又は、他の機能）を予め選択できるように構成しても良い。この場合、補助ボタンＰ３３９１が押し込まれた状態（遊技者が気づかずに触れている等）で固定されていることに遊技者が気づかず、そのまま演出レバーＰ３３９０の操作をしてもスピーカーユニットＰ９２０の振動が生じないために遊技者が故障ではないかと疑う事態を避けることができる。

【７９８３】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、演出レバーＰ３３９０が傾倒方向に回転移動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、演出レバーＰ３３９０の回転軸は左右方向に延びるものに限らず、前後方向に延びる回転軸でも良いし、演出レバーＰ３３９０の移動態様を直線方向のスライド移動としても良い。この場合、演出レバーＰ３３９０の操作量を目視で把握し易くすることができ、遊技者が操作を再現し易くすることができる。

【７９８４】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、演出レバーＰ３３９０が、前側先端の球状部または球状部に連結される棒状部の少なくとも一方に金属材料が利用されている場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、演出レバーＰ３３９０が樹脂材料のみから形成されても良い。この場合、量産性を向上させることができるので、パチンコ機Ｐ８０１０に予め交換部材を付属させることが容易となり、万が一破損しても対応を容易とすることができる。

【７９８５】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、優先調整制御におけるスピーカーユニットＰ９２０の動作は、一定の振動数（１０［Ｈｚ］）で継続可能となるように設定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、スピーカーユニットＰ９２０の動作の振動数が変化するようにしても良い。変化の態様は任意に設定可能であるが、例えば、演出レバーＰ３３９０の操作量が大きくなるにつれて（スピーカーユニットＰ９２０から出力される音量が大きくなるにつれて）、スピーカーユニットＰ９２０の動作の振動数が小さくなるように制御しても良い。この場合、小さい音であっても音の出力される回数を増やすことで聞こえ難いという事態を避けられるし、大きい音であっても音の出力される回数を減らすことでうるさすぎるという事態を避けられる。

【７９８６】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、動作部Ｐ８５８３が左右中央側に進入することで下側連通開口Ｐ８５７７の開口面積を小さくする場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、動作部Ｐ８５８３が退避している状態において下側連通開口Ｐ８５７７を塞ぐ動作をする開閉動作部を備え、動作部Ｐ８５８３が左右中央側に進入することで開閉動作部が退けられて、下側連通開口Ｐ８５７７の開口面積を大きくするようにしても良い。

【７９８７】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、スピーカーユニットＰ９２０からの出力が経路構成部Ｐ８５７０に進入する分と、スピーカーカバーＨ２７を通過する分とに分けられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、経路構成部Ｐ８５７０の下側連通開口Ｐ８５７７とスピーカーユニットＰ９２０の前側部とを繋ぐトン

ネル状部が形成され、スピーカーユニットＰ９２０からの出力が経路構成部Ｐ８５７０に進入する分のみとなるようにしてもいい。これにより、スピーカーユニットＰ９２０から出力される空気圧を利用した操作ユニットＰ１８０の振動の調整を行い易くすることができる。なお、この場合、スピーカーＰ３３２ａから放出される音を遊技者に聞かせるようにすればよい。

【７９８８】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、動作部Ｐ８５８３，９５９３の移動方向が一方向である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。途中で切り替えられる２方向の移動で構成されても良く、例えば、前後方向の移動と組み合わせられることにより、下側連通開口Ｐ８５７７とスピーカーユニットＰ９２０との間に進入するか退避されるかの別に加えて、スピーカーユニットＰ９２０からの離間幅が異なる場合を構成することができる。スピーカーユニットＰ９２０に近い場合には出力される空気圧をスピーカーユニットＰ９２０に近い位置で衝突させて音を拡散させ易くなり、スピーカーユニットＰ９２０からの離間幅が大きい場合には音の拡散を抑えて音を遠くまで飛ばし易くすることができる。

【７９８９】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、動作部Ｐ８５８３，９５９３の背面側形状が前後方向と垂直な平面形状とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上下方向中央部よりも上下方向外方部の方が前方側に位置する傾斜面として構成しても良い。傾斜面によってスピーカーユニットＰ９２０から出力された空気が後方に跳ね返されることを回避でき、空気を効率的に前方側へ流すことができ、音量の減衰の程度を小さくすることができる。

【７９９０】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、駆動モータＰ８５８１が動作部Ｐ８５８３を駆動させることのみに利用される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上皿Ｐ１７よりも下側に配置されているという位置関係を利用して、別個の駆動力伝達経路切替手段を介在させ、その駆動力伝達経路切替手段の状態変化により、発射位置送球ユニットＨ１７０の切替手段を駆動させる駆動源としても兼用可能に構成しても良い。これにより、音量調整後においても、駆動モータＰ８５８１が無駄となることを避けることができ、駆動装置を余分に配設する場合に比較して配置スペースを削減することができる。

【７９９１】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、演出レバーＰ３３９０の操作に対応してスピーカーユニットＰ９２０から出力される態様（音量等）は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図３４８参照）により制御される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、スピーカーユニットＰ９２０から出力される態様（音量等）が主制御装置Ｈ１１０により制御されるように構成しても良い。この場合、演出レバーＰ３３９０の操作からスピーカーユニットＰ９２０の動作が実行されるまでの時間遅れを短くすることができる。

【７９９２】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、演出レバーＰ３３９０の操作が行われた場合に第３図柄表示装置Ｈ８１で音量に関わる表示がされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、音量に関わる表示に加えて（又は、音量に関わる表示がされるよりも前に）、第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側で動作する演出動作役物が動作制御されるようにしても良い。これにより、遊技者の注目力を第３図柄表示装置Ｈ８１に集めることができ、音量に関わる表示を視認させ易くすることができる。

【７９９３】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、演出レバーＰ３３９０の操作が行われた場合に第３図柄表示装置Ｈ８１で音量に関わる表示がされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、演出レバーＰ３３９０の操作実行後ではなく、遊

技者が演出レバーＰ３３９０に触れた時点で表示が開始されるようにしても良い。即ち、現在の音量の把握したい場合、遊技者は演出レバーＰ３３９０に触れれば良い。

【７９９４】

また、表示は演出レバーＰ３３９０の操作の実行後すぐに実行されるものに限らない。例えば、演出レバーＰ３３９０の操作量が一定時間維持されたことが検出された後で表示を実行するように制御しても良い。この場合、調整途中において音量が常に表示されることにより遊技者が煩わしく感じることを避けることができる。

【７９９５】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、演出レバーＰ３３９０の操作時に限ってスピーカーユニットＰ９２０が動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、演出レバーＰ３３９０の操作を止めた後においてもスピーカーユニットＰ９２０の動作が継続されるように制御し、別の操作部（例えば、補助ボタンＰ３３９１）を操作することでスピーカーユニットＰ９２０の動作が停止されるようにしても良い。この場合、音量の調整の途中であっても遊技者の手が空くので、音量の調整の途中に操作ユニットＰ１８０の操作を促す報知がされた場合でも問題なく操作ユニットＰ１８０の操作を行うことができるため、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【７９９６】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、演出レバーＰ３３９０の操作によるスピーカーユニットＰ９２０の動作制御が、任意のタイミングで実行される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、演出レバーＰ３３９０の操作によるスピーカーユニットＰ９２０の動作制御が所定のモードにおいてのみ実行されるように構成しても良い。これにより、例えば、データカウンターＰＤｃを操作しようとした他の遊技者が誤って演出レバーＰ３３９０を触れた場合にスピーカーユニットＰ９２０の動作が実行されることを、予めモードを変更しておくことにより防止することができる。

【７９９７】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、補助ボタンＰ３３９１を操作した場合に、スピーカーユニットＰ９２０の動作はさせず、駆動モータＰ８５８１の駆動は実行可能とする場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、駆動モータＰ８５８１の駆動も停止するようにしても良い。

【７９９８】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、演出レバーＰ３３９０の操作に対応して、スピーカーユニットＰ９２０及びスピーカーＰ３３２ａの動作態様が変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、演出レバーＰ３３９０の操作によって動作態様が変化するのはスピーカーユニットＰ９２０のみであり、スピーカーＰ３３２ａの動作態様は演出レバーＰ３３９０の操作により変化されないように構成しても良い。操作ユニットＰ１８０の振動態様の調整を行う目的からすればスピーカーユニットＰ９２０の動作態様が変化されれば目的は十分達成されるためである。この場合、優先調整制御の最中において、並行して実行される演出の音声まで変化して、演出を十分に楽しめないという事態を避けることができる。なお、優先調整制御で確認した後で、機能調整操作部Ｈ１９０を操作すれば、スピーカーＰ３３２ａ及びスピーカーユニットＰ３３９０の動作態様が共に変化される。

【７９９９】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、動作部Ｐ８５８３の動作に必要とされる期間だけ演出レバーＰ３３９０の操作から時間遅れしてスピーカーユニットＰ９２０の動作が実行されるよう制御されることで動作部Ｐ８５８３の動作検出を必要とせず、駆動モータＰ８５８１の故障等により動作部Ｐ８５８３が動作しない場合には下側連通開口Ｐ８５７７が開放されないためスピーカーユニットＰ９２０が動作しても操作ユニットＰ１８０の振動がほとんど生じないことから遊技前の調整で遊技者に故障を気付かせることができ、遊技者は遊技開始前に遊技する台を変えることができるように構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、駆動モータＰ８５８１の駆動ま

たは動作部Ｐ８５８３の移動を検出し、その検出結果をスピーカーユニットＰ９２０の動作の実行有無に利用するように制御しても良い。この場合、駆動モータＰ８５８１の故障等により駆動モータＰ８５８１の駆動が実行されなかったり、動作部Ｐ８５８３が移動されなかったりすることを検出し、その検出結果に基づいてスピーカーユニットＰ９２０の動作を実行しないように制御させることができる。

【８０００】

上記第５９実施形態から第６７実施形態では、動作部Ｐ８５８３から張出板部Ｐ８５８４が前方に張り出す場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、張出板部Ｐ８５８４の構成を省略するようにしても良い。特に、被案内物体である動作部Ｐ９５９３と動作部Ｐ８５８３とが前後方向で重なる場合、動作部Ｐ９５９３及び動作部Ｐ８５８３の前後間隔が密となることによって撓みを抑制することができるため、張出板部Ｐ８５８４が無くても撓みの発生を抑制することができ、撓みに利用されて空気が減衰される程度を弱めることができ、遊技者に聞かせる音を大きくすることができる。

【８００１】

本発明を上記各実施形態とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される）として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の領域に球を入賞させることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるパチンコ機として実施してもよい。また、Ｖゾーン等の特別領域を有する入賞装置を有し、その特別領域に球を入賞させることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機に実施してもよい。更に、パチンコ機以外にも、アレパチ、雀球、スロットマシン、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機などの各種遊技機として実施するようにしても良い。

【８００２】

なお、スロットマシンは、例えばコインを投入して図柄有効ラインを決定させた状態で操作レバーを操作することにより図柄が変動され、ストップボタンを操作することにより図柄が停止されて確定される周知のものである。従って、スロットマシンの基本概念としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を変動表示した後に識別情報を確定表示する表示装置を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の変動表示が停止して確定表示され、その停止時の識別情報の組合せが特定のものであることを必要条件として、遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるスロットマシン」となり、この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【８００３】

また、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する表示装置を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく所定量の球の投入の後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技が発生させられ、遊技者には、下部の受皿に多量の球が払い出されるものである。かかる遊技機をスロットマシンに代えて使用すれば、遊技ホールでは球のみを遊技価値として取り扱うことができるため、パチンコ機とスロットマシンとが混在している現在の遊技ホールにおいてみられる、遊技価値たるメダルと球との別個の取扱による設備上の負担や遊技機設置個所の制約といった問題を解消し得る。

【８００４】

上記した各実施形態について、その全部またはその一部を組み合わせて構成してもよい

。
【８００５】
以下に、本発明の遊技機に加えて上述した実施形態に含まれる各種発明の概念を示す。
【８００６】
＜合体時に押進の動作がされる切替手段＞
特定枠から離間する方向に移動可能な所定枠と、その所定枠に脱着可能に構成される構成手段と、前記構成手段を脱着させる場合に取付状態から解除状態へ切替可能とされる切替手段と、を備え、前記切替手段は、前記所定枠に配設可能な所定手段と、その所定手段に対応した動作が可能とされる動作手段と、を備え、前記構成手段は、前記所定手段または前記動作手段の少なくとも一方を押進することに基づいて前記切替手段の状態を変化させることが可能な変化手段を備え、前記構成手段は、前側部から張り出す張出部を備え、前記遊技機は、前記切替手段の少なくとも一部を視認可能に構成される視認可能部を備え、前記特定枠と前記所定枠とが近接されている場合よりも前記特定枠から前記所定枠が離間されている場合の方が、前記視認可能部が視認し易いように構成されることを特徴とする遊技機ＰＡ１。
【８００７】
パチンコ機等の遊技機において、所定枠から脱着可能に構成される構成手段を備える遊技機がある（例えば、特開２０１９－２４５３８号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、所定枠に対して構成手段が適切に組み付けられているかの判定が検出により実行されることから、構成手段を所定枠に組み付けた状態で電源の投入を行う必要があるため、仮に構成手段が適切に組み付けられていなかった場合には再び電源を切ることが必要とされることから、作業工数が多く、構成手段に対する作業を好適とする観点で改善の余地があるという問題点があった。
【８００８】
これに対し、遊技機ＰＡ１によれば、特定枠から所定枠を離間させた状態において視認可能部が視認し易く構成されており、その視認可能部を通して切替手段の状態を把握可能となっていることから、特定枠から所定枠を離間させた状態のままで構成手段の所定枠に対する組み付け作業が完了したかどうかの確認を行うことができるので、確認作業に電源の投入を必要とせず、組み付け作業の作業工数を少なくすることができる。更に、前側部から張り出す張出部を把持することで構成手段の着脱作業の負担も下げることができるので、構成手段に対する作業を好適とすることができる。
【８００９】
特定枠は、内枠Ｈ１２でも良く、所定枠は、正面枠Ｐ１４でも良く、その所定枠Ｐ１４に固定されるベースユニットＰ３０１でも良い。また、構成手段は、化粧ユニットＰ３０２でも良い。また、切替手段は、切替構成部Ｐ３２０でも良く、所定手段は、被操作部材Ｐ３２２でも良く、動作手段は、追従動作部材Ｐ３２４でも良く、変化手段は、係止棒部材Ｐ３８０でも良く、張出部は、前側傾斜部Ｐ３５５でも良く、視認可能部は、複数段形成部Ｐ３２１ｈでも良いし、板状部Ｐ３１４の間の領域でも良い。
【８０１０】
遊技機ＰＡ１において、前記所定枠は前記特定枠に対して所定の回転軸を中心に回転動作可能に支持されており、前記張出部は、前記所定の回転軸から離間した位置に配設されることを特徴とする遊技機ＰＡ２。
【８０１１】
遊技機ＰＡ２によれば、遊技機ＰＡ１の奏する効果に加え、張出部を把持して行う作業により所定枠を特定枠から容易に離間させることができる。
【８０１２】
遊技機ＰＡ１又はＰＡ２において、前記所定枠は前記特定枠に対して所定の回転軸を中心に回転動作可能に支持されており、前記視認可能部は、前記所定の回転軸から離間した位置に配設されることを特徴とする遊技機ＰＡ３。
【８０１３】

遊技機ＰＡ３によれば、遊技機ＰＡ１又はＰＡ２の奏する効果に加え、所定枠と特定枠との離間幅を確保し易い位置としての回転軸から離間した位置に視認可能部が位置されることにより、視認可能部への視線を通り易くすることができる。

【８０１４】

遊技機ＰＡ１からＰＡ３のいずれかにおいて、前記所定手段は、前記構成手段を前記所定枠から離間させる場合に動作されることを特徴とする遊技機ＰＡ４。

【８０１５】

遊技機ＰＡ４によれば、遊技機ＰＡ１からＰＡ３のいずれかの奏する効果に加え、構成手段を所定枠から離間させる場合における動作対象としての所定手段が所定枠に配設されることが分かっているので、作業効率を向上させることができる。

【８０１６】

遊技機ＰＡ１からＰＡ４のいずれかにおいて、前記所定手段は、前記取付状態から前記解除状態へ状態変化される場合に動作可能とされ、その動作中において少なくとも一部が外方から視認可能とされることを特徴とする遊技機ＰＡ５。

【８０１７】

遊技機ＰＡ５によれば、遊技機ＰＡ１からＰＡ４のいずれかの奏する効果に加え、所定手段が外方から視認可能とされることから、その視認される箇所を目印として切替手段の状態を目視で把握することができる。

【８０１８】

そのため、切替手段の状態の切り替えが完了していない場合に、切替不良となっていることを早期に発見することができ、切替不良による事故の発生を未然に防ぐことができる。また、切替手段の状態を確認するためにわざわざ遊技機を開放させることを必要としないので、切替手段の状態の切り替えが完了しているかの確認に要する時間を短縮することができる。

【８０１９】

遊技機ＰＡ１からＰＡ５のいずれかにおいて、所定の操作手段により前記所定手段を操作することで前記切替手段の状態を切替可能に構成されており、前記所定枠に前記構成手段を取り付けた状態で前記所定の操作手段を所定方向に操作することにより前記構成手段の前記所定枠に対する位置が固定されることを特徴とする遊技機ＰＡ６。

【８０２０】

遊技機ＰＡ６によれば、遊技機ＰＡ１からＰＡ５のいずれかの奏する効果に加え、所定枠に対する構成手段の取り付けの際に、所定の操作手段の所定方向への操作を必要とすることにより、所定枠に対して構成手段を仮置き（すなわち、固定される位置において非固定の状態で配置）することができるので、所定枠に対して構成手段を取り付けては再度取り外して行う必要がある態様のメンテナンス（例えば、ＬＥＤから照射された光が実際にはどのように視認されるのかを確認しながら、電飾基板の配置を調整したり、光を反射させる部位の角度を調整したりする貸態様のメンテナンス）をしやすくすることができる。

【８０２１】

遊技機ＰＡ１からＰＡ６のいずれかにおいて、前記切替手段は、所定の操作手段により操作される箇所を除いて、前記所定枠および前記構成手段により覆われることを特徴とする遊技機ＰＡ７。

【８０２２】

遊技機ＰＡ７によれば、遊技機ＰＡ１からＰＡ６のいずれかの奏する効果に加え、切替手段に対する外部からの侵入を遮断することができるため、意図せず切替手段の状態が切り替えられる事態を未然に防ぐことができる。

【８０２３】

遊技機ＰＡ１からＰＡ７のいずれかにおいて、前記切替手段は、前記変化手段に押進される被押進手段を備え、前記切替手段は、前記構成手段が前記所定枠から離れている状態において前記被押進手段が視認可能とされ、前記被押進手段を除く箇所における前記所定手段および前記動作手段は視認不能に覆われることを特徴とする遊技機ＰＡ８。

【８０２４】
遊技機ＰＡ８によれば、遊技機ＰＡ１からＰＡ７のいずれかの奏する効果に加え、被押進手段のみが視認可能とされることにより、変化手段を向かわせる対象を把握させやすくすることができるので、構成手段の所定枠への組み付け作業を容易とすることができる。
【８０２５】
遊技機ＰＡ１からＰＡ８のいずれかにおいて、前記切替手段は、前記動作手段を支持する閉空間を構成する支持手段を備え、前記支持手段が前記所定枠に締結固定されることを特徴とする遊技機ＰＡ９。
【８０２６】
遊技機ＰＡ９によれば、遊技機ＰＡ１からＰＡ８のいずれかの奏する効果に加え、動作手段を支持する閉空間を構成する支持手段が所定枠に締結固定されることから、動作手段が構成手段側に外れる不具合を防止することができる。なお、支持手段は、ベース部材Ｐ３１０及びベースカバーＰ３２１でも良い。
【８０２７】
遊技機ＰＡ１からＰＡ９のいずれかにおいて、前記変化手段は、複数構成されることを特徴とする遊技機ＰＡ１０。
【８０２８】
遊技機ＰＡ１０によれば、遊技機ＰＡ１からＰＡ９のいずれかの奏する効果に加え、構成手段と切替手段との間で生じる力を複数位置で分散させることができるので、局所的に大きな力が生じる場合に比較して、変化手段の破損が生じる可能性を低くすることができる。
【８０２９】
遊技機ＰＡ１からＰＡ１０のいずれかにおいて、前記動作手段は所定の平面と平行に動作されるように構成され、前記構成手段が前記所定枠に取り付けられる場合、前記構成手段は前記所定の平面と交差する方向に沿って前記所定枠に近づけられることを特徴とするＰＡ１１。
【８０３０】
遊技機ＰＡ１１によれば、遊技機ＰＡ１からＰＡ１０のいずれかの奏する効果に加え、動作手段の動作方向が構成手段の移動方向と交差するため、同方向に移動される場合に比較して、構成手段の移動量を動作手段の移動量に効率的に変換させることができる。
【８０３１】
遊技機ＰＡ１からＰＡ１１のいずれかにおいて、前記動作手段は、上下方向成分を含む方向に動作されることを特徴とする遊技機ＰＡ１２。
【８０３２】
遊技機ＰＡ１２によれば、遊技機ＰＡ１からＰＡ１１のいずれかの奏する効果に加え、重力を利用した動作手段の動作を生じさせることができる。
【８０３３】
遊技機ＰＡ１からＰＡ１２のいずれかにおいて、前記動作手段は、取付状態における位置へ向けて動作する場合に下降する方向へ動作することを特徴とする遊技機ＰＡ１３。
【８０３４】
遊技機ＰＡ１３によれば、遊技機ＰＡ１からＰＡ１２のいずれかの奏する効果に加え、重力を利用した動作手段の動作により切替手段を取り付け状態にすることができるので、他の動力原に比較して、経年劣化の影響を受けにくくすることができる。
【８０３５】
特定枠から離間する方向に移動可能な所定枠と、その所定枠に脱着可能に構成される構成手段と、前記構成手段を脱着させる場合に取付状態から解除状態へ切替可能とされる切替手段と、を備え、前記切替手段は、前記所定枠に配設可能な第１動作可能手段と、その第１動作可能手段の動作に基づく動作が可能とされる第２動作可能手段と、を備え、前記構成手段は、前記第１動作可能手段または前記第２動作可能手段の少なくとも一方を押進することに基づいて前記切替手段の状態を変化させることが可能な変化手段と、前側部か

ら張り出す張出部と、を備え、前記遊技機は、前記切替手段の少なくとも一部を視認可能に構成される視認可能部を備え、前記特定枠と前記所定枠とが近接されている場合よりも前記特定枠から前記所定枠が離間されている場合の方が、前記視認可能部が視認し易いように構成されることを特徴とする遊技機ＰＢ１。

【８０３６】

パチンコ機等の遊技機において、所定枠から脱着可能に構成される構成手段を備える遊技機がある（例えば、特開２０１９－２４５３８号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、所定枠に対して構成手段が適切に組み付けられているかの判定が検出により実行されることから、構成手段を所定枠に組み付けた状態で電源の投入を行う必要があるため、仮に構成手段が適切に組み付けられていなかった場合には再び電源を切ることが必要とされることから、作業工数が多く、構成手段に対する作業を好適とする観点で改善の余地があるという問題点があった。

【８０３７】

これに対し、遊技機ＰＢ１によれば、特定枠から所定枠を離間させた状態において視認可能部が視認し易く構成されており、その視認可能部を通して切替手段の状態を把握可能となっていることから、特定枠から所定枠を離間させた状態のままで構成手段の所定枠に対する組み付け作業が完了したかどうかの確認を行うことができるので、確認作業に電源の投入を必要とせず、組み付け作業の作業工数を少なくすることができる。更に、前側部から張り出す張出部を把持することで構成手段の着脱作業の負担も下げることができるので、構成手段に対する作業を好適とすることができる。

【８０３８】

特定枠は、内枠Ｈ１２でも良く、所定枠は、正面枠Ｐ１４でも良く、その所定枠Ｐ１４に固定されるベースユニットＰ３０１でも良い。また、構成手段は、化粧ユニットＰ３０２でも良い。また、切替手段は、切替構成部Ｐ３２０でも良く、第１動作可能手段は、被操作部材Ｐ３２２でも良く、第２動作可能手段は、追従動作部材Ｐ３２４でも良く、変化手段は、係止棒部材Ｐ３８０でも良く、張出部は、前側傾斜部Ｐ３５５でも良く、視認可能部は、複数段形成部Ｐ３２１ｈでも良いし、板状部Ｐ３１４の間の領域でも良い。

【８０３９】

遊技機ＰＢ１において、前記所定枠は前記特定枠に対して所定の回転軸を中心に回転動作可能に支持されており、前記張出部は、前記所定の回転軸から離間した位置に配設されることを特徴とする遊技機ＰＢ２。

【８０４０】

遊技機ＰＢ２によれば、遊技機ＰＢ１の奏する効果に加え、張出部を把持して行う作業により所定枠を特定枠から容易に離間させることができる。

【８０４１】

遊技機ＰＢ１又はＰＢ２において、前記所定枠は前記特定枠に対して所定の回転軸を中心に回転動作可能に支持されており、前記視認可能部は、前記所定の回転軸から離間した位置に配設されることを特徴とする遊技機ＰＢ３。

【８０４２】

遊技機ＰＢ３によれば、遊技機ＰＢ１又はＰＢ２の奏する効果に加え、所定枠と特定枠との離間幅を確保し易い位置としての回転軸から離間した位置に視認可能部が位置されることにより、視認可能部への視線を通り易くすることができる。

【８０４３】

特定枠から離間する方向に移動可能な所定枠と、その所定枠に脱着可能に構成される構成手段と、前記構成手段を脱着させる場合に取付状態から解除状態へ切替可能とされる切替手段と、を備え、前記切替手段は、前記所定枠に配設可能な所定手段と、その所定手段に対応した動作が可能とされる動作手段と、を備え、前記構成手段は、前記所定手段または前記動作手段の少なくとも一方を押進することに基づいて前記切替手段の状態を変化させることが可能な変化手段と、前側部から張り出す張出部と、を備え、前記遊技機は、前記切替手段の少なくとも一部を視認可能に構成される視認可能部を備え、前記所定枠が前

記特定枠から離間する方向に移動することに基づいて前記視認可能部が視認し易くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＰＣ１。

【８０４４】

パチンコ機等の遊技機において、所定枠から脱着可能に構成される構成手段を備える遊技機がある（例えば、特開２０１９－２４５３８号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、所定枠に対して構成手段が適切に組み付けられているかの判定が検出により実行されることから、構成手段を所定枠に組み付けた状態で電源の投入を行う必要があるため、仮に構成手段が適切に組み付けられていなかった場合には再び電源を切ることが必要とされることから、作業工数が多く、構成手段に対する作業を好適とする観点で改善の余地があるという問題点があった。

【８０４５】

これに対し、遊技機ＰＣ１によれば、特定枠から所定枠を離間させた状態において視認可能部が視認し易く構成されており、その視認可能部を通して切替手段の状態を把握可能となっていることから、特定枠から所定枠を離間させた状態のままで構成手段の所定枠に対する組み付け作業が完了したかどうかの確認を行うことができるので、確認作業に電源の投入を必要とせず、組み付け作業の作業工数を少なくすることができる。更に、前側部から張り出す張出部を把持することで構成手段の着脱作業の負担も下げることができるので、構成手段に対する作業を好適とすることができる。

【８０４６】

特定枠は、内枠Ｈ１２でも良く、所定枠は、正面枠Ｐ１４でも良く、その所定枠Ｐ１４に固定されるベースユニットＰ３０１でも良い。また、構成手段は、化粧ユニットＰ３０２でも良い。また、切替手段は、切替構成部Ｐ３２０でも良く、所定手段は、被操作部材Ｐ３２２でも良く、動作手段は、追従動作部材Ｐ３２４でも良く、変化手段は、係止棒部材Ｐ３８０でも良く、張出部は、前側傾斜部Ｐ３５５でも良く、視認可能部は、複数段形成部Ｐ３２１ｈでも良いし、板状部Ｐ３１４の間の領域でも良い。

【８０４７】

遊技機ＰＣ１において、前記所定枠は前記特定枠に対して所定の回転軸を中心に回転動作可能に支持されており、前記張出部は、前記所定の回転軸から離間した位置に配設されることを特徴とする遊技機ＰＣ２。

【８０４８】

遊技機ＰＣ２によれば、遊技機ＰＣ１の奏する効果に加え、張出部を把持して行う作業により所定枠を特定枠から容易に離間させることができる。

【８０４９】

遊技機ＰＣ１又はＰＣ２において、前記所定枠は前記特定枠に対して所定の回転軸を中心に回転動作可能に支持されており、前記視認可能部は、前記所定の回転軸から離間した位置に配設されることを特徴とする遊技機ＰＣ３。

【８０５０】

遊技機ＰＣ３によれば、遊技機ＰＣ１又はＰＣ２の奏する効果に加え、所定枠と特定枠との離間幅を確保し易い位置としての回転軸から離間した位置に視認可能部が位置されることにより、視認可能部への視線を通り易くすることができる。

【８０５１】

第１枠状体から離間する方向に移動可能な第２枠状体と、その第２枠状体に脱着可能に構成される構成手段と、前記構成手段を脱着させる場合に取付状態から解除状態へ切替可能とされる切替手段と、を備え、前記切替手段は、前記第２枠状体に配設可能な第１動作可能手段と、その第１動作可能手段の動作に基づく動作が可能とされる第２動作可能手段と、を備え、前記構成手段は、前記第１動作可能手段または前記第２動作可能手段の少なくとも一方を押進することに基づいて前記切替手段の状態を変化させることが可能な変化手段を備え、前記構成手段は、前側部から張り出す張出部を備え、前記遊技機は、前記切替手段の少なくとも一部を視認可能に構成される視認可能部を備え、前記第１枠状体と前記第２枠状体とが近接されている場合よりも前記第１枠状体から前記第２枠状体が離間さ

れている場合の方が、前記視認可能部が視認し易いように構成されることを特徴とする遊技機ＰＤ１。

【８０５２】

パチンコ機等の遊技機において、所定の枠状体から脱着可能に構成される構成手段を備える遊技機がある（例えば、特開２０１９－２４５３８号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、所定の枠状体に対して構成手段が適切に組み付けられているかの判定が検出により実行されることから、構成手段を所定の枠状体に組み付けた状態で電源の投入を行う必要があるため、仮に構成手段が適切に組み付けられていなかった場合には再び電源を切ることが必要とされることから、作業工数が多く、構成手段に対する作業を好適とする観点で改善の余地があるという問題点があった。

【８０５３】

これに対し、遊技機ＰＤ１によれば、第１枠状体から第２枠状体を離間させた状態において視認可能部が視認し易く構成されており、その視認可能部を通して切替手段の状態を把握可能となっていることから、第１枠状体から第２枠状体を離間させた状態のままで構成手段の第２枠状体に対する組み付け作業が完了したかどうかの確認を行うことができるので、確認作業に電源の投入を必要とせず、組み付け作業の作業工数を少なくすることができる。更に、前側部から張り出す張出部を把持することで構成手段の着脱作業の負担も下げることができるので、構成手段に対する作業を好適とすることができる。

【８０５４】

第１枠状体は、内枠Ｈ１２でも良く、第２枠状体は、正面枠Ｐ１４でも良く、その第２枠状体Ｐ１４に固定されるベースユニットＰ３０１でも良い。また、構成手段は、化粧ユニットＰ３０２でも良い。また、切替手段は、切替構成部Ｐ３２０でも良く、第１動作可能手段は、被操作部材Ｐ３２２でも良く、第２動作可能手段は、追従動作部材Ｐ３２４でも良く、変化手段は、係止棒部材Ｐ３８０でも良く、張出部は、前側傾斜部Ｐ３５５でも良く、視認可能部は、複数段形成部Ｐ３２１ｈでも良いし、板状部Ｐ３１４の間の領域でも良い。

【８０５５】

遊技機ＰＤ１において、前記第２枠状体は前記第１枠状体に対して所定の回転軸を中心に回転動作可能に支持されており、前記張出部は、前記所定の回転軸から離間した位置に配設されることを特徴とする遊技機ＰＤ２。

【８０５６】

遊技機ＰＤ２によれば、遊技機ＰＤ１の奏する効果に加え、張出部を把持して行う作業により第２枠状体を第１枠状体から容易に離間させることができる。

【８０５７】

遊技機ＰＤ１又はＰＤ２において、前記第２枠状体は前記第１枠状体に対して所定の回転軸を中心に回転動作可能に支持されており、前記視認可能部は、前記所定の回転軸から離間した位置に配設されることを特徴とする遊技機ＰＤ３。

【８０５８】

遊技機ＰＤ３によれば、遊技機ＰＤ１又はＰＤ２の奏する効果に加え、第２枠状体と第１枠状体との離間幅を確保し易い位置としての回転軸から離間した位置に視認可能部が位置されることにより、視認可能部への視線を通り易くすることができる。

【８０５９】

特定枠から離間する方向に移動可能な所定枠と、その所定枠に脱着可能に構成される構成手段と、前記構成手段を脱着させる場合に取付状態から解除状態へ切替可能とされる切替手段と、を備え、前記切替手段は、前記所定枠に配設可能な第１動作可能手段と、その第１動作可能手段の動作に基づく動作が可能とされる第２動作可能手段と、を備え、前記構成手段は、前記第１動作可能手段または前記第２動作可能手段の少なくとも一方を押進することに基づいて前記切替手段の状態を変化させることが可能な変化手段を備え、前記構成手段は、前側部から張り出す張出部を備え、前記遊技機は、前記切替手段の少なくとも一部を視認可能に構成される視認可能部を備え、前記所定枠が前記特定枠から離間する

方向に移動することに基づいて前記視認可能部が視認し易くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＰＥ１。

【８０６０】

パチンコ機等の遊技機において、所定枠から脱着可能に構成される構成手段を備える遊技機がある（例えば、特開２０１９－２４５３８号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、所定枠に対して構成手段が適切に組み付けられているかの判定が検出により実行されることから、構成手段を所定枠に組み付けた状態で電源の投入を行う必要があるため、仮に構成手段が適切に組み付けられていなかった場合には再び電源を切ることが必要とされることから、作業工数が多く、構成手段に対する作業を好適とする観点で改善の余地があるという問題点があった。

【８０６１】

これに対し、遊技機ＰＥ１によれば、特定枠から所定枠を離間させた状態において視認可能部が視認し易く構成されており、その視認可能部を通して切替手段の状態を把握可能となっていることから、特定枠から所定枠を離間させた状態のままで構成手段の所定枠に対する組み付け作業が完了したかどうかの確認を行うことができるので、確認作業に電源の投入を必要とせず、組み付け作業の作業工数を少なくすることができる。更に、前側部から張り出す張出部を把持することで構成手段の着脱作業の負担も下げることができるので、構成手段に対する作業を好適とすることができる。

【８０６２】

特定枠は、内枠Ｈ１２でも良く、所定枠は、正面枠Ｐ１４でも良く、その所定枠Ｐ１４に固定されるベースユニットＰ３０１でも良い。また、構成手段は、化粧ユニットＰ３０２でも良い。また、切替手段は、切替構成部Ｐ３２０でも良く、第１動作可能手段は、被操作部材Ｐ３２２でも良く、第２動作可能手段は、追従動作部材Ｐ３２４でも良く、変化手段は、係止棒部材Ｐ３８０でも良く、張出部は、前側傾斜部Ｐ３５５でも良く、視認可能部は、複数段形成部Ｐ３２１ｈでも良いし、板状部Ｐ３１４の間の領域でも良い。

【８０６３】

遊技機ＰＥ１において、前記所定枠は前記特定枠に対して所定の回転軸を中心に回転動作可能に支持されており、前記張出部は、前記所定の回転軸から離間した位置に配設されることを特徴とする遊技機ＰＥ２。

【８０６４】

遊技機ＰＥ２によれば、遊技機ＰＥ１の奏する効果に加え、張出部を把持して行う作業により所定枠を特定枠から容易に離間させることができる。

【８０６５】

遊技機ＰＥ１又はＰＥ２において、前記所定枠は前記特定枠に対して所定の回転軸を中心に回転動作可能に支持されており、前記視認可能部は、前記所定の回転軸から離間した位置に配設されることを特徴とする遊技機ＰＥ３。

【８０６６】

遊技機ＰＥ３によれば、遊技機ＰＥ１又はＰＥ２の奏する効果に加え、所定枠と特定枠との離間幅を確保し易い位置としての回転軸から離間した位置に視認可能部が位置されることにより、視認可能部への視線を通り易くすることができる。

【８０６７】

第１枠状体から離間する方向に移動可能な第２枠状体と、その第２枠状体に脱着可能に構成される構成手段と、前記構成手段を脱着させる場合に取付状態から解除状態へ切替可能とされる切替手段と、を備え、前記切替手段は、前記第２枠状体に配設可能な所定手段と、その所定手段に対応した動作が可能とされる動作手段と、を備え、前記構成手段は、前記所定手段または前記動作手段の少なくとも一方を押進することに基づいて前記切替手段の状態を変化させることが可能な変化手段を備え、前記構成手段は、前側部から張り出す張出部を備え、前記遊技機は、前記切替手段の少なくとも一部を視認可能に構成される視認可能部を備え、前記第２枠状体が前記第１枠状体から離間する方向に移動することに基づいて前記視認可能部が視認し易くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＰＦ

１。
【８０６８】
パチンコ機等の遊技機において、所定の枠状体から脱着可能に構成される構成手段を備える遊技機がある（例えば、特開２０１９－２４５３８号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、所定の枠状体に対して構成手段が適切に組み付けられているかの判定が検出により実行されることから、構成手段を所定の枠状体に組み付けた状態で電源の投入を行う必要があるため、仮に構成手段が適切に組み付けられていなかった場合には再び電源を切ることが必要とされることから、作業工数が多く、構成手段に対する作業を好適とする観点で改善の余地があるという問題点があった。
【８０６９】
これに対し、遊技機ＰＦ１によれば、第１枠状体から第２枠状体を離間させた状態において視認可能部が視認し易く構成されており、その視認可能部を通して切替手段の状態を把握可能となっていることから、第１枠状体から第２枠状体を離間させた状態のままで構成手段の第２枠状体に対する組み付け作業が完了したかどうかの確認を行うことができるので、確認作業に電源の投入を必要とせず、組み付け作業の作業工数を少なくすることができる。更に、前側部から張り出す張出部を把持することで構成手段の着脱作業の負担も下げることができるので、構成手段に対する作業を好適とすることができる。
【８０７０】
第１枠状体は、内枠Ｈ１２でも良く、第２枠状体は、正面枠Ｐ１４でも良く、その第２枠状体Ｐ１４に固定されるベースユニットＰ３０１でも良い。また、構成手段は、化粧ユニットＰ３０２でも良い。また、切替手段は、切替構成部Ｐ３２０でも良く、所定手段は、被操作部材Ｐ３２２でも良く、動作手段は、追従動作部材Ｐ３２４でも良く、変化手段は、係止棒部材Ｐ３８０でも良く、張出部は、前側傾斜部Ｐ３５５でも良く、視認可能部は、複数段形成部Ｐ３２１ｈでも良いし、板状部Ｐ３１４の間の領域でも良い。
【８０７１】
遊技機ＰＦ１において、前記第２枠状体は前記第１枠状体に対して所定の回転軸を中心に回転動作可能に支持されており、前記張出部は、前記所定の回転軸から離間した位置に配設されることを特徴とする遊技機ＰＦ２。
【８０７２】
遊技機ＰＦ２によれば、遊技機ＰＦ１の奏する効果に加え、張出部を把持して行う作業により第２枠状体を第１枠状体から容易に離間させることができる。
【８０７３】
遊技機ＰＦ１又はＰＦ２において、前記第２枠状体は前記第１枠状体に対して所定の回転軸を中心に回転動作可能に支持されており、前記視認可能部は、前記所定の回転軸から離間した位置に配設されることを特徴とする遊技機ＰＦ３。
【８０７４】
遊技機ＰＦ３によれば、遊技機ＰＦ１又はＰＦ２の奏する効果に加え、第２枠状体と第１枠状体との離間幅を確保し易い位置としての回転軸から離間した位置に視認可能部が位置されることにより、視認可能部への視線を通り易くすることができる。
【８０７５】
第１枠状体から離間する方向に移動可能な第２枠状体と、その第２枠状体に脱着可能に構成される構成手段と、前記構成手段を脱着させる場合に取付状態から解除状態へ切替可能とされる切替手段と、を備え、前記切替手段は、前記第２枠状体に配設可能な第１動作可能手段と、その第１動作可能手段の動作に基づく動作が可能とされる第２動作可能手段と、を備え、前記構成手段は、前記第１動作可能手段または前記第２動作可能手段の少なくとも一方を押進することに基づいて前記切替手段の状態を変化させることが可能な変化手段を備え、前記構成手段は、前側部から張り出す張出部を備え、前記遊技機は、前記切替手段の少なくとも一部を視認可能に構成される視認可能部を備え、前記第２枠状体が前記第１枠状体から離間する方向に移動することに基づいて前記視認可能部が視認し易くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＰＧ１。

【８０７６】
パチンコ機等の遊技機において、所定の枠状体から脱着可能に構成される構成手段を備える遊技機がある（例えば、特開２０１９－２４５３８号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、所定の枠状体に対して構成手段が適切に組み付けられているかの判定が検出により実行されることから、構成手段を所定の枠状体に組み付けた状態で電源の投入を行う必要があるため、仮に構成手段が適切に組み付けられていなかった場合には再び電源を切ることが必要とされることから、作業工数が多く、構成手段に対する作業を好適とする観点で改善の余地があるという問題点があった。
【８０７７】
これに対し、遊技機ＰＧ１によれば、第１枠状体から第２枠状体を離間させた状態において視認可能部が視認し易く構成されており、その視認可能部を通して切替手段の状態を把握可能となっていることから、第１枠状体から第２枠状体を離間させた状態のままで構成手段の第２枠状体に対する組み付け作業が完了したかどうかの確認を行うことができるので、確認作業に電源の投入を必要とせず、組み付け作業の作業工数を少なくすることができる。更に、前側部から張り出す張出部を把持することで構成手段の着脱作業の負担も下げることができるので、構成手段に対する作業を好適とすることができる。
【８０７８】
第１枠状体は、内枠Ｈ１２でも良く、第２枠状体は、正面枠Ｐ１４でも良く、その第２枠状体Ｐ１４に固定されるベースユニットＰ３０１でも良い。また、構成手段は、化粧ユニットＰ３０２でも良い。また、切替手段は、切替構成部Ｐ３２０でも良く、第１動作可能手段は、被操作部材Ｐ３２２でも良く、第２動作可能手段は、追従動作部材Ｐ３２４でも良く、変化手段は、係止棒部材Ｐ３８０でも良く、張出部は、前側傾斜部Ｐ３５５でも良く、視認可能部は、複数段形成部Ｐ３２１ｈでも良いし、板状部Ｐ３１４の間の領域でも良い。
【８０７９】
遊技機ＰＧ１において、前記第２枠状体は前記第１枠状体に対して所定の回転軸を中心に回転動作可能に支持されており、前記張出部は、前記所定の回転軸から離間した位置に配設されることを特徴とする遊技機ＰＧ２。
【８０８０】
遊技機ＰＧ２によれば、遊技機ＰＧ１の奏する効果に加え、張出部を把持して行う作業により第２枠状体を第１枠状体から容易に離間させることができる。
【８０８１】
遊技機ＰＧ１又はＰＧ２において、前記第２枠状体は前記第１枠状体に対して所定の回転軸を中心に回転動作可能に支持されており、前記視認可能部は、前記所定の回転軸から離間した位置に配設されることを特徴とする遊技機ＰＧ３。
【８０８２】
遊技機ＰＧ３によれば、遊技機ＰＧ１又はＰＧ２の奏する効果に加え、第２枠状体と第１枠状体との離間幅を確保し易い位置としての回転軸から離間した位置に視認可能部が位置されることにより、視認可能部への視線を通り易くすることができる。
【８０８３】
＜取付時に扉を開けさせる＞
特定枠と、その特定枠の左右方向一側において前記特定枠に対して回転動作可能に支持されており前記特定枠から離間する方向に移動可能な所定枠と、その所定枠に脱着可能に構成される構成手段と、を備え、前記構成手段は、前記所定枠が前記特定枠から離間した状態から前記構成手段が第１方向で移動された後に第２方向で移動されることに基づいて前記所定枠に対する第１位置に第１姿勢で固定されるよう構成され、前記所定枠が前記特定枠から離間していない状態から前記構成手段が第３方向で移動された後に第４方向で移動されることに基づいて前記所定枠に対する前記第１位置に固定されるよう構成され、前記所定枠は、前記左右方向一側において張出形成される形成部を備え、前記構成手段は、前記形成部を受け入れ可能に構成される受入部を備え、前記第１方向での移動は、前記第

１姿勢と異なる所定姿勢で実行され、前記第１方向で移動させることで前記構成手段を載置位置に載置可能であり、前記載置位置に載置した後に前記構成手段を前記第２方向で移動可能に構成されることを特徴とする遊技機ＰＰＢ１。

【８０８４】

パチンコ機等の遊技機において、所定枠から脱着可能に構成される構成手段を備える遊技機がある（例えば、特開２０１９－２４５３８号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、所定枠に対して構成手段が一方向（前後方向）に移動されることで組み付けられているところ、脱着作業において、所定枠の裏側を操作して係合を解除しながら所定枠の表側へ構成手段を引き抜く場合の作業は煩雑であり、また作業者が構成手段を掴んだ方の手を所定枠から大きく離間させる必要があり作業自体が困難となっていたことから、構成手段に対する作業を好適とする観点で改善の余地があるという問題点があった。

【８０８５】

これに対し、遊技機ＰＰＢ１によれば、所定枠に対して構成手段を組み付ける際の構成手段の移動方向を第１方向から第２方向で変化させるように構成し、且つ、第１方向の移動は第２方向での移動に係る第１姿勢とは異なる所定姿勢とされることにより、同一方向に構成手段を移動させる場合に比較して構成手段に対する作業を好適とすることができる。

【８０８６】

また、第１方向で移動させて載置位置に載置させないと第２方向での移動が制限される構成によって作業者の作業方法を指定しているところ、所定枠に対して構成手段を脱着させる途中において、構成手段を載置位置に載置させることができるので、構成手段から手を離すことが可能となり、作業負担を低減することができる。

【８０８７】

なお、第１方向は、一定の方向でも良いし、途中で切り替えられる一連の方向でも良い。一連の方向の場合において、回転方向と直線方向とで切り替えられるものでも良く、その順序も任意に設定可能である。

【８０８８】

なお、第１方向で移動させて載置位置に載置させないと第２方向での移動が制限されることで作業方法を制限する構成としては、例えば、第２方向で移動させる前に第１方向での移動で近接可能な所定部が接触していないと第２方向での移動が規制される構成でも良いし、第１方向での移動をさせずに第２方向での移動をさせる場合に形成部と受入部とが干渉する構成でも良い。

【８０８９】

特定枠は、内枠Ｈ１２でも良く、所定枠は、正面枠Ｐ１４でも良く、その所定枠Ｐ１４に固定されるベースユニットＰ３０１でも良い。また、構成手段は、化粧ユニットＰ３０２，Ｐ７３０２でも良い。また、切替手段は、切替構成部Ｐ３２０でも良く、受入部は、突設形成部Ｐ７３５９でも良く、形成部は、凹設形成部Ｐ７３２１ｊや水平張出部Ｐ７３２１ｋでも良い。

【８０９０】

構成手段は、載置位置において載置された状態で支持され、回転移動されることで対象物に対して脱着可能な重量物全般を含む。この場合において、構成手段としては、遊技者が視認可能に限られるものではなく、遊技者からは通常は視認されない箇所に配設されるものでも良い。また、遊技者が視認可能ではあっても、触れることができないように透明の遮蔽部材で前面側が覆われていても良い。この場合、遊技者が構成手段に触れることに基づく不具合を未然に防ぐことができる。構成手段としては、例えば、正面枠Ｐ７０１４側に固定されるタイプの構造における遊技盤Ｈ１３でも良いし、正面枠Ｐ７０１４に主制御装置Ｈ１１０や音声ランプ制御装置Ｈ１１３が配設される場合における裏パックユニットＨ９４の裏パックＨ９２でも良い。

【８０９１】

遊技機ＰＰＢ１において、前記所定姿勢において、前記載置位置側における前記所定枠

と前記構成手段との離間の程度よりも前記形成部と前記受入部との離間の程度の方が大きいことを特徴とする遊技機ＰＰＢ２。

【８０９２】

遊技機ＰＰＢ２によれば、遊技機ＰＰＢ１の奏する効果に加え、特定枠に対する所定枠の傾斜とは逆の傾斜となる所定姿勢で構成手段の取り付けが開始されることから、所定枠に正対する方向から取り付ける場合に比較して、所定枠の前側の領域を広く使って脱着作業を行うことができるので、作業負担を低減させることができる。

【８０９３】

遊技機ＰＰＢ１又はＰＰＢ２において、前記第２方向および前記第４方向は、同一中心の円弧に沿う方向であって、少なくとも一部が重なるように構成されることを特徴とする遊技機ＰＰＢ３。

【８０９４】

遊技機ＰＰＢ３によれば、遊技機ＰＰＢ１又はＰＰＢ２の奏する効果に加え、第２方向での移動と第４方向での移動とが類似の移動として構成されるので、所定枠が特定枠から離間されているか否かに関わらず、構成手段を脱着させる作業を行う作業者の作業負担を低減させることができる。

【８０９５】

遊技機ＰＰＢ１からＰＰＢ３のいずれかにおいて、前記構成手段は、前記第１位置から前記第２方向の反対方向に移動された後に前記第１方向の反対方向に移動されることに基づいて前記所定枠から取り外し可能に構成され、前記所定枠が前記特定枠から離間する場合において、前記所定枠が所定位置を通過すると前記構成手段の前記第２方向の反対方向への移動可能量が減少するよう構成されることを特徴とする遊技機ＰＰＢ４。

【８０９６】

遊技機ＰＰＢ４によれば、遊技機ＰＰＢ１からＰＰＢ３のいずれかの奏する効果に加え、所定枠が特定枠から極端に離間されると、構成手段を第１位置から十分に移動させることができず、所定枠から構成手段を取り外す作業が困難になる可能性があることから、作業者が所定枠の離間幅を調整するよう図ることができる。これにより、所定枠を特定枠から極端に離間させた場合等に隣設された遊技機と接触する事象の発生確率を下げることができる。

【８０９７】

構成手段の第２方向の反対方向への移動可能量の減少を生じさせる態様は何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、特定枠側の形状（ヒンジ形状）によるものでも良い。

【８０９８】

遊技機ＰＰＢ１からＰＰＢ４のいずれかにおいて、前記構成手段が前記第２方向に移動可能な状態において、前記所定枠が前記構成手段に当接されるまで前記所定枠が前記特定枠から離間する方向に移動可能に構成されることを特徴とする遊技機ＰＰＢ５。

【８０９９】

遊技機ＰＰＢ５によれば、遊技機ＰＰＢ１からＰＰＢ４のいずれかの奏する効果に加え、所定枠を一旦離間の終端まで移動させてから、所定枠を特定枠に対して近接させるという作業態様でも取り付け作業が可能となる。これにより、作業者の好みに合わせて複数通りの作業態様が可能となる。

【８１００】

遊技機ＰＰＢ１からＰＰＢ５のいずれかにおいて、前記第１方向は、下方向成分を含む方向とされることを特徴とする遊技機ＰＰＢ６。

【８１０１】

遊技機ＰＰＢ６によれば、遊技機ＰＰＢ１からＰＰＢ５のいずれかの奏する効果に加え、第１方向への移動に自重を使うことができるので、構成手段を所定枠に取り付ける作業の作業負担を低減させることができる。

【８１０２】

遊技機ＰＰＢ１からＰＰＢ６のいずれかにおいて、前記構成手段は、前記所定姿勢において、前記第１方向の反対方向に移動可能とされることを特徴とする遊技機ＰＰＢ７。

【８１０３】

遊技機ＰＰＢ７によれば、遊技機ＰＰＢ１からＰＰＢ６のいずれかの奏する効果に加え、構成手段の姿勢から、構成手段の移動の可否を把握することができる。

【８１０４】

遊技機ＰＰＢ１からＰＰＢ７のいずれかにおいて、前記構成手段は、前記所定姿勢とは異なる姿勢における前記第１方向の反対方向への移動が防止されることを特徴とする遊技機ＰＰＢ８。

【８１０５】

遊技機ＰＰＢ８によれば、遊技機ＰＰＢ１からＰＰＢ７のいずれかの奏する効果に加え、第２方向での移動中において構成手段が第１方向で位置ずれすることを防止することができる。

【８１０６】

遊技機ＰＰＢ１からＰＰＢ８のいずれかにおいて、前記受入部および前記形成部は、前記構成手段の前記第２方向の移動の移動抵抗を生じさせ難いように構成されることを特徴とする遊技機ＰＰＢ９。

【８１０７】

遊技機ＰＰＢ９によれば、遊技機ＰＰＢ１からＰＰＢ８のいずれかの奏する効果に加え、構成手段の移動が正常な場合において構成手段の移動抵抗が生じることを避け、作業者の作業負担を低減させることができる。

【８１０８】

遊技機ＰＰＢ１からＰＰＢ９のいずれかにおいて、前記構成手段の前記受入部は、前記所定枠の前端部よりも後方側まで張り出すことを特徴とする遊技機ＰＰＢ１０。

【８１０９】

遊技機ＰＰＢ１０によれば、遊技機ＰＰＢ１からＰＰＢ９のいずれかの奏する効果に加え、重なりが大きくなり、強度が増す。

【８１１０】

なお、受入部と形成部とを構成する位置は、何ら限定されるものではない。例えば、左端部において上下方向に亘って形成される場合、重なり部により所定枠と構成手段との間の隙間を可能な限り小さくすることができ、不正具等の進入を防止できる。

【８１１１】

遊技機ＰＰＢ１からＰＰＢ１０のいずれかにおいて、前記受入部および前記形成部は、前記所定枠および前記構成手段の左端側において前記構成手段の上下方向に亘って形成されることを特徴とする遊技機ＰＰＢ１１。

【８１１２】

遊技機ＰＰＢ１１によれば、遊技機ＰＰＢ１からＰＰＢ１０のいずれかの奏する効果に加え、受入部と形成部とを重ねる箇所が上下に亘っていることで、強度増加および不正具の進入の防止の作用を広範囲で生じさせることができる。

【８１１３】

＜動作手段の動作力を操作手段に良好に伝達させる＞

遊技者が視認可能な視認手段と、所定の信号に基づいて往復動作可能な動作手段と、を備え、前記往復動作に基づく音を遊技者に聞かせることが可能に構成され、前記往復動作に基づく振動の発生を前記視認手段を介して遊技者が知覚可能に構成され、前記動作手段の前記往復動作中に接近可能な所定領域における所定位置に変位手段が変位可能に構成され、前記所定位置に前記変位手段が位置している場合と前記所定位置に前記変位手段が位置していない場合とで、遊技者に聞かせることが可能な音が変化するように構成されることを特徴とする遊技機ＰＰＣ１。

【８１１４】

パチンコ機等の遊技機において、往復動作に基づく音を遊技者に聞かせることが可能に

構成される動作手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００５－２１８７４４号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、音量調整により動作手段の動作が変化されると、動作手段の動作に基づく力も関連して変化されてしまい、好みの音量に音量調整を行うと同時に動作に基づく力を好みの大きさとすることが困難であり、動作手段の動作を好適とさせる観点で改善の余地があるという問題点があった。

【８１１５】

これに対し、遊技機ＰＰＣ１によれば、変位手段の変位を利用することにより、音量調整による動作手段の動作に基づく力の変化と、遊技者に聞かせることが可能な音の変化とが共に好適となるように調整することができる。従って、動作手段の動作を好適とすることができる。

【８１１６】

遊技機ＰＰＣ１において、第１操作手段を備え、前記第１操作手段の操作に基づいて前記変位手段を前記所定位置へ向けて変位させる場合と、前記変位手段を前記所定位置へ向けて変位させない場合とを構成可能であることを特徴とする遊技機ＰＰＣ２。

【８１１７】

遊技機ＰＰＣ２によれば、遊技機ＰＰＣ１の奏する効果に加え、遊技者の操作に基づいて変位手段を変位させることができる。

【８１１８】

遊技機ＰＰＣ１又はＰＰＣ２において、前記動作手段から離間して配置される第２操作手段を備え、前記第２操作手段を操作することに伴い前記動作手段を動作させるよう構成され、前記第２操作手段の操作量に基づいて前記動作手段の動作に基づく力が変化されるよう構成されることを特徴とする遊技機ＰＰＣ３。

【８１１９】

遊技機ＰＰＣ３によれば、遊技機ＰＰＣ１又はＰＰＣ２の奏する効果に加え、異なる操作量で第２操作手段の操作を行うことで、様々な動作量で動作手段を動作させることができるので、変位手段の変位と動作手段の動作とを組み合わせて、動作手段の動作を好適な状態にさせることができる。

【８１２０】

更に、第２操作手段が離間されていることから、第２操作手段が動作手段の動作に基づく力の影響を受けることを避けることができるので、動作手段の動作により第２操作手段の動作が生じ、更に第２操作手段の動作により動作手段が動作するというループが生じる事態を避けることができる。

【８１２１】

遊技機ＰＰＣ３において、前記変位手段の前記所定位置へ向けた所定方向での変位は、前記第２操作手段の操作に基づく所定条件の成立に基づいて所定態様で継続され得るよう構成されることを特徴とする遊技機ＰＰＣ４。

【８１２２】

遊技機ＰＰＣ４によれば、遊技機ＰＰＣ３の奏する効果に加え、第２操作手段の操作に基づいて変位手段の変位が継続されることから、遊技者の操作負担を低減させることができる。

【８１２３】

遊技機ＰＰＣ１からＰＰＣ４のいずれかにおいて、前記視認手段の外方に配置されており前記操作手段に振動を伝達させる第１振動手段を備え、前記第１振動手段は、前記動作手段とは異なる態様の振動を生じさせるよう構成され、前記視認手段は、操作される前の第１位置と、操作したと認識される第２位置とを変位可能とされ、前記第１位置から前記第２位置への変位により、前記視認手段に伝達される前記第１振動手段の振動に基づく力が大きくなるよう構成されることを特徴とする遊技機ＰＰＣ５。

【８１２４】

遊技機ＰＰＣ５によれば、遊技機ＰＰＣ１からＰＰＣ４のいずれかの奏する効果に加え、第１振動手段によって、視認手段に対して動作手段の動作により伝達される力とは異な

る振動を伝達させることができることに加え、この振動は視認手段の変位により変化されることから、視認手段を介して遊技者に伝達される態様のバリエーションを増やすことができる。

【８１２５】

遊技機ＰＰＣ５において、前記第１振動手段と前記動作手段との間に空間が構成されることを特徴とする遊技機ＰＰＣ６。

【８１２６】

遊技機ＰＰＣ６によれば、遊技機ＰＰＣ５の奏する効果に加え、動作手段の動作に基づく力の第１振動手段への伝達を回避し易くすることができるし、その逆として、第１振動手段の振動に基づく力の動作手段への伝達を回避し易くすることができる。

【８１２７】

遊技機ＰＰＣ１からＰＰＣ６のいずれかにおいて、前記動作手段の動作量に対応して前記変位手段が前記所定位置から退避される場合と、前記変位手段が前記所定位置側に戻り得る場合とを変化可能に構成されることを特徴とする遊技機ＰＰＣ７。

【８１２８】

遊技機ＰＰＣ７によれば、遊技機ＰＰＣ１からＰＰＣ６のいずれかの奏する効果に加え、動作手段の動作量と変位手段の変位態様（所定位置から退避されるのか、所定位置側に戻るのか）とを対応させることができるので、変位手段を変位させるための操作の操作負担を低減させることができる。

【８１２９】

遊技者が視認可能な視認手段と、所定の信号に基づいて往復動作可能な動作手段と、を備え、前記往復動作に基づく音を遊技者に聞かせることが可能に構成され、前記往復動作に基づく振動の発生を前記視認手段を介して遊技者が知覚可能に構成され、前記動作手段の前記往復動作中に接近可能な所定領域における所定位置に変位手段が変位可能に構成され、前記所定領域は、前記動作手段の動作方向へ延びる第１領域と、その第１領域に交差する第２領域とを備え、前記第２領域の方が前記第１領域よりも視認手段側に位置しており、前記変位手段が前記第２領域側から前記第１領域側へ向けて変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＰＰＣＣ１。

【８１３０】

パチンコ機等の遊技機において、往復動作に基づく音を遊技者に聞かせることが可能に構成される動作手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００５－２１８７４４号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、音量調整により動作手段の動作が変化されると、動作手段の動作に基づく力も関連して変化されてしまい、好みの音量に音量調整を行うと同時に動作に基づく力を好みの大きさとすることが困難であり、動作手段の動作を好適とさせる観点で改善の余地があるという問題点があった。

【８１３１】

これに対し、遊技機ＰＰＣＣ１によれば、視認手段側に位置する第２領域における空間を変位手段によって変化可能に構成されることから、音量調整に加えて、視認手段側への力の伝達態様を変化させることができることから、動作手段の動作を好適とすることができる。

【８１３２】

遊技機ＰＡ１からＰＡ１３，ＰＢ１からＰＢ３，ＰＣ１からＰＣ３，ＰＤ１からＰＤ３，ＰＥ１からＰＥ３，ＰＦ１からＰＦ３，ＰＧ１からＰＧ３，ＰＰＢ１からＰＰＢ１１，ＰＰＣ１からＰＰＣ７，ＰＰＣＣ１のいずれかにおいて、前記遊技機はスロットマシンであることを特徴とする遊技機ＰＰＺ１。中でも、スロットマシンの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段（ストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技

状態発生手段とを備えた遊技機」となる。この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【８１３３】

遊技機ＰＡ１からＰＡ１３，ＰＢ１からＰＢ３，ＰＣ１からＰＣ３，ＰＤ１からＰＤ３，ＰＥ１からＰＥ３，ＰＦ１からＰＦ３，ＰＧ１からＰＧ３，ＰＰＢ１からＰＰＢ１１，ＰＰＣ１からＰＰＣ７，ＰＰＣＣ１のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機であることを特徴とする遊技機ＰＰＺ２。中でも、パチンコ遊技機の基本構成としては操作ハンドルを備え、その操作ハンドルの操作に応じて球を所定の遊技領域へ発射し、球が遊技領域内の所定の位置に配設された作動口に入賞（又は作動口を通過）することを必要条件として、表示手段において動的表示されている識別情報が所定時間後に確定停止されるものが挙げられる。また、特別遊技状態の発生時には、遊技領域内の所定の位置に配設された可変入賞装置（特定入賞口）が所定の態様で開放されて球を入賞可能とし、その入賞個数に応じた有価価値（景品球のみならず、磁気カードへ書き込まれるデータ等も含む）が付与されるものが挙げられる。

【８１３４】

遊技機ＰＡ１からＰＡ１３，ＰＢ１からＰＢ３，ＰＣ１からＰＣ３，ＰＤ１からＰＤ３，ＰＥ１からＰＥ３，ＰＦ１からＰＦ３，ＰＧ１からＰＧ３，ＰＰＢ１からＰＰＢ１１，ＰＰＣ１からＰＰＣ７，ＰＰＣＣ１のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機とスロットマシンとを融合させたものであることを特徴とする遊技機ＰＰＺ３。中でも、融合させた遊技機の基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備え、遊技媒体として球を使用すると共に、前記識別情報の動的表示の開始に際しては所定数の球を必要とし、特別遊技状態の発生に際しては多くの球が払い出されるように構成されている遊技機」となる。

【８１３５】

次いで、図４１８から図４３７を参照して、第６８実施形態における遊技機（パチンコ機）について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【８１３６】

まず、図４１８から図４２７を参照して、動作ユニット２００の概略構成について説明する。図４１８は、動作ユニット２００の正面斜視図であり、図４１９は、遊技盤１３及び動作ユニット２００の分解正面斜視図である。また、図４２０から図４２７は、動作ユニット２００の正面図である。なお、図４１８から図４２７では、背面ケース３００の背面に配設される第３図柄表示装置８１の図示が省略される。

【８１３７】

ここで、図４２０から図４２３では、ベース部材４００が第１回転位置に回転された状態が、図４２４から図４２７では、ベース部材４００が第２回転位置に回転された状態が、それぞれ図示される。

【８１３８】

この場合、図４２０及び図４２４では、表示面Ｑ５２３ａを正面へ向けた姿勢で液晶表示装置Ｑ５２３が近接位置に配置された状態が、図４２１及び図４２５では、表示面Ｑ５２３ａを正面へ向けた姿勢で液晶表示装置Ｑ５２３が離間位置に配置された状態が、それぞれ図示される。また、図４２２及び図４２６では、装飾面Ｑ５２３ｂを正面へ向けた姿勢で液晶表示装置Ｑ５２３が近接位置に配置された状態が、図４２３及び図４２７では、装飾面Ｑ５２３ｂを正面へ向けた姿勢で液晶表示装置Ｑ５２３が離間位置に配置された状態が、それぞれ図示される。

【８１３９】

図４１８及び図４１９に示すように、動作ユニット２００は、箱状に形成される背面ケース３００を備え、その背面ケース３００の内部空間に、スライドユニットＳＬが回転可能に収容される。

【８１４０】

背面ケース３００は、正面視略矩形の底壁部３０１と、その底壁部３０１の４辺の外縁から正面へ向けて立設される外壁部３０２とを備え、それら各壁部３０１，３０２により一面側（正面側）が開放された箱状に形成される。底壁部３０１には、その中央に開口３０１ａが開口形成され、その開口３０１ａを通じて、底壁部３０１の背面に配設される第３図柄表示装置８１（図２参照）が視認可能とされる。

【８１４１】

スライドユニットＳＬは、背面ケース３００の底壁部３０１に回転可能に支持されるベース部材４００と、そのベース部材４００の正面側に配設されるスライド機構５００とを備える。スライド機構５００は、互いに近接または離間する方向へスライド変位可能に形成される一対の液晶表示装置Ｑ５２３を備える。なお、一対の液晶表示装置Ｑ５２３は、それらの変位（回転軸Ｑ５２３ｃを回転中心とする回転、及び、スライドレール５１０の伸縮に伴うスライド変位）の速度や変位のタイミング（変位の開始または変位の停止）が互いに同一となるように設定（制御）される。

【８１４２】

なお、液晶表示装置Ｑ５２３の液晶装置Ｑ５４３や基板部材５４５は、電気的な導通が可能な導通可能体としての電気配線により音声ランプ制御装置１１３や電源装置１１５に接続される。この場合、液晶表示装置Ｑ５２３は、回転やスライド変位が可能な変位可能体として構成されるが、電気配線による接続経路の途中には、スリップリングが介設される。よって、液晶表示装置Ｑ５２３が３６０度以上回転されても、電気的信号の送受信や電力の供給が途切れることを回避できる。

【８１４３】

なお、スリップリングは公知のもの（例えば、金属製の回転リングとその回転リングの外周に摺動可能に接続されるブラシとを備えたもの）が採用可能である。電気配線は、スリップリング（回転リング側）に電気的に接触する接触部としての金属ピンと、液晶表示装置Ｑ５２３（液晶装置５４３側、基板部材Ｑ５４５側）の導電部分に電気的に接触する接触部としての金属ピンと、それら一側および他側の両金属ピンの間を導通させる導通部としての銅線（ワイヤ）とから構成される。

【８１４４】

ベース部材４００は、第１回転位置とその第１回転位置から略９０°位相を異ならせた第２回転位置との間で回転可能に形成される。なお、第１回転位置では、液晶表示装置Ｑ５２３のスライド変位の方向が上下方向（鉛直方向）とされ（図４２０から図４２３参照）、第２回転位置では、液晶表示装置Ｑ５２３のスライド変位の方向が左右方向（水平方向）とされる（図４２４から図４２７参照）。

【８１４５】

液晶表示装置Ｑ５２３は、図柄などの表示を行う液晶ディスプレイとして形成されると共に、回転可能に軸支され、その表示面Ｑ５２３ａを正面へ向けた姿勢（図４２０、図４２１、図４２４及び図４２５参照）と、表示面Ｑ５２３ａの背面側となる装飾面Ｑ５２３ｂを正面へ向けた姿勢（図４２２、図４２３、図４２６及び図４２７参照）とを形成可能とされる。

【８１４６】

一対の液晶表示装置Ｑ５２３が互い近接する方向へスライド変位され、近接位置に配置されると、かかる一対の液晶表示装置Ｑ５２３が第３図柄表示装置８１の正面に配置されることで、第３図柄表示装置８１が視認不能に遮蔽される一方（図４２０、図４２２、図４２４及び図４２６参照）、一対の液晶表示装置Ｑ５２３が互い離間する方向へスライド変位され、離間位置に配置されると、かかる一対の液晶表示装置Ｑ５２３が第３図柄表示装置８１の正面から上下または左右に退避されることで、第３図柄表示装置８１が視認可

能とされる（図４２１、図４２３、図４２５及び図４２７参照）。
【８１４７】
図４２８から図４３０を参照して、液晶表示装置Ｑ５２３の全体構成について説明する。図４２８（ａ）は、液晶表示装置Ｑ５２３の正面図であり、図４２８（ｂ）は、液晶表示装置Ｑ５２３の背面図である。図４２９は、液晶表示装置Ｑ５２３の分解斜視正面図であり、図４３０は、液晶表示装置Ｑ５２３の分解斜視背面図である。
【８１４８】
図４２８から図４３０に示すように、液晶表示装置Ｑ５２３は、正面視横長矩形に形成されており、正面側（遊技者側）に配設される正面ケースＱ５４１と、その正面ケースＱ５４１の背面側を覆う背面ケースＱ５４２と、正面ケースＱ５４１及び背面ケースＱ５４２の対向間に配設される液晶装置Ｑ５４３と、その液晶装置Ｑ５４３の背面側に配設される基板部材Ｑ５４５と、液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５の対向間に介設される介設部材Ｑ５４４とを主に備えて形成される。
【８１４９】
正面ケースＱ５４１は、背面側が開口する箱状に形成されると共に、その底面に矩形状に板厚方向に貫通形成される正面開口Ｑ５４１ａが形成される。正面ケースＱ５４１は、一面に開口する背面開口Ｑ５４１ｂ側から内側に液晶装置Ｑ５４３を配設可能に形成される。これにより、正面開口Ｑ５４１ａを通じて液晶装置Ｑ５４３を遊技者から視認可能にできる。
【８１５０】
正面ケースＱ５４１は、左右の側面の内側に凹設される凹部Ｑ５４１ｃが上下に２箇所ずつ形成される。また、凹部Ｑ５４１ｃの凹設先端部分には、正面ケースＱ５４１の長手方向（図４２８（ａ）左右方向）に貫通する貫通孔Ｑ５４１ｄが形成される。
【８１５１】
さらに、正面ケースＱ５４１の長手方向一端側（図４２８（ａ）左側）に形成される凹部Ｑ５４１ｃには、その凹設先端部分の背面開口Ｑ５４１ｂ側から正面開口Ｑ５４１ａ側に凹設される凹設部Ｑ５４１ｃ１が形成される。凹設部Ｑ５４１ｃ１は、後述する介設部材Ｑ５４４の係合部Ｑ５４４ｂを係合させる窪みである。
【８１５２】
液晶装置Ｑ５４３は、図柄などの表示を行う液晶ディスプレイＱ５４３ａを正面（正面開口Ｑ５４１ａを通して遊技者から視認可能とされる面）に備える。また、液晶装置Ｑ５４３は、正面視横長矩形に形成され、その短手方向寸法が背面開口Ｑ５４１ｂの内側の短手方向寸法と略同一に設定されると共に、長手方向寸法が正面ケースＱ５４１の左右の凹部Ｑ５４１ｃの対向間の幅寸法と略同一に設定される。
【８１５３】
よって、液晶装置Ｑ５４３は、正面ケースＱ５４１の内側に配設されると、その上下左右の側面が、正面ケースＱ５４１の内壁に当接した状態とされる。これにより、液晶装置Ｑ５４３を正面ケースＱ５４１に対して位置ずれし難くできる。
【８１５４】
また、液晶装置Ｑ５４３は、背面（液晶ディスプレイＱ５４３ａの反対面）が金属材料の板部材から形成される背面部Ｑ５４３ｃで覆われる。背面部Ｑ５４３ｃは、電気的なノイズを遮断する（液晶装置Ｑ５４３が電気的ノイズの影響を受けることを低減する）ためのシールド部材であり、後述する基板部材５４５と導電部材Ｑ１０００（接続手段）により電気的に連結されている。これにより、液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）に帯電した静電気を導通可能体としての導電部材Ｑ１０００を介して基板部材Ｑ５４５へ逃がすことができる。
【８１５５】
液晶装置Ｑ５４３は、その厚み寸法（図４２８（ａ）紙面奥行方向の寸法）が正面ケースＱ５４１の内側部分の背面開口部Ｑ５４１ｂ側から正面開口部Ｑ５４１ａ側の距離寸法よりも小さい寸法に設定される。よって、液晶装置Ｑ５４３を正面ケースＱ５４１の内側

に収容することができる。また、正面ケースＱ５４１には、短手方向一側（図４２８（ａ）下側）の内側面に立設する立設部Ｑ５４１ｅが形成される。

【８１５６】

立設部Ｑ５４１ｅは、正面ケースＱ５４１の長手方向略中央位置から部分的に突出して形成される。正面ケースＱ５４１の背面開口Ｑ５４１ｂ側の内側面と立設部Ｑ５４１ｅの側面との対向間の距離寸法は、液晶装置Ｑ５４３の厚み寸法と略同一に設定される。よって、正面ケースＱ５４１の内側に液晶装置Ｑ５４３を配設した状態では、立設部Ｑ５４１ｅの側面と液晶装置Ｑ５４３とが当接した状態とされる。

【８１５７】

即ち、立設部Ｑ５４１ｅは、液晶装置Ｑ５４３の下端部と係合した状態とされる。これにより、液晶装置Ｑ５４３を正面ケースＱ５４１の内側に配置した状態では、液晶装置Ｑ５４３が正面ケースＱ５４１に対して前後方向（液晶装置Ｑ５４３が背面ケースＱ５４２から抜け出る方向）に位置ずれすることを抑制しやすくできる。

【８１５８】

液晶ディスプレイＱ５４３ａは、正面視における形状が、正面ケースＱ５４１の開口Ｑ５４１ａと略同一の形状に形成され、その大きさが開口Ｑ５４１ａと略同一に設定される。これにより、正面ケースＱ５４１の開口Ｑ５４１ａを通じて、遊技者に液晶ディスプレイＱ５４３ａの全域を視認させることができる。

【８１５９】

液晶装置Ｑ５４３は、長手方向の両端部に円形状に穿設される締結孔Ｑ５４３ｂを備える。締結孔Ｑ５４３ｂは、正面ケースＱ５４１の貫通孔Ｑ５４１ｄに挿通されたネジの先端が締結される孔であり、液晶表示装置Ｑ５２３を組み立てた状態において締結孔Ｑ５４３ｂの軸が貫通孔Ｑ５４１ｄの軸と同一直線状に位置して形成される。これにより、正面ケースＱ５４１の内側に液晶装置Ｑ５４３を配設した状態で、貫通孔Ｑ５４１ｄを介して締結孔Ｑ５４３ｂにネジを締結することで、正面ケースＱ５４１に液晶装置Ｑ５４３を固定できる。

【８１６０】

また、上述したように、貫通孔Ｑ５４１ｄは、凹部Ｑ５４１ｃの凹設先端部に形成されるので、液晶表示装置Ｑ５２３を組み立てた状態においてネジの頭部を凹部Ｑ５４１ｃの内側に収容することができる。また、正面ケースＱ５４１の正面開口側Ｑ５４１ａ側には、凹部Ｑ５４１ｃの空間を覆う壁部が形成される。一方、凹部Ｑ５４１ｃの背面開口側Ｑ５４１ａ側には、凹部Ｑ５４１ｃと対向する位置に背面ケースＱ５４２が取着される。よって、正面ケースＱ５４１と液晶装置Ｑ５４３との締結部分を遊技者から視認し難くすることができる。

【８１６１】

介設部材Ｑ５４４は、正面視横長矩形の板状に形成され、板厚方向（液晶装置Ｑ５４３側から基板部材Ｑ５４５側）に開口する複数の開口Ｑ５４４ａと、長手方向の一端から長手方向に突出される係合部Ｑ５４４ｂと、長手方向の他端に板厚方向に貫通形成される貫通孔Ｑ５４４ｃとを主に備えて形成される。

【８１６２】

開口Ｑ５４４ａは、横長矩形状に開口され、その内壁が板厚方向に沿って形成される。本実施形態では、介設部材Ｑ５４４に４箇所形成される。また、開口Ｑ５４４ａは、長手方向の中間位置よりも長手方向一端側（図４２８（ａ）左側）に複数形成され、それぞれが長手方向に異なる位置に形成される。

【８１６３】

さらに、４箇所の開口Ｑ５４４ａは、介設部材Ｑ５４４の短手方向中央位置よりも短手方向一側（図４２８（ａ）下側）に形成される。介設部材Ｑ５４４は、正面ケースＱ５４１の正面視形状よりも一回り小さい外形に形成され、液晶装置Ｑ５４３の背面に配設される。よって、４つの開口Ｑ５４４ａは、液晶表示装置Ｑ５２３（正面ケースＱ５４１）の短手方向中央位置よりも短手方向の一側（図４２８（ａ）下側）に位置される。

【８１６４】
上述したように、液晶表示装置Ｑ５２３は、一対が背面ケース３００に対向して配設される（図４２０参照）。よって、開口Ｑ５４４ａは、液晶表示装置Ｑ５２３の液晶ディスプレイ５４３ａを遊技者側に向けた状態（図４２０及び図４２４に示す状態）において、その対向する側に偏って配置される。
【８１６５】
係合部Ｑ５４４ｂは、介設部材Ｑ５４４の長手方向の一端側（図４２８（ａ）左側）の端面から長手方向に突出して形成されると共に、その突出先端面が、介設部材Ｑ５４４の短手両方向（図４２８（ａ）上下方向）に屈曲される。即ち、係合部Ｑ５４４ｂは、正面視Ｔ字状に形成される。
【８１６６】
係合部Ｑ５４４ｂは、その先端が凹設部Ｑ５４１ｃ１を介して、凹部Ｑ５４１ｃの内側に配設される。よって、介設部材Ｑ５４４の長手方向の一端側（係合部Ｑ５４４ｂ側）を正面ケースＱ５４１に対して短手方向の位置決めをすることができる。
【８１６７】
貫通孔Ｑ５４４ｃは、板厚方向に円形状に貫通して形成される。貫通孔Ｑ５４４ｃは、その内径が、正面ケースＱ５４１の他端側（図４２８（ａ）右側）の背面に円柱状に突出して形成される突起Ｑ５４１ｆの外径と略同一または突起Ｑ５４１ｆの外径よりも少し大きく設定される。また、貫通孔Ｑ５４４ｃと突起Ｑ５４１ｆとは、液晶表示装置Ｑ５２３を組み立てた状態において同軸上に形成される。
【８１６８】
よって、介設部材Ｑ５４４を液晶装置Ｑ５４３の背面に装着する際に、突起Ｑ５４１ｆを貫通孔Ｑ５４４ｃに挿入できる。その結果、介設部材Ｑ５４４の長手方向の他端側（貫通孔５５４ｃ側）を正面ケースＱ５４１に対して位置決めすることができる。
【８１６９】
介設部材Ｑ５４４は、上述したように貫通孔Ｑ５４４ｃ及び係合部Ｑ５４４ｂにより、正面ケースＱ５４１に対して長手方向両側が位置決めされる。その結果、正面ケースＱ５４１に対して介設部材Ｑ５４４が動く（位置ずれする）ことを抑制できる。
【８１７０】
基板部材Ｑ５４５は、正面視横長矩形の板状に形成されると共に、背面ケースＱ５４２の正面視形状よりも小さく形成される。基板部材Ｑ５４５は、背面ケースＱ５４２側の背面に背面ケースＱ５４２に向けて光を照射するＬＥＤを複数備えて形成される。これにより、後述する背面ケースＱ５４２を発光させることができる。
【８１７１】
また、基板部材Ｑ５４５は、正面ケースＱ５４１側に突出する複数の突起Ｑ５４５ａ１（図４３３参照）が形成される第１領域Ｑ５４５ａを備える。なお、第１領域Ｑ５４５ａについての詳しい説明は後述する。
【８１７２】
なお、基板部材Ｑ５４５は、板厚方向に円形に開口する貫通孔が複数個形成されており、その貫通孔が介設部材Ｑ５４４から円柱状に突出する複数の突起に嵌ることで、介設部材Ｑ５４４に対して位置決めできる。
【８１７３】
背面ケースＱ５４２は、正面視形状が正面ケースＱ５４１の正面視形状と略同一に形成されると共に、正面ケースＱ５４１の外形と略同一の大きさに形成される。また、背面ケースＱ５４２は、正面ケースＱ５４１側が開口する箱状に形成される。よって、正面ケースＱ５４１と背面ケースＱ５４２とを組み合わることで、正面ケースＱ５４１と背面ケースＱ５４２との対向間（内側）に液晶装置Ｑ５４３、介設部材Ｑ５４４及び基板部材Ｑ５４５を配設できる。
【８１７４】
次いで、図４３１及び図４３２を参照して導電部材Ｑ１０００について説明する。図４

３１は、液晶表示装置Ｑ５２３の分解図である。図４３２（ａ）は、導電部材Ｑ１０００の斜視図であり、図４３２（ｂ）は、導電部材Ｑ１０００の側面図であり、図４３２（ｃ）は、図４３２（ｂ）の矢印Ａ０１ｃ方向視における導電部材Ｑ１０００の正面図であり、図４３２（ｄ）は、図４３２（ｃ）のＡ０１ｄ－Ａ０１ｄ線における導電部材Ｑ１０００の断面図であり、図４３２（ｅ）は、図４３２（ｂ）のＡ０１ｅ－Ａ０１ｅ線における導電部材Ｑ１０００の断面図である。なお、図４３１では、液晶装置Ｑ５４３と介設部材Ｑ５４４との間の部分で分解した状態が図示される。

【８１７５】

図４３１及び図４３２に示すように、導電部材Ｑ１０００は、液晶表示装置Ｑ５２３を組み立てた状態において、介設部材Ｑ５４４の開口Ｑ５４４ａの内側に挿入され、正面部分（図４３２（ａ）上側部分、第１当接部Ｑ１１００の端面）が液晶装置Ｑ５４３の背面部Ｑ５４３ｃに当接（接触）されると共に、背面部分（図４３２（ｂ）下側部分、第２当接部Ｑ１２００の端面）が基板部材Ｑ５４５の第１領域Ｑ５４５ａに当接（接触）される。

【８１７６】

導電部材Ｑ１０００は、液晶表示装置Ｑ５２３（液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との間）に組み付け前の状態において、断面円形の円柱状に構成され、一方向（図４３２（ｂ）上下方向、第１当接部Ｑ１１００と第２当接部Ｑ１２００とを結ぶ方向）に長くされる。即ち、導電部材Ｑ１０００は、直径寸法よりも高さ寸法（一方向における寸法、即ち、軸方向における長さ寸法）が大きくされる。

【８１７７】

導電部材Ｑ１０００は、液晶表示装置Ｑ５２３（液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との間）に組み付け前の状態において、一方向（図４３２（ｂ）上下方向）に沿って同一の直径に構成され、その直径は、介設部材５５４の開口Ｑ５４４ａよりも小さくされる。即ち、介設部材５５４の開口Ｑ５４４ａは、正面視略矩形に構成され、その開口Ｑ５４４ａの短手方向における距離寸法よりも導電部材Ｑ１０００の直径が小さくされる。よって、介設部材５５４（開口Ｑ５４４ａ）の内面（側面）と導電部材Ｑ１０００の外面（側面）とは所定の距離が隔てられ、非接触とされる。

【８１７８】

なお、介設部材５５４の開口Ｑ５４４ａは、正面視略正方形に構成されても良く、正面視略円形に構成されても良い。この場合も、同様に、導電部材Ｑ１０００の直径は、介設部材５５４の開口Ｑ５４４ａよりも小さくされる。即ち、介設部材５５４（開口Ｑ５４４ａ）の内面（側面）と導電部材Ｑ１０００の外面（側面）とは所定の距離が隔てられ、非接触とされる。

【８１７９】

導電部材Ｑ１０００は、液晶装置Ｑ５４３（背面部５４３ｃ）及び基板部材Ｑ５４５（第１領域５４５ａ）に接触するための接触部としての第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００と、それら第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００の間に配設され両者を導通させる導通部としての中間部Ｑ１３００とを備え、それぞれ導電スポンジから構成される。本実施形態では、カーボンが含有されたポリウレタン樹脂を発泡させて成形された導電スポンジが採用される。但し、材質は任意であり、ポリウレタン樹脂に代えて、ポリエチレン樹脂、エチレンポロピレンゴムを採用し、これにカーボンを含有させて発泡させても良い。なお、第１当接部Ｑ１１００、第２当接部Ｑ１２００及び中間部Ｑ１３００の各部を全て同じ材質としても良く、一部または全部が他と異なる材質としても良い。

【８１８０】

第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００は、円板状に構成される一方、中間部Ｑ１３００は、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００と略同径の円柱状に構成され、これらの端面どうしが連結される。即ち、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００の長さ寸法（図４３２（ｂ）上下方向寸法）よりも中間部Ｑ１３００の長さ寸法

（図４３２（ｂ）上下方向寸法）が大きくされる。
【８１８１】
なお、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００と中間部Ｑ１３００とを略同一の長さ寸法（図４３２（ｂ）上下方向寸法）としても良い。但し、この場合には、中間部Ｑ１３００の変形性（液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との相対変位に対する追従性）を確保し難くなる。
【８１８２】
また、本実施形態では、第１当接部Ｑ１１００と第２当接部Ｑ１２００とが略同一の形状に構成される。但し、両者を異なる形状としても良い。
【８１８３】
第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００の剛性（弾性率、硬度）は、中間部Ｑ１３００よりも剛性（弾性率、硬度）が大きくされる。これにより、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００は、中間部Ｑ１３００よりも変形し難い特性に構成される。言い換えると、中間部Ｑ１３００は、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００よりも変形し易い特性に構成される。即ち、単位荷重に対する中間部Ｑ１３００の弾性変形量は、単位荷重に対する第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００の弾性変形量よりも大きくなる。
【８１８４】
なお、本実施形態では、第１当接部Ｑ１１００と第２当接部Ｑ１２００とが同一の材料から構成され、略同一の特性とされる。但し、両者を異なる材料から構成しても良い。
【８１８５】
本実施形態では、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００と中間部Ｑ１３００との端面どうしが接着剤により接着されることで両者が連結される。接着剤は、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００と中間部Ｑ１３００との間の導電性を確保するために、端面の一部の領域のみに塗布される（接着剤が塗布されていない領域が端面に確保される）。
【８１８６】
なお、導電部材Ｑ１０００（第１当接部Ｑ１１００、第２当接部Ｑ１２００及び中間部Ｑ１３００）を２色成形（中間部Ｑ１３００を成形した後、その中間部Ｑ１３００を設置した金型により第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００を成形するもの）により構成しても良い。これにより、接着剤を省略できる。
【８１８７】
次いで、図４３３を参照して、基板部材Ｑ５４５の第１領域Ｑ５４５ａについて詳しく説明する。図４３３（ａ）は、基板部材Ｑ５４５の正面図であり、図４３３（ｂ）は、図４３３（ａ）のＣＬＸＩＶｂ－ＣＬＸＩＶｂ線における基板部材Ｑ５４５の断面図である。なお、図４３３では、第１領域Ｑ５４５ａが、破線で図示される。また、図４３３（ａ）では、配線Ｑ５４５ｇが破線で図示される。
【８１８８】
図４３３に示すように、基板部材Ｑ５４５は、非導電性の樹脂材料から板状体に形成される板部材Ｑ５４５ｃと、その板部材Ｑ５４５ｃの一面側に配設される導電性の金属材料から形成されるグランド部Ｑ５４５ｄと、そのグランド部Ｑ５４５ｄ及び板部材Ｑ５４５ｃの一面側を覆う態様で配設されると共に、非導電性の樹脂材料から形成される被覆部材Ｑ５４５ｅとを主に備えて形成される。
【８１８９】
板部材Ｑ５４５ｃは、基板部材Ｑ５４５の骨格を形成する板材であり、基板部材Ｑ５４５の正面視矩形状に形成される。
【８１９０】
グランド部Ｑ５４５ｄは、基板部材Ｑ５４５に載置される制御部品に電気を導通させる導電体である。なお、本実施形態におけるグランド部Ｑ５４５ｄは、第１領域Ｑ５４５ａの全域に形成される。また、基板部材Ｑ５４５は、被覆部材Ｑ５４５ｅと板部材Ｑ５４５

ｃとの間に配設される共に、各グランド部Ｑ５４５ｄに連結される配線Ｑ５４５ｇを備えて形成される。

【８１９１】

配線Ｑ５４５ｇは、金属材料から形成されると共に、基板部材Ｑ５４５に配設されるコネクタＱ５４５ｆに連結される。また、配線Ｑ５４５ｇは、コネクタＱ５４５ｆを介してパチンコ機１０のアース（図示せず）に連結（導通）される。よって、グランド部Ｑ５４５ｄに入力された電気は、配線Ｑ５４５ｇを介してパチンコ機１０のアースへ逃がすことができる。

【８１９２】

被覆部材Ｑ５４５ｅは、グランド部Ｑ５４５ｄ及び板部材Ｑ５４５ｃの一面全域を覆う態様で配設される。これにより、グランド部Ｑ５４５ｄ及び配線Ｑ５４５ｇを導通する電気が他の部材（基板部材Ｑ５４５に配設されるチップ等）に放電することを抑制できる。

【８１９３】

また、被覆部材Ｑ５４５ｅは、基板部材Ｑ５４５に配設される突起Ｑ５４５ａ１の周囲には形成されず、突起Ｑ５４５ａ１と所定の間隔を隔てた状態とされる。この場合、被覆部材Ｑ５４５ｅよりも後述する突起Ｑ５４５ａ１が突出される。これにより、導電部材Ｑ１０００とグランド部Ｑ５４５ｄとの当接（連結）を確保できる（図４３３（ｂ）参照）。

【８１９４】

なお、上述した板部材Ｑ５４５ｃ、グランド部Ｑ５４５ｄ及び被覆部材Ｑ５４５ｅは、図４３３（ｂ）のみに図示して、他の図での図示が省略される。

【８１９５】

第１領域Ｑ５４５ａは、液晶装置Ｑ５４３側に突出する複数の突起Ｑ５４５ａ１と、基板部材Ｑ５４５の板厚方向（図４３３（ｂ）左右方向）に円形状に貫通する複数の貫通孔Ｑ５４５ａ２とを主に備えて形成される。

【８１９６】

貫通孔Ｑ５４５ａ２は、第１領域Ｑ５４５ａに基板部材Ｑ５４５の長手方向および短手方向に複数個並んだ状態で形成される。本実施形態では、基板部材Ｑ５４５の長手方向に５個、基板部材Ｑ５４５の短手方向に４個並んだ状態で形成される。

【８１９７】

なお、貫通孔Ｑ５４５ａ２には、基板部材Ｑ５４５の長手方向および短手方向に後述する突起Ｑ５４５ａ１が１箇所おきに内嵌される。よって、本実施形態では、板厚方向に貫通した状態（突起Ｑ５４５ａ１が内嵌されていない状態）の貫通孔Ｑ５４５ａ２は、基板部材Ｑ５４５長手方向に３箇所、短手方向に２箇所、形成される。

【８１９８】

突起Ｑ５４５ａ１は、基板部材Ｑ５４５のグランド部Ｑ５４５ｄにはんだ付けされたはんだにより形成されている。即ち、貫通孔Ｑ５４５ａ２への突起Ｑ５４５ａ１の配置は、基板部材Ｑ５４５のグランド部Ｑ５４５ｄにはんだ付けすることにより行われる。

【８１９９】

従って、基板部材Ｑ５４５に電子部品をはんだ付けする工程で突起Ｑ５４５ａ１を形成することができる。よって、突起Ｑ５４５ａ１を形成するための工程を別途設ける必要がなく、工程を兼用できるので、その分、工数を抑制して、製品コストを削減できる。また、グランド部Ｑ５４５ｄにはんだ付けされたはんだにより突起Ｑ５４５ａ１が形成されることで、その分、導電部材Ｑ１０００（第２当接部Ｑ１２００）とグランド部Ｑ５４５ｄとの当接面積を確保でき、液晶装置Ｑ５４３が帯電した際に、基板部材Ｑ５４５のグランド部Ｑ５４５ｄを介して電荷を取り除きやすくできる。

【８２００】

突起Ｑ５４５ａ１は、貫通孔Ｑ５４５ａ２の内径と略同一の外径の円柱状に形成される。また、突起Ｑ５４５ａ１は、貫通孔Ｑ５４５ａ２の内側に内嵌した状態で配設され、液晶装置Ｑ５４３側の先端の外径が、径方向に膨出して形成されており、貫通孔Ｑ５４５ａ

２から突出した状態とされる。
【８２０１】
これにより、突起Ｑ５４５ａ１と基板部材Ｑ５４５のグランド部Ｑ５４５ｄとを連結（当接した状態と）することができるので、突起Ｑ５４５ａ１に導通される電気を基板部材Ｑ５４５のグランド部Ｑ５４５ｄ及び配線Ｑ５４５ｇを介してパチンコ機１０のアースに逃がす事ができる。
【８２０２】
また、突起Ｑ５４５ａ１は、径方向に膨出した先端部分が、グランド部Ｑ５４５ｄの液晶装置Ｑ５４３側に当接すると共に、グランド部Ｑ５４５ｄに貫通する貫通孔Ｑ５４５ａ２の内縁部に基端部分の外周面が当接するので、突起Ｑ５４５ａ１とグランド部Ｑ５４５ｄとの当接面積を確保することができる。その結果、液晶装置Ｑ５４３に帯電する静電気を基板部材Ｑ５４５に逃がしやすくできる。
【８２０３】
また、導電部材Ｑ１０００（第２当接部Ｑ１２００）を突起Ｑ５４５ａ１の形状に沿わせて変形させることができ、その分、液晶装置Ｑ５４３の一面側（背面部Ｑ５４３ｃ）および基板部材Ｑ５４５のグランド部Ｑ５４５ｄに対して導電部材Ｑ１０００（第２当接部Ｑ１２００）が摺動することを抑制できる。
【８２０４】
即ち、突起Ｑ５４５ａ１は、先端が基板部材Ｑ５４５から突出した状態とされるので、突起Ｑ５４５ａ１を導電部材Ｑ１０００の側面に食い込んだ状態（一方が他方に嵌り込んで凹凸嵌合した状態）を形成できる。従って、導電部材Ｑ１０００が、基板部材Ｑ５４５の正面（図４３３（ｂ）の左側側面）と平行な方向（せん断方向）に位置ずれし難くすることができる。その結果、液晶装置Ｑ５４３に帯電する静電気を基板部材Ｑ５４５に逃がしやすくできる。
【８２０５】
突起Ｑ５４５ａ１は、複数個ならんで形成される貫通孔Ｑ５４５ａ２に対して、１箇所置きに間隔を空けて配置される。即ち、突起Ｑ５４５ａ１は、貫通孔Ｑ５４５ａ２に対して千鳥状に配設される。
【８２０６】
よって、複数の突起Ｑ５４５ａ１を利用して、導電部材Ｑ１０００（第２当接部Ｑ１２００）が基板部材Ｑ５４５に対して摺動することを抑制できると共に、液晶装置Ｑ５４３が帯電した電荷を取り除きやすくでき、且つ、貫通孔Ｑ５４５ａ２を利用して、突起と導電部材Ｑ１０００（第２当接部Ｑ１２００）との間に発生する熱を効率的に逃がすことができる。
【８２０７】
即ち、導電部材Ｑ１０００は、静電気が流れることで、その電気により熱が蓄えられやすく、その熱により基板部材Ｑ５４５が壊れる恐れがあるところ、その熱を貫通孔Ｑ５４５ａ２を介して排出しやすくできるので、導電部材Ｑ１０００を冷却して基板部材Ｑ５４５が壊れることを抑制できる。
【８２０８】
次いで、図４３４及び図４３５を参照して、導電部材Ｑ１０００の配置状態について説明する。図４３４は、液晶表示装置Ｑ５２３の背面図である。図４３５（ａ）は、図４３４のＣＬＸＶＩａ－ＣＬＸＶＩａ線における液晶表示装置Ｑ５２３の断面図であり、図４３５（ｂ）は、図４３５（ａ）の範囲Ａ４ｂにおける液晶表示装置Ｑ５２３の拡大断面図である。なお、図４３５では、理解を容易とするために、導電部材Ｑ１０００の変形状態（変形形状）が模式的に図示される。以下の各図においても同様である。
【８２０９】
なお、図４３４では、液晶表示装置Ｑ５２３の背面ケースＱ５４２及び基板部材Ｑ５４５が取り外された状態が図示され、図４３５では、背面ケースＱ５４２及び基板部材Ｑ５４５が装着された状態が図示される。

【８２１０】
図４３４及び図４３５に示すように、導電部材Ｑ１０００は、正面側（第１当接部Ｑ１１００（図４３５（ａ）上側の端面））が液晶装置Ｑ５４３の背面部Ｑ５４３ｃに当接した状態とされると共に、背面側（第２当接部Ｑ１２００側（図４３５（ａ）下側の端面））が基板部材Ｑ５４５の第１領域Ｑ５４５ａ（図４３３（ａ）参照）に当接した状態とされ、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との対向方向に圧縮された状態で配設される。
【８２１１】
即ち、導電部材Ｑ１０００は、液晶表示装置Ｑ５２３に配設されていない状態では、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００を結ぶ方向の高さ（長さ）寸法Ｌ４（図４３２（ｂ）参照）が、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との対向間における距離寸法Ｌ５よりも大きな値に設定される（Ｌ５＜Ｌ４）。よって、液晶装置Ｑ５４３に基板部材Ｑ５４５を組み付けた状態では、導電部材Ｑ１０００が液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との対向方向に弾性的に圧縮変形される。
【８２１２】
従って、導電部材Ｑ１０００の液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との対向方向（図４３５（ａ）上下方向）への弾性回復力を利用して、導電部材Ｑ１０００を、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５とに導電部材Ｑ１０００を当接した状態にできると共に、その当接状態を維持しやすくできる。
【８２１３】
ここで、部品の寸法公差や組み立て公差、及び、製品コストの低減の観点から、液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５に対する介設部材Ｑ５４４のがたつき（相対的な変位）を完全になくすことは現実的でない。そのため、遊技中、液晶表示装置Ｑ５２３の回転に伴う遠心力やスライド変位の始動・停止動作に伴う慣性力の影響を受けて、介設部材Ｑ５４４が液晶装置Ｑ５４３又は基板部材Ｑ５４５に対して相対的に変位される。かかる介設部材Ｑ５４４に導電部材Ｑ１０００が干渉していると、介設部材Ｑ５４４が変位した際に、導電部材Ｑ１０００（第１当接部Ｑ１１００又は第２当接部Ｑ１２００）が液晶装置Ｑ５４３又は基板部材Ｑ５４５に対して摺動してしまい、ノイズ効果にムラが生じる。そのため、液晶装置Ｑ５４３の誤動作、液晶表示の色ムラやドット欠け等の不具合が発生する。
【８２１４】
これに対し、本実施形態では、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間に導電部材Ｑ１０００が挟持された状態（弾性的に圧縮変形された状態）において、介設部材Ｑ５４４の開口Ｑ５４４ａの内縁（内面（側面））と導電部材Ｑ１０００（中間部Ｑ１３００）の外面（側面）との間に隙間を持たせることができるので、導電部材Ｑ１０００（中間部Ｑ１３００）が開口Ｑ５４４ａの内縁に拘束されることを抑制できる。これにより、導電部材Ｑ１０００の変形性（液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間の相対変位に対する追従性）を確保できる。
【８２１５】
一方で、介設部材Ｑ５４４の開口Ｑ５４４ａの内縁（内面（側面））と導電部材Ｑ１０００（中間部Ｑ１３００）の外面（側面）との間に隙間があると、その隙間の分、導電部材Ｑ１０００が液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）又は基板部材Ｑ５４５（第１領域Ｑ５４５ａ）に対して摺動する可能性が生じるところ、導電部材Ｑ１０００は、液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）及び基板部材Ｑ５４５（第１領域Ｑ５４５ａ）に当接する第１当接部１１００及び第２当接部１２００が中間部Ｑ１３００よりも大きな剛性とされる（変形し難く構成される）ので、導電部材Ｑ１０００が液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）又は基板部材Ｑ５４５（第１領域Ｑ５４５ａ）に対して摺動することを抑制できる。
【８２１６】
さらに、図４３５（ｃ）に示すように、突起Ｑ５４５ａ１が基板部材Ｑ５４５（被覆部材Ｑ５４５ｅ）から突出した状態で配設されることにより、貫通孔Ｑ５４５ａ２の開口縁

に導電部材Ｑ１０００（第２当接部Ｑ１２００）が当接することを抑制できる。即ち、突起Ｑ５４５ａ１により導電部材Ｑ１０００を持ち上げて、基板部材Ｑ５４５（貫通孔Ｑ５４５ａ２）と導電部材Ｑ１０００との間に空間を持たせることができるので、貫通孔Ｑ５４５ａ２が導電部材Ｑ１０００によって塞がれることを抑制できる。

【８２１７】

これにより、基板部材Ｑ５４５と導電部材Ｑ１０００（第２当接部Ｑ１２００）との間の空間へ貫通孔Ｑ５４５ａ２から外気を流入させる、或いは、基板部材Ｑ５４５と導電部材Ｑ１０００との間の空間の空気を貫通孔Ｑ５４５ａ２から外部へ流出させることができる。即ち、空気の循環経路を確保（増加）して、導電部材Ｑ１０００及び基板部材Ｑ５４５を冷却しやすくできる。その結果、基板部材Ｑ５４５の破損を抑制できる。

【８２１８】

次いで、図４３６を参照して、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との対向間隔が変化した場合の説明をする。図４３６（ａ）から図４３６（ｃ）は、液晶表示装置Ｑ５２３の断面図である。

【８２１９】

なお、図４３６（ａ）から図４３６（ｃ）は、図４３５（ｂ）の断面図と対応する。また、図４３６（ｂ）を通常状態（基準位置）として、図４３６（ａ）及び図４３６（ｃ）では、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との対向間隔が変化（増加または減少）した状態がそれぞれ図示される。

【８２２０】

ここで、上述したように、液晶表示装置Ｑ５２３は、変位（回転軸Ｑ５２３ｃを回転中心とする回転、及び、スライドレール５１０の伸縮に伴うスライド変位）可能に配設される（図４２０～図４２７参照）。その為、その変位の遠心力や慣性力により、液晶表示装置Ｑ５２３の内部の各部品の位置関係が変化する恐れがある。この場合、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との対向間の距離が変化すると、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間に介設される導電部材Ｑ１０００の当接状態が変化する虞があるという問題点があった。

【８２２１】

これに対し、本実施形態では、図４３６に示すように、導電部材Ｑ１０００は、弾性変形可能に構成され、液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５の間に弾性的に圧縮変形された状態で配設されているので、導電部材Ｑ１０００と液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との当接状態を維持しやすくできる。

【８２２２】

詳しく説明すると、図４３６（ａ）に示すように、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との対向間が近接して距離寸法Ｌ５（図４３５参照）よりも小さい距離寸法とされる場合には、導電部材Ｑ１０００（特に、中間部Ｑ１３００）が液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５の対向方向（図４３６（ａ）上下方向）に弾性的に圧縮されることで、導電部材Ｑ１０００と液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との当接状態を維持できる。

【８２２３】

一方、図４３６（ｃ）に示すように、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との対向間が離間して距離寸法Ｌ５よりも大きくされる（但し、導電部材Ｑ１０００の寸法Ｌ４（図４３２参照）よりも小さい距離寸法とされる）場合には、導電部材Ｑ１０００（特に、中間部Ｑ１３００）が液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５の対向方向（図４３６（ａ）上下方向）に弾性回復されることで、対向間の増加に追従でき、導電部材Ｑ１０００と液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との当接状態を維持できる。

【８２２４】

このように、導電部材Ｑ１０００は弾性変形可能に構成されるので、液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５の対向間の距離が変化（増加または減少）した場合には、その変化に追従でき、導電部材Ｑ１０００と液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との当接状態を維持できる。

【８２２５】
次いで、図４３７を参照して、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５とが水平方向（例えば、液晶表示装置Ｑ５２３の長手方向）に変化した場合（即ち、相対的に平行移動した場合）を説明する。図４３７（ａ）から図４３７（ｃ）は、液晶表示装置Ｑ５２３の断面図である。
【８２２６】
なお、図４３７（ａ）から図４３７（ｃ）は、図４３５（ａ）の断面図と対応する。また、図４３７（ｂ）を通常（基準位置）として、図４３７（ａ）では、液晶装置Ｑ５４３が基板部材Ｑ５４５に対して液晶表示装置Ｑ５２３の長手方向一側（図４３７（ａ）右側）に変化した状態が、図４３７（ｃ）では、液晶装置Ｑ５４３が、基板部材Ｑ５４５に対して液晶表示装置Ｑ５２３の長手方向他側（図４３７（ｃ）左側）に変化した状態が図示される。
【８２２７】
また、図４３７（ａ）から図４３７（ｃ）では、基板部材Ｑ５４５の長手方向における第１領域Ｑ５４５ａの中央位置に仮想線ＫＪ１が、導電部材Ｑ１０００の第１当接部Ｑ１１００における中央（軸心）位置に仮想線ＫＪ２が、それぞれ２点鎖線で図示される。
【８２２８】
ここで、従来より、電気機器（動作手段、液晶装置Ｑ５４３）と、その電気機器の一面側に対向配置されると共にアース接続されたグランド部（グランド部Ｑ５４５ｄ）を有する基板（基板部材Ｑ５４５）と、その基板のグランド部に電気機器を電気的に接続する接続手段とを備えた遊技機が知られている。具体的には、電気機器は、液晶パネル（液晶ディスプレイＱ５４３ａ）の背面に金属板からなるシールド部材（背面部Ｑ５４３ｃ）が設けられた液晶表示装置として構成される。また、接続手段は、従来品では、弓形の板ばねとして構成され、基端が基板のグランド部に当接（電気的に接続）されると共に、弓形の凸面がシールド部材に当接（電気的に接続）される。接続手段は、基端が基板に固定される一方、弓形の凸面がシールド部材に押し付けられて、板ばねの弾性変形により当接が保たれた状態とされる。これにより、シールド部材に生じた静電気を、基板のグランド部を介してアースへ逃がすことができる。よって、例えば、遊技球の転動や液晶表示装置の変位に伴って発生した静電気によりシールド部材が帯電しても、基板のグランド部を介して電荷を取り除き、液晶表示の色ムラやドット欠け等の不具合の発生を抑制できる。
【８２２９】
しかしながら、上述した従来の技術では、電気機器が変位されることで、或いは、他の演出部材の変位や遊技球の転動・衝突に伴う外力の入力による電気機器の振動により、シールド部材および基板が対向方向と直交する方向（水平方向）へ相対変位（平行移動）されると、接続手段の弓形の凸面がシールド部材に対して摺動され、接続手段またはその接続手段の当接対象が摩耗するという問題点があった。
【８２３０】
これに対して、本実施形態によれば、導電部材Ｑ１０００は、液晶装置Ｑ５４３の一面（背面部Ｑ５４３ｃ）側と基板部材Ｑ５４５のグランド部Ｑ５４５ｄとの対向間に挟持されると共に、液晶装置Ｑ５４３または基板部材Ｑ５４５が対向方向と直交する方向（水平方向、図４３７左右方向）へ相対変位（平行移動）された場合にその相対変位に伴ってせん断変形可能に構成されるので、導電部材Ｑ１０００の一側（第１当接部Ｑ１１００）及び他側（第２当接部Ｑ１２００）を、液晶装置Ｑ５４３の背面部Ｑ５４３ｃ及び基板部材Ｑ５４５のグランド部Ｑ５４５ｄ（突起Ｑ５４５ａ１）のそれぞれに当接させた状態を維持できる。
【８２３１】
即ち、導電部材Ｑ１０００（特に、本実施形態では、主に中間部Ｑ１３００）がせん断変形することで、その導電部材Ｑ１０００の一側（第１当接部Ｑ１１００）及び他側（第２当接部Ｑ１２００）が液晶装置Ｑ５４３又は基板部材Ｑ５４５に対して摺動する（位置ずれする）ことを抑制できる。その結果、導電部材Ｑ１０００又はその導電部材Ｑ１００

０の当接対象（液晶装置Ｑ５４３又は基板部材Ｑ５４５）が摩耗することを抑制できる。
【８２３２】
ここで、電気的に動作可能に構成される動作手段（液晶装置Ｑ５４３）と、アース接続されたグランド部を有し動作手段と間隔を隔てて配設される基板（基板部材Ｑ５４５）とを備え、動作手段の導電部分を基板のグランド部に接続手段により電気的に接続する遊技機が知られている。特開２０１９－１８８２６０号公報には、弾性体の周りに布状の導電体（導電性の金属材料から構成される繊維体を編み込んだ無端帯状の導電布）を無端状に巻き付けて接続手段とする構成が開示される。
【８２３３】
上記従来の技術では、動作手段（液晶装置Ｑ５４３）と基板（基板部材Ｑ５４５）とが水平方向（両者が対向する方向と直交する方向）に相対変位（平行移動）する場合に、その相対変位の方向が、導電体の巻き付け方向に沿う方向であれば、接続手段がせん断変形する（弾性体が略菱形に変形する）ことで、相対変位に追従可能であるが、相対変位の方向が、導電体が巻き付けられている方向と直交する方向であると、接続手段がせん断変形し難くなる（導電体が弾性体の変形を阻害する）。そのため、相対変位に追従することが困難となり、摩耗が発生する。布状の導電体は、面外方向（折り目を付ける方向）には変形しやすい一方、面内方向の変形はし難いためである。
【８２３４】
そこで、上記従来の技術では、導電体に「切り欠き」を設けることで、導電体が巻き付けられている方向と直交する方向においても、相対変位に追従する（接続手段がせん断変形する）ようにしている。
【８２３５】
しかしながら、このように、導電体に切り欠きを設ける構成では、その切り欠きのみで接続手段の対称性を十分に担保することは困難であった。そのため、動作手段（液晶装置Ｑ５４３）と基板（基板部材Ｑ５４５）とが相対変位する場合に、その相対変位の方向によって接続手段の変形性に差が生じ、ノイズ効果にムラが生じるという問題点があった。
【８２３６】
特に、動作手段（液晶装置Ｑ５４３）と基板（基板部材Ｑ５４５）との相対変位が、両者の対向面の間隔を増減させる方向と、両者の対向面の角度を変化させる方向とが組み合わさったものであると、その相対変位に接続手段が追従できず、動作手段または基板と接続手段との間の接触状態が安定しない。即ち、切り欠きが設けられている側が対向間で圧縮されて弾性回復する場合と、切り欠きが設けられていない側が圧縮されて弾性回復する場合とで、接続手段の動的な変形態様（相対変位に対する追従性）に差が生じる。そのため、相対変位おいて、動作手段または基板と接続手段との間に部分的な隙間が断続的に発生し、接触圧や面積が変化することで、ノイズ効果のムラが顕著となる。
【８２３７】
また、接続手段は、動作手段（液晶装置Ｑ５４３）と基板（基板部材Ｑ５４５）との相対変位に伴い、繰り返し変形されるものであるため、導電体に切り欠きが設けられていると、切り欠き部分に応力集中が生じやすく、耐久性の低下を招くという問題点があった。更に、導電体に切り欠きを設ける作業を必要となるだけでなく、切り欠きが設けられることで導電体が不整の形状となるため、導電体を弾性体に巻き付ける際の作業性が悪くなり、その分、生産コストが嵩むという問題点があった。
【８２３８】
これに対し、本実施形態によれば、導電部材Ｑ１０００を単純な形状（円柱状）で構成することができ、切り欠きを設ける必要がない。
【８２３９】
よって、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５とがいずれの方向（液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との対向間隔を増減させる方向、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５とが対向する方向と直交する方向（水平方向）、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との対向面の角度を変化させる方向（傾斜方向））に相対変位する場合であっても、その相

対変位の方向により導電部材Ｑ１０００の変形性にアンバランスが生じることを抑制できる（導電部材Ｑ１０００の動的な変形態様が変形方向によって異なるものとなることを抑制できる）。

【８２４０】

その結果、液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）及び基板部材Ｑ５４５（第１領域Ｑ５４５ａ）と導電部材Ｑ１０００（第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００）との間の接触状態を安定させることができるので、それらの間の接触圧や接触面積が変化することを抑制できる。よって、遊技中（外乱による液晶表示装置Ｑ５２３の振動に伴い、又は、液晶表示装置Ｑ５２３の回転やスライド変位に伴い、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５とが相対変位する場合）にノイズ効果にムラが生じることを抑制できる。また、切り欠きを設ける必要がなく、単純な形状とできるので、導電部材Ｑ１０００の耐久性の向上を図ることができる。本実施形態では、中間部Ｑ１３００が円柱状とされ、長さ方向に沿って（第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００の間において）外形（直径）が略同一の大きさ（太さ）に構成されるので、中間部Ｑ１３００の一部に変形が集中することを抑制でき、その耐久性を高めることができる。

【８２４１】

特に、本実施形態によれば、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００が中間部Ｑ１３００よりも変形し難く（剛性が大きく）構成され、且つ、第１当接部Ｑ１１００から第２当接部Ｑ１２００までの間において中間部Ｑ１３００の外形（本実施形態では直径）が同じ大きさに構成されるので、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５とが相対変位する場合に、その相対変位に対する中間部Ｑ１３００の追従性（変形性）と、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００の形状安定性とを利用して、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００が液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）及び基板部材Ｑ５４５（第１領域Ｑ５４５ａ）に当接（密着）した状態を維持し易くできる。よって、遊技中にノイズ効果にムラが生じることを抑制できる。

【８２４２】

即ち、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間の相対変位（上記したように、向間隔を増減させる方向、水平方向または傾斜方向の内の一部または全部が組み合わされた相対変位）に対して、中間部Ｑ１３００が変形（追従）を担うことで、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００の位置を保持し易く（水平方向に位置ずれ（摺動）し難く）でき、且つ、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００の形状を保持し易く（液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間に部分的な隙間が生じ難く）できる。よって、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００が液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）及び基板部材Ｑ５４５（第１領域Ｑ５４５ａ）に当接（密着）した状態を維持し易くできる。

【８２４３】

例えば、本実施形態とは逆に、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００が中間部Ｑ１３００よりも変形し易く（剛性が小さく）構成されている場合には、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間の相対変位に対して、中間部Ｑ１３００が踏ん張ってしまい、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００が水平方向に位置ずれ（摺動）し易くなると共に、相対変位が傾斜方向の成分を含む場合に、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００と液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との間に部分的な隙間が生じ、接触圧や面積が変化し易くなる。よって、ノイズ効果のムラが生じ易くなる。

【８２４４】

ここで、例えば、導電部材Ｑ１０００（第１当接部Ｑ１１００、第２当接部Ｑ１２００及び中間部Ｑ１３００）の横断面が正方形に構成される場合、２辺が対向する方向への相対変位と、対角方向（２辺が対向する方向と４５度位相を異ならせた方向）への相対変位とでは、導電部材Ｑ１０００が異なる変形性を有する（導電部材Ｑ１０００の変形性が方向性を有する）こととなる。

【８２４５】

これに対し、本実施形態では、上述したように、導電部材Ｑ１０００（第１当接部Ｑ１１００、第２当接部Ｑ１２００及び中間部Ｑ１３００）をその長手方向に直交する仮想平面で切断した断面（横断面）の形状が略円形に構成されるので（図４３２参照）、導電部材Ｑ１０００（特に、中間部Ｑ１３００）が方向性を有する（相対変位の方向によって変形性が異なる）ことをより確実に抑制できる。よって、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間の相対変位の方向によらず、導電部材Ｑ１０００（特に、中間部Ｑ１３００）の変形性を一定として、ノイズ効果にムラを生じ難くできる。

【８２４６】

なお、導電部材Ｑ１０００（第１当接部Ｑ１１００、第２当接部Ｑ１２００及び中間部Ｑ１３００）の横断面の形状は、完全な円形である必要はなく、断面形状の一部に直線状の部分があっても良い。或いは、断面形状が多角形であっても良い。そのような場合でも、切り欠きを設ける必要がある従来品と比較して、導電部材Ｑ１０００が方向性を有することを十分に抑制できる。

【８２４７】

ここで、導電部材Ｑ１０００の長手方向（第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００を結ぶ方向、円柱形状の軸方向、図４３２（ｂ）上下方向）において、中間部Ｑ１３００の長さ寸法（図４３２（ｂ）上下方向寸法）が、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００の長さ寸法（図４３２（ｂ）上下方向寸法）と同等または小さくされる場合には、中間部Ｑ１３００の変形性（液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との相対変位に対する追従性）を確保し難くなる。また、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００の形状安定性を確保し難くなる。

【８２４８】

これに対し、本実施形態によれば、導電部材Ｑ１０００の長手方向（第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００を結ぶ方向、円柱形状の軸方向、図４３２（ｂ）上下方向）において、中間部Ｑ１３００の長さ寸法（図４３２（ｂ）上下方向寸法）が、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００の長さ寸法（図４３２（ｂ）上下方向寸法）よりも大きくされる。

【８２４９】

これにより、中間部Ｑ１３００の変形性（液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との相対変位に対する追従性）の確保と、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００の形状安定性の確保との両立を図ることができる。その結果、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００と液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との当接状態を安定化でき、ノイズ効果にムラが生じることを抑制できる。

【８２５０】

なお、中間部Ｑ１３００の長さ寸法（図４３２（ｂ）上下方向寸法）は、中間部Ｑ１３００の外形寸法（本実施形態では直径、図４３２（ｂ）左右方向寸法）よりも大きいことが好ましい。また、中間部Ｑ１３００の長さ寸法（図４３２（ｂ）上下方向寸法）は、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００の長さ寸法（図４３２（ｂ）上下方向寸法）の２倍以上であることが好ましく、３倍以上であることがより好ましい。一方、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００の長さ寸法（図４３２（ｂ）上下方向寸法）は、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００の外形寸法（本実施形態では直径、図４３２（ｂ）左右方向寸法）よりも小さいことが好ましい。

【８２５１】

なお、図４３７（ｃ）に示す、液晶装置Ｑ５４３が基板部材Ｑ５４５に対して左方向（図４３７（ｃ）左方向）に変化した場合は、図４３７（ａ）に示す、液晶装置Ｑ５４３が基板部材Ｑ５４５に対して右方向（図４３７（ｃ）右方向）に変化した場合と反対であるのみのため、その詳しい説明は省略する。

【８２５２】

次いで、図４３８を参照して、第６９実施形態における導電部材Ｑ２０００について説明する。第６８実施形態では、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００と中間部

Ｑ１３００とが略同一の外形形状（長さ寸法の異なる円柱状）に形成される場合を説明したが、第６９実施形態における第１当接部Ｑ２１００及び第２当接部Ｑ２２００は、中間部Ｑ１３００と異なる外形形状に構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【８２５３】

図４３８（ａ）は、第６９実施形態における導電部材Ｑ２０００の側面図であり、図４３８（ｂ）は、図４３８（ａ）の矢印Ａ０２ｂ方向視における導電部材Ｑ２０００の正面図であり、図４３８（ｃ）は、図４３８（ｂ）のＡ０２ｃ－Ａ０２ｃ線における導電部材Ｑ２０００の断面図であり、図４３８（ｄ）は、図４３８（ａ）のＡ０２ｄ－Ａ０２ｄ線における導電部材Ｑ２０００の断面図である。

【８２５４】

図４３８に示すように、本実施形態における導電部材Ｑ２０００は、第１当接部Ｑ２１００及び第２当接部Ｑ２２００が円錐台形状に形成される。なお、第１当接部Ｑ２１００及び第２当接部Ｑ２２００は、上述した第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００に対し、形状のみが異なり、他の構成（例えば、材質や製造方法）は同一とされる。

【８２５５】

第１当接部Ｑ２１００及び第２当接部Ｑ２２００は、互いに逆向きの姿勢で中間部Ｑ１３００の両端に配設され、それぞれ小径側の端面が中間部Ｑ１３００の長手方向の端面に連結される。よって、第１当接部Ｑ２１００及び第２当接部Ｑ２２００は、大径側の端面が液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）又は基板部材Ｑ５４５（第１領域Ｑ５４５ａ）に当接されるので、第１当接部Ｑ２１００及び第２当接部Ｑ２２００と液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）及び基板部材Ｑ５４５（第１領域Ｑ５４５ａ）との間の接触面積を大きくすることができる。

【８２５６】

これにより、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間の相対変位（上記したように、向間隔を増減させる方向、水平方向または傾斜方向の内の一部または全部が組み合わされた相対変位）に対して、第１当接部Ｑ２１００及び第２当接部Ｑ１２００の位置を保持し易く（水平方向に位置ずれ（摺動）し難く）できると共に、第１当接部Ｑ２１００及び第２当接部Ｑ２２００の形状を保持し易く（液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間に部分的な隙間が生じ難く）できる。即ち、第１当接部Ｑ２１００及び第２当接部Ｑ２２００が液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）及び基板部材Ｑ５４５（第１領域Ｑ５４５ａ）に当接（密着）した状態を維持し易くできる。その結果、遊技中にノイズ効果にムラが生じることを抑制できる。

【８２５７】

本実施形態では、第１当接部Ｑ２１００及び第２当接部Ｑ２２００の小径側の外形の大きさ（直径）が、中間部Ｑ１３００の外形の大きさ（直径）と略同一とされる。なお、第１当接部Ｑ２１００及び第２当接部Ｑ２２００の小径側の外形の大きさ（直径）を中間部Ｑ１３００の外形の大きさ（直径）よりも大きくしても良く、小さくしても良い。

【８２５８】

次いで、図４３９を参照して、第７０実施形態における導電部材Ｑ３０００について説明する。第６８実施形態では、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００と中間部Ｑ１３００とが略同一の外形形状（長さ寸法の異なる円柱状）に形成される場合を説明したが、第７０実施形態における第１当接部Ｑ３１００及び第２当接部Ｑ３２００は、中間部Ｑ１３００と異なる外形形状に構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【８２５９】

図４３９（ａ）は、第７０実施形態における導電部材Ｑ３０００の側面図であり、図４３９（ｂ）は、図４３９（ａ）の矢印Ａ０３ｂ方向視における導電部材Ｑ３０００の正面図であり、図４３９（ｃ）は、図４３９（ｂ）のＡ０３ｃ－Ａ０３ｃ線における導電部材Ｑ３０００の断面図であり、図４３９（ｄ）は、図４３９（ａ）のＡ０３ｄ－Ａ０３ｄ線

における導電部材Ｑ３０００の断面図である。
【８２６０】
図４３９に示すように、本実施形態における導電部材Ｑ３０００は、第１当接部Ｑ３１００及び第２当接部Ｑ３２００が円錐台形状に形成される。なお、第１当接部Ｑ３１００及び第２当接部Ｑ３２００は、上述した第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００に対し、形状のみが異なり、他の構成（例えば、材質や製造方法）は同一とされる。
【８２６１】
第１当接部Ｑ３１００及び第２当接部Ｑ３２００は、互いに逆向きの姿勢で中間部Ｑ１３００の両端に配設され、それぞれ大径側の端面が中間部Ｑ１３００の長手方向の端面に連結される。よって、第１当接部Ｑ３１００及び第２当接部Ｑ３２００は、小径側の端面が液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）又は基板部材Ｑ５４５（第１領域Ｑ５４５ａ）に当接されるので、第１当接部Ｑ３１００及び第２当接部Ｑ３２００と液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）及び基板部材Ｑ５４５（第１領域Ｑ５４５ａ）との間の接触圧を大きくすることができる。
【８２６２】
これにより、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間の相対変位（上記したように、向間隔を増減させる方向、水平方向または傾斜方向の内の一部または全部が組み合わされた相対変位）に対して、第１当接部Ｑ２１００及び第２当接部Ｑ１２００の位置を保持し易く（水平方向に位置ずれ（摺動）し難く）できると共に、第１当接部Ｑ２１００及び第２当接部Ｑ２２００の形状を保持し易く（液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間に部分的な隙間が生じ難く）できる。即ち、第１当接部Ｑ２１００及び第２当接部Ｑ２２００が液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）及び基板部材Ｑ５４５（第１領域Ｑ５４５ａ）に当接（密着）した状態を維持し易くできる。その結果、遊技中にノイズ効果にムラが生じることを抑制できる。
【８２６３】
本実施形態では、第１当接部Ｑ３１００及び第２当接部Ｑ３２００の大径側の外形の大きさ（直径）が、中間部Ｑ１３００の外形の大きさ（直径）と略同一とされる。なお、第１当接部Ｑ３１００及び第２当接部Ｑ３２００の小径側の外形の大きさ（直径）を中間部Ｑ１３００の外形の大きさ（直径）よりも大きくしても良く、小さくしても良い。
【８２６４】
本実施形態では、第１当接部Ｑ３１００及び第２当接部Ｑ３２００の外形の大きさ（直径）が、中間部Ｑ１３００と連結される側から先端側までの全範囲で連続的に小さくなるように構成されたが、少なくとも第１当接部Ｑ３１００及び第２当接部Ｑ３２００の先端側が先細形状（先端側（中間部Ｑ１３００から離れる側）に向かうに従って外形の大きさが徐々に小さくなる形状）となっていれば足りる。
【８２６５】
次いで、図４４０を参照して、第７１実施形態における導電部材Ｑ４０００について説明する。第６８実施形態では、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００と中間部Ｑ１３００とが接着剤を用いた接着により連結される場合を説明したが、第７１実施形態における第１当接部Ｑ４１００及び第２当接部Ｑ４２００は、中間部Ｑ４３００と非接着の状態で連結される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【８２６６】
図４４０（ａ）は、第７１実施形態における導電部材Ｑ４０００の側面図であり、図４４０（ｂ）は、図４４０（ａ）の矢印Ａ０７ｂ方向視における導電部材Ｑ４０００の正面図であり、図４４０（ｃ）は、図４４０（ｂ）のＡ０７ｃ－Ａ０７ｃ線における導電部材Ｑ４０００の断面図であり、図４４０（ｄ）は、図４４０（ｃ）のＡ０７ｄ－Ａ０７ｄ線における導電部材Ｑ４０００の断面図である。
【８２６７】
図４４０に示すように、本実施形態における導電部材Ｑ４０００は、第１当接部Ｑ４１

００及び第２当接部Ｑ４２００の端面に断面略円形の凹部が凹設されると共に、中間部Ｑ４３００の端面から断面略円形の突部が突設され、第１当接部Ｑ４１００及び第２当接部Ｑ４２００の凹部に中間部Ｑ４３００の突部が挿通される。即ち、突部の外面（側面）が凹部の内面（側面）に取り囲まれる。なお、第１当接部Ｑ４１００及び第２当接部Ｑ４２００は、上述した第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００に対し、形状のみが異なり、他の構成（例えば、材質や製造方法）は同一とされる。

【８２６８】

本実施形態では、第１当接部Ｑ４１００及び第２当接部Ｑ４２００の凹部の内形の大きさ（内径）と中間部Ｑ４３００の突部の外形の大きさ（直径、外径）とが略同一とされる。よって、導電部材Ｑ４０００が組み立てられた状態（第１当接部Ｑ４１００及び第２当接部Ｑ４２００に中間部Ｑ４３００が連結された状態）では、中間部Ｑ４３００の第１当接部Ｑ４１００側の端部および中間部Ｑ４３００の第２当接部Ｑ４２００側の端部の外面（側面）に、第１当接部Ｑ４１００及び第２当接部Ｑ４２００の内面（側面）が当接される。

【８２６９】

これにより、第１当接部Ｑ４１００及び第２当接部Ｑ４２００と中間部Ｑ４３００とを接着剤を使用しない非接着の状態で連結する（組み立てる）ことができる。よって、接着剤を不要とできる分、接着剤の材料費および接着の塗布工程や乾燥工程に要する工数を削減して、製品コストを低減することができる。

【８２７０】

なお、導電部材Ｑ４０００は、液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）と基板部材Ｑ５４５（第１領域Ｑ５４５ａ）との間に圧縮された状態で挟持されるので、非接着の状態であっても、第１当接部Ｑ４１００及び第２当接部Ｑ４２００と中間部Ｑ４３００との連結が解除されることを抑制できる。

【８２７１】

本実施形態では、中間部Ｑ４３００の端面に突部が突設される場合を説明したが、中間部Ｑ４３００の全体が、第１当接部Ｑ４１００及び第２当接部Ｑ４２００の凹部の内形の大きさ（内径）と略同一の外形の大きさ（直径、外径）の形状（例えば、円柱形状）であっても良い。即ち、中間部Ｑ４３００の第１当接部Ｑ４１００側の端部および中間部Ｑ４３００の第２当接部Ｑ４２００側の端部の外面（側面）に、第１当接部Ｑ４１００及び第２当接部Ｑ４２００の内面（側面）が当接されていれば良い。中間部Ｑ４３００の突部の突設を省略できることで、その分、製造コストを削減できる。

【８２７２】

なお、この場合には、第１当接部Ｑ４１００及び第２当接部Ｑ４２００の凹部の内形の大きさ（内径）は、第１当接部Ｑ４１００及び第２当接部Ｑ４２００の外形の大きさ（直径、外径）の５０％以上の大きさであることが好ましく、７５％以上の大きさであることがより好ましい。中間部Ｑ４３００の変形性を適正に維持できるからである。

【８２７３】

中間部Ｑ４３００の第１当接部Ｑ４１００側の端部および中間部Ｑ４３００の第２当接部Ｑ４２００側の端部の外形の形状は、第１当接部Ｑ４１００及び第２当接部Ｑ４２００の凹部の内形の形状と異なる形状であっても良い。即ち、中間部Ｑ４３００の第１当接部Ｑ４１００側の端部および中間部Ｑ４３００の第２当接部Ｑ４２００側の端部の外面（側面）に、第１当接部Ｑ４１００及び第２当接部Ｑ４２００の内面（側面）が全周にわたって当接している必要はなく、周方向の一部が当接されていれば足り、周方向に断続的に当接されていても良い。例えば、凹部の内形または端部の外形の一方が断面円形とされ、凹部の内形または端部の外形の他方が断面多角形とされ、両者の内面（側面）と外面（側面）とが周方向の一部で当接されるものであっても良い。

【８２７４】

次いで、図４４１を参照して、第７２実施形態における導電部材Ｑ５０００について説明する。第６８実施形態では、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００と中間部

Ｑ１３００とが接着剤を用いた接着により連結される場合を説明したが、第７２実施形態における第１当接部Ｑ５１００及び第２当接部Ｑ５２００は、中間部Ｑ４３００と非接着の状態で連結される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【８２７５】

図４４１（ａ）は、第７２実施形態における導電部材Ｑ５０００の側面図であり、図４４１（ｂ）は、図４４１（ａ）の矢印Ａ０８ｂ方向視における導電部材Ｑ５０００の正面図であり、図４４１（ｃ）は、図４４１（ｂ）のＡ０８ｃ－Ａ０８ｃ線における導電部材Ｑ５０００の断面図であり、図４４１（ｄ）は、図４４１（ｃ）のＡ０８ｄ－Ａ０８ｄ線における導電部材Ｑ５０００の断面図である。

【８２７６】

図４４１に示すように、本実施形態における導電部材Ｑ５０００は、第１当接部Ｑ５１００及び第２当接部Ｑ５２００の端面に形成される断面略円形の凹部が貫通孔として構成される。よって、中間部Ｑ４３００の第１当接部Ｑ３１００側の端部および中間部Ｑ４３００の第２当接部Ｑ３２００側の端部が導電部材Ｑ５０００の先端側（正面側または背面側）から視認可能な状態で露出される。

【８２７７】

これにより、導電部材Ｑ５０００の製造コストを低減できると共に、ノイズ効果にムラが生じることを抑制し易くできる。即ち、上記第７１実施形態におけるように、第１当接部Ｑ５１００及び第２当接部Ｑ５２００の凹部が有底の形状であると、中間部４３００の突部の突設寸法が凹部の凹設寸法よりも大きい場合、第１当接部Ｑ４１００及び第２当接部Ｑ４２００の端面と中間部Ｑ４３００の端面との間に隙間が形成される。そのため、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間の相対変位に導電部材Ｑ４０００が追従する場合に、第１当接部Ｑ４１００及び第２当接部Ｑ４２００の端面と中間部Ｑ４３００の端面とが当接と離間とを繰り返し、ノイズ効果にムラが生じる。よって、凹部の深さ寸法と突部の突設寸法との寸法精度（公差）の要求が厳しくなり、その分、製造コストが嵩む。

【８２７８】

これに対し、本実施形態によれば、第１当接部Ｑ５１００及び第２当接部Ｑ５２００の凹部が貫通孔とされることで、突部の突設寸法の寸法精度（公差）を緩やかとできるので、その分、製造コストを低減できる。また、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間の相対変位に導電部材Ｑ５０００が追従する場合に、第１当接部Ｑ５１００及び第２当接部Ｑ５２００の端面と中間部Ｑ４３００の端面とを当接（密着）した状態に維持し易くできるので、ノイズ効果にムラが生じることを抑制できる。

【８２７９】

ここで、実施形態では、中間部Ｑ４３００の突部の突設寸法は、第１当接部Ｑ５１００及び第２当接部Ｑ５２００の凹部（貫通孔）の凹設寸法（貫通寸法、即ち、第１当接部Ｑ５１００及び第２当接部Ｑ５２００の長さ寸法、図４４１（ｃ）上下方向寸法）よりも小さくされる。よって、中間部Ｑ４３００の突部における端面は、第１当接部Ｑ５１００及び第２当接部Ｑ５２００の先端側（中間部Ｑ４３００と反対側）の端面まで到達されない。

【８２８０】

そのため、第１当接部Ｑ５１００及び第２当接部Ｑ５２００のみが液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）及び基板部材Ｑ５４５（第１領域Ｑ５４５ａ）に当接され、中間部Ｑ４３００は液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）及び基板部材Ｑ５４５（第１領域Ｑ５４５ａ）に非当接とされる。即ち、中間部Ｑ４３００は第１当接部Ｑ５１００及び第２当接部Ｑ５２００を介して液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）及び基板部材Ｑ５４５（第１領域Ｑ５４５ａ）と電気的に接続される。

【８２８１】

これにより、例えば、液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）に対して、特性が異なる２部材（第１当接部Ｑ５１００及び中間部Ｑ４３００）が同時に当接することを抑制でき

るので、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間の相対変位に導電部材Ｑ５０００が追従する場合に、ノイズ効果にムラが生じることを抑制できる。即ち、第１当接部Ｑ５１００及び中間部Ｑ４３００とは、変形のし難さ（剛性）が異なると共に、変形のし難さを異ならせるために、含有されるカーボン量が異なるため、電気的な導通特性も異なる。そのため、そのような特定が異なる２部材が液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）に同時に当接された状態で相対変位に追従すると、ノイズ効果にムラが生じる要因となる。

【８２８２】

なお、第１当接部Ｑ５１００及び第２当接部Ｑ５２００は、上述した第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００に対し、形状のみが異なり、他の構成（例えば、材質や製造方法）は同一とされる。

【８２８３】

次いで、図４４２を参照して、第７３実施形態における導電部材Ｑ６０００について説明する。第６８実施形態では、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００と中間部Ｑ１３００とを導電部材Ｑ１０００が備える構成を説明したが、第７３実施形態における導電部材Ｑ６０００は、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００と中間部Ｑ６３００とに加え、外面部Ｑ６４００を更に備える。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【８２８４】

図４４２（ａ）は、第７３実施形態における導電部材Ｑ６０００の側面図であり、図４４２（ｂ）は、図４４２（ａ）の矢印Ａ０９ｂ方向視における導電部材Ｑ６０００の正面図であり、図４４２（ｃ）は、図４４２（ｂ）のＡ０９ｃ－Ａ０９ｃ線における導電部材Ｑ６０００の断面図であり、図４４２（ｄ）は、図４４２（ａ）のＡ０９ｄ－Ａ０９ｄ線における導電部材Ｑ６０００の断面図である。

【８２８５】

図４４２に示すように、本実施形態における導電部材Ｑ６０００は、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００と、それら第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００の間に配設され略円柱状に構成される中間部Ｑ６３００と、中間部Ｑ６３００の外面（側面）に配設される外面部Ｑ６４００とを備える。なお、中間部Ｑ６３００は、上述した中間部Ｑ１３００に対し、形状のみが異なり、他の構成（例えば、材質や製造方法）は同一とされる。

【８２８６】

中間部Ｑ６３００の外形の大きさ（直径）は、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００の外形の大きさ（直径）よりも小さくされる。これにより、中間部Ｑ６３００の変形性（液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間の相対変位に対する追従性）と、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００の形状安定性との両立を図ることができる。その結果、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００と液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）及び基板部材Ｑ５４５（第１領域Ｑ５４５ａ）との当接状態を安定化でき、ノイズ効果にムラが生じることを抑制し易くできる。

【８２８７】

外面部Ｑ６４００は、弾性変形が可能な材料から弾性部材として構成され、中間部Ｑ６３００の外面（側面）を全周にわたって取り囲んで配設される。外面部Ｑ６４００が絶縁材料により絶縁体として構成される。本実施形態では、外面部Ｑ６４００は、カーボンを含有しないポリウレタン樹脂を発泡させて成形されたスポンジが採用される。但し、材質は任意であり、ポリウレタン樹脂に代えて、ポリエチレン樹脂、エチレンポロピレンゴムを採用し、カーボンを含有させずに発泡させても良い。また、ポリ塩化ビニルやフッ素樹脂、架橋ポリエチレン、天然ゴム・合成ゴムなどの非発泡体を採用しても良い。

【８２８８】

なお、本実施形態では、外面部Ｑ６４００の外形の大きさ（直径）は、上述した中間部Ｑ１３００の外形の大きさ（直径）と同一に構成される。即ち、液晶表示装置Ｑ５２３（液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との間）に組み付けられた状態では、外面部Ｑ６

４００の少なくとも一部が中間部Ｑ６４００の外面（側面）と介設部材５５４（開口Ｑ５４４ａ）の内面（側面）との間に位置すると共に、介設部材５５４（開口Ｑ５４４ａ）の内面（側面）と外面部Ｑ６４００の少なくとも一部の外面（側面）とは所定の距離が隔てられ、非接触とされる。

【８２８９】

これにより、中間部Ｑ６３００の外面（側面）が介設部材５５４（開口Ｑ５４４ａ）の内面（側面）に直接接触することを外面部Ｑ６４００により防ぎ、中間部Ｑ６３００が摩耗することを抑制できる。よって、導電部材Ｑ６０００（中間部Ｑ６３００）の耐久性を向上できる。また、外面部Ｑ６４００が弾性変形可能に構成されるので、中間部Ｑ６３００を保護しつつ、中間部Ｑ６３００の変形性を確保できる。

【８２９０】

また、外面部Ｑ６４００の外形の大きさ（直径）が介設部材５５４（開口Ｑ５４４ａ）の内面（内形）の大きさよりも小さくされることで、介設部材５５４（開口Ｑ５４４ａ）の内面（側面）と外面部Ｑ６４００の外面（側面）との間に隙間を持たせることができる。よって、その隙間の分、導電部材Ｑ６０００（外面部Ｑ６４００）が介設部材５５４（開口Ｑ５４４ａ）に拘束されて変形し難くなることを抑制できる。

【８２９１】

なお、本実施形態では、外面部Ｑ６４００が中間部Ｑ６３００よりも変形し易く（剛性が低く）構成される。これにより、中間部Ｑ６３００の変形性の確保と中間部Ｑ６３００の摩耗の抑制との両立を達成し易くできる。但し、外面部Ｑ６４００を中間部Ｑ６３００よりも変形し易く（剛性が低く）構成しても良い。外面部Ｑ６４００が介設部材５５４（開口Ｑ５４４ａ）の内面（側面）との当接で摩耗することを抑制し易くできる。

【８２９２】

外面部Ｑ６４００の長さ寸法（導電部材Ｑ６０００の長手方向の寸法、図４４２（ａ）上下方向寸法）は適宜調整することができる。この場合、外面部Ｑ６４００の外面（側面）は、長さ方向（図４４２（ａ）上下方向寸法）の少なくとも一部が介設部材５５４（開口Ｑ５４４ａ）の内面（側面）と対面可能とされていれば良く、長さ方向の全部が対面していても良い。

【８２９３】

本実施形態では、外面部Ｑ６４００の長さ寸法（導電部材Ｑ６０００の長手方向の寸法、図４４２（ａ）上下方向寸法）が中間部Ｑ６３００の長さ寸法（導電部材Ｑ６０００の長手方向の寸法、図４４２（ａ）上下方向寸法）よりも短くされ、中間部Ｑ６３００の第１当接部Ｑ１１００側の端部および中間部Ｑ６３００の第２当接部Ｑ１２００側の端部において、中間部Ｑ６３００の外面（側面）の周りに外面部Ｑ６４００が配設されず、中間部Ｑ６３００の外面（側面）が露出されて構成される。これにより、外面部Ｑ６４００による中間部Ｑ６４００の保護（摩耗の抑制）を図りつつ、導電部材Ｑ６０００（中間部Ｑ６３００）の変形性を確保できる。

【８２９４】

なお、外面部Ｑ６４００の長さ寸法（導電部材Ｑ６０００の長手方向の寸法、図４４２（ａ）上下方向寸法）が中間部Ｑ６３００の長さ寸法（導電部材Ｑ６０００の長手方向の寸法、図４４２（ａ）上下方向寸法）と略同一であっても良い。介設部材５５４（開口Ｑ５４４ａ）の内面（側面）が中間部Ｑ６４００に当接することを確実に抑制できる。

【８２９５】

また、外面部Ｑ６４００の長さ寸法（導電部材Ｑ６０００の長手方向の寸法、図４４２（ａ）上下方向寸法）が中間部Ｑ６３００の長さ寸法（導電部材Ｑ６０００の長手方向の寸法、図４４２（ａ）上下方向寸法）よりも大きくされ、第１当接部Ｑ１１００又は第２当接部Ｑ１２００の少なくとも一方の外面（側面）の周りにも外面部Ｑ６４００が配設される構成であっても良い。第１当接部Ｑ１１００又は第２当接部Ｑ１２００の形状安定性を高めることができる。

【８２９６】

また、中間部Ｑ６３００の第１当接部Ｑ１１００側の端部または中間部Ｑ６３００の第２当接部Ｑ１２００側の端部の一方のみにおいて、中間部Ｑ６３００の外面（側面）の周りに外面部Ｑ６４００が配設されず、中間部Ｑ６３００の外面（側面）が露出される構成であっても良い。

【８２９７】

上述したように、外面部Ｑ６４００は、絶縁材料から絶縁体として構成される。これにより、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間の相対変位に伴い、外面部Ｑ６４００の外面（側面）が介設部材５５４（開口Ｑ５４４ａ）の内面（側面）に対して摺動することや接触と離間とを繰り返した場合でも、静電気の発生を抑制できる。その結果、ノイズ効果にムラが生じることを抑制できる。

【８２９８】

次いで、図４４３を参照して、第７４実施形態における液晶表示装置Ｑ７５２３について説明する。第６８実施形態では、介設部材５５４（開口Ｑ５４４ａ）の内面（側面）と導電部材Ｑ１０００の外面（側面）とが離間される構成を説明したが、第７４実施形態における介設部材Ｑ７５４４は、その開口Ｑ７５４４ａの内面（側面）が導電部材Ｑ１０００（第１当接部Ｑ１１００）の外面（側面）に当接される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【８２９９】

図４４３は、第７４実施形態における液晶表示装置Ｑ７５２３の断面図であり、図４３５（ａ）に対応する。本実施形態における液晶表示装置Ｑ７５２３は、介設部材Ｑ７５４４の開口Ｑ７５４４ａが導電部材Ｑ１０００の第１当接部Ｑ１１００に対応する位置に配設される。また、介設部材Ｑ７５４４の開口Ｑ７５４４ａは、上述した介設部材５５４の開口５４４ａよりも小さな矩形状に形成され、その開口Ｑ７５４４ａの内形の大きさ（長手方向における距離寸法）が導電部材Ｑ１０００（第１当接部Ｑ１１００）の外形の大きさ（直径）が略同一又は若干小さく構成される。よって、介設部材Ｑ７５４４（開口Ｑ７５４４ａ）の内面（側面）と導電部材Ｑ１０００（第１当接部Ｑ１１００）の外面（側面）とが周方向の少なくとも一部で当接される。

【８３００】

なお、介設部材Ｑ７５４４の開口Ｑ７５４４ａは、正面視略正方形に構成されても良く、正面視略円形に構成されても良い。この場合も、同様に、介設部材Ｑ７５４４の開口Ｑ７５４４ａの内形の大きさ（２辺が対向する距離寸法または内径）は、導電部材Ｑ１０００（第１当接部Ｑ１１００）の外形の大きさ（直径）と略同一又は若干小さく構成される。即ち、介設部材Ｑ７５４４（開口Ｑ７５４４ａ）の内面（側面）と導電部材Ｑ１０００の外面（側面）とが周方向の少なくとも一部または周方向の全部で当接される。

【８３０１】

これにより、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間の相対変位が生じた場合に、液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）に対する第１当接部Ｑ１１００の位置を保持し易く（水平方向に位置ずれ（摺動）し難く）でき、且つ、中間部Ｑ１３００が介設部材Ｑ７５４４（開口Ｑ７５４４ａ）の内面（側面）に拘束されることを回避して、その中間部Ｑ１３００の変形性を確保できる。その結果、ノイズ効果のムラが生じ易くなる。

【８３０２】

次いで、図４４４を参照して、第７５実施形態における導電部材Ｑ８０００について説明する。第６８実施形態では、導電部材Ｑ１０００の全体が導電スポンジで構成される場合を説明したが、第７５実施形態における導電部材Ｑ８０００は、その一部（外殻部Ｑ８５００）が樹脂材料から構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【８３０３】

図４４４（ａ）は、第７５実施形態における導電部材Ｑ８０００の側面図であり、図４４４（ｂ）は、図４４４（ａ）の矢印Ａ１１ｃ方向視における導電部材Ｑ８０００の正面図であり、図４４４（ｃ）は、図４４４（ｂ）のＡ１１ｃ－Ａ１１ｃ線における導電部材

Ｑ８０００の断面図である。図４４４（ａ）、図４４４（ｂ）及び図４４４（ｃ）は、図４３２（ｂ）、図４３２（ｃ）及び図４３２（ｄ）にそれぞれ対応する。なお、図４４４（ｂ）では、介設部材８５４４が図示される。

【８３０４】

図４４４に示すように、本実施形態における導電部材Ｑ８０００は、樹脂材料から構成される外殻部Ｑ８５００を備える。外殻部Ｑ８５００は、第１当接部Ｑ１１００及び中間部Ｑ１３００の長さ方向（第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００を結ぶ方向、図４４４（ａ）上下方向）の一部を外側（外面側）から全周にわたって取り囲んだ状態で配設される。

【８３０５】

本実施形態では、第１当接部Ｑ１１００及び中間部ｑ１３００の外面（側面）と外殻部Ｑ８５００の内面（側面）とが少なくとも周方向の一部の領域において（又は全周にわたって）接着剤により接着される。但し、両者を非接着としても良い。この場合には、第１当接部Ｑ１１００及び中間部ｑ１３００の外面（側面）と外殻部Ｑ８５００の内面（側面）との一方に突部を、他方に凹部を、それぞれ形成し、それらが嵌合するようにすることが好ましい。

【８３０６】

本実施形態における液晶表示装置（図示せず）は、介設部材Ｑ８５４４の開口Ｑ８５４４ａが導電部材Ｑ８０００の第１当接部Ｑ１１００に対応する位置に配設される（図４４４（ｂ）参照）。また、介設部材Ｑ８５４４の開口Ｑ８５４４ａは、その開口Ｑ８５４４ａの内形の大きさ（短手方向における距離寸法、図４４４（ｂ）上下方向寸法）が、導電部材Ｑ８０００（外殻部Ｑ８５００）の外形の大きさ（直径）と略同一又は若干小さく構成される。よって、介設部材Ｑ８５４４（開口Ｑ８５４４ａ）の内面（側面）と導電部材Ｑ８０００（外殻部Ｑ８５００）の外面（側面）とが周方向の少なくとも一部で当接される。

【８３０７】

なお、介設部材Ｑ８５４４の開口Ｑ８５４４ａは、正面視略正方形に構成されても良く、正面視略円形に構成されても良い。この場合も、同様に、介設部材Ｑ８５４４の開口Ｑ８５４４ａの内形の大きさ（２辺が対向する距離寸法または内径）は、導電部材Ｑ８０００（外殻部Ｑ８５００）の外形の大きさ（直径）と略同一又は若干小さく構成される。即ち、介設部材Ｑ８５４４（開口Ｑ８５４４ａ）の内面（側面）と導電部材Ｑ８０００（外殻部Ｑ８５００）の外面（側面）とが周方向の少なくとも一部または周方向の全部で当接される。

【８３０８】

これにより、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間の相対変位が生じた場合に、液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）に対する第１当接部Ｑ１１００の位置を保持し易く（水平方向に位置ずれ（摺動）し難く）でき、且つ、中間部Ｑ１３００が介設部材Ｑ８５４４（開口Ｑ８５４４ａ）の内面（側面）に拘束されることを回避して、その中間部Ｑ１３００の変形性を確保できる。その結果、ノイズ効果のムラが生じ易くなる。

【８３０９】

特に、本実施形態では、外殻部Ｑ８５００の外面（側面）には、その長さ方向（第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００を結ぶ方向、図４４４（ａ）上下方向）に沿って延びる溝部Ｑ８５１０が凹設され、その溝部Ｑ８５１０に挿通可能（溝部Ｑ８５１０の延びる方向（図４４４（ａ）上下方向）に沿って変位可能）に構成される挿通部Ｑ８５４４ｄが、介設部材Ｑ８５４４の開口Ｑ８５４４ａの内面（側面）から突設される。

【８３１０】

これにより、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間の相対変位が生じた場合に、液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）に対して導電部材Ｑ８０００（第１当接部Ｑ１１００）が相対変位（回転）することを抑制できる。その結果、ノイズ効果のムラが生じ易くなる。

【８３１１】
なお、本実施形態では、溝部Ｑ８５１０ｄ（挿通部Ｑ８５４４ｄ）が対向する２箇所（位相を１８０度異ならせた位置）に形成（凹設おより突設）される。但し、形成位置は対向する位置に限定されない。また、形成個数は、１箇所でも良く、３箇所以上でも良い。
【８３１２】
また、外殻部Ｑ８５００の外面（側面）に溝部Ｑ８５１０を、介設部材Ｑ８５４４の開口Ｑ８５４４ａの内面（側面）に挿通部Ｑ８５４４ｄを、それぞれ形成したが、逆の配置とし、外殻部Ｑ８５００の外面（側面）に挿通部Ｑ８５４４ｄを、介設部材Ｑ８５４４の開口Ｑ８５４４ａの内面（側面）に溝部Ｑ８５１０を、それぞれ形成しても良い。
【８３１３】
ここで、上記第６８実施形態では、導電部材Ｑ１０００が導電スポンジのみから構成され、比較的変形し易いため、作業者が手で把持し難い。そのため、液晶表示装置Ｑ５２３を組み立てる際に、介設部材Ｑ５４４の開口Ｑ５４４ａに導電部材Ｑ１０００を組み付け難く、作業性が悪い。
【８３１４】
これに対し、本実施形態における導電部材Ｑ８０００によれば、外殻部Ｑ８５００が樹脂材料から構成されるので、かかる外殻部Ｑ８５００の剛性を確保して、変形し難くできる。即ち、作業者が手で把持し易くできる。よって、液晶表示装置Ｑ５２３を組み立てる際に、介設部材Ｑ５４４の開口Ｑ５４４ａに導電部材Ｑ８０００を組み付ける際に、外殻部Ｑ８５００を利用することができる。即ち、外殻部Ｑ８５００を作業者が手で把持できる。これにより、導電部材Ｑ８０００を組み付け易くして、その作業性を向上できる。
【８３１５】
なお、本実施形態では、外殻部Ｑ８５００の内面（側面）が第１当接部Ｑ１１００及び中間部Ｑ１３００の外面に当接（連結）されたが、外殻部Ｑ８５００の内面（側面）と中間部Ｑ１３００の外面（側面）との間の少なくとも一部（周方向の一部または長さ方向の一部）又は全部（周方向および長さ方向の全部）に隙間が形成されていても良い。隙間の分、中間部Ｑ１３００が拘束されることを抑制し、導電部材Ｑ８０００（中間部Ｑ１３００）の変形性を確保できる。その結果、ノイズ効果のムラを抑制できる。
【８３１６】
本実施形態では、第１当接部Ｑ１１００の正面側の端面（液晶装置Ｑ５４３の背面部Ｑ５４３ｃ側の部分、図４４４（ｃ）上側の部分）が、外殻部Ｑ８５００の正面側の端面（液晶装置Ｑ５４３の背面部Ｑ５４３ｃ側の部分、図４４４（ｃ）上側の部分）よりも突出する（正面側に位置する）構成とされたが、逆でも良く、外殻部Ｑ８５００の正面側の端面（液晶装置Ｑ５４３の背面部Ｑ５４３ｃ側の部分、図４４４（ｃ）上側の部分）が、第１当接部Ｑ１１００の正面側の端面（液晶装置Ｑ５４３の背面部Ｑ５４３ｃ側の部分、図４４４（ｃ）上側の部分）よりも突出する（正面側に位置する）構成としても良い。
【８３１７】
本実施形態では、外殻部Ｑ８５００を樹脂材料から構成したが、導電スポンジ（導電部材Ｑ１０００）よりも剛性の大きい（変形し難い）であれば、別の材料を採用しても良い。例えば、ゴム状弾性体や金属材料が例示される。なお、外殻部Ｑ８５００は、絶縁性の材料から構成されることが好ましい。よって、金属材料から外殻部Ｑ８５００を構成する場合には、その金属材料の表面（外面）をゴム状弾性体や樹脂材料などの絶縁性の材料で被覆（コーティング）することが好ましい。
【８３１８】
ここで、介設部材Ｑ８５４４の開口Ｑ８５４４ａの内部（内面や背面）に、その開口Ｑ８５４４ａに外殻部Ｑ８５００を挿通（押し込み）して組み付ける際に外殻部Ｑ８５００の一部に当接して外殻部Ｑ８５００のそれ以上の挿通（押し込み）を規制する（外殻部Ｑ８５００の挿通位置（組み付け位置）を規定する）当接手段を設けて良い。当接手段としては、例えば、介設部材Ｑ８５４４の開口Ｑ８５４４ａの内部（内面や背面）に設けられ、外殻部Ｑ８５００の正面側の端面（液晶装置Ｑ５４３の背面部Ｑ５４３ｃ側の部分、図

４４４（ｃ）上側の部分）に当接する部分が例示される。
【８３１９】
次いで、図４４５を参照して、第７６実施形態における導電部材Ｑ９０００について説明する。第６８実施形態では、導電部材Ｑ１０００の中間部Ｑ１３００が中実に構成される場合を説明したが、第７６実施形態における導電部材Ｑ８０００の中間部Ｑ９３００は、凹部Ｑ９３１０を備えて構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【８３２０】
図４４５（ａ）は、第７６実施形態における導電部材Ｑ９０００の斜視図であり、図４４５（ｂ）は、導電部材Ｑ９０００の側面図であり、図４４５（ｃ）は、図４４５（ｂ）の矢印Ａ１２ｃ方向視における導電部材Ｑ９０００の正面図であり、図４４５（ｄ）は、図４４５（ｃ）のＡ１２ｄ－Ａ１２ｄ線における導電部材Ｑ９０００の断面図であり、図４４５（ｅ）は、図４４５（ｂ）のＡ１２ｅ－Ａ１２ｅ線における導電部材Ｑ９０００の断面図である。なお、図４４４（ｂ）では、介設部材８５４４が図示される。
【８３２１】
ここで、上述したように、導電部材Ｑ１０００（中間部Ｑ１３００）は、導電スポンジから構成されるため、気泡による空隙（隙間）を有し、この空隙（隙間）の分、変形性が向上されている。しかしながら、変形性に更なる改善の余地が要請される。
【８３２２】
これに対し、本実施形態における導電部材Ｑ９０００によれば、図４４５に示すように、中間部Ｑ９３００が空隙（隙間）として構成される凹部Ｑ９３１０を備え、この凹部Ｑ９３１０は、導電部材Ｑ９０００（中間部Ｑ９３００）の長さ方向（第１当接部Ｑ１１００と第２当接部Ｑ１２００とを結ぶ方向、図４４５（ｄ）上下方向）に沿って延びるように形成される。これにより、凹部Ｑ９３１０の空隙（隙間）の分、導電部材Ｑ９０００（中間部Ｑ９３００）の変形性を向上できる。
【８３２３】
本実施形態では、凹部Ｑ９３１０は、中間部Ｑ９３００の一側（第１当接部Ｑ１１００側）の端部（端面）から他側（第２当接部Ｑ１２００側）の端部（端面）まで長さ方向（第１当接部Ｑ１１００と第２当接部Ｑ１２００とを結ぶ方向、図４４５（ｄ）上下方向）に沿って連続する空隙（隙間）として構成される。但し、凹部Ｑ９３１０が長さ方向に沿って断続的に構成される（長さ方向の一部で空隙（隙間）が非形成とされる）ものであっても良い。
【８３２４】
本実施形態では、凹部Ｑ９３１０が長さ方向（第１当接部Ｑ１１００と第２当接部Ｑ１２００とを結ぶ方向、図４４５（ｄ）上下方向）に沿って直線状に延びる場合を説明したが、非直線状に延びるものであっても良い。非直線状としては、例えば、矩形波状に凹凸を組み合わせた形状に屈曲して延びる形態や、鋸刃状に屈曲して延びるものや、螺旋（回転しながら回転面と垂直方向のある方向（長さ方向）へ移動（上昇または下降）する曲線）状に延びるものが例示される。
【８３２５】
なお、中間部Ｑ９３００を複数の部材（導電スポンジ）を合体（結合）させて構成するようにしても良い。即ち、中間部Ｑ９３００の素材としての複数の部材を金型により成形する際または金型により成形した後に、それら各素材の一部または全部の外面（側面）に溝を凹設し、溝が凹設された外面を合わせ面（当接面）として、複数の素材を合体（連結）して中間部Ｑ９３００を構成しても良い。合わせ面（当接面）の溝が空隙（隙間）として残り、これを凹部Ｑ９３１０とすることができるので、金型では成形が困難な複雑な形状の凹部Ｑ９３１０を構成できる。
【８３２６】
本実施形態では、凹部Ｑ９３１０の断面（横断面）が円形の空隙（隙間）として構成されたが、断面（横断面）形状は任意であり、断面矩形や断面楕円、これらが組み合わされ

た断面形状であっても良い。凹部Ｑ９３１０は、長さ方向（第１当接部Ｑ１１００と第２当接部Ｑ１２００とを結ぶ方向、図４４５（ｄ）上下方向）に沿って一定の断面（横断面）形状である必要はなく、長さ方向に沿って変化しても良い。長さ方向の一部の断面（横断面）形状が他の部分と異なる断面（横断面）形状であっても良い。

【８３２７】

本実施例では、凹部Ｑ９３１０の配設個数が４箇所とされるが、３箇所以下でも良く、５箇所以上でも良い。また、配設位置は任意である。

【８３２８】

本実施形態では、凹部Ｑ９３１０の横断面（長さ方向（第１当接部Ｑ１１００と第２当接部Ｑ１２００とを結ぶ方向、図４４５（ｄ）上下方向）に直交する仮想面で切断した断面、即ち、図４４５（ｅ）に示す断面）における断面積は、その合計の断面積が、中間部Ｑ９３００の凹部Ｑ９３１０を除いた領域の断面積よりも小さくされる。これにより、空隙（隙間）が大きくなり過ぎることを抑制でき、その分、中間部Ｑ９３００の耐久性を確保できる。

【８３２９】

例えば、凹部Ｑ９３１０の断面積の合計が大きい（例えば、中間部Ｑ９３００の凹部Ｑ９３１０を除いた領域の断面積の半分を超える）構成では、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間の相対変位が過大となった場合に、中間部Ｑ９３００の変形態様が一部に屈曲した形状が発生する態様となり易い。そのため、その屈曲部分に応力集中が生じ、亀裂の発生により耐久性が低下する。

【８３３０】

これに対し、凹部Ｑ９３１０の断面積の合計が小さい（例えば、中間部Ｑ９３００の凹部Ｑ９３１０を除いた領域の断面積の半分以下、より好ましくは、２５％以下となる）構成であれば、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間の相対変位が過大となった場合に、空隙（隙間）を埋めて、中実体として中間部Ｑ９３００が変形できる。これにより、中間部Ｑ９３００に屈曲した形状が発生することを抑制できる。その結果、応力集中の発生を抑制でき、耐久性を向上できる。

【８３３１】

次いで、図４４６を参照して、第７７実施形態における導電部材Ｑ１００００について説明する。第７６実施形態では、中間部Ｑ９３００の内部に空隙（隙間）が構成される場合を説明したが、第７７実施形態における導電部材Ｑ１００００は、複数の中間部Ｑ１０３００の外面（側面）どうしの間に空隙（隙間）が構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【８３３２】

図４４６（ａ）は、第７７実施形態における導電部材Ｑ１００００の側面図であり、図４４６（ｂ）は、図４４６（ａ）の矢印Ａ１３ｂ方向視における導電部材Ｑ１００００の正面図であり、図４４６（ｃ）は、図４４６（ｂ）のＡ１３ｃ－Ａ１３ｃ線における導電部材Ｑ１００００の断面図であり、図４４６（ｄ）は、図４４６（ａ）のＡ１３ｄ－Ａ１３ｄ線における導電部材Ｑ１００００の断面図である。

【８３３３】

図４４６に示すように、本実施形態における導電部材Ｑ１００００は、複数（本実施形態では７本）の中間部Ｑ１０３００を備える。なお、中間部Ｑ１０３００は、上述した中間部Ｑ１３００に対し、形状のみが異なり、他の構成（例えば、材質や製造方法）は同一とされる。

【８３３４】

中間部Ｑ１０３００の外形の大きさ（直径）は、外面部Ｑ６４００の内形の大きさ（内径）よりも小さくされる。これにより、外面部Ｑ６４００の内面側（内部）には、複数の中間部Ｑ１０３００が束ねられた状態で合体（結合）して保持される。

【８３３５】

なお、本実施形態では、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間に組み付けられて

圧縮される前の状態（即ち、無負荷状態）において、外面部Ｑ６４００の内形の大きさ（内径）が、中間部Ｑ１０３００の外形の大きさ（直径）の略３倍に設定される。これにより、無負荷状態において、複数の中間部Ｑ１０３００及び外面部Ｑ６４００は、径方向に変形されず、それぞれ断面（横断面）形状が略円形および略円環形状の状態のまま隣接する部材と当接（接触）される。但し、外面部Ｑ６４００の内面側（内部）において、複数の中間部Ｑ１０３００が径方向に変形（圧縮）されていても良い。また、外面部Ｑ６４００の内面（側面）が径方向に変形（圧縮）されていても良い。

【８３３６】

本実施形態における導電部材Ｑ１００００によれば、複数の中間部Ｑ１０３００の外面（側面）どうしの間、及び、中間部Ｑ１０３００と外面部Ｑ６４００との外面（側面）と内面（側面）との間に、それぞれ空隙（隙間）が形成される。これら空隙（隙間）は、導電部材Ｑ１００００（中間部Ｑ１０３００）の長さ方向（第１当接部Ｑ１１００と第２当接部Ｑ１２００とを結ぶ方向、図４４６（ｃ）上下方向）に沿って延びるように形成される。これにより、空隙（隙間）の分、導電部材Ｑ１００００（中間部Ｑ１０３００）の変形性を向上できる。

【８３３７】

本実施形態では、中間部Ｑ１０３００が円柱状（長さ方向（第１当接部Ｑ１１００と第２当接部Ｑ１２００とを結ぶ方向、図４４６（ｃ）上下方向）に沿って直線状に延びる形状）に構成される場合を説明したが、非直線状に延びるものであっても良い。例えば、複数の中間部Ｑ１０３００が撚り合わせられていても良い。

【８３３８】

本実施形態では、中間部Ｑ１０３００が断面（横断面）円形の円柱状に構成されたが、断面形状は任意であり、断面多角形や断面楕円、これらが組み合わされた断面形状であっても良い。但し、外面部Ｑ６４００は断面（横断面）円形（内面および外面がそれぞれ円形の断面円環状）に構成されることが好ましい。複数（本実施形態では７本）の中間部Ｑ１０３００が合体して構成される集合体の断面（横断面）形状（外形）を略円形として、その集合体の変形性が方向性を有する（相対変位の方向によって変形性が異なる）ことを抑制できる。これにより、上述しように、ノイズ効果にムラを生じ難くできる。

【８３３９】

本実施例では、中間部Ｑ１０３００の配設個数が７個とされるが、６個以下でも良く、８個以上でも良い。また、配設位置は任意である。

【８３４０】

本実施形態では、複数の中間部Ｑ１０３００の外面（側面）どうしの間に空隙（隙間）を形成できるところ、中間部Ｑ１０３００は断面（横断面）が略円形の円柱状に構成されるので、液晶装置Ｑ５４３と基板部材Ｑ５４５との間の相対変位が過大となった場合でも、各中間部Ｑ１０３００の一部に屈曲した形状が発生することを抑制できる。即ち、屈曲部分に応力集中が生じて亀裂が発生することを抑制できる。その結果、耐久性を向上できる。

【８３４１】

本実施形態では、各中間部Ｑ１０３００が同じ構成を説明したが、異なる構成（例えば、外形（形状、直径）が異なる、材質が異なる、導電率が異なるなど）でも良い。

【８３４２】

以上、上記実施形態に基づき本発明を説明したが、本発明は上記形態に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲内で種々の変形改良が可能であることは容易に推察できるものである。

【８３４３】

上記各実施形態において、一の実施形態における構成の一部または全部を、他の実施形態における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の実施形態としても良い。

【８３４４】

例えば、第７１実施形態における第１当接部Ｑ４１００及び中間部Ｑ４３００の連結構造を、第７０実施形態における第１当接部Ｑ３１００及び中間部Ｑ１３００の連結構造と置き換えて（適用して）、新たな実施形態としても良い。

【８３４５】

同様に、例えば、第７１実施形態における第１当接部Ｑ４１００及び中間部Ｑ４３００の連結構造を、第７７実施形態における第１当接部Ｑ１１００及び中間部Ｑ１０３００の連結構造と置き換えて（適用して）、新たな実施形態（複数の中間部Ｑ１０３０００の内の一部または全部の中間部Ｑ１０３００における端部（先端部分、図４４６（ｃ）上側部分）が第１当接部Ｑ４１００の凹部に配設され、凹部に配設された１又は複数の中間部Ｑ１０３０００の端部の外面（側面）の内の一部または全部が、第１当接部Ｑ４１００の凹部の内面（側面）の一部または全部と当接する連結構造）としても良い。

【８３４６】

上記各実施形態では、第１当接部Ｑ１１００～Ｑ５１００と第２当接部Ｑ１２００～Ｑ５２００とが同一の構成とされる場合を説明したが、異なる構成（形状、材質、特性が異なるもの）でも良い。

【８３４７】

上記１７６実施形態において、液晶表示装置Ｑ５２３（液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との間）に導電部材Ｑ６０００を組み付けた状態において、外面部Ｑ６４００の外面（側面）と介設部材５４４の開口５４４ａの内面（側面）とは、外面部Ｑ６４００の外面（側面）における長さ方向および周方向の一部または全部が開口５４４ａの内面（側面）における一部または全部に当接していても良い（即ち、長さ方向および周方向の一部または全部において離間していても良い（両者の間に隙間を有していても良い）。なお、液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との相対変位で想定され得る外力が導電部材Ｑ６０００に入力され、導電部材Ｑ６０００が変形された際に、少なくとも外面部Ｑ６４００の外面（側面）の一部が開口５４４ａの内面（側面）に当接する（当接する面積が増加する）ことが好ましい。導電部材Ｑ６０００の変位（水平方向への摺動）を抑制するストッパとして介設部材５４４を機能させることができ、ノイズ効果にムラが生じることを抑制できるからである。

【８３４８】

上記各実施形態において、液晶表示装置Ｑ５２３，Ｑ７５２３（液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との間）に導電部材Ｑ１０００～Ｑ１００００を組み付けた状態において、導電部材Ｑ１０００～Ｑ１００００（第１当接部Ｑ１１００～Ｑ１５００、第２当接部Ｑ１２００～Ｑ５２００、中間部Ｑ１３００～Ｑ１０３００又は外面部Ｑ６４００の内の一部（１または複数））の外面（側面）の全周（周方向の全部）が、介設部材５４４～８５４４の開口５４４ａ～８５４４ａの内面（側面）に当接していても良い。これにより、導電部材Ｑ１０００～Ｑ１００００を介設部材５４４～８５４４に組み付けた（開口５４４ａ～８５４４ａに保持させた）状態で、その介設部材５４４～８５４４を液晶表示装置Ｑ５２３，Ｑ７５２３（液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との間）に組み付けることができるので、液晶表示装置Ｑ５２３の組み立て作業における作業性を向上できる。

【８３４９】

上記各実施形態では、第１当接部Ｑ１１００～Ｑ１５００及び第２当接部Ｑ１２００～Ｑ５２００の長さ寸法（第１当接部Ｑ１１００～Ｑ１５００及び第２当接部Ｑ１２００～Ｑ５２００を結ぶ方向における寸法）が、中間部Ｑ１３００～Ｑ１０３００の長さ寸法よりも小さくされたが、第１当接部Ｑ１１００～Ｑ１５００及び第２当接部Ｑ１２００～Ｑ５２００の内の一方または両方の長さ寸法が、中間部Ｑ１３００～Ｑ１０３００の長さ寸法よりも大きくされても良い。液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との間の相対変位の変位量が比較的小さい場合（特に、液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との間の間隔を増減させる方向（導電部材Ｑ１０００～Ｑ１００００の長さ方向）への相対変位が支配的（即ち、水平方向には相対変位し難い）で、且つ、その変位量が比較的小さい場合）に当該構成（後者の構成）が有効となる。

【８３５０】
上記各実施形態では、中間部Ｑ１３００～Ｑ１０３００の長さ寸法（第１当接部Ｑ１１００～Ｑ１５００及び第２当接部Ｑ１２００～Ｑ５２００を結ぶ方向における寸法）が外形の大きさ（直径）よりも大きくされたが、中間部Ｑ１３００～Ｑ１０３００の長さ寸法（第１当接部Ｑ１１００～Ｑ１５００及び第２当接部Ｑ１２００～Ｑ５２００を結ぶ方向における寸法）が外形の大きさ（直径）よりも小さくても良い。即ち、中間部Ｑ１３００～Ｑ１０３００が、長手方向に長い長尺の円柱状とされたが、厚み寸法が外形（直径）よりも小さい円板状に形成されても良い。液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との間の相対変位の変位量が比較的小さい場合（特に、液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との間の間隔を増減させる方向（導電部材Ｑ１０００～Ｑ１００００の長さ方向）への相対変位が支配的（即ち、水平方向には相対変位し難い）で、且つ、その変位量が比較的小さい場合）に当該構成（後者の構成）が有効となる。
【８３５１】
上記各実施形態では、導電部材Ｑ１０００～Ｑ１００００が導電スポンジから構成される場合を説明したが、その一部を他の材質から構成しても良い。例えば、第１当接部Ｑ１１００～Ｑ１５００及び第２当接部Ｑ１２００～Ｑ５２００の一方または両方を金属材料（例えば、鉄、銅、アルミニウムなど）から構成しても良い。第１当接部Ｑ１１００～Ｑ１５００及び第２当接部Ｑ１２００～Ｑ５２００形状安定性を高めることができる。
【８３５２】
上記各実施形態において、介設部材５４４～８５４４の開口５４４ａ～８５４４ａの形状（導電部材Ｑ１０００～Ｑ１００００を組み付ける（挿通する）際の挿通方向視における正面視形状）は、任意である。例えば、矩形状（正方形、長方形、その他の多角形）、円形、楕円形、それらを組み合わせた形状（直線と曲線とが組わされた正面視形状）が例示される。
【８３５３】
上記各実施形態において、第１当接部Ｑ１１００～Ｑ１５００及び第２当接部Ｑ１２００～Ｑ５２００の外形の大きさは、長さ方向（第１当接部Ｑ１１００～Ｑ１５００及び第２当接部Ｑ１２００～Ｑ５２００を結ぶ方向）において一定である（長さ方向に垂直な仮想平面で切断した断面形状が長さ方向のどの位置で切断しても略同一である）必要はなく、長さ方向の一部の外形の大きさが他の部分の外形の大きさと異なるものであっても良い。例えば、第１の部位とその第１の部位よりも外形の大きさが大きい第２の部位とが長さ方向に並設（又は繰り返し配設）される構成でも良い。
【８３５４】
また、外形の大きさは、長さ方向に沿って連続的とされる（この一例として、第７０実施形態における第１当接部Ｑ３１００及び第２当接部Ｑ３２００が例示される）必要はなく、不連続（断続的）であっても良い。例えば、外形の大きさが長さ方向に沿って変化する部位と外形の大きさが長さ方向において一定ある部位とが長さ方向に並設（又は繰り返し配設）される構成でも良い。
【８３５５】
上記各実施形態では、液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との間に導電部材Ｑ１０００～Ｑ１００００を配設する（両者を電気的に接続する）場合を説明したが、例えば、２枚の基板部材Ｑ５４５が向い合せで所定間隔を隔てて配設され、それら２枚の基板部材Ｑ５４５の間に配設される（２枚の基板部材Ｑ５４５ｎｏ第１領域５４５ａどうしを電気的に接続する）ものであっても良い。例えば、液晶表示装置５２３に２枚の基板部材Ｑ５４５を対向配置する必要がある場合に、上記各実施形態の場合と同様に、液晶表示装置５２３の変位（回転やスライド変位）に伴い２枚の基板部材Ｑ５４５が相対変位した場合でも、ノイズ効果にムラが生じることを抑制できる。
【８３５６】
上記第７３実施形態では、中間部Ｑ６３００の長さ方向（長手方向、第１当接部Ｑ１１００及び第２当接部Ｑ１２００を結ぶ方向）の端部（第１当接部Ｑ１１００が接続される

端部側および第２当接部Ｑ１２００が接続される端部側）の一部において外面が露出される（外面部Ｑ６４００が配設されない）場合を説明したが、中間部Ｑ６３００の長さ方向の端部の外面が露出されない（外面部Ｑ６４００が配設される）構成であっても良い。当該構成（後者の構成）によれば、液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との間の相対変位し易い（変位量が大きい）場合でも、外面部Ｑ６４００による中間部Ｑ６３００の保護効果を高める（介設部材Ｑ５４４の開口Ｑ５４４ａの内面（側面）に中間部Ｑ６３００が直接当接して摩耗することを抑制する）ことができる。

【８３５７】

なお、第７１実施形態における第１当接部Ｑ４１００及び中間部Ｑ４３００の連結構造を、第７３実施形態における第１当接部Ｑ１１００及び中間部Ｑ６３００の連結構造と置き換える場合には、中間部Ｑ６３００の長さ方向の端部（先端部分）に加え、外面部Ｑ６４００の長さ方向の端部（先端部分）も、第１当接部Ｑ４１００の凹部に配設される構成（凹部に配設された外面部Ｑ６４００の端部の外面（側面）の内の一部または全部が、第１当接部Ｑ４１００の凹部の内面（側面）の一部または全部と当接する構成）としても良い。第１当接部Ｑ１１００と中間部Ｑ６３００及び外面部Ｑ６４００との接着剤による接着を不要として、その分、製品コストを低減できる。

【８３５８】

この場合、外面部Ｑ６４００の端面（端部の先端面）よりも中間部Ｑ６３００の端部（先端部）を突出させ、中間部Ｑ６３００の長さ方向の端部（先端部分）の外面（側面）の内の一部または全部も、第１当接部Ｑ４１００の凹部の内面（側面）の一部または全部と当接する構成としても良い。第１当接部Ｑ４１００の凹部の内形の大きさを、外面部Ｑ６４００の（端部（先端面）と中間部Ｑ６３００の端部（先端部）とで異なるものとする（側面どうしが当接する大きさとする）ことが好ましい。両者の当接による摩擦力を確保して、第１当接部Ｑ１１００から中間部Ｑ６３００及び外面部Ｑ６４００が脱落する（抜ける）ことを抑制できる。その結果、液晶表示装置Ｑ５２３（液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との間）に導電部材Ｑ６０００を組み付けやすくできる。

【８３５９】

当該構成は、第７７実施形態においても同様である。即ち、第１当接部Ｑ４１００の凹部に外面部Ｑ６４００の端部（先端部）及び複数の中間部Ｑ１０３００の端部（先端部）を配設しても良い。外面部Ｑ６４００の端面（端部の先端面）よりも中間部Ｑ１０３００の端部（先端部）を突出させても良い。外面部Ｑ６４００の外面（側面）が第１当接部Ｑ４１００の凹部の内面（側面）に当接されるので、複数の中間部Ｑ１０３００が分離する（ばらける）ことを抑制し易くできる。よって、第１当接部Ｑ１１００から中間部Ｑ１０３００が脱落する（抜ける）ことを抑制できる。その結果、液晶表示装置Ｑ５２３（液晶装置Ｑ５４３及び基板部材Ｑ５４５との間）に導電部材Ｑ６０００を組み付けやすくできる。

【８３６０】

上記第７１及び第７２実施形態では、第１当接部Ｑ４１００，Ｑ５１００と中間部Ｑ４３００との間に接着剤を塗布しない（非接着により両者を連結する）構成を説明したが、両者の間（当接する部分どうしの間）の少なくとも一部または全部に接着剤を塗布しても良い。

【８３６１】

上記第７３及び第７７実施形態では、外面部Ｑ６４００の剛性が中間部Ｑ６３００，Ｑ１０３００の剛性よりも高い（変形し難い）構成とされたが、外面部Ｑ６４００の剛性が中間部Ｑ６３００，Ｑ１０３００の剛性よりも低い（変形し易い）構成としても良い。導電部材Ｑ６０００，Ｑ１００００（中間部Ｑ６３００，Ｑ１０３００）の変形性を確保できる。また、この場合でも、外面部Ｑ６４００により中間部Ｑ６３００の保護効果を確保できる（介設部材Ｑ５４４の開口Ｑ５４４ａの内面（側面）に中間部Ｑ６３００が直接当接して摩耗することを抑制する）ことができる。

【８３６２】

上記各実施形態では、介設部材Ｑ５４４～Ｑ８５４４を正面ケースＱ５４１（液晶装置５４３側）に配設する構成を説明したが、介設部材Ｑ５４４～Ｑ８５４４を背面ケースＱ５４２（基板部材５４５側）に配設しても良い。

【８３６３】

上記各実施形態で説明を省略したが、第２当接部Ｑ１２００～Ｑ５２００の端面（基板部材５４５（第１領域５４５ａ）に当接する側の部分）に、第１領域５４５ａの突起５４５ａ１が挿通（嵌合）可能な凹部を形成（凹設）しても良い。突起５４５ａ１が凹部に挿通（嵌合）されることにより、基板部材Ｑ５４５（第１領域Ｑ５４５ａ）に対する導電部材Ｑ１０００～Ｑ１００００の位置ずれ（摺動）を抑制できる。

【８３６４】

上記各実施形態では説明を省略したが、液晶装置Ｑ５４３の背面部Ｑ５４３ｃから１又は複数の突起（突部）を突出させ、その突起を第１当接部Ｑ１１００～Ｑ１５００の端面（液晶装置Ｑ５４３（背面部Ｑ５４３ｃ）に当接する側の部分）に食い込ませても良い。また、それら１又は複数の突起（突部）が挿通（嵌合）可能な凹部を第１当接部Ｑ１１００～Ｑ１５００の端面に形成（凹設）しても良い。凹部に突起（突部）が挿通（嵌合）されることにより、液晶装置Ｑ５４３（背面部５４３ｃ））に対する導電部材Ｑ１０００～Ｑ１００００の位置ずれ（摺動）を抑制できる。

【８３６５】

なお、液晶装置Ｑ５４３の背面部Ｑ５４３ｃから突出させる突起（突部）の外形を、第７２実施形態における第１当接部Ｑ５１００の凹部の内形と略同一の大きさ（即ち、挿通（嵌合）が可能な大きさ）としても良い。突起（突部）が第１当接部Ｑ５１００の凹部に挿通（嵌合）されることで、液晶装置Ｑ５４３（背面部５４３ｃ）に対する導電部材Ｑ５０００の位置ずれ（摺動）を抑制できる。

【８３６６】

上記第７２実施形態では、液晶装置５４３（背面部５４３ｃ）及び基板部材５４５（第１領域５４５ａ）に第１当接部Ｑ５１００及び第２当接部Ｑ５２００がそれぞれ当接（接続）される一方、中間部Ｑ４３００は非当接（非接続）とされる場合を説明したが、液晶装置５４３（背面部５４３ｃ）及び基板部材５４５（第１領域５４５ａ）に第１当接部Ｑ５１００及び第２当接部Ｑ５２００と中間部Ｑ４３００とが当接（接続）されても良い。

【８３６７】

上記各実施形態では、動作ユニット２００がスライドユニットＳＬを備え、スライドユニットＳＬに液晶表示装置Ｑ５２３が変位可能に配設される場合を説明したが、これに代えて、又は、これに加えて、変位可能体としての他の装置が配設されても良い。他の装置としては、例えば、前層側可動装置Ｋ４００が例示される。

【８３６８】

本発明を上記各実施形態とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される）として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の領域に球を入賞させることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるパチンコ機として実施してもよい。また、Ｖゾーン等の特別領域を有する入賞装置を有し、その特別領域に球を入賞させることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機に実施してもよい。更に、パチンコ機以外にも、アレパチ、雀球、スロットマシン、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機などの各種遊技機として実施するようにしても良い。

【８３６９】

なお、スロットマシンは、例えばコインを投入して図柄有効ラインを決定させた状態で操作レバーを操作することにより図柄が変動され、ストップボタンを操作することにより図柄が停止されて確定される周知のものである。従って、スロットマシンの基本概念としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を変動表示した後に識別情報を確定表示する

表示装置を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の変動表示が停止して確定表示され、その停止時の識別情報の組合せが特定のものであることを必要条件として、遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるスロットマシン」となり、この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【８３７０】

また、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する表示装置を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく所定量の球の投入の後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技が発生させられ、遊技者には、下部の受皿に多量の球が払い出されるものである。かかる遊技機をスロットマシンに代えて使用すれば、遊技ホールでは球のみを遊技価値として取り扱うことができるため、パチンコ機とスロットマシンとが混在している現在の遊技ホールにおいてみられる、遊技価値たるメダルと球との別個の取扱による設備上の負担や遊技機設置個所の制約といった問題を解消し得る。

【８３７１】

以下に、本発明の遊技機に加えて上述した実施形態に含まれる各種発明の概念を示す。

【８３７２】

＜導電部材Ｑ１０００：ノイズ効果にムラが生じることを抑制する＞

電気的に動作可能に構成される動作手段と、アース接続されたグランド部を有し前記動作手段と間隔を隔てて配設される基板と、前記動作手段の導電部分を前記基板のグランド部に電気的に接続する接続手段と、を備え、

前記動作手段と前記基板との間の相対的な変位に伴い、前記動作手段の導電部分および前記基板のグランド部に一側および他側が接続された状態で前記接続手段が弾性的に変形可能に構成され、

前記接続手段は、前記一側に配設される第１接続手段と、前記他側に配設される第２接続手段と、前記第１接続手段および前記第２接続手段の間に配設される第３接続手段と、を備え、

前記第１接続手段および前記第２接続手段は、前記第３接続手段よりも変形し難く（剛性が高く）構成されることを特徴とする遊技機Ｑ１。

【８３７３】

電気的に動作可能に構成される動作手段と、アース接続されたグランド部を有し動作手段と間隔を隔てて配設される基板とを備え、動作手段の導電部分を基板のグランド部に接続手段により電気的に接続する遊技機が知られている。特開２０１９－１８８２６０号公報には、弾性体の周りに布状の導電体（導電性の金属材料から構成される繊維体を編み込んだ無端帯状の導電布）を無端状に巻き付けて接続手段とする構成が開示される。

【８３７４】

上記従来の技術では、動作手段（液晶装置）と基板とが水平方向に相対変位する場合に、その相対変位の方向が、導電体の巻き付け方向に沿う方向であれば、接続手段がせん断変形する（弾性体が略菱形に変形する）ことで、相対変位に追従可能であるが、相対変位の方向が、導電体が巻き付けられている方向と直交する方向であると、接続手段がせん断変形し難くなる（導電体が弾性体の変形を阻害する）。そのため、相対変位に追従することが困難となり、摩耗が発生する。布状の導電体は、面外方向（折り目を付ける方向）には変形しやすい一方、面内方向の変形はし難いためである。

【８３７５】

そこで、上記従来の技術では、導電体に「切り欠き」を設けることで、導電体が巻き付

けられている方向と直交する方向においても、相対変位に追従する（接続手段がせん断変形する）ようにしている。

【８３７６】

しかしながら、このように、導電体に切り欠きを設ける構成では、その切り欠きのみで接続手段の対称性を十分に担保することは困難であった。そのため、動作手段（液晶装置）と基板とが相対変位する場合に、その相対変位の方向によって接続手段の変形性に差が生じ、ノイズ効果にムラが生じるという問題点があった。

【８３７７】

特に、動作手段（液晶装置）と基板との相対変位が、両者の対向面の間隔を増減させる方向と、両者の対向面の角度を変化させる方向とが組み合わさったものであると、その相対変位に接続手段が追従できず、動作手段または基板と接続手段との間の接触状態が安定しない。即ち、切り欠きが設けられている側が対向間で圧縮されて弾性回復する場合と、切り欠きが設けられていない側が圧縮されて弾性回復する場合とで、接続手段の動的な変形態様（相対変位に対する追従性）に差が生じる。そのため、相対変位おいて、動作手段または基板と接続手段との間に部分的な隙間が断続的に発生し、接触圧や面積が変化することで、ノイズ効果のムラが顕著となる。

【８３７８】

また、接続手段は、動作手段（液晶装置）と基板との相対変位に伴い、繰り返し変形されるものであるため、導電体に切り欠きが設けられていると、切り欠き部分に応力集中が生じやすく、耐久性の低下を招くという問題点があった。更に、導電体に切り欠きを設ける作業を必要となるだけでなく、切り欠きが設けられることで導電体が不整の形状となるため、導電体を弾性体に巻き付ける際の作業性が悪くなり、その分、生産コストが嵩むという問題点があった。

【８３７９】

遊技機Ｑ１によれば、接続手段を単純な形状とできる。よって、動作手段（液晶装置）と基板とが相対変位する場合に、その相対変位の方向によって接続手段の変形性にアンバランスが生じることを抑制できる（接続手段の変形性が変形方向によって異なることを抑制できる）。その結果、動作手段または基板と接続手段との間の接触状態を安定させることができるので、接触圧や面積が変化することを抑制できる。よって、ノイズ効果のムラを抑制できる。また、切り欠きを設ける必要がなく、単純な形状とできるので、耐久性の向上を図ることができる。

【８３８０】

特に、第１接続手段および第２接続手段が第３接続手段よりも変形し難く（剛性が大きく）構成されるので、動作手段と基板とが相対変位する場合に、その相対変位に対する第３接続手段の追従性（変形性）と第１接続手段および第２接続手段の形状安定性とを利用して、第１接続手段および第２接続手段が動作手段（導電部分）及び基板（グランド部）に当接（密着）した状態を維持し易くできる。

【８３８１】

遊技機Ｑ１において、前記第３接続手段は、前記第１接続手段から前記第２接続手段までの間において外形が略同一の大きさに構成されることを特徴とする遊技機Ｑ２。

【８３８２】

遊技機Ｑ２によれば、遊技機Ｑ１の奏する効果に加え、第３接続手段は、第１接続手段から第２接続手段までの間において外形が略同一の大きさに構成されるので、第３接続手段の変形性を安定させることができる。よって、ノイズ効果にムラを生じ難くできる。また、中間部の一部に変形が集中することを抑制でき、その耐久性を高めることができる。

【８３８３】

遊技機Ｑ１又はＱ２において、前記第３接続手段は、前記外形が略円形に構成されることを特徴とする遊技機Ｑ３。

【８３８４】

なお、第３接続手段の外形とは、第３接続手段をその長手方向に直交する平面で切断し

た断面の形状を意味する。
【８３８５】
遊技機Ｑ３によれば、遊技機Ｑ１又はＱ２の奏する効果に加え、第３接続手段は、外形が略円形に形成されるので、第３接続手段の変形性が方向性を有することを抑制できる。即ち、動作手段と基板との間の相対変位の方向によらず、接続手段の変形性を一定として、ノイズ効果にムラを生じ難くできる。
【８３８６】
遊技機Ｑ１からＱ３のいずれかにおいて、前記第１接続手段と前記第２接続手段とを結ぶ方向における長さ寸法は、前記第３接続手段の長さ寸法が前記第１接続手段および前記第２接続手段の長さ寸法よりも大きくされることを特徴とする遊技機Ｑ４。
【８３８７】
遊技機Ｑ４によれば、遊技機Ｑ１からＱ３のいずれかの奏する効果に加え、第１接続手段と第２接続手段とを結ぶ方向における長さ寸法は、第３接続手段の長さ寸法が第１接続手段および第２接続手段の長さ寸法よりも大きくされるので、第３接続手段の変形性（動作手段と基板との間の相対変位に対する追従性）と、第１接続手段および第２接続手段の形状安定性との両立を図ることができる。これにより、第１接続手段および第２接続手段と動作手段および基板との当接状態を安定化でき、ノイズ効果にムラが生じることを抑制できる。
【８３８８】
遊技機Ｑ１からＱ４のいずれかにおいて、前記第３接続手段の前記外形は、前記第１接続手段および前記第２接続手段の最大の外形よりも小さくされることを特徴とする遊技機Ｑ５。
【８３８９】
遊技機Ｑ５によれば、遊技機Ｑ１からＱ４のいずれかの奏する効果に加え、第３接続手段の外形は、第１接続手段および第２接続手段の最大の外形よりも小さくされるので、第３接続手段の変形性（動作手段と基板との間の相対変位に対する追従性）と、第１接続手段および第２接続手段の形状安定性との両立を図ることができる。これにより、第１接続手段および第２接続手段と動作手段および基板との当接状態を安定化でき、ノイズ効果にムラが生じることを抑制できる。
【８３９０】
遊技機Ｑ１からＱ５のいずれかにおいて、前記第３接続手段の前記第１接続手段側の端部または前記第３接続手段の前記第２接続手段側の端部の少なくとも一方の外面に前記第１接続手段または前記第２接続手段の内面が当接されることを特徴とする遊技機Ｑ６。
【８３９１】
遊技機Ｑ６によれば、遊技機Ｑ１からＱ５のいずれかの奏する効果に加え、第３接続手段の第１接続手段側の端部または第３接続手段の第２接続手段側の端部の少なくとも一方の外面に第１接続手段または第２接続手段の内面が当接されるので、第３接続手段と第１接続手段または第２接続手段との連結が解除されることを抑制できる。
【８３９２】
遊技機Ｑ６において、前記第３接続手段の前記第１接続手段側の端部または前記第３接続手段の前記第２接続手段側の端部の前記少なくとも一方の端面が露出されることを特徴とする遊技機Ｑ７。
【８３９３】
遊技機Ｑ７によれば、遊技機Ｑ６の奏する効果に加え、第３接続手段の第１接続手段側の端部または第３接続手段の第２接続手段側の端部の少なくとも一方の端面が露出されるので、接続手段の製造を容易とできる。
【８３９４】
遊技機Ｑ１からＱ７のいずれかにおいて、前記接続手段の一部の外側に配設される配設手段と、その配設手段が着脱可能に連結され、前記動作手段側または前記基板側に配設される連結手段と、弾性変形可能な材料から構成され前記第３接続手段の外面に配設される

外面手段と、を備え、前記外面手段の一部が前記第３接続手段と前記配設手段との間に位置することを特徴とする遊技機Ｑ８。

【８３９５】

遊技機Ｑ８によれば、遊技機Ｑ１からＱ７のいずれかの奏する効果に加え、接続手段の一部の外側に配設される配設手段と、その配設手段が着脱可能に連結され、動作手段側または基板側に配設される連結手段と、を備えるので、接続手段が動作手段と基板との間に挟まれているだけの状態であっても、接続手段の移動を配設手段により規制することができる。即ち、接続手段を動作手段と基板との間の所定位置に保持しておくことができる。

【８３９６】

この場合、弾性変形可能な材料から構成され第３接続手段の外面に配設される外面手段を備え、外面手段の一部が第３接続手段と配設手段との間に位置するので、第３接続手段の外面が配設手段の内面に直接接触することを外面手段により防ぐことができる。これにより、第３接続手段の摩耗を抑制して、その耐久性を向上できる。

【８３９７】

また、外面手段は、弾性変形が可能な材料から弾性部材として構成されるので、第３接続手段を配設手段から保護しつつ、第３接続手段の変形性を確保できる。

【８３９８】

遊技機Ｑ８において、前記第３接続手段の前記第１接続手段側の端部または前記第３接続手段の前記第２接続手段側の端部の少なくとも一方において、前記第３接続手段の外面の周りに前記外面手段が配設されず、前記第３接続手段の外面が露出されていることを特徴とする遊技機Ｑ９。

【８３９９】

遊技機Ｑ９によれば、遊技機Ｑ８の奏する効果に加え、第３接続手段の第１接続手段側の端部または第３接続手段の第２接続手段側の端部の少なくとも一方において、第３接続手段の外面の周りに外面手段が配設されず、第３接続手段の外面が露出されているので、第３接続手段の保護を図りつつ、第３接続手段の変形性を確保できる。

【８４００】

遊技機Ｑ８又はＱ９において、前記外面手段が絶縁材料から構成されていることを特徴とする遊技機Ｑ１０。

【８４０１】

遊技機Ｑ１０によれば、遊技機Ｑ８又はＱ９の奏する効果に加え、前記外面手段が絶縁材料から構成されているので、外面手段が配設手段に対して摺動した場合や接触と離間とを繰り返した場合でも、静電気の発生を抑制できる。

【８４０２】

遊技機Ｑ８からＱ１０のいずれかにおいて、前記外面手段の外形が前記配設手段の内形よりも小さくされていることを特徴とする遊技機Ｑ１１。

【８４０３】

遊技機Ｑ１１によれば、遊技機Ｑ８からＱ１０のいずれかの奏する効果に加え、外面手段の外形が配設手段の内形よりも小さくされているので、外面手段の外面と配設手段の内面との間に隙間を持たせることができる。よって、その隙間の分、接続手段が配設手段により拘束されて変形し難くなることを抑制できる。

【８４０４】

遊技機Ｑ１からＱ１１のいずれかにおいて、前記接続手段の一部の外側に配設される配設手段と、その配設手段が着脱可能に連結され、前記動作手段側または前記基板側に配設される連結手段と、を備え、前記配設手段が前記第１接続手段または前記第２接続手段の少なくとも一方の一部を保持可能に構成されることを特徴とする遊技機Ｑ１２。

【８４０５】

遊技機Ｑ１２によれば、遊技機Ｑ１からＱ１１のいずれかの奏する効果に加え、接続手段の一部の外側に配設される配設手段と、その配設手段が着脱可能に連結され、動作手段側または基板側に配設される連結手段と、を備え、配設手段が第１接続手段または第２接

続手段の少なくとも一方の一部を保持可能に構成されるので、第１接続手段または第２接続手段の少なくとも一方を動作手段または基板に当接させた状態に維持しやすくできる。また、第３接続手段が配設部材に拘束されることを回避でき、第３接続手段の変形性を確保できる。

【８４０６】

遊技機Ｑ１からＱ１２のいずれかにおいて、前記遊技機はスロットマシンであることを特徴とする遊技機Ｑ１３。中でも、スロットマシンの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段（ストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備えた遊技機」となる。この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【８４０７】

遊技機Ｑ１からＱ１２のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機であることを特徴とする遊技機Ｑ１４。中でも、パチンコ遊技機の基本構成としては操作ハンドルを備え、その操作ハンドルの操作に応じて球を所定の遊技領域へ発射し、球が遊技領域内の所定の位置に配設された作動口に入賞（又は作動口を通過）することを必要条件として、表示手段において動的表示されている識別情報が所定時間後に確定停止されるものが挙げられる。また、特別遊技状態の発生時には、遊技領域内の所定の位置に配設された可変入賞装置（特定入賞口）が所定の態様で開放されて球を入賞可能とし、その入賞個数に応じた有価価値（景品球のみならず、磁気カードへ書き込まれるデータ等も含む）が付与されるものが挙げられる。

【８４０８】

遊技機Ｑ１からＱ１２ののいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機とスロットマシンとを融合させたものであることを特徴とする遊技機Ｑ１５。中でも、融合させた遊技機の基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備え、遊技媒体として球を使用すると共に、前記識別情報の動的表示の開始に際しては所定数の球を必要とし、特別遊技状態の発生に際しては多くの球が払い出されるように構成されている遊技機」となる。

【８４０９】

以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図４４７から図４５６を参照し、第７８実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｈ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。

【８４１０】

図４４７は、第７８実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図４４８は、パチンコ機Ｈ１０の背面図であり、図４４９は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図４５０は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放した状態で裏パックユニットＨ９４を内枠Ｈ１２に対して開放した状態（展開）を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図４５１は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を閉鎖すると共に正面枠Ｈ１４を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図４５２は、正面枠Ｈ１４を取り外した状態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図４５３は、遊技盤Ｈ１３及び内枠Ｈ１２の分解正面斜視図であり、図４５４は、正面枠Ｈ１４の分解正面斜視図であり、図４５５は、正面枠Ｈ１４の分解背面斜視図である。なお、図４５２では、発射位置送球ユニットＨ１７０から球

発射ユニットＨ１１２ａに球を送球するための背面側開口Ｈ１７２が２点鎖線で図示される。

【８４１１】

また、以下の説明では、図４４７に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図４４７に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図４４７参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ｈ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【８４１２】

また、特段の説明がない限り、パチンコ機Ｈ１０を遊技する遊技者は、パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置し、パチンコ機Ｈ１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に視線を向けた状態（パチンコ機Ｈ１０の正面側と対面した状態）で遊技するものとして説明する。

【８４１３】

図４４７～図４５５に示すように、パチンコ機Ｈ１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠Ｈ１１と、その外枠Ｈ１１と略同一の外形形状に形成され外枠Ｈ１１に対して開閉可能に支持された内枠Ｈ１２と、その内枠Ｈ１２と略同一の外形形状に形成され内枠Ｈ１２に対して開閉可能に支持された正面枠Ｈ１４とを主に備えている。

【８４１４】

外枠Ｈ１１には、内枠Ｈ１２を支持するために正面視（図４４７参照）左側（矢印Ｌ方向側）の上下（矢印Ｕ－Ｄ方向）２カ所に金属製のヒンジＨ１８が取り付けられ、そのヒンジＨ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠Ｈ１２が正面枠Ｈ１４と共に正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている。

【８４１５】

パチンコ機Ｈ１０は、外枠Ｈ１１を島設備に取り付け固定することにより遊技場に設置される。なお、パチンコ機Ｈ１０において外枠Ｈ１１は必須の構成ではなく、外枠Ｈ１１又は枠状受部である外枠Ｈ１１と同一の内形を有し、外枠Ｈ１１の内枠Ｈ１２支持構造（ヒンジＨ１８等）及び施錠構造を有する部材が遊技場に備え付けられた構成としても良い。

【８４１６】

外枠Ｈ１１は、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される上方板Ｈ１１ａと、下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される下方板Ｈ１１ｂと、それら上方板Ｈ１１ａ及び下方板Ｈ１１ｂの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両端同士を上下方向に連結する左方板Ｈ１１ｃ及び右方板Ｈ１１ｄとを組み合わせて枠状に形成される。

【８４１７】

なお、外枠Ｈ１１は、木材で形成されるものに限られるものではなく、アルミ等の金属材料やプラスチック等の樹脂材料で形成されていても良く、それら木材、金属材料、又は、樹脂材料から形成される部材（上方板Ｈ１１ａ，下方板Ｈ１１ｂ，左方板Ｈ１１ｃ，右方板Ｈ１１ｄ）を組み合わせて形成されるものであっても良い。

【８４１８】

また、本実施形態では、外枠Ｈ１１の正面視左側（矢印Ｌ方向側）にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視右側（矢印Ｒ方向側）を正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能とされるが、外枠Ｈ１１の正面視右側にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視左側を正面手前側へ開閉可能としても良く、又、ヒンジＨ１８を外枠Ｈ１１の正面視下側（矢印Ｄ方向側）の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に取り付け、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視上側（矢印Ｕ方向側）を正面手前側へ開閉可能とするものであっても良い。

【８４１９】

内枠Ｈ１２は、外枠Ｈ１１と外形がほぼ同一の長方形状に形成される枠形成ユニットＨ１２ａと、その枠形成ユニットＨ１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に回動可能に支持される裏パックユニットＨ９４とを主に備えて形成され、裏パックユニットＨ９４が正面視で左側（矢印Ｌ方向側）を回動基端側（開閉基端側）とし、右側（矢印Ｒ方向側）を回動先端側（開閉先端側）として後方へ回動可能とされている（図４５０参照）。

【８４２０】

また、対象固定部である内枠Ｈ１２には、枠形成ユニットＨ１２ａと裏パックユニットＨ９４とで正面側（矢印Ｆ方向側）が開放する略箱状に形成された内側に多数の釘や入賞口Ｈ６３，Ｈ６４等を有する遊技盤Ｈ１３（図４５２及び図４５３参照）が配設される。この遊技盤Ｈ１３の正面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。

【８４２１】

なお、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、左側（矢印Ｌ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の左端部を支持する目的の左端支持部Ｈ１２ａ１と、右側（矢印Ｒ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の右端部を支持する目的の盤面支持装置Ｈ１２ａ２が配設される。遊技盤Ｈ１３は、左端支持部Ｈ１２ａ１にベース板Ｈ６０の左側端部が挿入されつつ枠状取付部である内枠Ｈ１２の背面側（矢印Ｂ方向側）における仮置き位置に押し込まれた後、盤面支持装置Ｈ１２ａ２が操作されて盤面支持装置Ｈ１２ａ２がベース板Ｈ６０の正面と係合する（ベース板Ｈ６０の正面を支持する）ことで内枠Ｈ１２の内側に固定される。

【８４２２】

また、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａは、球を遊技盤Ｈ１３の正面領域（遊技領域）に発射する球発射ユニットＨ１１２ａ（図４５２参照）と、正面枠Ｈ１４（上下皿ユニットＨ１５）に球を送球する皿通路形成部材Ｈ１６０と（図４５２参照）を主に備えて形成される。

【８４２３】

さらに、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、正面枠Ｈ１４を支持するために正面視左側（矢印Ｌ方向側）の上下２カ所に金属製のヒンジＨ１９が取り付けられ、そのヒンジＨ１９が設けられた側を開閉の軸として正面枠Ｈ１４が正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている（図４５１参照）。なお、枠状受部である内枠Ｈ１２の施錠と正面枠Ｈ１４の施錠とは、枠形成ユニットＨ１２ａに配設されるシリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。なお、シリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１は、振動または動作可能に構成されると共に変位可能に構成される。

【８４２４】

なお、ヒンジＨ１９による内枠Ｈ１２と正面枠Ｈ１４との開錠は、シリンダ錠Ｈ２０に専用の鍵を差し込むものではなく、後述する操作ユニットＨ１８０、機能調整操作部Ｈ１９０、操作ハンドルＨ５１、球抜きレバーＨ５２、球排出レバーＨ５４、又は、貸球操作部Ｈ４０等の正面枠Ｈ１４に配設される操作ユニットを操作することで行われるようにしても良い。また、内枠Ｈ１２又は正面枠Ｈ１４を開放した後で、開放された内側から操作ユニットＨ１８０、機能調整操作部Ｈ１９０、操作ハンドルＨ５１、球抜きレバーＨ５２、球排出レバーＨ５４、又は、貸球操作部Ｈ４０等の正面枠Ｈ１４に配設される操作ユニットを操作することで、所定の部材（例えば、上側装飾ユニットＨ１４ａ、左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃの化粧板）の係合が解除され所定の部材が取り外されるようにしても良い。

【８４２５】

球発射ユニットＨ１１２ａは、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０を介して１球ずつ所定のタイミングで送球される球を受け入れ可能に形成され、遊技盤Ｈ１３（内レールＨ６１及び外レールＨ６２）への球の送球方向に延設される発射レールＨ１１２ａ１と、回転可能に軸支され発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転して当接可能に形成される回転体Ｈ１１２ａ２と、その回転体Ｈ１１２ａ２を回転させるための駆動モ

ータＨ８５０（図１８９参照）とを主に備えて形成される。
【８４２６】
即ち、球発射ユニットＨ１１２ａは、変位可能に構成される回転体Ｈ１１２ａ２を変位させて被案内物体である遊技球を発射可能に構成される。なお、回転体Ｈ１１２ａ２は、駆動または動作可能に構成される。
【８４２７】
球発射ユニットＨ１１２ａから遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）への球の発射（送球）は、発射レールＨ１１２ａ１上に球が送球された後、回転動作物体である回転体Ｈ１１２ａ２を回転させて発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転体Ｈ１１２ａ２を衝突させることで行われる。
【８４２８】
回転体Ｈ１１２ａ２に対しては、発射レールＨ１１２ａ１に近接配置される場合（起き上がり状態）における回転体Ｈ１１２ａ２と当接可能な位置に配設される第１弾性部材（左上側部材）と、発射レールＨ１１２ａ１から離間配置される場合（傾倒状態）における回転体Ｈ１１２ａ２と当接可能な位置に配設される第２弾性部材（右下側部材）とが配設されており、これにより、回転体Ｈ１１２ａ２を回転させる際に発射位置および退避位置で停止させやすくできると共に、停止させた際の衝撃を吸収させ易くすることが可能とされる。なお、回転体Ｈ１１２ａ２は、発射レールＨ１１２ａ１に近接配置される場合（起き上がり状態）の位置で第１弾性部材（左上側部材）に当接された後、第１弾性部材を弾性変形させつつ発射位置まで回転されることで遊技球を発射することが可能とされる。
【８４２９】
この時、各当接（回転体Ｈ１１２ａ２の遊技球との当接、第１弾性部材との当接、第２弾性部材との当接）に対応する音（打音）が生じるが、その素材の違いに対応して、音に強弱が生じる。即ち、遊技球との当接の際に生じる音が大きく生じるため、遊技者に遊技球の打音を判別し易く構成することができる。
【８４３０】
なお、本実施形態では、回転する回転体Ｈ１１２ａ２により球発射ユニットＨ１１２ａから球が発射（送球）されるが、球を発射する構造は回転する部材（回転体Ｈ１１２ａ２）に限られるものではない。例えば、球の発射方向にスライド変位可能なスライド体と、そのスライド体をスライド変位させるソレノイドとを備え、ソレノイドの励磁によりスライド体を変位させて球に衝突させることで球の発射（送球）が行われる伸縮装置として構成しても良い。
【８４３１】
なお、駆動モータＨ８５０は、振動または動作可能に構成される。即ち、駆動主体としての駆動モータＨ８５０は、変位可能に構成される。これより、被回転物体である回転軸棒と一体的に回転体Ｈ１１２ａ２を回転させ、遊技球を発射することが可能とされる。
【８４３２】
また、球発射ユニットＨ１１２ａは、内枠Ｈ１２に配設されるものに限られるものでなく、パチンコ機Ｈ１０の演出装置としてベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に（遊技盤Ｈ１３に）配設することも可能である。例えば、センターフレームＨ８６やベース板Ｈ６０に開口した開口部からベース板Ｈ６０の背面側に配設される発射レールＨ１１２ａ１上に球を送球して、その球を回転体Ｈ１１２ａ２により発射して第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側を球が通過するように構成しても良い。
【８４３３】
皿通路形成部材Ｈ１６０は、図４５２に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１と本体側下皿通路部Ｈ１６２とを有している。本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路部Ｈ１６２は、背面側（矢印Ｂ方向側）の端部が内枠Ｈ１２に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通される貫通孔と連通可能となるように背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて開放され、正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が下方（矢印Ｄ方向）へ向けて開放されるように、内部で通路の方向が９０度変化する（前後方向から上下方向に変化する）湾曲通路を形成する。

この構成において、払出装置Ｈ１３３から払い出された球は内枠Ｈ１２の貫通孔を通り、皿通路形成部材Ｈ１６０の背面側の端部から皿通路形成部材Ｈ１６０に進入し、正面側の端部から排出される。

【８４３４】

なお、皿通路形成部材Ｈ１６０の下側部分には、図４５２に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路部Ｈ１６２からの球の流出を規制するシャッタＨ１６３が設けられている。シャッタＨ１６３は、両通路の出口部分を狭め球の流出を阻止する阻止位置と、球の流出を許容する許容位置との両位置に切り替え可能に設けられており、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を閉鎖した状態とされる場合に許容位置に配置され、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を開放した状態（図４５１に示す状態）とされる場合に阻止位置に配置される。これにより、本体側上皿通路部Ｈ１６１又は本体側下皿通路部Ｈ１６２に球が貯留されている状態で正面枠Ｈ１４を開放した場合に、その貯留球がこぼれ落ちてしまうといった不都合が回避されている。

【８４３５】

正面枠Ｈ１４は、金属板によって縦長の矩形枠状に形成される本体枠Ｈ１４ｄと、その本体枠Ｈ１４ｄに配設され、その本体枠Ｈ１４ｄの上方側（矢印Ｕ方向側）の正面に配設される上側装飾ユニットＨ１４ａと、その上側装飾ユニットＨ１４ａの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側から下方（矢印Ｄ方向側）に向けて延設される左側装飾ユニットＨ１４ｂ及び右側装飾ユニットＨ１４ｃと、本体枠Ｈ１４ｄの下方側の正面を覆う上下皿ユニットＨ１５と、本体枠Ｈ１４ｄを介して上下皿ユニットＨ１５の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０と、その通路形成ユニットＨ１４０の背面側に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０とを主に備えて構成され、内枠Ｈ１２に回動可能に取り付けられている。

【８４３６】

また、正面枠Ｈ１４の回動基端側には、図４５４及び図４５５に示すように、前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８が設けられ、この前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８（前扉取付金具Ｈ５７は円柱状部、前扉取付金具Ｈ５８は軸孔を有する金属板）が内枠Ｈ１２に係合することにより、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４が回動可能に支持される。

【８４３７】

詳細には、前扉取付金具Ｈ５７は、内枠Ｈ１２の上側のヒンジＨ１９の下方位置において内枠Ｈ１２の正面側端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ延設され先端から背面側（矢印Ｂ方向側）へ前扉取付金具Ｈ５７が内嵌可能な大きさで凹設される嵌合凹部Ｈ１２ｅ１（図４５３参照）を有する軸支板部Ｈ１２ｅに軸支される。また、前扉取付金具Ｈ５８は、内枠Ｈ１２の下側のヒンジＨ１９から上方（矢印Ｕ方向）に突設される段付き円柱形状（直径の違う円柱が上下に連設される構成において上側の円柱の直径の方が小さい形状）の支持ピンＨ１９ａに外嵌されることで軸支される。

【８４３８】

また、正面枠Ｈ１４には、上側装飾ユニットＨ１４ａと左側装飾ユニットＨ１４ｂと右側装飾ユニットＨ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｈ１４ｅが形成され、その窓部Ｈ１４ｅを塞ぐように正面枠Ｈ１４（本体枠Ｈ１４ｄ）の背面側（矢印Ｂ方向側）に２枚の板ガラスを有し光を透過可能に構成される板状透過部であるガラスユニットＨ１６が配設される（図４４７参照）。なお、パチンコ機Ｈ１０は、ガラスユニットＨ１６（窓部Ｈ１４ｅ）を介してパチンコ機Ｈ１０の正面側から遊技盤Ｈ１３の正面が視認可能となっている。

【８４３９】

ガラスユニットＨ１６は、図４４７及び図４５１に示すように、窓部Ｈ１４ｅより大きな外形で光透過性（透明性）を有する前後一対の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂと、これら透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを一体化する固定枠（図示せず）と、を備えている。固定枠は、樹脂材料により透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂより一回り大きな環状に形成され、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの外周縁が固定枠に接着されることでガラスユニットＨ

１６は一体化された複層ガラスとされている。
【８４４０】
なお、ガラスユニットＨ１６は、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂによって光を透過可能に構成される（無色透明に形成されている）が、これに限定されることはなく樹脂材料によって無色透明に形成されていてもよく、パチンコ機Ｈ１０前方からガラスユニットＨ１６を通じて遊技領域を視認可能であれば無色透明でなく有色透明に形成されていても良い。
【８４４１】
また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂは、それら２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態で配設しても良い。透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態とする場合には、それら２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に変位可能な変位手段を配設して、遊技盤Ｈ１３よりも前方側（矢印Ｆ方向側）で変位手段による演出を可能にしても良い。この場合の変位手段とは、例えば、紙やナイロン等の部材から形成される複数の変位部材を固定枠に形成した孔から送り出す風により吹き飛ばす演出をするものや、固定枠に変位可能に配設した変位部材を音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図４５６参照）により２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間で変位させるものである。また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを固定する固定板に発光手段を配設し、その発光手段から出射される光を前方側の透明ガラスＨ１６ａまたは背面側（矢印Ｂ方向側）の透明ガラスＨ１６ｂの一方に照射して、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの一方に照射された光を遊技者に視認させる演出をするようにしても良い。
【８４４２】
正面枠Ｈ１４（上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃ）において窓部Ｈ１４ｅの周囲には、図４４７に示すようにＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が複数設けられている。これら電飾部Ｈ２９～Ｈ３３では、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて点灯や点滅が行われる。また、窓部Ｈ１４ｅの上側（矢印Ｕ方向側）の電飾部Ｈ３０には、遊技球が通過可能に構成される被通過進入物体である検出センサにより検出される払出球が不足する等の所定のエラー時に点灯する発光手段と、賞球払出中に点灯する発光手段とが内蔵されている。
【８４４３】
また、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃに独立して配置される独立配置物体である電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３から出射される光を非透過とする非透過性の樹脂材料から形成される。これにより、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の発光（点灯や点滅）を遊技者に注目させやすい構造となっている。
【８４４４】
なお、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、非透過に形成されるものに限られず、透過性の樹脂材料から形成して電飾部Ｈ２９～Ｈ３３に発光（点灯や点滅）があった場合に正面枠Ｈ１４の全体から光を出射（透過）可能に構成しても良い。また、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材を配設して煌びやかさを醸し出すように構成しても良い。
【８４４５】
上側装飾ユニットＨ１４ａの左側（矢印Ｌ方向側）及び右側（矢印Ｒ方向側）には（窓部Ｈ１４ｅの右上側及び左上側には）、遊技状態に応じた効果音などが出力されるスピーカー組立体（音声出力装置Ｈ２２６（図４５６参照））を覆うスピーカーカバーＨ２７（パンチングメタルから形成される薄板部材）が設けられており、スピーカーカバーＨ２７を介してスピーカーの音をパチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に放音可能に構成されている。窓部Ｈ１４ｅの下方（矢印Ｂ方向）には、図４４７に示すように、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とが手前側へ膨出して配置されると共にそれら上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０と

が上下に並設される上下皿ユニットＨ１５が配設される。
【８４４６】
上皿Ｈ１７は、上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿Ｈ１７に賞球や貸出球などが排出される。また、上皿Ｈ１７は、払出装置Ｈ１３３（図４４８参照）より払い出された球を一旦貯留し、一列に整列させながら球発射ユニットＨ１１２ａ（図４５２参照）側へ導く機能を有しており、底面が正面視右側（矢印Ｒ方向側）に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿Ｈ１７に投入された球を発射位置送球ユニットＨ１７０へと案内可能に形成される。なお、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０に送球された球は、発射位置送球ユニットＨ１７０の動作により１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａへ案内される。即ち、遊技球が通過可能に構成される発射位置送球ユニットＨ１７０により遊技球を球発射ユニットＨ１１２ａに送球可能とされる。言い換えると、遊技球を送球可能に構成される発射位置送球ユニットＨ１７０により遊技球を球発射ユニットＨ１１２ａに送球可能とされる。
【８４４７】
下皿Ｈ５０は、上面を開放した略箱状に形成され、上皿Ｈ１７内にて余剰となった球を貯留する機能を有している。また、下皿Ｈ５０の背面側（矢印Ｂ方向側）側面には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口され球が下皿Ｈ５０に案内される球案内開口Ｈ５３が形成される。
【８４４８】
下皿Ｈ５０の正面側（矢印Ｆ方向側）の下方（矢印Ｄ方向）部には、下皿Ｈ５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバーＨ５２が設けられている。この球抜きレバーＨ５２は、常時、右方向（矢印Ｒ方向）に付勢されており、その付勢に抗して左方向（矢印Ｌ方向）へスライドさせることにより、下皿Ｈ５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバーＨ５２の操作は、通常、下皿Ｈ５０の下方に下皿Ｈ５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。
【８４４９】
なお、球抜きレバーＨ５２の操作により、千両箱に球を排出するものに限らず、島設備に連通する回収口に球を排出するものであっても良い。また、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とに分けて複数箇所に球を貯留する部位を設ける必要はなく、下皿Ｈ５０を廃止して上皿Ｈ１７のみとした１つの貯留部のみを有する構成としても良い。
【８４５０】
また、下皿Ｈ５０から球を排出する球抜きレバーＨ５２の操作を駆動モータにより制御することも可能である。これによれば、下皿Ｈ５０に球が払い出されたことや下皿Ｈ５０に所定数の球数が払い出されたこと起因して、球抜きレバーＨ５２を駆動モータにより変位させることで、下皿Ｈ５０からの球の排出を遊技者が忘れて下皿Ｈ５０の貯留領域に球が溢れることを抑制できる。
【８４５１】
特に、最近では、パチンコ機Ｈ１０が設置される店舗の島設備に連通する回収口に下皿Ｈ５０から球を排出する店舗が多くなっており、所定数の球数しか貯留できない千両箱に下皿Ｈ５０から排出される球を排出する店舗が少なくなっている。店舗の島設備に連通する回収口に下皿Ｈ５０から球を排出する店舗では、下皿Ｈ５０から球が払い出されている最中に千両箱の交換等が必要ないので、下皿Ｈ５０への球の払い出しに伴って駆動モータにより球抜きレバーＨ５２を変位させる構成とすることで、遊技者の球抜きレバーＨ５２の操作を不要とできる。
【８４５２】
即ち、後述する主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１により大当たりの演出がされることに伴って、下皿Ｈ５０の球抜きレバーＨ５２を駆動モータにより変位させることで、大当たりにより下皿Ｈ５０に払い出される球を回収口に排出することができ、遊技者の球抜きレバーＨ５２の操作を不要とできる。その結果、遊技者をパチンコ機Ｈ１０の演出（特

に大当たりの演出）に集中させることができ、遊技者の興趣を向上できる。
【８４５３】
上皿Ｈ１７（球の貯留領域）の手前側（矢印Ｆ方向側）には、変位可能に構成され、遊技者らにより手動操作される操作ユニットＨ１８０が設けられている。操作ユニットＨ１８０は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面等にて遊技者の操作に対応した演出が行われる場合に使用される操作装置である。なお、操作ユニットＨ１８０は、振動または動作可能に構成される。
【８４５４】
この操作ユニットＨ１８０には、上面側にボタン部Ｈ１８１が配設される。ボタン部Ｈ１８１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される軸を中心に下方側に向けて押圧操作可能とされ、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１（図４５２参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。
【８４５５】
なお、操作ユニットＨ１８０は、上皿Ｈ１７以外に下皿Ｈ５０周辺等の別の部位に設けられても良いし、複数箇所に設けられても良く、また、操作方法として押しボタン式のスイッチであっても良く、タッチセンサ、非接触式のセンサ等の別の操作方法によって情報入力可能な構成としても良い。
【８４５６】
また、操作ユニットＨ１８０は、上皿Ｈ１７の手前側でなく、上側装飾ユニットＨ１４ａ、左側装飾ユニットＨ１４ｂ、右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設しても良く、この場合、上皿Ｈ１７の手前側と別の操作ユニットＨ１８０を配設して、それぞれ別の演出でそれぞれの操作ユニットＨ１８０を遊技者に操作させるようにしても良い。
【８４５７】
操作ユニットＨ１８０の右側には、上下皿ユニットＨ１５の上面側に貸球操作部Ｈ４０（図４５４参照）と機能調整操作部Ｈ１９０と、球排出レバーＨ５４とが配設されている。貸球操作部Ｈ４０には、度数表示部Ｈ４１と、球貸しボタンＨ４２と、返却ボタンＨ４３とが設けられている。パチンコ機Ｈ１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部Ｈ４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部Ｈ４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。
【８４５８】
球貸しボタンＨ４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿Ｈ１７に供給される。返却ボタンＨ４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿Ｈ１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部Ｈ４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部Ｈ４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。
【８４５９】
機能調整操作部Ｈ１９０は、決定ボタンＨ１９１と、その決定ボタンＨ１９１を中心とする十字状の４方向外側の位置に配設される上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５と備える。
【８４６０】
機能調整操作部Ｈ１９０は、上側装飾ユニットＨ１４ａに配設されるスピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面の明るさ、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設される電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさなどを変更するための操作部である。遊技者は、決定ボタンＨ

１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５を操作することで、自身（遊技者）の好みに合うように音量や明るさを変更可能とされる。

【８４６１】

また、音量や明るさを変更する際には、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部に音量や明るさの調整度合いが数値やボリューム等で表示されるようになっている。これにより、遊技者が別のパチンコ機Ｈ１０を遊技し始める場合に音量や明るさの調整を簡易に行うことができる。

【８４６２】

なお、機能調整操作部Ｈ１９０による変更は、音量や明るさに限られるものではなく、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される演出等を変更可能とするものであっても良い。また、音量や明るさの調整度合いを第３図柄表示装置Ｈ８１に表示するものに限られるものではなく、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示しなくても操作と同時に変更（調整）後の音や表示をして調整させるものでも良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に調整度合いを表示するものであっても良い。

【８４６３】

球排出レバーＨ５４は、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に送球する際に遊技者が操作するレバーであり、図示しない付勢手段（バネ）により上方側（矢印Ｕ方向側）に付勢された状態で配設される。なお、球排出レバーＨ５４は、操作される（下方側（矢印Ｄ方向側）に押し込まれる）ことにより上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０に連通される通路を上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０（ファール球通路部Ｈ１４５）に連通する状態に切替可能に構成される。これにより、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に排出することができる。

【８４６４】

下皿Ｈ５０の右側（矢印Ｒ方向側）には、変位可能に構成され、遊技者が遊技時に操作する操作ハンドルＨ５１が配設される。なお、操作ハンドルＨ５１は、振動または動作可能に構成される。操作ハンドルＨ５１の内部には、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサＨ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチＨ５１ｂと、回転移動物体である操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。接触可能部である操作ハンドルＨ５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサＨ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤Ｈ１３の正面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドルＨ５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサＨ５１ａおよび発射停止スイッチＨ５１ｂがオフとなっている。

【８４６５】

なお、操作ハンドルＨ５１は、操作ユニットＨ１８０や機能調整操作部Ｈ１９０や貸球操作部Ｈ４０の操作ボタンに置き換え可能である。例えば、操作ボタンの押し込み量を可変抵抗器で検出して操作ボタンの押し込み量に対応した球の打ち出し速度で遊技盤Ｈ１３の正面へ球を打ち込むようにしても良い。また、機能調整操作部Ｈ１９０に球の打ち出し速度を調整する制御を設け、遊技者が設定した打ち出し速度で球を遊技盤Ｈ１３の正面へ打ち込むようにしても良い。

【８４６６】

さらに、操作ハンドルＨ５１を、上述した球排出レバーＨ５２に置き換えても良い。即ち、下皿Ｈ５０からの球の排出を許容する役割と、遊技盤Ｈ１３の正面への球の打ち出しを許容する役割と球排出レバーＨ５２に兼用させても良い。この場合、遊技盤Ｈ１３の正面へ球が打ち出されると下皿Ｈ５０から球の排出を許容でき、遊技盤Ｈ１３の正面へ球の打ち出しが停止されると下皿Ｈ５０からの球の排出を規制できるので、下皿Ｈ５０に球が溜まり過ぎることを抑制できる。

【８４６７】

通路形成ユニットＨ１４０は、樹脂材料により成形されており、上皿Ｈ１７に通じる前扉側上皿通路部Ｈ１４１と、下皿Ｈ５０に通じる前扉側下皿通路部Ｈ１４２と、ファール球通路部Ｈ１４５と、を有している。

【８４６８】

通路形成ユニットＨ１４０の上側隅部（正面枠Ｈ１４の回動基端側の隅部）には後方（矢印Ｂ方向）に突出し上方に開放された払出球受口部Ｈ１４３が形成されており、その払出球受口部Ｈ１４３が仕切壁Ｈ１４４によって左右に仕切られることで前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口と前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口とがそれぞれ形成されている（図４５４参照）。

【８４６９】

なお、前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側上皿通路部Ｈ１６１（図４５２参照）が連通されており、前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側下皿通路部Ｈ１６２（図４５２参照）が連通される。これにより、払出装置Ｈ１３３から送球される球は、上皿Ｈ１７又は下皿Ｈ５０に送球されることとなる。

【８４７０】

ファール球通路部Ｈ１４５（図４５４参照）は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球のうち遊技領域まで至らなかった球をファール球として下皿Ｈ５０に排出する通路を形成する部位である。

【８４７１】

ファール球通路部Ｈ１４５には、図４５５に示すように、上方側（矢印Ｕ方向側）が開放したファール球受口部Ｈ１４６が設けられる。このファール球受口部Ｈ１４６に受け入れられたファール球は、ファール球通路部Ｈ１４５（図４５４参照）の内部通路を流下した後で、下皿Ｈ５０に排出される。なお、ファール球通路部Ｈ１４５は、下皿Ｈ５０でなく、上皿Ｈ１７に接続され、ファール球が上皿Ｈ１７に排出される構成としても良い。

【８４７２】

また、ファール球通路部Ｈ１４５は、遊技者が球排出レバーＨ５４を操作することにより上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０に流下する未発射球が案内される通路である球抜き通路（図示しない）と合流するように形成される。

【８４７３】

発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７に貯留される球を１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａに送球するためのユニットである。発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７の送球経路の開口部に連なる正面側開口Ｈ１７１と、その正面側開口Ｈ１７１から流入した球を背面側から排出可能な背面側開口Ｈ１７２と、それら正面側開口Ｈ１７１から背面側開口Ｈ１７２までを通過する通路上に変位可能に配設される切替手段（図示しない）と、その切替手段を駆動させるソレノイド（図示しない）とを主に備えて形成される。

【８４７４】

発射位置送球ユニットＨ１７０の切替手段は、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが可能な位置と、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置とに変位可能に構成されており、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置に変位された場合に発射位置送球ユニットＨ１７０の通路上にある球を背面側開口Ｈ１７２から球発射ユニットＨ１１２ａ（発射レールＨ１１２ａ１）に流入可能に形成される。これにより、切替手段の位置の切り替え（１往復の変位）に伴って１球ずつ球を背面側開口Ｈ１７２から排出することが可能となっている。

【８４７５】

なお、背面側開口Ｈ１７２は、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１の上方（矢印Ｕ方向）の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する（図４５２参照）。従って、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１に発射位置送球ユニットＨ１７０から１球ずつ球が送球されることとなる。

【８４７６】

また、図４５２に示すように、背面側開口Ｈ１７２は、発射レールＨ１１２ａ１の球の送球方向における発射レールＨ１１２ａ１の両端部の間に形成される。従って、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１上に送球される球は、発射レールＨ１１２ａ１上を左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両方向に転動可能となるが、発射レールＨ１１２ａ１は一方側（回転体Ｈ１１２ａ２から離れる側）が上方（矢印Ｕ方向）に向かって傾斜した状態で配設されるので、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球された球（回転体Ｈ１１２ａ２により発射前の球）が回転体Ｈ１１２ａ２から離れる方向に転動することが抑制される。

【８４７７】

図４５２に示すように、遊技盤Ｈ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｈ６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）の他、レール部材Ｈ６１，Ｈ６２、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５、スルーゲートＨ６７、可変表示装置ユニットＨ８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠Ｈ１２の裏面側に取り付けられる。なお、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５は、光を透過可能に構成される。

【８４７８】

ベース板Ｈ６０は、光を透過可能に構成される（光透過性の）樹脂材料からなり、その正面側（矢印Ｆ方向側）からベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変表示装置ユニットＨ８０は、ルータ加工によってベース板Ｈ６０に形成された貫通穴に配設され、光透過可能部である遊技盤Ｈ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。

【８４７９】

なお、ベース板Ｈ６０は、光透過性の樹脂材料から形成されるものに限られるものではなく、薄い板材を張り合わせた木材から形成されるものであっても良いし、非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても良い。なお、これらの場合、装飾がされたシール等をベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）の全域に貼付してベース板Ｈ６０の装飾性を確保することが好ましい。

【８４８０】

遊技盤Ｈ１３の正面中央部分は、正面枠Ｈ１４の窓部Ｈ１４ｅ（図４４７参照）の一部を通じて内枠Ｈ１２の正面側（矢印Ｆ方向側）から視認することができる。以下に、主に図４５２を参照して、遊技盤Ｈ１３の構成について説明する。

【８４８１】

遊技盤Ｈ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した領域構成部である外レールＨ６２が植立され、その外レールＨ６２の内側位置には外レールＨ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＨ６１が植立される。この内レールＨ６１と外レールＨ６２とにより遊技盤Ｈ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ｈ１３とガラスユニットＨ１６（図４４７参照）とにより前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）が囲まれることにより、遊技盤Ｈ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ｈ１３の正面であって２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｈ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。なお、２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２、金属板である必要なく、樹脂材料から帯状に形成されるものであっても良い。

【８４８２】

２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球を遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）へ案内するために設けられたものである。内レールＨ６１の先端部分（図４５２の左上部）には戻り球防止部材Ｈ６８が取り付けられる。

【８４８３】

戻り球防止部材Ｈ６８は、内レールＨ６１側から外レールＨ６２側に延設される樹脂製の板部材から形成され、内レールＨ６１側の一端側を軸に他端側を外レールＨ６２から離

間する方向に回転可能とされる。また、戻り球防止部材Ｈ６８は、一端側に錘を備え、その錘により被押進物体である他端側が外レールＨ６２に近づく方向に付勢される。

【８４８４】

これにより、遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）に案内される球の勢いで戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転させることができると共に、抑制物体としての壁部によって回転角度を抑制されており、戻り球防止部材Ｈ６８を超える位置（遊技盤Ｈ１３の上方側）に球が案内された際に戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２に近づく方向に回転させることができ、一旦、遊技盤Ｈ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。

【８４８５】

なお、戻り球防止部材Ｈ６８は、樹脂材料から形成される必要はなく、金属材料から形成されていても良い。また、対象物の動作を抑制する錘以外に磁石などの磁力やねじりバネなどの付勢力によって戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２側に付勢する構成としても良い。

【８４８６】

また、戻り球防止部材Ｈ６８は、後述する風車のように、一方向に継続して回転できるもの（１球ずつ所定位置に戻らないもの）であっても良い。この場合、遊技盤Ｈ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻らないように、遊技盤Ｈ１３の上部への球の案内によって回転する方向（一方向）とは反対の方向（他方向）に回転することを規制するワンウェイクラッチを配設することが好ましい。

【８４８７】

外レールＨ６２の先端部（図４５２の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＨ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＨ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【８４８８】

遊技領域の正面視左側下部（図４５２の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、主制御装置Ｈ１１０（図４５６参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機Ｈ１０の遊技状態の表示が行われる。本実施形態では、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞したか、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａが作動し、一方で、球が、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂが作動するように構成されている。

【８４８９】

また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機Ｈ１０が確変中か時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が確変大当たりに対応した図柄か普通大当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機Ｈ１０の各種遊技状態を示唆することができる。

【８４９０】

尚、本パチンコ機Ｈ１０では、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ｈ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ確変大当たり、４Ｒ確変大当たり、１５Ｒ通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示される

だけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。
【８４９１】
ここで、「１５Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数（例えば、可変入賞装置Ｈ６５（図４５２参照）が連続開放される最大回数）が１５ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことであり、「４Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことである。また、「１５Ｒ通常大当たり」は、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となる大当たりのことである。
【８４９２】
大当たり中において、最大ラウンド数や現在のラウンド数は、数字の変更を視認させる状態で表示が可能な視認変更物体である表示層（ラウンド数が表示される表示層またはその表示層よりも後方の表示層）での表示と共に第３図柄表示装置Ｈ８１においても表示される。大当たりが終了する際には、ラウンド数の表示が第３図柄表示装置Ｈ８１においてされる表示層よりも前側に位置する視認可能物体である表示層においてエンディング表示（静止画または動画）が実行される。
【８４９３】
このエンディング表示によりラウンド数の表示が隠されることで、遊技者は、大当たりが終了したことを視覚的に把握することができ、戸惑うことなく大当たり後の遊技が開始されることを理解することができる。
【８４９４】
また、ラウンド間において、ラウンド数の表示が第３図柄表示装置Ｈ８１においてされる表示層よりも前側に位置する表示層においてインターバル表示（静止画または動画）が実行される。このインターバル表示によりラウンド数の表示が隠されることで、遊技者は、ラウンドの切れ目であることを視覚的に把握することができる。
【８４９５】
なお、大当たりのラウンド数は、１５Ｒと４Ｒに限られるものではなく、パチンコ機Ｈ１０の機種により他のラウンド数に変更しても良く、又、２種以上のラウンド数を有するものであっても良い。また、時短状態における所定の変動回数は、１００変動回数に限られるものではなく、例えば、１変動回数や１０００変動回数に設定しても良い。
【８４９６】
また、「高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。本実施形態における高確率状態（確変中）は、後述する第２図柄の当たり確率がアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態を含む。「低確率状態」とは、確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、確変の時より大当たり確率が低い状態をいう。また、「低確率状態」のうちの時短状態（時短中）とは、大当たり確率が通常の状態であると共に、大当たり確率がそのままで第２図柄の当たり確率のみがアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。一方、パチンコ機Ｈ１０が通常中とは、確変中でも時短中でもない遊技の状態（大当たり確率も第２図柄の当たり確率もアップしていない状態）である。
【８４９７】
確変中や時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａを駆動する駆動主体としてのソレノイドの制御態様が変更され、電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物Ｈ６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、確変中や時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。
【８４９８】

なお、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数を通常中よりも増やす変更を行うものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２図柄の当たり確率は変更せず、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間および１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数の少なくとも一方を変更するものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間や、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａを開放する回数は変更せず、第２図柄の当たり確率だけを、通常中と比してアップするよう変更するものであっても良い。

【８４９９】

球の第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０の通過回数は、それぞれ、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示される。本実施形態では、保留球数が第３図柄表示装置Ｈ８１の一部に表示されるように構成される。なお、保留球数を、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に点灯表示するものであっても良い。例えば、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０の球の通過に伴って点灯する４つのＬＥＤを２セット（第１入賞口Ｈ６４に対応するセット及び第２入賞口Ｈ６４０に対応するセット）用意し、第３図柄表示装置Ｈ８１の下方に配設し、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０の通過に対応して点灯表示するものであっても良い。

【８５００】

また、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０の球の通過に対する最大保留球数は、それぞれ４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、第１入賞口Ｈ６４の球の通過に対する最大保留球数と、第２入賞口Ｈ６４０の球の通過に対する最大保留球数とは、同一となるように設定しても良いし、異なるように設定しても良い。

【８５０１】

第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０の球の通過に対する保留球数が０である場合において最後の変動演出が終了し、暫くすると、遊技説明等のために機種ごとに用意されている期間経過演出としてのデモンストレーション動画が表示される。このデモンストレーション動画は、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０への入賞の検出や、ハンドルＨ５１に遊技者が触れたことの検出がされた場合に解除される。

【８５０２】

遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口Ｈ６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニットＨ８０が配設されている。可変表示装置ユニットＨ８０には、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、実行条件演出としての第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置Ｈ８１と、スルーゲートＨ６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成され、光を発光可能に構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、可変表示装置ユニットＨ８０には、第３図柄表示装置Ｈ８１の外周を囲むようにして、センターフレームＨ８６が配設されている。

【８５０３】

なお、センターフレームＨ８６は、遊技領域を流下する球がベース板Ｈ６０の中央開口を介して第３図柄表示装置Ｈ８１側に流下することを防止するための部材であり、ベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出して形成される。また、センターフレームＨ８６は光を透過可能に構成される。

【８５０４】

また、センターフレームＨ８６の一部には、遊技領域を流下する球を受け入れると共に第３図柄表示装置Ｈ８１の周囲を通過させて第１入賞口Ｈ６４側から排出するワープ通路

（図示せず）が一部に形成される。センターフレームＨ８６に形成されるワープ通路は、遊技球が通過可能に構成される。言い換えると、ワープ通路は、遊技球を送球可能に構成される。

【８５０５】

また、センターフレームＨ８６には、ワープ通路から排出された遊技球が通過可能に構成されるステージを備える。即ち、ワープ通路から排出される遊技球を送球可能に構成されるステージを備える。センターフレームＨ８６のステージは、遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される凹部を備え、その凹部により遊技球をベース板Ｈ６０の所定の領域に送球可能に構成される。

【８５０６】

本実施形態では、ベース板Ｈ６０よりも正面側を球が通過するようにワープ通路が構成されるが、ベース板Ｈ６０よりも背面側を球が通過するようにワープ通路を形成することも可能である。例えば、ベース板Ｈ６０よりも背面側を通る通路をベース板Ｈ６０よりも背面側に配設される円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００よりも背面を通過するように構成して、その円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００の変位に伴ってワープ通路を通過する遊技球を遊技者から視認できるようにしても良い。

【８５０７】

なお、センターフレームＨ８６には、遊技領域まで突出して遊技領域の背面側を区画する部分に、所定の幅を隔てた状態で正面側に向かって立設される一対の立設部を形成して、それら一対の立設部により区画される領域に沿って遊技球を流下させるようにしても良い。即ち、センターフレームに遊技球が通過可能に構成される流下経路（一対の立設部）を形成しても良い。

【８５０８】

また、センターフレームＨ８６で遊技球の流下経路を形成した場合には、一対の立設部の対向面（流下経路の内面側）に凹設される凹部または凸設される凸部を形成して、一対の立設部の対向間に沿って流下される遊技球を凹部または凸部に当接させることで、一対の立設部の対向間を流下する遊技球に流下方向（一対の立設部の延設方向）以外の方向の力成分を付与して、一対の立設部の対向間を流下する遊技球における流下方向の速度を低下するようにしても良い。即ち、一対の立設部に形成される凹部または凸部は、遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される。これによれば、球の流下速度を遅くすることで、流下する遊技球を遊技者に視認させやすくできると共に、球発射ユニットＨ１１２ａにより遊技領域に送球（発射）された遊技球がその発射された速度を維持したまま（流下速度が速いまま）釘や突起に当接することで釘や突起が曲がったりすることを抑制できる。

【８５０９】

なお、一対の立設部をセンターフレームＨ８６と別体で構成することも可能である。即ち、遊技球が通過可能に構成される一対の立設部を有する部材をベース板Ｈ６０に別途配設しても良い。これによれば、遊技球を送球可能に構成される一対の立設部により、遊技球を所定の方向に流下させることができる。

【８５１０】

第３図柄表示装置Ｈ８１は９インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置Ｈ１１４（図４５６参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。なお、第３図柄表示装置Ｈ８１は、９インチ以外のサイズで構成されていても、２枚以上の複数の液晶ディスプレイを並設して構成されていても良い。

【８５１１】

第３図柄表示装置Ｈ８１の各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置Ｈ８１は、主

制御装置Ｈ１１０（図４５６参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。即ち、第３図柄表示装置Ｈ８１は、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた光を発光可能に構成される。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置Ｈ８１を構成するようにしても良い。

【８５１２】

なお、図柄列の態様は、横スクロールするものに限られるものではなく、種々の方向で設定可能である。例えば、表示制御装置Ｈ１１４（図４５６参照）によって表示内容が制御されることにより、第３図柄表示装置Ｈ８１に左、中及び右の３つの図柄列が表示され、各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に縦スクロールして第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっていても良い。

【８５１３】

第２図柄表示装置は、球がスルーゲートＨ６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機Ｈ１０では、球がスルーゲートＨ６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。なお、第２図柄表示装置は、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて図柄を表示されるものであって良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１と別の表示装置とのどちらにも図柄を表示させるものであっても良く、本実施形態では、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示される。

【８５１４】

パチンコ機Ｈ１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｈ６４０に付随された電動役物Ｈ６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【８５１５】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、確変中または時短中の方が短くなるように設定される。これにより、確変中および時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、確変中および時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【８５１６】

なお、確変中または時短中において、当たり確率を高める、１回に当たりに対する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、確変中または時短中に第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としても良い。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、確変中または時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしても良いし、また、１回の当たりに対する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしても良い。

【８５１７】

スルーゲートＨ６７は、可変表示装置ユニットＨ８０の左右の領域において遊技盤Ｈ１３に組み付けられ、遊技盤Ｈ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲートＨ６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【８５１８】
球のスルーゲートＨ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。なお、本実施形態では、光を発光可能に構成される第２図柄保留ランプは、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示されるように構成されるが、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に点灯表示するものであっても良い。例えば、スルーゲートＨ６７への球の通過に伴って点灯する４つのＬＥＤを第３図柄表示装置Ｈ８１の下方に配設して点灯表示するものであっても良い。
【８５１９】
また、スルーゲートＨ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け数は２つに限定されるものではなく、例えば１つであっても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＨ８０の左右に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の下方でも良い。また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしても良い。
【８５２０】
可変表示装置ユニットＨ８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口Ｈ６４が配設されている。この第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図４５６参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａで示される。
【８５２１】
一方、第１入賞口Ｈ６４の正面視下方には、球が入賞し得る第２入賞口Ｈ６４０が配設されている。この第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図４５６参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂで示される。
【８５２２】
また、第１入賞口Ｈ６４および第２入賞口Ｈ６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成しても良い。
【８５２３】
第２入賞口Ｈ６４０には電動役物Ｈ６４０ａが付随されている。この電動役物Ｈ６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖状態（縮小状態）となって、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲートＨ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となり、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しやすい状態となる。
【８５２４】
なお、本実施形態では、第２入賞口Ｈ６４０の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に開閉する羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設され、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となった場合に第２入賞口Ｈ６４０の左右両側から球が第２入賞口Ｈ６４０に入賞可能に構成されるが、左右方向の一方側の流路を塞ぐ壁を形成して、他方側からのみ第２入賞口Ｈ６４０に球が入賞可能となるように構成しても良い。この場合、第２入賞口Ｈ６４０の他方側にのみ

開閉する羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設される。
【８５２５】
　また、電動役物Ｈ６４０ａは、回転する羽部材に限られるものではなく、第２入賞口Ｈ６４０を開放する位置と閉鎖する位置とに移動するものであればスライド変位するものであっても良い。例えば、電動役物Ｈ６４０ａは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にスライド変位するものや、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向側）にスライド変位するものであっても良い。
【８５２６】
　上述した通り、確変中および時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となる回数が増える。更に、確変中および時短中は、電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。
【８５２７】
　本実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０は、遊技盤Ｈ１３の構成が左右対称とされるため、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「右打ち」）、第１入賞口Ｈ６４を狙うことも、可変表示装置ユニットＨ８０の左方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「左打ち」）第２入賞口Ｈ６４０を狙うこともできる。そのため、本実施形態のパチンコ機Ｈ１０は、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることを不要にできる。よって、球の打ち方を変化させる煩わしさを解消することができる。
【８５２８】
　なお、低確率状態であっても高確率状態でも大当たりとなる確率が変わらない（低確率状態の大当たり確率と高確率状態の大当たり確率とが同じ確率である）構成としても良い。この場合には、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ確変大当たりとなる確率が、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されるように構成すると共に、「左打ち」側の流路に第１入賞口Ｈ６４を配設し、「右打ち」側の流路に第２入賞口Ｈ６４０を配設する構成（遊技盤Ｈ１３の構成を左右非対称）とすることが好ましい。
【８５２９】
　この構成によれば、通常中においては、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物が閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しづらいので、電動役物のない第１入賞口Ｈ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の左方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射し（「左打ち」）、第１入賞口Ｈ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。
【８５３０】
　一方、確変中や時短中は、スルーゲートＨ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｈ６４０に付随する被押進物体である電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｈ６４０へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射し（「右打ち」）、スルーゲートＨ６７を通過させて電動役物を開放状態にすると共に、第２入賞口Ｈ６４０への入賞によって１５Ｒ確変大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。
【８５３１】
　従って、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることができ、遊技者の興趣を維持できる。
【８５３２】

第１入賞口Ｈ６４の下方には可変入賞装置Ｈ６５（図４５２参照）が配設されており、その略中央部分に特定入賞口Ｈ６５ａが設けられている。パチンコ機Ｈ１０においては、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｈ６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞することが配置検出センサである不図示の入賞検出センサに検出されるまで）開放される。

【８５３３】

この特定入賞口Ｈ６５ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放される。この特定入賞口Ｈ６５ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。

【８５３４】

なお、上記した形態に特別遊技状態は限定されるものではない。特定入賞口Ｈ６５ａとは別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおいて大当たりに対応したＬＥＤが点灯した場合に、特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放され、その特定入賞口Ｈ６５ａの開放中に、球が特定入賞口Ｈ６５ａ内へ入賞することを契機として特定入賞口Ｈ６５ａとは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。また、特定入賞口Ｈ６５ａは１つに限るものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｈ６４の下方右側や、第１入賞口Ｈ６４の下方左側に限らず、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の左方でも良い。

【８５３５】

遊技盤Ｈ１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＫ１が設けられ、貼着スペースＫ１に貼られた証紙等は、正面枠Ｈ１４のガラスユニットＨ１６を介して視認することができる。

【８５３６】

遊技盤Ｈ１３には、アウト口Ｈ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０にも入賞しなかった球は、アウト口Ｈ７１を通って図示しない球排出路へと案内される。アウト口Ｈ７１は、特定入賞口Ｈ６５ａの下方（矢印Ｄ方向側）に配設される。

【８５３７】

また、遊技盤Ｈ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車（図示しない）等の各種部材（役物）とが配設されている。さらに、第３図柄表示装置Ｈ８１を取り囲む態様でベース板Ｈ６０の中央開口部に配設されるセンターフレームＨ８６の一部は、上方側（矢印Ｕ方向側）の遊技領域まで背面側（矢印Ｂ方向側）の側面が延設され、その延設された領域に正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突出する突出部を複数備える。遊技盤Ｈ１３の遊技領域を流下する球は、多数の釘や、センターフレームＨ８６の突出部、風車等に衝突しつつ流下されることで、球の落下方向が適宜分散される。

【８５３８】

なお、本実施形態では、センターフレームＨ８６の一部が延設される方向が上方側（矢印Ｕ方向）に設定されているが、右側（矢印Ｒ方向側）や左側（矢印Ｌ方向側）に延設されていても良く、その延設部分に突出部だけでなくスルーゲートＨ６７や各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０を配置する構成としても良い。また、センターフレームＨ８６は、延設部分や突出部を備えない構成としても良い。

【８５３９】
風車は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の軸を中心に回転可能に形成される。また、風車は、正面視において回転軸を中心とする円形に形成されベース板Ｈ６０の正面から１球分の距離を隔てた位置に配設される円盤部材と、その円盤部材の一部からベース板Ｈ６０側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出され風車の回転方向に沿って所定の角度（本実施形態では１２０度）で分散配置される複数（本実施形態では３枚）の球当接部とを備えて形成されており、遊技盤Ｈ１３を流下する球が球当接部に当接した衝撃で回転しつつ当接した球を複数（２以上）の方向に案内可能に形成される。
【８５４０】
また、風車は、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。これにより、球当接部に当接した球の流下方向を遊技者に視認させやすくできると共に、風車の回転方向を遊技者に認識させにくくできる。
【８５４１】
なお、遊技盤Ｈ１３は、ベース板Ｈ６０に必ずしも風車を備えている必要はなく風車を備えない構成としても良い。また、センターフレームＨ８６のワープ通路（図示しない）や、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ入球した球が通過する通路（図示しない）の通路途中に風車を配設して、風車により球の通路を変更するように構成することも可能である。さらに、風車は、一部が非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても、全部が非透過性のアルミ等の金属製の材料から形成されるものであっても良く、球が当接した際に球を複数の方向に案内可能であれば形状、色、材質は何でも良い。例えば、風車は、１球ずつ交互に異なる方向に球を振り分け可能に構成されていても良い。また、風車に変えて、上述した戻り球防止部材Ｈ６８を配設して、遊技領域を流下する球を一方向に流下させる（球が戻らない）ように構成しても良い。
【８５４２】
また、上記第７８実施形態では、遊技盤Ｈ１３のベース板Ｈ６０に配設した風車に遊技領域を流下する遊技球を当接（衝突）させて風車を回転させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、風車に駆動手段の駆動力を伝達するように構成しても良い。
【８５４３】
例えば、上記第７８実施形態における風車に置き換えて左側円環部材Ｇ７１０、右側円環部材Ｇ７２０、アーム部Ｇ８１２、第１回転ベースＧ４１０、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ６４２０、花弁側伝達部材Ｇ４３０、第２回転ベースＧ４６０、第２装飾ユニットＧ４８０をベース板Ｈ６０に配設するように構成して、それら回転する左側円環部材Ｇ７１０、右側円環部材Ｇ７２０、アーム部Ｇ８１２、第１回転ベースＧ４１０、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ６４２０、花弁側伝達部材Ｇ４３０、第２回転ベースＧ４６０、第２装飾ユニットＧ４８０に遊技領域を流下する遊技球を衝突させて、遊技球の流下方向を変更するように構成しても良い。
【８５４４】
図４４８に示すように、パチンコ機Ｈ１０の背面側には、制御基板ユニットＨ９０，Ｈ９１と、裏パックユニットＨ９４とが主に備えられている。制御基板ユニットＨ９０は、主基板（主制御装置Ｈ１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置Ｈ１１３）と表示制御基板（表示制御装置Ｈ１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニットＨ９１は、払出制御基板（払出制御装置Ｈ１１１）と発射制御基板（発射制御装置Ｈ１１２）と電源基板（電源装置Ｈ１１５）とカードユニット接続基板Ｈ１１６とが搭載されてユニット化されている。
【８５４５】
裏パックユニットＨ９４は、保護カバー部を形成する裏パックＨ９２と払出ユニットＨ９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとしてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じ

て搭載されている。
【８５４６】
なお、主制御装置Ｈ１１０、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び表示制御装置Ｈ１１４、払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２、電源装置Ｈ１１５、カードユニット接続基板Ｈ１１６は、それぞれ基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４に収納されている。基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。
【８５４７】
また、基板ボックスＨ１００（主制御装置Ｈ１１０）及び基板ボックスＨ１０２（払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２が開封されたかどうかを知ることができる。
【８５４８】
払出ユニットＨ９３は、裏パックユニットＨ９４の最上部に位置して上方に開口したタンクＨ１３０と、タンクＨ１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレールＨ１３１と、タンクレールＨ１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレールＨ１３２と、ケースレールＨ１３２の最下流部に設けられ、払出モータＨ２１６（図４５６参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置Ｈ１３３とを備えている。タンクＨ１３０には、遊技ホール（以下、単にホールとも称する）の島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置Ｈ１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレールＨ１３１には、当該タンクレールＨ１３１に振動を付加するためのバイブレータＨ１３４が取り付けられており、このバイブレータＨ１３４の振動によりタンクレールＨ１３１内に球が詰まることが抑制される。なお、バイブレータＨ１３４は、タンクレールＨ１３１に取り付けられるだけでなく、他のレール部分（通路）に取り付けることも可能である。例えば、上皿Ｈ１７や下皿Ｈ５０に球を送球する球送通路（皿通路形成部材Ｈ１６０）や、上皿Ｈ１７から球発射ユニットＨ１１２ａに球を送球する送球通路（発射位置送球ユニットＨ１７０）に配設しても良い。
【８５４９】
また、払出制御装置Ｈ１１１には状態復帰スイッチＨ１２０が設けられ、発射制御装置Ｈ１１２には可変抵抗器の操作つまみＨ１２１が設けられ、電源装置Ｈ１１５にはＲＡＭ消去スイッチＨ１２２が設けられている。状態復帰スイッチＨ１２０は、例えば、払出モータＨ２１６（図４５６参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみＨ１２１は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）から放音される音の大きさを店舗側で調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２は、パチンコ機Ｈ１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。
【８５５０】
遊技機が配置されるホール（遊技機店舗）では、払出エラーの発生時において、パチンコ機Ｈ１０の設定に影響を与えないように構成される非調整部である店員呼び出しボタンを遊技者が操作することで、ホールの店員が払出エラーに気付くことができるように構成されている。
【８５５１】
なお、タンクＨ１３０に上述した球発射ユニットＨ１１２ａを別途配設して、球発射ユ

ニットＨ１１２ａにより球を打ち出すことでタンクＨ１３０に送球される球が詰まることや、タンクＨ１３０からタンクレールＨ１３１に送球される球が詰まることを抑制しても良い。

【８５５２】

次に、図４５６を参照して、本パチンコ機Ｈ１０の電気的構成について説明する。図４５６は、パチンコ機Ｈ１０の電気的構成を示すブロック図である。

【８５５３】

主制御装置Ｈ１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ（マイクロプロセッサー）Ｈ２０１が搭載されている。ＭＰＵＨ２０１には、該ＭＰＵＨ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ（半導体メモリ）Ｈ２０２と、そのＲＯＭＨ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ（ランダムアクセスメモリ）Ｈ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置Ｈ１１０では、ＭＰＵＨ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｈ８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機Ｈ１０の主要な処理を実行する。

【８５５４】

なお、払出制御装置Ｈ１１１や音声ランプ制御装置Ｈ１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置Ｈ１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置Ｈ１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。

【８５５５】

ＲＡＭＨ２０３は、各種エリア、カウンタ、フラグのほか、ＭＰＵＨ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。なお、ＲＡＭＨ２０３は、パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。

【８５５６】

停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭＨ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭＨ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機Ｈ１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭＨ２０３への書き込みはメイン処理（図示せず）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭＨ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図示せず）において実行される。なお、ＭＰＵＨ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路Ｈ２５２からの停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【８５５７】

主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２０４を介して入出力ポートＨ２０５が接続されている。入出力ポートＨ２０５には、払出制御装置Ｈ１１１、音声ランプ制御装置Ｈ１１３、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ、第２図柄表示装置、第２図柄保留ランプ、特定入賞口Ｈ６５ａの被押進物体である開閉板の下辺を軸として正面側に開閉駆動するための駆動主体としての大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドなどからなるソレノイドＨ２０９が接続され、ＭＰＵＨ２０１は、入出力ポートＨ２０５を介してこれらに対し各種コマンドや制御信号を送信する。

【８５５８】

なお、ソレノイドＨ２０９は、大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドだけでなく、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源（駆動モータ）や、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、上皿Ｈ１７へ球を送球するための払出装置Ｈ１３３を駆動する駆動モータ（図示しない）等を含む構成としても良い。

【８５５９】

入出力ポートＨ２０５には、図示しないスイッチ群およびスルーゲートＨ６７を通過したことを検出するセンサ（スルーゲートＨ６７）、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ入賞した球が進入可能な被進入物体であって、球が入賞したことを検知する入賞検出センサ（図示しない）、パチンコ機Ｈ１０に振動が入力されたことを検出する振動検出センサ（図示しない）、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に磁石等が近づけられたことを検出する磁力検出センサ等のセンサ群などからなる各種スイッチＨ２０８、電源装置Ｈ１１５に設けられた後述のＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３が接続され、ＭＰＵＨ２０１は各種スイッチＨ２０８から出力される信号や、ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３より出力されるＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２に基づいて各種処理を実行する。

【８５６０】

なお、各種スイッチＨ２０８は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における枠ボタンＨ２２（操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１や、操作デバイスＳ３００の動作部材Ｓ３１０や、機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）を含む構成としても良い。

【８５６１】

払出制御装置Ｈ１１１は、払出モータＨ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵＨ２１１は、そのＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２１３とを有している。

【８５６２】

払出制御装置Ｈ１１１のＲＡＭＨ２１３は、主制御装置Ｈ１１０のＲＡＭＨ２０３と同様に、ＭＰＵＨ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭＨ２１３は、パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１と同様、ＭＰＵＨ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路Ｈ２５２から停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【８５６３】

払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２１４を介して入出力ポートＨ２１５が接続されている。入出力ポートＨ２１５には、主制御装置Ｈ１１０や払出モータＨ２１６、発射制御装置Ｈ１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置Ｈ１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置Ｈ１１１に接続されるが、主制御装置Ｈ１１０には接続されていない。

【８５６４】

発射制御装置Ｈ１１２は、主制御装置Ｈ１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニットＨ１１２ａを制御するものである。

【８５６５】

球発射ユニットＨ１１２ａの回転体Ｈ１１２ａ２は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドルＨ５１に触れていることをタッチセン

サＨ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための内部操作体である発射停止スイッチＨ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）に対応して駆動モータから駆動力が伝達され、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた速度で回転体Ｈ１１２ａ２が回転される。これにより、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた強さで球発射ユニットＨ１１２ａから内レールＨ６１及び外レールＨ６２の対向間に球が発射される。

【８５６６】

音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカーなど）Ｈ２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部Ｈ２９～Ｈ３３など）Ｈ２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置Ｈ１１４で行われる第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵＨ２２１は、そのＭＰＵＨ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２２３とを有している。

【８５６７】

音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２２４を介して入出力ポートＨ２２５が接続されている。入出力ポートＨ２２５には、主制御装置Ｈ１１０、表示制御装置Ｈ１１４、音声出力装置Ｈ２２６、ランプ表示装置Ｈ２２７、その他装置Ｈ２２８、ボタン部Ｈ１８１などがそれぞれ接続されている。その他装置Ｈ２２８には、駆動モータＧ９１０、駆動モータＧ８４０、駆動手段Ｈ７５０、モータ装置Ｐ７７１、及び、駆動モータＳ４４１が含まれる。

【８５６８】

なお、その他装置Ｈ２２８には、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源だけでなく、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａを含む構成としても良い。

【８５６９】

音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置Ｈ１１４へ通知する。

【８５７０】

また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、ボタン部Ｈ１８１からの入力を監視し、遊技者によってボタン部Ｈ１８１が操作された場合は、第３図柄表示装置Ｈ８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた背面画像を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた背面画像変更コマンドを表示制御装置Ｈ１１４へ送信する。ここで、背面画像とは、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させる主要な画像である第３図柄の背面側に表示される画像のことである。表示制御装置Ｈ１１４は、この音声ランプ制御装置Ｈ１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置Ｈ８１に各種の画像を表示する。

【８５７１】

さらに、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、機能調整操作部Ｈ１９０（決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）からの入力を監視し、遊技者によって機能調整操作部Ｈ１９０が操作された場合は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量を変更したり、第３図柄表示装置Ｈ８１の明るさを変更したり、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさを変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。音量や明るさが変更される場合は、音量や明るさの調整度合いが第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される主要な表示の前方側に数値やボリューム等で一時的に表示される。

【８５７２】

なお、図４５６では、操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１や機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５をまとめて枠ボタンＨ２２として図示している。

【８５７３】

また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、表示制御装置Ｈ１１４から第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１３では、表示制御装置Ｈ１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置Ｈ２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置Ｈ２２７の点灯および消灯を制御する。

【８５７４】

表示制御装置Ｈ１１４は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び第３図柄表示装置Ｈ８１が接続され、音声ランプ制御装置Ｈ１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置Ｈ１１４は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置Ｈ１１３へ送信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置Ｈ２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示と音声出力装置Ｈ２２６からの音声出力とをあわせることができる。

【８５７５】

なお、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８が、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に接続されるように構成して、ＭＰＵＨ２２１が、各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいて各種処理を実行しても良い。また、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８とは別に音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に各種スイッチを接続しても良い。この場合には、主に遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の位置検出センサ等のセンサ群を各種スイッチとして構成することが好ましい。

【８５７６】

電源装置Ｈ１１５は、パチンコ機Ｈ１０の各部に電源を供給するための電源部Ｈ２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路Ｈ２５２と、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図４５６参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３とを有している。電源部Ｈ２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部Ｈ２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチＨ２０８などの各種スイッチや、ソレノイドＨ２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧及びバックアップ電圧を各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対して必要な電圧を供給する。

【８５７７】

停電監視回路Ｈ２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１及び払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＨＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路Ｈ２５２は、電源部Ｈ２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＨＳＧ１を主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１へ出力する。停電信号ＨＳＧ１の出力によって、主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部Ｈ２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置Ｈ１１０

及び払出制御装置Ｈ１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。

【８５７８】

ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３は、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図４５６参照）が押下された場合に、主制御装置Ｈ１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置Ｈ１１０は、パチンコ機Ｈ１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置Ｈ１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置Ｈ１１１に対して送信する。

【８５７９】

次いで、図４５７から図４８０を参照し、第７９実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｓ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。上記第７８実施形態では、正面枠Ｈ１４が配設されるパチンコ機Ｈ１０について説明したが、第７９実施形態では、正面枠Ｓ１４が配設される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【８５８０】

また、以下の説明では、図４５７に示す状態のパチンコ機Ｓ１０について、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図４５７に示す状態のパチンコ機Ｓ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図４５７参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ｓ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【８５８１】

また、特段の説明がない限り、パチンコ機Ｓ１０を遊技する遊技者は、パチンコ機Ｓ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置し、パチンコ機Ｓ１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に視線を向けた状態（パチンコ機Ｓ１０の正面側と対面した状態）で遊技するものとして説明する。

【８５８２】

パチンコ機Ｓ１０は、パチンコ機Ｈ１０で上述したのと同様に、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠Ｈ１１と、その外枠Ｈ１１と略同一の外形形状に形成され外枠Ｈ１１に対して開閉可能に支持された内枠Ｈ１２と、を備え、更に、内枠Ｈ１２と略同一の外形形状に形成され内枠Ｈ１２に対して開閉可能に支持された正面枠Ｓ１４を備えている。

【８５８３】

図４５７及び図４５８は、第７９実施形態におけるパチンコ機Ｓ１０の正面図である。パチンコ機Ｓ１０は、正面枠Ｓ１４の正面側におけるガラスユニットＨ１６よりも下側に配設される操作デバイスＳ３００を備える。

【８５８４】

操作デバイスＳ３００は、動作部材Ｓ３１０を備えており、動作部材Ｓ３１０は、倒れた状態であって、操作デバイスＳ３００の奥側を隠す遮蔽状態（図４５７）から、操作部を上昇させる方向に動作させた（起き上がった）状態であって、操作デバイスＳ３００の奥側を露出させる露出状態（図４５８）に変化可能に構成される。

【８５８５】

操作デバイスＳ３００は、遮蔽状態においては動作部材Ｓ３１０の操作を遊技者にさせることができ、露出状態においては動作部材Ｓ３１０の操作に加えて、操作デバイスＳ３００よりも奥側（後方側）に配設される操作を促される操作対象としての第２動作部材Ｓ３２０の操作を遊技者にさせることができるよう構成される。

【８５８６】

これにより、遊技者に対して、片手操作だけでなく、両手操作をさせることができるため、操作態様が一態様になることを避けることができることから、操作デバイスＳ３００

の操作に対する遊技者の集中力を増加させることができると共に、遊技に飽きさせることなく遊技を楽しませることができる。

【８５８７】

操作デバイスＳ３００は、上述の操作ユニットＨ１８０と同様の用途を含む用途で構成されている。即ち、上述の操作ユニットＨ１８０と同様に、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、動作部材Ｓ３１０からの入力を監視し、遊技者によって動作部材Ｓ３１０が操作されたことを検出した場合は、第３図柄表示装置Ｈ８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた背面画像を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた背面画像変更コマンドを表示制御装置Ｈ１１４へ送信する。ここで、背面画像とは、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させる主要な画像である第３図柄の背面側に表示される画像のことである。表示制御装置Ｈ１１４は、この音声ランプ制御装置Ｈ１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置Ｈ８１に各種の画像を表示する。

【８５８８】

図４５９は、上下皿ユニットＳ１５の正面図であり、図４６０は、上下皿ユニットＳ１５の分解正面斜視図であり、図４６１は、上下皿ユニットＳ１５の分解背面斜視図である。

【８５８９】

上下皿ユニットＳ１５は、本体枠Ｈ１４ｄ（図４５４参照）の下部正面側（矢印Ｆ方向側）に締結固定されるベース部材Ｈ５１０と、そのベース部材Ｈ５１０の正面側に配設される上皿形成部材Ｈ５２０及び操作ハンドルＨ５１と、ベース部材Ｈ５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０の正面側に配設される下皿形成部材Ｓ５３０と、上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｓ５３０の間に配設される操作デバイスＳ３００と、を主に備える。

【８５９０】

ベース部材Ｈ５１０は、上下皿ユニットＳ１５を本体枠Ｈ１４ｄ（図４５４参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設するための部材であり、正面視において本体枠Ｈ１４ｄよりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に大きく形成されると共に、下方側の縁部が本体枠Ｈ１４ｄよりも下方側に位置して配設される。

【８５９１】

上皿形成部材Ｈ５２０は、遊技領域に打ち出される球を貯留する上皿Ｈ１７を上下皿ユニットＳ１５の上部に形成するための部材であり、ベース部材Ｈ５１０の上方側の縁部に沿ってベース部材Ｈ５１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。

【８５９２】

操作デバイスＳ３００は、上皿形成部材Ｈ５２０及び下皿形成部材Ｓ５３０の間に配設されると共に、遊技者に操作される動作部材Ｓ３１０を上皿形成部材Ｈ５２０の上面よりも上方側に突出させた状態で配設される。

【８５９３】

下皿形成部材Ｓ５３０は、上下皿ユニットＳ１５の化粧面を構成する部材であり、正面視においてベース部材Ｈ５１０及び上皿形成部材Ｈ５２０を覆う位置に配設される。下皿形成部材Ｓ５３０は、左右方向に延びる板状の上面板部Ｓ５３１と、その上面板部Ｓ５３１の下側において凹設形成されており操作デバイスＳ３００が配設される下側凹部Ｓ５３２と、を備える。

【８５９４】

上面板部Ｓ５３１は、非透過性の樹脂材料から形成されており、左右方向における下側凹部Ｓ５３２側の部分が、操作デバイスＳ３００の支持構造体Ｓ３４０の上側を覆う位置まで延びており、下側凹部Ｓ５３２の左右幅は正面視で支持構造体Ｓ３４０と重ならない範囲で設定される。これにより、支持構造体Ｓ３４０の上面側を上面板部Ｓ５３１で遮蔽することができると共に、下側凹部Ｓ５３２を通して支持構造体Ｓ３４０が視認されることを回避することができるので、遊技者が動作部材Ｓ３１０と支持構造体Ｓ３４０とを連

続的に視認することを避けることができる。
【８５９５】
　また、下皿形成部材Ｓ５３０は、下皿Ｈ５０の貯留空間を形成する下皿構成ユニットＨ５５０と、その下皿構成ユニットＨ５５０に貯留された球を抜く球抜きユニットＨ５６０とを備える。
【８５９６】
　本体枠Ｈ１４ｄへのベース部材Ｈ５１０の配設は、ベース部材Ｈ５１０に上皿形成部材Ｈ５２０、下皿形成部材Ｓ５３０、操作デバイスＳ３００、及び、操作ハンドルＨ５１を配設し、上下皿ユニットＳ１５を組み立てた状態で取り付けられる。
【８５９７】
　図４６２は、操作デバイスＳ３００の分解正面斜視図であり、図４６３は、操作デバイスＳ３００の分解背面斜視図である。
【８５９８】
　操作デバイスＳ３００は、遊技者が操作可能な部材であって、回転動作可能に構成される回転移動物体である動作部材Ｓ３１０と、その動作部材Ｓ３１０の下側に配設され遊技者が操作可能に構成される第２動作部材Ｓ３２０と、動作部材Ｓ３１０に追従した動作が可能な追従動作部材Ｓ３３０と、動作部材Ｓ３１０及び追従動作部材Ｓ３３０を支持可能に構成される支持構造体Ｓ３４０と、その支持構造体Ｓ３４０に内蔵されるトーションスプリングＳＳＰ１，ＳＳＰ２と、前後方向にスライド移動可能に支持構造体Ｓ３４０に内蔵されており、動作部材Ｓ３１０及び追従動作部材Ｓ３３０の動作と対応した動作が可能に構成されるスライド体Ｓ３５０と、第２動作部材Ｓ３２０の支持部材Ｓ３２１及び支持構造体Ｓ３４０が締結固定される固定ベース装置Ｓ４００と、を備える。
【８５９９】
　動作部材Ｓ３１０は、回転中心として貫通形成される貫通孔Ｓ３１１と、その貫通孔Ｓ３１１の形成方向と平行な方向に円柱形状に延設される延設円柱部Ｓ３１２と、を備える。
【８６００】
　第２動作部材Ｓ３２０は、支持部材Ｓ３２１と、その支持部材Ｓ３２１に配設される軸棒部Ｓ３２１ａを中心に回転移動可能に支持部材Ｓ３２１に支持される可動体Ｓ３２２と、その可動体Ｓ３２２の回動先端側に配設されており遊技者が操作可能に構成される操作部Ｓ３２３と、その操作部Ｓ３２３の反対側において可動体Ｓ３２２に形成される奥側端部Ｓ３２８と、を備える。
【８６０１】
　追従動作部材Ｓ３３０は、回転中心として貫通形成される貫通孔Ｓ３３１と、その貫通孔Ｓ３３１の形成方向と平行な方向に円柱形状に延設される延設円柱部Ｓ３３２と、を備える。
【８６０２】
　支持構造体Ｓ３４０は、左右に略対称配置される構造体によって左右一組で構成されており、左右で細かな構成が異なる。まず、右側の支持構造体Ｓ３４０は、内側収容部Ｓ３４１と、仕切り板部Ｓ３４４と、外側蓋部Ｓ３４７と、を備えている。
【８６０３】
　内側収容部Ｓ３４１は、左右に配置される構造体において同様の構成を有しており、樹脂材料から形成される本体板部Ｓ３４１ａと、その本体板部Ｓ３４１ａに嵌合され動作部材Ｓ３１０及び追従動作部材Ｓ３３０に対面する側の面から円柱状棒部が突出形成される金属製の第１円柱状部材Ｓ３４１ｂと、その第１円柱状部材Ｓ３４１ｂを中心とする円弧形状で本体板部Ｓ３４１ａに穿設される第１円弧状穿設部Ｓ３４１ｃと、本体板部Ｓ３４１ａに嵌合され動作部材Ｓ３１０及び追従動作部材Ｓ３３０に対面する側の面から円柱状棒部が第１円柱状部材Ｓ３４１ｂと平行に延びるように突出形成される金属製の第２円柱状部材Ｓ３４１ｄと、その第２円柱状部材Ｓ３４１ｄを中心とする円弧形状で本体板部Ｓ３４１ａに穿設される第２円弧状穿設部Ｓ３４１ｅと、を備える。

【８６０４】
組立時には、第１円柱状部材Ｓ３４１ｂが動作部材Ｓ３１０の貫通孔Ｓ３１１に左右外側から挿通され、その挿通に伴って第１円弧状穿設部Ｓ３４１ｃに動作部材Ｓ３１０の延設円柱部Ｓ３１２が挿通される。即ち、組立状態（図４５７参照）において、動作部材Ｓ３１０は、第１円柱状部材Ｓ３４１ｂを介して左右両側において支持構造体Ｓ３４０に回転動作可能に支持される。
【８６０５】
組立時には、第２円柱状部材Ｓ３４１ｄが追従動作部材Ｓ３３０の貫通孔Ｓ３３１に左右外側から挿通され、その挿通に伴って第２円弧状穿設部Ｓ３４１ｅに追従動作部材Ｓ３３０の延設円柱部Ｓ３３２が挿通される。即ち、組立状態（図４５７参照）において、追従動作部材Ｓ３３０は、第２円柱状部材Ｓ３４１ｄを介して左右両側において支持構造体Ｓ３４０に回転動作可能に支持される。
【８６０６】
内側収容部Ｓ３４１からは、左右外側方向へ向けて一対の円柱状部Ｓ３４１ｆが突設形成される。内側収容部Ｓ３４１と仕切り板部Ｓ３４４との間にトーションスプリングＳＳＰ１，ＳＳＰ２が配設される。
【８６０７】
仕切り板部Ｓ３４４は、内側収容部Ｓ３４１に左右外側方向から収容され得る形状で樹脂材料から形成される本体板部Ｓ３４４ａと、その本体板部Ｓ３４４ａに左右方向視で第１円弧状穿設部Ｓ３４１ｃと重なる形状で穿設される第１中間穿設部Ｓ３４４ｃと、本体板部Ｓ３４４ａに左右方向視で第２円弧状穿設部Ｓ３４１ｅと重なる形状で穿設される第２中間穿設部Ｓ３４４ｅと、本体板部Ｓ３４４ａに円柱状部Ｓ３４１ｆを内嵌可能に穿設される一対の貫通孔Ｓ３４４ｆと、その貫通孔Ｓ３４４ｆよりも後方において穿設される後方側円弧孔Ｓ３４４ｇと、を備える。
【８６０８】
組立状態（図４５７参照）において、仕切り板部Ｓ３４４は内側収容部Ｓ３４１の左右幅の略中央位置まで進入され、内側収容部Ｓ３４１に締結固定され、動作部材Ｓ３１０の延設円柱部Ｓ３１２は第１中間穿設部Ｓ３４４ｃを通過し、追従動作部材Ｓ３３０の延設円柱部Ｓ３３２は第２中間穿設部Ｓ３４４ｅを通過し、内側収容部Ｓ３４１の円柱状部Ｓ３４１ｆは貫通孔Ｓ３４４ｆを通過することで、それぞれ仕切り板部Ｓ３４４の左右反対側まで張り出して、スライド体Ｓ３５０に受け入れられる。
【８６０９】
トーションスプリングＳＳＰ１は、内側収容部Ｓ３４１の左右外側（動作部材Ｓ３１０が位置する側の反対側）に張り出した第１円柱状部材Ｓ３４１ｂの周囲に巻かれたねじりバネであって、第１円柱状部材Ｓ３４１ｂの上側に配置される一端は内側収容部Ｓ３４１の内壁に係合固定され、第１円柱状部材Ｓ３４１ｂの下側に配置される他端は動作部材Ｓ３１０の延設円柱部Ｓ３１２の右面視反時計回り方向側に配置され、動作部材Ｓ３１０に対して右面視時計回り方向（動作部材Ｓ３１０を起立させる方向）の付勢力を生じる。
【８６１０】
トーションスプリングＳＳＰ２は、内側収容部Ｓ３４１の左右外側（追従動作部材Ｓ３３０が位置する側の反対側）に張り出した第２円柱状部材Ｓ３４１ｄの周囲に巻かれたねじりバネであって、第２円柱状部材Ｓ３４１ｄの下側に配置される一端は内側収容部Ｓ３４１の内壁に係合固定され、第２円柱状部材Ｓ３４１ｄの上側に配置される他端は追従動作部材Ｓ３３０の延設円柱部Ｓ３３２の右面視反時計回り方向側に配置され、追従動作部材Ｓ３３０に対して右面視時計回り方向（追従動作部材Ｓ３１０を前方側へ回転動作させる方向）の付勢力を生じる。
【８６１１】
仕切り板部Ｓ３４４と外側蓋部Ｓ３４７との間にスライド体Ｓ３５０が配設される。スライド体Ｓ３５０は、樹脂材料からブロック形状で構成される構造物であって、前後方向に延びる本体部Ｓ３５１と、その本体部Ｓ３５１の前端において上方に突設形成される上

方突設部Ｓ３５２と、その上方突設部Ｓ３５２の後方において一段低い高さで突設形成される低段部Ｓ３５３と、本体部Ｓ３５１において前後方向に延びる長孔形状で左右方向に穿設される一対の案内長孔Ｓ３５４と、その案内長孔Ｓ３５４よりも後方側において上下方向に延びる長孔形状で左右方向に穿設される後方側長孔Ｓ３５５と、を備える。

【８６１２】

スライド体Ｓ３５０の案内長孔Ｓ３５４には、内側収容部Ｓ３４１の円柱状部Ｓ３４１ｆが挿通され、その円柱状部Ｓ３４１ｆの先端に形成される雌ネジ部に外側蓋部Ｓ３４７に挿通される締結ネジが螺入されることで外側蓋部Ｓ３４７が内側収容部Ｓ３４１の左右方向外側端部に締結固定される。その締結固定された状態において、スライド体Ｓ３５０は、左右方向への移動を対向配置される仕切り板部Ｓ３４４及び外側蓋部Ｓ３４７に規制され、円柱状部Ｓ３４１ｆが挿通される案内長孔Ｓ３５４の形成方向である前後方向への移動のみが許容される。

【８６１３】

次に、左側の支持構造体Ｓ３４０は、内側収容部Ｓ３４１と、外側蓋部Ｓ３４７と、を備える一方、仕切り板部Ｓ３４４、トーションスプリングＳＳＰ１，ＳＳＰ２、スライド体Ｓ３５０の配設は省略される。

【８６１４】

更に、左側の外側蓋部Ｓ３４７には、動作部材Ｓ３１０の操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器Ｓ３６０が配設される。動作部材Ｓ３１０が操作により回転動作されると、可変抵抗器Ｓ３６０の抵抗値が操作量に対応して変化され、この抵抗値の変化が音声ランプ制御装置Ｈ１１３に入力されることで、パチンコ機Ｓ１０は、動作部材Ｓ３１０が操作されている態様を判断可能に構成されている。

【８６１５】

可変抵抗器Ｓ３６０は、外側蓋部Ｓ３４７の内側側面に固定されるベース部材Ｓ３６１と、そのベース部材Ｓ３６１に配設される抵抗軸Ｓ３６２と、その抵抗軸Ｓ３６２が一端側に嵌合され抵抗軸Ｓ３６２と一体的に回転動作される伝達アーム体Ｓ３６３と、を備える。

【８６１６】

抵抗軸Ｓ３６２は左右方向に延びており、その回転中心軸線が第１円柱状部材Ｓ３４１ｂの中心軸線と一致するよう配置されており、伝達アーム体Ｓ３６３の他端に形成される受入孔Ｓ３６４には動作部材Ｓ３１０の左側の延設円柱部Ｓ３１２が嵌合される。これにより、動作部材Ｓ３１０が回転動作されると、その動作量に応じて、伝達アーム体Ｓ３６３及び抵抗軸Ｓ３６２が回転動作され、可変抵抗器Ｓ３６０の抵抗値が変化される。

【８６１７】

可変抵抗器Ｓ３６０の抵抗値は、動作部材Ｓ３１０の遮蔽状態において第１の基準値となるように設定されており、パチンコ機Ｓ１０は、動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態から押し込み操作された場合の第１の基準値からの抵抗値の変化から、動作部材Ｓ３１０の押し込み操作を判断可能に構成され（動作部材Ｓ３１０を押しボタンとして機能させることが可能に構成され）、更に、動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態から露出状態側へ移動する操作がされた場合にも、第１の基準値からの抵抗値の変化によってその操作を判断可能に構成される。

【８６１８】

図４６４は、固定ベース装置Ｓ４００の分解正面斜視図であり、図４６５は、固定ベース装置Ｓ４００の分解背面斜視図である。

【８６１９】

固定ベース装置Ｓ４００は、ベース部材Ｈ５１０（図４６０参照）の前面側に締結固定される固定ベースＳ４０１と、その固定ベースＳ４０１の骨格を形成するＬ字に折曲された金属板Ｓ４０２の右端側前面に締結固定される駆動伝達装置Ｓ４４０と、その駆動伝達装置Ｓ４４０よりも左側において金属板Ｓ４０２に締結固定される背面側構成部材Ｓ４７０と、を備える。

【８６２０】
背面側構成部材Ｓ４７０は、動作部材Ｓ３１０及び追従動作部材Ｓ３３０の後方下側を覆うことが可能となるように内周側が湾曲面から形成されており、第２動作部材Ｓ３２０の可動体Ｓ３２２を配置可能に貫通形成される貫通形成部Ｓ４７１を備える。
【８６２１】
図４６６は、駆動伝達装置Ｓ４４０の分解正面斜視図であり、図４６７は、駆動伝達装置Ｓ４４０の分解背面斜視図であり、図４６８は、駆動伝達装置Ｓ４４０の別方向からの分解正面斜視図である。
【８６２２】
駆動伝達装置Ｓ４４０は、駆動軸に固定されたウォームギアＳ４４１ａを回転駆動させる駆動モータＳ４４１と、その駆動モータＳ４４１が締結固定され伝達機構を収容する領域の左側部を構成する左側支持体Ｓ４４２と、その左側支持体Ｓ４４２の右側面に保持される金属製の第１支柱Ｓ４４３と、その第１支柱Ｓ４４３の上方において左側支持体Ｓ４４２の右側面に保持される金属製の第２支柱Ｓ４４４と、伝達機構を収容する領域の右側部を構成する右側支持体Ｓ４５１と、を備える。
【８６２３】
右側支持体Ｓ４５１は、断面Ｄ字形状の受入孔Ｓ４５１ａと、その受入孔Ｓ４５１ａの外周側に突設形成される緩衝突部Ｓ４５１ｂと、受入孔Ｓ４５１ａよりも上側において貫通形成される貫通孔Ｓ４５２と、を備える。
【８６２４】
第１支柱Ｓ４４３は、円柱形状部材から構成されており、先端に断面Ｄ字形状に加工される被固定部Ｓ４４３ａを備える。その被固定部Ｓ４４３ａが右側支持体Ｓ４５１に形成される断面Ｄ字形状の受入孔Ｓ４５１ａに受け入れられることにより第１支柱Ｓ４４３は回転不能な状態で左側支持体Ｓ４４２と右側支持体Ｓ４５１に支持される。
【８６２５】
被固定部Ｓ４４３ａの形成領域には第１支柱Ｓ４４３の軸線方向と直交する平面内において外周面に沿って溝Ｓ４４３ｂが形成される。その溝Ｓ４４３ｂは、右側支持体Ｓ４５１の受入孔Ｓ４５１ａに第１支柱Ｓ４４３が挿通された場合において、右側支持体Ｓ４５１の内側に位置するように形成され、この溝Ｓ４４３ｂに、受入孔Ｓ４５１ａの内周から突設形成される抜け止め突部が嵌まり込むことにより、溝Ｓ４４３ｂの左側への移動が右側支持体Ｓ４５１の抜け止め突部に規制されることになるので、第１支柱Ｓ４４３の軸方向の位置ずれを防止することができる。
【８６２６】
また、駆動伝達装置Ｓ４４０は、駆動モータＳ４４１のウォームギアＳ４４１ａと歯合し第１支柱Ｓ４４３を回転中心とする回転が可能に第１支柱Ｓ４４３に支持される第１クラッチギアＳ４４５と、その第１クラッチギアＳ４４５と同軸で回転可能となるように第１支柱Ｓ４４３に支持される第２クラッチギアＳ４４６と、その第２クラッチギアＳ４４６と歯合し第２支柱Ｓ４４４を回転中心とする回転が可能に第２支柱Ｓ４４４に支持される伝達ギアＳ４４７と、を備える。
【８６２７】
また、駆動伝達装置Ｓ４４０は、右側支持体Ｓ４５１と第２クラッチギアＳ４４６との間に配設され第２クラッチギアＳ４４６を左側へ付勢する弾性力を生じるコイルスプリングＳＳＰ３と、右側支持体Ｓ４５１に形成される貫通孔Ｓ４５２を介して伝達ギアＳ４４７の中心軸に沿って回転を規制する断面形状（Ｄ字形状）で突設形成される支持柱部Ｓ４４７ａに外嵌連結され、支持柱部Ｓ４４７ａの先端に形成される雌ネジに螺入される締結ネジが挿通されることで伝達ギアＳ４４７に締結固定される動作アーム部材Ｓ４５５と、その動作アーム部材Ｓ４５５の端部から突設される被検出部Ｓ４５５ｂが検出溝を通ることで動作アーム部材Ｓ４５５の姿勢（位置）を検出可能に構成配置される第１検出センサＳＳＣ１と第２検出センサＳＳＣ２と、を備える。
【８６２８】

第２クラッチギアＳ４４６がコイルスプリングＳＳＰ３の付勢力に抗して右側へ移動した場合、その移動は無制限に許容されるものではなく、右側支持体Ｓ４５１の緩衝突部Ｓ４５１ｂと当接する位置までで移動が制限される。

【８６２９】

緩衝突部Ｓ４５１ｂは、第２クラッチギアＳ４４６の回転先端側において円形状に延びる突条として形成されていることから、第２クラッチギアＳ４４６からの荷重が一点に集中することを回避し、面で受止めることにより、緩衝突部Ｓ４５１ｂが受ける圧力を低減させることができる。これにより、緩衝突部Ｓ４５１ｂの破損を防止することができる。

【８６３０】

図４６９（ａ）は、矢印Ｌ方向視における駆動モータＳ４４１及び第１クラッチギアＳ４４５の右側面図であり、図４６９（ｂ）は、矢印Ｒ方向視における第２クラッチギアＳ４４６、伝達ギアＳ４４７及び動作アーム部材Ｓ４５５の左側面図であり、図４６９（ｃ）は、駆動モータＳ４４１、第１クラッチギアＳ４４５、第２クラッチギアＳ４４６、伝達ギアＳ４４７及び動作アーム部材Ｓ４５５の正面図である。図４６９（ｃ）では、伝達機構を収容する構造の境界として、左側支持体Ｓ４４２及び右側支持体Ｓ４５１の外側面が想像線で図示される。

【８６３１】

第１クラッチギアＳ４４５は、回転中心を中心とする円環形状で右側面から突設される環状突設部Ｓ４４５ａを備え、その環状突設部Ｓ４４５ａの突設先端は、回転中心を中心とする放射線により区画される領域が、交互に凹凸形成される。

【８６３２】

第２クラッチギアＳ４４６は、左側面に第１クラッチギアＳ４４５の環状突設部Ｓ４４５ａと対応する形状で環状突設部Ｓ４４６ａが突設形成されており、形成される凹凸が環状突設部Ｓ４４５ａと逆転の関係とされることにより、環状突設部Ｓ４４５ａの突設先端と環状突設部Ｓ４４６ａの突設先端とが互いに滑らない態様で係合可能となるように構成される。

【８６３３】

即ち、環状突設部Ｓ４４５ａと環状突設部Ｓ４４６ａとが係合されている限りにおいて、第１クラッチギアＳ４４５と第２クラッチギアＳ４４６とが一体的に回転動作されるので、駆動モータＳ４４１が回転駆動されると、ウォームギアＳ４４１ａの回転量と対応する回転量で第１クラッチギアＳ４４５及び第２クラッチギアＳ４４６が回転され、第２クラッチギアＳ４４６と歯合している伝達ギアＳ４４７が回転されることにより、伝達ギアＳ４４７に締結固定されている動作アーム部材Ｓ４５５が回転動作される。

【８６３４】

ここで、第１クラッチギアＳ４４５を図４６９（ａ）において時計回り方向に回転させる方向であって、第２クラッチギアＳ４４６を図４６９（ｂ）において反時計回り方向に回転させる方向であって、動作アーム部材Ｓ４５５を図４６９（ｂ）において時計回り方向に回転させる方向（動作アーム部材Ｓ４５５の回転先端側が前側へ移動する方向）を、駆動モータＳ４４１の正方向の回転駆動として説明し、その逆方向を駆動モータＳ４４１の逆方向の回転駆動として説明する。

【８６３５】

図４７０（ａ）及び図４７０（ｂ）は、図４６９（ｃ）の領域Ｚ５４ａにおける第１クラッチギアＳ４４５、第２クラッチギアＳ４４６及び伝達ギアＳ４４７の拡大図である。図４７０（ａ）では、第１クラッチギアＳ４４５及び第２クラッチギアＳ４４６の係合状態が図示され、図４７０（ｂ）では、第１クラッチギアＳ４４５及び第２クラッチギアＳ４４６の係合解除状態が図示される。

【８６３６】

図４７０（ａ）及び図４７０（ｂ）を参照し、力の伝達を遮断する仕組みについて説明する。第１クラッチギアＳ４４５、第２クラッチギアＳ４４６及び伝達ギアＳ４４７を備える伝達機構において、第１クラッチギアＳ４４５、第２クラッチギアＳ４４６及び伝達

ギアＳ４４７の全てが動作している間は、力の伝達は良好になされる。
【８６３７】
一方で、第１クラッチギアＳ４４５、第２クラッチギアＳ４４６及び伝達ギアＳ４４７のいずれかが動作しない場合、力は良好に伝達されず、伝達機構の途中位置に過荷重をかける原因となり、対策なしでは破損の原因となる。本実施形態では、対策として、力の伝達が不良となった場合であっても、第１クラッチギアＳ４４５及び第２クラッチギアＳ４４６の係合が解除されることにより、伝達機構の途中位置に過荷重がかかる事態を事前に回避するようにしている。
【８６３８】
例えば、駆動モータＳ４４１が一方向（又は往復方向）への駆動継続中において、伝達ギアＳ４４７及び動作アーム部材Ｓ４５５の回転動作が停止されると、伝達ギアＳ４４７と歯合される第２クラッチギアＳ４４６の回転が停止されるところ、駆動モータＳ４４１の駆動による第１クラッチギアＳ４４５の回転による力は、環状突設部Ｓ４４５ａの直径方向に延びる傾斜面を介して方向変換され、第２クラッチギアＳ４４６を軸方向に移動させることとなり、第１クラッチギアＳ４４５及び第２クラッチギアＳ４４６の係合が解除される。
【８６３９】
この係合の解除は、環状突設部Ｓ４４５ａの突設先端における凸部と環状突設部Ｓ４４６ａの突設先端における凸部とが対向配置されることにより生じるものであり、この係合が解除された状態から更に駆動モータＳ４４１の駆動力で第１クラッチギアＳ４４５が回転されると、再び環状突設部Ｓ４４５ａの突設先端における凸部と環状突設部Ｓ４４６ａの突設先端における凹部とが対向配置される係合状態にコイルスプリングＳＳＰ３の付勢力により戻される。この際、環状突設部Ｓ４４５ａと環状突設部Ｓ４４６ａとが衝突する音が生じる。
【８６４０】
駆動モータＳ４４１の駆動が継続される限り、係合状態と係合解除状態とが交互に繰り返される。本実施形態では、環状突設部Ｓ４４５ａの各凸部の直径方向に延びる両傾斜面も、環状突設部Ｓ４４６ａの各凸部の直径方向に延びる両傾斜面も、直径方向視において山形状に形成されることから（図４７０（ａ）参照）、第１クラッチギアＳ４４５の回転方向を問わず、係合状態と係合解除状態とを構成可能とされる。
【８６４１】
また、例えば、駆動モータＳ４４１の回転停止中には、第１クラッチギアＳ４４５も同様に回転が停止されるところ、伝達ギアＳ４４７及び動作アーム部材Ｓ４５５の一方向（又は往復方向）の回転動作が実行されることによる第２クラッチギアＳ４４６の回転による力は、環状突設部Ｓ４４５ａと当接される環状突設部Ｓ４４６ａの直径方向に延びる傾斜面を介して方向変換され、第２クラッチギアＳ４４６を軸方向に移動させることとなり、第１クラッチギアＳ４４５及び第２クラッチギアＳ４４６の係合が解除される。
【８６４２】
この係合の解除は、環状突設部Ｓ４４５ａの突設先端における凸部と環状突設部Ｓ４４６ａの突設先端における凸部とが対向配置されることにより生じるものであり（図４７０（ｂ）参照）、この係合が解除された状態から更に伝達ギアＳ４４７及び動作アーム部材Ｓ４５５の回転動作が実行されると、再び環状突設部Ｓ４４５ａの突設先端における凸部と環状突設部Ｓ４４６ａの突設先端における凹部とが対向配置される係合状態（図４７０（ａ）参照）にコイルスプリングＳＳＰ３の付勢力により戻される。この際、環状突設部Ｓ４４５ａと環状突設部Ｓ４４６ａとが衝突する音が生じる。
【８６４３】
環状突設部Ｓ４４５ａ及び環状突設部Ｓ４４６ａは、円周上に亘って形成される３０個のギア歯をそれぞれ有している。即ち、歯が一個ずれることで１２度（３６０度／３０個）の角度ずれが生じる。即ち、第１クラッチギアＳ４４５又は第２クラッチギアＳ４４６が１２度回転動作されるごとに衝突音が生じることになる。この衝突音を遊技者に聞かせ

ることにより、遊技者は第１クラッチギアＳ４４５及び第２クラッチギアＳ４４６の動作を予測することができる。

【８６４４】

伝達ギアＳ４４７及び動作アーム部材Ｓ４５５の回転動作は、遮蔽状態における動作部材Ｓ３１０を露出状態側へ移動させる操作を遊技者が行うことにより発生し得る。環状突設部Ｓ４４５ａと環状突設部Ｓ４４６ａとが衝突する音は、係合解除状態から係合状態に切り替えられる際に生じるものであり、この切り替えの回数は、動作部材Ｓ３１０の操作に対応したスライド体Ｓ３５０の移動に基づく動作アーム部材Ｓ４５５の回転角度に対応して変化されるため、衝突する音の聞こえ方（回数）は、動作部材Ｓ３１０の操作態様（操作量）に対応して変化される。

【８６４５】

なお、環状突設部Ｓ４４５ａ，Ｓ４４６ａにおけるギア歯は等間隔に形成されているため、動作部材Ｓ３１０の操作量の大小は、聞こえる音の回数の多少と対応し、音の間隔は等間隔となる。

【８６４６】

伝達ギアＳ４４７及び動作アーム部材Ｓ４５５の回転動作が継続される限り、係合状態と係合解除状態とが交互に繰り返される。本実施形態では、環状突設部Ｓ４４５ａの各凸部の直径方向に延びる両傾斜面も、環状突設部Ｓ４４６ａの各凸部の直径方向に延びる両傾斜面も、直径方向視において山形状に形成されることから（図４７０（ａ）参照）、伝達ギアＳ４４７及び伝達ギアＳ４４７と歯合する第２クラッチギアＳ４４６の回転方向を問わず、係合状態と係合解除状態とを構成可能とされる。

【８６４７】

図４７１（ａ）、図４７１（ｂ）及び図４７１（ｃ）は、動作部材Ｓ３１０、追従動作部材Ｓ３３０、スライド体Ｓ３５０及び動作アーム部材Ｓ４５５の模式図である。図４７１（ａ）、図４７１（ｂ）及び図４７１（ｃ）では、動作部材Ｓ３１０、追従動作部材Ｓ３３０、スライド体Ｓ３５０及び動作アーム部材Ｓ４５５の対応関係が模式的に図示されており、第１円柱部材Ｓ３４１ｂ及び第２円柱部材Ｓ３４１ｄの中心軸が黒点で図示されており、図４７１（ａ）では、遮蔽状態（図４５７参照）における動作部材Ｓ３１０の延設円柱部Ｓ３１２が図示され、図４７１（ｃ）では、露出状態（図４５８参照）における動作部材Ｓ３１０の延設円柱部Ｓ３１２が図示され、図４７１（ｂ）では、動作部材Ｓ３１０の遮蔽状態から露出状態へ状態変化される途中の状態が図示される。

【８６４８】

スライド体Ｓ３５０は、後方側長孔Ｓ３５５を介して、動作アーム部材Ｓ４５５の回転先端から回転軸線と平行な方向に突設形成される突設柱部Ｓ４５５ａと連結されおり、動作アーム部材Ｓ４５５の回転動作と対応するスライド変位が可能に構成される（連動する）一方で、動作部材Ｓ３１０の延設円柱部Ｓ３１２や追従動作部材Ｓ３３０の延設円柱部Ｓ３３２とは当接可能に構成されるのみであって連結されているわけではないので、連動される場合と、非連動となる場合とを構成可能とされる。

【８６４９】

例えば、図４７１（ａ）に図示される状態から、駆動モータＳ４４１の駆動力により動作アーム部材Ｓ４５５が回転動作され、スライド体Ｓ３５０が前方へスライド移動されると、動作部材Ｓ３１０の延設円柱部Ｓ３１２は、トーションスプリングＳＳＰ１の付勢力によりスライド体Ｓ３５０の上方突設部Ｓ３５２の後面に当接されている（押し付けられている）ところ、スライド体Ｓ３５０が前方へスライド移動されることに伴って追従して回転移動され、追従動作部材Ｓ３３０の延設円柱部Ｓ３３２は、スライド体Ｓ３５０の上方突設部Ｓ３５２に押進されるため、スライド体Ｓ３５０が前方へスライド移動されることに伴って回転移動される。

【８６５０】

この場合において、動作部材Ｓ３１０の延設円柱部Ｓ３１２はトーションスプリングＳＳＰ１の付勢力でスライド体Ｓ３５０に追従しているに過ぎないので、トーションスプリ

ングＳＳＰ１の付勢力とは逆方向（紙面反時計回り方向）に付勢力を超える荷重がかけられている状態では、スライド体Ｓ３５０が前方へスライド移動されても動作部材Ｓ３１０は図４７１（ａ）における状態で維持されることになる。トーションスプリングＳＳＰ１の付勢力とは逆方向（紙面反時計回り方向）に付勢力を超える荷重がかけられている状態としては、例えば、遊技者が遮蔽状態における動作部材Ｓ３１０の上面に手を置いている状態が想定される。

【８６５１】

また、例えば、図４７１（ｃ）に図示される状態から駆動モータＳ４４１の駆動力により動作アーム部材Ｓ４５５が回転動作され、スライド体Ｓ３５０が後方へスライド移動されると、動作部材Ｓ３１０の延設円柱部Ｓ３１２は、スライド体Ｓ３５０の上方突設部Ｓ３５２に押進されるため、スライド体Ｓ３５０が後方へスライド移動されることに伴って回転移動され、追従動作部材Ｓ３３０の延設円柱部Ｓ３３２は、トーションスプリングＳＳＰ２の付勢力によりスライド体Ｓ３５０の上方突設部Ｓ３５２の前面に当接されている（押し付けられている）ところ、スライド体Ｓ３５０が後方へスライド移動されることに伴って追従して回転移動される。

【８６５２】

この場合において、追従動作部材Ｓ３３０の延設円柱部Ｓ３３２はトーションスプリングＳＳＰ２の付勢力でスライド体Ｓ３５０に追従しているに過ぎないので、トーションスプリングＳＳＰ２の付勢力とは逆方向（紙面反時計回り方向）に付勢力を超える荷重がかけられている状態では、スライド体Ｓ３５０が後方へスライド移動されても追従動作部材Ｓ３３０は図４７１（ｃ）における状態で維持されることになる。トーションスプリングＳＳＰ２の付勢力とは逆方向（紙面反時計回り方向）に付勢力を超える荷重がかけられている状態としては、例えば、遊技者が追従動作部材Ｓ３３０の動作軌跡に手を置いている状態が想定される。

【８６５３】

また、例えば、図４７１（ｂ）又は図４７１（ｃ）に図示される状態において、駆動モータＳ４４１が停止された状態で動作部材Ｓ３１０が紙面反時計回り方向（前傾する方向）に回転動作されたとしても、動作部材Ｓ３１０の動作方向にスライド体Ｓ３５０が位置しないため、スライド体Ｓ３５０の位置は維持される。

【８６５４】

また、例えば、図４７１（ａ）に図示される状態から、動作部材Ｓ３１０が紙面時計回り方向（起き上がる方向）に回転動作された場合、延設円柱部Ｓ３１２の移動方向にスライド体Ｓ３５０の上方突設部Ｓ３５２が位置しているため、延設円柱部Ｓ３１２に押進されることでスライド体Ｓ３５０が前方へスライド移動されることになるため、動作部材Ｓ３１０、スライド体Ｓ３５０及び追従動作部材Ｓ３３０が連動される（図４７１（ｂ）に図示される状態を経て図４７１（ｃ）に図示される状態に至る）。

【８６５５】

図４７２は、操作デバイスＳ３００の側面図であり、図４７３は、図４５９のＸ５３ｍ－Ｘ５３ｍ線における操作デバイスＳ３００の模式断面図である。図４７２及び図４７３では、操作デバイスＳ３００の動作部材Ｓ３１０の遮蔽状態（図４５７参照）が図示されており、図４７３では、理解を容易とするために第２動作部材Ｓ３２０については矢印Ｌ方向視における側面図（外観図）が図示され、第２動作部材Ｓ３２０以外は断面形状が図示される。

【８６５６】

図４７４は、操作デバイスＳ３００の側面図であり、図４７５及び図４７６は、図４５９のＸ５３ｍ－Ｘ５３ｍ線に対応する線における操作デバイスＳ３００の模式断面図である。図４７５及び図４７６では、理解を容易とするために第２動作部材Ｓ３２０については矢印Ｌ方向視における側面図（外観図）が図示され、第２動作部材Ｓ３２０以外は断面形状が図示される。

【８６５７】

図４７４、図４７５及び図４７６では、操作デバイスＳ３００の動作部材Ｓ３１０の露出状態（図４５８参照）が図示され、図４７４及び図４７５では、操作デバイスＳ３００の第２動作部材Ｓ３２０の待機状態が図示され、図４７６では、待機状態から押し下げられた操作状態が図示される。

【８６５８】

図４７５に図示されるように、動作部材Ｓ３１０の回転先端側に形成される被操作部Ｓ３１４に遊技者が指をかけて、動作部材Ｓ３１０を露出状態側へ移動させるように操作した場合に、被操作部Ｓ３１４とは異なる位置における回転先端側に形成される近接部Ｓ３１６が内部操作体である第２動作部材Ｓ３２０に接近するように構成されているが、接触まではしないようになっているため、動作部材Ｓ３１０の移動量に関わらず、動作部材Ｓ３１０が第２動作部材Ｓ３２０に荷重を与えることが無いように構成される。

【８６５９】

＜第２動作部材Ｓ３２０の動作部材Ｓ３１０に対する思想（位置関係）について＞

動作部材Ｓ３１０と第２動作部材Ｓ３２０とは、２段階操作での操作が可能となっている。この２段階の操作は、両手で行うことも、片手で行うことも、可能である方が、遊技を好適とし易い。

【８６６０】

両手操作を想定する場合において、動作部材Ｓ３１０の被操作部Ｓ３１４と第２動作部材Ｓ３２０とが過度に接近している場合、被操作部Ｓ３１４に指をかけたままでの第２動作部材Ｓ３２０の操作がし難くなるため、被操作部Ｓ３１４と第２動作部材Ｓ３２０とを離間させて、第２動作部材Ｓ３２０にもう一方の手を近づけるための空間を確保することが好ましい。

【８６６１】

本実施形態では、動作部材Ｓ３１０の動作だけでなく、追従動作部材Ｓ３３０の動作によっても、第２動作部材Ｓ３２０の手前側における空間を空けるように構成しているため、空間を十分に確保することができる。

【８６６２】

片手操作を想定する場合において、動作部材Ｓ３１０の操作をした流れで第２動作部材Ｓ３２０の操作ができた方が遊技者にとって良い（疲れない）ため、被操作部Ｓ３１４に触れた状態の手を第２動作部材Ｓ３２０に無理なく近づけられるように被操作部Ｓ３１４と第２動作部材Ｓ３２０との距離が短くなるように構成される。

【８６６３】

即ち、動作部材Ｓ３１０の回転移動は、被操作部Ｓ３１４の反対側の端部を回転軸とするのではなく、左右方向視で被操作部Ｓ３１４と近接部Ｓ３１６との間の位置に形成される貫通孔Ｓ３１１（図４６３参照）を中心とする回転移動が可能とされ、第２動作部材Ｓ３２０に近接する側の近接部Ｓ３１６は第２動作部材Ｓ３２０の可動体Ｓ３２２の後方側の窪みＳ３２２ａに進入される。

【８６６４】

図４７５に図示されるように、露出状態における動作部材Ｓ３１０の被操作部Ｓ３１４の下方に第２動作部材Ｓ３２０の操作部Ｓ３２３が位置されているため、遊技者は、被操作部Ｓ３１４に指を掛けた状態から重力方向に手を移動させることで第２動作部材Ｓ３２０に近づけることができ、第２動作部材Ｓ３２０に荷重をかけることができ、第２動作部材Ｓ３２０を待機状態から操作状態へ向けて移動させる操作を楽に行うことができる。

【８６６５】

また、図２６に図示されているように、動作部材Ｓ３１０の被操作部Ｓ３１４から側面（内側周面）を伝って手を移動させた場合に手が当たる位置に待機状態における第２動作部材Ｓ３２０の操作部Ｓ３２３が配置されているため、第２動作部材Ｓ３２０を目視せずとも第２動作部材Ｓ３２０を容易に操作可能に構成される。

【８６６６】

上述のような構成により、本実施形態では、動作部材Ｓ３１０の操作と、第２動作部材

Ｓ３２０の操作と、を片手で行う場合も、両手で行う場合も、好適に遊技することができるように構成されている。そのため、遊技者は好みに合わせて片手操作、両手操作を選択できるようになっていることから、遊技を好適とすることができる。

【８６６７】

第２動作部材Ｓ３２０の移動方向は、動作部材Ｓ３１０の貫通孔Ｓ３１１に形成される回転中心とは異なる軸棒部Ｓ３２１ａを中心として回転方向であって、第２動作部材Ｓ３２０を待機状態から操作状態へ向けて操作させる方向は下降させる方向であって、動作部材Ｓ３１０を遮蔽状態から露出状態へ向けて移動させる方向である上昇方向とは異なる。

【８６６８】

これにより、動作部材Ｓ３１０を操作する遊技者が誤って第２動作部材Ｓ３２０まで操作するという事態を避けることができ、２段階で操作を遊技者に行わせ易くすることができる。

【８６６９】

＜第２動作部材Ｓ３２０の終端規制について＞

第２動作部材Ｓ３２０は、起き上がり方向（後転方向）の付勢力を生じるトーションスプリングにより付勢されており、前転方向の移動（待機状態から操作状態へ向けた移動）が底側ベースＳ４０３に傾斜面として形成される下規制面部Ｓ４０４と当接されるまでの移動量で制限され、後転方向の移動（操作状態から待機状態へ向けた移動）が背面側構成部材Ｓ４７０の貫通形成部Ｓ４７１の後方側に傾斜面として形成される上規制面部Ｓ４７２と当接されるまでの移動量で制限される。

【８６７０】

可動体Ｓ３２２は、操作状態（図４７６参照）において下規制面部Ｓ４０４と対向し、面で当接される下側対向面部Ｓ３２２ｂと、待機状態（図４７５参照）において上規制面部Ｓ４７２と対向し、面で当接される上側対向面部Ｓ３２２ｃと、を備える。

【８６７１】

下規制面部Ｓ４０４及び上規制面部Ｓ４７２は、軸棒部Ｓ３２１ａを中心とする回転移動の方向に沿う円に対して直角には交わらない。そのため、下規制面部Ｓ４０４又は上規制面部Ｓ４７２に第２動作部材Ｓ３２０が当接した場合に第２動作部材Ｓ３２０に付与される反力は、回転方向（周方向）のみではなく、回転軸に対して近接離間する方向（直径方向）にも生じる。これにより、軸棒部Ｓ３２１ａと可動体Ｓ３２２との間の摺動摩擦が増加され、可動体Ｓ３２２の制動の向上を図ることができる。

【８６７２】

下規制面部Ｓ４０４と、上規制面部Ｓ４７２との、位置や角度の設計の違いは、目的として生じさせる作用が異なることに因る。

【８６７３】

下規制面部Ｓ４０４は、上規制面部Ｓ４７２と比較して、回転中心としての軸棒部Ｓ３２１ａとの距離が短くされている。第２動作部材Ｓ３２０との干渉を避けるため、形成幅は短く、動作部材Ｓ３２０の下側対向面部Ｓ３２２ｂの前側の端に引っかかる態様となっている。即ち、下規制面部Ｓ４０４は小面積で形成される。

【８６７４】

これにより、回転軸に対して近接離間する方向（直径方向）に生じる力を局所的に大きくさせることができる。即ち、当接面積を小さくすることで、単位面積あたりの圧力を大とすることができるので、軸棒部Ｓ３２１ａに近接させる方向（押し付ける方向）の局所的な大荷重を生じさせることができ、回転軸との摺動摩擦を局所的に大きくさせることができる。

【８６７５】

この場合、下規制面部Ｓ４０４が、遊技者により思い切り押し下げる方向の第２動作部材Ｓ３２０の操作が行われた際に荷重を受ける箇所であることに対し、大荷重への急激な制動を、軸棒部Ｓ３２１ａとの摩擦により生じさせることができる。

【８６７６】

上規制面部Ｓ４７２は、下規制面部Ｓ４０４と比較して、回転中心としての軸棒部Ｓ３２１ａとの距離が長くされており、形成幅は幅広に形成されている。即ち、上規制面部Ｓ４７２は大面積で形成される。これにより、回転軸に対して近接離間する方向（直径方向）に生じる力を、広い範囲で分散した状態で生じさせることができる。

【８６７７】

この場合、上規制面部Ｓ４７２が、トーションスプリングの付勢力により待機状態に戻る場合の第２動作部材Ｓ３２０を受け止める箇所であることに対し、第２動作部材Ｓ３２０がバウンド（跳ね戻り）する事態を好適に回避することができる。

【８６７８】

図４７７（ａ）は、図４７５のＸ５５ａ－Ｘ５５ａ線における操作デバイスＳ３００の断面図であり、図４７７（ｂ）は、図４７６のＸ５５ｂ－Ｘ５５ｂ線における操作デバイスＳ３００の断面図である。

【８６７９】

固定ベース装置Ｓ４００は、金属板Ｓ４０２の底板部の下側に締結固定される底側ベースＳ４０３と、その底側ベースＳ４０３の上面に上下方向に延びる回転軸線を中心に回転動作可能に支持されており操作により変位される回転検出部材Ｓ４１０と、その回転検出部材Ｓ４１０の位置を検出可能に配置される第３検出センサＳＳＣ３と、を備える。

【８６８０】

回転検出部材Ｓ４１０は、樹脂材料から形成されており、第２動作部材Ｓ３２０の奥側端部Ｓ３２８と対向配置される対向部Ｓ４１１と、その対向部Ｓ４１１と一体的に形成され第３検出センサＳＳＣ３の検出溝に進入可能な板状に形成される被検出部Ｓ４１２と、対向部Ｓ４１１と被検出部Ｓ４１２とを連結しており底側ベースＳ４０３から突設される円柱形状の支持突部Ｓ４０３ａに遊嵌される環状の被支持部Ｓ４１３と、を備え、支持突部Ｓ４０３ａに巻かれる捩りバネであって対向部Ｓ４１１を前方側に付勢するトーションスプリングＳＳＰ４によって一方向に付勢される。

【８６８１】

図４７７（ａ）に図示されるように、第２動作部材Ｓ３２０が待機状態とされている場合、回転検出部材Ｓ４１０はトーションスプリングＳＳＰ４の付勢力により第２動作部材Ｓ３２０の奥側端部Ｓ３２８に対向する位置まで上面視（図４７７（ａ）紙面）反時計回り方向に回転動作されており、奥側端部Ｓ３２８と対向部Ｓ４１１とは離間される（非接触とされる）。

【８６８２】

そのため、第２動作部材Ｓ３２０に微小の変位（意図せず台枠に衝突する等の振動等）が生じても、奥側端部Ｓ３２８と対向部Ｓ４１１との離間幅に収まる程度の変位であれば、回転検出部材Ｓ４１０の変位が回避される。

【８６８３】

奥側端部Ｓ３２８は、軸棒部Ｓ３２１ａよりも下側に配置されており、この上下関係は待機状態（図４７５参照）でも、操作状態（図４７６参照）でも変わらないが、待機状態から操作状態への変位は、奥側端部Ｓ３２８が上方（重力方向の反対方向）へ変位される方向となるように構成される。これにより、奥側端部Ｓ３２８が対向部Ｓ４１１と近接する方向への移動が、重力により加速されることを回避することができ、対向部Ｓ４１１が大荷重を受ける事態を回避し易くすることができる。

【８６８４】

第２動作部材Ｓ３２０が待機状態から操作状態に変化されると、図４７７（ｂ）に図示されるように、第２動作部材Ｓ３２０の奥側端部Ｓ３２８に回転検出部材Ｓ４１０の対向部Ｓ４１１が押進されることで、トーションスプリングＳＳＰ４の付勢力に対抗して回転検出部材Ｓ４１０が上面視（図４７７（ｂ）紙面）時計回り方向に回転動作され、被検出部Ｓ４１２が第３検出センサＳＳＣ３の検出溝に進入される。

【８６８５】

このように、第２動作部材Ｓ３２０が待機状態であるか操作状態であるかが、第３検出

センサＳＳＣ３の検出状態と対応するように構成される。
【８６８６】
図４７８（ａ）から図４７８（ｅ）は、操作デバイスＳ３００及び第３図柄表示装置Ｈ８１を模式的に示す模式正面図であり、図４７８（ｆ）は、演出実行タイミングＳＴ１０及び事前タイミングＳＴ１１～ＳＴ１３の関係を示す模式図である。
【８６８７】
図４７９（ａ）から図４７９（ｄ）及び図４８０（ａ）から図４８０（ｅ）は、操作デバイスＳ３００及び第３図柄表示装置Ｈ８１を模式的に示す模式正面図である。図４７８（ａ）から図４７８（ｅ）、図４７９（ａ）から図４７９（ｄ）及び図４８０（ａ）から図４８０（ｅ）では、それぞれ、パチンコ機Ｓ１０で実行される演出態様の一例が時系列で図示される。
【８６８８】
即ち、パチンコ機Ｓ１０では、図４７８、図４７９及び図４８０に図示されるように、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０へ入賞があったことを契機として行われる抽選に基づいて実行される変動中において、操作デバイスＳ３００の操作を促す表示演出を第３図柄表示装置Ｈ８１によって実行可能に構成されている。
【８６８９】
表示演出は種々のタイミングで実行可能とされるが、本実施形態では、変動期間の終盤（第３図柄の停止図柄が表示されるタイミングの前後）において抽選の当落に関わる報知がされる場合が例示される。なお、演出の実行されるタイミングはこれに限られるものではなく、種々の態様で設定可能である。例えば、変動期間における別のタイミングでも良いし（変動の先読み演出等）、変動期間以外のタイミング（大当たり遊技中（ラウンド昇格演出等）、でも良いし、その他のタイミングでも良い。
【８６９０】
図４７８（ａ）では、第３図柄表示装置Ｈ８１では、縦スクロールして可変表示される第３図柄が変動中の図柄列（左、中、右）が表示されており、操作デバイスＳ３００は動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態とされる。
【８６９１】
図４７８（ｂ）では、第３図柄表示装置Ｈ８１では、「あけろ」の文字表示と、操作デバイスＳ３００の動作部材Ｓ３１０を遮蔽状態から露出状態とするように促す指示表示と、がされており、操作デバイスＳ３００は動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態とされる。
【８６９２】
図４７８（ｃ）では、第３図柄表示装置Ｈ８１では、「ＯＫ」の文字表示と、操作デバイスＳ３００の動作部材Ｓ３１０の露出状態が表示されており、操作デバイスＳ３００は動作部材Ｓ３１０が露出状態とされる。
【８６９３】
図４７８（ｄ）では、第３図柄表示装置Ｈ８１では、「引け」の文字表示と、操作デバイスＳ３００の動作部材Ｓ３１０の露出状態と、が表示され、操作デバイスＳ３００の下側に円弧形状の枠内でタイマー表示がされており、操作デバイスＳ３００は動作部材Ｓ３１０が露出状態とされる。
【８６９４】
図４７８（ｅ）では、第３図柄表示装置Ｈ８１では、「スーパー大当たり」の文字表示がされ、操作デバイスＳ３００は動作部材Ｓ３１０が露出状態とされる。なお、図示は省略するが、図４７８（ｅ）に図示される表示態様となる前に、大当たりに対応した停止図柄が第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される。
【８６９５】
図４７８（ｆ）では、演出実行タイミングＳＴ１０及び事前タイミングＳＴ１１～ＳＴ１３がタイミングチャート上に図示される。本実実施形態では、演出実行タイミングＳＴ１０が変動終了の５秒前であり、第１事前タイミングＳＴ１１が変動終了の１０秒前であり、第２事前タイミングＳＴ１２が変動終了の１５秒前であり、第３事前タイミングＳＴ

１３が変動終了の２０秒前であるように設定される。
【８６９６】
なお、演出実行タイミングＳＴ１０及び事前タイミングＳＴ１１～ＳＴ１３の時間的関係はこれに限られるものではなく、種々の態様で設定が可能とされる。例えば、事前タイミングＳＴ１３を変動終了の５０秒前に設定し、事前タイミングＳＴ１２を変動終了の４５秒前に設定し、事前タイミングＳＴ１１を変動終了の１０秒前に設定し、演出実行タイミングＳＴ１０を変動終了の２秒前に設定しても良い。この場合、操作デバイスＳ３００の駆動の発生タイミングの間隔を空けることができる。
【８６９７】
図４７９（ａ）では、第３図柄表示装置Ｈ８１では、縦スクロールして可変表示される第３図柄が変動中の図柄列（左、中、右）が表示されており、操作デバイスＳ３００は動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態とされる。
【８６９８】
図４７９（ｂ）では、第３図柄表示装置Ｈ８１では、縦スクロールして可変表示される第３図柄が変動中の図柄列（左、中、右）が表示されており、操作デバイスＳ３００は動作部材Ｓ３１０が露出状態とされる。
【８６９９】
図４７９（ｃ）では、第３図柄表示装置Ｈ８１では、「引け」の文字表示と、操作デバイスＳ３００の動作部材Ｓ３１０の露出状態と、が表示され、操作デバイスＳ３００の下側に円弧形状の枠内でタイマー表示がされており、操作デバイスＳ３００は動作部材Ｓ３１０が露出状態とされる。
【８７００】
図４７９（ｄ）では、第３図柄表示装置Ｈ８１では、「スーパー大当たり」の文字表示がされ、操作デバイスＳ３００は動作部材Ｓ３１０が露出状態とされる。なお、図示は省略するが、図４７９（ｄ）に図示される表示態様となる前に、大当たりに対応した停止図柄が第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される。
【８７０１】
図４８０（ａ）では、第３図柄表示装置Ｈ８１では、縦スクロールして可変表示される第３図柄が変動中の図柄列（左、中、右）が表示されており、操作デバイスＳ３００は動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態とされる。
【８７０２】
図４８０（ｂ）では、第３図柄表示装置Ｈ８１では、「あけろ」の文字表示と、操作デバイスＳ３００の動作部材Ｓ３１０を遮蔽状態から露出状態とするように促す指示表示と、がされており、操作デバイスＳ３００は動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態とされる。
【８７０３】
図４８０（ｃ）では、第３図柄表示装置Ｈ８１では、三点リーダーの表示と、操作デバイスＳ３００の動作部材Ｓ３１０の遮蔽状態が表示されており、操作デバイスＳ３００は動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態とされる。
【８７０４】
図４８０（ｄ）では、第３図柄表示装置Ｈ８１では、「押せ」の文字表示と、操作デバイスＳ３００の動作部材Ｓ３１０の遮蔽状態と、が表示され、操作デバイスＳ３００の下側に長方形状の枠内でタイマー表示がされており、操作デバイスＳ３００は動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態とされる。
【８７０５】
図４８０（ｅ）では、第３図柄表示装置Ｈ８１では、「チャレンジ大当たり」の文字表示がされ、操作デバイスＳ３００は動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態とされる。なお、図示は省略するが、図４８０（ｅ）に図示される表示態様となる前に、大当たりに対応した停止図柄が第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される。
【８７０６】
操作デバイスＳ３００の駆動制御について説明する。パチンコ機Ｓ１０では、操作デバ

イスＳ３００の駆動制御として、特に説明をする場合を除いて、動作部材Ｓ３１０の状況によらず常に駆動モータＳ４４１に逆方向の回転駆動が実行されており、この回転駆動は、動作アーム部材Ｓ４５５に対して２秒間隔で１０度ずつ回転させる第１継続態様で実行される。

【８７０７】

なお、第１継続態様の制御としては、種々の態様が例示される。例えば、一定速度での回転動作が継続されるものでも良いし、０．５秒で１０度回転させ、１．５秒は停止させるという駆動態様（ＰＷＭ制御）が継続されるものでも良い。

【８７０８】

動作アーム部材Ｓ４５５は略７０度程度の回転動作が許容されるよう構成されているので、何ら報知がされていないタイミングで遊技者が操作を行うことで動作部材Ｓ３１０が露出状態とされたとしても、第１継続態様での駆動が実行されることによって、１４秒程度放置しておくことで動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態に復帰される。

【８７０９】

動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態に到達した後も駆動モータＳ４４１の駆動が継続されるが、動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態に到達した後は動作アーム部材Ｓ４５５及び伝達ギアＳ４４７が回転されないため、第１クラッチギアＳ４４５を介して伝達される駆動力は、第２クラッチギアＳ４４６が軸方向に移動され（図４７０参照）、係合状態と係合解除状態とを繰り返す態様で消費される。

【８７１０】

この際、コイルスプリングＳＳＰ３の付勢力によって第２クラッチギアＳ４４６が第１クラッチギアＳ４４５に押し付けられる際に衝突音が発生し、この衝突音は遊技者が聞くことができる程度の音量となるように設計される。

【８７１１】

＜開放レバー演出あり：第１制御態様ＳＰ０１＞

図４７８（ａ）から図４７８（ｅ）を参照して、操作デバイスＳ３００に関する第１制御態様ＳＰ０１を説明する。本実施形態では、第１制御態様ＳＰ０１は、抽選の結果が報知される時点の３０秒前を起点とする一連の制御として設定される。

【８７１２】

第１制御態様ＳＰ０１では、操作デバイスＳ３００の第２動作部材Ｓ３２０に対する押し込みの操作（レバーを引く方向の操作）を遊技者に促す強操作表示演出ＳＤ０１（図４７８（ｄ）参照）が実行されるが、その際は、動作部材Ｓ３１０を露出状態とさせ、第２動作部材Ｓ３２０の操作が可能となっていないと、第３図柄表示装置Ｈ８１における操作デバイスＳ３００に関する表示の内容と、実際の操作デバイスＳ３００の態様とにずれが生じる。

【８７１３】

そのため、パチンコ機Ｓ１０では、第１制御態様ＳＰ０１を実行するにあたって、強操作表示演出ＳＤ０１（図４７８（ｄ）参照）の表示演出を実行する演出実行タイミングＳＴ１０（図４７８（ｆ）参照）よりも前の第１事前タイミングＳＴ１１（図４７８（ｆ）参照）において、動作部材Ｓ３１０の状態を検出し、必要に応じて駆動モータＳ４４１を駆動制御するように構成される。

【８７１４】

動作部材Ｓ３１０の状態は、被案内物体である動作アーム部材Ｓ４５５及びスライド体Ｓ３５０の配置により判断される。パチンコ機Ｓ１０の音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、第１検出センサＳＳＣ１及び第２検出センサＳＳＣ２の検出結果により動作アーム部材Ｓ４５５及びスライド体Ｓ３５０の配置を判断し、動作部材Ｓ３１０の状態を判断する。

【８７１５】

即ち、第１検出センサＳＳＣ１に動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂが検出されている場合（第１検出センサＳＳＣ１がオンとされ第２検出センサＳＳＣ２がオフとされている場合）、動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態とされていると判断され（図４７１（ａ

）参照）、第２検出センサＳＳＣ２に動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂが検出されている場合（第１検出センサＳＳＣ１がオフとされ第２検出センサＳＳＣ２がオンとされている場合）、動作部材Ｓ３１０が露出状態とされていると判断される（図４７１（ｃ）参照）。

【８７１６】

パチンコ機Ｓ１０は、第１制御態様ＳＰ０１において、第１事前タイミングＳＴ１１（図４７８（ｆ）参照）において動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態であると判断すると（図４７８（ａ）参照）、開放させる報知（図４７８（ｂ）参照）をする。その開放させる報知の終了のタイミングで開放されていなかったと判断したら、動作部材Ｓ３１０が露出状態に達したと判断されるまで、開放させる方向（正方向）で駆動モータＳ４４１の回転駆動を実行する。

【８７１７】

そのため、開放させる報知（図４７８（ｂ）参照）に対して遊技者が動作部材Ｓ３１０を露出状態へ向けて移動させる操作を行う場合にも、その操作を行わない場合にも、動作部材Ｓ３１０は露出状態へ向けて移動されることになる。

【８７１８】

動作部材Ｓ３１０が露出状態に達したと判断される（第１検出センサＳＳＣ１がオフとされ第２検出センサＳＳＣ２がオンとされる）ことに基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１では、「ＯＫ」の文字表示と、操作デバイスＳ３００の動作部材Ｓ３１０の露出状態とが、確率で表示される（図４７８（ｃ）参照）。実行条件演出としての「ＯＫ」の文字表示と、操作デバイスＳ３００の動作部材Ｓ３１０の露出状態とが、表示されない場合には、開放させる報知（図４７８（ｂ）参照）が継続される。特に、本実施形態では、遊技者が動作部材Ｓ３１０を露出状態へ向けて移動させる操作を行わなかった場合に、「ＯＫ」の文字表示がされずに開放させる報知が継続され易くなるように構成される。

【８７１９】

「ＯＫ」の文字表示は、通常は黒文字で表示されるが、これに限られるものではない。例えば、赤文字で表示される場合や、金文字で表示される場合があっても良い。この場合において、例えば、大当たりの期待度が、黒文字の場合に３０％、赤文字の場合に５０％、金文字の場合に８０％と変化されるように構成することで、表示に対する遊技者の注目力を向上させることができる。また、「ＯＫ」も文字表示は、通常はゴシック体で表示されるが、これに限られるものではない。例えば、明朝体で表示される場合や、草書体で表示される場合があっても良い。この場合において、例えば、大当たりの期待度が、ゴシック体の場合に３０％、明朝体の場合に５０％、草書体の場合に８０％と変化されるように構成することで、表示に対する遊技者の注目力を向上させることができる。そして、これらを組み合わせてもい良い。例えば、黒文字であっても草書体の場合は７０％だったり、ゴシック体であっても金文字の場合は７０％だったりという、組み合わせによって期待度が変化するように構成してもよい。この場合、金文字であって草書体での表示がされた場合（９９％）に、遊技者の興趣を著しく高めることができる。

【８７２０】

その後、演出実行タイミングＳＴ１０（図４７８（ｆ）参照）の到達に基づいて強操作表示演出ＳＤ０１（図４７８（ｄ）参照）が実行され、タイマー表示による制限時間内に第２動作部材Ｓ３２０に対する押し込みの操作（レバーを引く方向の操作）が行われたと検出されると、第３図柄表示装置Ｈ８１において期間経過演出としての「スーパー大当たり」の文字表示がされる（図４７８（ｅ）参照）。これにより、遊技者に対し、変動に係る抽選の結果が有利な大当たり（例えば、確変大当たり）であることを報知される。

【８７２１】

この場合において、タイマー表示による制限時間内に第２動作部材Ｓ３２０に対する押し込みの操作（レバーを引く方向の操作）についての操作検出期間が設定されており、その操作検出期間以上の操作が維持された場合に、第２動作部材Ｓ３２０に対する押し込みの操作がされたと検出され、操作検出期間未満で操作が解除された場合には操作がされた

と検出されないように制御されている。
【８７２２】
操作検出期間は、本実施形態では、１秒間に設定されており、操作検出期間未満で操作が解除された場合には、「スーパー大当たり」の文字表示ではなく、その他の表示（例えば、後述する「チャレンジ大当たり」の表示）がされるように制御される。
【８７２３】
なお、操作検出期間は、上述の長さに限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、０．１秒でも良いし、３秒を超える長さでも良い。または、１０分を超える長時間に設定されても良い。この場合、タイマー表示による制限時間内の操作では操作検出期間以上の長さの操作を行うことは不可能となるので、遊技者の操作態様に関わらず、「スーパー大当たり」の文字表示ではなく、その他の表示（例えば、後述する「チャレンジ大当たり」の表示）をさせることができる。
【８７２４】
操作検出期間の長さは固定でも良いし、場合によって変化され得るように構成されても良い。これにより、第２動作部材Ｓ３２０の操作に対する演出態様が場合によって変化されるよう構成することができる。即ち、操作検出期間が１秒間となっている場合には、第２動作部材Ｓ３２０を１秒間操作することで「スーパー大当たり」の文字表示をする一方で、操作検出期間が１０分を超える長時間に設定されている場合には、第２動作部材Ｓ３２０を同様に１秒間操作することでは「スーパー大当たり」の文字表示がされないようにすることができる。これにより、第２動作部材Ｓ３２０の操作結果に対する遊技者の興味を高めることができ、操作意欲を向上させることができる。
【８７２５】
なお、操作検出期間が変化する場合において、この変化の原因は種々の態様で設定可能である。例えば、時刻に対応して操作検出期間が変化するように構成しても良いし、第２動作部材Ｓ３２０の操作の検出の有無に対応して操作検出期間が変化するように構成しても良い。
【８７２６】
構造的には、上述した通り、開放させる報知に対し遊技者が動作部材Ｓ３１０を上昇させるように操作した場合、動作部材Ｓ３１０の延設円柱部Ｓ３１２によりスライド体Ｓ３５０が前後移動され（図４７１参照）、動作アーム部材Ｓ４５５が回転動作されることに伴い伝達ギアＳ４４７と歯合される第２クラッチギアＳ４４６に動作力が伝達されるが、駆動モータＳ４４１の駆動が実行されておらず第１クラッチギアＳ４４５の回転は実行されないため、第２クラッチギアＳ４４６の動作力は、第２クラッチギアＳ４４６が軸方向に移動され（図４７０参照）、係合状態と係合解除状態とを繰り返す態様で消費される。
【８７２７】
この際、コイルスプリングＳＳＰ３の付勢力によって第２クラッチギアＳ４４６が第１クラッチギアＳ４４５に押し付けられる際に衝突音が発生し、この衝突音は遊技者が聞くことができる程度の音量となるように設計される。
【８７２８】
＜第１制御態様ＳＰ０１に含まれる、前段階での駆動制御の工夫＞
パチンコ機Ｓ１０は、第１制御態様ＳＰ０１において、第１事前タイミングＳＴ１１よりも前の第２事前タイミングＳＴ１２において、必要に応じて駆動モータＳ４４１を駆動制御するために、第２事前タイミングＳＴ１２よりも前の第３事前タイミングＳＴ１３において、動作部材Ｓ３１０の状態を検出する（図４７８（ｆ）参照）。
【８７２９】
即ち、パチンコ機Ｓ１０では、強操作表示演出ＳＤ０１（図４７８（ｄ）参照）の表示演出を実行する場合において、第１事前タイミングＳＴ１１において遮蔽状態からの動作部材Ｓ３１０の操作を促す表示演出を実行する関係上、第１事前タイミングＳＴ１１よりも前の第２事前タイミングＳＴ１２において動作部材Ｓ３１０を遮蔽状態としておく方が好適であるため、第２事前タイミングＳＴ１２よりも前の第３事前タイミングＳＴ１３に

おいて動作部材Ｓ３１０の状態を判断し、必要に応じて第２事前タイミングＳＴ１２において駆動モータＳ４４１を駆動制御する（図４７８（ｆ）参照）。

【８７３０】

この場合において、第３事前タイミングＳＴ１３において、第１検出センサＳＳＣ１及び第２検出センサＳＳＣ２の検出結果により、動作部材Ｓ３１０が露出状態であると判断すると、第２事前タイミングＳＴ１２において、動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態に達したと判断されるまで駆動モータＳ４４１を逆方向に駆動回転させる準備駆動制御が行われる（図４７８（ｆ）参照）。

【８７３１】

一方で、第３事前タイミングＳＴ１３において、第１検出センサＳＳＣ１及び第２検出センサＳＳＣ２の検出結果により、動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態であると判断すると、第２事前タイミングＳＴ１２において、駆動モータＳ４４１を逆方向に駆動回転させる必要はない（図４７８（ｆ）参照）。

【８７３２】

この第１制御態様ＳＰ０１によれば、動作部材Ｓ３１０が露出状態である場合に第３事前タイミングＳＴ１３（図４７８（ｆ）参照）となると動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態側へ駆動されることから、遊技者は、動作部材Ｓ３１０に触れて露出状態としておくことで、動作部材Ｓ３１０の駆動動作が開始されたら強操作表示演出ＳＤ０１（図４７８（ｄ）参照）の表示演出が実行される前兆であると予想できてしまう可能性があり、第３事前タイミングＳＴ１３以降の表示演出の意外性が薄れてしまい、遊技者の注目を集め難くなる。

【８７３３】

そこで、本実施形態では、第２制御態様ＳＰ０２として、第１制御態様ＳＰ０１に対して第２事前タイミングＳＴ１２における挙動が異なる場合が用意されている（図４７８（ｆ）参照）。本実施形態では、第２制御態様ＳＰ０２は、抽選の結果が報知される時点の３０秒前を起点とする一連の制御として設定される。

【８７３４】

即ち、図４７９（ａ）から図４７９（ｄ）に図示されるように、第２制御態様ＳＰ０２では、第３事前タイミングＳＴ１３（図４７８（ｆ）参照）において、第１検出センサＳＳＣ１及び第２検出センサＳＳＣ２の検出結果により、動作部材Ｓ３１０が露出状態であると判断した場合に（図４７９（ｂ）参照）、第２事前タイミングＳＴ１２（図４７８（ｆ）参照）において駆動モータＳ４４１の準備駆動制御は実行されず、第１継続態様の駆動のみが実行され、第１事前タイミングＳＴ１１（図４７８（ｆ）参照）において駆動モータＳ４４１の正方向の駆動を実行されることで、動作部材Ｓ３１０を露出状態とさせて演出実行タイミングＳＴ１０（図４７８（ｆ）参照）を迎えることとなり、強操作表示演出ＳＤ０１（図４７９（ｃ）参照）の表示演出が実行される。

【８７３５】

これにより、遊技者が、報知によらず動作部材Ｓ３１０に触れて頻繁に露出状態にさせるような遊技スタイルをとる場合であっても、必ずしも準備駆動制御が実行されるものではないことから、強操作表示演出ＳＤ０１（図４７９（ｃ）参照）の表示演出が実行されるかどうかを把握し難くすることができ、意外性のある演出を実行することができる。

【８７３６】

第３制御態様ＳＰ０３は、第１事前タイミングＳＴ１１（図４７８（ｆ）参照）において開放させる報知が実行された場合において、その後で、操作デバイスＳ３００の第２動作部材Ｓ３２０に対する押し込みの操作（レバーを引く方向の操作）を遊技者に促す強操作表示演出ＳＤ０１（図４７８（ｄ）参照）を実行しない（演出を終了させる）態様で構成される。

【８７３７】

第３制御態様ＳＰ０３は、大当たり抽選の結果が外れである場合の報知演出の一例である。本実施形態では、第３制御態様ＳＰ０３は、抽選の結果が報知される時点の３０秒前を起点とする一連の制御として設定される。

【８７３８】
第２動作部材Ｓ３２０の操作が促されないことから、遊技者による動作部材Ｓ３１０を露出状態側へ移動させる操作の終了後において動作部材Ｓ３１０を遮蔽状態に復帰させる復帰駆動を実行すればよいが、操作後すぐに復帰駆動が開始されたのでは、強操作表示演出ＳＤ０１が実行されないことが表示演出の進行に先だって遊技者に把握させてしまうこととなり演出として改善の余地がある。そこで、簡便な改善案としては、強操作表示演出ＳＤ０１が実行されるタイミングが経過した後で動作部材Ｓ３１０を遮蔽状態に復帰させる方向（逆方向）に駆動モータＳ４４１を駆動するように復帰駆動を実行させても良い。
【８７３９】
一方で、第１制御態様ＳＰ０１において強操作表示演出ＳＤ０１が実行されるタイミングで動作部材Ｓ３１０を遮蔽状態へ向けて動作させようとする場合、そのタイミング以前に駆動モータＳ４４１の駆動を開始しておくことが好ましいため、その駆動音や、動作部材Ｓ３１０を遊技者が把持して動かないようにしている場合には第１クラッチギアＳ４４５及び第２クラッチギアＳ４４６の衝突音が、演出実行タイミングＳＴ１０（図４７８（ｆ）参照）以前に発生することとなり、演出の進行に先だって遊技者が演出の内容を予測できてしまう可能性が有る。
【８７４０】
これに対し、本実施形態では、第３制御態様ＳＰ０３においても第１継続態様で駆動モータＳ４４１が駆動されることにより、駆動モータＳ４４１の駆動音や、第１クラッチギアＳ４４５及び第２クラッチギアＳ４４６の衝突音が生じたとしても、その音が、第１継続態様による音なのか、第３制御態様ＳＰ０３独特の駆動態様による音なのかを判別させ難くすることができるため、演出実行タイミングＳＴ１０（図４７８（ｆ）参照）以前に音が発生していても、演出の進行に先だって遊技者が演出の内容を予測できてしまうという事態を避け易くすることができる。従って、復帰駆動を、演出実行タイミングＳＴ１０（図４７８（ｆ）参照）以前から実行する制御を採用し易くすることができる。
【８７４１】
更に、動作部材Ｓ３１０を操作した遊技者が動作部材Ｓ３１０に触れたまま露出状態で保持している場合、第１継続態様または復帰駆動による駆動モータＳ４４１の駆動力は、第１クラッチギアＳ４４５及び第２クラッチギアＳ４４６が係合状態の場合に動作部材Ｓ３１０を介して遊技者に伝達され、この伝達される荷重は第１クラッチギアＳ４４５及び第２クラッチギアＳ４４６が係合解除状態となった場合に解消される（緩められる）。
【８７４２】
即ち、動作部材Ｓ３１０に触れている遊技者に対して、間欠的に荷重を与えることができるため、遊技者に対して動作部材Ｓ３１０を操作している実感を与えることができ、動作部材Ｓ３１０を操作する意欲を高めることができる。
【８７４３】
＜閉鎖ボタン演出あり：第４制御態様ＳＰ１１＞
図４８０（ａ）から図４８０（ｅ）を参照して、操作デバイスＳ３００に関する第４制御態様ＳＰ１１を説明する。第４制御態様ＳＰ１１は、第３図柄表示装置Ｈ８１で実行された、動作部材Ｓ３１０を露出状態へ向けて移動させる操作を促す表示に従わず、動作部材Ｓ３１０の操作をしなかった場合において実行が可能となるように構成される制御態様であって、途中までは第１制御態様ＳＰ０１と共通の態様で実行される。
【８７４４】
即ち、演出の制御として、第４制御態様ＳＰ１１が実行される場合には、第１制御態様ＳＰ０１と並列で実行され、第１事前タイミングＳＴ１１を境に、第４制御態様ＳＰ１１が実行されるか、第１制御態様ＳＰ０１が実行されるかが、決定される（分岐される）。本実施形態では、第４制御態様ＳＰ１１は、抽選の結果が報知される時点の３０秒前を起点とする一連の制御として設定される。
【８７４５】
まず、第４制御態様ＳＰ１１では、操作デバイスＳ３００の動作部材Ｓ３１０に対する

押し込みの操作（下方へ押し込む操作）を遊技者に促す弱操作表示演出ＳＤ０２（図４８０（ｄ）参照）が実行されるが、その際は、動作部材Ｓ３１０を遮蔽状態とさせ、動作部材Ｓ３１０の操作が可能となっていないと、第３図柄表示装置Ｈ８１における操作デバイスＳ３００に関する表示の内容と、実際の操作デバイスＳ３００の態様とにずれが生じる。

【８７４６】

そのため、パチンコ機Ｓ１０では、弱操作表示演出ＳＤ０２（図４８０（ｄ）参照）の表示演出を実行する演出実行タイミングＳＴ１０よりも前の第１事前タイミングＳＴ１１（図４７８（ｆ）参照）において、動作部材Ｓ３１０の状態を検出し、必要に応じて駆動モータＳ４４１を駆動制御するように構成される。

【８７４７】

パチンコ機Ｓ１０は、第４制御態様ＳＰ１１において、第１事前タイミングＳＴ１１（図４７８（ｆ）参照）へ向けて、動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態であると判断する場合には特別な駆動制御は実行されない（第１継続態様の駆動が実行される）が、動作部材Ｓ３１０が露出状態であると判断すると、閉鎖させる方向（逆方向）で、動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態に達したと判断されるまで駆動モータＳ４４１の回転駆動を実行する。

【８７４８】

パチンコ機Ｓ１０は、第４制御態様ＳＰ１１において、第１事前タイミングＳＴ１１よりも前の第２事前タイミングＳＴ１２において、必要に応じて駆動モータＳ４４１を駆動制御するために、第２事前タイミングＳＴ１２よりも前の第３事前タイミングＳＴ１３において、動作部材Ｓ３１０の状態を検出する（図４７８（ｆ）参照）。

【８７４９】

即ち、パチンコ機Ｓ１０では、弱操作表示演出ＳＤ０２（図４８０（ｄ）参照）の表示演出を実行する場合において、第１事前タイミングＳＴ１１において動作部材Ｓ３１０の操作を促す表示演出（図４８０（ｂ）参照）を実行する関係上、第２事前タイミングＳＴ１２において動作部材Ｓ３１０を遮蔽状態としておく方が好適であるため、第３事前タイミングＳＴ１３において動作部材Ｓ３１０の状態を判断し、必要に応じて第２事前タイミングＳＴ１２において駆動モータＳ４４１を駆動制御する（図４７８（ｆ）参照）。

【８７５０】

この場合において、第３事前タイミングＳＴ１３において、第１検出センサＳＳＣ１及び第２検出センサＳＳＣ２の検出結果により、動作部材Ｓ３１０が露出状態であると判断すると、第２事前タイミングＳＴ１２において、動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態に達したと判断されるまで駆動モータＳ４４１を逆方向に駆動回転させる準備駆動制御が行われる（図４７８（ｆ）参照）。

【８７５１】

一方で、第３事前タイミングＳＴ１３において、第１検出センサＳＳＣ１及び第２検出センサＳＳＣ２の検出結果により、動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態であると判断すると、第２事前タイミングＳＴ１２において、駆動モータＳ４４１を逆方向に駆動回転させる必要はない（図４７８（ｆ）参照）。

【８７５２】

この第４制御態様ＳＰ１１によれば、動作部材Ｓ３１０が露出状態である場合に第３事前タイミングＳＴ１３（図４７８（ｆ）参照）となると動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態側へ駆動されるが、この駆動態様は第１制御態様ＳＰ０１と共通とされる。

【８７５３】

従って、遊技者によって、動作部材Ｓ３１０が頻繁に露出状態とされたとしても、動作部材Ｓ３１０の駆動動作が開始された場合において、強操作表示演出ＳＤ０１（図４７９（ｃ）参照）の表示演出が実行される前兆なのか弱操作表示演出ＳＤ０２（図４８０（ｄ）参照）の表示演出が実行される前兆なのか判別できないようになっているため、第３事前タイミングＳＴ１３（図４７８（ｆ）参照）以降の表示演出の意外性が薄れてしまい、遊技者の注目を集め難くなるという問題点を良好に解消している。

【８７５４】
第４制御態様ＳＰ１１では、動作部材Ｓ３１０を露出状態へ向けて移動させる操作を促す表示が実行されたにも関わらず（図４８０（ｂ）参照）、遊技者が動作部材Ｓ３１０の操作を実行しなかった場合には、動作部材Ｓ３１０の動作はされず（図４８０（ｃ）参照）、第３図柄表示装置Ｈ８１における表示においても、遮蔽状態である動作部材Ｓ３１０が表示され続ける。
【８７５５】
その後、演出実行タイミングＳＴ１０（図４７８（ｆ）参照）の到達に基づいて弱操作表示演出ＳＤ０２（図４８０（ｄ）参照）が実行され、タイマー表示による制限時間内に動作部材Ｓ３１０に対する押し込みの操作を行うと、第３図柄表示装置Ｈ８１において「チャレンジ大当たり」の文字表示がされる（図４８０（ｅ）参照）。
【８７５６】
動作部材Ｓ３１０は、遮蔽状態において延設円柱部Ｓ３１２の後方側に隙間ができる形状で第１円弧状穿設部Ｓ３４１ｃ及び第１中間穿設部Ｓ３４４ｃが形成されていることから（図４７１（ａ）参照）、遮蔽状態から前転方向に押し下げられる動作が許容される。この動作に対応して、可変抵抗器Ｓ３６０（図４６２参照）の抵抗軸Ｓ３６２及び伝達アーム体Ｓ３６３は回転動作され、可変抵抗器Ｓ３６０の抵抗値が変化される。
【８７５７】
可変抵抗器Ｓ３６０の抵抗値の変化態様が、遮蔽状態からの動作部材Ｓ３１０の押下げ操作に対応する変化態様として音声ランプ制御装置Ｈ１１３に入力されると、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態から押下げ操作されたと判断する。
【８７５８】
なお、可変抵抗器Ｓ３６０の抵抗値の変化態様として、遮蔽状態からの動作部材Ｓ３１０の押下げ操作に対応する変化態様と特に説明したのは、可変抵抗器Ｓ３６０の抵抗値の変化量だけから判断する場合と区別するためである。
【８７５９】
即ち、動作部材Ｓ３１０の回転角度が同じであれば可変抵抗器Ｓ３６０の抵抗値の変化量が同じである場合、その抵抗値の変化からは、遮蔽状態からの動作部材Ｓ３１０の押下げ操作によるものなのか、露出状態から動作部材Ｓ３１０が荷重を与えられて前転方向へ動作されたことによるものなのかを、音声ランプ制御装置Ｈ１１３において判断することが困難となる。
【８７６０】
従って、本実施形態では、可変抵抗器Ｓ３６０の抵抗値の変化量（正負を特定）と、変化前における可変抵抗器Ｓ３６０の抵抗値との両方が音声ランプ制御装置Ｈ１１３に入力されるように構成し、これにより、遮蔽状態からの動作部材Ｓ３１０の押下げ操作に対応する変化態様として判断可能に構成している。
【８７６１】
この動作部材Ｓ３１０の遮蔽状態からの押下げ操作が、演出実行タイミングＳＴ１０（図４７８（ｆ）参照）の到達に基づいて弱操作表示演出ＳＤ０２（図４８０（ｄ）参照）が実行された場合におけるタイマー表示による制限時間内に実行されていると音声ランプ制御装置Ｈ１１３により判断されると、第３図柄表示装置Ｈ８１において「チャレンジ大当たり」の文字表示がされる（図４８０（ｅ）参照）。
【８７６２】
このように、第３図柄表示装置Ｈ８１において「チャレンジ大当たり」の文字表示がされる（図４８０（ｅ）参照）ことにより、遊技者に対し、変動に係る抽選の結果が、有利な大当たり（例えば、確変大当たり）なのか、その有利な大当たりに比較して劣る大当たり（例えば、通常大当たり）なのかが、分からない態様で報知される。
【８７６３】
即ち、第３図柄表示装置Ｈ８１で実行された、動作部材Ｓ３１０を露出状態へ向けて移動させる操作を促す表示に従わず、動作部材Ｓ３１０の操作をしなかったことの結果とし

て、「チャレンジ大当たり」の文字表示がされるように構成することで、抽選の結果が有利なのか否かを知りたいと望む遊技者に対し、表示により示唆される操作態様に従って操作を行うことに対する意欲を高めることができ、動作部材Ｓ３１０を適切に操作させ易くすることができる。

【８７６４】

これにより、動作部材Ｓ３１０が無視されて操作部材としての機能を果たさない事態や、動作部材Ｓ３１０の操作が、第３図柄表示装置Ｈ８１により示唆される態様とは異なる態様で実行される事態を、回避し易くすることができる。

【８７６５】

上述したように、本実施形態では、可変抵抗器Ｓ３６０の抵抗値の変化量（正負を特定）と、変化前における可変抵抗器Ｓ３６０の抵抗値との両方が音声ランプ制御装置Ｈ１１３に入力されるように構成し、これにより、遮蔽状態からの動作部材Ｓ３１０の押下げ操作に対応する変化態様として判断可能に構成している。

【８７６６】

そのため、可変抵抗器Ｓ３６０の抵抗値の変化量だけを検出する場合と異なり、誤操作によって演出進行が阻害されるという事態を避け易くすることができる。例えば、露出状態からの動作部材Ｓ３１０の前転方向の動作を、遮蔽状態からの動作部材Ｓ３１０の押し込み操作による動作と区別することができる。

【８７６７】

これにより、例えば、高信頼度の演出（図４７８（ｃ）参照）が発生した状態から、操作の示唆が無いのにも関わらず動作部材Ｓ３１０が前転方向に操作されることで動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態に変化された場合に、音声ランプ制御装置Ｈ１１３はその変化を判断することができ、強操作表示演出ＳＤ０１（図４７８（ｄ）参照）を表示する第１制御態様ＳＰ０１から、弱操作表示演出ＳＤ０２（図４８０（ｄ）参照）を表示する第４制御態様ＳＰ１１に、実行する表示演出を途中で変化させることができる。これにより、演出の不整合を避けることができる。

【８７６８】

＜第２検出センサＳＳＣ２の検出に基づく制御態様について＞

操作デバイスＳ３００は、上述したように、遊技者に対して、片手操作だけでなく、両手操作をさせることができるため、操作態様が一態様になることを避けることができることから、操作デバイスＳ３００の操作に対する遊技者の集中力を増加させることができると共に、遊技に飽きさせることなく遊技を楽しませることができるよう構成されているが、これは、遊技者が操作デバイスＳ３００を意欲的に操作することを前提としている。

【８７６９】

一方で、操作デバイスＳ３００の操作に対応するパチンコ機Ｓ１０の反応によっては、遊技者は、操作デバイスＳ３００の操作を意欲的に行わなくなる可能性がある。例えば、第１制御態様ＳＰ０１で動作される場合、動作部材Ｓ３１０の操作を行わなくても、駆動モータＳ４４１の駆動力により露出状態まで動作部材Ｓ３１０が動作されることを遊技者が把握した場合、動作部材Ｓ３１０の操作は行わずに第２動作部材Ｓ３２０の操作だけを行うようにするかもしれないし、動作部材Ｓ３１０が露出状態とされ、第２検出センサＳＳＣ２に動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂが検出される（第１検出センサＳＳＣ１がオフとされ第２検出センサＳＳＣ２がオンとされる）場合に同じような演出が発生するものであると、演出自体に遊技者が飽きてしまい、動作部材Ｓ３１０の操作をやめてしまう可能性が有る。

【８７７０】

対策として、発生する演出に、大当たりの信頼度が高いもの（図４７８（ｃ）参照）と、低いものとを用意し、動作部材Ｓ３１０の操作により動作部材Ｓ３１０が露出状態とされ、第２検出センサＳＳＣ２に動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂが検出されることに基づいて、高信頼度の演出が発生するか、低信頼度の演出が発生するかの何れかとなる制御とすることもできる。

【８７７１】
この場合、発生する演出により大当たりの信頼度が分かるため操作意欲を向上させることができる一方で、高信頼度の演出が発生しなかった場合に、変動中の抽選の大当たりを諦めてしまい、続く第２動作部材Ｓ３２０の操作を止めてしまう可能性が有るし、高信頼度の演出が発生しなかった場合に当落報知までの期間が虚無となることを嫌う遊技者に対しては、むしろ発生する演出を知りたくないと思わせてしまい、結果として、動作部材Ｓ３１０の操作を敢えて行わないという遊技を行わせることとなり、本末転倒である。
【８７７２】
これに対し、本実施形態では、動作部材Ｓ３１０の操作により動作部材Ｓ３１０が露出状態とされ、第２検出センサＳＳＣ２に動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂが検出されることに基づいて、高信頼度の演出が発生するか（図４７８（ｃ）参照）、演出が発生しないかの何れかが確率で選択されるよう制御している。この確率の設定は任意の数値で可能である。
【８７７３】
演出が発生しない場合、変動中の抽選の大当たりの信頼度については報知されないことになるため、遊技者に対して、動作部材Ｓ３１０を操作した場合に高信頼度の演出が発生しなかったとしても、大当たりを諦めさせることなく、当落報知までの期間を楽しませることができる。
【８７７４】
そのため、高信頼度の演出が発生する確率を５［％］程度に設定することで、動作部材Ｓ３１０の操作に基づいて演出が発生しないことがほとんどであり、稀に高信頼度の演出が発生することになることから、虚無な期間を生じさせることがなく、遊技者に対して楽しんで動作部材Ｓ３１０の操作を行わせることができる。
【８７７５】
上述の第７９実施形態では、第１制御態様ＳＰ０１、第２制御態様ＳＰ０２、第３制御態様ＳＰ０３、第４制御態様ＳＰ１１、に係る表示演出として、変動期間の終盤（第３図柄の停止図柄が表示されるタイミングの前後）において実行される場合を例示したが、表示演出の実行タイミングは、これに限られるものではない。
【８７７６】
例えば、表示演出の実行タイミングは、変動期間における別のタイミングでも良い。この場合、「スーパー大当たり」や「チャレンジ大当たり」の文字表示の代わりに、疑似連続変動の演出を報知する停止図柄（特殊図柄Ａ、特殊図柄Ｂ）の表示が設定され、演出実行タイミングＳＴ１０において動作部材Ｓ３１０又は第２動作部材Ｓ３２０が操作されることに基づいて、変動期間の途中で停止図柄（特殊図柄Ａ、特殊図柄Ｂ）が表示されても良い。
【８７７７】
これにより、動作部材Ｓ３１０又は第２動作部材Ｓ３２０の操作に基づいて必ず変動が停止される場合（当落報知がされる場合）に比較して、動作部材Ｓ３１０又は第２動作部材Ｓ３２０の操作の後も変動が停止されずに演出が続く場合があることにより、報知に対する注目力を向上させることができる。
【８７７８】
また、例えば、表示演出の実行タイミングは、大当たり遊技中のタイミングでも良い。この場合において、例えば、「スーパー大当たり」や「チャレンジ大当たり」の文字表示の代わりに、「次回ラッシュ確定表示」や「次回時短確定表示」が設定され、演出実行タイミングＳＴ１０において動作部材Ｓ３１０又は第２動作部材Ｓ３２０が操作されることに基づいて、大当たり終了後の遊技状態が報知されても良い。大当たり終了後の遊技状態が報知されることにより、表示や、動作部材Ｓ３１０又は第２動作部材Ｓ３２０の操作に遊技者の注目力を集めることができる。
【８７７９】
また、大当たり遊技中のタイミングで報知される場合において、例えば、「スーパー大

当たり」や「チャレンジ大当たり」の文字表示の代わりに、「ＭＡＸ大当たり」の表示が設定され、演出実行タイミングＳＴ１０において動作部材Ｓ３１０又は第２動作部材Ｓ３２０が操作されることに基づいて、大当たりに複数のラウンド振分が有る機種における当選した大当たりのラウンド数（利益量）を示す報知がされても良い。当選した大当たりのラウンド数（利益量）が報知されることにより、表示や、動作部材Ｓ３１０又は第２動作部材Ｓ３２０の操作に遊技者の注目力を集めることができる。

【８７８０】

また、例えば、表示演出の実行タイミングは、遊技者が遊技を行っていないタイミングでも良い。この場合において、例えば、「スーパー大当たり」や「チャレンジ大当たり」の文字表示の代わりに、「座ってください」等の遊技開始を促す表示が設定され、演出実行タイミングＳＴ１０において動作部材Ｓ３１０又は第２動作部材Ｓ３２０が操作されることに基づいて、遊技開始を促す報知がされても良い。遊技が開始されていない状態であっても、動作部材Ｓ３１０又は第２動作部材Ｓ３２０が操作されたタイミングであれば、遊技者がパチンコ機Ｓ１０の目の前に存在するため、遊技開始を促す表示を遊技者に視認させ易いタイミングで実行することができる。

【８７８１】

この場合において、表示演出は、不定期に開始されても良いし、時刻に対応して開始されても良いし、遊技者が動作部材Ｓ３１０に触れたこと、又は、動作部材Ｓ３１０を僅かでも動作させたことが検出された場合に開始されても良い。この場合において、表示演出の途中から開始させる場合があっても良い。例えば、動作部材Ｓ３１０を遊技者が触れたことが検出された場合に、駆動モータＳ４４１を正方向に回転駆動させ、動作部材Ｓ３１０を露出状態側へ移動させるようにしても良いし、第２検出センサＳＳＣ２での検出に基づいて「ＯＫ」の文字表示がされることで、遊技者の注目を第３図柄表示装置Ｈ８１に向けさせることができ、遊技の開始に貢献することができる。

【８７８２】

遊技が開始されていない状態では、演出実行タイミングＳＴ１０よりも以前の動作部材Ｓ３１０の遊技者の操作を前提としていないので、操作が有効であることの報知は必要ないため、通常は第３図柄表示装置Ｈ８１で表示される「ＯＫ」の文字表示を表示しないように構成しても良い。このためには、遊技が開始されていない状態（例えば、ハンドルＨ５１が握られておらず、入賞検知もされておらず、抽選変動もされておらず、大当たり中でもない状態、等）では、「ＯＫ」の文字表示がされる確率がゼロに（または著しく低く）設定されるように構成すればよいため、遊技実行中における「ＯＫ」の文字表示がされる確率の制御を流用することで足りるので、パチンコ機Ｓ１０の製造コスト（制御設計にかかるコストを含むコスト）の増加を防止することができる。

【８７８３】

また、例えば、表示演出の実行タイミングは、パチンコ機Ｓ１０の電源がオフされた状態から、電源がオンされた場合に、電源オンの直後から制御が開始されても良い。即ち、電源がオンされてから３０秒弱で第１事前タイミングＳＴ１１が到来した場合に、音声ランプ制御装置Ｈ１１３から動作許可の信号が出力され、即座に動作部材Ｓ３１０を遮蔽状態から露出状態側へ移動させるための駆動制御が駆動モータＳ４４１により実行可能とされるように制御されても良い。

【８７８４】

これにより、動作部材Ｓ３１０の演出を即座に実行させることができる。開店前の電源オフの状態において長時間停止されたままであると動作部材Ｓ３１０の動作支持部等に埃が溜まるなどして動作不良（固着）が生じる可能性が有るところ、電源オンの直後に初期動作として動作部材Ｓ３１０が動作されることにより、遊技者が遊技する時点において動作部材Ｓ３１０の動作不良が生じる可能性を低くすることができる。

【８７８５】

即ち、事前に動作を実行させることで埃は取れて固着を解消することができるし、仮に動作不良が解消しないのであれば、遊技者が遊技を開始する前に稼働を停止して、遊技を

させないように図ることができる。この場合は、動作部材Ｓ３１０の遊技者の操作を前提としていないので、操作が有効であることの報知は必要ないため、通常は第３図柄表示装置Ｈ８１で表示される「ＯＫ」の文字表示を表示しないように構成しても良い。このためには、電源オンからの所定期間（例えば、１分間）は「ＯＫ」の文字表示がされる確率がゼロに（または著しく低く）設定されるように構成すればよいため、遊技実行中における「ＯＫ」の文字表示がされる確率の制御を流用することで足りるので、パチンコ機Ｓ１０の製造コスト（制御設計にかかるコストを含むコスト）の増加を防止することができる。

【８７８６】

なお、駆動モータＳ４４１の駆動は、動作部材Ｓ３１０を遮蔽状態から露出状態側へ移動させるための一方向の駆動態様のみが実行されても良い。この場合、電源オンの後、動作部材Ｓ３１０は露出状態で維持されるため、ホール店員は遊技店の開店前に店内を巡回し、動作部材Ｓ３１０が露出状態であることを確認することで、動作不良が無いことを確認でき、動作部材Ｓ３１０を遮蔽状態に押下げておくことで、開店前準備を済ますことができる。

【８７８７】

また、駆動モータＳ４４１の駆動は、動作部材Ｓ３１０を遮蔽状態から露出状態へ移動させる一方向の駆動態様と、露出状態から遮蔽状態へ移動させる他方向の駆動態様とが交互に実行される往復態様で実行されても良いし、複数回往復する態様で駆動が実行されても良い。

【８７８８】

駆動モータＳ４４１の駆動態様が複数設定されている場合において、各駆動態様は、表示演出の実行タイミングとして設定される何れのタイミングで生じた表示演出に係る駆動モータＳ４４１の駆動においても、流用することができる。

【８７８９】

次いで、図４８１及び図４８２を参照し、第８０実施形態におけるスライド体Ｓ２３５０について説明する。上記第７９実施形態では、動作部材Ｓ３１０を遮蔽状態から露出状態まで移動させた場合のスライド体Ｓ３５０の前後位置は毎回同じであり、そのスライド体Ｓ３５０と連動される動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂが第２検出センサＳＳＣ２の検出溝に位置され、検出される場合を説明したが、第８０実施形態では、動作部材Ｓ３１０を遮蔽状態から露出状態まで移動させた場合のスライド体Ｓ２３５０の位置が固定されるものではなく、動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂが第２検出センサＳＳＣ２に検出されない場合が発生し得るよう構成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【８７９０】

また、本実施形態では、動作部材Ｓ３１０に対して、トーションスプリングＳＳＰ１とは逆の方向の付勢力（動作部材Ｓ３１０に対して右面視反時計回り方向（動作部材Ｓ３１０を倒す方向）の付勢力）が、トーションスプリング（図示せず）により付与される。

【８７９１】

図４８１（ａ）、図４８１（ｂ）、及び図４８１（ｃ）は、第８０実施形態における動作部材Ｓ３１０、追従動作部材Ｓ３３０、スライド体Ｓ２３５０及び駆動伝達装置Ｓ４４０の動作アーム部材Ｓ４５５の模式図である。

【８７９２】

図４８１（ａ）、図４８１（ｂ）、及び図４８１（ｃ）では、スライド体Ｓ２３５０及び動作アーム部材Ｓ４５５が第１の移動態様（変位態様）で移動（変位）される場合における動作部材Ｓ３１０、追従動作部材Ｓ３３０、スライド体Ｓ２３５０及び動作アーム部材Ｓ４５５の対応関係が模式的に図示されており、図４８１（ａ）では、遮蔽状態（図４５７参照）における動作部材Ｓ３１０の延設円柱部Ｓ３１２が図示され、図４８１（ｃ）では、露出状態（図４５８参照）における動作部材Ｓ３１０の延設円柱部Ｓ３１２が図示され、図４８１（ｂ）では、動作部材Ｓ３１０の遮蔽状態から露出状態へ状態変化される途中の状態が図示される。

【８７９３】
図４８１（ａ）、図４８１（ｂ）、及び図４８１（ｃ）に図示されるように、スライド体Ｓ２３５０は、第７９実施形態で上述した円柱状部Ｓ３４１ｆに変位可能に支持される。スライド体Ｓ２３５０は、第７９実施形態で上述したスライド体Ｓ３５０と同様の本体部Ｓ３５１と、上方突設部Ｓ３５２と、低段部Ｓ３５３と、後方側長孔Ｓ３５５と、を備える一方、一対の案内長孔Ｓ３５４が形状違い（上下幅が拡張された形状）の一対の案内長孔Ｓ２３５４に設計変更されている。
【８７９４】
更に、スライド体Ｓ２３５０は、上方突設部Ｓ３５２と低段部Ｓ３５３との間であって動作部材Ｓ３１０の延設円柱部Ｓ３１２と対向する位置に凹設形成される後側凹設部Ｓ２３５６と、本体部Ｓ３５１の前端下側部において切り欠き形成される前側切欠部Ｓ２３５７と、後方側長孔Ｓ３５５の前側面から凹設形成される受入凹部Ｓ２３５８と、後側凹設部Ｓ２３５６に内蔵される抵抗発生体Ｓ２３５９と、を備える。
【８７９５】
後側凹設部Ｓ２３５６は、低段部Ｓ３５３の前端側（上方突設部Ｓ３５２側）において下方に凹設形成される前端側凹部Ｓ２３５６ａと、その前端側凹部Ｓ２３５６ａの前側面と上方突設部Ｓ３５２の後側面（の下側部）を含む領域において前方へ凹設形成される進入凹部Ｓ２３５６ｂと、その進入凹部Ｓ２３５６ｂの前端から上下幅が特に上方に拡大されるように凹設形成される拡大凹部Ｓ２３５６ｃと、その拡大凹部Ｓ２３５６ｃの前側面から凹設形成される収容凹部Ｓ２３５６ｄと、を備える。
【８７９６】
進入凹部Ｓ２３５６ｂの上側部の位置は、図４８１（ｂ）に図示される状態において、動作部材Ｓ３１０の延設円柱部Ｓ３１２の上下中心を上側に超えない位置であれば良く、本実施形態では、延設円柱部Ｓ３１２の上下中心と一致する位置で設計される。
【８７９７】
これにより、動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態から露出状態へと変化される場合に、延設円柱部Ｓ３１２を介する荷重がスライド体Ｓ２３５０に対して前後方向で付与されることとなり、スライド体Ｓ２３５０は、スライド第Ｓ３５０の移動態様として上述した態様と同様に、前後方向にスライド移動する。
【８７９８】
前側切欠部Ｓ２３５７は、スライド体Ｓ２３５０の本体部Ｓ３５１の前端面から後方へ向けて矩形断面で切り欠かれる矩形切欠部Ｓ２３５７ａと、その矩形切欠部Ｓ２３５７ａの底面と面一の底面を有しており上面は後方へ向かうほど下降する斜面で形成されることで後端部が鋭角に交差する鋭切欠部Ｓ２３５７ｂと、その鋭切欠部Ｓ２３５７ｂの上面と同様の斜面形状で矩形切欠部Ｓ２３５７ａの前端下部の直下に形成される下側斜面部Ｓ２３５７ｃと、を備える。スライド体Ｓ２３５０は、仕切り板部Ｓ３４４の大部分の構成を流用する仕切り板部Ｓ２３４４に移動を案内されている。
【８７９９】
仕切り板部Ｓ２３４４は、既に上述した本体板部Ｓ３４４ａ、第１中間穿設部Ｓ３４４ｃ、第２中間穿設部Ｓ３４４ｅ、一対の貫通孔Ｓ３４４ｆ及び後方側円弧孔Ｓ３４４ｇを備え、更に、スライド体Ｓ２３５０と対向する左右側面からスライド体Ｓ２３５０側（左右方向側）へ向かって前側切欠き部Ｓ２３５７と対応する断面形状で突設形成される樹脂製の被衝突部Ｓ２３４５を備える。
【８８００】
即ち、被衝突部Ｓ２３４５は、突設方向の断面形状が矩形状で形成される本体部Ｓ２３４５ａと、その本体部Ｓ２３４５ａの底面と面一の底面を有しており上面は後方へ向かうほど下降する斜面で形成されることで後端部が鋭角に交差する鋭突設部Ｓ２３４５ｂと、を備える。
【８８０１】
受入凹部Ｓ２３５８は、スライド体Ｓ２３５０が図４８１（ｂ）に図示される前後位置

に配置された状態において、突設柱部Ｓ４５５ａの移動軌跡を含むように右面視で円弧状に延びる形状の長形凹部が、鋭突設部Ｓ２３４５ｂの上下幅長さ分だけ下げられた位置に形成される。

【８８０２】

抵抗発生体Ｓ２３５９は、延設円柱部Ｓ３１２に対して反力を返すことが可能となる位置に配設されており、延設円柱部Ｓ３１２と対向配置される当接部材Ｓ２３５９ａと、その当接部材Ｓ２３５９ａに固定されており収容凹部Ｓ２３５６ｄに収容されるコイルスプリングＳ２３５９ｂと、を備える。

【８８０３】

コイルスプリングＳ２３５９ｂは当接部材Ｓ２３５９ａを後方に移動させる向きの付勢力を発生可能に構成されており、延設円柱部Ｓ３１２が離間配置されている場合において、この付勢力によって拡大凹部Ｓ２３５６ｃの内壁面に当接部材Ｓ２３５９ａが押し付けられる（図４８１（ａ）参照）。

【８８０４】

図４８１（ｂ）及び図４８１（ｃ）に図示されるように、スライド体Ｓ２３５０及び動作アーム部材Ｓ４５５の第１の移動態様（変位態様）では、被衝突部Ｓ２３４５が、矩形切欠部Ｓ２３５７ａに進入し、前側切欠部Ｓ２３５７に収容される。

【８８０５】

図４８２（ａ）、図４８２（ｂ）、及び図４８２（ｃ）は、動作部材Ｓ３１０、追従動作部材Ｓ３３０、スライド体Ｓ２３５０及び動作アーム部材Ｓ４５５の模式図である。

【８８０６】

図４８２（ａ）、図４８２（ｂ）、及び図４８２（ｃ）では、スライド体Ｓ２３５０及び動作アーム部材Ｓ４５５が第２の移動態様（変位態様）で移動（変位）される場合における動作部材Ｓ３１０、追従動作部材Ｓ３３０、スライド体Ｓ２３５０及び動作アーム部材Ｓ４５５の対応関係が模式的に図示されており、図４８２（ａ）では、遮蔽状態（図４５７参照）における動作部材Ｓ３１０の延設円柱部Ｓ３１２が図示され、図４８２（ｃ）では、露出状態（図４５８参照）における動作部材Ｓ３１０の延設円柱部Ｓ３１２が図示され、図４８２（ｂ）では、動作部材Ｓ３１０の遮蔽状態から露出状態へ状態変化される途中の状態が図示される。

【８８０７】

スライド体Ｓ２３５０及び動作アーム部材Ｓ４５５の第２の移動態様（変位態様）では、被衝突部Ｓ２３４５が矩形切欠き部Ｓ２３５７ａに進入する第１の移動態様（変位態様）とは異なり、鋭突設部Ｓ２３４５ｂにスライド体Ｓ２３５０の下側斜面部Ｓ２３５７ｃが乗り上げる。

【８８０８】

即ち、被衝突部Ｓ２３４５の鋭突設部Ｓ２３４５ｂの上面をスライド体Ｓ２３５０の下側斜面部Ｓ２３５７ｃが滑り上昇されることになるので、スライド体Ｓ２３５０の移動は前後方向の平行移動では無く、上下方向の成分を有する方向の移動となる。

【８８０９】

詳細には、鋭突設部Ｓ２３４５ｂにスライド体Ｓ２３５０の下側斜面部Ｓ２３５７ｃが当接するまでは、第１の移動態様（変位態様）と同様にスライド体Ｓ２３５０の案内長孔Ｓ２３５４が円柱状部Ｓ３４１ｆに下支えされる状態でスライド体Ｓ２３５０が前後方向に平行移動され、鋭突設部Ｓ２３４５ｂにスライド体Ｓ２３５０の下側斜面部Ｓ２３５７ｃが当接して乗り上げた後は鋭突設部Ｓ２３４５ｂの上側斜面に沿って斜めに平行移動される。

【８８１０】

これにより、図４８２（ｂ）に図示される進入凹部Ｓ２３５６ｂの上端部の上下位置が、動作部材Ｓ３１０の延設円柱部Ｓ３１２の中心よりも上側に位置することになるため、延設円柱部Ｓ３１２を介してスライド体Ｓ２３５０に伝達される荷重が、前後方向のみではなく、上下方向（上方向）の成分を含む方向でスライド体Ｓ２３５０に伝達される。

【８８１１】
この荷重の伝達によりスライド体Ｓ２３５０は前方にも上方にも移動され得るが、被衝突部Ｓ２３４５の本体部Ｓ２３４５ａの後面がスライド体Ｓ２３５０に近接配置され、スライド体Ｓ２３５０の前方への移動を妨害するように作用する。
【８８１２】
これにより、延設円柱部Ｓ３１２が前側へ回転移動した場合に、スライド体Ｓ２３５０は前方へ移動されず、スライド体Ｓ２３５０に許容される上下方向の変位中において延設円柱部Ｓ３１２が後側凹設部Ｓ２３５６に進入する。
【８８１３】
即ち、延設円柱部Ｓ３１２が後側凹設部Ｓ２３５６に進入する前後長さの分だけ、スライド体Ｓ２３５０の前後移動量が小さくなるため、連動される動作アーム部材Ｓ４５５の回転角度も小さくなり、図４８２（ｃ）に図示される動作部材Ｓ３１０の露出状態において、動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂが第２検出センサＳＳＣ２に検出されないよう構成される。
【８８１４】
上述したように、被案内物体であるスライド体Ｓ２３５０及び動作アーム部材Ｓ４５５の第１の移動態様（変位態様）と第２の移動態様（変位態様）とが生じる原因は、案内長孔Ｓ２３５４の上下幅が拡大されていることから、スライド体Ｓ２３５０が前方へ移動する場合において、被衝突部Ｓ２３４５の鋭突設部Ｓ２３４５ｂが、スライド体Ｓ２３５０の矩形切欠部Ｓ２３５７ａの下底面と下側斜面部Ｓ２３５７ｃとの境界（前端角部）に対して、上側に位置する場合も、下側に位置する場合も生じ得るよう構成されていることに基づいている。
【８８１５】
被衝突部Ｓ２３４５の鋭突設部Ｓ２３４５ｂが、スライド体Ｓ２３５０の矩形切欠部Ｓ２３５７ａの下底面と下側斜面部Ｓ２３５７ｃとの境界（前端角部）に対して、上側に位置するか、下側に位置するかには、スライド体Ｓ２３５０の位置や傾きが関わっているが、これには、動作部材Ｓ３１０を介した荷重の付与の経歴や、動作アーム部材Ｓ４５５からの駆動力の付与の経歴や、パチンコ機Ｓ１０自体の態様（傾きや振動）等、さまざまな要因が絡むことから、スライド体Ｓ２３５０及び動作アーム部材Ｓ４５５の変位態様としては、動作部材Ｓ３１０の操作速度に因ることなく、何れか（第１の移動態様（変位態様）又は第２の移動態様（変位態様））が偶然的（ランダム）に生じる。
【８８１６】
スライド体Ｓ２３５０及び動作アーム部材Ｓ４５５が第１の移動態様（変位態様）で移動される場合には、動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態から露出状態へ変化する過程において、延設円柱部Ｓ３１２により常にスライド体Ｓ２３５０が押進される一方で、スライド体Ｓ２３５０及び動作アーム部材Ｓ４５５が第２の移動態様（変位態様）で移動される場合には、スライド体Ｓ２３５０は途中から押進されなくなるため、対策なしでは、動作部材Ｓ３１０を操作する遊技者が動作部材Ｓ３１０を介して受ける反力の違いにより、スライド体Ｓ２３５０及び動作アーム部材Ｓ４５５が何れの移動態様（変位態様）で移動（変位）しているのかを把握することが可能であり、そのように構成することで遊技者の動作部材Ｓ３１０に対する操作意欲を向上することができるという一面もある。
【８８１７】
これに対し、本実施形態では、対策として、スライド体Ｓ２３５０を押進しなくなった後において、代わりに、抵抗発生体Ｓ２３５９の当接部材Ｓ２３５９ａが延設円柱部Ｓ３１２により押進されるよう構成される。
【８８１８】
これにより、コイルスプリングＳ２３５９ｂの付勢力が延設円柱部Ｓ３１２を介して動作部材Ｓ３１０に伝達されることから、コイルスプリングＳ２３５９ｂの付勢力を適切に設定することにより、動作部材Ｓ３１０を操作する遊技者が動作部材Ｓ３１０を介して受ける反力の違いを小さくすることができ、操作感が変わることを回避し易くすることがで

きる。
【８８１９】
　また、当接部材Ｓ２３５９ａの上下端部は、拡大凹部Ｓ２３５６ｃの上下面部と当接している。拡大凹部Ｓ２３５６ｃの上下面部は平滑面ではなく、鋸歯形状で形成されているため、当接部材Ｓ２３５９ａの左右変位に伴って当接部材Ｓ２３５９ａの上下端部が鋸歯形状と係合および係合解除するタイミングで音が生じる。この生じる音を適切に設定することにより、動作アーム部材Ｓ４５５の回転に基づいて第１クラッチギアＳ４４５及び第２クラッチギアＳ４４６（図４７０（ａ）参照）が係合状態と係合解除状態とで切り替えられる際に生じる音との違いを小さくすることができることから、操作感が変わることを回避し易くすることができる。
【８８２０】
　なお、図４８２（ｃ）に図示される状態から遊技者が動作部材Ｓ３１０に付与している荷重を解除すれば（手を離せば）、トーションスプリングの付勢力により動作部材Ｓ３１０が紙面反時計回り方向に回転され、延設円柱部Ｓ３１２は後側凹設部Ｓ２３５６から外に出るように変位される。
【８８２１】
　＜第２検出センサＳＳＣ２の検出に基づく制御態様について＞
　上述の第７９実施形態では、動作部材Ｓ３１０の操作を意欲的に行わせるために、動作部材Ｓ３１０の操作により動作部材Ｓ３１０が露出状態とされ、第２検出センサＳＳＣ２に動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂが検出されることに基づいて、高信頼度の演出が発生するか、演出が発生しないかが、確率で選択されるよう制御する場合を説明した。
【８８２２】
　これに対し、本実施形態では、動作部材Ｓ３１０の操作により動作部材Ｓ３１０が露出状態とされた場合において、第２検出センサＳＳＣ２に動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂが検出される場合と、第２検出センサＳＳＣ２に動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂが検出されない場合とが生じ得るので、発生する演出として、大当たりの信頼度が高いものと、低いものとを用意しておけば、動作部材Ｓ３１０の操作により動作部材Ｓ３１０が露出状態とされた場合に、高信頼度の演出が発生するか、低信頼度の演出が発生するか、演出が発生しないかの何れかとなるよう構成することができる。
【８８２３】
　この場合、発生する演出により大当たりの信頼度が分かるため操作意欲を向上させることができるし、高信頼度の演出が発生しなかった場合であっても、スライド体Ｓ２３５０の移動態様（変位態様）の違いに因り第２検出センサＳＳＣ２に動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂが検出されなかったことが原因かもしれないと予想させることができるので、遊技者が変動中の抽選の大当たりを諦めてしまい、続く第２動作部材Ｓ３２０の操作を止めてしまうことを回避し易くすることができる。
【８８２４】
　そのため、高信頼度の演出が発生しなかった場合であっても、大当たりを諦めさせることなく、当落報知までの期間が虚無となることは無いため、動作部材Ｓ３１０の操作を敢えて行わないという遊技を選択させることを回避することができ、楽しんで遊技を行わせることができる。
【８８２５】
　＜操作中における追加の駆動態様＞
　遊技者が、動作部材Ｓ３１０を操作し、露出状態に維持させている場合（図４８２（ｃ）参照）における駆動モータＳ４４１（図４６６参照）の制御の一態様について説明する。
【８８２６】
　この駆動態様では、駆動モータＳ４４１は、一定期間ごとに駆動方向が正逆で切り替えられるように制御される。即ち、駆動モータＳ４４１の駆動軸に固定されるウォームギア

Ｓ４４１ａ、そのウォームギアＳ４４１ａに歯合される第１クラッチギアＳ４４５、その第１クラッチギアＳ４４５と堂珍で回転される第２クラッチギアＳ４４６、その第２クラッチギアＳ４４６に歯合される伝達ギアＳ４４７及びその伝達ギアＳ４４７に固定される動作アーム部材Ｓ４５５（図４６６参照）を、繰り返し往復動作させる駆動態様である。

【８８２７】

この駆動態様が継続される場合において、図４８２（ｃ）に図示される状態、即ち、第２検出センサＳＳＣ２に動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂが検出されない状態から、第２検出センサＳＳＣ２に動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂが検出される状態へと変化し得ることについて説明する。

【８８２８】

上述したように、駆動モータＳ４４１の正方向の回転駆動により動作アーム部材Ｓ４５５が右面視反時計回り方向に回転移動され、駆動モータＳ４４１の逆方向の回転駆動により動作アーム部材Ｓ４５５が右面視時計回り方向に回転移動されるよう構成されている。図４８２（ｃ）に図示される状態から、駆動モータＳ４４１が逆方向に回転駆動された場合、動作アーム部材Ｓ４５５に右面視時計回り方向の荷重が付与されるが、スライド体Ｓ２３５０の後方側長孔Ｓ３５５と連結される突設柱部Ｓ４５５ａの移動が妨害されることから、動作アーム部材Ｓ４５５は回転されない。駆動モータＳ４４１からの駆動力は第１クラッチギアＳ４４５と第２クラッチギアＳ４４６とが係合解除状態とされることで逃がされることになり（図４７０（ｂ）参照）、これと対応した音が生じる。

【８８２９】

一方で、図４８２（ｃ）に図示される状態から、駆動モータＳ４４１が正方向に回転駆動された場合、動作アーム部材Ｓ４５５に右面視反時計回り方向の荷重が付与される。受入凹部Ｓ２３５８が動作アーム部材Ｓ４５５の突設柱部Ｓ４５５ａの移動軌跡を含む形状とされていることから、動作アーム部材Ｓ４５５が受入凹部Ｓ２３５８に進入する態様で終端位置まで回転移動可能となっている。動作アーム部材Ｓ４５５が終端位置まで回転移動されることで、第２検出センサＳＳＣ２に動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂが検出される。

【８８３０】

従って、本実施形態によれば、動作部材Ｓ３１０を露出状態にさせる方向に操作した場合において、スライド体Ｓ２３５０及び動作アーム部材Ｓ４５５が第１の移動態様（変位態様）で移動されることで第２検出センサＳＳＣ２に動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂが即座に検出される場合と、スライド体Ｓ２３５０及び動作アーム部材Ｓ４５５が第２の移動態様（変位態様）で移動されることで第２検出センサＳＳＣ２に動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂが検出されない場合と、のみならず、スライド体Ｓ２３５０及び動作アーム部材Ｓ４５５が第２の移動態様（変位態様）で移動されることで第２検出センサＳＳＣ２に動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂが検出されない状態の後で、駆動モータＳ４４１の駆動により動作アーム部材Ｓ４５５が移動されることで第２検出センサＳＳＣ２に動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂが検出される場合と、が発生し得る。

【８８３１】

これにより、動作部材Ｓ３１０の操作直後に第２検出センサＳＳＣ２の検出結果に基づく演出が進行するか否かだけでなく、演出が進行しなかった場合であっても、遅れて（操作完了後に）演出が進行するかもしれないという期待感をもって遊技させることができる。これにより、遊技者の遊技に対する集中力を維持させることができる。

【８８３２】

次いで、図４８３から図４８６を参照し、第８１実施形態における操作デバイスＳ３３００について説明する。上記第７９実施形態では、スライド体Ｓ３５０と連動される動作アーム部材Ｓ４５５は被検出部Ｓ４５５ｂが一体成形されており、動作部材Ｓ３１０が露出状態まで移動された場合に第２検出センサＳＳＣ２の検出溝に位置され、検出される場合を説明したが、第８１実施形態では、スライド体Ｓ３５０と連動される動作アーム部材

Ｓ３４５５は被検出部Ｓ３４５５ｂが別体で相対移動可能に構成されており、被検出部Ｓ３４５５ｂの相対移動により、動作部材Ｓ３１０が露出状態まで移動された場合に第２検出センサＳＳＣ２の検出溝に被検出部Ｓ３４５５ｂが位置されないことによって第２検出センサＳＳＣ２に検出されない場合が発生し得るよう構成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【８８３３】

また、本実施形態では、動作部材Ｓ３１０に対して、トーションスプリングＳＳＰ１とは逆の方向の付勢力（動作部材Ｓ３１０に対して右面視反時計回り方向（動作部材Ｓ３１０を倒す方向）の付勢力）が、トーションスプリング（図示せず）により付与される。

【８８３４】

図４８３及び図４８４は、第８１実施形態における操作デバイスＳ３３００の右側面図であり、図４８５は、操作デバイスＳ３３００の部分正面図である。図４８３及び図４８５では動作部材Ｓ３１０の遮蔽状態が図示され、図４８４では動作部材Ｓ３１０の露出状態が図示され、図４８３では、干渉部材Ｓ３３８０が後方に下降傾斜して安定される第１姿勢とされている状態が図示され、図４８４では、図４８３に図示される状態から回転伝達部材Ｓ３３７０が１８０度回転され、干渉部材Ｓ３３８０が回転先端側を第１姿勢よりも上側に位置させる第２姿勢とされている状態が図示される。

【８８３５】

図４８３及び図４８４に図示されるように、操作デバイスＳ３３００は、第７９実施形態で上述した操作デバイスＳ３００に対して更に、上下方向に延びる回転軸を中心に回転可能に構成される回転伝達部材Ｓ３３７０と、その回転伝達部材Ｓ３３７０の回転に連動して左右方向に延びる回転軸を中心とする回転移動により姿勢変化する干渉部材Ｓ３３８０とを備える。

【８８３６】

これら回転伝達部材Ｓ３３７０及び干渉部材Ｓ３３８０を動作可能に支持するために、第７９実施形態で上述した支持構造体Ｓ３４０は、支持構造体Ｓ３３４０に設計変更されている。即ち、右側の支持構造体Ｓ３３４０は、第７９実施形態で上述した内側収容部Ｓ３４１と、仕切り板部Ｓ３４４と、を備える一方、外側蓋部Ｓ３４７が形状違いの外側蓋部Ｓ３３４７に設計変更されている。

【８８３７】

外側蓋部Ｓ３３４７は、主に樹脂材料から形成されており、下端部において開口形成される矩形穴Ｓ３３４７ａと、その矩形穴Ｓ３３４７ａの上方位置において右方へ張り出し形成される張出支持部Ｓ３３４７ｂと、矩形穴Ｓ３３４７ａよりも前側において下方へ延設される垂下延設部Ｓ３３４７ｃと、その垂下延設部Ｓ３３４７ｃに保持されており金属材料から円柱形状に形成される円柱部材Ｓ３３４７ｄと、を備える。

【８８３８】

回転伝達部材Ｓ３３７０は、張出支持部Ｓ３３４７ｂに回転可能に支持される部材であって、円柱形状の金属材料から一部を削り取る加工により形成される部材であって、張出支持部Ｓ３３４７ｂに回転可能に支持される軸棒部Ｓ３３７１と、その軸棒部Ｓ３３７１と同心の円板形状から形成される円板状部Ｓ３３７２と、その円板上部Ｓ３３７２と同心であって軸方向視の断面形状が同一とされる伝達部Ｓ３３７３と、を備える。

【８８３９】

回転伝達部材Ｓ３３７０は、軸棒部Ｓ３３７１が張出支持部Ｓ３３４７ｂに上下方向に穿設される貫通孔に下側から挿し通され、通過された上端側に脱落防止加工がされることにより、張出支持部Ｓ３３４７ｂからの脱落が防止される。

【８８４０】

脱落防止加工としては種々の態様が例示されるが、例えば、直径方向からの荷重でつぶす態様で塑性変形させた場合に荷重の方向と交差する方向に張り出した部分を抜け止めとして利用するようにしても良いし、軸棒部Ｓ３３７１の直径方向に貫通孔を穿設し、その貫通孔に棒状部材を嵌合させ、その棒状部材を軸棒部Ｓ３３７１の外周よりも外側へ張り

出させておくことにより抜け止めとして利用するようにしても良い。なお、本実施形態では、回転伝達部材Ｓ３３７０が金属材料であることを活用して、軸棒部Ｓ３３７１の先端部を張出支持部Ｓ３３４７ｂの貫通孔から脱落しない形状に塑性変形させる手段を採用している。

【８８４１】

円板状部Ｓ３３７２は、上下位置が矩形穴Ｓ３３４７ａと重なるよう配設されており、回転先端（外周面）がスライド体Ｓ３５０の右側面と当接する直径で形成される。当接位置を介して円板状部Ｓ３３７２がスライド体Ｓ３５０と連動（摺動）されるよう構成されていることから、スライド体Ｓ３５０の前後移動に基づいて回転伝達部材Ｓ３３７０が回転動作される。

【８８４２】

円板状部Ｓ３３７２の外周部には輪状のゴム部材が巻き付けられている。これにより、スライド体Ｓ３５０との間で滑りが抑制され、スライド体Ｓ３５０から円板状部Ｓ３３７２への動力の伝達を効率よく行うことができる。

【８８４３】

この場合において、スライド体Ｓ３５０の前後移動の際に、スライド体Ｓ３５０は円板状部Ｓ３３７２との当接が解除される位置まで移動可能とされているため（図４８４参照）、スライド体Ｓ３５０の移動量と円板状部Ｓ３３７２の回転移動量とは一対一で対応するものではなく、当接が解除された状態においては勢いが無くなるまで円板状部Ｓ３３７２の回転が継続され得る。そのため、スライド体Ｓ３５０の配置が同じであっても、回転伝達部材Ｓ３３７０の状態（位相）は同じであるとは限らないことになり、ランダム性を有する。

【８８４４】

伝達部Ｓ３３７３の上面は、軸棒部Ｓ３３７１の中心軸線（回転軸線）と直交する平面に対して傾斜する平面でカットされた形状となっている。そのため、最も下側の位置に形成される下位置部Ｓ３３７３ａと、最も上側の位置に形成される上位置部Ｓ３３７３ｂとが反対側（１８０度ずれた位置）に形成される（図４８５参照）。

【８８４５】

干渉部材Ｓ３３８０は、円柱部材Ｓ３３４７ｄに回転移動可能に支持される部材であって、円柱部材Ｓ３３４７ｄが挿通される貫通孔が基端側に形成される棒状の本体部Ｓ３３８１と、その本体部Ｓ３３８１の途中位置から幅方向に延設されており延設先端において回転伝達部材Ｓ３３７０側に突設される突設部を有する被支持部Ｓ３３８２と、本体部Ｓ３３８１の回転先端側から動作アーム部材Ｓ３４５５の被検出部Ｓ３４５５ｂ側（図４８３紙面奥側）へ向けて延設される干渉延設部Ｓ３３８３と、を備える。

【８８４６】

図４８５に図示されるように、操作デバイスＳ３３００において動作部材Ｓ３１０に正面視で隠されない位置に動作アーム部材Ｓ３４５５の被検出部Ｓ３４５５ｂが位置される。そのため、上下皿ユニットＳ１５を透過性の樹脂材料から形成することにより、被検出部Ｓ３４５５ｂを遊技者が視認可能となるように構成することができる。そのため、被検出部Ｓ３４５５ｂの状態を知りたい場合に、遊技者は、被検出部Ｓ３４５５ｂに注目することで被検出部Ｓ３４５５ｂの状態（第１検出センサＳＳＣ１に検出されるか、第２検出センサＳＳＣ２に検出されるか、検出が生じないか）を把握することができるため、被検出部Ｓ３４５５ｂに遊技者の視線を集める状態を構成することができる。

【８８４７】

図４８６（ａ）及び図４８６（ｂ）は、動作部材Ｓ３１０、追従動作部材Ｓ３３０、スライド体Ｓ３５０、回転伝達部材Ｓ３３７０、干渉部材Ｓ３３８０及び動作アーム部材Ｓ３４５５の模式図である。

【８８４８】

図４８６（ａ）及び図４８６（ｂ）では、動作部材Ｓ３１０、追従動作部材Ｓ３３０、スライド体Ｓ３５０、回転伝達部材Ｓ３３７０、干渉部材Ｓ３３８０及び動作アーム部材

Ｓ３４５５の対応関係が模式的に図示されており、図４８６（ａ）では、遮蔽状態（図４５７参照）における動作部材Ｓ３１０の延設円柱部Ｓ３１２が図示されると共に干渉部材Ｓ３３８０が第１姿勢とされる状態が図示され、図４８６（ｂ）では、露出状態（図４５８参照）における動作部材Ｓ３１０の延設円柱部Ｓ３１２が図示されると共に干渉部材Ｓ３３８０が第２姿勢とされる状態が図示される。なお、理解を容易とするために、回転伝達部材Ｓ３３７０の軸棒部Ｓ３３７１における円板上部Ｓ３３７２よりも上方側へ延びる部分の図示が省略されている。

【８８４９】

動作アーム部材Ｓ３４５５は、突設柱部Ｓ４５５ａが形成される変位体と、被検出部Ｓ３４５５ｂが形成される変位体とが別体で形成されており、これらが同心で相対的に回転移動可能（共通の回転軸線として第２支柱Ｓ４４４の中心軸を設定、図４６６参照）に構成されており、トーションスプリングＳＳＰ３５により被検出部Ｓ３４５５ｂに対して右面視反時計回り方向の付勢力が付与されており、被検出部Ｓ３４５５ｂに何ら近接力が付与されていない場合には突設柱部Ｓ４５５ａとの位置関係が、動作アーム部材Ｓ４５５の被検出部Ｓ４５５ｂとして上述したものと同様となるように維持されるよう被検出部Ｓ３４５５ｂの回転移動の終端位置（付勢力により付勢される方向の回転移動の終端位置）が設定される形状で構成される。

【８８５０】

干渉部材Ｓ３３８０の被支持部Ｓ３３８２は、先端の突設部が回転伝達部材Ｓ３３７０の伝達部Ｓ３３７３の上面に下支えされるよう配設される。伝達部Ｓ３３７３の上面は水平面に対して傾斜する平面なので、被支持部Ｓ３３８２が支持される高さが回転伝達部材Ｓ３３７０の回転に連動して変化されるので、回転伝達部材Ｓ３３７０の回転に連動して干渉部材Ｓ３３８０の姿勢が変化される。

【８８５１】

干渉部材Ｓ３３８０は、第１姿勢では、動作アーム部材Ｓ３４５５の被検出部Ｓ３４５５ｂの移動軌跡（移動可能領域）から干渉延設部Ｓ３３８３が退避されており（図４８６（ａ）参照）、第２姿勢では、動作アーム部材Ｓ３４５５の被検出部Ｓ３４５５ｂの移動軌跡（移動可能領域）に干渉延設部Ｓ３３８３が進入している。

【８８５２】

干渉部材Ｓ３３８０が第１姿勢とされている場合には、動作アーム部材Ｓ３４５５は第７９実施形態で上述した動作アーム部材Ｓ４５５と同様に形状が維持されたまま回転移動（回転変位）される。一方で、干渉部材Ｓ３３８０が第２姿勢とされている場合には、動作アーム部材Ｓ３４５５の被検出部Ｓ３４５５ｂの移動が干渉延設部Ｓ３３８３に阻害され、被検出部Ｓ３４５５ｂが動作アーム部材Ｓ３４５５の突設柱部Ｓ４５５ａとの間の角度が小さくなる側に向かって突設柱部Ｓ４５５ａに対して相対変位される。即ち、被検出部Ｓ３４５５ｂの変位態様が変化される。

【８８５３】

このように、第８１実施形態では、スライド体Ｓ３５０を介する荷重伝達によって回転伝達部材Ｓ３３７０の回転動作が生じることに基づいて、被案内物体であるスライド体Ｓ３５０及び動作アーム部材Ｓ３４５５の移動態様（変位態様）が変化される。

【８８５４】

これにより、動作部材Ｓ３１０が露出状態とされた場合であっても、第２検出センサＳＳＣ２の検出溝に被検出部Ｓ３４５５ｂが位置する場合（スライド体Ｓ３５０が前方へ移動される際に干渉部材Ｓ３３８０が第１姿勢（図４８６（ａ）参照）側へ退避されることで被検出部Ｓ３４５５ｂの移動が干渉部材Ｓ３３８０に阻害されなかった場合）と、第２検出センサＳＳＣ２の検出溝に被検出部Ｓ３４５５ｂが位置しない場合（図４８６（ｂ）参照）とが発生し得る。そのため、動作部材Ｓ３１０を遮蔽状態から露出状態へ向けて移動させるという同一の操作が行われる場合において、異なる入力を発生させることが可能であって、演出態様のバリエーションを増やすことができる。

【８８５５】

第８１実施形態では、動作部材Ｓ３１０を遮蔽状態から露出状態へ向けて移動させる場合におけるスライド体Ｓ３５０の移動態様は、干渉部材Ｓ３３８０の状態に関わらず、同様とされるので、動作部材Ｓ３１０を介して遊技者が受ける反力は異なるものではない。

【８８５６】

干渉部材Ｓ３３８０が被検出部Ｓ３４５５ｂの変位を阻害する際には、その分の抵抗力がスライド体Ｓ３５０を介して動作部材Ｓ３１０に伝達されることにはなるが、抵抗力を生じさせるトーションスプリングＳＳＰ３５の付勢力が、動作部材Ｓ３１０に（倒れる方向の）付勢力を与えるトーションスプリングにより生じる付勢力に比較して著しく小さくなるように構成されていることから、干渉部材Ｓ３３８０の態様に関わらず同様の操作感で動作部材Ｓ３１０の操作をさせることができる。

【８８５７】

以上、上記実施形態に基づき本発明を説明したが、本発明は上記形態に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲内で種々の変形改良が可能であることは容易に推察できるものである。

【８８５８】

上記各実施形態において、一の実施形態における構成の一部または全部を、他の実施形態における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の実施形態としても良い。

【８８５９】

上記各実施形態では、球発射ユニットＨ１１２ａが、内枠Ｈ１２に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球発射ユニットＨ１１２ａが正面枠Ｓ１４に配設されても良い。この場合、正面枠Ｓ１４が開放された状態において遊技球の発射が生じることを防止することができる。

【８８６０】

上記各実施形態では、操作デバイスＳ３００がパチンコ機Ｓ１０に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、操作デバイスＳ３００を他のパチンコ機Ｋ１０，Ｈ１０，Ｐ１０，Ｐ６０１０，Ｐ７０１０，Ｐ８０１０に配設しても良いし、逆に、他のパチンコ機Ｋ１０，Ｈ１０，Ｐ１０，Ｐ６０１０，Ｐ７０１０，Ｐ８０１０の操作デバイスをパチンコ機Ｓ１０の操作デバイスＳ３００に代替しても良い。そもそも、代替が可能となるように、配置位置が同一となるように構成されている。

【８８６１】

上記各実施形態では、操作デバイスＳ３００の操作に対応して第３図柄表示装置Ｈ８１の表示が変更される（更新される）場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、表示の変更に加えて（又は代えて）、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３に内蔵されるＬＥＤ等の発光手が発光制御されるようにしても良い。この場合、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示領域とは異なる領域を使って、操作に対応する演出を実行することができ、遊技者の視認領域を広げることができる。

【８８６２】

上記各実施形態では、動作部材Ｓ３１０の形状を伝って変位した先の位置に第２動作部材Ｓ３２０が位置する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、動作部材Ｓ３１０の形状を伝って手を移動させても第２動作部材Ｓ３２０に触れない程度に動作部材Ｓ３１０から第２動作部材Ｓ３２０が離間して配置されても良い。この場合、遊技者が誤って動作部材Ｓ３１０と第２動作部材Ｓ３２０との間に指を挟む事態を避けることができる。

【８８６３】

上記各実施形態では、第２動作部材Ｓ３２０の操作のために動作部材Ｓ３１０を露出状態とする必要がある場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態からの下降動作により第２動作部材Ｓ３２０と当接可能に構成しても良い。この場合、動作部材Ｓ３１０を遮蔽状態で維持させながら、動作部材Ｓ３１０を押し込み方向に操作することで、動作部材Ｓ３１０を介して第２動作部材Ｓ３２０

に荷重を与えることが可能であって、第２動作部材Ｓ３２０の操作を実行させることができる。この場合において、第２動作部材Ｓ３２０の動作範囲を適切に設定することにより、第２動作部材Ｓ３２０の動作に基づく第３検出センサＳＳＣ３による検出を実行させることができる。

【８８６４】

上記各実施形態では、第２動作部材Ｓ３２０の動作に対応して回転検出部材Ｓ４１０が動作され、その回転検出部材Ｓ４１０が第３検出センサＳＳＣ３により検出される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２動作部材Ｓ３２０に被検出部が形成され、その被検出部が検出溝に進入可能となる位置に別個の検出センサが配設されるようにしても良い。この場合、部材個数を削減させることができると共に、第２動作部材Ｓ３２０の微小な変位も検出し易くすることができるので、第２動作部材Ｓ３２０の振動による動作を利用した演出を実行し易くすることができる。

【８８６５】

上記各実施形態では、動作部材Ｓ３１０の回転軸と、第２動作部材Ｓ３２０の回転軸とが、同軸ではない場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、動作部材Ｓ３１０の回転軸と、第２動作部材Ｓ３２０の回転軸とが、同軸（同一直線上）となるように構成されても良い。この場合、操作方向を同一（同軸円状）とすることができるので、遊技者の操作難易度を下げることができ、操作負担を低減することができる。

【８８６６】

上記各実施形態では、回転検出部材Ｓ４１０が樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、金属材料から形成されるようにしても良いし、少なくとも対向部Ｓ４１１が金属材料から形成されても良い。この場合、第２動作部材Ｓ３２０からの荷重により破損が生じることを防止し易くすることができる。また、少なくとも被検出部Ｓ４１２を樹脂材料から形成することで、第３検出センサＳＳＣ３との衝突が生じたとしても、第３検出センサＳＳＣ３を破損させることを防止し易くすることができる。

【８８６７】

上記各実施形態では、第１クラッチギアＳ４４５及び第２クラッチギアＳ４４６が、係合状態と係合解除状態とで切り替えられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、係合状態を常に維持可能に構成しても良い。この場合、駆動力の伝達を安定させることができる。この場合において、第２クラッチギアＳ４４６を第１クラッチギアＳ４４５側に押し付ける方向の駆動力を生じる電磁ソレノイドを配設しても良い。この場合、電磁ソレノイドに印加する電流の調整によって、係合解除状態を構成する場合（電磁力弱）と、係合解除状態を構成しない場合（電磁力強）とを構成することができる。また、第２クラッチギアＳ４４６が伝達ギアＳ４４７との噛み合いが外れる位置まで第１クラッチギアＳ４４５から離間した場合であっても、再度第１クラッチギアＳ４４５に近接させる動作を生じさせ易くすることができる。

【８８６８】

上記各実施形態では、第２クラッチギアＳ４４６が軸方向に変位することで第１クラッチギアＳ４４５と衝突する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２クラッチギアＳ４４６の右側から径方向外側へ向けてフランジ状の衝突部が形成され、その衝突部が、伝達ギアＳ４４７と衝突可能に構成されても良い。この場合、第２クラッチギアＳ４４６の衝突する箇所を複数位置とすることができるので、各衝突位置に生じる荷重を低減することができる。

【８８６９】

更に、これに加えて、又は代えて、第２クラッチギアＳ４４６と左右方向で対向配置される突条状の突設部が左側支持体Ｓ４４２の内側面から右方に突設形成されており、第２クラッチギアＳ４４６がコイルスプリングＳＳＰ３の付勢力の方向に移動された場合に、左側支持体Ｓ４４２の突設部と衝突されるように構成しても良い。この場合、第２クラッチギアＳ４４６の衝突する箇所を複数位置とすることができるので、各衝突位置に生じる

荷重を低減することができる。
【８８７０】
この場合において、左側支持体Ｓ４４２の突設部は、左側支持体Ｓ４４２に一体形成されても良いし、別体の部材が配設されても良い。別体とする場合において、左側支持体Ｓ４４２自体や、伝達ギアＳ４４７の素材よりも硬い素材を選んでも良いし、柔らかい素材を選んでも良い。特に、柔らかい素材を選ぶようにすれば、衝突時において左側支持体Ｓ４４２に伝達される衝撃を緩和することができると同時に、これにより荷重が低減された状態で伝達ギアＳ４４７に当接させることができるので、衝突部位の破損を避けることができる。
【８８７１】
また、第２クラッチギアＳ４４６からフランジ状に形成される衝突部が、位置のずれにより、伝達ギアＳ４４７に衝突しない場合には特に、生じる衝突音を小さく抑えることができるので、衝突音が常に大きい場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減させることができる。
【８８７２】
上記各実施形態では、動作部材Ｓ３１０の動作に対応して第２検出センサＳＳＣ２において検出がされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１検出センサＳＳＣ１と第２検出センサＳＳＣ２との間に追加の検出センサが配設され、その追加の検出センサにより検出がされた場合に、特定の演出を実行させるようにしても良い。この場合に、第２検出センサＳＳＣ２での検出が生じた場合に実行される演出と異なる演出が実行されても良いし、同じ演出が実行されても良い。
【８８７３】
上記各実施形態では、第１継続態様の駆動が動作部材Ｓ３１０の操作態様に関わらず継続される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、動作部材Ｓ３１０を露出状態として第２動作部材Ｓ３２０を操作すると第１継続態様が停止されるようにしても良い。この場合、第２動作部材Ｓ３２０の操作のために動作部材Ｓ３１０を露出状態から移動しないように押さえておくという煩雑な操作を回避できると共に、その操作を回避できたことにより、第２動作部材Ｓ３２０を操作するために掴んだ遊技者の手が動作部材Ｓ３１０に挟まれる事態を避けることができる。
【８８７４】
また、第１継続態様の停止は、動作部材Ｓ３１０の動作と第２動作部材Ｓ３２０の動作順序を条件としても良いし、条件としなくても良い。例えば、動作部材Ｓ３１０の遮蔽状態において第２動作部材Ｓ３２０を操作可能に構成されている場合において、動作部材Ｓ３１０を遮蔽状態に維持しつつ第２動作部材Ｓ３２０を操作することにより、第１継続態様の駆動が停止されても良い。この場合、第１継続態様による音の発生を、動作部材Ｓ３１０の操作を要することなく止めることができるので、遊技者の遊技負担を低減させることができる。
【８８７５】
上記各実施形態では、パチンコ機Ｓ１０が、演出実行タイミングＳＴ１０よりも前のタイミングであって、操作期間外の事前タイミングＳＴ１１，ＳＴ１２，ＳＴ１３における動作部材Ｓ３１０の状態を検出して制御に活用される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、操作期間外での動作部材Ｓ３１０の状態の検出による判断はしないように制御しても良い（そもそも検出をしないように構成しても良い）。この場合、操作期間外で操作して状態を変えておくことで操作期間が開始された後の演出態様を好みの態様にするという遊技が可能となるので、遊技者が遊技環境を自由にカスタマイズすることができ、遊技の自由度を向上させることができる。
【８８７６】
上記各実施形態では、動作部材Ｓ３１０の操作を行った場合に第３図柄表示装置Ｈ８１で「ＯＫ」の文字表示が特定の確率で表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、操作タイミングに対応して表示が実行される確率が変わるよ

うにしても良く、そのことを制限時間の表示と共に、報知しても良い。この場合、動作部材Ｓ３１０の操作に集中させることができる。
【８８７７】
上記各実施形態では、動作部材Ｓ３１０の操作に基づいて第３図柄表示装置Ｈ８１において「ＯＫ」の文字表示が確率でされ、その後の演出実行タイミングＳＴ１０の到達に基づいて強操作表示演出ＳＤ０１が実行され、タイマー表示による制限時間内に第２動作部材Ｓ３２０に対する押し込みの操作（レバーを引く方向の操作）が行われたと検出されると、第３図柄表示装置Ｈ８１において「スーパー大当たり」の文字表示がされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、各文字表示は、静止画として表示されても良いし、動画として表示されても良い。動画の場合、静止画に比較して識別し難くすることができるので、なんとかして識別しようとする遊技者の視線を集め易い。
【８８７８】
動画としては、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示領域中または表示領域外を含む仮想の領域（表示領域の端から外へ移動する場合には表示領域からは消える）を文字表示が移動するように表示するように制御しても良いし、文字表示が移動するように表示された後で静止画同様に停止するように表示するように制御しても良い。
【８８７９】
この場合において、一度停止した文字表示は、その停止の時間長さによらず再動作はしないように構成しても良い。この場合、文字表示の停止を識別し易くすることができる。また、停止の時間長さの長短によっては（例えば、０．５秒よりも短い期間の停止の場合には）、再動作が開始されて再度停止されるように構成しても良い。この場合、文字表示に対する遊技者の注目力を向上させることができる。
【８８８０】
なお、動作部材Ｓ３１０の操作に基づいて第３図柄表示装置Ｈ８１においてされる表示は「ＯＫ」の文字表示に限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、次操作の存在を示唆する「ＮＥＸＴ」の文字表示でも良いし、遊技者に有利であることを示唆する「ＣＨＡＮＣＥ」の文字表示でも良いし、パチンコ機Ｓ１０に採用されたルールに基づいて特定の意味を遊技者に報知する「１」～「１３」等の数字でも良いし、文字表示ではなく、物語の登場キャラクター等を示す絵柄や、その他のイラストや模様でも良い。
【８８８１】
なお、第２動作部材Ｓ３２０に対する押し込みの操作（レバーを引く方向の操作）が行われたと検出されることに基づいて第３図柄表示装置Ｈ８１において生じる表示は、「スーパー大当たり」の文字表示に限られるものではなく、種々の態様が例示される。
【８８８２】
例えば、遊技機の特徴を含む文字表示でも良い。この場合において、動作部材Ｓ３１０が貝を模していることから、「貝全開ボーナス」の文字表示をしても良い。例えば、遊技により得られる利益（遊技価値）を報知するものでも良い。
【８８８３】
また、例えば、遊技進行のベースを報知するものでも良い。この場合において、進行される遊技態様にかかる情報の報知が続いて表示されても良い。即ち、大当たり報知後に進行される遊技が「右打ち」を要求する場合（右打ち遊技状態となる場合）、「スーパー大当たり」の文字表示に続いて、「右打ち」の文字表示および右向き矢印が第３図柄表示装置Ｈ８１において表示されることで、遊技者は「右打ち」で遊技を行えばいいことを容易に把握することができる（右打ちの遊技状態であることを把握することができる）。
【８８８４】
なお、進行される遊技態様にかかる情報の報知は、文字表示に限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、変動演出として、複数の登場キャラクターをベースに展開される物語のあらすじを説明する動画やテキストが表示されても良いし、抽選変動から大当たり獲得までの流れを説明する動画やテキストが表示されても良い。
【８８８５】

上記各実施形態では、第１事前タイミングＳＴ１１において遮蔽状態からの動作部材Ｓ３１０の操作を促す表示演出が実行されるものであって、第１事前タイミングＳＴ１１から５秒経過することで演出実行タイミングＳＴ１０が到来し、演出実行タイミングＳＴ１０から５秒経過すると図柄が停止して、「スーパー大当たり」等の文字表示がされることを説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、動作部材Ｓ３１０の操作を促す表示演出に沿って動作部材Ｓ３１０の操作が実行されたことに基づいて「ＯＫ」の文字表示が実行されてから、演出実行タイミングＳＴ１０が到来するまでの期間が可変となるように制御されても良い（同様に、図柄停止タイミングや、「スーパー大当たり」等の文字表示の実行タイミングも可変となるように制御されても良い）。この場合、操作デバイスＳ３００の駆動タイミングや、操作デバイスＳ３００の操作に基づく報知がされるタイミングを不定とすることができ、遊技者に意外性のある遊技を提供することができるので、操作デバイスＳ３００への注目力を高い状態で維持させることができる。

【８８８６】

上記各実施形態では、第１制御態様ＳＰ０１として制御の一例を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、動作部材Ｓ３１０を開放させる報知が実行されずに、正方向への駆動モータＳ４４１の回転駆動が実行される場合を構成可能としても良い。この場合、短い期間（細切れの期間）を操作演出に有効に利用することができる。

【８８８７】

また、動作部材Ｓ３１０の押し込みを示唆する報知が単独で実行される制御を構成しても良いし、動作部材Ｓ３１０の状態に関わらず第２動作部材Ｓ３２０の操作を示唆する報知を表示して、デバイスと表示とのチグハグさで演出を実行しても良い。

【８８８８】

上記各実施形態では、第２制御態様ＳＰ０２として、第１制御態様ＳＰ０１の制御に存在する動作部材Ｓ３１０を開放させる報知が用意されない制御態様を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１制御態様ＳＰ０１での制御を実行中において、動作部材Ｓ３１０の状態の検出に基づいて（即ち、露出状態であることの検出をもって）動作部材Ｓ３１０を開放させる報知がキャンセルされるように構成しても良い。この場合、第２制御態様ＳＰ０２を用意する必要をなくすことができるので、データ容量を有効利用することができる。

【８８８９】

上記各実施形態では、第３制御態様ＳＰ０３として制御の一例を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、操作示唆の表示の直前に動作部材Ｓ３１０が露出状態とされた場合において、動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態となった上で押し込みが検出されることを演出の進行に必要とするのではなく、露出状態とされたことは第２検出センサＳＳＣ２での検出により判断させた上で、可変抵抗器Ｓ３６０の抵抗値の変化から動作部材Ｓ３１０の遮蔽状態からの押し込み操作の角度と同様の角度の操作があったことに基づいて、演出を進行させるようにしても良い。この場合、露出状態から遮蔽状態へ到達させた上での押し込み操作を要する場合に比較して、操作が間延びすることを防止することができる。

【８８９０】

上記各実施形態では、常時駆動の第１継続態様は、操作量に対応せず、一定駆動である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転動作された後の動作部材Ｓ３１０が初期位置まで戻る時間を一定とする制御を構成しても良い。この場合、遮蔽状態からの操作量が大きいほど、駆動モータＳ４４１の駆動速度が大となり、動作部材Ｓ３１０を動かないように押さえておく場合に第１クラッチギアＳ４４５と第２クラッチギアＳ４４６とが係合状態と係合解除状態とを繰り返すことにより生じる音の密度（頻度）が大となることから、遊技者に感じさせる音の質感を大きく（強く）することができる。

【８８９１】

これにより、動作部材Ｓ３１０の操作量と、遊技者に聞かせる音との対応のバランス感

を向上させることができ、違和感なく遊技をさせることができる。即ち、少操作だと演出が進まない原因になり、過操作だと、デバイスに対して過荷重がかかってしまい、故障の原因となるばかりでなく、なにより遊技者が疲れることになるが、これらの原因は適切な操作量を遊技者が把握できていないことが原因であることが多い所、音により適切な操作量を把握させることにより、これらの問題点の早期解決を図ることができる。

【８８９２】

上記各実施形態では、常時駆動の第１継続態様が実行される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、常時ではなく、動作部材Ｓ３１０に遊技者が触れたことを検出した場合に駆動制御されるように構成しても良い。これにより、回転動作物体である第１クラッチギアＳ４４５と第２クラッチギアＳ４４６とが係合状態と係合解除状態とを繰り返すことにより生じる音の発生を、動作部材Ｓ３１０に遊技者が触れている期間に限定することができるので、常に音が鳴って故障かと疑われる事態を避けることができる。

【８８９３】

上記第８０実施形態では、被衝突部Ｓ２３４５が固定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、被衝突部Ｓ２３４５が可動に構成され、駆動装置により動作されても良い。この場合、スライド体Ｓ２３５０の変位態様を駆動により変化させることが可能とされ、即ち、強演出が生じるか否かに基づいて、スライド体Ｓ２３５０の変位態様を切り替えるよう制御することができる。また、被衝突部Ｓ２３４５の動作が、第２動作部材Ｓ３２０の操作に基づいて実行されても良い。即ち、第２動作部材Ｓ３２０の操作がされたことが検出されたことに基づいて、被衝突部Ｓ２３４５が下降移動されるように駆動され、スライド体Ｓ２３５０の変位態様が、動作アーム部材Ｓ４５５が第２検出センサＳＳＣ２に検出されない態様とされても良い。

【８８９４】

上記第８０実施形態では、被衝突部Ｓ２３４５が樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、被衝突部Ｓ２３４５が金属材料から形成されても良い。この場合、被衝突部Ｓ２３４５が衝突により破損する等、形状が変化することを避け易い。また、被衝突部Ｓ２３４５の突設先端側が大きくなるように構成しても良い。この場合、突設先端側と衝突したスライド体Ｓ２３５０を突設基端側へ寄せることができるので、スライド体Ｓ２３５０の変位を安定させることができる。

【８８９５】

上記第８０実施形態では、被衝突部Ｓ２３４５に当接して前方側へ変位したスライド体Ｓ２３５０は、同じ経路を戻るようにして後方側へ変位可能に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、スライド体Ｓ２３５０を後方に吸引する機構および下方に送り出す機構を設け、空気圧や（電）磁力により、前方側への変位の経路とは異なる経路でスライド体Ｓ２３５０が後方へ復帰するように構成しても良い。この場合、好適にスライド体Ｓ２３５０の配置をリセットさせることができ、偶然性に任せる場合に比較して復帰がうまくいかないということを避けやすくすることができる。

【８８９６】

上記第８１実施形態では、円板状部Ｓ３３７２の滑りの抑制をゴム素材での摩擦により行ったが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、形状で行っても良い。例えば、円板状部Ｓ３３７２の外周に沿って複数の凹凸形状が形成されることで、滑らかな形状に比較して滑りの発生を抑制できるようにしても良い。

【８８９７】

上記第８１実施形態では、円板状部Ｓ３３７２がスライド体Ｓ３５０と離間している場合にも回転可能である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、スライド体Ｓ３５０との当接時にしか回転動作はしないが、一方向にしか回転しないようになっており、スライド体Ｓ３５０の位置と円板状部Ｓ３３７２の位置との関係がずれるように構成しても良い。この場合、回転伝達部材Ｓ３３７０が勢いよく回転することにより干渉部材Ｓ３３８０が高速動作する事態を避け易いので、他の箇所との衝突により干

涉部材Ｓ３３８０が破損することを防止することができる。
【８８９８】
上記第８１実施形態では、上下皿ユニットＳ１５が透過性の樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上下皿ユニットＳ１５を透過性の樹脂材料ではなく、非透過性の材料から形成することにより、動作アーム部材Ｓ３４５５の目視での視認を防止しても良い。この場合、目視で確認できなくすることで、演出に注目させられる。
【８８９９】
上記各実施形態では、動作部材Ｓ３１０の操作を回転移動により行わせる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、動作部材Ｓ３１０の操作はタッチ式での操作を可能としても良い。この場合において、動作部材Ｓ３１０が遮蔽状態となっていても、追従動作部材Ｓ３３０を押し下げることで第２動作部材Ｓ３２０への経路を確保でき、第２動作部材Ｓ３２０の操作をすることが可能とされる。
【８９００】
上記各実施形態では、動作部材Ｓ３１０の動作可能角度範囲内において、動作が規制されない場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、動作部材Ｓ３１０の露出方向への移動を規制する規制部材（ロック部材）を構成しても良い。この場合、操作を示唆する期間外に移動の規制を行うことで、意図しないタイミングで遮蔽状態から動作部材Ｓ３１０が動かされることを回避できるので、動作部材Ｓ３１０の動作パターンを最小限に抑えることができ、採用する制御パターンの数を少なくすることができる。
【８９０１】
上記各実施形態では、被衝突部Ｓ２３４５と、回転伝達部材Ｓ３３７０及び干渉部材Ｓ３３８０とを、別々に説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、被衝突部Ｓ２３４５と、回転伝達部材Ｓ３３７０及び干渉部材Ｓ３３８０とを、同時に採用しても良い。
【８９０２】
上記各実施形態では、スライド体Ｓ３５０，Ｓ２３５０が形状固定の場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、スライド体Ｓ３５０，Ｓ２３５０が、付勢力で一体化されているものであって、荷重により分離可能に構成しても良い。この場合において、荷重を付与する動作部材が、駆動力によりスライド体Ｓ３５０，Ｓ２３５０に近接離反する方向で動作するものであって、近接し当接により荷重が付与された場合に、付勢力での一体化の態様を変化（一部分離など）させることで、スライド体Ｓ３５０，Ｓ２３５０の変位態様が変化され、動作アーム部材Ｓ４５５，Ｓ３４５５の動作態様が変化され、第２検出センサＳＳＣ２の検出が生じるか否かが変わるように構成しても良い。
【８９０３】
上記各実施形態において、音声ランプ制御装置Ｈ１１３での判断で実行されると説明された制御は、主制御装置Ｈ１１０で実行されても良い。また、主制御装置Ｈ１１０での判断で実行されると説明された制御は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３で実行されても良い。
【８９０４】
本発明を上記各実施形態とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される）として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の領域に球を入賞させることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるパチンコ機として実施してもよい。また、Ｖゾーン等の特別領域を有する入賞装置を有し、その特別領域に球を入賞させることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機に実施してもよい。更に、パチンコ機以外にも、アレパチ、雀球、スロットマシン、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機などの各種遊技機として実施するようにしても良い。
【８９０５】

なお、スロットマシンは、例えばコインを投入して図柄有効ラインを決定させた状態で操作レバーを操作することにより図柄が変動され、ストップボタンを操作することにより図柄が停止されて確定される周知のものである。従って、スロットマシンの基本概念としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を変動表示した後に識別情報を確定表示する表示装置を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の変動表示が停止して確定表示され、その停止時の識別情報の組合せが特定のものであることを必要条件として、遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるスロットマシン」となり、この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【８９０６】

また、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する表示装置を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく所定量の球の投入の後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技が発生させられ、遊技者には、下部の受皿に多量の球が払い出されるものである。かかる遊技機をスロットマシンに代えて使用すれば、遊技ホールでは球のみを遊技価値として取り扱うことができるため、パチンコ機とスロットマシンとが混在している現在の遊技ホールにおいてみられる、遊技価値たるメダルと球との別個の取扱による設備上の負担や遊技機設置個所の制約といった問題を解消し得る。

【８９０７】

以下に、本発明の遊技機に加えて上述した実施形態に含まれる各種発明の概念を示す。

【８９０８】

＜第１操作手段を第２操作手段で隠したり露出させたりする構成＞

第１操作手段と、その第１操作手段の所定部を所定方向視で露出させる第１状態と当該第１状態よりも前記所定部を視認され難くさせる第２状態とで切り替え可能な第２操作手段と、を備え、前記第２操作手段の所定の操作量に対応した変位量で変位手段が変位されるように構成され、前記変位手段が所定位置に位置したことを検出可能な検出手段と、駆動手段と、その駆動手段の駆動力を前記変位手段に伝達させる伝達手段と、を備え、所定期間において前記第２操作手段を前記第２状態から前記第１状態へ切り替える態様で実行される所定操作に基づいて前記検出手段によって所定の検出がされた場合に第１の演出が実行可能に構成され、少なくとも前記第２操作手段が前記第１状態である場合において、前記第１操作手段に対して特定操作を行うことが可能に構成され、前記特定操作が所定期間継続して実行された場合に、前記第１の演出とは異なる第２の演出が実行されるように構成されていることを特徴とする遊技機ＳＡ１。

【８９０９】

パチンコ機等の遊技機において、操作手段を隠す状態と露出させる状態とで開閉動作する可動蓋部材を備える遊技機がある（例えば、特開２０１２－４８９７０号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、操作手段を操作させる場合には可動蓋部材が操作手段を露出させる状態となるため、可動蓋部材が操作手段を隠す状態では、操作手段の操作が生じないことを遊技者が気づいてしまい、操作手段の操作を促す報知を効果的に行うことができず、操作手段を隠す状態と露出させる状態とを好適に構成する観点で改善の余地があるという問題点があった。

【８９１０】

これに対し、遊技機ＳＡ１によれば、第２状態から第１状態へ切り替える態様で実行される所定操作に基づいて検出手段によって所定の検出がされた場合に第１の演出が実行され、更に、第１操作手段に対する特定操作が所定期間継続して実行された場合に演出が第

２の演出となるように構成されることから、第２操作手段が第１状態であるか第２状態であるかに関わらず、第１操作手段の操作に対する期待感を向上させることができる（第２操作手段が第２状態である場合であっても、第２操作手段を第２状態から第１状態へ切り替える態様の操作に基づく第１操作手段の操作が実行可能となっており、その操作が促されることに対する期待感を向上させることができる）。従って、操作手段を隠す状態と露出させる状態とを好適に構成することができる。

【８９１１】

また、第１操作手段および第２操作手段を利用した一連の操作演出とすることで、単発の操作演出に比較して演出期間を長く用意することができ、遊技者の興趣の向上を図ることができる。

【８９１２】

遊技機ＳＡ１において、少なくとも前記所定操作が実行されている場合において、前記伝達手段が遊技機の所定部と衝突することによる音を生じさせることが可能に構成されることを特徴とする遊技機ＳＡ２。

【８９１３】

遊技機ＳＡ２によれば、遊技機ＳＡ１の奏する効果に加え、伝達手段と所定部との衝突に基づく音により、第２操作手段を操作している遊技者に対して操作している実感を生じさせることができ、更に、演出内容に関わらず（演出との関係における要否に関わらず）音を生じさせることにより、伝達手段により伝達される駆動手段の駆動力により第２操作手段を第２状態に切り替える制御が実行された場合に生じた音なのかどうかを遊技者に分かり難くさせることができるので、演出の展開を予想し難くすることができ、演出に集中させることができる。

【８９１４】

遊技機ＳＡ１又はＳＡ２において、前記所定操作が実行されている場合における前記変位手段の変位態様が第１の変位態様または第２の変位態様で変化可能となるように構成され、前記変位手段が前記第１の変位態様で変位される場合に前記所定の検出がされ、前記変位手段が前記第２の変位態様で変位される場合に前記所定の検出がされないことを特徴とする遊技機ＳＡ３。

【８９１５】

遊技機ＳＡ３によれば、遊技機ＳＡ１又はＳＡ２の奏する効果に加え、第２操作手段に対する操作意欲を向上させることができる。即ち、第２操作手段に対して所定操作を実行した場合に検出手段に所定の検出がされることが確定している場合、実行される演出の態様により遊技者は何らかの情報を得ることが可能となるが、例えば、第１の演出が実行されたらほぼ大当たりであるが、第１の演出が実行されなかった場合に当該変動がほぼ外れとなるよう構成されている場合、第２操作手段を操作することによる利益よりも不利益（外れが報知されるよりも前にほぼ外れであると知ること）の方が大きく、第２操作手段の操作を行わないようになる可能性があるという問題点があった。

【８９１６】

これに対し、遊技機ＳＡ３によれば、第２操作手段に対して所定操作を実行した場合に検出手段に所定の検出がされるかどうかは、変位手段の変位態様によって変化するため、所定の検出がされた場合に、第１の演出が実行されたらほぼ大当たりであるが、第１の演出が実行されなかった場合には当該変動がほぼ外れとなるよう構成されていたとしても、第１の演出が実行されないことが、所定の検出がされた結果なのか、変位手段の変位態様によるものなのか区別できないように構成することで、遊技者に対して大当たりの期待感を持ち続けさせることができる。そのため、遊技者が第２操作手段を操作することにより受ける不利益を低減することができ、第１の演出が実行されることを狙って第２操作手段を操作する意欲を向上させることができる。

【８９１７】

遊技機ＳＡ１からＳＡ３のいずれかにおいて、前記第１の演出は、所定の表示を第１表示状態よりも識別し難くする第２表示状態とする状態を含む態様で実行され、前記第２の

演出は、所定の操作の示唆を含み、前記第１表示状態とされた前記所定の表示に重ねて実行されることを特徴とする遊技機ＳＡ４。

【８９１８】

遊技機ＳＡ４によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ３のいずれかの奏する効果に加え、第２の演出の方が、所定の表示についての識別の難易度が第１の演出よりも高いように構成されることにより、遊技者が第２の演出の実行を望み易いようにでき、第２操作手段の操作を抑制する効果を高めることができる。

【８９１９】

遊技機ＳＡ１からＳＡ４のいずれかにおいて、前記所定期間とは異なる演出期間において、前記第２操作手段が前記第２状態から前記第１状態に切り替わる態様の動作を規制する規制手段を備えることを特徴とする遊技機ＳＡ５。

【８９２０】

遊技機ＳＡ５によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ４のいずれかの奏する効果に加え、演出期間において所定の検出がされることを防止し、第２の演出を効率的に実行可能に構成できる。

【８９２１】

遊技機ＳＡ１からＳＡ５のいずれかにおいて、前記駆動手段は、前記変位手段を変位させる駆動力を定期的に発生可能に制御されることを特徴とする遊技機ＳＡ６。

【８９２２】

遊技機ＳＡ６によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ５のいずれかの奏する効果に加え、遊技者が第２操作手段を第１状態にしたまま放置したとしても、第２操作手段を第２状態に戻す方向への駆動を駆動手段により定期的に生じさせることができ、演出に対する影響を最小限に抑えることができる。

【８９２３】

遊技機ＳＡ１からＳＡ６のいずれかにおいて、付勢手段を有し、前記伝達手段は、前記付勢手段の付勢力に基づく所定角度での回転動作ごとに衝突音が生じるよう構成されることを特徴とする遊技機ＳＡ７。

【８９２４】

遊技機ＳＡ７によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ６のいずれかの奏する効果に加え、音により遊技者に異常を認識させることができる。

【８９２５】

遊技機ＳＡ１からＳＡ７のいずれかにおいて、前記第２操作手段が前記第１状態とされ前記第１操作手段が操作された場合に、前記駆動手段の駆動が停止されることを特徴とする遊技機ＳＡ８。

【８９２６】

遊技機ＳＡ８によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ７のいずれかの奏する効果に加え、駆動手段の駆動の停止によって変位手段の駆動力による変位を防止することで、第２操作手段が、第１操作手段を操作する遊技者の手に衝突することを避けることができる。

【８９２７】

遊技機ＳＡ１からＳＡ８のいずれかにおいて、第１操作手段の操作方向は所定の回転動作方向であって、第２操作手段の操作方向と異なることを特徴とする遊技機ＳＡ９。

【８９２８】

遊技機ＳＡ９によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ８のいずれかの奏する効果に加え、第１操作手段と第２操作手段とが連動することを避け易くすることができる。

【８９２９】

遊技機ＳＡ１からＳＡ９のいずれかにおいて、前記所定の検出は、前記第２操作手段が前記第１状態とされた場合に実行され、前記第２操作手段が前記第２状態と前記第１状態との間の途中状態とされた場合には実行されないことを特徴とする遊技機ＳＡ１０。

【８９３０】

遊技機ＳＡ１０によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ９のいずれかの奏する効果に加え、第

２操作手段の操作量が十分でない場合にまで所定の検出がされることを避けることができ、開放操作を目的としない、例えば、第１操作手段の発光態様の確認のために隙間を空けるために視界を確保するための小さな操作でまで第１の演出が実行されることを回避することができるので、遊技者の遊技の自由度を高めることができる。

【８９３１】

遊技機ＳＡ１からＳＡ１０のいずれかにおいて、前記第２操作手段の操作は、正方向操作と、逆方向操作とが可能とされることを特徴とする遊技機ＳＡ１１。

【８９３２】

遊技機ＳＡ１１によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ１０のいずれかの奏する効果に加え、第２操作手段を操作手段として有効活用することができる。

【８９３３】

遊技機ＳＡ１からＳＡ１１のいずれかにおいて、前記第２操作手段の前記第２状態においても、前記第１操作手段を操作させることが可能に構成されることを特徴とする遊技機ＳＡ１２。

【８９３４】

遊技機ＳＡ１２によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ１１のいずれかの奏する効果に加え、操作態様のバリエーションを増やし、遊技者を飽きさせないようにすることができる。

【８９３５】

遊技機ＳＡ１からＳＡ１２のいずれかにおいて、前記第２操作手段が前記第２状態とされている場合において前記所定の検出が実行され得るように構成されることを特徴とする遊技機ＳＡ１３。

【８９３６】

遊技機ＳＡ１３によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ１２のいずれかの奏する効果に加え、第２操作手段が第２状態で維持されているにも関わらず第１の演出が実行されるという演出態様を構成でき、遊技者に違和感を与える演出を実行することで、遊技者の注目力を高めることができる。

【８９３７】

遊技機ＳＡ１からＳＡ１３のいずれかにおいて、前記第２操作手段は、所定の回転軸線を中心とした回転移動によって前記第１状態と前記第２状態とが切替可能とされ、前記第２操作手段の特定部は、前記第２操作手段が前記第２状態である場合よりも前記第２操作手段が前記第１状態である場合の方が前記第１操作手段に対して離間され、前記特定部から前記第２操作手段の前記所定の回転軸方向視における外形線に沿って変位した位置に前記第１操作手段が位置されることを特徴とする遊技機ＳＡ１４。

【８９３８】

遊技機ＳＡ１４によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ１３のいずれかの奏する効果に加え、第２操作手段を第２状態から第１状態へ切り替える態様で実行される所定操作の際に第１操作手段に触れてしまい、意図せず第１操作手段を操作する事態を避けることができ、両手を使った操作を促進することができると共に、第２操作手段の外形線を伝うことで第１操作手段の位置に手を移動させることができるので、目視で確認することなく、第２操作手段を操作した後の第１操作手段の操作が容易に行うことができるため、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【８９３９】

遊技機ＳＡ１からＳＡ１４のいずれかにおいて、前記第１操作手段の前記特定操作に対応して動作される対応動作手段を備え、前記対応動作手段に対して所定方向の付勢力を生じる付勢手段と、前記対応動作手段が所定位置に位置したことを検出可能な第２検出手段と、を備え、前記付勢手段による付勢力が前記第１操作手段に伝達可能に構成されることを特徴とする遊技機ＳＡ１５。

【８９４０】

遊技機ＳＡ１５によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ１４のいずれかの奏する効果に加え、第１操作手段に触れてしまった程度の場合に第２検出手段による検出がされることを避け

られるため、誤操作によって演出が進行される事態を防止することができる。
【８９４１】
遊技機ＳＡ１からＳＡ１５のいずれかにおいて、前記遊技機は、前記伝達手段を介して前記駆動手段の駆動力を前記変位手段に伝達させる伝達状態と、前記変位手段に駆動力を伝達させない非伝達状態とを構成可能であって、少なくとも前記所定操作が実行される場合において、前記伝達状態と前記非伝達状態とを交互に切り替え可能に構成されることを特徴とする遊技機ＳＡ１６。
【８９４２】
遊技機ＳＡ１６によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ１５のいずれかの奏する効果に加え、伝達状態が維持される場合には、所定操作を行う遊技者に対して駆動手段の負荷が第２操作手段を介して常時与えられることになり操作感が重すぎて遊技者を疲労させてしまう一方、非伝達状態が維持される場合には、操作感が軽すぎて操作しているという実感を遊技者に与えることができない。これに対し、所定操作を行う遊技者に対して程よい操作抵抗を与えることができる。
【８９４３】
切り替えの態様（リズム）については、種々の態様が例示されるが、第２操作手段の操作態様に因らず一定となるように構成しても良い。この場合、第２操作手段の操作量が大きくなるほど伝達状態の割合が非伝達状態に比較して大きくなる（抵抗が重くなる）よう構成される場合に比較して、操作感を軽くすることができ、力の弱い遊技者でも操作が容易となるようにできる。
【８９４４】
遊技機ＳＡ１からＳＡ１６のいずれかにおいて、前記第２操作手段が前記第１状態とされ駆動手段の駆動が実行されている場合において、前記第１操作手段が操作された場合、前記駆動手段の駆動が停止されることを特徴とする遊技機ＳＡ１７。
【８９４５】
遊技機ＳＡ１７によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ１６のいずれかの奏する効果に加え、第１操作手段の操作を行う場合において変位手段を介して第２操作手段に駆動力が伝達されていると、第２操作手段も操作を維持しながら第１操作手段の操作を行う必要が生じて操作が煩雑となり得るところ、駆動手段の駆動が停止されることにより、第１操作手段の操作に集中させることができる。
【８９４６】
遊技機ＳＡ１からＳＡ１７のいずれかにおいて、前記変位手段は、前記変位中の少なくとも一部の期間において視認可能に構成されることと特徴とする遊技機ＳＡ１８。
【８９４７】
遊技機ＳＡ１８によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ１７のいずれかの奏する効果に加え、検出手段による検出に基づいて第１の演出が実行されるタイミングよりも前において、変位手段の変位を視認することで変位手段がこれから検出手段に検出されるか否かを把握することができるので、これから実行される演出をより早く知りたい遊技者に対して、変位手段の注目力を向上させることができる。
【８９４８】
遊技機ＳＡ１からＳＡ１８のいずれかにおいて、報知手段により所定の報知がされる期間外で前記所定操作が実行される場合において第１制御状態から前記駆動手段の駆動態様が変化される第２制御状態へと前記駆動手段の制御状態が切り替えられ、該状態の切り替えに伴って前記駆動手段の駆動態様が変化され、該変化に基づく所定の判断を実行可能に構成されることを特徴とする遊技機ＳＡ１９。
【８９４９】
遊技機ＳＡ１９によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ１８のいずれかの奏する効果に加え、所定の報知がされる期間外での操作によっても制御状態が切り替えられる構成とすることで、所定の報知がされる期間外においても第２操作手段の操作を行う意義を高めることができるので、第２操作手段に対する操作意欲を高めるタイミングを増やすことができる。

【８９５０】
遊技機ＳＡ１からＳＡ１９のいずれかにおいて、前記検出手段による検出に基づいて、前記第２操作手段の操作についての判断がされ、その判断により、前記第２操作手段を前記第１状態側で操作させる第１の報知、又は、前記第２操作手段を前記第２状態側で操作させる第２の報知を実行可能とされることを特徴とする遊技機ＳＡ２０。
【８９５１】
遊技機ＳＡ２０によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ１９のいずれかの奏する効果に加え、遊技者が第２操作手段を第１状態にしてしまった場合において、第２状態を経ての操作しかできないものとすると操作が間延びして操作意欲の減退につながることに対し、検出手段による検出に基づいて第２操作手段の操作についての判断がされることで、操作に必要となる態様を変化させることができ、これにより操作の間延びを防ぎ、報知外での第２操作手段の操作自体に意味があると遊技者に思わせることができるので、第２操作手段に対する操作意欲を向上させることができる。
【８９５２】
遊技機ＳＡ１からＳＡ２０のいずれかにおいて、前記遊技機は、前記変位手段の変位中に前記変位手段に当接可能に構成される当接手段が前記変位手段を変位させる領域を構成する構成手段に固定されており、前記変位手段の進行方向に対して、前記変位手段が前記当接手段の一側に当接するか、前記当接手段の他側に当接するかで、前記変位手段の変位態様が変化されることを特徴とする遊技機ＳＡ２１。
【８９５３】
遊技機ＳＡ２１によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ２０のいずれかの奏する効果に加え、変位手段の変位態様を異ならせる当接手段が、構成手段に固定配置されることから、構成手段が可動で構成される場合に比較して、構成手段の破損を避けることができ、耐久性を向上させることができるので、変位手段の変位態様を異ならせるという作用を長期にわたって生じさせ続けることができ、変位手段が所定位置に位置した結果として第１の演出を実行させる変位態様と、第１の演出を実行させない変位態様とを容易に実行させることができるので、第２操作手段の操作意欲を好適に維持させることができる。
【８９５４】
遊技機ＳＡ１からＳＡ２１のいずれかにおいて、前記遊技機は、前記変位手段の変位中に前記変位手段に当接可能に構成される可動手段が前記変位手段を変位させる領域を構成する構成手段に支持されており、前記変位手段と前記可動手段とが当接する場合における前記可動手段の動作態様に基づいて前記変位手段の変位態様を異ならせることができ、前記可動手段は、前記変位手段と当接する場合の動作と、前記変位手段と非当接である場合の動作とを構成可能とされることを特徴とする遊技機ＳＡ２２。
【８９５５】
遊技機ＳＡ２２によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ２１のいずれかの奏する効果に加え、変位手段が可動手段に当接する場合の勢いが異なると、変位手段と非当接とされた場合において可動手段が惰性で動作する量も異なるため、第２操作手段の操作に対応して変位する変位手段の変位量が同じであっても、可動手段の状態までが同じとはならないので、可動手段の状態を予想させることを困難とさせることができ、変位手段が所定位置に位置した結果として第１の演出を実行させる変位態様と、第１の演出を実行させない変位態様とを生じさせることができるので、第２操作手段の操作意欲を好適に維持させることができる。
【８９５６】
遊技機ＳＡ１からＳＡ２２のいずれかにおいて、前記第２操作手段の操作量に対応して、前記駆動手段の駆動態様が変化されることを特徴とする遊技機ＳＡ２３。
【８９５７】
遊技機ＳＡ２３によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ２２のいずれかの奏する効果に加え、駆動手段の駆動による音を聞くことで、第２操作手段の操作を同じ操作量で行えているかの確認を行うことができるので、第２操作手段を目視せずとも、操作不足（操作量少）や

、過操作（操作量過多）が生じていることを遊技者に気付かせることができ、適切な操作量で操作を行いたいと望む遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【８９５８】

遊技機ＳＡ１からＳＡ２３のいずれかにおいて、前記変位手段の前記検出手段による検出が前記所定操作の実行開始から遅れて生じることを特徴とする遊技機ＳＡ２４。

【８９５９】

遊技機ＳＡ２４によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ２３のいずれかの奏する効果に加え、第２の操作手段の所定操作から遅れて第１の演出が実行される場合があることから、所定操作を行った場合に第１の演出が実行されなかったとしても、遊技者の注目力を高い状態で維持することができる。

【８９６０】

遊技機ＳＡ１からＳＡ２４のいずれかにおいて、前記所定の検出がされる状態から、前記第２操作手段を前記所定操作における操作方向とは逆方向に所定量操作した場合においても前記所定の検出が可能となるように構成されることを特徴とする遊技機ＳＡ２５。

【８９６１】

ここで、第２操作手段の状態を第１状態で維持しておく必要がある場合、第２操作手段のせいで遊技者の操作に不便が生じる場合がある。例えば、第１状態とする場合に第２操作手段が上方に張り出す構成の場合において、遊技者が腕を移動させる経路と第２操作手段が干渉すると、貸出ボタンの操作時に第２操作手段を避けた経路で腕を伸ばす必要が生じるため、不便に感じ、第２操作手段の操作自体を止める結果をもたらす可能性があり、改善の余地がある。

【８９６２】

これに対し、遊技機ＳＡ２５によれば、遊技機ＳＡ１からＳＡ２４のいずれかの奏する効果に加え、第２操作手段を第２状態側へ移動させても所定の検出が可能とされることから、第１の演出の進行中であっても第２操作手段を第２状態側へ移動させることができるので、遊技者は、演出を楽しみながら、第２操作手段の位置を自由に調整することができ、不便さが解消される。これにより、第２操作手段の操作を好適とすることができ、遊技者の操作を促進させることができる。

【８９６３】

遊技機ＳＡ１からＳＡ２５のいずれかにおいて、前記遊技機はスロットマシンであることを特徴とする遊技機ＳＺ１。中でも、スロットマシンの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段（ストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備えた遊技機」となる。この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【８９６４】

遊技機ＳＡ１からＳＡ２５のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機であることを特徴とする遊技機ＳＺ２。中でも、パチンコ遊技機の基本構成としては操作ハンドルを備え、その操作ハンドルの操作に応じて球を所定の遊技領域へ発射し、球が遊技領域内の所定の位置に配設された作動口に入賞（又は作動口を通過）することを必要条件として、表示手段において動的表示されている識別情報が所定時間後に確定停止されるものが挙げられる。また、特別遊技状態の発生時には、遊技領域内の所定の位置に配設された可変入賞装置（特定入賞口）が所定の態様で開放されて球を入賞可能とし、その入賞個数に応じた有価価値（景品球のみならず、磁気カードへ書き込まれるデータ等も含む）が付与されるものが挙げられる。

【８９６５】

遊技機ＳＡ１からＳＡ２５のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機とスロッ

トマシンとを融合させたものであることを特徴とする遊技機ＳＺ３。中でも、融合させた遊技機の基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備え、遊技媒体として球を使用すると共に、前記識別情報の動的表示の開始に際しては所定数の球を必要とし、特別遊技状態の発生に際しては多くの球が払い出されるように構成されている遊技機」となる。

【８９６６】

以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図４８７から図４９６を参照し、第８２実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｈ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。

【８９６７】

図４８７は、第８２実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図４８８は、パチンコ機Ｈ１０の背面図であり、図４８９は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図４９０は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放した状態で裏パックユニットＨ９４を内枠Ｈ１２に対して開放した状態（展開）を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図４９１は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を閉鎖すると共に正面枠Ｈ１４を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図４９２は、正面枠Ｈ１４を取り外した状態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図４９３は、遊技盤Ｈ１３及び内枠Ｈ１２の分解正面斜視図であり、図４９４は、正面枠Ｈ１４の分解正面斜視図であり、図４９５は、正面枠Ｈ１４の分解背面斜視図である。なお、図４９２では、発射位置送球ユニットＨ１７０から球発射ユニットＨ１１２ａに球を送球するための背面側開口Ｈ１７２が２点鎖線で図示される。

【８９６８】

また、以下の説明では、図４８７に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図４８７に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図４８７参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ｈ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【８９６９】

また、特段の説明がない限り、パチンコ機Ｈ１０を遊技する遊技者は、パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置し、パチンコ機Ｈ１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に視線を向けた状態（パチンコ機Ｈ１０の正面側と対面した状態）で遊技するものとして説明する。

【８９７０】

図４８７～図４９５に示すように、パチンコ機Ｈ１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠Ｈ１１と、その外枠Ｈ１１と略同一の外形形状に形成され外枠Ｈ１１に対して開閉可能に支持された内枠Ｈ１２と、その内枠Ｈ１２と略同一の外形形状に形成され内枠Ｈ１２に対して開閉可能に支持された正面枠Ｈ１４とを主に備えている。

【８９７１】

外枠Ｈ１１には、内枠Ｈ１２を支持するために正面視（図４８７参照）左側（矢印Ｌ方向側）の上下（矢印Ｕ－Ｄ方向）２カ所に金属製のヒンジＨ１８が取り付けられ、そのヒンジＨ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠Ｈ１２が正面枠Ｈ１４と共に正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている。

【８９７２】

パチンコ機Ｈ１０は、外枠Ｈ１１を島設備に取り付け固定することにより遊技場に設置される。なお、パチンコ機Ｈ１０において外枠Ｈ１１は必須の構成ではなく、外枠Ｈ１１又は枠状受部である外枠Ｈ１１と同一の内形を有し、外枠Ｈ１１の内枠Ｈ１２支持構造（ヒンジＨ１８等）及び施錠構造を有する部材が遊技場に備え付けられた構成としても良い。

【８９７３】

外枠Ｈ１１は、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される上方板Ｈ１１ａと、下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される下方板Ｈ１１ｂと、それら上方板Ｈ１１ａ及び下方板Ｈ１１ｂの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両端同士を上下方向に連結する左方板Ｈ１１ｃ及び右方板Ｈ１１ｄとを組み合わせて枠状に形成される。

【８９７４】

なお、外枠Ｈ１１は、木材で形成されるものに限られるものではなく、アルミ等の金属材料やプラスチック等の樹脂材料で形成されていても良く、それら木材、金属材料、又は、樹脂材料から形成される部材（上方板Ｈ１１ａ，下方板Ｈ１１ｂ，左方板Ｈ１１ｃ，右方板Ｈ１１ｄ）を組み合わせて形成されるものであっても良い。

【８９７５】

また、本実施形態では、外枠Ｈ１１の正面視左側（矢印Ｌ方向側）にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視右側（矢印Ｒ方向側）を正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能とされるが、外枠Ｈ１１の正面視右側にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視左側を正面手前側へ開閉可能としても良く、又、ヒンジＨ１８を外枠Ｈ１１の正面視下側（矢印Ｄ方向側）の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に取り付け、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視上側（矢印Ｕ方向側）を正面手前側へ開閉可能とするものであっても良い。

【８９７６】

内枠Ｈ１２は、外枠Ｈ１１と外形がほぼ同一の長方形状に形成される枠形成ユニットＨ１２ａと、その枠形成ユニットＨ１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に回動可能に支持される裏パックユニットＨ９４とを主に備えて形成され、裏パックユニットＨ９４が正面視で左側（矢印Ｌ方向側）を回動基端側（開閉基端側）とし、右側（矢印Ｒ方向側）を回動先端側（開閉先端側）として後方へ回動可能とされている（図４９０参照）。

【８９７７】

また、内枠Ｈ１２には、枠形成ユニットＨ１２ａと裏パックユニットＨ９４とで正面側（矢印Ｆ方向側）が開放する略箱状に形成された内側に多数の釘や入賞口Ｈ６３，Ｈ６４等を有する遊技盤Ｈ１３（図４９２及び図４９３参照）が脱着可能に配設される。この遊技盤Ｈ１３の正面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。

【８９７８】

なお、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、左側（矢印Ｌ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の左端部を支持する目的の左端支持部Ｈ１２ａ１と、右側（矢印Ｒ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の右端部を支持する目的の盤面支持装置Ｈ１２ａ２が配設される。遊技盤Ｈ１３は、左端支持部Ｈ１２ａ１にベース板Ｈ６０の左側端部が挿入されつつ枠状取付部である内枠Ｈ１２の背面側（矢印Ｂ方向側）における仮置き位置に押し込まれた後、盤面支持装置Ｈ１２ａ２が操作されて盤面支持装置Ｈ１２ａ２がベース板Ｈ６０の正面と係合する（ベース板Ｈ６０の正面を支持する）ことで内枠Ｈ１２の内側に固定される。

【８９７９】

また、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａは、球を遊技盤Ｈ１３の正面領域（遊技領域）に発射する球発射ユニットＨ１１２ａ（図４９２参照）と、正面枠Ｈ１４（上下皿ユニットＨ１５）に球を送球する皿通路形成部材Ｈ１６０と（図４９２参照）を主に備えて形成される。

【８９８０】

さらに、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、正面枠Ｈ１４を支持するために正

面視左側（矢印Ｌ方向側）の上下２カ所に金属製のヒンジＨ１９が取り付けられ、そのヒンジＨ１９が設けられた側を開閉の軸として開閉可能な部位である正面枠Ｈ１４が正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている（図４９１参照）。なお、枠状受部である内枠Ｈ１２の施錠と正面枠Ｈ１４の施錠とは、枠形成ユニットＨ１２ａに配設されるシリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。なお、シリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１は、振動または動作可能に構成されると共に変位可能に構成される。

【８９８１】

なお、ヒンジＨ１９による内枠Ｈ１２と正面枠Ｈ１４との開錠は、シリンダ錠Ｈ２０に専用の鍵を差し込むものではなく、後述する操作ユニットＨ１８０、機能調整操作部Ｈ１９０、操作ハンドルＨ５１、球抜きレバーＨ５２、球排出レバーＨ５４、又は、貸球操作部Ｈ４０等の正面枠Ｈ１４に配設される操作ユニットを操作することで行われるようにしても良い。また、内枠Ｈ１２又は正面枠Ｈ１４を開放した後で、開放された内側から操作ユニットＨ１８０、機能調整操作部Ｈ１９０、操作ハンドルＨ５１、球抜きレバーＨ５２、球排出レバーＨ５４、又は、貸球操作部Ｈ４０等の正面枠Ｈ１４に配設される操作ユニットを操作することで、所定の部材（例えば、上側装飾ユニットＨ１４ａ、左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃの化粧板）の係合が解除され所定の部材が取り外されるようにしても良い。

【８９８２】

球発射ユニットＨ１１２ａは、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０を介して１球ずつ所定のタイミングで送球される球を受け入れ可能に形成され、遊技盤Ｈ１３（内レールＨ６１及び外レールＨ６２）への球の送球方向に延設される発射レールＨ１１２ａ１と、回転可能に軸支され発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転して当接可能に形成される回転体Ｈ１１２ａ２と、その回転体Ｈ１１２ａ２を回転させるための駆動モータＨ８５０（図１８９参照）とを主に備えて形成される。

【８９８３】

即ち、球発射ユニットＨ１１２ａは、回転可能な部位である回転体Ｈ１１２ａ２を回転させて被案内物体である遊技球を発射可能に構成される。なお、回転体Ｈ１１２ａ２は、動作可能な部位である。

【８９８４】

また、回転体Ｈ１１２ａ２は、回転することで遊技球に駆動力を付与可能な部位であり、回転軸から偏心した位置に配設されるゴム部材Ｈ１１２ａ４を備える。ゴム部材Ｈ１１２ａ４は、発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に当接可能な部位であり、その当接（衝突）により変位可能な部位である球を発射可能に構成される。なお、ゴム部材Ｈ１１２ａ４は、弾性変形可能な弾性材料から形成される。これにより、ゴム部材Ｈ１１２ａが球に衝突した際の衝撃音を小さくできる。

【８９８５】

球発射ユニットＨ１１２ａから遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）への球の発射（送球）は、発射レールＨ１１２ａ１上に球が送球された後、回転体である回転体Ｈ１１２ａ２を回転させて発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転体Ｈ１１２ａ２のゴム部材Ｈ１１２ａ４を衝突させることで行われる。なお、回転体Ｈ１１２ａ２は、その回転速度を変更して、ゴム部材Ｈ１１２ａ４から球が受ける駆動力を変更することで、発射された球の到達位置を変更可能とされる。

【８９８６】

回転体Ｈ１１２ａ２に対しては、発射レールＨ１１２ａ１に近接配置される場合（起き上がり状態）における回転体Ｈ１１２ａ２と当接可能な位置に配設される第１弾性部材（左上側部材）と、発射レールＨ１１２ａ１から離間配置される場合（傾倒状態）における回転体Ｈ１１２ａ２と当接可能な位置に配設される第２弾性部材（右下側部材）とが配設されており、これにより、回転体Ｈ１１２ａ２を回転させる際に発射位置および退避位置で停止させやすくできると共に、停止させた際の衝撃を吸収させ易くすることが可能とさ

れる。なお、回転体Ｈ１１２ａ２は、発射レールＨ１１２ａ１に近接配置される場合（起き上がり状態）の位置で第１弾性部材（左上側部材）に当接された後、第１弾性部材を弾性変形させつつ発射位置まで回転されることで遊技球を発射することが可能とされる。

【８９８７】

この時、各当接（回転体Ｈ１１２ａ２の遊技球との当接、第１弾性部材との当接、第２弾性部材との当接）に対応する音（打音）が生じるが、その素材の違いに対応して、音に強弱が生じる。即ち、遊技球との当接の際に生じる音が大きく生じるため、遊技者に遊技球の打音を判別し易く構成することができる。

【８９８８】

なお、本実施形態では、回転する回転体Ｈ１１２ａ２により球発射ユニットＨ１１２ａから球が発射（送球）されるが、球を発射する構造は回転する部材（回転体Ｈ１１２ａ２）に限られるものではない。例えば、球の発射方向にスライド変位可能なスライド体と、そのスライド体をスライド変位させるソレノイドとを備え、ソレノイドの励磁によりスライド体を変位させて球に衝突させることで球の発射（送球）が行われる伸縮装置として構成しても良い。

【８９８９】

なお、駆動モータＨ８５０は、振動または動作可能に構成される。即ち、駆動主体としての駆動モータＨ８５０は、変位可能に構成される。これより、被回転物体である回転軸棒と一体的に回転体Ｈ１１２ａ２を回転させ、遊技球を発射することが可能とされる。

【８９９０】

また、球発射ユニットＨ１１２ａは、内枠Ｈ１２に配設されるものに限られるものでなく、パチンコ機Ｈ１０の演出装置としてベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に（遊技盤Ｈ１３に）配設することも可能である。例えば、センターフレームＨ８６やベース板Ｈ６０に開口した開口部からベース板Ｈ６０の背面側に配設される発射レールＨ１１２ａ１上に球を送球して、その球を回転体Ｈ１１２ａ２により発射して第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側を球が通過するように構成しても良い。

【８９９１】

皿通路形成部材Ｈ１６０は、図４９２に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１と本体側下皿通路部Ｈ１６２とを有している。本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路部Ｈ１６２は、背面側（矢印Ｂ方向側）の端部が内枠Ｈ１２に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通される貫通孔と連通可能となるように背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて開放され、正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が下方（矢印Ｄ方向）へ向けて開放されるように、内部で通路の方向が９０度変化する（前後方向から上下方向に変化する）湾曲通路を形成する。この構成において、払出装置Ｈ１３３から払い出された球は内枠Ｈ１２の貫通孔を通り、皿通路形成部材Ｈ１６０の背面側の端部から皿通路形成部材Ｈ１６０に進入し、正面側の端部から排出される。

【８９９２】

なお、皿通路形成部材Ｈ１６０の下側部分には、図４９２に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路部Ｈ１６２からの球の流出を規制するシャッタＨ１６３が設けられている。シャッタＨ１６３は、両通路の出口部分を狭め球の流出を阻止する阻止位置と、球の流出を許容する許容位置との両位置に切り替え可能に設けられており、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を閉鎖した状態とされる場合に許容位置に配置され、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を開放した状態（図４９１に示す状態）とされる場合に阻止位置に配置される。これにより、本体側上皿通路部Ｈ１６１又は本体側下皿通路部Ｈ１６２に球が貯留されている状態で正面枠Ｈ１４を開放した場合に、その貯留球がこぼれ落ちてしまうといった不都合が回避されている。

【８９９３】

正面枠Ｈ１４は、金属板によって縦長の矩形枠状に形成される本体枠Ｈ１４ｄと、その本体枠Ｈ１４ｄに配設され、その本体枠Ｈ１４ｄの上方側（矢印Ｕ方向側）の正面に配設される上側装飾ユニットＨ１４ａと、その上側装飾ユニットＨ１４ａの左右（矢印Ｌ－Ｒ

方向）の両側から下方（矢印Ｄ方向側）に向けて延設される左側装飾ユニットＨ１４ｂ及び右側装飾ユニットＨ１４ｃと、本体枠Ｈ１４ｄの下方側の正面を覆う上下皿ユニットＨ１５と、本体枠Ｈ１４ｄを介して上下皿ユニットＨ１５の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０と、その通路形成ユニットＨ１４０の背面側に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０とを主に備えて構成され、内枠Ｈ１２に回動可能に取り付けられている。

【８９９４】

また、正面枠Ｈ１４の回動基端側には、図４９４及び図４９５に示すように、前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８が設けられ、この前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８（前扉取付金具Ｈ５７は円柱状部、前扉取付金具Ｈ５８は軸孔を有する金属板）が内枠Ｈ１２に係合することにより、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４が回動可能に支持される。

【８９９５】

詳細には、前扉取付金具Ｈ５７は、内枠Ｈ１２の上側のヒンジＨ１９の下方位置において内枠Ｈ１２の正面側端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ延設され先端から背面側（矢印Ｂ方向側）へ前扉取付金具Ｈ５７が内嵌可能な大きさで凹設される嵌合凹部Ｈ１２ｅ１（図４９３参照）を有する軸支板部Ｈ１２ｅに軸支される。また、前扉取付金具Ｈ５８は、内枠Ｈ１２の下側のヒンジＨ１９から上方（矢印Ｕ方向）に突設される段付き円柱形状（直径の違う円柱が上下に連設される構成において上側の円柱の直径の方が小さい形状）の支持ピンＨ１９ａに外嵌されることで軸支される。

【８９９６】

また、正面枠Ｈ１４には、上側装飾ユニットＨ１４ａと左側装飾ユニットＨ１４ｂと右側装飾ユニットＨ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｈ１４ｅが形成され、その窓部Ｈ１４ｅを塞ぐように正面枠Ｈ１４（本体枠Ｈ１４ｄ）の背面側（矢印Ｂ方向側）に２枚の板ガラスを有し光を透過可能に構成される板状透過部であるガラスユニットＨ１６が配設される（図Ｈ０１参照）。なお、パチンコ機Ｈ１０は、ガラスユニットＨ１６（窓部Ｈ１４ｅ）を介してパチンコ機Ｈ１０の正面側から遊技盤Ｈ１３の正面が視認可能となっている。即ち、窓部Ｈ１４ｅは、遊技盤Ｈ１３の正面を視認可能とさせる部位であり、正面枠Ｈ１４は、窓部Ｈ１４ｅを介して遊技盤Ｈ１３を視認可能とさせる部位を有する部位である。

【８９９７】

ガラスユニットＨ１６は、図４８７及び図４９１に示すように、窓部Ｈ１４ｅより大きな外形で光透過性（透明性）を有する前後一対の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂと、これら透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを一体化する固定枠（図示せず）と、を備えている。固定枠は、樹脂材料により透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂより一回り大きな環状に形成され、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの外周縁が固定枠に接着されることでガラスユニットＨ１６は一体化された複層ガラスとされている。

【８９９８】

なお、ガラスユニットＨ１６は、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂによって光を透過可能に構成される（無色透明に形成されている）が、これに限定されることはなく樹脂材料によって無色透明に形成されていてもよく、パチンコ機Ｈ１０前方からガラスユニットＨ１６を通じて遊技領域を視認可能であれば無色透明でなく有色透明に形成されていても良い。

【８９９９】

また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂは、それら２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態で配設しても良い。透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態とする場合には、それら２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に変位可能な変位手段を配設して、遊技盤Ｈ１３よりも前方側（矢印Ｆ方向側）で変位手段による演出を可能にしても良い。この場合の変位手段とは、例えば、紙やナイロン等の部材から形成される複数の変位部材を固定枠に形成した孔から送り出す風により吹き飛ばす演出をするものや、固定枠に変位可能に配設した変位部材を音声

ランプ制御装置Ｈ１１３（図４９６参照）により２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間で変位させるものである。また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを固定する固定板に発光手段を配設し、その発光手段から出射される光を前方側の透明ガラスＨ１６ａまたは背面側（矢印Ｂ方向側）の透明ガラスＨ１６ｂの一方に照射して、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの一方に照射された光を遊技者に視認させる演出をするようにしても良い。

【９０００】

正面枠Ｈ１４（上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃ）において窓部Ｈ１４ｅの周囲には、図４８７に示すようにＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が複数設けられている。これら電飾部Ｈ２９～Ｈ３３では、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて点灯や点滅が行われる。また、窓部Ｈ１４ｅの上側（矢印Ｕ方向側）の電飾部Ｈ３０には、遊技球が通過可能に構成される被通過進入物体である検出センサにより検出される払出球が不足する等の所定のエラー時に点灯する発光手段と、賞球払出中に点灯する発光手段とが内蔵されている。

【９００１】

また、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃに独立して配置される独立配置物体である電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３から出射される光を非透過とする非透過性の樹脂材料から形成される。これにより、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の発光（点灯や点滅）を遊技者に注目させやすい構造となっている。

【９００２】

なお、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、非透過に形成されるものに限られず、透過性の樹脂材料から形成して電飾部Ｈ２９～Ｈ３３に発光（点灯や点滅）があった場合に正面枠Ｈ１４の全体から光を出射（透過）可能に構成しても良い。また、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材を配設して煌びやかさを醸し出すように構成しても良い。

【９００３】

上側装飾ユニットＨ１４ａの左側（矢印Ｌ方向側）及び右側（矢印Ｒ方向側）には（窓部Ｈ１４ｅの右上側及び左上側には）、遊技状態に応じた効果音などが出力されるスピーカー組立体（音声出力装置Ｈ２２６（図４９６参照））を覆うスピーカーカバーＨ２７（パンチングメタルから形成される薄板部材）が設けられており、スピーカーカバーＨ２７を介してスピーカーの音をパチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に放音可能に構成されている。窓部Ｈ１４ｅの下方（矢印Ｂ方向）には、図４８７に示すように、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とが手前側へ膨出して配置されると共にそれら上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とが上下に並設される上下皿ユニットＨ１５が配設される。

【９００４】

上皿Ｈ１７は、上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿Ｈ１７に賞球や貸出球などが排出される。また、上皿Ｈ１７は、払出装置Ｈ１３３（図４８８参照）より払い出された球を一旦貯留し、一列に整列させながら球発射ユニットＨ１１２ａ（図４９２参照）側へ導く機能を有しており、底面が正面視右側（矢印Ｒ方向側）に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿Ｈ１７に投入された球を発射位置送球ユニットＨ１７０へと案内可能に形成される。なお、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０に送球された球は、発射位置送球ユニットＨ１７０の動作により１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａへ案内される。即ち、遊技球が通過可能に構成される発射位置送球ユニットＨ１７０により遊技球を球発射ユニットＨ１１２ａに送球可能とされる。言い換えると、遊技球を送球可能に構成される発射位置送球ユニットＨ１７０により遊技球を球発射ユニットＨ１１２ａに送球可能とされる。

【９００５】

下皿Ｈ５０は、上面を開放した略箱状に形成され、上皿Ｈ１７内にて余剰となった球を

貯留する機能を有している。また、下皿Ｈ５０の背面側（矢印Ｂ方向側）側面には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口され球が下皿Ｈ５０に案内される球案内開口Ｈ５３が形成される。

【９００６】

下皿Ｈ５０の正面側（矢印Ｆ方向側）の下方（矢印Ｄ方向）部には、下皿Ｈ５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバーＨ５２が設けられている。この球抜きレバーＨ５２は、常時、右方向（矢印Ｒ方向）に付勢されており、その付勢に抗して左方向（矢印Ｌ方向）へスライドさせることにより、下皿Ｈ５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバーＨ５２の操作は、通常、下皿Ｈ５０の下方に下皿Ｈ５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。

【９００７】

なお、球抜きレバーＨ５２の操作により、千両箱に球を排出するものに限らず、島設備に連通する回収口に球を排出するものであっても良い。また、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とに分けて複数箇所に球を貯留する部位を設ける必要はなく、下皿Ｈ５０を廃止して上皿Ｈ１７のみとした１つの貯留部のみを有する構成としても良い。

【９００８】

また、下皿Ｈ５０から球を排出する球抜きレバーＨ５２の操作を駆動モータにより制御することも可能である。これによれば、下皿Ｈ５０に球が払い出されたことや下皿Ｈ５０に所定数の球数が払い出されたこと起因して、球抜きレバーＨ５２を駆動モータにより変位させることで、下皿Ｈ５０からの球の排出を遊技者が忘れて下皿Ｈ５０の貯留領域に球が溢れることを抑制できる。

【９００９】

特に、最近では、パチンコ機Ｈ１０が設置される店舗の島設備に連通する回収口に下皿Ｈ５０から球を排出する店舗が多くなっており、所定数の球数しか貯留できない千両箱に下皿Ｈ５０から排出される球を排出する店舗が少なくなっている。店舗の島設備に連通する回収口に下皿Ｈ５０から球を排出する店舗では、下皿Ｈ５０から球が払い出されている最中に千両箱の交換等が必要ないので、下皿Ｈ５０への球の払い出しに伴って駆動モータにより球抜きレバーＨ５２を変位させる構成とすることで、遊技者の球抜きレバーＨ５２の操作を不要とできる。

【９０１０】

即ち、後述する主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１により大当たりの演出がされることに伴って、下皿Ｈ５０の球抜きレバーＨ５２を駆動モータにより変位させることで、大当たりにより下皿Ｈ５０に払い出される球を回収口に排出することができ、遊技者の球抜きレバーＨ５２の操作を不要とできる。その結果、遊技者をパチンコ機Ｈ１０の演出（特に大当たりの演出）に集中させることができ、遊技者の興趣を向上できる。

【９０１１】

上皿Ｈ１７（球の貯留領域）の手前側（矢印Ｆ方向側）には、変位可能に構成され、遊技者らにより手動操作される操作ユニットＨ１８０が設けられている。操作ユニットＨ１８０は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面等にて遊技者の操作に対応した演出が行われる場合に使用される操作装置である。なお、操作ユニットＨ１８０は、振動または動作可能に構成される。

【９０１２】

この操作ユニットＨ１８０には、上面側にボタン部Ｈ１８１が配設される。ボタン部Ｈ１８１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される軸を中心に下方側に向けて押圧操作可能とされ、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１（図４９２参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。

【９０１３】

なお、操作ユニットＨ１８０は、上皿Ｈ１７以外に下皿Ｈ５０周辺等の別の部位に設け

られても良いし、複数箇所に設けられても良く、また、操作方法として押しボタン式のスイッチであっても良く、タッチセンサ、非接触式のセンサ等の別の操作方法によって情報入力可能な構成としても良い。

【９０１４】

また、操作ユニットＨ１８０は、上皿Ｈ１７の手前側でなく、上側装飾ユニットＨ１４ａ、左側装飾ユニットＨ１４ｂ、右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設しても良く、この場合、上皿Ｈ１７の手前側と別の操作ユニットＨ１８０を配設して、それぞれ別の演出でそれぞれの操作ユニットＨ１８０を遊技者に操作させるようにしても良い。

【９０１５】

操作ユニットＨ１８０の右側には、上下皿ユニットＨ１５の上面側に貸球操作部Ｈ４０（図４９４参照）と機能調整操作部Ｈ１９０と、球排出レバーＨ５４とが配設されている。貸球操作部Ｈ４０には、度数表示部Ｈ４１と、球貸しボタンＨ４２と、返却ボタンＨ４３とが設けられている。パチンコ機Ｈ１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部Ｈ４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部Ｈ４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。

【９０１６】

球貸しボタンＨ４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿Ｈ１７に供給される。返却ボタンＨ４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿Ｈ１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部Ｈ４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部Ｈ４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。

【９０１７】

機能調整操作部Ｈ１９０は、決定ボタンＨ１９１と、その決定ボタンＨ１９１を中心とする十字状の４方向外側の位置に配設される上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５と備える。

【９０１８】

機能調整操作部Ｈ１９０は、上側装飾ユニットＨ１４ａに配設されるスピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面の明るさ、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設される電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさなどを変更するための操作部である。遊技者は、決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５を操作することで、自身（遊技者）の好みに合うように音量や明るさを変更可能とされる。

【９０１９】

また、音量や明るさを変更する際には、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部に音量や明るさの調整度合いが数値やボリューム等で表示されるようになっている。これにより、遊技者が別のパチンコ機Ｈ１０を遊技し始める場合に音量や明るさの調整を簡易に行うことができる。

【９０２０】

なお、機能調整操作部Ｈ１９０による変更は、音量や明るさに限られるものではなく、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される演出等を変更可能とするものであっても良い。また、音量や明るさの調整度合いを第３図柄表示装置Ｈ８１に表示するものに限られるものではなく、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示しなくても操作と同時に変更（調整）後の音や表示をして調整させるものでも良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に調整度合いを表示するものであっても良い。

【９０２１】

球排出レバーＨ５４は、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に送球する際に遊技者が操作するレバーであり、図示しない付勢手段（バネ）により上方側（矢印Ｕ方向側）に付勢された状態で配設される。なお、球排出レバーＨ５４は、操作される（下方側（矢印Ｄ方向側）に押し込まれる）ことにより上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０に連通される通路を上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０（ファール球通路部Ｈ１４５）に連通する状態に切替可能に構成される。これにより、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に排出することができる。

【９０２２】

下皿Ｈ５０の右側（矢印Ｒ方向側）には、変位可能に構成され、遊技者が遊技時に操作する操作ハンドルＨ５１が配設される。なお、操作ハンドルＨ５１は、振動または動作可能に構成される。操作ハンドルＨ５１の内部には、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサＨ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチＨ５１ｂと、回転移動物体である操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。接触可能部である操作ハンドルＨ５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサＨ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤Ｈ１３の正面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドルＨ５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサＨ５１ａおよび発射停止スイッチＨ５１ｂがオフとなっている。

【９０２３】

なお、操作ハンドルＨ５１は、操作ユニットＨ１８０や機能調整操作部Ｈ１９０や貸球操作部Ｈ４０の操作ボタンに置き換え可能である。例えば、操作ボタンの押し込み量を可変抵抗器で検出して操作ボタンの押し込み量に対応した球の打ち出し速度で遊技盤Ｈ１３の正面へ球を打ち込むようにしても良い。また、機能調整操作部Ｈ１９０に球の打ち出し速度を調整する制御を設け、遊技者が設定した打ち出し速度で球を遊技盤Ｈ１３の正面へ打ち込むようにしても良い。

【９０２４】

さらに、操作ハンドルＨ５１を、上述した球排出レバーＨ５２に置き換えても良い。即ち、下皿Ｈ５０からの球の排出を許容する役割と、遊技盤Ｈ１３の正面への球の打ち出しを許容する役割と球排出レバーＨ５２に兼用させても良い。この場合、遊技盤Ｈ１３の正面へ球が打ち出されると下皿Ｈ５０から球の排出を許容でき、遊技盤Ｈ１３の正面へ球の打ち出しが停止されると下皿Ｈ５０からの球の排出を規制できるので、下皿Ｈ５０に球が溜まり過ぎることを抑制できる。

【９０２５】

通路形成ユニットＨ１４０は、樹脂材料により成形されており、上皿Ｈ１７に通じる前扉側上皿通路部Ｈ１４１と、下皿Ｈ５０に通じる前扉側下皿通路部Ｈ１４２と、ファール球通路部Ｈ１４５と、を有している。

【９０２６】

通路形成ユニットＨ１４０の上側隅部（正面枠Ｈ１４の回動基端側の隅部）には後方（矢印Ｂ方向）に突出し上方に開放された払出球受口部Ｈ１４３が形成されており、その払出球受口部Ｈ１４３が仕切壁Ｈ１４４によって左右に仕切られることで前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口と前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口とがそれぞれ形成されている（図４９４参照）。

【９０２７】

なお、前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側上皿通路部Ｈ１６１（図４９２参照）が連通されており、前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側下皿通路部Ｈ１６２（図４９２参照）が連通される。これにより、払出装置Ｈ１３３から送球される球は、上皿Ｈ１７又は下皿Ｈ５０に送球されることとなる。

【９０２８】

ファール球通路部Ｈ１４５（図４９４参照）は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球のうち遊技領域まで至らなかった球をファール球として下皿Ｈ５０に排出する通路を形成する部位である。

【９０２９】

ファール球通路部Ｈ１４５には、図４９５に示すように、上方側（矢印Ｕ方向側）が開放したファール球受口部Ｈ１４６が設けられる。このファール球受口部Ｈ１４６に受け入れられたファール球は、ファール球通路部Ｈ１４５（図４９４参照）の内部通路を流下した後で、下皿Ｈ５０に排出される。なお、ファール球通路部Ｈ１４５は、下皿Ｈ５０でなく、上皿Ｈ１７に接続され、ファール球が上皿Ｈ１７に排出される構成としても良い。

【９０３０】

また、ファール球通路部Ｈ１４５は、遊技者が球排出レバーＨ５４を操作することにより上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０に流下する未発射球が案内される通路である球抜き通路（図示しない）と合流するように形成される。

【９０３１】

発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７に貯留される球を１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａに送球するためのユニットである。発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７の送球経路の開口部に連なる正面側開口Ｈ１７１と、その正面側開口Ｈ１７１から流入した球を背面側から排出可能な背面側開口Ｈ１７２と、それら正面側開口Ｈ１７１から背面側開口Ｈ１７２までを通過する通路上に変位可能に配設される切替手段（図示しない）と、その切替手段を駆動させるソレノイド（図示しない）とを主に備えて形成される。

【９０３２】

発射位置送球ユニットＨ１７０の切替手段は、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが可能な位置と、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置とに変位可能に構成されており、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置に変位された場合に発射位置送球ユニットＨ１７０の通路上にある球を背面側開口Ｈ１７２から球発射ユニットＨ１１２ａ（発射レールＨ１１２ａ１）に流入可能に形成される。これにより、切替手段の位置の切り替え（１往復の変位）に伴って１球ずつ球を背面側開口Ｈ１７２から排出することが可能となっている。

【９０３３】

なお、背面側開口Ｈ１７２は、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１の上方（矢印Ｕ方向）の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する（図４９２参照）。従って、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１に発射位置送球ユニットＨ１７０から１球ずつ球が送球されることとなる。

【９０３４】

また、図４９２に示すように、背面側開口Ｈ１７２は、発射レールＨ１１２ａ１の球の送球方向における発射レールＨ１１２ａ１の両端部の間に形成される。従って、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１上に送球される球は、発射レールＨ１１２ａ１上を左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両方向に転動可能となるが、発射レールＨ１１２ａ１は一方側（回転体Ｈ１１２ａ２から離れる側）が上方（矢印Ｕ方向）に向かって傾斜した状態で配設されるので、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球された球（回転体Ｈ１１２ａ２により発射前の球）が回転体Ｈ１１２ａ２から離れる方向に転動することが抑制される。

【９０３５】

図４９２に示すように、遊技盤Ｈ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｈ６０に、球を案内可能な部位である多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）の他、レール部材Ｈ６１，Ｈ６２、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５、スルーゲートＨ６７、可変表示装置ユニットＨ８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠Ｈ１２の裏面側に取り付けられる。なお、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５は、光を透過可能に構成さ

れる。
【９０３６】
ベース板Ｈ６０は、光を透過可能に構成される（光透過性の）樹脂材料からなり、その正面側（矢印Ｆ方向側）からベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変表示装置ユニットＨ８０は、ルータ加工によってベース板Ｈ６０に形成された貫通穴に配設され、光透過可能部である遊技盤Ｈ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。
【９０３７】
なお、ベース板Ｈ６０は、光透過性の樹脂材料から形成されるものに限られるものではなく、薄い板材を張り合わせた木材から形成されるものであっても良いし、非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても良い。なお、これらの場合、装飾がされたシール等をベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）の全域に貼付してベース板Ｈ６０の装飾性を確保することが好ましい。
【９０３８】
遊技盤Ｈ１３の正面中央部分は、正面枠Ｈ１４の窓部Ｈ１４ｅ（図４８７参照）の一部を通じて内枠Ｈ１２の正面側（矢印Ｆ方向側）から視認することができる。以下に、主に図４９２を参照して、遊技盤Ｈ１３の構成について説明する。
【９０３９】
遊技盤Ｈ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した領域構成部である外レールＨ６２が植立され、その外レールＨ６２の内側位置には外レールＨ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＨ６１が植立される。この内レールＨ６１と外レールＨ６２とにより遊技盤Ｈ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ｈ１３とガラスユニットＨ１６（図４８７参照）とにより前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）が囲まれることにより、遊技盤Ｈ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ｈ１３の正面であって２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｈ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。なお、２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２、金属板である必要なく、樹脂材料から帯状に形成されるものであっても良い。
【９０４０】
２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球を遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）へ案内するために設けられたものである。内レールＨ６１の先端部分（図４９２の左上部）には戻り球防止部材Ｈ６８が取り付けられる。
【９０４１】
戻り球防止部材Ｈ６８は、内レールＨ６１側から外レールＨ６２側に延設される樹脂製の板部材から形成され、内レールＨ６１側の一端側を軸に他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転可能とされる。また、戻り球防止部材Ｈ６８は、一端側に錘を備え、その錘により被押進物体である他端側が外レールＨ６２に近づく方向に付勢される。
【９０４２】
これにより、遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）に案内される球の勢いで戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転させることができると共に、抑制物体としての壁部によって回転角度を抑制されており、戻り球防止部材Ｈ６８を超える位置（遊技盤Ｈ１３の上方側）に球が案内された際に戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２に近づく方向に回転させることができ、一旦、遊技盤Ｈ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。
【９０４３】
なお、戻り球防止部材Ｈ６８は、樹脂材料から形成される必要はなく、金属材料から形成されていても良い。また、対象物の動作を抑制する錘以外に磁石などの磁力やねじりバネなどの付勢力によって戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２側に付勢する構成としても良い。

【９０４４】
　また、戻り球防止部材Ｈ６８は、後述する風車のように、一方向に継続して回転できるもの（１球ずつ所定位置に戻らないもの）であっても良い。この場合、遊技盤Ｈ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻らないように、遊技盤Ｈ１３の上部への球の案内によって回転する方向（一方向）とは反対の方向（他方向）に回転することを規制するワンウェイクラッチを配設することが好ましい。
【９０４５】
　外レールＨ６２の先端部（図４９２の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＨ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＨ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。
【９０４６】
　遊技領域の正面視左側下部（図４９２の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、主制御装置Ｈ１１０（図４９６参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機Ｈ１０の遊技状態の表示が行われる。本実施形態では、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞したか、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａが作動し、一方で、球が、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂが作動するように構成されている。
【９０４７】
　また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機Ｈ１０が確変中か時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が確変大当たりに対応した図柄か普通大当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機Ｈ１０の各種遊技状態を示唆することができる。
【９０４８】
　尚、本パチンコ機Ｈ１０では、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ｈ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ確変大当たり、４Ｒ確変大当たり、１５Ｒ通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。
【９０４９】
　ここで、「１５Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数（例えば、可変入賞装置Ｈ６５（図４９２参照）が連続開放される最大回数）が１５ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことであり、「４Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことである。また、「１５Ｒ通常大当たり」は、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となる大当たりのことである。
【９０５０】
　大当たり中において、最大ラウンド数や現在のラウンド数は、数字の変更を視認させる状態で表示が可能な視認変更物体である表示層（ラウンド数が表示される表示層またはその表示層よりも後方の表示層）での表示と共に第３図柄表示装置Ｈ８１においても表示される。大当たりが終了する際には、ラウンド数の表示が第３図柄表示装置Ｈ８１において

される表示層よりも前側に位置する視認可能物体である表示層においてエンディング表示（静止画または動画）が実行される。

【９０５１】

このエンディング表示によりラウンド数の表示が隠されることで、遊技者は、大当たりが終了したことを視覚的に把握することができ、戸惑うことなく大当たり後の遊技が開始されることを理解することができる。

【９０５２】

また、ラウンド間において、ラウンド数の表示が第３図柄表示装置Ｈ８１においてされる表示層よりも前側に位置する表示層においてインターバル表示（静止画または動画）が実行される。このインターバル表示によりラウンド数の表示が隠されることで、遊技者は、ラウンドの切れ目であることを視覚的に把握することができる。

【９０５３】

なお、大当たりのラウンド数は、１５Ｒと４Ｒに限られるものではなく、パチンコ機Ｈ１０の機種により他のラウンド数に変更しても良く、又、２種以上のラウンド数を有するものであっても良い。また、時短状態における所定の変動回数は、１００変動回数に限られるものではなく、例えば、１変動回数や１０００変動回数に設定しても良い。

【９０５４】

また、「高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。本実施形態における高確率状態（確変中）は、後述する第２図柄の当たり確率がアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態を含む。「低確率状態」とは、確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、確変の時より大当たり確率が低い状態をいう。また、「低確率状態」のうちの時短状態（時短中）とは、大当たり確率が通常の状態であると共に、大当たり確率がそのままで第２図柄の当たり確率のみがアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。一方、パチンコ機Ｈ１０が通常中とは、確変中でも時短中でもない遊技の状態（大当たり確率も第２図柄の当たり確率もアップしていない状態）である。

【９０５５】

確変中や時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａを駆動する駆動主体としてのソレノイドの制御態様が変更され、電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物Ｈ６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、確変中や時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。

【９０５６】

なお、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数を通常中よりも増やす変更を行うものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２図柄の当たり確率は変更せず、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間および１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数の少なくとも一方を変更するものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間や、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａを開放する回数は変更せず、第２図柄の当たり確率だけを、通常中と比してアップするよう変更するものであっても良い。

【９０５７】

球の第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０の通過回数は、それぞれ、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示される。本実施形態では、保留球数が第３図柄表示装置Ｈ８１の一部に表示されるように構成される。なお、保留球数を、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に点灯表示

するものであっても良い。例えば、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０の球の通過に伴って点灯する４つのＬＥＤを２セット（第１入賞口Ｈ６４に対応するセット及び第２入賞口Ｈ６４０に対応するセット）用意し、第３図柄表示装置Ｈ８１の下方に配設し、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０の通過に対応して点灯表示するものであっても良い。

【９０５８】

また、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０の球の通過に対する最大保留球数は、それぞれ４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、第１入賞口Ｈ６４の球の通過に対する最大保留球数と、第２入賞口Ｈ６４０の球の通過に対する最大保留球数とは、同一となるように設定しても良いし、異なるように設定しても良い。

【９０５９】

第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０の球の通過に対する保留球数が０である場合において最後の変動演出が終了し、暫くすると、遊技説明等のために機種ごとに用意されている期間経過演出としてのデモンストレーション動画が表示される。このデモンストレーション動画は、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０への入賞の検出や、ハンドルＨ５１に遊技者が触れたことの検出がされた場合に解除される。

【９０６０】

遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口Ｈ６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニットＨ８０が配設されている。可変表示装置ユニットＨ８０には、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、実行条件演出としての第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置Ｈ８１と、スルーゲートＨ６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成され、光を発光可能に構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、可変表示装置ユニットＨ８０には、第３図柄表示装置Ｈ８１の外周を囲むようにして、センターフレームＨ８６が配設されている。

【９０６１】

なお、センターフレームＨ８６は、遊技領域を流下する球がベース板Ｈ６０の中央開口を介して第３図柄表示装置Ｈ８１側に流下することを防止するための部材であり、ベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出して形成される。また、センターフレームＨ８６は光を透過可能に構成される。

【９０６２】

また、センターフレームＨ８６の一部には、遊技領域を流下する球を受け入れると共に第３図柄表示装置Ｈ８１の周囲を通過させて第１入賞口Ｈ６４側から排出するワープ通路（図示せず）が一部に形成される。センターフレームＨ８６に形成されるワープ通路は、遊技球が通過可能に構成される。言い換えると、ワープ通路は、遊技球を送球可能に構成される。

【９０６３】

また、センターフレームＨ８６には、ワープ通路から排出された遊技球が通過可能に構成されるステージを備える。即ち、ワープ通路から排出される遊技球を送球可能に構成されるステージを備える。センターフレームＨ８６のステージは、遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される凹部を備え、その凹部により遊技球をベース板Ｈ６０の所定の領域に送球可能に構成される。

【９０６４】

本実施形態では、ベース板Ｈ６０よりも正面側を球が通過するようにワープ通路が構成されるが、ベース板Ｈ６０よりも背面側を球が通過するようにワープ通路を形成することも可能である。例えば、ベース板Ｈ６０よりも背面側を通る通路をベース板Ｈ６０よりも背面側に配設される円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユ

ニットＧ４００よりも背面を通過するように構成して、その円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００の変位に伴ってワープ通路を通過する遊技球を遊技者から視認できるようにしても良い。

【９０６５】

なお、センターフレームＨ８６には、遊技領域まで突出して遊技領域の背面側を区画する部分に、所定の幅を隔てた状態で正面側に向かって立設される一対の立設部を形成して、それら一対の立設部により区画される領域に沿って遊技球を流下させるようにしても良い。即ち、センターフレームに遊技球が通過可能に構成される流下経路（一対の立設部）を形成しても良い。

【９０６６】

また、センターフレームＨ８６で遊技球の流下経路を形成した場合には、一対の立設部の対向面（流下経路の内面側）に凹設される凹部または凸設される凸部を形成して、一対の立設部の対向間に沿って流下される遊技球を凹部または凸部に当接させることで、一対の立設部の対向間を流下する遊技球に流下方向（一対の立設部の延設方向）以外の方向の力成分を付与して、一対の立設部の対向間を流下する遊技球における流下方向の速度を低下するようにしても良い。即ち、一対の立設部に形成される凹部または凸部は、遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される。これによれば、球の流下速度を遅くすることで、流下する遊技球を遊技者に視認させやすくできると共に、球発射ユニットＨ１１２ａにより遊技領域に送球（発射）された遊技球がその発射された速度を維持したまま（流下速度が速いまま）釘や突起に当接することで釘や突起が曲がったりすることを抑制できる。

【９０６７】

なお、一対の立設部をセンターフレームＨ８６と別体で構成することも可能である。即ち、遊技球が通過可能に構成される一対の立設部を有する部材をベース板Ｈ６０に別途配設しても良い。これによれば、遊技球を送球可能に構成される一対の立設部により、遊技球を所定の方向に流下させることができる。

【９０６８】

第３図柄表示装置Ｈ８１は９インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置Ｈ１１４（図４９６参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。なお、第３図柄表示装置Ｈ８１は、９インチ以外のサイズで構成されていても、２枚以上の複数の液晶ディスプレイを並設して構成されていても良い。

【９０６９】

第３図柄表示装置Ｈ８１の各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置Ｈ８１は、主制御装置Ｈ１１０（図４９６参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。即ち、第３図柄表示装置Ｈ８１は、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた光を発光可能に構成される。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置Ｈ８１を構成するようにしても良い。

【９０７０】

なお、図柄列の態様は、横スクロールするものに限られるものではなく、種々の方向で設定可能である。例えば、表示制御装置Ｈ１１４（図４９６参照）によって表示内容が制御されることにより、第３図柄表示装置Ｈ８１に左、中及び右の３つの図柄列が表示され、各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に縦スクロールして第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっていても良い。

【９０７１】

第２図柄表示装置は、球がスルーゲートＨ６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機Ｈ１０では、球がスルーゲートＨ６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。なお、第２図柄表示装置は、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて図柄を表示されるものであって良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１と別の表示装置とのどちらにも図柄を表示させるものであっても良く、本実施形態では、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示される。

【９０７２】

パチンコ機Ｈ１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｈ６４０に付随された電動役物Ｈ６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【９０７３】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、確変中または時短中の方が短くなるように設定される。これにより、確変中および時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、確変中および時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【９０７４】

なお、確変中または時短中において、当たり確率を高める、１回に当たりに対する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、確変中または時短中に第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としても良い。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、確変中または時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしても良いし、また、１回の当たりに対する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしても良い。

【９０７５】

スルーゲートＨ６７は、可変表示装置ユニットＨ８０の左右の領域において遊技盤Ｈ１３に組み付けられ、遊技盤Ｈ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲートＨ６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【９０７６】

球のスルーゲートＨ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。なお、本実施形態では、光を発光可能に構成される第２図柄保留ランプは、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示されるように構成されるが、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に点灯表示するものであっても良い。例えば、スルーゲートＨ６７への球の通過に伴って点灯する４つのＬＥＤを第３図柄表示装置Ｈ８１の下方に配設して点灯表示するものであっても良い。

【９０７７】

また、スルーゲートＨ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け数は２つに限定されるものではなく、例えば１つであっても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＨ８０の左右に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の下方でも良い。また、第

１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしても良い。

【９０７８】

可変表示装置ユニットＨ８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口Ｈ６４が配設されている。この第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図４９６参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａで示される。

【９０７９】

一方、第１入賞口Ｈ６４の正面視下方には、球が入賞し得る第２入賞口Ｈ６４０が配設されている。この第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図４９６参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂで示される。

【９０８０】

また、第１入賞口Ｈ６４および第２入賞口Ｈ６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成しても良い。

【９０８１】

第２入賞口Ｈ６４０には電動役物Ｈ６４０ａが付随されている。この電動役物Ｈ６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖状態（縮小状態）となって、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲートＨ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となり、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しやすい状態となる。

【９０８２】

なお、本実施形態では、第２入賞口Ｈ６４０の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に開閉する羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設され、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となった場合に第２入賞口Ｈ６４０の左右両側から球が第２入賞口Ｈ６４０に入賞可能に構成されるが、左右方向の一方側の流路を塞ぐ壁を形成して、他方側からのみ第２入賞口Ｈ６４０に球が入賞可能となるように構成しても良い。この場合、第２入賞口Ｈ６４０の他方側にのみ開閉する羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設される。

【９０８３】

また、電動役物Ｈ６４０ａは、回転する羽部材に限られるものではなく、第２入賞口Ｈ６４０を開放する位置と閉鎖する位置とに移動するものであればスライド変位するものであっても良い。例えば、電動役物Ｈ６４０ａは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にスライド変位するものや、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向側）にスライド変位するものであっても良い。

【９０８４】

上述した通り、確変中および時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となる回数が増える。更に、確変中および時短中は、電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。

【９０８５】
本実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０は、遊技盤Ｈ１３の構成が左右対称とされるため、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「右打ち」）、第１入賞口Ｈ６４を狙うことも、可変表示装置ユニットＨ８０の左方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「左打ち」）第２入賞口Ｈ６４０を狙うこともできる。そのため、本実施形態のパチンコ機Ｈ１０は、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることを不要にできる。よって、球の打ち方を変化させる煩わしさを解消することができる。
【９０８６】
なお、低確率状態であっても高確率状態でも大当たりとなる確率が変わらない（低確率状態の大当たり確率と高確率状態の大当たり確率とが同じ確率である）構成としても良い。この場合には、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ確変大当たりとなる確率が、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されるように構成すると共に、「左打ち」側の流路に第１入賞口Ｈ６４を配設し、「右打ち」側の流路に第２入賞口Ｈ６４０を配設する構成（遊技盤Ｈ１３の構成を左右非対称）とすることが好ましい。
【９０８７】
この構成によれば、通常中においては、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物が閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しづらいので、電動役物のない第１入賞口Ｈ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の左方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射し（「左打ち」）、第１入賞口Ｈ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。
【９０８８】
一方、確変中や時短中は、スルーゲートＨ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｈ６４０に付随する被押進物体である電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｈ６４０へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射し（「右打ち」）、スルーゲートＨ６７を通過させて電動役物を開放状態にすると共に、第２入賞口Ｈ６４０への入賞によって１５Ｒ確変大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。
【９０８９】
従って、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることができ、遊技者の興趣を維持できる。
【９０９０】
第１入賞口Ｈ６４の下方には可変入賞装置Ｈ６５（図４９２参照）が配設されており、その略中央部分に特定入賞口Ｈ６５ａが設けられている。パチンコ機Ｈ１０においては、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｈ６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞することが配置検出センサである不図示の入賞検出センサに検出されるまで）開放される。即ち、スライド板Ｈ６５ｂは、特定入賞口Ｈ６５ａを閉鎖する位置において、流下する遊技球に当接可能な部位として構成される。従って、可変入賞装置Ｈ６５では、スライド板Ｈ６５ｂを閉鎖位置に配置することで、特定入賞口Ｈ６５ａに向かって流下する遊技球をスライド板Ｈ６５ｂに当接させて遊技球が特定入賞口Ｈ６５ａに入賞することを規制できる。一方、スライド板Ｈ６５ｂを開放

位置に配置することで、特定入賞口Ｈ６５ａに向かって流下する遊技球がスライド板Ｈ６５ｂに当接することを抑制して遊技球を特定入賞口Ｈ６５ａに入賞させることができる。

【９０９１】

この特定入賞口Ｈ６５ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放される。この特定入賞口Ｈ６５ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。

【９０９２】

なお、上記した形態に特別遊技状態は限定されるものではない。特定入賞口Ｈ６５ａとは別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおいて大当たりに対応したＬＥＤが点灯した場合に、特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放され、その特定入賞口Ｈ６５ａの開放中に、球が特定入賞口Ｈ６５ａ内へ入賞することを契機として特定入賞口Ｈ６５ａとは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。また、特定入賞口Ｈ６５ａは１つに限るものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｈ６４の下方右側や、第１入賞口Ｈ６４の下方左側に限らず、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の左方でも良い。

【９０９３】

遊技盤Ｈ１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＫ１が設けられ、貼着スペースＫ１に貼られた証紙等は、正面枠Ｈ１４のガラスユニットＨ１６を介して視認することができる。

【９０９４】

遊技盤Ｈ１３には、アウト口Ｈ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０にも入賞しなかった球は、アウト口Ｈ７１を通って図示しない球排出路へと案内される。アウト口Ｈ７１は、特定入賞口Ｈ６５ａの下方（矢印Ｄ方向側）に配設される。

【９０９５】

また、遊技盤Ｈ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車（図示しない）等の各種部材（役物）とが配設されている。さらに、第３図柄表示装置Ｈ８１を取り囲む態様でベース板Ｈ６０の中央開口部に配設されるセンターフレームＨ８６の一部は、上方側（矢印Ｕ方向側）の遊技領域まで背面側（矢印Ｂ方向側）の側面が延設され、その延設された領域に正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突出する突出部を複数備える。遊技盤Ｈ１３の遊技領域を流下する球は、多数の釘や、センターフレームＨ８６の突出部、風車等に衝突しつつ流下されることで、球の落下方向が適宜分散される。

【９０９６】

なお、本実施形態では、センターフレームＨ８６の一部が延設される方向が上方側（矢印Ｕ方向）に設定されているが、右側（矢印Ｒ方向側）や左側（矢印Ｌ方向側）に延設されていても良く、その延設部分に突出部だけでなくスルーゲートＨ６７や各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０を配置する構成としても良い。また、センターフレームＨ８６は、延設部分や突出部を備えない構成としても良い。

【９０９７】

風車は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の軸を中心に回転可能に形成される。また、風車は、正面視において回転軸を中心とする円形に形成されベース板Ｈ６０の正面から１球分の距離を隔てた位置に配設される円盤部材と、その円盤部材の中心と同軸で位置する円錐形状体として円盤部材の後方に張り出し形成された部位である円錐形状部と、その円盤部材の一部からベース板Ｈ６０側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出され風車の回転方向に沿って所定の角度（本実施形態では１２０度）で分散配置される複数（本実施形態では３枚）の衝突可能な部位である球当接部とを備えて形成されており、遊技盤Ｈ１３を流下する

球が球当接部に当接した衝撃で回転しつつ当接した球を複数（２以上）の方向に案内可能に形成される。

【９０９８】

また、風車は、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。これにより、球当接部に当接した球の流下方向を遊技者に視認させやすくできると共に、風車の回転方向を遊技者に認識させにくくできる。

【９０９９】

なお、遊技盤Ｈ１３は、ベース板Ｈ６０に必ずしも風車を備えている必要はなく風車を備えない構成としても良い。また、センターフレームＨ８６のワープ通路（図示しない）や、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ入球した球が通過する通路（図示しない）の通路途中に風車を配設して、風車により球の通路を変更するように構成することも可能である。さらに、風車は、一部が非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても、全部が非透過性のアルミ等の金属製の材料から形成されるものであっても良く、球が当接した際に球を複数の方向に案内可能であれば形状、色、材質は何でも良い。例えば、風車は、１球ずつ交互に異なる方向に球を振り分け可能に構成されていても良い。また、風車に変えて、上述した戻り球防止部材Ｈ６８を配設して、遊技領域を流下する球を一方向に流下させる（球が戻らない）ように構成しても良い。

【９１００】

また、上記第８２実施形態では、遊技盤Ｈ１３のベース板Ｈ６０に配設した風車に遊技領域を流下する力を付与する手段としての遊技球を当接（衝突）させて風車を回転させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、風車に駆動手段の駆動力を伝達するように構成しても良い。

【９１０１】

例えば、上記第８２実施形態における風車に置き換えて左側円環部材Ｇ７１０、右側円環部材Ｇ７２０、アーム部Ｇ８１２、第１回転ベースＧ４１０、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ６４２０、花弁側伝達部材Ｇ４３０、第２回転ベースＧ４６０、第２装飾ユニットＧ４８０をベース板Ｈ６０に配設するように構成して、それら回転する左側円環部材Ｇ７１０、右側円環部材Ｇ７２０、アーム部Ｇ８１２、第１回転ベースＧ４１０、第１装飾ユニットＧ４２０，Ｇ６４２０、花弁側伝達部材Ｇ４３０、第２回転ベースＧ４６０、第２装飾ユニットＧ４８０に遊技領域を流下する遊技球を衝突させて、遊技球の流下方向を変更するように構成しても良い。

【９１０２】

図４８８に示すように、パチンコ機Ｈ１０の背面側には、制御基板ユニットＨ９０，Ｈ９１と、裏パックユニットＨ９４とが主に備えられている。制御基板ユニットＨ９０は、主基板（主制御装置Ｈ１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置Ｈ１１３）と表示制御基板（表示制御装置Ｈ１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニットＨ９１は、払出制御基板（払出制御装置Ｈ１１１）と発射制御基板（発射制御装置Ｈ１１２）と電源基板（電源装置Ｈ１１５）とカードユニット接続基板Ｈ１１６とが搭載されてユニット化されている。

【９１０３】

裏パックユニットＨ９４は、保護カバー部を形成する裏パックＨ９２と払出ユニットＨ９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとしてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。

【９１０４】

なお、主制御装置Ｈ１１０、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び表示制御装置Ｈ１１４、払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２、電源装置Ｈ１１５、カードユニット接続基板Ｈ１１６は、それぞれ基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４に収納されている。基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボック

スカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。

【９１０５】

また、基板ボックスＨ１００（主制御装置Ｈ１１０）及び基板ボックスＨ１０２（払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２が開封されたかどうかを知ることができる。

【９１０６】

払出ユニットＨ９３は、裏パックユニットＨ９４の最上部に位置して上方に開口したタンクＨ１３０と、タンクＨ１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレールＨ１３１と、タンクレールＨ１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレールＨ１３２と、ケースレールＨ１３２の最下流部に設けられ、払出モータＨ２１６（図４９６参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置Ｈ１３３とを備えている。タンクＨ１３０には、遊技ホール（以下、単にホールとも称する）の島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置Ｈ１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレールＨ１３１には、当該タンクレールＨ１３１に振動を付加するためのバイブレータＨ１３４が取り付けられており、このバイブレータＨ１３４の振動によりタンクレールＨ１３１内に球が詰まることが抑制される。なお、バイブレータＨ１３４は、タンクレールＨ１３１に取り付けられるだけでなく、他のレール部分（通路）に取り付けることも可能である。例えば、上皿Ｈ１７や下皿Ｈ５０に球を送球する球送通路（皿通路形成部材Ｈ１６０）や、上皿Ｈ１７から球発射ユニットＨ１１２ａに球を送球する送球通路（発射位置送球ユニットＨ１７０）に配設しても良い。

【９１０７】

また、払出制御装置Ｈ１１１には状態復帰スイッチＨ１２０が設けられ、発射制御装置Ｈ１１２には可変抵抗器の操作つまみＨ１２１が設けられ、電源装置Ｈ１１５にはＲＡＭ消去スイッチＨ１２２が設けられている。状態復帰スイッチＨ１２０は、例えば、払出モータＨ２１６（図４９６参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみＨ１２１は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）から放音される音の大きさを店舗側で調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２は、パチンコ機Ｈ１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。

【９１０８】

遊技機が配置されるホール（遊技機店舗）では、払出エラーの発生時において、パチンコ機Ｈ１０の設定に影響を与えないように構成される非調整部である店員呼び出しボタンを遊技者が操作することで、ホールの店員が払出エラーに気付くことができるように構成されている。

【９１０９】

なお、タンクＨ１３０に上述した球発射ユニットＨ１１２ａを別途配設して、球発射ユニットＨ１１２ａにより球を打ち出すことでタンクＨ１３０に送球される球が詰まることや、タンクＨ１３０からタンクレールＨ１３１に送球される球が詰まることを抑制しても良い。

【９１１０】

次に、図４９６を参照して、本パチンコ機Ｈ１０の電気的構成について説明する。図４９６は、パチンコ機Ｈ１０の電気的構成を示すブロック図である。

【９１１１】
主制御装置Ｈ１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ（マイクロプロセッサー）Ｈ２０１が搭載されている。ＭＰＵＨ２０１には、該ＭＰＵＨ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ（半導体メモリ）Ｈ２０２と、そのＲＯＭＨ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ（ランダムアクセスメモリ）Ｈ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置Ｈ１１０では、ＭＰＵＨ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｈ８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機Ｈ１０の主要な処理を実行する。

【９１１２】
なお、払出制御装置Ｈ１１１や音声ランプ制御装置Ｈ１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置Ｈ１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置Ｈ１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。

【９１１３】
ＲＡＭＨ２０３は、各種エリア、カウンタ、フラグのほか、ＭＰＵＨ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。なお、ＲＡＭＨ２０３は、パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。

【９１１４】
停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭＨ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭＨ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機Ｈ１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭＨ２０３への書き込みはメイン処理（図示せず）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭＨ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図示せず）において実行される。なお、ＭＰＵＨ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路Ｈ２５２からの停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【９１１５】
主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２０４を介して入出力ポートＨ２０５が接続されている。入出力ポートＨ２０５には、払出制御装置Ｈ１１１、音声ランプ制御装置Ｈ１１３、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ、第２図柄表示装置、第２図柄保留ランプ、特定入賞口Ｈ６５ａの被押進物体である開閉板の下辺を軸として正面側に開閉駆動するための駆動主体としての大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドなどからなるソレノイドＨ２０９が接続され、ＭＰＵＨ２０１は、入出力ポートＨ２０５を介してこれらに対し各種コマンドや制御信号を送信する。

【９１１６】
なお、ソレノイドＨ２０９は、大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドだけでなく、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源（駆動モータ）や、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、上皿Ｈ１７へ球を送球するための払出装置Ｈ１３３を駆動する駆動モータ（図示しない）等を含む構成としても良い。

【９１１７】
入出力ポートＨ２０５には、図示しないスイッチ群およびスルーゲートＨ６７を通過し

たことを検出するセンサ（スルーゲートＨ６７）、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ入賞した球が進入可能な被進入物体であって、球が入賞したことを検知する入賞検出センサ（図示しない）、パチンコ機Ｈ１０に振動が入力されたことを検出する振動検出センサ（図示しない）、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に磁石等が近づけられたことを検出する磁力検出センサ等のセンサ群などからなる各種スイッチＨ２０８、電源装置Ｈ１１５に設けられた後述のＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３が接続され、ＭＰＵＨ２０１は各種スイッチＨ２０８から出力される信号や、ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３より出力されるＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２に基づいて各種処理を実行する。

【９１１８】

なお、各種スイッチＨ２０８は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における枠ボタンＨ２２（操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１や、操作デバイスＳ３００の動作部材Ｓ３１０や、機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）を含む構成としても良い。

【９１１９】

払出制御装置Ｈ１１１は、払出モータＨ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵＨ２１１は、そのＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２１３とを有している。

【９１２０】

払出制御装置Ｈ１１１のＲＡＭＨ２１３は、主制御装置Ｈ１１０のＲＡＭＨ２０３と同様に、ＭＰＵＨ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭＨ２１３は、パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１と同様、ＭＰＵＨ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路Ｈ２５２から停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【９１２１】

払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２１４を介して入出力ポートＨ２１５が接続されている。入出力ポートＨ２１５には、主制御装置Ｈ１１０や払出モータＨ２１６、発射制御装置Ｈ１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置Ｈ１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置Ｈ１１１に接続されるが、主制御装置Ｈ１１０には接続されていない。

【９１２２】

発射制御装置Ｈ１１２は、主制御装置Ｈ１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニットＨ１１２ａを制御するものである。

【９１２３】

球発射ユニットＨ１１２ａの回転体Ｈ１１２ａ２は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドルＨ５１に触れていることをタッチセンサＨ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための内部操作体である発射停止スイッチＨ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）に対応して駆動モータから駆動力が伝達され、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた速度で回転体Ｈ１１２ａ２が回転される。これにより、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた強さで球発射ユニットＨ１１２ａから内レールＨ６１及び外レールＨ６２の対向間に球が発射される。

【９１２４】
音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカーなど）Ｈ２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部Ｈ２９～Ｈ３３など）Ｈ２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置Ｈ１１４で行われる第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵＨ２２１は、そのＭＰＵＨ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２２３とを有している。
【９１２５】
音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２２４を介して入出力ポートＨ２２５が接続されている。入出力ポートＨ２２５には、主制御装置Ｈ１１０、表示制御装置Ｈ１１４、音声出力装置Ｈ２２６、ランプ表示装置Ｈ２２７、その他装置Ｈ２２８、ボタン部Ｈ１８１などがそれぞれ接続されている。その他装置Ｈ２２８には、駆動モータＧ９１０、駆動モータＧ８４０、駆動手段Ｈ７５０、モータ装置Ｐ７７１、及び、駆動モータＳ４４１が含まれる。
【９１２６】
なお、その他装置Ｈ２２８には、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源だけでなく、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａを含む構成としても良い。
【９１２７】
音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置Ｈ１１４へ通知する。
【９１２８】
また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、ボタン部Ｈ１８１からの入力を監視し、遊技者によってボタン部Ｈ１８１が操作された場合は、第３図柄表示装置Ｈ８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた背面画像を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた背面画像変更コマンドを表示制御装置Ｈ１１４へ送信する。ここで、背面画像とは、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させる主要な画像である第３図柄の背面側に表示される画像のことである。表示制御装置Ｈ１１４は、この音声ランプ制御装置Ｈ１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置Ｈ８１に各種の画像を表示する。
【９１２９】
さらに、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、機能調整操作部Ｈ１９０（決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）からの入力を監視し、遊技者によって機能調整操作部Ｈ１９０が操作された場合は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量を変更したり、第３図柄表示装置Ｈ８１の明るさを変更したり、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさを変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。音量や明るさが変更される場合は、音量や明るさの調整度合いが第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される主要な表示の前方側に数値やボリューム等で一時的に表示される。
【９１３０】
なお、図４９６では、操作ユニットＨ１８０のボタン部Ｈ１８１や機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５をまとめて枠ボタンＨ２２として図示している。
【９１３１】
また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、表示制御装置Ｈ１１４から第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１

３では、表示制御装置Ｈ１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置Ｈ２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置Ｈ２２７の点灯および消灯を制御する。

【９１３２】

表示制御装置Ｈ１１４は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び第３図柄表示装置Ｈ８１が接続され、音声ランプ制御装置Ｈ１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置Ｈ１１４は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置Ｈ１１３へ送信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置Ｈ２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示と音声出力装置Ｈ２２６からの音声出力とをあわせることができる。

【９１３３】

なお、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８が、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に接続されるように構成して、ＭＰＵＨ２２１が、各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいて各種処理を実行しても良い。また、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８とは別に音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に各種スイッチを接続しても良い。この場合には、主に遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の位置検出センサ等のセンサ群を各種スイッチとして構成することが好ましい。

【９１３４】

電源装置Ｈ１１５は、パチンコ機Ｈ１０の各部に電源を供給するための電源部Ｈ２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路Ｈ２５２と、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図４９６参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３とを有している。電源部Ｈ２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部Ｈ２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチＨ２０８などの各種スイッチや、ソレノイドＨ２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧及びバックアップ電圧を各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対して必要な電圧を供給する。

【９１３５】

停電監視回路Ｈ２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１及び払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＨＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路Ｈ２５２は、電源部Ｈ２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＨＳＧ１を主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１へ出力する。停電信号ＨＳＧ１の出力によって、主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部Ｈ２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。

【９１３６】

ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３は、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図４９６参照）が押下された場合に、主制御装置Ｈ１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置Ｈ１１０は、パチンコ機

Ｈ１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置Ｈ１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置Ｈ１１１に対して送信する。

【９１３７】

以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図４９７から図５０７を参照し、第８３実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ａ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。上記第７８実施形態では、正面枠Ｈ１４が配設されるパチンコ機Ｈ１０について説明したが、第８３実施形態では、正面枠Ｐ１４が配設される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【９１３８】

また、以下の説明では、図４９７に示す状態のパチンコ機Ａ１０について、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図４９７に示す状態のパチンコ機Ａ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図４９７参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ａ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【９１３９】

また、特段の説明がない限り、パチンコ機Ａ１０を遊技する遊技者は、パチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置し、パチンコ機Ａ１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に視線を向けた状態（パチンコ機Ａ１０の正面側と対面した状態）で遊技するものとして説明する。

【９１４０】

図４９７は、第８３実施形態におけるパチンコ機Ａ１０の正面図である。パチンコ機Ａ１０は、パチンコ機Ｈ１０で上述したのと同様に、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠Ｈ１１と、その外枠Ｈ１１と略同一の外形形状に形成され外枠Ｈ１１に対して開閉可能に支持された内枠Ｈ１２と、を備える。一方、パチンコ機Ａ１０は、パチンコ機Ｈ１０で上述したのとは異なり、内枠Ｈ１２と略同一の外形形状に形成され内枠Ｈ１２に対して開閉可能に支持された正面枠Ｐ１４と、遊技盤Ａ１３とを備えている。

【９１４１】

なお、上述したように、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、左側（矢印Ｌ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ａ１３の左端部を支持する目的の左端支持部Ｈ１２ａ１と、右側（矢印Ｒ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ａ１３の右端部を支持する目的の盤面支持装置Ｈ１２ａ２が配設される（図４９３参照）。遊技盤Ａ１３は、左端支持部Ｈ１２ａ１にベース板Ａ６０の左側端部が挿入されつつ枠状取付部である内枠Ｈ１２の背面側（矢印Ｂ方向側）における仮置き位置に押し込まれた後、盤面支持装置Ｈ１２ａ２が操作されて盤面支持装置Ｈ１２ａ２がベース板Ａ６０の正面と係合する（ベース板Ａ６０の正面を支持する）ことで内枠Ｈ１２の内側に固定される。

【９１４２】

図４９８は、遊技盤Ａ１３の正面図である。内枠Ｈ１２には、第８２実施形態で上述したように、枠形成ユニットＨ１２ａと裏パックユニットＨ９４とで正面側（矢印Ｆ方向側）が開放する略箱状に形成された内側に多数の釘や入賞口Ｈ６３，Ｈ６４等を有する遊技盤Ａ１３が配設される。この遊技盤Ａ１３の正面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。

【９１４３】

図４９８に示すように、遊技盤Ａ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ａ６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車ＡＷＦの他、レール部材Ｈ６１，Ｈ６２、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ａ６５、スルーゲートＨ６７、可変表示装置ユニットＨ８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠Ｈ１２の裏面側に取り付けられる。なお、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第

２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ａ６５は、光を透過可能に構成される。
【９１４４】
ベース板Ａ６０は、光を透過可能に構成される（光透過性の）樹脂材料からなり、その正面側（矢印Ｆ方向側）からベース板Ａ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変表示装置ユニットＨ８０は、ルータ加工によってベース板Ａ６０に形成された貫通穴に配設され、光透過可能部である遊技盤Ａ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。
【９１４５】
なお、ベース板Ａ６０は、光透過性の樹脂材料から形成されるものに限られるものではなく、薄い板材を張り合わせた木材から形成されるものであっても良いし、非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても良い。なお、これらの場合、装飾がされたシール等をベース板Ａ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）の全域に貼付してベース板Ａ６０の装飾性を確保することが好ましい。
【９１４６】
遊技盤Ａ１３の正面中央部分は、正面枠Ｐ１４の窓部Ｐ１４ｅ（図４９７参照）の一部を通じて内枠Ｈ１２の正面側（矢印Ｆ方向側）から視認することができる。以下に、主に図４９８を参照して、遊技盤Ａ１３の構成について説明する。
【９１４７】
遊技盤Ａ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した領域構成部である外レールＨ６２が植立され、その外レールＨ６２の内側位置には外レールＨ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＨ６１が植立される。この内レールＨ６１と外レールＨ６２とにより遊技盤Ａ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ａ１３とガラスユニットＨ１６（図４９７参照）とにより前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）が囲まれることにより、遊技盤Ａ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ａ１３の正面であって２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｈ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。なお、２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２、金属板である必要なく、樹脂材料から帯状に形成されるものであっても良い。
【９１４８】
２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２は、上皿Ｈ１７に貯留され、球発射ユニットＨ１１２ａへ案内された後で、球発射ユニットＨ１１２ａ（図４９２参照）から発射された球を遊技盤Ａ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）へ案内するために設けられたものである。
【９１４９】
内レールＨ６１の先端部分（図４９８の左上部）には戻り球防止部材Ａ６８が取り付けられる。外レールＨ６２の先端部（図４９８の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＨ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＨ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。
【９１５０】
戻り球防止部材Ａ６８は、内レールＨ６１側から外レールＨ６２側に延設される樹脂製の板部材から形成され、内レールＨ６１側の一端側を軸に他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転可能とされる。また、戻り球防止部材Ａ６８は、一端側に錘を備え、その錘により他端側が外レールＨ６２に近づく方向に付勢される。
【９１５１】
これにより、遊技盤Ａ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）に案内される球の勢いで戻り球防止部材Ａ６８の他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転させることができると共に、壁部によって回転角度を抑制されており、戻り球防止部材Ａ６８を超える位置（遊技盤Ａ１３の上方側）に球が案内された際に戻り球防止部材Ａ６８の他端側を外レールＨ６２に近づく方向に回転させることができ、一旦、遊技盤Ａ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。

【９１５２】
なお、戻り球防止部材Ａ６８は、樹脂材料から形成される必要はなく、金属材料から形成されていても良い。また、対象物の動作を抑制する錘以外に磁石などの磁力やねじりバネなどの付勢力によって戻り球防止部材Ａ６８の他端側を外レールＨ６２側に付勢する構成としても良い。
【９１５３】
また、戻り球防止部材Ａ６８は、後述する風車ＡＷＦのように、一方向に継続して回転できるもの（１球ずつ所定位置に戻らないもの）であっても良い。この場合、遊技盤Ａ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻らないように、遊技盤Ａ１３の上部への球の案内によって回転する方向（一方向）とは反対の方向（他方向）に回転することを規制するワンウェイクラッチを配設することが好ましい。
【９１５４】
なお、上皿Ｈ１７で貯留される球としては、遊技者が供給する余り球や、払出装置Ｈ１３３の駆動により供給される球が想定される。例えば、遊技者が球貸しボタンＨ４２を操作することで、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得ることができるように構成されており、球貸しボタンＨ４２の一回の操作に対応して１００～２００個（１２５個等）の球が順に短時間で上皿Ｈ１７に供給されることが一般的である。
【９１５５】
球の発射間隔が０．６秒よりも短くされない場合、１００～２００個の球が空になるまでに６０秒～１２０秒が経過することになり、払出装置Ｈ１３３の駆動は、少なくとも６０秒～１２０秒の間隔を空けて実行されることになるため、払出装置Ｈ１３３が常時駆動される場合に比較して、払出装置Ｈ１３３の駆動モータの発熱を抑えることができる。
【９１５６】
なお、センターフレームＡ８６は、遊技領域を流下する球がベース板Ａ６０の中央開口を介して第３図柄表示装置Ｈ８１側に流下することを防止するための部材であり、ベース板Ａ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出して形成される。また、センターフレームＡ８６は光を透過可能に構成される。
【９１５７】
遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口Ｈ６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニットＨ８０が配設されている。また、可変表示装置ユニットＨ８０には、第３図柄表示装置Ｈ８１の外周を囲むようにして、センターフレームＡ８６が配設されている。
【９１５８】
なお、センターフレームＡ８６は、遊技領域を流下する球がベース板Ｈ６０の中央開口を介して第３図柄表示装置Ｈ８１側に流下することを防止するための部材であり、ベース板Ａ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出して形成される。また、センターフレームＡ８６は光を透過可能に構成される。
【９１５９】
また、センターフレームＡ８６の一部には、遊技領域を流下する球を受け入れると共に第３図柄表示装置Ｈ８１の周囲を通過させて第１入賞口Ｈ６４側へ排出するワープ通路（図示せず）が一部に形成される。センターフレームＡ８６に形成されるワープ通路は、遊技球が通過可能に構成される。言い換えると、ワープ通路は、遊技球を送球可能に構成される。
【９１６０】
また、センターフレームＡ８６には、ワープ通路から排出された遊技球が通過可能に構成されるステージを備える。即ち、ワープ通路から排出される遊技球を送球可能に構成されるステージを備える。センターフレームＡ８６のステージは、遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される凹部を備え、その凹部により遊技球をベース板Ａ６０の所定の領域に送球可能に構成される。
【９１６１】

本実施形態では、ベース板Ａ６０よりも正面側から流入した球が通過するようにワープ通路が構成されるが、ベース板Ａ６０よりも背面側を球が通過するようにワープ通路を形成することも可能である。この場合において、ワープ通路が全範囲においてベース板Ａ６０よりも正面側に位置するようにワープ通路を構成しても良いし、ワープ通路が全範囲においてベース板Ａ６０よりも背面側に位置するようにワープ通路を構成しても良いし、ワープ通路が全範囲においてベース板Ａ６０の厚みの範囲内に位置するようにワープ通路を構成しても良い。また、ワープ通路が、ベース板Ａ６０よりも正面側の領域、ベース板Ａ６０よりも背面側の領域、又は、ベース板Ａ６０の厚みの範囲内における領域の、少なくとも２つの領域を通るように構成しても良い。例えば、ベース板Ａ６０よりも背面側を通る通路をベース板Ａ６０よりも背面側に配設される構造体（円環形成ユニットＧ７００、花弁動作装置Ｇ８００、又は、花回転ユニットＧ４００等）よりも背面側を通過するように構成して、当該構造体の変位に伴ってワープ通路を通過する遊技球を遊技者から視認できるようにしても良い。

【９１６２】

なお、センターフレームＡ８６には、ベース板Ａ６０の正面側に沿って遊技領域側に延設され遊技領域の背面側を区画する延設部Ａ８６ａに、所定の幅を隔てた状態で正面側に向かって立設される一又は複数の立設部Ａ８６ｂを形成して、立設部Ａ８６ｂにより少なくとも一部が区画される領域に沿って遊技球を流下させるようにしても良い。即ち、センターフレームＡ８６に、遊技球が通過可能に構成される流下経路（立設部Ａ８６ｂにより少なくとも一部が区画される領域）を形成しても良い。

【９１６３】

また、センターフレームＡ８６で遊技球の流下経路を形成した場合には、各立設部Ａ８６ｂの対向面（流下経路の内面側）に凹設される凹部または凸設される凸部を形成して、一対の立設部の対向間に沿って流下される遊技球を凹部または凸部に当接させることで、一対の立設部の対向間を流下する遊技球に流下方向（各立設部Ａ８６ｂの延設方向）以外の方向の力成分を付与して、各立設部Ａ８６ｂの対向間を流下する遊技球における流下方向の速度を低下するようにしても良い。即ち、各立設部Ａ８６ｂに形成される凹部または凸部は、遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される。

【９１６４】

これにより、球の流下速度を遅くすることで、流下する遊技球を遊技者に視認させやすくできると共に、球発射ユニットＨ１１２ａにより遊技領域に送球（発射）された遊技球がその発射された速度を維持したまま（流下速度が速いまま）釘や突起に当接することで釘や突起が曲がったりすることを抑制できる。

【９１６５】

なお、立設部Ａ８６ｂをセンターフレームＡ８６と別体で構成することも可能である。即ち、遊技球を通過可能に構成される立設部Ａ８６ｂを有する部材をベース板Ａ６０に別途配設しても良い。この場合、立設部Ａ８６ｂによる遊技球の流下方向が、センターフレームＡ８６の形状により限定される事態を避けることができる。

【９１６６】

また、遊技盤Ａ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車ＡＷＦ等の各種部材（役物）とが配設されている。さらに、第３図柄表示装置Ｈ８１を取り囲む態様でベース板Ａ６０の中央開口部に配設されるセンターフレームＡ８６の一部は、上方側（矢印Ｕ方向側）の遊技領域まで背面側（矢印Ｂ方向側）の側面が延設される延設部Ａ８６ａを備え、その延設部Ａ８６ａから正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突出する立設部Ａ８６ｂを複数備える。遊技盤Ａ１３の遊技領域を流下する球は、多数の釘や、センターフレームＡ８６の立設部Ａ８６ｂ、風車ＡＷＦ等に衝突しつつ流下されることで、球の落下方向が適宜分散される。

【９１６７】

なお、本実施形態では、センターフレームＡ８６の一部が延設される方向が右側（矢印Ｒ方向側）や左側（矢印Ｌ方向側）に設定されているが、上方側（矢印Ｕ方向）や下方側

（矢印Ｄ方向）に延設されていても良く、その延設部Ａ８６ａに立設部Ａ８６ｂだけでなく、スルーゲートＨ６７や各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０を配置する構成としても良い。また、センターフレームＡ８６は、延設部Ａ８６ａや立設部Ａ８６ｂを備えない構成としても良い。

【９１６８】

風車ＡＷＦは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延びる軸線を中心に回転可能に形成される。また、風車ＡＷＦは、正面視において回転軸を中心とする円形に形成されベース板Ａ６０の正面から１球分の距離を隔てた位置に配設される円盤部材と、その円盤部材の一部からベース板Ａ６０側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出され風車ＡＷＦの回転方向に沿って所定の角度（本実施形態では１２０度）で分散配置される複数（本実施形態では３枚）の球当接部とを備えて形成されており、遊技盤Ａ１３を流下する球が球当接部に当接した衝撃で回転しつつ当接した球を複数（２以上）の方向に案内可能（振分可能）に形成される。

【９１６９】

また、本実施形態における風車ＡＷＦは、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。これにより、球当接部に当接した球の流下方向を遊技者に視認させやすくできると共に、風車ＡＷＦの回転方向を遊技者に認識させにくくできる。

【９１７０】

なお、遊技盤Ａ１３は、ベース板Ａ６０に必ずしも風車ＡＷＦを備えている必要はなく風車ＡＷＦを備えない構成としても良い。また、センターフレームＡ８６のワープ通路（図示しない）や、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ入球した球が通過する通路（図示しない）の通路途中に風車ＡＷＦを配設して、風車ＡＷＦにより球の通路を変更するように構成することも可能である。さらに、風車ＡＷＦは、一部が非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても、全部が非透過性のアルミ等の金属製の材料から形成されるものであっても良く、球が当接した際に球を複数の方向に案内可能（振分可能）であれば形状、色、材質は限定されるものではない。例えば、風車ＡＷＦは、１球ずつ交互に異なる方向に球を振り分け可能に構成されていても良い。また、風車ＡＷＦに変えて、上述した戻り球防止部材Ａ６８を配設して、遊技領域を流下する球を一方向に流下させる（球が戻らない）ように構成しても良い。

【９１７１】

図４９９は、遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＤ２００の正面斜視図であり、図５００は、遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＤ２００の分解正面斜視図である。なお、図４９９では、風車ＡＷＦ及び球の流下経路を形成するためにベース板Ａ６０に植設される釘の図示が省略される。

【９１７２】

図５００に図示されるように、遊技盤Ａ１３は、ベース板Ａ６０に対して、センターフレームＡ８６よりも右方において穿設される右方穿設部Ａ６０ａを前方から塞ぐようにして第１球流下構造体Ａ３００が組み付けられ、センターフレームＡ８６よりも下方において穿設される下方穿設部Ａ６０ｂを前方から塞ぐようにして第２球流下構造体Ａ６００が組み付けられる。

【９１７３】

第１球流下構造体Ａ３００には、スルーゲートＨ６７が配設されており、第２球流下構造体Ａ６００には、第２入賞口Ｈ６４０及び可変入賞装置Ａ６５における特定入賞口Ｈ６５ａが配設されている。なお、スルーゲートＨ６７の配設位置は第１球流下構造体Ａ３００に限られるものではない。例えば、第２球流下構造体Ａ６００にスルーゲートＨ６７を配設するようにしても良い。この場合、スルーゲートＨ６７における球の検出と関連して開閉される第２入賞口Ｈ６４０とスルーゲートＨ６７とを同ユニット（第２球流下構造体Ａ６００）に収めることができる。

【９１７４】

図５０１（ａ）は、第１球流下構造体Ａ３００の正面斜視図であり、図５０１（ｂ）は

、第１球流下構造体Ａ３００の背面斜視図である。図５０１（ｂ）には、組立状態において右方穿設部Ａ６０ａを構成する前側縁部が当接する位置に対応する形状線ＡＳ６０ａが想像線で図示される。

【９１７５】

図５０１（ａ）及び図５０１（ｂ）に図示されるように、第１球流下構造体Ａ３００は、上流側にスルーゲートＨ６７が配設されており、スルーゲートＨ６７を通過した遊技球またはスルーゲートＨ６７を逸れた遊技球が内部を流下する。

【９１７６】

図５０２は、第１球流下構造体Ａ３００の分解正面斜視図であり、図５０３は、第１球流下構造体Ａ３００の分解背面斜視図である。図５０２及び図５０３に図示されるように、第１球流下構造体Ａ３００は、遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０に締結固定される光透過性樹脂から形成される部材であって遊技球が流下する領域の背面側部を構成する背面側部材Ａ３１０と、その背面側部材Ａ３１０に締結固定される光透過性樹脂から形成される部材であって遊技球が流下する領域の正面側部を構成する正面側部材Ａ３５０と、背面側部材Ａ３１０と正面側部材Ａ３５０との間に保持されるスルーゲートＨ６７と、を備える。

【９１７７】

背面側部材Ａ３１０は、遊技球が流下する領域の背面側部を構成する板状部Ａ３１１と、その板状部Ａ３１１の左端部から正面側へ延設される第１延設部Ａ３２１と、板状部Ａ３１１から正面側へ延設される平面板状部であって第１延設部Ａ３２１の下端に連なるように設けられており右方へ向かうほど下降傾斜している第２延設部Ａ３２２と、板状部Ａ３１１の左端部から正面側へ延設される部分を有する板状部であって上端側が第２延設部Ａ３２２に連なるように設けられる第３延設部Ａ３２３と、板状部Ａ３１１から正面側へ延設される平面板状部であって第３延設部Ａ３２３の下端に連なるように設けられており右方へ向かうほど下降傾斜している第４延設部Ａ３２４と、第２延設部Ａ３２２と第４延設部Ａ３２４との上下間位置において板状部Ａ３１１から正面側へ延設される平面板状部であって板状部Ａ３１１の右端から左方へ向かうほど下降傾斜している第５延設部Ａ３２５と、板状部Ａ３１１の右端部から正面側へ延設される部分を有する板状部であって上端側が第５延設部Ａ３２５に連なるように設けられる第６延設部Ａ３２６と、板状部Ａ３１１から正面側へ延設される平面板状部であって第６延設部Ａ３２６の下端に連なるように設けられており左方へ向かうほど下降傾斜している第７延設部Ａ３２７と、板状部Ａ３１１から正面側へ延設される平面板状部であって第７延設部Ａ３２７の左端部に連なるように設けられており上下方向に延びる第８延設部Ａ３２８と、その第８延設部Ａ３２８と対向配置される位置において板状部Ａ３１１から正面側へ延設される屈曲板状部であって上端側が第４延設部Ａ３２４に連なるように設けられる第９延設部Ａ３２９と、を備える。

【９１７８】

板状部Ａ３１１は、ベース板Ａ６０に螺入される締結ネジが前方から挿通可能な大きさで四隅に穿設される複数の第１ネジ挿通孔Ａ３１２と、その第１ネジ挿通孔Ａ３１２に合わせて設けられる突設部であってベース板Ａ６０の位置合わせ孔に受け入れられる突設部Ａ３１３と、下側の第１ネジ挿通孔Ａ３１２よりも上方位置において穿設されており正面側部材Ａ３５０に螺入される締結ネジが後方から挿通される複数の第２ネジ挿通孔Ａ３１４と、スルーゲートＨ６７が前後方向で挿通可能な矩形枠状に形成される枠状挿通孔Ａ３１５と、その枠状挿通孔Ａ３１５の左右外側において穿設されており正面側部材Ａ３５０に螺入される締結ネジが後方から挿通される複数の第３ネジ挿通孔Ａ３１６と、枠状挿通孔Ａ３１５の上縁から後方へ延設される棒状部であって延設先端下側にスルーゲートＨ６７の抜け止め防止用の爪が形成される抜け止め防止延設部Ａ３１７と、を備える。

【９１７９】

板状部Ａ３１１は、前面がベース板Ａ６０の前面と平行となるように構成されており、正面枠Ｐ１４（図４９７参照）が閉じられている状態において前面がガラスユニットＨ１６の後面に対して平行となるように構成されている。

【９１８０】

第１延設部Ａ３２１は、上下方向に延びる形状が、鉛直方向に延びるものではなく、左方に張り出す湾曲形状から形成される。鉛直方向に延びる場合、流下する際の速度方向の左右方向成分が小さく過度に抑えられ、第２延設部Ａ３２２に着地した後の球の流下が滞る可能性が考えられるところ、第１延設部Ａ３２１は程よくカーブしていることから、第１延設部Ａ３２１に当たって流下する遊技球が流下する際の速度方向の左右方向成分を良好に反転させることができ（左向きから右向きに反転させることができ）、第２延設部Ａ３２２に沿って右方へ流下される際の流下を滑らかにさせることができる。

【９１８１】

第２延設部Ａ３２２を流下した球の経路の折曲位置Ａ３０１においては第１球流下構造体Ａ３００の右端には壁部が構成されておらず、球の流下経路の右端部は外縁部材Ｈ７３（図４９８参照）により構成される一方で、第４延設部Ａ３２４を流下した球の経路の折曲位置Ａ３０２においては外縁部材Ｈ７３ではなく第６延設部Ａ３２６が球の流下経路の右端部を形成する。

【９１８２】

これにより、折曲位置Ａ３０１における領域の左右幅を確保することができると共に、第１球流下構造体Ａ３００を流下する球の左右方向への移動幅が下方へ向かうほど小さくなるように構成して下端からの排出時における球の左右方向速度が大きい場合に比較して、排出後の球の左右方向への位置ずれを抑制することができ、第２球流下構造体Ａ６００への入球を良好とすることができる。

【９１８３】

折曲位置Ａ３０１は、スルーゲートＨ６７を左に逸れて第２延設部Ａ３２２を流下した球に加えて、スルーゲートＨ６７を通過した後の球や、スルーゲートＨ６７を右に逸れて流下した球も通過する位置であり、これらの球が同時に到達する可能性があるところ、上述したように折曲位置Ａ３０１における領域の左右幅を確保していることにより、合流した球の流下が滞る事態を回避することができる。

【９１８４】

正面側部材Ａ３５０は、遊技球が流下する領域の正面側部を構成する板状部Ａ３５１と、その板状部Ａ３５１の上端位置から左右一対で後方に延設されスルーゲートＨ６７の前側部を受け入れ可能な幅を空けて形成される受入形成部Ａ３５２と、板状部Ａ３５１から後方に延設される湾曲板状部であって上端部が受入形成部Ａ３５２の左側部下側に連なるように構成されスルーゲートＨ６７を通過する遊技球を右方に案内可能な形状で形成される案内湾曲板部Ａ３５３と、背面側部材Ａ３１０に形成される平面板状の延設部である第２延設部Ａ３２２、第４延設部Ａ３２４、第５延設部Ａ３２５及び第７延設部Ａ３２７と対応する位置（上面に上下方向で対向する位置）において同様の傾斜角度で延びる突条であって、上面側が後方に下降傾斜する傾斜面を形成する複数の上面傾斜突条部Ａ３５４と、板状部Ａ３５１の下側左右隅部から後方に突設される柱状部であって先端側に雌ネジが形成される複数の被締結部Ａ３５５と、板状部Ａ３５１から後方に延設される平面板状部であって右側の被締結部Ａ３５５に連なるように形成され左方へ向かうほど下降傾斜している流路外延設部Ａ３５６と、を備える。

【９１８５】

板状部Ａ３５１は、後面がベース板Ａ６０の前面と平行となるように構成されており、正面枠Ｐ１４（図４９７参照）が閉じられている状態において後面がガラスユニットＨ１６の後面に対して平行となるように構成されている。

【９１８６】

板状部Ａ３１１と板状部Ａ３５１との間に形成される流下経路は、ベース板Ａ６０の前面と略平行な平面に沿って（多少の前後方向への変位は許容して）形成される。これにより、第１球流下構造体Ａ３００を流下中の球同士が正面視で重なる事態を防止できるので、一見で第１球流下構造体Ａ３００を流下している球の個数を把握することができる。

【９１８７】

受入形成部Ａ３５２は、後方からスルーゲートＨ６７を受け入れる領域の左右両側にお

いて内側に雌ネジが形成される複数の被締結部Ａ３５２ａを備える。背面側部材Ａ３１０と正面側部材Ａ３５０との組立においては、スルーゲートＨ６７の前側半部を受入形成部Ａ３５２に受け入れさせた状態で後側半部が枠状挿通孔Ａ３１５に入るように背面側部材Ａ３１０と正面側部材Ａ３５０とを接近させてから、第３ネジ挿通孔Ａ３１６に挿通させた締結ネジを被締結部Ａ３５２ａに螺入させることで、背面側部材Ａ３１０に正面側部材Ａ３５０が締結固定されるように構成されている。

【９１８８】

上面傾斜突条部Ａ３５４は、遊技球を上下方向に流下させる経路が折曲する箇所に形成されており、当該経路の形成幅に亘って形成されていることから上下方向に流下させる経路における遊技球の左右位置に関わらず遊技球が当接するよう構成され、到達した遊技球を上面の傾斜形状によって後方側に寄せた状態で左右方向へ流下させる。

【９１８９】

上面傾斜突条部Ａ３５４の傾斜面に転動された遊技球は第２延設部Ａ３２２、第４延設部Ａ３２４、第５延設部Ａ３２５又は第７延設部Ａ３２７に滑らかに着地後、当該着地した上面を転動する。第２延設部Ａ３２２、第４延設部Ａ３２４、第５延設部Ａ３２５又は第７延設部Ａ３２７への着地は、上面傾斜突条部Ａ３５４の形成幅の内側に正面視で球が位置する状態においても生じ得るように上面傾斜突条部Ａ３５４の形成態様が設計されていることから、早期に球を第２延設部Ａ３２２、第４延設部Ａ３２４、第５延設部Ａ３２５又は第７延設部Ａ３２７に着地させることができ、左右方向への流下が遅延することを回避している。

【９１９０】

上面傾斜突条部Ａ３５４は、背面側部材Ａ３１０には形成されておらず、正面側部材Ａ３５０にのみ形成されている。そのため、上面傾斜突条部Ａ３５４による作用は、後方側に球を寄せる作用のみが生じており、前方側への作用は生じない。従って、流下する球は、特に下方へ流下する球が左右方向に方向転換する位置において後方へのみ寄せられるため、球は第１球流下構造体Ａ３００の内部経路の後方側に寄る位置（板状部Ａ３１１の前面に当接する位置）を主に流下する。

【９１９１】

ここで、球が当接した状態での流下が継続されると、球からの汚れの付着が継続されることで汚れが目に付くようになり、美観を損なうことになり、遊技者の興趣を損なう可能性がある。これに対し、本実施形態では、球の当接位置を上面傾斜突条部Ａ３５４の上面や、背面側部材Ａ３１０の板状部Ａ３１１という後方側の位置に寄せて、正面側部材Ａ３５０と球との当接を抑制して正面側部材Ａ３５０への球からの汚れの付着を抑制することで、遊技者に視認され易い正面側部材Ａ３５０における美観の低下を防止することができる。

【９１９２】

背面側部材Ａ３１０は、前後方向が長辺となる長方形状の前側の角部が丸くされた断面形状で延びる複数の突条部であって十分な剛性を維持する形状の突条部が板状部Ａ３１１に一体で形成されている。即ち、背面側部材Ａ３１０は、球を流下させる方向に対して交差する方向に延びる複数の交差突条部Ａ３３１と、球を流下させる方向に延びる複数の流下突条部Ａ３３２と、球をＵターン（速度を反転）させる位置において形成される複数の反転突条部Ａ３３３と、を備える。

【９１９３】

交差突条部Ａ３３１は、球を転動させる左右壁部や流下面部に対して垂直方向に延びている。これにより、正面視における球の流下方向の変化を抑制しながら、球の前後方向の変位を生じさせ、球の流下速度を減速させる。

【９１９４】

流下突条部Ａ３３２は、上下方向に沿って流下する球の経路が左右方向側に折曲される位置に形成されており、球の前後方向の変位に加えて、左右方向側への流下方向の変化を同時に促進させるように構成されている。即ち、流下突条部Ａ３３２に当接した球は、前

方に変位されることに加えて、流下突条部Ａ３３２の傾斜に沿って流下されるため、その後の左右方向側への流下を補助できる。

【９１９５】

流下突条部Ａ３３２の形成位置は、上面傾斜突条部Ａ３５４の形成位置と対応している。即ち、上面傾斜突条部Ａ３５４に到達する前に流下突条部Ａ３３２により事前に正面側に寄せられることにより、球の上面傾斜突条部Ａ３５４との当接位置を正面側寄りにして、上面傾斜突条部Ａ３５４に対する球の転動距離を長くすることができ、球が上下に跳ねる事態を回避することができる。

【９１９６】

換言すれば、球の上面傾斜突条部Ａ３５４との当接位置が後側寄りである場合に傾斜面における球の転動が不十分であると、球が上下方向に跳ねてしまい球の流下が滞る可能性があるところ、上面傾斜突条部Ａ３５４の傾斜面で十分に球を転動させることができる構成であれば、上面傾斜突条部Ａ３５４に到達した球が上下に跳ねる事態を回避することができる。

【９１９７】

反転突条部Ａ３３３は、左右方向に沿って流下する球の経路が左右方向で反転される位置に形成されており、球の前後方向の変位に加えて、左右方向側への変位も生じさせるように構成されている。即ち、反転突条部Ａ３３３に当接した球は、前方に変位されることに加えて、反転突条部Ａ３３３の傾斜に沿って流下される。

【９１９８】

反転突条部Ａ３３３の形成位置は、上面傾斜突条部Ａ３５４の形成位置と対応している。即ち、上面傾斜突条部Ａ３５４に到達する前に反転突条部Ａ３３３により事前に正面側に寄せられることにより、球の上面傾斜突条部Ａ３５４との当接位置を正面側寄りにして、上面傾斜突条部Ａ３５４に対する球の転動距離を長くすることができ、球が上下に跳ねる事態を回避することができる。

【９１９９】

換言すれば、球の上面傾斜突条部Ａ３５４との当接位置が後側寄りである場合に傾斜面における球の転動が不十分であると、球が上下方向に跳ねてしまい球の流下が滞る可能性があるところ、上面傾斜突条部Ａ３５４の傾斜面で十分に球を転動させることができる構成であれば、上面傾斜突条部Ａ３５４に到達した球が上下に跳ねる事態を回避することができる。

【９２００】

反転突条部Ａ３３３は、流下突条部Ａ３３２とは違い、上面傾斜突条部Ａ３５４の傾斜ではなく第４延設部Ａ３２４または第５延設部Ａ３２５に沿って延びている。これにより、反転突条部Ａ３３３と当接した球の流下抵抗が必要以上に大きくなり、反転突条部Ａ３３３において球の流下遅延が生じることを回避することができる。

【９２０１】

上述したように、背面側部材Ａ３１０には、上面傾斜突条部Ａ３５４に沿う傾斜で形成される流下突条部Ａ３３２と、上面傾斜突条部Ａ３５４の傾斜には沿わない反転突条部Ａ３３３とが形成されており、それぞれ配置位置に特徴がある。

【９２０２】

即ち、流下突条部Ａ３３２は、球が上方から下方へ流下した位置（高低差の大きな流下が生じる位置）に形成されているため到達した時点における球の流下速度の成分は左右方向成分に比較して下方向成分が大きくされる。そのため、流下突条部Ａ３３２においても上面傾斜突条部Ａ３５４と同方向の傾斜を持たせることで、球の流下速度の左右方向成分を徐々に増加させることができる。

【９２０３】

一方、反転突条部Ａ３３３は球が左右方向から流下した位置（高低差の小さな流下が生じる位置）に形成されているため到達した時点における球の流下速度の成分は下方向成分に比較して左右方向成分が大きくされる上、反転突条部Ａ３３３で敢えて上面傾斜突条部

Ａ３５４の傾斜方向に速度を付与せずとも、第３延設部Ａ３２３又は第６延設部Ａ３２６に衝突することにより上面傾斜突条部Ａ３５４の傾斜に合う左右方向の速度成分が付与される。

【９２０４】

従って、第３延設部Ａ３２３又は第６延設部Ａ３２６に衝突するまでは余計な流下抵抗を生じさせないように第４延設部Ａ３２４または第５延設部Ａ３２５に沿って延びるよう構成されていても、第３延設部Ａ３２３又は第６延設部Ａ３２６に衝突することにより速度成分が左右方向で反転されて、上面傾斜突条部Ａ３５４の傾斜に沿う流下を滑らかに生じさせることができる。

【９２０５】

反転突条部Ａ３３３は、上面傾斜突条部Ａ３５４の上方に近接配置されているところ、上面傾斜突条部Ａ３５４が背面側部材Ａ３１０には形成されておらず正面側部材Ａ３５０にのみ形成されていることに対応して、正面側部材Ａ３５０には形成されておらず背面側部材Ａ３１０にのみ形成される。

【９２０６】

即ち、第１球流下構造体Ａ３００を流下する球は、流下方向が左右反転する位置において反転突条部Ａ３３３により正面側へ寄せられることになるので、流下方向が左右反転する位置において球を目立たせ易く、球の流下経路の左右幅を遊技者に把握させ易くすることができる。

【９２０７】

正面側部材Ａ３５０は、前後方向が長辺となる長方形状の後側の角部が丸くされた断面形状で延びる複数の突条部であって十分な剛性を維持する形状の突条部が板状部Ａ３５１に一体で形成されている。正面側部材Ａ３５０は、即ち、球を流下させる方向に対して交差する方向に延びる複数の交差突条部Ａ３７１と、球を流下させる方向に延びる複数の流下突条部Ａ３７２と、を備える。

【９２０８】

交差突条部Ａ３７１は、球を転動させる左右壁部や流下面部に対して垂直方向に延びている。これにより、正面視における球の流下方向の変化を抑制しながら、球の前後方向の変位を生じさせ、球の流下速度を減速させる。

【９２０９】

案内湾曲板部Ａ３５３の右上側に形成される交差突条部Ａ３７１は、上下方向が想定される球の流下経路に対して交差する左右方向に延びているが、他の交差突条部Ａ３７１と異なり、左側部に面取り形成された面取り部Ａ３７１ａを備える。

【９２１０】

面取り部Ａ３７１ａは、スルーゲートＨ６７を通過して案内湾曲板部Ａ３５３を転動して流下した球を、滑らかに後方側に寄せるための形状部である。即ち、案内湾曲板部Ａ３５３の右上側に形成される交差突条部Ａ３７１は、上方から流下する球を前後方向に変位させる作用に加えて、案内湾曲板部Ａ３５３を転動して流下した球を滑らかに後方側に寄せる作用を生じさせる配置および形状とされる。

【９２１１】

案内湾曲板部Ａ３５３を転動した球は、交差突条部Ａ３７１の延びる方向に移動される過程において後方側に寄せられることにより、上下方向に沿って流下する球の前後位置と合う前後位置に位置される。

【９２１２】

案内湾曲板部Ａ３５３を転動する球が正面側寄りの位置を流下した場合には面取り部Ａ３７１ａに当接することになるが、面取り部Ａ３７１ａの形状によって、球が左右方向で跳ね返る（跳ね戻る）事態が生じることを避けることができる。

【９２１３】

案内湾曲板部Ａ３５３を転動した球が面取り部Ａ３７１ａに当接した場合に面取り部Ａ３７１ａに沿って転動され前後方向への球の変位が生じると、交差突条部Ａ３７１と板状

部Ａ３１１との間で球が複数回跳ね返り得る。この場合において、球の左右方向の速度成分を減速させることができ、球が左方に跳ね戻る事態をより回避し易くすることができる。

【９２１４】

流下突条部Ａ３７２は、上下方向に沿って流下する球の経路が左右方向側に折曲される位置に形成されており、球の前後方向の変位に加えて、左右方向側への流下方向の変化を同時に促進させるように構成されている。即ち、流下突条部Ａ３７２に当接した球は、後方に変位されることに加えて、流下突条部Ａ３７２の傾斜に沿って流下されるため、その後の左右方向側への流下を補助できる。

【９２１５】

流下突条部Ａ３７２の形成位置は、上面傾斜突条部Ａ３５４の形成位置と対応している。即ち、上面傾斜突条部Ａ３５４に到達する前に流下突条部Ａ３７２により事前に後面側に寄せられて、流下突条部Ａ３３２により事前に正面側に寄せられることにより、球が前後方向に蛇行するように変位されて、球の上下方向の速度成分を十分に減速させることができる。

【９２１６】

背面側部材Ａ３１０において、ベース板Ａ６０との締結に用いる締結ネジが挿通される第１ネジ挿通孔Ａ３１２は形状線ＡＳ６０ａの外側に位置しており、正面側部材Ａ３５０との締結に用いる締結ネジが挿通される第２ネジ挿通孔Ａ３１４及び第３ネジ挿通孔Ａ３１６は形状線ＡＳ６０ａの内側に位置している。

【９２１７】

これにより、ベース板Ａ６０に背面側部材Ａ３１０が締結固定された状態において、右方穿設部Ａ６０ａ（図５００参照）の内側にドライバーなどの工具を通して締結ネジを外すことにより、正面側部材Ａ３５０を背面側部材Ａ３１０に対して脱着することが可能となっている。

【９２１８】

正面側部材Ａ３５０を背面側部材Ａ３１０から分離させた状態であれば第１球流下構造体Ａ３００の前方側が開放されるので、背面側部材Ａ３１０の板状部Ａ３１１や、流路を構成する各延設部Ａ３２１～Ａ３２９等に前側から触ることができるし、球が流路に位置する場合においてその球に触ることができる。従って、汚れが付着していた場合に汚れを拭き取ることができるし、球が滞留した場合に球の滞留を解消することができる。

【９２１９】

図５０４は、第１球流下構造体Ａ３００の正面図である。図５０４では、球の流下経路の概要の説明のために、便宜上、正面側部材Ａ３５０の板状部Ａ３５１の図示が省略され、正面側部材Ａ３５０の案内湾曲板部Ａ３５３、上面傾斜突条部Ａ３５４、流路外延設部Ａ３５６、交差突条部Ａ３７１及び流下突条部Ａ３７２が想像線で図示される。

【９２２０】

図５０４に図示されるように、案内湾曲板部Ａ３５３の右端部は、第２延設部Ａ３２２の右端部と重なる位置まで形成されており、スルーゲートＨ６７を通過して案内湾曲板部Ａ３５３を転動した球が第２延設部Ａ３２２へ向けて流下することが防止（回避）されている。

【９２２１】

これにより、第２延設部Ａ３２２を球が転動している最中に後続の球がスルーゲートＨ６７を通過した場合において、その後続の球が第２延設部Ａ３２２へ向けて流下して第２延設部Ａ３２２上で球の衝突が起きて、流下が阻害される事態を避けることができ、球の流下を円滑化することができる。

【９２２２】

図５０４に図示されるように、折曲位置Ａ３０１は、スルーゲートＨ６７を左に逸れて第２延設部Ａ３２２を流下する第１流下経路ＡＲ３０３を流下した球、スルーゲートＨ６７を通過した球が流下する第２流下経路ＡＲ３０４を流下した球、スルーゲートＨ６７を

右に逸れた球が流下する第３流下経路ＡＲ３０５を流下した球、という３経路からの球が合流する位置であり、これらの球が同時に到達する可能性があるところ、上述したように折曲位置Ａ３０１における領域の左右幅を確保していることにより、合流した球の流下が滞る事態を回避することができる。

【９２２３】

第１球流下構造体Ａ３００に遊技球が流入した場合、その全ての球がスルーゲートＨ６７を通過するわけではなく、第２流下経路ＡＲ３０４を流下した球のみがスルーゲートＨ６７に検出される。従って、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い状態となる頻度は共通とされるものではなく、第１球流下構造体Ａ３００に流入した球が第２流下経路ＡＲ３０４を通る頻度に対応して増減される。即ち、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い状態を実現させるスルーゲートＨ６７を通過する頻度に対応して増減される。

【９２２４】

図５０５は、図５０４のＢ０１ｍ－Ｂ０１ｍ線における第１球流下構造体Ａ３００の断面図である。図５０５では、第１流下経路ＡＲ３０３を流下する際の球の位置が球の大きさに合わせた円形で図示される。

【９２２５】

図５０５に図示されるように、第１流下経路ＡＲ３０３を流下する球は、流下突条部Ａ３３２に当接する第１当接位置ＡＰ３９１から流下突条部Ａ３３２との当接により前方へ変位され、上面傾斜突条部Ａ３５４と当接する第２当接位置ＡＰ３９２へ到達する。

【９２２６】

第２当接位置ＡＰ３９２に着地し、上面傾斜突条部Ａ３５４の傾斜面に転動された遊技球は第２延設部Ａ３２２の上面に載置される載置位置ＡＰ３９３に滑らかに着地後、当該着地した上面を右方へ転動する。

【９２２７】

図５０５に図示される載置位置ＡＰ３９３の円形状が上面傾斜突条部Ａ３５４と重なっていないことから明らかであるように、第２延設部Ａ３２２への着地は、上面傾斜突条部Ａ３５４の形成幅の内側に正面視で球が位置する状態においても生じ得るように上面傾斜突条部Ａ３５４の形成態様が設計されている。これにより、早期に球を第２延設部Ａ３２２に着地させることができ、左右方向への流下が遅延することを回避している。

【９２２８】

なお、本実施形態では、第１当接位置ＡＰ３９１と載置位置ＡＰ３９３との間に配設されている流下突条部Ａ３３２が障害物となり、第１当接位置ＡＰ３９１に位置する球が鉛直落下して載置位置ＡＰ３９３に到達することを回避した構成となっている。換言すれば、流下突条部Ａ３３２が形成されていることにより、第１当接位置ＡＰ３９１に位置する球は第２当接位置ＡＰ３９２を経由して載置位置ＡＰ３９３に到達するよう流下する。

【９２２９】

図５０６は、図５０４のＢ０２ｍ－Ｂ０２ｍ線における第１球流下構造体Ａ３００の断面図である。第５延設部Ａ３２５においても、第２延設部Ａ３２２について上述したと同様に、近接配置される流下突条部Ａ３３２により前方へ変位された球が上面傾斜突条部Ａ３５４の傾斜面に着地され、その後で上面傾斜突条部Ａ３５４の傾斜面に転動された遊技球が第５延設部Ａ３２５の上面を左方へ転動する。

【９２３０】

第２延設部Ａ３２２の場合と同様、第５延設部Ａ３２５への着地は、上面傾斜突条部Ａ３５４の形成幅の内側に正面視で球が位置する状態においても生じ得るように上面傾斜突条部Ａ３５４の形成態様が設計されている。これにより、早期に球を第５延設部Ａ３２５に着地させることができ、左右方向への流下が遅延することを回避している。

【９２３１】

図５０７は、第１球流下構造体Ａ３００の正面図である。図５０７では、球の流下経路の概要の説明のために、便宜上、正面側部材Ａ３５０の板状部Ａ３５１の図示が省略され、正面側部材Ａ３５０の案内湾曲板部Ａ３５３、上面傾斜突条部Ａ３５４、流路外延設部

Ａ３５６、交差突条部Ａ３７１及び流下突条部Ａ３７２が想像線で図示される。
【９２３２】
図５０７では、流下する際の球の位置が球の大きさに合わせた円形で図示される。図５０７に図示されるように、第１流下経路ＡＲ３０３を流下した球は、第２延設部Ａ３２２の右端から零れ落ちる第１流下位置ＡＰ３９４を経由して流下され、第３流下経路ＡＲ３０５を流下する球は、左右位置にはばらつきがあるが、例えば、外縁部材Ｈ７３に当接する第２流下位置ＡＰ３９５を経由して流下される。
【９２３３】
第１流下位置ＡＰ３９４を経由した球は流下突条部Ａ３７２に当接され、その後で流下突条部Ａ３３２及び上面傾斜突条部Ａ３５４に順番に当接し、想像線で図示するように各傾斜に沿って流下され、第５延設部Ａ３２５に着地した後は第５延設部Ａ３２５の上面の傾斜に沿って流下される。
【９２３４】
第２流下位置ＡＰ３９５を経由した球は交差突条部Ａ３３１に当接され、その後で流下突条部Ａ３７２、流下突条部Ａ３３２及び上面傾斜突条部Ａ３５４に順番に当接し、想像線で図示するように各傾斜に沿って流下され、第５延設部Ａ３２５に着地した後は第５延設部Ａ３２５の上面の傾斜に沿って流下される。
【９２３５】
図５０７に図示されるように、折曲位置Ａ３０１における領域の左右幅は、球の直径の２倍よりも長い寸法で設定されている。即ち、２球の遊技球が左右に並んだ状態で流下したとしても、折曲位置Ａ３０１での球詰まりが生じることを避けることができる。
【９２３６】
加えて、流下突条部Ａ３７２の配置位置が３経路の合流が開始される位置よりも下方（第２延設部Ａ３２２の右端よりも下方）に設定されていることから、３経路から流下した球が流下突条部Ａ３７２、流下突条部Ａ３３２、上面傾斜突条部Ａ３５４の順で当接し、各当接において左方へ向けて案内されることで、球を円滑に流下させることができ、球詰まりが生じることを避けることができる。
【９２３７】
次いで、図５０８を参照して、動作ユニットＤ２００の概略構成について説明する。図５０８は、動作ユニットＤ２００の分解斜視正面図である。
【９２３８】
図５０８に示すように、動作ユニットＤ２００は、箱状に形成される背面ケースＤ３００を備え、その背面ケースＤ３００の内部空間に、上変位ユニットＤ６００、下変位ユニットＤ５００、導光ユニットＤ４００、揺動ユニットＤ１００とが収容される。
【９２３９】
背面ケースＤ３００は、正面視略矩形の底壁部Ｄ３０１と、その底壁部Ｄ３０１の４辺の外縁から正面へ向けて立設される外壁部Ｄ３０２とを備え、それら各壁部Ｄ３０１，Ｄ３０２により一面側（正面側）が開放された箱状に形成される。底壁部Ｄ３０１には、その中央に正面視矩形の開口Ｄ３０１ａが開口形成され、その開口Ｄ３０１ａを通じて、底壁部Ｄ３０１の背面に配設される第３図柄表示装置Ｈ８１（図４９８参照）が視認可能とされる。
【９２４０】
上変位ユニットＤ６００は、背面ケースＤ３００の底壁部Ｄ３０１のうちの開口３０１ａの上側部分に配設されるベース手段Ｄ６１０と、そのベース手段Ｄ６１０に対して相対変位可能に配設される上変位手段Ｄ６５０とを少なくとも備え、上変位手段Ｄ６５０を背面ケースＤ３００の開口３０１ａ（即ち、第３図柄表示装置Ｈ８１）の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に変位させる演出を実行可能に構成される。
【９２４１】
下変位ユニットＤ５００は、背面ケースＤ３００の底壁部Ｄ３０１のうちの開口Ｄ３０１ａの下側部分に配設されるベース手段Ｄ５１０（図示しない）と、そのベース手段Ｄ５

１０（図示しない）に対して相対変位可能に配設される下変位手段Ｄ５５０とを少なくとも備え、下変位手段Ｄ５５０を背面ケースの開口３０１ａ（即ち、第３図柄表示装置Ｈ８１）の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に変位させる演出を実行可能に構成される。

【９２４２】

導光ユニットＤ４００は、正面視（矢印Ｂ方向視）において背面ケースＤ３００の左側（矢印Ｌ方向側）に配設される左側ベース手段Ｄ４１０と、正面視において背面ケースＤ３００の右側（矢印Ｒ方向側）に配設される右側ベース手段Ｄ４３０と、それら左側ベース手段Ｄ４１０及び右側ベース手段Ｄ４３０との間に介在される導光板Ｄ４５０とを主に備え、導光板Ｄ４５０に照射される光を正面側に向かって反射することで、光による演出が可能に構成される。

【９２４３】

揺動ユニットＤ１００は、変位可能な上側揺動手段Ｄ１２０と、変位可能な下側揺動手段Ｄ１３０とを備え、導光ユニットＤ４００の正面側に配設され、その導光ユニットＤ４００の導光板Ｄ４５０の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置で上側揺動手段Ｄ１２０と、下側揺動手段Ｄ１３０とを変位可能とされる。

【９２４４】

次いで、図５０９から図５１４を参照して、揺動ユニットＤ１００について説明する。

【９２４５】

初めに、図５０９から図５１２を参照して、揺動ユニットＤ１００の全体構成について説明する。図５０９は、揺動ユニットＤ１００の正面図であり、図５１０は、揺動ユニットＤ１００の背面図であり、図５１１及び図５１２は、揺動ユニットＤ１００の分解正面斜視図である。なお、図５１１は、ベース手段Ｄ１１０に対して上側揺動手段Ｄ１２０、上側動力付与手段Ｄ１４０、及び、上側カバー手段Ｄ１６０を分解した正面斜視図であり、図５１２は、ベース手段Ｄ１１０に対して下側揺動手段Ｄ１３０、下側動力付与手段Ｄ１５０、及び、下側カバー手段Ｄ１７０を分解した正面斜視図である。

【９２４６】

なお、図５０９では、上側装飾ユニットＨ１４ａと左側装飾ユニットＨ１４ｂと右側装飾ユニットＨ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｈ１４ｅ（図４９７参照）の範囲（即ち、パチンコ機Ｈ１０の正面側からの揺動ユニットＤ１００の視認可能範囲）が２点鎖線で模式的に図示される。なお、窓部Ｈ１４ｅは、上側装飾ユニットＨ１４ａと左側装飾ユニットＨ１４ｂと右側装飾ユニットＨ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とで構成される正面枠Ｈ１４が有する。

【９２４７】

また、図５０９では、上側装飾ユニットＨ１４ａが配設される上方側（矢印Ｕ方向側）における窓部Ｈ１４ｅの境界が上側視認可能範囲Ｈ１４ｅ１として図示され、左側装飾ユニットＨ１４ｂが配設される左側（矢印Ｌ方向側）における窓部Ｈ１４ｅの境界が左側視認可能範囲Ｈ１４ｅ２として図示され、右側装飾ユニットＨ１４ｃが配設される右側（矢印Ｒ方向側）における窓部Ｈ１４ｅの境界が右側視認可能範囲Ｈ１４ｅ３として図示され、上下皿ユニットＨ１５が配設される下方側（矢印Ｄ方向側）における窓部Ｈ１４ｅの境界が右側視認可能範囲Ｈ１４ｅ４として図示される。

【９２４８】

図５０９から図５１２に示すように、揺動ユニットＤ１００は、正面視（矢印Ｂ方向視）において門型に形成されるベース手段Ｄ１１０と、そのベース手段Ｄ１１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される上側揺動手段Ｄ１２０と、その上側揺動手段Ｄ１２０よりも下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される下側揺動手段Ｄ１３０と、それら上側揺動手段Ｄ１２０及び下側揺動手段Ｄ１３０に駆動力を付与する上側動力付与手段Ｄ１４０及び下側動力付与手段Ｄ１５０と、ベース手段Ｄ１１０の正面側に配設される上側カバー手段Ｄ１６０及び下側カバー手段Ｄ１７０とを主に備える。

【９２４９】

なお、揺動ユニットＤ１００は、窓部Ｈ１４ｅを介して視認された際に、少なくとも後

述する上側揺動手段Ｄ１２０及び下側揺動手段Ｄ１３０の全域が視認可能とされる位置に配設される。また、第８３実施形態では、上側揺動手段Ｄ１２０及び下側揺動手段Ｄ１３０が窓部Ｈ１４ｅを介した視認領域内で変位可能に構成されており、上側揺動手段Ｄ１２０及び下側揺動手段Ｄ１３０の変位を遊技者に視認させることが可能とされる。そのため、第８３実施形態では、ベース手段Ｄ１１０と、そのベース手段Ｄ１１０に配設される各部材（上側揺動手段Ｄ１２０、下側揺動手段Ｄ１３０、上側動力付与手段Ｄ１４０、下側動力付与手段Ｄ１５０、上側カバー手段Ｄ１６０、下側カバー手段Ｄ１７０）との少なくとも一部が窓部Ｈ１４ｅを介した視認領域内に配設され、パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から視認可能とされる。

【９２５０】

ベース手段Ｄ１１０は、正面視（矢印Ｆ方向視）において門型に形成されるベース本体Ｄ１１１と、そのベース本体Ｄ１１１の正面側（矢印Ｆ方向側）に立設される立設部Ｄ１１２とを主に備え、ベース本体Ｄ１１１と立設部Ｄ１１２とにより正面側が部分的に開口する略箱状に形成される。また、ベース手段Ｄ１１０は、ベース本体Ｄ１１１と立設部Ｄ１１２とが透明な樹脂材料から形成され、揺動ユニットＤ１００の背面側に配設される役物の光を透過可能に構成される。

【９２５１】

ベース本体Ｄ１１１は、後述する上側動力付与手段Ｄ１４０及び下側動力付与手段Ｄ１５０を配設するためのベースであり、それら上側動力付与手段Ｄ１４０及び下側動力付与手段Ｄ１５０を配設するための螺子（図示しない）の締結孔が所定の箇所に形成される。

【９２５２】

また、ベース本体Ｄ１１１には、後述する上側動力付与手段Ｄ１４０の駆動力をベース本体Ｄ１１１の正面側（矢印Ｆ方向側）及び背面側（矢印Ｂ方向側）に伝達する為の複数の挿通孔Ｄ１１１ａ～Ｄ１１１ｃと、後述する下側動力付与手段Ｄ１５０の駆動力をベース本体Ｄ１１１の正面側および背面側に伝達するための複数の挿通孔Ｄ１１１ｄ～Ｄ１１１ｆとが前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成される。

【９２５３】

立設部Ｄ１１２は、主に、ベース本体Ｄ１１１と後述する上側カバー手段Ｄ１６０及び下側カバー手段Ｄ１７０との間に空間を形成して、その空間に上側動力付与手段Ｄ１４０及び下側動力付与手段Ｄ１５０の一部、又は、上側揺動手段Ｄ１２０及び下側揺動手段Ｄ１３０の一部を配設するための壁部であり、ベース本体Ｄ１１１の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の寸法で立設される。

【９２５４】

上側動力付与手段Ｄ１４０は、電力が付与されることで軸部Ｄ１４１ｂが回転する駆動モータＤ１４１と、その駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂに配設される駆動ギヤＤ１４２と、その駆動ギヤＤ１４２に歯合する歯を有する第１正面カムＤ１４３と、第１正面カムＤ１４３の背面側（矢印Ｂ方向側）に螺子（図示しない）により締結固定される第１背面カムＤ１４４と、その第１背面カムＤ１４４に相対変位可能な状態で一端側が連結される連結手段Ｄ１４５と、その連結手段Ｄ１４５の他端側が相対変位可能な状態で連結される第２背面カムＤ１４６と、その第２背面カムＤ１４６の正面側（矢印Ｆ方向側）に螺子（図示しない）により締結固定される第２正面カムＤ１４７とを主に備える。

【９２５５】

駆動モータＤ１４１は、電力が付与される本体部Ｄ１４１ａと、その本体部Ｄ１４１ａから正面側（矢印Ｆ方向側）に突出され本体部Ｄ１４１ａに対して回転可能に構成される軸部Ｄ１４１ｂとを主に備え、本体部Ｄ１４１ａがベース本体Ｄ１１１の背面側（矢印Ｂ方向側）に螺子（図示しない）により締結固定されると共に、軸部Ｄ１４１ｂがベース本体Ｄ１１１の挿通孔Ｄ１１１ａを介してベース本体Ｄ１１１の正面側に突出される。

【９２５６】

駆動ギヤＤ１４２は、正面視（矢印Ｂ方向視）において略円形に形成されると共に、その周囲に歯を有するギヤである。駆動ギヤＤ１４２は、略円形に形成された中心部にベー

ス本体Ｄ１１１の正面側（矢印Ｆ方向側）に突出された駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂが挿入されることでベース本体Ｄ１１１の正面側に配設される。

【９２５７】

また、駆動ギヤＤ１４２は、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂに対して相対回転しないように駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂが勘合されており、駆動モータＤ１４１の駆動に伴って回転可能とされる。なお、第８３実施形態では、駆動ギヤＤ１４２の中心部に駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂが勘合されるが、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂに駆動ギヤＤ１４２を螺子により締結固定して、駆動モータの軸部Ｄ１４１ｂに対して駆動ギヤＤ１４２が相対回転しないように構成しても良い。

【９２５８】

第１正面カムＤ１４３は、駆動ギヤＤ１４２の歯に歯合する歯を有するギヤ部Ｄ１４３ａと、そのギヤ部Ｄ１４３ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に形成されるカム部Ｄ１４３ｂとを備え、回転する回転体として構成される。なお、第１正面カムＤ１４３は、ギヤ部Ｄ１４３ａとカム部Ｄ１４３ｂとが一体の樹脂材料から形成される。また、ギヤ部Ｄ１４３ａは、ベース本体Ｄ１１１の挿通孔Ｄ１１１ｂの内径よりも若干小さい外径の円柱状に形成され挿通孔Ｄ１１１ｂの内側に軸支される被軸支部Ｄ１４３ａ１を背面側（矢印Ｂ方向側）に備える。これにより、第１正面カムＤ１４３は、被軸支部Ｄ１４３ａ１（ベース本体Ｄ１１１の挿通孔Ｄ１１１ｂ）を軸に回転可能とされる。

【９２５９】

ギヤ部Ｄ１４３ａは、駆動ギヤＤ１４２の回転駆動力を第１正面カムＤ１４３に伝達するためのギヤであり、駆動ギヤＤ１４２と同じギヤ比に構成され、駆動ギヤＤ１４２（即ち、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂ）が１回転されることで第１正面カムＤ１４３が１回転するように構成される。

【９２６０】

カム部Ｄ１４３ｂは、円板状に形成され背面側（矢印Ｂ方向側）がギヤ部Ｄ１４３ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に連なる円板部Ｄ１４３ｂ１と、その円板部Ｄ１４３ｂ１の正面側から円柱状に突設される突設部Ｄ１４３ｂ２と、円板部Ｄ１４３ｂ１の外周面の一部から径方向外側に突設される板状の被検出部Ｄ１４３ｂ３とを備え、それら円板部Ｄ１４３ｂ１、突設部Ｄ１４３ｂ２、及び、被検出部Ｄ１４３ｂ３がギヤ部Ｄ１４３ａの回転に伴いギヤ部Ｄ１４３ａの回転軸を中心に回転可能に構成される。

【９２６１】

円板部Ｄ１４３ｂ１は、ギヤ部Ｄ１４３ａよりも外径が大きい円板状に形成され、駆動ギヤＤ１４２及び第１正面カムＤ１４３をベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に配設した状態において、円板部Ｄ１４３ｂ１の一部が駆動ギヤＤ１４２の少なくとも一部の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる状態とされる。これにより、駆動ギヤＤ１４２及びギヤ部Ｄ１４３ａが歯幅方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に相対的に位置ずれすることを抑制して、駆動ギヤＤ１４２とギヤ部Ｄ１４３ａとの歯合が外れることを抑制できる。

【９２６２】

突設部Ｄ１４３ｂ２は、第１正面カムＤ１４３に作用する駆動モータＤ１４１からの駆動力を後述する上側揺動手段Ｄ１２０に伝達する伝達部であり、後述する上側揺動手段Ｄ１２０に当接することで、上側揺動手段Ｄ１２０を変位させることが可能に構成される。突設部Ｄ１４３ｂ２は、ギヤ部Ｄ１４３ａの回転軸に対して径方向に異なる位置に形成され、ギヤ部Ｄ１４３ａの回転に伴いベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対する相対位置を変化可能に構成される。

【９２６３】

被検出部Ｄ１４３ｂ３は、ベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に配設される検出手段Ｄ１１１ｇに検出される検出部であり、ギヤ部Ｄ１４３ａの回転に伴い被検出部Ｄ１４３ｂ３がベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）の所定位置に配設される場合に、検出手段Ｄ１１１ｇから出射される光を遮ることが可能に構成される。即ち、ギヤ部Ｄ１４３ａが１回転する毎に、被検出部Ｄ１４３ｂ３を検出手段Ｄ１１１ｇに検出させるこ

とが可能に構成される。

【９２６４】

第１背面カムＤ１４４は、ベース本体Ｄ１１１の挿通孔Ｄ１１１ｂの内径よりも大きい外径の円板状に形成される円板部Ｄ１４４ａと、その円板部Ｄ１４４ａの背面側（矢印Ｂ方向側）から円柱状に突出される突設部Ｄ１４４ｂとを備える。また、第１背面カムＤ１４４は、ベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）の正面側（矢印Ｆ方向側）から挿通孔Ｄ１１１ｂの内側に挿入されベース本体Ｄ１１１の背面側に突出された第１正面カムＤ１４３の被軸支部Ｄ１４３ａ１に円板部Ｄ１４４ａが螺子（図示しない）により締結固定される。これにより、第１背面カムＤ１４４は、ベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）の背面側に配設されると共に、第１正面カムＤ１４３の回転に伴って回転可能とされる。

【９２６５】

突設部Ｄ１４４ｂは、第１背面カムＤ１４４に作用する駆動モータＤ１４１の駆動力を後述する連結手段Ｄ１４５に伝達する伝達部である。突設部Ｄ１４４ｂは、第１背面カムＤ１４４の回転軸に対して径方向に異なる位置に形成され、第１背面カムＤ１４４の回転に伴いベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対する相対位置を変化可能に構成される。

【９２６６】

連結手段Ｄ１４５は、正面視（矢印Ｂ方向視）において一方（左右方向）に長い棒状に形成され、その長手方向の両端に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通形成される円形状の貫通孔Ｄ１４５ａ，Ｄ１４５ｂを備える。連結手段Ｄ１４５の貫通孔Ｄ１４５ａ，Ｄ１４５ｂは、第１背面カムＤ１４４の突設部Ｄ１４４ｂ及び後述する第２背面カムＤ１４６の突設部Ｄ１４６ｂに相対回転可能な状態で連結される部分であり、円柱状に形成される突設部Ｄ１４４ｂ，Ｄ１４６ｂの外径よりも若干大きい内径に形成される。

【９２６７】

連結手段Ｄ１４５は、第１背面カムＤ１４４の突設部Ｄ１４４ｂ及び後述する第２背面カムＤ１４６の突設部Ｄ１４６ｂに相対回転可能な状態で連結されることで、第１背面カムＤ１４４に作用する駆動モータＤ１４１の駆動力を第１背面カムＤ１４４から第２背面カムＤ１４６に伝達可能とされる。

【９２６８】

第２背面カムＤ１４６は、ベース本体Ｄ１１１の挿通孔Ｄ１１１ｃの内径よりも大きい外径の円板状に形成される円板部Ｄ１４６ａと、その円板部Ｄ１４６ａの背面側（矢印Ｂ方向側）から円柱状に突出される突設部Ｄ１４６ｂとを備える。また、第２背面カムＤ１４６は、ベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）の背面側において、後述する第２正面カムＤ１４７の被軸支部Ｄ１４７ｃに円板部Ｄ１４６ａが螺子（図示しない）により締結固定され、第２正面カムＤ１４７と共に回転変位可能に構成される。

【９２６９】

突設部Ｄ１４６ｂは、連結手段Ｄ１４５により第１背面カムＤ１４４から第２背面カムＤ１４６に駆動モータＤ１４１の駆動力が伝達される際に、その駆動力が伝達される被伝達部である。突設部Ｄ１４６ｂは、第１背面カムＤ１４４の突設部Ｄ１４４ｂと同様に、第２背面カムＤ１４６の回転軸に対して径方向に異なる位置に形成される。また、突設部Ｄ１４４ｂと突設部Ｄ１４６ｂとは、それぞれが形成される第１背面カムＤ１４４及び第２背面カムＤ１４６の回転軸に対して同一距離、同一方向に離れた位置に形成され、連結手段Ｄ１４５により連結される。これにより、第１背面カムＤ１４４と第２背面カムＤ１４６とは、駆動モータＤ１４１の駆動力が作用した際に同一の回転速度・回転量で回転可能とされる。

【９２７０】

第２正面カムＤ１４７は、円板状に形成される円板部Ｄ１４７ａと、その円板部Ｄ１４７ａの正面側（矢印Ｆ方向側）から円柱状に突設される突設部Ｄ１４７ｂと、円板部Ｄ１４７ａと同軸上の背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される円柱状の被軸支部Ｄ１４７ｃとを

備え、回転する回転体として構成される。

【９２７１】

被軸支部Ｄ１４７ｃは、ベース本体Ｄ１１１の挿通孔Ｄ１１１ｃの内径よりも若干小さい外径の円柱状に形成され挿通孔Ｄ１１１ｃの内側に軸支される。また、挿通孔Ｄ１１１ｃからベース本体Ｄ１１１の背面側（矢印Ｂ方向側）に突出される被軸支部Ｄ１４７ｃの先端に第２背面カムＤ１４６の円板部Ｄ１４６ａが螺子（図示しない）により締結固定される。これにより、第２正面カムＤ１４７は、第２背面カムＤ１４６と共に回転変位可能とされる。

【９２７２】

円板部Ｄ１４７ａは、ベース本体Ｄ１１１の挿通孔Ｄ１１１ｃの内径よりも外径が大きい円板状に形成される。これにより、第２正面カムＤ１４７の円板部Ｄ１４７ａと、第２背面カムＤ１４６の円板部Ｄ１４６ａとの間にベース本体Ｄ１１１を挟んだ状態とすることができ、第２正面カムＤ１４７及び第２背面カムＤ１４６のベース本体Ｄ１１１からの脱落、及び、第２正面カムＤ１４７及び第２背面カムＤ１４６のベース本体Ｄ１１１に対する前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の位置ずれを抑制できる。

【９２７３】

突設部Ｄ１４７ｂは、第２正面カムＤ１４７に作用する駆動モータＤ１４１の駆動力を後述する上側揺動手段Ｄ１２０に伝達する伝達部であり、上側揺動手段Ｄ１２０に当接することで、上側揺動手段Ｄ１２０を変位させることが可能に構成される。突設部Ｄ１４７ｂは、第１正面カムＤ１４３の突設部Ｄ１４３ｂ２と同様に、円板部Ｄ１４７ａの回転軸に対して径方向に異なる位置に形成され、円板部Ｄ１４７ａの回転に伴いベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対する相対位置を変位可能に構成される。

【９２７４】

また、第２正面カムＤ１４７の突設部Ｄ１４７ｂと第１正面カムＤ１４３の突設部Ｄ１４３ｂ２とは、それぞれが形成される第２正面カムＤ１４７及び第１正面カムＤ１４３の回転軸に対して同一距離、同一方向に離れた位置に形成される。また、第１正面カムＤ１４３と第２正面カムＤ１４７とは、同一の回転速度・回転量で回転可能とされる第１背面カムＤ１４４と第２背面カムＤ１４６とにそれぞれ締結固定されるので、それら第１背面カムＤ１４４と第２背面カムＤ１４６同様に、同一の回転速度・回転量で変位可能とされる。

【９２７５】

下側動力付与手段Ｄ１５０は、電力が付与されることで軸部Ｄ１５１ｂが回転する駆動モータＤ１５１と、その駆動モータＤ１５１の軸部Ｄ１５１ｂに配設される駆動ギヤＤ１５２と、その駆動ギヤＤ１５２に歯合する歯を有する第１正面カムＤ１５３と、第１正面カムＤ１５３の背面側（矢印Ｂ方向側）に螺子（図示しない）により締結固定される第１背面カムＤ１５４と、その第１背面カムＤ１５４に相対変位可能な状態で一端側が連結される連結手段Ｄ１５５と、その連結手段Ｄ１５５の他端側が相対変位可能な状態で連結される第２背面カムＤ１５６と、その第２背面カムＤ１５６の正面側（矢印Ｆ方向側）に螺子（図示しない）により締結固定される第２正面カムＤ１５７とを主に備える。

【９２７６】

駆動モータＤ１５１は、電力が付与される本体部Ｄ１５１ａと、その本体部Ｄ１５１ａから正面側（矢印Ｆ方向側）に突出され本体部Ｄ１５１ａに対して回転可能に構成される軸部Ｄ１５１ｂとを主に備え、本体部Ｄ１５１ａがベース本体Ｄ１１１の背面側（矢印Ｂ方向側）に螺子（図示しない）により締結固定されると共に、軸部Ｄ１５１ｂがベース本体Ｄ１１１の挿通孔Ｄ１１１ｄを介してベース本体Ｄ１１１の正面側に突出される。

【９２７７】

駆動ギヤＤ１５２は、正面視（矢印Ｂ方向視）において略円形に形成されると共に、その周囲に歯を有するギヤである。駆動ギヤＤ１５２は、略円形に形成された中心部にベース本体Ｄ１１１の正面側（矢印Ｆ方向側）に突出された駆動モータＤ１５１の軸部Ｄ１５１ｂが挿入されることでベース本体Ｄ１１１の正面側に配設される。

【９２７８】
　また、駆動ギヤＤ１５２は、駆動モータＤ１５１の軸部Ｄ１５１ｂに対して相対回転しないように駆動モータＤ１５１の軸部Ｄ１５１ｂが勘合されており、駆動モータＤ１５１の駆動に伴って回転可能とされる。なお、第８３実施形態では、駆動ギヤＤ１５２の中心部に駆動モータＤ１５１の軸部Ｄ１５１ｂが勘合されるが、駆動モータＤ１５１の軸部Ｄ１５１ｂに駆動ギヤＤ１５２を螺子により締結固定して、駆動モータの軸部Ｄ１５１ｂに対して駆動ギヤＤ１５２が相対回転しないように構成しても良い。
【９２７９】
　第１正面カムＤ１５３は、駆動ギヤＤ１５２の歯に歯合する歯を有するギヤ部Ｄ１５３ａと、そのギヤ部Ｄ１５３ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に形成されるカム部Ｄ１５３ｂとを備え、回転する回転体として構成される。なお、第１正面カムＤ１５３は、ギヤ部Ｄ１５３ａとカム部Ｄ１５３ｂとが一体の樹脂材料から形成される。また、ギヤ部Ｄ１５３ａは、ベース本体Ｄ１１１の挿通孔Ｄ１１１ｅの内径よりも若干小さい外径の円柱状に形成され挿通孔Ｄ１１１ｅの内側に軸支される被軸支部Ｄ１５３ａ１を背面側（矢印Ｂ方向側）に備える。これにより、第１正面カムＤ１５３は、被軸支部Ｄ１５３ａ１（ベース本体Ｄ１１１の挿通孔Ｄ１１１ｅ）を軸に回転可能とされる。
【９２８０】
　ギヤ部Ｄ１５３ａは、駆動ギヤＤ１５２の回転駆動力を第１正面カムＤ１５３に伝達するためのギヤであり、駆動ギヤＤ１５２と同じギヤ比に構成され、駆動ギヤＤ１５２（即ち、駆動モータＤ１５１の軸部Ｄ１５１ｂ）が１回転されることで第１正面カムＤ１５３が１回転するように構成される。
【９２８１】
　カム部Ｄ１５３ｂは、円板状に形成され背面側（矢印Ｂ方向側）がギヤ部Ｄ１５３ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に連なる円板部Ｄ１５３ｂ１と、その円板部Ｄ１５３ｂ１の正面側から円柱状に突設される突設部Ｄ１５３ｂ２とを備え、それら円板部Ｄ１５３ｂ１、及び、突設部Ｄ１５３ｂ２がギヤ部Ｄ１５３ａの回転に伴いギヤ部Ｄ１５３ａの回転軸を中心に回転可能に構成される。
【９２８２】
　円板部Ｄ１５３ｂ１は、ギヤ部Ｄ１５３ａよりも外径が大きい円板状に形成され、駆動ギヤＤ１５２及び第１正面カムＤ１５３をベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に配設した状態において、円板部Ｄ１５３ｂ１の一部が駆動ギヤＤ１５２の少なくとも一部の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる状態とされる。これにより、駆動ギヤＤ１５２及びギヤ部Ｄ１５３ａが歯幅方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に相対的に位置ずれすることを抑制して、駆動ギヤＤ１５２とギヤ部Ｄ１５３ａとの歯合が外れることを抑制できる。
【９２８３】
　突設部Ｄ１５３ｂ２は、第１正面カムＤ１５３に作用する駆動モータＤ１５１からの駆動力を後述する下側揺動手段Ｄ１３０に伝達する伝達部であり、後述する下側揺動手段Ｄ１３０に当接することで、下側揺動手段Ｄ１３０を変位させることが可能に構成される。
【９２８４】
　突設部Ｄ１５３ｂ２は、ギヤ部Ｄ１５３ａの回転軸に対して径方向に異なる位置に形成され、ギヤ部Ｄ１５３ａの回転に伴いベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対する相対位置を変化可能に構成される。
【９２８５】
　第１背面カムＤ１５４は、ベース本体Ｄ１１１の挿通孔Ｄ１１１ｅの内径よりも大きい外径の円板状に形成される円板部Ｄ１５４ａと、その円板部Ｄ１５４ａの背面側（矢印Ｂ方向側）から円柱状に突出される突設部Ｄ１５４ｂとを備える。また、第１背面カムＤ１５４は、ベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）の正面側（矢印Ｆ方向側）から挿通孔Ｄ１１１ｅの内側に挿入されベース本体Ｄ１１１の背面側に突出された第１正面カムＤ１５３の被軸支部Ｄ１５３ａ１に円板部Ｄ１５４ａが螺子（図示しない）により締結固定される。これにより、第１背面カムＤ１５４は、ベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１

０）の背面側に配設されると共に、第１正面カムＤ１５３の回転に伴って回転可能とされる。

【９２８６】

突設部Ｄ１５４ｂは、第１背面カムＤ１５４に作用する駆動モータＤ１５１の駆動力を後述する連結手段Ｄ１５５に伝達する伝達部である。突設部Ｄ１５４ｂは、第１背面カムＤ１５４の回転軸に対して径方向に異なる位置に形成され、第１背面カムＤ１５４の回転に伴いベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対する相対位置を変化可能に構成される。

【９２８７】

連結手段Ｄ１５５は、正面視（矢印Ｂ方向視）において一方（上下方向）に長い棒状に形成され、その長手方向の両端に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通形成される円形状の貫通孔Ｄ１５５ａ，Ｄ１５５ｂを備える。連結手段Ｄ１５５の貫通孔Ｄ１５５ａ，Ｄ１５５ｂは、第１背面カムＤ１５４の突設部Ｄ１５４ｂ及び後述する第２背面カムＤ１５６の突設部Ｄ１５６ｂに相対回転可能な状態で連結される部分であり、円柱状に形成される突設部Ｄ１５４ｂ，Ｄ１５６ｂの外径よりも若干大きい内径に形成される。

【９２８８】

連結手段Ｄ１５５は、第１背面カムＤ１５４の突設部Ｄ１５４ｂ及び後述する第２背面カムＤ１５６の突設部Ｄ１５６ｂに相対回転可能な状態で連結されることで、第１背面カムＤ１５４に作用する駆動モータＤ１５１の駆動力を第１背面カムＤ１５４から第２背面カムＤ１５６に伝達可能とされる。

【９２８９】

第２背面カムＤ１５６は、ベース本体Ｄ１１１の挿通孔Ｄ１１１ｆの内径よりも大きい外径の円板状に形成される円板部Ｄ１５６ａと、その円板部Ｄ１５６ａの背面側（矢印Ｂ方向側）から円柱状に突出される突設部Ｄ１５６ｂとを備える。また、第２背面カムＤ１５６は、ベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）の背面側において、後述する第２正面カムＤ１５７の被軸支部Ｄ１５７ｃに円板部Ｄ１５６ａが螺子（図示しない）により締結固定され、第２正面カムＤ１５７と共に回転変位可能に構成される。

【９２９０】

突設部Ｄ１５６ｂは、連結手段Ｄ１５５により第１背面カムＤ１５４から第２背面カムＤ１５６に駆動モータＤ１５１の駆動力が伝達される際に、その駆動力が伝達される被伝達部である。突設部Ｄ１５６ｂは、第１背面カムＤ１５４の突設部Ｄ１５４ｂと同様に、第２背面カムＤ１５６の回転軸に対して径方向に異なる位置に形成される。また、突設部Ｄ１５４ｂと突設部Ｄ１５６ｂとは、それぞれが形成される第１背面カムＤ１５４及び第２背面カムＤ１５６の回転軸に対して同一距離、同一方向に離れた位置に形成され、連結手段Ｄ１５５により連結される。これにより、第１背面カムＤ１５４と第２背面カムＤ１５６とは、駆動モータＤ１５１の駆動力が作用した際に同一の回転速度・回転量で回転可能とされる。

【９２９１】

第２正面カムＤ１５７は、円板状に形成される円板部Ｄ１５７ａと、その円板部Ｄ１５７ａの正面側（矢印Ｆ方向側）から円柱状に突設される突設部Ｄ１５７ｂと、円板部Ｄ１５７ａと同軸上の背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される円柱状の被軸支部Ｄ１５７ｃと、円板部Ｄ１５７ａの外周面の一部から径方向外側に突設される板状の被検出部Ｄ１５７ｄとを備え、回転する回転体として構成される。

【９２９２】

被軸支部Ｄ１５７ｃは、ベース本体Ｄ１１１の挿通孔Ｄ１１１ｆの内径よりも若干小さい外径の円柱状に形成され挿通孔Ｄ１１１ｆの内側に軸支される。また、挿通孔Ｄ１１１ｆからベース本体Ｄ１１１の背面側（矢印Ｂ方向側）に突出される被軸支部Ｄ１５７ｃの先端に第２背面カムＤ１５６の円板部Ｄ１５６ａが螺子（図示しない）により締結固定される。これにより、第２正面カムＤ１５７は、第２背面カムＤ１５６と共に回転変位可能とされる。

【９２９３】
円板部Ｄ１５７ａは、ベース本体Ｄ１１１の挿通孔Ｄ１１１ｆの内径よりも外径が大きい円板状に形成される。これにより、第２正面カムＤ１５７の円板部Ｄ１５７ａと、第２背面カムＤ１５６の円板部Ｄ１５６ａとの間にベース本体Ｄ１１１を挟んだ状態とすることができ、第２正面カムＤ１５７及び第２背面カムＤ１５６のベース本体Ｄ１１１からの脱落、及び、第２正面カムＤ１５７及び第２背面カムＤ１５６のベース本体Ｄ１１１に対する前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の位置ずれを抑制できる。
【９２９４】
突設部Ｄ１５７ｂは、第２正面カムＤ１５７に作用する駆動モータＤ１５１の駆動力を後述する下側揺動手段Ｄ１３０に伝達する伝達部であり、上側揺動手段Ｄ１２０に当接することで、上側揺動手段Ｄ１２０を変位させることが可能に構成される。突設部Ｄ１５７ｂは、第１正面カムＤ１５３の突設部Ｄ１５３ｂ２と同様に、円板部Ｄ１５７ａの回転軸に対して径方向に異なる位置に形成され、円板部Ｄ１５７ａの回転に伴いベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対する相対位置を変位可能に構成される。
【９２９５】
また、第２正面カムＤ１５７の突設部Ｄ１５７ｂと第１正面カムＤ１５３の突設部Ｄ１５３ｂ２とは、それぞれが形成される第２正面カムＤ１５７及び第１正面カムＤ１５３の回転軸に対して同一距離、同一方向に離れた位置に形成される。また、第１正面カムＤ１５３と第２正面カムＤ１５７とは、同一の回転速度・回転量で回転可能とされる第１背面カムＤ１５４と第２背面カムＤ１５６とにそれぞれ締結固定されるので、それら第１背面カムＤ１５４と第２背面カムＤ１５６同様に、同一の回転速度・回転量で変位可能とされる。
【９２９６】
被検出部Ｄ１５７ｄは、ベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に配設される検出手段Ｄ１１１ｈに検出される検出部であり、駆動モータＤ１５１の駆動により被検出部Ｄ１５７ｄがベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）の所定位置に配設される場合に、検出手段Ｄ１１１ｈから出射される光を遮ることが可能に構成される。即ち、ギヤ部Ｄ１５３ａが１回転する毎に、被検出部Ｄ１５７ｄを検出手段Ｄ１１１ｈに検出させることが可能に構成される。
【９２９７】
上側揺動手段Ｄ１２０は、正面視（矢印Ｂ方向視）において左右方向に長い略半円形状に形成される。また、上側揺動手段Ｄ１２０は、円弧状に形成される上面側（矢印Ｕ方向側）の一部がセンターフレームＡ８６（図４９８参照）の内縁に沿う位置に配設される変位手段Ｄ１２１と、その変位手段Ｄ１２１の長手方向一端側（矢印Ｌ方向側）における外縁から突設される第１被軸支部Ｄ１２２と、変位手段Ｄ１２１の長手方向中央部の上方側（矢印Ｕ方向側）の外縁から突設される第２被軸支部Ｄ１２３と、変位手段Ｄ１２１の長手方向他端側（矢印Ｒ方向側）における外縁から突設される第３被軸支部Ｄ１２４とを主に備え、突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂから受ける駆動力の大きさに応じて、変位される態様を変更可能に構成される。
【９２９８】
変位手段Ｄ１２１は、パチンコ機Ｈ１０の第３図柄表示装置Ｈ８１（図４９８参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に少なくとも一部が重なる位置で変位する演出部材であり、その変位手段Ｄ１２１の変位により正面視（矢印Ｂ方向視）における第３図柄表示装置Ｈ８１の視認可能な領域を変更可能とされる。
【９２９９】
また、変位手段Ｄ１２１は、光を反射可能な反射材料から形成される反射部Ｄ１２１ａと、光を透過可能な光透過部Ｄ１２１ｂとを少なくとも一部に備えると共に、光を出射可能な発光手段（図示しない）を変位手段Ｄ１２１の内部に備える。なお、第８３実施形態では、反射部Ｄ１２１ａは、正面視（矢印Ｂ方向視）おいてセンターフレームＡ８６（図４９８参照）の内縁に沿う円弧状に形成され、光透過部Ｄ１２１ｂは、正面視において円

弧状に形成される反射部Ｄ１２１ａの内側に形成される。
【９３００】
変位手段Ｄ１２１は、反射部Ｄ１２１ａにより、変位手段Ｄ１２１の外側から変位手段Ｄ１２１に向かって照射される光を遊技者側（即ち、正面側（矢印Ｆ方向側））に反射することで遊技者に変位手段Ｄ１２１を注目させやすくできる。また、変位手段Ｄ１２１を変位させた際には、反射部Ｄ１２１ａに反射される光の反射態様を変更することができるので、遊技者に変位手段Ｄ１２１の変位を注目させやすくできる。
【９３０１】
また、変位手段Ｄ１２１は、正面視（矢印Ｂ方向視）において円弧状に形成される反射部Ｄ１２１ａの内側に光透過部Ｄ１２１ｂを備えるので、第３図柄表示装置Ｈ８１（図４９８参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に少なくとも一部が重なる位置に変位手段Ｄ１２１を配設した場合に、光透過部Ｄ１２１ｂを介して背面側（矢印Ｂ方向側）の第３図柄表示装置Ｈ８１の表示を視認可能とされる。その結果、第３図柄表示装置Ｈ８１の視認可能領域が狭くなることを抑制しつつ、演出可能な領域を増加させることができる。
【９３０２】
なお、第８３実施形態では、変位手段Ｄ１２１が反射部Ｄ１２１ａと、光透過部Ｄ１２１ｂとの両方を備えるが、どちらか一方のみで構成されるものであっても良い。例えば、変位手段Ｄ１２１は、光を反射可能な反射部Ｄ１２１ａのみで構成されるものであっても良い。この場合には、変位手段Ｄ１２１の内部に光照射手段（図示しない）を配設する必要がなくなるため、変位手段Ｄ１２１の構造を簡易にできる。
【９３０３】
第１被軸支部Ｄ１２２は、第１正面カムＤ１４３の突設部Ｄ１４３ｂ２から駆動モータＤ１４１の駆動力が伝達される被伝達部であり、正面視（矢印Ｂ方向視）において第１正面カムＤ１４３の少なくとも一部と重なる位置に配設され、第１正面カムＤ１４３の突設部Ｄ１４３ｂ２が相対変位可能な状態で挿入される貫通孔Ｄ１２２ａを備える。
【９３０４】
第１被軸支部Ｄ１２２は、貫通孔Ｄ１２２ａに挿入される突設部Ｄ１４３ｂ２が第１正面カムＤ１４３の回転によりベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対して相対変位されることで、駆動モータＤ１４１の駆動力が第１被軸支部Ｄ１２２に伝達されベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対して相対変位可能とされる。
【９３０５】
第２被軸支部Ｄ１２３は、第２正面カムＤ１４７の突設部Ｄ１４７ｂから駆動モータＤ１４１の駆動力が伝達される被伝達部であり、正面視（矢印Ｂ方向視）において第２正面カムＤ１４７の少なくとも一部と重なる位置に配設され、第２正面カムＤ１４７の突設部Ｄ１４７ｂ画相対変位可能な状態で挿入される貫通孔Ｄ１２３ａを備える。
【９３０６】
第２被軸支部Ｄ１２３は、貫通孔Ｄ１２３ａに挿入される突設部Ｄ１４７ｂが第２正面カムＤ１４７の回転によりベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対して相対変位されることで、駆動モータＤ１４１の駆動力が第２被軸支部Ｄ１２３に伝達されベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対して相対変位可能とされる。
【９３０７】
ここで、第１被軸支部Ｄ１２２の貫通孔Ｄ１２２ａと第２被軸支部Ｄ１２３の貫通孔Ｄ１２３ａとが正面視（矢印Ｂ方向視）において離間する距離は、第１正面カムＤ１４３の突設部Ｄ１４３ｂ２と第２正面カムＤ１４７の突設部Ｄ１４７ｂとが正面視において離間する距離と同一に設定される。上述したように第１正面カムＤ１４３と第２正面カムＤ１４７とは同一の回転速度・回転量で回転されるので、駆動モータＤ１４１の駆動力が第１被軸支部Ｄ１２２及び第２被軸支部Ｄ１２３に伝達されると、上側揺動手段Ｄ１２０は、第１正面カムＤ１４３の突設部Ｄ１４３ｂ２と第２正面カムＤ１４７の突設部Ｄ１４７ｂとのベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対する相対変位と同様に、ベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対して相対変位される。

【９３０８】
第３被軸支部Ｄ１２４は、変位手段Ｄ１２１の他端側（矢印Ｒ方向側）を支持するための被支持部であり、後述する上側カバー手段Ｄ１６０に一端が係止される上側バネＤ１８１の他端が係止可能な鉤状に形成される被係止部Ｄ１２４ａを備える。これにより、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７に連結される第１被軸支部Ｄ１２２及び第２被軸支部Ｄ１２３に比べて、ベース本体Ｄ１１１に対する変位の自由度の高い第３被軸支部Ｄ１２４を付勢して、変位手段Ｄ１２１の他端側（矢印Ｒ方向側）が振動等で勝手に（上側動力付与手段Ｄ１４０の駆動力が付与されていない状態で）揺れ動くことを抑制できる。
【９３０９】
下側揺動手段Ｄ１３０は、正面視（矢印Ｂ方向視）において左右方向に長い略半円弧形状に全体が形成される。下側揺動手段Ｄ１３０は、円弧状に形成される下面側の一部がセンターフレームＡ８６（図４９８参照）の内縁に沿う位置に配設される変位手段Ｄ１３１と、その変位手段Ｄ１３１の長手方向一端側（矢印Ｌ方向側）における外縁から突設される第１被軸支部Ｄ１３２と、変位手段Ｄ１３１の長手方向他端側（矢印Ｒ方向側）における外縁から突設される第２被軸支部Ｄ１３３とを主に備え、突設部Ｄ１５３ｂ２，Ｄ１５７ｂから受ける駆動力の大きさに応じて、変位される態様を変更可能に構成される。
【９３１０】
変位手段Ｄ１３１は、パチンコ機Ｈ１０の第３図柄表示装置Ｈ８１（図４９８参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に少なくとも一部が重なる位置で変位する演出部材であり、その変位手段Ｄ１３１の変位により正面視（矢印Ｂ方向視）における第３図柄表示装置Ｈ８１の視認可能な領域を変更可能とされる。
【９３１１】
また、変位手段Ｄ１３１は、光を反射可能な反射材料から形成される反射部Ｄ１３１ａと、光を透過可能な光透過部Ｄ１３１ｂとを少なくとも一部に備えると共に、光を出射可能な発光手段（図示しない）を変位手段Ｄ１３１の内部に備える。なお、第８３実施形態では、反射部Ｄ１３１ａは、正面視（矢印Ｂ方向視）おいて変位手段Ｄ１３１の長手方向両端側の一部に形成され、光透過部Ｄ１３１ｂは、正面視において長手方向両端に形成される反射部Ｄ１３１ａの内側に形成される。
【９３１２】
変位手段Ｄ１３１は、反射部Ｄ１３１ａにより、変位手段Ｄ１３１の外側から変位手段Ｄ１３１に向かって照射される光を遊技者側（即ち、正面側（矢印Ｆ方向側））に反射することで遊技者に変位手段Ｄ１３１を注目させやすくできる。また、変位手段Ｄ１３１を変位させた際には、反射部Ｄ１３１ａに反射される光の反射態様を変更することができるので、遊技者に変位手段Ｄ１３１の変位を注目させやすくできる。
【９３１３】
また、変位手段Ｄ１３１は、正面視（矢印Ｂ方向視）において長手方向両端に形成される反射部Ｄ１３１ａの内側に光透過部Ｄ１３１ｂを備えるので、第３図柄表示装置Ｈ８１（図４９８参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に少なくとも一部が重なる位置に変位手段Ｄ１３１を配設した場合に、光透過部Ｄ１３１ｂを介して背面側（矢印Ｂ方向側）の第３図柄表示装置Ｈ８１の表示を視認可能とされる。その結果、第３図柄表示装置Ｈ８１の視認可能領域が狭くなることを抑制しつつ、演出可能な領域を増加させることができる。
【９３１４】
なお、第８３実施形態では、変位手段Ｄ１３１が反射部Ｄ１３１ａと、光透過部Ｄ１３１ｂとの両方を備えるが、どちらか一方のみで構成されるものであっても良い。例えば、変位手段Ｄ１３１は、光を反射可能な反射部Ｄ１３１ａのみで構成されるものであっても良い。この場合には、変位手段Ｄ１３１の内部に光照射手段（図示しない）を配設する必要がなくなるため、変位手段Ｄ１３１の構造を簡易にできる。
【９３１５】
第１被軸支部Ｄ１３２は、第１正面カムＤ１５３の突設部Ｄ１５３ｂ２及び第２正面カ

ムＤ１５７の突設部Ｄ１５７ｂから駆動モータＤ１５１の駆動力が伝達される被伝達部であり、正面視（矢印Ｂ方向視）において第１正面カムＤ１５３及び第２正面カムＤ１５７の少なくとも一部と重なる位置に配設され、第１正面カムＤ１５３の突設部Ｄ１５３ｂ２及び第２正面カムＤ１５７の突設部Ｄ１５７ｂが相対変位可能な状態で挿入される貫通孔Ｄ１３２ａ，Ｄ１３２ｂを備える。

【９３１６】

第１被軸支部Ｄ１３２は、貫通孔Ｄ１３２ａに挿入される突設部Ｄ１５３ｂ２及び貫通孔Ｄ１３２ｂに挿入される突設部Ｄ１５７ｂが第１正面カムＤ１５３及び第２正面カムＤ１５７の回転によりベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対して相対変位されることで、駆動モータＤ１５１の駆動力が第１被軸支部Ｄ１３２に伝達されベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対して相対変位可能とされる。

【９３１７】

ここで、第１被軸支部Ｄ１３２の貫通孔Ｄ１３２ａと第１被軸支部Ｄ１３２の貫通孔Ｄ１３２ｂとが正面視（矢印Ｂ方向視）において離間する距離は、第１正面カムＤ１５３の突設部Ｄ１５３ｂ２と第２正面カムＤ１５７の突設部Ｄ１５７ｂとが正面視において離間する距離と同一に設定される。上述したように第１正面カムＤ１５３と第２正面カムＤ１５７とは同一の回転速度・回転量で回転されるので、駆動モータＤ１５１の駆動力が第１被軸支部Ｄ１３２に伝達されると、下側揺動手段Ｄ１３０は、第１正面カムＤ１５３の突設部Ｄ１５３ｂ２と第２正面カムＤ１５７の突設部Ｄ１５７ｂとのベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対する相対変位と同様に、ベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対して相対変位される。

【９３１８】

第２被軸支部Ｄ１３３は、変位手段Ｄ１３１の他端側（矢印Ｒ方向側）を支持するための被支持部であり、後述する下側カバー手段Ｄ１７０に一端が係止される下側バネＤ１８２の他端が係止可能な鉤状に形成される被係止部Ｄ１３３ａを備える。これにより、第１正面カムＤ１５３及び第２正面カムＤ１５７に連結される第１被軸支部Ｄ１３２に比べて、ベース本体Ｄ１１１に対する変位の自由度の高い第２被軸支部Ｄ１３３を付勢して、変位手段Ｄ１３１の他端側（矢印Ｒ方向側）が振動等で勝手に（下側動力付与手段Ｄ１５０の駆動力が付与されていない状態で）揺れ動くことを抑制できる。

【９３１９】

上側カバー手段Ｄ１６０は、上側揺動手段Ｄ１２０の変位手段Ｄ１２１の上方側（矢印Ｕ方向側）の周囲を取り囲み、上側揺動手段Ｄ１２０の駆動機構（上側動力付与手段Ｄ１４０及び上側バネＤ１８１）を遊技者から視認させ難くするための部材であり、正面側（矢印Ｆ方向側）に凹凸状の装飾が形成される。

【９３２０】

また、上側カバー手段Ｄ１６０は、上側揺動手段Ｄ１２０の第１被軸支部Ｄ１２２側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１カバーＤ１６１と、上側揺動手段Ｄ１２０の第３被軸支部Ｄ１２４側（矢印Ｒ方向側）に配設される第２カバーＤ１６２とを備える。

【９３２１】

第１カバーＤ１６１は、主に駆動ギヤＤ１４２及び第１正面カムＤ１４３の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に配設される。これにより、遊技中にセンターフレームＡ８６（図４９８参照）に配設される装飾部材等が脱落した際に、その脱落した部品が上側揺動手段Ｄ１２０に駆動力を付与する部分（駆動ギヤＤ１４２及び第１正面カムＤ１４３）に衝突（干渉）することを抑制でき、上側揺動手段Ｄ１２０の駆動が停止してしまうことを抑制できる。

【９３２２】

第２カバーＤ１６２は、上側揺動手段Ｄ１２０の第３被軸支部Ｄ１２４の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に配設され、ベース本体Ｄ１１１との間の空間に第３被軸支部Ｄ１２４を保持することが可能に構成される。これにより、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７に連結される第１被軸支部Ｄ１２２及び第２被軸支部Ｄ１２３に比べて

、ベース本体Ｄ１１１に対する変位の自由度の高い第３被軸支部Ｄ１２４が前後方向に過大に揺れ動くことを抑制できる。

【９３２３】

また、第２カバーＤ１６２は、第３被軸支部Ｄ１２４の被係止部Ｄ１２４ａよりも上方側（矢印Ｕ方向側）に上側バネＤ１８１の一端側を係止可能な鉤状の被係止部Ｄ１６２ａを備える。これにより、駆動モータＤ１４１の駆動力が伝達される第１被軸支部Ｄ１２２及び第２被軸支部Ｄ１２３にから離れる位置に形成される第３被軸支部Ｄ１２４を上方側に付勢できるので、上側揺動手段Ｄ１２０を上方側に持ち上げる方向に変位させる際に駆動モータＤ１４１にかかる抵抗が大きくなることを抑制できる。

【９３２４】

下側カバー手段Ｄ１７０は、下側揺動手段Ｄ１３０の変位手段Ｄ１３１の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側をベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）との間で取り囲み、下側揺動手段Ｄ１３０の駆動機構（下側動力付与手段Ｄ１５０及び下側バネＤ１８２）を遊技者から視認させ難くするための部材であり、正面側（矢印Ｆ方向側）の少なくとも一部に凹凸状の装飾が形成される。

【９３２５】

また、下側カバー手段Ｄ１７０は、下側揺動手段Ｄ１３０の第１被軸支部Ｄ１３２側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１カバーＤ１７１と、下側揺動手段Ｄ１３０の第２被軸支部Ｄ１３３側（矢印Ｒ方向側）に配設される第２カバーＤ１７２とを備える。

【９３２６】

第１カバーＤ１７１は、主に駆動ギヤＤ１５２及び第１正面カムＤ１５３の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に配設される。これにより、遊技中にセンターフレームＡ８６（図４９８参照）に配設される装飾部材等が脱落した際に、その脱落した部品が下側揺動手段Ｄ１３０に駆動力を付与する部材（駆動ギヤＤ１５２及び第１正面カムＤ１５３）に衝突（干渉）することを抑制でき、下側揺動手段Ｄ１３０の駆動が停止してしまうことを抑制できる。

【９３２７】

第２カバーＤ１７２は、下側揺動手段Ｄ１３０の第２被軸支部Ｄ１３３の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に配設され、ベース本体Ｄ１１１との間の空間に第２被軸支部Ｄ１３３を保持することが可能に構成される。これにより、第１正面カムＤ１５３に連結される第１被軸支部Ｄ１３２に比べて、ベース本体Ｄ１１１に対する変位の自由度の高い第２被軸支部Ｄ１３３が前後方向に過大に揺れ動くことを抑制できる。

【９３２８】

また、第２カバーＤ１７２は、第２被軸支部Ｄ１３３の被係止部Ｄ１３３ａよりも上方側（矢印Ｕ方向側）に下側バネＤ１８２の一端側を係止可能な鉤状の被係止部Ｄ１６２ａを備える。これにより、駆動モータＤ１５１の駆動力が伝達される第１被軸支部Ｄ１３２及び第２被軸支部Ｄ１３３にから離れる位置に形成される第３被軸支部Ｄ１３４を上方側に付勢できるので、下側揺動手段Ｄ１３０を上方側に持ち上げる方向に変位させる際に駆動モータＤ１５１にかかる抵抗が大きくなることを抑制できる。

【９３２９】

次いで、図５１３及び図５１４を参照して、揺動ユニットＤ１００の変位の態様について説明する。なお、上側揺動手段Ｄ１２０と下側揺動手段Ｄ１３０とを変位させる構造については、略同一の構造であるため、以下の説明では、上側揺動手段Ｄ１２０の変位について説明し、下側揺動手段Ｄ１３０の変位についての説明は省略する。

【９３３０】

図５１３（ａ）、図５１３（ｂ）、図５１４（ａ）、及び、図５１４（ｂ）は、揺動ユニットＤ１００を正面視した模式図である。なお、図５１３（ａ）、図５１３（ｂ）、図５１４（ａ）、及び、図５１４（ｂ）では、揺動ユニットＤ１００における上側揺動手段Ｄ１２０の遷移状態が順に図示される。

【９３３１】

また、以下の説明では、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂが第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の回転軸に対して正面視上側（矢印Ｕ方向側）に配設された状態における第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の回転位置を第１位置（図５１３（ａ）に示す位置）として説明し、突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂが第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の回転軸に対して正面視右側（矢印Ｒ方向側）に配設された状態における第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の回転位置を第２位置（図５１３（ｂ）に示す位置）として説明し、突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂが第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の回転軸に対して正面視下側（矢印Ｄ方向側）に配設された状態における第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の回転位置を第３位置（図５１４（ａ）に示す位置）として説明し、突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂが第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の回転軸に対して正面視左側（矢印Ｌ方向側）に配設された状態における第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の回転位置を第４位置（図５１４（ｂ）に示す位置）として説明する。

【９３３２】

図５１３（ａ）に示すように、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を第１位置に配設した状態（即ち、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂがベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対して上側（矢印Ｕ方向側）に配置された状態）では、それら第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂに軸支される上側揺動手段Ｄ１２０（第１被軸支部Ｄ１２２及び第２被軸支部Ｄ１２３）もベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対して上側に配置される。

【９３３３】

この場合、上側揺動手段Ｄ１２０の変位手段Ｄ１２１は、センターフレームＡ８６（図４９８参照）の内縁に対して上方側（矢印Ｕ方向側）の外縁全体が略同等の隙間を有した状態とされると共に、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第３図柄表示装置Ｈ８１との正面視における重なり量が少なくされる。そのため、上側揺動手段Ｄ１２０に上側動力付与手段Ｄ１４０の駆動力を付与していない状態では、通常、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７が第１位置に配設される。なお、第１正面カムＤ１４３の回転位置を検出する検出手段Ｄ１１１ｇ（図５１１参照）は、第１位置における第１正面カムＤ１４３の被検出部Ｄ１４３ｂ３（図５１１参照）を検出可能に構成される。

【９３３４】

図５１３（ａ）に示す状態から上側動力付与手段Ｄ１４０に駆動力が付与されると、図５１３（ｂ）に示すように、駆動ギヤＤ１４２の回転により第１正面カムＤ１４３が第１位置から第４位置まで順に回転して再度第１位置まで回転されることで１回転される。第１正面カムＤ１４３が回転されることで、その第１正面カムＤ１４３の回転の駆動力が第１背面カムＤ１４４、連結手段Ｄ１４５、及び、第２背面カムＤ１４６を介して第２正面カムＤ１４７に伝達され、第１正面カムＤ１４３と第２正面カムＤ１４７とが一緒に回転される。

【９３３５】

よって、図５１３（ａ）、図５１３（ｂ）、図５１４（ａ）、及び、図５１４（ｂ）に示すように、駆動ギヤＤ１４２の回転が継続されることで、上側揺動手段Ｄ１２０は、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂの移動態様と同様に、正面視（矢印Ｂ方向視）においてベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対して回転の軌跡でスライド変位される。この場合、上述したように、第１正面カムＤ１４３と第２正面カムＤ１４７とは、同一の回転速度・回転量で回転可能とされるので、ベース本体Ｄ１１１（ベース手段Ｄ１１０）に対する第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂの移動により、上側揺動手段Ｄ１２０をその姿勢を維持した状態で変位させることができる。

【９３３６】

しかしながら、上側揺動手段Ｄ１２０の姿勢を維持した状態で、上側揺動手段Ｄ１２０を正面視において単に回転の軌跡でスライド変位させるだけでは、上側揺動手段Ｄ１２０の変位の態様が一様（一定の軌跡に沿った動作を繰り返す）となるため、演出が単調になり、演出効果を十分に向上できないという問題点があった。

【９３３７】

例えば、駆動手段からの駆動力を受けて、一定の軌跡に沿って変位手段が変位（往復動作、循環動作）される構造では、一定の軌跡に沿ってのみ変位するので、変位手段と他の部材（例えば、センターフレームＡ８６）と衝突や干渉を考慮する必要がないので、簡素化できる。また、駆動手段の駆動力の増減することで、変位手段の変位の速度を変えた演出が可能ができる。一方で、変位手段が一定の軌跡に沿った動作を繰り返すのみであるので、演出が単調になるという問題点がある。

【９３３８】

なお、駆動手段からの駆動力を受けて、一定の軌跡に沿って変位手段が変位（往復動作、循環動作）される構造において、例えば、往復動作の終端まで変位手段を変位させず、途中で変位手段を反転させて始端に復帰させる態様としつつ、反転させる位置を都度変更することで、演出の単調さを抑制できる。しかしながら、この場合においても、変位手段は、一定の軌跡に沿った動作を繰り返す為、演出の単調さを十分に抑制できない。

【９３３９】

これに対して、第８３実施形態では、変位する上側揺動手段Ｄ１２０に駆動力を伝達する伝達経路（第１被軸支部Ｄ１２２及び第２被軸支部Ｄ１２３の貫通孔Ｄ１２２ａ，Ｄ１２３ａ）が、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長く形成される変位手段Ｄ１２１の左右方向中央部よりも一方側（矢印Ｌ方向側）に形成され、変位手段Ｄ１２１の他方側（矢印Ｒ方向側）が上側バネＤ１８１により支えられる構造とされる。そのため、上側揺動手段Ｄ１２０の変位速度（駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度）に応じて、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）の他方側を変位させやすくできる。

【９３４０】

即ち、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）の他方側（矢印Ｒ方向側）は、上側バネＤ１８１により付勢支持されるだけであるため、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）の一方側（矢印Ｌ方向側）に作用する駆動力によって変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）を変位させた際に、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）の他方側に作用する遠心力を大きくさせやすくできる。

【９３４１】

これにより、上側揺動手段Ｄ１２０を素早く変位させた際（即ち、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを速い速度（以下、「回転速度Ａ」と称す）で回転させた際）には、正面視において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長く形成される変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）の撓みや、相対変位可能な状態で連結するために突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂと貫通孔Ｄ１２２ａ，Ｄ１２３ａとの間に設けられる隙間の分、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）の他方側（矢印Ｌ方向側）を過剰に変位させることができる。

【９３４２】

この場合、図５１３（ａ）、図５１３（ｂ）、図５１４（ａ）、及び、図５１４（ｂ）に示すように駆動ギヤＤ１４２の回転を継続させることで、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）の他方側（矢印Ｌ方向側）に作用する遠心力の方向が変えられるので、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）の他方側（矢印Ｌ方向側）をその遠心力により過剰に変位させた後には、上側バネＤ１８１の付勢力により、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）の他方側（矢印Ｌ方向側）を更に変位させることができる。即ち、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）の他方側（矢印Ｌ方向側）をぐらつかせやすくできる。

【９３４３】

このように、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａで回転させて、上側揺

動手段Ｄ１２０を素早く変位させた際には、上側揺動手段Ｄ１２０に正面視において回転の軌跡でスライド変位させるだけでなく、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）の他方側（矢印Ｌ方向側）にぐらつく変位をさせることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ１２０の変位による演出効果を向上しやすくできる。

【９３４４】

一方、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａよりも遅い速度（以下、「回転速度Ｂ」と称す）で回転させて、上側揺動手段Ｄ１２０を遅く変位させた際（即ち、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）の他方側（矢印Ｒ方向側）に作用する遠心力が上側バネＤ１８１の付勢力よりも小さくされる際）には、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）の他方側は、上側揺動手段Ｄ１２０を軸支する突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂに準じた位置で安定して変位させることができる。

【９３４５】

従って、第８３実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度を変更して、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂの変位速度を変更することで、それら突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂから変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）に作用する駆動力の大きさを変更でき、それら突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂから受ける駆動力に大きさに応じて変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）の変位の態様を変更できる。

【９３４６】

また、第８３実施形態では、上側バネＤ１８１により変位手段Ｄ１２１に作用する付勢力の大きさを、変位手段Ｄ１２１の変位の態様に応じて変化させることができるので、変位手段Ｄ１２１の変位の態様を複雑化して変位軌跡の予想を困難にすることができる。

【９３４７】

従って、第８３実施形態では、突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂから変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）に作用する駆動力の大きさを変更した際の上側揺動手段Ｄ１２０の変位の態様を複雑化することで、上側揺動手段Ｄ１２０の演出が単調になることを抑制できる。これにより、パチンコ機Ｈ１０（図４９７参照）の演出に合わせて、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）の変位の態様を変更する（例えば、大当たり後には、軸部Ｄ１４１ｂの回転速度を速くして変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）の変位の態様を複雑にして、遊技者に与える興趣を大当たりと共に向上させる）ことで、上側揺動手段Ｄ１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９３４８】

なお、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転させた場合には、その駆動速度が速くなることで上側揺動手段Ｄ１２０の可動音が遊技者に聞こえる恐れがある。そのため、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転させる場合（即ち、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の回転速度を速くした場合）には、パチンコ機Ｈ１０に配設したスピーカー（図示しない）から放音される遊技音を大きくして、上側揺動手段Ｄ１２０の可動音が遊技者に聞こえることを抑制しても良い。

【９３４９】

なお、上記の説明では、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を第１位置から第４位置まで順に変位させる（即ち、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を正面視において時計回りに回転させる）場合について説明したが、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を正面視において反時計回りに回転させるものであっても良く、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を第１位置から第２位置の間や第２位置から第４位置の間など（即ち、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７が１回転しない所定の変位区間）で繰り返し往復変位させるものであっても良い。

【９３５０】

これによれば、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の変位の態様を適宜変更することができるので、上側揺動手段Ｄ１２０の変位の態様が一様になることを抑制で

きる。その結果、上側揺動手段Ｄ１２０の変位による演出効果を向上できる。
【９３５１】
なお、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を正面視において時計回り又は反時計回りに回転させ続ける構成の場合には、上側揺動手段Ｄ１２０の変位の態様の変化をさせ難くなるものの、正転および反転の制御を有する駆動モータを使用する必要がないため、揺動ユニットＤ１００の製造コストを低減できる。また、所定の回転量で軸部Ｄ１４１ｂを停止させる等の複雑な制御も必要なくなるので、駆動モータＤ１４１の制御に必要なコストも低減できる。
【９３５２】
一方で、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を所定の回転量回転させて、停止した後、再度所定の回転量回転させて停止させるといった動作を、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７にさせる場合には、所定の回転量で軸部Ｄ１４１ｂを停止させる制御が必要となるため駆動モータＤ１４１の制御に必要なコストが増加するものの、上側揺動手段Ｄ１２０が駆動力を受ける態様を異ならせることができ、上側揺動手段Ｄ１２０の変位の態様の変化を大きくできる。
【９３５３】
また、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を第１位置から第２位置の間や第２位置から第４位置の間など（即ち、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７が１回転しない所定の変位区間）で繰り返し往復変位させる場合には、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の回転方向を反転させる際に、突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂから上側揺動手段Ｄ１２０に作用する慣性力を大きくできる。そのため、上側揺動手段Ｄ１２０の変位の態様を大きく変化させることができる。よって、上側揺動手段Ｄ１２０の変位の態様を複雑化して変位軌跡の予想を困難にすることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ１２０の演出が単調になることを抑制して、上側揺動手段Ｄ１２０の変位による演出効果を向上できる。
【９３５４】
また、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度は、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の変位途中に変更可能とされる。よって、上側揺動手段Ｄ１２０の変位による演出効果が低下することを抑制できる。
【９３５５】
即ち、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転を一度停止させてから回転速度を切り替えて（設定しなおして）再度回転が開始されるものであっては、回転速度を切り替える度にその回転を停止する必要があるため、上側揺動手段Ｄ１２０の変位が断続的になり、上側揺動手段Ｄ１２０の変位による演出効果が低下する恐れがある。
【９３５６】
これに対し、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度は、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の変位途中に変更可能とされるので、回転速度を変更する際に上側揺動手段Ｄ１２０の変位を継続させることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ１２０の変位による演出効果が低下することを抑制できる。
【９３５７】
なお、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度は、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を第１位置から第４位置まで順に（時計回りで）変位させる場合に、１回転目を回転速度Ｂで回転させた後の２回転点目以降を回転速度Ａで回転させたり、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７が１回転される毎に回転速度を変更しても良い。
【９３５８】
また、例えば、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を第１位置と第２位置との間（所定の変位区間）で繰り返し往復変位させる場合には、第１位置から第２位置までの変位を回転速度Ｂで回転させた後、第２位置から第１位置までの変位を回転速度Ａで回転させて（往路と復路とで回転速度を変更して）も良い。この場合には、第１正面カム

Ｄ１４３及び第２正面カムＤ１４７を第１位置から第２位置に変位させる往路と、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を第２位置から第１位置に変位させる復路とで、上側揺動手段Ｄ１２０の変位の態様を変化させることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ１２０の演出が単調になることを抑制して、上側揺動手段Ｄ１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９３５９】

即ち、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を第１位置と第２位置との間（所定の変位区間）で同じ速度で繰り返し往復変位させる（往路と復路とで同じ回転速度に設定される）場合には、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転の速度を制御する必要が無いので、駆動モータＤ１４１の制御に必要な制御コストを低減できるものの、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を第１位置から第２位置に変位させたことによる上側揺動手段Ｄ１２０の変位の態様と、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を第２位置から第１位置に変位させたことによる上側揺動手段Ｄ１２０の変位の態様が略同一となるため、変位手段の変位の態様の変化を大きくし難いという問題点がある。

【９３６０】

これに対し、第１位置から第２位置までの変位の回転速度と、第２位置から第１位置までの変位の回転速度とを変更（往路と復路とで回転速度を変更）することで、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を第１位置から第２位置に変位させたことによる上側揺動手段Ｄ１２０の変位の態様と、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を第２位置から第１位置に変位させたことによる上側揺動手段Ｄ１２０の変位の態様とを異ならせることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ１２０の演出が単調になることを抑制して、上側揺動手段Ｄ１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９３６１】

なお、第１位置から第２位置までの変位の回転速度と、第２位置から第１位置までの変位の回転速度とを変更（往路と復路とで回転速度を変更）する場合には、回転速度が速い側と回転速度が遅い側との関係をその変位途中や１往復動作後に反対の関係にしても良い。

【９３６２】

さらに、例えば、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を第１位置と第２位置との間（所定の変位区間）で繰り返し往復変位させる場合には、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７が１往復動作される毎に回転速度を変更しても良い。

【９３６３】

なお、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を第１位置と第２位置との間（所定の変位区間）で繰り返し往復変位させる場合には、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を第１位置から第２位置に変位させる往路と、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を第２位置から第１位置に変位させる復路とで、その変位区間が同一に設定される。これにより、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の制御を簡素とできる。

【９３６４】

即ち、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の往路と復路とが異なる変位区間に設定される場合には、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の往路と復路とで回転量が異なることで、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の位相がずれることで、上側揺動手段Ｄ１２０の変位の態様を変化させやすくできるものの、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の回転量を検出するための検出手段を複数個配設してその回転位置を検出する、若しくは、駆動モータＤ１４１により第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の回転量を制御する必要がある。そのため、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の制御が複雑になる。

【９３６５】

また、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の往路と復路とが往復動作の度に異なる変位区間に設定される場合には、上記した第１正面カムＤ１４３及び第２正面カ

ムＤ１４７の往路と復路とが異なる変位区間に設定される場合における第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の位相のずれを所定回数の往復動作で戻すことができるものの、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を往復動作の度に異なる変位区間に設定する必要があるため、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の制御が複雑になる。

【９３６６】

これに対し、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を第１位置から第２位置に変位させる往路と、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を第２位置から第１位置に変位させる復路とで、その変位区間を同一に設定することで、ベース本体Ｄ１１１に配設した検出手段Ｄ１１１ｇ（図５１１参照）により、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の位置検出を可能にできる。従って、１個の検出手段Ｄ１１１ｇにより、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の制御をすることができるので、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の制御を簡素にできる。

【９３６７】

次いで、図５１５から図５２５を参照し、第８４実施形態における第１球流下構造体Ａ１３００について説明する。上記第８３実施形態では、第１球流下構造体Ａ３００に流入した遊技球は全て第１球流下構造体Ａ３００の下端から排出される場合を説明したが、第８４実施形態では、第１球流下構造体Ａ１３００に流入した遊技球が複数の経路に振り分けられるよう構成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【９３６８】

図５１５は、第８４実施形態における遊技盤Ａ１０１３及び動作ユニットＤ２００の分解正面斜視図である。なお、図５１５では、風車ＡＷＦ及び球の流下経路を形成するためにベース板Ａ６０に植設される釘の図示が省略される。

【９３６９】

図５１５に図示されるように、遊技盤Ａ１０１３は、ベース板Ａ６０に対して、センターフレームＡ８６よりも右方において穿設される右方穿設部Ａ６０ａを前方から塞ぐようにして第１球流下構造体Ａ１３００が組み付けられ、その第１流下構造体Ａ１３００から遊技領域の外方（後方）に排出された球を流下させる排出経路の後側部を構成する樋構成部材Ａ１５１０が後方側から組み付けられ、センターフレームＡ８６よりも下方において穿設される下方穿設部Ａ６０ｂを前方から塞ぐようにして第２球流下構造体Ａ６００が組み付けられる。

【９３７０】

第１球流下構造体Ａ１３００には、スルーゲートＨ６７が配設されており、第２球流下構造体Ａ６００には、第２入賞口Ｈ６４０及び可変入賞装置Ａ６５における特定入賞口Ｈ６５ａが配設されている。

【９３７１】

図５１６（ａ）は、第１球流下構造体Ａ１３００の正面斜視図であり、図５１６（ｂ）は、第１球流下構造体Ａ１３００の背面斜視図である。図５１６（ｂ）には、組立状態において右方穿設部Ａ６０ａを構成する前側縁部が当接する位置に対応する形状線ＡＳ６０ａが想像線で図示される。

【９３７２】

図５１６（ａ）及び図５１６（ｂ）に図示されるように、第１球流下構造体Ａ１３００は、上流側にスルーゲートＨ６７が配設されており、スルーゲートＨ６７を通過した遊技球またはスルーゲートＨ６７を逸れた遊技球が内部を流下する。

【９３７３】

図５１７は、第１球流下構造体Ａ１３００の分解正面斜視図であり、図５１８は、第１球流下構造体Ａ１３００の分解背面斜視図である。図５１７及び図５１８に図示されるように、第１球流下構造体Ａ１３００は、遊技盤Ａ１０１３のベース板Ａ６０に締結固定される光透過性樹脂から形成される部材であって遊技球が流下する領域の背面側部を構成す

る背面側部材Ａ１３１０と、その背面側部材Ａ１３１０に締結固定される光透過性樹脂から形成される部材であって遊技球が流下する領域の正面側部を構成する正面側部材Ａ１３５０と、背面側部材Ａ１３１０と正面側部材Ａ１３５０との間に保持されるスルーゲートＨ６７と、背面側部材Ａ１３１０と正面側部材Ａ１３５０との間に保持されており一般入賞口Ｈ６３を構成する入賞検出センサＡＳＣ１１と、背面側部材Ａ１３１０と正面側部材Ａ１３５０との間に変位可能に収容されており遊技球の流下経路を振り分ける振分部材Ａ１３８０と、その振分部材Ａ１３８０を変位させることが可能に構成されており背面側部材Ａ１３１０の背面側に配設される変位伝達装置Ａ１４００と、その変位伝達装置Ａ１４００を背面側部材Ａ１３１０との間に収容する背面蓋部材Ａ１４８０と、を備える。

【９３７４】

背面側部材Ａ１３１０において、ベース板Ａ６０との締結に用いる締結ネジが挿通される第１ネジ挿通孔Ａ３１２は形状線ＡＳ６０ａの外側に位置しており、正面側部材Ａ１３５０との締結に用いる締結ネジが挿通される第２ネジ挿通孔Ａ３１４及び第３ネジ挿通孔Ａ３１６は形状線ＡＳ６０ａの内側に位置している。

【９３７５】

これにより、ベース板Ａ６０に背面側部材Ａ１３１０が締結固定された状態において、右方穿設部Ａ６０ａ（図５００参照）の内側にドライバーなどの工具を通して締結ネジを外すことにより、正面側部材Ａ１３５０を背面側部材Ａ１３１０に対して脱着することが可能となっている。

【９３７６】

正面側部材Ａ１３５０を背面側部材Ａ１３１０から分離させた状態であれば第１球流下構造体Ａ１３００の前方側が開放されるので、背面側部材Ａ１３１０の板状部Ａ３１１や、その板状部Ａ３１１の手前側に形成される各延設部Ａ３２１等に前側から触ることができるし、振分部材Ａ１３８０に前側から触ることができるし、球が流路に位置する場合においてその球に触ることができる。従って、汚れが付着していた場合に汚れを拭き取ることができるし、振分部材Ａ１３８０が動作不良を起こした場合に直すことができるし、球が滞留した場合に球の滞留を解消することができる。

【９３７７】

背面側部材Ａ１３１０は、第８延設部Ａ３２８と対向配置され、第８延設部Ａ３２８と共に第１球流下構造体Ａ１３００から下方へ球を排出する経路を構成する第９延設部Ａ１３２９を備える。

【９３７８】

背面側部材Ａ１３１０は、前後方向が長辺となる長方形状の前側の角部が丸くされた断面形状で延びる複数の突条部であって十分な剛性を維持する形状の突条部が板状部Ａ３１１に一体で形成されている。即ち、背面側部材Ａ１３１０は、複数の交差突条部Ａ３３１と、複数の流下突条部Ａ３３２と、第２延設部Ａ３２２の先端側から鉛直方向に延びる鉛直突条部Ａ１３３３と、を備える。

【９３７９】

鉛直突条部Ａ１３３３は、第２延設部Ａ３２２の上面が右下がりに傾斜しているのに対して、直角に交差するのではなく、正面視で鋭角に交差するように鉛直方向に延びる。これにより、第１流下経路ＡＲ３０３を流下して鉛直突条部Ａ１３３３に当接した遊技球が受ける荷重（抵抗）は、第２延設部Ａ３２２の上面と平行な方向の成分と、第２延設部Ａ３２２に押し付けられる方向の成分とが生じるため、遊技球を効果的に減速させることができる。

【９３８０】

背面側部材Ａ１３１０は、振分部材Ａ１３８０が退避される退避凹部Ａ１３４１と、板状部Ａ３１１の正面側に延設される板状部であって入賞検出センサＡＳＣ１１に流入する球が流下する経路を構成する経路構成部Ａ１３４２と、その経路構成部Ａ１３４２における経路と連通するように入賞検出センサＡＳＣ１１が収容される収容部Ａ１３４３と、経路構成部Ａ１３４２の下端から後方へ球を排出可能な排出孔Ａ１３４４と、を備える。

【９３８１】
背面側部材Ａ１３１０は、回転部材Ａ１４１０の筒状部Ａ１４１１を回転可能に支持する支持柱部Ａ１３４６と、回転部材Ａ１４１０が収容される回転部材収容部Ａ１３４７と、ソレノイドＡ１４２０が収容されるソレノイド収容部Ａ１３４８と、を備える。
【９３８２】
正面側部材Ａ１３５０は、板状部Ａ３５１と、その板状部Ａ３５１の背面側において内側に左右に延びる凹部Ａ１３６２が形成される横長突部Ａ１３６１と、入賞検出センサＡＳＣ１１の前側部および左側部を保持可能な形状で背面視矩形状で背面側に延設されるセンサ保持部Ａ１３６５と、を備える。
【９３８３】
正面側部材Ａ１３５０は、球を流下させる方向に対して交差する方向に延びる複数の交差突条部Ａ３７１と、球を流下させる方向に延びる複数の流下突条部Ａ３７２と、正面視で正方形状の左側の角部が丸くされた断面形状で前後方向に延びる突部であって十分な剛性を維持する形状の対向突部Ａ１３７５と、を備える。
【９３８４】
対向突部Ａ１３７５は、板状部Ａ３５１側において形成される大径形状部Ａ１３７５ａと、その大径形状部Ａ１３７５ａの後方に延びる小径形状部Ａ１３７５ｂと、を備えており、張出位置における振分部材Ａ１３８０の延設部Ａ１３８２と対向配置される。
【９３８５】
即ち、対向突部Ａ１３７５は、張出位置における振分部材Ａ１３８０との間で、球を流下させる経路の経路幅を構成する。一方で、振分部材Ａ１３８０が退避位置に位置する場合には、振分部材Ａ１３８０が退避凹部Ａ１３４１に埋没されることから、振分部材Ａ１３８０との間で経路幅を構成しない。
【９３８６】
振分部材Ａ１３８０に衝突して流下した球は対向突部Ａ１３７５と振分部材Ａ１３８０との間を流下される。この場合において、振分部材Ａ１３８０と対向突部との間を流下する遊技球が双方に同時に当接することが無いように、球を案内可能な部位である対向突部Ａ１３７５の配置が設計されており、球が背面側部材Ａ１３１０の板状部Ａ３１１側を流下する場合には、球は大径形状部Ａ１３７５ａとは接触せず流下し、球が正面側部材Ａ１３５０の板状部Ａ３５１側を流下する場合には、球が大径形状部Ａ１３７５ａと接触して後方側に寄せられる。
【９３８７】
この場合、流下する球の前後位置に関わらず、振分部材Ａ１３８０と衝突して折曲位置Ａ３０１側へ流下する球の前後位置を、背面側部材Ａ１３１０の板状部Ａ３１１側に寄せることができる。この前後位置は、入賞検出センサＡＳＣ１１側へ振り分けられた球と同様の前後位置（それぞれ、板状部Ａ３１１と略平行な同一の平面における位置）とされる。
【９３８８】
これにより、振分部材Ａ１３８０により振り分けられた直後における球の前後位置を略同一とすることができるので、振り分けられた方向によって遠近感により球の視認される大きさが変化することを避けることで球の流下が整って見えるように構成でき（球の流下が煩雑に視認されることを避けることができ）、併せて、球が入賞検出センサＡＳＣ１１側へ振り分けられたことを遊技者が気にする事態を避け易くすることができる。
【９３８９】
振分部材Ａ１３８０は、上下方向の板厚をもって形成される基端部Ａ１３８１と、その基端部Ａ１３８１から右方へ向けて延設される延設部Ａ１３８２と、その延設部Ａ１３８２の先端形状と類似した正面視形状で基端部Ａ１３８１の前後両側から下方へ向けて張出形成された部位である一対の形成部Ａ１３８３と、延設部Ａ１３８２よりも正面側かつ基端部Ａ１３８１側において板状に延びる正面側板状部Ａ１３８４と、延設部Ａ１３８２よりも後方側に延びる後方延設部Ａ１３８５と、を備える。

【９３９０】
振分部材Ａ１３８０は、光透過性の樹脂材料から形成される。これにより、一見して振分部材Ａ１３８０の位置を把握し難くすることができ、球の流下に対する注目力を向上させることができる。また、後方から前方へ向けてＬＥＤ等の発光手段により光を照射することで、振分部材Ａ１３８０を通して光を視認させ、振分部材Ａ１３８０の動作に対応して光の視認態様を異ならせる演出作用を生じさせることができる。なお、振分部材Ａ１３８０を非透過性の材料から形成しても良い。この場合、振分部材Ａ１３８０の状況を把握し易くすることができ、割れや欠けに気付き易くすることができる。
【９３９１】
変位伝達装置Ａ１４００は、回転動作可能に背面側部材Ａ１３１０に支持される回転部材Ａ１４１０と、背面側部材Ａ１３１０に固定配置され左右方向に伸縮動作されるソレノイドＡ１４２０と、下端部がソレノイドＡ１４２０のプランジャーに嵌合されると共に上端部が回転部材Ａ１４１０と係合される伝達可能化部材Ａ１４３０と、を備える。
【９３９２】
回転部材Ａ１４１０は、背面側部材Ａ１３１０に支持される筒状部Ａ１４１１と、その筒状部Ａ１４１１の半径方向に沿って延びる延設腕部Ａ１４１２と、その延設腕部Ａ１４１２の途中位置から筒状部Ａ１４１１の中心軸に対して平行に突設される係合部Ａ１４１３と、を備える。
【９３９３】
筒状部Ａ１４１１の中心軸は、板状部Ａ３１１の前面に対して直交する方向に延びるよう構成される。即ち、前後方向に延びる中心軸を中心に、回転部材Ａ１４１０は回転動作可能に構成される。
【９３９４】
回転部材Ａ１４１０は、背面側部材Ａ１３１０の支持柱部Ａ１３４６に対して固定されるネジＡ１４６０のネジ頭により背面側部材Ａ１３１０からの脱落が防止される。即ち、ネジＡ１４６０が背面側部材Ａ１３１０に固定されている状態において、回転部材Ａ１４１０が抜け落ちる事態を避けることができる。
【９３９５】
伝達可能化部材Ａ１４３０は、ソレノイドのプランジャーに嵌合される被嵌合部Ａ１４３１と、回転部材Ａ１４１０の係合部Ａ１４１３を受け入れる長孔が形成される受入部Ａ１４３７と、被嵌合部Ａ１４３１と受入部Ａ１４３７とを繋ぐ中間部Ａ１４３８と、を備え、それらが十分な剛性を有するように樹脂材料により一体的に成形される。
【９３９６】
被嵌合部Ａ１４３１は、前後方向に突出される複数の案内突部Ａ１４３１ａを有しており、対向配置される背面側部材Ａ１３１０及び背面蓋部材Ａ１４８０との係合で姿勢が維持される。案内突部Ａ１４３１ａが複数構成されていることから、案内突部Ａ１４３１ａの何れか一箇所が破損した場合であっても、他の案内突部Ａ１４３１ａにより案内させることができる。
【９３９７】
背面蓋部材Ａ１４８０は、複数の締結孔Ａ１４８１に挿通される締結ネジが背面側部材Ａ１３１０の第４ネジ挿通孔Ａ１３１８に螺入されることで背面側部材Ａ１３１０に締結固定されるよう構成されており、背面側部材Ａ１３１０の排出孔Ａ１３４４から後方へ流下された球を受け入れて流下させる経路を構成する流下溝形成部Ａ１４８２と、その流下溝形成部Ａ１４８２の下流側端部において球が通過可能な大きさで貫通しており樋構成部材Ａ１５１０（図５１５参照）が形成する排出経路と連通される排出孔Ａ１４８３と、前面側において伝達可能化部材Ａ１４３０の案内突部Ａ１４３１ａを左右方向に案内するために左右方向に延びる突条状に形成される一対の突条部Ａ１４８４と、を備える。
【９３９８】
図５１９は、第１球流下構造体Ａ１３００の正面図である。図５１９では、球の流下経路の概要の説明のために、便宜上、正面側部材Ａ１３５０の板状部Ａ３５１の図示が省略

され、正面側部材Ａ１３５０の案内湾曲板部Ａ３５３、上面傾斜突条部Ａ３５４、流路外延設部Ａ３５６、及び交差突条部Ａ３７１が想像線で図示される。なお、正面側部材Ａ１３５０には正面側部材Ａ３５０で上述した流下突条部Ａ３７２は形成されていない。

【９３９９】

第１球流下構造体Ａ１３００は、遊技盤Ａ１０１３のベース板Ａ６０に締結固定される光透過性樹脂から形成される部材であって遊技球が流下する領域の背面側部を構成する背面側部材Ａ１３１０と、その背面側部材Ａ１３１０に締結固定される光透過性樹脂から形成される部材であって遊技球が流下する領域の正面側部を構成する正面側部材Ａ１３５０と、背面側部材Ａ１３１０と正面側部材Ａ１３５０との間に保持されるスルーゲートＨ６７と、背面側部材Ａ１３１０と正面側部材Ａ１３５０との間に保持されており一般入賞口Ｈ６３を構成する入賞検出センサＡＳＣ１１と、背面側部材Ａ１３１０と正面側部材Ａ１３５０との間において張出位置と退避位置とで変位可能に収容されており遊技球の流下経路を振り分ける振分部材Ａ１３８０と、を備える。

【９４００】

振分部材Ａ１３８０は、上下方向の板厚をもって形成される基端部Ａ１３８１と、その基端部Ａ１３８１から右方へ向けて延設される延設部Ａ１３８２と、基端部Ａ１３８１の前後両端部から下方へ向けて張出形成される一対の形成部Ａ１３８３と、延設部Ａ１３８２よりも正面側かつ基端部Ａ１３８１側において板状に延びる正面側板状部Ａ１３８４と、延設部Ａ１３８２よりも後方側に延びる後方延設部Ａ１３８５と、を備える。

【９４０１】

図５１９に図示されるように、案内湾曲板部Ａ３５３の右端部は、振分部材Ａ１３８０の右端部と重なる位置まで形成されており、スルーゲートＨ６７を通過して案内湾曲板部Ａ３５３を転動した球が振分部材Ａ１３８０へ向けて流下することが防止（回避）されている。

【９４０２】

これにより、振分部材Ａ１３８０上を球が転動している最中に後続の球がスルーゲートＨ６７を通過した場合において、その後続の球が振分部材Ａ１３８０へ向けて流下して振分部材Ａ１３８０上で球の衝突が起きて、流下が阻害される事態を避けることができ、球の流下を円滑化することができる。

【９４０３】

更に、スルーゲートＨ６７を通過した後の球が振分部材Ａ１３８０へ向けて流下して振分部材Ａ１３８０に衝突する事態（左下方向の速度を有して流下（落下）する球が振分部材Ａ１３８０に右上側から衝突する事態）を回避することができるので、振分部材Ａ１３８０の設計自由度を向上させることができる。

【９４０４】

即ち、左下方向への荷重が右上側から生じることを想定すれば、当該方向への厚みを増すことで球の荷重による破損の防止を図り振分部材Ａ１３８０を頑丈に構成する必要が生じ得るところ、この場合、材料が多く必要となりコスト増となるし、振分部材Ａ１３８０の重量が上がることから動作速度が遅くなる可能性も生じる。

【９４０５】

これに対して、本実施形態では左下方向の速度を有して流下（落下）する球が振分部材Ａ１３８０に右上側から衝突する事態が回避されており、振分部材Ａ１３８０と接触する球は、概ねスルーゲートＨ６７の左側を流下して右方へ流れる球であり、その流下速度の方向は振分部材Ａ１３８０の延設方向（左右方向）に沿う（鋭角に交差する）ことから、振分部材Ａ１３８０を厚く構成することは不要とされる。これにより、材料コストを抑制し、振分部材Ａ１３８０の動作速度が遅くなる事態も避けることができる。

【９４０６】

図５１９に図示されるように、第１流下経路ＡＲ３０３に流入した球は、振分部材Ａ１３８０が張出位置に配置され折曲位置Ａ３０１側（右側）へ流下する場合と、振分部材Ａ１３８０が退避位置に配置され入賞検出センサＡＳＣ１１に流入する場合とで振り分けら

れる一方、振分部材Ａ１３８０に衝突しない第２流下経路ＡＲ３０４又は第３流下経路ＡＲ３０５を流下した球は、入賞検出センサＡＳＣ１１側へ流入する場合はなく、折曲位置Ａ３０１側へ流下される。

【９４０７】

ここで、折曲位置Ａ３０１側へ流下した球は、その下流側において第２入賞口Ｈ６４０や、可変入賞装置Ｈ６５の特定入賞口Ｈ６５ａに入賞する可能性が有る領域を流下する。第２入賞口Ｈ６４０や、可変入賞装置Ｈ６５の特定入賞口Ｈ６５ａは、入賞検出センサＡＳＣ１１が構成する一般入賞口Ｈ６３に比較して、賞球以外の利益を得られるかどうか（例えば図柄の抽選）や、得られる賞球の多少という観点で、遊技者にとって有利な入賞口である。従って、折曲位置Ａ３０１側へ球が流下することを視認する遊技者の興趣の向上を図ることができる。

【９４０８】

折曲位置Ａ３０１側へ流下した球は、第７延設部Ａ３２７を転動して振分部材Ａ１３８０の下方側を右から左へ向けて流下する。これにより、振分部材Ａ１３８０の動作に注目する遊技者の視界に、折曲位置Ａ３０１側を流下した球を進入させることができ、遊技者が球を見失う事態を避けることができる。

【９４０９】

折曲位置Ａ３０１側には、交差突条部Ａ３３１及び交差突条部Ａ３７１が配設されており、流下する球が交差突条部Ａ３３１及び交差突条部Ａ３７１と当接することで前後方向に蛇行され、減速される。即ち、遊技者にとって有利な入賞口側へ流下する球の流下速度を減速させることで、遊技者が球を見失う事態を避けることができると共に、有利な入賞口に入球することを期待して球の流下に注目する時間を長引かせることができる。

【９４１０】

折曲位置Ａ３０１側における上面傾斜突条部Ａ３５４の上方において、正面視において交差突条部Ａ３３１及び流下突条部Ａ３３２の間に正面側部材Ａ１３５０からの突条部である交差突条部Ａ３７１等が位置されていない。

【９４１１】

即ち、球と当接する突条部として、背面側部材Ａ１３１０に形成される交差突条部Ａ３３１及び流下突条部Ａ３３２が連続的に形成されている。これにより、球が合流する位置であると共に、遊技者にとって有利な入賞口（第２入賞口Ｈ６４０や、可変入賞装置Ｈ６５の特定入賞口Ｈ６５ａ、図４９８参照）へ向けて第１球流下構造体Ａ１３００から排出される直前の位置としての折曲位置Ａ３０１において、交差突条部Ａ３３１と流下突条部Ａ３３２とが連続的に形成される上下幅に亘って球が正面側に変位された状態での流下を維持し易くすることができ（球が後方に変位し難く構成することができ）るので、遊技者が球を見失う事態を避けることができると共に、有利な入賞口に入球し得る球を目立たせることができる。

【９４１２】

入賞検出センサＡＳＣ１１は、遊技盤面における釘の状態や、流下する球の状況によって、右打ちされた球がスルーゲートＨ６７を通過し難い状況となっている場合を考慮して、スルーゲートＨ６７の左側に逸れて流下した球による賞球の払出を図ることで遊技者の不満を部分的に解消するために設けられている、換言すれば、おまけの賞球払出を行うものである。

【９４１３】

しかし、例えば右打ちされた球がほとんどスルーゲートＨ６７の左側に逸れて流下するような状況となっている場合、右打ちされた球が入賞検出センサＡＳＣ１１に多量に入球してしまうと、おまけとしてではなく、主としての賞球払出の手段となり、設計時の想定から外れることになり、想定しない利益を遊技者が得る可能性もある。

【９４１４】

これに対し、本実施形態では、入賞検出センサＡＳＣ１１の上流側に振分部材Ａ１３８０が配設されており、入賞検出センサＡＳＣ１１に多量に入球することを防止している。

【９４１５】
振分部材Ａ１３８０が張出位置に位置する場合において第１流下経路ＡＲ３０３を流下した球は折曲位置Ａ３０１側へ流下され、振分部材Ａ１３８０が退避位置に位置する場合において第１流下経路ＡＲ３０３を流下した球は入賞検出センサＡＳＣ１１側へ流下されるところ、各流下経路は板状部Ａ３１１と略平行な平面に沿うように構成される。
【９４１６】
図５１９に図示されるように、折曲位置Ａ３０１は、スルーゲートＨ６７を左に逸れて第２延設部Ａ３２２を流下する第１流下経路ＡＲ３０３を流下した球、スルーゲートＨ６７を通過した球が流下する第２流下経路ＡＲ３０４を流下した球、スルーゲートＨ６７を右に逸れた球が流下する第３流下経路ＡＲ３０５を流下した球、という３経路からの球が合流する位置であり、これらの球が同時に到達する可能性があるところ、振分部材Ａ１３８０の配置によって一部の球は入賞検出センサＡＳＣ１１へ入球する（振分部材Ａ１３８０が退避位置に位置する場合に相当）。
【９４１７】
そのため、振分部材Ａ１３８０による振分が生じない場合（上記第８３実施形態の場合）に比較して、折曲位置Ａ３０１へ同時に到達する球の個数が少なくされることから、折曲位置Ａ３０１における領域の左右幅が短く設定される。これにより、第１球流下構造体Ａ１３００を配置するベース板Ａ６０の右方穿設部Ａ６０ａの開口寸法を変えることなく、入賞検出センサＡＳＣ１１及び入賞検出センサＡＳＣ１１を通過する球の流下経路の配置スペースを確保することができる。
【９４１８】
図５２０（ａ）及び図５２０（ｂ）は、振分部材Ａ１３８０及び変位伝達装置Ａ１４００の正面図である。図５２０（ａ）では、振分部材Ａ１３８０が張出位置に位置される状態が図示され、図５２０（ｂ）では、振分部材Ａ１３８０が退避位置に位置される状態が図示される。
【９４１９】
第１球流下構造体Ａ１３００は、振分部材Ａ１３８０を変位させることが可能に構成されており背面側部材Ａ１３１０の背面側に配設される変位伝達装置Ａ１４００と、その変位伝達装置Ａ１４００を背面側部材Ａ１３１０との間に収容する背面蓋部材Ａ１４８０と、を備える。
【９４２０】
変位伝達装置Ａ１４００は、回転動作可能に背面側部材Ａ１３１０に支持される回転部材Ａ１４１０と、背面側部材Ａ１３１０に固定配置され左右方向に伸縮動作されるソレノイドＡ１４２０と、下端部がソレノイドＡ１４２０のプランジャーに嵌合されると共に上端部が回転部材Ａ１４１０と係合される伝達可能化部材Ａ１４３０と、を備える。
【９４２１】
回転部材Ａ１４１０は、背面側部材Ａ１３１０に支持される筒状部Ａ１４１１と、その筒状部Ａ１４１１の半径方向に沿って延びる延設腕部Ａ１４１２と、その延設腕部Ａ１４１２の途中位置から延設方向と交差する方向に突設される係合突部Ａ１４１２ａと、延設腕部Ａ１４１２の途中位置から筒状部Ａ１４１１の中心軸に対して平行に突設される係合部Ａ１４１３と、を備える。
【９４２２】
回転部材Ａ１４１０は、光透過性の樹脂材料から形成される。これにより、回転部材Ａ１４１０の視認性を低下させることができ、振分部材Ａ１３８０の位置を把握し難くすることができるので、球の流下に対する注目力を向上させることができる。なお、回転部材Ａ１４１０を非透過性の材料から形成しても良い。この場合、回転部材Ａ１４１０の状況を把握し易くすることができ、割れや欠けに気付き易くすることができる。
【９４２３】
また、板状部Ａ３１１の後方が視認可能な状況において、後方に配置される動作部材を光透過性の樹脂材料から形成することで、板状部Ａ３１１の後方に注目されることを避け

、板状部Ａ３１１の手前側を流下する球に対する注目力を向上させることができる。
【９４２４】
伝達可能化部材Ａ１４３０は、ソレノイドのプランジャーに嵌合される被嵌合部Ａ１４３１と、回転部材Ａ１４１０の係合部Ａ１４１３を受け入れる長孔が形成される受入部Ａ１４３７と、被嵌合部Ａ１４３１と受入部Ａ１４３７とを繋ぐ中間部Ａ１４３８と、を備え、それらが十分な剛性を有するように樹脂材料により一体的に成形される。
【９４２５】
伝達可能化部材Ａ１４３０は、光透過性の樹脂材料から形成される。これにより、伝達可能化部材Ａ１４３０の視認性を低下させることができ、振分部材Ａ１３８０の位置を把握し難くすることができるので、球の流下に対する注目力を向上させることができる。なお、伝達可能化部材Ａ１４３０を非透過性の材料から形成しても良い。この場合、伝達可能化部材Ａ１４３０の状況を把握し易くすることができ、割れや欠けに気付き易くすることができ、メンテナンスのタイミングを逃さないように図ることができる。
【９４２６】
また、板状部Ａ３１１の後方が視認可能な状況において、後方に配置される動作部材を光透過性の樹脂材料から形成することで、板状部Ａ３１１の後方に注目されることを避け、板状部Ａ３１１の手前側を流下する球に対する注目力を向上させることができる。
【９４２７】
振分部材Ａ１３８０が張出位置に位置される状態ではソレノイドＡ１４２０が非励磁とされ、プランジャーを付勢するコイルスプリングの付勢力により振分部材Ａ１３８０の位置が維持されており、ソレノイドＡ１４２０が力を付与する手段として励磁されることで振分部材Ａ１３８０が退避位置に位置され、入賞検出センサＡＳＣ１１側へ遊技球が送球される状態を構成可能となる。
【９４２８】
即ち、中間部Ａ１４３８により振分部材Ａ１３８０が張出位置に位置された（または動作中である）場合において、第１流下経路ＡＲ３０３を流下する後続の球は折曲位置Ａ３０１側へ流下される態様と、中間部Ａ１４３８により振分部材Ａ１３８０が退避位置に位置された（または動作中である）場合において、第１流下経路ＡＲ３０３を流下する後続の球は入賞検出センサＡＳＣ１１側へ流下される態様とを構成可能とされる。
【９４２９】
図５２０（ａ）及び図５２０（ｂ）に図示されるように、ソレノイドＡ１４２０の励磁の切り替えに対応して、伝達可能化部材Ａ１４３０が左右方向にスライド移動され、回転部材Ａ１４１０が回転動作されることに基づいて振分部材Ａ１３８０が左右方向にスライド移動される。
【９４３０】
振分部材Ａ１３８０は、正面側部材Ａ１３５０の凹部Ａ１３６２に正面側板状部Ａ１３８４が配置され、左右方向にスライド移動可能に案内される。そのため、回転部材Ａ１４１０が回転動作されることに基づいて振分部材Ａ１３８０が左右方向にスライド移動される場合において、正面側板状部Ａ１３８４の姿勢変化は抑制され、同じ姿勢で維持されるため、正面視における正面側板状部Ａ１３８４の外形が維持される。
【９４３１】
これにより、手前側に位置しており視認性の良い正面側板状部Ａ１３８４の外形を視認しただけでは、振分部材Ａ１３８０が退避位置にあるのか、張出位置にあるのかを遊技者が把握することが困難に構成されているため、振分部材Ａ１３８０に対する注目力を向上させることができる。
【９４３２】
振分部材Ａ１３８０は、正面側部材Ａ１３５０の凹部Ａ１３６２に正面側板状部Ａ１３８４が配置され、左右方向にスライド移動可能に案内される。そのため、振分部材Ａ１３８０の動作抵抗は、左右方向（前後方向と交差する方向）よりも前後方向の方が大きくされる。

【９４３３】
そのため、遊技者がガラスユニットＨ１６を叩いた衝撃で前後方向の力が振分部材Ａ１３８０に付与された場合であっても、振分部材Ａ１３８０の位置が張出位置と退避位置とで変化されることを回避し易くすることができる。これにより、遊技中に遊技者がガラスユニットＨ１６を叩く事態が発生することを抑制し、ガラスユニットＨ１６が誤って割られる事態を回避することができる。
【９４３４】
図５２１（ａ）、図５２１（ｂ）及び図５２１（ｃ）は、ベース板Ａ６０及び第１球流下構造体Ａ１３００の部分背面図である。図５２１（ａ）では、ベース板Ａ６０に第１球流下構造体Ａ１３００が配設された状態が図示され、図５２１（ｂ）では、ベース板Ａ６０に第１球流下構造体Ａ１３００が配設された状態から背面蓋部材Ａ１４８０が取り外された状態が図示され、図５２１（ｃ）では、ベース板Ａ６０に第１球流下構造体Ａ１３００が配設された状態から背面蓋部材Ａ１４８０及び伝達可能化部材Ａ１４３０が取り外された状態が図示される。
【９４３５】
図５２１（ａ）及び図５２１（ｂ）に図示されるように、背面蓋部材Ａ１４８０は、ベース板Ａ６０に背面側部材Ａ１３１０及び正面側部材Ａ１３５０が固定されている状態で、背面側部材Ａ１３１０及び正面側部材Ａ１３５０からの取り外し（分離）が可能に構成される。
【９４３６】
背面側部材Ａ１３１０と背面蓋部材Ａ１４８０との間に変位伝達装置Ａ１４００が配設されており、開閉可能な部位である背面蓋部材Ａ１４８０が取り外されることで、変位伝達装置Ａ１４００の回転部材Ａ１４１０、ソレノイドＡ１４２０及び伝達可能化部材Ａ１４３０が視認可能に露出される。
【９４３７】
本実施形態では、背面蓋部材Ａ１４８０が光透過性の樹脂材料から形成されているため、背面蓋部材Ａ１４８０が取り外される前においても、変位伝達装置Ａ１４００を背面側から視認することが可能となっている。背面側部材Ａ１３１０の正面側に振分部材Ａ１３８０が配置されているが、背面蓋部材Ａ１４８０越し、又は、背面側部材Ａ１４８０を取り外した状態において、背面側から振分部材Ａ１３８０を視認することが可能となっている。
【９４３８】
背面蓋部材Ａ１４８０は、背面側部材Ａ１３１０に締結固定されているため、締結ネジを緩めることにより背面蓋部材Ａ１４８０を背面側部材Ａ１３１０から容易に取り外す（分離させる）ことが可能である。
【９４３９】
背面蓋部材Ａ１４８０を背面側部材Ａ１３１０に締結固定した状態であれば、内部に配設される変位伝達装置Ａ１４００が露出しておらず、他の可動部材と接触することを避けられるし、埃等の異物が変位伝達装置Ａ１４００に付着して動作不良を起こすことを避けられる。
【９４４０】
伝達可能化部材Ａ１４３０が経年劣化で破損した場合等にメンテナンスを行う際には、背面蓋部材Ａ１４８０を背面側部材Ａ１３１０から取り外すことで、伝達可能化部材Ａ１４３０を付け替えることが容易となる。即ち、伝達可能化部材Ａ１４３０を付け替えるメンテナンスにおいて、背面側部材Ａ１３１０及び正面側部材Ａ１３５０をベース板Ａ６０から取り外す必要はない。
【９４４１】
従って、ベース板Ａ６０の正面側に位置する背面側部材Ａ１３１０及び正面側部材Ａ１３５０の配置を維持したままでメンテナンスを行うことができるので、遊技領域の状態を維持させ易くすることができる。

【９４４２】
伝達可能化部材Ａ１４３０とソレノイドＡ１４２０との組み付けは、被嵌合部Ａ１４３１にソレノイドＡ１４２０のプランジャーの先端部が前後方向で嵌合されているに過ぎないので、図５２１（ｂ）及び図５２１（ｃ）に図示されるように、伝達可能化部材Ａ１４３０は、背面蓋部材Ａ１４８０が背面側部材Ａ１３１０及び正面側部材Ａ１３５０から取り外されている（分離されている）状態において後方に抜き取ることで、容易に着脱可能に構成される。一方、背面蓋部材Ａ１４８０が背面側部材Ａ１３１０及び正面側部材Ａ１３５０から取り外されている（分離されている）状態において、振分部材Ａ１３８０は回転部材Ａ１４１０がネジＡ１４６０により脱落を防止されていることに伴って、脱落が防止される。

【９４４３】
伝達可能化部材Ａ１４３０の配置に対応して、ソレノイドＡ１４２０の駆動力による変位を振分部材Ａ１３８０に伝達させ得る伝達状態（図５２１（ｂ）参照）と、その伝達状態から伝達可能化部材Ａ１４３０が取り外されソレノイドＡ１４２０の駆動力による変位を振分部材Ａ１３８０に伝達させない非伝達状態（図５２１（ｃ）参照）と、で変化可能とされる。

【９４４４】
メンテナンスを行う場合、故障したソレノイドＡ１４２０又は破損した伝達可能化部材Ａ１４３０を取り外した後（図５２１（ｃ）参照）、新しいソレノイドＡ１４２０又は伝達可能化部材Ａ１４３０を正確に取り付ければ、再び伝達状態を構成させることができ（図５２１（ｂ）参照）、ソレノイドＡ１４２０の駆動の実行に対応する変位を振分部材Ａ１３８０に生じさせることができる。

【９４４５】
一方、故障したソレノイドＡ１４２０又は破損した伝達可能化部材Ａ１４３０を取り外した後（図５２１（ｃ）参照）、新しいソレノイドＡ１４２０又は伝達可能化部材Ａ１４３０を取り付けることなく背面蓋部材Ａ１４８０を背面側部材Ａ１３１０に固定することもできる。この場合、ソレノイドＡ１４２０の駆動力による動作は生じず、振分部材Ａ１３８０が張出位置のまま維持されるように構成することができる。この状態において、右打ちされた遊技球によってしか振分部材Ａ１３８０が動作されないことを除いて、ソレノイドＡ１４２０によって振分部材Ａ１３８０が動作される場合と同様の弾球遊技を行うことが可能である。

【９４４６】
即ち、伝達可能化部材Ａ１４３０が破損した場合に、新しい伝達可能化部材Ａ１４３０が準備できなかったとしても、伝達可能化部材Ａ１４３０を取り外した状態での遊技が可能に構成されているので、長期にわたって遊技が不可能な期間が継続される事態を回避し易くすることができる。

【９４４７】
なお、伝達可能化部材Ａ１４３０が取り外されている場合における振分部材Ａ１３８０の配置は、張出位置とすることも退避位置とすることも可能であるが、本実施形態では張出位置としている。これにより、入賞検出センサＡＳＣ１１への球の入球が振分部材Ａ１３８０によって防止されているので、右打ちされた球のほとんどがスルーゲートＨ６７を左側に逸れて第１流下経路ＡＲ３０３を流下する状況が生じたとしても、入賞検出センサＡＳＣ１１へ多量の入球が生じて想定外の利益を生じさせるという事態とはならないので、遊技の公平性を保つことができる。

【９４４８】
図５２２（ａ）、図５２２（ｂ）及び図５２２（ｃ）は、図５２１（ｃ）のＢ０４ａ－Ｂ０４ａ線における遊技盤Ａ１０１３の断面図である。図５２２（ａ）、図５２２（ｂ）及び図５２２（ｃ）では、樋構成部材Ａ１５１０、背面蓋部材Ａ１４８０及び伝達可能化部材Ａ１４３０が取り外された状態が図示されており、図５２２（ａ）では、振分部材Ａ１３８０が張出位置に位置する状態が、図５２２（ｂ）では、振分部材Ａ１３８０が退避

位置に位置する状態が、図５２２（ｃ）では、振分部材Ａ１３８０が退避位置から後方に変位された状態が図示される。

【９４４９】

回転部材Ａ１４１０が背面側部材Ａ１３１０に支持される状態においてネジＡ１４６０により脱落を防止されているところ（図５２１（ｃ）参照）、ネジＡ１４６０を取り外すことで、回転部材Ａ１４１０を背面側部材Ａ１３１０から取り外すことが可能となっている。

【９４５０】

回転部材Ａ１４１０の先端部が振分部材Ａ１３８０の後方延設部Ａ１３８５に形成される受入凹部Ａ１３８５ａに回転部材Ａ１４１０の延設腕部Ａ１４１２が受け入れられていることから、回転部材Ａ１４１０が背面側部材Ａ１３１０に支持されている状態においては、振分部材Ａ１３８０の前後方向位置が適切な範囲に維持される。

【９４５１】

一方、回転部材Ａ１４１０を取り外すために前後方向に移動させると、回転部材Ａ１４１０の移動に追従して振分部材Ａ１３８０も移動される。即ち、振分部材Ａ１３８０を退避位置に位置させるように回転部材Ａ１４１０を回転動作させた状態（図５２２（ｂ）参照）から、回転部材Ａ１４１０を後方に移動させることで、回転部材Ａ１４１０を背面側部材Ａ１３１０から離間させることができる（図５２２（ｃ）参照）。

【９４５２】

この場合において、背面側部材Ａ１３１０には、回転部材収容部Ａ１３４７の壁面から内方側へ向けて突設される抜け止め用の防止突部Ａ１３４７ａが形成されており、この防止突部Ａ１３４７ａにより振分部材Ａ１３８０の後方への移動が規制される。これにより、振分部材Ａ１３８０が後方へ脱落することを防止することができ、振分部材Ａ１３８０を背面側部材Ａ１３１０と正面側部材Ａ１３５０との間に配設させたまま維持することができるため、振分部材Ａ１３８０を紛失する事態や、不用意に別部材に交換される事態を避けることができる。

【９４５３】

図５２３（ａ）は、振分部材Ａ１３８０及び回転部材Ａ１４１０の拡大正面図であり、図５２３（ｂ）は、図５２２（ａ）のＢ０５ｂ－Ｂ０５ｂ線における振分部材Ａ１３８０及び回転部材Ａ１４１０の部分断面図であり、図５２４（ａ）は、振分部材Ａ１３８０及び回転部材Ａ１４１０の拡大正面図であり、図５２４（ｂ）は、図５２２（ｂ）のＢ０６ｂ－Ｂ０６ｂ線における振分部材Ａ１３８０及び回転部材Ａ１４１０の部分断面図である。

【９４５４】

図５２３（ａ）及び図５２３（ｂ）では、振分部材Ａ１３８０が張出位置に位置する状態が図示され、図５２４（ａ）及び図５２４（ｂ）では、振分部材Ａ１３８０が退避位置に位置する状態が図示される。

【９４５５】

振分部材Ａ１３８０は、正面側部材Ａ１３５０の凹部Ａ１３６２に正面側板状部Ａ１３８４が隙間を空けて受け入れられており（支持されており）、基端部Ａ１３８１側に形成される受入凹部Ａ１３８５ａに延設腕部Ａ１３１２が隙間を空けて受け入れられている（支持されている）。

【９４５６】

即ち、延設腕部Ａ１３１２による支持は前後両側からではなく、後方のみの片持ちの支持であるが、前側においては凹部Ａ１３６２により支持されているので、緩い支持でありながらも、複数位置で支持されていることにより、振分部材Ａ１３８０の動作を安定させることができる。

【９４５７】

ソレノイドＡ１４２０の駆動態様は、本実施形態では、電源が投入されてから一定動作で駆動される。即ち、０．２秒間の励磁と、１．８秒間の非励磁とが交互に切り替えられ

る態様で駆動される。
【９４５８】
そのため、振分部材Ａ１３８０が退避位置に維持される時間が０．２秒間と短いため、一回の励磁に対応して最大で１球の遊技球が入賞検出センサＡＳＣ１１側へ流入し得る構成とされる。即ち、入賞検出センサＡＳＣ１１に間隔を空けずに連続で２球の遊技球が入球することが防止される。これにより、入賞検出センサＡＳＣ１１への過度な入賞が抑えられる。
【９４５９】
また、球の発射間隔が０．６秒に設定されていることから、０．２秒間の励磁により振分部材Ａ１３８０が退避位置に位置する状態で入賞検出センサＡＳＣ１１側に球が流入した場合、球を連続で発射させていたとしても、発射間隔と励磁間隔との対応により、次に入賞検出センサＡＳＣ１１側に球が流入し得るのは６．０秒後（間の９球は入賞検出センサＡＳＣ１１に入球し得ない）となる。
【９４６０】
これは振分部材Ａ１３８０が退避位置に位置する状態で球が第１流下経路ＡＲ３０３を流下した場合とされる。実際は、球が第１流下経路ＡＲ３０３を流下する状況ばかりではなく、第１流下経路ＡＲ３０３、第２流下経路ＡＲ３０４又は第３流下経路ＡＲ３０５にランダムに振り分けられるので、入賞検出センサＡＳＣ１１に球が流入する間隔は、更に長くなる。このように、入賞検出センサＡＳＣ１１への流入が稀に生じるように構成される。
【９４６１】
第１球流下構造体Ａ１３００における球の流下は、第１流下経路ＡＲ３０３、第２流下経路ＡＲ３０４又は第３流下経路ＡＲ３０５のいずれの経路を流下するかで、時間が異なる。
【９４６２】
第１流下経路ＡＲ３０３を流下する時間は、第２流下経路ＡＲ３０４又は第３流下経路ＡＲ３０５を流下する時間に比較して、概略発射間隔（約０．６秒）程度長くされており、第１流下経路ＡＲ３０３を流下した球の後続（直後）の球が第２流下経路ＡＲ３０４又は第３流下経路ＡＲ３０５を流下する場合、振分部材Ａ１３８０の右方の位置に同時に到達し、球同士が衝突され得る。
【９４６３】
振分部材Ａ１３８０側から勢いよく球が流下すると、球同士の衝突により左方への跳ね戻りが生じ得て、振分部材Ａ１３８０上に球が位置する時間が通常より長くされ、振分部材Ａ１３８０が退避位置に変位するまで居座る事象が生じ得る。この場合、入賞検出センサＡＳＣ１１への入球が設計時の予測よりも多く生じる可能性があり、遊技の公平性を欠く可能性がある。
【９４６４】
入賞検出センサＡＳＣ１１への入球は、遊技者にとっては有利に作用するものではないため、入賞検出センサＡＳＣ１１への入球が設計時の予測よりも多く生じることは、遊技者の興趣の向上を阻害する可能性があるため、改善の余地がある。
【９４６５】
図５２３（ａ）では、入賞検出センサＡＳＣ１１側へ流入する際の球の入球位置ＡＰ１３９７が球の大きさに合わせた円形で図示される。振分部材Ａ１３８０の上傾斜姿勢への姿勢変化は、図５２３（ａ）に図示されるように、入賞検出センサＡＳＣ１１側へ流入する球が経由する入球位置ＡＰ１３９７に位置する球との当接により生じる。
【９４６６】
図５２３（ａ）に図示されるように、入賞検出センサＡＳＣ１１側へ流入する球が入球位置ＡＰ１３９７に位置する場合において振分部材Ａ１３８０が退避位置から張出位置へ変位されると、形成部Ａ１３８３が球と当接することにより押し上げられ、振分部材Ａ１３８０の姿勢は、延設部Ａ１３８２の延設端部（右側端部）が上方側に位置する上傾斜姿

勢とされる。
【９４６７】
形成部Ａ１３８３は、延設部Ａ１３８２を超えるほどには長くは形成されていない。これにより、球が延設部Ａ１３８２の下面側に入り込む領域を広く確保でき、過度に球の流下を抑制することがないようにすることができる。また、球との接触が形成部Ａ１３８３とのみで生じるものではなく、延設部Ａ１３８２と当接するタイミングや、形成部Ａ１３８３と延設部Ａ１３８２との２点で当接するタイミングが生じ得ることで、荷重が一点に集中することを避けて振分部材Ａ１３８０の破損を防止するとともに、球の流下を効果的に減速させることができる。この場合において、振分部材Ａ１３８０の重心位置が形成部Ａ１３８３の形成される基端部Ａ１３８１側寄りに設定されることから、上傾斜姿勢を維持し易く構成することができる。
【９４６８】
球と延設部Ａ１３８２及び形成部Ａ１３８３との接触は、入球位置ＡＰ１３９７に流入する球に対して振分部材Ａ１３８０が退避位置から張出位置へ動作される場合を想定すると、延設部Ａ１３８２と球とが当接するタイミングから、延設部Ａ１３８２及び形成部Ａ１３８３が球と同時に当接するタイミングへ移り、そこから形成部Ａ１３８３と球とが当接するタイミングに移る。このように、球からの力が振分部材Ａ１３８０に付与される位置が順番に移っていくことから、振分部材Ａ１３８０に付与される力が溜まることなく、流されるように構成することができる。
【９４６９】
この場合、姿勢変化前（図５２３（ａ）において実線で図示）に比較して、張出位置における振分部材Ａ１３８０の上面を流下する球の流下速度を減速させることができる。これにより、例えば、振分部材Ａ１３８０の上面を転動した球が第３流下経路ＡＲ３０５を流下する球と左右方向で衝突したような場合に、振分部材Ａ１３８０の上面を転動して流下した球が、左方に跳ね戻る事態を回避し易くすることができ、第３流下経路ＡＲ３０５を流下する球につられて下方へ流下させ易くすることができる。即ち、後続の球が振分部材Ａ１３８０の上面に留まる時間が長くなることを避けることができる。
【９４７０】
これにより、入賞検出センサＡＳＣ１１側へ球が流入した直後に振分部材Ａ１３８０が張出位置に位置し、次に退避位置に位置した場合において、後続の球が振分部材Ａ１３８０の下流側から跳ね戻されて連続で入賞検出センサＡＳＣ１１側に流入する事態を未然に防ぐことができる。
【９４７１】
振分部材Ａ１３８０が上傾斜姿勢にされると、姿勢変化前に比較して、延設部Ａ１３８２の延設先端の左右位置は左側へ変位するので、対向突部Ａ１３７５との間の経路幅が広げられる方向に変位される。これにより、折曲位置Ａ３０１側へ流下させる経路の経路幅が広くなり、遊技球を折曲位置Ａ３０１側へ流下させ易くすることができる。
【９４７２】
また、振分部材Ａ１３８０は、張出位置において、延設部Ａ１３８２の延設先端（右端側）が下がる方向の下傾斜姿勢に姿勢変化が許容される。この場合、姿勢変化前（図５２３（ａ）において実線で図示）に比較して、張出位置における振分部材Ａ１３８０の上面を流下する球の流下速度を加速させることができ、折曲位置Ａ３０１側へ速やかに流下させることができる。
【９４７３】
また、振分部材Ａ１３８０は、張出位置における姿勢変化に加えて、張出位置における左右方向の変位が生じ得る。張出位置において、ソレノイドＡ１４２０のコイルスプリングの付勢力により配置が維持されるところ、振分部材Ａ１３８０に当接した球の重さのかかり方によっては球の重さに付勢力が負けて、振分部材Ａ１３８０が退避位置側へ変位される。この場合、振分部材Ａ１３８０と対向突部Ａ１３７５との間隔が広げられることになるので、球の流下経路の経路幅が広げられることになり、球を折曲位置Ａ３０１側へ流

入させ易くすることができる。
【９４７４】
上述したような振分部材Ａ１３８０の変位や姿勢変化は、振分部材Ａ１３８０が凹部Ａ１３６２や延設腕部Ａ１４１２に対して十分な隙間をもって支持されていることによる。凹部Ａ１３６２と正面側板状部Ａ１３８４との間には上下方向に合計１．０［ｍｍ］程度の隙間が形成されており、振分部材Ａ１３８０は上下方向に変位可能に支持されている。
【９４７５】
更に、振分部材Ａ１３８０及び回転部材Ａ１４１０が樹脂材料から形成されていることにより、回転部材Ａ１４１０と振分部材Ａ１３８０の後方延設部Ａ１３８５とが干渉するような場合でも、回転部材Ａ１４１０及び振分部材Ａ１３８０の弾性変形により、振分部材Ａ１３８０の変位や姿勢変化が阻害されることを避けることができる。
【９４７６】
回転部材Ａ１４１０は、延設部Ａ１３８２よりも後方側に位置しており、少なくとも延設部Ａ１３８２よりも後方側に位置する箇所において球との当接を生じない。これにより、球との衝突によって回転部材Ａ１４１０が割れたり欠けたりする事態を避けることができる。
【９４７７】
回転部材Ａ１４１０の延設腕部Ａ１４１２における支持先端部が正面視円形に膨出されている。その支持先端部は振分部材Ａ１３８０の受入凹部Ａ１３８５ａに位置しているところ、振分部材Ａ１３８０の上下変位や姿勢変化により受入凹部Ａ１３８５ａの内面と支持先端部における膨出部位との係合により、振分部材Ａ１３８０の上下動作や姿勢変化の動作抵抗を増加させることができる。
【９４７８】
振分部材Ａ１３８０が上方に変位された場合には、案内湾曲板部Ａ３５３の下面との上下幅が狭まることから、球の流下経路における経路幅が狭められ、球の流下抵抗が増大される。例えば、振分部材Ａ１３８０の上面で球が跳ねた場合には、案内湾曲板部Ａ３５３と衝突し、流下速度が減速される。これは、振分部材Ａ１３８０が上傾斜姿勢とされる場合でも同様である。
【９４７９】
振分部材Ａ１３８０が下方に変位された場合には、案内湾曲板部Ａ３５３の下面との上下幅が広がることから、球の流下経路における経路幅が広げられ、球の流下抵抗が減少される。例えば、振分部材Ａ１３８０の上面で球が跳ねたとしても、案内湾曲板部Ａ３５３と衝突することを抑制し、流下速度の減速を抑制できる。これは、振分部材Ａ１３８０が下傾斜姿勢とされる場合でも同様である。振分部材Ａ１３８０が下傾斜姿勢とされた場合、自重により姿勢は維持される。
【９４８０】
振分部材Ａ１３８０は、下傾斜姿勢とされた場合であっても、上傾斜姿勢とされた場合であっても、ソレノイドＡ１４２０が励磁され退避位置へ変位される場合に、凹部Ａ１３６２に案内されて、元の姿勢に戻される（図Ｅ４（ａ）参照）。
【９４８１】
図５２５は、図５２３（ｂ）のＢ０７ｍ－Ｂ０７ｍ線における振分部材Ａ１３８０及び回転部材Ａ１４１０の部分断面図である。
【９４８２】
振分部材Ａ１３８０の後方延設部Ａ１３８５の延設先端と背面蓋部材Ａ１４８０との間には、回転部材収容部Ａ１３４７における前後方向の隙間Ａ１３４７ｂが形成され、振分部材Ａ１３８０の正面側板状部Ａ１３８４の前側端部と正面側部材Ａ１３５０の凹部Ａ１３６２との間にも同様の幅の前後方向の隙間が形成される。
【９４８３】
そのため、振分部材Ａ１３８０は、前後方向への変位が可能に構成される。振分部材Ａ１３８０の前後方向への変位は、振分部材Ａ１３８０の停止中にも生じるが、特に、退避

位置および張出位置の間の動作中において、振分部材Ａ１３８０に球から付与される荷重や、回転部材Ａ１４１０を介して付与される荷重の前後方向の偏りにより生じ易い。この場合において、振分部材Ａ１３８０と回転部材Ａ１４１０が一体で前後方向に変位される。前後両側で接触される場合に比較して前後位置は不定となるが、摩擦による抵抗を低減することができ、動作の応答性を良くすることができる。

【９４８４】

また、球からの荷重により前後いずれかの側に変位され背面蓋部材Ａ１４８０又は凹部Ａ１３６２の何れか一方に接触した場合であっても、他方側に隙間が確保されていることから、球からの荷重が解除されれば振分部材Ａ１３８０は他方側へ変位され（戻され）、摩擦抵抗が過度に大きくなることを回避することができる。

【９４８５】

このように、振分部材Ａ１３８０は、左右方向および上下方向への変位だけではなく、前後方向の変位も許容されるよう構成されており、３次元的な変位を生じさせることができる。これにより、振分部材Ａ１３８０に当接した球の流下方向が平面的な方向（板状部Ａ３１１の前面と平行な平面上の方向）ではなく前後方向の成分を有する方向であったとしても、当接時に振分部材Ａ１３８０が平面的な移動に加えて前後方向の成分も有する方向に変位することで、遊技球に対して与える抵抗を抑制させることができる。

【９４８６】

振分部材Ａ１３８０は、ソレノイドＡ１４２０の励磁と非励磁とが切り替えられることにより、退避位置と張出位置とで変位するように動作される。

【９４８７】

ソレノイドＡ１４２０の駆動態様は、本実施形態では、電源が投入されてから一定動作で駆動される。即ち、０．２秒間の励磁と、１．８秒間の非励磁とが交互に切り替えられる態様で駆動される。

【９４８８】

振分部材Ａ１３８０は高頻度で動作されているので、同じ態様で第１流下経路ＡＲ３０３を流下する球が振分部材Ａ１３８０に衝突する場合であっても、振分部材Ａ１３８０の態様によって、球の衝突に基づく振分部材Ａ１３８０の動作態様が異なる。

【９４８９】

例えば、振分部材Ａ１３８０が張出位置で停止している状態である場合、衝突可能な部位である延設部Ａ１３８２の上面に球が衝突することにより、振分部材Ａ１３８０は延設部Ａ１３８２の延設先端が傾倒する下傾斜姿勢とされる。

【９４９０】

一方、振分部材Ａ１３８０が退避位置から張出位置へ変位する途中の状態である場合、延設部Ａ１３８２の延設先端が球に衝突することになり、球からの重みにより振分部材Ａ１３８０が張出位置へ到達するタイミングが遅れた動作とされ、振分部材Ａ１３８０は延設部Ａ１３８２の延設先端が傾倒する下傾斜姿勢とされる。

【９４９１】

どちらの場合も、振分部材Ａ１３８０が張出位置から退避位置へ変位されることにより、基端部Ａ１３８１が退避凹部Ａ１３４１に受け入れられることで元の姿勢に戻る。即ち、下傾斜姿勢から、延設先端が起き上がる方向に姿勢変化される。

【９４９２】

このように、振分部材Ａ１３８０は、対向突部Ａ１３７５に対して近接離間する往復動作により姿勢を復帰させることができるので、振分部材Ａ１３８０の繰り返し動作を安定的に生じさせることができる。

【９４９３】

なお、振分部材Ａ１３８０が張出位置に位置する場合において、第１流下経路ＡＲ３０３を流下する遊技球は、振分部材Ａ１３８０に衝突する場合も、衝突しない場合も生じ得る。振分部材Ａ１３８０に到達するまでに十分に減速された球は振分部材Ａ１３８０に衝突し得るが、例えば第１球流下構造体Ａ１３００への流入時の流下速度が高い場合等にお

いて十分に減速されないと、振分部材Ａ１３８０の上面に対して離間して右方へ流下（飛翔）するため、振分部材Ａ１３８０と衝突せずに流下し得る。

【９４９４】

次いで、図５２６から図５２８を参照し、第８５実施形態における第１球流下構造体Ａ２３００について説明する。上記第８３実施形態では、第１球流下構造体Ａ３００に流入した遊技球は全て第１球流下構造体Ａ３００の下端から排出される場合を説明したが、第８５実施形態では、第１球流下構造体Ａ２３００に流入した遊技球が複数の経路に振り分けられるよう構成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【９４９５】

図５２６は、第８５実施形態における第１球流下構造体Ａ２３００の正面図である。図５２６では、球の流下経路の概要の説明のために、便宜上、正面側部材Ａ２３５０の板状部Ａ３５１及び支持装置Ａ２５２０の図示が省略され、正面側部材Ａ２３５０の案内湾曲板部Ａ３５３、上面傾斜突条部Ａ３５４、流路外延設部Ａ３５６、及び交差突条部Ａ３７１が想像線で図示される。

【９４９６】

第１球流下構造体Ａ２３００は、上述の第１球流下構造体Ａ３００，Ａ１３００と同様に、遊技盤Ａ１０１３のベース板Ａ６０に対して、センターフレームＡ８６よりも右方において穿設される右方穿設部Ａ６０ａを前方から塞ぐようにして組み付けられる。

【９４９７】

第１球流下構造体Ａ２３００は、ベース板Ａ６０に締結固定される光透過性樹脂から形成される部材であって遊技球が流下する領域の背面側部を構成する背面側部材Ａ２３１０と、その背面側部材Ａ２３１０に締結固定される光透過性樹脂から形成される部材であって遊技球が流下する領域の正面側部を構成する正面側部材Ａ２３５０と、背面側部材Ａ２３１０と正面側部材Ａ２３５０との間に保持されるスルーゲートＨ６７と、背面側部材Ａ２３１０に対して回転動作可能に収容されており遊技球の流下経路を振り分ける振分部材Ａ２３８０と、を備える。

【９４９８】

本実施形態では、振分部材Ａ２３８０が左右へ延びる回転軸Ａ２３８０ａを中心に回転するよう構成されており、正面側部材Ａ２３５０は振分部材Ａ２３８０が回転した場合に干渉しないように、板状部Ａ３５１において振分部材Ａ２３８０の動作との干渉を避けるための開口部Ａ２３５７が形成される。次いで、振分部材Ａ２３８０の詳細構成について説明する。

【９４９９】

図５２７及び図５２８は、図５２６のＢ０９ｍ－Ｂ０９ｍ線における第１球流下構造体Ａ２３００の断面図である。図５２７では、振分部材Ａ２３８０が案内湾曲板部Ａ３５３から離れる方向に回転動作（傾倒動作）した第１状態が図示され、図５２８では、振分部材Ａ２３８０が案内湾曲板部Ａ３５３に接近する方向に回転動作（傾倒動作）した第２状態が図示される。

【９５００】

振分部材Ａ２３８０は開口部Ａ２３５７の前方に張り出して位置されており、振分部材Ａ２３８０と干渉する範囲においてガラスユニットＨ１６に貫通孔Ａ１６ｃが形成される。この貫通孔Ａ１６ｃを介した不正の防止のために、ガラスユニットＨ１６の前側に貫通孔の無い積層ガラスユニットＡ２０１６が配設される。積層ガラスユニットＡ２０１６は、ガラスユニットＨ１６の正面側において窓部Ｐ１４ｅ（図４９７参照）を塞ぐように正面枠Ｐ１４に配設される。

【９５０１】

振分部材Ａ２３８０は、第１状態においては案内湾曲板部Ａ３５３との間を右方（折曲位置Ａ３０１側）に流下する遊技球の流下経路の経路幅を構成し、第２状態においては案内湾曲板部Ａ３５３との間に到達した球が下方に流下する（落ちる）ことから、右方（折

曲位置Ａ３０１側）に流下する遊技球の流下経路の経路幅を構成しない。
【９５０２】
図５２７及び図５２８に図示されるように、振分部材Ａ２３８０は、軸方向（図５２７紙面垂直方向）の幅寸法が遊技球の直径と略同等とされており回転軸Ａ２３８０ａを中心に回転可能に支持される部材であって、その回転軸Ａ２３８０ａと直交する方向に延びる本体部材Ａ２３８１と、その本体部材Ａ２３８１から円周方向に沿って両側に延設され略円板形状を形成する円板形成部Ａ２３８２と、その円板形成部Ａ２３８２の形成する円板形状の略１／４周部分において略扇状に凹設される凹設部Ａ２３８３と、本体部材Ａ２３８１の延設先端側から円板形成部Ａ２３８２の円の周面に沿って（円の接線方向と平行に）張り出し形成される球当接部Ａ２３８４と、を主に備え、図５２７に示す第１状態において遊技球が凹設部Ａ２３８３に収容されることにより、遊技球の重さにより第２状態（図５２８参照）まで後転動作する態様（重心バランス）で構成される。
【９５０３】
振分部材Ａ２３８０は、重心ＡＧ１が図５２７に図示する第１状態において回転軸Ａ２３８０ａの正面側下部に位置する。これにより、第１状態では、振分部材Ａ２３８０が前倒れしかけるところ、後述する支持装置Ａ２５２０に下支えされることにより、図５２７に示す待機状態で姿勢が安定する。
【９５０４】
凹設部Ａ２３８３は、図５２７に示す第１状態において上下方向（鉛直方向）に沿って延びる上下側面Ａ２３８３ａと、前後方向（水平方向）に沿って延びる前後側面Ａ２３８３ｂと、を備える。凹設部Ａ２３８３は、球を調度１球受け入れ可能な寸法で構成される。
【９５０５】
これにより、遊技球が凹設部Ａ２３８３に収容され、振分部材Ａ２３８０が後転動作し始めた後において、新たに別の遊技球が流入する事態を回避することができる。
【９５０６】
球当接部Ａ２３８４は、回転軸Ａ２３８０ａ側の反対側において、張出方向と交差する断面形状が同一の円弧形状となるように凹設される延設凹部Ａ２３８４ａを備え、その延設凹部Ａ２３８４ａが左方（図５２８紙面奥方向）へ向かうにつれて、下降傾斜する態様で形成される。このように傾斜面の方向を設定することにより、振分部材Ａ２３８０が第２状態（図５２８参照）とされ延設凹部Ａ２３８４ａ上を右方へ向けて流下する遊技球の流下抵抗を増大させることができる。
【９５０７】
延設凹部Ａ２３８４ａの曲率半径は、遊技球の半径と同等とされる。これにより、振分部材Ａ２３８０が第２状態とされ延設凹部Ａ２３８４ａに遊技球が配置される場合に遊技球を多点で支持することができ、延設凹部Ａ２３８４ａが遊技球をガイドする効果を向上させることができると共に、遊技球との擦れを面で生じさせることで流下抵抗を増大させることができる。
【９５０８】
図５２８に示すように、遊技球の重みで振分部材Ａ２３８０が後転動作した後の振分部材Ａ２３８０の第２状態では、球当接部Ａ２３８４の張出端部が背面側部材Ａ２３１０の側面に当接することにより後転方向の回転が止められる。図５２８に示すように、振分部材Ａ２３８０の第２状態では、球の流下経路が球当接部Ａ２３８４に塞がれており、他の遊技球の流入を防止することができる。
【９５０９】
球当接部Ａ２３８４は、第２状態において、第２延設部Ａ３２２の右側端部（図５２６参照）よりも低い位置に配置されるので、第２延設部Ａ３２２を転動した遊技球を球当接部Ａ２３８４の上面にスムーズに乗せることができる。
【９５１０】
球当接部Ａ２３８４は、上述した通り、第２状態において左方（図５２８紙面奥方向）

へ向かうほど下降傾斜する態様で構成されるので、球当接部Ａ２３８４の上面に乗った遊技球に対して左向きの力（摩擦力）を付与することができる。

【９５１１】

図５２８に示す状態から、遊技球が凹設部Ａ２３８３から離間して流下すると、振分部材Ａ２３８０の重心ＡＧ１を安定させる方向として振分部材Ａ２３８０が前転動作し、第１状態（図５２７参照）に戻る。

【９５１２】

振分部材Ａ２３８０の支持態様は、回転軸Ａ２３８０ａが、背面側部材Ａ２３１０の経路構成部Ａ１３４２において上下に延びるように形成される長孔Ａ２５１０に挿通されることで支持されると共に、下方に配設される支持装置Ａ２５２０に円板形成部Ａ２３８２が支持される。

【９５１３】

支持装置Ａ２５２０は、正面側部材Ａ２３５０の板状部Ａ３５１から貫通孔Ａ１６ｃ側へ張り出すように延設される延設板部Ａ２３５８に配設されており、円板形成部Ａ２３８２に下方から当接する当接部材Ａ２５２１と、その当接部材Ａ２５２１に対して上向きの付勢力を与えるコイルスプリングＡ２５２２と、を備える。コイルスプリングＡ２５２２の付勢力により、回転軸Ａ２３８０ａは長孔Ａ２５１０の上端に当接された状態で維持され、回転動作可能に支持される（図５２７参照）。

【９５１４】

回転軸Ａ２３８０ａは、軸方向に若干の変位が可能となるクリアランスで長孔Ａ２５１０に支持されている。球当接部Ａ２３８４の延設凹部Ａ２３８４ａに球が乗った場合において、球の重みは、延設凹部Ａ２３８４ａの上面に対して、その傾斜によって、下方および右方かけられる。そのため、球の重みによって、振分部材Ａ２３８０は下方および右方に変位される。

【９５１５】

即ち、第２状態において延設凹部Ａ２３８４ａに乗った球の重みが、支持装置Ａ２５２０のコイルスプリングＡ２５２２の付勢力を上回ることで、振分部材Ａ２３８０が下方へ変位する（沈む）と共に、球の荷重により振分部材Ａ２３８０が右方へ変位される。

【９５１６】

これにより、案内湾曲板部Ａ３５３との経路幅が変わり、球が右方へ通過される。即ち、本実施形態では、第２状態における延設凹部Ａ２３８４ａの右端側と案内湾曲板部Ａ３５３との上下幅が球の直径程度の長さに設計されており、振分部材Ａ２３８０が下方に変位される前の状態（図５２８参照）では延設凹部Ａ２３８４ａの上面を転動する球に対して流下抵抗を生じさせ、減速させる。

【９５１７】

ここから振分部材Ａ２３８０が下方に変位されることにより、案内湾曲板部Ａ３５３と擦れることもなくなるため、球を停止させることなく、右方への流下を継続させることが可能となる。

【９５１８】

振分部材Ａ２３８０の下方への変位は、延設凹部Ａ２３８４ａに乗った球からの重みによるものなので、凹設部Ａ２３８３から球が離間した後においても生じ続ける。更に、延設凹部Ａ２３８４ａの上面を連続で球が転動する場合において、振分部材Ａ２３８０がコイルスプリングＡ２５２２の付勢力により上方へ変位される前であれば、延設凹部Ａ２３８４ａの上面を転動する球は案内湾曲板部Ａ３５３と擦れることなく右方へ通過することになるので、球の減速を抑制させることができる。

【９５１９】

振分部材Ａ２３８０の軸方向の変位（クリアランス内での位置ずれ）は、延設凹部Ａ２３８４ａを転動する球の重みによって生じるものであるが、その程度についてはランダム性を有する。例えば、球の重みによってクリアランス内の右側端位置に位置され、その状態で振分部材Ａ２３８０の回転動作が実行される場合もあれば、クリアランス内の右端で

バウンドして左側端位置に位置され、その状態で振分部材Ａ２３８０の回転動作が実行される場合もある。

【９５２０】

本実施形態では、振分部材Ａ２３８０が、軸方向においてクリアランス内で何れの位置にあっても（クリアランス内での軸方向の変位中においても）、延設凹部Ａ２３８４ａの上面を介して球を右方に流下させることができるし、第１状態と第２状態との間を回転動作可能に構成される。

【９５２１】

次いで、図５２９から図５３１を参照して、第８６実施形態における揺動ユニットＤ２１００について説明する。上記第８３実施形態では、上側揺動手段Ｄ１２０が突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂの２箇所で支持される場合について説明したが、第８６実施形態では、上側揺動手段Ｄ２１２０が突設部Ｄ１４７ｂの１箇所で支持される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【９５２２】

初めに、図５２９を参照して、第８６実施形態における揺動ユニットＤ２１００の全体構成について説明する。図５２９（ａ）は、第８６実施形態における揺動ユニットＤ２１００を正面視した模式図であり、図５２９（ｂ）は、図５２９（ａ）のＥ０１ｂ－Ｅ０１ｂ線における揺動ユニットＤ２１００の模式断面図であり、図５２９（ｃ）は、図５２９（ａ）のＥ０１ｃ－Ｅ０１ｃ線における揺動ユニットＤ２１００の模式断面図である。なお、第８６実施形態においては、第８３実施形態における揺動ユニットＤ１００と同様に上側揺動手段Ｄ２１２０の下方側に下側揺動手段Ｄ１３０（図５１０参照）が配設されても良いが、以下の説明では、下側揺動手段Ｄ１３０が配設されないものとして説明する。

【９５２３】

また、図５２９（ａ）では、上側装飾ユニットＨ１４ａが配設される上方側（矢印Ｕ方向側）における窓部Ｈ１４ｅの境界が上側視認可能範囲Ｈ１４ｅ１として図示され、左側装飾ユニットＨ１４ｂが配設される左側（矢印Ｌ方向側）における窓部Ｈ１４ｅの境界が左側視認可能範囲Ｈ１４ｅ２として図示され、右側装飾ユニットＨ１４ｃが配設される右側（矢印Ｒ方向側）における窓部Ｈ１４ｅの境界が右側視認可能範囲Ｈ１４ｅ３として図示される。

【９５２４】

図５２９に示すように、第８６実施形態における揺動ユニットＤ２１００は、正面視（矢印Ｂ方向視）において門型に形成されるベース手段Ｄ２１１０と、そのベース手段Ｄ２１１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される上側揺動手段Ｄ２１２０と、その上側揺動手段Ｄ２１２０に駆動力を付与する上側動力付与手段Ｄ２１４０とを主に備える。

【９５２５】

なお、揺動ユニットＤ２１００は、窓部Ｈ１４ｅを介して視認された際に、少なくとも後述する上側揺動手段Ｄ２１２０の全域が視認可能とされる位置に配設される。また、第８６実施形態では、上側揺動手段Ｄ２１２０が窓部Ｈ１４ｅを介した視認領域内で変位可能に構成されており、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位を遊技者に視認させることが可能とされる。そのため、第８６実施形態では、ベース手段Ｄ２１１０と、そのベース手段Ｄ２１１０に配設される各部材（上側揺動手段Ｄ２１２０、上側動力付与手段Ｄ２１４０）との少なくとも一部が窓部Ｈ１４ｅを介した視認領域内に配設され、パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から視認可能とされる。

【９５２６】

ベース手段Ｄ２１１０は、正面視（矢印Ｂ方向視）において門型に形成されるベース本体Ｄ２１１１と、そのベース本体Ｄ２１１１の正面側（矢印Ｆ方向側）の２箇所から鉤状に突設される第１の規制部Ｄ２１１３と、その２箇所の第１の規制部よりも下方側においてベース本体Ｄ２１１１の正面側の２箇所から鉤状に突設される第２の規制部Ｄ２１１４と、その第２の規制部Ｄ２１１４のそれぞれの下方側に配設される付勢手段Ｄ２１８３とを主に備える。

【９５２７】
なお、第８６実施形態においては、ベース手段Ｄ２１１０は、ベース本体Ｄ２１１１と、第１の規制部Ｄ２１１３と、第２の規制部Ｄ２１１４とが一体の透明な樹脂材料から形成されるが、ベース本体Ｄ２１１１と、第１の規制部Ｄ２１１３と、第２の規制部Ｄ２１１４とを、異なる部材から形成しても良い。例えば、第１の規制部Ｄ２１１３及び第２の規制部Ｄ２１１４は、後述するように上側揺動手段Ｄ２１２０の衝突箇所となるので、その剛性を高めるために、金属材料から形成しても良い。
【９５２８】
また、２箇所に形成される第１の規制部Ｄ２１１３のそれぞれの材料を異なる部材で形成しても良い。例えば、後述する第２正面カムＤ２１４７の回転方向によって、上側揺動手段Ｄ２１２０が当接しやすい側（ベース手段Ｄ２１１０に対する上側揺動手段Ｄ２１２０の変位量が大きい側）を金属材料から形成して、その剛性を確保しつつ、上側揺動手段Ｄ２１２０の当接しにくい側（ベース手段Ｄ２１１０に対する上側揺動手段Ｄ２１２０の変位量が小さい側）を樹脂材料から形成して、製造コストの削減を図るものであっても良い。
【９５２９】
ベース本体Ｄ２１１１は、後述する上側動力付与手段Ｄ２１４０を配設するためのベースであり、その上側動力付与手段Ｄ２１４０を配設するための螺子（図示しない）の締結孔が所定の箇所に形成される。
【９５３０】
また、ベース本体Ｄ２１１１には、後述する上側動力付与手段Ｄ２１４０の駆動力を背面側（矢印Ｂ方向側）から正面側（矢印Ｆ方向側）に伝達するための挿通孔Ｄ１１１ａ（図５１１参照）が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成される。
【９５３１】
第１の規制部Ｄ２１１３は、ベース本体Ｄ２１１１の正面側（矢印Ｆ方向側）から立設される立設部Ｄ２１１３ａと、その立設部Ｄ２１１３ａの先端から下方側（矢印Ｄ方向側）に向かって突出する突出部Ｄ２１１３ｂとを備える。
【９５３２】
また、第１の規制部Ｄ２１１３は、後述する上側揺動手段Ｄ２１２０が上側位置で暴れてセンターフレームＡ８６（図４９８参照）に衝突することを抑制する（即ち、上側揺動手段Ｄ２１２０を案内する）ための変位規制部材であり、後述する第２正面カムＤ２１４７が第１位置（即ち、突設部Ｄ１４７ｂを回転軸の上側に配置した位置）に停止される際に、後述する上側揺動手段Ｄ２１２０の変位手段Ｄ１２１の上方側の一部を、第１の規制部Ｄ２１１３の突出部Ｄ２１１３ｂとベース本体Ｄ２１１１との対向間に収容可能な位置（即ち、正面視（矢印Ｂ方向視）において第１の規制部Ｄ２１１３の突出部Ｄ２１１３ｂが上側揺動手段Ｄ２１２０の変位手段Ｄ１２１と重なる位置）に形成されると共に、立設部Ｄ２１１１ａが上側揺動手段Ｄ２１２０の変位手段Ｄ１２１の上方側の外縁に沿う位置に形成される。これにより、第８６実施形態における上側揺動手段Ｄ２１２０は、第２正面カムＤ２１４７が第１位置に配置される度に第１の規制部Ｄ２１１３に沿う所定の姿勢とされる。
【９５３３】
第２の規制部Ｄ２１１４は、ベース本体Ｄ２１１１の正面側（矢印Ｆ方向側）から立設される立設部Ｄ２１１４ａと、その立設部Ｄ２１１４ａの先端から下方側（矢印Ｄ方向側）に向かって突出する突出部Ｄ２１１４ｂとを備える。
【９５３４】
また、第２の規制部Ｄ２１１４は、後述する第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂに軸支される上側揺動手段Ｄ２１２０が第２正面カムＤ１４７の回転により左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に過剰に変位した場合に、上側揺動手段Ｄ２１２０がセンターフレームＡ８６（図４９８参照）に衝突することを抑制する（即ち、上側揺動手段Ｄ２１２０を案内する）ための変位規制部材であり、後述する第２正面カムＤ２１４７が第１位置（即ち

、突設部Ｄ１４７ｂを回転軸の上側に配置した位置）に停止される場合における上側揺動手段Ｄ２１２０の配設位置に対して、離れた位置（即ち、正面視（矢印Ｂ方向視）において第２の規制部Ｄ２１１４の突出部Ｄ２１１４ｂが上側揺動手段Ｄ２１２０の変位手段Ｄ１２１と重ならない位置）に形成される。

【９５３５】

即ち、第１の規制部Ｄ２１１３は、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂの変位速度に関わらず、上側揺動手段Ｄ２１２０を案内可能な位置に形成され、第２の規制部Ｄ２１１４は、上側揺動手段Ｄ２１２０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に過剰に変位した場合に、上側揺動手段Ｄ２１２０を案内可能な位置に形成される。

【９５３６】

付勢手段Ｄ２１８３は、弾性体Ｄ２１８３ａと、その弾性体Ｄ２１８３ａとベース本体Ｄ２１１１との間に配設され、ベース本体Ｄ２１１１に対して反力を作用させる弾性バネＤ２１８３ｂとを備え、第２正面カムＤ１４７の回転により上側揺動手段Ｄ２１２０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に過剰に変位した場合に、上側揺動手段Ｄ２１２０が弾性体Ｄ２１８３ａに衝突する位置に配設される。

【９５３７】

また、付勢手段Ｄ２１８３は、第２正面カムＤ１４７の回転により上側揺動手段Ｄ２１２０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に過剰に変位した場合に、上側揺動手段Ｄ２１２０に上側揺動手段Ｄ２１２０に反力を付与するための部材であり、上側揺動手段Ｄ２１２０が弾性体Ｄ２１８３ａに衝突した際に、弾性バネＤ２１８３ｂを弾性変形させて弾性バネＤ２１８３ｂの反力を上側揺動手段Ｄ２１２０に作用させることが可能に構成される。

【９５３８】

弾性体Ｄ２１８３ａは、ゴム又はウレタンの弾性材料から板状に形成され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に過剰に変位した上側揺動手段Ｄ２１２０を上面側に当接可能に構成される。弾性体Ｄ２１８３ａは、弾性材料から形成されことで、弾性体Ｄ２１８３ａに上側揺動手段Ｄ２１２０が衝突した際に、その衝突により上側揺動手段Ｄ２１２０に傷が形成されること抑制できる。

【９５３９】

弾性バネＤ２１８３ｂは、金属材料から形成されるコイルスプリングであり、一端側が弾性体Ｄ２１８３ａの下面に連結されると共に、他端側がベース手段Ｄ２１１０に支持される。また、弾性バネＤ２１８３ｂは、弾性体Ｄ２１８３ａよりも弾性変形しやく設定される。これにより、上側揺動手段Ｄ２１２０が弾性体Ｄ２１８３ａに衝突した際には、弾性体Ｄ２１８３ａよりも先行して弾性バネＤ２１８３ｂを弾性変形させて、弾性バネＤ２１８３ｂの反力を上側揺動手段Ｄ２１２０に作用させることが可能とされる。

【９５４０】

上側動力付与手段Ｄ２１４０は、電力が付与されることで、軸部Ｄ１４１ｂが回転する駆動モータＤ１４１と、その駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂに配設される第２正面カムＤ２１４７とを主に備える。

【９５４１】

第２正面カムＤ２１４７は、円板状に形成される円板部Ｄ１４７ａと、その円板部Ｄ１４７ａの正面側（矢印Ｆ方向側）から円柱状に突設される突設部Ｄ１４７ｂとを備え、回転する回転体として構成される。また、第２正面カムＤ２１４７は、円板部Ｄ１４７ａの中心部にベース本体Ｄ２１１１の正面側に突出された駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂが挿入されることでベース本体Ｄ２１１１（ベース手段Ｄ２１１０）の正面側に配設される。

【９５４２】

なお、第８６実施形態における突設部Ｄ１４７ｂは、第２正面カムＤ２１４７の円板部Ｄ１４７ａが駆動モータＤ１４１により回転されることで、円板部Ｄ１４７ａの回転に伴いベース本体Ｄ２１１１（ベース手段Ｄ２１１０）に対する相対位置を変位可能に構成される。

【９５４３】
上側揺動手段Ｄ２１２０は、正面視（矢印Ｂ方向視）において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長い略半円形状に形成される。また、上側揺動手段Ｄ２１２０は、円弧状に形成される上面側（矢印Ｕ方向側）の一部がセンターフレームＡ８６（図４９８参照）の内縁に沿う位置に配設される変位手段Ｄ１２１と、その変位手段Ｄ１２１の長手方向中央部の上方側（矢印Ｕ方向側）の外縁から突設される第２被軸支部Ｄ１２３とを備え、突設部Ｄ１４７ｂから受ける駆動力の大きさに応じて、変位される態様を変更可能に構成される。
【９５４４】
第２被軸支部Ｄ１２３は、貫通孔Ｄ１２３ａに挿入される突設部Ｄ１４７ｂが第２正面カムＤ１４７の回転によりベース本体Ｄ２１１１（ベース手段Ｄ２１１０）に対して相対変位されることで、駆動モータＤ１４１の駆動力が第２被軸支部Ｄ１２３に伝達されベース本体Ｄ２１１１（ベース手段Ｄ２１１０）に対して相対変位可能とされる。
【９５４５】
次いで、図５３０及び図５３１を参照して、揺動ユニットＤ２１００の変位態様について説明する。図５３０及び図５３１は、揺動ユニットＤ２１００を正面視した模式図である。なお、図５３０及び図５３１では、第２正面カムＤ２１４７を第１位置に配置した状態における上側揺動手段Ｄ２１２０が実線で図示され、第２正面カムＤ２１４７を第２位置に配置した状態における上側揺動手段Ｄ２１２０が２点鎖線で図示される。また、図５３０では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂ（即ち、第２正面カムＤ２１４７）を回転速度Ｂで回転させた場合における上側揺動手段Ｄ２１２０が図示され、図５３１では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂ（即ち、第２正面カムＤ２１４７）を回転速度Ａで回転させた場合における上側揺動手段Ｄ２１２０が図示される。
【９５４６】
図５３０及び図５３１に示すように、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転させた場合には、その軸部Ｄ１４１ｂが勘合される第２正面カムＤ２１４７が第１位置から第４位置まで順に回転して再度第１位置まで回転されることで１回転される。これにより、第２正面カムＤ２１４７の回転軸に対して偏心する位置に形成される突設部Ｄ１４７ｂが正面視（矢印Ｂ方向視）においてベース本体Ｄ２１１１（ベース手段Ｄ２１１０）に対して相対変位される。この相対変位により、突設部Ｄ１４７ｂに連結される上側揺動手段Ｄ２１２０が、突設部Ｄ１４７ｂと共にベース本体Ｄ２１１１（ベース手段Ｄ２１１０）に対して相対変位可能に構成される。
【９５４７】
ここで、図５３０に示すように、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い速度）で回転させた場合には、正面視（矢印Ｂ方向視）において上側揺動手段Ｄ２１２０の姿勢を維持した状態で、上側揺動手段Ｄ２１２０をスライド変位させることが可能とされる。この場合、上側揺動手段Ｄ２１２０は、正面視における突設部Ｄ１４７ｂと同様の回転の軌跡でスライド変位される。
【９５４８】
即ち、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い速度）で回転させた場合には、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂから上側揺動手段Ｄ２１２０に作用する慣性力を小さくできる。これにより、突設部Ｄ１４７ｂに対して所定の位置に上側揺動手段Ｄ２１２０を吊り下げた状態で、上側揺動手段Ｄ２１２０をベース本体Ｄ２１１１（ベース手段Ｄ２１１０）に対して相対変位させることができる。
【９５４９】
一方、図５３１（ａ）及び図５３１（ｂ）に示すように、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転させた場合には、正面視（矢印Ｂ方向視）において突設部Ｄ１４７ｂと同様の回転の軌跡で上側揺動手段Ｄ２１２０が変位されると共に、突設部Ｄ１４７ｂを軸に上側揺動手段Ｄ２１２０が回転される。
【９５５０】
即ち、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度

）で回転させた場合には、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂから上側揺動手段Ｄ２１２０に作用する慣性力を大きくできる。この慣性力により、突設部Ｄ１４７ｂを軸に上側揺動手段Ｄ２１２０を回転させることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ２１２０は、突設部Ｄ１４７ｂの回転に伴う回転の軌跡で上側揺動手段Ｄ２１２０をスライド変位しつつ、突設部Ｄ１４７ｂを軸に左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）にぐらつきつつ、ベース本体Ｄ２１１１（ベース手段Ｄ２１１０）に対して相対変位することが可能となる。

【９５５１】

このように、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａで回転させて、上側揺動手段Ｄ２１２０を素早く変位させた際には、上側揺動手段Ｄ２１２０に正面視（矢印Ｂ方向視）において回転の軌跡でスライド変位させるだけでなく、上側揺動手段Ｄ２１２０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向側）にぐらつかせる変位をさせることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ１２０による演出効果を向上しやすくできる。

【９５５２】

従って、第８６実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度を変更して、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂの変位速度を変更することで、その突設部Ｄ１４７ｂから変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ２１２０）に作用する駆動力の大きさを変更でき、その突設部Ｄ１４７ｂから受ける駆動力に大きさに応じて変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ１２０）の変位の態様を変更できる。

【９５５３】

また、第８６実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂが回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い回転速度）で回転される際に、上側揺動手段Ｄ２１２０を弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に衝突させることにより、弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力で上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様を変更できるので、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様を複雑化して変位軌跡の予想を困難にすることができる。

【９５５４】

従って、第８６実施形態では、突設部Ｄ１４７ｂから変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ２１２０）に作用する駆動力の大きさを変更した際の上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様を複雑化することで、上側揺動手段Ｄ２１２０の演出が単調になることを抑制できる。これにより、パチンコ機Ｈ１０（図４９７参照）の演出に合わせて、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ２１２０）の変位の態様を変更する（例えば、大当たり後には、軸部Ｄ１４１ｂの回転速度を速くして変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ２１２０）の変位の態様を複雑にして、遊技者に与える興趣を大当たりと共に向上させる）ことで、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９５５５】

また、第８６実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い回転速度）で回転させる場合（即ち、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂから変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ２１２０）が受ける駆動力が小さい場合）には、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ２１２０）が弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）と当接する位置まで変位されず、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い回転速度）で回転させる場合（即ち、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂから変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ２１２０）が受ける駆動力が大きい場合）には、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ２１２０）が弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）と当接する位置まで変位可能に構成される。

【９５５６】

ここで、例えば、第８３実施形態における揺動ユニットＤ１００のように、上側揺動手段Ｄ１２０に上側バネＤ１８１が連結され、上側揺動手段Ｄ１２０に常に上側バネＤ１８１の反力が作用するものでは、上側揺動手段Ｄ１２０に上側バネＤ１８１の反力を確実に作用させることができるが、上側揺動手段Ｄ１２０に常に上側バネＤ１８１の反力が作用する状態となる為、上側揺動手段Ｄ１２０の変位の態様の変化をさせにくいという問題がある。

【９５５７】
これに対し、第８６実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い回転速度）で回転させて突設部Ｄ１４７ｂを変位させる場合には、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ２１２０）が弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力を受けずに変位され、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い回転速度）で回転させて突設部Ｄ１４７ｂを変位させる場合には、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ２１２０）が弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）と当接する位置まで変位されることで、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ２１２０）に弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力を作用させることが可能に構成される。

【９５５８】
即ち、第２正面カムＤ２１４７の回転速度を変化させることで、弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）からの反力を受けずに上側揺動手段Ｄ２１２０が変位される態様と、弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）からの反力を受けて上側揺動手段Ｄ２１２０が変位される態様とを形成できる。よって、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様をより複雑化して変位軌跡の予想を困難にすることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ２１２０の演出が単調となることを抑制でき、変位手段Ｄ１２１（上側揺動手段Ｄ２１２０）の変位による演出効果を向上できる。

【９５５９】
なお、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転させた場合には、その駆動速度が速くなることで上側揺動手段Ｄ２１２０の可動音が遊技者に聞こえる恐れがある。そのため、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転させる場合（即ち、第２正面カムＤ２１４７の回転速度を速くした場合）には、パチンコ機Ｈ１０に配設したスピーカー（図示しない）から放音される遊技音を大きくして、上側揺動手段Ｄ２１２０の可動音が遊技者に聞こえることを抑制しても良い。

【９５６０】
また、第８６実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転し続けた際に、上側揺動手段Ｄ２１２０が過剰に変位する場合には、上側揺動手段Ｄ２１２０を弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に衝突させて、上側揺動手段Ｄ２１２０に弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力を作用させることで上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様に変化を付与することができる。

【９５６１】
この場合、弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）の上側揺動手段Ｄ２１２０との当接面は、弾性バネＤ２１８３ｂが弾性変形されることで、突設部Ｄ１４７ｂに対する上側揺動手段Ｄ２１２０の回転方向に対して、傾斜する方向に回転される。これにより、上側揺動手段Ｄ２１２０が弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に当接した後に、弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力により当接前の回転方向と反対方向に上側揺動手段Ｄ２１２０が変位することを抑制できる。従って、上側揺動手段Ｄ２１２０が弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に当接した際に、上側揺動手段Ｄ２１２０をスムーズに変位させることができ、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位が一時的に停止して、上側揺動手段Ｄ２１２０を変位させることによる演出効果が一時的に低下することを抑制できる。

【９５６２】
また、第２の規制部Ｄ２１１４は、弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に当接され、変位の態様が変化された上側揺動手段Ｄ２１２０が当接可能な位置（即ち、第２正面カムＤ２１４７の回転速度が速く回転される場合の上側揺動手段Ｄ２１２０の変位位置）に形成される。よって、第２の規制部Ｄ２１１４には、弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力により変位の態様が変化された状態の上側揺動手段Ｄ２１２０を当

接させることができる。これにより、上側揺動手段Ｄ２１２０が弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力により、設定外の方向に変位することを抑制できる。

【９５６３】

なお、弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）は、上側揺動手段Ｄ２１２０が回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い速度）で回転される場合に、正面視（矢印Ｂ方向視）において上側揺動手段Ｄ２１２０の姿勢を維持した状態で突設部Ｄ１４７ｂ１の回転に伴う回転の軌跡でスライド変位される上側揺動手段Ｄ２１２０が非当接とされる位置に形成される。即ち、第８６実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度を変更する（即ち、第２正面カムＤ２１４７の回転速度を変更する）ことで、弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の弾性回復力が上側揺動手段Ｄ２１２０に作用する場合と、弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の弾性回復力が上側揺動手段Ｄ２１２０に作用しない場合とを切り替えることが可能とされる。その結果、第８６実施形態では、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様のバリエーションを付与することができ、上側揺動手段Ｄ２１２０の演出効果を向上できる。

【９５６４】

また、上記したように、第１の規制部Ｄ２１１３は、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂの変位速度に関わらず、上側揺動手段Ｄ２１２０を案内可能な位置に形成され、第２の規制部Ｄ２１１４は、上側揺動手段Ｄ２１２０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に過剰に変位した場合に、上側揺動手段Ｄ２１２０を案内可能な位置に形成される。

【９５６５】

即ち、第２正面カムＤ２１４７を第１位置の前後の区間を移動させる場合における上側揺動手段Ｄ２１２０の変位領域では、上側揺動手段Ｄ２１２０が第１の規制部Ｄ２１１３により案内可能に構成され、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａで回転させると共に第２正面カムＤ２１４７を第２位置から第４位置の間で移動させる場合における上側揺動手段Ｄ２１２０の変位領域では、上側揺動手段Ｄ２１２０が第２の規制部Ｄ２１１４により案内可能に構成される。

【９５６６】

そのため、第８６実施形態では、上側揺動手段Ｄ２１２０が第１の規制部Ｄ２１１３に案内された後、上側揺動手段Ｄ２１２０が第２の規制部Ｄ２１１４に案内されるまでの間の領域において、上側揺動手段Ｄ２１２０の案内（規制）を解除して、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の自由度を向上できる。よって、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様を複雑化しやすくできる。その結果、上側揺動手段Ｄ２１２０が第１の規制部Ｄ２１１３に案内された後、上側揺動手段Ｄ２１２０が第２の規制部Ｄ２１１４に案内されるまでの間の領域において、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様を複雑化しやすくできる。その結果、上側揺動手段Ｄ２１２０の演出が単調となることを抑制して、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９５６７】

なお、上記の説明では、第２正面カムＤ２１４７を第１位置から第４位置まで順に変位させる（即ち、第２正面カムＤ２１４７を正面視において時計回りに回転させる）場合について説明したが、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を正面視において反時計回りに回転させるものであっても良く、第２正面カムＤ２１４７を第１位置から第２位置の間や第２位置から第４位置の間など（即ち、第２正面カムＤ２１４７が１回転しない所定の変位区間）で繰り返し往復変位させるものであっても良い。

【９５６８】

これによれば、第２正面カムＤ２１４７の変位の態様を適宜変更することができるので、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様が一様になることを抑制できる。その結果、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９５６９】

また、第２正面カムＤ２１４７を第１位置から第２位置の間や第２位置から第４位置の間など（即ち、第２正面カムＤ２１４７が１回転しない所定の変位区間）で繰り返し往復

変位させる場合には、第２正面カムＤ２１４７の回転方向を反転させる際に、突設部Ｄ１４７ｂから上側揺動手段Ｄ２１２０に作用する慣性力を大きくできる。そのため、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様を大きく変化させることができる。よって、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様を複雑化して変位軌跡の予想を困難にすることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ２１２０の演出が単調になることを抑制して、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９５７０】

また、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度は、第２正面カムＤ２１４７の変位途中に変更可能とされる。よって、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位による演出効果が低下することを抑制できる。

【９５７１】

即ち、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転を一度停止させてから回転速度を切り替えて（設定しなおして）再度回転が開始されるものであっては、回転速度を切り替える度にその回転を停止する必要があるため、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位が断続的になり、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位による演出効果が低下する恐れがある。

【９５７２】

これに対し、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度は、第２正面カムＤ２１４７の変位途中に変更可能とされるので、回転速度を変更する際に上側揺動手段Ｄ２１２０の変位を継続させることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位による演出効果が低下することを抑制できる。

【９５７３】

なお、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度は、第２正面カムＤ２１４７を第１位置から第４位置まで順に（時計回りで）変位させる場合に、１回転目を回転速度Ｂで回転させた後の２回転点目以降を回転速度Ａで回転させたり、第２正面カムＤ２１４７が１回転される毎に回転速度を変更しても良い。

【９５７４】

また、例えば、第２正面カムＤ２１４７を第１位置と第２位置との間（所定の変位区間）で繰り返し往復変位させる場合には、第１位置から第２位置までの変位を回転速度Ｂで回転させた後、第２位置から第１位置までの変位を回転速度Ａで回転させる（往路と復路とで回転速度を変更する）ことで、第２正面カムＤ２１４７を第１位置から第２位置に変位させたことによる上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様と、第２正面カムＤ２１４７を第２位置から第１位置に変位させたことによる上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様とを異ならせることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ２１２０の演出が単調になることを抑制して、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９５７５】

さらに、例えば、第２正面カムＤ２１４７を第１位置と第２位置との間（所定の変位区間）で繰り返し往復変位させる場合には、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ２１４７が１往復動作される毎に回転速度を変更しても良い。

【９５７６】

なお、第２正面カムＤ２１４７を第１位置と第２位置との間（所定の変位区間）で繰り返し往復変位させる場合には、第２正面カムＤ２１４７を第１位置から第２位置に変位させる往路と、第２正面カムＤ２１４７を第２位置から第１位置に変位させる復路とで、その変位区間が同一に設定される。これにより、第２正面カムＤ２１４７の制御を簡素とできる。

【９５７７】

即ち、第２正面カムＤ２１４７の往路と復路とが異なる変位区間に設定される場合には、第２正面カムＤ２１４７の回転量を検出するための検出手段を複数個配設してその回転位置を検出する、若しくは、駆動モータＤ１４１により第２正面カムＤ２１４７の回転量を制御する必要がある。そのため、第２正面カムＤ２１４７の制御が複雑になる。

【９５７８】

これに対し、第２正面カムＤ２１４７を第１位置から第２位置に変位させる往路と、第２正面カムＤ２１４７を第２位置から第１位置に変位させる復路とで、その変位区間を同一に設定することで、ベース本体Ｄ１１１に配設した検出手段Ｄ１１１ｇ（図５１１参照）により、第２正面カムＤ２１４７の位置検出を可能にできる。従って、１個の検出手段Ｄ１１１ｇにより、第２正面カムＤ２１４７の制御をすることができるので、第２正面カムＤ２１４７の制御を簡素にできる。

【９５７９】

また、第２の規制部Ｄ２１１４に上側揺動手段Ｄ２１２０が案内されていることを検出可能な検出装置（図示しない）、又は、弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に当接された後の上側揺動手段Ｄ２１２０を検出可能な検出装置（図示しない）をベース本体Ｄ２１１１に別途配設しても良い。この場合には、検出装置の検出があった（即ち、第２の規制部Ｄ２１１４に上側揺動手段Ｄ２１２０が案内された）際に、第２正面カムＤ２１４７の回転速度を遅くするように駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度を変更（制御）することで、上側揺動手段Ｄ２１２０や突設部Ｄ１４７ｂに作用する負荷が過大になり、それら上側揺動手段Ｄ２１２０や突設部Ｄ１４７ｂが破損すること、及び、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位量が大きくなることで、上側揺動手段Ｄ２１２０が他の部材（例えば、センターフレームＡ８６）に当接して、上側揺動手段Ｄ２１２０の周囲に配設される他の部材が破損することを抑制できる。

【９５８０】

なお、第２の規制部Ｄ２１１４に上側揺動手段Ｄ２１２０が案内されていることを検出可能な検出装置（図示しない）、又は、弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に当接された後の上側揺動手段Ｄ２１２０を検出可能な検出装置（図示しない）は、製造コストが嵩むため、配設しなくても良い。この場合には、弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）のばね定数を小さくして、上側揺動手段Ｄ２１２０が弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に衝突した後に、弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力が上側揺動手段Ｄ２１２０に過大に作用することを抑制することが好ましい。上側揺動手段Ｄ２１２０の変位量が大きくなることで、上側揺動手段Ｄ２１２０が他の部材（例えば、センターフレームＡ８６）に当接して、上側揺動手段Ｄ２１２０の周囲に配設される他の部材が破損することを抑制できるからである。

【９５８１】

また、第２の規制部Ｄ２１１４に上側揺動手段Ｄ２１２０が案内されていることを検出可能な検出装置（図示しない）、又は、弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に当接された後の上側揺動手段Ｄ２１２０を検出可能な検出装置（図示しない）をベース本体Ｄ２１１１に別途配設する場合には、その検出装置の検出がされた際に、所定の演出態様を第３図柄表示装置Ｈ８１やスピーカー（図示しない）で報知するように構成しても良い。

【９５８２】

これによれば、大当たりの期待度が高い抽選がされている場合や、大当たりした場合に上側揺動手段Ｄ２１２０を過大に変位させて、その変位を検出手段に検出させることで、複雑化された上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様と共に、第３図柄表示装置Ｈ８１やスピーカー（図示しない）による演出を遊技者に認識させることができる。その結果、第３図柄表示装置Ｈ８１やスピーカー（図示しない）による演出を利用して、遊技者に期待感を持たせることができる。

【９５８３】

なお、第２の規制部Ｄ２１１４に上側揺動手段Ｄ２１２０が案内されていることを検出可能な検出装置（図示しない）、又は、弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に当接された後の上側揺動手段Ｄ２１２０を検出可能な検出装置（図示しない）の検出がされた際に、所定の演出態様を第３図柄表示装置Ｈ８１やスピーカー（図示しない）で報知しなくても良い。この場合には、検出装置と第３図柄表示装置Ｈ８１やスピーカーとを関係づけた演出ができなくなるため、遊技の興趣を十分に向上できなくなるが、検出装置と第

３図柄表示装置Ｈ８１やスピーカーとの演出とを対応させなくて良いので、それらの制御を簡易にできる。

【９５８４】

次いで、図５３２から図５３５を参照して、第８７実施形態における揺動ユニットＤ３１００について説明する。上記第８３実施形態では、上側揺動手段Ｄ１２０が１つの構成体として形成される場合について説明したが、第８７実施形態では、上側揺動手段Ｄ３１２０が２分割されて形成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【９５８５】

初めに、図５３２を参照して、第８７実施形態における揺動ユニットＤ３１００の全体構成について説明する。図５３２（ａ）は、第８７実施形態における揺動ユニットＤ３１００を正面視した模式図であり、図５３２（ｂ）は、図５３２（ａ）のＥ０２ｂ－Ｅ０２ｂ線における揺動ユニットＤ３１００の模式断面図であり、図５３２（ｃ）は、図５３２（ａ）のＥ０２ｃ－Ｅ０２ｃ線における揺動ユニットＤ３１００の断面模式図である。なお、第８７実施形態においては、第８３実施形態における揺動ユニットＤ１００と同様に上側揺動手段Ｄ３１２０の下方側に下側揺動手段Ｄ１３０（図５１０参照）が配設されても良いが、以下の説明では、下側揺動手段Ｄ１３０が配設されないものとして説明する。

【９５８６】

また、図５３２（ａ）では、上側装飾ユニットＨ１４ａが配設される上方側（矢印Ｕ方向側）における窓部Ｈ１４ｅの境界が上側視認可能範囲Ｈ１４ｅ１として図示され、左側装飾ユニットＨ１４ｂが配設される左側（矢印Ｌ方向側）における窓部Ｈ１４ｅの境界が左側視認可能範囲Ｈ１４ｅ２として図示され、右側装飾ユニットＨ１４ｃが配設される右側（矢印Ｒ方向側）における窓部Ｈ１４ｅの境界が右側視認可能範囲Ｈ１４ｅ３として図示される。

【９５８７】

図５３２に示すように、第８７実施形態における揺動ユニットＤ３１００は、正面視において門型に形成されるベース手段Ｄ３１１０と、そのベース手段Ｄ３１１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される上側揺動手段Ｄ３１２０と、その上側揺動手段Ｄ３１２０に駆動力を付与する上側動力付与手段Ｄ３１４０とを主に備える。

【９５８８】

なお、揺動ユニットＤ３１００は、窓部Ｈ１４ｅを介して視認された際に、少なくとも後述する上側揺動手段Ｄ３１２０の全域が視認可能とされる位置に配設される。また、第８７実施形態では、上側揺動手段Ｄ３１２０が窓部Ｈ１４ｅを介した視認領域内で変位可能に構成されており、上側揺動手段Ｄ３１２０の変位を遊技者に視認させることが可能とされる。そのため、第８７実施形態では、ベース手段Ｄ３１１０と、そのベース手段Ｄ３１１０に配設される各部材（上側揺動手段Ｄ３１２０、上側動力付与手段Ｄ３１４０）との少なくとも一部が窓部Ｈ１４ｅを介した視認領域内に配設され、パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から視認可能とされる。

【９５８９】

ベース手段Ｄ３１１０は、正面視において門型に形成されるベース本体Ｄ３１１１と、そのベース本体Ｄ３１１１の正面側に突設されるレール手段Ｄ３１１５と、そのレール手段Ｄ３１１５の正面側に覆設されるカバー部材Ｄ３１１６と、後述する上側揺動手段Ｄ３１２０の他方側（矢印Ｌ方向側）に配設される付勢手段Ｄ２１８３と、を主に備える。

【９５９０】

なお、第８７実施形態においては、ベース手段Ｄ３１１０は、ベース本体Ｄ３１１１と、レール手段Ｄ３１１５とが一体の樹脂材料から形成されるが、ベース本体Ｄ３１１１と、レール手段Ｄ３１１５とを、異なる部材から形成しても良い。例えば、レール手段Ｄ３１１５は、後述するように上側揺動手段Ｄ３１２０の摺動箇所となるので、剛性を高めるために、金属材料から形成しても良い。

【９５９１】

ベース本体Ｄ３１１１は、後述する上側動力付与手段Ｄ３１４０を配設するためのベースであり、その上側動力付与手段Ｄ３１４０を配設するための螺子（図示しない）の締結孔が所定の箇所に形成される。

【９５９２】

また、ベース本体Ｄ３１１１には、後述する上側動力付与手段Ｄ３１４０の駆動力を背面側（矢印Ｂ方向側）から正面側（矢印Ｆ方向側）に伝達するための挿通孔Ｄ１１１ａ，Ｄ１１１ｂ（図５１１参照）が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成される。

【９５９３】

レール手段Ｄ３１１５は、ベース本体Ｄ３１１１の上方に形成される上側レールＤ３１１５ａと、その上側レールＤ３１１５ａと所定の間隔を隔てて並設される下側レールＤ３１１５ｂとを備え、それら上側レールＤ３１１５ａと下側レールＤ３１１５ｂとの対向間で、後述する上側揺動手段Ｄ３１２０の第２変位手段Ｄ３１２５を案内可能に構成される。

【９５９４】

カバー部材Ｄ３１１６は、上側レールＤ３１１５ａと下側レールＤ３１１５ｂとの対向間に配設した上側揺動手段Ｄ３１２０の第２変位手段Ｄ３１２５が正面側に向かって脱落することを抑制する部材であり、上側レールＤ３１１５ａと下側レールＤ３１１５ｂとの対向間に第２変位手段Ｄ３１２５を配設した状態で、上側レールＤ３１１５ａの正面側端部に配設可能に構成される。なお、カバー部材Ｄ３１１６及び下側レールＤ３１１５ｂは、それらカバー部材Ｄ３１１６及び下側レールＤ３１１５ｂの対向間に第２変位手段Ｄ３１２５が変位可能な空間を形成可能な大きさに形成される。これにより、第２変位手段Ｄ３１２５は、レール手段Ｄ３１１５に支持された状態で上側レールＤ３１１５ａと下側レールＤ３１１５ｂとの対向間を変位可能とされる。

【９５９５】

上側動力付与手段Ｄ３１４０は、電力が付与されることで、軸部Ｄ１４１ｂが回転する駆動モータＤ１４１と、その駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂに配設される駆動ギヤＤ１４２と、その駆動ギヤＤ１４２に歯合する歯を有する第１正面カムＤ１４３とを主に備える。なお、第８７実施形態における第１正面カムＤ１４３は、背面側のギヤ部Ｄ１４３ａに形成される被軸支部Ｄ１４３ａ１がベース本体Ｄ３１１１の挿通孔Ｄ１１１ｂ（図５１１参照）に軸支され、駆動ギヤＤ１４２により駆動モータＤ１４１の駆動力が伝達されることで、被軸支部Ｄ１４３ａ１の軸を中心に回転可能に構成される。

【９５９６】

上側揺動手段Ｄ３１２０は、正面視（矢印Ｂ方向視）においてベース本体Ｄ３１１１の第１正面カムＤ１４３が配設される側（矢印Ｌ方向側）に配設される変位手段Ｄ３１２１と、その変位手段に相対変位可能に連結される第２変位手段Ｄ３１２５と、変位手段Ｄ３１２１の外縁から突設される第１被軸支部Ｄ１２２と、第２変位手段Ｄ３１２４の上方側（矢印Ｕ方向側）の外縁から突設される第１被案内手段Ｄ３１２６と、第２変位手段Ｄ３１２５の変位手段Ｄ３１２１が連結される側（矢印Ｌ方向側）と反対側（矢印Ｒ方向側）における外縁から突設される第２被案内手段Ｄ３１２７とを主に備え、突設部Ｄ１４３ｂ２から受ける駆動力の大きさに応じて、変位される態様を変更可能に構成される。

【９５９７】

なお、第８７実施形態における上側揺動手段Ｄ３１２０では、変位手段Ｄ３１２１及び第２変位手段Ｄ３１２５の全体が正面視（矢印Ｂ方向視）において左右方向に長い略半円形状に形成され、円弧状に形成される上面側（矢印Ｕ方向側）の一部がセンターフレームＡ８６（図４９８参照）の内縁に沿う位置に配設される。また、変位手段Ｄ３１２１及び第２変位手段Ｄ３１２５は、パチンコ機Ｈ１０の第３図柄表示装置Ｈ８１（図４９８参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に少なくとも一部が重なる位置に配設され、その重なった状態で変位されることで、正面視（矢印Ｂ方向視）における第３図柄表示装置Ｈ８１の視認可能な領域を変更可能とされる。

【９５９８】

また、第８７実施形態における変位手段Ｄ３１２１及び第２変位手段Ｄ３１２５は、第８３実施形態と同様に、光を反射可能な反射材料から形成される反射部Ｄ１２１ａと、光を透過可能な光透過部Ｄ１２１ｂとを少なくとも一部に備えると共に、光を出射可能な発光手段（図示しない）を変位手段Ｄ３１２１及び第２変位手段Ｄ３１２５のそれぞれの内部に備えて構成されるが、第８３実施形態と同様に、反射部Ｄ１２１ａ、又は、光透過部Ｄ１２１ｂのどちらか一方のみで構成されるものであっても良い。

【９５９９】

更に、変位手段Ｄ３１２１には、第２変位手段Ｄ３１２５を連結するための連結手段Ｄ３１２１ｃが形成され、第２変位手段Ｄ３１２５には、変位手段Ｄ３１２１の連結手段Ｄ３１２１ｃが連結される被連結手段Ｄ３１２５ａが形成される。

【９６００】

連結手段Ｄ３１２１ｃは、変位手段Ｄ３１２１の背面側の外縁から第２変位手段Ｄ３１２５側に向かって突出される突出部Ｄ３１２１ｃ１と、その突出部Ｄ３１２１ｃ１から正面側に突設される軸部Ｄ３１２１ｃ２と、その軸部Ｄ３１２１ｃ２の周囲において変位手段Ｄ３１２１の正面側を凹設した凹設部Ｄ３１２１ｃ３とを備える。

【９６０１】

被連結手段Ｄ３１２５ａは、第２変位手段Ｄ３１２５の正面側の外縁から変位手段Ｄ３１２１側に向かって突出される突出部Ｄ３１２５ｂと、その突出部Ｄ３１２５ｂに形成される貫通孔に内嵌される被保持手段Ｄ３１２５ｃと、その被保持手段Ｄ３１２５ｃの周囲において第２変位手段Ｄ３１２５の背面側を凹設した凹設部Ｄ３１２５ｄとを備える。

【９６０２】

変位手段Ｄ３１２１と第２変位手段Ｄ３１２５とは、変位手段Ｄ３１２１の軸部Ｄ３１２１ｃ２が、第２変位手段Ｄ３１２５の被保持手段Ｄ３１２５ｃに挿通されることで、互いが相対変位可能な状態で連結される。なお、被保持手段Ｄ３１２５ｃは、軸部Ｄ３１２１ｃ２が相対回転可能な状態で挿入される円環状の内リングＤ３１２５ｃ１と、その内リングＤ３１２５ｃ１の外側に所定の距離を離して配設される外リングＤ３１２５ｃ２と、それら内リングＤ３１２５ｃ１と外リングＤ３１２５ｃ２との間に配設される弾性変形可能な弾性部材Ｄ３１２５ｃ３とから構成され、弾性部材Ｄ３１２５ｃ３を弾性変形させることで、外リングＤ３１２５ｃ２に対する内リングＤ３１２５ｃ１の相対位置を軸部Ｄ３１２１ｃ２と共に変位可能に構成される。

【９６０３】

変位手段Ｄ３１２１の凹設部Ｄ３１２１ｃ３及び第２変位手段Ｄ３１２５の凹設部Ｄ３１２５ｄは、変位手段Ｄ３１２１の突出部Ｄ３１２１ｃ１及び第２変位手段Ｄ３１２５の突出部Ｄ３１２５ｂの突出先端側が、正面視における変位手段Ｄ３１２１の外縁および第２変位手段Ｄ３１２５の外縁に当接することを抑制する空間を形成する凹部であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の大きさで形成される。

【９６０４】

第１被案内手段Ｄ３１２６は、第２変位手段Ｄ３１２５の外縁から突設される板状の突出部Ｄ３１２６ａと、その突出部Ｄ３１２６ａから背面側に向かってと突設される軸部Ｄ３１２６ｂと、その軸部Ｄ３１２６ｂに回転可能な状態で軸支される転動部材Ｄ３１２６ｃとを備え、転動部材Ｄ３１２６ｃがレール手段Ｄ３１１５の上側レールＤ３１１５ａと下側レールＤ３１１５ｂとの対向間に案内（転動）可能な状態で収容される。これにより、第２変位手段Ｄ３１２５は、変位手段Ｄ３１２１から駆動力が連結手段Ｄ３１２１ｃ及び被連結手段Ｄ３１２５ａを介して伝達されると、ベース本体Ｄ３１１１（ベース手段Ｄ３１１０）に対して左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位可能とされる。

【９６０５】

第２被案内手段Ｄ３１２７は、第２変位手段Ｄ３１２５が変位手段Ｄ３１２１から離れる方向（矢印Ｒ方向）に過剰に変位した際に、弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に当接させて、第２変位手段Ｄ３１２５の変位を抑えるための当接部分であり、変位手段Ｄ３１２１に連結される側（矢印Ｌ方向側）と反対側（矢印Ｒ方向側）に形成される。

【９６０６】
次いで、図５３３及び図５３４を参照して、揺動ユニットＤ３１００の変位態様について説明する。図５３３（ａ）及び図５３３（ｂ）、図５３４（ａ）及び図５３４（ｂ）、図５３５（ａ）及び図５３５（ｂ）は、上側揺動手段Ｄ３１２０及び上側動力付与手段Ｄ３１４０の正面視における模式図である。なお、図５３３及び図５３４では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い回転速度）で回転させた場合の上側揺動手段Ｄ３１２０の遷移状態が図５３３（ａ）、図５３３（ｂ）、図５３４（ａ）、図５３４（ｂ）の順に図示され、図５３５では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い回転速度）で回転させた場合の上側揺動手段Ｄ３１２０の遷移状態が図５３５（ａ）、図５３５（ｂ）の順に図示される。

【９６０７】
また、図５３３～図５３４では、第１正面カムＤ１４３が第１位置に維持される状態における上側揺動手段Ｄ３１２０の第２変位手段Ｄ３１２５の変位手段Ｄ３１２１側の端部に沿ってその基準線がＤＫ１の符号を付して２点鎖線で図示される。

【９６０８】
なお、以下の説明では、第１正面カムＤ１４３が正面視において反時計回りに回転される場合（即ち、第１正面カムＤ１４３が第１位置、第４位置、第３位置、第２位置の順で回転される場合）について説明する。

【９６０９】
図５３３～図５３５に示すように、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂ（図５３２（ａ）参照）を回転させた場合には、その軸部Ｄ１４１ｂが勘合される駆動ギヤＤ１４２（図５３２（ａ）参照）が回転されることで、第１正面カムＤ１４３が回転される。これにより、第１正面カムＤ１４３の回転軸に対して偏心する位置に形成される突設部Ｄ１４３ｂ２が正面視においてベース本体Ｄ３１１１（図５３２（ａ）参照）に対して相対変位される。この相対変位により、突設部Ｄ１４３ｂ２に連結される変位手段Ｄ３１２１が、突設部Ｄ１４３ｂ２と共にベース本体Ｄ３１１１に対して相対変位可能に構成される。また、変位手段Ｄ３１２１に作用する駆動力が、連結手段Ｄ３１２１ｃ及び被連結手段Ｄ３１２５ａを介して第２変位手段Ｄ３１２５に伝達され、第２変位手段Ｄ３１２５が変位手段Ｄ３１２１と共に変位するように構成される。

【９６１０】
ここで、図５３３及び図５３４に示すように、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い速度）で回転させた場合には、ベース本体Ｄ３１１１（図５３２（ａ）参照）に対する突設部Ｄ１４３ｂ２の変位に伴って、変位手段Ｄ３１２１が正面視において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）及び上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位される。この場合、変位手段Ｄ３１２１の連結手段Ｄ３１２１ｃが第２変位手段Ｄ３１２５の被連結手段Ｄ３１２５ａに連結されるので、変位手段Ｄ３１２１は、突設部Ｄ１４３ｂ２を軸に突設部Ｄ１４３ｂ２に対して回転しつつ、正面視において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）及び上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にスライド変位される。

【９６１１】
また、第２変位手段Ｄ３１２５は、変位手段Ｄ３１２１の変位に伴って被連結手段Ｄ３１２５ａが左右方向に変位されることで、第１被案内手段Ｄ３１２６の転動部材Ｄ３１２６ｃがレール手段Ｄ３１１５（図５３２（ｃ）参照）の下側レールＤ３１１５ｂ（図５３２（ｃ）参照）上を転動して、基準位置ＤＫ１に対して左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位される。

【９６１２】
なお、図５３３及び図５３４に示すように、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い速度）で回転させた場合には、第２変位手段Ｄ３１２５被保持手段Ｄ３１２５ｃに対する変位手段Ｄ３１２１の軸部Ｄ３１２１ｃ２の相対位置を維持できる（即ち、連結手段Ｄ３１２１ｃの軸部Ｄ３１２１ｃ２から作用される駆動力で、被保持手段Ｄ３１２５ｃの弾性部材Ｄ３１２５ｃ３が弾性変形しない状態とされる）の

で、正面視における変位手段Ｄ３１２１の外縁と第２変位手段Ｄ３１２５の外縁との間に所定の隙間を空けることができる。これにより、第２変位手段Ｄ３１２５に変位手段Ｄ３１２１が当接して、第２変位手段Ｄ３１２５が変位手段Ｄ３１２１の変位方向に変位されることを抑制できる。

【９６１３】

即ち、第８７実施形態においては、第１正面カムＤ１４３の回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い速度）の回転により、変位手段Ｄ３１２１と第２変位手段Ｄ３１２５との２部材に異なる変位をさせることができる。これにより、上側揺動手段Ｄ３１２０による演出効果を向上できる。

【９６１４】

一方、図５３５（ａ）及び図３４（ｂ）に示すように、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転させた場合には、連結手段Ｄ３１２１ｃの軸部Ｄ３１２１ｃ２から作用される駆動力により、被保持手段Ｄ３１２５ｃの弾性部材Ｄ３１２５ｃ３が弾性変形される。これにより、第２変位手段Ｄ３１２５被保持手段Ｄ３１２５ｃに対する変位手段Ｄ３１２１の軸部Ｄ３１２１ｃ２の相対位置が変更され、正面視における変位手段Ｄ３１２１の外縁が第２変位手段Ｄ３１２５の外縁に当接可能とされる（即ち、変位手段Ｄ３１２１が第２変位手段Ｄ３１２５に近づく方向に変位される）。

【９６１５】

第８７実施形態においては、上記した変位手段Ｄ３１２１と第２変位手段Ｄ３１２５との当接により、図５３５（ｂ）に示すように、第２変位手段Ｄ３１２５を変位手段Ｄ３１２１の変位方向に変位させることが可能とされる。これにより、第１被案内手段Ｄ３１２６の転動部材Ｄ３１２６ｃがレール手段Ｄ３１１５（図５３２（ｃ）参照）の下側レールＤ３１１５ｂ（図５３２（ｃ）参照）上を転動する左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の変位だけでなく、変位手段Ｄ３１２１が当接することによる上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の変位を第２変位手段Ｄ３１２５に付与することができる。

【９６１６】

即ち、第８７実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度を変更することにより、変位手段Ｄ３１２１と第２変位手段Ｄ３１２５との相対位置を近接または離間させることが可能に構成され、変位手段Ｄ３１２１が第２変位手段Ｄ３１２５に近接させる場合に、変位手段Ｄ３１２１を第２変位手段Ｄ３１２５に当接させることで、変位手段Ｄ３１２１と第２変位手段Ｄ３１２５とが互いに作用し合った状態で変位させることができる。よって、変位手段Ｄ３１２１と第２変位手段Ｄ３１２５との変位の態様を複雑化して変位軌跡の予想を困難にすることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ３１２０の演出が単調になることを抑制して、上側揺動手段Ｄ３１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９６１７】

また、第８７実施形態では、変位手段Ｄ３１２１が当接することにより、第２変位手段Ｄ３１２５が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に過剰に変位される場合には、第２変位手段Ｄ３１２５を弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に衝突させることができる。この衝突により、第８７実施形態では、第２変位手段Ｄ３１２５に弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力を作用させて、第２変位手段Ｄ３１２５の変位の態様を複雑化することができる。

【９６１８】

なお、弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）の第２変位手段Ｄ２１２５との当接面は、弾性バネＤ２１８３ｂが弾性変形されることで、突設部Ｄ１４７ｂに対する上側揺動手段Ｄ２１２０の回転方向に対して、傾斜する方向に回転される。これにより、第２変位手段Ｄ３１２５が弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に当接した後に、その反力により当接前の変位方向と反対方向に第２変位手段Ｄ２１２５が変位することを抑制できる。従って、第２変位手段Ｄ３１２５が弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に

当接した際に、第２変位手段Ｄ３１２５をスムーズに変位させることができ、第２変位手段Ｄ３１２５の変位が一時的に停止して、第２変位手段Ｄ３１２５を変位させることによる演出効果が一時的に低下することを抑制できる。

【９６１９】

従って、第８７実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度を変更して、第１正面カムＤ１４３の突設部Ｄ１４３ｂ２の変位速度を変更することで、その突設部Ｄ１４３ｂ２から変位手段Ｄ３１２１及び第２変位手段Ｄ３１２５に作用する駆動力の大きさを変更でき、その突設部Ｄ１４３ｂ２から受ける駆動力に大きさに応じて変位手段Ｄ３１２１及び第２変位手段Ｄ３１２５の変位の態様を変更できる。

【９６２０】

また、第８７実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂが回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い回転速度）で回転される際に、第２変位手段Ｄ３１２５を弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に衝突させることにより、弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力で上側揺動手段Ｄ３１２０の変位の態様を変更できるので、上側揺動手段Ｄ３１２０の変位の態様を複雑化して変位軌跡の予想を困難にすることができる。

【９６２１】

従って、第８７実施形態では、突設部Ｄ１４３ｂ２から変位手段Ｄ３１２１（上側揺動手段Ｄ３１２０）に作用する駆動力の大きさを変更した際の上側揺動手段Ｄ３１２０の変位の態様を複雑化することで、上側揺動手段Ｄ３１２０の演出が単調になることを抑制できる。これにより、パチンコ機Ｈ１０（図４９７参照）の演出に合わせて、変位手段Ｄ３１２１及び第２変位手段Ｄ３１２５（上側揺動手段Ｄ３１２０）の変位の態様を変更する（例えば、大当たり後には、軸部Ｄ１４１ｂの回転速度を速くして変位手段Ｄ３１２１及び第２変位手段Ｄ３１２５（上側揺動手段Ｄ３１２０）の変位の態様を複雑にして、遊技者に与える興趣を大当たりと共に向上させる）ことで、上側揺動手段Ｄ３１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９６２２】

また、第８７実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い回転速度）で回転させる場合（即ち、第１正面カムＤ１４３の突設部Ｄ１４３ｂ２から変位手段Ｄ３１２１及び第２変位手段Ｄ３１２５が受ける駆動力が小さい場合）には、第２変位手段Ｄ３１２５が弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）と当接する位置まで変位されず、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い回転速度）で回転させる場合（即ち、第１正面カムＤ２１４３の突設部Ｄ１４３ｂ２から変位手段Ｄ３１２１及び第２変位手段Ｄ３１２５が受ける駆動力が大きい場合）には、第２変位手段Ｄ３１２５が弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）と当接する位置まで変位可能に構成される。

【９６２３】

そのため、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い回転速度）で回転させて突設部Ｄ１４３ｂ２を変位させる場合には、第２変位手段Ｄ３１２５が弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力を受けずに変位され、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い回転速度）で回転させて突設部Ｄ１４３ｂ２を変位させる場合には、第２変位手段Ｄ３１２５が弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力を受けて変位される。これにより、第２変位手段Ｄ３１２５の変位の態様を複雑化することができる。その結果、上側揺動手段Ｄ３１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９６２４】

なお、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転させた場合には、その駆動速度が速くなることで上側揺動手段Ｄ３１２０の可動音が遊技者に聞こえる恐れがある。そのため、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転させる場合（即ち、第１正面カムＤ１４３の回転速度を速くした場合）には、パチンコ機Ｈ１０に配設したスピーカー（図示しない

）から放音される遊技音を大きくして、上側揺動手段Ｄ３１２０の可動音が遊技者に聞こえることを抑制しても良い。

【９６２５】

なお、上記の説明では、第１正面カムＤ１４３を第１位置、第４位置、第３位置、第２位置の順に変位させる（即ち、第１正面カムＤ１４３を正面視において半時計回りに回転させる）場合について説明したが、第１正面カムＤ１４３を正面視において時計回りに回転させるものであっても良く、第１正面カムＤ１４３を第１位置から第２位置の間や第２位置から第４位置の間など（即ち、第１正面カムＤ１４３が１回転しない所定の変位区間）で繰り返し往復変位させるものであっても良い。

【９６２６】

これによれば、第１正面カムＤ１４３の変位の態様を適宜変更することができるので、上側揺動手段Ｄ３１２０の変位の態様が一様になることを抑制できる。その結果、上側揺動手段Ｄ３１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９６２７】

また、第１正面カムＤ１４３を第１位置から第２位置の間や第２位置から第４位置の間など（即ち、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７が１回転しない所定の変位区間）で繰り返し往復変位させる場合には、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７の回転方向を反転させる際に、突設部Ｄ１４３ｂ２から上側揺動手段Ｄ３１２０に作用する慣性力を大きくできる。そのため、上側揺動手段Ｄ３１２０の変位の態様を大きく変化させることができる。よって、上側揺動手段Ｄ３１２０の変位の態様を複雑化して変位軌跡の予想を困難にすることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ３１２０の演出が単調になることを抑制して、上側揺動手段Ｄ３１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９６２８】

また、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度は、第１正面カムＤ１４３の変位途中に変更可能とされる。よって、上側揺動手段Ｄ３１２０の変位による演出効果が低下することを抑制できる。

【９６２９】

即ち、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転を一度停止させてから回転速度を切り替えて（設定しなおして）再度回転が開始されるものであっては、回転速度を切り替える度にその回転を停止する必要があるため、上側揺動手段Ｄ３１２０の変位が断続的になり、上側揺動手段Ｄ３１２０の変位による演出効果が低下する恐れがある。

【９６３０】

これに対し、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度は、第１正面カムＤ２１４３の変位途中に変更可能とされるので、回転速度を変更する際に上側揺動手段Ｄ３１２０の変位を継続させることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ３１２０の変位による演出効果が低下することを抑制できる。

【９６３１】

なお、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度は、第１正面カムＤ１４３を第１位置から第４位置まで順に（時計回りで）変位させる場合に、１回転目を回転速度Ｂで回転させた後の２回転点目以降を回転速度Ａで回転させたり、第１正面カムＤ１４３が１回転される毎に回転速度を変更しても良い。

【９６３２】

また、例えば、第１正面カムＤ１４３を第１位置と第２位置との間（所定の変位区間）で繰り返し往復変位させる場合には、第１位置から第２位置までの変位を回転速度Ｂで回転させた後、第２位置から第１位置までの変位を回転速度Ａで回転させる（往路と復路とで回転速度を変更する）ことで、第１正面カムＤ１４３を第１位置から第２位置に変位させたことによる上側揺動手段Ｄ３１２０の変位の態様と、第１正面カムＤ１４３を第２位置から第１位置に変位させたことによる上側揺動手段Ｄ３１２０の変位の態様とを異ならせることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ３１２０の演出が単調になることを抑制して、上側揺動手段Ｄ３１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９６３３】
さらに、例えば、第１正面カムＤ１４３を第１位置と第２位置との間（所定の変位区間）で繰り返し往復変位させる場合には、第１正面カムＤ１４３が１往復動作される毎に回転速度を変更しても良い。
【９６３４】
なお、第１正面カムＤ１４３を第１位置と第２位置との間（所定の変位区間）で繰り返し往復変位させる場合には、第１正面カムＤ１４３を第１位置から第２位置に変位させる往路と、第１正面カムＤ１４３を第２位置から第１位置に変位させる復路とで、その変位区間が同一に設定される。これにより、第１正面カムＤ１４３の制御を簡素とできる。
【９６３５】
即ち、第１正面カムＤ１４３の往路と復路とが異なる変位区間に設定される場合には、第１正面カムＤ１４３の回転量を検出するための検出手段を複数個配設してその回転位置を検出する、若しくは、駆動モータＤ１４１により第１正面カムＤ１４３の回転量を制御する必要がある。そのため、第１正面カムＤ１４３の制御が複雑になる。
【９６３６】
これに対し、第１正面カムＤ１４３を第１位置から第２位置に変位させる往路と、第１正面カムＤ１４３を第２位置から第１位置に変位させる復路とで、その変位区間を同一に設定することで、ベース本体Ｄ３１１１に配設した検出手段Ｄ１１１ｇ（図５１１参照）により、第１正面カムＤ１４３の位置検出を可能にできる。従って、１個の検出手段Ｄ１１１ｇにより、第１正面カムＤ１４３の制御をすることができるので、第１正面カムＤ１４３の制御を簡素にできる。
【９６３７】
次いで、図５３６から図５３８を参照して、第８８実施形態における揺動ユニットＤ４１００について説明する。上記第８３実施形態では、上側揺動手段Ｄ１２０に駆動力を伝達する第１正面カムＤ１４３、第２正面カムＤ１４７に上側揺動手段Ｄ１２０が支持（接続）される場合について説明したが、第８８実施形態では、上側揺動手段Ｄ４１２０に駆動力を伝達する第２正面カムＤ１４７に対して上側揺動手段Ｄ４１２０が非接続とされる場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には、同一の符号を付してその説明は省略する。
【９６３８】
初めに、図５３６及び図５３７を参照して、第８８実施形態における揺動ユニットＤ４１００の全体構成について説明する。図５３６（ａ）は、第８８実施形態における揺動ユニットＤ４１００を正面視した模式図であり、図５３６（ｂ）は、図５３６（ａ）のＥ０３ｂ－Ｅ０３ｂ線における揺動ユニットＤ４１００の模式断面図であり、図５３６（ｃ）は、図５３６（ａ）のＥ０３ｃ－Ｅ０３ｃ線における揺動ユニットＤ４１００の模式断面図である。図５３７（ａ）は、図５３６（ａ）のＥ０４ａ－Ｅ０４ａ線における揺動ユニットＤ４１００の断面模式図であり、図５３７（ｂ）及び図５３７（ｃ）は、図５３７（ａ）のＥ０４ｂ－Ｅ０４ｂ線における揺動ユニットＤ４１００の断面模式図である。
【９６３９】
なお、第８８実施形態においては、第８３実施形態における揺動ユニットＤ１００と同様に上側揺動手段Ｄ４１２０の下方側に下側揺動手段Ｄ１３０（図５１０参照）が配設されても良いが、以下の説明では、下側揺動手段Ｄ１３０が配設されないものとして説明する。また、図５３７（ｂ）では、上側揺動手段Ｄ４１２０が変位される前の状態における揺動ユニットＤ４１００の断面が図示され、図５３７（ｃ）では、上側揺動手段Ｄ４１２０が変位される途中の状態における揺動ユニットＤ４１００の断面が図示される。
【９６４０】
また、図５３６（ａ）では、上側装飾ユニットＨ１４ａが配設される上方側（矢印Ｕ方向側）における窓部Ｈ１４ｅの境界が上側視認可能範囲Ｈ１４ｅ１として図示され、左側装飾ユニットＨ１４ｂが配設される左側（矢印Ｌ方向側）における窓部Ｈ１４ｅの境界が左側視認可能範囲Ｈ１４ｅ２として図示され、右側装飾ユニットＨ１４ｃが配設される右

側（矢印Ｒ方向側）における窓部Ｈ１４ｅの境界が右側視認可能範囲Ｈ１４ｅ３として図示される。

【９６４１】

図５３６及び図５３７に示すように、第８８実施形態における揺動ユニットＤ４１００は、正面視（矢印Ｂ方向視）において門型に形成されるベース手段Ｄ４１１０と、そのベース手段Ｄ４１１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される上側揺動手段Ｄ４１２０と、その上側揺動手段Ｄ４１２０に駆動力を付与する上側動力付与手段Ｄ２１４０とを主に備える。

【９６４２】

なお、揺動ユニットＤ４１００は、窓部Ｈ１４ｅを介して視認された際に、少なくとも後述する上側揺動手段Ｄ４１２０の全域が視認可能とされる位置に配設される。また、第８８実施形態では、上側揺動手段Ｄ４１２０が窓部Ｈ１４ｅを介した視認領域内で変位可能に構成されており、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位を遊技者に視認させることが可能とされる。そのため、第８８実施形態では、ベース手段Ｄ４１１０と、そのベース手段Ｄ４１１０に配設される各部材（上側揺動手段Ｄ４１２０、上側動力付与手段Ｄ２１４０）との少なくとも一部が窓部Ｈ１４ｅを介した視認領域内に配設され、パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から視認可能とされる。

【９６４３】

ベース手段Ｄ４１１０は、正面視（矢印Ｂ方向視）において門型に形成されるベース本体Ｄ３１１１と、そのベース本体Ｄ３１１１の正面側（矢印Ｆ方向側）に突設される上側案内部Ｄ４１１７及び下側案内部Ｄ４１１８と、それら上側案内部Ｄ４１１７及び下側案内部Ｄ４１１８のそれぞれの正面側に配設されるカバー部材Ｄ４１１６と、下側案内部Ｄ４１１８の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側端部に配設される付勢手段Ｄ２１８３と、を主に備える。

【９６４４】

なお、第８８実施形態においては、ベース手段Ｄ４１１０は、ベース本体Ｄ４１１１と、上側案内部Ｄ４１１７及び下側案内部Ｄ４１１８とが一体の樹脂材料から形成されるが、ベース本体Ｄ４１１１と、上側案内部Ｄ４１１７と、下側案内部Ｄ４１１８とを、それぞれ異なる部材から形成しても良い。例えば、上側案内部Ｄ４１１７及び下側案内部Ｄ４１１８は、後述するように上側揺動手段Ｄ４１２０の摺動箇所となるので、剛性を高めるために、金属材料から形成しても良い。

【９６４５】

ベース本体Ｄ４１１１は、上側動力付与手段Ｄ２１４０を配設するためのベースであり、その上側動力付与手段Ｄ２１４０を配設するための螺子（図示しない）の締結孔が所定の箇所に形成される。

【９６４６】

また、ベース本体Ｄ４１１１には、上側動力付与手段Ｄ２１４０の駆動力を背面側（矢印Ｂ方向側）から正面側（矢印Ｆ方向側）に伝達するための挿通孔Ｄ１１１ａ（図５１１参照）が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成される。

【９６４７】

カバー部材Ｄ４１１６は、上側案内部Ｄ４１１７の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される上側カバーＤ４１１６ａと、２箇所の下側案内部Ｄ４１１８のそれぞれの正面側に配設される２枚の下側カバーＤ４１１６ｂとを備え、それら上側カバーＤ４１１６ａ及び下側カバーＤ４１１６ｂを後述する上側揺動手段Ｄ４１２０の正面側に重なる位置に配設することで、上側揺動手段Ｄ４１２０をベース手段Ｄ４１１０に配設することが可能に構成される。

【９６４８】

上側案内部Ｄ４１１７は、上側カバーＤ４１１６ａとベース本体Ｄ４１１１との間に上側揺動手段Ｄ４１２０の上方側を保持するための空間を形成する側壁であり、上側揺動手段Ｄ４１２０の配設位置よりも上方に形成されると共に、上側揺動手段Ｄ４１２０の上端

部（被案内手段Ｄ４１２８）よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に突出される。上側揺動手段Ｄ４１２０の上端側は、上側案内部Ｄ４１１７の下方側（矢印Ｄ方向側）に上側揺動手段Ｄ４１２０が配置された状態で、上側案内部Ｄ４１１７の正面側に上側カバーＤ４１１６ａが配設されることで、上側カバーＤ４１１６ａとベース本体Ｄ４１１１との間に収容される。

【９６４９】

２箇所の下側案内部Ｄ４１１８は、下側カバーＤ４１１６ｂとベース本体Ｄ４１１１との間に上側揺動手段Ｄ４１２０の下方側を保持するための空間を形成する側壁であり、上側揺動手段Ｄ４１２０の配設位置よりも下方に形成されると共に、上側揺動手段Ｄ４１２０の下端部よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に突出される。上側揺動手段Ｄ４１２０の下端側は、下側案内部Ｄ４１１８の上方側（矢印Ｕ方向側）に上側揺動手段Ｄ４１２０が配置された状態で、下側案内部Ｄ４１１８の正面側に下側カバーＤ４１１６ｂが配設されることで、下側カバーＤ４１１６ｂとベース本体Ｄ４１１１との間に収容される。

【９６５０】

上側揺動手段Ｄ４１２０は、上端側が上側カバーＤ４１１６ａとベース本体Ｄ４１１１との間に収容され、下端側が下側カバーＤ４１１６ｂとベース本体Ｄ４１１１との間に収容されることで、下側案内部Ｄ４１１８の上面に沿って左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に摺動可能とされる。

【９６５１】

即ち、パチンコ機Ｈ１０は、前後方向に向かい合うベース本体Ｄ４１１１及び上側カバーＤ４１１６ａ又は下側カバ－Ｄ４１１６ｂを備え、それらベース本体Ｄ４１１１及び上側カバーＤ４１１６ａ又は下側カバ－Ｄ４１１６ｂの対向間を上側揺動手段Ｄ４１２０が変位可能に構成され、ベース本体Ｄ４１１１及び上側カバーＤ４１１６ａ又は下側カバ－Ｄ４１１６ｂにより上側揺動手段Ｄ４１２０の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の変位が規制される。

【９６５２】

これにより、遊技者が視認する方向の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に上側揺動手段Ｄ４１２０が揺れ動くことを抑制できると共に、上側揺動手段Ｄ４１２０が変位可能な領域を確保しやすくできる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の態様を遊技者に視認させやすい上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）及び左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に上側揺動手段Ｄ４１２０を大きく変位させることができる。即ち、パチンコ機Ｈ１０（図４９７参照）の前後方向よりも、前後方向に直交する方向に広い演出領域を変位手段の変位のための領域として有効に活用できる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０を変位させたことによる演出効果を向上しやすくできる。

【９６５３】

なお、上側揺動手段Ｄ４１２０の上端側を収容する上側カバーＤ４１１６ａ及びベース本体Ｄ４１１１と、上側揺動手段Ｄ４１２０の下端側を収容する下側カバーＤ４１１６ｂ及びベース本体Ｄ４１１１とは、光透過性の樹脂材料から形成される。

【９６５４】

従って、上側揺動手段Ｄ４１２０の正面側に配設される上側カバーＤ４１１６ａ及び下側カバーＤ４１１６ｂが光透過性の透明な材料から形成されるので、それら上側カバーＤ４１１６ａ及び下側カバーＤ４１１６ｂの背面側に配設される上側揺動手段Ｄ４１２０の視認可能領域を最大限確保することができる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９６５５】

また、上側揺動手段Ｄ４１２０の背面側に配設されるベース本体Ｄ４１１１（ベース手段Ｄ４１１０）が光透過性の透明な材料から形成されるので、ベース本体Ｄ４１１１の背面側を透過して視認することが可能とされる。よって、ベース本体Ｄ４１１１（即ち、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位機構部）によって、揺動ユニットＤ４１００の背面側の演出領域が小さくなることを抑制できる。

【９６５６】
　また、図５３７（ｂ）、図５３７（ｃ）に示すように、下側案内部Ｄ４１１８は、左左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側に向かうに従って上方側（矢印Ｕ方向側）に傾斜する傾斜面Ｄ４１１８ａと、少なくとも２箇所から上方側に向かって部分的に突出される凸部Ｄ４１１８ｂとを上面側に備える。傾斜面Ｄ４１１８ａは、下側案内部Ｄ４１１８に載置される上側揺動手段Ｄ４１２０を、その自重により上側揺動手段Ｄ４１２０を所定の位置に案内するための傾斜である。
【９６５７】
　ここで、上述したように上側揺動手段Ｄ４１２０は、その上側揺動手段Ｄ４１２０に駆動力を伝達する第２正面カムＤ１４７に対して上側揺動手段Ｄ４１２０が非接続とされる。そのため、上側揺動手段Ｄ４１２０が、パチンコ機Ｈ１０に入力される振動等により揺れ動きやすくなるという問題がある。
【９６５８】
　これに対し、第８８実施形態では、第２正面カムＤ１４７から駆動力が伝達される前において傾斜面Ｄ４１１８ａにより上側揺動手段Ｄ４１２０を所定の位置（図５３７（ｂ）に示す位置）に維持できる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０に駆動力を伝達する第２正面カムＤ１４７に対して上側揺動手段Ｄ４１２０が非接続とされる第８８実施形態において、上側揺動手段Ｄ４１２０が揺れ動きやすくなることを抑制できる。
【９６５９】
　凸部Ｄ４１１８ｂは、上側揺動手段Ｄ４１２０に上側方向への駆動力を作用させる突起であり、図５３７（ｃ）に示すように、上側揺動手段Ｄ４１２０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向にスライド変位させた際に、上側揺動手段Ｄ４１２０の下端が乗り越える位置に形成される。これにより、上側揺動手段Ｄ４１２０に左右方向の変位だけでなく上下方向の変位をさせることができ、上側揺動手段Ｄ４１２０を変位させた際の演出効果を向上できる。
【９６６０】
　上側揺動手段Ｄ４１２０は、正面視（矢印Ｂ方向視）において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長い略半円形状に形成され、円弧状に形成される上面側（矢印Ｕ方向側）の一部がセンターフレームＡ８６（図４９８参照）の内縁に沿う位置に配設される変位手段Ｄ４１２１と、その変位手段Ｄ４１２１の長手方向中央部の上方側（矢印Ｕ方向側）の外縁の２箇所から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の間隔を空けて突設される被案内手段Ｄ４１２８と、変位手段Ｄ４１２１の下方側（矢印Ｄ方向側）の端部における左右方向両側に配設される転動手段Ｄ４１２９とを備え、突設部Ｄ１４７ｂから受ける駆動力の大きさに応じて、変位される態様を変更可能に構成される。
【９６６１】
　変位手段Ｄ４１２１は、パチンコ機Ｈ１０の第３図柄表示装置Ｈ８１（図４９８参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に少なくとも一部が重なる位置に配設され、その第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側に重なった状態で変位されることで、正面視（矢印Ｂ方向視）における第３図柄表示装置Ｈ８１の視認可能な領域を変更可能とされる。
【９６６２】
　また、第８７実施形態における変位手段Ｄ４１２１は、第８３実施形態と同様に、光を反射可能な反射材料から形成される反射部Ｄ１２１ａ（図５０９参照）と、光を透過可能な光透過部Ｄ１２１ｂ（図５０９参照）とを少なくとも一部に備えると共に、光を出射可能な発光手段（図示しない）を変位手段Ｄ４１２１のそれぞれの内部に備えて構成されるが、第８３実施形態と同様に、反射部Ｄ１２１ａ、又は、光透過部Ｄ１２１ｂのどちらか一方のみで構成されるものであっても良い。
【９６６３】
　被案内手段Ｄ４１２８は、正面視（矢印Ｂ方向視）においてベース本体Ｄ４１１１に配設される第２正面カムＤ２１４７の回転軸よりも左側（矢印Ｌ方向側）に形成される左側案内部Ｄ４１２８ａと、正面視においてベース本体Ｄ４１１１に配設される第２正面カム

Ｄ２１４７の回転軸よりも右側（矢印Ｒ方向側）に形成される右側案内部Ｄ４１２８ｂとを備える。

【９６６４】

左側案内部Ｄ４１２８ａ及び右側案内部Ｄ４１２８ｂは、それぞれの対向面に第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂが当接されることで、第２正面カムＤ２１４７の回転の駆動力が伝達される部分であり、それらの対向間に突設部Ｄ１４７ｂが配設される。また、左側案内部Ｄ４１２８ａ及び右側案内部Ｄ４１２８ｂは、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂの回転軌跡と重なる位置に形成される。

【９６６５】

なお、左側案内部Ｄ４１２８ａ及び右側案内部Ｄ４１２８ｂの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における対向間の距離は、突設部Ｄ１４７ｂの直径よりも大きい距離に形成され、第８８実施形態では、突設部Ｄ１４７ｂの直径の略３倍の距離に設定される。これにより、突設部Ｄ１４７ｂを左側案内部Ｄ４１２８ａ及び右側案内部Ｄ４１２８ｂから離間させることが可能とされる。

【９６６６】

転動手段Ｄ４１２９は、変位手段Ｄ４１２１に嵌合される軸部Ｄ４１２９ａと、その軸部Ｄ４１２９ａに相対回転可能な状態で配設される転動部材Ｄ４１２９ｂとを備える。転動手段Ｄ４１２９は、ベース本体Ｄ４１１１の下側案内部Ｄ４１１８の上面側に沿って上側揺動手段Ｄ４１２０が摺動する際に、転動部材Ｄ４１２９ｂを回転させることで、下側案内部Ｄ４１１８と上側揺動手段Ｄ４１２０との間に係る抵抗を少なくして、上側揺動手段Ｄ４１２０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に摺動させやすくできる。

【９６６７】

図５３８を参照して、揺動ユニットＤ４１００の変位態様について説明する。図５３８（ａ）及び図５３８（ｂ）は、揺動ユニットＤ４１００の正面視における模式図である。なお、図５３８（ａ）では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い速度）で回転させて、第２正面カムＤ２１４７を第１位置から第２位置に変位させた状態が図示され、図５３８（ｂ）では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転させて、第２正面カムＤ２１４７を第１位置から第２位置に変位させた状態が図示される。

【９６６８】

図５３８（ａ）に示すように、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い速度）で回転させた場合には、第２正面カムＤ２１４７の回転軸に対して偏心する位置に形成される突設部Ｄ１４７ｂが正面視（矢印Ｂ方向視）においてベース本体Ｄ４１１１に対して相対変位される。この相対変位により、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂが上側揺動手段Ｄ４１２０の右側案内部Ｄ４１２８ｂに近づいて当接される。この当接により、上側揺動手段Ｄ４１２０が突設部Ｄ１４７ｂと共に右側（矢印Ｒ方向側）に変位される。

【９６６９】

この場合には、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い速度）で回転させて、上側揺動手段Ｄ４１２０を遅い速度で変位させているので、上側揺動手段Ｄ４１２０に作用する慣性力を小さくできる。そのため、第２正面カムＤ２１４７が第２位置に変位された後に、上側揺動手段Ｄ４１２０の右側案内部Ｄ４１２８ｂが突設部Ｄ１４７ｂから離れて、更に右側（矢印Ｒ方向側）に変位することを抑制できる。

【９６７０】

即ち、第８８実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い速度）で回転させた場合に、突設部Ｄ１４７ｂの変位に伴って上側揺動手段Ｄ４１２０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位可能に構成される。

【９６７１】

一方、図５３８（ｂ）に示すように、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転させた場合には、回転速度Ｂで回転させた場合と

同様に、第２正面カムＤ２１４７の回転軸に対して変位する位置に形成される突設部Ｄ１４７ｂが正面視（矢印Ｂ方向視）においてベース本体Ｄ４１１に対して相対変位される。この相対変位により、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂが、上側揺動手段Ｄ４１２０の右側案内部Ｄ４１２８ｂに近づいて当接される。この当接により、上側揺動手段Ｄ４１２０が突設部Ｄ１４７ｂと共に右側（矢印Ｒ方向側）に変位される。

【９６７２】

この場合、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転させて、上側揺動手段Ｄ４１２０を速い速度で変位させているので、上側揺動手段Ｄ４１２０に作用する慣性力を大きくできる。そのため、第２正面カムＤ２１４７が第２位置に変位された後に、上側揺動手段Ｄ４１２０の右側案内部Ｄ４１２８ｂを突設部Ｄ１４７ｂから離間させて、上側揺動手段Ｄ４１２０を更に右側（矢印Ｒ方向側）に変位させることができる。

【９６７３】

即ち、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転させた場合には、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂを第１位置から第２位置に変位させる途中で上側揺動手段Ｄ４１２０の右側案内部Ｄ４１２８ｂに当接させて、第２正面カムＤ２１４７を第２位置に変位させるまで、右側案内部Ｄ４１２８ｂに突設部Ｄ１４７ｂを当接させた状態で上側揺動手段Ｄ４１２０をスライド変位させる。そして、第２正面カムＤ２１４７が第２位置に到達した後には、突設部Ｄ１４７ｂから上側揺動手段Ｄ４１２０の右側案内部Ｄ４１２８ｂを離間させて上側揺動手段Ｄ４１２０をスライド変位可能とされる。

【９６７４】

なお、突設部Ｄ１４７ｂの変位に伴って上側揺動手段Ｄ４１２０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位させている際には、上側揺動手段Ｄ４１２０は下側案内部Ｄ４１１８の傾斜面Ｄ４１１８ａを転動部材Ｄ４１２９ｂが転動して案内される。これにより、突設部Ｄ１４７ｂを上側揺動手段Ｄ４１２０の右側案内部Ｄ４１２８ｂに当接させて上側揺動手段Ｄ４１２０を変位させる場合において、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の変化をより大きくするのに好適な方向に向けて上側揺動手段Ｄ４１２０の変位を開始させることができる。

【９６７５】

即ち、上側揺動手段Ｄ４１２０は、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂから駆動力を受けた後、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂから離隔され第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂに対して非拘束とされた状態で変位可能に構成されるところ、駆動力を受けて上側揺動手段Ｄ４１２０が変位を開始する際の進行方向には、非拘束とされた状態での上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の変化をより大きくするのに適した方向と、非拘束とされた状態での上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の変化を阻害する方向とが存在する。そのため、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂから駆動力を受けている上側揺動手段Ｄ２１２０の変位を案内していないと、非拘束とされた状態での上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の変化を阻害する方向に変位する可能性がある。

【９６７６】

これに対し、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂから駆動力を受けている上側揺動手段Ｄ４１２０の変位を案内可能に構成されることで、非拘束とされた状態での上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の変化をより大きくするのに好適な方向に向けて上側揺動手段Ｄ４１２０の変位を開始させることができる。

【９６７７】

ここで、上記第８６実施形態における揺動ユニットＤ２１００では、上側揺動手段Ｄ２１２０が第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂに軸支されるので、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位が基本的に突設部Ｄ１４７ｂの回転の軌跡に伴う変位の態様とされる。そのため、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位を複雑にし難いという問題があった。

【９６７８】

これに対し、第８８実施形態では、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂから駆動力を受けて上側揺動手段Ｄ４１２０が突設部Ｄ１４７ｂと共に変位された後、上側揺動手段Ｄ４１２０が突設部Ｄ１４７ｂから隔離され、上側揺動手段Ｄ４１２０が突設部Ｄ１４７ｂに対して非拘束とされた状態で変位可能に構成されるので、その非拘束とされる状態において、上側揺動手段Ｄ４１２０を突設部Ｄ１４７ｂの変位とは無関係に変位させることができる。よって、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の態様を複雑化しやすくできる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９６７９】

また、図５３６（ａ）に示すように、第２正面カムＤ２１４７が第１位置に配設される際には、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ２１４７ｂが、左側案内部Ｄ４１２８ａ及び右側案内部Ｄ４１２８ｂに対して離間する位置に配設される。これにより、駆動モータＤ１４１に駆動力を付与した際に、第２正面カムＤ２１４７の初期回転における回転速度を向上できる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位初期における動作速度を速くでき、上側揺動手段Ｄ４１２０を変位させることによる演出効果を向上できる。

【９６８０】

即ち、第２正面カムＤ２１４７が第１位置に配設される際に、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ２１４７ｂが左側案内部Ｄ４１２８ａ又は右側案内部Ｄ４１２８ｂの対向面に当接した状態では、上側揺動手段Ｄ４１２０を変位させることに必要な抵抗が第２正面カムＤ２１４７の初期回転時に作用する。そのため、第２正面カムＤ２１４７の初期回転における回転速度が低下し、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位初期における動作速度が遅くなり、上側揺動手段Ｄ４１２０を変位させることによる演出効果が低下する恐れがある。

【９６８１】

これに対し、第８８実施形態では、第２正面カムＤ２１４７が第１位置に配設される際には、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂが、左側案内部Ｄ４１２８ａ及び右側案内部Ｄ４１２８ｂに対して離間する位置に配設され、第２正面カムＤ２１４７の初期回転では、突設部Ｄ１４７ｂを空転させる（左側案内部Ｄ４１２８ａ及び右側案内部Ｄ４１２８ｂに当接させずに変位させる）ことができるので、その空転区間を利用して、ベース本体Ｄ４１１１に対する突設部Ｄ１４７ｂの相対変位速度を向上できる。これにより、突設部Ｄ１４７ｂを左側案内部Ｄ４１２８ａ及び右側案内部Ｄ４１２８ｂに当接させた際の上側揺動手段Ｄ４１２０の変位速度を速くできる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０を変位させることによる演出効果を向上できる。

【９６８２】

なお、この場合、ベース本体Ｄ４１１１に対して相対変位される途中の突設部Ｄ１４７ｂが左側案内部Ｄ４１２８ａ及び右側案内部Ｄ４１２８ｂの対向面に衝突することになるため、その衝突した際の衝撃音が遊技者に聞こえ、遊技者の興趣が低下するおそれがある。また、突設部Ｄ１４７ｂがその衝撃によって破損する恐れがある。

【９６８３】

そのため、第８８実施形態では、突設部Ｄ１４７ｂの周囲、又は、左側案内部Ｄ４１２８ａ及び右側案内部Ｄ４１２８ｂの対向面側に弾性材料から形成される弾性部材を配設して、突設部Ｄ１４７ｂが左側案内部Ｄ４１２８ａ及び右側案内部Ｄ４１２８ｂの対向面に当接する衝撃を緩和しても良い。

【９６８４】

なお、上記第８８実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転させた場合に、第２正面カムＤ２１４７を第２位置に変位させるまで、右側案内部Ｄ４１２８ｂに突設部Ｄ１４７ｂを当接させた状態で上側揺動手段Ｄ４１２０をスライド変位させる場合について説明したが、第２正面カムＤ１４７が第２位置に変位されている途中で、突設部Ｄ１４７ｂから上側揺動手段Ｄ４１２０の右側案内部Ｄ４１２８ｂを離間させて、即ち、上側揺動手段Ｄ１４２０を突設部Ｄ１４７ｂの変位よりも先行して、上側揺動手段Ｄ１４２０をスライド変位させても良い。例えば、突設部Ｄ１４７ｂが上側揺動手段Ｄ４１２０の右側案内部Ｄ４１２８ｂに当接した衝撃で

、突設部Ｄ１４７ｂよりも先行してスライド変位するように構成しても良い。
【９６８５】
　また、第８８実施形態では、上側揺動手段Ｄ４１２０の上面に形成される複数の凸部Ｄ４１１８ｂのうち、正面視（矢印Ｂ方向視）において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に形成される凸部Ｄ４１１８ｂが、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い速度）で回転させて第２正面カムＤ２１４７を第２位置または第４位置に変位させた場合における上側揺動手段Ｄ４１２０の転動部材Ｄ４１２９ｂの左右方向外側に隣り合う位置に形成される。
【９６８６】
　これにより、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い速度）で回転させて第２正面カムＤ２１４７を第２位置または第４位置に変位させた場合に、上側揺動手段Ｄ４１２０がその慣性力で左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側に変位することを抑制できる。さらに、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転させて第２正面カムＤ２１４７を第２位置または第４位置に変位させた場合には、上側揺動手段Ｄ４１２０（転動部材Ｄ４１２９ｂ）に凸部Ｄ４１１８ｂを乗り越えさせて変位させることができる。従って、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂで回転させる場合と、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａで回転させる場合とで、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の態様を変更できる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０による演出効果を向上しやすくできる。
【９６８７】
　従って、第８８実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度を変更して、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂの変位速度を変更することで、その突設部Ｄ１４７ｂから変位手段Ｄ４１２１（上側揺動手段Ｄ４１２０）に作用する駆動力の大きさを変更でき、その突設部Ｄ１４７ｂから受ける駆動力に大きさに応じて変位手段Ｄ４１２１（上側揺動手段Ｄ４１２０）の変位の態様を変更できる。
【９６８８】
　また、第８８実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂが回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い回転速度）で回転される際に、上側揺動手段Ｄ４１２０を弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に衝突させることにより、弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力で上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の態様を変更できるので、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の態様を複雑化して変位軌跡の予想を困難にすることができる。
【９６８９】
　従って、第８８実施形態では、突設部Ｄ１４７ｂから変位手段Ｄ４１２１（上側揺動手段Ｄ４１２０）に作用する駆動力の大きさを変更した際の上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の態様を複雑化することで、上側揺動手段Ｄ４１２０の演出が単調になることを抑制できる。これにより、パチンコ機Ｈ１０（図４９７参照）の演出に合わせて、変位手段Ｄ４１２１（上側揺動手段Ｄ４１２０）の変位の態様を変更する（例えば、大当たり後には、軸部Ｄ１４１ｂの回転速度を速くして変位手段Ｄ４１２１（上側揺動手段Ｄ４１２０）の変位の態様を複雑にして、遊技者に与える興趣を大当たりと共に向上させる）ことで、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位による演出効果を向上できる。
【９６９０】
　また、第８８実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い回転速度）で回転させる場合（即ち、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂから変位手段Ｄ４１２１（上側揺動手段Ｄ４１２０）が受ける駆動力が小さい場合）には、変位手段Ｄ４１２１（上側揺動手段Ｄ４１２０）が弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）と当接する位置まで変位されず、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い回転速度）で回転させる場合（即ち、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂから変位手段Ｄ４１２１（上側揺動手段Ｄ４１２０）が受ける駆動力が大きい場合）には、変位手段Ｄ４１２１（上側揺動手段Ｄ４１２０）が弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）と当接する位置まで変位可能に構成される。

【９６９１】
そのため、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い回転速度）で回転させて突設部Ｄ１４７ｂを変位させる場合には、変位手段Ｄ４１２１（上側揺動手段Ｄ４１２０）が弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力を受けずに変位され、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い回転速度）で回転させて突設部Ｄ１４７ｂを変位させる場合には、変位手段Ｄ４１２１（上側揺動手段Ｄ４１２０）が弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力を受けて変位される。これにより、変位手段Ｄ４１２１（上側揺動手段Ｄ４１２０）の変位の態様を複雑化することができる。その結果、変位手段Ｄ４１２１（上側揺動手段Ｄ４１２０）の変位による演出効果を向上できる。
【９６９２】
なお、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転させた場合には、その駆動速度が速くなることで上側揺動手段Ｄ４１２０の可動音が遊技者に聞こえる恐れがある。そのため、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転させる場合（即ち、第２正面カムＤ２１４７の回転速度を速くした場合）には、パチンコ機Ｈ１０に配設したスピーカー（図示しない）から放音される遊技音を大きくして、上側揺動手段Ｄ４１２０の可動音が遊技者に聞こえることを抑制しても良い。
【９６９３】
また、第８８実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転した際に、上側揺動手段Ｄ４１２０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に過剰に変位する場合には、上側揺動手段Ｄ２１２０を弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に衝突させることができる。これにより、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂに非案内側の左側案内部Ｄ４１２８ａ又は右側案内部Ｄ４１２８ｂが当接する場合に突設部Ｄ１４７ｂに作用する衝撃を緩和することができる。その結果、突設部Ｄ１４７ｂが破損することを抑制できる。
【９６９４】
なお、上記の説明では、第２正面カムＤ２１４７を第１位置から第４位置まで順に変位させる（即ち、第２正面カムＤ２１４７を正面視において時計回りに回転させる）場合について説明したが、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７を正面視において反時計回りに回転させるものであっても良く、第２正面カムＤ２１４７を第１位置から第２位置の間や第２位置から第４位置の間など（即ち、第２正面カムＤ２１４７が１回転しない所定の変位区間）で繰り返し往復変位させるものであっても良い。
【９６９５】
これによれば、第２正面カムＤ２１４７の変位の態様を適宜変更することができるので、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の態様が一様になることを抑制できる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位による演出効果を向上できる。
【９６９６】
また、第２正面カムＤ２１４７を第１位置から第２位置の間や第２位置から第４位置の間など（即ち、第２正面カムＤ２１４７が１回転しない所定の変位区間）で繰り返し往復変位させる場合には、第２正面カムＤ２１４７の回転方向を反転させる際に、突設部Ｄ１４７ｂから上側揺動手段Ｄ４１２０に作用する慣性力を大きくできる。そのため、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の態様を大きく変化させることができる。よって、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の態様を複雑化して変位軌跡の予想を困難にすることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０の演出が単調になることを抑制して、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位による演出効果を向上できる。
【９６９７】
また、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度は、第２正面カムＤ２１４７の変位途中に変更可能とされる。よって、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位による演出効果が低下することを抑制できる。

【９６９８】
即ち、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転を一度停止させてから回転速度を切り替えて（設定しなおして）再度回転が開始されるものであっては、回転速度を切り替える度にその回転を停止する必要があるため、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位が断続的になり、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位による演出効果が低下する恐れがある。
【９６９９】
これに対し、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度は、第２正面カムＤ２１４７の変位途中に変更可能とされるので、回転速度を変更する際に上側揺動手段Ｄ４１２０の変位を継続させることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位による演出効果が低下することを抑制できる。
【９７００】
なお、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度は、第２正面カムＤ２１４７を第１位置から第４位置まで順に（時計回りで）変位させる場合に、１回転目を回転速度Ｂで回転させた後の２回転点目以降を回転速度Ａで回転させたり、第２正面カムＤ２１４７が１回転される毎に回転速度を変更しても良い。
【９７０１】
また、例えば、第２正面カムＤ２１４７を第１位置と第２位置との間（所定の変位区間）で繰り返し往復変位させる場合には、第１位置から第２位置までの変位を回転速度Ｂで回転させた後、第２位置から第１位置までの変位を回転速度Ａで回転させる（往路と復路とで回転速度を変更する）ことで、第２正面カムＤ２１４７を第１位置から第２位置に変位させたことによる上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の態様と、第２正面カムＤ２１４７を第２位置から第１位置に変位させたことによる上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の態様とを異ならせることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０の演出が単調になることを抑制して、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位による演出効果を向上できる。
【９７０２】
さらに、例えば、第２正面カムＤ２１４７を第１位置と第２位置との間（所定の変位区間）で繰り返し往復変位させる場合には、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ２１４７が１往復動作される毎に回転速度を変更しても良い。
【９７０３】
なお、第２正面カムＤ２１４７を第１位置と第２位置との間（所定の変位区間）で繰り返し往復変位させる場合には、第２正面カムＤ２１４７を第１位置から第２位置に変位させる往路と、第２正面カムＤ２１４７を第２位置から第１位置に変位させる復路とで、その変位区間が同一に設定される。これにより、第２正面カムＤ２１４７の制御を簡素とできる。
【９７０４】
即ち、第２正面カムＤ２１４７の往路と復路とが異なる変位区間に設定される場合には、第２正面カムＤ２１４７の回転量を検出するための検出手段を複数個配設してその回転位置を検出する、若しくは、駆動モータＤ１４１により第２正面カムＤ２１４７の回転量を制御する必要がある。そのため、第２正面カムＤ２１４７の制御が複雑になる。
【９７０５】
これに対し、第２正面カムＤ２１４７を第１位置から第２位置に変位させる往路と、第２正面カムＤ２１４７を第２位置から第１位置に変位させる復路とで、その変位区間を同一に設定することで、ベース手段Ｄ１１１に配設した検出手段Ｄ１１１ｇ（図５１１参照）により、第２正面カムＤ２１４７の位置検出を可能にできる。従って、１個の検出手段Ｄ１１１ｇにより、第２正面カムＤ２１４７の制御をすることができるので、第２正面カムＤ２１４７の制御を簡素にできる。
【９７０６】
次いで、図５３９を参照して、第８８実施形態における揺動ユニットＤ４１００の変形例について説明する。図５３９（ａ）及び図５３９（ｂ）は、変形例における揺動ユニットＤ４１００の模式断面図である。なお、図５３９（ａ）及び図５３９（ｂ）に示す揺動

ユニットＤ４１００の断面は、図５３７（ａ）のＥ０４ｂ－Ｅ０４ｂ線における揺動ユニットＤ４１００の断面と対応する。

【９７０７】

まず、図５３９（ａ）を参照して、図５３９（ａ）に示す変形例について説明する。なお、図５３９（ａ）では、第８８実施形態における揺動ユニットＤ４１００の下側案内部Ｄ４１１８の構成が異なるのみであり、それ以外の構成は第８８実施形態における揺動ユニットＤ４１００と同一であるので、その詳しい説明は省略する。

【９７０８】

図５３９（ａ）に示すように、本変形例では、下側案内部Ｄ４１１８は、左左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側に向かうに従って上方側（矢印Ｕ方向側）に傾斜する傾斜面Ｄ４１１８ａと、その傾斜面Ｄ４１１８ａに凹設される凹部Ｄ４１１８ｃと、その凹部Ｄ４１１８ｃの内側に収容される直動係合部Ｄ４１１８ｄと、その直動係合部Ｄ４１１８ｄを付勢する付勢バネＤ４１１８ｆとを備える。

【９７０９】

凹部Ｄ４１１８ｃは、後述する直動係合部Ｄ４１１８ｄを上下方向に摺動可能な状態で保持する空間であり、直動係合部Ｄ４１１８ｄとの間に所定の隙間（直動係合部Ｄ４１１８ｄを摺動可能な隙間）を有する大きさに形成される。

【９７１０】

直動係合部Ｄ４１１８ｄは、下側案内部Ｄ４１１８の上面を案内されて変位される上側揺動手段Ｄ４１２０の一方向の変位を規制するための部材であり、下側案内部Ｄ４１１８の上面よりも上方に張り出す張出位置と、その張り出した位置から下方に退避して下側案内部Ｄ４１１８の上面よりも下方に退避した退避位置との間で変位可能に構成される。

【９７１１】

また、直動係合部Ｄ４１１８ｄは、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂの駆動力を受けて上側揺動手段Ｄ４１２０が付勢手段Ｄ２１８３側（左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側）に向けて変位される場合に、下側案内部Ｄ４１１８の上面を転動する転動部材Ｄ４１２９ｂが張出位置の直動係合部Ｄ４１１８ｄの上面側に乗りやすい形状、即ち、下側案内部Ｄ４１１８の上面側に向かって傾斜された形状に上面側が形成される。また、付勢手段Ｄ２１８３側（左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側）に位置する上側揺動手段Ｄ４１２０が自重や慣性力等の力を受けて左右方向中央側に向けて変位される場合に、下側案内部Ｄ４１１８の上面を転動する転動部材Ｄ４１２９ｂが張出位置の直動係合部Ｄ４１１８ｄの側面に係合しやすい形状、即ち、下側案内部Ｄ４１１８の上面に対して略直交する方向に向かって延設される形状に側面側が形成される。

【９７１２】

これら直動係合部Ｄ４１１８ｄの上面側の形状と側面側の形状とにより、上側揺動手段Ｄ４１２０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側に向かって変位する場合には、その上側揺動手段Ｄ４１２０の変位を直動係合部Ｄ４１１８ｄが許容しやすく、上側揺動手段Ｄ４１２０が左右方向中央側に向かって変位する場合には、その上側揺動手段Ｄ４１２０の変位を直動係合部Ｄ４１１８ｄが規制しやすくされる。

【９７１３】

付勢バネＤ４１１８ｆは、金属材料から形成されるコイルバネであり、凹部Ｄ４１１８ｃの内側に配設される。また、付勢バネＤ４１１８ｆは、直動係合部Ｄ４１１８ｄの下方側に配設され、下側案内部Ｄ４１１８に対して直動係合部Ｄ４１１８ｄを上方側（張出位置側）に付勢した状態で配設される。

【９７１４】

以上のように形成される図５３９（ａ）に示す変形例では、上記第８８実施形態と同様に、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い回転速度）で回転させた場合には、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂの変位に伴って上側揺動手段Ｄ４１２０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位可能に構成され、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い回転速度）で回転させた

場合には、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂの変位に伴って上側揺動手段Ｄ４１２０が左右方向に変位された後、上側揺動手段Ｄ４１２０が突設部Ｄ１４７ｂから隔離され、上側揺動手段Ｄ４１２０が突設部Ｄ１４７ｂに対して非拘束とされた状態で変位可能に構成される。

【９７１５】

本変形例では、上側揺動手段Ｄ４１２０が突設部Ｄ１４７ｂに対して非拘束とされ、回転係合部Ｄ４１１８ｅを退避位置に変位させつつ直動係合部Ｄ４１１８ｄの上面を転動して上側揺動手段Ｄ４１２０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側に変位されたあと、上側揺動手段Ｄ４１２０が自重や慣性力等の力を受けて、付勢バネＤ４１１８ｆの反力により張出位置に変位した直動係合部Ｄ４１１８ｄを乗り越えて左右方向中央側に向けて変位することを抑制できる。なお、直動係合部Ｄ４１１８ｄに規制される上側揺動手段Ｄ４１２０は、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂにより上側揺動手段Ｄ４１２０を左右方向中央側に向けて変位させることで、上側揺動手段Ｄ４１２０に直動係合部Ｄ４１１８ｄを乗り越えさせることができる。

【９７１６】

そのため、本変形例では、上側揺動手段Ｄ４１２０が突設部Ｄ１４７ｂに対して非拘束とされた後においても、第２正面カムＤ２１４７の回転に伴う変位を上側揺動手段Ｄ４１２０にさせることができる。従って、上側揺動手段Ｄ４１２０が突設部Ｄ１４７ｂに対して非拘束とされた場合に、上側揺動手段Ｄ４１２０が暴れることを抑制できる。

【９７１７】

また、上側揺動手段Ｄ４１２０が直動係合部Ｄ４１１８ｄの上面を転動しつつ下側案内部Ｄ４１１８の上面を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側に変位する変位の態様と、上側揺動手段Ｄ４１２０が直動係合部Ｄ４１１８ｄを乗り越えて下側案内部Ｄ４１１８の上面を左右方向中央側に変位する変位の態様とを異なる態様にできる。そのため、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の態様を複雑化して変位軌跡の予想を困難にすることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０の演出が単調になることを抑制して、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９７１８】

次いで、図５３９（ｂ）を参照して、図５３９（ｂ）に示す変形例について説明する。なお、図５３９（ｂ）では、第８８実施形態における揺動ユニットＤ４１００の下側案内部Ｄ４１１８の構成が異なるのみであり、それ以外の構成は第８８実施形態における揺動ユニットＤ４１００と同一であるので、その詳しい説明は省略する。

【９７１９】

図５３９（ｂ）に示すように、本変形例では、下側案内部Ｄ４１１８は、左左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側に向かうに従って上方側（矢印Ｕ方向側）に傾斜する傾斜面Ｄ４１１８ａと、その傾斜面Ｄ４１１８ａに凹設される凹部Ｄ４１１８ｃと、その凹部Ｄ４１１８ｃの内側に収容される回転係合部Ｄ４１１８ｅと、その回転係合部Ｄ４１１８ｅを付勢する付勢バネＤ４１１８ｆとを備える。

【９７２０】

凹部Ｄ４１１８ｃは、後述する回転係合部Ｄ４１１８ｅを回転可能な状態で保持する空間であり、回転係合部Ｄ４１１８ｅとの間に所定の隙間（回転係合部Ｄ４１１８ｅを回転させることが可能な隙間）を有する大きさに形成される。

【９７２１】

回転係合部Ｄ４１１８ｅは、下側案内部Ｄ４１１８の上面を案内されて変位される上側揺動手段Ｄ４１２０の一方向の変位を規制するための部材であり、下側案内部Ｄ４１１８の上面よりも上方に張り出す張出位置と、その張り出した位置から下方に回転して退避し下側案内部Ｄ４１１８の上面よりも下方に退避した退避位置との間で回転可能に構成される。

【９７２２】

また、回転係合部Ｄ４１１８ｅは、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂの駆動

力を受けて上側揺動手段Ｄ４１２０が付勢手段Ｄ２１８３側（左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側）に向けて変位される場合に、下側案内部Ｄ４１１８の上面を転動する転動部材Ｄ４１２９ｂが張出位置の回転係合部Ｄ４１１８ｅの上面側に乗りやすい形状、即ち、下側案内部Ｄ４１１８の上面側に向かって傾斜された形状に上面側が形成される。また、付勢手段Ｄ２１８３側（左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側）に位置する上側揺動手段Ｄ４１２０が自重や慣性力等の力を受けて左右方向中央側に向けて変位される場合に、下側案内部Ｄ４１１８の上面を転動する転動部材Ｄ４１２９ｂが張出位置の回転係合部Ｄ４１１８ｅの側面に係合しやすい形状、即ち、下側案内部Ｄ４１１８の上面に対して略直交する方向に向かって延設される形状に側面側が形成される。

【９７２３】

これら回転係合部Ｄ４１１８ｅの上面側の形状と側面側の形状とにより、上側揺動手段Ｄ４１２０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側に向かって変位する場合には、その上側揺動手段Ｄ４１２０の変位を回転係合部Ｄ４１１８ｅが許容しやすく、上側揺動手段Ｄ４１２０が左右方向中央側に向かって変位する場合には、その上側揺動手段Ｄ４１２０の変位を回転係合部Ｄ４１１８ｅが規制しやすくされる。

【９７２４】

付勢バネＤ４１１８ｆは、金属材料から形成されるコイルバネであり、凹部Ｄ４１１８ｃの内側に配設される。また、付勢バネＤ４１１８ｆは、回転係合部Ｄ４１１８ｅの側方に配設され、下側案内部Ｄ４１１８に対して回転係合部Ｄ４１１８ｅを上方側（張出位置側）に付勢した状態で配設される。

【９７２５】

以上のように形成される図５３９（ａ）に示す変形例では、上記第８８実施形態と同様に、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い回転速度）で回転させた場合には、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂの変位に伴って上側揺動手段Ｄ４１２０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位可能に構成され、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い回転速度）で回転させた場合には、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂの変位に伴って上側揺動手段Ｄ４１２０が左右方向に変位された後、上側揺動手段Ｄ４１２０が突設部Ｄ１４７ｂから隔離され、上側揺動手段Ｄ４１２０が突設部Ｄ１４７ｂに対して非拘束とされた状態で変位可能に構成される。

【９７２６】

本変形例では、上側揺動手段Ｄ４１２０が突設部Ｄ１４７ｂに対して非拘束とされ、回転係合部Ｄ４１１８ｅを退避位置に変位させつつ回転係合部Ｄ４１１８ｅの上面を転動して上側揺動手段Ｄ４１２０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側に変位されたあと、上側揺動手段Ｄ４１２０が自重や慣性力等の力を受けて、付勢バネＤ４１１８ｆの反力により張出位置に変位した回転係合部Ｄ４１１８ｅを乗り越えて左右方向中央側に向けて変位することを抑制できる。なお、回転係合部Ｄ４１１８ｅに規制される上側揺動手段Ｄ４１２０は、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂにより上側揺動手段Ｄ４１２０を左右方向中央側に向けて変位させることで、上側揺動手段Ｄ４１２０に回転係合部Ｄ４１１８ｅを乗り越えさせることができる。

【９７２７】

そのため、本変形例では、上側揺動手段Ｄ４１２０が突設部Ｄ１４７ｂに対して非拘束とされた後においても、第２正面カムＤ２１４７の回転に伴う変位を上側揺動手段Ｄ４１２０にさせることができる。従って、上側揺動手段Ｄ４１２０が突設部Ｄ１４７ｂに対して非拘束とされた場合に、上側揺動手段Ｄ４１２０が暴れることを抑制できる。

【９７２８】

また、上側揺動手段Ｄ４１２０が回転係合部Ｄ４１１８ｅの上面を転動しつつ下側案内部Ｄ４１１８の上面を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側に変位する変位の態様と、上側揺動手段Ｄ４１２０が回転係合部Ｄ４１１８ｅを乗り越えて下側案内部Ｄ４１１８の上面を左右方向中央側に変位する変位の態様とを異なる態様にできる。そのため、上側揺動手段

Ｄ４１２０の変位の態様を複雑化して変位軌跡の予想を困難にすることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０の演出が単調になることを抑制して、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９７２９】

なお、図５３９（ａ）及び図５３９（ｂ）に示す変形例では、付勢バネＤ４１１８ｆの付勢力により直動係合部Ｄ４１１８ｄ及び回転係合部Ｄ４１１８ｅを張出位置側に付勢する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、直動係合部Ｄ４１１８ｄ及び回転係合部Ｄ４１１８ｅに錘を配設して、その錘の自重により直動係合部Ｄ４１１８ｄ及び回転係合部Ｄ４１１８ｅを張出位置側に付勢しても良い。この場合、付勢バネＤ４１１８ｆの配設空間を不要とできるので、その分、下側案内部Ｄ４１１８の構造を簡易化できる。

【９７３０】

また、図５３９（ａ）及び図５３９（ｂ）に示す変形例では、直動係合部Ｄ４１１８ｄ及び回転係合部Ｄ４１１８ｅが柱状に形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、張出位置において上側揺動手段Ｄ４１２０の変位を規制可能であれば、その形状は板状であっても、円形状であっても、扇状であっても良い。

【９７３１】

さらに、図５３９（ａ）及び図５３９（ｂ）に示す変形例では、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に向かって上側揺動手段Ｄ４１２０に作用する自重や慣性力等の力で、上側揺動手段Ｄ４１２０が左右方向中央側に向かって変位された際に、直動係合部Ｄ４１１８ｄ又は回転係合部Ｄ４１１８ｅにより一時的に上側揺動手段Ｄ４１２０が左右方向中央側に向かって変位されることを停止するものの、上側揺動手段Ｄ４１２０に作用する自重や慣性力等の力で上側揺動手段Ｄ４１２０が直動係合部Ｄ４１１８ｄ又は回転係合部Ｄ４１１８ｅを乗り越えるものであっても良い。

【９７３２】

この場合には、上側揺動手段Ｄ４１２０に作用する自重や慣性力等の力で上側揺動手段Ｄ４１２０が直動係合部Ｄ４１１８ｄ又は回転係合部Ｄ４１１８ｅを乗り越えさせるための付勢バネＤ４１１８ｆの付勢力等の設定が難しくなり、製造コストが高まる恐れがあるが、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂの駆動力を上側揺動手段Ｄ４１２０に伝達しなくても上側揺動手段Ｄ４１２０を突設部Ｄ１４７ｂとの当接領域に変位させることが可能となるため、第２正面カムＤ２１４７が所定の区間を往復変位する際に、その変位区間を小さくできる。その結果、往復変位の間隔を早めることができ、上側揺動手段Ｄ２１２０の演出効果を向上できる。

【９７３３】

以上、上記実施形態に基づき本発明を説明したが、本発明は上記形態に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲内で種々の変形改良が可能であることは容易に推察できるものである。

【９７３４】

上記各実施形態において、一の実施形態における構成の一部または全部を、他の実施形態における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の実施形態としても良い。

【９７３５】

上記各実施形態では、折曲位置Ａ３０１へ向けた球の流下経路が板状部Ａ３１１の前面に対して平行な平面に沿った経路として構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部Ａ３１１の前面側に後方へ向けた凹部が形成され、その凹部の下面に沿って流下する態様でも良い。

【９７３６】

例えば、第２流下経路ＡＲ３０４や第３流下経路ＡＲ３０５を、後方にＵ字に曲がる流路として構成することで、球が鉛直下方に落下する場合に比較して折曲位置Ａ３０１に到達する球の上下方向速度を抑え、上下方向のバウンドが生じることを避ける。

【９７３７】
上記各実施形態では、対向突部Ａ１３７５が正面側部材Ａ１３５０に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、背面側部材Ａ１３１０から突設形成されても良い。この場合において、大径形状部Ａ１３７５ａが小径形状部Ａ１３７５ｂの正面側に位置するように形成することで、正面視における視認態様を変えずに、配設位置だけ変更することができる。
【９７３８】
対向突部Ａ１３７５の形状は、直径が途中で変化するものでなく、同一断面の柱状部として構成しても良い。この場合、疲労が局所的に溜まることを避け、破損を防止し易くすることができる。なお、対向突部Ａ１３７５を複数形成することも可能である。
【９７３９】
上記各実施形態では、対向突部Ａ１３７５が固定配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、対向突部Ａ１３７５が動作可能に支持されても良い。この場合、衝突した球の流下態様のバリエーションを対向突部Ａ１３７５の動作態様の違いによって増やすことができる。
【９７４０】
例えば、対向突部Ａ１３７５がバネにより左側に付勢されている場合において、流下する球が対向突部Ａ１３７５に当接することで対向突部Ａ１３７５が右方へ変位され、振分部材Ａ１３８０との間の経路幅が広げられるように構成しても良い。この場合、振分部材Ａ１３８０の下流側における球の流下抵抗を下げることができ、球詰まりを防止することができる。
【９７４１】
また、対向突部Ａ１３７５が左側終端位置に位置した場合において、振分部材Ａ１３８０との間の経路幅が球の直径と同等か、球の直径よりも短くなるように構成しても良い。この場合、振分部材Ａ１３８０と対向突部Ａ１３７５との間を流下する球が振分部材Ａ１３８０と対向突部Ａ１３７５とに同時に当接する状態を構成することができるので、球の流下抵抗を増大させることができる。
【９７４２】
対向突部Ａ１３７５が正面側部材Ａ１３５０及び背面側部材Ａ１３１０の双方とも別体で構成されても良い。この場合において、対向突部Ａ１３７５を金属材料から形成し、正面側部材Ａ１３５０及び背面側部材Ａ１３１０に嵌合状態で固定することで、安定的に固定できるとともに対向突部Ａ１３７５の耐久性を向上させることができる。
【９７４３】
上記各実施形態では、経路構成部Ａ１３４２における流路が、板状部Ａ３１１の前面側に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、経路構成部Ａ１３４２における流路が、板状部Ａ３１１よりも後方を通るように構成しても良い。この場合、経路構成部Ａ１３４２における流路を流下する球よりも、折曲位置Ａ３０１へ流下する球の方が正面側を流下するようになるので、折曲位置Ａ３０１へ流下する球を視認させ易くすることができる。
【９７４４】
振分部材Ａ１３８０が背面側部材Ａ１３１０の後方に折曲位置Ａ３０１への流下経路において交差突条部Ａ３３１及び交差突条部Ａ３７１が複数形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、交差突条部Ａ３３１及び交差突条部Ａ３７１の形成を省略しても良い。この場合、折曲位置Ａ３０１へ球が到達するまでの時間を短縮化でき、スムーズな遊技を提供することができる。なお、折曲位置Ａ３０１への流下経路において交差突条部Ａ３３１及び交差突条部Ａ３７１の代わりに、対向突部Ａ１３７５を互い違いに複数配設するようにしても良い。
【９７４５】
折曲位置Ａ３０１においては、上面傾斜突条部Ａ３５４が球を後方へ寄せる手段として機能する。上面傾斜突条部Ａ３５４の形成を省略すれば、交差突条部Ａ３３１や流下突条

部Ａ３３２により生じた正面側への変位による前後位置で、遊技球を下流側へ流下させることができる。

【９７４６】

上記各実施形態では、正面側部材Ａ１３５０が光透過性の樹脂材料から形成され全域に亘って後方が視認可能である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、正面側部材Ａ１３５０に他の箇所に比較して透過性が高い領域を構成する窓部や開口部が形成されても良い。これにより、振分部材Ａ１３８０等の遊技者に視認させる部分は視認性を高め、ソレノイドＡ１４２０等は隠すことができる。

【９７４７】

上記各実施形態では、正面側部材Ａ１３５０が背面側部材Ａ１３１０に対して締結固定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右片側に回転軸を構成するヒンジが設けられ、そのヒンジの回転軸を中心として開閉されるように構成しても良い。この場合、正面側部材Ａ１３５０を背面側部材Ａ１３１０から取り外すことなく、開放させた状態でメンテナンスを行うことができる。また、同様に、背面側部材Ａ１３１０に対する背面蓋部材Ａ１４８０の開閉の回転軸を構成するヒンジが配設されても良い。更に、背面蓋部材Ａ１４８０を背面側部材Ａ１３１０ではなくベース板Ａ６０に対して脱着可能に構成しても良い。

【９７４８】

この場合において、正面側部材Ａ１３５０が背面側部材Ａ１３１０に対して半開きの状態となる可能性があるが、半開きの状態では遊技が不可能となるようにエラー報知をするように好悪性しても良いし、半開きの状態でも遊技が可能となるように構成しても良い。半開きの場合には、板状部Ａ３１１と板状部Ａ３５１との間隔が左右位置によって異なるので、球の流下抵抗を左右位置によって変化させることができる。

【９７４９】

上記各実施形態では、振分部材Ａ１３８０が退避位置に位置され、経路構成部Ａ１３４２により形成される流路側に流入した球は必ず入賞検出センサＡＳＣ１１を通過する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、経路構成部Ａ１３４２において入賞検出センサＡＳＣ１１に入球するか、アウト口から排出されるかの振分けを付けても良い。または、振分を付けずに、入賞検出センサＡＳＣ１１の代わりにアウト口を構成しても良い。

【９７５０】

この場合、経路構成部Ａ１３４２により形成される流路側への流入が遊技者に与える利益をより抑制させることができ、振分部材Ａ１３８０付近を流下する遊技球に対する注目力を向上させることができる。例えば、遊技者は、経路構成部Ａ１３４２により形成される流路側への流入が多い場合には、遊技を止めるという選択をできる。

【９７５１】

また、この場合において、経路構成部Ａ１３４２により形成される流路側へ流入した球を振分部材Ａ１３８０側（左側）へ動作させるための動作部材を駆動させる第２駆動手段が配設されても良い。例えば、入賞検出センサＡＳＣ１１の上流側における経路構成部Ａ１３４２の右側壁部の左面部が左方に動作可能とされ、その動作により球が振分部材Ａ１３８０側（左方）に移動されるよう構成しても良い。

【９７５２】

この場合、第２駆動手段により、入球位置ＡＰ１３９７から遊技球が振分部材Ａ１３８０側へ向けて変位される場合と、入球位置ＡＰ１３９７から遊技球が振分部材Ａ１３８０側へ向けて変位されない場合とを構成することができるので、入球位置ＡＰ１３９７に遊技球が到達した場合において振分部材Ａ１３８０に生じる事象のバリエーションを増加させることができ、振分部材Ａ１３８０付近を流下する遊技球に対する注目力を向上させることができる。

【９７５３】

上記各実施形態では、振分部材Ａ１３８０が姿勢変化可能に構成される場合を説明した

が、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、振分部材Ａ１３８０の姿勢が常に維持されるように精密に案内するように構成しても良い。この場合、振分部材Ａ１３８０の上面を転動する球の転動方向の傾斜を毎回同じとすることができ、球を整列して流し易くすることができる。

【９７５４】

上記各実施形態では、振分部材Ａ１３８０が案内湾曲板部Ａ３５３の下側に配設されており、振分部材Ａ１３８０に衝突する遊技球は第１流下経路ＡＲ３０３から流下した遊技球に限られる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、案内湾曲板部Ａ３５３が左方へ変位されるか、又は案内湾曲板部Ａ３５３の形成が省略され、第２流下経路ＡＲ３０４又は第３流下経路ＡＲ３０５を流下した球が振分部材Ａ１３８０に衝突し得るように構成しても良い。この場合、振分部材Ａ１３８０に衝突して流下する球の流下態様のバリエーションを増やすことができる（例えば、振分部材Ａ１３８０の上面に沿って転動流下する態様や、上下方向に落下して振分部材Ａ１３８０に衝突した球が跳ね返る態様等を生じさせることができる）ので、振分部材Ａ１３８０及び振分部材Ａ１３８０に衝突して流下する球に対する注目力を向上させることができる。

【９７５５】

上記各実施形態では、振分部材Ａ１３８０において、形成部Ａ１３８３が延設部Ａ１３８２の先端形状と類似した正面視形状で基端部Ａ１３８１の下方へ向けて張出形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、正面視での形状が矩形状とされても良いし、延設部Ａ１３８２側に角部を向けた三角形状とされても良いし、半円形状とされても良い。半円形状である場合において、その半円の円の中心が基端部Ａ１３８１の中央位置と一致されても良いし、基端部Ａ１３８１の端部（左端部）に位置しても良い。この場合において、基端部Ａ１３８１の下方に半円形状のみが形成されても良いし、基端部Ａ１３８１の上下に亘って円形状が構成されても良い。

【９７５６】

形成部Ａ１３８３の、延設部Ａ１３８２に対して離間した部位において球と当接できるところ、その離間した部位が湾曲面を構成するようにしても良い。例えば、湾曲面としては、回転部材Ａ１４１０の回転軸方向視で円形であってもいい。この場合、形成部Ａ１３８３と衝突した球が点接触して球がバウンドしたり、バウンドせずに擦れによる力が付与されたりすることにより振分部材Ａ１３８０が動作される。球と形成部Ａ１３８３との当接態様の違いにより、振分部材Ａ１３８０の動作態様が変化され、バウンドされる場合よりも、擦れによる力の付与の方が、振分部材Ａ１３８０の動作量を大きく構成することができることから、振分部材Ａ１３８０の動作のバリエーションを増加させることができる。

【９７５７】

また、例えば、湾曲面としては下面視で円形であっても良い。この場合、形成部Ａ１３８３と球とが当接した場合に、振分部材Ａ１３８０が球から付与される力が前後方向に逃されることで、振分部材Ａ１３８０の上下方向への移動が過度に生じることを抑制できる。

【９７５８】

また、形成部Ａ１３８３は、前後方向の肉厚がどの位置も同じとされ延設部Ａ１３８２の延設される方向に沿って延びるように構成されても良いし、部位によって肉厚が異なるように構成しても良い。例えば、基端部Ａ１３８１の左端部の前後方向肉厚よりも、延設部Ａ１３８２に近い側の方が前後方向に薄くなるように構成しても良い。この場合、各形成部Ａ１３８３の前後面のうち基端部Ａ１３８１の前後方向中心側の面は、延設部Ａ１３８２の延設方向に対して傾斜する面として構成される。その傾斜に沿って延設される態様で、前後方向の肉厚がどの位置も同じとされる形状で形成部Ａ１３８３が形成されても良い。この場合、退避凹部Ａ１３４１の下面と当接して摩擦抵抗を生じる形成部Ａ１３８３の延設される方向が延設部Ａ１３８２の延設方向と傾斜されていることから、形成部Ａ１３８３が延設部Ａ１３８２の延設方向と平行に延設されている場合に比較して、延設部Ａ

１３８２の動作時の抵抗が増大されるように構成することができる。このように、形成部Ａ１３８３の、延設部Ａ１３８２側の部位を、延設部Ａ１３８２の延設方向と平行ではなく、その延設方向と交差する方向に長く構成しても良い。

【９７５９】

上記各実施形態では、振分部材Ａ１３８０において、形成部Ａ１３８３が基端部Ａ１３８１の前後両側から下方へ向けて張出形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、形成部Ａ１３８３が、延設部Ａ１３８２から張出形成されても良いし、基端部Ａ１３８１から張出形成される部分と延設部Ａ１３８２から張出形成される部分とで構成されても良い。

【９７６０】

上記各実施形態では、振分部材Ａ１３８０の前後両側において形成部Ａ１３８３が形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、形成部Ａ１３８３が、正面側または背面側のいずれか一方に形成されても良い。この場合、前後両側に形成する場合に比較して、材料コストを低減することができる。

【９７６１】

上記各実施形態では、振分部材Ａ１３８０の下方から形成部Ａ１３８３が形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、形成部Ａ１３８３が、上方または上下両側から張り出すように構成しても良い。この場合、この場合、上側の形成部Ａ１３８３に球が衝突することで、振分部材Ａ１３８０が下傾斜姿勢にされるため、上面を流下する球からの荷重を延設部Ａ１３８２が専ら受ける場合に比較して、延設部Ａ１３８２の破損を防止し易くすることができる。

【９７６２】

上記各実施形態では、第２延設部Ａ３２２の上面が平面で形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２延設部Ａ３２２の後方側から上面傾斜突条部Ａ３５４と前後逆転した傾斜面を有する可動部材が出没可能に構成されており、球が入球位置ＡＰ１３９７に流入していない場合は可動部材が板状部Ａ３１１の後方に没しており、球に作用しないが、振分部材Ａ１３８０が退避位置とされ、球が入球位置ＡＰ１３９７に流入すると可動部材が前方に進出するように変位されることで板状部Ａ３１１から前方に張り出して球に作用するよう構成しても良い。

【９７６３】

この場合において、板状部Ａ３１１と平行な平面であって球の中心を通る平面上における球の外形と球の中心とを結ぶ長さ（半径）が転動半径となる場合（第２延設部Ａ３２２の上面に転動する場合）に比較して、板状部Ａ３１１と平行な平面であって球の中心を通らない一対の平面上における球の外形（前後に対向配置される、上面傾斜突条部Ａ３５４と、その上面傾斜突条部Ａ３５４と前後逆転した傾斜面との、上面に支持される位置を通る平面上の外形）と球の中心とを結ぶ長さが転動半径とされる転動を構成することで、球が第２延設部Ａ３２２と当接しない（離間した）状態で転動される。この場合、転動半径が短くされることで、流下速度を減速させることができる。

【９７６４】

上記各実施形態では、張出位置に位置した振分部材Ａ１３８０の上面に球が当接することにより、振分部材Ａ１３８０が下傾斜姿勢とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球が振分部材Ａ１３８０の上面に当接した場合に球がバウンドし、そのバウンドに伴って振分部材Ａ１３８０が上傾斜姿勢とされても良いし、球との当接により下傾斜姿勢とされる場合も上傾斜姿勢とされる場合も生じ得るように構成しても良い。

【９７６５】

この場合、球の当接により振分部材Ａ１３８０が上傾斜姿勢とされる場合には、後続の球が折曲位置Ａ３０１へ流下する場合の流下抵抗を増大させることができる。これにより、連続して球が折曲位置Ａ３０１へ流下される場合において、転動面を構成する振分部材Ａ１３８０が下傾斜姿勢とされる場合と、上傾斜姿勢とされる場合とをランダムに構成す

ることができるので、球の流下態様にばらつきを生じさせることができ、球の流下のバリエーションを増大させることができる。

【９７６６】

上記各実施形態では、振分部材Ａ１３８０が下傾斜姿勢とされた場合において、球が通過して振分部材Ａ１３８０から離間した後も下傾斜姿勢が維持され得る場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、振分部材Ａ１３８０が上傾斜姿勢とされた場合において、延設腕部Ａ１４１２の係合突部Ａ１４１２ａが後方延設部Ａ１３８５の下面と当接し、後方延設部Ａ１３８５と延設腕部Ａ１４１２との間の摩擦力により、上傾斜姿勢が維持されるように構成しても良い。この場合、振分部材Ａ１３８０の姿勢変化は、振分部材Ａ１３８０に当接した球が振分部材Ａ１３８０から離間した後も維持させることができる。

【９７６７】

上記各実施形態では、振分部材Ａ１３８０の正面側板状部Ａ１３８４が、延設部Ａ１３８２よりも小さい場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、正面視または上面視で延設部Ａ１３８２を覆う程に大きく形成されても良い。この場合、延設部Ａ１３８２の姿勢変化を正面視で把握し難くすることができる。この場合において、例えば、正面側板状部Ａ１３８４が円形で形成されても良い。この場合、振分部材Ａ１３８０が姿勢変化しても正面側板状部Ａ１３８４の外形は変わらないので、振分部材Ａ１３８０の姿勢変化を目立たないように構成することができる。

【９７６８】

この場合において、延設部Ａ１３８２の上面を流下する球に対して、正面側板状部Ａ１３８４が前後方向で当接する状況を構成することができるため、球との当接を複数位置で生じさせることにより摩擦抵抗を増大させ、球の流下速度を減速させることができる。また、正面側板状部Ａ１３８４により球を部分的に隠すことができ、球の流下方向を予測され難くすることができる。

【９７６９】

上記各実施形態では、振分部材Ａ１３８０が退避位置から張出位置へ変位される途中で球と衝突する場合、変位速度が遅くなる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球に衝突された振分部材Ａ１３８０が退避位置側へ戻る場合があるように構成しても良い。特に、折曲位置Ａ３０１において球詰まりが生じている場合には、振分部材Ａ１３８０が退避位置へ戻されることにより、球が入球検出センサＡＳＣ１１を通過して排出されることで、更なる球詰まりが生じることを避けることができる。

【９７７０】

上記各実施形態では、振分部材Ａ１３８０が背面側部材Ａ１３１０の後方に脱落しない場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、振分部材Ａ１３８０を背面側部材Ａ１３１０の後方に抜き取ることが可能に構成しても良い。この場合、振分部材Ａ１３８０において遊技球と衝突する延設部Ａ１３８２等が割れたり欠けたりした場合において、背面側部材Ａ１３１０に正面側部材Ａ１３５０を固定したままで、振分部材Ａ１３８０の交換を行うことができる。

【９７７１】

上記各実施形態では、振分部材Ａ１３８０の動作が、変位伝達装置Ａ１４００のソレノイドＡ１４２０の駆動力（励磁、非励磁の切り替え）により生じる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ソレノイドに限らずモータの駆動力により動作が生じる構成でも良いし、磁力によって動作が生じる構成でも良いし、流下する球の勢い（荷重）によって動作が生じる構成でも良いし、コンプレッサーにより圧縮された空気の圧力により動作が生じる構成でも良く、力を付与する手段であれば何でも良く、各手段の組合せでも良い。

【９７７２】

球の勢い（荷重）によって動作が生じる構成の一例を、振分部材Ａ２３８０で説明したが、これは球の勢い（荷重）によって動作が生じる構成が振分部材Ａ２３８０に限るもの

ではない。振分部材Ａ１３８０を採用しながら、ソレノイドＡ１４２０の駆動力を利用せずに動作させること（ソレノイドＡ１４２０の配設を省略すること）は当然可能である。

【９７７３】

例えば、ソレノイドＡ１４２０の配設が省略され、ソレノイドＡ１４２０に基づく荷重（付勢力や駆動力）が無い場合において、振分部材Ａ１３８０の張出位置から退避位置へ向けた変位は、振分部材Ａ１３８０の延設部Ａ１３８２に対して球が当接する場合に生じる荷重により生じ得る。延設部Ａ１３８２の上面が斜めに傾斜しており、球からの荷重が左向きに作用し得ることがその理由の一つである。

【９７７４】

更に、中間部Ａ１４３８から前方に延設する延設部を構成し、その延設部が板状部Ａ３５１に形成される左右方向に長い長孔を貫通した状態で遊技が可能に構成する。振分部材Ａ１３８０が退避位置に位置する場合に、経路構成部Ａ１３４２により構成される経路に流入する球が入球位置ＡＰ１３９７に位置した状態において、その入球位置ＡＰ１３９７に位置する球の右下面に、中間部Ａ１４３８から前方に延設する延設部が当接されるよう構成することで、球の荷重により延設部を右方向に変位させることができ、延設部と一体形成されている中間部Ａ１４３８が右方向に変位されることで振分部材Ａ１３８０の退避位置から張出位置への変位を生じさせることができる。

【９７７５】

このように、振分部材Ａ１３８０の動作は、その動作方向に関わらず、当接による球からの荷重により生じさせることが可能である。上述では、張出位置から退避位置への動作については、振分部材Ａ１３８０に直接的に球が当接した場合を説明し、退避位置から張出位置への動作については、中間部Ａ１４３８から前方に延設する延設部に当接した球が振分部材Ａ１３８０に間接的に荷重を付与する場合を説明したが、これに限られるものではない。

【９７７６】

例えば、振分部材Ａ１３８０の張出位置から退避位置への動作が、中間部Ａ１４３８から前方に延設する延設部に当接した球が振分部材Ａ１３８０に間接的に荷重を付与することで生じても良い。この場合、例えば、振分部材Ａ１３８０が張出位置に位置される場合において中間部Ａ１４３８から前方に延設する延設部が板状部Ａ３５１の前方に張り出す位置を、経路構成部Ａ１３４２により構成される経路の内方ではなく、折曲位置Ａ３０１側へ流れる経路（外縁部材Ｈ７３により右側が区画される経路）の内方となるように設定する。これにより、振分部材Ａ１３８０が張出位置に位置する状態において折曲位置Ａ３０１側へ流下する遊技球が中間部Ａ１４３８から前方に延設する延設部に左下面を当接させることで、左向き（退避位置側へ向く方向）の荷重を延設部に付与することができる。この荷重により、振分部材Ａ１３８０の張出位置から退避位置への動作を生じさせることができる。

【９７７７】

この中間部Ａ１４３８から前方に延設する延設部を振分部材Ａ１３８０が有する構成であれば、振分部材Ａ１３８０の張出位置から退避位置への動作も、退避位置から張出位置への動作も、延設部に当接した球が振分部材Ａ１３８０に間接的に荷重を付与することにより生じさせることができる。

【９７７８】

即ち、経路構成部Ａ１３４２の右側壁部に左右に貫通する切欠きが形成され、その切欠きを通って、中間部Ａ１４３８から前方に延設する延設部が経路構成部Ａ１３４２の右側壁部の左側にも右側にも位置できるように構成することで、延設部は、経路構成部Ａ１３４２により形成される経路（入賞検出センサＡＳＣ１１に流入する経路）に流入する球とも、経路構成部Ａ１３４２の右側壁部の右側を折曲位置Ａ３０１側へ流下する球とも、当接可能とされる。

【９７７９】

振分部材Ａ１３８０が退避位置に位置する状態では、経路構成部Ａ１３４２により形成

される経路に流入する球から延設部が荷重を受け、その荷重による張出位置への動作が構成可能とされる。また、振分部材Ａ１３８０が張出位置に位置する状態では、折曲位置Ａ３０１側へ流下する球から延設部が荷重を受け、その荷重による退避位置への動作が構成可能とされる。

【９７８０】

なお、中間部Ａ１４３８から前方に延設する延設部の形状は、円柱状のピン形状でも良いし、正面視で湾曲した湾曲形状でも良いし、肉厚一定の平面板状でも良いし、肉厚が徐々に変化される板形状でも良いし、延設部Ａ１３８２の形状に倣った形状でも良いし、遊技球が衝突可能な部位を構成していれば特に限定されるものではない。

【９７８１】

なお、延設部に対する球からの荷重が付与される度に振分部材Ａ１３８０が退避位置と張出位置とで変位されるようにしても良いし、球からの荷重が複数回付与されることで変位が生じるようにしても良い。例えば、突条部Ａ１４８４において上下方向に僅かに張り出す突設部を構成し、その突設部を案内突部Ａ１４３１ａが乗り越えることで変位が生じるように構成し、延設部に対して球からの荷重が付与される回数が１回だと案内突部Ａ１４３１ａを乗り越えないが、複数回だと案内突部Ａ１４３１ａを乗り越えるように構成することで、球からの荷重が複数回付与されることで振分部材Ａ１３８０の変位が生じるよう構成することができる。

【９７８２】

この場合において、延設部に対する球からの荷重が１回だと、突条部Ａ１４８４から僅かに張り出す突設部と案内突部Ａ１４３１ａとが当接する位置までの変位に留まり、延設部に対する球からの荷重が複数回付与されることで突設部を案内突部Ａ１４３１ａが乗り越えて、退避位置または張出位置に到達する。即ち、振分部材Ａ１３８０の停止位置として、張出位置と退避位置との間の途中位置（突設部と案内突部Ａ１４３１ａとが当接する位置）を構成する。

【９７８３】

また、例えば、振分部材Ａ１３８０の退避位置から張出位置への動作が、振分部材Ａ１３８０に直接的に球が当接することで生じても良い。この場合、例えば、第２延設部Ａ３２２に左右方向に長い溝部を上下方向で穿設し、その溝部を貫通する張出部を振分部材Ａ１３８０の基端部Ａ１３８１又は延設部Ａ１３８２の上面から張出形成し、その張出部が第２延設部Ａ３２２の上面を流下する球と当接可能な位置まで張り出すようにしても良い。これにより、振分部材Ａ１３８０が退避位置に位置する状態において第２延設部Ａ３２２の上面を流下する球が張出部に当接し、球が流下する右方向の荷重が与えられることで、振分部材Ａ１３８０が退避位置から張出位置への動作を生じさせることができる。

【９７８４】

この張出部を振分部材Ａ１３８０が有する構成であれば、振分部材Ａ１３８０の張出位置から退避位置への動作も、退避位置から張出位置への動作も、振分部材Ａ１３８０に直接的に当接した球からの荷重により生じるように構成することができる。この張出部を形成部Ａ１３８３として形成しても良く、この場合、基端部Ａ１３８１の真上位置において下方へ落下する球が形成部Ａ１３８１と当接可能となり、形成部Ａ１３８３に球から力が付与される場合における動作を生じさせることができる。

【９７８５】

なお、振分部材Ａ１３８０に間接的に荷重を付与する延設部が、折曲位置Ａ３０１よりも上流側または入賞検出センサＡＳＣ１１よりも上流側、に位置する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、振分部材Ａ１３８０に間接的に荷重を付与する延設部が、入賞検出センサＡＳＣ１１よりも下流側に位置していたり、折曲位置Ａ３０１よりも下流側に配設される第２入賞口Ａ６４０や特定入賞口Ｈ６５ａ（図４９８参照）に流入した球が流下する経路の内方に位置していたりしても良い。この場合、動作される振分部材Ａ１３８０と、振分部材Ａ１３８０の動作力を生じさせる球との距離を離すことができるので、意外性のある動作を生じさせることができる。

【９７８６】
中間部Ａ１４３８は、前方に延設される延設部だけでなく、全体が板状部Ａ３１１よりも正面側に位置されても良い。この場合、球から当接可能な位置を延設部に限らないことから、中間部Ａ１４３８の特定の箇所に繰り返し荷重が付与される場合に比較して、中間部Ａ１４３８の耐久性を向上させることができる。
【９７８７】
中間部Ａ１４３８（少なくとも手前側へ延設された延設部）が金属材料から形成されても良い。この場合、光透過性の振分部材Ａ１３８０とのコントラストで、視認態様を変化させることができる。中間部Ａ１４３８の延設部の視認性を良くすることで、折曲位置Ａ３０１へ向けて流下する球が延設部に衝突して流下態様が突然変化する場合に、その原因を遊技者が把握困難となることを避けることができる。これにより、流下態様が不正に変化されているという疑念を遊技者が抱く可能性を減らすことができる。
【９７８８】
中間部Ａ１４３８における手前側へ延設された延設部は少なくとも上面が正面視で湾曲形状（上向き突の円弧形状に形成）に形成されてもいい。これにより、球が延設部に当たると左右いずれかに負荷が逃げて、球が鉛直方向に跳ねる可能性を減らすことができる。
【９７８９】
これにより、中間部Ａ１４３８の左右方向動作を生じさせ易くすることができる。中間部Ａ１４３８により振分部材Ａ１３８０が張出位置に位置された（または動作中である）場合において、第１流下経路ＡＲ３０３を流下する後続の球は折曲位置Ａ３０１側へ流下される態様と、中間部Ａ１４３８により振分部材Ａ１３８０が退避位置に位置された（または動作中である）場合において、第１流下経路ＡＲ３０３を流下する後続の球は入賞検出センサＡＳＣ１１側へ流下される態様との、切り替えを生じさせ易くすることができる。
【９７９０】
上記各実施形態では、変位伝達装置Ａ１４００が背面側部材Ａ１３１０に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、変位伝達装置Ａ１４００の伝達可能化部材Ａ１４３０が背面蓋部材Ａ１４８０に配設されても良い。この場合、背面蓋部材Ａ１４８０を取り外すと同時に伝達可能化部材Ａ１４３０をソレノイドＡ１４２０や回転部材Ａ１４１０から取り外すことができ、背面蓋部材Ａ１４８０を取付けると同時に伝達可能化部材Ａ１４３０をソレノイドＡ１４２０や回転部材Ａ１４１０に組み付けることができるので、メンテナンス性を向上させることができる。
【９７９１】
上記各実施形態では、背面蓋部材Ａ１４８０を背面側部材Ａ１３１０から分離させて伝達可能化部材Ａ１４３０を取り外す場合において、振分部材Ａ１３８０の動作は停止されており振分部材Ａ１３８０の位置は維持されるため、対向突部Ａ１３７５と振分部材Ａ１３８０との間の経路幅が維持され、背面蓋部材Ａ１４８０を取付ければ遊技領域において遊技が可能な状態を構成可能な場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、振分部材Ａ１３８０の動作中に背面蓋部材Ａ１４８０を分離させることができるよう構成される場合において、伝達可能化部材Ａ１４３０とは別で振分部材Ａ１３８０に対して力を付与する手段を設けておくことで、伝達可能化部材Ａ１４３０を取り外している最中においても振分部材Ａ１３８０の動作が継続されるようにしても良い。この場合、伝達可能化部材Ａ１４３０を再度取り付ける前の期間においても、振分部材Ａ１３８０の動作を継続させた状態での遊技を可能とすることができる。
【９７９２】
なお、伝達可能化部材Ａ１４３０による力の伝達を代替する手段としては、予備としての別の駆動手段（駆動モータ等）でも良いし、圧縮した空気を供給可能なコンプレッサーでも良いし、所謂ぜんまい等の形状変化を基にして動作力を生じさせる装置でも良いし、振り子のように荷重のバランスによって往復運動をさせる装置でも良いし、力を付与する手段であれば何でも良い。

【９７９３】
上記各実施形態では、伝達可能化部材Ａ１４３０が背面側部材Ａ１３１０と背面蓋部材Ａ１４８０との間に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、伝達可能化部材Ａ１４３０が背面側部材Ａ１３１０と正面側部材Ａ１３５０との間に配設されても良い。この場合、背面蓋部材Ａ１４８０を背面側部材Ａ１３１０及び正面側部材Ａ１３５０から外した場合において、振分部材Ａ１３８０が取り外されないのと同様に、伝達可能化部材Ａ１４３０が取り外されることを防止することができる。これにより、伝達可能化部材Ａ１４３０が取り外された状態（付け忘れた状態）でメンテナンスが終了するという事態を未然に避けることができる。

【９７９４】
上記各実施形態では、回転部材Ａ１４１０に対して、振分部材Ａ１３８０と伝達可能化部材Ａ１４３０とが別体で構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転部材Ａ１４１０と、振分部材Ａ１３８０と伝達可能化部材Ａ１４３０とが一体的に構成され、各部位の相対変位は連結部分において撓みが生じることにより破損が防止されるように構成しても良い。この場合、回転部材Ａ１４１０が正方向に回転動作する場合において振分部材Ａ１３８０及び伝達可能化部材Ａ１４３０が一の方向に変位され、回転部材Ａ１４１０が逆方向に回転動作する場合において振分部材Ａ１３８０及び伝達可能化部材Ａ１４３０が他の方向に変位される。これによれば、複数部材で構成される場合に比較して、組立工数を低減することができる。この場合において、樹脂材料から一体形成されても良いし、樹脂材料または金属材料の複数部材が一体的に固定され一体的に動作されるものでも良い。

【９７９５】
上記各実施形態では、ソレノイドＡ１４２０が電源投入から一定動作で駆動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球の流下に基づいて動作しても良い。この場合において球が流下していない時は駆動が停止されていても良いし、一定動作がされている途中に球の流下に基づく動作が差し込まれても良い。

【９７９６】
例えば、スルーゲートＨ６７を球が流下した場合にソレノイドＡ１４２０が励磁されるように構成しても良いし、振分部材Ａ１３８０の姿勢変化（例えば、下傾斜姿勢への変化）を検出して、その検出によりソレノイドＡ１４２０を短時間かつ高頻度で励磁させても良い。励磁の時間が短時間とされることにより、球が経路構成部Ａ１３４２側に流入する事象の発生を抑制し、折曲位置Ａ３０１側へ球が流下し易い状況を構成し易くすることができる。

【９７９７】
上記各実施形態では、折曲位置Ａ３０１において、連続的に形成される交差突条部Ａ３３１及び流下突条部Ａ３３２が、それぞれ別の凸部として形成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、交差突条部Ａ３３１及び流下突条部Ａ３３２の間の領域が面で連結されても良い。即ち、平面が前方に張り出される態様となっていてもいい。この場合、交差突条部Ａ３３１及び流下突条部Ａ３３２の前面に球が転動する面を構成することができ、正面側へ変位させる作用をより確実に生じさせることができる。

【９７９８】
上記各実施形態では、振分部材Ａ２３８０が左右方向に延びる回転軸を中心に回転動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、前後方向に延びる回転軸を中心に回転されても良い。この場合において、一回転以上の回転動作が可能に構成しても良い。これにより、球が到達した場合に振分部材Ａ２３８０が第１状態とされるか第２状態とされるかのランダム性を向上させることができる。

【９７９９】
振分部材Ａ２３８０の回転軸Ａ２３８０ａが左右方向に延びる場合を説明したが、回転軸Ａ２３８０ａが前後方向に延びる態様でも良いし、上下方向に延びる態様でも良い。この場合において、回転動作する部材は、球を振り分け可能な部材であれば態様は限定され

るものではなく、振分部材Ａ２３８０の向きを９０度変化させた態様でも良いし、振分部材Ａ１３８０の基端部Ａ１３８１側に回転軸が設けられるようにしても良い。この場合において、振分部材Ａ１３８０の姿勢は、球との当接が可能であれば限定されるものではなく、形成部Ａ１３８３が上下方向に張り出す姿勢でも良いし、形成部Ａ１３８３が前後方向に張り出す姿勢でも良い、その中間の姿勢（斜め）でも良い。

【９８００】

上記各実施形態では、振分部材Ａ１３８０又は振分部材Ａ２３８０のいずれか一方を配設したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、振分部材Ａ１３８０による振分の下流側において振分部材Ａ２３８０を配設しても良い。この場合において、振分部材Ａ２３８０の動作が中間部材を介して振分部材Ａ１３８０に伝達され、振分部材Ａ２３８０の動作中において振分部材Ａ１３８０が上傾斜姿勢とされ、その姿勢を維持するように構成しても良い。この場合、振分部材Ａ１３８０から球が離間した後においても、振分部材Ａ１３８０を上傾斜姿勢で維持させる場合を構成することができる。

【９８０１】

上記各実施形態では、上面傾斜突条部Ａ３５４が正面側部材Ａ１３５０に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上面傾斜突条部Ａ３５４が背面側部材Ａ１３１０に形成されるようにしても良い。その他、正面側部材Ａ１３５０の背面から突設される形状部の後端側を背面側部材Ａ１３１０と連結させて、正面側部材Ａ１３５０とは別体で形成しても良い。この場合、正面側部材Ａ１３５０の背面を平坦面とすることができるので、正面視における球流下経路の視認性を向上させることができる。

【９８０２】

上記第８３実施形態、及び、第８６実施形態～第８８実施形態では、正面視（矢印Ｂ方向視）において直交する平面上を上側揺動手段Ｄ１２０が変位する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、正面視における方向と平行な平面上を上側揺動手段Ｄ１２０が変位するように揺動ユニットＤ１００，Ｄ２１００，Ｄ３１００，Ｄ４１００を配設しても良い。また、上記第８６実施形態～第８８実施形態では、第８３実施形態における上側揺動手段Ｄ１２０を変形させた場合として説明したが、第８３実施形態における下側揺動手段Ｄ１３０を上記第８６実施形態～第８８実施形態における揺動ユニットＤ２１００，Ｄ３１００，Ｄ４１００のように変形させるものであっても良い。

【９８０３】

上記第８３実施形態、及び、第８６実施形態～第８８実施形態では、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０（変位手段Ｄ１２１，Ｄ３１２１，Ｄ４１２１及び第２変位手段Ｄ３１２５）の正面視における外形が略半円形状に形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、その外形が矩形状や円形状に形成されるものであっても良い。

【９８０４】

上記第８３実施形態、及び、第８６実施形態～第８８実施形態では、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０が、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７により変位される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、ボールねじ、ラック機構、スライドレール、ソレノイド等により所定の方向に直線的にスライド変位可能に構成される動作手段を上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０に連結または衝突させて、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０を変位させても良い。即ち、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７は、動作可能な部位であれば、どのような構造であっても良い。

【９８０５】

この場合には、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７のように、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを一方向に回転し続けることにより上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０を変位させること困難になるが、動作手

段を一方向（例えば上下方向）に変位させることに必要な動作機構に限定できるので、動作手段を他方向（例えば左右方向）に変位させるための機構を不要にできるので、可動機構が他方向側に大型化することを抑制できる。そのため、他方向における他部材の配設スペースを確保しやすくできる。

【９８０６】

なお、所定の方向に直線的にスライド変位可能に構成される変位部材を上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０に連結または衝突させて、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０を変位させる場合には、所定の方向に直線的にスライド変位可能に構成される変位部材の変位方向と同様に上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０を直線的に変位させるだけでなく、第８６実施形態における第１の規制部Ｄ２１１３及び第２の規制部Ｄ２１１４、又は、第８８実施形態における上側案内部Ｄ４１１７及び下側案内部Ｄ４１１８のように、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０をその変位に合わせて案内しても良い。

【９８０７】

この場合には、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０を案内する案内部材を配設する分、その製造コストを低減することが難しくなるが、所定の方向に直線的にスライド変位可能に構成される変位部材の変位方向とは異なる方向に上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０を変位させることで、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の変位の態様を複雑化しやすくできる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９８０８】

なお、上記第８３実施形態、及び、第８６実施形態～第８８実施形態では、回転する第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７に形成される突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂにより上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０に駆動力を作用させる場合について説明したが、上記した所定の方向に直線的にスライド変位可能に構成される変位部材のように、突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂは、変位手段に当接可能な部位であればどのような構成であっても良い。また、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７は、動作可能な部位であれば、どのような構造であっても良い。

【９８０９】

上記第８３実施形態、及び、第８６実施形態～第８８実施形態では、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７は、正面視略円形状に形成される場合について説明したが、これに限られるものではなく、例えば、リンク機構のように棒状に形成され一端が回転可能に軸支されると共に、他端が上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０に連結されるものであっても良い。即ち、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７は、回転可能な部位であれば、どのような構造であっても良い。

【９８１０】

上記第８３実施形態、及び、第８６実施形態～第８８実施形態では、窓部Ｈ１４ｅを介した視認領域内に上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０が収まる位置に揺動ユニットＤ１００，Ｄ２１００，Ｄ３１００，Ｄ４１００を配設することで、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の変位を視認させやすくする場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【９８１１】

例えば、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７が第１位置に配設される状態において、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の上方側の少なくとも一部が上側視認可能範囲Ｈ１４ｅ１の外側に位置し、その状態から第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７が第２位置（又は、第３位置、第４位置）まで回転されることで、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の全体が窓部Ｈ１４ｅの内側に配置されるように、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ

２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０を配設する、又は、窓部Ｈ１４ｅの範囲を設定しても良い。

【９８１２】

この場合には、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の変位途中に、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の少なくとも一部が遊技者から視認不能になるため、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の全体の変位を遊技者に視認させられなくなり、一時的に上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の演出効果が低下する恐れがあるが、変位途中の上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の少なくとも一部を遊技者から視認不能にすることで、その視認不能な領域が視認可能とされた際の遊技者の興趣を高めやすくできる。

【９８１３】

なお、上記した第８３実施形態、及び、第８６実施形態～第８８実施形態のように、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０が常に視認可能とされるものでは、常に上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０が視認されるため、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０を変位した際の興趣が低下する恐れがあるが、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の変位を目で追わせやすくできるので、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０が視認（注目）されなくなることを抑制できる。

【９８１４】

また、例えば、第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７が所定位置（例えば、第１位置）に配設され停止される状態においては、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０が上側視認可能範囲Ｈ１４ｅ１（窓部Ｈ１４ｅ）の外側に位置させ、その状態から第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７が停止位置とは異なる所定位置（例えば、第２位置、第３位置、第４位置）まで回転させることで、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の全体が窓部Ｈ１４ｅの内側に配置されるように、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０を配設する、又は、窓部Ｈ１４ｅの範囲を設定しても良い。

【９８１５】

この場合には、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の停止状態において上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の装飾を遊技者に視認させて遊技者の興味を持たせることができなくなるが、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０を停止状態から変位させて遊技者に視認させた際に初めて上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の装飾を遊技者に視認させることができるので、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０を変位させた際の興趣を高めやすくできる。

【９８１６】

上記第８３実施形態、及び、第８６実施形態～第８８実施形態では、窓部Ｈ１４ｅを介した視認領域内にベース手段Ｄ１１０，Ｄ２１１０，Ｄ３１１０，Ｄ４１１０と、そのベース手段Ｄ１１０，Ｄ２１１０，Ｄ３１１０，Ｄ４１１０に配設される各部材（上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０、上側動力付与手段Ｄ１４０，Ｄ２１４０，Ｄ３１４０，Ｄ４１４０）との少なくとも一部が窓部Ｈ１４ｅを介した視認領域内に配設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【９８１７】

例えば、窓部Ｈ１４ｅの上側視認可能範囲Ｈ１４ｅ１及び左側視認可能範囲Ｈ１４ｅ２の境界線の一部を窓部Ｈ１４ｅの内側に変形して（即ち、上側装飾ユニットＨ１４ａ及び左側装飾ユニットＨ１４ｂの正面視（矢印Ｂ方向視）における外形を変形して）、少なくとも上側動力付与手段Ｄ１４０，Ｄ２１４０，Ｄ３１４０，Ｄ４１４０が窓部Ｈ１４ｅの外側に配置されるようにしても良い。

【９８１８】

これによれば、窓部Ｈ１４ｅの上側視認可能範囲Ｈ１４ｅ１及び左側視認可能範囲Ｈ１４ｅ２の境界線の一部を窓部Ｈ１４ｅの内側に変形する分、その視認可能な範囲が狭まり上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０を遊技者に視認させ難くなる恐れがあるものの、上側動力付与手段Ｄ１４０，Ｄ２１４０，Ｄ３１４０，Ｄ４１４０を遊技者が視認することを抑制できるので、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０が変位される態様を予測され難くして、遊技の興趣を高めることができる。

【９８１９】

上記例示したように、窓部Ｈ１４ｅは、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０が所定の変位領域で視認可能となるように、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０等、所定の領域を視認可能とさせる部位であれば、どのような構成であっても良い。

【９８２０】

上記第８３実施形態、及び、第８６実施形態～第８８実施形態では、ベース手段Ｄ１１１１が樹脂材料から形成される場合について説明したが、必ずしも樹脂材料に限られるものではなく、例えば、木材から切り出して構成されるものであっても良い。

【９８２１】

上記第８３実施形態、及び、第８６実施形態～第８８実施形態では、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０が、光を透過可能な光透過部Ｄ１２１ｂを有する樹脂材料から形成される場合について説明したが、光透過部Ｄ１２１ｂを有さない場合においては、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０を金属材料から形成しても良い。

【９８２２】

また、変位手段Ｄ１２１は、正面視（矢印Ｂ方向視）において円弧状に形成される反射部Ｄ１２１ａの内側に光透過部Ｄ１２１ｂを備えるので、第３図柄表示装置Ｈ８１（図４９８参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に少なくとも一部が重なる位置に変位手段Ｄ１２１を配設した場合に、光透過部Ｄ１２１ｂを介して背面側（矢印Ｂ方向側）の第３図柄表示装置Ｈ８１の表示を視認可能とされる。その結果、第３図柄表示装置Ｈ８１の視認可能領域が狭くなることを抑制しつつ、演出可能な領域を増加させることができる。

【９８２３】

なお、第８３実施形態では、変位手段Ｄ１２１が反射部Ｄ１２１ａと、光透過部Ｄ１２１ｂとの両方を備えるが、どちらか一方のみで構成されるものであっても良い。例えば、変位手段Ｄ１２１は、光を反射可能な反射部Ｄ１２１ａのみで構成されるものであっても良い。この場合には、変位手段Ｄ１２１の内部に光照射手段（図示しない）を配設する必要がなくなるため、変位手段Ｄ１２１の構造を簡易にできる。

【９８２４】

上記第８３実施形態、及び、第８６実施形態～第８８実施形態では、窓部Ｈ１４ｅを正面枠１４が有する場合について説明したが必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、パチンコ機Ｈ１０の背面側に配設される裏パックユニットＨ９４（図４９０参照）に窓部Ｈ１４ｅが形成され、裏パックユニットＨ９４の正面側に配設される払出制御装置Ｈ１１１（図４９０参照）を窓部Ｈ１４ｅを介してパチンコ機Ｈ１０の背面側から視認可能にしても良い。即ち、正面枠Ｈ１４は、所定の空間を介して所定の領域を視認可能とさせる部位を有する部位であればどのような構成であってもよい。

【９８２５】

上記第８３実施形態、及び、第８６実施形態～第８８実施形態に記載したように、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０は、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７に軸支されて変位されるものであっても良いし、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０は、ボールねじ、ラック機構、スライドレール、リンク機構、ソレノイド等によりスライド変位可能に支持されるものであっても良い。即ち、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０は、

変位可能な部位であれば、どのような構成であっても良い。

【９８２６】

上記第８３実施形態、及び、第８６実施形態～第８８実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度（即ち、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７の回転速度）をパチンコ機Ｈ１０（図４９７参照）の演出態様によって変更する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、遊技者の好みにより遊技者が駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度（即ち、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７の回転速度）を選択できるように構成しても良い。例えば、パチンコ機Ｈ１０の正面枠Ｈ１４に配設される機能調整操作部Ｈ１９０（図４９７参照）の各種ボタン（決定ボタンＨ１９１、及び、上下左右ボタンＨ１９２～Ｈ１９５）を操作することで、遊技者が自身の好みに合う駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度（即ち、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７の回転速度）で変位されるように変更（速く、又は、遅くするように調整）できるように構成しても良い。

【９８２７】

即ち、上記第８３実施形態、及び、第８６実施形態～第８８実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度（即ち、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７の回転速度）がパチンコ機Ｈ１０の制御によって変更されるもであって為、遊技者の意図とは関係なく上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の変位の態様が変化される。そのため、遊技者の興趣を好適に向上することができないという問題点があった。

【９８２８】

また、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０は、第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側に少なくとも重なる位置に配設されるので、上記第８３実施形態、及び、第８６実施形態～第８８実施形態のように、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度（即ち、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７の回転速度）をパチンコ機Ｈ１０（図４９７参照）の演出態様によって変更するものであると、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０を変位させた際に正面視における第３図柄表示装置Ｈ８１との重なり量が大きくなる。この場合において、第３図柄表示装置Ｈ８１の視認可能領域が狭まることを嫌う遊技者が一定数存在する。一方で、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０等の変位量が少ない（演出幅が小さい）ことを不服に感じる遊技者も一定数存在する。

【９８２９】

そのため、上記したように、機能調整操作部Ｈ１９０（図４９７参照）の各種ボタン（決定ボタンＨ１９１、及び、上下左右ボタンＨ１９２～Ｈ１９５）を操作することで、遊技者が自身の好みに合う駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度（即ち、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７の回転速度）に選択（速く、又は、遅くするように調整）できることで、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０を変位させた際に、遊技の興趣が低下することを抑制できる。

【９８３０】

また、機能調整操作部Ｈ１９０は、各種ボタン（決定ボタンＨ１９１、及び、上下左右ボタンＨ１９２～Ｈ１９５）が押しボタンとして構成され、押しボタンの操作回数によって、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度（即ち、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７の回転速度）を変更可能に構成されるので、押しボタンを複数回操作することが必要となるが、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度の細かな設定を遊技者の所望する通りに設定できる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【９８３１】

なお、機能調整操作部Ｈ１９０（図４９７参照）の各種ボタン（決定ボタンＨ１９１、及び、上下左右ボタンＨ１９２～Ｈ１９５）を操作することで、遊技者が自身の好みに合

う駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度を変更した際には、所定のタイミングで、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７の回転速度が切り替わるように制御される。

【９８３２】

即ち、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７が回転している途中や演出の途中で、その回転速度が切り替わってしまうと、演出によって第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７の回転速度が変わったのか、機能調整操作部Ｈ１９０（図４９７参照）を操作したことによって、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７の回転速度が変わったのか遊技者に認識させ難くなり、遊技者に与える興趣が低下する恐れがある。

【９８３３】

これに対し、所定のタイミング、即ち、大当たりの抽選結果が遊技者に示されたタイミングで、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７の回転速度が機能調整操作部Ｈ１９０（図４９７参照）の操作で変更された回転速度に切り替わるように制御されることで、抽選結果を演出で示している途中で回転速度が切り替わった場合には、その切り替わった要因が演出であることを遊技者に認識させることができる。その結果、遊技者に与える興趣が低下することを抑制できる。

【９８３４】

なお、機能調整操作部Ｈ１９０（図４９７参照）を操作することによって設定される駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度の下限は、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７の回転が停止する状態（即ち、軸部Ｄ１４１ｂが回転しない状態）とされても良い。

【９８３５】

また、上記第８３実施形態では、上側揺動手段Ｄ１２０が上側バネＤ１８１に吊り下げ支持され、上記第８６実施形態～第８８実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂが回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転される場合に上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０を弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に当接可能に構成され、第８３実施形態、及び、第８６実施形態～第８８実施形態における上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０は、上側バネＤ１８１及び弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力により、その変位の態様を複雑にすることができる。

【９８３６】

そのため、上記したように、機能調整操作部Ｈ１９０（図４９７参照）を操作することで、遊技者が自身の好みに合う駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度（即ち、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７の回転速度）に変更した場合に、その変更によって上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の変位の態様を変えることができる。

【９８３７】

即ち、機能調整操作部Ｈ１９０（図４９７参照）を操作することで、遊技者が駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度（即ち、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７の回転速度）を変更した場合に、単に、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の変位速度・変位量を変えるだけでなく、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の変位の態様を変えることができる。よって、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０に遊技者の予想外の変位をさせることができる。その結果、機能調整操作部Ｈ１９０を操作することで、遊技者の興趣を高めることができる。

【９８３８】

なお、機能調整操作部Ｈ１９０（図４９７参照）を操作することで、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０が変位可能となるタイミングを遊技者が選択できるようにしても良い。例えば、大当たりしたタイミングや、大当たりの可能性が高い

抽選状態を演出しているタイミングや、大当たりの抽選の確率が変更されたタイミング等、遊技者の好みに合ったタイミングで上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０が変位可能となるように遊技者が設定を変更できるように構成しても良い。これにより、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の変位させた際の遊技者の興趣を高めることができる。

【９８３９】

なお、機能調整操作部Ｈ１９０は、各種ボタン（決定ボタンＨ１９１、及び、上下左右ボタンＨ１９２～Ｈ１９５）が押しボタンとして構成され、押しボタンの操作回数によって、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度（即ち、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７の回転速度）を変更可能に構成されるが、機能調整操作部Ｈ１９０を、押し込み量を計測可能な押しボタンに変更して、押しボタンの押し込み量に応じて、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度（即ち、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７の回転速度）を変更しても良い。また、つまみ等の回転式やレバー等の直動式のボリュームスイッチに変えても良い。

【９８４０】

この場合には、ボタンやスイッチの変位量によって駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度（即ち、第１正面カムＤ１４３又は第２正面カムＤ１４７，Ｄ２１４７の回転速度）を変えられるようになるため、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度の細かな設定はし難くなるものの、直感的に機能調整操作部Ｈ１９０を操作することが可能になるので、その操作を簡易に行えるようにできる。

【９８４１】

また、機能調整操作部Ｈ１９０は、ＯＮ・ＯＦＦを切り替える切替ボタンとして構成されていても良い。この場合、機能調整操作部Ｈ１９０を操作する興味を遊技者に持たせ難くなる恐れがあるが、ＯＦＦ時には、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転がＯＦＦされ、ＯＮ時には、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度がランダムに変更されるように構成することで、ＯＮ時における上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の変位の態様の変化を予測困難としやすくできる。その結果、上側揺動手段Ｄ３１２０の演出が単調になることを抑制して、上側揺動手段Ｄ３１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９８４２】

上記第８６実施形態～第８８実施形態では、上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０が過剰に変位された際に、上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０を弾性変形可能な付勢手段Ｄ２１８３に当接させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、付勢手段Ｄ２１８３に換えて、バネ、油圧、又は、空圧により力を吸収可能なダンパーを配設するものであっても良い。

【９８４３】

上記第８３実施形態では、上側揺動手段Ｄ１２０及び下側揺動手段Ｄ１３０に駆動力を付与する第１正面カムＤ１４３及び第２正面カムＤ１４７が同一の回転速度・回転量で回転される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１正面カムＤ１４３と第２正面カムＤ１４７とを別々の駆動モータにより駆動して、第１正面カムＤ１４３と第２正面カムＤ１４７との回転速度・回転量を異なるものとしても良い。なお、この場合には、上側揺動手段Ｄ１２０及び下側揺動手段Ｄ１３０の貫通孔Ｄ１２２ａ，Ｄ１２３ａ，Ｄ１３２ａ，Ｄ１３２ｂを溝状に形成して、その貫通孔Ｄ１２２ａ，Ｄ１２３ａ，Ｄ１３２ａ，Ｄ１３２ｂの内側を突設部Ｄ１２３ｂ２，Ｄ１４７ｂ，Ｄ１３３ｂ２，Ｄ１５７ｂが摺動可能に構成される。

【９８４４】

上記第８３実施形態では、上側揺動手段Ｄ１２０及び下側揺動手段Ｄ１３０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における他端側（矢印Ｒ方向側）が上側バネＤ１８１及び下側バネＤ１８２により付勢される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、上側バネＤ１８１及び下側バネＤ１８２に変えて、弾性変形可能な弾性部材により上側

揺動手段Ｄ１２０及び下側揺動手段Ｄ１３０の左右方向における他端側を付勢力しても良い。

【９８４５】

また、上記第８３実施形態では、上側揺動手段Ｄ１２０及び下側揺動手段Ｄ１３０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における他端側（矢印Ｒ方向側）が上側バネＤ１８１及び下側バネＤ１８２によりベース本体Ｄ１１１に吊り下げ支持される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第８６実施形態～第８８実施形態における揺動ユニットＤ２１００，Ｄ３１００，Ｄ４１００のように、上側揺動手段Ｄ１２０及び下側揺動手段Ｄ１３０から離れる位置に配設される弾性部材により、上側揺動手段Ｄ１２０及び下側揺動手段Ｄ１３０に付勢力を作用させるものであっても良い。

【９８４６】

上記第８３実施形態では、上側揺動手段Ｄ１２０に連結した上側バネＤ１８１により、上側揺動手段Ｄ１２０に上側バネＤ１８１の反力を作用させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、上記第８６実施形態～第８８実施形態のように、上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０から離間する位置に付勢手段Ｄ２１８３を配設して、上側揺動手段Ｄ１２０が付勢手段Ｄ２１８３に当接した場合にのみ、上側揺動手段Ｄ１２０に弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力を作用させるように構成しても良い。

【９８４７】

上記第８３実施形態および第８６実施形態～第８８実施形態では、揺動ユニットＤ１００，Ｄ２１００，Ｄ３１００，Ｄ４１００が上側バネＤ１８１、又は、付勢手段Ｄ２１８３を備える場合について説明したが、上側バネＤ１８１、又は、付勢手段Ｄ２１８３を備えていないものであっても良い。この場合、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０が過剰に変位された際に上側バネＤ１８１、又は、付勢手段Ｄ２１８３の反力を受けない分、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０や突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂに加わる力が大きくなり、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０や突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂが破損しやすくなるが、上側バネＤ１８１、又は、付勢手段Ｄ２１８３を配設しない分、揺動ユニットＤ１００，Ｄ２１００，Ｄ３１００，Ｄ４１００の製造コストを低減できる。

【９８４８】

上記第８６実施形態～第８８実施形態では、付勢手段Ｄ２１８３の弾性バネＤ２１８３ｂが付勢手段Ｄ２１８３の弾性体Ｄ２１８３ａよりも弾性変形しやすく形成され、弾性体Ｄ２１８３ａに衝突する上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０に弾性バネＤ２１８３ｂの反力を作用させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、弾性バネＤ２１８３ｂが弾性変形される反力と、弾性体Ｄ２１８３ａが弾性変形される反力とを上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０に作用させるものであっても良い。

【９８４９】

上記第８６実施形態～第８８実施形態では、付勢手段Ｄ２１８３の弾性バネＤ２１８３ｂが付勢手段Ｄ２１８３の弾性体Ｄ２１８３ａよりも弾性変形しやすく形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、付勢手段Ｄ２１８３の弾性体Ｄ２１８３ａが付勢手段Ｄ２１８３の弾性バネＤ２１８３ｂよりも弾性変形しやすく形成されても良い。

【９８５０】

この場合には、弾性体Ｄ２１８３ａの弾性材料が限定されるので、弾性体Ｄ２１８３ａの製造コストが増加する恐れがあるものの、弾性体Ｄ２１８３ａから上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０に直接反力を作用させることができるので、上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０に反力を作用させやすくできる。

【９８５１】

なお、第８６実施形態のように、付勢手段Ｄ２１８３の弾性バネＤ２１８３ｂが付勢手

段Ｄ２１８３の弾性体Ｄ２１８３ａよりも弾性変形しやすく形成される場合には、反力を作用させる弾性バネＤ２１８３ｂと上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０との間に弾性体Ｄ２１８３ａが介在するため、弾性バネＤ２１８３ｂから上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０に反力が作用する間に、その反力が弾性体Ｄ２１８３ａに吸収されて、弾性バネＤ２１８３ｂから上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０に反力が小さくなる恐れがあるが、弾性バネＤ２１８３ｂがコイルスプリング等の金属材料から形成されるので、その金属材料の旋回回数などで上側揺動手段Ｄ２１２０に作用させる反力を調整しやすくできる。

【９８５２】

上記第８６実施形態～第８８実施形態では、付勢手段Ｄ２１８３が、弾性体Ｄ２１８３ａと弾性バネＤ２１８３ｂとの２部材から形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【９８５３】

例えば、付勢手段Ｄ２１８３は、コイルスプリング、板バネ、皿バネ、渦巻きバネなどの金属材料から形成される金属バネの１部材で構成されるものであっても良い。この場合には、上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０が当接される部分が金属材料となるため、上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０を付勢手段Ｄ２１８３に当接させた際に上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０に傷がつく恐れがあるものの、付勢手段Ｄ２１８３を１部材で構成できる分、付勢手段Ｄ２１８３の製造コスト及び上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の組立コストを低減できる。

【９８５４】

また、例えば、付勢手段Ｄ２１８３は、ゴムやウレタンなどの弾性材料から形成される弾性体の１部材で構成されるものであっても良い。この場合には、所定の反力を得るためにゴムやウレタンの材料が限定され、付勢手段Ｄ２１８３の製造コストが増加する恐れがあるものの、上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０が当接される部分を弾性変形可能にできるため、上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０を付勢手段Ｄ２１８３に当接させた際に上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０に傷がつくことを抑制できる。また、付勢手段Ｄ２１８３を１部材で構成できる分、上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０の組立コストを低減できる。

【９８５５】

なお、付勢手段Ｄ２１８３をゴムやウレタンなどの弾性材料から形成される弾性体の１部材で構成する場合には、その形状は、角型状に形成されても、所定の厚みを有する板状に形成されても、円柱状に形成されても良い。また、角柱状、円柱状、板状に形成される内部を中空状にしたり、角柱状、円柱状、板状に形成される外面の一部を凹設して、付勢手段Ｄ２１８３から上側揺動手段Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０に作用する反力を調整しても良い。

【９８５６】

上記例示したように、上側バネＤ１８１及び付勢手段Ｄ２１８３は、当接する変位手段に反力を付与可能となるように、変位手段が当接される部位であれば、どのような構成であっても良い。

【９８５７】

上記第８６実施形態では、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂの外径と略同一または若干大きい内径に形成した上側揺動手段Ｄ２１２０の貫通孔Ｄ１２３ａに、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂを挿入して上側揺動手段Ｄ２１２０を軸支する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上記第８７実施形態において説明した弾性変形可能な弾性部材Ｄ３１２５ｃ３を有する被保持手段Ｄ３１２５ｃを、貫通孔Ｄ１２３ａの内側に配設する、又は、突設部Ｄ１４７ｂの周囲に配設して、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂと上側揺動手段Ｄ２１２０の貫通孔Ｄ１２３ａとの間に弾性部材Ｄ３１２５ｃ３が介在するように構成しても良い。

【９８５８】

この場合には、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂの外径と略同一または若干大きい内径に形成した上側揺動手段Ｄ２１２０の貫通孔Ｄ１２３ａに、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂを挿入して上側揺動手段Ｄ２１２０を軸支するものに比べて、弾性部材Ｄ３１２５ｃ３を配設する分、その製造コストが嵩むことになるが、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転した際に、突設部Ｄ１４７ｂから上側揺動手段Ｄ２１２０に作用する駆動力を弾性部材Ｄ３１２５ｃ３の弾性変形により吸収できる。よって、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い速度）で回転した際に、上側揺動手段Ｄ２１２０に作用する慣性力を抑えることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ２１２０が過剰に変位することを抑制できる。

【９８５９】

また、弾性部材Ｄ３１２５ｃ３の弾性変形により、突設部Ｄ１４７ｂに対する上側揺動手段Ｄ２１２０の相対位置を変更することができるので、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様を変更できる。また、この場合には、弾性部材Ｄ３１２５ｃ３の反力を上側揺動手段Ｄ２１２０に作用させることができるので、弾性部材Ｄ３１２５ｃ３の反力によって上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様を複雑化しやすくできる。その結果、上側揺動手段Ｄ２１２０の演出が単調となることを抑制して、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９８６０】

なお、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂと上側揺動手段Ｄ２１２０の貫通孔Ｄ１２３ａとの間に弾性部材Ｄ３１２５ｃ３を配設せず、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂと上側揺動手段Ｄ２１２０の貫通孔Ｄ１２３ａとの間に所定の空間を設けるように構成して、突設部Ｄ１４７ｂに対する上側揺動手段Ｄ２１２０の相対位置を変更するようにしても良い。

【９８６１】

この場合には、上側揺動手段Ｄ２１２０が突設部Ｄ１４７ｂから隔離され、上側揺動手段Ｄ２１２０が突設部Ｄ１４７ｂに対して非拘束とされた状態で変位可能とされるので、その非拘束とされる状態において、上側揺動手段Ｄ２１２０を突設部Ｄ１４７ｂの変位とは無関係に変位させることができる。よって、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様を複雑化しやすくできる。その結果、上側揺動手段Ｄ２１２０の演出が単調となることを抑制して、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９８６２】

即ち、上記第８３実施形態、及び、第２実施形態のように、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０に形成される貫通孔Ｄ１２２ａ，Ｄ１２３ａと突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂとの間の隙間がほとんどない形成されない場合には、貫通孔Ｄ１２２ａ，Ｄ１２３ａに突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂが衝突されないため、耐久性を向上できる。また、上記したように、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂと上側揺動手段Ｄ２１２０の貫通孔Ｄ１２３ａとの間に弾性部材Ｄ３１２５ｃ３を備える必要がない分、部品点数を削減できる。

【９８６３】

しかしながら、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０の変位が突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂの変位に沿った動作態様とされる（即ち、突設部Ｄ１４３ｂ２，Ｄ１４７ｂに対する上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０の相対位置がほとんど変わらない）ため、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０の変位の態様が単調になりやすい。また、上側揺動手段Ｄ１２０，Ｄ２１２０の変位の態様が単調である為に、上側揺動手段Ｄ１２０、Ｄ２１２０の変位を案内するような第１の規制部Ｄ２１１３，第２の規制部Ｄ２１１４が不要となる。

【９８６４】

これに対し、上記したように、上側揺動手段Ｄ２１２０が突設部Ｄ１４７ｂから隔離され、上側揺動手段Ｄ２１２０が突設部Ｄ１４７ｂに対して非拘束とされた状態で変位可能とすることで、突設部Ｄ１４７ｂに対する上側揺動手段Ｄ２１２０の相対位置を変更する

ことができる。そのため、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様を複雑化しやすくできる。その結果、上側揺動手段Ｄ２１２０の演出が単調となることを抑制して、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９８６５】

なお、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂと上側揺動手段Ｄ２１２０の貫通孔Ｄ１２３ａとの間に所定の空間を設けるように構成して、上側揺動手段Ｄ２１２０を突設部Ｄ１４７ｂに対して非拘束とした状態で変位可能とした場合には、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位量が大きくなることで、上側揺動手段Ｄ２１２０が所定の領域外まで変位する恐れがある。この場合、上側揺動手段Ｄ２１２０や突設部Ｄ１４７ｂに作用する負荷が過大になり、それら上側揺動手段Ｄ２１２０や突設部Ｄ１４７ｂが破損する恐れがある。また、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位量が大きくなることで、上側揺動手段Ｄ２１２０が突設部Ｄ１４７ｂや他の部材（例えば、センターフレームＡ８６）に当接して、上側揺動手段Ｄ２１２０、突設部Ｄ１４７ｂ、他の部材が破損する恐れがある。

【９８６６】

これに対し、第８６実施形態では、第１の規制部Ｄ２１１３及び第２の規制部Ｄ２１１４により、所定の領域外に変位しようとする上側揺動手段Ｄ２１２０を案内可能に構成される。従って、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂと上側揺動手段Ｄ２１２０の貫通孔Ｄ１２３ａとの間に所定の空間を設けるように構成して、上側揺動手段Ｄ２１２０を突設部Ｄ１４７ｂに対して非拘束とした状態で変位可能とした場合であっても、第１の規制部Ｄ２１１３及び第２の規制部Ｄ２１１４により所定の領域外に変位しようとする上側揺動手段Ｄ２１２０の変位を案内して、上側揺動手段Ｄ２１２０が突設部Ｄ１４７ｂや他の部材（例えば、センターフレームＡ８６）に当接して、上側揺動手段Ｄ２１２０、突設部Ｄ１４７ｂ、他の部材が破損することを抑制できる。

【９８６７】

また、第８６実施形態では、第１の規制部Ｄ２１１３が、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂの変位速度に関わらず、上側揺動手段Ｄ２１２０を案内可能な位置に形成されるので、突設部Ｄ１４７ｂを上側揺動手段Ｄ２１２０に当接させて上側揺動手段Ｄ２１２０を変位させる場合において、第１の規制部Ｄ２１１３により上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の変化をより大きくするのに好適な方向に向けて上側揺動手段Ｄ２１２０の変位を開始させることができる。

【９８６８】

即ち、上側揺動手段Ｄ２１２０は、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂから駆動力を受けた後、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂから離隔され第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂに対して非拘束とされた状態で変位可能に構成されるところ、駆動力を受けて上側揺動手段Ｄ２１２０が変位を開始する際の進行方向には、非拘束とされた状態での上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の変化をより大きくするのに適した方向と、非拘束とされた状態での上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の変化を阻害する方向とが存在する。そのため、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂから駆動力を受けている上側揺動手段Ｄ２１２０の変位を案内していないと、非拘束とされた状態での上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の変化を阻害する方向に変位する可能性がある。

【９８６９】

これに対し、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂから駆動力を受けている上側揺動手段Ｄ２１２０の変位を案内可能に構成されることで、非拘束とされた状態での上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の変化をより大きくするのに好適な方向に向けて上側揺動手段Ｄ２１２０の変位を開始させることができる。

【９８７０】

上記第８６実施形態では、過剰に変位される上側揺動手段Ｄ２１２０を第２の規制部Ｄ２１１４よりも先に弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に当接させる場合について説明したが、過剰に変位される上側揺動手段Ｄ２１２０を第２の規制部Ｄ２１１４に当接させて上側揺動手段Ｄ２１２０の変位を規制した後、その上側揺動手段Ｄ２１２０を弾

性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に当接させるべく、上側揺動手段Ｄ２１２０を弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に当接させる方向に案内するように第２の規制部Ｄ２１１４が構成されても良い。

【９８７１】

この場合には、弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）には、第２の規制部Ｄ２１１４に当接した後、第２の規制部Ｄ２１１４によって弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に向かって案内される上側揺動手段Ｄ２１２０を当接させることができる。そのため、上側揺動手段Ｄ２１２０に弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力が作用する態様を確実に形成できる。また、弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に対する上側揺動手段Ｄ２１２０の当接位置を略同一箇所にできる。その結果、弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）を無駄に大型化する必要が無くなり、付勢手段Ｄ２１８３の製造コストを低減できる。

【９８７２】

なお、第８６実施形態においては、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂが回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い回転速度）で回転される（即ち、第２正面カムＤ２１４７が比較的早い回転速度で回転される）場合に、上側揺動手段Ｄ２１２０が弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に当接するように構成される。そのため、上側揺動手段Ｄ２１２０が第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂや上側揺動手段Ｄ２１２０の周囲に配設される他の部材（例えば、センターフレームＡ８６と衝突すると破損する恐れがある。

【９８７３】

これに対し、上側揺動手段Ｄ２１２０を弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に当接させる方向に案内するように第２の規制部Ｄ２１１４が構成されることで、上側揺動手段Ｄ２１２０が第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂや上側揺動手段Ｄ２１２０の周囲に配設される他の部材（例えば、センターフレームＡ８６と衝突することを抑制できる。その結果、上側揺動手段Ｄ２１２０や突設部Ｄ１４７ｂ又は他の部材が破損することを抑制できる。

【９８７４】

さらに、第２の規制部Ｄ２１１４により上側揺動手段Ｄ２１２０を弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に案内して、弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に当接させた後には、弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力により、上側揺動手段Ｄ２１２０を更に変位させることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９８７５】

しかしながら、この場合には、弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力で上側揺動手段Ｄ２１２０が変位されることで、上側揺動手段Ｄ２１２０が暴れる恐れがある。そのため、第２の規制部Ｄ２１１４により上側揺動手段Ｄ２１２０を弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に案内して、弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に上側揺動手段Ｄ２１２０を当接させる場合には、弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力が作用する方向に過剰に変位することを抑制するための第３の規制部材（図示しない）をベース本体Ｄ２１１１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設することで、弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力で変位された上側揺動手段Ｄ２１２０の変位方向を変更しても良い。

【９８７６】

上記第８６実施形態では、上側揺動手段Ｄ２１２０が第１の規制部Ｄ２１１３及び第２の規制部Ｄ２１１４に当接して案内される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでは、例えば、第１の規制部Ｄ２１１３及び第２の規制部Ｄ２１１４をベース本体Ｄ２１１１に形成せず、上側揺動手段Ｄ２１２０が自由に変位するようにしても良い。

【９８７７】

この場合には、上側揺動手段Ｄ２１２０が第１の規制部Ｄ２１１３及び第２の規制部Ｄ２１１４に案内されなくなる分、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位可能範囲が大きくなる分

、上側揺動手段Ｄ２１２０が突設部Ｄ１４７ｂや他の部材（例えば、センターフレームＡ８６）に衝突して、それら上側揺動手段Ｄ２１２０、突設部Ｄ１４７ｂ、他の部材が破損しやすくなる恐れがあるが、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位可能範囲を大きくして、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様の変化をより大きくできる。また第１の規制部Ｄ２１１３及び第２の規制部Ｄ２１１４をベース本体Ｄ２１１１に形成しない分、そのベース本体Ｄ２１１１（ベース手段Ｄ２１１０）の製造コストを低減できる。

【９８７８】

上記第８７実施形態では、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂの回転速度を変更することにより、変位手段Ｄ３１２１を第２変位手段Ｄ３１２５に当接させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、変位手段Ｄ３１２１と第２変位手段Ｄ３１２５とが軸支され、変位手段Ｄ３１２１と第２変位手段Ｄ３１２５とが常に当接されていても良い。

【９８７９】

この場合には、変位手段Ｄ３１２１と第２変位手段Ｄ３１２５との相対位置（距離）が変わらないため、それらの変位の変化が小さくなるものの、変位手段Ｄ３１２１が第２変位手段Ｄ３１２５に離間した位置から衝突することが無くなるため、その衝突による変位手段Ｄ３１２１又は第２変位手段Ｄ３１２５の破損を抑制できる。

【９８８０】

上記第８７実施形態では、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂの変位速度に関わらず上側揺動手段Ｄ２１２０を第１の規制部Ｄ２１１３が案内可能とされ、上側揺動手段Ｄ２１２０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に過剰に変位した場合に上側揺動手段Ｄ２１２０を第２の規制部Ｄ２１１４が案内可能とされる場合について説明したが、例えば、第１の規制部Ｄ２１１３と第２の規制部Ｄ２１１４が上側揺動手段Ｄ２１２０を常に案内可能に形成されていても良い。

【９８８１】

この場合には、上側揺動手段Ｄ２１２０が過剰に変位することを第１の規制部Ｄ２１１３と第２の規制部Ｄ２１１４とで常に規制するので、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位可能範囲が狭まる恐れがあるが、上側揺動手段Ｄ２１２０が突設部Ｄ１４７ｂや他の部材（例え、センターフレームＡ８６）に衝突して、それら上側揺動手段Ｄ２１２０、突設部Ｄ１４７ｂ、他の部材の破損を抑制できる。

【９８８２】

なお、第１の規制部Ｄ２１１３と第２の規制部Ｄ２１１４が上側揺動手段Ｄ２１２０を常に案内可能にした場合に、上側揺動手段Ｄ２１２０が突設部Ｄ１４７ｂから離間する構造とすることで、上側揺動手段Ｄ２１２０が一定の軌跡に沿った動作を繰り返すのみであるものの、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位の態様を変化させることが可能となり、上側揺動手段Ｄ２１２０の演出が単調となることを抑制して、上側揺動手段Ｄ２１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９８８３】

上記第８７実施形態では、変位手段Ｄ３１２１と第２変位手段Ｄ３１２５との連結部に被保持手段Ｄ３１２５ｃが配設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、被保持手段Ｄ３１２５ｃを配設せず、被保持手段Ｄ３１２５ｃを配設していた貫通孔に変位手段Ｄ３１２１の軸部Ｄ３１２１ｃ２が隙間を空けた状態で配設されるものであっても良い。

【９８８４】

この場合には、変位手段Ｄ３１２１と第２変位手段Ｄ３１２５とが非拘束とされるため、第２変位手段Ｄ３１２５の貫通孔の内面に変位手段Ｄ３１２１の軸部Ｄ３１２１ｃ２が当接した際の衝撃が大きくなり変位手段Ｄ３１２１の軸部Ｄ３１２１ｃ２が破損しやすくなる恐れがあるが、変位手段Ｄ３１２１と第２変位手段Ｄ３１２５とが互いに拘束されず自由に変位できるので、それぞれの変位の態様の変化を大きくできる。

【９８８５】

上記第８７実施形態では、被保持手段Ｄ３１２５ｃが、内リングＤ３１２５ｃ１と外リングＤ３１２５ｃ２と弾性部材Ｄ３１２５ｃ３とから構成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、被保持手段Ｄ３１２５ｃは、弾性部材Ｄ３１２５ｃ３のみで構成されるものであっても、内リングＤ３１２５ｃ１又は外リングＤ３１２５ｃ２の一方と弾性部材Ｄ３１２５ｃ３とで構成されるものであっても良い。

【９８８６】

上記第８７実施形態では、弾性部材Ｄ３１２５ｃ３が円環形状に形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、弾性部材Ｄ３１２５ｃ３は、内リングＤ３１２５ｃ１と外リングＤ３１２５ｃ２との間の一部を部分的に繋ぐように構成されていても良い。また、弾性部材Ｄ３１２５ｃ３の厚みや幅が部分的に小さく又は大きく形成されるものであっても良い。

【９８８７】

この場合には、弾性部材Ｄ３１２５ｃ３（被保持手段Ｄ３１２５ｃ）への軸部Ｄ３１２１ｃ２の当接位置によって、弾性部材Ｄ３１２５ｃ３から作用する反力を変更できる。その結果、変位手段Ｄ３１２１と第２変位手段Ｄ３１２５との変位の態様を複雑化して変位軌跡の予想を困難にすることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ３１２０の演出が単調になることを抑制して、上側揺動手段Ｄ３１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９８８８】

上記第８８実施形態では、左側案内部Ｄ４１２８ａ及び右側案内部Ｄ４１２８ｂの対向間に第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂを配置することで、突設部Ｄ１４７ｂの変位によって上側揺動手段Ｄ４１２０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側に変位される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上側揺動手段Ｄ４１２０に右側案内部Ｄ４１２８ｂのみを形成して、突設部Ｄ１４７ｂの変位により上側揺動手段Ｄ４１２０が右側（矢印Ｒ方向側）にのみ変位されるように構成すると共に、下側案内部Ｄ４１１８の全域に傾斜面Ｄ４１１８ａを形成して、突設部Ｄ１４７ｂの変位により右側に変位された上側揺動手段Ｄ４１２０が傾斜面Ｄ４１１８ａの傾斜によって突設部Ｄ１４７ｂと当接可能な位置に戻るように構成しても良い。

【９８８９】

この場合には、上側揺動手段Ｄ４１２０が右側（矢印Ｒ方向側）に変位する態様と、左側（矢印Ｌ方向側）に変位する態様とを異ならせることができるので、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９８９０】

また、上側揺動手段Ｄ４１２０に右側案内部Ｄ４１２８ｂのみを形成して、突設部Ｄ１４７ｂの変位により上側揺動手段Ｄ４１２０が右側（矢印Ｒ方向側）にのみ変位されるように構成した場合においても、第８８実施形態と同様に、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ｂ（回転速度Ａよりも遅い回転速度）で回転させた場合には、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂの変位に伴って上側揺動手段Ｄ４１２０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位可能に構成され、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い回転速度）で回転させた場合には、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂの変位に伴って上側揺動手段Ｄ４１２０が左右方向に変位された後、上側揺動手段Ｄ４１２０が突設部Ｄ１４７ｂから隔離され、上側揺動手段Ｄ４１２０が突設部Ｄ１４７ｂに対して非拘束とされた状態で変位可能に構成される。

【９８９１】

なお、上側揺動手段Ｄ４１２０に右側案内部Ｄ４１２８ｂのみを形成して、突設部Ｄ１４７ｂの変位により上側揺動手段Ｄ４１２０が右側（矢印Ｒ方向側）にのみ変位されるように構成した場合には、駆動モータＤ１４１の軸部Ｄ１４１ｂを回転速度Ａ（回転速度Ｂよりも速い回転速度）で回転させて、突設部Ｄ１４７ｂと上側揺動手段Ｄ４１２０とが離れる状態とされた後において、第２正面カムＤ２１４７の変位を継続させて、突設部Ｄ１４７ｂと上側揺動手段Ｄ４１２０とが離れる状態とされた後、上側揺動手段Ｄ４１２０が傾斜面Ｄ４１１８ａの傾斜によって突設部Ｄ１４７ｂと当接可能となる位置に戻される間

に、第２正面カムＤ２１４７を第１位置から第２位置の間や第２位置から第４位置の間など（即ち、第２正面カムＤ２１４７が１回転しない所定の変位区間）を少なくとも１回往復可能に構成されることが好ましい。

【９８９２】

これによれば、突設部Ｄ１４７ｂと上側揺動手段Ｄ４１２０とが離れる状態において、第２正面カムＤ２１４７を第１位置から第２位置の間や第２位置から第４位置の間など（即ち、第２正面カムＤ２１４７が１回転しない所定の変位区間）を少なくとも１回往復させることで、上側揺動手段Ｄ４１２０が傾斜面Ｄ４１１８ａの傾斜によって突設部Ｄ１４７ｂと当接可能となる位置に戻された際に、突設部Ｄ１４７ｂから上側揺動手段Ｄ４１２０が駆動力を受ける（突設部Ｄ１４７ｂが右側案内部Ｄ４１２８ｂに当接する）タイミングを予測し難くして、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の態様を複雑化できる。その結果、上側揺動手段Ｄ３１２０の演出が単調になることを抑制して、上側揺動手段Ｄ３１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９８９３】

なお、突設部Ｄ１４７ｂと上側揺動手段Ｄ４１２０とが離れる状態において、第２正面カムＤ２１４７を同じ方向に回転させ続けて、上側揺動手段Ｄ４１２０が傾斜面Ｄ４１１８ａの傾斜によって突設部Ｄ１４７ｂと当接可能となる位置に戻された際に、突設部Ｄ１４７ｂから上側揺動手段Ｄ４１２０が駆動力を受ける状態とした場合には、上側揺動手段Ｄ４１２０に駆動力を作用可能な領域外を突設部Ｄ１４７ｂが通過するため、その領域を通過時に上側揺動手段Ｄ４１２０が突設部Ｄ１４７ｂと当接可能となる位置に戻されると、すぐに上側揺動手段Ｄ４１２０を変位させることができなくなる恐れがある一方、第２正面カムＤ２１４７を同じ方向に回転させ続ける制御なので、第２正面カムＤ２１４７の制御を簡易にできる。

【９８９４】

上記第８８実施形態では、上側揺動手段Ｄ４１２０は、上端側が上側カバーＤ４１１６ａとベース本体Ｄ４１１１との間に収容され、下端側が下側カバーＤ４１１６ｂとベース本体Ｄ４１１１との間に収容される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上端側が上側カバーＤ４１１６ａとベース本体Ｄ４１１１との一方、及び、下側カバーＤ４１１６ｂとベース本体Ｄ４１１１との一方をなくしても良い。

【９８９５】

この場合においても、上側揺動手段Ｄ４１２０は、第２正面カムＤ２１４７の突設部Ｄ１４７ｂに軸支されているので、その軸支部分の負荷は大きくなるが、ベース手段Ｄ４１１０から脱落することはない。よって、上端側が上側カバーＤ４１１６ａとベース本体Ｄ４１１１との一方、及び、下側カバーＤ４１１６ｂとベース本体Ｄ４１１１との一方をなくせる分、製造コストを低減できる。

【９８９６】

上記第８８実施形態における変形例では、上側揺動手段Ｄ４１２０が直動係合部Ｄ４１１８ｄ，回転係合部Ｄ４１１８ｅの上面を転動しつつ下側案内部Ｄ４１１８の上面を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側に変位する変位の態様と、上側揺動手段Ｄ４１２０が直動係合部Ｄ４１１８ｄ，回転係合部Ｄ４１１８ｅを乗り越えて下側案内部Ｄ４１１８の上面を左右方向中央側に変位する変位の態様とを異なる態様にする場合について説明したが、必ずしもこれに限れられるものではない、例えば、上側揺動手段Ｄ４１２０が下側案内部Ｄ４１１８の上面を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側に変位する変位の態様と、上側揺動手段Ｄ４１２０が下側案内部Ｄ４１１８の上面を左右方向中央側に変位する変位の態様とを同じ変位の態様（直動係合部Ｄ４１１８ｄ，回転係合部Ｄ４１１８ｅを備えない構造）にしても良い。

【９８９７】

この場合には、上側揺動手段Ｄ４１２０が下側案内部Ｄ４１１８の上面を左右方向に転動する際に、その変位の態様の変化が少なくなるため、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位が単調になる恐れがあるものの、直動係合部Ｄ４１１８ｄや回転係合部Ｄ４１１８ｅを乗り

越えなくて済むので、上側揺動手段Ｄ４１２０に作用する負荷を低減できる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０が破損することを抑制できる。

【９８９８】

上記第８８実施形態では、上側揺動手段Ｄ４１２０の正面側に配設される上側カバーＤ４１１６ａと下側カバーＤ４１１６ｂとが光透過性材料から形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、上側カバーＤ４１１６ａと下側カバーＤ４１１６ｂとを光非透過性材料から形成しても良い。

【９８９９】

この場合、光非透過性材料から形成されるので、上側揺動手段Ｄ４１２０の視認可能領域が小さくなり、その分、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位に伴う迫力が小さくなるが、上側カバーＤ４１１６ａと下側カバーＤ４１１６ｂにより、上側揺動手段Ｄ４１２０の一部または全部を隠すと共に、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位に伴って上側揺動手段Ｄ４１２０の一部または全部を露出させることができるので、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位にともなう演出に変化を与えられる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９９００】

上記第８８実施形態では、下側案内部Ｄ４１１８の上面側の一部が左右方向外側に向かって上方側に傾斜する傾斜面Ｄ４１１８ａとして形成される場合について説明したが、下側案内部Ｄ４１１８の上面側の全域を左右方向外側に向かって上方側に傾斜する傾斜面Ｄ４１１８ａとして形成しても良い。

【９９０１】

この場合には、凸部Ｄ４１１８ｂを超えて左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側に変位された上側揺動手段Ｄ４１２０を、傾斜面Ｄ４１１８ａにより左右方向中央側に向けて変位させる形態と、突設部Ｄ１４７ｂにより上側揺動手段Ｄ４１２０に駆動力を付与して左右方向中央側に向けて変位させる形態とを形成でき、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の態様を複雑化することができる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０の演出が単調になることを抑制して、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９９０２】

上記第８８実施形態では、凸部Ｄ４１１８ｂよりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側における下側案内部Ｄ４１１８の上面側が水平方向に延設される（傾斜されない）場合について説明したが、凸部Ｄ４１１８ｂよりも左右方向外側における下側案内部Ｄ４１１８の上面側が左右方向外側に向かって下方側（矢印Ｄ方向）に傾斜されても良い。

【９９０３】

この場合には、突設部Ｄ１４７ｂと上側揺動手段Ｄ４１２０とが離れて、凸部Ｄ４１１８ｂよりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側に変位された上側揺動手段Ｄ４１２０を、下側案内部の上面の下降傾斜により、弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に向けて案内することができる。よって、突設部Ｄ１４７ｂと上側揺動手段Ｄ４１２０とが離れて上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の自由度が高まる位置において、上側揺動手段Ｄ４１２０を案内することができるので、上側揺動手段Ｄ４１２０が左右方向の外側端部まで変位された際に、弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に衝突しなくなることを抑制できる。従って、上側揺動手段Ｄ４１２０を確実に弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に衝突させることができ、弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力で上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の態様を確実に変化させることができる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０の演出が単調になることを抑制して、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位による演出効果を向上できる。

【９９０４】

上記第８８実施形態では、下側案内部Ｄ４１１８の上方に重なる位置に弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）が配設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、下側案内部Ｄ４１１８から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に離れた位置に弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）を配設して、下側案内部Ｄ４１１

８と弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）との間に隙間を形成しても良い。
【９９０５】
この場合には、下側案内部Ｄ４１１８の上面を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の外側端部まで案内された上側揺動手段Ｄ４１２０の少なくとも一部を下側案内部Ｄ４１１８と弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）との間に形成される隙間に落下させることができる。これにより、弾性体Ｄ２１８３ａ（付勢手段Ｄ２１８３）に対する上側揺動手段Ｄ４１２０の衝突位置を、下側案内部Ｄ４１１８の上面を案内される上側揺動手段Ｄ４１２０の速度によって変更することができる。従って、弾性バネＤ２１８３ｂ（付勢手段Ｄ２１８３）の反力で上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の態様を変化した際の上側揺動手段Ｄ４１２０の変位の態様を複雑化できる。その結果、上側揺動手段Ｄ４１２０の演出が単調になることを抑制して、上側揺動手段Ｄ４１２０の変位による演出効果を向上できる。
【９９０６】
本発明を上記各実施形態とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される）として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の領域に球を入賞させることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるパチンコ機として実施してもよい。また、Ｖゾーン等の特別領域を有する入賞装置を有し、その特別領域に球を入賞させることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機に実施してもよい。更に、パチンコ機以外にも、アレパチ、雀球、スロットマシン、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機などの各種遊技機として実施するようにしても良い。
【９９０７】
なお、スロットマシンは、例えばコインを投入して図柄有効ラインを決定させた状態で操作レバーを操作することにより図柄が変動され、ストップボタンを操作することにより図柄が停止されて確定される周知のものである。従って、スロットマシンの基本概念としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を変動表示した後に識別情報を確定表示する表示装置を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の変動表示が停止して確定表示され、その停止時の識別情報の組合せが特定のものであることを必要条件として、遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるスロットマシン」となり、この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。
【９９０８】
また、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する表示装置を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく所定量の球の投入の後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技が発生させられ、遊技者には、下部の受皿に多量の球が払い出されるものである。かかる遊技機をスロットマシンに代えて使用すれば、遊技ホールでは球のみを遊技価値として取り扱うことができるため、パチンコ機とスロットマシンとが混在している現在の遊技ホールにおいてみられる、遊技価値たるメダルと球との別個の取扱による設備上の負担や遊技機設置個所の制約といった問題を解消し得る。
【９９０９】
以下に、本発明の遊技機に加えて上述した実施形態に含まれる各種発明の概念を示す。
【９９１０】
＜経路幅を構成する延設部を有する動作手段を備えるポイント＞

所定部から所定方向に延設される延設部と、前記所定部の両側において前記所定方向と交差する第１方向側へ向かって形成される第１形成部と、が形成されており、遊技球を遊技領域における一側または他側へ振り分ける態様で流下させる動作手段を有する第１手段を備え、前記延設部は、所定の構成部に対向配置される第１の状態において遊技球が前記一側へ流下される経路の所定の経路幅を前記所定の構成部との間で構成し、第２の状態において前記所定の経路幅を構成しないよう構成され、前記動作手段は、前記第１の状態において前記延設部が前記所定の構成部に接近した状態から、遊技球との当接により前記延設部が前記所定の構成部に対して離間する方向に動作可能に構成され、当該動作により前記所定の構成部との間の経路幅が変化可能に構成され、振り分けられた遊技球と前記第１形成部とが当接した場合における前記第１方向に沿った方向への変位を伴う所定動作が可能とされ、当該所定動作によって前記延設部の前記所定の構成部に対する相対的な位置が変化可能に構成され、当該変化中に前記経路を流下する遊技球の流下抵抗を増大可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＡ１。

【９９１１】

パチンコ機等の遊技機において、流路に位置可能な個数を超える遊技球が滞留した場合において、超過分の遊技球を排出する排出流路を備える遊技機がある（例えば、特開２０１６－８７３０１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、超過分の遊技球が排出流路へ入球したことに基づいて滞留している遊技球が流路から排出開始されるところ、超過分の球が複数入球した場合等、流路への遊技球の入球態様によっては超過分の遊技球を排出する排出流路へ排出される遊技球の個数が想定以上に多くなる場合があるという問題点があった。

【９９１２】

例えば、排出流路を流下する遊技球が検出され当該検出に基づいて追加の賞球の払出が実行される場合や、排出流路を流下する遊技球が１球の場合に正常な遊技が可能となる（パンクしない）場合には、排出流路へ排出される遊技球の個数が想定以上に多くなると、設計意図と異なる利益を遊技者に与える可能性があるため、遊技球の流下を好適とする観点で改善の余地があるという問題点があった。

【９９１３】

これに対し、遊技機ＡＡ１によれば、振分箇所に動作手段が配設され、その動作手段が遊技球を一側へ流下させる第１の状態では遊技球の一側への流下が促進される一方、遊技球が他側へ振り分けられた場合には遊技球と第１形成部との当接による所定動作が実行されることで、後続の遊技球が一側へ流下されるようにされ、当該所定動作中において後続の遊技球が一側へ向けて流下される場合には流下抵抗が増大されることにより、後続の遊技球が先行する遊技球に衝突して跳ね戻る事態を避けることができ、偶発的な他側への遊技球の連続した流下を回避することができる。これにより、遊技球の流下を好適とすることができる。

【９９１４】

遊技機ＡＡ１において、前記第１方向に沿った前記所定動作に基づく変位は、前記第１形成部と遊技球とが離間した後において継続され得ることを特徴とする遊技機ＡＡ２。

【９９１５】

遊技機ＡＡ２によれば、遊技機ＡＡ１の奏する効果に加え、他側へ振り分けられた遊技球と後続の遊技球とが間隔を空けて流下した場合であっても、遊技球の流下抵抗を増加させる作用を維持させることができる。

【９９１６】

遊技機ＡＡ１又はＡＡ２において、前記動作手段は、動作力を付与する付与手段からの動作力による動作と、前記付与手段からの動作力によらない動作とが可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＡ３。

【９９１７】

遊技機ＡＡ３によれば、遊技機ＡＡ１又はＡＡ２の奏する効果に加え、動作手段の動作として、付与手段による動作と、付与手段によらない動作（例えば、遊技球との当接によ

る動作）とを生じさせることができるので、動作手段を、単なる振分のための手段としてではなく、遊技球の流下態様（例えば速度）を変化させる手段として利用することができ、動作手段付近を流下する遊技球に対する遊技者の興味を引き付けることができる。

【９９１８】

遊技機ＡＡ１からＡＡ３のいずれかにおいて、前記一側へ流下される遊技球が前記動作手段に特定態様で当接した場合において、前記動作手段は遊技球が有利領域の位置する前記一側へ案内され易い有利態様で動作されることを特徴とする遊技機ＡＡ４。

【９９１９】

遊技機ＡＡ４によれば、遊技機ＡＡ１からＡＡ３のいずれかの奏する効果に加え、遊技球が動作手段に特定態様で当接した場合か否かによって、有利態様で動作されるか否かが変わるため、動作手段への遊技球の当接態様に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【９９２０】

遊技機ＡＡ１からＡＡ４のいずれかにおいて、前記動作手段は、前記延設部が前記所定の構成部に接近する動作において傾倒する傾倒方向に姿勢変化され、前記延設部が前記所定の構成部に対して離間する動作において前記傾倒方向の反対方向に姿勢変化されることを特徴とする遊技機ＡＡ５。

【９９２１】

遊技機ＡＡ５によれば、遊技機ＡＡ１からＡＡ４のいずれかの奏する効果に加え、所定の構成部に対して近接離間する往復動作により姿勢を復帰させることができるので、繰り返しの動作を安定的に生じさせることができる。

【９９２２】

遊技機ＡＡ１からＡＡ５のいずれかにおいて、前記第１手段は、前記所定部を支持し、回転動作可能に構成される回転動作部と、前記延設部よりも前方に位置する前方位置部とを備え、前記回転動作部の回転動作に基づいて前記延設部が動作されるよう構成され、当該動作の前後において前記前方位置部の正面視における外形が維持されることを特徴とする遊技機ＡＡ６。

【９９２３】

遊技機ＡＡ６によれば、遊技機ＡＡ１からＡＡ５のいずれかの奏する効果に加え、延設部の動作前後において前方位置部の正面視における外形が維持されることから、一見して延設部が動作前の位置にあるのか動作後の位置にあるのかを把握し難くすることができる。これにより、延設部に対する注目力を向上させることができる。

【９９２４】

遊技機ＡＡ６において、前記前方位置部は、前記延設部よりも前記所定方向に張り出すように延設形成される第２形成部を備えることを特徴とする遊技機ＡＡ７。

【９９２５】

遊技機ＡＡ７によれば、遊技機ＡＡ６の奏する効果に加え、第２形成部により延設部が隠されることにより、更に延設部の状態を把握し難くすることができ、延設部に対する注目力を向上させることができる。

【９９２６】

遊技機ＡＡ１からＡＡ７のいずれかにおいて、前記延設部は、前記所定方向と交差する第２方向に変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＡ８。

【９９２７】

遊技機ＡＡ８によれば、遊技機ＡＡ１からＡＡ７のいずれかの奏する効果に加え、延設部を３次元的に動作させることができるので、特定の方向にしか動作しない場合に比較して、当接した遊技球に対して与える抵抗を抑制することができる。

【９９２８】

遊技機ＡＡ８において、前記第１手段は、前記所定部を支持し、回転動作可能に構成される回転動作部を備え、前記延設部が前記第２方向へ変位することに基づいて、前記回転動作部が前記第２方向へ変位されることを特徴とする遊技機ＡＡ９。

【９９２９】
遊技機ＡＡ９によれば、遊技機ＡＡ８の奏する効果に加え、延設部と回転動作部が共に第２方向に変位されることにより、部材間での動作方向の違いに基づく抵抗が生じることを避けることができ、動作を良好とすることができる。
【９９３０】
遊技機ＡＡ８又はＡＡ９において、前記動作手段は遊技球が有利領域の位置する前記一側へ案内され易い有利態様で動作可能とされ、前記有利態様の動作中において、前記動作手段の前記第２方向への変位が許容されることを特徴とする遊技機ＡＡ１０。
【９９３１】
遊技機ＡＡ１０によれば、遊技機ＡＡ８又はＡＡ９の奏する効果に加え、有利態様の動作中において動作手段の第２方向への変位が許容されることから、有利態様の動作中において動作手段が特定の方向にしか動作しない場合に比較して、有利態様の動作中において動作手段に当接した遊技球に対して与える抵抗を抑制することができる。
【９９３２】
遊技機ＡＡ１からＡＡ１０のいずれかにおいて、前記第１形成部は、前記所定部の前方側に形成されることを特徴とする遊技機ＡＡ１１。
【９９３３】
遊技機ＡＡ１１によれば、遊技機ＡＡ１からＡＡ１０のいずれかの奏する効果に加え、第１形成部が前後両側に形成される場合に比較して、材料コストを低減することができる。
【９９３４】
遊技機ＡＡ１からＡＡ１１のいずれかにおいて、前記所定の構成部は、突設部であって、複数設けられており、前記各突設部は、前記延設部と接している遊技球に当接しない位置に設けられることを特徴とする遊技機ＡＡ１２。
【９９３５】
遊技機ＡＡ１２によれば、遊技機ＡＡ１からＡＡ１１のいずれかの奏する効果に加え、延設部と所定の構成部との間に遊技球が挟まって流下が阻害される事態を未然に防ぎ、遊技球の流下を好適とすることができる。
【９９３６】
遊技機ＡＡ１からＡＡ１２のいずれかにおいて、前記動作手段は、付与手段が動作している場合における動作と、前記付与手段が動作していない場合における動作とが可能に構成され、所定の入賞口への入球が検出されたことに基づいて付与手段が動作されるよう構成され、当該動作に基づいて所定位置に案内された遊技球が動作手段側へ向けて変位可能とされ、前記所定位置に案内された遊技球を前記動作手段側へ向けて変位させる動作力を生じる第２付与手段を備えることを特徴とする遊技機ＡＡ１３。
【９９３７】
遊技機ＡＡ１３によれば、遊技機ＡＡ１からＡＡ１２のいずれかの奏する効果に加え、第２付与手段により、所定位置から遊技球が動作手段側へ向けて変位される場合と、所定位置から遊技球が動作手段側へ向けて変位されない場合とを構成することができるので、所定位置に遊技球が到達した場合において動作手段に生じる事象のバリエーションを増加させることができ、動作手段付近を流下する遊技球に対する注目力を向上させることができる。
【９９３８】
＜揺動ユニットＤ１００を一例とする発明の概念について＞
偏心した位置に形成される作用部を有し、回転可能に構成される回転手段と、回転された前記回転手段の前記作用部から駆動力を受けて変位される変位手段と、弾性変形可能に構成され、前記弾性変形の反力を前記変位手段に付与可能に構成される弾性手段と、前記変位手段を視認可能とさせる窓部を有する視認可能手段と、を備え、前記回転手段の前記作用部から受ける駆動力の大きさに応じて前記変位手段が異なる態様で変位可能とされることを特徴とする遊技機ＡＤ１。

【９９３９】
回転手段を回転させ、その回転手段の駆動力により変位手段を変位させて演出を行うものがある。回転手段の回転を利用するので、変位手段の演出動作を比較的高速で繰り返し行うことができる。しかしながら、上述した従来の技術では、変位手段が一定の軌跡に沿った動作を繰り返すのみであるので、演出が単調になるという問題点があった。
【９９４０】
遊技機ＡＤ１によれば、回転手段の作用部から受ける駆動力の大きさに応じて変位手段が異なる態様で変位可能とされるので、回転手段の回転態様（強さ、速さ）を変化させることで、変位手段の変位の態様を変化させることができる。この場合、変位手段の変位の態様が変化されれば、その変化に応じて、弾性手段から変位手段に付与される反力の大きさも変化されるので、変位手段の変位の態様を複雑化して予想困難なものとすることができる。その結果、演出が単調となることを抑制できる。
【９９４１】
遊技機ＡＤ１において、前記回転手段の前記作用部から駆動力を前記変位手段が受ける前は、前記変位手段と前記弾性手段とが非当接とされ、前記回転手段の前記作用部から前記変位手段が受ける駆動力が所定値以下であると、前記変位手段が前記弾性手段と当接する位置まで変位されず、前記回転手段の前記作用部から前記変位手段が受ける駆動力が所定値を超えると、前記変位手段が前記弾性手段と当接する位置まで変位可能とされることを特徴とする遊技機ＡＤ２。
【９９４２】
遊技機ＡＤ２によれば、遊技機ＡＤ１の奏する効果に加え、回転手段の回転態様（強さ、速さ）を変化させることで、弾性手段からの反力を受けずに変位手段が変位される態様と、弾性手段の反力を受けて変位手段が変位される態様とを形成できる。よって、変位手段の変位の態様の変化をより大きくすることができる。よって、変位手段の変位の態様をより複雑化して予想困難なものとすることができる。その結果、演出が単調となることを抑制できる。
【９９４３】
遊技機ＡＤ２において、前記変位手段は、前記回転手段の前記作用部から駆動力を受けると、前記回転手段の前記作用部から離隔され前記回転手段の前記作用部に対して非拘束とされた状態で変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＤ３。
【９９４４】
遊技機ＡＤ３によれば、遊技機ＡＤ２の奏する効果に加え、変位手段は、回転手段の作用部から駆動力を受けると、回転手段の作用部から離隔され回転手段の作用部に対して非拘束とされた状態で変位可能に構成されるので、変位手段を多様な方向へ変位可能とできる。即ち、回転手段の作用部が回転する方向とは無関係に変位手段を変位させることができる。よって、変位手段の変位の態様をより複雑化して予想困難なものとすることができる。その結果、演出が単調となることを抑制できる。
【９９４５】
遊技機ＡＤ１において、前記変位手段の変位を案内可能に構成される案内手段を備え、前記案内手段は、前記変位手段が前記弾性手段に当接する方向へ前記変位手段の変位を案内可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＤ４。
【９９４６】
遊技機ＡＤ４によれば、遊技機ＡＤ１の奏する効果に加え、案内手段は、変位手段が弾性手段に当接する方向へ変位手段の変位を案内可能に構成されるので、弾性手段の反力を受けて変位手段が変位される態様を確実に形成できる。
【９９４７】
また、変位手段が弾性手段と当接する位置まで変位されるのは、回転手段の作用部から変位手段が受ける駆動力が所定値を超える場合であり、変位手段の変位が比較的高速とされるため、変位手段が回転手段の作用部や他の手段と衝突すると破損する虞があるところ、この場合に、変位手段が弾性手段に当接する方向へ変位手段の変位を案内できることで

、変位手段等の破損を抑制できる。
【９９４８】
遊技機ＡＤ１において、前記変位手段の変位を案内可能に構成される案内手段を備え、前記変位手段が変位可能とされる範囲において、前記範囲の一部の領域では、前記変位手段の変位が前記案内手段により案内され、前記範囲の前記一部の領域とは異なる他の領域では、前記変位手段の変位が前記案内手段により案内されないことを特徴とする遊技機ＡＤ５。
【９９４９】
遊技機ＡＤ５によれば、遊技機ＡＤ１の奏する効果に加え、変位手段が変位可能とされる範囲において、範囲の一部の領域では、変位手段の変位が案内手段により案内され、範囲の一部の領域とは異なる他の領域では、変位手段の変位が案内手段により案内されないので、他の領域において変位手段の変位の態様の自由度を高めることができる。即ち、他の領域においては、変位手段の変位の態様を複雑化して予想困難なものとしやすくできる。その結果、演出が単調となることを抑制できる。
【９９５０】
遊技機ＡＤ４又はＡＤ５において、前記変位手段は、前記回転手段の前記作用部から駆動力を受けた後、前記回転手段の前記作用部から離隔され前記回転手段の前記作用部に対して非拘束とされた状態で変位可能に構成され、前記案内手段は、前記回転手段の前記作用部から離隔され前記回転手段の前記作用部に対して非拘束とされた前記変位手段の変位を案内可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＤ６。
【９９５１】
遊技機ＡＤ６によれば、遊技機ＡＤ４又はＡＤ５の奏する効果に加え、案内手段は、回転手段の作用部から離隔され回転手段の作用部に対して非拘束とされた変位手段の変位を案内可能に構成されるので、変位手段の変位の変化（変化の自由度）が大きくなる構造において、変位手段や回転手段（作用部）が破損することを抑制できる。
【９９５２】
遊技機ＡＤ１において、前記回転手段は、正方向への回転と前記正方向の逆となる逆方向への回転とを交互に繰り返すことが可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＤ７。
【９９５３】
遊技機ＡＤ７によれば、遊技機ＡＤ１の奏する効果に加え、回転手段は、正方向への回転と正方向の逆となる逆方向への回転とを交互に繰り返すことが可能に構成されるので、回転手段の作用部から変位手段が受ける駆動力の方向を反転させることができ、変位手段の変位の態様をより大きく変化させることができる。よって、変位手段の変位の態様を複雑化して予想困難なものとすることができる。その結果、演出が単調となることを抑制できる。
【９９５４】
遊技機ＡＤ１において、前記回転手段は、正方向と前記正方向の逆となる逆回転とに異なる回転速度で回転可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＤ８。
【９９５５】
遊技機ＡＤ８によれば、遊技機ＡＤ１の奏する効果に加え、回転手段は、正方向と正方向の逆となる逆回転とに異なる回転速度で回転可能に構成されるので、回転手段が正方向に回転する際の変位手段の変位の態様と、回転手段が逆方向に回転する際の変位手段の変位の態様とを異ならせることができる。
【９９５６】
遊技機ＡＤ７又はＡＤ８において、前記回転手段の前記正方向への回転と前記逆方向への回転とは略同一の回転量に設定され、前記回転量は１回転よりも小さい回転量に設定されることを特徴とする遊技機ＡＤ９。
【９９５７】
遊技機ＡＤ９は、遊技機ＡＤ７又はＡＤ８の奏する効果に加え、回転手段の正方向への回転と逆方向への回転とは略同一の回転量に設定されるので、回転手段の回転の制御を簡

素とできる。この場合、回転量が１回転よりも小さい回転量に設定されるので、回転手段の作用部から変位手段が受ける駆動力の変化が過大となることを抑制できる。よって、回転手段の作用部や変位手段の破損を抑制できる。

【９９５８】

遊技機ＡＤ１において、前記弾性手段に当接した後に所定位置に変位された前記変位手段を検出可能に構成される検出手段を備えることを特徴とする遊技機ＡＤ１０。

【９９５９】

遊技機ＡＤ１０によれば、遊技機ＡＤ１の奏する効果に加え、弾性手段に当接した後に所定位置に変位された変位手段を検出可能に構成される検出手段を備えるので、変位手段の変位が過大となったことを検出手段により検出することができる。即ち、弾性手段と変位手段との当接は、回転手段の作用部から変位手段が比較的大きな駆動力を受けて変位手段の変位の速度が大きい場合に発生し、この場合、弾性手段から比較的大きな反力を受けるため、変位手段が大きく跳ね返されると共にその変位方向が不定となりやすい。よって、変位手段が所定位置へ変位されたことを検出できれば、回転手段の回転を減速させることや停止させることができ、回転手段の作用部や変位手段の破損を抑制できる。

【９９６０】

遊技機ＡＤ１０において、前記変位手段の前記所定位置への変位が前記検出手段により検出されたことを報知可能に構成される報知手段を備えることを特徴とする遊技機ＡＤ１１。

【９９６１】

遊技機ＡＤ１１によれば、遊技機ＡＤ１０の奏する効果に加え、変位手段の所定位置への変位が検出手段により検出されたことを報知可能に構成される報知手段を備えるので、変位手段の変位の態様に応じて遊技者に報知を行うことができる。例えば、変位手段が所定位置まで変位されるためには、比較的大きな駆動力を受け、且つ、弾性手段の反力で所定の方向に跳ね返されることが必要であるため、検出手段により検出されて報知される頻度が比較的少ない場合には、報知を利用して、遊技者に期待感を持たせることができる。

【９９６２】

遊技機ＡＤ１において、複数の前記変位手段が配設され、前記複数の前記変位手段の内の一の前記変位手段は、前記回転手段の前記作用部から駆動力を受けて変位されると、前記複数の変位手段の内の他の前記変位手段に対して当接および離隔することが可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＤ１２。

【９９６３】

遊技機ＡＤ１２によれば、遊技機ＡＤ１の奏する効果に加え、複数の変位手段の内の一の変位手段は、回転手段の作用部から駆動力を受けて変位されると、複数の変位手段の内の他の前記変位手段に対して当接および離隔することが可能に構成されるので、一の変位手段と他の変位手段とを互いに作用させ合うことができる。よって、それら一および他の変位手段の変位の態様を複雑化して予想困難なものとすることができる。その結果、演出が単調となることを抑制できる。

【９９６４】

遊技機ＡＤ１において、前記回転手段の前記作用部は、弾性変形可能に構成され前記変位手段に当接可能に構成される当接部を備え、前記変位手段は、前記当接部から駆動力を受けて変位されることを特徴とする遊技機ＡＤ１３。

【９９６５】

遊技機ＡＤ１３によれば、遊技機ＡＤ１の奏する効果に加え、回転手段の作用部は、弾性変形可能に構成され前記変位手段に当接可能に構成される当接部を備え、変位手段は、当接部から駆動力を受けて変位されるので、当接部の弾性変形を利用して、変位手段の変位の態様を変化させることができる。即ち、回転手段の回転態様（強さ、速さ）を変化させることで、弾性手段から変位手段に付与される反力の大きさも変化させ、変位手段の変位の態様を複雑化して予想困難なものとすることができる。その結果、演出が単調となることを抑制できる。

【９９６６】
遊技機ＡＤ１において、遊技者が操作可能に構成される操作手段を備え、その操作手段が操作されると前記回転手段の前記作用部から前記変位手段が受ける駆動力の大きさが変更可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＤ１４。
【９９６７】
遊技機ＡＤ１４によれば、遊技機ＡＤ１の奏する効果に加え、遊技者が操作可能に構成される操作手段を備え、その操作手段が操作されると回転手段の作用部から変位手段が受ける駆動力の大きさが変更可能に構成されるので、操作手段が操作される態様（タイミングや操作量など）を利用して、変位手段の変位の態様を複雑化して予想困難なものとすることができる。また、操作手段を操作する遊技者の興趣を高めることができる。
【９９６８】
遊技機ＡＤ１４において、前記操作手段は、操作量を増減可能に構成され、前記操作手段の操作量の増減に応じて、前記回転手段の前記作用部から前記変位手段が受ける駆動力の大きさが増減可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＤ１５。
【９９６９】
遊技機ＡＤ１５によれば、遊技機ＡＤ１４の奏する効果に加え、操作手段は、操作量を増減可能に構成され、操作手段の操作量の増減に応じて、回転手段の作用部から変位手段が受ける駆動力の大きさが増減可能に構成されるので、変位手段の変位の大きさや変位手段の変位の変化の強さを遊技者が直感的に増減することができる。よって、操作手段を操作する遊技者の興趣を高めることができる。
【９９７０】
遊技機ＡＤ１において、前記遊技機の前後方向に向かい合う奥側手段および手前側手段を備え、前記変位手段は、前記奥側手段および前記手前側手段の対向間を変位可能に構成され、前記奥側手段および前記手前側手段は、前記遊技機の前後方向への前記変位手段の変位を規制可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＤ１６。
【９９７１】
遊技機ＡＤ１６によれば、遊技機ＡＤ１の奏する効果に加え、遊技機の前後方向に向かい合う奥側手段および手前側手段を備え、変位手段は、奥側手段および手前側手段の対向間を変位可能に構成され、奥側手段および手前側手段は、遊技機の前後方向への変位手段の変位を規制可能に構成されるので、変位手段の変位が可能な領域を確保できる。即ち、遊技機の前後方向よりも前後方向に直交する方向に広い遊技領域を変位手段の変位のための領域として有効に活用できる。
【９９７２】
遊技機ＡＤ１６において、前記手前側手段は、光透過性材料から構成されることを特徴とする遊技機ＡＤ１７。
【９９７３】
遊技機ＡＤ１７によれば、遊技機ＡＤ１６の奏する効果に加え、手前側手段は、光透過性材料から構成されるので、手前側手段の背面側に位置する変位手段を遊技者に視認させることができる。よって、遊技機の前後方向への変位手段の変位を規制可能として変位手段の変位を安定化させつつ、変位手段の視認可能な領域が減ることを抑制して、変位手段の変位による演出効果を確保できる。
【９９７４】
遊技機ＡＤ１において、前記回転手段は、第１位置から第２位置までの正方向への回転と、前記第２位置から前記第１位置までの逆方向への回転とを行うことが可能に構成され、前記変位手段は、前記正方向へ回転された前記回転手段の作用部から駆動力を受けて変位されて、前記回転手段の前記作用部から離隔可能に構成され、前記回転手段の前記作用部から前記変位手段が離隔された状態において、前記第１位置から前記第２位置までの正方向への回転と、前記第２位置から前記第１位置までの逆方向への回転とを少なくとも１回ずつ前記回転手段が行うことが可能に構成される遊技機ＡＤ１８。
【９９７５】

遊技機ＡＤ１８によれば、遊技機ＡＤ１の奏する効果に加え、回転手段は、第１位置から第２位置までの正方向への回転と、第２位置から第１位置までの逆方向への回転とを行うことが可能に構成され、変位手段は、正方向へ回転された回転手段の作用部から駆動力を受けて変位されて、回転手段の作用部から離隔可能に構成されるので、変位手段の変位の態様を複雑化して予想困難なものとすることができる。その結果、演出が単調となることを抑制できる。

【９９７６】

例えば、回転手段の回転が比較的遅い場合には、回転手段の作用部と変位手段とが一体的に第１位置と第２位置との間で変位される形態を形成し、回転手段の回転が比較的速い場合には、回転手段の作用部から変位手段とが一体的に第１位置と第２位置まで変位される過程において回転手段の作用部から変位手段が離隔し、回転手段が先行して第１位置へ復帰すると共に変位手段が遅れて第１位置へ向けて変位される形態とを形成できる。

【９９７７】

この場合、回転手段の作用部から変位手段が離隔された状態において、第１位置から第２位置までの正方向への回転と、第２位置から第１位置までの逆方向への回転とを少なくとも１回ずつ回転手段が行うことが可能に構成されるので、回転手段の作用部から変位手段が駆動力を受けるタイミングを予測し難くできる。その結果、変位手段の変位の態様を複雑化して予想困難なものとすることができる。

【９９７８】

遊技機ＡＤ４からＡＤ６のいずれかにおいて、前記変位手段は、前記回転手段の前記作用部から駆動力を受けた後、前記回転手段の前記作用部から離隔され前記回転手段の前記作用部に対して非拘束とされた状態で変位可能に構成され、前記案内手段は、前記回転手段の前記作用部から駆動力を受けている前記変位手段の変位を案内可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＤ１９。

【９９７９】

遊技機ＡＤ１９によれば、遊技機ＡＤ４からＡＤ６のいずれかの奏する効果に加え、案内手段は、回転手段の作用部から駆動力を受けている変位手段の変位を案内可能に構成されるので、変位手段の変位の変化をより大きくするのに好適な方向に向けて変位手段の変位を開始させることができる。即ち、変位手段は、回転手段の作用部から駆動力を受けた後、回転手段の作用部から離隔され回転手段の作用部に対して非拘束とされた状態で変位可能に構成されるところ、駆動力を受けて変位手段が変位を開始する際の進行方向には、非拘束とされた状態での変位手段の変位の変化をより大きくするのに適した方向と、非拘束とされた状態での変位手段の変位の変化を阻害する方向とが存在する。よって、回転手段の作用部から駆動力を受けている変位手段の変位を案内可能に構成されることで、非拘束とされた状態での変位手段の変位の変化をより大きくするのに好適な方向に向けて変位手段の変位を開始させることができる。

【９９８０】

遊技機ＡＤ４からＡＤ６及びＡＤ１９のいずれかにおいて、前記案内手段の内の前記弾性手段に近い側の部分は、前記弾性手段へ向けて下降傾斜して構成されることを特徴とする遊技機ＡＤ２０。

【９９８１】

遊技機ＡＤ２０によれば、遊技機ＡＤ４からＡＤ６及びＡＤ１９のいずれかの奏する効果に加え、案内手段の内の弾性手段に近い側の部分は、弾性手段へ向けて下降傾斜して構成されるので、変位手段の変位の変化が大きい場合でも、変位手段の自重を利用して、変位手段が案内手段により案内される状態を構成し易くできる。その結果、変位手段が弾性手段に当接される態様（弾性手段の反力を受けて変位手段が変位される態様）を確実に形成できる。

【９９８２】

遊技機ＡＤ４からＡＤ６及びＡＤ１９及びＡＤ２０のいずれかにおいて、前記案内手段の内の前記弾性手段に近い側の部分は、前記弾性手段から離隔されていることを特徴とす

る遊技機ＡＤ２１。
【９９８３】
遊技機ＡＤ２１によれば、遊技機ＡＤ４からＡＤ６及びＡＤ１９及びＡＤ２０のいずれかの奏する効果に加え、案内手段の内の弾性手段に近い側の部分は、弾性手段から離隔されているので、案内手段の内の弾性手段に近い側の部分と弾性手段との間に形成される空隙（隙間、空間）を、変位手段を変位させるためのスペースとして利用できる。よって、その分、変位手段の変位の変化を大きくできる。特に、かかるスペースは、弾性手段に向けて変位される変位手段が弾性手段に当接される直前に形成されるので、変位手段が弾性手段へ当接するか否かに影響を与えることができる。その結果、変位手段の変位による演出効果を高めることができる。
【９９８４】
遊技機ＡＤ１において、前記案内手段の所定領域に変位が案内された後の前記変位手段が前記案内手段の前記所定領域に戻ることを抑制することが可能に構成される抑制手段を備えることを特徴とする遊技機ＡＤ２２。
【９９８５】
遊技機ＡＤ２２によれば、遊技機ＡＤ１の奏する効果に加え、案内手段の所定領域に変位が案内された後の変位手段が案内手段の所定領域に戻ることを抑制することが可能に構成される抑制手段を備えるので、演出が単調となることを抑制できる。例えば、案内手段の所定領域を往路および復路として往復変位する場合、変位手段が往復変位を繰り返すのみとなり、演出が単調になる。これに対し、抑制手段を備えることで、案内手段の所定領域を往路として変位した変位手段が、案内手段の所定領域を復路とすることを抑制でき、例えば、変位手段を停止させる、変位手段の変位の方向を案内手段の所定領域とは異なる方向へ変化させる、抑制手段による影響を受けつつも変位手段が案内手段の所定領域を復路とするなどの態様を形成でき、その分、変位手段の変位の変化を大きくすることができる。
【９９８６】
遊技機ＡＤ１において、前記変位手段は、その変位手段の少なくとも一部が前記視認可能手段の前記窓部から視認不能となる位置まで変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＤ２３。
【９９８７】
遊技機ＡＤ２３によれば、遊技機ＡＤ１の奏する効果に加え、変位手段は、その変位手段の少なくとも一部が視認可能手段の窓部から視認不能となる位置まで変位可能に構成されるので、変位手段の変位による演出が単調となることを抑制できる。特に、変位手段の全部が窓部から視認可能な状態と、変位手段の全部が窓部から視認不能となる状態とを構成できる場合には、窓部への出現や窓部の外への消失により変位部材の動向（存在位置や変位の方向など）を把握し難くして、演出効果を高めることができる。
【９９８８】
＜揺動ユニットＤ１００を一例とする発明の概念について＞
動作可能に構成される動作手段と、その動作手段から駆動力を受けて変位される変位手段と、弾性変形可能に構成され、前記弾性変形の反力を前記変位手段に付与可能に構成される弾性手段と、前記変位手段を視認可能とさせる窓部を有する視認可能手段と、を備え、前記動作手段から受ける駆動力の大きさに応じて前記変位手段が異なる態様で変位可能とされることを特徴とする遊技機ＡＥ１。
【９９８９】
動作手段を動作させ、その動作手段の駆動力により変位手段を変位させて演出を行うものがある。しかしながら、上述した従来の技術では、変位手段が一定の軌跡に沿った動作を繰り返すのみであるので、演出が単調になるという問題点があった。
【９９９０】
遊技機ＡＥ１によれば、動作手段から受ける駆動力の大きさに応じて変位手段が異なる態様で変位可能とされるので、動作手段の動作態様（強さ、速さ）を変化させることで、

変位手段の変位の態様を変化させることができる。この場合、変位手段の変位の態様が変化されれば、その変化に応じて、弾性手段から変位手段に付与される反力の大きさも変化されるので、変位手段の変位の態様を複雑化して予想困難なものとすることができる。その結果、演出が単調となることを抑制できる。

【９９９１】

遊技機ＡＥ１において、前記動作手段は、偏心した位置に形成される作用部を備え、回転可能に構成され、前記動作手段は、回転された前記回転手段の前記作用部から駆動力を受けて変位されることを特徴とする遊技機ＡＥ２。

【９９９２】

遊技機ＡＥ２によれば、動作手段は、偏心した位置に形成される作用部を備え、回転可能に構成され、変位手段は、回転された前記回転手段の前記作用部から駆動力を受けて変位されるので、回転手段の回転を利用するので、変位手段の演出動作を比較的高速で繰り返し行うことができる。

【９９９３】

遊技機ＡＥ１又はＡＥ２において、前記動作手段の前記作用部から駆動力を前記変位手段が受ける前は、前記変位手段と前記弾性手段とが非当接とされ、前記動作手段の前記作用部から前記変位手段が受ける駆動力が所定値以下であると、前記変位手段が前記弾性手段と当接する位置まで変位されず、前記動作手段の前記作用部から前記変位手段が受ける駆動力が所定値を超えると、前記変位手段が前記弾性手段と当接する位置まで変位可能とされることを特徴とする遊技機ＡＥ３。

【９９９４】

遊技機ＡＥ３によれば、遊技機ＡＥ１の奏する効果に加え、動作手段の動作態様（強さ、速さ）を変化させることで、弾性手段からの反力を受けずに変位手段が変位される態様と、弾性手段の反力を受けて変位手段が変位される態様とを形成できる。よって、変位手段の変位の態様の変化をより大きくすることができる。よって、変位手段の変位の態様をより複雑化して予想困難なものとすることができる。その結果、演出が単調となることを抑制できる。

【９９９５】

遊技機ＡＥ３において、前記変位手段は、前記動作手段の前記作用部から駆動力を受けると、前記動作手段の前記作用部から離隔され前記動作手段の前記作用部に対して非拘束とされた状態で変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＥ４。

【９９９６】

遊技機ＡＥ４によれば、遊技機ＡＥ３の奏する効果に加え、変位手段は、動作手段の作用部から駆動力を受けると、動作手段の作用部から離隔され動作手段の作用部に対して非拘束とされた状態で変位可能に構成されるので、変位手段を多様な方向へ変位可能とできる。即ち、動作手段の作用部が動作する方向とは無関係に変位手段を変位させることができる。よって、変位手段の変位の態様をより複雑化して予想困難なものとすることができる。その結果、演出が単調となることを抑制できる。

【９９９７】

遊技機ＡＥ１又はＡＥ２において、前記変位手段の変位を案内可能に構成される案内手段を備え、前記案内手段は、前記変位手段が前記弾性手段に当接する方向へ前記変位手段の変位を案内可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＥ５。

【９９９８】

遊技機ＡＥ５によれば、遊技機ＡＥ１又はＡＥ２の奏する効果に加え、案内手段は、変位手段が弾性手段に当接する方向へ変位手段の変位を案内可能に構成されるので、弾性手段の反力を受けて変位手段が変位される態様を確実に形成できる。

【９９９９】

また、変位手段が弾性手段と当接する位置まで変位されるのは、動作手段の作用部から変位手段が受ける駆動力が所定値を超える場合であり、変位手段の変位が比較的高速とされるため、変位手段が動作手段の作用部や他の手段と衝突すると破損する虞があるところ

、この場合に、変位手段が弾性手段に当接する方向へ変位手段の変位を案内できることで、変位手段等の破損を抑制できる。

【１００００】

遊技機ＡＥ１又はＡＥ２において、前記変位手段の変位を案内可能に構成される案内手段を備え、前記変位手段が変位可能とされる範囲において、前記範囲の一部の領域では、前記変位手段の変位が前記案内手段により案内され、前記範囲の前記一部の領域とは異なる他の領域では、前記変位手段の変位が前記案内手段により案内されないことを特徴とする遊技機ＡＥ６。

【１００００１】

遊技機ＡＥ６によれば、遊技機ＡＥ１又はＡＥ２の奏する効果に加え、変位手段が変位可能とされる範囲において、範囲の一部の領域では、変位手段の変位が案内手段により案内され、範囲の一部の領域とは異なる他の領域では、変位手段の変位が案内手段により案内されないので、他の領域において変位手段の変位の態様の自由度を高めることができる。即ち、他の領域においては、変位手段の変位の態様を複雑化して予想困難なものとしやすくできる。その結果、演出が単調となることを抑制できる。

【１００００２】

遊技機ＡＥ５又はＡＥ６において、前記変位手段は、前記動作手段の前記作用部から駆動力を受けた後、前記動作手段の前記作用部から離隔され前記動作手段の前記作用部に対して非拘束とされた状態で変位可能に構成され、前記案内手段は、前記動作手段の前記作用部から離隔され前記動作手段の前記作用部に対して非拘束とされた前記変位手段の変位を案内可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＥ７。

【１００００３】

遊技機ＡＥ７によれば、遊技機ＡＥ５又はＡＥ６の奏する効果に加え、案内手段は、動作手段の作用部から離隔され動作手段の作用部に対して非拘束とされた変位手段の変位を案内可能に構成されるので、変位手段の変位の変化（変化の自由度）が大きくなる構造において、変位手段や動作手段（作用部）が破損することを抑制できる。

【１００００４】

遊技機ＡＥ１又はＡＥ２において、前記動作手段は、正方向への動作と前記正方向の逆となる逆方向への動作とを交互に繰り返すことが可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＥ８。

【１００００５】

遊技機ＡＥ８によれば、遊技機ＡＥ１又はＡＥ２の奏する効果に加え、動作手段は、正方向への動作と正方向の逆となる逆方向への動作とを交互に繰り返すことが可能に構成されるので、動作手段の作用部から変位手段が受ける駆動力の方向を反転させることができ、変位手段の変位の態様をより大きく変化させることができる。よって、変位手段の変位の態様を複雑化して予想困難なものとすることができる。その結果、演出が単調となることを抑制できる。

【１００００６】

遊技機ＡＥ１又はＡＥ２において、前記動作手段は、正方向と前記正方向の逆となる逆動作とに異なる動作速度で動作可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＥ９。

【１００００７】

遊技機ＡＥ９によれば、遊技機ＡＥ１又はＡＥ２の奏する効果に加え、動作手段は、正方向と正方向の逆となる逆動作とに異なる動作速度で動作可能に構成されるので、動作手段が正方向に動作する際の変位手段の変位の態様と、動作手段が逆方向に動作する際の変位手段の変位の態様とを異ならせることができる。

【１００００８】

遊技機ＡＥ８又はＡＥ９において、前記動作手段の前記正方向への動作と前記逆方向への動作とは略同一の動作量に設定され、前記動作量は１動作よりも小さい動作量に設定されることを特徴とする遊技機ＡＥ１０。

【１００００９】

遊技機ＡＥ１０は、遊技機ＡＥ８又はＡＥ９の奏する効果に加え、動作手段の正方向への動作と逆方向への動作とは略同一の動作量に設定されるので、動作手段の動作の制御を簡素とできる。この場合、動作量が１動作よりも小さい動作量に設定されるので、動作手段の作用部から変位手段が受ける駆動力の変化が過大となることを抑制できる。よって、動作手段の作用部や変位手段の破損を抑制できる。

【１００１０】

遊技機ＡＥ１又はＡＥ２において、前記弾性手段に当接した後に所定位置に変位された前記変位手段を検出可能に構成される検出手段を備えることを特徴とする遊技機ＡＥ１１。

【１００１１】

遊技機ＡＥ１１によれば、遊技機ＡＥ１又はＡＥ２の奏する効果に加え、弾性手段に当接した後に所定位置に変位された変位手段を検出可能に構成される検出手段を備えるので、変位手段の変位が過大となったことを検出手段により検出することができる。即ち、弾性手段と変位手段との当接は、動作手段の作用部から変位手段が比較的大きな駆動力を受けて変位手段の変位の速度が大きい場合に発生し、この場合、弾性手段から比較的大きな反力を受けるため、変位手段が大きく跳ね返されると共にその変位方向が不定となりやすい。よって、変位手段が所定位置へ変位されたことを検出できれば、動作手段の動作を減速させることや停止させることができ、動作手段の作用部や変位手段の破損を抑制できる。

【１００１２】

遊技機ＡＥ１１において、前記変位手段の前記所定位置への変位が前記検出手段により検出されたことを報知可能に構成される報知手段を備えることを特徴とする遊技機ＡＥ１２。

【１００１３】

遊技機ＡＥ１２によれば、遊技機ＡＥ１１の奏する効果に加え、変位手段の所定位置への変位が検出手段により検出されたことを報知可能に構成される報知手段を備えるので、変位手段の変位の態様に応じて遊技者に報知を行うことができる。例えば、変位手段が所定位置まで変位されるためには、比較的大きな駆動力を受け、且つ、弾性手段の反力で所定の方向に跳ね返されることが必要であるため、検出手段により検出されて報知される頻度が比較的少ない場合には、報知を利用して、遊技者に期待感を持たせることができる。

【１００１４】

遊技機ＡＥ１又はＡＥ２において、複数の前記変位手段が配設され、前記複数の前記変位手段の内の一の前記変位手段は、前記動作手段の前記作用部から駆動力を受けて変位されると、前記複数の変位手段の内の他の前記変位手段に対して当接および離隔することが可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＥ１３。

【１００１５】

遊技機ＡＥ１３によれば、遊技機ＡＥ１又はＡＥ２の奏する効果に加え、複数の変位手段の内の一の変位手段は、動作手段の作用部から駆動力を受けて変位されると、複数の変位手段の内の他の前記変位手段に対して当接および離隔することが可能に構成されるので、一の変位手段と他の変位手段とを互いに作用させ合うことができる。よって、それら一および他の変位手段の変位の態様を複雑化して予想困難なものとすることができる。その結果、演出が単調となることを抑制できる。

【１００１６】

遊技機ＡＥ１又はＡＥ２において、前記動作手段の前記作用部は、弾性変形可能に構成され前記変位手段に当接可能に構成される当接部を備え、前記変位手段は、前記当接部から駆動力を受けて変位されることを特徴とする遊技機ＡＥ１４。

【１００１７】

遊技機ＡＥ１４によれば、遊技機ＡＥ１又はＡＥ２の奏する効果に加え、動作手段の作用部は、弾性変形可能に構成され前記変位手段に当接可能に構成される当接部を備え、変位手段は、当接部から駆動力を受けて変位されるので、当接部の弾性変形を利用して、変

位手段の変位の態様を変化させることができる。即ち、動作手段の動作態様（強さ、速さ）を変化させることで、弾性手段から変位手段に付与される反力の大きさも変化させ、変位手段の変位の態様を複雑化して予想困難なものとすることができる。その結果、演出が単調となることを抑制できる。

【１００１８】

遊技機ＡＥ１又はＡＥ２において、遊技者が操作可能に構成される操作手段を備え、その操作手段が操作されると前記動作手段の前記作用部から前記変位手段が受ける駆動力の大きさが変更可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＥ１５。

【１００１９】

遊技機ＡＥ１５によれば、遊技機ＡＥ１又はＡＥ２の奏する効果に加え、遊技者が操作可能に構成される操作手段を備え、その操作手段が操作されると動作手段の作用部から変位手段が受ける駆動力の大きさが変更可能に構成されるので、操作手段が操作される態様（タイミングや操作量など）を利用して、変位手段の変位の態様を複雑化して予想困難なものとすることができる。また、操作手段を操作する遊技者の興趣を高めることができる。

【１００２０】

遊技機ＡＥ１５において、前記操作手段は、操作量を増減可能に構成され、前記操作手段の操作量の増減に応じて、前記動作手段の前記作用部から前記変位手段が受ける駆動力の大きさが増減可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＥ１６。

【１００２１】

遊技機ＡＥ１６によれば、遊技機ＡＥ１５の奏する効果に加え、操作手段は、操作量を増減可能に構成され、操作手段の操作量の増減に応じて、動作手段の作用部から変位手段が受ける駆動力の大きさが増減可能に構成されるので、変位手段の変位の大きさや変位手段の変位の変化の強さを遊技者が直感的に増減することができる。よって、操作手段を操作する遊技者の興趣を高めることができる。

【１００２２】

遊技機ＡＥ１又はＡＥ２において、前記遊技機の前後方向に向かい合う奥側手段および手前側手段を備え、前記変位手段は、前記奥側手段および前記手前側手段の対向間を変位可能に構成され、前記奥側手段および前記手前側手段は、前記遊技機の前後方向への前記変位手段の変位を規制可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＥ１７。

【１００２３】

遊技機ＡＥ１７によれば、遊技機ＡＥ１又はＡＥ２の奏する効果に加え、遊技機の前後方向に向かい合う奥側手段および手前側手段を備え、変位手段は、奥側手段および手前側手段の対向間を変位可能に構成され、奥側手段および手前側手段は、遊技機の前後方向への変位手段の変位を規制可能に構成されるので、変位手段の変位が可能な領域を確保できる。即ち、遊技機の前後方向よりも前後方向に直交する方向に広い遊技領域を変位手段の変位のための領域として有効に活用できる。

【１００２４】

遊技機ＡＥ１７において、前記手前側手段は、光透過性材料から構成されることを特徴とする遊技機ＡＥ１８。

【１００２５】

遊技機ＡＥ１８によれば、遊技機ＡＥ１７の奏する効果に加え、手前側手段は、光透過性材料から構成されるので、手前側手段の背面側に位置する変位手段を遊技者に視認させることができる。よって、遊技機の前後方向への変位手段の変位を規制可能として変位手段の変位を安定化させつつ、変位手段の視認可能な領域が減ることを抑制して、変位手段の変位による演出効果を確保できる。

【１００２６】

遊技機ＡＥ１又はＡＥ２において、前記動作手段は、第１位置から第２位置までの正方向への動作と、前記第２位置から前記第１位置までの逆方向への動作とを行うことが可能に構成され、前記変位手段は、前記正方向へ動作された前記動作手段の作用部から駆動力

を受けて変位されて、前記動作手段の前記作用部から離隔可能に構成され、前記動作手段の前記作用部から前記変位手段が離隔された状態において、前記第１位置から前記第２位置までの正方向への動作と、前記第２位置から前記第１位置までの逆方向への動作とを少なくとも１回ずつ前記動作手段が行うことが可能に構成される遊技機ＡＥ１９。

【１００２７】

遊技機ＡＥ１９によれば、遊技機ＡＥ１又はＡＥ２の奏する効果に加え、動作手段は、第１位置から第２位置までの正方向への動作と、第２位置から第１位置までの逆方向への動作とを行うことが可能に構成され、変位手段は、正方向へ動作された動作手段の作用部から駆動力を受けて変位されて、動作手段の作用部から離隔可能に構成されるので、変位手段の変位の態様を複雑化して予想困難なものとすることができる。その結果、演出が単調となることを抑制できる。

【１００２８】

例えば、動作手段の動作が比較的遅い場合には、動作手段の作用部と変位手段とが一体的に第１位置と第２位置との間で変位される形態を形成し、動作手段の動作が比較的速い場合には、動作手段の作用部から変位手段とが一体的に第１位置と第２位置まで変位される過程において動作手段の作用部から変位手段が離隔し、動作手段が先行して第１位置へ復帰すると共に変位手段が遅れて第１位置へ向けて変位される形態とを形成できる。

【１００２９】

この場合、動作手段の作用部から変位手段が離隔された状態において、第１位置から第２位置までの正方向への動作と、第２位置から第１位置までの逆方向への動作とを少なくとも１回ずつ動作手段が行うことが可能に構成されるので、動作手段の作用部から変位手段が駆動力を受けるタイミングを予測し難くできる。その結果、変位手段の変位の態様を複雑化して予想困難なものとすることができる。

【１００３０】

遊技機ＡＥ５からＡＥ７のいずれかにおいて、前記変位手段は、前記動作手段の前記作用部から駆動力を受けた後、前記動作手段の前記作用部から離隔され前記動作手段の前記作用部に対して非拘束とされた状態で変位可能に構成され、前記案内手段は、前記動作手段の前記作用部から駆動力を受けている前記変位手段の変位を案内可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＥ２０。

【１００３１】

遊技機ＡＥ２０によれば、遊技機ＡＥ５からＡＥ７のいずれかの奏する効果に加え、案内手段は、動作手段の作用部から駆動力を受けている変位手段の変位を案内可能に構成されるので、変位手段の変位の変化をより大きくするのに好適な方向に向けて変位手段の変位を開始させることができる。即ち、変位手段は、動作手段の作用部から駆動力を受けた後、動作手段の作用部から離隔され動作手段の作用部に対して非拘束とされた状態で変位可能に構成されるところ、駆動力を受けて変位手段が変位を開始する際の進行方向には、非拘束とされた状態での変位手段の変位の変化をより大きくするのに適した方向と、非拘束とされた状態での変位手段の変位の変化を阻害する方向とが存在する。よって、動作手段の作用部から駆動力を受けている変位手段の変位を案内可能に構成されることで、非拘束とされた状態での変位手段の変位の変化をより大きくするのに好適な方向に向けて変位手段の変位を開始させることができる。

【１００３２】

遊技機ＡＥ５からＡＥ７及びＡＥ２０のいずれかにおいて、前記案内手段の内の前記弾性手段に近い側の部分は、前記弾性手段へ向けて下降傾斜して構成されることを特徴とする遊技機ＡＥ２１。

【１００３３】

遊技機ＡＥ２１によれば、遊技機ＡＥ５からＡＥ７及びＡＥ２０のいずれかの奏する効果に加え、案内手段の内の弾性手段に近い側の部分は、弾性手段へ向けて下降傾斜して構成されるので、変位手段の変位の変化が大きい場合でも、変位手段の自重を利用して、変位手段が案内手段により案内される状態を構成し易くできる。その結果、変位手段が弾性

手段に当接される態様（弾性手段の反力を受けて変位手段が変位される態様）を確実に形成できる。

【１００３４】

遊技機ＡＥ５からＡＥ７及びＡＥ２０及びＡＥ２１のいずれかにおいて、前記案内手段の内の前記弾性手段に近い側の部分は、前記弾性手段から離隔されていることを特徴とする遊技機ＡＥ２２。

【１００３５】

遊技機ＡＥ２２によれば、遊技機ＡＥ５からＡＥ７及びＡＥ２０及びＡＥ２１のいずれかの奏する効果に加え、案内手段の内の弾性手段に近い側の部分は、弾性手段から離隔されているので、案内手段の内の弾性手段に近い側の部分と弾性手段との間に形成される空隙（隙間、空間）を、変位手段を変位させるためのスペースとして利用できる。よって、その分、変位手段の変位の変化を大きくできる。特に、かかるスペースは、弾性手段に向けて変位される変位手段が弾性手段に当接される直前に形成されるので、変位手段が弾性手段へ当接するか否かに影響を与えることができる。その結果、変位手段の変位による演出効果を高めることができる。

【１００３６】

遊技機ＡＥ１又はＡＥ２において、前記案内手段の所定領域に変位が案内された後の前記変位手段が前記案内手段の前記所定領域に戻ることを抑制することが可能に構成される抑制手段を備えることを特徴とする遊技機ＡＥ２３。

【１００３７】

遊技機ＡＥ２３によれば、遊技機ＡＥ１又はＡＥ２の奏する効果に加え、案内手段の所定領域に変位が案内された後の変位手段が案内手段の所定領域に戻ることを抑制することが可能に構成される抑制手段を備えるので、演出が単調となることを抑制できる。例えば、案内手段の所定領域を往路および復路として往復変位する場合、変位手段が往復変位を繰り返すのみとなり、演出が単調になる。これに対し、抑制手段を備えることで、案内手段の所定領域を往路として変位した変位手段が、案内手段の所定領域を復路とすることを抑制でき、例えば、変位手段を停止させる、変位手段の変位の方向を案内手段の所定領域とは異なる方向へ変化させる、抑制手段による影響を受けつつも変位手段が案内手段の所定領域を復路とするなどの態様を形成でき、その分、変位手段の変位の変化を大きくすることができる。

【１００３８】

遊技機ＡＥ１又はＡＥ２において、前記変位手段は、その変位手段の少なくとも一部が前記視認可能手段の前記窓部から視認不能となる位置まで変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＥ２４。

【１００３９】

遊技機ＡＥ２４によれば、遊技機ＡＥ１又はＡＥ２の奏する効果に加え、変位手段は、その変位手段の少なくとも一部が視認可能手段の窓部から視認不能となる位置まで変位可能に構成されるので、変位手段の変位による演出が単調となることを抑制できる。特に、変位手段の全部が窓部から視認可能な状態と、変位手段の全部が窓部から視認不能となる状態とを構成できる場合には、窓部への出現や窓部の外への消失により変位部材の動向（存在位置や変位の方向など）を把握し難くして、演出効果を高めることができる。

【１００４０】

遊技機ＡＡ１からＡＡ１３，ＡＤ１からＡＤ２３，ＡＥ１～ＡＥ２４のいずれかにおいて、前記遊技機はスロットマシンであることを特徴とする遊技機ＡＺ１。中でも、スロットマシンの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段（ストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備えた遊技機」となる。この場合、遊

技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。
【１００４１】
遊技機ＡＡ１からＡＡ１３，ＡＤ１からＡＤ２３，ＡＥ１～ＡＥ２４のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機であることを特徴とする遊技機ＡＺ２。中でも、パチンコ遊技機の基本構成としては操作ハンドルを備え、その操作ハンドルの操作に応じて球を所定の遊技領域へ発射し、球が遊技領域内の所定の位置に配設された作動口に入賞（又は作動口を通過）することを必要条件として、表示手段において動的表示されている識別情報が所定時間後に確定停止されるものが挙げられる。また、特別遊技状態の発生時には、遊技領域内の所定の位置に配設された可変入賞装置（特定入賞口）が所定の態様で開放されて球を入賞可能とし、その入賞個数に応じた有価価値（景品球のみならず、磁気カードへ書き込まれるデータ等も含む）が付与されるものが挙げられる。
【１００４２】
遊技機ＡＡ１からＡＡ１３，ＡＤ１からＡＤ２３，ＡＥ１～ＡＥ２４のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機とスロットマシンとを融合させたものであることを特徴とする遊技機ＡＺ３。中でも、融合させた遊技機の基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備え、遊技媒体として球を使用すると共に、前記識別情報の動的表示の開始に際しては所定数の球を必要とし、特別遊技状態の発生に際しては多くの球が払い出されるように構成されている遊技機」となる。
【１００４３】
以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図５４０から図５５４を参照し、第８９実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ａ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。
【１００４４】
図５４０は、第８９実施形態におけるパチンコ機Ａ１０の正面図であり、図５４１は、遊技盤Ａ１３の正面図である。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１００４５】
なお、以下の説明では、図５４０に示す状態のパチンコ機Ａ１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図５４０に示す状態のパチンコ機Ａ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図５４０参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ａ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。
【１００４６】
遊技盤Ａ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した領域構成部である外レールＨ６２が植立され、その外レールＨ６２の内側位置には外レールＨ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＨ６１が植立される。この内レールＨ６１と外レールＨ６２とにより遊技盤Ａ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ａ１３とガラスユニットＨ１６（図５４０参照）とにより前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）が囲まれることにより、遊技盤Ａ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ａ１３の正面であって２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｈ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。なお、球が案内される通路を形成する２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２は、金属板である必要なく、樹脂材料から帯状に形成されるものであっても良い。

【１００４７】
２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２は、上皿Ｈ１７に貯留され、球発射ユニットＨ１１２ａへ案内された後で、球発射ユニットＨ１１２ａ（図４９２参照）から発射された球を遊技盤Ａ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）へ案内するために設けられたものである。
【１００４８】
内レールＨ６１の先端部分（図５４１の左上部）には戻り球防止部材Ａ６８が取り付けられる。外レールＨ６２の先端部（図５４１の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＨ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＨ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。
【１００４９】
戻り球防止部材Ａ６８は、内レールＨ６１の先端部分においてベース板Ａ６０に締結固定される支持部材と、その支持部材に回転動作可能に支持されており内レールＨ６１側から外レールＨ６２側に延設される樹脂製の板部材から形成され、内レールＨ６１側の一端側を軸に他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転可能とされる開閉動作される部材とを備える。支持部材は、開閉動作される部材の一部を覆う部位である。また、戻り球防止部材Ａ６８は、一端側に錘を備え、その錘により他端側が外レールＨ６２に近づく方向に付勢される。
【１００５０】
これにより、遊技盤Ａ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）に案内される球の勢いで戻り球防止部材Ａ６８の他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転させることができると共に、壁部によって回転角度を抑制されており、戻り球防止部材Ａ６８を超える位置（遊技盤Ａ１３の上方側）に球が案内された際に戻り球防止部材Ａ６８の他端側を外レールＨ６２に近づく方向に回転させることができ、一旦、遊技盤Ａ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。
【１００５１】
なお、戻り球防止部材Ａ６８は、樹脂材料から形成される必要はなく、金属材料から形成されていても良い。また、対象物の動作を抑制する錘以外に磁石などの磁力やねじりバネなどの付勢力によって戻り球防止部材Ａ６８の他端側を外レールＨ６２側に付勢する構成としても良い。
【１００５２】
また、戻り球防止部材Ａ６８は、後述する風車ＡＷＦのように、一方向に継続して回転できるもの（１球ずつ所定位置に戻らないもの）であっても良い。この場合、遊技盤Ａ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻らないように、遊技盤Ａ１３の上部への球の案内によって回転する方向（一方向）とは反対の方向（他方向）に回転することを規制するワンウェイクラッチを配設することが好ましい。
【１００５３】
尚、本パチンコ機Ａ１０では、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ａ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ時短有通常大当たり、４Ｒ時短有通常大当たり、１５Ｒ時短無し通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。
【１００５４】
本パチンコ機Ａ１０では、時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ａ６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物Ａ６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物Ａ６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、時短中は、第２入賞口Ｈ

６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。

【１００５５】

パチンコ機Ａ１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｈ６４０に付随された電動役物Ａ６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【１００５６】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、時短中の方が短くなるように設定される。これにより、時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ａ６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【１００５７】

なお、時短中において、当たり確率を高める、１回の当たりに対する電動役物Ａ６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、時短中に第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、また、１回の当たりに対する電動役物Ａ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。

【１００５８】

スルーゲートＨ６７は、可変表示装置ユニットＨ８０の右側の領域において第１球流下構造体Ａ３００に配設される態様で遊技盤Ａ１３に組み付けられ、遊技盤Ａ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲートＨ６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【１００５９】

球のスルーゲートＨ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。第２図柄保留ランプは、最大保留数分の４つ設けられ、第３図柄表示装置Ｈ８１の下方に左右対称に配設されている。

【１００６０】

なお、第２図柄の変動表示は、本実施形態のように、第２図柄表示装置において複数のランプの点灯と非点灯を切り換えることにより行うものの他、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を使用して行うようにしても良い。同様に、第２図柄保留ランプの点灯を第３図柄表示装置Ｈ８１の一部で行うようにしても良い。

【１００６１】

また、スルーゲートＨ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け数は１つに限定されるものではなく、例えば２つであっても良い。

【１００６２】

また、スルーゲートＨ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＨ８０の右側に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の左右や、下方でも良い。また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより保留球数が示される場合等には、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしてもよい。

【１００６３】

スルーゲートＨ６７の正面視左下側には、球が入賞し得る第２入賞口Ｈ６４０が配設さ

れている。この第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ａ１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図４８８参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂで示される。

【１００６４】

なお、第２入賞口Ｈ６４０の配置は、これに限られるものではない。例えば、第１入賞口Ｈ６４の正面視下方でも良いし、遊技領域の左右中央よりも左側（例えば、第１入賞口Ｈ６４よりも正面視左下側）でも良い。

【１００６５】

第２入賞口Ｈ６４０には電動役物Ａ６４０ａが付随されている。この電動役物Ａ６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物Ａ６４０ａが閉鎖状態（退避状態）となって、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲートＨ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ａ６４０ａが開放状態（張出状態）となり、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しやすい状態となる。

【１００６６】

上述した通り、時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物Ａ６４０ａが開放状態（張出状態）となる回数が増える。更に、時短中は、電動役物Ａ６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。

【１００６７】

ここで、第１入賞口Ｈ６４に球が入賞した場合と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合とで、大当たりとなる確率は同一（約１／３１９）である。しかしながら、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ時短有通常大当たりとなる確率は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されている。一方、第１入賞口Ｈ６４は、第２入賞口Ｈ６４０にあるような電動役物Ａ６４０ａは有しておらず、球が常時入賞可能な状態となっている。

【１００６８】

よって、通常中においては、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ａ６４０ａが閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しづらいので、電動役物Ａ６４０ａのない第１入賞口Ｈ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の左方を球が通過するように球を発射し（所謂「左打ち」）、第１入賞口Ｈ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１００６９】

一方、時短中は、スルーゲートＨ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ａ６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｈ６４０へ向けて、可変表示装置Ｈ８０の右方を球が通過するように球を発射し（所謂「右打ち」）、スルーゲートＨ６７を通過させて電動役物Ａ６４０ａを開放状態にすると共に、第２入賞口Ｈ６４０への入賞によって１５Ｒ時短有通常大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１００７０】

なお、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に大当たりとなる確率は、上述の確率に限られるものではなく、種々の態様が例示される。上述の確率は、大当たりを獲得することが難しい一方で、期待される払出球の個数が多くなる機種（一発逆転が可能な機種）として設定される。これに対し、例えば、比較的大当たりを獲得し易い確率（約１／９９）が設定される代わりに期待される払出球の個数が少なくされる場合もあるし、中間の確率（約１／１９９）とされ、大当たりの獲得のし易さと期待される払出球の個数とのバランスが良くされる場合もある。

【１００７１】
なお、本実施形態におけるパチンコ機Ａ１０とは異なり、遊技盤Ａ１３の構成が左右対称とされる場合には、「右打ち」で第１入賞口Ｈ６４を狙うことも、「左打ち」で第２入賞口Ｈ６４０を狙うこともできる。この場合、遊技者から球の打ち方を変化させる煩わしさを取り去ることができる。
【１００７２】
一方で、本実施形態におけるパチンコ機Ａ１０では、「右打ち」では第１入賞口Ｈ６４を狙うことはできないように構成され、「左打ち」で発射された球はスルーゲートＨ６７を通過しないように構成されている。そのため、本実施形態のパチンコ機Ａ１０は、パチンコ機Ａ１０の遊技状態（時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えることを要求することができる。よって、球の打ち方を変化させる遊技性を付加することで遊技が緩慢となることを防止することができる。
【１００７３】
なお、電動役物Ａ６４０ａが遊技領域の右側に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、電動役物Ａ６４０ａを遊技領域の左側に配設するようにしても良い。
【１００７４】
電動役物Ａ６４０ａが遊技領域の右側に配設される場合には、第２入賞口Ｈ６４０に入球されなかった球をアウト口Ｈ７１にスムーズに案内するために、球の流下方向が左下方向へ向けて傾斜する方向となるように構成されることが多いが、電動役物Ａ６４０ａが遊技領域の左側に配設される場合には、形状を左右対称に変更させることで対応が可能となる。
【１００７５】
また、第１入賞口Ｈ６４よりも上流側に電動役物Ａ６４０ａを配設すれば、第２入賞口Ｈ６４０に入球されなかった球がアウト口Ｈ７１に案内される場合ばかりではなく、第１入賞口Ｈ６４に案内される場合も構成可能となるように遊技領域を構成することができるので、電動役物Ａ６４０ａを通過した後の球の注目力が極端に低下される事態を避けることができる。
【１００７６】
電動役物Ａ６４０ａの配設位置と、スルーゲートＨ６７の配設位置とは、複数の態様が例示される。例えば、電動役物Ａ６４０ａの上流側にスルーゲートＨ６７を配設することで、スルーゲートＨ６７に検出されることで普通図柄の抽選を実行させた球が、その抽選により開閉動作されている電動役物Ａ６４０ａに到達可能に構成できるので、普通図柄の抽選と、その抽選により開放された第２入賞口Ｈ６４０への入球とが、同じ球で実行され得ることになり、遊技者に好適に受け入れられやすい。
【１００７７】
逆に、例えば、スルーゲートＨ６７の上流側に電動役物Ａ６４０ａを配設する場合には、１球目の球が電動役物Ａ６４０ａに到達する時点では普通図柄の抽選が実行されていないので、電動役物Ａ６４０ａは閉鎖状態とされており、球は第２入賞口Ｈ６４０には入球されずに素通りし、スルーゲートＨ６７へ向かって流下する。即ち、普通図柄の抽選を新たに開始させるために球を継続して発射させる場合における１球目の球が第２入賞口Ｈ６４０に入球されないため、賞球の払い出しが期待されないという点で遊技者にとって不利となる。
【１００７８】
この不利は、普通図柄の抽選を途切れさせないように電動役物Ａ６４０ａへ向けた発射をすることで最小限に抑えることができるため、遊技者に対して、「単発打ち」（操作ハンドルＨ５１の発射停止スイッチＨ５１ｂの操作を利用して一発ずつ間隔（数秒）を空けて球を発射する特殊な打ち方）ではなく「打ちっぱなし」（操作ハンドルＨ５１を回転動作させた状態で維持することで一定の間隔（１００発／分未満の間隔、０．６秒等）で発

射させる打ち方）にすることを違和感なく推奨することができる。
【１００７９】
即ち、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１で「右打ち」と表示して、「右打ち」する期間であることを報知する場合において、併せて「とにかく打ち続けろ」等の表示を併記することで、遊技者の不利を最小限に抑えつつ、「単発打ち」を好む遊技者に対しても、「打ちっぱなし」で遊技する方が有利かもしれないと思わせることで、球の発射方法の選択の幅を広げさせることができる。これにより、遊技者に刺激を与え、遊技者の集中力を高く維持することができる。
【１００８０】
また、スルーゲートＨ６７と電動役物Ａ６４０ａとを、左右同じ側に配設しても良いし、左右逆側に配設するようにしても良い。左右逆側に配設する場合には、スルーゲートＨ６７を通過させるために発射させる球の発射態様（例えば、「左打ち」又は「右打ち」）と、電動役物Ａ６４０ａにおいて第２入賞口Ｈ６４０に入球させるために発射させる球の発射態様（例えば、「右打ち」又は「左打ち」）とが異なることから、時短中において操作ハンドルＨ５１の回転動作を頻繁に生じさせることができ、遊技者の意識を操作ハンドルＨ５１に向けさせることができ、遊技に集中させることができる。
【１００８１】
第１入賞口Ｈ６４の右方には可変入賞装置Ａ６５が配設されており、その下流側位置に特定入賞口Ｈ６５ａが設けられている。パチンコ機Ａ１０においては、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｈ６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）開放される。
【１００８２】
この特定入賞口Ｈ６５ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放される。この特定入賞口Ｈ６５ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。
【１００８３】
抽選された大当たりが時短有通常大当たりだった場合、大当たり遊技終了後の時短中に右打ち遊技を行うことで、第２入賞口Ｈ６４０へ遊技球を入賞させることができる。本実施形態では、時短状態における第２入賞口Ｈ６４０への入賞に基づいて数回（例えば、１～１０回。時短状態の終了時における保留球数を含む。）の抽選を少ない球損で実行させることができる。第２入賞口Ｈ６４０に遊技球が入賞すると、約１／２の確率で小当たりが発生し、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおいて小当たりに対応したＬＥＤが点灯する。この小当たりにより、特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放され、その開放中に、球が特定入賞口Ｈ６５ａ内へ入賞することを契機として特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。
【１００８４】
なお、特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する契機を、特定入賞口Ｈ６５ａの下流側に位置する特定領域または非特定領域のうちの特定領域を通過することにするように構成しても良い。本実施形態では、特定領域を通過するか否かに対応する振り分けを内部制御により行っており、特定入賞口Ｈ６５ａの下流側に特定領域および非特定領域を構成することが不要とされている。即ち、抽選された大当たりに基づいて、特定入賞口Ｈ６５ａが特定領域を兼ねるタイミングが生じる場合が設定可能とされており、そのタイミングにおいて球が特定入賞口Ｈ６５ａ内へ入賞することを契機として特別遊技状態（大当た

り）に遊技状態が遷移する。
【１００８５】
　このように、本パチンコ機Ａ１０では、右打ち遊技において、第２入賞口Ｈ６４０へ遊技球が入球すると約１／２の確率で特別遊技状態へ遊技状態を遷移させることが可能になり、これは左打ち遊技における大当たり確率（約１／３１９）よりも著しく高い確率となるので、右打ち遊技状態に対する遊技者の興趣を向上させることができる。
【１００８６】
　また、特定入賞口Ｈ６５ａの個数は限定されるものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｈ６４の右方に限らず、例えば、第１入賞口Ｈ６４の下方右側や、第１入賞口Ｈ６４の下方左側や、可変表示装置ユニットＨ８０の左方または右方や、上方でも良い。
【１００８７】
　遊技盤Ａ１３には、アウト口Ｈ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０にも入賞しなかった球は、アウト口Ｈ７１を通って図示しない球排出路へと案内される。
【１００８８】
　なお、本実施形態におけるその他装置Ｈ２２８（図４９６参照）には、駆動ソレノイドや駆動モータや、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ａ６４０ａを駆動させる駆動ソレノイドＡ６４２等が含まれる。なお、本実施形態においても、その他装置Ｈ２２８には、上述の役物装置の駆動源だけではなく、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示せず）や、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ａ６４０ａの駆動源等（駆動ソレノイドＡ６４２等）を含む構成としても良い。また、本実施形態における各種スイッチＨ２０８（図４９６参照）には、検出センサ（入賞検出センサＡＳＣ６４及び入賞検出センサＡＳＣ６５）等が含まれる。
【１００８９】
　図５４２は、遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＤ２００の分解正面斜視図である。なお、図５４２では、風車ＡＷＦ及び球の流下経路を形成するためにベース板Ａ６０に植設される釘の図示が省略される。
【１００９０】
　図５４２に図示されるように、遊技盤Ａ１３は、ベース板Ａ６０に対して、センターフレームＡ８６よりも右方において穿設される右方穿設部Ａ６０ａを前方から塞ぐようにして第１球流下構造体Ａ３００が組み付けられ、センターフレームＡ８６よりも下方において穿設される下方穿設部Ａ６０ｂを前方から塞ぐようにして第２球流下構造体Ａ６００が組み付けられる。
【１００９１】
　図５４３は、第２球流下構造体Ａ６００の正面斜視図であり、図５４４は、第２球流下構造体Ａ６００の背面斜視図である。図５４５は、第２球流下構造体Ａ６００の分解正面斜視図であり、図５４６は、第２球流下構造体Ａ６００の分解背面斜視図であり、図５４７は、第２球流下構造体Ａ６００の正面図である。
【１００９２】
　図５４７では、説明の便宜上、カバー部材Ａ６３０の板状本体Ａ６３１の図示が省略され、カバー部材Ａ６３０に締結固定される第１電飾基板Ａ６６０が実線で図示され、カバー部材Ａ６３０の構成であって流路側壁を構成する延設形成部Ａ６３２及び流路に対して凹凸形成される部位の形状が想像線で図示される。換言すれば、想像線により、球の通過経路の形状および凹凸が形成される部位が図示されている。
【１００９３】
　図５４５及び図５４６に図示されるように、第２球流下構造体Ａ６００は、ベース板Ａ６０の前面に締結固定されるベース部材Ａ６１０と、そのベース部材Ａ６１０の正面側に配置されベース部材Ａ６１０と共に球の流下経路を構成するカバー部材Ａ６３０と、ベース部材Ａ６１０の背面側から進退動作する開閉板Ａ６４１を有する電動役物Ａ６４０ａと

、その電動役物Ａ６４０ａよりも右側に位置しておりベース板Ａ６０の背面側から進退動作する開閉板Ａ６５１を有する可変入賞装置Ａ６５と、ベース部材Ａ６１０とカバー部材Ａ６３０との前後間の位置においてカバー部材Ａ６３０に締結固定される第１電飾基板Ａ６６０と、ベース部材Ａ６１０の後面側に配設される第２電飾基板Ａ６７０と、その第２電飾基板Ａ６７０をベース部材Ａ６１０との前後間の位置に挟む位置に配設されベース部材Ａ６１０に締結固定されるカバー部材Ａ６８０と、ベース部材Ａ６１０とカバー部材Ａ６３０との間に保持されており第２入賞口Ｈ６４０を構成する入賞検出センサＡＳＣ６４と、ベース部材Ａ６１０とカバー部材Ａ６３０との間に保持されており特定入賞口Ｈ６５ａを構成する入賞検出センサＡＳＣ６５と、を備える。

【１００９４】

ベース部材Ａ６１０は、光透過性の樹脂材料から形成されており、背面側に突条状に形成される突条枠部Ａ６１１ａの内側において光拡散形状が形成される板状本体Ａ６１１と、その板状本体Ａ６１１に穿設される案内開口Ａ６１２と、その案内開口Ａ６１２の正面側において開閉板Ａ６５１上を転動（流下）する球を減速させるよう板状本体Ａ６１１に凹設される複数の減速凹部Ａ６１３と、案内開口Ａ６１２よりも左下側において板状本体Ａ６１１に穿設される案内開口Ａ６１４と、その案内開口Ａ６１４の下側において案内開口Ａ６１４の長手方向に対して平行に延びる突条として形成される突設部Ａ６１５と、案内開口Ａ６１４の正面側において開閉板Ａ６４１上を転動（流下）する球を減速させるよう正面側に突設される複数の減速突部Ａ６１６と、開閉板Ａ６５１上を左方に案内された球を減速させるよう正面側に突設される複数の減速突部Ａ６１７と、案内開口Ａ６１４の上縁に沿って正面側に突設される傾斜突部Ａ６１８と、球を背面側へ案内可能に形成される複数の球案内部Ａ６２１と、を備える。

【１００９５】

電動役物Ａ６４０ａは、案内開口Ａ６１４を通り前方に配置される張出状態（開放状態）において球を第２入賞口Ｈ６４０へ向けて案内可能な開閉板Ａ６４１と、その開閉板Ａ６４１を変位させるための駆動力を発生可能な駆動ソレノイドＡ６４２と、その駆動ソレノイドＡ６４２のプランジャー先端部Ａ６４２ａに嵌め合い固定される先端固定部材Ａ６４３と、その先端固定部材Ａ６４３の直線動作に対応して動作され開閉板Ａ６４１を動作させる中間リンク部材Ａ６４４と、を備える。

【１００９６】

なお、電動役物Ａ６４０ａの開放状態（張出状態）に対応する開閉板Ａ６４１の状態を開閉板Ａ６４１の開放状態（張出状態）とも称し、電動役物Ａ６４０ａの閉鎖状態（退避状態）に対応する開閉板Ａ６４１の状態を開閉板Ａ６４１の閉鎖状態（退避状態）とも称する。

【１００９７】

ベース部材Ａ６１０とカバー部材Ａ６３０との間に構成される流下経路において、電動役物Ａ６４０ａが開放状態（張出状態）である場合には、開閉板Ａ６４１近傍まで到達した球の流下経路が開閉板Ａ６４１の上面を第２入賞口Ｈ６４０側へ向けて左方側へ流下する経路とされ、電動役物Ａ６４０ａが閉鎖状態（退避状態）である場合には、開閉板Ａ６４１近傍まで到達した球が開閉板Ａ６４１の上面に当接せずに正面側を落下して開閉板Ａ６４１よりも下方側を流下する流下経路を流下される。このように、電動役物Ａ６４０ａが開放状態（張出状態）であるか閉鎖状態（退避状態）であるかに対応して、球が流下される流下経路が異なるように構成される。

【１００９８】

ベース部材Ａ６１０は、板状本体Ａ６１１の後方側の領域であって、突条枠部Ａ６１１ａの内方側において第２電飾基板Ａ６７０と前後方向で対向配置される領域に、シボ加工が形成されている。突条枠部Ａ６１１ａの内方側における領域は正面視において開閉板Ａ６４１と重ならない。従って、第２電飾基板Ａ６７０に配設されるＬＥＤから正面側へ向けて発光される光が開閉板Ａ６４１に遮蔽される事態は生じない。

【１００９９】

一方で、第２電飾基板Ａ６７０の発光時には、シボ加工により光を拡散させることで板状本体Ａ６１１の透過性を落とすことができる。これにより、電動役物Ａ６４０ａの状態に関わらず開閉板Ａ６４１の視認性が変わらない場合に比較して、電動役物Ａ６４０ａの閉鎖状態（退避状態）においては板状本体Ａ６１１における突条枠部Ａ６１１ａの内方側を介した開閉板Ａ６４１の視認性（遊技者側から見て斜め下方向視における視認性）を低下させることで、閉鎖状態となっていることを遊技者に把握させ易くすることができる。

【１０１００】

第２電飾基板Ａ６７０からの光は、前方側へ向けて発光されることから、板状本体Ａ６１１における第２電飾基板Ａ６７０の前方側の範囲に照射され、その範囲に配設される減速突部Ａ６１６，Ａ６１７，Ａ６３６，Ａ６３７を通過して遊技者に視認される。

【１０１０１】

減速突部Ａ６１６，Ａ６１７，Ａ６３６，Ａ６３７の前後側端部が湾曲面を構成することから、通過する光を屈折または分散させることにより、光が広範囲に到達するように構成される。点光源から発光する光であっても、あたかも面から発光しているかのように視認させることができる。

【１０１０２】

シボ加工により拡散された光は、第２電飾基板Ａ６７０の真正面位置のみならず、ずれた位置にも透過される。即ち、シボ加工により拡散された光は、正面視において第２電飾基板Ａ６７０の下端よりも下側に位置する傾斜突部Ａ６１８に向けて進行し、傾斜突部Ａ６１８を明るく照らすように構成される。

【１０１０３】

また、電動役物Ａ６４０ａの開放状態（張出状態）においては、カバー部材Ａ６３０、開閉板Ａ６４１及び開閉板Ａ６４１の上面を転動する球に向けて、シボ加工により拡散された光を照射することができるので、面での発光として視認させることができ、光による演出効果を向上させることができる。

【１０１０４】

なお、第２電飾基板Ａ６７０を配設する代わりに、配設を省略して、より後方に配設される発光部からの光がシボ加工に照射される物としても良い。例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示領域の下縁および右縁がより右下側に広げられ、突条枠部Ａ６１１ａの内方側と表示領域とが前後で対向配置される場合、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示領域からの光が突条枠部Ａ６１１ａの内方側を通過することにより、減速突部Ａ６１６，Ａ６１７，Ａ６３６，Ａ６３７や傾斜突部Ａ６１８や開閉板Ａ６４１を光で照らすことができる。また、第２電飾基板Ａ６７０からの光に変わって、動作ユニットＤ２００に配設されるＬＥＤからの光が照射されても良い。

【１０１０５】

また、第２電飾基板Ａ６７０からの光の発光態様は、種々の態様で制御可能に構成される。例えば、複数のＬＥＤが一様に発光される態様でも良いし、左右に複数のＬＥＤが並べられており右端から発光され左隣のＬＥＤが順番に発光される態様でも良いし、その逆でも良いし、環状にＬＥＤが並べられており特定のＬＥＤから時計回りに順番に発光される態様でも良いし、その逆でも良い。また、発光色も、赤、青、緑など複数の色で切り替えられるように構成可能である。

【１０１０６】

この場合において、発光態様や発光色を、第２入賞口Ｈ６４０で球が検出されたことにより実行される抽選の結果（例えば、大当たり、リーチあり外れ、リーチなし外れ、ショートリーチ、ロングリーチ、それらの組合せ）と対応されることにより、遊技者は、第２電飾基板Ａ６７０の光を視認することで第２入賞口Ｈ６４０での球の検出による抽選の結果を予想することができので、第２電飾基板Ａ６７０の光に対する注目力を向上させることができる。

【１０１０７】

減速突部Ａ６１６は、案内開口Ａ６１４の長手方向と直角に交差する方向に長手方向が

設定される正面視で長尺棒状の形状から形成されており、減速突部Ａ６１７は、球の流下経路に対して直角に交差する方向に長手方向が設定される正面視で長尺棒状の形状から形成されている。

【１０１０８】

減速突部Ａ６１６が当接するのは、案内開口Ａ６１４の長手方向と同方向に延びる幅長さを有する開閉板Ａ６４１上を転動（流下）する球なので、減速突部Ａ６１６についても、減速突部Ａ６１７と同様に、球の流下経路に対して直角に交差する方向に長手方向が設定されているといえる。

【１０１０９】

傾斜突部Ａ６１８は、略扇状の断面形状で形成されており、上下の厚み及び前方への張出長さが、左右位置がずれても一定とされる形状維持範囲Ａ６１８ａと、上下の厚み及び前方への張出長さが、案内開口Ａ６１４の右端側の位置（形状維持範囲Ａ６１８ａと接続される位置）において最大に設定され、左方へ向かう程に徐々に短くなる形状とされる形状変化範囲Ａ６１８ｂと、を備える。

【１０１１０】

即ち、傾斜突部Ａ６１８の形状維持範囲Ａ６１８ａの前端部は、板状本体Ａ６１１の前側面に対して平行な平面内の直線方向に沿って延びる一方で、傾斜突部Ａ６１８の形状変化範囲Ａ６１８ｂの前端部は、板状本体Ａ６１１の前側面に対して平行な平面内の直線方向に沿って延びるものではなく、板状本体Ａ６１１の前側面に対して傾斜する平面内（左側ほど後方側に位置する平面内、換言すれば、板状本体Ａ６１１の前側面に対して平行な平面を上下方向に延びる軸中心に回転させたことで板状本体Ａ６１１の前側面に対して傾斜する平面内）の直線方向に延びる形状とされる。

【１０１１１】

この傾斜に合わせて形状変化範囲Ａ６１８ｂの上端部も案内開口Ａ６１４の長手方向に沿う直線に対して傾斜する（左側へ向かうほど案内開口Ａ６１４との間隔が短くなる態様で傾斜する）。そのため、傾斜突部Ａ６１８に球が当接する位置は左右位置が違っても同一というものではなく、形状維持範囲Ａ６１８ａに当接する球の部位よりも、形状変化範囲Ａ６１８ｂに当接する球の部位の方が、開閉板Ａ６４１に近い側の部位（下端部寄りの部位）とされる。

【１０１１２】

そのため、傾斜突部Ａ６１８により球が前方に寄せられる程度は、形状維持範囲Ａ６１８ａよりも、形状変化範囲Ａ６１８ｂ（の下流側）に向かう程に小さくされることになる。即ち、開閉板Ａ６４１上を前後に蛇行しながら蛇行する球に対する傾斜突部Ａ６１８の影響度合いは、形状維持範囲Ａ６１８ａに近い側、即ち形状変化範囲Ａ６１８ｂの右端側において最大となり、下流側へ向かう程に小さくされるため、球の蛇行の度合いを下流側へ向かうほどに激しくする流下態様を構成することができる。

【１０１１３】

なお、本実施形態では上述したように傾斜突部Ａ６１８の形状を設定したが、傾斜突部Ａ６１８の形状は上述した対応に限られるものではなく、種々の態様から選択することが可能である。正面視で長手方向が直線方向で想定される棒状部として形成されるばかりではなく、湾曲線（波形状）に沿って形成される突条形状としても良い。

【１０１１４】

例えば、傾斜突部Ａ６１８を左右反転させた形状としても良い。この場合、開閉板Ａ６４１の上面を転動する場合の球の蛇行の度合いを下流側へ向かう程に抑制させる流下態様を構成することができるので、第２入賞口Ｈ６４０へ球を滑らかに案内させることができる。

【１０１１５】

また、例えば、傾斜突部Ａ６１８が案内開口Ａ６１４の長手方向に沿って延びる態様ではなく、案内開口Ａ６１４の長手方向と交差する方向に延びる態様で形成されても良い。この場合において、傾斜突部Ａ６１８の右側部では球の中心よりも下側に当接する一方で

、下流側における傾斜突部Ａ６１８の左側部では球の中心よりも上側に当接する態様で延設されても良い（即ち、減速突部Ａ６１６の中間部近傍と交差する態様）。この場合、下流側における球との当接により、球に対して下向きの力を与えることができ、開閉板Ａ６４１に対する球のバウンドを抑制させることができる。

【１０１１６】

これに対して傾斜突部Ａ６１８を左右反転させた形状としても良い。即ち、傾斜突部Ａ６１８の右側部では開閉板Ａ６４１の上面に当接する球の中心よりも上側に当接する一方で、下流側における傾斜突部Ａ６１８の左側部では球の中心よりも下側に当接する態様としても良い。

【１０１１７】

この場合、傾斜突部Ａ６１８の右端側の部位と開閉板Ａ６４１との上下間隔を長く確保することができるので、傾斜突部Ａ６１８により前方へ寄せられた球が開閉板Ａ６４１に当接し難く構成し易い。更に、傾斜突部Ａ６１８の下面に対する法線が右下を向くことから、傾斜突部Ａ６１８の下面から球が受ける力は開閉板Ａ６４１の上面に押し付けられる方向となる。これにより、開閉板Ａ６４１上を転動する球を効率的に減速させることができると共に、開閉板Ａ６４１上における球のバウンドを効率的に抑制することができる。

【１０１１８】

カバー部材Ａ６３０は、光透過性の樹脂材料から形成されており、ベース部材Ａ６１０の板状本体Ａ６１１と共に球の流下経路の前後側面を形成する板状本体Ａ６３１と、その板状本体Ａ６３１から背面側へ延設され球の流下経路を形成する延設形成部Ａ６３２と、ベース部材Ａ６１０の減速凹部Ａ６１３の前方位置に対応して板状本体Ａ６３１から背面側に突設形成される複数の減速突部Ａ６３３と、ベース部材Ａ６１０に形成される案内開口Ａ６１４と突設部Ａ６１５との間の位置において板状本体Ａ６３１から背面側に突設形成され、突設部Ａ６１５の長手方向に対して平行に延びる突条として形成される突条部Ａ６３５と、ベース部材Ａ６１０の減速突部Ａ６１６に対応して板状本体Ａ６３１から背面側に突設形成される減速突部Ａ６３６と、ベース部材Ａ６１０の減速突部Ａ６１７に対応して板状本体Ａ６３１から背面側に突設形成される複数の減速突部Ａ６３７と、を備える。

【１０１１９】

板状本体Ａ６３１は、電動役物Ａ６４０ａの開閉板Ａ６４１の前端部が進入可能となるように開閉板Ａ６４１の前方側において（非貫通）凹設形成される受入凹部Ａ６３１ａを備える。

【１０１２０】

なお、受入凹部Ａ６３１ａは、本実施形態では、板状本体Ａ６３１の正面側に貼り付けられる装飾シートで塞がれることで非貫通とされる態様で構成されるが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、受入凹部Ａ６３１ａが貫通形成されても良い。受入凹部Ａ６３１ａが貫通形成される場合、正面側から受入凹部Ａ６３１ａを通した後方側の視認性が良くなるため、開閉板Ａ６４１が損傷していることを気付かせ易くすることができる。これにより、メンテナンス時期が到来していることや、予期せぬ不具合（隙間からピアノ線等を進入させて開閉板Ａ６４１の干渉突部Ａ６４１ｂに無理な荷重をかけて無理に開放状態（張出状態）とさせる不正行為の発生等）が生じていることに、気づかせ易くすることができる。

【１０１２１】

延設形成部Ａ６３２は、後方側に開放形成されておりベース部材Ａ６１０と共同で球の流下経路を構成するものであって、球を後方に排出する排出経路を構成する排出路形成部Ａ６３２ａと、その排出路形成部Ａ６３２ａに形成される傾斜形成部Ａ６３２ｂと、ベース部材Ａ６１０の板状本体Ａ６１１の正面側において球の流下経路を構成する主経路形成部Ａ６３２ｃと、その主経路形成部Ａ６３２ｃの内側において入賞検出センサＡＳＣ６５を保持可能な大きさで凹設される保持部Ａ６３２ｔと、入賞検出センサＡＳＣ６４を保持可能な大きさで凹設される保持部Ａ６３２ｕと、を備える。

【１０１２２】
傾斜形成部Ａ６３２ｂは、排出路形成部Ａ６３２ａの内側において、板状本体Ａ６３１から背面側に突設形成されベース部材Ａ６１０の上縁部を通して球を後方へ案内する傾斜面が後面に形成される。傾斜形成部Ａ６３２ｂにより、排出路形成部Ａ６３２ａに球が進入した場合に、跳ね戻ることを回避して、図示しない球排出路を通して遊技機外部に排出させ易くすることができる。
【１０１２３】
なお、傾斜形成部Ａ６３２ｂの形状は、排出路形成部Ａ６３２ａ以外の箇所にも流用されている。本実施形態では、少なくとも球案内部Ａ６２１の前方側においてカバー部材Ａ６３０の背面側から同様の形状（傾斜面形状）が形成されており、上下方向に流下する球の流下方向を後方側へ向けるように作用して球案内部Ａ６２１へ球を円滑に流下させることができる。
【１０１２４】
減速突部Ａ６３６は、減速突部Ａ６１６と互い違いになるように配置される。本実施形態では、配置の関係上、１本の突条として形成されている。なお、減速突部Ａ６３６を複数形成するようにしても良い。特に、開閉板Ａ６４１の左右幅が長くされる場合などは、減速突部Ａ６３６が複数形成され得る。
【１０１２５】
減速突部Ａ６３７は、減速突部Ａ６１７と互い違いになるように配置される。流下経路が一直線ではなく９０度方向を変えていることから、その流下経路における上流側位置と正面視で直角に交差し上下方向に沿う（傾斜する）縦長棒状の突部と、流下経路における下流側位置と正面視で直角に交差し左右方向に沿う（傾斜する）横長棒状の突部（正面視で傾斜突部Ａ６１８に対して平行な方向に延びる突部）とを備える。
【１０１２６】
電動役物Ａ６４０ａは、開閉板Ａ６４１、駆動ソレノイドＡ６４２、先端固定部材Ａ６４３及び中間リンク部材Ａ６４４を前方側から受け入れ可能となるように前方側が開放形成されておりベース部材Ａ６１０の背面側に締結固定される受入箱部材Ａ６４５と、開閉板Ａ６４１と干渉しない範囲（開閉板Ａ６４１の下側の範囲）において受入箱部材Ａ６４５の開放形成部分（開閉板収容部Ａ６４５ａよりも下側の部分）を閉塞するように受入箱部材Ａ６４５に締結固定される前カバー部材Ａ６４６と、を備える。受入箱部材Ａ６４５と前カバー部材Ａ６４６に、前後から挟まれることで駆動ソレノイドＡ６４２の位置が固定される。
【１０１２７】
受入箱部材Ａ６４５は、開閉板Ａ６４１が収容される開閉板収容部Ａ６４５ａが、開閉板Ａ６４１の形状に対応する断面形状で前後方向に凹設されていることで、開閉板Ａ６４１を前後方向で受入可能に構成され、開閉板Ａ６４１の変位中における姿勢変化を抑制可能に構成される。
【１０１２８】
受入箱部材Ａ６４５の開閉板収容部Ａ６４５ａは、その断面形状から、開閉板Ａ６４１を前傾方向に姿勢変化させる方向の荷重を受けた場合に、その姿勢変化を抑制する（復帰させる）。即ち、本実施形態では、開閉板Ａ６４１の姿勢変化を抑制するための形状部がベース部材Ａ６１０側において形成されている。
【１０１２９】
このように構成することで、開閉板Ａ６４１の姿勢変化を抑制するという作用は生じさせつつ、カバー部材Ａ６３０に凹凸形状が形成される領域を狭めることができるので、カバー部材Ａ６３０を介して球の流下経路を視認する場合における流下経路の視認性を向上させることができる。
【１０１３０】
なお、本実施形態では、開閉板Ａ６４１の姿勢変化を抑制するための構成として開閉板収容部Ａ６４５ａを設計したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板

Ａ６４１の閉鎖状態（退避状態）においては後傾姿勢とさせ、開放状態（張出状態）に変化する際に前傾させるように開閉板収容部Ａ６４５ａを構成しても良い。

【１０１３１】

この場合、閉鎖状態（退避状態）では、開閉板Ａ６４１の動作先端部（対向部Ａ６４１ｃ）が傾斜突部Ａ６１８側に寄せられることで、傾斜突部Ａ６１８よりも下方側へ流下する球との衝突を避け易くすることができる。

【１０１３２】

更に、開閉板Ａ６４１を閉鎖状態（退避状態）から開放状態（張出状態）へ変化させる動作における傾倒動作によって開閉板Ａ６４１と傾斜突部Ａ６１８との間隔が広げられるため、間隔が維持された状態で動作される場合に比較して、擦れの発生を抑制し、動作抵抗が増大する事態を未然に避けることができる。

【１０１３３】

仮に開閉板収容部Ａ６４５ａで開閉板Ａ６４１の傾倒を支持しきれない状況が生まれたとしても、開閉板Ａ６４１の干渉突部Ａ６４１ｂが受入凹部Ａ６３１ａに受け入れられることで開閉板Ａ６４１の過度な傾倒が抑制されるため、開閉板Ａ６４１の動作の再現性を高めることができる。

【１０１３４】

前カバー部材Ａ６４６は、中間リンク部材Ａ６４４の回転軸部Ａ６４４ｂを回転可能に支持する受入箱部材Ａ６４５の支持凹部に蓋（栓）をする脱落防止突部Ａ６４６ａを備える。

【１０１３５】

図５４８（ａ）は、電動役物Ａ６４０ａの正面図であり、図５４８（ｂ）は、図５４８（ａ）の矢印Ｂ１３ｂ方向視における電動役物Ａ６４０ａの斜視図である。矢印Ｂ１３ｂ方向は、電動役物Ａ６４０ａの開閉板Ａ６４１の転動面（上面）に対して垂直な方向（駆動ソレノイドＡ６４２の駆動方向ＡＤ６４ａに対して垂直な方向）として図示される。

【１０１３６】

図５４８（ａ）及び図５４８（ｂ）では、電動役物Ａ６４０ａの開閉板Ａ６４１、駆動ソレノイドＡ６４２、先端固定部材Ａ６４３及び中間リンク部材Ａ６４４が図示され、受入箱部材Ａ６４５及び前カバー部材Ａ６４６の図示は省略される。なお、図５４８（ａ）及び図５４８（ｂ）の説明では、図５４５、図５４６及び図５４７を適宜参照する。

【１０１３７】

電動役物Ａ６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化は、前後にスライド変位可能な開閉板Ａ６４１の開閉動作により生じる。本実施形態では、駆動ソレノイドＡ６４２により、ベース部材Ａ６１０の板状本体Ａ６１１の後側面と平行な方向（斜め左下方向）である駆動方向ＡＤ６４ａに直動変位される先端固定部材Ａ６４３の変位量に対応して中間リンク部材Ａ６４４が回転軸部Ａ６４４ｂを中心に回転動作され、その中間リンク部材Ａ６４４の回転動作に対応して開閉板Ａ６４１が前後方向と平行な方向である変位方向ＡＤ６４ｂに直動変位される。

【１０１３８】

即ち、駆動ソレノイドＡ６４２の変位と開閉板Ａ６４１の変位とは中間リンク部材Ａ６４４を介して対応しており、駆動ソレノイドＡ６４２の変位の方向である駆動方向ＡＤ６４ａと、開閉板Ａ６４１の変位方向ＡＤ６４ｂとは、図５４８（ｂ）の紙面（矢印Ｂ１３ｂ方向視）において直角に交差する。

【１０１３９】

図５４９（ａ）及び図５４９（ｂ）は、図５４８（ａ）の矢印Ｂ１３ｂ方向視における開閉板Ａ６４１、中間リンク部材Ａ６４４、駆動ソレノイドＡ６４２及び先端固定部材Ａ６４３の分解図である。図５４９（ａ）及び図５４９（ｂ）では、組立状態（図５４８（ｂ）参照）において上下に重ねて配置される開閉板Ａ６４１、中間リンク部材Ａ６４４、駆動ソレノイドＡ６４２及び先端固定部材Ａ６４３について、説明の便宜上、重ならない位置まで前後方向にずらした状態で図示される。

【１０１４０】
図５４９（ａ）では、電動役物Ａ６４０ａの閉鎖状態（退避状態）における開閉板Ａ６４１、中間リンク部材Ａ６４４、駆動ソレノイドＡ６４２及び先端固定部材Ａ６４３が図示され、図５４９（ｂ）では、電動役物Ａ６４０ａの開放状態（張出状態）における開閉板Ａ６４１、中間リンク部材Ａ６４４、駆動ソレノイドＡ６４２及び先端固定部材Ａ６４３が図示される。
【１０１４１】
開閉板Ａ６４１は、有色（本実施形態では黄色）不透明の樹脂材料から形成され、左方へ向けて下降傾斜する姿勢で配設される転動面形成部Ａ６４１ａと、その転動面形成部Ａ６４１ａの下流側端の前側端部において垂直方向上側へ向けて突設形成される干渉突部Ａ６４１ｂと、その干渉突部Ａ６４１ｂよりも右側においてカバー部材Ａ６３０の板状本体Ａ６３１に前後方向で対向配置され転動面形成部Ａ６４１ａの前側部として板状本体Ａ６３１の後面に対して非平行な方向に延びるように形成される対向部Ａ６４１ｃと、その対向部Ａ６４１ｃと干渉突部Ａ６４１ｂとの間において凹設方向の湾曲部として形成される凹設湾曲部Ａ６４１ｄと、転動面形成部Ａ６４１ａの上面から上方に略矩形状に突出形成される突出形成部Ａ６４１ｅと、その突出形成部Ａ６４１ｅの内側において下方側から左右に長い略矩形状で凹設形成される案内凹部Ａ６４１ｆと、転動面形成部Ａ６４１ａの上面に対して直角な方向に突設される一対の突設部Ａ６４１ｇと、を備える。
【１０１４２】
開閉板Ａ６４１は、動作方向（前後方向）と交差する方向（図５４９紙面左右方向）に沿って、幅広部（対向部Ａ６４１ｃが形成される部分）、幅狭部（凹設湾曲部Ａ６４１ｄが形成される部分）、幅広部（干渉突部Ａ６４１ｂが形成される部分）が順に構成される。これにより、開閉板Ａ６４１上を球が転動している場合に開閉板Ａ６４１が閉鎖状態（退避状態）に切り替えられた場合において、球が開閉板Ａ６４１上から脱落する位置を凹設湾曲部Ａ６４１ｄ近傍に集めることができる。
【１０１４３】
これにより、突設部Ａ６１５の下方側における球案内部Ａ６２１として、左側の球案内部Ａ６２１に球が案内され易くすることができるため、右側の球案内部Ａ６２１については形成を省略しても問題なく遊技を行うことができる。
【１０１４４】
本実施形態では、開閉板Ａ６４１の上面を形成する転動面形成部Ａ６４１ａが平面形状を形成する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。凹設湾曲部Ａ６４１ｄ近傍に球を集める目的からすると、凹設湾曲部Ａ６４１ｄを基準として、その左右側が所謂谷折りとなるように屈曲形成されても良い。この場合において、凹設湾曲部Ａ６４１ｄよりも左側（干渉突部Ａ６４１ｂが形成される側）の上面の傾斜については、左下へ延びる傾斜であることは維持する（右下へ延びる傾斜とまではしない）場合には、球の減速が過大となって入賞検出センサＡＳＣ６４への案内が阻害されることを防止できる。
【１０１４５】
本実施形態では、右側の球案内部Ａ６２１を敢えて形成することで、仮に左側の球案内部Ａ６２１で球詰まりが生じた場合であっても、右側の球案内部Ａ６２１から球を排出可能となっているので、開閉板Ａ６４１の下方側に球が滞留して、積み上がった球が開閉板Ａ６４１の動作に影響を与える（動作不良を生じさせる）事態を避けることができる。
【１０１４６】
突出形成部Ａ６４１ｅは、開閉板Ａ６４１の左右幅の中心位置に対して左右対称の略矩形状に形成される。突出形成部Ａ６４１ｅ及び一対の突設部Ａ６４１ｇは、開閉板収容部Ａ６４５ａの内側面と対向配置される部分であって、開閉板Ａ６４１に前傾方向や左右方向の姿勢変化が生じた場合であっても、開閉板収容部Ａ６４５ａとの当接により姿勢変化が抑制されるように作用する。
【１０１４７】
案内凹部Ａ６４１ｆは、中間リンク部材Ａ６４４の先端側突設部Ａ６４４ｃの直径より

も若干長い前後幅で形成される横長の溝状凹部である。この溝状凹部は、機能的には先端側突設部Ａ６４４ｃが移動する左右幅において形成されれば十分であるが、先端側突設部Ａ６４４ｃが移動し得る左右幅よりも左側に延長して形成されている。これにより、突出形成部Ａ６４１ｅの肉厚を均一とし樹脂成形の歩留まりを向上させると共に、開閉板Ａ６４１の軽量化を図ることができる。

【１０１４８】

中間リンク部材Ａ６４４は、図５４９（ａ）及び図５４９（ｂ）紙面（矢印Ｂ１３ｂ方向視）において略雫形状の本体部Ａ６４４ａと、その本体部Ａ６４４ａの表裏面から同一直線上において円柱形状で突設される一対の回転軸部Ａ６４４ｂと、その回転軸部Ａ６４４ｂを中心とする本体部Ａ６４４ａの回転先端側において表側に円柱形状で突設される先端側突設部Ａ６４４ｃと、その先端側突設部Ａ６４４ｃと回転軸部Ａ６４４ｂとを結ぶ直線から離れた位置において本体部Ａ６４４ａの裏側に円柱形状で突設される離間突設部Ａ６４４ｄと、を備える。

【１０１４９】

回転軸部Ａ６４４ｂは、受入箱部材Ａ６４５及び前カバー部材Ａ６４６に回転可能に支持され、先端側突設部Ａ６４４ｃは、開閉板Ａ６４１の案内凹部Ａ６４１ｆに受け入れられ、離間突設部Ａ６４４ｄは、先端固定部材Ａ６４３の受入凹部Ａ６４３ｂに受け入れられる。先端固定部材Ａ６４３が駆動方向ＡＤ６４ａに動作されることにより、中間リンク部材Ａ６４４が回転変位され、開閉板Ａ６４１が前後方向に変位される。

【１０１５０】

駆動ソレノイドＡ６４２は、プランジャー先端部Ａ６４２ａがコイルスプリングＡ６４２ｂにより付勢されており、プランジャー先端部Ａ６４２ａに先端固定部材Ａ６４３が嵌合固定されている。

【１０１５１】

先端固定部材Ａ６４３は、右端部においてプランジャー先端部Ａ６４２ａを前方側から受け入れ可能に縦長の溝形状で開放形成される溝状受入部Ａ６４３ａと、左端部において中間リンク部材Ａ６４４の離間突設部Ａ６４４ｄを前方側から受け入れ可能な大きさで前方側および上方側が開放形成される受入凹部Ａ６４３ｂと、を備える。

【１０１５２】

電動役物Ａ６４０ａの組立は、受入箱部材Ａ６４５に、先端固定部材Ａ６４３を固定した状態における駆動ソレノイドＡ６４２を配設した後で、先端側突設部Ａ６４４ｃを受け入れた状態の開閉板Ａ６４１を中間リンク部材Ａ６４４と共に受入箱部材Ａ６４５に配置して（この際に、離間突設部Ａ６４４ｄが先端固定部材Ａ６４３に受け入れられるように位置を調整して）、前カバー部材Ａ６４６を受入箱部材Ａ６４５に締結固定することで回転軸部Ａ６４４ｂを回転可能に支持する。

【１０１５３】

電動役物Ａ６４０ａの開閉動作について説明する。電動役物Ａ６４０ａの閉鎖状態（退避状態）では（図５４９（ａ）参照）、駆動ソレノイドＡ６４２が非励磁とされ、コイルスプリングＡ６４２ｂの付勢力により先端固定部材Ａ６４３が変位可能範囲の左端側における付勢位置ＡＸ０１に付勢される。この状態において、中間リンク部材Ａ６４４の先端側突設部Ａ６４４ｃが回転軸部Ａ６４４ｂよりも後方側の後方位置ＡＹ０１に位置され、開閉板Ａ６４１が変位可能範囲の後端側に位置される。

【１０１５４】

これに対し、電動役物Ａ６４０ａの開放状態（張出状態）では（図５４９（ｂ）参照）、駆動ソレノイドＡ６４２が励磁され、コイルスプリングＡ６４２ｂの付勢力を上回る駆動力により先端固定部材Ａ６４３が変位可能範囲の右端側における駆動位置ＡＸ０２に変位される。この状態において、中間リンク部材Ａ６４４の先端側突設部Ａ６４４ｃが回転軸部Ａ６４４ｂを中心として回転変位されることで回転軸部Ａ６４４ｂよりも前方側の前方位置ＡＹ０２に位置され、開閉板Ａ６４１が変位可能範囲の前端側に位置される。

【１０１５５】

駆動ソレノイドＡ６４２の励磁が解除される（非励磁にされる）と、コイルスプリングＡ６４２ｂの付勢力により先端固定部材Ａ６４３が再び付勢位置ＡＸ０１に向けて変位され、閉鎖状態（退避状態）に戻る。このように、電動役物Ａ６４０ａの開閉動作は、駆動ソレノイドＡ６４２の励磁と非励磁とを切り替えることで実行可能とされる。

【１０１５６】

図５４５、図５４６及び図５４７に戻って説明する。電動役物Ａ６４０ａの開放状態（張出状態）では、開閉板Ａ６４１がベース板Ａ６０の前面よりも前方側に張り出すことで、開閉板Ａ６４１の上面を遊技球が転動可能となり、その転動した遊技球が第２入賞口Ｈ６４０へ入球可能となり、電動役物Ａ６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板Ａ６４１がベース板Ａ６０の前面よりも後方側に退避され、遊技球を第２入賞口Ｈ６４０まで橋渡しすることができなくなることで遊技球が第２入賞口Ｈ６４０に入球し難くなるように構成される。

【１０１５７】

なお、電動役物Ａ６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化が前後にスライド変位可能な開閉板の開閉動作により生じる例として、電動役物Ａ６４０ａの下方に第２入賞口Ｈ６４０が配置され、電動役物Ａ６４０ａが開放状態の時に開閉板が後方に退避され、電動役物Ａ６４０ａが閉鎖状態の時に開閉板が前方に張り出すように構成しても良い（可変入賞装置Ａ６５のような構成としても良い）。即ち、電動役物Ａ６４０ａが開放状態の時は、開閉板がベース板Ａ６０の前面よりも後方に退避され、遊技球が第２入賞口Ｈ６４０側へ入球可能となり、電動役物Ａ６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板が遊技領域と第２入賞口Ｈ６４０との間を塞ぐことで球が第２入賞口Ｈ６４０に入球し難くなる（左方へ流される）ように構成されるようにしても良い。

【１０１５８】

また、電動役物Ａ６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化は、下端部に回転軸を備え、遊技領域側へ傾倒または起立する態様で回転変位する開閉板の開閉動作により生じるようにしても良い。この場合、電動役物Ａ６４０ａが開放状態の時は、開閉板の上面に拾われた遊技球が第２入賞口Ｈ６４０に案内され易く、電動役物Ａ６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板が遊技領域と第２入賞口Ｈ６４０との間を塞ぐことで球が第２入賞口Ｈ６４０に入球し難くなるように構成することができる。

【１０１５９】

可変入賞装置Ａ６５は、案内開口Ａ６１２を通り前後方向に進退動作可能な可動板Ａ６５１と、その可動板Ａ６５１を駆動させる駆動ソレノイドＡ６５２と、開閉板Ａ６５１及びソレノイドＡ６５２を前方側から受け入れ可能となるように前方側が開放形成されておりベース部材Ａ６１０の背面側に締結固定される受入箱部材Ａ６５５と、開閉板Ａ６５１と干渉しない範囲（開閉板Ａ６５１の下側の範囲）において受入箱部材Ａ６５５の開放形成部を閉塞するように受入箱部材Ａ６５５に締結固定される前カバー部材Ａ６５６と、を備える。

【１０１６０】

開閉板Ａ６５１は、有色（本実施形態では赤色）不透明の樹脂材料から形成され、駆動ソレノイドＡ６５２が非励磁の状態において前方側に張り出す可変入賞装置Ａ６５の張出状態（閉鎖状態）では、特定入賞口Ｈ６５ａへの入球が防止され、駆動ソレノイドＡ６５２が励磁された状態において後方に退避する退避状態（開放状態）では、特定入賞口Ｈ６５ａへの入球が許容される。

【１０１６１】

開閉板Ａ６５１上を転動する球の流下経路の手前側には、カバー部材Ａ６３０の減速突部Ａ６３３が位置する。減速凹部Ａ６１３とは違い、減速突部Ａ６３３の上下幅は球の直径よりも小さくされる。これにより、開閉板Ａ６５１上を球が転動する場合に、球が減速突部Ａ６３３により隠されて（見え難くされて）、遊技者が球の位置を把握できなくなる事態を避けることができる。

【１０１６２】

第１電飾基板Ａ６６０は、延設形成部Ａ６３２で縁取られる領域よりも下側の箇所において光を照射可能なＬＥＤ等の複数の発光部Ａ６６１を有しており、カバー部材Ａ６３０に締結固定される。

【１０１６３】

図５５０は、図５４７のＢ１１ｍ－Ｂ１１ｍ線における第２球流下構造体Ａ６００の部分断面図であり、図５５１は、図５４７のＢ１２ｍ－Ｂ１２ｍ線における第２球流下構造体Ａ６００の部分断面図であり、図５５２は、図５４７のＢ１２ｍ－Ｂ１２ｍ線における第２球流下構造体Ａ６００の部分断面図であり、図５５３（ａ）及び図５５３（ｂ）は、図５４７のＢ１４ａ－Ｂ１４ａ線における第２球流下構造体Ａ６００の部分断面図である。

【１０１６４】

図５５０及び図５５１では、閉鎖状態（退避状態）とされた電動役物Ａ６４０ａが図示され、開放状態（張出状態）における開閉板Ａ６４１の外形が想像線で図示される。図５５２では、開放状態（張出状態）とされた電動役物Ａ６４０ａが図示される。図５５３（ａ）では、電動役物Ａ６４０ａが閉鎖状態（退避状態）とされており、図５５３（ｂ）では、電動役物Ａ６４０ａが開放状態（張出状態）とされている。

【１０１６５】

図５４７のＢ１４ａ－Ｂ１４ａ線は、延設形成部Ａ６３２により形成される流路幅の中央位置を通る平面を示すものであり、以下では、傾斜突部Ａ６１８に当接する直前において、この平面上を球の中心が通ると仮定して説明を行う。

【１０１６６】

図５５０に図示されるように、開閉板Ａ６４１の対向部Ａ６４１ｃは、閉鎖状態（退避状態）において、先端部（右側端部）がベース部材Ａ６１０の板状本体Ａ６１１の前側面が位置する第１前後位置ＡＹ１１よりも前方に張り出している。これにより、対向部Ａ６４１ｃの前端部を左右方向に対して傾斜させながら、変位量が増大されることを回避している。

【１０１６７】

通常、電動役物の開閉板の前端部は第１前後位置ＡＹ１１よりも後方に退避される。開閉板の前端部がカバー部材Ａ６３０の後側面に対して平行な場合には、第１前後位置ＡＹ１１よりも後方側に退避される閉鎖状態（退避状態）における開閉板の前端部の位置と、開放状態（張出状態）において張り出す開閉板の前端部が位置する第２前後位置ＡＹ１２とは、左右位置が異なっても同一であって、開閉板は前後方向距離ＡＲ０１のストロークで変位される。

【１０１６８】

ただし、開閉板の前端部が平行な場合、張り出し動作時にカバー部材Ａ６３０との間で球を挟み込む事象が発生した場合において、その球が、開閉板が退避動作するまで停留し、球が滞留する事態が生じ得る。

【１０１６９】

この場合、開閉板に局所的に過大な負荷（例えば球の中心位置の若干下側に開閉板の先端が食い込むように球を挟んでいる場合、開閉板の先端部に下向きの負荷）がかかり破損する可能性がある。また、球が滞留した状態で開閉板の開放時間が徒過し、開閉板が開放状態（張出状態）に制御される期間において球が第２入賞口Ｈ６４０に適切に案内されない事態が生じ得るため、遊技者にとって不利益を生じる可能性がある。

【１０１７０】

これに対し、本実施形態では、開閉板Ａ６４１の対向部Ａ６４１ｃが板状本体Ａ６３１の後側面に対して非平行である延設方向ＡＤ６４ｃに延びる形状（互いの延長線が交差する形状）で形成していることで、挟まった球に対して対向部Ａ６４１ｃから加えられる荷重が、前後方向の成分のみではなく、前後方向に対して傾斜した方向（延設方向ＡＤ６４ｃと直角に交差する方向）の成分も有するため、開閉板Ａ６４１と板状本体Ａ６３１との間に球が挟まった場合であっても、球をスムーズに下流側に流すことができ、球の停留を

早期に解除することができる。
【１０１７１】
この作用を促進させる目的から、図５５０紙面上に図示されるように、開閉板Ａ６４１の対向部Ａ６４１ｃの前方側（正面視で重なる範囲）の板状本体Ａ６３１の後側面における減速突部Ａ６３６等の凹凸部の形成が省略される。即ち、開閉板Ａ６４１の対向部Ａ６４１ｃの前方側（正面視で重なる範囲、図５５０紙面上の範囲）においては、板状本体Ａ６３１の後側面を平滑な面として形成し、球の流下抵抗を低減させるように構成される。
【１０１７２】
これは、図５５１紙面上に図示されるように、傾斜突部Ａ６１８の前方側（正面視で重なる範囲）の板状本体Ａ６３１の後側面においても、同様であり、減速突部Ａ６３６等の凹凸部の形成が省略される。即ち、開閉板Ａ６４１の対向部Ａ６４１ｃの前方側（正面視で重なる範囲、図５５０紙面上の範囲）においては、板状本体Ａ６３１の後側面を平滑な面として形成し、球の流下抵抗を低減させるように構成される。
【１０１７３】
特に、傾斜突部Ａ６１８に対して上側（開閉板Ａ６４１が配設される側とは反対側）にずれた位置において減速突部Ａ６３６が形成されていることから（図５４７参照、図５５１において想像線で図示）、傾斜突部Ａ６１８に当接して傾斜突部Ａ６１８を球の中心が下方に通り過ぎる態様で左方に流された球については球の流下抵抗を低減させる一方で、傾斜突部Ａ６１８に当接した後で開放状態（張出状態）における開閉板Ａ６４１の上面を転動することで傾斜突部Ａ６１８の上側に球の中心が位置する態様で流下する球については減速突部Ａ６３６により球を減速させることでイレギュラー入賞の発生の抑制を図ることができる。
【１０１７４】
この球の減速は、傾斜突部Ａ６１８と重なる位置において減速突部Ａ６１６が形成されていることによっても実現される。減速突部Ａ６１６は、傾斜突部Ａ６１８の形状維持範囲Ａ６１８ａにおける前方への突設長さと同程度（若干超える長さ）の突設長さで形成されているため、傾斜突部Ａ６１８と当接した後で開放状態（張出状態）における開閉板Ａ６４１の上面を転動する球に当接し得る。
【１０１７５】
また、入賞検出センサＡＳＣ６４に近づく程（即ち、下流側へ向かう程）傾斜突部Ａ６１８の突設長さが短くされる一方で、複数の減速突部Ａ６１６は、上流側か下流側かに因らず同様の突設長さで突設されているので、減速突部Ａ６１６の球との干渉の度合いは、下流側ほど強くなる。
【１０１７６】
即ち、開閉板Ａ６４１の上面を転動する球の前後位置は傾斜突部Ａ６１８と当接する範囲において傾斜突部Ａ６１８により前方側に寄せられるところ、上流側（図５５１右側）の減速突部Ａ６１６と当接する場合には、減速突部Ａ６１６と傾斜突部Ａ６１８とが重なっている関係で減速突部Ａ６１６の突設先端における前後幅ＡＷ０１と球とが当接する事象が生じるに過ぎない一方で、下流側（図５５１左側）の減速突部Ａ６１６と当接する場合には傾斜突部Ａ６１８との重なりが生じていない関係で減速突部Ａ６１６の前後幅ＡＷ０２（突設長さ全体）が球との当接が生じる範囲となる。
【１０１７７】
このように、開閉板Ａ６４１の転動面（上面）を傾斜突部Ａ６１８、減速突部Ａ６１６及び減速突部Ａ６３６に当接しながら流下する球を減速させる作用は、上流側ではほどほどとし、下流側ほど強くなるように構成されており、球の速度を徐々に落とすことが可能となっており、イレギュラー入賞の発生の抑制を図ることができる。
【１０１７８】
更に、上流側において球同士の衝突が生じて高速で弾き飛ばされた球と減速突部Ａ６１６とが衝突する場合であっても、上流側における減速度合を小さく設定することで、高速な球を急激に減速させることによる破損が生じることを避け易くすることができる。これ

により、イレギュラー入賞の発生の抑制を、長期にわたり実現させることができる。
【１０１７９】
ここで、開閉板Ａ６４１の前端部を傾斜させる場合に生じる課題について例示する。開閉板Ａ６４１の対向部Ａ６４１ｃを板状本体Ａ６３１に対して非平行とする場合、閉鎖状態（退避状態）において開閉板Ａ６４１の対向部Ａ６４１ｃの前端部（右端部）を第１前後位置ＡＹ１１よりも後ろに位置させるようにすると（図５５０において想像線で図示）、開閉板の前端部を板状本体Ａ６３１に対して平行とする場合と同様に、板状本体Ａ６１１の手前側を流下する球と開閉板Ａ６４１との衝突を避けられる。
【１０１８０】
一方で、開放状態（張出状態）においては前端部における凹設湾曲部Ａ６４１ｄ（板状本体Ａ６３１との間隔が最も長い側）を十分に張り出させることで、開閉板Ａ６４１と板状本体Ａ６３１との前後隙間からの球の零れが生じないようにする必要から、開閉板の前端部が板状本体Ａ６３１に対して平行とされる場合のストローク（前後方向距離ＡＲ０１）よりも、開閉板Ａ６４１の動作に必要なストローク（前後方向距離ＡＲ０２）が長く必要となる。
【１０１８１】
即ち、閉鎖状態（退避状態）においてベース部材Ａ６１０の板状本体Ａ６１１の前面よりも後方側に退避させる前端部の位置は、傾斜による張出側（対向部Ａ６４１ｃの右端側）で設定し、開放状態（張出状態）において張り出した前端部の位置は傾斜による奥側（凹設湾曲部Ａ６４１ｄ）で設定する必要があるので、前端部が平行な場合に比較して、開閉板Ａ６４１の開閉動作に必要となる変位量が、傾斜部分の前後長さの分だけ増加される。
【１０１８２】
開閉板Ａ６４１の動作ストロークが長くなると、駆動装置からリンク機構を介して動作させる構造を流用することができず、構造の変更が要求されるため、設計変更にコストがかかる。
【１０１８３】
例えば、駆動ソレノイドＡ６４２の可動幅は同じものを流用し、中間リンク部材Ａ６４４の形状を変える場合、開閉板Ａ６４１と連結される側の腕長さ（回転軸部Ａ６４４ｂと先端側突設部Ａ６４４ｃとの間の距離、図５４９（ａ）参照）が長くされるので、駆動ソレノイドＡ６４２側が受ける負荷が大きくなる。即ち、開閉板Ａ６４１側から中間リンク部材Ａ６４４を介して駆動ソレノイドＡ６４２に伝達される負荷が大となり、駆動ソレノイドＡ６４２に過大な負荷が生じ得るし、同様に、開閉板Ａ６４１を駆動させるために必要な駆動力も増加される。
【１０１８４】
加えて、イレギュラー入賞を避ける観点から、閉鎖状態（退避状態）と開放状態（張出状態）とを切り替える速度（開閉速度）が従来通りに高速であることが必要とされるので、開閉板Ａ６４１の動作ストロークが長くなることで更なる高速化が求められ、駆動ソレノイドＡ６４２にかけられる負荷が増大され、場合によってはソレノイドの大型化（高性能化）が求められる事態となり、コスト増を避けられなくなるという問題が生じる。
【１０１８５】
これに対し、本実施形態では、図５５０に図示されるように、閉鎖状態（退避状態）において開閉板Ａ６４１の対向部Ａ６４１ｃを板状本体Ａ６１１の前側面よりも（第１前後位置ＡＹ１１よりも）前方に若干張り出させることで、開閉板Ａ６４１の変位量の増加分を相殺させることができる。
【１０１８６】
即ち、動作ストロークの増加分を相殺させるために十分な距離を測定し、その距離（前後方向距離ＡＲ０２と前後方向距離ＡＲ０１との差である距離）だけ、閉鎖状態（退避状態）において開閉板Ａ６４１の先端部のうち前端側（対向部Ａ６４１ｃの右端側）を第１前後位置ＡＹ１１よりも前側に張り出した位置とすることで、開閉板Ａ６４１の動作スト

ロークが長くなることを回避できる。動作ストロークが長くなることを回避できれば、ソレノイドの大型化（高性能化）をする必要は無く、従来通りの駆動機構を利用でき、製造コストを低減することができる。

【１０１８７】

一方で、閉鎖状態（退避状態）において開閉板Ａ６４１の先端部のうち、第１前後位置ＡＹ１１よりも前方に位置する範囲と、第１前後位置ＡＹ１１よりも後方に位置する範囲とが形成され得ることになり、第１前後位置ＡＹ１１よりも前方に位置する範囲と正面視で重なる位置を球が上下方向に流れる場合、球が閉鎖状態（退避状態）における開閉板Ａ６４１の先端部に衝突し、破損を早める可能性がある。即ち、開閉板Ａ６４１が張り出して、上面視で露出している場合、そのままでは当然に球が衝突し得るため破損が早まる。

【１０１８８】

これに対し、図５５１に図示されるように、開閉板Ａ６４１の上方において張出形成される傾斜突部Ａ６１８が、開閉板Ａ６４１が板状本体Ａ６１１の前側面（第１前後位置ＡＹ１１）よりも前方に張り出した部分と矢印Ｂ１３ｂ方向視で重なるように形成される。これにより、傾斜突部Ａ６１８が庇のように作用するので、開閉板Ａ６４１の真上から落下する球は傾斜突部Ａ６１８に弾かれて、開閉板Ａ６４１との衝突が抑制される。

【１０１８９】

即ち、球の開閉板Ａ６４１への衝突を避けるための傾斜突部Ａ６１８を設けた。目的から、傾斜突部Ａ６１８の形状は開閉板Ａ６４１の先端部の張出部分の形状に対応した形状（矢印Ｂ１３ｂ方向視で重なる形状）とされる。これにより、傾斜突部Ａ６１８が球の下方への流下を阻害することもなく（傾斜突部Ａ６１８を形成していなくても開閉板Ａ６４１が当接する箇所（矢印Ｂ１３ｂ方向視で開閉板Ａ６４１と重なる範囲）であるため）、傾斜突部Ａ６１８により開閉板Ａ６４１を好適に球の衝突から防御することができる。

【１０１９０】

また、減速突部Ａ６１７及び減速突部Ａ６３７により蛇行される球が衝突する位置（形状変化範囲Ａ６１８ｂの形状維持範囲Ａ６１８ａ側の位置）においては、球との衝突が頻繁に生じ得ることから張出長さが大きくされており、一方で、形状変化範囲Ａ６１８ｂの形状維持範囲Ａ６１８ａ側とは反対側（左に逸れた位置）においては、開閉板Ａ６４１の閉鎖状態（退避状態）においては、減速突部Ａ６３７に衝突して大きく左方へ弾かれた球が生じた場合に衝突し得る程度であり、発生が稀なので、張り出し長さが抑えられている。即ち、傾斜突部Ａ６１８の形状は、球が衝突するか否か、その程度（頻度）を考慮して位置や形状が設計されているともいえる。

【１０１９１】

このように、本実施形態では、庇として作用する傾斜突部Ａ６１８を設けることで開閉動作される部材である開閉板Ａ６４１の動作ストロークが長くなることを回避でき、駆動ソレノイドＡ６４２の大型化が必要となる事態を避けることができる。

【１０１９２】

傾斜突部Ａ６１８は、上述のように開閉板Ａ６４１に対する球の衝突を防止するという目的以外にも、遊技において有効活用される。例えば、傾斜突部Ａ６１８は第２電飾基板Ａ６７０からの光の通り道となっており、傾斜突部Ａ６１８を介して光を視認させる演出を実行可能とされる。

【１０１９３】

上述したように、第２電飾基板Ａ６７０からの光は、板状本体Ａ６１１のシボ加工により拡散され、傾斜突部Ａ６１８に向けて進行し、傾斜突部Ａ６１８が明るく照らされる。これにより、庇として作用する傾斜突部Ａ６１８に球が高頻度で衝突することで汚れが付着したり擦り傷が増えたりした場合であっても、遊技者に「右打ち」をさせて第２球流下構造体Ａ６００が注目されるタイミングにおいて傾斜突部Ａ６１８が眩しく照らされるよう発光を制御することで細部（汚れや擦り傷など）を視認し難くすることで、傾斜突部Ａ６１８の見映えが悪くなることを避けることができる。

【１０１９４】

また、開閉板Ａ６４１の開放状態（張出状態）において、開閉板Ａ６４１の上面を転動する球は傾斜突部Ａ６１８の正面側に重なる位置を流下するため、傾斜突部Ａ６１８を透過した光が正面視で視認（透過）される範囲（領域）は、球が開閉板Ａ６４１の上面に到達していない状況においては一定である一方で、球が開閉板Ａ６４１の上面に到達している状況においては球の変位に伴って変化される。即ち、球により光が遮蔽される範囲（領域）が球の変位に伴って変化される。

【１０１９５】

換言すれば、開閉板Ａ６４１の上面を球が転動しているのか否かを、傾斜突部Ａ６１８を透過した光が正面視で視認（透過）される範囲（領域）が変化しているか否かにより把握することができる。従って、球を凝視して球の位置を逐一確認する手間をかけずとも、傾斜突部Ａ６１８を透過した光の視認態様の変化が生じたことを視認できれば、球が開閉板Ａ６４１と当接する位置に到達し流下していることを把握することができるので、ガラスユニットＨ１６に顔を接近させて球を凝視せずとも、遊技者は楽な姿勢で遊技を楽しむことができる。

【１０１９６】

「右打ち」遊技中における遊技者の心配事の主なものとして、球の発射不良が生じていないか、発射力調整が適切となっているか等が挙げられるが、傾斜突部Ａ６１８近辺を視認して光が正面視で視認（透過）される範囲（領域）が変化したことが確認できれば、球の発射は良好に実施されており、発射力も適切であることが把握できるので、この両方について心配無く遊技を継続することができる。

【１０１９７】

一方で、傾斜突部Ａ６１８近辺を視認して光が正面視で視認（透過）される範囲（領域）が変化しないことを把握できれば、球の発射不良が生じているか、発射力調整が不適切となっているか、少なくともいずれかの不良が生じていることを遊技者に予想させることができ、問題の解決を図るように促すことができる。そのため、遊技者は、遊技態様が不良のまま「右打ち」の時間を徒過することを避け易くなり、遊技者が予想外の不利益を受ける可能性を低くすることができる。

【１０１９８】

図５５３（ａ）及び図５５３（ｂ）に図示されるように、傾斜突部Ａ６１８と開閉板Ａ６４１との間には開閉板Ａ６４１の動作を阻害しない程度の隙間が開閉板Ａ６４１の幅方向（開閉板Ａ６４１の動作方向と交差する方向）に沿って形成されており、その隙間は、開閉板Ａ６４１の開放状態（張出状態）でも閉鎖状態（退避状態）でも球の直径よりも小さくされる。これにより、球が開閉板Ａ６４１と傾斜突部Ａ６１８との間に挟まって動作不良を生じる事態を回避することができる。

【１０１９９】

図５５３（ａ）に図示されるように、上流側において前後側から形成される減速突部Ａ６１７及び減速突部Ａ６３７が形成されており、球は衝突しながら流下されることから、電動役物Ａ６４０ａの閉鎖状態（退避状態）において開閉板Ａ６４１の前方側に到達するまでにおいて球は蛇行しながら流下する。

【１０２００】

開閉板Ａ６４１の前端部がベース部材Ａ６１０の板状本体Ａ６１１の前側面よりも前方に張り出す一方で、その上方側が開閉動作される部材の一部を覆う部位としての傾斜突部Ａ６１８により覆われていることから、流下する球は傾斜突部Ａ６１８に衝突し、開閉板Ａ６４１への衝突が防止される。

【１０２０１】

傾斜突部Ａ６１８は開閉板Ａ６４１の上方側に配設されており、下方側には配設されていない。このように配設しても、下方から球が衝突する可能性は低く、又、仮に球が跳ね戻って下方側から開閉板Ａ６４１に衝突した場合であっても重力により球の勢いが落とされているため開閉板Ａ６４１に与える力が抑えられるため、開閉板Ａ６４１の破損防止として十分に作用させることができる。

【１０２０２】
傾斜突部Ａ６１８が開閉板Ａ６４１の下方側には配設されていないことにより、球の蛇行する流下経路ＡＦＬ６１をコンパクトに形成することができること、及び減速突部Ａ６３７の配置位置によって開閉板Ａ６４１よりも上流側における球の流下経路を変化可能であることについて以下で説明する。
【１０２０３】
図５５４は、図５５３（ａ）の範囲Ｂ１５ｍにおける第２球流下構造体Ａ６００の部分断面図である。図５５４では、流下する球の位置の一例が想像線で図示されており、仮定として配設される傾斜突部Ａ６１８ｆの外形が想像線で図示される。
【１０２０４】
仮に、開閉板Ａ６４１の下方側に、傾斜突部Ａ６１８ｆを上下反転した形状の傾斜突部Ａ６１８ｆが形成される場合、流下経路ＡＦＬ６１での流下とすると、球が流下する領域の幅が狭まることで球詰まりが懸念され、流下経路ＡＦＬ６１ｆとする必要が生じ、突設部Ａ６１５や突条部Ａ６３５の上下位置が下方側に下げられることになり、同様の蛇行感で球を流下させるために、開閉板Ａ６４１の下方における延設形成部Ａ６３２の主経路形成部Ａ６３２ｃの下縁を下げる必要が生じる。即ち、開閉板Ａ６４１の下流側に必要となるスペースを拡大する必要が生じる。
【１０２０５】
これに対し、傾斜突部Ａ６１８が開閉板Ａ６４１の下方側には形成されていないことで、開閉板Ａ６４１の下方側において球が流下可能な領域を十分に確保することができ、球をベース部材Ａ６１０側に寄せる上下位置を上側に寄せることができ、同様の蛇行感（前後変位の頻度）で球を流下させる場合であっても、開閉板Ａ６４１の下方側に必要となる上下幅を短くすることができるので、電動役物Ａ６４０ａをより下方側に配置させることができる。これにより、電動役物Ａ６４０ａの配置の設計自由度を向上させることができる。
【１０２０６】
突設部Ａ６１５や突条部Ａ６３５は、開閉板Ａ６４１の下方側の領域の左右幅に亘って形成される。これにより、球が開閉板Ａ６４１の下方における主経路形成部Ａ６３２ｃの下縁（底面）に着地する左右位置に関わらず、跳ね戻り球に対して突設部Ａ６１５又は突条部Ａ６３５のいずれかを当接させることができ、跳ね戻り球の到達位置（高さ）を抑制することができる。これにより、跳ね戻り球と開閉板Ａ６４１との衝突が生じる可能性を低くすることができる。
【１０２０７】
突設部Ａ６１５は当接した球を前方側へ変位させる態様で流下させ、突条部Ａ６３５は当接した球を後方側へ変位させる態様で流下させる。開閉板Ａ６４１の下流側において球が突設部Ａ６１５又は突条部Ａ６３５の少なくとも一方と当接するよう構成することにより、球が鉛直方向に自由落下して減速が不十分な状態で延設形成部Ａ６３２に衝突する事態を避けることができる。これにより、延設形成部Ａ６３２が球との衝突で割れる事態を回避することができる。
【１０２０８】
また、減速突部Ａ６３７の配置を調整することで、球の流下経路を良好としても良い。例えば、減速突部Ａ６３７の上下位置を上流側の減速突部Ａ６１７側に寄せる（上側に移動させる）ことで、傾斜突部Ａ６１８と減速突部Ａ６１７との間の間隔を広げることができ、傾斜突部Ａ６１８に当接して跳ね返った球が減速突部Ａ６１７に衝突する事態を少なくでき、更に、傾斜突部Ａ６１８に当接した後の球が傾斜突部Ａ６１８の前方を流下する際の球の前後位置が後方寄りになることを避け易くすることができる。これにより、流下する球を閉鎖状態（退避状態）の開閉板Ａ６４１の対向部Ａ６４１ｃから離すことができ、開閉板Ａ６４１と球との衝突を避けることができる。
【１０２０９】
例えば、減速突部Ａ６３７の形成を省略しても良い。この場合、減速突部Ａ６３７に当

接した球が傾斜突部Ａ６１８に向けて跳ね返る事態を回避できる。即ち、開閉板Ａ６４１の手前側を流下する球をカバー部材Ａ６３０に擦れる態様で流下させることにより、流下する球を開閉板Ａ６４１の対向部Ａ６４１ｃに接近させないようにすることができ、球が開閉板Ａ６４１の対向部Ａ６４１ｃと当接する事態を避けることができる。

【１０２１０】

また、カバー部材Ａ６３０において突条部Ａ６３５を板状本体Ａ６３１とは別の部材から構成し、板状本体Ａ６３１に嵌合により固定させるように構成し、その配置（球の当接位置）を調整できるように構成しても良い。

【１０２１１】

この場合、パチンコ機Ａ１０の設置態様が変化した場合における球の流下態様の調整を行い易くすることができる。これは、パチンコ機Ａ１０は、遊技ホールにおいて配置が入れ替えられることが通常であるところ、その入れ替えにより設置角度（寝かせの度合い）が変化する場合があることへの対策である。

【１０２１２】

即ち、設計時の設置角度では突条部Ａ６３５に当接して跳ね返った球が開閉板Ａ６４１に衝突しないとしても、遊技ホールにおいて設置角度が変化されると、突条部Ａ６３５に当接して跳ね返った球が開閉板Ａ６４１に衝突するという事態が生じ得るため、突条部Ａ６３５の位置（上下位置）を遊技ホール側で調整できるように構成することで、開閉板Ａ６４１への球の衝突を抑制できるように構成することを目的とする。

【１０２１３】

遊技ホールにおいては、突条部Ａ６３５の配置を調整可能な範囲で自由に調整でき、跳ね返った球が開閉板Ａ６４１に当たらない程度に突条部Ａ６３５の位置を開閉板Ａ６４１から離間する側（下方側）に変位させたり、突設部Ａ６１５との間における経路幅が狭まりすぎないように開閉板Ａ６４１に近接させる側（上方側）に変位させたりと、調整することができる。

【１０２１４】

即ち、遊技ホールでは、突条部Ａ６３５で跳ね返った球が開閉板Ａ６４１に衝突する頻度と、突条部Ａ６３５と突設部Ａ６１５との間の球の通り易さとのバランスを考慮した調整が可能とされる。

【１０２１５】

また、調整可能に構成する対象は、突条部Ａ６３５のみに限られない。例えば、突設部Ａ６１５についても同様に、板状本体Ａ６１１とは別の部材から構成し、板状本体Ａ６１１に形成される凹部に嵌合により固定させるように構成し、その配置（球の当接位置）を調整できるように構成しても良い。

【１０２１６】

突設部Ａ６１５の態様は長手方向が設定される突条形状に限るものではなく、正面視円形となる態様（例えば、鋲、画鋲形状、リベット状部材）の複数の部材をそれぞれ嵌合により固定しても良い。嵌合の態様は、単純な凹凸嵌合でも良いし、凹凸形成部に互いに螺旋形状が形成され直動や回転動作によって嵌合される態様でも良い。互いに螺旋形状が形成される場合には、回転により板状本体Ａ６１１に突設部Ａ６１５を挿入させることになるが、その回転の度合いにより板状本体Ａ６１１からの突設部Ａ６１５の張出長さを変化させることができる。この場合において、板状本体Ａ６１１からの張出長さは、０（張り出さない）から調整可能となっており、パチンコ機Ａ１０の寝かせ度合に対する対応が容易となる。

【１０２１７】

これにより、突設部Ａ６１５の正面側を流下する球の流下態様を調整することができる。この場合において、突設部Ａ６１５の先端の形状は、上述のような山形の断面形状でも良いし、先端側に板状本体Ａ６１１の前側面と平行な平坦面が形成される形状でも良い。平坦面が形成される場合において、その平坦面の外縁が突設部Ａ６１５の軸心から外側に張り出す態様でも良い。この場合、球との衝突位置を上下左右に広げることができる。

【１０２１８】
　また、芯側において詰まった態様でも良いし、部分的に中空とされる態様でも良い。中空とされる場合には、板状本体Ａ６１１側の凹部の形状が若干小さく（狭く）形成された場合であっても、中空部分が押しつぶされることで対応が可能となるので、板状本体Ａ６１１や突設部Ａ６１５の形状寸法の精度が低くても、嵌合により破損する事態を避け易い。
【１０２１９】
　なお、上述した突設部Ａ６１５の態様（正面視円形となる態様）は、突設部Ａ６１５に限らず、他の部位に採用しても良い。例えば、減速突部Ａ６１７に採用しても良い。この場合、傾斜突部Ａ６１８の態様の変化（先端の破損や、脱落による形状の変化等）が生じたとしても、それに対応して減速突部Ａ６１７の張出長さを変化させることにより、減速突部Ａ６１７側から傾斜突部Ａ６１８を経て開閉板Ａ６４１近傍に到達する球の流下態様を、開閉板Ａ６４１への衝突が生じ難い態様に調整することができる。
【１０２２０】
　また、上述した突設部Ａ６１５の態様（正面視円形となる態様）を、突設部Ａ６１５及び減速突部Ａ６１７の両方に採用しても良いし、いずれか一方に採用するようにしても良い。いずれか一方の調整ができれば、開閉板Ａ６４１への球の衝突を幾分かは抑制できるし、両方の調整が可能に構成される場合に比較してメンテナンスに要する時間を短縮できることから、メンテナンスを容易とすることができる。
【１０２２１】
　特に、突設部Ａ６１５について言えば、突条部Ａ６３５の調整により球の流下態様を十分調整可能であり、傾斜突部Ａ６１８から離間する位置でもあることから、突設部Ａ６１５は上述した態様（正面視円形となる態様）とはせず、減速突部Ａ６１７のみに上述した態様（正面視円形となる態様）を採用しても良い。
【１０２２２】
　図５５３に戻って説明する。図５５３（ｂ）に図示されるように、電動役物Ａ６４０ａの開放状態（張出状態）では、球は、傾斜突部Ａ６１８に当接し、開閉板Ａ６４１の転動面形成部Ａ６４１ａの転動面（上面）に当接した後、その転動面上を転動面形成部Ａ６４１ａの正面視における傾斜に沿う方向（図５５３（ｂ）の紙面手前側へ向かう方向）へ流下する。
【１０２２３】
　図５４７のＢ１４ａ－Ｂ１４ａ線が傾斜突部Ａ６１８の形状維持範囲Ａ６１８ａではなく形状変化範囲Ａ６１８ｂ内に位置することから、球は板状本体Ａ６１１の前側面に対して傾斜する範囲における傾斜突部Ａ６１８の前端部と当接する。そのため、傾斜突部Ａ６１８に当接した球が傾斜突部Ａ６１８から受ける反力は、形状変化範囲Ａ６１８ｂにおいて傾斜突部Ａ６１８に直角に交差する方向（傾斜する範囲と直角に交差する方向、即ち、図５５０に図示される延設方向ＡＤ６４ｃに対して直角に交差する方向）へ向くことになるので、前方側へ向く成分だけではなく、左方側（図５５３（ｂ）の紙面手前側）へ向く成分を有する。即ち、傾斜突部Ａ６１８に当接した球に対して、初速として左方側へ向く成分の速度を付加することができる。
【１０２２４】
　これにより、傾斜突部Ａ６１８に当接した後において前後方向に蛇行する球は、前後方向の速度成分のみではなく、左方側へ向く速度成分も有する。このように、開閉板Ａ６４１と板状本体Ａ６３１との間に球が挟まる前から予め左方側へ向く速度成分を有していることにより、開閉板Ａ６４１と板状本体Ａ６３１との間に球が挟まる場合であっても、当接により球に付与される速度成分が互いに反していないため、球をスムーズに下流側に流すことができ、球の停留が発生することを抑制することができる。
【１０２２５】
　また、これにより、傾斜突部Ａ６１８に当接した後において、球が開閉板Ａ６４１上で跳ねたり停留したりする事態を避け易くすることができ、球の開閉板Ａ６４１の転動面形

成部Ａ６４１ａの転動面上における流下を滑らかにすることができる。
【１０２２６】
　また、これにより、開閉板Ａ６４１の変位方向と交差する方向（厚み方向）に球から与えられる負荷を抑制することができ、開閉板Ａ６４１の破損防止を図ることができる。即ち、電動役物Ａ６４０ａの開閉板Ａ６４１の開放状態（張出状態）において、開閉板Ａ６４１の上面に球が衝突した場合には球が跳ね得るところ、流下する球の速度のベクトルを予め開閉板Ａ６４１の上面に対して垂直な方向（開閉板Ａ６４１の動作方向に対して垂直な方向）以外の方向（開閉板Ａ６４１の転動面に対して傾斜する方向）に向けさせることにより、球の跳ねを抑制することができる。
【１０２２７】
　遊技領域における前後方向幅は、ベース板Ａ６０（図５４２参照）とガラスユニットＨ１６（図５４０参照）との間隔（約１９ｍｍ）に限定され、開閉板Ａ６４１の転動面に対して設定可能な傾斜角度（鋭角の程度）に限界があるところ、左右方向への傾斜を含めることで、前後方向幅よりも長い傾斜面を構成することができ、より小さな傾斜角度を設定することで、流下する球の速度ベクトルと、開閉板Ａ６４１の転動面との間の角度を、より小さく設定することができる。
【１０２２８】
　これにより、球から開閉板Ａ６４１に与えられる負荷の開閉板Ａ６４１の板厚方向の方向成分をより小さくすることができるので、開閉板Ａ６４１が板厚方向に折れる態様の破損を防止し易くすることができる。
【１０２２９】
　傾斜突部Ａ６１８の形状変化範囲Ａ６１８ｂの前端部が傾斜形成されることにより、傾斜突部Ａ６１８に衝突した球に対して、前後方向だけではなく、左右方向成分を有する荷重を付与することができるので、傾斜突部Ａ６１８に対して上下方向で流下する球や開閉板Ａ６４１の延設方向（左右幅方向）に対して鋭角の方向で流下する球に限らず、開閉板Ａ６４１の延設方向に対して直角の方向で流下（図５５３（ａ）紙面上における流下、即ち、図５４７のＢ１４ａ－Ｂ１４ａ線上における流下）する球であっても、球の速度を転動下流側へ向けた速度に直すことができる。
【１０２３０】
　これにより、傾斜突部Ａ６１８の上流側の流下経路の設計自由度を向上させることができる。即ち、傾斜突部Ａ６１８の上流側の流下経路を鉛直方向に沿う経路ではなく、右方に逸れるＳ字の経路として構成したとしても、球が右方へ逸れて落下する事態が生じる可能性を、傾斜突部Ａ６１８との衝突により球に与えられる左右方向左向きの荷重によって低くすることができる。即ち、傾斜突部Ａ６１８との衝突により球に左右方向の速度が付与されることで、傾斜突部Ａ６１８に向かって流下する球の方向を鉛直方向に沿う方向とすることを不要とし、球の流下経路の設計自由度を向上させることができる。
【１０２３１】
　傾斜突部Ａ６１８は開閉板Ａ６４１の代わりに球との衝突を受ける部分であるが、球からの勢いが大きい場合には破損が早まる。これに対し、本実施形態では、球を上下方向に一直線に落下させるのではなく、流下経路を蛇行（湾曲、屈曲）させていることにより球の流下速度を落とすことができ、衝突による傾斜突部Ａ６１８の破損を防止することができる。
【１０２３２】
　このように、傾斜突部Ａ６１８に当接する前において予め球の流下速度を低下させることにより、傾斜突部Ａ６１８を過度に分厚くすることを不要にできるので、球の流下経路が限定されることを避けることができる。
【１０２３３】
　球の流下経路の蛇行は、減速突部Ａ６１７や減速突部Ａ６３７等による前後方向の蛇行のみならず、主経路形成部Ａ６３２ｃの形成態様により、左右方向にも蛇行されている。傾斜突部Ａ６１８へ向けてＢ１４ａ－Ｂ１４ａ線に沿って流下する球が、開閉板Ａ６４１

へ向けて鉛直方向に落とされるのではなく、開閉板Ａ６４１の上面に対して垂直に交差する方向（図５４７のＢ１４ａ－Ｂ１４ａ線に沿う方向）で流下されるように構成されており、若干左右方向右側に戻されてから開閉板Ａ６４１に到達し得る流下経路（略Ｓ字の経路）として設定されていることで、球の跳ねを抑えられ、円滑な流下を実現し、遊技球の第２入賞口Ｈ６４０へ詰まりなく入賞させることができる。

【１０２３４】

即ち、球の流下経路を、球が左右方向に流下するよう設計することで、球が縦に積まれて傾斜突部Ａ６１８及び開閉板Ａ６４１が受ける荷重（球の重力方向の荷重）が過大となるタイミングを減らすことができ、傾斜突部Ａ６１８や開閉板Ａ６４１が破損する事態を回避することができる。

【１０２３５】

また、単に球を左右方向に勢いよく流下させるだけでは、球同士の衝突により左右方向に跳ね飛ばされた場合にイレギュラー入賞を抑制し難い（開閉板Ａ６４１が退避しているにもかかわらず跳ね飛ばされて飛翔した球が第２入賞口Ｈ６４０に入賞するイレギュラー入賞を想定、干渉突部Ａ６４１ｂの形成が省略される場合には球がイレギュラー入賞し得る）。これに対し、左方側へ流下する経路を主としながら、傾斜突部Ａ６１８の上流側において左右方向右側に戻される流下経路（Ｓ字の経路）で経路を構成することで、球を左右方向に揺動させることで、球の左方側向きの勢いが過大となることを抑制してイレギュラー入賞の元となる球の飛翔を避け易くすることができる。

【１０２３６】

なお、球の左右方向の速度が過大となることを抑制する目的としては、途中位置で複数回真下に流下させる階段状の流下経路を構成しても良いが、左右方向右側に戻される流下経路（Ｓ字の経路）とすることで、落下後着地時の球の勢いを左右方向に逃がすことができ、球の縦跳ねを抑制することができる。これにより、落下後着地時に球が暴れて、開閉板Ａ６４１の上面と、当該上面と対向配置され流下経路の天井面を構成する部分における延設形成部Ａ６３２の主経路形成部Ａ６３２ｃとの間で球が複数回衝突して球の流下抵抗が増大する事態を避けることができ、球の流下を滑らかにさせることができる。

【１０２３７】

このような設計の関係上、傾斜突部Ａ６１８に２球が同時に到達するような場合には、先行する球（下側の球）に対して後続の球（上側の球）の方が左側に位置することになり、先行する球に対して後続の球から付与される荷重の向きは入賞検出センサＡＳＣ６４から離間する向きとされる。

【１０２３８】

そのため、開閉板Ａ６４１が閉鎖状態（退避状態）とされている場合には先行する球は後続の球からの荷重により右下方向へ跳ね飛ばされ得るし、後続の球も先行する球に続いて流下する。また、開閉板Ａ６４１が開放状態（張出状態）とされている場合には、先行する球が開閉板Ａ６４１上に当接しながら後続の球からの荷重で右方に退けられたり、開閉板Ａ６４１に当接する前において傾斜突部Ａ６１８の前上面を滑って右方に退けられることで、開閉板Ａ６４１の右下に配置される球案内部Ａ６２１に入球されたりする。

【１０２３９】

そのため、本実施形態においては、２球の球が傾斜突部Ａ６１８に同時に到達するような発射態様を避けることが好ましい。またこれにより、２球の球が略同時に（間髪入れずに連続で）第２入賞口Ｈ６４０に入球する事態を防止することができる。これにより、例えば、電動役物Ａ６４０ａが開放状態（張出状態）で維持される間における規定個数目（例えば１０個目）に２球の球が略同時に入球することで生じる過入賞（オーバー入賞またはオーバーフロー）の発生を避け易くすることができる。

【１０２４０】

このように、球の流下は、傾斜突部Ａ６１８よりも上流側では減速突部Ａ６１７や減速突部Ａ６３７等と当接して流下する図５５３（ａ）に図示されるＳ字経路であり、傾斜突部Ａ６１８と当接した後は、傾斜突部Ａ６１８の形状変化範囲Ａ６１８ｂの前端部の傾斜

によって、図５５３（ａ）に図示されるＳ字経路とも開閉板Ａ６４１上面とも平行ではない方向（それらの間の角度とされる平面に沿う方向）に流下する。この流下は、入賞検出センサＡＳＣ６４側へ向く方向であり、球の流下を円滑とすることができる。

【１０２４１】

図５５２に図示されるように、傾斜突部Ａ６１８に当接した後において球が開放状態（張出状態）の開閉板Ａ６４１の転動面を下流側端部まで案内された場合、減速突部Ａ６１６及び減速突部Ａ６３６により蛇行されることにより転動経路ＡＦＬ６３で流下し、その球は入賞検出センサＡＳＣ６４を通過する。

【１０２４２】

開閉板Ａ６４１の干渉突部Ａ６４１ｂは、開放状態（張出状態）においてカバー部材Ａ６３０の受入凹部Ａ６３１ａに受け入れられる。干渉突部Ａ６４１ｂは転動面形成部Ａ６４１ａにより形成される転動面よりも上方へ向けて突設形成されているため、受入凹部Ａ６３１ａに収まり切る（後端面が板状本体Ａ６３１の後側面よりも前方側に位置される）方が、球の通過経路の幅（前後幅）を確保し易いという点では有利である。

【１０２４３】

これに対し、本実施形態では、開閉板Ａ６４１の開放状態（張出状態）において、干渉突部Ａ６４１ｂは、カバー部材Ａ６３０の受入凹部Ａ６３１ａに収まり切らず、板状本体Ａ６３１の後側面よりも後方側にはみ出すように形成される。そのため、球が案内される通路である転動経路ＡＦＬ６３を流下する球は、干渉突部Ａ６４１ｂの作用で後方側に寄せられることで、入賞検出センサＡＳＣ６４の中心側に案内され、滑らかに流下される。

【１０２４４】

一方、傾斜突部Ａ６１８に当接した後において球が開放状態（張出状態）の開閉板Ａ６４１の転動面を下流側端部まで案内される前において開閉板Ａ６４１が開放状態（張出状態）から閉鎖状態（退避状態）に切り替えられた場合において、球の中心が干渉突部Ａ６４１ｂの上先端部に対して入賞検出センサＡＳＣ６４側に位置する場合、開閉板Ａ６４１が開放状態（張出状態）から閉鎖状態（退避状態）に切り替えられる過程において干渉突部Ａ６４１ｂにより球が入賞検出センサＡＳＣ６４側に押し込まれる。干渉突部Ａ６４１ｂは入賞検出センサＡＳＣ６４の中心側に張り出していることから（図５５１参照）、入賞検出センサＡＳＣ６４側に案内された球が逆流することを防止することができる。

【１０２４５】

一方、球の中心が干渉突部Ａ６４１ｂの上先端部に対して入賞検出センサＡＳＣ６４の反対側に位置する場合、球は入賞検出センサＡＳＣ６４の手前側（図５５１の紙面右側）において落下し、入賞検出センサＡＳＣ６４を通過せず、下方へ流下（落下）する。

【１０２４６】

特に、干渉突部Ａ６４１ｂの真後ろに球の中心が位置している（球が干渉突部Ａ６４１ｂと十分に近接している）場合には、後方へ変位する干渉突部Ａ６４１ｂに当接した球が押し上げられる場合がある。この場合、閉鎖動作期間中において延設形成部Ａ６３２と干渉突部Ａ６４１ｂとの間に球が挟まることで開閉板Ａ６４１の動作が阻害され、球が挟み込まれた状態が維持されると、次の開放動作により開閉板Ａ６４１の上面を球が流れることで遊技を継続できる可能性はあるものの、次の開放動作が生じるまでは球が挟まれた状態が維持されることとなり、次の開放動作が一定期間生じない場合（例えば、時短における最後の開閉動作で球が挟まれた場合）には、球排出エラーが実行され、遊技者を驚かす事態となる。

【１０２４７】

このような事態を起こさないために、開放動作を、球を入賞検出センサＡＳＣ６４まで案内可能な長さの長開放と、その長開放よりも短い短開放との組合せで実行し、長開放の後に短開放が必ず生じるように設定する（長開放で開放動作が終了される場合が無いように設定する）ことで、一回の開放動作の中で球挟みを解除できるように構成しても良いが、制御が複雑となるし、駆動ソレノイドＡ６４２の劣化を早める可能性も考えられる。

【１０２４８】

これに対し、本実施形態では、干渉突部Ａ６４１ｂの上方において延設形成部Ａ６３２の空間形成部Ａ６３２ｅが上に突の形状で湾曲形成されていることから（図５４７参照）、空間形成部Ａ６３２ｅにより球が進入可能な空間が形成されているので、延設形成部Ａ６３２と干渉突部Ａ６４１ｂとの間に球が挟まることで開閉板Ａ６４１の動作が阻害されたり、球詰まりが生じたりする事態を回避することができる（空間形成部Ａ６３２ｅに球を逃がすことで開閉板Ａ６４１の動作を良好にさせることができる）。

【１０２４９】

上述のように、傾斜突部Ａ６１８に当接した後において球が開放状態（張出状態）の開閉板Ａ６４１の転動面を下流側端部まで案内される前において開閉板Ａ６４１が開放状態（張出状態）から閉鎖状態（退避状態）に切り替えられた場合において、入賞検出センサＡＳＣ６４に到達せずに（図５５１の紙面右側の位置を）落下し、入賞検出センサＡＳＣ６４を通過せず、下方へ流下（落下）する球は、干渉突部Ａ６４１ｂの右側面に沿って凹設湾曲部Ａ６４１ｄの前方側を流下する。ここで、凹設湾曲部Ａ６４１ｄがカバー部材Ａ６３０との間隔が広くなる側に凹設形成されているため、球が開閉板Ａ６４１とカバー部材Ａ６３０との間をスムーズに流下（落下）されることとなり、球詰まり等の不具合が生じる可能性を減らすことができる。

【１０２５０】

入賞検出センサＡＳＣ６４の開口方向は、重力方向に沿う上下方向としても良いし、開閉板Ａ６４１の転動面形成部Ａ６４１ａの幅方向（開閉板Ａ６４１の上面を転動する球の正面視における流下方向、本実施形態では駆動方向ＡＤ６４ａ（図５４８（ａ）参照）と同じ方向）に平行な方向としても良い。前者の場合、球の自重を効率的に使えることで入賞検出センサＡＳＣ６４において球詰まりが生じることを回避し易く、後者の場合、開閉板Ａ６４１上を転動する球の勢いを活用することで入賞検出センサＡＳＣ６４へ滑らかに球を入球させることができる。

【１０２５１】

これに対し、本実施形態では、入賞検出センサＡＳＣ６４の開口方向が、開閉板Ａ６４１の上面が延びる方向（開閉板Ａ６４１の転動面形成部Ａ６４１ａの幅方向（開閉板Ａ６４１の上面を転動する球の正面視における流下方向））に対して平行な方向よりも、斜め上向きとなる方向（交差する方向、正面視において反時計回り側にずれた方向）とする姿勢で配設される。換言すれば、開閉板Ａ６４１の上面と入賞検出センサＡＳＣ６４の開閉板Ａ６４１側の面とのなす角度が９０度（上述の方向どうしが平行な場合）よりも若干大きくなるように入賞検出センサＡＳＣ６４の姿勢が設定される。

【１０２５２】

これにより、仮に開閉板Ａ６４１上で球が跳ねたとしても、その球の跳ねが収まるまで待つことなく入賞検出センサＡＳＣ６４への入球を生じさせることができる。また、開閉板Ａ６４１が閉鎖状態（退避状態）へ向けて動作する場合の干渉突部Ａ６４１ｂからの作用をうけて球が入賞検出センサＡＳＣ６４側に押し込まれた場合に球が入賞検出センサＡＳＣ６４の開口部側の壁と干渉突部Ａ６４１ｂとの間に挟まって開閉板Ａ６４１の動きが悪くなる事態を未然に防ぐ効果も期待できる。

【１０２５３】

開閉板Ａ６４１上における球の流下方向よりも、入賞検出センサＡＳＣ６４を通過した後の球の流下方向の方が上下方向寄り（水平方向に対する角度が大きい）となっている。そのため、入賞検出センサＡＳＣ６４を通過した後の球の方が素早く流れるため、連球で入賞検出センサＡＳＣ６４に到達した球同士の間隔が詰まることを避けることができ、球同士が球付きして入球阻害される事態を避けることができる。

【１０２５４】

干渉突部Ａ６４１ｂに当接した球が押し上げられても、流路上側に空間形成部Ａ６３２ｅが形成されていることで、干渉突部Ａ６４１ｂと主経路形成部Ａ６３２ｃとの間における球詰まりが抑制される。これにより、干渉突部Ａ６４１ｂにより球が押し上げられた際に、その球を空間形成部Ａ６３２ｅに進入させた後で速やかに下方へ落下させる態様で流

下させることができる。
【１０２５５】
干渉突部Ａ６４１ｂは、傾斜突部Ａ６１８の形成が省略される箇所に位置しているため、傾斜突部Ａ６１８が形成される場合であっても、閉鎖状態（退避状態）において十分に奥側（後方側）まで移動できる。即ち、傾斜突部Ａ６１８の形成態様に関わらず、傾斜突部Ａ６１８に対して干渉突部Ａ６４１ｂが衝突することは無いので、傾斜突部Ａ６１８が形成される状況下において従来通りの動作距離で開閉板Ａ６４１を動作させる場合であっても、干渉突部Ａ６４１ｂが傾斜突部Ａ６１８に衝突する事態を避けることができる。
【１０２５６】
球は開閉板Ａ６４１上の転動経路ＡＦＬ６３を約１秒で入賞検出センサＡＳＣ６４に到達、通過可能な構成である。本実施形態では、開閉板Ａ６４１の開放時間が１秒間とされる開閉動作が可能に設定されており、この開閉動作によれば、開閉板Ａ６４１が開放状態（張出状態）で維持される場合において入賞検出センサＡＳＣ６４に案内される球の個数を１球に限定することができる。
【１０２５７】
開閉板Ａ６４１を動作させるための抽選を実行させるためのスルーゲートＨ６７（図５４１参照）に球が通過する場合と、通過しない場合とは、球の発射強度によらずランダムに生じるものとしても良いが、本実施形態では、球の発射強度を特定の発射強度に合わせてもスルーゲートＨ６７を通過するか否かが確定されるわけではない場合と、特定の球の発射強度であれば必ずスルーゲートＨ６７を通過する場合と、が設定可能に構成される。
【１０２５８】
前者は、例えば、センターフレームＡ８６の延設部Ａ８６ａの下縁とスルーゲートＨ６７との上下間に釘が配設され、その釘が調整可能とされる場合が挙げられる。この場合、特定の発射強度で球を発射しても、釘の状態次第で、スルーゲートＨ６７に球が向かうか、スルーゲートＨ６７を球が逸れるかは、変わる。後者は、例えば、センターフレームＡ８６の延設部Ａ８６ａの下縁とスルーゲートＨ６７との上下間に釘が配設されない場合が挙げられ、特定の球の発射強度であれば必ずスルーゲートＨ６７を通過させる状況を構成させることができる。
【１０２５９】
前者の場合、スルーゲートＨ６７に球を通過させるために発射強度を常に一定に保つ必要がないため、遊技者が発射強度の維持に感じる疲労感を低減させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【１０２６０】
一方後者の場合、発射強度を一定に保ちさえすれば、スルーゲートＨ６７に安定的に球を通過させることができ、開閉板Ａ６４１の開放動作を実行させることができるので、右打ち中の球減りを最小限に抑えることができ、遊技における利益効率を高めることができるので、遊技者の満足感を高めることができる。
【１０２６１】
本実施形態では、球を最大強度で発射した場合において、返しゴムＨ６９で勢いを抑えられた球が立設部Ａ８６ｂの間を流下した後（図４９８参照）、右寄りの流下経路でスルーゲートＨ６７を通過して第２流下経路ＡＲ３０４で流下する（図５０４参照）。一方で、球の発射強度が最大強度よりも弱い中間強度とされると、左寄りの流下経路でスルーゲートＨ６７を通過せず第１流下経路ＡＲ３０３で流下する（図５０４参照）。
【１０２６２】
上述したように開閉板Ａ６４１の前方において対向されるカバー部材Ａ６３０の板状本体Ａ６３１の後側面は平滑に形成されており、視認性が良いので、遊技者は開閉板Ａ６４１の動作状態を容易に把握できる。そのため、開閉板Ａ６４１はスルーゲートＨ６７を球が通過することにより生じる抽選に基づいて開放動作が実行されるので、開閉板Ａ６４１が開放動作されていることを把握することで、スルーゲートＨ６７に球を通過させるための発射強度で発射ができているかを確認することができる。

【１０２６３】
従って、球の発射強度が適切かを確認するために複数箇所を視認しなければいけない場合に比較して、遊技のストレスを低減させることができる。
【１０２６４】
スルーゲートＨ６７で球の通過が検出された際に生じる抽選の変動期間は、種々の態様で設定可能だが、一例として、スルーゲートＨ６７を通過した球が開閉板Ａ６４１に到達するまでに経過する期間（約４秒間）で設定される。
【１０２６５】
これにより、スルーゲートＨ６７で球の通過が検出された際に生じる抽選の変動期間の終了に伴い開閉板Ａ６４１が開放動作された直後に、当該変動を実行させるようにスルーゲートＨ６７を通過した球を開閉板Ａ６４１に到達させることができるので、開閉板Ａ６４１上の球が入賞検出センサＡＳＣ６４に到達するまでに転動する期間と、開閉板Ａ６４１が開放状態（張出状態）で維持される期間との差が僅か（差が無い）である場合であっても、球を入賞検出センサＡＳＣ６４に案内させることが可能となる。
【１０２６６】
なお、球間隔を上流側で広げられれば（連球の可能性を排除できれば）、開閉板Ａ６４１の開放時間は１．６秒（開閉板Ａ６４１上を球が転動しきるのに要する時間（約１秒）に球の発射間隔（例えば０．６秒）を追加した長さ）まで長くしても良い。これにより、開閉板Ａ６４１が開放状態（張出状態）へ向けて動作を開始するタイミングと、球が開閉板Ａ６４１に到達するタイミングとが多少ずれても（約０．６秒以内）、入賞検出センサＡＳＣ６４に球を案内させることができ、且つ、一度の開放動作で複数球が入賞検出センサＡＳＣ６４に入球することを回避することができる。
【１０２６７】
なお、一度の開放動作で複数球が入賞検出センサＡＳＣ６４に入球することを許容する場合は、開閉板Ａ６４１の開放時間が１．０秒や１．６秒に限定される必要はなく、更に長い期間を設定しても良い。この場合、入賞検出センサＡＳＣ６４への球の案内をより高頻度で生じさせることができ、時短遊技を速やかに進行させることができる。
【１０２６８】
なお、上述の場合においては、入賞検出センサＡＳＣ６４に設定される規定個数（開閉板Ａ６４１が開放状態（張出状態）で維持される場合における入賞個数の上限、例えば１０個）が２個以上である前提で説明したが、入賞検出センサＡＳＣ６４の規定個数を１個に設定する場合は、球が入賞検出センサＡＳＣ６４を通過したことが検出されたことに基づいて開閉板Ａ６４１を閉鎖状態（退避状態）へ変位させることができるので、開閉板Ａ６４１の開放時間の設定の自由度を高くすることができる。例えば、開閉板Ａ６４１の開放時間を５．０秒に設定したとしても、一度の開放動作で複数球が入賞検出センサＡＳＣ６４に入球することを回避することができる。
【１０２６９】
この場合において、入賞検出センサＡＳＣ６４の配置位置を開閉板Ａ６４１側に寄せる（近接させる）ことで、開閉板Ａ６４１を通過した後の球の入賞検出センサＡＳＣ６４に検出されるまでの期間を短くすることができるので、一度の開放動作で複数球が入賞検出センサＡＳＣ６４に入球することをより回避し易くできる。
【１０２７０】
または、２箇所の減速突部Ａ６１７の間に配置される減速突部Ａ６３７の位置において別の球通過検出センサを配設し、その球通過検出センサによる検出から特定の期間経過後に開閉板Ａ６４１を閉鎖状態（退避状態）に変位させるように制御しても良い。
【１０２７１】
即ち、球通過検出センサから入賞検出センサＡＳＣ６４までは樹脂製の減速突部Ａ６１６，Ａ６３６が配設されるのみであり、開閉板Ａ６４１上を転動する球の流下態様（減速の態様）は大きくは変化されない（台の傾斜（寝かせ）による若干の変化に留まる）と予測することができ、球通過検出センサを通過した球が入賞検出センサＡＳＣ６４を通過す

るタイミングを予測することが可能となる。その予測タイミングで開閉板Ａ６４１を閉鎖状態（退避状態）に変位させるように制御すれば、入賞検出センサＡＳＣ６４で球が検出される直前から開閉板Ａ６４１の閉鎖動作を実行させることができるので、一度の開放動作で複数球が入賞検出センサＡＳＣ６４に入球することをより回避し易くできる。

【１０２７２】

次いで、図５５５を参照して、動作ユニットＤ２００の概略構成について説明する。図５５５は、動作ユニットＤ２００の分解斜視正面図である。

【１０２７３】

図５５５に示すように、動作ユニットＤ２００は、箱状に形成される背面ケースＤ３００を備え、その背面ケースＤ３００の内部空間に、上変位ユニットＥ１００、下変位ユニットＥ５００、導光ユニットＤ４００、揺動ユニットＤ１００とが収容される。

【１０２７４】

背面ケースＤ３００は、正面視略矩形の底壁部Ｄ３０１と、その底壁部Ｄ３０１の４辺の外縁から正面へ向けて立設される外壁部Ｄ３０２と、を備え、それら各壁部Ｄ３０１，Ｄ３０２により一面側（正面側）が開放された箱状に形成される。底壁部Ｄ３０１には、その中央に正面視矩形の開口Ｄ３０１ａが開口形成され、その開口Ｄ３０１ａを通じて、底壁部Ｄ３０１の背面に配設される第３図柄表示装置Ｈ８１（図５４１参照）が視認可能とされる。

【１０２７５】

上変位ユニットＥ１００は、背面ケースＤ３００の底壁部Ｄ３０１のうちの開口Ｄ３０１ａの上側部分に配設されるベース手段Ｅ２００と、そのベース手段Ｅ２００に対して相対変位可能に配設される上変位手段Ｅ３００と、を少なくとも備え、上変位手段Ｅ３００を背面ケースＤ３００の開口Ｄ３０１ａ（即ち、第３図柄表示装置Ｈ８１（図５４１参照））の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に変位させる演出を実行可能に構成される。

【１０２７６】

下変位ユニットＥ５００は、背面ケースＤ３００の底壁部Ｄ３０１のうちの開口Ｄ３０１ａの下側部分に配設されるベース手段Ｅ５１０と、そのベース手段Ｅ５１０に対して相対変位可能に配設される回転手段Ｅ５５０と、を少なくとも備え、回転手段Ｅ５５０を背面ケースの開口Ｄ３０１ａ（即ち、第３図柄表示装置Ｈ８１（図５４１参照））の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に変位させる演出を実行可能に構成される。

【１０２７７】

導光ユニットＤ４００は、正面視（矢印Ｂ方向視）において背面ケースＤ３００の左側（矢印Ｌ方向側）に配設される左側ベース手段Ｄ４１０と、正面視において背面ケースＤ３００の右側（矢印Ｒ方向側）に配設される右側ベース手段Ｄ４３０と、それら左側ベース手段Ｄ４１０及び右側ベース手段Ｄ４３０との間に介在される導光板Ｄ４５０と、を主に備え、導光板Ｄ４５０に照射される光を正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって反射することで、光による演出が可能に構成される。

【１０２７８】

揺動ユニットＤ１００は、変位可能な上側揺動手段Ｄ１２０と、変位可能な下側揺動手段Ｄ１３０と、を備え、導光ユニットＤ４００の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、その導光ユニットＤ４００の導光板Ｄ４５０の正面側に重なる位置で上側揺動手段Ｄ１２０と、下側揺動手段Ｄ１３０とを変位可能とされる。

【１０２７９】

次いで、図５５６から図５７７を参照して、上変位ユニットＥ１００について説明する。

【１０２８０】

まず、図５５６から図５５９を参照して、上変位ユニットＥ１００の全体構成について説明する。図５５６は、上変位ユニットＥ１００の正面図であり、図５５７は、上変位ユニットＥ１００の背面図であり、図５５８は、上変位ユニットＥ１００の分解正面斜視図であり、図５５９は、上変位ユニットＥ１００の分解背面斜視図である。

【１０２８１】
なお、図５５６では、上側装飾ユニットＰ１４ａと左側装飾ユニットＰ１４ｂと右側装飾ユニットＰ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｐ１４ｅ（図５４０参照）の範囲（即ち、パチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から正面枠Ｐ１４（図５４０参照）を介して視認可能な範囲）が２点鎖線で模式的に図示される。
【１０２８２】
図５５６から図５５９に示すように、上変位ユニットＥ１００は、背面ケースＤ３００の底壁部Ｄ３０１（図５５５参照）に配設されるベース手段Ｅ２００と、そのベース手段Ｅ２００の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、ベース手段Ｅ２００に対して相対変位可能とされる上変位手段Ｅ３００と、ベース手段Ｅ２００の正面側に配設され、上変位手段Ｅ３００の変位を規制する変位規制手段Ｅ４００と、を主に備え、ベース手段Ｅ２００から上変位手段Ｅ３００に駆動モータＥＭ１の駆動力が伝達されることにより、上変位手段Ｅ３００（変位手段Ｅ３２０）を窓部Ｐ１４ｅの範囲内で変位可能とされる。
【１０２８３】
次いで、図５６０から図５６３を参照して、ベース手段Ｅ２００の全体構成について詳しく説明する。図５６０は、ベース手段Ｅ２００の分解斜視正面図であり、図５６１は、ベース手段Ｅ２００の分解斜視背面図であり、図５６２は、ベース手段Ｅ２００の正面図であり、図５６３は、ベース手段Ｅ２００の背面図である。なお、図５６２では、第３ベースＥ２６０が透明視して図示され、図５６３では、第２ベースＥ２２０が透明視して図示され、スプリングＥＳＰ１の外形のみが破線で図示される。
【１０２８４】
図５６０から図５６３に示すように、ベース手段Ｅ２００は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長い矩形の板状に形成される第１ベースＥ２１０と、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長い矩形の板状に形成され、上端（矢印Ｕ方向側の端部）が第１ベースＥ２１０の一端（矢印Ｒ方向側の端部）に連結される第２ベースＥ２２０と、その第２ベースＥ２２０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される駆動手段Ｅ２３０と、その駆動手段Ｅ２３０の一部と正面側に重なる位置で第２ベースＥ２２０の正面側に回転変位可能な状態で配設される第１リンクＥ２４０と、第１リンクＥ２４０に接続された状態で第２ベースＥ２２０の正面側に配設される第１伝達手段Ｅ２５０と、第２ベースＥ２２０との対向間に駆動手段Ｅ２３０、第１リンクＥ２４０、及び、第１伝達手段Ｅ２５０を収容した状態で第２ベースＥ２２０の正面側に配設される第３ベースＥ２６０と、第２ベースＥ２２０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第２リンクＥ２７０と、第２リンクＥ２７０に接続された状態で第２ベースＥ２２０の背面側に配設される第２伝達手段Ｅ２８０と、第２ベースＥ２２０を介して第２伝達手段Ｅ２８０に接続された状態で第２ベースＥ２２０の正面側に配設される係合部材Ｅ２９０と、を主に備え、第３ベースＥ２６０の正面側に配設される駆動モータＥＭ１の駆動力により、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置（図５６２に示す位置）と下降位置（図５６５（ａ）に示す位置）との間で変位可能に構成される。
【１０２８５】
なお、以下の説明では、第１伝達手段Ｅ２５０に接続される第１リンクＥ２４０及び上変位手段Ｅ３００（変位手段Ｅ３２０）が配設される位置を第１伝達手段Ｅ２５０の配設位置と同様に「上昇位置」及び「下降位置」と称して説明する。即ち、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に配置される場合には、第１リンクＥ２４０及び上変位手段Ｅ３００（変位手段Ｅ３２０）も同様に上昇位置に配置され、第１伝達手段Ｅ２５０が下降位置に配置される場合には、第１リンクＥ２４０及び上変位手段Ｅ３００（変位手段Ｅ３２０）も同様に下降位置に配置される。
【１０２８６】
第１ベースＥ２１０は、後述する上変位手段Ｅ３００の一部が接続されるベースであり、後述する上変位手段Ｅ３００の第１従動体Ｅ３４１に形成される基端側被軸支部Ｅ３４１ａ（図５７０（ｂ）参照）を軸支する軸支部Ｅ２１１と、第１従動体Ｅ３４１に形成されるピン部Ｅ３４１ｃ（図５７０（ｂ）参照）を案内するための案内溝Ｅ２１２と、を備

える。
【１０２８７】
　また、第１ベースＥ２１０は、正面視（矢印Ｂ方向視）における外形が、図５５６から図５５９に示す上昇位置に配置される上変位手段Ｅ３００の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる大きさに形成される。これにより、後述する上変位手段Ｅ３００（図５５６から図５５９参照）が、背面側に向かって揺れ動くことを第１ベースＥ２１０により抑制できる。
【１０２８８】
　なお、第１ベースＥ２１０は、背面ケースＤ３００の底壁部Ｄ３０１（図５５５参照）に形成される開口Ｄ３０１ａと重ならない大きさに形成され、底壁部Ｄ３０１の開口Ｄ３０１ａの上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される。これにより、後述する上変位手段Ｅ３００が第１ベースＥ２１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配置された状態において、開口Ｄ３０１ａの内側に配設される第３図柄表示装置Ｈ８１（図５４１参照）を遊技者に視認させることができる。従って、上変位手段Ｅ３００が第１ベースＥ２１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配置された状態においては、第３図柄表示装置Ｈ８１を注目させて、上変位手段Ｅ３００が注視されることを抑制できる。
【１０２８９】
　第２ベースＥ２２０は、駆動手段Ｅ２３０、第１リンクＥ２４０、第２リンクＥ２７０、第２伝達手段Ｅ２８０、及び、係合部材Ｅ２９０が変位可能な状態で配設される本体部材Ｅ２２１と、その本体部材Ｅ２２１に配設され後述する第１伝達手段Ｅ２５０を案内する金属製の案内棒Ｅ２２２と、その案内棒Ｅ２２２に案内された第１伝達手段Ｅ２５０が上昇側の端部（上昇位置）に配設されたことを検出する第１検出手段Ｅ２２３と、第１伝達手段Ｅ２５０が案内棒Ｅ２２２に案内されて下降側の端部まで変位された際に第１伝達手段Ｅ２５０に当接して第１伝達手段Ｅ２５０の変位を規制する弾性体Ｅ２２４と、後述する駆動手段Ｅ２３０の回転体Ｅ２３４が所定位置に回転されたことを検出する第２検出手段Ｅ２２５と、を主に備える。
【１０２９０】
　なお、第２ベースＥ２２０は、背面ケースＤ３００の底壁部Ｄ３０１（図５５５参照）に形成される開口Ｄ３０１ａと重ならない大きさに形成され、底壁部Ｄ３０１の開口Ｄ３０１ａの右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される。これにより、上変位手段Ｅ３００が第１ベースＥ２１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配置された状態において、開口Ｄ３０１ａの内側に配設される第３図柄表示装置Ｈ８１（図５４１参照）を遊技者に視認させることができる。
【１０２９１】
　本体部材Ｅ２２１は、その本体部材Ｅ２２１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される従動ギヤＥ２３２，Ｅ２３３、回転体Ｅ２３４、第１リンクＥ２４０、及び、係合部材Ｅ２９０を軸支するために本体部材Ｅ２２１の正面側から円柱状に突設される各軸支部Ｅ２２１ａ～Ｅ２２１ｅと、回転体Ｅ２３４を軸支する軸支部Ｅ２２１ｃを中心に直径の異なる２種類の円環状に形成され、本体部材Ｅ２２１の正面側から立設される案内壁Ｅ２２１ｆ，Ｅ２２１ｇと、本体部材Ｅ２２１に配設される案内棒Ｅ２２２を係止するために本体部材Ｅ２２１の上端と下端とに形成される係止部Ｅ２２１ｈ，Ｅ２２１ｉと、本体部材Ｅ２２１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第２リンクＥ２７０を軸支するために本体部材Ｅ２２１の背面側から突設される軸支部Ｅ２２１ｊと、第２伝達手段Ｅ２８０を案内するために本体部材Ｅ２２１の背面側の４か所から突設されるピン部Ｅ２２１ｋと、本体部材Ｅ２２１の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口される複数の開口部Ｅ２２１ｐ～Ｅ２２１ｓと、を主に備える。
【１０２９２】
　軸支部Ｅ２２１ａ，Ｅ２２１ｂは、後述する駆動手段Ｅ２３０の従動ギヤＥ２３２，Ｅ２３３を軸支する軸であり、従動ギヤＥ２３２，Ｅ２３３の回転軸に貫通形成される被軸支部Ｅ２３２ａ，Ｅ２３３ａの内径よりも若干小さい外径の円柱状に形成される。また、軸支部Ｅ２２１ａ，Ｅ２２１ｂには、突設先端部に螺子を締結可能なネジ穴が形成される

。このネジ穴に螺子を締結することで、従動ギヤＥ２３２，Ｅ２３３が軸支部Ｅ２２１ａ，Ｅ２２１ｂから脱落することが抑制される。

【１０２９３】

軸支部Ｅ２２１ｃは、後述する駆動手段Ｅ２３０の回転体Ｅ２３４を軸支する軸であり、回転体Ｅ２３４の回転軸に貫通形成される被軸支部Ｅ２３４ａの内径よりも若干小さい外径の円柱状に形成される。また、軸支部Ｅ２２１ｃには、突設先端部に螺子を締結可能なネジ穴が形成される。このネジ穴に螺子を締結することで、回転体Ｅ２３４が軸支部Ｅ２２１ｃから脱落することが抑制される。

【１０２９４】

軸支部Ｅ２２１ｄは、後述する第１リンクＥ２４０を軸支する軸であり、第１リンクＥ２４０の一端側の回転軸に貫通形成される被軸支部Ｅ２４１の内径よりも若干小さい外径の円柱状に形成される。また、軸支部Ｅ２２１ｄには、突設先端部に螺子を締結可能なネジ穴が形成される。このネジ穴に螺子を締結することで、第１リンクＥ２４０が軸支部Ｅ２２１ｄから脱落することが抑制される。

【１０２９５】

軸支部Ｅ２２１ｅは、後述する係合部材Ｅ２９０を軸支する軸であり、係合部材Ｅ２９０の回転軸に貫通形成される被軸支部Ｅ２９１の内径よりも若干小さい外径の円柱状に形成される。また、軸支部Ｅ２２１ｅには、突設先端部に螺子を締結可能なネジ穴が形成される。このネジ穴に螺子を締結することで、係合部材Ｅ２９０が軸支部Ｅ２２１ｅから脱落することが抑制される。

【１０２９６】

案内壁Ｅ２２１ｇ，Ｅ２２１ｆは、後述する駆動手段Ｅ２３０の回転体Ｅ２３４が撓むことを防止する目的で形成される壁部であり、後述する回転体Ｅ２３４の背面側（矢印Ｂ方向側）に円環状に形成される第１壁部Ｅ２３４ｂ及び第２壁部Ｅ２３４ｃに内嵌可能な直径の円環状に形成される。

【１０２９７】

また、案内壁Ｅ２２１ｇ，Ｅ２２１ｆの対向間には、第２検出手段Ｅ２２５が配設される。これにより、案内壁Ｅ２２１ｇ，Ｅ２２１ｆの対向間を変位する回転体Ｅ２３４の第１壁部Ｅ２３４ｂを第２検出手段Ｅ２２５により検出することが可能とされる。なお、第１壁部Ｅ２３４ｂには、その一部を切り欠いた非検出部Ｅ２３４ｂ１（図５６３参照）が形成される。これにより、所定の回転位置（非検出部Ｅ２３４ｂ１が第２検出手段Ｅ２２５の間に配置される位置）において、第２検出手段Ｅ２２５による第１壁部Ｅ２３４ｂの検出がされなくなることで、回転体Ｅ２３４の回転位置を検出することが可能とされる。

【１０２９８】

係止部Ｅ２２１ｈ，Ｅ２２１ｉは、案内棒Ｅ２２２を位置決めして係止するものであり、案内棒Ｅ２２２の下端と上端とに対応する位置に形成される。また、係止部Ｅ２２１ｈ，Ｅ２２１ｉは、後方（矢印Ｂ方向）と、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）及び左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）とに案内棒Ｅ２２２が移動することを規制可能に構成される。なお、案内棒Ｅ２２２の正面側（矢印Ｆ方向側）への移動の規制は、第２ベースＥ２２０の正面側に配設される第３ベースＥ２６０により規制される。これにより、案内棒Ｅ２２２は、第２ベースＥ２２０と第３ベースＥ２６０との対向間に移動が規制された状態で配設される。

【１０２９９】

軸支部Ｅ２２１ｊは、後述する第２リンクＥ２７０を軸支する軸であり、第２リンクＥ２７０の回転軸に貫通形成される被軸支部Ｅ２７１の内径よりも若干小さい外径の円柱状に形成される。また、軸支部Ｅ２２１ｊには、突設先端部に螺子を締結可能なネジ穴が形成される。このネジ穴に螺子を締結することで、第２リンクＥ２７０が軸支部Ｅ２２１ｊから脱落することが抑制される。

【１０３００】

ピン部Ｅ２２１ｋは、後述する第２伝達手段Ｅ２８０の変位方向を規定する突起であり、第２伝達手段Ｅ２８０の下側伝達部材Ｅ２８１及び上側伝達部材Ｅ２８３のそれぞれに

２箇所ずつ形成される摺動溝Ｅ２８１ａ，Ｅ２８３ａに挿入可能な直径の円柱状に形成される。これにより、第２伝達手段Ｅ２８０に駆動力が伝達されて変位する際には、摺動溝Ｅ２８１ａ，Ｅ２８３ａの内面にピン部Ｅ２２１ｋが当接することで、第２伝達手段Ｅ２８０の変位方向が規定される。

【１０３０１】

開口部Ｅ２２１ｐは、後述する第２リンクＥ２７０の一端側に形成されるピン部Ｅ２７２を、本体部材Ｅ２２１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される回転体Ｅ２３４に本体部材Ｅ２２１を介して接続するための開口であり、軸支部Ｅ２２１ｊを中心とする湾曲形状に開口される。これにより、第２リンクＥ２７０が軸支部Ｅ２２１ｊを中心に回転した際に、第２リンクＥ２７０のピン部Ｅ２７２が干渉することを抑制できる。

【１０３０２】

開口部Ｅ２２１ｑは、後述する第２リンクＥ２７０の他端側に突設されるピン部Ｅ２７３を本体部材Ｅ２２１の正面側（矢印Ｆ方向側）から係止して、第２リンクＥ２７０の他端側が背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって撓まないようにするための開口であり、軸支部Ｅ２２１ｊを中心とする湾曲形状に開口される。これにより、第２リンクＥ２７０が軸支部Ｅ２２１ｊを中心に回転した際に、第２リンクＥ２７０のピン部Ｅ２７３が干渉することを抑制できる。

【１０３０３】

開口部Ｅ２２１ｒは、後述する第１伝達手段Ｅ２５０の摺動溝Ｅ２５１ａの内側に挿入された第１リンクＥ２４０のピン部Ｅ２４２の突設先端部に螺子を締結するための開口であり、第１リンクＥ２４０のピン部Ｅ２４２の変位軌跡の一部と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に重なる位置に形成される。

【１０３０４】

開口部Ｅ２２１ｓは、後述する第２伝達手段Ｅ２８０の上側伝達部材Ｅ２８３に形成されるピン部Ｅ２８３ｂを、本体部材Ｅ２２１を介して本体部材Ｅ２２１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される係合部材Ｅ２９０に接続するための開口であり、上側伝達部材Ｅ２８３の変位方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿う溝状に開口される。これにより、上側伝達部材Ｅ２８３が変位した際に、上側伝達部材Ｅ２８３のピン部Ｅ２８３ｂが干渉することを抑制できる。

【１０３０５】

案内棒Ｅ２２２は、後述する第１伝達手段Ｅ２５０を案内するためのガイド棒であり、金属製の材料から円柱状に形成される。また、案内棒Ｅ２２２は、上述したように本体部材Ｅ２２１の係止部Ｅ２２１ｈ，Ｅ２２１ｉに上端と下端とが係止された状態で、第２ベースＥ２２０に第３ベースＥ２６０が組み付けられることで、軸を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に向けた状態で第２ベースＥ２２０と第３ベースＥ２６０との対向間に配設される。

【１０３０６】

第１検出手段Ｅ２２３は、後述する第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に配置されている場合に第１伝達手段Ｅ２５０の検出片Ｅ２５１ｅを検出するセンサであり、正面視において上昇位置に配置された第１伝達手段Ｅ２５０の検出片Ｅ２５１ｅと重なる位置に配設される。

【１０３０７】

弾性体Ｅ２２４は、後述する第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置から下降位置に変位した際に第１伝達手段Ｅ２５０の変位を規制する部分であり、正面視において第１伝達手段Ｅ２５０の背面側突設部Ｅ２５１ｄと上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に形成される。また、弾性体Ｅ２２４は、ゴム状の弾性材料から形成される。これにより、第１伝達手段Ｅ２５０の背面側突設部Ｅ２５１ｄが弾性体Ｅ２２４に当接した際の衝撃を吸収できる。その結果、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置から下降位置に素早く変位させることができると共に、第１伝達手段Ｅ２５０が下降位置に変位して背面側突設部Ｅ２５１ｄが弾性体Ｅ２２４に当接した際の衝突音を小さくできる。

【１０３０８】
第２検出手段Ｅ２２５は、上述したように回転体Ｅ２３４を検出するセンサであり、本体部材Ｅ２２１の案内壁Ｅ２２１ｇ，Ｅ２２１ｆの対向間に配設される。なお、上述したように第２検出手段Ｅ２２５は、第１壁部Ｅ２３４ｂの非検出部Ｅ２３４ｂ１によって、回転体Ｅ２３４が非検出とされる場合に回転体Ｅ２３４の回転位置を検知することが可能に構成される。
【１０３０９】
ここで、第８９実施形態では、回転体Ｅ２３４が第２検出手段Ｅ２２５に非検出とされる回転位置において、回転体Ｅ２３４の回転によって変位される第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に配置される。上記したように、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に配置される場合には、第１伝達手段Ｅ２５０の検出片Ｅ２５１ｅを第１検出手段Ｅ２２３により検出できる。従って、回転体Ｅ２３４の回転位置を第２検出手段Ｅ２２５により検知して、第１伝達手段Ｅ２５０の変位位置を第１検出手段Ｅ２２３により検知できるので、回転体Ｅ２３４から第１伝達手段Ｅ２５０に駆動力が伝達される経路における部品の破損を第１検出手段Ｅ２２３と第２検出手段Ｅ２２５とで検知することができる。
【１０３１０】
駆動手段Ｅ２３０は、第３ベースＥ２６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される駆動モータＥＭ１の駆動力により回転するギヤ列であり、第３ベースＥ２６０を介して第３ベースＥ２６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に突出される駆動モータＥＭ１の軸に軸支される駆動ギヤＥ２３１と、その駆動ギヤＥ２３１に歯合する従動ギヤＥ２３２と、その従動ギヤＥ２３２に歯合する従動ギヤＥ２３３と、従動ギヤＥ２３３に歯合するギヤ歯を有する回転体Ｅ２３４とから構成され、駆動モータＥＭ１の駆動力により回転体Ｅ２３４を回転可能とされる。
【１０３１１】
回転体Ｅ２３４は、正面視において円形状に形成される中心部に第２ベースＥ２２０の軸支部Ｅ２２１ｃが挿入される被軸支部Ｅ２３４ａを備え、駆動モータＥＭ１の駆動力が伝達されて軸支部Ｅ２２１ｃを軸に回転することにより駆動モータＥＭ１の駆動力を第１リンクＥ２４０及び第２リンクＥ２７０に伝達可能に構成される。また、回転体Ｅ２３４は、背面側（矢印Ｂ方向側）から回転軸を中心に略円環状に立設される第１壁部Ｅ２３４ｂと、その第１壁部Ｅ２３４ｂよりも直径の大きい略円環状に形成される第２壁部Ｅ２３４ｃと、その第２壁部Ｅ２３４ｃよりも直径の大きい略円環状に形成される第３壁部Ｅ２３４ｄと、回転軸とは径方向に異なる位置において正面側（矢印Ｆ方向側）に突設される当接部Ｅ２３４ｆと、を主に備える。
【１０３１２】
第１壁部Ｅ２３４ｂは、第２ベースＥ２２０に形成される案内壁Ｅ２２１ｆの直径よりも大きい直径の円環状に形成され、回転体Ｅ２３４が第２ベースＥ２２０に配設された際に案内壁Ｅ２２１ｆを内嵌する状態で配設される。これにより、回転体Ｅ２３４が径方向に撓む際には、第１壁部Ｅ２３４ｂの内面を案内壁Ｅ２２１ｆの外面に当接させて回転体Ｅ２３４が撓むことを抑制できる。
【１０３１３】
第２壁部Ｅ２３４ｃは、第２ベースＥ２２０に形成される案内壁Ｅ２２１ｇの直径よりも大きい直径の円環状に形成され、回転体Ｅ２３４が第２ベースＥ２２０に配設された際に案内壁Ｅ２２１ｇを内嵌する状態で配設される。これにより、回転体Ｅ２３４が径方向に撓む際には、第２壁部Ｅ２３４ｃの内面を案内壁Ｅ２２１ｇの外面に当接させて回転体Ｅ２３４が撓むことを抑制できる。
【１０３１４】
第３壁部Ｅ２３４ｄは、第２壁部Ｅ２３４ｃとの対向間に第２リンクＥ２７０のピン部Ｅ２７２を案内する案内溝Ｅ２３４ｅを形成するための壁部であり、第２壁部Ｅ２３４ｃの外面と所定の間隔を隔てた略円環状に形成される。
【１０３１５】

また、第２壁部Ｅ２３４ｃには、円環状に形成される一部の外周面に沿って径方向外側に拡径される拡径部Ｅ２３４ｃ１が形成され、第３壁部Ｅ２３４ｄの一部は、第２壁部Ｅ２３４ｃの拡径部Ｅ２３４ｃ１の形成位置に伴って径方向外側に拡径される。これにより、第２壁部Ｅ２３４ｃと第３壁部Ｅ２３４ｄとの対向間で形成される案内溝Ｅ２３４ｅには、拡径部Ｅ２３４ｃ１以外の領域における第２壁部Ｅ２３４ｃと第３壁部Ｅ２３４ｄとの対向間で形成される第１案内部Ｅ２３４ｅ１と、拡径部Ｅ２３４ｃ１の領域における第２壁部Ｅ２３４ｃと第３壁部Ｅ２３４ｄとの対向間で形成され第１案内部Ｅ２３４ｅ１よりも径方向外側に位置する第２案内部Ｅ２３４ｅ２とが構成される。

【１０３１６】

案内溝Ｅ２３４ｅは、第１案内部Ｅ２３４ｅ１と第２案内部Ｅ２３４ｅ２との回転体Ｅ２３４の回転軸からの距離の違いにより、案内溝Ｅ２３４ｅに案内される第２リンクＥ２７０のピン部Ｅ２７２を変位させることができる。即ち、第８９実施形態では、回転体Ｅ２３４を介して駆動モータＥＭ１の駆動力を第２リンクＥ２７０に伝達して、第２リンクＥ２７０を変位させることができる。

【１０３１７】

当接部Ｅ２３４ｆは、第１リンクＥ２４０に当接することで、第１リンクＥ２４０に駆動力を伝達する伝達部であり、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、第１リンクＥ２４０と重なる位置まで回転体Ｅ２３４の正面側（矢印Ｆ方向側）に突設される。

【１０３１８】

また、当接部Ｅ２３４ｆは、回転体Ｅ２３４の回転軸とは異なる位置に形成され、回転体Ｅ２３４の回転に伴って第１リンクＥ２４０に対して相対変位可能とされる。この相対変位により、回転体Ｅ２３４を回転させた際に第１リンクＥ２４０に回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆを当接させることが可能とされ、その当接により回転体Ｅ２３４を介して駆動モータＥＭ１の駆動力を第１リンクＥ２４０に伝達可能して、第１リンクＥ２４０を変位させることができる。

【１０３１９】

第１リンクＥ２４０は、正面視において一方側が長い矩形状に形成され、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆよりも上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される。また、第１リンクＥ２４０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において長手方向一端側の端部と長手方向他端側の端部との間に、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆが位置する状態で配設される。これにより、回転体Ｅ２３４を回転させた際に、第１リンクＥ２４０の下方側の側面に回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆを当接させて、回転体Ｅ２３４を介して駆動モータＥＭ１の駆動力を第１リンクＥ２４０に伝達して、第１リンクＥ２４０の他端側を上方側に向けて持ち上げることができる。

【１０３２０】

また、第１リンクＥ２４０は、長手方向の一端側において前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通形成される被軸支部Ｅ２４１と、長手方向の他端側において背面側に向かって突設されるピン部Ｅ２４２と、を備え、第２ベースＥ２２０の軸支部Ｅ２２１ｄが被軸支部Ｅ２４１に挿入され軸支されることにより、軸支部Ｅ２２１ｄを軸にピン部Ｅ２４２を変位可能とされる。

【１０３２１】

ピン部Ｅ２４２は、第１伝達手段Ｅ２５０の摺動溝Ｅ２５１ａの内側に案内される突起であり、摺動溝Ｅ２５１ａの溝幅よりも小さい直径の円柱状に形成され、摺動溝Ｅ２５１ａの内側を摺動可能に構成される。これにより、第１リンクＥ２４０が第２ベースＥ２２０の軸支部Ｅ２２１ｄを軸に回転される際には、ピン部Ｅ２４２を介して第１伝達手段Ｅ２５０に駆動モータＥＭ１の駆動力を伝達できる。

【１０３２２】

第１伝達手段Ｅ２５０は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延設される矩形状の摺動体Ｅ２５１と、その摺動体Ｅ２５１の上端から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において第１ベースＥ２１０側（矢印Ｌ方向）に突設される伝達部Ｅ２５２と、を備え、正面視における全

体形状が略Ｌ字状に形成される。
【１０３２３】
摺動体Ｅ２５１は、第２ベースＥ２２０と第３ベースＥ２６０との対向間において、第２ベースＥ２２０の案内棒Ｅ２２２に沿って摺動される部分であり、正面視において第２ベースＥ２２０及び第３ベースＥ２６０よりも小さく形成される。
【１０３２４】
また、摺動体Ｅ２５１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長い溝状に開口される摺動溝Ｅ２５１ａと、正面側（矢印Ｆ方向側）の一部から正面側に向かって突設される正面側突設部Ｅ２５１ｂと、背面側（矢印Ｂ方向側）において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に開口する開口部Ｅ２５１ｃと、背面側の一部から背面側に向かって突設される背面側突設部Ｅ２５１ｄと、正面視において上端側の右側側面から突設される検出片Ｅ２５１ｅと、背面側突設部Ｅ２５１ｄよりも上方側で背面側の一部から背面側に向かって突設される被係合部Ｅ２５１ｆと、を備える。
【１０３２５】
摺動溝Ｅ２５１ａは、第１リンクＥ２４０のピン部Ｅ２４２が挿入される溝であり、第１リンクＥ２４０が第２ベースＥ２２０の軸支部Ｅ２２１ｄを軸に回転した際に、その回転の軌跡で上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）と左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）とに変位するピン部Ｅ２４２の左右方向における変位を吸収可能な長さの溝状に形成される。これにより、ピン部Ｅ２４２を介して第１伝達手段Ｅ２５０に駆動モータＥＭ１の駆動力が伝達された際に、第１伝達手段Ｅ２５０を左右方向に変化させず上下方向にのみ変位させることができる。なお、第１伝達手段Ｅ２５０は、駆動モータＥＭ１の駆動力により第１リンクＥ２４０の他端側が持ち上げられることで、第１リンクＥ２４０の他端側と共に上方側に持ち上げられるように構成される。
【１０３２６】
正面側突設部Ｅ２５１ｂは、正面視における外形が第１伝達手段Ｅ２５０の変位方向（上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向））に沿う方向に長い矩形状に形成される。また、正面側突設部Ｅ２５１ｂは、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置から下降位置に変位する際に、後述する変位規制手段Ｅ４００の当接部Ｅ４４２ｃ（図５６７及び図５６８参照）に下端側の側面を当接させることで、第１伝達手段Ｅ２５０の下方側への変位を規制する部分であり、変位規制手段Ｅ４００の当接部Ｅ４４２ｃが後述する第１位置（図５６８（ａ）参照）に配設される場合における当接部Ｅ４４２ｃと上下方向に重なる位置に形成される。
【１０３２７】
なお、後述する変位規制手段Ｅ４００の当接部Ｅ４４２ｃは、図５６８（ａ）に示す第１位置と図５６８（ｂ）に示す第２位置との間で変位可能に構成されており、変位規制手段Ｅ４００が第２位置に配設される場合には、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置から下降位置に変位する際に、変位規制手段Ｅ４００の当接部Ｅ４４２ｃに当接しない大きさに正面側突設部Ｅ２５１ｂが形成される。従って、第８９実施形態では、当接部Ｅ４４２ｃの配置を第１位置と第２位置とに切り替えることで、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置から下降位置に向かって変位させた場合の第１伝達手段Ｅ２５０の変位距離を変更できる。
【１０３２８】
開口部Ｅ２５１ｃは、第２ベースＥ２２０の本体部材Ｅ２２１に配設される案内棒Ｅ２２２が挿通される空間であり、案内棒Ｅ２２２の直径よりも大きい開口幅に設定される。第１伝達手段Ｅ２５０は、開口部Ｅ２５１ｃに案内棒Ｅ２２２が挿通された状態で第２ベースＥ２２０に配設されることにより、第１伝達手段Ｅ２５０を案内棒Ｅ２２２の軸方向（上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向））に沿って変位させることができる。なお、第１伝達手段Ｅ２５０は、開口部Ｅ２５１ｃに案内棒Ｅ２２２が挿通された状態で、案内棒Ｅ２２２が第２ベースＥ２２０の本体部材Ｅ２２１に配設されることにより、案内棒Ｅ２２２と共に第２ベースＥ２２０の本体部材Ｅ２２１（即ち、第２ベースＥ２２０）に配設される。
【１０３２９】
背面側突設部Ｅ２５１ｄは、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置から下降位置に変位する

際に上述したように正面側突設部Ｅ２５１ｂと変位規制手段Ｅ４００の当接部Ｅ４４２ｃとの当接が解除されて（若しくは当接せず）、第１伝達手段Ｅ２５０を下降位置に変位させた場合に、第２ベースＥ２２０の本体部材Ｅ２２１に配設される弾性体Ｅ２２４に当接させることで、第１伝達手段Ｅ２５０の下降位置よりも下方側への変位を規制する部分であり、弾性体Ｅ２２４と上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に形成される。

【１０３３０】

即ち、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に配置される場合において、正面側突設部Ｅ２５１ｂと変位規制手段Ｅ４００の当接部Ｅ４４２ｃとの上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における離間距離よりも、背面側突設部Ｅ２５１ｄと弾性体Ｅ２２４との上下方向における離間距離が大きく形成される。従って、第８９実施形態では、正面側突設部Ｅ２５１ｂに変位規制手段Ｅ４００の当接部Ｅ４４２ｃを当接させるか否かで、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置から下降位置に向かって変位させた際の第１伝達手段Ｅ２５０の変位距離を変更できる。

【１０３３１】

検出片Ｅ２５１ｅは、上述したように、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に配設される場合に第１検出手段Ｅ２２３に検出されるセンサであり、第１検出手段Ｅ２２３のセンサ光の投光部と受光部との間を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位可能な板状に形成される。

【１０３３２】

被係合部Ｅ２５１ｆは、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に配置される場合に、後述する係合部材Ｅ２９０の係合部Ｅ２９３に下面側の側面を当接させることで、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置から下降位置に向かって変位することを規制する部分であり、係合部材Ｅ２９０が後述する係合位置（図５６２及び図５６３に示す位置）に配置される場合おける係合部材Ｅ２９０の係合部Ｅ２９３と正面視において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に形成される。

【１０３３３】

なお、後述する係合部材Ｅ２９０は、図５６２及び図５６３に示す係合位置と、図５６４（ａ）及び図５６４（ｂ）に示す非係合位置との間で変位可能に構成されており、係合部材Ｅ２９０が非係合位置に配置される場合には、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置から下降位置に向かって変位可能とされる。

【１０３３４】

なお、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置から下降位置に向かって変位される際には、回転体Ｅ２３４と第１リンクＥ２４０とが離間する状態とされ駆動モータＥＭ１の駆動の伝達が解除される。従って、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置から下降位置に向かって変位される際には、第１伝達手段Ｅ２５０、第１リンクＥ２４０及び後述する上変位手段Ｅ３００がその自重で変位（即ち、落下）するように構成される。即ち、第８９実施形態では、第１伝達手段Ｅ２５０、第１リンクＥ２４０及び後述する上変位手段Ｅ３００を上方側（矢印Ｕ方向側）に向かって運ぶ際に、駆動モータＥＭ１の駆動力が作用するように構成される。

【１０３３５】

また、第１伝達手段Ｅ２５０には、第２ベースＥ２２０の上端側に接続されたスプリングＥＳＰ１が接続され、そのスプリングＥＳＰ１により第２ベースＥ２２０の上方側に向かう付勢力が作用される。これにより、第１伝達手段Ｅ２５０、第１リンクＥ２４０及び後述する上変位手段Ｅ３００を上方側（矢印Ｕ方向側）に向かって運ぶ際に、駆動モータＥＭ１の駆動力を補助することができる。なお、スプリングＥＳＰ１の付勢力は、第１伝達手段Ｅ２５０、第１リンクＥ２４０及び後述する上変位手段Ｅ３００の自重で第１伝達手段Ｅ２５０が下方へ向けて変位する際の力よりも弱く設定される。これにより、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置から下降位置に向けて変位する際に、その第１伝達手段Ｅ２５０の変位がスプリングＥＳＰ１の付勢力により途中で停止することを抑制できる。

【１０３３６】

伝達部Ｅ２５２は、第１伝達手段Ｅ２５０に伝達される駆動モータＥＭ１の駆動力を後述する上変位手段Ｅ３００に伝達するために上変位手段Ｅ３００に連結される部分であり、第２ベースＥ２２０と第３ベースＥ２６０との対向間から窓部Ｐ１４ｅの内側に向かって張り出す板状に形成される。なお、伝達部Ｅ２５２は、上変位手段Ｅ３００の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる位置に配置されており、上変位手段Ｅ３００の背面側（即ち、駆動力伝達手段Ｅ３１０に形成されるピン部Ｅ３１３）に連結される。これにより、遊技者に駆動力の伝達機構がパチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から視認されることを抑制でき、遊技者の興趣が低下することを抑制できる。

【１０３３７】

また、伝達部Ｅ２５２は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長い溝状に形成される摺動溝Ｅ２５２ａを備え、その摺動溝Ｅ２５２ａに上変位手段Ｅ３００の駆動力伝達手段Ｅ３１０に形成されるピン部Ｅ３１３が摺動溝Ｅ２５２ａの内面を摺動可能な状態で挿入され、第１伝達手段Ｅ２５０と上変位手段Ｅ３００とが接続される。これにより、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置と下降位置との間で変位させることに伴って、伝達部Ｅ２５２を介して駆動モータＥＭ１の駆動力を上変位手段Ｅ３００に伝達できる。

【１０３３８】

第３ベースＥ２６０は、正面視において第２ベースＥ２２０と略同一の外形に形成され、第２ベースＥ２２０との対向間に駆動手段Ｅ２３０、第１リンクＥ２４０、及び、第１伝達手段Ｅ２５０の一部を収容した状態で第２ベースＥ２２０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。また、正面視において窓部Ｐ１４ｅ側（矢印Ｌ方向側）の第２ベースＥ２２０と第３ベースＥ２６０との端部には、第２ベースＥ２２０と第３ベースＥ２６０との間に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の空間が形成されており、その所定の空間を介して第１伝達手段Ｅ２５０の伝達部Ｅ２５２が窓部Ｐ１４ｅの内側の領域に突出されると共に、摺動体Ｅ２５１の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の変位に伴って伝達部Ｅ２５２を窓部Ｐ１４ｅの内側の領域で上下方向に変位可能とされる。

【１０３３９】

また、第３ベースＥ２６０は、正面側（矢印Ｆ方向側）の側面から正面側に向かって円柱状に突設される２箇所の軸部Ｅ２６１，Ｅ２６２と、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に円形状に開口される挿通孔Ｅ２６３と、前後方向に矩形状に開口される開口Ｅ２６４と、軸部Ｅ２６１，Ｅ２６２の下方側に配設される弾性体Ｅ２６６と、を主に備える。

【１０３４０】

軸部Ｅ２６１は、後述する上変位手段Ｅ３００の姿勢規定手段Ｅ３３０に形成されるベース側被軸支部Ｅ３３１を軸支する軸であり、姿勢規定手段Ｅ３３０の一端側の回転軸に貫通形成されるベース側被軸支部Ｅ３３１の内径よりも若干小さい外径の円柱状に形成される。また、軸部Ｅ２６１には、突設先端部に螺子を締結可能なネジ穴が形成される。このネジ穴にカラー（図示しない）を介した螺子を締結することで、上変位手段Ｅ３００の姿勢規定手段Ｅ３３０が軸部Ｅ２６１から脱落することが抑制される。

【１０３４１】

軸部Ｅ２６２は、後述する上変位手段Ｅ３００の駆動力伝達手段Ｅ３１０に形成される基端側被軸支部Ｅ３１１を軸支する軸であり、駆動力伝達手段Ｅ３１０の一端側の回転軸に貫通形成される基端側被軸支部Ｅ３１１の内径よりも若干小さい外径の円柱状に形成される。また、軸部Ｅ２６２には、突設先端部に螺子を締結可能なネジ穴が形成される。このネジ穴にカラー（図示しない）を介した螺子を締結することで、上変位手段Ｅ３００の駆動力伝達手段Ｅ３１０が軸部Ｅ２６２から脱落することが抑制される。

【１０３４２】

挿通孔Ｅ２６３は、第３ベースＥ２６０の正面に配設される駆動モータＥＭ１の軸を第３ベースＥ２６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に突出させるための開口であり、駆動モータＥＭ１の軸の直径よりも大きい直径の内径の開口に設定される。なお、駆動モータＥＭ１の軸が接続される駆動ギヤＥ２３１は、駆動モータＥＭ１が第３ベースＥ２６０に配設されることにより、第３ベースＥ２６０側に配設される。

【１０３４３】
開口Ｅ２６４は、第３ベースＥ２６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される変位規制手段Ｅ４００の当接部Ｅ４４２ｃを第３ベースＥ２６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に突出させて、当接部Ｅ４４２ｃを第３ベースＥ２６０の背面側に配設される第１伝達手段Ｅ２５０の正面側突設部Ｅ２５１ｂに当接可能にするための開口であり、正面視における当接部Ｅ４４２ｃよりも大きい開口に形成される。
【１０３４４】
なお、後述するように変位規制手段Ｅ４００の当接部Ｅ４４２ｃは、第１位置（図５６８（ａ）参照）と第２位置（図５６８（ｂ）参照））との間で変位可能に構成される。そのため、開口Ｅ２６４は、変位規制手段Ｅ４００の当接部Ｅ４４２ｃを第１位置と第２位置との間で変位させた際に、その当接部Ｅ４４２ｃが開口Ｅ２６４の内縁に当接しない大きさに形成される。即ち、開口Ｅ２６４は、正面視において、変位規制手段Ｅ４００の当接部Ｅ４４２ｃの変位軌跡よりも大きい開口に形成される。
【１０３４５】
弾性体Ｅ２６６は、後述する上変位手段Ｅ３００が上昇位置から下降位置に変位（落下）した際に、上変位手段Ｅ３００の駆動力伝達手段Ｅ３１０の回転を規制する部分であり、正面視において駆動力伝達手段Ｅ３１０の回転軌跡上に配設される。また、弾性体Ｅ２６６は、ゴム状の弾性材料から形成される。これにより、駆動力伝達手段Ｅ３１０が弾性体Ｅ２６６に当接した際の衝撃を吸収できる。その結果、上変位手段Ｅ３００を上昇位置から下降位置に素早く変位（落下）させることができると共に、上変位手段Ｅ３００が下降位置に変位して駆動力伝達手段Ｅ３１０が弾性体Ｅ２６６に当接した際の衝突音を小さくできる。
【１０３４６】
なお、上述したように、第８９実施形態では、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、上変位手段Ｅ３００を上昇位置から下降位置に変位（落下）させた場合に、第１伝達手段Ｅ２５０の背面側突設部Ｅ２５１ｄを第２ベースＥ２４４に配設される弾性体Ｅ２２４に当接させられるように構成される。従って、第８９実施形態では、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、上変位手段Ｅ３００を上昇位置から下降位置に変位（落下）させた場合に、弾性体Ｅ２２４と弾性体Ｅ２６６との２箇所に当接させることができる。そのため、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、上変位手段Ｅ３００を落下させた際の衝撃を分散して、その衝撃を和らげることができる。
【１０３４７】
第２リンクＥ２７０は、正面視において一方が長い矩形状に形成される。また、第２リンクＥ２７０は、長手方向における略中央部に円形状に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成される被軸支部Ｅ２７１と、長手方向の一方側の端部において正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突設されるピン部Ｅ２７２と、長手方向の他端側の端部において正面側に向かって突設されるピン部Ｅ２７３と、を備える。
【１０３４８】
被軸支部Ｅ２７１は、第２ベースＥ２２０の軸支部Ｅ２２１ｊに軸支される部分であり、軸支部Ｅ２２１ｊの外径よりも大きい内径の円環状に形成される。なお、第２リンクＥ２７０は、被軸支部Ｅ２７１が第２ベースＥ２２０の軸支部Ｅ２２１ｊに軸支されることで、第２ベースＥ２２０の背面側（矢印Ｂ方向側）において軸支部Ｅ２２１ｊを軸に回転可能とされる。
【１０３４９】
ピン部Ｅ２７２は、第２ベースＥ２２０の本体部材Ｅ２２１に形成される開口部Ｅ２２１ｐを介して、回転体Ｅ２３４の背面側（矢印Ｂ方向側）において第２壁部Ｅ２３４ｃと第３壁部Ｅ２３４ｄとの対向間により形成される案内溝Ｅ２３４ｅに挿入される部分であり、案内溝Ｅ２３４ｅの溝幅よりも小さい直径の円柱状に形成される。
【１０３５０】
なお、上記したように、案内溝Ｅ２３４ｅは、回転体Ｅ２３４の回転軸からの径方向に

おける距離が異なる第１案内部Ｅ２３４ｅ１と、第２案内部Ｅ２３４ｅ２と、を備えており、この回転軸からの距離の違いにより、案内溝Ｅ２３４ｅに案内される第２リンクＥ２７０のピン部Ｅ２７２を変位させることが可能に構成される。第２リンクＥ２７０は、案内溝Ｅ２３４ｅによりピン部Ｅ２７２が変位されることによって、軸支される軸支部Ｅ２２１ｊを軸に回転変位される。

【１０３５１】

ピン部Ｅ２７３は、後述する第２伝達手段Ｅ２８０の下側伝達部材Ｅ２８１に接続される部分であり、下側伝達部材Ｅ２８１の連結溝Ｅ２８１ｂに挿通可能な円柱状に形成される。第２リンクＥ２７０は、ピン部Ｅ２７３が第２伝達手段Ｅ２８０の下側伝達部材Ｅ２８１に接続されることで、第２リンクＥ２７０に伝達される駆動モータＥＭ１の駆動力を第２伝達手段Ｅ２８０に伝達して、第２伝達手段Ｅ２８０を変位させることができる。

【１０３５２】

第２伝達手段Ｅ２８０は、第２ベースＥ２２０の下方側の端部において背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される下側伝達部材Ｅ２８１と、第２ベースＥ２２０の上方側の端部において背面側に配設される上側伝達部材Ｅ２８３と、それら下側伝達部材Ｅ２８１及び上側伝達部材Ｅ２８３を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に連結する連結部材Ｅ２８２と、を主に備える。

【１０３５３】

下側伝達部材Ｅ２８１は、上述したように第２リンクＥ２７０から駆動モータＥＭ１の駆動力が伝達される部材であり、第２リンクＥ２７０のピン部Ｅ２７３が連結される連結溝Ｅ２８１ｂと、第２リンクＥ２７０から伝達される駆動力により変位される際に下側伝達部材Ｅ２８１を規定の方向（上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向））に案内するための摺動溝Ｅ２８１ａと、を備える。

【１０３５４】

また、下側伝達部材Ｅ２８１は、連結部材Ｅ２８２を介して上側伝達部材Ｅ２８３に連結される。これにより、第２伝達手段Ｅ２８０を介して下側伝達部材Ｅ２８１に駆動モータＥＭ１の駆動力が伝達されると、下側伝達部材Ｅ２８１と共に連結部材Ｅ２８２及び上側伝達部材Ｅ２８３を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位させることができる。

【１０３５５】

上側伝達部材Ｅ２８３は、上述したように第２リンクＥ２７０から下側伝達部材Ｅ２８１に伝達される駆動力により変位される際に上側伝達部材Ｅ２８３を規定の方向（上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向））に案内するための摺動溝Ｅ２８３ａと、正面側（矢印Ｆ方向側）から突設され第２ベースＥ２２０の本体部材Ｅ２２１に形成される開口部Ｅ２２１ｓを介して本体部材Ｅ２２１の正面側に突出可能なピン部Ｅ２８３ｂと、を備える。

【１０３５６】

ピン部Ｅ２８３ｂは、後述する係合部材Ｅ２９０の被連結部Ｅ２９２に挿入される部位であり、被連結部Ｅ２９２の溝幅よりも小さい直径の円柱状に形成される。ピン部Ｅ２８３ｂにより、上側伝達部材Ｅ２８３と係合部材Ｅ２９０とが接続されることで、第２伝達手段Ｅ２８０に伝達される駆動モータＥＭ１の駆動力を係合部材Ｅ２９０に伝達して、係合部材Ｅ２９０を変位させることができる。

【１０３５７】

係合部材Ｅ２９０は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に円形状に貫通形成され第２ベースＥ２２０の本体部材Ｅ２２１に形成される軸支部Ｅ２２１ｅが挿入される被軸支部Ｅ２９１と、前後方向に円形状に貫通形成され上側伝達部材Ｅ２８３のピン部Ｅ２８３ｂが挿入される被連結部Ｅ２９２と、第１伝達手段Ｅ２５０側（矢印Ｌ方向側）に向かって突設される係合部Ｅ２９３と、を主に備える。

【１０３５８】

なお、係合部材Ｅ２９０は、第２ベースＥ２２０の本体部材Ｅ２２１に形成される軸支部Ｅ２２１ｅを軸に回転可能な状態で配設され、被連結部Ｅ２９２に連結されるピン部Ｅ２８３ｂを介して第２伝達手段Ｅ２８０に伝達される駆動モータＥＭ１の駆動力が伝達さ

れることで、軸支部Ｅ２２１ｅを軸に回転される。この回転により、係合部材Ｅ２９０を係合位置（図５６２及び図５６３に示す位置）と非係合位置（図５６３（ａ）及び図５６３（ｂ）に示す位置）との間で変位させることが可能とされる。

【１０３５９】

係合部Ｅ２９３は、係合部材Ｅ２９０が係合位置に配置される場合において、上昇位置に配置される第１伝達手段Ｅ２５０の被係合部Ｅ２５１ｆの下面に当接される部位であり、被係合部Ｅ２５１ｆの下方側に重なる位置まで突設される。一方、係合部材Ｅ２９０が非係合位置に配置される場合においては、上昇位置に配置される第１伝達手段Ｅ２５０の被係合部Ｅ２５１ｆの下方側に重ならない位置に退避可能な大きさに設定される。

【１０３６０】

これにより、第８９実施形態では、係合部材Ｅ２９０を係合位置に配置した状態から、係合部材Ｅ２９０を非係合位置に変位させることで、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置から下方位置に向けて変位可能に構成される。

【１０３６１】

なお、係合部材Ｅ２９０は、第２リンクＥ２７０のピン部Ｅ２７２が回転体Ｅ２３４の背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される案内溝Ｅ２３４ｅの第１案内部Ｅ２３４ｅ１（回転体Ｅ２３４の回転軸からの距離が短い側）に配置される場合に非係合位置に配置され、ピン部Ｅ２７２が案内溝Ｅ２３４ｅの第２案内部Ｅ２３４ｅ２（回転体Ｅ２３４の回転軸からの距離が遠い側）に配置される場合に係合位置に配置される。

【１０３６２】

次いで、図５６２から図５６６を参照して、ベース手段Ｅ２００の変位態様について説明する。図５６４（ａ）、図５６５（ａ）、及び、図５６６（ａ）は、ベース手段Ｅ２００の正面図であり、図５６４（ｂ）、図５６５（ｂ）、及び、図５６６（ｂ）は、ベース手段Ｅ２００の背面図である。

【１０３６３】

図５６４（ａ）、図５６５（ａ）、及び、図５６６（ａ）では、図５６２と同様に、第３ベースＥ２６０が透明視して図示され、図５６４（ｂ）、図５６５（ｂ）、及び、図５６６（ｂ）では、図５６３と同様に、第２ベースＥ２２０が透明視して図示される。

【１０３６４】

また、図５６２から図５６６では、図５６２、図５６４（ａ）、図５６５（ａ）、図５６６（ａ）の順に、正面視におけるベース手段Ｅ２００の第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置から下降位置に向けて遷移した状態が図示され、図５６３、図５６４（ｂ）、図５６５（ｂ）、図５６６（ｂ）の順に、背面視におけるベース手段Ｅ２００の第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置から下降位置に向けて遷移した状態が図示される。

【１０３６５】

なお、図５６２及び図５６３では、回転体Ｅ２３４が軸支部Ｅ２２１ｃを軸に正面視左回りに回転される状態において回転体Ｅ２３４の案内溝Ｅ２３４ｅを摺動する第２リンクＥ２７０のピン部Ｅ２７２が第１案内部Ｅ２３４ｅ１から第２案内部Ｅ２３４ｅ２に遷移した状態が図示され、図５６４（ａ）及び図５６４（ｂ）では、第２リンクＥ２７０のピン部Ｅ２７２が第２案内部Ｅ２３４ｅ２から第１案内部Ｅ２３４ｅ１に遷移した状態が図示され、図５６５（ａ）及び図５６５（ｂ）、図５６６（ａ）及び図５６６（ｂ）では、第２リンクＥ２７０のピン部Ｅ２７２が第２案内部Ｅ２３４ｅ２では、第２リンクＥ２７０のピン部Ｅ２７２が第１案内部Ｅ２３４ｅ１に案内されている途中の状態が図示される。以下の説明では、図５６２及び図５６３に示す、回転体Ｅ２３４の回転位置を第１回転位置と称し、図５６４（ａ）及び図５６４（ｂ）に示す回転体Ｅ２３４の回転位置を第２回転位置と称して説明する。

【１０３６６】

図５６２及び５６３に示すように、回転体Ｅ２３４が正面視において右回りに回転され、第１回転位置に配置される場合には、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆが第１リンクＥ２４０の側面に下方側（矢印Ｄ方向側）から当接することにより、第２ベースＥ２２０

の本体部材Ｅ２２１に形成される軸支部Ｅ２２１ｄを軸に第１リンクＥ２４０が回転され、駆動モータＥＭ１の駆動力により第１リンクＥ２４０のピン部Ｅ２４２が上方側に持ち上げられる。これにより、第１リンクＥ２４０に接続される第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に配置される。

【１０３６７】

回転体Ｅ２３４が第１回転位置に配置される場合には、第２リンクＥ２７０のピン部Ｅ２７２が第２案内部Ｅ２３４ｅ２に案内されるので、上述したように係合部材Ｅ２９０が係合位置に配置される。従って、回転体Ｅ２３４が第１回転位置に配置される場合には、係合部材Ｅ２９０の係合部Ｅ２９３と第１伝達手段Ｅ２５０の被係合部Ｅ２５１ｆとが係合して、第１伝達手段Ｅ２５０の上昇位置から下降位置への変位が規制される。即ち、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に維持される。

【１０３６８】

次いで、図５６４（ａ）及び図５６４（ｂ）を参照して、図５６２及び図５６３に示す第１回転位から第２回転位置に回転体Ｅ２３４を回転した場合について説明する。

【１０３６９】

上記したように、回転体Ｅ２３４が第２回転位置まで回転された場合には、その回転体Ｅ２３４によって案内される第２リンクＥ２７０のピン部Ｅ２７２が第２案内部Ｅ２３４ｅ２から第１案内部Ｅ２３４ｅ１に受け入れられる。これにより、第２ベースＥ２２０の本体部材Ｅ２２１に形成される軸支部Ｅ２２１ｊを軸として第２リンクＥ２７０が回転される。この第２リンクＥ２７０の回転により、第２リンクＥ２７０の他端側に形成されるピン部Ｅ２７３が下方側（矢印Ｄ方向側）に押し下げられ、ピン部Ｅ２７３が接続される第２伝達手段Ｅ２８０が下方側に変位される。

【１０３７０】

そして、第２伝達手段Ｅ２８０が下方側（矢印Ｄ方向側）に変位することにより、第２伝達手段Ｅ２８０の上側伝達部材Ｅ２８３に形成されるピン部Ｅ２８３ｂが下方側に押し下げされ、ピン部Ｅ２８３ｂが接続される係合部材Ｅ２９０の被連結部Ｅ２９２が下方側に変位される。これにより、第２ベースＥ２２０の本体部材Ｅ２２１に形成される軸支部Ｅ２２１ｅを軸として係合部材Ｅ２９０が係合位置から非係合位置に回転される。

【１０３７１】

この場合、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置まで持ち上げた回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆは、回転体Ｅ２３４が第１回転位置から第２回転位置まで回転されたことで、第１リンクＥ２４０の下面から離れて、回転体Ｅ２３４の回転軸（軸支部Ｅ２２１ｃ）の下方側に配置される。

【１０３７２】

従って、回転体Ｅ２３４が第１回転位置から第２回転位置まで回転されて、係合部材Ｅ２９０が非係合位置に配置されると、図５６５（ａ）及び図５６５（ｂ）に示すように、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置に支える部材が無いため、第１伝達手段Ｅ２５０及び第１リンクＥ２４０及び後述する上変位手段Ｅ３００がその自重により下降位置に向かって落下される。

【１０３７３】

なお、上昇位置から下降位置に向かって落下した第１伝達手段Ｅ２５０は、図５６５（ａ）、図５６５（ｂ）、図５６６（ａ）、図５６６（ｂ）に示すように、回転体Ｅ２３４を継続して回転させることで、当接部Ｅ２３４ｆを第１リンクＥ２４０の下面に再び当接させて、駆動モータＥＭ１の駆動力を第１伝達手段Ｅ２５０に伝達可能な状態にできる。これにより、第２ベースＥ２２０の本体部材Ｅ２２１に形成される軸支部Ｅ２２１ｄを軸に第１リンクＥ２４０を回転させて、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置に向かって持ち上げることができる。そして、回転体Ｅ２３４を第１回転位置まで回転させることで、図５６２及び５６３に示す、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に規制された状態を形成できる。

【１０３７４】

即ち、第８９実施形態では、回転体Ｅ２３４の一方向の回転により、第１伝達手段Ｅ２５０の上昇位置から下降位置への変位と、第１伝達手段Ｅ２５０の下降位置から上昇位置への変位とをさせることができる。そのため、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置から下降位置に変位させるための回転体Ｅ２３４の回転方向と、第１伝達手段Ｅ２５０を下降位置から上昇位置に変位させるための回転体Ｅ２３４の回転方向とを切り替える必要が無くなるので、回転体Ｅ２３４を回転させる駆動モータＥＭ１の制御を簡易にできる。

【１０３７５】

次いで、図５６７から図５６９を参照して、変位規制手段Ｅ４００について説明する。初めに、図５６７及び図５６８を参照して、変位規制手段Ｅ４００の全体構成について説明する。

【１０３７６】

なお、図５６７（ａ）は、変位規制手段Ｅ４００の分解斜視正面図であり、図５６７（ｂ）は、変位規制手段Ｅ４００の分解斜視背面図であり、図５６８（ａ）及び図５６８（ｂ）は、変位規制手段Ｅ４００の背面図である。

【１０３７７】

なお、図５６８（ａ）では、変位規制手段Ｅ４００の回転部材Ｅ４４２に形成される当接部Ｅ４４２ｃを第１位置に配置した状態が図示され、図５６８（ｂ）では、変位規制手段Ｅ４００の回転部材Ｅ４４２に形成される当接部Ｅ４４２ｃを第２位置に配置した状態が図示される。

【１０３７８】

図５６７及び図５６８に示すように、変位規制手段Ｅ４００は、正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される保持部材Ｅ４１０と、その保持部材Ｅ４１０に配設される駆動手段Ｅ４２０と、保持部材Ｅ４１０に軸支され駆動手段Ｅ４２０の駆動力により従動する従動手段Ｅ４３０と、保持部材Ｅ４１０に軸支され従動手段Ｅ４３０の回転に伴って変位する変位手段Ｅ４４０と、を主に備える。

【１０３７９】

保持部材Ｅ４１０は、後述する駆動手段Ｅ４２０、従動手段Ｅ４３０、及び、変位手段Ｅ４４０が背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されると共に、上述したベース手段Ｅ２００の第３ベースＥ２６０（図５６１参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に固定される部材であり、駆動手段Ｅ４２０、従動手段Ｅ４３０、及び、変位手段Ｅ４４０を正面側から覆設可能な大きさに形成される。

【１０３８０】

また、保持部材Ｅ４１０には、正面視における外縁に複数の挿通孔Ｅ４１１と、背面側（矢印Ｂ方向側）から円柱状に突設される軸支部Ｅ４１２と、背面側において円形状に凹設される凹部Ｅ４１３と、が形成される。

【１０３８１】

複数の挿通孔Ｅ４１１は、ベース手段Ｅ２００の第３ベースＥ２６０（図５６１参照）に固定するための螺子（図示しない）の先端を挿通させるための孔であり、螺子の先端よりも大きい開口に設定されると共に、後述する駆動手段Ｅ４２０、従動手段Ｅ４３０、及び、変位手段Ｅ４４０と正面視において重ならない位置に形成される。

【１０３８２】

軸支部Ｅ４１２は、後述する従動手段Ｅ４３０の被軸支部Ｅ４３１に挿入され、従動手段Ｅ４３０を軸支する軸であり、従動手段Ｅ４３０の被軸支部Ｅ４３１の直径よりも若干小さい直径の円柱状に形成される。また、軸支部Ｅ４１２には、突設先端部に螺子を締結可能なネジ穴が形成される。このネジ穴に螺子を締結することで、従動手段Ｅ４３０が軸支部Ｅ４１２から脱落することが抑制される。

【１０３８３】

凹部Ｅ４１３は、後述する変位手段Ｅ４４０の軸部材Ｅ４４１の正面側（矢印Ｆ方向側）が挿入される孔であり、軸部材Ｅ４４１の直径よりも大きい内径に設定される。なお、保持部材Ｅ４１０がベース手段Ｅ２００の第３ベースＥ２６０（図５６１参照）の正面側

に固定された状態において、凹部Ｅ４１３と対向する位置の第３ベースＥ２６０には、背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって円形状に凹設される凹部Ｅ２６５（図５６０参照）が形成される。これにより、後述する変位手段Ｅ４４０の軸部材Ｅ４４１の正面側と背面側とを凹部Ｅ４１３と凹部Ｅ２６５とで保持することが可能に構成される。

【１０３８４】

駆動手段Ｅ４２０は、本体部Ｅ４２１ａに電力が付与されることにより軸部Ｅ４２１ｂを本体部Ｅ４２１ａの内側に引き込み可能に構成されるソレノイドＥ４２１と、そのソレノイドＥ４２１の軸部Ｅ４２１ｂの先端に配設される駆動部材Ｅ４２２と、を備える。

【１０３８５】

ソレノイドＥ４２１は、軸部Ｅ４２１ｂを上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位可能な状態で配設され、本体部Ｅ４２１ａに電力を付与することで、軸部Ｅ４２１ｂの周囲に配設したバネ（図示しない）の付勢力により本体部Ｅ４２１ａの下方側に張り出した軸部Ｅ４２１ｂを上方側に変位させて本体部Ｅ４２１ａの内側に引き込み可能に構成される。

【１０３８６】

駆動部材Ｅ４２２は、本体部Ｅ４２１ａから張り出す軸部Ｅ４２１ｂの先端に配設され、軸部Ｅ４２１ｂの変位に伴って上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位可能に構成される。また、駆動部材Ｅ４２２は、後述する従動手段Ｅ４３０のピン部Ｅ４３２を接続可能な連結溝Ｅ４２２ａを備え、その連結溝Ｅ４２２ａを介して、ソレノイドＥ４２１の駆動力を従動手段Ｅ４３０に伝達可能に構成される。

【１０３８７】

従動手段Ｅ４３０は、正面視略Ｌ字状に形成され、その略Ｌ字状に屈曲される部分に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通する被軸支部Ｅ４３１と、略Ｌ字状に形成される短手側において背面に向かって突出されるピン部Ｅ４３２と、略Ｌ字状に形成される長手側において背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出されるピン部Ｅ４３３と、を主に備える。

【１０３８８】

被軸支部Ｅ４３１は、保持部材Ｅ４１０の軸支部Ｅ４１２に軸支される部位であり、軸支部Ｅ４１２の外径よりも大きい内径の円形状に形成される。なお、従動手段Ｅ４３０は、被軸支部Ｅ４３１が保持部材Ｅ４１０の軸支部Ｅ４１２に軸支されることで、保持部材Ｅ４１０の背面側（矢印Ｂ方向側）において軸支部Ｅ４１２を軸に回転可能とされる。

【１０３８９】

ピン部Ｅ４３２は、従動手段Ｅ４３０を駆動部材Ｅ４２２に接続するための部位であり、駆動部材Ｅ４２２に形成される連結溝Ｅ４２２ａの溝幅よりも小さい直径の円柱状に形成され連結溝Ｅ４２２ａの内側に配設される。これにより、駆動部材Ｅ４２２の変位に伴ってピン部Ｅ４３２を変位させて、保持部材Ｅ４１０の軸支部Ｅ４１２を軸に従動手段Ｅ４３０を回転させることができる。

【１０３９０】

ピン部Ｅ４３３は、従動手段Ｅ４３０を後述する変位手段Ｅ４４０に接続するための部位であり、後述する変位手段Ｅ４４０の回転部材Ｅ４４２に形成される案内溝Ｅ４４２ｂの溝幅よりも小さい直径の円柱状に形成され案内溝Ｅ４４２ｂの内側に配設される。これにより、駆動部材Ｅ４２２を介して従動手段Ｅ４３０に作用するソレノイドＥ４２１の駆動力を変位手段Ｅ４４０に伝達することが可能とされる。

【１０３９１】

変位手段Ｅ４４０は、円柱状に形成される金属製の軸部材Ｅ４４１と、その軸部材Ｅ４４１が挿通される回転部材Ｅ４４２と、を備え、軸部材Ｅ４４１の軸が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に向けて配設されると共に、その軸部材Ｅ４４１の両端が保持部材Ｅ４１０の凹部Ｅ４１３、及び、ベース手段Ｅ２００の第３ベースＥ２６０に形成される凹部Ｅ２６５（図５６０参照）に保持され、回転部材Ｅ４４２が軸部材Ｅ４４１を軸に回転可能な状態で軸支される。

【１０３９２】

回転部材Ｅ４４２は、正面視（矢印Ｂ方向視）において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に

長い棒状に形成され、上端側の端部に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通された貫通孔Ｅ４４２ａに軸部材Ｅ４４１が挿通されることで、その軸部材Ｅ４４１を軸に下端側を回転させることが可能に構成される。また、回転部材Ｅ４４２は、正面視における長手方向に沿って溝状に貫通される案内溝Ｅ４４２ｂと、下端側の背面において背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって膨出する当接部Ｅ４４２ｃと、を備える。

【１０３９３】

案内溝Ｅ４４２ｂは、従動手段Ｅ４３０のピン部Ｅ４３３が挿入される溝であり、保持部材Ｅ４１０の軸支部Ｅ４１２を軸に従動手段Ｅ４３０が回転した際に、その回転の軌跡で上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）と左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）とに変位するピン部Ｅ４３３の上下方向における変位を吸収可能な長さの溝状に形成される。これにより、ピン部Ｅ４３３を介して変位手段Ｅ４４０にソレノイドＥ４２１の駆動力が伝達された際に、軸部材Ｅ４４１に軸支される回転部材Ｅ４４２の下端側（矢印Ｂ方向側（当接部Ｅ４４２ｃ側））を左右方向に変位させることができる。

【１０３９４】

当接部Ｅ４４２ｃは、上述したベース手段Ｅ２００の第１伝達手段Ｅ２５０の正面側突設部Ｅ２５１ｂが当接可能に構成される部位であり、ベース手段Ｅ２００の第３ベースＥ２６０に貫通形成される開口Ｅ２６４に対応する位置に形成されると共に、その開口Ｅ２６４を挿通して第３ベースＥ２６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第１伝達手段Ｅ２５０の正面側突設部Ｅ２５１ｂと上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置まで背面側に向かって突設される。

【１０３９５】

なお、上記したように、当接部Ｅ４４２ｃが形成される回転部材Ｅ４４２の下端側は、回転部材Ｅ４４２の回転により左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に回転可能に形成される。この回転により、第８９実施形態では、当接部Ｅ４４２ｃが第１伝達手段Ｅ２５０の正面側突設部Ｅ２５１ｂと正面視において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる第１位置（図５６８（ａ）に示す位置）と、当接部Ｅ４４２ｃが第１伝達手段Ｅ２５０の正面側突設部Ｅ２５１ｂと正面視において上下方向に重ならない第２位置（図５６８（ｂ）に示す位置）とに回転部材Ｅ４４２を変位させることができる。言い換えると、第８９実施形態では、回転部材Ｅ４４２を回転させることで、当接部Ｅ４４２ｃが第１伝達手段Ｅ２５０の正面側突設部Ｅ２５１ｂに当接可能な第１位置と、当接部Ｅ４４２ｃが第１伝達手段Ｅ２５０の正面側突設部Ｅ２５１ｂに当接不能な第２位置とに回転部材Ｅ４４２を変位させることができる。

【１０３９６】

次いで、図５６９（ａ）及び図５６９（ｂ）を参照して、回転部材Ｅ４４２が第１位置および第２位置のそれぞれに配設される場合に、ベース手段Ｅ２００の回転体Ｅ２３４を第１回転位置から第２回転位置に変位させた際の第１伝達手段Ｅ２５０の変位態様について説明する。

【１０３９７】

図５６９（ａ）及び図５６９（ｂ）は、ベース手段Ｅ２００の正面図である。なお、図５６９（ａ）及び図５６９（ｂ）では、図５６２におけるベース手段Ｅ２００の正面図と同様に、第３ベースＥ２６０が透明視して図示される。また、図５６９（ａ）では、第１位置に配置される回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃの外形が破線で図示され、図５６９（ｂ）では、第２位置に配置される回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃの外形が破線で図示される。

【１０３９８】

図５６９（ａ）に示すように、回転体Ｅ２３４が第２回転位置まで回転されて係合部材Ｅ２９０が非係合位置に変位されることにより第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置から下降位置に向けて変位（落下）されると、第１伝達手段Ｅ２５０の正面側突設部Ｅ２５１ｂの下面が第１位置に配設される回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃに当接され下降位置までの変位（落下）が規制される。これにより、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置と下降位

置との間の途中位置（なお、以下の説明では、図５６９（ａ）に示す途中位置に停止した第１伝達手段Ｅ２５０の位置を「中間位置」と称す）で停止するように構成される。

【１０３９９】

一方、図５６９（ｂ）に示すように、回転体Ｅ２３４が第２回転位置まで回転されて係合部材Ｅ２９０が非係合位置に変位されることにより第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置から下降位置に向けて変位（落下）されると、第１伝達手段Ｅ２５０の正面側突設部Ｅ２５１ｂの下面が回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃに当接せず第１伝達手段Ｅ２５０が下降位置まで変位される。

【１０４００】

即ち、第８９実施形態では、回転部材Ｅ４４２を第１位置と第２位置との間で変位させること、即ち、変位（落下）する第１伝達手段Ｅ２５０に当接させる位置と当接させない位置との間で回転部材Ｅ４４２を変位させることで、第１伝達手段Ｅ２５０の変位（落下）態様を変更することが可能に構成される。

【１０４０１】

ここで、第８９実施形態では、第１位置と第２位置との間で変位する回転部材Ｅ４４２に上昇位置から下降位置に向かって変位（落下）する第１伝達手段Ｅ２５０を当接させることで、第１伝達手段Ｅ２５０の変位（落下）態様を変更する場合について説明したが、第１伝達手段Ｅ２５０に変位する変位部材を設け、その変位部材を第１伝達手段Ｅ２５０の落下中に第２ベースＥ２２０に当接させることでも第１伝達手段Ｅ２５０の変位（落下）態様を変更できる。

【１０４０２】

しかしながらこの場合には、第１伝達手段Ｅ２５０に変位部材を設ける分、第１伝達手段Ｅ２５０の自重が重くなる。そのため、第１伝達手段Ｅ２５０を変位（落下）途中で停止した場合の衝撃が大きくなる。従って、第１伝達手段Ｅ２５０の変位を規制する部分を大型化する必要があると共に、第１伝達手段Ｅ２５０の変位を規制した場合の衝撃音が大きくなる恐れがある。

【１０４０３】

これに対し、第８９実施形態では、上昇位置から下降位置に向けて変位（落下）する第１伝達手段Ｅ２５０に、第３ベースＥ２６０に配設した回転部材Ｅ４４２を当接させることで、第１伝達手段Ｅ２５０の変位（落下）態様を変更することができるので、回転部材Ｅ４４２を大型化する必要が無くなると共に、第１伝達手段Ｅ２５０の変位（落下）を規制した場合の衝撃音が大きくなることを抑制できる。

【１０４０４】

次いで、図５７０から図５７２を参照して、上変位手段Ｅ３００について説明する。図５７０（ａ）は、上変位手段Ｅ３００の正面図であり、図５７０（ｂ）は、上変位手段Ｅ３００の背面図であり、図５７１は、上変位手段Ｅ３００の分解斜視正面図であり、図５７２は、上変位手段Ｅ３００の分解斜視背面図である。

【１０４０５】

図５７０から図５７２に示すように、上変位手段Ｅ３００は、棒状に形成される駆動力伝達手段Ｅ３１０と、その駆動力伝達手段Ｅ３１０が接続される変位手段Ｅ３２０と、その変位手段Ｅ３２０の背面側（矢印Ｂ方向側）において正面視右側（矢印Ｒ方向側に接続される姿勢規定手段Ｅ３３０と、変位手段Ｅ３２０の背面側において正面視左側（矢印Ｌ方向側）に接続される従動装飾手段Ｅ３４０と、を主に備える。

【１０４０６】

駆動力伝達手段Ｅ３１０は、上述したベース手段Ｅ２００の第１伝達手段Ｅ２５０に伝達される駆動力を後述する変位手段Ｅ３２０に伝達するための部材であり、長手方向の一端側に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通形成される基端側被軸支部Ｅ３１１と、長手方向の他端側に前後方向に貫通形成される伝達側被軸支部Ｅ３１２と、長手方向の略中間位置における背面から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって円柱状に突出されるピン部Ｅ３１３と、を備える。

【１０４０７】
基端側被軸支部Ｅ３１１は、ベース手段Ｅ２００の第３ベースＥ２６０に形成される軸部Ｅ２６１に軸支される部位であり、軸部Ｅ２６１の外径よりも大きい内径の円形状に開口される。なお、駆動力伝達手段Ｅ３１０は、基端側被軸支部Ｅ３１１が、第３ベースＥ２６０の軸部Ｅ２６１に軸支されることで、第３ベースＥ２６０の正面側（矢印Ｆ方向側）において軸部Ｅ２６１を軸に回転可能とされる。
【１０４０８】
伝達側被軸支部Ｅ３１２は、後述する変位手段Ｅ３２０のベース体Ｅ３２１に形成される軸支部Ｅ３２１ａが挿入される部位であり、軸支部Ｅ３２１ａの外径よりも大きい内径の円形状に開口される。これにより、後述するピン部Ｅ３１３により第１伝達手段Ｅ２５０を介して駆動力伝達手段Ｅ３１０に駆動モータＥＭ１の駆動力が伝達され、駆動力伝達手段Ｅ３１０が軸部Ｅ２６１を軸に回転される際に、駆動力伝達手段Ｅ３１０を介して変位手段Ｅ３２０に駆動モータＥＭ１の駆動力を伝達できる。
【１０４０９】
なお、伝達側被軸支部Ｅ３１２は、駆動力伝達手段Ｅ３１０が第３ベースＥ２６０の軸部Ｅ２６１を軸に回転されることで、軸部Ｅ２６１を中心とする円弧の軌跡で変位され、内側に挿入されるベース体Ｅ３２１の軸支部Ｅ３２１ａを軸部Ｅ２６１を中心とする円弧の軌跡で変位させることができる。
【１０４１０】
ピン部Ｅ３１３は、ベース手段Ｅ２００の第１伝達手段Ｅ２５０に形成される摺動溝Ｅ２５２ａ（図５６０参照）に挿入される部位であり、摺動溝Ｅ２５２ａの溝幅よりも小さい直径の円柱状に形成される。また、ピン部Ｅ３１３には、背面側（矢印Ｂ方向側）の突設先端部に螺子を締結可能なネジ穴が形成される。このネジ穴に螺子を締結することで、ピン部Ｅ３１３が摺動溝Ｅ２５２ａから抜け出ることを抑制できる。
【１０４１１】
なお、駆動力伝達手段Ｅ３１０は、ピン部Ｅ３１３に第１伝達手段Ｅ２５０の摺動溝Ｅ２５２ａが接続されることにより、第１伝達手段Ｅ２５０から駆動モータＥＭ１の駆動力が伝達され第１伝達手段Ｅ２５０の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の変位に伴って第３ベースＥ２６０の軸部Ｅ２６１を軸に回転変位される。
【１０４１２】
変位手段Ｅ３２０は、その変位手段Ｅ３２０を変位させる駆動力が伝達されるベース体Ｅ３２１と、そのベース体Ｅ３２１の正面側（矢印Ｆ方向側）にベース体Ｅ３２１の正面との間に所定の空間を形成した状態で配設される第１装飾体Ｅ３２２と、その第１装飾体Ｅ３２２に対して相対変位可能に配設され、ベース体Ｅ３２１及び第１装飾体Ｅ３２２の間の空間に配設される第２装飾体Ｅ３２３と、その第２装飾体Ｅ３２３と共に変位可能な状態で第１装飾体Ｅ３２２の正面側に配設される第３装飾体Ｅ３２４と、を主に備える。
【１０４１３】
ベース体Ｅ３２１は、正面視において略菱形状の板から形成される。また、ベース体Ｅ３２１は、背面側（矢印Ｂ方向側）の３箇所から円柱状に突出する軸支部Ｅ３２１ａ～Ｅ３２１ｃと、背面側の１箇所から略角柱状に突出する変位規制部Ｅ３２１ｄと、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って長い溝状に開口される摺動溝Ｅ３２１ｅと、を備える。
【１０４１４】
また、ベース体Ｅ３２１の正面側（矢印Ｆ方向側）には、ＬＥＤからなる発光手段Ｅ３２１ｈ１を複数個備える基板Ｅ３２１ｈが配設される。これにより、ベース体Ｅ３２１の正面側に配設される第１装飾体Ｅ３２２、第２装飾体Ｅ３２３、第３装飾体Ｅ３２４を介して、正面側に光を照射することが可能に構成される。
【１０４１５】
軸支部Ｅ３２１ａは、上述した駆動力伝達手段Ｅ３１０に形成される伝達側被軸支部Ｅ３１２に挿入される部位であり、伝達側被軸支部Ｅ３１２の直径よりも小さい直径の円柱状に形成される。また、軸支部Ｅ３２１ａには、突設先端部にカラー（図示しない）を挿

通した螺子を締結可能なネジ穴が形成される。このネジ穴により、伝達側被軸支部Ｅ３１２を挿通した状態の軸支部Ｅ３２１ａの突設先端部にカラーを固定することで軸支部Ｅ３２１ａが伝達側被軸支部Ｅ３１２から抜け出ることを抑制できる。

【１０４１６】

軸支部Ｅ３２１ｂは、後述する姿勢規定手段Ｅ３３０に形成される変位側被軸支部Ｅ３３２が挿入される部位であり、変位側被軸支部Ｅ３３２の直径よりも小さい直径の円柱状に形成される。また、軸支部Ｅ３２１ｂには、突設先端部にカラー（図示しない）を挿入した螺子を締結可能なネジ穴が形成される。このネジ穴により、変位側被軸支部Ｅ３３２を挿通した状態の軸支部Ｅ３２１ｂの突設先端部にカラーを固定することで、軸支部Ｅ３２１ｂが変位側被軸支部Ｅ３３２から抜け出ることを抑制できる。

【１０４１７】

軸支部Ｅ３２１ｃは、後述する従動装飾手段Ｅ３４０の第２従動体Ｅ３４２及び第３従動体Ｅ３４３に同軸上に形成される被軸支部Ｅ３４２ｂ及び被軸支部Ｅ３４３ａに挿入される部位であり、被軸支部Ｅ３４２ｂ及び被軸支部Ｅ３４３ａの直径よりも小さい直径の円柱状に形成される。また、軸支部Ｅ３２１ｃには、突設先端部にカラー（図示しない）を挿入した螺子を締結可能なネジ穴が形成される。このネジ穴により、被軸支部Ｅ３４２ｂ及び被軸支部Ｅ３４３ａを挿通した状態の軸支部Ｅ３２１ｃの突設先端部にカラーを固定することで、軸支部Ｅ３２１ｂが被軸支部Ｅ３４２ｂ及び被軸支部Ｅ３４３ａから抜け出ることを抑制できる。

【１０４１８】

変位規制部Ｅ３２１ｄは、後述する従動装飾手段Ｅ３４０の第３従動体Ｅ３４３に当接して第３従動体Ｅ３４３の姿勢を規定する部位であり、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、軸支部Ｅ３２１ｃに軸支される第３従動体Ｅ３４３に当接可能な位置まで背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって突設される。

【１０４１９】

摺動溝Ｅ３２１ｅは、後述する第２装飾体Ｅ３２３に形成されるピン部Ｅ３２３ａが挿通される開口であり、その溝幅がピン部Ｅ３２３ａの直径よりも小さく設定される。また、摺動溝Ｅ３２１ｅに挿通されるピン部Ｅ３２３ａは、突設先端部をベース体Ｅ３２１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される姿勢規定手段Ｅ３３０の案内溝Ｅ３３３に挿入可能な長さに形成される。これにより、ベース体Ｅ３２１に対する姿勢規定手段Ｅ３３０の姿勢変化に伴って、第２装飾体Ｅ３２３をベース体Ｅ３２１に対して相対変位可能とされる。

【１０４２０】

第１装飾体Ｅ３２２は、ベース体Ｅ３２１の正面側（矢印Ｆ方向側）に装飾を形成するための部材であり、正面視におけるベース体Ｅ３２１の外形よりも若干大きく形成される板状に形成され、ベース体Ｅ３２１の背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子によりベース体Ｅ３２１の正面側に固定される。また、第１装飾体Ｅ３２２は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って長い溝状に開口される摺動溝Ｅ３２２ａと、を備える。

【１０４２１】

摺動溝Ｅ３２２ａは、後述する第３装飾体Ｅ３２４に形成されるピン部Ｅ３２４ａが挿通される開口であり、その溝幅がピン部Ｅ３２４ａの直径よりも小さく設定される。これにより、第１装飾体Ｅ３２２を介して第１装飾体Ｅ３２２の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第２装飾体Ｅ３２３に第３装飾体Ｅ３２４を固定すると共に、ベース体Ｅ３２１に対する第２装飾体Ｅ３２３の相対変位に伴って第３装飾体Ｅ３２４をベース体Ｅ３２１（ベース体Ｅ３２１に固定される第１装飾体Ｅ３２２）に対して相対変位させることができる。

【１０４２２】

第２装飾体Ｅ３２３は、ベース体Ｅ３２１及び第１装飾体Ｅ３２２の間に形成される空間に配設可能な板状に形成され、背面側（矢印Ｂ方向側）に円柱状に突出されるピン部Ｅ３２３ａを備える。

【１０４２３】
ピン部Ｅ３２３ａは、ベース体Ｅ３２１に形成される摺動溝Ｅ３２１ｅと、ベース体Ｅ３２１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される姿勢規定手段Ｅ３３０に形成される案内溝Ｅ３３３とに挿通され、それら摺動溝Ｅ３２１ｅ及び案内溝Ｅ３３３に案内される部位であり、摺動溝Ｅ３２１ｅ及び案内溝Ｅ３３３の溝幅よりも小さい直径の円柱状に形成される。第２装飾体Ｅ３２３は、後述する姿勢規定手段Ｅ３３０のベース体Ｅ３２１に対する姿勢変化に伴って、ピン部Ｅ３２３ａが摺動溝Ｅ３２１ｅ及び案内溝Ｅ３３３に案内されることで、ベース体Ｅ３２１及び第１装飾体Ｅ３２２の対向間の内側の空間と外側の空間との間で変位可能に構成される。
【１０４２４】
第３装飾体Ｅ３２４は、正面視において第１装飾体Ｅ３２２よりも小さい正面視形状の板状に形成され、背面側（矢印Ｂ方向側）の２箇所から背面側に向かって円柱状に突出されるピン部Ｅ３２４ａを備える。
【１０４２５】
ピン部Ｅ３２４ａは、第１装飾体Ｅ３２２に形成される摺動溝Ｅ３２２ａに挿通され、摺動溝Ｅ３２２ａに案内される部位であり、摺動溝Ｅ３２２ａの溝幅よりも小さい直径の円柱状に形成される。また、ピン部Ｅ３２４ａは、第２装飾体Ｅ３２３の背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通した螺子を締結可能な締結孔が形成され、摺動溝Ｅ３２２ａに挿通した状態で第２装飾体Ｅ３２３に締結固定される。これにより、第１装飾体Ｅ３２２を間に介した状態で第２装飾体Ｅ３２３と第３装飾体Ｅ３２４とを締結固定できると共に、第２装飾体Ｅ３２３のベース体Ｅ３２１に対する相対変位に伴って第３装飾体Ｅ３２４をベース体Ｅ３２１（即ち、ベース体Ｅ３２１に固定される第１装飾体Ｅ３２２ｂ）に対して相対変位させることができる。
【１０４２６】
なお、第１装飾体Ｅ３２２、第２装飾体Ｅ３２３、第３装飾体Ｅ３２４は、光を透過可能な材料から形成される透過部と、光と透過しない材料から形成される非透過部とを組み合わせて構成される。これにより、ベース体Ｅ３２１に配設される基板Ｅ３２１ｈの発光手段Ｅ３２１ｈ１から照射される光をそれら第１装飾体Ｅ３２２、第２装飾体Ｅ３２３、第３装飾体Ｅ３２４の透過部を透過させて遊技者側に出射することができる。
【１０４２７】
また、第１装飾体Ｅ３２２、第２装飾体Ｅ３２３、第３装飾体Ｅ３２４の非透過部は、光を反射可能に構成されており、上変位ユニットＥ１００の外部から変位手段Ｅ３２０に向けて照射される光の少なくとも一部を遊技者側に向けて反射可能に構成される。
【１０４２８】
姿勢規定手段Ｅ３３０は、ベース手段Ｅ２００に対する変位手段Ｅ３２０の姿勢を規定するための部材であり、長手方向の一端側に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通形成されるベース側被軸支部Ｅ３３１と、長手方向の他端側に前後方向に貫通形成される変位側被軸支部Ｅ３３２と、前後方向に貫通形成され、正面視において略Ｌ字状の開口に形成される案内溝Ｅ３３３と、背面側（矢印Ｂ方向側）から略角柱状に突出される変位規制部Ｅ３３４と、を主に備える。
【１０４２９】
ベース側被軸支部Ｅ３３１は、ベース手段Ｅ２００の第３ベースＥ２６０に形成される軸部Ｅ２６２に軸支される部位であり、軸部Ｅ２６２の外径よりも大きい内径の円形状に開口される。なお、姿勢規定手段Ｅ３３０は、ベース側被軸支部Ｅ３３１が、第３ベースＥ２６０の軸部Ｅ２６２に軸支されることで、第３ベースＥ２６０の正面側（矢印Ｆ方向側）において軸部Ｅ２６２を軸に回転可能とされる。
【１０４３０】
変位側被軸支部Ｅ３３２は、変位手段Ｅ３２０のベース体Ｅ３２１に形成される軸支部Ｅ３２１ｂが軸支される部位であり、軸支部Ｅ３２１ｂの外径よりも大きい内径の円形状で凹設される。なお、変位側被軸支部Ｅ３３２は、姿勢規定手段Ｅ３３０が第３ベースＥ

２６０の軸部Ｅ２６２を軸に回転されることで、軸部Ｅ２６２を中心とする円弧の軌跡で変位される。これにより、変位側被軸支部Ｅ３３２に挿入されるベース体Ｅ３２１の軸支部Ｅ３２１ｂが軸部Ｅ２６２を中心とする円弧の軌跡で変位される。

【１０４３１】

ここで、上記したように、変位手段Ｅ３２０のベース体Ｅ３２１は、駆動力伝達手段Ｅ３１０の伝達側被軸支部Ｅ３１２がベース体Ｅ３２１の軸支部Ｅ３２１ａに接続され、軸支部Ｅ３２１ａが第３ベースＥ２６０の軸部Ｅ２６１を中心とする円弧の軌跡で変位されるので、軸支部Ｅ３２１ａと軸支部Ｅ３２１ｂとの相対位置により変位手段Ｅ３２０の正面視における姿勢が規定される。

【１０４３２】

案内溝Ｅ３３３は、変位手段Ｅ３２０の第２装飾体Ｅ３２３のピン部Ｅ３２３ａの突設先端が挿入される溝であり、ピン部Ｅ３２３ａの直径よりも小さい溝幅で形成される。なお、第２装飾体Ｅ３２３のピン部Ｅ３２３ａは、姿勢規定手段Ｅ３３０の案内溝Ｅ３３３に挿入されることにより、変位手段Ｅ３２０のベース体Ｅ３２１に対して姿勢規定手段Ｅ３３０が変位した際に案内溝Ｅ３３３の内壁によって駆動力が伝達され、ベース体Ｅ３２１に形成される摺動溝Ｅ３２１ｅの長手方向に沿って変位される。

【１０４３３】

変位規制部Ｅ３３４は、変位手段Ｅ３２０が上昇位置から下降位置に変位された際に、変位手段Ｅ３２０が更に下降へ変位することを規制するための部位であり、変位手段Ｅ３２０が下降位置に配置される際の駆動力伝達手段Ｅ３１０の上面側に当接可能な位置に形成される。即ち、変位手段Ｅ３２０が下降位置まで変位された際には、姿勢規定手段Ｅ３３０が駆動力伝達手段Ｅ３１０の上方に載置された状態とされる（図５７３（ｂ）参照）。これにより、姿勢規定手段Ｅ３３０の回転を規制して変位手段Ｅ３２０が下降位置から下方に変位することを抑制できる。

【１０４３４】

従動装飾手段Ｅ３４０は、上述した駆動力伝達手段Ｅ３１０により変位手段Ｅ３２０がベース手段Ｅ２００に対して相対変位される際に、その相対変位により変位される部材であり、ベース手段Ｅ２００の第１ベースＥ２１０に一端が連結される第１従動体Ｅ３４１と、一端が第１従動体Ｅ３４１の他端に連結されると共に他端が変位手段Ｅ３２０に連結される第２従動体Ｅ３４２と、第２従動体Ｅ３４２の背面側（矢印Ｂ方向側）に接続され第２従動体Ｅ３４２に対して相対変位可能とされる第３従動体Ｅ３４３と、を主に備える。

【１０４３５】

第１従動体Ｅ３４１は、正面視において一方向に長い棒状に形成され、長手方向における一端側に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成される基端側被軸支部Ｅ３４１ａと、長手方向における他端側に前後方向に貫通して形成される連結側被軸支部Ｅ３４１ｂと、長手方向における略中間位置から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって円柱状に突設されるピン部Ｅ３４１ｃと、を主に備える。

【１０４３６】

基端側被軸支部Ｅ３４１ａは、ベース手段Ｅ２００の第１ベースＥ２１０に形成される軸支部Ｅ２１１に軸支される部位であり、軸支部Ｅ２１１の外径よりも大きい内径の円形状に開口される。なお、第１従動体Ｅ３４１は、基端側被軸支部Ｅ３４１ａが、第１ベースＥ２１０の軸支部Ｅ２１１に軸支されることで、第１ベースＥ２１０の正面側（矢印Ｆ方向側）において軸支部Ｅ２１１を軸に回転可能とされる。

【１０４３７】

連結側被軸支部Ｅ３４１ｂは、後述する第２従動体Ｅ３４２に形成される軸支部Ｅ３４２ａに軸支される部位であり、軸支部Ｅ３４２ａの外径よりも大きい内径の円形状に開口される。

【１０４３８】

ピン部Ｅ３４１ｃは、ベース手段Ｅ２００の第１ベースＥ２１０に形成される案内溝Ｅ

２１２に挿入される部位であり、案内溝Ｅ２１２の溝幅よりも小さい直径の円柱状に形成される。また、ピン部Ｅ３４１ｃには、突設先端部に螺子を締結可能なネジ穴が形成され、カラー（図示しない）を介した螺子がネジ穴に締結される。

【１０４３９】

第１従動体Ｅ３４１は、ピン部Ｅ３４１ｃが案内溝Ｅ２１２に挿通され第１ベースＥ２１０に配設されることで、第１ベースＥ２１０に対する回転範囲が規定されると共に、第１ベースＥ２１０に対して正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって撓むことが抑制される。

【１０４４０】

第２従動体Ｅ３４２は、正面視において一方側に長い棒状に形成され、長手方向における一端側における背面側（矢印Ｂ方向側）から円柱状に突出される軸支部Ｅ３４２ａと、長手方向の他端側に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成される被軸支部Ｅ３４２ｂと、長手方向における一端側と他端側の間の位置において背面側に円柱状に突出されるピン部Ｅ３４２ｃと、を備える。

【１０４４１】

軸支部Ｅ３４２ａは、第１従動体Ｅ３４１に形成される連結側被軸支部Ｅ３４１ｂに挿通される部位であり、連結側被軸支部Ｅ３４１ｂの内径よりも小さい直径の円柱状に形成される。第２従動体Ｅ３４２は、軸支部Ｅ３４２ａが第１従動体Ｅ３４１の連結側被軸支部Ｅ３４１ｂに挿入されることで、第１従動体Ｅ３４１に対して相対変位可能な状態で第１従動体Ｅ３４１に接続される。

【１０４４２】

被軸支部Ｅ３４２ｂは、変位手段Ｅ３２０のベース体Ｅ３２１に形成される軸支部Ｅ３２１ｃが挿入される部位であり、軸支部Ｅ３２１ｃの外径よりも大きい内径の円形状に開口される。第２従動体Ｅ３４２は、ベース体Ｅ３２１の軸支部Ｅ３２１ｃが被軸支部Ｅ３４２ｂに挿入されることで、ベース体Ｅ３２１に対して相対変位可能な状態でベース体Ｅ３２１に接続される。

【１０４４３】

ピン部Ｅ３４２ｃは、後述する第３従動体Ｅ３４３に形成される摺動溝Ｅ３４３ｂに挿入される部位であり、摺動溝Ｅ３４３ｂの溝幅よりも小さい直径の円柱状に形成される。また、ピン部Ｅ３４２ｃには、突設先端部に螺子を締結可能なネジ穴が形成され、カラー（図示しない）を介した螺子がネジ穴に締結される。

【１０４４４】

第３従動体Ｅ３４３は、第２従動体Ｅ３４２の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる位置と、重ならない位置との間で変位する部材であり、正面視において第２従動体Ｅ３４２の外形よりも小さい外形に形成される。また、第３従動体Ｅ３４３は、一端側に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通形成される被軸支部Ｅ３４３ａと、その被軸支部Ｅ３４３ａよりも他端側に溝状に開口される摺動溝Ｅ３４３ｂと、を備える。

【１０４４５】

被軸支部Ｅ３４３ａは、変位手段Ｅ３２０のベース体Ｅ３２１に形成される軸支部Ｅ３２１ａが挿入される部位であり、軸支部Ｅ３２１ａの外径よりも大きい内径の円形状に開口される。第３従動体Ｅ３４３は、ベース体Ｅ３２１の軸支部Ｅ３２１ｃが被軸支部Ｅ３４３ａに挿入されることで、ベース体Ｅ３２１に対して相対変位可能な状態でベース体Ｅ３２１に接続される。

【１０４４６】

摺動溝Ｅ３４３ｂは、第２従動体Ｅ３４２に形成されるピン部Ｅ３４２ｃが挿入される部位であり、ピン部Ｅ３４２ｃの外径よりも大きい溝幅に形成されると共に、被軸支部Ｅ３４３ａの中心を軸に湾曲した円弧形状に延設される。これにより、第３従動体Ｅ３４３は、軸支部Ｅ３２１ａを軸に第２従動体Ｅ３４２に対して相対回転可能とされる。

【１０４４７】

なお、第３従動体Ｅ３４３は、その自重により第２従動体Ｅ３４２に対して軸支部Ｅ３２１ａを軸に下方側に向けて回転して、その外縁が変位手段Ｅ３２０のベース体Ｅ３２１

に形成される変位規制部Ｅ３２１ｄに当接されることにより、第２従動体Ｅ３４２に対する相対位置が決定される。

【１０４４８】

次いで、図５７３及び図５７４を参照して、上変位手段Ｅ３００の変位態様について説明する。図５７３（ａ）及び図５７３（ｂ）は、上変位手段Ｅ３００の背面図であり、図５７４（ａ）及び図５７４（ｂ）は、上変位ユニットＥ１００の正面図である。

【１０４４９】

なお、図５７３（ａ）及び図５７４（ａ）では、第１伝達手段Ｅ２５０が中間位置に配置される場合における上変位手段Ｅ３００及び上変位ユニットＥ１００が図示され、図５７３（ｂ）及び図５７４（ｂ）では、第１伝達手段Ｅ２５０が下降位置に配置される場合における上変位手段Ｅ３００及び上変位ユニットＥ１００が図示される。また、以下の説明では、第１伝達手段Ｅ２５０における配置と同様に、図５５６に示す上変位手段Ｅ３００及び変位手段Ｅ３２０の配置を上昇位置と称し、図５７３（ａ）及び図５７４（ａ）に示す上変位手段Ｅ３００及び変位手段Ｅ３２０の配置を中間位置と称し、図５７３（ｂ）及び図５７４（ｂ）に示す上変位手段Ｅ３００及び変位手段Ｅ３２０の配置を下降位置と称して説明する。

【１０４５０】

図５７３及び図５７４に示すように、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置から下方に向かって変位され中間位置や下降位置に配置される場合には、第１伝達手段Ｅ２５０の伝達部Ｅ２５２に形成される摺動溝Ｅ２５２ａ（図５６９（ａ）参照）に挿入される駆動力伝達手段Ｅ３１０のピン部Ｅ３１３が摺動溝Ｅ２５２ａと共に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位することにより、駆動力伝達手段Ｅ３１０の回転位置が決定される。この駆動力伝達手段Ｅ３１０の回転に伴い駆動力伝達手段Ｅ３１０の伝達側被軸支部Ｅ３１２に挿入される軸支部Ｅ３２１ａが変位され、その軸支部Ｅ３２１ａを備える変位手段Ｅ３２０が対応する位置に変位される。

【１０４５１】

なお、変位手段Ｅ３２０には、上述した駆動力伝達手段Ｅ３１０だけでなく、姿勢規定手段Ｅ３３０が接続される。そのため、駆動力伝達手段Ｅ３１０の回転に伴って変位手段Ｅ３２０が変位された際に、姿勢規定手段Ｅ３３０により変位手段Ｅ３２０の姿勢が規定される。

【１０４５２】

また、変位手段Ｅ３２０の第２装飾体Ｅ３２３及び第３装飾体Ｅ３２４は、上述したように第２装飾体Ｅ３２３のピン部Ｅ３２３ａが、ベース体Ｅ３２１に形成される摺動溝Ｅ３２１ｅと、姿勢規定手段Ｅ３３０に形成される案内溝Ｅ３３３とに案内され、姿勢規定手段Ｅ３３０のベース体Ｅ３２１に対する姿勢変化に伴って、ベース体Ｅ３２１及び第１装飾体Ｅ３２２に対して相対変位される。

【１０４５３】

これにより、図５５６及び図５７４に示すように、上昇位置、中間位置、下降位置の各位置において、変位手段Ｅ３２０の正面視形状を変化させることができる。この変位手段Ｅ３２０の正面視形状の変化により、第８９実施形態では、変位する変位手段Ｅ３２０に着目させることができる。また、この場合には、変位手段Ｅ３２０の正面視形状の変化により、ベース体Ｅ３２１に配設される発光手段Ｅ３２１ｈ１から照射される光の出射態様を変更できるので、第１装飾体Ｅ３２２、第２装飾体Ｅ３２３、及び、第３装飾体Ｅ３２４を介して視認できる発光手段Ｅ３２１ｈ１の光の発光態様を変えることができる。その結果、変位する変位手段Ｅ３２０に着目させやすくできる。

【１０４５４】

また、従動装飾手段Ｅ３４０は、駆動力伝達手段Ｅ３１０の回転による変位手段Ｅ３２０の変位に伴い、変位手段Ｅ３２０と第１ベースＥ２１０とを連結する第１従動体Ｅ３４１及び第２従動体Ｅ３４２が相対変位される。

【１０４５５】

このように、上変位手段Ｅ３００は、第１伝達手段Ｅ２５０が変位されることにより、変位手段Ｅ３２０が駆動力伝達手段Ｅ３１０の回転の軌跡で変位しつつ、その変位手段Ｅ３２０の変位に伴い変位手段Ｅ３２０に接続される姿勢規定手段Ｅ３３０及び従動装飾手段Ｅ３４０の変位手段Ｅ３２０に対する姿勢が変化されることで、正面視における視認可能な範囲を拡大しつつ変位手段Ｅ３２０を下降位置に変位することができる。

【１０４５６】

また、第８９実施形態では、変位手段Ｅ３２０が駆動力伝達手段Ｅ３１０の回転の軌跡で変位するため、第１伝達手段Ｅ２５０の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の変位に伴って変位手段Ｅ３２０を上下方向に変位させるだけでなく、変位手段Ｅ３２０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）にも変位させることができる。その結果、窓部Ｐ１４ｅ内での変位手段Ｅ３２０の変位量を大きくすることができ、遊技者の興趣を高めることができる。

【１０４５７】

次いで、図５７５から図５７７を参照して、上変位ユニットＥ１００の変位態様について説明する。図５７５（ａ）及び図５７５（ｂ）は、正面視における上変位ユニットＥ１００の模式図であり、図５７６（ａ）及び図５７６（ｂ）は、正面視における上変位ユニットＥ１００の模式図であり、図５７７（ａ）及び図５７７（ｂ）は、正面視における上変位ユニットＥ１００の模式図である。

【１０４５８】

なお、図５７５から図５７７では、変位手段Ｅ３２０を外形のみ破線で図示すると共に、第３ベースＥ２６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる回転体Ｅ２３４、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、係合部材Ｅ２９０、及び、回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃの外形が破線で図示される。

【１０４５９】

また、図５７５及び図５７６では、図５７５（ａ）に示す回転体Ｅ２３４を第１回転位置に配置した状態から図５７５（ｂ）、図５７６（ａ）又は図５７６（ｂ）の順に回転体Ｅ２３４を正面視左回りに回転させた状態が図示され、図５７７では、図５７７（ａ）に示す回転体Ｅ２３４を第１回転位置に配置した状態から回転体Ｅ２３４を正面視右回りに回転させた状態が図５７７（ｂ）に図示される。なお、図５７６（ａ）では、変位手段Ｅ４４０の当接部Ｅ４４２ｃが第１位置に配置された状態が図示され、図５７６（ｂ）では、変位手段Ｅ４４０の当接部Ｅ４４２ｃが第２位置に配置された状態が図示される。

【１０４６０】

図５７５に示すように、回転体Ｅ２３４を正面視左回りに回転させた場合には、図５７５（ａ）に示す第１回転位置から図５７５（ｂ）に示す第２回転位置まで回転体Ｅ２３４を回転させる直前まで係合部材Ｅ２９０が係合位置に配置されるため、第１伝達手段Ｅ２５０の被係合部Ｅ２５１ｆに係合部材Ｅ２９０が係合して第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に規制される。そして、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に規制されることに伴い、第１伝達手段Ｅ２５０が接続される上変位手段Ｅ３００（変位手段Ｅ３２０）も同様に上昇位置に規制される。

【１０４６１】

また、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に規制されることで、第１リンクＥ２４０の変位も規制されるため、回転体Ｅ２３４を第１回転位置から第２回転位置に回転させた際に、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆを第１リンクＥ２４０の下面から離間させることができる。

【１０４６２】

次に、図５７５（ｂ）に示すように、回転体Ｅ２３４が第２回転位置まで回転されると、回転体Ｅ２３４の回転に伴い係合部材Ｅ２９０が非係合位置に変位される。これにより、上昇位置に配置された第１伝達手段Ｅ２５０の下方（矢印Ｄ方向）への移動が許容される。この場合、上述したように、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆが第１リンクＥ２４０の下面から離間され、駆動モータＥＭ１の駆動力が非伝達とされるので、第１伝達手段Ｅ２５０に接続される上変位手段Ｅ３００の自重により第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置

から下方に向けて変位（落下）させることができる。この第１伝達手段Ｅ２５０の落下に伴い第１伝達手段Ｅ２５０に接続される第１リンクＥ２４０及び上変位手段Ｅ３００（変位手段Ｅ３２０）も同様に上昇位置から下方に向けて変位（落下）させることができる。即ち、第８９実施形態では、第１伝達手段Ｅ２５０、第１リンクＥ２４０、上変位手段Ｅ３００を上昇位置から下降位置に向けて落下させることが可能に構成される。

【１０４６３】

次に、図５７６を参照して、回転体Ｅ２３４を第２回転位置まで回転させて、駆動モータＥＭ１の駆動力が第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ３００に非伝達とした後、それら第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ３００を上昇位置から下降位置に向けて変位（落下）させた場合について説明する。

【１０４６４】

図５７６（ａ）に示すように、回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃが第１位置に配置される場合には、上昇位置から変位（落下）する第１伝達手段Ｅ２５０の正面側突設部Ｅ２５１ｂの下面が当接部Ｅ４４２ｃに当接することで、第１伝達手段Ｅ２５０の落下が規制され、第１伝達手段Ｅ２５０が中間位置に配置される。よって、第１伝達手段Ｅ２５０と共に落下する第１リンクＥ２４０及び上変位手段Ｅ３００（変位手段Ｅ３２０）も中間位置に配置される。

【１０４６５】

一方、図５７６（ｂ）に示すように、回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃが第２位置に配置される場合には、上昇位置から変位（落下）する第１伝達手段Ｅ２５０の正面側突設部Ｅ２５１ｂの下面が当接部Ｅ４４２ｃに非当接とされる。これにより、第１伝達手段Ｅ２５０を下降位置まで落下させることが可能となり、第１伝達手段が下降位置に配置される。よって、第１伝達手段Ｅ２５０と共に落下する第１リンクＥ２４０及び上変位手段Ｅ３００（変位手段Ｅ３２０）も下降位置に配置される。

【１０４６６】

なお、回転部材Ｅ４４２は、第１伝達手段Ｅ２５０の変位方向（上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向））に対して直交する方向（左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に当接部Ｅ４４２ｃを変位可能に構成されるので、第１伝達手段Ｅ２５０を下降位置まで変位（落下）させる場合には、第１伝達手段Ｅ２５０の変位（落下）を回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃで規制（停止）することなく上昇位置から下降位置まで変位させるだけでなく、図５７６（ａ）に示すように中間位置で停止させてから、回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃを第１位置から第２位置に変位させて、再度、第１伝達手段Ｅ２５０を変位（落下）させて下降位置まで変位（落下）させても良い。

【１０４６７】

また、第８９実施形態では、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ３００を持ち上げるための当接部Ｅ２３４ｆを有する回転体Ｅ２３４が円板状に形成されるため、当接部Ｅ２３４ｆを第１リンクＥ２４０から離間させて、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ３００を上昇位置から下降位置に向かって変位（落下）させた場合に、回転体Ｅ２３４の正面側の領域を第１リンクＥ２４０に変位させることができる。

【１０４６８】

これにより、当接部Ｅ２３４ｆを第１リンクＥ２４０から離間した状態において、第１リンクが前後に揺れ動くことを回転体Ｅ２３４により抑制できる。その結果、第１リンクＥ２４０と当接部Ｅ２３４ｆとの当接が困難になったり、第１リンクＥ２４０と第１伝達手段Ｅ２５０との接続が解除されたりする不具合を抑制できる。

【１０４６９】

以上、上記したように第８９実施形態における上変位ユニットＥ１００では、回転体Ｅ２３４を回転させることで、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ３００を上昇位置に持ち上げると共に、それら第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ３００を上昇位置に持ち上げた後、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３

４ｆを第１リンクＥ２４０から離間させることで、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ３００を自重で変位（落下）させることができる。

【１０４７０】

従って、第８９実施形態における上変位ユニットＥ１００では、窓部Ｐ１４ｅを介して視認される変位手段Ｅ３２０が上昇位置から下降位置に向かって変位（落下）される態様（速度）と、変位手段Ｅ３２０が下降位置側から上昇位置に向かって変位される（持ち上げられる）態様とを、異なる態様にすることができる。その結果、変位手段Ｅ３２０の変位による演出効果を向上できる。

【１０４７１】

また、変位手段Ｅ３２０が上昇位置から下降位置に向かって変位する態様を自重による落下を利用する態様にできるので、変位手段Ｅ３２０の動作を素早くして、その変位手段Ｅ３２０の動作に特徴を持たせることができる。

【１０４７２】

しかしながら、変位手段Ｅ３２０が上昇位置へ向かう態様と、変位手段Ｅ３２０が下降位置に向かう態様とを異なる態様にした（即ち、変位手段Ｅ３２０が上昇位置と下降位置との往復動作を繰り返す）だけでは、その変位手段Ｅ３２０を繰り返し視認した遊技者にとっては、自重による落下と駆動モータＥＭ１による上昇とを繰り返すのみであり、演出が単調になるという問題点がある。

【１０４７３】

これに対し、第８９実施形態における上変位ユニットＥ１００では、回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃにより第１伝達手段Ｅ２５０の変位（落下）を規制または許容することで、第１伝達手段Ｅ２５０に接続される第１リンクＥ２４０及び上変位手段Ｅ３００（変位手段Ｅ３２０）の変位（落下）の距離を変更することができる。

【１０４７４】

即ち、回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃの影響を受ける（当接する）態様（第１状態と）、回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃの影響を受けず（当接せず）に変位（落下）される態様（第２状態）とを構成でき、第１伝達手段Ｅ２５０，第１リンクＥ２４０及び上変位手段Ｅ３００（変位手段Ｅ３２０）の変位態様を切り替えることができる。よって、第１伝達手段Ｅ２５０，第１リンクＥ２４０及び上変位手段Ｅ３００（変位手段Ｅ３２０）の変位（落下）の態様を複数とできる。これにより、窓部Ｐ１４ｅを介して視認される変位手段Ｅ３２０の上昇位置から下降位置に向かって変位（落下）する態様を変更する（即ち、複数の変位態様を持たす）ことができるので、その分、変位手段Ｅ３２０の演出に変化を与えられる。その結果、変位手段Ｅ３２０の演出が単調になることを抑制できる。

【１０４７５】

また、第８９実施形態における上変位ユニットＥ１００では、変位手段Ｅ３２０に配設される発光手段Ｅ３２１ｈ１の発光態様が、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ３００が上昇位置から下降位置に向かって変位（落下）する態様と、下降位置から上昇位置に向かって変位する（持ち上げられる）態様とが異なって形成される。詳しく説明すると、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ３００が上昇位置から下降位置に向かって変位（落下）する場合には、発光手段Ｅ３２１ｈ１から光が照射される一方、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ３００が下降位置から上昇位置に向かって変位する（持ち上げられる）場合には、発光手段Ｅ３２１ｈ１から光が非照射とされる。

【１０４７６】

これにより、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ３００が落下する態様を遊技者に注目させることができると共に、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ３００が持ち上げられる態様が遊技者に注目されることを抑制できる。これにより、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ３００の上昇位置からの変位（落下）態様の変化に注視させやすくできる。

【１０４７７】
なお、発光手段Ｅ３２１ｈ１から光を照射する場合には、変位手段Ｅ３２０から出射される光の色を変更することで大当たりの期待度を変更して、変位手段Ｅ３２０に注目させやすくしても良い。また、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ３００が上昇位置から中間位置まで変位（落下）する態様と、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ３００を上昇位置から下降位置まで変位（落下）とで、変位手段Ｅ３２０から出射される光の色を変更しても良い。
【１０４７８】
次いで、図５７７を参照して、回転体Ｅ２３４を第１回転位置から正面視において右回りに回転させた場合について説明する。図５７７に示すように、回転体Ｅ２３４を第１回転位置から正面視において右回りに回転させた場合には、第１回転位置から回転し始めた直後に係合部材Ｅ２９０を係合位置から非係合位置に変位させることができる。これにより、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆが第１リンクＥ２４０から離間し始める前に第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置から下降位置に向けて変位させることができる。そのため、回転体Ｅ２３４を第１回転位置から正面視において右回りに回転させた場合には、第１リンクＥ２４０の下面を回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆに当接させた状態で変位させることができる。その結果、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆの変位に伴って、第１伝達手段Ｅ２５０、第１リンクＥ２４０及び上変位手段Ｅ３００を上昇位置から下降位置に向けて変位させることができる。
【１０４７９】
従って、第８９実施形態における上変位ユニットＥ１００では、回転体Ｅ２３４の回転方向を変更することで、上変位手段Ｅ３００（変位手段Ｅ３２０）の変位（落下）態様を変更することができる。その結果、上変位手段Ｅ３００の変位による演出効果を向上できる。
【１０４８０】
なお、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ３００が上昇位置から中間位置または下降位置に変位（落下）した後、即ち、図５７６（ａ）または図５７６（ｂ）に示す位置に回転体Ｅ２３４が回転された後は、回転体Ｅ２３４を正面視において左回りに回転させて第１回転位置まで回転させることで、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆを第１リンクＥ２４０の下面に当接させて第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置に向けて持ち上げて（変位させて）、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ３００を上昇位置に配置することができる。
【１０４８１】
この場合、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆが第１リンクＥ２４０の下面から離れた状態から当接部Ｅ２３４ｆを変位させて、第１リンクＥ２４０の下面に勢いをつけた状態で当接部Ｅ２３４ｆを当接させることができるので、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、上変位手段Ｅ３００に駆動モータＥＭ１の駆動力を付与しやすくできる。
【１０４８２】
また、正面視において、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆの変位方向に対する第１リンクＥ２４０の下面の延設方向は、第１リンクＥ２４０が上昇位置に持ち上げられるほど平行とされる。これにより、第１リンクＥ２４０の下面に当接部Ｅ２３４ｆを当接させた変位初期では、当接部Ｅ２３４ｆを変位する勢いで第１リンクＥ２４０を変位しやすくして、変位終端では、第１リンクＥ２４０から作用する第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ３００の荷重により当接部Ｅ２３４ｆの変位が停止してしまうことを抑制できる。
【１０４８３】
次いで、図５７８から図５８１を参照して、下変位ユニットＥ５００について説明する。図５７８は、下変位ユニットＥ５００の正面図であり、図５７９は、下変位ユニットＥ５００の分解正面斜視図であり、図５８０は、下変位ユニットＥ５００の分解背面斜視図であり、図５８１は、下変位ユニットＥ５００の正面図である。なお、図５７８では、回転手段Ｅ５５０が退避位置に配置された状態が図示され、図５８１では、回転手段Ｅ５５

０が張出位置に配置された状態が図示される。
【１０４８４】
図５７８から図５８１に示すように、下変位ユニットＥ５００は、背面ケースＤ３００の底壁部Ｄ３０１（図５５５参照）に配設されるベース手段Ｅ５１０と、そのベース手段Ｅ５１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される駆動手段Ｅ５２０と、その駆動手段Ｅ５２０の一部に接続される変位手段Ｅ５３０と、その変位手段Ｅ５３０の背面およびベース手段Ｅ５１０の正面に接続される従動手段Ｅ５４０と、変位手段Ｅ５３０の正面側に配設される回転手段Ｅ５５０と、を主に備える。
【１０４８５】
ベース手段Ｅ５１０は、正面視略Ｌ字状に形成され、背面ケースＤ３００の底壁部Ｄ３０１（図５５５参照）の正面に固定される第１ベースＥ５１１と、その第１ベースＥ５１１の正面側（矢印Ｆ方向側）に第１ベースＥ５１１との間に所定の間隔を隔てた状態で配設される第２ベースＥ５１２及び第３ベースＥ５１３と、を備える。
【１０４８６】
第１ベースＥ５１１は、後述する駆動手段Ｅ５２０、変位手段Ｅ５３０、及び、従動手段Ｅ５４０が変位可能な状態で配設されるベースであり、それら駆動手段Ｅ５２０、変位手段Ｅ５３０、及び、従動手段Ｅ５４０を軸支するために正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって円柱状に突設される軸部Ｅ５１１ａ～Ｅ５１１ｅと、溝状に開口される案内溝Ｅ５１１ｆとを備える。
【１０４８７】
第２ベースＥ５１２は、駆動手段Ｅ５２０に駆動力を付与する駆動モータＥＭ２が配設される板部材であり、駆動モータＥＭ２の軸部を挿通させるための貫通孔Ｅ５１２ａを備える。
【１０４８８】
第３ベースＥ５１３は、第１ベースＥ５１１の正面から突設され変位手段Ｅ５３０を支持する軸部Ｅ５１１ｄの突設先端部を挿入するための凹部Ｅ５１３ａを背面側（矢印Ｂ方向側）に備える。これにより、軸部Ｅ５１１ｄに変位手段Ｅ５３０が支持された状態で第３ベースＥ５１３を第１ベースＥ５１１に配設することで、軸部Ｅ５１１ｄが第１ベースＥ５１１側の基端から変位手段Ｅ５３０の重さで折れ曲がることを抑制できる。
【１０４８９】
駆動手段Ｅ５２０は、第２ベースＥ５１２に配設される駆動モータＥＭ２の駆動力を伝達するためのギヤ列であり、駆動モータＥＭ２の軸に固定される駆動ギヤＥ５２１と、その駆動ギヤＥ５２１に歯合する従動ギヤＥ５２２と、その従動ギヤＥ５２２に歯合する従動ギヤＥ５２３と、その従動ギヤＥ５２３に歯合する歯を有し従動ギヤＥ５２３の回転に伴って変位手段Ｅ５３０に駆動力を伝達可能な回転体Ｅ５２４と、を備える。
【１０４９０】
なお、従動ギヤＥ５２２は、第１ベースＥ５１１の軸部Ｅ５１１ａに軸支され、従動ギヤＥ５２３は、第１ベースＥ５１１の軸部Ｅ５１１ｂに軸支され、回転体Ｅ５２４は、第１ベースＥ５１１の軸部Ｅ５１１ｃに軸支され、それぞれの軸部Ｅ５１１ａ～Ｅ５１１ｃを軸に回転可能とされる。
【１０４９１】
また、回転体Ｅ５２４は、回転軸（軸部Ｅ５１１ｃが挿入される部分）とは径方向に異なる位置に正面側（矢印Ｆ方向側）に円柱状に突設されるピン部Ｅ５２４ａを備え、そのピン部Ｅ５２４ａが変位手段Ｅ５３０の背面側（矢印Ｂ方向側）に接続される。これにより、回転体Ｅ５２４は、軸部Ｅ５１１ｃを軸に回転した際にピン部Ｅ５２４ａを変位させることにより、変位手段Ｅ５３０に駆動モータＥＭ２の駆動力を伝達して、変位手段Ｅ５３０を変位させることができる。
【１０４９２】
変位手段Ｅ５３０は、円形状に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口される被軸支部Ｅ５３１と、背面側（矢印Ｂ方向側）に溝状に凹設される案内溝Ｅ５３２と、後述する回転手

段Ｅ５５０を回転可能な状態で軸支する軸部Ｅ５３３と、背面側の２箇所から円柱状に突出され後述する第２リンク体Ｅ５４２が接続される軸部Ｅ５３４，Ｅ５３５と、を主に備える。

【１０４９３】

変位手段Ｅ５３０は、被軸支部Ｅ５３１が第１ベースＥ５１１の軸部Ｅ５１１ｄに軸支されると共に、案内溝Ｅ５３２に回転体Ｅ５２４のピン部Ｅ５２４ａが挿入される。これにより、変位手段Ｅ５３０は、駆動モータＥＭ２の駆動力により回転体Ｅ５２４が変位されることで、ピン部Ｅ５２４ａから駆動力が伝達されて軸部Ｅ５１１ｄを軸に回転される。

【１０４９４】

この変位手段Ｅ５３０の変位により、第８９実施形態における下変位ユニットＥ５００では、変位手段Ｅ５３０に配設される回転手段Ｅ５５０を図５８１に示す張出位置と、図５７８に示す退避位置との間で変位させることができる。

【１０４９５】

なお、変位手段Ｅ５３０に配設される回転手段Ｅ５５０は、変位手段Ｅ５３０に配設される駆動モータ（図示しない）により、軸部Ｅ５３３を軸に回転可能に構成される。よって、下変位ユニットＥ５００は、回転手段Ｅ５５０を張出位置に配置した状態で回転手段Ｅ５５０を回転させることで、回転手段Ｅ５５０に遊技者の視線を注目させることができる。

【１０４９６】

また、回転手段Ｅ５５０には、複数のＬＥＤを有する基板が配設されており、ＬＥＤから出射される光を回転手段Ｅ５５０の透過領域を介して正面側に出射可能とされる。下変位ユニットＥ５００では、回転手段Ｅ５５０から光を出射しつつ回転手段Ｅ５５０を回転させることで、回転手段Ｅ５５０に着目されることが可能とされる。

【１０４９７】

従動手段Ｅ５４０は、一端が第１ベースＥ５１１の正面側（矢印Ｆ方向側）に接続される第１リンク体Ｅ５４１と、その第１リンク体Ｅ５４１の他端に一端が接続され他端が変位手段Ｅ５３０の背面側（矢印Ｂ方向側）に接続される第２リンク体Ｅ５４２とを備える。

【１０４９８】

第１リンク体Ｅ５４１は、一端側に円形状に開口され第１ベースＥ５１１の軸部Ｅ５１１ｅが挿入される被軸支部Ｅ５４１ａと、他端側の正面に円柱状に突設される連結軸Ｅ５４１ｂと、一端と他端との略中間位置から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって円柱状に突設され第１ベースＥ５１１の案内溝Ｅ５１１ｆに挿入される被案内部Ｅ５４１ｃと、を備える。

【１０４９９】

第２リンク体Ｅ５４２は、一端側に円形状に開口され第１リンク体Ｅ５４１の連結軸Ｅ５４１ｂが挿入される被軸支部Ｅ５４２ａと、他端側に円形状に開口され変位手段Ｅ５３０の軸部Ｅ５３４が挿入される被軸支部Ｅ５４２ｂと、その被軸支部Ｅ５４２ｂを中心とする湾曲した溝状に開口され、変位手段Ｅ５３０の軸部Ｅ５３５が挿入される案内溝Ｅ５４２ｃと、を備える。

【１０５００】

よって、下変位ユニットＥ５００は、従動手段Ｅ５４０により第１ベースＥ５１１に軸支される被軸支部Ｅ５３１と異なる位置で変位手段Ｅ５３０を第１ベースＥ５１１に接続できるので、変位手段Ｅ５３０が張出位置に配置される際に第１ベースＥ５１１に対して変位手段Ｅ５３０が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に揺れ動くことを従動手段Ｅ５４０により抑制できる。従って、張出位置において回転手段Ｅ５５０を回転させた際に、変位手段Ｅ５３０と共に回転手段Ｅ５５０が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に揺れ動くことを抑制できる。その結果、回転手段Ｅ５５０の回転を遊技者に視認させやすくできる。

【１０５０１】

次いで、図５８２を参照し、第９０実施形態における第２球流下構造体Ａ２６００について説明する。上記第８９実施形態では、傾斜突部Ａ６１８が左右方向に長い突部として形成される場合を説明したが、第９０実施形態では、球の流下経路に沿って上流側突部Ａ２６１８が形成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１０５０２】

図５８２は、図５４７の範囲Ｂ１６ｍに対応する範囲における第９０実施形態における第２球流下構造体Ａ２６００の部分正面図である。

【１０５０３】

第２球流下構造体Ａ２６００は、球の流下経路に対応して湾曲（屈曲）しながら延びる形状で前方側に突出形成される突条としての上流側突部Ａ２６１８を備えており、代わりに傾斜突部Ａ６１８の形成が省略される。

【１０５０４】

上流側突部Ａ２６１８は、減速突部Ａ６１６と同程度の長さで前方へ向けて突設されており、予め球を開閉板Ａ６４１から離れる側（前方側）に寄せることができる。

【１０５０５】

即ち、落下する球に衝突して（せき止めて）方向を変えるのではなく、流下する球を開閉板Ａ６４１と衝突しない側（前方側）に位置させながら案内可能に構成される。これにより、球との衝突を抑制できるので、衝突により上流側突部Ａ２６１８が破損することを回避し易くすることができ、耐久性を向上させることができる。

【１０５０６】

開閉板Ａ６４１の対向部Ａ６４１ｃの全体を覆う（上面視で漏れなく重なる）形状ではないが、球が開閉板Ａ６４１と衝突することを避けるために必要十分な位置において突設形成されている。そのため、開閉板Ａ６４１を覆っていない位置（例えば、上流側突部Ａ２６１８と減速突部Ａ６１６との左右間位置）において上面視または斜め下方向視で、閉鎖状態（退避状態）において開閉板Ａ６４１の前端部（第１前後位置ＡＹ１１（図５５１参照）よりも前方側に張り出す部位）が露出されるため、開閉板Ａ６４１の視認性を向上させることができる。

【１０５０７】

次いで、図５８３を参照し、第９１実施形態における第２球流下構造体Ａ３６００について説明する。上記第８９実施形態では、傾斜突部Ａ６１８が形状固定の突部として形成される場合を説明したが、第９１実施形態では、当接張出部Ａ３６１８が弾性変形により球を跳ね飛ばす態様で構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１０５０８】

図５８３（ａ）及び図５８３（ｂ）は、図５４７のＢ１４ａ－Ｂ１４ａ線に対応する線における第９１実施形態における第２球流下構造体Ａ３６００の部分断面図である。図５８３（ａ）では、電動役物Ａ６４０ａが閉鎖状態（退避状態）とされ、図５８３（ｂ）では、電動役物Ａ６４０ａが開放状態（張出状態）とされる。

【１０５０９】

第２球流下構造体Ａ３６００は、当接した球からの荷重により弾性変形可能に構成され弾性変形（弾性回復）に基づく荷重により球を変位させる当接張出部Ａ３６１８を備えており、代わりに傾斜突部Ａ６１８の形成が省略される。

【１０５１０】

当接張出部Ａ３６１８は、金属材料の薄板から形成されており、ベース部材Ａ６１０と受入箱部材Ａ６４５との間に挟み込まれる態様で支持される板状基部Ａ３６１８ａと、その板状基部Ａ３６１８ａの下端部から折曲され断面形状が逆Ｕ字のハーフパイプ形状とされる湾曲当接部Ａ３６１８ｂとを備え、略「ｈ」形状の断面で形成される。

【１０５１１】

当接張出部Ａ３６１８は、弾性変形されていない状態（図５８３（ｂ）参照）において

傾斜突部Ａ６１８と同様の張出態様で前方へ向けて張り出している。金属材料から形成される別部材として構成することで、耐久性を向上させることができる。

【１０５１２】

また、当接張出部Ａ３６１８は、ベース部材Ａ６１０に対して着脱可能に構成されていることから、破損した場合には当接張出部Ａ３６１８のみを交換すれば足りるので、敢えて金属材料ではなく、光透過性（又は非透過性の）樹脂材料から構成するようにしても良い。この場合、材料コストを抑えることができる。

【１０５１３】

また、当接張出部Ａ３６１８の材料を、弾性係数が極端に高い材料（例えば、ゴム状の材料）を選定しても良い。この場合、球の前方への反発度合を高くすることができるので、当接張出部Ａ３６１８に必要とされる張出代を短くすることができ、開閉板Ａ６４１の先端よりも後方側までの張出で足りるようにできる。

【１０５１４】

当接張出部Ａ３６１８は、閉鎖状態（退避状態）の開閉板Ａ６４１の手前側を球が落下する場合において、その球との当接により球から受ける荷重により湾曲当接部Ａ３６１８ｂが弾性変形された場合に、開閉板Ａ６４１に球が当接しない状態（図５８３（ａ）参照）の間に湾曲当接部Ａ３６１８ｂが弾性回復し、その弾性回復により球が開閉板Ａ６４１から離れる側（前方側）に変位される。これにより、球が開閉板Ａ６４１と衝突する事態を回避することができる。

【１０５１５】

即ち、湾曲当接部Ａ３６１８ｂの弾性回復時の弾性力により球を前方側に変位させる（跳ねさせる）ことで、開閉板Ａ６４１と球との当接を回避するものである。図５８３（ａ）に図示されるように、湾曲当接部Ａ３６１８ｂの前方への張出先端部が、開閉板Ａ６４１の張出先端部よりも後方側に位置する場合を許容している。これにより、傾斜突部Ａ６１８のように形状が固定される場合に比較して、球の流下経路の経路幅（前後幅）を状況に応じて拡大させることができる分、球の流下抵抗が増大され難くすることができる。

【１０５１６】

湾曲当接部Ａ３６１８ｂに当接した後で開閉板Ａ６４１から離れる側（前方側）に変位された球は板状本体Ａ６３１の後側面に衝突するため、何ら対策なしでは、板状本体Ａ６３１で跳ね返った球が開閉板Ａ６４１に衝突する可能性がある。これに対し、本実施形態では、開閉板Ａ６４１の前方位置において板状本体Ａ６３１に球のバウンドに影響を与える補助シートＡ３６３８が貼り付けられている。

【１０５１７】

補助シートＡ３６３８は、球のバウンドを抑制し、且つ、滑りを良くする材質のものが選定される。これにより、板状本体Ａ６３１に衝突した球の跳ね返り量を低減することで、球が開閉板Ａ６４１と衝突する事態を回避し易くすることができると共に、開閉板Ａ６４１の先端側と補助シートＡ３６３８との間に球が挟まった場合であっても、球の滑り抵抗を低減することにより、対向部Ａ６４１ｃの傾斜に沿って球を下流側に流すことができ、球が開閉板Ａ６４１と補助シートＡ３６３８との間に挟まって停留する事態を避けることができる。

【１０５１８】

次いで、図５８４を参照し、第９２実施形態における第２球流下構造体Ａ４６００について説明する。上記第８９実施形態では、傾斜突部Ａ６１８の右端側の上下厚さが左右に亘って一定とされる場合を説明したが、第９２実施形態では、傾斜突部Ａ６１８の右端側において上下方向の厚みが拡大される領域を有する態様で構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１０５１９】

図５８４は、図５４７の範囲Ｂ１６ｍに対応する範囲における第９２実施形態における第２球流下構造体Ａ４６００の部分正面図である。第２球流下構造体Ａ４６００は、上述した傾斜突部Ａ６１８と同様に形状維持範囲Ａ６１８ａ及び形状変化範囲Ａ６１８ｂを有

する傾斜突部Ａ４６１８を備える。
【１０５２０】
傾斜突部Ａ４６１８は、形状維持範囲Ａ６１８ａと、形状変化範囲Ａ６１８ｂとを備え、傾斜突部Ａ４６１８が延びる方向であって開閉板Ａ６４１の上面に対して平行な方向に対して垂直な方向に向けて形状維持範囲Ａ６１８ａの右端部上面から上方へ向けて突設される案内突部Ａ４６１８ｃを備える。
【１０５２１】
即ち、傾斜突部Ａ４６１８は、正面視略Ｌ字形状で形成される。これにより、球の傾斜突部Ａ４６１８に対する到達位置が、球同士の衝突等によりイレギュラーな力が作用して右方側（形状維持範囲Ａ６１８ａ側）寄りとなる位置を流下する場合において、その球に対向する側（右側）から案内突部Ａ４６１８ｃが当接し、球に対して、開閉板Ａ６４１により球が案内される側向き（左側向き）の荷重を付与することで、球に対して左側向きの速度を生じさせることができ、開閉板Ａ６４１が開放状態（張出状態）とされる場合において、開閉板Ａ６４１が球を案内する側（左方側）への球の流下（移動）を円滑とすることができる。
【１０５２２】
これにより、球が傾斜突部Ａ４６１８に当接した後で右側に逸れて開閉板Ａ６４１の右方に脱落することで入賞検出センサＡＳＣ６４に案内されない状況が生じることを防止し、開閉板Ａ６４１が開放状態（張出状態）とされる場合における球の入賞検出センサＡＳＣ６４への案内を良好とさせることができる。
【１０５２３】
即ち、開閉板Ａ６４１の上面の傾斜に頼らずとも、案内突部Ａ４６１８ｃとの当接により球に対して左側向きの速度を与えることができるので、開閉板Ａ６４１に当接して初めて開閉板Ａ６４１の上面の傾斜により左側向きの速度が与えられる場合に比較して、開閉板Ａ６４１の上面における球の流下を滑らかとすることができ、開閉板Ａ６４１上で球が滞留したり停留したりする事態を避け易い。
【１０５２４】
また、閉鎖状態（退避状態）の開閉板Ａ６４１と板状本体Ａ６３１との間に球が位置する場合に開閉板Ａ６４１が開放状態（張出状態）へ向けて変位され、球が開閉板Ａ６４１と板状本体Ａ６３１との間に挟まれる場合においても、挟まれる場合における球の位置が案内突部Ａ４６１８ｃによって左側寄りの位置とされることにより、開閉板Ａ６４１と板状本体Ａ６３１との間隔が長い側で球が挟まれるようにすることができる。これにより、球を挟んだ際に開閉板Ａ６４１が受ける力（電動役物Ａ６４０ａの内部構成が受ける負荷）を低減させることができ、開閉板Ａ６４１（電動役物Ａ６４０ａ）の耐久性を向上させることができる。
【１０５２５】
なお、上述したように案内突部Ａ４６１８ｃは入賞検出センサＡＳＣ６４側への球の流下速度を加速させるように機能するが、場合によってはこれが過度に作用して、球の勢いがつきすぎて、入賞検出センサＡＳＣ６４への誤入球が頻発する状況が生じる可能性がある。この対策として、開閉板Ａ６４１の開放状態（張出状態）における姿勢を変化可能に構成しても良い。
【１０５２６】
例えば、閉鎖状態（退避状態）における姿勢に比較して、開放状態（張出状態）における姿勢を、起き上がり方向に角度を付けた姿勢（動作先端側が傾斜突部Ａ４６１８側に接近する側に変位された姿勢であって、カバー部材Ａ６３０からは離間される側に変位された姿勢）とすることが可能に構成しても良い。
【１０５２７】
この場合、開放状態（張出状態）の開閉板Ａ６４１の上面に乗った球は、開閉板Ａ６４１の傾斜により後方側へ寄せられることになるので、球はベース部材Ａ６１０の前側面に擦れながら開閉板Ａ６４１上を転動され、減速突部Ａ６１６による減速の程度が大きくさ

れる。これにより、球の流下速度が過大とあることを防止することができる。
【１０５２８】
次いで、図５８５から図５８７を参照し、第９３実施形態における第２球流下構造体Ａ５６００について説明する。上記第８９実施形態では、傾斜突部Ａ６１８が単体で傾斜面を構成される場合を説明したが、第９３実施形態では、傾斜突部Ａ５６１８と開閉板Ａ５６４１が共同で傾斜面を構成する場合がある態様で構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１０５２９】
図５８５は、図５４７の範囲Ｂ１６ｍに対応する範囲における第９３実施形態における第２球流下構造体Ａ５６００の部分正面図である。
【１０５３０】
第２球流下構造体Ａ５６００は、上述した傾斜突部Ａ６１８と同様に形状維持範囲Ａ６１８ａを有すると共に形状変化範囲Ａ６１８ｂの一部を有する傾斜突部Ａ５６１８を備え、電動役物Ａ６４０ａが、上述した開閉板Ａ６４１の代わりに、開閉板Ａ６４１の構成に加えて転動面形成部Ａ６４１ａの上面から転動面形成部Ａ６４１ａの上面に対して垂直な方向に突設される対応突部Ａ５６４１ｍを有する開閉板Ａ５６４１を備える。
【１０５３１】
図５８６及び図５８７は、図５８５のＢ１７ｍ－Ｂ１７ｍ線における第２球流下構造体Ａ５６００の部分断面図である。図５８６では、電動役物Ａ６４０ａの閉鎖状態（退避状態）が図示され、図５８７では、電動役物Ａ６４０ａの開放状態（張出状態）が図示される。
【１０５３２】
図５８７に図示されるように、傾斜突部Ａ５６１８は、形状変化範囲Ａ６１８ｂにおいて前方から凹設形成される凹設部Ａ５６１８ｃを備えており、図５８６に図示されるように、対応突部Ａ５６４１ｍが凹設部Ａ５６１８ｃに受け入れられるように構成されている。
【１０５３３】
対応突部Ａ５６４１ｍが凹設部Ａ５６１８ｃに受け入れられた状態において、傾斜突部Ａ６１８で上述した形状変化範囲Ａ６１８ｂの前側部の傾斜と同様の形状となるように対応突部Ａ５６４１ｍの前側部の形状が設計される。
【１０５３４】
即ち、電動役物Ａ６４０ａの閉鎖状態（退避状態）では、形状変化範囲Ａ６１８ｂと対応突部Ａ５６４１ｍの前側部とが同様の傾斜を構成する。
【１０５３５】
対応突部Ａ５６４１ｍは、傾斜突部Ａ５６１８に当接する直前における球の中心位置（図５５３紙面上の位置）よりも左側において形成されている。これにより、傾斜突部Ａ５６１８に対する当接開始時においては、球は傾斜突部Ａ５６１８と当接し、対応突部Ａ５６４１ｍとは当接しない。これにより、対応突部Ａ５６４１ｍが球との衝突により破損する事態を回避することができる。
【１０５３６】
電動役物Ａ６４０ａの開放状態（張出状態）では、開閉板Ａ５６４１の上面において球を蛇行させる経路において、対応突部Ａ５６４１ｍの後側部と当接した球の流下位置が後ろ側に寄せられる一方で、凹設部Ａ５６１８ｃが形成されていることにより球の流下経路の前後幅が確保される。
【１０５３７】
これにより、右側の減速突部Ａ６１６との当接の時点から、減速突部Ａ６１６の前後幅ＡＷ０２（突設長さ全体）を球との当接が生じる範囲とすることができる。これにより、傾斜突部Ａ６１８として上述したように傾斜突部Ａ６１８が形状変化しない（傾斜突部Ａ５６１８のように開閉板Ａ５６４１の動作に基づいて球と当接可能な箇所（前面側）の形状が変化するようなことはない）場合に比較して、減速突部Ａ６１６による球の減速の作

用を増大させることができる。
【１０５３８】
なお、説明の便宜上、対応突部Ａ５６４１ｍの大きさを凹設部Ａ５６１８ｃに調度おさまる形状で構成したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、凹設部Ａ５６１８ｃが対応突部Ａ５６４１ｍに比較して十分に大きな形状で構成されても良い。即ち、凹設部Ａ５６１８ｃと対応突部Ａ５６４１ｍとの間に十分な隙間が形成されるようにしても良い。この場合、開閉板Ａ５６４１が開放状態（張出状態）から閉鎖状態（退避状態）へ変化される際に対応突部Ａ５６４１ｍと凹設部Ａ５６１８ｃとの間で摩擦が生じて開閉板Ａ５６４１の動作が減速されることを回避することができる。
【１０５３９】
また、開閉板Ａ５６４１が閉鎖状態（退避状態）から開放状態（張出状態）へ変化される場合の動作速度についても、同じことが言える。即ち、対応突部Ａ５６４１ｍが凹設部Ａ５６１８ｃの形成されるベース部材Ａ６１０から離間する側へ動作する場合の動作速度を高速化させることができ、開閉板Ａ５６４１の開放動作をスムーズにさせることができる。
【１０５４０】
次いで、図５８８を参照し、第９４実施形態における第２球流下構造体Ａ６６００について説明する。上記第８９実施形態では、傾斜突部Ａ６１８が片面側のみに構成される場合を説明したが、第９４実施形態では、傾斜突部Ａ６１８及び下側傾斜突部Ａ６６１８が上下両面側に配設される態様で構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１０５４１】
図５８８は、図５４７の範囲Ｂ１６ｍに対応する範囲における第９４実施形態における第２球流下構造体Ａ６６００の部分正面図である。
【１０５４２】
第２球流下構造体Ａ６６００は、傾斜突部Ａ６１８を備えると共に、その傾斜突部Ａ６１８の形状を上下反転させた下側傾斜突部Ａ６６１８が開閉板Ａ６４１を挟んで傾斜突部Ａ６１８の反対側に形成される。
【１０５４３】
下側傾斜突部Ａ６６１８は、傾斜突部Ａ６１８の下面が案内開口Ａ６１４の上縁下面と面一となる形状であることに対応し、上面が案内開口Ａ６１４の下縁上面と面一となる形状とされる。
【１０５４４】
下側傾斜突部Ａ６６１８が形成されていることで、開閉板Ａ６４１の下方に流れた球が跳ね戻った場合であっても、閉鎖状態（退避状態）における開閉板Ａ６４１の前端部は下側傾斜突部Ａ６６１８により下側から覆われているため、球が下方側から衝突することを防止することができる。即ち、跳ね戻った球が開閉板Ａ６４１の高さまで到達し得る場合であっても、球が開閉板Ａ６４１に衝突する事態の発生を回避することができる。
【１０５４５】
従って、跳ね戻った球が開閉板Ａ６４１に到達しないように余裕をもって流下領域の大きさ（前後幅や上下幅）を設計する場合に比較して、開閉板Ａ６４１の下側における流下領域の上下幅を抑制することができるため、結果として、開閉板Ａ６４１（電動役物Ａ６４０ａ）の配置を下方に寄せることができ、配置の自由度を向上させることができる。
【１０５４６】
開閉板Ａ６４１の対向部Ａ６４１ｃが、上側は傾斜突部Ａ６１８によって、下側は下側傾斜突部Ａ６６１８によって、球との衝突を回避するように構成されているため、球が何れの方向から開閉板Ａ６４１側に近づく場合であっても、閉鎖状態（退避状態）における開閉板Ａ６４１の対向部Ａ６４１ｃと球との衝突を避けることができる。
【１０５４７】
なお、開閉板Ａ６４１の右方には突部が形成されていないが、傾斜突部Ａ６１８と下側

傾斜突部Ａ６６１８との間隔が十分に短いことから、球が間に入り込むことを防ぐことができ、右方から開閉板Ａ６４１に近づく球と開閉板Ａ６４１との衝突も避けることができる。

【１０５４８】

次いで、図５８９及び図５９０を参照し、第９５実施形態における第２球流下構造体Ａ７６００について説明する。上記第８９実施形態では、傾斜突部Ａ６１８が開閉板Ａ６４１よりも上方に配設される場合を説明したが、第９５実施形態では、予備当接部Ａ７６３８が開閉板Ａ７６４１と同等の上下位置に配設される態様で構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１０５４９】

図５８９は、図５４７のＢ１２ｍ－Ｂ１２ｍ線に対応する線における第９５実施形態における第２球流下構造体Ａ７６００の部分断面図であり、図５９０（ａ）及び図５９０（ｂ）は、図５８９のＢ１８ａ－Ｂ１８ａ線における第２球流下構造体Ａ７６００の部分断面図である。図５８９のＢ１８ａ－Ｂ１８ａ線が示す断面は、図５４７のＢ１４ａ－Ｂ１４ａ線が示す断面に対応する。即ち、開閉板Ａ６４１，Ａ７６４１における同一の左右位置での断面とされる。図５９０（ａ）では、電動役物Ａ６４０ａが閉鎖状態（退避状態）とされ、図５９０（ｂ）では、電動役物Ａ６４０ａが開放状態（張出状態）とされる。

【１０５５０】

第２球流下構造体Ａ７６００は、傾斜突部Ａ６１８の形成が省略されており、上述したカバー部材Ａ６３０の代わりに、カバー部材Ａ６３０の有する構成に加えて、開閉板Ａ７６４１に当接する前に予め球を当接させる予備当接部Ａ７６３８が形成されるカバー部材Ａ７６３０を備える。

【１０５５１】

予備当接部Ａ７６３８は、カバー部材Ａ７６３０の板状本体Ａ６３１の後側面から後方へ向けてベース部材Ａ６１０の近傍まで複数の板形状で延設されている。その予備当接部Ａ７６３８との干渉を避ける位置において、開閉板Ａ７６４１は、予備当接部Ａ７６３８を受け入れ可能な大きさの切欠き部Ａ７６４１ｎを備える。開閉板Ａ７６４１は、切欠き部Ａ７６４１ｎを備える以外は、上述した開閉板Ａ６４１と同様の構成を備える。

【１０５５２】

予備当接部Ａ７６３８の配設位置は、上面が、開閉板Ａ７６４１の転動面形成部Ａ６４１ａの上面と面一となる位置に設定される。これにより、転動面が転動面形成部Ａ６４１ａの上面と予備当接部Ａ７６３８の上面とによって形成される場合において、上面の高さがずれている場合に比較して、球を滑らかに転動させることができる。

【１０５５３】

予備当接部Ａ７６３８の延設位置は、いずれかの予備当接部Ａ７６３８の板厚（左右幅）の内側に、予備当接部Ａ７６３８及び開閉板Ａ７６４１により形成される転動面に当接開始される当接位置（図５５３に想像線で図示される球の下端部の位置）が含まれる態様で形成されている。これにより、予備当接部Ａ７６３８及び開閉板Ａ７６４１により形成される転動面に到達し流下される球の予備当接部Ａ７６３８及び開閉板Ａ７６４１との当接開始時においては、球はまず予備当接部Ａ７６３８と当接し、その前に開閉板Ａ７６４１の対向部Ａ６４１ｃと当接することが防止される。これにより、傾斜突部Ａ６１８の形成を省略しても、開閉板Ａ７６４１の対向部Ａ６４１ｃに球が衝突して破損する事態を回避することができる。

【１０５５４】

傾斜突部Ａ６１８の形成が省略されることにより、開閉板Ａ７６４１よりも上流側における流下経路の設計自由度を向上させることができる。即ち、ベース部材Ａ６１０に球が当接している状態において予備当接部Ａ７６３８及び開閉板Ａ７６４１により形成される転動面に球が到達する場合を構成することができる。

【１０５５５】

予備当接部Ａ７６３８の形状の設計は種々の態様で実現可能とされるが、本実施形態で

は予備当接部Ａ７６３８は、剛性を維持するのに十分な左右方向の厚み寸法（開閉板Ａ７６４１の厚み程度の寸法）を有し、上下方向の幅寸法が開閉板Ａ７６４１の厚みの４倍程度の長さで設計される。これにより、十分な強度を付与することができ、球の衝突による破損を防止することができる。

【１０５５６】

一方で、開閉板Ａ７６４１は厚みを増すことはしておらず、むしろ切欠き部Ａ７６４１ｎにより、開閉板Ａ６４１に比較して軽量化されている。そのため、駆動ソレノイドＡ６４２を流用した場合であっても、開閉動作速度を向上させることができる。

【１０５５７】

予備当接部Ａ７６３８はカバー部材Ａ７６３０に対して片持ちで支持される態様とされるところ、延設先端側が開閉板Ａ７６４１の切欠き部Ａ７６４１ｎと接している。そのため、球との衝突時に予備当接部Ａ７６３８の延設先端側が左右に変位して予備当接部Ａ７６３８が撓み変形する事態を回避し易くすることができる。

【１０５５８】

なお、説明の便宜上、予備当接部Ａ７６３８の左右方向の厚み寸法を切欠き部Ａ７６４１ｎに調度おさまる形状で構成したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、切欠き部Ａ７６４１ｎが予備当接部Ａ７６３８に比較して十分に大きな形状で構成されても良い。即ち、切欠き部Ａ７６４１ｎと予備当接部Ａ７６３８との間に十分な隙間が形成されるようにしても良い。

【１０５５９】

この場合、開閉板Ａ７６４１が開放状態（張出状態）から閉鎖状態（退避状態）へ変化される際に切欠き部Ａ７６４１ｎと予備当接部Ａ７６３８との間で摩擦が生じて開閉板Ａ７６４１の動作が減速されることを回避することができる。

【１０５６０】

また、開閉板Ａ７６４１が閉鎖状態（退避状態）から開放状態（張出状態）へ変化される場合の動作速度についても、同じことが言える。即ち、開閉板Ａ７６４１の切欠き部Ａ７６４１ｎと予備当接部Ａ７６３８（の形成されるカバー部材Ａ７６３０）とが接近する側へ開閉板Ａ７６４１が動作する場合の動作速度を高速化させることができ、開閉板Ａ７６４１の開放動作をスムーズにさせることができる。

【１０５６１】

なお、予備当接部Ａ７６３８の剛性についての設計は、上述のように十分な剛性を維持する（略非変形とする）場合に限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、予備当接部Ａ７６３８が、少なくとも一部において柔軟性（クッション性）の高い材料から形成されても良い。

【１０５６２】

即ち、少なくとも上面側において柔軟性（クッション性）の高い材料から形成されるようにしておけば、予備当接部Ａ７６３８に当接開始された球の勢いが予備当接部Ａ７６３８を構成する材料の変形により低減されるので、その後で球から開閉板Ａ７６４１に当接により伝達される荷重を低減させることができる。

【１０５６３】

次いで、図５９１を参照し、第９６実施形態における第２球流下構造体Ａ８６００について説明する。上記第８９実施形態では、傾斜突部Ａ６１８がベース部材Ａ６１０から僅かに張り出す場合を説明したが、第９６実施形態では、傾斜延設部Ａ８６１８がカバー部材Ａ６３０付近まで張り出す態様で構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１０５６４】

図５９１は、図５４７のＢ１２ｍ－Ｂ１２ｍ線に対応する線における第９６実施形態における第２球流下構造体Ａ８６００の部分断面図である。

【１０５６５】

第２球流下構造体Ａ８６００は、傾斜突部Ａ６１８の代わりに、右側の減速突部Ａ６１

６の右方側において、正面視における傾斜突部Ａ６１８の外形形状で、カバー部材Ａ６３０近傍まで前方へ向けて延設される傾斜延設部Ａ８６１８を備える。

【１０５６６】

傾斜延設部Ａ８６１８は、換言すれば、ベース部材Ａ６１０とカバー部材Ａ６３０との間における球の通過領域の幅方向（前後方向）に亘って形成されるものであり、傾斜延設部Ａ８６１８とカバー部材Ａ６３０との隙間（前後隙間）における球の通過を防止する。

【１０５６７】

傾斜延設部Ａ８６１８は、前後に延びる板状部であって、その上面が、開閉板Ａ６４１の上面と平行となる傾斜面として形成される。傾斜延設部Ａ８６１８に球が到達した場合、傾斜延設部Ａ８６１８の傾斜に沿って左方へ流れた球が傾斜延設部Ａ８６１８から脱落する場合に、開閉板Ａ６４１が開放状態となっていれば、その脱落した球は開閉板Ａ６４１の上面を転動する。

【１０５６８】

この場合における球の開閉板Ａ６４１上における転動開始位置は、傾斜延設部Ａ８６１８から脱落した位置（左側の位置）とされるため、開閉板６４１の対向部Ａ６４１ｃとして最も前方に張り出している右端部に球が衝突することが傾斜延設部Ａ８６１８により防止される。これにより、開閉板Ａ６４１の破損を防止することができる。

【１０５６９】

傾斜延設部Ａ８６１８の上面の水平線に対する傾斜角度が、開閉板Ａ６４１の上面の水平線に対する傾斜角度と同様に設定されており、開閉板Ａ６４１に球が到達する前において、開閉板Ａ６４１上を転動される場合の加速度と同様の加速度を球に付与することができる。これにより、球の流下を滑らかにすることができる。

【１０５７０】

傾斜延設部Ａ８６１８は、板状本体Ａ６１１と同様に光透過性の樹脂材料により形成されているため、傾斜延設部Ａ８６１８と重なっている状態でも開閉板Ａ６４１を視認することが可能となっているが、遊技が繰り返されるに従って、球の衝突による擦れ跡が傾斜延設部Ａ８６１８の上面に増えることで、視認性が低下する。また、擦れ跡が過度に増加した場合には、傾斜延設部Ａ８６１８に疲労が蓄積し、破損する可能性があり、更に遊技を繰り返すと開閉板Ａ６４１を破損させる可能性が有る。

【１０５７１】

本実施形態では、傾斜延設部Ａ８６１８の擦れ跡の形成度合が過度に増えた場合に開閉板Ａ６４１の視認性を敢えて低下させることで、開閉板Ａ６４１の動作状態の把握をし難くし、遊技者が遊技の継続を断念するように仕向けることができるように構成している。これにより、遊技中において傾斜延設部Ａ８６１８が破損する事態の発生を回避し易くしている。

【１０５７２】

また、傾斜延設部Ａ８６１８のように正面視で視認可能な位置で擦れ跡の形成度合を確認できるようにすることで、ホール店員はメンテナンス時期を容易に把握することができる。そのため、傾斜延設部Ａ８６１８が破損する前の取り替えを促進させることができる。

【１０５７３】

次いで、図５９２から図５９４を参照し、第９７実施形態における第２球流下構造体Ａ９６００について説明する。上記第８９実施形態では、傾斜突部Ａ６１８と開閉板Ａ６４１とが非当接とされる場合を説明したが、第９７実施形態では、当接張出部Ａ３６１８と開閉板Ａ９６４１とが当接される態様で構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１０５７４】

図５９２（ａ）及び図５９２（ｂ）は、図５４７のＢ１４ａ－Ｂ１４ａ線に対応する線における第９７実施形態における第２球流下構造体Ａ９６００の部分断面図であり、図５９３は、図５４７の範囲Ｂ１６ｍに対応する範囲における第２球流下構造体Ａ９６００の

部分正面図であり、図５９４は、図５９３のＢ１９ｍ－Ｂ１９ｍ線における第２球流下構造体Ａ９６００の部分断面図である。

【１０５７５】

図５９２（ａ）では、開閉板Ａ９６４１の閉鎖状態（退避状態）が図示され、図５９２（ｂ）、図５９３及び図５９４では、開閉板Ａ９６４１の開放状態（張出状態）が図示される。

【１０５７６】

第２球流下構造体Ａ９６００は、上述した当接張出部Ａ３６１８がベース部材Ａ９６１０に備えられており、開閉板Ａ９６４１を備える。開閉板Ａ９６４１は、左右幅の略中間位置において、干渉突部Ａ６４１ｂと同様に上方に突設される上流側干渉突部Ａ９６４１ｂと、その上流側干渉突部Ａ９６４１ｂの下流側に形成されており通過した球を順傾斜底面部Ａ９６３２ｇへ向けて流下させる空隙部Ａ９６４１ｄと、当接張出部Ａ３６１８の湾曲当接部Ａ３６１８ｂの内側に嵌合され得る被嵌合突部Ａ９６４１ｐと、を備える。被嵌合突部Ａ９６４１ｐは、樹脂材料から一体成形されている。

【１０５７７】

ベース部材Ａ９６１０は、当接張出部Ａ３６１８の端部において上流側干渉突部Ａ９６４１ｂと対向配置される位置に形成される対向凹部Ａ９６２２と、調整可能部材Ａ９６３５を調整可能に支持する調整支持部Ａ９６２５と、を備える。

【１０５７８】

対向凹部Ａ９６２２は、正面視において上流側干渉突部Ａ９６４１ｂを内側に位置させる大きさで形成される。これにより、上流側干渉突部Ａ９６４１ｂの移動幅がベース部材Ａ９６１０の板状本体Ａ６１１の前側面よりも前方の範囲に制限されることを避けることができる（上流側干渉突部Ａ９６４１ｂを対向凹部Ａ９６２２に進入させることで板状本体Ａ６１１の前側面との当接が回避される）。

【１０５７９】

対向凹部Ａ９６２２は、球の直径よりも小さな左右幅で形成される。これにより、球が対向凹部Ａ９６２２に嵌り込み、開閉板Ａ９６４１の後退動作（閉鎖方向への動作）が球との当接により阻害される事態が生じることを避けることができる。

【１０５８０】

ベース部材Ａ９６１０の前方にはカバー部材Ａ９６３０が対向配置される。カバー部材Ａ９６３０は、ベース部材Ａ９６１０の調整支持部Ａ９６２５に支持される調整可能部材Ａ９６３５と、その調整可能部材Ａ９６３５の前側位置において板状本体Ａ６３１に形成される開口部Ａ９６３１ｂと、その開口部Ａ９６３１ｂを閉塞可能な態様で脱着可能に構成される透明蓋部材Ａ９６３８と、を備える。

【１０５８１】

カバー部材Ａ９６３０に形成される減速突部Ａ６３６は、上流側干渉突部Ａ９６４１ｂと正面視で重ならない位置まで、下端部の位置が挙げられる。即ち、長手方向の寸法が若干短い態様で構成される。この場合における下端部の位置は、開閉板Ａ９６４１の上面を転動する球の中心の高さよりも高くされており、開閉板Ａ９６４１の上面に当接している限りにおいて球の前端部位が減速突部Ａ６３６と当接することが回避される。一方で、球が開閉板Ａ９６４１の上面において跳ねるような場合には、球の前端部位が減速突部Ａ６３６と当接される。

【１０５８２】

即ち、減速突部Ａ６３６は、開閉板Ａ９６４１に当接しながら転動する球には作用せず（減速させず）、開閉板Ａ９６４１の上面において跳ねる球には作用する（減速させる）ように機能する。

【１０５８３】

パチンコ機Ａ１０の設置状態における傾斜（寝かせ）の程度が一定ではないことや、遊技領域に発射された球がある程度ランダムな経路を通り開閉板Ａ９６４１に到達するという事情もあり、開閉板Ａ９６４１に到達する場合における球の位置や速度にはバラつきが

あり、開閉板Ａ９６４１に到達した後の流下態様も変化し得る。
【１０５８４】
開閉板Ａ９６４１に到達した球が空隙部Ａ９６４１ｄの上方を飛び越えて入賞検出センサＡＳＣ６４に入賞する事態が頻繁に生じる事態を避けることが好ましい場合において、全ての球の流下速度を抑制してしまうと、球の流下の勢い自体が低減され見映えが悪くなるし、遊技自体が緩慢になり遊技者に飽きられ易くなる可能性が有る。
【１０５８５】
本実施形態では、開閉板Ａ９６４１に当接しながら転動する球には作用せず（減速させず）、開閉板Ａ９６４１の上面に対して浮き上がっている球には作用する（減速させる）ように減速突部Ａ６３６を機能させることで、空隙部Ａ９６４１ｄの上方を飛び越える可能性が高い球についてのみ球の速度を抑制するようになっており、開閉板Ａ９６４１の上面を転動する球の勢いまでも低減させる場合に比較して、球の勢いを高く維持させることができるので、球に注目する遊技者の興趣の向上を好適に図ることができ、次々に到達する球に注目させることで遊技者を遊技に集中させることができる。
【１０５８６】
調整可能部材Ａ９６３５は、光透過性の樹脂材料から形成されており、後端部が調整支持部Ａ９６２５に支持され前後方向に延びる支持腕部Ａ９６３５ａと、その支持腕部Ａ９６３５ａの前端部に固定され後端側の形状が突条部Ａ６３５と同様の形状となるように構成される被支持突部Ａ９６３５ｂと、を備え、略Ｌ字形状（図５９４参照）の部材として構成される。調整可能部材Ａ９６３５が透過性の部材として構成されることにより、開閉板Ａ９６４１の下流側を流下する球が調整可能部材Ａ９６３５と重なる場合にも、球の視認性が低下することを避けることができる。
【１０５８７】
支持腕部Ａ９６３５ａは、通常は調整支持部Ａ９６２５に支持されることで変位不能に固定される。一方、調整支持部Ａ９６２５による支持腕部Ａ９６３５ａの保持力を超える力を調整可能部材Ａ９６３５に付加することで、長孔状に形成される調整支持部Ａ９６２５の長手方向（正面視で被支持突部Ａ９６３５ｂの延びる方向に対して直角に交差する方向）に沿って支持腕部Ａ９６３５ａの位置を変化させることができ、これにより被支持突部Ａ９６３５ｂの上下位置を変化させることができる。これにより、開閉板Ａ９６４１と被支持突部Ａ９６３５ｂとの間隔（上下間隔）を変化させることができ、被支持突部Ａ９６３５ｂに当接した球の開閉板Ａ９６４１との衝突し易さ（衝突頻度）を変化させることができる。
【１０５８８】
メンテナンス等において、調整可能部材Ａ９６３５の配置を調整する際には、透明蓋部材Ａ９６３８を取り外すことにより、カバー部材Ａ９６３０をベース部材Ａ９６１０に取り付けた状態において開口部Ａ９６３１ｂを通して調整可能部材Ａ９６３５に力を加えることができる。これにより、メンテナンス作業の効率を向上させることができる。
【１０５８９】
被支持突部Ａ９６３５ｂが調整可能部材Ａ９６３５の一部としてベース部材Ａ９６１０に支持されているため、被支持突部Ａ９６４５ｂが透明蓋部材Ａ９６３８の後方に位置する位置関係において、透明蓋部材Ａ９６３８を取り外して調整可能部材Ａ９６３５の位置を調整したり、破損している場合には代用品と取り替えたりすることが容易にできる。
【１０５９０】
即ち、上述の第８９実施形態のようにカバー部材Ａ６３０に突条部Ａ６３５が形成される場合には、突条部Ａ６３５が破損したらカバー部材Ａ６３０自体を取り替える必要があったところ、本実施形態によれば、調整可能部材Ａ９６３５のメンテナンスを行えば十分であり、カバー部材Ａ９６３０や透明蓋部材Ａ９６３８については、調整可能部材Ａ９６３５が破損した場合であっても繰り返し流用することが可能となる。これにより、メンテナンスに要する工数を低減することができ、部材の取り替えも含めたランニングコストを低減することができる。

【１０５９１】
透明蓋部材Ａ９６３８は、後方側が視認可能となるように光透過性を有するよう構成されていればよく、素材は種々の態様が例示される。即ち、素材は樹脂材料でも良いし、ガラス材料でも良いし、その他の材料でも良い。
【１０５９２】
表面成形の態様についても種々の態様が例示される。例えば、前後面が平滑面とされた態様でも良いし、前後いずれかの面に凹凸が形成され光が照射された場合に図形が浮かび上がる態様（所謂イルミネーションプレート）に構成されていても良いし、小さな（球の直径よりも小さな）貫通孔が形成された態様でも良いし、これらの組合せでも良い。
【１０５９３】
透明蓋部材Ａ９６３８がカバー部材Ａ９６３０に取り付けられた状態において、被支持突部Ａ９６３５ｂの前端部は、透明蓋部材Ａ９６３８に対して非当接とされる（若干の間隔が空けられる）。これにより、調整可能部材Ａ９６３５の配置の調整を実行した後で開口部Ａ９６３１ｂを閉塞する態様で透明蓋部材Ａ９６３８をカバー部材Ａ９６３０に取り付けた場合において、透明蓋部材Ａ９６３８との当接により調整可能部材Ａ９６３５の調整がずれる事態を避けることができる。
【１０５９４】
なお、被嵌合突部Ａ９６４１ｐを棒状金属部材から構成し、開閉板Ａ９６４１に嵌合により固定しても良い。この場合、被嵌合突部Ａ９６４１ｐが割れたり欠けたりすることを防止でき、耐久性を向上させることができる。
【１０５９５】
開閉板Ａ９６４１が閉鎖状態（退避状態）とされると、被嵌合突部Ａ９６４１ｐが湾曲当接部Ａ３６１８ｂの内側に嵌合されることで、開閉板Ａ９６４１の停止位置が安定される。これにより、動作停止直後に勢いを逃がすことができずにバタつく変位態様を抑制することができ、開閉板Ａ９６４１の開閉動作の間隔を短く設定しても動作不良を生じさせないようにすることができる。
【１０５９６】
球が湾曲当接部Ａ３６１８ｂに当接することによりＵ字部分が前後方向で押しつぶされると（図５８３（ａ）参照）、湾曲当接部Ａ３６１８ｂの内側に嵌合されている被嵌合突部Ａ９６４１ｐが、開閉板Ａ９６４１のがたつきの範囲内で押し下げられることで、嵌合が外れる。即ち、当接張出部Ａ３６１８から離間する側に開閉板Ａ９６４１が傾倒変位（回転動作）して、嵌合が外れる。
【１０５９７】
当接張出部Ａ３６１８と開閉板Ａ９６４１との間（上下間）には開閉板Ａ９６４１の動作を阻害しない程度の隙間が開閉板Ａ９６４１の幅方向（開閉板Ａ９６４１の動作方向と交差する方向）に沿って形成されており、その隙間は、開閉板Ａ９６４１の開放状態（張出状態）でも閉鎖状態（退避状態）でも球の直径よりも小さくされるところ、当接張出部Ａ３６１８から離間する側に開閉板Ａ９６４１が傾倒変位（回転動作）した場合における隙間も、同様に球の直径よりも小さくされる。これにより、球が開閉板Ａ９６４１と当接張出部Ａ３６１８との間に挟まって動作不良を生じる事態を回避することができる。
【１０５９８】
本実施形態では、駆動ソレノイドＡ６４２が励磁されても、被嵌合突部Ａ９６４１ｐが当接張出部Ａ３６１８に嵌合されている間は閉鎖状態（退避状態）で維持される。球が当接張出部Ａ３６１８に当接し、被嵌合突部Ａ９６４１ｐの嵌合が外れることで、開放状態（張出状態）へ向けての動作が開始される。これにより、球の到達と開閉板Ａ９６４１の動作とを連続的に生じさせることができ、遊技者の興趣を高めることができる。
【１０５９９】
この場合、球の到達タイミングと開閉板Ａ９６４１の動作タイミングとが対応する。即ち、開閉板Ａ９６４１の前方位置（板状本体Ａ６３１との間の位置）に球が存在しない状態で開閉板Ａ９６４１の動作が開始され（図５９２（ａ）参照）、動作後において球が開

閉板Ａ９６４１の上面に位置されるので（図５９２（ｂ）参照）、球が開閉板Ａ９６４１と板状本体Ａ６３１との間に挟まる事態を避けることができる。

【１０６００】

これは、球が当接張出部Ａ３６１８と当接する際に、球の中心よりも下側において当接張出部Ａ３６１８が球に当接することから、球に与えられる荷重が、当接位置における球の外形に対する接線と垂直な方向、即ち、前方成分だけでなく上方成分も有する方向とされることによっても促進される。即ち、重力方向とは逆方向の成分を有することで、球の流下を遅らせる方向の荷重が球に対して与えられることから、開閉板Ａ９６４１が開放動作される前に球が急速に落下して開閉板Ａ９６４１と板状本体Ａ６３１との間に挟まる事態の発生を避けることができる。

【１０６０１】

ベース部材Ａ９６１０とカバー部材Ａ９６３０との間に構成される流下経路において、駆動ソレノイドＡ６４２が非励磁とされ、開閉板Ａ９６４１が閉鎖状態（退避状態）とされている場合に当接張出部Ａ３６１８に到達し当接した球は、開閉板Ａ９６４１の上面を転動されることなく、開閉板Ａ９６４１の対向部Ａ６４１ｃの動作方向で対向部Ａ６４１ｃに対向する位置（対向部Ａ６４１ｃの前方側）を流下し、延設形成部Ａ９６３２の主経路形成部Ａ６３２ｃとして形成される逆傾斜底面部Ａ９６３２ｒの上面を転動する。

【１０６０２】

逆傾斜底面部Ａ９６３２ｒは、右方側へ向けて下がる傾斜面として形成されており、到達した球が右側の球案内部Ａ６２１として構成される不利側流入口Ａ９６２１ａを通過して遊技領域から排出される。

【１０６０３】

本実施形態では、球案内部Ａ６２１は、流入した球に基づいて遊技者が得られる利益に図柄の抽選が含まれない不利側流入口Ａ９６２１ａと、その不利側流入口Ａ９６２１ａよりも遊技者が得られる利益が大きく設定される流入口であって、流入した球に基づいて遊技者が得られる利益に図柄の抽選が含まれる有利側流入口Ａ９６２１ｂと、を備える。

【１０６０４】

なお、不利側流入口Ａ９６２１ａと有利側流入口Ａ９６２１ｂとの構成は、種々の態様が例示される。例えば、不利側流入口Ａ９６２１ａに流入した球を検出可能な検出センサや、有利側流入口Ａ９６２１ｂに流入した球を検出可能な検出センサが、それぞれ配設されるように構成しても良いし、検出センサを配設しない流入口を設けても良い。

【１０６０５】

また、不利側流入口Ａ９６２１ａと有利側流入口Ａ９６２１ｂとの優劣は、抽選の獲得以外で設定されるようにしても良い。例えば、不利側流入口Ａ９６２１ａも有利側流入口Ａ９６２１ｂも、流入した球に基づいて遊技者が得られる利益に図柄の抽選が含まれない（又は、含まれる）ことは共通とされる一方で、不利側流入口Ａ９６２１ａに球が流入した場合に遊技者に払い出される払出球よりも、有利側流入口Ａ９６２１ｂに球が流入した場合に遊技者に払い出される払出球の方が多くなるように設定しても良い。

【１０６０６】

ベース部材Ａ９６１０とカバー部材Ａ９６３０との間に構成される流下経路において、駆動ソレノイドＡ６４２が励磁されており、球が当接張出部Ａ３６１８に球が当接した場合において、開閉板Ａ９６４１が開放状態（張出状態）へ向けて動作された場合には、その球は開閉板Ａ９６４１の上面を転動して、上流側干渉突部Ａ９６４１ｂの下流側に形成される空隙部Ａ９６４１ｄを流下して、延設形成部Ａ９６３２の主経路形成部Ａ６３２ｃとして形成される順傾斜底面部Ａ９６３２ｇの上面を転動する。このように、電動役物Ａ６４０ａが開放状態（張出状態）であるか閉鎖状態（退避状態）であるかに対応して、球が流下される流下経路が異なるように構成される。

【１０６０７】

空隙部Ａ９６４１ｄは、上流側干渉突部Ａ９６４１ｂと干渉突部Ａ６４１ｂとの間において、球の直径よりも大きな左右幅の矩形状で後方側へ向けて凹設形成されており、開閉

板Ａ９６４１の開放状態（張出状態）においてカバー部材Ａ６３０の板状本体Ａ６３１との間の間隔が球の直径よりも大きな寸法で構成される。

【１０６０８】

順傾斜底面部Ａ９６３２ｇは、左方側へ向けて下がる傾斜面として形成されており、到達した球が左側の球案内部Ａ６２１として構成される有利側流入口Ａ９６２１ｂを通過して遊技領域から排出される。

【１０６０９】

これにより、駆動ソレノイドＡ６４２が非励磁とされる場合に当接張出部Ａ３６１８に到達して当接した場合の球により遊技者が得られる利益よりも、駆動ソレノイドＡ６４２が励磁されている場合に当接張出部Ａ３６１８に到達して当接した場合の球により遊技者が得られる利益の方が大きくなるように構成される。

【１０６１０】

空隙部Ａ９６４１ｄを流下した球は、開閉板Ａ９６４１よりも下流側に配置される突設部Ａ６１５や被支持突部Ａ９６３５ｂに当接しながら流下し、有利側流入口Ａ９６２１ｂに案内される。

【１０６１１】

なお、本実施形態では、有利側流入口Ａ９６２１ｂに全ての球が案内されるのではなく、一部の球は突設部Ａ６１５の左端から逸れて第２球流下構造体Ａ９６００から排出され、アウト口Ｈ７１（図５４１参照）を通り遊技領域から排出されるよう構成されるが、空隙部Ａ９６４１ｄを流下した全ての球が有利側流入口Ａ９６２１ｂに案内されるように構成しても良い。この場合、開閉板Ａ９６４１の空隙部Ａ９６４１ｄの注目力をより向上させることができる。

【１０６１２】

突設部Ａ６１５や被支持突部Ａ９６３５ｂに衝突した際、球は跳ね返りにより流下方向が切り替えられることになるが、上向きに跳ね返る場合において開閉板Ａ９６４１の下面（裏面）に衝突し得る。これは、より上方位置にある被支持突部Ａ９６３５ｂに衝突した球において、より生じ易い。

【１０６１３】

これに対し、開閉板Ａ９６４１の空隙部Ａ９６４１ｄの動作方向側端部（前側端部）および幅方向側端部（左右側端部）において下面側が面取り形成されていることから、衝突した球が開閉板Ａ９６４１の上方側に戻されることなく、再度下方へ戻され、有利側流入口Ａ９６２１ｂへ向けて流下されることとなる。これにより、突設部Ａ６１５や被支持突部Ａ９６３５ｂが形成されている状況下においても、球の有利側流入口Ａ９６２１ｂへの案内を良好に生じさせることができる。

【１０６１４】

なお、順傾斜底面部Ａ９６３２ｇの上方位置において突設部Ａ６１５や被支持突部Ａ９６３５ｂが形成される一方、逆傾斜底面部Ａ９６３２ｒの上方位置においては突設部Ａ６１５や被支持突部Ａ９６３５ｂの形成が省略されるように構成することも可能である。

【１０６１５】

この場合、駆動ソレノイドＡ６４２が非励磁とされる場合に当接張出部Ａ３６１８に到達して当接した場合の球が、突設部Ａ６１５や被支持突部Ａ９６３５ｂに当接して跳ね返ること自体を避けることができ、跳ね返った球が開閉板Ａ９６４１の対向部Ａ６４１ｃに衝突することによる開閉板Ａ９６４１の破損を避けることができる。

【１０６１６】

また、突設部Ａ６１５や突条部Ａ６３５に当接して跳ね返った球が後続の球と衝突し、その衝突により球同士が弾け飛ぶことにより、球が有利側流入口Ａ９６２１ｂ側に案内されるイレギュラー入賞を避けることができる。

【１０６１７】

更に、駆動ソレノイドＡ６４２が非励磁とされる場合に当接張出部Ａ３６１８に到達して当接した場合の球が、突設部Ａ６１５や被支持突部Ａ９６３５ｂと当接する態様で左下

傾斜に沿って転動することで、逆傾斜底面部Ａ９６３２ｒの左端を過ぎて順傾斜底面部Ａ９６３２ｇに到達する事態を避けることができる。これにより、駆動ソレノイドＡ６４２が非励磁とされ、開閉板Ａ９６４１が閉鎖状態（退避状態）で維持される場合において、球が有利側流入口Ａ９６２１ｂに案内されるイレギュラー入賞を避けることができる。

【１０６１８】

開閉板Ａ９６４１は、後端側において棒状に形成される支持棒状部Ａ９６４１ｊと、その支持棒状部Ａ９６４１ｊに回転動作可能に支持される回転動作部Ａ９６４１ｒの回転先端側に配設される質量部Ａ９６４１ｑと、を備える。

【１０６１９】

質量部Ａ９６４１ｑは、開閉板Ａ９６４１の閉鎖状態（退避状態）において動作範囲の下端に位置し（図５９２（ａ）参照）、開閉板Ａ９６４１が開放状態（張出状態）へ動作されると回転動作部Ａ９６４１ｒが回転動作されることに伴い上方側へ変位される（図５９２（ｂ）参照）。

【１０６２０】

開閉板Ａ９６４１の開放状態（張出状態）において、質量部Ａ９６４１ｑは自重により動作範囲の下端へ向けて付勢される。即ち、開閉板Ａ９６４１の質量部Ａ９６４１ｑの自重が、開閉板Ａ９６４１を閉鎖状態（退避状態）側へ動作させる方向に作用する。

【１０６２１】

質量部Ａ９６４１ｑは、開閉板Ａ９６４１の退避位置よりも後方側（奥側）に位置されており、流下する球が衝突しない配置とされている。そのため、球との衝突により質量部Ａ９６４１ｇの破損が生じることを回避することができ、質量部Ａ９６４１ｑによる付勢を長期にわたり生じさせることができる。

【１０６２２】

本実施形態では、駆動ソレノイドＡ６４２の制御が、励磁と非励磁との切り替えではなく、強励磁状態と弱励磁状態とで切り替えられる。強励磁状態では、開閉板Ａ９６４１が閉鎖状態（退避状態）から開放状態（張出状態）へ向けて動作され、開放状態（張出状態）で維持される。一方、弱励磁状態では、コイルスプリングＡ６４２ｂの付勢力と質量部Ａ９６４１ｑの自重による荷重との合力よりも励磁による電磁力の方が若干低い程度となるように制御される。そのため、弱励磁状態とされた場合に、開閉板Ａ９６４１は開放状態（張出状態）から即座に動作するのではなく、閉鎖状態（退避状態）へ向けてゆっくりと動作する。

【１０６２３】

この場合において、支持棒状部Ａ９６４１ｊに支持される質量部Ａ９６４１ｑの変位の方向（向き）は、閉鎖状態（退避状態）への動作開始時の方が、閉鎖状態（退避状態）到達時よりも、鉛直方向寄りとされるので、閉鎖状態（退避状態）に近づく程、質量部Ａ９６４１ｑの自重の影響が小さくなり、開閉板Ａ９６４１の（前後方向）動作の動作速度が遅くなる。

【１０６２４】

開閉板Ａ９６４１は、干渉突部Ａ６４１ｂと同様の形状で、左右幅の略中間位置において上方に突設される上流側干渉突部Ａ９６４１ｂを備える。開閉板Ａ９６４１が閉鎖状態（退避状態）へ向けてゆっくりと動作する場合において、上流側干渉突部Ａ９６４１ｂの後方側に球が位置すると、球からの荷重が開閉板Ａ９６４１を動作させる力に対抗して、開閉板Ａ９６４１の動作を阻害し、開閉板Ａ９６４１が開放状態（張出状態）まで開けられる。

【１０６２５】

そのため、開閉板Ａ９６４１が弱励磁状態に切り替えられた場合であっても、球を絶え間なく開閉板Ａ９６４１の上面に到達させることにより、開閉板Ａ９６４１が開放状態（張出状態）とされる期間を引き延ばすことができる。即ち、開閉板Ａ９６４１へ向けて短い間隔で球を発射することで、開閉板Ａ９６４１に多くの球を案内させる可能性が高まることから、球を一発ずつ発射する単発打ちよりも、球を打ちっぱなしにする遊技を遊技者

に実行させるように仕向けることができる。これにより、遊技者が球を変則的に発射する遊技を抑制することができる。

【１０６２６】

上流側干渉突部Ａ９６４１ｂは、開閉板Ａ９６４１に当接して転動する球に対向される位置に形成される傾斜面部（動作方向に対して傾斜する面）である上流側受部Ａ９６４１ｂ１と、開閉板Ａ９６４１を転動した球（下流側の球）に対向される位置に形成される平面部（動作方向に沿う面部）である逆流防止部Ａ９６４１ｂ２と、を備える。

【１０６２７】

上流側受部Ａ９６４１ｂ１は、開閉板Ａ９６４１の動作方向に対して傾斜する面であるため、球からの荷重を受けた場合に、その荷重により開閉板Ａ９６４１が動作され易いように構成される。動作され易い方向は傾斜の向きに対応しており、この傾斜の向きは任意に設定可能である。本実施形態では、開閉板Ａ９６４１が開放状態（張出状態）側へ向けて動作され易いようにする傾斜が形成される。

【１０６２８】

一方で、逆流防止部Ａ９６４１ｂ２は、上流側受部Ａ９６４１ｂ１よりも下流側に形成され開閉板Ａ９６４１の動作方向に沿う方向に延設される部分（本実施形態では平面部）なので、球からの荷重は開閉板Ａ９６４１の動作方向と直交する方向に生じるため、球からの荷重を受けたとしても、その荷重による開閉板Ａ９６４１の動作（例えば、開放状態（張出状態）側へ向けた動作）が生じ難い。

【１０６２９】

これにより、空隙部Ａ９６４１ｄ側に流下した球が逆流して上流側干渉突部Ａ９６４１ｂ側に接近して衝突する事象が生じたとしても、逆流防止部Ａ９６４１ｂ２に対して球から与えられる荷重により開閉板Ａ９６４１が押し開けられる事態を避け易くすることができる。なお、逆流防止部Ａ９６４１ｂ２は平面部に限られるものではなく、例えば、湾曲面でも良いし、棒状部の一部でも良いし、階段状（段付き棒状）に形成される部分でも良い。

【１０６３０】

開放状態（張出状態）の開閉板Ａ９６４１の上面を転動する球が、上流側干渉突部Ａ９６４１ｂの後面側を通過する場合において、通常の速度で流下する球は空隙部Ａ９６４１ｄを通り有利側流入口Ａ９６２１ｂに案内される態様で流下する一方で、通常の速度を超える速度（例えば、最大速度）で流下する球は空隙部Ａ９６４１ｄの上側を左方に通過し（飛び越え）、上流側干渉突部Ａ９６４１ｂからの距離が空隙部Ａ９６４１ｄの下方領域よりも長い（離れた）位置に配設される第２入賞口Ｈ６４０を通過する。

【１０６３１】

即ち、開閉板Ａ９６４１に到達した球の流下経路が、球の流下する速度に対応して複数態様生じ得るため、開閉板Ａ９６４１が開放状態（張出状態）であれば到達した球の流下経路が一様とされる場合に比較して、開閉板Ａ９６４１に到達した球に対する注目力を向上させることができる。

【１０６３２】

透明蓋部材Ａ９６３８は、左側の縁部が入賞検出センサＡＳＣ６４の近傍に位置し、左下側の角部が有利側流入口Ａ９６２１ｂよりも下方に位置することで、有利側流入口Ａ９６２１ｂの正面側を塞ぐ構成とされる。これにより、有利側流入口Ａ９６２１ｂに球詰まりが生じて、球が積み重なって開閉板Ａ９６４１に当接し、動作に影響を与える事態が生じても、透明蓋部材Ａ９６３８を取り外すことで球の滞留を解除して、開閉板Ａ９６４１の動作不良を容易に解消することができる。

【１０６３３】

なお、右側の不利側流入口Ａ９６２１ａにおいては、その真上位置に開閉板Ａ９６４１が位置しないことから、球の滞留により開閉板Ａ９６４１に影響を与える可能性が低いことを考慮して、正面視における透明蓋部材Ａ９６３８の外方に位置させた。これにより、透明蓋部材Ａ９６３８の小形化を図ることができる。

【１０６３４】
　また、透明蓋部材Ａ９６３８は、開閉板Ａ９６４１の正面側を塞ぐ大きさで形成される。これにより、開閉板Ａ９６４１の前側端部と透明蓋部材Ａ９６３８との間で球が挟まれた場合であっても、透明蓋部材Ａ９６３８を取り外すことで球の挟まりを解消できる。
【１０６３５】
　次いで、図５９５から図５９８を参照して、第９８実施形態における上変位ユニットＥ２１００について説明する。上記第８９実施形態では、変位手段Ｅ３２０の姿勢が規定された状態で、変位手段Ｅ３２０が上昇位置から中間位置または下降位置に変位（落下）される場合について説明したが、第９８実施形態では、変位手段Ｅ２３２０が上昇位置から中間位置または下降位置に変位（落下）した際にその姿勢を変更可能に構成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【１０６３６】
　初めに、図５９５を参照して、第９８実施形態における上変位手段Ｅ２３００の全体構成について説明する。図５９５は、第９８実施形態における上変位手段Ｅ２３００の分解斜視図である。
【１０６３７】
　図５９５に示すように、第９８実施形態における上変位手段Ｅ２３００は、棒状に形成される駆動力伝達手段Ｅ３１０と、その駆動力伝達手段Ｅ３１０が接続される変位手段Ｅ２３２０と、その変位手段Ｅ２３２０の背面側（矢印Ｂ方向側）において正面視右側（矢印Ｒ方向側に接続される姿勢規定手段Ｅ２３３０と、変位手段Ｅ２３２０の背面側において正面視左側（矢印Ｌ方向側）に接続される従動装飾手段Ｅ３４０と、を主に備える。
【１０６３８】
　変位手段Ｅ２３２０は、駆動力伝達手段Ｅ３１０が接続され、駆動力伝達手段Ｅ３１０を介して駆動力を第１伝達手段Ｅ２５０との間で伝達可能なベース体Ｅ２３２１と、そのベース体Ｅ２３２１の正面側（矢印Ｆ方向側）にベース体Ｅ２３２１の正面との間に所定の空間を形成した状態で配設される第１装飾体Ｅ３２２と、その第１装飾体Ｅ３２２に対して相対変位可能に配設され、ベース体Ｅ２３２１及び第１装飾体Ｅ３２２の間の空間に配設される第２装飾体Ｅ３２３と、その第２装飾体Ｅ３２３と共に変位可能な状態で第１装飾体Ｅ３２２の正面側に配設される第３装飾体Ｅ３２４と、を主に備える。
【１０６３９】
　ベース体Ｅ２３２１は、正面視において略菱形状の板から形成される。また、ベース体Ｅ２３２１は、背面側（矢印Ｂ方向側）の２箇所から円柱状に突出する軸支部Ｅ３２１ａ，Ｅ３２１ｃと、背面側の１箇所から略角柱状に突出する変位規制部Ｅ３２１ｄと、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って長い溝状に開口される摺動溝Ｅ３２１ｅと、背面側に溝状に凹設される揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆと、を備える。
【１０６４０】
　揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆは、後述する姿勢規定手段Ｅ２３３０に形成される揺動用ピン支持部Ｅ２３３５が挿入される溝であり、姿勢規定手段Ｅ２３３０の外形よりも大きい溝幅で形成される。また、揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆは、軸支部Ｅ３２１ａの中心を軸とする湾曲状に形成される。
【１０６４１】
　姿勢規定手段Ｅ２３３０は、ベース手段Ｅ２００（図５６２参照）に対する変位手段Ｅ２３２０の姿勢を規定するための部材であり、長手方向の一端側に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通形成されるベース側被軸支部Ｅ３３１と、長手方向の他端側に正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって円柱状に突設される揺動用ピン支持部Ｅ２３３５と、前後方向に貫通形成され、正面視において略Ｌ字状の開口に形成される案内溝Ｅ３３３と、背面側（矢印Ｂ方向側）から略角柱状に突出される変位規制部Ｅ３３４と、を備える。
【１０６４２】
　揺動用ピン支持部Ｅ２３３５は、変位手段Ｅ２３２０のベース体Ｅ２３２１に形成される揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆに挿入されて、ベース体Ｅ２３２１に接続される部位であり

、揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆの溝幅よりも小さい直径の円柱状に形成される。これにより、第９８実施形態における上変位ユニットＥ２１００では、揺動用ピン支持部Ｅ２３３５に揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆの内側を摺動させることで、駆動力伝達手段Ｅ３１０の位置を変更しなくても、変位手段Ｅ２３２０のベース体Ｅ２３２１の姿勢をベース手段Ｅ２００に対して変更可能とされる。

【１０６４３】

なお、揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆは、駆動力伝達手段Ｅ３１０の変位が停止された状態において、変位手段Ｅ２３２０の自重により揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆの一方側に揺動用ピン支持部Ｅ２３３５が維持されるように形成される。これにより、パチンコ機Ａ１０の外側から加わる外力により、変位手段Ｅ２３２０のベース体Ｅ２３２１がベース手段Ｅ２００に対してその姿勢を変更してしまうことを抑制できる。

【１０６４４】

次いで、図５９６から図５９８を参照して、第９８実施形態における上変位ユニットＥ２１００の変位について説明する。図５９６（ａ）及び図５９６（ｂ）は、上変位ユニットＥ２１００を正面視した模式図であり、図５９７（ａ）及び図５９７（ｂ）は、上変位ユニットＥ２１００を正面視した模式図であり、図５９８（ａ）及び図５９８（ｂ）は、上変位ユニットＥ２１００を正面視した模式図である。

【１０６４５】

なお、図５９６から図５９８では、変位手段Ｅ２３２０についての外形および揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆが破線で図示されると共に、第３ベースＥ２６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる回転体Ｅ２３４、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、係合部材Ｅ２９０、及び、回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃの外形が破線で図示される。また、図５９６から図５９８では、上側装飾ユニットＰ１４ａと左側装飾ユニットＰ１４ｂと右側装飾ユニットＰ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｐ１４ｅ（図５４０参照）の範囲（即ち、パチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から正面枠Ｐ１４（図５４０参照）を介して視認可能な範囲）が２点鎖線で模式的に図示される。

【１０６４６】

また、図５９６（ａ）では、回転体Ｅ２３４を第１回転位置に配置した状態が図示され、図５９６（ｂ）では、回転体Ｅ２３４を第１回転位置から正面視左回りに第２回転位置まで回転した状態が図示され、図５９７（ａ）及び図５９７（ｂ）では、回転体Ｅ２３４を正面視左回りで第２回転位置まで回転させた後、第１伝達手段Ｅ２５０が中間位置まで落下した後の状態が順に図示され、図５９８（ａ）及び図５９８（ｂ）では、回転体Ｅ２３４を正面視左回りで第２回転位置まで回転させた後、第１伝達手段Ｅ２５０が下降位置まで落下した後の状態が順に図示される。

【１０６４７】

図５９６に示すように、回転体Ｅ２３４を正面視左回りに回転させた場合には、図５９６（ａ）に示す第１回転位置から図５９６（ｂ）に示す第２回転位置まで回転体Ｅ２３４を回転させる直前まで係合部材Ｅ２９０が係合位置に配置されるため、第１伝達手段Ｅ２５０の被係合部Ｅ２５１ｆに係合部材Ｅ２９０が係合して第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に規制される。そして、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に規制されることに伴い、第１伝達手段Ｅ２５０が接続される第１リンクＥ２４０及び上変位手段Ｅ３００も同様に上昇位置に規制される。

【１０６４８】

また、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に規制されることで、第１リンクＥ２４０の変位も規制されるため、回転体Ｅ２３４を第１回転位置から第２回転位置に回転させた際に、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆを第１リンクＥ２４０の下面から離間させることができる。

【１０６４９】

次に、図５９６（ｂ）に示すように、回転体Ｅ２３４が第２回転位置まで回転されると、回転体Ｅ２３４の回転に伴い係合部材Ｅ２９０が非係合位置に変位される。これにより

、上昇位置に配置された第１伝達手段Ｅ２５０の下方（矢印Ｄ方向）への移動が許容される。この場合、上述したように、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆが第１リンクＥ２４０の下面から離間され、駆動モータＥＭ１の駆動力が非伝達とされるので、第１伝達手段Ｅ２５０に接続される上変位手段Ｅ２３００の自重により第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置から下方に向けて変位（落下）させることができる。この第１伝達手段Ｅ２５０の落下に伴い第１伝達手段Ｅ２５０に接続される第１リンクＥ２４０及び上変位手段Ｅ２３００（変位手段Ｅ２３２０）も同様に上昇位置から下方に向けて変位（落下）させることができる。

【１０６５０】

次に、図５９７を参照して、回転体Ｅ２３４を第２回転位置まで回転させて、駆動モータＥＭ１の駆動力が第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ２３００に非伝達とした後、それら第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ２３００を上昇位置から中間位置に変位（落下）させた場合について説明する。

【１０６５１】

図５９７（ａ）に示すように、回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃが第１位置に配置される場合には、上昇位置から変位（落下）する第１伝達手段Ｅ２５０の正面側突設部Ｅ２５１ｂの下面が当接部Ｅ４４２ｃに当接することで、第１伝達手段Ｅ２５０の落下が規制され、第１伝達手段Ｅ２５０が中間位置に配置される。よって、第１伝達手段Ｅ２５０と共に落下する第１リンクＥ２４０及び上変位手段Ｅ３００（変位手段Ｅ３２０）も中間位置に配置される。

【１０６５２】

この場合、図５９７（ｂ）に示すように、上変位手段Ｅ３００（変位手段Ｅ３２０）が中間位置まで変位（落下）した衝撃により、変位手段Ｅ３２０に作用する慣性力で揺動用ピン支持部Ｅ２３３５に変位手段Ｅ３２０の揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆの内側を摺動させることができる。これにより、中間位置に変位（落下）した変位手段Ｅ２３２０の姿勢をベース手段Ｅ２００に対して変更することができる。

【１０６５３】

なお、図５９７（ｂ）に示すように中間位置までの変位（落下）の慣性力によりベース手段Ｅ２００に対する姿勢が変更された変位手段Ｅ２３２０は、その自重により、図５９７（ａ）に示す姿勢（即ち、中間位置に配置された姿勢）に戻され、その姿勢を維持することができる。

【１０６５４】

次に、図５９８を参照して、回転体Ｅ２３４を第２回転位置まで回転させて、駆動モータＥＭ１の駆動力が第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ２３００に非伝達とした後、それら第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ２３００を上昇位置から下降位置に変位（落下）させた場合について説明する。

【１０６５５】

図５９８（ａ）に示すように、回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃが第２位置に配置される場合には、上昇位置から変位（落下）する第１伝達手段Ｅ２５０の正面側突設部Ｅ２５１ｂの下面が当接部Ｅ４４２ｃに非当接とされる。これにより、第１伝達手段Ｅ２５０を下降位置まで落下させることが可能となり、第１伝達手段Ｅ２５０が下降位置に配置される。よって、第１伝達手段Ｅ２５０と共に落下する第１リンクＥ２４０及び上変位手段Ｅ２３００（変位手段Ｅ２３２０）も下降位置に変位（落下）される。

【１０６５６】

この場合、図５９８（ｂ）に示すように、上変位手段Ｅ２３００（変位手段Ｅ２３２０）を下降位置まで変位（落下）させた衝撃により、変位手段Ｅ２３２０に作用する慣性力で揺動用ピン支持部Ｅ２３３５に変位手段Ｅ３２０の揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆの内側を摺動させることができる。これにより、下降位置に変位（落下）した変位手段Ｅ２３２０の姿勢をベース手段Ｅ２００に対して変更することができる。

【１０６５７】

なお、図５９８（ｂ）に示すように中間位置までの変位（落下）の慣性力によりベース手段Ｅ２００に対する姿勢が変更された変位手段Ｅ２３２０は、その自重により、図５９８（ａ）に示す姿勢（即ち、中間位置に配置された姿勢）に戻され、その姿勢を維持することができる。

【１０６５８】

従って、第９８実施形態では、上記した第８９実施形態のように、回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃにより第１伝達手段Ｅ２５０の変位（落下）を規制または許容することで、窓部Ｐ１４ｅを介して視認される変位手段Ｅ２３２０の変位（落下）位置を変えるだけでなく、変位（落下）時における変位手段Ｅ２３２０の姿勢を変更できるので、変位手段Ｅ２３２０の変位による演出効果を向上できる。

【１０６５９】

即ち、上記第８９実施形態における上変位ユニットＥ１００では、回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃにより第１伝達手段Ｅ２５０の変位（落下）を規制または許容することで、第１伝達手段Ｅ２５０に接続される第１リンクＥ２４０及び上変位手段Ｅ３００（変位手段Ｅ３２０）の変位（落下）の距離が変更されるだけであるので、窓部Ｐ１４ｅを介して視認される変位手段Ｅ３２０の変位の態様を十分に変更できないという問題点があった。

【１０６６０】

これに対し、第９８実施形態における上変位ユニットＥ２１００では、回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃにより第１伝達手段Ｅ２５０の変位（落下）を規制または許容することで、第１伝達手段Ｅ２５０に接続される第１リンクＥ２４０及び上変位手段Ｅ３００（変位手段Ｅ３２０）の変位（落下）の距離を変更するだけでなく、変位（落下）時における変位手段Ｅ２３２０の姿勢を変更できるので、窓部Ｐ１４ｅを介して視認される変位手段Ｅ２３２０の変位の態様を変更しやすくできる。その結果、変位手段Ｅ２３２０の変位による演出効果を向上できる。

【１０６６１】

また、第９８実施形態における上変位ユニットＥ２１００では、当接部Ｅ４４２ｃにより第１伝達手段Ｅ２５０の変位（落下）を規制して、変位（落下）時における変位手段Ｅ２３２０の姿勢を変更した際に、窓部Ｐ１４ｅを介して視認される領域の中央側に向けて変位手段Ｅ２３２０を変位させることができる。そのため、変位手段Ｅ２３２０の変位に着目させやすくでき、限られたスペース（窓部Ｐ１４ｅから視認可能な領域）を有効に活用できる。

【１０６６２】

さらに、第９８実施形態においては、変位（落下）時における変位手段Ｅ２３２０の姿勢を変更した際に、変位手段Ｅ２３２０に配設される発光手段Ｅ３２１ｈ１の光の発光色および発光箇所が変更される。これにより、変位手段Ｅ２３２０の変位（落下）時に変位手段Ｅ２３２０の姿勢が変更されたことを遊技者に認識させやすくできる。その結果、変位手段Ｅ２３２０の変位による演出効果を向上できる。

【１０６６３】

次いで、図５９９から図６０１を参照して、第９９実施形態における上変位ユニットＥ２１００の変位態様について説明する。上記第９８実施形態では、上変位手段Ｅ２３００（変位手段Ｅ２３２０）が変位（落下）した際の慣性力を利用して変位（落下）後の変位手段Ｅ３２２０の姿勢を変化させる場合について説明したが、第９９実施形態では、上変位手段Ｅ２３００の変位手段Ｅ２３２０を他の役物（第９９実施形態では、下変位ユニットＥ５００）に衝突させて変位手段Ｅ２３２０の姿勢を変化させる場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【１０６６４】

図５９９（ａ）及び図５９９（ｂ）は、第９９実施形態における上変位ユニットＥ２１００及び下変位ユニットＥ５００を正面視した模式図であり、図６００（ａ）及び図６００（ｂ）は、上変位ユニットＥ２１００及び下変位ユニットＥ５００を正面視した模式図

であり、図６０１（ａ）及び図６０１（ｂ）は、上変位ユニットＥ２１００及び下変位ユニットＥ５００を正面視した模式図である。

【１０６６５】

なお、図５９９から図６０１では、上側装飾ユニットＰ１４ａと左側装飾ユニットＰ１４ｂと右側装飾ユニットＰ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｐ１４ｅ（図５４０参照）の範囲（即ち、パチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から正面枠Ｐ１４（図５４０参照）を介して視認可能な範囲）が２点鎖線で模式的に図示される。また、図５９９から図６０１では、変位手段Ｅ２３２０についての外形および揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆを破線で図示すると共に、第３ベースＥ２６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる回転体Ｅ２３４、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、係合部材Ｅ２９０、及び、回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃの外形が破線で図示される。

【１０６６６】

さらに、図５９９（ａ）では、回転体Ｅ２３４を第１回転位置に配置した状態が図示され、図５９９（ｂ）では、回転体Ｅ２３４を第１回転位置から正面視左回りに第２回転位置まで回転した状態が図示され、図６００（ａ）及び図６００（ｂ）では、回転体Ｅ２３４を正面視左回りで第２回転位置まで回転させた後、第１伝達手段Ｅ２５０が中間位置まで落下する状態が順に図示され、図６０１（ａ）及び図６０１（ｂ）では、第１伝達手段Ｅ２５０が中間位置から下降位置まで落下する状態が順に図示される。

【１０６６７】

図５９９から図６０１に示すように、下変位ユニットＥ５００は、張出位置に配設されることで、回転手段Ｅ５５０が窓部Ｐ１４ｅの下方側から変位して窓部Ｐ１４ｅの内側に配置される。なお、張出位置において下変位ユニットＥ５００の回転手段Ｅ５５０は、上変位ユニットＥ２１００の変位手段Ｅ２３２０と上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に配設されると共に、正面視における変位手段Ｅ２３２０の変位軌跡と重なる位置に配設される。これにより、第９９実施形態では、下変位ユニットＥ５００の回転手段Ｅ５５０が張出位置に配置される状態において、上変位ユニットの変位手段Ｅ２３２０が上昇位置から下方に向かって変位（落下）させた場合に、回転手段Ｅ５５０に変位手段Ｅ２３２０を当接させることができる。以下では、回転手段Ｅ５５０に変位手段Ｅ２３２０を当接について詳しく説明する。

【１０６６８】

まず、図５９９に示すように、回転体Ｅ２３４を正面視左回りに回転させた場合には、図５９９（ａ）に示す第１回転位置から図５９９（ｂ）に示す第２回転位置まで回転体Ｅ２３４を回転させる直前まで係合部材Ｅ２９０が係合位置に配置されるため、第１伝達手段Ｅ２５０の被係合部Ｅ２５１ｆに係合部材Ｅ２９０が係合して第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に規制される。そして、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に規制されることに伴い、第１伝達手段Ｅ２５０が接続される上変位手段Ｅ２３００も同様に上昇位置に規制される。

【１０６６９】

そして、図５９９（ｂ）に示すように、回転体Ｅ２３４が第２回転位置まで回転されると、回転体Ｅ２３４の回転に伴い係合部材Ｅ２９０が非係合位置に変位される。これにより、上昇位置に配置された第１伝達手段Ｅ２５０の下方（矢印Ｄ方向）への移動が許容される。この場合、上述したように、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆが第１リンクＥ２４０の下面から離間しているので、第１伝達手段Ｅ２５０に接続される上変位手段Ｅ２３００の自重により第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置から下方に向けて変位（落下）させることができる。この第１伝達手段Ｅ２５０の落下に伴い上変位手段Ｅ２３００の変位手段Ｅ２３２０も同様に上昇位置から下方に向けて変位（落下）させることができる。

【１０６７０】

次に、図６００を参照して、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置から中間位置に変位（落下）させた場合について説明する。なお、第９９実施形態における上変位ユニットＥ２１００では、ベース体Ｅ２３２１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される基板Ｅ３２１ｈ（

図５７１参照）の発光手段Ｅ３２１ｈ１の光が正面側だけでなく、下方側にも向けて出射可能に構成される。図６００では、変位手段Ｅ２３２０に配設される発光手段Ｅ３２１ｈ１が鎖線で図示されると共に、発光手段Ｅ３２１ｈ１から下方に向けて出射される光の方向が２点鎖線の矢印で図示される。

【１０６７１】

図６００（ａ）に示すように、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置から中間位置に変位（落下）させた場合には、上昇位置から変位（落下）する第１伝達手段Ｅ２５０の正面側突設部Ｅ２５１ｂの下面が当接部Ｅ４４２ｃに当接する直前（即ち、第１伝達手段Ｅ２５０が中間位置まで変位（落下）する直前）に、上変位ユニットＥ２１００の変位手段Ｅ２３２０を、張出位置に配設される下変位ユニットＥ５００の回転手段Ｅ５５０の上方側に当接させることができる。

【１０６７２】

この当接により、図６００（ｂ）に示すように、変位手段Ｅ２３２０が回転手段Ｅ５５０の外縁に沿って転動しつつ中間位置に向かって変位（落下）することで、姿勢規定手段Ｅ２３３０の揺動用ピン支持部Ｅ２３３５が変位手段Ｅ３２０の揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆの内側を摺動して、変位手段Ｅ２３２０の姿勢が変化される。この変位手段Ｅ２３２０の姿勢変化により、第１伝達手段Ｅ２５０の中間位置への変位（落下）を継続させて、第１伝達手段Ｅ２５０の正面側突設部Ｅ２５１ｂの下面を当接部Ｅ４４２ｃに当接させることができる。その結果、第１伝達手段Ｅ２５０の変位が中間位置で停止され、図６００（ｂ）に示すように、変位手段Ｅ２３２０の姿勢が変化された状態で変位手段Ｅ２３２０の変位（落下）が規制される。

【１０６７３】

また、第９９実施形態における上変位ユニットＥ２１００では、変位手段Ｅ２３２０を回転手段Ｅ５５０の上方側に当接させて、変位（落下）時における変位手段Ｅ２３２０の姿勢を変更した際に、窓部Ｐ１４ｅを介して視認される領域の中央側に向けて変位手段Ｅ２３２０を変位させることができる。よって、変位手段Ｅ２３２０が回転手段Ｅ５５０の影響を受けずに落下するたする態様では、変位手段Ｅ２３２０が下降位置まで落下する態様となりがちであるのに対し、途中で回転手段Ｅ５５０に当接される態様では、窓部Ｐ１４ｅから視認可能な領域における幅方向中央側へ変位手段Ｅ２３２０が変位可能とされるので、変位手段Ｅ２３２０の変位に着目させやすくできる。その結果、限られたスペース（窓部Ｐ１４ｅから視認可能な領域）を有効に活用できる。

【１０６７４】

なお、第９９実施形態における上変位ユニットＥ２１００では、図６００（ａ）及び図６００（ｂ）に示すように、変位手段Ｅ２３２０の姿勢が変化されることで、発光手段Ｅ３２１ｈ１から下方に向けて出射される光の向きが下変位ユニットＥ５００の回転手段Ｅ５５０に向けられる。これにより、第９９実施形態では、下変位ユニットＥ５００の回転手段Ｅ５５０の外面を上変位ユニットＥ１００の発光手段Ｅ３２１ｈ１の光により明るくしやすくできる。その結果、回転手段Ｅ５５０と変位手段Ｅ２３２０とを合わせた変位を遊技者に視認させやすくでき、回転手段Ｅ５５０に変位手段Ｅ２３２０を当接させることによる演出効果を向上できる。

【１０６７５】

次に、図６０１を参照して、図６００（ｂ）に示す中間位置に第１伝達手段Ｅ２５０が配置された状態から、第１伝達手段Ｅ２５０の正面側突設部Ｅ２５１ｂの下面と回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃとの当接を解除して、第１伝達手段Ｅ２５０を下降位置まで変位（落下）させる場合について説明する。

【１０６７６】

図６０１に示すように、第９９実施形態では、回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃを第２位置に変位させて、回転部材Ｅ４４２を第１伝達手段Ｅ２５０の中間位置から下降位置への変位を許容した後、回転手段Ｅ５５０を正面視右回りに回転させることで、回転手段Ｅ５５０の上方側に当接する変位手段Ｅ２３２０を変位させて、変位手段Ｅ５３０の姿

勢を変更させた状態で変位手段Ｅ５３０を下降位置まで落下させることができる。
【１０６７７】
即ち、第９９実施形態では、図６０１（ａ）に示すように、張出位置の回転手段Ｅ５５０に変位手段Ｅ２３２０を当接させて変位手段Ｅ２３２０の姿勢を変更するため、第１伝達手段Ｅ２５０が中間位置に配置される場合に、変位手段Ｅ２３２０の一部が回転手段Ｅ５５０に載置された状態とされる。
【１０６７８】
そのため、回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃを第２位置に変位させて、回転部材Ｅ４４２を第１伝達手段Ｅ２５０の中間位置から下降位置への変位を許容したとしても、変位手段Ｅ２３２０を下降位置に向けて変位（落下）させることが困難とされる。
【１０６７９】
これに対し、第９９実施形態では、回転手段Ｅ５５０を回転させることで、その回転手段Ｅ５５０に載置された変位手段Ｅ２３２０を回転手段Ｅ５５０の回転に合わせて左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位させることができる。これにより、回転手段Ｅ５５０の上方側に変位手段Ｅ２３２０が載置された状態を解除して、変位手段Ｅ２３２０を下降位置に向けて変位（落下）させることができる。その結果、変位手段Ｅ２３２０に接続される第１伝達手段Ｅ２５０を下降位置まで変位させることができる。
【１０６８０】
従って、第９９実施形態では、回転手段Ｅ５５０の回転に合わせて変位手段Ｅ２３２０を変位させることができるので、回転手段Ｅ５５０と変位手段Ｅ２３２０とを一体的に変位させることができる。そのため、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能とされる領域において、変位手段Ｅ２３２０と回転手段Ｅ５５０とを合わせた変位を遊技者に視認させることができ、それらの変位による演出効果を向上できる。
【１０６８１】
次いで、図６０２から図６０６を参照して、第１００実施形態における上変位ユニットＥ２１００の変位について説明する。上記第９９実施形態では、張出位置における下変位ユニットＥ５００の回転手段Ｅ５５０に、上変位ユニットＥ２１００の変位手段Ｅ２３２０が必ず当接する場合について説明したが、第１００実施形態では、張出位置における下変位ユニットＥ３５００の回転体Ｅ３５５０に、上変位ユニットＥ２１００の変位手段Ｅ２３２０を当接させる態様と、当接させない態様とを形成する場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【１０６８２】
初めに、図６０２及び図６０３を参照して、第１００実施形態における下変位ユニットＥ４５００について説明する。図６０２（ａ）は、第１００実施形態における下変位ユニットＥ４５００を正面視した模式図であり、図６０２（ｂ）は、回転手段Ｅ４５５０を正面視した模式図であり、図６０２（ｃ）は、回転手段Ｅ４５５０を上面視した模式図であり、図６０３（ａ）及び図６０３（ｃ）は、図６０２（ａ）のＥ０５ａ－Ｅ０５ａ線における下変位ユニットＥ４５００の断面模式図であり、図６０３（ｂ）及び図６０３（ｄ）は、回転手段Ｅ４５５０を上面視した模式図である。
【１０６８３】
なお、図６０３（ａ）及び図６０３（ｃ）では、変位手段Ｅ２３２０の変位を許容する許容回転位置に回転手段Ｅ４５５０が配設された状態が図示され、図６０３（ｂ）及び図６０３（ｄ）では、変位手段Ｅ２３２０の変位を規制する規制回転位置に回転手段Ｅ４５５０が配設された状態が図示される。
【１０６８４】
図６０２及び図６０３に示すように、第１００実施形態における下変位ユニットＥ４５００は、ベース手段Ｅ５１０と、駆動手段Ｅ５２０と、変位手段Ｅ５３０と、従動手段Ｅ５４０と、変位手段Ｅ５３０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される駆動手段Ｅ４５６０と、その駆動手段Ｅ４５６０の上方側に接続される回転手段Ｅ４５５０と、を主に備える。

【１０６８５】
駆動手段Ｅ４５６０は、一方向（第１００実施形態では、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向））に軸を変位可能なソレノイドＥ４５６１と、そのソレノイドＥ４５６１の軸の先端に配設される連結手段Ｅ４５６２と、それらソレノイドＥ４５６１及び連結手段Ｅ４５６２が収容されると共に、変位手段Ｅ５３０の正面側（矢印Ｆ方向側）に締結されるケース体Ｅ４５６３と、を主に備える。
【１０６８６】
連結手段Ｅ４５６２は、ソレノイドＥ４５６１の駆動力を後述する回転手段Ｅ４５５０に伝達するために回転手段Ｅ４５５０と接続される部材であり、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に貫通され前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に溝状に開口される摺動溝Ｅ４５６２ａを備える。
【１０６８７】
ケース体Ｅ４５６３は、ソレノイドＥ４５６１及び連結手段Ｅ４５６２を収容可能な箱状に形成され、上面に下方側（矢印Ｄ方向）に向けて円形状に凹設される被軸支部Ｅ４５６３ａを備える。また、ケース体Ｅ４５６３の上面には、後述する回転手段Ｅ４５５０の摺動ピンＥ４５５３を連結手段Ｅ４５６２に接続するための開口（図示しない）が形成される。下変位ユニットＥ４５００では、ケース体Ｅ４５６３の上面に形成される開口（図示しない）を介して、ケース体Ｅ４５６３の内外に配設される連結手段Ｅ４５６２と回転手段Ｅ４５５０とを接続できる。
【１０６８８】
回転手段Ｅ４５５０は、上面視略円形の円盤状に形成される本体部Ｅ４５５１と、その本体部Ｅ４５５１の中心に配設される回転軸Ｅ４５５２と、回転軸Ｅ４５５２とは径方向に異なる位置に配設される摺動ピンＥ４５５３と、を主に備え、回転軸Ｅ４５５２がケース体Ｅ４５６３の被軸支部Ｅ４５６３ａに回転可能な状態で軸支されると共に、摺動ピンＥ４５５３が連結手段Ｅ４５６２の摺動溝Ｅ４５６２ａの内側に配設される。
【１０６８９】
よって、回転手段Ｅ４５５０は、ソレノイドＥ４５６１に電力が付与されてソレノイドＥ４５６１の軸が連結手段Ｅ４５６２と共に左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位されることで連結手段Ｅ４５６２に接続される摺動ピンＥ４５５３が変位され、回転軸Ｅ４５５２を軸に回転される。
【１０６９０】
また、回転手段Ｅ４５５０の本体部Ｅ４５５１は、外周側の一部を径方向内側に向かって切り欠いて形成された切り欠き部Ｅ４５５１ａを備えており、ソレノイドＥ４５６１の駆動力により回転手段Ｅ４５５０を回転させることで、切り欠き部Ｅ４５５１ａの位置を変更可能とされる。
【１０６９１】
なお、回転手段Ｅ４５５０は、図６０３（ａ）に示すようにソレノイドＥ４５６１の軸が張り出され許容回転位置に配置される場合に、切り欠き部Ｅ４５５１ａの内側の空間が回転手段Ｅ４５５０の回転軸Ｅ４５５２と左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に隣り合う位置に配置され、図６０３（ｂ）に示すようにソレノイドＥ４５６１の軸が引き込まれ規制回転位置に配設される場合に、切り欠き部Ｅ４５５１ａの内側の空間が回転手段Ｅ４５５０の回転軸Ｅ４５５２よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に退避される。
【１０６９２】
次いで、図６０４から図６０６を参照して、第１００実施形態における上変位ユニットＥ２１００の変位態様について説明する。なお、第１００実施形態おける上変位ユニットＥ２１００では、第３ベースＥ２６０から変位規制手段Ｅ４００が取り外され、上変位手段Ｅ２３００（変位手段Ｅ２３２０）及び第１伝達手段Ｅ２５０は、変位手段Ｅ２３２０が回転手段Ｅ４５５０に載置されることにより中間位置に維持されるように構成される。
【１０６９３】
図６０４（ａ）及び図６０４（ｂ）は、第１００実施形態における上変位ユニットＥ２

１００及び下変位ユニットＥ４５００を正面視した模式図であり、図６０５（ａ）は、回転手段Ｅ４５５０及び変位手段Ｅ２３２０を上面視した模式図であり、図６０５（ｂ）は、上変位ユニットＥ２１００及び下変位ユニットＥ４５００を正面視した模式図であり、図６０６（ａ）は、回転手段Ｅ４５５０及び変位手段Ｅ２３２０を上面視した模式図であり、図６０６（ｂ）は、上変位ユニットＥ２１００及び下変位ユニットＥ４５００を正面視した模式図である。

【１０６９４】

なお、図６０４（ａ）、図６０４（ｂ）、図６０５（ｂ）及び図６０６（ｂ）では、変位手段Ｅ２３２０についての外形および揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆを破線で図示すると共に、第３ベースＥ２６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる回転体Ｅ２３４、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、及び、係合部材Ｅ２９０の外形が破線で図示される。

【１０６９５】

また、図６０４（ａ）、図６０４（ｂ）、図６０５（ｂ）及び図６０６（ｂ）では、上側装飾ユニットＰ１４ａと左側装飾ユニットＰ１４ｂと右側装飾ユニットＰ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｐ１４ｅ（図５４０参照）の範囲（即ち、パチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から正面枠Ｐ１４（図５４０参照）を介して視認可能な範囲）が２点鎖線で模式的に図示される。

【１０６９６】

図６０４から図６０６に示すように、下変位ユニットＥ４５００は、上記第９９実施形態における下変位ユニットＥ５００と同様に、張出位置に配設されることで、回転手段Ｅ４５５０が窓部Ｐ１４ｅの外側から窓部Ｐ１４ｅの内側に配置される。なお、張出位置において下変位ユニットＥ４５００の回転手段Ｅ４５５０は、上変位ユニットＥ２１００の変位手段Ｅ２３２０と上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に配設されると共に、正面視における変位手段Ｅ２３２０の変位軌跡と重なる位置に配設される。これにより、第１００実施形態では、下変位ユニットＥ４５００の回転手段Ｅ４５５０が張出位置に配置される状態において、上変位ユニットの変位手段Ｅ２３２０が上昇位置から下方に向かって変位（落下）させた場合に、回転手段Ｅ４５５０に変位手段Ｅ２３２０を当接させることができる。以下では、張出位置に回転手段Ｅ４５５０が配置される場合における変位手段Ｅ２３２０の変位態様について詳しく説明する。

【１０６９７】

まず、回転体Ｅ２３４を第１回転位置から第２回転位置まで回転させる場合には、上記第８９実施形態、第９８実施形態、第９９実施形態における上変位ユニットＥ１００，Ｅ２１００と同様に、係合部材Ｅ２９０が係合位置に配置されるため、第１伝達手段Ｅ２５０の被係合部Ｅ２５１ｆに係合部材Ｅ２９０が係合して第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に規制される。そして、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に規制されることに伴い、第１伝達手段Ｅ２５０が接続される上変位手段Ｅ２３００も同様に上昇位置に規制される。

【１０６９８】

そして、図６０４（ａ）に示すように、回転体Ｅ２３４が第２回転位置まで回転されると、回転体Ｅ２３４の回転に伴い係合部材Ｅ２９０が非係合位置に変位される。これにより、上昇位置に配置された第１伝達手段Ｅ２５０の下方（矢印Ｄ方向）への移動が許容される。この場合、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆが第１リンクＥ２４０の下面から離間しているので、第１伝達手段Ｅ２５０に接続される上変位手段Ｅ２３００の自重により第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置から下方に向けて変位（落下）させることができる。この第１伝達手段Ｅ２５０の落下に伴い上変位手段Ｅ２３００の変位手段Ｅ２３２０も同様に上昇位置から下方に向けて変位（落下）させて、図６０４（ｂ）に示すように、正面視において下変位ユニットＥ４５００の回転手段Ｅ４５５０の上方に隣り合う位置まで落下させることができる。

【１０６９９】

次に、図６０５及び図６０６を参照して、正面視において下変位ユニットＥ４５００の回転手段Ｅ４５５０の上方に隣り合う位置（図６０４（ｂ）に示す位置）まで変位（落下

）させた際に、回転手段Ｅ４５５０が規制回転位置または許容回転位置に配設される場合について説明する。

【１０７００】

図６０５に示すように、回転手段Ｅ４５５０が張出位置、且つ、規制回転位置に配置される場合には、回転手段Ｅ４５５０の切り欠き部Ｅ４５５１ａにより形成される空間が回転軸Ｅ４５５２よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に退避され、回転手段Ｅ４５５０の上面が変位手段Ｅ２３２０の変位軌跡上に配置される。

【１０７０１】

これにより、上昇位置から下降する変位手段Ｅ２３２０が回転手段Ｅ４５５０の上面に当接される。この当接により、図６０５（ｂ）に示すように、変位手段Ｅ２３２０が回転手段Ｅ４５５０の上面に沿って転動することで、姿勢規定手段Ｅ２３３０の揺動用ピン支持部Ｅ２３３５が変位手段Ｅ３２０の揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆの内側を摺動して、変位手段Ｅ２３２０の姿勢を変化させることができる。また、第１００実施形態では、姿勢変化した変位手段Ｅ２３２０を回転手段Ｅ４５５０の上面に載置することで、第１伝達手段Ｅ２５０及び上変位手段Ｅ２３００（変位手段Ｅ２３２０）を中間位置に維持することができる。

【１０７０２】

また、第１００実施形態における上変位ユニットＥ２１００では、変位手段Ｅ２３２０を回転手段Ｅ４５５０の上方側に当接させて、変位（落下）時における変位手段Ｅ２３２０の姿勢を変更した際に、窓部Ｐ１４ｅを介して視認される領域の中央側に向けて変位手段Ｅ２３２０を変位させることができる。よって、変位手段Ｅ２３２０が回転手段Ｅ４５５０の影響を受けずに落下するたする態様では、変位手段Ｅ２３２０が下降位置まで落下する態様となりがちであるのに対し、途中で回転手段Ｅ４５５０に当接される態様では、窓部Ｐ１４ｅから視認可能な領域における幅方向中央側へ変位手段Ｅ２３２０が変位可能とされるので、変位手段Ｅ２３２０の変位に着目させやすくできる。その結果、限られたスペース（窓部Ｐ１４ｅから視認可能な領域）を有効に活用できる。

【１０７０３】

一方、図６０６に示すように、回転手段Ｅ４５５０が張出位置、且つ、許容回転位置に配置される場合には、回転手段Ｅ４５５０の切り欠き部Ｅ４５５１ａにより形成される空間が回転軸Ｅ４５５２と左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に隣り合う位置に配設され、切り欠き部Ｅ４５５１ａにより形成される空間が変位手段Ｅ２３２０の回転軌跡上に配置される。

【１０７０４】

これにより、上昇位置から下降する変位手段Ｅ２３２０が回転手段Ｅ４５５０の切り欠き部Ｅ４５５１ａにより形成される空間を通過して下降位置まで落下させることができる。

【１０７０５】

従って、第１００実施形態では、回転手段Ｅ４５５０が張出位置に配置される状態において、回転手段Ｅ４５５０を回転させることで、上昇位置から変位する変位手段Ｅ２３２０が回転手段Ｅ４５５０に当接されるか否かを変更することができる。

【１０７０６】

このように、第１００実施形態では、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域に配置される張出位置の回転手段Ｅ４５５０に、上昇位置から変位（落下）する変位手段Ｅ２３２０が当接可能に構成されるので、変位手段Ｅ２３２０が回転手段Ｅ４５５０に当接されるか否かの動向に着目させることができる。

【１０７０７】

また、第１００実施形態では、張出位置に配設した回転手段Ｅ４５５０を回転させて、切り欠き部Ｅ４５５１ａを前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位させることで、回転手段Ｅ４５５０に変位手段Ｅ２３２０が当接する態様と、回転手段Ｅ４５５０に変位手段Ｅ２３２０が当接しない態様とに切り替えることができるので、正面側（矢印Ｆ方向側）から窓

部Ｐ１４ｅを介して回転手段Ｅ４５５０を視認する遊技者に対し、回転手段Ｅ４５５０の状態（回転位置）を把握させにくくできる。即ち、変位手段Ｅ２３２０が回転手段Ｅ４５５０に当接可能な状態であるか否かを把握させにくくできる。

【１０７０８】

なお、第１００実施形態では、回転手段Ｅ４５５０は円板状に形成され回転軸を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に向けて配置されるので、回転手段Ｅ４５５０に変位手段Ｅ２３２０が当接する態様と、回転手段Ｅ４５５０に変位手段Ｅ２３２０が当接しない態様とに切り替えた際に、正面視における回転手段Ｅ４５５０の外形の変化量を少なくできる。その結果、正面側（矢印Ｆ方向側）から窓部Ｐ１４ｅを介して回転手段Ｅ４５５０を視認する遊技者に対し、回転手段Ｅ４５５０の状態（回転位置）を把握させにくくできる。

【１０７０９】

さらに、第１００実施形態では、直動可能な軸を有するソレノイドＥ４５６１と、変位（落下）する変位手段Ｅ２３２０が当接される回転手段Ｅ４５５０とが、ソレノイドＥ４５６１の軸に接続された連結手段Ｅ４５６２の摺動溝Ｅ４５６２ａに回転手段Ｅ４５５０に形成された摺動ピンＥ４５５３が挿通され、その挿通方向が鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とされるので、変位手段Ｅ２３２０が変位（落下）して回転手段Ｅ４５５０に当接した場合に、その当接した衝撃や変位手段Ｅ２３２０の荷重が連結手段Ｅ４５６２に作用することを抑制できる。その結果、連結手段Ｅ４５６２及びソレノイドＥ４５６１が破損や故障することを抑制できる。

【１０７１０】

なお、変位手段Ｅ２３２０が回転手段Ｅ４５５０に当接された際に、回転手段Ｅ４５５０の回転軸Ｅ４５５２が破損しないように、被軸支部Ｅ４５６３ａの底部に弾性体を配設しても良い。この場合には、変位手段Ｅ２３２０が回転手段Ｅ４５５０に当接した際に、被軸支部Ｅ４５６３ａに配設した弾性体を弾性変形させることで、変位手段Ｅ２３２０が回転手段Ｅ４５５０に当接した衝撃を吸収できる。その結果、回転手段Ｅ４５５０の回転軸Ｅ４５５２が破損することを抑制できる。

【１０７１１】

次いで、図６０７から図６１０を参照して、第１０１実施形態における上変位ユニットＥ５１００について説明する。上記第９８実施形態では、変位手段Ｅ２３２０の姿勢を変更するために、第１伝達手段Ｅ２５０を回転部材Ｅ４４２の当接部Ｅ４４２ｃに当接させる場合について説明したが、第１０１実施形態では、変位手段Ｅ５３２０を変位付与手段Ｅ５２２６の被当接部Ｅ５２２６ａに当接させて、変位手段Ｅ５３２０の姿勢を変更する場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその詳しい説明は省略する。

【１０７１２】

初めに、図６０７を参照して、第１０１実施形態における上変位ユニットＥ５１００の全体構成について説明する。図６０７（ａ）は、第１０１実施形態における上変位ユニットＥ５１００を正面視した模式図であり、図６０７（ｂ）は、図６０７（ａ）のＥ０６ｂ－Ｅ０６ｂ線における上変位ユニットＥ５１００の断面模式図である。なお、図６０７（ａ）では、上側装飾ユニットＰ１４ａと左側装飾ユニットＰ１４ｂと右側装飾ユニットＰ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｐ１４ｅ（図５４０参照）の範囲（即ち、パチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から正面枠Ｐ１４（図５４０参照）を介して視認可能な範囲）が２点鎖線で模式的に図示される。

【１０７１３】

図６０７に示すように、第１０１実施形態における上変位ユニットＥ５１００は、ベース手段Ｅ５２００と、そのベース手段Ｅ５２００の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、ベース手段Ｅ５２００に対して相対変位可能とされる上変位手段Ｅ５３００と、を主に備え、ベース手段Ｅ５２００から上変位手段Ｅ５３００に駆動モータＥＭ１の駆動力が伝達されることにより、上変位手段Ｅ５３００を窓部Ｐ１４ｅの範囲内と範囲外とで変位可能とされる。

【１０７１４】
第１０１実施形態における上変位手段Ｅ５３００は、駆動力伝達手段Ｅ３１０と、その駆動力伝達手段Ｅ３１０が接続される変位手段Ｅ５３２０と、その変位手段Ｅ５３２０の背面側（矢印Ｂ方向側）において正面視右側（矢印Ｒ方向側に接続される姿勢規定手段Ｅ２３３０と、を主に備える。
【１０７１５】
変位手段Ｅ５３２０は、駆動力伝達手段Ｅ３１０が接続され、駆動力伝達手段Ｅ３１０を介して駆動力を第１伝達手段Ｅ２５０との間で伝達可能なベース体Ｅ５２３１と、そのベース体Ｅ５３２１の正面側（矢印Ｆ方向側）にベース体Ｅ５３２１の正面との間に所定の空間を形成した状態で配設される第１装飾体Ｅ３２２と、その第１装飾体Ｅ３２２に対して相対変位可能に配設され、ベース体Ｅ５３２１及び第１装飾体Ｅ３２２の間の空間に配設される第２装飾体Ｅ３２３と、その第２装飾体Ｅ３２３と共に変位可能な状態で第１装飾体Ｅ３２２の正面側に配設される第３装飾体Ｅ３２４と、を主に備える。
【１０７１６】
ベース体Ｅ５３２１は、正面視において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長い矩形状に形成され、正面視において右側（矢印Ｒ方向側）の一部が窓部Ｐ１４ｅの外側の領域に配設されると共にベース手段Ｅ２００（第３ベースＥ２６０）の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に配設される。また、ベース体Ｅ５３２１は、ベース手段Ｅ２００の第３ベースＥ２６０の正面側に重なる領域において背面側（矢印Ｂ方向側）に円柱状に突出される当接ピン部Ｅ５３２１ｇを備えると共に、上記第９８実施形態におけるベース体Ｅ２３２１と同様に、背面側（矢印Ｂ方向側）の２箇所から円柱状に突出する軸支部Ｅ３２１ａ，Ｅ３２１ｃと、背面側の１箇所から略角柱状に突出する変位規制部Ｅ３２１ｄと、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って長い溝状に開口される摺動溝Ｅ３２１ｅと、背面側に溝状に凹設される揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆと、を備える。
【１０７１７】
当接ピン部Ｅ５３２１ｇは、後述するベース手段Ｅ５２００の第２ベースＥ５２２０に配設される変位付与手段Ｅ５２２６の被当接部Ｅ５２２６ａに当接して、変位手段Ｅ５３２０の変位方向を変更する部分であり、正面視において窓部Ｐ１４ｅの外側の領域に形成されると共に、第３ベースＥ５２６０よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。
【１０７１８】
また、当接ピン部Ｅ５３２１ｇは、背面側（矢印Ｂ方向側）の先端部に周方向沿って凹設される溝部Ｅ５３２１ｇ１を備える。溝部Ｅ５３２１ｇ１は、当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ５２２６ａに当接した際に、被当接部Ｅ５２２６ａに形成される凸部Ｅ５２２６ａ１が挿入される部分であり、凸部Ｅ５２２６ａ１に対応する凹設形状に形成される。
【１０７１９】
ベース手段Ｅ５２００は、第１ベースＥ２１０と、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長い矩形の板状に形成され、上端（矢印Ｕ方向側の端部）が第１ベースＥ２１０の一端（矢印Ｒ方向側の端部）に連結される第２ベースＥ５２２０と、その第２ベースＥ５２２０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される駆動手段Ｅ２３０と、第１リンクＥ２４０と、第１伝達手段Ｅ２５０と、第２ベースＥ５２２０との対向間に駆動手段Ｅ２３０、第１リンクＥ２４０、及び、第１伝達手段Ｅ２５０を収容した状態で第２ベースＥ５２２０の正面側に配設される第３ベースＥ５２６０と、第２ベースＥ５２２０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第２リンクＥ２７０と、第２伝達手段Ｅ２８０と、係合部材Ｅ２９０と、を主に備え、第３ベースＥ５２６０の正面側に配設される駆動モータＥＭ１の駆動力により、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置と下降位置との間で変位可能に構成される。
【１０７２０】
第２ベースＥ５２２０は、駆動手段Ｅ２３０、第１リンクＥ２４０、第２リンクＥ２７０、第２伝達手段Ｅ２８０、及び、係合部材Ｅ２９０が変位可能な状態で配設される本体部材Ｅ５２２１と、その本体部材Ｅ５２２１に配設され後述する第１伝達手段Ｅ２５０を

案内する金属製の案内棒Ｅ２２２と、その案内棒Ｅ２２２に案内された第１伝達手段Ｅ２５０が上昇側の端部（上昇位置）に配設されたことを検出する第１検出手段Ｅ２２３と、第１伝達手段Ｅ２５０が案内棒Ｅ２２２に案内されて下降側の端部まで変位された際に第１伝達手段Ｅ２５０に当接して第１伝達手段Ｅ２５０の変位を規制する弾性体Ｅ２２４と、後述する駆動手段Ｅ２３０の回転体が所定位置に回転されたことを演出する第２検出手段Ｅ２２５と、第２ベースＥ５２２０に開口された貫通孔を介して第２ベースＥ５２２０の背面側（矢印Ｂ方向側）と正面側（矢印Ｆ方向側）とに亘って配設される変位付与手段Ｅ５２２６と、を備える。

【１０７２１】

変位付与手段Ｅ５２２６は、第３ベースＥ５２６０正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置で変位（落下）する変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇと当接することで、変位手段Ｅ５３２０の変位（落下）態様を変化させる部材であり、正面において、当接ピン部Ｅ５３２１ｇと上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に配設される。

【１０７２２】

また、変位付与手段Ｅ５２２６は、当接ピン部Ｅ５３２１ｇに当接する被当接部Ｅ５２２６ａと、その被当接部Ｅ５２２６ａに接続され、被当接部Ｅ５２２６ａを変位させることが可能に構成されるソレノイドＥ５２２６ｂと、を備える。

【１０７２３】

ソレノイドＥ５２２６ｂは、被当接部Ｅ５２２６ａに接続される軸を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位させることが可能な状態で配置され、第２ベースＥ５２２０の本体部材Ｅ５２２１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。また、ソレノイドＥ５２２６ｂは、その前後方向に変位可能な軸が本体部材Ｅ５２２１の貫通孔を介して本体部材Ｅ５２２１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、その本体部材Ｅ５２２１の正面側に配設されるソレノイドＥ５２２６ｂの軸が第３ベースＥ５２６０よりも正面側に突出可能に構成される。これにより、ソレノイドＥ５２２６ｂの軸を変位させることで、ソレノイドＥ５２２６ｂの軸に接続される被当接部Ｅ５２２６ａを第３ベースＥ５２６０の正面側に突出させることが可能とされる。

【１０７２４】

被当接部Ｅ５２２６ａは、正面視円形状の円板状に形成されると共に、その中心がソレノイドＥ５２２６ｂの軸に対して回転可能な状態でソレノイドＥ５２２６ｂの軸に連結される。また、被当接部Ｅ５２２６ａには、円板状に形成される外周面において、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の一部の領域から径方向外側に向かって突出すると共に周方向に一周連続する凸部Ｅ５２２６ａ１が形成される。

【１０７２５】

凸部Ｅ５２２６ａ１は、被当接部Ｅ５２２６ａに当接する当接ピン部Ｅ５３２１ｇを案内する突起であり、当接ピン部Ｅ５３２１ｇに形成される溝部Ｅ５３２１ｇ１の内側に挿入可能な大きさに形成される。また、凸部Ｅ５２２６ａ１は、被当接部Ｅ５２２６ａの外周面を周方向に一周する間に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に波状に湾曲して形成される。これにより、被当接部Ｅ５２２６ａに当接して被当接部Ｅ５２２６ａの外周面に沿って変位する当接ピン部Ｅ５３２１ｇを凸部Ｅ５２２６ａ１に沿って前後方向に変位させることができる。

【１０７２６】

第３ベースＥ５２６０は、正面視において第２ベースＥ５２２０と略同一の外形に形成され、第２ベースＥ５２２０との対向間に駆動手段Ｅ２３０、第１リンクＥ２４０、及び、第１伝達手段Ｅ２５０の一部を収容した状態で第２ベースＥ５２２０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。また、正面視において窓部Ｐ１４ｅ側（矢印Ｌ方向側）の第２ベースＥ５２２０と第３ベースＥ５２６０との端部には、第２ベースＥ５２２０と第３ベースＥ５２６０との間に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の空間が形成されており、その所定の空間を介して第１伝達手段Ｅ２５０の伝達部Ｅ２５２が窓部Ｐ１４ｅの内側の領域に突出されると共に、摺動体Ｅ２５１の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の変位に伴って伝達

部Ｅ２５２を窓部Ｐ１４ｅの内側の領域で上下方向に変位可能とされる。
【１０７２７】
　また、第３ベースＥ５２６０は、正面側（矢印Ｆ方向側）の側面から正面側に向かって円柱状に突設される２箇所の軸部Ｅ２６１，Ｅ２６２と、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に円形状に開口される挿通孔Ｅ２６３と、前後方向に円形状に開口される貫通孔Ｅ５２６５と、正面側の側面に配設され変位手段Ｅ５２６３を検出可能な検出手段Ｅ５２６７と主に備える。
【１０７２８】
　貫通孔Ｅ５２６５は、第２ベースＥ５２２０に配設される変位付与手段Ｅ５２２６の被当接部Ｅ５２２６ａを第３ベースＥ５２６０の正面側（矢印Ｆ方向側）と背面側（矢印Ｂ方向側）との間で変位させるための開口であり、正面視において被当接部Ｅ５２２６ａの外形よりも大きい内径に形成される。
【１０７２９】
　検出手段Ｅ５２６７は、変位手段Ｅ５３２０が所定位置に変位したことを検出可能な検出装置であり、姿勢規定手段Ｅ２３３０の揺動用ピン支持部Ｅ２３３５が変位手段Ｅ５３２０の揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆの内側を摺動して、変位手段Ｅ５３２０の姿勢が所定の姿勢に変位された場合に変位手段Ｅ５３２０を検出可能に構成される。
【１０７３０】
　次いで、図６０８から図６１０を参照して、第１０１実施形態における上変位ユニットＥ５１００の変位態様について説明する。なお、第１０１実施形態における上変位ユニットＥ５１００では、変位手段Ｅ５３２０が上昇位置から下降位置に向かって変位される際に、中間位置でその姿勢を変化するか否かを変更できる。
【１０７３１】
　図６０８（ａ）及び図６０８（ｂ）は、第１０１実施形態における上変位ユニットＥ５１００を正面視した模式図であり、図６０９（ａ）は、上変位ユニットＥ５１００を正面視した模式図であり、図６０９（ｂ）は、上変位ユニットＥ５１００を側面視した模式図であり、図６１０（ａ）は、上変位ユニットＥ５１００を正面視した模式図であり、図６１０（ｂ）は、上変位ユニットＥ５１００を側面視した模式図である。
【１０７３２】
　なお、図６０８（ａ）、図６０８（ｂ）、図６０９（ａ）及び図６１０（ａ）では、変位手段Ｅ５３２０についての外形および揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆ、当接ピン部Ｅ５３２１ｇを破線で図示すると共に、第３ベースＥ５２６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる回転体Ｅ２３４、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、及び、係合部材Ｅ２９０の外形が破線で図示され、上側装飾ユニットＰ１４ａと左側装飾ユニットＰ１４ｂと右側装飾ユニットＰ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｐ１４ｅ（図５４０参照）の範囲（即ち、パチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から正面枠Ｐ１４（図５４０参照）を介して視認可能な範囲）が２点鎖線で模式的に図示される。
【１０７３３】
　また、図６０９（ａ）及び図６１０（ｂ）では、被当接部Ｅ５２２６ａを第３ベースＥ５２６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出した状態が図示され、図６１０（ａ）及び図６１０（ｂ）では、被当接部Ｅ５２２６ａを第３ベースＥ５２６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に退避した状態が図示される。
【１０７３４】
　初めに、第１０１実施形態の上変位ユニットＥ５１００において、回転体Ｅ２３４を第１回転位置から第２回転位置まで回転させる場合には、上記第８９実施形態、第９８実施形態～第１００実施形態における上変位ユニットＥ１００，Ｅ２１００と同様に、係合部材Ｅ２９０が係合位置に配置されるため、第１伝達手段Ｅ２５０の被係合部Ｅ２５１ｆに係合部材Ｅ２９０が係合して第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に規制される。そして、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に規制されることに伴い、第１伝達手段Ｅ２５０が接続される上変位手段Ｅ５３００も同様に上昇位置に規制される。

【１０７３５】
そして、図６０８（ａ）に示すように、回転体Ｅ２３４が第２回転位置まで回転されると、回転体Ｅ２３４の回転に伴い係合部材Ｅ２９０が非係合位置に変位される。これにより、上昇位置に配置された第１伝達手段Ｅ２５０の下方（矢印Ｄ方向）への移動が許容される。この場合、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆが第１リンクＥ２４０の下面から離間しているので、第１伝達手段Ｅ２５０に接続される上変位手段Ｅ５３００の自重により第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置から下方に向けて変位（落下）させることができる。この第１伝達手段Ｅ２５０の落下に伴い上変位手段Ｅ５３００の変位手段Ｅ５３２０も同様に上昇位置から下方に向けて変位（落下）させて、図６０８（ｂ）に示すように、正面視において、変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ５２６５ａと上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に隣り合う位置まで変位（落下）させることができる。
【１０７３６】
次に、図６０９及び図６１０を参照して、正面視において変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ５２６５ａと上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に隣り合う位置（図６０８（ｂ）に示す位置）よりも下方側における変位手段Ｅ５３２０の変位ついて説明する。
【１０７３７】
図６０９に示すように、変位付与手段Ｅ５２２６の被当接部Ｅ５２２６ａが第３ベースＥ５２６０よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出す位置に配置される場合には、変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ５２２６ａの外周面に当接される。これにより、図６０９（ａ）に示すように、変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇを被当接部Ｅ５２２６ａの外周面に当接させつつ変位させることができる。従って、変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇ側の変位が規制されるため、姿勢規定手段Ｅ２３３０の揺動用ピン支持部Ｅ２３３５が変位手段Ｅ５３２０の揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆの内側を摺動して、変位手段Ｅ５３２０の姿勢が変化される。その結果、変位手段Ｅ５３２０の演出効果を高めることができる。
【１０７３８】
即ち、上記第８９実施形態における上変位ユニットＥ１００のように、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能とされる領域において、上昇位置から変位（落下）する変位手段Ｅ３２０を中間位置で停止させるものである場合には、中間位置から再度落下を開始するまでのタイミングの自由度を向上できるものの、窓部Ｐ１４ｅを介して視認される変位手段Ｅ３２０の変位の態様を十分に変更できないため、変位手段Ｅ３２０の演出効果が低下するという問題点があった。
【１０７３９】
これに対し、第１０１実施形態における上変位ユニットＥ５１００では、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能とされる領域において、上昇位置から変位（落下）する変位手段Ｅ５３２０を中間位置で姿勢を変化させることができる。その結果、変位手段Ｅ５３２０の変位（落下）態様を複雑化して、変位手段Ｅ５３２０の演出効果を高めることができる。
【１０７４０】
なお、第３ベースＥ５２６０に配設される検出手段Ｅ５２６７は、変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ５２２６ａの外周面に当接され、その姿勢が変化された変位手段Ｅ５３２０を検出可能な位置に配置される。これにより、変位手段Ｅ５３２０の姿勢が変化されているか否かを検出して、ソレノイドの動作不良を検出できる。
【１０７４１】
また、姿勢規定手段Ｅ２３３０の揺動用ピン支持部Ｅ２３３５が変位手段Ｅ３２０の揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆの内側を摺動して、変位手段Ｅ５３２０の姿勢が変化される場合には、上述したように当接ピン部Ｅ５３２１ｇの溝部Ｅ５３２１ｇ１に被当接部Ｅ５２２６ａの凸部Ｅ５２２６ａ１が挿入され、当接ピン部Ｅ５３２１ｇが凸部Ｅ５２２６ａ１に沿って前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位される。そのため、正面視における変位手段Ｅ５３２０の姿勢変化に伴い変位手段Ｅ５３２０を前後方向に変位させることができる。こ

れにより、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能とされる範囲において、変位手段Ｅ５３２０の変位による演出効果を高めることができる。

【１０７４２】

即ち、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能とされる範囲において、変位手段Ｅ５３２０がその視認可能とされる平面に沿って左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）又は上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にしか変位されないものであると、変位手段Ｅ５３２０が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位しない分、変位手段Ｅ５３２０を変位させるために必要な前後方向のスペースを省スペース化できるものの、左右方向および上下方向に沿う方向の平面上に変位手段Ｅ５３２０の変位方向が限定されるため、変位手段Ｅ５３２０の変位（落下）による演出効果を十分に高めることができないという問題がある。

【１０７４３】

これに対し、第１０１実施形態における上変位ユニットＥ５１００では、上昇位置から下方（矢印Ｄ方向）に向けて変位する変位手段Ｅ５３２０が窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能とされる中間位置において前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位可能に構成されるので、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能とされる領域における前後方向の空間を活用できる。よって、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能とされる範囲において、変位手段Ｅ５３２０の変位による演出効果を高めることができる。

【１０７４４】

また、変位手段Ｅ５３２０が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位される場合には、当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ５２２６ａの外周面に沿って変位するため、変位手段Ｅ５３２０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位させることができる。即ち、第１０１実施形態では、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域において、変位手段Ｅ５３２０を前後方向と左右方向とに変位させることができる。これにより、変位手段Ｅ５３２０が被当接部Ｅ５２２６ａに当接された際に、変位手段Ｅ５３２０がどの方向に変位するかの動向について着目させやすくできる。その結果、変位手段Ｅ５３２０の変位による演出の効果を高めることができる。

【１０７４５】

なお、被当接部Ｅ５２６５ａは、ソレノイドＥ５２６６ｂの軸に対して回転可能な状態で配設されるので、被当接部Ｅ５２２６ａが当接する度に被当接部Ｅ５２２６ａの回転位置を変更できる。よって、被当接部Ｅ５２２６ａの凸部Ｅ５２２６ａ１が当接ピン部Ｅ５３２１ｇの溝部Ｅ５３２１ｇ１に挿入される前後位置を、当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ５２２６ａに当接する度に変更できる。これにより、変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ５２２６ａに当接した際の変位手段Ｅ５３２０の変位態様を複雑化できる。その結果、窓部Ｐ１４ｅを介して変位手段Ｅ５３２０の変位（落下）を視認する遊技者が飽きることを抑制できる。

【１０７４６】

一方、図６１０に示すように、変位付与手段Ｅ５２２６の被当接部Ｅ５２２６ａが第３ベースＥ５２６０よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に退避する位置に配置される場合には、変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ５２２６ａに当接せず、被当接部Ｅ５２２６ａの正面側（矢印Ｆ方向側）を通過する。

【１０７４７】

従って、第１０１実施形態では、変位付与手段Ｅ５２２６の被当接部Ｅ５２２６ａが第３ベースＥ５２６０よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に退避する位置に配置される場合に、上昇位置から変位する変位手段Ｅ５３２０が中間位置でその姿勢を変化することなく下降位置まで変位させることができる。

【１０７４８】

即ち、第１０１実施形態では、変位付与手段Ｅ５２２６の被当接部Ｅ５２２６ａの配置により、変位手段Ｅ５３２０を上昇位置から変位させた際に、下降位置まで姿勢変化することなく変位（落下）させるか、中間位置で姿勢を変化させてから下降位置まで変位（落下）させるかを切り替えることができる。その結果、変位手段Ｅ５３２０の上昇位置から

の変位態様が一義的になることを抑制できる。その結果、変位手段Ｅ５３２０の変位に遊技者が飽きることを抑制できる。

【１０７４９】

また、第１０１実施形態では、変位手段Ｅ５３２０が当接して、その姿勢を変化させる被当接部Ｅ５２２６ａが、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域外となる位置の第２ベースＥ５２２０に配設される。従って、第１０１実施形態では、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域外で、被当接部Ｅ５２２６ａに変位手段Ｅ５３２０が当接する態様と、被当接部Ｅ５２２６ａに変位手段Ｅ５３２０が当接しない態様とを切り替えることができ、被当接部Ｅ５２２６ａに変位手段Ｅ５３２０を当接させた際の変位手段Ｅ５３２０の姿勢変化に着目させやすくできる。

【１０７５０】

なお、第１０１実施形態における上変位ユニットＥ５１００では、当接ピン部Ｅ５３２１ｇが当接する被当接部Ｅ５２２６ａを前後方向に変位させたが、上変位手段Ｅ５３００に配設される当接ピン部Ｅ５３２１ｇを前後方向に変位させて、第２ベースＥ５２２０又は第３ベースＥ５２６０に固定される被当接部Ｅ５２２６ａに当接ピン部Ｅ５３２１ｇが当接する態様と当接しない態様とに切り替えるものであっても良い。

【１０７５１】

次いで、図６１１から図６１３を参照して、第１０２実施形態における上変位ユニットＥ６１００について説明する。上記第１０１実施形態では、変位手段Ｅ５３２０を当接させる変位付与手段Ｅ５２２６の被当接部Ｅ５２２６ａを、第３ベースＥ５２６０に対して前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位させる場合について説明したが、第１０２実施形態では、変位手段Ｅ５３２０を当接させる変位付与手段Ｅ６２２６の被当接部Ｅ６２２６ａを、第３ベースＥ６２６０に対して回転させる場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその詳しい説明は省略する。

【１０７５２】

初めに、図６１１を参照して、第１０２実施形態における上変位ユニットＥ６１００の全体構成について説明する。図６１１（ａ）は、第１０２実施形態における上変位ユニットＥ６１００を正面視した模式図であり、図６１１（ｂ）は、図６１１（ａ）のＥ０７ｂ－Ｅ０７ｂ線における上変位ユニットＥ６１００の断面模式図である。なお、図６１１（ａ）では、上側装飾ユニットＰ１４ａと左側装飾ユニットＰ１４ｂと右側装飾ユニットＰ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｐ１４ｅ（図５４０参照）の範囲（即ち、パチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から正面枠Ｐ１４（図５４０参照）を介して視認可能な範囲）が２点鎖線で模式的に図示される。

【１０７５３】

図６１１に示すように、第１０２実施形態における上変位ユニットＥ６１００は、ベース手段Ｅ６２００と、そのベース手段Ｅ６２００の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、ベース手段Ｅ６２００に対して相対変位可能とされる上変位手段Ｅ５３００と、を主に備え、ベース手段Ｅ６２００から上変位手段Ｅ５３００に駆動モータＥＭ１の駆動力が伝達されることにより、上変位手段Ｅ５３００を窓部Ｐ１４ｅの範囲内と範囲外とで変位可能とされる。

【１０７５４】

第１０２実施形態におけるベース手段Ｅ６２００は、第１ベースＥ２１０と、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長い矩形の板状に形成され、上端（矢印Ｕ方向側の端部）が第１ベースＥ２１０の一端（矢印Ｒ方向側の端部）に連結される第２ベースＥ６２２０と、その第２ベースＥ６２２０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される駆動手段Ｅ２３０と、第１リンクＥ２４０と、第１伝達手段Ｅ２５０と、第２ベースＥ６２２０との対向間に駆動手段Ｅ２３０、第１リンクＥ２４０、及び、第１伝達手段Ｅ２５０を収容した状態で第２ベースＥ６２２０の正面側に配設される第３ベースＥ６２６０と、第２ベースＥ６２２０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第２リンクＥ２７０と、第２伝達手段Ｅ２８０と、係合部材Ｅ２９０と、を主に備え、第３ベースＥ６２６０の正面側に配設される駆動モー

タＥＭ１の駆動力により、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置と下降位置との間で変位可能に構成される。
【１０７５５】
第２ベースＥ６２２０は、駆動手段Ｅ２３０、第１リンクＥ２４０、第２リンクＥ２７０、第２伝達手段Ｅ２８０、及び、係合部材Ｅ２９０が変位可能な状態で配設される本体部材Ｅ６２２１と、その本体部材Ｅ６２２１に配設される金属製の案内棒Ｅ２２２と、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇側の端部（上昇位置）に配設されたことを検出する第１検出手段Ｅ２２３と、第１伝達手段Ｅ２５０に当接して第１伝達手段Ｅ２５０の変位を規制する弾性体Ｅ２２４と、駆動手段Ｅ２３０の回転体Ｅ２３４が所定位置に回転されたことを検出する第２検出手段Ｅ２２５と、第２ベースＥ６２２０に開口された貫通孔を介して第２ベースＥ６２２０の背面側（矢印Ｂ方向側）と正面側（矢印Ｆ方向側）とに亘って配設される変位付与手段Ｅ６２２６と、を備える。
【１０７５６】
変位付与手段Ｅ６２２６は、第３ベースＥ６２６０正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置で変位（落下）する変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇと当接することで、変位手段Ｅ５３２０の変位（落下）態様を変化させる部材であり、正面において、当接ピン部Ｅ５３２１ｇと上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に配設される。
【１０７５７】
また、変位付与手段Ｅ６２２６は、板状に形成され、当接ピン部Ｅ５３２１ｇに当接する被当接部Ｅ６２２６ａと、その被当接部Ｅ６２２６ａを嵌合され、第２ベースＥ６２２０に回転可能な状態で軸支される軸支部Ｅ６２２６ｃと、その軸支部Ｅ６２２６ｃを回転させるための駆動力を発生させる駆動モータＥＭ２と、その駆動モータＥＭ２の軸および軸支部Ｅ６２２６ｃに配設され、駆動モータＥＭ２の駆動力を軸支部Ｅ６２２６ｃに伝達するギヤ列Ｅ６２２６ｄと、を主に備える。
【１０７５８】
第１０２実施形態における被当接部Ｅ６２２６ａは、一方向に長い矩形の板状に形成され、長手方向の一側に軸支部Ｅ６２２６ｃが勘合される。また、被当接部Ｅ６２２６ａに嵌合される軸支部Ｅ６２２６ｃは、円柱状に形成され、軸を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に向けた姿勢で配設される。これにより、被当接部Ｅ６２２６ａは、軸支部Ｅ６２２６ｃが回転されることにより、第３ベースＥ６２６０の正面に沿って変位される。
【１０７５９】
また、軸支部Ｅ６２２６ｃは、正面視における変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇの変位軌跡と異なる位置に配設され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において当接ピン部Ｅ５３２１ｇの右側（矢印Ｒ方向側）にずれた位置に配設される。これにより、軸支部Ｅ６２２６ｃの回転に伴って被当接部Ｅ６２２６ａを回転させた際に、正面視における変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇの変位軌跡と異なる位置と、重なる位置とに被当接部Ｅ６２２６ａを変位させることができる。
【１０７６０】
第３ベースＥ６２６０は、正面視において第２ベースＥ６２２０と略同一の外形に形成され、第２ベースＥ６２２０との対向間に駆動手段Ｅ２３０、第１リンクＥ２４０、及び、第１伝達手段Ｅ２５０の一部を収容した状態で第２ベースＥ６２２０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。また、正面視において窓部Ｐ１４ｅ側（矢印Ｌ方向側）の第２ベースＥ６２２０と第３ベースＥ６２６０との端部には、第２ベースＥ６２２０と第３ベースＥ６２６０との間に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の空間が形成されており、その所定の空間を介して第１伝達手段Ｅ２５０の伝達部Ｅ２５２が窓部Ｐ１４ｅの内側の領域に突出されると共に、摺動体Ｅ２５１の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の変位に伴って伝達部Ｅ２５２を窓部Ｐ１４ｅの内側の領域で上下方向に変位可能とされる。
【１０７６１】
また、第３ベースＥ６２６０は、正面側（矢印Ｆ方向側）の側面から正面側に向かって円柱状に突設される２箇所の軸部Ｅ２６１，Ｅ２６２と、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に

円形状に開口される挿通孔Ｅ２６３と、前後方向に円形状に開口される貫通孔Ｅ６２６５と、正面側の側面に配設され変位手段Ｅ５２３０を検出可能な検出手段Ｅ５２６７と主に備える。

【１０７６２】

貫通孔Ｅ６２６５は、第２ベースＥ６２２０に配設される変位付与手段Ｅ６２２６の被当接部Ｅ６２２６ａに嵌合され第２ベースＥ６２２０に軸支される軸支部Ｅ６２２６ｃの先端を第３ベースＥ５２６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出させるための開口であり、正面視において軸支部Ｅ６２２６ｃの直径よりも大きい内径に形成される。

【１０７６３】

検出手段Ｅ６２６７は、変位手段Ｅ５３２０が所定位置に変位したことを検出可能な検出装置であり、姿勢規定手段Ｅ２３３０の揺動用ピン支持部Ｅ２３３５が変位手段Ｅ５３２０の揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆの内側を摺動して、変位手段Ｅ５３２０の姿勢が所定の姿勢に変位された場合に変位手段Ｅ５３２０を検出可能に構成される。

【１０７６４】

次いで、図６１２及び図６１３を参照して、第１０２実施形態における上変位ユニットＥ６１００の変位態様について説明する。なお、第１０２実施形態における上変位ユニットＥ６１００では、変位手段Ｅ５３２０が上昇位置から下降位置に向かって変位される際に、中間位置でその姿勢を変化するか否かを変更できる。

【１０７６５】

図６１２（ａ）及び図６１２（ｂ）は、第１０２実施形態における上変位ユニットＥ６１００を正面視した模式図であり、図６１３（ａ）及び図６１３（ｂ）は、上変位ユニットＥ６１００を正面視した模式図である。

【１０７６６】

なお、図６１２及び図６１３では、変位手段Ｅ５３２０についての外形および揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆ、当接ピン部Ｅ５３２１ｇを破線で図示すると共に、第３ベースＥ６２６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる回転体Ｅ２３４、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、及び、係合部材Ｅ２９０の外形が破線で図示され、上側装飾ユニットＰ１４ａと左側装飾ユニットＰ１４ｂと右側装飾ユニットＰ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｐ１４ｅ（図５４０参照）の範囲（即ち、パチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から正面枠Ｐ１４（図５４０参照）を介して視認可能な範囲）が２点鎖線で模式的に図示される。

【１０７６７】

また、図６１３では、正面視における被当接部Ｅ６２２６ａの長手方向が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に近づく方向（左右方向に対して長手方向が鋭角に交わる向き）に配置された状態が図示され、図６１３では、正面視における被当接部Ｅ６２２６ａの長手方向が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に近づく方向（上下方向に対して長手方向が鋭角に交わる向き）に配置された状態が図示される。

【１０７６８】

初めに、第１０２実施形態の上変位ユニットＥ６１００において、回転体Ｅ２３４を第１回転位置から第２回転位置まで回転させる場合には、上記第８９実施形態、第９８実施形態～第１０１実施形態における上変位ユニットＥ１００，Ｅ２１００，Ｅ４１００，Ｅ５１００と同様に、係合部材Ｅ２９０が係合位置に配置されるため、第１伝達手段Ｅ２５０の被係合部Ｅ２５１ｆに係合部材Ｅ２９０が係合して第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に規制される。そして、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に規制されることに伴い、第１伝達手段Ｅ２５０が接続される上変位手段Ｅ５３００も同様に上昇位置に規制される。

【１０７６９】

そして、図６１２（ａ）及び図６１３（ａ）に示すように、回転体Ｅ２３４を第２回転位置まで回転して、回転体Ｅ２３４の回転に伴い係合部材Ｅ２９０を非係合位置に変位させることにより、上昇位置に配置された第１伝達手段Ｅ２５０の下方（矢印Ｄ方向）への移動を許容して、変位手段Ｅ５３２０を中間位置に向けて変位（落下）させることができ

る。
【１０７７０】
次に、図６１２（ｂ）及び図６１３（ｂ）を参照して、被当接部Ｅ６２２６ａの回転位置の違いによる、変位手段Ｅ５３２０の中間位置よりも下方側における変位態様（姿勢変化）について説明する。
【１０７７１】
図６１２（ｂ）に示すように、被当接部Ｅ６２２６ａの長手方向が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に近づく方向（左右方向に対して長手方向が鋭角に交わる向き）に配置される場合には、正面視における変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇの変位軌跡上に被当接部Ｅ６２２６ａが配置されるため、当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ６２２６ａに当接される。これにより、図６１２（ｂ）に示すように、変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇを被当接部Ｅ６２２６ａの当接面に沿って変位させることができる。従って、変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇ側の変位が規制されるため、姿勢規定手段Ｅ２３３０の揺動用ピン支持部Ｅ２３３５が変位手段Ｅ３２０の揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆの内側を摺動して、変位手段Ｅ５３２０の姿勢が変化される。その結果、変位手段Ｅ５３２０の演出効果を高めることができる。
【１０７７２】
即ち、上記第８９実施形態における上変位ユニットＥ１００のように、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能とされる領域において、上昇位置から変位（落下）する変位手段Ｅ３２０を中間位置で停止させるものである場合には、中間位置から再度落下を開始するまでのタイミングの自由度を向上できるものの、窓部Ｐ１４ｅを介して視認される変位手段Ｅ３２０の変位の態様を十分に変更できないため、変位手段Ｅ３２０の演出効果が低下するという問題点があった。
【１０７７３】
これに対し、第１０２実施形態における上変位ユニットＥ６１００では、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能とされる領域において、上昇位置から変位（落下）する変位手段Ｅ５３２０を中間位置で姿勢を変化させることができる。その結果、変位手段Ｅ５３２０の変位（落下）態様を複雑化して、変位手段Ｅ５３２０の演出効果を高めることができる。
【１０７７４】
また、第１０２実施形態では、変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇを被当接部Ｅ６２２６ａの当接面に当接させて変位手段Ｅ５３２０の姿勢を変化させた後、当接ピン部Ｅ５３２１ｇを被当接部Ｅ６２２６ａの当接面に沿って変位させることができる。即ち、変位手段Ｅ５３２０を被当接部Ｅ６２２６ａの当接面の下降傾斜に沿って変位（落下）させることができるので、下降傾斜に応じた複雑な変位態様で変位手段Ｅ５３２０を変位させることができ、変位手段Ｅ５３２０の変位による演出の効果を高めることができる。また、変位手段Ｅ５３２０を変位させるアクチュエータ等の駆動源を不要として、部品コストを低減できる。
【１０７７５】
図６１２（ｂ）に示すように、被当接部Ｅ６２２６ａの長手方向が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に近づく方向（左右方向に対して長手方向が鋭角に交わる向き）に配置される場合には、正面視における変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇの変位軌跡上に被当接部Ｅ６２２６ａが配置されるため、当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ６２２６ａに当接される。これにより、図６１２（ｂ）に示すように、変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇを被当接部Ｅ６２２６ａの当接面に沿って変位させることができる。従って、変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇ側の変位が規制されるため、姿勢規定手段Ｅ２３３０の揺動用ピン支持部Ｅ２３３５が変位手段Ｅ３２０の揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆの内側を摺動して、変位手段Ｅ５３２０の姿勢が変化される。その結果、変位手段Ｅ５３２０の演出効果を高めることができる。
【１０７７６】
なお、第１０２実施形態における検出手段Ｅ６２６７は、変位手段Ｅ５３２０の当接ピ

ン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ６２２６ａの外面（上面）に当接され、その変位手段Ｅ５３２０の姿勢が過剰に変化された場合に、変位手段Ｅ５３２０を検出可能な位置に配置される。これにより、第１０２実施形態では、変位手段Ｅ５３２０が検出手段Ｅ６２６７に検出された場合に、被当接部Ｅ６２２６ａの長手方向が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に対して交わる角度を鈍角にすることで、変位手段Ｅ５３２０の姿勢が過剰に変化されることを抑制できる。その結果、変位手段Ｅ５３２０の姿勢が過剰に変化することで、変位手段Ｅ５３２０及びベース手段Ｅ６２００や他の構造体が破損することを抑制できる。

【１０７７７】

即ち、変位手段Ｅ５３２０は、その自重を利用して上昇位置から変位させるものであるため、変位手段Ｅ５３２０が被当接部Ｅ６２２６ａに当接した後のばらつきが大きくなる。この当接後の変位手段Ｅ５３２０の変位態様のばらつきは、被当接部Ｅ６２２６ａへの当接が繰り返されることによる部品の経年劣化等により、更に大きくなる。変位手段Ｅ５３２０の変位が過大となった場合には、変位手段Ｅ５３２０が他の構造体と衝突して、変位手段Ｅ５３２０及びベース手段Ｅ６２００や他の構造体が破損する恐れがある。

【１０７７８】

これに対し、第１０２実施形態では、変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ６２２６ａに当接した後、変位手段Ｅ５３２０の姿勢が過剰に変化する場合に、その変位手段Ｅ５３２０を検出手段Ｅ６２６７で検出可能に構成されると共に、変位手段Ｅ５３２０の姿勢が所定の範囲内で変化する場合に、その変位手段Ｅ５３２０が検出手段Ｅ６２６７に非検出とされるので、被当接部Ｅ６２２６ａに当接した変位手段Ｅ５３２０に異常が生じたことを検出できると共に、その検出結果に応じて、変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ６２２６ａに当接する態様を変更できる。その結果、変位手段Ｅ５３２０の変位が過大となることを抑制して、変位手段Ｅ５３２０及びベース手段Ｅ６２００や他の構造体が破損することを抑制できる。

【１０７７９】

一方、図６１３（ｂ）に示すように、被当接部Ｅ６２２６ａの長手方向が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に近づく方向（上下方向に対して長手方向が鋭角に交わる向き）に配置される場合には、正面視における変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇの変位軌跡の外側に被当接部Ｅ６２２６ａが配置される為、変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ６２２６ａに当接せず変位（落下）する。

【１０７８０】

従って、第１０２実施形態では、変位付与手段Ｅ６２２６の被当接部Ｅ６２２６ａの長手方向が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に近づく方向（上下方向に対して長手方向が鋭角に交わる向き）に配置される場合に、上昇位置から変位する変位手段Ｅ５３２０が中間位置でその姿勢を変化することなく下降位置まで変位させることができる。

【１０７８１】

即ち、第１０２実施形態では、変位付与手段Ｅ６２２６の被当接部Ｅ６２２６ａの配置により、変位手段Ｅ５２３０を上昇位置から変位させた際に、下降位置まで姿勢変化することなく変位（落下）させるか、中間位置で姿勢を変化させてから下降位置まで変位（落下）させるかを切り替えることができる。その結果、変位手段Ｅ５２３０の上昇位置からの変位態様が一義的になることを抑制できる。その結果、変位手段Ｅ５３２０の変位に遊技者が飽きることを抑制できる。

【１０７８２】

次いで、図６１４から図６１７を参照して、第１０３実施形態における上変位ユニットＥ７１００について説明する。上記第８９実施形態では、変位手段Ｅ３２０が上昇位置から下降する際の変位軌跡と、変位手段Ｅ３２０が下降または中間位置から持ち上げられる際の変位軌跡とが同じ軌跡で変位する場合について説明したが、第１０３実施形態では、変位手段Ｅ７３２０が上昇位置から下降する際の変位軌跡と、変位手段Ｅ７３２０が下降または中間位置から持ち上げられる際の変位軌跡とが異なる場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその詳しい説明は省略する。

【１０７８３】
初めに、図６１４を参照して、第１０３実施形態における上変位ユニットＥ７１００の全体構成について説明する。図６１４（ａ）は、第１０３実施形態における上変位ユニットＥ７１００を正面視した模式図であり、図６１４（ｂ）は、図６１４（ａ）のＥ０８ｂ－Ｅ０８ｂ線における上変位ユニットＥ７１００の断面模式図である。図６１５（ａ）は、上変位ユニットＥ７１００を背面視した模式図であり、図６１５（ｂ）及び図６１５（ｃ）は、図６１５（ａ）のＥ０９ｂ－Ｅ０９ｂ線における上変位ユニットＥ７１００の断面模式図である。なお、図６１４（ａ）では、上側装飾ユニットＰ１４ａと左側装飾ユニットＰ１４ｂと右側装飾ユニットＰ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｐ１４ｅ（図５４０参照）の範囲（即ち、パチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から正面枠Ｐ１４（図５４０参照）を介して視認可能な範囲）が２点鎖線で模式的に図示される。
【１０７８４】
図６１４に示すように、第１０３実施形態における上変位ユニットＥ７１００は、ベース手段Ｅ７２００と、そのベース手段Ｅ７２００の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、ベース手段Ｅ７２００に対して相対変位可能とされる上変位手段Ｅ７３００と、ベース手段Ｅ７２００の正面側に配設され、上変位手段Ｅ７３００の変位を規制する変位規制手段Ｅ４００と、を主に備え、ベース手段Ｅ７２００から上変位手段Ｅ７３００に駆動モータＥＭ１の駆動力が伝達されることにより、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能とされる領域で上変位手段Ｅ７３００の変位手段Ｅ７３２０を変位（落下）可能に構成される。
【１０７８５】
ベース手段Ｅ７２００は、第１ベースＥ２１０と、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長い矩形の板状に形成され、上端（矢印Ｕ方向側の端部）が第１ベースＥ２１０の一端（矢印Ｒ方向側の端部）に連結される第２ベースＥ７２２０と、その第２ベースＥ７２２０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される駆動手段Ｅ２３０と、第１リンクＥ２４０と、第１伝達手段Ｅ２５０と、第２ベースＥ７２２０との対向間に駆動手段Ｅ２３０、第１リンクＥ２４０、及び、第１伝達手段Ｅ２５０を収容した状態で第２ベースＥ７２２０の正面側に配設される第３ベースＥ７２６０と、第２ベースＥ７２２０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第２リンクＥ２７０と、第２伝達手段Ｅ７２８０と、係合部材Ｅ２９０と、を主に備え、第３ベースＥ７２６０の正面側に配設される駆動モータＥＭ１の駆動力により、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置と下降位置との間で変位可能に構成される。
【１０７８６】
第２ベースＥ７２２０は、駆動手段Ｅ２３０、第１リンクＥ２４０、第２リンクＥ２７０、第２伝達手段Ｅ７２８０、係合部材Ｅ２９０、及び、経路変更部材Ｅ７２９５が変位可能な状態で配設される本体部材Ｅ７２２１と、その本体部材Ｅ７２２１に配設される案内棒Ｅ２２２と、その案内棒Ｅ２２２に案内された第１伝達手段Ｅ２５０が上昇側の端部（上昇位置）に配設されたことを検出する第１検出手段Ｅ２２３と、第１伝達手段Ｅ２５０に当接して第１伝達手段Ｅ２５０の変位を規制する弾性体Ｅ２２４と、回転体Ｅ２３４が所定位置に回転されたことを検出する第２検出手段Ｅ２２５と、を備える。
【１０７８７】
本体部材Ｅ７２２１は、軸支部Ｅ２２１ａ～Ｅ２２１ｅと、軸支部Ｅ２２１ｃを中心に直径の異なる２種類の円環状に形成され、本体部材Ｅ２２１の正面側（矢印Ｆ方向側）から立設される案内壁Ｅ２２１ｆ，Ｅ２２１ｇと、本体部材Ｅ２２１の上端と下端とに形成される係止部Ｅ２２１ｈ，Ｅ２２１ｉと、本体部材Ｅ２２１の背面側（矢印Ｂ方向側）から突設される軸支部Ｅ２２１ｊと、本体部材Ｅ２２１の背面側の６か所から突設されるピン部Ｅ２２１ｋ，Ｅ７２２１ｋと、本体部材Ｅ２２１の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口される複数の開口部Ｅ２２１ｐ～Ｅ２２１ｓと、を主に備える。
【１０７８８】
ピン部Ｅ７２２１ｋは、後述する第２伝達手段Ｅ７２８０の変位方向を規定する突起であり、第２伝達手段Ｅ７２８０の下側伝達部材Ｅ２８１、上側伝達部材Ｅ２８３、中間伝

達部材Ｅ７２８４のそれぞれに２箇所ずつ形成される摺動溝Ｅ２８１ａ，Ｅ２８３ａ，Ｅ２８４ａに挿入可能な直径の円柱状に形成される。これにより、第２伝達手段Ｅ２８０に駆動力が伝達されて変位する際には、摺動溝Ｅ２８１ａ，Ｅ２８３ａ，Ｅ７２８４ａの内面にピン部Ｅ２２１ｋ，Ｅ７２２１ｋが当接することで、第２伝達手段Ｅ７２８０の変位方向が規定される。

【１０７８９】

第３ベースＥ７２６０は、正面視において第２ベースＥ７２２０と略同一の外形に形成され、第２ベースＥ７２２０との対向間に駆動手段Ｅ２３０、第１リンクＥ２４０、及び、第１伝達手段Ｅ２５０の一部を収容した状態で第２ベースＥ７２２０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。また、正面視において窓部Ｐ１４ｅ側（矢印Ｌ方向側）の第２ベースＥ７２２０と第３ベースＥ７２６０との端部には、第２ベースＥ７２２０と第３ベースＥ７２６０との間に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の空間が形成されており、その所定の空間を介して第１伝達手段Ｅ２５０の伝達部Ｅ２５２が窓部Ｐ１４ｅ側に突出されると共に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位可能とされる。

【１０７９０】

また、第３ベースＥ７２６０は、正面側（矢印Ｆ方向側）の側面から正面側に向かって円柱状に突設される２箇所の軸部Ｅ２６１，Ｅ２６２と、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に円形状に開口される挿通孔Ｅ２６３と、前後方向に矩形状に開口される開口Ｅ２６４と、正面側に立設されると共に湾曲しつつ上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延設される２箇所の湾曲壁Ｅ７２６８ａ，Ｅ７２６８ｂと、その２箇所の湾曲壁Ｅ７２６８ａ，Ｅ７２６８ｂと左右方向に所定の間隔を隔てる位置に立設される対向壁Ｅ７２６８ｃと、湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び対向壁Ｅ７２６８ｃとの対向間の上端部において前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口される開口部Ｅ７２６８ｄと、正面視において後述する上変位手段Ｅ７３００の駆動力伝達手段Ｅ７３１０と隣り合う位置に配設される姿勢維持手段Ｅ７２６９と、を主に備える。

【１０７９１】

湾曲壁Ｅ７２６８ａ，Ｅ７２６８ｂ及び対向壁Ｅ７２６８ｃは、後述する変位手段Ｅ７３２０を中間位置または下降位置から上昇位置まで変位させる際に、変位手段Ｅ７３２０の軸支部Ｅ７３２１ａを案内するための壁部であり、変位手段Ｅ７３２０から突出される軸支部Ｅ７３２１ａに当接可能な高さで正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて立設される。

【１０７９２】

姿勢維持手段Ｅ７２６９は、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に変位された際に、後述する駆動力伝達手段Ｅ７３１０の第２部材Ｅ７３１０ｂに当接して、変位手段Ｅ７３２０の姿勢を維持する為の部位であり、上昇位置に配置される駆動力伝達手段Ｅ７３１０の第２部材Ｅ７３１０ｂが当接可能な位置に配置される。

【１０７９３】

上変位手段Ｅ７３００は、棒状に形成される駆動力伝達手段Ｅ７３１０と、その駆動力伝達手段Ｅ７３１０が接続される変位手段Ｅ７３２０と、その変位手段Ｅ７３２０の背面側（矢印Ｂ方向側）において正面視右側（矢印Ｒ方向側）に接続される姿勢規定手段Ｅ７３３０と、を主に備える。

【１０７９４】

駆動力伝達手段Ｅ７３１０は、第１伝達手段Ｅ２５０を下降位置から上昇位置に持ち上げる際に、第１伝達手段Ｅ２５０に伝達される駆動モータＥＭ１の駆動力を変位手段Ｅ７３２０に伝達するための部材であり、第３ベースＥ７２６０に接続される第１部材Ｅ７３１０ａと、変位手段Ｅ７３２０に接続される第２部材Ｅ７３１０ｂとの２部材から形成される。

【１０７９５】

第１部材Ｅ７３１０ａは、長手方向の一端側に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通形成される基端側被軸支部Ｅ３１１と、長手方向の略中間位置における背面から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって円柱状に突出されるピン部Ｅ３１３と、を備える。

【１０７９６】
　第２部材Ｅ７３１０ｂは、長手方向の一端側に前後方向に貫通形成されピン部Ｅ３１３が挿通される貫通孔Ｅ７３１０ｂ１と、長手方向の他端側に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通形成される伝達側被軸支部Ｅ３１２と、他端側に形成される貫通孔を軸に径方向外側に突出される被当接部Ｅ７３１０ｂ２と、を主に備え、第１部材Ｅ７３１０ａのピン部Ｅ３１３が貫通孔Ｅ７３１０ｂ１に回転可能な状態で挿通されることで、第１部材Ｅ７３１０ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に接続される。
【１０７９７】
　被当接部Ｅ７３１０ｂ２は、上述した姿勢維持手段Ｅ７２６９に当接する部分である。駆動力伝達手段Ｅ７３１０は、第１伝達手段Ｅ２５０が下降位置または中間位置から上昇位置に変位された際に、被当接部Ｅ７３１０ｂ２を姿勢維持手段Ｅ７２６８の外面に当接させることで、第１部材Ｅ７３１０ａに対して第２部材Ｅ７３１０ｂをピン部Ｅ３１３を軸に回転させて、その姿勢を維持することが可能に構成される。
【１０７９８】
　変位手段Ｅ７３２０は、その変位手段Ｅ７３２０を変位させる駆動力が伝達されるベース体Ｅ７３２１と、そのベース体Ｅ７３２１の正面側（矢印Ｆ方向側）にベース体Ｅ７３２１の正面との間に所定の空間を形成した状態で配設される第１装飾体Ｅ３２２と、その第１装飾体Ｅ３２２に対して相対変位可能に配設され、ベース体Ｅ７３２１及び第１装飾体Ｅ３２２の間の空間に配設される第２装飾体Ｅ３２３と、その第２装飾体Ｅ３２３と共に変位可能な状態で第１装飾体Ｅ３２２の正面側に配設される第３装飾体Ｅ３２４と、を主に備える。
【１０７９９】
　ベース体Ｅ７３２１は、正面視において略菱形状の板から形成される。また、ベース体Ｅ７３２１は、背面側（矢印Ｂ方向側）の２箇所から円柱状に突出する軸支部Ｅ７３２１ａ，Ｅ３２１ｂと、背面側の１箇所から略角柱状に突出する変位規制部Ｅ３２１ｄと、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って長い溝状に開口される摺動溝Ｅ３２１ｅと、を備える。
【１０８００】
　軸支部Ｅ７３２１ａは、駆動力伝達手段Ｅ３１０に形成される伝達側被軸支部Ｅ３１２に挿入される部位であり、伝達側被軸支部Ｅ３１２の直径よりも小さい直径の円柱状に形成される。なお、第１０３実施形態における軸支部Ｅ７３２１ａは、背面側（矢印Ｂ方向側）に突出される距離が第８９実施形態における軸支部Ｅ３２１ａよりも大きく設定され、その突出先端が、第３ベースＥ７２６０に形成される湾曲壁Ｅ７２６６ａ，Ｅ７２６６ｂ及び対向壁Ｅ７２６８ｃに当接可能とされる。これにより、第１０３実施形態では、変位手段Ｅ７３２０を下降位置または中間位置から上昇位置に変位させる際に、変位手段Ｅ７３２０の軸支部Ｅ７３２１ａを湾曲壁Ｅ７２６６ａ，Ｅ７２６６ｂ及び対向壁Ｅ７２６８ｃにより案内して、変位手段Ｅ７３２０を第２ベースＥ７２２０及び第３ベースＥ７２６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる領域（即ち、正面視における窓部Ｐ１４ｅの外側の領域）を通過させることができる。
【１０８０１】
　姿勢規定手段Ｅ７３３０は、ベース手段Ｅ７２００に対する変位手段Ｅ７３２０の姿勢を規定するための部材であり、第３ベースＥ７２６０に接続される第１部材Ｅ７３３０ａと、変位手段Ｅ７３２０に接続される第２部材Ｅ７３３０ｂとの２部材から形成される。
【１０８０２】
　第１部材Ｅ７３３０ａは、長手方向の一端側に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通形成されるベース側被軸支部Ｅ３３１と、長手方向の略中間位置における背面から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって円柱状に突出されるピン部Ｅ７３３０ａ１と、を備える。
【１０８０３】
　第２部材Ｅ７３３０ｂは、長手方向の一端側に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通形成されピン部Ｅ７３３０ａ１が挿通される貫通孔Ｅ７３３０ｂ１と、長手方向の他端側に前

後方向に貫通形成される変位側被軸支部Ｅ３３２と、前後方向に貫通形成され、正面視において略Ｌ字状の開口に形成される案内溝Ｅ３３３と、背面側（矢印Ｂ方向側）から略角柱状に突出される変位規制部Ｅ３３４と、を主に備え、第１部材Ｅ７３３０ａのピン部Ｅ７３３０ａ１が貫通孔Ｅ７３３０ｂ１に回転可能な状態で挿通されることで、第１部材Ｅ７３３０ａの背面側に接続される。

【１０８０４】

第２伝達手段Ｅ７２８０は、第２ベースＥ７２２０の下方側の端部において背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される下側伝達部材Ｅ２８１と、第２ベースＥ７２２０の上方側の端部において背面側に配設される上側伝達部材Ｅ２８３と、それら下側伝達部材Ｅ２８１及び上側伝達部材Ｅ２８３を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に連結する連結部材Ｅ２８２と、連結部材Ｅ２８２の上下方向略中間位置に連結され左右方向に延設される第２連結部材Ｅ７２８５と、その第２連結部材Ｅ７２８５に連結される中間伝達部材Ｅ７２８４と、を主に備え、第２伝達手段Ｅ７２８０を介して下側伝達部材Ｅ２８１に駆動モータＥＭ１の駆動力が伝達された際に、下側伝達部材Ｅ２８１と共に上側伝達部材Ｅ２８３及び中間伝達部材Ｅ７２８４を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位させることが可能に構成される。

【１０８０５】

中間伝達部材Ｅ７２８４は、第２リンク部材Ｅ７２７０から下側伝達部材Ｅ２８１に伝達される駆動力により変位される際に規定の方向（上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向））に案内するための摺動溝Ｅ７２８４ａと、正面側（矢印Ｆ方向側）から突設され第２ベースＥ７２２０の正面側に突設される突設部Ｅ７２８４ｂと、を備える。

【１０８０６】

突設部Ｅ７２８４ｂは、第２ベースＥ７２２０及び第３ベースＥ７２６０に挟まれて軸支される経路変更部材Ｅ７２９５に接続される部位であり、溝状に開口される接続溝Ｅ７２８４ｂ１が形成される。第２伝達手段Ｅ７２８０は、突設部Ｅ７２８４ｂが接続溝Ｅ７２８４ｂ１を介して経路変更部材Ｅ７２９５に接続されることで、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位した際に、経路変更部材Ｅ７２９５を変位させることが可能とされる。

【１０８０７】

経路変更部材Ｅ７２９５は、第３ベースＥ７２６０に形成される開口部Ｅ７２６８ｄを介して第３ベースＥ７２６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に一部を突出させることで、上昇位置から下方に向かって変位（落下）する変位手段Ｅ７３２０の軸支部Ｅ７３２１ａが湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び対向壁Ｅ７２６８ｃとの対向間を通過することを規制する部材であり、開口部Ｅ７２６８ｄを挿通可能な規制部Ｅ７２９５ａと、その規制部Ｅ７２９５ａを変位させるために第２ベースＥ７２２０及び第３ベースＥ７２６０に軸支される被軸支部Ｅ７２９５ｂと、中間伝達部材Ｅ７２８４の接続溝Ｅ７２８４ｂ１の内側に接続される接続ピンＥ７２９５ｃと、を備える。

【１０８０８】

図６１５（ｂ）に示すように、中間伝達部材Ｅ７２８４（第２伝達手段Ｅ７２８０）が上方に配置される場合には、第３ベースＥ７２６０の開口部Ｅ７２６８ｄを介して規制部Ｅ７２９５ａが背面側（矢印Ｂ方向側）に変位され、第３ベースＥ７２６０の正面側（矢印Ｆ方向側）から規制部Ｅ７２９５ａが退避する状態とされる。一方、図６１５（ｃ）に示すように、中間伝達部材Ｅ７２８４（第２伝達手段Ｅ７２８０）が下方に配置される場合には、第３ベースＥ７２６０の開口部Ｅ７２６８ｄを介して規制部Ｅ７２９５ａが正面側に変位され、第３ベースＥ７２６０の正面側に規制部Ｅ７２９５ａが張り出す状態とされる。

【１０８０９】

これにより、回転体Ｅ２３４を第１回転位置から第２回転位置まで回転させて、変位手段Ｅ７３２０を上昇位置から下方に向けて変位（落下）させた際に、変位手段Ｅ７３２０の軸支部Ｅ７３２１ａが湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び対向壁Ｅ７２６８ｃとの対向間を通過することを規制することができる。

【１０８１０】

次いで、図６１６から図６１８を参照して、第１０３実施形態における上変位ユニットＥ７１００の変位態様について説明する。なお、第１０３実施形態における上変位ユニットＥ７１００では、上昇位置から下降位置に向かって変位する場合の変位手段Ｅ７３２０の変位軌跡と、下降位置から上昇位置に向かって変位する場合の変位手段Ｅ７３２０の変位軌跡とを異ならせることができる。

【１０８１１】

図６１６（ａ）及び図６１６（ｂ）は、上変位ユニットＥ７１００を正面視した模式図であり、図６１７（ａ）及び図６１７（ｂ）は、上変位ユニットＥ７１００を正面視した模式図であり、図６１８（ａ）及び図６１８（ｂ）は、上変位ユニットＥ７１００を正面視した模式図である。

【１０８１２】

なお、図６１６から図６１８では、変位手段Ｅ７３２０の外形を破線で図示すると共に、第３ベースＥ７２６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる回転体Ｅ２３４、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、及び、係合部材Ｅ２９０の外形が破線で図示され、上側装飾ユニットＰ１４ａと左側装飾ユニットＰ１４ｂと右側装飾ユニットＰ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｐ１４ｅ（図５４０参照）の範囲（即ち、パチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から正面枠Ｐ１４（図５４０参照）を介して視認可能な範囲）が２点鎖線で模式的に図示される。

【１０８１３】

また、図６１６（ａ）及び図６１６（ｂ）では、変位手段Ｅ７３２０を上昇位置から中間位置に変位させた場合の遷移状態が順に図示され、図６１７（ａ）及び図６１７（ｂ）では、変位手段Ｅ７３２０を中間位置から上昇位置に変位させた場合の遷移状態が順に図示され、図６１８（ａ）及び図６１８（ｂ）では、変位手段Ｅ７３２０を上昇位置から下降位置に変位させた場合の遷移状態が順に図示される。

【１０８１４】

初めに、第１０３実施形態の上変位ユニットＥ７１００において、回転体Ｅ２３４を第１回転位置から第２回転位置まで回転させる場合には、上記第８９実施形態～第１０２実施形態と同様に、係合部材Ｅ２９０が係合位置に配置されるため、第１伝達手段Ｅ２５０の被係合部Ｅ２５１ｆに係合部材Ｅ２９０が係合して第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に規制される。そして、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に規制されることに伴い、第１伝達手段Ｅ２５０が接続される上変位手段Ｅ７３００も同様に上昇位置に規制される。

【１０８１５】

次に、図６１６（ａ）に示すように、回転体Ｅ２３４を第２回転位置まで回転して、回転体Ｅ２３４の回転に伴い係合部材Ｅ２９０を非係合位置に変位することにより、上昇位置に配置された第１伝達手段Ｅ２５０の下方（矢印Ｄ方向）への移動を許容して、変位手段Ｅ７３２０を中間位置まで変位（落下）させた場合には、その姿勢を維持した状態で変位手段Ｅ７３２０を自重で変位（落下）させ、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域を変位手段Ｅ７３２０に変位させることができる。

【１０８１６】

図６１６（ｂ）に示すように、変位手段Ｅ７３２０は、中間位置でその変位が停止されると、変位手段Ｅ７３２０の自重および中間位置まで変位（落下）した慣性力により、駆動力伝達手段Ｅ７３１０及び姿勢規定手段Ｅ７３３０の第２部材Ｅ７３１０ｂ、Ｅ７３３０ｂが第１部材Ｅ７３１０ａ、Ｅ７３３０ａに対して回転される。これにより、第１部材Ｅ７３１０ａ、Ｅ７３３０ａの下方側に第２部材Ｅ７３１０ｂ，Ｅ７３３０ｂが垂下した状態とされ、変位手段Ｅ７３２０の軸支部Ｅ７３２１ａが第１湾曲壁Ｅ７２６８ａの下方に重なる位置に配置される。

【１０８１７】

次に、図６１７（ａ）及び図６１７（ｂ）に示すように、図６１６（ｂ）に示す中間位置から上昇位置に第１伝達手段Ｅ２５０を変位させた場合には、第１伝達手段Ｅ２５０の変位により、駆動力伝達手段Ｅ７３１０の第２部材Ｅ７３１０ｂが第１部材Ｅ７３１０ａ

に垂下された状態で上方に持ち上げられる。これにより、第２部材Ｅ７３１０ｂに接続される変位手段Ｅ７３２０の軸支部Ｅ７３２１ａが第１湾曲壁Ｅ７２６８ａの下面側に当接され、その当接により、第２ベースＥ７２２０及び第３ベースＥ７２６０側（窓部Ｐ１４ｅの外側）に変位手段Ｅ７３２０が案内されつつ上昇される。

【１０８１８】

なお、第１部材Ｅ７３１０ａに垂下された状態の第２部材Ｅ７３１０ｂは、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に到達する手前で被当接部Ｅ７３１０ｂ２の側面に姿勢維持手段Ｅ７２６９が当接される。また、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に到達する手前で、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び対向壁Ｅ７２６８ｃの対向間を変位する変位手段Ｅ７３２０の軸支部Ｅ７３２１ａが、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び対向壁Ｅ７２６８ｃの対向間の上方側から対向間の外側に突出される。よって、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に到達する手前で、第１部材Ｅ７３１０ａに対して第２部材Ｅ７３１０ｂを回転させることができる。これにより、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に配置される場合には、変位手段Ｅ７３２０を所定の姿勢に戻して、変位手段Ｅ７３２０を第１ベースＥ２１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に配置できる。

【１０８１９】

一方、図６１８（ａ）に示すように、回転体Ｅ２３４を第２回転位置まで回転して、回転体Ｅ２３４の回転に伴い係合部材Ｅ２９０を非係合位置に変位させることにより、上昇位置に配置された第１伝達手段Ｅ２５０の下方（矢印Ｄ方向）への移動を許容して、変位手段Ｅ７３２０を下降位置まで変位（落下）させた場合には、その姿勢を維持した状態で変位手段Ｅ７３２０を自重で変位（落下）させ、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域を変位手段Ｅ７３２０に変位させることができる。

【１０８２０】

図６１８（ｂ）に示すように、変位手段Ｅ７３２０は、下降位置でその変位が停止されると、変位手段Ｅ７３２０の自重および下降位置まで変位（落下）した慣性力により、駆動力伝達手段Ｅ７３１０及び姿勢規定手段Ｅ７３３０の第２部材Ｅ７３１０ｂ、Ｅ７３３０ｂが第１部材Ｅ７３１０ａ、Ｅ７３３０ａに対して回転される。これにより、第１部材Ｅ７３１０ａ、Ｅ７３３０ａの下方側に第２部材Ｅ７３１０ｂ，Ｅ７３３０ｂが垂下した状態とされ、変位手段Ｅ７３２０の軸支部Ｅ７３２１ａが第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂの下方に重なる位置に配置される。

【１０８２１】

図６１８（ｂ）に示す下降位置から上昇位置に第１伝達手段Ｅ２５０を変位させる場合には、中間位置から上昇位置に第１伝達手段Ｅ２５０を変位させる場合と同様に、駆動力伝達手段Ｅ７３１０の第２部材Ｅ７３１０ｂが第１部材Ｅ７３１０ａに垂下された状態で上方に持ち上げられる。これにより、第２部材Ｅ７３１０ｂに接続される変位手段Ｅ７３２０の軸支部Ｅ７３２１ａが第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂの下面側に当接され、その当接により、第２ベースＥ７２２０及び第３ベースＥ７２６０側（窓部Ｐ１４ｅの外側）に変位手段Ｅ７３２０が案内されつつ上昇される。

【１０８２２】

なお、第１部材Ｅ７３１０ａに垂下された状態の第２部材Ｅ７３１０ｂは、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に到達する手前で被当接部Ｅ７３１０ｂ２の側面に姿勢維持手段Ｅ７２６９が当接される。また、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に到達する手前で、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ、第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂ及び対向壁Ｅ７２６８ｃの対向間を変位する変位手段Ｅ７３２０の軸支部Ｅ７３２１ａが、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び対向壁Ｅ７２６８ｃの対向間の上方側から対向間の外側に突出される。よって、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に到達する手前で、第１部材Ｅ７３１０ａに対して第２部材Ｅ７３１０ｂを回転させることができる。これにより、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置に配置される場合には、変位手段Ｅ７３２０を所定の姿勢に戻して、変位手段Ｅ７３２０を第１ベースＥ２１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に配置できる。

【１０８２３】

即ち、第１０３実施形態では、変位手段Ｅ７３２０が上昇位置から下方に向けて変位（落下）する経路と、下降位置または中間位置から上方に向けて変位する（持ち上げる）経路とが異なるように構成されるので、変位手段Ｅ７３２０が自重により落下する経路は、遊技者から視認しやすい位置にできる一方、変位手段Ｅ７３２０を持ち上げる経路は、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域の端に寄せて、変位手段Ｅ７３２０を目立たせなくする（変位手段Ｅ７３２０の持ち上げを気づかれ難くすると共に、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域内での他の演出を遊技者に視認させる）ことができる。

【１０８２４】

ここで、上記第８９実施形態における上変位ユニットＥ１００にように、変位手段Ｅ３２０が常に窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な所定の領域を変位されるものでは、変位手段Ｅ３２０の位置を遊技者に認識させやすくできるものの、常に変位手段Ｅ３２０が所定の領域を変位するので、上昇位置に向けて変位する変位手段Ｅ３２０が注目されたり、上昇位置に向けて変位手段Ｅ３２０を変位させる際に他の構造体（例えば、下変位ユニットＥ５００）を視認可能な領域に配設することができなくなるという問題がある。

【１０８２５】

これに対し、第１０３実施形態では、上昇位置に向けて変位される変位手段Ｅ７３２０を案内可能に構成される第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂと対向壁Ｅ７２６８ｃとを備え、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂの少なくとも一部が円弧上に湾曲して構成されるので、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂの湾曲を利用して変位手段Ｅ７３２０を所定の領域（窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能とされる領域外）にスムーズに案内することができる。また、所定の領域（窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能とされる領域外）に変位手段Ｅ７３２０を案内することで、変位手段Ｅ７３２０が他の構造体（例えば、下変位ユニットＥ５００）との干渉することを避けつつ変位手段Ｅ７３２０を上昇させることができる。よって、他の構造体を配設するための領域を確保しやすくできる。

【１０８２６】

更に、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂの湾曲を利用して、変位手段Ｅ７３２０を窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能とされる領域外に案内できる（変位手段Ｅ７３２０が上昇されるに従いパチンコ機Ａ１０の左右方向中央側か左右方向外側へ変位手段Ｅ７３２０を案内できる）ので、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域の外縁側または窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域の外側へ変位手段Ｅ７３２０を案内することができる。よって、上昇位置に向けて変位する変位手段Ｅ７３２０を目立たせなくできる。

【１０８２７】

また、対向壁Ｅ７２６８ｃには、上昇側の端部に窓部Ｐ１４ｅ側（パチンコ機Ａ１０の左右方向中央側）に向かって円弧上に湾曲する湾曲部Ｅ７２６８ｃ１が形成される。これにより、案内初期側（上昇動作の開始側）において窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域外に案内した変位手段Ｅ７３２０を、変位手段Ｅ７３２０の案内終端側（上昇動作の終了側）で、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域の中央側へ変位手段Ｅ７３２０を案内しやすくできる。よって、上昇位置から変位（落下）する変位手段Ｅ７３２０に着目させやすくできる。

【１０８２８】

即ち、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂと対向壁Ｅ７２６８ｃとの対向間を変位手段Ｅ７３２０の軸支部Ｅ７３２１ａが案内される領域では、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域の外縁側または窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域の外側へ変位手段Ｅ７３２０を案内することができる一方、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａと対向壁Ｅ７２６８ｃとの対向間を上方側に超えて変位手段Ｅ７３２０の軸支部Ｅ７３２１ａが案内される領域では、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域の中央側へ変位手段Ｅ７３２０を案内することができる。よって、上昇位置から変位（落下）する変位手段Ｅ７３２０の演出に着目させやすくできる。

【１０８２９】

なお、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂと対向壁Ｅ７２６８ｃとの対向間を変位手段Ｅ７３２０の軸支部Ｅ７３２１ａが案内される領域では、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域の外側へ変位手段Ｅ７３２０を案内して、変位手段Ｅ７３２０を上昇位置に向けて変位させる（持ち上げる）ことで、変位手段Ｅ７３２０が視認不能な状態で上昇されるので、その上昇時に変位手段Ｅ７３２０を隠すために張り出す変位ユニット等を別途備える必要がなくなり、その上昇時に変位手段Ｅ７３２０を隠すための構造を簡素化することができる。

【１０８３０】

また、対向壁Ｅ７２６８ｃの湾曲部Ｅ７２６８ｃ１は、少なくとも一部が第１湾曲壁Ｅ７２６８ａの上方側に連なる（隣り合う）位置に配設されるので、変位手段Ｅ７３２０を案内するための構造（第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ、第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂ、対向壁Ｅ７２６８ｃ）が大型化することを抑制して他の構造体を配設するスペースを確保しつつ、変位手段Ｅ７３２０を案内初期側（上昇動作の開始側）では目立たせなくさせ、案内終端側（上昇動作の終了側）で着目させやすくできる。

【１０８３１】

また、第１０３実施形態では、正面視において第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び対向壁Ｅ７２６８ｃの対向間の上方側に経路変更部材Ｅ７２９５の規制部Ｅ７２９５ａが配設される。そのため、変位手段Ｅ７３２０を上昇位置に配置した後、変位手段Ｅ７３２０に変位（落下）動作をさせた際に、変位手段Ｅ７３２０の軸支部Ｅ７３２１ａが第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び対向壁Ｅ７２６８ｃの対向間に侵入して、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能とされる領域外を変位手段Ｅ７３２０が変位（落下）することを抑制できる。

【１０８３２】

従って、第１０３実施形態では、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能とされる領域外を通過させて上昇位置まで変位手段Ｅ７３２０を上昇させた後に、その上昇位置から変位（落下）する変位手段Ｅ７３２０がその上昇時の経路を反対方向に変位（落下）することを抑制できる。よって、変位手段Ｅ７３２０を上昇させる経路から落下の経路へ変位手段Ｅ７３２０を確実に移行させることがでる。その結果、変位手段Ｅ７３２０の動作の信頼性を向上できる。

【１０８３３】

次いで、図６１９及び図６２１を参照して、第１０４実施形態における上変位ユニットＥ８１００について説明する。上記第９８実施形態では、上変位手段Ｅ２３００の変位手段Ｅ２３２０が上昇位置から下方に向けて変位（落下）される場合について説明したが、第１０４実施形態では、上昇位置または第２上昇位置から下方に向けて変位（落下）される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【１０８３４】

初めに、図６１９を参照して、第１０４実施形態における上変位ユニットＥ８１００の全体構成について説明する。図６１９（ａ）及び図６１９（ｂ）は、第１０４実施形態における上変位ユニットＥ８１００を正面視した模式図であり、図６２０（ａ）及び図６２０（ｂ）は、変位規制手段Ｅ８４００の背面図である。

【１０８３５】

なお、図６１９（ａ）及び図６１９（ｂ）では、上側装飾ユニットＰ１４ａと左側装飾ユニットＰ１４ｂと右側装飾ユニットＰ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｐ１４ｅ（図５４０参照）の範囲（即ち、パチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から正面枠Ｐ１４（図５４０参照）を介して視認可能な範囲）が２点鎖線で模式的に図示される。また、図６２０（ａ）では、変位規制手段Ｅ８４００の回転部材Ｅ８４４２に形成される当接部Ｅ４４２ｃを第１位置に配置した状態が図示され、図６２０（ｂ）では、変位規制手段Ｅ４００の回転部材Ｅ８４４２に形成される当接部Ｅ４４２ｃを第２位置に配置した状態が図示される。

【１０８３６】

図６１９に示すように、第１０４実施形態における上変位ユニットＥ８１００は、背面ケースＤ３００の底壁部Ｄ３０１（図５５５参照）に配設されるベース手段Ｅ８２００と、そのベース手段Ｅ８２００の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、ベース手段Ｅ８２００に対して相対変位可能とされる上変位手段Ｅ２３００と、ベース手段Ｅ８２００の正面側に配設され、上変位手段Ｅ２３００の変位を規制する変位規制手段Ｅ８４００と、を主に備え、ベース手段Ｅ８２００から上変位手段Ｅ２３００に駆動モータＥＭ１の駆動力が伝達されることにより、上変位手段Ｅ２３００を窓部Ｐ１４ｅの範囲内で変位可能とされる。

【１０８３７】

ベース手段Ｅ８２００は、第１ベースＥ２１０と、第２ベースＥ２２０と、その第２ベースＥ２２０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される駆動手段Ｅ８２３０と、その駆動手段Ｅ８２３０の一部と正面側に重なる位置で第２ベースＥ２２０の正面側に回転変位可能な状態で配設される第１リンクＥ２４０と、第１リンクＥ２４０に接続された状態で第２ベースＥ２２０の正面側に配設される第１伝達手段Ｅ８２５０と、第２ベースＥ２２０との対向間に駆動手段Ｅ８２３０、第１リンクＥ２４０、及び、第１伝達手段Ｅ８２５０を収容した状態で第２ベースＥ２２０の正面側に配設される第３ベースＥ２６０と、第２ベースＥ２２０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される第２リンクＥ２７０と、第２リンクＥ２７０に接続された状態で第２ベースＥ２２０の背面側に配設される第２伝達手段Ｅ２８０と、第２ベースＥ２２０を介して第２伝達手段Ｅ２８０に接続された状態で第２ベースＥ２２０の正面側に配設される係合部材Ｅ２９０と、を主に備え、第３ベースＥ２６０の正面側に配設される駆動モータＥＭ１の駆動力により、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置（図６１９（ａ）に示す位置）又は第２上昇位置（図６１９（ｂ）に示す位置）と、中間位置または下降位置との間で変位可能に構成される。

【１０８３８】

駆動手段Ｅ８２３０は、第３ベースＥ２６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される駆動モータＥＭ１の駆動力により回転するギヤ列であり、駆動ギヤＥ２３１と、従動ギヤＥ２３２，Ｅ２３３と、従動ギヤＥ２３３に歯合するギヤ歯を有する回転体Ｅ８２３４とから構成され、駆動モータＥＭ１の駆動力により回転体Ｅ２３４を回転可能とされる。

【１０８３９】

回転体Ｅ８２３４は、正面視において円形状に形成される中心部に第２ベースＥ２２０の軸支部Ｅ２２１ｃが挿入される被軸支部Ｅ２３４ａを備え、駆動モータＥＭ１の駆動力が伝達されて軸支部Ｅ２２１ｃを軸に回転することにより駆動モータＥＭ１の駆動力を第１リンクＥ２４０及び第２リンクＥ２７０に伝達可能に構成される。また、回転体Ｅ８２３４は、当接部Ｅ８２３４ｆの回転軸からの径方向における離間距離を変更可能に構成される。なお、当接部Ｅ８２３４ｆの回転軸からの径方向における離間距離を変更する構成については後述する。

【１０８４０】

第１伝達手段Ｅ８２５０は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延設される矩形状の摺動体Ｅ８２５１と、その摺動体Ｅ８２５１の上端から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において第１ベースＥ２１０側（矢印Ｌ方向）に突設される伝達部Ｅ２５２と、を備え、正面視における全体形状が略Ｌ字状に形成される。

【１０８４１】

摺動体Ｅ８２５１は、第２ベースＥ２２０と第３ベースＥ２６０との対向間において、第２ベースＥ２２０の案内棒Ｅ２２２に沿って摺動される部分であり、正面視において第２ベースＥ２２０及び第３ベースＥ２６０よりも小さく形成される。

【１０８４２】

また、摺動体Ｅ８２５１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長い溝状に開口される摺動溝Ｅ２５１ａと、正面側（矢印Ｆ方向側）の一部から正面側に向かって突設される正面側突設部Ｅ２５１ｂと、背面側（矢印Ｂ方向側）において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に開口する開口部Ｅ２５１ｃと、背面側の一部から背面側に向かって突設される背面側突設部

Ｅ２５１ｄと、正面視において上端側の右側側面から突設される検出片Ｅ２５１ｅと、背面側突設部Ｅ２５１ｄよりも上方側で背面側の一部から背面側に向かって突設される被係合部Ｅ２５１ｆと、その被係合部Ｅ２５１ｆの上方に第２被係合部Ｅ８２５１ｇと、を備える。

【１０８４３】

第２被係合部Ｅ８２５１ｇは、第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置よりも低い第２上昇位置に配置される場合に、係合部材Ｅ２９０の係合部Ｅ２９３に下面側の側面が当接されることで、第１伝達手段Ｅ２５０を第２上昇位置に規制する部位であり、係合部材Ｅ２９０が係合位置に配設される場合おける係合部材Ｅ２９０の係合部Ｅ２９３と正面視において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に形成される。

【１０８４４】

変位規制手段Ｅ８４００は、図６２０に示すように、正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される保持部材Ｅ８４１０と、その保持部材Ｅ８４１０に軸支される変位手段Ｅ８４４０と、保持部材Ｅ８４１０に軸支されると共に両端のそれぞれが保持部材Ｅ８４１０及び変位手段Ｅ８４４０に係止されるねじりコイルバネＥ８４５０とを主に備える。

【１０８４５】

保持部材Ｅ８４１０は、後述する変位手段Ｅ８４４０が背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されると共に、ベース手段Ｅ８２００の第３ベースＥ２６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に固定される部材であり、変位手段Ｅ８４４０を正面側から覆設可能な大きさに形成される。

【１０８４６】

また、保持部材Ｅ８４１０には、正面視（矢印Ｂ方向視）における外縁に複数の挿通孔Ｅ４１１と、背面側（矢印Ｂ方向側）において円形状に凹設される凹部Ｅ４１３と、背面側から円柱状に突設されるバネ支持部Ｅ８４１４とが形成され、凹部Ｅ４１３に変位手段Ｅ８４４０が軸支され、バネ支持部Ｅ８４１４にねじりコイルバネＥ８４５０のコイル中心が軸支される。

【１０８４７】

変位手段Ｅ８４４０は、円柱状に形成される金属製の軸部材Ｅ４４１と、その軸部材Ｅ４４１が挿通される回転部材Ｅ８４４２と、を備え、軸部材Ｅ４４１の軸が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に向けて配設されると共に、その軸部材Ｅ４４１の両端が保持部材Ｅ８４１０の凹部Ｅ４１３、及び、ベース手段Ｅ２００の第３ベースＥ２６０に形成される凹部Ｅ２６５（図５６０参照）に保持され、回転部材Ｅ８４４２が軸部材Ｅ４４１を軸に回転可能な状態で軸支される。

【１０８４８】

回転部材Ｅ８４４２は、正面視（矢印Ｂ方向視）において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長い棒状に形成され、上端側の端部に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通された貫通孔Ｅ４４２ａに軸部材Ｅ４４１が挿通されることで、その軸部材Ｅ４４１を軸に下端側を回転させることが可能に構成される。また、回転部材Ｅ８４４２は、下端側の背面において背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって膨出する当接部Ｅ４４２ｃと、を備える。

【１０８４９】

なお、回転部材Ｅ８４４２は、ねじりコイルバネＥ８４５０の付勢力により当接部Ｅ４４２ｃが第１位置に配置されると共に、その第１位置において当接部Ｅ４４２ｃが回転軸（軸部材Ｅ４４１）に対して左側（矢印Ｌ方向側）にずれた位置に配置されるように構成される。

【１０８５０】

これにより、第１位置に配置された回転部材Ｅ８４４２の当接部Ｅ４４２ｃの上面に、上昇位置から下降位置に向かう第１伝達手段Ｅ２５０の正面側突設部Ｅ２５１ｂが当接した場合に、その当接による衝撃で、回転部材Ｅ８４４２の当接部Ｅ４４２ｃを第２位置に向かって変位させることが可能となる。即ち、第１０４実施形態では、第１伝達手段Ｅ２５０が変位（落下）する力を利用して回転部材Ｅ８４４２を回転させることができる。

【１０８５１】
　また、この場合、回転部材Ｅ８４４２は、コイルバネＥ８４５０により付勢されているので、第１伝達手段Ｅ２５０の正面側突設部Ｅ２５１ｂが当接部Ｅ４４２ｃに当接した衝撃をコイルバネＥ８４５０により緩和できる。その結果、第１伝達手段Ｅ２５０及び回転部材Ｅ８４４２の破損を抑制できる。
【１０８５２】
　次いで、第１０４実施形態における上変位ユニットＥ８１００の変位について説明する。第１０４実施形態では、図６１９（ａ）に示すように、回転体Ｅ８２３４の当接部Ｅ８２３４ｆが、図６１９（ｂ）に示す状態の当接部Ｅ８２３４ｆに比べて径方向外側に配置される場合に、当接部Ｅ８２３４ｆが当接することで持ち上げられる第１リンクＥ２４０を上方側に変位させることができるので、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置まで持ち上げて係合部材Ｅ２９０と被係合部Ｅ２５１ｆとを係合させることにより上昇位置に維持することができる。
【１０８５３】
　一方、図６１９（ｂ）に示すように、回転体Ｅ８２３４の当接部Ｅ８２３４ｆが、図６１９（ａ）に示す状態の当接部Ｅ８２３４ｆに比べて径方向内側に配置される場合には、当接部Ｅ８２３４ｆが当接することで持ち上げられる第１リンクＥ２４０を上方側に変位させることができなくなるため、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置よりも低い第２上昇位置までしか上昇させることができなくなる。この場合、係合部材Ｅ２９０が第２被係合部Ｅ８２５１ｇに係合することより、第１伝達手段Ｅ２５０が第２上昇位置に維持される。
【１０８５４】
　従って、第１０４実施形態では、回転体Ｅ８２３４に対する当接部Ｅ８２３４ｆの配置を変更することで、第１伝達手段Ｅ８２５０の変位（落下）開始位置を変更することができ、第１伝達手段Ｅ８２５０に接続される上変位手段Ｅ２３００の変位（落下）開始位置を変更できる。
【１０８５５】
　これにより、第１０４実施形態では、変位手段Ｅ２３２０を中間位置または下降位置に変位させる場合に、変位手段Ｅ２３２０の変位（落下）開始位置を変更することで、変位手段Ｅ２３２０を変位（落下）させて中間位置または下降位置に変位させた際に変位手段Ｅ２３２０に作用する慣性力を変更できる。これにより、変位手段Ｅ２３２０を中間位置または下降位置に変位させた際の変位手段Ｅ２３２０の変位態様が一様になることを抑制できる。その結果、遊技者の興趣を向上できる。
【１０８５６】
　即ち、上記第９８実施形態における上変位ユニットＥ２１００のように、回転体Ｅ２３４の回転速度に関わらず回転体Ｅ２３４を第１回転位置まで回転させた際に、変位手段Ｅ２３２０の変位（落下）開始位置が上昇位置の一か所に限定される場合には、変位手段Ｅ２３２０を中間位置または下降位置に変位させて中間位置または下降位置で変位手段Ｅ２３２０の姿勢を変化させる際に、変位手段Ｅ２３２０に作用する慣性力が変わらず、変位手段Ｅ２３２０が中間位置または下降位置で同様に姿勢を変化することになる。そのため、上記第９８実施形態では、変位手段Ｅ２３２０を変位（落下）開始位置まで持ち上げる構造を簡易にできるものの、窓部Ｐ１４ｅを介して視認される変位手段Ｅ２３２０の変位（落下）のバリエーションを付与することができないという問題があった。
【１０８５７】
　これに対し、第１０４実施形態における上変位ユニットＥ８１００では、変位手段Ｅ２３２０の変位（落下）開始位置を変更することで、変位手段Ｅ２３２０が変位（落下）する距離を変更できるので、変位手段Ｅ２３２０を中間位置または下降位置に変位させた際の変位手段Ｅ２３２０に作用する慣性力を変更できる。従って、変位手段Ｅ２３２０を中間位置または下降位置に変位させた際の変位手段Ｅ２３２０の姿勢の変化にバリエーションを付与することができる。その結果、窓部Ｐ１４ｅを介して視認される変位手段Ｅ２３２０の変位（落下）による演出効果を向上できる。

【１０８５８】
　また、変位手段Ｅ２３２０の変位（落下）開始位置を変更できるので、中間位置または下降位置から上方に変位される変位手段Ｅ２３２０がどの位置まで変位される（持ち上げられる）かに着目させることができる。その結果、変位手段Ｅ２３２０の変位による演出の効果を高めることができる。
【１０８５９】
　さらに、第１０４実施形態では、上述したように、回転部材Ｅ８４４２の当接部Ｅ４４２ｃに第１伝達手段Ｅ２５０の正面側突設部Ｅ２５１ｂを当接させた衝撃で、回転部材Ｅ８４４２を回転させることが可能に構成されると共に、変位手段Ｅ２３２０の変位（落下）開始位置を変更可能に構成される。よって、変位手段Ｅ２３２０の変位（落下）開始位置を変更することで、変位手段Ｅ２３２０を中間位置まで変位（落下）させた際に第１伝達手段Ｅ２５０から回転部材Ｅ８４４２に作用する力（衝撃）を変更することができる。
【１０８６０】
　これにより、第１０４実施形態では、第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置から変位（落下）させた場合に、回転部材Ｅ８４４２の当接部Ｅ４４２ｃに作用する力（衝撃）を大きくして、当接部Ｅ４４２ｃを第２位置まで変位させることができると共に、第１伝達手段Ｅ２５０を第２上昇位置から変位（落下）させた場合に、回転部材Ｅ８４４２の当接部Ｅ４４２ｃに作用する力（衝撃）を小さくして、当接部Ｅ４４２ｃを第１位置と第２位置との間で停止させることができる。
【１０８６１】
　即ち、第１０４実施形態では、回転部材Ｅ８４４２を変位させるために回転部材Ｅ８４４２に駆動力を付与するためのソレノイドを別途配設しなくても、第１伝達手段Ｅ２５０の変位（落下）開始位置を変更することで、第１伝達手段Ｅ２５０の落下位置を変更することができる。
【１０８６２】
　従って、第１０４実施形態では、上記した第８９実施形態のように、回転部材Ｅ８４４２に駆動力を付与するためのソレノイドＥ４２１を備える必要が無くなるので、その分、その制御を簡易にできると共に、製造コストを低減できる。
【１０８６３】
　次いで、図６２１を参照して、回転体Ｅ８２３４の当接部Ｅ８２３４ｆの配置を変更する構造について詳しく説明する。図６２１（ａ）及び図６２１（ｃ）は、回転体Ｅ８２３４を正面視した模式図であり、図６２１（ｂ）は、図６２１（ａ）のＥ１０ｂ－Ｅ１０ｂ線における回転体Ｅ８２３４の断面模式図であり、図６２１（ｄ）は、図６２１（ｃ）のＥ１０ｄ－Ｅ１０ｄ線における回転体Ｅ８２３４の断面模式図である。
【１０８６４】
　図６２１に示すように、第１０４実施形態における回転体Ｅ８２３４は、回転体Ｅ８２３４の径方向外側から内側に向かう溝状に凹設される摺動溝Ｅ８２３４ｉと、その摺動溝Ｅ８２３４ｉの内側に配置され、摺動溝Ｅ８２３４ｉを摺動可能な状態で配設される摺動体Ｅ８２３４ｇと、その摺動体Ｅ８２３４ｇに配設される当接部Ｅ８２３４ｆと、摺動溝Ｅ８２３４ｉの内側に突出部Ｅ８２３４ｈ１を突出させて摺動体Ｅ８２３４ｇに係合可能に構成される係合部材Ｅ８２３４ｈと、を主に備えて形成される。なお、回転体Ｅ８２３４は、付勢ばねにより摺動体Ｅ８２３４ｇが径方向内側に付勢されて配設され、回転体Ｅ８２３４を回転した際の遠心力により摺動体Ｅ８２３４ｇを付勢ばねの付勢力に反して径方向外側に摺動させて、係合部材Ｅ８２３４ｈに係合させることにより、摺動体Ｅ８２３４ｇに配設される当接部Ｅ８２３４ｆを径方向外側の位置に維持できるように構成される。
【１０８６５】
　即ち、第１０４実施形態における回転体Ｅ８２３４では、回転体Ｅ８２３４の回転速度を変更することで、摺動体Ｅ８２３４ｇに作用する遠心力を変更して当接部Ｅ８２３４ｆを径方向位置を変更できるように構成される。従って、第１０４実施形態では、当接部Ｅ

８２３４ｆの径方向位置を変更するための駆動手段を駆動モータＥＭ１以外に備える必要がないので、上変位ユニットＥ８１００の制御を簡易にできる。

【１０８６６】

なお、係合部材Ｅ８２３４ｈに係合されて径方向外側に維持される摺動体Ｅ８２３４ｇは、所定の回転位置で、係合部材Ｅ８２３４ｈの当接部Ｅ８２３４ｈ２を第３ベースＥ２６０の背面に当接させることで、突出部Ｅ８２３４ｈ１を摺動溝Ｅ８２３４ｉから退避させることで、係合部材Ｅ８２３４ｈと摺動体Ｅ８２３４ｇとの係合を解除して、当接部Ｅ８２３４ｆを径方向内側の位置に戻すことが可能に構成される。

【１０８６７】

即ち、第１０４実施形態では、回転体Ｅ８２３４を１回転させる毎に、回転体Ｅ２３４の回転速度を変更することで、当接部Ｅ８２３４ｆの径方向位置を変更することができる。そのため、当接部Ｅ８２３４ｆの径方向位置を変更するために、回転体Ｅ８２３４の回転を停止する必要がないので、変位手段Ｅ２３２０の変位を連続させつつ、変位手段Ｅ２３２０の変位態様を変更することができる。その結果、変位手段Ｅ２３２０を変位させることにより演出効果を向上しやすくできる。

【１０８６８】

以上、上記実施形態に基づき本発明を説明したが、本発明は上記形態に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲内で種々の変形改良が可能であることは容易に推察できるものである。

【１０８６９】

上記各実施形態において、一の実施形態における構成の一部または全部を、他の実施形態における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の実施形態としても良い。

【１０８７０】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第８９実施形態）では、開閉板Ａ６４１の左端部において凹設湾曲部Ａ６４１ｄの左縁を構成するように前側へ延設される先端部から干渉突部Ａ６４１ｂが形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、凹設湾曲部Ａ６４１ｄの左縁を構成する延設部および干渉突部Ａ６４１ｂの形成を省略しても良い（即ち、開閉板Ａ６４１の前端部が対向部Ａ６４１ｃの傾斜角度で開閉板Ａ６４１の左端まで形成されるようにしても良い）。この場合、開閉板Ａ６４１の左端を通過する間際の球がある場合に開閉板Ａ６４１が閉鎖状態（退避状態）へ状態変化した場合において、球が干渉突部Ａ６４１ｂに当接されることはなく、入賞検出センサＡＳＣ６４に滑り込ませることができる。これにより、入賞検出センサＡＳＣ６４への入賞可能性を高めることができる。

【１０８７１】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第８９実施形態）では、干渉突部Ａ６４１ｂにより荷重を与えられ、開閉板Ａ６４１から脱落して落下した球は、落下後に、球案内部Ａ６２１に案内され、遊技機外部に排出される。球案内部Ａ６２１がアウト口Ｈ７１と同様の機能を有するように構成されても良いし、球案内部Ａ６２１が一般入賞口Ｈ６３と同様の機能を有するように構成されても良い。他に、球案内部Ａ６２１が第１入賞口Ｈ６４と同様の機能を有しても良いし、第２入賞口Ｈ６４０と同様の機能を有しても良いし、特定入賞口Ｈ６５ａと同様の機能を有しても良い。球案内部Ａ６２１が一般入賞口Ｈ６３と同様の機能を有するように構成される場合には、球が球案内部Ａ６２１を通過することに基づいて一定個数の球が上皿Ｐ１７に払い出されるため、球が開閉板Ａ６４１から脱落した場合であっても、遊技者は球が増える期待感を持って球を見守ることができる。

【１０８７２】

各球案内部Ａ６２１の機能が別々に設定されても良い。この場合において、左端の球案内部Ａ６２１の機能に対応するように入賞検出センサＡＳＣ６４の制御が構成される。入賞検出センサＡＳＣ６４がアウト口Ｈ７１と同様の機能を有するように構成し、開閉板Ａ

６４１の下方側に位置する球案内部Ａ６２１が第２入賞口Ｈ６４０と同様の機能を有するように構成する場合には、開閉板Ａ６４１の開閉の対応が逆転される。即ち、前方に張り出す状態が閉鎖状態となり、後方に退避する状態が開放状態となる。この場合には、駆動ソレノイドＡ６４２の励磁により先端固定部材Ａ６４３が変位される向きについても反転させた方が好ましい。

【１０８７３】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第８９実施形態）では、ベース部材Ａ６１０とカバー部材Ａ６３０とが同様に光透過性の樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ベース部材Ａ６１０とカバー部材Ａ６３０とが、異なる素材から構成されても良い。

【１０８７４】

この場合において、選定する素材としては何ら限定されるものではないが、通常は、樹脂材料や、金属材料や、ガラス材料からそれぞれ選定される。この場合において、異なる素材としては、樹脂同士、金属同士、ガラス同士を除外する意図ではなく、異なる組成の樹脂同士、異なる金属同士（鉄と銅等）、異なる組成のガラス同士である場合も含む。

【１０８７５】

特に、カバー部材Ａ６３０の方がベース部材Ａ６１０よりも光透過性の良好な素材とすることで、カバー部材Ａ６３０とベース部材Ａ６１０との間を流下する球の視認性を向上させることができる。

【１０８７６】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第８９実施形態）では、傾斜突部Ａ６１８と突条部Ａ６３５とが同様に光透過性の樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、傾斜突部Ａ６１８と突条部Ａ６３５とが、異なる素材から構成されても良い。

【１０８７７】

この場合において、選定する素材としては何ら限定されるものではないが、通常は、樹脂材料や、金属材料や、ガラス材料からそれぞれ選定される。この場合において、異なる素材としては、樹脂同士、金属同士、ガラス同士を除外する意図ではなく、異なる組成の樹脂同士、異なる金属同士（鉄と銅等）、異なる組成のガラス同士である場合も含む。

【１０８７８】

この場合において、例えば、傾斜突部Ａ６１８を光透過性の樹脂材料とし、突条部Ａ６３５を金属材料の別部材が嵌合固定される態様とすることで、傾斜突部Ａ６１８により開閉板Ａ６４１が視認し難くなる事態を回避することができると共に、突条部Ａ６３５の耐久性を向上して開閉板Ａ６４１の下流側における球の流下を安定させることができる。

【１０８７９】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第８９実施形態）では、ベース部材Ａ６１０の板状本体Ａ６１１に、開閉板Ａ６４１が出退変位可能な案内開口Ａ６１４が形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ベース部材Ａ６１０において、開閉板Ａ６４１の上流側を構成する第１部材と、開閉板Ａ６４１の下流側を構成する第２部材とを、別々に構成しても良いし、その場合において、第１部材と第２部材とを同一の素材から構成しても良いし、異なる素材から構成しても良い。

【１０８８０】

この場合において、選定する素材としては何ら限定されるものではないが、通常は、樹脂材料や、金属材料や、ガラス材料からそれぞれ選定される。この場合において、異なる素材としては、樹脂同士、金属同士、ガラス同士を除外する意図ではなく、異なる組成の樹脂同士、異なる金属同士（鉄と銅等）、異なる組成のガラス同士である場合も含む。

【１０８８１】

この場合において、第２部材と開閉板Ａ６４１とが一体的に第１部材に対して着脱可能に構成されても良い。この場合、開閉板Ａ６４１が破損する程に使用年数が経過している場合において突設部Ａ６１５が同様に破損しているような場合において、第２部材と開閉

板Ａ６４１とを一体的に取り替えることで修理を済ませることができるので、メンテナンスの工数を削減することができる。カバー部材Ａ６３０に（開閉可能な）窓部が形成される場合には、この取り替えが窓部を通して可能となるので、更にメンテナンスの工数を削減できる。

【１０８８２】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第８９実施形態）では、傾斜突部Ａ６１８が開閉板Ａ６４１の左右幅方向の一部と上面視で重なる位置に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、傾斜突部Ａ６１８が開閉板Ａ６４１の左右幅全体と重なる位置に配設されても良い。この場合、開閉板Ａ６４１の真上側から球が落下して開閉板Ａ６４１に到達する態様で開閉板Ａ６４１の上方側の流下経路を形成する場合であっても、開閉板Ａ６４１が球との衝突により破損する事態を避け易くすることができる。また、開閉板Ａ６４１が前後スライド動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ６４１の動作方向は左右スライドでも良いし、スライド移動ではなく回転動作とされても良い。この場合において、傾斜突部Ａ６１８の配設位置や構成は、開閉板Ａ６４１の動作態様に対応して調整される。

【１０８８３】

例えば、開閉板Ａ６４１の変位態様が回転動作であって、その動作方向が、前後方向に沿う回転軸を中心とした円弧に沿う方向である場合、傾斜突部Ａ６１８は、開閉板Ａ６４１の動作軌跡となる回転軸を中心とした円形状の外方において開閉板Ａ６４１から球を離間させる側に跳ね返す形状とすればよい。即ち、回転軸から離れた側においては球を跳ね返す傾斜形状とされ、回転軸に対向する側においては開閉板Ａ６４１の動作軌跡に沿う形状で構成することで、開閉板Ａ６４１により近い位置において傾斜突部Ａ６１８を配設することができる。

【１０８８４】

また、例えば、開閉板Ａ６４１の変位態様が回転動作であって、その動作方向が、左右方向に沿う回転軸を中心とした円弧に沿う方向である場合（起立状態で閉鎖状態、傾倒状態で開放状態となる場合）、球が開閉板Ａ６４１へ向けて流下する左右位置における閉鎖状態における開閉板Ａ６４１の前側への張出代程度の張出長さで傾斜突部Ａ６１８を板状本体Ａ６１１から張出形成することで、傾斜突部Ａ６１８により開閉板Ａ６４１への球の衝突を回避させることができる。

【１０８８５】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第８９実施形態）では、後方に動作する干渉突部Ａ６４１ｂに押し上げられた球が開閉板Ａ６４１から脱落して落下する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、押し上げられた球が開閉板Ａ６４１上に残って、次の開放動作で再び案内されるように構成しても良い。この場合、開閉板Ａ６４１による球の案内効率を向上させることができる。

【１０８８６】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第８９実施形態）では、傾斜突部Ａ６１８の傾斜によって球に対して入賞検出センサＡＳＣ６４側への初速が付与される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、傾斜突部Ａ６１８の前面側の傾斜が左右反転され、球に対して入賞検出センサＡＳＣ６４とは反対側への初速が付与されるようにしても良い。この場合、入賞検出センサＡＳＣ６４へ向けた球の左右方向の勢いが過大となることを抑制して、入賞検出センサＡＳＣ６４へのイレギュラー入賞を防止し易くすることができる。

【１０８８７】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第８９実施形態）では、傾斜突部Ａ６１８に当接した球が開閉板Ａ６４１上を転動する過程で、球が傾斜突部Ａ６１８と当接しなくなるように傾斜突部Ａ６１８の張出長さが徐々に減少する態様で構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、傾斜突部Ａ６１８の

張出長さが下流側においても十分長く維持され、開閉板Ａ６４１上を転動する球が傾斜突部Ａ６１８に当接し続けるように構成しても良い。この場合、開閉板Ａ６４１上を転動する球の前後位置を前方側に寄せ続けることができるので、球の視認性を向上させ続けることができる。

【１０８８８】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第８９実施形態）では、開閉板Ａ６４１の上面と傾斜突部Ａ６１８との間の隙間が球の直径よりも小さな寸法で構成され、球が間に挟まらないようにしたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ６４１の上面と傾斜突部Ａ６１８との間の隙間が大きくされ、球が開閉板Ａ６４１の上面および傾斜突部Ａ６１８の下面と当接する場合が生じ得るように構成しても良い。この場合、開閉板Ａ６４１の上面に対する球の縦跳ねを早期に抑え、球の開閉板Ａ６４１の上面における転動を良好とすることができ、開閉板Ａ６４１の厚み方向へのせん断力を抑制することで開閉板Ａ６４１の折れ損を抑制し、開閉板Ａ６４１の耐久性を向上することができる。

【１０８８９】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第８９実施形態）では、開放状態（張出状態）において干渉突部Ａ６４１ｂがカバー部材Ａ６３０の受入凹部Ａ６３１ａに収まり切らない場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、干渉突部Ａ６４１ｂが受入凹部Ａ６３１ａに収まりきるように構成しても良い。この場合、開放状態（張出状態）において干渉突部Ａ６４１ｂの後方側を案内される球が干渉突部Ａ６４１ｂに当接せずにカバー部材Ａ６３０の背面に沿って滑らかに流下させることができるので、球の流下速度を向上させることができる。

【１０８９０】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第８９実施形態）では、凹設湾曲部Ａ６４１ｄ（の最深部）が開閉板Ａ６４１の左端側に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、凹設湾曲部Ａ６４１ｄ（の最深部）が開閉板Ａ６４１の左右中央側に配置されても良い。この場合、開閉板Ａ６４１上を球が転動している際に開閉板Ａ６４１が閉鎖状態（退避状態）とされた場合における球の脱落位置（落下位置）を、開閉板Ａ６４１の左側端部（干渉突部Ａ６４１ｂ近傍）よりも右側寄りに変位させることができる。そのため、入賞検出センサＡＳＣ６４に案内される球の流れる位置と、入賞検出センサＡＳＣ６４に案内されずに脱落する球の流れる位置とを、左右距離をより離すことができるので、球の流下位置の判別が容易となる。

【１０８９１】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第８９実施形態）では、凹設湾曲部Ａ６４１ｄが傾斜突部Ａ６１８の形成範囲から外れた位置（左側にずれた位置）に形成されており、閉鎖状態（退避状態）において上面視でベース部材６１０の板状本体Ａ６１１よりも後方側に退避される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、凹設湾曲部Ａ６４１ｄが傾斜突部Ａ６１８の形成範囲から外れた位置に形成されており、閉鎖状態（退避状態）においてもベース部材６１０の板状本体Ａ６１１よりも後方側に退避されない（若干前方に張り出している）ように構成しても良い。この場合、開放状態（張出状態）における凹設湾曲部Ａ６４１ｄとカバー部材Ａ６３０との前後隙間を縮めることができるので、その前後隙間から球が脱落する事態を回避し易くすることができる。

【１０８９２】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第８９実施形態）では、傾斜突部Ａ６１８が遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０に対して脱着可能なベース部材Ａ６１０に配設され、開閉板Ａ６４１については、ベース部材Ａ６１０に締結固定される受入箱部材Ａ６４５と、その受入箱部材Ａ６４５に締結固定される前カバー部材Ａ６４６との間に支持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ベース部材Ａ６１０に、開閉板Ａ６４１が直接的に支持される態様でも良い。例えば、前カバー部材

Ａ６４６が、別部材としてではなく、ベース部材Ａ６１０の背面側に一体的に樹脂形成される態様となっていても良い。この場合、傾斜突部Ａ６１８が形成されるベース部材Ａ６１０をベース板Ａ６０に対して脱着させることで、ベース板Ａ６０に対して開閉板Ａ６４１も一体的に脱着させることができる。

【１０８９３】

この場合において、前カバー部材Ａ６４６と受入箱部材Ａ６４５との間に中間リンク部材Ａ６４４の回転軸部Ａ６４４ｂを支持する態様ではなく、回転軸部Ａ６４４ｂが前カバー部材Ａ６４６のみに支持される態様としても良い。

【１０８９４】

即ち、前カバー部材Ａ６４６（ベース部材Ａ６１０）側に開閉板Ａ６４１、中間リンク部材Ａ６４４が配設（支持）されるものとし、駆動ソレノイドＡ６４２、先端固定部材Ａ６４３が受入箱部材Ａ６４５側に配設（支持）されるものとすることで、駆動ソレノイドＡ６４２を交換する目的で受入箱部材Ａ６４５をベース部材Ａ６１０から取り外した場合であっても開閉板Ａ６４１がベース部材Ａ６１０側に留まるようにすることができるので、駆動ソレノイドＡ６４２を交換するために分解したような場合において開閉板Ａ６４１が紛失する事態を避けることができる。

【１０８９５】

なお、回転軸部Ａ６４４ｂが前カバー部材Ａ６４６のみに支持される態様としては種々の態様が例示される。例えば、前カバー部材Ａ６４６から一対の回転軸部Ａ６４４ｂの配設位置に対応した位置において一対のＣ字状の爪状部が形成され、その爪状部の開放側から回転軸部Ａ６４４ｂを嵌め込むことで、一対の爪状部に中間リンク部材Ａ６４４が回転動作可能に支持されるように構成しても良い。また、中間リンク部材Ａ６４４の内部に小型のスプリングが内包され回転軸部Ａ６４４ｂが伸縮可能に構成される場合には、爪状部はＣ字状のように開放側を形成する形状に限らず、一対の環状部として構成しても良い。一対の回転軸部Ａ６４４ｂをコイルスプリングの弾性力に抗して縮ませた状態で一対の環状部の間に配置させ、その状態で回転軸部Ａ６４４ｂを伸ばさせることで、一対の環状部に回転軸部Ａ６４４ｂを挿通させることができ、中間リンク部材Ａ６４４を回転可能に支持させることができる。

【１０８９６】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第８９実施形態）では、開閉動作制御として、開閉板Ａ６４１の開放時間を制御することで、開閉板Ａ６４１が開放状態（張出状態）で維持される場合において入賞検出センサＡＳＣ６４に案内される球の個数を１球に限定する場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではない。例えば、開閉板Ａ６４１が開放状態（張出状態）に変化されてから入賞検出センサＡＳＣ６４を規定個数（１個または２～１０個）の球が通過したことを検出した場合に開閉板Ａ６４１を閉鎖状態（退避状態）へ変位させるように動作制御することで、案内される球の個数を限定するようにしても良い。

【１０８９７】

特に、開閉板Ａ６４１上における球の流下の角度（流下方向）よりも、入賞検出センサＡＳＣ６４を通過した後の球の流下の角度（流下方向）の方が、水平面に対する角度が大きい（上下方向寄りの方向とされる）ことで、入賞検出センサＡＳＣ６４近傍における球間隔を広げることができるので、規定個数を超える球を案内する事態を好適に防ぐことができる。

【１０８９８】

スルーゲートＨ６７を通過した球が開閉板Ａ６４１に到達するまでに経過する期間がある程度の長さ（約４秒間）である場合を説明したが、球の流下態様によって経過する期間は変化し易い。その変化の度合いは、到達するまでに経過する期間が長いほど大きくなり易い（球の到達タイミングと開閉板Ａ６４１の開放タイミングとがずれ易い）。これに対し、スルーゲートＨ６７と開閉板Ａ６４１との間隔を短く設定しても良い。例えば、傾斜突部Ａ６１８の近傍（真上）にスルーゲートＨ６７を配設することで、スルーゲートＨ６

７の通過から開閉板Ａ６４１に球が到達するまでの期間を短く（約０．１秒程度に）することができる。

【１０８９９】

この場合、スルーゲートＨ６７で球の通過が検出された際に生じる抽選の変動期間を０．１秒程度に設定しておけば、球が開閉板Ａ６４１近傍に到達したタイミングに合わせて開閉板Ａ６４１を開放動作させることができるので、球を安定的に入賞検出センサＡＳＣ６４に案内させることができる。

【１０９００】

この場合、普通図柄の保留個数を１個以上に設定すると、保留個数が残っていない場合には、球が開閉板Ａ６４１近傍に到達したタイミングに合わせて開閉板Ａ６４１が開放動作される一方で、保留個数が残っている場合には、スルーゲートＨ６７を通過しても即座に抽選変動が開始されないことから、球が開閉板Ａ６４１近傍に到達したタイミングで開閉板Ａ６４１が開放動作されるわけではないように構成できるため、開閉板Ａ６４１付近を流下する球に対する注目力を向上させることができる。

【１０９０１】

一方で、普通図柄の保留個数を０個に設定することで、抽選の変動の開始タイミングと、球がスルーゲートＨ６７を通過するタイミングとがずれる事態を排除できるので、遊技の快適性を上げることができる。

【１０９０２】

開閉動作制御では、球の検出に対応して開閉動作を実行する場合を説明したが、開閉に至らない、中間動作も実行可能に構成しても良い。例えば、開放状態（張出状態）から閉鎖状態（退避状態）に到達した直後に、開放状態（張出状態）側へ向けた動作であって開放状態（張出状態）までは至らない励磁長さの中間動作制御を実行可能にしてもよい。即ち、中間動作制御では、開放状態（張出状態）までは至らない位置まで張り出した後で退避する動作が瞬間的に生じる。

【１０９０３】

この中間動作制御は、毎回の開閉動作に付随するようにしても良いし、一部の開閉動作に付随するようにしても良い。

【１０９０４】

一部の開閉動作に付随する場合、開閉板Ａ６４１が閉鎖状態（退避状態）とされた直後に傾斜突部Ａ６１８から若干はみ出すことから、開閉板Ａ６４１付近を視認する遊技者は、中間動作が実行されたことを視認により把握し易い。

【１０９０５】

中間動作が実行されることを、遊技者が得られる利益と関連付けても良いし、何ら関連無く付随させて実行させても良い。

【１０９０６】

これにより、球を一定の強度かつ一定の間隔で発射させている場合であっても、開閉板Ａ６４１の動作が一定とはならないようにできるので、遊技が緩慢となることを避け、遊技者の興趣の向上を図ることができる。

【１０９０７】

また、開放状態（張出状態）における開閉板Ａ６４１に球が乗る場合、その球の重さにより先端側が下降変位されることになるが、閉鎖状態（退避状態）に戻される（中間リンク部材Ａ６４４の離間突設部Ａ６４４ｄが開閉板Ａ６４１の案内凹部Ａ６４１ｆの後側面を後方へ押進する）だけでは前傾の姿勢が戻らないため、次に開放状態（張出状態）とされる動作において姿勢変化をさせながら張出動作をすることになり、動作抵抗が高くなる。

【１０９０８】

これに対し、中間動作により、中間リンク部材Ａ６４４の離間突設部Ａ６４４ｄが開閉板Ａ６４１の案内凹部Ａ６４１ｆの前側面を前方へ押進する過程で押し上げ、開閉板Ａ６４１の前傾姿勢を戻して水平姿勢側に起こすことができる。従って、次に開放状態（張出

状態）へ向けた動作が実行される場合の動作抵抗を低減させることができる。
【１０９０９】
　また、開閉板Ａ６４１の閉鎖動作を、制御によるものではなく、通過する球により規制部材が変位されることによる動作として構成しても良い。即ち、開放状態（張出状態）において干渉突部Ａ６４１ｂの戻りを防止する位置に規制部材が位置されており、規制部材が変位されるまでは開放状態（張出状態）が維持されるように構成しておき、開閉板Ａ６４１上を転動する球が規制部材に当接可能とされ、その当接する球が干渉突部Ａ６４１ｂの後面側を入賞検出センサＡＳＣ６４側へ通過する際に規制部材が球に当接されることで変位され、その規制部材による干渉突部Ａ６４１ｂの戻りの防止が解除されるようにしても良い。この場合、開放状態（張出状態）になるタイミングと球が到達するタイミングとのずれがあっても、開放状態（張出状態）の開閉板Ａ６４１により、少なくとも１球の球を入賞検出センサＡＳＣ６４に入球させた上で開閉板Ａ６４１の閉鎖動作を実行させることができる。
【１０９１０】
　上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第８９実施形態）では、開閉板Ａ６４１の上面が上流側から下流側に亘って同一平面で構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ６４１の上面が所定位置で屈曲されるようにしても良く、一例として、凹設湾曲部Ａ６４１ｄが形成される部位の水平面に対する傾斜角度が、対向部Ａ６４１ｃの水平面に対する傾斜角度よりも大きく設定されることで、凹設湾曲部Ａ６４１ｄよりも下流側が対向部Ａ６４１ｃに対して折れ曲がる（屈曲される）ように構成しても良い。
【１０９１１】
　この場合、開閉板Ａ６４１上における球の流下の角度（流下方向）と、入賞検出センサＡＳＣ６４を通過した後の球の流下の角度（流下方向）との間において、中間の角度（流下方向）を凹設湾曲部Ａ６４１ｄよりも下流側の屈曲された範囲の上面で構成することができるので、局所的な球の流下方向の変化を小さくし、段階的に生じさせることができるので、球を滑らかに流下させ易くすることができる。
【１０９１２】
　上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第８９実施形態）では、駆動ソレノイドＡ６４２の駆動力により開閉板Ａ６４１が動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球の勢いを利用した動作が可能に構成されても良い。例えば、駆動ソレノイドＡ６４２からケースやコイルが取り外れ、プランジャーについては流用するように構成し、排出路形成部Ａ６３２ａに案内され流下された球の流下通路をプランジャーに位置に対応させて構成し、その流下通路に対してプランジャーが進退可能となるように保持されても良い。
【１０９１３】
　プランジャーの後端部には流下通路を流下する球からの荷重を受ける傾斜面が形成されている。その傾斜面は球が到達する前においては流下通路内に位置しており、球の通過を妨げる。傾斜面が球から荷重を受けると、傾斜面がプランジャーごと変位され、球が通過可能な位置まで退避されることにより、球は流下通路を流下可能となる。
【１０９１４】
　この場合において、到達した球から傾斜面が荷重を受けることによりプランジャー先端部Ａ６４２ａがコイルスプリングＡ６４２ｂを縮める方向（右方向）に変位されるように構成することで、球からの荷重により開閉板Ａ６４１を開放状態（張出状態）側へ変位させることができる。
【１０９１５】
　この場合において、開閉板Ａ６４１の動作速度は、傾斜面の設計次第で調整が可能とされる。開閉板Ａ６４１の開放状態から閉鎖状態への変位は、上述の規制部材で防止されても良いし、傾斜面の角度の調整により球が傾斜面と当接する期間を引き延ばすことで防止されるようにしても良い。

【１０９１６】
前者の場合には、上述のように、球が開閉板Ａ６４１上を転動することで規制部材による防止が解除され開閉板Ａ６４１が閉鎖状態（退避状態）に変位される。後者の場合は、球が傾斜面に当接して停留する間は開閉板Ａ６４１が開放状態（張出状態）で維持されることになるので開閉板Ａ６４１の開放維持期間が一様になり動作の予測がされ易くなることで遊技者が「単発打ち」を行うモチベーションが高くなる可能性があるが、排出路形成部Ａ６３２ａに後続球が流入して傾斜面に与える荷重が増大する（複数球の重さがかけられる）場合には、傾斜面が変位される期間が短くされ、開放維持期間が短くなる。これにより、開閉板Ａ６４１の開放維持期間が完全に一様である場合に比較して、「単発打ち」を行うモチベーションを低減させ、遊技者に対して「打ちっぱなし」の遊技を促進させることができる。
【１０９１７】
上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９０実施形態）では、上流側突部Ａ２６１８が１本の突条から形成される場合を説明したが、並んで形成される２本の突条から形成され、その間の溝に球の後端部が受け入れられ案内される構成でも良い。この場合、上流側突部Ａ２６１８により、球を前方側に寄せる作用に加えて、球の流下を溝間位置で案内することができ、球の流下を安定させることができる。
【１０９１８】
上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９０実施形態）では、上流側突部Ａ２６１８が開閉板Ａ６４１の近傍まで形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ６４１の上面と上流側突部Ａ２６１８の下端との間隔が正面視で球の直径を超える長さで空くように構成しても良い。この場合、上流側突部Ａ２６１８によって予め球を前方側に寄せていることから、途中で上流側突部Ａ２６１８の形成が省略されたとしても球が開閉板Ａ６４１と衝突することを回避する作用は維持しつつ、開閉板Ａ６４１の上面を球が転動される場合において球が上流側突部Ａ２６１８に当接することを避けることができる。これにより、開閉板Ａ６４１に球が到達した時点では球は前後に跳ねることができるので、前後方向の空間が狭い場合に比較して上下方向へ球跳ねする度合（高さ）を抑制することができるので、球の開閉板Ａ６４１上での縦方向の跳ねがおさまるまでの期間を短縮することができる。
【１０９１９】
上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９１実施形態）では、当接張出部Ａ３６１８を着脱可能であることを説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、当接張出部Ａ３６１８を前方へ押し出す押進力が作用され、張出代を検出可能となっており、球との衝突で削れて張出代が短くなった場合に、それを相殺する態様で押進力により当接張出部Ａ３６１８の張出代が補完されるように構成しても良い。
【１０９２０】
ここで、押進力による当接張出部Ａ３６１８の変位量を検出可能となっており、変位量が規定値を超えると（張出先端の削れが過度となると）、外部に報知可能に構成されても良い。これにより、当接張出部Ａ３６１８の交換や、確認のためのメンテナンスを行わせることができ、開閉板Ａ６４１が球と衝突して破損する事態を未然に防ぐことができる。
【１０９２１】
報知後において遊技可能に構成しても、遊技不可能に構成しても良い。遊技可能とした場合、開閉板Ａ６４１が破損するおそれがあるが、当接張出部Ａ３６１８のメンテナンスの際に同時に確認させることができ、開閉板Ａ６４１が破損した状態が長期間放置される事態は回避できる。
【１０９２２】
押進力は、種々の態様が例示される。例えば、バネ部材による付勢力でも良いし、磁力を用いた構成でも良いし、モーターやソレノイド等による駆動力でも良い。また、動作の方向は前後方向に限るものではなく、左右方向でも良いし、上下方向でも良いし、斜め方向でも良いし、複数の方向の組合せでも良い。

【１０９２３】
上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９１実施形態）では、球のバウンドを抑制する補助シートＡ３６３８が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球のバウンドを抑制する塗料（例えば錆止めの塗料等）を塗布しても良いし、板状本体Ａ６３１の背側面を傾斜面（法線が下方向側を向く傾斜面）で構成しバウンドした球が下方に跳ねるように構成しても良い。また、これらの位置（範囲）は、開閉板Ａ６４１の前方側の位置に限らず、開閉板Ａ６４１の下方側における球の流下領域を構成する各面（底面等）に設定しても良い。これにより、球のバウンドを抑制し、跳ねた球が開閉板Ａ６４１に衝突する事態を避け易くすることができる。
【１０９２４】
上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９２実施形態）では、傾斜突部Ａ４６１８が案内突部Ａ４６１８ｃを有する態様で樹脂材料から一体成形される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、先端において直角方向に張り出す同形状の釘部材を着脱可能に構成しても良い。即ち、釘が横向きで嵌合され得る凹部がベース部材Ａ６１０に形成されても良い。これにより、スペアの釘部材を流用することができる。
【１０９２５】
上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９２実施形態）では、案内突部Ａ４６１８ｃが傾斜突部Ａ４６１８の上側に張り出す場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、下方に張り出すＬ字形状とされても良い。この場合、傾斜突部Ａ４６１８に当接した後で右側へ流下した球がバウンドして跳ね戻った場合であっても、案内突部Ａ４６１８ｃにより球が開閉板Ａ６４１と衝突する事態を避けることができる。
【１０９２６】
上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９３実施形態）では、傾斜突部Ａ５６１８の凹設部Ａ５６１８ｃに対して、閉鎖状態（退避状態）においては開閉板Ａ５６４１の対応突部Ａ５６４１ｍが進入する一方で、開放状態（張出状態）においては開閉板Ａ５６４１の対応突部Ａ５６４１ｍが進入せずに空間が生じる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、対応突部Ａ５６４１ｍとは別の突部であって同様の形状の第２対応突部が対応突部Ａ５６４１ｍよりも後方側において開閉板Ａ５６４１の上方に突設形成されており、閉鎖状態（退避状態）においては開閉板Ａ５６４１の対応突部Ａ５６４１ｍが凹設部Ａ５６１８ｃに進入する一方で、開放状態（張出状態）においては開閉板Ａ５６４１の第２対応突部が凹設部Ａ５６１８ｃに進入するように凹設部Ａ５６１８ｃが後方側にも開放されても良い。この場合、開放状態（張出状態）においては、凹設部Ａ５６１８ｃが第２対応突部により埋められることから、流下する球の蛇行の程度を小さくすることができる。
【１０９２７】
上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９４実施形態）では、傾斜突部Ａ６１８と下側傾斜突部Ａ６６１８とが分離配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、傾斜突部Ａ６１８と下側傾斜突部Ａ６６１８との右端側同士を繋ぐ突条が、同様の突設長さで形成されることにより、正面視コ字状に屈曲される突条として構成しても良い。この場合、傾斜突部Ａ６１８及び下側傾斜突部Ａ６６１８をより丈夫にすることができ、耐久性を向上させることができると共に、開閉板Ａ６４１の三方向において球の接近を防止できるので、開閉板Ａ６４１が球に衝突して破損する事態を防止し易くすることができる。
【１０９２８】
上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９５実施形態）では、予備当接部Ａ７６３８がカバー部材Ａ７６３０に形成されたが、これに限られるものではなく、ベース部材Ａ６１０から形成されても良い。例えば、前方に延設され、その延設先端から上方に延設されるＬ字形状で構成すれば、開閉板Ａ７６４１の開閉動作を阻害すること

なく、上方への延設先端側が切欠き部Ａ７６４１ｎに受け入れられる態様を構成することができる。

【１０９２９】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９５実施形態）では、予備当接部Ａ７６３８は、上面が、開閉板Ａ７６４１の上面と平行とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、後端側寄りで球が着地する位置において開閉板Ａ７６４１よりも上側に位置し、前方側へ向かうほど下降傾斜する傾斜面として形成しても良い。この場合において、前方側の位置が開閉板Ａ７６４１の上面よりも下側に位置しても良い。この場合、予備当接部Ａ７６３８の上面が多少削れても、開閉板Ａ７６４１よりも上方に張り出す状態を長く維持させることができ、球が予備当接部Ａ７６３８の前に開閉板Ａ７６４１に衝突する事態を避けることができる。また、予備当接部Ａ７６３８に乗った後の球を開閉板Ａ７６４１から離れる側（前方側）に寄せながら流すことができるので、球が開閉板Ａ７６４１に当たり難くすることができる。

【１０９３０】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９５実施形態）では、開閉板Ａ７６４１が樹脂材料のみにより形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ７６４１において切欠き部Ａ７６４１ｎが形成されることで幅が細くされる箇所において補強用の金属棒が前後方向に差し入れられて内包可能に構成しても良い。これにより、対向部Ａ６４１ｃ後方側における開閉板Ａ７６４１の強度を向上させることができる。なお、補強用の金属棒は、切欠き部Ａ７６４１ｎの有無に関わらず差し入れることが可能であり、これにより開閉板Ａ７６４１の強度を向上させることができる。

【１０９３１】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９５実施形態）では、開閉板Ａ７６４１が一定の板厚で形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、切欠き部Ａ７６４１ｎが形成される対向部Ａ６４１ｃ側において、板厚を増厚しても良い。これにより、切欠き部Ａ７６４１ｎが形成されることによる強度低下を緩和することができる。なお、板厚の増厚は、切欠き部Ａ７６４１ｎの有無に関わらず可能であり、これにより、対向部Ａ６４１ｃと球との衝突が生じたとしても（例えば、傾斜突部Ａ６１８が破損した場合や、予備当接部Ａ７６３８が破損した場合等）、対向部Ａ６４１ｃが増厚により強度が増していることから、対向部Ａ６４１ｃが破損する事態を避け易くすることができる。

【１０９３２】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９５実施形態）では、開閉板Ａ７６４１が一体成形され前後方向に直線動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ７６４１は、切欠き部Ａ７６４１ｎが形成される前側部と、その前側部を支持する後側部とで構成され、前側部が後側部に対して左右幅の略中央位置において前後方向に延びる回転軸を中心に回転動作可能に構成されても良い。

【１０９３３】

この場合、例えば、閉鎖状態（退避状態）においては対向部Ａ６４１ｃ側が下側となり、開放状態（張出状態）においては対向部Ａ６４１ｃ側が上側となるように、前後のスライド移動に伴って回転動作が生じるように構成することができる。

【１０９３４】

一例として、予備当接部Ａ７６３８が、開閉板Ａ７６４１の前側部の回転軸を中心とする円弧形状断面で後方に延設される場合、開閉板Ａ７６４１の切欠き部Ａ７６４１ｎが予備当接部Ａ７６３８を受け入れる態様とされ、予備当接部Ａ７６３８により前側部の回転動作が案内される。

【１０９３５】

その湾曲板形状の予備当接部Ａ７６３８の板厚方向側の外側面から、開閉板Ａ７６４１

の下面を支持する突部が形成されることで開閉板Ａ７６４１の前後位置における前側部の姿勢が設定される。

【１０９３６】

この場合において、開放状態（張出状態）では予備当接部Ａ７６３８の上面に対して開閉板Ａ７６４１の上面が平行な姿勢にできる位置に予備当接部Ａ７６３８の板厚方向側の外側面から下支えのための第１突部が形成され、閉鎖状態（退避状態）では開放状態（張出状態）から正面視時計回りに３０度回転された姿勢にできる位置（第１突部よりも下側の位置）に予備当接部Ａ７６３８の板厚方向側の外側面から下支えのための第２突部が形成され、第１突部と第２突部との間が滑らかに突条で繋がれる。即ち、予備当接部Ａ７６３８の板厚方向側の外側面には、第１突部と第２突部とを繋ぐように、上下位置が前方へ向かうにつれて上方へ変位する態様で斜め又は曲線方向に延びる突条が形成される。

【１０９３７】

これにより、開閉板Ａ７６４１が前後方向へスライド動作されることに伴い、予備当接部Ａ７６３８の板厚方向側の外側面の突条に沿って開閉板Ａ７６４１の前側部が回転動作される。即ち、開閉板Ａ７６４１の重心位置は前後方向に延びる回転軸よりも対向部Ａ６４１ｃ側（干渉突部Ａ６４１ｂの反対側）に位置している。

【１０９３８】

この場合、開閉板Ａ７６４１の閉鎖動作時において、退避しきる前から、開閉板Ａ７６４１の左端部が入賞検出センサＡＳＣ６４の開口を狭めるように上方へ向けて回転動作されるため、イレギュラー入賞を抑制し易くすることができる。

【１０９３９】

なお、開閉板Ａ７６４１の前後位置を開放状態（張出状態）の位置で維持したまま、予備当接部Ａ７６３８が前後に移動されることで、開閉板Ａ７６４１の回転動作が生じるように構成しても良い。

【１０９４０】

この場合において、前後に移動される予備当接部Ａ７６３８は、コイルスプリング等の付勢力により開閉板Ａ７６４１の前方側に離間する位置へ付勢されており、専用の駆動ソレノイドが励磁されることで付勢力に抗して後方へ動作されることで予備当接部Ａ７６３８が開閉板Ａ７６４１と当接する位置へ変位され、励磁状態を切り替える（強弱を切り替える）ことで開閉板Ａ７６４１との当接を維持したまま前後動作されるように構成されても良い。

【１０９４１】

専用の駆動ソレノイドについて、パチンコ機の電源がオンの状態において励磁状態で維持され、パチンコ機の電源がオフとなると非励磁とされるよう構成しても良い。この場合、パチンコ機の電源がオフされた場合に、予備当接部Ａ７６３８が付勢力により変位され、開閉板Ａ７６４１と予備当接部Ａ７６３８とが非当接となることに伴って、開閉板Ａ７６４１に自重に因る回転動作（開放状態から正面視時計回りに３０度回転された姿勢となる動作）を生じさせることができる。これにより、パチンコ機の電源がオフとなった場合において、開閉板Ａ７６４１上を転動する球が入賞検出センサＡＳＣ６４に入球することを防止することができ、遊技が誤って継続されることを防ぐことができる。

【１０９４２】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９６実施形態）では、傾斜延設部Ａ８６１８の上面の傾斜角度が開閉板Ａ６４１の上面の傾斜角度と同じ場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、傾斜延設部Ａ８６１８の上面の傾斜角度は、開閉板Ａ６４１の上面の傾斜角度よりも水平寄り（傾斜角度小）でも良い。この場合、傾斜延設部Ａ８６１８上に乗ってから球が脱落するまでの期間を延ばすことができ、球が到達した時に開閉板Ａ６４１が閉鎖状態（退避状態）であった場合に、開閉板Ａ６４１が開放状態（張出状態）に変化されるのを期待させる期間を引き延ばすことができるので、開閉板Ａ６４１近傍に対する注目力を向上させることができる。

【１０９４３】

また、傾斜延設部Ａ８６１８の上面の傾斜角度は、開閉板Ａ６４１の上面の傾斜角度よりも鉛直寄り（傾斜角度大）でも良い。この場合、傾斜延設部Ａ８６１８上に乗ってから球が脱落するまでの期間を短くすることができるので、傾斜延設部Ａ８６１８上に球が滞在している間に後追いの球が到達し、球付きが生じる可能性を低くすることができる。これにより、球付きに基づく球詰まりや、弾き飛ばされた球がイレギュラー入賞する事態を避けることができ、球の流下を適切に生じさせることができる。

【１０９４４】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９６実施形態）では、傾斜延設部Ａ８６１８に擦れ跡が増加される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、時間経過等によって擦れ跡が修復される材料により形成されても良い。また、内部に修復用の材料（液体状で保存可能であって条件によって硬化する材料（液状のり、光硬化樹脂または熱硬化樹脂等））が内包されており、擦れが過度になった場合に内部から修復用の材料が漏れ出して擦れ跡を修復するように構成しても良い。この場合、メンテナンス間隔を長引かせることができる。

【１０９４５】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９７実施形態）では、開閉板Ａ９６４１から被嵌合突部Ａ９６４１ｐが突設形成され、当接張出部Ａ３６１８の湾曲当接部Ａ３６１８ｂの内側に嵌合される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、湾曲当接部Ａ３６１８ｂが上下逆のＵ字形状で形成され、その下端部が進入可能とされる凹部が開閉板Ａ９６４１の上面に形成されても良い。この場合、開閉板Ａ９６４１の上方に球と衝突する干渉部を形成しなくて済むので、開閉板Ａ９６４１から球に与える影響を減らすことができる。

【１０９４６】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９７実施形態）では、中間リンク部材Ａ６４４の回転動作に伴って開閉板Ａ９６４１が前後動作するように互いに連動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ９６４１が中間リンク部材Ａ６４４に固定され、回転変位される中間リンク部材Ａ６４４に開閉板Ａ９６４１が一体的に回転変位されることで、開閉動作が生じるようにしても良い。この場合、開閉板Ａ９６４１の開閉動作は、左端側を回転の中心として右端側が前後方向に回転移動される態様とされるため、対向部Ａ６４１ｃのカバー部材Ａ９６３０に対する傾斜角度が一定ではなく、徐々に大きくなる態様で球を挟み込むことができるので、球が挟み込まれた場合であっても、挟み込み当初は挟み込む荷重が小さく、球が停留する前に球を滑らせることができるので、下流側への球の案内を生じさせ易くすることができる。なお、この場合において、閉鎖状態における開閉板Ａ９６４１の対向部Ａ６４１ｃとカバー部材Ａ９６３０に対する態様は、傾斜しても良いし、略平行となっても良い。略平行とされる場合、略平行を過ぎて逆傾斜（右側ほど広くなる傾斜態様）とされる場合に比較して、挟み込まれた球が逆流される側（右方側）に案内される事態を避け易くすることができる。

【１０９４７】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９７実施形態）では、調整可能部材Ａ９６３５の態様を調整することで球の跳ね返りの調整をする場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、代わりに又は併せて、開閉板Ａ９６４１の下流側に位置する順傾斜底面部Ａ９６３２ｇや逆傾斜底面部Ａ９６３２ｒの一部を前後に出退可能にし、退避状態において球を素通りさせるように構成することで、球の跳ね返りを減らすことで開閉板Ａ９６４１と球との衝突を抑制できると共に、順傾斜底面部Ａ９６３２ｇや逆傾斜底面部Ａ９６３２ｒが全球を跳ね返らせる場合に比較して順傾斜底面部Ａ９６３２ｇや逆傾斜底面部Ａ９６３２ｒの破損を減らすこともできる。

【１０９４８】

また例えば、代わりに又は併せて、開閉板Ａ９６４１の下側に下側傾斜突部Ａ６６１８を配設するようにしても良い。この場合、開閉板Ａ９６４１の前側を下方へ素通りしてか

ら跳ね返った球が開閉板Ａ９６４１に衝突する前に、下側傾斜突部Ａ６６１８に衝突させて跳ね戻すことができるので、球と開閉板Ａ９６４１との衝突を回避することができる。

【１０９４９】

即ち、調整可能部材Ａ９６３５での調整に因らずとも（極端に言えば、調整可能部材Ａ９６３５を省略しても）、下方へ通過した後の跳ね返り球が開閉板Ａ９６４１と衝突する事態や、順傾斜底面部Ａ９６３２ｇや逆傾斜底面部Ａ９６３２ｒが球との衝突により破損する事態を避け易くすることができる。

【１０９５０】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９７実施形態）では、調整可能部材Ａ９６３５が光透過性の樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、調整可能部材Ａ９６３５が金属材料から形成され、非透過性とされても良い。調整可能部材Ａ９６３５が金属材料から形成されることで、樹脂特有の脆弱さを解消でき、調整可能部材Ａ９６３５の耐久性を向上させることができる。これにより、調整可能部材Ａ９６３５が調整による繰り返し負荷を受ける箇所であったとしても、早期に破損する事態を避け易くすることができる。

【１０９５１】

なお、球の視認性に関しては、調整可能部材Ａ９６３５の配置が開閉板Ａ９６４１の下流側に位置することや、第２電飾基板Ａ６７０からの光の視認態様の変化により開閉板Ａ９６４１上を球が転動しているか否かについて認識可能に構成されていることから、球の視認性が低下しても遊技継続を妨げる程の問題にはならない。

【１０９５２】

更に、電飾基板Ａ６７０等からの光が金属製の調整可能部材Ａ９６３５で反射されることにより、光演出の演出効果を向上させることができる。調整可能部材Ａ９６３５に球が当接する場合には、球により電飾基板Ａ６７０等からの光が被支持突部Ａ９６３５ｂへ到達することが妨げられ、若干暗く視認される。そのため、遊技者は光の視認態様に注目することで、調整可能部材Ａ９６３５と当接する位置を球が流下していることを把握することができる。

【１０９５３】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９７実施形態）では、Ｌ字状の部材から構成される調整可能部材Ａ９６３５が、被支持突部Ａ９６３５ｂがカバー部材Ａ９６３０側に近接配置され当接した球をカバー部材Ａ９６３０から離間する方向に流下させる一方で、支持腕部Ａ９６３５ａはベース部材Ａ９６１０に支持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、調整可能部材Ａ９６３５は、支持腕部Ａ９６３５ａの形成が省略され、被支持突部Ａ９６３５ｂの前側面から前方へ向けて嵌合突部が突設され、その嵌合突部を受け入れ固定可能な嵌合凹部がカバー部材Ａ９６３０の後側面に複数形成され、嵌合突部が受け入れられる嵌合凹部を入れ替えることにより被支持突部Ａ９６３５ｂの位置を調整するように構成しても良い。

【１０９５４】

この場合、支持腕部Ａ９６３５ａを利用する場合に生じた球との衝突により調整可能部材Ａ９６３５が破損する事態を避けることができ被支持突部Ａ９６３５ｂの耐用年数を長期化することができると共に、支持腕部Ａ９６３５ａが球の流下を阻害することを回避することができるので球の流下態様の設計自由度を向上させることができる。

【１０９５５】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９７実施形態）では、調整可能部材Ａ９６３５がＬ字状の部材から構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、Ｔ字状（支持腕部Ａ９６３５ａの先端に被支持突部Ａ９６３５ｂの中央部が位置する構成）の部材から構成しても良いし、コ字状（支持腕部Ａ９６３５ａが一対で構成され被支持突部Ａ９６３５ｂの両端部にそれぞれ位置する構成）の部材から構成しても良い。

【１０９５６】

また、被支持突部Ａ９６３５ｂは、正面視で長手方向を有する形状で特定したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、正面視で特定の長手方向を有さない形状（正方形、正三角形、円形など）で構成しても良い。この場合、上下方向への調整だけでなく、左右方向の位置調整によっても、衝突した球の跳ね返りに影響を与えやすくなる。

【１０９５７】

この場合において、調整可能部材Ａ９６３５の調整の態様を、スライド移動に対して、支持腕部Ａ９６３５ａの後端部を基点とした首振り（傾倒回動、起き上がり回動、左右首振り）で構成可能とすることで、支持腕部Ａ９６３５ａを支持する部分（調整支持部Ａ９６２５）の形状が複雑化することを避けることができる。

【１０９５８】

更にこの場合において、支持腕部Ａ９６３５ａの前端部が平面形状とされていることに対して、首振りの基点を中心とした球体の一部に沿った湾曲面形状としても良い。これにより、調整可能部材Ａ９６３５の調整を行った際に支持腕部Ａ９６３５ａの前端部がカバー部材Ａ９６３０の後端部と接触することを避けることができ、任意の首振り角度で調整することができる。

【１０９５９】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９７実施形態）では、調整可能部材Ａ９６３５が支持腕部Ａ９６３５ａの後端部を支点として片持ち支持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、支持腕部Ａ９６３５ａの前端部がカバー部材Ａ９６３０と当接可能に構成しても良い。例えば、調整可能部材Ａ９６３５が下寄りの位置に配置されている場合には支持腕部Ａ９６３５ａの前端部とカバー部材Ａ９６３０との間に隙間が空く寸法で構成する一方で、調整可能部材Ａ９６３５が上寄りの位置に配置される場合においてカバー部材Ａ９６３０との間に補助シートＡ３６３８を介在させることで、支持腕部Ａ９６３５ａの前端部とカバー部材Ａ９６３０との間の隙間が埋まるように構成することで、支持腕部Ａ９６３５ａの前端部が補助シートＡ３６３８を介してカバー部材Ａ９６３０から力（支持力）を受けるよう構成することができる。これにより、調整可能部材Ａ９６３５の支持態様を、前後端部で支持力を生じさせる態様（両持ち）とすることができ、調整可能部材Ａ９６３５の調整が球との衝突でずれる事態を避け易くすることができる。

【１０９６０】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９７実施形態）では、単一の調整可能部材Ａ９６３５が、開閉板Ａ９６４１の下側（下流側）において配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、複数の調整可能部材Ａ９６３５が開閉板Ａ９６４１の下側（下流側）に配設されるようにしても良い。この場合、各調整可能部材Ａ９６３５の位置を個別に調整することにより、開閉板Ａ９６４１の下流側位置における球の跳ね返りの態様を細かく調整することができる。

【１０９６１】

上記各実施形態（第８９実施形態～第９７実施形態、特に第９７実施形態）では、開口部Ａ９６３１ｂを通して調整可能部材Ａ９６３５を着脱可能な場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開口部Ａ９６３１ｂを通して開閉板Ａ９６４１を抜き差し可能に構成しても良い。この場合において、板状本体Ａ６３１が、カバー部材Ａ９６３０との間で流路を構成する上流側部と、開閉板Ａ９６４１を支持する下流側部とに分けられ、その下流側部が開閉板Ａ９６４１と共に開口部Ａ９６３１ｂを通して抜き差し可能に構成されても良い。これにより、開閉板Ａ９６４１が破損した場合における交換作業の工数を低減させることができる。

【１０９６２】

上記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１０４実施形態では、弾性体Ｅ２２４がゴムから形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第１伝達手段Ｅ２５０が下降位置に変位して背面側突設部Ｅ２５１ｄが衝突する衝撃を吸収できるものであれば何でも良く、例えば、スプリングやウレタン等の弾性材料から形成

しても良い。
【１０９６３】
上記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１０４実施形態では、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０の落下時と持ち上げ時とで、それら変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０に配設される発光手段Ｅ３２１ｈ１の発光態様を変更する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、往復変位可能な部材である変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０にスピーカーや液晶装置を配設して、の落下時と持ち上げ時とで音声や表示を変更して、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０の演出態様を変更するものであっても良い。
【１０９６４】
上記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１０４実施形態では、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０が第３図柄表示装置Ｈ８１（図５４１参照）の正面側に重なる位置で変位する場合について説明したが、正面視において第３図柄表示装置Ｈ８１と重ならない領域で変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０が変位するように構成しても良い。この場合、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される表示内容に合わせた変位を変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０にさせることで、第３図柄表示装置Ｈ８１と変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０とによる演出領域を大きくできる。その結果、遊技者の興趣を高めやすくできる。
【１０９６５】
上記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１０４実施形態では、第２ベースＥ２２０と第１伝達手段Ｅ２５０との間に介在されるスプリングＥＳＰ１の付勢力が、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００が自重で上昇位置から下降位置に向かう力よりも小さく形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００が上昇位置から下降位置に向かう途中でスプリングＥＳＰ１の付勢力の方が大きくなるように構成しても良い。この場合には、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００が上昇位置から下降位置に向かう途中でスプリングの付勢力により引き上げ、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００の自重と釣り合う位置で、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００をぐらつかせることができる。
【１０９６６】
上記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１０４実施形態では、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０を複数の部材（ベース体Ｅ３２１，Ｅ２３２１、第１装飾体Ｅ３２２、第２装飾体Ｅ３２３、及び、第３装飾体Ｅ３２４）から形成して、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０が上昇位置から下降位置に向かって変位する際に、それらの部材を相対変位させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、１の部材から形成するものであっても良い。
【１０９６７】
また、上記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１０４実施形態では、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０を複数の部材（ベース体Ｅ３２１，Ｅ２３２１、第１装飾体Ｅ３２２、第２装飾体Ｅ３２３、及び、第３装飾体Ｅ３２４）が、落下に伴って相対変位される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。例えば、複数の部材（ベース体Ｅ３２１，Ｅ２３２１、第１装飾体Ｅ３２２、第２装飾体Ｅ３２３、及び、第３装飾体Ｅ３２４）を相対変位させるための駆動手段（モータ又はソレノイド）を別途配設して、その駆動手段の駆動力により複数の部材（ベース体Ｅ３２１，Ｅ２３２１、第１装飾体Ｅ３２２、第２装飾体Ｅ３２３、及び、第３装飾体Ｅ３２４）を相対変位させても良い。
【１０９６８】
この場合には、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０の変位に関係なく、複数の部材（ベース体Ｅ３２１，Ｅ２３２１、第１装飾体Ｅ３２２、第２装飾体Ｅ

３２３、及び、第３装飾体Ｅ３２４）を相対変位させて、正面視における変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０の態様を変更できるので、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０を変位させる際の、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０の態様（外形）にも着目させやすくできる。その結果、遊技者の興趣を高めやすくできる。

【１０９６９】

上記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１０４実施形態では、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０の落下時と持ち上げ時とで、それら変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０に配設される発光手段Ｅ３２１ｈ１の発光態様を変更する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０にスピーカーや液晶装置を配設して、の落下時と持ち上げ時とで音声や表示を変更して、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０の演出態様を変更するものであっても良い。

【１０９７０】

上記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１００実施形態では、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００に従動手段Ｅ５４０を配設する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、従動手段Ｅ５４０を配設しないものであっても良い。また、例えば、従動手段Ｅ５４０に変わってゴム状の弾性体やスプリングを配設し、それら弾性体やスプリングにより変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０の一端側を吊り下げ支持するものであっても良い。

【１０９７１】

上記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１０４実施形態では、回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４が正面視円形状に形成される場合について説明したが、回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４は、第１リンクＥ２４０のように一方に長い矩形状に形成されても良い。

【１０９７２】

また、上記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１０４実施形態では、回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４の当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆを第１リンクＥ２４０に当接させることで、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、及び、上変位手段Ｅ３００を上昇位置に持ち上げる場合について説明したが、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、及び、上変位手段Ｅ３００を上昇位置に持ち上げる機構は何でも良く、例えば、空気圧を第１リンクＥ２４０に作用させて第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、及び、上変位手段Ｅ３００を上昇位置に持ち上げるものであっても良い。

【１０９７３】

上記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１０４実施形態では、回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４を正面視左回りに回転し続けて、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０を上昇位置に持ち上げつつ、その上昇位置から下降位置に向かって変位（落下）させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、回転体Ｅ２３４、Ｅ８２３４を第１回転位置と第２回転位置との間で正面視左回り、又は、正面視右回りに往復変位させて変位手段Ｅ３２０を変位させるものであっても良い。

【１０９７４】

上記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１０４実施形態では、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０が駆動力伝達手段Ｅ３１０，Ｅ７３１０に接続され、駆動力伝達手段Ｅ３１０から駆動モータＥＭ１の駆動力が伝達される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上下動する第１伝達手段Ｅ２５０に変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０を直接接続して、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０を変位させるものであっても良い。なお、この場合には、第１伝達手段Ｅ２５０に歯面を形成して、ギヤの回転により第１伝達手段Ｅ２５０を上下方向に変位させても良い。

【１０９７５】

上記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１０４実施形態では、変位手段Ｅ３２

０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０が駆動力伝達手段Ｅ３１０，Ｅ７３１０に接続されて、略円弧状の軌跡で上昇位置から下降位置に落下される場合について説明したが、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０は、上記した第１伝達手段Ｅ２５０に直接に接続される構造のように、変位可能な部位であればどのような構成であっても良い。

【１０９７６】

上記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１０４実施形態では、回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４の当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆを第１リンクＥ２４０の下面に当接させることにより駆動モータＥＭ１の駆動力を上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００、第１伝達手段Ｅ２５０に伝達する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆを第１伝達手段Ｅ２５０に当接させて駆動モータＥＭ１の駆動力を上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００に伝達するものであっても良いし、当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆを上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００に当接させて駆動モータＥＭ１の駆動力を上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００に伝達するものであっても良い。

【１０９７７】

上記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１０４実施形態では、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００、第１伝達手段Ｅ２５０、及び、第１リンクＥ２４０が、それぞれ直動又は回転される場合について説明したが、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００、第１伝達手段Ｅ２５０、及び、第１リンクＥ２４０は、駆動モータＥＭ１の駆動力を受けて、又は、自重により、変位可能な部位であればどのような構成であっても良い。

【１０９７８】

上記第８９実施形態、第９８実施形態、第９９実施形態、第１０３実施形態、及び、第１０４実施形態では、変位規制手段Ｅ４００の回転部材Ｅ４４２，Ｅ８４４２を回転させて、回転部材Ｅ４４２，Ｅ８４４２の当接部Ｅ４４２ｃを第１位置および第２位置の間で変位させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、当接部Ｅ４４２ｃを駆動手段Ｅ４２０の駆動力により第１位置および第２位置の間でスライド変位するように構成しても良い。また、当接部Ｅ４４２ｃの変位方向は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に限られるものではなく、例えば、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）であっても良い。即ち、当接部Ｅ４４２ｃは、上昇位置から変位（落下）する第１伝達手段Ｅ２５０の少なくとも一部に当接可能な部位であればどのような構成であっても良い。

【１０９７９】

上記第８９実施形態では、変位規制手段Ｅ４００の回転部材Ｅ４４２を一か所に配設する、即ち、第１伝達手段Ｅ２５０の変位を中間位置のみで規制する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、回転部材Ｅ４４２を第１伝達手段Ｅ２５０の変位軌跡上に複数個配設して、中間位置以外で第１伝達手段Ｅ２５０の変位を規制するように構成しても良い。この場合、複数の回転部材Ｅ４４２のそれぞれの制御が必要となる為、その制御が複雑になるという問題があるものの、第１伝達手段Ｅ２５０、第１リンクＥ２４０及び上変位手段Ｅ３００の変位態様を複数形成することができるので、変位手段Ｅ３２０の上昇位置からの落下による演出効果を向上できる。

【１０９８０】

なお、この場合には、複数の回転部材Ｅ４４２の変位方向や大きさを変更して、第１伝達手段Ｅ２５０がそれぞれの回転部材Ｅ４４２に当接した際の影響が異なる様に構成することで、第１伝達手段Ｅ２５０、第１リンクＥ２４０及び上変位手段Ｅ３００の変位態様にバリエーションを付与して、変位手段Ｅ３２０の上昇位置からの落下による演出効果を向上できる。

【１０９８１】

上記第８９実施形態では、窓部Ｐ１４ｅによる視認可能範囲が変位手段Ｅ３２０の変位

（落下）範囲に設定され、変位手段Ｅ３２０に接続される姿勢規定手段Ｅ３３０および駆動力伝達手段Ｅ３１０の一部が窓部Ｐ１４ｅの外側に配設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、変位手段Ｅ３２０に接続される姿勢規定手段Ｅ３３０および駆動力伝達手段Ｅ３１０の全部が視認可能となるように窓部Ｐ１４ｅの視認可能範囲を設定、又は、上変位手段Ｅ３００を構成しても良い。また、窓部Ｐ１４ｅの視認可能な範囲内に上変位ユニットＥ１００の全体が収まる様に窓部Ｐ１４ｅの視認可能範囲を設定、又は、上変位ユニットＥ１００を構成しても良い。

【１０９８２】

また、窓部Ｐ１４ｅの視認可能範囲を変更した場合には、変位手段Ｅ３２０が上昇位置から下降位置に向かって変位（落下）される際に、窓部Ｐ１４ｅによる視認可能範囲の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側から中央側に向けて変位手段Ｅ３２０が変位するように構成しても良い。この場合には、変位手段Ｅ３２０を上昇位置から下降位置に変位（落下）した場合に、変位手段Ｅ３２０を遊技者に注目させやすくできる。即ち、上昇位置では、窓部Ｐ１４ｅによる視認可能範囲の外側に変位手段Ｅ３２０を配置して遊技者に注目させにくくすると共に、下降位置に向かって変位（落下）した場合に変位手段Ｅ３２０を注目させやすくできる。従って、窓部Ｐ１４ｅによる視認可能範囲のスペースを有効に活用できる。

【１０９８３】

なお、上記例示したように、窓部Ｐ１４ｅは、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０が上昇位置から下方に向けて変位（落下）する態様が視認可能となるように、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０の変位（落下）を視認させる部位であれば、どのような構成であっても良い。また、窓部Ｐ１４ｅを構成する正面枠Ｐ１４（図５４０参照）は、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０の変位（落下）を視認させる部位を有する部位であれば、どのような構成であっても良い。

【１０９８４】

上記第８９実施形態では、正面視において、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆの変位方向に対する第１リンクＥ２４０の下面の延設方向が、第１リンクＥ２４０が上昇位置に持ち上げられるほど平行とされる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１リンクＥ２４０が上昇位置に持ち上げられるほど直交する方向に設定されていても良い。この場合には、第１リンクＥ２４０の下面に当接部Ｅ２３４ｆを当接させた変位初期における当接部Ｅ２３４ｆと第１リンクＥ２４０との当接による衝撃を小さくできると共に、変位終端において当接部Ｅ２３４ｆから第１リンクＥ２４０に作用する駆動力を大きくでき、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、上変位手段Ｅ３００の上昇時の変位速度を速くできる。

【１０９８５】

上記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１０４実施形態では、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０の変位態様がパチンコ機Ａ１０の演出によって切り替えられる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、パチンコ機Ａ１０に配設される機能調整操作部Ｈ１９０（図５４０参照）等を遊技者が操作することで、遊技者の好みや遊技者の事情に適した変位態様で変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０が変位するように構成（即ち、遊技者の操作により変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０の変位態様が変更されるように構成）しても良い。

【１０９８６】

上記第９８実施形態～第１０２実施形態、及び、第１０４実施形態では、変位手段Ｅ２３２０，Ｅ５３２０に形成した揺動用摺動溝Ｅ２３２１ｆと、姿勢規定手段Ｅ２３３０に形成した揺動用ピン支持部Ｅ２３３５とを接続することで、上昇位置から下降させて中間位置または下降位置に変位（落下）した変位手段Ｅ２３２０，Ｅ５３２０の姿勢を変化させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【１０９８７】
例えば、変位手段Ｅ２３２０，Ｅ５３２０と姿勢規定手段Ｅ２３３０とを弾性体（例えば、コイルスプリング、板バネ、ゴム、ウレタン等）により接続して、その弾性体が弾性変形する分、変位手段が姿勢規定手段Ｅ２３３０から離れることで、上昇位置から下降させて中間位置または下降位置に変位（落下）した変位手段Ｅ２３２０，Ｅ５３２０の姿勢を変化させるものであっても良い。この場合には、弾性体を配設する分の製造コストが増加するものの、弾性体の弾性回復力により慣性力が作用していない変位手段Ｅ２３２０の姿勢を所定の姿勢に維持することができる。その結果、パチンコ機Ａ１０の外側に加わる衝撃で変位手段Ｅ２３２０，Ｅ５３２０の姿勢が変位されて、その変位された姿勢で維持されることを抑制できる。

【１０９８８】
また、変位手段Ｅ２３２０，Ｅ５３２０と姿勢規定手段Ｅ２３３０とを弾性体により接続するだけでなく、変位手段Ｅ２３２０，Ｅ５３２０と駆動力伝達手段Ｅ３１０とを弾性体により接続しても良い。即ち、駆動モータＥＭ１の駆動力を変位手段Ｅ２３２０，Ｅ５３２０に伝達する駆動力伝達手段Ｅ３１０との間に弾性体を配設しても良い。

【１０９８９】
この場合には、弾性体を配設する分の製造コストが増加するものの、上昇位置から下降させて中間位置または下降位置に変位（落下）した変位手段Ｅ２３２０，Ｅ５３２０の姿勢が変化する態様の自由度を向上できる。その結果、遊技者が注目する領域としての窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な範囲で変位（落下）する変位手段Ｅ２３２０，Ｅ５３２０の演出効果を向上できる。また、駆動力が伝達される部分に弾性体が配設されることで、駆動力が伝達される際に係る余計な力を弾性体により吸収できる。そのため、変位手段Ｅ２３２０，Ｅ５３２０と駆動力伝達手段Ｅ３１０との接続部が破損することを抑制できる。

【１０９９０】
上記第９９実施形態では、変位手段Ｅ２３２０が下変位ユニットＥ５００の回転手段Ｅ５５０に当接して変位手段Ｅ２３２０の姿勢が変更される場合に、変位手段Ｅ２３２０から出射される光の向きを回転手段Ｅ５５０に向ける場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、変位手段Ｅ２３２０の姿勢が変更される場合に、変位手段Ｅ２３２０から出射される光をオフすると共に回転手段Ｅ５５０から出射される光を変位手段Ｅ２３２０に照射して、変位手段Ｅ２３２０に着目させるものであっても良い。

【１０９９１】
上記第９９実施形態では、回転手段Ｅ５５０に変位手段Ｅ２３２０を当接させた後、変位手段Ｅ５３０に配設した駆動モータ（図示しない）の駆動力を回転手段Ｅ５５０に付与して回転手段Ｅ５５０を回転させることで、回転手段Ｅ５５０と変位手段Ｅ２３２０とを一体的に変位させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。

【１０９９２】
例えば、回転手段Ｅ５５０を外力により回転可能に構成して、回転手段Ｅ５５０に変位手段Ｅ２３２０が当接した際に、変位手段Ｅ５３０に配設した駆動モータ（図示しない）の駆動力を回転手段Ｅ５５０に付与しなくても変位手段Ｅ２３２０の自重により回転手段Ｅ５５０が回転するように構成しても良い。

【１０９９３】
この場合には、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域において、上昇位置から自重により変位（落下）する変位手段Ｅ２３２０が回転手段Ｅ５５０に当接することに伴い変位手段Ｅ２３２０と回転手段Ｅ５５０とを一体的に変位させることができるので、変位手段Ｅ２３２０が中間位置で留まることなく、変位手段Ｅ２３２０と回転手段Ｅ５５０との一体的な変位を開始できる。その結果、変位手段Ｅ２３２０と回転手段Ｅ５５０との一体動作による演出効果を向上できる。

【１０９９４】
また、例えば、回転手段Ｅ５５０を回転させなくても、回転手段Ｅ５５０に当接した変

位手段Ｅ２３２０がその回転手段Ｅ５５０の外縁に沿って摺動して下降位置まで変位（落下）する、又は、回転手段Ｅ５５０に当接した変位手段Ｅ２３２０が上方側に跳ね返ることでその姿勢を変更して下降位置まで変位（落下）するように構成しても良い。この場合には、変位手段Ｅ２３２０を下降位置まで落下させるために、回転手段Ｅ５５０の回転構造を不要とできるので、その下変位ユニットＥ５００の構造を簡易化できる。

【１０９９５】

上記第９９実施形態では、回転手段Ｅ５５０に変位手段Ｅ２３２０を当接させた後、回転手段Ｅ５５０と変位手段Ｅ２３２０とを一体的に変位させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、回転手段Ｅ５５０の外周面に凹凸を形成して、回転手段Ｅ５５０に当接した変位手段Ｅ２３２０を回転手段Ｅ５５０と一緒に変位させると共に、回転手段Ｅ５５０に当接した変位手段Ｅ２３２０を回転手段Ｅ５５０の外周面に形成した凹凸により径方向外側に向けて摺動するように構成しても良い。即ち、回転手段Ｅ５５０の外周面形状により、下降位置に向けて変位する変位手段Ｅ２３２０を回転手段Ｅ５５０の径方向外側に向けて変位させても良い。この場合には、変位手段Ｅ２３２０と回転手段Ｅ５５０とを一体的に変位させつつ、変位手段Ｅ２３２０を回転手段Ｅ５５０に対して相対変位させることができるので、変位手段Ｅ２３２０の変位態様にバリエーションを付加することができる。その結果、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域において、変位手段Ｅ２３２０の変位（落下）による演出効果を向上できる。

【１０９９６】

上記第９９実施形態では、第２位置に配置した当接部Ｅ４４２ｃに第１伝達手段Ｅ２５０を当接させて、変位手段Ｅ２３２０を中間位置に保持する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、当接部Ｅ４４２ｃを備えないもの、即ち、変位規制手段Ｅ４００を備えないものであっても良い。この場合には、変位手段Ｅ２３２０を張出位置に配置された回転手段Ｅ５５０に当接させた際に、変位手段Ｅ２３２０が回転手段Ｅ５５０の外周面に載置されることで、変位手段Ｅ２３２０が中間位置に保持されるように構成しても良い。

【１０９９７】

上記第９９実施形態、及び、第１００実施形態では、下変位ユニットＥ５００または下変位ユニットＥ４５００のどちらか一方を上変位ユニットＥ２１００の下方に配設する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、上変位ユニットＥ２１００の下方に下変位ユニットＥ５００と下変位ユニットＥ４５００との両方を配設して、それぞれの回転手段Ｅ５５０，Ｅ４５５０が張出位置において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に並設されるように構成しても良い。

【１０９９８】

また、この場合には、上昇位置から下方に向けて変位（落下）する変位手段Ｅ２３２０が回転手段Ｅ５５０，Ｅ４５５０のどちらか一方に当接するように構成しても良いし、回転手段Ｅ５５０，Ｅ４５５０の両方に当接するように構成しても良い。これよれば、回転手段Ｅ５５０，Ｅ４５５０のどちらに当接するかにより、変位手段Ｅ２３２０の変位（落下）態様を変更することができるので、変位手段Ｅ２３２０の変位（落下）にバリエーションを付与することができる。その結果、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域における変位手段Ｅ２３２０の変位（落下）による演出効果を向上できる。

【１０９９９】

上記第９９実施形態および第１００実施形態では、回転可能に構成される回転手段Ｅ５５０，Ｅ４５５０に上昇位置から下方に向けて変位される変位手段Ｅ２３２０が当接される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、例えば、回転手段Ｅ５５０，Ｅ４５５０をスライド変位するように構成しても良い。また、この場合における回転手段Ｅ５５０，Ｅ４５５０のスライド変位方向は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に限られるものではなく、例えば、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）であっても良い。即ち、回転手段Ｅ５５０，Ｅ４５５０は、上昇位置から変位（落下）する変位手段Ｅ２３２０の少なくとも一部に当接可能な部位であればどのような構成であっても良い。

【１１０００】
　また、上記第９９実施形態および第１００実施形態では、張出位置に配置された回転手段Ｅ５５０，Ｅ４５５０に変位手段Ｅ２３２０が当接した際に変位手段Ｅ２３２０の姿勢が変更される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、上記第８９実施形態おける変位手段Ｅ３２０のように、姿勢を変更せず、その当接位置（中間位置）で変位手段Ｅ２３２０が停止するように構成しても良い。
【１１００１】
　上記第１００実施形態では、回転手段Ｅ４５５０が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って配設される回転軸Ｅ４５５２を軸に回転されることで、変位手段Ｅ２３２０の下降位置までの変位（落下）を許容するか否かを切り替える場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転手段Ｅ４５５０の回転軸Ｅ４５５２を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って配設するものであっても良い。
【１１００２】
　また、例えば、変位手段Ｅ２３２０の変位軌跡と重なる位置と重ならない位置とで一方向（例えば、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向））に回転手段Ｅ４５５０がスライド変位されることで、変位手段Ｅ２３２０の下降位置までの変位（落下）を許容するか否かを切り替えるものであっても良い。この場合、回転手段Ｅ４５５０を前後方向にスライド変位可能に構成し、回転手段Ｅ４５５０が背面側（矢印Ｂ方向側）に配置される際に、変位手段Ｅ２３２０に回転手段Ｅ４５５０が当接しない態様とすることで、回転手段Ｅ４５５０の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる領域を変位手段Ｅ２３２０に変位（落下）させることができる。そのため、窓部Ｐ１４ｅを介して回転手段Ｅ４５５０を視認する遊技者に対し、回転手段Ｅ４５５０の状態（スライド位置）を把握させにくくできる。即ち、変位手段Ｅ２３２０が回転手段Ｅ４５５０に当接可能な状態であるか否かを把握させにくくできる。
【１１００３】
　なお、回転手段Ｅ４５５０を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）にスライド変位可能に構成し、回転手段Ｅ４５５０が背面側（矢印Ｂ方向側）に配置される際に、変位手段Ｅ２３２０に回転手段Ｅ４５５０が当接しない態様とした場合には、駆動手段Ｅ４５６０を介して回転手段Ｅ４５５０が配設される変位手段Ｅ５３０よりも背面側に回転手段Ｅ４５５０をスライド変位可能として、回転手段Ｅ４５５０の位置を変位手段Ｅ５３０の位置と対比することで、回転手段Ｅ４５５０の状態を遊技者に把握させやすくしても良い。また、変位手段Ｅ５３０の背面側に回転手段Ｅ４５５０が隠れる（視認不能となる）場合には、変位手段Ｅ５３０を光透過性材料から形成して、変位手段Ｅ５３０の背面側に配置される回転手段Ｅ４５５０を窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能として、回転手段Ｅ４５５０の状態を遊技者に把握させやすくしても良い。
【１１００４】
　上記第１００実施形態では、駆動手段Ｅ４５６０を介して回転手段Ｅ４５５０が配設される変位手段Ｅ５３０の上方側に回転手段Ｅ４５５０が配設され、回転手段Ｅ４５５０の略全域が視認可能とされる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【１１００５】
　例えば、変位手段Ｅ５３０に形成した開口内を回転手段Ｅ４５５０が回転変位するように構成して、回転手段Ｅ４５５０の一部が変位手段Ｅ５３０の背面側（矢印Ｂ方向側）に隠れる（視認不能となる）ように構成しても良い。なお、この場合には、駆動手段も変位手段Ｅ５３０の背面側に配設して、正面側（矢印Ｆ方向側）から回転手段Ｅ４５５０の駆動機構が視認されにくくすることが好ましい。
【１１００６】
　上記第１０１実施形態では、上昇位置から下降位置に向けて変位（落下）する変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ５２２６ａに当接した後、当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ５２２６ａの外周面に当接しつつ変位する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部

Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ５２２６ａに当接した衝撃で、当接ピン部Ｅ５３２１ｇ側が上方側に向けて跳ね返る様に変位手段Ｅ５３２０を構成しても良い。

【１１００７】

この場合には、当接ピン部Ｅ５３２１ｇの溝部Ｅ５３２１ｇ１の内側の一部に被当接部Ｅ５２２６ａの凸部Ｅ５２２６ａ１を当接させることで、上方側（矢印Ｕ方向側）に向けて跳ね返る当接ピン部Ｅ５３２１ｇが前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位するように構成することで、変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇ側を中間位置で上方側に向けて変位させつつ、変位手段Ｅ５３２０を前後方向に変位させることができる。その結果、変位手段Ｅ５３２０の変位態様を複雑にでき、変位手段Ｅ５３２０の変位による演出効果を高めることができる。

【１１００８】

上記第１０１実施形態および第１０２実施形態では、姿勢が変化された変位手段Ｅ５３２０を検出可能な位置に検出手段Ｅ５２６７，Ｅ６２６７を配置する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、上昇位置から変位（落下）する変位手段Ｅ５３２０の姿勢が変化されない場合に、その変位手段Ｅ５３２０を検出可能な位置に検出手段Ｅ５２６７，Ｅ６２６７を配設するものであっても良い。

【１１００９】

即ち、検出手段Ｅ５２６７，Ｅ６２６７は、上昇位置から変位（落下）する変位手段Ｅ５３２０のうち、被当接部Ｅ５２２６ａ，Ｅ６２２６ａに当接した変位手段Ｅ５３２０を検出可能な位置に配設されるか、被当接部Ｅ５２２６ａ，Ｅ６２２６ａに当接しない変位手段Ｅ５３２０を検出可能な位置に配設されるかのどちらか一方であれば良い。また、検出手段Ｅ５２６７，Ｅ６２６７を配設せず、部品点数を削減して、製造コストを低減するものであっても良い。

【１１０１０】

上記第１０１実施形態および第１０２実施形態では、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域の外側に被当接部Ｅ５２２６ａ，Ｅ６２２６ａを配設する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない、例えば、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域の内側に被当接部Ｅ５２２６ａ，Ｅ６２２６ａの少なくとも一部が突出する（視認可能となる）位置に被当接部Ｅ５２２６ａ，Ｅ６２２６ａを配設しても良い。この場合には、被当接部Ｅ５２２６ａ，Ｅ６２２６ａを遊技者が視認可能となるので、被当接部Ｅ５２２６ａ，Ｅ６２２６ａの変位に着目させることができる。

【１１０１１】

また、第１０２実施形態において、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域の内側に被当接部Ｅ６２２６ａを配設する場合には、変位手段Ｅ５３２０を上昇位置から下方に向けて変位（落下）させ始めた後に、被当接部Ｅ６２２６ａを変位するように構成しても良い。この場合には、変位手段Ｅ５３２０が中間位置に到達するまでに、変位手段Ｅ５３２０が被当接部Ｅ６２２６ａに当接するか否かを遊技者が判断できなくなる為、変位手段Ｅ５３２０を変位（落下）させることによる演出の効果を向上できる。

【１１０１２】

なお、変位手段Ｅ５３２０を上昇位置から下方に向けて変位（落下）させ始めた後に、被当接部Ｅ６２２６ａを変位するように構成する場合には、変位途中の被当接部Ｅ６２２６ａに変位手段Ｅ５３２０が当接するように構成しても良い。この場合には、被当接部Ｅ６２２６ａに当接するタイミングのばらつきにより、変位手段Ｅ５３２０の姿勢変化の態様にばらつきを付与することができる。その結果、変位手段Ｅ５３２０を変位（落下）させることによる演出の効果を向上できる。

【１１０１３】

上記第１０１実施形態および第１０２実施形態では、被当接部Ｅ５２２６ａ，Ｅ６２２６ａに変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇが当接される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、被当接部Ｅ５２２６ａ，Ｅ６２２６ａに変位手段Ｅ５３２０の下面が当接するように構成しても良い。即ち、被当接部Ｅ５２２６ａ，

Ｅ６２２６ａは、上昇位置から変位（落下）する変位手段Ｅ２３２０の少なくとも一部に当接可能な部位であればどのような構成であっても良い。

【１１０１４】

上記第１０２実施形態では、上昇位置から下降位置に向けて変位（落下）する変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ６２２６ａに当接した後、当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ６２２６ａの当接面に当接しつつ変位する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ６２２６ａに当接した衝撃で、当接ピン部Ｅ５３２１ｇ側が上方側に向けて跳ね返る様に変位手段Ｅ５３２０を構成しても良い。

【１１０１５】

また、上記第１０２実施形態では、上昇位置から下降位置に向けて変位（落下）する変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ６２２６ａに当接した後、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能とされる範囲において、変位手段Ｅ５３２０がその視認可能とされる平面に沿って左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）又は上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、当接ピン部Ｅ５３２１ｇが当接される被当接部Ｅ６２２６ａの当接面に凹凸を形成して、その凹凸により当接ピン部Ｅ５３２１ｇを前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に案内して、変位手段Ｅ５３２０が左右方向または上下方向だけでなく前後方向にも変位するように構成しても良い。

【１１０１６】

上記第１０２実施形態では、上昇位置から変位（落下）する変位手段Ｅ５３２０が中間位置においてその姿勢が過剰に変化されると検出手段Ｅ６２６７に検出されるように構成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものはない。例えば、上記第１０１実施形態における検出手段Ｅ５２６７のように、姿勢が変化される変位手段Ｅ５３２０を全て検出可能な位置に変位手段Ｅ５３２０を配設しても良い。

【１１０１７】

また、上記第１０２実施形態では、上昇位置から変位（落下）する変位手段Ｅ５３２０が中間位置においてその姿勢が過剰に変化されると検出手段Ｅ６２６７に検出されたことをパチンコ機Ａ１０が検知可能に構成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、検出手段Ｅ６２６７に所定時間の検出があった場合にパチンコ機Ａ１０が検知可能に構成したり、所定時間（変位回数）の間に、所定の回数の検出がされた場合に、パチンコ機Ａ１０が検知可能に構成して、それらの検知があった場合に、被当接部Ｅ６２２６ａを変位させて、変位手段Ｅ５３２０の姿勢が過剰に変化されることを抑制するように構成しても良い。これによれば、検出精度を向上できるので、誤検出による影響を抑制できる。

【１１０１８】

上記第１０２実施形態では、被当接部Ｅ６２２６ａに当接した変位手段Ｅ５３２０に異常が生じたことを検出した場合に、変位手段Ｅ５３２０の当接ピン部Ｅ５３２１ｇが被当接部Ｅ６２２６ａに当接する態様を変更する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、パチンコ機Ａ１０の第３図柄表示装置Ｈ８１（図５４１参照）やスピーカー（図示しない）よりエラー（異常）を報知するようにしても良い。また、例えば、変位手段Ｅ５３２０が被当接部Ｅ６２２６ａに当接しない位置に被当接部Ｅ６２２６ａを変位させても良い。

【１１０１９】

上記第１０３実施形態では、正面視において第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び対向壁Ｅ７２６８ｃの対向間の上方側に規制部Ｅ７２９５ａが突出するように、経路変更部材Ｅ７２９５を配設する場合について説明したが、経路変更部材Ｅ７２９５を配設せず、上昇位置に配置される変位手段Ｅ７３２０が上昇の経路を反対方向に変位（落下）することを許容しても良い。この場合には、変位手段Ｅ７３２０の変位（落下）の態様にバリエーションを付与することができるので、変位手段Ｅ７３２０の変位（落下）による演出効果を向上で

きる。
【１１０２０】
上記第１０３実施形態では、経路変更部材Ｅ７２９５が、第２伝達手段Ｅ７２８０の変位に連動する（即ち、回転体Ｅ２３４の回転に連動する）場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、経路変更部材Ｅ７２９５を変位させる駆動源（例えば、ソレノイド）を別途備えて、経路変更部材Ｅ７２９５を変位させるタイミングの自由度を向上するものであっても良い。また、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂと対向壁Ｅ７２６８ｃとの対向間から軸支部Ｅ７３２１ａが上方側に抜け出る方向には経路変更部材Ｅ７２９５が変位可能に構成され、上方側から侵入する方向には経路変更部材Ｅ７２９５が変位不能に構成されていても良い。
【１１０２１】
また、例えば、自重により経路変更部材Ｅ７２９５の規制部Ｅ７２９５ａが第３ベースＥ７２６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に突出するように構成すると共に、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂと対向壁Ｅ７２６８ｃとの対向間を上方側に向かう軸支部Ｅ７３２１ａが当接することにより規制部Ｅ７２９５ａが第３ベースＥ７２６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に退避するように構成して、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂと対向壁Ｅ７２６８ｃとの対向間に上方側から軸支部Ｅ７３２１ａが侵入しようとする場合にその侵入を規制するように経路変更部材Ｅ７２９５を構成しても良い。この場合には、経路変更部材Ｅ７２９５を変位させるための駆動源を備える必要がない上に、経路変更部材Ｅ７２９５を所定のタイミングで変位させるための制御も必要なくなるので、経路変更部材Ｅ７２９５の構造を簡易化できる。なお、この場合には、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂと対向壁Ｅ７２６８ｃとの対向間に上方側から軸支部Ｅ７３２１ａが侵入しようとする軸支部Ｅ７３２１ａの変位（落下）速度により、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂと対向壁Ｅ７２６８ｃとの対向間に侵入するか否かを切り替えられるようにしても良い。
【１１０２２】
上記第１０３実施形態では、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ、第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂ、対向壁Ｅ７２６８ｃが、上昇位置に向かって変位される変位手段Ｅ７３２０を窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能とされる領域外に案内するように構成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ、第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂ、対向壁Ｅ７２６８ｃにより、上昇位置に向かって変位される変位手段を窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能とされる領域内で所定の変位をするように構成しても良い。
【１１０２３】
例えば、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂと対向壁Ｅ７２６８ｃとの対向間で形成される案内通路を波状に形成して、上昇位置に向かって変位される変位手段Ｅ７３２０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に揺れ動くようにしても良い。
【１１０２４】
また、例えば、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂと対向壁Ｅ７２６８ｃとの対向間で形成される案内通路を直線状に形成して、変位手段Ｅ７３２０が最短距離を通って上昇位置に向かって案内されるように構成しても良い。この場合、上昇位置に向かって案内される変位手段Ｅ７３２０による演出をできなくなる上に、変位手段Ｅ７３２０を窓部Ｐ１４ｅを介した視認領域外に案内することも困難になるが、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂと対向壁Ｅ７２６８ｃとの対向間で形成される案内通路の構造を簡素化できる。
【１１０２５】
上記第１０３実施形態では、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂと対向壁Ｅ７２６８ｃとの対向間を変位手段Ｅ７３２０の軸支部Ｅ７３２１ａが案内される領域で、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域の外側へ変位手段Ｅ７３２０を案内して、変位手段Ｅ７３２０の上昇時に変位手段Ｅ７３２０を隠す（視認不能とする）場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【１１０２６】
例えば、上記第８９実施形態における変位手段Ｅ３２０のように略同一の軌跡で下降および上昇する変位手段Ｅ３２０である場合には、その変位手段Ｅ３２０の正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出し変位可能な変位ユニットを別途備え、その変位ユニットにより変位手段Ｅ３２０の上昇時にのみ変位手段Ｅ３２０を遊技者から視認不能としても良い。また、変位ユニットに限らず、光を非透過な固定部材により上昇時にのみ変位手段Ｅ３２０を遊技者から視認不能としても良い。
【１１０２７】
また、例えば、上記第８９実施形態における変位手段Ｅ３２０のように略同一の軌跡で下降および上昇する変位手段Ｅ３２０である場合には、その変位手段Ｅ３２０（上変位ユニットＥ１００）の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される導光ユニットＤ４００の導光板Ｄ４５０に光を照射する（導光板Ｄ４５０を表示させる）ことにより、上昇する変位手段Ｅ３２０を遊技者から視認しにくくしても良い。
【１１０２８】
上記第１０４実施形態では、回転体Ｅ８２３４の回転速度により、変位手段Ｅ２３２０が持ち上げられる位置を上昇位置または第２上昇位置の２箇所のどちらかに変更する場合について説明したが必ずしも２箇所に限られるものではなく、変位手段Ｅ２３２０が持ち上げられる位置を３箇所以上に変更できるように構成しても良く、又、変位手段Ｅ２３２０が持ち上げられる位置を連続的に形成しても良い。
【１１０２９】
また、上記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１０４実施形態では、回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４の当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆが第１リンクＥ２４０の下面に当接した状態で回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４が第１回転位置まで回転されることで、上昇位置または第１上昇位置に持ち上げられる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【１１０３０】
例えば、回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４の当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆを第１リンクＥ２４０の下面に当接させた衝撃により第１リンクＥ２４０が回転（変位）可能となるように、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００及び第１伝達手段Ｅ２５０の重量を軽く形成して、回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４が第１回転位置まで回転するよりも先行して、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００及び第１伝達手段Ｅ２５０が上昇位置側に持ち上がる方向に変位するように（即ち、当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆに対して先行して第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００が変位可能となるように）構成しても良い。
【１１０３１】
この場合、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００及び第１伝達手段Ｅ２５０を上昇位置よりも上方側に変位可能に構成して、回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４の当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆを第１リンクＥ２４０の下面に当接させる速度（即ち、当接部Ｅ２３４ｆを第１リンクの下面に衝突させる衝撃力）を変更することで、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００及び第１伝達手段Ｅ２５０の変位（落下）開始位置を変更できるように構成することで、上記第１０４実施形態における回転体Ｅ８２３４のような、当接部Ｅ８２３４ｆの配置を変更する構造を不要にできる。その結果、回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４の構造（即ち、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００、第１伝達手段Ｅ２５０、第１リンクＥ２４０の持ち上げ構造）を簡易できる。
【１１０３２】
また、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００、第１伝達手段Ｅ２５０、第１リンクＥ２４０の変位可能な範囲を大きくできる。即ち、回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４の当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆと第１リンクＥ２４０とが常に当接（接続）

されている場合には、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００の変位可能な範囲が、当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆの変位に伴う変位範囲に限定される。これに対し、当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆに対して先行して第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００を変位可能に構成した場合には、当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆに対して第１リンクＥ２４０を離すことができるので、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００の変位可能な範囲が、当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆの変位に伴う変位範囲に限定されない。そのため、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００の変位可能な範囲を大きくできる。

【１１０３３】

また、上記第１０３実施形態においては、変位（落下）開始位置が変更されることに伴い、上変位手段Ｅ７３００の駆動力伝達手段Ｅ７３１０の被当接部Ｅ７３１０ｂ２を姿勢維持手段Ｅ７２６８に当接させて上変位手段Ｅ７３００が所定の姿勢に戻されるところ、上変位手段Ｅ７３００及び第１伝達手段Ｅ２５０の変位（落下）開始位置を変更可能に構成されることで、変位（落下）開始における変位手段Ｅ７３２０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）位置を変更できる。これにより、第１０３実施形態では、変位（落下）開始位置を変更することで、その変位軌跡（落下経路）を異ならせる。

【１１０３４】

そのため、上記第１０３実施形態における変位（落下）開始位置を変更する場合には、窓部Ｐ１４ｅを介して視認される領域において、変位手段Ｅ７３２０を変位（落下）させた際の演出を向上できる。即ち、変位手段Ｅ７３２０の変位（落下）開始位置が変わっても、変位軌跡（落下経路）が変わらないものでは、同じ経路において上昇と下降が繰り返されるのみであるので、演出が単調となるところ、変位手段Ｅ７３２０の変位（落下）開始位置の変更に伴いその変位軌跡（落下経路）を異ならせることで、異なる経路で変位手段Ｅ７３２０を下降させることができるので、変位手段Ｅ７３２０の演出を向上できる。

【１１０３５】

被当接部Ｅ７３１０ｂ２は、上述した姿勢維持手段Ｅ７２６９に当接する部分である。駆動力伝達手段Ｅ７３１０は、第１伝達手段Ｅ２５０が下降位置または中間位置から上昇位置に変位された際に、被当接部Ｅ７３１０ｂ２を姿勢維持手段Ｅ７２６８の外面に当接させることで、第１部材Ｅ７３１０ａに対して第２部材Ｅ７３１０ｂをピン部Ｅ３１３を軸に回転させて、その姿勢を維持することが可能に構成される。

【１１０３６】

また、上記第１０３実施形態において、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆを第１リンクＥ２４０の下面に当接させる速度（即ち、当接部Ｅ２３４ｆを第１リンクの下面に衝突させる衝撃力）を変更することで、変位手段Ｅ７３２０の変位（落下）開始位置を変更する場合には、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆを第１リンクＥ２４０の下面に当接させる速度が遅くされる際に、第２部材Ｅ７３１０ｂに接続される変位手段Ｅ７３２０の軸支部Ｅ７３２１ａが第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂと対向壁Ｅ７２６８ｃとの対向間から抜け出ることを抑制して、第１湾曲壁Ｅ７２６８ａ及び第２湾曲壁Ｅ７２６８ｂと対向壁Ｅ７２６８ｃとの対向間に沿って軸支部Ｅ７３２１ａを落下させて、変位手段Ｅ７３２０を変位（落下）させることができる。これにより、回転体Ｅ２３４の回転速度が所定よりも遅くされる場合に、窓部Ｐ１４ｅを介して変位手段Ｅ７３２０が視認可能となる位置に張り出すことを抑制できる。

【１１０３７】

従って、上昇位置から変位手段が自重により変位（落下）される場合には、当接部Ｅ２３４ｆから駆動力を付与されて変位手段Ｅ７３２０が上昇される経路とは異なる経路を変位手段Ｅ７３２０が落下されるので、遊技者から視て広い範囲に亘って変位手段Ｅ７３２０を変位（落下、上昇）させることができる。よって、窓部から視認可能な領域を有効に活用して演出を行うことができる。

【１１０３８】
一方で、上昇位置よりも低い位置から変位手段Ｅ７３２０が変位（落下）される場合には、当接部Ｅ２３４ｆから駆動力を付与されて変位手段Ｅ７３２０が上昇される経路を変位手段Ｅ７３２０が落下されるので、当接部Ｅ２３４ｆから駆動力を付与可能な位置に変位手段Ｅ７３２０を速やかに復帰させることができる。よって、次の演出を行う（変位手段Ｅ７３２０を上昇位置まで上昇させる）までの待機時間を減らすことができる。
【１１０３９】
よって、上記第１０３実施形態においては、回転体Ｅ２３４の当接部Ｅ２３４ｆを第１リンクＥ２４０の下面に当接させる速度（即ち、当接部Ｅ２３４ｆを第１リンクの下面に衝突させる衝撃力）を変更して、変位手段Ｅ７３２０の変位（落下）開始位置を変更する場合に、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な領域内で変位手段Ｅ７３２０が変位（落下）する経路を変更すると共に、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な範囲外で変位手段Ｅ７３２０が変位（落下）する経路を回転体Ｅ２３４の回転速度に応じて形成できる。その結果、窓部Ｐ１４ｅを介して視認可能な範囲内で変位手段Ｅ７３２０の変位（落下）経路が変更される場合にのみ、変位手段Ｅ７３２０を遊技者に注目させやすくできる。その結果、変位手段Ｅ７３２０の演出効果を向上できる。
【１１０４０】
また、上昇位置から変位手段Ｅ７３２０が自重により変位（落下）される経路と、上昇位置よりも低い位置から変位手段Ｅ７３２０が自重により変位（落下）される経路とが異なる経路とされるので、変位手段Ｅ７３２０の上昇位置（落下を開始する位置、即ち、上昇位置）が異なることを遊技者に把握させやすくできる。即ち、変位手段Ｅ７３２０の上昇位置を見逃した場合でも、変位手段Ｅ７３２０の落下の経路を確認することで、変位手段Ｅ７３２０の上昇位置（上昇位置まで到達したのか否か）を遊技者に把握させることができる。
【１１０４１】
また、上昇位置が高い位置となる（即ち、当接部Ｅ２３４ｆから付与される駆動力が大きい）変位手段Ｅ７３２０ほど、変位手段Ｅ７３２０が上昇される経路から遊技機幅方向に遠い位置となる経路を落下されるので、変位手段Ｅ７３２０の落下の経路と上昇位置との関係を遊技者に把握させやすくできる。例えば、上昇位置（付与される駆動力）が高い（大きい）ほど付与される遊技価値が高いことを示唆する演出を行う場合には、上昇位置だけでなく、落下の経路も遊技者に着目させることができる。
【１１０４２】
なお、上記したように回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４の当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆを第１リンクＥ２４０の下面に当接させる速度（即ち、当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆを第１リンクＥ２４０の下面に衝突させる衝撃力）を変更することで、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００及び第１伝達手段Ｅ２５０の変位（落下）開始位置を変更できるように構成する場合には、当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆに作用する力が大きくなる為、当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆが破損する、又、当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆを当接させた際の衝撃音が大きくなるという問題がある。
【１１０４３】
そのため、回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４の当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆを第１リンクＥ２４０の下面に当接させる速度（即ち、当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆを第１リンクの下面に衝突させる衝撃力）を変更することで、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００及び第１伝達手段Ｅ２５０の変位（落下）開始位置を変更できるように構成する場合には、当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆの周囲（特に、第１リンクＥ２４０との当接部）にゴムやスプリング等から構成され弾性変形可能な弾性体を配設することが好ましい。これによれば、回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４の当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆを第１リンクＥ２４０に当接させた際の衝撃を吸収できる。その結果、当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆ及び第１リンクＥ２４０が破損すること、及び、当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆを当接させた際の衝撃音が大きくなることを抑制できる。

【１１０４４】
特に、回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４の当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆを第１リンクＥ２４０の下面に当接させて第１リンクＥ２４０を持ち上げる場合には、当接部Ｅ２３４ｆが第１リンクＥ２４０の下面から離れた状態から当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆを変位させて、当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆを第１リンクＥ２４０の下面に当接するので、その当接時の衝撃が大きくなり当接部Ｅ２３４ｆ及び第１リンクＥ２４０が破損する恐れがある。これに対し、当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆの周囲（特に、第１リンクＥ２４０との当接部）にゴムやスプリング等から構成され弾性変形可能な弾性体を配設することで、当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆに勢いを与えた状態で第１リンクにＥ２４０の下面に当接させたとしても、当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆ及び第１リンクＥ２４０が破損することを抑制できる。

【１１０４５】
また、上記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１０４実施形態では、上昇位置または第１上昇位置に持ち上げられた変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０が、それら上昇位置または第１上昇位置に保持される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上昇位置または第１上昇位置に持ち上げた変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０を保持せずに落下させる（即ち、係合部材Ｅ２９０を備えない）ものであっても良い。この場合、回転体Ｅ２３４を第１回転位置から第２回転位置まで回転させる際に、第１リンクＥ２４０の下面から離れる回転速度で回転させることで、上昇位置または第１上昇位置に持ち上げられた変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０を自重により落下する変位態様で変位させることができる。

【１１０４６】
記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１０４実施形態では、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０に回転する回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４により駆動モータＥＭ１の駆動力が伝達される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ソレノイドの駆動により直線動作するスライド体によりソレノイドの駆動力が第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０に伝達されるように構成しても良い。即ち、回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４は、変位手段Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０に駆動力を付与可能な部位であればどのような構成であっても良い。

【１１０４７】
上記第８９実施形態、及び、第９８実施形態～第１０４実施形態では、第１リンクＥ２４０の下面から回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４の当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆが離間可能に構成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第１リンクＥ２４０に回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４の当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆが接続されるものであっても良い。この場合には、第１リンクＥ２４０と当接部Ｅ２３４ｆ，Ｅ８２３４ｆとの接続部の間に弾性体を配設して、その弾性体の弾性変形により第１リンクＥ２４０が回転体Ｅ２３４，Ｅ８２３４に対して相対変位可能に構成することで、第１リンクＥ２４０、第１伝達手段Ｅ２５０、上変位手段Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００の上昇位置を変更できる。

【１１０４８】
上記第１０３実施形態では、変位手段Ｅ７３２０を上昇位置に持ち上げる場合に、変位手段Ｅ７３２０の軸支部Ｅ７３２１ａを湾曲壁Ｅ７２６６ａ，Ｅ７２６６ｂ及び対向壁Ｅ７２６８ｃにより案内する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、上昇位置に持ち上げる際に変位手段Ｅ７３２０を案内できるものなら何でも良い。

【１１０４９】
例えば、第３ベースＥ７２６０に配設した磁石の磁力により、変位手段Ｅ７３２０を案内するものであっても良い。この場合、磁石を駆動手段により変位可能とすることで、変

位手段Ｅ７３２０を上昇位置に持ち上げる場合の変位手段Ｅ７３２０の軌跡を変更できる。

【１１０５０】

また、変位手段Ｅ７３２０に接続される駆動力伝達手段Ｅ７３１０の第２部材Ｅ７３１０ｂを、第３ベース７２６０の湾曲壁Ｅ７２６６ａ，Ｅ７２６６ｂ及び対向壁Ｅ７２６８ｃにより案内して、変位手段Ｅ７３２０を所定の位置に案内しつつ上昇位置に持ち上げるものであっても良い。

【１１０５１】

本発明を上記各実施形態とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される）として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の領域に球を入賞させることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるパチンコ機として実施してもよい。また、Ｖゾーン等の特別領域を有する入賞装置を有し、その特別領域に球を入賞させることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機に実施してもよい。更に、パチンコ機以外にも、アレパチ、雀球、スロットマシン、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機などの各種遊技機として実施するようにしても良い。

【１１０５２】

なお、スロットマシンは、例えばコインを投入して図柄有効ラインを決定させた状態で操作レバーを操作することにより図柄が変動され、ストップボタンを操作することにより図柄が停止されて確定される周知のものである。従って、スロットマシンの基本概念としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を変動表示した後に識別情報を確定表示する表示装置を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の変動表示が停止して確定表示され、その停止時の識別情報の組合せが特定のものであることを必要条件として、遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるスロットマシン」となり、この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【１１０５３】

また、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する表示装置を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく所定量の球の投入の後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技が発生させられ、遊技者には、下部の受皿に多量の球が払い出されるものである。かかる遊技機をスロットマシンに代えて使用すれば、遊技ホールでは球のみを遊技価値として取り扱うことができるため、パチンコ機とスロットマシンとが混在している現在の遊技ホールにおいてみられる、遊技価値たるメダルと球との別個の取扱による設備上の負担や遊技機設置個所の制約といった問題を解消し得る。

【１１０５４】

以下に、本発明の遊技機に加えて上述した実施形態に含まれる各種発明の概念を示す。

【１１０５５】

＜動作手段の片側だけを覆う手段を設けるポイント＞

遊技球が流下する所定の遊技領域と、その所定の遊技領域を流下した遊技球が入球可能な入球領域と、その入球領域の上流側における所定通路を前記所定の遊技領域へ向けて発射された遊技球が通過される場合の第１状態と前記所定通路を前記所定の遊技領域からの遊技球が通過されない場合の第２状態とで変化可能な変化手段と、を備える遊技機におい

て、前記所定通路の少なくとも一部を構成する第１配設手段側に配設される所定手段と、前記所定通路を挟んで前記第１配設手段と対向配置される第２配設手段と、を備え、前記変化手段は、前記所定手段に対向配置される対向部と、その対向部よりも前記入球領域側の位置に形成される形成部と、を備えることを特徴とする遊技機ＡＢ１。

【１１０５６】

パチンコ機等の遊技機において、開閉動作される変位手段によって遊技球の流下態様を変化させる遊技機がある（例えば、特開２０１６－８７３０１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、経年劣化によって変位手段が十分に退避されない状態で止まることがあり、その状態で球が案内された場合に、変位手段の先端に球が過大な荷重を与え、先端部の破損を生じるという問題点があった。先端部が破損すると、変位手段の開閉動作により予定されていた球の流下態様を実現できなくなる可能性がある。即ち、遊技球の流下態様を好適とする観点で改善の余地があるという問題点があった。

【１１０５７】

これに対し、遊技機ＡＢ１によれば、所定手段の当接手段が、その当接手段に当接した遊技球が対向部に当接しない場合には、対向部が遊技球から荷重を受けることを避けることができ、破損を抑制することができる。従って、遊技球の流下態様を好適とすることができる。

【１１０５８】

遊技機ＡＢ１において、前記対向部は、前記第２配設手段に対向配置される所定部を備え、前記所定部は、少なくとも前記第１状態において、前記第２配設手段の延設方向に対して傾斜する方向に延設されることを特徴とする遊技機ＡＢ２。

【１１０５９】

遊技機ＡＢ２によれば、遊技機ＡＢ１の奏する効果に加え、変化手段が第２配設手段に対して平行に形成される場合に比較して、変化手段の先端部と球とが衝突し易い箇所（張出し度合が大きい箇所）を限定することができる。

【１１０６０】

遊技機ＡＢ２において、前記所定手段は、前記所定の遊技領域からの遊技球が当接可能な当接手段を備え、その当接手段に当接した遊技球を前記所定部に当接させないよう構成され、前記当接手段が前記対向部に対応する態様で形成されることを特徴とする遊技機ＡＢ３。

【１１０６１】

遊技機ＡＢ３によれば、遊技機ＡＢ２の奏する効果に加え、所定手段の当接手段が、変化手段の対向部に対応する態様で形成され、当接した遊技球を変位手段の所定部に当接させないように構成されていることから、変位手段と球との衝突を防止するために必要となる変位手段の動作ストロークの増大を避けることができるため、変位手段に当接して流下する球の流下態様を好適とすることができる。

【１１０６２】

遊技機ＡＢ３において、前記当接手段に当接した遊技球に対して、前記所定通路の開口側への負荷が付与され得るように構成されることを特徴とする遊技機ＡＢ４。

【１１０６３】

遊技機ＡＢ４によれば、遊技機ＡＢ３の奏する効果に加え、当接手段に当接した遊技球の流下を滑らかにすることができる。

【１１０６４】

遊技機ＡＢ１からＡＢ４のいずれかにおいて、前記形成部は、前記第１状態において、遊技球に対して、前記第２状態への変化で移動する方向側への荷重を付与し、前記入球領域側に案内する場合を構成可能な形状から形成されることを特徴とする遊技機ＡＢ５。

【１１０６５】

遊技機ＡＢ５によれば、遊技機ＡＢ１からＡＢ４のいずれかの奏する効果に加え、第１状態において形成部と当接する球の流下態様に対する注目力を向上させることができ、変化手段に当接して移動する遊技球に対する注目力を向上させることができる。

【１１０６６】
遊技機ＡＢ１からＡＢ５のいずれかにおいて、前記対向部と前記形成部とが一体形成されることを特徴とする遊技機ＡＢ６。
【１１０６７】
遊技機ＡＢ６によれば、遊技機ＡＢ１からＡＢ５のいずれかの奏する効果に加え、変化手段を簡易に形成でき、対向部および形成部の形状の維持を容易とすることができる。
【１１０６８】
遊技機ＡＢ１からＡＢ６のいずれかにおいて、前記所定手段が、（第２状態における）対向部を覆う形状から形成されることを特徴とする遊技機ＡＢ７。
【１１０６９】
遊技機ＡＢ７によれば、遊技機ＡＢ１からＡＢ６のいずれかの奏する効果に加え、所定手段を遊技球との衝突を避けるために必要十分とすることで、所定手段が遊技球の流下に与える影響を小さくすることができる。
【１１０７０】
遊技機ＡＢ１からＡＢ７のいずれかにおいて、遊技球が変化手段に到達し、変化手段が動作された場合に、遊技球が所定通路を流下するように案内されるよう構成されることを特徴とする遊技機ＡＢ８。
【１１０７１】
遊技機ＡＢ８によれば、遊技機ＡＢ１からＡＢ７のいずれかの奏する効果に加え、変化手段の動作期間を遊技球が所定通路を流下するのに調度良い期間とすることで、複数球の遊技球が一度に通過することを抑制することができる。
【１１０７２】
遊技機ＡＢ１からＡＢ８のいずれかにおいて、前記形成部は、前記所定通路を遊技球が通過した後で前記変化手段が前記第２状態に変化された場合に、前記所定通路を遊技球が通過不能に塞ぐように構成されることを特徴とする遊技機ＡＢ９。
【１１０７３】
遊技機ＡＢ９によれば、遊技機ＡＢ１からＡＢ８のいずれかの奏する効果に加え、形成部により遊技球の逆流を防止することができるので、遊技球の流下を好適とすることができる。
【１１０７４】
遊技機ＡＢ１からＡＢ９のいずれかにおいて、前記形成部は、前記第１状態において、遊技球に対して、前記第２状態への変化で移動する方向側への荷重を与えるよう構成され、前記所定通路に遊技球が位置する場合において前記変化手段が前記第２状態へ変化された場合に、当該遊技球を前記入球領域側とは反対側へ案内する場合を構成可能な形状から形成されることを特徴とする遊技機ＡＢ１０。
【１１０７５】
遊技機ＡＢ１０によれば、遊技機ＡＢ１からＡＢ９のいずれかの奏する効果に加え、所定通路に位置する遊技球に対する注目力を向上させることができる。
【１１０７６】
遊技機ＡＢ１からＡＢ１０のいずれかにおいて、前記第２配設手段は、前記変化手段に対向する領域が、滑らかに形成されることを特徴とする遊技機ＡＢ１１。
【１１０７７】
遊技機ＡＢ１１によれば、遊技機ＡＢ１からＡＢ１０のいずれかの奏する効果に加え、変化手段に対向する第２配設手段の領域に当接する遊技球の滑りを良くすることができる。
【１１０７８】
遊技機ＡＢ１からＡＢ１１のいずれかにおいて、前記第２配設手段は、前記変化手段に対向する領域が、反発を抑制する態様とされることを特徴とする遊技機ＡＢ１２。
【１１０７９】
遊技機ＡＢ１２によれば、遊技機ＡＢ１からＡＢ１１のいずれかの奏する効果に加え、

変化手段に対向する第２配設手段の領域に当接する遊技球が反発することを抑制し、遊技球が変化手段側に跳ね戻って衝突する事態を避け易くすることができる。

【１１０８０】

＜上変位ユニットＥ１００，Ｅ２１００，Ｅ５１００，Ｅ６１００，Ｅ７１００，Ｅ８１００を一例とする発明の概念について＞＞

所定位置から自重により落下可能に構成される変位手段と、前記所定位置から自重により落下される前記変位手段の一部に当接可能に構成される当接手段と、前記変位手段の一部に駆動力を付与して前記変位手段を前記所定位置まで上昇させる駆動手段と、前記変位手段を遊技機前方から視認可能に構成される窓部を有する視認可能手段と、を備え、自重により落下される前記変位手段の一部が前記当接手段に当接される第１状態と、自重により落下される前記変位手段が前記当接手段に当接されず、前記第１状態において前記変位手段の一部が前記当接手段に当接される位置よりも下方へ前記変位手段が前記窓部から視認可能な領域を自重により落下される第２状態と、を構成可能とされることを特徴とする遊技機ＦＦ１。

【１１０８１】

所定位置から変位手段を自重により落下させて演出を行う遊技機が知られている（特開２０１３－１８０１４２号公報）。落下した変位手段は、駆動手段により所定位置まで上昇される。この遊技機によれば、自重による落下を利用することで、変位手段の動作を特徴的なもの（所定位置からストンと落ちる態様）とすることができる。しかしながら、上述した従来の技術では、繰り返し視認した遊技者にとっては、自重による落下と上昇とを繰り返すのみであり、演出が単調となるという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、変位手段の落下の態様を改善できる遊技機を提供することを目的とする。

【１１０８２】

遊技機ＦＦ１によれば、当接手段の影響を受けずに落下される態様（第２状態）と、途中で当接手段に当接される態様（第１状態）とを構成でき、変位手段の落下の態様を切り替えることができる。よって、落下の態様を複数とでき、その分、演出に変化を与えられる。従って、単調な演出となることを抑制できる。

【１１０８３】

遊技機ＦＦ１において、前記変位手段が自重により落下される経路と、前記駆動手段から付与された駆動力により前記変位手段が前記所定位置へ向けて上昇される経路とが異なることを特徴とする遊技機ＦＦ２。

【１１０８４】

遊技機ＦＦ２によれば、遊技機ＦＦ１記載の遊技機の奏する効果に加え、自重により落下する経路と上昇する経路とを異ならせることができる。よって、同じ経路で落下および上昇を繰り返す場合と比較して、変位手段の変位（落下および上昇）に変化を持たせることができる。従って、単調な演出となることを抑制できる。

【１１０８５】

遊技機ＦＦ２において、前記落下される経路では、前記上昇される経路を上昇される前記変位手段と比較して、前記窓部から視認可能な領域における遊技機幅方向中央に近い側を前記変位手段が落下可能とされることを特徴とする遊技機ＦＦ３。

【１１０８６】

遊技機ＦＦ３によれば、遊技機ＦＦ２の奏する効果に加え、落下される経路では、上昇される経路を上昇される前記変位手段と比較して、窓部から視認可能な領域における遊技機幅方向中央に近い側を変位手段が落下可能とされるので、変位手段を落下させる際には、その変位手段を遊技者から視認し易くできる一方、変位手段を上昇させる際には、窓部から視認可能な領域の脇にその変位手段を寄せて目立たなくする（上昇を遊技者に気づき難くすると共に、窓部から視認可能な領域における他の構成による演出（例えば、液晶表示装置による演出）の邪魔をさせない）ことができる。よって、限られたスペース（窓部から視認可能な領域）を有効に活用して、変位手段と他の構成との協働による演出を、効

果的に行うことができる。
【１１０８７】
遊技機ＦＦ２又は３において、自重により落下され前記当接手段に一部が当接された前記変位手段が、前記窓部から視認可能な領域における遊技機幅方向中央側へ向けて変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＦＦ４。
【１１０８８】
遊技機ＦＦ４によれば、遊技機ＦＦ２又は３記載の遊技機の奏する効果に加え、当接手段の影響を受けずに落下される態様（第２状態）では、落下のみの態様となりがちであるのに対し、途中で当接手段に当接される態様（第１状態）では、窓部から視認可能な領域における遊技機幅方向中央側へ変位手段が変位可能とされるので、かかる変位手段を着目させやすくできる。限られたスペース（窓部から視認可能な領域）を有効に活用できる。
【１１０８９】
遊技機ＦＦ２からＦＦ４のいずれかにおいて、前記変位手段は、発光可能に構成される発光手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＦ５。
【１１０９０】
遊技機ＦＦ５によれば、遊技機ＦＦ２からＦＦ４のいずれかの奏する効果に加え、変位手段は、発光可能に構成される発光手段を備えるので、発光手段の発光を利用して演出を行うことができる。よって、単調な演出となることを抑制できる。
【１１０９１】
遊技機ＦＦ５において、前記変位手段は、前記落下される経路における発光態様と前記上昇される経路における発光態様とが異なる態様とされることを特徴とする遊技機ＦＦ６。
【１１０９２】
遊技機ＦＦ６によれば、遊技機ＦＦ５の奏する効果に加え、変位手段は、落下される経路における発光態様と上昇される経路における発光態様とが異なる態様とされるので、例えば、変位手段を落下させる際に発光手段を発光させることで、変位手段を遊技者から視認し易くできる一方、変位手段を上昇させる際に発光手段を非発光（消灯）とすることで、その変位手段を目立たなくする（上昇を遊技者に気づき難くする）ことができる。よって、演出効果を高めることができる。
【１１０９３】
遊技機ＦＦ１からＦＦ６のいずれかにおいて、前記当接手段を弾性支持する弾性支持手段を備え、前記当接手段は、前記変位手段が当接された際に前記弾性支持手段を変形させる方向に変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＦＦ７。
【１１０９４】
遊技機ＦＦ７によれば、遊技機ＦＦ１からＦＦ６のいずれかの奏する効果に加え、当接手段を弾性支持する弾性支持手段を備え、当接手段は、変位手段が当接された際に弾性支持手段を変形させる方向に変位可能に構成されるので、自重により落下される変位手段が当接手段に当接（衝突）された際の衝撃を緩衝させることができる。その結果、変位手段および当接手段の破損を抑制できる。
【１１０９５】
遊技機ＦＦ７において、前記当接手段は、一端側の被軸支部が回転可能に軸支されると共に、自重により落下される前記変位手段が他端側の被当接部の上面に当接可能に構成され、前記当接手段が静止された状態では、前記被当接部の上面が前記被軸支部よりも重力方向下方に位置されると共に、前記被当接部の上面と前記被軸支部とが重力方向と直交する方向に離隔されていることを特徴とする遊技機ＦＦ８。
【１１０９６】
遊技機ＦＦ８によれば、遊技機ＦＦ７の奏する効果に加え、当接手段は、一端側の被軸支部が回転可能に軸支されると共に、自重により落下される変位手段が他端側の被当接部の上面に当接可能に構成され、当接手段が静止された状態では、被当接部の上面が被軸支部よりも重力方向下方に位置されると共に、被当接部の上面と被軸支部とが重力方向と直

交する方向に離隔されているので、自重により落下される変位手段が被当接部に当接（衝突）されると、軸支部を回転中心として当接手段を回転させることができる。これにより、衝撃を緩衝させて、変位手段および当接手段の破損を抑制できる。

【１１０９７】

この場合、例えば、重力方向にスライド変位可能とされた当接手段を弾性支持手段により弾性支持する構造であっても、自重により落下される変位手段が当接手段に当接（衝突）された際の衝撃を緩衝させることができる。しかし、当接後は、変位手段が当接手段に載置（保持）された状態となる。そのため、変位手段を当接手段から落下させるために、変位手段を押圧することや、当接手段を傾斜させることが必要となり、その駆動力を付与するための駆動源（アクチュエータ）が別途必要となる。

【１１０９８】

これに対し、当該遊技機によれば、変位手段が当接された際の当接手段の回転に伴い、被当接部の上面が下降傾斜されることで、或いは、弾性支持手段の弾性回復力で当接手段が反対方向へ回転される際の慣性力で、被当接部の上面から変位手段を落下させることができる。これにより、変位手段を当接手段から落下させるための駆動源（アクチュエータ）を不要とできる。

【１１０９９】

遊技機ＦＦ１からＦＦ８のいずれかにおいて、自重により落下される前記変位手段の一部に当接可能に構成され前記窓部から視認可能な領域に配設される配設手段を備え、前記配設手段は、当接された前記変位手段の重さで回転可能に構成されることを特徴とする遊技機ＦＦ９。

【１１１００】

遊技機ＦＦ９によれば、遊技機ＦＦ１からＦＦ８のいずれかにおいて、自重により落下される変位手段の一部に当接可能に構成され窓部から視認可能な領域に配設される配設手段を備え、配設手段は、当接された変位手段の重さで回転可能に構成されるので、配設手段が回転されると共に、その回転に伴って変位手段が落下され、両者を一体的に変位（回転および落下）させることができる。よって、演出効果を高めることができる。

【１１１０１】

遊技機ＦＦ１からＦＦ９のいずれかにおいて、前記所定位置へ向けて上昇される前記変位手段を案内可能に構成される案内手段を備え、前記案内手段は、少なくとも一部が円弧状に湾曲して構成されることを特徴とする遊技機ＦＦ１０。

【１１１０２】

遊技機ＦＦ１０によれば、遊技機ＦＦ１からＦＦ９のいずれかの奏する効果に加え、所定位置へ向けて上昇される変位手段を案内可能に構成される案内手段を備え、案内手段は、少なくとも一部が円弧状に湾曲して構成されるので、円弧状の湾曲を利用して変位手段をスムーズに案内することができる。また、円弧状の湾曲に沿って変位手段が案内されることで、他の構造体との干渉を避けつつ変位手段を上昇させることができる。よって、他の構造体を配設するための領域を確保し易くできる。

【１１１０３】

遊技機ＡＡ１からＡＡ１３，ＡＢ１～ＡＢ１２，ＡＤ１からＡＤ２３，ＡＥ１～ＡＥ２４，ＦＦ１～ＦＦ１０のいずれかにおいて、前記遊技機はスロットマシンであることを特徴とする遊技機ＡＺ１。中でも、スロットマシンの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段（ストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備えた遊技機」となる。この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【１１１０４】

遊技機ＡＡ１からＡＡ１３，ＡＢ１～ＡＢ１２，ＡＤ１からＡＤ２３，ＡＥ１～ＡＥ２４，ＦＦ１～ＦＦ１０のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機であることを特徴とする遊技機ＡＺ２。中でも、パチンコ遊技機の基本構成としては操作ハンドルを備え、その操作ハンドルの操作に応じて球を所定の遊技領域へ発射し、球が遊技領域内の所定の位置に配設された作動口に入賞（又は作動口を通過）することを必要条件として、表示手段において動的表示されている識別情報が所定時間後に確定停止されるものが挙げられる。また、特別遊技状態の発生時には、遊技領域内の所定の位置に配設された可変入賞装置（特定入賞口）が所定の態様で開放されて球を入賞可能とし、その入賞個数に応じた有価価値（景品球のみならず、磁気カードへ書き込まれるデータ等も含む）が付与されるものが挙げられる。

【１１１０５】

遊技機ＡＡ１からＡＡ１３，ＡＢ１～ＡＢ１２，ＡＤ１からＡＤ２３，ＡＥ１～ＡＥ２４，ＦＦ１～ＦＦ１０のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機とスロットマシンとを融合させたものであることを特徴とする遊技機ＡＺ３。中でも、融合させた遊技機の基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備え、遊技媒体として球を使用すると共に、前記識別情報の動的表示の開始に際しては所定数の球を必要とし、特別遊技状態の発生に際しては多くの球が払い出されるように構成されている遊技機」となる。

【１１１０６】

以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図６２２から図６３０を参照し、第１０５実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ａ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。

【１１１０７】

図６２２は、第１０５実施形態におけるパチンコ機Ａ１０の正面図であり、図６２３は、遊技盤Ａ１３の正面図である。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１１１０８】

なお、以下の説明では、図６２２に示す状態のパチンコ機Ａ１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図６２２に示す状態のパチンコ機Ａ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図６２２参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ａ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【１１１０９】

遊技盤Ａ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した領域構成部である外レールＨ６２が植立され、その外レールＨ６２の内側位置には外レールＨ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＨ６１が植立される。この内レールＨ６１と外レールＨ６２とにより遊技盤Ａ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ａ１３とガラスユニットＨ１６（図６２２参照）とにより前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）が囲まれることにより、遊技盤Ａ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ａ１３の正面であって２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｈ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。なお、球が案内される通路を形成する２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２は、金属板である必要なく、樹脂材料から帯状に形成されるものであっても良い。

【１１１１０】

２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２は、上皿Ｈ１７に貯留され、球発射ユニットＨ１１２ａへ案内された後で、球発射ユニットＨ１１２ａ（図４９２参照）から発射された球を遊技盤Ａ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）へ案内するために設けられたものである。

【１１１１１】

内レールＨ６１の先端部分（図６２３の左上部）には戻り球防止部材Ａ６８が取り付けられる。外レールＨ６２の先端部（図６２３の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＨ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＨ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【１１１１２】

戻り球防止部材Ａ６８は、内レールＨ６１の先端部分においてベース板Ａ６０に締結固定される支持部材と、その支持部材に回転動作可能に支持されており内レールＨ６１側から外レールＨ６２側に延設される樹脂製の板部材から形成され、内レールＨ６１側の一端側を軸に他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転可能とされる開閉動作される部材とを備える。支持部材は、開閉動作される部材の一部を覆う部位である。また、戻り球防止部材Ａ６８は、一端側に錘を備え、その錘により他端側が外レールＨ６２に近づく方向に付勢される。

【１１１１３】

これにより、遊技盤Ａ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）に案内される球の勢いで戻り球防止部材Ａ６８の他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転させることができると共に、壁部によって回転角度を抑制されており、戻り球防止部材Ａ６８を超える位置（遊技盤Ａ１３の上方側）に球が案内された際に戻り球防止部材Ａ６８の他端側を外レールＨ６２に近づく方向に回転させることができ、一旦、遊技盤Ａ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。

【１１１１４】

なお、戻り球防止部材Ａ６８は、樹脂材料から形成される必要はなく、金属材料から形成されていても良い。また、対象物の動作を抑制する錘以外に磁石などの磁力やねじりバネなどの付勢力によって戻り球防止部材Ａ６８の他端側を外レールＨ６２側に付勢する構成としても良い。

【１１１１５】

また、戻り球防止部材Ａ６８は、後述する風車ＡＷＦのように、一方向に継続して回転できるもの（１球ずつ所定位置に戻らないもの）であっても良い。この場合、遊技盤Ａ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻らないように、遊技盤Ａ１３の上部への球の案内によって回転する方向（一方向）とは反対の方向（他方向）に回転することを規制するワンウェイクラッチを配設することが好ましい。

【１１１１６】

尚、本パチンコ機Ａ１０では、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ａ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ時短有通常大当たり、４Ｒ時短有通常大当たり、１５Ｒ時短無し通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【１１１１７】

本パチンコ機Ａ１０では、時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ａ６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物Ａ６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物Ａ６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる

。
【１１１１８】
パチンコ機Ａ１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｈ６４０に付随された電動役物Ａ６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。
【１１１１９】
第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、時短中の方が短くなるように設定される。これにより、時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ａ６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。
【１１１２０】
なお、時短中において、当たり確率を高める、１回の当たりに対する電動役物Ａ６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、時短中に第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、また、１回の当たりに対する電動役物Ａ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。
【１１１２１】
スルーゲートＨ６７は、可変表示装置ユニットＨ８０の右側の領域において第１球流下構造体Ａ３００に配設される態様で遊技盤Ａ１３に組み付けられ、遊技盤Ａ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲートＨ６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。
【１１１２２】
球のスルーゲートＨ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。第２図柄保留ランプは、最大保留数分の４つ設けられ、第３図柄表示装置Ｈ８１の下方に左右対称に配設されている。
【１１１２３】
なお、第２図柄の変動表示は、本実施形態のように、第２図柄表示装置において複数のランプの点灯と非点灯を切り換えることにより行うものの他、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を使用して行うようにしても良い。同様に、第２図柄保留ランプの点灯を第３図柄表示装置Ｈ８１の一部で行うようにしても良い。
【１１１２４】
また、スルーゲートＨ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け数は１つに限定されるものではなく、例えば２つであっても良い。
【１１１２５】
また、スルーゲートＨ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＨ８０の右側に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の左右や、下方でも良い。また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより保留球数が示される場合等には、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしてもよい。
【１１１２６】
スルーゲートＨ６７の正面視左下側には、球が入賞し得る第２入賞口Ｈ６４０が配設されている。この第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ａ１３の裏面側に設けられる

第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図４８８参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂで示される。

【１１１２７】

なお、第２入賞口Ｈ６４０の配置は、これに限られるものではない。例えば、第１入賞口Ｈ６４の正面視下方でも良いし、遊技領域の左右中央よりも左側（例えば、第１入賞口Ｈ６４よりも正面視左下側）でも良い。

【１１１２８】

第２入賞口Ｈ６４０には電動役物Ａ６４０ａが付随されている。この電動役物Ａ６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物Ａ６４０ａが閉鎖状態（退避状態）となって、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲートＨ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ａ６４０ａが開放状態（張出状態）となり、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しやすい状態となる。

【１１１２９】

上述した通り、時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物Ａ６４０ａが開放状態（張出状態）となる回数が増える。更に、時短中は、電動役物Ａ６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。

【１１１３０】

ここで、第１入賞口Ｈ６４に球が入賞した場合と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合とで、大当たりとなる確率は同一（約１／３１９）である。しかしながら、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ時短有通常大当たりとなる確率は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されている。一方、第１入賞口Ｈ６４は、第２入賞口Ｈ６４０にあるような電動役物Ａ６４０ａは有しておらず、球が常時入賞可能な状態となっている。

【１１１３１】

よって、通常中においては、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ａ６４０ａが閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しづらいので、電動役物Ａ６４０ａのない第１入賞口Ｈ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の左方を球が通過するように球を発射し（所謂「左打ち」）、第１入賞口Ｈ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１１１３２】

一方、時短中は、スルーゲートＨ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ａ６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｈ６４０へ向けて、可変表示装置Ｈ８０の右方を球が通過するように球を発射し（所謂「右打ち」）、スルーゲートＨ６７を通過させて電動役物Ａ６４０ａを開放状態にすると共に、第２入賞口Ｈ６４０への入賞によって１５Ｒ時短有通常大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１１１３３】

なお、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に大当たりとなる確率は、上述の確率に限られるものではなく、種々の態様が例示される。上述の確率は、大当たりを獲得することが難しい一方で、期待される払出球の個数が多くなる機種（一発逆転が可能な機種）として設定される。これに対し、例えば、比較的大当たりを獲得し易い確率（約１／９９）が設定される代わりに期待される払出球の個数が少なくされる場合もあるし、中間の確率（約１／１９９）とされ、大当たりの獲得のし易さと期待される払出球の個数とのバランスが良くされる場合もある。

【１１１３４】

なお、本実施形態におけるパチンコ機Ａ１０とは異なり、遊技盤Ａ１３の構成が左右対称とされる場合には、「右打ち」で第１入賞口Ｈ６４を狙うことも、「左打ち」で第２入賞口Ｈ６４０を狙うこともできる。この場合、遊技者から球の打ち方を変化させる煩わしさを取り去ることができる。

【１１１３５】

一方で、本実施形態におけるパチンコ機Ａ１０では、「右打ち」では第１入賞口Ｈ６４を狙うことはできないように構成され、「左打ち」で発射された球はスルーゲートＨ６７を通過しないように構成されている。そのため、本実施形態のパチンコ機Ａ１０は、パチンコ機Ａ１０の遊技状態（時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えることを要求することができる。よって、球の打ち方を変化させる遊技性を付加することで遊技が緩慢となることを防止することができる。

【１１１３６】

なお、電動役物Ａ６４０ａが遊技領域の右側に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、電動役物Ａ６４０ａを遊技領域の左側に配設するようにしても良い。

【１１１３７】

電動役物Ａ６４０ａが遊技領域の右側に配設される場合には、第２入賞口Ｈ６４０に入球されなかった球をアウト口Ｈ７１にスムーズに案内するために、球の流下方向が左下方向へ向けて傾斜する方向となるように構成されることが多いが、電動役物Ａ６４０ａが遊技領域の左側に配設される場合には、形状を左右対称に変更させることで対応が可能となる。

【１１１３８】

また、第１入賞口Ｈ６４よりも上流側に電動役物Ａ６４０ａを配設すれば、第２入賞口Ｈ６４０に入球されなかった球がアウト口Ｈ７１に案内される場合ばかりではなく、第１入賞口Ｈ６４に案内される場合も構成可能となるように遊技領域を構成することができるので、電動役物Ａ６４０ａを通過した後の球の注目力が極端に低下される事態を避けることができる。

【１１１３９】

電動役物Ａ６４０ａの配設位置と、スルーゲートＨ６７の配設位置とは、複数の態様が例示される。例えば、電動役物Ａ６４０ａの上流側にスルーゲートＨ６７を配設することで、スルーゲートＨ６７に検出されることで普通図柄の抽選を実行させた球が、その抽選により開閉動作されている電動役物Ａ６４０ａに到達可能に構成できるので、普通図柄の抽選と、その抽選により開放された第２入賞口Ｈ６４０への入球とが、同じ球で実行され得ることになり、遊技者に好適に受け入れられやすい。

【１１１４０】

逆に、例えば、スルーゲートＨ６７の上流側に電動役物Ａ６４０ａを配設する場合には、１球目の球が電動役物Ａ６４０ａに到達する時点では普通図柄の抽選が実行されていないので、電動役物Ａ６４０ａは閉鎖状態とされており、球は第２入賞口Ｈ６４０には入球されずに素通りし、スルーゲートＨ６７へ向かって流下する。即ち、普通図柄の抽選を新たに開始させるために球を継続して発射させる場合における１球目の球が第２入賞口Ｈ６４０に入球されないため、賞球の払い出しが期待されないという点で遊技者にとって不利となる。

【１１１４１】

この不利は、普通図柄の抽選を途切れさせないように電動役物Ａ６４０ａへ向けた発射をすることで最小限に抑えることができるため、遊技者に対して、「単発打ち」（操作ハンドルＨ５１の発射停止スイッチＨ５１ｂの操作を利用して一発ずつ間隔（数秒）を空けて球を発射する特殊な打ち方）ではなく「打ちっぱなし」（操作ハンドルＨ５１を回転動作させた状態で維持することで一定の間隔（１００発／分未満の間隔、０．６秒等）で発射させる打ち方）にすることを違和感なく推奨することができる。

【１１１４２】
即ち、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１で「右打ち」と表示して、「右打ち」する期間であることを報知する場合において、併せて「とにかく打ち続けろ」等の表示を併記することで、遊技者の不利を最小限に抑えつつ、「単発打ち」を好む遊技者に対しても、「打ちっぱなし」で遊技する方が有利かもしれないと思わせることで、球の発射方法の選択の幅を広げさせることができる。これにより、遊技者に刺激を与え、遊技者の集中力を高く維持することができる。
【１１１４３】
また、スルーゲートＨ６７と電動役物Ａ６４０ａとを、左右同じ側に配設しても良いし、左右逆側に配設するようにしても良い。左右逆側に配設する場合には、スルーゲートＨ６７を通過させるために発射させる球の発射態様（例えば、「左打ち」又は「右打ち」）と、電動役物Ａ６４０ａにおいて第２入賞口Ｈ６４０に入球させるために発射させる球の発射態様（例えば、「右打ち」又は「左打ち」）とが異なることから、時短中において操作ハンドルＨ５１の回転動作を頻繁に生じさせることができ、遊技者の意識を操作ハンドルＨ５１に向けさせることができ、遊技に集中させることができる。
【１１１４４】
第１入賞口Ｈ６４の右方には可変入賞装置Ａ６５が配設されており、その下流側位置に特定入賞口Ｈ６５ａが設けられている。パチンコ機Ａ１０においては、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｈ６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）開放される。
【１１１４５】
この特定入賞口Ｈ６５ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放される。この特定入賞口Ｈ６５ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。
【１１１４６】
抽選された大当たりが時短有通常大当たりだった場合、大当たり遊技終了後の時短中に右打ち遊技を行うことで、第２入賞口Ｈ６４０へ遊技球を入賞させることができる。本実施形態では、時短状態における第２入賞口Ｈ６４０への入賞に基づいて数回（例えば、１～１０回。時短状態の終了時における保留球数を含む。）の抽選を少ない球損で実行させることができる。第２入賞口Ｈ６４０に遊技球が入賞すると、約１／２の確率で小当たりが発生し、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおいて小当たりに対応したＬＥＤが点灯する。この小当たりにより、特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放され、その開放中に、球が特定入賞口Ｈ６５ａ内へ入賞することを契機として特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。
【１１１４７】
なお、特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する契機を、特定入賞口Ｈ６５ａの下流側に位置する特定領域または非特定領域のうちの特定領域を通過することにするように構成しても良い。本実施形態では、特定領域を通過するか否かに対応する振り分けを内部制御により行っており、特定入賞口Ｈ６５ａの下流側に特定領域および非特定領域を構成することが不要とされている。即ち、抽選された大当たりに基づいて、特定入賞口Ｈ６５ａが特定領域を兼ねるタイミングが生じる場合が設定可能とされており、そのタイミングにおいて球が特定入賞口Ｈ６５ａ内へ入賞することを契機として特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。

【１１１４８】
このように、本パチンコ機Ａ１０では、右打ち遊技において、第２入賞口Ｈ６４０へ遊技球が入球すると約１／２の確率で特別遊技状態へ遊技状態を遷移させることが可能になり、これは左打ち遊技における大当たり確率（約１／３１９）よりも著しく高い確率となるので、右打ち遊技状態に対する遊技者の興趣を向上させることができる。
【１１１４９】
また、特定入賞口Ｈ６５ａの個数は限定されるものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｈ６４の右方に限らず、例えば、第１入賞口Ｈ６４の下方右側や、第１入賞口Ｈ６４の下方左側や、可変表示装置ユニットＨ８０の左方または右方や、上方でも良い。
【１１１５０】
遊技盤Ａ１３には、アウト口Ｈ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０にも入賞しなかった球は、アウト口Ｈ７１を通って図示しない球排出路へと案内される。
【１１１５１】
なお、本実施形態におけるその他装置Ｈ２２８（図４９６参照）には、駆動ソレノイドや駆動モータや、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ａ６４０ａを駆動させる駆動ソレノイドＡ６４２等が含まれる。なお、本実施形態においても、その他装置Ｈ２２８には、上述の役物装置の駆動源だけではなく、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示せず）や、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ａ６４０ａの駆動源等（駆動ソレノイドＡ６４２等）を含む構成としても良い。また、本実施形態における各種スイッチＨ２０８（図４９６参照）には、検出センサ（入賞検出センサＡＳＣ６４及び入賞検出センサＡＳＣ６５）等が含まれる。
【１１１５２】
次いで、図６２４を参照して、動作ユニットＤ２００の概略構成について説明する。図６２４は、動作ユニットＤ２００の分解斜視正面図である。
【１１１５３】
図６２４に示すように、動作ユニットＤ２００は、箱状に形成される背面ケースＤ３００を備え、その背面ケースＤ３００の内部空間に、上変位ユニットＥ１００、下変位ユニットＥ５００、導光板ユニットＦ１００、揺動ユニットＤ１００とが収容される。
【１１１５４】
背面ケースＤ３００は、正面視略矩形の底壁部Ｄ３０１と、その底壁部Ｄ３０１の４辺の外縁から正面へ向けて立設される外壁部Ｄ３０２と、を備え、それら各壁部Ｄ３０１，Ｄ３０２により一面側（正面側）が開放された箱状に形成される。底壁部Ｄ３０１には、その中央に正面視矩形の開口Ｄ３０１ａが開口形成され、その開口Ｄ３０１ａを通じて、底壁部Ｄ３０１の背面に配設される第３図柄表示装置Ｈ８１（図５４１参照）が視認可能とされる。
【１１１５５】
上変位ユニットＥ１００は、背面ケースＤ３００の底壁部Ｄ３０１のうちの開口Ｄ３０１ａの上側部分に配設されるベース手段Ｅ２００と、そのベース手段Ｅ２００に対して相対変位可能に配設される上変位手段Ｅ３００と、を少なくとも備え、上変位手段Ｅ３００を背面ケースＤ３００の開口Ｄ３０１ａ（即ち、第３図柄表示装置Ｈ８１（図５４１参照））の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に変位させる演出を実行可能に構成される。
【１１１５６】
下変位ユニットＥ５００は、背面ケースＤ３００の底壁部Ｄ３０１のうちの開口Ｄ３０１ａの下側部分に配設されるベース手段Ｅ５１０と、そのベース手段Ｅ５１０に対して相対変位可能に配設される回転手段Ｅ５５０と、を少なくとも備え、回転手段Ｅ５５０を背面ケースの開口Ｄ３０１ａ（即ち、第３図柄表示装置Ｈ８１（図５４１参照））の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に変位させる演出を実行可能に構成される。
【１１１５７】

導光板ユニットＦ１００は、正面視（矢印Ｂ方向視）において背面ケースＤ３００の左側（矢印Ｌ方向側）に配設される他側ベース手段Ｆ３００と、正面視において背面ケースＤ３００の右側（矢印Ｒ方向側）に配設される一側ベース手段Ｆ２００と、それら一側ベース手段Ｆ２００及び他側ベース手段Ｆ３００の間に介在される導光板Ｆ４００と、を主に備え、導光板Ｆ４００に照射される光を正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって反射することで、光による演出が可能に構成される。

【１１１５８】

揺動ユニットＤ１００は、変位可能な上側揺動手段Ｄ１２０と、変位可能な下側揺動手段Ｄ１３０と、を備え、導光板ユニットＦ１００の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、その導光ユニットＦ４００の導光板Ｆ４００の正面側に重なる位置で上側揺動手段Ｄ１２０と、下側揺動手段Ｄ１３０とを変位可能とされる。

【１１１５９】

次いで、図６２５から図６３０を参照して、導光板ユニットＦ１００について説明する。

【１１１６０】

まず、図６２５及び図６２６を参照して、導光板ユニットＦ１００の全体構成について説明する。図６２５（ａ）は、導光板ユニットＦ１００の正面図であり、図６２５（ｂ）は、導光板ユニットＦ１００の背面図である。図６２６は、導光板ユニットＦ１００の分解斜視正面図である。

【１１１６１】

図６２５及び図６２６に示すように、導光板ユニットＦ１００は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の距離を隔てて一対配設される一側ベース手段Ｆ２００及び他側ベース手段Ｆ３００と、それら一側ベース手段Ｆ２００及び他側ベース手段Ｆ３００のそれぞれの正面側（矢印Ｆ方向側）に一部が重なる状態で一側ベース手段Ｆ２００及び他側ベース手段Ｆ３００の間に介在される導光板Ｆ４００と、一側ベース手段Ｆ２００及び他側ベース手段Ｆ３００の間に導光板Ｆ４００を挟持した状態で、一側ベース手段Ｆ２００及び他側ベース手段Ｆ３００のそれぞれの正面側に配設される一側カバー手段Ｆ５００及び他側カバー手段Ｆ６００と、一側ベース手段Ｆ２００及び他側ベース手段Ｆ３００の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる位置に配設される一側反射手段Ｆ７００及び他側反射手段Ｆ８００と、を主に備える。

【１１１６２】

一側ベース手段Ｆ２００は、正面視（矢印Ｂ方向視）において背面ケースＤ３００（図６２４参照）の右側（矢印Ｒ方向側）に位置すると共に、背面ケースＤ３００の底壁部Ｄ３０１（図６２４参照）に配設される上変位ユニットＥ１００の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる状態で配設される。

【１１１６３】

また、一側ベース手段Ｆ２００には、後述する導光板Ｆ４００に向けて光を照射可能な発光手段Ｆ２２１を有する導光板側照射用基板Ｆ２２０（図６２７参照）が配設される。これにより、導光板ユニットＦ１００は、導光板Ｆ４００による光の演出が可能とされる。なお、一側ベース手段Ｆ２００についての詳しい説明は後述する。

【１１１６４】

他側ベース手段Ｆ３００は、正面視（矢印Ｂ方向視）において背面ケースＤ３００（図６２４参照）の左側（矢印Ｌ方向側）に位置すると共に、背面ケースＤ３００の底壁部Ｄ３０１（図６２４参照）に配設される下変位ユニットＥ５００の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる状態で配設される。なお、他側ベース手段Ｆ３００についての詳しい説明は後述する。

【１１１６５】

導光板Ｆ４００は、一側ベース手段Ｆ２００の導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光を透過すると共に、その透過される光を所定の模様や図柄を形成する位置で正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて反射する部材であり、光透過性の透明な

樹脂材料から所定の厚みを有する略矩形の板状に形成される。また、導光板Ｆ４００は、板面を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に向けた状態で配設されると共に、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両端部が一側ベース手段Ｆ２００及び他側ベース手段Ｆ３００の正面側に重なる大きさに形成される。

【１１１６６】

また、導光板Ｆ４００には、一側ベース手段Ｆ２００の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の両端２箇所に開口される開口部Ｆ４０１と、他側ベース手段Ｆ３００の正面側に重なる位置において上下方向の両端の２箇所に開口される開口部Ｆ４０２と、レーザー加工等により導光板Ｆ４００の内部に粗面加工される反射部Ｆ４１０と、が形成される。なお、導光板Ｆ４００は、略矩形に形成されるので、切り出す際の加工コストを低減できると共に、反射部Ｆ４１０を形成する際の位置決めをしやすくでき、反射部Ｆ４１０の形成位置の公差を小さくできる。

【１１１６７】

反射部Ｆ４１０は、導光板Ｆ４００の正面視（矢印Ｂ方向視）における全域に模様や図柄等の形状で加工される。これにより、導光板Ｆ４００の内部に入射される光は、反射部Ｆ４１０の荒面により乱反射してパチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から出射される。なお、導光板Ｆ４００に形成される図柄は、一続き（即ち、１個）の模様または図柄でなくても良く、断続的な（即ち、複数個の）模様または図柄であっても良い。

【１１１６８】

一側カバー手段Ｆ５００及び他側カバー手段Ｆ６００は、それぞれ一側ベース手段Ｆ２００及び他側ベース手段Ｆ３００の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆う化粧板であり、一側ベース手段Ｆ２００及び他側ベース手段Ｆ３００と正面視（矢印Ｂ方向視）における外形が略同一の板状に形成される。また、一側カバー手段Ｆ５００及び他側カバー手段Ｆ６００は、光透過性の樹脂材料から形成され、後述する一側ベース手段Ｆ２００に配設される導光板側照射用基板Ｆ２３０（発光手段Ｆ２３１）及び他側反射手段Ｆ８００に配設される基板部材Ｆ８２０（発光手段Ｆ８２１）から出射される光を透過可能に構成される。これにより、一側カバー手段Ｆ５００及び他側カバー手段Ｆ６００の正面側から光を出射させることができ、正面視において導光板Ｆ４００の外側の領域に光による演出をさせることができる。その結果、正面視における光の演出領域を拡大できる。

【１１１６９】

なお、第１０５実施形態では、導光板ユニットＦ１００の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される揺動ユニットＤ１００のベース手段Ｄ１１０（図６２４参照）が光透過性の樹脂材料から形成されると共に、遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０（図Ｚ００１参照）が光透過性の樹脂材料から形成されるので、一側カバー手段Ｆ５００及び他側カバー手段Ｆ６００の正面側から出射される光を、揺動ユニットＤ１００及び遊技盤Ａ１３を介して遊技者に視認させることができる。

【１１１７０】

一側カバー手段Ｆ５００及び他側カバー手段Ｆ６００には、一側カバー手段Ｆ５００の１箇所に開口Ｆ５１０が形成され、他側カバー手段Ｆ６００に３箇所に開口Ｆ６１０，Ｆ６２０，Ｆ６３０が形成される。

【１１１７１】

一側カバー手段Ｆ５００の開口Ｆ５１０は、一側ベース手段Ｆ２００に配設される導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）の熱を逃がすための開口であり、発光手段Ｆ２２１が配設される導光板側照射用基板Ｆ２２０に沿う矩形の開口に形成される。これにより、発光手段Ｆ２２１の発光に伴い導光板側照射用基板Ｆ２２０の熱が高くなりすぎることを抑制して、導光板側照射用基板Ｆ２２０が熱で破損すること、及び、導光板Ｆ４００が熱で撓む（又は、発光手段Ｆ２２１の光が照射される導光板Ｆ４００の光照射面が焼ける）ことを抑制できる。

【１１１７２】

他側カバー手段Ｆ６００の開口Ｆ６１０は、導光板ユニットＦ１００の正面側（矢印Ｆ

方向側）に配設される揺動ユニットＤ１００（図６２４参照）の駆動モータＤ１４１の一部を受け入れる部分であり、正面視（矢印Ｂ方向視）において駆動モータＤ１４１と重なる領域に形成される。駆動モータＤ１４１の背面側（矢印Ｂ方向側）の一部を他側カバー手段Ｆ６００の開口Ｆ６１０に受け入れることにより、導光板ユニットＦ１００と揺動ユニットＤ１００とを前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に近づけた状態で配設できる。

【１１１７３】

開口Ｆ６２０は、他側ベース手段Ｆ３００の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される他側反射手段Ｆ８００の基板部材Ｆ８２０に接続される電気配線を挿通するための開口であり、正面視（矢印Ｂ方向視）において基板部材Ｆ８２０に電気配線を接続するためのコネクタと対応する位置に開口される。

【１１１７４】

開口Ｆ６３０は、導光板ユニットＦ１００の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される下変位ユニットＥ５００（図６２４参照）の回転手段Ｅ５５０を回転させる駆動モータ（図示しない）及び変位手段Ｅ５３０を変位させる駆動モータＥＭ２に電気配線を接続するための開口であり、下変位ユニットＥ５００のベース手段Ｅ５１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に開口される。

【１１１７５】

一側反射手段Ｆ７００は、正面視（矢印Ｂ方向視）において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長い矩形の板状に形成され、後述する一側ベース手段Ｆ２００の背面側（矢印Ｂ方向側）に沿って配設される反射部材Ｆ７１０と、正面視において他側ベース手段Ｆ３００側の反射部材Ｆ７１０の側面に配設される内側化粧部材Ｆ７２０と、を主に備える。

【１１１７６】

反射部材Ｆ７１０は、光の反射率が高い（第１０５実施形態では、白色の）非透過性の樹脂材料から形成され、後述する一側ベース手段Ｆ２００に配設される発光手段Ｅ２２１の光を反射可能とされる。また、反射部材Ｆ７１０には、螺子を挿通するための挿通孔（図示しない）が複数個形成され、反射部材Ｆ７１０（一側反射手段Ｆ７００）は、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される上変位ユニットＥ１００（図６２４参照）に挿通孔を介して締結固定される。即ち、反射部材Ｆ７１０は、一側ベース手段Ｆ２００、他側ベース手段Ｆ３００、導光板Ｆ４００、一側カバー手段Ｆ５００、及び、他側カバー手段Ｆ６００から形成されるユニットとは異なる位置で背面ケースＤ３００に固定される。

【１１１７７】

内側化粧部材Ｆ７２０は、左右方向視（矢印Ｌ－Ｒ方向視）において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長い矩形の板状に形成され、板の側面を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に向けた姿勢で反射部材Ｆ７１０に配設される。また、内側化粧部材Ｆ７２０は、光透過性の樹脂材料から形成され、組み立て状態において導光板Ｆ４００及び一側ベース手段Ｆ２００の背面側（矢印Ｂ方向側）に位置すると共に、左右方向において後述する一側ベース手段Ｆ２００の背面側発光手段Ｆ２２１ｂと重なる位置に配設される。これにより、背面側発光手段Ｆ２２１ｂの光が内側化粧部材Ｆ７２０を介して出射され、導光板Ｆ４００の背面側の空間が明るくされる。

【１１１７８】

他側反射手段Ｆ８００は、正面視（矢印Ｂ方向視）において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長い矩形の板状に形成され、後述する他側ベース手段Ｆ３００の背面側（矢印Ｂ方向側）に沿って配設される反射部材Ｆ８１０と、その反射部材Ｆ８１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され基板部材Ｆ８２０と、を主に備える。

【１１１７９】

反射部材Ｆ８１０は、光の反射率が高い（第１０５実施形態では、白色の）非透過性の樹脂材料から形成され、後述する基板部材Ｆ８２０から出射される光を反射可能とされる。また、反射部材Ｆ８１０には、螺子を挿通するための挿通孔（図示しない）が複数個形成され、反射部材Ｆ８１０（他側反射手段Ｆ８００）は、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される上変位ユニットＥ１００及び下変位ユニットＥ５００（図６２４参照）に挿通孔を

介して締結固定される。即ち、反射部材Ｆ８１０は、一側ベース手段Ｆ２００、他側ベース手段Ｆ３００、導光板Ｆ４００、一側カバー手段Ｆ５００、及び、他側カバー手段Ｆ６００から形成されるユニットとは異なる位置で背面ケースＤ３００に固定される。

【１１１８０】

基板部材Ｆ８２０は、光を出射可能なＬＥＤから形成される発光手段Ｆ８２１を正面側（矢印Ｆ方向側）に複数個備え、発光手段Ｆ８２１から出射される光を正面側に向けて出射可能に構成される。これにより、他側反射手段Ｆ８００の正面側に配設される他側ベース手段Ｆ３００及び他側カバー手段Ｆ６００を介して正面側に光を出射できる。また、基板部材Ｆ８２０の光出射側（正面側）と反対側（矢印Ｂ方向側）には、反射部材Ｆ８１０が配設されるので、基板部材Ｆ８２０から出射された光が他側ベース手段Ｆ３００により反射部材Ｆ８１０側に反射しとしても、その光を反射部材Ｆ８１０により再び反射して他側ベース手段Ｆ３００側に向かわせることができる。その結果、他側ベース手段Ｆ３００の正面側から出射される光の光量を確保できる。

【１１１８１】

なお、上記したように、第１０５実施形態では、導光板ユニットＦ１００の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される揺動ユニットＤ１００のベース手段Ｄ１１０（図６２４参照）が光透過性の樹脂材料から形成されると共に、遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０（図Ｚ００１参照）が光透過性の樹脂材料から形成されるので、一側カバー手段Ｆ５００及び他側カバー手段Ｆ６００の正面側から出射される光を、揺動ユニットＤ１００及び遊技盤Ａ１３を介して遊技者に視認させることができる。

【１１１８２】

次いで、図６２７から図６２９を参照して、一側ベース手段Ｆ２００について説明する。図６２７（ａ）は、一側ベース手段Ｆ２００の正面図であり、図６２７（ｂ）は、一側ベース手段Ｆ２００の背面図であり、図６２７（ｃ）は、図６２７（ａ）のＥ１１ｃ－Ｅ１１ｃ線における一側ベース手段Ｆ２００の断面図である。図６２８（ａ）は、他側ベース手段Ｆ３００の正面図であり、図６２８（ｂ）は、他側ベース手段Ｆ３００の背面図であり、図６２８（ｃ）は、図６２８（ａ）の矢印Ｅ１２ｃ方向視における他側ベース手段Ｆ３００の側面図である。図６２９（ａ）は、図６２５（ａ）のＥ１０ａ－Ｅ１０ａ線における導光板ユニットＦ１００の断面模式図であり、図６２９（ｂ）は、図６２５のＥ１０ｂ－Ｅ１０ｂ線における導光板ユニットＦ１００の断面模式図である。なお、図６２９（ａ）では、導光板ユニットＦ１００の下方側に配設される背面側発光手段Ｆ２１１ｂ、及び、導光板Ｆ４００の内部に形成される反射部Ｆ４１０が破線で図示される。

【１１１８３】

図６２７及び図６２９（ａ）に示すように、一側ベース手段Ｆ２００は、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるベース板Ｆ２１０と、そのベース板Ｆ２１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される２枚の導光板側照射用基板Ｆ２２０及び導光板側照射用基板Ｆ２３０と、導光板側照射用基板Ｆ２２０に沿ってベース板Ｆ２１０の正面側に配設される拡散手段Ｆ２４０と、を主に備える。

【１１１８４】

ベース板Ｆ２１０は、正面視（矢印Ｂ方向視）において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長い矩形状に光透過性の樹脂材料から形成される。また、ベース板Ｆ２１０には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の略中央部に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って背面側（矢印Ｂ方向）に向かって凹設される凹溝Ｆ２１１が形成され、凹溝Ｆ２１１の右側（矢印Ｒ方向側）の領域に導光板側照射用基板Ｆ２３０の配設領域となる基板配設部Ｆ２１２と、凹溝Ｆ２１１の左側（矢印Ｌ方向側）の領域に導光板Ｆ４００の配設領域となる導光板配設部Ｆ２１３と、が形成される。

【１１１８５】

凹溝Ｆ２１１は、後述する導光板側照射用基板Ｆ２２０が挿入される溝であり、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において導光板側照射用基板Ｆ２２０よりも長く凹設される。また、凹溝Ｆ２１１の背面側（矢印Ｂ方向側）への凹設距離は、導光板側照射用基板Ｆ２２０

の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における寸法よりも小さく設定される。これにより、導光板側照射用基板Ｆ２２０の正面側（矢印Ｆ方向側）の一部（正面側発光手段Ｆ２２１ａ）がベース板Ｆ２１０から突出した状態（即ち、導光板配設部Ｆ２１３よりも導光板側照射用基板Ｆ２２０が正面側に突出した状態）で配設される。

【１１１８６】

基板配設部Ｆ２１２は、導光板側照射用基板Ｆ２３０を配設するための領域であり、正面視（矢印Ｂ方向視）において導光板側照射用基板Ｆ２３０よりも大きい外形に形成される。また、基板配設部Ｆ２１２は、正面視において凹溝Ｆ２１１が形成される側（矢印Ｌ方向側）と反対側（矢印Ｒ方向側）が背面ケースＤ３００の外壁部Ｄ３０２（図６２４参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる（載置可能な）位置に配設され、外壁部Ｄ３０２に締結される螺子を挿通する挿通孔Ｆ２１２ａが上下の２箇所に形成される。これにより、導光板ユニットＦ１００の一側ベース手段Ｆ２００側（矢印Ｒ方向側）は、背面ケースＤ３００に直接固定される。

【１１１８７】

ここで、背面ケースＤ３００（図６２４参照）には、複数のユニット（上変位ユニットＥ１００、下変位ユニットＥ５００、導光板ユニットＦ１００、及び、揺動ユニットＤ１００が配設される。そのため、背面ケースＤ３００の底壁部Ｄ３０１から正面側（矢印Ｆ方向側）に離れる位置に配設されるユニット程、配設位置の位置ずれが大きくなりやすいという問題があった。

【１１１８８】

これに対し、第１０５実施形態では、上変位ユニットＥ１００及び下変位ユニットＥ５００（図６２４参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される導光板ユニットＦ１００を背面ケースＤ３００に直接締結できるので、背面ケースＤ３００に対する位置ずれを最小限に抑えることができる。

【１１１８９】

なお、導光板ユニットＦ１００は、導光板Ｆ４００に照射した光により表示される模様（絵柄）や図柄などを、背面ケースＤ３００に配設される第３図柄表示装置Ｈ８１（図６２３参照）の表示（又は、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される上変位ユニットＥ１００や下変位ユニットＥ５００）と合わせて視認させる演出を有する。そのため、導光板ユニットＦ１００の背面ケースＤ３００に対する位置ずれを抑えることで、導光板Ｆ４００に表示される絵柄や図柄と、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示を合わせやすくできる。その結果、導光板Ｆ４００による演出効果を向上しやすくできる。

【１１１９０】

導光板配設部Ｆ２１３は、正面側（矢印Ｆ方向側）に導光板Ｆ４００の右側（矢印Ｒ方向側）端部を配設するための領域であり、正面視（矢印Ｂ方向視）において導光板Ｆ４００の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における寸法よりも大きい外形に形成され、導光板Ｆ４００の右側端部の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる位置に配設される。また、導光板配設部Ｆ２１３には、正面側に向かって円柱状に突出される突出部Ｆ２１３ａが上下の２箇所に形成され、この突出部Ｆ２１３ａが導光板Ｆ４００の開口部Ｆ４０１に挿入され、導光板Ｆ４００が位置決めされた状態で配設される。

【１１１９１】

なお、突出部Ｆ２１３ａの先端には、一側カバー手段Ｆ５００を挿通した螺子が締結されるネジ穴が形成される。導光板Ｆ４００は、導光板配設部Ｆ２１３に配設された状態で、一側ベース手段Ｆ２００の正面側（矢印Ｆ方向側）に一側カバー手段Ｆ５００が配設されることで、一側ベース手段Ｆ２００と一側カバー手段Ｆ５００との対向間から抜け出ることを抑制された状態で一側ベース手段Ｆ２００に配設される。

【１１１９２】

導光板側照射用基板Ｆ２２０は、導光板Ｆ４００に演出をさせるための光を出射する発光手段Ｆ２２１を複数個備える基板であり、左右方向視（矢印Ｌ－Ｒ方向視）において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長い矩形状に形成されると共に導光板配設部Ｆ２１３側（矢

印Ｌ方向側）にＬＥＤから形成される発光手段Ｆ２２１が複数個配設される。また、導光板側照射用基板Ｆ２２０は、ベース板Ｅ２１０の凹溝Ｆ２１１に背面側（矢印Ｂ方向側）の一部が挿入されることで、ベース板Ｆ２１０に対し位置決めしつつ配設される。

【１１１９３】

なお、複数の発光手段Ｆ２２１は、図６２７（ｃ）に示すように導光板側照射用基板Ｆ２２０の正面側（矢印Ｆ方向側）に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の間隔で配設される正面側発光手段Ｆ２２１ａと、それら正面側発光手段Ｆ２２１ａよりも背面側（矢印Ｂ方向側）で上下方向に所定の間隔で配設される背面側発光手段Ｆ２２１ｂと、を備える。

【１１１９４】

正面側発光手段Ｆ２２１ａは、主に導光板Ｆ４００の側端面から導光板Ｆ４００の内部に入射される光を出射するＬＥＤであり、光の出射方向である左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において導光板Ｆ４００と重なる位置に配設される。即ち、正面側発光手段Ｆ２２１ａは、導光板Ｆ４００が介設される導光板配設部Ｆ２１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）、即ち、凹溝Ｆ２１１の外側に配設される。

【１１１９５】

背面側発光手段Ｆ２２１ｂは、主に導光板Ｆ４００の背面側（矢印Ｂ方向側）の空間を明るくするための光を出射するためのＬＥＤであり、光の出射方向である左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において一側反射手段Ｆ７００の内側化粧部材Ｆ７２０と重なる位置に配設される。上記したように、内側化粧部材Ｆ７２０は光透過性の樹脂材料から形成されるので、背面側発光手段Ｆ２２１ｂから光が出射されると、その光が内側化粧部材Ｆ７２０を透過して導光板Ｆ４００の背面側の空間に出射される。

【１１１９６】

なお、背面側発光手段Ｆ２２１ｂから出射される光は、全て導光板Ｆ４００の背面側（矢印Ｂ方向側）の空間に出射されるものではなく、一部が導光板Ｆ４００の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の側面から導光板Ｆ４００に入射されるものであっても良い。この場合、正面側発光手段Ｆ２２１ａから光が出射されて導光板Ｆ４００に模様や図柄が表示される場合と、背面側発光手段Ｆ２２１ｂから光が出射されて導光板Ｆ４００に模様や図柄が表示される場合とで、導光板Ｆ４００に表示される模様や図柄の明るさを変更することができる。そのため、導光板Ｆ４００に演出のバリエーションを付加することができ、導光板Ｆ４００による演出効果を向上できる。

【１１１９７】

導光板側照射用基板Ｆ２３０は、一側カバー手段Ｆ５００の正面側（矢印Ｆ方向側）から光を出射させるための発光手段Ｆ２３１を複数個備える基板であり、正面視（矢印Ｂ方向視）において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長い矩形状に形成されると共に正面側にＬＥＤから形成される発光手段Ｆ２３１が複数個配設される。また、導光板側照射用基板Ｆ２３０は、基板配設部Ｆ２１２の正面側に配設される。

【１１１９８】

なお、上記したように一側カバー手段Ｆ５００は、光透過性の樹脂材料から形成されるので、導光板側照射用基板Ｆ２３０の発光手段Ｆ２３１から光が出射されると、その光が一側カバー手段Ｆ５００を透過して一側カバー手段Ｆ５００の正面側（矢印Ｆ方向側）から（即ち、パチンコ機Ａ１０の正面側に）出射される。

【１１１９９】

また、導光板側照射用基板Ｆ２３０が配設される基板配設部Ｆ２１２の背面側（矢印Ｂ方向側）には、一側反射手段Ｆ７００の反射部材Ｆ７１０の一部が配設される（図６２６参照）ので、導光板側照射用基板Ｆ２３０から出射された光が一側カバー手段Ｆ５００により基板配設部Ｆ２１２（反射部材Ｆ７１０）側に反射したとしても、その光を反射部材Ｆ７１０により再び反射して一側カバー手段Ｆ５００側に向かわせることができる。その結果、一側カバー手段Ｆ５００の正面側から出射される光の光量を確保できる。

【１１２００】

拡散手段Ｆ２４０は、導光板側照射用基板Ｆ２２０の正面側発光手段Ｆ２２１ａから出

射される光を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に拡散して、導光板Ｆ４００の上下方向における側面全体から光が入射可能にするための部材であり、光透過性の樹脂材料から形成される。また、拡散手段Ｆ２４０は、導光板側照射用基板Ｆ２２０に沿って上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長く形成され、導光板側照射用基板Ｆ２２０の発光手段Ｆ２２１（正面側発光手段Ｆ２２１ａ）の光照射側（矢印Ｌ方向側）に配設される。即ち、拡散手段Ｆ２４０は、正面視（矢印Ｂ方向視）において導光板側照射用基板Ｆ２２０と導光板Ｆ４００との間に配設される。

【１１２０１】

また、拡散手段Ｆ２４０は、導光板側照射用基板Ｆ２２０の正面側発光手段Ｆ２２１ａから出射される光を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に拡散するために、発光手段Ｆ２２１（正面側発光手段Ｆ２２１ａ）側（矢印Ｒ方向側）の側面が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延びる平坦面に形成され、導光板Ｆ４００側（矢印Ｌ方向側）の側面が半円弧に形成される拡散部Ｆ２４１を上下方向に連続した形状に形成される。なお、拡散部Ｆ２４１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において正面側発光手段Ｆ２２１ａと対応する位置に１ずつ形成される。

【１１２０２】

なお、第１０５実施形態では、拡散手段Ｆ２４０を配設して正面側発光手段Ｆ２２１ａから出射される光が導光板Ｆ４００の全体に照射されるように構成しているが、拡散手段Ｆ２４０を配設せず、正面側発光手段Ｆ２２１ａの配設個数を多くして（配設間隔を小さくして）正面側発光手段Ｆ２２１ａから出射される光が導光板Ｆ４００の全体に照射されるようにしても良い。

【１１２０３】

次いで、図６２８及び図６２９（ｂ）を参照して、他側ベース手段Ｆ３００について説明する。図６２８及び図６２９（ｂ）に示すように、他側ベース手段Ｆ３００は、正面視（矢印Ｂ方向視）において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長い矩形の板状に形成されるベース板Ｆ３１０と、そのベース板Ｆ３１０の背面側（矢印Ｂ方向側）の側面に配設される内側化粧部材Ｆ３２０と、を主に備える。

【１１２０４】

ベース板Ｆ３１０は、光透過性の樹脂材料から形成される。また、ベース板Ｆ３１０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において略中央部に左側の領域および右側の領域を区画するための段差を形成する段差部Ｆ３１１と、段差部Ｆ３１１の左側（矢印Ｌ方向側）の領域に他側反射手段Ｆ８００の基板部材Ｆ８２０（発光手段Ｆ８２１）から照射される光を正面側に透過する透過部Ｆ３１２と、段差部Ｆ３１１の右側（矢印Ｒ方向側）の領域に導光板Ｆ４００の配設領域となる導光板配設部Ｆ３１３と、が形成される。

【１１２０５】

段差部Ｆ３１１は、透過部Ｆ３１２と、導光板配設部Ｆ３１３とを区画するための壁であり、この段差部Ｆ３１１により透過部Ｆ３１２側よりも導光板配設部Ｆ３１３側が正面側（矢印Ｆ方向側）に形成される。

【１１２０６】

なお、図６２９（ｂ）に示すように、他側ベース手段Ｆ３００の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される他側カバー手段Ｆ６００にも、ベース板Ｆ３１０の段差部Ｆ３１１と対応する位置に段差部Ｆ６４０が形成されると共に、その段差部Ｆ６４０の導光板Ｆ４００側の側面に非透過性の樹脂材料から形成される黒色のフィルムＦ６４１が配設される。これにより、他側反射手段Ｆ８００の基板部材Ｆ８２０（発光手段Ｆ８２１）から照射され透過部Ｆ３１２を透過する光が導光板Ｆ４００に入射することを抑制できると共に、一側ベース手段Ｆ２００の導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から照射され導光板Ｆ４００を透過する光が透過部Ｆ３１２側に入射することを抑制できる。

【１１２０７】

透過部Ｆ３１２は、上述したように他側反射手段Ｆ８００の基板部材Ｆ８２０（発光手段Ｆ８２１）から照射される光を正面側（矢印Ｆ方向側）に透過する領域であり、他側反

射手段Ｆ８００の正面側に重なる位置に形成される。また、透過部Ｆ３１２には、他側カバー手段Ｆ６００を挿通した螺子が締結されるネジ穴を先端側に有する円柱状の突起Ｆ３１２ａが正面側の複数個所に形成される。

【１１２０８】

導光板配設部Ｆ３１３は、正面側（矢印Ｆ方向側）に導光板Ｆ４００の左側（矢印Ｌ方向側）端部を配設するための領域であり、正面視（矢印Ｂ方向視）において導光板Ｆ４００の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における寸法よりも大きい外形に形成され、導光板Ｆ４００の左側端部の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる位置に配設される。また、導光板配設部Ｆ３１３には、正面側に向かって円柱状に突出される突出部Ｆ３１３ａが上下の２箇所に形成され、この突出部Ｆ２１３ａが導光板Ｆ４００の開口部Ｆ４０２に挿入され、導光板Ｆ４００が位置決めされた状態で配設される。

【１１２０９】

なお、突出部Ｆ３１３ａの先端には、他側カバー手段Ｆ６００を挿通した螺子が締結されるネジ穴が形成される。導光板Ｆ４００は、導光板配設部Ｆ３１３に配設された状態で、他側ベース手段Ｆ３００の正面側（矢印Ｆ方向側）に他側カバー手段Ｆ６００が配設されることで、他側ベース手段Ｆ３００と他側カバー手段Ｆ６００との対向間から抜け出ることを抑制された状態で他側ベース手段Ｆ３００に配設される。

【１１２１０】

内側化粧部材Ｆ３２０は、左右方向視（矢印Ｌ－Ｒ方向視）において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長い矩形の板状に形成され、板の側面を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に向けた姿勢でベース板Ｆ３１０に配設される。また、内側化粧部材Ｆ３２０は、光透過性の樹脂材料から形成され、組み立て状態において導光板Ｆ４００及び他側ベース手段Ｆ３００の背面側（矢印Ｂ方向側）に位置すると共に、左右方向において一側ベース手段Ｆ２００の導光板側照射用基板Ｆ２２０（図６２９（ａ）参照）と重なる位置に配設される。これにより、導光板側照射用基板Ｆ２２０の発光手段Ｆ２２１（背面側発光手段Ｆ２２１ｂ）から出射され、一側反射手段Ｆ７００の内側化粧部材Ｆ７２０（図６２９（ａ）参照）を透過した光を、内側化粧部材Ｆ３２０に照射できる。その結果、導光板Ｆ４００の背面側の空間を明るくできる。

【１１２１１】

次いで、図６３０を参照して、導光板ユニットＦ１００の組み付け態様について説明する。図６３０（ａ）は、導光板ユニットＦ１００の正面図であり、図６３０（ｂ）は、図６３０（ａ）のＥ１３ｂ－Ｅ１３ｂ線における導光板ユニットＦ１００の断面図であり、図６３０（ｃ）は、図６３０（ｂ）のＥ１３ｃ－Ｅ１３Ｃ線における導光板ユニットＦ１００の断面図である。

【１１２１２】

なお、図６３０（ａ）から図６３０（ｃ）では、一側反射手段Ｆ７００及び他側反射手段Ｆ８００が取り外された状態で図示されると共に、一側カバー手段Ｆ５００、及び、他側カバー手段Ｆ６００が透明視されて図示される。

【１１２１３】

図６３０（ａ）から図６３０（ｃ）に示すように、導光板Ｆ４００に形成される開口部Ｆ４０１は、内側に挿入される一側ベース手段Ｆ２００の突出部Ｆ２１３ａと正面視（矢印Ｂ方向視）における外形が略同一の円形状に形成される。一方、導光板Ｆ４００に形成される開口部Ｆ４０２は、内側に挿入される他側ベース手段Ｆ３００の突出部Ｆ３１３ａが正面視において円形状に形成されるのに対して、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長い長孔に形成される。

【１１２１４】

よって、第１０５実施形態における導光板ユニットＦ１００では、一側ベース手段Ｆ２００に対しての導光板Ｆ４００の相対変位が突出部Ｆ２１３ａにより規制され、他側ベース手段Ｆ３００に対しての導光板Ｆ４００の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における相対変位が許容される。即ち、導光板ユニットＦ１００は、背面ケースＤ３００に配設されてい

ない状態において、他側ベース手段Ｆ３００に対して導光板Ｆ４００を一側ベース手段Ｆ２００と共に相対変位させることで、一側ベース手段Ｆ２００及び他側ベース手段Ｆ３００の左右方向における対向間の距離を変更できる（導光板ユニットＦ１００の左右方向における寸法を変更できる）。

【１１２１５】

ここで、背面ケースＤ３００（図６２４参照）に、複数のユニット（上変位ユニットＥ１００や下変位ユニットＥ５００）を配設するものでは、背面ケースＤ３００に配設したユニットの荷重や、ユニットを背面ケースＤ３００に螺子で締結した際の締結力等により、背面ケースＤ３００の外壁部Ｄ３０２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における対向間の間隔が変更される恐れがある。この場合、第１０５実施形態では、導光板ユニットＦ１００が、背面ケースＤ３００の外壁部Ｄ３０２の左右方向両側に配設される為、導光板ユニットＦ１００を背面ケースＤ３００に配設できなくなる恐れがある。

【１１２１６】

これに対し、第１０５実施形態では、一側ベース手段Ｆ２００及び他側ベース手段Ｆ３００の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における対向間の距離を変更できるので、背面ケースＤ３００の外壁部Ｄ３０２の左右方向における対向間の間隔が変更された場合でも、一側ベース手段Ｆ２００及び他側ベース手段Ｆ３００の左右方向における対向間の距離を調整することで、導光板ユニットＦ１００を背面ケースＤ３００に配設することができる。

【１１２１７】

なお、第１０５実施形態では、他側ベース手段Ｆ３００に対して導光板Ｆ４００を一側ベース手段Ｆ２００と共に相対変位させることで、一側ベース手段Ｆ２００及び他側ベース手段Ｆ３００の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における対向間の距離を変更できるので、導光板Ｆ４００が反射部Ｆ４１０を形成した際の熱等により撓んで左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における寸法が小さくされる際に、一側ベース手段Ｆ２００及び他側ベース手段Ｆ３００の左右方向における対向間の距離を変更することで、導光板ユニットＦ１００の左右方向における寸法を維持することができる。その結果、導光板Ｆ４００が撓んだ場合にも、導光板ユニットＦ１００を背面ケースＤ３００に安定して配設することができる。

【１１２１８】

また、第１０５実施形態では、一側ベース手段Ｆ２００及び他側ベース手段Ｆ３００の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における対向間の距離を変更する際に、他側ベース手段Ｆ３００に対して導光板Ｆ４００を相対変位させ、導光板Ｆ４００に模様や図柄を表示させるための光が入射される一側ベース手段Ｆ２００に対する導光板Ｆ４００の相対位置を維持することができるので、一側ベース手段Ｆ２００及び他側ベース手段Ｆ３００の左右方向における対向間の距離を変更した際に、導光板Ｆ４００の模様や図柄の表示態様が変更されることを抑制できる。

【１１２１９】

次いで、図６３１及び図６３２を参照して、第１０６実施形態における導光板ユニットＦ２１００について説明する。上記第１０５実施形態では、導光板ユニットＦ１００が背面ケースＤ３００に配設される場合について説明したが、第１０６実施形態では、導光板ユニットＦ２１００が、内枠Ｈ１２に配設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。

【１１２２０】

図６３１（ａ）は、第１０６実施形態におけるパチンコ機Ａ１０の正面図であり、図６３１（ｂ）は、図６３１（ａ）のＥ１４ｂ－Ｅ１４ｂ線におけるパチンコ機Ａ１０の断面模式図であり、図６３１（ｂ）は、図６３１（ａ）のＥ１４ｃ－Ｅ１４ｃ線におけるパチンコ機Ａ１０の断面模式図である。図６３２は、導光板ユニットＦ２１００、遊技盤Ａ１３、内枠Ｈ１２、及び、外枠Ｈ１１の分解正面斜視図である。

【１１２２１】

図６３１及び図６３２に示すように、第１０６実施形態におけるパチンコ機Ａ１０では、内枠Ｈ１２の正面側（矢印Ｆ方向側）に導光板ユニットＦ２１００が配設される。また

、導光板ユニットＦ２１００は、導光板Ｆ４００が遊技盤Ａ１３の正面側に重なる状態で配設されると共に、導光板Ｆ４００を保持する保持部材（一側ベース手段Ｆ２２００、他側ベース手段Ｆ２３００、一側カバー手段Ｆ２５００、及び、他側カバー手段Ｆ２６００）が外枠Ｈ１１の内側に位置し内枠Ｈ１２の正面側に配置される。

【１１２２２】

第１０６実施形態における導光板ユニットＦ２１００は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の間隔を隔てて配設される一側ベース手段Ｆ２２００及び他側ベース手段Ｆ２３００と、それら一側ベース手段Ｆ２２００及び他側ベース手段Ｆ２３００のそれぞれの正面側（矢印Ｆ方向側）に一部が重なる状態で一側ベース手段Ｆ２２００及び他側ベース手段Ｆ２３００の間に介在される導光板Ｆ４００と、一側ベース手段Ｆ２２００及び他側ベース手段Ｆ２３００の間に導光板Ｆ４００を挟持した状態で、一側ベース手段Ｆ２２００及び他側ベース手段Ｆ２３００のそれぞれの正面側に配設される一側カバー手段Ｆ２５００及び他側カバー手段Ｆ２６００と、を主に備える。

【１１２２３】

一側ベース手段Ｆ２２００は、正面視（矢印Ｂ方向視）において内枠Ｈ１２の上端側と重なる状態で配設される。また、一側ベース手段Ｆ２２００は、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるベース板Ｆ２２１０と、そのベース板Ｆ２２１０の内側に空間に配設される導光板側照射用基板Ｆ２２０と、を主に備える。

【１１２２４】

ベース板Ｆ２２１０は、正面視（矢印Ｂ方向視）において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長い矩形状に非透過性の材料から形成される。また、ベース板Ｆ２２１０には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の略中央部に左右方向に沿って背面側（矢印Ｂ方向）に向かって凹設される凹溝Ｆ２１１が形成され、凹溝Ｆ２１１に導光板側照射用基板Ｆ２２０が挿入される。

【１１２２５】

一側カバー手段Ｆ２５００は、一側ベース手段Ｆ２２００の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆うカバー板であり、一側ベース手段Ｆ２２００の正面視（矢印Ｂ方向視）における外形が略同一の板状に形成される。また、一側カバー手段Ｆ２５００は、光非透過性の樹脂材料から形成される。第１０６実施形態では、上述したように、一側ベース手段Ｆ２２００及び一側カバー手段Ｆ２５００が光非透過性の樹脂材料から形成されるので、それら一側ベース手段Ｆ２２００及び一側カバー手段Ｆ２５００に囲われる導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光が導光板Ｆ４００以外に入射することを抑制できる。なお、第１０６実施形態における導光板側照射用基板Ｆ２２０では、発光手段Ｆ２２１が第１０５実施形態における正面側発光手段Ｆ２２１ａと対応するＬＥＤのみ備える。

【１１２２６】

他側ベース手段Ｆ２３００は、正面視（矢印Ｂ方向視）において内枠Ｈ１２の下端側に重なる状態で（内枠Ｈ１２に配設される遊技盤Ａ１３よりも下方側（矢印Ｄ方向側）に）配設され、正面視において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長い矩形の板状に形成されるベース板Ｆ２３１０を備える。

【１１２２７】

ベース板Ｆ２３１０は、正面視（矢印Ｂ方向視）において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長い矩形状に非透過性の材料から形成される。また、ベース板Ｆ２２１０は、左右方向視における断面が略コ字状に形成され、導光板Ｆ４００の下端側の背面と下面とを取り囲んだ状態で配設される。

【１１２２８】

他側カバー手段Ｆ２６００は、他側ベース手段Ｆ２３００の正面側（矢印Ｆ方向側）を覆うカバー板であり、他側ベース手段Ｆ２３００の正面視（矢印Ｂ方向視）における外形が略同一の板状に形成される。また、他側カバー手段Ｆ２６００は、光非透過性の樹脂材料から形成される。第１０６実施形態では、上述したように、他側ベース手段Ｆ２３００

及び他側カバー手段Ｆ２６００が光非透過性の樹脂材料から形成されるので、導光板Ｆ４００の下端側から出射される導光板Ｆ４００を透過した光を、他側ベース手段Ｆ２３００及び他側カバー手段Ｆ２６００により反射して導光板Ｆ４００の内側に入射させることができる。これにより、導光板Ｆ４００の光の光量を確保できる。

【１１２２９】

なお、第１０６実施形態における一側ベース手段Ｆ２２００のベース板Ｆ２２１０及び他側ベース手段Ｆ２３００のベース板Ｆ２３１０には、導光板ユニットＦ２１００を内枠Ｈ１２に螺子止めするための螺子を挿通する挿通孔を有する突出部（図示しない）が正面視（矢印Ｂ方向視）における外縁部に形成される。導光板ユニットＦ２１００は、ベース板Ｆ２２１０，Ｆ２３１０が内枠Ｈ１２に螺子止めされることで内枠Ｈ１２に配設される。

【１１２３０】

以上のように構成される第１０６実施形態における導光板ユニットＦ２１００によれば、導光板ユニットＦ２１００が遊技盤Ａ１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されるので、導光板ユニットＦ２１００を交換しやすくできる。

【１１２３１】

ここで、導光板Ｆ４００は、導光板Ｆ４００に形成した傷（反射部Ｆ４１０）により光を乱反射させることで、所定の模様や図柄を遊技者に視認させることが可能に構成される。そのため、導光板Ｆ４００に新たな傷や撓み等が発生すると、その傷や撓みにより遊技者に所定の模様や図柄を正しく認識させることができなくなる恐れがあるため、導光板Ｆ４００を交換する必要が生じる。

【１１２３２】

また、導光板Ｆ４００に傷や撓みが発生しなくても、パチンコ機Ａ１０の仕様を変更（スペックやモデルの異なるパチンコ機Ａ１０に変更）する場合に、異なる模様や図柄を表示する新しい導光板Ｆ４００に交換する必要が生じる。

【１１２３３】

これらの場合、上記第１０５実施形態のように、導光板ユニットＦ１００が遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるものでは、内枠Ｈ１２から遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＤ２００を取り外した上で、動作ユニットＤ２００の背面ケースＤ３００からベース板Ａ６０を取り外す（動作ユニットＤ２００を分解する）必要が生じる。そのため、導光板ユニットＦ１００（導光板Ｆ４００）の交換に手間がかかるという問題があった。

【１１２３４】

これに対し、第１０６実施形態では、導光板ユニットＦ２１００（導光板Ｆ４００）が、遊技盤Ａ１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されるので、内枠Ｈ１２から遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＤ２００を取り外すことなく導光板ユニットＦ２１００（導光板Ｆ４００）を交換することができる。詳しくは、図４９１に示すように正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した後、内枠Ｈ１２の正面側から導光板ユニットＦ２１００に挿入される螺子を取り外すことで、内枠Ｈ１２から導光板ユニットＦ２１００を取り外すことができる。なお、取付時には、上記の逆の手順、即ち、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した状態で、導光板ユニットＦ２１００を内枠Ｈ１２の正面側に螺子止めし、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して閉鎖することで、導光板ユニットＦ２１００を配設することができる。

【１１２３５】

従って、第１０６実施形態では、導光板ユニットＦ２１００（導光板Ｆ４００）を交換する際に、内枠Ｈ１２から遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＤ２００を取り外すこと、及び、動作ユニットＤ２００の背面ケースＤ３００からベース板Ａ６０を取り外す（動作ユニットＤ２００を分解する）必要がないので、その分、導光板ユニットＦ２１００（導光板Ｆ４００）の交換作業を簡易にできる。

【１１２３６】

また、第１０６実施形態における導光板ユニットＦ２１００では、パチンコ機Ａ１０の仕様の変更に伴って導光板Ｆ４００の表示を変更する場合に、導光板ユニットＦ２１００を交換し、導光板Ｆ４００と共にその導光板Ｆ４００に入射する光を出射する導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）も変更できる。そのため、導光板Ｆ４００の変更（即ち、模様や図柄の変更）に伴って導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）を変更できるので、交換後の導光板Ｆ４００に適した光の入射位置に設定した導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）を搭載することができる。その結果、導光板ユニットＦ２１００の交換後に導光板Ｆ４００に表示される模様や図柄を遊技者に視認させやすくできる。

【１１２３７】

なお、第１０６実施形態では、導光板ユニットＦ２１００を内枠Ｈ１２に配設するので、内枠Ｈ１２を外枠Ｈ１１に対して開放する場合には、内枠Ｈ１２と共に導光板ユニットＦ２１００を外枠Ｈ１１に対して相対変位させることが可能となる。

【１１２３８】

また、第１０６実施形態では、導光板ユニットＦ２１００が内枠Ｈ１２の正面側に配設され、導光板Ｆ４００が遊技盤Ａ１３の正面側に配設されるので、遊技盤Ａ１３に不正がされることを抑制できる。即ち、第１０６実施形態では、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放したとしても、遊技盤Ａ１３の遊技領域の外形よりも正面視における外形が大きく形成される導光板Ｆ４００により遊技盤Ａ１３の遊技領域を覆った状態を維持できる。そのため、正面枠Ｐ１４が内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して無理やり開放された場合に、遊技盤Ａ１３の遊技領域にアクセス可能な状態となることを抑制できる。その結果、遊技盤Ａ１３に不正がされることを抑制できる。

【１１２３９】

なお、導光板Ｆ４００は、遊技盤Ａ１３の遊技領域の外形よりも大きく形成されるものでなく、遊技領域の外形と略同一の大きさに形成され、遊技領域の正面側に重なるものであっても良い。

【１１２４０】

また、第１０６実施形態では、図６３１（ｂ）に示すように、正面視（矢印Ｂ方向視）において導光板ユニットＦ２１００の導光板Ｆ４００がガラスユニットＨ１６よりも大きく形成され、発光手段Ｆ２２１及び導光板Ｆ４００の外縁部が正面枠Ｐ１４の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる位置に配設される。

【１１２４１】

従って、導光板Ｆ４００を透過して導光板Ｆ４００の外縁部から漏れ出る光や、導光板Ｆ４００と発光手段Ｆ２２１との間から漏れ出る光が、即ち、導光板Ｆ４００の反射部Ｆ４１０で反射されず正面側（矢印Ｆ方向側）に出射される光が遊技者に視認されることを抑制できる。その結果、導光板Ｆ４００に表示される模様や図柄が遊技者に注目されにくくなることを抑制できる。

【１１２４２】

次いで、図６３３を参照して、第１０７実施形態における導光板ユニットＦ３１００について説明する。上記第１０６実施形態では、導光板ユニットＦ２１００を内枠Ｈ１２に配設する場合について説明したが、第１０７実施形態では、導光板ユニットＦ３１００を正面枠Ｐ１４に配設する場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。

【１１２４３】

図６３３（ａ）は、第１０７実施形態における正面枠Ｐ１４及び導光板ユニットＦ３１００の背面斜視図であり、図６３３（ｂ）は、パチンコ機Ａ１０の断面模式図であり、図６３３（ｃ）は、パチンコ機Ａ１０の断面模式図である。なお、図６３３（ｂ）は、図６３１（ａ）のＥ１４ｂ－Ｅ１４ｂ線における断面と対応し、図６３３（ｃ）は、図６３１（ａ）のＥ１４ｃ－Ｅ１４ｃ線における断面と対応する。

【１１２４４】

図６３３に示すように、第１０７実施形態におけるパチンコ機Ａ１０では、正面枠Ｐ１４の背面側（矢印Ｂ方向側）に導光板ユニットＦ２１００が配設される。なお、第１０７実施形態における導光板ユニットＦ２１００は、第１０６実施形態における導光板ユニットＦ２１００が前後反転した向きで配設されるだけであり、その他の構造は第１０６実施形態における導光板ユニットＦ２１００と同一であるので、その詳しい説明は省略する。

【１１２４５】

第１０７実施形態における導光板ユニットＦ２１００は、一側ベース手段Ｆ２２００のベース板Ｆ２２１０及び他側ベース手段Ｆ２３００のベース板Ｆ２３１０に形成される挿通孔（図示しない）に螺子を挿通すると共に、その螺子を正面枠Ｐ１４の背面に締結することで、正面枠Ｐ１４に締結固定される。なお、第１０７実施形態における導光板ユニットＦ２１００の導光板Ｆ４００は、正面枠Ｐ１４に配設されるガラスユニットＨ１６よりも正面視（矢印Ｂ方向視）おける外形が大きく形成され、正面視においてガラスユニットＨ１６の外側（上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）外側）の領域に一側ベース手段Ｆ２２００及び他側ベース手段Ｆ２３００が配設される。

【１１２４６】

なお、第１０７実施形態では、導光板ユニットＦ２１００が正面枠Ｐ１４に配設されるので、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した場合には、正面枠Ｐ１４と共に導光板ユニットＦ２１００を、遊技盤Ａ１３、内枠Ｈ１２、及び、外枠Ｈ１１に対して相対変位させることが可能となる。

【１１２４７】

以上のように構成される、第１０７実施形態におけるパチンコ機Ａ１０によれば、導光板Ｆ４００が遊技盤Ａ１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されるので、導光板ユニットＦ２１００を交換しやすくできる。

【１１２４８】

ここで、導光板Ｆ４００は、導光板Ｆ４００に形成した傷により光を乱反射させることで、所定の模様や図柄を遊技者に視認させることが可能に構成される。そのため、導光板Ｆ４００に傷や撓み等が発生すると、その傷や撓みにより遊技者に所定の模様や図柄を正しく認識させることができなくなる恐れがあるため、新しい導光板Ｆ４００に交換する必要がある。

【１１２４９】

また、導光板Ｆ４００に傷や撓みが発生しなくても、パチンコ機Ａ１０の仕様を変更（スペックやモデルの異なるパチンコ機Ａ１０に変更）する場合に、異なる模様や図柄を表示する新しい導光板Ｆ４００に交換する必要が生じる。

【１１２５０】

これらの場合、上記第１０５実施形態のように、導光板ユニットＦ１００が遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるものでは、導光板ユニットＦ１００を交換する際に、内枠Ｈ１２から遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＤ２００を取り外した上で、動作ユニットＤ２００の背面ケースＤ３００からベース板Ａ６０を取り外す（動作ユニットＤ２００を分解する）必要が生じる。そのため、導光板ユニットＦ１００を交換に手間がかかるという問題があった。

【１１２５１】

これに対し、第１０７実施形態では、導光板ユニットＦ２１００（導光板Ｆ４００）が、遊技盤Ａ１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されるので、内枠Ｈ１２から遊技盤Ａ１３を取り外すことなく導光板ユニットＦ２１００を交換することができる。詳しくは、図４９１に示すように、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した後、正面枠Ｐ１４の背面側（矢印Ｂ方向側）から導光板ユニットＦ２１００に挿入される螺子を取り外すことで、正面枠Ｐ１４から導光板ユニットＦ２１００を取り外すことができる。なお、取付時には、上記の逆の手順、即ち、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した状態で、導光板ユニットＦ２１００を正面枠Ｐ１４の背面側に螺子止めし、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して閉鎖することで、導光板ユニッ

トＦ２１００を配設することができる。
【１１２５２】
従って、第１０７実施形態では、導光板ユニットＦ２１００（導光板Ｆ４００）０を交換する際に、内枠Ｈ１２から遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＤ２００を取り外すこと、及び、動作ユニットＤ２００の背面ケースＤ３００からベース板Ａ６０を取り外す（動作ユニットＤ２００を分解する）必要がないので、その分、導光板ユニットＦ２１００（導光板Ｆ４００）の交換作業を簡易にできる。
【１１２５３】
また、第１０７実施形態では、導光板ユニットＦ２１００が正面枠Ｐ１４に配設されるので、遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０と導光板Ｆ４００との間に遊技球が詰まった場合に、球詰まりを解消する作業を簡易に行うことができる。
【１１２５４】
ここで、上記第１０６実施形態のように、導光板ユニットＦ２１００を遊技盤Ａ１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設するために導光板ユニットＦ２１００を内枠Ｈ１２に配設した場合には、遊技盤Ａ１３と導光板Ｆ４００との間に遊技球の球詰まりが発生した際に、導光板ユニットＦ２１００を遊技盤Ａ１３に対して移動させ、遊技盤Ａ１３の正面側を開放する必要がある。即ち、遊技盤Ａ１３の正面側に作業者の手を入れるための空間を形成する必要がある。
【１１２５５】
これに対し、第１０７実施形態では、導光板ユニットＦ２１００が正面枠Ｐ１４に配設されるので、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放することで、正面枠Ｐ１４と共に導光板ユニットＦ２１００を遊技盤Ａ１３に対して相対変位させることができる。そのため、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した後に、導光板ユニットＦ２１００を遊技盤Ａ１３の正面側（矢印Ｆ方向側）から移動させる作業を不要とできるので、その分、遊技者の作業（球詰まりを解消する作業）を簡易にできる。
【１１２５６】
また、第１０７実施形態では、図６３３（ｂ）に示すように、正面視（矢印Ｂ方向視）において導光板ユニットＦ２１００の導光板Ｆ４００がガラスユニットＨ１６よりも大きく形成され、発光手段Ｆ２２１及び導光板Ｆ４００の外縁部が正面枠Ｐ１４の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる位置に配設される。
【１１２５７】
従って、導光板Ｆ４００を透過して導光板Ｆ４００の外縁部から漏れ出る光や、導光板Ｆ４００と発光手段Ｆ２２１との間から漏れ出る光が、即ち、導光板Ｆ４００の反射部Ｆ４１０で反射されず正面側（矢印Ｆ方向側）に出射される光が遊技者に視認されることを抑制できる。その結果、導光板Ｆ４００に表示される模様や図柄が遊技者に注目されにくくなることを抑制できる。
【１１２５８】
さらに、第１０７実施形態では、導光板ユニットＦ２１００が正面枠Ｐ１４の背面側（矢印Ｂ方向側）に当接した状態で配設され、導光板Ｆ４００の外縁部の正面側（矢印Ｆ方向側）に隣り合う位置に正面枠Ｐ１４及びガラスユニットＨ１６の外縁部材が位置するので、導光板Ｆ４００を透過して導光板Ｆ４００の外縁部から漏れ出る光や、導光板Ｆ４００と発光手段Ｆ２２１との間から漏れ出る光が正面側に漏れ出ることを、正面枠Ｐ１４及びガラスユニットＨ１６の外縁部材により抑制できる。その結果、導光板Ｆ４００に表示される模様や図柄が遊技者に注目されにくくなることを抑制しやすくできる。
【１１２５９】
次いで、図６３４を参照して、第１０８実施形態における導光板ユニットＦ２１００について説明する。上記第１０７実施形態では、導光板Ｆ４００の正面側（矢印Ｆ方向側）にガラスユニットＨ１６が配設する場合について説明したが、第１０８実施形態では、導光板Ｆ４００の正面側のガラスユニットＨ１６が取り外される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略す

る。
【１１２６０】
図６３４（ａ）は、第１０８実施形態におけるパチンコ機Ａ１０の断面模式図であり、図６３４（ｂ）は、パチンコ機Ａ１０の断面模式図である。なお、図６３４（ａ）は、図６３１（ａ）のＥ１４ｂ－Ｅ１４ｂ線における断面と対応し、図６３３（ｂ）は、図６３１（ａ）のＥ１４ｃ－Ｅ１４ｃ線における断面と対応する。
【１１２６１】
図６３４に示すように、第１０８実施形態におけるパチンコ機Ａ１０では、正面枠Ｐ１４の背面側（矢印Ｂ方向側）に導光板ユニットＦ２１００が配設されると共に、正面枠Ｐ１４へのガラスユニットＨ１６の取り付けが省略される。なお、第１０８実施形態における導光板ユニットＦ２１００は、第１０８実施形態と同様に、第１０６実施形態における導光板ユニットＦ２１００が前後反転した向きで配設され、その他の構造は第１０６実施形態における導光板ユニットＦ２１００と同一である。
【１１２６２】
第１０８実施形態では、ガラスユニットＨ１６の取り付けが省略されるため、図６３４（ｂ）に示すように、遊技盤Ａ１３の遊技領域の正面側（矢印Ｆ方向側）において導光板ユニットＦ２１００が最も正面側に配設される。即ち、導光板Ｆ４００がガラスユニットＨ１６を兼用する構成とされる。
【１１２６３】
なお、第１０８実施形態では、導光板ユニットＦ２１００が正面枠Ｐ１４に配設されるので、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した場合には、正面枠Ｐ１４と共に導光板ユニットＦ２１００を、遊技盤Ａ１３、内枠Ｈ１２、及び、外枠Ｈ１１に対して相対変位させることが可能となる。
【１１２６４】
以上のように構成される、第１０８実施形態におけるパチンコ機Ａ１０によれば、第１０６実施形態におけるパチンコ機Ａ１０の奏する効果に加え、導光板ユニットＦ２１００の導光板Ｆ４００にガラスユニットＨ１６の役割を兼用させることができるので、ガラスユニットＨ１６を配設しない分、第１０７実施形態におけるパチンコ機Ａ１０に比べて、正面枠Ｐ１４の組み立てを簡易にできる。
【１１２６５】
また、第１０８実施形態では、導光板Ｆ４００よりも正面側（矢印Ｆ方向側）にガラスユニットＨ１６が配設されない、即ち、導光板Ｆ４００に表示される光の模様や図柄を遊技者に直接視認させることができるので、導光板Ｆ４００に表示される光の模様や図柄がガラスユニットＨ１６によって反射されることを抑制できる。そのため、第１０８実施形態では、導光板Ｆ４００に表示される光も模様や図柄を遊技者に視認させやすくできる。
【１１２６６】
なお、第１０８実施形態では、導光板ユニットＦ２１００の導光板Ｆ４００にガラスユニットＨ１６の役割を兼用させるので、導光板Ｆ４００の厚みを厚くして導光板Ｆ４００の強度を高めても良い。この場合、導光板Ｆ４００の厚みを厚くした分、反射部Ｆ４１０の形成領域の前後幅を大きくできるので、例えば、反射部Ｆ４１０を前後に２分割しても良い。
【１１２６７】
また、第１０８実施形態では、図６３４（ａ）に示すように、正面視（矢印Ｂ方向視）において導光板ユニットＦ２１００の導光板Ｆ４００の外縁部が正面枠Ｐ１４の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる位置に配設される。
【１１２６８】
従って、導光板Ｆ４００を透過して導光板Ｆ４００の外縁部から漏れ出る光や、導光板Ｆ４００と発光手段Ｆ２２１との間から漏れ出る光が、即ち、導光板Ｆ４００の反射部Ｆ４１０で反射されず正面側に出射される光が遊技者に視認されることを抑制できる。その結果、導光板Ｆ４００に表示される模様や図柄が遊技者に注目されにくくなることを抑制

できる。
【１１２６９】
さらに、第１０８実施形態では、導光板ユニットＦ２１００が正面枠Ｐ１４の背面側（矢印Ｂ方向側）に当接した状態で配設され、導光板Ｆ４００の外縁部の正面側（矢印Ｆ方向側）に隣り合う位置に正面枠Ｐ１４が位置するので、導光板Ｆ４００を透過して導光板Ｆ４００の外縁部から漏れ出る光や、導光板Ｆ４００と発光手段Ｆ２２１との間から漏れ出る光が正面側に漏れ出ることを、正面枠Ｐ１４により抑制できる。その結果、導光板Ｆ４００に表示される模様や図柄が遊技者に注目されにくくなることを抑制しやすくできる。
【１１２７０】
次いで、図６３５を参照して、第１０９実施形態における導光板ユニットＦ５１００について説明する。上記第１０８実施形態では、導光板ユニットＦ２１００が正面枠Ｐ１４の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される場合について説明したが、第１０９実施形態では、導光板ユニットＦ５１００が正面枠Ｐ１４の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。
【１１２７１】
図６３５（ａ）は、第１０９実施形態における導光板ユニットＦ５１００の正面図であり、図６３５（ｂ）は、図６３５（ａ）のＥ１５ｂ－Ｅ１５ｂ線における導光板ユニットＦ５１００の断面模式図であり、図６３５（ｃ）は、図６３５（ａ）のＥ１５ｃ－Ｅ１５ｃ線における導光板ユニットＦ５１００の断面模式図である。
【１１２７２】
図６３５に示すように、第１０９実施形態における導光板ユニットＦ５１００は、一側ベース手段Ｆ２２００及び一側カバー手段Ｆ２５００と、それら一側ベース手段Ｆ２２００及び一側カバー手段Ｆ２５００の外側に導光板Ｆ５４００と、を主に備えて形成される。
【１１２７３】
第１０９実施形態における導光板Ｆ５４００は、平坦な板状に形成されると共に遊技盤Ａ１３（図Ｚ００１参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる状態で配設される導光部Ｆ５４２０と、その導光部の周囲に形成される装飾カバー部Ｆ５４３０とを、主に備える。
【１１２７４】
導光部Ｆ５４２０は、一側ベース手段Ｆ２２００及び一側カバー手段Ｆ２５００の内側の空間に配設される導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光を透過すると共に、その透過される光を所定の模様や図柄を形成する位置で正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて反射する部材であり、レーザー加工等により内部に粗面加工される反射部Ｆ４１０が形成される。
【１１２７５】
また、導光部Ｆ５４２０は、導光板側照射用基板Ｆ２２０の発光手段Ｆ２２１から出射される光と重なる位置、即ち、発光手段Ｆ２２１の光の出射方向側に配設され、後述する装飾カバー部Ｆ５４３０との連結部分における側端面から発光手段Ｆ２２１の光を入射可能に構成される。なお、第１０９実施形態における導光板側照射用基板Ｆ２２０では、発光手段Ｆ２２１が第１０５実施形態における正面側発光手段Ｆ２２１ａと対応するＬＥＤのみ備える。
【１１２７６】
装飾カバー部Ｆ５４３０は、正面枠Ｐ１４（図６２２参照）の上側装飾ユニットＰ１４ａと、その上側装飾ユニットＰ１４ａの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側から下方（矢印Ｄ方向側）に向けて延設される左側装飾ユニットＰ１４ｂ及び右側装飾ユニットＰ１４ｃと、の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる大きさに形成され、それら上側装飾ユニットＰ１４ａ、左側装飾ユニットＰ１４ｂ、及び、右側装飾ユニットＰ１４ｃの正面側の化粧面として形成される。そのため、装飾カバー部Ｆ５４３０は、上側装飾ユニットＰ１４ａ、左側

装飾ユニットＰ１４ｂ、及び、右側装飾ユニットＰ１４ｃの正面側に沿った凹凸形状に透明の樹脂材料から形成される。

【１１２７７】

以上のように構成される、第１０９実施形態におけるパチンコ機Ａ１０によれば、導光板Ｆ５４００が遊技盤Ａ１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されるので、導光板ユニットＦ５１００を交換しやすくできる。

【１１２７８】

ここで、導光板Ｆ５４００は、導光板Ｆ５４００に形成した傷により光を乱反射させることで、所定の模様や図柄を遊技者に視認させることが可能に構成される。そのため、導光板Ｆ５４００に傷や撓み等が発生すると、その傷や撓みにより遊技者に所定の模様や図柄を正しく認識させることができなくなる恐れがあるため、新しい導光板Ｆ５４００に交換する必要がある。

【１１２７９】

また、導光板Ｆ５４００に傷や撓みが発生しなくても、パチンコ機Ａ１０の仕様を変更（スペックやモデルの異なるパチンコ機Ａ１０に変更）する場合に、異なる模様や図柄を表示する新しい導光板Ｆ５４００に交換する必要が生じる。

【１１２８０】

これらの場合、上記第１０５実施形態のように、導光板ユニットＦ１００が遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるものでは、導光板ユニットＦ１００を交換する際に、内枠Ｈ１２から遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＤ２００を取り外した上で、動作ユニットＤ２００の背面ケースＤ３００からベース板Ａ６０を取り外す（動作ユニットＤ２００を分解する）必要が生じる。そのため、導光板ユニットＦ１００を交換に手間がかかるという問題があった。

【１１２８１】

これに対し、第１０９実施形態では、導光板ユニットＦ５１００（導光板Ｆ５４００）が、遊技盤Ａ１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されるので、内枠Ｈ１２から遊技盤Ａ１３を取り外すことなく導光板ユニットＦ５１００（導光板Ｆ５４００）を交換することができる。

【１１２８２】

従って、第１０９実施形態では、導光板ユニットＦ５１００（導光板Ｆ５４００）を交換する際に、内枠Ｈ１２から遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＤ２００を取り外すこと、及び、動作ユニットＤ２００の背面ケースＤ３００からベース板Ａ６０を取り外す（動作ユニットＤ２００を分解する）必要がないので、その分、導光板ユニットＦ５１００（導光板Ｆ５４００）の交換作業を簡易にできる。

【１１２８３】

また、第１０９実施形態では、導光板ユニットＦ５１００（導光板Ｆ５４００）が正面枠Ｐ１４の正面側に配設されるので、導光板ユニットＦ５１００（導光板Ｆ５４００）を交換する際に、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放しなくても良い。そのため、導光板ユニットＦ５１００（導光板Ｆ５４００）の交換作業を簡易にできる。

【１１２８４】

また、第１０９実施形態における導光板ユニットＦ５１００では、導光板ユニットＦ５１００（導光板Ｆ５４００）を交換する際に、模様や図柄が表示される導光部Ｆ５４２０と共に、正面枠Ｐ１４のカバー手段を変更することができる。パチンコ機Ａ１０の仕様を変更する際に、正面枠Ｐ１４の化粧面を別途交換する作業を省くことができる。その結果、パチンコ機Ａ１０の仕様を変更する際の作業を簡易にできる。

【１１２８５】

さらに、第１０９実施形態における導光板ユニットＦ５１００では、導光部Ｆ５４２０と一体に形成される装飾カバー部Ｆ５４３０が光透過性の樹脂材料から形成されるので、導光部Ｆ５４２０の端部から入射する発光手段Ｆ２２１の光を装飾カバー部Ｆ５４３０に透過させて、装飾カバー部Ｆ５４３０全体を発光させることができる。即ち、導光部Ｆ５

４２０に模様や図柄を表示させる発光と、装飾カバー部Ｆ５４３０全体の発光とを、発光手段Ｆ２２１で兼用することができる。よって、導光部Ｆ５４２０の発光手段Ｆ２２１と、装飾カバー部Ｆ５４３０の発光手段Ｆ２２１とを別々備える必要が無くなるので、その分、製品コストを低減することができる。

【１１２８６】

次いで、図６３６を参照して、第１１０実施形態における導光板ユニットＦ６１００について説明する。上記第１０６実施形態では、導光板Ｆ４００と導光板側照射用基板Ｆ２２０とが組み合わされたユニットとして構成される場合について説明したが、第１１０実施形態では、導光板Ｆ６４００と、導光板側照射用基板Ｆ２２０とが別のユニットとして構成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。

【１１２８７】

図６３６（ａ）及び図６３６（ｂ）は、第１１０実施形態におけるパチンコ機Ａ１０の断面模式図である。なお、図６３６（ａ）及び図６３６（ｂ）は、図６３１（ａ）のＥ１４ｂ－Ｅ１４ｂ線における断面と対応する。また、図６３６（ａ）では、正面枠Ｐ１４が外枠Ｈ１１及び内枠Ｈ１２に対して閉鎖された状態が図示され、図６３６（ｂ）では、正面枠Ｐ１４が外枠Ｈ１１及び内枠Ｈ１２に対して正面側（矢印Ｆ方向側）に開放された状態が図示される。

【１１２８８】

図６３６（ａ）及び図６３６（ｂ）に示すように、第１１０実施形態では、導光板ユニットＦ６１００が、光を出射する導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）を有する光照射ユニットＦ６１００Ａと、その光照射ユニットＦ６１００Ａから照射される光を入射可能に構成される導光板Ｆ６４００とがそれぞれ正面枠Ｐ１４と内枠Ｈ１２とに配設される。即ち、光照射ユニットＦ６１００Ａと導光板Ｆ５４００とが別のユニットとして構成され、異なるユニット（正面枠Ｐ１４と内枠Ｈ１２と）に配設される。

【１１２８９】

第１１０実施形態における光照射ユニットＦ６１００Ａは、一側ベース手段Ｆ２２００と、一側カバー手段Ｆ２５００と、それら一側ベース手段Ｆ２２００及び一側カバー手段Ｆ２５００の間の空間に配設される導光板側照射用基板Ｆ２２０と、を備えて構成され、一側ベース手段Ｆ２２００が内枠Ｈ１２に螺子により締結固定されることで内枠Ｈ１２に配設される。

【１１２９０】

なお、第１１０実施形態では、光照射ユニットＦ６１００Ａが内枠Ｈ１２の正面（後述する導光板Ｆ６４００の正面）に対して斜めに傾斜した状態で配設され、導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から照射される光を、一側カバー手段Ｆ２５００と一側ベース手段Ｆ２２００との間の空間を介して正面側下方に向けて出射可能に構成される。また、第１１０実施形態における導光板側照射用基板Ｆ２２０では、発光手段Ｆ２２１が第１０５実施形態における正面側発光手段Ｆ２２１ａと対応するＬＥＤのみ備える。

【１１２９１】

導光板Ｆ６４００は、一側ベース手段Ｆ２００の導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光を透過すると共に、その透過される光を所定の模様や図柄を形成する位置で正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて反射する部材であり、光透過性の透明な樹脂材料から所定の厚みを有する板状に形成され、板面を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に向けた状態で正面枠Ｐ１４（ガラスユニットＨ１６の外縁部）に螺子により締結固定される。また、導光板Ｆ６４００は、上端側（導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光を入射する側）の端部が上端側に向かって背面側（矢印Ｂ方向側）から正面側に板厚が小さくされ、上端部に傾斜した傾斜面Ｆ６４０３が形成される。

【１１２９２】

傾斜面Ｆ６４０３は、導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光が入射される面であり、導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射

される光の照射方向に対して略直交する平坦面に形成され、正面枠Ｐ１４が外枠Ｈ１１及び内枠Ｈ１２に対して閉鎖された状態（図６３６（ａ）に示す状態）において、導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光の照射領域に配設される。

【１１２９３】

以上のように構成される第１１０実施形態における導光板ユニットＦ６１００によれば、導光板Ｆ６４００が遊技盤Ａ１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）の正面枠Ｐ１４側に配設され、導光板Ｆ６４００を正面枠Ｐ１４と共に内枠Ｈ１２に対して相対変位させることができるので、導光板ユニットＦ２１００を交換しやすくできる。

【１１２９４】

ここで、導光板Ｆ６４００は、導光板Ｆ６４００に形成した傷により光を乱反射させることで、所定の模様や図柄を遊技者に視認させることが可能に構成される。そのため、導光板Ｆ６４００に傷や撓み等が発生すると、その傷や撓みにより遊技者に所定の模様や図柄を正しく認識させることができなくなる恐れがあるため、新しい導光板Ｆ６４００に交換する必要がある。

【１１２９５】

また、導光板Ｆ６４００に傷や撓みが発生しなくても、パチンコ機Ａ１０の仕様を変更（スペックやモデルの異なるパチンコ機Ａ１０に変更）する場合に、異なる模様や図柄を表示する新しい導光板Ｆ６４００に交換する必要が生じる。

【１１２９６】

これらの場合、上記第１０５実施形態のように、導光板ユニットＦ１００（導光板Ｆ４００）が遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるものでは、導光板ユニットＦ１００（導光板Ｆ４００）を交換する際に、内枠Ｈ１２から遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＤ２００を取り外した上で、動作ユニットＤ２００の背面ケースＤ３００からベース板Ａ６０を取り外す（動作ユニットＤ２００を分解する）必要が生じる。そのため、導光板ユニットＦ１００（導光板Ｆ４００）の交換に手間がかかるという問題があった。

【１１２９７】

これに対し、第１１０実施形態では、導光板Ｆ６４００が、遊技盤Ａ１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されるので、内枠Ｈ１２から遊技盤Ａ１３を取り外すことなく導光板Ｆ６４００を交換することができる。詳しくは、図４９１に示すように、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した後、正面枠Ｐ１４の背面側（矢印Ｂ方向側）から導光板Ｆ６４００を取り外すことができる。なお、取付時には、上記の逆の手順、即ち、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した状態で、導光板Ｆ６４００を正面枠Ｐ１４の背面側に螺子止めし、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して閉鎖することで、導光板Ｆ６４００を配設することができる。

【１１２９８】

従って、第１１０実施形態では、導光板Ｆ６４００を交換する際に、内枠Ｈ１２から遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＤ２００を取り外すこと、及び、動作ユニットＤ２００の背面ケースＤ３００からベース板Ａ６０を取り外す（動作ユニットＤ２００を分解する）必要がないので、その分、導光板Ｆ６４００の交換作業を簡易にできる。

【１１２９９】

また、この場合、第１１０実施形態では、光照射ユニットＦ６１００Ａが内枠Ｈ１２に配設され、導光板Ｆ６４００が正面枠Ｐ１４に配設されるので、光照射ユニットＦ６１００Ａ（発光手段Ｆ２２１）をパチンコ機Ａ１０（内枠Ｈ１２）から取り外すことなく、導光板Ｆ６４００のみ交換することができ、上記第１０７実施形態における導光板ユニットＦ２１００のように、光照射ユニットＦ６１００Ａ（一側ベース手段Ｆ２２００、一側カバー手段Ｆ２５００、及び、導光板側照射用基板Ｆ２２０）を交換する必要がないので、導光板Ｆ６４００を交換する際の部品コストを低減しつつ、パチンコ機Ａ１０の仕様の変更（スペックやモデルの異なるパチンコ機Ａ１０に変更）に対応できる。また、導光板側照射用基板Ｆ２２０に電力を供給するための配線等を繋ぎ直す必要もないので、導光板Ｆ

６４００を交換する際の作業性を向上できる。
【１１３００】
　また、第１１０実施形態では、導光板Ｆ６４００が正面枠Ｐ１４に配設されるので、遊技盤Ａ１３と導光板Ｆ６４００との間に遊技球が詰まった場合に、球詰まりを解消する作業を簡易に行うことができる。
【１１３０１】
　ここで、上記第１０６実施形態のように、導光板ユニットＦ２１００を遊技盤Ａ１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設するために導光板ユニットＦ２１００を内枠Ｈ１２に配設した場合には、遊技盤Ａ１３と導光板Ｆ４００との間に遊技球の球詰まりが発生した際に、導光板ユニットＦ２１００を遊技盤Ａ１３に対して移動させ、遊技盤Ａ１３の正面側を開放する必要がある。即ち、遊技盤Ａ１３の正面側に作業者の手を入れるための空間を形成する必要がある。
【１１３０２】
　これに対し、第１１０実施形態では、導光板Ｆ６４００が正面枠Ｐ１４に配設されるので、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放することで、正面枠Ｐ１４と共に導光板Ｆ６４００を遊技盤Ａ１３に対して相対変位させることができる。そのため、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した後に、導光板Ｆ６４００を遊技盤Ａ１３の正面側（矢印Ｆ方向側）から移動させる作業を不要とできるので、その分、遊技者の作業（球詰まりを解消する作業）を簡易にできる。
【１１３０３】
　さらに、第１１０実施形態では、光を出射する導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）を有する光照射ユニットＦ６１００Ａが内枠Ｈ１２側に配設される、即ち、導光板側照射用基板Ｆ２２０を制御する基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４が配設される内枠Ｈ１２に光照射ユニットＦ６１００Ａが配設されるので、光照射ユニットＦ６１００Ａ（導光板側照射用基板Ｆ２２０）に接続する配線を短くできる。
【１１３０４】
　即ち、内枠Ｈ１２に対して相対変位する正面枠Ｐ１４に光照射ユニットＦ６１００Ａが配設される場合には、その相対変位を許容する長さの配線が必要になるところ、第１１０実施形態における光照射ユニットＦ６１００Ａでは、相対変位を許容する長さの配線を不要とできる。その結果、配線を長くしたことにより配線が外枠Ｈ１１又は内枠Ｈ１２と正面枠Ｐ１４との間に挟まることを抑制できると共に、配線を短くできる分、製造コストを低減できる。
【１１３０５】
　また、第１１０実施形態では、光照射ユニットＦ６１００Ａが内枠Ｈ１２に配設され、導光板Ｆ６４００が正面枠Ｐ１４に配設されるので、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した際に、発光手段Ｆ２２１の光照射側に位置していた導光板Ｆ６４００を発光手段Ｆ２２１から離間させることができる。よって、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した際に、作業者に発光手段Ｆ２２１の光を直接視認させることが可能とされる。
【１１３０６】
　即ち、上記第１０６実施形態における導光板ユニットＦ２１００のように、導光板Ｆ４００とベース手段（一側ベース手段Ｆ２２００、一側カバー手段Ｆ２５００、他側ベース手段Ｆ２３００、他側カバー手段Ｆ２６００）とがユニットとして構成されるものでは、一側ベース手段Ｆ２２００に配設される発光手段Ｆ２２１の光を直接視認するためには、導光板ユニットＦ２１００を分割（分解）する必要がある。そのため、導光板ユニットＦ２１００のように、導光板Ｆ４００とベース手段（一側ベース手段Ｆ２２００、一側カバー手段Ｆ２５００、他側ベース手段Ｆ２３００、他側カバー手段Ｆ２６００）とがユニットとして構成されるものでは、発光手段Ｆ２２１と導光板Ｆ４００との配置のずれを抑制できるものの、発光手段Ｆ２２１の光により作業者にパチンコ機Ａ１０の異常を報知することは困難であった。

【１１３０７】
これに対し、第１１０実施形態では、正面枠Ｐ１４が内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放したことに伴い発光手段Ｆ２２１に所定の発光をさせることで、作業者が光照射ユニットＦ６１００Ａ（発光手段Ｆ２２１）を内枠Ｈ１２から取り外さなくても、作業者にパチンコ機Ａ１０の状態を報知することが可能とされる。
【１１３０８】
なお、発行手段Ｆ２２１にさせる所定の発光とは、例えば、複数の発光手段Ｆ２２１の発光・消灯の組み合わせや、発光色の組み合わせであり、これらの組み合わせにより、パチンコ機Ａ１０の異常の内容を作業者に報知することができる。
【１１３０９】
また、光照射ユニットＦ６１００Ａが内枠Ｈ１２に配設され、導光板Ｆ６４００が正面枠Ｐ１４に配設されるので、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した際に、発光手段Ｆ２２１の光照射側に位置していた導光板Ｆ６４００を発光手段Ｆ２２１から離間させることができるので、導光板Ｆ６４００の光入射面に作業者がアクセス可能となる。その結果、導光板Ｆ６４００の光入射面の清掃を簡易にでき、導光板Ｆ６４００への光の入射量を維持することができる。
【１１３１０】
さらに、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した際に、発光手段Ｆ２２１の光照射側に位置していた導光板Ｆ６４００を発光手段Ｆ２２１から離間させられるので、導光板Ｆ６４００の交換時には、導光板Ｆ６４００のみの交換作業を行いやすくできる。
【１１３１１】
また、第１１０実施形態では、図６３６（ａ）に示すように、正面視（矢印Ｂ方向視）において導光板ユニットＦ６１００の導光板Ｆ６４００がガラスユニットＨ１６よりも大きく形成され、発光手段Ｆ２２１及び導光板Ｆ６４００の外縁部が正面枠Ｐ１４の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる位置に配設される。
【１１３１２】
従って、導光板Ｆ６４００を透過して導光板Ｆ６４００の外縁部から漏れ出る光や、導光板Ｆ４００と発光手段Ｆ２２１との間から漏れ出る光、即ち、導光板Ｆ６４００の反射部Ｆ４１０で反射されず正面側（矢印Ｆ方向側）に出射される光が、遊技者に視認されることを抑制できる。その結果、導光板Ｆ６４００に表示される模様や図柄が遊技者に注目されにくくなることを抑制できる。
【１１３１３】
さらに、第１１０実施形態では、導光板Ｆ６４００の外縁部がガラスユニットＨ１６の外縁部材に締結され、導光板Ｆ６４００の外縁部の正面側（矢印Ｆ方向側）に隣り合う位置にガラスユニットＨ１６の外縁部材が位置するので、導光板Ｆ６４００を透過して導光板Ｆ６４００の外縁部から漏れ出る光や、導光板Ｆ６４００と発光手段Ｆ２２１との間から漏れ出る光が正面側に漏れ出ることを、ガラスユニットＨ１６の外縁部材により抑制できる。その結果、導光板Ｆ６４００に表示される模様や図柄が遊技者に注目されにくくなることを抑制しやすくできる。
【１１３１４】
次いで、図６３７及び図６３８を参照して、第１１１実施形態における第３図柄表示装置Ｈ８１および導光板ユニットＦ２１００について説明する。上記第１０７実施形態では、導光板Ｆ４００を介して視認される第３図柄表示装置Ｈ８１が背面ケースＤ３００に固定される場合について説明したが、第１１１実施形態における第３図柄表示装置Ｈ８１は、背面ケースＤ３００に対して変位可能に構成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。
【１１３１５】
図６３７は、第１１１実施形態における動作ユニットＤ２００の分解正面斜視図である。図６３８（ａ）及び図６３８（ｂ）は、パチンコ機Ａ１０の断面模式図である。なお、

図６３８（ａ）及び図６３８（ｂ）は、図６３１（ａ）のＥ１４ｃ－Ｅ１４ｃ線における断面と対応する。

【１１３１６】

また、第１１１実施形態における導光板ユニットＦ２１００は、上記第１０７実施形態における導光板ユニットＦ２１００と同様、正面枠Ｐ１４に配設されるものであるため、その詳しい説明は省略する。

【１１３１７】

図６３７に示すように、第１１１実施形態における第３図柄表示装置Ｈ８１は、背面ケースＤ３００に配設される２個のソレノイドＦ７３０３を介して背面ケースＤ３００の底壁部Ｄ３０１に配設される。

【１１３１８】

ソレノイドＦ７３０３は、電力が付与される本体部Ｆ７３０３ａと、その本体部Ｆ７３０３ａの内側に変位可能な状態で配設される軸部Ｆ７３０３ｂと、を備え、軸部Ｆ７３０３ｂを前後方向に変位可能な状態で本体部Ｆ７３０３ａが背面ケースＤ３００の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。

【１１３１９】

なお、第３図柄表示装置Ｈ８１は、軸部Ｆ７３０３ｂの先端側に配設され、軸部Ｆ７３０ｂの前後方向の変位に合わせて、背面ケースＤ３００に対して前後方向に変位可能とされる。

【１１３２０】

以上のように構成される第１１１実施形態では、第３図柄表示装置Ｈ８１を導光板Ｆ４００に近づけることができるので、第３図柄表示装置Ｈ８１と導光板Ｆ４００とを合わせた表示を遊技者に正しく認識させることができる。

【１１３２１】

ここで、上記第１０７実施形態および本実施形態の第１１１実施形態における導光板ユニットＦ２１００のように、導光板ユニットＦ２１００を、遊技盤Ａ１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設して、導光板ユニットＦ２１００の交換作業を簡易にしたものでは、第１０５実施形態における導光板ユニットＦ１００に比べて導光板Ｆ４００の配設位置が第３図柄表示装置Ｈ８１から離間する。

【１１３２２】

そのため、導光板Ｆ４００に表示させる図柄や模様と、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される図柄や模様とを合わせて視認させる場合に、遊技者の視点（高さ）の違いによって、導光板Ｆ４００に表示させる図柄や模様と、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される図柄や模様とのずれる量が大きくなりやすい。そのため、導光板Ｆ４００に表示させる図柄や模様と、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される図柄や模様とが正しく合わさった態様で遊技者に視認させることが困難になるという問題がある。

【１１３２３】

これに対し、第１１１実施形態では、第３図柄表示装置Ｈ８１を前後方向に変位可能に構成されるので、導光板Ｆ４００に表示させる図柄や模様と、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される図柄や模様とを合わせて視認させる場合に、第３図柄表示装置Ｈ８１を図６３８（ｂ）に示すように正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出させることで第３図柄表示装置Ｈ８１を導光板Ｆ４００に近づけることができる。即ち、第１１１実施形態では、導光板Ｆ４００の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される対象物（第３図柄表示装置Ｈ８１）を変位させることで、導光板Ｆ４００を介して視認される対象物（第３図柄表示装置Ｈ８１）と導光板Ｆ４００との前後方向の距離を変更する（近づける）ことができる。これにより、第１１１実施形態では、導光板ユニットＦ２１００が遊技盤Ａ１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される場合であっても、導光板Ｆ４００に表示させる図柄や模様と、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される図柄や模様とを正しく合わせた態様で遊技者に視認させやすくできる。

【１１３２４】

次いで、図６３９を参照して、第１１２実施形態における導光板ユニットＦ８１００について説明する。上記第１０６実施形態では、導光板ユニットＦ２１００に１枚の導光板Ｆ４００を配設する場合について説明したが、第１１２実施形態では、複数枚（２枚）の導光板（第１導光板Ｆ８４００Ａ，第２導光板Ｆ８４００Ｂ）が配設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。

【１１３２５】

図６３９（ａ）及び図６３９（ｂ）は、第１１２実施形態におけるパチンコ機Ａ１０の断面模式図であり、図６３９（ａ）は、図６３１（ａ）のＥ１４ｂ－Ｅ１４ｂ線におけるパチンコ機Ａ１０の断面と対応し、図６３９（ｂ）は、図６３１（ａ）のＥ１４ｃ－Ｅ１４ｃ線におけるパチンコ機Ａ１０の断面と対応する。

【１１３２６】

図６３９に示すように、第１１２実施形態におけるパチンコ機Ａ１０では、内枠Ｈ１２の正面側（矢印Ｆ方向側）に導光板ユニットＦ８１００が配設される。また、導光板ユニットＦ８１００は、第１導光板Ｆ８４００Ａ及び第２導光板Ｆ８４００Ｂが遊技盤Ａ１３の正面側に重なる状態で配設されると共に、それら第１導光板Ｆ８４００Ａ及び第２導光板Ｆ８４００Ｂを保持する保持部材（一側ベース手段Ｆ２２００、他側ベース手段Ｆ２３００、一側カバー手段Ｆ２５００、及び、他側カバー手段Ｆ２６００）が外枠Ｈ１１の内側に配置される。

【１１３２７】

第１０６実施形態における導光板ユニットＦ８１００は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の間隔を隔てて配設される一側ベース手段Ｆ２２００及び他側ベース手段Ｆ２３００と、それら一側ベース手段Ｆ２２００及び他側ベース手段Ｆ２３００のそれぞれの正面側（矢印Ｆ方向側）に一部が重なる状態で一側ベース手段Ｆ２２００及び他側ベース手段Ｆ２３００の間に介在される第１導光板Ｆ８４００Ａと、その第１導光板Ｆ８４００Ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に接続される第２導光板Ｆ８４００Ｂと、一側ベース手段Ｆ２２００及び他側ベース手段Ｆ２３００の間に第１導光板Ｆ８４００Ａを挟持した状態で、一側ベース手段Ｆ２２００及び他側ベース手段Ｆ２３００のそれぞれの正面側に配設される一側カバー手段Ｆ２５００及び他側カバー手段Ｆ２６００と、を主に備える。

【１１３２８】

なお、第１導光板Ｆ８４００Ａ及び第２導光板Ｆ８４００Ｂを保持する保持部材（一側ベース手段Ｆ２２００、他側ベース手段Ｆ２３００、一側カバー手段Ｆ２５００、及び、他側カバー手段Ｆ２６００）は、上記第１０６実施形態における一側ベース手段Ｆ２２００、他側ベース手段Ｆ２３００、一側カバー手段Ｆ２５００、及び、他側カバー手段Ｆ２６００と同一であるためその詳しい説明は省略する。

【１１３２９】

第１導光板Ｆ８４００Ａは、一側ベース手段Ｆ２２００の導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光を透過すると共に、その透過される光を所定の模様や図柄を形成する位置で正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて反射する部材であり、光透過性の透明な樹脂材料から所定の厚みを有する板状に形成され、板面を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に向けた状態で配設される。

【１１３３０】

また、第１導光板Ｆ８４００Ａには、一側ベース手段Ｆ２２００側（矢印Ｕ方向側）及び他側ベース手段Ｆ２３００側（矢印Ｄ方向側）の端部に後述する第２導光板Ｆ８４００Ｂを挿通した螺子を締結するための雌ねじ（図示しない）が形成され、背面側（矢印Ｂ方向側）に第２導光板Ｆ８４００Ｂを配設することが可能とされる。さらに、第１導光板Ｆ８４００Ａには、レーザー加工等により第１導光板Ｆ８４００Ａの内部に粗面加工される反射部Ｆ８４１０Ａが形成される。

【１１３３１】

反射部Ｆ８４１０Ａは、第１導光板Ｆ８４００Ａの正面視（矢印Ｂ方向視）において、

第１導光板Ｆ８４００Ａに入射される光を出射する導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から離れた下方側（矢印Ｄ方向側）に模様や図柄等の形状で加工される。これにより、第１導光板Ｆ８４００Ａの内部に入射される光は、第１導光板Ｆ８４００Ａの上方側（矢印Ｕ方向側）の領域を透過して、第１導光板Ｆ８４００Ａの下方側（の領域）で反射部Ｆ８４１０Ａの荒面により乱反射してパチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から出射される。なお、第１導光板Ｆ８４００Ａに形成される図柄は、一続き（即ち、１個）の模様または図柄でなくても良く、断続的な（即ち、複数個の）模様または図柄であっても良い。

【１１３３２】

第２導光板Ｆ８４００Ｂは、第１導光板Ｆ８４００Ａを透過する導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射された一部の光を入射させて透過すると共に、その透過される光を所定の模様や図柄を形成する位置で正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて反射する部材であり、光透過性の透明な樹脂材料から所定の厚みを有する板状に形成され、板面を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に向けた状態で配設される。

【１１３３３】

また、第２導光板Ｆ８４００Ｂは、一側ベース手段Ｆ２２００側（矢印Ｕ方向側）及び他側ベース手段Ｆ２３００側（矢印Ｄ方向側）の端部に所定の厚みを有する（前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における厚みが大きくされた）当接部Ｆ８４２０Ｂを備える。第２導光板Ｆ８４００Ｂは、当接部Ｆ８４２０Ｂを第１導光板Ｆ８４００Ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に当接されると共に、当接部Ｆ８４２０Ｂに形成される挿通孔に挿通した螺子が第１導光板Ｆ８４００Ａに締結される。これにより、第２導光板Ｆ８４００Ｂは、正面視（矢印Ｂ方向視）における略中央部（当接部Ｆ８４２０Ｂ以外の領域）において、第１導光板Ｆ８４００Ａとの間に所定の隙間を有した状態で第１導光板Ｆ８４００Ａの背面側に配設される。なお、第２導光板Ｆ８４００Ｂには、第１導光板Ｆ８４００Ａを透過する一部の光が第１導光板Ｆ８４００Ａに当接する当接部Ｆ８４２０Ｂを介して入射するように構成される。

【１１３３４】

第２導光板Ｆ８４００Ｂには、レーザー加工等により第２導光板Ｆ８４００Ｂの内部に粗面加工される反射部Ｆ８４１０Ｂが形成される。反射部Ｆ８４１０Ｂは、第２導光板Ｆ８４００Ｂの正面視（矢印Ｂ方向視）において、第１導光板Ｆ８４００Ａから光が入射される当接部Ｆ８４２０Ｂが形成される上方側（矢印Ｕ方向側）に模様や図柄等の形状で加工される。これにより、第２導光板Ｆ８４００Ｂの内部に入射される光は、第２導光板Ｆ８４００Ｂの上方側の領域で反射部Ｆ８４１０Ｂの荒面により乱反射してパチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から出射される。なお、第１導光板Ｆ８４００Ａに形成される図柄は、一続き（即ち、１個）の模様または図柄でなくても良く、断続的な（即ち、複数個の）模様または図柄であっても良い。

【１１３３５】

なお、第１導光板Ｆ８４００Ａに形成される反射部Ｆ８４１０Ａと、第２導光板Ｆ８４００Ｂに形成される反射部Ｆ８４１０Ｂとは、正面視（矢印Ｂ方向視）において上下方向に異なる（重ならない）位置に形成される。即ち、第１１２実施形態における導光板ユニットＦ８１００では、正面視において上方側（矢印Ｕ方向側）の模様や図柄が第２導光板Ｆ８４００Ｂの反射部Ｆ８４１０Ｂにより形成され、正面視において下方側（矢印Ｄ方向側）の模様や図柄が第１導光板Ｆ８４００Ａの反射部Ｆ８４１０Ａにより形成される。

【１１３３６】

以上のように構成される第１１２実施形態における導光板ユニットＦ８１００によれば、上記第１０６実施形態における導光板ユニットＦ２１００と同様に、導光板ユニットＦ８１００が遊技盤Ａ１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されるので、導光板ユニットＦ８１００を交換しやすくできる。

【１１３３７】

しかしながら、第１０６実施形態における導光板ユニットＦ２１００のように、導光板

Ｆ４００を遊技盤Ａ１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設して、導光板Ｆ４００と遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０との間に遊技球が流下する遊技領域を形成するものでは、導光板Ｆ４００に流下する遊技球が導光板Ｆ４００に当接可能となるため、その当接により導光板Ｆ４００に傷が形成される恐れがある。特に、遊技盤Ａ１３に配設される釘や風車等により球の流れが不均一になる遊技領域の下方側（矢印Ｄ方向側）では、導光板Ｆ４００に遊技球が当接しやすく、その当接の傷により導光板Ｆ４００に表示される模様や図柄を遊技者に正しく認識させられなくなる可能性がある。

【１１３３８】

これに対し、第１１２実施形態における導光板ユニットＦ８１００では、第１導光板Ｆ８４００Ａ及び第２導光板Ｆ８４００Ｂの２枚の導光板から形成されるので、正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第１導光板Ｆ８４００Ａに遊技領域を流下する遊技球が当接することを抑制できる。そのため、遊技領域を流下する遊技球により、第１導光板Ｆ８４００Ａに表示される模様や図柄の態様が認識されにくくなることを抑制できる。

【１１３３９】

一方、第２導光板Ｆ８４００Ｂは、第１導光板Ｆ８４００Ａを透過する一部の光が入射可能に構成されるため、当接部Ｆ８４２０Ｂから入射された光が、第２導光板Ｆ８４００Ｂの下方側（矢印Ｄ方向側）の領域（第１導光板Ｆ８４００Ａに反射部Ｆ８４１０Ａが形成される領域）まで透過しにくくされる。そのため、遊技領域の下方側の領域において、遊技領域を流下する遊技球により第２導光板Ｆ８４００Ｂに傷が形成されたとしても、その傷により反射される光の量を少なくできる。従って、遊技領域の下方側の領域において、第１導光板Ｆ８４００Ａの反射部Ｆ８４１０Ａにより形成される図柄や模様の表示が、第２導光板Ｆ８４００Ｂに形成される傷により正しく視認されにくくなることを抑制できる。

【１１３４０】

また、第１１２実施形態では、第１導光板Ｆ８４００Ａに形成される反射部Ｆ８４１０Ａが、導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から離れた下方側（矢印Ｄ方向側）の領域にのみ形成されるので、第１導光板Ｆ８４００Ａの上方側（矢印Ｕ方向側）の領域で第１導光板Ｆ８４００Ａの外方に光が抜け出ることを抑制できる。その結果、第１１２実施形態では、遊技領域の下方側の領域において、第１導光板Ｆ８４００Ａの反射部Ｆ８４１０Ａにより形成される図柄や模様の表示を遊技者に視認させやすくできる。

【１１３４１】

さらに、第２導光板Ｆ８４００Ｂには、第１導光板Ｆ８４００Ａを透過する一部の光が入射可能に構成されるので、第２導光板Ｆ８４００Ｂに光を入射させるための発光手段Ｆ２２１を第１導光板Ｆ８４００Ａ側以外（即ち、第２導光板Ｆ８４００側）に備える必要が無くなる。その結果、導光板ユニットＦ８１００の製品コストを低減できる。

【１１３４２】

また、第１導光板Ｆ８４００Ａと第２導光板Ｆ８４００Ｂとは、正面視（矢印Ｂ方向視）における略中央部（当接部Ｆ８４２０Ｂ以外の領域）において、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の隙間を有した状態で第１導光板Ｆ８４００Ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるので、第１導光板Ｆ８４００Ａ又は第２導光板Ｆ８４００Ｂが撓んだ際に擦れて、第１導光板Ｆ８４００Ａ及び第２導光板Ｆ８４００Ｂに傷が形成されることを抑制できる。その結果、第１導光板Ｆ８４００Ａ及び第２導光板Ｆ８４００Ｂに表示される模様や図柄を遊技者に視認させやすくできる。

【１１３４３】

また、正面視（矢印Ｂ方向視）における略中央部（当接部Ｆ８４２０Ｂ以外の領域）において、第１導光板Ｆ８４００Ａと第２導光板Ｆ８４００Ｂとが前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の隙間を有した状態で配設されるので、正面視において、第１導光板Ｆ８４００Ａに表示される模様や図柄と、第２導光板Ｆ８４００Ｂに表示される模様や図柄とを合わせて視認させた際に、それらの表示を立体的に視認させることができる。その結果、第１導光板Ｆ８４００Ａ及び第２導光板Ｆ８４００Ｂの表示による遊技者の興趣を高めやす

くできる。
【１１３４４】
さらに、第１１２実施形態における第１導光板Ｆ８４００Ａ及び第２導光板Ｆ８４００Ｂは、第２導光板Ｆ８４００Ｂの当接部Ｆ８４２０Ｂにより正面視における外縁部が当接した状態（隙間が無い状態）とされるので、第１導光板Ｆ８４００Ａ及び第２導光板Ｆ８４００Ｂの対向間に埃やごみが入り込むことを抑制できる。その結果、第１導光板Ｆ８４００Ａ及び第２導光板Ｆ８４００Ｂの対向面が汚れることを抑制でき、それら対向面の清掃が困難になることを抑制できる。
【１１３４５】
なお、第１１２実施形態では、第２導光板Ｆ８４００Ｂに形成される傷の量が増えて、第２導光板Ｆ８４００Ｂを交換する必要が生じた場合には、導光板ユニットＦ８１００をユニットで交換するだけでなく、内枠Ｈ１２から導光板ユニットＦ８１００を取り外した後で、第１導光板Ｆ８４００Ａから第２導光板Ｆ８４００Ｂを取り外して第２導光板Ｆ８４００Ｂのみを交換しても良い。
【１１３４６】
次いで、図６４０を参照して、第１１３実施形態における導光板ユニットＦ９１００について説明する。上記第１１２実施形態では、第１導光板Ｆ８４００Ａ及び第２導光板Ｆ８４００Ｂと導光板側照射用基板Ｆ２３０とが組み合わされたユニットとして構成される場合について説明したが、第１１２実施形態では、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂと、導光板側照射用基板Ｆ２２０とが別のユニットとして構成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。
【１１３４７】
図６４０（ａ）及び図６４０（ｂ）は、第１１３実施形態におけるパチンコ機Ａ１０の断面模式図であり、図６４０（ａ）は、図６３１（ａ）のＥ１４ｂ－Ｅ１４ｂ線におけるパチンコ機Ａ１０の断面と対応し、図６４０（ｂ）は、図６３１（ａ）のＥ１４ｃ－Ｅ１４ｃ線におけるパチンコ機Ａ１０の断面と対応する。
【１１３４８】
図６４０に示すように、第１１３実施形態におけるパチンコ機Ａ１０では、内枠Ｈ１２の正面側（矢印Ｆ方向側）に導光板ユニットＦ９１００が配設される。また、導光板ユニットＦ９１００は、光を出射する導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）を有する光照射ユニットＦ９１００Ａと、その光照射ユニットＦ９１００Ａから照射される光を入射可能に構成される第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂとが、それぞれ正面枠Ｐ１４と内枠Ｈ１２とに配設される。即ち、光照射ユニットＦ９１００Ａと、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂとが別のユニットとして構成され、異なるユニット（正面枠Ｐ１４と内枠Ｈ１２と）に配設される。
【１１３４９】
第１１３実施形態における光照射ユニットＦ９１００Ａは、一側ベース手段Ｆ２２００と、一側カバー手段Ｆ２５００と、それら一側ベース手段Ｆ２２００及び一側カバー手段Ｆ２５００の間の空間に配設される導光板側照射用基板Ｆ２２０と、を備えて構成され、一側ベース手段Ｆ２２００が正面枠Ｐ１４に螺子により締結固定されることで正面枠Ｐ１４に配設される。
【１１３５０】
なお、第１１３実施形態では、光照射ユニットＦ９１００Ａが、導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から照射される光を第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂの正面、即ち、背面側（矢印Ｂ方向側）に向けて出射可能に正面枠Ｐ１４に配設される。なお、第１１３実施形態における導光板側照射用基板Ｆ２２０では、発光手段Ｆ２２１が第１０５実施形態における正面側発光手段Ｆ２２１ａと対応するＬＥＤのみ備える。
【１１３５１】

第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の隙間を空けた状態で配設されると共に、外縁側に保持部材Ｆ９４００Ｃを有し、その保持部材Ｆ９４００Ｃにより１のユニットとして構成される。また、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂは、保持部材Ｆ９４００Ｃが内枠Ｈ１２に螺子により締結されることで、内枠Ｈ１２に固定される。

【１１３５２】

第１導光板Ｆ９４００Ａは、光照射ユニットＦ９１００Ａの導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光を透過すると共に、その透過される光を所定の模様や図柄を形成する位置で正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて反射する部材であり、光透過性の透明な樹脂材料から所定の厚みを有する板状に形成され、板面を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に向けた状態で配設される。

【１１３５３】

また、第１導光板Ｆ９４００Ａには、光照射ユニットＦ９１００Ａの導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光が照射される領域（上方側（矢印Ｕ方向側）端部）に背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって先細り形状に凹設される入射部Ｆ９４３０Ａが形成される。この入射部Ｆ９４３０Ａの傾斜により、第１導光板Ｆ９４００Ａの正面に対して略直交する方向から照射される光照射ユニットＦ９１００Ａの導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）の光を、上下方向に反射して第１導光板Ｆ９４００Ａの内部に入射させると共に第１導光板Ｆ９４００Ａの内部を上下方向に向けて透過させることができる。

【１１３５４】

さらに、第１導光板Ｆ９４００Ａには、レーザー加工等により第１導光板Ｆ９４００Ａの内部に粗面加工される反射部Ｆ８４１０Ａが形成される。反射部Ｆ８４１０Ａは、第１導光板Ｆ９４００Ａの正面視（矢印Ｂ方向視）において、第１導光板Ｆ９４００Ａに入射される光を出射する導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から離れた下方側（矢印Ｄ方向側）に模様や図柄等の形状で加工される。これにより、第１導光板Ｆ９４００Ａの内部に入射される光は、第１導光板Ｆ９４００Ａの上方側（矢印Ｕ方向側）の領域を透過して、第１導光板Ｆ９４００Ａの下方側の領域で反射部Ｆ８４１０Ａの荒面により乱反射してパチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から出射される。なお、第１導光板Ｆ８４００Ａに形成される図柄は、一続き（即ち、１個）の模様または図柄でなくても良く、断続的な（即ち、複数個の）模様または図柄であっても良い。

【１１３５５】

第２導光板Ｆ９４００Ｂは、第１導光板Ｆ９４００Ａ（入射部Ｆ９４３０Ａ）を透過して第２導光板Ｆ９４００Ｂまで照射された光（即ち、第１導光板Ｆ９４００Ａの内部を上下方向に進まなかった光）を入射させて透過すると共に、その透過される光を所定の模様や図柄を形成する位置で正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて反射する部材であり、光透過性の透明な樹脂材料から所定の厚みを有する板状に形成され、板面を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に向けた状態で配設される。

【１１３５６】

また、第２導光板Ｆ９４００Ｂには、第１導光板Ｆ９４００Ａと同様に、光照射ユニットＦ９１００Ａの導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光が照射される領域（上方側（矢印Ｕ方向側）端部）に背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって先細り形状に凹設される入射部Ｆ９４３０Ｂが形成される。この入射部Ｆ９４３０Ｂの傾斜により、第２導光板Ｆ９４００Ｂの正面に対して略直交する方向から照射される光照射ユニットＦ９１００Ａの導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）の光を、上下方向に反射して第２導光板Ｆ９４００Ｂの内部に入射させると共に第２導光板Ｆ９４００Ｂの内部を上下方向に向けて透過させることができる。

【１１３５７】

第２導光板Ｆ９４００Ｂには、レーザー加工等により第２導光板Ｆ９４００Ｂの内部に粗面加工される反射部Ｆ８４１０Ｂが形成される。反射部Ｆ８４１０Ｂは、第２導光板Ｆ

９４００Ｂの正面視（矢印Ｂ方向視）において、第２導光板Ｆ９４００Ｂの上方側（矢印Ｕ方向側）の領域に模様や図柄等の形状で加工される。これにより、第２導光板Ｆ９４００Ｂの内部に入射される光は、第２導光板Ｆ９４００Ｂの上方側の領域で反射部Ｆ８４１０Ｂの荒面により乱反射されてパチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から出射される。なお、第１導光板Ｆ９４００Ａに形成される図柄は、一続き（即ち、１個）の模様または図柄でなくても良く、断続的な（即ち、複数個の）模様または図柄であっても良い。

【１１３５８】

なお、第１導光板Ｆ９４００Ａに形成される反射部Ｆ８４１０Ａと、第２導光板Ｆ９４００Ｂに形成される反射部Ｆ８４１０Ｂとは、正面視（矢印Ｂ方向視）において上下方向に異なる（重ならない）位置に形成される。即ち、第１１３実施形態における導光板ユニットＦ９１００では、正面視において上方側（矢印Ｕ方向側）の模様や図柄が第２導光板Ｆ９４００Ｂの反射部Ｆ８４１０Ｂにより形成され、正面視において下方側（矢印Ｄ方向側）の模様や図柄が第１導光板Ｆ９４００Ａの反射部Ｆ８４１０Ａにより形成される。

【１１３５９】

以上のように構成される第１１３実施形態における導光板ユニットＦ９１００によれば、上記第１０６実施形態における導光板ユニットＦ２１００と同様に、導光板ユニットＦ９１００が遊技盤Ａ１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されるので、導光板ユニットＦ９１００を交換しやすくできる。

【１１３６０】

しかしながら、第１０６実施形態における導光板ユニットＦ２１００のように、導光板Ｆ４００を遊技盤Ａ１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設して、導光板Ｆ４００と遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０との間に遊技球が流下する遊技領域を形成するものでは、導光板Ｆ４００に流下する遊技球が導光板Ｆ４００に当接可能となるため、その当接により導光板Ｆ４００に傷が形成される恐れがある。特に、遊技盤Ａ１３に配設される釘や風車等により球の流れが不均一になる遊技領域の下方側（矢印Ｄ方向側）では、導光板Ｆ４００に遊技球が当接しやすく、その当接の傷により導光板Ｆ４００に表示される模様や図柄を遊技者に正しく認識させられなくなる可能性がある。

【１１３６１】

これに対し、第１１３実施形態における導光板ユニットＦ９１００では、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂの２枚の導光板から形成されるので、正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第１導光板Ｆ９４００Ａに遊技領域を流下する遊技球が当接することを抑制できる。そのため、遊技領域を流下する遊技球により、第１導光板Ｆ９４００Ａに表示される模様や図柄の態様が認識されにくくなることを抑制できる。

【１１３６２】

一方、第２導光板Ｆ９４００Ｂは、第１導光板Ｆ９４００Ａ（入射部Ｆ９４３０Ａ）を透過して第２導光板Ｆ９４００Ｂまで照射された光（即ち、第１導光板Ｆ９４００Ａの内部を上下方向に進まなかった光）を入射可能に構成されるため、入射部Ｆ９４３０Ｂから入射された光が、第２導光板Ｆ９４００Ｂの下方側（矢印Ｄ方向側）の領域（第１導光板Ｆ９４００Ａに反射部Ｆ８４１０Ａが形成される領域）まで透過しにくくされる。そのため、遊技領域の下方側の領域において、遊技領域を流下する遊技球により第２導光板Ｆ９４００Ｂに傷が形成されたとしても、その傷により反射される光の量を少なくできる。従って、遊技領域の下方側の領域において、第１導光板Ｆ９４００Ａの反射部Ｆ８４１０Ａにより形成される図柄や模様の表示が、第２導光板Ｆ９４００Ｂに形成される傷により正しく視認されにくくなることを抑制できる。

【１１３６３】

また、第１１３実施形態では、第１導光板Ｆ９４００Ａに形成される反射部Ｆ８４１０Ａが、導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から離れた下方側（矢印Ｄ方向側）の領域にのみ形成されるので、第１導光板Ｆ９４００Ａの上方側（矢印Ｕ方向側）の領域で第１導光板Ｆ９４００Ａの外方に光が抜け出ることを抑制できる。その結果、第１１３実施形態では、遊技領域の下方側の領域において、第１導光板Ｆ９４００Ａの反射部

Ｆ８４１０Ａにより形成される図柄や模様の表示を遊技者に視認させやすくできる。
【１１３６４】
さらに、第２導光板Ｆ９４００Ｂには、第１導光板Ｆ９４００Ａを透過する一部の光が入射可能に構成されるので、第２導光板Ｆ９４００Ｂに光を入射させるための発光手段Ｆ２２１を第１導光板Ｆ９４００Ａ側以外（即ち、第２導光板Ｆ９４００側）に備える必要が無くなる。その結果、導光板ユニットＦ９１００の製品コストを低減できる。
【１１３６５】
さらに、第１導光板Ｆ９４００Ａと第２導光板Ｆ９４００Ｂとは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の隙間を有した状態で第１導光板Ｆ９４００Ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるので、第１導光板Ｆ９４００Ａ又は第２導光板Ｆ９４００Ｂが撓んだ際に擦れて、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂに傷が形成されることを抑制できる。その結果、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂに表示される模様や図柄を遊技者に視認させやすくできる。
【１１３６６】
また、第１導光板Ｆ９４００Ａと第２導光板Ｆ９４００Ｂとが前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の隙間を有した状態で配設されるので、正面視において、第１導光板Ｆ８４００Ａに表示される模様や図柄と、第２導光板Ｆ９４００Ｂに表示される模様や図柄とを合わせて視認させた際に、それらの表示を立体的に視認させることができる。その結果、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂの表示による遊技者の興趣を高めやすくできる。
【１１３６７】
さらに、第１１３実施形態における第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂは、外縁部に配設される外縁部材により、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２号項番Ｆ９４０の外縁部が塞がれるので、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂの対向間に埃やごみが入り込むことを抑制できる。その結果、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂの対向面が汚れることを抑制でき、それら対向面の清掃が困難になることを抑制できる。
【１１３６８】
さらに、第１１３実施形態では、上記第１１０実施形態における導光板ユニットＦ６１００と同様に、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂと光照射ユニットＦ９１００Ａとが別のユニットとして構成されので、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂのみ交換することができ、上記第１０７実施形態における導光板ユニットＦ２１００のように、一側ベース手段Ｆ２２００、一側カバー手段Ｆ２５００、及び、導光板側照射用基板Ｆ２２０を交換する必要がないので、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂを交換する際の部品コストを低減できる。また、導光板側照射用基板Ｆ２２０に電力を供給するための配線等を繋ぎ直す必要もないので、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂを交換する際の作業性を向上できる。
【１１３６９】
また、第１１３実施形態における導光板ユニットＦ９１００によれば、光照射ユニットＦ９１００Ａの導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光を、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂの正面側（矢印Ｆ方向側）から入射させることができるので、光照射ユニットＦ９１００Ａ（導光板側照射用基板Ｆ２２０）を、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂの側端面側（上方側（矢印Ｕ方向側））に配設しなくても良くなる（即ち、導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）の配設位置の自由度を高められる）。そのため、正面視（矢印Ｂ方向視）における導光板ユニットＦ９１００の光透過領域を確保しつつ、正面視における導光板ユニットＦ９１００の外形を小さくすることができる。また、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂの正面側のスペースを有効利用できると共に、１の導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光を前後方向に重なるの第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂに入射させることができる。

【１１３７０】
なお、第１１３実施形態では、光照射ユニットＦ９１００Ａが正面枠Ｐ１４に配設され、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂが内枠Ｈ１２に配設されるので、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２および外枠Ｈ１１に対して開放した際に、発光手段Ｆ２２１の光照射側に位置していた第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂから離間させることができる。よって、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した際に、作業者に発光手段Ｆ２２１の光を直接視認させることが可能とされる。
【１１３７１】
この場合、第１１３実施形態では、正面枠Ｐ１４が内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放したことに伴い発光手段Ｆ２２１に所定の発光をさせることで、作業者が光照射ユニットＦ９１００Ａ（発光手段Ｆ２２１）を内枠Ｈ１２から取り外さなくても、作業者にパチンコ機Ａ１０の状態を報知することが可能とされる。例えば、複数の発光手段Ｆ２２１の発光・消灯の組み合わせや、発光色の組み合わせにより、パチンコ機Ａ１０の異常を作業者に報知することができる。
【１１３７２】
また、第１１３実施形態では、正面枠Ｐ１４が内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放された際の発光手段Ｆ２２１の光出射方向が背面側（矢印Ｂ方向側）に設定されるので、発光手段Ｆ２２１の光が遊技者に視認されることを抑制できる。その結果、遊技者にパチンコ機Ａ１０の状態が悟られることを抑制できる。
【１１３７３】
さらに、光照射ユニットＦ９１００Ａが正面枠Ｐ１４に配設され、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂが内枠Ｈ１２に配設されるので、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した際に、発光手段Ｆ２２１の光照射側に位置していた第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂを発光手段Ｆ２２１から離間させることができるので、第１導光板Ｆ９４００Ａの光入射面に作業者がアクセス可能となる。その結果、第１導光板Ｆ９４００Ａの光入射面の清掃を簡易にでき、第１導光板Ｆ９４００Ａへの光の入射量を維持することができる。
【１１３７４】
また、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した際に、発光手段Ｆ２２１の光照射側に位置していた第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂを発光手段Ｆ２２１から離間させられるので、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂの交換時には、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂのみの交換作業を行いやすくできる。
【１１３７５】
なお、Ｊ０９実施形態では、光照射ユニットＦ９１００Ａが正面枠Ｐ１４に配設され、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂが内枠Ｈ１２に配設されるので、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した際に、遊技盤Ａ１３の遊技領域の正面側に第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂが配設された状態を維持できる。第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂは遊技盤Ａ１３の遊技領域の外形よりも正面視における外形が大きく形成されるので、正面枠Ｐ１４が内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して無理やり開放された場合に、遊技盤Ａ１３の遊技領域にアクセス可能な状態となることを第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂにより抑制できる。その結果、遊技盤Ａ１３に不正がされることを抑制できる。
【１１３７６】
次いで、図６４１から図６４４を参照して、第１１４実施形態における導光板ユニットＦ１０１００について説明する。上記第１０６実施形態では、導光板Ｆ４００の交換時に導光板ユニットＦ２１００ごと（一式のユニットで）交換する場合について説明したが、第１１４実施形態では、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの交換時に、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂのみ交換可能にされる場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付して

その詳しい説明を省略する。
【１１３７７】
図６４１は、第１１４実施形態における正面枠Ｐ１４と導光板ユニットＦ１０１００との分解背面斜視図である。図６４２は、導光板ユニットＦ１０１００の分解正面斜視図である。図６４３（ａ）は、導光板ユニットＦ１０１００の正面図であり、図６４３（ｂ）は、図６４３（ａ）のＥ１６ｂ－Ｅ１６ｂ線における導光板ユニットＦ１０１００の断面模式図であり、図６４３（ｃ）は、図６４３（ａ）のＥ１６ｃ－Ｅ１６ｃ線における導光板ユニットＦ１０１００の断面模式図である。図６４４（ａ）は、導光板ユニットＦ１０１００の正面図であり、図６４４（ｂ）は、図６４４（ａ）のＥ１７ｂ－Ｅ１７ｂ線における導光板ユニットＦ１０１００の断面模式図であり、図６４４（ｃ）は、図６４４（ａ）のＥ１７ｃ－Ｅ１７ｃ線における導光板ユニットＦ１０１００の断面模式図である。なお、図６４３では、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂがベース手段Ｆ１０１１０及びカバー手段Ｆ１０１２０に配設された状態が図示され、図６４４では、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂがベース手段Ｆ１０１１０及びカバー手段Ｆ１０１２０から取り外される途中の状態が図示される。
【１１３７８】
図６４１及び図６４２に示すように、第１１４実施形態におけるパチンコ機Ａ１０では、正面枠Ｐ１４の背面側（矢印Ｂ方向側）に導光板ユニットＦ１０１００が配設される。また、導光板ユニットＦ１０１００は、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂが遊技盤Ａ１３の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる状態で配設されると共に、導光板Ｆ１０４００を保持する保持部材（ベース手段Ｆ１０１１０、カバー手段Ｆ１０１２０）が正面枠Ｐ１４に配設される。
【１１３７９】
第１１４実施形態における導光板ユニットＦ１０１００は、正面視（矢印Ｂ方向視）において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長い矩形状に形成されるベース手段Ｆ１０１１０と、そのベース手段Ｆ１０１１０と正面視における外形が略同一に形成されベース手段Ｆ１０１１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されるカバー手段Ｆ１０１２０と、それらベース手段Ｆ１０１１０及びカバー手段Ｆ１０１２０の間に介在される第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂと、ベース手段Ｆ１０１１０及びカバー手段Ｆ１０１２０の間に配設される導光板側照射用基板Ｆ２２０と、ベース手段Ｆ１０１１０の正面側に変位可能な状態で配設される変位部材Ｆ１０１３０と、を主に備える。
【１１３８０】
ベース手段Ｆ１０１１０は、第１開口部Ｆ１０１１１ａ及び第２開口部Ｆ１０１１１ｂを有し導光板ユニットＦ１０１００の背面側（矢印Ｂ方向側）の側面を形成する板状の背面部Ｆ１０１１１と、背面部Ｆ１０１１１の外縁に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって立設される外縁部Ｆ１０１１２と、背面部Ｆ１０１１１の第１開口部Ｆ１０１１１ａの縁部から正面側に向かって立設される第１立設部Ｆ１０１１３と、背面部Ｆ１０１１１の第２開口部Ｆ１０１１１ｂの縁部から正面側に向かって立設される第２立設部Ｆ１０１１４と、背面部Ｆ１０１１１の正面側から円柱状に突出される軸支部Ｆ１０１１５と、を主に備え、全体が光非透過性の樹脂材料から形成される。
【１１３８１】
背面部Ｆ１０１１１は、導光板ユニットＦ１０１００の背面側（矢印Ｂ方向側）の側面となる部分であり、正面視（矢印Ｂ方向視）における外形が正面枠Ｐ１４よりも小さく形成される。また、背面部Ｆ１０１１１には、後述する第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを介して背面側を視認可能とするための第１開口部Ｆ１０１１１ａと、その第１開口部Ｆ１０１１１ａよりも下方側（矢印Ｄ方向側）に開口され、遊技球の通過経路を形成する第２開口部Ｆ１０１１１ｂとが形成される。
【１１３８２】
第１開口部Ｆ１０１１１ａは、導光板ユニットＦ１０１００が正面枠Ｐ１４に配設された状態において、正面枠Ｐ１４のガラスユニットＨ１６及び遊技盤Ａ１３と前後方向（矢

印Ｆ－Ｂ方向）に重なる位置に形成されると共に、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に並設された第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの外形よりも小さく形成される。

【１１３８３】

第２開口部Ｆ１０１１１ｂは、正面枠Ｐ１４が外枠Ｈ１１及び内枠Ｈ１２に対して閉鎖された状態において、内枠Ｈ１２に形成される本体側下皿通路部Ｈ１６２（図４９３参照）に連通される開口であり、本体側下皿通路部Ｈ１６２の開口と略同一の大きさの開口に形成される。

【１１３８４】

外縁部Ｆ１０１１２は、導光板ユニットＦ１０１００の前後方向における厚みを確保するための壁部であり、正面視（矢印Ｂ方向視）において右方側（矢印Ｒ方向側）の外縁を除く上方側（矢印Ｕ方向側）、下方側（矢印Ｄ方向側）、左方側（矢印Ｌ方向側）の３方向の背面部Ｆ１０１１１の外縁に形成される。

【１１３８５】

第１立設部Ｆ１０１１３は、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの配設位置を位置決めするための壁部であり、第１開口部Ｆ１０１１１ａの縁部と所定の間隔を隔てた外側に第１開口部Ｆ１０１１１ａの縁部に沿って立設される。なお、第１立設部Ｆ１０１１３は、外縁部Ｆ１０１１２と同様に、正面視（矢印Ｂ方向視）において右方側（矢印Ｒ方向側）を除く上方側、下方側（矢印Ｄ方向側）、左方側（矢印Ｌ方向側）の３方向の背面部Ｆ１０１１１の外縁に形成される。

【１１３８６】

また、導光板側照射用基板Ｆ２２０は、ベース手段Ｆ１０１１０の上方側（矢印Ｕ方向側）の外縁部Ｆ１０１１２と上方側の第１立設部Ｆ１０１１３との間に、発光手段Ｆ２２１を下方側（矢印Ｄ方向側）に配設した状態で配設され、第１開口部Ｆ１０１１１ａの上方側から下方側に向けて光を出射可能とされる。なお、上方側の第１立設部Ｆ１０１１３は、下方側、及び、左方側（矢印Ｌ方向側）の第１立設部Ｆ１０１１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）への立設距離が小さく設定され、後述するカバー手段Ｆ１０１２０との間に所定の隙間が形成される。この上方側の第１立設部Ｆ１０１１３とカバー手段Ｆ１０１２０との隙間を介して導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光が第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの上端面に照射される。なお、第１１４実施形態における導光板側照射用基板Ｆ２２０では、発光手段Ｆ２２１が第１０５実施形態における正面側発光手段Ｆ２２１ａと対応するＬＥＤのみ備える。

【１１３８７】

第２立設部Ｆ１０１１４は、第２開口部Ｆ１０１１１ｂを介して内枠Ｈ１２の本体側下皿通路部Ｈ１６２（図４９３参照）から送球される遊技球を正面枠Ｐ１４の払出球受口部Ｈ１４３（図４９３参照）まで送球する通路であり、第２開口部Ｆ１０１１１ｂの縁部から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて立設され、少なくとも下方側（矢印Ｄ方向側）の第２立設部Ｆ１０１１４がカバー手段Ｆ１１１２０の背面側（矢印Ｂ方向側）に当接した状態で配設される。

【１１３８８】

軸支部Ｆ１０１１５は、後述する変位部材Ｆ１０１３０を軸支する部分であり、変位部材Ｆ１０１３０に形成される被軸支部Ｆ１０１３１の内径よりも小さい直径の円柱状に形成される。

【１１３８９】

カバー手段Ｆ１０１２０は、導光板ユニットＦ１０１００の正面側（矢印Ｆ方向側）の側面を形成する板状の正面部Ｆ１０１２１を備え、光非透過性の樹脂材料から形成される。また、カバー手段Ｆ１０１２０の正面部Ｆ１０１２１には、正面視（矢印Ｂ方向視）においてベース手段Ｆ１０１１０の第１開口部Ｆ１０１１１ａと対応する位置に開口される第１開口部Ｆ１０１２１ａと、ベース手段Ｆ１０１１０の第２開口部Ｆ１０１１１ｂと対応する位置に開口される第２開口部Ｆ１０１２１ｂとが形成される。

【１１３９０】
第１開口部Ｆ１０１２１ａは、ベース手段Ｆ１０１１０の第１開口部Ｆ１０１１１ａと共に、ベース手段Ｆ１０１１０及びカバー手段Ｆ１０１２０の対向間に配設される第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを介して背面側（矢印Ｂ方向側）を視認可能とするための開口であり、ベース手段Ｆ１０１１０の第１開口部Ｆ１０１１１ａと略同一の大きさの開口に形成される。
【１１３９１】
第２開口部Ｆ１０１２１ｂは、導光板ユニットＦ１０１００が正面枠Ｐ１４に配設された状態において、正面枠Ｐ１４に形成される払出球受口部Ｈ１４３（図４９３参照）に連通される開口であり、払出球受口部Ｈ１４３の開口と略同一の大きさの開口に形成される。また、第２開口部Ｆ１０１２１ｂの縁部には、ベース手段Ｆ１０１１０の第２立設部Ｆ１０１１４が当接されており、これにより、本体側下皿通路部Ｈ１６２から第２開口部Ｆ１１１２１ｂに送球される遊技球をカバー手段Ｆ１１１２０側（即ち、正面枠Ｐ１４の払出球受口部Ｈ１４３）に送球できる。
【１１３９２】
第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂは、導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光を透過すると共に、その透過される光を所定の模様や図柄を形成する位置で正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて反射する部材であり、光透過性の透明な樹脂材料から所定の厚みを有する板状に形成される。また、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂは、板面を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に向けた状態で配設されると共に、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に並設された状態で第１立設部Ｆ１０１１３の内側に収容される大きさに形成される。
【１１３９３】
また、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂには、レーザー加工等により導光板Ｆ４００の内部に粗面加工される第１反射部Ｆ１０４１０Ａ及び第２反射部Ｆ１０４１０Ｂが形成される。これにより、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの内部に入射される光は、第１反射部Ｆ１０４１０Ａ及び第２反射部Ｆ１０４１０Ｂの荒面により乱反射してパチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から出射される。なお、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂに形成される模様や図柄は、一続き（即ち、１個）の模様または図柄でなくても良く、断続的な（即ち、複数個の）模様または図柄であっても良い。また、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂに形成される模様や図柄は、異なる模様または図柄でなくても良く、同じ模様または図柄であっても良い。
【１１３９４】
変位部材Ｆ１０１３０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一端側（左方側（矢印Ｌ方向側））と他端側（右方側（矢印Ｒ方向側））とを上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位可能に構成される部材であり、ベース手段Ｆ１０１１０に軸支されるための被軸支部Ｆ１０１３１が左右方向の略中央部に形成される。これにより、変位部材Ｆ１０１３０は、左右方向の一端側が下方側（矢印Ｄ方向側）に変位されると他端側が上方側（矢印Ｕ方向側）に変位されると共に、左右方向の一端側が上方側に変位されると他端側が下方側に変位される。
【１１３９５】
また、変位部材Ｆ１０１３０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一端側（左方側（矢印Ｌ方向側））が下方側（矢印Ｄ方向側）に変位され他端側（右方側（矢印Ｒ方向側））が上方側（矢印Ｕ方向側）に変位された状態（図６４４に示す状態）において、一端側がベース手段Ｆ１０１１０の第２立設部Ｆ１０１１４の内側の領域（正面視（矢印Ｂ方向視）における第２開口部Ｆ１０１１１ｂの内側の領域）に位置すると共に、他端側がベース手段Ｆ１０１１０の第１立設部Ｆ１０１１３に形成される切り欠き部Ｆ１０１１３ａを介して第１立設部Ｆ１０１１３の内側の領域（第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂが配設される領域）に突出するように構成される。

【１１３９６】
一方、変位部材Ｆ１０１３０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一端側（左方側（矢印Ｌ方向側））が上方側（矢印Ｕ方向側）に変位され他端側（右方側（矢印Ｒ方向側））が下方側（矢印Ｄ方向側）に変位された状態（図６４３に示す状態）において、一端側がベース手段Ｆ１０１１０の第２立設部Ｆ１０１１４の内側の領域（正面視（矢印Ｂ方向視）における第２開口部Ｆ１０１１１ｂの内側の領域）から退避されると共に、他端側が第１立設部Ｆ１０１１３の内側の領域（第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂが配設される領域）から退避されるように構成される。
【１１３９７】
なお、変位部材Ｆ１０１３０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一端側（左方側（矢印Ｌ方向側））が下方側（矢印Ｄ方向側）に変位された状態において、ベース手段Ｆ１０１１０の第２立設部Ｆ１０１１４の内側の領域を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に分断可能な正面視形状に形成される遮断部Ｆ１０１３２を一端側に備える。これにより、変位部材Ｆ１０１３０の一端側が下方側に変位された状態では、内枠Ｈ１２に形成される本体側下皿通路部Ｈ１６２（図４９３参照）から送球される遊技球が導光板ユニットＦ１０１００を通過することを規制することが可能とされる。
【１１３９８】
また、変位部材Ｆ１０１３０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の他端側（右方側（矢印Ｒ方向側））が上方側（矢印Ｕ方向側）に変位された状態において、切り欠き部Ｆ１０１１３ａを介して第１立設部Ｆ１０１１３の内側に突出するように、上方側に膨出する膨出部Ｆ１０１３３を他端側に備える。これにより、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂが、ベース手段Ｆ１０１１０及びカバー手段Ｆ１０１２０の間に配設される場合には、それら第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂに膨出部Ｆ１０１３３を当接させて、変位部材Ｆ１０１３０の他端側を下方に押し下げることが可能とされる。
【１１３９９】
即ち、第１１４実施形態における導光板ユニットＦ１０１００では、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを取り外すことで、内枠Ｈ１２から正面枠Ｐ１４への遊技球の送球を遮断部Ｆ１０１３２により規制することが可能に構成される。これにより、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂが取り外された状態、即ち、正しい遊技状態とされていない状態で、遊技球が所定の遊技領域まで打ち出されて遊技が開始されることを抑制できる。その結果、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの取り付け忘れを防止できる。
【１１４００】
なお、変位部材Ｆ１０１３０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一端側（左方側（矢印Ｌ方向側））が下方側（矢印Ｄ方向側）に変位され他端側（右方側（矢印Ｒ方向側））が上方側（矢印Ｕ方向側）に変位された状態（図６４４に示す状態）に付勢する付勢手段（第１１４実施形態では、ねじりバネ（図示しない））を備え、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂがベース手段Ｆ１０１１０及びカバー手段Ｆ１０１２０から取り外された状態では、一端側が下方側に変位され他端側が上方側に変位された状態が維持されるように構成される。
【１１４０１】
また、変位部材Ｆ１０１３０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一端側（左方側（矢印Ｌ方向側））が下方側（矢印Ｄ方向側）に変位され他端側（右方側（矢印Ｒ方向側））が上方側（矢印Ｕ方向側）に変位された状態に付勢する付勢手段（図示しない）を備えるので、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂがベース手段Ｆ１０１１０及びカバー手段Ｆ１０１２０に配設された状態では、他端側を第１導光板Ｆ１０４００Ａ又は第２導光板Ｆ１０４００Ｂに当接させて、第１導光板Ｆ１０４００Ａ又は第２導光板Ｆ１０４００Ｂを導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）に近づけることができる。その結果、第１導光板Ｆ１０４００Ａ又は第２導光板Ｆ１０４００Ｂに光を入射さ

せやすくして、第１導光板Ｆ１０４００Ａ又は第２導光板Ｆ１０４００Ｂに表示される模様や図柄を遊技者に視認させやすくできる。

【１１４０２】

以上のように構成される第１１４実施形態における導光板ユニットＦ１０１００によれば、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを保持するベース手段Ｆ１０１１０及びカバー手段Ｆ１０１２０に内枠Ｈ１２から正面枠Ｐ１４への遊技球の通路が形成されるので、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの配設領域を大きくできる。

【１１４０３】

即ち、上記第１０７実施形態における導光板ユニットＦ２１００のように、導光板Ｆ４００を保持する保持部材（一側ベース手段Ｆ２２００、他側ベース手段Ｆ２３００、一側カバー手段Ｆ２５００、及び、他側カバー手段Ｆ２６００）を、正面枠Ｐ１４の払出球受口部Ｈ１４３（図４９３参照）を避けて形成するものでは、その分、保持部材の配設位置が限定され、その保持部材の配設位置に合わせて導光板Ｆ４００の外形を小さくする必要が生じる。

【１１４０４】

これに対し、第１１４実施形態では、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを保持するベース手段Ｆ１０１１０及びカバー手段Ｆ１０１２０に内枠Ｈ１２から正面枠Ｐ１４への遊技球の通路が形成されるので、正面枠Ｐ１４の払出球受口部Ｈ１４３（図４９３参照）を避けてベース手段Ｆ１０１１０及びカバー手段Ｆ１０１２０を形成する必要が無くなる。よって、ベース手段Ｆ１０１１０及びカバー手段Ｆ１０１２０に合わせて第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの外形を小さく調整する必要が無くなる。その結果、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの配設領域を大きくできる。

【１１４０５】

また、第１１４実施形態における導光板ユニットＦ１０１００では、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを保持するベース手段Ｆ１０１１０及びカバー手段Ｆ１０１２０（発光手段Ｆ２２１）を正面枠Ｐ１４に配設した状態で、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの取り外し、及び、取り付けができるので、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの交換作業を容易に行うことができる。

【１１４０６】

即ち、第１０７実施形態における導光板ユニットＦ２１００のように、導光板Ｆ４００を交換する際に、導光板ユニットＦ２１００を正面枠Ｐ１４から取り外す必要が生じるものでは、ユニットでの交換が必要となるため、交換対象（導光板ユニットＦ２１００）が重くなりやすく、交換作業性が悪いという問題がある。

【１１４０７】

これに対し、第１１４実施形態では、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを保持するベース手段Ｆ１０１１０及びカバー手段Ｆ１０１２０（発光手段Ｆ２２１）を正面枠Ｐ１４に配設した状態で、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの取り外し、及び、取り付けができるので、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂのみ取り外すことができる。そのため、交換対象（第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂ）を軽くでき、交換作業を容易にできる。

【１１４０８】

また、ベース手段Ｆ１０１１０及びカバー手段Ｆ１０１２０（発光手段Ｆ２２１）を交換する必要がないので、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを交換する際の部品コストを低減しつつ、パチンコ機Ａ１０の仕様の変更（スペックやモデルの異なるパチンコ機Ａ１０に変更）に対応できる。

【１１４０９】

なお、第１１４実施形態における第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４０

０Ｂは、ベース手段Ｆ１０１１０の第１立設部Ｆ１０１１３の下方側の内面に沿って、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂをベース手段Ｆ１０１１０の第１立設部Ｆ１０１１３及び外縁部Ｆ１０１１２が非形成とされる正面視右側（矢印Ｒ方向側）にスライド変位させることで、ベース手段Ｆ１０１１０及びカバー手段Ｆ１０１２０の対向間から取り外すことが可能とされる。

【１１４１０】

これにより、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを取り外す際には、正面枠Ｐ１４を外枠Ｈ１１及び内枠Ｈ１２に対して大きく開放しなくても、正面枠Ｐ１４を外枠Ｈ１１及び内枠Ｈ１２との間に作業者の手が入る隙間分、正面枠Ｐ１４を外枠Ｈ１１及び内枠Ｈ１２に対して開放すれば第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂをスライドさせて取り外すことができる。よって、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを交換する際に必要なスペースを小さくすることができ、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの交換作業性を向上できる。

【１１４１１】

また、第１１４実施形態では、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂが２つ（複数）の導光板を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に並べて配設することで、１枚の模様や図柄を表示するので、第１導光板Ｆ１０４００Ａと第２導光板Ｆ１０４００Ｂとの配置を入れ替えることで、第１導光板Ｆ１０４００Ａと第２導光板Ｆ１０４００Ｂへの傷の付き具合を均等にできる。

【１１４１２】

即ち、一般的にパチンコ機Ａ１０の遊技方法として、遊技領域の左方側（矢印Ｌ方向側）の領域に遊技球を流下させる（打ち出す）左打ち遊技と、遊技領域の右方側（矢印Ｒ方向側）の領域に遊技球を流下させる（打ち出す）右打ち遊技とがある。そのため、遊技機の仕様上どちらか一方の遊技が多い（打ち出される遊技球の数が多い）場合には、導光板の一方に遊技球が流下することによる傷が多く形成され、導光板の交換が早期に必要となってしまう恐れがある。

【１１４１３】

これに対し、第１１４実施形態では、第１導光板Ｆ１０４００Ａと第２導光板Ｆ１０４００Ｂとの配置を入れ替えることができるので、一方に配設される導光板の傷が他方に配設される導光板の傷に比べて増加した場合には、第１導光板Ｆ１０４００Ａと第２導光板Ｆ１０４００Ｂとの配置を入れ替えることで、第１導光板Ｆ１０４００Ａと第２導光板Ｆ１０４００Ｂへの傷の付き具合を均等にできる。これにより、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの交換タイミングを遅くすることができる。その結果、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂにかかるコストを低下できる。

【１１４１４】

なお、第１導光板Ｆ１０４００Ａと第２導光板Ｆ１０４００Ｂとを入れ替えて使用する場合には、第１導光板Ｆ１０４００Ａと第２導光板Ｆ１０４００Ｂとにより合わせて表示される模様や図柄、上下左右対称である表示が好ましい。これによれば、第１導光板Ｆ１０４００Ａと第２導光板Ｆ１０４００Ｂとを左右で入れ替えた場合に、上下反転すれば、入れ替え前と同様の表示を行うことができるからである。または、第１導光板Ｆ１０４００Ａと第２導光板Ｆ１０４００Ｂとにそれぞれ単独で同様の表示がされるように形成して、左右を入れ替えた場合に同様の表示がされるようにしても良い。

【１１４１５】

次いで、図６４５から図６４７を参照して、第１１５実施形態における導光板ユニットＦ１１１００について説明する。上記第１１４実施形態では、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）にスライド変位して着脱する場合について説明したが、第１１５実施形態では、導光板Ｆ１１４００を背面側（矢印Ｂ方向）側に変位させて着脱する場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。

【１１４１６】

図６４５は、第１１５実施形態における導光板ユニットＦ１１１００の分解正面斜視図である。図６４６（ａ）は、導光板ユニットＦ１１１００の背面図であり、図６４６（ｂ）は、図６４６（ａ）のＥ１８ｂ－Ｅ１８ｂ線における導光板ユニットＦ１１１００の断面模式図であり、図６４６（ｃ）は、図６４６（ａ）のＥ１８ｃ－Ｅ１８ｃ線における導光板ユニットＦ１１１００の断面模式図である。図６４７（ａ）は、導光板ユニットＦ１１１００の背面図であり、図６４７（ｂ）は、図６４７（ａ）のＥ１９ｂ－Ｅ１９ｂ線における導光板ユニットＦ１１１００の断面模式図であり、図６４７（ｃ）は、図６４７（ａ）のＥ１９ｃ－Ｅ１９ｃ線における導光板ユニットＦ１１１００の断面模式図である。なお、図６４６では、導光板Ｆ１１４００が配設された状態が図示され、図６４７では、導光板Ｆ１１４００が取り外される途中の状態が図示される。

【１１４１７】

図６４５から図６４７に示すように、第１１５実施形態における導光板ユニットＦ１１１００は、正面視（矢印Ｂ方向視）において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長い矩形状に形成されるベース手段Ｆ１１１１０と、そのベース手段Ｆ１１１１０と正面視における外形が略同一に形成されベース手段Ｆ１０１１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されるカバー手段Ｆ１１１２０と、それらベース手段Ｆ１１１１０及びカバー手段Ｆ１１１２０の間に介在される導光板Ｆ１１４００と、ベース手段Ｆ１０１１０及びカバー手段Ｆ１０１２０の間に配設される導光板側照射用基板Ｆ２２０と、ベース手段Ｆ１１１１０の正面側に変位可能な状態で配設される変位部材Ｆ１１１３０と、を主に備える。

【１１４１８】

なお、第１１５実施形態における導光板ユニットＦ１１１００は、第１１４実施形態における導光板ユニットＦ１０１００と同様、正面枠Ｐ１４の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。また、導光板ユニットＦ１１１００は、導光板Ｆ１１４００が遊技盤Ａ１３の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる状態で配設されると共に、導光板Ｆ１１４００を保持する保持部材（ベース手段Ｆ１１１１０、カバー手段Ｆ１１１２０）が正面枠Ｐ１４に配設される。

【１１４１９】

ベース手段Ｆ１１１１０は、第１開口部Ｆ１１１１１ａ及び第２開口部Ｆ１１１１１ｂを有し、導光板ユニットＦ１１１００の背面側（矢印Ｂ方向側）の側面を形成する板状の背面部Ｆ１１１１１と、背面部Ｆ１１１１１の外縁に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって立設される外縁部Ｆ１１１１２と、背面部Ｆ１１１１１の第１開口部Ｆ１１１１１ａの縁部から正面側に向かって立設される第１立設部Ｆ１１１１３と、背面部Ｆ１１１１１の第２開口部Ｆ１１１１１ｂの縁部から正面側に向かって立設される第２立設部Ｆ１１１１４と、後述する変位部材Ｆ１１１３０の回転軸が挿通される貫通孔Ｆ１１１１６と、を主に備え、全体が光非透過性の樹脂材料から形成される。

【１１４２０】

背面部Ｆ１１１１１は、導光板ユニットＦ１１１００の背面側（矢印Ｂ方向側）の側面となる部分であり、正面視（矢印Ｂ方向視）における外形が正面枠Ｐ１４よりも小さく形成される。また、背面部Ｆ１１１１１には、後述する導光板Ｆ１１４００を介して背面側を視認可能とするための第１開口部Ｆ１１１１１ａと、その第１開口部Ｆ１１１１１ａよりも下方側（矢印Ｄ方向側）に開口され、遊技球の通過経路を形成する第２開口部Ｆ１１１１１ｂとが形成される。

【１１４２１】

第１開口部Ｆ１１１１１ａは、導光板ユニットＦ１１１００が正面枠Ｐ１４に配設された状態において、正面枠Ｐ１４のガラスユニットＨ１６及び遊技盤Ａ１３と前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に重なる位置に形成されると共に、導光板Ｆ１１４００の外形よりも大きく形成される。

【１１４２２】

第２開口部Ｆ１１１１１ｂは、正面枠Ｐ１４が外枠Ｈ１１及び内枠Ｈ１２に対して閉鎖された状態において、内枠Ｈ１２に形成される本体側下皿通路部Ｈ１６２（図４９３参照

）に連通される開口であり、本体側下皿通路部Ｈ１６２の開口と略同一の大きさの開口に形成される。

【１１４２３】

外縁部Ｆ１１１１２は、導光板ユニットＦ１１１００の前後方向における厚みを確保するための壁部であり、背面部Ｆ１１１１１の外縁に沿って立設され、立設先端側がカバー手段Ｆ１１１２０の背面側（矢印Ｂ方向側）に当接される。

【１１４２４】

第１立設部Ｆ１１１１３は、導光板Ｆ１１４００の配設位置を位置決めするための壁部であり、第１開口部Ｆ１１１１１ａの縁部に沿って立設され、立設先端側がカバー手段Ｆ１１１２０の背面側（矢印Ｂ方向側）に当接される。

【１１４２５】

また、導光板側照射用基板Ｆ２２０は、ベース手段Ｆ１１１１０の上方側（矢印Ｕ方向側）の外縁部Ｆ１１１１２と上方側の第１立設部Ｆ１１１１３との間に、発光手段Ｆ２２１を下方側（矢印Ｄ方向側）に配設した状態で配設され、第１開口部Ｆ１１１１１ａの上方側から下方側に向けて光を出射可能とされる。なお、上方側の第１立設部Ｆ１１１１３は、下方側、及び、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側の第１立設部Ｆ１１１１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）への立設距離が小さく設定され、後述するカバー手段Ｆ１１１２０との間に所定の隙間が形成される。この上方側の第１立設部Ｆ１１１１３とカバー手段Ｆ１１１２０との隙間を介して導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光が導光板Ｆ１１４００の上端面に照射される。なお、第１１５実施形態における導光板側照射用基板Ｆ２２０では、発光手段Ｆ２２１が第１０５実施形態における正面側発光手段Ｆ２２１ａと対応するＬＥＤのみ備える。

【１１４２６】

更に、ベース手段Ｆ１１１１０の上方側（矢印Ｕ方向側）の第１立設部Ｆ１１１１３には、後述するカバー手段Ｆ１１１２０の正面部Ｆ１１１２１に対して、導光板Ｆ１１４００の厚み分の距離を隔てた背面側（矢印Ｂ方向側）から下方側（矢印Ｄ方向側）に向かって突出される規制壁Ｆ１１１１３ｂが形成される。これにより、導光板Ｆ１１４００が、カバー手段Ｆ１１１２０の正面部Ｆ１１１２１の背面側に当接された状態において、導光板Ｆ１１４００の上端側が背面側に移動することを規制できる。

【１１４２７】

第２立設部Ｆ１１１１４は、第２開口部Ｆ１１１１１ｂを介して内枠Ｈ１２の本体側下皿通路部Ｈ１６２（図４９３参照）から送球される遊技球を正面枠Ｐ１４の払出球受口部Ｈ１４３（図４９３参照）まで送球する通路であり、第２開口部Ｆ１１１１１ｂの縁部から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて立設され、少なくとも下方側（矢印Ｄ方向側）の第２立設部Ｆ１１１１４がカバー手段Ｆ１１１２０の背面側（矢印Ｂ方向側）に当接した状態で配設される。

【１１４２８】

貫通孔Ｆ１１１１６は、後述する変位部材Ｆ１１１３０を変位させるためのレバー軸Ｆ１１１４２が挿通される部分であり、レバー軸Ｆ１１１４２の直径よりの大きい直径の円形状に形成される。

【１１４２９】

カバー手段Ｆ１１１２０は、導光板ユニットＦ１１１００の正面側（矢印Ｆ方向側）の側面を形成する板状の正面部Ｆ１１１２１を備え、光非透過性の樹脂材料から形成される。また、カバー手段Ｆ１１１２０の正面部Ｆ１１１２１には、正面視（矢印Ｂ方向視）においてベース手段Ｆ１１１１０の第１開口部Ｆ１１１１１ａと対応する位置に開口される第１開口部Ｆ１１１２１ａと、ベース手段Ｆ１１１１０の第２開口部Ｆ１１１１１ｂと対応する位置に開口される第２開口部Ｆ１１１２１ｂとが形成される。

【１１４３０】

第１開口部Ｆ１１１２１ａは、ベース手段Ｆ１１１１０の第１開口部Ｆ１１１１０ａと共に、ベース手段Ｆ１１１１０及びカバー手段Ｆ１１１２０の対向間に配設される導光板

Ｆ１１４００を介して背面側（矢印Ｂ方向側）を視認可能とするための開口であり、ベース手段Ｆ１１１１０の第１開口部Ｆ１１１１０ａ及び導光板Ｆ１１４００の外形よりも小さい大きさの開口に形成され、導光板Ｆ１１４００が正面側（矢印Ｆ方向側）に抜け出ることが抑制される。

【１１４３１】

第２開口部Ｆ１１１２１ｂは、導光板ユニットＦ１１１００が正面枠Ｐ１４に配設された状態において、正面枠Ｐ１４に形成される払出球受口部Ｈ１４３（図４９３参照）に連通される開口であり、払出球受口部Ｈ１４３の開口と略同一の大きさの開口に形成される。また、第２開口部Ｆ１１１２１ｂの縁部には、ベース手段Ｆ１１１１０の第２立設部Ｆ１１１１４が当接されており、これにより、本体側下皿通路部Ｈ１６２から第２開口部Ｆ１１１２１ｂに送球される遊技球をカバー手段Ｆ１１１２０側（即ち、正面枠Ｐ１４の払出球受口部Ｈ１４３）に送球できる。

【１１４３２】

導光板Ｆ１１４００は、導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光を透過すると共に、その透過される光を所定の模様や図柄を形成する位置で正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて反射する部材であり、光透過性の透明な樹脂材料から所定の厚みを有する板状に形成される。また、導光板Ｆ１１４００は、板面を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に向けた状態で配設されると共に、第１立設部Ｆ１１１１３の内側に収容される大きさに形成される。

【１１４３３】

また、導光板Ｆ１１４００には、レーザー加工等により導光板Ｆ４００の内部に粗面加工される反射部Ｆ１１４１０が形成される。これにより、導光板Ｆ１１４００の内部に入射される光は、反射部Ｆ１１４１０の荒面により乱反射してパチンコ機Ａ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から出射される。なお、導光板Ｆ１１４００に形成される模様や図柄は、一続き（即ち、１個）の模様または図柄でなくても良く、断続的な（即ち、複数個の）模様または図柄であっても良い。

【１１４３４】

変位部材Ｆ１１１３０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一端側（左方側（矢印Ｌ方向側））を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位可能に構成される部材であり、後述するレバー部材Ｆ１１１４０のレバー軸Ｆ１１１４２が挿入される被軸支部Ｆ１１１３１が他端側（右方側（矢印Ｒ方向側））に形成される。変位部材Ｆ１１１３０は、レバー部材Ｆ１１１４０が回転されることで、一端側を上下方向に変位可能に構成される。

【１１４３５】

レバー部材Ｆ１１１４０は、作業者が把持して操作可能な操作部Ｆ１１１４１と、その操作部Ｆ１１１４１から正面側（矢印Ｆ方向側）に円柱状に突出されるレバー軸Ｆ１１１４２と、を備え、レバー軸Ｆ１１１４２がベース手段Ｆ１１１１０の貫通孔Ｆ１１１１６を背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通して変位部材Ｆ１１１３０の被軸支部Ｆ１１１３１に嵌合される。よって、ベース手段Ｆ１１１１０の背面側に配設される操作部Ｆ１１１４１を回転操作することで、変位部材Ｆ１１１３０を回転変位させることが可能とされる。

【１１４３６】

なお、変位部材Ｆ１１１３０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一端側（左方側（矢印Ｌ方向側））が下方側（矢印Ｄ方向側）に変位された状態（図６４７に示す状態）において、一端側がベース手段Ｆ１１１１０の第２立設部Ｆ１１１１４に形成される開口Ｆ１１１１４ａを介して第２立設部Ｆ１１１１４の内側の領域（正面視（矢印Ｂ方向視）における第２開口部Ｆ１１１１１ｂの内側の領域）に位置すると共に、一端側が第１立設部Ｆ１１１１３の外側の領域（正面視において導光板Ｆ１１４００が配設される領域の外側）に位置するように構成される。

【１１４３７】

一方で、変位部材Ｆ１１１３０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一端側（左方側（矢印Ｌ方向側））が上方側（矢印Ｕ方向側）に変位された状態（図６４６に示す状態）にお

いて、一端側がベース手段Ｆ１１１１０の第２立設部Ｆ１１１１４の外側の領域（正面視（矢印Ｂ方向視）における第２開口部Ｆ１１１１１ｂの外側の領域）に位置すると共に、一端側が第１立設部Ｆ１１１１３に形成される切り欠きＦ１１１１３ａを介して第１立設部Ｆ１１１１３の内側の領域（正面視において導光板Ｆ１１４００が配設される領域）に位置するように構成される。

【１１４３８】

なお、変位部材Ｆ１１１３０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一端側（左方側（矢印Ｌ方向側））には、一端側が下方側（矢印Ｄ方向側）に変位された状態において、ベース手段Ｆ１１１１０の第２立設部Ｆ１１１１４の内側の領域を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に分断可能な正面視形状に形成される遮断部Ｆ１１１３２が形成される。これにより、変位部材Ｆ１１１３０の一端側が下方側に変位された状態では、内枠Ｈ１２に形成される本体側下皿通路部Ｈ１６２（図４９３参照）から送球される遊技球が導光板ユニットＦ１１１００を通過することを規制することが可能とされる。

【１１４３９】

よって、第１１５実施形態における導光板ユニットＦ１１１００では、導光板Ｆ１１４００が取り外し可能な状態（レバー部材Ｆ１１１４０が回転され変位部材Ｆ１１１３０の一端側が下方側（矢印Ｄ方向側）に変位された状態）とされた場合に、内枠Ｈ１２から正面枠Ｐ１４への遊技球の送球を遮断部Ｆ１１１３２により規制できる。これにより、導光板Ｆ１１４００が取り外される状態、即ち、正しい遊技状態とされていない状態で、遊技球が所定の遊技領域まで打ち出されて遊技が開始されることを抑制できる。

【１１４４０】

また、変位部材Ｆ１１１３０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一端側（左方側（矢印Ｌ方向側））の遮断部Ｆ１１１３２は、一端側が上方側（矢印Ｕ方向側）に変位された状態において、切り欠き部Ｆ１１１１３ａを介して第１立設部Ｆ１１１１３の内側に突出するように構成される。なお、遮断部Ｆ１１１３２は、カバー手段Ｆ１１１２０の正面部Ｆ１１１２１に対して、導光板Ｆ１１４００の厚み分の距離を隔てた背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される。これにより、導光板Ｆ１１４００が、カバー手段Ｆ１１１２０の正面部Ｆ１１１２１の背面側に当接された状態において、遮断部Ｆ１１１３２により、導光板Ｆ１１４００の下端側の背面側への移動を規制することができる。

【１１４４１】

上述したように、導光板Ｆ１１４００は、正面側（矢印Ｆ方向側）への移動がカバー手段Ｆ１１１２０により規制され、上端側の背面側（矢印Ｂ方向側）への移動がベース手段Ｆ１１１１０の規制壁Ｆ１１１１３ｂにより規制され、下端側の背面側への移行が変位部材Ｆ１１１３０の遮断部Ｆ１１１３２により規制される。従って、変位部材Ｆ１１１３０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一端側（左方側（矢印Ｌ方向側））が上方側（矢印Ｕ方向側）に変位された状態では、導光板Ｆ１１４００の移動を規制できる。

【１１４４２】

なお、導光板Ｆ１１４００を交換する際には、図６４７に示すように、レバー部材Ｆ１１１４０を操作して、変位部材Ｆ１１１３０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一端側（左方側（矢印Ｌ方向側））を下方側（矢印Ｄ方向側）に変位させて、導光板Ｆ１１４００の下端側の背面側（矢印Ｂ方向側）への移動を許容した後で、導光板Ｆ１１４００の下端側を背面側へ移動させつつ、導光板Ｆ１１４００の上端側をカバー手段Ｆ１１１２０の正面部Ｆ１１１２１とベース手段Ｆ１１１１０の規制壁Ｆ１１１１３ｂとの間から引き抜くことで、導光板Ｆ１１４００をベース手段Ｆ１１１１０及びカバー手段Ｆ１１１２０から取り外すことができる。

【１１４４３】

また、導光板Ｆ１１４００をベース手段Ｆ１１１１０及びカバー手段Ｆ１１１２０に取り付ける場合には、上記の反対の手順で導光板Ｆ１１４００をベース手段Ｆ１１１１０及びカバー手段Ｆ１１１２０に配設すると共に、レバー部材Ｆ１１１４０を操作して変位部材Ｆ１１１３０を導光板Ｆ１１４００に係合させることで、導光板Ｆ１１４００をベース

手段Ｆ１１１１０及びカバー手段Ｆ１１１２０に取り付けられる。従って、第１１５実施形態では、レバー部材Ｆ１１１４０の操作により導光板Ｆ１１４００に変位部材Ｆ１１１３０を係合させることができるので、作業者の導光板Ｆ１１４００の交換作業性を向上できる。

【１１４４４】

以上のように構成される第１１５実施形態における導光板ユニットＦ１１１００によれば、導光板Ｆ１１４００を保持するベース手段Ｆ１１１１０及びカバー手段Ｆ１１１２０に内枠Ｈ１２から正面枠Ｐ１４への遊技球の通路が形成されるので、導光板Ｆ１１４００の配設領域を大きくできる。

【１１４４５】

即ち、上記第１０７実施形態における導光板ユニットＦ２１００のように、導光板Ｆ４００を保持する保持部材（一側ベース手段Ｆ２２００、他側ベース手段Ｆ２３００、一側カバー手段Ｆ２５００、及び、他側カバー手段Ｆ２６００）を、正面枠Ｐ１４の払出球受口部Ｈ１４３（図４９３参照）を避けて形成するものでは、その分、保持部材の配設位置が限定され、その保持部材の配設位置に合わせて導光板Ｆ４００の外形を小さくする必要が生じる。

【１１４４６】

これに対し、第１１５実施形態では、導光板Ｆ１１４００を保持するベース手段Ｆ１１１１０及びカバー手段Ｆ１１１２０に内枠Ｈ１２から正面枠Ｐ１４への遊技球の通路が形成されるので、正面枠Ｐ１４の払出球受口部Ｈ１４３（図４９３参照）を避けてベース手段Ｆ１１１１０及びカバー手段Ｆ１１１２０を形成する必要が無くなる。よって、ベース手段Ｆ１１１１０及びカバー手段Ｆ１１１２０に合わせて導光板Ｆ１１４００の外形を小さく調整する必要が無くなる。その結果、導光板Ｆ１１４００の配設領域を大きくできる。

【１１４４７】

また、第１１５実施形態における導光板ユニットＦ１１１００では、導光板Ｆ１１４００を保持するベース手段Ｆ１１１１０及びカバー手段Ｆ１１１２０を正面枠Ｐ１４に配設した状態で、導光板Ｆ１１４００の取り外し、及び、取り付けができるので、導光板Ｆ１１４００の交換作業を容易に行うことができる。

【１１４４８】

即ち、第１０７実施形態における導光板ユニットＦ２１００のように、導光板Ｆ４００を交換する際に、導光板ユニットＦ２１００を正面枠Ｐ１４から取り外す必要が生じるものでは、ユニットでの交換が必要となるため、交換対象（導光板ユニットＦ２１００）が重くなりやすく、交換作業性が悪いという問題がある。

【１１４４９】

これに対し、第１１５実施形態では、導光板Ｆ１１４００を保持するベース手段Ｆ１１１１０及びカバー手段Ｆ１１１２０（発光手段Ｆ２２１）を正面枠Ｐ１４に配設した状態で、導光板Ｆ１１４００の取り外し、及び、取り付けができるので、導光板Ｆ１１４００のみ取り外すことができる。そのため、交換対象（導光板Ｆ１１４００）を軽くでき、交換作業を容易にできる。

【１１４５０】

また、ベース手段Ｆ１１１１０及びカバー手段Ｆ１１１２０（発光手段Ｆ２２１）を交換する必要がないので、導光板Ｆ１１４００を交換する際の部品コストを低減しつつ、パチンコ機Ａ１０の仕様の変更（スペックやモデルの異なるパチンコ機Ａ１０に変更）に対応できる。

【１１４５１】

なお、第１１５実施形態では、導光板Ｆ１１４００を交換する際に、上述したように、導光板Ｆ１１４００の下端側の背面側（矢印Ｂ方向側）への移動を許容した後で、導光板Ｆ１１４００の下端側を背面側へ移動させつつ、導光板Ｆ１１４００の上端側をカバー手段Ｆ１１１２０の正面部Ｆ１１１２１とベース手段Ｆ１１１１０の規制壁Ｆ１１１１３ｂ

との間から引き抜く、即ち、正面枠Ｐ１４の背面側へ導光板Ｆ１１４００を傾倒させる必要があるので、導光板Ｆ１１４００を取り外す際には、正面枠Ｐ１４を外枠Ｈ１１及び内枠Ｈ１２に対して大きく開放することを必須な作業にできる。そのため、正面枠Ｐ１４を外枠Ｈ１１及び内枠Ｈ１２に対して大きく開放する分、作業性が悪くなるものの、不正に導光板Ｆ１１４００が取り外されることを抑制できる。

【１１４５２】

次いで、図６４８を参照して、第１１６実施形態における導光板ユニットＦ１２１００について説明する。上記第１０６実施形態では、導光板ユニットＦ２１００を変位させるための駆動源が配設されない場合について説明したが、第１１６実施形態では、導光板ユニットＦ１２１００に振動モータＦ１２９００を配設する場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。

【１１４５３】

図６４８（ａ）は、第１１６実施形態における導光板ユニットＦ１２１００の正面図であり、図６４８（ｂ）は、導光板ユニットＦ１２１００、遊技盤Ａ１３、及び、外枠Ｈ１１の分解正面斜視図である。なお、図６４８（ａ）では、一側カバー手段Ｆ２５００が取り外された状態の導光板ユニットＦ１２１００が図示される。

【１１４５４】

図６４８に示すように、第１１６実施形態におけるパチンコ機Ａ１０は、内枠Ｈ１２の正面側（矢印Ｆ方向側）に導光板ユニットＦ１２１００が配設される。また、導光板ユニットＦ１２１００は、導光板Ｆ４００が遊技盤Ａ１３の正面側に重なる状態で配設されると共に、導光板Ｆ４００を保持する保持部材（一側ベース手段Ｆ２２００、他側ベース手段Ｆ２３００、一側カバー手段Ｆ２５００、及び、他側カバー手段Ｆ２６００）が外枠Ｈ１１の内側に配置される。

【１１４５５】

導光板ユニットＦ１２１００は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の間隔を隔てて配設される一側ベース手段Ｆ２２００及び他側ベース手段Ｆ２３００と、それら一側ベース手段Ｆ２２００及び他側ベース手段Ｆ２３００のそれぞれの正面側（矢印Ｆ方向側）に一部が重なる状態で一側ベース手段Ｆ２２００及び他側ベース手段Ｆ２３００の間に介在される導光板Ｆ４００と、一側ベース手段Ｆ２２００及び他側ベース手段Ｆ２３００の間に導光板Ｆ４００を挟持した状態で、一側ベース手段Ｆ２２００及び他側ベース手段Ｆ２３００のそれぞれの正面側に配設される一側カバー手段Ｆ２５００及び他側カバー手段Ｆ２６００と、一側ベース手段Ｆ２２００に配設される振動モータＦ１２９００と、を主に備える。

【１１４５６】

振動モータＦ１２９００は、電力を付与するための配線が接続される本体部Ｆ１２９１０と、その本体部Ｆ１２９１０に対して回転可能な状態で配設される回転軸Ｆ１２９２０と、その回転軸Ｆ１２９２０の回転軸の偏心した位置に配設される錘Ｆ１２９３０と、を主に備えて構成され、回転軸Ｆ１２９２０と共に錘Ｆ１２９３０を回転させることで、錘Ｆ１２９３０の偏心により本体部Ｆ１２９１０に振動を付与することが可能とされる。

【１１４５７】

また、振動モータＦ１２９００は、本体部Ｆ１２９１０が一側ベース手段Ｆ２２００に配設されており、回転軸Ｆ１２９２０と共に錘Ｆ１２９３０を回転させることで、一側ベース手段Ｆ２２００及びその一側ベース手段Ｆ２２００に配設される導光板Ｆ４００を振動させることができる。

【１１４５８】

なお、振動モータＦ１２９００の回転軸Ｆ１２９２０の始動は、他側ベース手段Ｆ２３００及び他側カバー手段Ｆ２６００に配設されるスイッチＦ１２９４０をＯＮする（背面側に向かって押し込む）ことで行わる様に構成される。よって、第１１６実施形態では、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した後で、作業者がスイッチＦ１２９４０を操作（ＯＮに）することにより、振動モータＦ１２９００の回転軸Ｆ１２９２

０を任意のタイミングで回転させる（導光板Ｆ４００に振動を付与する）ことが可能に構成される。
【１１４５９】
以上のように構成される導光板ユニットＦ１２１００では、遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０と導光板Ｆ４００がとの間に遊技球が詰まった場合に、球詰まりを解消する作業を簡易に行うことができる。
【１１４６０】
ここで、上記第１０６実施形態のように、導光板ユニットＦ２１００を遊技盤Ａ１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設するために導光板ユニットＦ２１００を内枠Ｈ１２に配設した場合には、遊技盤Ａ１３と導光板Ｆ４００との間に遊技球の球詰まりが発生した際に、導光板ユニットＦ２１００を遊技盤Ａ１３に対して移動させ、遊技盤Ａ１３の正面側を開放する必要がある。即ち、遊技盤Ａ１３の正面側に作業者の手を入れるための空間を形成する必要がある。
【１１４６１】
これに対し、第１１６実施形態における導光板ユニットＦ１２１００では、振動モータＦ１２９００により導光板Ｆ４００を振動させることができるので、遊技盤Ａ１３と導光板Ｆ４００との間に遊技球の球詰まりが発生した際に、振動モータＦ１２９００により導光板Ｆ４００を振動させて（振動モータＦ１２９００の振動を導光板Ｆ４００に伝達して）、遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０と導光板Ｆ４００との間に詰まった球を動かす（揺らす）ことで、球詰まりを解消することができる。よって、上記したように、導光板ユニットＦ１２１００を遊技盤Ａ１３に対して移動させ、遊技盤Ａ１３の正面側（矢印Ｆ方向側）を開放することなく遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０と導光板Ｆ４００との間の球詰まりを解消することができる。その結果、遊技者の作業（球詰まりを解消する作業）を簡易にできる。
【１１４６２】
なお、この場合、振動モータＦ１２９００の振動をスイッチＦ１２９４０を介して作業者の手にも伝達することができるので、振動モータＦ１２９００が駆動してることをスイッチＦ１２９４０を操作する作業者にも認識させることができる。即ち、振動モータＦ１２９００の振動をスイッチがＯＮされたことを認識させるための駆動源として利用できる。その結果、部品コストを削減できる。
【１１４６３】
次いで、図６４９を参照して、第１１７実施形態における導光板ユニットＦ１３１００について説明する。上記第１１０実施形態では、導光板ユニットＦ６１００の発光手段Ｆ２２１が正面枠Ｐ１４の正面側から視認されない場合について説明したが、第１１７実施形態では、導光板ユニットＦ６１００の発光手段Ｆ２２１が正面枠Ｐ１４を介して視認される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。
【１１４６４】
図６４９（ａ）は、第１１７実施形態におけるパチンコ機Ａ１０の断面模式図であり、図６４９（ｂ）は、発光手段Ｆ２２１の光の照射方向と反対方向視における光照射ユニットＦ６１００Ａの側面図である。なお、図６４９（ａ）は、図６３１（ａ）のＥ１４ｂ－Ｅ１４ｂ線における断面と対応する。また、図６４９（ｂ）では、導光板Ｆ６４００が透明視して図示されると共に外形が破線で表示される。
【１１４６５】
図６４９（ａ）に示すように、第１１７実施形態では、上記第１１０実施形態における導光板ユニットＦ６１００と同様に、光を出射する導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）を有する光照射ユニットＦ６１００Ａと、その光照射ユニットＦ６１００Ａから照射される光を入射可能に構成される導光板Ｆ６４００とがそれぞれ正面枠Ｐ１４と内枠Ｈ１２とに配設される。即ち、光照射ユニットＦ６１００Ａと導光板Ｆ５４００とが別のユニットとして構成され、異なるユニット（正面枠Ｐ１４と内枠Ｈ１２と）に配設さ

れる。
【１１４６６】
　また、図６４９（ｂ）に示すように、光照射ユニットＦ６１００Ａの導光板側照射用基板Ｆ２２０には、複数（第１１７実施形態では５個）の発光手段Ｆ２２１（以下の説明では、図６４９（ｂ）の左側には配設される発光手段Ｆ２２１から順に発光手段Ｆ２２１ｃ～Ｆ２２１ｇと称す）が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の間隔を開けて配設される。なお、所定の間隔とは、均一の間隔であってもよく、導光板Ｆ４００に表示される模様や図柄に合わせた不均一の間隔であっても良い。
【１１４６７】
　さらに、第１１７実施形態における正面枠Ｐ１４には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通する複数の貫通孔Ｐ１３０１４ｙが形成される。第１１７実施形態におけるパチンコ機Ａ１０では、正面枠Ｐ１４の正面側から貫通孔Ｐ１３０１４ｙを介して導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１ｃ～Ｆ２２１ｇ）を視認することで、発光手段Ｆ２２１ｃ～Ｆ２２１ｇから出射される光を導光板Ｆ６４００の反射部Ｆ４１０を介すことなく光を視認可能に構成される。即ち、第１１７実施形態におけるパチンコ機Ａ１０では、正面枠Ｐ１４の貫通孔Ｐ１３０１４ｙを介して正面枠Ｐ１４の正面側に発光手段Ｆ２２１ｃ～Ｆ２２１ｇの光を照射可能に構成される。
【１１４６８】
　また、複数の貫通孔Ｐ１３０１４ｙは、光照射ユニットＦ６１００Ａの導光板側照射用基板Ｆ２２０に配設される複数の発光手段Ｆ２２１ｃ～Ｆ２２１ｇと対応する位置に形成される。これにより、それぞれの貫通孔Ｐ１３０１４ｙからそれぞれの発光手段Ｆ２２１ｃ～Ｆ２２１ｇの光を視認可能とされる。これにより、複数の発光手段Ｆ２２１ｃ～Ｆ２２１ｇのうちどの発光手段Ｆ２２１ｃ～Ｆ２２１ｇが点灯しているのかを、遊技者または作業者に認識させやすくできる。
【１１４６９】
　さらに、図６４９（ｂ）に示すように、複数の発光手段Ｆ２２１ｃ～Ｆ２２１ｇのうち一部の発光手段Ｆ２２１ｄ～Ｆ２２１ｆの光照射側には、導光板Ｆ６４００の上端側が重なる状態で配設される。これにより、発光手段Ｆ２２１ｄ～Ｆ２２１ｆから出射された光は、導光板Ｆ６４００に入射され導光板Ｆ６４００を透過し導光板Ｆ６４００から正面側に出射されて視認可能とされる。即ち、発光手段Ｆ２２１ｄ～Ｆ２２１ｆから出射された光は、導光板Ｆ６４００を介して視認可能とされる。そのため、発光手段Ｆ２２１ｄ～Ｆ２２１ｆの光は、発光手段Ｆ２２１ｃ，Ｆ２２１ｇの光の照射方向に対して異なる方向に照射される。よって、第１１７実施形態では、パチンコ機Ａ１０を正面視する位置（高さ）によって、発光手段Ｆ２２１ｄ～Ｆ２２１ｆと、発光手段Ｆ２２１ｃ，Ｆ２２１ｇとのそれぞれの光の視認のされやすさを変更できる。
【１１４７０】
　また、第１１７実施形態では、第１１０実施形態における正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した際と同様に、作業者が光照射ユニットＦ６１００Ａ（発光手段Ｆ２２１）を内枠Ｈ１２から取り外さなくても、作業者にパチンコ機Ａ１０の状態を報知することが可能とされる。例えば、複数の発光手段Ｆ２２１の発光・消灯の組み合わせや、発光色の組み合わせにより、パチンコ機Ａ１０の異常を作業者に報知することができる。
【１１４７１】
　この場合、第１１７実施形態では、上記したように発光手段Ｆ２２１ｄ～Ｆ２２１ｆと、発光手段Ｆ２２１ｃ，Ｆ２２１ｇとのそれぞれの光の視認のされやすさを変更できるので、例えば、発光手段Ｆ２２１ｃ，Ｆ２２１ｇは異常を作業者に気付かせるための報知手段として使用しつつ、発光手段Ｆ２２１ｄ～Ｆ２２１ｆは発光態様の組み合わせにより異常の内容を作業者に知らせる手段として使用したり、又は、発光手段Ｆ２２１ｃ，Ｆ２２１ｇは異常を作業者に気付かせるための報知手段として使用しつつ、発光手段Ｆ２２１ｄ～Ｆ２２１ｆは遊技者に異常を気付かせるための報知手段として使用する等、発光手段Ｆ

２２１ｄ～Ｆ２２１ｆと、発光手段Ｆ２２１ｃ，Ｆ２２１ｇとで、異なる役割を持たせることができる。

【１１４７２】

また、光照射ユニットＦ６１００Ａが内枠Ｈ１２に配設され、導光板Ｆ６４００が正面枠Ｐ１４に配設されるので、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した際に、発光手段Ｆ２２１の光照射側に位置していた導光板Ｆ６４００を発光手段Ｆ２２１から離間させることができるので、導光板Ｆ６４００の光入射面に作業者がアクセス可能となる。その結果、導光板Ｆ６４００の光入射面の清掃を簡易にでき、導光板Ｆ６４００への光の入射量を維持することができる。

【１１４７３】

さらに、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した際に、発光手段Ｆ２２１の光照射側に位置していた導光板Ｆ６４００を発光手段Ｆ２２１から離間させられるので、導光板Ｆ６４００の交換時には、導光板Ｆ６４００のみの交換作業を行いやすくできる。

【１１４７４】

以上、上記実施形態に基づき本発明を説明したが、本発明は上記形態に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲内で種々の変形改良が可能であることは容易に推察できるものである。

【１１４７５】

上記各実施形態において、一の実施形態における構成の一部または全部を、他の実施形態における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の実施形態としても良い。以下に示す変形例（別実施形態）においても同様であり、一の変形例における構成の一部または全部を、他の変形例における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の変形例としても良い。以下に示す変形例の適用対象となる実施形態は任意であり、いずれの変形例（変形例の組み合わせ又は置き換え）をいずれの実施形態に適用しても良い。

【１１４７６】

上記第１０５実施形態では、一側ベース手段Ｆ２００に導光板Ｆ４００に入射可能な光を出射可能な導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）を配設する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、他側ベース手段Ｆ３００にも導光板Ｆ４００に入射可能な光を出射可能な発光手段を有する基板を配設して、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の両側（一方向以外の他方向側）から導光板Ｆ４００に光を入射させるように構成しても良い。

【１１４７７】

上記第１０５実施形態では、導光板Ｆ４００の開口部Ｆ４０２が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に長く形成され、他側ベース手段Ｆ３００に対しての導光板Ｆ４００の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における相対変位が許容される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、導光板Ｆ４００の開口部Ｆ４０２を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にも大きく形成して、他側ベース手段Ｆ３００に対しての導光板Ｆ４００の上下方向における相対変位を許容するように構成しても良い。

【１１４７８】

また、上記第Ｊ０１では、他側ベース手段Ｆ３００に対する導光板Ｆ４００の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の相対変位を許容することで、導光板ユニットＦ１００を背面ケースＤ３００の外壁部Ｄ３０２に配設しやすくする場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、背面ケースＤ３００の外壁部Ｄ３０２に対して他側ベース手段Ｆ３００又は一側ベース手段Ｆ２００の相対変位を許容しても良い。即ち、導光板ユニットＦ１００が背面ケースＤ３００に対して取付位置を変更可能に構成しても良い。

【１１４７９】

上記第１０５実施形態では、導光板ユニットＦ１００が導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）以外に複数の基板（導光板側照射用基板Ｆ２３０、基板部材Ｆ８２０

）を備える場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第１０６実施形態から第１１６実施形態のように、導光板側照射用基板Ｆ２２０（正面側発光手段Ｆ２２１ａ）のみを備えるものであっても良い。なお、この場合には、一側ベース手段Ｆ２００、他側ベース手段Ｆ３００、一側カバー手段Ｆ５００、他側カバー手段Ｆ６００を光非透過性の材料から形成しても良い。

【１１４８０】

また、上記第１０５実施形態、第１０６実施形態～第１１６実施形態では、導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）が、導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂに向けて光を照射する場合について説明したが、導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂは、光を発光可能に構成される部位であればよく、発光された光の全てが導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂに入射されるものでなくても良い。即ち、一部の光が導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂの外側の領域に出射されるものであっても良い。

【１１４８１】

上記第１０５実施形態、及び、第１０６実施形態～第１１６実施形態では、導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂが光透過性の樹脂材料から形成される場合について説明したが、導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂは、プラスチック、アクリル、レジン等、入射された光を透過して所定の方向へ向けて出射可能な部位であれば何でも良く、樹脂材料でなくてもよい。

【１１４８２】

また、導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂは、光を透過可能に構成されるものであれば、色付きの透明板であっても良い。

【１１４８３】

上記第１０６実施形態～第１０８実施形態、及び、第１１０実施形態～第１１７実施形態では、導光板ユニットＦ２１００，Ｆ６１００，Ｆ８１００，Ｆ９１００，Ｆ１０１００，Ｆ１１１００，Ｆ１２１００を内枠Ｈ１２又は正面枠Ｐ１４に配設する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、導光板ユニットＦ２１００，Ｆ６１００，Ｆ８１００，Ｆ９１００，Ｆ１０１００，Ｆ１１１００，Ｆ１２１００が遊技盤Ａ１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に位置するものであれば、導光板ユニットＦ２１００，Ｆ６１００，Ｆ８１００，Ｆ９１００，Ｆ１０１００，Ｆ１１１００，Ｆ１２１００の配設対象を変更してもよい。例えば、導光板ユニットＦ２１００，Ｆ６１００，Ｆ８１００，Ｆ９１００，Ｆ１０１００，Ｆ１１１００，Ｆ１２１００を外枠Ｈ１１に配設しても良く、遊技盤Ａ１３の正面側に配設しても良い。

【１１４８４】

なお、遊技盤Ａ１３の正面側に導光板ユニットＦ２１００，Ｆ６１００，Ｆ８１００，Ｆ９１００，Ｆ１０１００，Ｆ１１１００，Ｆ１２１００を配設する場合には導光板ユニットＦ２１００，Ｆ６１００，Ｆ８１００，Ｆ９１００，Ｆ１０１００，Ｆ１１１００，Ｆ１２１００を遊技盤Ａ１３に配設した状態でユニット化できるので、パチンコ機Ａ１０（外枠Ｈ１１、内枠Ｈ１２、遊技盤Ａ１３、及び、正面枠Ｐ１４）を組み立てる際に、組

み付けが必要なユニット（導光板ユニットＦ２１００，Ｆ６１００，Ｆ８１００，Ｆ９１００，Ｆ１０１００，Ｆ１１１００，Ｆ１２１００）を減らすことができる。そのため、パチンコ機Ａ１０の組み立て作業性を向上できる。

【１１４８５】

また、パチンコ機Ａ１０の仕様を変更する際には、ユニット化した導光板ユニットＦ２１００，Ｆ６１００，Ｆ８１００，Ｆ９１００，Ｆ１０１００，Ｆ１１１００，Ｆ１２１００と遊技盤Ａ１３とを、内枠Ｈ１２から取り外して、別の導光板ユニットＦ２１００，Ｆ６１００，Ｆ８１００，Ｆ９１００，Ｆ１０１００，Ｆ１１１００，Ｆ１２１００と別の遊技盤Ａ１３とをユニット化したものを内枠Ｈ１２に取り付ければ、パチンコ機Ａ１０の仕様を変更することが可能となる。そのため、パチンコ機Ａ１０の仕様変更を簡易に行うことができる。

【１１４８６】

上記第１０６実施形態～第１０８実施形態、及び、第１１０実施形態～第１１７実施形態では、導光板ユニットＦ２１００，Ｆ６１００，Ｆ８１００，Ｆ９１００，Ｆ１０１００，Ｆ１１１００，Ｆ１２１００を内枠Ｈ１２又は正面枠Ｐ１４に螺子で固定する場合について説明したが必ずしもこれに限られるものではない。例えば、導光板ユニットＦ２１００，Ｆ６１００，Ｆ８１００，Ｆ９１００，Ｆ１０１００，Ｆ１１１００，Ｆ１２１００と内枠Ｈ１２又は正面枠Ｐ１４とのそれぞれに係合部および被係合部を形成して、係合部を被係合部に係合させて導光板ユニットＦ２１００，Ｆ６１００，Ｆ８１００，Ｆ９１００，Ｆ１０１００，Ｆ１１１００，Ｆ１２１００を内枠Ｈ１２又は正面枠Ｐ１４に係合させても良い。この場合、導光板ユニットＦ２１００，Ｆ６１００，Ｆ８１００，Ｆ９１００，Ｆ１０１００，Ｆ１１１００，Ｆ１２１００と内枠Ｈ１２又は正面枠Ｐ１４との係合を解除した状態で、導光板ユニットＦ２１００，Ｆ６１００，Ｆ８１００，Ｆ９１００，Ｆ１０１００，Ｆ１１１００，Ｆ１２１００を遊技盤Ａ１３に対して変位（スライド又は回転）可能に構成しても良い。

【１１４８７】

上記第１０６実施形態～第１０８実施形態、及び、第１１０実施形態～第１１７実施形態では、一側ベース手段Ｆ２２００、他側ベース手段Ｆ２３００、一側カバー手段Ｆ２５００、他側カバー手段Ｆ２７００、ベース手段Ｆ１０１１０，Ｆ１１１１０、及び、カバー手段Ｆ１０１２０，Ｆ１１１２０が光非透過性の材料から形成される場合について説明したが、上記第１０５実施形態における一側ベース手段Ｆ２００、他側ベース手段Ｆ３００、一側カバー手段Ｆ５００、及び、他側カバー手段Ｆ６００のように、光透過性の材料から形成して、導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光が一側ベース手段Ｆ２２００、他側ベース手段Ｆ２３００、一側カバー手段Ｆ２５００、他側カバー手段Ｆ２７００、ベース手段Ｆ１０１１０，Ｆ１１１１０、及び、カバー手段Ｆ１０１２０，Ｆ１１１２０を透過して導光板ユニットＦ２１００，Ｆ６１００，Ｆ８１００，Ｆ９１００，Ｆ１０１００，Ｆ１１１００，Ｆ１２１００の正面側や背面側から出射されるようにしても良い。

【１１４８８】

上記第１０６実施形態～第１１７実施形態では、導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光が導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂに直接入射される場合について説明したが、上記第１０５実施形態における導光板ユニットＦ１００のように、導光板側照射用基板Ｆ２２０に沿って拡散手段Ｆ２４０を配設して、導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から出射される光が拡散した後で、導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂに入射されるように構成しても良い。

【１１４８９】

上記第１０６実施形態では、導光板ユニットＦ２１００の導光板Ｆ４００の正面視にお

ける外形が遊技盤Ａ１３の遊技領域の外形よりも大きく形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、遊技盤Ａ１３の遊技領域の外形と略同一の外形に形成されていても良い、又、遊技盤Ａ１３の遊技領域の外形よりも小さい外形に形成されていても良い。

【１１４９０】

なお、遊技盤Ａ１３の遊技領域の外形よりも小さい外形の導光板Ｆ４００に形成される場合には、遊技盤Ａ１３の遊技領域の正面側が、導光板Ｆ４００に塞がれた領域と塞がれていない領域とを形成でき、それらの領域の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の対向間の間隔の違いにより、遊技領域を流下する遊技球に前後方向の動きを付与することができる。その結果、遊技領域を流下する遊技球に遊技者の視線を集めやすくできると共に、導光板Ｆ４００を小さくして導光板Ｆ４００の部品コストを低減できる。

【１１４９１】

上記第１０５実施形態、及び、上記第１０６実施形態～第１１７実施形態では、導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂが正面視（矢印Ｂ方向視）において略矩形状に形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂの形状は何でも良い。例えば、遊技盤Ａ１３の遊技領域の正面視形状に合わせて、上方側（矢印Ｕ方向側）の外縁を円弧状に形成しても良い。

【１１４９２】

この場合に、導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂの上端側から光を入射することで、導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂに光が入射される際の屈折を利用して、導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂの中央部に発光手段Ｆ２２１の光を集めやすくできる。一方、導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂの下方側から光を入射させた場合には、導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂの内部を上端側に向かって進み、その光を上端側の外縁（他側ベース手段Ｆ３００，Ｆ２３００及び他側カバー手段Ｆ６００，Ｆ５６００）で反射させた際に、その反射光を導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂの中央部に向けて進ませ、導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂの中央部に発光手段Ｆ２２１の光を集めやすくできる。その結果、導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂに表示される模様や図柄を遊技者に視認させやすくできる。

【１１４９３】

また、上記第１１７実施形態においては、振動モータＦ１２９００が配設される上方側（矢印Ｕ方向側）の導光板Ｆ４００の外縁を円弧状に形成することで、正面視（矢印Ｂ方向視における導光板Ｆ４００の中央部に振動モータＦ１２９００から伝達される振動を伝達しやすくできる。その結果、導光板Ｆ４００の全体を振動させやすくして、遊技盤Ａ１

３のベース板Ａ６０と導光板Ｆ４００との対向間に詰まった遊技球の球詰まりを解消しやすくできる。

【１１４９４】

なお、この場合、円弧状に形成した導光板Ｆ４００の上端側の側面を、振動モータＦ１２９００が配設される一側ベース手段Ｆ２２００及び一側カバー手段Ｆ２５００に当接させることが好ましい。これによれば、振動モータＦ１２９００から一側ベース手段Ｆ２２００及び一側カバー手段Ｆ２５００に伝わる振動を、導光板Ｆ４００の上端側に伝えやすくできるからである。

【１１４９５】

なお、導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂは、上端側が円弧状に形成されるものだけでなく、円弧に近い形状であれば上述した効果と同様の効果を得ることができる。そのため、例えば、導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂの上端側を台形形状に形成しても良く、また、鋸歯形状や波形状に形成しても良い。

【１１４９６】

また、導光板Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ、及び、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂは、上端側が円弧状に形成されるものだけでなく、正面視における外周縁の少なくとも一部または全部が円弧状や、台形形状、鋸歯形状、波形状に形成されるものであっても良い。

【１１４９７】

上記第１０６実施形態～第１０８実施形態及び、第１１０実施形態では、正面視（矢印Ｂ方向視）において、導光板Ｆ４００，Ｆ６４００の外縁部が正面枠Ｐ１４の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる位置に配設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、導光板Ｆ４００，Ｆ６４００の外縁部の一部または全部が正面視において視認可能とされるもの（正面枠Ｐ１４と重ならない位置に配設されるもの）であっても良い。この場合には、正面視における正面枠Ｐ１４の枠幅をあえて大きくする必要が無くなるので、導光板Ｆ４００，Ｆ６４００を大きくできると共に、導光板Ｆ４００，Ｆ６４００の正面視における外形にバリエーションを付与することができる。

【１１４９８】

上記第１０６実施形態～第１０８実施形態では、発光手段Ｆ２２１が配設される導光板Ｆ４００の一側と反対側の他側に他側ベース手段Ｆ２３００及び他側カバー手段Ｆ２６００が配設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、発光手段Ｆ２２１が配設される側と異なる導光板Ｆ４００の外周面を非光透過性のテープの貼付するものであっても良い。これによれば、導光板Ｆ４００の側端面から発光手段Ｆ２２１の光が抜け出ることを抑制して、導光板Ｆ４００に表示される模様や図柄を遊技者に視認させやすくできる。

【１１４９９】

上記第１０６実施形態～第１０８実施形態では、正面視において導光板Ｆ４００の外縁部が正面枠Ｐ１４の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、正面枠Ｐ１４の正面における枠幅を小さく（窓部Ｈ１４ｅの領域を大きく）して、導光板Ｆ４００の演出領域（模様や図柄の表示領域）を大きくすると共に、遊技盤Ａ１３の視認可能な領域を大きくしても良い。この場合には、正面視における導光板Ｆ４００及び遊技盤Ａ１３の演出領域を大きくできるので、遊技者の興趣を高めやすくできる。

【１１５００】

上記第１０９実施形態では、導光部Ｆ５４２０と装飾カバー部Ｆ５４３０とを光透過性の樹脂材料から形成する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく

、導光部Ｆ５４２０と装飾カバー部Ｆ５４３０とで樹脂材料を変更して、装飾カバー部Ｆ５４３０を光非透過性の樹脂材料から形成しても良い。この場合には、導光部Ｆ５４２０に入射される発光手段Ｆ２２１の光が、装飾カバー部Ｆ５４３０に分散しなくなるので、発光手段Ｆ２２１から出射される光の光量を多くしなくても、導光部Ｆ５４２０に表示される模様や図柄を遊技者に視認させやすくできる。

【１１５０１】

上記第１１０実施形態では、導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から照射される光を正面側下方の斜めに向けて出射する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、上記第１０５実施形態、第１０６実施形態～第１０９実施形態における導光板ユニットＦ１００，Ｆ２１００のように、導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）から照射される光を導光板Ｆ４００の正面と平行な方向に向けて出射するように構成しても良い。

【１１５０２】

上記第１１１実施形態では、導光板Ｆ４００に表示させる図柄や模様と、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される図柄や模様とを合わせて視認させる場合について説明したが、導光板Ｆ４００に表示させる図柄や模様を背面ケースＤ３００に配設される役物と合わせて視認させるものであっても良い。この場合、背面ケースＤ３００に配設される役物を上記第１１１実施形態における第３図柄表示装置Ｈ８１のように前後方向に変位可能に構成することが好ましい。

【１１５０３】

また、上記第１１１実施形態では、導光板Ｆ４００に図柄や模様を表示させる前に、第３図柄表示装置Ｈ８１を導光板Ｆ４００側（正面側（矢印Ｆ方向側））に変位させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、導光板Ｆ４００に表示される模様や図柄と第３図柄表示装置Ｈ８１の表示とを合わせて視認させている際、即ち、導光板Ｆ４００に模様や図柄を表示している間に、第３図柄表示装置Ｈ８１を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に繰り返し変位させるものであっても良い。また、第３図柄表示装置Ｈ８１の左右方向の一方側または他方側を正面側に変位させるものであっても良い。

【１１５０４】

上記第１１２実施形態、及び第１１３実施形態では、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａに光を照射する発光手段Ｆ２２１のみ配設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａに光を照射する発光手段Ｆ２２１と、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂに光を照射する発光手段Ｆ２２１とをそれぞれ備えるものであっても良い。この場合には、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａに表示される模様や図柄の色と、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂに表示される模様や図柄の色とを異なるものにしたり、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａと、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂとに表示される模様や図柄をそれぞれ異なるタイミングで表示したりできる。その結果、発光手段Ｆ２２１の制御が複雑になるものの、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａと第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂとの表示による演出効果を向上できる。

【１１５０５】

上記第１１２実施形態、及び、第１１３実施形態では、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａと、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂとの２枚の導光板を配設する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、３枚の導光板を前後方向に重ねて配設するものであっても良い。なお、この場合、３枚の導光板の前後方向の間隔は、所定の隙間を空けて配設されるものであっても、当接した状態で配設されるものであっても、一方側の２枚が隙間を空けて配設され他方側の２枚が当接した状態で配設されるものであっても良い。

【１１５０６】

また、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａと、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂとの間に、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａと、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ

９４００Ｂとは光の透過率の異なる別の透明材料（例えば、ガラスや液体等）を挟んだ状態で第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａと、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂとを配設しても良い。

【１１５０７】

上記第１１２実施形態、及び、第１１３実施形態では、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａと、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂとの２枚の導光板の間に隙間が形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａと、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂとが当接した状態で配設され、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ（又は、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ）を透過する光が第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ（又は、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ）に入射され可能とされるものであっても良い。しかしながら、この場合には、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａと、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂとを透過する光が互いの導光板に入射可能となるので、光が分散し、所定の位置での発光量を得られない可能性があるものの、第１導光板Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａと、第２導光板Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂの全体を均一に発光できる。

【１１５０８】

上記第１１３実施形態では、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂの正面側（矢印Ｆ方向側）に導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）を配設する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂの背面側（矢印Ｂ方向側）に導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）を配設するものであってもよく、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂの正面側と背面側とに、導光板側照射用基板Ｆ２２０（発光手段Ｆ２２１）を配設するものであっても良い。

【１１５０９】

また、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂの側端面からも光を入射差させるための発光手段Ｆ２２１を別途備えるものであっても良い。この場合には、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂの正面側と側端面との２面から光を入射させることができるので、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂに表示される模様や図柄を遊技者に視認させやすくできる。

【１１５１０】

上記第１１４実施形態では、ベース手段Ｆ１０１１０の第１立設部Ｆ１０１１３の下方側の内面に沿って、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂをスライド変位させる場合について説明したが、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放する際の遠心力で第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂがスライド変位しないように、ベース手段Ｆ１０１１０の第１立設部Ｆ１０１１３の下方側の内面において第２導光板Ｆ１０４００Ｂと隣り合う位置から上方側（矢印Ｕ方向側）に突出する突出部を形成しても良い。この場合、第２導光板Ｆ１０４００Ｂが左右方向の遠心力で変位する際に第２導光板Ｆ１０４００Ｂを突出部に当接させることで、第２導光板Ｆ１０４００Ｂの所定以上の変位を規制できる。その結果、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの配設位置が位置ずれすることを抑制でき、適切な位置で第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの模様や図柄の表示を遊技者に視認させることができる。

【１１５１１】

この場合において、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを取り外す場合には、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを左右方向にスライド変位して第２導光板Ｆ１０４００Ｂを突出部に当接させた後、上方側に第２導光板Ｆ１０４００Ｂを持ち上げる（突出部を乗り越えさせる）ことで、第２導光板Ｆ１０４００Ｂを取り外すことができる。

【１１５１２】

なお、突出部の乗り越え高さは、左右方向へのスライド変位前の第２導光板Ｆ１０４０

０Ｂと突出部との左右方向における隙間よりも大きく設定されることが好ましい。これによれば、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの左右方向の配置の位置ずれを少なくできると共に、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂが不用意に脱落することを突出部により抑制しやすくできるからである。

【１１５１３】

上記第１１４実施形態では、ベース手段Ｆ１０１１０の第１立設部Ｆ１０１１３の下方側の内面に沿って、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）にスライド変位させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にスライド変位させるものであっても良い。

【１１５１４】

この場合、上方側に向けて第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂをスライド変位させることで、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを取り外し可能な構成とすることで、第１立設部Ｆ１０１１３の下方側の内面を第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの載置面とすることができるので、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの着脱作業を簡易にできる。

【１１５１５】

上記第１１４実施形態では、ベース手段Ｆ１０１１０の第１立設部Ｆ１０１１３の下方側の内面に沿って、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを正面枠Ｐ１４の右側（矢印Ｒ方向側）、即ち、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して開放した側（正面枠Ｐ１４の回転軸と反対側）にスライド変位させる場合について説明したが、ベース手段Ｆ１０１１０の第１立設部Ｆ１０１１３の下方側の内面に沿って、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを正面枠Ｐ１４の左側（矢印Ｌ方向側、正面枠Ｐ１４の回転軸側）にスライド変位させることで、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを取り外し可能に構成されるものであっても良い。この場合には、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂをスライド変位させるための領域を確保するために、正面枠Ｐ１４を外枠Ｈ１１及び内枠Ｈ１２に対して大きく開放することが必須となる。そのため、正面枠Ｐ１４を外枠Ｈ１１及び内枠Ｈ１２に対して大きく開放する分、作業性が悪くなるものの、不正に導光板Ｆ１１４００が取り外されることを抑制できる。

【１１５１６】

また、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に転動させて、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを着脱可能に構成しても良い。この場合には、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを着脱する際に、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの姿勢を変更できるので、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの配設途中で、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂを正しく配設したと作業者勘違いしてしまうことを抑制できる。その結果、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂの配設作業の間違いを防止できる。

【１１５１７】

上記第１１４実施形態および、第１１５実施形態では、内枠Ｈ１２の本体側下皿通路部Ｈ１６２（図４９３参照）から正面枠Ｐ１４の払出球受口部Ｈ１４３（図４９３参照）の間の通路を導光板ユニットＦ１０１００，Ｆ１１１００に形成する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、他の通路を導光板ユニットＦ１０１００，Ｆ１１１００に形成するものであっても良い。例えば、正面枠Ｐ１４の発射位置送球ユニットＨ１７０（図４９１参照）から内枠Ｈ１２の球発射ユニットＨ１１２ａ（図４９１参照）の間の通路を導光板ユニットＦ１０１００，Ｆ１１１００に形成しても良い。この場合には、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂ、導光板Ｆ１１４００が取り外された状態とされた際に、変位部材Ｆ１０１３０，Ｆ１１１３０により球発射ユニットＨ１１２ａへの球の送球を規制できる。そのため、上皿Ｈ１７に遊技球が一定数貯留

されていたとしても、遊技が開始されることを抑制した状態（遊技球が所定の遊技領域まで打ち出されない状態）を導光板Ｆ１１４００が取り外されたタイミングで形成できる。

【１１５１８】

上記第１１４実施形態、及び、第１１５実施形態では、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂ、導光板Ｆ１１４００が取り外されると、球発射ユニットＨ１１２ａへの遊技球の送球を規制する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂ、導光板Ｆ１１４００が取り外されると、球発射ユニットＨ１１２ａから遊技盤Ａ１３の遊技領域への遊技球の送球通路を塞ぐ位置に変位部材Ｆ１０１３０，Ｆ１１１３０を変位させるものであっても良い。これによれば、球発射ユニットＨ１１２ａから打ち出される遊技球の送球を規制することができるので、遊技が正常に行われていないことを遊技者または作業者に早いタイミングで認識させやすくできる。その結果、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂ、導光板Ｆ１１４００の取り付け忘れを抑制しやすくできる。

【１１５１９】

また、この場合には、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂ、導光板Ｆ１１４００の取り付け忘れを抑制するために（遊技球の送球を規制するために）、導光板ユニットＦ１０１００，Ｆ１１１００に球通路を形成する必要がないので、導光板ユニットＦ１０１００，Ｆ１１１００の構造を簡素にできる。その結果、部品コストを低減できる。

【１１５２０】

上記第１１４実施形態、及び、第１１５実施形態では、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂ、導光板Ｆ１１４００が取り外されると、球発射ユニットＨ１１２ａへの遊技球の送球を規制する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、遊技領域を遊技球が正常に流下できなくなり、遊技者および作業者に第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂ、導光板Ｆ１１４００の取り付け忘れを認識させられるものであれば、何でも良い。

【１１５２１】

例えば、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂ、導光板Ｆ１１４００の正面側に配設されるガラスユニットＨ１６との前後方向における対向間を少なくとも遊技球の直径よりも大きくして、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂ、導光板Ｆ１１４００が取り外された状態で遊技領域を遊技球が流下しようとした場合に、遊技領域とガラスユニットＨ１６との対向間の空間（遊技領域の正面側）に遊技球を落下させるものであっても良い。この場合、遊技球が遊技領域の正面側に落下するので、遊技が正常に行われていないことを遊技者または作業者に早いタイミングで認識させやすくできる。その結果、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂ、導光板Ｆ１１４００の取り付け忘れを抑制しやすくできる。

【１１５２２】

なお、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂ、導光板Ｆ１１４００の正面側に配設されるガラスユニットＨ１６との前後方向における対向間の距離は、必ずしも遊技球の直径よりも大きくする必要があるものではなく、遊技球が遊技領域を正常に流下しなくなる距離であれば、遊技球の直径よりも小さくても良い。この場合、遊技領域の正面側を遊技球が落下するスペースがなくなるため、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂ、導光板Ｆ１１４００の取り付け忘れを遊技者または作業者に早いタイミングで認識させ難くなるものの、前後方向の幅を小さくできるので、パチンコ機Ａ１０が大型化する（正面側に張り出す）ことを抑制できる。

【１１５２３】

上記第１１４実施形態、及び、第１１５実施形態では、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂ、導光板Ｆ１１４００が取り外されることに連動して変位部材Ｆ１０１３０，Ｆ１１１３０を変位させることで、遊技球の正常な打ち出し及び流下を規制する場合について説明したが、必ずしもこれに限れるものではなく、第１導光板Ｆ１０

４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂ、導光板Ｆ１１４００が取り外されたことを検出するセンサ装置を備え、そのセンサ装置の検出により、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動を停止しても良い。この場合には、第１導光板Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ１０４００Ｂ、導光板Ｆ１１４００に連動する変位部材Ｆ１０１３０，Ｆ１１１３０を不要とできるので、機械的な接続をなくすことができ、構造を簡易にできる。

【１１５２４】

上記第１１４実施形態、及び、第１１５実施形態では、導光板ユニットＦ１０１００，Ｆ１１１００を正面枠Ｐ１４に配設する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、外枠Ｈ１１、内枠Ｈ１２、又は、遊技盤Ａ１３の正面側に配設するものであっても良い。なお、この場合には、遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０と導光板Ｆ１１４００との間の球詰まりを解消しやすくするために、導光板ユニットＦ１０１００，Ｆ１１１００を外枠Ｈ１１、内枠Ｈ１２、又は、遊技盤Ａ１３に対して、相対変位可能に配設することが好ましい。

【１１５２５】

上記第１１０実施形態、第１１３実施形態～第１１５実施形態、及び、第１１７実施形態では、導光板Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂのみを交換可能に構成される場合について説明したが、上記第１１０実施形態、第１１３実施形態～第１１５実施形態、及び、第１１７実施形態では、導光板Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂの取り付け時にそれら導光板Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂの前後を間違えた場合に取り付けられない構造として、導光板Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂの配設間違いを抑制しても良い。

【１１５２６】

なお、導光板Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂを間違えて取り付けられない構造としては、例えば、正面視における導光板Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂの形状を左右で非対称な形状とすることが好ましい。

【１１５２７】

上記第１１０実施形態、第１１３実施形態～第１１５実施形態、及び、第１１７実施形態では、導光板Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂのみを交換可能に構成される場合について説明したが、上記第１１０実施形態、第１１３実施形態～第１１５実施形態、及び、第１１７実施形態では、パチンコ機Ａ１０の仕様の変更（スペックやモデルの異なるパチンコ機Ａ１０に変更）に合わせて（交換後の導光板Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂの表示に合わせて）、発光手段Ｆ２２１の配設位置を変更可能に構成しても良い。

【１１５２８】

これによれば、交換後の導光板Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂの表示に合わせて、導光板Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂの適した位置から発光手段Ｆ２２１の光を導光板Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂに入射させることができる。その結果、交換後の導光板Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂの表示を遊技者に視認させやすくできる。

【１１５２９】

なお、発光手段Ｆ２２１の配設位置を変更可能にする構造としては、案内レールに発光

手段Ｆ２２１が配設され、その案内レール上を発光手段Ｆ２２１が変位可能とされる構造であったり、直動変位可能なソレノイドが発光手段Ｆ２２１に接続され、そのソレノイドの駆動により発光手段Ｆ２２１が変位可能とされる構造であったり、発光手段Ｆ２２１が軸支された状態で配設され、その軸を中心に発光手段Ｆ２２１が変位（回動）可能とされる構造が例示される。

【１１５３０】

また、発光手段Ｆ２２１を変位可能とする場合には、発光手段Ｆ２２１を導光板Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂの取り外す際に発光手段Ｆ２２１の変位が必須となる構成にしても良い。これによれば、導光板Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂを取り外す際の作業の手間は増えるものの、導光板Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂが脱落した場合に、発光手段Ｆ２２１を変位させることができるので、発光手段Ｆ２２１を作業者に認識させやすくして、発光手段Ｆ２２１を導光板Ｆ６４００，Ｆ１１４００、第１導光板Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂが脱落したことを作業者に認識させやすくできる。

【１１５３１】

上記第１１６実施形態では、偏心する位置に配設される錘を回転させることで振動を発生させる振動モータＦ１２９００により、導光板Ｆ４００に振動を付与する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、導光板Ｆ４００に振動を付与（導光板Ｆ４００を変位させられる）ものであれば何でも良い。例えば、導光板Ｆ４００に当接するソレノイドを配設して、ソレノイドを駆動させることで、導光板Ｆ４００に振動を付与するものであっても良く。また、導光板Ｆ４００が共振可能な高さの音をスピーカーから発生させることで、導光板Ｆ４００を振動させるものであっても良い。

【１１５３２】

上記第１１６実施形態では、スイッチＦ１２９４０が前後方向に押し込み操作可能に構成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、スイッチＦ１２９４０を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ）に押し込み操作可能な状態で配設するものであっても良い。

【１１５３３】

この場合には、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して閉鎖した際に、正面枠Ｐ１４配線等を挟み込みにより間違ってスイッチＦ１２９４０が押されることが抑制できる。即ち、正面枠Ｐ１４は内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して前後方向に開閉するため、前後方向に変位可能なスイッチＦ１２９４０であると、正面枠Ｐ１４を内枠Ｈ１２及び外枠Ｈ１１に対して閉鎖した際に、正面枠Ｐ１４に接続される配線等を挟み込んだ際に、その配線によりスイッチＦ１２９４０が押し込まれる（ＯＮされる）恐れがあるところ、上下方向にスイッチを押し込み操作可能に配設することで、配線によりスイッチＦ１２９４０が間違って押し込まれることを抑制できる。

【１１５３４】

上記第１１６実施形態では、スイッチＦ１２９４０を作業者が操作（ＯＮ）することで、振動モータＦ１２９００の回転軸Ｆ１２９２０が回転される（導光板Ｆ４００に振動を付与する）場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、所定のタイミングで振動モータＦ１２９００の回転軸Ｆ１２９２０を回転させる（即ち、導光板Ｆ４００を振動させる）ものであっても良い。

【１１５３５】

例えば、所定期間において遊技領域へ発射した遊技球の検出数に対して、遊技領域から回収した遊技球の検出数が少ない場合に、遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０と導光板Ｆ４００との間に遊技球が詰まっていると判断して、所定のタイミングで振動モータＦ１２９００の回転軸Ｆ１２９２０を回転させるものであっても良い。この場合には、作業者がスイ

ッチＦ１２９４０を押し込む操作を不要とできるので、遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０と導光板Ｆ４００との間に遊技球が詰まった際に作業者を呼び出す必要が無くなり、遊技者の興趣が低下することを抑制できる。

【１１５３６】

また、例えば、遊技中は所定の振動を導光板Ｆ４００に付与するように制御して、常に遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０と導光板Ｆ４００との間に遊技球が詰まることを抑制しても良い。この場合には、遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０と導光板Ｆ４００との間に遊技球が詰まることを抑制できるので、球詰まりにより遊技が一時的に停止することを抑制できる。その結果、遊技者の興趣が低下することを抑制できる。なお、この場合には、スイッチＦ１２９４０を作業者が操作（ＯＮ）することで、振動モータＦ１２９００の駆動を停止するできるようにすることで、パチンコ機Ａ１０の点検時や部品の交換時などに、導光板Ｆ４００が振動することを抑制できる。

【１１５３７】

さらに、特定のタイミング、例えば、一定時間の遊技が継続された場合や、所定の球数が発射された場合や、特定の遊技状態に切り替わる場合に、振動モータＦ１２９００を所定時間駆動させるものであっても良い。この場合には、特定のタイミングで、遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０と導光板Ｆ４００との間の遊技球の詰まりを解消できるので、遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０と導光板Ｆ４００との間に遊技球が詰まることにより、従業員（作業者）が遊技者に呼び出される回数を減らすことができる。

【１１５３８】

また、上記第１１６実施形態では、スイッチＦ１２９４０を作業者が操作（ＯＮ）することで、振動モータＦ１２９００の回転軸Ｆ１２９２０が回転される（導光板Ｆ４００に振動を付与する）場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、遊技者が操作可能な位置にあるスイッチ（例えば、機能調整操作部Ｈ１９０（図６２２参照））を操作することで、振動モータＦ１２９００の回転軸Ｆ１２９２０が回転されるように構成しても良い。

【１１５３９】

この場合には、遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０と導光板Ｆ４００との間の球詰まりが発生した際に、遊技者が作業者を呼ぶことなく球詰まりを解消することができるので、遊技が一時的に停止したり、作業者を呼び出す必要をなくすことができる。その結果、遊技者の興趣が低下することを抑制できる。

【１１５４０】

また、この場合には、振動モータＦ１２９００の振動が正面枠Ｐ１４を介して、遊技者の手に伝達されるように構成されることが好ましい。これによれば、振動モータＦ１２９００が駆動してることをスイッチ（例えば、機能調整操作部Ｈ１９０（図６２２参照））を操作する遊技者にも認識させることができる。即ち、振動モータＦ１２９００の振動をスイッチがＯＮされたことを認識させるための駆動源として利用できる。その結果、部品コストを削減できる。

【１１５４１】

なお、スイッチ（例えば、機能調整操作部Ｈ１９０（図６２２参照））を振動させる駆動源を別途備え、その駆動源を振動モータＦ１２９００の駆動に合わせて駆動させるように構成しても良い。この場合には、制御が増えて複雑になるものの、スイッチ（例えば、機能調整操作部Ｈ１９０（図６２２参照））を確実に振動させることができ、振動モータＦ１２９００が振動していることを遊技者に認識させやすくできる。

【１１５４２】

上記第１１６実施形態では、振動モータＦ１２９００の振動をスイッチＦ１２９４０を介して作業者の手にも伝達する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、導光板Ｆ４００と他側ベース手段Ｆ２３００及び他側カバー手段Ｆ２６００との間にゴム等の弾性部材を挟んで、スイッチＦ１２９４０に振動が伝達されないようにしても良い。この場合、スイッチＦ１２９４０を介して作業者の手に振動を伝達する

ことができなくなるものの、スイッチＦ１２９４０が振動することを抑制できるので、スイッチＦ１２９４０がその振動で破損することを抑制できる。

【１１５４３】

また、例えば、スイッチＦ１２９４０だけでなく、正面枠Ｐ１４、遊技盤Ａ１３、動作ユニットＤ２００、外枠Ｈ１１、及び、内枠Ｈ１２等に振動モータＦ１２９００の振動が伝達されるように構成しても良い。この場合には、振動モータＦ１２９００の振動により遊技者の視認可能な範囲を振動させることで、その振動による演出をすることができる。

【１１５４４】

上記第１１０実施形態、第１１３実施形態、及び、第１１７実施形態では、複数の発光手段Ｆ２２１（発光手段Ｆ２２１ｃ～Ｆ２２１ｇ）の発光・消灯の組み合わせや、発光色の組み合わせにより、パチンコ機Ａ１０の異常を作業者に報知する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、パチンコ機Ａ１０の遊技状態を、複数の発光手段Ｆ２２１（発光手段Ｆ２２１ｃ～Ｆ２２１ｇ）の発光・消灯の組み合わせや、発光色の組み合わせにより遊技者に報知する手段として使用しても良い。

【１１５４５】

例えば、大当たりになった場合にその大当たりの内容（ラウンド数）を表示したり、又、大当たりになった場合にその大当たり特有の発光色の組み合わせで大当たりを遊技者に報知する表示をしたりしても良い。また、例えば、現在の遊技状態が確変状態か通常状態かを表示したり、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０に入賞した球数等を表示したりしても良い。このように、上記第１１０実施形態、第１１３実施形態、及び、第１１７実施形態では、１（発光手段Ｆ２２１ｃ～Ｆ２２１ｇ）の発光・消灯の組み合わせや、発光色の組み合わせにより、パチンコ機Ａ１０の情報を細かく報知することができるので、パチンコ機Ａ１０の情報を作業者に正しく認識させることができる。

【１１５４６】

また、１の発光手段Ｆ２２１（発光手段Ｆ２２１ｃ～Ｆ２２１ｇのいずれか）の点滅態様（点滅速度）を変更して、その１の発光手段Ｆ２２１の点滅態様（点滅速度）の違いによりパチンコ機Ａ１０の情報を細かく報知するものであっても良い。なお、この場合、１の発光手段Ｆ２２１に限らず、複数の発光手段Ｆ２２１の点滅態様（点滅速度）の組み合わせによりパチンコ機Ａ１０の情報を報知しても良く、また、点滅だけでなく点灯する発光手段手段Ｆ２２１があっても良い。なお、発光手段の点滅速度を変更するとは、点灯及び消灯を繰り返す点滅動作において、点灯した際の点灯時間、及び、消灯した際の消灯時間の長さを変更することである。

【１１５４７】

上記第１１０実施形態、第１１３実施形態、及び、第１１７実施形態では、光照射ユニットＦ６１００Ａ，Ｆ９１００Ａと、導光板Ｆ６４００、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂとが、それぞれ正面枠Ｐ１４と内枠Ｈ１２の一方ずつに配設される場合について説明したが、光照射ユニットＦ６１００Ａ，Ｆ９１００Ａと、導光板Ｆ６４００、第１導光板Ｆ９４００Ａ及び第２導光板Ｆ９４００Ｂとの両方が、正面枠Ｐ１４又は内枠Ｈ１２に配設されるものであっても良い。

【１１５４８】

本発明を上記各実施形態とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される）として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の領域に球を入賞させることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるパチンコ機として実施してもよい。また、Ｖゾーン等の特別領域を有する入賞装置を有し、その特別領域に球を入賞させることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機に実施してもよい。更に、パチンコ機以外にも、アレパチ、雀球、スロットマシン、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機などの各種遊技機として実施するようにしても良い。

【１１５４９】
なお、スロットマシンは、例えばコインを投入して図柄有効ラインを決定させた状態で操作レバーを操作することにより図柄が変動され、ストップボタンを操作することにより図柄が停止されて確定される周知のものである。従って、スロットマシンの基本概念としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を変動表示した後に識別情報を確定表示する表示装置を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の変動表示が停止して確定表示され、その停止時の識別情報の組合せが特定のものであることを必要条件として、遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるスロットマシン」となり、この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。
【１１５５０】
また、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する表示装置を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく所定量の球の投入の後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技が発生させられ、遊技者には、下部の受皿に多量の球が払い出されるものである。かかる遊技機をスロットマシンに代えて使用すれば、遊技ホールでは球のみを遊技価値として取り扱うことができるため、パチンコ機とスロットマシンとが混在している現在の遊技ホールにおいてみられる、遊技価値たるメダルと球との別個の取扱による設備上の負担や遊技機設置個所の制約といった問題を解消し得る。
【１１５５１】
以下に、本発明の遊技機に加えて上述した実施形態に含まれる各種発明の概念を示す。
【１１５５２】
＜導光板ユニットＦ２１００を一例とするとする発明の概念について＞
光を発光可能に構成される発光手段と、その発光手段が発光した光が入射可能な位置に配設され、入射され内部を透過された光が所定の方向へ向けて出射されるように光透過性材料から構成される板状の光透過手段と、正面側に遊技領域が構成される遊技盤と、その遊技盤が配設される被配設手段と、その被配設手段に開閉可能に配設される正面側手段と、を備え、前記発光手段は、前記被配設手段または前記正面側手段に配設され、前記光透過手段は、前記被配設手段または前記正面側手段に配設され、少なくとも前記光透過手段が、前記遊技盤により構成される前記遊技領域よりも正面側に位置されることを特徴とする遊技機ＡＰ１。
【１１５５３】
光を発光可能に構成される発光手段と、その発光手段が発光した光が入射可能な位置に配設され、入射され内部を透過された光が所定の方向へ向けて出射されるように光透過性材料から構成される板状の光透過手段と、正面側に遊技領域が構成される遊技盤と、その遊技盤が配設される被配設手段と、その被配設手段に開閉可能に配設される正面側手段と、を備えた遊技機が知られている。
【１１５５４】
ここで、昨今、製品コストを低減する観点から、モデルチェンジやスペック変更を行う場合、既存の遊技機に対し、必要な構成要素のみを新規に設計し、残りの構成要素を流用することが要請される。この場合、新規に設計した構成要素を取り換えることになるが、発光手段および光透過手段とからなる構成要素を取り換える場合、従来の遊技機では、かかる構成要素（発光手段および光透過手段）が遊技盤よりも背面側に配設さているため、遊技盤を内枠から取り外さなければ、かかる構成要素を取り外すことができない。そのため、交換に要する工数が嵩むという問題点があった。

【１１５５５】
遊技機ＡＰ１によれば、少なくとも光透過手段が、遊技盤により構成される前記遊技領域よりも正面側に位置されるので、正面側手段を開放すれば、遊技盤を被配設手段に取り付けたままであっても、少なくとも光透過手段を被配設手段または正面側手段から取り外すことができる。よって、遊技盤を被配設手段から取り外すことを不要とできる分、光透過手段の取り外し易くできる。その結果、モデルチェンジやスペック変更に伴う光透過手段の交換に要する工数を低減できる。
【１１５５６】
遊技機ＡＰ１において、複数の前記光透過手段を備え、それら複数の前記光透過手段が遊技機前後方向に並設されていることを特徴とする遊技機ＡＰ２。
【１１５５７】
遊技機ＡＰ２によれば、遊技機ＡＰ１の奏する効果に加え、複数の光透過手段を備えるので、光透過手段による演出（光透過手段から出射される光による表示）の態様を複数形成できる。また、それら複数の光透過手段が遊技機前後方向に並設されているので、光透過手段を視た遊技者に対し、複数の演出（光透過手段から出射される光による表示）を遊技機前後方向に重ねた状態で視認させることができる。その結果、演出効果を高めることができる。
【１１５５８】
また、光透過手段が遊技機前後方向に並設されているので、遊技領域を流下する遊技球を、遊技盤に最も近い側に配置される光透過手段（以下「背面側の光透過手段」）に衝突させ、他の光透過手段に傷が付くことを抑制できる。よって、例えば、主な演出（光透過手段から出射される光による表示）は、他の光透過手段により行い、背面側の光透過手段では、演出（光透過手段から出射される光による表示）を行わない、又は、補助的な演出のみを行うようにすることができ、これにより、演出効果を高めることができる。
【１１５５９】
遊技機ＡＰ１又はＡ２において、前記被配設部材または前記正面側手段に配設され、振動可能に構成される振動手段を備え、前記振動手段の振動が前記光透過手段に伝達可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＰ３。
【１１５６０】
遊技機ＡＰ３によれば、遊技機ＡＰ１又はＡ２の奏する効果に加え、被配設部材または正面側手段に配設され、振動可能に構成される振動手段を備え、振動手段の振動が光透過手段に伝達可能に構成されるので、遊技盤と光透過手段との間で遊技球の詰まりが発生した場合に、光透過手段を振動させ遊技球の詰まりを解消することができる。
【１１５６１】
遊技機ＡＰ３において、前記遊技盤よりも背面側に配設される液晶表示装置と、その液晶表示装置を前記遊技盤に近接する方向および離隔する方向へ変位させる変位手段と、前記遊技盤の背面側を変位可能に構成される可動役物と、を備えることを特徴とする遊技機ＡＰ４。
【１１５６２】
ここで、光透過手段を遊技盤よりも正面側に配設する構成では、光透過手段の取り外しを容易とできる。しかしながら、光透過手段と液晶表示装置との間隔が大きくなるため、光透過手段を通して液晶表示装置の表示を遊技者が視認する場合に、両者の表示のずれを遊技者が感じ易くなる。液晶表示装置を遊技盤の背面側に近づければ、光透過手段と液晶表示装置との間での表示のずれは抑制できるが、遊技盤と液晶表示との間隔が小さくなる分、可動役物が変位するための空間を確保できなくなる。
【１１５６３】
これに対し、遊技機ＡＰ４によれば、遊技機ＡＰ３の奏する効果に加え、遊技盤よりも背面側に配設される液晶表示装置と、その液晶表示装置を遊技盤に近接する方向および離隔する方向へ変位させる変位手段と、を備えるので、変位手段により液晶表示装置を遊技盤に近接させることで、光透過手段の表示（光透過手段から出射される光による表示）と

液晶表示装置の表示とのずれを遊技者が感じることを抑制できる。一方、変位手段により液晶表示装置を遊技盤から離隔させることで、光透過手段と液晶表示装置との間の間隔を大きくして、可動役物が変位するための空間を確保することができる。

【１１５６４】

遊技機ＡＰ３において、光透過材料から構成される装飾手段を備え、前記装飾手段が前記光透過手段の外縁側に一体に連結され、前記光透過手段に前記装飾手段が連結されて構成される連結体が遊技機の最も正面側に配設されることを特徴とする遊技機ＡＰ５。

【１１５６５】

遊技機ＡＰ５によれば、光透過材料から構成される装飾手段を備え、装飾手段が前記光透過手段の外縁側に一体に連結されるので、光透過手段と装飾手段とを１の金型により同時に成型することができる。よって、これら光透過手段と装飾手段とを別々に成型する場合と比較して、製造コストを低減できる。

【１１５６６】

また、光透過手段に装飾手段が連結されて構成される連結体が遊技機の最も正面側に配設されるので、他の構造体や部品を取り付けたまま、連結体を取り外すことができる。よって、他の構造体や部品を取り外すことを不要とできる分、光透過手段（連結体）の取り外しに要する工数を低減できる。また、連結体を取り外すことで、光透過手段と装飾手段との両者を同時に取り外すことができる。その結果、モデルチェンジやスペック変更に伴う光透過手段および装飾手段の交換に要する工数を低減できる。

【１１５６７】

更に、装飾手段が光透過手段に一体に連結されていることで、発光手段から発光され光透過手段に入射された光を装飾手段の内部へ透過させ、装飾手段からも光を出射させることができる。よって、発光手段を兼用できるので、その分、部品コストを低減できる。

【１１５６８】

遊技機ＡＰ５において、前記装飾手段は、前記光透過手段よりも正面側に突出されると共に、背面が凹んだ断面形状に構成されることを特徴とする遊技機ＡＰ６。

【１１５６９】

遊技機ＡＰ６によれば、遊技機ＡＰ５の奏する効果に加え、装飾手段は、光透過手段よりも正面側に突出されるので、装飾手段を遊技者に近づけて、装飾の効果を高めることができる。また、装飾手段は、背面が凹んだ断面形状に構成されるので、その凹んだ部分に形成される空間を、発光手段を収容するための空間として利用することができる。よって、スペース効率を高め、全体を小型化できる。また、発光手段を配設する位置の自由度を高め、光透過手段および装飾手段に光を入射させるのに適した位置に発光手段を配設し易くできる。

【１１５７０】

遊技機ＡＰ３において、前記光透過手段は、遊技機幅方向の一方側に配設される第１光透過手段と、遊技機幅方向の他方側に配設される第２光透過手段とを備え、それら第１光透過手段および第２光透過手段が遊技機幅方向に並設されることを特徴とする遊技機ＡＰ７。

【１１５７１】

遊技機ＡＰ７によれば、遊技機ＡＰ３の奏する効果に加え、光透過手段は、遊技機幅方向の一方側に配設される第１光透過手段と、遊技機幅方向の他方側に配設される第２光透過手段とを備えるので、遊技領域を流下する遊技球との衝突により光透過手段に傷が付いた際に、光透過手段の全体を新品に交換することを不要とできる。即ち、第１光透過手段または第２光透過手段の内のどちらかのみを新品に交換することができる。よって、維持コストを低減できる。

【１１５７２】

特に、第１光透過手段および第２光透過手段が遊技機幅方向に並設されるので、両者の傷の発生具合が同程度となることを抑制できる。即ち、遊技領域には、その略中央にセンターフレームが配設され、遊技球の流下経路は、センターフレームの左側を流下する左打

ち経路と、センターフレームの右側を流下する右打ち経路とに大別される。そのため、例えば、左打ち（右打ち）の頻度が高い機種では、遊技機幅方向の左側（右側）で傷が発生し易くなり、また、例えば、通路の凹凸や釘の配置によって、左打ち経路（右打ち経路）において遊技球が暴れやすい場合には、遊技機幅方向の左側（右側）で傷が発生し易くなる。よって、第１光透過手段および第２光透過手段を遊技機幅方向に並設する構成が有効となる。

【１１５７３】

なお、第１光透過手段または第２光透過手段の内のどちらかに傷が発生した場合、その傷が発生したものを新品に交換せず、他方（傷の発生が少ない方）と入れ替えても良い。これによっても、維持コストを低減できる。

【１１５７４】

遊技機ＡＰ３において、前記発光手段が前記被配設手段または前記正面側手段に配設された状態において、前記光透過手段が前記被配設手段または前記正面側手段から取り外し可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＰ８。

【１１５７５】

遊技機ＡＰ８によれば、遊技機ＡＰ３の奏する効果に加え、発光手段が被配設手段または正面側手段に配設された状態において、光透過手段が被配設手段または正面側手段から取り外し可能に構成されるので、モデルチェンジやスペック変更に効率よく対応できる。即ち、発光手段および光透過手段による演出は、光透過手段に入射され内部を透過された光が所定の方向へ向けて出射され際の出射態様（即ち、遊技者に視認される表示）を変更できれば良く、発光手段を変更する必要がない。よって、発光手段が被配設手段または正面側手段に配設された状態において、光透過手段が被配設手段または正面側手段から取り外し可能に構成される構成が有効となる。

【１１５７６】

遊技機ＡＰ２において、複数の前記光透過手段の内の一の前記光透過手段を通過した光が他の前記光透過手段に入射されるように構成されることを特徴とする遊技機ＡＰ９。

【１１５７７】

遊技機ＡＰ９によれば、遊技機ＡＰ２の奏する効果に加え、複数の光透過手段の内の一の光透過手段を通過した光が他の光透過手段に入射されるように構成されるので、複数の光透過手段と同数の発光手段を設ける必要がなく、複数の光透過手段に対して発光手段を兼用することができる。よって、その分、部品コストを低減できる。

【１１５７８】

遊技機ＡＡ１～ＡＡ１３，ＡＢ１～ＡＢ１２，ＡＤ１～ＡＤ２３，ＡＥ１～ＡＥ２４，ＦＦ１～ＦＦ１０、ＡＰ１～ＡＰ９のいずれかにおいて、前記遊技機はスロットマシンであることを特徴とする遊技機ＡＺ１。中でも、スロットマシンの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段（ストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備えた遊技機」となる。この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【１１５７９】

遊技機ＡＡ１～ＡＡ１３，ＡＢ１～ＡＢ１２，ＡＤ１～ＡＤ２３，ＡＥ１～ＡＥ２４，ＦＦ１～ＦＦ１０、ＡＰ１～ＡＰ９のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機であることを特徴とする遊技機ＡＺ２。中でも、パチンコ遊技機の基本構成としては操作ハンドルを備え、その操作ハンドルの操作に応じて球を所定の遊技領域へ発射し、球が遊技領域内の所定の位置に配設された作動口に入賞（又は作動口を通過）することを必要条件として、表示手段において動的表示されている識別情報が所定時間後に確定停止されるものが挙げられる。また、特別遊技状態の発生時には、遊技領域内の所定の位置に配設され

た可変入賞装置（特定入賞口）が所定の態様で開放されて球を入賞可能とし、その入賞個数に応じた有価価値（景品球のみならず、磁気カードへ書き込まれるデータ等も含む）が付与されるものが挙げられる。

【１１５８０】

遊技機ＡＡ１～ＡＡ１３，ＡＢ１～ＡＢ１２，ＡＤ１～ＡＤ２３，ＡＥ１～ＡＥ２４，ＦＦ１～ＦＦ１０、ＡＰ１～ＡＰ９のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機とスロットマシンとを融合させたものであることを特徴とする遊技機ＡＺ３。中でも、融合させた遊技機の基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備え、遊技媒体として球を使用すると共に、前記識別情報の動的表示の開始に際しては所定数の球を必要とし、特別遊技状態の発生に際しては多くの球が払い出されるように構成されている遊技機」となる。

【１１５８１】

以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図６５０から図６８１を参照し、第１１８実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｊ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。

【１１５８２】

図６５０は、第１１８実施形態におけるパチンコ機Ｊ１０の正面図であり、図６５１は、パチンコ機Ｊ１０の背面図であり、図６５２は、外枠Ｊ１１に対して内枠Ｊ１２を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｊ１０の正面斜視図であり、図６５３は、外枠Ｊ１１に対して内枠Ｊ１２を開放した状態で裏パックユニットＪ９４を内枠Ｊ１２に対して開放した状態（展開）を示すパチンコ機Ｊ１０の正面斜視図であり、図６５４は、外枠Ｊ１１に対して内枠Ｊ１２を閉鎖すると共に正面枠Ｊ１４を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｊ１０の正面斜視図であり、図６５５は、正面枠Ｊ１４を取り外した状態におけるパチンコ機Ｊ１０の正面図であり、図６５６は、遊技盤Ｊ１３及び内枠Ｊ１２の分解正面斜視図であり、図６５７は、正面枠Ｊ１４の分解正面斜視図であり、図６５８は、正面枠Ｊ１４の分解背面斜視図である。なお、図６５５では、発射位置送球ユニットＪ１７０から球発射ユニットＪ１１２ａに遊技球を送球するための背面側開口Ｊ１７２が２点鎖線で図示される。

【１１５８３】

また、以下の説明では、図６５０に示す状態のパチンコ機Ｊ１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図６５０に示す状態のパチンコ機Ｊ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図６５０参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ｊ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【１１５８４】

また、特段の説明がない限り、パチンコ機Ｊ１０を遊技する遊技者は、パチンコ機Ｊ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置し、パチンコ機Ｊ１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に視線を向けた状態（パチンコ機Ｊ１０の正面側と対面した状態）で遊技するものとして説明する。

【１１５８５】

図６５０から図６５８に示すように、パチンコ機Ｊ１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠Ｊ１１と、その外枠Ｊ１１と略同一の外形形状に形成され外枠Ｊ１１に対して開閉可能に支持された内枠Ｊ１２と、その内枠Ｊ１２と略同一の外形形状に形成され内枠Ｊ１２に対して開閉可能に支持された正面枠Ｊ１４とを主に備えている。

【１１５８６】
外枠Ｊ１１には、内枠Ｊ１２を支持するために正面視（図６５０参照）左側（矢印Ｌ方向側）の上下（矢印Ｕ－Ｄ方向）２カ所に金属製のヒンジＪ１８が取り付けられ、そのヒンジＪ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠Ｊ１２が正面枠Ｊ１４と共に正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている。
【１１５８７】
パチンコ機Ｊ１０は、外枠Ｊ１１を島設備に取り付け固定することにより遊技場に設置される。なお、パチンコ機Ｊ１０において外枠Ｊ１１は必須の構成ではなく、外枠Ｊ１１又は外枠Ｊ１１と同一の内形を有し、外枠Ｊ１１の内枠Ｊ１２支持構造（ヒンジＪ１８等）及び施錠構造を有する部材が遊技場に備え付けられた構成としても良い。
【１１５８８】
外枠Ｊ１１は、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される上方板Ｊ１１ａと、下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される下方板Ｊ１１ｂと、それら上方板Ｊ１１ａ及び下方板Ｊ１１ｂの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両端同士を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に連結する左方板Ｊ１１ｃ及び右方板Ｊ１１ｄとを組み合わせて枠状に形成される。
【１１５８９】
なお、外枠Ｊ１１は、木材で形成されるものに限られるものではなく、アルミ等の金属材料やプラスチック等の樹脂材料で形成されていても良く、それら木材、金属材料、又は、樹脂材料から形成される部材（上方板Ｊ１１ａ，下方板Ｊ１１ｂ，左方板Ｊ１１ｃ，右方板Ｊ１１ｄ）を組み合わせて形成されるものであっても良い。
【１１５９０】
また、本実施形態では、外枠Ｊ１１の正面視左側（矢印Ｌ方向側）にヒンジＪ１８が取り付けられ、外枠Ｊ１１に対して内枠Ｊ１２の正面視右側（矢印Ｒ方向側）を正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能とされるが、外枠Ｊ１１の正面視右側にヒンジＪ１８が取り付けられ、外枠Ｊ１１に対して内枠Ｊ１２の正面視左側を正面手前側へ開閉可能としても良く、又、ヒンジＪ１８を外枠Ｊ１１の正面視下側（矢印Ｄ方向側）の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に取り付け、外枠Ｊ１１に対して内枠Ｊ１２の正面視上側（矢印Ｕ方向側）を正面手前側へ開閉可能とするものであっても良い。
【１１５９１】
内枠Ｊ１２は、外枠Ｊ１１と外形がほぼ同一の長方形状に形成される枠形成ユニットＪ１２ａと、その枠形成ユニットＪ１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に回動可能に支持される裏パックユニットＪ９４とを主に備えて形成され、裏パックユニットＪ９４が正面視で左側（矢印Ｌ方向側）を回動基端側（開閉基端側）とし、右側（矢印Ｒ方向側）を回動先端側（開閉先端側）として後方へ回動可能とされている（図６５３参照）。
【１１５９２】
また、内枠Ｊ１２には、枠形成ユニットＪ１２ａと裏パックユニットＪ９４とで正面側（矢印Ｆ方向側）が開放する略箱状に形成された内側に多数の釘や入賞口Ｊ６３，Ｊ６４等を有し、遊技球が流下可能とされる領域を構成する部位となる遊技盤Ｊ１３（図６５５及び図６５６参照）が配設される。この遊技盤Ｊ１３の正面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。
【１１５９３】
なお、内枠Ｊ１２の枠形成ユニットＪ１２ａには、左側（矢印Ｌ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｊ１３の左端部を支持する目的の左端支持部Ｊ１２ａ１と、右側（矢印Ｒ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｊ１３の右端部を支持する目的の盤面支持装置Ｊ１２ａ２が配設される。遊技盤Ｊ１３は、左端支持部Ｊ１２ａ１にベース板Ｊ６０の左側端部が挿入されつつ内枠Ｊ１２の背面側（矢印Ｂ方向側）に押し込まれた後、盤面支持装置Ｊ１２ａ２が操作されて盤面支持装置Ｊ１２ａ２がベース板Ｊ６０の正面と係合する（ベース板Ｊ６０の正面を支持する）ことで内枠Ｊ１２の内側に固定される。
【１１５９４】
また、内枠Ｊ１２の枠形成ユニットＪ１２ａは、遊技球を遊技盤Ｊ１３の正面領域（遊

技領域）に発射する球発射ユニットＪ１１２ａ（図６５５参照）と、正面枠Ｊ１４（上下皿ユニットＪ１５）に遊技球を送球する皿通路形成部材Ｊ１６０と（図６５５参照）を主に備えて形成される。

【１１５９５】

さらに、内枠Ｊ１２の枠形成ユニットＪ１２ａには、正面枠Ｊ１４を支持するために正面視左側（矢印Ｌ方向側）の上下２カ所に金属製のヒンジＪ１９が取り付けられ、そのヒンジＪ１９が設けられた側を開閉の軸として正面枠Ｊ１４が正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている（図６５４参照）。なお、内枠Ｊ１２の施錠と正面枠Ｊ１４の施錠とは、枠形成ユニットＪ１２ａに配設されるシリンダ錠Ｊ２０の鍵穴Ｊ２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。なお、シリンダ錠Ｊ２０の鍵穴Ｊ２１は、振動または動作可能に構成されると共に変位可能に構成される。

【１１５９６】

なお、ヒンジＪ１９による内枠Ｊ１２と正面枠Ｊ１４との開錠は、シリンダ錠Ｊ２０に専用の鍵を差し込むものではなく、後述する操作ユニットＪ１８０、機能調整操作部Ｊ１９０、操作ハンドルＪ５１、球抜きレバーＪ５２、球排出レバーＪ５４、又は、貸球操作部Ｊ４０等の正面枠Ｊ１４に配設される操作ユニットを操作することで行われるようにしても良い。また、内枠Ｊ１２又は正面枠Ｊ１４を開放した後で、開放されたの内側から操作ユニットＪ１８０、機能調整操作部Ｊ１９０、操作ハンドルＪ５１、球抜きレバーＪ５２、球排出レバーＪ５４、又は、貸球操作部Ｊ４０等の正面枠Ｊ１４に配設される操作ユニットを操作することで、所定の部材（例えば、上側装飾ユニットＪ１４ａ、左側装飾ユニットＪ１４ｂ，右側装飾ユニットＪ１４ｃの化粧板）の係合が解除され所定の部材が取り外されるようにしても良い。

【１１５９７】

球発射ユニットＪ１１２ａは、上皿Ｊ１７から発射位置送球ユニットＪ１７０を介して１球ずつ所定のタイミングで送球される遊技球を受け入れ可能に形成され、遊技盤Ｊ１３（内レールＪ６１及び外レールＪ６２）への遊技球の送球方向に延設される発射レールＪ１１２ａ１と、回転可能に軸支され発射レールＪ１１２ａ１上に送球された遊技球に回転して当接可能に形成される回転体Ｊ１１２ａ２と、その回転体Ｊ１１２ａ２を回転させるための駆動モータ（図示しない）とを主に備えて形成される。

【１１５９８】

即ち、球発射ユニットＪ１１２ａは、変位可能に構成される回転体Ｊ１１２ａ２を変位させて遊技球を発射可能に構成される。なお、回転体Ｊ１１２ａ２は、駆動または動作可能に構成される。

【１１５９９】

球発射ユニットＪ１１２ａから遊技盤Ｊ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）への遊技球の発射（送球）は、発射レールＪ１１２ａ１上に遊技球が送球された後、回転体Ｊ１１２ａ２を回転させて発射レールＪ１１２ａ１上に送球された遊技球に回転体Ｊ１１２ａ２を衝突させることで行われる。

【１１６００】

なお、本実施形態では、動作力を発生可能に構成され、回転する回転体Ｊ１１２ａ２により球発射ユニットＪ１１２ａから遊技球が発射（送球）されるが、遊技球を発射する構造は回転する部材（回転体Ｊ１１２ａ２）に限られるものではない。例えば、球の発射方向にスライド変位可能なスライド体と、そのスライド体をスライド変位させるソレノイドとを備え、ソレノイドの励磁によりスライド体を変位させて遊技球に衝突させることで球の発射（送球）が行われるように構成しても良い。

【１１６０１】

また、球発射ユニットＪ１１２ａは、内枠Ｊ１２に配設されるものに限られるものでなく、パチンコ機Ｊ１０の演出装置としてベース板Ｊ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に（遊技盤Ｊ１３に）配設することも可能である。例えば、センターフレームＪ８６やベース板Ｊ６０に開口した開口部からベース板Ｊ６０の背面側に配設される発射レールＪ１１２ａ

１上に遊技球を送球して、その遊技球を回転体Ｊ１１２ａ２により発射して第３図柄表示装置Ｊ８１の正面側（矢印Ｆ方向側）を遊技球が通過するように構成しても良い。

【１１６０２】

皿通路形成部材Ｊ１６０は、図６５５に示すように、本体側上皿通路部Ｊ１６１と本体側下皿通路部Ｊ１６２とを有している。本体側上皿通路部Ｊ１６１及び本体側下皿通路部Ｊ１６２は、背面側（矢印Ｂ方向側）の端部が内枠Ｊ１２に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通される貫通孔と連通可能となるように背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて開放され、正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が下方（矢印Ｄ方向）へ向けて開放されるように、内部で通路の方向が９０度変化する（前後方向から上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変化する）湾曲通路を形成する。この構成において、払出装置Ｊ１３３から払い出された球は内枠Ｊ１２の貫通孔を通り、皿通路形成部材Ｊ１６０の背面側の端部から皿通路形成部材Ｊ１６０に進入し、正面側の端部から排出される。

【１１６０３】

なお、皿通路形成部材Ｊ１６０の下側部分には、図６５５に示すように、本体側上皿通路部Ｊ１６１及び本体側下皿通路部Ｊ１６２からの遊技球の流出を規制するシャッタＪ１６３が設けられている。シャッタＪ１６３は、両通路の出口部分を狭め球の流出を阻止する阻止位置と、球の流出を許容する許容位置との両位置に切り替え可能に設けられており、内枠Ｊ１２に対して正面枠Ｊ１４を閉鎖した状態とされる場合に許容位置に配置され、内枠Ｊ１２に対して正面枠Ｊ１４を開放した状態（図６５４に示す状態）とされる場合に阻止位置に配置される。これにより、本体側上皿通路部Ｊ１６１又は本体側下皿通路部Ｊ１６２に遊技球が貯留されている状態で正面枠Ｊ１４を開放した場合に、その貯留球がこぼれ落ちてしまうといった不都合が回避されている。

【１１６０４】

正面枠Ｊ１４は、金属板によって縦長の矩形枠状に形成される本体枠Ｊ１４ｄと、その本体枠Ｊ１４ｄに配設され、その本体枠Ｊ１４ｄの上方側（矢印Ｕ方向側）の正面に配設される上側装飾ユニットＪ１４ａと、その上側装飾ユニットＪ１４ａの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側から下方（矢印Ｄ方向側）に向けて延設される左側装飾ユニットＪ１４ｂ及び右側装飾ユニットＪ１４ｃと、本体枠Ｊ１４ｄの下方側の正面を覆う上下皿ユニットＪ１５と、本体枠Ｊ１４ｄを介して上下皿ユニットＪ１５の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＪ１４０と、その通路形成ユニットＪ１４０の背面側に配設される発射位置送球ユニットＪ１７０とを主に備えて構成され、内枠Ｊ１２に回動可能に取り付けられている。

【１１６０５】

また、正面枠Ｊ１４の回動基端側には、図６５７及び図６５８に示すように、前扉取付金具Ｊ５７，Ｊ５８が設けられ、この前扉取付金具Ｊ５７，Ｊ５８（前扉取付金具Ｊ５７は円柱状部、前扉取付金具Ｊ５８は軸孔を有する金属板）が内枠Ｊ１２に係合することにより、内枠Ｊ１２に対して正面枠Ｊ１４が回動可能に支持される。

【１１６０６】

詳細には、前扉取付金具Ｊ５７は、内枠Ｊ１２の上側のヒンジＪ１９の下方位置において内枠Ｊ１２の正面側端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ延設され先端から背面側（矢印Ｂ方向側）へ前扉取付金具Ｊ５７が内嵌可能な大きさで凹設される嵌合凹部Ｊ１２ｅ１（図６５６参照）を有する軸支板部Ｊ１２ｅに軸支される。また、前扉取付金具Ｊ５８は、内枠Ｊ１２の下側のヒンジＪ１９から上方（矢印Ｕ方向）に突設される段付き円柱形状（直径の違う円柱が上下に連設される構成において上側の円柱の直径の方が小さい形状）の支持ピンＪ１９ａに外嵌されることで軸支される。

【１１６０７】

また、正面枠Ｊ１４には、上側装飾ユニットＪ１４ａと左側装飾ユニットＪ１４ｂと右側装飾ユニットＪ１４ｃと上下皿ユニットＪ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｊ１４ｅが形成され、その窓部Ｊ１４ｅを塞ぐように正面枠Ｊ１４（本体枠Ｊ１４ｄ）の背面側（矢印Ｂ方向側）に２枚の板ガラスを有し光を透過可能に構成されるガラスユニットＪ１６が

配設される（図６５０参照）。なお、パチンコ機Ｊ１０は、ガラスユニットＪ１６（窓部Ｊ１４ｅ）を介してパチンコ機Ｊ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）から遊技盤Ｊ１３の正面が視認可能となっている。即ち、窓部Ｊ１４ｅは、遊技盤Ｊ１３の正面を視認可能とさせる部位であり、正面枠Ｊ１４は、窓部Ｊ１４ｅを介して遊技盤Ｊ１３を視認可能とさせる部位を有する部位である。

【１１６０８】

ガラスユニットＪ１６は、図６５０及び図６５４に示すように、窓部Ｊ１４ｅより大きな外形で光透過性（透明性）を有する前後一対の透明ガラスＪ１６ａ，Ｊ１６ｂと、これら透明ガラスＪ１６ａ，Ｊ１６ｂを一体化する固定枠（図示せず）と、を備えている。固定枠は、樹脂材料により透明ガラスＪ１６ａ，Ｊ１６ｂより一回り大きな環状に形成され、透明ガラスＪ１６ａ，Ｊ１６ｂの外周縁が固定枠に接着されることでガラスユニットＪ１６は一体化された複層ガラスとされている。

【１１６０９】

なお、ガラスユニットＪ１６は、透明ガラスＪ１６ａ，Ｊ１６ｂによって光を透過可能に構成される（無色透明に形成されている）が、これに限定されることはなく樹脂材料によって無色透明に形成されていてもよく、パチンコ機Ｊ１０前方からガラスユニットＪ１６を通じて遊技領域を視認可能であれば無色透明でなく有色透明に形成されていても良い。即ち、ガラスユニットＪ１６は、光透過性材料から構成される部位であり、光を透過して遊技盤を視認可能に構成されるものであれば、その色は無色であっても有色であっても良い。

【１１６１０】

また、２枚の透明ガラスＪ１６ａ，Ｊ１６ｂは、それら２枚の透明ガラスＪ１６ａ，Ｊ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態で配設しても良い。透明ガラスＪ１６ａ，Ｊ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態とする場合には、それら２枚の透明ガラスＪ１６ａ，Ｊ１６ｂの対向間に変位可能な変位手段を配設して、遊技盤Ｊ１３よりも前方側（矢印Ｆ方向側）で変位手段による演出を可能にしても良い。この場合の変位手段とは、例えば、紙やナイロン等の部材から形成される複数の変位部材を固定枠に形成した孔から送り出す風により吹き飛ばす演出をするものや、固定枠に変位可能に配設した変位部材を音声ランプ制御装置Ｊ１１３（図６５９参照）により２枚の透明ガラスＪ１６ａ，Ｊ１６ｂの対向間で変位させるものである。また、２枚の透明ガラスＪ１６ａ，Ｊ１６ｂを固定する固定板に発光手段を配設し、その発光手段から出射される光を前方側の透明ガラスＪ１６ａまたは背面側（矢印Ｂ方向側）の透明ガラスＪ１６ｂの一方に照射して、透明ガラスＪ１６ａ，Ｊ１６ｂの一方に照射された光を遊技者に視認させる演出をするようにしても良い。

【１１６１１】

第３図柄表示装置Ｊ８１を視認可能な開口部を有する正面枠Ｊ１４（上側装飾ユニットＪ１４ａ，左側装飾ユニットＪ１４ｂ，右側装飾ユニットＪ１４ｃ）において窓部Ｊ１４ｅの周囲には、図６５０に示すようにＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部Ｊ２９～Ｊ３３が複数設けられている。これら電飾部Ｊ２９～Ｊ３３では、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて点灯や点滅が行われる。また、窓部Ｊ１４ｅの上側（矢印Ｕ方向側）の電飾部Ｊ３０には、払出球が不足する等の所定のエラー時に点灯する発光手段と、賞球払出中に点灯する発光手段とが内蔵されている。

【１１６１２】

また、上側装飾ユニットＪ１４ａ，左側装飾ユニットＪ１４ｂ，右側装飾ユニットＪ１４ｃの電飾部Ｊ２９～Ｊ３３が配設される領域以外の部分は、電飾部Ｊ２９～Ｊ３３から出射される光を非透過とする非透過性の樹脂材料から形成される。これにより、電飾部Ｊ２９～Ｊ３３の発光（点灯や点滅）を遊技者に注目させやすい構造となっている。

【１１６１３】

なお、電飾部Ｊ２９～Ｊ３３が配設される領域以外の部分は、非透過に形成されるものに限られず、透過性の樹脂材料から形成して電飾部Ｊ２９～Ｊ３３に発光（点灯や点滅）

があった場合に正面枠Ｊ１４の全体から光を出射（透過）可能に構成しても良い。また、電飾部Ｊ２９～Ｊ３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材を配設して煌びやかさを醸し出すように構成しても良い。

【１１６１４】

上側装飾ユニットＪ１４ａの左側（矢印Ｌ方向側）及び右側（矢印Ｒ方向側）には（窓部Ｊ１４ｅの右上側及び左上側には）、遊技状態に応じた効果音などが出力されるスピーカー組立体（音声出力装置Ｊ２２６（図６５９参照））を覆うスピーカーカバーＪ２７（パンチングメタルから形成される薄板部材）が設けられており、スピーカーカバーＪ２７を介してスピーカーの音をパチンコ機Ｊ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に放音可能に構成されている。

【１１６１５】

窓部Ｊ１４ｅの下方（矢印Ｂ方向）には、図６５０に示すように、上皿Ｊ１７と下皿Ｊ５０とが手前側へ膨出して配置されると共にそれら上皿Ｊ１７と下皿Ｊ５０とが上下に並設される上下皿ユニットＪ１５が配設される。

【１１６１６】

上皿Ｊ１７は、上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿Ｊ１７に賞球や貸出球などが排出される。また、上皿Ｊ１７は、払出装置Ｊ１３３（図６５１参照）より払い出された遊技球を一旦貯留し、一列に整列させながら球発射ユニットＪ１１２ａ（図６５５参照）側へ導く機能を有しており、底面が正面視右側（矢印Ｒ方向側）に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿Ｊ１７に投入された遊技球を発射位置送球ユニットＪ１７０へと案内可能に形成される。なお、上皿Ｊ１７から発射位置送球ユニットＪ１７０に送球された球は、発射位置送球ユニットＪ１７０の動作により１球ずつ球発射ユニットＪ１１２ａへ案内される。即ち、遊技球が通過可能に構成される発射位置送球ユニットＪ１７０により遊技球を球発射ユニットＪ１１２ａに送球可能とされる。言い換えると、遊技球を送球可能に構成される発射位置送球ユニットＪ１７０により遊技球を球発射ユニットＪ１１２ａに送球可能とされる。

【１１６１７】

下皿Ｊ５０は、上面を開放した略箱状に形成され、上皿Ｊ１７内にて余剰となった遊技球を貯留する機能を有している。また、下皿Ｊ５０の背面側（矢印Ｂ方向側）側面には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口され球が下皿Ｊ５０に案内される球案内開口Ｊ５３が形成される。

【１１６１８】

下皿Ｊ５０の正面側（矢印Ｆ方向側）の下方（矢印Ｄ方向）部には、下皿Ｊ５０に貯留された遊技球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバーＪ５２が設けられている。この球抜きレバーＪ５２は、常時、右方向（矢印Ｒ方向）に付勢されており、その付勢に抗して左方向（矢印Ｌ方向）へスライドさせることにより、下皿Ｊ５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から遊技球が自然落下して排出される。この球抜きレバーＪ５２の操作は、通常、下皿Ｊ５０の下方に下皿Ｊ５０から排出された遊技球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。

【１１６１９】

なお、球抜きレバーＪ５２の操作により、千両箱に遊技球を排出するものに限らず、島設備に連通する回収口に遊技球を排出するものであっても良い。また、上皿Ｊ１７と下皿Ｊ５０とに分けて複数箇所に遊技球を貯留する部位を設ける必要はなく、下皿Ｊ５０を廃止して上皿Ｊ１７のみとした１つの貯留部のみを有する構成としても良い。

【１１６２０】

また、下皿Ｊ５０から遊技球を排出する球抜きレバーＪ５２の操作を駆動モータにより制御することも可能である。これによれば、下皿Ｊ５０に遊技球が払い出されたことや下皿Ｊ５０に所定数の球数が払い出されたこと起因して、球抜きレバーＪ５２を駆動モータにより変位させることで、下皿Ｊ５０からの遊技球の排出を遊技者が忘れて下皿Ｊ５０の貯留領域に遊技球が溢れることを抑制できる。

【１１６２１】
特に、最近では、パチンコ機Ｊ１０が設置される店舗の島設備に連通する回収口に下皿Ｊ５０から遊技球を排出する店舗が多くなっており、所定数の球数しか貯留できない千両箱に下皿Ｊ５０から排出される遊技球を排出する店舗が少なくなっている。店舗の島設備に連通する回収口に下皿Ｊ５０から遊技球を排出する店舗では、下皿Ｊ５０から遊技球が払い出されている最中に千両箱の交換等が必要ないので、下皿Ｊ５０への遊技球の払い出しに伴って駆動モータにより球抜きレバーＪ５２を変位させる構成とすることで、遊技者の球抜きレバーＪ５２の操作を不要とできる。
【１１６２２】
即ち、後述する主制御装置Ｊ１１０のＭＰＵＪ２０１により大当たりの演出がされることに伴って、下皿Ｊ５０の球抜きレバーＪ５２を駆動モータにより変位させることで、大当たりにより下皿Ｊ５０に払い出される遊技球を回収口に排出することができ、遊技者の球抜きレバーＪ５２の操作を不要とできる。その結果、遊技者をパチンコ機Ｊ１０の演出（特に大当たりの演出）に集中させることができ、遊技者の興趣を向上できる。
【１１６２３】
上皿Ｊ１７（球の貯留領域）の手前側（矢印Ｆ方向側）には、変位可能に構成され、遊技者らにより手動操作される操作ユニットＪ１８０が設けられている。操作ユニットＪ１８０は、第３図柄表示装置Ｊ８１の表示画面等にて遊技者の操作に対応した演出が行われる場合に使用される操作装置である。なお、操作ユニットＪ１８０は、振動または動作可能に構成される。
【１１６２４】
この操作ユニットＪ１８０には、上面側にボタン部Ｊ１８１が配設される。ボタン部Ｊ１８１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される軸を中心に下方側（矢印Ｄ方向側）に向けて押圧操作可能とされ、例えば、第３図柄表示装置Ｊ８１（図６５５参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。
【１１６２５】
なお、操作ユニットＪ１８０は、上皿Ｊ１７以外に下皿Ｊ５０周辺等の別の部位に設けられても良いし、複数箇所に設けられても良く、また、操作方法として押しボタン式のスイッチであっても良く、タッチセンサ、非接触式のセンサ等の別の操作方法によって情報入力可能な構成としても良い。
【１１６２６】
また、操作ユニットＪ１８０は、上皿Ｊ１７の手前側でなく、上側装飾ユニットＪ１４ａ、左側装飾ユニットＪ１４ｂ、右側装飾ユニットＪ１４ｃに配設しても良く、この場合、上皿Ｊ１７の手前側と別の操作ユニットＪ１８０を配設して、それぞれ別の演出でそれぞれの操作ユニットＪ１８０を遊技者に操作させるようにしても良い。
【１１６２７】
操作ユニットＪ１８０の右側には、上下皿ユニットＪ１５の上面側に貸球操作部Ｊ４０（図６５７参照）と機能調整操作部Ｊ１９０と、球排出レバーＪ５４とが配設されている。貸球操作部Ｊ４０には、度数表示部Ｊ４１と、球貸しボタンＪ４２と、返却ボタンＪ４３とが設けられている。パチンコ機Ｊ１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部Ｊ４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部Ｊ４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。
【１１６２８】
球貸しボタンＪ４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿Ｊ１７に供給される。返却ボタンＪ４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿Ｊ１７に

遊技球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部Ｊ４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部Ｊ４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。

【１１６２９】

機能調整操作部Ｊ１９０は、決定ボタンＪ１９１と、その決定ボタンＪ１９１を中心とする十字状の４方向外側の位置に配設される上ボタンＪ１９２，下ボタンＪ１９３，左ボタンＪ１９４，右ボタンＪ１９５と備える。

【１１６３０】

機能調整操作部Ｊ１９０は、上側装飾ユニットＪ１４ａに配設されるスピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）の音量、第３図柄表示装置Ｊ８１の表示画面の明るさ、上側装飾ユニットＪ１４ａ，左側装飾ユニットＪ１４ｂ，右側装飾ユニットＪ１４ｃに配設される電飾部Ｊ２９～Ｊ３３の明るさなどを変更するための操作部である。遊技者は、決定ボタンＪ１９１，上ボタンＪ１９２，下ボタンＪ１９３，左ボタンＪ１９４，右ボタンＪ１９５を操作することで、自身（遊技者）の好みに合うように音量や明るさを変更可能とされる。

【１１６３１】

また、音量や明るさを変更する際には、第３図柄表示装置Ｊ８１の一部に音量や明るさの調整度合いが数値やボリューム等で表示されるようになっている。これにより、遊技者が別のパチンコ機Ｊ１０を遊技し始める場合に音量や明るさの調整を簡易に行うことができる。

【１１６３２】

なお、機能調整操作部Ｊ１９０による変更は、音量や明るさに限られるものではなく、第３図柄表示装置Ｊ８１に表示される演出等を変更可能とするものであっても良い。また、音量や明るさの調整度合いを第３図柄表示装置Ｊ８１に表示するものに限られるものではなく、例えば、第３図柄表示装置Ｊ８１に表示しなくても操作と同時に変更（調整）後の音や表示をして調整させるものでも良いし、第３図柄表示装置Ｊ８１とは別の表示装置に調整度合いを表示するものであっても良い。

【１１６３３】

球排出レバーＪ５４は、上皿Ｊ１７に貯留された遊技球を下皿Ｊ５０に送球する際に遊技者が操作するレバーであり、図示しない付勢手段（バネ）により上方側（矢印Ｕ方向側）に付勢された状態で配設される。なお、球排出レバーＪ５４は、操作される（下方側（矢印Ｄ方向側）に押し込まれる）ことにより上皿Ｊ１７から発射位置送球ユニットＪ１７０に連通される通路であって遊技球を流入させることが可能に構成される通路を上皿Ｊ１７から下皿Ｊ５０（ファール球通路部Ｊ１４５）に連通する状態に切替可能に構成される。これにより、上皿Ｊ１７に貯留された遊技球を下皿Ｊ５０に排出することができる。

【１１６３４】

下皿Ｊ５０の右側（矢印Ｒ方向側）には、変位可能に構成され、遊技者が遊技時に操作する操作ハンドルＪ５１が配設される。なお、操作ハンドルＪ５１は、振動または動作可能に構成される。操作ハンドルＪ５１の内部には、球発射ユニットＪ１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサＪ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチＪ５１ｂと、操作ハンドルＪ５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。操作ハンドルＪ５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサＪ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤Ｊ１３の正面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドルＪ５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサＪ５１ａおよび発射停止スイッチＪ５１ｂがオフとなっている。

【１１６３５】

なお、操作ハンドルＪ５１は、操作ユニットＪ１８０や機能調整操作部Ｊ１９０や貸球

操作部Ｊ４０の操作ボタンに置き換え可能である。例えば、操作ボタンの押し込み量を可変抵抗器で検出して操作ボタンの押し込み量に対応した球の打ち出し速度で遊技盤Ｊ１３の正面へ遊技球を打ち込むようにしても良い。また、機能調整操作部Ｊ１９０に球の打ち出し速度を調整する制御を設け、遊技者が設定した打ち出し速度で変位動作可能に構成される遊技球を遊技盤Ｊ１３の正面へ打ち込むようにしても良い。

【１１６３６】

さらに、操作ハンドルＪ５１を、上述した球排出レバーＪ５２に置き換えても良い。即ち、下皿Ｊ５０からの遊技球の排出を許容する役割と、遊技盤Ｊ１３の正面への遊技球の打ち出しを許容する役割と球排出レバーＪ５２に兼用させても良い。この場合、遊技盤Ｊ１３の正面へ球が打ち出されると下皿Ｊ５０から球の排出を許容でき、遊技盤Ｊ１３の正面へ球の打ち出しが停止されると下皿Ｊ５０からの遊技球の排出を規制できるので、下皿Ｊ５０に遊技球が溜まり過ぎることを抑制できる。

【１１６３７】

通路形成ユニットＪ１４０は、樹脂材料により成形されており、上皿Ｊ１７に通じる前扉側上皿通路部Ｊ１４１と、下皿Ｊ５０に通じる前扉側下皿通路部Ｊ１４２と、ファール球通路部Ｊ１４５と、を有している。

【１１６３８】

通路形成ユニットＪ１４０の上側隅部（正面枠Ｊ１４の回動基端側の隅部）には後方（矢印Ｂ方向）に突出し上方に開放された払出球受口部Ｊ１４３が形成されており、その払出球受口部Ｊ１４３が仕切壁Ｊ１４４によって左右に仕切られることで前扉側上皿通路部Ｊ１４１の通路入口と前扉側下皿通路部Ｊ１４２の通路入口とがそれぞれ形成されている（図６５７参照）。

【１１６３９】

なお、前扉側上皿通路部Ｊ１４１の通路入口には、内枠Ｊ１２の本体側上皿通路部Ｊ１６１（図６５５参照）が連通されており、前扉側下皿通路部Ｊ１４２の通路入口には、内枠Ｊ１２の本体側下皿通路部Ｊ１６２（図６５５参照）が連通される。これにより、払出装置Ｊ１３３から送球される球は、上皿Ｊ１７又は下皿Ｊ５０に送球されることとなる。

【１１６４０】

ファール球通路部Ｊ１４５（図６５７参照）は、球発射ユニットＪ１１２ａから発射された球のうち遊技領域まで至らなかった遊技球をファール球として下皿Ｊ５０に排出する通路を形成する部位である。

【１１６４１】

ファール球通路部Ｊ１４５には、図６５８に示すように、上方側（矢印Ｕ方向側）が開放したファール球受口部Ｊ１４６が設けられる。このファール球受口部Ｊ１４６に受け入れられたファール球は、ファール球通路部Ｊ１４５（図６５７参照）の内部通路を流下した後で、下皿Ｊ５０に排出される。なお、ファール球通路部Ｊ１４５は、下皿Ｊ５０でなく、上皿Ｊ１７に接続され、ファール球が上皿Ｊ１７に排出される構成としても良い。

【１１６４２】

また、遊技球が案内されるファール球通路部Ｊ１４５は、遊技者が球排出レバーＪ５４を操作することにより上皿Ｊ１７から下皿Ｊ５０に流下する未発射球が案内される通路である球抜き通路（図示しない）と合流するように形成される。

【１１６４３】

発射位置送球ユニットＪ１７０は、上皿Ｊ１７に貯留される遊技球を１球ずつ球発射ユニットＪ１１２ａに送球するためのユニットである。発射位置送球ユニットＪ１７０は、上皿Ｊ１７の送球経路の開口部に連なる正面側開口Ｊ１７１と、その正面側開口Ｊ１７１から流入した遊技球を背面側（矢印Ｂ方向側）から排出可能な背面側開口Ｊ１７２と、それら正面側開口Ｊ１７１から背面側開口Ｊ１７２までを通過する通路上に変位可能に配設される切替手段（図示しない）と、その切替手段を駆動させるソレノイド（図示しない）とを主に備えて形成される。

【１１６４４】

発射位置送球ユニットＪ１７０の切替手段は、上皿Ｊ１７から正面側開口Ｊ１７１に遊技球を流入させることが可能な位置と、上皿Ｊ１７から正面側開口Ｊ１７１に遊技球を流入させることが不可能な位置とに変位可能に構成されており、上皿Ｊ１７から正面側開口Ｊ１７１に遊技球を流入させることが不可能な位置に変位された場合に発射位置送球ユニットＪ１７０の通路上にある遊技球を背面側開口Ｊ１７２から球発射ユニットＪ１１２ａ（発射レールＪ１１２ａ１）に流入可能に形成される。これにより、切替手段の位置の切り替え（１往復の変位）に伴って１球ずつ遊技球を背面側開口Ｊ１７２から排出することが可能となっている。

【１１６４５】

なお、背面側開口Ｊ１７２は、球発射ユニットＪ１１２ａの発射レールＪ１１２ａ１の上方（矢印Ｕ方向）の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する（図６５５参照）。従って、球発射ユニットＪ１１２ａの発射レールＪ１１２ａ１に発射位置送球ユニットＪ１７０から１球ずつ球が送球されることとなる。

【１１６４６】

また、図６５５に示すように、背面側開口Ｊ１７２は、発射レールＪ１１２ａ１の遊技球の送球方向における発射レールＪ１１２ａ１の両端部の間に形成される。従って、背面側開口Ｊ１７２から発射レールＪ１１２ａ１上に送球される球は、遊技球が通過する経路を構成する発射レールＪ１１２ａ１上を左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両方向に転動可能となるが、発射レールＪ１１２ａ１は一方側（回転体Ｊ１１２ａ２から離れる側）が上方（矢印Ｕ方向）に向かって傾斜した状態で配設されるので、背面側開口Ｊ１７２から発射レールＪ１１２ａ１に送球された球（回転体Ｊ１１２ａ２により発射前の球）が回転体Ｊ１１２ａ２から離れる方向に転動することが抑制される。

【１１６４７】

図６５５に示すように、遊技盤Ｊ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｊ６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）の他、レール部材Ｊ６１，Ｊ６２、一般入賞口Ｊ６３、第１入賞口Ｊ６４、第２入賞口Ｊ６６、電動役物Ｊ７０、特定入賞口Ｊ６５、可変入賞役物Ｊ６５ａ、スルーゲートＪ６７、可変表示装置ユニットＪ８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内部に第３図柄表示装置Ｊ８１が配設される内枠Ｊ１２の裏面側に取り付けられる。なお、遊技球が入球可能に構成される部位である一般入賞口Ｊ６３、第１入賞口Ｊ６４、第２入賞口Ｊ６６、特定入賞口Ｊ６５等の入賞口を有するベース板は、光を透過可能に構成され、遊技盤Ｊ１３（ベース板Ｊ６０）の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設したＬＥＤの光を正面側（矢印Ｆ方向側）に出射可能とされる。

【１１６４８】

ベース板Ｊ６０は、光を透過可能に構成される（光透過性の）樹脂材料からなり、その正面側（矢印Ｆ方向側）からベース板Ｊ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口Ｊ６３、第１入賞口Ｊ６４、第２入賞口Ｊ６６、可変表示装置ユニットＪ８０は、ルータ加工によってベース板Ｊ６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤Ｊ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。

【１１６４９】

なお、ベース板Ｊ６０は、光透過性の樹脂材料から形成されるものに限られるものではなく、薄い板材を張り合わせた木材から形成されるものであっても良いし、非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても良い。なお、これらの場合、装飾がされたシール等をベース板Ｊ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）の全域に貼付してベース板Ｊ６０の装飾性を確保することが好ましい。

【１１６５０】

遊技盤Ｊ１３の正面中央部分は、正面枠Ｊ１４の窓部Ｊ１４ｅ（図６５０参照）の一部を通じて内枠Ｊ１２の正面側（矢印Ｆ方向側）から視認することができる。以下に、主に図６５５を参照して、遊技盤Ｊ１３の構成について説明する。

【１１６５１】
遊技盤Ｊ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レールＪ６２が植立され、その外レールＪ６２の内側位置には外レールＪ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＪ６１が植立される。この内レールＪ６１と外レールＪ６２とにより遊技盤Ｊ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ｊ１３とガラスユニットＪ１６（図６５０参照）とにより前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）が囲まれることにより、遊技盤Ｊ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ｊ１３（ベース板Ｊ６０）の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される部位である２本のレール部材Ｊ６１，Ｊ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｊ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。なお、２本のレール部材Ｊ６１，Ｊ６２、金属板である必要なく、樹脂材料から帯状に形成されるものであっても良い。
【１１６５２】
外縁部材Ｊ７３は、光非透過性の樹脂材料から形成されると共に、遊技盤Ｊ１３の正面側（矢印Ｆ方向側）から螺子により遊技盤Ｊ１３（ベース板Ｊ６０）に締結固定される。外縁部材Ｊ７３は、遊技盤Ｊ１３の遊技領域と非遊技領域とを区画する部材であり、遊技領域の外縁に沿って配設される。なお、外縁部材Ｊ７３は、後述する返しゴムＪ６９が配設される部分（外レールＪ６２の先端部（図６５５の右上部）、球の最大飛翔部分に対応する位置）が遊技者に視認可能とされる部位とされ、返しゴムＪ６９に衝突する遊技球の流下が視認可能とされる。また、外縁部材Ｊ７３は、螺子により固定される部位が非遊技領域の視認不能とされる領域（窓部Ｊ１４ｅの外側）に設定され、遊技盤Ｊ１３と外縁部材Ｊ７３とを締結固定を行う部位となる螺子が遊技者から視認不能とされる。
【１１６５３】
また、外縁部材Ｊ７３は、遊技盤Ｊ１３側に向かって突設される部位である突部（図示しない）を備えると共に、遊技盤Ｊ１３のベース板Ｊ６０は、正面側（矢印Ｆ方向側）に背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって凹設される部位である凹部を備える。外縁部材Ｊ７３を遊技盤Ｊ１３に配設する際には、ベース板Ｊ６０の凹部に外縁部材Ｊ７３の凹部を挿入することで、遊技盤Ｊ１３に対する外縁部材Ｊ７３の位置ずれを抑制できる。これにより、外縁部材Ｊ７３により区画される遊技領域の大きさにばらつきが生じることを抑制できる。
【１１６５４】
２本のレール部材Ｊ６１，Ｊ６２は、球発射ユニットＪ１１２ａから発射された遊技球を第３図柄表示装置Ｊ８１の左方において形成される領域を通過させて遊技盤Ｊ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）へ案内するために設けられたものである。内レールＪ６１の先端部分（図６５５の左上部）には戻り球防止部材Ｊ６８が取り付けられる。
【１１６５５】
戻り球防止部材Ｊ６８は、内レールＪ６１側から外レールＪ６２側に延設される樹脂製の板部材から形成され、内レールＪ６１側の一端側を軸に他端側を外レールＪ６２から離間する方向に回転可能とされる。また、戻り球防止部材Ｊ６８は、一端側に錘を備え、その錘により他端側が外レールＪ６２に近づく方向に付勢される。
【１１６５６】
これにより、遊技盤Ｊ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）に案内される球の勢いで変位可能に構成される戻り球防止部材Ｊ６８の他端側を外レールＪ６２から離間する方向に回転させることができると共に、戻り球防止部材Ｊ６８を超える位置（遊技盤Ｊ１３の上方側）に遊技球が案内され当該遊技球の当接可能に構成される部位が戻り球防止部材Ｊ６８から離れた際に戻り球防止部材Ｊ６８の他端側を外レールＪ６２に近づく方向に回転させることができ、一旦、遊技盤Ｊ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。
【１１６５７】
なお、戻り球防止部材Ｊ６８は、樹脂材料から形成される必要はなく、金属材料から形

成されていても良い。また、錘以外に磁石などの磁力やねじりバネなどの付勢力によって戻り球防止部材Ｊ６８の他端側を外レールＪ６２側に付勢する構成としても良い。

【１１６５８】

また、戻り球防止部材Ｊ６８は、後述する風車のように、一方向に継続して回転できるもの（１球ずつ所定位置に戻らないもの）であっても良い。この場合、遊技盤Ｊ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻らないように、遊技盤Ｊ１３の上部への遊技球の案内によって回転する方向（一方向）とは反対の方向（他方向）に回転することを規制するワンウェイクラッチを配設することが好ましい。

【１１６５９】

外レールＪ６２の先端部（図６５５の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＪ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＪ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【１１６６０】

遊技領域の正面視左側下部（図６５５の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置Ｊ３７Ａ，Ｊ３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置Ｊ３７Ａ，Ｊ３７Ｂは、主制御装置Ｊ１１０（図６５９参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機Ｊ１０の遊技状態の表示が行われる。本実施形態では、第１図柄表示装置Ｊ３７Ａ，Ｊ３７Ｂは、球が、第１入賞口Ｊ６４へ入賞したか、第２入賞口Ｊ６６へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入賞口Ｊ６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｊ３７Ａが作動し、一方で、球が、第２入賞口Ｊ６６へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｊ３７Ｂが作動するように構成されている。

【１１６６１】

また、第１図柄表示装置Ｊ３７Ａ，Ｊ３７Ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機Ｊ１０が確変中か時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が確変大当たりに対応した図柄か普通大当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機Ｊ１０の各種遊技状態を示唆することができる。

【１１６６２】

尚、本パチンコ機Ｊ１０では、第１入賞口Ｊ６４及び第２入賞口Ｊ６６へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ｊ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ確変大当たり、４Ｒ確変大当たり、１５Ｒ通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｊ３７Ａ，Ｊ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【１１６６３】

ここで、「１５Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことであり、「４Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことである。また、「１５Ｒ通常大当たり」は、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となる大当たりのことである。

【１１６６４】

なお、大当たりのラウンド数は、１５Ｒと４Ｒに限られるものではなく、パチンコ機Ｊ１０の機種により他のラウンド数に変更しても良く、又、２種以上のラウンド数を有するものであっても良い。また、時短状態における所定の変動回数は、１００変動回数に限ら

れるものではなく、例えば、１変動回数や１０００変動回数に設定しても良い。
【１１６６５】
　また、「高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。本実施形態における高確率状態（確変中）は、後述する第２図柄の当たり確率がアップして第２入賞口Ｊ６６へ球が入賞し易い遊技の状態を含む。「低確率状態」とは、確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、確変の時より大当たり確率が低い状態をいう。また、「低確率状態」のうちの時短状態（時短中）とは、大当たり確率が通常の状態であると共に、大当たり確率がそのままで第２図柄の当たり確率のみがアップして第２入賞口Ｊ６６へ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。一方、パチンコ機Ｊ１０が通常中とは、確変中でも時短中でもない遊技の状態（大当たり確率も第２図柄の当たり確率もアップしていない状態）である。
【１１６６６】
　確変中や時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口Ｊ６６に付随する電動役物Ｊ７０が開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物Ｊ７０が開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物Ｊ７０が閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口Ｊ６６へ球が入賞しやすい状態となる。よって、確変中や時短中は、第２入賞口Ｊ６６へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。
【１１６６７】
　なお、確変中や時短中において、第２入賞口Ｊ６６に付随する電動役物Ｊ７０の開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、１回の当たりで電動役物Ｊ７０が開放する回数を通常中よりも増やす変更を行うものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２図柄の当たり確率は変更せず、第２入賞口Ｊ６６に付随する電動役物Ｊ７０が開放される時間および１回の当たりで電動役物Ｊ７０が開放する回数の少なくとも一方を変更するものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２入賞口Ｊ６６に付随する電動役物Ｊ７０が開放される時間や、１回の当たりで電動役物Ｊ７０を開放する回数は変更せず、第２図柄の当たり確率だけを、通常中と比してアップするよう変更するものであっても良い。
【１１６６８】
　遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口Ｊ６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニットＪ８０が配設されている。可変表示装置ユニットＪ８０には、第１入賞口Ｊ６４及び第２入賞口Ｊ６６への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置Ｊ３７Ａ，Ｊ３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置Ｊ８１と、スルーゲートＪ６７の遊技球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成され、光を発光可能に構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、可変表示装置ユニットＪ８０には、第３図柄表示装置Ｊ８１の外周を囲むようにして、センターフレームＪ８６が配設されている。
【１１６６９】
　なお、センターフレームＪ８６は、遊技領域を流下する球がベース板Ｊ６０の中央開口を介して第３図柄表示装置Ｊ８１側に流下することを防止するための部材であり、ベース板Ｊ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出して形成される。また、センターフレームＪ８６は光を透過可能に構成される。
【１１６７０】
　また、センターフレームＪ８６の一部には、遊技領域を流下する遊技球を受け入れると共に第３図柄表示装置Ｊ８１の周囲を通過させて第１入賞口Ｊ６４側から排出するワープ通路（図示せず）が一部に形成される。センターフレームＪ８６に形成されるワープ通路は、遊技球が通過可能に構成される。言い換えると、ワープ通路は、遊技球を送球可能に

構成される。
【１１６７１】
　また、センターフレームＪ８６には、ワープ通路から排出された遊技球が通過可能に構成されるステージを備える。即ち、ワープ通路から排出される遊技球を送球可能に構成されるステージを備える。センターフレームＪ８６のステージは、遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される凹部を備え、その凹部により遊技球をベース板Ｊ６０の所定の領域に送球可能に構成される。なお、本実施形態では、ベース板Ｊ６０よりも背面側を通る通路がセンターフレームＪ８６のワープ通路に連通される。
【１１６７２】
　なお、センターフレームＪ８６には、遊技領域まで突出して遊技領域の背面側（矢印Ｂ方向側）を区画する部分に、所定の幅を隔てた状態で正面側に向かって立設される一対の立設部を形成して、それら一対の立設部により区画される領域に沿って遊技球を流下させるようにしても良い。即ち、センターフレームに遊技球が通過可能に構成される流下経路（一対の立設部）を形成しても良い。
【１１６７３】
　また、センターフレームＪ８６で遊技球の流下経路を形成した場合には、一対の立設部の対向面（流下経路の内面側）に凹設される凹部または凸設される凸部を形成して、一対の立設部の対向間に沿って流下される遊技球を凹部または凸部に当接させることで、一対の立設部の対向間を流下する遊技球に流下方向（一対の立設部の延設方向）以外の方向の力成分を付与して、一対の立設部の対向間を流下する遊技球における流下方向の速度を低下するようにしても良い。即ち、一対の立設部に形成される凹部または凸部は、遊技球が当接した際に別方向の反力を付与可能に構成される。これによれば、球の流下速度を遅くすることで、流下する遊技球を遊技者に視認させやすくできると共に、球発射ユニットＪ１１２ａにより遊技領域に送球（発射）された遊技球がその発射された速度を維持したまま（流下速度が速いまま）釘や突起に当接することで釘や突起が曲がったりすることを抑制できる。
【１１６７４】
　なお、一対の立設部をセンターフレームＪ８６と別体で構成することも可能である。即ち、遊技球が通過可能に構成される一対の立設部を有する部材をベース板Ｊ６０に別途配設しても良い。これによれば、遊技球を送球可能に構成される一対の立設部により、遊技球を所定の方向に流下させることができる。
【１１６７５】
　第３図柄表示装置Ｊ８１は９インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置Ｊ１１４（図６５９参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。なお、第３図柄表示装置Ｊ８１は、９インチ以外のサイズで構成されていても、２枚以上の複数の液晶ディスプレイを並設して構成されていても良い。また、第３図柄表示装置Ｊ８１は、後述する上下スライドユニットＪ２１０、上変位ユニットＪ２２０、下変位ユニットＪ２３０、一対の揺動ユニットＪ２４０、又は、一対の背面側通路ユニットＪ２６０に配設され、その上下スライドユニットＪ２１０、上変位ユニットＪ２２０、下変位ユニットＪ２３０、一対の揺動ユニットＪ２４０、又は、一対の背面側通路ユニットＪ２６０の変位に伴って第３図柄表示装置Ｊ８１の表示を切り替える（表示を変更する）ものであっても良い。
【１１６７６】
　また、第１１８実施形態では、第３図柄表示装置Ｊ８１の周囲（上方、又は、下方）に退避位置における上下スライドユニットＪ２１０、上変位ユニットＪ２２０、及び、下変位ユニットＪ２３０が配置され、それら上下スライドユニットＪ２１０、上変位ユニットＪ２２０、及び、下変位ユニットＪ２３０が張出位置に変位されると上下スライドユニットＪ２１０、上変位ユニットＪ２２０、及び、下変位ユニットＪ２３０が第３図柄表示装置Ｊ８１の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に変位される。よって、上下スライドユニットＪ２１０、上変位ユニットＪ２２０、及び、下変位ユニットＪ２３０が張出位置に

変位される際には、第３図柄表示装置Ｊ８１の演出を上下スライドユニットＪ２１０、上変位ユニットＪ２２０、及び、下変位ユニットＪ２３０と共に遊技者に視認させることができる。

【１１６７７】

第３図柄表示装置Ｊ８１の各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置Ｊ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置Ｊ８１は、主制御装置Ｊ１１０（図６５９参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置Ｊ３７Ａ，Ｊ３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置Ｊ３７Ａ，Ｊ３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。即ち、第３図柄表示装置Ｊ８１は、第１図柄表示装置Ｊ３７Ａ，Ｊ３７Ｂの表示に応じた光を発光可能に構成される。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置Ｊ８１を構成するようにしても良い。

【１１６７８】

第２図柄表示装置は、球がスルーゲートＪ６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機Ｊ１０では、球がスルーゲートＪ６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。なお、第２図柄表示装置は、第３図柄表示装置Ｊ８１の一部を用いて図柄を表示されるものであって良いし、第３図柄表示装置Ｊ８１と別の表示装置とのどちらにも図柄を表示させるものであっても良く、本実施形態では、第３図柄表示装置Ｊ８１の一部を用いて表示される。

【１１６７９】

パチンコ機Ｊ１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｊ６６に付随された電動役物Ｊ７０が所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【１１６８０】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、確変中または時短中の方が短くなるように設定される。これにより、確変中および時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｊ６６の電動役物Ｊ７０が開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、確変中および時短中は、第２入賞口Ｊ６６へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【１１６８１】

なお、確変中または時短中において、当たり確率を高める、１回に当たりに対する電動役物Ｊ７０の開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、確変中または時短中に第２入賞口Ｊ６６へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としても良い。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、確変中または時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしても良いし、また、１回の当たりに対する電動役物Ｊ７０の開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしても良い。

【１１６８２】

スルーゲートＪ６７は、可変表示装置ユニットＪ８０の左右の領域において遊技盤Ｊ１３に組み付けられ、遊技盤Ｊ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲートＪ６７を遊技球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【１１６８３】
球のスルーゲートＪ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｊ３７Ａ，Ｊ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。なお、本実施形態では、光を発光可能に構成される第２図柄保留ランプは、第３図柄表示装置Ｊ８１の一部を用いて表示されるように構成されるが、第３図柄表示装置Ｊ８１とは別の表示装置に点灯表示するものであっても良い。例えば、スルーゲートＪ６７への遊技球の通過に伴って点灯する４つのＬＥＤを第３図柄表示装置Ｊ８１の下方に配設して点灯表示するものであっても良い。
【１１６８４】
また、スルーゲートＪ６７の遊技球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲートＪ６７の組み付け数は２つに限定されるものではなく、例えば１つであっても良い。また、スルーゲートＪ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＪ８０の左右に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＪ８０の下方でも良い。また、第１図柄表示装置Ｊ３７Ａ，Ｊ３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしても良い。
【１１６８５】
可変表示装置ユニットＪ８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口Ｊ６４が配設されている。この第１入賞口Ｊ６４へ球が入賞すると遊技盤Ｊ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｊ１１０（図６５９参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｊ３７Ａで示される。
【１１６８６】
一方、第１入賞口Ｊ６４の正面視下方には、球が入賞し得る第２入賞口Ｊ６６が配設されている。この第２入賞口Ｊ６６へ球が入賞すると遊技盤Ｊ１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｊ１１０（図６５９参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｊ３７Ｂで示される。
【１１６８７】
また、第１入賞口Ｊ６４および第２入賞口Ｊ６６は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｊ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｊ６６へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口Ｊ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｊ６６へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口Ｊ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口Ｊ６６へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成しても良い。
【１１６８８】
第２入賞口Ｊ６６には電動役物Ｊ７０が付随されている。この電動役物Ｊ７０は開閉可能に構成されており、通常は電動役物Ｊ７０が閉鎖状態（縮小状態）となって、球が第２入賞口Ｊ６６へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲートＪ６７への遊技球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ｊ７０が開放状態（拡大状態）となり、球が第２入賞口Ｊ６６へ入賞しやすい状態となる。
【１１６８９】
なお、本実施形態では、第２入賞口Ｊ６６の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に開閉する一対の羽部材Ｊ６７１（電動役物Ｊ７０）が配設され、電動役物Ｊ７０が開放状態となった場合に第２入賞口Ｊ６６の左右両側から遊技球が第２入賞口Ｊ６６に入賞可能に構成されるが、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一方側の流路を塞ぐ壁を形成して、他方側からのみ第２入賞口Ｊ６６に遊技球が入賞可能となるように構成しても良い。この場合、第２入賞

口Ｊ６６の他方側にのみ開閉する羽部材（電動役物Ｊ７０）が配設される。
【１１６９０】
　また、電動役物Ｊ７０は、回転する羽部材に限られるものではなく、第２入賞口Ｊ６６を開放する位置と閉鎖する位置とに移動するものであればスライド変位するものであっても良い。例えば、電動役物Ｊ７０は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にスライド変位するものや、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向側）にスライド変位するものであっても良い。この場合には、電動役物Ｊ７０を変位させた際に必要となる変位スペースを前後方向とし、上下方向に変位スペースを不要とできるので、電動役物Ｊ７０を上下方向に小型化することができる。
【１１６９１】
　上述した通り、確変中および時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物Ｊ７０が開放状態（拡大状態）となる回数が増える。更に、確変中および時短中は、電動役物Ｊ７０が開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口Ｊ６６へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。
【１１６９２】
　本実施形態におけるパチンコ機Ｊ１０は、遊技盤Ｊ１３の構成が左右対称とされるため、可変表示装置ユニットＪ８０の右方（矢印Ｒ方向）を遊技球が通過するように遊技球を発射して（所謂「右打ち」）、第１入賞口Ｊ６４を狙うことも、可変表示装置ユニットＪ８０の左方（矢印Ｌ方向）を遊技球が通過するように遊技球を発射して（所謂「左打ち」）第２入賞口Ｊ６６を狙うこともできる。そのため、本実施形態のパチンコ機Ｊ１０は、パチンコ機Ｊ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることを不要にできる。よって、球の打ち方を変化させる煩わしさを解消することができる。
【１１６９３】
　なお、低確率状態であっても高確率状態でも大当たりとなる確率が変わらない（低確率状態の大当たり確率と高確率状態の大当たり確率とが同じ確率である）構成としても良い。この場合には、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ確変大当たりとなる確率が、第２入賞口Ｊ６６へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｊ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されるように構成すると共に、「左打ち」側の流路に第１入賞口Ｊ６４を配設し、「右打ち」側の流路に第２入賞口Ｊ６６を配設する構成（遊技盤Ｊ１３の構成を左右非対称）とすることが好ましい。
【１１６９４】
　この構成によれば、通常中においては、第２入賞口Ｊ６６に付随する電動役物が閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｊ６６に入賞しづらいので、電動役物のない第１入賞口Ｊ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＪ８０の左方（矢印Ｌ方向）を遊技球が通過するように遊技球を発射し（「左打ち」）、第１入賞口Ｊ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。
【１１６９５】
　一方、確変中や時短中は、スルーゲートＪ６７に遊技球を通過させることで、第２入賞口Ｊ６６に付随する電動役物Ｊ７０が開放状態となりやすく、第２入賞口Ｊ６６に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｊ６６へ向けて、可変表示装置ユニットＪ８０の右方（矢印Ｒ方向）を遊技球が通過するように遊技球を発射し（「右打ち」）、スルーゲートＪ６７を通過させて電動役物を開放状態にすると共に、第２入賞口Ｊ６６への入賞によって１５Ｒ確変大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。
【１１６９６】
　従って、パチンコ機Ｊ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることができ、遊技者の興趣を維持できる。

【１１６９７】
第１入賞口Ｊ６４の下方には、遊技球が入球可能に構成される部位の特定入賞口Ｊ６５（図６５５参照）が配設されており、その略中央部分に可変入賞役物Ｊ６５ａが設けられている。パチンコ機Ｊ１０においては、第１入賞口Ｊ６４又は第２入賞口Ｊ６６への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｊ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｊ３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｊ８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には特定入賞口Ｊ６５を閉鎖している可変入賞役物Ｊ６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）変位して特定入賞口Ｊ６５を開放する。
【１１６９８】
この可変入賞役物Ｊ６５ａは、所定時間が経過すると特定入賞口Ｊ６５を閉鎖し、その閉鎖後、再度、可変入賞役物Ｊ６５ａを変位し特定入賞口Ｊ６５を所定時間開放する。この可変入賞役物Ｊ６５ａによる特定入賞口Ｊ６５の開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。
【１１６９９】
なお、上記した形態に特別遊技状態は限定されるものではない。特定入賞口Ｊ６５とは別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置Ｊ３７Ａ，Ｊ３７Ｂにおいて大当たりに対応したＬＥＤが点灯した場合に、特定入賞口Ｊ６５が所定時間開放され、その特定入賞口Ｊ６５の開放中に、球が特定入賞口Ｊ６５内へ入賞することを契機として特定入賞口Ｊ６５とは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。また、特定入賞口Ｊ６５は１つに限るものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｊ６４の下方右側や、第１入賞口Ｊ６４の下方左側に限らず、例えば、可変表示装置ユニットＪ８０の左方でも良い。
【１１７００】
更に、可変する可変入賞役物Ｊ６５ａにより、大当たり時に特定入賞口Ｊ６５までの遊技球の送球路を構成するものであっても良い。この場合には、可変入賞役物Ｊ６５ａが遊技球を転動可能に構成される部位の転動面を上面側に備え、変位可能な部位として構成される可変入賞役物Ｊ６５ａが上面側の転動面を大当たり時に遊技領域側に張り出すようにすることが好ましい。
【１１７０１】
遊技盤Ｊ１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＫ１が設けられ、貼着スペースＫ１に貼られた証紙等は、正面枠Ｊ１４のガラスユニットＪ１６を介して視認することができる。
【１１７０２】
遊技盤Ｊ１３には、遊技球を入球可能に構成される部位のアウト口Ｊ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｊ６３，Ｊ６４，Ｊ６５，Ｊ６６にも入賞しなかった球は、アウト口Ｊ７１を通って図示しない球排出路へと案内される。アウト口Ｊ７１は、特定入賞口Ｊ６５の下方（矢印Ｄ方向側）及び左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に配設される。
【１１７０３】
また、遊技盤Ｊ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車（図示しない）等の各種部材（役物）とが配設されている。さらに、第３図柄表示装置Ｊ８１を取り囲む態様でベース板Ｊ６０の中央開口部に配設されるセンターフレームＪ８６の一部は、上方側（矢印Ｕ方向側）の遊技領域まで背面側（矢印Ｂ方向側）の側面が延設され、その延設された領域に正面側（矢印Ｆ方向側）に向かっ

て突出する突出部を複数備える。遊技盤Ｊ１３の遊技領域を流下する球は、多数の釘や、センターフレームＪ８６の突出部、風車等に衝突しつつ流下されることで、球の落下方向が適宜分散される。

【１１７０４】

なお、本実施形態では、センターフレームＪ８６の一部が延設される方向が上方側（矢印Ｕ方向）に設定されているが、右側（矢印Ｒ方向側）や左側（矢印Ｌ方向側）に延設されていても良く、その延設部分に突出部だけでなくスルーゲートＪ６７や各入賞口Ｊ６３，Ｊ６４，Ｊ６５，Ｊ６６を配置する構成としても良い。また、センターフレームＪ８６は、延設部分や突出部を備えない構成としても良い。

【１１７０５】

風車は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の軸を中心に回転可能に形成される。また、風車は、正面視において回転軸を中心とする円形に形成されベース板Ｊ６０の正面から１球分の距離を隔てた位置に配設される円盤部材と、その円盤部材の一部からベース板Ｊ６０側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出され風車の回転方向に沿って所定の角度（本実施形態では１２０度）で分散配置される複数（本実施形態では３枚）の球当接部とを備えて形成されており、遊技盤Ｊ１３を流下する球が球当接部に当接した衝撃で回転しつつ当接した遊技球を複数（２以上）の方向に案内可能に形成される。

【１１７０６】

また、風車は、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。これにより、球当接部に当接した球の流下方向を遊技者に視認させやすくできると共に、風車の回転方向を遊技者に認識させにくくできる。

【１１７０７】

なお、遊技盤Ｊ１３は、ベース板Ｊ６０に必ずしも風車を備えている必要はなく風車を備えない構成としても良い。また、センターフレームＪ８６のワープ通路（図示しない）や、各入賞口Ｊ６３，Ｊ６４，Ｊ６５，Ｊ６６へ入球した球が通過する通路（図示しない）の通路途中に風車を配設して、風車により球の通路を変更するように構成することも可能である。さらに、風車は、一部が非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても、全部が非透過性のアルミ等の金属製の材料から形成されるものであっても良く、球が当接した際に遊技球を複数の方向に案内可能であれば形状、色、材質は何でも良い。例えば、風車は、１球ずつ交互に異なる方向に遊技球を振り分け可能に構成されていても良い。また、風車に変えて、上述した戻り球防止部材Ｊ６８を配設して、遊技領域を流下する遊技球を一方向に流下させる（球が戻らない）ように構成しても良い。

【１１７０８】

また、上記第１１８実施形態では、遊技盤Ｊ１３のベース板Ｊ６０に配設した風車に遊技領域を流下する遊技球を当接（衝突）させて風車を回転させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、風車に駆動手段の駆動力を伝達するように構成しても良い。

【１１７０９】

例えば、上記第１１８実施形態における風車に置き換えて上下スライドユニットＪ２１０、上変位ユニットＪ２２０、下変位ユニットＪ２３０、又は、一対の揺動ユニットＪ２４０をベース板Ｊ６０に配設するように構成して、それら回転する上下スライドユニットＪ２１０、上変位ユニットＪ２２０、下変位ユニットＪ２３０、又は、一対の揺動ユニットＪ２４０に遊技領域を流下する遊技球を衝突させて、遊技球の流下方向を変更するように構成しても良い。

【１１７１０】

図６５１に示すように、パチンコ機Ｊ１０の背面側（矢印Ｂ方向側）には、制御基板ユニットＪ９０，Ｊ９１と、裏パックユニットＪ９４とが主に備えられている。制御基板ユニットＪ９０は、主基板（主制御装置Ｊ１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置Ｊ１１３）と表示制御基板（表示制御装置Ｊ１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニットＪ９１は、払出制御基板（払出制御装置Ｊ１１１）と発射制御

基板（発射制御装置Ｊ１１２）と電源基板（電源装置Ｊ１１５）とカードユニット接続基板Ｊ１１６とが搭載されてユニット化されている。

【１１７１１】

裏パックユニットＪ９４は、保護カバー部を形成する裏パックＪ９２と払出ユニットＪ９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとしてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。

【１１７１２】

なお、主制御装置Ｊ１１０、音声ランプ制御装置Ｊ１１３及び表示制御装置Ｊ１１４、払出制御装置Ｊ１１１及び発射制御装置Ｊ１１２、電源装置Ｊ１１５、カードユニット接続基板Ｊ１１６は、それぞれ基板ボックスＪ１００～Ｊ１０４に収納されている。基板ボックスＪ１００～Ｊ１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。

【１１７１３】

また、基板ボックスＪ１００（主制御装置Ｊ１１０）及び基板ボックスＪ１０２（払出制御装置Ｊ１１１及び発射制御装置Ｊ１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックスＪ１００，Ｊ１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックスＪ１００，Ｊ１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックスＪ１００，Ｊ１０２が開封されたかどうかを知ることができる。

【１１７１４】

払出ユニットＪ９３は、裏パックユニットＪ９４の最上部に位置して上方に開口したタンクＪ１３０と、タンクＪ１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレールＪ１３１と、タンクレールＪ１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレールＪ１３２と、ケースレールＪ１３２の最下流部に設けられ、払出モータＪ２１６（図６５９参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置Ｊ１３３とを備えている。タンクＪ１３０には、遊技ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置Ｊ１３３により必要個数の遊技球の払い出しが適宜行われる。タンクレールＪ１３１には、当該タンクレールＪ１３１に振動を付加するためのバイブレータＪ１３４が取り付けられており、このバイブレータＪ１３４の振動によりタンクレールＪ１３１内に遊技球が詰まることが抑制される。なお、バイブレータＪ１３４は、タンクレールＪ１３１に取り付けられるだけでなく、他のレール部分（通路）に取り付けることも可能である。例えば、上皿Ｊ１７や下皿Ｊ５０に遊技球を送球する球送通路（皿通路形成部材Ｊ１６０）や、上皿Ｊ１７から球発射ユニットＪ１１２ａに遊技球を送球する送球通路（発射位置送球ユニットＪ１７０）に配設しても良い。

【１１７１５】

また、払出制御装置Ｊ１１１には状態復帰スイッチＪ１２０が設けられ、発射制御装置Ｊ１１２には可変抵抗器の操作つまみＪ１２１が設けられ、電源装置Ｊ１１５にはＲＡＭ消去スイッチＪ１２２が設けられている。状態復帰スイッチＪ１２０は、例えば、払出モータＪ２１６（図６５９参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみＪ１２１は、スピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）から放音される音の大きさを店舗側で調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチＪ１２２は、パチンコ機Ｊ１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。

【１１７１６】
なお、タンクＪ１３０に上述した球発射ユニットＪ１１２ａを別途配設して、球発射ユニットＪ１１２ａにより遊技球を打ち出すことでタンクＪ１３０に送球される球が詰まることや、タンクＪ１３０からタンクレールＪ１３１に送球される球が詰まることを抑制しても良い。
【１１７１７】
次に、図６５９を参照して、本パチンコ機Ｊ１０の電気的構成について説明する。図６５９は、パチンコ機Ｊ１０の電気的構成を示すブロック図である。
【１１７１８】
主制御装置Ｊ１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ（マイクロプロセッサー）Ｊ２０１が搭載されている。ＭＰＵＪ２０１には、該ＭＰＵＪ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ（半導体メモリ）Ｊ２０２と、そのＲＯＭＪ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ（ランダムアクセスメモリ）Ｊ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置Ｊ１１０では、ＭＰＵＪ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置Ｊ３７Ａ，Ｊ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｊ８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機Ｊ１０の主要な処理を実行する。
【１１７１９】
なお、払出制御装置Ｊ１１１や音声ランプ制御装置Ｊ１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置Ｊ１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置Ｊ１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。
【１１７２０】
ＲＡＭＪ２０３は、各種エリア、カウンタ、フラグのほか、ＭＰＵＪ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵＪ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。なお、ＲＡＭＪ２０３は、パチンコ機Ｊ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｊ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＪ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。
【１１７２１】
停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭＪ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭＪ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機Ｊ１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭＪ２０３への書き込みはメイン処理（図示せず）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭＪ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図示せず）において実行される。なお、ＭＰＵＪ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路Ｊ２５２からの停電信号ＪＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＪＳＧ１がＭＰＵＪ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。
【１１７２２】
主制御装置Ｊ１１０のＭＰＵＪ２０１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＪ２０４を介して入出力ポートＪ２０５が接続されている。入出力ポートＪ２０５には、払出制御装置Ｊ１１１、音声ランプ制御装置Ｊ１１３、第１図柄表示装置Ｊ３７Ａ，Ｊ３７Ｂ、第２図柄表示装置、第２図柄保留ランプ、特定入賞口Ｊ６５の開閉板の下辺を軸として正面側（矢印Ｆ方向側）に開閉駆動するための大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドなどからなるソレノイドＪ２０９が接続され、ＭＰＵＪ２０１は、入出力ポートＪ２０５を介してこれらに対し各種コマンドや制御信号を送信す

る。
【１１７２３】
なお、ソレノイドＪ２０９は、大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドだけでなく、遊技盤Ｊ１３に配設される役物装置の駆動源（駆動モータ）や、球発射ユニットＪ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、上皿Ｊ１７へ遊技球を送球するための払出装置Ｊ１３３を駆動する駆動モータ（図示しない）等を含む構成としても良い。
【１１７２４】
入出力ポートＪ２０５には、図示しないスイッチ群およびスルーゲートＪ６７を通過したことを検出するセンサ（スルーゲートＪ６７）、各入賞口Ｊ６３，Ｊ６４，Ｊ６５，Ｊ６６へ球が入賞したことを検知する入賞検出センサ（図示しない）、パチンコ機Ｊ１０に振動が入力されたことを検出する振動検出センサ（図示しない）、遊技盤Ｊ１３の遊技領域に磁石等が近づけられたことを検出する磁力検出センサ等のセンサ群などからなる各種スイッチＪ２０８、電源装置Ｊ１１５に設けられた後述のＲＡＭ消去スイッチ回路Ｊ２５３が接続され、ＭＰＵＪ２０１は各種スイッチＪ２０８から出力される信号や、ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｊ２５３より出力されるＲＡＭ消去信号ＪＳＧ２に基づいて各種処理を実行する。
【１１７２５】
なお、各種スイッチＪ２０８は、音声ランプ制御装置Ｊ１１３における枠ボタンＪ２２（操作ユニットＪ１８０のボタン部Ｊ１８１や機能調整操作部Ｊ１９０の決定ボタンＪ１９１，上ボタンＪ１９２，下ボタンＪ１９３，左ボタンＪ１９４，右ボタンＪ１９５）を含む構成としても良い。
【１１７２６】
払出制御装置Ｊ１１１は、払出モータＪ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵＪ２１１は、そのＭＰＵＪ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＪ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＪ２１３とを有している。
【１１７２７】
払出制御装置Ｊ１１１のＲＡＭＪ２１３は、主制御装置Ｊ１１０のＲＡＭＪ２０３と同様に、ＭＰＵＪ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵＪ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭＪ２１３は、パチンコ機Ｊ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｊ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＪ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置Ｊ１１０のＭＰＵＪ２０１と同様、ＭＰＵＪ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路Ｊ２５２から停電信号ＪＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＪＳＧ１がＭＰＵＪ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。
【１１７２８】
払出制御装置Ｊ１１１のＭＰＵＪ２１１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＪ２１４を介して入出力ポートＪ２１５が接続されている。入出力ポートＪ２１５には、主制御装置Ｊ１１０や払出モータＪ２１６、発射制御装置Ｊ１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置Ｊ１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置Ｊ１１１に接続されるが、主制御装置Ｊ１１０には接続されていない。
【１１７２９】
発射制御装置Ｊ１１２は、主制御装置Ｊ１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドルＪ５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニットＪ１１２ａを制御するものである。
【１１７３０】

球発射ユニットＪ１１２ａの回転体Ｊ１１２ａ２は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドルＪ５１に触れていることをタッチセンサＪ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための発射停止スイッチＪ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドルＪ５１の回動操作量（回動位置）に対応して駆動モータから駆動力が伝達され、操作ハンドルＪ５１の操作量に応じた速度で回転体Ｊ１１２ａ２が回転される。これにより、操作ハンドルＪ５１の操作量に応じた強さで球発射ユニットＪ１１２ａから遊技球が通過する経路を構成する内レールＪ６１及び外レールＪ６２の対向間に遊技球が発射される。

【１１７３１】

音声ランプ制御装置Ｊ１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカーなど）Ｊ２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部Ｊ２９～Ｊ３３など）Ｊ２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置Ｊ１１４で行われる第３図柄表示装置Ｊ８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵＪ２２１は、そのＭＰＵＪ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＪ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＪ２２３とを有している。

【１１７３２】

音声ランプ制御装置Ｊ１１３のＭＰＵＪ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＪ２２４を介して入出力ポートＪ２２５が接続されている。入出力ポートＪ２２５には、主制御装置Ｊ１１０、表示制御装置Ｊ１１４、音声出力装置Ｊ２２６、ランプ表示装置Ｊ２２７、その他装置Ｊ２２８、ボタン部Ｊ１８１などがそれぞれ接続されている。その他装置Ｊ２２８には、上下スライドユニットＪ２１０、上変位ユニットＪ２２０、下変位ユニットＪ２３０、一対の揺動ユニットＪ２４０を駆動する駆動手段（モータ、図示しない）、駆動モータＹ４５０（モータ本体Ｙ４５１）、ソレノイドＹ１１４５５、又は、駆動モータＹ１７３２１が含まれる。

【１１７３３】

なお、その他装置Ｊ２２８には、遊技盤Ｊ１３に配設される役物装置の駆動源だけでなく、球発射ユニットＪ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、第２入賞口Ｊ６６の電動役物Ｊ７０や、モーター装置Ｙ６１５０、ソレノイドＹ７１５０、出没動作装置Ｙ８１６０、駆動装置Ｙ９１４０、出没動作装置Ｙ１９１６０、又は、球受け回転体Ｙ１９１８０の駆動源を含む構成としても良い。

【１１７３４】

音声ランプ制御装置Ｊ１１３は、主制御装置Ｊ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置Ｊ８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置Ｊ１１４へ通知する。

【１１７３５】

また、音声ランプ制御装置Ｊ１１３は、ボタン部Ｊ１８１からの入力を監視し、遊技者によってボタン部Ｊ１８１が操作された場合は、第３図柄表示装置Ｊ８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置Ｊ１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた背面画像を第３図柄表示装置Ｊ８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた背面画像変更コマンドを表示制御装置Ｊ１１４へ送信する。ここで、背面画像とは、第３図柄表示装置Ｊ８１に表示させる主要な画像である第３図柄の背面側（矢印Ｂ方向側）に表示される画像のことである。表示制御装置Ｊ１１４は、この音声ランプ制御装置Ｊ１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置Ｊ８１に各種の画像を表示する。

【１１７３６】

さらに、音声ランプ制御装置Ｊ１１３は、機能調整操作部Ｊ１９０（決定ボタンＪ１９１，上ボタンＪ１９２，下ボタンＪ１９３，左ボタンＪ１９４，右ボタンＪ１９５）からの入力を監視し、遊技者によって機能調整操作部Ｊ１９０が操作された場合は、スピーカ

ー（音声出力装置Ｊ２２６）の音量を変更したり、第３図柄表示装置Ｊ８１の明るさを変更したり、電飾部Ｊ２９～Ｊ３３の明るさを変更したりするように、表示制御装置Ｊ１１４へ指示する。音量や明るさが変更される場合は、音量や明るさの調整度合いが第３図柄表示装置Ｊ８１に表示される主要な表示の前方側に数値やボリューム等で一時的に表示される。

【１１７３７】

なお、図６５９では、操作ユニットＪ１８０のボタン部Ｊ１８１や機能調整操作部Ｊ１９０の決定ボタンＪ１９１，上ボタンＪ１９２，下ボタンＪ１９３，左ボタンＪ１９４，右ボタンＪ１９５をまとめて枠ボタンＪ２２として図示している。

【１１７３８】

また、音声ランプ制御装置Ｊ１１３は、表示制御装置Ｊ１１４から第３図柄表示装置Ｊ８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置Ｊ１１３では、表示制御装置Ｊ１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置Ｊ８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置Ｊ２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置Ｊ２２７の点灯および消灯を制御する。

【１１７３９】

表示制御装置Ｊ１１４は、音声ランプ制御装置Ｊ１１３及び第３図柄表示装置Ｊ８１が接続され、音声ランプ制御装置Ｊ１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置Ｊ８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置Ｊ１１４は、第３図柄表示装置Ｊ８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置Ｊ１１３へ送信する。音声ランプ制御装置Ｊ１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置Ｊ２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置Ｊ８１の表示と音声出力装置Ｊ２２６からの音声出力とをあわせることができる。

【１１７４０】

なお、主制御装置Ｊ１１０における入出力ポートＪ２０５に接続される各種スイッチＪ２０８が、音声ランプ制御装置Ｊ１１３における入出力ポートＪ２２５に接続されるように構成して、ＭＰＵＪ２２１が、各種スイッチＪ２０８から出力される信号に基づいて各種処理を実行しても良い。また、主制御装置Ｊ１１０における入出力ポートＪ２０５に接続される各種スイッチＪ２０８とは別に音声ランプ制御装置Ｊ１１３における入出力ポートＪ２２５に各種スイッチを接続しても良い。この場合には、主に遊技盤Ｊ１３に配設される役物装置の位置検出センサ等のセンサ群を各種スイッチとして構成することが好ましい。

【１１７４１】

電源装置Ｊ１１５は、パチンコ機Ｊ１０の各部に電源を供給するための電源部Ｊ２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路Ｊ２５２と、ＲＡＭ消去スイッチＪ１２２（図６５９参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路Ｊ２５３とを有している。電源部Ｊ２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置Ｊ１１０～Ｊ１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部Ｊ２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチＪ２０８などの各種スイッチや、ソレノイドＪ２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧及びバックアップ電圧を各制御装置Ｊ１１０～Ｊ１１４等に対して必要な電圧を供給する。

【１１７４２】

停電監視回路Ｊ２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置Ｊ１１０のＭＰＵＪ２０１及び払出制御装置Ｊ１１１のＭＰＵＪ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＪＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路Ｊ２５２は、電源部Ｊ２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満にな

った場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＪＳＧ１を主制御装置Ｊ１１０及び払出制御装置Ｊ１１１へ出力する。停電信号ＪＳＧ１の出力によって、主制御装置Ｊ１１０及び払出制御装置Ｊ１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部Ｊ２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置Ｊ１１０及び払出制御装置Ｊ１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。

【１１７４３】

ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｊ２５３は、ＲＡＭ消去スイッチＪ１２２（図６５９参照）が押下された場合に、主制御装置Ｊ１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＪＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置Ｊ１１０は、パチンコ機Ｊ１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＪＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置Ｊ１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置Ｊ１１１に対して送信する。

【１１７４４】

次いで、図６６０から図６６２を参照して遊技盤Ｊ１３の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される動作ユニットＪ２００の概略構成について説明する。図６６０は、内方側に表示領域を有する遊技盤Ｊ１３及び動作ユニットＪ２００の正面図であり、図６６１は、遊技盤Ｊ１３及び動作ユニットＪ２００の分解正面斜視図であり、図６６２は、動作ユニットＪ２００の分解正面斜視図である。

【１１７４５】

図６６２に示すように、動作ユニットＪ２００は、箱状に形成される背面ケースＪ３００を備え、その背面ケースＪ３００の内部空間に上下スライドユニットＪ２１０、上変位ユニットＪ２２０、下変位ユニットＪ２３０、一対の揺動ユニットＪ２４０、及び、一対の背面側通路ユニットＪ２６０が収容される。

【１１７４６】

背面ケースＪ３００は、正面視略矩形の底壁部Ｊ３０１と、その底壁部Ｊ３０１の４辺の外縁から正面へ向けて立設される外壁部Ｊ３０２と、を備え、それら各壁部Ｊ３０１，Ｊ３０２により一面側（正面側（矢印Ｆ方向側））が開放された箱状に形成される。底壁部Ｊ３０１には、その中央に正面視矩形の開口部Ｊ３０１ａが開口形成され、その開口部Ｊ３０１ａを通じて、底壁部Ｊ３０１の背面に配設される第３図柄表示装置Ｊ８１（図６６０参照）が視認可能とされる。

【１１７４７】

上下スライドユニットＪ２１０は、背面ケースＪ３００の底壁部Ｊ３０１のうちの開口部Ｊ３０１ａの左右両側に配設される一対のベース手段Ｊ２１１と、その一対のベース手段Ｊ２１１に沿って上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にスライド変位可能に配設されるスライド手段Ｊ２１２と、を少なくとも備え、スライド手段Ｊ２１２を背面ケースＪ３００の開口部Ｊ３０１ａの上側から下側に亘って変位可能（即ち、第３図柄表示装置Ｊ８１（図６６０参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる領域を上側から下側に亘って通過可能）に構成される。

【１１７４８】

上変位ユニットＪ２２０は、背面ケースＪ３００の底壁部Ｊ３０１のうちの開口部Ｊ３０１ａの上側部分に配設されるベース手段Ｊ２２１と、そのベース手段Ｊ２２１に対して相対変位可能な状態でベース手段Ｊ２２１に配設される一対の回転手段Ｊ２２２と、を少なくとも備える。上変位ユニットＪ２２０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に並設される一対の回転手段Ｊ２２２が背面ケースＪ３００の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）略中央部に配置された軸を中心に対称に回転可能に構成され、背面ケースＪ３００の開口部Ｊ３０１ａの上側縁部に沿う位置に一対の回転手段Ｊ２２２を配置した状態から一対の回転手段Ｊ２２２の左右両端を背面ケースＪ３００の中央部に向けて変位させることが可能とされる

。なお、一対の回転手段Ｊ２２２の左右両端を背面ケースＪ３００の中央部に変位させた状態では、回転手段Ｊ２２２の一部が背面ケースＪ３００の開口部Ｊ３０１ａ（即ち、第３図柄表示装置Ｊ８１の正面側（矢印Ｆ方向側））に重なる状態とされる。

【１１７４９】

下変位ユニットＪ２３０は、背面ケースＪ３００の底壁部Ｊ３０１のうちの開口部Ｊ３０１ａの下側部分に配設されるベース手段Ｊ２３１と、そのベース手段Ｊ２３１に対して上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にスライド変位可能な状態でベース手段Ｊ２３１に配設されるスライド手段Ｊ２３２と、を少なくとも備え、スライド手段Ｊ２３２を背面ケースＪ３００の開口部Ｊ３０１ａの下側から開口部Ｊ３０１ａ（即ち、第３図柄表示装置Ｊ８１の正面側（矢印Ｆ方向側））に重なる位置に変位させる演出を実行可能に構成される。

【１１７５０】

一対の揺動ユニットＪ２４０は、背面ケースＪ３００の外壁部Ｊ３０２に配設されるベース手段Ｊ２４１と、そのベース手段Ｊ２４１に対して相対変位可能に配設される揺動手段Ｊ２４２と、を少なくとも備え、上変位ユニットＪ２２０の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に配設される。また、一対の揺動ユニットＪ２４０の揺動手段Ｊ２４２は、上変位ユニットＪ２２０の回転手段Ｊ２２２の変位に伴って変位可能に構成されており、上変位ユニットＪ２２０の一部の変位領域に重なる位置に配設される。これにより、上変位ユニットＪ２２０の回転手段Ｊ２２２の変位に連動して、揺動手段Ｊ２４２を変位可能とされる。

【１１７５１】

一対の背面側通路ユニットＪ２６０は、球が通過可能な中空状の通路部Ｊ２６１を備え、その通路部Ｊ２６１の一端が遊技盤Ｊ１３に形成される入球口Ｊ７５に連通されると共に、通路部Ｊ２６１の他端が遊技盤Ｊ１３のセンターフレームＪ８６に形成されるワープ通路の受入口に連通される。これにより、遊技盤Ｊ１３の入球口Ｊ７５に入球した遊技球を通路部Ｊ２６１を介してセンターフレームＪ８６のワープ通路に入球させて、遊技盤Ｊ１３の第１入賞口Ｊ６４側から排出可能とされる。即ち、センターフレームＪ８６から離れた位置の遊技領域を流下する遊技球をセンターフレームＪ８６のワープ通路に入球させることができる。

【１１７５２】

次いで、図６６３から図６７５を参照して、第１入賞口Ｊ６４、第２入賞口Ｊ６６及び特定入賞口Ｊ６５が形成される入球口ユニットＪ４００について説明する。

【１１７５３】

まず、図６６３を参照して、入球口ユニットＪ４００の配設態様について説明する。図６６３は、遊技盤Ｊ１３の分解正面斜視図である。なお、図６６３では、遊技盤Ｊ１３から入球口ユニットＪ４００のみを取り外した（分解した）状態が図示される。

【１１７５４】

図６６３に示すように、入球口ユニットＪ４００は、遊技盤Ｊ１３のベース板Ｊ６０に形成される開口に背面側（矢印Ｂ方向側）の一部が挿入された状態で、遊技盤Ｊ１３の正面側（矢印Ｆ方向側）からベース板Ｊ６０に締結固定されることで遊技盤Ｊ１３に配設される。

【１１７５５】

次に、図６６４及び図６６５を参照して、入球口ユニットＪ４００の全体構成について説明する。図６６４（ａ）は、入球口ユニットＪ４００の正面図であり、図６６４（ｂ）は、入球口ユニットＪ４００の側面図であり、図６６４（ｃ）は、入球口ユニットＪ４００の背面図である。図６６５（ａ）は、入球口ユニットＪ４００の分解正面斜視図であり、図６６５（ｂ）は、入球口ユニットＪ４００の分解背面斜視図である。

【１１７５６】

図６６４及び図６６５に示すように、入球口ユニットＪ４００は、第１入賞口Ｊ６４、第２入賞口Ｊ６６及び特定入賞口Ｊ６５が形成される化粧側ユニットＪ６００と、その化粧側ユニットＪ６００の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され、第１入賞口Ｊ６４及び第２

入賞口Ｊ６６から入球した遊技球の通路が形成される通路ユニットＪ５００と、化粧側ユニットＪ６００の背面側に配設され、特定入賞口Ｊ６５を開閉するための可変入賞役物Ｊ６５ａを有する特定入賞ユニットＪ７００と、を主に備えて構成される。

【１１７５７】

入球口ユニットＪ４００は、化粧側ユニットＪ６００の特定入賞口Ｊ６５の内側に可変入賞役物Ｊ６５ａが配設されるように特定入賞ユニットＪ７００が化粧側ユニットＪ６００の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されると共に、その特定入賞ユニットＪ７００の上方側（矢印Ｕ方向側）及び背面側に重なる態様で通路ユニットＪ５００が化粧側ユニットＪ６００の背面側に配設される。なお、入球口ユニットＪ４００は、化粧側ユニットＪ６００、特定入賞ユニットＪ７００、及び、通路ユニットＪ５００が組み合わされた状態で、ベース板Ｊ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）から配設され、螺子によりベース板Ｊ６０に締結（固定）される。

【１１７５８】

次いで、図６６６及び図６６７を参照して、化粧側ユニットＪ６００について説明する。図６６６（ａ）は、化粧側ユニットＪ６００の分解正面斜視図であり、図６６６（ｂ）は、化粧側ユニットＪ６００の分解背面斜視図である。図６６７（ａ）及び図６６７（ｂ）は、化粧側ユニットＪ６００の背面図である。なお、図６６７（ａ）及び図６６７（ｂ）では、背面ベース部材Ｊ６１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）の外形が破線で図示され、図６６７（ａ）では、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が閉鎖状態（縮小状態）となり、遊技球が第２入賞口Ｊ６６へ入賞しにくい状態とされた状態が図示され、図６６７（ｂ）では、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が開放状態（拡大状態）となり、遊技球が第２入賞口Ｊ６６へ入賞しやすい状態とされた状態が図示される。

【１１７５９】

図６６６及び図６６７に示すように、化粧側ユニットＪ６００は、遊技盤Ｊ１３（図６５５参照）の遊技領域を流下した遊技球を入球させて遊技盤Ｊ１３の正面よりも（遊技領域の）背面側（矢印Ｂ方向側）に送球可能な複数の開口（第１入賞口Ｊ６４、第２入賞口Ｊ６６、特定入賞口Ｊ６５、及び、アウト口Ｊ７１）が形成される背面ベース部材Ｊ６１０と、その背面ベース部材Ｊ６１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔を隔てて配設され、背面ベース部材Ｊ６１０との対向間に遊技球を流下可能な空間を形成する正面ベース部材Ｊ６２０と、それら背面ベース部材Ｊ６１０及び正面ベース部材Ｊ６２０の対向間に回転可能な状態で配設される電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）と、を主に備えて構成される。

【１１７６０】

背面ベース部材Ｊ６１０は、遊技盤Ｊ１３のベース板Ｊ６０（図６５５参照）の正面に沿って配設される板状の部材であり、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。また、背面ベース部材Ｊ６１０には、前後方向に開口される第１入賞口Ｊ６４、第２入賞口Ｊ６６、特定入賞口Ｊ６５、及び、アウト口Ｊ７１が形成される。また、背面ベース部材Ｊ６１０には、第１入賞口Ｊ６４に入球する遊技球を受け取るために第１入賞口Ｊ６４の上方側（矢印Ｕ方向側）を除く周囲を取り囲む受取部Ｊ６４ａが正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出し形成され、第２入賞口Ｊ６６の左右両側に後述する電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）の回転軸Ｊ６７２の一端を受け入れる軸支部Ｊ６１１が正面側に凹設されると共に、特定入賞口Ｊ６５の左右両側に後述する可変入賞役物Ｊ６５ａの回転軸Ｊ７２５の正面側の一部を受け入れるための軸受部Ｊ６１２が背面側（矢印Ｂ方向側）に凹設される。

【１１７６１】

なお、化粧側ユニットＪ６００の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される特定入賞ユニットＪ７００、及び、通路ユニットＪ５００は、背面ベース部材Ｊ６１０の背面側から円柱状に突設される複数の突設部Ｊ６１３の先端に螺子を締結することで、化粧側ユニットＪ６００の背面側に締結可能とされる。

【１１７６２】
正面ベース部材Ｊ６２０は、背面ベース部材Ｊ６１０の正面と所定の間隔を維持した状態で配設される板状の部材であり、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。また、正面ベース部材Ｊ６２０は、正面視における外形が背面ベース部材Ｊ６１０よりも若干小さく形成され、少なくとも背面ベース部材Ｊ６１０に形成される受取部Ｊ６４ａ（第１入賞口Ｊ６４）と重ならない外形に形成される。また、正面ベース部材Ｊ６２０は、背面ベース部材Ｊ６１０の第２入賞口Ｊ６６及び特定入賞口Ｊ６５の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる外形に形成され、正面ベース部材Ｊ６２０と背面ベース部材Ｊ６１０との対向間を流下する遊技球を第２入賞口Ｊ６６及び特定入賞口Ｊ６５に入球させることが可能に構成される。

【１１７６３】
また、正面ベース部材Ｊ６２０の背面側（矢印Ｂ方向側）には、後述する電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）の回転軸Ｊ６７２の他端を受け入れる軸支部Ｊ６２１が円環状に立設されると共に、背面ベース部材Ｊ６１０と所定の間隔を隔てた状態に維持する為の複数の壁部Ｊ６２２が形成される。なお、正面ベース部材Ｊ６２０と背面ベース部材Ｊ６１０とは、背面ベース部材Ｊ６１０を挿通した螺子を壁部Ｊ６２２に締結することで一体のユニットに組み合わされる。

【１１７６４】
電動役物Ｊ７０は、光透過性の樹脂材料から正面視略半月状に形成され前後方向に所定の厚みを有する一対の羽部材Ｊ６７１と、それら一対の羽部材Ｊ６７１に相対変位（回転）可能な状態で挿通され一対の羽部材Ｊ６７１のそれぞれの回転中心となる金属製の回転軸Ｊ６７２と、を主に備えて構成される。

【１１７６５】
一対の羽部材Ｊ６７１は、電動役物Ｊ７０が開放状態（図６６７（ｂ）に示す状態）とされる場合に、正面視略半月状に形成された平坦面により遊技球を第２入賞口Ｊ６６に案内する部材であり、以下の説明では、羽部材Ｊ６７１の平坦面側の面を転動面Ｊ６７１ａと称し、転動面Ｊ６７１ａと反対側の湾曲面を外側面Ｊ６７１ｂと称して説明する。

【１１７６６】
なお、一対の羽部材Ｊ６７１は、変位可能に構成される部位であり、転動面Ｊ６７１ａを正面視において第２入賞口Ｊ６６側に向けた状態（閉鎖状態）と、転動面Ｊ６７１ａの上端側を正面視において第２入賞口Ｊ６６から離間させた状態（開放状態）との間で回転変位させることで、第２入賞口Ｊ６６に遊技球を入球可能な状態と入球不可能な状態とに切り替え可能（上方側（矢印Ｕ方向側）から転動面Ｊ６７１ａを視認した際に視認可能となる転動面Ｊ６７１ａの大きさを左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に増減させることが可能）に構成され、閉鎖状態では第２入賞口Ｊ６６に向かって遊技領域を流下する遊技球を外側面Ｊ６７１ｂに当接させて遊技球が第２入賞口Ｊ６６に入球することを規制し、開放状態では第２入賞口Ｊ６６に向かって遊技領域を流下する遊技球を転動面Ｊ６７１ａに当接させ（拾わせ）、転動面Ｊ６７１ａを転動させることで第２入賞口Ｊ６６に入賞させやすくできる。即ち、転動面Ｊ６７１ａは、開放状態において遊技球を転動可能に構成される部位となり、閉鎖状態では遊技球を転動可能な領域が減少される。

【１１７６７】
一対の羽部材Ｊ６７１が開放状態とされ上面視における転動面Ｊ６７１ａが拡大された状態では、遊技領域（入球口ユニットＪ４００の上流側）を流下する遊技球が一対の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａに流下することが可能とされ、一対の羽部材Ｊ６７１が閉鎖状態とされ上面視における転動面Ｊ６７１ａが縮小された状態では、遊技領域（入球口ユニットＪ４００の上流側）を流下する遊技球が一対の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａに流下することが不能とされる。これにより、閉鎖状態において、第２入賞口Ｊ６６へ遊技球が入球しない態様を形成できる。

【１１７６８】
また、一対の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａは、開放状態における上面視において

、略長方形状に形成され、背面側（矢印Ｂ方向側）及び正面側（矢印Ｆ方向側）の端部の稜線が遊技盤Ｊ１３（ベース板Ｊ６０）の正面に平行に配設されると共に、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側の端部の稜線および左右方向内側の稜線が遊技盤Ｊ１３（ベース板Ｊ６０）の正面に対して直交（転動面Ｊ６７１ａを転動する遊技球の転動方向に対して直交）する方向とされ、転動面Ｊ６７１ａの面積と強度とが確保される。

【１１７６９】

また、羽部材Ｊ６７１は、背面側（矢印Ｂ方向側）の側面から第２入賞口Ｊ６６側に突設される突設部Ｊ６７１ｃと、転動面Ｊ６７１ａの背面側の縁部から突出される突出部Ｊ６７１ｄと、閉鎖状態における羽部材Ｊ６７１の外側面Ｊ６７１ｂの下方側（矢印Ｄ方向側、回転軸Ｊ６７２側）から下方に向けて突出する底壁形成部Ｊ６７１ｅと、を備える。

【１１７７０】

突設部Ｊ６７１ｃは、後述する通路ユニットＪ５００の駆動部Ｊ５７２ｃが当接され、その駆動部Ｊ５７２ｃの変位によって通路ユニットＪ５００に配設されるソレノイドＪ５６０の駆動力が伝達される部位であり、背面ベース部材Ｊ６１０を超えて一部が通路ユニットＪ５００に到達する突設距離に設定される。なお、羽部材Ｊ６７１は、通路ユニットＪ５００のソレノイドＪ５６０の駆動力が駆動部Ｊ５７２ｃを介して伝達され、突設部Ｊ６７１ｃが変位されることで、回転軸Ｊ６７２を中心に回転変位可能とされる。

【１１７７１】

突出部Ｊ６７１ｄは、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が閉鎖状態とされた際に、一対の羽部材Ｊ６７１の対向間を通過する遊技球が第２入賞口Ｊ６６に入球することを抑制する部位であり、閉鎖状態における正面視において第２入賞口Ｊ６６と重なる位置に形成されると共に、一対の羽部材Ｊ６７１の互いの突出部Ｊ６７１ｄの対向間の距離が遊技球の直径よりも小さく設定される。これにより、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が閉鎖状態に変位されたタイミングにおいて、遊技球が第２入賞口Ｊ６６の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置を流下していたとしても、その遊技球が第２入賞口Ｊ６６に入球することを突出部Ｊ６７１ｄにより抑制することができる。その結果、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）を閉鎖状態とした際に、遊技球が不用意に第２入賞口Ｊ６６に入球することを抑制できる。

【１１７７２】

また、突出部Ｊ６７１ｄは、転動面Ｊ６７１ａから突出するに従って、正面側（矢印Ｆ方向側）が背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって傾斜する三角形状に形成される。これにより、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）を開放状態から閉鎖状態とした際に、一対の羽部材Ｊ６７１の突出部Ｊ６７１ｄの間に第２入賞口Ｊ６６に入球しようとする遊技球が挟まった場合に、その遊技球が突出部Ｊ６７１ｄの間に挟持されてしまうことを抑制できる。これにより、一対の羽部材Ｊ６７１が開放状態と閉鎖状態との途中位置で維持されてしまうことを抑制でき、確実に閉鎖状態を形成できる。

【１１７７３】

なお、第１１８実施形態では、閉鎖状態において一対の羽部材Ｊ６７１の互いの突出部Ｊ６７１ｄの対向間の距離が遊技球の直径よりも小さく設定される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、遊技球の直径と同等または大きく設定しても良い。この場合には、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が閉鎖状態に変位されたタイミングにおいて、第２入賞口Ｊ６６の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置を流下する遊技球が第２入賞口Ｊ６６に入球する可能性を残すことができるので、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が開放状態から閉鎖状態とされる位置まで変位する間、第２入賞口Ｊ６６付近を流下する遊技球に注目させることができる。

【１１７７４】

また、第１１８実施形態では、一対の羽部材Ｊ６７１の両方に突出部Ｊ６７１ｄを形成する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、一対の羽部材Ｊ６７１の一方のみに突出部Ｊ６７１ｄを形成するものであっても、一対の羽部材Ｊ６７１の一方と他方とで突出部Ｊ６７１ｄの突出距離や外形を異ならせて形成するものであっても

良い。
【１１７７５】
底壁形成部Ｊ６７１ｅは、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が開放状態とされる場合に、第２入賞口Ｊ６６に流入する遊技球の転動面（第２入賞口Ｊ６６の底壁）となる部位であり、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が開放状態とされる際の正面視において、第２入賞口Ｊ６６の下方側（矢印Ｄ方向側）の縁部と重なる位置に形成される。
【１１７７６】
また、底壁形成部Ｊ６７１ｅは、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が開放状態とされ第２入賞口Ｊ６６の底面を形成する際の上面側が、第２入賞口Ｊ６６に向かって下降傾斜する形状とされ、一対の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａを転動して第２入賞口Ｊ６６の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両外側から第２入賞口Ｊ６６の正面側（底壁形成部Ｊ６７１ｅ）まで流下した遊技球の転動方向を第２入賞口Ｊ６６側に変更することが可能とされる。
【１１７７７】
さらに、底壁形成部Ｊ６７１ｅは、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が開放状態とされ第２入賞口Ｊ６６の底面を形成する際に、一対の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａよりも下方側（矢印Ｄ方向側）となる位置に形成され、転動面Ｊ６７１ａとの間に段差を有する。これにより、一対の羽部材Ｊ６７１の一方側の転動面Ｊ６７１ａを転動して第２入賞口Ｊ６６の正面側（底壁形成部Ｊ６７１ｅ）まで流下した遊技球が、一対の羽部材Ｊ６７１の他方側の転動面Ｊ６７１ａに乗り上げることを抑制できる。その結果、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が開放状態とされ第２入賞口Ｊ６６の底面を形成する際には、第２入賞口Ｊ６６の正面側（底壁形成部Ｊ６７１ｅ）まで流下した遊技球を速やかに第２入賞口Ｊ６６に入球することが可能とされる。
【１１７７８】
一方、底壁形成部Ｊ６７１ｅは、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が閉鎖状態とされる際には、一対の羽部材Ｊ６７１と共に変位されることで、第２入賞口Ｊ６６の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側に回転変位される。これにより、第１１８実施形態における入球口ユニットＪ４００では、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が閉鎖状態とされる際に、一対の羽部材Ｊ６７１の対向間を遊技球が通過したとしても、その球が第２入賞口Ｊ６６に入球されることを抑制できる。
【１１７７９】
なお、第１１８実施形態における電動役物Ｊ７０では、一対の羽部材Ｊ６７１の両方に底壁形成部Ｊ６７１ｅを形成する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、一対の羽部材Ｊ６７１の一方のみに底壁形成部Ｊ６７１ｅを形成するものであっても、一対の羽部材Ｊ６７１の一方と他方とで底壁形成部Ｊ６７１ｅの大きさを異ならせて形成するものであっても良い。
【１１７８０】
次いで、図６６８から図６７２を参照して、通路ユニットＪ５００について説明する。図６６８（ａ）は、通路ユニットＪ５００の正面図であり、図６６８（ｂ）は、通路ユニットＪ５００の背面図であり、図６６８（ｃ）は、通路ユニットＪ５００の側面図である。図６６９（ａ）は、通路ユニットＪ５００の分解正面斜視図であり、図６６９（ｂ）は、通路ユニットＪ５００の分解背面斜視図である。図６７０（ａ）は、図６６８（ｃ）のＮ０１ａ－Ｎ０１ａ線における通路ユニットＪ５００の断面図であり、図６７０（ｂ）は、図６６８（ｃ）のＮ０１ｂ－Ｎ０１ｂ線における通路ユニットＪ５００の断面図である。図６７１（ａ）は、図６６８（ａ）のＮ０２ａ－Ｎ０２ａ線における通路ユニットＪ５００の断面図であり、図６７１（ｂ）は、図６６８（ａ）のＮ０２ｂ－Ｎ０２ｂ線における通路ユニットＪ５００の断面図である。
【１１７８１】
図６６８から図６７１に示すように、通路ユニットＪ５００は、化粧側ユニットＪ６０

０の第１入賞口Ｊ６４（図６６６参照）に連通される受取部Ｊ５１１を有し、化粧側ユニットＪ６００の背面ベース部材Ｊ６１０（図６６６参照）の背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う位置に配設される第１通路部材Ｊ５１０と、その第１通路部材Ｊ５１０の背面側を覆う態様で第１通路部材Ｊ５１０の背面側に配設される第２通路部材Ｊ５２０と、第２通路部材Ｊ５２０に形成される各通路に連通する態様で第２通路部材Ｊ５２０の背面側に配設される第３通路部材Ｊ５３０と、その第３通路部材Ｊ５３０の背面側を覆う態様で第３通路部材Ｊ５３０の背面側に配設される第４通路部材Ｊ５４０と、第３通路部材Ｊ５３０及び第４通路部材Ｊ５４０の上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される第５通路部材Ｊ５５０と、を主に備え、それら第１通路部材Ｊ５１０～第５通路部材Ｊ５５０を組み合わせることで第１入賞口Ｊ６４、及び、第２入賞口Ｊ６６に入球した遊技球が通過する各通路が形成される。

【１１７８２】

また、通路ユニットＪ５００は、第５通路部材Ｊ５５０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるソレノイドＪ５６０と、そのソレノイドＪ５６０に接続され、第２通路部材Ｊ５２０の内側に配設される駆動力伝達手段Ｊ５７０と、第１通路部材Ｊ５１０及び第２通路部材Ｊ５２０の対向間に回転変位可能な状態で配設される振分手段Ｊ５８０と、第２通路部材Ｊ５２０及び第３通路部材Ｊ５３０に挟持される基板部材Ｊ５９０と、を備える。

【１１７８３】

第１通路部材Ｊ５１０は、正面視において最上方となる位置を中央として左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に広がる略ハ字状に形成されると共に、正面視における外縁に沿って背面側（矢印Ｂ方向側）に壁が立設され、背面側が開放した箱状に形成される。なお、第１通路部材Ｊ５１０の正面視における外縁の背面側への立設距離は、遊技球の直径よりも大きく形成され、第１通路部材Ｊ５１０の内側を遊技球が通過可能とされる。

【１１７８４】

また、第１通路部材Ｊ５１０には、正面視において最上方となる中央位置に切り欠き形成される受取部Ｊ５１１と、その受取部Ｊ５１１の下方において背面側（矢印Ｂ方向側）に円環状に突設される軸受部Ｊ５１２と、が形成される。

【１１７８５】

受取部Ｊ５１１は、通路ユニットＪ５００の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される化粧側ユニットＪ６００の第１入賞口Ｊ６４（図６６６（ｂ）参照）に連通する位置に形成され、第１入賞口Ｊ６４を介して遊技盤Ｊ１３の正面よりも背面側（遊技領域の背面側）に送球される遊技球を第１通路部材Ｊ５１０の内側に流入可能とされる。なお、受取部Ｊ５１１は、第１通路部材Ｊ５１０の上方側端部も切り欠いて形成されており、第１通路部材Ｊ５１０の正面側かつ上方側（矢印Ｕ方向側）から遊技球を第１通路部材Ｊ５１０の内側に流入可能とされる。

【１１７８６】

軸受部Ｊ５１２は、後述する振分手段Ｊ５８０の回転軸Ｊ５８２の正面側（矢印Ｆ方向側）を一端を回転可能な状態で軸支する部位であり、円環状に形成される内径が回転軸Ｊ５８２の外径と略同一、若しくは、若干大きく形成される。なお、振分手段Ｊ５８０は、回転部材Ｊ５８１により遊技球を左右両側に一球ずつ振り分けることが可能に構成されており、これにより、通路ユニットＪ５００は、受取部Ｊ５１１から流入した遊技球を１球ずつ第１通路部材Ｊ５１０の左右両側に流下させることが可能とされる。

【１１７８７】

第２通路部材Ｊ５２０は、正面視において第１通路部材Ｊ５１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる板状に形成される覆設部Ｊ５２１と、その覆設部Ｊ５２１の下方側（矢印Ｄ方向側）に形成され、正面視略ハ字状に左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に広がる形状に形成された第１通路部材Ｊ５１０の間の空間に突設される収容部Ｊ５２２と、覆設部Ｊ５２１の左右方向両側に配設される検出装置Ｊ５２３と、覆設部Ｊ５２１の背面側において第２通路部材の最上方に配設される磁石Ｊ５２４と、を備える。

【１１７８８】

覆設部Ｊ５２１は、背面側（矢印Ｂ方向側）が開放された第１通路部材Ｊ５１０の背面側を覆う部位であり、正面視おける第１通路部材Ｊ５１０と同様に中央から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に広がる略ハ字状に形成される。第１通路部材Ｊ５１０は、第２通路部材Ｊ５２０の覆設部Ｊ５２１に背面側が覆設されることで、その内側に囲われた通路（以下、第１通路ＴＪ１と称す）が形成される。

【１１７８９】

なお、第１通路ＴＪ１は、第１通路部材Ｊ５１０の中央部（受取部Ｊ５１１）から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側に２通路形成されるが、それら第１通路ＴＪ１の２通路においては、左右で対称形状に形成されるので、以下の説明では、第１通路ＴＪ１の２通路のうちの一方側の通路のみを説明して他方側の通路の説明は省略する。

【１１７９０】

また、覆設部Ｊ５２１には、後述する振分手段Ｊ５８０の回転軸Ｊ５８２と対応する位置において正面側（矢印Ｆ方向側）に円環状に突設される軸受部Ｊ５２１ａと、左右の両端部に前後方向に開口する第１開口部Ｊ５２１ｂと、それら第１開口部Ｊ５１２ｂ（検出装置Ｊ５２３）よりも内側おいて前後方向に開口する第２開口部Ｊ５１２ｃと、が形成される。

【１１７９１】

軸受部Ｊ５２１ａは、後述する振分手段Ｊ５８０の回転軸Ｊ５８２の背面側（矢印Ｂ方向側）の一端を回転可能な状態で軸支する部位であり、円環状に形成される内径が回転軸Ｊ５８２の外径と略同一、若しくは、若干大きく形成される。

【１１７９２】

第１開口部Ｊ５２１ｂは、第１通路部材Ｊ５１０及び第２通路部材Ｊ５２０により形成される第１通路ＴＪ１の下流側端部と重なる位置に形成される開口であり、遊技球の直径よりも大きく開口される。これにより、第１通路ＴＪ１を最下流まで流下した遊技球を第１開口部Ｊ５２１ｂを介して第２通路部材Ｊ５２０の背面側（第３通路部材Ｊ５３０）に送球可能とされる。

【１１７９３】

第２開口部Ｊ５２１ｃは、第１通路部材Ｊ５１０及び第２通路部材Ｊ５２０により形成される第１通路ＴＪ１の略中間位置に形成される開口であり、遊技球の直径よりも大きく開口される。これにより、第１通路ＴＪ１を通過途中の遊技球を第２開口部Ｊ５２１ｃを介して第２通路部材Ｊ５２０の背面側（第３通路部材Ｊ５３０）に送球可能とされる。

【１１７９４】

なお、正面視において第１開口部Ｊ５２１ｂと第２開口部Ｊ５２１ｃとの間には、第１通路ＴＪ１の通路途中に検出装置Ｊ５２３が配設される。検出装置Ｊ５２３は、遊技球が通過可能な大きさで開口形成される検出孔を備え、その検出孔を遊技球が通過することで遊技球を検出することが可能な装置である。

【１１７９５】

従って、第１１８実施形態では、第１通路ＴＪ１を通過する遊技球が最下流まで流下されず第１通路ＴＪ１の途中位置から第２開口部Ｊ５２１ｃを介して第３通路部材Ｊ５３０に送球される場合には、その遊技球が検出装置Ｊ５２３に非検出とされ（即ち、アウト球として扱われ）、第１通路ＴＪ１を通過する遊技球が最下流まで流下され第１開口部Ｊ５２１ｂを介して第３通路部材Ｊ５３０に送球される場合には、その遊技球が検出装置Ｊ５２３に検出される（即ち、入賞球として扱われる）。なお、第１１８実施形態では、第１通路ＴＪ１の途中位置における背面側（矢印Ｂ方向側）の側面に第２開口部Ｊ５２１ｃが形成されるので、第１通路ＴＪ１を通過する通常の遊技球は、第２開口部Ｊ５２１ｃを超えて最下流まで流下され、第１開口部Ｊ５２１ｂから第３通路部材Ｊ５３０に送球される（即ち、入賞球として扱われる）。

【１１７９６】

収容部Ｊ５２２は、第２入賞口Ｊ６６を開閉する電動役物Ｊ７０にソレノイドＪ５６０の駆動力を伝達するための駆動力伝達手段Ｊ５７０を収容すると共に、その収容空間が第

２入賞口Ｊ６６に連通される部位であり、前後方向に開口する箱状に形成され、その開口した空間が化粧側ユニットＪ６００の第２入賞口Ｊ６６と対応する位置に配設される。

【１１７９７】

また、収容部Ｊ５２２の底面には、上方側（矢印Ｕ方向側）に向かって立設され、立設された上端が背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって下降傾斜する転動部Ｊ５２２ａが形成される。これにより、第２入賞口Ｊ６６に入球した遊技球を転動部Ｊ５２２ａを転動させて第２通路部材Ｊ５２０の背面側（第５通路部材Ｊ５５０）に送球できる。なお収容部Ｊ５２２の内側に収容される駆動力伝達手段Ｊ５７０は、転動部Ｊ５２２ａを転動する遊技球と干渉しない正面視略門型の形状に形成され、その門型に形成される駆動力伝達手段Ｊ５７０の内側を通過させて遊技球を第２通路部材Ｊ５２０の背面側（第５通路部材Ｊ５５０）に送球可能とされる。

【１１７９８】

第３通路部材Ｊ５３０は、主に第２通路部材Ｊ５２０の各開口（第１開口部Ｊ５２１ｂ及び第２開口部Ｊ５２１ｃ）から送球される遊技球を第４通路部材Ｊ５４０に送球するための中間部材であり、第１開口部Ｊ５２１ｂと対応する位置において前後方向に管状に延びる第１連通部Ｊ５３１と、第２開口部Ｊ５２１ｃと対応する位置において前後方向に管状に延びる第２連通部Ｊ５３２と、を主に備えて形成される。

【１１７９９】

第１連通部Ｊ５３１及び第２連通部Ｊ５３２は、上述したように第２通路部材Ｊ５２０の第１開口部Ｊ５２１ｂ及び第２開口部Ｊ５２１ｃから送球される遊技球を第４通路部材Ｊ５４０に送球するための通路を形成する部位であり、それぞれの内部空間における底面が下降傾斜して形成される。これにより、第１連通部Ｊ５３１及び第２連通部Ｊ５３２のそれぞれの内部空間に第１通路ＴＪ１に連通する遊技球の通路が形成される。なお、以下の説明では、第１通路ＴＪ１から第１開口部Ｊ５２１ｂを介して送球される遊技球が通過する通路（第１連通部Ｊ５３１の内側）を第２通路ＴＪ２、第１通路ＴＪ１から第２開口部Ｊ５２３ｃを介して送球される遊技球が通過する通路（第２連通部Ｊ５３２の内側）を第３通路ＴＪ３と称して説明する。

【１１８００】

第４通路部材Ｊ５４０は、第２通路ＴＪ２及び第３通路ＴＪ３から送球される遊技球を受け取ると共に、遊技盤Ｊ１３の背面側（矢印Ｂ方向側）下方に配設される球回収通路（図示しない）に遊技球を送球するための部材であり、第４通路部材Ｊ５４０の背面側を覆設可能な大きさに形成されると共に、第３通路部材Ｊ５３０の第１連通部Ｊ５３１及び第２連通部Ｊ５３２よりも下方に延びた外形に形成される。また、第４通路部材Ｊ５４０は、正面視における外縁に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって壁が立設され、正面側が開放した箱状に形成される。これにより、第３通路部材Ｊ５３０と第４通路部材Ｊ５４０との間に遊技球が通過可能な通路が形成される。なお、以下の説明では、第３通路部材Ｊ５３０と第４通路部材Ｊ５４０との間に形成される遊技球の通路を第４通路と称して説明する。

【１１８０１】

また、第４通路部材Ｊ５４０は、下端側の縁部が開放されており、これにより、第４通路を通過する遊技球を下方側（矢印Ｄ方向側）から入球口ユニットＪ４００の外方に排出して、入球口ユニットＪ４００の下方側に配設される球回収通路（図示しない）に送球することができる。なお、球回収通路は、パチンコ機Ｊ１０の外方に遊技球を排出する（店舗に遊技球を回収する）ための通路である。

【１１８０２】

従って、第１１８実施形態におけるパチンコ機Ｊ１０では、第１通路ＴＪ１から第２通路ＴＪ２又は第３通路ＴＪ３を通過して第４通路ＴＪ４に遊技球が送球された後、パチンコ機Ｊ１０の外方に遊技球が排出されて店舗に回収される。なお、店舗に回収された遊技球は、清掃等、所定の処置が遊技球にされた後、店舗の球送り装置を介して再度パチンコ機Ｊ１０に送球され、遊技球として使用される。

【１１８０３】
第５通路部材Ｊ５５０は、第２通路部材Ｊ５２０の収容部Ｊ５２２の転動部Ｊ５２２ａを転動して第５通路部材Ｊ５５０に送球される遊技球の流下方向を変更しつつ、遊技盤Ｊ１３の背面側（矢印Ｂ方向側）下方に配設される球回収通路（図示しない）に遊技球を送球するための部材であり、第２通路部材Ｊ５２０の収容部Ｊ５２２の背面側に重なる位置に配設されると共に、転動部Ｊ５２２ａを転動する遊技球が送球される正面側（矢印Ｆ方向側）の一部に背面側に向かって切り欠かれた切欠部Ｊ５５１を有する。
【１１８０４】
切欠部Ｊ５５１は、第２通路部材Ｊ５２０から送球される遊技球を第５通路部材Ｊ５５０の下方に送球するための切り欠きであり、遊技球の直径よりも大きく切り欠かれる。なお、切欠部Ｊ５５１は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において後述する特定入賞ユニットＪ７００に形成される送球部Ｊ７３３と対応する位置に形成される。これにより、第１１８実施形態では、切欠部Ｊ５５１を通過する遊技球を、特定入賞ユニットＪ７００の送球部Ｊ７３３を介して遊技盤Ｊ１３の背面側（矢印Ｂ方向側）下方に配設される球回収通路（図示しない）に送球できる。
【１１８０５】
ソレノイドＪ５６０は、本体部Ｊ５６１と、その本体部Ｊ５６１に進退可能な状態で配設される軸部Ｊ５６２と有し、本体部Ｊ５６１に電力を付与する状態と電力を付与しない状態とに切り替えることで、軸部Ｊ５６２を本体部Ｊ５６１に対して退避させたり（本体部Ｊ５６１の内側に収容したり）、軸部Ｊ５６２を本体部Ｊ５６１に対して進出させたり（本体部Ｊ５６１の内側から突出させたり）する動作を可能に構成される部位であり、軸部Ｊ５６２の変位方向を前後方向に向けた状態で、本体部Ｊ５６１が第５通路部材Ｊ５５０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。
【１１８０６】
駆動力伝達手段Ｊ５７０は、ソレノイドＪ５６０の駆動力を受けて変位されるものであり、ソレノイドＪ５６０の軸部Ｊ５６２に連結される第１伝達部材Ｊ５７１と、その第１伝達部材Ｊ５７１に相対変位可能に接続される第２伝達部材Ｊ５７２と、を備える。
【１１８０７】
第１伝達部材Ｊ５７１は、上面視において正面側（矢印Ｆ方向側）が開放される略コ字状に形成されており、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される連結部Ｊ５７１ａと、その連結部Ｊ５７１ａの左右両端から正面側に突設される２本の第１突起Ｊ５７１ｂと、を主に備えて形成される。
【１１８０８】
第１伝達部材Ｊ５７１は、連結部Ｊ５７１ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における寸法が、第２通路部材Ｊ５２０の収容部Ｊ５２２の内面側における左右方向の対向間寸法よりも小さく形成される。これにより、第１伝達部材Ｊ５７１を収容部Ｊ５２２の内側に収容配置することができる。
【１１８０９】
また、連結部Ｊ５７１ａには、上方側（矢印Ｕ方向側）から切り欠いて形成される溝が形成される。第１伝達部材Ｊ５７１は、連結部Ｊ５７１ａに形成される溝にソレノイドＪ５６０の軸部Ｊ５６２の先端側が挿入されることで、ソレノイドＪ５６０の軸部Ｊ５６２と連結され、軸部Ｊ５６２の前後方向に移動に伴って、前後方向に変位可能とされる。
【１１８１０】
第１突起Ｊ５７１ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に貫通形成される係合孔Ｊ５７１ｂ１を備える。係合孔Ｊ５７１ｂ１は、前後方向に長い長穴状に形成され、その内側を後述する第２伝達部材Ｊ５７２の突起Ｊ５７２ｂが摺動可能とされる。
【１１８１１】
第２伝達部材Ｊ５７２は、側面視略Ｌ字に形成される一対の板状体を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の幅を隔てて並設すると共に、それら一対の板状体の上方側（矢印Ｕ方向側）の一端を連結部により連結することで１の部材として形成される。なお、第２伝達

部材Ｊ５７２を形成する一対の板状体の対向間における間隔は、遊技球の直径よりも大きく設定される。これにより、第２伝達部材Ｊ５７２の内側（一対の板状体の対向間）に遊技球を通過させることができる。

【１１８１２】

また、第２伝達部材Ｊ５７２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における幅寸法（一対の板状体の外側面の対向間寸法）は、第１伝達部材Ｊ５７１の一対の第１突起Ｊ５７１ｂの対向間寸法よりも小さく設定される。これにより、第２伝達部材Ｊ５７２を、第１伝達部材Ｊ５７１の第１突起Ｊ５７１ｂの対向間に配置できる。

【１１８１３】

第２伝達部材Ｊ５７２は、側面視略Ｌ字の屈曲部分から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両外側に突出する回転軸Ｊ５７２ａと、側面視略Ｌ字の上方側（矢印Ｕ方向側）の端部から左右方向両側に突出する突起Ｊ５７２ｂと、側面視略Ｌ字の下方側（矢印Ｄ方向側）の先端に凹設される駆動部Ｊ５７２ｃと、を主に備える。

【１１８１４】

回転軸Ｊ５７２ａは、第２伝達部材Ｊ５７２の左右両外側に突出形成されており、その突出先端面同士の離間した距離寸法が、第２通路部材Ｊ５２０の収容部Ｊ５２２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における幅寸法と略同一に設定される。また、回転軸Ｊ５７２ａの突出寸法は、第２通路部材Ｊ５２０の収容部Ｊ５２２の左右方向における厚み寸法よりも大きく設定される。なお、回転軸Ｊ５７２ａは、第２通路部材Ｊ５２０と第３通路部材Ｊ５３０とを組付ける際に、それら第２通路部材Ｊ５２０と第３通路部材Ｊ５３０との間に回転可能な状態で挟持される。

【１１８１５】

突起Ｊ５７２ｂは、第２伝達部材Ｊ５７２の左右両外側に突出形成されており、その突出部を第１伝達部材Ｊ５７１の第１突起Ｊ５７１ｂに形成される係合孔Ｊ５７１ｂ１に挿入可能な大きさで形成される。第１伝達部材Ｊ５７１と第２伝達部材Ｊ５７２とは、突起Ｊ５７２ｂを第１突起Ｊ５７１ｂの係合孔Ｊ５７１ｂ１に挿入することで、相対変位可能な状態で連結される。

【１１８１６】

なお、第１伝達部材Ｊ５７１と第２伝達部材Ｊ５７２との連結は、第１伝達部材Ｊ５７１の一対の第１突起Ｊ５７１ｂを左右に弾性変形させて、一対の第１突起Ｊ５７１ｂの対向間を広げることで行うことができる。

【１１８１７】

駆動部Ｊ５７２ｃは、正面側（矢印Ｆ方向側）から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって凹設して形成される。駆動部Ｊ５７２ｃは、電動役物Ｊ７０の突設部Ｊ６７１ｃの外形よりも大きく凹設され、入球口ユニットＪ４００が組み立てられた状態では、突設部Ｊ６７１ｃの先端が駆動部Ｊ５７２ｃの内側に収容される。これにより、駆動部Ｊ５７２ｃの変位に伴って電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）を閉鎖状態と開放状態とに変位させることができる。

【１１８１８】

振分手段Ｊ５８０は、第１通路部材Ｊ５１０及び第２通路部材Ｊ５２０により形成される第１通路ＴＪ１を通過する遊技球に当接可能な位置に配設される回転部材Ｊ５８１と、その回転部材Ｊ５８１に挿通され回転部材Ｊ５８１を回転可能な状態で軸支する回転軸Ｊ５８２と、回転部材Ｊ５８１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される磁石Ｊ５８３とを主に備える。

【１１８１９】

回転部材Ｊ５８１は、第１通路部材Ｊ５１０の受取部Ｊ５１１から第１通路部材Ｊ５１０と第２通路部材Ｊ５２０との間に流入した遊技球を左右に延設される２本の第１通路ＴＪ１に交互に振り分ける部材であり、第１通路部材Ｊ５１０の受取部Ｊ５１１の下方側（矢印Ｄ方向側）に隣り合う位置に配設される。

【１１８２０】

また、回転部材Ｊ５８１は、正面視において半円状に形成され、第２通路部材Ｊ５２０に形成される凹部に収容される背面部Ｊ５８１ａと、その背面部Ｊ５８１ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に突設され、正面視において略Ｔ字状に形成される振分部Ｊ５８１ｂとを備える。

【１１８２１】

背面部Ｊ５８１ａは、第２通路部材Ｊ５２０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される磁石Ｊ５２４の磁力を受けて回転部材Ｊ５８１を一方または他方側に回転した状態に維持する為の部分であり、磁石Ｊ５２４に互いの磁力が反発する状態で磁石Ｊ５８３が配設される。

【１１８２２】

振分部Ｊ５８１ｂは、正面視略Ｔ字の短辺側を下方に位置させ、長辺を上方に向けた姿勢（上下反対のＴ字状態）で配設される。また、振分部Ｊ５８１ｂは、長辺を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一方側（例えば、左側）に傾けることで、第１通路部材Ｊ５１０の受取部Ｊ５１１から流入する遊技球を正面視略Ｔ字状に形成されることにより形成される２箇所の略Ｌ字状の他方側（例えば、右側）の領域に受け入れ可能とされ、長辺を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の他方側（例えば、右側）に傾けることで、第１通路部材Ｊ５１０の受取部Ｊ５１１から流入する遊技球を２箇所の略Ｌ字状の一方側（例えば、左側）の領域に受け入れ可能とされる。

【１１８２３】

なお、回転部材Ｊ５８１は、振分部Ｊ５８１ｂの略Ｌ字状に形成される領域に受け入れた遊技球の荷重により回転可能とされ、振分部Ｊ５８１ｂの他方側（例えば、右側）の領域に遊技球を受け入れた場合には、一方側（例えば、左側）に傾いた長辺を他方側（例えば、右側）に傾ける方向に回転部材Ｊ５８１を回転させることが可能とされ、振分部Ｊ５８１ｂの一方側（例えば、左側）の領域に遊技球を受け入れた場合には、他方側（例えば、右側）に傾いた長辺を一方側（例えば、左側）に傾ける方向に回転部材Ｊ５８１を回転させることが可能とされる。これにより、遊技球を２本の第１通路ＴＪ１に交互に送球することが可能とされる。

【１１８２４】

基板部材Ｊ５９０は、ＬＥＤ等により構成され光を照射可能な光照射手段Ｊ５９１が複数配設される基板であり、光照射手段Ｊ５９１が下方側（矢印Ｄ方向側）及び正面側（矢印Ｆ方向側）に光を出射可能な状態で配設される。これにより、基板部材Ｊ５９０の光照射手段Ｊ５９１から光を出射した際には、通路ユニットＪ５００の下方に配設される特定入賞ユニットＪ７００、及び、通路ユニットＪ５００の正面側に配設される化粧側ユニットＪ６００の電動役物Ｊ７０に光を照射する（明るくする）ことができる。

【１１８２５】

なお、化粧側ユニットＪ６００の電動役物Ｊ７０に光を照射する光照射手段Ｊ５９１は、閉鎖状態における電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）と背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる位置に配設される。即ち、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が閉鎖状態では、光照射手段Ｊ５９１から出射される光が電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）を介して視認される。これにより、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が閉鎖状態とされるか開放状態とされるかにより、光照射手段Ｊ５９１から出射された光を異なる態様で遊技者で視認させることができる。

【１１８２６】

次いで、図６７２から図６７４を参照して、特定入賞ユニットＪ７００について説明する。図６７２（ａ）は、特定入賞ユニットＪ７００の正面図であり、図６７２（ｂ）は、特定入賞ユニットＪ７００の背面図であり、図６７２（ｃ）は、特定入賞ユニットＪ７００の上面図である。図６７３（ａ）は、特定入賞ユニットＪ７００の分解正面斜視図であり、図６７３（ｂ）は、特定入賞ユニットＪ７００の分解正面背面斜視図である。図６７４（ａ）は、図６７２（ａ）のＮ０３ａ－Ｎ０３ａ線における特定入賞ユニットＪ７００の断面図であり、図６７４（ｂ）は、特定入賞ユニットＪ７００の正面図であり、図６７

４（ｃ）は、図６７４（ｂ）のＮ０３ｃ－Ｎ０３ｃ線における特定入賞ユニットＪ７００の断面図である。

【１１８２７】

図６６４から図６７４に示すように、特定入賞ユニットＪ７００は、遊技者側（正面側（矢印Ｆ方向側））が開放する箱状に形成される入球部材Ｊ７１０と、その入球部材Ｊ７１０の開放部分を覆う板状の可変入賞役物Ｊ６５ａと、入球部材Ｊ７１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路部材Ｊ７３０と、その通路部材Ｊ７３０の背面側に配設されるソレノイドＪ７４０と、そのソレノイドＪ７４０に接続され、入球部材Ｊ７１０及び通路部材Ｊ７３０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）一端側に形成される空間に変位可能な状態で配設される駆動力伝達手段Ｊ７５０と、を主に備える。

【１１８２８】

入球部材Ｊ７１０は、正面視横長矩形の略箱形状に形成される本体部Ｊ７１１と、その箱形状に形成される本体部Ｊ７１１の左方側の壁部の外側において前後方向に貫通形成される挿通孔Ｊ７１２と、箱形状に形成される本体部Ｊ７１１の背面側（矢印Ｂ方向側）の壁部に貫通形成される流入口Ｊ７１３と、を主に備え、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。

【１１８２９】

本体部Ｊ７１１は、上述した化粧側ユニットＪ６００の特定入賞口Ｊ６５に入球される遊技球が送球される部位であり、箱形状の内側部分に遊技球を受け入れ（送球）可能な大きさに形成されると共に、箱形状の内側部分の下面を遊技球が転動可能に形成され、特定入賞口Ｊ６５の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。なお、以下の説明では、本体部Ｊ７１１の遊技球が転動する面を転動面Ｊ７１５と称して説明する。

【１１８３０】

また、本体部Ｊ７１１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における寸法は、閉鎖および開放状態における電動役物Ｊ７０の左右方向における寸法よりも大きく形成される。これにより、電動役物Ｊ７０の羽部材Ｊ６７１の外側面Ｊ６７１ｂに衝突した遊技球を、特定入賞口Ｊ６５を介して入球部材Ｊ７１０（本体部Ｊ７１１）の内側に流入させることができる。

【１１８３１】

転動面Ｊ７１５は、本体部Ｊ７１１の背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される２箇所の流入口Ｊ７１３に遊技球を転動させるための傾斜面であり、２箇所の流入口Ｊ７１３の間の領域における転動面Ｊ７１５が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の略中央位置から２箇所の流入口Ｊ７１３に向かって下降傾斜される。一方、２箇所の流入口Ｊ７１３の左右方向外側の領域における転動面Ｊ７１５は、左右方向の外側端部から流入口Ｊ７１３に向かって下降傾斜される。これにより、本体部Ｊ７１１に流入した遊技球を速やかに流入口Ｊ７１３に流入させることができる。

【１１８３２】

なお、入球部材Ｊ７１０の流入口Ｊ７１３の背面側（矢印Ｂ方向側）には、遊技球の通過を検出可能な検出装置Ｊ７１６が配設される。検出装置Ｊ７１６は、遊技球が通過可能な大きさで開口形成される検出孔を備え、その検出孔を遊技球が通過することで遊技球を検出することが可能な装置である。従って、特定入賞口Ｊ６５から遊技球が入球部材Ｊ７１０（本体部Ｊ７１１）に流入して流入口Ｊ７１３から通路部材Ｊ７３０に排出される際に、その遊技球の通過を検出装置Ｊ７１６により検出し、その検出に伴い所定の制御を行う（パチンコ機Ｊ１０に所定の動作をさせる）ことが可能とされる。なお、所定の制御とは、例えば、遊技者に所定の球数の遊技球を付与し（払い出し）たり、所定の役物を動作させたり、第３図柄表示装置Ｊ８１に所定の表示をすることである。

【１１８３３】

挿通孔Ｊ７１２は、後述する通路部材Ｊ７３０に配設される駆動力伝達手段Ｊ７５０の一部を可変入賞役物Ｊ６５ａ側に挿通させるための開口であり、通路部材Ｊ７３０に配設される駆動力伝達手段Ｊ７５０と対応する位置に形成される。

【１１８３４】
可変入賞役物Ｊ６５ａは、正面視横長矩形の板状体に形成される本体部Ｊ７２１と、その本体部Ｊ７２１の長手方向両外側に円筒状に凹設される軸部Ｊ７２２と、本体部Ｊ７２１の長手方向の一方の端部から入球部材Ｊ７１０側に突出する突起Ｊ７２３と、を主に備え、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。
【１１８３５】
なお、可変入賞役物Ｊ６５ａは、本体部Ｊ７２１の板面を遊技盤Ｊ１３のベース板Ｊ６０の正面と略平行に配置することで特定入賞口Ｊ６５を閉鎖可能とされ、本体部Ｊ７２１を板面を遊技盤Ｊ１３のベース板Ｊ６０の正面に対して直交する方向に傾けることで特定入賞口Ｊ６５を開放可能とされる。以下の説明は、可変入賞役物Ｊ６５ａが特定入賞口Ｊ６５を閉鎖する状態を閉鎖状態と称し、可変入賞役物Ｊ６５ａが特定入賞口Ｊ６５を開放する状態を開放状態と称して説明する。
【１１８３６】
本体部Ｊ７２１は、可変入賞役物Ｊ６５ａが閉鎖状態において、特定入賞口Ｊ６５へ遊技球が流入することを塞ぐことが可能な大きさに形成されると共に、上述した化粧側ユニットＪ６００の背面ベース部材Ｊ６１０に形成される特定入賞口Ｊ６５の内縁形状よりも若干小さい矩形状に形成される。
【１１８３７】
軸部Ｊ７２２は、可変入賞役物Ｊ６５ａが特定入賞口Ｊ６５を閉鎖する閉鎖状態において、本体部Ｊ７２１の下方側（矢印Ｄ方向側）に形成されると共に、長手方向の両端のそれぞれが同軸上に設定される。また、軸部Ｊ７２２には、入球部材Ｊ７１０の本体部Ｊ７１１に軸支される回転軸Ｊ７２５が回転可能な状態で挿入される。これにより、可変入賞役物Ｊ６５ａは、入球部材Ｊ７１０に対して軸部Ｊ７２２（回転軸Ｊ７２５）を中心に回転変位可能な状態で入球部材Ｊ７１０に配設される。
【１１８３８】
突起Ｊ７２３は、入球部材Ｊ７１０の挿通孔Ｊ７１２に配設される駆動力伝達手段Ｊ７５０に当接され、駆動力伝達手段Ｊ７５０から駆動力が伝達される部位であり、可変入賞役物Ｊ６５ａが閉鎖状態において、駆動力伝達手段Ｊ７５０の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置となる本体部Ｊ７２１の左方側端部から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出して形成される。
【１１８３９】
通路部材Ｊ７３０は、入球部材Ｊ７１０の流入口Ｊ７１３を通過する遊技球を受け取ると共に、遊技盤Ｊ１３の背面側（矢印Ｂ方向側）下方に配設される球回収通路（図示しない）に遊技球を送球するための部材であり、入球部材Ｊ７１０の背面側を覆設可能な大きさに形成される。
【１１８４０】
また、通路部材Ｊ７３０は、左方側の端部に前後方向に開口される開口部Ｊ７３１と、正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される入球部材Ｊ７１０の流入口Ｊ７１３と対応する位置において正面側および下方側（矢印Ｄ方向側）を凹ませた形状とされる凹設部Ｊ７３２と、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）略中間位置において、正面側から背面側（矢印Ｂ方向側）に向けて凹設される送球部Ｊ７３３と、を備える。
【１１８４１】
開口部Ｊ７３１は、後述する駆動力伝達手段Ｊ７５０が配設される空間である。また、開口部Ｊ７３１の縁部には、後述する駆動力伝達手段Ｊ７５０の第２伝達手段Ｊ７５２を軸支するための被軸支部が凹設されており、この被軸支部に第２伝達手段Ｊ７５２の回転軸（第１突出部Ｊ７５２ａ）を受け入れた状態で通路部材Ｊ７３０を入球部材Ｊ７１０に配設することで、第２伝達手段Ｊ７５２を回転可能な状態で通路部材Ｊ７３０に軸支できる。
【１１８４２】
凹設部Ｊ７３２は、入球部材Ｊ７１０の流入口Ｊ７１３を通過して通路部材Ｊ７３０に

送球された遊技球の流下方向を変更して、遊技盤Ｊ１３の背面側（矢印Ｂ方向側）下方に配設される球回収通路（図示しない）に遊技球を送球するための部位であり、遊技球の直径よりも大きい凹設寸法で、正面側（矢印Ｆ方向側）及び下方側（矢印Ｄ方向側）の２方向が開放する形状とされる。

【１１８４３】

送球部Ｊ７３３は、特定入賞ユニットＪ７００の上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される通路ユニットＪ５００の第５通路部材Ｊ５５０から下方側（矢印Ｄ方向側）に向かって送球される遊技球を上方側から下方側に通過させるための通路となる凹みであり、遊技球の直径よりも大きい凹設寸法に設定される。これにより、第１１８実施形態では、通路ユニットＪ５００の切欠部Ｊ５５１を通過する遊技球を、特定入賞ユニットＪ７００の送球部Ｊ７３３を介して遊技盤Ｊ１３の背面側（矢印Ｂ方向側）下方に配設される球回収通路（図示しない）に送球できる。

【１１８４４】

なお、送球部Ｊ７３３の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）略中間位置には、遊技球の通過を検出可能な検出装置Ｊ７３５が配設される。検出装置Ｊ７３５は、遊技球が通過可能な大きさで開口形成される検出孔を備え、その検出孔を遊技球が通過することで遊技球を検出することが可能な装置である。従って、送球部Ｊ７３３から遊技球が排出される際に、その遊技球の通過を検出装置Ｊ７３５により検出し、その検出に伴い所定の制御（パチンコ機Ｊ１０に所定の動作をさせる）ことが可能とされる。なお、所定の制御とは、例えば、遊技者に所定の球数の遊技球を付与し（払い出し）たり、大当たりの抽選をしたり、所定の役物を動作させたり、第３図柄表示装置Ｊ８１に所定の表示をすることである。

【１１８４５】

ソレノイドＪ７４０は、本体部Ｊ７４１と、その本体部Ｊ７４１に進退可能な状態で配設される軸部Ｊ７４２とを有し、本体部Ｊ７４１に電力を付与する状態と電力を付与しない状態とに切り替えることで、軸部Ｊ７４２を本体部Ｊ７４１に対して退避させたり（本体部Ｊ７４１の内側に退避させたり）、軸部Ｊ７４２を本体部Ｊ７４１に対して進出させたり（本体部Ｊ７４１の内側から突出させたり）する動作を可能に構成される部位であり、軸部Ｊ７４２の変位方向を前後方向に向けた状態で、本体部Ｊ７４１が通路部材Ｊ７３０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。

【１１８４６】

なお、ソレノイドＪ７４０は、軸部Ｊ７４２の周囲にコイルばねから形成される付勢手段が配設され、軸部Ｊ７４２が本体部Ｊ７４１に対して進出する方向に常に付勢される。これにより、本体部Ｊ７４１への電力を付与しない状態とした場合に、軸部Ｊ７４２を本体部Ｊ７１１から張り出した状態に維持できる。

【１１８４７】

駆動力伝達手段Ｊ７５０は、ソレノイドＪ７４０の駆動力を受けて変位されるものであり、ソレノイドＪ７４０の軸部Ｊ７４２に連結される第１伝達手段Ｊ７５１と、その第１伝達手段Ｊ７５１に相対変位可能に接続される第２伝達手段Ｊ７５２と、を主に備える。

【１１８４８】

第１伝達手段Ｊ７５１は、ソレノイドＪ７４０の軸部Ｊ７４２の進退方向（前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向））と直交する平面を有する板状に形成され連結部Ｊ７５１ａと、その連結部Ｊ７５１ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に突設される突設部Ｊ７５１ｂとを備え、光透過性の樹脂材料から形成される。

【１１８４９】

第１伝達手段Ｊ７５１の連結部Ｊ７５１ａには、上方側（矢印Ｕ方向側）から切り欠かれる溝が形成され、その溝にソレノイドＪ７４０の軸部Ｊ７４２の先端側が挿入され、ソレノイドＪ７４０の軸部Ｊ７４２が連結される。これにより、第１伝達手段Ｊ７５１は、ソレノイドＪ７４０の軸部Ｊ７４２の前後方向の移動に伴って、前後方向に変位可能とされる。

【１１８５０】

第１伝達手段Ｊ７５１の突設部Ｊ７５１ｂには、正面側（矢印Ｆ方向側）の先端部に下方側（矢印Ｄ方向側）を凹設して形成される凹溝が形成され、その凹溝に後述する第２伝達手段Ｊ７５２の第２突出部Ｊ７５２ｂを係合させることが可能とされる。これにより、第１伝達手段Ｊ７５１がソレノイドＪ７４０の軸部Ｊ７４２により前後方向に変位された場合に、その駆動力を第２伝達手段Ｊ７５２に伝達可能とされる。

【１１８５１】

第２伝達手段Ｊ７５２は、側面視略Ｔ字の板状に形成され、略Ｔ字に形成される短辺側の両端から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に円柱状に突出する第１突出部Ｊ７５２ａ，第２突出部Ｊ７５２ｂが形成される。

【１１８５２】

第１突出部Ｊ７５２ａは、第２伝達手段Ｊ７５２の回転軸となる部分であり、上述したように、通路部材Ｊ７３０の開口部Ｊ７３１に凹設される被軸支部に受け入れることが可能な大きさに形成される。第２伝達手段Ｊ７５２は、第１突出部Ｊ７５２ａが通路部材の被軸支部に受け入れられた状態で、通路部材Ｊ７３０と入球部材Ｊ７１０とが組み合わせられることで、通路部材Ｊ７３０及び入球部材Ｊ７１０に対して相対変位（回転）可能な状態で軸支される。

【１１８５３】

第２突出部Ｊ７５２ｂは、第１伝達手段Ｊ７５１から駆動力が伝達される部位であり、上述したように、第１伝達手段Ｊ７５１の突設部Ｊ７５１ｂに形成される凹溝に係合させる（受け入れる）ことが可能な大きさに形成される。第２伝達手段Ｊ７５２は、第１伝達手段Ｊ７５１が前後方向に変位されることに伴って、第２突出部Ｊ７５２ｂが前後方向に変位されることで、第１突出部Ｊ７５２ａを中心に回転変位可能とされる。

【１１８５４】

なお、第２伝達手段Ｊ７５２の側面視略Ｔ字に形成される長辺側は、先端側が入球部材Ｊ７１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて延設されており、長辺側の先端部が入球部材Ｊ７１０の正面側に配設される可変入賞役物Ｊ６５ａの突起Ｊ７２３に当接可能とされる。なお、以下の説明では、第２伝達手段Ｊ７５２の突起Ｊ７２３との当接部位（長辺側の先端部）を当接部Ｊ７５２ｃと称して説明する。

【１１８５５】

次いで、図６７４を参照して、特定入賞ユニットＪ７００の変位について説明する。

【１１８５６】

図６７４（ａ）に示すように、ソレノイドＪ７４０の本体部Ｊ７４１へ電力が付与されていない状態とされ、ソレノイドＪ７４０の軸部Ｊ７４２が本体部Ｊ７４１から突出した状態とされる場合には、軸部Ｊ７４２と共に前後方向に変位する第１伝達手段Ｊ７５１により第２伝達手段Ｊ７５２の第２突出部Ｊ７５２ｂが正面側（矢印Ｆ方向側）に押し出される。これにより、第２伝達手段Ｊ７５２の当接部Ｊ７５２ｃが第１突出部Ｊ７５２ａを中心に下方側（矢印Ｄ方向側）に回転変位されるので、その当接部Ｊ７５２ｃが当接される可変入賞役物Ｊ６５ａの突起Ｊ７２３が下方側に変位され、可変入賞役物Ｊ６５ａが閉鎖状態とされる。

【１１８５７】

一方、図６７４（ｂ）、及び図６７４（ｃ）に示すように、ソレノイドＪ７４０の本体部Ｊ７４１へ電力が付与され、ソレノイドＪ７４０の軸部Ｊ７４２が本体部Ｊ７４１の内側に退避した状態とされる場合には、軸部Ｊ７４２と共に前後方向に変位する第１伝達手段Ｊ７５１により第２伝達手段Ｊ７５２の第２突出部Ｊ７５２ｂが背面側（矢印Ｂ方向側）に変位される。これにより、第２伝達手段Ｊ７５２の当接部Ｊ７５２ｃが第１突出部Ｊ７５２ａを中心に上方側（矢印Ｕ方向側）に回転変位されるので、その当接部Ｊ７５２ｃが当接される可変入賞役物Ｊ６５ａの突起Ｊ７２３が上方側に変位され、可変入賞役物Ｊ６５ａが開放状態とされる。

【１１８５８】

なお、可変入賞役物Ｊ６５ａが開放状態とされ、本体部Ｊ７２１を板面が遊技盤Ｊ１３

のベース板Ｊ６０の正面に対して直交する方向に傾けられた状態では、本体部Ｊ７２１が遊技領域内に張り出されると共に、本体部Ｊ７２１の板面（上面側の面）が背面側（特定入賞口Ｊ６５側）に向かって下降傾斜した状態とされる。これにより、可変入賞役物Ｊ６５ａが開放状態とされた場合には、特定入賞口Ｊ６５の上流側の遊技領域を流下する遊技球を本体部Ｊ７２１の上面側の面で受け取ると共に、特定入賞口Ｊ６５に入球させることができる。従って、可変入賞役物Ｊ６５ａが開放状態とされ、特定入賞口Ｊ６５が開放された場合には、特定入賞口Ｊ６５の上流側を流下する遊技球をスムーズに特定入賞口Ｊ６５に入球させることができる。

【１１８５９】

また、第１１８実施形態における可変入賞役物Ｊ６５ａでは、本体部Ｊ７２１が板状に形成されるので、その上流側の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の暴れの態様によっては、開放状態とされる可変入賞役物Ｊ６５ａの本体部Ｊ７２１の上面側に送球された球をそのまま左右方向に転動させて本体部Ｊ７２１の左右方向両端から落下させることが可能とされるが、本体部Ｊ７２１を遊技球を受け入れ可能な大きさの箱状に形成して、開放状態とされる可変入賞役物Ｊ６５ａの本体部Ｊ７２１に送球された遊技球が本体部Ｊ７２１の左右両端部から落下しないように構成しても良い。

【１１８６０】

次いで、図６７５及び図６７６を参照して、第２入賞口Ｊ６６及び特定入賞口Ｊ６５への遊技球の入球態様について説明する。図６７５（ａ）及び図６７５（ｂ）は、入球口ユニットＪ４００の正面図である。図６７６（ａ）は、図６７５（ａ）のＮ０４ａ－Ｎ０４ａ線における入球口ユニットＪ４００の断面図であり、図６７６（ｂ）は、図６７５（ｂ）のＮ０４ｂ－Ｎ０４ｂ線における入球口ユニットＪ４００の断面図である。なお、図６７５及び図６７６では、入球口ユニットＪ４００を流下する遊技球の流下経路が２点鎖線の矢印で一例として図示される。

【１１８６１】

まず、第２入賞口Ｊ６６を開閉する電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）、及び、特定入賞口Ｊ６５を開閉する可変入賞役物Ｊ６５ａの開放タイミングについて説明する。

【１１８６２】

上記したように、可変入賞役物Ｊ６５ａは、第１入賞口Ｊ６４又は第２入賞口Ｊ６６への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなった場合に、遊技球を特定入賞口Ｊ６５に入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態とするために、通常時には特定入賞口Ｊ６５を閉鎖している可変入賞役物Ｊ６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過する）、或いは、所定数（例えば、１０球）の球が入賞する）まで特定入賞口Ｊ６５を開放する。

【１１８６３】

なお、可変入賞役物Ｊ６５ａは、所定時間が経過する、或いは、所定球数の球が入球すると特定入賞口Ｊ６５を閉鎖し、その閉鎖後、再度、可変入賞役物Ｊ６５ａを変位し特定入賞口Ｊ６５を所定時間開放する。この可変入賞役物Ｊ６５ａによる特定入賞口Ｊ６５の開閉動作は、大当たりの抽選に基づいた所定回数（例えば、１５回）繰り返し可能にされ、所定回数の開閉動作（特別遊技状態）が終わった後は、特定入賞口Ｊ６５を閉鎖する閉鎖状態に維持される。

【１１８６４】

一方、電動役物Ｊ７０は、スルーゲートＪ６７への遊技球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ｊ７０が開放状態（拡大状態）となり、球が第２入賞口Ｊ６６へ入賞しやすい状態とされる。

【１１８６５】

そのため、第１入賞口Ｊ６４又は第２入賞口Ｊ６６への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなり特別遊技状態とされる際に、スルーゲートＪ６７を遊技球が通過することで行われる第２図柄の変動表示が「〇」となった場合には、図６７５（ａ）及び

図６７６（ａ）に示すように、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）、及び、可変入賞役物Ｊ６５ａの両方が開放状態とされることがある。

【１１８６６】

この場合、図６７５（ａ）に示すように、入球口ユニットＪ４００を流下する遊技球が電動役物Ｊ７０に拾われてしまうと、一対の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａにより、球が第２入賞口Ｊ６６に案内される。

【１１８６７】

ここで、上記したように、特定入賞口Ｊ６５が開放される特別遊技状態において、可変入賞役物Ｊ６５ａの１回の開放動作は、所定時間の経過により閉鎖可能に構成されるため、特定入賞口Ｊ６５が開放される特別遊技状態において、入球口ユニットＪ４００を流下する遊技球が第２入賞口Ｊ６６に案内され過ぎてしまうと、特定入賞口Ｊ６５に所定数の球数を入球させる前に、可変入賞役物Ｊ６５ａによる特定入賞口Ｊ６５の開放動作が終わってしまい、特定入賞口Ｊ６５への入球により払い出される球の数が少なくなってしまうという問題がある。

【１１８６８】

また、例え、所定球数の球数の入球をできたとしても、一部の球が第２入賞口Ｊ６６に入球される分、特定入賞口Ｊ６５へ所定球数の球数を入球させる時間が長くなり、特別遊技状態（大当たり）としている時間が間延びして、遊技者の興趣が低下するという問題点がある。

【１１８６９】

これに対し、第１１８実施形態におけるパチンコ機Ｊ１０では、一対の羽部材Ｊ６７１に第２入賞口Ｊ６６へ遊技球を流入させるための底壁（底壁形成部Ｊ６７１ｅ）が形成され、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が閉鎖状態とされる際に、底壁（底壁形成部Ｊ６７１ｅ）が第２入賞口Ｊ６６から離れることで、第２入賞口Ｊ６６の底壁が非形成とされるので、図６７５（ａ）及び図６７６（ａ）に示すように、特定入賞口Ｊ６５が開放される特別遊技状態において、スルーゲートＪ６７を遊技球が通過することで行われる第２図柄の変動表示が「〇」となり、瞬間的に開放状態とされる電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）に遊技球が拾われたとしても、図６７５（ｂ）及び図６７６（ｂ）に示すように、閉鎖状態における一対の羽部材Ｊ６７１の対向間を通過する遊技球を、第２入賞口Ｊ６６の正面側（矢印Ｆ方向側）を通過させて特定入賞口Ｊ６５に案内する（開放状態の可変入賞役物Ｊ６５ａに受け取られる）ことができる。

【１１８７０】

これにより、第１１８実施形態におけるパチンコ機Ｊ１０では、特定入賞口Ｊ６５（可変入賞役物Ｊ６５ａ）の上流側に第２入賞口Ｊ６６（電動役物Ｊ７０）を配置する構成であっても、特別遊技状態中に電動役物Ｊ７０が開放状態とされることにより、特定入賞口Ｊ６５へ入球する遊技球の球数が減少すること、及び、特定入賞口Ｊ６５へ所定数の球数を入球させるための時間が長くなることを抑制できる。その結果、遊技者が不利になること、及び、遊技者の興趣が低下することを抑制できる。

【１１８７１】

なお、特定入賞口Ｊ６５の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における幅は、開放状態における電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）の左右方向における幅よりも大きく形成される。また、入球口ユニットＪ４００には、開放状態における一対の羽部材Ｊ６７１の左右方向外側から下方側（矢印Ｄ方向側）に遊技球を流下可能な経路が形成される（即ち、開放状態における一対の羽部材Ｊ６７１の左右方向両外側に遊技球の直径よりも大きい空間が形成される）。

【１１８７２】

これらにより、第１１８実施形態では、特定入賞口Ｊ６５が開放される特別遊技状態において、スルーゲートＪ６７を遊技球が通過することで行われる第２図柄の変動表示が「〇」となり、変位される電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）の変位に不具合が発生し、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が開放状態に維持（若しくは、開放状態を

形成する時間が長く）された場合においても、遊技領域を流下する遊技球の一部（開放状態とされる一対の羽部材Ｊ６７１に拾われない遊技球）を特定入賞口Ｊ６５に案内可能とされる。そのため、第１１８実施形態では、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）の開閉動作に不具合が出た場合にも、特定入賞口Ｊ６５へ所定球数の球数を入球させることが可能となり、遊技者に不利益が発生することを抑制できる。

【１１８７３】

なお、電動役物Ｊ７０が閉鎖状態とされる際には、一対の羽部材Ｊ６７１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側から下方側（矢印Ｄ方向側）に遊技球を流下可能な経路の大きさ（即ち、開放状態における一対の羽部材Ｊ６７１の左右方向両外側の空間）が、一対の羽部材Ｊ６７１が開放状態とされる際よりも大きくされる。そのため、一対の羽部材Ｊ６７１の上流側を流下する遊技球は、閉鎖状態の一対の羽部材Ｊ６７１の左右両側を流下して、特定入賞口Ｊ６５又はアウト口Ｊ７１に入球可能とされる。

【１１８７４】

従って、特定入賞口Ｊ６５が開放される特別遊技状態においては、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）を閉鎖状態に維持する方が、特定入賞口Ｊ６５に遊技球を入球しやすくできる。

【１１８７５】

また、電動役物Ｊ７０が閉鎖状態とされる際には、上記したように、一対の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａに形成される突出部Ｊ６７１ｄの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における対向間の距離が遊技球の直径よりも小さくされ、それら突出部Ｊ６７１ｄが第２入賞口Ｊ６６の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に配置されるので、閉鎖状態において一対の羽部材Ｊ６７１の対向間を流下する遊技球が第２入球口に入球することを確実に抑制できる。

【１１８７６】

その結果、特定入賞口Ｊ６５（可変入賞役物Ｊ６５ａ）の上流側に第２入賞口Ｊ６６（電動役物Ｊ７０）を配置する構成であっても、特別遊技状態中に電動役物Ｊ７０が開放状態とされることにより、特定入賞口Ｊ６５へ入球する遊技球の球数が減少すること、及び、特定入賞口Ｊ６５へ所定数の球数を入球させるための時間が長くなることを抑制できる。その結果、遊技者が不利になること、及び、遊技者の興趣が低下することを抑制しやすくできる。

【１１８７７】

なお、第１１８実施形態における突出部Ｊ６７１ｄは、一対の羽部材Ｊ６７１が閉鎖状態とされる位置まで変位された位置で、一対の羽部材Ｊ６７１同士の突出部Ｊ６７１ｄの対向間の距離が遊技球の直径よりも小さくされる。即ち、第１１８実施形態における突出部Ｊ６７１ｄは、開放状態から閉鎖状態に移行途中の状態時において、第２入賞口Ｊ６６に遊技球が入球可能とされる。従って、閉鎖状態への移行が完全に終わるまでは、一対の羽部材Ｊ６７１に拾われた遊技球が第２入賞口Ｊ６６に入球するか、第２入賞口Ｊ６６の下流側に配設される入球口（特定入賞口Ｊ６５又はアウト口Ｊ７１）に入球するか遊技者に認識されにくくできる。その結果、電動役物Ｊ７０に注目させやすくでき、遊技者の興趣を向上できる。

【１１８７８】

また、第１１８実施形態では、一対の羽部材Ｊ６７１に第２入賞口Ｊ６６へ遊技球を流入させるための底壁（底壁形成部Ｊ６７１ｅ）が形成され、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が閉鎖状態とされる際に、底壁（底壁形成部Ｊ６７１ｅ）が第２入賞口Ｊ６６から離れることで、第２入賞口Ｊ６６の底壁が非形成とされる構成とすることで、特定入賞口Ｊ６５（可変入賞役物Ｊ６５ａ）と第２入賞口Ｊ６６（電動役物Ｊ７０）とを近づけて配置することができる。

【１１８７９】

即ち、第２入賞口Ｊ６６の底壁が一対の羽部材Ｊ６７１に非形成とされ、特定入賞口Ｊ６５の底壁が化粧側ユニットＪ６００の背面ベース部材Ｊ６１０又は正面ベース部材Ｊ６

２０に形成されるものでは、第２入賞口Ｊ６６の下方に常に底壁が位置する構成とされる。そのため、特定入賞口Ｊ６５（可変入賞役物Ｊ６５ａ）の上流側に第２入賞口Ｊ６６（電動役物Ｊ７０）を配置する構成とした場合に、特定入賞口Ｊ６５の上方側（矢印Ｕ方向側）に第２入賞口Ｊ６６の底壁が形成される。

【１１８８０】

この場合、特定入賞口Ｊ６５（可変入賞役物Ｊ６５ａ）と第２入賞口Ｊ６６（電動役物Ｊ７０）とを近づけて配置してしまうと、特定入賞口Ｊ６５の上方側（矢印Ｕ方向側）に配置される第２入賞口Ｊ６６の底壁が邪魔となる。そのため、第２入賞口Ｊ６６の底壁の下方側（矢印Ｄ方向側）における特定入賞口Ｊ６５の一部が無駄な領域となり、特定入賞口Ｊ６５への遊技球の流入が不安定となる。よって、第２入賞口Ｊ６６の底壁が一対の羽部材Ｊ６７１に非形成とされ、特定入賞口Ｊ６５の底壁が化粧側ユニットＪ６００の背面ベース部材Ｊ６１０又は正面ベース部材Ｊ６２０に形成される従来の遊技機では、特定入賞口Ｊ６５（可変入賞役物Ｊ６５ａ）と第２入賞口Ｊ６６（電動役物Ｊ７０）とを近づけて配置する、即ち、入球口ユニットＪ４００の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）寸法を小さくすることが困難となっていた。

【１１８８１】

これに対し、第１１８実施形態におけるパチンコ機Ｊ１０では、上述したように、特定入賞口Ｊ６５が開放される特別遊技状態において、スルーゲートＪ６７を遊技球が通過することで行われる第２図柄の変動表示が「〇」となり、瞬間的に開放状態とされる電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）に遊技球が拾われた場合に、その遊技球を閉鎖状態における一対の羽部材Ｊ６７１の対向間を通過させて特定入賞口Ｊ６５に案内することができるので、特定入賞口Ｊ６５（可変入賞役物Ｊ６５ａ）と第２入賞口Ｊ６６（電動役物Ｊ７０）とを近づけて配置した場合に、第２入賞口Ｊ６６の下方側（矢印Ｄ方向側）において特定入賞口Ｊ６５に無駄な領域（遊技球が流入しない領域）が形成されることを抑制できる。その結果、特定入賞口Ｊ６５（可変入賞役物Ｊ６５ａ）と第２入賞口Ｊ６６（電動役物Ｊ７０）とを近づけて配置する、即ち、入球口ユニットＪ４００の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）寸法を小さくしたとしても、特定入賞口Ｊ６５への遊技球の流入を安定させることができる。また、特定入賞口Ｊ６５（可変入賞役物Ｊ６５ａ）と第２入賞口Ｊ６６（電動役物Ｊ７０）との配設に必要とされる上下方向のスペースを低減できるので、その分、他の手段を配設するためのスペースを確保できる。その結果、遊技領域におけるレイアウトの自由度を向上できる。

【１１８８２】

次いで、図６７７及び図６７８を参照して、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）を開放した場合に電動役物（一対の羽部材Ｊ６７１）に拾われる球の流下について説明する。

【１１８８３】

図６７７（ａ）から図６７７（ｃ）は、正面視における入球口ユニットＪ４００を部分的に拡大した部分拡大図であり、図６７８（ａ）から図６７８（ｃ）は、正面視における入球口ユニットＪ４００を部分的に拡大した部分拡大図である。なお、図６７７及び図６７８では、入球口ユニットＪ４００の正面ベース部材Ｊ６２０が透明視された状態で図示される。

【１１８８４】

また、図６７７（ａ）から図６７７（ｃ）では、パチンコ機Ｊ１０の特別遊技状態（大当たり）が終了した後、パチンコ機Ｊ１０が確変中や時短中とされ電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）の開放状態が通常中と比較して長い時間開放される（即ち、電動役物Ｊ７０が開放状態に維持される）場合が図示される。一方、図６７８（ａ）から図６７８（ｃ）では、開放状態における電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が閉鎖する際の遷移状態が順に図示され、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が閉鎖するタイミングで電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）に拾われた球の流下態様が図示される。なお、図６７８（ａ）から図６７８（ｃ）は、パチンコ機Ｊ１０が確変中や時短中とされる

場合に限られるものではなく、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）の開放状態が確変中や時短中と比較して短い時間とされる通常中や特別遊技状態（大当たり）中に、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が開放して閉鎖する態様も含むものである。

【１１８８５】

図６７７（ａ）から図６７７（ｃ）に示すように、パチンコ機Ｊ１０が確変中や時短中とされ電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）の開放状態が通常中と比較して長い時間開放される場合に、その開放状態の電動役物Ｊ７０に拾われた（一対の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａ上に送球された）球は、転動面Ｊ６７１ａを転動することで第２入賞口Ｊ６６側に送球される（図６７７（ａ）及び図６７７（ｂ）参照）。

【１１８８６】

電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が開放状態に維持されている場合には一対の羽部材Ｊ６７１の底壁形成部Ｊ６７１ｅにより第２入賞口Ｊ６６の底壁が形成された状態が維持されるので、転動面Ｊ６７１ａを転動して第２入賞口Ｊ６６の正面側（矢印Ｆ方向側）まで流下した遊技球は、図６７７（ｂ）に示すように、底壁形成部Ｊ６７１ｅを転動して第２入賞口Ｊ６６に入球され、化粧側ユニットＪ６００の背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される通路ユニットＪ５００の収容部Ｊ５２２（転動部Ｊ５２２ａ）に送球される。

【１１８８７】

この場合、転動面Ｊ５６７１ａを転動する遊技球の荷重が転動面Ｊ６７１ａに作用する状態にでき、遊技球の荷重が一対の羽部材Ｊ６７１を開放状態とする方向（一対の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａを離間させる方向）に作用するので、開放状態とした際の一対の羽部材Ｊ６７１を開放状態に維持する際に必要なソレノイドＪ５６０の動作力（本体部Ｊ５６１に電力を付与して（本体部Ｊ５６１を励磁させて）軸部Ｊ５６２を本体部Ｊ５６１の内側に引き込む力）を小さくできる。よって、ソレノイドＪ５６０（本体部Ｊ５６１）の小型化を図ることができる。

【１１８８８】

一方、図６７８（ａ）から図６７８（ｃ）に示すように、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が閉鎖するタイミングで電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）に遊技球が拾われた場合や、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が閉鎖するタイミングで一対の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａ上を遊技球が転動している場合には、遊技球が一対の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａを転動して第２入賞口Ｊ６６側に送球されると共に、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）が閉鎖状態に変位する（一対の羽部材Ｊ６７１が回転する）ことに伴い転動面Ｊ６７１ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における傾斜角度が変わることで、一対の羽部材Ｊ６７１の底壁形成部Ｊ６７１ｅ側に遊技球が案内されやすくなる。

【１１８８９】

この場合、図６７８（ｂ）に示すように、開放状態において第２入賞口Ｊ６６の底壁を形成していた一対の羽部材Ｊ６７１の底壁形成部Ｊ６７１ｅが第２入賞口Ｊ６６から下方側（矢印Ｄ方向側）に向けて離間されるので、一対の羽部材Ｊ６７１の回転に伴い底壁形成部Ｊ６７１ｅから第２入賞口Ｊ６６への連通が解除される。そのため、底壁形成部Ｊ６７１ｅの球転動面が第２入賞口Ｊ６６の下縁よりも下方側に変位した後に底壁形成部Ｊ６７１ｅに送球される球は、第２入賞口Ｊ６６に入球不能とされ、底壁形成部Ｊ６７１ｅの球転動面に載置された状態とされ、底壁形成部Ｊ６７１ｅの下方側への移動（一対の羽部材Ｊ６７１の回転変位）に伴って下方側に変位される。

【１１８９０】

そして、底壁形成部Ｊ６７１ｅに載置される遊技球の荷重が底壁形成部Ｊ６７１ｅに作用する状態にでき、遊技球の荷重が一対の羽部材Ｊ６７１を閉鎖状態とする方向（一対の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａ同士を近づける方向）に作用するので、一対の羽部材Ｊ６７１を閉鎖状態とする際に必要なソレノイドＪ５６０の動作力（軸部Ｊ５６２の周囲に配設したバネにより軸部Ｊ５６２を本体部Ｊ５６１に対して張り出させる力）を小さくできる。よって、ソレノイドＪ５６０（軸部Ｊ５６２の周囲に配設したバネ）の小型化を

図ることができる。
【１１８９１】
　また、一対の羽部材Ｊ６７１を閉鎖状態とする際に、底壁形成部Ｊ６７１ｅに送球される遊技球の態様を、転動面Ｊ６７１ａと底壁形成部Ｊ６７１ｅとの段差により浮いた状態（落下する態様）で底壁形成部Ｊ６７１ｅに送球することができる。これにより、底壁形成部Ｊ６７１ｅに遊技球の荷重を作用させやすくできる。その結果、一対の羽部材Ｊ６７１を閉鎖状態とする際に必要なソレノイドＪ５６０の動作力（軸部Ｊ５６２の周囲に配設したバネにより軸部Ｊ５６２を本体部Ｊ５６１に対して張り出させる力）を小さくできる。よって、ソレノイドＪ５６０（軸部Ｊ５６２の周囲に配設したバネ）の小型化を図ることができる。
【１１８９２】
　なお、上記したように、底壁形成部Ｊ６７１ｅは、一対の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａに拾われて、転動面Ｊ６７１ａを流下した遊技球が第２入賞口Ｊ６６に入球可能となる領域（第２入賞口Ｊ６６に流入する遊技球の転動面となる領域）に形成されており、一対の羽部材Ｊ６７１を開放状態から閉鎖状態に変位させた際に、底壁形成部Ｊ６７１ｅを転動する遊技球を第２入賞口Ｊ６６の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される特定入賞口Ｊ６５またはアウト口Ｊ７１に速やかに案内することができる。
【１１８９３】
　従って、第１１８実施形態における一対の羽部材Ｊ６７１では、上記したように、一対の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａを遊技球が転動する（転動面Ｊ６７１ａに遊技球が当接する）場合と、一対の羽部材Ｊ６７１の底壁形成部Ｊ６７１ｅを遊技球が転動する（底壁形成部Ｊ６７１ｅに遊技球が当接する）場合とで（一対の羽部材Ｊ６７１への遊技球の当接位置に応じて）、転動する遊技球から一対の羽部材Ｊ６７１に作用される力の向きが開放状態に変位する方向と、閉鎖状態に変位する方向とに変化可能に構成されるので、遊技球の重さを一対の羽部材Ｊ６７１のそれぞれの変位（開放状態から閉鎖状態への変位、閉鎖状態から開放状態への変位）に利用することができる。
【１１８９４】
　また、一対の羽部材Ｊ６７１が開放状態から閉鎖状態への遷移途中において、一対の羽部材Ｊ６７１の対向間の外側を流下する遊技球が羽部材Ｊ６７１の外側面Ｊ６７１ｂに当接可能とされる。この場合、羽部材Ｊ６７１の外側面Ｊ６７１ｂに遊技球が当接する衝撃により羽部材Ｊ６７１に作用する力が一対の羽部材Ｊ６７１を閉鎖する（一対の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａ同士を近づける方向）に作用するので、一対の羽部材Ｊ６７１を閉鎖状態に変位させやすくできる。
【１１８９５】
　図６７８（ｃ）に示すように、一対の羽部材Ｊ６７１の底壁形成部Ｊ６７１ｅに載置された球は、一対の羽部材Ｊ６７１の回転に伴い底壁形成部Ｊ６７１ｅの対向間の寸法が最終的に球の直径よりも大きくなることで、底壁形成部Ｊ６７１ｅから落下して、第２入賞口Ｊ６６（一対の羽部材Ｊ６７１）の下方側（矢印Ｄ方向側）に流下される。
【１１８９６】
　従って、第１１８実施形態におけるパチンコ機Ｊ１０では、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）を開放状態とする場合に遊技球を第２入賞口Ｊ６６に送球できると共に、電動役物Ｊ７０を開放状態から閉鎖状態に変位させる場合に、開放から閉鎖の途中位置における早いタイミングで第２入賞口Ｊ６６に遊技球が送球されない状態を形成できる。そのため、第１１８実施形態におけるパチンコ機Ｊ１０では、第２入賞口Ｊ６６への不用意な球の入球を防止できる。その結果、遊技時間が間延びすることを抑制できる。
【１１８９７】
　次いで、図６７９から図６８１を参照して、遊技盤Ｊ１３の遊技領域の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される化粧部材Ｊ８００，Ｊ９００について説明する。
【１１８９８】
　図６７９は、遊技盤Ｊ１３の正面図であり、図６８０は、遊技盤Ｊ１３の分解正面斜視

図である。図６８１（ａ）は、センターフレームＪ８６の正面図であり、図６８１（ｂ）は、図６８１（ａ）のＮ０５ｂ－Ｎ０５ｂ線におけるセンターフレームＪ８６の断面図である。なお、図６８０では、遊技盤Ｊ１３のベース板Ｊ６０からセンターフレームＪ８６、及び、スルーゲートＪ６７を有する一対のスルーユニットＪ７４が分解されると共に、それらセンターフレームＪ８６及びスルーユニットＪ７４から化粧部材Ｊ８００，Ｊ９００が分解された状態で図示される。

【１１８９９】

図６７９から図６８１に示すように、遊技盤Ｊ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｊ６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）の他、レール部材Ｊ６１，Ｊ６２、入球口ユニットＪ４００、センターフレームＪ８６、スルーユニットＪ７４等を組み付けて構成される。

【１１９００】

そのため、ベース板Ｊ６０には、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）を挿入する複数の貫通孔（図示しない）や、レール部材Ｊ６１，Ｊ６２を締結する複数のネジ穴（図示しない）が形成されると共に、入球口ユニットＪ４００、センターフレームＪ８６、及び、スルーユニットＪ７４の配設箇所に、それら入球口ユニットＪ４００、センターフレームＪ８６、及び、スルーユニットＪ７４と対応する形状の開口が形成され、それらの開口に入球口ユニットＪ４００、センターフレームＪ８６、及び、スルーユニットＪ７４のそれぞれの一部が正面側（矢印Ｆ方向側）から挿入された状態で締結固定される。

【１１９０１】

センターフレームＪ８６は、遊技領域を流下する球がベース板Ｊ６０の中央開口を介して第３図柄表示装置Ｊ８１側（ベース板Ｊ６０の中央開口部の内側）に流下することを防止するための部材であり、ベース板Ｊ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出して形成される正面側立設部Ｊ８６ａと、その正面側立設部Ｊ８６ａとは反対側（背面側（矢印Ｂ方向側）に張り出して形成される背面側立設部Ｊ８６ｂと、それら正面側立設部Ｊ８６ａ及び背面側立設部Ｊ８６ｂの間から、遊技盤Ｊ１３のベース板Ｊ６０の正面に沿って張り出す張出部Ｊ８６ｃと、を主に備えて構成される。

【１１９０２】

また、張出部Ｊ８６ｃは、ベース板Ｊ６０に対するセンターフレームＪ８６の前後方向位置を位置決めするための部材であり、少なくとも一部がベース板Ｊ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる大きさに設定される。これにより、センターフレームＪ８６をベース板Ｊ６０の正面側から配設した際に、張出部Ｊ８６ｃがベース板Ｊ６０の正面に引っ掛かることで、ベース板Ｊ６０に対するセンターフレームＪ８６の前後位置を位置決めできる。

【１１９０３】

また、張出部Ｊ８６ｃの一部には、正面側立設部Ｊ８６ａからベース板Ｊ６０の正面に沿って遊技球の直径よりも大きい距離で張り出され、その張り出された正面側を遊技球が流下可能とされる流下領域Ｊ８６ｃ１が形成される。なお、第１１８実施形態では、流下領域Ｊ８６ｃ１がセンターフレームＪ８６の左右両外側の２箇所に形成される。

【１１９０４】

流下領域Ｊ８６ｃ１には、正面側（矢印Ｆ方向側）に突出する凸部Ｊ８６ｃ２と、その凸部Ｊ８６ｃ２のよりも外側から正面側に突出する区画壁Ｊ８６ｃ３とが形成され、凸部Ｊ８６ｃ２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両外側（凸部Ｊ８６ｃ２と正面側立設部Ｊ８６ａとの間、凸部Ｊ８６ｃ２と区画壁Ｊ８６ｃ３又は外縁部材Ｊ７３との間）を遊技球が流下可能とされる。なお、区画壁Ｊ８６ｃ３は、遊技領域を区画可能な壁部であり、遊技領域を区画する外縁部材Ｊ７３に上端側の一端が連なる位置に形成される。

【１１９０５】

遊技盤Ｊ１３では、センターフレームＪ８６の正面側立設部Ｊ８６ａ、凸部Ｊ８６ｃ２、及び、凸部Ｊ８６ｃ２により遊技領域の上方に打ち出された遊技球を所定の流下方向に

向けて案内する壁部が形成されるので、それら正面側立設部Ｊ８６ａ、凸部Ｊ８６ｃ２、及び、凸部Ｊ８６ｃ２の下流側に配設される化粧部材Ｊ８００に送球される遊技球を所定の領域を通過させやすくできる。従って、正面側立設部Ｊ８６ａ、凸部Ｊ８６ｃ２、及び、凸部Ｊ８６ｃ２の下流側に配設される化粧部材Ｊ８００の剛性の高い部分を遊技球が通過するように正面側立設部Ｊ８６ａ、凸部Ｊ８６ｃ２、及び、凸部Ｊ８６ｃ２を形成することで、下流側の化粧部材Ｊ８００が遊技球との当接により破損することを抑制できると共に、後述する化粧部材Ｊ８００の形状の自由度を向上できる。

【１１９０６】

なお、化粧部材Ｊ８００の所定の領域に遊技球を案内可能な壁部（センターフレームＪ８６の正面側立設部Ｊ８６ａ、凸部Ｊ８６ｃ２、及び、凸部Ｊ８６ｃ２）は、化粧部材Ｊ８００とは別体で形成されるので、化粧部材Ｊ８００とは異なる材質で形成して壁部の剛性を高めやすくできる。

【１１９０７】

化粧部材Ｊ８００は、遊技盤Ｊ１３の最も正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、遊技盤Ｊ１３の正面側の化粧となる（即ち、遊技領域に配設される）部位であり、正面側に凹凸からなる装飾を有する正面部Ｊ８５０を備え、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。また、第１１８実施形態における化粧部材Ｊ８００は、流下領域Ｊ８６ｃ１の正面側に重なる位置に配設されると共に、その背面側（流下領域Ｊ８６ｃ１と化粧部材Ｊ８００との対向間）を遊技球が通過可能とされる。

【１１９０８】

従って、正面部Ｊ８５０の化粧面となる正面よりも背面側（矢印Ｂ方向側）を遊技球が通過するので、通過する遊技球が化粧面に当接することを抑制できる。その結果、化粧部材Ｊ８００の化粧面が摩耗することを抑制できる。また、正面部Ｊ８５０の背面側を遊技球が通過するので、流下する遊技球を遊技者から一時的に視認されにくくできる。その結果、流下する遊技球を目で追う遊技者の興趣を高めやすくできる。

【１１９０９】

さらに、化粧部材Ｊ８００は、窓部Ｊ１４ｅを介して視認可能とされる部位の正面部Ｊ８５０が正面視においてセンターフレームＪ８６の外側から内側に亘って延設され正面視三日月状に形成されると共に、そのセンターフレームＪ８６の外側および内側の位置にセンターフレームＪ８６の背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子ＮＪ（図６８１（ｂ）参照）を螺入可能な雌ねじ部を有する被締結部Ｊ８１０が形成される。被締結部Ｊ８１０は、螺子ＮＪにより固定される部位であり、これら被締結部Ｊ８１０に締結固定を行う部位である螺子ＮＪをセンターフレームＪ８６の背面側から挿通して締結することにより、センターフレームＪ８６の内側および外側の位置でセンターフレームＪ８６に化粧部材Ｊ８００を締結固定できる。

【１１９１０】

具体的には、化粧部材Ｊ８００のセンターフレームＪ８６との被締結部Ｊ８１０は、センターフレームＪ８６の正面側立設部Ｊ８６ａよりも内側、及び、センターフレームＪ８６の区画壁Ｊ８６ｃ３よりも外側に形成される。即ち、遊技球が流下可能な凸部Ｊ８６ｃ２と、正面側立設部Ｊ８６ａ又は区画壁Ｊ８６ｃ３との対向間の外側に螺子ＮＪの被締結部Ｊ８１０が形成される。これにより、第１１８実施形態では、被締結部Ｊ８１０に遊技球が衝突して被締結部Ｊ８１０が破損することを抑制できる。

【１１９１１】

即ち、遊技球が流下可能な位置、例えば、遊技球が流下可能な凸部Ｊ８６ｃ２と、正面側立設部Ｊ８６ａ又は区画壁Ｊ８６ｃ３との対向間に被締結部Ｊ８１０を形成すると、それら対向間を流下する遊技球が螺子ＮＪの被締結部Ｊ８１０に衝突可能とされる。そのため、流下する遊技球が衝突する衝撃により被締結部Ｊ８１０が破損し、化粧部材Ｊ８００が脱落する恐れがある。

【１１９１２】

これに対し、第１１８実施形態では、センターフレームＪ８６の正面側立設部Ｊ８６ａ

よりも内側、及び、センターフレームＪ８６の区画壁Ｊ８６ｃ３よりも外側に被締結部Ｊ８１０が形成されるので、遊技球が流下可能な凸部Ｊ８６ｃ２と、正面側立設部Ｊ８６ａ又は区画壁Ｊ８６ｃ３との対向間を流下する遊技球が被締結部Ｊ８１０に直接当接することを抑制できる。よって、螺子ＮＪの軸力が作用されて被締結部Ｊ８１０に内部応力が発生した状態とされていても、被締結部Ｊ８１０が破損することを低減できる（化粧部材Ｊ８００がセンターフレームＪ８６から脱落することを抑制できる）。また、被締結部Ｊ８１０の強度を確保するために、被締結部Ｊ８１０を大型化（厚肉化）させる必要がなく、非遊技領域のスペースを小さくできるので、その分、遊技領域のスペースを確保できる。

【１１９１３】

また、正面部Ｊ８５０は、遊技領域を流下する遊技球が当接可能に構成されるので、化粧部材Ｊ８００（正面部Ｊ８５０）の外観を装飾として遊技者に視認させるだけでなく、遊技領域を流下する遊技球を視認可能部に衝突（当接）させて、遊技球の流下態様を変化させることができ、興趣の向上を図ることができる。この場合、正面部Ｊ８５０は、遊技盤Ｊ１３（センターフレームＪ８６）に対して螺子ＮＪによる締結固定が行われていないので、遊技球が衝突（当接）された際に正面部Ｊ８５０を変形させやすくでき、かかる正面部Ｊ８５０が破損することを低減できる。

【１１９１４】

また、化粧部材Ｊ８００は、正面部Ｊ８５０が流下領域Ｊ８６ｃ１の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に配設され、正面部Ｊ８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）を流下する遊技球が正面部Ｊ８５０の背面側に当接可能（即ち、正面部Ｊ８５０の背面が遊技球の流下方向と平行に配設される）とされ、正面部Ｊ８５０の背面に当接する遊技球の衝撃が、正面部Ｊ８５０を正面側（矢印Ｆ方向側）に折り曲げる方向、即ち、被締結部Ｊ８１０に螺子止めした螺子ＮＪを引き出す又は螺子ＮＪを傾斜させる方向に作用するので、螺子ＮＪを軸回りに回転させる（緩ませる）方向の力が化粧部材Ｊ８００に作用することを抑制できる。その結果、螺子ＮＪが脱落して、化粧部材Ｊ８００がセンターフレームＪ８６から脱落することを抑制できる。

【１１９１５】

また、被締結部Ｊ８１０がセンターフレームＪ８６に締結固定された状態において、正面部Ｊ８５０は、センターフレームＪ８６の正面側立設部Ｊ８６ａ、凸部Ｊ８６ｃ２、区画壁Ｊ８６ｃ３との間に所定の隙間を設けて配設される。これにより、凸部Ｊ８６ｃ２と、正面側立設部Ｊ８６ａ又は区画壁Ｊ８６ｃ３との対向間を流下する遊技球が正面部Ｊ８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）に当接した際に、螺子ＮＪによる締結がされていない正面部Ｊ８５０を背面側の隙間の分、一時的に変形させやすくできる。その結果、正面部Ｊ８５０に遊技球が当接することによる正面部Ｊ８５０の破損を抑制できる。

【１１９１６】

なお、正面部Ｊ８５０とセンターフレームＪ８６の正面側立設部Ｊ８６ａ、凸部Ｊ８６ｃ２、区画壁Ｊ８６ｃ３との間の隙間は、遊技球が正面部Ｊ８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）に当接した際に正面部Ｊ８５０に力が加わりやすい前後方向に形成されるので、正面部Ｊ８５０の背面側に遊技球が当接することによる正面部Ｊ８５０の破損を抑制しやすくできる。

【１１９１７】

また、正面部Ｊ８５０には、背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う領域だけでなく、遊技盤Ｊ１３の正面と平行な方向（前後方向と直交する方向）に隣り合う領域（即ち、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）及び左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向））にも所定の隙間が形成される。これにより、遊技領域を流下する遊技球が正面部Ｊ８５０の正面視における縁部に当接した際に、正面部Ｊ８５０の遊技盤Ｊ１３の正面と平行な方向への一時的な変形を許容できる。その結果、正面部Ｊ８５０に遊技球が当接することによる正面部Ｊ８５０の破損を抑制しやすくできる。

【１１９１８】

さらに、正面部Ｊ８５０と被締結部Ｊ８１０とは一体の樹脂材料から連なって形成され

る。これにより、正面部Ｊ８５０に遊技球が当接して正面部Ｊ８５０が一時的に変形する際に、化粧部材Ｊ８００の一部に応力が集中することを抑制できる。その結果、遊技球が正面部Ｊ８５０に衝突することによる化粧部材Ｊ８００の破損を抑制できる。

【１１９１９】

次に、センターフレームＪ８６の下方に配設されるスルーユニットＪ７４及び化粧部材Ｊ９００について説明する。スルーユニットＪ７４は、ベース板Ｊ６０の正面に沿って一部が遊技領域に配設される板状の正面部Ｊ７４ａと、その正面部Ｊ７４ａから正面側（矢印Ｆ方向側）に立設される区画壁Ｊ７４ｂとを主に備え、区画壁Ｊ７４ｂよりも内側領域（センターフレームＪ８６側）における正面部Ｊ７４ａにスルーゲートＪ６７、及び、センターフレームＪ８６に形成されるワープ通路に連なる通路の遊技球の入球口Ｊ７５が配設される。なお、区画壁Ｊ７４ｂは、遊技領域を区画可能な壁部であり、遊技領域を区画するセンターフレームＪ８６の区画壁Ｊ８６ｃ３の下端側に上端側が連なる位置に形成される。

【１１９２０】

そのため、遊技球の通過を検出可能なスルーゲートＪ６７には、そのスルーゲートＪ６７よりも上流側に配設した化粧部材Ｊ８００の正面部Ｊ８５０に当接した遊技球（正面部Ｊ８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）を通過した遊技球）が通過（到達）するように構成されるので、スルーゲートＪ６７を通過する遊技球の速度を正面部Ｊ８５０により低下させることができる。そのため、スルーゲートＪ６７を通過させることによる遊技球の検出をしやすくできると共に、スルーゲートＪ６７が破損することを抑制できる。

【１１９２１】

特に、遊技盤Ｊ１３に形成される遊技領域の右側の領域は、遊技球の発射強度が最大とされる遊技球が流下可能とされるため、遊技領域の左側の領域に比べて遊技球の流下速度が速くされる。そのため、化粧部材Ｊ８００の正面部Ｊ８５０に当接した遊技球（正面部Ｊ８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）を通過した遊技球）が通過（到達）するように構成することで、遊技盤Ｊ１３に形成される遊技領域の右側の領域を流下する遊技球であっても、スルーゲートＪ６７を通過させた際の遊技球の検出をさせやすくできると共に、スルーゲートＪ６７が破損することを抑制しやすくできる。

【１１９２２】

なお、第１１８実施形態では、スルーゲートＪ６７を備えるスルーユニットＪ７４が化粧部材Ｊ８００よりも下流側に配設される構造であるが、必ずしもこれに限られるものではなく、スルーユニットＪ７４が化粧部材Ｊ８００よりも上流側に配設される構造とされ、各入賞口Ｊ６３，Ｊ６４，Ｊ６５，Ｊ６６に入球される遊技球の流下速度を遅くして、各入賞口Ｊ６３，Ｊ６４，Ｊ６５，Ｊ６６に遊技球を入球しやすくするものであっても良い。

【１１９２３】

化粧部材Ｊ９００は、遊技盤Ｊ１３の最も正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、遊技盤Ｊ１３の正面側の化粧となる（即ち、遊技領域に配設される）部位であり、正面側に凹凸からなる装飾を有し光透過性の樹脂材料から形成される。また、第１１８実施形態における化粧部材Ｊ９００は、スルーユニットＪ７４の正面部Ｊ７４ａの正面側に重なる位置に形成されると共に、その背面側（正面部Ｊ７４ａと化粧部材Ｊ９００との対向間）を遊技球が通過可能とされる。

【１１９２４】

さらに、化粧部材Ｊ９００は、正面視において区画壁Ｊ７４ｂを跨ぐ大きさに形成されると共に、区画壁Ｊ７４ｂにより区画される遊技領域の外側の位置にスルーユニットＪ７４の背面側（矢印Ｂ方向側）から挿通される螺子ＮＪ（図示しない）を螺入可能な雌ねじ部を有する被締結部Ｊ９１０が形成されると共に、区画壁Ｊ７４ｂにより区画される遊技領域の内側の位置にスルーゲートＪ６７を覆設しスルーゲートＪ６７の左右両側に係合する覆設部Ｊ９２０が形成される。化粧部材Ｊ９００は、被締結部Ｊ９１０にスルーユニットＪ７４の背面側から挿通される螺子ＮＪを締結すると共に、覆設部Ｊ９２０の内側にス

ルーゲートＪ６７を係合させることにより、スルーユニットＪ７４の区画壁Ｊ７４ｂを跨ぐ位置でスルーユニットＪ７４に配設される。

【１１９２５】

そのため、第１１８実施形態における化粧部材Ｊ９００では、螺子ＮＪが締結される被締結部Ｊ９１０を遊技球が流下可能な流下領域の外側で締結できるので、流下領域を流下する遊技球が被締結部Ｊ９１０に直接当接することを抑制できる。その結果、被締結部Ｊ９１０が破損することを抑制して、化粧部材Ｊ９００がベース板Ｊ６０から脱落することを抑制できる。

【１１９２６】

次いで、図６８２から図６８４を参照して、第１１９実施形態における入球口ユニットＪ２４００について説明する。上記第１１８実施形態では、一対の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａが平坦に形成される場合について説明したが、第１１９実施形態では、一対の羽部材Ｊ２６７１の第１転動面と第２転動面との間に段差が形成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。

【１１９２７】

図６８２（ａ）は、第１１９実施形態における羽部材Ｊ２６７１の正面図であり、図６８２（ｂ）は、図６８２（ａ）の矢印Ｎ０６ｂ方向視における羽部材Ｊ２６７１の側面図であり、図６８２（ｃ）は、図６８２（ｂ）のＮ０６ｃ－Ｎ０６ｃ線における羽部材Ｊ２６７１の断面図である。図６８３（ａ）及び図６８３（ｂ）は、入球口ユニットＪ２４００の正面図である。図６８４（ａ）及び図６８４（ｂ）は、入球口ユニットＪ２４００の正面図である。

【１１９２８】

初めに、第１１９実施形態における入球口ユニットＪ２４００は、化粧側ユニットＪ２６００の特定入賞口Ｊ６５の内側に可変入賞役物Ｊ６５ａが配設されるように特定入賞ユニットＪ７００が化粧側ユニットＪ６００の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されると共に、その特定入賞ユニットＪ７００の上方側（矢印Ｕ方向側）及び背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる態様で通路ユニットＪ５００が化粧側ユニットＪ２６００の背面側に配設される。なお、入球口ユニットＪ２４００は、化粧側ユニットＪ２６００、特定入賞ユニットＪ７００、及び、通路ユニットＪ５００が組み合わされた状態で、ベース板Ｊ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）から配設され、螺子によりベース板Ｊ６０に締結（固定）される。

【１１９２９】

また、化粧側ユニットＪ２６００は、遊技盤Ｊ１３（図６５５参照）の遊技領域を流下した遊技球を入球させて遊技盤Ｊ１３の正面よりも（遊技領域の）背面側（矢印Ｂ方向側）に送球可能な複数の開口（第１入賞口Ｊ６４、第２入賞口Ｊ６６、特定入賞口Ｊ６５、及び、アウト口Ｊ７１）が形成される背面ベース部材Ｊ６１０と、その背面ベース部材Ｊ６１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔を隔てて配設され、背面ベース部材Ｊ６１０との対向間に遊技球を流下可能な空間を形成する正面ベース部材Ｊ６２０と、それら背面ベース部材Ｊ６１０及び正面ベース部材Ｊ６２０の対向間に回転可能な状態で配設される電動役物Ｊ２０７０（一対の羽部材Ｊ２６７１）と、を主に備えて構成される。

【１１９３０】

次に、図６８２（ａ）から図６８２（ｃ）を参照して、第１１９実施形態における電動役物Ｊ２０７０）羽部材Ｊ２６７１について説明する。なお、図６８２（ａ）から図６８２（ｃ）では、一対の配置される羽部材Ｊ２６７１のうち一方（右側）に配置される羽部材Ｊ２６７１のみが図示される。

【１１９３１】

図６８２に示すように、第１１９実施形態における電動役物Ｊ２０７０は、光透過性の樹脂材料から正面視略半月状に形成され前後方向に所定の厚みを有する一対の羽部材Ｊ２６７１と、それら一対の羽部材Ｊ２６７１に相対変位（回転）可能な状態で挿通され一対の羽部材Ｊ２６７１のそれぞれの回転中心となる金属製の回転軸Ｊ６７２と、を主に備え

て構成される。
【１１９３２】
一対の羽部材Ｊ２６７１は、電動役物Ｊ２０７０が開放状態（図６８３（ｂ）に示す状態）とされる場合に、正面視略半月状に形成された平坦面により遊技球を第２入賞口Ｊ６６に案内する部材であり、以下の説明では、羽部材Ｊ２６７１の平坦面側の面を転動面Ｊ２６７１ａと称し、転動面Ｊ２６７１ａと反対側の湾曲面を外側面Ｊ６７１ｂと称して説明する。
【１１９３３】
なお、一対の羽部材Ｊ２６７１は、転動面Ｊ２６７１ａを正面視において第２入賞口Ｊ６６側に向けた状態（閉鎖状態）と、転動面Ｊ２６７１ａの上端側を正面視において第２入賞口Ｊ６６から離間させた状態（開放状態）との間で回転変位させることで、第２入賞口Ｊ６６に遊技球を入球可能な状態と入球不可能な状態とに切り替え可能に構成され、閉鎖状態では第２入賞口Ｊ６６に向かって遊技領域を流下する遊技球を外側面Ｊ６７１ｂに当接させて遊技球が第２入賞口Ｊ６６に入球することを規制し、開放状態では第２入賞口Ｊ６６に向かって遊技領域を流下する遊技球を転動面Ｊ２６７１ａに当接させ、転動面Ｊ２６７１ａを転動させることで第２入賞口Ｊ６６に入賞させやすくできる。
【１１９３４】
また、羽部材Ｊ２６７１は、背面側（矢印Ｂ方向側）の側面から第２入賞口Ｊ６６側に突設される突設部Ｊ６７１ｃと、転動面Ｊ２６７１ａの背面側の縁部から突設される突出部Ｊ６７１ｄと、閉鎖状態における羽部材Ｊ２６７１の外側面Ｊ６７１ｂの下方側（矢印Ｄ方向側、回転軸Ｊ６７２側）から下方に向けて突出する底壁形成部Ｊ６７１ｅと、を備える。
【１１９３５】
第１１９実施形態における転動面Ｊ２６７１ａは、回転軸Ｊ６７２から離間される側の先端側転動面Ｊ２６７１ａ１が、その先端側転動面Ｊ２６７１ａ１よりも回転軸Ｊ６７２に近接する側の基端側転動面Ｊ２６７１ａ２よりも一段高く形成され、それら先端側転動面Ｊ２６７１ａ１と基端側転動面Ｊ２６７１ａ２との間に段差部Ｊ２６７１ａ３が形成される。
【１１９３６】
また、先端側転動面Ｊ２６７１ａ１は、閉鎖状態において第２入賞口Ｊ６６の開口縁部よりも正面視において内側に位置すると共に、一対の羽部材Ｊ２６７１の先端側転動面Ｊ２６７１ａ１の対向間における寸法が遊技球の直径よりも小さくなる大きさに設定される。一方、基端側転動面Ｊ２６７１ａ２は、閉鎖状態において、第２入賞口Ｊ６６の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側の開口縁部の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する大きさに設定される。
【１１９３７】
これにより、電動役物Ｊ２０７０（一対の羽部材Ｊ２６７１）が閉鎖状態とされる際に、電動役物Ｊ２０７０を開放状態とした際の遊技球の入球口（第２入賞口Ｊ６６）を遊技者に視認させることができると共に、一対の羽部材Ｊ２６７１の上方から一対の羽部材Ｊ２６７１に遊技球が流入することを抑制できる。そのため、閉鎖状態における一対の羽部材Ｊ２６７１の対向間の上方に第１入賞口Ｊ６４を配設しなくても、閉鎖状態における一対の羽部材Ｊ２６７１の対向間に遊技球が流入することを抑制できる。従って、第１入賞口Ｊ６４の配置の自由度を向上することができる。
【１１９３８】
また、第１１９実施形態における羽部材Ｊ２６７１には、基端側転動面Ｊ２６７１ａ２から外側面Ｊ６７１ｂに亘って開口する開口部Ｊ２６７１ｆが形成される。開口部Ｊ２６７１ｆは、基端側転動面Ｊ２６７１ａ２側の開口縁部が段差部Ｊ２６７１ａ３に連なる位置に設定されると共に、遊技球の直径よりも大きい内面形状とされる。また、開口部Ｊ２６７１ｆは、正面視において回転軸Ｊ６７２を中心とする円弧状に湾曲される。
【１１９３９】

次いで、第１１８実施形態における電動役物Ｊ２０７０を開閉した場合について説明する。

【１１９４０】

図６８２（ａ）に示すように、パチンコ機Ｊ１０が通常状態とされ、電動役物Ｊ２０７０（一対の羽部材Ｊ２６７１）が閉鎖状態に維持される場合には、上記したように、一対の羽部材Ｊ２６７１の基端側転動面Ｊ２６７１ａ２が第２入賞口Ｊ６６の左右両側の開口縁部の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置し、一対の羽部材Ｊ２６７１の先端側転動面Ｊ２６７１ａ１の互いの対向間の距離が遊技球の直径よりも小さく設定されるので、第２入賞口Ｊ６６の左右両外側および上方からの遊技球の流入は不可能とされる。

【１１９４１】

なお、一対の羽部材Ｊ２６７１には、開口部Ｊ２６７１ｆが形成されるが、一対の羽部材Ｊ２６７１が閉鎖状態において開口部Ｊ２６７１ｆは、第２入賞口Ｊ６６から離間すると共に下方側（矢印Ｄ方向側）に延びる通路として形成されるので、閉鎖状態における一対の羽部材Ｊ２６７１の外側面Ｊ６７１ｂ側から遊技球が開口部Ｊ２６７１ｆに偶然流入したとしても、その球が第２入賞口Ｊ６６まで転動することを抑制できる。

【１１９４２】

一方、図６８２（ｂ）に示すように、パチンコ機Ｊ１０が確変中や時短中とされ電動役物Ｊ２０７０（一対の羽部材Ｊ２６７１）の開放状態が通常中と比較して長い時間開放される（即ち、電動役物Ｊ２０７０が開放状態に維持される）場合には、一対の羽部材Ｊ２６７１の先端側転動面Ｊ２６７１ａ１により流下する遊技球を拾い、先端側転動面Ｊ２６７１ａ１を転動させると共に、先端側転動面Ｊ２６７１ａ１と基端側転動面Ｊ２６７１ａ２との間の段差部Ｊ２６７１ａ３の分、転動面Ｊ２６７１ａから遊技球を浮かして基端側転動面Ｊ２６７１ａ２に送球できる。この段差部Ｊ２６７１ａ３により遊技球を浮かした状態で基端側転動面Ｊ２６７１ａ２側に送球することで、転動面Ｊ２６７１ａを転動する球が基端側転動面Ｊ２６７１ａ２に形成された開口部Ｊ２６７１ｆに流入することを抑制できる。

【１１９４３】

従って、電動役物Ｊ２０７０（一対の羽部材Ｊ２６７１）が開放状態に維持される場合には、先端側転動面Ｊ２６７１ａ１により拾った遊技球を基端側転動面Ｊ２６７１ａ２に送球して、基端側転動面Ｊ２６７１ａ２により第２入賞口Ｊ６６に向かって遊技球を転動させることで、遊技領域を流下する遊技球を第２入賞口Ｊ６６に入球させることが可能とされる。

【１１９４４】

次に、図６８３（ａ）及び図６８３（ｂ）を参照して、一対の羽部材Ｊ２６７１が遊技領域を流下する遊技球を受け取ったタイミングで、電動役物Ｊ２０７０（一対の羽部材Ｊ２６７１）が開放状態から閉鎖状態に変位される場合について説明する。

【１１９４５】

図６８３（ａ）及び図６８３（ｂ）に示すように、一対の羽部材Ｊ２６７１に受け取られた（拾われた）遊技球が基端側転動面Ｊ２６７１ａ２に送球される前のタイミングで電動役物Ｊ２０７０（一対の羽部材Ｊ２６７１）が閉鎖状態に向けて変位する場合には、一対の羽部材Ｊ２６７１が回転変位されることに伴い一対の羽部材Ｊ２６７１に形成される開口部Ｊ２６７１ｆが基端側転動面Ｊ２６７１ａ２に到達前の遊技球の送球軌跡上に張り出される。そのため、一対の羽部材Ｊ２６７１に受け取られた（拾われた）遊技球が基端側転動面Ｊ２６７１ａ２に送球される前のタイミングで電動役物Ｊ２０７０（一対の羽部材Ｊ２６７１）が閉鎖状態に向けて変位する場合には、遊技球が開口部Ｊ２６７１ｆに受け入れらると共に、開口部Ｊ２６７１ｆの内側を流下することで、一対の羽部材Ｊ２６７１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側から排出できる。

【１１９４６】

これにより、電動役物Ｊ２０７０（一対の羽部材Ｊ２６７１）を閉鎖状態に変位させた場合に、一対の羽部材Ｊ２６７１に受け取られていた遊技球を転動面Ｊ２６７１ａの途中

位置から速やかに一対の羽部材Ｊ２６７１の対向間の外側に排出できるので、電動役物Ｊ２０７０（一対の羽部材Ｊ２６７１）を閉鎖状態に変位させた後、第２入賞口Ｊ６６に遊技球が入球することを抑制しやすくできる。

【１１９４７】

ここで、第１１８実施形態における電動役物Ｊ７０のように、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）を開放状態とする場合に、一対の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａに拾われた遊技球を底壁形成部Ｊ６７１ｅ側の端部からしか排出できない構成では、第１１９実施形態における電動役物Ｊ２０７０のように転動面Ｊ２６７１ａに開口部Ｊ２６７１ｆが形成されない分、開放状態とした場合に転動面Ｊ６７１ａを転動する遊技球（転動面Ｊ６７１ａに拾われた遊技球）を確実に第２入賞口Ｊ６６に入球させることができるものの、閉鎖状態とした場合における遊技球の流下のバリエーションが少なくなる（底壁形成部Ｊ６７１ｅ側の端部から流下する流下態様しかなくなる）という問題点がある。

【１１９４８】

これに対し、第１１９実施形態における電動役物Ｊ２０７０では、開放状態から閉鎖状態とするタイミングで転動面Ｊ２６７１ａを転動する遊技球、又は、開放状態から閉鎖状態とするタイミングで一対の羽部材Ｊ２６７２に拾われた遊技球を、転動面Ｊ２６７１ａの底壁形成部Ｊ６７１ｅ側の端部以外、即ち、開口部Ｊ２６７１ｆからも流下させて、その流下させた遊技球を第２入賞口Ｊ６６の下流側に配設される特定入賞口Ｊ６５に入球させることが可能となる。そのため、電動役物Ｊ２０７０を閉鎖状態とした場合における遊技球の流下のバリエーションを増やして、電動役物Ｊ２０７０（一対の羽部材Ｊ２６７１）の動作に着目させやすくできる。

【１１９４９】

次いで、図６８５及び図６８６を参照して、第１２０実施形態における入球口ユニットＪ３４００について説明する。上記第１１８実施形態では、一対の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａの背面側（矢印Ｂ方向側）の縁部の一部に突出部Ｊ６７１ｄに形成する場合について説明したが、第１２０実施形態では、一対の羽部材Ｊ３６７１の転動面Ｊ３６７１ａの背面側縁部の全域に突出部Ｊ３６７１ｄが形成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については、同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。

【１１９５０】

図６８５（ａ）は、第１２０実施形態における入球口ユニットＪ３４００の正面図であり、図６８５（ｂ）は、図６８５（ａ）のＮ０７ｂ－Ｎ０７ｂ線における入球口ユニットＪ３４００の断面図であり、図６８６（ａ）は、入球口ユニットＪ３４００の正面図であり、図６８６（ｂ）は、図６８６（ａ）のＮ０８ｂ－Ｎ０８ｂ線における入球口ユニットＪ３４００の断面図である。なお、図６８５（ａ）及び図６８６（ａ）では、入球口ユニットＪ３４００の正面ベース部材Ｊ６２０が透明視された状態で図示される。

【１１９５１】

初めに、第１２０実施形態における入球口ユニットＪ３４００は、化粧側ユニットＪ３６００の特定入賞口Ｊ６５の内側に可変入賞役物Ｊ６５ａが配設されるように特定入賞ユニットＪ７００が化粧側ユニットＪ６００の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されると共に、その特定入賞ユニットＪ７００の上方側（矢印Ｕ方向側）及び背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる態様で通路ユニットＪ５００が化粧側ユニットＪ３６００の背面側に配設される。なお、入球口ユニットＪ３４００は、化粧側ユニットＪ３６００、特定入賞ユニットＪ７００、及び、通路ユニットＪ５００が組み合わされた状態で、ベース板Ｊ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）から配設され、螺子によりベース板Ｊ６０に締結（固定）される。

【１１９５２】

また、化粧側ユニットＪ３６００は、遊技盤Ｊ１３（図６５５参照）の遊技領域を流下した遊技球を入球させて遊技盤Ｊ１３の正面よりも（遊技領域の）背面側（矢印Ｂ方向側）に送球可能な複数の開口（第１入賞口Ｊ６４、第２入賞口Ｊ６６、特定入賞口Ｊ６５、及び、アウト口Ｊ７１）が形成される背面ベース部材Ｊ６１０と、その背面ベース部材Ｊ

６１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔を隔てて配設され、背面ベース部材Ｊ６１０との対向間に遊技球を流下可能な空間を形成する正面ベース部材Ｊ６２０と、それら背面ベース部材Ｊ６１０及び正面ベース部材Ｊ６２０の対向間に回転可能な状態で配設される電動役物Ｊ３０７０（一対の羽部材Ｊ３６７１）と、を主に備えて構成される。

【１１９５３】

次に、図６８５及び図６８６に示すように、第１２０実施形態における電動役物Ｊ３０７０は、光透過性の樹脂材料から正面視略半月状に形成され前後方向に所定の厚みを有する一対の羽部材Ｊ３６７１と、それら一対の羽部材Ｊ３６７１に相対変位（回転）可能な状態で挿通され一対の羽部材Ｊ３６７１のそれぞれの回転中心となる金属製の回転軸Ｊ６７２と、を主に備えて構成される。

【１１９５４】

一対の羽部材Ｊ３６７１は、電動役物Ｊ３０７０が開放状態（図６８５（ａ）に示す状態）とされる場合に、正面視略半月状に形成された平坦面により遊技球を第２入賞口Ｊ６６に案内する部材であり、以下の説明では、羽部材Ｊ３６７１の平坦面側の面を転動面Ｊ３６７１ａと称し、転動面Ｊ３６７１ａと反対側の湾曲面を外側面Ｊ６７１ｂと称して説明する。

【１１９５５】

なお、一対の羽部材Ｊ３６７１は、転動面Ｊ３６７１ａを正面視において第２入賞口Ｊ６６側に向けた状態（閉鎖状態）と、転動面Ｊ３６７１ａの上端側を正面視において第２入賞口Ｊ６６から離間させた状態（開放状態）との間で回転変位させることで、第２入賞口Ｊ６６に遊技球を入球可能な状態と入球不可能な状態とに切り替え可能に構成され、閉鎖状態では第２入賞口Ｊ６６に向かって遊技領域を流下する遊技球を外側面Ｊ６７１ｂに当接させて遊技球が第２入賞口Ｊ６６に入球することを規制し、開放状態では第２入賞口Ｊ６６に向かって遊技領域を流下する遊技球を転動面Ｊ３６７１ａに当接させ、転動面Ｊ３６７１ａを転動させることで第２入賞口Ｊ６６に入賞させやすくできる。

【１１９５６】

また、一対の羽部材Ｊ３６７１は、背面側（矢印Ｂ方向側）の側面から第２入賞口Ｊ６６側に突設される突設部Ｊ６７１ｃと、転動面Ｊ３６７１ａの背面側の縁部に沿って突設される突出部Ｊ３６７１ｄと、閉鎖状態における羽部材Ｊ３６７１の外側面Ｊ６７１ｂの下方側（矢印Ｄ方向側、回転軸Ｊ６７２側）から下方に向けて突出する底壁形成部Ｊ６７１ｅと、を備える。

【１１９５７】

突出部Ｊ３６７１ｄは、電動役物Ｊ３０７０（一対の羽部材Ｊ３６７１）が閉鎖状態とされた際に、一対の羽部材Ｊ３６７１の対向間を通過する遊技球が第２入賞口Ｊ６６に入球することを抑制する部位であり、閉鎖状態における正面視において第２入賞口Ｊ６６の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側の内縁と重なる位置に形成されると共に、一対の羽部材Ｊ３６７１の互いの突出部Ｊ３６７１ｄの対向間の距離が遊技球の直径よりも小さく設定される。これにより、電動役物Ｊ３０７０（一対の羽部材Ｊ３６７１）が閉鎖状態に変位されたタイミングにおいて、遊技球が第２入賞口Ｊ６６の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置を流下していたとしても、その遊技球が第２入賞口Ｊ６６に入球することを突出部Ｊ３６７１ｄにより抑制することができる。

【１１９５８】

なお、第１２０実施形態における突出部Ｊ３６７１ｄは、一対の羽部材Ｊ３６７１が開放状態から閉鎖状態に移行したタイミングで、一対の羽部材Ｊ３６７１同士の突出部Ｊ３６７１ｄの対向間の距離が遊技球の直径よりも小さくされる。即ち、第１２０実施形態における突出部Ｊ３６７１ｄは、開放状態から閉鎖状態に移行途中の状態時において、第２入賞口Ｊ６６に遊技球が入球不能とされる。

【１１９５９】

従って、閉鎖状態へ移行が開始されたタイミングで一対の羽部材Ｊ３６７１に拾われた遊技球や、閉鎖状態へ移行が開始されたタイミングで転動面Ｊ３６７１ａ上を転動してい

る遊技球を第２入賞口Ｊ６６の下流側に配設される入球口（特定入賞口Ｊ６５又はアウト口Ｊ７１）に案内できるので、特別遊技状態（大当たり）の間隔が電動役物Ｊ３０７０の開閉動作により間延びすることを抑制できる。また、閉鎖状態へ移行が開始されたタイミングで第２入賞口Ｊ６６への入球を抑制できるので、パチンコ機Ｊ１０の不正を監視する制御を簡易にできる（閉鎖状態への移行制御をしたタイミングで、不正な入球を監視する制御を開始しても不具合が発生しない）。

【１１９６０】

また、第１２０実施形態における突出部Ｊ３６７１ｄは、図６８６（ｂ）に示すように、開放状態における一対の羽部材Ｊ３６７１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の外側から内側（第２入賞口Ｊ６６側）に向かうにつれて、前後方向の厚みが厚くなるように形成される。これにより、開放状態において、一対の羽部材Ｊ３６７１の左右方向内側における転動面Ｊ３６７１ａの前後方向の幅（図６８６（ｂ）の距離Ｊａ）が、一対の羽部材Ｊ３６７１の左右方向外側における転動面Ｊ３６７１ａの前後方向の幅（図６８６（ｂ）の距離Ｊｂ）よりも小さくされる、即ち、転動面Ｊ３６７１ａの前後方向の幅が第２入賞口Ｊ６６に向かって狭くされる（Ｊａ＜Ｊｂ）。

【１１９６１】

ここで、上記第１１８実施形態における一対の羽部材Ｊ６７１のように転動面Ｊ６７１ａの一部に突出部Ｊ６７１ｄが形成され、突出部Ｊ６７１ｄを超えて転動した位置において転動領域が大きくされるものや、転動面Ｊ６７１ａの転動途中に突出部Ｊ６７１ｄに当接可能となるものでは、突出部Ｊ６７１ｄを超えた後に遊技球が前後方向に暴れる可能性や、突出部Ｊ６７１ｄに当接した衝撃で遊技球が前後方向に暴れる可能性がある。そのため、転動面Ｊ６７１ａから第２入賞口Ｊ６６の底壁となる底壁形成部Ｊ６７１ｅに流下した遊技球が暴れて、底壁形成部Ｊ６７１ｅから第２入賞口Ｊ６６にスムーズに遊技球を入球させることができないという問題点があった。

【１１９６２】

これに対し、第１２０実施形態における一対の羽部材Ｊ３６７１では、転動面Ｊ３６７１ａの背面側（矢印Ｂ方向側）の全域に亘って突出部Ｊ３６７１ｄが形成され、転動面Ｊ３６７１ａを転動する遊技球が常に突出部Ｊ３６７１ｄに当接可能とされるので、開放状態において一対の羽部材Ｊ３６７１に受け取られた遊技球が、一対の羽部材Ｊ３６７１の転動面Ｊ３６７１ａを第２入賞口Ｊ６６に向かって流下する際に、所定の転動位置に向けて流下させやすくできる。従って、一対の羽部材Ｊ３６７１から第２入賞口Ｊ６６の底壁となる底壁形成部Ｊ６７１ｅに流下した遊技球を第２入賞口Ｊ６６に入球させやすくできる。

【１１９６３】

なお、第１２０実施形態では、閉鎖状態において一対の羽部材Ｊ３６７１の互いの突出部Ｊ３６７１ｄの対向間の距離が遊技球の直径よりも小さく設定される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、遊技球の直径と同等または大きく設定しても良い。この場合には、電動役物Ｊ３０７０（一対の羽部材Ｊ３６７１）が閉鎖状態に変位されたタイミングにおいて、第２入賞口Ｊ６６の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置を流下する遊技球が第２入賞口Ｊ６６に入球する可能性を残すことができるので、電動役物Ｊ３０７０（一対の羽部材Ｊ３６７１）が開放状態から閉鎖状態とされる位置まで変位する間、第２入賞口Ｊ６６付近を流下する遊技球に注目させることができる。

【１１９６４】

また、第１２０実施形態では、一対の羽部材Ｊ３６７１の両方に突出部Ｊ３６７１ｄを形成する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、一対の羽部材Ｊ３６７１の一方のみに突出部Ｊ３６７１ｄを形成するものであっても、一対の羽部材Ｊ３６７１の一方と他方とで突出部Ｊ３６７１ｄの突出距離や外形を異ならせて形成するものであっても良い。

【１１９６５】

次いで、図６８７を参照して、第１２１実施形態における入球口ユニットＪ４４００に

ついて説明する。上記第１１８実施形態では、一対の羽部材Ｊ６７１の外側面Ｊ６７１ｂが遊技盤面（背面ベース部材Ｊ６１０の正面）に対して直交する前後方向に立設される場合について説明したが、第１２１実施形態では、一対の羽部材Ｊ４６７１の外側面Ｊ４６７１ｂが遊技盤面（背面ベース部材Ｊ６１０の正面）に対して傾斜する方向に延設される。なお、上記各実施形態と同一の部分については、同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。

【１１９６６】

図６８７（ａ）は、第１２１実施形態における電動役物Ｊ４０７０の正面図であり、図６８７（ｂ）は、図６８７（ａ）のＮ０９ｂ－Ｎ０９ｂ線における電動役物Ｊ４０７０の断面図であり、図６８７（ｃ）は、入球口ユニットＪ４４００の正面図である。なお、図６８７（ｃ）では、入球口ユニットＪ４４００の正面ベース部材Ｊ６２０が透明視された状態で図示される。

【１１９６７】

初めに、第１２１実施形態における入球口ユニットＪ４４００は、化粧側ユニットＪ４６００の特定入賞口Ｊ６５の内側に可変入賞役物Ｊ６５ａが配設されるように特定入賞ユニットＪ７００が化粧側ユニットＪ６００の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されると共に、その特定入賞ユニットＪ７００の上方側（矢印Ｕ方向側）及び背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる態様で通路ユニットＪ５００が化粧側ユニットＪ４６００の背面側に配設される。なお、入球口ユニットＪ４４００は、化粧側ユニットＪ４６００、特定入賞ユニットＪ７００、及び、通路ユニットＪ５００が組み合わされた状態で、ベース板Ｊ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）から配設され、螺子によりベース板Ｊ６０に締結（固定）される。

【１１９６８】

また、化粧側ユニットＪ４６００は、遊技盤Ｊ１３（図６５５参照）の遊技領域を流下した遊技球を入球させて遊技盤Ｊ１３の正面よりも（遊技領域の）背面側（矢印Ｂ方向側）に送球可能な複数の開口（第１入賞口Ｊ６４、第２入賞口Ｊ６６、特定入賞口Ｊ６５、及び、アウト口Ｊ７１）が形成される背面ベース部材Ｊ６１０と、その背面ベース部材Ｊ６１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔を隔てて配設され、背面ベース部材Ｊ６１０との対向間に遊技球を流下可能な空間を形成する正面ベース部材Ｊ６２０と、それら背面ベース部材Ｊ６１０及び正面ベース部材Ｊ６２０の対向間に回転可能な状態で配設される電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ４６７１）と、を主に備えて構成される。

【１１９６９】

次に、図６８７（ａ）及び図６８７（ｂ）を参照して、第１２１実施形態における電動役物Ｊ４０７０）羽部材Ｊ４６７１について説明する。なお、図６８７（ａ）及び図６８７（ｂ）では、一対の配置される羽部材Ｊ４６７１のうち一方（右側）に配置される羽部材Ｊ４６７１のみが図示される。

【１１９７０】

図６８７（ａ）及び図６８７（ｂ）に示すように、第１２１実施形態における電動役物Ｊ４０７０は、光透過性の樹脂材料から正面視略半月状に形成され前後方向に所定の厚みを有する一対の羽部材Ｊ４６７１と、それら一対の羽部材Ｊ４６７１に相対変位（回転）可能な状態で挿通され一対の羽部材Ｊ４６７１のそれぞれの回転中心となる金属製の回転軸Ｊ６７２と、を主に備えて構成される。

【１１９７１】

一対の羽部材Ｊ４６７１は、電動役物Ｊ４０７０が開放状態とされる場合に、正面視略半月状に形成された平坦面により遊技球を第２入賞口Ｊ６６に案内する部材であり、以下の説明では、羽部材Ｊ４６７１の平坦面側の面を転動面Ｊ６７１ａと称し、転動面Ｊ６７１ａと反対側の湾曲面を外側面Ｊ４６７１ｂと称して説明する。

【１１９７２】

なお、一対の羽部材Ｊ４６７１は、転動面Ｊ６７１ａを正面視において第２入賞口Ｊ６６側に向けた状態（閉鎖状態）と、転動面Ｊ６７１ａの上端側を正面視において第２入賞口Ｊ６６から離間させた状態（開放状態）との間で回転変位させることで、第２入賞口Ｊ

６６に遊技球を入球可能な状態と入球不可能な状態とに切り替え可能に構成され、閉鎖状態では第２入賞口Ｊ６６に向かって遊技領域を流下する遊技球を外側面Ｊ４６７１ｂに当接させて遊技球が第２入賞口Ｊ６６に入球することを規制し、開放状態では第２入賞口Ｊ６６に向かって遊技領域を流下する遊技球を転動面Ｊ６７１ａに当接させ、転動面Ｊ６７１ａを転動させることで第２入賞口Ｊ６６に入賞させやすくできる。

【１１９７３】

第１２１実施形態における外側面Ｊ４６７１ｂは、正面側（矢印Ｆ方向側）から背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって正面視湾曲状に形成される中央側に傾斜される。即ち、羽部材Ｊ４６７１の回転軸Ｊ６７２の軸方向に対して傾斜する形状とされる。

【１１９７４】

これにより、第１２１実施形態における入球口ユニットＪ４４００では、図６８７（ｂ）に示すように、閉鎖状態から開放状態に変位する途中の電動役物Ｊ４０７０（一対の羽部材Ｊ４６７１）の外側面Ｊ４６７１ｂに遊技領域を流下する遊技球が衝突した場合に、その遊技球を電動役物Ｊ４０７０（一対の羽部材Ｊ４６７１）の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される特定入賞口Ｊ６５に向けて送球する（跳ね飛ばす）と共に、その遊技球を外側面Ｊ４６７１ｂの傾斜により遊技盤Ｊ１３のベース板Ｊ６０に近づく背面側（矢印Ｂ方向側）を流下させることができる。

【１１９７５】

ここで、上記第１１８実施形態における電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）のように、外側面Ｊ６７１ｂが回転軸Ｊ６７２の軸方向と平行に形成される場合には、閉鎖状態から開放状態に変位する途中の電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）の外側面Ｊ６７１ｂに遊技領域を流下する遊技球が衝突すると、その遊技球を電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）の外側面Ｊ６７１ｂにより跳ね飛ばした際に、その遊技球の流下が不安定（前後方向に揺れ動いたり、所定の領域外まで跳ね飛んでしまう）恐れがある。

【１１９７６】

これに対し、第１２１実施形態では、外側面Ｊ４６７１ｂが回転軸Ｊ６７２の軸方向に対いて傾斜して形成されるので、閉鎖状態から開放状態に変位する途中の電動役物Ｊ４０７０（一対の羽部材Ｊ４６７１）の外側面Ｊ４６７１ｂに当接した遊技球を跳ね飛ばす際に、その遊技球を外側面Ｊ４６７１ｂの傾斜により遊技盤Ｊ１３のベース板Ｊ６０に近づく方向に送球できる。これにより、外側面Ｊ４６７１ｂに当接した遊技球を化粧側ユニットＪ４６００の背面ベース部材Ｊ６１０に沿って流下させることができ、遊技球が所定の領域外（特定入賞口Ｊ６５の外側）まで跳ね飛んでしまうことを抑制できる。

【１１９７７】

また、外側面Ｊ４６７１ｂに当接した遊技球を外側面Ｊ４６７１ｂの傾斜により遊技盤Ｊ１３のベース板Ｊ６０に近づく方向に送球できるので、開放状態の特定入賞口Ｊ６５の開放面（化粧側ユニットＪ４６００の背面ベース部材Ｊ６１０側）に遊技球を近づけることができる（即ち、開放状態の可変入賞役物Ｊ６５ａの回転基端側に遊技球を送球することができる）ので、開放状態に変位する電動役物Ｊ４０７０（一対の羽部材Ｊ４６７１）の外側面Ｊ４６７１ｂに当接した（跳ね飛ばされた）遊技球を特定入賞口Ｊ６５に受け入れやすく（入球させやすく）できる。

【１１９７８】

なお、第１２１実施形態における外側面Ｊ４６７１ｂでは、一対の羽部材Ｊ４６７１の成形性を確保するために平坦面として形成されるが、遊技球が当接した際に羽部材Ｊ４６７１に作用する負荷が一か所に集中しないように、外側面Ｊ４６７１ｂの一面を全体的に内側に向かって凹む湾曲状に形成して、遊技球が当接した際に羽部材Ｊ４６７１に作用する負荷を分散できるようにしても良い。

【１１９７９】

次いで、図６８８を参照して、第１２２実施形態における入球口ユニットＪ５４００について説明する。上記第１１８実施形態では、電動役物Ｊ４０７０（一対の羽部材Ｊ４６７１）により第２入賞口Ｊ６６の底壁を形成する場合について説明したが、第１２２実施

形態では、可変入賞役物Ｊ６５ａにより第２入賞口Ｊ６６の底壁が形成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については、同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。

【１１９８０】

図６８８（ａ）は、第１２２実施形態における入球口ユニットＪ５４００の正面図であり、図６８８（ｂ）は、図６８８（ａ）のＮ１０ｂ－Ｎ１０ｂ線における入球口ユニットＪ５４００の断面図である。

【１１９８１】

初めに、第１２２実施形態における入球口ユニットＪ５４００は、化粧側ユニットＪ５６００の特定入賞口Ｊ６５の内側に可変入賞役物Ｊ６５ａが配設されるように特定入賞ユニットＪ５７００が化粧側ユニットＪ５６００の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されると共に、その特定入賞ユニットＪ５７００の上方側（矢印Ｕ方向側）及び背面側に重なる態様で通路ユニットＪ５００が化粧側ユニットＪ５６００の背面側に配設される。なお、入球口ユニットＪ５４００は、化粧側ユニットＪ５６００、特定入賞ユニットＪ５７００、及び、通路ユニットＪ５００が組み合わされた状態で、ベース板Ｊ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）から配設され、螺子によりベース板Ｊ６０に締結（固定）される。

【１１９８２】

また、化粧側ユニットＪ５６００は、遊技盤Ｊ１３（図６５５参照）の遊技領域を流下した遊技球を入球させて遊技盤Ｊ１３の正面よりも（遊技領域の）背面側（矢印Ｂ方向側）に送球可能な複数の開口（第１入賞口Ｊ６４、第２入賞口Ｊ６６、特定入賞口Ｊ６５、及び、アウト口Ｊ７１）が形成される背面ベース部材Ｊ６１０と、その背面ベース部材Ｊ６１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔を隔てて配設され、背面ベース部材Ｊ６１０との対向間に遊技球を流下可能な空間を形成する正面ベース部材Ｊ６２０と、それら背面ベース部材Ｊ６１０及び正面ベース部材Ｊ６２０の対向間に回転可能な状態で配設される電動役物Ｊ５０７０（一対の羽部材Ｊ５６７１）と、を主に備えて構成される。

【１１９８３】

なお、第１２２実施形態における電動役物Ｊ５０７０（一対の羽部材Ｊ５６７１）は、第１１８実施形態における電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）から底壁形成部Ｊ６７１ｅを非形成としたものであり、それ以外の構成については第１１８実施形態における電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）と同一であるので、その詳しい説明は省略する。

【１１９８４】

一方、第１２２実施形態における可変入賞役物Ｊ５０６５ａを備える特定入賞ユニットＪ５７００は、第１１８実施形態における特定入賞ユニットＪ７００に対して、可変入賞役物Ｊ５０６５ａの形状が異なるだけであり、それ以外の構成について第１１８実施形態における特定入賞ユニットＪ７００と同一であるので、可変入賞役物Ｊ５０６５ａ以外について詳しい説明は省略する。

【１１９８５】

第１２１実施形態おける可変入賞役物Ｊ５０６５ａは、図６８８（ｂ）に示すように、正面視横長矩形の板状体に形成される本体部Ｊ７２１と、その本体部Ｊ７２１の長手方向両外側に円筒状に凹設される軸部Ｊ７２２と、本体部Ｊ７２１の長手方向の一方の端部から入球部材Ｊ７１０側に突出する突起Ｊ７２３と、本体部Ｊ７２１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央部における上端縁の一部から正面側（矢印Ｆ方向側）に突設される底壁形成部Ｊ５７２４と、を主に備え、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。

【１１９８６】

なお、可変入賞役物Ｊ５０６５ａは、本体部Ｊ７２１の板面を遊技盤Ｊ１３のベース板Ｊ６０の正面と略平行に配置することで特定入賞口Ｊ６５を閉鎖可能とされ、本体部Ｊ７２１を板面を遊技盤Ｊ１３のベース板Ｊ６０の正面に対して直交する方に傾けることで特定入賞口Ｊ６５を開放可能とされる。以下の説明は、可変入賞役物Ｊ５０６５ａが特定入賞口Ｊ６５を閉鎖する状態を閉鎖状態と称し、可変入賞役物Ｊ５０６５ａが特定入賞口Ｊ

６５を開放する状態を開放状態と称して説明する。
【１１９８７】
底壁形成部Ｊ５７２４は、可変入賞役物Ｊ５０６５ａが閉鎖状態とされる場合に、第２入賞口Ｊ６６に流入する遊技球の転動面（第２入賞口Ｊ６６の底壁）となる部位であり、可変入賞役物Ｊ５０６５ａが閉鎖状態とされる際の正面視において、第２入賞口Ｊ６６の下方側（矢印Ｄ方向側）の縁部と重なる位置に形成される。
【１１９８８】
また、底壁形成部Ｊ５７２４は、電動役物Ｊ５０７０（一対の羽部材Ｊ５６７１）が開放状態とされ第２入賞口Ｊ６６の底面を形成する際の上面側が、第２入賞口Ｊ６６に向かって下降傾斜する形状とされ、開放状態における一対の羽部材Ｊ５６７１の転動面Ｊ６７１ａを転動して第２入賞口Ｊ６６の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）外側から第２入賞口Ｊ６６の手前まで流下した遊技球の転動方向を第２入賞口Ｊ６６側に変更することが可能とされる。
【１１９８９】
さらに、底壁形成部Ｊ５７２４は、可変入賞役物Ｊ５０６５ａが閉鎖状態とされ第２入賞口Ｊ６６の底壁を形成する際に、開放状態における電動役物（一対の羽部材Ｊ５６７１）の転動面Ｊ６７１ａよりも下方側（矢印Ｄ方向側）となる位置に形成され、転動面Ｊ６７１ａとの間に段差を有する。これにより、一対の羽部材Ｊ５６７１の一方側の転動面Ｊ６７１ａを転動して第２入賞口Ｊ６６の正面側（底壁形成部Ｊ５７２４）まで流下した遊技球が、一対の羽部材Ｊ５６７１の他方側の転動面Ｊ６７１ａに乗り上げることを抑制できる。その結果、可変入賞役物Ｊ５０６５ａが閉鎖状態とされた状態とされ、底壁形成部Ｊ５７２４が第２入賞口Ｊ６６の底壁を形成する際には、電動役物Ｊ５０７０（一対の羽部材Ｊ５６７１）が開放状態とされ、第２入賞口Ｊ６６の正面側（底壁形成部Ｊ５７２４）まで流下した遊技球を速やかに第２入賞口Ｊ６６に入球することが可能とされる。
【１１９９０】
一方、第１２２実施形態における底壁形成部Ｊ５７２４は、可変入賞役物Ｊ５０６５ａが開放状態とされる際には、可変入賞役物Ｊ５０６５ａと共に変位されることで、第２入賞口Ｊ６６の正面側（矢印Ｆ方向側）下方に回転変位される。これにより、第１２２実施形態における入球口ユニットＪ５４００では、可変入賞役物Ｊ５０６５ａが開放状態とされる際に、一対の羽部材Ｊ５６７１の対向間に遊技球が送球されたしても、その球が第２入賞口Ｊ６６に入球されることを抑制できる。
【１１９９１】
以上のように構成される第１２２実施形態における入球口ユニットＪ５４００では、上記したように、可変入賞役物Ｊ５０６５ａが開放状態とされる際に、第２入賞口Ｊ６６の底壁を非形成として、第２入賞口Ｊ６６に遊技球が入球することを抑制できるので、可変入賞役物Ｊ５０６５ａが開放状態とされる特別遊技状態（大当たり中）に、スルーゲートＪ６７を遊技球が通過することで行われる第２図柄の変動表示が「〇」となり電動役物Ｊ５０７０が一時的に開放状態（拡大状態）となり、遊技領域を流下する遊技球が電動役物Ｊ５０７０に拾われたとしても、その遊技球を一対の羽部材Ｊ５６７１の対向間（第２入賞口Ｊ６６の正面側（矢印Ｆ方向側））を通過させて、特定入賞口Ｊ６５に入球させることができる。
【１１９９２】
これにより、第１２２実施形態におけるパチンコ機Ｊ１０では、特定入賞口Ｊ６５（可変入賞役物Ｊ５０６５ａ）の上流側に第２入賞口Ｊ６６（電動役物Ｊ５０７０）を配置する構成であっても、特別遊技状態中に電動役物Ｊ５０７０が開放状態とされることにより、特定入賞口Ｊ６５へ入球する遊技球の球数が減少すること、及び、特定入賞口Ｊ６５へ所定数の球数を入球させるための時間が長くなることを抑制できる。その結果、遊技者が不利になること、及び、遊技者の興趣が低下することを抑制できる。
【１１９９３】
また、第１２２実施形態では、一対の羽部材Ｊ６７１の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設

される可変入賞役物Ｊ５０６５ａに第２入賞口Ｊ６６へ遊技球を流入させるための底壁（底壁形成部Ｊ５７２４）が形成され、可変入賞役物Ｊ５０６５ａが開放状態とされる際に、底壁（底壁形成部Ｊ５７２４）が第２入賞口Ｊ６６から離れることで、第２入賞口Ｊ６６の底壁が非形成とされる構成とすることで、特定入賞口Ｊ６５（可変入賞役物Ｊ５０６５ａ）と第２入賞口Ｊ６６（電動役物Ｊ５０７０）とを近づけて配置することができる。

【１１９９４】

次いで、図６８９及び図６９０を参照して、第１２３実施形態における電動役物Ｊ６０７０について説明する。上記第１１８実施形態では、電動役物Ｊ７０が一対の羽部材Ｊ６７１で構成され、第２入賞口Ｊ６６に左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側から遊技球が入球可能とされる場合について説明したが、第１２３実施形態では、電動役物Ｊ６０７０が１の羽部材Ｊ６７１で構成され、第２入賞口Ｊ６６に左右方向の一方側から遊技球が入球可能とされる場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。

【１１９９５】

図６８９は、第１２３実施形態における遊技盤Ｊ６０１３の正面図であり、図６９０（ａ）及び図６９０（ｂ）は、図６８９の範囲Ｎ１１ａにおける遊技盤Ｊ６０１３の部分拡大正面図である。

【１１９９６】

図６８９に示すように、第１２３実施形態における遊技盤Ｊ６０１３では、「左打ち」側の流路（遊技盤Ｊ６０１３の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）略中央部）に第１入賞口Ｊ６４が配設され、「右打ち」側の流路（遊技盤Ｊ６０１３の右方側（矢印Ｒ方向側））に第２入賞口Ｊ６６が配設される。

【１１９９７】

この構成では、通常中においては、第２入賞口Ｊ６６に付随する電動役物Ｊ６０７０が閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｊ６６に入賞しづらいので、電動役物のない第１入賞口Ｊ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＪ８０の左方（矢印Ｌ方向）を遊技球が通過するように遊技球を発射し（「左打ち」）、第１入賞口Ｊ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利とされる。

【１１９９８】

一方、確変中や時短中は、スルーゲートＪ６７に遊技球を通過させることで、第２入賞口Ｊ６６に付随する電動役物Ｊ６０７０が開放状態となりやすく、第２入賞口Ｊ６６に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｊ６６へ向けて、可変表示装置ユニットＪ８０の右方（矢印Ｒ方向）を遊技球が通過するように遊技球を発射し（「右打ち」）、スルーゲートＪ６７を通過させて電動役物を開放状態にすると共に、第２入賞口Ｊ６６への入賞によって１５Ｒ確変大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利とされる。

【１１９９９】

従って、第１２３実施形態における遊技盤Ｊ６０１３では、パチンコ機Ｊ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変更させることが可能とされる。

【１２０００】

以上のように構成される第１２３実施形態における遊技盤Ｊ６０１３では、第２入賞口Ｊ６６及び特定入賞口Ｊ６５が形成される化粧側ユニットＪ６６００と、その化粧側ユニットＪ６６００の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され、第２入賞口Ｊ６６から入球した遊技球の通路が形成される通路ユニットＪ５００と、化粧側ユニットＪ６００の背面側に配設され、特定入賞口Ｊ６５を開閉するための可変入賞役物Ｊ６５ａを有する特定入賞ユニットＪ７００と、を主に備えて構成される。

【１２００１】

化粧側ユニットＪ６６００は、遊技盤Ｊ６０１３の可変表示装置ユニットＪ８０の右方（矢印Ｒ方向）を流下した遊技球を入球させて遊技盤Ｊ６０１３の正面よりも（遊技領域

の）背面側（矢印Ｂ方向側）に送球可能な複数の開口（第２入賞口Ｊ６６、特定入賞口Ｊ６５）が形成される背面ベース部材Ｊ６１０と、その背面ベース部材Ｊ６１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に所定の間隔を隔てて配設され、背面ベース部材Ｊ６１０との対向間に遊技球を流下可能な空間を形成する正面ベース部材Ｊ６２０と、それら背面ベース部材Ｊ６１０及び正面ベース部材Ｊ６２０の対向間に回転可能な状態で配設される電動役物Ｊ６０７０（羽部材Ｊ６６７１）と、を主に備えて構成される。なお、図６８９及び図６９０では、正面側に配設される正面ベース部材Ｊ６２０を透明視した状態で図示される。

【１２００２】

電動役物Ｊ６０７０は、上記第１１８実施形態における一対の羽部材Ｊ６７１から構成される電動役物Ｊ７０から、一方（左方側）の羽部材Ｊ６７１を削除し、他方（右方側）の羽部材Ｊ６７１（羽部材Ｊ６６７１）を残したものであるので、電動役物Ｊ６０７０の構造についての詳しい説明は省略する。

【１２００３】

なお、第１２３実施形態においては、第２入賞口Ｊ６６の上流側に電動役物Ｊ６０７０（羽部材Ｊ６７１）に連なる送球通路Ｊ６０６６ａを備え、電動役物Ｊ６０７０が開放状態（図６９０（ｂ）に示す状態）とされる場合に、転動面Ｊ６７１ａ及び底壁形成部Ｊ６７１ｅが送球通路Ｊ６０６６ａに連なる（送球通路Ｊ６０６６ａへの遊技球の流入口の底壁が底壁形成部Ｊ６７１ｅにより形成された）状態とされ、電動役物Ｊ６０７０が閉鎖状態（図６９０（ａ）に示す状態）とされる場合に、転動面Ｊ６７１ａが送球通路Ｊ６０６６ａへの流入口を塞ぐ位置に配設されると共に底壁形成部Ｊ６７１ｅが送球通路Ｊ６０６６ａから離間される。

【１２００４】

よって、第１２３実施形態におけるパチンコ機Ｊ１０では、羽部材Ｊ６６７１に送球通路Ｊ６０６６ａに遊技球を流入させるための流入口の底壁（底壁形成部Ｊ６７１ｅ）が形成され、電動役物Ｊ６０７０（一対の羽部材Ｊ６６７１）が閉鎖状態とされる際に、底壁（底壁形成部Ｊ６７１ｅ）が送球通路Ｊ６０６６ａの流入口から離れることで、送球通路Ｊ６０６６ａの流入口の底壁が非形成とされるので、特定入賞口Ｊ６５が開放される特別遊技状態において、スルーゲートＪ６７を遊技球が通過することで行われる第２図柄の変動表示が「〇」となり、瞬間的に開放状態とされる電動役物Ｊ６０７０（羽部材Ｊ６６７１）に遊技球が拾われたとしても、図６９０（ａ）に示すように閉鎖状態における羽部材Ｊ６６７１の底壁形成部Ｊ６７１ｅと送球通路Ｊ６０６６ａの流入口との間を通過させて、特定入賞口Ｊ６５に案内することができる。

【１２００５】

これにより、第１２３実施形態におけるパチンコ機Ｊ１０では、特定入賞口Ｊ６５（可変入賞役物Ｊ６５ａ）の上流側に第２入賞口Ｊ６６（電動役物Ｊ６０７０）を配置する構成であっても、特別遊技状態中に電動役物Ｊ６０７０が開放状態とされることにより、特定入賞口Ｊ６５へ入球する遊技球の球数が減少すること、及び、特定入賞口Ｊ６５へ所定数の球数を入球させるための時間が長くなることを抑制できる。その結果、遊技者が不利になること、及び、遊技者の興趣が低下することを抑制できる。

【１２００６】

以上のように構成される第１２３実施形態における遊技盤Ｊ６０１３では、上記第１１８実施形態における遊技盤Ｊ１３に比べて、遊技領域から特定入賞口Ｊ６５に入球可能な領域を拡大できる。

【１２００７】

即ち、上記第１１８実施形態における遊技盤Ｊ１３のように、一対の羽部材Ｊ６７１を備える構造では、１の羽部材Ｊ６７１を備える構造に比べて、開放状態とした際の遊技領域を流下する遊技球を拾うことが可能な転動面Ｊ６７１ａの領域を拡大できるので、電動役物Ｊ７０（入球口ユニットＪ４００）の上流側を流下する遊技球の流下可能領域を大きくしても、開放状態の羽部材Ｊ６７１に球を拾わせることが可能となる。そのため、遊技領域の全体を有効に活用できるものの、一対の羽部材Ｊ６７１を備える構造では、一対の

羽部材Ｊ６７１を閉鎖状態とする際に、一対の羽部材Ｊ６７１の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される特定入賞口Ｊ６５に遊技球を入球可能とする必要があるので、特定入賞口Ｊ６５の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における端部を一対の羽部材Ｊ６７１よりも外側に配置する必要があり、特定入賞口Ｊ６５の左右方向における配設範囲が拡大するという問題点があった。

【１２００８】

これに対し、第１２３実施形態では、電動役物Ｊ６０７０が１の羽部材Ｊ６７１（左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一方側（右側）に開放する羽部材Ｊ６７１）により構成されるので、左右方向における羽部材Ｊ６７１の他方側（左側）の遊技領域に遊技球が流下しない構造に出来るので、羽部材Ｊ６７１の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される特定入賞口Ｊ６５の左右方向における両端を羽部材Ｊ６７１の外側に配置する必要が無くなり、特に、他方側端部を羽部材Ｊ６７１よりも他方側に配設する必要が無くなる。その結果、特定入賞口Ｊ６５の左右方向における配設範囲を小さくできる。

【１２００９】

また、特定入賞口Ｊ６５の他方側端部を羽部材Ｊ６７１よりも他方側に配設する必要が無くなるので、特定入賞口Ｊ６５を羽部材Ｊ６７１よりも一方側に配設することで、特定入賞口Ｊ６５に流下可能とされる遊技領域の範囲を拡大できる。

【１２０１０】

次いで、図６９１を参照して、第１２４実施形態における入球口ユニットＪ７４００について説明する。上記第１２３実施形態では、羽部材Ｊ６７１が前後方向に延びる回転軸Ｊ６７２を中心に回転可能に構成される場合について説明したが、第１２４実施形態では、羽部材Ｊ７６７１が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延びる回転軸を中心に回転可能に構成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。

【１２０１１】

図６９１（ａ）及び図６９１（ｂ）は、第１２４実施形態における遊技盤Ｊ７０１３の正面図であり、図６９１（ｃ）は、図６９１（ａ）のＮ１２ｃ－Ｎ１２ｃ線における遊技盤Ｊ７０１３の断面図であり、図６９１（ｄ）は、図６９１（ｂ）のＮ１２ｄ－Ｎ１２ｄ線における遊技盤Ｊ７０１３の断面図である。

【１２０１２】

図６９１（ａ）から図６９１（ｄ）に示すように、第１２４実施形態における入球口ユニットＪ７４００は、第１２３実施形態における遊技盤Ｊ６０１３の電動役物Ｊ６０７０を電動役物Ｊ７０７０に変更した構成とされると共に、送球通路Ｊ６０６６ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に特定入賞口Ｊ６５の上方側（矢印Ｕ方向側）の空間に連なる分岐通路Ｊ６０６６ａ１の流入口が形成され、それら以外の構成については第１２３実施形態における遊技盤Ｊ６０１３と同一であるので、それらの詳しい説明は省略する。なお、第１２４実施形態における電動役物Ｊ７０７０は、第１１８実施形態～第１２３実施形態における電動役物Ｊ６０，Ｊ２０６０，Ｊ３０７０，Ｊ４０７０，Ｊ５０７０，Ｊ６０７０（前後方向に延びる回転軸Ｊ６７２を中心に回転可能に構成される羽部材Ｊ３７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１）と同様に、ソレノイドＪ５６０の動作力（本体部Ｊ５６１に電力を付与して（本体部Ｊ５６１を励磁させて）軸部Ｊ５６２を本体部Ｊ５６１の内側に引き込む力、又は、軸部Ｊ５６２の周囲に配設したバネにより軸部Ｊ５６２を本体部Ｊ５６１に対して張り出させる力）が回転軸Ｊ５７２ａを中心として回転動作する第２伝達部材Ｊ５７２を介して伝達され、閉鎖状態と開放状態とに変位される。

【１２０１３】

第１２４実施形態における電動役物Ｊ７０７０は、光透過性の樹脂材料から上面視扇型状に形成され、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の厚みを有する羽部材Ｊ７６７１と、その羽部材Ｊ７６７１の回転中心となる金属製の回転軸Ｊ７６７２と、を主に備えて構成される。

【１２０１４】
羽部材Ｊ７６７１は、上面視扇型状の湾曲面の軸に回転軸Ｊ７６７２が配設され、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延びる回転軸Ｊ７６７２を中心に左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に回転変位可能に構成される。また、羽部材Ｊ７６７１は、上面視扇型状に形成される上面側が一方の直線部（以下、一方側端部Ｊ７６７１ｇと称す）から他方の直線部（以下、他方側端部Ｊ７６７１ｈ）に向かってスロープ状に上昇傾斜され、底面側が回転軸Ｊ７６７２と直交する方向に平坦に形成される。なお、以下の説明では、上昇傾斜される上面側を転動面Ｊ７６７１ａと称す。
【１２０１５】
転動面Ｊ７６７１ａは、その上面を遊技球が転動可能に構成される面であり、回転軸Ｊ７６７２を中心とする径方向外側への距離が球の直径よりも大きく設定される。また、転動面Ｊ７６７１ａは、回転軸Ｊ７６７２を中心とする径方向において略中央部が下方側（矢印Ｄ方向側）に凹む方向に若干湾曲して形成され、転動面Ｊ７６７１ａを転動する遊技球を上面視扇形状に形成された他方側端部Ｊ７６７１ｈから一方側端部Ｊ７６７１ｇに向けて流下可能とされる。
【１２０１６】
また、羽部材Ｊ７６７１には、他方側端部Ｊ７６７１ｈの回転軸Ｊ７６７２を挟んで反対側に、径方向外側に突出する凸部Ｊ７６７１ｉを備える。凸部Ｊ７６７１ｉは、転動面Ｊ７６７１ａを他方側端部Ｊ７６７１ｈから一方側端部Ｊ７６７１ｇに転動して、一端側端部から排出される球がと当接する部分であり、上面視において回転軸Ｊ７６７２から離間するに従って一方側端部Ｊ７６７１ｇ側に大きく（厚みを有する）形状とされる。
【１２０１７】
なお、羽部材Ｊ７６７１は、転動面Ｊ７６７１ａを正面視において送球通路Ｊ６０６６ａの遊技球の流入口の内側に受け入れた状態（閉鎖状態）と、転動面Ｊ７６７１ａを正面視において送球通路Ｊ６０６６ａの遊技球の流入口の外側に張り出した状態（開放状態）との間で回転変位させることで、送球通路Ｊ６０６６ａの流入口に遊技球を入球可能な状態と入球不可能な状態とに切り替え可能に構成され、閉鎖状態では送球通路Ｊ６０６６ａの流入口に向かって遊技領域を流下する遊技球を他方側端部Ｊ７６７１ｈに当接させて遊技球が送球通路Ｊ６０６６ａの流入口に入球することを規制し、開放状態では送球通路Ｊ６０６６ａの流入口に向かって遊技領域を流下する遊技球を転動面Ｊ７６７１ａに当接させ、転動面Ｊ７６７１ａを転動させることで送球通路Ｊ６０６６ａの流入口に流入させやすくできる。
【１２０１８】
また、送球通路Ｊ６０６６ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に特定入賞口Ｊ６５の上方側（矢印Ｕ方向側）の空間に連なる分岐通路Ｊ６０６６ａ１の流入口は、閉鎖状態における羽部材Ｊ７６７１の背面側に重なる位置に形成され、閉鎖状態における羽部材Ｊ７６７１の転動面Ｊ７６７１ａが分岐通路Ｊ６０６６ａ１の流入口の底面とされる。
【１２０１９】
以上のように構成される第１２４実施形態におけるパチンコ機Ｊ１０では、羽部材Ｊ７６７１の他方側端部Ｊ７６７１ｈの回転軸Ｊ７６７２を挟んで反対側に、一方側端部Ｊ７６７１ｇから排出される遊技球が当接可能な凸部Ｊ７６７１ｉを備えるので、電動役物Ｊ７０７０（羽部材Ｊ７６７１）を開放状態から閉鎖状態に変位させるタイミングで遊技球が転動面Ｊ７６７１ａに拾われた場合や、開放状態から閉鎖状態に変位させるタイミングで転動面Ｊ７６７１ａ上を遊技球が転動している場合に、それらの遊技球が凸部Ｊ７６７１ｉに当接することで、その当接により羽部材Ｊ７６７１に作用する力を羽部材Ｊ７６７１が閉鎖状態に変位する方向に作用させることができる。これにより、開放状態から閉鎖状態に変位させるタイミングで複数の球が連なって羽部材Ｊ７６７１の転動面Ｊ７６７１ａに送球される場合に、１球目に転動面Ｊ７６７１ａに拾われた球が凸部Ｊ７６７１ｉに当接することで羽部材Ｊ７６７１を閉鎖状態に素早く変位させて、２球目以降の球が転動面Ｊ７６７１ａに拾われることを抑制できる。その結果、開放状態から閉鎖状態に変位さ

せるタイミングで複数の球が送球通路Ｊ６０６６ａに入球されることを抑制できる。
【１２０２０】
これにより、第１２４実施形態におけるパチンコ機Ｊ１０では、特定入賞口Ｊ６５（可変入賞役物Ｊ６５ａ）の上流側に第２入賞口Ｊ６６（電動役物Ｊ７０７０）を配置する構成であっても、特別遊技状態中に電動役物Ｊ６０７０が開放状態とされることにより、特定入賞口Ｊ６５へ入球する遊技球の球数が減少すること、及び、特定入賞口Ｊ６５へ所定数の球数を入球させるための時間が長くなることを抑制できる。その結果、遊技者が不利になること、及び、遊技者の興趣が低下することを抑制できる。
【１２０２１】
また、開放状態から閉鎖状態に変位させるタイミングで転動面Ｊ７６７１ａに拾われた遊技球、又は、開放状態から閉鎖状態に変位させるタイミングで転動面Ｊ７６７１ａ上を転動している遊技球が凸部Ｊ７６７１ｉに当接して羽部材Ｊ７６７１が閉鎖状態に素早く変位することにより、開放状態から閉鎖状態に変位させるタイミングで転動面Ｊ７６７１ａに拾われた遊技球、又は、開放状態から閉鎖状態に変位させるタイミングで転動面Ｊ７６７１ａ上を転動している遊技球は、閉鎖状態における羽部材Ｊ７６７１の転動面Ｊ７６７１ａから分岐通路Ｊ６０６６ａ１に流入される。これにより、特定入賞口Ｊ６５が開放される特別遊技状態において、スルーゲートＪ６７を遊技球が通過することで行われる第２図柄の変動表示が「〇」となり、瞬間的に開放状態とされる羽部材Ｊ７６７１に遊技球が拾われたとしても、送球通路Ｊ６０６６ａに流入した遊技球を分岐通路Ｊ６０６６ａ１に流入させて特定入賞口Ｊ６５に案内する（開放状態の可変入賞役物Ｊ６５ａに受け取らせる）ことができる。
【１２０２２】
なお、第１２４実施形態では、羽部材Ｊ７６７１の回転軸Ｊ６７２を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に配設して、羽部材Ｊ７６７１を水平方向に変位させることができるので、羽部材Ｊ７６７１を変位させた際に上下方向への変位スペースが必要になることを抑制できる。
【１２０２３】
即ち、上記第１１８実施形態における羽部材Ｊ６７１のように、羽部材Ｊ６７１の回転軸Ｊ６７２を前後方向に配設するものでは、羽部材Ｊ６７１を遊技盤Ｊ１３の盤面に沿って変位させることができるので、前後方向にその変位スペースを確保する必要が無くなるものの、羽部材Ｊ６７１を起立させた閉鎖状態と傾斜させた開放状態との間で変位させるので、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の変位スペースが必要になる。
【１２０２４】
これに対し、第１２４実施形態における羽部材Ｊ７６７１では、送球通路Ｊ６０６６ａの内側に羽部材Ｊ７６７１を受け入れた状態（閉鎖状態）と、送球通路Ｊ６０６６ａの外側に羽部材Ｊ７６７１（転動面Ｊ７６７１ａを）を張り出した状態（開放状態）に変位させた際に、羽部材Ｊ７６７１を水平方向に変位させることができるので、羽部材Ｊ７６７１を変位させた際に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）への変位スペースが必要になることを抑制できる。
【１２０２５】
次いで、図６９２を参照して第１２５実施形態における入球口ユニットＪ８４００について説明する。上記第１１８実施形態では、一対の羽部材Ｊ６７１の対向間を流下した遊技球が特定入賞口Ｊ６５の内側に配設される特定入賞ユニットＪ７００の挿通孔Ｊ７１２に流入される場合について説明したが、第１２５実施形態では、一対の羽部材Ｊ６７１の対向間を流下した遊技球が別の入球口（特別流入口Ｊ８７１４）に流入する場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。
【１２０２６】
図６９２は、第１２５実施形態における入球口ユニットＪ８４００の正面図である。なお、図６９２では、正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される正面ベース部材Ｊ６２０が透明

視して図示される。
【１２０２７】
初めに、第１２５実施形態における入球口ユニットＪ８４００は、化粧側ユニットＪ６００の特定入賞口Ｊ６５の内側に可変入賞役物Ｊ６５ａが配設されるように特定入賞ユニットＪ８７００が化粧側ユニットＪ６００の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されると共に、その特定入賞ユニットＪ８７００の上方側（矢印Ｕ方向側）及び背面側（矢印Ｂ方向側）に重なる態様で通路ユニットＪ５００が化粧側ユニットＪ６００の背面側に配設される。なお、入球口ユニットＪ８４００は、化粧側ユニットＪ６００、特定入賞ユニットＪ８７００、及び、通路ユニットＪ５００が組み合わされた状態で、ベース板Ｊ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）から配設され、螺子によりベース板Ｊ６０に締結（固定）される。
【１２０２８】
特定入賞ユニットＪ８７００は、遊技者側（正面側（矢印Ｆ方向側））が開放する箱状に形成される入球部材Ｊ８７１０と、その入球部材Ｊ８７１０の開放部分を覆う板状の可変入賞役物Ｊ６５ａと、入球部材Ｊ８７１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路部材Ｊ７３０と、その通路部材Ｊ７３０の背面側に配設されるソレノイドＪ７４０と、そのソレノイドＪ７４０に接続され、入球部材Ｊ８７１０及び通路部材Ｊ７３０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）一端側に形成される空間に変位可能な状態で配設される駆動力伝達手段Ｊ７５０と、を主に備える。
【１２０２９】
入球部材Ｊ８７１０は、正面視横長矩形の略箱形状に形成される本体部Ｊ７１１と、その箱形状に形成される本体部Ｊ７１１の左方側の壁部の外側において前後方向に貫通形成される挿通孔Ｊ７１２と、箱形状に形成される本体部Ｊ７１１の背面側（矢印Ｂ方向側）の壁部に貫通形成される２箇所の流入口Ｊ７１３と、箱形状に形成される本体部Ｊ７１１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）略中央部の背面側の壁部に貫通形成される特別流入口Ｊ８７１４と、を主に備え、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。
【１２０３０】
特別流入口Ｊ８７１４は、正面視において第２入賞口Ｊ６６の下方側（矢印Ｄ方向側）に重なる位置、即ち、一対の羽部材Ｊ６７１の対向間の下方側に重なる位置に形成される。また、特別流入口Ｊ８７１４は、正面視において２の流入口Ｊ７１３よりも高い位置に形成されると共に、所定距離離れた位置に形成される２の流入口Ｊ７１３の間に形成される。これらにより、一対の羽部材Ｊ６７１の対向間を通過した遊技球を特別流入口Ｊ８７１４に流入させることができると共に、一対の羽部材Ｊ６７１の対向間の外側を流下する遊技球を流入口Ｊ７１３に流入させることができる。即ち、一対の羽部材Ｊ６７１の対向間の間を流下して下方側に払い出される遊技球があった場合に、その遊技球を別の流入口（特別流入口Ｊ８７１４）に流入させて、別の付加価値を付与することができる。
【１２０３１】
なお、別の付加価値とは、例えば、特別遊技状態とした後（大当たり後）のパチンコ機Ｊ１０の遊技状態（確変か、時短か）を決定するための状態決定装置として機能させても良い。詳しく説明すると、特定入賞口Ｊ６５が開放される特別遊技状態（大当たり中）において、スルーゲートＪ６７を遊技球が通過することで行われる第２図柄の変動表示が「〇」となり瞬間的に電動役物Ｊ７０（羽部材Ｊ６７１）が開放状態とされる際に、電動役物Ｊ７０の付近を流下する球が羽部材Ｊ６７１に偶然拾われた場合に、その遊技球を特別流入口Ｊ８７１４に遊技球を入球させ、その入球の契機として特別遊技状態とした後のパチンコ機Ｊ１０の遊技状態を確変状態に移行させても良い。
【１２０３２】
この場合には、スルーゲートＪ６７を遊技球が通過することで行われる第２図柄の変動表示が「〇」となったタイミングで瞬間的に開放状態となる電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）に遊技球を拾わせることができるか否かで、特別遊技状態とした後（大当たり後）のパチンコ機Ｊ１０の遊技状態（確変か、時短か）を変更できるので、特別遊技状態中（大当たり中）の遊技球の流下および電動役物Ｊ７０の変位に注目させやすくできる

。その結果、特別遊技状態中（大当たり中）の遊技者の興趣を向上できる。
【１２０３３】
次いで、図６９３から図６９５を参照して、第１２６実施形態における遊技盤Ｊ９０１３について説明する。上記第１１８実施形態では、化粧部材Ｊ８００がセンターフレームＪ８６に配設され、センターフレームＪ８６を介してベース板Ｊ６０に配設される場合について説明したが、第１２６実施形態では、化粧部材Ｊ９８００がベース板Ｊ８０６０に直接配設される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。
【１２０３４】
図６９３は、第１２６実施形態における遊技盤Ｊ９０１３の正面図であり、図６９４は、遊技盤Ｊ９０１３の分解正面斜視図である。図６９５（ａ）は、図６９３のＮ１３ａ－Ｎ１３ａ線における遊技盤Ｊ９０１３の断面図であり、図６９５（ｂ）は、図６９３のＮ１３ｂ－Ｎ１３ｂ線における遊技盤Ｊ９０１３の断面図である。なお、図６９４では、遊技盤Ｊ９０１３のベース板Ｊ９０６０からセンターフレームＪ８６、及び、化粧部材Ｊ９８００が分解された状態が図示される。
【１２０３５】
図６９３から図６９５に示すように、第１２６実施形態における遊技盤Ｊ９０１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｊ９０６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）の他、レール部材Ｊ６１，Ｊ６２、入球口ユニットＪ４００、センターフレームＪ９０８６、スルーユニットＪ７４等を組み付けて構成される。
【１２０３６】
そのため、ベース板Ｊ９０６０には、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）を挿入する複数の貫通孔（図示しない）や、レール部材Ｊ６１，Ｊ６２を締結する複数のネジ穴（図示しない）が形成されると共に、入球口ユニットＪ４００、センターフレームＪ９０８６、及び、スルーユニットＪ７４の配設箇所に、それら入球口ユニットＪ４００、センターフレームＪ９０８６、及び、スルーユニットＪ７４と対応する形状の開口が形成され、それらの開口に入球口ユニットＪ４００、センターフレームＪ９０８６、及び、スルーユニットＪ７４のそれぞれの一部が正面側（矢印Ｆ方向側）から挿入された状態で締結固定される。
【１２０３７】
第１２６実施形態におけるセンターフレームＪ９０８６は、第１１８実施形態におけるセンターフレームＪ８６の張出部Ｊ８６ｃに形成された流下領域Ｊ８６ｃ１が非形成とされる点で第１１８実施形態におけるセンターフレームＪ８６と異なり、その他の構成は第１１８実施形態におけるセンターフレームＪ８６と同一であり、第１１８実施形態におけるセンターフレームＪ８６と同様に正面側立設部Ｊ８６ａ、背面側立設部Ｊ８６ｂ、及び、張出部Ｊ８６ｃを備える。
【１２０３８】
一方、センターフレームＪ９０８６が配設されるベース板Ｊ９０６０には、第１１８実施形態において、センターフレームＪ８６の流下領域Ｊ８６ｃ１が正面側（矢印Ｆ方向側）に配設された配設領域に、正面側に突出する凸部Ｊ９０６０ａと、その凸部Ｊ９０６０ａよりも外側から正面側に突出する区画壁Ｊ９０６０ｂが形成され、凸部Ｊ９０６０ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側（凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間）を遊技球が流下可能とされる。なお、区画壁Ｊ９０６０ｂは、遊技領域を区画可能な壁部であり、遊技領域を区画する外縁部材Ｊ７３に上端側の一端が連なる位置に形成される。
【１２０３９】
遊技盤Ｊ９０１３では、センターフレームＪ８６の正面側立設部Ｊ８６ａ、及び、ベース板Ｊ９０６０の凸部Ｊ９０６０ａ及び区画壁Ｊ９０６０ｂにより遊技領域の上方に打ち出された遊技球を所定の流下方向に向けて案内する壁部が形成されるので、それら正面側

立設部Ｊ８６ａ、凸部Ｊ９０６０ａ、及び、区画壁Ｊ９０６０ｂの下流側に配設される化粧部材Ｊ９８００に送球される遊技球を所定の領域を通過させやすくできる。従って、正面側立設部Ｊ８６ａ、凸部Ｊ９０６０ａ、及び、区画壁Ｊ９０６０ｂの下流側に配設される化粧部材Ｊ９８００の剛性の高い部分を遊技球が通過するように正面側立設部Ｊ８６ａ、凸部Ｊ９０６０ａ、及び、区画壁Ｊ９０６０ｂを形成することで、下流側の化粧部材Ｊ９８００が遊技球との当接により破損することを抑制できると共に、後述する化粧部材Ｊ９８００の形状の自由度を向上できる。

【１２０４０】

なお、化粧部材Ｊ９８００の所定の領域に遊技球を案内可能な壁部（センターフレームＪ８６の正面側立設部Ｊ８６ａ、及び、ベース板Ｊ９０６０の凸部Ｊ９０６０ａ及び区画壁Ｊ９０６０ｂ）は、化粧部材Ｊ９８００とは別体で形成されるので、化粧部材Ｊ９８００とは異なる材質で形成して壁部の剛性を高めやすくできる。

【１２０４１】

化粧部材Ｊ９８００は、遊技盤Ｊ９０１３の最も正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、遊技盤Ｊ９０１３の正面側の化粧となる（即ち、遊技領域に配設される）部位であり、正面側に凹凸からなる装飾を有する正面部Ｊ８５０を備え、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。また、第１２６実施形態における化粧部材Ｊ９８００は、ベース板Ｊ９０６０に形成される凸部Ｊ９０６０ａにより複数の流下経路が形成される領域の正面側に重なる位置に正面部Ｊ８５０が配設されると共に、その背面側（化粧部材Ｊ９８００とベース板Ｊ９０６０との対向間）を遊技球が通過可能とされる。

【１２０４２】

従って、正面部Ｊ８５０の化粧面となる正面よりも背面側（矢印Ｂ方向側）を遊技球が通過するので、通過する遊技球が化粧面に当接することを抑制できる。その結果、化粧部材Ｊ９８００の化粧面が摩耗することを抑制できる。また、正面部Ｊ８５０の背面側を遊技球が通過するので、流下する遊技球を遊技者から一時的に視認されにくくできる。その結果、流下する遊技球を目で追う遊技者の興趣を高めやすくできる。

【１２０４３】

さらに、化粧部材Ｊ９８００は、正面部Ｊ８５０が正面視において区画壁Ｊ９０６０ｂにより区画された遊技領域の外側からセンターフレームＪ９０８６の内側に亘って延設される正面視三日月状に形成され、区画壁Ｊ９０６０ｂにより区画された遊技領域の外側の位置に螺子ＮＪの先端部（雄ネジ部）を挿通可能な複数（第１２６実施形態では２箇所）の開口を有する固定部Ｊ９８２０を備える。

【１２０４４】

固定部Ｊ９８２０は、化粧部材Ｊ９８００のベース板Ｊ９０６０に固定される部位であり、ベース板Ｊ９０６０に形成される螺子孔と対応する位置に螺子ＮＪの先端を挿通可能な開口を備える。また、固定部Ｊ９８２０は、正面視三日月状に形成される化粧面よりも、背面側（ベース板Ｊ９０６０側）に一段低い位置に形成され、正面視三日月状に形成される正面部Ｊ８５０がベース板Ｊ９０６０の正面から所定距離（少なくとも遊技球の直径分）離間した状態で配設される。

【１２０４５】

これにより、化粧部材Ｊ９８００の正面側（矢印Ｆ方向側）から固定部Ｊ９８２０の開口を挿通した螺子ＮＪをベース板Ｊ９０６０に締結することで、化粧部材Ｊ９８００をベース板Ｊ９０６０に配設できると共に、化粧部材Ｊ９８００の正面部Ｊ８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）に遊技領域を流下する遊技球を通過させることが可能とされる。

【１２０４６】

よって、第１２６実施形態では、遊技盤Ｊ９０１３の正面側（矢印Ｆ方向側）から固定部Ｊ９８２０に螺子ＮＪを挿通すると共に、ベース板Ｊ９０６０の正面に螺子ＮＪを螺合することができる、即ち、化粧部材Ｊ９８００を遊技盤Ｊ９０１３の正面側から配設できるので、その着脱誓を向上できる。その結果、化粧部材Ｊ９８００が破損した際や脱落した際に、（新しい）化粧部材Ｊ９８００の配設作業を簡易にできる。

【１２０４７】
なお、化粧部材Ｊ９８００の固定部Ｊ９８２０は、正面視において三日月状に形成される正面部Ｊ８５０よりも外側に形成され、少なくとも固定部Ｊ９８２０に挿通される螺子ＮＪが、正面枠Ｊ１４のガラスユニットＪ１６を介して視認可能とされる視認可能領域（第３図柄表示装置Ｊ８１を視認可能な窓部Ｊ１４ｅ（上側装飾ユニットＪ１４ａと左側装飾ユニットＪ１４ｂと右側装飾ユニットＪ１４ｃと上下皿ユニットＪ１５とにより囲まれた領域））の外側に配設される。これにより、化粧部材Ｊ９８００を配設するための螺子ＮＪが遊技者に視認されることを正面枠Ｊ１４により抑制できるので、遊技者の興趣が低下することを抑制できる。
【１２０４８】
また、固定部Ｊ９８２０は、正面視において正面部Ｊ８５０の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）及び左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における寸法よりも小さい外形に形成される。これにより、固定部Ｊ９８２０を視認領域外に配設するために、窓部Ｊ１４ｅによる視認可能範囲を小さくする必要が無くなると共に、固定部Ｊ９８２０を備える化粧部材Ｊ９８００を製造する際の製造コストを抑えることができる。
【１２０４９】
さらに、第１２６実施形態では、化粧部材Ｊ９８００をベース板Ｊ９０６０に締結固定するために螺子を挿通する固定部Ｊ９８２０が遊技領域の外側に形成され、遊技球が流下可能な凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間、及び、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間を流下する遊技球が、螺子ＮＪを締結するための固定部Ｊ９８２０に直接当接することを抑制できる。その結果、固定部Ｊ９８２０又はベース板Ｊ９０６０側の雌ねじ部が破損することを抑制して、化粧部材Ｊ９８００がベース板Ｊ９０６０から脱落することを抑制できる。
【１２０５０】
即ち、遊技球が流下可能な位置、例えば、遊技球が流下可能な凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間、及び、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間に固定部Ｊ９８２０を形成すると、それら対向間を流下する遊技球が螺子ＮＪを締結する固定部Ｊ９８２０に衝突可能とされる。そのため、流下する遊技球が衝突する衝撃により固定部Ｊ９８２０が破損し、化粧部材Ｊ９８００が脱落する恐れがある。
【１２０５１】
これに対し、第１２６実施形態では、遊技領域を区画するベース板Ｊ９０６０の区画壁Ｊ９０６０ｂよりも外側に固定部Ｊ９８２０が形成されるので、遊技球が流下可能な凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間、及び、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間を流下する遊技球が固定部Ｊ９８２０に直接当接することを抑制できる。よって、螺子ＮＪの軸力が作用されて固定部Ｊ９８２０に内部応力が発生した状態とされていても、固定部Ｊ９８２０が破損することを低減できる（化粧部材Ｊ９８００がベース板Ｊ９０６０から脱落することを抑制できる）。また、固定部Ｊ９８２０の強度を確保するために、固定部Ｊ９８２０を大型化（厚肉化）させる必要がなく、非遊技領域のスペースを小さくできるので、その分、遊技領域のスペースを確保できる。
【１２０５２】
また、正面部Ｊ８５０は、遊技領域を流下する遊技球が当接可能に構成されるので、化粧部材Ｊ８００（正面部Ｊ８５０）の外観を装飾として遊技者に視認させるだけでなく、遊技領域を流下する遊技球を視認可能部に衝突（当接）させて、遊技球の流下態様を変化させることができ、興趣の向上を図ることができる。この場合、正面部Ｊ８５０は、遊技盤Ｊ１３（センターフレームＪ８６）に対して螺子ＮＪによる締結固定が行われていないので、遊技球が衝突（当接）された際に正面部Ｊ８５０を変形させやすくでき、かかる正面部Ｊ８５０が破損することを低減できる。
【１２０５３】

また、化粧部材Ｊ９８００は、正面部Ｊ８５０が凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂの正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に配設され、正面部Ｊ８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）を流下する遊技球が正面部Ｊ８５０の背面側に当接可能（即ち、正面部Ｊ８５０の背面が遊技球の流下方向と平行に配設される）とされ、正面部Ｊ８５０の背面に当接する遊技球の衝撃が、正面部Ｊ８５０を正面側に折り曲げる方向、即ち、固定部Ｊ９８２０を挿通して螺子止めした螺子ＮＪを引き出す又は螺子ＮＪを傾斜させる方向に作用するので、螺子ＮＪを軸回りに回転させる（緩ませる）方向の力が化粧部材Ｊ９８００に作用することを抑制できる。その結果、螺子ＮＪが脱落して、化粧部材Ｊ９８００がベース板Ｊ９０６０から脱落することを抑制できる。

【１２０５４】

また、固定部Ｊ９８２０がベース板Ｊ９０６０に締結固定された状態において、正面部Ｊ８５０は、センターフレームＪ８６の正面側立設部Ｊ８６ａ、及び、ベース板Ｊ９０６０の凸部Ｊ９０６０ａ及び区画壁Ｊ９０６０ｂの間に所定の隙間を設けて配設される。これにより、凸部Ｊ９０６０ａと、正面側立設部Ｊ８６ａ又は区画壁Ｊ９０６０ｂとの対向間を流下する遊技球が正面部Ｊ８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）に当接した際に、螺子ＮＪによる締結がされていない正面部Ｊ８５０を背面側の隙間の分、一時的に変形させやすくできる。その結果、正面部Ｊ８５０に遊技球が当接することによる正面部Ｊ８５０の破損を抑制できる。

【１２０５５】

なお、正面部Ｊ８５０とセンターフレームＪ８６の正面側立設部Ｊ８６ａ、及び、ベース板Ｊ９０６０の凸部Ｊ９０６０ａ及び区画壁Ｊ９０６０ｂとの間の隙間は、遊技球が正面部Ｊ８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）に当接した際に正面部Ｊ８５０に力が加わりやすい前後方向に形成されるので、正面部Ｊ８５０の背面側に遊技球が当接することによる正面部Ｊ８５０の破損を抑制しやすくできる。

【１２０５６】

また、正面部Ｊ８５０には、背面側（矢印Ｂ方向側）に隣り合う領域だけでなく、遊技盤Ｊ９０１３の正面と平行な方向（前後方向と直交する方向）に隣り合う領域（即ち、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）及び左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向））にも所定の隙間が形成される。これにより、遊技領域を流下する遊技球が正面部Ｊ８５０の正面視における縁部に当接した際に、正面部Ｊ８５０の遊技盤Ｊ９０１３の正面と平行な方向への一時的な変形を許容できる。その結果、正面部Ｊ８５０に遊技球が当接することによる正面部Ｊ８５０の破損を抑制しやすくできる。

【１２０５７】

さらに、正面部Ｊ８５０と固定部Ｊ９８２０とは一体の樹脂材料から連なって形成される。これにより、正面部Ｊ８５０に遊技球が当接して正面部Ｊ８５０が一時的に変形する際に、化粧部材Ｊ９８００の一部に応力が集中することを抑制できる。その結果、遊技球が正面部Ｊ８５０に衝突することによる化粧部材Ｊ９８００の破損を抑制できる。

【１２０５８】

なお、この場合、正面部Ｊ８５０と固定部Ｊ９８２０とは、板状に形成される厚みが略同一の寸法で形成されることが好ましく、これによれば、正面部Ｊ９８５０と固定部Ｊ９８２０と（化粧部材Ｊ９８００）の成形性を確保することができると共に、正面部Ｊ８５０に遊技球が衝突した際の応力を分散しやすくできる。

【１２０５９】

また、第１２６実施形態では、化粧部材Ｊ９８００の背面側（矢印Ｂ方向側）であって、正面視において遊技球が流下可能な凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間、及び、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間に対応する領域に、弾性変形可能なゴム状の部材から形成される弾性体Ｊ９８３０が配設される。

【１２０６０】

これにより、凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａ

との間、及び、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間を流下する遊技球が化粧部材Ｊ９８００に当接した際に、その弾性体Ｊ９８３０を弾性変形させることで、化粧部材Ｊ９８００の正面部Ｊ８５０に衝撃が伝わることを抑制できる。その結果、化粧部材Ｊ９８００の正面部Ｊ８５０が弾性変形することを抑制できると共に、化粧部材Ｊ９８００の固定部Ｊ９８２０又はベース板Ｊ９０６０側の雌ねじ部が破損することを抑制できる。

【１２０６１】

また、弾性体Ｊ９８３０に流下する遊技球が衝突した際には、弾性体Ｊ９８３０を変形させることにより遊技球の流下速度を遅くすることができるので、化粧部材Ｊ９８００の下流側に流下する遊技球を遊技者に視認させやすくできる（目で追わせやすくできる）。

【１２０６２】

なお、弾性体Ｊ９８３０は、板状（シート状）に形成され、凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間、及び、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間を流下する遊技球との当接面が平坦面とされる。これにより、弾性体Ｊ９８３０の製造コストを安価にできると共に、弾性体Ｊ９８３０に当接した遊技球の流下方向が著しく変更されたり、弾性体Ｊ９８３０に衝突した遊技球の衝撃が大きくなることを抑制できる。

【１２０６３】

また、弾性体Ｊ９８３０は、平坦面に形成される正面部Ｊ９８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）に、板状に形成される板面を接着（両面テープや接着材）により貼付される。そのため、螺子で固定される場合に比べて、遊技球が当接可能とされる面を確保しやすくできる。従って、弾性体Ｊ９８３０の配設作業を簡易にできる。また、遊技球が弾性体Ｊ９８３０に当接する際には、弾性体Ｊ９８３０が正面部Ｊ９８５０の背面側に押し付けられるので、弾性体Ｊ９８３０が正面部Ｊ９８５０から脱落することを抑制できる。

【１２０６４】

ここで、第１２６実施形態では、正面部Ｊ９８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）に弾性体Ｊ９８３０を配設する場合について説明したが、弾性体Ｊ９８３０を備えず、凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間、及び、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間を流下する遊技球が化粧部材Ｊ９８００の正面部Ｊ９８５０に直接当接するようにしても良い。この場合には、弾性体Ｊ９８３０を備えない分、コストの低減を図れるとと共に、正面部Ｊ９８５０に当接した遊技球の流下速度への影響を少なくできる。

【１２０６５】

また、正面部Ｊ９８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）に弾性体Ｊ９８３０を備えない場合には、弾性体Ｊ９８３０を備えない分、凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間、及び、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間を通過する遊技球が正面部Ｊ９８５０に当接した際に、化粧部材Ｊ９８００の固定部Ｊ９８２０が破損する可能性が高くなるので、固定部Ｊ９８２０を正面部Ｊ９８５０よりも硬い樹脂材料または金属材料で構成しても良い。また、正面部Ｊ９８５０に遊技球が直接当接することによる摩耗を低減するために、化粧部材Ｊ９８００の全体を比較的硬質な樹脂材料や金属材料で構成しても良い。

【１２０６６】

更に、正面部Ｊ９８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）の形状が直線状（平坦面）に形成される場合に比べてその成形性は悪くなるが、正面部Ｊ９８５０の背面側の形状を遊技球の直径よりも大きい湾曲状に凹設して、遊技球との当接領域を増加させることで、遊技球が正面部Ｊ９８５０の背面側に当接した際の衝撃を分散しやすくしても良い。また、この場合には、正面部Ｊ９８５０の背面側に凹設した湾曲面に沿って流下させることができるので、正面部Ｊ９８５０の背面側に当接した遊技球を速やかに下流側に案内できる。

【１２０６７】

なお、第１２６実施形態では、正面視において遊技球が流下可能な凸部Ｊ９０６０ａと

センターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間、及び、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間に対応する領域に弾性体Ｊ９８３０を配設する場合について説明したが、化粧部材Ｊ９８００の正面部Ｊ８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）全域に弾性体Ｊ９８３０を配設すると共に、化粧部材Ｊ９８００をベース板Ｊ９０６０に配設する際に、ベース板Ｊ９０６０の凸部Ｊ９０６０ａ及び区画壁Ｊ９０６０ｂとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとを弾性体Ｊ９８３０に食い込ませ（弾性体Ｊ９８３０を弾性変形させ）た状態としても良い。

【１２０６８】

次いで、図６９６を参照して、第１２７実施形態における化粧部材Ｊ１０８００について説明する。上記第１２６実施形態では、凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間、及び、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間を流下する遊技球が、正面部Ｊ８５０の背面側（弾性体Ｊ９８３０）に当接可能とされる場合について説明したが、第１２７実施形態では、凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間、及び、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間を流下する遊技球が、正面部Ｊ１０８５０の上端側の側面に当接可能とされる場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。

【１２０６９】

図６９６（ａ）及び図６９６（ｂ）は、第１２７実施形態における遊技盤Ｊ１００１３の断面図である。なお、図６９６（ａ）は、図６９３のＮ１３ａ－Ｎ１３ａ線における遊技盤Ｊ９０１３の断面と対応し、図６９６（ｂ）は、図６９３の図６９５ｂ－図２３ｂ線における遊技盤Ｊ９０１３の断面と対応する。

【１２０７０】

図６９６に示すように、第１２７実施形態における遊技盤Ｊ１００１３において、ベース板Ｊ９０６０に配設される化粧部材Ｊ１０８００は、遊技盤Ｊ１００１３の最も正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、遊技盤Ｊ１００１３の正面側の化粧となる（即ち、遊技領域に配設される）部位であり、正面側に凹凸からなる装飾を有する正面部Ｊ１０８５０を備え、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。また、化粧部材Ｊ１０８００は、ベース板Ｊ９０６０に形成される凸部Ｊ９０６０ａにより複数の流下経路が形成される領域の正面側に重なる位置に、窓部Ｊ１４ｅを介して視認可能とされる部位の正面部Ｊ１０８５０が配設されると共に、その背面側（正面部Ｊ１０８５０とベース板Ｊ９０６０との対向間）を遊技球が通過可能とされる。

【１２０７１】

第１２７実施形態における正面部Ｊ１０８５０は、正面視において凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間、及び、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間と対応する領域において、少なくとも遊技球の半径分以上の厚みを有する距離で突出形成される突出部Ｊ１０８５１を備える。

【１２０７２】

また、突出部Ｊ１０８５１の背面側（矢印Ｂ方向側）とベース板Ｊ９０６０の正面側（矢印Ｆ方向側）までの対向間の距離は少なくとも遊技球の直径よりも大きく設定され、突出部Ｊ１０８５１とベース板Ｊ９０６０の対向間に遊技球を通過可能とされる。

【１２０７３】

以上のように構成される第１２７実施形態の化粧部材Ｊ１０８００によれば、突出部Ｊ１０８５１が遊技球の半径よりも大きい前後方向の厚みで形成されるので、正面視において凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間、及び、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間を流下する遊技球が、正面側の領域を流下する場合に、その遊技球の下端に位置する部分を突出部Ｊ１０８５１の上面に当接させることができる。

【１２０７４】

なお、突出部Ｊ１０８５１の上面は、背面側（矢印Ｂ方向側）に向かうに従って下降傾

斜しており、突出部Ｊ１０８５１の上部に送球された遊技球が背面側に向かって自転可能とされる。これにより、正面視において凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間、及び、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間の正面側の領域を流下する遊技球の流下を一時的に停滞させることができる。

【１２０７５】

一方で、正面視において凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間、及び、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間を流下する遊技球が、背面側（矢印Ｂ方向側）の領域を流下する場合には、その遊技球が突出部Ｊ１０８５１の少なくとも上面側に当接することなく、突出部Ｊ１０８５１の背面側とベース板Ｊ９０６０の正面側（矢印Ｆ方向側）との間を通過させることができる。

【１２０７６】

従って、第１２７実施形態における化粧部材Ｊ１０８００では、遊技球が突出部Ｊ１０８５１の上面に当接可能とされる分、その突出部Ｊ１０８５１に遊技球が当接した際の衝撃が、螺子ＮＪを軸回りに回転させる（緩ませる）方向の力が化粧部材Ｊ１０８００に作用することになり、化粧部材Ｊ１０８００がベース板Ｊ１０６００から脱落しやすくなるものの、正面視において凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間、及び、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間を流下する遊技球の前後方向の流下位置により、その遊技球が突出部Ｊ１０８５１の上面に当接するか否かの『ばらつき』を発生させ、その『ばらつき』により、遊技球の流下に不均一性を出すことができる。その結果、遊技領域を流下する遊技球に注目させやすくできる。

【１２０７７】

なお、第１２７実施形態の化粧部材Ｊ１０８００では、第１２６実施形態における化粧部材Ｊ９８００と同様に、化粧部材Ｊ１０８００をベース板Ｊ９０６０に締結固定するために螺子を挿通する固定部Ｊ９８２０が遊技領域の外側に形成され、遊技球が流下可能な凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間、及び、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間を流下する遊技球が、螺子ＮＪを締結するための固定部Ｊ９８２０に直接当接することを抑制できる。その結果、正面部Ｊ１０８５０の突出部Ｊ１０８５１の上面側に遊技球を当接可能とする構成とする場合であっても、固定部Ｊ９８２０又はベース板Ｊ９０６０側の雌ねじ部が破損することを抑制して、化粧部材Ｊ１０８００がベース板Ｊ９０６０から脱落することを抑制できる。

【１２０７８】

次いで、図６９７を参照して第１２８実施形態における化粧部材Ｊ１１８００について説明する。上記Ｌ０９実施形態では、正面部Ｊ８５０が正面視三日月状に形成される場合について説明したが、第１２８実施形態では、正面部Ｊ１１８５０が正面視において先細りする湾曲形状に形成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。

【１２０７９】

図６９７（ａ）は、第１２８実施形態における遊技盤Ｊ１１０１３を部分的に拡大した部分拡大正面図であり、図６９７（ｂ）は、図６９７（ａ）のＮ１４ｂ－Ｎ１４ｂ線における遊技盤Ｊ１１０１３の断面図である。

【１２０８０】

図６９７に示すように、第１２８実施形態における遊技盤Ｊ１１０１３において、ベース板Ｊ９０６０に配設される化粧部材Ｊ１１８００は、遊技盤Ｊ１１０１３の最も正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、遊技盤Ｊ１１０１３の正面側の化粧となる（即ち、遊技領域に配設される）部位であり、正面側に凹凸からなる装飾を有する正面部Ｊ１１８５０を有し、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。また、化粧部材Ｊ１１８００は、ベー

ス板Ｊ９０６０に形成される凸部Ｊ９０６０ａにより複数の流下経路が形成される領域の正面側に重なる位置に、窓部Ｊ１４ｅを介して視認可能とされる部位の正面部Ｊ１１８５０が配設されると共に、その背面側（正面部Ｊ１１８５０とベース板Ｊ９０６０との対向間）を遊技球が通過可能とされる。

【１２０８１】

第１２８実施形態における正面部Ｊ１１８５０は、正面視において遊技領域の中央側に向かうに従って先細りする湾曲形状に形成されると共に、前後方向における厚みが遊技領域の中央側に向かうに従って小さくされる。なお、正面部Ｊ１１８５０の前後方向における厚みの変化は背面側（矢印Ｂ方向側）を傾斜させることにより形成され、正面部Ｊ１１８５０とベース板Ｊ９０６０との対向間は、凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間の領域に比べて、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間の領域の方が狭くされる。即ち、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間の領域を流下する遊技球の方が、正面部Ｊ１１８５０の背面側に当接しやすくされる。

【１２０８２】

以上のように構成される第１２８実施形態の化粧部材Ｊ１１８００によれば、正面部Ｊ１１８５０とベース板Ｊ９０６０との対向間が、凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間の領域に比べて、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間の領域の方が狭くされるので、正面視において凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間を通過する遊技球を正面部Ｊ１１８５０の上面側または背面側（矢印Ｂ方向側）に当接させて、遊技球を一時的に停滞させやすくできる。

【１２０８３】

一方で、凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間を通過する遊技球は、正面部Ｊ１１８５０に当接しにくくされるので、停滞することなく流下させやすくできる。

【１２０８４】

従って、第１２８実施形態における化粧部材Ｊ１１８００では、凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間の領域、又は、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間の領域のどちらを遊技球が流下するかにより、その遊技球が正面部Ｊ１１８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）に当接するか否かの『ばらつき』を発生させ、その『ばらつき』により、遊技球の流下に不均一性を出すことができる。その結果、遊技領域を流下する遊技球に注目させやすくできる。

【１２０８５】

また、化粧部材Ｊ１１８００によれば、化粧部材Ｊ１１８００（正面部Ｊ１１８５０）のうち正面視において中央側の領域（固定部Ｊ９８２０から離間する側の領域）に配設される部位（凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間の領域の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される部位）の幅および厚みが小さくされるので、凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間の領域を通過する遊技球が、化粧部材Ｊ１１８００の背面側（矢印Ｂ方向側）に当接しにくくできる。これにより、固定部Ｊ９８２０から離間する領域に遊技球が衝突することにより、固定部Ｊ９８２０に衝撃が伝達される回数を少なくできる。その結果、固定部Ｊ９８２０又はベース板Ｊ９０６０側の雌ねじ部が破損することを抑制して、化粧部材Ｊ１１８００がベース板Ｊ９０６０から脱落することを抑制できる。

【１２０８６】

さらに、化粧部材Ｊ１１８００のうち正面視において中央側の領域（固定部Ｊ９８２０から離間する側の領域）に配設される部位（凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間の領域の正面側に配設される部位）の幅および厚みが小さくされ、その部位の剛性を低くして弾性変形させやすくできるので、正面視において中央側の領域（凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａ

との間の領域）を通過する遊技球が正面部Ｊ１１８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）に当接した際には、その当接により化粧部材Ｊ１１８００に作用する力を正面部Ｊ１１８５０を弾性変形させることで吸収しやすくできる。その結果、固定部Ｊ９８２０又はベース板Ｊ９０６０側の雌ねじ部が破損することを抑制して、化粧部材Ｊ１１８００がベース板Ｊ９０６０から脱落することを抑制できる。

【１２０８７】

次いで、図６９８を参照して第１２９実施形態における化粧部材Ｊ１２８００について説明する。上記第１２６実施形態では、正面部Ｊ８５０が正面視三日月状に形成される場合について説明したが、第１２９実施形態では、正面部Ｊ１１８５０が正面視において先太りする湾曲形状に形成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。

【１２０８８】

図６９８（ａ）は、第１２９実施形態における遊技盤Ｊ１２０１３を部分的に拡大した部分拡大正面図であり、図６９８（ｂ）は、図６９８（ａ）のＮ１５ｂ－Ｎ１５ｂ線における遊技盤Ｊ１２０１３の断面図である。

【１２０８９】

図６９８に示すように、第１２９実施形態における遊技盤Ｊ１２０１３において、ベース板Ｊ９０６０に配設される化粧部材Ｊ１２８００は、遊技盤Ｊ１２０１３の最も正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、遊技盤Ｊ１２０１３の正面側の化粧となる（即ち、遊技領域に配設される）部位であり、正面側に凹凸からなる装飾を有する正面部Ｊ１２８５０を備え、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。また、化粧部材Ｊ１２８００は、ベース板Ｊ９０６０に形成される凸部Ｊ９０６０ａにより複数の流下経路が形成される領域の正面側に重なる位置に、窓部Ｊ１４ｅを介して視認可能とされる部位の正面部Ｊ１２８５０が配設されると共に、その背面側（正面部Ｊ１２８５０とベース板Ｊ９０６０との対向間）を遊技球が通過可能とされる。

【１２０９０】

第１２９実施形態における正面部Ｊ１２８５０は、正面視において遊技領域の外側（固定部Ｊ９８２０）に向かうに従って先細りする（遊技領域の中央側に向かうに従って先太りする）湾曲形状に形成されると共に、前後方向における厚みが遊技領域の外側に向かうに従って小さく（遊技領域の中央側に向かうに従って大きく）される。なお、正面部Ｊ１２８５０の前後方向における厚みの変化は背面側（矢印Ｂ方向側）を傾斜させることにより形成され、正面部Ｊ１２８５０とベース板Ｊ９０６０との対向間は、凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間の領域に比べて、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間の領域の方が広くされる。即ち、凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間の領域を流下する遊技球の方が、正面部Ｊ１１８５０の背面側に当接しやすくされる。

【１２０９１】

以上のように構成される第１２９実施形態の化粧部材Ｊ１２８００によれば、正面部Ｊ１２８５０とベース板Ｊ９０６０との対向間が、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間の領域に比べて、凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間の領域の方が狭くされるので、正面視において凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間を通過する遊技球を正面部Ｊ１２８５０の上面側または背面側（矢印Ｂ方向側）に当接させて、遊技球を一時的に停滞させやすくできる。

【１２０９２】

一方で、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間を通過する遊技球は、正面部Ｊ１２８５０に当接しにくくされるので、停滞することなく流下させやすくできる。

【１２０９３】

従って、第１２９実施形態における化粧部材Ｊ１２８００では、凸部Ｊ９０６０ａとセ

ンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間の領域、又は、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間の領域のどちらを遊技球が流下するかにより、その遊技球が正面部Ｊ１１８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）に当接するか否かの『ばらつき』を発生させ、その『ばらつき』により、遊技球の流下に不均一性を出すことができる。その結果、遊技領域を流下する遊技球に注目させやすくできる。

【１２０９４】

また、化粧部材Ｊ１２８００によれば、化粧部材Ｊ１２８００（正面部Ｊ１２８５０）のうち正面視において遊技領域の外側の領域（固定部Ｊ９８２０側の領域）に配設される部位（凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間の領域の正面側に配設される部位）の幅および厚みが小さくされるので、凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間の領域、又は、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間の領域を通過する遊技球が、正面部Ｊ１２８５０の上面側または背面側（矢印Ｂ方向側）に当接した際に、化粧部材Ｊ１２８００の正面部Ｊ１２８５０を固定部Ｊ９８２０に対して弾性変形させやすくできる。これにより、遊技球が正面部Ｊ１２８５０の上面側または背面側に当接した際の衝撃が、固定部Ｊ９８２０側まで伝わることを抑制できる。その結果、固定部Ｊ９８２０又はベース板Ｊ９０６０側の雌ねじ部が破損することを抑制して、化粧部材Ｊ１２８００がベース板Ｊ９０６０から脱落することを抑制できる。

【１２０９５】

次いで、図６９９を参照して第１３０実施形態における化粧部材Ｊ１３８００について説明する。上記第１１８実施形態では、被締結部Ｊ８１０が遊技領域の内側または外側に形成される場合について説明したが、第１３０実施形態では、被締結部Ｊ８１０が遊技領域の内側に形成される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。

【１２０９６】

図６９９（ａ）は、第１３０実施形態における遊技盤Ｊ１３０１３を部分的に拡大した部分拡大正面図であり、図６９９（ｂ）は、図６９９（ａ）のＮ１６ｂ－Ｎ１６ｂ線における遊技盤Ｊ１３０１３の断面図である。

【１２０９７】

図６９９に示すように、第１３０実施形態における遊技盤Ｊ１３０１３において、ベース板Ｊ９０６０に配設される化粧部材Ｊ１３８００は、遊技盤Ｊ１３０１３の最も正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、遊技盤Ｊ１３０１３の正面側の化粧となる（即ち、遊技領域に配設される）部位であり、正面側に凹凸からなる装飾を有する正面部Ｊ１３８５０を備え、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。また、化粧部材Ｊ１３８００は、ベース板Ｊ９０６０に形成される凸部Ｊ９０６０ａにより複数の流下経路が形成される領域の正面側に重なる位置に、窓部Ｊ１４ｅを介して視認可能とされる部位の正面部Ｊ１３８５０が配設されると共に、その背面側（正面部Ｊ１３８５０とベース板Ｊ９０６０との対向間）を遊技球が通過可能とされる。

【１２０９８】

第１３０実施形態における化粧部材Ｊ１３８００は、正面部Ｊ１３８５０が正面視において略三日月状の湾曲形状に形成されると共に、ベース板Ｊ９０６０に形成される凸部Ｊ９０６０ａと対応する位置において、正面部Ｊ１３８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）から突出され、その突出先端部に螺子ＮＪを螺入可能な雌ねじ部を有する被締結部Ｊ８１０を備える。

【１２０９９】

一方、ベース板Ｊ９０６０の凸部Ｊ９０６０ａは、背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出形成される被締結部Ｊ８１０を受け入れ可能に被締結部Ｊ８１０の外縁形状と略同一の内縁形状で凹設される凹部Ｊ１３０６０ａ１を備える。これにより、化粧部材Ｊ１３８００を遊技盤Ｊ１３０１３（ベース板Ｊ９０６０）の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設する際に、遊技盤Ｊ１３０１３（ベース板Ｊ９０６０）に対する位置決めをすることができる

。従って、化粧部材Ｊ１３８００を遊技盤Ｊ１３０１３（ベース板Ｊ９０６０）の正面側に配設する際の作業性を向上できる。また、遊技領域を流下する遊技球が正面部Ｊ１３８５０に衝突（当接）された際の荷重を被締結部Ｊ８１０及び凹部Ｊ１３０６０ａ１により受け止めることができ、被締結部Ｊ８１０の破損を抑制できる。

【１２１００】

また、凹部Ｊ１３０６０ａ１には、凹設底面に被締結部Ｊ８１０に螺入される螺子ＮＪの先端部（雄ネジ部）を挿通可能な貫通孔が開口される。これにより、遊技盤Ｊ１３０１３（ベース板Ｊ９０６０）の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置決めして配設された化粧部材Ｊ１３８００と、ベース板Ｊ９０６０とを螺子ＮＪにより締結固定できる。

【１２１０１】

以上のように構成される第１３０実施形態の遊技盤Ｊ１３０１３によれば、凸部Ｊ９０６０ａにより遊技領域の内側（凸部Ｊ９０６０ａ及びセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａの間の領域と、凸部Ｊ９０６０ａ及び区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３の間の領域との間の領域（正面視における凸部Ｊ９０６０ａの内側の領域））に遊技球が通過しない非遊技領域を形成できると共に、その遊技領域の内側に形成される非遊技領域を利用して化粧部材Ｊ１３８００をベース板Ｊ９０６０に締結固定することができるので、化粧部材Ｊ１３８００とベース板Ｊ９０６０とを固定する固定部が目立つことを抑制できる。

【１２１０２】

また、化粧部材Ｊ１３８００とベース板Ｊ９０６０とを固定する固定部を遊技球が通過しない非遊技領域に形成することができるので、流下領域を流下する遊技球が被締結部Ｊ８１０に直接当接することを抑制できる。その結果、被締結部Ｊ８１０が破損することを抑制して、化粧部材Ｊ１３８００がベース板Ｊ９０６０から脱落することを抑制できる。

【１２１０３】

次いで、図７００（ａ）を参照して第１３１実施形態における化粧部材Ｊ１４８００について説明する。上記第１３０実施形態では、化粧部材Ｊ１３８００とベース板Ｊ９０６０とが螺子ＮＪにより締結固定される場合について説明したが、第１３１実施形態では、化粧部材Ｊ１４８００とベース板Ｊ９０６０とが係止される場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。

【１２１０４】

図７００（ａ）は、第１３１実施形態における遊技盤Ｊ１４０１３の断面図である。なお、図７００（ａ）の断面は、図６９９（ａ）のＮ１６ｂ－Ｎ１６ｂ線における遊技盤Ｊ１３０１３の断面と対応する。

【１２１０５】

図７００（ａ）に示すように、第１３１実施形態における遊技盤Ｊ１４０１３において、ベース板Ｊ９０６０に配設される化粧部材Ｊ１４８００は、遊技盤Ｊ１４０１３の最も正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、遊技盤Ｊ１４０１３の正面側の化粧となる（即ち、遊技領域に配設される）部位であり、正面側に凹凸からなる装飾を有する正面部Ｊ１４８５０を備え、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。また、化粧部材Ｊ１４８００は、ベース板Ｊ９０６０に形成される凸部Ｊ９０６０ａにより複数の流下経路が形成される領域の正面側に重なる位置に、窓部Ｊ１４ｅを介して視認可能とされる部位の正面部Ｊ１４８５０が配設されると共に、その背面側（正面部Ｊ１３８５０と遊技盤との対向間）を遊技球が通過可能とされる。

【１２１０６】

第１３１実施形態における化粧部材Ｊ１４８００は、正面部Ｊ１４８５０が正面視において略三日月状の湾曲形状に形成されると共に、ベース板Ｊ９０６０に形成される凸部Ｊ９０６０ａと対応する位置において、正面部Ｊ１４８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）から突出される部位の突出部Ｊ１４８５１を備える。また、突出部Ｊ１４８５１には、突出先端部に鉤状に形成され所定の間隔を隔てて配設される一対の係合部Ｊ１４８５２ａが形成

される。
【１２１０７】
一方、ベース板Ｊ９０６０の凸部Ｊ９０６０ａは、背面側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出形成される突出部Ｊ１４８５１を受け入れ可能に突出部Ｊ１４８５１の外縁形状と略同一の内縁形状に凹設される部位の凹部Ｊ１３０６０ａ１を備える。これにより、化粧部材Ｊ１４８００を遊技盤Ｊ１４０１３（ベース板Ｊ９０６０）の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設する際に、遊技盤Ｊ１４０１３（ベース板Ｊ９０６０）に対する位置決めをすることができる。従って、化粧部材Ｊ１４８００を遊技盤Ｊ１４０１３（ベース板Ｊ９０６０）の正面側に配設する際の作業性を向上できる。また、遊技領域を流下する遊技球が正面部Ｊ１４８５０に衝突（当接）された際の荷重を突出部Ｊ１４８５１及び凹部Ｊ１３０６０ａ１により受け止めることができる。
【１２１０８】
また、凹部Ｊ１３０６０ａ１の凹設底面には、化粧部材Ｊ１４８００の突出部Ｊ１４８５１の先端部に形成される一対の係合部Ｊ１４８５２を挿通可能な貫通孔が開口される。この貫通孔に係合部Ｊ１４８５２を弾性変形させつつ挿入すると共に、係合部Ｊ１４８５２の鉤状部位をベース板Ｊ９０６０の背面に係合させることで、遊技盤Ｊ１４０１３（ベース板Ｊ９０６０）の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置決めして配設された化粧部材Ｊ１４８００と、ベース板Ｊ９０６０とを係合固定できる。
【１２１０９】
以上のように構成される第１３１実施形態の遊技盤Ｊ１４０１３によれば、凸部Ｊ９０６０ａにより遊技領域の内側（凸部Ｊ９０６０ａ及びセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａの間の領域と、凸部Ｊ９０６０ａ及び区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３の間の領域との間の領域（正面視における凸部Ｊ９０６０ａの内側の領域））に遊技球が通過しない非遊技領域を形成できると共に、その遊技領域の内側に形成される非遊技領域を利用して化粧部材Ｊ１４８００をベース板Ｊ９０６０に係合させて固定することができるので、化粧部材Ｊ１４８００とベース板Ｊ９０６０とを固定する固定部（係合部Ｊ１４８５２ａ）が目立つことを抑制できる。
【１２１１０】
また、化粧部材Ｊ１４８００とベース板Ｊ９０６０とを固定する固定部（係合部Ｊ１４８５２ａ）を遊技球が通過しない非遊技領域に形成することができるので、流下領域を流下する遊技球が突出部Ｊ１４８５１（係合部Ｊ１４８５２ａ）に直接当接することを抑制できる。その結果、係合部Ｊ１４８５２ａが破損することを抑制して、化粧部材Ｊ１４８００がベース板Ｊ９０６０から脱落することを抑制できる。
【１２１１１】
さらに、第１３１実施形態における化粧部材Ｊ１４８００では、凹部Ｊ１３０６０ａ１に受け入れられることで位置決めされる突出部Ｊ１４８５１に係合部Ｊ１４８５２ａが形成され、化粧部材Ｊ１４８００を遊技盤Ｊ１４０１３（ベース板Ｊ９０６０）の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置決めして配設する作業により、係合部Ｊ１４８５２ａをベース板Ｊ９０６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に係合（固定）させることができるので、その配設作業の後に、化粧部材Ｊ１４８００とベース板Ｊ９０６０とを固定する作業を不要とできる。その結果、化粧部材Ｊ１４８００を遊技盤Ｊ１４０１３（ベース板Ｊ９０６０）に配設する作業性を向上できる。
【１２１１２】
次いで、図７００（ｂ）を参照して第１３２実施形態における化粧部材Ｊ１５８００について説明する。上記第１２６実施形態では、化粧部材Ｊ９８００の正面部Ｊ８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）を遊技球が流下可能とする場合について説明したが、第１３２実施形態では、化粧部材Ｊ１５８００の正面部Ｊ１５８５０の正面側（矢印Ｆ方向側）を遊技球が流下可能とされる場合について説明する。なお、上記各実施形態と同一の部分については同一の符号を付してその詳しい説明を省略する。
【１２１１３】

図７００（ｂ）は、第１３２実施形態における遊技盤Ｊ１５０１３の断面図である。なお、図７００（ａ）の断面は、図６９３のＮ１３ａ－Ｎ１３ａ線における遊技盤Ｊ９０１３の断面と対応する。

【１２１１４】

図７００（ｂ）に示すように、第１３２実施形態における遊技盤Ｊ１５０１３において、ベース板Ｊ９０６０に配設される化粧部材Ｊ１５８００は、遊技盤Ｊ１５０１３の最も正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、遊技盤Ｊ１５０１３の正面側の化粧となる（即ち、遊技領域に配設される）部位であり、正面側に凹凸からなる装飾を有する正面部Ｊ１５８５０を備え、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。なお、第１３２実施形態における化粧部材Ｊ１５８００は、窓部Ｊ１４ｅを介して視認可能とされる部位の正面部Ｊ１５８５０の正面側を遊技球が通過可能に構成される。

【１２１１５】

従って、正面部Ｊ１５８５０の化粧面となる正面側（矢印Ｆ方向側）を遊技球が通過するので、通過する遊技球が化粧面に当接する為、その当接により化粧部材Ｊ１５８００の化粧面が摩耗しやすくなるものの、流下する遊技球を遊技者に目で追わせやすくできるので、遊技球が遊技盤Ｊ１５０１３に形成される入賞口Ｊ６３，Ｊ６４，Ｊ６５，Ｊ６６へ入球する態様を遊技者に視認させやすくできる。その結果、遊技者の興趣を高めやすくできる。

【１２１１６】

なお、この場合には、正面部Ｊ１５８５０の化粧面となる正面側（矢印Ｆ方向側）を遊技球が通過するので化粧部材Ｊ１５８００を光非透過性の樹脂材料から形成して、正面部Ｊ１５８５０の装飾を遊技者に視認させやすくしても良い。

【１２１１７】

また、化粧部材Ｊ１５８００の正面部Ｊ１５８５０は、遊技盤Ｊ１３の正面形状に沿った蛇腹状に形成され、背面側（矢印Ｂ方向側）から正面側（矢印Ｆ方向側）に向けて凹状に形成される空間に、遊技盤Ｊ１３の正面側に形成される凸部Ｊ９０６０ａ、区画壁Ｊ９０６０ｂ、正面側立設部Ｊ８６ａのそれぞれが挿入された状態で配設され、少なくとも凸部Ｊ９０６０ａ及び正面側立設部Ｊ８６ａが対向する面と、凸部Ｊ９０６０ａ及び区画壁Ｊ９０６０ｂが対向する面とに正面部Ｊ１５８５０の背面側（矢印Ｂ方向側）の一部が当接した状態で配設される。

【１２１１８】

さらに、正面部Ｊ１５８５０は、正面側（矢印Ｆ方向側）から背面側（矢印Ｂ方向側）に向けて凹状に形成される空間が遊技球を挿通可能な大きさに設定され、凸部Ｊ９０６０ａ及び正面側立設部Ｊ８６ａが対向する位置において正面部Ｊ１５８５０により形成される空間と、凸部Ｊ９０６０ａ及び区画壁Ｊ９０６０ｂが対向する位置において正面部Ｊ１５８５０により形成される空間とに遊技領域を流下する遊技球を通過させることができる。これにより、凸部Ｊ９０６０ａ及び正面側立設部Ｊ８６ａが対向する面と、凸部Ｊ９０６０ａ及び区画壁Ｊ９０６０ｂが対向する面との間に配設される正面部Ｊ１５８５０の正面側を遊技球が通過可能とされる。

【１２１１９】

なお、化粧部材Ｊ１５８００の固定部Ｊ９８２０は、正面部Ｊ１５８５０よりも外側に形成され、少なくとも固定部Ｊ９８２０に挿通される螺子ＮＪが、正面枠Ｊ１４のガラスユニットＪ１６を介して視認可能とされる視認可能領域（窓部Ｊ１４ｅ（上側装飾ユニットＪ１４ａと左側装飾ユニットＪ１４ｂと右側装飾ユニットＪ１４ｃと上下皿ユニットＪ１５とにより囲まれた領域））の外側に配設される。これにより、化粧部材Ｊ１５８００を配設するための螺子ＮＪが遊技者に視認されることを正面枠Ｊ１４により抑制できるので、遊技者の興趣が低下することを抑制できる。

【１２１２０】

また、固定部Ｊ９８２０は、正面視において正面部Ｊ１５８５０の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）及び左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における寸法よりも小さい外形に形成される。

これにより、固定部Ｊ９８２０を視認領域外に配設するために、窓部Ｊ１４ｅによる視認可能範囲を小さくする必要が無くなると共に、固定部Ｊ９８２０を備える化粧部材Ｊ１５８００を製造する際の製造コストを抑えることができる。

【１２１２１】

さらに、化粧部材Ｊ１５８００をベース板Ｊ９０６０に締結固定するために螺子を挿通する固定部Ｊ９８２０が遊技領域の外側に形成され、凸部Ｊ９０６０ａ及び正面側立設部Ｊ８６ａが対向する面と、凸部Ｊ９０６０ａ及び区画壁Ｊ９０６０ｂが対向する面との間に配設される正面部Ｊ１５８５０の正面側（矢印Ｆ方向側）を流下する遊技球が、螺子ＮＪを締結するための固定部Ｊ９８２０に直接当接することを抑制できる。その結果、固定部Ｊ９８２０又はベース板Ｊ９０６０側の雌ねじ部が破損することを抑制して、化粧部材Ｊ１５８００がベース板Ｊ９０６０から脱落することを抑制できる。

【１２１２２】

また、化粧部材Ｊ１５８００は、正面部Ｊ１５８５０が凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂの正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に配設され、正面部Ｊ１５８５０の正面側を流下する遊技球が正面部Ｊ１５８５０の正面側に当接可能（即ち、正面部Ｊ１５８５０の正面が遊技球の流下方向と平行に配設される）とされ、正面部Ｊ１５８５０の正面に当接する遊技球の衝撃が、正面部Ｊ１５８５０を背面側（矢印Ｂ方向側）に折り曲げる方向、即ち、固定部Ｊ９８２０を挿通して螺子止めした螺子ＮＪを引き出す又は螺子ＮＪを傾斜させる方向に作用するので、螺子ＮＪを軸回りに回転させる（緩ませる）方向の力が化粧部材Ｊ１５８００に作用することを抑制できる。その結果、螺子ＮＪが脱落して、化粧部材Ｊ１５８００がベース板Ｊ９０６０から脱落することを抑制できる。

【１２１２３】

以上のように構成される第１３２実施形態に遊技盤Ｊ１５０１３によれば、遊技盤Ｊ１５０１３の正面側（矢印Ｆ方向側）において遊技球の流路の一部を構成する正面部Ｊ１５８５０に背面側（矢印Ｂ方向側）の凸部Ｊ９０６０ａ、区画壁Ｊ９０６０ｂ、正面側立設部Ｊ８６ａが当接した状態とされるので、凸部Ｊ９０６０ａ及び区画壁Ｊ９０６０ｂが対向する面との間に配設される正面部Ｊ１５８５０の正面側を流下する遊技球が、凸部Ｊ９０６０ａ及び区画壁Ｊ９０６０ｂに沿って配設される領域の正面部Ｊ１５８５０に衝突した際に、その領域の正面部Ｊ１５８５０が傾倒することを抑制できる。その結果、遊技球の流下を安定させることができる。

【１２１２４】

また、上記したように、凸部Ｊ９０６０ａ及び区画壁Ｊ９０６０ｂに沿って配設される領域の正面部Ｊ１５８５０が傾倒することを抑制できるので、固定部Ｊ９８２０を挿通してベース板Ｊ９０６０に締結される螺子ＮＪを軸回りに回転させる（緩ませる）方向の力が化粧部材Ｊ１５８００に作用することを抑制しやすくできる。その結果、螺子ＮＪが脱落して、化粧部材Ｊ１５８００がベース板Ｊ９０６０から脱落することを抑制できる。

【１２１２５】

また、第１３２実施形態では、化粧部材Ｊ１５８００を遊技盤Ｊ１５０１３（ベース板Ｊ９０６０）の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設する際に、遊技盤Ｊ１５０１３の凸部Ｊ９０６０ａ、区画壁Ｊ９０６０ｂ、正面側立設部Ｊ８６ａを蛇腹状に形成される正面部Ｊ１５８５０の間の空間に受け入れることで、遊技盤Ｊ１５０１３（ベース板Ｊ９０６０）に対する化粧部材Ｊ１５８００の位置決めをすることができる。その結果、化粧部材Ｊ１５８００を遊技盤Ｊ１５０１３（ベース板Ｊ９０６０）に配設する作業性を向上できる。

【１２１２６】

以上、上記実施形態に基づき本発明を説明したが、本発明は上記形態に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲内で種々の変形改良が可能であることは容易に推察できるものである。

【１２１２７】

上記各実施形態において、一の実施形態における構成の一部または全部を、他の実施形態における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の実施形態

としても良い。以下に示す変形例（別実施形態）においても同様であり、一の変形例における構成の一部または全部を、他の変形例における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の変形例としても良い。以下に示す変形例の適用対象となる実施形態は任意であり、いずれの変形例（変形例の組み合わせ又は置き換え）をいずれの実施形態に適用しても良い。

【１２１２８】

上記第１１８実施形態から第１２５実施形態では、可変入賞役物Ｊ６５ａが光透過性の樹脂材料から形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、可変入賞役物Ｊ６５ａを光非透過性の樹脂材料から形成しても、アルミ等の金属製の材料から形成しても良い。

【１２１２９】

上記第１１８実施形態から第１２２実施形態、及び、第１２５実施形態では、第２入賞口Ｊ６６の上方側に第１入賞口Ｊ６４が配設され、一対の羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１が閉鎖状態とされた場合に、一対の羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１の対向間の上方側に配設される受取部Ｊ６４ａにより、一対の羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１の対向間の上方側から一対の羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１の対向間に遊技球が流入することを抑制できる（第１入賞口Ｊ６４に入球させる）場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、第２入賞口Ｊ６６の上方側に背面ベース部材Ｊ６１０の正面側に突出する突部を形成して、その凸部により閉鎖状態における一対の羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１の対向間に遊技球が入球しないようにしても良い。

【１２１３０】

また、第２入賞口Ｊ６６の上方側に配設される第１入賞口Ｊ６４及び受取部Ｊ６４ａを非形成として、閉鎖状態における一対の羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１の対向間の上方側から一対の羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１の対向間に遊技球が流入するようにしても良い。この場合には、一対の羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１を閉鎖状態とした場合に、第２入賞口Ｊ６６に遊技球が入球する可能性を残すことができる。

【１２１３１】

上記第１１８実施形態から第１２５実施形態では、可変入賞役物Ｊ６５ａが開放状態とされた場合には、可変入賞役物Ｊ６５ａの本体部Ｊ７２１の上面側の傾斜により、特定入賞口Ｊ６５の正面側に送球される遊技球を特定入賞口Ｊ６５にスムーズに入球させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【１２１３２】

例えば、開放状態において、可変入賞役物Ｊ６５ａの本体部Ｊ７２１の上面側を水平に維持し、本体部Ｊ７２１の上面側に送球される遊技球（特定入賞口Ｊ６５の正面側に送球される遊技球）が、その上流側の前後方向の暴れの態様により、特定入賞口Ｊ６５に偶然入球されるようにして、可変入賞役物Ｊ６５ａに送球される遊技球に着目させやすくしても良い。

【１２１３３】

また、可変入賞役物Ｊ６５ａを非形成として、特定入賞口Ｊ６５の正面側に送球される遊技球が、その上流側の前後方向の暴れの態様により、特定入賞口Ｊ６５に偶然入球されるようにしても良い。

【１２１３４】

この場合、特定入賞口Ｊ６５の上流側に配設される羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１に、特定入賞口Ｊ６５への遊技球の送球を案内する案内部を形成して、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１が閉鎖状態とされる際に、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１に拾わ

れた球が、案内部によって特定入賞口Ｊ６５に入球するようにしても良い。これによれば、閉鎖状態とされる羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１に遊技球が拾われることによる特典を大きくできるので、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１の変位を遊技者が注目しやすくなり、遊技者の興趣を高めやすくできる。

【１２１３５】

上記第１１８実施形態から第１２５実施形態では、ソレノイドＪ５６０の本体部Ｊ５６１に対して軸部Ｊ５６２を張り出すことで羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１を閉鎖状態とし、ソレノイドＪ５６０の本体部Ｊ５６１に対して軸部Ｊ５６２を引き込むことで、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１を開放状態とする場合について説明したが必ずしもこれに限られるものではなく、ソレノイドＪ５６０の本体部Ｊ５６１に対して軸部Ｊ５６２を張り出すことで羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１を開放状態とし、ソレノイドＪ５６０の本体部Ｊ５６１に対して軸部Ｊ５６２を引き込むことで、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１を閉鎖状態としても良い。

【１２１３６】

また、上記第１１８実施形態から上記第１２５実施形態では、ソレノイドＪ５６０の動作力（本体部Ｊ５６１に電力を付与して（本体部Ｊ５６１を励磁させて）軸部Ｊ５６２を本体部Ｊ５６１の内側に引き込む力、又は、軸部Ｊ５６２の周囲に配設したバネにより軸部Ｊ５６２を本体部Ｊ５６１に対して張り出させる力）により、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１を変位させる場合について説明したが、その動作力をモータに変更して開放状態と閉鎖状態との間の位置でも羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１を停止可能とする、又は、ソレノイドやモータなどの駆動力を発生させる手段を備えず遊技球の重さを受けることにより羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１が動作するように構成して開放状態および閉鎖状態との間を普遍的に羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１が動作するようにしても良い。これらの場合には、羽部材Ｊ６７１に当接する遊技球の流下態様を複数形成しやすくできるので、遊技者の興趣を高めやすくできる。また、遊技球を部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１に当接させせるものではなく、他の変位手段を当接させることにより羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１を動作させるものであっても良い。この場合には、他の変位手段に合わせて羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１を動作させることができるので、その動作タイミングを制御しやすくできる。

【１２１３７】

上記第１１８実施形態から第１２２実施形態および第１２５実施形態では、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１が突出部Ｊ６７１ｄ，Ｊ３６７１ｄを備える場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、突出部Ｊ６７１ｄ，Ｊ３６７１ｄを非形成として、電動役物Ｊ７０，Ｊ２０７０，Ｊ３０７０，Ｊ４０７０，Ｊ５０７０を閉鎖状態とした場合に、第２入賞口Ｊ６６に遊技球が入球する可能性を残すことができるものであっても良い。

【１２１３８】

上記第１１８実施形態から第１２２実施形態および第１２５実施形態では、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１に備えた突出部Ｊ６７１ｄ，Ｊ３６７１ｄにより、閉鎖状態において第２入賞口Ｊ６６に遊技球が流入することを抑制する場合荷ついて説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、羽部材Ｊ６７１，Ｊ

２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１を閉鎖状態とした場合に第２入賞口Ｊ６６を閉鎖できるものであれば何でも良い。

【１２１３９】

例えば、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１の変位に連動（当接）して変位可能とされ、第２入賞口Ｊ６６の正面側に重なる位置と重ならない位置との間で変位する変位部材を遊技盤Ｊ１３（ベース板Ｊ６０）に配設すると共に、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１を開放状態とする場合に変位部材が第２入賞口Ｊ６６の正面側に重ならない位置に変位されると共に、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１を閉鎖状態とする場合に変位部材が第２入賞口Ｊ６６の正面側に重なる位置に変位されることで、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１を閉鎖状態とした場合に第２入賞口Ｊ６６に遊技球が入球することを抑制するものであっても良い。

【１２１４０】

上記第１１８実施形態から第１２５実施形態では、開放状態における羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１の左右方向外側に遊技球の直径よりも大きい空間が形成され、開放状態における羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１の左右方向外側から遊技球が下方に流下可能に形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１が開放状態とされる際に、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１の上流側を流下する遊技球が全て羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１に拾われるように、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１の左右方向外側の空間を遊技球の直径よりも小さくしても良い。

【１２１４１】

この場合には、開放状態に維持される羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１の上流側の遊技領域を流下する全ての遊技球を羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１に受け取られせて第２入賞口Ｊ６６に入球させることができるので、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１が開放状態において、その下流に配設されるアウト口Ｊ７１に遊技球が流下することを抑制できるので、遊技球の入球に伴う賞球が無いアウト口Ｊ７１に遊技球が入球することを抑制できる。その結果、遊技者にとって有利な状態とできるので、遊技者の興趣を高めやすくできる。

【１２１４２】

また、開放状態に維持される羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１の上流側の遊技領域を流下する全ての遊技球を羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１に受け取られせて第２入賞口Ｊ６６に入球させることができるので、特定入賞口Ｊ６５が開放される特別遊技状態において、スルーゲートＪ６７を遊技球が通過することで行われる第２図柄の変動表示が「〇」となり、瞬間的に開放状態とされる羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１に遊技球が拾われて、特定入賞口Ｊ６５に遊技球が送球される態様を作りやすくできる。その結果、特定入賞口Ｊ６５への遊技球の複数の入球態様（入球可能な経路）を遊技者に見せやすくできるので、遊技者の興趣を高めることができる。

【１２１４３】

上記第１１８実施形態から第１２５実施形態では、第２入賞口Ｊ６６と、その第２入賞口Ｊ６６の下流側に配設される特定入賞口Ｊ６５とを開放する開放動作がそれぞれ別の駆動源によって制御され、それぞれの開放動作が連動しない場合について説明したが、羽部

材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１の開放に伴って、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１の一部、又は、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１に連動する変位部材によって、特定入賞口Ｊ６５の入球口を塞ぐようにしても良い。

【１２１４４】

上記第１１８実施形態から第１２３実施形態、及び、第１２５実施形態では、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１の回転軸Ｊ６７２の軸方向を前後方向に向けて配設する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【１２１４５】

例えば、回転軸Ｊ６７２を左右方向に向けて配設し、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１が前後方向に回転変位するように構成しても良い。この場合には、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１が左右方向に回転変位しない分、正面視における羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１の配設に必要なスペースを小さくできる。よって、その分、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１の下方側に配設される特定入賞口Ｊ６５の左右方向における配設範囲を小さくできる。

【１２１４６】

上記第１１８実施形態から第１２３実施形態では、羽部材Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１の転動面Ｊ６７１ａ，Ｊ２６７１ａ，Ｊ３６７１ａと、底壁形成部Ｊ６７１ｅとの間に段差を形成する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、底壁形成部Ｊ６７１ｅを転動面Ｊ６７１ａ，Ｊ２６７１ａ，Ｊ３６７１ａと一続きの（段差のない）転動面として形成しても良い。

【１２１４７】

上記第１１９実施形態では、開放状態から閉鎖状態とするタイミングで転動面Ｊ２６７１ａを転動する遊技球を、転動面Ｊ２６７１ａの底壁形成部Ｊ６７１ｅ側の端部以外、即ち、開口部Ｊ２６７１ｆからも流下させる場合について説明したが必ずしもこれに限られるものではなく、転動面Ｊ２６７１ａの途中位置から遊技球を落下可能とされる構造であれば他の構成であっても良い。

【１２１４８】

例えば、化粧側ユニットＪ６００の正面ベース部材Ｊ６２０と一対の羽部材Ｊ６７１との前後方向における対向間の距離を遊技球の直径よりも大きく設定して、開放状態における一対の羽部材Ｊ６７１の正面側から遊技球が流下可能としても良い。なお、この場合には、一対の羽部材Ｊ６７１が開放状態に維持されたとしても、転動面Ｊ６７１ａを転動する遊技球が羽部材Ｊ６７１の正面側から落下する恐れがあるものの、羽部材Ｊ６７１の正面側から流下する遊技球の流下位置が限定されることを抑制できるので、電動役物Ｊ７０を閉鎖状態とした場合における遊技球の流下のバリエーションを増やして、電動役物Ｊ７０（一対の羽部材Ｊ６７１）の動作に着目させやすくできる。

【１２１４９】

上記第１１９実施形態では、羽部材Ｊ２６７１の１箇所に開口部Ｊ２６７１ｆを形成する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、羽部材Ｊ２６７１の２箇所以上に開口部Ｊ２６７１ｆを形成しても良い。また、開口部Ｊ２６７１ｆは、一対の羽部材Ｊ２６７１のそれぞれに対称となる位置に形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでは、一方側の羽部材Ｊ２６７１に形成される開口部Ｊ２６７１ｆと、他方側の羽部材Ｊ２６７１に形成される開口部Ｊ２６７１ｆとが非対称となる一に形成されるものであっても良い。

【１２１５０】

上記第１２０実施形態では、一対の羽部材Ｊ３６７１の左右方向内側における転動面Ｊ３６７１ａの前後方向の幅が、一対の羽部材Ｊ３６７１の左右方向外側における転動面Ｊ

３６７１ａの前後方向の幅よりも小さくされる、即ち、転動面Ｊ３６７１ａの前後方向の幅が第２入賞口Ｊ６６に向かって狭くされる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、転動面Ｊ３６７１ａの前後方向の幅が第２入賞口Ｊ６６に向かって広くされても良い。

【１２１５１】

この場合には、転動面Ｊ３６７１ａの前後方向における幅が下流側に向かって広くされる分、転動面Ｊ３６７１ａを転動する遊技球が第２入賞口Ｊ６６に向かうほど前後方向に暴れやすくなるものの、この前後方向の暴れを利用して、第２入賞口Ｊ６６の正面側に開口する孔から遊技球を排出することで、遊技球の流下に不均一性を持たせるようにしても良い。この場合には、転動面Ｊ３６７１ａを転動する遊技球に注目させやすくできる。

【１２１５２】

また、転動面Ｊ３６７１ａの前後方向における幅を均一に形成しても良い。この場合には、第１２０実施形態における羽部材Ｊ３６７１のように、転動面Ｊ３６７１ａの前後方向の幅を減少させることによる遊技球の所定位置への案内ができなくなるものの、羽部材Ｊ３６７１の前後方向の厚みを均一にできるので、羽部材Ｊ３６７１の成形性を確保できる。

【１２１５３】

上記第１２０実施形態では、一対の羽部材Ｊ３６７１の転動面Ｊ３６７１ａの前後方向における幅を、突出部Ｊ３６７１ｄにより開放状態において左右方向の両端で異ならせる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、一対の羽部材Ｊ３６７１の前後に配設され、一対の羽部材Ｊ３６７１を軸支する背面ベース部材Ｊ６１０又は正面ベース部材Ｊ６２０の前後方向の厚みを左右の位置で変更、若しくは、背面ベース部材Ｊ６１０又は正面ベース部材Ｊ６２０の対向する壁面を傾斜させ、背面ベース部材Ｊ６１０及び正面ベース部材Ｊ６２０の対向間の間隔を左右の位置で異ならせることで、一対の羽部材Ｊ３６７１を実質的に転動可能な転動面の幅を開放状態において左右方向の両端で異ならせても良い。

【１２１５４】

この場合も、第１２０実施形態における一対の羽部材Ｊ３６７１と同様に、転動面Ｊ３６７１ａを第２入賞口Ｊ６６に向かって流下する遊技球を所定の転動位置に向けて流下させやすくできる。従って、一対の羽部材Ｊ３６７１から第２入賞口Ｊ６６の底壁となる底壁形成部Ｊ６７１ｅに流下した遊技球を第２入賞口Ｊ６６に入球させやすくできる。

【１２１５５】

また、上記第１２０実施形態では、一対の羽部材Ｊ３６７１の突出部Ｊ３６７１ｄを、転動面Ｊ３６７１ａの背面側の縁部の全域に亘って形成する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、例えば、転動面Ｊ３６７１ａの背面側の縁部の途中位置（例えば、転動面Ｊ３６７１ａの背面側の縁部の中間位置）から転動面Ｊ３６７１ａの中央側端部まで延設して形成するものであっても良い。これによれば、転動面Ｊ３６７１ａの突出部Ｊ３６７１ｄが形成されない領域の転動面Ｊ３６７１ａの範囲を、突出部Ｊ３６７１ｄが形成される領域の転動面Ｊ３６７１ａの範囲に比べて大きくできるので、一対の羽部材Ｊ３６７１を開放状態とした場合に、転動面Ｊ３６７１ａの突出部Ｊ３６７１ｄが形成されない先端側（回転軸Ｊ６７２から離間する側）に遊技領域を流下する遊技球を拾わせやすくできる。

【１２１５６】

一方で、転動面Ｊ３６７１ａの突出部Ｊ３６７１ｄが形成される基端側（回転軸Ｊ６７２に近接する側）の転動面Ｊ３６７１ｅの前後方向の幅の変化により、転動面Ｊ３６７１ａを流下する遊技球を所定の転動位置に向けて流下させやすくできる。従って、一対の羽部材Ｊ３６７１から第２入賞口Ｊ６６の底壁となる底壁形成部Ｊ６７１ｅに流下した遊技球を第２入賞口Ｊ６６に入球させやすくできる。

【１２１５７】

上記第１２１実施形態では、一対の羽部材Ｊ４６７１の外側面Ｊ４６７１ｂを回転軸に

対して傾斜させて、外側面Ｊ４６７１ｂに当接した遊技球を化粧側ユニットＪ４６００の背面ベース部材Ｊ６１０に沿って流下させる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、正面ベース部材Ｊ６２０の（正面視において一対の羽部材Ｊ４６７１の変位する領域の）背面側を遊技盤Ｊ１３の正面に対して傾斜させて、その正面ベース部材Ｊ６２０の背面側に羽部材Ｊ４６７１の外側面Ｊ４６７１ｂに当接した遊技球を当接させることで、羽部材Ｊ４６７１の外側面Ｊ４６７１ｂに当接して跳ね飛ばされる遊技球を化粧側ユニットＪ４６００の背面ベース部材Ｊ６１０に沿って流下させても良い。

【１２１５８】

この場合も、第１２１実施形態における電動役物Ｊ４０７０（一対の羽部材Ｊ４６７１）と同様に、外側面Ｊ４６７１ｂに当接した遊技球を化粧側ユニットＪ４６００の背面ベース部材Ｊ６１０に沿って流下させて、遊技球が所定の領域外（特定入賞口Ｊ６５の外側）まで跳ね飛んでしまうことを抑制できると共に、開放状態の特定入賞口Ｊ６５の開放面（化粧側ユニットＪ４６００の背面ベース部材Ｊ６１０側）に遊技球を近づけて、遊技球を特定入賞口Ｊ６５に受け入れやすく（入球させやすく）できる。

【１２１５９】

上記第１２１実施形態では、開放状態における１の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａの上方側から流下する遊技球が転動面Ｊ６７１ａに受け取られる、即ち、羽部材Ｊ６７１の上流側の経路が上下方向に延設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、開放状態の１の羽部材Ｊ６７１の転動面Ｊ６７１ａと隣り合う位置に左右方向に延設される壁部や送球経路を配設して、開放状態における１の羽部材Ｊ６７１の左右方向外側から流下する遊技球が転動面Ｊ６７１ａに受け取られるように構成しても良い。この場合、遊技球が転動面Ｊ６７１ａに受け取られた場合に、遊技球から羽部材Ｊ６７１に係る上下方向の荷重を少なくできるので、羽部材Ｊ６７１の底壁形成部Ｊ６７１ｅに加わる上下方向の力が大きくなり、羽部材Ｊ６７１が遊技球から加えられる力で閉鎖状態に変位しようとすることを抑制できる。

【１２１６０】

また、遊技球が左右方向に転動する経路を形成することで、その分、上下方向に延びる経路を少なくして、経路の形成に必要な上下方向の寸法を小さくできる。その結果、遊技盤Ｊ１３が上下方向に大きくなることを抑制できる。

【１２１６１】

上記第１２６実施形態では、化粧部材Ｊ９８００の正面部Ｊ９８５０の背面側に弾性体Ｊ９８３０を備えず、凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間、及び、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間を流下する遊技球が化粧部材Ｊ９８００の正面部Ｊ９８５０に直接当接させて、遊技球の流下速度への影響を少なくする（即ち、正面部Ｊ９８５０の背面側を平坦面に形成する）場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、正面部Ｊ９８５０の背面側に遊技球の流下方向と交差する方向に延設される突起や溝を形成して、正面部Ｊ９８５０の背面側（突起）に当接する遊技球の流下速度を遅くするものであっても良く、又は、正面部Ｊ９８５０の背面側に遊技球の流下方向に沿って延設される突起や溝を形成して、正面部Ｊ９８５０の背面側（突起）に当接する遊技球の流下方向を変更するものであっても良い。

【１２１６２】

また、上記第１２６実施形態では、化粧部材Ｊ９８００の正面部Ｊ９８５０の背面側に弾性体Ｊ９８３０を備えない場合に、正面部Ｊ９８５０の背面側の形状を遊技球の直径よりも大きい湾曲状に凹設する場合について説明したが、凹設部分を遊技球の流下方向に延設しても良いし、凹設部分を部分的（即ち、球状）にしても良い。なお、球状にした場合には、遊技球が当接する際の当接面を増やすことができるので、遊技球が正面部Ｊ９８５０の背面側に当接した際の衝撃を分散させやすくできる。

【１２１６３】

また、化粧部材Ｊ９８００の正面部Ｊ９８５０の背面側に弾性体Ｊ９８３０を備えない場合には、正面部Ｊ９８５０の背面側の形状を湾曲状に突設させても良い。この場合には、遊技球が当接した際の衝撃をその湾曲の接線方向に分散しやすくできるので、正面部Ｊ９８５０の破損を抑制できる。

【１２１６４】

上記第１２６実施形態では、弾性体Ｊ９８３０を正面部Ｊ９８５０の背面側に配設する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、正面部Ｊ９８５０の上端を覆設する態様、即ち、正面部Ｊ９８５０の上端側および背面側に亘って弾性体Ｊ９８３０を配設しても良い。この場合、正面部Ｊ９８５０の上端側に弾性体Ｊ９８３０の一部が係合した（引っ掛かりがある）状態とできるので、凸部Ｊ９０６０ａとセンターフレームＪ９０８６の正面側立設部Ｊ８６ａとの間、及び、凸部Ｊ９０６０ａと区画壁Ｊ９０６０ｂ又は外縁部材Ｊ７３との間を流下する遊技球が弾性体Ｊ９８３０に当接して、弾性体Ｊ９８３０が下方に引っ張られたとしても、弾性体Ｊ９８３０が正面部Ｊ９８５０から脱落することを抑制できる。

【１２１６５】

また、正面部Ｊ９８５０の上方側に弾性体Ｊ９８３０の一部が突出され、その弾性体Ｊ９８３０の少なくとも一部が正面側から直接視認可能とされるので、弾性体Ｊ９８３０が正面部Ｊ９８５０に配設されているか（脱落していないか）を確認しやすくできる。

【１２１６６】

上記第１１８実施形態、及び、第１２６実施形態から第１３１実施形態では、化粧部材Ｊ８００，Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００の正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０の背面側に所定の隙間が形成される場合について説明したが、背面側にセンターフレームＪ８６及びベース板Ｊ９０６０の一部が当接した状態で配設して、背面側を流下する遊技球が当接した際に正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０をセンターフレームＪ８６又はベース板Ｊ９０６０に支持させて、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０の一時的な変形を抑えるようにして、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０の視認性を向上しても良い。

【１２１６７】

なお、この場合には、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０の正面側への変形は拘束されていない、即ち、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０の正面側には他の部材が非当接とされ正面側に空間が形成されるので、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０の背面側を流下する遊技球が、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０に当接した際に、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０がセンターフレームＪ８６又はベース板Ｊ９０６０に当接されていない正面側へ一度変形可能となる。

【１２１６８】

これにより、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０に遊技球が当接することによる正面部Ｊ８５０の破損を抑制すると共に、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０の一時的な変形を抑えて正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０の視認性を向上できる。

【１２１６９】

上記第１１８実施形態、及び、第１２６実施形態から第１３２実施形態では、化粧部材Ｊ８００，Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００の正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５

０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０と、被締結部Ｊ８１０及び固定部Ｊ９８２０とが一体の樹脂材料から形成され、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０に遊技球が当接することによる応力が一部に周出することを抑制する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０を（弾性）変形しやすい又は変形しにくい材料から形成し、被締結部Ｊ８１０及び固定部Ｊ９８２０を螺子ＮＪの締結による内部応力で破損しないように剛性の高い材料から形成する、即ち、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０と、被締結部Ｊ８１０及び固定部Ｊ９８２０とをそれぞれに必要な変形性に適した別材料から形成して連結しても良い。

【１２１７０】

また、上記第１１８実施形態、及び、第１２６実施形態から第１３２実施形態では、化粧部材Ｊ８００，Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００が、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０と、被締結部Ｊ８１０又は固定部Ｊ９８２０とから形成される場合について形成したが、必ずしもこれに限られるものではなく、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０、若しくは、被締結部Ｊ８１０又は固定部Ｊ９８２０に、別の部材（例えば、破損防止を目的とした金属材料や装飾を目的としたシール部材）を更に備える構造としても良い。

【１２１７１】

上記第１２６実施形態から第１３２実施形態では、化粧部材Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００が板状に形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない、例えば、化粧部材Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００の正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０と固定部Ｊ９８２０とを略箱状（即ち、内部に空間を有する形状）に形成して、その剛性を高め、化粧部材Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００の破損を防止するものであっても良い。

【１２１７２】

なお、この場合には、内部に空間を有する形状することで、中実状に形成される場合に比べて、化粧部材Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００を成形した際の成形収縮による影響を少なくできるので、その成形性を確保できる。また、この場合には、成形性を確保するために、箱状に形成される化粧部材Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００の各壁部の厚みを一定にすることが好ましい。

【１２１７３】

また、この場合には、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０と固定部Ｊ９８２０とを略箱状（即ち、内部に空間を有する形状）に形成した内部に遊技球が通過可能に構成することで、遊技球が正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０の正面よりも背面側であって、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０の背面よりも正面側を通過可能とされる。これによれば、化粧面となる正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０が遊技球との当接により摩耗することを抑制できると共に、背面側の剛性を確保することができる。

【１２１７４】

上記第１１８実施形態、及び、第１２６実施形態から第１３２実施形態では、化粧部材

Ｊ８００，Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００の正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０が、正面視において三日月状、先細り形状、又は、先太り形状に形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０を一端側から他端側に亘って一定の幅で形成される矩形状、又は、湾曲状に形成して、その成形性を確保しても良い。

【１２１７５】

また、一端側から他端側にかけて幅の広い部分と、幅の狭い部分とを交互に現出させて、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０に遊技球が当接した際に幅の狭い部分にその応力が集中するように、即ち、遊技球が当接した際に変形しやすい箇所を形成しても良い。この場合には、遊技球が当接した際の変形箇所を特定しやすくできるので、その変形の変形量を限定することで正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０の破損を防止することができる。そのため、遊技球が当接した際における正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０の破損を防止しやすくできる。

【１２１７６】

上記第１１９実施形態から第１３２実施形態では、正面視において正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０の上下方向および左右方向における寸法よりも小さい外形に固定部Ｊ９８２０が形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、正面視において正面部Ｊ８５０の上下方向および左右方向における寸法よりも大きい外形に固定部Ｊ９８２０を形成すると共に、その固定部Ｊ９８２０の大半（半分以上）を窓部Ｊ１４ｅによる視認可能範囲の外側に配設する構成としても良い。この場合には、固定部Ｊ９８２０を挿通する螺子ＮＪの締結箇所を増加させる、又は、離間させることができるので、化粧部材Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００をベース板Ｊ９０６０に締結するための締結力を確保しやすくできる。

【１２１７７】

上記第１１８実施形態、及び、第１２６実施形態から第１３２実施形態では、センターフレームＪ８６の正面側立設部Ｊ８６ａと、センターフレームＪ８６の凸部Ｊ８６ｃ２及び凸部Ｊ８６ｃ２、又は、ベース板Ｊ９０６０の凸部Ｊ９０６０ａ及び区画壁Ｊ９０６０ｂにより、遊技領域の上方に打ち出された遊技球を下方に向けて案内する経路として形成する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、遊技領域の上方に打ち出された遊技球を右側（被締結部Ｊ８１０、又は、固定部Ｊ９８２０側）に向けて案内する経路として形成しても良い。

【１２１７８】

この場合には、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０に遊技球が当接することにより、化粧部材Ｊ８００，Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００を締結固定する螺子ＮＪを軸回りに回転させる（緩ませる）方向の力が化粧部材Ｊ８００，Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００に作用することを抑制できる。その結果、螺子ＮＪが脱落して、化粧部材Ｊ８００，Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００がセンターフレームＪ８６又はベース板Ｊ９０６０から脱落することを抑制できる。

【１２１７９】

上記第１１８実施形態、及び、第１２６実施形態から第１３２実施形態では、センターフレームＪ８６の正面側立設部Ｊ８６ａと、センターフレームＪ８６の凸部Ｊ８６ｃ２及び凸部Ｊ８６ｃ２、又は、ベース板Ｊ９０６０の凸部Ｊ９０６０ａ及び区画壁Ｊ９０６０

ｂにより、遊技領域の上方に打ち出された遊技球を所定の流下方向に向けて案内する壁部が形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、センターフレームＪ８６の凸部Ｊ８６ｃ２及び凸部Ｊ８６ｃ２、又は、ベース板Ｊ９０６０の凸部Ｊ９０６０ａ及び区画壁Ｊ９０６０ｂを非形成として、遊技領域の上方に打ち出された遊技球が比較的自由な方向に流下可能に構成されるものであっても良い。

【１２１８０】

この場合には、遊技領域の上方に打ち出された遊技領域の流下経路（態様）が限定されなくなり、複数の流下経路（態様）を形成できるので、遊技者に遊技球を目で追わせにくくできる。その結果、遊技者に遊技領域の上方に打ち出された遊技球が流下する領域を注目させやすくできる。

【１２１８１】

また、遊技領域の上方に打ち出された遊技領域の流下経路（態様）を複数形態できるので、下流側に配設される化粧部材Ｊ８００，Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００への遊技球の当接態様も複数形成できる。従って、化粧部材Ｊ８００，Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００の下流側に流下する遊技球の流下のバリエーションを多くすることができる。その結果、遊技球の流下態様に興趣をもたせることができる。

【１２１８２】

上記第１１８実施形態、及び、第１２６実施形態から第１３１実施形態では、化粧部材Ｊ８００，Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００を光透過性の材料から形成する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、化粧部材Ｊ８００，Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００を光非透過性の材料から形成しても良い。

【１２１８３】

この場合には、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０の背面側を通過する遊技球が、正面部Ｊ８５０を透過して視認されることを抑制できる（正面視において正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０に重なる領域の遊技球を隠すことができる）ので、流下する遊技球を遊技者から視認されにくくしやすくできる。その結果、流下する遊技球を目で追う遊技者の興趣を高めやすくできる。

【１２１８４】

なお、この場合には、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０の流下方向における幅寸法を遊技球の直径よりも大きくすることで、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０の背面側を通過する遊技球が遊技者に視認されることを確実に抑制できる。これによれば、流下する遊技球を一時的に遊技者から視認されになくできるので、流下する遊技球を目で追う遊技者の興趣を高めやすくできる。

【１２１８５】

上記第１２６実施形態から第１３２実施形態では、化粧部材Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００の固定部Ｊ９８２０をベース板Ｊ９０６０の正面側から螺子ＮＪにより締結固定可能とされる場合について説明したが、必ずしもこれに限れるものではなく、正面側から不正に化粧部材Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００の固定部Ｊ９８２０が取り外されることを抑制するために、ベース板Ｊ９０６０の背面側からベース板Ｊ９０６０に挿通した螺子を化粧部材Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００の背面側に形成される被締結部に螺合させるものであっても良い。

【１２１８６】

上記第１１８実施形態、及び、第１２６実施形態から第１３２実施形態では、化粧部材

Ｊ８００，Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００が遊技盤Ｊ１３，Ｊ９０１３，Ｊ１００１３，Ｊ１１０１３，Ｊ１２０１３，Ｊ１３０１３，Ｊ１４０１３，Ｊ１５０１３の最も正面側に配設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０の化粧面の正面側が視認可能とされれば、例えば、固定部Ｊ９８２０の正面側に別の部材を配設して、固定部Ｊ９８２０をベース板Ｊ９０６０に固定したり、固定部Ｊ９８２０を別部材で視認不能としたり、螺子ＮＪが不正に取り外されることを抑制しても良い。

【１２１８７】

上記第１１８実施形態、及び、第１２６実施形態から第１３２実施形態では、遊技球の通過を検出可能なスルーゲートＪ６７が、化粧部材Ｊ８００，Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００よりも下流側に配設され、スルーゲートＪ６７を通過させることによる遊技球の検出をしやすくする場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、スルーゲートＪ６７を、遊技球の当接により変位する物理的な検出装置に変更して、遊技球の通過に伴って確実に遊技球を検出できるものにしても良い。また、化粧部材Ｊ９００のように、化粧部材Ｊ８００，Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００の正面部Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０の背面側にスルーゲートＪ６７を配設するものであっても良い。

【１２１８８】

本発明を上記各実施形態とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される）として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の領域に球を入賞させることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるパチンコ機として実施してもよい。また、Ｖゾーン等の特別領域を有する入賞装置を有し、その特別領域に球を入賞させることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機に実施してもよい。更に、パチンコ機以外にも、アレパチ、雀球、スロットマシン、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機などの各種遊技機として実施するようにしても良い。

【１２１８９】

なお、スロットマシンは、例えばコインを投入して図柄有効ラインを決定させた状態で操作レバーを操作することにより図柄が変動され、ストップボタンを操作することにより図柄が停止されて確定される周知のものである。従って、スロットマシンの基本概念としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を変動表示した後に識別情報を確定表示する表示装置を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の変動表示が停止して確定表示され、その停止時の識別情報の組合せが特定のものであることを必要条件として、遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるスロットマシン」となり、この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【１２１９０】

また、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する表示装置を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく所定量の球の投入の後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技が発生させられ、遊技者には、下部の受

皿に多量の球が払い出されるものである。かかる遊技機をスロットマシンに代えて使用すれば、遊技ホールでは球のみを遊技価値として取り扱うことができるため、パチンコ機とスロットマシンとが混在している現在の遊技ホールにおいてみられる、遊技価値たるメダルと球との別個の取扱による設備上の負担や遊技機設置個所の制約といった問題を解消し得る。

【１２１９１】

以下に、本発明の遊技機に加えて上述した実施形態に含まれる各種発明の概念を示す。

【１２１９２】

＜電動役物Ｊ７０（羽部材Ｊ６７１）を一例とするとする発明の概念について＞

遊技球が入球可能に構成される第１入球手段と、その第１入球手段よりも遊技領域における下流側に位置し、遊技球が入球可能に構成される第２入球手段と、遊技球を転動させることが可能に構成される転動面を有し、軸を中心とした所定の回転動作が行われることで、鉛直方向上方から前記転動面を視認した際に視認可能となる前記転動面の大きさを前記軸と直交する方向における変位により増減させることが可能に構成される変位手段と、前記回転動作のための動作力を発生可能に構成される動作手段と、を備え、前記変位手段が所定位置に変位された状態では、前記変位手段の前記転動面から流下された遊技球が前記第１入球手段に入球され、前記所定位置に変位された前記変位手段の前記転動面を遊技球が転動している最中に前記回転動作が行われ、前記視認可能となる前記転動面の大きさが減少されると、前記転動面を転動していた遊技球が前記転動面から流下されて前記第２入球手段に入球することが可能とされることを特徴とする遊技機ＡＪ１。

【１２１９３】

遊技球が入球可能に構成される第１入球手段と、その第１入球手段よりも遊技領域における下流側に位置し、遊技球が入球可能に構成される第２入球手段と、変位可能に構成される変位手段とを備えた遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１７－０１２４６３号公報）。この遊技機によれば、変位手段（電チュー）が開放されると、変位手段により拾われた遊技球が第１入球手段に入球可能とされる。

【１２１９４】

しかしながら、上述した従来の遊技機では、変位手段（電チュー）の真下となる領域には遊技球が流下されないため、第２入球手段（アタッカー）の幅方向中央の領域が無駄となる。変位手段（電チュー）と第２入球手段（アタッカー）とを上下方向に大きく離隔させれば、入賞手段の幅方向中央の領域も有効に活用できるが、上下方向のスペースが嵩み、その分、他の手段を配設するためのスペースが減少する。即ち、遊技領域におけるレイアウトの自由度が低下する。

【１２１９５】

本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、上下方向に必要とされるスペースを低減して、レイアウトの自由度を向上できる遊技機を提供することを目的とする。

【１２１９６】

遊技機ＡＪ１によれば、変位手段が所定位置に変位された状態では、変位手段の転動面から流下された遊技球が第１入球手段に入球される。この場合、所定位置に変位された変位手段の転動面を遊技球が転動している最中に回転動作が行われ、視認可能となる転動面の大きさが減少されると、転動面を転動していた遊技球が転動面から流下されて第２入球手段に入球することが可能とされるので、変位手段の真下となる領域に遊技球を流下させることができる。よって、第２入球手段（アタッカー）の幅方向中央の領域も有効に活用できる。即ち、変位手段（電チュー）と第２入球手段（アタッカー）との上下方向の間隔を狭くでき、これら変位手段と入賞手段との配設に必要とされる上下方向のスペースを低減できるので、その分、他の手段を配設するためのスペースを確保できる。その結果、遊技領域におけるレイアウトの自由度を向上できる。

【１２１９７】

遊技機ＡＪ１において、前記変位手段が前記所定位置に変位された状態では、前記遊技

領域の所定領域を流下する遊技球が前記所定領域から前記変位手段の転動面に流下することが可能とされ、前記視認可能となる前記転動面の大きさが最小となる位置に前記変位手段が変位された状態では、前記所定領域を流下する遊技球が前記所定領域から前記変位手段の転動面に流下することが不能とされることを特徴とする遊技機ＡＪ２。

【１２１９８】

遊技機ＡＪ２によれば、遊技機ＡＪ１の奏する効果に加え、変位手段が所定位置に変位された状態では、遊技領域の所定領域を流下する遊技球が所定領域から変位手段の転動面に流下することが可能とされ、視認可能となる転動面の大きさが最小となる位置に変位手段が変位された状態では、所定領域を流下する遊技球が所定領域から変位手段の転動面に流下することが不能とされるので、視認可能となる転動面の大きさが最小となる位置に変位手段を変位させることで、第１入球手段に遊技球が入球されない態様を確実に形成できる。

【１２１９９】

遊技機ＡＪ２において、前記変位手段に当接される遊技球の当接位置に応じて、前記当接されている遊技球から前記変位手段に作用される力の向きが変化可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＪ３。

【１２２００】

遊技機ＡＪ３によれば、遊技機ＡＪ２の奏する効果に加え、変位手段に当接される遊技球の当接位置に応じて、当接されている遊技球から変位手段に作用される力の向きが変化可能に構成されるので、遊技球の重さを変位手段の変位に利用することができる。

【１２２０１】

例えば、変位手段に当接される遊技球の当接位置が軸よりも一側となる場合には、遊技球から変位手段を作用される力の向きを、変位手段を開放させる方向（視認される転動面の大きさが増加される変位の方向）とできるので、変位手段が不用意に閉鎖されることを抑制できる。

【１２２０２】

一方、変位手段に当接される遊技球の当接位置が軸よりも他側となる場合には、遊技球から変位手段を作用される力の向きを、変位手段を閉鎖させる方向（視認される転動面の大きさが減少される変位の方向）とできるので、遊技球を第２入球手段に入球させやすくできる。即ち、転動面を転動している遊技球を、第１入球手段に入球する方向ではなく、第２入球手段に入球する方向へ向けて転動面から流下させることができる。

【１２２０３】

遊技機ＡＪ１において、前記第２入球手段に入球された遊技球を検出可能に構成される第１検出手段および第２検出手段を備え、前記変位手段の前記転動面から流下されて前記第２入球手段に入球された遊技球は、前記変位手段の前記転動面を経ずに前記第２入球手段に入球された遊技球よりも第１検出手段に検出され易くなるように構成されていることを特徴とする遊技機ＡＪ４。

【１２２０４】

遊技機ＡＪ４によれば、遊技機ＡＪ１の奏する効果に加え、第２入球手段に入球された遊技球を検出可能に構成される第１検出手段および第２検出手段を備え、変位手段の転動面から流下されて第２入球手段に入球された遊技球は、変位手段の転動面を経ずに第２入球手段に入球された遊技球よりも第１検出手段に検出され易くなるように構成されているので、第２入球手段に入球するまでに遊技球が辿った経路の違いを検出することができる。よって、経路の違いに応じて制御を異ならせることができる。

【１２２０５】

遊技機ＡＪ４において、前記第１検出手段により遊技球が検出された場合の遊技状態が、前記第２検出手段により遊技球が検出された場合の遊技状態よりも遊技者に有利なものとされることを特徴とする遊技機ＡＪ５。

【１２２０６】

遊技機ＡＪ５によれば、遊技機ＡＪ４の奏する効果に加え、第１検出手段により遊技球

が検出された場合の遊技状態が、第２検出手段により遊技球が検出された場合の遊技状態よりも遊技者に有利なものとされるので、遊技球がどの経路を辿って第２入球手段に入球されるかを遊技者に着目させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【１２２０７】

遊技機ＡＪ５において、前記第１検出手段は、正面視において前記変位手段の鉛直方向下方となる位置に配設され、前記第２検出手段は、前記第１検出手段から正面視において遊技機幅方向に離隔した位置に配設されることを特徴とする遊技機ＡＪ６。

【１２２０８】

遊技機ＡＪ６によれば、遊技機ＡＪ１の奏する効果に加え、第１検出手段は、正面視において変位手段の鉛直方向下方となる位置に配設され、第２検出手段は、第１検出手段から正面視において遊技機幅方向に離隔した位置に配設されるので、変位手段の転動面から流下されて第２入球手段に入球された遊技球を第１検出手段に、変位手段の転動面を経ずに第２入球手段に入球された遊技球を第２検出手段に、それぞれ検出される態様をより確実に形成できる。また、変位手段と第２入球手段との上下方向の間隔を狭くできる。

【１２２０９】

遊技機ＡＪ１において、前記所定位置に変位された前記変位手段の前記転動面を遊技球が転動している最中に前記回転動作が行われ、前記視認可能となる前記転動面の大きさが減少される場合に、前記転動面を転動していた遊技球が前記転動面の第１位置から流下されて前記第２入球手段に入球する態様と、前記転動面を転動していた遊技球が前記転動面の第１位置とは異なる第２位置から流下されて前記第２入球手段に入球する態様とを形成可能とされることを特徴とする遊技機ＡＪ７。

【１２２１０】

遊技機ＡＪ７によれば、遊技機ＡＪ１の奏する効果に加え、所定位置に変位された変位手段の転動面を遊技球が転動している最中に回転動作が行われ、視認可能となる転動面の大きさが減少される場合に、転動面を転動していた遊技球が転動面の第１位置から流下されて第２入球手段に入球する態様と、転動面を転動していた遊技球が転動面の第１位置とは異なる第２位置から流下されて第２入球手段に入球する態様とを形成可能とされるので、第２入球手段へ遊技球が入球される態様のバリエーションを増やすことができる。その結果、例えば、第２入球手段に複数の検出手段が配設される場合に、いずれの検出手段に検出されるかを変位手段の変位のタイミング（即ち、第１位置から流下されるか、第２位置から流下されるか）に応じて異ならせることができる。

【１２２１１】

＜化粧部材Ｊ８００を一例とするとする発明の概念について＞

遊技球が流下可能とされる遊技領域および遊技球が流下不能とされる非遊技領域がそれぞれ正面側に形成される遊技盤と、前記遊技盤の正面側に配設される配設体と、を備え、前記配設体は、正面視において前記遊技領域に重なる位置に配設され、遊技者から視認可能とされる視認可能部と、前記非遊技領域の正面側にねじ部材により締結固定される固定部と、を備え、前記視認可能部は、前記遊技領域を流下する遊技球が当接可能に構成され、前記視認可能部において前記遊技盤に対するねじ部材による締結固定が行われていないことを特徴とする遊技機ＢＪ１。

【１２２１２】

正面視において遊技領域に重なる位置に配設体を配設し、その配設体を装飾として利用する遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０２１－１２００５７号公報）。ここで、本願出願人は、配設体の外観を装飾として遊技者に視認させるだけでなく、遊技領域を流下する遊技球を配設体に衝突（当接）させて、遊技球の流下態様を変化させることで、興趣の向上を図る構造に想到した（本願出願時において未公知）。配設体は、遊技盤の正面側にねじ部材により締結固定される。これにより、配設体を遊技盤に配設するための構造を簡素化して、製造コストを低減できる。

【１２２１３】

しかしながら、このように、配設体をねじ部材により遊技盤に締結固定する構造では、

ねじ部材の軸力が作用されることで、配設体のねじ部材により締結固定されている部分（以下「固定部」と称す）が、内部応力が発生した状態とされる。そのため、遊技領域を流下する遊技球が固定部に衝突（当接）されると、固定部が破損されやすい。一方で、固定部の強度を確保するために、固定部を大型化（厚肉化）すると、その分、遊技領域のスペースが減少される。

【１２２１４】

本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、配設体が遊技盤にねじ部材により締結固定される構造において、遊技球の衝突による配設体の破損を低減しつつ、遊技領域のスペースを確保できる遊技機を提供することを目的とする。

【１２２１５】

遊技機ＢＪ１によれば、配設体は、正面視において遊技領域に重なる位置に配設され、遊技者から視認可能とされる視認可能部と、その視認可能部に連結され、非遊技領域の正面側にねじ部材により締結固定される固定部と、を備えるので、遊技領域を流下する遊技球が固定部に衝突（当接）することを回避できる。よって、ねじ部材の軸力が作用されて固定部に内部応力が発生した状態とされていても、かかる固定部が破損することを低減できる。また、固定部の強度を確保するために、固定部を大型化（厚肉化）させる必要がなく、非遊技領域のスペースを小さくできるので、その分、遊技領域のスペースを確保できる。

【１２２１６】

また、視認可能部は、遊技領域を流下する遊技球が当接可能に構成されるので、配設体（視認可能部）の外観を装飾として遊技者に視認させるだけでなく、遊技領域を流下する遊技球を視認可能部に衝突（当接）させて、遊技球の流下態様を変化させることができ、興趣の向上を図ることができる。この場合、視認可能部は、遊技盤に対してねじ部材による締結固定が行われていないので、遊技球が衝突（当接）された際に視認可能部を変形させやすくでき、かかる視認可能部が破損することを低減できる。

【１２２１７】

遊技機ＢＪ１において、前記遊技盤を視認可能とするための開口を有し、光非透過性材料から構成される枠部材と、その枠部材の前記開口に配設され光透過性材料から構成される透過部材と、を備え、前記固定部の少なくとも前記非遊技領域の正面側にねじ部材により締結固定される部分は、正面視において前記枠部材と重なる位置に配設されることを特徴とする遊技機ＢＪ２。

【１２２１８】

遊技機ＢＪ２によれば、遊技機ＢＪ１の奏する効果に加え、固定部の少なくとも非遊技領域の正面側にねじ部材により締結固定される部分は、正面視において枠部材と重なる位置に配設され、枠部材は光非透過性材料から構成されるので、ねじ部材やそのねじ部材により締結固定される部分が遊技者に視認されることを低減できる。

【１２２１９】

遊技機ＢＪ２において、前記固定部の背面または前記遊技盤の非遊技領域の正面の一方には、突部が突設され、前記固定部の背面または前記遊技盤の非遊技領域の正面の他方には、前記突部が嵌合可能に構成される凹部が凹設されることを特徴とする遊技機ＢＪ３。

【１２２２０】

遊技機ＢＪ３によれば、遊技機ＢＪ２の奏する効果に加え、固定部の背面または遊技盤の非遊技領域の正面の一方には、突部が突設され、固定部の背面または遊技盤の非遊技領域の正面の他方には、突部が嵌合可能に構成される凹部が凹設されるので、それら突部と凹部との嵌合により、固定部を遊技盤の非遊技領域の正面側に位置決めすることができ、締結固定する際の作業性を向上できる。また、遊技領域を流下する遊技球が視認可能部に衝突（当接）された際の荷重を突部および凹部により受け止めることができるので、ねじ部材による締結が緩むことを低減できる。

【１２２２１】

遊技機ＢＪ１において、前記視認可能部の背面または前記遊技盤の遊技領域の正面の一

方には、弾性変形可能に構成される弾性爪が突設され、前記視認可能部の背面または前記遊技盤の遊技領域の正面の他方には、前記弾性爪が係合可能に構成される被係合部が形成されることを特徴とする遊技機ＢＪ４。

【１２２２２】

遊技機ＢＪ５によれば、遊技機ＢＪ１の奏する効果に加え、視認可能部の背面または遊技盤の遊技領域の正面の一方には、弾性変形可能に構成される弾性爪が突設され、視認可能部の背面または遊技盤の遊技領域の正面の他方には、弾性爪が係合可能に構成される被係合部が形成されるので、弾性爪と被係合部との係合を利用して、視認可能部が変形可能な範囲を規定できる。よって、遊技領域を流下する遊技球が視認可能部に衝突（当接）された際に視認可能部の変形が過大となることを低減でき、視認可能部が破損することを低減できる。

【１２２２３】

一方で、弾性爪と被係合部との係合であるので、遊技領域を流下する遊技球が衝突（当接）した際には、弾性爪の弾性変形を利用して、遊技球の衝突による荷重を吸収することができる。その結果、視認可能部の破損を低減できる。また、視認可能部の強度を確保するために、視認可能部を大型化（厚肉化）する必要がないので、その分、遊技領域のスペースを確保できる。

【１２２２４】

遊技機ＢＪ１からＢＢ４のいずれかにおいて、前記非遊技領域は、前記遊技領域に周囲が取り囲まれた領域として構成されていることを特徴とする遊技機ＢＪ５。

【１２２２５】

遊技機ＢＪ５によれば、遊技機ＢＪ１からＢＢ４のいずれかの奏する効果に加え、非遊技領域は、遊技領域に周囲が取り囲まれた領域として構成されているので、配設部材における視認可能部の設計の自由度を向上できる。即ち、非遊技領域が、その一側のみが遊技領域に接する領域として構成される場合には、非遊技領域に締結固定される固定部から一側の遊技領域へ向けて視認可能部を延設する態様に限定されるが、非遊技領域が、遊技領域に周囲が取り囲まれた領域として構成されている場合には、例えば、非遊技領域に締結固定される固定部から一側の遊技領域および一側と反対側の他側の遊技領域のそれぞれへ向けて視認可能部を延設させることができる。

【１２２２６】

遊技機ＢＪ１からＢＢ４のいずれかにおいて、前記配設部材は、前記視認可能部と前記固定部とが樹脂材料から一体に構成されることを特徴とする遊技機ＢＪ６。

【１２２２７】

遊技機ＢＪ６によれば、遊技機ＢＪ１からＢＢ４のいずれかの奏する効果に加え、配設部材は、視認可能部と固定部とが樹脂材料から一体に構成されるので、製品コストを低減できる。また、配設部材の全体としての変形性を確保できるので、遊技領域を流下する遊技球が視認可能部に衝突（当接）された際の視認可能部および固定部の破損を低減できる。

【１２２２８】

遊技機ＢＪ６において、前記配設部材の視認可能部の外面に配設され、ゴム材料から構成されるゴム部材を備えることを特徴とする遊技機ＢＪ７。

【１２２２９】

遊技機ＢＪ７によれば、遊技機ＢＪ６の奏する効果に加え、配設部材の視認可能部の外面に配設され、ゴム材料から構成されるゴム部材を備えるので、遊技領域を流下する遊技球が衝突（当接）した際には、ゴム部材の弾性変形を利用して、遊技球の衝突による荷重を吸収することができる。その結果、視認可能部の破損を低減できる。

【１２２３０】

遊技機ＡＡ１～ＡＡ１３，ＡＢ１～ＡＢ１２，ＡＤ１～ＡＤ２３，ＡＥ１～ＡＥ２４，ＦＦ１～ＦＦ１０、ＡＰ１～ＡＰ９，ＡＪ１～ＡＪ７，ＢＪ１～ＢＪ７のいずれかにおいて、前記遊技機はスロットマシンであることを特徴とする遊技機ＡＺ１。中でも、スロッ

トマシンの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段（ストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備えた遊技機」となる。この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【１２２３１】

遊技機ＡＡ１～ＡＡ１３，ＡＢ１～ＡＢ１２，ＡＤ１～ＡＤ２３，ＡＥ１～ＡＥ２４，ＦＦ１～ＦＦ１０、ＡＰ１～ＡＰ９，ＡＪ１～ＡＪ７，ＢＪ１～ＢＪ７のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機であることを特徴とする遊技機ＡＺ２。中でも、パチンコ遊技機の基本構成としては操作ハンドルを備え、その操作ハンドルの操作に応じて球を所定の遊技領域へ発射し、球が遊技領域内の所定の位置に配設された作動口に入賞（又は作動口を通過）することを必要条件として、表示手段において動的表示されている識別情報が所定時間後に確定停止されるものが挙げられる。また、特別遊技状態の発生時には、遊技領域内の所定の位置に配設された可変入賞装置（特定入賞口）が所定の態様で開放されて球を入賞可能とし、その入賞個数に応じた有価価値（景品球のみならず、磁気カードへ書き込まれるデータ等も含む）が付与されるものが挙げられる。

【１２２３２】

遊技機ＡＡ１～ＡＡ１３，ＡＢ１～ＡＢ１２，ＡＤ１～ＡＤ２３，ＡＥ１～ＡＥ２４，ＦＦ１～ＦＦ１０、ＡＰ１～ＡＰ９，ＡＪ１～ＡＪ７，ＢＪ１～ＢＪ７のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機とスロットマシンとを融合させたものであることを特徴とする遊技機ＡＺ３。中でも、融合させた遊技機の基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備え、遊技媒体として球を使用すると共に、前記識別情報の動的表示の開始に際しては所定数の球を必要とし、特別遊技状態の発生に際しては多くの球が払い出されるように構成されている遊技機」となる。

【１２２３３】

以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図７０１から図７２１を参照し、第１３３実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ａ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。

【１２２３４】

図７０１は、第１３３実施形態におけるパチンコ機Ａ１０の正面図であり、図７０２は、遊技盤Ａ１３の正面図である。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１２２３５】

なお、以下の説明では、図７０１に示す状態のパチンコ機Ａ１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図７０１に示す状態のパチンコ機Ａ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図７０１参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ａ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【１２２３６】

遊技盤Ａ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した領域構成部である外レールＨ６２が植立され、その外レールＨ６２の内側位置には外レールＨ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＨ６１が植立される。この内レールＨ６

１と外レールＨ６２とにより遊技盤Ａ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ａ１３とガラスユニットＨ１６（図７０１参照）とにより前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）が囲まれることにより、遊技盤Ａ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ａ１３の正面であって２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｈ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。なお、球が案内される通路を形成する２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２は、金属板である必要なく、樹脂材料から帯状に形成されるものであっても良い。

【１２２３７】

２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２は、上皿Ｐ１７に貯留され、球発射ユニットＨ１１２ａへ案内された後で、球発射ユニットＨ１１２ａ（図４９２参照）から発射された球を遊技盤Ａ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）へ案内するために設けられたものである。

【１２２３８】

内レールＨ６１の先端部分（Ａ０１の左上部）には戻り球防止部材Ａ６８が取り付けられる。外レールＨ６２の先端部（Ａ０１の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＨ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＨ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【１２２３９】

戻り球防止部材Ａ６８は、内レールＨ６１の先端部分においてベース板Ａ６０に締結固定される支持部材と、その支持部材に回転動作可能に支持されており内レールＨ６１側から外レールＨ６２側に延設される樹脂製の板部材から形成され、内レールＨ６１側の一端側を軸に他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転可能とされる開閉動作される部材とを備える。支持部材は、開閉動作される部材の一部を覆う部位である。また、戻り球防止部材Ａ６８は、一端側に錘を備え、その錘により他端側が外レールＨ６２に近づく方向に付勢される。

【１２２４０】

これにより、遊技盤Ａ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）に案内される球の勢いで戻り球防止部材Ａ６８の他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転させることができると共に、壁部によって回転角度を抑制されており、戻り球防止部材Ａ６８を超える位置（遊技盤Ａ１３の上方側）に球が案内された際に戻り球防止部材Ａ６８の他端側を外レールＨ６２に近づく方向に回転させることができ、一旦、遊技盤Ａ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。

【１２２４１】

なお、戻り球防止部材Ａ６８は、樹脂材料から形成される必要はなく、金属材料から形成されていても良い。また、対象物の動作を抑制する錘以外に磁石などの磁力やねじりバネなどの付勢力によって戻り球防止部材Ａ６８の他端側を外レールＨ６２側に付勢する構成としても良い。

【１２２４２】

また、戻り球防止部材Ａ６８は、後述する風車ＡＷＦのように、一方向に継続して回転できるもの（１球ずつ所定位置に戻らないもの）であっても良い。この場合、遊技盤Ａ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻らないように、遊技盤Ａ１３の上部への球の案内によって回転する方向（一方向）とは反対の方向（他方向）に回転することを規制するワンウェイクラッチを配設することが好ましい。

【１２２４３】

尚、本パチンコ機Ａ１０では、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ａ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ時短有通常大当たり、４Ｒ時短有通常大当たり、１５Ｒ時短無し通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりで

あるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【１２２４４】

本パチンコ機Ａ１０では、時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ａ６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物Ａ６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物Ａ６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。

【１２２４５】

パチンコ機Ａ１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｈ６４０に付随された電動役物Ａ６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【１２２４６】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、時短中の方が短くなるように設定される。これにより、時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ａ６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【１２２４７】

なお、時短中において、当たり確率を高める、１回の当たりに対する電動役物Ａ６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、時短中に第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、また、１回の当たりに対する電動役物Ａ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。

【１２２４８】

スルーゲートＨ６７は、可変表示装置ユニットＨ８０の右側の領域において第１球流下構造体Ａ３００に配設される態様で遊技盤Ａ１３に組み付けられ、遊技盤Ａ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲートＨ６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【１２２４９】

球のスルーゲートＨ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。第２図柄保留ランプは、最大保留数分の４つ設けられ、第３図柄表示装置Ｈ８１の下方に左右対称に配設されている。

【１２２５０】

なお、第２図柄の変動表示は、本実施形態のように、第２図柄表示装置において複数のランプの点灯と非点灯を切り換えることにより行うものの他、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を使用して行うようにしても良い。同様に、第２図柄保留ランプの点灯を第３図柄表示装置Ｈ８１の一部で行うようにしても良い。

【１２２５１】

また、スルーゲートＨ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け数は１つに限定されるものではなく、例えば２つであっても良

い。
【１２２５２】
　また、スルーゲートＨ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＨ８０の右側に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の左右や、下方でも良い。また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより保留球数が示される場合等には、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしてもよい。
【１２２５３】
　スルーゲートＨ６７の正面視左下側には、球が入賞し得る第２入賞口Ｈ６４０が配設されている。この第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ａ１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図４８８参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂで示される。
【１２２５４】
　なお、第２入賞口Ｈ６４０の配置は、これに限られるものではない。例えば、第１入賞口Ｈ６４の正面視下方でも良いし、遊技領域の左右中央よりも左側（例えば、第１入賞口Ｈ６４よりも正面視左下側）でも良い。
【１２２５５】
　第２入賞口Ｈ６４０には電動役物Ａ６４０ａが付随されている。この電動役物Ａ６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物Ａ６４０ａが閉鎖状態（退避状態）となって、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲートＨ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ａ６４０ａが開放状態（張出状態）となり、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しやすい状態となる。
【１２２５６】
　上述した通り、時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物Ａ６４０ａが開放状態（張出状態）となる回数が増える。更に、時短中は、電動役物Ａ６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。
【１２２５７】
　ここで、第１入賞口Ｈ６４に球が入賞した場合と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合とで、大当たりとなる確率は同一（約１／３１９）である。しかしながら、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ時短有通常大当たりとなる確率は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されている。一方、第１入賞口Ｈ６４は、第２入賞口Ｈ６４０にあるような電動役物Ａ６４０ａは有しておらず、球が常時入賞可能な状態となっている。
【１２２５８】
　よって、通常中においては、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ａ６４０ａが閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しづらいので、電動役物Ａ６４０ａのない第１入賞口Ｈ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の左方を球が通過するように球を発射し（所謂「左打ち」）、第１入賞口Ｈ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。
【１２２５９】
　一方、時短中は、スルーゲートＨ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ａ６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｈ６４０へ向けて、可変表示装置Ｈ８０の右方を球が通過するように球を発射し（所謂「右打ち」）、スルーゲートＨ６７を通過させて電動役物Ａ６４０ａを開放状態にすると共に、第２入賞口Ｈ６４０への入賞によって１５Ｒ時短有通常大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１２２６０】
なお、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に大当たりとなる確率は、上述の確率に限られるものではなく、種々の態様が例示される。上述の確率は、大当たりを獲得することが難しい一方で、期待される払出球の個数が多くなる機種（一発逆転が可能な機種）として設定される。これに対し、例えば、比較的大当たりを獲得し易い確率（約１／９９）が設定される代わりに期待される払出球の個数が少なくされる場合もあるし、中間の確率（約１／１９９）とされ、大当たりの獲得のし易さと期待される払出球の個数とのバランスが良くされる場合もある。
【１２２６１】
なお、本実施形態におけるパチンコ機Ａ１０とは異なり、遊技盤Ａ１３の構成が左右対称とされる場合には、「右打ち」で第１入賞口Ｈ６４を狙うことも、「左打ち」で第２入賞口Ｈ６４０を狙うこともできる。この場合、遊技者から球の打ち方を変化させる煩わしさを取り去ることができる。
【１２２６２】
一方で、本実施形態におけるパチンコ機Ａ１０では、「右打ち」では第１入賞口Ｈ６４を狙うことはできないように構成され、「左打ち」で発射された球はスルーゲートＨ６７を通過しないように構成されている。そのため、本実施形態のパチンコ機Ａ１０は、パチンコ機Ａ１０の遊技状態（時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えることを要求することができる。よって、球の打ち方を変化させる遊技性を付加することで遊技が緩慢となることを防止することができる。
【１２２６３】
なお、電動役物Ａ６４０ａが遊技領域の右側に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、電動役物Ａ６４０ａを遊技領域の左側に配設するようにしても良い。
【１２２６４】
電動役物Ａ６４０ａが遊技領域の右側に配設される場合には、第２入賞口Ｈ６４０に入球されなかった球をアウト口Ｈ７１にスムーズに案内するために、球の流下方向が左下方向へ向けて傾斜する方向となるように構成されることが多いが、電動役物Ａ６４０ａが遊技領域の左側に配設される場合には、形状を左右対称に変更させることで対応が可能となる。
【１２２６５】
また、第１入賞口Ｈ６４よりも上流側に電動役物Ａ６４０ａを配設すれば、第２入賞口Ｈ６４０に入球されなかった球がアウト口Ｈ７１に案内される場合ばかりではなく、第１入賞口Ｈ６４に案内される場合も構成可能となるように遊技領域を構成することができるので、電動役物Ａ６４０ａを通過した後の球の注目力が極端に低下される事態を避けることができる。
【１２２６６】
電動役物Ａ６４０ａの配設位置と、スルーゲートＨ６７の配設位置とは、複数の態様が例示される。例えば、電動役物Ａ６４０ａの上流側にスルーゲートＨ６７を配設することで、スルーゲートＨ６７に検出されることで普通図柄の抽選を実行させた球が、その抽選により開閉動作されている電動役物Ａ６４０ａに到達可能に構成できるので、普通図柄の抽選と、その抽選により開放された第２入賞口Ｈ６４０への入球とが、同じ球で実行され得ることになり、遊技者に好適に受け入れられやすい。
【１２２６７】
逆に、例えば、スルーゲートＨ６７の上流側に電動役物Ａ６４０ａを配設する場合には、１球目の球が電動役物Ａ６４０ａに到達する時点では普通図柄の抽選が実行されていないので、電動役物Ａ６４０ａは閉鎖状態とされており、球は第２入賞口Ｈ６４０には入球されずに素通りし、スルーゲートＨ６７へ向かって流下する。即ち、普通図柄の抽選を新たに開始させるために球を継続して発射させる場合における１球目の球が第２入賞口Ｈ６

４０に入球されないため、賞球の払い出しが期待されないという点で遊技者にとって不利となる。

【１２２６８】

この不利は、普通図柄の抽選を途切れさせないように電動役物Ａ６４０ａへ向けた発射をすることで最小限に抑えることができるため、遊技者に対して、「単発打ち」（操作ハンドルＨ５１の発射停止スイッチＨ５１ｂの操作を利用して一発ずつ間隔（数秒）を空けて球を発射する特殊な打ち方）ではなく「打ちっぱなし」（操作ハンドルＨ５１を回転動作させた状態で維持することで一定の間隔（１００発／分未満の間隔、０．６秒等）で発射させる打ち方）にすることを違和感なく推奨することができる。

【１２２６９】

即ち、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１で「右打ち」と表示して、「右打ち」する期間であることを報知する場合において、併せて「とにかく打ち続けろ」等の表示を併記することで、遊技者の不利を最小限に抑えつつ、「単発打ち」を好む遊技者に対しても、「打ちっぱなし」で遊技する方が有利かもしれないと思わせることで、球の発射方法の選択の幅を広げさせることができる。これにより、遊技者に刺激を与え、遊技者の集中力を高く維持することができる。

【１２２７０】

また、スルーゲートＨ６７と電動役物Ａ６４０ａとを、左右同じ側に配設しても良いし、左右逆側に配設するようにしても良い。左右逆側に配設する場合には、スルーゲートＨ６７を通過させるために発射させる球の発射態様（例えば、「左打ち」又は「右打ち」）と、電動役物Ａ６４０ａにおいて第２入賞口Ｈ６４０に入球させるために発射させる球の発射態様（例えば、「右打ち」又は「左打ち」）とが異なることから、時短中において操作ハンドルＨ５１の回転動作を頻繁に生じさせることができ、遊技者の意識を操作ハンドルＨ５１に向けさせることができ、遊技に集中させることができる。

【１２２７１】

第１入賞口Ｈ６４の右方には可変入賞装置Ａ６５が配設されており、その下流側位置に特定入賞口Ｈ６５ａが設けられている。パチンコ機Ａ１０においては、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｈ６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）開放される。

【１２２７２】

この特定入賞口Ｈ６５ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放される。この特定入賞口Ｈ６５ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。

【１２２７３】

図７０３は、第１の大当たり作動パターンにおける開閉板Ａ６５１及び駆動ソレノイドＡ６５２の状態と、入賞検出センサＡＳＣ６５の出力との計時変化を示した図であり、図７０４は、第２の大当たり作動パターンにおける開閉板Ａ６５１及び駆動ソレノイドＡ６５２の状態と、入賞検出センサＡＳＣ６５の出力との計時変化を示した図である。なお、入賞検出センサＡＳＣ６５の図において、ＯＮのパルスは、特定入賞口Ｈ６５ａを１個の遊技球が通過したことが検出されたことを意味する。

【１２２７４】

入賞検出センサＡＳＣ６５は、操作ハンドルＨ５１の操作により発射（変位）される遊技球が貫通口を通過した際に検出する近接センサから構成される。即ち、貫通口の内側に

検出用の検出光が照射されており、貫通口の内側に遊技球の中心が位置した場合において、その遊技球の半径最大位置における表面部位で反射した検出光を受光部で受光することで、遊技球の通過を検出する。

【１２２７５】

操作ハンドルＨ５１の操作により発射（変位）される遊技球は、一般的には金属製のため、錆などが無ければ、検出光は遊技球の表面で良好に反射して、遊技球の通過を良好に検出することができる。

【１２２７６】

ＭＰＵＨ２０１（図４９６参照）は、大当たりと判定した場合には、特図変動表示(図柄変動演出)の終了後に、選定された大当たり種別の大当たり遊技の制御を開始する。以下、大当たり遊技が付与される場合に行われる開閉板Ａ６５１の作動制御の一例について説明する。

【１２２７７】

本実施形態におけるパチンコ機Ａ１０では、大当たり種別に対応して、開閉板Ａ６５１の作動制御が異なるように構成される。即ち、大当たり種別が大当たりＡ（１５Ｒ時短無し通常大当たりに相当）の場合には開閉板Ａ６５１が第１の大当たり作動パターンで作動制御され、大当たり種別が大当たりＢ（１５Ｒ時短有通常大当たり、４Ｒ時短有通常大当たりに相当）の場合には開閉板Ａ６５１が第２の大当たり作動パターンで制御される。以下、詳細を説明する。

【１２２７８】

図７０３に図示されるように、大当たり種別が大当たりＡの場合には、第１の大当たり作動パターンに基づいて開閉板Ａ６５１が動作するようＭＰＵＨ２０１（図４９６参照）が駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御する。ＭＰＵＨ２０１は、特図変動表示(図柄変動演出)が終了すると、タイマ手段(図示せず)が所定のオープニング時間ＯＰ(１０秒)が経過するまで開閉板Ａ６５１を閉鎖状態に保持するよう駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御し、オープニング時間ＯＰの経過後に、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒを開始する。

【１２２７９】

すなわち、第１の作動時間Ｔ１(最大３０秒)をタイマ手段で計測を開始すると共に開閉板Ａ６５１を閉鎖状態（張出状態）から開放状態（退避状態）へ変位させて特定入賞口Ｈ６５ａを開放するよう駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御して、開閉板Ａ６５１に長時間動作を行わせる。

【１２２８０】

そして、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいてラウンド終了条件(ラウンド遊技時間(第１の作動時間Ｔ１の最大値である３０秒間)の経過または規定個数（本実施形態では１０個）のパチンコ球の入賞)が満たされた場合に、開閉板Ａ６５１を閉鎖状態（張出状態）へ変位させて特定入賞口Ｈ６５ａを閉鎖するよう駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御して、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了する。

【１２２８１】

図７０３では、上述した所謂「右打ち」で遊技球を発射し続ける場合に、入賞検出センサＡＳＣ６５で検出される遊技球の通過態様の一例が図示されており、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいて入賞検出センサＡＳＣ６５で検出された遊技球が９球（規定個数未満）であったため、第１の作動時間Ｔ１の最大値である３０秒間で開閉板Ａ６５１が閉鎖された場合が図示されている。

【１２２８２】

図７０３に図示される状況とは異なり、ラウンド遊技Ｒにおいて入賞検出センサＡＳＣ６５で検出された遊技球が１０個以上（規定個数以上）となった場合には、第１の作動時間Ｔ１の最大値である３０秒間を待たずに（より早く）開閉板Ａ６５１が閉鎖状態（張出状態）に変位される。

【１２２８３】

１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了すると、タイマ手段は、ラウンド間第１インター

バル期間Ｉｎｔ１（２．０秒）が経過するまで開閉板Ａ６５１を閉鎖状態（張出状態）に保持するよう駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御し、ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１の経過後に、２ラウンド目のラウンド遊技Ｒを開始する。

【１２２８４】

２ラウンド目では、１ラウンド目の開始と同様に、第１の作動時間Ｔ１(最大３０秒)をタイマ手段で計測を開始すると共に開閉板Ａ６５１を閉鎖状態（張出状態）から開放状態（退避状態）へ変位させて特定入賞口Ｈ６５ａを開放するよう駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御して、開閉板Ａ６５１に長時間動作を行わせる。

【１２２８５】

そして、２ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいてラウンド終了条件(ラウンド遊技時間(第１の作動時間Ｔ１の最大値である３０秒間)の経過または規定個数のパチンコ球の入賞)が満たされた場合に、開閉板Ａ６５１を閉鎖状態（張出状態）へ変位させて特定入賞口Ｈ６５ａを閉鎖するよう駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御して、２ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了する。

【１２２８６】

以降は同様に、各ラウンド遊技Ｒの間にラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１を挟んで３ラウンド目～最大１５ラウンド目のラウンド遊技Ｒが繰り返されて、開閉板Ａ６５１が閉鎖状態（張出状態）および開放状態（退避状態）の間で変位し、特定入賞口Ｈ６５ａを開閉するよう駆動ソレノイドＡ６５２が駆動制御される。

【１２２８７】

各ラウンド遊技Ｒの間隔がラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１で共通とされていることで、遊技者は開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となってから退避状態（開放状態）となるタイミングを予測しやすい。即ち、ラウンド遊技Ｒの間隔として、例えば３０秒間など極端に長い期間が生じ得る場合には、球を打ちっぱなしで遊技している場合に３０秒間のインターバル期間であることに気づくまでの発射球がもれなくアウト球となる可能性があり、慎重に遊技を進めざるを得ないが、各ラウンド遊技Ｒの間隔がラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１で共通とされていれば、そのような損球（アウト球）の発生を抑制できるので、遊技者は、大当たり遊技を安心して進行させることができる。

【１２２８８】

そして、最終ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了すると、タイマ手段がラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１およびエンディング時間ＥＤ(１１秒)が経過するまで開閉板Ａ６５１を閉鎖状態に保持するよう駆動ソレノイドＡ６５２が駆動制御され、当該時間の経過に伴って大当たり遊技が終了する。

【１２２８９】

図７０４に図示されるように、大当たり種別が大当たりＢの場合には、第２の大当たり作動パターンに基づいて開閉板Ａ６５１が動作するようＭＰＵＨ２０１（図４９６参照）が駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御する。本実施形態では、大当たりＢは、大当たりＡよりも遊技者にとって有利（大当たり遊技の終了後に時短が有る大当たり）となる大当たり種別が選定される。記憶された複数の態様から制御態様を選択可能なＭＰＵＨ２０１は、特図変動表示(図柄変動演出)が終了すると、タイマ手段(図示せず)が所定のオープニング時間ＯＰ(１０秒)が経過するまで開閉板Ａ６５１を閉鎖状態に保持するよう駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御し、オープニング時間ＯＰの経過後に、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒを開始する。

【１２２９０】

すなわち、第１の作動時間Ｔ１(最大３０秒)をタイマ手段で計測を開始すると共に開閉板Ａ６５１を閉鎖状態（張出状態）から開放状態（退避状態）へ変位させて特定入賞口Ｈ６５ａを開放するよう駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御して、開閉板Ａ６５１に長時間動作を行わせる。

【１２２９１】

第２の大当たり作動パターンでは、開閉板Ａ６５１の長時間動作において、規定個数よ

りも少ない個数として設定される予備個数（本実施形態では、７個）の遊技球が入賞検出センサＡＳＣ６５で検出された場合に、開閉板Ａ６５１が閉鎖状態（張出状態）とされ、短時間（本実施形態では、０．５秒間）経過後に、再び開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）とされる。

【１２２９２】

この開閉板Ａ６５１の短時間閉鎖を視認することで、遊技者は、もうすぐ入球個数が規定個数となり開閉板Ａ６５１が閉鎖されるタイミング（ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１に入るタイミング）となることを予測することができるので、球の発射操作を工夫すること（例えば、タイミング良く球の発射を停止させること）により、開閉板Ａ６５１が閉鎖状態となっている期間に開閉板Ａ６５１に到達してしまい特定入賞口Ｈ６５ａに入球しない球の発生を抑制することができる。

【１２２９３】

遊技者は、開閉板Ａ６５１の短時間閉鎖を視認したのと同時に発射を停止することで、規定個数の入賞に必要な残り３球以降の発射を抑制することができ、ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１に球が到達することを抑制できる。特に、発射された球が開閉板Ａ６５１に到達するまでにかかる期間が２．０秒である場合、その間に発射される球は３球であり、調度良い。ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１が経過して開閉板Ａ６５１が開放状態となったことを確認してから球の発射を再開するように操作することで、特定入賞口Ｈ６５ａに入球しない球の発生を抑制することができる。

【１２２９４】

なお、開閉板Ａ６５１の短時間閉鎖が生じた場合に、「発射停止」との内容を複数態様で光を照射可能な手段である第３図柄表示装置Ｈ８１で表示したり、音声出力装置Ｈ２２６で音声出力したり、ランプ表示装置Ｈ２２７で警告色（例えば、赤色や、黄色と黒色の縞模様）を点灯したり、させることで、遊技球の発射の停止を促す報知を実行しても良い。これにより、遊技者が気づかずに発射を継続し、不測の不利益が生じることを避けることができる。

【１２２９５】

そして、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいてラウンド終了条件(ラウンド遊技時間(第１の作動時間Ｔ１の最大値である３０秒間)の経過または規定個数（本実施形態では１０個）のパチンコ球の入賞)が満たされた場合に、開閉板Ａ６５１を閉鎖状態（張出状態）へ変位させて特定入賞口Ｈ６５ａを閉鎖するよう駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御して、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了する。

【１２２９６】

図７０４では、上述した所謂「右打ち」で遊技球を発射し続ける場合に、入賞検出センサＡＳＣ６５で検出される遊技球の通過態様の一例が図示されており、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいて入賞検出センサＡＳＣ６５で検出された遊技球が９球（規定個数未満）であったため、第１の作動時間Ｔ１の最大値である３０秒間で開閉板Ａ６５１が閉鎖された場合が図示されている。

【１２２９７】

図７０４に図示される状況とは異なり、ラウンド遊技Ｒにおいて入賞検出センサＡＳＣ６５で検出された遊技球が１０個以上（規定個数以上）となった場合には、第１の作動時間Ｔ１の最大値である３０秒間を待たずに（より早く）開閉板Ａ６５１が閉鎖状態（張出状態）に変位される。

【１２２９８】

１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了すると、タイマ手段は、ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１(２．０秒)が経過するまで開閉板Ａ６５１を閉鎖状態（張出状態）に保持するよう駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御し、ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１の経過後に、２ラウンド目のラウンド遊技Ｒを開始する。

【１２２９９】

２ラウンド目では、１ラウンド目の開始と同様に、第１の作動時間Ｔ１(最大３０秒)を

タイマ手段で計測を開始すると共に往復変位可能な部材である開閉板Ａ６５１を閉鎖状態（張出状態）から開放状態（退避状態）へ変位させて特定入賞口Ｈ６５ａを開放するよう駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御して、開閉板Ａ６５１に長時間動作を行わせる。

【１２３００】

そして、２ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいてラウンド終了条件(ラウンド遊技時間(第１の作動時間Ｔ１の最大値である３０秒間)の経過または規定個数のパチンコ球の入賞)が満たされた場合に、開閉板Ａ６５１を閉鎖状態（張出状態）へ変位させて特定入賞口Ｈ６５ａを閉鎖するよう駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御して、２ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了する。

【１２３０１】

以降は同様に、各ラウンド遊技Ｒの間にラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１を挟んで３ラウンド目～最大１５ラウンド目のラウンド遊技Ｒが繰り返されて、開閉板Ａ６５１が閉鎖状態（張出状態）および開放状態（退避状態）の間で変位し、特定入賞口Ｈ６５ａを開閉するよう駆動ソレノイドＡ６５２が駆動制御される。

【１２３０２】

そして、最終ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了すると、タイマ手段がラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１およびエンディング時間ＥＤ(１１秒)が経過するまで開閉板Ａ６５１を閉鎖状態に保持するよう駆動ソレノイドＡ６５２が駆動制御され、当該時間の経過に伴って大当たり遊技が終了する。

【１２３０３】

抽選された大当たりが時短有通常大当たりだった場合、大当たり遊技終了後の時短中に右打ち遊技を行うことで、第２入賞口Ｈ６４０へ遊技球を入賞させることができる。本実施形態では、時短状態における第２入賞口Ｈ６４０への入賞に基づいて数回（例えば、１～１０回。時短状態の終了時における保留球数を含む。）の抽選を少ない球損で実行させることができる。第２入賞口Ｈ６４０に遊技球が入賞すると、約１／２の確率で小当たりが発生し、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおいて小当たりに対応したＬＥＤが点灯する。この小当たりにより、特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放され、その開放中に、球が特定入賞口Ｈ６５ａ内へ入賞することを契機として特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。

【１２３０４】

なお、特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する契機を、特定入賞口Ｈ６５ａの下流側に位置する特定領域または非特定領域のうちの特定領域を通過することにするように構成しても良い。本実施形態では、特定領域を通過するか否かに対応する振り分けを内部制御により行っており、特定入賞口Ｈ６５ａの下流側に特定領域および非特定領域を構成することが不要とされている。即ち、抽選された大当たりに基づいて、特定入賞口Ｈ６５ａが特定領域を兼ねるタイミングが生じる場合が設定可能とされており、そのタイミングにおいて球が特定入賞口Ｈ６５ａ内へ入賞することを契機として特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。

【１２３０５】

本パチンコ機Ａ１０では、上述した通り、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ａ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで大当たりではない（外れである）と判定された場合には、小当たりと判定される場合が含まれ、小当たりと判定した場合はその小当たり種別の判定も行う。

【１２３０６】

小当たりでは、特定入賞口Ｈ６５ａが短時間開放されるように開閉板Ａ６５１が動作される。具体的には、特定入賞口Ｈ６５ａを開放させる期間が１．８秒間を超えない態様の動作とされる。小当たりの動作は、一回の開放動作に限られるものではなく、複数回の連続開放動作であっても良く、この場合には複数回の開放期間の合計が１．８秒間を超えな

い態様であれば良いとされる。
【１２３０７】
判定される小当たり種別としては、短開放の小当たりＡと、複数開放の小当たりＢとが、少なくとも用意されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、小当たりである場合はその小当たり種別に応じた図柄が示される。
【１２３０８】
小当たり種別に対応して、開閉板Ａ６５１の作動制御が異なるように構成される。即ち、小当たり種別が小当たりＡの場合には開閉板Ａ６５１が１．８秒間開放された後で閉鎖される作動パターン（短開放小当たり作動パターン）で制御され、小当たり種別が小当たりＢの場合には開閉板Ａ６５１が第１の小当たり作動パターンで制御される。以下、詳細を説明する。
【１２３０９】
図７０５は、第１の小当たり作動パターンにおける開閉板Ａ６５１及び駆動ソレノイドＡ６５２の状態の計時変化を示した図である。図７０５に図示されるように、小当たり種別が小当たりＢの場合には、第１の小当たり作動パターンに基づいて開閉板Ａ６５１が動作するようＭＰＵＨ２０１（図４９６参照）が駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御する。ＭＰＵＨ２０１は、特図変動表示(図柄変動演出)が終了すると、小当たりＢに設定された動作制御を開始する。
【１２３１０】
すなわち、タイマ手段で時間経過の計測を開始すると共に開閉板Ａ６５１を閉鎖状態（張出状態）から開放状態（退避状態）へ変位させて特定入賞口Ｈ６５ａを開放するよう駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御して、開閉板Ａ６５１に第１の作動時間(０．５秒)での短時間動作を行わせる。
【１２３１１】
タイマ手段により第１の作動時間（０．５秒）が経過した場合に、開閉板Ａ６５１を閉鎖状態（張出状態）へ変位させて特定入賞口Ｈ６５ａを閉鎖するよう駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御する。この駆動制御は、第１の閉鎖時間（１．０秒）が経過するまで開閉板Ａ６５１を閉鎖状態（張出状態）に保持する態様とされる。
【１２３１２】
その後、タイマ手段により第１の閉鎖時間（１．０秒）が経過した場合（小当たり動作の開始から１．５秒が経過した場合）に、開閉板Ａ６５１を閉鎖状態（張出状態）から開放状態（退避状態）へ変位させて特定入賞口Ｈ６５ａを開放するよう駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御して、開閉板Ａ６５１に第２の作動時間(０．５秒)での短時間動作を行わせる。
【１２３１３】
タイマ手段により第２の作動時間（０．５秒）が経過した場合（小当たり動作の開始から２．０秒が経過した場合）に、開閉板Ａ６５１を閉鎖状態（張出状態）へ変位させて特定入賞口Ｈ６５ａを閉鎖するよう駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御する。この駆動制御は、第２の閉鎖時間（１．０秒）が経過するまで開閉板Ａ６５１を閉鎖状態（張出状態）に保持する態様とされる。
【１２３１４】
その後、タイマ手段により第２の閉鎖時間（１．０秒）が経過した場合（小当たり動作の開始から３．０秒が経過した場合）に、開閉板Ａ６５１を閉鎖状態（張出状態）から開放状態（退避状態）へ変位させて特定入賞口Ｈ６５ａを開放するよう駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御して、開閉板Ａ６５１に第３の作動時間(０．５秒)での短時間動作を行わせる。
【１２３１５】
タイマ手段により第３の作動時間（０．５秒）が経過した場合（小当たり動作の開始から３．５秒が経過した場合）に、開閉板Ａ６５１を閉鎖状態（張出状態）へ変位させて特

定入賞口Ｈ６５ａを閉鎖するよう駆動ソレノイドＡ６５２を駆動制御して、第１の小当たり作動パターンでの動作が終了する。

【１２３１６】

図７０５に図示されるように、小当たりでは、短時間ながら開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）とされるので、特定入賞口Ｈ６５ａへの入球が許容される。そして、大当たりにおけるラウンド遊技Ｒの場合と同様に、規定個数（本実施形態では１０個）の球が特定入賞口Ｈ６５ａに入球された場合には、小当たりの作動パターンの途中であっても開閉板Ａ６５１は閉鎖状態（張出状態）に変位され、小当たりは終了する。

【１２３１７】

但し、第１の小当たり作動パターンでは、作動パターンの開始から終了までの期間が３．５秒と短く、この間に規定個数（本実施形態では１０個）の球の発射を行うことができない（球が最短の間隔（０．６秒間隔）で発射される仮定で発射可能な球数よりも規定個数の方が多い）ため、第１の小当たり作動パターン中に規定個数の球が特定入賞口Ｈ６５ａに入球する可能性は低く、ほとんどの場合、第１の小当たり作動パターンの途中で小当たりが終了する事態は生じない。

【１２３１８】

なお、上述した小当たりの作動パターンは一例であり、種々の態様で設定することが可能である。例えば、第１～第３の作動時間を同じ期間（０．５秒）として説明したが、必ずしも同じ期間とする必要はなく、それぞれ別の期間として設定しても良い。また、例えば、第１，２の閉鎖時間を同じ期間（１．０秒）として説明したが、必ずしも同じ期間とする必要はなく、それぞれ別の期間として設定しても良い。また、例えば、作動時間は第１～第３に限定されるものではなく、更に多くの回数（例えば、１５回）で設定することも可能であり、この場合において、閉鎖時間の長さ次第で、小当たり遊技の終了までに規定個数の球の発射が可能とされる場合があり、規定個数の入賞が可能となる場合がある。

【１２３１９】

このように、本パチンコ機Ａ１０では、右打ち遊技において、第２入賞口Ｈ６４０へ遊技球が入球すると約１／２の確率で特別遊技状態へ遊技状態を遷移させることが可能になり、これは左打ち遊技における大当たり確率（約１／３１９）よりも著しく高い確率となるので、右打ち遊技状態に対する遊技者の興趣を向上させることができる。

【１２３２０】

また、特定入賞口Ｈ６５ａの個数は限定されるものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｈ６４の右方に限らず、例えば、第１入賞口Ｈ６４の下方右側や、第１入賞口Ｈ６４の下方左側や、可変表示装置ユニットＨ８０の左方または右方や、上方でも良い。

【１２３２１】

遊技盤Ａ１３には、アウト口Ｈ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０にも入賞しなかった球は、アウト口Ｈ７１を通って図示しない球排出路へと案内される。

【１２３２２】

なお、本実施形態におけるその他装置Ｈ２２８（図４９６参照）には、駆動ソレノイドや駆動モータや、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ａ６４０ａを駆動させる駆動ソレノイドＡ６４２等が含まれる。なお、本実施形態においても、その他装置Ｈ２２８には、上述の役物装置の駆動源だけではなく、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示せず）や、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ａ６４０ａの駆動源等（駆動ソレノイドＡ６４２等）や、駆動ソレノイドＡ６５２や、駆動ギアＡ１１６５４，Ａ１２６５４を駆動させる駆動モータや、回転風車部材Ａ１３６９０を回転駆動させる駆動源等を含む構成としても良い。また、本実施形態における各種スイッチＨ２０８（図４９６参照）には、検出センサ（入賞検出センサＡＳＣ６４及び入賞検出センサＡＳＣ６５）等が含まれる。

【１２３２３】

図７０６は、遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＤ２００の分解正面斜視図である。なお、

図７０６では、風車ＡＷＦ及び球の流下経路を形成するためにベース板Ａ６０に植設される釘の図示が省略される。

【１２３２４】

図７０６に図示されるように、遊技盤Ａ１３は、ベース板Ａ６０に対して、センターフレームＡ８６よりも右方において穿設される右方穿設部Ａ６０ａを前方から塞ぐようにして第１球流下構造体Ａ３００が組み付けられ、センターフレームＡ８６よりも下方において穿設される下方穿設部Ａ６０ｂを前方から塞ぐようにして第２球流下構造体Ａ６００が組み付けられる。

【１２３２５】

図７０７は、第２球流下構造体Ａ６００の正面斜視図であり、図７０８は、第２球流下構造体Ａ６００の背面斜視図である。図７０９は、第２球流下構造体Ａ６００の分解正面斜視図であり、図７１０は、第２球流下構造体Ａ６００の分解背面斜視図であり、図７１１は、第２球流下構造体Ａ６００の正面図である。なお、以下の説明では、第２球流下構造体Ａ６００の説明について、図５４３から図５４７を適宜参照する。

【１２３２６】

図７０７に図示されるように、カバー部材Ａ６３０の前面には、「ＢＯＮＵＳ」との意匠が半透明で形成されたシールが貼り付けられる。この「ＢＯＮＵＳ」との意匠は、有色（本実施形態では緑色）半透明で視認されるように構成され、流下領域ＡＲ６５の前方側に位置しており、「ＢＯＮＵＳ」との意匠に対する遊技者の注目力は高めることができる。本実施形態では、「ＢＯＮＵＳ」との意匠の色は、開閉板Ａ６５１（赤色）とのコントラストが強くなる色で選定したが、必ずしもこれに限られるものではなく、黄色でも、青色でも良い。

【１２３２７】

上述は、「ＢＯＮＵＳ」との意匠の利点であるが、逆に、「ＢＯＮＵＳ」との意匠が半透明の目隠しとして作用して、流下領域ＡＲ６５を流下する球が若干視認し難くなる可能性がある。本実施形態では、流下する球を見逃さないように種々の工夫が採用されているが、詳細は後述する。なお、カバー部材Ａ６３０に形成される意匠は、上述のものに限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、パチンコ機Ａ１０のタイトルロゴでも良いし、特定の数字でも良いし、模様でも良いし、イラストでも良い。

【１２３２８】

図７１１では、説明の便宜上、カバー部材Ａ６３０の板状本体Ａ６３１の図示が省略され、カバー部材Ａ６３０に締結固定される第１電飾基板Ａ６６０が実線で図示される。カバー部材Ａ６３０について、まず、カバー部材Ａ６３０の構成であって正面視における外形が想像線で図示される。また、カバー部材Ａ６３０の構成であって流路側壁を構成する延設形成部Ａ６３２及び流路に対して凹凸形成される部位の形状が想像線で図示される。換言すれば、想像線により、球の通過経路の形状および凹凸が形成される部位が図示されている。

【１２３２９】

可変入賞装置Ａ６５は、案内開口Ａ６１２を通り前後方向に進退動作可能な開閉板Ａ６５１と、その開閉板Ａ６５１を駆動させる駆動ソレノイドＡ６５２と、開閉板Ａ６５１及び駆動ソレノイドＡ６５２を前方側から受け入れ可能となるように前方側が開放形成されておりベース部材Ａ６１０の背面側に締結固定される受入箱部材Ａ６５５と、開閉板Ａ６５１と干渉しない範囲（開閉板Ａ６５１の下側の範囲）において受入箱部材Ａ６５５の開放形成部を閉塞するように受入箱部材Ａ６５５に締結固定される前カバー部材Ａ６５６と、を備える（図７０９参照）。

【１２３３０】

開閉板Ａ６５１は、有色（本実施形態では赤色）不透明の樹脂材料から形成され、駆動ソレノイドＡ６５２が非励磁の状態において、駆動ソレノイドＡ６５２のプランジャーが付勢バネ（図示せず）により一方向に付勢されることに基づいて前方側に張り出す可変入賞装置Ａ６５の張出状態（閉鎖状態）と、駆動ソレノイドＡ６５２が励磁された状態にお

いて後方に退避する退避状態（開放状態）とを構成可能とされる。可変入賞装置Ａ６５の張出状態（閉鎖状態）では、特定入賞口Ｈ６５ａへの入球が抑制され、可変入賞装置Ａ６５の退避状態（開放状態）では、特定入賞口Ｈ６５ａへの入球が許容される。

【１２３３１】

開閉板Ａ６５１上を転動する球の流下経路の手前側には、カバー部材Ａ６３０の減速突部Ａ６３３が位置する。減速凹部Ａ６１３とは違い、減速突部Ａ６３３の上下幅は球の直径よりも小さくされる。これにより、開閉板Ａ６５１上を球が転動する場合に、球が減速突部Ａ６３３により隠されて（見え難くされて）、遊技者が球の位置を把握できなくなる事態を避けることができる。

【１２３３２】

第１電飾基板Ａ６６０は、延設形成部Ａ６３２で縁取られる領域よりも下側の箇所において光を照射可能なＬＥＤ等の複数の発光部Ａ６６１を有しており、カバー部材Ａ６３０に締結固定される。

【１２３３３】

第１電飾基板Ａ６６０の発光部Ａ６６１は、それぞれ発光される光の方向が異なる第１発光部Ａ６６２、第２発光部Ａ６６３、第３発光部Ａ６６４を備える。第１発光部Ａ６６２は、第１電飾基板Ａ６６０の板面に垂直な方向（前側方向）に向けた光を発光する。

【１２３３４】

第２発光部Ａ６６３は、正面視で開閉板Ａ６５１の右側に配設されている。詳述すると、第２発光部Ａ６６３は、開閉板Ａ６５１の下側を流下する球の流下領域ＡＲ６５よりも右側に配設されている。

【１２３３５】

第２発光部Ａ６６３は、第１電飾基板Ａ６６０の板面に平行な方向であって、且つ、左側方向に向けた光を発光する。これにより、開閉板Ａ６５１の下側の領域を流下する球に光を照射可能となっている。

【１２３３６】

第３発光部Ａ６６４は、正面視で開閉板Ａ６５１の下側に配設されている。詳述すると、第３発光部Ａ６６４は、開閉板Ａ６５１の下側を流下する球の流下領域ＡＲ６５よりも下側に配設されている。

【１２３３７】

第３発光部Ａ６６４は、第１電飾基板Ａ６６０の板面に平行な方向であって、且つ、左上側方向に向けた方向に中心軸（最も明るい部分）が向けられる光を発光する。第３発光部Ａ６６４は、開閉板Ａ６５１の下側の領域を流下する球に光を照射可能となっており、且つ、開閉板Ａ６５１側に光を照射可能となっている。更に、第３発光部Ａ６６４は、開閉板Ａ６５１よりも上方側に位置するカバー部材Ａ６３０の板状本体Ａ６３１における照射領域ＡＲ６３１に光を照射可能となっているが、詳細は後述する。

【１２３３８】

このように構成されていることから、発光部Ａ６６１の構成は、第２発光部Ａ６６３の光と、第３発光部Ａ６６４の光とが、正面視で交差する態様で構成される。

【１２３３９】

第３発光部Ａ６６４の光は、ＬＥＤから発せられる光の中心軸（最も明るい部分）から前後側に広がった位置の光（少し暗くなる部分）が直進した位置には、カバー部材Ａ６３０の板状本体Ａ６３１の照射領域ＡＲ６３１が形成される。

【１２３４０】

流下領域ＡＲ６５を球が流下する場合には、第３発光部Ａ６６４の光が球に反射されることの影響で、照射領域ＡＲ６３１への光の届き方が変化される。この場合、流下領域ＡＲ６５における球自体が見え難くなっても、照射領域ＡＲ６３１における光の視認態様の変化が視認可能であれば、その変化を遊技者は把握することによって、入賞が予定される球の挙動を把握することができる。

【１２３４１】

板状本体Ａ６３１の縁部には、リブ部Ａ６３１ｂが後方側に張出形成される（図７０８参照）。リブ部Ａ６３１ｂにより、角度的に第２球流下構造体Ａ６００から外れる（左上方向に抜ける）方向に進行する光の少なくとも一部が板状本体Ａ６３１側に反射されることで、板状本体Ａ６３１に照射される光の光量を増加させることができる。

【１２３４２】

図７１２（ａ）及び図７１２（ｂ）は、図７１１の矢印Ｂ３１ｍ方向視における可変入賞装置Ａ６５の模式図である。図７１２（ａ）及び図７１２（ｂ）では、可変入賞装置Ａ６５の内、可動部としての開閉板Ａ６５１及び駆動ソレノイドＡ６５２が図示され、受入箱部材Ａ６５５及び前カバー部材Ａ６５６の図示が省略される。また、流下領域ＡＲ６５を構成するベース部材Ａ６１０の板状本体Ａ６１１とカバー部材Ａ６３０の板状本体Ａ６３１とが想像線で図示される。

【１２３４３】

開閉板Ａ６５１は、有色（本実施形態では赤色）不透明の樹脂材料から形成される。図７１２（ａ）では、駆動ソレノイドＡ６５２が非励磁の状態において、駆動ソレノイドＡ６５２のプランジャーが付勢バネ（図示せず）により一方向に付勢されることに基づいて開閉板Ａ６５１が前方側（流下領域ＡＲ６５側）に張り出した可変入賞装置Ａ６５の張出状態（閉鎖状態）が図示され、図７１２（ｂ）では、駆動ソレノイドＡ６５２が励磁された状態において開閉板Ａ６５１が前方側（流下領域ＡＲ６５側）から後方に退避した退避状態（開放状態）が図示される。

【１２３４４】

可変入賞装置Ａ６５の張出状態（閉鎖状態）では、開閉板Ａ６５１よりも上流側から流下する球が流下領域ＡＲ６５に流入することが防止され、可変入賞装置Ａ６５の退避状態（開放状態）では、開閉板Ａ６５１よりも上流側から流下する球が流下領域ＡＲ６５に流入することが許容される。

【１２３４５】

図７１２（ａ）に図示されるように、可変入賞装置Ａ６５の張出状態（閉鎖状態）では、開閉板Ａ６５１の前端部とカバー部材Ａ６３０の板状本体Ａ６３１との間が塞がれるものではなく、球の半径よりも短い前後方向の隙間が生じるように構成される。これにより、可変入賞装置Ａ６５の張出状態（閉鎖状態）において球が流下領域ＡＲ６５に流入する事態を回避しつつ、開閉板Ａ６５１がカバー部材Ａ６３０と衝突して破損する事態を回避することができる。

【１２３４６】

開閉板Ａ６５１は、上面（転動面）の大部分が平滑面として構成され、左右中央側の前端部に山状に突出される突出部Ａ６５１ａが形成される。突出部Ａ６５１ａは、ベース部材Ａ６１０の減速凹部Ａ６１３と前後方向で対応する位置に形成されており、開閉板Ａ６５１の上面を転動する球の下半部側と当接することで、その球を後方側（減速凹部Ａ６１３側）に寄せるように作用する。

【１２３４７】

即ち、開閉板Ａ６５１の上面を左右方向の傾斜に沿って転動する球は、突出部Ａ６５１ａが形成されている左右位置において、ベース部材Ａ６１０側（後方側）の位置（極端な場合はベース部材Ａ６１０に当接する位置）を流下する。

【１２３４８】

これにより、球の重みが開閉板Ａ６５１に加えられる位置を開閉板Ａ６５１の支持根元側（後方側）の位置とすることができ、球の重みによる開閉板Ａ６５１の前傾変位を生じ難くすることができる。

【１２３４９】

開閉板Ａ６５１は張出状態（閉鎖状態）において後端側で片持ち支持されているため、上面に乗る球の位置が前側寄りであるほど開閉板Ａ６５１が前傾変位され易く、前傾変位が過大となると開閉板Ａ６５１の前端部とカバー部材Ａ６３０との前後隙間が広がって、隙間に球がはまり込む事態が生じる可能性があり、球の流下が阻害され得る。

【１２３５０】
これに対し、突出部Ａ６５１ａによって球が後方側に寄せられることにより、開閉板Ａ６５１に乗っている球の位置が前側寄りとなる状況の発生を抑えることができ、開閉板Ａ６５１の前傾変位の発生を抑えることができる。なお、突出部Ａ６５１ａの形成箇所は、一箇所である必要はなく、複数箇所に設けるようにしても良い。
【１２３５１】
図７１３（ａ）及び図７１３（ｂ）は、図７１１のＢ３２ｍ－Ｂ３２ｍ線における第２球流下構造体Ａ６００の部分断面図であり、図７１４及び図７１５は、図７１１の範囲Ｂ３３ｍにおける第２球流下構造体Ａ６００の部分正面拡大図である。
【１２３５２】
図７１３（ａ）では、開閉板Ａ６５１が、流下領域ＡＲ６５側に向けて前方に張り出した張出状態（閉鎖状態）が図示され、図７１３（ｂ）では、開閉板Ａ６５１が、流下領域ＡＲ６５側から後方に退避した退避状態（開放状態）が図示される。図７１３では、一部破断され、リブ部Ａ６３１ｂが視認可能とされる。
【１２３５３】
図７１４では、図７１３（ａ）と同様に、開閉板Ａ６５１が前方領域側に向けて前方に張り出した状態が図示され、図７１５では、図７１３（ｂ）と同様に、開閉板Ａ６５１が、前方領域から後方に退避した状態が図示される。
【１２３５４】
遊技者がパチンコ機Ａ１０を遊技する場合、ガラスユニットＨ１６の中央部と正対する位置に遊技者の目が位置することが通常である。そのため、遊技盤Ａ１３の下側部に位置する遊技者が注目する領域である流下領域ＡＲ６５を見る場合、遊技者は、斜め下方向に目線を向ける態様で視認することになる。図７１３（ａ）及び図７１３（ｂ）では、流下領域ＡＲ６５を見る場合の遊技者の目および目線が模式的に図示されている（遊技者目線の方向視を示す矢印ＡＥＤ６５は水平に対して斜め下方向に略４５度傾斜した方向として図示される）。
【１２３５５】
矢印ＡＥＤ６５は、開閉板Ａ６５１の移動方向（前後方向）に対して互いに傾斜する態様で交差する。即ち、矢印ＡＥＤ６５方向の目線で流下領域ＡＲ６５を視認している場合において、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）から張出状態（閉鎖状態）へ向けて移動する場合、開閉板Ａ６５１は遊技者の視界の内方に入り込む態様で張り出すように移動する。これにより、退避状態（開放状態）と張出状態（閉鎖状態）との変化を、遊技者に把握させ易くすることができる。
【１２３５６】
第３発光部Ａ６６４（及び第２発光部Ａ６６３）は、特に説明しない限り、開閉板Ａ６５１の状態の変化に因らず、継続して発光されるように制御される。これにより、流下領域ＡＲ６５の前面側は、ＬＥＤの中心軸から離れた方向の光により淡く照らされた状態とされる。
【１２３５７】
即ち、第３発光部Ａ６６４を例にすれば、ＬＥＤの中心軸の方向（図７１１において矢印線で図示される方向）を中心として放射状に広がる範囲であって、照射領域ＡＲ６３１を終端部とする領域において、カバー部材Ａ６３０に光が照射され得る。
【１２３５８】
第３発光部Ａ６６４（及び第２発光部Ａ６６３）の光の内、中心軸に近い光は、開閉板Ａ６５１に照射され得る態様で進行するが、開閉板Ａ６５１への照射態様が、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となっているか、退避状態（開放状態）となっているかで、異なる。
【１２３５９】
開閉板Ａ６５１の張出状態（閉鎖状態）では、第３発光部Ａ６６４（及び第２発光部Ａ６６３）の光の内、中心軸に近い光ＡＬＣ１は開閉板Ａ６５１の下面に照射された後、反

射され、流下領域ＡＲ６５の下部における流下底面Ａ６３２ｆに照射される。
【１２３６０】
これにより、第３発光部Ａ６６４（及び第２発光部Ａ６６３）の光の内、最も明るい光ＡＬＣ１が開閉板Ａ６５１で反射されることから、開閉板Ａ６５１の上側から視認する遊技者にとっては、眩しさが緩和され、流下領域ＡＲ６５を視認し易くなる。更に、流下領域ＡＲ６５の下部における主経路形成部Ａ６３２ｃの流下底面Ａ６３２ｆが明るく照らされることから、開閉板Ａ６５１の影で暗くなりがちな流下領域ＡＲ６５の視認性を向上させることができる。
【１２３６１】
開閉板Ａ６５１の張出状態（閉鎖状態）では、第３発光部Ａ６６４（及び第２発光部Ａ６６３）の光の内、中心軸から少し離れた光ＡＬＣ２が開閉板Ａ６５１の前端部に照射され、その前端部の明るさが強められる。更に、光ＡＬＣ２が開閉板Ａ６５１の前端部で反射されることで、斜め上方向の進行方向は維持しながら若干水平寄りに角度修正されて進行する。換言すれば、第１電飾基板Ａ６６０は、第３発光部Ａ６６４（及び第２発光部Ａ６６３）の光が張出状態（閉鎖状態）の開閉板Ａ６５１の前端部に到達可能となるようカバー部材Ａ６３０に固定配置される。
【１２３６２】
開閉板Ａ６５１の端部に反射された場合の光ＡＬＣ２は、カバー部材Ａ６３０の照射領域ＡＲ６３１の第１領域ＡＲ６３１ａに照射される。即ち、図７１２（ａ）で上述したように、開閉板Ａ６５１とカバー部材Ａ６３０との間が閉塞されるものではなく、張出状態（閉鎖状態）においても隙間が確保されていることから、この隙間を抜けた光ＡＬＣ２が照射領域ＡＲ６３１の第１領域ＡＲ６３１ａに照射される。
【１２３６３】
このように、開閉板Ａ６５１の張出状態（閉鎖状態）では、光ＡＬＣ１により流下底面Ａ６３２ｆが明るく照らされると共に、光ＡＬＣ２により第１領域ＡＲ６３１ａが照らされる状況が、視認可能とされる。
【１２３６４】
光ＡＬＣ１と光ＡＬＣ２との間（中心軸からの離れ具合が間）の光は、図７１３（ａ）に図示される光ＡＬＣ１と光ＡＬＣ２との間の範囲（角度範囲）で開閉板Ａ６５１により屈折され、前方側へ進行するため、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされた場合において、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）である場合に比較して、光ＡＬＣ２の到達する第１領域ＡＲ６３１ａから光ＡＬＣ１が到達する流下底面Ａ６３２ｆまでに亘る領域において、カバー部材Ａ６３０の板状本体Ａ６３１が明るくされる。
【１２３６５】
即ち、光ＡＬＣ２により明るくされる領域は第１領域ＡＲ６３１ａだけではなく、開閉板Ａ６５１が近接離反する正面側の領域や、当該領域を含む第１領域ＡＲ６３１ａと流下底面Ａ６３２ｆとの間の領域においても板状本体Ａ６３１が明るくされる。板状本体Ａ６３１を明るくする上述の光を、遊技者は板状本体Ａ６３１を介して視認可能となっている。換言すれば、板状本体Ａ６３１を明るくする上述の光は、板状本体Ａ６３１で全反射して後方に進行するといったものではなく、少なくとも一部は板状本体Ａ６３１を透過して前方側へ進行するよう構成される。なお、板状本体Ａ６３１で全反射する場合を構成可能（例えば、板状本体Ａ６３１の態様を変更可能に構成することで実現可能）としても良い。
【１２３６６】
開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）では、第３発光部Ａ６６４（及び第２発光部Ａ６６３）の光の内、中心軸に近い光ＡＬＣ１は、開閉板Ａ６５１の上方側に位置する主経路形成部Ａ６３２ｃの流下天面Ａ６３２ｇに照射される。流下天面Ａ６３２ｇを透過した光は、カバー部材Ａ６３０のリブ部Ａ６３１ｂに到達し、反射される。
【１２３６７】
これにより、第３発光部Ａ６６４（及び第２発光部Ａ６６３）の光の内、最も明るい光

ＡＬＣ１によって、開閉板Ａ６５１よりも上方側（遊技者の目が位置する側）が明るく照らされる。

【１２３６８】

開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）では、第３発光部Ａ６６４（及び第２発光部Ａ６６３）の光の内、中心軸から少し離れた光ＡＬＣ２は、開閉板Ａ６５１に反射されることなく斜め上方向に進行し、カバー部材Ａ６３０の照射領域ＡＲ６３１の第２領域ＡＲ６３１ｂに照射される。第２領域ＡＲ６３１ｂは、第１領域ＡＲ６３１ａよりも第３発光部Ａ６６４（及び第２発光部Ａ６６３）から遠い位置（上方位置）である。

【１２３６９】

このように、開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）では、光ＡＬＣ１により流下天面Ａ６３２ｇ及びカバー部材Ａ６３０のリブ部Ａ６３１ｂが明るく照らされると共に、光ＡＬＣ２により第２領域ＡＲ６３１ｂが照らされる状況が、視認可能とされる。

【１２３７０】

本実施形態では、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）なのか、退避状態（開放状態）なのかを知りたい場合に、遊技者は、照射領域ＡＲ６３１を視認し、第１領域ＡＲ６３１ａが明るくなっているか、第２領域ＡＲ６３２ｂが明るくなっているかを視認すれば足りる。

【１２３７１】

即ち、開閉板Ａ６５１自体を視認する必要が無くなる。遊技者が注目する領域である照射領域ＡＲ６３１は、開閉板Ａ６５１よりも手前側（遊技者側）に位置しているので、開閉板Ａ６５１自体を視認しないと開閉板Ａ６５１の状態を知ることができない場合に比較して、開閉板Ａ６５１の状態の把握が容易であり、遊技の快適さを向上させることができる。

【１２３７２】

発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光が到達する照射領域ＡＲ６３１は、正面視において、遊技球が流下する経路（延設形成部Ａ６３２により区画される通路）とは重ならない位置に形成される。

【１２３７３】

そのため、照射領域ＡＲ６３１への光の照射態様と、経路を流下する遊技球の視認態様とを、独立させることができる。

【１２３７４】

即ち、従来のパチンコ機のように、遊技球が流下する経路の背面側にＬＥＤを配置し、前方へ向けて光照射する態様では、照射光の強度が大きすぎると、カバー部材Ａ６３０が明るくなりすぎて、眩しすぎて正面視で注視できず、その奥に形成される遊技球の流下経路を視認することも困難となる場合があった。これに対し、本実施形態では、遊技球が流下する経路が照射領域ＡＲ６３１と正面視で重ならないため、照射領域ＡＲ６３１への照射光の強度が大きくなっても、遊技球の流下経路を視認する際に問題が生じるものではない。そのため、照射領域ＡＲ６３１への光の照射態様の自由度の向上と、遊技球の流下経路の視認性の確保との両立を図ることができる。

【１２３７５】

照射領域ＡＲ６３１における形状が平滑面で形成されるように構成してもいいし（図７０７参照）、照射領域ＡＲ６３１における態様は、凹凸を有する模様を形成しても良いし、文字などを刻印し装飾を施しても良いし、キャラクター等が描かれたシールを貼り付けて装飾を施しても良いし、その他種々の態様が例示される。

【１２３７６】

本実施形態では、第１領域ＡＲ６３１ａに動作の停止を示唆可能な「正方形」の図形の刻印がされ、第２領域ＡＲ６３１ｂに、頂点が左右両側へ向く態様により左右への「開放」を示唆可能な「菱形」の図形の刻印がされる。これにより、照射領域ＡＲ６３１を視認した遊技者が、第１領域ＡＲ６３１ａ又は第２領域ＡＲ６３１ｂの明るさの程度の違いを把握し（光ＡＬＣ２が到達している側を把握し）、明るくなっている側における刻印を確

認することで、開閉板Ａ６５１が閉鎖状態（張出状態）であるか、開放状態（退避状態）であるかを、直感的に判断することができるように構成される。

【１２３７７】

これにより、大当たり種別によって、大当たり遊技の制御が開始されてから実際に開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）となるまでに経過する時間に違いがある場合（大当たり種別によってオープニング時間ＯＰの長さに違いがある場合）であっても、照射領域ＡＲ６３１を視認すれば開閉板Ａ６５１の動作タイミングが一目瞭然で判別できるため、球発射のための操作ハンドルＨ５１の操作を適切に行うことが可能となる。

【１２３７８】

これは、大当たり遊技の制御が開始され、第３図柄表示装置Ｈ８１により「右打ち」の表示がされても、それと同時に開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）に制御されるとは限らず、「右打ち」の表示がされると同時に操作を促される操作対象としての操作ハンドルＨ５１を操作すると何球目かまでの発射球は開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）を維持する状態において開閉板Ａ６５１に到達してしまい、流下領域ＡＲ６５に流入し得ずに開閉板Ａ６５１の上面を通過して、アウト口Ｈ７１に案内され得るといった遊技者にとっての不利益が生じる場合があることへの対策として機能する。

【１２３７９】

即ち、このように構成することで、カバー部材Ａ６３０に半透明のデザイン（例えば、「ＢＯＮＵＳ」との意匠）が形成され、流下領域ＡＲ６５及び開閉板Ａ６５１の視認性が低下される場合であっても、照射領域ＡＲ６３１を視認することで開閉板Ａ６５１の状態が把握できるため、遊技者の遊技ストレスを緩和することができる。

【１２３８０】

なお、第３図柄表示装置Ｈ８１による「右打ち」の表示は、大当たり遊技の制御が開始されてから終了まで常に表示されるようにしても良いし、表示させる場合と表示させない場合とを切り替えても良い。前者の場合には、大当たり遊技中であるか否かを第３図柄表示装置Ｈ８１の表示により把握し易い。

【１２３８１】

後者の場合としては、例えば、ラウンド遊技Ｒ中においては「右打ち」の表示をさせ、ラウンド間インターバル期間においては「右打ち」の表示を非表示とするようにしても良い。即ち、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）の場合に操作ハンドルＨ５１の操作を促す表示をする一方で、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）の場合にその表示を非表示とさせるように制御しても良い。

【１２３８２】

この場合、開閉板Ａ６５１の状態の変化について第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様から把握することができるので、操作ハンドルＨ５１を操作すべきタイミングや、操作を止めるべきタイミングについて、遊技者は容易に把握することができるので、遊技ストレスを低減することができる。

【１２３８３】

なお、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となるのがラウンド間インターバル期間に限らない場合（例えば、第２の大当たり作動パターン（図７０４参照））には、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となる各場合において「右打ち」の表示を非表示にするようにしても良いし、非表示にする場合と表示を維持する場合とを混在させるようにしても良い。全ての張出状態（閉鎖状態）となる場合において「右打ち」の表示を非表示にすれば、遊技者は開閉板Ａ６５１の状態を把握し易くなる。一方で、極めて短時間の張出状態（閉鎖状態）が生じる場合を把握できたところで、発射した球が到達するころには張出状態（閉鎖状態）から退避状態（開放状態）に変化しているし、遊技者に違和感を与えるだけだとして、特定の場合には「右打ち」の表示を継続するようにしても良い。

【１２３８４】

第１領域ＡＲ６３１ａ又は第２領域ＡＲ６３１ｂの明るさの程度の変化は、開閉板Ａ６５１の動作制御のパターンの変化に対応して変化される。例えば、第１の大当たり作動パ

ターン（図７０３参照）で開閉板Ａ６５１が動作制御されている場合には、第２領域ＡＲ６３１ｂが明るい状態が長く（最大３０秒間）維持される一方で、第１の小当たり作動パターン（図７０５参照）で開閉板Ａ６５１が動作制御されている場合には、第２領域ＡＲ６３１ｂが明るい状態が短時間（０．５秒間）しか維持されない。

【１２３８５】

そのため、遊技者は、照射領域ＡＲ６３１における視認態様の変化のパターンから、開閉板Ａ６５１の動作が、長期間開放動作であって多数の入球を望める態様の動作なのか、短期間開放動作であってあまり入球を望めない態様の動作なのかを、開閉板Ａ６５１を直接視認することをせずとも、把握することができる。

【１２３８６】

本実施形態では、照射領域ＡＲ６３１の近傍に、表示装置Ａ６３８が配設される。表示装置Ａ６３８は、２桁の７セグランプにより構成される表示部Ａ６３８ａと、複数の受光素子Ａ６３８ｂ（フォトセンサ）（図７１０参照）と、その受光素子Ａ６３８ｂにおける受光態様から表示部Ａ６３８ａに表示する態様を決定する制御部（不図示）と、を備えている。制御部（不図示）により決定される態様は表示の種類であり、表示の明るさは表示装置Ａ６３８に流される電流により決定される。

【１２３８７】

板状本体Ａ６３１には、可変入賞装置Ａ６５の張出状態（閉鎖状態）において光ＡＬＣ２を受光素子Ａ６３８ｂ（フォトセンサ）の第１受光部Ａ６３８ｃ（下側）へ向けて反射させる第１反射部Ａ６３１ｆ（下方位置）と、可変入賞装置Ａ６５の退避状態（開放状態）において光ＡＬＣ２を受光素子Ａ６３８ｂ（フォトセンサ）の第２受光部Ａ６３８ｄ（上側）へ向けて反射させる第２反射部Ａ６３１ｇ（上方位置）とが形成される（図７１０参照）。

【１２３８８】

第１反射部Ａ６３１ｆ及び第２反射部Ａ６３１ｇは、いずれも板状本体Ａ６３１の後方に張り出す張出部の下面側に鍍金蒸着により形成されており、その張出部の下面側が、板状本体Ａ６３１の背面で反射した光を受光素子Ａ６３８ｂ（フォトセンサ）へ向けて進行させるように反射させる形状から形成される。

【１２３８９】

第１反射部Ａ６３１ｆは、第１領域ＡＲ６３１ａに対応する位置の後方側に張出形成されており、第２反射部Ａ６３１ｇは、第２領域ＡＲ６３１ｂに対応する位置の後方側に張出形成されている。照射領域ＡＲ６３１において第１領域ＡＲ６３１ａが明るく視認される場合に、第１反射部Ａ６３１ｆで光が反射され、第１受光部Ａ６３８ｃに受光される。一方、照射領域ＡＲ６３１において第２領域ＡＲ６３１ｂが明るく視認される場合に、第２反射部Ａ６３１ｇで光が反射され、第２受光部Ａ６３８ｄに受光される。

【１２３９０】

表示部Ａ６３８ａにおける表示態様は、受光素子Ａ６３８ｂ（フォトセンサ）における光の受光態様に対応して、切り替えられる。受光態様としては、光のパルス長さ、点滅の周期（デューティ比）、受光位置の変化（選択、組合せ）、等が例示される。

【１２３９１】

受光位置の変化は、可変入賞装置Ａ６５の動作状態（閉鎖状態または開放状態）に対応しているため、表示装置Ａ６３８の表示が可変入賞装置Ａ６５の動作状態に直接的に関連していることから、表示装置Ａ６３８の表示に対する遊技者の注目力の向上を図ることができる。

【１２３９２】

これが照射領域ＡＲ６３１における光と合わせて視認されることで、よりカバー部材Ａ６３０（開閉板Ａ６５１よりも前方側）への注目力を向上させることができるようになっている。

【１２３９３】

本実施形態では、照射領域ＡＲ６３１における視認態様の変化（直接的に視認される光

の視認態様の変化）によっても、可変入賞装置Ａ６５の動作状態の把握は可能になっているが、実際の遊技においては、パチンコ機Ａ１０に備えられる照射装置からの照射光のみならず、遊技ホールの店内照明もガラスユニットＨ１６（図７０１参照）に反射され、視認されるため、開閉板Ａ６５１の位置に対応した照射領域ＡＲ６３１における視認態様の変化を遊技者が認識し難い場合が生じ得る。

【１２３９４】

これに対し、本実施形態では、照射領域ＡＲ６３１に加えて、表示装置Ａ６３８における表示態様が、可変入賞装置Ａ６５の動作状態の変化により切り替えられるように構成した。これにより、照射領域ＡＲ６３１における視認態様の変化を遊技者が認識し難い場合であっても、複数態様で光を照射可能な手段である表示装置Ａ６３８の表示態様を視認することで、可変入賞装置Ａ６５の動作状態を遊技者が把握し易いように構成することができる。

【１２３９５】

図７１６（ａ）、図７１６（ｂ）、図７１６（ｃ）、図７１６（ｄ）、図７１６（ｅ）、図７１６（ｆ）及び図７１６（ｇ）は、表示部Ａ６３８ａの正面図である。図７１６（ａ）では、７セグランプの全て消灯している状態が図示され、図７１６（ｂ）から図７１６（ｇ）では、７セグランプの点灯している箇所が塗りつぶして図示される。

【１２３９６】

表示部Ａ６３８ａにおける表示は、受光素子Ａ６３８ｂ（フォトセンサ）において光が受光される位置や、受光される光の態様に対応した表示（報知）のバリエーションを設定することができるが、全てにおいて異ならせる必要はなく、予め設定することができる。

【１２３９７】

本実施形態では、受光される光のパルス幅が１［ｍｓｅｃ］未満の場合には、光の受光が第１受光部Ａ６３８ｃ（下側）でされるか、第２受光部Ａ６３８ｄ（上側）でされるかに関わらず、同じ態様の表示がされる。

【１２３９８】

即ち、本実施形態では、１［μｓｅｃ］のパルス幅の光が検出された場合に「３」（図７１６（ｂ）参照）と表示され、１０［μｓｅｃ］のパルス幅の光が検出された場合に「２」（図７１６（ｃ）参照）と表示され、１００［μｓｅｃ］のパルス幅の光が検出された場合に「１」（図７１６（ｄ）参照）と表示される。

【１２３９９】

これにより、可変入賞装置Ａ６５が閉鎖状態か開放状態かに関わらず、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）から発光させるパルス幅の設定次第で、閉鎖状態や開放状態からの切り替えタイミングが近いことをカウントダウンで報知することができる。

【１２４００】

即ち、ラウンド間インターバル期間が２秒間である場合において、ラウンド間インターバル期間の開始から０．５秒後に１［μｓｅｃ］のパルス幅の光照射を実行させ、ラウンド間インターバル期間の開始から１．０秒後に１０［μｓｅｃ］のパルス幅の光照射を実行させ、ラウンド間インターバル期間の開始から１．５秒後に１［μｓｅｃ］のパルス幅の光照射を実行させるようにすることで、０．５秒間隔でカウントダウンする態様の報知を行うことができ、これにより遊技者がラウンド間インターバル期間の終了タイミング（次のラウンド遊技の開始タイミング）を把握し易くすることができる。

【１２４０１】

また、ラウンド遊技における規定個数が１０個である場合において、入賞検出センサＡＳＣ６５で７個目の入賞が検出された場合に１［μｓｅｃ］のパルス幅の光照射を実行させ、入賞検出センサＡＳＣ６５で８個目の入賞が検出された場合に１０［μｓｅｃ］のパルス幅の光照射を実行させ、入賞検出センサＡＳＣ６５で９個目の入賞が検出された場合に１００［μｓｅｃ］のパルス幅の光照射を実行させるようにすることで、規定入賞個数までカウントダウンされる態様の報知を行うことができ、これにより遊技者がラウンド遊技の終了タイミングを把握し易くすることができ、操作ハンドルＨ５１の操作を切り替え

るタイミング（例えば、球の発射を停止するタイミング（継続して球を発射させる期間の終了時期）や、球の発射態様を「打ちっぱなし」から「単発打ち」に変えるタイミング（継続して球を発射させる期間の終了時期）、等）を把握し易くすることができる。

【１２４０２】

一方、本実施形態では、受光される光のパルス幅が約１［ｍｓｅｃ］の場合には、光の受光が第１受光部Ａ６３８ｃ（下側）でされるか、第２受光部Ａ６３８ｄ（上側）でされるかによって、表示態様が異なる。

【１２４０３】

即ち、約１［ｍｓｅｃ］のパルス幅の光を検出した場合には、受光素子Ａ６３８ｂ（フォトセンサ）の第１受光部Ａ６３８ｃ（下側）での検出であれば、閉鎖を意味する英単語「ＣＬＯＳＥ」の２文字目までを表現した「ＣＬ」（図７１６（ｅ）参照）が表示部Ａ６３８ａに表示され、受光素子Ａ６３８ｂ（フォトセンサ）の第２受光部Ａ６３８ｄ（上側）での検出であれば、開放を意味する英単語「ＯＰＥＮ」の２文字目までを表現した「ＯＰ」（図７１６（ｆ）参照）が表示部Ａ６３８ａに表示される。

【１２４０４】

そのため、本実施形態では、ラウンド間インターバル期間の開始直後や、ラウンド遊技の開始直後から発光態様が切り替えられるまでは、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）から発光させる光のパルス幅が約１［ｍｓｅｃ］とされる。これにより、表示部Ａ６３８ａにおいて「ＣＬ」又は「ＯＰ」の表示がされ、表示部Ａ６３８ａを視認した遊技者に対して可変入賞装置Ａ６５が閉鎖状態となっているか開放状態となっているかを把握させ易くすることができる。

【１２４０５】

上述の制御は、例えば第２の大当たり作動パターン（図７０４参照）で実行されると、入賞検出センサＡＳＣ６５で７個目の入賞が検出された場合において、１［μｓｅｃ］のパルス幅の光照射が実行されることで表示装置Ａ６３８の表示部Ａ６３８ａに「３」と表示されるのと同時期に、開閉板Ａ６５１が一瞬（０．５秒間）だけ張出状態（閉鎖状態）に切り替えられることから、表示と動作とを駆使して遊技者の注目力を向上させることができる。

【１２４０６】

上述の制御は、例えば第１の小当たり作動パターン（図７０５参照）で実行されると、表示部Ａ６３８ａでは、０．５～１．０秒間隔で「ＣＬ」と「ＯＰ」との表示が切り替えられる。これにより、表示部Ａ６３８ａを視認した遊技者に対して、可変入賞装置Ａ６５で実行される動作が大当たり遊技に関する動作ではなく、小当たりに関する動作であることを把握させ易くすることができる。

【１２４０７】

退避状態（開放状態）の可変入賞装置Ａ６５に球が流下する場合、球が光を遮ることで発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光が受光素子Ａ６３８ｂ（フォトセンサ）に到達しない期間が生じるが、この期間（受光しない期間）を検出した場合に表示部Ａ６３８ａにおける表示が切り替えられるように構成される。

【１２４０８】

即ち、可変入賞装置Ａ６５の退避状態（開放状態）において、直前に受光素子Ａ６３８ｂ（フォトセンサ）に受光された光のパルス幅に関わらず（「ＯＰ」と表示されているか、「３」等の数字が表示されているかに関わらず）、受光しない期間が予め設定された検出期間（本実施形態では、１０［ｍｓｅｃ］）を超える場合、入賞を意味する英単語「ＩＮ」（図７１６（ｇ）参照）が表示部Ａ６３８ａに表示される。これにより、表示部Ａ６３８ａを視認した遊技者に対して、遊技球の入賞が生じることを、遊技球が入賞検出センサＡＳＣ６５で検出されるよりも前に把握させることができる。

【１２４０９】

通常の流下態様で流下する遊技球が光を遮蔽する期間（例えば、約２００［ｍｓｅｃ］）を想定する場合に、光が１０［ｍｓｅｃ］の間遮蔽されて「ＩＮ」と表示部Ａ６３８ａ

で表示されてから、暫くは（例えば、１９０［ｍｓｅｃ］の間）依然として光が遮蔽されて受光素子Ａ６３８ｂで受光されない期間が継続され、この期間において「ＩＮ」の表示が継続されるが、その遊技球が光を遮蔽する期間が経過して、遊技球が光の経路から外れる（通り過ぎる）と、再び受光素子Ａ６３８ｂ（フォトセンサ）に発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光が受光され、その場合のパルス幅に対応した表示に表示部Ａ６３８ａの表示が切り替えられる。

【１２４１０】

従って、表示部Ａ６３８ａの表示は遊技球が光を遮る度に切り替えられるので、遊技者は表示部Ａ６３８ａの表示を視認することで、遊技球の入賞のリズム（テンポ）を、入賞検出センサＡＳＣ６５で検出されるよりも前に知ることができる。

【１２４１１】

即ち、表示部Ａ６３８ａの表示がテンポよく切り替わっている場合は、テンポよく入賞が生じる場合であって、大当たり遊技が球詰まりなく良好に進んでいることを遊技者に把握させることができる。一方、表示部Ａ６３８ａの表示が「ＩＮ」のまま数秒間切り替わらないなど、表示の切り替わりのテンポが悪い場合は、球の流下に球詰まり等の何らかの問題が生じる可能性を予想させることができ、その問題の早期発見を図ることができる。これにより、遊技者が不測の不利益を受けることを避け易くすることができる。

【１２４１２】

なお、「ＩＮ」の表示が継続される期間は、上述の態様に限られるものではない。例えば、「ＩＮ」との表示がされた後、入賞検出センサＡＳＣ６５で球が検出されるまでは当該表示で維持され、入賞検出センサＡＳＣ６５で球が検出されることに基づいて、表示部Ａ６３８ａの表示が、受光素子Ａ６３８ｂ（フォトセンサ）で受光された光のパルス幅に対応した表示に切り替えられるようにしても良い。この場合、球が光を遮蔽する位置で止まる場合に限られず、球詰まり等の問題を発見し易くすることができる。

【１２４１３】

可変入賞装置Ａ６５の張出状態（閉鎖状態）では、遊技者目線において開閉板Ａ６５１により視界が部分的に遮られるため、オーバー入賞となる遊技球の入球の発生に気付きにくい場合があるが、その遊技球によって発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光が遮られ、表示部Ａ６３８ａに「ＩＮ」との表示がされることで、遊技者にオーバー入賞の発生を気付かせ易くすることができる。

【１２４１４】

可変入賞装置Ａ６５の張出状態（閉鎖状態）において発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光が遮られる態様として、開閉板Ａ６５１の下側に位置する球により遮られる場合（オーバー入賞）と、開閉板Ａ６５１の上側に位置する球により遮られる場合とが想定されるが、光が右下から左上へ斜めに進行する関係上、開閉板Ａ６５１の下側に位置する球は張出状態（閉鎖状態）となってからすぐに光を遮ることになる一方で、開閉板Ａ６５１の上側に位置する球は張出状態（閉鎖状態）となってから若干の時間を空けて光を遮ることになる。

【１２４１５】

これを考慮して、本実施形態では、可変入賞装置Ａ６５が張出状態（閉鎖状態）に変化されてから１．０秒未満で光が１０［ｍｓｅｃ］の間遮蔽された場合には表示部Ａ６３８ａに「ＩＮ」と表示する一方で、光が１０［ｍｓｅｃ］の間遮蔽されたのが可変入賞装置Ａ６５が張出状態（閉鎖状態）に変化されてから１．０秒以上経過した後の場合には表示部Ａ６３８ａの表示は、零れることを意味するＳｐｉｌｌの２文字目までを採用して「ＳＰ」と表示する。

【１２４１６】

なお、説明の便宜上、表示部Ａ６３８ａを７セグランプで構成する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、７セグランプを発展させた１６セグランプで構成しても良いし、導光板を積層した構造として受光態様の違いにより導光させる導光板を切り替えることで視認させる図形を切り替えるものとしても良い。

【１２４１７】
なお、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の構成は、光を検出光として利用する関係上、ＬＥＤに限られず、種々の光源から選択が可能となっている。発光色についても、白色光に限られることなく、目的に合わせて選択可能である。
【１２４１８】
なお、表示部Ａ６３８ａにおける表示は、可変入賞装置Ａ６５が退避状態（開放状態）とされてから暫くは（少なくとも６球目の入賞までは）「ＯＰ」で維持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、入賞検出センサＡＳＣ６５で入球が検出される度に発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光を１０［ｍｓｅｃ］だけ消灯するように制御することで、入球の検出の度に表示部Ａ６３８ａの表示が一時的に「ＩＮ」に切り替えられるように構成しても良い。この場合、入賞の発生を遊技者に容易に把握させることができる。
【１２４１９】
第２発光部Ａ６６３の光は、左方向に進行する光であって、主経路形成部Ａ６３２ｃの流下側面Ａ６３２ｊに照射される。流下領域ＡＲ６５に球が無い場合には第２発光部Ａ６６３の光が流下側面Ａ６３２ｊへ照射される一方、流下領域ＡＲ６５に球が流入した場合、その球により光が反射され右方に進行されることで、第２発光部Ａ６６３からの光が流下側面Ａ６３２ｊに照射されないタイミングが生じる。
【１２４２０】
そのため、遊技者は流下側面Ａ６３２ｊに注目し、その視認態様の変化を把握することで、流下領域ＡＲ６５における球の有無を容易に把握することができる。流下し続ける球自体に注目しないといけない場合に比較して疲労感を低減させることができ、更に、球が存在し得る流下領域ＡＲ６５全体を視認しないといけない場合に比較して流下側面Ａ６３２ｊという狭い範囲のみを視認すれば良いので、遊技を快適とすることができる。
【１２４２１】
なお、大当たり制御は、大当たり種別ごとに大当たり作動パターンが設定される場合に限られるものではない。例えば、ラウンド遊技Ｒごとに、大当たり作動パターンを設定することが可能である。即ち、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒは第１の大当たり作動パターン、２ラウンド目のラウンド遊技Ｒは第２の大当たり作動パターン、３ラウンド目のラウンド遊技Ｒは第１の大当たり作動パターンというように、異なる大当たり作動パターンが組み合わされた態様で大当たり遊技を進行させることも可能である。
【１２４２２】
図７１７は、図７１１のＢ３２ｍ－Ｂ３２ｍ線における第２球流下構造体Ａ６００の部分断面図である。図７１７では、張出状態（閉鎖状態）へ向けた変位途中の開閉板Ａ６５１とカバー部材Ａ６３０の板状本体Ａ６３１との間に遊技球が挟まった状態が図示される。
【１２４２３】
開閉板Ａ６５１とカバー部材Ａ６３０の板状本体Ａ６３１との間に遊技球が挟まる位置は開閉板Ａ６５１の右端部近傍になるので、図７１７の印象とは異なり、第３発光部Ａ６６４の光の進行経路（図７１１参照）を当該遊技球が遮ることは無い。
【１２４２４】
開閉板Ａ６５１とカバー部材Ａ６３０の板状本体Ａ６３１との間に挟まれた球はその位置で維持されるものではなく、開閉板Ａ６５１の先端部がカバー部材Ａ６３０に対して傾斜している（右端が最も開閉板Ａ６５１とカバー部材Ａ６３０との隙間が狭く、左方にずれる程隙間が大きくなる態様の傾斜、左方側ほど後方側に位置する傾斜、図７１２参照）ことから左方に徐々に押しやられ、それに伴い開閉板Ａ６５１は張出状態（閉鎖状態）側へ徐々に移動する。
【１２４２５】
左方に押しやられた球は、突出部Ａ６５１ａまで到達すると突出部Ａ６５１ａの下側の凹部に入り込み、急激に下方に押しやられる。このような構造から、挟まれた球が突出部

Ａ６５１ａよりも左方へ移動することが回避される。
【１２４２６】
図７１７に図示される状態では、第３発光部Ａ６６４の光の視認態様が、開閉板Ａ６５１の張出状態（閉鎖状態）とも、開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）とも異なる。以下で詳細に説明する。
【１２４２７】
即ち、上述した通り、開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）では、第３発光部Ａ６６４（及び第２発光部Ａ６６３）の光の内、光ＡＬＣ１は、開閉板Ａ６５１の上方側に位置する主経路形成部Ａ６３２ｃの流下天面Ａ６３２ｇに照射される。これにより、第３発光部Ａ６６４（及び第２発光部Ａ６６３）の光の内、最も明るい光ＡＬＣ１によって、開閉板Ａ６５１よりも上方側（遊技者の目が位置する側）が明るく照らされる。
【１２４２８】
更に、開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）では、第３発光部Ａ６６４（及び第２発光部Ａ６６３）の光の内、光ＡＬＣ２は、開閉板Ａ６５１に反射されることなく斜め上方向に進行し、カバー部材Ａ６３０の照射領域ＡＲ６３１の第２領域ＡＲ６３１ｂに照射される。
【１２４２９】
このように、開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）では、光ＡＬＣ１により流下天面Ａ６３２ｇが明るく照らされると共に、光ＡＬＣ２により第２領域ＡＲ６３１ｂが照らされる状況が、視認可能とされる。
【１２４３０】
一方、上述した通り、開閉板Ａ６５１の張出状態（閉鎖状態）では、第３発光部Ａ６６４（及び第２発光部Ａ６６３）の光の内、光ＡＬＣ１は開閉板Ａ６５１の下面に照射された後、反射され、流下領域ＡＲ６５の下部における流下底面Ａ６３２ｆに照射される。流下領域ＡＲ６５の下部における主経路形成部Ａ６３２ｃの流下底面Ａ６３２ｆが明るく照らされることから、開閉板Ａ６５１の影で暗くなりがちな流下領域ＡＲ６５の視認性を向上させることができる。
【１２４３１】
更に、開閉板Ａ６５１の張出状態（閉鎖状態）では、第３発光部Ａ６６４（及び第２発光部Ａ６６３）の光の内、光ＡＬＣ２が開閉板Ａ６５１の前端部に照射され、その前端部に反射されることで、照射領域ＡＲ６３１の第１領域ＡＲ６３１ａに照射される。
【１２４３２】
このように、開閉板Ａ６５１の張出状態（閉鎖状態）では、光ＡＬＣ１により流下底面Ａ６３２ｆが明るく照らされると共に、光ＡＬＣ２により第１領域ＡＲ６３１ａが照らされる状況が、視認可能とされる。
【１２４３３】
そのため、本実施形態では、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）なのか、退避状態（開放状態）なのかを知りたい場合に、遊技者は、照射領域ＡＲ６３１を視認し、第１領域ＡＲ６３１ａが明るくなっているか、第２領域ＡＲ６３２ｂが明るくなっているかを視認するか、又は、主経路形成部Ａ６３２ｃを視認して、流下底面Ａ６３２ｆが明るくなっているか、流下天面Ａ６３２ｇが明るくなっているか、を確認すれば基本的には十分である。この場合、開閉板Ａ６５１自体を視認せずとも開閉板Ａ６５１の状態を把握することができ、遊技の快適さを向上させることができる。
【１２４３４】
これに対して、図７１７に図示される状態では、照射領域ＡＲ６３１の視認態様は開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）における視認態様と同じように光ＡＬＣ２により第２領域ＡＲ６３１ｂが照らされているが、後方側寄りに照射される光ＡＬＣ１が開閉板Ａ６５１に反射され、主経路形成部Ａ６３２ｃの流下底面Ａ６３２ｆに照射されていることから、主経路形成部Ａ６３２ｃの視認態様は、流下天面Ａ６３２ｇだけではなく、流下底面Ａ６３２ｆも明るく視認されるものであり、開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）にお

ける視認態様とは異なる。

【１２４３５】

換言すれば、図７１７に図示される状態では、主経路形成部Ａ６３２ｃの視認態様として、開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）において明るく視認される流下天面Ａ６３２ｇと、開閉板Ａ６５１の張出状態（閉鎖状態）において明るく視認される流下底面Ａ６３２ｆとの双方を明るく視認させることができる。これにより遊技者に違和感を与えることができ、開閉板Ａ６５１への注目力を一時的に向上させることができる。

【１２４３６】

図７１７に図示される、開閉板Ａ６５１がカバー部材Ａ６３０との間に球を挟むことにより途中位置で停止する状況については、遊技者の好みによって、知りたい場合と、知りたくない場合とがある。

【１２４３７】

開閉板Ａ６５１とカバー部材Ａ６３０との間に球が挟まったことを知りたい遊技者は、主経路形成部Ａ６３２ｃに注目して遊技を行うことで、主経路形成部Ａ６３２ｃの視認態様の違いから、開閉板Ａ６５１とカバー部材Ａ６３０との間に球が挟まったことに気付くことができる。

【１２４３８】

一方、開閉板Ａ６５１とカバー部材Ａ６３０との間に球が挟まったことを知りたくない遊技者は照射領域ＡＲ６３１に注目して遊技を行うことで、照射領域ＡＲ６３１の視認態様の違いから、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）となっているか張出状態（閉鎖状態）となっているかのみを認識できる。

【１２４３９】

第３発光部Ａ６６４の光について、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）から張出状態（閉鎖状態）へ移動する場合における途中位置に位置する場合に、照射領域ＡＲ６３１では視認態様が開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）における態様から依然として変化されていない一方で、主経路形成部Ａ６３２ｃでは視認態様の変化の途中である（流下天面Ａ６３２ｇ及び流下底面Ａ６３２ｆの双方が明るく視認される）ことから分かる通り、照射領域ＡＲ６３１における視認態様の変化と、主経路形成部Ａ６３２ｃ内側における視認態様の変化とが、生じるタイミングが異なる。

【１２４４０】

また、照射領域ＡＲ６３１における視認態様の変化は開閉板Ａ６５１により特定の光の進行方向が切り替えられることによる切替態様であるのに対して、主経路形成部Ａ６３２ｃにおける視認態様の変化は開閉板Ａ６５１により複数方向に進行する光の向きが変化されることによる変化態様であるという違いがある。

【１２４４１】

換言すれば、主経路形成部Ａ６３２ｃにおける視認態様は、流下天面Ａ６３２ｇが明るい状態と流下底面Ａ６３２ｆが明るい状態という２状態で切り替えられるものではなく、それに流下天面Ａ６３２ｇ及び流下底面Ａ６３２ｆの両方共が明るい状態を加えた３状態で変更される。

【１２４４２】

流下天面Ａ６３２ｇ及び流下底面Ａ６３２ｆの両方共が明るい状態を視認したタイミングは、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）と張出状態（閉鎖状態）との間で変位する動作を実行中のタイミングである。即ち、主経路形成部Ａ６３２ｃを視認することで、開閉板Ａ６５１が動作中である時点を把握することができる。

【１２４４３】

更に、流下天面Ａ６３２ｇ及び流下底面Ａ６３２ｆの両方共が明るい状態が継続される期間が短い場合には開閉板Ａ６５１が平常通り動作していることを確認できる一方で、両方共が明るい状態が継続される期間が長い場合には何らかの異常（開閉板Ａ６５１とカバー部材Ａ６３０との間に球が挟まり開閉板Ａ６５１の動作が阻害されている状況や、開閉板Ａ６５１の予期せぬ動作異常）に早期に気付くことができ、不測の不利益を早期に解消

することができる。
【１２４４４】
なお、この３状態での変更を視認しても、開閉板Ａ６５１が動作中である時点を把握することができるに留まり、開閉板Ａ６５１の動作方向まで把握できるわけではない。動作方向については、主経路形成部Ａ６３２ｃにおける３状態の変更態様の視認から、違和感や注目する事情があった場合に開閉板Ａ６５１に注目するように仕向け、開閉板Ａ６５１を視認した場合に、直接把握させることとなる。このように構成することで、かえって、開閉板Ａ６５１を直接視認する意欲を向上させることができる。
【１２４４５】
図７１８は、図７１１の範囲Ｂ３３ｍにおける第２球流下構造体Ａ６００の部分正面拡大図であり、図７１９（ａ）及び図７１９（ｂ）は、図７１８のＢ３６ａ－Ｂ３６ａ線における第２球流下構造体Ａ６００の部分断面拡大図である。
【１２４４６】
図７１８、図７１９（ａ）及び図７１９（ｂ）では、遊技者に操作ハンドルＨ５１（図７０１参照）が回転操作され、右打ちの態様で発射された遊技球ＡＢＬ１が図示される。また、図７１８、図７１９（ａ）及び図７１９（ｂ）では、可変入賞装置Ａ６５の張出状態（閉鎖状態）が図示される。
【１２４４７】
流下領域ＡＲ６５に流入した遊技球ＡＢＬ１は、第３発光部Ａ６６４（及び第２発光部Ａ６６３）の光が照射される経路で流下する。第３発光部Ａ６６４の光は、光源と遊技球ＡＢＬ１との間の距離が短いことから、ＬＥＤの中心軸から離れた光が前方位置に寄る前に反射されるため、ほとんどが下方側へ反射される。
【１２４４８】
そのため、流下領域ＡＲ６５に遊技球ＡＢＬ１が流入した場合、その流入した遊技球ＡＢＬ１によって光が反射される場合には光が照射領域ＡＲ６３１まで到達しないため、照射領域ＡＲ６３１における光の見え方が変化される。換言すれば、照射領域ＡＲ６３１の視認態様の変化によって、流下領域ＡＲ６５に遊技球ＡＢＬ１が流入した可能性を把握することができる。
【１２４４９】
これにより、開閉板Ａ６５１で一部が遮蔽されることから遊技者目線で見え難くなり易い流下領域ＡＲ６５において、遊技球ＡＢＬ１が流下している可能性について、照射領域ＡＲ６３１を視認することで把握することができるので、遊技者の遊技ストレスを低減させることができる。
【１２４５０】
開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）の場合に流下領域ＡＲ６５を遊技球ＡＢＬ１が流下する状況としては、例えば、規定個数の入賞検出により開閉板Ａ６５１が閉鎖動作される前に超過分の遊技球ＡＢＬ１が流入する場合（所謂「オーバー入賞」等）や、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）で維持される期間が極端に短い場合（小当たり遊技における開閉動作等）が例示される。
【１２４５１】
上記例示された場合において、流下領域ＡＲ６５への入球は入賞検出センサＡＳＣ６５によって検出されることになるが、その検出を報知するよう制御される場合もあれば、報知しないよう制御される場合もある。そのいずれの場合であっても、本実施形態によれば、照射領域ＡＲ６３１の視認態様の変化によって、流下領域ＡＲ６５に遊技球ＡＢＬ１が流入した可能性を遊技者に把握させることができる。
【１２４５２】
更に、入賞検出センサＡＳＣ６５による検出が報知される場合であっても、照射領域ＡＲ６３１の視認態様の変化は入賞検出センサＡＳＣ６５よりも上流側を遊技球ＡＢＬ１が流下している時点で生じるため、入賞検出センサＡＳＣ６５による検出の報知がされるよりも早く（報知を待たずに）、流下領域ＡＲ６５に遊技球ＡＢＬ１が流入した可能性を把

握することができるので、照射領域ＡＲ６３１に対する注目力を向上させることができる。

【１２４５３】

図７１９（ｂ）に図示されるように、張出状態（閉鎖状態）における開閉板Ａ６５１の上面を転動する場合の遊技球ＡＢＬ１による第３発光部Ａ６６４の光の反射は、照射領域ＡＲ６３１に到達する光が途切れることは遊技球ＡＢＬ１が流下領域ＡＲ６５に流入する場合と同じである。

【１２４５４】

そのため、照射領域ＡＲ６３１の視認態様の変化からは、流下領域ＡＲ６５を遊技球ＡＢＬ１が流下していることが確かめられるのではなく、遊技球ＡＢＬ１が流下領域ＡＲ６５を流下しているか、又は、遊技球ＡＢＬ１が開閉板Ａ６５１の上面を転動しているか、把握できるに過ぎない。

【１２４５５】

ここで、遊技球ＡＢＬ１が流下領域ＡＲ６５を流下しているか、遊技球ＡＢＬ１が開閉板Ａ６５１の上面を転動しているかによって、遊技球ＡＢＬ１で反射された光がカバー部材Ａ６３０に照射される位置が異なる。

【１２４５６】

即ち、開閉板Ａ６５１の上面を転動している遊技球ＡＢＬ１で第３発光部Ａ６６４の光が反射される場合、開閉板Ａ６５１の前端部で反射され前方に寄せられた光ＡＬＣ２が遊技球ＡＢＬ１に反射されることになるので、遊技球ＡＢＬ１で反射された光は、遊技球ＡＢＬ１の前方位置に照射される。

【１２４５７】

そのため、照射領域ＡＲ６３１の視認態様の変化が生じている場合において、開閉板Ａ６５１（を転動する遊技球ＡＢＬ１）の前方位置におけるカバー部材Ａ６３０が明るく照らされていることを視認することで、照射領域ＡＲ６３１の視認態様の変化が、遊技球ＡＢＬ１が流下領域ＡＲ６５に流入したことではなく、遊技球ＡＢＬ１が開閉板Ａ６５１の上面を転動していることにより生じたことを、遊技者が把握可能となっている。なお、これに加えて、又は、これとは別で、第３図柄表示装置Ｈ８１において、「開閉板Ａ６５１の前方が光ったらチャンス」など、注意を促す報知を実行しても良い。

【１２４５８】

遊技球ＡＢＬ１が開閉板Ａ６５１の上面を転動して、開閉板Ａ６５１の左方へ通り過ぎる場合、その球はアウト球となり易く、遊技者は賞球を得られない。しかし、本実施形態では、照射領域ＡＲ６３１の視認態様の変化と、開閉板Ａ６５１（を転動する遊技球ＡＢＬ１）の前方位置におけるカバー部材Ａ６３０の明るさの変化とを視認することによって、遊技者はアウト球の発生タイミングを把握することができる。

【１２４５９】

即ち、開閉板Ａ６５１よりも前方側の領域を視認することでアウト球の発生タイミングを把握することができるので、開閉板Ａ６５１（カバー部材Ａ６３０の後方に位置しておりカバー部材Ａ６３０よりも視認性が悪い箇所）に注目しなければならない場合に比較して、遊技者の遊技ストレスを低減することができる。

【１２４６０】

遊技者の遊技ストレスを低減できる制御態様の一例として、例えば、大当たり遊技におけるラウンド間インターバル長さに、ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１（２．０秒）と、それより短いラウンド間第２インターバル期間（１．０秒）とがあり、ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１であれば張出状態（閉鎖状態）の開閉板Ａ６５１上を右端から左端まで球が渡り切る事態が生じ得る一方で、ラウンド間第２インターバル期間の場合には球が開閉板Ａ６５１の左右中間位置に到達するや否や開放される事態が生じ得るのみであり、球が渡り切る事態は生じ得ないように構成される場合、ラウンド間第２インターバル期間の閉鎖が生じる場合において、球の前方への反射が目立たない。

【１２４６１】

この場合において、上述のようにラウンド遊技の間をラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１（２．０秒）で統一するものではなく、例えば、少なくとも数パーセントの確率で、有利な大当たり（例えば、時短有大当たりに相当し、大当たりＢ、第２の大当たり作動パターンとして上述したもの）ではラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１で構成し、不利な大当たり（例えば、時短無し大当たりに相当し、大当たりＡ、第１の大当たり作動パターンとして上述したもの）ではラウンド間第２インターバル期間で構成するようにしても良い。この場合、球を「打ちっぱなし」で発射する場合に、開閉板Ａ６５１上を転動する球に第３発光部Ａ６６４の光が反射して前方が照らされる態様（長さ）の違いから、その大当たりが有利な大当たりか、不利な大当たりかを、遊技者に把握させることができる。これにより、開閉板Ａ６５１の上面を転動して、開閉板Ａ６５１の左方へ通り過ぎ、アウト球になり易い球が発生したとしても、その残念感を緩和させることができる。

【１２４６２】

特に、本実施形態では、第３発光部Ａ６６４の光が球で反射して前方が照らされる場合に明るくなる位置が、「ＢＯＮＵＳ」の意匠の「Ｎ」の内、左端の縦棒を除く「Ｖ」の部位になるように、第３発光部Ａ６６４の配置および出射方向が構成されるため、遊技者に対して、有利な事態が生じていることを把握させ易い。

【１２４６３】

また、ラウンド間のインターバル期間の長短により開閉板Ａ６５１の左方へ通り過ぎるアウト球が生じる頻度が異なることで、球を「打ちっぱなし」とするよりも、意図的に発射を止める（例えば、規定個数の入賞により開閉板Ａ６５１が閉鎖するタイミングを予測し、そのタイミングから開閉板Ａ６５１に球が到達するまでの期間を逆算して、発射を止める「インターバル止め」）ことでアウト球を減らせる可能性があることから、球の発射操作を漫然と行わせるのではなく、球の発射操作の調整に意欲的に参加させることができ、開閉板Ａ６５１や流下領域ＡＲ６５における球の流下状況に対する注目力を向上させることができる。

【１２４６４】

また、例えば、複数個ある第３発光部Ａ６６４の内、点灯するＬＥＤが、大当たりの種別に対応して異なるように構成されることで、開閉板Ａ６５１上を転動する球により前方へ反射される光により照らされる態様が異なるように構成しても良い。

【１２４６５】

即ち、有利な大当たり（例えば、時短有大当たり）では、第３発光部Ａ６６４のうち少なくとも右上側のＬＥＤが発光することで、球により前方へ反射される光により照らされる位置に、「ＢＯＮＵＳ」の意匠の「Ｎ」の内、左端の縦棒を除く「Ｖ」が位置するように構成される。

【１２４６６】

一方、不利な大当たり（例えば、時短無し大当たり）では、第３発光部Ａ６６４のうち右上側のＬＥＤは発光せず、左下側のＬＥＤのみが発光することで、球により前方へ反射される光により照らされる位置には「ＢＯＮＵＳ」の意匠の「Ｏ」が位置する。

【１２４６７】

このように、大当たり種別の違いに対応して、開閉板Ａ６５１上を転動する球に第３発光部Ａ６６４の光が反射して前方が照らされる場合に明るくなる部位が異なることから、その明るくなる部位を視認することで実行されている大当たりの大当たり種別を把握することができる。そのため、開閉板Ａ６５１上を転動する球、及び、その球に反射される光により明るくされる部位に対する注目力を向上させることができる。これにより、開閉板Ａ６５１の上面を転動して、開閉板Ａ６５１の左方へ通り過ぎ、アウト球になり易い球が発生したとしても、その残念感を緩和させることができる。

【１２４６８】

例えば、特別遊技状態において、開閉板Ａ６５１が複数ラウンドに亘って開閉動作された場合に、アウト球の発生タイミング（テンポ等）を知ることで、遊技者は、球の発射態様を工夫することができる。例えば、「打ちっぱなし」の発射態様ではなく、アウト球の

発生タイミングに合わせて球の発射を一時的に停止する発射態様とすることで、アウト球の発生を抑制するように図ることができる。

【１２４６９】

尚且つ、発射態様の工夫によって遊技球ＡＢＬ１が開閉板Ａ６５１の上面を転動する事態の発生を抑制できた場合、開閉板Ａ６５１（を転動する遊技球ＡＢＬ１）の前方位置におけるカバー部材Ａ６３０の明るさの変化が生じないことにより、アウト球の発生が抑制できたことを遊技者が確認することができる。

【１２４７０】

一方で、発射態様の工夫によっても遊技球ＡＢＬ１が開閉板Ａ６５１の上面を転動する事態の発生を抑制できなかった場合には、依然として開閉板Ａ６５１（を転動する遊技球ＡＢＬ１）の前方位置におけるカバー部材Ａ６３０の明るさの変化が生じることによって、アウト球の発生が抑制できていないことを遊技者が確認でき、遊技者は工夫の仕方を早期に調整することができる。

【１２４７１】

これにより、カバー部材Ａ６３０の明るさの変化に注目し、発射態様を工夫した遊技者が早期にアウト球の発生を抑制できるように図ることで、遊技者の遊技への積極的な参加を促すことができる。

【１２４７２】

遊技者が「打ちっぱなし」で発射を行うか、定期的に発射を停止させる発射を行うかに関わらず、問題なく球が「右打ち」で発射できていれば、第３発光部Ａ６６４の光が球により反射されることで、照射領域ＡＲ６３１の視認態様の変化が頻繁に生じる。そのため、照射領域ＡＲ６３１の視認態様の変化が頻繁に生じることで、遊技者は流下領域ＡＲ６５へ向けた球の発射が問題なく実行できていることを確認することができる。

【１２４７３】

一方で、球の発射を実行させるために操作ハンドルＨ５１を回転動作させているのにも関わらず、照射領域ＡＲ６３１の視認態様の変化が長期間生じない場合、第３発光部Ａ６６４の光が球により反射されていないのであるから、何らかの問題が生じていることを把握することができる。

【１２４７４】

何らかの問題とは、例えば、球発射ユニットＨ１１２ａにおける球詰まり（上皿Ｐ１７からの供給不良、又は、２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２に複数球が残存することにより球が遊技領域まで飛ばない発射不良）や、球発射ユニットＨ１１２ａの動作力低下による発射不良（操作ハンドルＨ５１を最大まで回転動作させても「右打ち」態様の発射ができず左側領域までしか飛ばない状況等）や、流下領域ＡＲ６５よりも上流側における球詰まり（所謂「ぶどう」の形成による球の滞留）や、入賞検出センサＡＳＣ１１（図５１９参照）や排出路形成部Ａ６３２ａ（図７１１参照）により一部が形成される排出口に例示される流下領域ＡＲ６５よりも上流側に形成される排出経路への球流入頻度が極端に増大されている状況、等が想定される。

【１２４７５】

いずれの場合であっても、対策なしでは遊技者の不利益が大きいものであるところ、遊技者は、ホール店員を呼び出すことで問題の解決を図ることができる。ホール店員の呼び出しで問題の解決を図ることができない場合であっても、遊技者は、同一のパチンコ機Ａ１０での遊技継続を止めるという選択を早期に行うことで、不利益を最小化することができる。これにより、遊技者の利益の最大化を図ることができる。

【１２４７６】

図７２０及び図７２１は、第１の大当たり作動パターンにおける開閉板Ａ６５１の状態と、第３発光部Ａ６６４の出力と、入賞検出センサＡＳＣ６５の出力との計時変化を示した図である。

【１２４７７】

なお、第３発光部Ａ６６４の図において、ＯＮ１は、白色光で発光される状態を意味し

、ＯＮ２は、青色光で発光される状態を意味し、ＯＮ３は、赤色光で発光される状態を意味し、ＯＦＦは、黄色光で発光される状態を意味する。また、入賞検出センサＡＳＣ６５の図において、ＯＮのパルスは、特定入賞口Ｈ６５ａを１個の遊技球が通過したことが検出されたことを意味する。

【１２４７８】

図７２０では、第３発光部Ａ６６４の第１発光制御における発光例１が図示され、図７２１では、第３発光部Ａ６６４の第１発光制御における発光例２が図示される。図７２０及び図７２１では、入賞検出センサＡＳＣ６５における検出態様が異なり、この検出態様の違いにより第３発光部Ａ６６４の発光態様が変化される。

【１２４７９】

第３発光部Ａ６６４は、第１発光制御において、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）とされる場合において発光制御されるが、その発光色は一定ではなく、時間経過や、入賞検出センサＡＳＣ６５への入球に対応して変化される。また、特定の発光色の変化の順番（本実施形態では、黄色から白色）を視認することで、ラウンド遊技Ｒの開始時点や、ラウンド遊技Ｒにおける開閉板Ａ６５１の動作タイミングを把握することができるように構成される。

【１２４８０】

図７２０に図示されるように、入賞検出センサＡＳＣ６５に球が入球しない状況において、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）を維持する期間（第１の作動時間Ｔ１の最大値である３０秒間）の内、第３発光部Ａ６６４は、開放開始から２０秒間は白色光で発光され、その後の５秒間は青色光で発光され、その後の５秒間は赤色光で発光されるよう、第３発光部Ａ６６４の発光色が制御される。

【１２４８１】

即ち、遊技者が球の発射操作を行っていなくても、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）を維持する場合における第３発光部Ａ６６４の発光態様が変化され、その変化から開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）となってからの経過時間を、ある程度把握することができる。特に、第１の作動時間Ｔ１の終盤において発光色の変化が頻繁（５秒間隔）に生じるよう制御されることにより、球の入球によらず開閉板Ａ６５１が閉鎖動作されるタイミングを遊技者が把握し易くされる。これにより、第１の作動時間Ｔ１を最大値（３０秒間）間際まで使って大当たり遊技を行うことを望む遊技者にとって、時間切れの目安が分かり易くなることから、大当たり遊技において規定個数の入球を逃す事態を避け易くすることができる。

【１２４８２】

なお、第１の作動時間Ｔ１を最大値（３０秒間）間際まで使って大当たり遊技を行う場合、大当たり遊技の時間効率が下がり、そのような遊技を行う動機は生じないと考えることもできるが、実はそうではなく、第１の作動時間Ｔ１を最大値（３０秒間）間際まで使って大当たり遊技を行うことは、稀なことではなく遊技者の好みによって通常に行われる。

【１２４８３】

例えば、大当たり遊技において第３図柄表示装置Ｈ８１で長尺の（例えば、５分程度の）アニメーションが表示（されたり、音響装置から音（楽曲、曲）が流されたり）される場合、そのアニメーションが途中であっても大当たり遊技が終了すればアニメーションは終了され、大当たり遊技終了後の遊技態様に対応した表示がされるのが通常である。そのため、アニメーションを最後まで見たいと望む遊技者にとっては、大当たり遊技状態をなるべく長く維持するために、第１の作動時間Ｔ１を最大値（３０秒間）間際まで使って大当たり遊技を行いたいと考えることが通常である。ここでは理由の一例を説明したが、他にも無数に動機はある。

【１２４８４】

図７２１に図示されるように、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）を維持する期間（第１の作動時間Ｔ１の最大値である３０秒間）において、第３発光部Ａ６６４は、入賞

検出センサＡＳＣ６５へ５球目の球が入球された場合に白色光で発光されていた場合には青色光に変化され、入賞検出センサＡＳＣ６５へ７球目の球が入球された場合に青色光で発光されていた場合には赤色光に変化されるよう、第３発光部Ａ６６４の発光色が制御される。

【１２４８５】

換言すれば、第３発光部Ａ６６４は、第１発光制御において、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）を維持する期間において、入賞検出センサＡＳＣ６５へ５球目の球が入球されたタイミングが、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）とされてから２０秒を経過するよりも前である場合には、入賞検出センサＡＳＣ６５へ５球目の球が入球されたタイミングで白色光から青色光に変化される。

【１２４８６】

一方、入賞検出センサＡＳＣ６５へ５球目の球が入球されたタイミングが、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）とされてから２０秒を経過した後であれば、入賞検出センサＡＳＣ６５へ５球目の球が入球されたタイミングでの発光色の変化はされない。

【１２４８７】

また、第３発光部Ａ６６４は、第１発光制御において、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）を維持する期間において、入賞検出センサＡＳＣ６５へ７球目の球が入球されたタイミングが、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）とされてから２５秒を経過するよりも前である場合には、入賞検出センサＡＳＣ６５へ７球目の球が入球されたタイミングで青色光から赤色光に変化される。

【１２４８８】

一方、入賞検出センサＡＳＣ６５へ７球目の球が入球されたタイミングが、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）とされてから２５秒を経過した後であれば、入賞検出センサＡＳＣ６５へ７球目の球が入球されたタイミングでの発光色の変化はされない。

【１２４８９】

これにより、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）となった場合に特定入賞口Ｈ６５ａに入球させるように球を発射させる遊技者は、第３発光部Ａ６６４の光の発光色の変化を視認することで、規定個数の入球により開閉板Ａ６５１が閉鎖状態（張出状態）に変化するタイミングを予測し易い。そのため、開閉板Ａ６５１が閉鎖状態（張出状態）の場合に球が開閉板Ａ６５１に到達するタイミングでは発射を停止する遊技態様（所謂「止め打ち」）を行い易くすることができる。

【１２４９０】

このように、第３発光部Ａ６６４は、第１発光制御において、発光色が白色から青色に変化される条件および発光色が青色から赤色に変化される条件として、時間経過と、入賞検出センサＡＳＣ６５への入球個数とが、それぞれ設定されており、いずれか早く条件を満足した段階で発光色の変化が生じるように制御される。

【１２４９１】

なお、第３発光部Ａ６６４の発光態様の変化は、色の変化に限るものではなく、種々の態様が例示される。例えば、発光の強弱の変化を設定しても良いし、点灯点滅パターンの変化を設定しても良いし、これらの変化の組合せでも良い。

【１２４９２】

なお、第１発光制御では、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）とされている場合において第３発光部Ａ６６４の発光が継続されるが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）とされる間においては第３発光部Ａ６６４が消灯されており、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）から閉鎖状態（張出状態）に変化される直前や直後に第３発光部Ａ６６４が発光されるように制御しても良い。この場合、開閉板Ａ６５１が閉鎖状態（張出状態）へ変化されたことが、第３発光部Ａ６６４の発光態様の変化から把握し易くされる。

【１２４９３】

また、例えば、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）で維持される期間において、開

閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）とされる時点では第３発光部Ａ６６４が発光される一方で、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）から閉鎖状態（張出状態）に変化されるよりも前に第３発光部Ａ６６４が消灯されるように制御しても良い。この場合、光を視認するだけでは開閉板Ａ６５１の状態の変化を把握できないように構成することができ、開閉板Ａ６５１への注目力を向上させることができる。

【１２４９４】

本実施形態では、開閉板Ａ６５１の開閉動作が、大当たり又は小当たりに限らず、特定の場合においても実行されるよう制御される。この場合の開閉動作は、基本的には、第１の小当たり作動パターンとされ、開閉動作の開始に遊技者が気づいてから球の発射を開始したとしても、多量の球の入球にはつながらないよう構成される。

【１２４９５】

特定の場合としては、例えば、パチンコ機Ａ１０が通常状態である場合におけるリアルタイムクロックにより設定される特定の時点でも良いし、いずれの図柄も変動されていないような客待ち状態（遊技者による遊技を待っている状態であって、例えば、デモ演出が実行されている状況）の開始から所定期間が経過した場合でも良い。

【１２４９６】

なお、この場合における開閉板Ａ６５１の動作制御は、短時間開放に限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、第１の大当たり作動パターンの特定のラウンドにおける動作態様が実行されるものでも良い。

【１２４９７】

特定の場合において、開閉板Ａ６５１の動作について、報知をする場合もあれば、報知しない場合もある。そのため、報知がされない場合には、開閉板Ａ６５１の動作について遊技者が気づかない場合もあるが、表示装置Ａ６３８には開閉板Ａ６５１の配置に対応した態様における発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光の受光に基づく表示がされるため、遊技者は、表示装置Ａ６３８を視界に収めておくことで、特定の場合に開閉板Ａ６５１が開閉動作したことを、見逃さずにおける。このような事情から、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光は、大当たり遊技状態に限らず、通常状態においても発光を継続される。

【１２４９８】

表示装置Ａ６３８における表示部Ａ６３８ａの配置は、正面視で開閉板Ａ６５１と重ならない位置に設定され（図７１１参照）、可変表示装置ユニットＨ８０やセンターフレームＡ８６の周囲範囲の近傍とされる。これにより、第３図柄表示装置Ｈ８１に注目しすぎることで開閉板Ａ６５１の状態変化のタイミングを見逃し、開閉板Ａ６５１に注目しすぎることで第３図柄表示装置Ｈ８１の演出を見逃すといった、遊技において両立が難しい事項を解決することができる。

【１２４９９】

即ち、遊技者は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示に注目しながら、その視界の隅に表示部Ａ６３８ａを収めることで、開閉板Ａ６５１の状態を把握することができるので、第３図柄表示装置Ｈ８１で実行される演出を見逃すことも、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）に切り替えられるタイミングを逃すことも、無いようにすることができる。

【１２５００】

なお、本実施形態では、正面視だけではなく、開閉板Ａ６５１側を見下ろす目線の方向としての矢印ＡＥＤ６５の方向視においても、表示装置Ａ６３８における表示部Ａ６３８ａの配置と開閉板Ａ６５１とが重ならない位置に設定される。そのため、表示装置Ａ６３８と開閉板Ａ６５１とが重なる場合のように、表示装置Ａ６３８が邪魔をして開閉板Ａ６５１が見え難くなる（視認性が低下する）事態を避けることができる。このような配置から、遊技者は、第３図柄表示装置Ｈ８１を視認しながら視界の端に表示部Ａ６３８ａを収めるという遊技態様を選ぶことも、開閉板Ａ６５１に注目するという遊技態様を選ぶこともでき、そのいずれを選んだ場合であっても、開閉板Ａ６５１の状態を把握することが可能となる。

【１２５０１】
以上、詳述した実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。即ち、開閉板Ａ６５１の状態について、表示装置Ａ６３８を視認することで把握することが可能となるため、開閉板Ａ６５１の視認性が悪い場合であっても、遊技に支障を生じさせないようにすることができる。
【１２５０２】
また、表示装置Ａ６３８の視認態様は、開閉板Ａ６５１の状態と連動して変化されるため、表示装置Ａ６３８を視認することで、開閉板Ａ６５１が実際に開閉動作されたことを把握することができるため、開閉板Ａ６５１が開放される前に「右打ち」と報知される場合等に報知に従い球を発射しても開閉板Ａ６５１に到達する時点では開閉板Ａ６５１がまだ閉鎖状態を続けている場合等に想定される、遊技球の無駄打ちを抑制することが可能となる。
【１２５０３】
また、表示装置Ａ６３８の視認態様は、球により発光部Ａ６６１の光が遮蔽されることによっても変化されるため、表示装置Ａ６３８を視認することで、球が開閉板Ａ６５１の近傍を流下していることを把握することができる。
【１２５０４】
また、第３発光部Ａ６６４の光が開閉板Ａ６５１と交差するように照射されることにより、遊技者目線で過度にまぶしくなることを避けつつ、開閉板Ａ６５１の下方における流下領域ＡＲ６５の明るさを確保することができる。
【１２５０５】
また、表示装置Ａ６３８は７セグランプにより構成される表示部Ａ６３８ａを備えており、受光の態様に応じて様々な表示が可能となるように構成されているため、表示部Ａ６３８ａの注目力を向上させることができる。
【１２５０６】
また、表示装置Ａ６３８に受光される光は、開閉板Ａ６５１の動作軌跡を通過し得る態様で進行しており、開閉板Ａ６５１の配置に応じて、表示装置Ａ６３８への光の到達態様が変わるように構成されているため、表示装置Ａ６３８における表示の態様から、開閉板Ａ６５１の動作タイミングのみならず、動作が良好に生じているかについても把握することができる。
【１２５０７】
また、表示装置Ａ６３８に受光される前位置において球が光を遮蔽する場合に、その光を前方側へ反射させることで、球を利用した光演出を実行することができる。これにより、球の流下経路の前方側を明るく照らし、演出効果を向上させることができる。
【１２５０８】
また、ラウンド遊技において発光部Ａ６６１の光の色を変化させる制御により、ラウンド遊技の残り時間が計りやすくなり、ラウンド遊技における球損の発生を抑制することができる。
【１２５０９】
次いで、図７２２を参照し、第１３４実施形態における第２球流下構造体Ａ１０６００について説明する。上記第１３３実施形態では、開閉板Ａ６５１の上面が平滑面で形成される場合を説明したが、第１３４実施形態では、上面および下面に段差が形成される態様で開閉板Ａ１０６５１が形成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１２５１０】
図７２２は、図７１１の範囲Ｂ３３ｍに対応する範囲における第１３４実施形態における第２球流下構造体Ａ１０６００の部分正面図である。
【１２５１１】
第２球流下構造体Ａ１０６００は、開閉板Ａ６５１の代わりに、開閉板Ａ１０６５１が前後方向にスライド移動（開閉動作）される。開閉板Ａ１０６５１は、上下面が平滑面と

して形成されるのではなく、階段状に形成される。
【１２５１２】
即ち、開閉板Ａ１０６５１は、正面視で階段状に形成される本体部Ａ１０６５１ａと、その本体部Ａ１０６５１ａの左右端部から下方側（複数態様で光を照射可能な手段である発光部Ａ６６１が形成される側）にリブ状に突設される案内リブ部Ａ１０６５１ｂと、を備える。
【１２５１３】
開閉板Ａ１０６５１が階段状に形成されることに伴って、ベース部材Ａ１０６１０前側から開閉板Ａ１０６５１を出没可能に形成される案内開口Ａ１０６１２の形状も、案内開口Ａ６１２とは異なるようにされており、長方形を複数回屈曲させた態様の形状から形成される。
【１２５１４】
案内リブ部Ａ１０６５１ｂにより、開閉板Ａ１０６５１の本体部Ａ１０６５１ａの全体において案内開口Ａ１０６１２の下面との間に隙間を生じさせることができ、開閉板Ａ１０６５１の下面全体が案内開口Ａ１０６１２の下面と接触する場合に比較して、動作抵抗（摩擦抵抗）を低減させることができる。
【１２５１５】
開閉板Ａ１０６５１の上面が階段状に形成されることにより、上面を転動（流下する）球に対して上下方向の跳ね返りを複数回生じさせることになり、上面が平滑面とされる場合に比較して、球の流下速度の減速度合を増大させることができる。これにより、開閉板Ａ１０６５１が張出状態（閉鎖状態）とされる間（例えば、ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１(２．０秒)）に、球が開閉板Ａ１０６５１の右端から左端まで渡りきり、球が特定入賞口Ｈ６５ａに流入されずにアウト口Ｈ７１から排出されるという事態の発生を抑制することができる。
【１２５１６】
開閉板Ａ１０６５１の上面は、発光部Ａ６６１（特に、第２発光部Ａ６６３）側とは反対側なので、形状により発光部Ａ６６１の光の反射に影響することが無い。そのため、球の流下態様を好適にする目的に特化した自由な形状設計をすることができる。
【１２５１７】
開閉板Ａ１０６５１の下面は、板厚が一定となるように上面に沿った形状とすることが成形には好適だが、その他の形状を採用することも可能である。例えば、本体部Ａ１０６５１ａの下面が平坦面で形成されても良いし、階段状に対応しない凹凸形状とされても良いし、靴底のラバーなどで公知の溝形状が形成されるようにしても良い。
【１２５１８】
任意の形状により、到達した光が反射された場合に、反射光が、強く光って見えるように工夫することができる。例えば、案内リブ部Ａ１０６５１ｂのように下方に突出される突部が、開閉板Ａ１０６５１の前側先端にも形成されることで、開閉板Ａ６５１のようにリブの無い形状であれば先端部に当たった後の光が上方へ抜け易い所、リブによって光が下方側に反射される度合いが大きくなり、流下領域ＡＲ６５を明るく照らすことができ、流下領域ＡＲ６５の視認性を向上させることができる。
【１２５１９】
なお、開閉板Ａ１０６５１の左端側における流下領域ＡＲ６５の上下幅が球の直径以下になる場合であっても、開閉板Ａ６５１と同様に、開閉板Ａ１０６５１の前端部がカバー部材Ａ６３０の板状本体Ａ６３１に対して傾斜しているため、カバー部材Ａ６３０と開閉板Ａ１０６５１との間に球が挟まった場合であっても、開閉板Ａ１０６５１の前端部の傾斜により球が左方側に追いやられ、特定入賞口Ｈ６５ａに流入されるため、球詰まりにより張出状態（閉鎖状態）に切り替えられないといった不具合が生じないよう構成することができる。
【１２５２０】
次いで、図７２３及び図７２４を参照し、第１３５実施形態における第２球流下構造体

Ａ１１６００について説明する。上記第１３３実施形態では、開閉板Ａ６５１が不透明の樹脂材料から形成される場合を説明したが、第１３５実施形態では、開閉板Ａ１１６５１が光を透過可能に形成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１２５２１】

図７２３（ａ）、図７２３（ｂ）、図７２４（ａ）及び図７２４（ｂ）は、図７１１の矢印Ｂ３１ｍ方向視における第１３５実施形態における可変入賞装置Ａ１１０６５の模式図である。図７２３（ａ）、図７２３（ｂ）、図７２４（ａ）及び図７２４（ｂ）では、可変入賞装置Ａ１１０６５の内、可動部としての開閉板Ａ１１６５１及び駆動ソレノイドＡ６５２と、疑似開閉板Ａ１１６５３及び駆動ギアＡ１１６５４と、が図示され、受入箱部材Ａ６５５及び前カバー部材Ａ６５６の図示が省略される。また、流下領域ＡＲ６５を構成するベース部材Ａ６１０の板状本体Ａ６１１とカバー部材Ａ６３０の板状本体Ａ６３１とが想像線で図示される。

【１２５２２】

図７２３（ａ）では、開閉板Ａ１１６５１が張出状態（閉鎖状態）とされ疑似開閉板Ａ１１６５３が張出状態（前位置状態）とされる状態が図示され、図７２３（ｂ）では、開閉板Ａ１１６５１が退避状態（開放状態）とされ疑似開閉板Ａ１１６５３が張出状態（前位置状態）とされる状態が図示され、図７２４（ａ）では、開閉板Ａ１１６５１が張出状態（閉鎖状態）とされ疑似開閉板Ａ１１６５３が退避状態（後位置状態）とされる状態が図示され、図７２４（ｂ）では、開閉板Ａ１１６５１が退避状態（開放状態）とされ疑似開閉板Ａ１１６５３が退避状態（後位置状態）とされる状態が図示される。基本的には、開閉板Ａ１１６５１及び疑似開閉板Ａ１１６５３は、これらの４種類の状態を切替制御される。

【１２５２３】

可変入賞装置Ａ１１０６５は、可動部として、開閉板Ａ１１６５１と、疑似開閉板Ａ１１６５３と、を備える。疑似開閉板Ａ１１６５３は、駆動モータ（図示せず）の回転軸に固定された駆動ギアＡ１１６５４に歯合されるラックギアＡ１１６５３ａを備え、駆動ギアＡ１１６５４が回転駆動されることに基づいて、張出状態（前位置状態）と、退避状態（後位置状態）とで、前後移動される。

【１２５２４】

開閉板Ａ１１６５１は、開閉板Ａ６５１（図７１０参照）と同じ形状で、光透過性の樹脂材料から形成される。一方、疑似開閉板Ａ１１６５３は、不透明の樹脂材料（又は金属材料）から形成される。

【１２５２５】

ベース部材Ａ６１０の案内開口Ａ６１２の形状は、疑似開閉板Ａ１１６５３と干渉しない程度の領域を上側に追加で設けるように、形状が変形される。即ち、開閉板Ａ１１６５１及び疑似開閉板Ａ１１６５３は、共通の案内開口Ａ６１２を通って出没動作される。開閉板Ａ１１６５１及び疑似開閉板Ａ１１６５３は、それぞれ独立で変位することも、同じタイミングで変位することも可能に制御される。

【１２５２６】

疑似開閉板Ａ１１６５３の移動は、駆動ギアＡ１１６５４を回転動作させる駆動モータ（図示せず）の駆動速度を異ならせることで、複数態様の速度で実行可能とされる。即ち、駆動モータの駆動速度を高速とすることで、開閉板Ａ１１６５１の駆動ソレノイドＡ６５２による動作態様程度の高速移動をさせたり、駆動モータの駆動速度を低速（ゆっくり）とすることで、開閉板Ａ１１６５１の駆動ソレノイドＡ６５２による動作態様よりも遅い移動速度で移動させたり、することができる。

【１２５２７】

疑似開閉板Ａ１１６５３の右端は、開閉板Ａ１１６５１の突出部Ａ６５１ａの左端に位置するように形成されており、疑似開閉板Ａ１１６５３と開閉板Ａ１１６５１とが共に張出状態である場合（図７２３（ａ）参照）に、上流側（図面右側）から流下して開閉板Ａ

１１６５１の上面を転動する球が、滑らかに乗り上げることが可能な形状となっている。これにより、疑似開閉板Ａ１１６５３と開閉板Ａ１１６５１とが共に張出状態である場合においても、上流側から流下して開閉板Ａ１１６５１の上面を転動した球を開閉板Ａ１１６５１の左端まで渡り切らせることが可能に構成される。

【１２５２８】

流下領域ＡＲ６５の左右幅に対して、右側において疑似開閉板Ａ１１６５３が途切れている（隙間がある）ので、疑似開閉板Ａ１１６５３が張出状態（前位置状態）となっていたとしても、開閉板Ａ１１６５１が退避状態（開放状態）であれば上流側から流下した遊技球は流下領域ＡＲ６５に流入可能とされる。即ち、流下領域ＡＲ６５への球の流入の切り替え（開閉）の機能は、本実施形態においても開閉板Ａ１１６５１が担う。

【１２５２９】

一方で、開閉板Ａ１１６５１の状態が同じであっても、照射領域ＡＲ６３１（図７１４及び図７１５参照）における光の視認態様が変わり得る。本実施形態では、開閉板Ａ１１６５１が光透過性の樹脂材料から形成され、ほとんどの光が透過するため、開閉板Ａ１１６５１が張出状態（閉鎖状態）であろうが、退避状態（開放状態）であろうが、第３発光部Ａ６６４の光は照射領域ＡＲ６３１の第２領域ＡＲ６３１ｂ（図７１５参照）に照射され、変わらない。

【１２５３０】

一方、疑似開閉板Ａ１１６５３は不透明の材料から形成されていることから、疑似開閉板Ａ１１６５３の退避状態（後位置状態）では第３発光部Ａ６６４の光は照射領域ＡＲ６３１の第２領域ＡＲ６３１ｂ（図７１５参照）に照射され、疑似開閉板Ａ１１６５３の張出状態（前位置状態）では第３発光部Ａ６６４の光は照射領域ＡＲ６３１の第１領域ＡＲ６３１ａ（図７１４参照）に照射されるというように、疑似開閉板Ａ１１６５３の状態（前後方向における位置）と、照射領域ＡＲ６３１において光が照射される位置との関係が、開閉板Ａ６５１で上述した関係と同様となる。

【１２５３１】

そのため、開閉板Ａ１１６５１の前後動作と連動して（同時に）疑似開閉板Ａ１１６５３が前後動作するように制御する場合（即ち、図７２３（ａ）に図示される状態と、図７２４（ｂ）に図示される状態とで切り替わるように制御する場合）、開閉板Ａ１１６５１の開閉動作に基づく照射領域ＡＲ６３１（図７１４及び図７１５参照）における光の視認態様の変化が、開閉板Ａ６５１で上述したのと同様の態様で生じることになる。

【１２５３２】

これに対し、開閉板Ａ１１６５１の動作と、疑似開閉板Ａ１１６５３の動作とを、異なる態様で実行させる制御を行う場合、開閉板Ａ６５１で上述した態様とは異なる態様で、照射領域ＡＲ６３１（図７１４及び図７１５参照）における光の視認態様の変化を生じさせることができる。

【１２５３３】

例えば、開閉板Ａ１１６５１が退避状態（開放状態）の場合に疑似開閉板Ａ１１６５３が張出状態（前位置状態）にされた場合（図７２３（ｂ）参照）、疑似開閉板Ａ１１６５３によって光が反射されることとなり、第３発光部Ａ６６４の光は照射領域ＡＲ６３１の第１領域ＡＲ６３１ａ（図７１４参照）に照射される。そのため、開閉板Ａ１１６５１が退避状態（開放状態）であるにもかかわらず、照射領域ＡＲ６３１において第１領域ＡＲ６３１ａが明るく視認されるという、開閉板Ａ６５１で上述した態様とは異なる態様を生じさせる。

【１２５３４】

また、例えば、開閉板Ａ１１６５１が張出状態（閉鎖状態）の場合に疑似開閉板Ａ１１６５３が退避状態（後位置状態）にされた場合（図７２４（ａ）参照）、開閉板Ａ１１６５１によっては光の反射はほとんど生じず、大部分の光が透過されることとなり、第３発光部Ａ６６４の光は照射領域ＡＲ６３１の第２領域ＡＲ６３１ｂ（図７１５参照）に照射される。そのため、開閉板Ａ１１６５１が張出状態（閉鎖状態）であるにもかかわらず、

照射領域ＡＲ６３１において第２領域ＡＲ６３１ｂが明るく視認されるという、開閉板Ａ６５１で上述した態様とは異なる態様を生じさせる。

【１２５３５】

このような構成において、開閉板Ａ１１６５１及び疑似開閉板Ａ１１６５３を、同じ態様で前後に連動させる制御態様（図７２３（ａ）に図示される状態と、図７２４（ｂ）に図示される状態とで切り替わるように制御する場合）と、異なる態様で動作させる制御態様（図７２３（ａ）、図７２３（ｂ）、図７２４（ａ）及び図７２４（ｂ）で図示される状況のいずれもが生じ得るように制御する場合）とを、相互に切替可能に構成することで、照射領域ＡＲ６３１における光の視認態様の変化から開閉板Ａ１１６５１の状態を把握できる状況と、開閉板Ａ１１６５１の状態を把握できない状況と、を切り替え可能とすることができる。これにより、意外性のある遊技態様を実現することができる。

【１２５３６】

また、ここで説明した、開閉板Ａ１１６５１の開閉動作と、照射領域ＡＲ６３１における光の視認態様の変化とが同期しない場合を活用して、発展的な演出を行うことができる。

【１２５３７】

開閉板Ａ１１６５１の開閉動作は、それが駆動ソレノイドＡ６５２により実行されていることから想像が容易なように、前後位置を往復する高速移動のみが許容される。ここにおいて、低速での動作態様は想定されていない。開閉板Ａ１１６５１と疑似開閉板Ａ１１６５３とが連動している場合、照射領域ＡＲ６３１における視認態様の変化（第１領域ＡＲ６３１ａが明るい視認態様と第２領域ＡＲ６３１ｂが明るい視認態様との変化）も開閉板Ａ１１６５１の動作速度と同様に高速で生じ、これらは相互に関連する。即ち、照射領域ＡＲ６３１における視認態様の変化から、遊技者は開閉板Ａ１１６５１の動作態様を把握することが可能となっている。

【１２５３８】

一方、上述したように、開閉板Ａ１１６５１の動作態様と疑似開閉板Ａ１１６５３の動作態様とが異なる場合、実際には照射領域ＡＲ６３１における視認態様の変化と開閉板Ａ１１６５１の状態の変化とは合致しないが、遊技者はそれに気づかないことがある。即ち、実際の開閉板Ａ１１６５１の動作とは無関係に、照射領域ＡＲ６３１における視認態様の変化に沿って開閉板Ａ１１６５１が動作していると遊技者に錯覚させることができる。

【１２５３９】

例えば、開閉板Ａ１１６５１が張出状態（閉鎖状態）で維持される状態で、疑似開閉板Ａ１１６５３が第１の大当たり作動パターン（又は、第２の大当たり作動パターン、第１の小当たり作動パターン）で動作されると、照射領域ＡＲ６３１における視認態様の変化が生じることから、開閉板Ａ１１６５１が特定の作動パターンで動作したかのように遊技者に錯覚させることができる。これにより、実際には大当たりや小当たりが実行されていないのにも関わらず、大当たりや小当たりが実行されているかのように錯覚させ、球の発射を促進させると共に、開閉板Ａ１１６５１に対する注目力を向上させることができる。

【１２５４０】

また、一時的に疑似開閉板Ａ１１６５３の動作を低速で行うと、照射領域ＡＲ６３１における視認態様の変化も低速で生じることになるので、開閉板Ａ１１６５１自体の動作は高速動作のみが想定される構成のままで、あたかも開閉板Ａ１１６５１が低速で動作しているかのように遊技者に錯覚させることができる。

【１２５４１】

例えば、開閉板Ａ１１６５１が退避状態（開放状態）とされ疑似開閉板Ａ１１６５３が退避状態（後位置状態）とされている状況から、開閉板Ａ１１６５１が張出状態（閉鎖状態）に即座に変位されると共に、同じタイミングで動作開始した疑似開閉板Ａ１１６５３は低速で張出状態（前位置状態）へ向けて変位された場合、照射領域ＡＲ６３１における視認態様の変化は、開閉板Ａ１１６５１の変位開始タイミングから低速で生じることになる。この場合、照射領域ＡＲ６３１における視認態様の変化から、遊技者は、開閉板Ａ１

１６５１が低速で変位していると錯覚し得る。
【１２５４２】
開閉板Ａ１１６５１が低速で動作する状況は、一例としては、球挟みが生じた場合に生じ得る（図７１７参照）。即ち、駆動ソレノイドＡ６５２による開閉板Ａ１１６５１の動作が高速であっても、球が開閉板Ａ１１６５１とカバー部材Ａ６３０との間に挟まることにより開閉板Ａ１１６５１の動作の抵抗が大きくなり、開閉板Ａ１１６５１が球を退けながら張出状態（閉鎖状態）まで移動する際に、動作速度が低速となり得る。
【１２５４３】
張出状態（閉鎖状態）へ向けて動作する開閉板Ａ１１６５１とカバー部材Ａ６３０との間に球が挟まる状況としては、例えば、ラウンド遊技において規定個数（例えば、１０個）の球が特定入賞口Ｈ６５ａに入賞したことにより開閉板Ａ１１６５１が張出状態（閉鎖状態）へ向けて動作する場合に超過入球（１１個目以降の入球）の球が流入する場合を想定することができる（所謂「オーバー入賞」）。
【１２５４４】
即ち、疑似開閉板Ａ１１６５３を低速で張出状態（前位置状態）へ向けて動作させる制御を一時的に実行することで、照射領域ＡＲ６３１において低速の視認態様の変化を生じさせることができ、照射領域ＡＲ６３１を視認した遊技者がオーバー入賞を錯覚するように仕向けることができ、遊技の興趣の向上を図ることができる。
【１２５４５】
可変入賞装置Ａ１１０６５の動作制御としては、可変入賞装置Ａ６５について上述した通り、大当たりの作動パターン（長開放動作、図７０３、図７０４参照）と、小当たりの作動パターン（短開放動作、図７０５参照）とを実行可能に構成される。
【１２５４６】
開閉板Ａ１１６５１と疑似開閉板Ａ１１６５３とが連動している場合、照射領域ＡＲ６３１における視認態様の変化（第１領域ＡＲ６３１ａが明るい視認態様と第２領域ＡＲ６３１ｂが明るい視認態様との変化）も開閉板Ａ１１６５１の動作態様と同様の間隔で生じ、これらは相互に関連する。即ち、照射領域ＡＲ６３１における視認態様の変化が、長期間（例えば、ラウンド遊技Ｒに想定される最大３０秒間など）維持される態様を含む変化なのであれば、遊技者は開閉板Ａ１１６５１が大当たりの作動パターンで動作していると照射領域ＡＲ６３１を視認することで予測でき、短期間（例えば、１秒間を超えない期間）維持される態様のみで構成される変化なのであれば、遊技者は開閉板Ａ１１６５１が小当たりの作動パターンで動作していると照射領域ＡＲ６３１を視認することで予測できる。
【１２５４７】
例えば、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０へ入賞があったことを契機として行われる抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）が行われるところ、大当たりではなかった場合に、特定の場合に必ず小当たりと判定されるよう構成しても良い。例えば、所謂「激熱リーチ」において、大当たり又は小当たりのいずれかに判定されるように構成する場合が想定される。
【１２５４８】
この場合において、開閉板Ａ１１６５１と疑似開閉板Ａ１１６５３とが連動している場合には、抽選に伴う変動終了時点において必ず照射領域ＡＲ６３１の視認態様の変化が生じ、その視認態様の変化の種類で、大当たりと判定されたか、小当たりと判定されたかを把握することが可能である。
【１２５４９】
一方で、大当たりと判定された場合において、開閉板Ａ１１６５１が第１の大当たり作動パターン（図７０３参照）で動作開始された一方で、その動作開始時点から疑似開閉板Ａ１１６５３は第１の小当たり作動パターン（図７０５参照）で動作され、少し間を空けて退避状態（後位置状態）へ向けて動作するように制御することもできる。
【１２５５０】

この場合、照射領域ＡＲ６３１の視認態様の変化は疑似開閉板Ａ１１６５３の動作態様に対応した変化として視認されるため、疑似開閉板Ａ１１６５３が第１の小当たり作動パターンで動作されている間において抽選結果が小当たりであったと遊技者に錯覚させることができる。その後、疑似開閉板Ａ１１６５３が退避状態（後位置状態）へ動作されることで、実際は抽選結果が大当たりであったことに気付かせることで、遊技者の気持ちをより高揚させることができ、興趣の向上を図ることができる。

【１２５５１】

本実施形態では、開閉板Ａ１１６５１が光透過性の樹脂材料から形成されているため、開閉板Ａ１１６５１が張出状態（閉鎖状態）と退避状態（開放状態）とで切り替えられた場合に第３発光部Ａ６６４の光の進行方向が変化されることはなく（透過されるため）、表示装置Ａ６３８の表示態様を「ＣＬ」とはせず、「ＯＰ」で維持させることができる。

【１２５５２】

即ち、開閉板Ａ１１６５１が動作されている期間においては、第３発光部Ａ６６４の発光態様次第で、常時「ＯＰ」との表示を実行させることができ、遊技者に対して打ちっぱなしの操作を継続させ易くすることができる。

【１２５５３】

例えば、大当たり遊技の開始から最終ラウンドの直前のラウンドまでは開閉板Ａ１１６５１のみ開閉動作させ、疑似開閉板Ａ１１６５３については退避状態（開放状態）の位置に維持し、一方で、最終ラウンドでは、疑似開閉板Ａ１１６５３も開閉動作させ、ラウンド遊技の終了に伴い疑似開閉板Ａ１１６５３及び開閉板Ａ１１６５１を張出状態（閉鎖状態）とするように制御するようにすることで、ラウンド遊技中か、インターバル期間かに関わらず、「ＯＰ」の表示を実行させることができ、エンディング時間ＥＤとなることで「ＣＬ」に表示を切り替える態様とすることができる。

【１２５５４】

次いで、図７２５及び図７２６を参照し、第１３６実施形態における第２球流下構造体Ａ１２６００について説明する。上記第１３３実施形態では、流下領域ＡＲ６５の上側が単一の開閉板Ａ６５１で開閉される場合を説明したが、第１３６実施形態では、流下領域ＡＲ６５の上側が開閉板Ａ６５１のみではなく、複数の部材によって開閉可能に構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１２５５５】

図７２５（ａ）、図７２５（ｂ）、図７２６（ａ）及び図７２６（ｂ）は、図７１１の矢印Ｂ３１ｍ方向視における第１３６実施形態における可変入賞装置Ａ１２０６５の模式図である。図７２５（ａ）、図７２５（ｂ）、図７２６（ａ）及び図７２６（ｂ）では、可変入賞装置Ａ１２０６５の内、可動部としての開閉板Ａ６５１及び駆動ソレノイドＡ６５２と、第２開閉板Ａ１２６５３及び駆動ギアＡ１２６５４と、が図示され、受入箱部材Ａ６５５及び前カバー部材Ａ６５６の図示が省略される。また、流下領域ＡＲ６５を構成するベース部材Ａ６１０の板状本体Ａ６１１とカバー部材Ａ６３０の板状本体Ａ６３１とが想像線で図示される。

【１２５５６】

図７２５（ａ）では、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされ第２開閉板Ａ１２６５３が張出状態（閉鎖状態）とされる状態が図示され、図７２５（ｂ）では、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされ第２開閉板Ａ１２６５３が張出状態（閉鎖状態）とされる状態が図示され、図７２６（ａ）では、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされ第２開閉板Ａ１２６５３が退避状態（開放状態）とされる状態が図示され、図７２６（ｂ）では、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされ第２開閉板Ａ１２６５３が退避状態（開放状態）とされる状態が図示される。基本的には、開閉板Ａ６５１及び第２開閉板Ａ１２６５３は、これらの４種類の状態を切替制御される。

【１２５５７】

可変入賞装置Ａ１２０６５は、可動部として、開閉板Ａ６５１と、第２開閉板Ａ１２６

５３と、を備える。第２開閉板Ａ１２６５３は、駆動モータ（図示せず）の回転軸に固定された駆動ギアＡ１２６５４に歯合されるラックギアＡ１２６５３ａを備え、駆動ギアＡ１２６５４が回転駆動されることに基づいて、張出状態（閉鎖状態）と、退避状態（開放状態）とで、前後移動される。

【１２５５８】

第２開閉板Ａ１２６５３は、不透明の樹脂材料（又は金属材料）から形成されており、開閉板Ａ６５１（本実施形態では赤色）とは、異なる色（本実施形態では黄色）で構成される。

【１２５５９】

ベース部材Ａ６１０の案内開口Ａ６１２の形状は、第２開閉板Ａ１２６５３と干渉しない程度の領域を上側に追加で設けるように、形状が変形される。即ち、開閉板Ａ６５１及び第２開閉板Ａ１２６５３は、共通の案内開口Ａ６１２を通って出没動作される。開閉板Ａ６５１及び第２開閉板Ａ１２６５３は、それぞれ独立で変位することも、同じタイミングで変位することも可能に制御される。

【１２５６０】

開閉板Ａ６５１及び第２開閉板Ａ１２６５３は、それぞれ独立で変位することも、同じタイミングで変位することも可能に制御される。

【１２５６１】

第２開閉板Ａ１２６５３の移動速度は、駆動モータ（図示せず）の駆動速度を制御することでバリエーションを持たせることも可能だが、開閉板Ａ６５１の動作速度と対応させるために、駆動ソレノイドＡ６５２の動作による開閉板Ａ６５１の動作速度と同程度の一定速度となるように設定される。

【１２５６２】

なお、駆動ギアＡ１２６５４を回転動作させる駆動モータ（図示せず）の駆動速度を場合によって異ならせるようにしても良い。例えば、第１の場合では、駆動モータの駆動速度を高速とすることで、開閉板Ａ６５１の駆動ソレノイドＡ６５２による動作態様程度の高速移動を第２開閉板Ａ１２６５３にさせ、第２の場合では、駆動モータの駆動速度を低速（ゆっくり）とすることで、開閉板Ａ６５１の駆動ソレノイドＡ６５２による動作態様よりも遅い移動速度で第２開閉板Ａ１２６５３を移動させるという、制御を行うことが可能となる。

【１２５６３】

第２開閉板Ａ１２６５３は、ベース部材Ａ６１０の正面側に張り出す部位が板形状で形成され、開閉板Ａ６５１の上側に位置する。当該板形状の部位は、右端部が、開閉板Ａ６５１の右端の上面側と当接する上下位置で配設されており、開閉板Ａ６５１の途中位置で上方に突出される突出部Ａ６５１ａと下面とが当接する傾斜角度で形成される。

【１２５６４】

即ち、第２開閉板Ａ１２６５３は、正面視における左下がりの傾斜角度（第２開閉板Ａ１２６５３の上面と水平面との成す角度）が、開閉板Ａ６５１よりも小さい。従って、球が開閉板Ａ６５１上を転動する場合よりも、球が第２開閉板Ａ１２６５３上を転動する場合の方が、球の減速の度合いが大きくなる。

【１２５６５】

これにより、ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１（図７０３参照）における球の転動態様が変化する。ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１の開始直後に開閉板Ａ６５１又は第２開閉板Ａ１２６５３の上面における転動を開始することが同じであっても、ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１中に球が開閉板Ａ６５１又は第２開閉板Ａ１２６５３の上面を左方に通り過ぎてしまう場合と、ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１中に球が開閉板Ａ６５１又は第２開閉板Ａ１２６５３の上面に留まり次のラウンド遊技Ｒで流下領域ＡＲ６５に流入される場合と、を混在させることができる。

【１２５６６】

第２開閉板Ａ１２６５３の形状は、左右幅が開閉板Ａ６５１と同様の長さとされており

、流下領域ＡＲ６５の開閉は、開閉板Ａ６５１と第２開閉板Ａ１２６５３との関係により決まる。例えば、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされ第２開閉板Ａ１２６５３が張出状態（閉鎖状態）とされる場合は、開閉板Ａ６５１及び第２開閉板Ａ１２６５３により流下領域ＡＲ６５には球が流入しないように閉鎖される（図７２５（ａ）参照）。

【１２５６７】

また、例えば、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされ第２開閉板Ａ１２６５３が張出状態（閉鎖状態）とされる場合は、第２開閉板Ａ１２６５３により流下領域ＡＲ６５には球が流入しないように閉鎖される（図７２５（ｂ）参照）。

【１２５６８】

また、例えば、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされ第２開閉板Ａ１２６５３が退避状態（開放状態）とされる場合は、開閉板Ａ６５１により流下領域ＡＲ６５に球が流入しないように閉鎖される（図７２６（ａ）参照）。

【１２５６９】

また、例えば、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされ第２開閉板Ａ１２６５３が退避状態（開放状態）とされる場合は、開閉板Ａ６５１にも第２開閉板Ａ１２６５３にも妨げられることなく、流下領域ＡＲ６５への球の流入が許容される（図７２６（ｂ）参照）。

【１２５７０】

即ち、図７２５（ａ）、図７２５（ｂ）及び図７２６（ａ）では、流下領域ＡＲ６５へ球が流入しないように閉鎖される状態が図示されており、図７２６（ｂ）では、流下領域ＡＲ６５への球の流入が許容される状態が図示される。

【１２５７１】

このような構成において、開閉板Ａ６５１及び第２開閉板Ａ１２６５３を、異なる態様で動作させる第３１制御態様（図７２６（ａ）に図示される状態と、図７２６（ｂ）に図示される状態とで切り替わるように制御する場合）と、同じ態様で前後に連動させる第３２制御態様（図７２５（ａ）に図示される状態と、図７２６（ｂ）に図示される状態とで切り替わるように制御する場合）と、を相互に切替可能に構成することで、球が可変入賞装置Ａ１２０６５に流入せずに零れる態様を変化させることができる。以下、詳細に説明する。

【１２５７２】

大当たり遊技において、基本的には第３１制御態様での動作制御を繰り返せば、第１の大当たり作動パターン（図７０３参照）と同様、ラウンド遊技Ｒを繰り返し実行することができる。

【１２５７３】

これに加えて、特定のラウンド間インターバルでは開閉板Ａ６５１の動作に連動して第２開閉板Ａ１２６５３が動作するように制御すると（図７２５（ａ）参照）、当該ラウンド間インターバルで流下領域ＡＲ６５の上方を流下（転動）する球は、開閉板Ａ６５１の上面ではなく第２開閉板Ａ１２６５３の上面を流下（転動）することになるので、開閉板Ａ６５１の上面を流下（転動）する場合よりも減速の度合いが大きくされる。

【１２５７４】

そのため、ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１が、開閉板Ａ６５１の上面を流下（転動）する場合に球が右端から左端まで渡り切る（零れる）長さであった場合に、第２開閉板Ａ１２６５３の上面を流下（転動）する場合には球が渡り切らない（零れない）態様を構成できる。

【１２５７５】

即ち、特定のラウンド間インターバルがラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１で実行されたとしても、第２開閉板Ａ１２６５３の上面を転動する球が右端から左端まで渡り切らずに、次の開放により流下領域ＡＲ６５に流入される状況を構成できるので、ラウンド間インターバルにおける球の流下に対する注目力を向上させることができる。

【１２５７６】

上面を流下（転動）する球の減速の度合いの違いは、開閉板Ａ６５１か第２開閉板Ａ１２６５３かの違いで生じるところ、開閉板Ａ６５１と第２開閉板Ａ１２６５３とは視覚的な特徴（本実施形態では、色の違い）で識別可能なので、張出状態（閉鎖状態）における開閉板Ａ６５１（及び第２開閉板Ａ１２６５３）に対する注目力を向上させることができる。

【１２５７７】

次いで、図７２７及び図７２８を参照し、第１３７実施形態における第２球流下構造体Ａ１３６００について説明する。上記第１３３実施形態では、カバー部材Ａ６３０の前面に形成される半透明の意匠が目隠しとして作用して流下領域ＡＲ６５の視認性に影響を与える場合を説明したが、第１３７実施形態では、カバー部材Ａ１３６３０の前面の一部に反射膜（錫や銀の鍍金や蒸着によって形成）を薄く形成して所謂マジックミラーとして作用させることで状況に応じて目隠しの度合いを変化可能に構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１２５７８】

図７２７は、第１３７実施形態における第２球流下構造体Ａ１３６００の正面図である。

【１２５７９】

カバー部材Ａ１３６３０は、形状は上述したカバー部材Ａ６３０と同様であり、板状本体Ａ６３１の正面側における、正面視で開閉板Ａ６５１の下方側の領域に反射膜Ａ１３６３８が形成される。反射膜Ａ１３６３８は、マジックミラーとして作用するよう、薄く形成される。

【１２５８０】

所謂マジックミラーは、他の技術分野では従来からよく知られた技術であって、入射した光の一部を反射し、一部を透過させるものである。これを、例えば明るい部屋と暗い部屋との間に置くと、明るい部屋側からの光の一部が反射することにより、明るい部屋側からは鏡に見え、当該光の一部が透過することにより暗い部屋側からは半透明な窓に見えるように作用する。

【１２５８１】

遊技中、第２球流下構造体Ａ１３６００側には、店内照明からの光や、パチンコ機Ａ１０の正面枠Ｐ１４に配設される電飾部Ｐ３１（図７０１参照）からの光などが照射されることになり、特に発光部Ａ６６１からの発光が無い場合には、第２球流下構造体Ａ１３６００を視認する遊技者の視線は、明るい側から暗い側へ進むことになるので、反射膜Ａ１３６３８が鏡として視認される。

【１２５８２】

反射膜Ａ１３６３８が鏡として視認される場合には、半透明に視認される場合とは異なり、流下領域ＡＲ６５をそもそも視認できないようにすることができ、流下領域ＡＲ６５が見えにくいという苦情を出させないようにすることができる。この場合、後方側の流路等が透けて見える場合に比較して、カバー部材Ａ１３６３０に「ＢＯＮＵＳ」等の意匠（図７０７参照）が形成される場合に、その意匠の視認性を向上させることができる。

【１２５８３】

流下領域ＡＲ６５における球の流下を視認させるタイミングでは、発光部Ａ６６１のＬＥＤを強発光させて、反射膜Ａ１３６３８を透過させることで、流下領域ＡＲ６５を流下する球を遊技者に視認させることができる。

【１２５８４】

特定の場合において、第３発光部Ａ６６４からの光の明るさが十分に強く（店内照明からの光や電飾部Ｐ３１の光よりも強く）なるよう制御されると、第２球流下構造体Ａ１３６００を視認する遊技者の視線は、暗い側から明るい側へ進むことになるので、反射膜Ａ１３６３８が半透明な窓として視認される。

【１２５８５】

なお、この条件を満たす制御としては、例えば、第３発光部Ａ６６４の光の発光が強く

なる態様で制御するようにしても良いし、店内照明からの光が抑えられるように制御しても良いし、電飾部Ｐ３１の光の強さが抑えられる（又は消灯される）ように制御しても良いし、これらを組み合わせても良い。

【１２５８６】

特定の場合とは、例えば、大当たり中に第３発光部Ａ６６４からの光の明るさが十分に強くなるよう制御される場合や、他にも、例えば、正面視における第３発光部Ａ６６４の光の明るさは、店内照明からの光や電飾部Ｐ３１の光よりも強く視認されるという点で不十分であったとしても、大当たり中に流下領域ＡＲ６５に流入した球に反射した光がカバー部材Ａ１３６３０に向けて（前方側に向けて）照射された場合に（図７１９（ｂ）参照）、その照射部位において光の明るさが十分に強くなる場合が、想定される。

【１２５８７】

この場合、球の前方部位を中心とする円形の透過領域が反射膜Ａ１３６３８の内部において視認可能とされる。そのため、球の流下に伴って、円形の透過領域も変位するため、透過領域を視認することで、流下する球の位置を把握することができる。即ち、球が実際に流下する位置よりも手前側に位置するカバー部材Ａ１３６３０を視認することで、流下する球の位置を把握することができる。

【１２５８８】

これにより、カバー部材Ａ１３６３０の後方側に位置する球自体を視認する必要がある場合に比較して、球の位置の把握を容易とすることができ、遊技者の遊技ストレスを低減させることができる。

【１２５８９】

反射膜Ａ１３６３８が鏡として視認される場合と、半透明な窓として視認される場合との切り替えは、任意に設定が可能であるが、例えば、流下領域ＡＲ６５への球の流入が想定されない場合の少なくとも一部の場合において反射膜Ａ１３６３８を鏡として視認させる制御を行い、流下領域ＡＲ６５への球の流入が想定される場合の少なくとも一部の場合において反射膜Ａ１３６３８を窓として視認させる制御を行うようにしても良い。

【１２５９０】

流下領域ＡＲ６５への球の流入が想定される場合としては、大当たり遊技におけるラウンド遊技中や、開始から終了までの期間が長い作動パターンの小当たり遊技（例えば、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）で０．１２秒間維持される態様が１５回繰り返される動作態様であって、退避状態（開放状態）間の張出状態（閉鎖状態）が１秒間である場合、小当たり遊技は開始から終了まで１５秒程度経過する）中等が想定される。

【１２５９１】

流下領域ＡＲ６５への球の流入が想定されない場合としては、通常中、大当たり遊技におけるラウンド間インターバル中、オープニング時間ＯＰ、エンディング時間ＥＤ、開始から終了までの期間が短い小当たり遊技（例えば、第１の小当たり作動パターン、図７０５）中等が想定される。

【１２５９２】

第２球流下構造体Ａ１３６００は、カバー部材Ａ１３６３０の正面側に回転可能に配設される回転風車部材Ａ１３６９０を備える。回転風車部材Ａ１３６９０は、前後方向に延びる駆動軸部（図示せず）に支持され、その駆動軸部を中心とする回転動作が可能とされる。

【１２５９３】

図７２８（ａ）は、回転風車部材Ａ１３６９０の正面図であり、図７２８（ｂ）は、図７２８（ａ）の矢印Ｂ４０ｂ方向視における回転風車部材Ａ１３６９０の側面図であり、図７２８（ｃ）は、図７２８（ｂ）の矢印Ｂ４０ｃ方向視における回転風車部材Ａ１３６９０の背面図である。

【１２５９４】

回転風車部材Ａ１３６９０は、回転軸部に支持される被支持円環部Ａ１３６９１と、その被支持円環部Ａ１３６９１と同心円の環状に形成される外形円環部Ａ１３６９２と、被

支持円環部Ａ１３６９１及び外形円環部Ａ１３６９２の間を連結する複数の棒状部Ａ１３６９３と、を備え、動作時の変形を抑制するのに十分な剛性を維持する構成とされる。

【１２５９５】

回転風車部材Ａ１３６９０は、少なくとも棒状部Ａ１３６９３の表面に反射膜（錫や銀の鍍金や蒸着によって形成）が薄く形成され、所謂マジックミラーとして作用し得る。更に、複数の棒状部Ａ１３６９３の背面側には、それぞれ異なる態様の模様または図形が形成される。本実施形態では、菱形の図形が、各棒状部Ａ１３６９３において異なる個数で形成される。

【１２５９６】

これら棒状部Ａ１３６９３の背面側に形成される模様または図形は、棒状部Ａ１３６９３が鏡として視認される場合には遊技者に視認されず、棒状部Ａ１３６９３が半透明の窓として視認される場合には遊技者が視認可能とされる。

【１２５９７】

回転風車部材Ａ１３６９０は、駆動軸部（図示せず）が高速回転制御可能に構成され、棒状部Ａ１３６９３が遊技者目線で鏡に見える状態で高速回転が継続されてから停止される。

【１２５９８】

回転風車部材Ａ１３６９０の停止姿勢は、いずれかの棒状部Ａ１３６９３の位置が、開閉板Ａ６５１の上面を転動する球の前方位置となる４種類の姿勢から選択される。回転風車部材Ａ１３６９０が鏡として視認される状況において回転風車部材Ａ１３６９０の姿勢を判別できない程度の速度で高速回転される。

【１２５９９】

回転風車部材Ａ１３６９０の制御は、大当たり遊技が実行されていない場合には停止されることなく動作が継続されており、大当たり遊技の開始に基づき１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが開始された後に停止される。

【１２６００】

回転風車部材Ａ１３６９０は、開閉板Ａ６５１上を通る球に第３発光部Ａ６６４の光が反射された場合に（図７１９（ｂ）参照）、球の前方位置に停止している棒状部Ａ１３６９３に光が照射されることでその棒状部Ａ１３６９３が半透明の窓として視認される。この場合において、回転風車部材Ａ１３６９０の停止位置の違いに対応して、視認される態様が異なる。

【１２６０１】

本実施形態では、菱形形状の模様の個数が異なる。複数の棒状部Ａ１３６９３の内、第１棒状部Ａ１３６９３ａには菱形形状の模様が４個形成され、第２棒状部Ａ１３６９３ｂには菱形形状の模様が２個形成され、第３棒状部Ａ１３６９３ｃには菱形形状の模様が１個形成され、第４棒状部Ａ１３６９３ｄには菱形形状の模様が形成されていない。

【１２６０２】

本実施形態では、棒状部Ａ１３６９３の停止姿勢が、抽選の結果や大当たり遊技で得られる利益の違いに対応するように制御される。

【１２６０３】

例えば、開閉板Ａ６５１上を通る球の前方位置に停止している棒状部Ａ１３６９３が第１棒状部Ａ１３６９３ａである場合、即ち、球で反射される光により棒状部Ａ１３６９３が半透明の窓として視認された場合に菱形形状の模様が４個視認可能とされるのは、保留内に大当たりが存在する場合に対応する。

【１２６０４】

また、例えば、開閉板Ａ６５１上を通る球の前方位置に停止している棒状部Ａ１３６９３が第２棒状部Ａ１３６９３ｂである場合、即ち、球で反射される光により棒状部Ａ１３６９３が半透明の窓として視認された場合に菱形形状の模様が２個視認可能とされるのは、大当たり遊技終了後の遊技状態が有利となる場合（例えば、時短）に対応する。

【１２６０５】

また、例えば、開閉板Ａ６５１上を通る球の前方位置に停止している棒状部Ａ１３６９３が第３棒状部Ａ１３６９３ｃである場合、即ち、球で反射される光により棒状部Ａ１３６９３が半透明の窓として視認された場合に菱形形状の模様が１個視認可能とされるのは、大当たり遊技が最大ラウンドの大当たりである場合に対応する。

【１２６０６】

また、例えば、開閉板Ａ６５１上を通る球の前方位置に停止している棒状部Ａ１３６９３が第４棒状部Ａ１３６９３ｄである場合、即ち、球で反射される光により棒状部Ａ１３６９３が半透明の窓として視認された場合に菱形形状の模様が視認されないのは、保留内に大当たりが存在する場合でも、大当たり遊技終了後の遊技状態が有利となる場合（例えば、時短）でも、大当たり遊技が最大ラウンドの大当たりでも、無い場合に対応する。

【１２６０７】

このように、開閉板Ａ６５１上を通る球の前方位置に停止している棒状部Ａ１３６９３を視認することで、これから実行される遊技態様の一部を把握できるよう構成される。そのため、開閉板Ａ６５１の上面側の領域および開閉板Ａ６５１の上面を転動する球に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【１２６０８】

なお、条件が重なった場合には、優先とされる側が開閉板Ａ６５１上を通る球の前方位置に停止する姿勢とされる。本実施形態では、第１棒状部Ａ１３６９３ａが第２棒状部Ａ１３６９３ｂより優先され、第２棒状部Ａ１３６９３ｂが第３棒状部Ａ１３６９３ｃより優先され、第３棒状部Ａ１３６９３ｃが第４棒状部Ａ１３６９３ｄより優先される。

【１２６０９】

そのため、例えば、棒状部Ａ１３６９３を通して菱形形状が４個視認された場合には、保留内に大当たりがあるという条件以外の、大当たり遊技終了後の遊技状態が有利となる場合（例えば、時短）とか、大当たり遊技が最大ラウンドの大当たりであるといった事項が排除されるのではないため、遊技者は、共に条件が成立している可能性を期待することができる。これにより、棒状部Ａ１３６９３を通して視認される内容の価値を高めることができ、開閉板Ａ６５１の上面側の領域および開閉板Ａ６５１の上面を転動する球に対する遊技者の注目力を更に向上させることができる。

【１２６１０】

開閉板Ａ６５１の上面を球が転動するのはインターバル期間であり、インターバル期間に開閉板Ａ６５１上を転動（流下）する球は流下領域ＡＲ６５に流入されずに下流に流下されることが多く、通常は注目力が低下され易いところ、本実施形態によれば、インターバル期間に開閉板Ａ６５１上を球が転動（流下）する場合における棒状部Ａ１３６９３への注目力を向上させることができ、球が流下領域ＡＲ６５に流入されずに下流に流下されることに対する残念感を緩和させることができる。

【１２６１１】

棒状部Ａ１３６９３は開閉板Ａ６５１の突出部Ａ６５１ａよりも左側において位置されるところ、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされる場合には、球の前方に棒状部Ａ１３６９３が位置する状況が生じないので、棒状部Ａ１３６９３は鏡として視認されることになり、棒状部Ａ１３６９３を通して菱形形状を視認させることは無い。

【１２６１２】

本実施形態では、第２の大当たり作動パターン（図７０４参照）で説明した場合等、インターバル期間に開閉板Ａ６５１に到達する球の発生を抑制させるような遊技態様で遊技することは可能である。しかし、この場合、棒状部Ａ１３６９３は終始鏡として視認され、回転風車部材Ａ１３６９０の停止姿勢から把握できる、抽選の結果や大当たり遊技で得られる利益の違いに対応した事項について、遊技者は把握することができない。

【１２６１３】

一方で、流下領域ＡＲ６５に流入されずに下流に流下する球が生じるように敢えて球を発射する（無駄打ちする）ようにすると、インターバル期間において張出状態（閉鎖状態）の開閉板Ａ６５１上に球を流下（転動）させることができ、その球に反射される光によ

って、その球の前方に位置する棒状部Ａ１３６９３が窓として視認される。このように、本実施形態によれば、流下領域ＡＲ６５に流入されずに下流に流下する球が生じる発射態様（例えば、大当たり遊技において「打ちっぱなし」の発射態様を継続してインターバル期間においても球を開閉板Ａ６５１に到達させる発射態様）での遊技を促すことができる。

【１２６１４】

次いで、図７２９及び図７３０を参照し、第１３８実施形態における第２球流下構造体Ａ１４６００について説明する。上記第１３３実施形態では、カバー部材Ａ６３０の前面に形成される半透明の意匠が目隠しとして作用して流下領域ＡＲ６５の視認性に影響を与える場合を説明したが、第１３８実施形態では、カバー部材Ａ１４６３０に導光板Ａ１４６３８が配設される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１２６１５】

図７２９は、第１３８実施形態における第２球流下構造体Ａ１４６００の正面図である。図７３０（ａ）及び図７３０（ｂ）は、図７２９のＢ４３ａ－Ｂ４３ａ線における第２球流下構造体Ａ１４６００の部分断面図である。

【１２６１６】

図７３０（ａ）では、開閉板Ａ６５１が、流下領域ＡＲ６５側に向けて前方に張り出した張出状態（閉鎖状態）が図示され、図７３０（ｂ）では、開閉板Ａ６５１が、流下領域ＡＲ６５側から後方に退避した退避状態（開放状態）が図示される。

【１２６１７】

図７３０（ａ）及び図７３０（ｂ）では、流下領域ＡＲ６５を見る場合の遊技者の目および目線が模式的に図示されている（矢印ＡＥＤ６５方向は水平に対して斜め下方向に略４５度傾斜した方向として図示される）。

【１２６１８】

カバー部材Ａ１４６３０は、上述したカバー部材Ａ６３０の備える構成に加え（又は代えて）、流下領域ＡＲ６５の前側面を構成する板状本体Ａ１４６３１と、その板状本体Ａ１４６３１に配設される導光板Ａ１４６３８と、その導光板Ａ１４６３８の端部側へ向けて光を照射するＬＥＤ等の発光手段Ａ１４６３９ａを備える基板Ａ１４６３９と、を備える。

【１２６１９】

板状本体Ａ１４６３１には、正面視における導光板Ａ１４６３８の外形形状（本実施形態では矩形状）で前面側から凹設される配設凹部Ａ１４６３１ｄが形成される。その配設凹部Ａ１４６３１ｄに導光板Ａ１４６３８が前方側から収容され、その前面側に「ＢＯＮＵＳ」との意匠が半透明で形成されたシールが貼り付けられることで、導光板Ａ１４６３８が板状本体Ａ１４６３１に保持される。

【１２６２０】

なお、導光板Ａ１４６３８の保持態様はこれに限られるにものではなく、例えば、導光板Ａ１４６３８の隅部にネジの挿通孔が形成されておりその挿通孔に挿通されるネジにより板状本体Ａ１４６３１に締結固定されるように構成しても良いし、導光板Ａ１４６３８を保持する爪部が板状本体Ａ１４６３１に形成され爪部の弾性力で導光板Ａ１４６３８を爪部と板状本体Ａ１４６３１との間に挟持するようにしても良いし、導光板Ａ１４６３８を支持するレールが板状本体Ａ１４６３１に配設され、そのレールに沿って導光板Ａ１４６３８を差し込むことで導光板Ａ１４６３８が板状本体Ａ１４６３１に保持されるように構成しても良い。

【１２６２１】

板状本体Ａ１４６３１には、導光板Ａ１４６３８の上方側における隙間部分に基板Ａ１４６３９が収容および固定され、発光手段Ａ１４６３９ａからの光が導光板Ａ１４６３８の端部に照射される位置に位置決めされる。

【１２６２２】

基板Ａ１４６３９は、前端部がカバー部材Ａ１４６３０の前端部と一致する前後位置で配設され、第３発光部Ａ６６４の光を遮蔽しない位置に配設される（図７２９参照）。これにより、基板Ａ１４６３９を配設した場合であっても、上述したような第３発光部Ａ６６４の光により視認される視認態様が、基板Ａ１４６３９によって阻害されることは防止される。

【１２６２３】

基板Ａ１４６３９は、流下領域ＡＲ６５から離間した位置において、左右方向に延びており、下面側（導光板Ａ１４６３８に対向する側）において複数の発光手段Ａ１４６３９ａが左右方向に間隔を空けて並べて配置される。即ち、複数の発光手段Ａ１４６３９ａからの光は、それぞれ、基板Ａ１４６３９の異なる左右位置から下向きで導光板Ａ１４６３８の端部に照射される。

【１２６２４】

基板Ａ１４６３９は、流下領域ＡＲ６５の近傍ではなく、流下領域ＡＲ６５から離間した位置に配設される。これにより、遊技者が正面視で視認する場合ばかりでなく矢印ＡＥＤ６５の方向視で視認する場合であっても、基板Ａ１４６３９が遊技者の視界に入ることを避けることができ、基板Ａ１４６３９により流下領域ＡＲ６５への視界が遮られることを避けることができる。

【１２６２５】

遊技者が注目する領域を有する導光板Ａ１４６３８には、発光手段Ａ１４６３９ａからの光が到達した場合に前方側へ向けて拡散させる切欠き（溝部）が複数箇所において形成されており、発光手段Ａ１４６３９ａから光が照射される場合に、導光板Ａ１４６３８の前面側には特定の形状が光により描かれているように視認される。

【１２６２６】

各切欠き（溝部）は、光により描かれる上述の特定の形状に対応して、導光板Ａ１４６３８の少なくとも一部（あるいは全域）に形成されているところ、各切欠き（溝部）では、左右位置が対応（合致）した発光手段Ａ１４６３９ａからの光が到達する。即ち、発光させる発光手段Ａ１４６３９ａを異ならせると、導光板Ａ１４６３８において描かれる形状を異ならせることができる。端的に言えば、複数の発光手段Ａ１４６３９ａの一部のＬＥＤを発光させることで、上述の特定の形状の一部を光らせることが可能となる。

【１２６２７】

本実施形態では、発光手段Ａ１４６３９ａの内、左側に配置される複数の左側発光部Ａ１４６３９ｂからの光が照射された場合、「ＢＯＮＵＳ」との意匠の一部（「Ｎ」の内の左端の「Ｉ」を抜いて「Ｖ」と視認可能な部分）に合う形状が上述の特定の形状の一部として光により描かれる。

【１２６２８】

一方、発光手段Ａ１４６３９ａの内、右側に配置される複数の右側発光部Ａ１４６３９ｃからの光が照射された場合、正面視で開閉板Ａ６５１と重なる範囲（突出部Ａ６５１ａよりも右側において右上傾斜する直線形状に沿う範囲）が上述の特定の形状の一部として光により描かれる。

【１２６２９】

これにより、左側発光部Ａ１４６３９ｂ及び右側発光部Ａ１４６３９ｃの両方が発光される場合には、「ＢＯＮＵＳ」との意匠の一部（「Ｖ」と視認可能な部分）と開閉板Ａ６５１と重なる範囲の両方が光により描かれる態様で視認される。

【１２６３０】

また、左側発光部Ａ１４６３９ｂが発光され右側発光部Ａ１４６３９ｃは消灯される場合には、「ＢＯＮＵＳ」との意匠の一部（「Ｖ」と視認可能な部分）のみが光により描かれる態様で視認され、開閉板Ａ６５１と重なる範囲においては上述の特定の形状に対応する光は視認されない。

【１２６３１】

この場合、開閉板Ａ６５１の張出状態（閉鎖状態）において開閉板Ａ６５１の上面を流

下（転動）する遊技球ＡＢＬ１と正面視で重なる範囲において上述の特定の形状が光により描かれる態様で視認される。

【１２６３２】

そのため、開閉板Ａ６５１を張出状態（閉鎖状態）とした場合において左側発光部Ａ１４６３９ｂを発光させると、導光板Ａ１４６３８に光により描かれる態様で視認される上述の特定の形状により、その光と重なる位置を流下する遊技球ＡＢＬ１の視認性を低下させることができ、開閉板Ａ６５１の上面を流下（転動）する遊技球の流下に注目させることを避けることができる。

【１２６３３】

また、右側発光部Ａ１４６３９ｃが発光され左側発光部Ａ１４６３９ｂは消灯される場合には、開閉板Ａ６５１と重なる範囲のみが光により描かれる態様で視認され、「ＢＯＮＵＳ」との意匠の一部においては上述の特定の形状に対応する光は視認されない。

【１２６３４】

この場合、開閉板Ａ６５１の張出状態（閉鎖状態）において開閉板Ａ６５１の上面側または下面側を流下（転動）する遊技球ＡＢＬ１と正面視で重なる範囲においては、上述の特定の形状の光は視認されず、遊技球ＡＢＬ１の進入が防止される位置としての正面視で開閉板Ａ６５１と重なる範囲において上述の特定の形状が光により描かれる態様で視認される。

【１２６３５】

そのため、開閉板Ａ６５１を張出状態（閉鎖状態）とした場合において右側発光部Ａ１４６３９ｃを発光させると、導光板Ａ１４６３８に光により描かれる態様で視認される上述の特定の形状は、流下する遊技球ＡＢＬ１と重なるものではないため、遊技球ＡＢＬ１の視認性を直接的に低下させるようには作用しない。加えて、上述の特定の形状は、遊技球が流下する状況において遊技球に隠される位置関係にあるものでもないので、遊技球が流下する状況においても上述の特定の形状の視認性が低下する事態を避けることができ、上述の特定の形状における視認態様の変化を遊技者が見逃す事態を避けることができる。

【１２６３６】

一方で、開閉板Ａ６５１と重なる範囲（開閉板Ａ６５１の形状に合う範囲）が光により明るくされることで、流下する遊技球ＡＢＬ１が位置する開閉板Ａ６５１の上面側または下面側の範囲が相対的に暗く視認されるため、遊技球ＡＢＬ１の視認性が間接的に低下され得る。

【１２６３７】

更に、右側発光部Ａ１４６３９ｃが発光される場合には、上述の特定の形状が光により描かれる位置が開閉板Ａ６５１の先端側に近接する範囲であることから、開閉板Ａ６５１に対する注目力を向上させることができる。

【１２６３８】

換言すれば、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされることに対応して右側発光部Ａ１４６３９ｃが発光されるように制御される場合、右側発光部Ａ１４６３９ｃの光により導光板Ａ１４６３８で視認される上述の特定の形状の光の有無を視認すれば開閉板Ａ６５１の状態の変化を把握できるため、開閉板Ａ６５１自体を直接視認しなければならない場合に比較して、開閉板Ａ６５１の状態の把握（張出状態の位置にあるか退避状態の位置にあるかの把握）を容易とすることができる。

【１２６３９】

ここで、導光板Ａ１４６３８の各切欠き（溝部）を介して拡散される光は主に正面側に進行するように設計されており、開閉板Ａ６５１を直接照らすようには設計されていないが、遊技者目線（例えば、正面視）では、導光板Ａ１４６３８が開閉板Ａ６５１の前端部の手前側において重なって視認されることから、右側発光部Ａ１４６３９ｃの光により導光板Ａ１４６３８を介して視認される上述の特定の形状により、あたかも開閉板Ａ６５１の前端部が発光しているかのように視認させることができる。

【１２６４０】

これにより、開閉板Ａ６５１にＬＥＤを積むことなく、開閉板Ａ６５１が発光しているかのように視認させることができるため、開閉板Ａ６５１の開閉を演出として利用することができ、開閉板Ａ６５１による演出効果を向上させることができる。なお、開閉板Ａ６５１にＬＥＤを配設するように構成しても良い。この場合、開閉板Ａ６５１の重量は増すため、動作速度を維持するためには駆動ソレノイドＡ６５２を改めて選定する必要が生じるかもしれないが、発光演出の演出効果の向上を図ることができる可能性がある。

【１２６４１】

導光板Ａ１４６３８は、カバー部材Ａ１４６３０の前方側に配設されており、流下領域ＡＲ６５側には露出していないため、導光板Ａ１４６３８に遊技球ＡＢＬ１が衝突することは防止される。これにより、導光板Ａ１４６３８が遊技球ＡＢＬ１の衝突により破損することを防止することができる。更に、遊技球ＡＢＬ１の衝突により位置ずれ（振動）することを避けることができるため、複数態様で光を照射可能な手段である発光手段Ａ１４６３９ａと導光板Ａ１４６３８との位置関係がずれて光が導光板Ａ１４６３８の端部に良好に入射しないという事態の発生を避けられる。

【１２６４２】

上述した説明では、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となることに対応して発光手段Ａ１４６３９ａが発光されることを想定している。また、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされると、発光手段Ａ１４６３９ａが消灯されることを想定しているが、必ずしもこれに限られるものではなく、種々の態様が例示される。

【１２６４３】

例えば、開閉板Ａ６５１に対する発光手段Ａ１４６３９ａの発光、消灯の制御は逆でも良い。即ち、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされた場合に発光手段Ａ１４６３９ａを消灯し、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）された場合に発光手段Ａ１４６３９ａを発光させるように制御しても良い。また、視認態様の変化を認識させることができれば良いため、発光と消灯というオン、オフに係る制御に寄らず、例えば、強度の変化や、色の変化が、開閉板Ａ６５１の状態の変化に対応して生じるように構成しても良い。

【１２６４４】

遊技者が把握可能な程度に対応づけられていれば、開閉板Ａ６５１を直接視認せずとも、発光手段Ａ１４６３９ａの光による視認態様を視認することにより開閉板Ａ６５１の状態を遊技者が把握することが可能である。

【１２６４５】

この場合、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされ、遊技球が特定入賞口Ｈ６５ａに流入可能な場合に流下領域ＡＲ６５の前方側を明るく視認させることができるので、遊技者が利益（例えば、賞球）を得やすい場合において流下領域ＡＲ６５が明るく視認されることとなる。これにより、遊技者は、利益を得やすい状態か、否かを、流下領域ＡＲ６５の視認態様（例えば、明るさ）の違いにより把握し易くなる。

【１２６４６】

また、開閉板Ａ６５１の状態変化と一対一で対応する場合ばかりではなく、開閉板Ａ６５１の状態が変化しても発光手段Ａ１４６３９ａの発光（又は消灯）が継続されるように構成しても良い。

【１２６４７】

例えば、短時間開放を連続で行うような開放態様（例えば、第１の小当たり作動パターン（図７０５参照））においては、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）または退避状態（開放状態）で維持される期間が極端に短いため、発光と消灯とを対応して切り替える場合、チカチカと明滅する印象を遊技者に持たせ、故障を心配させる可能性があることから、開閉板Ａ６５１における切替動作が継続される間（第１の小当たり作動パターンの終了まで）発光手段Ａ１４６３９ａの発光（又は消灯）が継続されるように構成することで、開閉板Ａ６５１が動作中か、動作が終了したかの判断を容易にさせることができる。

【１２６４８】

また、例えば、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）から張出状態（閉鎖状態）に変

化されるよりも前において発光手段Ａ１４６３９ａの発光を開始させても良い。この場合において、発光手段Ａ１４６３９ａの光の視認される態様（例えば、強度、照度、輝度、光の色、それらの組合せ）を、開閉板Ａ６５１の動作前と、開閉板Ａ６５１の動作後とで異なるように制御しても良い。

【１２６４９】

例えば、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）にある場合において発光手段Ａ１４６３９ａから光が照射されることで導光板Ａ１４６３８が面で発光されるため、後方を流下する遊技球ＡＢＬ１の視認性が低下する可能性があるが、この場合の光の強度を弱くすることで視認性の低下の程度を抑えることができると共に、遊技者は、導光板Ａ１４６３８が面で発光していることを視認することで、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）に切り替えられるタイミングが近いことを把握することが可能となる。

【１２６５０】

この場合において、例えば、入賞検出センサＡＳＣ６５において特定の個数（例えば、ラウンド遊技Ｒにおける規定個数（１０個）未満の特定の個数（例えば、８個））の入球が検出された場合に導光板Ａ１４６３８が面で発光するように制御すれば、遊技者は、そのラウンド遊技Ｒにおいて入球可能な数が残りわずかであることを把握できるので、球の発射操作を一時的に止めたり、球の発射間隔を延ばしたりという遊技をタイミング良く行い易くなる。

【１２６５１】

開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）に切り替えられた後（動作後）において発光手段Ａ１４６３９ａからの光の強度を強くすることで、開閉板Ａ６５１の状態が変化したことを把握させ易くすることができると共に、導光板Ａ１４６３８を介する光に注目させることで、その後方側に位置し、インターバル期間に開閉板Ａ６５１の上面を転動して特定入賞口Ｈ６５ａから逸れやすい（アウト球となり易い）遊技球に対する注目力を下げることができる。

【１２６５２】

なお、上述の説明では、発光手段Ａ１４６３９ａの内、特定の形状として、左側発光部Ａ１４６３９ｂの光により視認される形状と、右側発光部Ａ１４６３９ｃの光により視認される形状とが、それぞれ一態様ずつであるとして説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、複数の右側発光部Ａ１４６３９ｃの全てが発光される場合に上述した態様（特定の線に沿った形状）が視認される一方で、複数の右側発光部Ａ１４６３９ｃの内、一つとばしでＬＥＤが発光され、その発光されるＬＥＤの間のＬＥＤは消灯される場合には線が途切れてドット状に視認されるように構成することが可能である。

【１２６５３】

なお、このように光が到達し得る位置の形状を共通とする場合に限らず（即ち、直線形状の全てが光れば直線形状の光として視認され、直線形状の一部が途切れればドット状で視認される場合に限らず）、右側発光部Ａ１４６３９ｃを構成するＬＥＤにおいて、開閉板Ａ６５１の前方位置において拡散されるものと、開閉板Ａ６５１の前方位置とは異なる位置（例えば、開閉板Ａ６５１の前方位置よりも上側の位置）において拡散されるものとが含まれるように構成しても良い。

【１２６５４】

この場合、開閉板Ａ６５１の動作に対応させてＬＥＤを発光消灯で切り替える態様ではなく、開閉板Ａ６５１の動作に対応させて発光させるＬＥＤを切り替えることによっても導光板Ａ１４６３８における光の視認態様を変化させることができ、開閉板Ａ６５１の動作が実行されたことの把握を遊技者に容易にさせることができると共に、光による演出を間欠的にではなく、連続的に生じさせることができることにより演出効果の向上を図ることができる。

【１２６５５】

また、例えば、複数の左側発光部Ａ１４６３９ｂの全てのＬＥＤが発光されることで「ＢＯＮＵＳ」の意匠の一部（「Ｖ」）の形状に沿って光が視認される一方で、複数の左側

発光部Ａ１４６３９ｂの内、一部のＬＥＤを発光させないようにすることで、意匠として視認される枠（「Ｖ」のデザイン）の全てが明るくされず、一部しか明るくされない態様を構成することができる。

【１２６５６】

これにより、遊技者にとって有利であることを報知する場合には、左側発光部Ａ１４６３９ｂの全てのＬＥＤを発光させて「Ｖ」全体を明るくさせて遊技者の興趣の向上を図る一方で、遊技者にとって不利であることを報知する場合において、左側発光部Ａ１４６３９ｂの一部のＬＥＤを時間差で発光させることで「Ｖ」の一部から徐々に光が拡大する（例えば、上端から下側へ向けて順番に明るくなる）が「Ｖ」の下端までは明るくならない（「Ｖ」が完全には明るくならない）態様を視認させるように構成することで、不利であることを遊技者に把握させることができる。

【１２６５７】

この場合、同じように不利であることを報知する場合において「Ｖ」が全く明るくされないという状況に比較して、「Ｖ」が明るくなるかもしれないと遊技者に期待させる時間を作ることができ、遊技者の興趣を一時的にでも向上させることができる。

【１２６５８】

また、導光板Ａ１４６３８において視認される態様は、発光手段Ａ１４６３９ａの光のみによるものである必要はなく種々の対応が例示される。例えば、図７２９に図示されるように、第３発光部Ａ６６４の光が正面視で導光板Ａ１４６３８と重なる範囲を通過するところ、発光手段Ａ１４６３９ａを発光させる際に、第３発光部Ａ６６４を発光させる場合と、第３発光部Ａ６６４を発光させない場合とで、導光板Ａ１４６３８の視認態様（例えば、「ＢＯＮＵＳ」の意匠の「Ｎ」の内の「Ｖ」と視認される箇所の視認態様）を異ならせることができる。

【１２６５９】

即ち、例えば、第３発光部Ａ６６４が発光される場合には、第３発光部Ａ６６４の光が導光板Ａ１４６３８の後面を淡く面発光させることで、第３発光部Ａ６６４の光の色が背景色として視認される。背景色が無色（又は固定の色合い）である場合に比較して、光の色の関係を工夫する（例えば、互いに補色となるように構成する）ことで、第３発光部Ａ６６４の光と発光手段Ａ１４６３９ａの光とのコントラストを調整することができ、導光板Ａ１４６３８の意匠を効果的に注目させることができる。

【１２６６０】

また、コントラストの強い色の関係となる場合と、コントラストの弱い色の関係となる場合とを切り替え可能とすれば、導光板Ａ１４６３８の意匠と背景色との区別をし難い場合を構成することもできるため、導光板Ａ１４６３８の意匠に注目させる場合と、注目させ難い場合とを切り替えることができる。

【１２６６１】

次いで、図７３１及び図７３２を参照し、第１３９実施形態における第２球流下構造体Ａ１５６００について説明する。上記第１３３実施形態では、受光素子Ａ６３８ｂへの光の受光態様に基づいて、表示装置Ａ６３８により７セグランプによる表示を視認させる制御を行う場合、即ち、受光素子Ａ６３８ｂへの受光に基づいて表示態様が制御される場合を説明したが、第１３９実施形態では、表示装置Ａ１５６９０により、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光を導光させて遊技者に直接視認させる。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１２６６２】

図７３１（ａ）は、第１３９実施形態における表示装置Ａ１５６９０の正面図であり、図７３１（ｂ）は、図７３１（ａ）の矢印Ｂ５０ｂ方向視における表示装置Ａ１５６９０の側面図である。なお、図７３１（ｂ）では、表示装置Ａ１５６９０が嵌合される貫通孔が形成された板状本体Ａ６３１を有するカバー部材Ａ１５６３０の配置が想像線で図示される。また、図７３１（ｂ）では、開閉板Ａ６５１の退避状態における中心軸ＡＬＣＣの光の進行経路と、開閉板Ａ６５１の張出状態における光ＡＬＣ２の進行経路とが、模式的

に図示されている。図示される中心軸ＡＬＣＣの光と、光ＡＬＣ２とは、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４に同時に入射されるものではないが、理解を容易とするために同図内に図示される。

【１２６６３】

表示装置Ａ１５６９０は、上述した表示装置Ａ６３８と同様の位置に表示面が配置されるように板状本体Ａ６３１に配設されるものであって、複数の開口部を有する箱形状の筐体部Ａ１５６９１と、その筐体部Ａ１５６９１の正面側の開口部Ａ１５６９１ａを閉塞するように配設される透明板Ａ１５６９２と、筐体部Ａ１５６９１の右側面に形成される複数の開口部の内、前方側の開口部Ａ１５６９１ｂに対応する前後位置で配設される前側導光板Ａ１５６９３と、筐体部Ａ１５６９１の右側面に形成される複数の開口部の内、後方側の開口部Ａ１５６９１ｃに対応する前後位置で配設される後側導光板Ａ１５６９４と、を備える。

【１２６６４】

前側導光板Ａ１５６９３及び後側導光板Ａ１５６９４は、端部から入射された光の進行方向を正面側に切り替える（屈折させる）切り欠き部がレーザー加工によって刻まれており、その形状が異なるように構成されることで、導光された場合の見た目が異なる導光板として構成される。即ち、筐体部Ａ１５６９１の内部には、複数の導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４が層状に配設される。

【１２６６５】

カバー部材Ａ１５６３０は、上述したカバー部材Ａ６３０と同様に、板状本体Ａ６３１に第１電飾基板Ａ６６０が配設されており、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光が入射され導光される導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４が切り替えられることで、透明板Ａ１５６９２を通して視認される見た目（光の形状）が変化される。

【１２６６６】

発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が前側導光板Ａ１５６９３に導光されるか、後側導光板Ａ１５６９４に導光されるかは、開閉板Ａ６５１の変位に基づいて切り替えが行われる。即ち、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となる場合に前側導光板Ａ１５６９３に導光可能とされ、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）となる場合に後側導光板Ａ１５６９４に導光可能とされる。

【１２６６７】

開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）の場合は、第３発光部Ａ６６４からの光は、ＬＥＤから発せられる光の中心軸ＡＬＣＣ（最も明るい部分）が第１電飾基板Ａ６６０の前面と平行に延びるところ、その中心軸ＡＬＣＣの光は、開口部Ａ１５６９１ｃの上下長さの全体に光を均一に行き渡らせるように拡散させる形状（例えば、レンズ形状に例示される曲面形状）で形成される光透過部（不図示）で屈折され、開口部Ａ１５６９１ｃに到達する。

【１２６６８】

開口部Ａ１５６９１ｃと対向する位置に上下に延びる樹脂部材Ａ１５６９８ａ，Ａ１５６９８ｂが複数連続して配設される。樹脂部材Ａ１５６９８ａ，Ａ１５６９８ｂのうち、第３発光部Ａ６６４に近い側の第１樹脂部材Ａ１５６９８ａの左右側の形状は、光が到達する位置に対応して、光の傾きを左右方向へ延びる平行光に切り替える形状でカットされる。そのため、第１樹脂部材Ａ１５６９８ａを通過した第３発光部Ａ６６４の光は平行光の態様で左右方向（左方向）に進行される。

【１２６６９】

なお、第１樹脂部材Ａ１５６９８ａの左右側の形状は、上述した態様に限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、左右方向の光のみを透過させ、その他の方向の光を遮断する偏向フィルムとしての作用を生じる加工がされてもいい。この場合も、通過した光の方向を左右方向に限定することができる。

【１２６７０】

樹脂部材Ａ１５６９８ａ，Ａ１５６９８ｂのうち、第３発光部Ａ６６４から遠い側の第

２樹脂部材Ａ１５６９８ｂの、第１樹脂部材Ａ１５６９８ａ側の形状は光が進行する直線と直交する平面形状とされ、その反対側の形状は、シリンドリカルレンズが上下に並んだ形状とされる。これにより、第２樹脂部材Ａ１５６９８ｂに入射した平行光としての第３発光部Ａ６６４の光はシリンドリカルレンズにより散乱され、開口部Ａ１５６９１ｃを通過する。第１樹脂部材Ａ１５６９８ａに均一に光が入射され、その光が第２樹脂部材Ａ１５６９８ｂにより散乱されることにより、後側導光板Ａ１５６９４の上下に渡って均一でムラのない態様で光を入射させることができる。

【１２６７１】

開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）の場合は、第３発光部Ａ６６４からの光ＡＬＣ２は、第１反射部Ａ６３１ｆ（図７１０参照）に反射されることになるが、本実施形態における第１反射部Ａ６３１ｆの形状は、開口部Ａ１５６９１ｂの上下長さの全体に光を行き渡らせるように拡散させる形状（例えば、レンズ形状に例示される曲面形状）とされる。即ち、第３発光部Ａ６６４からの光は、光ＡＬＣ２が第１反射部Ａ６３１ｆに反射され、その反射された光が開口部Ａ１５６９１ｂの上下長さに亘り到達する。

【１２６７２】

なお、開口部Ａ１５６９１ｂの前後位置は、第１反射部Ａ６３１ｆ（下方位置）に限らず、第２反射部Ａ６３１ｇ（上方位置）とも同じである。つまり、開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）において第２反射部Ａ６３１ｇを介した光が到達され得るとも考えられるが、第２反射部Ａ６３１ｇの形状は、レンズ形状とはされておらず、開口部Ａ１５６９１ｂ全域へ光を到達させるようにはされていない。

【１２６７３】

開口部Ａ１５６９１ｂと対向する位置においても、開口部Ａ１５６９１ｃと同様に、上述した第１樹脂部材Ａ１５６９８ａ及び第２樹脂部材Ａ１５６９８ｂが、開口部Ａ１５６９１ｃに関して上述した態様と同様の態様（順番）で並べられる。

【１２６７４】

これにより、この第１樹脂部材Ａ１５６９８ａに入射した光が、左右方向に進行する平行光とされた後、第２樹脂部材Ａ１５６９８ｂに形成されるシリンドリカルレンズにより散乱され、開口部Ａ１５６９１ｂを通過する。

【１２６７５】

即ち、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）か、張出状態（閉鎖状態）か、によって、開口部Ａ１５６９１ｃに光が到達するか、開口部Ａ１５６９１ｂに光が到達するかが、変わる。

【１２６７６】

各開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃには、入射面（エッジ）を対向配置させる位置関係で、対応する前側導光板Ａ１５６９３及び後側導光板Ａ１５６９４がそれぞれ配設される。

【１２６７７】

開口部Ａ１５６９１ｂ又は開口部Ａ１５６９１ｃを第３発光部Ａ６６４の光が通過した場合に、対応する前側導光板Ａ１５６９３又は後側導光板Ａ１５６９４に光が導光され、その光が導光された前側導光板Ａ１５６９３又は後側導光板Ａ１５６９４に施された加工態様に基づく形状（開閉板Ａ６５１の状態に対応させた形状）の光が、透明板Ａ１５６９２を通して視認可能とされる。

【１２６７８】

各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４に異なる加工（異なる形状の光が視認される加工）が施されていることから、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）か、張出状態（閉鎖状態）か、によって、透明板Ａ１５６９２を通して視認される形状が変化される。

【１２６７９】

本実施形態によれば、受光に基づく制御ではなく、受光される光の受光位置の違いによって視認態様が変わる。即ち、視認態様の変化に、受光素子Ａ６３８ｂは不要となるので、受光素子Ａ６３８ｂを構成するコストや、受光素子Ａ６３８ｂの受光態様に基づいて表

示を切り替える構成全体のコスト（装置設計、装置形成、制御設計等に要するコスト）を削減することができる。

【１２６８０】

発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が遊技球の流下領域ＡＲ６５に進入していることから、光が遊技球に遮られ得ることは、受光素子Ａ６３８ｂを利用する場合と変わらない。即ち、光の経路上に遊技球が進入し、光が反射され進行方向が変えられると、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４に光が入射されなくなり、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４で視認されていた光の形状が一時的に視認されなくなる。逆に言えば、遊技者は、透明板Ａ１５６９２を通して視認される各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４の視認態様が変わることから、遊技球の流下について把握することができる。

【１２６８１】

ここで、大当たり遊技におけるラウンド間インターバル期間として、ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１（２．０秒）と、ラウンド間第２インターバル期間（１．０秒）とが想定される場合について説明する。ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１であれば張出状態（閉鎖状態）の開閉板Ａ６５１上を右端から左端まで球が渡り切る事態が生じ得る一方で、ラウンド間第２インターバル期間の場合には球が開閉板Ａ６５１の左右中間位置に到達するや否や開放される事態が生じ得るのみであり、球が渡り切る事態は生じ得ないように構成されており、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が開閉板Ａ６５１の略中心位置に照射されていることから、インターバル期間において遊技球が光を遮蔽する事態が生じるのはラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１（２．０秒）の場合に限定され、ラウンド間第２インターバル期間（１．０秒）の場合には遊技球が光を遮蔽する事態が生じる前にインターバル期間が終了し、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされる。ラウンド間インターバル期間は固定とする必要はなく、例えば大当たり種別ごとに種々のパターンを設定できる。即ち、１ラウンド目と２ラウンド目との間はラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１とされ、２ラウンド目と３ラウンド目との間はラウンド間第２インターバル期間とされる場合もあり、その他のラウンド間も予め設定される場合において、統一の必要はない。

【１２６８２】

この場合において、有利な大当たり（例えば、時短有大当たり）ではラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１で構成し、不利な大当たり（例えば、時短無し大当たり）ではラウンド間第２インターバル期間で構成することで、球を「打ちっぱなし」で発射する場合に、開閉板Ａ６５１上を転動する球に第３発光部Ａ６６４の光が遮蔽されることに伴う各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４への入射態様の変化（開口部Ａ１５６９１ｂを第３発光部Ａ６６４の光が通過可能とされる場合において、前側導光板Ａ１５６９３への光の入射が球の遮蔽により瞬間的に途切れるようになること）から、その大当たりが有利な大当たりか、不利な大当たりかを、遊技者に把握させることができる。これにより、開閉板Ａ６５１の上面を転動して、開閉板Ａ６５１の左方へ通り過ぎ、アウト球になり易い球が発生したとしても、その残念感を緩和させることができる。

【１２６８３】

また、透明板Ａ１５６９２を通した視認態様が前側導光板Ａ１５６９３の形状Ａ１５６９３ａに基づく態様に切り替わってから、ラウンド間第２インターバル期間（１．０秒）よりも長いラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１（２．０秒）を経過しているのにも関わらず、透明板Ａ１５６９２を通して点滅態様で視認される場合に、遊技者は、大当たり遊技が既に終了していること、及び開閉板Ａ６５１へ向けた球の発射を継続していることに気づくことができる。透明板Ａ１５６９２を通して前側導光板Ａ１５６９３の形状Ａ１５６９３ａが点滅態様で視認される状況がエンディング時間ＥＤの開始後に生じた場合が想定され、このとき開閉板Ａ６５１に到達した遊技球は特定入賞口Ｈ６５ａには流入せず、開閉板Ａ６５１の左端を左方向に流下して、アウト口Ｈ７１から排出され得る。これにより、遊技者に対して球の発射操作を改める（大当たり遊技終了後の、適切な操作に変える）ように仕向けることができ、不要な球損の発生を防止することができる。

【１２６８４】
第３発光部Ａ６６４の光が開口部Ａ１５６９１ｃを通過可能とされる場合において、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされ、遊技球が流下領域ＡＲ６５を流下する場合、その流下する遊技球が第３発光部Ａ６６４の光を遮蔽し、後側導光板Ａ１５６９４への光の入射が瞬間的に途切れる。
【１２６８５】
開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされてから遊技球による光の遮蔽が発生するまでが短いほど、特定入賞口Ｈ６５ａへの遊技球の流入が早いタイミングで生じることとなり、遊技効率の面で遊技者にとって得がある。
【１２６８６】
ラウンド間第２インターバル期間（最大でも開閉板Ａ６５１の略中央位置までしか遊技球が到達しない期間）から開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされる直前において、開閉板Ａ６５１の上面に遊技球がある場合、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされるや否や、後側導光板Ａ１５６９４への光の入射が瞬間的に途切れることとなる（開閉板Ａ６５１の上面に遊技球がない場合には開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされてから遊技球が流下領域ＡＲ６５に到達するまで光の途切れが生じない）。このように開閉板Ａ６５１の開放直後に光の途切れが生じる場合が最速の入球タイミングであり、遊技者は、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされた直後に光の途切れが生じ、後側導光板Ａ１５６９４で視認される形状の光が点滅態様で視認された場合に、良好に入賞していることを把握することができる。
【１２６８７】
これにより、透明板Ａ１５６９２を通して視認される態様が、前側導光板Ａ１５６９３による態様と後側導光板Ａ１５６９４による態様とで切り替えられるタイミングにおける各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４の視認態様への注目力を向上させることができる。
【１２６８８】
なお、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされ、後側導光板Ａ１５６９４へ光が入射され、後側導光板Ａ１５６９４に施された加工に基づく形状Ａ１５６９４ａの光が視認され得る状態に切り替えられてから、その形状の光がいつまでたっても点滅態様で視認されない場合、開閉板Ａ６５１側へ球を案内できていない可能性がある。即ち、球の発射不良や、球の発射強度が不適切となっている（「右打ち」に必要な強度よりも弱い）等、何らかの不適切な状況が生じている可能性があるところ、後側導光板Ａ１５６９４に施された加工に基づく形状Ａ１５６９４ａの光がいつまでたっても点滅態様とならないことを視認させることで、何らかの適切でない状況が生じていることに遊技者が気づくように仕向けることができる。
【１２６８９】
そのため、大当たり遊技において、開閉板Ａ６５１や、開閉板Ａ６５１への球の経路（右打ち経路）に目を配らずとも、第３図柄表示装置Ｈ８１に注目する視界に表示装置Ａ１５６９０が収まるようにしておけば、球の発射不良や、球の発射強度が不適切となっている事態に気づくことができるので、第３図柄表示装置Ｈ８１で実行される演出を見逃すことなく、更に、ラウンド遊技において予定される賞球個数を取り逃すこともないようにすることができる。
【１２６９０】
各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４に対する光の入射態様が開閉板Ａ６５１の状態に対応することから、透明板Ａ１５６９２を通して視認される態様の把握により、開閉板Ａ６５１の動作態様について把握（予想）することが可能となる。本実施形態では、大当たり種別が大当たりＡの場合には、ラウンド遊技の進行中において後側導光板Ａ１５６９４に形成される形状の光が視認され続ける一方で、大当たりＢの場合には、ラウンド遊技の進行中における特定のタイミング（７球目の入賞時）において開閉板Ａ６５１が短時間閉鎖されるため、後側導光板Ａ１５６９４に形成される形状の光が視認され続ける間において瞬間的に前側導光板Ａ１５６９３に形成される形状の光が視認されるタイミングが生じ

るという違いにより、大当たり種別について判別することが可能である。このように、開閉板Ａ６５１が動作される大当たり遊技の大当たり種別（大当たりＡ，Ｂ）についても透明板Ａ１５６９２を通した視認態様により把握が可能となっており、遊技者の注目力の向上を図ることができる。

【１２６９１】

各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４に対する光の入射態様が開閉板Ａ６５１の状態に対応することから、透明板Ａ１５６９２を通して視認される態様の把握により、開閉板Ａ６５１の動作態様について把握することが可能となる。張出状態（閉鎖状態）へ向けた変位途中の開閉板Ａ６５１とカバー部材Ａ１５６３０の板状本体Ａ６３１との間に遊技球が挟まった状態（図７１７参照、カバー部材Ａ１５６３０はカバー部材Ａ６３０に対応）についても把握することが可能である。

【１２６９２】

変位途中の開閉板Ａ６５１とカバー部材Ａ１５６３０の板状本体Ａ６３１との間に遊技球が挟まった状態（図７１７参照）では、発光部Ａ６６１の前後位置よりも後方側に開閉板Ａ６５１が位置されるため、開閉板Ａ６５１が中心軸ＡＬＣＣと重なることはなく、中心軸ＡＬＣＣの光は表示装置Ａ１５６９０まで到達する。即ち、開閉板Ａ６５１を制御させる態様は、開閉板Ａ６５１を張出状態（閉鎖状態）へ動作させるタイミングになっていても、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４に対する光の入射態様は開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）に対応する態様から変化されない。

【１２６９３】

ここで、開閉板Ａ６５１とカバー部材Ａ１５６３０の板状本体Ａ６３１との間に遊技球が挟まる状況としては、ラウンド遊技終了時の開閉板Ａ６５１の閉鎖動作に伴う場合や、小当たり遊技で生じる短開放における開閉板Ａ６５１の閉鎖動作に伴う場合等、開閉板Ａ６５１の閉鎖動作に伴う場合が想定されるが、ラウンド遊技終了時の場合には、それが最終ラウンドでなければ、次回ラウンド遊技の開始によって開閉板Ａ６５１が開放動作されることで解消されるし、最終ラウンドであったり、小当たり遊技で生じる短開放であったりする場合（次回開放が予定されていない場合）においても、開閉板Ａ６５１の前端部の傾斜形状や突出部Ａ６５１ａの形状と板状本体Ａ６３１の形状との関係により解消され得るものであり、ことさらに警告等をして遊技者に知らせる必要があるものではない場合が多い。

【１２６９４】

一方で、開閉板Ａ６５１とカバー部材Ａ１５６３０の板状本体Ａ６３１との間に遊技球が挟まる状況としては、例えば、ラウンド遊技において規定個数（例えば、１０個）の球が特定入賞口Ｈ６５ａに入賞したことにより開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）へ向けて動作する場合に超過入球（１１個目以降の入球）の球が流入する場合に一時的に挟まり、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となるのが遅れる場合を想定することができる（所謂「オーバー入賞」）ため、これを知っている遊技者に対しては、開閉板Ａ６５１とカバー部材Ａ１５６３０の板状本体Ａ６３１との間に遊技球が挟まる状況の発生を知らせることにより、追加の利益（賞球の払い出し）を得られたことを把握させることができ、興趣の向上を図ることができる。

【１２６９５】

本実施形態では、開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃを第３発光部Ａ６６４の光が通過可能とされる場合において、開閉板Ａ６５１とカバー部材Ａ１５６３０の板状本体Ａ６３１との間に遊技球が挟まる状況が生じた場合に、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４に対する光の入射態様は開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）に対応する態様から変化されないことから、実際にはラウンド間インターバル期間に移行されているにも関わらず、後側導光板Ａ１５６９４に施された加工に基づく形状Ａ１５６９４ａの光が視認される状況が継続される。ラウンド間インターバル期間において球の挟みが解消され（球が下方へ抜けて）、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となった場合であっても、ラウンド間インターバル期間が延長されるわけではないので、球を挟んで途中位置で停止してい

た期間の分、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）で維持される期間が短くされる（ラウンド間インターバル期間未満とされる）。

【１２６９６】

これにより、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされる期間を短くすることができ、前側導光板Ａ１５６９３に施された加工に基づく形状Ａ１５６９３ａの光が視認される期間が短縮されることで、前側導光板Ａ１５６９３に施された加工に基づく形状Ａ１５６９３ａの光を目立たせず、後側導光板Ａ１５６９４に施された加工に基づく形状Ａ１５６９４ａの光の印象を強め、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）であることを印象付けることができる。

【１２６９７】

また、ラウンド間インターバル期間において球の挟みが解消されなかった場合には、遊技球が挟まる状況が生じたラウンド間インターバルと、その直前のラウンド遊技中と、当該ラウンド間インターバルの直後のラウンド遊技中において各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４に対する光の入射態様は開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）に対応する態様で維持される。この場合、透明板Ａ１５６９２を通した視認態様がラウンド間インターバルにおいて変化されないことで、実際は複数のラウンド遊技が実行されているにも関わらず、一つのラウンド遊技として継続されているかのように遊技者に錯覚させることができる。

【１２６９８】

これにより、遊技者に対して、一つのラウンド遊技が長く継続され、その分、賞球個数も多くなることが見込める遊技機であると思わせることができることから、興趣の向上を図ることができるし、オーバー入賞の発生が見込めることから、実際にも賞球個数が多くなるという状況を生じさせることができる。このように、開閉板Ａ６５１が動作される場合における球かみの発生についても透明板Ａ１５６９２を通した視認態様により把握が可能となっており、遊技者の注目力の向上を図ることができる。

【１２６９９】

視認される光の視認される明るさが、前側導光板Ａ１５６９３又は後側導光板Ａ１５６９４に対応して変化される場合、どの導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４が光っているのかを遊技者に把握させ易くなる。本実施形態では、前側導光板Ａ１５６９３に導光される光は、中心軸ＡＬＣＣから少し離れた光ＡＬＣ２であり、開口部Ａ１５６９１ｂを通過する一方で、後側導光板Ａ１５６９４に導光される光は、ＬＥＤから発せられる光の中心軸ＡＬＣＣ（最も明るい部分）部分に対応しており、開口部Ａ１５６９１ｃを通過する。このように、導光される導光板ごとに、到達する光の明るさが異なる。

【１２７００】

これにより、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光の明るさ（照射態様）は一定で維持されたままでも、前側導光板Ａ１５６９３で視認される光の明るさと、後側導光板Ａ１５６９４で視認される光の明るさとを、異ならせることができる。これにより、遊技者は、透明板Ａ１５６９２を通して視認される光の明るさの違いを把握することで、光が入射され光っているのが前側導光板Ａ１５６９３なのか、後側導光板Ａ１５６９４なのかを把握することができるようになり、そこから開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）なのか、退避状態（開放状態）なのかを容易に把握することができるため、透明板Ａ１５６９２を通して視認される光の形状の内容まで視認しないと開閉板Ａ６５１の状態を把握できない場合に比較して、遊技ストレスを低減することができる。特に、前側導光板Ａ１５６９３で視認される光は暗めに、後側導光板Ａ１５６９４で視認される光は明るく視認されることから、遠近と明暗とのバランスをよくすることができ、光を視認した遊技者の眼精疲労を低減することができる。

【１２７０１】

また、透明板Ａ１５６９２を通して視認される前側導光板Ａ１５６９３及び後側導光板Ａ１５６９４の前後関係は、開閉板Ａ６５１の前後関係と対応しているため、透明板Ａ１５６９２を通した視認態様から、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）として前方側に

位置するのか（前側導光板Ａ１５６９３の形状Ａ１５６９３ａの光が視認される）、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）として後方側に位置するのか（後側導光板Ａ１５６９４の形状Ａ１５６９４ａの光が視認される）を把握しやすい。

【１２７０２】

前側導光板Ａ１５６９３に光が導光されているのか、後側導光板Ａ１５６９４に光が導光されているのかは、正面視では距離感が定まらず判別し難いが、視線を少し斜めにすれば、前後の奥行きを把握することができ、形状Ａ１５６９３ａ，Ａ１５６９４ａに関わらず、光が視認される前後方向の位置から、いずれの導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４に導光されているのかを把握することができる。

【１２７０３】

視認される光の視認される色が、層に対応して変化される場合、どの層が光っているのかを遊技者に把握させ易くなる。本実施形態では、前側導光板Ａ１５６９３に導光される光は開口部Ａ１５６９１ｂを通過し、後側導光板Ａ１５６９４に導光される光は開口部Ａ１５６９１ｃを通過するというように、導光される導光板ごとに異なる開口部を光が通過する態様となっている。

【１２７０４】

各開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃを色付きのフィルムで覆うことで、導光される光の色を第３発光部Ａ６６４の光の色から変化させることができる。本実施形態では、開口部Ａ１５６９１ｂは青色のフィルムで覆われ、開口部Ａ１５６９１ｃは黄色のフィルムで覆われる。

【１２７０５】

これにより、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光の色は一定（例えば、白色光）で維持させたままでも、前側導光板Ａ１５６９３で視認される光の色（本実施形態では青色）と、後側導光板Ａ１５６９４で視認される光の色（本実施形態では黄色）とを、異ならせることができる。

【１２７０６】

なお、視認される光の色を変化させるフィルムは、１色に限定されるものではなく、複数色のフィルムの組合せでも良い。また、電圧付加によってフィルムが動作され、透過させる光の色を変更可能に構成するようにしても良い。また、視認される光の色の変化は、フィルムに限定されるものではない。例えば、発光色自体を変えても良い。

【１２７０７】

即ち、導光される光の色は、上述のフィルムを取り払って、第３発光部Ａ６６４の光の色が切り替えられる制御によって変わる構成としても良いし、上述のフィルムを採用して、フィルムの通過により光の色が変わる構成としてもいい。

【１２７０８】

表示装置Ａ１５６９０は、開口部Ａ１５６９１ｂを開閉する態様で、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光が開口部Ａ１５６９１ｂを通過する場合と、光が開口部Ａ１５６９１ｂを通過しないように遮蔽する場合と、を切り替える動作が可能とされる前側切替部材Ａ１５６９５を備える。

【１２７０９】

表示装置Ａ１５６９０は、開口部Ａ１５６９１ｃを開閉する態様で、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光が開口部Ａ１５６９１ｃを通過する場合と、光が開口部Ａ１５６９１ｃを通過しないように遮蔽する場合と、を切り替える動作が可能とされる後側切替部材Ａ１５６９６を備える。

【１２７１０】

表示装置Ａ１５６９０は、前側切替部材Ａ１５６９５を前後にスライド移動させる態様で切り替え動作させる前側駆動モーター（不図示）と、後側切替部材Ａ１５６９６を前後にスライド移動させる態様で切り替え動作させる後側駆動モーター（不図示）と、を備えており、電圧の付加のかけ方によって、前側切替部材Ａ１５６９５及び後側切替部材Ａ１５６９６を独立動作させることができる。

【１２７１１】
表示装置Ａ１５６９０は、各切替部材Ａ１５６９５，Ａ１５６９６の動作を案内する案内部Ａ１５６９７（レール状部）を備える。各切替部材Ａ１５６９５，Ａ１５６９６は、各開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃから退避した位置では案内部Ａ１５６９７から外れており、各開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃが形成される筐体部Ａ１５６９１の壁面から若干離れており、姿勢も不定となっている。
【１２７１２】
一方、各切替部材Ａ１５６９５，Ａ１５６９６は、各開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃを閉鎖するように各開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃに接近する方向で動作されると、案内部Ａ１５６９７に案内されるようになっており、この案内される状態においては各開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃが形成される筐体部Ａ１５６９１の壁面と対向配置される各切替部材Ａ１５６９５，Ａ１５６９６の側面（左側面）とが面当接されることで、筐体部Ａ１５６９１の壁面に沿う態様で姿勢が安定される。
【１２７１３】
これにより、各切替部材Ａ１５６９５，Ａ１５６９６が光を遮る態様で動作された場合に、各開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃと各切替部材Ａ１５６９５，Ａ１５６９６との間に隙間が発生することを案内部Ａ１５６９７により避けることができ、確実な遮光を図ることができる。
【１２７１４】
各開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃと各切替部材Ａ１５６９５，Ａ１５６９６との間に隙間が発生しておらず、遮光されると、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光は各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４に導光されることはなく、透明板Ａ１５６９２を通して各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４を介した光が視認されることが防止される。
【１２７１５】
これにより、本実施形態では、透明板Ａ１５６９２を通して発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が視認され得る状態と、透明板Ａ１５６９２を通して発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が視認され得ない状態とが、切り替え可能に構成されており、光の視認の可否による報知を行うことが可能となっている。
【１２７１６】
例えば、通常状態では各切替部材Ａ１５６９５，Ａ１５６９６により各開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃを閉塞し、遮光することで（前後閉鎖制御）、透明板Ａ１５６９２を通して光が視認されないように構成する一方で、大当たり遊技状態では各切替部材Ａ１５６９５，Ａ１５６９６を各開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃから退避させて、光の通過を許容することにより（前後開放制御）、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の発光は継続したままで、通常状態と、大当たり遊技状態との、透明板Ａ１５６９２を通した視認態様（特に、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が視認されるか否か）を異ならせることができる。これにより、表示装置Ａ１５６９０に対する注目力を更に向上させることができる。
【１２７１７】
本実施形態では、各切替部材Ａ１５６９５，Ａ１５６９６を制御する態様として、通常状態において、開口部Ａ１５６９１ｂは前側切替部材Ａ１５６９５を退避させて光の通過を許容する一方で、開口部Ａ１５６９１ｃは後側切替部材Ａ１５６９６により閉塞されることで遮光される状態とする、基本切替制御が採用されている。
【１２７１８】
この基本切替制御の場合、通常状態において、開閉板Ａ６５１の張出状態（閉鎖状態）に対応する態様で、透明板Ａ１５６９２を通して形状Ａ１５６９３ａを描く態様で発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が視認されるため、大当たり遊技が開始される前から遊技者の注目力を集めることができるとともに、大当たり遊技が開始された場合において透明板Ａ１５６９２の視認態様が変化されていることに遊技者が気づかずに過ごすとい

う事態を避けやすい。
【１２７１９】
更に、大当たり遊技の開始後において透明板Ａ１５６９２の視認態様が変化した場合に、透明板Ａ１５６９２の視認態様の変化が意味する内容（開閉板Ａ６５１の状態を示していること）を遊技者が容易に把握することができ、透明板Ａ１５６９２に対する注目力をさらに向上させることができる。
【１２７２０】
また、この場合において、小当たり遊技は通常状態の一態様であることから、第１の小当たり作動パターン（図７０５参照）のように、開閉板Ａ６５１の開放状態が極めて短時間で終了され、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされてから発射操作を行ったとしても入賞が期待できない場合にまで、開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）に対応する態様で、透明板Ａ１５６９２を通して形状Ａ１５６９４ａを描く態様で発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が視認されることを避けることができる。
【１２７２１】
即ち、小当たり遊技において開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされたとしても、開口部Ａ１５６９１ｃは後側切替部材Ａ１５６９６により閉塞されることで遮光されているため、後側導光板Ａ１５６９４には光が入射されず、透明板Ａ１５６９２を通して視認される態様は、前側導光板Ａ１５６９３に施された加工に基づく形状Ａ１５６９３ａの光に限定される。詳述すれば、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）である場合には前側導光板Ａ１５６９３に施された加工に基づく形状Ａ１５６９３ａの光が視認され、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）である場合には後側導光板Ａ１５６９４に施された加工に基づく形状Ａ１５６９４ａの光が視認されないことから、第１の小当たり作動パターンのように短い間隔で開閉動作がされることに対応して、前側導光板Ａ１５６９３に施された加工に基づく形状Ａ１５６９３ａの光が点滅態様で視認されることになり、遊技者に対しては、あたかも開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）で維持されているかのように思わせることができる。
【１２７２２】
特に、開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）が極めて短時間である場合、前側導光板Ａ１５６９３に施された加工に基づく形状Ａ１５６９３ａの光の残像が消える前に再び開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされ、前側導光板Ａ１５６９３に光が入射されるため、開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）とされている場合にも前側導光板Ａ１５６９３に施された加工に基づく形状Ａ１５６９３ａの光が視認可能とされ、当該光を継続して視認させることができる。
【１２７２３】
これにより、開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）に対応する後側導光板Ａ１５６９４に施された加工に基づく形状Ａ１５６９４ａの光が視認された場合に条件反射的に球の発射操作を行うような遊技者に対して、不利益が生じること（球を発射しても開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）を維持している間には開閉板Ａ６５１に到達しえないものであり、アウト球が生じること）を防止することができる。
【１２７２４】
図７３２（ａ）は、前側導光板Ａ１５６９３の正面図であり、図７３２（ｂ）は、後側導光板Ａ１５６９４の正面図である。図７３２（ａ）では、前側導光板Ａ１５６９３に側方から光が導光された場合に視認される形状Ａ１５６９３ａが図示され、図７３２（ｂ）では、後側導光板Ａ１５６９４に側方から光が導光された場合に視認される形状Ａ１５６９４ａが図示される。
【１２７２５】
図７３２（ａ）に図示されるように、前側導光板Ａ１５６９３には、光が導光された場合に、張出状態（閉鎖状態）における開閉板Ａ６５１を矢印ＡＥＤ６５方向視（図７１３参照）で視認した場合の模式的な形状と共に、「閉鎖」との文字が、導光された光により視認可能となる形状Ａ１５６９３ａで加工が施されている。

【１２７２６】
図７３２（ｂ）に図示されるように、後側導光板Ａ１５６９４には、光が導光された場合に、退避状態（開放状態）における開閉板Ａ６５１の近傍を矢印ＡＥＤ６５方向視（図７１３参照）で視認した場合の模式的な形状と、「開放」との文字と共に、開閉板Ａ６５１が退避したことで通過可能となる領域に落下（流下）する遊技球を示す図形が、導光された光により視認可能となる形状Ａ１５６９４ａで加工が施されている。
【１２７２７】
このうち、遊技球を示す図形は、円と矢印とからなり、異なる上下位置のものが、異なる左右位置に視認可能とされる。円と矢印とからなら各図形は、開閉板Ａ６５１の手前側において上流から下流へ向けて流下する遊技球の、異なる位置における流下方向を模式的に示すものであり、図形を視認した遊技者に対して、退避状態（開放状態）の開閉板Ａ６５１の手前側を遊技球が特定入賞口Ｈ６５ａ（図７１５参照）へ向けて流下することを想起させるものである。
【１２７２８】
本実施形態では後側導光板Ａ１５６９４に対して右側から光が照射されるよう構成されており、上下幅の全てに亘って光が照射される場合には、図７３２（ｂ）に図示される形状の全てが光により視認される一方で、上下幅の限られた位置（領域）に光が照射される場合には、その光が照射される上下幅に限って図７３２（ｂ）に図示される形状が光により視認され、その他の上下位置では形状が光らないため光による形状が視認されない。
【１２７２９】
後側切替部材Ａ１５６９６には、開口部Ａ１５６９１ｃを上下幅に亘って閉塞可能な閉塞部Ａ１５６９６ａと、その閉塞部Ａ１５６９６ａに連設されており、上下位置の異なる開口部が前後に位置ずれして形成される開口形成部Ａ１５６９６ｂと、その開口形成部Ａ１５６９６ｂの上下縁部から後方に延設されており案内部Ａ１５６９７に案内されることで後側切替部材Ａ１５６９６の変位方向を維持させる延設部Ａ１５６９６ｃと、が形成される。
【１２７３０】
本実施形態で採用される基本切替制御において、通常状態では、開口部Ａ１５６９１ｃを閉塞する位置に閉塞部Ａ１５６９６ａが位置される。また、基本切替制御において、大当たり遊技状態（オープニング時間ＯＰの開始からエンディング時間ＥＤの終了まで）においては、前側切替部材Ａ１５６９５は開口部Ａ１５６９１ｂから退避する位置に維持され、後側切替部材Ａ１５６９６は開口部Ａ１５６９１ｃから退避する位置に変位される。
【１２７３１】
更に、開口形成部Ａ１５６９６ｂの説明と共に、後側切替部材Ａ１５６９６の制御において、オプションとして、各ラウンド遊技に個別に採用の有無を選択可能な、ラウンド中特殊切替制御について説明する。
【１２７３２】
開口形成部Ａ１５６９６ｂには、前側寄りの位置において上側の領域に上側開口部Ａ１５６９６ｕが開口形成され、前後中間の位置において上側開口部Ａ１５６９６ｕよりも下側に中側開口部Ａ１５６９６ｍが開口形成され、後側寄りの位置において下側の領域に下側開口部Ａ１５６９６ｄが開口形成される。
【１２７３３】
開口形成部Ａ１５６９６ｂが開口部Ａ１５６９１ｃと対向配置されている場合、後側導光板Ａ１５６９４に入射される光が、上側開口部Ａ１５６９６ｕを通過した光、中側開口部Ａ１５６９６ｍを通過した光または下側開口部Ａ１５６９６ｄを通過した光の何れかとなるように構成される。
【１２７３４】
即ち、上側開口部Ａ１５６９６ｕが開口部Ａ１５６９１ｃ（の中心線）と対向配置される場合、上側開口部Ａ１５６９６ｕを通過した光は開口部Ａ１５６９１ｃを通過して後側導光板Ａ１５６９４に入射される一方で、中側開口部Ａ１５６９６ｍ又は下側開口部Ａ１

５６９６ｄには光が通過されず、後側導光板Ａ１５６９４に入射される光は上側開口部Ａ１５６９６ｕを通過した光に限定される。

【１２７３５】

その状態から後側切替部材Ａ１５６９６が前方に変位され、中側開口部Ａ１５６９６ｍが開口部Ａ１５６９１ｃ（の中心線）と対向配置される場合、中側開口部Ａ１５６９６ｍを通過した光は開口部Ａ１５６９１ｃを通過して後側導光板Ａ１５６９４に入射される一方で、上側開口部Ａ１５６９６ｕ又は下側開口部Ａ１５６９６ｄには光が通過されず、後側導光板Ａ１５６９４に入射される光は中側開口部Ａ１５６９６ｍを通過した光に限定される。

【１２７３６】

更にその状態から後側切替部材Ａ１５６９６が前方に変位され、下側開口部Ａ１５６９６ｄが開口部Ａ１５６９１ｃ（の中心線）と対向配置される場合、下側開口部Ａ１５６９６ｄを通過した光は開口部Ａ１５６９１ｃを通過して後側導光板Ａ１５６９４に入射される一方で、上側開口部Ａ１５６９６ｕ又は中側開口部Ａ１５６９６ｍには光が通過されず、後側導光板Ａ１５６９４に入射される光は下側開口部Ａ１５６９６ｄを通過した光に限定される。

【１２７３７】

図７３２（ｂ）において、高さ範囲ＡＨ１は、上側開口部Ａ１５６９６ｕを光が通過した場合に光の形状が視認される高さ範囲を示しており、高さ範囲ＡＨ２は、中側開口部Ａ１５６９６ｍを光が通過した場合に光の形状が視認される高さ範囲を示しており、高さ範囲ＡＨ３は、下側開口部Ａ１５６９６ｄを光が通過した場合に光の形状が視認される高さ範囲を示している。

【１２７３８】

即ち、本実施形態によれば、後側切替部材Ａ１５６９６が前方へ向けて変位される場合に、後側導光板Ａ１５６９４に光が入射される高さ範囲が、高さ範囲ＡＨ１、高さ範囲ＡＨ２、高さ範囲ＡＨ３の順に連続的に変化される。各高さ範囲ＡＨ１～ＡＨ３には、遊技球を示す図形としての円と矢印が視認可能となるように形成されており、これらの形状が光により連続的に視認されることで、退避状態（開放状態）の開閉板Ａ６５１の手前側を遊技球が下流方向に流下される状況を遊技者に想起させることができる。

【１２７３９】

即ち、可変入賞装置Ａ６５において開閉板Ａ６５１が開放されており、開放状態の可変入賞装置Ａ６５の特定入賞口Ｈ６５ａへ向けて遊技球を流下させる（発射する）タイミングであることを、表示装置Ａ１５６９０を視認した遊技者に気付かせることができ、遊技者に迷いなく発射操作を行わせることができる。

【１２７４０】

また、後側導光板Ａ１５６９４に光が入射される高さ範囲が、高さ範囲ＡＨ１、高さ範囲ＡＨ２、高さ範囲ＡＨ３の順に連続的に変化されるタイミングについては、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、入賞個数と対応させることで、開閉板Ａ６５１が閉鎖状態へ変位されるまでの期間について報知することができる。

【１２７４１】

例えば、ラウンド中特殊切替制御では、後側切替部材Ａ１５６９６が、大当たり遊技のラウンド遊技において開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされてから３球目の入賞までは高さ範囲ＡＨ１に光が入射される位置に、４球目の入賞検出から６球目の入賞までは高さ範囲ＡＨ２に光が入射される位置に、７球目の入賞検出から１０球目（規定個数目）の入賞までは高さ範囲ＡＨ３に光が入射される位置に、ラウンド間インターバル期間において次のラウンド遊技の準備として高さ範囲ＡＨ１に光が入射される位置に、順次変位させるように制御することで、後側導光板Ａ１５６９４を介して視認される光の態様によって、あと何球入賞させることで開閉板Ａ６５１が閉鎖状態に変位されるかについて予測させることができる。

【１２７４２】

即ち、操作ハンドルＨ５１を操作させ遊技球を発射させる期間について報知しており、遊技者は、後側導光板Ａ１５６９４を介して視認される光の態様によって操作ハンドルＨ５１を操作するべき期間について把握することができる。

【１２７４３】

この７球目の入賞検出のタイミングは、第２の大当たり作動パターンについて上述したように、開閉板Ａ６５１が閉鎖状態となっている期間に開閉板Ａ６５１に到達してしまい特定入賞口Ｈ６５ａに入球しない球の発生を抑制するために球の発射を停止するタイミングに相当するところ、高さ範囲ＡＨ３に光が入射されることによる光の形状を視認した遊技者に対して、発射操作を停止するタイミングであることを報知することができる。

【１２７４４】

この場合において、高さ範囲ＡＨ１，ＡＨ２に光が入射されている場合の態様は、遊技者に対して球の発射操作を継続させることを促す報知（発射操作により発射すれば遊技球が開閉板Ａ６５１の張出状態（閉鎖状態）への切り替え前に流下領域ＡＲ６５に流入し得るタイミングである場合の報知）としての意味合いがあり、高さ範囲ＡＨ３に光が入射されている場合の態様は、遊技者に対して球の発射操作を停止させることを促す報知としての意味合いがあると、遊技者に把握されるようになる。

【１２７４５】

このように、本実施形態では、ラウンド中特殊切替制御を採用する場合には、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）を維持している場合において、後側切替部材Ａ１５６９６を変位させることによって、表示装置Ａ１５６９０に視認される図形（視認態様）を変化させることができる。なお、ラウンド中特殊切替制御は、ラウンド遊技ごとに個別に採用の有無を選択可能となっており、例えば、全てのラウンド遊技でラウンド中特殊切替制御を実行するようにしても良いし、全てのラウンド遊技でラウンド中特殊切替制御を実行しないようにしても良い。

【１２７４６】

なお、前側導光板Ａ１５６９３及び後側導光板Ａ１５６９４には、光が導光された場合に、開閉板Ａ６５１の形状と、文字とが、視認可能となるように形状Ａ１５６９３ａ，Ａ１５６９４ａの加工が施され、後側導光板Ａ１５６９４には、光が導光された場合に、遊技球を示す図形が、視認可能となるように形状Ａ１５６９４ａの加工が施されているが、各形状や文字は、一体不可分とされるものではなく、各形状や文字の採用する組み合わせを変えることは可能である（形状だけでも良いし、文字だけでも良いし、一部の形状だけでも良い）。また、開閉板Ａ６５１自体の形状に限らず、開閉板Ａ６５１の視認される形状や配置に対応させた２種類の形状またはマークを各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４に形成するようにしても良い。

【１２７４７】

また、文字の配置は、上述した態様に限らず、種々の態様が例示される。例えば、前側導光板Ａ１５６９３と後側導光板Ａ１５６９４とで、同じ位置に同じ文字を形成するようにしても良い。即ち、図７３２（ｂ）で図示されるように後側導光板Ａ１５６９４において「開放」との文字が形成される位置に「閉鎖」との文字を形成し、高さ範囲ＡＨ１，ＡＨ２に収まる各位置において「開放」との文字をそれぞれ形成するようにしても良い。

【１２７４８】

この場合、高さ範囲ＡＨ１，ＡＨ２に光が入射される場合には「開放」との文字が光により描かれる一方で、高さ範囲ＡＨ３に光が入射される場合には「閉鎖」との文字が光により描かれる。

【１２７４９】

高さ範囲ＡＨ３に光が入射される場合には、実際には開閉板Ａ６５１は退避状態（開放状態）にあり、「閉鎖」との文字が意味する態様とは異なるが、「開放」との文字を光らせる際には光を点灯状態で維持する一方で、「閉鎖」との文字を光らせる際には光を点滅させれば、「閉鎖」されるタイミングが近い状況であることを遊技者は理解できるため、遊技に支障が出る場合は少ない。

【１２７５０】
実際に開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）に変位されると、光の入射が後側導光板Ａ１５６９４から前側導光板Ａ１５６９３に切り替わるが、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４で「閉鎖」との文字が形成される位置が同一とされるため、高さ範囲ＡＨ３への光の入射により視認される「閉鎖」と、前側導光板Ａ１５６９３への光の入射により視認される「閉鎖」とが、連続的に視認されることとなり、それらは形状にずれが無いので、光の残像が生じても、判別し難くなるということはない。そのため、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）に変位される場合に光の残像が生じることを避けるための対策を省略しても、遊技者の印象に与える影響を少なくすることができる。
【１２７５１】
本実施形態では、開閉板Ａ６５１の開閉動作が、大当たり又は小当たりに限らず、特定の場合においても実行されるよう制御される。この場合の開閉動作は、基本的には、第１の小当たり作動パターンとされ、開閉動作の開始に遊技者が気づいてから球の発射を開始したとしても、多量の球の入球にはつながらないよう構成される。
【１２７５２】
特定の場合としては、例えば、パチンコ機Ａ１０が通常状態である場合におけるリアルタイムクロックにより設定される特定の時点でも良いし、いずれの図柄も変動されていないような客待ち状態（遊技者による遊技を待っている状態であって、例えば、デモ演出が実行されている状況）の開始から所定期間が経過した場合でも良い。
【１２７５３】
なお、この場合における開閉板Ａ６５１の動作制御は、短時間開放に限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、第１の大当たり作動パターンの特定のラウンドにおける動作態様が実行されるものでも良い。
【１２７５４】
特定の場合において、開閉板Ａ６５１の動作について、第３図柄表示装置Ｈ８１、音声出力装置Ｈ２２６又はランプ表示装置Ｈ２２７の少なくとも一つの装置によって報知をする場合もあれば、報知しない場合もある。そのため、報知がされない場合には、開閉板Ａ６５１の動作について遊技者が気づかない場合もあるが、表示装置Ａ１５６９０には開閉板Ａ６５１の配置に対応した態様における発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光の受光に基づく表示がされるため、遊技者は、表示装置Ａ１５６９０を視界に収めておくことで、特定の場合に開閉板Ａ６５１が開閉動作したことを、見逃さずにおける。
【１２７５５】
このような事情から、本実施形態では、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光は、大当たり遊技状態に限らず、通常状態においても一定の明るさで発光を継続される基本発光制御が採用される。
【１２７５６】
特定の場合において開閉板Ａ６５１が動作されるように制御する場合の追加の効果として、不慣れな遊技者に対して、大当たり遊技において遊技球を発射する位置を事前に報知できることがあげられる。
【１２７５７】
本実施形態では、各切替部材Ａ１５６９５，Ａ１５６９６の制御として基本切替制御を採用しているため、特定の場合において開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされた場合に、後側導光板Ａ１５６９４に対する光は遮蔽されるが、前側導光板Ａ１５６９３への入射も断続的となり、透明板Ａ１５６９２を通した視認態様に変化（点滅態様）を生じさせることができ、遊技者の目を引くことができる。即ち、透明板Ａ１５６９２に対する注目力を向上させることができる。
【１２７５８】
なお、各切替部材Ａ１５６９５，Ａ１５６９６の通常状態における制御は、基本切替制御の態様に限られるものではなく、種々の態様を採用可能である。例えば、通常状態においては前後開放制御を採用し、大当たり遊技状態においては基本切替制御の態様（前後開

放制御）を流用する場合には、特定の場合において開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）から退避状態（開放状態）に変化された場合、後側導光板Ａ１５６９４に対して右側から光が照射され、退避状態（開放状態）の開閉板Ａ６５１の手前側を遊技球が特定入賞口Ｈ６５ａへ向けて流下することを想起させる図形が光により視認可能とされるように構成されている。そのため、図形を視認した遊技者に対して、遊技球を発射する位置として開閉板Ａ６５１があることを理解させることができる。

【１２７５９】

一方で、開閉板Ａ６５１の変位は退避状態（開放状態）で長時間維持されるものではなく、短時間で張出状態（閉鎖状態）に戻る場合、後側導光板Ａ１５６９４への光の入射は短時間で途切れ、遊技球が特定入賞口Ｈ６５ａへ向けて流下することを想起させる図形も短時間で消えるため、遊技者が誤って開閉板Ａ６５１側へ向けた遊技球の発射を行う事態を防止することができる。

【１２７６０】

実際に大当たり遊技状態となり、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされた場合には、退避状態（開放状態）の開閉板Ａ６５１の手前側を遊技球が特定入賞口Ｈ６５ａへ向けて流下することを想起させる図形が光により視認可能とされる状態が継続されることになるので、遊技者は、迷うことなく開閉板Ａ６５１側へ向けた遊技球の発射（右打ち）を行うことができる。

【１２７６１】

これにより、大当たり遊技が開始される前から遊技球を発射するべき箇所について報知できるため、遊技者が遊技に不慣れであっても、大当たり遊技の開始後において遊技者がどこに発射していいか分からずに不利益（例えば、ラウンド遊技中に発射ができず、賞球の払い出しを逃す等）を生じる事態を避けることができる。

【１２７６２】

各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４は、光による形状として視認される大きさが、開閉板Ａ６５１の大きさとは異なるように構成される。本実施形態では、大きさの違いが判別可能な程度に小さく表示することで、光による形状が開閉板Ａ６５１の形状を模したものであっても、実際の開閉板Ａ６５１（実物）と見間違えることを防止することができる。これにより、遊技球を発射して狙う位置を間違える（表示されている位置を狙って発射する）ことを避けることができる。

【１２７６３】

なお、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４において光により視認される形状は、上述した大きさに限られるものではない。例えば、光により視認される形状が開閉板Ａ６５１よりも大きい形状として形成可能となるように、筐体部Ａ１５６９１や各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４の大きさや、配置を設計しても良い。この場合、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４により視認される形状Ａ１５６９３ａ，Ａ１５６９４ａの視認性を高め、遠くからでも視認できるようになることから、光の形状に対する注目力を向上させることができる。

【１２７６４】

また、大きさの設定は、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４で共通で設定させる必要はなく、異ならせても良い。例えば、前側導光板Ａ１５６９３で光により視認される形状だけ開閉板Ａ６５１よりも大きいものとする場合、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４で光が入射される側が切り替わった際に、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）に切り替わったタイミングよりも、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）に切り替わったタイミングを強調することができる。同様に、後側導光板Ａ１５６９４で光により視認される形状だけ開閉板Ａ６５１よりも大きいものとすることもできる。

【１２７６５】

また、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４で光により視認される形状を開閉板Ａ６５１の大きさと同じ大きさとしても良い。この場合、光による形状が開閉板Ａ６５１のことを意味していることが、より分かりやすくなる。光による形状と開閉板Ａ６５１とを見間

違える事態については、入射させる光を点滅させることや、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４自体を前後方向に延びる軸を中心として回転動作させて視認される光の形状を回転動作させることにより、開閉板Ａ６５１の視認態様として想定される態様とは異なる態様で視認させることで、そのような事態の発生を防止することができる。

【１２７６６】

以上、詳述した実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。即ち、表示装置Ａ１５６９０の視認態様は、光が到達される位置に対応して変化されるよう構成されており、開閉板Ａ６５１の状態が変化されることに応じて変化される。これにより、表示装置Ａ１５６９０を視認することで、開閉板Ａ６５１の状態の変化について把握することができる。

【１２７６７】

また、表示装置Ａ１５６９０への光の到達態様は、開閉板Ａ６５１近傍を流下する球に光が反射されることにより変化するため、表示装置Ａ１５６９０を視認することで、流下領域ＡＲ６５の球の流下について把握することができる。

【１２７６８】

また、表示装置Ａ１５６９０を視認することで、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされていること、及び、球が開閉板Ａ６５１近傍を流下していること、を同時に把握することができるため、無駄球を発射していることを早期に把握させることができ、遊技者の不利益を最小限に抑えることができる。

【１２７６９】

また、表示装置Ａ１５６９０を視認することで、開閉板Ａ６５１近傍に球が発射されていないことに気づくことができるため、球の発射不良が生じていることに早期に気づくように仕向けることができる。

【１２７７０】

また、表示装置Ａ１５６９０において、前側導光板Ａ１５６９３の形状Ａ１５６９３ａの光が視認される長さが若干短くなる場合や、カットされる（無くなる）場合、それを視認することで、開閉板Ａ６５１と板状本体Ａ６３１との間で球が挟まったことを把握することができる。

【１２７７１】

また、表示装置Ａ１５６９０において視認される形状Ａ１５６９３ａ，Ａ１５６９４ａの光が、明るさに違いがあるように構成されるため、光の形状まで視認せずとも、いずれの形状Ａ１５６９３ａ，Ａ１５６９４ａの光が視認されているのかを把握しやすくすることができる。

【１２７７２】

また、表示装置Ａ１５６９０において視認される光の形状Ａ１５６９３ａ，Ａ１５６９４ａは、開閉板Ａ６５１の配置に対応したものとなっており、遊技者は、表示装置Ａ１５６９０を視認することで直感的に開閉板Ａ６５１の状態を把握することができる。

【１２７７３】

また、表示装置Ａ１５６９０における光の到達位置ごとに、光の通過を遮蔽可能な切替部材Ａ１５６９５，Ａ１５６９６が配設されており、切替部材Ａ１５６９５，Ａ１５６９６の位置の切り替えにより、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４への光の入射の有無を切り替えることができる。これにより、表示装置Ａ１５６９０で視認される態様から、開閉板Ａ６５１の状態を把握不能（または把握が不完全）となる状況を構成することができる。

【１２７７４】

また、切替部材Ａ１５６９５，Ａ１５６９６の制御として基本切替制御が採用されており、通常状態において開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）に変位されたとしても、後側導光板Ａ１５６９４への光の入射が防止されることにより、形状Ａ１５６９４ａの光が視認されないため、表示装置Ａ１５６９０を視認した遊技者が誤って球を発射することを避けることができる。

【１２７７５】

以上、上記実施形態に基づき本発明を説明したが、本発明は上記形態に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲内で種々の変形改良が可能であることは容易に推察できるものである。

【１２７７６】

上記各実施形態において、一の実施形態における構成の一部または全部を、他の実施形態における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の実施形態としても良い。

【１２７７７】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、いずれの入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０にも入賞しなかった球は、アウト口Ｈ７１を通って図示しない球排出路へと案内され、パチンコ機Ａ１０の外部に排出される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、アウト口Ｈ７１を通って遊技領域から排出された遊技球が再び球発射ユニットＨ１１２ａに発射される位置に案内されるようにパチンコ機Ａ１０内部に案内経路が形成されることで、遊技球をパチンコ機Ａ１０内部で循環可能とし、遊技球がパチンコ機Ａ１０の内部に封入されるようにしても良い。

【１２７７８】

この場合、遊技球をパチンコ機Ａ１０専用で利用でき、他の機械との関連を考慮する必要が無いので、パチンコ機Ａ１０の演出に最適化した遊技球とすることができる。例えば、遊技球の表面を赤色とすることで、光の反射により「ＢＯＮＵＳ」の「Ｎ」における「Ｖ」部分に光が到達された場合の色味を、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）から照射される光の色に関わらず赤っぽくすることができ、「Ｖ」部分に光が到達された場合の印象がばらつくこと（照射される光の色によって変わること）を避けることができる。

【１２７７９】

また、例えば、遊技球の表面を黒色とすることで、表面で光を効率的に吸収でき、遊技球が発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光を遮るように位置した場合において、遊技球で反射された光が繰り返しの反射により意図せず表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０に到達することを避け易くすることができる。

【１２７８０】

また、例えば、光透過性であって熱硬化性の樹脂材料に金属の粒子を混ぜたものを球形状に硬化させ遊技球として構成することで、部分的に透明な遊技球を構成することができ、金属の粒子が混ぜられていることから、表面に位置する金属粒子により問題なく検出することができる。これにより、透明性と、検出性を両立した遊技球とすることができる。この場合、遊技球により光が遮蔽される度合いを低減することができるので、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光の照射範囲に遊技球が位置される場合において遊技球の反射により光が反射される程度を低減することができ、遊技球の透明部分を透過した光が表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０に到達可能とすることができる。

【１２７８１】

また、例えば、遊技球を通常の大きさ（直径１１［ｍｍ］）よりも小さく構成し（例えば、１［ｍｍ］）、入賞検出センサＡＳＣ６４のサイズも遊技球の大きさに合わせた大きさとする（サイズを小さくする）一方で、その他の構成については元の大きさで構成する場合、遊技球の大きさが発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光を遮蔽可能なほどには大きくないので、遊技球の流下の影響で光が遮蔽され、光が表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０に到達されないという状況が生じないようにすることができる。これにより、遊技球の流下に関わらず、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０に常時光が到達される構成とすることもできる。このように、遊技球を、パチンコ機Ａ１０の演出に最適化した態様で構成することができる。

【１２７８２】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、遊技領域を流下する遊技媒体として遊技球を利用する場合を説明したが、必ずしもこれに限

られるものではない。例えば、コインやビーズ、円柱形状部材であっても、自然と転がる形状となっているので問題なく遊技媒体として利用できる。

【１２７８３】

また、周囲が円形（球形状）となっているものに限定されるものではなく、釘によって姿勢を変化されながら下方へ流下可能な形状であれば、様々な形状の部材を利用できる。例えば、遊技領域の前後幅よりも若干前後幅の短い板状部材であって板面方向視で正５角形の形状に形成される部材や、星形状に形成される部材を遊技媒体として利用しても良い。

【１２７８４】

また、遊技領域を左右に変位しながら流下する場合に限らず、遊技媒体が一直線に変位するように流下する構成としても良い。この場合、釘による左右振分を必要とせず、遊技領域の構成を単純化することができる。

【１２７８５】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）がＬＥＤ等から構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）は、白色ＬＥＤでも良いし、３色ＬＥＤでも良いし、アセチレンランプでも良いし、白熱電球でも良いし、蛍光灯でも良いし、アーク灯でも良いし、無電極放電灯でも良いし、ＨＩＤランプでも良いし、低圧放電灯でも良いし、冷陰極型蛍光管でも良いし、外部電極型蛍光管でも良いし、エレクトロルミネセンスライトでも良いし、レーザー光線でも良いし、放射光でも良い。

【１２７８６】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光の明るさ（照射態様）は一定で維持される場合（基本発光制御）を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光の明るさ（照射態様）が、音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１を介する制御により状況に応じて変更されるように構成しても良い。光の明るさ（照射態様）の変更は、モーター音等の異音の発生が生じるものでもなく、また、変更幅を小刻みとすることができるため、変更が実行されたことを遊技者に意識させないように構成することが可能となる。

【１２７８７】

例えば、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光の明るさ（照射態様）が、開閉板Ａ６５１が開閉動作されない通常状態と、小当たり遊技の態様で動作される状態と、大当たり遊技状態とで、変化可能に構成されても良い（変化発光制御）。この場合において、異なる状態に対応して発光態様も異なる必要があるというものではなく、任意に制御が可能とされる。

【１２７８８】

また、例えば、通常状態における発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光の明るさ（照射態様）が一定ではなく、定期的または不定期（ランダム）に明から暗へ、暗から明へ、徐々に変化される態様で変化されるようにしても良い（ループ発光制御）。これにより、光の明るさが一定である場合に比較して、視認される光の態様に変化を与えることができ、光の演出効果を向上させることができる。

【１２７８９】

例えば、音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１を介する制御により、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光の明るさ（照射態様）を、後側導光板Ａ１５６９４に入射される中心軸ＡＬＣＣの光の明るさは透明板Ａ１５６９２を介して視認可能とされる一方で、前側導光板Ａ１５６９３に入射される光ＡＬＣ２の明るさは透明板Ａ１５６９２を介して視認されない程度の明るさ（片側非視認態様、基本発光制御よりも暗い発光状態）となるように制御するようにしても良い。

【１２７９０】

なお、片側非視認態様は、独立した発光状態である必要はなく、変化発光制御や、ループ発光制御において生じ得る明るさの状態の一態様であっても良い。即ち、変化発光制御や、ループ発光制御においても、その変化の過程（明るさの弱い状態）で、一時的に片側非視認態様となり得る。

【１２７９１】

また、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光の明るさ（照射態様）は、上述の基本発光制御、変化発光制御、ループ発光制御および片側非視認態様が、状況に応じて切り替えられるように構成してもよい。これにより、発光演出がワンパターンとなることを防ぎ、発光演出の演出効果の向上を図ることができる。

【１２７９２】

片側非視認態様とされる場合、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となり前側導光板Ａ１５６９３に発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光が入射しても、前側導光板Ａ１５６９３に施された加工態様に基づく形状Ａ１５６９３ａの光が視認されることはないため、開閉板Ａ６５１の開閉動作が生じる場合における透明板Ａ１５６９２を介して視認されるのは、後側導光板Ａ１５６９４に施された加工態様に基づく形状Ａ１５６９４ａの光に限定される。これにより、開閉板Ａ６５１が特定の開閉動作を実行している場合において、透明板Ａ１５６９２を介した視認態様から、遊技者に好適な操作態様を勘違いさせることを避けることができる。

【１２７９３】

ここで、特定の開閉動作としては、流下領域ＡＲ６５への球の流入が想定される場合として説明した、小当たり遊技における動作が一例として挙げられる。小当たり遊技の開閉動作は、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされる期間の合計が１．８秒に収まっていればよく、退避状態（開放状態）で０．１２秒間維持される態様が１５回繰り返される動作態様としてもよい。

【１２７９４】

且つ、この小当たり遊技の開放動作では、入賞検出センサＡＳＣ６５に規定個数（１０個）の入賞が可能とされることが好ましいとされることが多いため、発射間隔（最短０．６秒）で１０球を発射させるために必要となる６．０秒以上の動作期間が要求されるものであり、必然的に、繰り返される開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）の間における開閉板Ａ６５１の張出状態（閉鎖状態）が、退避状態（開放状態）とされる期間よりも長くなる。

【１２７９５】

開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされる期間は、開閉板Ａ６５１の上面を流下（転動）する場合に球が右端から左端まで渡り切る（零れる）ことを避けられる期間であればよく、開閉板Ａ６５１であれば１．０秒間でもよい。この場合、小当たり遊技の開閉動作は最長で１５．８秒（＝（０．１２＋１）×１４＋０．１２、即ち、１回目の開放開始から１５回目の開放終了までの期間）となるため、開閉板Ａ６５１が開閉動作を開始したことに気づかずに発射開始が遅れたとしても、規定個数（１０個）の球を入賞させ易い期間として設定することができる。

【１２７９６】

開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされる期間よりも開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされる期間の方が長くされるため、透明板Ａ１５６９２を介した視認態様が開閉板Ａ６５１の動作と純粋に対応して切り替えられると、それを視認した遊技者は、開閉板Ａ６５１が主に張出状態（閉鎖状態）とされ、特定入賞口Ｈ６５への入賞が期待できない期間であると勘違いし、発射操作を実行しない可能性があり、遊技者の不利益につながる。

【１２７９７】

これに対し、開閉板Ａ６５１の開閉動作が生じる場合における透明板Ａ１５６９２を介した視認態様が、後側導光板Ａ１５６９４に施された加工態様に基づく形状Ａ１５６９４ａの光に限定されることにより、透明板Ａ１５６９２を介した視認態様から開閉板Ａ６５

１が主に張出状態（閉鎖状態）とされるとの勘違いが生じることを避けることができる。
【１２７９８】
特に、開閉板Ａ６５１の張出状態（閉鎖状態）が短時間であれば、後側導光板Ａ１５６９４に施された加工に基づく形状Ａ１５６９４ａの光の残像が後側導光板Ａ１５６９４への光の入射がされていない状態でも残り、その残像が消える前に再び開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされ、後側導光板Ａ１５６９４に光が入射されるため、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされている場合にも後側導光板Ａ１５６９４に施された加工に基づく形状Ａ１５６９４ａの光が視認可能とされ、当該光を継続して視認させることができる。
【１２７９９】
これにより、普段は開閉板Ａ６５１の動作態様と関連して視認態様が切り替わる透明板Ａ１５６９２を通した視認態様について、開閉板Ａ６５１の動作態様とずれた態様で視認させることができる。簡潔にいえば、開閉板Ａ６５１が実際には退避状態（開放状態）が０．１２秒間維持される態様が１５回繰り返される動作態様で動作しているのに、透明板Ａ１５６９２を通した視認態様は、開閉板Ａ６５１が最長１５．８秒間で退避状態（開放状態）に維持されているように視認され、あたかもラウンド遊技が実行されているかのように遊技者に感じさせることができるので、透明板Ａ１５６９２に注目している遊技者に対して特定入賞口Ａ６５ａへ向けた球の発射を促すことができる。
【１２８００】
これにより、開閉板Ａ６５１の張出状態（閉鎖状態）に対応する前側導光板Ａ１５６９３に施された加工に基づく形状Ａ１５６９３ａの光が視認された場合に条件反射的に球の発射操作を停止するような遊技者に対して、不利益が生じること（特定入賞口Ｈ６５への入賞が想定される期間であるにも関わらず、球の発射をせずに、得られたはずの賞球を逃すこと）を防止することができる。
【１２８０１】
発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光を片側非視認態様に制御する場合において、いつ発光態様を他の態様（基本発光制御、変化発光制御、ループ発光制御等）から片側非視認態様に変化させ、いつ片側非視認態様から他の態様（基本発光制御、変化発光制御、ループ発光制御等）に変化させる（戻す）かは、種々の態様が例示される。
【１２８０２】
例えば、他の態様（基本発光制御、変化発光制御、ループ発光制御等）から片側非視認態様に変化させるタイミングは、小当たり遊技における開放動作の開始時でも良いし、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０へ入賞があったことを契機とする抽選の結果が小当たりであると判定された時点でも良い。
【１２８０３】
また、当該タイミングは、小当たり遊技における開放動作が開始されてから、何度か開閉板Ａ６５１の開閉が繰り返された後でも良い。即ち、小当たり遊技における開放動作の開始から３秒経過した時点で片側非視認態様とする場合、当該３秒間においては、透明板Ａ１５６９２を通した視認態様は、開閉板Ａ６５１の動作態様に対応して各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４の形状Ａ１５６９３ａ，Ａ１５６９４ａの光で切り替えられることから、それを視認した遊技者にとっては、これが流下領域ＡＲ６５への多量の球の流入が想定される小当たり遊技なのか、小当たりＡや小当たりＢとして説明した開閉動作の開始に遊技者が気づいてから球の発射を開始したとしても多量の球の入球にはつながらない小当たり遊技なのか、判別し難い。そのため、球の発射をためらわせることができる。
【１２８０４】
そこから、小当たり遊技における開放動作の開始から３秒経過して片側非視認態様とされると、透明板Ａ１５６９２を通した視認態様が後側導光板Ａ１５６９４の形状Ａ１５６９４ａの光で維持されることから、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）で維持されていると遊技者に感じさせることができ、遊技者は特定入賞口Ａ６５ａへ向けた球の発射を迷いなく実行することができる。

【１２８０５】
これにより、開閉板Ａ６５１の小当たり遊技における開放動作の開始時と、遊技者が迷いなく球を発射開始する時点とを、敢えてずらす（遅らせる）ことができる。これにより、例えば、小当たり遊技の開放動作の開始から１２秒経過後に片側非視認態様に切り替える場合（小当たり遊技の継続時間の終点までが、球を０．６秒間隔で１０球発射するために必要な６秒未満である場合）等、小当たり遊技の継続時間内に規定個数の入賞を生じさせない場合を構成することも可能となるため、開閉板Ａ６５１の動作態様が変わらない場合でも、遊技者が獲得する賞球個数の多少が生じる場合を構成することができる。
【１２８０６】
また、例えば、片側非視認態様から他の態様（基本発光制御、変化発光制御、ループ発光制御等）に変化させるタイミングは、規定個数の入賞により小当たり動作が終了した時でも良いし、小当たり遊技における開放動作の最大継続時間（例えば、上述の１５．８秒）としても良い。後者の場合、小当たり動作の終了後に、その小当たり動作中の特定入賞口Ｈ６５ａへの入賞に基づく大当たり遊技が実行される場合には、その大当たり遊技の開始を小当たり遊技の開始から１５．８秒経過後に設定させることで、大当たり遊技中における開閉板Ａ６５１の開閉動作時には、開閉板Ａ６５１の状態に対応して前側導光板Ａ１５６９３に施された加工態様に基づく形状Ａ１５６９３ａの光または後側導光板Ａ１５６９４に施された加工態様に基づく形状Ａ１５６９４ａの光が透明板Ａ１５６９２を介して視認されるように構成することができる。
【１２８０７】
また、例えば、片側非視認態様から他の態様（基本発光制御、変化発光制御、ループ発光制御等）に変化させるタイミングは、入賞個数が規定個数に近くなり（例えば、７球目の入賞が検出され）小当たり動作の終了が近づいた時でも良いし、小当たり遊技における開放動作の最大継続時間（例えば、上述の１５．８秒）が近づいた時（例えば、小当たり遊技の開始から１０秒が経過した時）としても良い。この場合、小当たり遊技の終了前から、前側導光板Ａ１５６９３に施された加工態様に基づく形状Ａ１５６９３ａの光を視認させることができるので、形状Ａ１５６９３ａに光を視認した遊技者に対して、開閉板Ａ６５１が閉鎖状態に切り替えられるタイミングが近いことを把握させることができる。
【１２８０８】
このように小当たり動作において発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光の明るさを変化させる制御を搭載する場合、光の明るさの変化が生じるタイミングが開閉板Ａ６５１の動作開始時よりも早いと、光の明るさの変化を視認した遊技者が小当たり動作の発生を予測できてしまい、本来の遊技性と反する（小当たり動作の発生を報知する前に把握される）可能性があり、光の明るさの変化を生じさせるタイミングが開閉板Ａ６５１の動作開始と同時か、動作開始後に制限される結果を招く。
【１２８０９】
これに対して、通常状態における発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光の明るさ（照射態様）が定期的または不定期（ランダム）に変化される態様（ループ発光制御）で制御される場合、小当たり遊技に対応して片側非視認態様に変化したのか、不定期（ランダム）に変化される態様の一部として片側非視認態様に変化したのか、判別できなくすることができる。即ち、小当たり遊技に対応して片側非視認態様に変化していたとしても、その変化を通常時の発光態様の変化でカモフラージュすることができるので、光の明るさの変化を生じさせるタイミングが制限される事態を避けることができ、任意のタイミング（例えば、開閉板Ａ６５１の開閉動作が開始されるよりも早いタイミング）で発光態様を変化させるように制御することができる。
【１２８１０】
なお、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の発光態様を片側非視認態様とする制御に代わって、前側切替部材Ａ１５６９５を変位させ開口部Ａ１５６９１ｂを閉鎖（遮蔽）させる制御を実行しても良い。当該制御における前側切替部材Ａ１５６９５の動作タイミングについても、片側非視認態様についての切り替えタイミングとして上述した態様を流

用することが可能である。この場合であっても、前側導光板Ａ１５６９３への発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光の入射を防止することができ、前側導光板Ａ１５６９３に施された加工態様に基づく形状Ａ１５６９３ａの光が透明板Ａ１５６９２を介して視認されることを避けることができ、上述したのと同様の効果を生じさせることができる。

【１２８１１】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、正面視で開閉板Ａ６５１の下方側の領域にマジックミラーとして作用するよう薄く形成される反射膜Ａ１３６３８が形成される場合を説明したが、当該反射膜Ａ１３６３８を他の実施形態におけるカバー部材Ａ６３０，Ａ１４６３０，Ａ１５６３０に形成することも可能である。また、その形成位置は、開閉板Ａ６５１の下方側の領域に限定されるものではなく、カバー部材Ａ６３０，Ａ１４６３０，Ａ１５６３０の前面全体に形成するようにしても良い。

【１２８１２】

少なくとも発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）から表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０までの間に亘って反射膜Ａ１３６３８を形成することで、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光がカバー部材Ａ６３０，Ａ１４６３０，Ａ１５６３０の板状本体Ａ６３１，Ａ１４６３１を透過する（流下領域ＡＲ６５側から手前側へ透過する）割合を減少させることができ、流下領域ＡＲ６５内を進行する光の減衰を抑えることができるので、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が暗い場合であっても、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０へ進行する光の光量を確保することが可能となる。

【１２８１３】

発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が（カバー部材Ａ６３０，Ａ１４６３０，Ａ１５６３０の手前側における明るさよりも）暗い場合（例えば、片側非視認態様）、反射膜Ａ１３６３８が鏡のように視認され、流下領域ＡＲ６５を見え難くすることができる。これにより、開閉板Ａ６５１の状態の判別のために遊技者が流下領域ＡＲ６５を視認していた場合、その遊技者の視線を表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０側に移行させることができる。

【１２８１４】

一方、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が（カバー部材Ａ６３０，Ａ１４６３０，Ａ１５６３０の手前側における明るさよりも）明るい場合、反射膜Ａ１３６３８はガラスのように透明に視認され、流下領域ＡＲ６５の視認性は確保される。このように、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が十分に明るい場合には、光と共に流下領域ＡＲ６５を視認させることで、流下領域ＡＲ６５内を流下する球を利用した演出（例えば、光を反射させることを利用した演出）の演出効果を向上させることができる。

【１２８１５】

即ち、片側非視認態様を利用する状況としては、上述の通り、開閉板Ａ６５１の開閉動作の態様が球の入球を想定している場合なのか否かが遊技者目線で把握し難い可能性がある小当たり遊技の実行時が想定されるところ、表示装置Ａ１５６９０の視認態様を変更したとしても、開閉板Ａ６５１を遊技者が直接視認した場合には、球の入球を想定している場合なのか否かが遊技者目線で把握し難いという状況は依然として生じ得る。この状況を解消する一つの手段は開閉板Ａ６５１を視認できなくすることであり、その具体的な方法として反射膜Ａ１３６３８を利用する態様を説明した。

【１２８１６】

開閉板Ａ６５１を視認できなくする手法は、開閉板Ａ６５１や流下領域ＡＲ６５を視認できなくても遊技者に損がない場合には遊技者の不満にはつながらないが、例えば、大当たり遊技においてラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１（２．０秒）が採用され得る場合のように、打ちっぱなしでは球損（即ち、張出状態（閉鎖状態）の開閉板Ａ６５１の上面を右端から左端へ通過して流下領域ＡＲ６５に流入しない球）が生じる場合には、遊技者は、開閉板Ａ６５１や流下領域ＡＲ６５の状況を確認して、球の発射を停止するタイミングや再開するタイミングを調整する場合があり、開閉板Ａ６５１や流下領域ＡＲ６５

を視認できないと遊技者が不満に思う場合がある。
【１２８１７】
上述のように反射膜Ａ１３６３８を利用した態様であれば、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光を明るくすれば、反射膜Ａ１３６３８はガラスのように透明に視認され、流下領域ＡＲ６５の視認性は確保されるため、遊技者が開閉板Ａ６５１や流下領域ＡＲ６５を視認できないと不満が生じる可能性がある状況においては、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が明るい態様で制御することで、反射膜Ａ１３６３８を介した視認態様を状況に合わせたものとすることができ、遊技者の不満を解消することができる。
【１２８１８】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、後側導光板Ａ１５６９４に中心軸ＡＬＣＣの光が照射されるように発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の前後位置が設定され、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）が第１電飾基盤Ａ６６０の板状部の前方側に位置されることで光ＡＬＣ２が前方側に張り出した開閉板Ａ６５１の前端部に届く場合を説明したが、必ずしもこれに限定されるものではない。
【１２８１９】
例えば、開閉板Ａ６５１に照射され進行方向が変化されて前側導光板Ａ１５６９３に入射されるのが中心軸ＡＬＣＣの光となるように発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の前後位置が設定され、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）が第１電飾基盤Ａ６６０の板状部の後方側に位置されることで光ＡＬＣ２が後方側に寄る方向で進行し、後側導光板Ａ１５６９４に入射されるように構成しても良い。
【１２８２０】
この場合、前側導光板Ａ１５６９３に入射される光の方が、後側導光板Ａ１５６９４に入射される光よりも明るくされる。そのため、前側導光板Ａ１５６９３に施された加工態様に基づく形状Ａ１５６９３ａの光は明るい上に遊技者に近い位置（前側位置）で視認されることから明るさが際立ち、後側導光板Ａ１５６９４に施された加工態様に基づく形状Ａ１５６９４ａの光は暗い上に遊技者から遠い位置（後側位置）で視認されることから暗さが際立つため、透明板Ａ１５６９２を通して視認される形状が切り替わったことを明るさの違いから把握させやすくすることができる。また、前側導光板Ａ１５６９３に入射される光を照射するＬＥＤと、後側導光板Ａ１５６９４に入射される光を照射するＬＥＤとを、別々のＬＥＤ（別位置に配置されるＬＥＤ）から構成しても良い。この場合、それぞれのＬＥＤの発光強度を別々に制御すればよいので、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４で視認される光の態様を調整することが容易となる。
【１２８２１】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、大当たり遊技における発光部Ａ６６１の発光態様について、点灯状態が継続される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、発光部Ａ６６１の発光態様は、所定条件の成立により発光態様が切り替わる態様でも良いし、点滅が継続される態様でも良い。
【１２８２２】
所定条件の成立としては、例えば、ラウンド間インターバルとラウンドとの切り替えや、特定入賞口Ｈ６５ａへの入球の検出が想定され、特定入賞口Ｈ６５ａへの入球の検出により点灯（消灯）状態が消灯（点灯）状態に切り替えられたり、発光強度が強く（弱く）なるように切り替えられたりしても良い。
【１２８２３】
また、点滅が継続される態様において所定条件が成立した場合に、その点滅の態様が変化されるようにしても良い。点滅の態様の変化としては、点滅の切り替えのテンポの変化（例えば、高速化、低速化）や、パターンの変化（例えば、点滅の長さが一定間隔であったものを、点灯長さが消灯長さの２倍となるパターンに変化させる）でも良い。
【１２８２４】

この場合、発光部Ａ６６１の発光態様または照射領域ＡＲ６３１の視認態様の変化により、入球の状況を把握させることができる。

【１２８２５】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、第３発光部Ａ６６４の発光態様が特定入賞口Ｈ６５ａへの入球に関連して変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【１２８２６】

例えば、特定入賞口Ｈ６５ａへの入球態様に関わらず発光例１の発光態様となるように制御しても良い。この場合、第３発光部Ａ６６４の光が白色で視認される間は、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされるまでに余裕があることが把握でき、遊技者は余裕をもって球を発射させることができる。

【１２８２７】

また、例えば、特定入賞口Ｈ６５ａへの入球に基づく発光態様は発光例２で変化するように制御する一方で、特定入賞口Ｈ６５ａへの入球が無かった場合には白色の光での発光が継続されるよう制御しても良い（発光例１の変化は生じないように制御しても良い）。この場合、発光色により特定入賞口Ｈ６５ａへの入球個数をある程度把握することができるので、発光例１のように時間経過でも発光色が変化する場合に、発光色の変化が入球個数の条件の成立により生じたと勘違いして、遊技者が球の発射を抑えてしまう事態を避けることができる。

【１２８２８】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、第３発光部Ａ６６４の発光態様が変化される場合として、入賞検出センサＡＳＣ６５で入球が検出された場合に、光を１０［ｍｓｅｃ］だけ消灯させるように制御する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、光を２００［ｍｓｅｃ］だけ消灯させるようにしてもいい。この場合、流下領域ＡＲ６５を流下している球が直接的に光を遮蔽した場合と同様の変化を生じさせることができるため、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０へ光を入射させるＬＥＤの配置位置として、光の経路が流下領域ＡＲ６５内を通らない態様を採用（又は追加）しても良くなる。

【１２８２９】

また、第３発光部Ａ６６４の発光態様が変化される場合として、入賞検出センサＡＳＣ６５で入球が検出された場合に発光色を変える場合として、ラウンド遊技において５球目の入球タイミングで発光色を変化させると説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。発光色を変化させるタイミングは任意に設定可能であり、例えば、１球目の入球タイミングで発光色を変化させても良いし、入球検出の度に発光色を順に変化させても良いし、特定の入球個数目の検出で発光色を変化させても良いし、確率で、発光色が変化するように制御しても良い。

【１２８３０】

ここで、球が入賞検出センサＡＳＣ６５で検出された場合に、第３発光部Ａ６６４の発光態様が変化される制御とする場合、開閉板Ａ６５１の上面に位置する球が入賞検出センサＡＳＣ６５の鉛直上方位置に近いほど、球が入賞検出センサＡＳＣ６５で検出されるまでの期間が短くなる。当該球は、開閉板Ａ６５１の開放状態への動作タイミングがもう少し遅かったら開閉板Ａ６５１の左端から零れてアウト球となる可能性があった球として遊技者に認識されるため、開閉板Ａ６５１が開放状態とされた直後に第３発光部Ａ６６４の発光態様が変化された場合には、最速で球が入賞検出センサＡＳＣ６５に流入したことの喜びと、間一髪で球がアウト球とはならなかったことの喜びという、二重の喜びを遊技者に感じさせることができる。

【１２８３１】

また、上述の態様に代えて（又は加えて）、球が入賞検出センサＡＳＣ６４で検出された場合に、第３発光部Ａ６６４の発光態様が変化される制御とするようにしても良い。この場合、開閉板Ａ６５１の閉鎖状態（張出状態）において開閉板Ａ６５１上を遊技球が左

方へ通過したことが、透明板Ａ１５６９２を介した視認態様から把握できた場合であっても、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）となった後で透明板Ａ１５６９２を介した光の視認態様が変化された場合に、開閉板Ａ６５１上を左方へ通過した球が入賞検出センサＡＳＣ６４に入賞した場合を想起することができ、球損の個数を遊技者に分かり難くすることができる。即ち、開閉板Ａ６５１上を左方へ通過した球のいくつかは入賞検出センサＡＳＣ６４に入賞したと感じさせることで、左方へ通過したすべての球がアウト球となった場合に比べれば良い状況であると感じさせることができ、遊技を継続させることができる。

【１２８３２】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、第３発光部Ａ６６４が開閉板Ａ６５１の右下側に配置され、開閉板Ａ６５１の左上方向に進行する光が正面視で開閉板Ａ６５１の左上側に位置する照射領域ＡＲ６３１に到達し得る場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【１２８３３】

例えば、流下領域ＡＲ６５の下方側に上側へ向けて発光する発光部を配設しても良いし、流下領域ＡＲ６５の後方側に前方かつ斜め上方向へ向けて発光する発光部を配設しても良い。この場合においても、発光部からの光を開閉板Ａ６５１の先端部に当てることが可能であり、正面視で開閉板Ａ６５１の上側に照射領域を形成させることができ、照射領域における視認態様の変化によって開閉板Ａ６５１の状態や開閉板Ａ６５１の近傍を流下する球の有無について把握させることができる。

【１２８３４】

発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が右下から左上へ斜めに進行する場合、可変入賞装置Ａ６５の張出状態（閉鎖状態）において発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光が遮られる態様として、開閉板Ａ６５１の下側に位置する球により遮られる場合（オーバー入賞）と、開閉板Ａ６５１の上側に位置する球により遮られる場合とが想定されるが、開閉板Ａ６５１の下側に位置する球は張出状態（閉鎖状態）となってからすぐに光を遮ることになる一方で、開閉板Ａ６５１の上側に位置する球は張出状態（閉鎖状態）となってから若干の時間を空けて光を遮ることになることから、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となってから光が遮られるまでの期間を、開閉板Ａ６５１の上側に位置する球により光が遮蔽されたのか、開閉板Ａ６５１の下側に位置する球により光が遮蔽されたのかの目安とすることができる場合を説明した。

【１２８３５】

これに対し、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が真下から上方へ進行する態様の場合（特に、中心軸ＡＬＣＣの進行方向が、張出状態（閉鎖状態）における開閉板Ａ６５１の上面や、張出状態（閉鎖状態）における開閉板Ａ６５１の下面と対向配置される主経路形成部Ａ６３２ｃによる流下面と、直角に交差する場合）、上述の目安とするという作用は失われるものの、球により光が遮蔽される期間を短縮することができ、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が到達される位置に配設される表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０における視認態様が変化される（光が到達しない場合の視認態様に変化される）期間を短縮することができ、視認態様の変化から光を遮蔽した球の個数を正確に把握することが容易となる。

【１２８３６】

なお、受光素子Ａ６３８ｂや開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃの配設位置は本体の右側部に限定されるものではなく、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光の進行方向、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０への到達する際の光の進行方向に合わせて変更可能である。例えば、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光の進行方向が上下方向上向きである場合には、受光素子Ａ６３８ｂや開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃを本体の下側部に設けることで、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０までの光の経路を最短とすることができる。

【１２８３７】

上述の発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が真下から上方へ進行する態様の場合には、開閉板Ａ６５１の上面の形状と、主経路形成部Ａ６３２ｃによる流下面の形状とを異ならせることで、光を遮蔽した球が開閉板Ａ６５１の上面側を流下しているか、下面側を流下しているかの把握に役立つ場合がある。例えば、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が通過する左右位置において開閉板Ａ６５１の傾斜角度が緩くなる（即ち、開閉板Ａ６５１の正面視の形状が中心の角度が鈍角のＶ字形状とされる）ように構成した場合、開閉板Ａ６５１上で発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光を遮蔽する球は、開閉板Ａ６５１の形状により流下速度が減速される一方で、開閉板Ａ６５１の下面側を流下する球はそのような減速の作用が生じないことから、光が遮蔽される期間に長短の違いが生じ、光が遮蔽される期間が長い場合には開閉板Ａ６５１の上面側を流下している球の作用であり、光が遮蔽される期間が短い場合には開閉板Ａ６５１の下面側を流下している球の作用であるという目安として把握させることができる。

【１２８３８】

なお、開閉板Ａ６５１の上面の形状と、主経路形成部Ａ６３２ｃによる流下面の形状とが同じであっても（例えば、両方とも平面）、これらが非平行（傾斜角度違い）とされることで、開閉板Ａ６５１上を転動する球の流速と、主経路形成部Ａ６３２ｃによる流下面を転動する球の流速とを異ならせることができるため、形状を異ならせた場合と同様に、光を遮蔽している球が開閉板Ａ６５１の上下どちらの位置を流下しているかの目安とすることができる。なお、開閉板Ａ６５１の上面の形状と、主経路形成部Ａ６３２ｃによる流下面の形状とを異ならせる設計（又は、非平行とする設計）は、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光の進行方向と関係なく採用しても良い。

【１２８３９】

また、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）は、光が略左右方向（若干傾斜した方向）に進行する態様（特に、中心軸ＡＬＣＣの進行方向が、張出状態（閉鎖状態）における開閉板Ａ６５１の下面と、当該開閉板Ａ６５１の下面と対向配置される主経路形成部Ａ６３２ｃによる流下面との間における球の流下軌跡内を通過する方向とされる態様）としても良い。この場合は、例えば、開閉板Ａ６５１の右端から、張出状態において光が照射される位置としての延設部を下方に延設することで（正面視略Ｌ字（又は反Ｌ字）形状）、開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）では当該延設部に光が照射されず、張出状態（閉鎖状態）では当該延設部に光が照射され、進行方向が変化される構成とすることができる。

【１２８４０】

開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされ当該延設部に照射されなかった場合の中心軸ＡＬＣＣの光が後側導光板Ａ１５６９４に入射し、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされ当該延設部に照射され進行方向が変化された光ＡＬＣ２が前側導光板Ａ１５６９３に入射する態様で、表示装置Ａ１５６９０を配設すれば、開閉板Ａ６５１の状態の変化に対応させて、透明板Ａ１５６９２を通して視認される視認態様を変化させることができる。

【１２８４１】

この場合、主経路形成部Ａ６３２ｃによる流下面上に球がある状況では常に球により光が遮蔽され、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が到達される位置に配設される表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０における視認態様が変化される（光が到達しない場合の視認態様に変化される）期間が長期化される。この場合、視認態様の変化から球の個数を正確に把握することは難しいが、流下領域ＡＲ６５における球の位置に関わらず視認態様が変化されるため、流下領域ＡＲ６５に球が流入したことについて最速で知覚することができる。また、流下領域ＡＲ６５から全ての球が排出された時点で視認態様が変化される（戻る）ため、前側導光板Ａ１５６９３に光が入射可能な状況においてラウンド遊技が終了したにも関わらず、前側導光板Ａ１５６９３の形状Ａ１５６９３ａが視認されない場合には流下領域ＡＲ６５に球が残っている場合が想定され、遊技者のオーバー入賞に対する期待感を高めることができる。

【１２８４２】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、第１領域ＡＲ６３１ａに「正方形」の図形の刻印がされ、第２領域ＡＲ６３１ｂに「菱形」の図形の刻印がされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１領域ＡＲ６３１ａに「閉鎖」との刻印がされ、第２領域ＡＲ６３１ｂに「開放」との刻印がされでも良い。また、第１領域ＡＲ６３１ａに「確変」との刻印がされ、第２領域ＡＲ６３１ｂに「時短？」との刻印をすることで、照射領域ＡＲ６３１を視認した場合に大当たり遊技終了後の遊技状態を示唆するように構成しても良い。
【１２８４３】
例えば、大当たり遊技終了後に確変となる大当たり種別では大当たり遊技におけるラウンド間インターバルがラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１（２．０秒）で制御される一方、大当たり遊技終了後に時短となる大当たり種別では大当たり遊技におけるラウンド間インターバルが短時間（０．５秒）で制御されるようにすることで、第１領域ＡＲ６３１ａが明るく視認される時間の長さを変化させ、その変化によって大当たり遊技終了後の遊技状態が示唆されることから、照射領域ＡＲ６３１に対する注目力を向上させることができる。
【１２８４４】
なお、照射領域ＡＲ６３１の態様が、第１３３実施形態と、その他の実施形態とで異なるが、これらは相反するものではなく、互いに流用が可能に構成される。また、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０についても、それぞれ記載された第１３３実施形態や第１３９実施形態に専用のものではなく、他の実施形態で採用することは何ら制限されるものではない。
【１２８４５】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、後側導光板Ａ１５６９４において「開放」との文字が形成される位置に「閉鎖」との文字を形成し、高さ範囲ＡＨ１，ＡＨ２に収まる各位置において「開放」との文字をそれぞれ形成することも可能であることを説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、前側導光板Ａ１５６９３も後側導光板Ａ１５６９４と同様の範囲に高さ範囲ＡＨ１～ＡＨ３が設定され、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４における高さ範囲ＡＨ１の同様の位置に「開放」との文字が視認可能となる形状でそれぞれ加工が施され、高さ範囲ＡＨ２の同様の位置に「閉鎖」との文字が視認可能となる形状でそれぞれ加工が施され、高さ範囲ＡＨ３には「開放」との文字も「閉鎖」との文字も視認されない形状で構成されるようにしても良い。
【１２８４６】
この場合において、前側切替部材Ａ１５６９５の配置箇所にも、後側切替部材Ａ１５６９６を配置させることで、前側導光板Ａ１５６９３に対する光の入射についても、高さ範囲ＡＨ１～ＡＨ３のいずれかの範囲に限定した態様が可能となる。
【１２８４７】
この場合、高さ範囲ＡＨ１に光が入射される場合には「開放」との文字が光により描かれる一方で、高さ範囲ＡＨ２に光が入射される場合には「閉鎖」との文字が光により描かれる。そのため、前後一対で配置される後側切替部材Ａ１５６９６を変位させることにより、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４への光の入射が高さ範囲ＡＨ１に限定されるようにすることで、透明板Ａ１５６９２を通して視認される態様を開閉板Ａ６５１の状態に関わらず「開放」との文字とすることができるし、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４への光の入射が高さ範囲ＡＨ２に限定されるようにすることで、透明板Ａ１５６９２を通して視認される態様を開閉板Ａ６５１の状態に関わらず「閉鎖」との文字とすることができる。
【１２８４８】
例えば、大当たり遊技におけるラウンド間インターバル期間が、ラウンド間第２インターバル期間（１．０秒）で統一されている場合には、ラウンド間インターバル期間におい

て遊技球が開閉板Ａ６５１上に到達する場合の球損が生じ難い構成となっているため、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となるタイミングに合わせて球の発射を停止させることによる利点は少ない。そこで、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となっても敢えて「閉鎖」ではなく「開放」との文字を視認させることで、球の発射の停止を促すことを避けることができ、遊技者に「打ちっぱなし」の発射態様を維持させることができ、遊技ストレスの低減を図ることができる。

【１２８４９】

なお、前側切替部材Ａ１５６９５を変位させ開口部Ａ１５６９１ｂを閉鎖（遮蔽）させる制御を実行することによっても、同様の効果を生じさせることができる。例えば、１ラウンド目のラウンド遊技中に開口部Ａ１５６９１ｂを閉鎖（遮蔽）させる制御により、以降のラウンド間インターバル期間において前側導光板Ａ１５６９３に光が入射されなくなることで、後側導光板Ａ１５６９４への光の入射による視認態様が目に残るためである。この作用は、上述した片側非視認態様でも同様に生じるが、開口部Ａ１５６９１ｂを閉鎖（遮蔽）させる制御の利点の一つは、発光強度が限定されないことにある。即ち、大当たり遊技直前における小当たり遊技中ならばまだしも、その小当たり遊技において特定入賞口Ｈ６５で入賞が検出されたことに基づいて大当たり遊技が開始される場合もあり、大当たり遊技では発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）を最大限明るく発光させて遊技者の興趣の向上を図りたいところ、片側非視認態様ではこれが制限されるため、設計の自由度が下がる。一方で、前側切替部材Ａ１５６９５を変位させ開口部Ａ１５６９１ｂを閉鎖（遮蔽）させる制御では、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の明るさが制限されることがないため、大当たり遊技において最大限明るく発光させて遊技者の興趣の向上を図ることができる。

【１２８５０】

また、例えば、大当たり遊技におけるラウンド間インターバル期間が、ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１（２．０秒）の場合には、ラウンド間インターバル期間において遊技球が開閉板Ａ６５１上に到達する場合の球損が生じ得るため、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となるタイミングに合わせて球の発射を停止させることによる利点がある。そこで、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となった場合には「閉鎖」との文字を視認させることで、球の発射の停止を促すことができ、集中した状態で遊技を行わせることができる。

【１２８５１】

なお、光の入射態様は、大当たり遊技中において常に同じ状態としても良いし、途中で変化されるように構成しても良い。例えば、残りのラウンド遊技が少なくなったタイミング（例えば、残り３ラウンドで終了のタイミング）において、前側導光板Ａ１５６９３には高さ範囲ＡＨ１ではなく高さ範囲ＡＨ２において光が入射されるように、前後一対で配置される後側切替部材Ａ１５６９６の少なくとも一方を変位させることにより、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされた場合に透明板Ａ１５６９２を通して視認される態様が「閉鎖」に切り替えられるようにすることができる。

【１２８５２】

これにより、遊技者に対して、大当たり遊技がもうすぐ終了することを報知することができ、これを視認した遊技者は、大当たり遊技の終了に合わせて遊技球の発射を停止させることで損球を発生させないようにするための準備を行うことが可能となる。

【１２８５３】

開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされた場合に透明板Ａ１５６９２を通して視認される態様が「閉鎖」に切り替えられるようにすることは、大当たりＢの場合において、ラウンド遊技の進行中における特定のタイミング（７球目の入賞時）において開閉板Ａ６５１が短時間閉鎖される場合に、特に必要となる。後側導光板Ａ１５６９４に形成される形状の光が視認され続ける間において瞬間的に前側導光板Ａ１５６９３に形成される形状の光が視認されるタイミングが生じるという違いにより、大当たり種別について判別することが可能とされるためである。

【１２８５４】
少なくとも、ラウンド遊技の進行中における特定のタイミング（７球目の入賞時）においては前側切替部材Ａ１５６９５を開口部Ａ１５６９１ｂから退避する位置に位置させることで（最も容易には、ラウンド遊技において開口部Ａ１５６９１ｂから退避する位置に維持させることで）、開閉板Ａ６５１が動作される大当たり遊技の大当たり種別（大当たりＡ，Ｂ）について透明板Ａ１５６９２を通した視認態様により把握が可能となり、遊技者の注目力の向上を図ることができる。
【１２８５５】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、開閉板Ａ６５１及びカバー部材Ａ６３０に光を照射可能な発光部Ａ６６１が可変入賞装置Ａ６５に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、正面枠Ｐ１４の電飾部Ｐ３１から後方側へ照射され、ガラスユニットＨ１６を通過して可変入賞装置Ａ６５に到達する光が、開閉板Ａ６５１及びカバー部材Ａ６３０に照射されるようにしても良い。
【１２８５６】
可変入賞装置Ａ６５に発光部Ａ６６１が配設される場合のように、ガラスユニットＨ１６よりも後方側からの光照射の場合、光の照射態様が、正面枠Ｐ１４よりも前方側の領域における物体の動きの影響（例えば、遊技者により光が遮られる影響）を受け難いため、開閉板Ａ６５１と発光部Ａ６６１の光との対応関係を良好に保ち易くすることができる。一方で、発光部Ａ６６１の配設位置が限定されるため、設計自由度が低くなる場合がある。
【１２８５７】
これに対し、電飾部Ｐ３１に例示されるように、正面枠Ｐ１４の前方側の領域に光源を配置する場合には、光源を配設させる領域が限定されず、設計自由度を向上させることができる。
【１２８５８】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が開閉板Ａ６５１に完全に遮られる（反射される）のではなく、一部は表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０側に通過して、入射され、遊技者に視認される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【１２８５９】
例えば、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が、遊技者目線において、開閉板Ａ６５１に完全に遮られ（反射され）ることで、開閉板Ａ６５１の遊技者目線の手前側（上方側）において遊技者に視認されないように構成しても良い。
【１２８６０】
この場合において、開閉板Ａ６５１にＬＥＤ等から構成される発光部を配設し、その発光部の光が表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０に入射されるよう構成することで、その発光部の光を遊技者に視認させることができる。例えば、開閉板Ａ６５１に配設された発光部が、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となった場合にその発光部からの光が開口部Ａ１５６９１ｂに入射される態様で配設されることで、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）の場合は発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が後側導光板Ａ１５６９４に入射され、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）の場合は開閉板Ａ６５１の発光部の光が前側導光板Ａ１５６９３に入射される構成とすることができる。この場合、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光を開口部Ａ１５６９１ｂに導いて利用する場合に比較して、入射させる光の強度の自由度を向上させることができる。これにより、開閉板Ａ６５１の変位に基づく透明板Ａ１５６９２を介した視認態様の変化を生じさせることができる。
【１２８６１】
また、この場合において、例えば、開閉板Ａ６５１に配設された発光部が、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となった場合にその発光部からの光が開口部Ａ１５６９１ｃ

に入射される態様で配設されることで、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）の場合は発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が後側導光板Ａ１５６９４に入射され、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）の場合は開閉板Ａ６５１の発光部の光が後側導光板Ａ１５６９４に入射される構成とすることができる。この場合、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が開口部Ａ１５６９１ｃに入射されない一方で開閉板Ａ６５１の発光部の光が後側導光板Ａ１５６９４に入射され、開閉板Ａ６５１の発光部の光が開口部Ａ１５６９１ｂに入射されない一方で発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が前側導光板Ａ１５６９３に入射される。このようにして、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４の双方に光を入射させる状況を構成可能であって、光を入射させる態様の自由度を向上させることができる。これにより、開閉板Ａ６５１の変位に基づく透明板Ａ１５６９２を介した視認態様の変化を生じさせることができる。

【１２８６２】

なお、このままでは各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４とも発光され、どちらが光っているのかの判別が困難となるが、視認させたい態様に応じて、前側切替部材Ａ１５６９５や後側切替部材Ａ１５６９６を動作制御することで、いずれかの導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４における表示を視認させるように構成することができる。

【１２８６３】

また、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４に入射される光源が共通である場合と異なり、消灯により光の入射を中断する場合に、導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４双方ではなく、いずれかを選択した制御とすることができる。これにより、光を入射させる態様の自由度を向上させることができる。

【１２８６４】

また、光透過性の開閉板Ａ１１６５１と、不透明の材料から形成される疑似開閉板Ａ１１６５３とを利用する場合において、疑似開閉板Ａ１１６５３側に発光部を設けることで、これらが一体で動作する場合において、当該発光部の光を表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０に入射させることもできるし、疑似開閉板Ａ１１６５３は退避状態（開放状態）とされ、開閉板Ａ１１６５１のみが張出状態（閉鎖状態）とされた場合において、固定の発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光を入射させることもできる。

【１２８６５】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、開閉板Ａ６５１の上下方向の一方の側（上側）に表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０が配設され、他方の側（下側）に発光部Ａ６６１が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ６５１に対して表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０が下側に配設され、発光部Ａ６６１が上側に配設されるようにして、光を下方向きに照射させるようにしても良い。この場合、光源近傍の光が遊技者の目に入り難くすることができるので、眩しさが抑えられる。

【１２８６６】

また、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０と発光部Ａ６６１とが開閉板Ａ６５１に対して同じ側に配設されるようにしても良い。即ち、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０と発光部Ａ６６１とが開閉板Ａ６５１に対する上側または下側に配設されるようにしても良い。即ち、発光部Ａ６６１の光が張出状態（閉鎖状態）における開閉板Ａ６５１で反射された場合に到達する位置に第１受光部Ａ６３８ｃや開口部Ａ１５６９１ｂが配設され、発光部Ａ６６１の光が退避状態（開放状態）における開閉板Ａ６５１で反射された場合に到達する位置に第２受光部Ａ６３８ｄや開口部Ａ１５６９１ｃが配設されるように構成することで、表示態様を流用することが可能となる。

【１２８６７】

この場合、開閉板Ａ６５１の両側に表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０と発光部Ａ６６１とが位置する場合と違い、開閉板Ａ６５１の前方側におけるカバー部材Ａ６３０との間の隙間に光を通す必要がなく、開閉板Ａ６５１で反射させた光を表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０に入射させるように構成すれば良いので、設計の自由度を向上させることができる

。即ち、開閉板Ａ６５１とカバー部材Ａ６３０との間の隙間が生じないように構成したり、発光部Ａ６６１の配置をより後方側にしたりすることも可能となる。

【１２８６８】

また、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０と発光部Ａ６６１とが開閉板Ａ６５１の下側に配設される場合において、発光部Ａ６６１から照射された光は、開閉板Ａ６５１よりも下側を流下する球による影響は受ける（光が受光素子Ａ６３８ｂに受光されない状態が構成される）一方で、開閉板Ａ６５１の下面で反射された光が表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０に入射される仕組み上、開閉板Ａ６５１の上面側を流下する球による影響を受けないように構成される。

【１２８６９】

これにより、開閉板Ａ６５１の下面側を流下する球（オーバー入賞を生じさせる球）が生じた場合には表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０の表示が切り替えられる一方（「ＩＮ」と表示される一方）、開閉板Ａ６５１の上面側を流下する球が生じたことによっては表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０の表示が切り替えられないように構成することができる。

【１２８７０】

なお、理解を容易とするために表示部Ａ６３８ａの近傍に受光素子Ａ６３８ｂが配置される場合を説明したが、当然、これらの構成は離間配置するように構成しても良い。即ち、受光素子Ａ６３８ｂと表示部Ａ６３８ａとが離間配置されても良い。この場合、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光の照射方向（放射状に広がる光の到達範囲）に配置させることが好ましい受光素子Ａ６３８ｂの配置に表示部Ａ６３８ａの配置が限定されることを避けることができ、表示部Ａ６３８ａの位置の自由度を向上させることができる。

【１２８７１】

例えば、受光素子Ａ６３８ｂを、流下領域ＡＲ６５の近傍（例えば、流下領域ＡＲ６５側に張り出す位置）に配設するようにしても良い。この場合、受光素子Ａ６３８ｂに到達するまでの光の経路を短くすることができ、光の減衰や角度ずれによる受光エラーを避け易くすることができる。

【１２８７２】

表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０が開閉板Ａ６５１との関係が斜め位置の関係となる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、正面視において、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０が開閉板Ａ６５１の真上に位置しても良いし、真下に位置しても良いし、真左に位置しても良いし、真右に位置しても良い。いずれの場合であっても、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０と開閉板Ａ６５１とを独立して視認可能であり、一方が他方を隠すという事態が生じないように構成することができる。

【１２８７３】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、照射領域ＡＲ６３１が開閉板Ａ６５１とは正面視で離間した位置に視認される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ６５１の先端部や第３発光部Ａ６６４の光が到達する部位の形状を、反射光が開閉板Ａ６５１の前方や流下領域ＡＲ６５の前方に向かうように構成することで、正面視において照射領域ＡＲ６３１（第１領域ＡＲ６３１ａと第２領域ＡＲ６３１ｂとを含む領域）の少なくとも一部が開閉板Ａ６５１と重なったり流下領域ＡＲ６５と重なったりといった構成とすることができる。

【１２８７４】

この場合、照射領域ＡＲ６３１における視認態様の変化と開閉板Ａ６５１の状態の変化とを同時に視界に入れ易くなり、目線を動かす必要が無いので、遊技負担の低減を図ることができる。特に、開閉板Ａ６５１に反射した光が前方へ向かう場合、正面視において張出状態（閉鎖状態）における開閉板Ａ６５１の先端部（前端部）を極めて明るく視認させることができ、開閉板Ａ６５１の状態の識別を容易とさせることができる。

【１２８７５】

これは、ベース部材Ａ６１０の後方側に発光部（ＬＥＤ等）を配置して前方へ光を出射する態様では、開閉板Ａ６５１の先端部に光が届かないために困難な作用であって、第３

発光部Ａ６６４のように発光部の配置を工夫したことで好適に生じた効果である。
【１２８７６】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、張出状態（閉鎖状態）の開閉板Ａ６５１の上面を転動する球がカバー部材Ａ６３０側に寄る前後位置に位置することで第３発光部Ａ６６４の光が球に反射する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ６５１の上面を転動する球がカバー部材Ａ６３０から離れてベース部材Ａ６１０側に寄る前後位置に位置することで第３発光部Ａ６６４の光が球に反射せずに照射領域ＡＲ６３１に到達するよう構成しても良い。
【１２８７７】
これは、例えば、突出部Ａ６５１ａが開閉板Ａ６５１の先端部に一箇所ではなく、間隔を空けずに複数箇所に配設されることにより、実現可能である。球は突出部Ａ６５１ａにより絶えずベース部材Ａ６１０側に寄せられることとなり、開閉板Ａ６５１の先端部よりもカバー部材Ａ６３０側に移動することが回避される。この場合、インターバルにおいて開閉板Ａ６５１の上面を左方へ通過する球（特定入賞口Ｈ６５ａに流入しない球）によって照射領域ＡＲ６３１の視認態様が変化されることを避けることができ、照射領域ＡＲ６３１の視認態様に変化を生じさせるのは、開閉板Ａ６５１の開閉と、特定入賞口Ｈ６５ａに流入し得る球のみとさせることができるので、照射領域ＡＲ６３１の視認態様から得られる情報をシンプルにすることができ、遊技負担を低減させることができる。
【１２８７８】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、開閉板Ａ６５１に突出部Ａ６５１ａを設け、球の重みによる開閉板Ａ６５１の前傾変位を生じ難くする場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球の重みにより開閉板Ａ６５１が前傾変位し得るように構成しても良い。
【１２８７９】
この場合、開閉板Ａ６５１の張出状態（閉鎖状態）において開閉板Ａ６５１に照射され表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０に到達する光ＡＬＣ２の進行方向が、開閉板Ａ６５１の前傾変位により変化された場合に、表示装置Ａ６３８の第１受光部Ａ６３８ｃや表示装置Ａ１５６９０の開口部Ａ１５６９１ｂに入射されない（位置ずれさせる）ように構成することで、張出状態（閉鎖状態）における開閉板Ａ６５１に球の重みがかけられた場合に表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０の視認態様が変化され、遊技者は開閉板Ａ６５１に球の重みがかけられたことに気づくことができる。
【１２８８０】
この変化は、光が球に反射されることによるものではなく、開閉板Ａ６５１に球の重みがかけられることにより生じるものであり、開閉板Ａ６５１の左右長さの内のいずれの位置に球があるかに関わらない。これにより、開閉板Ａ６５１に球の重みがかけられたことに気づいた遊技者は、球が開閉板Ａ６５１の左端から零れる前（球の重みがかけられなくなり表示態様が元に戻る前）に開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）に変化されれば、開閉板Ａ６５１に重みをかけていた遊技球がそのまま流下領域ＡＲ６５に流入されることから、早急に開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）へ変化することを期待するため、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０に注目することになる。これにより、第３図柄表示装置Ｈ８１で実行される演出に注目しながら表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０については視界の隅に収めるといった遊技態様で遊技を行う遊技者に対して、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０への注目力を向上させることができる。
【１２８８１】
なお、開閉板Ａ６５１の前傾変位による光ＡＬＣ２の進行方向のずれは、前方側への位置ずれであるため、表示装置Ａ１５６９０の前側切替部材Ａ１５６９５の外側の面に検出部が配設される場合であっても、前側切替部材Ａ１５６９５は退避位置において開口部Ａ１５６９１ｂの後方側に位置するため、進行方向がずれた光ＡＬＣ２が検出部に照射される事態は生じないため、当該検出部と、開閉板Ａ６５１が球の重みにより前傾変位し得る態様とは、問題なく同時に採用することが可能である。

【１２８８２】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態、特に第１３５実施形態）では、照射領域ＡＲ６３１の視認態様が開閉板Ａ６５１，Ａ１０６５１，Ａ１１６５１が退避状態（開放状態）で維持される場合にも変化され得る場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２発光部Ａ６６３からの光照射により、カバー部材Ａ６３０に、矢印ＡＥＤ６５方向視において張出状態（閉鎖状態）の開閉板が視認される態様のホログラムを生じさせるよう構成しても良い。
【１２８８３】
この場合、矢印ＡＥＤ６５方向視でカバー部材Ａ６３０を通して流下領域ＡＲ６５を視認している遊技者に対して、実際には開閉板Ａ６５１，Ａ１０６５１，Ａ１１６５１が退避状態（開放状態）であるにも関わらず、張出状態（閉鎖状態）となっているかのように錯覚させることができ、大当たり遊技において球発射の操作を促すタイミングを第２発光部Ａ６６３の発光の制御によって変化させることができる。
【１２８８４】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、カバー部材Ａ６３０が光透過性の樹脂材料から形成されており、入賞検出センサＡＳＣ６５が視認可能となっている場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、非透過性の遮蔽部材が配設されることで、入賞検出センサＡＳＣ６５が視認不能となっていても良い。この場合、入賞検出センサＡＳＣ６４についても同様に視認不能となる。
【１２８８５】
この場合、例えば、入賞検出センサＡＳＣ６５がどの位置にあるのかを判別できないことから、入賞検出センサＡＳＣ６５における検出を不正に生じさせることで不正の利益を受けようとする不正行為（例えば、「糸付き球」を利用した不正行為）をされ難くすることができる。
【１２８８６】
なお、遮蔽部材としては、種々の態様が例示される。例えば、カバー部材Ａ６３０を非透過性の材料で構成するようにしても良いし、カバー部材Ａ６３０に非透過性の塗料を部分的に塗ることで遮蔽するようにしても良いし、カバー部材Ａ６３０に非透過性のシート部材を貼り付けるようにしても良い。種々の態様から、透過させる範囲と、非透過とさせる範囲とを、任意に選定することが可能とされる。
【１２８８７】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、第１電飾基板Ａ６６０及び表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０がカバー部材Ａ６３０，Ａ１５６３０に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１電飾基板Ａ６６０及び表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０がベース部材Ａ６１０側に配設されても良い。この場合、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０の配置のためのスペースをカバー部材Ａ６３０，Ａ１５６３０に確保する必要が無いので、カバー部材Ａ６３０，Ａ１５６３０に施すデザインの設計自由度を向上させることができる。
【１２８８８】
また、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０が開閉板Ａ６５１よりも下方に配設され、矢印ＡＥＤ６５方向視などの遊技者目線で、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０と退避状態（開放状態）の開閉板Ａ６５１とは重ならないが、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０の少なくとも一部が張出状態（閉鎖状態）の開閉板Ａ６５１により隠される場合を構成しても良い。
【１２８８９】
この場合、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０の表示は開閉板Ａ６５１の状態の違いに対応して変化されることは、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０が開閉板Ａ６５１に隠されない場合と同じとしながら、開閉板Ａ６５１の状態の切り替えが、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０の表示が視認される場合（開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）に相当）と、

表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０の表示が少なくとも一部において張出状態（閉鎖状態）の開閉板Ａ６５１に隠される場合とで、切り替えられることから、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０の表示を視認していたら表示に重なる位置に開閉板Ａ６５１が張り出してくることをもって状態の切り替えを把握させるという視認態様を実現できる。

【１２８９０】

この場合には、開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）において流下領域ＡＲ６５に流入する遊技球により表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０の表示が隠される場合が生じ得るため、表示の視認性が低下する可能性があるという問題点が生じ得る。一方で、遊技球により隠される範囲は表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０の一部に過ぎないことに加え、遊技球はその場にとどまることはなく、流下により表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０と重なる位置から去るため、遊技に支障が生じるほどの問題点となるかどうかは状況による。

【１２８９１】

また、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０の配置は、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０で説明した位置に限らず、種々の態様が例示される。例えば、開閉板Ａ６５１の上方位置において開閉板Ａ６５１の左右幅よりも長い左右幅の表示を実行可能に構成されても良いし、開閉板Ａ６５１を部分的に囲む態様（例えば、下方側および右方側を囲む態様）の表示を実行可能に構成しても良い。この場合、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０の表示の変化を視認するために注目すれば良い箇所を広範囲に設けることができるので、遊技者の遊技態様を過度に制限することがなく、同じ箇所ばかり注目していないといけない場合に比較して、遊技者の遊技ストレスを低減させることができる。

【１２８９２】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０において表示部Ａ６３８ａ又は透明板Ａ１５６９２の表示方向が正面側を向く場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。表示方向は想定される遊技の態様に基づいて任意に設定可能であり、例えば、矢印ＡＥＤ６５に対向する方向を向くように、斜め上側に傾斜する表示方向とされても良い。この場合、矢印ＡＥＤ６５の方向視で開閉板Ａ６５１側を視認する遊技者に対して表示部Ａ６３８ａ又は透明板Ａ１５６９２を介して視認される表示（形状）の視認性を向上させることができ、更に、矢印ＡＥＤ６５の方向と開閉板Ａ６５１の変位方向が交差することから矢印ＡＥＤ６５の方向視における開閉板Ａ６５１の変位の判別を容易とすることができる。

【１２８９３】

この場合、表示部Ａ６３８ａ又は透明板Ａ１５６９２を介して視認される表示（形状）と開閉板Ａ６５１とを同時に視界に収めた遊技者に対して、当該表示（形状）と開閉板Ａ６５１の状態変化とが同時に生じていることを視認させやすくすることができ、表示部Ａ６３８ａ又は透明板Ａ１５６９２を介して視認される表示（形状）と開閉板Ａ６５１との間に関係があることに気づきやすくすることができる。

【１２８９４】

また、表示部Ａ６３８ａ又は透明板Ａ１５６９２の表示方向を変更可能に構成しても良い。この場合において、機能調整操作部Ｈ１９０の操作により表示方向の調整を実行可能となるように構成すれば、遊技者は、自分の遊技スタイルに合わせて表示部Ａ６３８ａ又は透明板Ａ１５６９２の表示方向を見易い方向（または敢えて見難い方向）に変更でき、遊技ストレスを低減することができる。

【１２８９５】

また、近接センサ、磁器センサ、モーションセンサやサーモセンサ等のセンサを搭載し、そのセンサにより遊技者の顔の位置や目線を検出（推測）し、その検出（推測）結果に対応させて表示部Ａ６３８ａ又は透明板Ａ１５６９２の表示方向が変更される制御が実行可能となるように構成しても良い。この場合において、表示方向が変更される制御を実行するか否か、実行する場合において表示方向を遊技者が見やすい方向とするか見難い方向とするか等の選択ができるように構成することで、遊技ストレスを低減することができる。

【１２８９６】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、可変表示装置ユニットＨ８０やセンターフレームＡ８６の周囲範囲の近傍に小型の表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、少なくとも開閉板Ａ６５１よりも大きいサイズで表示部Ａ６３８ａ又は透明板Ａ１５６９２が構成されるようにしても良い。
【１２８９７】
この場合、サイズ変更に合わせて視認させる表示態様を大型化する（表示部Ａ６３８ａを大型化する、導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４を大型化する）ことができるので、表示部Ａ６３８ａ又は透明板Ａ１５６９２を通して視認される形状の識別性を向上させることができる。
【１２８９８】
なお、この場合、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０の上下に渡って光を到達させるために、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）を構成するＬＥＤを増やしたり、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光の光量を増大させたりする設計変更をする方が、例えば透明板Ａ１５６９２を通して視認させる形状を明確に視認させることができる。
【１２８９９】
例えば、カバー部材Ａ６３０，Ａ１５６３０の板状本体Ａ６３１が、センターフレームＡ８６の右下縁部よりも左上方向に延設されるように構成し、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０を可変表示装置ユニットＨ８０やセンターフレームＡ８６の周囲範囲の内側に配置するように構成しても良い。この場合、第３図柄表示装置Ｈ８１に注目している遊技者の視界に表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０が収まりやすくすることができる。
【１２９００】
なお、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０の発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの距離が離れるほど十分な光を到達させることは難しくなるが、流下領域ＡＲ６５を通過した光が入射可能な位置に光ファイバーの一端を配設し、その光ファイバーの他端から出射された光が表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０に入射可能となるように光ファイバーの他端を表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０に近接配置させることにより、距離が離れていても光の減衰を抑えて光を進行、伝送させることができる。
【１２９０１】
または、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光を検知する検知部を、開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）で流下領域ＡＲ６５外に進行する位置と、開閉板Ａ６５１の張出状態（閉鎖状態）で流下領域ＡＲ６５外に進行する位置とに該当する位置としての流下領域ＡＲ６５の近傍位置にそれぞれ配置し、その検知部における光の検出態様に応じて光を出射するように制御されるＬＥＤからの光が表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０に入射可能となるように当該ＬＥＤを表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０に近接配置（第１樹脂部材Ａ１５６９８ａ及び第２樹脂部材Ａ１５６９８ｂを挟んで開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃの反対側の位置に配置）させるようにしても良い。この場合も同様に、当該ＬＥＤからの光の出射態様を開閉板Ａ６５１の状態の違いに対応させたものとすることができる。
【１２９０２】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、開閉板Ａ６５１（及び開閉板Ａ６５１と関連して動作される部材）が前後方向にスライド移動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ６５１（及び開閉板Ａ６５１と関連して動作される部材）の移動態様は、少なくとも一つにおいて、回転移動でも良いし（この場合の回転軸の方向は、横方向でも縦方向でも斜め方向でも良い）、スライド移動と回転移動とを組み合わせた態様の移動でも良い。
【１２９０３】
上述した第１３８実施形態では、開閉板Ａ６５１の先端部（前端部）が近接離反する位置において導光板Ａ１４６３８を配設し、光を視認させる態様を説明したが、例えば、開

閉板が回転移動により開口部を開閉させる態様である場合（例えば、矩形の開閉板の下辺から左右両側に回転軸が延設され、左右方向に延びる回転軸で前傾姿勢と起立姿勢との間を回転移動され、前後方向に開口される開口部が開閉板の前傾姿勢において開放され、起立姿勢において開口部が閉鎖される態様の場合）に、開閉板の開閉先端部が開口部と近接離反する側（開口部の上縁側）において開口部の縁部に沿って発光部が複数配設されるようにしても良い。

【１２９０４】

この場合において、開閉板の回転先端部よりも上側の位置に発光部を配設した場合、開閉板が傾倒姿勢であるか起立姿勢であるかに関わらず、発光部への視界が開閉板に遮蔽されることを避けることができ、発光部による演出効果を向上させることができる。

【１２９０５】

また、この場合において、開閉板の後方側（起立姿勢において開閉板と正面視で重なる位置、例えば、正面視において開口部の内方側）に発光部を配設してもよい。この場合、開閉板が傾倒姿勢である場合には、発光部への視界が開閉板に遮蔽されることを避ける一方で、開閉板が起立姿勢である場合には、発光部への視界を開閉板によって遮蔽する状態を構成することができる。

【１２９０６】

そのため、発光部の光照射を継続している状態において開閉板が開閉すると、開閉板による遮蔽によって遊技者への光の到達が途切れるため、光の視認態様の変化を視認することで、開閉板が開閉されていることを把握することが可能となり、開閉板を直接視認しなければならない場合に比較して、遊技ストレスを低減させることができる。

【１２９０７】

また、往復動作の態様である場合に限られない。例えば、２段階の動作によって流下領域ＡＲ６５を開閉するものでも良い。一例として、張出状態（閉鎖状態）となった開閉板Ａ６５１が、前後位置はそのままで前後方向の回転軸で回転する態様で姿勢変化することで、上面の傾斜角度を変化させ、球の減速態様が変化されるようにしても良い。

【１２９０８】

例えば、開閉板Ａ６５１が複数層の板部材により構成されており、張出状態（閉鎖状態）となった後で、各板部材が長手方向にずれる態様で相対移動されることで正面視の形状が変形（伸長）され、この変形された状態において流下領域ＡＲ６５の上面側を閉鎖するように構成しても良い。この場合、流下領域ＡＲ６５の上面側を開放する退避状態（開放状態）では、複数層の板部材が左右に位置ずれせず重ねられた状態とすればよく左右幅が抑えられるため、ベース部材Ａ６１０の後方側における開閉板Ａ６５１の収納スペースの左右幅を抑えることができる。

【１２９０９】

このように２段階で動作される場合において、開閉板Ａ６５１と重なる位置に導光板Ａ１４６３８を配設し、基板Ａ１４６３９からの光により特定の形状を遊技者に視認させる構成において、光により視認される形状を開閉板Ａ６５１の外形に合わせた形状で変化可能に構成しても良い。

【１２９１０】

例えば、開閉板Ａ６５１の上面の傾斜角度が変化される態様では、導光板Ａ１４６３８により視認される線状の光の傾斜角度を複数態様で生じさせることが可能となるように導光板Ａ１４６３８の切欠き（溝部）を構成し、発光手段Ａ１４６３９ａを構成する複数のＬＥＤの内、どのＬＥＤを発光させるかによって、異なる傾斜角度の線状の光を視認させられるようにしても良い。この場合、開閉板Ａ６５１の上面の傾斜角度が変わっても、発光させるＬＥＤを変化させることで開閉板Ａ６５１の傾斜角度に対応した傾斜角度の線状の光を視認させることができ、開閉板Ａ６５１の前方側を（狙って）明るく視認させる状態を維持することができる。

【１２９１１】

また、例えば、開閉板Ａ６５１の正面視の形状が変形（伸長）される態様では、導光板

Ａ１４６３８により視認される線状の光の長さを複数態様で生じさせることが可能となるように導光板Ａ１４６３８の切欠き（溝部）を構成し、発光手段Ａ１４６３９ａを構成する複数のＬＥＤの内、どのＬＥＤを発光させるかによって、線状部位の異なる位置に光を視認させられるようにしても良い。この場合、開閉板Ａ６５１の形状が変形（伸長）されても、発光させるＬＥＤを変化させることで開閉板Ａ６５１の形状（長さ）に対応した線状の光を視認させることができ、開閉板Ａ６５１の前方側を（狙って）明るく視認させる状態を維持することができる。

【１２９１２】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、大当たり遊技のオープニング時間ＯＰ、インターバル期間およびエンディング時間ＥＤが、大当たり種別に対応して決定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技者の操作態様に対応して、大当たり遊技に関する時間が変更可能に構成しても良い。

【１２９１３】

例えば、大当たり遊技が開始された場合に、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいて、操作ハンドルＨ５１が操作されず、球が発射されずに特定入賞口Ｈ６５ａに１球も流入しなかった場合に、１ラウンド目と２ラウンド目とのラウンド間インターバルの長さがラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１よりも長い時間（例えば、３０秒間）とされるように制御しても良い。このように制御することにより、遊技者は１ラウンドを犠牲にすることで２ラウンド目以降の開始を遅らせることができ、休憩時間を確保することができる。更には、大当たり遊技の開始後に球詰まりに気づき、店員による球発射ユニットＨ１１２ａのメンテナンス（詰まり球の除去）が必要となった場合において、ラウンド遊技Ｒにおいて球を発射できないことによる不利益を最小限に抑えることができる。

【１２９１４】

上述の制御が、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒのみではなく、各ラウンド遊技Ｒにおいて有効とされ、ラウンド間インターバルの長さが書き換え可能とされることで、遊技者の不利益をより抑えることができる。

【１２９１５】

また、例えば、最終ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいて、操作ハンドルＨ５１が操作されず、球が発射されずに特定入賞口Ｈ６５ａに１球も流入しなかった場合に、エンディング時間ＥＤの長さが通常よりも長い時間（例えば、３０秒間）とされるように制御しても良い。このように制御することにより、大当たり遊技中に球詰まりが生じ、球発射ユニットＡ１１２ａのメンテナンス（詰まり球の除去）が終了するよりも前に大当たりが終了して、時短遊技が開始されるという事態が生じる可能性を低くすることができる。即ち、エンディング時間ＥＤが長くされることで時間を稼ぐことができ、大当たり遊技の終了直後から球を発射させることが可能となる。

【１２９１６】

これにより、第１入賞口Ｈ６４の入球に伴う抽選よりも第２入賞口Ｈ６４０の入球に伴う抽選の方が遊技者にとって有利である場合であって、第１入賞口Ｈ６４の入球に伴う抽選よりも第２入賞口Ｈ６４０の入球に伴う抽選の方が優先して変動消化される場合（優先変動タイプ）において、第１入賞口Ｈ６４の入球に伴う抽選の保留分が残ったまま大当たり遊技が開始された場合に、第２入賞口Ｈ６４０の入球に伴う抽選の保留分が無くなったことで第１入賞口Ｈ６４の入球に伴う抽選変動が開始された結果、不利な大当たりとなる不利益（所謂「ヘソ落ち」）が生じる可能性を低くすることができる。

【１２９１７】

また、例えば、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）から退避状態（開放状態）に変化される前に、第３図柄表示装置Ｈ８１において、「右打ち（試打）」との表示を行うようにしても良い。この表示がされた場合に、球を発射する操作がされたと検出されなかった場合に、球詰まりが生じている可能性が有ると判断して、オープニング時間ＯＰを加算して通常よりも長く（例えば、３０秒）しても良い。

【１２９１８】
遊技者は、この加算されたオープニング時間ＯＰの間に球発射ユニットＨ１１２ａのメンテナンス（詰まり球の除去）を終えることができれば、開閉板Ａ６５１の状態が変化されることに伴う「右打ち」との表示がされて開始される１ラウンド目のラウンド遊技Ｒから特定入賞口Ｈ６５ａへの入球を開始させることができ、不利益が無くなる。
【１２９１９】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、大当たり遊技におけるラウンド遊技の開始からの経過期間に関わらず、規定個数の入賞が生じた場合には開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）に切り替えられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ラウンド遊技の開始から数秒間（約２～４秒間）は規定個数の入賞が生じたとしても張出状態（閉鎖状態）に切り替えられないように構成しても良い。この場合において、上述の数秒間において、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光のパルス幅を対応するパルス幅（例えば、５［ｍｓｅｃ］）として、表示部Ａ６３８ａに対応する表示（例えば、全開を意味する「ＦＵＬＬ」の文字を採用して「ＦＬ」）を実行するようにしても良い。
【１２９２０】
また、同様の制御を行う場合において、ラウンド遊技における７～９球目の入賞が生じたとしても、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）にされない関係上、表示装置Ａ６３８におけるカウントダウンの表示に切り替えられないように構成しても良い。
【１２９２１】
遊技球の発射は０．６秒間隔なのでラウンド遊技の開始から数秒間（約２～４秒間）には規定個数（１０個）の入賞はそもそも発生し難く、上述のように制御しても通常の遊技に支障はない。一方で、上述のように制御することで、規定個数以上の入賞を生じさせて賞球の払い出しを生じさせることができる。
【１２９２２】
例えば、大当たり遊技の実行中において、発射装置の不良（例えば、球が飛ばない）が生じ、賞球の払い出しを実行できなかったラウンドが発生した場合に、遊技者は本来得られたはずの賞球個数を得られずに不満を持つことになるが、遊技ホールの店員は、ラウンド遊技中に正面枠Ｐ１４を開放させておき、複数の球を手で直接入れることで絶え間なく（０．６秒間隔よりも短い間隔で）入賞させることで、ラウンド遊技の開始から数秒間の間は、規定個数の入賞に限定されずに入賞を生じさせることができる。これにより、賞球の払い出しを実行できなかったラウンド分の球損とのバランスを取ることができ、遊技者の不満を早急に解消することができる。
【１２９２３】
このような事情から、ラウンド遊技の開始から数秒間は規定個数の入賞が生じたとしても張出状態（閉鎖状態）に切り替えられない制御について、予め決められたラウンド遊技（例えば、全てのラウンド遊技、奇数回目のラウンド遊技、偶数回目のラウンド遊技、最初のラウンド遊技、最終ラウンド遊技など）で実行するよりは（もちろんそうすることも可能だが）、特定のラウンド遊技の開始時において、前回ラウンド遊技までのラウンド遊技において入賞球数が規定個数未満（例えば、０個）のラウンド遊技の有無を判定し、当該ラウンド遊技が有る場合に、上述の制御が実行されるように構成する方が好ましい。即ち、大当たり種別に設定される制御態様に対して、入賞態様から制御態様を書き換える（規定個数の入賞が生じたとしても張出状態（閉鎖状態）に切り替えられない制御が生じるように書き換える）ように制御しても良い。
【１２９２４】
これにより、上述の制御が実行されるタイミングを制限し、賞球の払い出しを実行できなかったラウンドの発生に対する不満の解消という効果を奏しながら、賞球の払い出しを実行できなかったラウンドが発生しなかった場合にまで上述の制御が実行され遊技者に不測の利益を与える事態を避けることができる。
【１２９２５】

また、ラウンド遊技の開始から数秒間は規定個数の入賞が生じたとしても張出状態（閉鎖状態）に切り替えられないように構成する期間として、短期間（約２～４秒間）と、長期間（４秒以上）とを生じさせることが可能となるように構成し、当該期間にバリエーションを持たせるようにしても良い。この場合、０．６秒間隔で発射するという通常の遊技においても、当該期間において１０球以上の遊技球が入賞する可能性があるため、意外性のある遊技を実現可能であって、遊技者の興趣の向上を図ることができる。

【１２９２６】

なお、上述のような開閉板Ａ６５１の制御（開放動作されてから一定期間は検出回数に関わらず開放が維持される制御）は、開閉板Ａ６５１に限られるものではなく、他の入賞装置においても流用可能である。例えば、第１球流下構造体Ａ１３００の振分部材Ａ１３８０の制御に流用しても良いし、電動役物Ａ６４０ａの開閉板Ａ６４１の制御に流用しても良い。

【１２９２７】

この場合において、電動役物Ａ６４０ａの制御としては、張出状態（開放状態）とされる長さは第２図柄の当たり抽選の結果によって異なる場合があり、予め設定される規定個数（本実施形態では１０個。１個または２～１０個など任意に設定可能）の球が入賞検出センサＡＳＣ６４に検出された場合には、張出状態（開放状態）とされる長さが経過する前であっても退避状態（閉鎖状態）に切り替えられることが通常である。

【１２９２８】

これに対して、開閉板Ａ６５１の制御（開放動作されてから一定期間は検出回数に関わらず開放が維持される制御）を流用する場合、例えば、張出状態（開放状態）とされる期間が５秒間とされる場合において、その経過前の３秒間においては、規定個数の球が入賞検出センサＡＳＣ６４に検出されたとしても退避状態（閉鎖状態）へ変位させる動作は実行させないように制御を設計する。そのため、３秒間の間は、規定個数を超える個数の球を入賞させることが可能とされ、意外性のある遊技を実現可能となる。

【１２９２９】

例えば、規定個数が１個に設定される場合において、３秒間は退避状態（閉鎖状態）へ変位させる動作が実行されないように制御する場合、入賞検出センサＡＳＣ６４へ向けて球を高頻度で発射させることに意欲的にさせることができるし、入賞検出センサＡＳＣ６４を通過した球が往復動作して繰り返し検出される仕組み（コイルスプリングにより球を押し戻す仕組み）とすることで、入賞検出センサＡＳＣ６４における複数回の検出を高頻度で生じさせることができる。

【１２９３０】

電動役物Ａ６４０ａへの短時間での入賞個数を増加させる手法としては、ホール店員が複数の球を手で直接入れることに限られるものではない。例えば、入賞検出センサＡＳＣ６４の貫通孔を貫通するようにコイルスプリングが配設され、遊技球が入賞検出センサＡＳＣ６４の貫通孔を通過する場合に当該遊技球を通過前の位置に押し戻す方向に付勢力が生じるように構成されることで、開閉板Ａ６４１が開放状態（張出状態）とされ遊技球が入賞検出センサＡＳＣ６４側に案内されている状況において、同じ遊技球が入賞検出センサＡＳＣ６４に繰り返し検出されるという状況を構成することができる。これにより、短時間の入賞個数が遊技球の発射間隔に制限されることを回避することができ、入賞効率を向上させることができる。

【１２９３１】

入賞検出センサＡＳＣ６４の貫通孔を貫通するようにコイルスプリングが配設される場合において、そのコイルスプリングの内径や外径の寸法は入賞検出センサＡＳＣ６４の貫通孔を通過可能な大きさであれば良く、特に限られるものではないが、外径の直径が遊技球の直径（最大幅長さ寸法）よりも小さい構成の方が好ましい。この場合、入賞検出センサＡＳＣ６４の貫通孔の内側面とコイルスプリングとが擦れる事態を避けることができるので、入賞検出センサＡＳＣ６４の照射面や検出面に擦れ跡が発生することを防止できる。

【１２９３２】
　また、この場合において、遊技球の半径最大位置における表面部位（検出光が反射される部位）にコイルスプリングが当接する事態の発生を避けることができる。そのため、遊技球の当接が繰り返された場合に遊技球から与えられる荷重によりコイルスプリングの内径が拡大（拡径）された場合に懸念される、遊技球がコイルスプリングの内径側に嵌り込み、遊技球がコイルスプリングと一体となって往復変位（コイルスプリングの伸縮による変位）を繰り返すという事態（遊技球がコイルスプリングから脱落せずに遊技進行が不可能となる事態）を避けることができる。
【１２９３３】
　更に、遊技球の半径最大位置における表面部位がコイルスプリングとの当接により擦れて、擦り傷が生じて、検出性が悪くなるという事態を避けることができる。即ち、コイルスプリングとの当接により遊技球の表面が摩耗し、遊技球の表面における反射が悪くなり、検出不良となる事態を避けることができる。
【１２９３４】
　更には、外径の直径が遊技球の半径よりも小さい構成の方が好ましい。この場合、入賞検出センサＡＳＣ６４の貫通口の内側に照射される検出光がコイルスプリングで反射された場合であっても、間隔が空いていることから、反射光が受光部に受光される事態を避け易い。これにより、入賞検出センサＡＳＣ６４における誤検出を避けることができる。なお、誤検出を避ける目的のみであれば、コイルスプリングを金属よりも反射性の低い材料（樹脂材料等）で構成するようにしても良いが、耐久性の面からコスト高になり易い。そのため、金属材料を利用した上で、形状面での工夫をして、誤検出を避けるようにした方が良い場合が多い。
【１２９３５】
　また、入賞検出センサＡＳＣ６４を通過した後の遊技球を通過前の位置に押し返す付勢力を生じさせる構成であれば良いので、必ずしもコイルスプリングが入賞検出センサＡＳＣ６４の貫通孔に挿通されている必要は無く、入賞検出センサＡＳＣ６４の下流側に配置され、下流側において伸縮変形する際の付勢力によって遊技球のみを入賞検出センサＡＳＣ６４の貫通孔の上流側へ押し戻すことが可能に構成しても良い。この場合、コイルスプリングの形状を入賞検出センサＡＳＣ６４の貫通孔よりも小さくする必要が無くなり、設計自由度を向上させることができる。
【１２９３６】
　例えば、入賞検出センサＡＳＣ６４の下流側において入賞検出センサＡＳＣ６４の貫通孔の外側にコイル部位を持つ捩りコイルバネ（トーションスプリング）を配設し、その捩りコイルバネのアーム部位を入賞検出センサＡＳＣ６４の貫通孔の延びる方向視において入賞検出センサＡＳＣ６４の貫通孔の内側に位置させることで、入賞検出センサＡＳＣ６４を通過した遊技球にアーム部位を当接させ、アーム部位を介して付勢力を付加するように構成しても良い。
【１２９３７】
　また、入賞検出センサＡＳＣ６４に検出される回数が賞球の払出個数に対応する制御に限らないようにすると、より入賞効率の自由度が向上される。即ち、例えば、電動役物Ａ６４０ａの規定個数が４個とされる場合において、入賞検出センサＡＳＣ６４に単一の遊技球が検出された場合も、遊技球が複数回（最大４回）検出された場合も、同様に制御され、賞球の払出個数や、抽選回数に違いが生じないように構成しても良い。この場合、意図せず球詰まりが生じた場合であっても、入賞検出センサＡＳＣ６４に１球でも入賞すれば、遊技者が不利益を受けることが無いようにすることができる。
【１２９３８】
　また、入賞検出センサＡＳＣ６４の入球検出により賞球が払い出される場合に限られるものではなく、入賞検出センサＡＳＣ６４の入球検出により生じるのは、抽選のみであり、賞球の払出は生じない（払出個数が０個）となるように構成しても良い。この場合、入賞検出センサＡＳＣ６４への入球による、実質的な大当たり確率を変化させる（１球の入

賞検出で４回分の抽選がされるのであれば、実質、大当たり確率は４倍）ことができる一方で、賞球個数が過度に増加するという事態を避けることができる。

【１２９３９】

また、電動役物Ａ６４０ａの規定個数が１個である場合において、開放動作されてから一定期間は検出回数に関わらず開放が維持される制御が実行される場合と、実行されない場合とが、混在するように制御される場合（例えば、普図抽選の異なる当たり種別に、当該制御が実行される場合と、実行されない場合とが、当て嵌められている場合）、入賞検出センサＡＳＣ６４へ遊技球が入賞すること（規定個数の遊技球の入賞検出）により開閉板Ａ６４１が開放状態（張出状態）から閉鎖状態（退避状態）に動作される場合と、入賞検出センサＡＳＣ６４に遊技球が入賞しても上述の一定期間が経過するまでは開閉板Ａ６４１が開放状態（張出状態）で維持され、より多くの入賞が見込める場合と、が生じ得る。

【１２９４０】

そのため、規定個数が１個とされ、１球目の入賞により電動役物Ａ６４０ａが毎回、閉鎖状態（退避状態）に変位される場合よりも、電動役物Ａ６４０ａに対する注目力を向上させることができる。

【１２９４１】

なお、電動役物Ａ６４０ａの規定個数が常時一定とされるのではなく、場合によって変更され得る（例えば、普通図柄の抽選において、抽選が当たりとなった場合の規定個数についても、複数態様（例えば、１球や、２以上の複数）から抽選される）ように制御しても良い。この場合、規定個数が１個とされ、１球目の入賞により電動役物Ａ６４０ａが毎回、閉鎖状態（退避状態）に変位される場合よりも、電動役物Ａ６４０ａに対する注目力を向上させることができる。規定個数の変化は、抽選によるものでもいいし、入賞態様の履歴に基づくようにしても良いし（例えば、開放状態における入賞個数が基準とされる数よりも少ない場合は規定個数を増加させる制御や、開放状態における入賞個数が基準とされる数よりも多い場合は規定個数を減少させる制御）、開放状態となってからの時間経過によって規定個数が変化されるように制御しても良い。

【１２９４２】

例えば、開放状態が維持される規定時間が５秒間であり、開放状態から３秒間は規定個数が１個とされるが、そこから閉鎖状態とされるまでの２秒間は規定個数が２～１０個のいずれかの数に設定されても良い。この場合、入賞検出センサＡＳＣ６４への入球タイミングによって遊技者が得られる利益の大小（入賞個数に基づく賞球個数、抽選回数）が変わるため、遊技球を発射させる操作に対する集中力を向上させ、遊技に没頭させることができる。

【１２９４３】

上述のように入賞検出センサＡＳＣ６４にコイルスプリングが配設され、コイルスプリングの付勢力により遊技球が入賞検出センサＡＳＣ６４から離間する方向に変位する場合において、遊技球の前後位置ずれを抑制することにより、遊技球が入賞検出センサＡＳＣ６４の開口の内側面と衝突する事態を避けやすくなり、遊技球の再度の入賞検出センサＡＳＣ６４への流入をスムーズにすることができる。遊技球の前後位置ずれを抑制する方法としては、例えば、減速突部Ａ６１６，Ａ６３６の左面側部（下流側部）を摩擦抵抗の大きい形状（例えば、遊技球との当接を面当接とするように遊技球の形状に合わせて凹設される形状）とする方法や、摩擦抵抗の大きいシール部材を張り付ける方法が、例示される。

【１２９４４】

いずれの方法（構成）であっても、入賞検出センサＡＳＣ６４から離間する方向（上流側へ向く方向）に遊技球が変位され、減速突部Ａ６１６，Ａ６３６の左面側部（下流側部）に当接された場合において、遊技球の回転（開閉板Ａ６４１の転動面に垂直に交差する回転軸を中心とする回転）を抑制することができ、制動させることで、遊技球の前後位置ずれを抑制することができる。

【１２９４５】
なお、いずれの方法（構成）であっても、減速突部Ａ６１６，Ａ６３６の右面側部（上流側部）に設けることも可能である。この場合、入賞検出センサＡＳＣ６４に近づく方向に遊技球が変位され、減速突部Ａ６１６，Ａ６３６の右面側部（上流側部）に当接された場合において、遊技球の回転（開閉板Ａ６４１の転動面に垂直に交差する回転軸を中心とする回転）を抑制することにより、遊技球の流下中における回転の勢いによる前後変位を抑制することができ、入賞検出センサＡＳＣ６４へ向けて蛇行させる態様で行われる遊技球の案内をスムーズに行うことができる。
【１２９４６】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、操作ハンドルＨ５１は、回転動作されるリング形状の装置である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転動作またはスライド動作可能なスティック形状やレバー形状でも良いし、音量つまり等に代表される回転部材形状でも良いし、押し込みボタン形状でも良い。押し込みボタン形状である場合、押し込み幅を長めに確保し、途中までの押し込みでは遊技球が入賞検出センサＡＳＣ６５に入賞される態様では発射（変位）されず、最大押し込み幅で押し込み操作することで遊技球が入賞検出センサＡＳＣ６５に入賞される態様で発射（変位）されるように構成すれば良い。
【１２９４７】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、第２の大当たり作動パターンにおいて７球目の入賞が検出された場合に即座に開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）に切り替えられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、７球目の入賞が検出されてから若干時間遅れしてから開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）に切り替えられる場合が混在するようにしても良い。即ち、入賞検出センサＡＳＣ６５で入賞が検出されてから開閉板Ａ６５１が動作するまでの期間にバリエーションがあっても良い。
【１２９４８】
この場合、毎回のラウンド遊技における遊技球の入賞態様が同じで、開放から７球目の入賞までの期間が一様であったとしても、開閉板Ａ６５１の動作態様を変化させることができ、開閉板Ａ６５１を利用して大当たり種別を遊技者に把握させる際の演出効果を向上させることができる。
【１２９４９】
この場合、７球目の入賞が検出された場合において、開閉板Ａ６５１の動作はすぐ生じる場合と、すぐには生じない場合がある一方で、表示装置Ａ６３８の表示部Ａ６３８ａには「３」の表示がされるため、開閉板Ａ６５１に対する注目力に比較して、表示部Ａ６３８ａに対する注目力を向上させることができる。
【１２９５０】
なお、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）で維持される期間としては、ラウンド間インターバル期間が複数構成され、それとは異なる期間で第２の大当たり作動パターンにおける７球目入賞時の閉鎖動作による期間が構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）で維持される期間が一通りしかないように構成しても良い。この場合、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされた場合において、次に退避状態（開放状態）へ向けて動作するタイミングを図り易くなり、遊技者が球の遊技をスムーズに行うことができる。
【１２９５１】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、開閉板Ａ１１６５１が無色透明の樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、有色透明の樹脂材料から形成されても良い。この場合、第３発光部Ａ６６４の光が開閉板Ａ１１６５１を通過するか否かで、照射領域ＡＲ６３１の視認態様（少なくとも色）が変化されることになり、開閉板Ａ１１６５１の状態変化に伴う照射領域ＡＲ６３１の視認態様を別のバリエーションで視認させることができる。

【１２９５２】
　また、開閉板Ａ１１６５１の全体が透明の樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、透明の樹脂材料と不透明の樹脂材料とから形成されることで、開閉板Ａ１１６５１が透明な部位と不透明な部位とを有するように構成しても良い。この場合、開閉板Ａ１１６５１を透過させるか否かで、照射領域ＡＲ６３１に到達する光の光量を変化させることができ、開閉板Ａ１１６５１の開閉の状態の切り替えに対応させて照射領域ＡＲ６３１において視認される光の明るさの程度を異ならせることができる。
【１２９５３】
　上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、開閉板Ａ１１６５１が無色透明の樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、不透明な樹脂材料から形成しても良い。
【１２９５４】
　疑似開閉板Ａ１１６５３は、遊技領域内に張り出す変位態様としたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３発光部Ａ６６４の光の経路の少なくとも一部が流下領域ＡＲ６５の外方において構成され、疑似開閉板Ａ１１６５３は遊技球と当接しない遊技領域外において変位され、当該第３発光部Ａ６６４の光の経路に進入する進入状態と、第３発光部Ａ６６４の光の経路から退避する非進入状態とを疑似開閉板Ａ１１６５３が構成可能にしても良い。また、流下領域ＡＲ６５の外方において光の経路が構成されるＬＥＤ等の発光部が第３発光部Ａ６６４の代わりに（又は加えて）配設されても良い。
【１２９５５】
　疑似開閉板Ａ１１６５３の変位態様としては、一例として、疑似開閉板Ａ１１６５３が流下領域ＡＲ６５から退避した前後位置（後方に退避した位置）において左右に変位される場合であって、第３発光部Ａ６６４の光の経路が駆動ソレノイドＡ６５２の後方側を通過する場合が想定され、この場合において、光の経路に疑似開閉板Ａ１１６５３が進入する場合には前側導光板Ａ１５６９３に光が入射可能とされ、光の経路から疑似開閉板Ａ１１６５３が退避した場合には後側導光板Ａ１５６９４に光が入射可能とされる。この場合、流下領域ＡＲ６５における視認態様の変化は最小限としながら、第３発光部Ａ６６４の光の進行方向を変化させることができ、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０の視認態様を変化させることができる。
【１２９５６】
　疑似開閉板Ａ１１６５３は、駆動ギアＡ１１６５４が回転駆動されることに基づいて、張出状態（前位置状態）と、退避状態（後位置状態）とで、前後移動されることから、開閉板Ａ１１６５１の動作態様と疑似開閉板Ａ１１６５３の動作態様とが異なる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ１１６５１の移動も疑似開閉板Ａ１１６５３の移動も駆動ソレノイドＡ６５２により実行され、開閉板Ａ１１６５１と疑似開閉板Ａ１１６５３とが連動するように構成しても良い。
【１２９５７】
　特に、疑似開閉板Ａ１１６５３が流下領域ＡＲ６５に進入しない態様で構成する場合、疑似開閉板Ａ１１６５３の変位量は、開閉板Ａ１１６５１の変位量と同じとしても良いが、異ならせても良いため、変位量を小さくすることで、駆動ソレノイドＡ６５２に要求される駆動力が過度に増大することを回避することができる。
【１２９５８】
　また、疑似開閉板Ａ１１６５３に対する駆動ソレノイドＡ６５２の駆動力の伝達態様の設計次第で、疑似開閉板Ａ１１６５３が駆動されるタイミングと、開閉板Ａ１１６５１が駆動されるタイミングとを、ずらすことが可能である。タイミングがわずかにでもずれることにより、駆動ソレノイドＡ６５２に要求される駆動力が過度に増大することを回避することができる。
【１２９５９】
　なお、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４への光の入射態様から、疑似開閉板Ａ１１

６５３が光の経路に進入している場合が開閉板Ａ１１６５１の張出状態（閉鎖状態）に対応し、疑似開閉板Ａ１１６５３が光の経路から退避している場合が開閉板Ａ１１６５１の退避状態（開放状態）に対応する。

【１２９６０】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、開閉板Ａ６５１が駆動ソレノイドＡ６５２で動作される一方、その近傍に駆動モータで動作される部材が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ６５１だけでなく近傍で動作される部材も別の駆動ソレノイドで駆動されても良いし、近傍で動作される部材だけでなく開閉板Ａ６５１も別の駆動モータで駆動されても良いし、開閉板Ａ６５１が駆動モータで駆動され、近傍で動作される部材が駆動ソレノイドで駆動されても良い。駆動源の選定は、望む動作態様に応じて任意に行うことができ、特段の限定がされているものではない。

【１２９６１】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、開閉板Ａ６５１の移動方向が前後方向とされ、第２開閉板Ａ１２６５３の移動方向も前後方向とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ６５１の移動方向が前後方向とされ、第２開閉板Ａ１２６５３の移動方向はそれとは異なる左右方向とされても良いし、逆に、開閉板Ａ６５１の移動方向が左右方向とされ、第２開閉板Ａ１２６５３の移動方向はそれとは異なる前後方向とされても良い。

【１２９６２】

開閉板Ａ６５１の移動方向と第２開閉板Ａ１２６５３の移動方向とを異ならせることにより、開閉板Ａ６５１又は第２開閉板Ａ１２６５３が張出状態（閉鎖状態）となる際に第３発光部Ａ６６４の光を動的に遮る方向が変わるため、照射領域ＡＲ６３１において視認される光の変化の方向が変わる。

【１２９６３】

例えば、前後方向の移動で張出状態（閉鎖状態）となる場合、照射領域ＡＲ６３１における視認態様の変化は、最も明るく視認される部位が第２領域ＡＲ６３１ｂから第１領域ＡＲ６３１ａに左右に長い光の全体が同時に平行移動する（下方に平行移動する）態様となる。一方、左右方向（例えば、左側から右側へ張り出す方向）の移動で張出状態（閉鎖状態）となる場合、最も明るく視認される部位が下方に移動することは同じであるが、その移動は左右に長い光の全体で同時に生じるのではなく、左端側から順に下方に移動する。即ち、左端側で光が下方に移動するタイミングよりも、右端側で光が下方に移動するタイミングの方が遅くなる（タイミングがずれる）。

【１２９６４】

そのため、照射領域ＡＲ６３１における光の視認態様の変化により、開閉板Ａ６５１及び第２開閉板Ａ１２６５３の内、どちらの開閉板が張出状態（閉鎖状態）となったのかを把握することができる。

【１２９６５】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、回転風車部材Ａ１３６９０の背面側に菱形形状の模様が形成され、視線方向における明るさの程度の違い（明るさの変化の程度の違い）によってその菱形形状が視認可能な場合と視認困難な場合とを生じる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【１２９６６】

例えば、回転風車部材Ａ１３６９０を通して視認される明るさの程度の違いによって視認される対象は、文字（「大当たり」、「ゲキアツ」、「チャンス」、「ラッキー」等の異なる文字）でも良いし、色（「青色」、「赤色」、「緑色」等の異なる色）でも良いし、これらの組合せでも良い。

【１２９６７】

色の違いでは、一見、何ら意味をなさないように思うが、遊技者の共通認識として、色の違いによって大当たりの可能性が高いか低いかをある程度把握可能であり（例えば、「

青色」よりも「赤色」の方が高い価値を期待できるとか、「緑色」は期待できないとか、機種ごとに異なる共通認識がはぐくまれる）、この共通認識に合わせて開閉板Ａ６５１の近傍に停止される棒状部Ａ１３６９３を選定し停止させる制御を行うことで、棒状部Ａ１３６９３を通して視認される対象に対する興味を強め、棒状部Ａ１３６９３に対する注目力を向上させることができる。

【１２９６８】

また、各棒状部Ａ１３６９３の全てにおいて、視認される対象が同じとはならないように構成しても良いし、異なる棒状部Ａ１３６９３において視認される対象が同じ場合が生じても良い（例えば、４本ある棒状部Ａ１３６９３のうち２本の棒状部Ａ１３６９３で同じ対象（例えば、「大当たり」との文字）が視認されるようにしても良い）。

【１２９６９】

また、棒状部Ａ１３６９３の本数は４本に限るものではなく、何本でも良い。役割を考慮すれば、少なくとも２本であることが好ましいが、１本でも良い。視認させたい対象（模様、文字、色など）の種類が多い場合には、５本以上の本数で構成しても良い。

【１２９７０】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、回転風車部材Ａ１３６９０の棒状部Ａ１３６９３がマジックミラーとして作用するよう構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ６５１に反射膜が形成され、マジックミラーとして作用するように構成しても良い。

【１２９７１】

この場合、第３発光部Ａ６６４を発光させた場合に、開閉板Ａ６５１の上方側が暗くされていると（例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１の画面を暗転させておく等）、開閉板Ａ６５１を視認する遊技者の視線は、暗い領域から明るい領域に進むことになるので、開閉板Ａ６５１はマジックミラーの作用により透過される。そのため、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）であっても、退避状態（開放状態）であるかのように錯覚させることができ、開閉板Ａ６５１に注目する遊技者に対して早期の発射操作を促すことができる。

【１２９７２】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、第３発光部Ａ６６４が２個のＬＥＤから構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１電飾基板Ａ６６０の縁に沿ってより多数のＬＥＤが配設されても良いし、一つのＬＥＤから構成するようにしても良い。

【１２９７３】

また、第１電飾基板Ａ６６０の発光部Ａ６６１が配置される面と、開閉板Ａ６５１の上面（移動方向）とが、直角に交差する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１電飾基板Ａ６６０に発光部Ａ６６１が配置される面を開閉板Ａ６５１の上面（移動方向）と平行となるように第１電飾基板Ａ６６０を配置しても良い。具体的には、流下底面Ａ６３２ｆの下面側に配設したり、流下天面Ａ６３２ｇの上面側に配設したりしても良い。

【１２９７４】

この場合、第１電飾基板Ａ６６０の上面が前後方向に幅を有するため、発光部Ａ６６１としてＬＥＤが左右に複数配置される発光部列を前後に複数並べるような配置として、開閉板Ａ６５１に到達させる光を強めることができる。

【１２９７５】

また、この場合において、例えば発光部列を構成する前後並びの３列において、手前側の発光部列からの光は開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）でも退避状態（開放状態）でも照射領域ＡＲ６３１の第２領域ＡＲ６３１ｂに到達し、中側の発光部列からの光は開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）の場合には第２領域ＡＲ６３１ｂに到達し開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）の場合には第１領域ＡＲ６３１ａに到達し、後ろ側の発光部列からの光は開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）でも退避状態（開放状態）でも照射領域ＡＲ６３１の第１領域ＡＲ６３１ａに到達するように構成しても良い。

【１２９７６】
この場合、中側の発光部列の発光は継続させる一方で、手前側の発光部列については開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）の場合には停止させ開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）の場合には発光させ、後ろ側の発光部列については開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）の場合には停止させ開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）の場合には発光させるように制御することで、照射領域ＡＲ６３１において明るくされる位置の変化によって開閉板Ａ６５１の状態の変化を把握させることができる。
【１２９７７】
また、中側の発光部列の発光を停止させ、手前側の発光部列と後ろ側の発光部列について上述の制御を行うことで、実際の開閉板Ａ６５１の動作とは無関係に（動作の有無によらず）、照射領域ＡＲ６３１における明るさの変化を開閉板Ａ６５１の動作が生じる場合と同じように生じさせることができ、遊技者に開閉板Ａ６５１が動作していると錯覚させることができる。
【１２９７８】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、カバー部材Ａ６３０に「ＢＯＮＵＳ」との意匠が半透明で形成されたシールが貼り付けられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、意匠の形状が刻印されても良いし、意匠部分がマジックミラーを形成するように特定の金属膜が塗られても良いし、意匠が着色塗料で塗られていても良いし、その他の態様でも良いし、これらの組合せでも良い。この場合において、意匠の全体が同一の態様で形成されても良いし、異なる態様の組合せでも良い。
【１２９７９】
例えば、「ＢＯＮＵＳ」の意匠の内、「Ｎ」の左側の縦棒を除く「Ｖ」の部分がマジックミラーで形成され、その他の部分が半透明のシールから形成される場合、カバー部材Ａ６３０の前面側よりも後面側の方が明るい場合、遊技者の視線は暗い側から明るい側へ進むので、「Ｖ」の部分が半透明で視認され、「ＢＯＮＵＳ」の意匠の全体が同様に半透明に視認される。一方、カバー部材Ａ６３０の前面側よりも後面側の方が暗い場合、遊技者の視線は明るい側から暗い側へ進むので、「Ｖ」の部分が鏡として視認され、「ＢＯＮＵＳ」の意匠の内の「Ｖ」の部分だけを目立たせることができる（「Ｖ」の部分以外は、あたかも形成されていないかのように錯覚させることができる）。このように、カバー部材Ａ６３０に形成される意匠は固定としながら、状況に応じて目立つ部分を変化させることができ、異なる意匠が形成されているように錯覚させることができる。
【１２９８０】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、ラウンド遊技Ｒにおいて、第３発光部Ａ６６４の光の発光色が時間経過で変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、変化の態様として、発光強度が変化される態様でも良い。即ち、強発光から中発光に変化し、最終的に弱発光に変化されることで、ラウンド遊技Ｒの残り期間が短いことを直感的に把握させることができる。また、発光強度の変化を逆の順序とすると、強発光により遊技者に注意喚起することができ、発射操作を急ぐように促すことができる。
【１２９８１】
また、変化の態様として、点滅間隔を変化させるようにしても良い。即ち、遅い点滅（例えば１秒間隔）から少し早い点滅（例えば０．５秒間隔）に変化し、最終的に高速点滅（例えば０．２秒間隔）に変化されることで、ラウンド遊技Ｒの残り期間が短いことを直感的に把握させることができる。また、点滅の速度の変化を逆の順序とすると、ラウンド遊技Ｒの開始時における注目力を最大化することができ、発射操作を急ぐように促すことができる。
【１２９８２】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、第１領域ＡＲ６３１ａに「正方形」の図形の刻印がされ、第２領域ＡＲ６３１ｂに「菱形」

の図形の刻印がされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２領域ＡＲ６３１ｂに「右打ち」との刻印がされても良い。この場合、操作ハンドルＨ５１の操作を遊技者に直感的に理解させ易くすることができる。

【１２９８３】

また、刻印でなくとも、例えば、文字や図形が描かれており半透明で形成されたシールが貼り付けられる態様でも良いし、文字部分や図形部分がマジックミラーを形成するように特定の金属膜が塗られても良いし、文字や図形が着色塗料で塗られていても良いし、その他の態様でも良いし、これらの組合せでも良い。この場合において、文字部分や図形部分の全体が同一の態様で形成されても良いし、異なる態様の組合せでも良い。

【１２９８４】

第２領域ＡＲ６３１ｂを介して「右打ち」の内容を視認できることで、第２領域ＡＲ６３１ｂが明るくなる開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）となった場合に「右打ち」遊技を促すことができ、遊技者に不利益なくスムーズな遊技を促すことができる。

【１２９８５】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、入賞に係る抽選で大当たりが判定され、大当たり遊技が開始された後で開閉板Ａ６５１，Ａ１０６５１，Ａ１１６５１が動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、入賞に係る抽選の変動中（変動が停止される前）において、開閉板Ａ６５１，Ａ１０６５１，Ａ１１６５１（又は開閉板Ａ６５１，Ａ１０６５１，Ａ１１６５１に関連して動作される部材）が動作可能に構成しても良い。この場合、大当たり遊技の開始前から（又は、大当たり遊技と判定されていない場合においても）開閉板Ａ６５１，Ａ１０６５１，Ａ１１６５１を動作させることができ、照射領域ＡＲ６３１の視認態様を変化させることで演出を行うことができる。

【１２９８６】

即ち、大当たりと判定されるか否かに関わらず、開閉板Ａ６５１，Ａ１０６５１，Ａ１１６５１を動作させる場合を構成することで、演出効果を向上させることができる。この場合において、入賞に関わらず、保留が０になった状態や、客待ちの状態において開閉板Ａ６５１の開閉動作を生じさせ得るように制御しても良い。

【１２９８７】

なお、開閉板Ａ６５１，Ａ１０６５１，Ａ１１６５１の動作長さは特に限定されるものではないが、退避状態（開放状態）に維持される期間が長すぎると、遊技者が開放に気付いてから発射した球が流下領域ＡＲ６５に流入される事態が生じるため、短い期間（例えば、２秒以内の時間）で設定することが好ましい。

【１２９８８】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、開閉板Ａ６５１，Ａ１０６５１，Ａ１１６５１が透過または非透過の樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、表面に光沢のある金属材料から形成しても良いし、表面に金属薄膜を形成することで反射の効率の高い部分を形成しても良い。この場合、発光部Ａ６６１の光が開閉板Ａ６５１，Ａ１０６５１，Ａ１１６５１に反射される度合いを高めることができ、流下領域ＡＲ６５を反射光によってより明るく照らすことができる。

【１２９８９】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、発光部Ａ６６１の発光態様の変化が、発射された球の検出等に基づいて生じる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、適切に（遊技者にとって不利益なく）開閉板Ａ６５１を開閉動作させて大当たり遊技を終了させるのに必要な球の個数（例えば、残りラウンド数と規定個数との積）が上皿Ｐ１７に位置するか否かを検出可能な球不足検出センサを備え（例えば重量センサ）、その球不足検出センサにより検出された状態が、必要な球の個数以上がある状態か、否か、に対応して、発光部Ａ６６１の発光態様が変化され得るよう制御しても良い。これにより、発光部Ａ６６１の発光態様の変化（に

よる照射領域ＡＲ６３１の視認態様の変化）を視認することで、実際に球が不足していることが判明する時点よりも先んじて、球不足が生じ得るか否かを遊技者に把握させることができる。これにより、遊技者が不測の不利益を受けることを避けることができる。

【１２９９０】

ここで、現状上皿Ｐ１７にある球数の遊技球で特別遊技状態を不利なく進行させられない場合には、払出装置Ｈ１３３からの供給が球詰まり等により途絶えて球を発射させられない状態となると、特別遊技状態の一部を規定時間（例えば、１ラウンドにつき３０秒間）の経過により終えて、入賞させられないことによる不利益を遊技者に与える事態が生じ得るところ、その不利益が発生することは、上皿Ｐ１７の球数が少なくなってきて初めて遊技者の知るところになることがほとんどであり、気づいた時には手遅れである場合が多い。特に、制限期間内における特定領域（Ｖ入賞口）への入賞により、確率変動が発生する遊技機や、大当たりが発生する遊技機では、遊技者の受ける不利益は甚大なものとなる。

【１２９９１】

これに対し、上皿Ｐ１７の球の個数に関連して発光部Ａ６６１の発光態様を変化させることで、発光部Ａ６６１の光を視認した遊技者に違和感を与え、遊技者が不利益を受ける可能性について、遊技者に事前に把握させることができ、前もって対応を促すことにより、不利益を未然に回避させることができる。

【１２９９２】

これにより、発光部Ａ６６１の光の発光態様の変化により、特別遊技状態の進行に関連した報知を行うことができ、遊技者に前もって危険（例えば、発射球不足となる危険）に気づかせ易くすることができる。即ち、上皿Ｐ１７に貯留されている球の球数が減少する前から球不足の可能性について遊技者に報知することで、遊技者の対応時間を長めに確保させることができる。更に、払出装置Ｈ１３３からの球供給の停止に基づくエラー報知が実行されることに先んじた報知を行うことにより、遊技者に対策を促すタイミングを前倒しでき、対策が手遅れとなることを回避し易くすることができる。

【１２９９３】

また、発光部Ａ６６１の発光態様の変化により、制限時間に対する残り時間の報知を行うことが可能とされることは、第１発光制御の発光例１や発光例２で説明した通りであるが、同様の態様（光の色を順に変化させる）を利用する等して、球不足検出センサにより検出される球個数に基づいて、球不足が生じるまでの残り時間の長短に対応して、発光部Ａ６６１の発光態様を変化させても良い。

【１２９９４】

例えば、球不足は生じない場合（適切に（遊技者にとって不利益なく）開閉板Ａ６５１を開閉動作させて大当たり遊技を終了させることができる場合）には黄色光、球不足は生じ得るが少なくとも後５ラウンドは球不足が生じない（５ラウンドまでは特定入賞口Ｈ６５ａへの入球により開閉板Ａ６５１を開閉させるための球数は確保できている）場合には白色光、後３ラウンドは球不足が生じない（３ラウンドまでは特定入賞口Ｈ６５ａへの入球により開閉板Ａ６５１を開閉させるための球数は確保できている）場合には青色光、後１ラウンドで球不足が生じる（１は特定入賞口Ｈ６５ａへの入球により開閉板Ａ６５１を開閉させるための球数は確保できているが、２ラウンド目は足りなくなる）場合には赤色光というように、発光色によって球不足が生じるまでの猶予期間を報知できるようにしても良い。これにより、遊技者は対応の要否に対する危機感を正しく把握することができる。

【１２９９５】

即ち、遊技中においては、上皿Ｐ１７からの球の発射と払出装置Ｈ１３３から上皿Ｐ１７への球の供給とが同時に生じるものであり、一時は球不足であると検出されたとしても、そのすぐ後に払出装置Ｈ１３３から上皿Ｐ１７に球が供給され球不足が解消されるということは生じ得るので、発光部Ａ６６１の発光態様の変化により球不足の可能性が報知される度に対応を行わなくても、勝手に球不足が解消され得る。

【１２９９６】
一方で、払出装置Ｈ１３３が詰まっている場合には、上皿Ｐ１７への球供給が行われないため、報知に対応しないと球不足が生じて不利益となる可能性がある。上述のように、球不足が生じるまでの残り時間を報知することで、遊技者は、対応が必要な報知か否かを自ら判断できるので、快適に遊技できるようになる。
【１２９９７】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）のいずれかで上述した開閉板Ａ６５１（及び開閉板Ａ６５１に準じて動作する部材）に対応する制御は、他の実施形態においても流用され得る。
【１２９９８】
例えば、特に、第１３８実施形態においても、第１発光制御として第３発光部Ａ６６４の制御態様として上述したのと同様の制御態様で、発光手段Ａ１４６３９ａを発光制御させることが可能であり、その発光色は一定ではなく、時間経過や、入賞検出センサＡＳＣ６５への入球に対応して変化され得る。また、特定の発光色の変化の順番を視認することで、ラウンド遊技Ｒの開始時点や、ラウンド遊技Ｒにおける開閉板Ａ６５１の動作タイミングを把握することができるように構成され得る。
【１２９９９】
また、遊技者が球の発射操作を行っていなくても、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）を維持する場合における発光手段Ａ１４６３９ａの発光態様が変化され、その変化から開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）となってからの経過時間を、ある程度把握することができる。
【１３０００】
特に、第１の作動時間Ｔ１の終盤において発光色の変化が頻繁（５秒間隔）に生じるよう制御されることにより、球の入球によらず開閉板Ａ６５１が閉鎖動作されるタイミングを遊技者が把握し易くされる。これにより、第１の作動時間Ｔ１を最大値（３０秒間）間際まで使って大当たり遊技を行うことを望む遊技者にとって、時間切れの目安が分かり易くなることから、大当たり遊技において規定個数の入球を逃す事態を避け易くすることができる。
【１３００１】
また、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）を維持する期間（第１の作動時間Ｔ１の最大値である３０秒間）において、第３発光部Ａ６６４は、入賞検出センサＡＳＣ６５へ５球目の球が入球された場合に白色光で発光されていた場合には青色光に変化され、入賞検出センサＡＳＣ６５へ７球目の球が入球された場合に青色光で発光されていた場合には赤色光に変化されるよう、第３発光部Ａ６６４の発光色が制御されると上述したのと同様に、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）を維持する期間（第１の作動時間Ｔ１の最大値である３０秒間）において、発光手段Ａ１４６３９ａは、入賞検出センサＡＳＣ６５へ５球目の球が入球された場合に白色光で発光されていた場合には青色光に変化され、入賞検出センサＡＳＣ６５へ７球目の球が入球された場合に青色光で発光されていた場合には赤色光に変化されるよう、発光手段Ａ１４６３９ａの発光色が制御されるよう構成することが可能である。
【１３００２】
例えば、第１３８実施形態においても、第３図柄表示装置Ｈ８１による「右打ち」の表示は、大当たり遊技の制御が開始されてから終了まで常に表示されるようにしても良いし、表示させる場合と表示させない場合とを切り替えても良い。前者の場合には、大当たり遊技中であるか否かを第３図柄表示装置Ｈ８１の表示により把握し易い。
【１３００３】
後者の場合としては、例えば、ラウンド遊技Ｒ中においては「右打ち」の表示をさせ、ラウンド間インターバル期間においては「右打ち」の表示を非表示とするようにしても良い。即ち、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）の場合に操作ハンドルＨ５１の操作を促す表示をする一方で、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）の場合にその表示を非表

示とさせるように制御しても良い。
【１３００４】
この場合、開閉板Ａ６５１の状態の変化について第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様から把握することができるので、操作ハンドルＨ５１を操作すべきタイミングや、操作を止めるべきタイミングについて、遊技者は容易に把握することができるので、遊技ストレスを低減することができる。
【１３００５】
例えば、第１３８実施形態においても、規定個数の入賞検出により開閉板Ａ６５１が閉鎖動作される前に超過分の遊技球ＡＢＬ１が流入した場合（所謂「オーバー入賞」等）に、当該遊技球ＡＢＬ１が入賞検出センサＡＳＣ６５によって検出されることに基づいて、特定の報知が実行されるように制御しても良い。この場合の特定の報知として、左側発光部Ａ１４６３９ｂの発光態様が変化されるように制御しても良い。発光態様の変化としては、消灯状態から発光状態に変化する態様や、点灯状態から点滅状態に変化する態様が例示される。
【１３００６】
この場合、遊技者は、カバー部材Ａ１４６３０の「ＢＯＮＵＳ」との意匠の内、「Ｎ」の一部の「Ｖ」として視認される部位の発光態様の変化を視認することで、超過分の遊技球ＡＢＬ１の入球（所謂「オーバー入賞」）があったことを把握することができるため、カバー部材Ａ１４６３０に対する注目力を向上させることができる。
【１３００７】
例えば、第１３８実施形態においても、第１の大当たり作動パターンや、第２の大当たり作動パターンとして上述したような動作態様で駆動制御され得るように構成しても良い。即ち、開閉板Ａ６５１の長時間動作において、規定個数よりも少ない個数として設定される予備個数（本実施形態では、７個）の遊技球が入賞検出センサＡＳＣ６５で検出された場合に、開閉板Ａ６５１が閉鎖状態（張出状態）とされ、短時間（本実施形態では、０．５秒間）経過後に、再び開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）とされる、ラウンド遊技Ｒが生じ得るように構成しても良い。
【１３００８】
この開閉板Ａ６５１の短時間閉鎖を視認することで、遊技者は、もうすぐ入球個数が規定個数となり開閉板Ａ６５１が閉鎖されるタイミング（ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１に入るタイミング）を予測することができるので、球の発射操作を工夫すること（例えば、タイミング良く球の発射を停止させること）により、開閉板Ａ６５１が閉鎖状態となっている期間に開閉板Ａ６５１に到達してしまい特定入賞口Ｈ６５ａに入球しない球の発生を抑制することができる。
【１３００９】
遊技者は、開閉板Ａ６５１の短時間閉鎖を視認したのと同時に発射を停止することで、規定個数の入賞に必要な残り３球以降の発射を抑制することができ、ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１に球が到達することを抑制できる。特に、発射された球が開閉板Ａ６５１に到達するまでにかかる期間が２．０秒である場合、その間に発射される球は３球であり、調度良い。ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１が経過して開閉板Ａ６５１が開放状態となったことを確認してから球の発射を再開するように操作することで、特定入賞口Ｈ６５ａに入球しない球の発生を抑制することができる。
【１３０１０】
この場合において、開閉板Ａ６５１が短時間閉鎖状態（張出状態）とされるのに合わせて（又は代えて）、右側発光部Ａ１４６３９ｃが発光する制御を構成しても良い。この場合、遊技者は、開閉板Ａ６５１自体を視認せずとも、導光板Ａ１４６３８を介して視認される光の態様を視認することで、もうすぐ入球個数が規定個数となり開閉板Ａ６５１が閉鎖されるタイミングとなることを予測することができる。
【１３０１１】
なお、右側発光部Ａ１４６３９ｃの発光は、開閉板Ａ６５１が短時間閉鎖状態（張出状

態）とされるタイミングに限らず実行させておいても良い。例えば、開閉板Ａ６５１が開放状態（退避状態）とされるラウンド遊技Ｒの開始時から右側発光部Ａ１４６３９ｃを継続して発光させ、短時間閉鎖状態とされるタイミングから右側発光部Ａ１４６３９ｃの発光態様を変化させることでも、遊技者にタイミングを把握させることが可能である。

【１３０１２】

例えば、ラウンド遊技Ｒの開始時から暫くは、右側発光部Ａ１４６３９ｃを構成する複数のＬＥＤが、右端のＬＥＤが点灯してから左隣のＬＥＤに間隔（例えば、０．２秒間隔）を空けて順に点灯が移り、左端のＬＥＤに到達した後は再び右端のＬＥＤに点灯が移る態様で制御されることで、光があたかも開閉板Ａ６５１の前方側を左方へ向けて移動しているように視認させることができる。

【１３０１３】

一方で、短時間閉鎖状態とされるタイミングからは、右側発光部Ａ１４６３９ｃを構成する複数のＬＥＤが、左端のＬＥＤが点灯してから右隣のＬＥＤに間隔（例えば、０．２秒間隔）を空けて順に点灯が移り、右端のＬＥＤに到達した後は再び左端のＬＥＤに点灯が移る態様で制御されることで、光があたかも開閉板Ａ６５１の前方側を右方へ向けて移動しているように視認させることができる。

【１３０１４】

これにより、光が左方へ向けて移動する態様から、光が右方へ向けて移動する態様かの変化のタイミングを遊技者が視認可能となる。これにより、遊技者は、もうすぐ入球個数が規定個数となり開閉板Ａ６５１が閉鎖されるタイミングとなることを予測することができる。

【１３０１５】

なお、発光態様の変化は、上述した態様に限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、右側発光部Ａ１４６３９ｃの発光強度が変化（強弱、点灯点滅の変化、点滅のテンポの変化等）される態様でも良いし、発光される光の色が変化される態様でも良いし、それらの組合せでも良い。また、発光態様の変化を生じさせるタイミングは、開閉板Ａ６５１の開放中に限られるものではない。例えば、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となっている場合に、発光態様の変化を伴うように発光制御することで、開閉板Ａ６５１に対する注目力を向上させることができる。オープニング時間ＯＰの終了直前に発光態様の変化が生じたり、インターバル期間の終了直前に発光態様の変化が生じたりするよう制御することで、遊技球の発射タイミングの調整を楽にすることができる。

【１３０１６】

なお、開閉板Ａ６５１の短時間閉鎖が生じた場合に、「発射停止」との内容を複数態様で光を照射可能な手段である第３図柄表示装置Ｈ８１で表示したり、音声出力装置Ｈ２２６で音声出力したり、ランプ表示装置Ｈ２２７で警告色（例えば、赤色や、黄色と黒色の縞模様）を点灯したり、させることで、遊技球の発射の停止を促す報知を実行しても良い。これにより、遊技者が気づかずに発射を継続し、不測の不利益が生じることを避けることができる。

【１３０１７】

なお、開閉板Ａ６５１の動作は、大当たり遊技や小当たり遊技が実行される場合に限らず、大当たり遊技や小当たり遊技の非実行時においても実行され得るように構成しても良い。即ち、上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、開閉板Ａ６５１（及び開閉板Ａ６５１に準じて動作する部材）の開閉動作が、大当たり又は小当たりに限らず、特定の場合においても実行されるよう制御される。この場合の開閉動作は、基本的には、第１の小当たり作動パターンとされ、開閉動作の開始に遊技者が気づいてから球の発射を開始したとしても、多量の球の入球にはつながらないよう構成される。

【１３０１８】

特定の場合としては、例えば、リアルタイムクロックにより設定される特定の時点においてパチンコ機Ａ１０が通常状態である場合でも良いし、いずれの図柄も変動されていな

いような客待ち状態（遊技者による遊技を待っている状態であって、例えば、デモ演出が実行されている状況）の開始から所定期間が経過した場合でも良い。
【１３０１９】
なお、この場合における開閉板Ａ６５１の動作制御は、短時間開放に限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、第１の大当たり作動パターンの特定のラウンドにおける動作態様が実行されるものでも良い。
【１３０２０】
また、上述のように、開閉板Ａ６５１の動作に対応して発光手段Ａ１４６３９ａを発光させる制御を同時に実行させても良い。この場合において、左側発光部Ａ１４６３９ｂ及び右側発光部Ａ１４６３９ｃの双方を発光させることで、導光板Ａ１４６３８の広範囲を発光させることができ、演出効果を向上させることができる。
【１３０２１】
左側発光部Ａ１４６３９ｂの光によって、「ＢＯＮＵＳ」の意匠の内の「Ｖ」の部位が明るく視認されることから、遊技を開始する前の遊技者に対して興味を持たせ易い。一方で、まだ遊技を開始する前であることから、何らかの利益を想起させる「Ｖ」とは異なる報知として実行することができ、遊技者が何らかの利益を想起させる「Ｖ」と勘違いするという事態は避け易い。
【１３０２２】
右側発光部Ａ１４６３９ｃの光によって開閉板Ａ６５１の前方側の部位において導光板Ａ１４６３８が明るく視認されることから、光に注目させることにより、開閉板Ａ６５１に対する注目力を下げることができる。これにより、大当たり遊技状態のような遊技球の入球が想定される状態では無い場合に開閉板Ａ６５１が動作した場合であっても、その開閉板Ａ６５１の動作を遊技者に気付かせ難くすることができる。
【１３０２３】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、表示装置Ａ６３８が２桁の７セグランプにより表示を構成する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、異なる図形を視認させることが可能に形成される複数枚の表示部が層状に配設され、どの表示部を視認させるかが切り替えられることで、遊技者に視認させる図形を切替可能に構成しても良い。この場合、正面視における面積が狭くても、遊技者に視認させる図形のバリエーションを増加させることができる。なお、表示部を構成する部材は、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、導光板でも良いし、液晶でも良い。
【１３０２４】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、入賞検出センサＡＳＣ６５における入賞の検出により、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光の発光態様（パルス幅）が変化される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、入賞検出センサＡＳＣ６５における入賞の検出に影響されず、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光の発光態様（パルス幅）が一定とされ、変化が生じないように構成しても良い。光のパルス幅が約１［ｍｓｅｃ］で一定とされる場合には、可変入賞装置Ａ６５が張出状態（閉鎖状態）とされる場合には表示部Ａ６３８ａに「ＣＬ」と継続的に表示され、可変入賞装置Ａ６５が退避状態（開放状態）とされる場合には表示部Ａ６３８ａに「ＯＰ」と継続的に表示されることで、可変入賞装置Ａ６５の状態の把握を容易とすることができる。即ち、表示部Ａ６３８ａにおいてカウントダウンの表示切替を行わないことにより、表示部Ａ６３８ａにおける表示態様がシンプルになり、可変入賞装置Ａ６５の状態の把握を行い易くすることができる。
【１３０２５】
上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光により、表示装置Ａ６３８の表示の切り替えと、照射領域ＡＲ６３１におけるカバー部材Ａ６３０の板状本体Ａ６３１の明るさの変化と、を生じさせる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、照射

領域ＡＲ６３１を非透過に構成することで、カバー部材Ａ６３０に照射された光を遊技者に視認させないように構成しても良い。この場合、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光の内、カバー部材Ａ６３０を透過させて遊技者に視認させていた分も、受光素子Ａ６３８ｂに受光させる分に回すことができるので、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光に要求される光の強さ（光量など）を抑えることができる。

【１３０２６】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、大当たり遊技状態において、１ラウンド目のラウンド遊技の開始時点（入賞検出センサＡＳＣ６５において遊技球の検出が生じる前）から発光部Ａ６６１の第３発光部Ａ６６４が発光され、表示部Ａ６３８ａで「ＯＰ」との表示がされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ラウンド遊技の開始時点においては発光部Ａ６６１の第３発光部Ａ６６４が消灯されており、入賞検出センサＡＳＣ６５における遊技球の検出が生じてから発光部Ａ６６１の第３発光部Ａ６６４の発光が開始されるように構成しても良い。この場合、表示部Ａ６３８ａの表示を視認することで、１球目の入賞が生じたことを把握することができる。なお、発光が開始されるまでの遊技球の検出回数は１回に限定されるものではなく、２以上の数値の検出後でも良い。

【１３０２７】

また、ラウンド遊技の開始時点における発光部Ａ６６１の第３発光部Ａ６６４の態様は、消灯に限定されるものではなく、例えば、１００［μｓｅｃ］のパルス幅の光（表示部Ａ６３８ａに「１」と表示される光）を照射するように構成しても良い。

【１３０２８】

この場合において例えば、入賞検出センサＡＳＣ６５において遊技球が検出されることに基づいて発光態様が約１［ｍｓｅｃ］のパルス幅の光（表示部Ａ６３８ａに「ＯＰ」と表示される光）に変更されるように制御しても良い。

【１３０２９】

この場合も同様に、表示部Ａ６３８ａを視認した遊技者が、入賞が生じたタイミングを把握し易くなる。大当たり遊技では、１球目の入賞が生じた後は、連続的に入賞が生じるため、入賞の検出により表示部Ａ６３８ａの表示が「１」から「ＯＰ」に切り替えられたことを把握させ、開閉板Ａ６５１から入賞検出センサＡＳＣ６５までの範囲に注目すべき期間であることに気付かせ易くすることができる。

【１３０３０】

また、この場合において例えば、入賞検出センサＡＳＣ６５での検出が生じる前において、球により第３発光部Ａ６６４からの光が遮られることに基づいて（受光素子Ａ６３８ｂに受光しない期間が予め設定された検出期間（１０［ｍｓｅｃ］）を超えたことに基づいて）、発光態様が約１［ｍｓｅｃ］のパルス幅の光（表示部Ａ６３８ａに「ＯＰ」と表示される光）に変更されるように制御しても良い。この場合、１球目の入賞検出センサＡＳＣ６５への入賞が、表示部Ａ６３８ａに「ＯＰ」と表示された直後に生じることになるので、遊技球の入賞検出センサＡＳＣ６５への入賞を見逃す事態を避け易くすることができる。

【１３０３１】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、特に上記第１３６実施形態において、開閉板Ａ６５１に加えて第２開閉板Ａ１２６５３が開閉動作される場合を説明した。この場合、いずれの開閉板の動作によっても受光素子Ａ６３８ｂへの光の進行態様は変化され、第１受光部Ａ６３８ｃで受光されるか、第２受光部Ａ６３８ｄで受光されるかにより、表示部Ａ６３８ａにおける表示態様は切り替えられ得るが、必ずしもこれに限られるものではない。

【１３０３２】

例えば、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となる場合に第３発光部Ａ６６４の光を受光する第１受光部Ａ６３８ｃとは別に、第２開閉板Ａ１２６５３が張出状態（閉鎖状態）となる場合に第３発光部Ａ６６４の光を受光する第３受光部を設けるようにして、開

閉板Ａ６５１のみが張出状態（閉鎖状態）となる場合と、第２開閉板Ａ１２６５３のみが張出状態（閉鎖状態）となる場合とで、表示部Ａ６３８ａにおける表示が切り替えられるようにしても良い。

【１３０３３】

例えば、遊技者にとっての有利不利に合わせて表示を切り替えるようにしても良い。第２開閉板Ａ１２６５３は開閉板Ａ６５１に比較して、ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１において球が渡り切りにくい（零れにくい）ようになっているため、第２開閉板Ａ１２６５３が張出状態（閉鎖状態）となる場合の方が、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となる場合よりも球零れが少なく、有利である。

【１３０３４】

そこで、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされ第１受光部Ａ６３８ｃに受光された場合の表示を「Ｈｉｇｈ－Ｃｌｏｓｅ」の頭文字を採用して「ＨＣ」とし、第２開閉板Ａ１２６５３が張出状態（閉鎖状態）とされ第３受光部に受光された場合の表示を「Ｌｏｗ－Ｃｌｏｓｅ」の頭文字を採用して「ＬＣ」として、区別することで、表示部Ａ６３８ａを視認した遊技者に対して、有利な閉鎖状態なのか、不利な閉鎖状態なのかを把握させることができ、遊技者に対して、操作ハンドルＨ５１の操作の選択を行い易くすることができる。

【１３０３５】

即ち、表示が「ＨＣ」であれば、ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１において球が可変入賞装置Ａ６５に到達したとしても、その球は特定入賞口Ｈ６５ａに案内され易いので、「打ちっぱなし」の操作態様でも不利益を生じ難い。一方で、表示が「ＬＣ」であれば、ラウンド間第１インターバル期間Ｉｎｔ１において球が可変入賞装置Ａ６５に到達すると、特定入賞口Ｈ６５ａには案内されず、零れてアウト球となる可能性が有るため、「打ちっぱなし」で操作するよりは、一時的に発射を停止させる操作を行う方が、不利益が生じ難い。この要素から、遊技者は、好みに合わせて操作ハンドルＨ５１の操作を選択することができる。

【１３０３６】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、特に上記第１３８実施形態において、発光手段Ａ１４６３９ａ及び導光板Ａ１４６３８の後方側に開閉板Ａ６５１が位置されており、開閉板Ａ６５１の動作とは独立して導光板Ａ１４６３８における視認態様を変化させることが可能な場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となった場合において、開閉板Ａ６５１が発光手段Ａ１４６３９ａと導光板Ａ１４６３８との間に位置し、光を遮る位置関係で構成されても良い。

【１３０３７】

この場合、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされると、発光手段Ａ１４６３９ａが発光されていても導光板Ａ１４６３８には導光されないこととなり、発光態様を変化させることを要さずに、導光板Ａ１４６３８における視認態様の変化を生じさせることができる。

【１３０３８】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、特に上記第１３８実施形態において導光板Ａ１４６３８に光を入射させる発光手段Ａ１４６３９ａを発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）とは別で設ける場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３発光部Ａ６６４の光が導光板Ａ１４６３８に入射されるように構成しても良い。

【１３０３９】

即ち、第３発光部Ａ６６４の光は、流下領域ＡＲ６５を通過する時点（流下領域ＡＲ６５の上面を構成する延設形成部Ａ６３２に入射する時点）で導光板Ａ１４６３８の左端よりも左側を進行するところ、板状本体Ａ１４６３１及び延設形成部Ａ６３２において、開閉板Ａ６５１の各状態に対応した光の入射箇所をはじめとして、複数位置に、光の進行方

向を切り替えるための形状部（凹部や凸部）を形成し、当該形状部により光の進行方向が切り替えられることにより導光板Ａ１４６３８の左側の端部から光が導光板Ａ１４６３８の上下長さに渡って均一な光が入射されるように構成しても良い。

【１３０４０】

この場合、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされる場合には、光ＡＬＣ２が導光板Ａ１４６３８の左側端部に入射され、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされる場合には、中心軸ＡＬＣＣの光が導光板Ａ１４６３８の左側端部に入射されるように構成することで、導光板Ａ１４６３８を介して視認される光の明るさが変化される。

【１３０４１】

即ち、開閉板Ａ６５１の状態の違いに対応して、第３発光部Ａ６６４の光により導光板Ａ１４６３８を介して視認される形状の光の明るさが変化される。詳細には、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされる場合よりも、退避状態（開放状態）とされる場合の方が明るい。これにより、導光板Ａ１４６３８により目隠しされる作用の程度が変わる。

【１３０４２】

この場合、導光板Ａ１４６３８を開閉板Ａ６５１と重なる位置関係とし、注目させる位置をコンパクトに構成しながら、到達した球が開閉板Ａ６５１の上面を右端から左端まで通過した場合にアウト口Ｈ７１から排出される損球が生じる可能性がある開閉板Ａ６５１の張出状態（閉鎖状態）においては導光板Ａ１４６３８に光が入射されていても流下領域ＡＲ６５における球の流下を比較的視認し易くすることができる。

【１３０４３】

一方で、開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）では中心軸ＡＬＣＣの光が導光板Ａ１４６３８に入射されることから、導光板Ａ１４６３８に形成される光の形状の視認性は高まり、光演出の性能は向上する。導光板Ａ１４６３８に目隠しされる作用は最大となり開閉板Ａ６５１や流下領域ＡＲ６５の視認性は低下されるが、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされる場合には、流下領域ＡＲ６５に到達した球は流下領域ＡＲ６５に漏れなく流入されることから、開閉板Ａ６５１や流下領域ＡＲ６５の視認性の低下により遊技者に与える不利益は少ない。

【１３０４４】

このように、打ちっぱなしで球を発射する場合において、遊技者にとって不利益を生じる可能性がある場合には導光板Ａ１４６３８に入射される光の明るさが比較的下がるように構成し、導光板Ａ１４６３８の透過性を高めに設定する一方で、遊技者にとって不利益を生じる可能性が低い場合には導光板Ａ１４６３８に入射される光の明るさが上がるように構成することにより、導光板Ａ１４６３８の奥側の視認性を適切に確保しながら、開閉板Ａ６５１と重なる位置における導光板Ａ１４６３８を用いた光演出の演出効果を向上させることができる。

【１３０４５】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、特に上記第１３９実施形態において、前側導光板Ａ１５６９３には開閉板Ａ６５１の形状に対応する形状Ａ１５６９３ａが施されており、入射された光により当該形状が明るく視認され、視認した遊技者に対して開閉板Ａ６５１の状態を視覚的に把握させることができるところ、この作用は導光板に限ったものではない。

【１３０４６】

例えば、表示装置Ａ６３８に搭載される２桁の７セグメントＬＥＤでも可能である。遊技者目線での開閉板Ａ６５１の視認態様を模式的に示す形状として、横長の直線（開放時、前端部のみが見える）と、横長の四角（閉鎖時、上面が見える）とで切り替えるようにしても、遊技者に対しては開閉板Ａ６５１の形状に対応した表示であることを理解させることができる。

【１３０４７】

即ち、７セグメントＬＥＤの各デジットにおいて、上部の発光部から右回りにセグメントａ～ｆが順番に並び、中央にセグメントｇが位置する構成において、２桁のデジットの

セグメントｇのみを発光させることで横長の直線として表示し、２桁のデジットの内、左側のデジットのセグメントｄ，ｅ，ｇを発光させ、右側のデジットのセグメントｃ，ｄ，ｇを発光させることで、横長の四として表示するようにしても良い。この場合において、各表示を「ＣＬ」や「ＯＰ」と代替させることで、表示装置Ａ６３８の内部制御によって、開閉板Ａ６５１の状態に対応させた開閉板Ａ６５１の形状を意味する表示を実行させることができる。

【１３０４８】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、特に上記第１３９実施形態において、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が継続して発光され、開閉板Ａ６５１の変位により光の進行方向が切り替えられる場合に、表示装置Ａ１５６９０における表示態様が切り替えられる場合を説明したが、表示の切り替えのタイミングはこれに限られるものではない。変位手段の変位と、表示の切り替えとの対応を、部分的に切るようにしても良い。この場合、導光された光の形状が、光の入射がされなくなった後も残像として残ることで視認が悪くなることの対策を図ることができる。

【１３０４９】

例えば、開閉板Ａ６５１の変位前において、前側切替部材Ａ１５６９５又は後側切替部材Ａ１５６９６を変位させることで開口部Ａ１５６９１ｂ又は開口部Ａ１５６９１ｃへの光の入射を遮蔽することが可能となるように制御しても良い。

【１３０５０】

この場合、前側導光板Ａ１５６９３又は後側導光板Ａ１５６９４に光が入射されている状態から、その光を遮蔽する側の切替部材Ａ１５６９５，Ａ１５６９６を変位させることで、開閉板Ａ６５１が変位される前において前側導光板Ａ１５６９３又は後側導光板Ａ１５６９４への光の入射を遮蔽することが可能となる。これにより、実際に開閉板Ａ６５１が変位されるまで光が入射され続けており、光が入射される導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４が切り替わった後も光の残像が残る事態を避けることができ、残像のせいで何れの導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４に光が入射されているのかが把握し難いという事態を避けることができる。

【１３０５１】

なお、光の残像に基づく不具合（視認態様への悪影響）を解消する手段としては、切替部材Ａ１５６９５，Ａ１５６９６の変位に限られるものではない。例えば、開閉板Ａ６５１が変位されるタイミングの少し前（例えば、開放動作であればラウンド遊技の開始１秒前、閉鎖動作であればラウンド遊技の規定時間（３０秒間）の１秒前または規定個数（１０個）の入賞の１球前（９個目）の遊技球の入賞時）において発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）を一時的に消灯させ、続く開閉板Ａ６５１の動作に合わせて発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）を点灯させるようにしても良い。この場合にも、開閉板Ａ６５１の変位時において導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４に光の残像が残り、何れの導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４に光が入射しているのか不明となる事態を避けることができる。

【１３０５２】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、通常状態において、開口部Ａ１５６９１ｂは前側切替部材Ａ１５６９５を退避させて光の通過を許容する一方で、開口部Ａ１５６９１ｃは後側切替部材Ａ１５６９６により閉塞されることで遮光される状態とする場合において、前側導光板Ａ１５６９３に施された加工に基づく形状Ａ１５６９３ａの光の残像が消える前に再び開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされ、前側導光板Ａ１５６９３に光が入射されるため、開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）とされている場合にも前側導光板Ａ１５６９３に施された加工に基づく形状Ａ１５６９３ａの光が視認可能とされ、当該光を継続して視認させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【１３０５３】

例えば、前側導光板Ａ１５６９３に入射され前側導光板Ａ１５６９３から出射された光

を蓄光する部材（蓄光テープ等）が前側導光板Ａ１５６９３に配設されることで、光の入射がされなくなった後においても光の形状を視認させることが可能となる。

【１３０５４】

蓄光する部材を配設する位置としては、種々の態様が例示される。例えば、前側導光板Ａ１５６９３の左端面にわずかに距離を空けて配設すれば、前側導光板Ａ１５６９３に右端から入射した発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光のうち左端まで到達し出射された光を蓄光し、前側導光板Ａ１５６９３の左端面に入射させる光として放出することで、この蓄光による光も、前側導光板Ａ１５６９３に導光された場合に切り欠き部に進行方向を切り替えられることで、前側導光板Ａ１５６９３に施された加工態様に基づく形状Ａ１５６９３ａの光を、透明板Ａ１５６９２を通して視認させる。

【１３０５５】

蓄光する部材と前側導光板Ａ１５６９３との間の隙間には、可動のシャッター部材が進入可能に構成され、基本シャッター制御では、蓄光による光を前側導光板Ａ１５６９３に入射させたい場合（例えば、通常状態）には、シャッター部材を退避させることで、上述の蓄光による作用を生じさせることが可能となる。一方で、基本シャッター制御では、蓄光による光を前側導光板Ａ１５６９３に入射させたくない場合（例えば、大当たり遊技中。蓄光が作用すると透明板Ａ１５６９２を通した視認態様が判別し難くなる可能性がある）には、シャッター部材を上述の隙間に進入させ光を遮蔽することで、前側導光板Ａ１５６９３から出射される光が、蓄光する部材に到達することを防止することができ、上述の蓄光による作用を生じさせないようにすることができる。このように、蓄光による作用は、生じるか否かを、シャッター部材により切替可能とされる。

【１３０５６】

また、蓄光する部材を配設する位置としては、例えば、前側導光板Ａ１５６９３の前面側としても良い。前側導光板Ａ１５６９３に切り欠き部が形成される位置および大きさに合うように、蓄光する部材を切断などして切り欠き部の形状に成形し、位置を合わせて貼り付けると、前側導光板Ａ１５６９３に右端から入射され、切り欠き部で進行方向が正面方向に切り替えられた光が蓄光する部材に入射されるため、前側導光板Ａ１５６９３の右端に光が入射されなくなった後（即ち、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）となった後）も暫くは蓄光する部材から放出される光によって前側導光板Ａ１５６９３に施された加工に基づく形状Ａ１５６９３ａの光が視認可能とされる。

【１３０５７】

蓄光テープは、一般的には、低温下において輝度（明るさ）が落ちるが発光時間は長くなり、高温下において輝度（明るさ）が上がり発光時間は短くなるという特性を持つ。本件では、開閉板Ａ６５１の実際の状態とは異なる状態として前側導光板Ａ１５６９３に施された加工に基づく形状Ａ１５６９３ａの光を視認させるものであるので、輝度（明るさ）を上げることではなく、上述の形状の光が視認され続けることに重点が置かれ、蓄光テープを低温下で維持するために冷却装置を設けたり、送風ファンにより蓄光テープに送風したりするように構成することが好適とされる。

【１３０５８】

蓄光テープに蓄光された光は、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光のように流下領域ＡＲ６５を流下する球により遮蔽される態様にはないことから、蓄光テープに蓄光された光により前側導光板Ａ１５６９３に施された加工に基づく形状Ａ１５６９３ａの光が視認される状況においては、球が流下領域ＡＲ６５を流下した場合に点滅されるという事象が生じない。そのため、視認される光が点滅されることを目印として流下領域ＡＲ６５に球が流入したことを把握していた遊技者に対して、一時的に意外性のある遊技を提供することができる。

【１３０５９】

なお、前側導光板Ａ１５６９３に入射され前側導光板Ａ１５６９３から出射された光を蓄光する部材（蓄光テープ等）の代わりに、前側導光板Ａ１５６９３の左端面に光を入射させる姿勢で配置される左端ＬＥＤと、前側導光板Ａ１５６９３の左端面から出射された

光を検出する検出部とを配設し、前側導光板Ａ１５６９３に右端から入射した発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光のうち左端まで到達し出射された光が検出部により検出された場合に、左端ＬＥＤが一定期間発光される制御を行い、左端ＬＥＤからの光が前側導光板Ａ１５６９３に導光されるようにしても良い。

【１３０６０】

この場合、左端ＬＥＤが発光制御される一定期間が、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）で維持される期間よりも長く設定される場合、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）に切り替えられ前側導光板Ａ１５６９３の右端に光が入射しなくなった後において、しばらくは左端ＬＥＤが発光を継続するため、その左端ＬＥＤの光により前側導光板Ａ１５６９３に施された加工態様に基づく形状Ａ１５６９３ａの光を、透明板Ａ１５６９２を通して視認させることができる。この場合、しばらくの間は形状Ａ１５６９３ａ，Ａ１５６９４ａの光が共に視認され、途中（左端ＬＥＤが発光制御される一定期間の経過）からは、形状Ａ１５６９３ａの光は視認されなくなり、形状Ａ１５６９４ａの光のみが視認されるようになる。この場合においても、上述したシャッター部材を動作制御させることで、左端ＬＥＤの光が前側導光板Ａ１５６９３へ入射する状態と、入射しない状態とを切り替えることができ、同時に、光が検出部に検出される状態と、検出されない状態とを切り替えることができる。

【１３０６１】

なお、上述の蓄光する部材、シャッター部材、または左端ＬＥＤは、前側導光板Ａ１５６９３に配設されるものに限られるものではない。例えば、前側導光板Ａ１５６９３の代わりに後側導光板Ａ１５６９４に対応させて配設することも可能である。シャッター部材が蓄光による作用を生じさせる側（退避側）に位置している場合、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光であって後側導光板Ａ１５６９４に入射した光の内、後側導光板Ａ１５６９４の左端から出射された光により、後側導光板Ａ１５６９４に左側から入射する光が生じ、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）に切り替わった場合にも後側導光板Ａ１５６９４に施された加工に基づく形状Ａ１５６９４ａの光を遊技者に視認させることができる。

【１３０６２】

この場合、前側切替部材Ａ１５６９５が開口部Ａ１５６９１ｂを閉鎖（遮蔽）する位置に配置される場合、前側導光板Ａ１５６９３には発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が入射されなくなり、開閉板Ａ６５１の状態に関わらず、透明板Ａ１５６９２を通して視認される態様を後側導光板Ａ１５６９４に施された加工に基づく形状Ａ１５６９４ａの光で維持させることができる。

【１３０６３】

この場合において、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が遊技球に遮蔽されたとしても、後側導光板Ａ１５６９４には蓄光する部材による光が入射され形状Ａ１５６９４ａの光が視認され続けることとなり、透明板Ａ１５６９２を通して視認される態様を一定とすることができる。これにより、透明板Ａ１５６９２を視認している遊技者に対して、流下領域ＡＲ６５への遊技球の流入が途切れたと錯覚させ、球の発射不良が生じている可能性を疑わせ、視線を開閉板Ａ６５１付近や、遊技領域（第３図柄表示装置Ｈ８１の外方）に移させることができる。

【１３０６４】

この態様は、蓄光する部材や左端ＬＥＤと対応される各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４の間を変位するシャッター部材の制御により生じさせることができるため、同態様を、実際に球の発射不良が生じる頻度よりも高頻度で生じさせることが可能となる。これにより、後側導光板Ａ１５６９４の形状Ａ１５６９４ａの光が点滅態様とならず視認され続けるという状況を頻発させる場合には、遊技者に印象付けて、実際に球の発射不良により形状Ａ１５６９４ａの光が点滅態様とならず視認され続ける状況が生じた場合に、備えさせることができる。即ち、球の発射不良かもしれないし、そうではないかもしれない報知として遊技者に認知させることで、形状Ａ１５６９４ａの光が点滅態様とならず視認され

続ける状況の意味合いが風化されることを避け、形状Ａ１５６９４ａの光の視認態様により球の発射不良を報知するせっかくの仕組みに、遊技者が気づかない事態を避けやすくすることができる。

【１３０６５】

なお、上述の蓄光する部材、シャッター部材、または左端ＬＥＤの配設の組み合わせは、何ら限定されるものではない。例えば、前側導光板Ａ１５６９３及び後側導光板Ａ１５６９４の両方に配設されるようにしても良いし、少なくとも一方に配設されるようにしても良い。少なくとも一方に配設される場合において、前側切替部材Ａ１５６９５及び後側切替部材Ａ１５６９６の両方ともを開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃから退避させておく場合、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４にそれぞれ施された加工に基づく形状Ａ１５６９３ａ，Ａ１５６９４ａの光が、光の入射が途切れても（入射終了からしばらくの時間）視認可能とされるため、両導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４にそれぞれ施された加工に基づく形状Ａ１５６９３ａ，Ａ１５６９４ａの光が共に視認される状況が生じ得る。この場合、視認した遊技者に対して、開閉板Ａ６５１の状態が一体どうなっているのかと興味を抱かせることができ、開閉板Ａ６５１に対する注目力を向上させることができる。

【１３０６６】

なお、シャッター部材を採用する場合であっても、シャッター部材を上述の隙間に進入させておくことで、蓄光による作用が生じないようにすることができるので、流下領域ＡＲ６５に遊技球が流入した場合に光を遮蔽することで後側導光板Ａ１５６９４の形状Ａ１５６９４ａの光が点滅態様で視認される作用を維持したい状況では、シャッター部材を上述の隙間に進入させておけばよい。

【１３０６７】

シャッター部材が退避された状態において、片側非視認態様とされる場合、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となった場合でも、後側導光板Ａ１５６９４の左側に配置されている左端ＬＥＤの光によって後側導光板Ａ１５６９４の形状Ａ１５６９４ａの光が透明板Ａ１５６９２を介して視認される。この場合において、第３発光部Ａ６６４の発光強度の設定から、前側導光板Ａ１５６９３の形状Ａ１５６９３ａの光は視認されないため、形状Ａ１５６９４ａの光を単独で視認させることができる。

【１３０６８】

ここで、左端ＬＥＤの発光態様の制御により、透明板Ａ１５６９２を介した視認態様を開閉板Ａ６５１の状態と非対応とする場合を構成することができる。前側切替部材Ａ１５６９５及び後側切替部材Ａ１５６９６を、各開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃを閉塞するように位置させることで、第３発光部Ａ６６４の光が各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４に入射することを防止することができ、各導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４の視認態様を、左端ＬＥＤの発光態様に対応させることができる。

【１３０６９】

この場合において、前側導光板Ａ１５６９３に隣設される左端ＬＥＤを発光制御させれば、例えば通常状態において小当たりに当選する等して、開閉板Ａ６５１が短時間開放された場合であっても、透明板Ａ１５６９２を介した視認態様を、形状Ａ１５６９３ａの光とすることができるので、遊技者が開閉板Ａ６５１の開放を意識する可能性を低くすることができる。

【１３０７０】

また、後側導光板Ａ１５６９４に隣設される左端ＬＥＤを発光制御させれば、例えば、小当たり遊技や大当たり遊技において、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）になった場合であっても、透明板Ａ１５６９２を介した視認態様を、形状Ａ１５６９４ａの光とすることができるので、遊技者が開閉板Ａ６５１の閉鎖を意識する可能性を低くすることができる。

【１３０７１】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、張

出状態（閉鎖状態）における開閉板Ａ６５１の上面に球がある場合において開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）とされると、その直後に、球が流下領域ＡＲ６５に流入し当該球により光が遮蔽されることにより、上述の後側導光板Ａ１５６９４への光の入射が瞬間的に途切れる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球による光の遮蔽が開閉板Ａ６５１の動作直後ではなく、動作から若干の時間を空けて生じるようにしても良い。

【１３０７２】

例えば、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）が、光が開閉板Ａ６５１の左側端部領域に照射される位置に配設される場合（例えば、流下底面Ａ６３２ｆの左端部（入賞検出センサＡＳＣ６５の真上位置）に発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）が配設される場合）には、球が入賞検出センサＡＳＣ６５の真上位置に到達するまでは光が球により遮蔽されはせず、球が主経路形成部Ａ６３２ｃに当接し転動した後で光を遮蔽することが多い。これにより、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）に切り替えられてから球が光を遮蔽するまでに若干（開閉板Ａ６５１上の球の位置に応じて変化する、即ち、主経路形成部Ａ６３２ｃにより構成される流下領域ＡＲ６５の下側部の左右長さを球が流下しきるよりも短い長さ、約１秒以下）の時間差を生じさせることができるので、透明板Ａ１５６９２を通した視認態様の変化のうち、開閉板Ａ６５１の変位により生じた変化と、球により光が遮蔽されたことによる変化とを、分けることができる。これにより、各変化の時間差が極めて短く連続的に生じているように視認される場合に比較して、球により光が遮蔽されている事象の発生を明確に判別することができ、透明板Ａ１５６９２に対する注目力の向上を図ることができる。

【１３０７３】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、流下領域ＡＲ６５に流入した遊技球により光が遮蔽されることにより、上述の後側導光板Ａ１５６９４への光の入射が瞬間的に途切れる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ６５１の近傍に上記第１３５実施形態で説明した疑似開閉板Ａ１１６５３を配設し、ラウンド遊技の開始に伴って開閉板Ａ６５１及び疑似開閉板Ａ１１６５３が同時に退避状態（開放状態、後位置状態）とされた直後において、開閉板Ａ６５１は退避状態（開放状態）で維持する一方で、疑似開閉板Ａ１１６５３を高速で前後に往復変位させることで、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光を一時的かつ繰り返し遮断することができ、後側導光板Ａ１５６９４への光の入射が瞬間的に途切れることとなる事象を再現することができる。

【１３０７４】

このような制御をラウンド遊技のたび（毎回）ではなく、たまに（稀に）実行することにより、流下領域ＡＲ６５に遊技球が流下されていない場合であっても（実際の遊技球の有無に関わらず）、流下領域ＡＲ６５に遊技球が流下されていると透明板Ａ１５９６２を視認した遊技者に思い込ませることができる。

【１３０７５】

これにより、偶然的に流下領域ＡＲ６５に到達する前に上流側の入賞口やアウト口Ｈ７１から遊技球が遊技領域外に排出され、流下領域ＡＲ６５になかなか到達しない状況が生じても、流下領域ＡＲ６５に順調に遊技球が到達しているかのように錯覚させることができ、遊技者の不満が噴出することを避けることができる。

【１３０７６】

また、疑似開閉板Ａ１１６５３で上述したような高速の往復変位を、後側切替部材Ａ１５６９６で実行させることによっても、同様に、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光を一時的かつ繰り返し遮断することができ、後側導光板Ａ１５６９４への光の入射が瞬間的に途切れることとなる事象を再現することができる。

【１３０７７】

また、前側切替部材Ａ１５６９５で実行させることによっても、同様に、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光を一時的かつ繰り返し遮断することができ、前側導光板Ａ

１５６９３への光の入射が瞬間的に途切れることとなる事象を再現することができる。これにより、ラウンド間インターバル期間や大当たり終了後の期間（通常状態を含む）において開閉板Ａ６５１上を転動（流下）する遊技球により光が遮蔽された場合と同様の視認態様の変化を生じさせることができる。これにより、仮に球の発射を停止していたとしても、開閉板Ａ６５１へ向けた球の発射が継続されているかもしれないと遊技者に感じさせ、操作ハンドルＨ５１や、開閉板Ａ６５１への注目力を向上させることができる。

【１３０７８】

なお、前側切替部材Ａ１５６９５で実行させる高速の往復変位を、ラウンド遊技のたび（毎回）生じさせるようにしても良い。この場合においても、仮に球の発射を停止していたとしても、開閉板Ａ６５１へ向けた球の発射が継続されているかもしれないと遊技者に感じさせ、操作ハンドルＨ５１や、開閉板Ａ６５１への注目力を向上させることができる。

【１３０７９】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、特に上記第１３９実施形態において、前側切替部材Ａ１５６９５及び後側切替部材Ａ１５６９６は、開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃを開閉する態様で動作する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、少なくとも一方が動作せず、対応する開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃを開放状態で維持することで、導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４に光が入射することによる視認態様を把握することで開閉板Ａ６５１の状態を常時把握可能に構成しても良いし、開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃの開放の程度を変える場合、即ち、半開きとなる場合を構成可能とし、通過する光の光量を変えることで視認態様（明るさ）が変化可能となっていても良い。

【１３０８０】

また、前側切替部材Ａ１５６９５や後側切替部材Ａ１５６９６が分割体（例えば、上下に切り分けられた分割体）で構成され、それぞれ個別に駆動可能に構成されることで、開口部Ａ１５６９１ｂ，Ａ１５６９１ｃの一部のみを開閉可能に構成しても良い。この場合、光の受光が、導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４全体ではなく、一部のみに行われることで、導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４において、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光が視認される位置（光による形状が描かれる位置）と、光が発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）からの光が視認されない位置（光による形状が描かれない位置）と、を構成することが可能となる。

【１３０８１】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、通常状態において開口部Ａ１５６９１ｃが後側切替部材Ａ１５６９６の閉塞部Ａ１５６９６ａにより閉塞され、開口部Ａ１５６９１ｃを通した光の入射が遮蔽される場合において、閉塞部Ａ１５６９６ａは単なる板部材であり、報知の条件を構成するものではなく誤報知の問題も生じない構成に留まっているが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、閉塞部Ａ１５６９６ａの外側（発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）側）の面に検出部が配設され、検出部に光が検出されることに伴って所定の報知を行うように構成しても良い。

【１３０８２】

この場合、通常状態において開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）で維持されているにも関わらず、ピアノ線や金属棒などの不正部材を遊技領域内に進入させて開閉板Ａ６５１に後方側へ向けた荷重（退避状態へ変位させる方向の荷重）を与え、開閉板Ａ６５１を退避状態（開放状態）で維持させて遊技球の特定入賞口Ｈ６５ａへの入賞を図る不正行為が実行された場合であっても、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）で維持されることで発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が閉塞部Ａ１５６９６ａに照射され、その照射位置にある検出部で光を検出可能となるため、この検出を利用すれば不正行為の発生が自動的に発覚する。

【１３０８３】

検出部において想定外の態様で光が検出されたこと（例えば、小当たり遊技等で予定されている期間を超える時間長さの検出がされたこと）に基づいて、電飾部Ｐ３１の光が通常使用される強さよりも強くされたり、通常使用されない色合いの光（赤色で統一された警告色等）とされたり、音声出力装置Ｈ２２６により警告音を発生させたりすることの少なくとも一つを生じさせる第１反応制御を実行させるように制御することで、ホール店員が不正行為の発生に気づきやすくすることができ、不正行為が見逃される事態を防止することで、不正行為の防止を図ることができる。

【１３０８４】

また、上述した検出部を前側切替部材Ａ１５６９５の外側（発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）側）の面に配設させるようにしても良い。第３発光部Ａ６６４の光は、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）にある場合には、中心軸ＡＬＣＣの光、光ＡＬＣ１及び光ＡＬＣ２のうち、中心軸ＡＬＣＣの光や、光ＡＬＣ１は開閉板Ａ６５１により遮蔽され、開口部Ａ１５６９１ｂに入射する光ＡＬＣ２のみが表示装置Ａ１５６９０に到達するように構成されているところ、開閉板Ａ６５１が後方側に変位されると、光を遮蔽する範囲が変化され（前方側での遮蔽が解消され）、光ＡＬＣ２が前側切替部材Ａ１５６９５にも照射されるようになる。

【１３０８５】

ピアノ線や金属棒などの不正部材を遊技領域内に進入させて開閉板Ａ６５１に後方側へ向けた荷重（退避状態へ変位させる方向の荷重）を与え、開閉板Ａ６５１を変位させる不正行為が行われている場合、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）までは至らない中途半端な位置とされる場合も考えられるが、前側切替部材Ａ１５６９５は開口部Ａ１５６９１ｂの近傍に配置されていることから、開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）まで至らない状態でも、問題なく検出が可能であり、不正行為による利益が不正行為者に生じることを未然に防ぐことができる。

【１３０８６】

前側切替部材Ａ１５６９５の外側の面に配設される検出部において光が検出されたことに基づく第１反応制御による報知は、前側切替部材Ａ１５６９５が開口部Ａ１５６９１ｂを閉塞する位置とされる場合には実行されない（又はキャンセルされる）ように制御される。これにより、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）である場合に前側切替部材Ａ１５６９５の外側の面に配設される検出部に光が検出される（配置上当然に検出される）事態において第１反応制御による報知が実行されることを避けることができる。

【１３０８７】

そのため、第１反応制御による報知を搭載する場合には、通常状態における前側切替部材Ａ１５６９５の配置は、開口部Ａ１５６９１ｂから退避した位置とされる（例えば、基本切替制御）。そのうえで、大当たり遊技状態や、小当たり遊技状態、通常時の開閉動作等、開閉板Ａ６５１が開閉する制御が実行される期間においても、第１反応制御による報知が実行されない（又はキャンセルされる）ようにＭＰＵＨ２２１により制御される。

【１３０８８】

これにより、開閉動作中の開閉板Ａ６５１に当接して屈折した光が、偶然、前側切替部材Ａ１５６９５の外側の面に配設される検出部に検出された場合（不正行為が行われていない場合）に、第１反応制御による報知が実行される事態を避けることができる。なお、この場合、開閉する制御が実行される期間が経過しても開閉板Ａ６５１が退避状態（開放状態）で維持されている場合には、通常状態に移行したと同時に検出部における検出が有効となり、第１反応制御による報知がされる。この事態は、不正行為が行われている場合も考えられるが、不正行為ではなく、退避状態（開放状態）から変位した開閉板Ａ６５１の前端とカバー部材Ａ１５６３０との間に球が挟まり、その球が下方に抜けることなく維持されることで開閉板Ａ６５１が閉鎖しきらない状態で維持される場合も想定されるが、これも不具合であるので、報知によりホール店員を呼ぶことが好ましいため、上述の報知を実行することが好適である。

【１３０８９】

なお、上述の検出部を、前側切替部材Ａ１５６９５の外側の面ではなく、前側導光板Ａ１５６９３の左右側に位置させ、光の入射を検出して上述の報知を実行させる条件の一つとしても良い。例えば、前側切替部材Ａ１５６９５が開口部Ａ１５６９１ｂから退避した位置とされる場合、開閉板Ａ６５１の張出状態（閉鎖状態）では発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が前側導光板Ａ１５６９３に入射されるため、その光を検出部にも入射させることで、開閉板Ａ６５１の状態を判定することができる。

【１３０９０】

そのため、通常状態など、開閉板Ａ６５１の動作が予定されていない場合に、検出部への光の入射が生じなくなることを条件にして、第１反応制御による報知を行うことで、ホール店員が不正行為の発生に気づきやすくすることができ、不正行為が見逃される事態を防止することで、不正行為の防止を図ることができる。

【１３０９１】

この場合において、第１反応制御に合わせて（又は代わりに）、「左打ちに戻せ」との報知を実行するようにしても良い。これは、前側導光板Ａ１５６９３へ入射される光は張出状態（閉鎖状態）における開閉板Ａ６５１上を転動する球に遮蔽された場合にも検出部への入射が途切れることから、不正行為が行われた場合だけではなく、遊技者が「右打ち」で球を発射した場合にも、検出部への光の入射が生じなくなることが生じることによる。検出部への光の入射が生じなくなったことの原因が、遊技者が「右打ち」で発射したことであれば、球がいずれかの入賞口に入賞検出される前（入賞検出が生じない場合を含む）において「左打ちに戻せ」の報知を実行することができ早急な報知の実行を図ることができるし、不正行為により開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）から変位されたことであれば、不正行為に対する警告として機能させることができる。

【１３０９２】

なお、大当たり遊技状態において前側切替部材Ａ１５６９５が開口部Ａ１５６９１ｂを閉塞する位置（前側位置）とされる場合に、前側切替部材Ａ１５６９５の外側の面に配設される検出部に光が検出された場合において、第１反応制御とは異なる態様の第２反応制御による報知（例えば、電飾部Ｐ３１の光が通常使用される強さよりも弱くされたり、点滅態様で出力されたり、音声出力装置Ｈ２２６により効果音を発生させる報知）を実行するようにしても良い。

【１３０９３】

この場合、ラウンド遊技の終了に伴い開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）とされた場合に、前側切替部材Ａ１５６９５により前側導光板Ａ１５６９３への光の入射は遮蔽され透明板Ａ１５６９２を通して形状Ａ１５６９３ａの光は視認されないことから、視覚的には開閉板Ａ６５１が閉鎖側に変位したことを意識させないようにすることができる一方で、第２反応制御による報知により区切りを示唆することが可能となる。これにより、ラウンド間インターバルにおいて球の発射を停止しなくても不利益が無い時には形状Ａ１５６９３ａの光を視認させない構成を採用した場合（前側切替部材Ａ１５６９５が開口部Ａ１５６９１ｂを閉塞する位置（前側位置）とされる場合）において、ラウンド間インターバルにおいて第２反応制御による報知が実行されることにより、ラウンド遊技の終了の区切りが分からなくなる事態を避けることができる。

【１３０９４】

これにより、ラウンド間インターバルにおいて透明板Ａ１５６９２を通した視認態様は、開閉板Ａ６５１の退避状態（開放状態）に対応した態様で維持することで、球の発射停止を促すような事態は生じないように構成しながら、ラウンド間インターバルとなったこと（ラウンド遊技の間の区切りになったこと）は把握可能に構成することができる。

【１３０９５】

なお、上述の第１反応制御による報知として、開閉板Ａ６５１の開閉動作に対応して検出部において光が検出されるか否かに基づいて実行される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、開閉板Ａ６５１の位置を検出する検出センサを配設し、開閉板Ａ６５１の変位を検出可能とし、開閉板Ａ６５１の変位が不適切な状態（通常

状態など、開閉動作制御が実行されない状態）において生じたことが検出された場合に、報知が実行されるように構成しても良い。この場合、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光が暗い状態とされ、検出部において検出させるために十分な光量が生じていない状況が生じる場合であっても、時間を選ばずに不正行為の発生を検出することができる。これにより、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）の光の明るさの制御の自由度を向上させることができる。

【１３０９６】

通常は、開閉板Ａ６５１の変位を検出する検出部は配設されないこともある。開閉板Ａ６５１の下流側には入賞検出センサＡＳＣ６５があり、この入賞検出センサＡＳＣ６５の検出タイミングが適切か不適切かによって不正行為の有無を判断する場合がある。一方で、この場合、不正行為による入賞であっても賞球の払い出しは行われるため、不正行為者の逃げ足の早さによっては、不正行為が発覚した際にはすでに手遅れであり、不正行為者が得をする状況が生じ得る。本実施形態のように、開閉板Ａ６５１の状態の検出を行うことで、入賞検出センサＡＳＣ６５への入球が生じる前において、不正行為による開閉板Ａ６５１の開閉が生じていることを発覚させることができ、不正行為による賞球の発生を未然に防ぐことができ、不正行為者が得をする状況を防ぐことができる。

【１３０９７】

上述の説明では、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）となる場合に、開閉板Ａ６５１の前端とカバー部材Ａ１５６３０との間に球が挟まる場合があることを前提に説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、流下領域ＡＲ６５において開閉板Ａ６５１の右端付近にわずかに到達しない位置をめがけて上向きに突出動作可能な可動部を配設し、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）に変位されるのと同時に突出動作させるように構成しても良い。この場合、開閉板Ａ６５１が張出状態（閉鎖状態）へ向けて変位される直前に流下領域ＡＲ６５に進入し、開閉板Ａ６５１の前端とカバー部材Ａ１５６３０との間に位置した遊技球が、可動部からの当接荷重により上側に跳ね上げられることで、球が挟まる事態を未然に防ぐことができる。

【１３０９８】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、特に上記第１３９実施形態において、導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４は、固定されるものに限られない。即ち、導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４に駆動力を与えることで前後方向に変位させ、光が受光され視認される導光板Ａ１５６９３，Ａ１５６９４を切り替えるようにしても良い。例えば、「３」がエッジ入射光により描かれる加工がされた導光板、「２」がエッジ入射光により描かれる加工がされた導光板、「１」がエッジ入射光により描かれる加工がされた導光板が、手前側から後方側に積層されるように組み立てられ、この組立体が駆動源（モーター等）の駆動力により前後方向に移動可能に構成される場合において、光が導光され「３」が視認される状態から、組立体を前方に移動させることで、光により視認される態様が「３」、「２」、「１」と順に変化させる（カウントダウンを視認させる）ことが可能となる。

【１３０９９】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、特に上記第１３９実施形態において、第２反射部Ａ６３１ｇの形状が、第１反射部Ａ６３１ｆとは違って、光を開口部Ａ１５６９１ｂ全域へ到達させるようなレンズ形状とはなっていない場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１反射部Ａ６３１ｆと同じように反射させるように構成しても良い。この場合、第１反射部Ａ６３１ｆを介する光も、第２反射部Ａ６３１ｇを介する光も、開口部Ａ１５６９１ｂ全域に到達される。

【１３１００】

上記各実施形態（第１３３実施形態、第１３４実施形態～第１３９実施形態）では、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０の視認態様が、開閉板Ａ６５１の状態の変化により切替可能とされる場合を構成したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、特定領域

（Ｖ入賞口）への球の流下経路を開閉する態様で状態の切り替えが実行される特定開閉板を開閉板Ａ６５１の下流側に配設する構成を採用し、特定開閉板の進入する領域に光を照射可能な発光手段を設け、発光手段の光の進行態様が特定開閉板の状態の切り替えに対応して変化され、視認態様が特定開閉板の配置に対応する態様（例えば、張出状態では張り出している絵が、退避状態では退避している絵が、閉鎖状態では閉鎖との文字が、開放状態では開放との文字が、視認される態様）で変化される特定表示装置を配設するようにしても良い。

【１３１０１】

この場合において、特定表示装置は、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０と同様の構成を採用しつつ、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０とは別の位置に配置することで、設計コストを低減させられる。また、開閉板Ａ６５１に対応する表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０と、特定開閉板に対応する特定表示装置とは、配設の有無を個別に決定できるものであり、両方ともを配設しても良いし、いずれか一方のみを配設するようにしても良い。なお、表示装置Ａ６３８，Ａ１５６９０と特定表示装置とを近接配置させる（又は一体化させる）と、遊技者としては注目する箇所（範囲）がコンパクトに済むので、視線移動の疲労感が緩和される。

【１３１０２】

特定表示装置を採用する場合、実際には特定領域を遊技球が通過可能とされ、遊技球の通過により確変状態に移行する（した）にも関わらず、特定領域を遊技球が通過していない（通過しなかった）かのように第３図柄表示装置Ｈ８１等で報知された場合であっても、特定表示装置の視認態様の切り替わりにより、特定領域へ遊技球が通過可能な状態に特定開放板が切り替えられたことや、特定表示装置が点滅態様で視認されることにより、光を遮蔽する態様で遊技球が特定領域へ流下したことを、遊技者は把握できる。これにより、特定表示装置に対する注目力を向上させることができる。

【１３１０３】

更に、特定表示装置が表示装置Ａ１５６９０に採用される切替部材Ａ１５６９５，Ａ１５６９６の構成に準じた特定切替部材を備える場合、特定切替部材が光を遮蔽する側に位置する場合には、特定開閉板の状態の切り替えが特定表示装置の視認態様に反映されないように構成することもできる。そのため、特定切替部材を退避させて光を通過させるか、特定切替部材を光通過範囲に進入させて遮蔽させるかを切り替えることにより、特定開閉板の変位や、特定領域への球の流入について、特定表示装置の表示態様から把握可能な場合と、把握不能な場合とを構成することが可能となる。これにより、特定表示装置によって特定領域への遊技球の流入について把握し得るという遊技性を構築しながら、遊技が過度に単調になることを避けることができる。

【１３１０４】

開閉板Ａ６５１を、退避状態で開放状態を構成する態様ではなく、張出状態で開放状態を構成する態様、即ち、開閉板Ａ６５１を開閉板Ａ６４１の態様の「橋渡し開閉板」で構成し、特定入賞口Ｈ６５ａを、第２入賞口Ｈ６４０の態様の「橋渡し入賞口」で構成するようにしても良い。この場合、表示装置Ａ１５６９０において視認される表示は、特に「開放」と「閉鎖」文字で反転する。

【１３１０５】

即ち、「橋渡し開閉板」が流下領域ＡＲ６５側に張り出す張出状態とされる場合、「橋渡し開閉板」の上面を転動した遊技球が「橋渡し入賞口」に流入可能な開放状態であるので、前側導光板Ａ１５６９３には、「橋渡し開閉板」の張出状態を模式的に示す形状と、「開放」との文字が、光の導光により視認可能となる態様の加工が施される。

【１３１０６】

また、「橋渡し開閉板」が流下領域ＡＲ６５から退避した退避状態とされる場合、「橋渡し開閉板」の前方側を遊技球が素通り（落下）し、「橋渡し入賞口」への遊技球の流入が防止される閉鎖状態であるので、後側導光板Ａ１５６９４には、「橋渡し開閉板」の退避状態を模式的に示す形状と、「閉鎖」との文字が、光の導光により視認可能となる態様

の加工が施される。
【１３１０７】
　このような態様において、０．１２秒×１５回の開放パターンの小当たり動作を構成することも可能ではあるが、開閉板Ａ６５１で説明した場合と異なり、「橋渡し開閉板」では、上面を転動させて「橋渡し入賞口」へ遊技球を案内させる特徴から、０．１２秒の張出状態では、遊技球を案内しきれず、この小当たり動作では「橋渡し入賞口」への球の入賞が見込めない。そのため、表示装置Ａ１５６９０においては、前側導光板Ａ１５６９３には導光させず（「開放」との文字等は光らせず）、後側導光板Ａ１５６９４にのみ導光させる（「閉鎖」との文字等を光らせる）ことが好適とされる。このために、開閉板Ａ６５１の場合と同様に、発光部Ａ６６１（第３発光部Ａ６６４）を片側非視認態様とすることが好適とされる。
【１３１０８】
　短開放の小当たり動作（例えば、小当たりＡ）では、「橋渡し開閉板」が開放状態となったこと気づいてから球を発射しても間に合わないため、前側切替部材Ａ１５６９５により光を遮蔽して、前側導光板Ａ１５６９３には導光させない（「開放」との文字等は光らせない）ことが好適とされる。
【１３１０９】
　「橋渡し開閉板」の前側端部とカバー部材Ａ６３０との間で球挟みが生じている場合には、挟まれた球により「橋渡し入賞口」への球の案内が阻害されるため、前側導光板Ａ１５６９３には導光させず、「開放」との文字は光らせないことが好適とされる。
【１３１１０】
　大当たりや小当たりの条件が成立していないのに、「橋渡し開閉板」の変位を検出した場合にはエラー報知を行う。この場合に、前側切替部材Ａ１５６９５の外側の面に検出部を配置することで、「橋渡し開閉板」の変位が張出状態までは到達していないが、上面において球の転動をさせることは可能な程度に張り出され「橋渡し入賞口」への球の流入を可能とさせる途中の状態とし、不正の利益を得ようとする不正行為が行われた場合であっても、報知を行うことが可能となる。
【１３１１１】
　「橋渡し入賞口」に球を案内可能な程度の長さで張出状態（開放状態）が維持される場合には、前側導光板Ａ１５６９３に導光された光による形状が、球による光の遮蔽で点滅される。一方、「橋渡し入賞口」に球を案内できない程度の長さ（短）で張出状態（開放状態）が維持される場合には、前側導光板Ａ１５６９３に導光された光による形状は点滅せず、「橋渡し開閉板」が退避状態（閉鎖状態）とされた後で、「橋渡し開閉板」上から落下した球により後側導光板Ａ１５６９４に導光される光が遮蔽されることで、後側導光板Ａ１５６９４に施された形状の光が、点滅態様で視認される。
【１３１１２】
　このように、「橋渡し開閉板」が張出状態（開放状態）とされる長さの違いにより前側導光板Ａ１５６９３に導光された光による形状の視認態様が変化し得る（点滅態様で視認され得る）ように構成され、「橋渡し開閉板」が張出状態（開放状態）とされる長さが短い場合に、前側導光板Ａ１５６９３に施された形状の光は点滅していないのに後側導光板Ａ１５６９４に施された形状の光は点滅態様で視認される場合に、遊技者は無駄球（「橋渡し開閉板」の退避状態（閉鎖状態）において「橋渡し開閉板」の手前側を落下し「橋渡し入賞口」には流入しない球）を発射していることに気づくことができる。
【１３１１３】
　「橋渡し開閉板」の張出状態（開放状態）において上面を転動している球は、「橋渡し開閉板」が退避状態（閉鎖状態）とされた直後に落下し、光を遮蔽することから、後側導光板Ａ１５６９４に施された形状の光は視認可能となった直後において点滅態様で視認される。一方で、「橋渡し開閉板」の張出状態（開放状態）において上面に球がなかった場合、「橋渡し開閉板」が退避状態（閉鎖状態）とされたとしても球による光の遮蔽は生じないため、後側導光板Ａ１５６９４に施された形状の光は視認可能となった直後において

点滅されず、点灯状態が維持される態様で視認される。
【１３１１４】
この場合には、球が「橋渡し開閉板」側へ発射されていない場合も含まれるため、後側導光板Ａ１５６９４に施された形状の光が視認可能となった直後において点滅されなかった場合には、遊技者に対して球の発射不良が生じているとの可能性に気づかせることができ、「橋渡し開閉板」付近への注目力を向上させることができる。
【１３１１５】
本発明を上記各実施形態とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される）として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の領域に球を入賞させることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるパチンコ機として実施してもよい。また、Ｖゾーン等の特別領域を有する入賞装置を有し、その特別領域に球を入賞させることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機に実施してもよい。更に、パチンコ機以外にも、アレパチ、雀球、スロットマシン、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機などの各種遊技機として実施するようにしても良い。
【１３１１６】
なお、スロットマシンは、例えばコインを投入して図柄有効ラインを決定させた状態で操作レバーを操作することにより図柄が変動され、ストップボタンを操作することにより図柄が停止されて確定される周知のものである。従って、スロットマシンの基本概念としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を変動表示した後に識別情報を確定表示する表示装置を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の変動表示が停止して確定表示され、その停止時の識別情報の組合せが特定のものであることを必要条件として、遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるスロットマシン」となり、この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。
【１３１１７】
また、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する表示装置を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく所定量の球の投入の後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技が発生させられ、遊技者には、下部の受皿に多量の球が払い出されるものである。かかる遊技機をスロットマシンに代えて使用すれば、遊技ホールでは球のみを遊技価値として取り扱うことができるため、パチンコ機とスロットマシンとが混在している現在の遊技ホールにおいてみられる、遊技価値たるメダルと球との別個の取扱による設備上の負担や遊技機設置個所の制約といった問題を解消し得る。
【１３１１８】
以下に、本発明の遊技機に加えて上述した実施形態に含まれる各種発明の概念を示す。
【１３１１９】
＜変位手段への光の照射態様の変化により異なる表示がされるポイント＞
遊技者が操作可能な操作手段と、その操作手段の操作に基づいて変位される変位体の所定部を検出可能な検出手段と、所定領域側に位置する第１位置と、その第１位置よりも前記所定領域から離間した第２位置とを変位可能な変位手段と、光照射手段を有する所定手段と、を備え、前記検出に基づく所定条件の成立に基づいて実行される特定制御の態様を、記憶された複数の態様から選択する選択手段を備え、前記選択手段により選択された態

様に基づいて前記変位手段が変位され得るよう構成され、前記光照射手段の光が前記所定領域に進行可能に構成され、前記変位手段が前記第１位置に位置している場合の前記所定領域における前記光照射手段の光の進行態様と、前記変位手段が前記第２位置に位置している場合の前記所定領域における前記光照射手段の光の進行態様とが異なるよう構成され、前記第１位置に位置している前記変位手段に前記光照射手段の光が照射された場合に、所定方向視における前記所定手段の所定位置において前記変位手段の配置に対応させた表示が視認可能となるように構成されることを特徴とする遊技機ＡＣ１。

【１３１２０】

パチンコ機等の遊技機において、変位手段が所定領域から離間した開放状態における位置とされたことを示唆する表示を実行可能に構成される遊技機がある（例えば、特開２０１６－５４８０８号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、表示の実行は、変位手段が実際に開放状態における位置に到達したことを条件とするものではなく、変位手段が実際に開放状態における位置に到達する前から実行可能とされるため、即ち、変位手段の変位と表示とがずれる場合があるため、表示に従って遊技球を発射したとしても変位手段が開放状態とされる前に遊技球が変位手段を素通りする場合があり、表示態様に改善の余地があるという問題点があった。

【１３１２１】

これに対し、遊技機ＡＣ１によれば、光照射手段から光が照射される場合に、変位手段が選択手段により選択された態様に基づいて第１位置と第２位置とを変位する場合に変位手段に照射される光照射手段からの光の進行態様が変化され、第１位置に位置している変位手段に光照射手段の光が照射された場合に、所定手段の所定方向視における所定位置において変位手段の配置に対応させた表示が視認可能とされることから、変位手段の変位と視認される表示の態様とを対応させることができるため、表示態様を好適とすることができる。

【１３１２２】

前記遊技機ＡＣ１において、前記所定手段は、前記変位手段が前記第２位置に位置している場合において前記所定位置において所定の表示が視認可能となるように構成され、前記所定手段を通して視認される表示の明るさは、前記所定手段の特定部を通過する前記光照射手段の光の明るさと対応することを特徴とする遊技機ＡＣ２。

【１３１２３】

遊技機ＡＣ２によれば、遊技機ＡＣ１の奏する効果に加え、表示の明るさが、所定手段を通過する光照射手段の光の明るさと対応するため、表示の切り替えを判別しやすい。

【１３１２４】

前記遊技機ＡＣ１又はＡＣ２において、前記変位体が前記光照射手段の光を遮った場合に前記表示が視認されなくなることを特徴とする遊技機ＡＣ３。

【１３１２５】

遊技機ＡＣ３によれば、遊技機ＡＣ１又はＡＣ２の奏する効果に加え、表示が視認されなくなることにより、変位体が光照射手段の光を遮る位置を通過する態様で変位したことを遊技者に把握させることができる。

【１３１２６】

遊技機ＡＣ１からＡＣ３のいずれかにおいて、前記光照射手段の光を遊技者が視認可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＣ４。

【１３１２７】

遊技機ＡＣ４によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ３のいずれかの奏する効果に加え、光照射手段からの光を表示の実行に関する検出光としてだけではなく、遊技者に視認させて演出に利用することができる。

【１３１２８】

遊技機ＡＣ１からＡＣ４のいずれかにおいて、前記検出手段を視認し難いように遮蔽する遮蔽手段を備えることを特徴とする遊技機ＡＣ５。

【１３１２９】

遊技機ＡＣ５によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ４のいずれかにおいて、変位体の検出手段における検出を視認困難とすることで、変位体を視認することで変位手段の変位について予測する遊技態様を防止し、表示に対する注目力を向上させることができる。なお、以下、「変位体」を、「遊技球」や「球」とも称する場合がある。

【１３１３０】

遊技機ＡＣ１からＡＣ５のいずれかにおいて、前記特定制御において、前記変位手段が変位可能とされ、その変位手段は前記特定制御がされる状態とは異なる状態においても変位可能とされることを特徴とする遊技機ＡＣ６。

【１３１３１】

遊技機ＡＣ６によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ５のいずれかの奏する効果に加え、変位手段が変位可能なタイミングが限られないことから、変位手段に対する注目力を高められるタイミングを増加させることができる。

【１３１３２】

遊技機ＡＣ１からＡＣ６のいずれかにおいて、前記光照射手段は、前記所定領域の外方に配置され、前記光照射手段の光が、前記変位手段を介して前記変位手段の前方側（または後方側）に位置する照射領域に照射されるよう構成されることを特徴とする遊技機ＡＣ７。

【１３１３３】

遊技機ＡＣ７によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ６のいずれかの奏する効果に加え、逆光となって所定領域の内部が見え難くなることを避けられる光照射手段の光により、所定領域だけでなく、照射領域を照らすことができる。また、変位手段の変位方向端部に光照射させ易い。また、前方へ照射するよりも、変位手段で不完全に仕切られる領域からの光漏れを演出に利用し易い。

【１３１３４】

遊技機ＡＣ７において、前記変位手段によって前記光照射手段の光が反射される場合において、前記変位手段が変位終端位置に配置されていない場合の前記照射領域を介する視認態様は、前記変位手段が変位終端位置に配置されている場合の前記照射領域を介する視認態様とは異なることを特徴とする遊技機ＡＣ８。

【１３１３５】

遊技機ＡＣ８によれば、遊技機ＡＣ７の奏する効果に加え、光が照射領域に照射されたことに基づく照射領域の視認態様の変化を短時間で生じる場合に収めることができるので、照射領域へ注目させる際の集中力を高めさせることができ、また、照射領域を介する視認態様の変化により、変位手段の変位動作実行時を把握させることができ、一方で、照射領域を介する視認態様の変化からは、変位手段の変位動作の方向までは把握できないようにすることができるので、照射領域に注目するのみの遊技態様から、変位手段にも注目させる遊技態様へ誘導することができる。

【１３１３６】

遊技機ＡＣ１からＡＣ８のいずれかにおいて、前記光照射手段は、前記変位手段の変位によらず発光を継続するよう構成され、前記光照射手段の光は、前記変位手段が前記第１位置に位置する場合に、前記変位手段の対向する側に照射され、前記変位手段が前記第２位置に位置する場合に、前記変位手段には照射されず、前記変位手段の前方側（または後方側）に位置する照射領域に照射され、前記所定領域に位置する場合（または／および）前記所定領域に進入する前の場合における前記変位体に照射されることを特徴とする遊技機ＡＣ９。

【１３１３７】

遊技機ＡＣ９によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ８のいずれかの奏する効果に加え、変位手段の変位に対応して発光態様の制御を行う場合に比べて、光照射手段の発光態様を制御により変更させることをせずとも光照射手段の光が視認される態様が変化されるようにすることができ、発光演出の演出効果を向上させることができる。

【１３１３８】

遊技機ＡＣ１からＡＣ８のいずれかにおいて、前記変位手段が前記第２位置から前記第１位置に変位する時期を、前記所定位置の視認態様の変化で示唆可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＣ１０。

【１３１３９】

遊技機ＡＣ１０によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ８のいずれかの奏する効果に加え、所定位置の視認態様を視認させることで、変位手段の変位時期を予測させることができるので、所定位置の視認態様に対する注目力を向上させることができる。

【１３１４０】

また、入球個数の検出に基づいて発光態様を変化させる（変化を早める）よう制御すれば、遊技者は、あと何球入球すれば規定個数に到達するのかを図り易くなり、インターバル期間に到達した球が所定領域を逸れて流下することを避けるための特殊打ち（止め打ち）や、オーバー入賞狙いの特殊打ち（ひねり打ち）を、行い易くなる。

【１３１４１】

遊技機ＡＣ１からＡＣ８のいずれかにおいて、前記変位手段の所定の変位を実行させる所定条件を成立させ得る変位体が待機位置に位置する状態を検出可能な待機検出手段を備え、前記待機検出手段により検出された状態が、前記所定条件を成立させ得る状態か、前記所定条件を成立させ得ない状態か、に対応して、前記光照射手段の発光態様が変化され得ることを特徴とする遊技機ＡＣ１１。

【１３１４２】

遊技機ＡＣ１１によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ８のいずれかの奏する効果に加え、光照射手段の発光態様を視認させることで、実際に所定条件が成立しないことが判明する時点よりも先んじて、所定条件が成立され得るか否かを遊技者に把握させることができる。これにより、遊技者が不測の不利益を受けることを避けることができる。

【１３１４３】

なお、待機検出手段により検出される対象としては、一例として、特別遊技状態における変位手段の連続的な開閉変位（往復変位）の回数とラウンド遊技の規定個数との積が、上皿に貯留された遊技球の貯留個数に対して多いか少ないかを判断するために、待機検出手段は、上皿に貯留された遊技球の貯留個数を検出可能に構成される。

【１３１４４】

ここで、現状上皿にある球数の遊技球で特別遊技状態を不利なく進行させられない場合には、払出装置からの供給が球詰まり等により途絶えて球を発射させられない状態となると、特別遊技状態の一部を規定時間（例えば、１ラウンドにつき３０秒間）の経過により終えて、入賞させられないことによる不利益を遊技者に与える事態が生じ得るところ、その不利益が発生することは、上皿の球数が少なくなってきて初めて遊技者の知るところになることがほとんどであり、気づいた時には手遅れである場合が多い。特に、制限期間内における特定領域（Ｖ入賞口）への入賞により、確率変動が発生する遊技機や、大当たりが発生する遊技機では、遊技者の受ける不利益は甚大なものとなる。

【１３１４５】

これに対し、本発明では、特別遊技状態の開始時点から上皿にある遊技球の球数を検出することにより、特別遊技状態の進行途中で遊技球が不足して発射できなくなる事態が生じ得るかを把握することができ、その結果を光照射手段の発光態様の変化として遊技者に視認させることができる。これにより、遊技者が不利益を受ける可能性について、遊技者に事前に把握させることができ、前もって対応を促すことにより、不利益を未然に回避させることができる。

【１３１４６】

これにより、光照射手段の光の発光態様の変化により、特別遊技状態の進行に関連した報知を行うことができ、遊技者に前もって危険（例えば、発射球不足となる危険）に気づかせ易くすることができる。即ち、上皿に貯留されている球の球数が減少する前から球不足の可能性について遊技者に報知することで、遊技者の対応時間を長めに確保させることができる。更に、払出装置からの球供給の停止に基づくエラー報知が実行されることに先

んじた報知を行うことにより、遊技者に対策を促すタイミングを前倒しでき、対策が手遅れとなることを回避し易くすることができる。

【１３１４７】

遊技機ＡＣ１からＡＣ８のいずれかにおいて、前記変位手段の所定の変位を実行させる所定条件を成立させ得る変位体が待機位置に位置する状態を検出可能な待機検出手段を備え、前記変位体が前記待機位置に位置していることが検出されている状態において、前記操作手段の操作により前記変位体を変位させることが可能な期間を前記光照射手段の発光態様の変化により報知可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＣ１２。

【１３１４８】

遊技機ＡＣ１２によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ８のいずれかの奏する効果に加え、光照射手段の発光態様の変化を視認させることで、操作手段の操作に基づいて変位体を変位させることが可能な期間を遊技者に把握させることができることから、光照射手段の光に対する注目力を向上させることができる。

【１３１４９】

遊技機ＡＣ１からＡＣ１２のいずれかにおいて、前記変位手段の前記光照射手段に対向する側に光を反射可能な反射部が構成され、前記所定領域の内方に前記変位体が位置する場合と、位置しない場合とで、前記反射部で反射された光の視認態様が変化され得ることを特徴とする遊技機ＡＣ１３。

【１３１５０】

遊技機ＡＣ１３によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ１２のいずれかの奏する効果に加え、反射部と変位体とにより、光照射手段の光の視認態様を複雑に変化させることができることから、光演出の演出効果を向上させると共に、光照射手段の光を視認することが変位体の位置の把握に役立つことから、光照射手段の光に対する注目力を向上させることができる。

【１３１５１】

なお、反射部としては、例えば、鏡面でも良いし、平面形状でも良いし、凹凸を有する形状（デコボコ形状、ギザギザ形状など）でも良い。特に、凹凸を有する形状である場合、変位手段が第１位置に位置する場合において上面を流れる遊技球の有無（または多少）による浮き沈み方向の変位により、光の反射方向の変化が大きくなるため、変位手段が第１位置に位置する場合における光の視認態様のバリエーションを増加させることができる。

【１３１５２】

遊技機ＡＣ１からＡＣ１２のいずれかにおいて、前記光照射手段の光は、前記変位手段が前記第１位置に位置する場合であっても、前記光照射手段から変位手段までの距離よりも離れた離間位置まで到達し得ることを特徴とする遊技機ＡＣ１４。

【１３１５３】

遊技機ＡＣ１４によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ１２のいずれかの奏する効果に加え、変位手段が第１位置にある場合も第２位置にある場合も、光照射手段の光が変位手段で遮蔽されることはなく、遊技者に近い側に位置する離間位置において光照射手段の光による光演出を常時実行可能に構成することができる。

【１３１５４】

なお、光が離間位置まで到達し得る態様としては、所定領域を区画する壁部との関係で、変位手段が壁部に近接した場合に隙間が空く寸法関係とされることで光の一部が隙間から漏れる場合や、変位手段の寸法関係に関わらず、変位手段が、透光性の材料から形成されており、光が変位手段を透過可能に構成される場合などが例示される。

【１３１５５】

離間位置は、変位手段で視界が遮られていない領域に位置する。例えば、離間位置は、変位手段よりも手前側に位置する。また、例えば、離間位置は、変位手段よりも後方側の位置であってもよく、変位手段が変位終端位置に位置する場合に遊技者の視界が遮られない位置であればよく、変位手段の変位途中において一時的に視界が遮られる位置であって

も良い。
【１３１５６】
遊技機ＡＣ１４において、前記変位手段は、少なくとも一部が光透過性の部材から形成されることを特徴とする遊技機ＡＣ１５。
【１３１５７】
遊技機ＡＣ１５によれば、遊技機ＡＣ１４の奏する効果に加え、変位手段の変位と、光照射手段の光との関係性を部分的に解除することができる。
【１３１５８】
なお、変位手段は、単層の構造でも良いし、二層構造（複数層構造）でも良い。後者の場合において、全ての層に光透過性の部材が含まれるように構成しても良いし、一部の層に光透過性の部材が含まれるように構成しても良い。
【１３１５９】
また、後者の場合において、複数層の変位手段が、別々に動作可能に構成しても良い。この場合において、一の層の変位手段が透過性の部材から形成され、他の層の変位手段が非透過性の部材から形成される場合には、一の層の変位手段が第１位置に位置し、所定領域に対する変位手段が張り出す状態が維持されながら、他の層の変位手段が第１位置と第２位置とを変位することで所定領域の視認態様を変化させるように構成することができる。
【１３１６０】
この場合、変位手段が第１位置に位置するという同じ状況であっても、一の層の変位手段は第１位置に位置する一方で他の層の変位手段は第２位置に位置されることにより、変位手段により光が遮蔽されない態様と、一の層の変位手段の位置に関わらず他の層の変位手段が第１位置に位置されることにより、変位手段により光が遮蔽される態様と、を構成することができる。
【１３１６１】
これにより、変位手段が第１位置に位置される状態（例えば、インターバル期間）においても、第１位置に位置される変位手段が光透過性の部材から形成されることで、光照射手段の光の通過範囲が狭められることを避けることができるので、特別遊技状態において光照射手段の光の視認態様が変位手段の変位に影響を受けて区切られる（終始一定の発光態様で視認されるものではない）事態に限定されない遊技態様を構成することができる。
【１３１６２】
また、他の層の変位手段が複数構成され、それらが別々に動作可能に構成しても良い。この場合において、他の層の変位手段のうちの一の変位手段の光照射手段に対向する側に光を反射可能な反射部が形成され、他の層の変位手段のうちの他の変位手段には反射部が形成されないように構成しても良い。
【１３１６３】
この場合、非透過性部材から形成される変位手段が第１位置に位置するという同じ状況であっても、反射部が形成される一の変位手段が第１位置に位置する場合と、反射部が形成されない他の変位手段が第１位置に位置する場合とで、所定領域における光の進行態様を変化させることができる。
【１３１６４】
更に、光が反射される場合において、それが変位手段の反射部による反射なのか、球の表面における反射なのかを判別し難くすることができ、光照射手段の光の視認態様から所定領域における球の有無を容易には判別し難くすることができる。これにより、所定領域を直接視認させるように促すことができ、所定領域への注目力を向上させることができる。
【１３１６５】
この場合において、球は所定領域を流下継続する一方で、変位手段は第１位置または第２位置で停止されることが異なる。そのため、球で反射される光の視認態様は球が流下により変位されるのと同様に時間経過とともに変化されるが、変位手段で反射される光の視

認態様は変位手段が停止している状況において固定され得るため、両者は全く同じということはない。即ち、反射された光を継続的に視認する場合に、視認態様が異なるので、遊技者の経験の度合いにより、変位手段による反射光なのか、球による反射光なのかを、遊技者に把握させることが可能となっている。

【１３１６６】

これにより、変位手段が第１位置に位置する場合における反射光を視認した場合に、遊技者の経験の度合いによっては、その反射光が所定領域に位置する球に反射した反射光であることを把握させることができ、遊技者は超過入賞の発生を知ることができる。これにより、光照射手段の光（反射光）に対する注目力を向上させることができる。

【１３１６７】

遊技機ＡＣ１４又はＡＣ１５において、前記変位手段は、光の照射態様によって透過度合が変化可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＣ１６。

【１３１６８】

遊技機ＡＣ１６によれば、遊技機ＡＣ１４又はＡＣ１５の奏する効果に加え、光の照射態様を変化させることで、変位手段を透過させて変位手段が実際には存在する位置において変位手段が存在しないように視認させたり、光の照射位置を時間差で変えることで実際の変位手段の変位態様とは異なる変異態様で変位しているように視認させたりすることができる。

【１３１６９】

即ち、遊技を満足させるための変位手段の変位態様とは異なる変位態様で変位手段が変位しているように遊技者に視認させることができるので、変位手段による演出効果を向上させることができる。

【１３１７０】

遊技機ＡＣ１からＡＣ１２のいずれかにおいて、前記変位手段は、第１変位手段と、第２変位手段とを備え、前記第１変位手段および前記第２変位手段は、それぞれ固有の前記所定領域側の位置と、前記所定領域から離間した位置とを変位可能に構成され、前記第１変位手段および前記第２変位手段は、それぞれ独立して変位可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＣ１７。

【１３１７１】

遊技機ＡＣ１７によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ１２のいずれかの奏する効果に加え、変位手段が複数の手段から構成され、それらが独立して変位可能とされていることから、複雑な変位態様を実現させることができる。

【１３１７２】

遊技機ＡＣ１７において、前記第１変位手段および前記第２変位手段は、前記光照射手段に対向する側とは反対側の形状が異なることを特徴とする遊技機ＡＣ１８。

【１３１７３】

遊技機ＡＣ１８によれば、遊技機ＡＣ１７の奏する効果に加え、球が転動する側の形状が異なることで、変位手段（第１変位手段または第２変位手段）が所定領域側の位置に位置している場合に所定領域を逸れる方向に転動する球の転動速度を異ならせることができ、変位手段が所定領域側の位置に維持される期間が同じであっても、球が所定領域を逸れて流下する場合と、球が所定領域を逸れて流下しきる前に変位手段が変位されることで球を所定領域に進入させる場合とを構成することができる。

【１３１７４】

遊技機ＡＣ１７又はＡＣ１８において、前記第１変位手段および前記第２変位手段は、変位方向が異なることを特徴とする遊技機ＡＣ１９。

【１３１７５】

遊技機ＡＣ１９によれば、遊技機ＡＣ１７又はＡＣ１８の奏する効果に加え、第１変位手段および第２変位手段の変位方向の違いにより、光照射手段の光の視認態様の変化の態様を異ならせることができることから、遊技者は、光の視認態様の変化を視認することで、第１変位手段が変位したのか、第２変位手段が変位したのかを把握することができる。

これにより、遊技者に対して変位手段に注目することを強いることを避けることができ、遊技の快適さを向上させることができる。

【１３１７６】

遊技機ＡＣ１からＡＣ１８のいずれかにおいて、前記変位手段の所定の変位が開始される前に前記操作手段の所定の操作を促す所定演出が実行され、前記所定演出は、前記変位手段の予備変位に基づいて実行されることを特徴とする遊技機ＡＣ２０。

【１３１７７】

遊技機ＡＣ２０によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ１８のいずれかの奏する効果に加え、所定の操作を行うタイミングについて変位手段を視認することで把握できることから、変位手段に対する注目力を向上させることができる。

【１３１７８】

なお、所定演出による光の視認態様の変化としては、種々の態様が例示される。例えば、球が通過する際に生じる光の視認態様の変化と異なるように構成しても良いし、同様となるように構成しても良い。

【１３１７９】

例えば、球が通過する際には光照射手段の光のほとんどが照射領域に到達しない状況が構成されることから、照射領域では光が点滅する態様で視認される。一方で、変位手段の変位に基づく光照射手段の光の視認態様の変化は、変位手段と所定領域を区画する壁部との隙間の大小が変化されることにより照射領域では光の幅（大きさ）が変化する態様で視認される。

【１３１８０】

遊技機ＡＣ２０において、前記所定演出において、前記光照射手段の光の前記照射領域への照射態様が切り替えられた場合に図柄や文字列が視認可能となるよう構成され、前記図柄や文字列を視認可能とさせる場合における前記光照射手段の光は特定色とされ、前記光照射手段の光が特定色で照射される期間が制限されるよう構成されることを特徴とする遊技機ＡＣ２１。

【１３１８１】

遊技機ＡＣ２１によれば、遊技機ＡＣ２０の奏する効果に加え、光照射手段の光が特定色で照射される期間が制限されることから、所定演出を実行させるための遊技態様を制限時間内で完了するために、遊技者に積極的に遊技を行わせることができる。

【１３１８２】

遊技機ＡＣ２１において、前記所定の操作が促される前における前記操作手段の操作に基づいて変位された前記変位体が、前記光照射手段の光を遮るように変位する場合に、前記光照射手段の光の前記照射領域への照射態様が切り替えられることを特徴とする遊技機ＡＣ２２。

【１３１８３】

遊技機ＡＣ２２によれば、遊技機ＡＣ２１の奏する効果に加え、変位体（遊技球）が所定領域に進入するか否かに関わらず、変位体が光照射手段の光を遮るように変位する場合に照射領域の視認態様を変化させるように作用するので、入賞による賞球が得られない場合であっても、賞球とは異なる利益（特定の図柄や文字列の視認）を遊技者に与えることができ、入賞効率が悪い場合における遊技者の不満を緩和させることができる。

【１３１８４】

なお、球が通過する際の光照射手段の光の視認態様の変化は、光照射手段の発光自体を点滅制御させた場合の視認態様の変化と類似しているため、光照射手段の発光自体を点滅制御させることにより、あたかも球が所定領域に入球しているかのように見せることができる。

【１３１８５】

遊技機ＡＣ１からＡＣ１８のいずれかにおいて、前記変位手段の変位は、前記第２位置に所定期間維持される第１の変位態様と、前記第２位置に維持される期間が前記所定期間よりも短い第２の変位態様と、を少なくとも構成可能であることを特徴とする遊技機ＡＣ

２３。
【１３１８６】
遊技機ＡＣ２３によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ１８のいずれかの奏する効果に加え、照射領域で視認される光照射手段の光が所定期間同じ態様とされるか、短時間で切り替わるかという、異なる態様で視認させることができるので、光による演出効果を向上させることができる。
【１３１８７】
なお、本発明に係る遊技機であれば、変位手段の往復変位が短時間で生じる場合であっても、照射領域における光照射手段の光の視認態様の変化を目立たせることで、変位手段の変位に遊技者が気づかないという事態を回避し易くすることができる。
【１３１８８】
遊技機ＡＣ１からＡＣ２３のいずれかにおいて、前記特定制御において変位手段が変位可能であって、その変位手段は前記特定制御がされる状態とは異なる状態においても変位可能とされることを特徴とする遊技機ＡＣ２４。
【１３１８９】
遊技機ＡＣ２４によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ２３のいずれかの奏する効果に加え、変位手段の変位が生じても特定制御がされていないという状況を構成することが可能となり、変位手段の変位をより頻繁に生じさせることで、変位手段を利用した演出効果を向上させることができ、変位手段に対する注目力を向上させることができる。
【１３１９０】
遊技機ＡＣ１からＡＣ２４のいずれかにおいて、遊技者が操作可能な操作手段を備え、前記変位手段が変位されるよりも事前に前記操作手段を操作することに基づいて、前記変位手段の変位態様を変化可能に構成されることを特徴とする遊技機ＡＣ２５。
【１３１９１】
遊技機ＡＣ２５によれば、遊技機ＡＣ１からＡＣ２４のいずれかの奏する効果に加え、操作手段の操作により変位手段の変位態様を変化させることができるので、遊技を快適に行わせることができる。
【１３１９２】
なお、事前の操作による変位手段の変位態様の変化は、操作実行時は準備段階とされ反映（適用）されず、操作実行後に実行される遊技状態で反映（適用）されることが通常であるが、これに限られるものではない。例えば、操作実行時から反映（適用）されるように構成しても良い。
【１３１９３】
事前の操作により変位手段の変位態様を変化させる利点の一例として、例えば、特別遊技状態におけるインターバル期間を短縮させる変化により、特別遊技状態にかかる時間長さを短縮させることができたり、特別遊技状態における初回の変位手段の変位実行までの待ち時間を長く確保させる変化により、休憩時間を設けるようにすることができたり、させることが可能となる。
【１３１９４】
なお、変位手段の変位態様の変化のバリエーションとしては種々の態様が例示される。例えば、予め用意された数パターン（例えば３パターン）から選択可能に構成しても良いし、複数のパラメーター（オープニング時間長さ、ラウンド１，２間インターバル期間長さ、ラウンド２，３間インターバル期間長さ、その後のラウンド間インターバル期間長さ、エンディング時間長さ、等）のそれぞれについて好みに合わせて選択可能に構成しても良い。
【１３１９５】
また、変位手段の変位態様の変化としては、変位の事前に生じる契機からの時間間隔が変化されることでも良いし、変位手段の連続する変位の間隔が変化されることでも良い。
【１３１９６】
遊技機ＡＡ１～ＡＡ１３，ＡＢ１～ＡＢ１２，ＡＣ１～ＡＣ２５，ＡＤ１～ＡＤ２３，

ＡＥ１～ＡＥ２４，ＦＦ１～ＦＦ１０、ＡＰ１～ＡＰ９，ＡＪ１～ＡＪ７，ＢＪ１～ＢＪ７のいずれかにおいて、前記遊技機はスロットマシンであることを特徴とする遊技機ＡＺ１。中でも、スロットマシンの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段（ストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備えた遊技機」となる。この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【１３１９７】

遊技機ＡＡ１～ＡＡ１３，ＡＢ１～ＡＢ１２，ＡＣ１～ＡＣ２５，ＡＤ１～ＡＤ２３，ＡＥ１～ＡＥ２４，ＦＦ１～ＦＦ１０、ＡＰ１～ＡＰ９，ＡＪ１～ＡＪ７，ＢＪ１～ＢＪ７のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機であることを特徴とする遊技機ＡＺ２。中でも、パチンコ遊技機の基本構成としては操作ハンドルを備え、その操作ハンドルの操作に応じて球を所定の遊技領域へ発射し、球が遊技領域内の所定の位置に配設された作動口に入賞（又は作動口を通過）することを必要条件として、表示手段において動的表示されている識別情報が所定時間後に確定停止されるものが挙げられる。また、特別遊技状態の発生時には、遊技領域内の所定の位置に配設された可変入賞装置（特定入賞口）が所定の態様で開放されて球を入賞可能とし、その入賞個数に応じた有価価値（景品球のみならず、磁気カードへ書き込まれるデータ等も含む）が付与されるものが挙げられる。

【１３１９８】

遊技機ＡＡ１～ＡＡ１３，ＡＢ１～ＡＢ１２，ＡＣ１～ＡＣ２５，ＡＤ１～ＡＤ２３，ＡＥ１～ＡＥ２４，ＦＦ１～ＦＦ１０、ＡＰ１～ＡＰ９，ＡＪ１～ＡＪ７，ＢＪ１～ＢＪ７のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機とスロットマシンとを融合させたものであることを特徴とする遊技機ＡＺ３。中でも、融合させた遊技機の基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備え、遊技媒体として球を使用すると共に、前記識別情報の動的表示の開始に際しては所定数の球を必要とし、特別遊技状態の発生に際しては多くの球が払い出されるように構成されている遊技機」となる。

【１３１９９】

以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図７３３から図７５１を参照し、第１４０実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｊ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。

【１３２００】

図７３３から図７３７を参照して遊技盤Ｊ１３の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される動作ユニットＹ２００の概略構成について説明する。図７３３は、第１４０実施形態における遊技盤Ｊ１３及び動作ユニットＹ２００の正面図であり、図７３４は、遊技盤Ｊ１３及び動作ユニットＹ２００の分解正面斜視図であり、図７３５は、遊技盤Ｊ１３の分解正面斜視図であり、図７３６は、動作ユニットＹ２００の分解正面斜視図であり、図７３７は、動作ユニットＹ２００の分解正面斜視図である。

【１３２０１】

図７３５に示すように、第３図柄表示装置Ｊ８１を視認可能な開口部を有する遊技盤Ｊ１３のベース板Ｊ６０は、略中央位置においてセンターフレームＹ８６を受け入れ可能に形成される中央開口Ｊ６０ａと、その中央開口Ｊ６０ａの左右位置においてスルーゲートＪ６７を受け入れ可能に形成される一対の受入開口Ｊ６０ｂと、そのスルーゲートＪ６７よりも下方において入球口Ｊ７５から連続的に形成される経路を受け入れ可能に貫通形成

される一対の貫通開口Ｊ６０ｃと、を備える。
【１３２０２】
第３図柄表示装置Ｊ８１を視認可能な中央開口Ｊ６０ａは、正面視において縁部が第３図柄表示装置Ｊ８１の表示領域の内方に大きく入り込まないようにして、概ね表示領域の外枠と縁部とが重なる位置関係で設計されており、これにより第３図柄表示装置Ｊ８１の表示の視認性を損なわないようにしている。遊技者は、中央開口Ｊ６０ａの内方側を通して第３図柄表示装置Ｊ８１の表示を視認可能に構成される。
【１３２０３】
貫通開口Ｊ６０ｃの上下位置は、内方側に表示領域を有する第３図柄表示装置Ｊ８１の表示領域の下縁Ｊ８１ｂの上下位置よりも上方側となるように設定される（図７３３参照）。
【１３２０４】
図７３７に示すように、動作ユニットＹ２００は、箱状に形成される背面ケースＹ３００を備え、その背面ケースＹ３００の内部空間に上下スライドユニットＹ２１０、下変位ユニットＹ２３０、上変位ユニットＹ４００、及び、一対の揺動ユニットＹ７００、が収容され、上変位ユニットＹ４００の下方側の左右両端側において装飾部材Ｙ２２０が前方側から背面ケースＹ３００に締結固定され、その装飾部材Ｙ２２０よりも前方側において一対の背面側通路ユニットＹ１００が遊技盤Ｊ１３と対向配置される。
【１３２０５】
背面ケースＹ３００は、正面視略矩形の底壁部Ｙ３０１と、その底壁部Ｙ３０１の４辺の外縁から正面へ向けて立設される外壁部Ｙ３０２と、を備え、それら各壁部Ｙ３０１，Ｙ３０２により一面側（正面側（矢印Ｆ方向側））が開放された箱状に形成される。底壁部Ｙ３０１には、その中央に正面視矩形の開口部Ｙ３０１ａが開口形成され、その開口部Ｙ３０１ａを通じて、底壁部Ｙ３０１の背面に配設される第３図柄表示装置Ｊ８１（図６６０参照）が視認可能とされる。
【１３２０６】
上下スライドユニットＹ２１０は、背面ケースＹ３００の底壁部Ｙ３０１のうちの開口部Ｙ３０１ａの左右両側に配設される一対のベース手段Ｙ２１１と、その一対のベース手段Ｙ２１１に沿って上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にスライド変位可能に配設されるスライド手段Ｙ２１２と、を少なくとも備え、スライド手段Ｙ２１２を内方側に表示領域を有する背面ケースＹ３００の開口部Ｙ３０１ａの上側から下側に亘って変位可能（即ち、第３図柄表示装置Ｊ８１（図６６０参照）の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる領域を上側から下側に亘って通過可能）に構成される。
【１３２０７】
装飾部材Ｙ２２０は、非透過製の樹脂材料から形成されており、ベース手段Ｙ２１１の前方側からの視界を遮蔽可能に配設される。
【１３２０８】
上変位ユニットＹ４００は、内部に第３図柄表示装置Ｊ８１が配設される背面ケースＹ３００の底壁部Ｙ３０１のうちの開口部Ｙ３０１ａの上側部分に配設されるベース手段Ｙ４１０と、そのベース手段Ｙ４１０に対して相対変位可能な状態で配設される一対の回転手段Ｙ４８０と、を少なくとも備える。上変位ユニットＹ４００は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に並設される一対の回転手段Ｙ４８０が背面ケースＹ３００の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）略中央部に配置された軸を中心に対称に回転可能に構成され、背面ケースＹ３００の開口部Ｙ３０１ａの上側縁部に沿う位置に一対の回転手段Ｙ４８０を配置した状態（回転手段Ｙ４８０の退避状態）から一対の回転手段Ｙ４８０の左右両端を背面ケースＹ３００の中央部に向けて変位させることが可能とされる。なお、一対の回転手段Ｙ４８０の左右両端を背面ケースＹ３００の中央部に変位させた状態（回転手段Ｙ４８０の移動状態）では、回転手段Ｙ４８０の一部が背面ケースＹ３００の開口部Ｙ３０１ａ（即ち、第３図柄表示装置Ｊ８１の正面側（矢印Ｆ方向側））に重なる状態とされる。
【１３２０９】

回転手段Ｙ４８０は、退避状態（図７３３参照）であっても少なくとも一部が第３図柄表示装置Ｊ８１の正面側に重なる領域で視認可能とされており、移動状態となると、第３図柄表示装置Ｊ８１の正面側のより多くの領域で視認可能となる。

【１３２１０】

下変位ユニットＹ２３０は、背面ケースＹ３００の底壁部Ｙ３０１のうちの開口部Ｙ３０１ａの下側部分に配設されるベース手段Ｙ２３１と、そのベース手段Ｙ２３１に対して上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にスライド変位可能な状態でベース手段Ｙ２３１に配設されるスライド手段Ｙ２３２と、を少なくとも備え、スライド手段Ｙ２３２を背面ケースＹ３００の開口部Ｙ３０１ａの下側から開口部Ｙ３０１ａ（即ち、第３図柄表示装置Ｊ８１の正面側（矢印Ｆ方向側））に重なる位置に変位させる演出を実行可能に構成される。

【１３２１１】

一対の揺動ユニットＹ７００は、背面ケースＹ３００の外壁部Ｙ３０２に配設されるベース手段Ｙ７１０と、そのベース手段Ｙ７１０に対して相対変位可能に配設される揺動手段Ｙ７２０と、を少なくとも備え、上変位ユニットＹ４００の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に配設される。また、一対の揺動ユニットＹ７００の揺動手段Ｙ７２０は、上変位ユニットＹ４００の回転手段Ｙ４８０の変位に伴って変位可能に構成されており、上変位ユニットＹ４００の一部の変位領域に重なる位置に配設される。これにより、上変位ユニットＹ４００の回転手段Ｙ４８０の変位に連動して、揺動手段Ｙ７２０が変位可能に構成される。

【１３２１２】

揺動手段Ｙ７２０は回転手段Ｙ４８０よりも正面側に位置しており、回転手段Ｙ４８０が退避状態であるか移動状態であるかに関わらず、センターフレームＹ８６の内方側における左右側上部において視認される領域で変位可能とされる。

【１３２１３】

一対の背面側通路ユニットＹ１００は、球が通過可能な中空状の通路形成部Ｙ１１１を備え、その通路形成部Ｙ１１１の一端が遊技盤Ｊ１３に形成される入球口Ｊ７５に連通されると共に、通路形成部Ｙ１１１の他端が遊技盤Ｊ１３のセンターフレームＹ８６に形成されるステージ経路Ｙ８７ｘの受入口に連通される。これにより、遊技盤Ｊ１３の入球口Ｊ７５に入球した遊技球を通路形成部Ｙ１１１を介してセンターフレームＹ８６のステージ経路Ｙ８７ｘに入球させて、遊技盤Ｊ１３の第１入賞口Ｊ６４側から排出可能とされる。即ち、センターフレームＹ８６から離れた位置の遊技領域を流下する遊技球をセンターフレームＹ８６のステージ経路Ｙ８７ｘに入球させることができる。

【１３２１４】

なお、センターフレームＹ８６は上述したセンターフレームＪ８６に対応し、背面側通路ユニットＹ１００は上述した背面側通路ユニットＪ２６０に対応し、通路形成部Ｙ１１１は上述した通路部Ｊ２６１に対応し、動作ユニットＹ２００は上述した動作ユニットＪ２００に対応し、上下スライドユニットＹ２１０は上述した上下スライドユニットＪ２１０に対応し、ベース手段Ｙ２１１は上述したベース手段Ｊ２１１に対応し、スライド手段Ｙ２１２は上述したスライド手段Ｊ２１２に対応し、下変位ユニットＹ２３０は上述した下変位ユニットＪ２３０に対応し、ベース手段Ｙ２３１は上述したベース手段Ｊ２３１に対応し、スライド手段Ｙ２３２は上述したスライド手段Ｊ２３２に対応し、背面ケースＹ３００は上述した背面ケースＪ３００に対応し、底壁部Ｙ３０１は上述した底壁部Ｊ３０１に対応し、開口部Ｙ３０１ａは上述した開口部Ｊ３０１ａに対応し、外壁部Ｙ３０２は上述した外壁部Ｊ３０２に対応し、上変位ユニットＹ４００は上述した上変位ユニットＪ２２０に対応し、ベース手段Ｙ４１０は上述したベース手段Ｊ２２１に対応し、回転手段Ｙ４８０は上述した回転手段Ｊ２２２に対応し、揺動ユニットＹ７００は上述した揺動ユニットＪ２４０に対応し、ベース手段Ｙ７１０は上述したベース手段Ｊ２４１に対応し、揺動手段Ｙ７２０は上述した揺動手段Ｊ２４２に対応する。

【１３２１５】

図７３８(ａ)は、上変位ユニットＹ４００及び揺動ユニットＹ７００の正面図であり、

図７３８(ｂ)は、上変位ユニットＹ４００及び揺動ユニットＹ７００の背面図である。図７３８（ａ）及び図７３８（ｂ）では、上変位ユニットＹ４００及び揺動ユニットＹ７００が背面ケースＹ３００に配設された状態における位置関係で図示されており、両ユニットの位置関係の説明の便宜上、背面ケースＹ３００の図示が省略される。

【１３２１６】

図７３９（ａ）は、上変位ユニットＹ４００及び揺動ユニットＹ７００の分解正面斜視図であり、図７３９（ｂ）は、上変位ユニットＹ４００及び揺動ユニットＹ７００の分解背面斜視図である。

【１３２１７】

上変位ユニットＹ４００は、締結部Ｙ４１７を介して背面ケースＹ３００の底壁部Ｙ３０１（図７３７参照）に締結固定される。

【１３２１８】

上変位ユニットＹ４００は、回転動作部材Ｙ５３０が、揺動ユニットＹ７００の挿通開口Ｙ７１３に挿通され、揺動ユニットＹ７００の板状本体Ｙ７１１の前方側において回転変位可能に構成される。

【１３２１９】

揺動ユニットＹ７００は、締結部Ｙ７１２を介して、背面ケースＹ３００の外壁部Ｙ３０２の前側部において左右外側に向けて凹設形成される領域を形成する平面形状部であって底壁部Ｙ３０１と平行に形成される被固定部Ｙ３０２ａに締結固定されると共に、締結孔部Ｙ７１４を介して、上変位ユニットＹ４００のベース手段Ｙ４１０の被締結部Ｙ４２４に締結固定される。

【１３２２０】

図７４０（ａ）及び図７４０（ｂ）は、上変位ユニットＹ４００の正面図である。図７４０（ａ）では、回転手段Ｙ４８０が上方側に退避される回転手段Ｙ４８０の退避状態が図示され、図７４０（ｂ）では、回転手段Ｙ４８０が下方側に張り出すように移動した回転手段Ｙ４８０の移動状態が図示される。図７４０（ａ）に図示される範囲Ｎ２２ａと、図７４０（ｂ）に図示される範囲Ｎ２３ｂとは、ベース手段Ｙ４１０及びカバー手段Ｙ４６０に対する同じ位置に同じ大きさで位置される範囲として図示される。

【１３２２１】

回転手段Ｙ４８０は、上下スライドユニットＹ２１０（図７３３参照）の球状部が上端位置に配置される場合は退避状態とされており、当該球状部が一対の回転手段Ｙ４８０の隙間に配設される支持手段を介して支持されており、回転手段Ｙ４８０の前方側において視認可能とされ、上下スライドユニットＹ２１０（図７３３参照）の球状部が回転手段Ｙ４８０と干渉しない位置まで下降変位された状態において、移動状態へ向けた変位が可能とされる。このように、回転手段Ｙ４８０は、退避状態と移動状態との間を往復する態様で変位動作可能に構成される。

【１３２２２】

図７４１は、上変位ユニットＹ４００の分解正面斜視図であり、図７４２は、上変位ユニットＹ４００の分解背面斜視図である。

【１３２２３】

図７４１及び図７４２に図示されるように、上変位ユニットＹ４００は、上述のベース手段Ｙ４１０と、そのベース手段Ｙ４１０の正面側において回転可能に支持されるギア群Ｙ４３０と、ベース手段Ｙ４１０の背面側に締結固定されギア群Ｙ４３０を回転動作させる動作力を発生可能な駆動モータＹ４５０と、ギア群Ｙ４３０をベース手段Ｙ４１０との間に収容する態様でベース手段Ｙ４１０に正面側から締結固定されるカバー手段Ｙ４６０と、そのカバー手段Ｙ４６０に回転動作可能に支持される一対の回転手段Ｙ４８０と、ベース手段Ｙ４１０の左右両端部に配設されギア群Ｙ４３０の回転が伝達されることによる回転動作が可能に支持される一対の伝達手段Ｙ５００と、を備える。

【１３２２４】

ベース手段Ｙ４１０は、正面視で略左右対称形状の板状部Ｙ４１１と、その板状部Ｙ４

１１の左右中央部位置を挟んだ左右対称位置に円柱形状で配設される複数（４箇所）の小径支持軸部Ｙ４１２と、その小径支持軸部Ｙ４１２の左右外方における左右対称位置に大径の円筒形状で配設される一対の大径支持軸部Ｙ４１３と、左側の大径支持軸部Ｙ４１３を中心とする円弧に沿った突条形状で前方側に突設される突設円弧部Ｙ４１４と、駆動モータＹ４５０の駆動軸Ｙ４５２が挿通可能に開口形成される挿通孔Ｙ４１５と、その挿通孔Ｙ４１５と左右対称な位置において大径支持軸部Ｙ４１３と同一断面の筒形状部として形成される対称支持軸部Ｙ４１６（図７４０（ｂ）参照）と、板状部Ｙ４１１の左右両端に形成され背面ケースＹ３００（図７３７参照）と締結固定するためのネジ部材が挿通される複数の締結部Ｙ４１７と、左側の大径支持軸部Ｙ４１３の中心側に検出溝を向ける姿勢で板状部Ｙ４１１に締結固定されるフォトカプラ形式の検出センサＹ４２１と、板状部Ｙ４１１の左右両端部において後面側が開口形成され前面側に部分的に底部が形成される有底筒状に形成される一対の有底筒状部Ｙ４２２と、その有底筒状部Ｙ４２２の前面部からカバー手段Ｙ４６０よりも前方側へ向けて筒形状に延設されており内径側において有底筒状部Ｙ４２２の底部の貫通部と連通される一対の張出円筒部Ｙ４２３と、その張出円筒部Ｙ４２３に併設されており前方側から締結ネジを螺入可能に形成される被締結部Ｙ４２４と、を備える。

【１３２２５】

ギア群Ｙ４３０は、ベース手段Ｙ４１０の中央位置を挟んで左右対称に配置され、小径支持軸部Ｙ４１２に中心支持孔Ｙ４３１ａを介して支持され互いに歯合される中型ギア（左右内側）と小型ギア（左右外側）とから構成される一対のギアセットＹ４３１と、そのギアセットＹ４３１の小型ギアに歯合されるギア形状から形成され大径支持軸部Ｙ４１３に中心支持孔Ｙ４３２ａを介して回転可能に支持される大型ギアＹ４３２と、左側の大型ギアＹ４３２に歯合されるギア形状から形成され駆動モータＹ４５０の回転規制部材Ｙ４５３に中心支持孔Ｙ４３３ａが固定されるモータギアＹ４３３と、そのモータギアＹ４３３の外形と同一の外形となるように形成され対称支持軸部Ｙ４１６に中心支持孔Ｙ４３４ａを介して回転可能に支持される対称ギアＹ４３４と、を備える。

【１３２２６】

一対の大型ギアＹ４３２は、共通する構成として、ギア部を前面側から覆う円形フランジ形状部を備え、その円形フランジ形状部から正面側に円筒形状部が延設され、その円筒形状部に金属製の円柱部材Ｙ４３２ｂが保持される。

【１３２２７】

大型ギアＹ４３２は、左側のギア部材のみが有する構成として、円形フランジ形状部の径方向外方に延設され検出センサＹ４２１の検出溝を通過可能に構成される被検出部Ｙ４３２ｃと、回転方向で突設円弧部Ｙ４１４と対向する位置に形成される回転規制部Ｙ４３２ｄと、を備える。

【１３２２８】

大型ギアＹ４３２の回転動作は、回転規制部Ｙ４３２ｄと突設円弧部Ｙ４１４とが干渉しない範囲において許容される。換言すれば、一方向への回転動作が無制限に継続される構成ではなく、一回転未満の回転角度における往復回転動作が許容される。ギア群Ｙ４３０を構成する全てのギアは直接的または間接的に大型ギアＹ４３２と連動するため、各ギアについても、一方向への回転動作が無制限に許容されるのではなく、一定の回転角度における往復回転動作が許容される。

【１３２２９】

駆動モータＹ４５０は、ブラケットを介して板状部Ｙ４１１に締結固定されるモータ本体Ｙ４５１と、そのモータ本体Ｙ４５１に回転可能に支持される駆動軸Ｙ４５２と、その駆動軸Ｙ４５２の先端部に嵌合固定される断面Ｄ字のブロック形状の回転規制部材Ｙ４５３と、を備える。回転規制部材Ｙ４５３を構成する材料は金属材料でも、樹脂材料でも良いが、本実施形態では樹脂材料から形成される。

【１３２３０】

カバー手段Ｙ４６０は、ベース手段Ｙ４１０の前方側に締結固定される部材であって、

ベース手段Ｙ４１０の板状部Ｙ４１１と平行に延設される板状に形成され大部分を覆う板状部Ｙ４６１と、左右対称位置において前方に向けて円筒状に延設され内径側が前後方向に貫通される一対の支持円筒部Ｙ４６２と、その一対の支持円筒部Ｙ４６２の下方側における左右対称の位置から前方側へ突設形成される一対の突設部Ｙ４６３と、左右一対の円柱部材Ｙ４３２ｂの変位軌跡と干渉しない形状で穿設される異形貫通孔Ｙ４６４と、を備える。

【１３２３１】

回転手段Ｙ４８０は、略左右対称に形成されており前面側に装飾が形成される一対の移動体Ｙ４８１と、その移動体Ｙ４８１の左右内側における上側端部から後方側へ円筒状に延設される円筒部Ｙ４８２と、有底筒形状から形成され円筒部Ｙ４８２の先端側から被せらた状態で円筒部Ｙ４８２の先端部に対して締結固定される一対のカラー部材Ｙ４８３と、移動体Ｙ４８１の上側部において前後方向に穿設される長孔Ｙ４８４と、円筒部Ｙ４８２の軸方向と平行な方向に延設される突設部Ｙ４８５と、を備える。

【１３２３２】

カラー部材Ｙ４８３は、筒形状部Ｙ４８３ａが、内側に円筒部Ｙ４８２が内嵌された状態とされ、支持円筒部Ｙ４６２にすきまばめの寸法関係で内嵌される。これにより、回転手段Ｙ４８０が支持円筒部Ｙ４６２に対して回転動作可能に支持される。

【１３２３３】

カラー部材Ｙ４８３は、筒形状部Ｙ４８３ａの後方側における円形底部の直径が筒形状部Ｙ４８３ａの外径よりも長い寸法とされており、抜け止めとして機能する。これにより、回転手段Ｙ４８０が支持円筒部Ｙ４６２から脱落することが防止される。

【１３２３４】

長孔Ｙ４８４は、左右外側において直線方向に延設されており、左右内側端部において円柱部材Ｙ４３２ｂの回転半径に沿った円弧形状で湾曲形成される先端円弧部Ｙ４８４ａを備える。

【１３２３５】

長孔Ｙ４８４は、円柱部材Ｙ４３２ｂを受け入れるよう構成されており、円柱部材Ｙ４３２ｂの回転移動に伴って回転手段Ｙ４８０が回転移動可能となるが、円柱部材Ｙ４３２ｂが先端円弧部Ｙ４８４ａ内を移動する場合には、先端円弧部Ｙ４８４ａが円柱部材Ｙ４３２ｂの移動方向に沿って延びているため、円柱部材Ｙ４３２ｂが回転移動しても回転手段Ｙ４８０の姿勢は維持される（空転される）。

【１３２３６】

即ち、円柱部材Ｙ４３２ｂが回転移動する場合において、回転手段Ｙ４８０が回転移動される状況と、回転手段Ｙ４８０が回転移動されない（姿勢が維持される）状況とが生じ得る。

【１３２３７】

突設部Ｙ４８５は、回転手段Ｙ４８０の回転方向において突設部Ｙ４６３と対向配置される位置に形成されており、回転手段Ｙ４８０が移動状態（図７４０（ｂ）参照）とされた場合に突設部Ｙ４６３と当接する位置関係とされる。

【１３２３８】

これにより、移動状態において、左右いずれか一方の回転手段Ｙ４８０が中央位置を超えて回転すること（過回転）を防止することができる。

【１３２３９】

伝達手段Ｙ５００は、張出円筒部Ｙ４２３の内部に配置され回転可能に支持される金属棒部材Ｙ５１０と、その金属棒部材Ｙ５１０の後側端部に相対回転不能に固定される後端ギア部材Ｙ５２０と、金属棒部材Ｙ５１０の前側端部に相対回転不能に固定される回転動作部材Ｙ５３０と、を備える。

【１３２４０】

後端ギア部材Ｙ５２０は、有底筒状部Ｙ４２２の内径側に配置され、有底筒状部Ｙ４２２におけるベース手段Ｙ４１０の左右中心側に貫通形成される貫通横穴Ｙ４２２ａを介し

てモータギアＹ４３３又は対称ギアＹ４３４と歯合される。
【１３２４１】
即ち、後端ギア部材Ｙ５２０を有する伝達手段Ｙ５００は、ギア群Ｙ４３０が回転動作するのと連動して回転動作される。
【１３２４２】
回転動作部材Ｙ５３０は、内周側形状が金属棒部材Ｙ５１０の端部形状に対応する断面Ｄ字形状とされており金属棒部材Ｙ５１０が相対回転不能に内嵌される筒形状の被支持部Ｙ５３１と、その被支持部Ｙ５３１の前端部から被支持部Ｙ５３１の中心軸と直交する方向に延びる板状の板状部Ｙ５３２と、その板状部Ｙ５３２の延設先端部から前方へ断面円形状で突設される円形突部Ｙ５３３と、を備える。
【１３２４３】
左側の後端ギア部材Ｙ５２０と左側の大型ギアＹ４３２とは、共にモータギアＹ４３３と直接的に歯合されるため、モータギアＹ４３３の回転に伴って生じる回転方向は同一方向となる。即ち、左側における円形突部Ｙ５３３の回転方向（後端ギア部材Ｙ５２０の回転方向）と、円柱部材Ｙ４３２ｂの回転方向（大型ギアＹ４３２の回転方向）とが同じとなる。この関係は、右側の後端ギア部材Ｙ５２０と右側の大型ギアＹ４３２とについても、同じである。左右の大型ギアＹ４３２の間には４個（複数個）のギア部材が介在するため、左右の大型ギアＹ４３２の回転方向は逆となる。
【１３２４４】
ギア群Ｙ４３０及び後端ギア部材Ｙ５２０を含めた複数のギア同士の形状の関係は、ギアセットＹ４３１の一対の中型ギア（左右内側）を中心として左右対称となっているため、左右一対の大型ギアＹ４３２の回転角度は互いに同一とされ、左右一対の後端ギア部材Ｙ５２０の回転角度は互いに同一とされる。
【１３２４５】
そのため、左右の大型ギアＹ４３２が互いに左右対称の姿勢とされ、左右の回転動作部材Ｙ５３０が互いに左右対称の姿勢とされる状態から、駆動モータＹ４５０が駆動された場合、左右の大型ギアＹ４３２は左右対称の関係を維持したまま回転動作され（即ち、一方が時計回りに規定の角度回転されることに伴って、他方が反時計回りに規定の角度回転され）、左右の回転動作部材Ｙ５３０は左右対称の関係を維持したまま回転動作される。
【１３２４６】
図７４３（ａ）及び図７４３（ｂ）は、揺動ユニットＹ７００の正面図である。図７４３（ａ）及び図７４３（ｂ）では、左右一対の揺動ユニットＹ７００の左側の揺動ユニットＹ７００のみが図示され、右側の揺動ユニットＹ７００の図示は省略される。左右の揺動ユニットＹ７００の構成は左右対称を基本とし略共通なので、主に左側の揺動ユニットＹ７００を説明し、右側の揺動ユニットＹ７００の説明を省略する。
【１３２４７】
図７４３（ａ）では、揺動ユニットＹ７００の揺動手段Ｙ７２０が自重で回転した際に安定する姿勢が図示され、図７４３（ｂ）では、揺動ユニットＹ７００の揺動手段Ｙ７２０に駆動モータＹ４５０の動作力が伝達され揺動手段Ｙ７２０が押し上げられた場合の上昇側終端姿勢が図示される。
【１３２４８】
図７４４は、揺動ユニットＹ７００の分解正面斜視図であり、図７４５は、揺動ユニットＹ７００の分解背面斜視図である。
【１３２４９】
揺動ユニットＹ７００は、左右一対で構成され、ベース手段Ｙ７１０と、そのベース手段Ｙ７１０に対して相対変位可能に配設される揺動手段Ｙ７２０と、を備える。
【１３２５０】
ベース手段Ｙ７１０は、板状本体Ｙ７１１と、その板状本体Ｙ７１１の上端部および左右外側端部において締結ネジを挿通可能に構成され背面ケースＹ３００の被固定部Ｙ３０２ａ（図７３６参照）に締結固定される複数の締結部Ｙ７１２と、回転動作部材Ｙ５３０

が通過可能な形状で穿設される挿通開口Ｙ７１３と、被締結部Ｙ４２４に螺入される締結ネジが挿通される締結孔部Ｙ７１４と、揺動手段Ｙ７２０側へ向けて円柱形状で突設される円柱支持部Ｙ７１５と、その円柱支持部Ｙ７１５を中心とする円弧に沿う断面形状で前方側へ突設される突設部Ｙ７１６と、を主に備える。

【１３２５１】

揺動手段Ｙ７２０は、円柱支持部Ｙ７１５が挿通される円形開口部を有する被支持部Ｙ７２１と、その被支持部Ｙ７２１の左右内方側に延びるように形成され正面側に装飾が形成される揺動本体部Ｙ７２２と、その揺動本体部Ｙ７２２よりも回転軸方向の寸法が短い（薄い）形状で被支持部Ｙ７２１から上方側へ延設される延設部Ｙ７２３と、その延設部Ｙ７２３の上端部から左右内方側かつ上方側へ向かう傾斜方向に延設され揺動本体部Ｙ７２２の上縁部との間の角度が鋭角の略くの字形状に形成される延設伝達部Ｙ７２４と、延設部Ｙ７２３よりも左右外方側に位置し延設部Ｙ７２３との間に間隔を空けた位置から径方向外方へ延設される規制部Ｙ７２５と、を主に備える。

【１３２５２】

延設部Ｙ７２３又は規制部Ｙ７２５が突設部Ｙ７１６と回転方向で当接するまでの範囲に、揺動手段Ｙ７２０の変位は制限される。即ち、揺動手段Ｙ７２０は一回転以上の回転が許容される構成ではなく、延設部Ｙ７２３又は規制部Ｙ７２５が突設部Ｙ７１６と回転方向で当接するまでの角度範囲で、姿勢変化が許容される。

【１３２５３】

揺動手段Ｙ７２０の重心は、被支持部Ｙ７２１から離間した位置（回転軸から離れた位置）に設定されるところ、本実施形態では、延設伝達部Ｙ７２４側ではなく、揺動本体部Ｙ７２２側に設定される。揺動本体部Ｙ７２２に装飾が形成されており、その装飾を照らすＬＥＤを有する電飾基盤が揺動本体部Ｙ７２２に内蔵されることで、重心位置が揺動本体部Ｙ７２２の内方に位置するようになっている。

【１３２５４】

図７４６（ａ）、図７４６（ｂ）及び図７４７（ａ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａにおける上変位ユニットＹ４００の正面図であり、図７４７（ｂ）は、図７４０（ｂ）の範囲Ｎ２３ｂにおける上変位ユニットＹ４００の正面図である。図７４６（ａ）、図７４６（ｂ）、図７４７（ａ）及び図７４７（ｂ）では、回転手段Ｙ４８０が、図７４６（ａ）に図示される退避状態から、図７４７（ｂ）に図示される移動状態へ変位する様子が時系列で図示されており、揺動ユニットＹ７００の揺動手段Ｙ７２０及び円柱支持部Ｙ７１５の外形が時系列に対応した姿勢で想像線で図示される。

【１３２５５】

回転動作部材Ｙ５３０は、板状本体Ｙ７１１の正面側において、回転方向で揺動手段Ｙ７２０と対向配置される（図７３９（ａ）参照）。

【１３２５６】

板状本体Ｙ７１１の挿通開口Ｙ７１３（図７３９（ａ）参照）は、回転手段Ｙ４８０の退避状態に対応する状態における回転動作部材Ｙ５３０が挿通可能な形状とされる一方で、回転動作部材Ｙ５３０の姿勢が変化すると挿通不可能となる形状とされる。

【１３２５７】

即ち、回転手段Ｙ４８０が退避状態（図７４６（ａ）参照）から回転されると、回転動作部材Ｙ５３０の回転先端側における円形突部Ｙ５３３の後方側には、板状本体Ｙ７１１（図７３９（ａ）参照）の前面部が位置される。

【１３２５８】

そのため、揺動手段Ｙ７２０から荷重を受けた場合に、回転動作部材Ｙ５３０が金属棒部材Ｙ５１０に対して傾斜する方向（前後方向に対して直角に交差する平面から回転先端部が離間する方向）に変位しそうになっても、回転動作部材Ｙ５３０の後面側が板状本体Ｙ７１１（図７３９（ａ）参照）に当接されることで、回転動作部材Ｙ５３０の変位を抑制することができる。これにより、回転動作部材Ｙ５３０の移動方向を、板状本体Ｙ７１１の前平面に沿う方向（金属棒部材Ｙ５１０を中心とする回転方向）で安定させることが

できる。
【１３２５９】
回転手段Ｙ４８０が退避状態から移動状態へ向けて下降方向へ変位する場合について説明する。回転手段Ｙ４８０の変位中において揺動手段Ｙ７２０が変位されるが、変位の開始タイミングが異なる。
【１３２６０】
ここで、第１変位手段および第２変位手段を変位動作させて、その変位動作を遊技者に視認させる遊技機が知られている。第１変位手段と第２変位手段とをそれぞれ別々の動作手段で変位動作させるので、第１変位手段の変位動作と第２変位手段の変位動作とを互いに異なる態様とすることができる。しかしながら、動作手段の数が多くなる分、部品コストや制御コストが嵩む。
【１３２６１】
第１変位手段を動作手段で変位動作させ、その第１変位手段の変位動作に第２変位手段が連動させる構成とした場合には、動作手段の数を少なくできる分、部品コストや制御コストを低減できる。しかしながら、第１変位手段と第２変位手段との変位動作において、それらの動作の開始と停止のタイミングが常に同じとなるため、変位動作が単調になるという問題があった。
【１３２６２】
これに対し、本実施形態では、回転手段Ｙ４８０の変位中において揺動手段Ｙ７２０が変位されるが、変位の開始タイミングが異なるため、１の動作手段であっても、第１変位手段と第２変位手段との変位動作が単調となることを避けることができる。即ち、１の動作手段であっても、第１変位手段と第２変位手段との変位動作を、連動させる態様と、連動させない態様とを構成できる。よって、単調となることを避けることができる。以下、詳細に説明する。
【１３２６３】
図７４６（ａ）に図示される状態から駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）が励磁され、駆動軸Ｙ４５２及び回転規制部材Ｙ４５３が回転され、回転規制部材Ｙ４５３に固定されているモータギアＹ４３３が正面視時計回りに回転されることに伴い、そのモータギアＹ４３３に歯合される後端ギア部材Ｙ５２０及び大型ギアＹ４３２が正面視反時計回りに回転される。
【１３２６４】
この場合において、大型ギアＹ４３２の円柱部材Ｙ４３２ｂから長孔Ｙ４８４を介して荷重を受けて回転手段Ｙ４８０は回転変位され、回転動作部材Ｙ５３０もまた後端ギア部材Ｙ５２０の回転に伴って変位動作可能に構成される一方で、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３は揺動手段Ｙ７２０から離れた位置を変位し、非当接とされているため、揺動手段Ｙ７２０は変位されておらず、姿勢が維持される（図７４６（ｂ）参照）。即ち、回転手段Ｙ４８０と揺動手段Ｙ７２０とは非連動な状態とされる。
【１３２６５】
本実施形態では、第１制御態様として、図７４６（ｂ）に図示される状態に到達する際に駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）が非励磁とされるように制御される。これにより、駆動モータＹ４５０を励磁させる期間を短くでき、動作に必要な電力量を削減することができる（省エネとすることができる）。
【１３２６６】
第１制御態様の場合、回転手段Ｙ４８０は自重により下降変位を継続し、その回転手段Ｙ４８０の自重が長孔Ｙ４８４を介して付与される円柱部材Ｙ４３２ｂを有する大型ギアＹ４３２も正面視反時計回りの回転を継続し、その大型ギアＹ４３２に対してモータギアＹ４３３を介して歯合連結されており互いに連動する後端ギア部材Ｙ５２０も正面視反時計回りに回転を継続する。
【１３２６７】
この場合において、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３は揺動手段Ｙ７２０の延

設伝達部Ｙ７２４に当接し、起立させる方向に変位させ、揺動手段Ｙ７２０を正面視反時計回りに回転変位させる（図７４７（ａ）参照）。

【１３２６８】

即ち、回転手段Ｙ４８０と揺動手段Ｙ７２０とは連動される状態とされる。回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３が延設伝達部Ｙ７２４を介して揺動手段Ｙ７２０を押し上げるように動作する。そのため、揺動手段Ｙ７２０の自重を利用して延設伝達部Ｙ７２４と円形突部Ｙ５３３との当接状態を維持することができるので、揺動手段Ｙ７２０の動作を安定させることができる。

【１３２６９】

回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３は、揺動手段Ｙ７２０の重心位置を構成する揺動本体部Ｙ７２２とは別の部位（細い部位）である延設伝達部Ｙ７２４に当接される。これにより、円形突部Ｙ５３３が当接時に受ける負荷を低減でき、円形突部Ｙ５３３が破損することを抑制できる。即ち、当接時において、延設伝達部Ｙ７２４側が撓み変形可能な程度の剛性で設計することができ、当接時の衝撃を延設伝達部Ｙ７２４側の変形により逃がすことで、円形突部Ｙ５３３の破損を回避しやすくすることができる。

【１３２７０】

回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３が延設伝達部Ｙ７２４と当接する位置は、延設伝達部Ｙ７２４の延設先端側とされる。即ち、揺動手段Ｙ７２０の回転軸から離れた側で当接される。これにより、回転軸に近い位置で当接する場合に比較して、揺動手段Ｙ７２０を回転変位させるために必要とされる荷重を低減することができるため、大型ギアＹ４３２が過度に制動されて回転手段Ｙ４８０の下降変位が停止する事態が生じることを避けることができる。

【１３２７１】

図７４７（ａ）に図示される状態からも、回転手段Ｙ４８０は自重により下降変位を継続し、移動状態に到達する（図７４７（ｂ）参照）。その回転手段Ｙ４８０の自重が長孔Ｙ４８４を介して付与される円柱部材Ｙ４３２ｂを有する大型ギアＹ４３２も正面視反時計回りの回転を継続し、その大型ギアＹ４３２に対してモータギアＹ４３３を介して歯合連結されており互いに連動する後端ギア部材Ｙ５２０も正面視反時計回りに回転を継続する。

【１３２７２】

この場合において、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３は揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４に当接した状態で回転し、傾倒させる方向に変位させ、揺動手段Ｙ７２０を正面視時計回りに回転変位させ、変位前の姿勢（図７４６（ａ）及び図７４６（ｂ）に図示される姿勢）に復帰させる（図７４７（ｂ）参照）。

【１３２７３】

即ち、回転手段Ｙ４８０と揺動手段Ｙ７２０とは連動される状態から、非連動（円形突部Ｙ５３３と延設伝達部Ｙ７２４とが非当接、図７４７（ｂ）参照）とされる状態となり、その直後に停止される。

【１３２７４】

駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）が非励磁とされていることから、移動状態に到達した場合の回転手段Ｙ４８０の変位速度によっては、移動状態で停止されず、上昇方向へ跳ね返る変位が生じる可能性があるが、この変位は、揺動手段Ｙ７２０の自重による負荷が回転動作部材Ｙ５３０を介して付与されることにより抑制される。

【１３２７５】

即ち、回転手段Ｙ４８０が上昇方向へ跳ね返る態様で変位する場合、大型ギアＹ４３２に逆回転（正面視時計回りの回転）が生じることになるが、それと連動して後端ギア部材Ｙ５２０及び回転動作部材Ｙ５３０にも逆回転（正面視時計回りの回転）が生じることになるところ、この回転が揺動手段Ｙ７２０の自重によって抑制されることから、回転手段Ｙ４８０の上昇方向への跳ね返り変位が抑制される。

【１３２７６】

特に、本実施形態では、回転手段Ｙ４８０の移動状態において円形突部Ｙ５３３が延設伝達部Ｙ７２４の延設基端側（回転軸に近い側）に当接可能に構成されることから、延設先端側で当接する場合に比較して揺動手段Ｙ７２０を起立方向に回転変位させるために大きな荷重が必要となるため、回転手段Ｙ４８０の上昇方向への跳ね返り変位をより抑制させやすくすることができる。これにより、回転手段Ｙ４８０を移動状態で早期に安定させることができる。

【１３２７７】

このように、回転手段Ｙ４８０が揺動手段Ｙ７２０と非連動な状態（例えば、移動状態）に位置する場合において、揺動手段Ｙ７２０が変位前の状態（図７４６（ａ）参照）に自重で復帰し、保持されるように構成される。

【１３２７８】

回転手段Ｙ４８０が移動状態（図７４７（ｂ）参照）から退避状態（図７４６（ａ）参照）へ向けて上昇方向へ変位する場合について説明する。回転手段Ｙ４８０の変位中において揺動手段Ｙ７２０が変位されるが、変位が生じるタイミングが異なり得る。

【１３２７９】

回転手段Ｙ４８０の上昇方向への変位では、図７４７（ｂ）に図示される状態から動作力を発生可能に構成される駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）が励磁されモータギアＹ４３３が正面視反時計回りに回転されることに伴い、そのモータギアＹ４３３に歯合される後端ギア部材Ｙ５２０及び大型ギアＹ４３２が正面視時計回りに回転される。

【１３２８０】

この場合において、大型ギアＹ４３２の円柱部材Ｙ４３２ｂから長孔Ｙ４８４を介して荷重を受けて回転手段Ｙ４８０は回転変位され、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３に当接される揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４が起立方向に押し上げ変位される（図７４７（ｂ）から図７４７（ａ）への変位を参照）。

【１３２８１】

即ち、回転手段Ｙ４８０と揺動手段Ｙ７２０とが連動される状態とされる。動作させる対象が回転手段Ｙ４８０及び揺動手段Ｙ７２０の複数あることに加え、双方ともを重力方向とは逆方向に変位させることになるので、駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）に対する負荷は大きくなる。

【１３２８２】

図７４７（ａ）に図示される状態から、駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）の励磁が継続される。この場合、大型ギアＹ４３２の正面視時計回りの回転が継続されることで回転手段Ｙ４８０は上昇変位を継続し、後端ギア部材Ｙ５２０も正面視時計回りの回転が継続され、揺動手段Ｙ７２０は自重により変位前の姿勢（図７４７（ｂ）参照）に戻る（図７４６（ｂ）参照）。即ち、回転手段Ｙ４８０と揺動手段Ｙ７２０とは連動される状態から、非連動とされる状態となる。

【１３２８３】

図７４６（ｂ）に図示される状態から、駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）の励磁が継続される。この場合において、大型ギアＹ４３２の円柱部材Ｙ４３２ｂから長孔Ｙ４８４を介して荷重を受けて回転手段Ｙ４８０は回転変位される一方で、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３は揺動手段Ｙ７２０から離れた位置を変位し、非当接とされているため、揺動手段Ｙ７２０は変位されておらず、姿勢が維持される（図７４６（ｂ）から図７４６（ａ）参照）。即ち、回転手段Ｙ４８０と揺動手段Ｙ７２０とは非連動な状態とされる。

【１３２８４】

回転手段Ｙ４８０を退避状態で維持する支持力は、大型ギアＹ４３２の円柱部材Ｙ４３２ｂを介して付与される。本実施形態では、図７４６（ａ）に図示される回転手段Ｙ４８０の退避状態において、回転手段Ｙ４８０の回転軸を構成する円筒部Ｙ４８２（図７４１参照）の中心線と円柱部材Ｙ４３２ｂの中心線とを結ぶ直線と、円柱部材Ｙ４３２ｂの中心線と大型ギアＹ４３２の回転軸線とを結ぶ直線とが、直角に交差する（いわゆる「死点

」を構成する）構成とされていることで、回転手段Ｙ４８０の退避状態における大型ギアＹ４３２の回転の発生を抑制させることができ、回転手段Ｙ４８０を退避状態で支持することが可能となっている。

【１３２８５】

回転手段Ｙ４８０が退避状態側に位置する場合において大型ギアＹ４３２を停止させる制御は、被検出部Ｙ４３２ｃが検出センサＹ４２１（図７４１参照）に検出されることにより実行されることになる。この停止させる制御はある程度のばらつきを有し得るところ、大型ギアＹ４３２が回転不足な状態で停止した場合（例えば、図７４６（ａ）に図示される位置よりも若干左側に円柱部材Ｙ４３２ｂが位置する姿勢で停止した場合）、死点の効果が得られず、回転手段Ｙ４８０が退避状態で維持されない（下降変位される）。大型ギアＹ４３２の停止時の角度をサーボモーターで制御するようにしても良いが、製品コストが高騰する原因になり得る。

【１３２８６】

これに対し、本実施形態では、長孔Ｙ４８４の端部に先端円弧部Ｙ４８４ａが形成されており、停止させる制御のばらつきが生じた場合であっても、円柱部材Ｙ４３２ｂを先端円弧部Ｙ４８４ａに位置させる状態を維持可能となっている。

【１３２８７】

円柱部材Ｙ４３２ｂが先端円弧部Ｙ４８４ａに位置される場合、円柱部材Ｙ４３２ｂが先端円弧部Ｙ４８４ａの移動に干渉することに加え、仮に円柱部材Ｙ４３２ｂが回転手段Ｙ４８０からの荷重で回転変位したとしても、その回転変位の方向である図７４６（ａ）における正面視時計回り方向において先端円弧部Ｙ４８４ａの終端部に円柱部材Ｙ４３２ｂが到達した時点で回転変位が不可能とされることから、回転手段Ｙ４８０の回転変位は機械的に防止されることになる。更に、回転手段Ｙ４８０からの荷重は大型ギアＹ４３２が正面視時計回りに回転する方向に付与されることから大型ギアＹ４３２が正面視反時計回りに回転されることが防止され、回転手段Ｙ４８０が移動状態に変位することが防止される。

【１３２８８】

制御の設計方針としては、例えば、大型ギアＹ４３２を停止させる制御として、円柱部材Ｙ４３２ｂの停止時の目標位置を先端円弧部Ｙ４８４ａの形成角度の半分の位置に設定することが想定される。この場合、停止位置に若干のばらつきが生じたとしても、大型ギアＹ４３２の停止時における円柱部材Ｙ４３２ｂの位置を先端円弧部Ｙ４８４ａの内側に収めることができる。これにより、サーボモーターを採用する必要はなくなる。

【１３２８９】

仮に、円柱部材Ｙ４３２ｂが先端円弧部Ｙ４８４ａに大きく進入した場合であっても、円形突部Ｙ５３３と揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４とが当接し、回転動作部材Ｙ５３０に対して揺動手段Ｙ７２０の自重による抵抗力が付与される。

【１３２９０】

駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）を非励磁とした後、揺動手段Ｙ７２０が自重により変位前の状態（図７４６（ａ）参照）に復帰されることに伴って回転動作部材Ｙ５３０が正面視反時計回りに回転されることに伴って、連動される大型ギアＹ４３２の円柱部材Ｙ４３２ｂが正面視反時計回りに回転変位され、先端円弧部Ｙ４８４ａへの進入度合いが低くされる。

【１３２９１】

即ち、円柱部材Ｙ４３２ｂの停止位置を揺動手段Ｙ７２０との関係によって機械的に補正することができる。これにより、回転手段Ｙ４８０の退避状態における円柱部材Ｙ４３２ｂの停止位置が設計から大きくずれる事態を防止することができ、回転手段Ｙ４８０を下降変位させる際の駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）の励磁期間の設定を容易とすることができる。

【１３２９２】

上昇変位の停止位置がばらつくと、その後下降変位させる際に、励磁された駆動モータ

Ｙ４５０（図７３８（ｂ）参照）を非励磁とするまでの励磁期間の設定が難しいとも考えられるが、揺動手段Ｙ７２０からの押し戻しにより最低ラインが決まるため、図７４６（ｂ）～図７４７（ｂ）までの間という、ある程度の幅の間に励磁を解除できればよい構成とすることができる。こうすることで、移動状態に到達した状態で励磁が継続されている場合のように、下降変位する回転手段Ｙ４８０が動作力による負荷を受ける（左右内側に押し付けられる）事態を避けることができる。

【１３２９３】

本実施形態では、第１制御態様として、図７４６（ｂ）に図示される状態に到達する際に駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）が非励磁とされるように制御される場合を説明したが、駆動モータＹ４５０の制御態様はこれに限られるものではなく、別の制御態様で駆動され得る。

【１３２９４】

例えば、図７４６（ａ）に図示される状態と図７４６（ｂ）に図示される状態との間の状態において駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）が非励磁とされるように制御される第２制御態様での駆動も可能となっている。

【１３２９５】

この場合、回転手段Ｙ４８０の自重による下降変位は、ギア群Ｙ４３０を介した駆動モータＹ４５０の抵抗により抑制され、図７４６（ｂ）に図示される状態に到達する前において停止される。即ち、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３が揺動手段Ｙ７２０に非当接な状態のうちに停止される。

【１３２９６】

停止された後の回転手段Ｙ４８０の上昇方向への変位では、駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）が励磁されモータギアＹ４３３が正面視反時計回りに回転されることに伴い、そのモータギアＹ４３３に歯合される後端ギア部材Ｙ５２０及び大型ギアＹ４３２が正面視時計回りに回転される。

【１３２９７】

従って、第２制御態様では、下降変位する回転手段Ｙ４８０が移動状態に到達する前に停止され（左右一対の回転手段Ｙ４８０が合体する前に停止され）、停止後に回転手段Ｙ４８０が上昇変位されるところ、この往復変位中において回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３が揺動手段Ｙ７２０と非当接とされる。即ち、回転手段Ｙ４８０と揺動手段Ｙ７２０とが非連動の状態が継続される。

【１３２９８】

このように、本実施形態では、回転手段Ｙ４８０及び揺動手段Ｙ７２０の動作態様として、少なくとも第１制御態様と、第２制御態様という異なる種類の動作態様が用意されているため、回転手段Ｙ４８０及び揺動手段Ｙ７２０の動作が単調となることを避けることができる。なお、制御態様としては上述の態様に限られることなく、駆動モータＹ４５０の励磁を解除するタイミングを上述のタイミングとは異なるタイミングとしても良いし、回転手段Ｙ４８０の変位中においては駆動モータＹ４５０の励磁が維持され、回転手段Ｙ４８０の停止と共に励磁が解除されるように制御しても良い。

【１３２９９】

次いで、図７４８から図７５１を参照し、背面側通路ユニットＹ１００及び背面側通路ユニットＹ１００の下流における構造について説明する。

【１３３００】

図７３３及び図７３６に戻って説明する。図７３３に図示されるように、遊技盤Ｊ１３は、盤面前側を流下する遊技球をセンターフレームＹ８６内方のステージ経路Ｙ８７ｘに案内する入球口Ｊ７５が、センターフレームＹ８６に隣設されるものではなく、左右方向外側に離間配置される。入球口Ｊ７５は、風車ＹＷＦよりも左右方向外側に配置される。

【１３３０１】

ここで、一般的に、第１入賞口Ｊ６４へ球が案内される経路は、風車ＹＷＦによって左右方向内側に振り分けられた球が、上面側において左右内側に傾斜する球流下面が形成さ

れる樹脂形成部Ｙ８６ｄおよび道釘（図示せず）の上側を案内され、第１入賞口Ｊ６４の命釘（図示せず）の間を経て流下する経路と、ワープ通路Ｙ１０１を通り（又は遊技盤Ｊ１３の前面側からジャンプして）、ステージ経路Ｙ８７ｘに到達し、ステージ左右中央位置から前方側へ案内されて第１入賞口Ｊ６４に落下する経路と、の２つの経路が想定される。

【１３３０２】

センターフレームＹ８６が遊技盤面前側からの流入口を有し、その流入口に流入した球をステージ経路Ｙ８７ｘに案内するワープ通路を構成する機種では、上述した２つの経路は、両方とも風車ＹＷＦよりも遊技盤Ｊ１３の左右内側において形成されることになり、風車ＹＷＦにより遊技盤Ｊ１３の左右外側に振り分けられた球や、風車ＹＷＦよりも遊技盤Ｊ１３の左右外側の領域を流下する球は第１入賞口Ｊ６４へ案内されない。

【１３３０３】

そのため、風車ＹＷＦよりも遊技盤Ｊ１３の左右外側の領域は注目力の低いデッドスペースとなっており、当該領域に高頻度で球が流れる場合には、第１入賞口Ｊ６４への入球頻度が低い状況であることが遊技者に容易に把握され、遊技者の興趣の低下を招く可能性がある。

【１３３０４】

これに対し、本実施形態におけるパチンコ機Ｊ１０の遊技盤Ｊ１３は、風車ＹＷＦよりも左右外側の領域に入球口Ｊ７５が配設されており、この入球口Ｊ７５がワープ通路Ｙ１０１の入口として構成される。

【１３３０５】

風車ＹＷＦにより遊技盤Ｊ１３の左右方向内側に振り分けられた球が生じた場合には、その球が流下する領域である風車ＹＷＦよりも左右方向内側の領域における樹脂形成部Ｙ８６ｄや道釘（図示せず）を流下する球に対する注目力を向上させることができ、風車ＹＷＦよりも遊技盤Ｊ１３の左右方向外側を流下する球が生じた場合でも、その球が入球口Ｊ７５に入球すればワープ通路Ｙ１０１を通りステージ経路Ｙ８７ｘを経て第１入賞口Ｊ６４に入球する可能性が残っているため、風車ＹＷＦよりも遊技盤Ｊ１３の左右方向外側の領域に対する注目力を向上させることができる。

【１３３０６】

これにより、風車ＹＷＦよりも遊技盤Ｊ１３の左右方向外側の領域に対する注目力が過度に低下することを避け、遊技領域におけるスペースを有効に使うことができる。

【１３３０７】

従来より、遊技盤の中央に開口が形成され、その開口を介して表示面が遊技者に視認可能とされ、遊技盤の開口の内縁に、センターフレームが配設される遊技機がある。当該センターフレームの一側には遊技領域を流下する遊技球が入球可能な入球口が遊技盤の正面側において形成されており、この入球口に入球した遊技球は、センターフレームの内部に形成されたワープ通路を流下して、遊技盤の開口の下縁側に形成されたセンターフレームのステージに案内される。

【１３３０８】

しかしながら、上述した従来の遊技機では、正面視においてワープ通路の一部が表示面と重なり、表示面の視認性が悪化するという問題点があった。遊技盤の開口の大きさを拡大することで、ワープ通路と表示面との重なりを低減して、表示面の視認性を向上させることができる。しかしながら、この場合には、開口の大きさを拡大した分、遊技領域が減少される。遊技領域の大きさを確保しつつ、表示面の視認性を向上できる遊技機を提供することが求められる。

【１３３０９】

上述した従来の遊技機を模倣して、センターフレームＹ８６が遊技盤面前側からの流入口を有する場合、その流入口や、流入口を通過した球が流下する通路であって正面視で略上下方向に延びる態様で形成されるワープ通路が正面視で第３図柄表示装置Ｊ８１の表示領域の左右端部付近と上下に長尺な範囲で重なり、流下する球により表示が隠されること

で、表示の視認性が悪くなる可能性がある。
【１３３１０】
これに対し、内方側に表示領域を有する遊技盤Ｊ１３は、正面視において、入球口Ｊ７５が第３図柄表示装置Ｊ８１の表示領域と重ならない位置（左右外側に離間した位置）に形成される。これにより、入球口Ｊ７５を通過した球が正面視で第３図柄表示装置Ｊ８１の表示領域と重なり難いように構成することができ、第３図柄表示装置Ｊ８１の表示領域の視認性の向上を図ることができる。
【１３３１１】
図７３６に図示されるように、遊技球が通過する経路を構成する背面側通路ユニットＹ１００は、入球口Ｊ７５に入球した球を受け入れ可能に形成される前方開口部Ｙ１１１ａを備え、前方開口部Ｙ１１１ａに入球した球をステージ経路Ｙ８７ｘに案内するワープ通路Ｙ１０１を備えており、装飾部材Ｙ２２０の下端部に形成される被締結部Ｙ２２１及び被固定部Ｙ３０２ａに対して、取り外し可能な態様で締結ネジによって固定される。
【１３３１２】
そのため、ワープ通路Ｙ１０１がセンターフレームＹ８６に一体形成されるような機種に比較して、ワープ通路Ｙ１０１のメンテナンスが必要となった場合に、部材の交換や、部材の変更を、容易に行うことができる。即ち、遊技盤Ｊ１３を触ることは不要であり、動作ユニットＹ２００側の修理で事足りるので、遊技盤Ｊ１３前面側の状況（遊技球の流下態様に関連する部位の状況）を変更させることなくワープ通路Ｙ１０１のメンテナンスを行うことができる。
【１３３１３】
図７４８（ａ）は、背面側通路ユニットＹ１００の正面図であり、図７４８（ｂ）は、背面側通路ユニットＹ１００の背面図であり、図７４８（ｃ）は、背面側通路ユニットＹ１００の分解正面斜視図である。
【１３３１４】
図７４８（ａ）、図７４８（ｂ）及び図７４８（ｃ）に図示されるように、背面側通路ユニットＹ１００は、光透過性の樹脂材料から板状に形成される正面板Ｙ１１０と、その正面板Ｙ１１０の上縁部付近において正面板Ｙ１１０の背面側に締結固定され正面板Ｙ１１０との間に球が通過可能なワープ通路Ｙ１０１を形成する背面板Ｙ１２０と、その背面板Ｙ１２０よりも下方側において正面板Ｙ１１０に締結固定される基盤Ｙ１３０と、を主に備える。
【１３３１５】
正面板Ｙ１１０は、組立状態（図７３３参照）において入球口Ｊ７５に入球された球を受け入れ可能に前後方向に貫通形成される前方開口部Ｙ１１１ａを有し、球を案内する経路を構成する案内溝部Ｙ１１１ｂが形成される通路形成部Ｙ１１１と、その通路形成部Ｙ１１１よりも下方側において前後面に微細形状による加工がされ、入射した光を複雑に屈折可能に構成される光屈折部Ｙ１１２と、を備える。
【１３３１６】
背面板Ｙ１２０は、光透過性の樹脂材料から形成されており、前方開口部Ｙ１１１ａを通過した球の上面側に当接することで当該球の進行方向を下方向きに変化させる傾斜面部Ｙ１２１と、通路形成部Ｙ１１１と共同で球を案内する経路を構成する案内溝部Ｙ１２２と、を備える。
【１３３１７】
基盤Ｙ１３０は、ＬＥＤ等から形成され正面側へ光を照射する複数の発光手段Ｙ１３１を備える。発光手段Ｙ１３１から照射された光は、光屈折部Ｙ１１２により屈折されて遊技者に視認される。
【１３３１８】
図７４９（ａ）は、センターフレームＹ８６の正面図であり、図７４９（ｂ）は、センターフレームＹ８６の分解正面斜視図である。
【１３３１９】

センターフレームＹ８６は、遊技領域を流下する球がベース板Ｊ６０の中央開口Ｊ６０ａを介して第３図柄表示装置Ｊ８１側（ベース板Ｊ６０の中央開口Ｊ６０ａの内側）に流下することを防止するための部材であり、ベース板Ｊ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出して形成される正面側立設部Ｙ８６ａと、その正面側立設部Ｙ８６ａとは反対側（背面側（矢印Ｂ方向側）に張り出して形成される背面側立設部Ｙ８６ｂと、それら正面側立設部Ｙ８６ａ及び背面側立設部Ｙ８６ｂの間の位置から、遊技盤Ｊ１３のベース板Ｊ６０の正面に沿って張り出す張出部Ｙ８６ｃと、を主に備えて構成される。

【１３３２０】

なお、正面側立設部Ｙ８６ａは、上述した正面側立設部Ｊ８６ａに対応し、背面側立設部Ｙ８６ｂは、上述した背面側立設部Ｊ８６ｂに対応し、張出部Ｙ８６ｃは、上述した張出部Ｊ８６ｃに対応する。

【１３３２１】

更に、センターフレームＹ８６は、張出部Ｙ８６ｃの左右下縁部から前方側に向けて板状に突設形成される樹脂形成部Ｙ８６ｄと、下端部において前後方向に開口形成される球排出口Ｙ８６ｅと、その球排出口Ｙ８６ｅへ向けて球を流下可能な態様で前方へ向けて下降傾斜される球流下面Ｙ８６ｆと、前方が開放され左右に延びるハーフパイプ形状を構成可能に形成されており、下縁側の前端部が張出部Ｙ８６ｃと一体で形成される板面の後面に当接される態様でセンターフレームＹ８６に固定され、左右中央位置が左右端部よりも下側に位置するステージ経路Ｙ８７ｘ及びそのステージ経路Ｙ８７ｘから枝分かれした案内経路Ｙ８７ｙを構成する経路形成部材Ｙ８７と、を備える。

【１３３２２】

図７５０（ａ）は、図７４９（ａ）のＮ２５ａ－Ｎ２５ａ線におけるセンターフレームＹ８６の部分断面図であり、図７５０（ｂ）は、図７４９（ａ）のＮ２５ｂ－Ｎ２５ｂ線におけるセンターフレームＹ８６の部分断面図である。

【１３３２３】

経路形成部材Ｙ８７は、前面側が開放され左右方向に延びるハーフパイプ形状で構成されており、左右端部において背面側通路ユニットＹ１００から案内される球を受け入れ可能に構成される一対の開放部Ｙ８７ａと、その一対の開放部Ｙ８７ａの間において球が転動される転動面を形成する湾曲底面部Ｙ８７ｂと、その湾曲底面部Ｙ８７ｂの左右中央部からずれた位置において最下方位置を形成する一対の底面下方部Ｙ８７ｃと、その底面下方部Ｙ８７ｃの間において左右中央位置に若干盛り上がり形成される中央形成部Ｙ８７ｄと、湾曲底面部Ｙ８７ｂを転動する球が当接可能な後壁部を形成する後壁部Ｙ８７ｅと、その後壁部Ｙ８７ｅの上端部から湾曲底面部Ｙ８７ｂの前端部を超えて前方側へ延設される天面構成部Ｙ８７ｆと、を備える。

【１３３２４】

湾曲底面部Ｙ８７ｂは、背面側立設部Ｙ８６ｂの後方側端部よりも若干後方側の位置から前端部までの領域において盛り上げられた構成とされる段部Ｙ８７ｂ１を備えており、段部Ｙ８７ｂ１と後壁部Ｙ８７ｅとの間隔が遊技球の直径程度の長さとされる。段部Ｙ８７ｂ１と後壁部Ｙ８７ｅとの間の位置に球を送球する前後位置にワープ通路Ｙ１０１の下流側端部の前後位置が位置されるように、背面側通路ユニットＹ１００の配置が設定される。

【１３３２５】

これにより、ワープ通路Ｙ１０１からステージ経路Ｙ８７ｘに案内開始された時点における遊技球は、背面側立設部Ｙ８６ｂ及び段部Ｙ８７ｂ１と干渉しない位置として、湾曲底面部Ｙ８７ｂの後方側を左右方向に転動することになる。転動後、底面下方部Ｙ８７ｃや、中央形成部Ｙ８７ｄを通過することで左右方向の速度が減速されると共に前後方向の傾斜に影響されて前後方向に揺れ動き、湾曲底面部Ｙ８７ｂの前側または後側から流下し、ベース板Ｊ６０の前方側に復帰する。

【１３３２６】

後壁部Ｙ８７ｅは、左右中央位置において後方側に半円形状で突設された部分の外形部

が上下方向に延びることで円筒形状を縦に割ったような形状を構成する分割筒状部Ｙ８７ｅ１と、その分割筒状部Ｙ８７ｅ１の下端部において底面を構成しセンターフレームＹ８６の球流下面Ｙ８６ｆに連なる底面部Ｙ８７ｅ２と、を備える。

【１３３２７】

中央形成部Ｙ８７ｄは、左右中央位置（分割筒状部Ｙ８７ｅ１と対向する位置）において上面視半円形状に凹設される凹設部Ｙ８７ｄ１を備える。凹設部Ｙ８７ｄ１と分割筒状部Ｙ８７ｅ１との間を通るように案内経路Ｙ８７ｙが形成される。

【１３３２８】

天面構成部Ｙ８７ｆは、上述した通り前方に延びており、風車ＹＷＦにより左右内側へ振り分けられた球が、道釘（図示せず）や他の球に衝突して大きく跳ね上がった場合に、ステージ経路Ｙ８７ｘに手前側から進入することはあっても、更に高い位置まで跳ね上がりベース板Ｊ６０の後方に進入して下変位ユニットＹ２３０に衝突する事態の発生を防止することができる。

【１３３２９】

これにより、下変位ユニットＹ２３０の上面に球が滞留して見栄えが悪くなる事態や、進入した球が第３図柄表示装置Ｊ８１の表示面に衝突して、表示面が汚れたり、割れたりする事態の発生を避けることができる。

【１３３３０】

底面下方部Ｙ８７ｃの上面（球転動面）は、前方へ向けて下方傾斜されており、底面下方部Ｙ８７ｃ上の球の左右方向の速度が中央形成部Ｙ８７ｄを乗り越えられない程度に小さくなった場合、その球は前方側へ転動され、第１入賞口Ｊ６４と左右方向でずれた位置から落下される。その落下された球は、第１入賞口Ｊ６４から逸れて落下することが多いが、ベース板Ｊ６０に配設される釘（図示せず）に衝突して跳ね返ることで第１入賞口Ｊ６４に入球することもある。

【１３３３１】

中央形成部Ｙ８７ｄの上面（球転動面）は、後方へ向けて下方傾斜されており、中央形成部Ｙ８７ｄ上で球の左右方向の速度が小さくなった場合（０となった場合）、その球は後方側へ転動され、凹設部Ｙ８７ｄ１と分割筒状部Ｙ８７ｅ１との間を通って案内経路Ｙ８７ｙによって球流下面Ｙ８６ｆに案内され、第１入賞口Ｊ６４の真上に形成される球排出口Ｙ８６ｅ（図７３３参照）から落下される。

【１３３３２】

球排出口Ｙ８６ｅの左右位置は、第１入賞口Ｊ６４の左右位置と合致しているため、球排出口Ｙ８６ｅから落下された球は、第１入賞口Ｊ６４に入球することが多いが、ベース板Ｊ６０に配設される釘（特に命釘、図示せず）に衝突して流下方向が変わり、第１入賞口Ｊ６４に入球しないこともある。

【１３３３３】

背面側通路ユニットＹ１００から流下した遊技球を受け入れ可能に形成される領域を構成する開放部Ｙ８７ａを通過した遊技球は、湾曲底面部Ｙ８７ｂの上下方向の湾曲と、各位置における底面下方部Ｙ８７ｃや中央形成部Ｙ８７ｄによる凹凸形状により減速される。

【１３３３４】

底面下方部Ｙ８７ｃで左右方向の速度が小さくなる（速度が０となる）か、中央形成部Ｙ８７ｄで左右方向の速度が小さくなる（速度が０となる）かは、毎回同じというわけではなく、開放部Ｙ８７ａに受け入れられた球の速度の大きさや向きの状態に大きく左右される。そして、どちらになるかで、球の第１入賞口Ｊ６４への入球し易さが変わるため、開放部Ｙ８７ａに受け入れられ湾曲底面部Ｙ８７ｂ上を転動する球に対する注目力を向上させることができる。

【１３３３５】

開放部Ｙ８７ａの上下位置は、内方側に表示領域を有する第３図柄表示装置Ｊ８１の表示領域の下縁Ｊ８１ｂの上下位置よりも上方側となるように設定される一方で、底面下方

部Ｙ８７ｃの上下位置は、下縁Ｊ８１ｂの上下位置よりも下方側に位置される（図７３３参照）。これにより、表示を注目する遊技者に対してステージ経路Ｙ８７ｘに球が進入したことを把握させ易くすることができるとともに、ステージ経路Ｙ８７ｘを流下する球が第３図柄表示装置Ｊ８１の表示と重なる範囲を最小限に抑えることができる。

【１３３３６】

なお、ワープ通路Ｙ１０１からステージ経路Ｙ８７ｘに案内される構成に限定されるものではない。例えば、ワープ通路Ｙ１０１の下流側終端側の構成が背面側通路ユニットＹ１００において省略され、代わりにベース板Ｊ６０（図７３４参照）の背面側に配設されるようにしても良い。即ち、入球口Ｊ７５に流入した球は、背面側通路ユニットＹ１００におけるワープ通路Ｙ１０１の上流側を通過し、ベース板Ｊ６０の背面側に配設される構成であってワープ通路Ｙ１０１の下流側終端側と同形状の通路を通過して、開放部Ｙ８７ａに到達するように構成しても良い。この場合、背面側通路ユニットＹ１００の形状が経路形成部材Ｙ８７に近接する形状に限定されないため、設計自由度を向上することができる。

【１３３３７】

図７５１（ａ）は、図７３３のＮ２１ａ－Ｎ２１ａ線における遊技盤Ｊ１３の部分断面図であり、図７５１（ｂ）は、図７５１（ａ）のＮ２６ｂ－Ｎ２６ｂ線におけるセンターフレームＹ８６及び背面側通路ユニットＹ１００の部分断面図である。なお、図７５１（ａ）及び図７５１（ｂ）では、理解を容易とするために、傾斜面部Ｙ１２１の図示が省略される。

【１３３３８】

図７５１（ａ）及び図７５１（ｂ）に図示されるように、ベース板Ｊ６０の正面側を流下する球のうち、入球口Ｊ７５に入球した球は、遊技球を流入させることが可能に構成される貫通開口Ｊ６０ｃの内方側を通り、前方開口部Ｙ１１１ａを介して背面側通路ユニットＹ１００において遊技球が案内されるワープ通路Ｙ１０１に案内され、開放部Ｙ８７ａを介してセンターフレームＹ８６のステージ経路Ｙ８７ｘに案内される。

【１３３３９】

ワープ通路Ｙ１０１を構成する案内溝部Ｙ１２２には、終端位置付近に段差部Ｙ１２３及び傾斜天面部Ｙ１２４が形成されている。案内溝部Ｙ１２２に対向配置される案内溝部Ｙ１１１ｂも同様の段差部および天面部を有する形状とされ、図７５１（ｂ）に図示される断面形状と同様の断面形状から形成され、共同で球の案内経路を構成する。

【１３３４０】

ワープ通路Ｙ１０１を案内された球は、段差部Ｙ１２３及び傾斜天面部Ｙ１２４により球の勢いが程よく減衰された後、ステージ経路Ｙ８７ｘに案内される。ワープ通路Ｙ１０１とステージ経路Ｙ８７ｘとの接続部分において、ワープ通路Ｙ１０１側が高くなるように設計されている（図７５１（ｂ）に示すように、案内溝部Ｙ１２２の下流側端部の下縁が、開放部Ｙ８７ａの下縁よりも高い）ことから、球が途中で停留することを避け、ステージ経路Ｙ８７ｘまで球をスムーズに案内することができる。

【１３３４１】

センターフレームＹ８６が光透過性の樹脂材料から形成されていることから、ワープ通路Ｙ１０１とステージ経路Ｙ８７ｘとの接続部分を視認可能となっている。そのため、球を良好に案内で来ているかを早期に遊技者に把握させることができ、仮にワープ通路Ｙ１０１及びステージ経路Ｙ８７ｘにおいて球の停留が生じたとしても、遊技者が気づくことができるように構成されていることから、遊技者に過大な不利益を生じさせることを避けることができる。

【１３３４２】

入球口Ｊ７５に入球する際の球の流下態様には種々の態様が想定されるが、本実施形態によれば、球の流下態様のばらつきに応じて、中央形成部Ｙ８７ｄを乗り越えた後で右側の底面下方部Ｙ８７ｃを右方に通過し、左方に戻ってくる過程で中央形成部Ｙ８７ｄを乗り越えることはできず、右側の底面下方部Ｙ８７ｃで左右方向の速度が０となり前方側へ

流れるパターンと、中央形成部Ｙ８７ｄを乗り越えた後で右側の底面下方部Ｙ８７ｃを右方に通過し、左方に戻ってくる過程で中央形成部Ｙ８７ｄを乗り越えて中央形成部Ｙ８７ｄで左右方向の速度が０となり後方側へ流れるパターンと、中央形成部Ｙ８７ｄを乗り越えた後で右側の底面下方部Ｙ８７ｃを右方に通過し、左方に戻ってくる過程で中央形成部Ｙ８７ｄを乗り越えた後で左側の底面下方部Ｙ８７ｃを左方に通過し、右方に戻ってくる過程で中央形成部Ｙ８７ｄを乗り越えることはできず、左側の底面下方部Ｙ８７ｃで左右方向の速度が０となり前方側へ流れるパターンと、が生じ得るよう構成される。

【１３３４３】

上述のように、本実施形態では、ベース板Ｊ６０の正面側を流下した球が、入球口Ｊ７５を通過して、背面ケースＹ３００側に配設される背面側通路ユニットＹ１００に形成されるワープ通路Ｙ１０１に案内された後で、遊技盤Ｊ１３側に配設されるセンターフレームＹ８６のステージ経路Ｙ８７ｘに案内されるよう構成されており、背面側通路ユニットＹ１００に形成される通路の終端が、球排出口Ｙ８６ｅに直接的に連通される態様とはなっていない。

【１３３４４】

即ち、背面側通路ユニットＹ１００に形成されるワープ通路Ｙ１０１は、ステージ経路Ｙ８７ｘに流入する前の中間経路に留まり、第１入賞口Ｊ６４の真上位置に形成される球排出口Ｙ８６ｅや、球排出口Ｙ８６ｅに球を案内するか否かを振り分ける底面下方部Ｙ８７ｃや中央形成部Ｙ８７ｄは、センターフレームＹ８６に形成されている。

【１３３４５】

これにより、成形品の寸法公差等の原因により遊技盤Ｊ１３と背面ケースＹ３００との間に位置ずれが生じる場合であっても、球排出口Ｙ８６ｅと第１入賞口Ｊ６４との位置ずれが生じることを避けることができ、球排出口Ｙ８６ｅから排出された球の第１入賞口Ｊ６４への案内されやすさに個体差が生じることを避けることができる。

【１３３４６】

風車ＹＷＦは、正面視でワープ通路Ｙ１０１の一部と重なる位置（背面側通路ユニットＹ１００の上縁部と重なる位置）に配置される。本実施形態では、風車ＹＷＦは非透過性の樹脂材料から形成されており、正面視でワープ通路Ｙ１０１を流下する球を一時的に隠す目隠しとして機能する。

【１３３４７】

即ち、背面ケースＹ３００側に形成されるワープ通路Ｙ１０１を通過する球を一時的に視認不可能とする領域を備える。

【１３３４８】

これにより、入球口Ｊ７５に入球しワープ通路Ｙ１０１を通過する球であっても、ベース板Ｊ６０と風車ＹＷＦとの間を流下する球であっても、風車ＹＷＦにより隠される場合がある。そのため、風車ＹＷＦで一時的に視認不能となった後で遊技盤Ｊ１３の左右内方側へ流下する球が、ワープ通路Ｙ１０１を通過している球なのか、ベース板Ｊ６０の正面側を流下している球なのか、わかり難くさせることができる。

【１３３４９】

風車ＹＷＦ付近を遊技盤Ｊ１３の左右内方側へ流下する球は、第１入賞口Ｊ６４に入球し得る球として注目力は高いが、ステージ経路Ｙ８７ｘを通過した球と、風車ＹＷＦにより振り分けられベース板Ｊ６０の正面側を流下した球とで、どちらが第１入賞口Ｊ６４に入球しやすいかは、機種によって違う。

【１３３５０】

そのため、風車ＹＷＦに目隠しされた球が、ステージ経路Ｙ８７ｘ側へ向かうのか、ベース板Ｊ６０の正面側を流下しているのかは、どの機種であっても注目事項となる。そのため、本実施形態の構成により、風車ＹＷＦの後方側において背面ケースＹ３００側に形成されるワープ通路Ｙ１０１を流下する球も、風車ＹＷＦによって遊技盤Ｊ１３の左右内方側へ振り分けられベース板Ｊ６０の正面側を流下する球も、注目力を向上させることができる。

【１３３５１】
なお、センターフレームＹ８６が透明な樹脂材料から形成されておりセンターフレームＹ８６と重なる位置においてもワープ通路Ｙ１０１が視認可能とされる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、センターフレームＹ８６が非透過に構成されることで、重なる位置においてはワープ通路Ｙ１０１が視認不能となるように構成しても良い。
【１３３５２】
例えば、センターフレームＹ８６の左右下側両隅部において、背面側通路ユニットＹ１００の上側における左右内側領域（ワープ通路Ｙ１０１の下流側端部を含む領域）と重なるところ、上述のセンターフレームＹ８６の左右下側両隅部における張出部Ｊ８６ｃに、非透過のシールを貼ったり、非透過の塗料を塗ったり、金属メッキを施したり、透過性を低くするシボ加工を施したりすること、又は、その他の方法により、背面側通路ユニットＹ１００の上側における左右内側領域を視認不能に構成することができる。
【１３３５３】
これにより、ワープ通路Ｙ１０１からステージ経路Ｙ８７ｘへの接続部分を視認不能とすることができ、ワープ通路Ｙ１０１からステージ経路Ｙ８７ｘへ移動する際の球の暴れ（振動動作）を視認されないようにすることができる。
【１３３５４】
次いで、図７５２から図７５４を参照し、第１４１実施形態における上変位ユニットＹ１４００について説明する。上記第１４０実施形態では、上変位ユニットＹ４００の左右に一組ずつ配設される回転手段Ｙ４８０と回転動作部材Ｙ５３０とが同一方向に回転される場合を説明したが、第１４１実施形態では、上変位ユニットＹ１４００の左側において回転動作部材Ｙ５３０と回転手段Ｙ４８０とが逆方向に回転される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【１３３５５】
図７５２は、第１４１実施形態における上変位ユニットＹ１４００の分解正面斜視図である。上変位ユニットＹ１４００は、上述した上変位ユニットＹ４００のギア群Ｙ４３０に対応する構成として、ギア群Ｙ１４３０を備える。
【１３３５６】
ギア群Ｙ１４３０は、上述した一対のギアセットＹ４３１と、一対の大型ギアＹ４３２と、モータギアＹ４３３と、対称ギアＹ４３４と、を備え、更に、モータギアＹ４３３及び回転動作部材Ｙ５３０の後端ギア部材Ｙ５２０に歯合可能な態様でベース手段Ｙ４１０に回転可能に支持される反転ギアＹ１４３５を備える。
【１３３５７】
反転ギアＹ１４３５は、歯幅がモータギアＹ４３３よりも長い寸法で設計されており、本実施形態では、回転動作部材Ｙ５３０の後端ギア部材Ｙ５２０は、モータギアＹ４３３とは歯合しない前後位置（モータギアＹ４３３に対して前方へずれた位置）に配設され反転ギアＹ１４３５とのみ歯合される。
【１３３５８】
即ち、モータギアＹ４３３の回転動作は、反転ギアＹ１４３５を介して後端ギア部材Ｙ５２０に伝達される。そのため、後端ギア部材Ｙ５２０の回転に伴う回転動作部材Ｙ５３０の回転方向は、モータギアＹ４３３と同一方向であり、反転ギアＹ１４３５とは逆方向となる。
【１３３５９】
図７５３（ａ）、図７５３（ｂ）、図７５４（ａ）及び図７５４（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットＹ１４００の正面図である。図７５３（ａ）、図７５３（ｂ）、図７５４（ａ）及び図７５４（ｂ）では、回転手段Ｙ４８０が、図７５３（ａ）に図示される退避状態から移動状態へ変位する様子が時系列で図示されており、揺動ユニットＹ７００の揺動手段Ｙ７２０及び円柱支持部Ｙ７１５の外形が時系列に対応した姿勢で想像線で図示される。

【１３３６０】
図７５３（ａ）に図示されるように、上変位ユニットＹ１４００では、回転手段Ｙ４８０の退避状態に対応する回転動作部材Ｙ５３０の初期姿勢が、上変位ユニットＹ４００の場合と異なる（図７４６（ａ）参照）。
【１３３６１】
これに対応するように揺動ユニットＹ７００のベース手段Ｙ７１０における挿通開口Ｙ７１３の形状を設計変更しており、図７５３（ａ）における姿勢の回転動作部材Ｙ５３０を挿通可能な形状となっているため、本実施形態においても、同様の組付け手法で回転動作部材Ｙ５３０がベース手段Ｙ７１０の板状本体Ｙ７１１の正面側に配置され、回転手段Ｙ４８０の回転に連動した回転動作中において回転動作部材Ｙ５３０の回転先端側における円形突部Ｙ５３３の後方側には、板状本体Ｙ７１１（図７３９（ａ）参照）の前面部が位置される。
【１３３６２】
回転手段Ｙ４８０が退避状態から移動状態へ向けて下降方向へ変位する場合について説明する。回転手段Ｙ４８０の変位中において揺動手段Ｙ７２０が変位されるが、変位の開始タイミングが異なる。
【１３３６３】
図７５３（ａ）に図示される状態から駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）が励磁され、駆動軸Ｙ４５２及び回転規制部材Ｙ４５３が回転され、回転規制部材Ｙ４５３に固定されているモータギアＹ４３３が正面視時計回りに回転されることに伴い、そのモータギアＹ４３３に歯合される反転ギアＹ１４３５及び大型ギアＹ４３２が正面視反時計回りに回転され、反転ギアＹ１４３５に歯合される後端ギア部材Ｙ５２０が正面視時計回りに回転される。
【１３３６４】
この場合において、大型ギアＹ４３２の円柱部材Ｙ４３２ｂから長孔Ｙ４８４を介して荷重を受けて回転手段Ｙ４８０は回転変位される一方で、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３は揺動手段Ｙ７２０から離れた位置を変位し、非当接とされているため、揺動手段Ｙ７２０は変位されておらず、姿勢が維持される（図７５３（ｂ）参照）。即ち、回転手段Ｙ４８０と揺動手段Ｙ７２０とは非連動な状態とされる。
【１３３６５】
図７５３（ｂ）に図示される状態に到達する際に駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）が非励磁とされるように制御される。この場合、回転手段Ｙ４８０は自重により下降変位を継続し、その回転手段Ｙ４８０の自重が長孔Ｙ４８４を介して付与される円柱部材Ｙ４３２ｂを有する大型ギアＹ４３２も正面視反時計回りの回転を継続し、その大型ギアＹ４３２に対してモータギアＹ４３３を介して歯合連結されており互いに連動する反転ギアＹ１４３５も正面視反時計回りの回転が継続され、その反転ギアＹ１４３５に歯合される後端ギア部材Ｙ５２０も正面視時計回りに回転を継続する。
【１３３６６】
この場合において、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３は揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４に当接し、起立させる方向に変位させ、揺動手段Ｙ７２０を正面視反時計回りに回転変位させる（図７５４（ａ）参照）。即ち、回転手段Ｙ４８０と揺動手段Ｙ７２０とは連動される状態とされる。
【１３３６７】
回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３は、揺動手段Ｙ７２０の重心位置を構成する揺動本体部Ｙ７２２とは別の部位（細い部位）である延設伝達部Ｙ７２４に当接される。これにより、円形突部Ｙ５３３が当接時に受ける負荷を低減でき、円形突部Ｙ５３３が破損することを抑制できる。即ち、当接時において、延設伝達部Ｙ７２４側が撓み変形可能な程度の剛性で設計することができ、当接時の衝撃を延設伝達部Ｙ７２４側の変形により逃がすことで、円形突部Ｙ５３３の破損を回避しやすくすることができる。
【１３３６８】

回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３が延設伝達部Ｙ７２４と当接し始める位置は、延設伝達部Ｙ７２４の延設基端側とされる。即ち、揺動手段Ｙ７２０の回転軸に近い側で当接開始される。これにより、回転軸から遠い位置で当接し始める場合に比較して、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３が同角度変位することに対する揺動手段Ｙ７２０の回転角度が大きくなるため、揺動手段Ｙ７２０の動作開始時における動作量（動作速度）を大きくすることができ、揺動手段Ｙ７２０が激しい動きを構成しているように遊技者に視認させることができる。

【１３３６９】

図７５４（ａ）に図示される状態からも、回転手段Ｙ４８０は自重により下降変位を継続し、その回転手段Ｙ４８０の自重が長孔Ｙ４８４を介して付与される円柱部材Ｙ４３２ｂを有する大型ギアＹ４３２も正面視反時計回りの回転を継続し、その大型ギアＹ４３２に対してモータギアＹ４３３を介して歯合連結されており互いに連動する反転ギアＹ１４３５も正面視反時計回りの回転を継続し、後端ギア部材Ｙ５２０は正面視時計回りに回転を継続する。

【１３３７０】

この場合において、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３は揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４に当接した状態で回転し、傾倒させる方向に変位させ、揺動手段Ｙ７２０を正面視時計回りに回転変位させ、変位前の姿勢（図７５３（ａ）及び図７５３（ｂ）に図示される姿勢）に復帰させる（図７５４（ｂ）参照）。

【１３３７１】

この場合において、回転手段Ｙ４８０の下降変位に伴う回転動作部材Ｙ５３０の回転速度は上述した第１制御態様と同じとされる一方で、延設伝達部Ｙ７２４の回転軸から遠い位置において円形突部Ｙ５３３が変位されることから、円形突部Ｙ５３３の変位速度に延設伝達部Ｙ７２４の変位速度が追いつかず、一時的に浮いた状態が構成される。

【１３３７２】

図７５４（ａ）から図７５４（ｂ）までの間は、円形突部Ｙ５３３の移動に追従するようにして、延設伝達部Ｙ７２４が揺動手段Ｙ７２０の自重により傾倒変位される。即ち、揺動手段Ｙ７２０は変位前の姿勢に自重で復帰し、同姿勢に自重で保持される。

【１３３７３】

図７５４（ｂ）に図示される状態は、回転手段Ｙ４８０が移動状態に到達するよりも前の状態（一対の回転手段Ｙ４８０の間に隙間が生じている状態）であり、図７５４（ｂ）に図示される状態から回転手段Ｙ４８０が更に下降変位されることで移動状態に到達する（図７４７（ｂ）参照）。

【１３３７４】

即ち、回転手段Ｙ４８０と揺動手段Ｙ７２０との連動される状態は、図７５４（ｂ）に図示される直前まで継続され、図７５４（ｂ）に図示される状態から移動状態までは非連動とされる状態が継続され、その直後に停止される。

【１３３７５】

駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）が非励磁とされていることから、移動状態に到達した場合の回転手段Ｙ４８０の変位速度によっては、移動状態で停止されず、上昇方向へ跳ね返る変位が生じる可能性があるが、この変位は、揺動手段Ｙ７２０の自重による負荷が回転動作部材Ｙ５３０を介して付与されることにより抑制される。

【１３３７６】

即ち、回転手段Ｙ４８０が上昇方向へ跳ね返る態様で変位する場合、大型ギアＹ４３２に逆回転（正面視時計回りの回転）が生じることになるが、それと連動して後端ギア部材Ｙ５２０及び回転動作部材Ｙ５３０にも逆回転（正面視反時計回りの回転）が生じることになるところ、回転動作部材Ｙ５３０と揺動手段Ｙ７２０とが当接する程度（図７５４（ｂ）参照）まで回転が生じると、この回転が揺動手段Ｙ７２０の自重によって抑制されることから、回転手段Ｙ４８０の上昇方向への跳ね返り変位が抑制される。

【１３３７７】

回転手段Ｙ４８０が移動状態から退避状態（図７５３（ａ）参照）へ向けて上昇方向へ変位する場合について説明する。回転手段Ｙ４８０の変位中において揺動手段Ｙ７２０が変位されるが、変位が生じるタイミングが異なり得る。

【１３３７８】

回転手段Ｙ４８０の上昇方向への変位が移動状態から開始される場合、図７５４（ｂ）に図示されるように移動状態から回転手段Ｙ４８０が若干上昇変位した場合に回転動作部材Ｙ５３０と揺動手段Ｙ７２０とが当接開始されることから、上昇方向への変位開始時点（移動状態から図７５４（ｂ）に図示される状態に至るまでの期間）においては揺動手段Ｙ７２０からの抵抗がかかっていない。

【１３３７９】

従って、動作開始に必要となる動作力を小さく抑えることができ、動作開始後の勢いを利用して揺動手段Ｙ７２０の抵抗に対抗することができるので、スムーズな動作を実行することができる。

【１３３８０】

上昇方向の変位では、回転手段Ｙ４８０の移動状態から、駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）が励磁されモータギアＹ４３３が正面視反時計回りに回転されることに伴い、そのモータギアＹ４３３に歯合される反転ギアＹ１４３５及び大型ギアＹ４３２が正面視時計回りに回転され、反転ギアＹ１４３５に歯合される後端ギア部材Ｙ５２０が正面視反時計回りに回転される。

【１３３８１】

この場合において、大型ギアＹ４３２の円柱部材Ｙ４３２ｂから長孔Ｙ４８４を介して荷重を受けて回転手段Ｙ４８０は回転変位され、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３に当接される揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４が起立方向に押し上げ変位される（図７５４（ｂ）から図７５４（ａ）への変位を参照）。

【１３３８２】

即ち、回転手段Ｙ４８０と揺動手段Ｙ７２０とが連動される状態とされる。動作させる対象が回転手段Ｙ４８０及び揺動手段Ｙ７２０の複数あることに加え、双方ともを重力方向とは逆方向に変位させることになるので、駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）に対する負荷は大きくなるが、駆動開始後の勢いを利用することで、動作不良が生じる可能性を低くすることができる。

【１３３８３】

図７５４（ａ）に図示される状態から、駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）の励磁が継続される。この場合、大型ギアＹ４３２の正面視時計回りの回転が継続されることで回転手段Ｙ４８０は上昇変位を継続し、後端ギア部材Ｙ５２０も正面視反時計回りの回転が継続され、揺動手段Ｙ７２０は自重により変位前の姿勢（図７５４（ｂ）参照）に戻る（図７５３（ｂ）参照）。

【１３３８４】

即ち、回転手段Ｙ４８０と揺動手段Ｙ７２０とは連動される状態から、非連動とされる状態となる。

【１３３８５】

図７５３（ｂ）に図示される状態から、駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）の励磁が継続される。この場合において、大型ギアＹ４３２の円柱部材Ｙ４３２ｂから長孔Ｙ４８４を介して荷重を受けて回転手段Ｙ４８０は回転変位される一方で、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３は揺動手段Ｙ７２０から離れた位置を変位し、非当接とされているため、揺動手段Ｙ７２０は変位されておらず、姿勢が維持される（図７５３（ｂ）から図７５３（ａ）参照）。即ち、回転手段Ｙ４８０と揺動手段Ｙ７２０とは非連動な状態とされる。

【１３３８６】

次いで、図７５５から図７５９を参照し、第１４２実施形態における上変位ユニットＹ２４００について説明する。上記第１４０実施形態では、上変位ユニットＹ４００の回転

動作部材Ｙ５３０が樹脂材料から一体成形されており、円形突部Ｙ５３３の変位軌跡が同一半径の円形状から変化しない場合を説明したが、第１４２実施形態では、上変位ユニットＹ２４００の回転動作部材Ｙ２５３０の円形突部Ｙ２５３３の変位軌跡が変化される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【１３３８７】

図７５５（ａ）は、第１４２実施形態における回転動作部材Ｙ２５３０の正面図であり、図７５５（ｂ）は、図７５５（ａ）の矢印Ｎ２７ｂ方向視における回転動作部材Ｙ２５３０の側面図である。

【１３３８８】

回転動作部材Ｙ２５３０は、被支持部Ｙ５３１と、その被支持部Ｙ５３１の前端部から被支持部Ｙ５３１の中心軸と直交する方向に延びる板状の板状部Ｙ２５３２と、その板状部Ｙ２５３２の前面に後端部が当接し前後方向へ延びる円柱形状から形成される円形突部Ｙ２５３３と、板状部Ｙ２５３２の前側に固定され円形突部Ｙ２５３３の変位が許容される大きさの開口部Ｙ２５３５が形成されるカバー部材Ｙ２５３４と、そのカバー部材Ｙ２５３４の後方側において板状部Ｙ２５３２の延設方向に向けた伸長方向の付勢力を円形突部Ｙ２５３３に付与するコイルスプリングＹ２５３６と、を主に備える。

【１３３８９】

円形突部Ｙ２５３３は、後端部が板状部Ｙ２５３２の前面に当接された状態で維持され、開口部Ｙ２５３５の形成領域内を変位可能となるように板状部Ｙ２５３２及びカバー部材Ｙ２５３４に支持されている。

【１３３９０】

開口部Ｙ２５３５は、コイルスプリングＹ２５３６の付勢力で移動された場合の円形突部Ｙ２５３３の変位終端位置を構成する終端部Ｙ２５３５ａと、その終端部Ｙ２５３５ａの被支持部Ｙ５３１側（回転動作部材Ｙ２５３０の回転軸側）から開口内方側に張出形成され円形突部Ｙ２５３３の被支持部Ｙ５３１側への移動を抑制する抑制部Ｙ２５３５ｂと、回転動作部材Ｙ２５３０の回転方向において終端部Ｙ２５３５ａに対して対向配置される部位であって変位終端位置に到達した円形突部Ｙ２５３３との間に隙間が空くように離間形成される離間部Ｙ２５３５ｃと、抑制部Ｙ２５３５ｂと離間部Ｙ２５３５ｃとを終端とするＪ字形状で形成されており内方側の寸法が円形突部Ｙ２５３３の直径よりも若干大きい案内部Ｙ２５３５ｄと、を備える。

【１３３９１】

円形突部Ｙ２５３３の案内部Ｙ２５３５ｄに沿う変位が許容される一方で、荷重のかけられ方によって、円形突部Ｙ２５３３が案内部Ｙ２５３５ｄに沿って変位する場合と、変位されずに終端部Ｙ２５３５ａに維持される場合とが生じるように構成される。以下、詳述する。

【１３３９２】

円形突部Ｙ２５３３は、コイルスプリングＹ２５３６により被支持部Ｙ５３１に形成される回転軸から離れる方向に付勢され、終端部Ｙ２５３５ａに収まる位置に安定的に支持される。図７５５（ａ）には、円形突部Ｙ２５３３の円の中心と回転動作部材Ｙ２５３０の回転中心とを通る平面ＹＳ３１が想像線で図示される。

【１３３９３】

円形突部Ｙ２５３３に対して、平面ＹＳ３１の左側からの荷重であって被支持部Ｙ５３１側へ押進する荷重（右方向成分を有する荷重）が与えられた場合、抑制部Ｙ２５３５ｂに円形突部Ｙ２５３３の変位が規制されることとなり、円形突部Ｙ２５３３は終端部Ｙ２５３５ａに収まる位置に維持される。

【１３３９４】

一方、円形突部Ｙ２５３３に対して、平面ＹＳ３１の右側からの荷重であって被支持部Ｙ５３１側へ押進する荷重（左方向成分を有する荷重）が与えられた場合、円形突部Ｙ２５３３は終端部Ｙ２５３５ａから離間部Ｙ２５３５ｃ側へ変位され、抑制部Ｙ２５３５ｂとの干渉が解消されることから、円形突部Ｙ２５３３は案内部Ｙ２５３５ｄに沿って案内

される。
【１３３９５】
図７５６（ａ）、図７５６（ｂ）、図７５７（ａ）及び図７５７（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットＹ２４００の正面図である。図７５６（ａ）、図７５６（ｂ）、図７５７（ａ）及び図７５７（ｂ）では、回転手段Ｙ４８０が、図７５６（ａ）に図示される退避状態から図７５７（ｂ）に図示される移動状態へ変位する様子が時系列で図示されており、揺動ユニットＹ７００の揺動手段Ｙ７２０及び円柱支持部Ｙ７１５の外形が時系列に対応した姿勢で想像線で図示される。
【１３３９６】
板状本体Ｙ７１１の挿通開口Ｙ７１３（図７３９（ａ）参照）は、回転動作部材Ｙ２５３０の形状に合うように設計変更され、回転手段Ｙ４８０の退避状態に対応する状態における回転動作部材Ｙ２５３０が挿通可能な形状とされる一方で、回転動作部材Ｙ２５３０の姿勢が変化すると挿通不可能となる形状とされる。
【１３３９７】
回転手段Ｙ４８０が退避状態から移動状態へ向けて下降方向へ変位する場合について説明する。回転手段Ｙ４８０の変位中において揺動手段Ｙ７２０が変位されるが、変位の開始タイミングが異なる。
【１３３９８】
図７４６（ａ）に図示される状態から駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）が励磁され、駆動軸Ｙ４５２及び回転規制部材Ｙ４５３が回転され、回転規制部材Ｙ４５３に固定されているモータギアＹ４３３が正面視時計回りに回転されることに伴い、そのモータギアＹ４３３に歯合される後端ギア部材Ｙ５２０及び大型ギアＹ４３２が正面視反時計回りに回転される。
【１３３９９】
図７５６（ｂ）に図示されるように、円形突部Ｙ２５３３と揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４との当接開始時には、延設伝達部Ｙ７２４から円形突部Ｙ２５３３に対して、平面ＹＳ３１（図７５５（ａ）参照）の左側からの荷重であって被支持部Ｙ５３１側へ押進する荷重が付与される。
【１３４００】
この場合、回転動作部材Ｙ２５３０における円形突部Ｙ２５３３の位置は変化されない状態で回転動作が継続される。そのため、視認される回転手段Ｙ４８０と揺動手段Ｙ７２０の動作態様は、上変位ユニットＹ４００で説明した場合と変わらない（図７４６（ａ）から図７４７（ｂ）参照）。
【１３４０１】
図７５８（ａ）、図７５８（ｂ）、図７５９（ａ）及び図７５９（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットＹ２４００の正面図である。図７５８（ａ）、図７５８（ｂ）、図７５９（ａ）及び図７５９（ｂ）では、回転手段Ｙ４８０が、図７５８（ａ）に図示される移動状態から図７５９（ｂ）に図示される退避状態へ変位する様子が時系列で図示されており、揺動ユニットＹ７００の揺動手段Ｙ７２０及び円柱支持部Ｙ７１５の外形が時系列に対応した姿勢で想像線で図示される。
【１３４０２】
回転手段Ｙ４８０が移動状態（図７５８（ａ）参照）から退避状態（図７５９（ｂ）参照）へ向けて上昇方向へ変位する場合について説明する。回転手段Ｙ４８０の変位中において揺動手段Ｙ７２０が変位されないことが、上変位ユニットＹ４００とは異なる。
【１３４０３】
回転手段Ｙ４８０の上昇方向への変位では、図７５８（ａ）に図示される状態から駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）が励磁されモータギアＹ４３３が正面視反時計回りに回転されることに伴い、そのモータギアＹ４３３に歯合される後端ギア部材Ｙ５２０及び大型ギアＹ４３２が正面視時計回りに回転される。
【１３４０４】

図７５８（ａ）に図示されるように、円形突部Ｙ２５３３と揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４との当接開始時には、延設伝達部Ｙ７２４から円形突部Ｙ２５３３に対して、平面ＹＳ３１（図７５５（ａ）参照）の右側からの荷重であって被支持部Ｙ５３１側へ押進する荷重が付与される。

【１３４０５】

この場合、回転動作部材Ｙ２５３０における円形突部Ｙ２５３３の位置は離間部Ｙ２５３５ｃ側へ変位され、案内部Ｙ２５３５ｄに沿って被支持部Ｙ５３１側（回転軸側）へ変位されることとなり、揺動手段Ｙ７２０の姿勢が維持された状態で回転動作部材Ｙ２５３０が回転動作される（図７５８（ｂ）参照）。

【１３４０６】

揺動手段Ｙ７２０へ向かう側にコイルスプリングＹ２５３６の付勢力が生じ続けており、図７５８（ｂ）から図７５９（ａ）までの間、延設伝達部Ｙ７２４と円形突部Ｙ２５３３との当接は継続される。図７５９（ａ）の状態を過ぎると、円形突部Ｙ２５３３は延設伝達部Ｙ７２４から非当接となり離れ、回転手段Ｙ４８０が退避状態で停止されると共に回転動作部材Ｙ５３０が停止される（図７５９（ｂ）参照）。

【１３４０７】

このように、上変位ユニットＹ２４００では、回転動作部材Ｙ２５３０が正面視時計回り方向に回転する場合と、正面視反時計回り方向に回転する場合とで、円形突部Ｙ２５３３の移動する経路が変化されることで、回転手段Ｙ４８０の下降変位に伴って揺動手段Ｙ７２０の回転変位が生じることは上変位ユニットＹ４００と同様とされる一方で、回転手段Ｙ４８０が上昇変位する場合には揺動手段Ｙ７２０の回転変位が生じないように構成される。揺動手段Ｙ７２０の変位を異ならせることができるので、揺動手段Ｙ７２０の変位に注目させ易くすることができる。

【１３４０８】

次いで、図７６０から図７６４を参照し、第１４３実施形態における上変位ユニットＹ３４００について説明する。上記第１４０実施形態では、上変位ユニットＹ４００の延設伝達部Ｙ７２４の揺動本体部Ｙ７２２と対向配置される側が平面形状で形成される場合を説明したが、第１４３実施形態では、上変位ユニットＹ３４００の揺動ユニットＹ３７００の延設伝達部Ｙ３７２４の揺動本体部Ｙ７２２と対向配置される側に出入口を有する溝が形成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【１３４０９】

図７６０（ａ）は、第１４３実施形態における揺動手段Ｙ３７２０を模式的に示す正面図であり、図７６０（ｂ）は、揺動手段Ｙ３７２０を模式的に示す背面図である。

【１３４１０】

揺動手段Ｙ３７２０は、揺動手段Ｙ７２０で上述した被支持部Ｙ７２１と、揺動本体部Ｙ７２２と、延設部Ｙ７２３と、規制部Ｙ７２５と、を備え、更に、延設部Ｙ７２３の上端部から上変位ユニットＹ３４００の左右内方側かつ上方側へ向かう傾斜方向に延設される延設伝達部Ｙ３７２４と、を主に備える。

【１３４１１】

延設伝達部Ｙ３７２４は、正面視の外形が延設伝達部Ｙ７２４と同じ形状から形成される本体部Ｙ３７２４ａと、その本体部Ｙ３７２４ａの後側に円弧形状に沿って凹設される湾曲凹設部Ｙ３７２４ｂと、延設伝達部Ｙ３７２４の延設先端側の湾曲凹設部Ｙ３７２４ｂの端部を閉塞可能となるように本体部Ｙ３７２４ａに回転可能に支持される可動部Ｙ３７２４ｃと、を備える。

【１３４１２】

可動部Ｙ３７２４ｃは、下端部を回転中心として回転可能に構成されており、湾曲凹設部Ｙ３７２４ｂを閉塞する側にトーションスプリング（図示せず）により付勢される。本体部Ｙ３７２４ａには、可動部Ｙ３７２４ｃの回転先端部を受け入れて、それ以上の進入を規制する凹部Ｙ３７２４ａ１が湾曲凹設部Ｙ３７２４ｂの上端位置に連設されており、

可動部Ｙ３７２４ｃが凹部Ｙ３７２４ａ１に受け入れられた状態で可動部Ｙ３７２４ｃの側面が本体部Ｙ３７２４ａの側面と面一とされる。

【１３４１３】

図７６１（ａ）、図７６１（ｂ）、図７６２（ａ）及び図７６２（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットＹ３４００の正面図である。図７６１（ａ）、図７６１（ｂ）、図７６２（ａ）及び図７６２（ｂ）では、回転手段Ｙ４８０が、図７６１（ａ）に図示される退避状態から図７６２（ｂ）に図示される移動状態へ変位する様子が時系列で図示されており、揺動ユニットＹ３７００の揺動手段Ｙ３７２０及び円柱支持部Ｙ７１５の外形が時系列に対応した姿勢で想像線で図示される。

【１３４１４】

回転動作部材Ｙ３５３０は、上述した回転動作部材Ｙ５３０に対して、円形突部Ｙ５３３が半円形突部Ｙ３５３３となっていることのみが異なる。半円形突部Ｙ３５３３は、回転動作部材Ｙ３５３０の回転軸側における円形突部Ｙ５３３の部位が削られることで正面視半円形状となるように構成される。

【１３４１５】

上述した湾曲凹設部Ｙ３７２４ｂは、揺動手段Ｙ３７２０の変位前の状態（図７６１（ａ）参照）において、半円形突部Ｙ３５３３の通過を許容する幅寸法および形状とされる。

【１３４１６】

回転手段Ｙ４８０が退避状態から移動状態へ向けて下降方向へ変位する場合について説明する。回転手段Ｙ４８０の変位中において揺動手段Ｙ３７２０が変位されるが、変位の開始タイミングが異なる。

【１３４１７】

図７６１（ａ）に図示される状態から駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）が励磁され、駆動軸Ｙ４５２及び回転規制部材Ｙ４５３が回転され、回転規制部材Ｙ４５３に固定されているモータギアＹ４３３が正面視時計回りに回転されることに伴い、そのモータギアＹ４３３に歯合される後端ギア部材Ｙ５２０及び大型ギアＹ４３２が正面視反時計回りに回転される。

【１３４１８】

図７６１（ｂ）に図示されるように、半円形突部Ｙ３５３３と揺動手段Ｙ３７２０の延設伝達部Ｙ３７２４との当接開始時には、可動部Ｙ３７２４ｃに対して湾曲凹設部Ｙ３７２４ｂの反対側から荷重が付与される。

【１３４１９】

この場合、可動部Ｙ３７２４ｃは凹部Ｙ３７２４ａ１（図７６０（ｂ）参照）に押し付けられ、湾曲凹設部Ｙ３７２４ｂに対する位置が維持されることで湾曲凹設部Ｙ３７２４ｂへの半円形突部Ｙ３５３３の進入が規制されることにより、延設伝達部Ｙ３７２４は半円形突部Ｙ３５３３により押し上げられる態様で変位する。この場合、視認される回転手段Ｙ４８０と揺動手段Ｙ３７２０の動作態様は、上変位ユニットＹ４００で説明した場合と変わらない（図７４６（ａ）から図７４７（ｂ）参照）。

【１３４２０】

図７６３（ａ）、図７６３（ｂ）、図７６４（ａ）及び図７６４（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットＹ３４００の正面図である。図７６３（ａ）、図７６３（ｂ）、図７６４（ａ）及び図７６４（ｂ）では、回転手段Ｙ４８０が、図７６３（ａ）に図示される移動状態から図７６４（ｂ）に図示される退避状態へ変位する様子が時系列で図示されており、揺動ユニットＹ３７００の揺動手段Ｙ３７２０及び円柱支持部Ｙ７１５の外形が時系列に対応した姿勢で想像線で図示される。

【１３４２１】

回転手段Ｙ４８０が移動状態（図７６３（ａ）参照）から退避状態（図７６４（ｂ）参照）へ向けて上昇方向へ変位する場合について説明する。回転手段Ｙ４８０の変位中において揺動手段Ｙ３７２０が変位されないことが、上変位ユニットＹ４００とは異なる。

【１３４２２】
回転手段Ｙ４８０の上昇方向への変位では、図７５８（ａ）に図示される状態から駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）が励磁されモータギアＹ４３３が正面視反時計回りに回転されることに伴い、そのモータギアＹ４３３に歯合される後端ギア部材Ｙ５２０及び大型ギアＹ４３２が正面視時計回りに回転される。
【１３４２３】
図７６３（ａ）に図示されるように、半円形突部Ｙ３５３３に対向配置される湾曲凹設部Ｙ３７２４ｂの下端部には可動部Ｙ３７２４ｃは配設されておらず、開放されているため、後端ギア部材Ｙ５２０の回転に伴って回転動作部材Ｙ３５３０が回転動作されると、半円形突部Ｙ３５３３が湾曲凹設部Ｙ３７２４ｂに進入する（図７６３（ｂ）参照）。
【１３４２４】
更に駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）の励磁が継続され、回転動作部材Ｙ３５３０が正面視時計回りに回転されると、湾曲凹設部Ｙ３７２４ｂ側から移動する半円形突部Ｙ３５３３により可動部Ｙ３７２４ｃが押しのけられ、半円形突部Ｙ３５３３が湾曲凹設部Ｙ３７２４ｂから抜け出される（図７６４（ａ）参照）。
【１３４２５】
更に回転動作部材Ｙ３５３０が正面視時計回りに回転され、半円形突部Ｙ３５３３と可動部Ｙ３７２４ｃとの当接が解除されると、可動部Ｙ３７２４ｃはトーションスプリング（図示せず）の付勢力により湾曲凹設部Ｙ３７２４ｂ側に押し付けられる（図７６４（ｂ）参照）。
【１３４２６】
半円形突部Ｙ３５３３と可動部Ｙ３７２４ｃとの当接が解除された後は、半円形突部Ｙ３５３３は延設伝達部Ｙ３７２４から非当接となり離れ、回転手段Ｙ４８０が退避状態で停止されると共に回転動作部材Ｙ３５３０が停止される（図７６４（ｂ）参照）。
【１３４２７】
このように、上変位ユニットＹ３４００では、回転動作部材Ｙ３５３０が正面視時計回り方向に回転する場合と、正面視反時計回り方向に回転する場合とで、半円形突部Ｙ３５３３の移動する経路が揺動手段Ｙ３７２０の延設伝達部Ｙ３７２４の内部を通るか否かが変化されることで、回転手段Ｙ４８０の下降変位に伴って揺動手段Ｙ３７２０の回転変位が生じることは上変位ユニットＹ４００と同様とされる一方で、回転手段Ｙ４８０が上昇変位する場合には揺動手段Ｙ３７２０の回転変位が生じないように構成される。揺動手段Ｙ３７２０の変位を異ならせることができるので、揺動手段Ｙ３７２０の変位に注目させ易くすることができる。
【１３４２８】
次いで、図７６５から図７６７を参照し、第１４４実施形態における上変位ユニットＹ４４００について説明する。上記第１４０実施形態では、上変位ユニットＹ４００の回転動作部材Ｙ５３０が樹脂材料から一体成形されており、円形突部Ｙ５３３が単一の突部として形成される場合を説明したが、第１４４実施形態では、上変位ユニットＹ４４００の回転動作部材Ｙ４５３０の突部が複数形成される場合を構成可能とされる。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【１３４２９】
図７６５（ａ）は、第１４４実施形態における回転動作部材Ｙ４５３０の正面図であり、図７６５（ｂ）は、図７６５（ａ）の矢印Ｎ３１ｂ方向視における回転動作部材Ｙ４５３０の側面図である。
【１３４３０】
回転動作部材Ｙ４５３０は、被支持部Ｙ５３１と、その被支持部Ｙ５３１の前端部から被支持部Ｙ５３１の中心軸と直交する方向に延びる板状の板状部Ｙ４５３２と、その板状部Ｙ４５３２の延設先端部から前方へ円形状から部分的に欠けた断面不完全円形状で突設される不完全円形突部Ｙ４５３３と、板状部Ｙ４５３２の前面側において板状部Ｙ４５３２に対して同軸相対回転可能に支持される相対変位部材Ｙ４５３４と、その相対変位部材

Ｙ４５３４の回転先端部と板状部Ｙ４５３２の延設先端部とを押し付ける方向に作用する付勢力を生じさせるように回転軸を中心とした円弧に沿って形成されるコイルスプリングＹ４５３５と、を主に備える。

【１３４３１】

板状部Ｙ４５３２は、回転軸側に形成される下面部Ｙ４５３２ａと、その下面部Ｙ４５３２ａと直角に交差する側面部Ｙ４５３２ｂと、その側面部Ｙ４５３２ｂの下端部とつながっており被支持部Ｙ５３１の回転軸を中心とする円弧形状に形成される湾曲面部Ｙ４５３２ｃと、その湾曲面部Ｙ４５３２ｃの下端部から円弧形状の径方向に延びる平面部Ｙ４５３２ｄと、から区画される右下側の領域において前面側から凹設形成されており、その区画された形状における支持面部Ｙ４５３２ｅが、板状部Ｙ４５３２の前側平面よりも後方側にずれた位置において前側平面と平行な平面形状で形成される。

【１３４３２】

不完全円形突部Ｙ４５３３は、下面部Ｙ４５３２ａ及び側面部Ｙ４５３２ｂの右下側の領域に重なる中心角が９０度の扇形状が切りかかれた不完全円形状（図７６５（ａ）において右下側の扇形状が切りかかれた形状）断面で前方に突設され、その突設先端において、左下側の領域において中心角が９０度の扇形状で突設される先端側扇形状部Ｙ４５３３ａを備える。

【１３４３３】

このような構成から、不完全円形突部Ｙ４５３３は、突設基端側において、下面部Ｙ４５３２ａ及び側面部Ｙ４５３２ｂと面一の形状とされる。

【１３４３４】

相対変位部材Ｙ４５３４は、外周面が湾曲面部Ｙ４５３２ｃと同径の円形状とされ湾曲面部Ｙ４５３２ｃと摺動可能に金属棒部材Ｙ５１０（図７４１参照）に支持される環状部Ｙ４５３４ａと、その環状部Ｙ４５３４ａの外形側から下面部Ｙ４５３２ａ及び側面部Ｙ４５３２ｂの右下側の領域に対応する板形状で延設される延設部Ｙ４５３４ｂと、その延設部Ｙ４５３４ｂの延設先端側から中心角が９０度の扇形状断面で先端側扇形状部Ｙ４５３３ａの前端面と面一となる長さで前方側へ突設される突設部Ｙ４５３４ｃと、その突設部Ｙ４５３４ｃの先端側において不完全円形突部Ｙ４５３３の前端側に重なるように半円形状で形成される先端半円部Ｙ４５３４ｄと、を備える。

【１３４３５】

環状部Ｙ４５３４ａの内周面は、Ｄ字形状ではなく、真円形状とされる。これにより、金属棒部材Ｙ５１０に相対回転不能に固定される被支持部Ｙ５３１と違い、相対変位部材Ｙ４５３４は金属棒部材Ｙ５１０に対する相対回転が可能となっている。但し、不完全円形突部Ｙ４５３３と突設部Ｙ４５３４ｃとが押し付けられた合体状態（図７６５（ａ）参照）においては、結果的に金属棒部材Ｙ５１０との間で相対回転が生じていない。

【１３４３６】

先端半円部Ｙ４５３４ｄは、不完全円形突部Ｙ４５３３と突設部Ｙ４５３４ｃとが押し付けられた合体状態（図７６５（ａ）参照）において、外周側において面一の形状となるように構成される。

【１３４３７】

回転動作部材Ｙ４５３０は、停止状態では、コイルスプリングＹ４５３５の付勢力により不完全円形突部Ｙ４５３３と突設部Ｙ４５３４ｃとが押し付けられた合体状態を構成しており（図７６５（ａ）参照）、動作中においても、動作方向や動作速度によってはコイルスプリングＹ４５３５の付勢力により合体状態が維持される。

【１３４３８】

合体状態が維持される場合、回転動作部材Ｙ４５３０の外形は、回転動作部材Ｙ５３０と略同一である。そのため、視認される回転手段Ｙ４８０と揺動手段Ｙ７２０の動作態様は、上変位ユニットＹ４００で説明した場合と変わらない（図７４６（ａ）から図７４７（ｂ）参照）。

【１３４３９】

図７６５（ａ）に示す回転動作部材Ｙ４５３０について、時計回り方向の回転動作が生じる場合、金属棒部材Ｙ５１０に相対回転不能に固定される不完全円形突部Ｙ４５３３が相対変位部材Ｙ４５３４側に変位する態様で動作されるので、動作速度によらず、合体状態が維持される。そのため、回転手段Ｙ４８０が上昇方向に変位される場合、合体状態が維持される。

【１３４４０】

一方、図７６５（ａ）に示す回転動作部材Ｙ４５３０について、反時計回り方向の回転動作が生じる場合には、金属棒部材Ｙ５１０に相対回転不能に固定される不完全円形突部Ｙ４５３３が相対変位部材Ｙ４５３４側とは逆側に変位する態様で動作され、相対変位部材Ｙ４５３４が慣性で留まろうとするところ、動作速度が高速になるほどコイルスプリングＹ４５３５の付勢力によっても合体状態を維持することができなくなり、相対変位部材Ｙ４５３４が合体状態から時計回り方向に９０度ずれた分離状態を構成する。以下では、分離状態を構成する場合について、回転動作部材Ｙ４５３０の回転動作に伴う揺動手段Ｙ７２０の動作態様について説明する。

【１３４４１】

図７６６（ａ）、図７６６（ｂ）及び図７６７は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットＹ４４００の正面図である。図７６６（ａ）、図７６６（ｂ）及び図７６７では、回転手段Ｙ４８０が、退避状態から移動状態へ向けて変位する様子が時系列で図示されており、揺動ユニットＹ７００の揺動手段Ｙ７２０及び円柱支持部Ｙ７１５の外形が時系列に対応した姿勢で想像線で図示される。なお、図７６６（ａ）は退避状態から回転手段Ｙ４８０が下降変位した後の状態が図示され、図７６７は回転手段Ｙ４８０が移動状態に到達する前の状態が図示される。

【１３４４２】

回転手段Ｙ４８０が退避状態から移動状態へ向けて下降方向へ変位する場合において、回転動作部材Ｙ４５３０が分離状態を構成する程度に駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）が高速動作される場合について説明する。回転手段Ｙ４８０の変位中において揺動手段Ｙ７２０が変位されるが、変位の開始タイミングが異なる。

【１３４４３】

回転手段Ｙ４８０が退避状態とされる状態から駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）が励磁され、駆動軸Ｙ４５２及び回転規制部材Ｙ４５３が回転され、回転規制部材Ｙ４５３に固定されているモータギアＹ４３３が正面視時計回りに回転されることに伴い、そのモータギアＹ４３３に歯合される後端ギア部材Ｙ５２０及び大型ギアＹ４３２が正面視反時計回りに回転される。

【１３４４４】

正面視反時計回りの回転方向の場合、図７６６（ａ）に図示されるように、回転動作部材Ｙ４５３０は分離状態を構成し得る。

【１３４４５】

図７６６（ａ）に図示されるように、回転動作部材Ｙ４５３０が分離状態を構成する場合、先行する不完全円形突部Ｙ４５３３が延設伝達部Ｙ７２４に当接し、揺動手段Ｙ７２０を回転変位させる（図７６６（ｂ）参照）。

【１３４４６】

回転動作部材Ｙ４５３０が更に回転動作されると、次いで後続の相対変位部材Ｙ４５３４の先端半円部Ｙ４５３４ｄが延設伝達部Ｙ７２４に当接し（図７６７参照）、揺動手段Ｙ７２０を回転変位させる。先端半円部Ｙ４５３４ｄが延設伝達部Ｙ７２４に当接開始する状態は、延設伝達部Ｙ７２４が不完全円形突部Ｙ４５３３により押し上げられる方向に最も起き上がらされた姿勢（図７６６（ｂ）参照）よりも傾倒した状態とされる。

【１３４４７】

図７６７に図示される状態から更に回転が継続され、回転手段Ｙ４８０が移動状態に到達して停止されると、コイルスプリングＹ４５３５の付勢力により相対変位部材Ｙ４５３４が正面視反時計回り方向に回転され回転動作部材Ｙ４５３０が合体状態に至る。この相

対変位部材Ｙ４５３４の回転動作が生じる場合にも先端半円部Ｙ４５３４ｄによって延設伝達部Ｙ７２４が押し上げられたのち傾倒変位される。従って、揺動手段Ｙ７２０は、回転手段Ｙ４８０が退避状態から移動状態に到達する動作に対応して、２回起き上がり動作する態様で回転変位される動作を実行可能に構成される。

【１３４４８】

この２回目の起き上がり動作は、回転手段Ｙ４８０が移動状態に到達した後で生じるものであって、駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）の励磁が解除された後において生じ得る。即ち、本実施形態によれば、回転手段Ｙ４８０を動作させるために駆動モータＹ４５０が励磁される期間の後で揺動手段Ｙ７２０が動作されることから、駆動モータＹ４５０の動作力が揺動手段Ｙ７２０の動作にも使用される場合に比較して、必要とされる動作力を低減させることができる。

【１３４４９】

このように、本実施形態によれば、回転手段Ｙ４８０が退避状態から移動状態へ変位する場合において、動作速度の大小に対応して、揺動手段Ｙ７２０が一回起き上がり動作する態様と、揺動手段Ｙ７２０が二回起き上がり動作する態様とを構成可能とされる。

【１３４５０】

これにより、揺動手段Ｙ７２０の変位態様のバリエーションを多くすることができ、揺動手段Ｙ７２０の演出効果を向上させることができる。

【１３４５１】

次いで、図７６８から図７７１を参照し、第１４５実施形態における上変位ユニットＹ５４００について説明する。上記第１４０実施形態では、上変位ユニットＹ４００の揺動手段Ｙ７２０が回転動作部材Ｙ５３０からの荷重で変位される場合を説明したが、第１４５実施形態では、上変位ユニットＹ５４００の揺動手段Ｙ７２０が回転手段Ｙ４８０からの荷重により変位されるよう構成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【１３４５２】

図７６８（ａ）及び図７６８（ｂ）は、第１４５実施形態における揺動ユニットＹ５７００の正面図である。図７６８（ａ）及び図７６８（ｂ）では、左側の揺動ユニットＹ５７００について図示されており、図７６８（ａ）では、揺動手段Ｙ７２０がコイルスプリングＹ５７３０の付勢力により回転先端側が上昇される上昇姿勢とされ、図７６８（ｂ）では、揺動手段Ｙ７２０がコイルスプリングＹ５７３０の付勢力に抗して回転先端側が下降され、規制部Ｙ７２５が突設部Ｙ７１６と当接する傾斜姿勢とされる。

【１３４５３】

図７６９は、揺動ユニットＹ５７００の分解背面斜視図である。本実施形態では、揺動手段Ｙ７２０の揺動本体部Ｙ７２２の背面側に下端部が接続されており、後方へ向けて上昇傾斜する方向に延びる板状の荷重受け部Ｙ５７２６が形成される。

【１３４５４】

荷重受け部Ｙ５７２６は、その形状から、上方側からの荷重は姿勢を維持する態様でこらえる一方で、下方側からの荷重は下端部を基点として揺動本体部Ｙ７２２側に倒れるように姿勢変化することで逃がすことができるよう構成される。

【１３４５５】

図７７０（ａ）、図７７０（ｂ）、図７７１（ａ）及び図７７１（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットＹ５４００の正面図である。図７７０（ａ）、図７７０（ｂ）、図７７１（ａ）及び図７７１（ｂ）では、回転手段Ｙ４８０が、図７７０（ａ）に図示される退避状態から、図７７１（ｂ）に図示される移動状態へ変位する様子が時系列で図示されており、揺動ユニットＹ５７００の揺動手段Ｙ７２０及び円柱支持部Ｙ７１５の外形が時系列に対応した姿勢で想像線で図示される。

【１３４５６】

上変位ユニットＹ５４００は、上述した上変位ユニットＹ４００の場合との違いとして、回転手段Ｙ４８０が前方側に突設される突設部Ｙ５４８７を備え、回転動作部材Ｙ５３

０が回転軸を中心とする真円形の部材として構成されることを説明する。
【１３４５７】
回転動作部材Ｙ５３０が真円形の部材として構成されることから、回転動作部材Ｙ５３０の回転によっては揺動手段Ｙ７２０との離間長さが変化されない。そのため、回転動作部材Ｙ５３０の回転によって回転動作部材Ｙ５３０から揺動手段Ｙ７２０に荷重を付与されることは本実施形態では無い。
【１３４５８】
突設部Ｙ５４８７は、荷重受け部Ｙ５７２６の後端部の前後位置よりも前方まで突設されており、移動軌跡の一部が正面視において荷重受け部Ｙ５７２６と重なる位置に形成される。
【１３４５９】
回転手段Ｙ４８０が退避状態から移動状態へ向けて下降方向へ変位する場合について説明する。回転手段Ｙ４８０の変位中において揺動手段Ｙ７２０が変位されるが、変位の開始タイミングが異なる。
【１３４６０】
図７７０（ａ）に図示される状態から駆動モータＹ４５０（図７３８（ｂ）参照）が励磁され、駆動軸Ｙ４５２及び回転規制部材Ｙ４５３が回転され、回転規制部材Ｙ４５３に固定されているモータギアＹ４３３が正面視時計回りに回転されることに伴い、そのモータギアＹ４３３に歯合される後端ギア部材Ｙ５２０及び大型ギアＹ４３２が正面視反時計回りに回転される。
【１３４６１】
この場合において、大型ギアＹ４３２の円柱部材Ｙ４３２ｂから長孔Ｙ４８４を介して荷重を受けて回転手段Ｙ４８０は回転変位される一方で、突設部Ｙ５４８７は荷重受け部Ｙ５７２６と離れた位置で変位される間は、揺動手段Ｙ７２０には荷重が付与されず上昇姿勢で維持される。即ち、回転手段Ｙ４８０と揺動手段Ｙ７２０とは非連動な状態とされる。
【１３４６２】
回転手段Ｙ４８０の回転変位が継続されると突設部Ｙ５４８７が荷重受け部Ｙ５７２６に上側から当接し、揺動手段Ｙ７２０を押し下げる方向に変位させ、図７７０（ｂ）に図示される状態に至る。即ち、回転手段Ｙ４８０と揺動手段Ｙ７２０とは連動される状態とされる。
【１３４６３】
図７７０（ｂ）に図示される状態では、荷重受け部Ｙ５７２６の右上端部と、突設部Ｙ５４８７の左下端部とが接している。換言すれば、荷重受け部Ｙ５７２６の右上端部の移動軌跡と突設部Ｙ５４８７の左下端部の移動軌跡とが一点で重なっており、回転手段Ｙ４８０がこれ以上回転されると突設部Ｙ５４８７が荷重受け部Ｙ５７２６に対して滑る態様で変位し、非当接となる。
【１３４６４】
荷重受け部Ｙ５７２６が揺動手段Ｙ７２０の重心位置を構成する揺動本体部Ｙ７２２に形成されていることから、動作開始に必要となる慣性力の低減を図ることができる。これにより、回転手段Ｙ４８０の下降変位が過度に減速されることを回避することができる。
【１３４６５】
回転手段Ｙ４８０の動作速度が低速である場合、荷重受け部Ｙ５７２６が突設部Ｙ５４８７に押進される一方で、回転手段Ｙ４８０の動作速度が高速である場合、当接の衝撃により突設部Ｙ５４８７により荷重受け部Ｙ５７２６が弾かれるように変位される。このように、揺動手段Ｙ７２０の変位態様としては、回転手段Ｙ４８０の動作態様に従う態様（当接状態を維持したまま下降する態様）と、衝撃力が生じた後で回転手段Ｙ４８０とは非当接な状態で先行して下降する態様とが生じ得る。そのため、揺動手段Ｙ７２０の変位のバリエーションを多くすることができ、演出効果の向上を図ることができる。
【１３４６６】

図７７０（ｂ）に図示される状態から回転手段Ｙ４８０の下降変位が継続されると、当接されている突設部Ｙ５４８７の左右外側端部と荷重受け部Ｙ５７２６の端部とが滑り、当接が解除されることで、揺動手段Ｙ７２０はコイルスプリングＹ５７３０の付勢力により上昇姿勢に戻り（図７７０（ｃ）参照）、回転手段Ｙ４８０は移動状態に到達する（図７７１（ｂ）参照）。

【１３４６７】

即ち、回転手段Ｙ４８０と揺動手段Ｙ７２０とは連動される状態から、非連動とされる状態となり、その後、停止される。

【１３４６８】

回転手段Ｙ４８０が移動状態から退避状態に上昇変位される場合は、突設部Ｙ５４８７は荷重受け部Ｙ５７２６に下側から当接するため、上述したように、荷重が荷重受け部Ｙ５７２６の姿勢変化により逃がされることで、揺動手段Ｙ７２０が上昇姿勢で維持された状態で回転手段Ｙ４８０が退避状態に変化される。

【１３４６９】

即ち、回転手段Ｙ４８０が退避状態から移動状態へ変化される場合と、回転手段Ｙ４８０が移動状態から退避状態へ変化される場合とで、揺動手段Ｙ７２０の変位態様を変化させることができるため、揺動手段Ｙ７２０による演出効果を向上させることができる。

【１３４７０】

次いで、図７７２を参照し、第１４６実施形態における背面側通路ユニットＹ６１００について説明する。上記第１４０実施形態では、背面側通路ユニットＹ１００が装飾部材Ｙ２２０に締結固定されており、遊技球を案内するワープ通路Ｙ１０１により球が案内される場合を説明したが、第１４６実施形態では、背面側通路ユニットＹ６１００が振動変位可能に構成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【１３４７１】

図７７２（ａ）は、図７３３のＮ２１ａ－Ｎ２１ａ線に対応する線における第１４６実施形態における遊技盤Ｊ１３の部分断面図であり、図７７２（ｂ）は、図７７２（ａ）のＮ３５ｂ－Ｎ３５ｂ線におけるセンターフレームＹ８６及び背面側通路ユニットＹ６１００の部分断面図である。なお、図７７２（ａ）及び図７７２（ｂ）では、理解を容易とするために、傾斜面部Ｙ１２１の図示が省略される。

【１３４７２】

背面側通路ユニットＹ６１００は、上述した背面側通路ユニットＹ１００と同様に、上述した正面板Ｙ１１０と、その正面板Ｙ１１０との間に球が通過可能なワープ通路Ｙ１０１を形成する背面板Ｙ１２０と、基盤Ｙ１３０と、を備え、更に、正面板Ｙ１１０の通路形成部Ｙ１１１の上面側から上方に間隔をあけて延設される一対の支持延設部Ｙ６１４０と、その支持延設部Ｙ６１４０に取り付け部位が支持されるモーター装置Ｙ６１５０と、を備える。

【１３４７３】

モーター装置Ｙ６１５０は、回転軸先端に重心を偏らせた偏心錘Ｙ６１５１が固定されており、励磁されることで回転軸が回転され、偏心錘Ｙ６１５１が回転されることで、回転軸に対して直角方向の振動を生じる。

【１３４７４】

そのため、ワープ通路Ｙ１０１で球詰まりが生じた場合であっても、モーター装置Ｙ６１５０が定期的に励磁され、ワープ通路Ｙ１０１に振動が付与されることにより、球詰まりを解消することができる。これにより、ワープ通路Ｙ１０１が遊技盤Ｊ１３のベース板Ｊ６０の後方側に位置しており球詰まりが生じた場合には外部からの処置では解消させることが難しい場合であっても、安定した遊技を提供することができる。

【１３４７５】

次いで、図７７３を参照し、第１４７実施形態における背面側通路ユニットＹ７１００について説明する。上記第１４０実施形態では、背面側通路ユニットＹ１００が装飾部材

Ｙ２２０に締結固定されており、遊技球を案内するワープ通路Ｙ１０１により球が停留することなく案内される場合を説明したが、第１４７実施形態では、背面側通路ユニットＹ７１００において球を停留可能に構成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【１３４７６】

図７７３（ａ）は、図７３３のＮ２１ａ－Ｎ２１ａ線に対応する線における第１４７実施形態における遊技盤Ｊ１３の部分断面図であり、図７７３（ｂ）は、図７７３（ａ）のＮ３６ｂ－Ｎ３６ｂ線におけるセンターフレームＹ８６及び背面側通路ユニットＹ７１００の部分断面図である。なお、図７７３（ａ）及び図７７３（ｂ）では、理解を容易とするために、傾斜面部Ｙ１２１の図示が省略される。

【１３４７７】

背面側通路ユニットＹ７１００は、上述した背面側通路ユニットＹ１００と同様に、上述した正面板Ｙ１１０と、その正面板Ｙ１１０との間に球が通過可能なワープ通路Ｙ１０１を形成する背面板Ｙ１２０と、基盤Ｙ１３０と、を備え、更に、正面板Ｙ１１０の通路形成部Ｙ１１１の下面側に形成される収容部Ｙ７１４０と、その収容部Ｙ７１４０に収容されるソレノイドＹ７１５０と、そのソレノイドＹ７１５０のプランジャー先端部に右側端部が連結されておりソレノイドＹ７１５０の伸縮動作に連動して往復回転動作される態様で通路形成部Ｙ１１１の下方側において支持されるシーソー部材Ｙ７１６０と、を備える。

【１３４７８】

シーソー部材Ｙ７１６０は、ソレノイドＹ７１５０とは反対側の端部から通路形成部Ｙ１１１側に向けて円弧形状で延設される仕切り板部Ｙ７１６１を備える。

【１３４７９】

シーソー部材Ｙ７１６０は、ソレノイドＹ７１５０のプランジャーが伸長状態とされた場合に仕切り板部Ｙ７１６１がワープ通路Ｙ１０１から退避した状態とされ（図７７３（ｂ）参照）、ソレノイドＹ７１５０が励磁され、プランジャーが短縮状態とされると、シーソー部材Ｙ７１６０が正面視時計回りに回転変位され、仕切り板部Ｙ７１６１がワープ通路Ｙ１０１内方に進入した状態とされる。

【１３４８０】

シーソー部材Ｙ７１６０の回転変位により、ワープ通路Ｙ１０１から仕切り板部Ｙ７１６１が退避されることでワープ通路Ｙ１０１における球の通過を許容する状態と、ワープ通路Ｙ１０１内方に仕切り板部Ｙ７１６１が進入しワープ通路Ｙ１０１における球の通過を防止する状態とが切り替えられる。

【１３４８１】

本実施形態によれば、シーソー部材Ｙ７１６０の動作制御により、入球口Ｊ７５に複数球の球が間隔を空けずに連続で流入した場合であっても、ワープ通路Ｙ１０１における球の通過は、１球ずつ間隔を空けて実行させることができる（仕切り板部Ｙ７１６１が退避された状態での球の通過を１球のみ許容し、残りの球は仕切り板部Ｙ７１６１が再度ワープ通路Ｙ１０１に進入した状態において停留させることができる）ので、複数球が同時に流下し得る場合に比較して、ワープ通路Ｙ１０１における球詰まりを防止することができる。

【１３４８２】

シーソー部材Ｙ７１６０の動作制御としては、種々の態様を採用可能であるが、例えば、電源投入から一定のパターンで常時駆動制御されるようにしても良い。一定のパターンとしては、例えば、１秒間隔で０．２秒間励磁されるようにしても良い。０．２秒間とは、シーソー部材Ｙ７１６０に流下をせき止められている球の内、１球だけ通過を許容する長さとして設定される。

【１３４８３】

なお、一定のパターンの中に、励磁期間が０．２秒間よりも短い場合や、０．２秒間よりも長い場合が、不定期に生じるように制御しても良い。この場合、励磁期間が０．２秒

間よりも短いと、シーソー部材Ｙ７１６０が動作しているにも関わらず球の通過が許容されない状況を生じさせることができるので、意外性のある球の流下を生じさせることができる。

【１３４８４】

また、励磁期間が０．２秒間よりも長いと、例えば０．４秒間とされると、間隔を空けずに２球の遊技球の通過を許容する状況を生じさせることができるので、ワープ通路Ｙ１０１への注目力を向上させることができる。

【１３４８５】

また、ソレノイドＹ７１５０の励磁に伴ってシーソー部材Ｙ７１６０を動作させる際に、ソレノイドＹ７１５０のプランジャーや、シーソー部材Ｙ７１６０の往復動作によって生じる振動が、ワープ通路Ｙ１０１内部に伝達される。これにより、ワープ通路Ｙ１０１内部で球詰まりが生じている場合に、振動による球詰まりの解消を図ることができる。

【１３４８６】

次いで、図７７４を参照し、第１４８実施形態における背面側通路ユニットＹ８１００について説明する。上記第１４０実施形態では、背面側通路ユニットＹ１００が装飾部材Ｙ２２０に締結固定されており、遊技球を案内するワープ通路Ｙ１０１に進入した全ての球が経路形成部材Ｙ８７の開放部Ｙ８７ａに案内される場合を説明したが、第１４８実施形態では、背面側通路ユニットＹ８１００において分岐経路が形成され、一部の球が経路形成部材Ｙ８７へは進入しないように構成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【１３４８７】

図７７４（ａ）は、図７３３のＮ２１ａ－Ｎ２１ａ線に対応する線における第１４８実施形態における遊技盤Ｊ１３の部分断面図であり、図７７４（ｂ）は、図７７４（ａ）のＮ３７ｂ－Ｎ３７ｂ線におけるセンターフレームＹ８６及び背面側通路ユニットＹ８１００の部分断面図である。なお、図７７４（ａ）及び図７７４（ｂ）では、理解を容易とするために、傾斜面部Ｙ１２１の図示が省略される。

【１３４８８】

背面側通路ユニットＹ８１００は、上述した背面側通路ユニットＹ１００と同様に、上述した正面板Ｙ１１０と、その正面板Ｙ１１０との間に球が通過可能なワープ通路Ｙ１０１を形成する背面板Ｙ１２０と、基盤Ｙ１３０と、を備え、更に、正面板Ｙ１１０の通路形成部Ｙ１１１の下面後側部と背面板Ｙ１２０の案内溝部Ｙ１２２の下面前側部とで共同で形成される開口部Ｙ８１４０と、その開口部Ｙ８１４０と連通される流下経路が形成される経路構成部Ｙ８１５０と、開口部Ｙ８１４０に対して不図示のアクチュエーターの駆動力により出没される態様で前後方向に動作可能に制御される出没動作装置Ｙ８１６０と、を備える。

【１３４８９】

本実施形態では、出没動作装置Ｙ８１６０が前方に突出されている場合、開口部Ｙ８１４０が閉塞され、球は開放部Ｙ８７ａ側へ案内される。

【１３４９０】

一方、出没動作装置Ｙ８１６０が後方に退避されている場合、開口部Ｙ８１４０が開放されており、球が落下可能に構成されるので、ワープ通路Ｙ１０１に進入した球が開放部Ｙ８７ａ側へ案内されずに、開口部Ｙ８１４０から落下して経路構成部Ｙ８１５０を流下し得る。経路構成部Ｙ８１５０を流下した球は不図示の球排出経路に案内されるアウト球となる。

【１３４９１】

出没動作装置Ｙ８１６０が後方に退避されている場合において、全ての球が開口部Ｙ８１４０から落下されるわけではない。本実施形態では、流下速度が遅い球は開口部Ｙ８１４０の上方を通過する前に落下する一方で、流下速度が速い球は開口部Ｙ８１４０の上方側を右方に通過して開放部Ｙ８７ａ側へ案内される。そのため、ワープ通路Ｙ１０１を通過する球の速度によって、球が流下する経路が変わることがあるため、ワープ通路Ｙ１０

１を流下する球に対する注目力を向上することができる。
【１３４９２】
開口部Ｙ８１４０で分岐される複数の経路の下流側領域における視認性については、種々の態様が例示されるが、本実施形態では、開放部Ｙ８７ａ側の領域と正面視で重なる位置における張出部Ｙ８６ｃに非透過のシールが貼り付けられ視認不能とされる一方で、光屈折部Ｙ１１２の形成が部分的に省略され経路構成部Ｙ８１５０が視認可能に構成される。
【１３４９３】
これにより、経路構成部Ｙ８１５０を流下しアウト球となる球に対して、基盤Ｙ１３０の正面側において視認可能な状態で流下されるように構成することで発光手段Ｙ１３１の視認態様を変化させるように機能させることができる。
【１３４９４】
出没動作装置Ｙ８１６０の動作制御としては、種々の態様を採用可能であるが、例えば、電源投入から一定のパターンで常時駆動制御されるようにしても良い。一定のパターンとしては、例えば、通常は前方に突出した配置とされ、１秒間隔で０．２秒間後方に没入（退避）するように動作されるようにしても良い。０．２秒間とは、開口部Ｙ８１４０を球が１球だけ通過を許容される長さとして設定される。
【１３４９５】
なお、一定のパターンの中に、後方に没入（退避）する期間が０．２秒間よりも短い場合や、０．２秒間よりも長い場合が、不定期に生じるように制御しても良い。この場合、後方に没入（退避）する期間が０．２秒間よりも短いと、出没動作装置Ｙ８１６０が後方に没入（退避）しているにも関わらず開口部Ｙ８１４０への球の通過が許容されない状況を生じさせることができるので、意外性のある球の流下を生じさせることができる。
【１３４９６】
また、後方に没入（退避）する期間が０．２秒間よりも長いと、例えば０．４秒間とされると、間隔を空けずに２球の遊技球が開口部Ｙ８１４０を通過することを許容する状況を生じさせることができるので、ワープ通路Ｙ１０１への注目力を向上させることができる。
【１３４９７】
また、出没動作装置Ｙ８１６０が動作制御される際に、出没動作装置Ｙ８１６０の往復動作によって生じる振動が、ワープ通路Ｙ１０１内部に伝達される。これにより、ワープ通路Ｙ１０１内部で球詰まりが生じている場合に、振動による球詰まりの解消を図ることができる。
【１３４９８】
次いで、図７７５から図７７７を参照し、第１４９実施形態における背面側通路ユニットＹ９１００について説明する。上記第１４０実施形態では、背面側通路ユニットＹ１００において遊技球を案内するワープ通路Ｙ１０１が下流側へ向けて下降傾斜する経路として形成される場合を説明したが、第１４９実施形態では、背面側通路ユニットＹ９１００において遊技球を案内するワープ通路Ｙ９１０１が、下流側へ向けて上昇傾斜する経路として形成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【１３４９９】
図７７５は、第１４９実施形態における遊技盤Ｊ１３の正面図であり、図７７６（ａ）は、背面側通路ユニットＹ９１００の正面図であり、図７７６（ｂ）は、図７７６（ａ）のＮ４０ｂ－Ｎ４０ｂ線における背面側通路ユニットＹ９１００の断面図であり、図７７７（ａ）は、図７７６（ｂ）のＮ４１ａ－Ｎ４１ａ線における背面側通路ユニットＹ９１００の断面図であり、図７７７（ｂ）は、図７７６（ｂ）のＮ４１ｂ－Ｎ４１ｂ線における背面側通路ユニットＹ９１００の断面図である。
【１３５００】
図７７５に図示されるように、本実施形態では、経路形成部材Ｙ８７を設計変更した経

路形成部材Ｙ９０８７が配設され、その経路形成部材Ｙ９０８７の天面構成部Ｙ９０８７ｆの後端部と同様の前後位置から上方へ延設される壁部形状で光透過性の樹脂材料から形成される後壁部Ｙ９０８８が配設される。

【１３５０１】

経路形成部材Ｙ９０８７は、背面側通路ユニットＹ９１００の配置との関係上、左右幅が短くされており、更に、天面構成部Ｙ９０８７ｆが経路形成部材Ｙ９０８７の左右幅よりも短い左右幅とされ、左右端部側が外側へ下降傾斜する形状とされる。

【１３５０２】

即ち、経路形成部材Ｙ９０８７は、前面側が開放され左右方向に延びるハーフパイプ形状で構成されており、左右端部において背面側通路ユニットＹ９１００から案内される球を受け入れ可能に構成される一対の開放部Ｙ８７ａを備え、上述した湾曲底面部Ｙ８７ｂと、底面下方部Ｙ８７ｃと、中央形成部Ｙ８７ｄと、後壁部Ｙ８７ｅと、を備え、後壁部Ｙ８７ｅの上端部から湾曲底面部Ｙ８７ｂの前端部を超えて前方側へ延設される天面構成部Ｙ９０８７ｆを備える。

【１３５０３】

背面側通路ユニットＹ９１００は、入球口Ｊ７５に対応する位置ではなく、第３図柄表示装置Ｊ８１の表示領域の下縁Ｊ８１ｂの上下位置よりも下方側に位置する下方入球口Ｙ９０７６に対応する位置に配設される。本実施形態では、一般入賞口Ｊ６３の代わりに、下方入球口Ｙ９０７６が形成される。なお、入球口Ｊ７５は、本実施形態では一般入賞口Ｊ６３として利用される。

【１３５０４】

本実施形態では、風車ＹＷＦにより遊技盤Ｊ１３の左右内方側に振り分けられた球は樹脂形成部Ｙ８６ｄの上面を転動される一方で、風車ＹＷＦにより遊技盤Ｊ１３の左右外方側に振り分けられた球は樹脂形成部Ｙ８６ｄには案内されず、下方入球口Ｙ９０７６に流入され得る。

【１３５０５】

背面側通路ユニットＹ９１００は、下方入球口Ｙ９０７６を通ってベース板Ｊ６０を前後方向に通過した球を受け入れ可能に形成される前方開口部Ｙ９１１１ａを有する正面板Ｙ９１１０と、その正面板Ｙ９１１０の背面側に配設される前方側が開放された箱形状の背面箱部Ｙ９１２０と、その背面箱部Ｙ９１２０の内部に回転可能に支持されるスクリュー部材Ｙ９１３０と、そのスクリュー部材Ｙ９１３０を回転動作可能とする態様で背面箱部Ｙ９１２０に支持される駆動装置Ｙ９１４０と、を備える。

【１３５０６】

正面板Ｙ９１１０は、前方開口部Ｙ９１１１ａを有する本体板部Ｙ９１１１と、その本体板部Ｙ９１１１から背面箱部Ｙ９１２０側に突設される一対の突条形状で構成され、スクリュー部材Ｙ９１３０との間から球が脱落しない構成とされる案内突条部Ｙ９１１２と、を備える。

【１３５０７】

背面箱部Ｙ９１２０は、案内突条部Ｙ９１１２の上方側端部に対応する位置において球が通過可能な大きさで開口形成される開放部Ｙ９１２１を備える。

【１３５０８】

スクリュー部材Ｙ９１３０は、羽部が螺旋状に形成されており、前方開口部Ｙ９１１１ａに受け入れられた球を、一方向に回転動作されることで羽部によって案内突条部Ｙ９１１２に沿って押し上げる。スクリュー部材Ｙ９１３０によって押し上げられた球は、案内突条部Ｙ９１１２の上端側から開放部Ｙ９１２１を通過して、背面側通路ユニットＹ９１００から排出される。

【１３５０９】

スクリュー部材Ｙ９１３０は、駆動装置Ｙ９１４０の制御態様により、複数の回転速度で動作制御可能とされる。駆動装置Ｙ９１４０が通常速度で駆動される場合のスクリュー部材Ｙ９１３０の回転動作では、上昇方向に移動された球は天面構成部Ｙ９０８７ｆより

も左右外側において経路形成部材Ｙ９０８７の湾曲底面部Ｙ８７ｂに受け取られるように落下し、ステージ経路Ｙ８７ｘを流下する。

【１３５１０】

一方、駆動装置Ｙ９１４０が高速で駆動される場合のスクリュー部材Ｙ９１３０の回転動作では、開放部Ｙ９１２１から左右方向に勢いよく排出されるところ、球が天面構成部Ｙ９０８７ｆの上面側に到達する場合がある。この球は、天面構成部Ｙ９０８７ｆの上面において後壁部Ｙ９０８８の前方側を移動可能となっており、天面構成部Ｙ９０８７ｆの左右側部の傾斜を上りきると中央側の凹部を流下して左右中央側に到達し、天面構成部Ｙ９０８７ｆの左右側部の傾斜を上りきらなかった場合には湾曲底面部Ｙ８７ｂの左右側に受け止められる。

【１３５１１】

本実施形態では、天面構成部Ｙ９０８７ｆの左右中央位置に球が落下可能な大きさの落下孔Ｙ９０８７ｇが形成されており、天面構成部Ｙ９０８７ｆから落下孔Ｙ９０８７ｇを通過して落下した球は、案内経路Ｙ８７ｙ（図７５０（ａ）参照）を通って遊技盤Ｊ１３の前方側に排出され、高確率で第１入賞口Ｊ６４に入球される。そのため、下流側において底面下方部Ｙ８７ｃで左右方向の速度が０となるか、中央形成部Ｙ８７ｄで左右方向の速度が０となるかによって第１入賞口Ｊ６４への入球確率が大きく異なる構成とされる開放部Ｙ８７ａを通過してステージ経路Ｙ８７ｘに案内された球よりも、高確率で第１入賞口Ｊ６４に入球する経路を構成することができる。

【１３５１２】

本実施形態によれば、ワープ通路Ｙ９１０１における球の移動を上昇方向に形成することで、ワープ通路Ｙ９１０１の配置の自由度を高くすることができ、ワープ通路Ｙ９１０１にスクリュー部材Ｙ９１３０や駆動装置Ｙ９１４０が配設される構成であっても、第３図柄表示装置Ｊ８１の視認可能領域が背面側通路ユニットＹ９１００により狭められたり、視認性が悪くされることを回避しやすくすることができる。

【１３５１３】

ここで、スクリュー部材Ｙ９１３０の一方向の動作速度としては、上述した通常速度に対応する低速動作と、上述した高速の内、球が１球では天面構成部Ｙ９０８７ｆの傾斜を上り切らない中速動作と、球が天面構成部Ｙ９０８７ｆの傾斜を上り切る高速動作といった、少なくとも３種類が用意されており、中速動作の場合において、スクリュー部材Ｙ９１３０の隣合う羽部に連続して球が供給される場合に、先の球が天面構成部Ｙ９０８７ｆに到達し、その直後に後追いの球が天面構成部Ｙ９０８７ｆに到達した場合に、後追いの球が先の球に衝突した場合の衝撃で、先の球が天面構成部Ｙ９０８７ｆの傾斜を上り切る場合があるように構成される。

【１３５１４】

スクリュー部材Ｙ９１３０の動作速度の切り替えの制御態様としては、種々の態様が例示される。例えば、低速動作、中速動作、高速動作が、一定の順序で、一定期間（例えば、１０秒間）が経過するごとに切り替わるように制御しても良い。即ち、電源投入後、スクリュー部材Ｙ９１３０が低速動作で１０秒間動作され、その後で１秒間停止し、その後でスクリュー部材Ｙ９１３０が中速動作で１０秒間動作され、その後で１秒間停止し、その後でスクリュー部材Ｙ９１３０が高速動作で１０秒間動作され、その後で１秒間停止し、その後でスクリュー部材Ｙ９１３０が低速動作で１０秒間動作され、その後は同様のパターンを繰り返すように制御しても良い。

【１３５１５】

動作速度の切り替え時における１秒間の停止は、スクリュー部材Ｙ９１３０の動作速度が速くなった場合にスクリュー部材Ｙ９１３０への球の供給不良が生じることを避けるためのものであり、球の供給が安定的に生じさせられるならば、１秒間よりも短くても良いし、停止させなくても良い。また、１秒間の停止では球の供給が不安定となるならば、１秒間よりも長い期間停止させるようにしても良い。

【１３５１６】

また、停止のタイミングは、動作速度の切り替え時に限られるものではなく、同一速度の動作中において停止タイミングが生じても良い。例えば、１０秒間の低速動作が、４．５秒間動作後、１秒間停止され、４．５秒間動作される制御とされても良い。

【１３５１７】

また、例えば、スクリュー部材Ｙ９１３０の動作速度を変更可能なディップスイッチを設けても良い。ディップスイッチの配設位置としては、操作つまみＪ１２１（図６５３参照）のように内枠Ｊ１２の後方側とされ、開店前にホール店員が操作により変更可能に構成しても良いし、正面枠Ｊ１４の前方側とされ、遊技者が操作により変更可能に構成しても良い。

【１３５１８】

なお、操作対象はディップスイッチに限られるものではなく、トグル、ノブ、アンプのボリューム等の種々の態様を採用することができ、更に、操作による制御として、スクリュー部材Ｙ９１３０の動作の停止を採用しても良い。この場合、スクリュー部材Ｙ９１３０による球の変位を一端停止させることができ、球の滞留を生じさせることができ、球の通過のタイミングを変化させることができる。

【１３５１９】

また、例えば、スクリュー部材Ｙ９１３０の動作速度が、入賞口における球の検出に関連して変化されるように制御しても良い。例えば、第１入賞口Ｊ６４へ入賞した場合にはスクリュー部材Ｙ９１３０の動作速度が低速動作に変更され（もともと低速動作であった場合には低速動作で維持され）、入球口Ｊ７５へ入賞した場合にはスクリュー部材Ｙ９１３０の動作速度が中速動作に変更され（もともと中速動作であった場合には中速動作で維持され）、一般入賞口Ｊ６３へ入賞した場合にはスクリュー部材Ｙ９１３０の動作速度が高速動作に変更され（もともと高速動作であった場合には高速動作で維持され）るように制御しても良い。

【１３５２０】

この場合、遊技領域における釘の状況が、遊技領域に発射された球が入球口Ｊ７５や一般入賞口Ｊ６３に高頻度で入球され、なかなか第１入賞口Ｊ６４に入賞されない状況であっても、入球口Ｊ７５や一般入賞口Ｊ６３への入賞によってスクリュー部材Ｙ９１３０の動作速度が中速動作や高速動作に変更されることから、下方入球口Ｙ９０７６に球が受け入れられた場合に第１入賞口Ｊ６４に入賞される可能性を高くすることができる。これにより、入球口Ｊ７５や一般入賞口Ｊ６３へ球が入球することの意義を高めることができ、第１入賞口Ｊ６４のように大当たりの抽選が実行されるわけではないが、別の意味で注目力を向上させることができる。

【１３５２１】

一方、遊技領域における釘の状況が、遊技領域に発射された球が第１入賞口Ｊ６４にスムーズに入賞される状況であって、入球口Ｊ７５や一般入賞口Ｊ６３へ比較的入賞しない状況においては、下方入球口Ｙ９０７６に受け入れられた球まで第１入賞口Ｊ６４に入賞しやすいと遊技者に有利になりすぎる可能性があるため、第１入賞口Ｊ６４に入賞される度にスクリュー部材Ｙ９１３０の動作速度が低速動作に変更されることで、有利度合いのバランスを図っている。

【１３５２２】

このように構成することで、遊技者が遊技領域に遊技球を発射する発射操作を実行する最中において、スクリュー部材Ｙ９１３０の動作速度が変更されるように制御することができる。遊技者は、間接的ながら、スクリュー部材Ｙ９１３０の動作速度の変更に関与しており、その動作速度の設定次第で第１入賞口Ｊ６４への入賞頻度が変わり得るため、なるべくスクリュー部材Ｙ９１３０が長期間にわたって中速動作や高速動作で動作されるように遊技球の発射操作を工夫するようになる。これにより、遊技領域に遊技球を発射する遊技が緩慢となることを避け、高い集中力で遊技を実行させることができる。

【１３５２３】

なお、スクリュー部材Ｙ９１３０の動作速度の切り替えが、ランダムな態様で変化され

るように構成しても良い。この場合、スクリュー部材Ｙ９１３０に案内される遊技球の行先を予測不能とでき、遊技者の興趣の向上を図ることができる。

【１３５２４】

次いで、図７７８を参照して、第１５０実施形態における背面側通路ユニットＹ１０１００について説明する。上記第１４０実施形態では、背面側通路ユニットＹ１００において遊技球を案内するワープ通路Ｙ１０１への入口が入球口Ｊ７５のみである場合を説明したが、第１５０実施形態では、背面側通路ユニットＹ１０１００に遊技球が入球される入口が複数形成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【１３５２５】

図７７８は、第１５０実施形態における遊技盤Ｊ１３の正面図である。図７７８に図示されるように、背面側通路ユニットＹ１０１００は、入球口Ｊ７５に入球した球だけでなく、その入球口Ｊ７５とセンターフレームＹ８６との間の位置において入球口Ｊ７５よりも上方位置に配設される第２入球口Ｙ１００７６に入球した球も流下可能に構成される。

【１３５２６】

背面側通路ユニットＹ１０１００としては、入球口Ｊ７５に入球した球および第２入球口Ｙ１００７６に入球した球が合流し、ステージ経路Ｙ８７ｘ（図７５０（ｂ）参照）に案内される経路を構成する第１の態様と、入球口Ｊ７５に入球した球または第２入球口Ｙ１００７６に入球した球のいずれか一方がステージ経路Ｙ８７ｘに案内される経路を構成し、他方は背面側通路ユニットＹ１０１００から下方に排出されるアウト球排出経路を構成する第２の態様と、が用意される。

【１３５２７】

これら第１の態様と、第２の態様とが付け替え可能に構成されており、付け替えにより遊技性能を変更することができる。

【１３５２８】

なお、左右一対の背面側通路ユニットＹ１０１００は、第１の態様と第２の態様とのうち、共通の態様とされる場合に限られるものではない。例えば、左側の背面側通路ユニットＹ１０１００は第１の態様とされ、右側の背面側通路ユニットＹ１０１００は第２の態様から構成するようにしても良い。

【１３５２９】

次いで、図７７９から図７８０を参照して、第１５１実施形態における上変位ユニットＹ１１４００について説明する。上記第１４０実施形態では、ギア群Ｙ４３０のモータギアＹ４３３が駆動モータＹ４５０の駆動軸Ｙ４５２に固定される場合を説明したが、第１５１実施形態では、駆動装置Ｙ１１４５０のモータ本体Ｙ４５１がギア群Ｙ４３０と非当接とされ動作力を非伝達とする状態を構成可能とされる。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【１３５３０】

図７７９は、第１５１実施形態における上変位ユニットＹ１１４００の分解正面斜視図であり、図７８０は、上変位ユニットＹ１１４００の分解背面斜視図である。

【１３５３１】

図７７９及び図７８０に図示されるように、上変位ユニットＹ１１４００は、上述した上変位ユニットＹ４００の構成の多くを流用する一方で、駆動装置Ｙ１１４５０に備えられるモータ本体Ｙ４５１が上下変位可能に構成されることが異なる。

【１３５３２】

駆動装置Ｙ１１４５０は、上述したベース手段Ｙ４１０の構成の多くを流用するベース手段Ｙ１１４１０の背面側に変位可能に配設されギア群Ｙ４３０を回転動作させる動作力を発生可能なモータ本体Ｙ４５１と、そのモータ本体Ｙ４５１に回転可能に支持される回転駆動体Ｙ１１４５２と、その回転駆動体Ｙ１１４５２の先端に嵌合固定される円柱形状の部材であって樹脂材料から形成される先端固定部材Ｙ１１４５２ａと、モータギアＹ４３３の中心支持孔Ｙ４３３ａとの相対回転が規制される断面Ｄ字のブロック形状の規制部

材Ｙ１１４５３と、その規制部材Ｙ１１４５３と一体を成しており、円筒形状で後方側に延設される被当接円筒部Ｙ１１４５３ａと、モータ本体Ｙ４５１のブラケットから左右方向に延設されており延設先端側において前方側に突出される円柱形状部Ｙ１１４５４ａがベース手段Ｙ１１４１０に回転可能に支持されるアーム部材Ｙ１１４５４と、そのアーム部材Ｙ１１４５４の上面側に形成される切り欠き部Ｙ１１４５４ｂがプランジャー先端Ｙ１１４５５ａに吊り下げられる態様で連結されておりベース手段Ｙ１１４１０の背面側に固定されるソレノイドＹ１１４５５と、を備える。

【１３５３３】

ベース手段Ｙ１１４１０は、上述したベース手段Ｙ４１０において形成された挿通孔Ｙ４１５と同軸円形に形成されており、駆動装置Ｙ１１４５０の被当接円筒部Ｙ１１４５３ａの外周円の直径よりも若干大きい円形状に穿設される挿通支持孔Ｙ１１４１５と、アーム部材Ｙ１１４５４の円柱形状部Ｙ１１４５４ａを回転可能な態様（隙間ばめの寸法関係）で嵌合可能に断面円形状で穿設される円形支持孔Ｙ１１４１８と、を備える。

【１３５３４】

挿通支持孔Ｙ１１４１５は、被当接円筒部Ｙ１１４５３ａが後方側端部を板状部Ｙ４１１の後方側に張り出した状態で、被当接円筒部Ｙ１１４５３ａの摺動を許容する軸受け部として作用する。

【１３５３５】

円形支持孔Ｙ１１４１８を中心としてアーム部材Ｙ１１４５４が回転動作可能に構成されているところ、ソレノイドＹ１１４５５が非励磁とされる場合、プランジャー先端Ｙ１１４５５ａがアーム部材Ｙ１１４５４及びモータ本体Ｙ４５１の自重により下降側終端位置に位置するが、この場合には、先端固定部材Ｙ１１４５２ａと被当接円筒部Ｙ１１４５３ａとの間に隙間が形成され、モータ本体Ｙ４５１を励磁して回転駆動体Ｙ１１４５２を回転動作させたとしても、発生する動作力が規制部材Ｙ１１４５３側に伝達されず、ギア群Ｙ４３０の回転が生じない。

【１３５３６】

これに対し、ソレノイドＹ１１４５５が励磁されると、プランジャー先端Ｙ１１４５５ａが上昇側終端位置まで上昇され、アーム部材Ｙ１１４５４及びモータ本体Ｙ４５１が持ち上げられることで、先端固定部材Ｙ１１４５２ａと被当接円筒部Ｙ１１４５３ａとの間に隙間が無くなり、互いに当接する。この場合には、モータ本体Ｙ４５１を励磁して回転駆動体Ｙ１１４５２を回転動作させると、発生する動作力が規制部材Ｙ１１４５３側に伝達され、ギア群Ｙ４３０の回転が生じる。

【１３５３７】

動作力の伝達は、先端固定部材Ｙ１１４５２ａの外周側と被当接円筒部Ｙ１１４５３ａの外周側とが当接する（擦れる）ことで生じる。先端固定部材Ｙ１１４５２ａの外周面と被当接円筒部Ｙ１１４５３ａの外周面とは、双方とも円形状とされる。これにより、伝達がギア歯の歯合で生じる場合に比較して、歯の欠けが生じることや、噛み合いミスが生じることによる不具合を回避することができる。

【１３５３８】

被当接円筒部Ｙ１１４３５ａは、規制部材Ｙ１１４５３に一体的に金属材料から形成される。一方、先端固定部材Ｙ１１４５２ａはゴム弾性を有する（弾性変形可能に構成される）樹脂材料から形成される。

【１３５３９】

これにより、先端固定部材Ｙ１１４５２ａの外周面と被当接円筒部Ｙ１１４５３ａの外周面とが当接する（擦れる）場合において、先端固定部材Ｙ１１４５２ａの弾性変形によって当接面積を増加させることができ、滑りを抑え、動作力の伝達を良好とすることができる。更に、双方を樹脂材料から構成する場合に比較して、各部材の摩耗を抑制することができ、耐久性の向上を図ることができる。

【１３５４０】

なお、被当接円筒部Ｙ１１４３５ａ及び先端固定部材Ｙ１１４５２ａを同一材料から構

成しても良い。この場合、部材コストの低減を図ることができる。また、先端固定部材Ｙ１１４５２ａを金属材料から形成し、被当接円筒部Ｙ１１４３５ａをゴム弾性を有する（弾性変形可能に構成される）樹脂材料から形成するようにしても良い。この場合、衝突時の衝撃吸収を図ることができる。

【１３５４１】

本実施形態において、上述した駆動モータＹ４５０を利用する場合と同様に、モータ本体Ｙ４５１が励磁される場合に生じる動作力を常にギア群Ｙ４３０に伝達させたい場合には、ソレノイドＹ１１４５５の励磁を継続した状態でモータ本体Ｙ４５１を励磁して動作力を生じさせるようにすればよい。

【１３５４２】

一方で、本実施形態によれば、ソレノイドＹ１１４５５の励磁を解除した状態でモータ本体Ｙ４５１を励磁させる場合、モータ本体Ｙ４５１の動作音は生じさせながら、ギア群Ｙ４３０には動作力の伝達は生じないようにすることができ、回転手段Ｙ４８０や揺動手段Ｙ７２０の変位は生じないようにすることができる。

【１３５４３】

即ち、回転手段Ｙ４８０や揺動手段Ｙ７２０の変位の有無に関わらず、モータ本体Ｙ４５１から動作音を生じさせることができるので、動作音がするまでは回転手段Ｙ４８０や揺動手段Ｙ７２０及び第３図柄表示装置Ｊ８１に注目せず、視線を落としており、動作音がしてから視線を上げて注目するという遊技態様を防止するように対策することができる。

【１３５４４】

なお、上述した駆動モータＹ４５０を利用する場合においても、回転手段Ｙ４８０の動作開始が期待される状況において、駆動モータＹ４５０を一瞬だけ励磁して、瞬間的な動作音を生じさせることで遊技者の注目力を高めることは可能だが、励磁が一瞬であったとしても、ギア群Ｙ４３０や回転手段Ｙ４８０が僅かに動作してしまうことが避けにくい。この動作は、そもそも回転手段Ｙ４８０や第３図柄表示装置Ｊ８１に注目している遊技者に対しては、メカ的な不良が生じているかのように受け取られ、興趣を下げる可能性がある。そのため、本実施形態のように、モータ本体Ｙ４５１の動作音を生じさせるだけで、ギア群Ｙ４３０や回転手段Ｙ４８０の動作は全く生じさせない構成が好適である。

【１３５４５】

また、ソレノイドＹ１１４５５の励磁を解除した状態でモータ本体Ｙ４５１を励磁させ、回転駆動体Ｙ１１４５２が勢いよく回転動作している状態でソレノイドＹ１１４５５を励磁する場合、被当接円筒部Ｙ１１４５３ａの動作開始時に必要となる荷重を回転動作の勢いで補助することができるので、動作開始時からギア群Ｙ４３０や回転手段Ｙ４８０を高速で動作させることができる。更に、勢いを利用することで初動時に必要な荷重が低減されることから、モータ本体Ｙ４５１にかけられる負荷を少なくすることができる。

【１３５４６】

また、ソレノイドＹ１１４５５を励磁した状態でモータ本体Ｙ４５１を励磁させ、ギア群Ｙ４３０や回転手段Ｙ４８０や揺動手段Ｙ７２０に動作力が伝達可能とされる状況から、ソレノイドＹ１１４５５の励磁を解除する場合、先端固定部材Ｙ１１４５２ａの外周面と被当接円筒部Ｙ１１４５３ａの外周面とが離間した後においても、離間前における回転の勢いが残っているため、同様の方向でギア群Ｙ４３０や回転手段Ｙ４８０の動作を継続させることができる。

【１３５４７】

上述したように回転手段Ｙ４８０を退避状態（図７４０（ａ）参照）から移動状態（図７４０（ｂ）参照）に移動させる場合に駆動モータＹ４５０の励磁を途中で解除する場合に比較して、駆動モータＹ４５０の駆動軸Ｙ４５２の回転抵抗が加算されない分、ギア群Ｙ４３０が受ける動作抵抗を低減することができるので、駆動装置Ｙ１１４５０による動作力の付与が解除された後においても回転手段Ｙ４８０の動作速度を高い状態で維持しやすくすることができる。

【１３５４８】
先端固定部材Ｙ１１４５２ａの外周面と被当接円筒部Ｙ１１４５３ａの外周面とが離間した後において、離間前における回転の勢いを利用して回転手段Ｙ４８０を移動状態へ向けて変位させる場合において、再度ソレノイドＹ１１４５５の励磁を開始する前からモータ本体Ｙ４５１を励磁し、先端固定部材Ｙ１１４５２ａを正面視時計回りに回転させる方向（モータギアＹ４３３を正面視反時計回りに回転させる方向、モータギアＹ４３３と歯合される左側の大型ギアＹ４３２を正面視時計回りに回転させて回転手段Ｙ４８０を退避状態へ変位させる方向）の回転動作を事前に生じさせた状態で、先端固定部材Ｙ１１４５２ａと被当接円筒部Ｙ１１４５３ａとの連動を開始させても良い。
【１３５４９】
この場合、回転の勢いを利用することで回転手段Ｙ４８０を移動状態から退避状態へ変位させる初動時に必要な荷重が低減されることから、モータ本体Ｙ４５１にかけられる負荷を少なくすることができると共に、変位開始時から高速となる意外性のある変位態様の変位を回転手段Ｙ４８０に生じさせることができる。
【１３５５０】
本実施形態によれば、ソレノイドＹ１１４５５を非励磁とした状態であれば、モータ本体Ｙ４５１を励磁したとしても、ギア群Ｙ４３０や回転手段Ｙ４８０の動作を生じさせることはないため、第３図柄表示装置Ｊ８１で実行される演出に関わらず、任意のタイミングで励磁したとしても、違和感を生まない。
【１３５５１】
一方で、モータ本体Ｙ４５１が励磁され、動作音が生じると、その動作音を聞いた遊技者は、回転手段Ｙ４８０が動作するような演出（大当たりの確率が高い場合に実行されることが多い、熱い演出）が実行されるのではないかと想像し、第３図柄表示装置Ｊ８１への注目力が高まることから、本実施形態によれば、第３図柄表示装置Ｊ８１で実行される演出に関わらず、動作音を生じさせることで、遊技を演出することができる。
【１３５５２】
なお、ソレノイドＹ１１４５５の励磁を解除した状態ではモータ本体Ｙ４５１の励磁がされず、ソレノイドＹ１１４５５の励磁がされて初めてモータ本体Ｙ４５１の励磁がされる制御としても良い。この場合、モータ本体Ｙ４５１の励磁に伴う消費エネルギーの低減を図ることができる。また、先端固定部材Ｙ１１４５２ａと被当接円筒部Ｙ１１４５３ａとの連動箇所において動作力が急激に伝達される事態を避けることができ、部品の破損を避けやすくすることができる。
【１３５５３】
次いで、図７８１から図７８３を参照して、第１５２実施形態におけるセンターフレームＹ１２０８６について説明する。上記第１４０実施形態では、センターフレームＹ８６が光透過性の樹脂材料から形成されており上変位ユニットＹ４００や揺動ユニットＹ７００の視認への影響が最小限とされる場合を説明したが、第１５２実施形態では、センターフレームＹ１２０８６によって上変位ユニットＹ４００や揺動ユニットＹ７００の視認態様を状況ごとに変化させることが可能に構成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【１３５５４】
図７８１は、第１５２実施形態における遊技盤Ｊ１３の正面図である。図７８１では、センターフレームＹ１２０８６を備える遊技盤Ｊ１３が図示される。
【１３５５５】
センターフレームＹ１２０８６は、遊技領域を流下する球がベース板Ｊ６０の中央開口Ｊ６０ａを介して第３図柄表示装置Ｊ８１側（ベース板Ｊ６０の中央開口Ｊ６０ａの内側）に流下することを防止するための部材であり、上述した正面側立設部Ｙ８６ａと、背面側立設部Ｙ８６ｂと、張出部Ｙ８６ｃと、を少なくとも備えており、更に、左右上側部において正面側立設部Ｙ８６ａと共に閉空間を形成する態様で張出部Ｙ８６ｃから正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出して形成される第２立設部Ｙ１２０８６ｈと、その第２立設部Ｙ

１２０８６ｈと張出部Ｙ８６ｃとにより形成される閉空間に配設される電飾基盤Ｙ１２０８６ｋと、を備える。

【１３５５６】

即ち、第２立設部Ｙ１２０８６ｈ及び電飾基盤Ｙ１２０８６ｋが、透明なベース板Ｊ６０の前面側に重なるように配置されるが、電飾基盤Ｙ１２０８６ｋの絶縁体基材（板）が非透過とされることや、第２立設部Ｙ１２０８６ｈ及び正面側立設部Ｙ８６ａにより区画された閉空間における張出部Ｙ８６ｃの透過性が低く構成されることで、後方側が視認し難くされる。

【１３５５７】

なお、張出部Ｙ８６ｃの透過性が低くされる態様としては、種々の態様が例示される。例えば、非透過のシールが貼り付けられる態様でも良いし、シボ加工が形成される態様でも良い。

【１３５５８】

第２立設部Ｙ１２０８６ｈは、通常状態において適切な発射力で発射された球が遊技領域に進入した場合に到達しやすい位置として、センターフレームＹ１２０８６の上方側に形成される。電飾基盤Ｙ１２０８６ｋのＬＥＤが常時発光されており、球の到達位置の目印として利用することができる。遊技者は、電飾基盤Ｙ１２０８６ｋの光を目標にして球を発射すれば良いため、遊技の難易度を下げることができる。

【１３５５９】

図７８２（ａ）、図７８２（ｂ）、図７８３（ａ）及び図７８３（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットＹ４００の正面図である。図７８２（ａ）、図７８２（ｂ）、図７８３（ａ）及び図７８３（ｂ）では、回転手段Ｙ４８０が退避状態から移動状態へ変位する様子が時系列で図示されており、揺動ユニットＹ７００の揺動手段Ｙ７２０及び円柱支持部Ｙ７１５の外形が時系列に対応した姿勢で想像線で図示されると共に、正面側立設部Ｙ８６ａ及び第２立設部Ｙ１２０８６ｈの位置が想像線で図示される。

【１３５６０】

回転手段Ｙ４８０は、通常は退避状態（図７８２（ａ））に位置しており、第３図柄表示装置Ｊ８１で実行される演出に対応して、決め手となるタイミング（演出の前半と後半との境目のタイミング、ボタン部Ｊ１８１の操作を示唆する演出中においてボタン部Ｊ１８１の操作がされたタイミング、変動演出の終盤における当落告知のタイミング等）で移動状態へ変位し、大当たりの期待感を高めるように変位される。回転手段Ｙ４８０が移動状態まで変位する方が大当たりの可能性が高いように制御されることで、遊技者は回転手段Ｙ４８０の変位に注目するようになり、回転手段Ｙ４８０の存在意義を高めることができる。

【１３５６１】

ここで、上変位ユニットＹ４００と揺動ユニットＹ７００とは、回転手段Ｙ４８０が退避状態から移動状態まで変位する場合に、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３が揺動手段Ｙ７２０に当接し、揺動手段Ｙ７２０の変位が生じるよう構成される。

【１３５６２】

そのため、揺動手段Ｙ７２０の変位も、回転手段Ｙ４８０の変位と同様に、大当たりの期待感を高めるものとしての意味合いを有するため、遊技者によっては、回転手段Ｙ４８０ではなく、揺動手段Ｙ７２０に注目して遊技する可能性がある。揺動手段Ｙ７２０の変位は、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３との当接により生じるので、揺動手段Ｙ７２０の変位に注目する遊技者は、同時に（又は、代わりに）円形突部Ｙ５３３に注目する場合があり、この場合において円形突部Ｙ５３３と揺動手段Ｙ７２０との当接が生じたことを視認することで大当たりの期待感が高まることになる。

【１３５６３】

円形突部Ｙ５３３が変位軌跡における全範囲で視認可能とされる場合、円形突部Ｙ５３３を隠すための部材に要する部品コストを低減可能となるが、遊技時間が長引くほど円形

突部Ｙ５３３の変位のパターンが遊技者に把握され、円形突部Ｙ５３３が揺動手段Ｙ７２０に当接するまで円形突部Ｙ５３３に注目せずとも、回転手段Ｙ４８０が移動状態へ変位するか否かが把握されてしまい、遊技者を興醒めさせる可能性がある。

【１３５６４】

これに対し、本実施形態によれば、円形突部Ｙ５３３を隠す場合があることで、円形突部Ｙ５３３の変位態様の把握を困難にさせている。本実施形態によれば、回転手段Ｙ４８０が退避状態（図７８２（ａ）参照）に位置する場合、円形突部Ｙ５３３の大部分が第２立設部Ｙ１２０８６ｈ及び正面側立設部Ｙ８６ａにより区画された閉空間の内方側に位置しており、電飾基盤Ｙ１２０８６ｋや張出部Ｙ８６ｃに隠される。

【１３５６５】

回転手段Ｙ４８０が退避状態から移動状態へ変位することに連動して、回転動作部材Ｙ５３０が正面視反時計回りに回転動作される場合、途中までの角度範囲ＹＡＮＧ１では円形突部Ｙ５３３が電飾基盤Ｙ１２０８６ｋや張出部Ｙ８６ｃに隠される状況が継続され（全体が隠される）、角度範囲ＹＡＮＧ１以上に更に回転動作されると円形突部Ｙ５３３が第２立設部Ｙ１２０８６ｈよりも上方（第２立設部Ｙ１２０８６ｈ及び正面側立設部Ｙ８６ａにより区画された閉空間の外方側）に位置し、電飾基盤Ｙ１２０８６ｋの外方に位置されることから、円形突部Ｙ５３３が電飾基盤Ｙ１２０８６ｋや張出部Ｙ８６ｃに隠されることなく視認される。

【１３５６６】

更に回転動作部材Ｙ５３０が回転され、円形突部Ｙ５３３が揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４に当接し、揺動手段Ｙ７２０を変位させる状況において（図７８３（ａ）参照）、円形突部Ｙ５３３は、第２立設部Ｙ１２０８６ｈよりも上方（第２立設部Ｙ１２０８６ｈ及び正面側立設部Ｙ８６ａにより区画された閉空間の外方側）に位置し、電飾基盤Ｙ１２０８６ｋの外方に位置されることから、円形突部Ｙ５３３が電飾基盤Ｙ１２０８６ｋや張出部Ｙ８６ｃに隠されることなく視認される。

【１３５６７】

このように、円形突部Ｙ５３３は、揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４に当接する前段階として、電飾基盤Ｙ１２０８６ｋや張出部Ｙ８６ｃに隠される状況を経てから現れるため、遊技者は、円形突部Ｙ５３３が隠されて視認されない間は、揺動手段Ｙ７２０の変位（移動状態に到達する変位）は生じないものとして、大当たりにあまり期待せず気楽に遊技を継続することができる。

【１３５６８】

電飾基盤Ｙ１２０８６ｋには、常時前方に光を照射可能な発光部（例えば、ＬＥＤ）が配設されており、その発光部の光が前方だけでなく上下左右方向にも広がって視認されることで、円形突部Ｙ５３３までの視界を明るくすることができる。これにより、円形突部Ｙ５３３の視認性を向上させることができる。

【１３５６９】

上述したように、回転手段Ｙ４８０は、退避状態から移動状態へ変位することで、大当たりの期待感を高めるように制御されるが、移動状態まで到達する変位だけではなく、退避状態から変位を開始して、途中位置で停止して、退避状態へ戻る変位を実行可能に構成される。本実施形態では、途中位置（第１の途中位置、第２の途中位置）が、円形突部Ｙ５３３の視認態様の切り替えに対応して設定される。

【１３５７０】

即ち、第１の途中位置は、回転手段Ｙ４８０の退避状態における姿勢の回転動作部材Ｙ５３０が角度範囲ＹＡＮＧ１だけ回転動作された位置（図７８２（ａ）に図示される状況から図７８２（ｂ）に図示される状況までに経由する位置）で設定される。

【１３５７１】

第１の途中位置で停止して退避状態へ戻る変位の場合、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３が隠される状況が継続されるため、遊技者は、円形突部Ｙ５３３が揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４には当接しないことを把握することができる。

【１３５７２】
第２の途中位置は、図７８２（ｂ）に図示される円形突部Ｙ５３３の位置で設定される。第２の途中位置では、円形突部Ｙ５３３が揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４に当接する直前の位置であり、第２立設部Ｙ１２０８６ｈよりも上方に位置して視認可能とされる。
【１３５７３】
円形突部Ｙ５３３が隠されている状況から露出して、揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４への当接が期待されるが、第２の途中位置で停止され、回転動作の方向が逆となるため、結果的に円形突部Ｙ５３３から延設伝達部Ｙ７２４への荷重伝達はされず、揺動手段Ｙ７２０の変位は生じない。
【１３５７４】
このように、円形突部Ｙ５３３が第１の途中位置や第２の途中位置で停止する制御態様が用意されることで、円形突部Ｙ５３３と延設伝達部Ｙ７２４とが当接するかどうかを予想し難くでき、円形突部Ｙ５３３と延設伝達部Ｙ７２４との当接位置への注目力を向上させることができる。
【１３５７５】
なお、円形突部Ｙ５３３を隠す電飾基盤Ｙ１２０８６ｋは、円形突部Ｙ５３３の正面側に配設されており、円形突部Ｙ５３３の配置によっては、円形突部Ｙ５３３の少なくとも一部を隠すように構成される。
【１３５７６】
換言すれば、円形突部Ｙ５３３は電飾基盤Ｙ１２０８６ｋに全方向を覆われているわけではないため、遊技者は、電飾基盤Ｙ１２０８６ｋとの視線の干渉を回避することが可能な斜め方向視（例えば、見下ろす方向視）で視認することで、正面視では電飾基盤Ｙ１２０８６ｋに隠される位置関係にあっても、円形突部Ｙ５３３を事前に視認することが可能となる。これにより、円形突部Ｙ５３３の位置と回転手段Ｙ４８０の位置との関係を、円形突部Ｙ５３３が揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４と当接する前から把握することが可能となる。
【１３５７７】
なお、円形突部Ｙ５３３が変位軌跡における全範囲で視認不能とされるように構成しても良い。この場合、円形突部Ｙ５３３の位置（姿勢）から回転手段Ｙ４８０の位置（姿勢）を把握されることを防止することができる。
【１３５７８】
次いで、図７８４から図７８５を参照して、第１５３実施形態における上変位ユニットＹ１３４００について説明する。上記第１４０実施形態では、上変位ユニットＹ４００の大型ギアＹ４３２が樹脂材料により一体成形される場合を説明したが、第１５３実施形態では、大型ギアＹ１３４３２が複数部材から構成されており、ギア側と、それ以外とが、相対回転可能に構成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。
【１３５７９】
図７８４（ａ）は、第１５３実施形態における大型ギアＹ１３４３２の分解正面斜視図であり、図７８４（ｂ）は、大型ギアＹ１３４３２の分解背面斜視図である。図７８４（ａ）及び図７８４（ｂ）では、左右一対の大型ギアＹ１３４３２の内、左側の大型ギアＹ１３４３２が図示される。
【１３５８０】
大型ギアＹ１３４３２は、ギア部を前面側から覆う大きさの円形形状部であって円柱部材Ｙ４３２ｂを保持する円筒形状部が延設されるずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆと、そのずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆと同軸で重なる位置に配設されるギア構成部材Ｙ１３４３２ｇと、を備える。
【１３５８１】
中心支持孔Ｙ４３２ａは、上述した大型ギアＹ４３２の場合と同様、大型ギアＹ１３４

３２においても大径支持軸部Ｙ４１３（図７４１参照）が挿通される部位であって、ギア構成部材Ｙ１３４３２ｇに形成される。

【１３５８２】

被検出部Ｙ４３２ｃは、上述した大型ギアＹ４３２と同様に、左側の大型ギアＹ１３４３２のずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆに形成される。左右一対の大型ギアＹ１３４３２の回転動作は互いに連動し、逆方向で同角度の回転動作を構成するため、片方の角度を検出することで、一対の大型ギアＹ１３４３２の状態を把握することが可能となる。

【１３５８３】

上変位ユニットＹ１３４００では、大型ギアＹ１３４３２に回転規制部Ｙ４３２ｄが形成されず、更に、ベース手段Ｙ４１０の突設円弧部Ｙ４１４（図７４１参照）の形成が省略される。これにより、大型ギアＹ１３４３２のギア構成部材Ｙ１３４３２ｇの回転動作は、突設円弧部Ｙ４１４に干渉される場合と異なり、一回転以上の回転動作が許容される。

【１３５８４】

ギア構成部材Ｙ１３４３２ｇは、大型ギアＹ４３２で上述した形状と同形状のギアが外周側に形成されるギア本体部Ｙ１３４３２ｇ１と、中心支持孔Ｙ４３２ａが内周側に形成される円筒形状でギア本体部Ｙ１３４３２ｇ１の前面側から前方に延設される中心円筒部Ｙ１３４３２ｇ２と、その中心円筒部Ｙ１３４３２ｇ２の外周側に配設されるスプリングＹ１３４３２ｇ３によって径方向外方側へ付勢される一対の圧力付与部Ｙ１３４３２ｇ４と、を備える。

【１３５８５】

圧力付与部Ｙ１３４３２ｇ４は、樹脂材料から外周側が湾曲形状となるように形成されており、中心円筒部Ｙ１３４３２ｇ２の外周側に１８０度間隔を空けて一対が配設される。

【１３５８６】

ずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆは、圧力付与部Ｙ１３４３２ｇ４を内周側に収容可能な大きさの円形状で後方側から開口形成される中心開口部Ｙ１３４３２ｆ１と、その中心開口部Ｙ１３４３２ｆ１の前側端部において内周側に張り出し形成されギア構成部材Ｙ１３４３２ｇの中心円筒部Ｙ１３４３２ｇ２の前側先端部が当接される内周側張出部Ｙ１３４３２ｆ２と、を備える。

【１３５８７】

大型ギアＹ１３４３２は、図７８４（ａ）及び図７８４（ｂ）に図示される分解された状態から前後方向に近接された組立状態において、ギア構成部材Ｙ１３４３２ｇの中心円筒部Ｙ１３４３２ｇ２の前側先端部が、ずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆの内周側張出部Ｙ１３４３２ｆ２に当接され、圧力付与部Ｙ１３４３２ｇ４の外周側が中心開口部Ｙ１３４３２ｆ１の内周面にスプリングＹ１３４３２ｇ３の付勢力により押し付けられる。

【１３５８８】

このように構成されることで、大型ギアＹ１３４３２は、２層構造で構成されており、ずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆと、ギア構成部材Ｙ１３４３２ｇとが、同軸回転する態様で、相対変位することが可能とされる。

【１３５８９】

即ち、ずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆ側に生じる回転方向の動作抵抗が、圧力付与部Ｙ１３４３２ｇ４の外周側が中心開口部Ｙ１３４３２ｆ１の内周面にスプリングＹ１３４３２ｇ３の付勢力により押し付けられることにより生じる摩擦抵抗よりも小さい場合には、ずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆ及びギア構成部材Ｙ１３４３２ｇの相対変位は生じず、大型ギアＹ１３４３２は一体的に回転動作される。

【１３５９０】

一方、ずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆ側に生じる回転方向の動作抵抗が、圧力付与部Ｙ１３４３２ｇ４の外周側が中心開口部Ｙ１３４３２ｆ１の内周面にスプリングＹ１３４３２ｇ３の付勢力により押し付けられることにより生じる摩擦抵抗よりも大きい場合には、ず

れ許容部材Ｙ１３４３２ｆの動作が停止された後においてギア構成部材Ｙ１３４３２ｇのみが回転動作可能とされ、ずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆに対してギア構成部材Ｙ１３４３２ｇが相対変位（相対的に回転）される。

【１３５９１】

例えば、回転手段Ｙ４８０が退避状態から移動状態（図７４０（ｂ）参照）とされた後で、更にモータギアＹ４３３（図７８５（ｂ）参照）を同方向（正面視時計回り方向）に回転させる方向で駆動モータＹ４５０の励磁を継続すると、ずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆは、回転手段Ｙ４８０からの動作抵抗により回転が抑制される一方で、ギア構成部材Ｙ１３４３２ｇは、ずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆに対して滑る態様で回転動作を継続可能とされ、モータギアＹ４３３の回転量に対応して回転動作され、回転動作部材Ｙ５３０もモータギアＹ４３３の回転量に対応して回転動作される。

【１３５９２】

そのため、モータギアＹ４３３が一回転以上で等速回転するように励磁を継続させると、回転手段Ｙ４８０は移動状態（合体された状態）で維持されたままで、回転動作部材Ｙ５３０の回転が継続され、円形突部Ｙ５３３と当接することによる揺動手段Ｙ７２０の変位が繰り返し生じる。モータギアＹ４３３が数回転される場合、揺動手段Ｙ７２０の変位は、回転回数に応じる回数で、一定間隔で繰り返し生じる。

【１３５９３】

これにより、一対の回転手段Ｙ４８０を移動状態で合体させた状態を維持したまま、揺動手段Ｙ７２０を変位させる演出動作を実行させることができる。例えば、長いリーチ演出中においては、回転手段Ｙ４８０を合体させた状態を短時間視認させる第１動作態様（回転手段Ｙ４８０が移動状態で短時間維持された後、回転手段Ｙ４８０が退避状態に移動する動作態様）を実行させ、大当たり報知の演出においては、回転手段Ｙ４８０を合体させた状態を長時間（第１動作態様における維持期間よりも長い期間）視認させている最中に揺動手段Ｙ７２０の変位も繰り返し生じさせる第２動作態様を実行させることができ、演出効果を向上させることができる。

【１３５９４】

また、大型ギアＹ１３４３２の回転軸に対する円柱部材Ｙ４３２ｂの位置と、回転動作部材Ｙ５３０の回転軸に対する円形突部Ｙ５３３の位置との、対応関係が変化可能となる。

【１３５９５】

図７８５（ａ）及び図７８５（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットＹ１３４００の正面図である。図７８５（ａ）では、回転手段Ｙ４８０が退避状態に位置する状態が図示され、図７８５（ｂ）では、回転手段Ｙ４８０が退避状態から移動状態へ向けた変位の途中位置に位置する状態が図示され揺動ユニットＹ７００の揺動手段Ｙ７２０及び円柱支持部Ｙ７１５の外形が対応した姿勢で想像線で図示される。

【１３５９６】

図７８５（ａ）では、回転手段Ｙ４８０の退避状態が図示される点が図７４０（ａ）で図示される状態と同じであるが、回転動作部材Ｙ５３０の姿勢が角度範囲ＹＡＮＧ２だけ異なる。角度範囲ＹＡＮＧ２だけ姿勢がずれる仕組みについて説明する。

【１３５９７】

回転手段Ｙ４８０が移動状態とされ合体されている状態（図７４０（ｂ）参照）で、モータギアＹ４３３が正面視時計回り方向に回転される方向で駆動モータＹ４５０の励磁を更に継続し、回転動作部材Ｙ５３０の姿勢が図７４０（ｂ）で図示される姿勢から角度範囲ＹＡＮＧ２だけずれた状態で励磁を解除した後で、回転手段Ｙ４８０を退避状態まで変位させると、図７８５（ａ）に図示されるような角度範囲ＹＡＮＧ２のずれを生じて回転手段Ｙ４８０が退避状態とされる。

【１３５９８】

この仕組みを利用すると、大型ギアＹ１３４３２のずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆとギア

構成部材Ｙ１３４３２ｇとが一体的に回転動作される場合の、大型ギアＹ１３４３２と回転動作部材Ｙ５３０との関係を変化させることができ、円形突部Ｙ５３３が揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４に当接する場合の回転手段Ｙ４８０の位置のバリエーションを増やすことができる。

【１３５９９】

即ち、回転手段Ｙ４８０が退避状態から移動状態に変位されるまでの途中の第１位置に位置する場合に円形突部Ｙ５３３が揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４に当接し揺動手段Ｙ７２０を変位させる第１の場合（図７４７（ａ）参照）と、回転手段Ｙ４８０が第１位置よりも退避状態側（上方側）の第２位置に位置する場合に円形突部Ｙ５３３が揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４に当接し揺動手段Ｙ７２０を変位させる第２の場合（図７８５（ｂ）参照）と、が生じ得る。

【１３６００】

これにより、正面視で視認可能な大型ギアＹ１３４３２のずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆの姿勢や回転手段Ｙ４８０の姿勢から、円形突部Ｙ５３３が揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４に当接されるタイミングを予想し難くすることができ、回転手段Ｙ４８０及び揺動手段Ｙ７２０に対する注目力を向上させることができる。

【１３６０１】

例えば、揺動手段Ｙ７２０の変位が生じるか否かによって、演出動作が表す大当たりの期待感の大小が変化する場合において、回転手段Ｙ４８０が移動状態に到達すると共に揺動手段Ｙ７２０の変位が生じる場合（明らかに大当たりの期待感が大）の他に、回転手段Ｙ４８０の下がり幅が普段より小さい（移動状態まで到達する変位ではない）のに当接が生じて揺動手段Ｙ７２０の変位が生じる場合を構成でき、意外性のある演出動作を構成することができる。

【１３６０２】

回転手段Ｙ４８０は、変位途中から自重を利用して移動状態まで変位される場合には、上下位置が異なるとその移動速度も異なるところ、当接が生じ揺動手段Ｙ７２０を変位させる場合の回転手段Ｙ４８０の上下位置が異なる場合には揺動手段Ｙ７２０に当接する円形突部Ｙ５３３の変位速度も異なるため、揺動手段Ｙ７２０の変位の速度を異ならせることができる。これにより、回転手段Ｙ４８０が退避状態から移動状態へ変化される場合において、同様の態様で駆動モータＹ４５０が励磁された場合であっても、揺動手段Ｙ７２０の変位が生じる場合における回転手段Ｙ４８０の上下位置を異ならせることができることに加え、揺動手段Ｙ７２０の変位速度を異ならせることができる。

【１３６０３】

なお、角度範囲ＹＡＮＧ２の姿勢ずれを戻すためには、回転手段Ｙ４８０が移動状態とされ合体されている状態（図７４０（ｂ）参照）で、モータギアＹ４３３が正面視時計回り方向に回転される方向で駆動モータＹ４５０の励磁を更に継続し、角度範囲ＹＡＮＧの角度が３６０度（×整数）となった状態で励磁を解除した後で、回転手段Ｙ４８０を退避状態まで変位させるようにすれば良い。

【１３６０４】

角度範囲ＹＡＮＧ２の姿勢ずれを戻すための別の方法として、逆方向に同量の姿勢ずれを生じさせる方法もある。即ち、回転手段Ｙ４８０の退避状態において（図７４０（ａ）及び図７４６（ａ）参照）、モータギアＹ４３３が正面視反時計回り方向に回転される方向で駆動モータＹ４５０の励磁を更に継続し、ずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆの回転が停止した状態で回転動作部材Ｙ５３０を角度範囲ＹＡＮＧだけ逆方向（正面視時計回り方向）に回転させた状態で励磁を解除すればよい。

【１３６０５】

なお、駆動モータＹ４５０を励磁すれば必ずずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆとギア構成部材Ｙ１３４３２ｇとの相対動作が生じるわけではない。駆動モータＹ４５０の動作力が弱い場合、動作力がずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆとギア構成部材Ｙ１３４３２ｇとの摩擦抵抗に負けて、ギア群Ｙ４３０の回転が停止されたままとなり、駆動モータＹ４５０に過負

荷が生じるものの、回転動作部材Ｙ５３０の回転動作は継続されずに、その後の円形突部Ｙ５３３と揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４との当接が生じることもない。

【１３６０６】

一方、駆動モータＹ４５０の動作力が強い場合、動作力がずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆとギア構成部材Ｙ１３４３２ｇとの摩擦抵抗を上回り、円柱部材Ｙ４３２ｂが回転手段Ｙ４８０から抵抗を受けてずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆの回転が停止された後もギア構成部材Ｙ１３４３２ｇを含むギア群Ｙ４３０の回転が継続されることにより、回転動作部材Ｙ５３０の回転動作が継続され、その後の円形突部Ｙ５３３と揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４との当接が生じる。

【１３６０７】

ここで、駆動モータＹ４５０の動作力の強弱は、速度の大小と言い換えることができる。つまり、回転手段Ｙ４８０及び回転動作部材Ｙ５３０の動作速度が低速である場合に、回転手段Ｙ４８０が移動範囲の端まで到達した後において駆動モータＹ４５０の励磁を継続した場合には、許容部材Ｙ１３４３２ｆとギア構成部材Ｙ１３４３２ｇとの摩擦抵抗が勝ち、ギア群Ｙ４３０は停止され、その後の揺動手段Ｙ７２０の変位は生じない。

【１３６０８】

一方、回転手段Ｙ４８０及び回転動作部材Ｙ５３０の動作速度が高速である場合に、回転手段Ｙ４８０が移動範囲の端まで到達した後において駆動モータＹ４５０の励磁を継続した場合には、動作力が許容部材Ｙ１３４３２ｆとギア構成部材Ｙ１３４３２ｇとの摩擦抵抗に勝ち、ギア群Ｙ４３０の回転が継続され、その後の揺動手段Ｙ７２０の変位が生じ得る。

【１３６０９】

なお、上述のように、回転手段Ｙ４８０が退避状態から移動状態へ変位する（下降変位する）場合の他に、逆に、回転手段Ｙ４８０が移動状態から退避状態へ変位する（上昇変位する）場合における揺動手段Ｙ７２０の変位タイミングを変化させることも可能であり、演出のバリエーションを増加させることができる。

【１３６１０】

例えば、上述の第１の場合では、回転手段Ｙ４８０が移動状態（図７４７（ｂ）参照）から退避状態へ向けて変位開始されるのと同時に、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３が揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４に荷重を与えるように回転移動を開始して、揺動手段Ｙ７２０が起き上げられる方向に変位される。即ち、回転手段Ｙ４８０の変位と同時に揺動手段Ｙ７２０の変位が生じる。

【１３６１１】

一方、上述の第２の場合では、円形突部Ｙ５３３の配置が角度範囲ＹＡＮＧだけ正面視反時計回り方向にずれているため、回転手段Ｙ４８０が移動状態から退避状態へ向けて変位開始されても、揺動手段Ｙ７２０の変位は生じることはなく、回転手段Ｙ４８０の変位の途中で揺動手段Ｙ７２０の変位が生じる。即ち、回転手段Ｙ４８０の変位開始から遅れて揺動手段Ｙ７２０の変位が生じる。

【１３６１２】

このように、回転手段Ｙ４８０の変位開始タイミングと、揺動手段Ｙ７２０が変位するタイミングとの関係を異ならせることができるため、上述の第１の場合に演出動作が生じる場合と、第２の場合に演出動作が生じる場合とで、演出動作が表す大当たりの期待感の大小が変化するように制御することで、移動状態から退避状態へ変位開始する場合（張り出した位置から戻る動作を行う場合）における回転手段Ｙ４８０及び揺動手段Ｙ７２０に対する注目力を向上させることができる。

【１３６１３】

次いで、図７８６から図７８８を参照して、第１５４実施形態における上変位ユニットＹ１４４００について説明する。上記第１４０実施形態では、揺動手段Ｙ７２０に動作力を伝達する回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３が円軌道で回転移動される場合を説明したが、第１５４実施形態では、前後動作部材Ｙ１５４３０が前後方向にスライド移動

されることで揺動手段Ｙ７２０に動作力を伝達する。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【１３６１４】

図７８６は、第１５４実施形態における上変位ユニットＹ１４４００の正面分解斜視図である。上変位ユニットＹ１４４００は、上述した伝達手段Ｙ５００が、伝達手段Ｙ１４５００と入れ替えられている。

【１３６１５】

伝達手段Ｙ１４５００は、張出円筒部Ｙ４２３の内部に配置され回転可能に支持される連結手段Ｙ１４５１０と、その連結手段Ｙ１４５１０の後側端部に相対回転不能に固定される後端ギア部材Ｙ５２０と、連結手段Ｙ１４５１０の前側端部に相対回転不能に固定されており前方に突出する円錐形状の前後動作部材Ｙ１４５３０と、を備える。

【１３６１６】

図７８７は、後端ギア部材Ｙ５２０の回転軸線を通る平面における連結手段Ｙ１４５１０の部分断面図である。

【１３６１７】

連結手段Ｙ１４５１０は、後側端部において後端ギア部材Ｙ５２０に固定され前後方向に延びる棒状に金属材料から形成される後側棒状部材Ｙ１４５１１と、その後側棒状部材Ｙ１４５１１の前側に配設されており後側棒状部材Ｙ１４５１１と同方向に延びる棒状に金属材料から形成され前側端部において前後動作部材Ｙ１４５３０に固定される前側棒状部材Ｙ１４５１５と、を備える。

【１３６１８】

後側棒状部材Ｙ１４５１１の前端部に雄ネジ部Ｙ１４５１２が形成される。前側棒状部材Ｙ１４５１５の後端部において直径が若干大きくなるように拡径されており、その内周側に形成される凹部に雌ネジ部Ｙ１４５１６が形成される。雄ネジ部Ｙ１４５１２と雌ネジ部Ｙ１４５１６とが緩く嵌合される寸法関係となっている。

【１３６１９】

前側棒状部材Ｙ１４５１５は、軸回転可能な態様で板状本体Ｙ７１１（図７４４参照）の前方側に支持される。

【１３６２０】

前側棒状部材Ｙ１４５１５にかけられる軸回転方向の抵抗（慣性抵抗を含む）が、雄ネジ部Ｙ１４５１２及び雌ネジ部Ｙ１４５１６の嵌合箇所において後側棒状部材Ｙ１４５１１から前側棒状部材Ｙ１４５１５にかけられる荷重よりも低い場合において、後端ギア部材Ｙ５２０の回転に伴って後側棒状部材Ｙ１４５１１が軸回転動作されると、前側棒状部材Ｙ１４５１５は後側棒状部材Ｙ１４５１１と共に軸回転動作され、前側棒状部材Ｙ１４５１５の前後方向の変位は生じない。

【１３６２１】

一方、前側棒状部材Ｙ１４５１５にかけられる軸回転方向の抵抗（慣性抵抗を含む）が、雄ネジ部Ｙ１４５１２及び雌ネジ部Ｙ１４５１６の嵌合箇所において後側棒状部材Ｙ１４５１１から前側棒状部材Ｙ１４５１５にかけられる荷重よりも強い場合において、後端ギア部材Ｙ５２０の回転に伴って後側棒状部材Ｙ１４５１１が軸回転動作されると、雄ネジ部Ｙ１４５１２及び雌ネジ部Ｙ１４５１６がゆるんだり、しまったりすることで、前側棒状部材Ｙ１４５１５が前後方向に変位される。

【１３６２２】

軸回転方向の抵抗（慣性抵抗を含む）が、雄ネジ部Ｙ１４５１２及び雌ネジ部Ｙ１４５１６の嵌合箇所にかけられる荷重よりも低い場合、又は、軸回転方向の抵抗（慣性抵抗を含む）が、雄ネジ部Ｙ１４５１２及び雌ネジ部Ｙ１４５１６の嵌合箇所にかけられる荷重よりも強い場合とは、常に維持されるものではなく、動作途中で変化される。

【１３６２３】

即ち、動作始めは前側棒状部材Ｙ１４５１５にかけられる軸回転方向の抵抗（慣性抵抗を含む）の方が強く、後側棒状部材Ｙ１４５１１の軸回転動作に伴って雄ネジ部Ｙ１４５

１２及び雌ネジ部Ｙ１４５１６がゆるんだり、しまったりすることで、前側棒状部材Ｙ１４５１５が前後方向に変位され、前後方向の変位が十分に生じた後においては、後側棒状部材Ｙ１４５１１の軸回転動作に伴って、前側棒状部材Ｙ１４５１５が後側棒状部材Ｙ１４５１１と共に軸回転動作される（一体的に回転動作される）。

【１３６２４】

このように、後端ギア部材Ｙ５２０の回転に伴う前側棒状部材Ｙ１４５１５の変位態様を、動作開始からの時間経過によって異ならせることができる。

【１３６２５】

雄ネジ部Ｙ１４５１２及び雌ネジ部Ｙ１４５１６のネジ形状は、左側の連結手段Ｙ１４５１０においては、後端ギア部材Ｙ５２０が正面視時計回り方向（回転手段Ｙ４８０が上昇変位される方向）に回転される場合に、雄ネジ部Ｙ１４５１２及び雌ネジ部Ｙ１４５１６が締まる態様となり、後端ギア部材Ｙ５２０が正面視反時計回り方向（回転手段Ｙ４８０が下降変位される方向）に回転される場合に、雄ネジ部Ｙ１４５１２及び雌ネジ部Ｙ１４５１６が緩む態様となるように、設計される（雄ネジ部Ｙ１４５１２が左ネジの形状とされる）。

【１３６２６】

一方、右側の連結手段Ｙ１４５１０においては、左側の連結手段Ｙ１４５１０の逆態様となるようにネジ形状が設計される（雄ネジ部Ｙ１４５１２が右ネジの形状とされる）。

【１３６２７】

図７８８（ａ）及び図７８８（ｂ）は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における上変位ユニットＹ１４４００の正面図である。図７８８（ａ）では、回転手段Ｙ４８０の退避状態における状態が図示され、図７８８（ｂ）では、回転手段Ｙ４８０が移動状態へ変化する途中の状態が図示されており、揺動ユニットＹ７００の揺動手段Ｙ７２０及び円柱支持部Ｙ７１５の外形が対応した姿勢で想像線で図示される。

【１３６２８】

図７８８（ａ）では、前後動作部材Ｙ１４５３０が後方側に位置されることで円錐先端側における直径の短い箇所が揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４と当接している状態が図示され、図７８８（ｂ）では、前後動作部材Ｙ１４５３０が前方側に位置されることで円錐根本側における直径の長い箇所が揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４と当接している状態が図示される。

【１３６２９】

図７８８（ａ）及び図７８８（ｂ）に図示されるように、前後動作部材Ｙ１５４３０と延設伝達部Ｙ７２４との当接位置は、揺動手段Ｙ７２０の回転軸としての円柱支持部Ｙ７１５からの距離が略不変とされる。

【１３６３０】

前後動作部材Ｙ１５４３０は、回転手段Ｙ４８０が退避状態から移動状態へ向けて下降変位することに基づいて前方側へ変位され、延設伝達部Ｙ７２４との当接位置が前後動作部材Ｙ１５４３０の円錐形状の根本側に変化され得る。前後動作部材Ｙ１５４３０の円錐形状の根本側に当接位置が変化された場合には、揺動手段Ｙ７２０が起き上がり方向に変位される（図７８８（ｂ）参照）。

【１３６３１】

一方で、回転手段Ｙ４８０が移動状態から退避状態へ向けて上昇変位することに基づいて前後動作部材Ｙ１５４３０が後方側へ変位され、延設伝達部Ｙ７２４との当接位置が前後動作部材Ｙ１５４３０の円錐形状の先端側に変化され得る。前後動作部材Ｙ１５４３０の円錐形状の先端側に当接位置が変化された場合には、揺動手段Ｙ７２０が傾倒される方向に変位される（図７８８（ａ）参照）。このように、回転手段Ｙ４８０の下降変位時と上昇変位時とで、揺動手段Ｙ７２０の変位態様を変化させることができる。

【１３６３２】

前後動作部材Ｙ１４５３０は中心軸線が前後方向に沿う円錐形状となっているため、前後方向への変位が生じているか否かや、どの程度変位しているかを、正面視で把握させ難

くすることができる。これにより、揺動手段Ｙ７２０の変位を予測させ難くすることができる。

【１３６３３】

次いで、図７８９を参照して、第１５５実施形態における上変位ユニットＹ１５４００について説明する。上記第１４０実施形態では、上変位ユニットＹ４００の状態を検出する装置が、大型ギアＹ４３２の被検出部Ｙ４３２ｃを検出可能な検出センサＹ４２１のみである場合を説明したが、第１５５実施形態における上変位ユニットＹ１５４００では、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３を検出可能な検出センサＹ１５０８６ｓ，Ｙ１５０８６ｔが配設される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。また、本実施形態における第１の場合および第２の場合は、第１５３実施形態で詳述したものと同一である。

【１３６３４】

図７８９は、図７４０（ａ）の範囲Ｎ２２ａに対応する範囲における第１５５実施形態における上変位ユニットＹ１５４００の正面図である。図７８９では、回転手段Ｙ４８０の退避状態における状態が図示されており、揺動ユニットＹ１５７００の揺動手段Ｙ１５７２０及び円柱支持部Ｙ７１５の外形が対応した姿勢で想像線で図示され、正面側立設部Ｙ８６ａ、第２立設部Ｙ１２０８６ｈ、第１検出センサＹ１５０８６ｓ及び第２検出センサＹ１５０８６ｔの外形が想像線で図示されると共に、便宜上、第１検出センサＹ１５０８６ｓ及び第２検出センサＹ１５０８６ｔに網掛けが付される。

【１３６３５】

上変位ユニットＹ１５４００は、回転手段Ｙ４８０を備え、回転手段Ｙ４８０の変位に連動して変位可能に構成される一対の揺動ユニットＹ１５７００を備える。

【１３６３６】

一対の揺動ユニットＹ１５７００は、上述したベース手段Ｙ７１０と、そのベース手段Ｙ７１０に対して相対変位可能に配設される揺動手段Ｙ１５７２０と、を少なくとも備え、上変位ユニットＹ１５４００の正面側（矢印Ｆ方向側）に重なる位置に配設される。

【１３６３７】

揺動手段Ｙ１５７２０は回転手段Ｙ４８０よりも正面側に位置しており、回転手段Ｙ４８０が退避状態であるか移動状態であるかに関わらず、センターフレームＹ１２０８６の左右側上部において視認される領域で変位可能とされる。

【１３６３８】

揺動手段Ｙ１５７２０は、上述した被支持部Ｙ７２１と、延設部Ｙ７２３と、延設伝達部Ｙ７２４と、規制部Ｙ７２５と、を備え、更に延設伝達部Ｙ７２４と同様の外形で延設部Ｙ７２３の延設先端から更に同方向に延設される第２延設部Ｙ１５７２６を主に備える。

【１３６３９】

揺動手段Ｙ１５７２０の重心は、被支持部Ｙ７２１から離間した位置（回転軸から離れた位置）に設定されることは揺動手段Ｙ７２０と変わらないが、本実施形態では、全体的に均質とされており、重心としては延設部Ｙ７２３辺りにある。第２延設部Ｙ１５７２６は、正面側に装飾が形成されており、その装飾を背面側から照らすＬＥＤを有する電飾基盤（図示せず）を内部に備える。

【１３６４０】

揺動手段Ｙ１５７２０は、延設伝達部Ｙ７２４と、第２延設部Ｙ１５７２６とが、正面視くの字に屈曲された形状関係とされ、そのくの字の外側において、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３と延設伝達部Ｙ７２４とが当接する。

【１３６４１】

これにより、くの字の内側で当接する場合に比較して、延設伝達部Ｙ７２４の当接面（摺動面）の設計自由度を向上することができる。また、くの字の内側で当接する場合に比較して、揺動手段Ｙ１５７２０と円形突部Ｙ５３３との干渉を低減できるので、揺動手段Ｙ１５７２０の可動範囲を大きくすることができる。

【１３６４２】
上述のくの字を構成する延設伝達部Ｙ７２４及び第２延設部Ｙ１５７２６が、同様の延設長さで形成され、且つ、同様の幅長さで形成される。これにより、揺動手段Ｙ１５７２０の成形性を良好とすることができる。
【１３６４３】
揺動手段Ｙ１５７２０では、揺動手段Ｙ７２０が備える揺動本体部Ｙ７２２の形成が省略されるが、これに伴い空いたスペース（揺動手段Ｙ１５７２０の左右内側下方位置）を利用して、フォトカプラ方式の検出センサＹ１５０８６ｓ，Ｙ１５０８６ｔ（第１検出センサＹ１５０８６ｓ、第２検出センサＹ１５０８６ｔ）が後方側に検出溝が位置する姿勢で配設される。
【１３６４４】
検出センサＹ１５０８６ｓ，Ｙ１５０８６ｔは、円形突部Ｙ５３３を検出するためのセンサであって、円形突部Ｙ５３３の幅よりも若干大きな検出溝を構成し、その検出溝が円形突部Ｙ５３３の動作軌跡を挟むように遊技盤Ｊ１３（図７３４参照）の後方側に配置される。
【１３６４５】
検出センサＹ１５０８６ｓ，Ｙ１５０８６ｔは、被検出部Ｙ４３２ｃの検出センサＹ４２１による検出とは別に、ギア群Ｙ４３０側の回転の状況（位相）を検出するために円形突部Ｙ５３３を検出するセンサとして構成される。
【１３６４６】
即ち、大型ギアＹ１３４３２（図７８４参照）で上述したように、大型ギアＹ１３４３２が複数の部材から形成され、ずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆ側に形成される被検出部Ｙ４３２ｃとギア構成部材Ｙ１３４３２ｇとの間の位相関係がずれる可能性がある場合であっても、歯合関係によりギア構成部材Ｙ１３４３２ｇとの位相関係が一対一で特定される回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３の検出を可能とすることで、回転動作部材Ｙ５３０の姿勢を直接的に検出することができるし、位相関係のずれ具合を検出可能となる。
【１３６４７】
第１検出センサＹ１５０８６ｓは、上述の第１の場合において回転手段Ｙ４８０が移動状態に到達した際の円形突部Ｙ５３３（図７４７（ｂ）参照）を検出可能な位置に配置され、第２検出センサＹ１５０８６ｔは、上述の第２の場合において回転手段Ｙ４８０が移動状態に到達した際の円形突部Ｙ５３３を検出可能な位置（第１検出センサＹ１５０８６ｓから角度範囲ＹＡＮＧ２（図７８５（ａ）参照）だけずれた位置）に配置される。
【１３６４８】
これにより、回転手段Ｙ４８０が移動状態に到達した後においてモータギアＹ４３３が正面視時計回り方向に回転される方向でモータ本体Ｙ４５１への励磁が継続される場合に、第１検出センサＹ１５０８６ｓで円形突部Ｙ５３３が検出された場合に励磁を解除することで、上述の第１の場合を構成することができ、又、第２検出センサＹ１５０８６ｔで円形突部Ｙ５３３が検出された場合に励磁を解除することで、上述の第２の場合を構成することができる。
【１３６４９】
即ち、第１検出センサＹ１５０８６ｓ又は第２検出センサＹ１５０８６ｔの検出結果を制御に組み込むことで、第１の場合となっているか第２の場合となっているかを把握したうえで励磁を解除する制御を構成することができる。その後でモータギアＹ４３３を正面視反時計回り方向で回転させる方向の駆動制御を行うことで、上述の第１の場合または第２の場合の関係を維持しながら、回転手段Ｙ４８０を退避状態へ変位させることが可能となる。
【１３６５０】
モータギアＹ４３３を正面視時計回り方向で回転させ、途中（回転手段Ｙ４８０が退避状態から移動状態に変位するのに必要となる回転量よりも少ない回転量）で励磁を解除する場合、上述のような回転手段Ｙ４８０が移動状態に到達した後においてモータギアＹ４

３３が継続回転されるという事象が生じないので、大型ギアＹ１３４３２は一体的に回転動作される。

【１３６５１】

モータギアＹ４３３を正面視反時計回り方向で回転させ、検出センサＹ４２１（図７４１参照）によって被検出部Ｙ４３２ｃ（図７８４（ａ）参照）が検出された場合（回転手段Ｙ４８０が退避状態に到達した場合）に励磁を解除する場合、大型ギアＹ１３４３２は一体的に回転動作される。

【１３６５２】

回転手段Ｙ４８０が移動状態に到達した場合に第１検出センサＹ１５０８６ｓで円形突部Ｙ５３３が検出される態様である上述の第１の場合では、上述した通り、図７４７（ｂ）で図示される状態において円形突部Ｙ５３３と延設伝達部Ｙ７２４とは非当接である。

【１３６５３】

第１検出センサＹ１５０８６ｓと、第２検出センサＹ１５０８６ｔとの間を、第１検出センサＹ１５０８６ｓから第２検出センサＹ１５０８６ｔへ向けて円形突部Ｙ５３３が移動する場合には、円形突部Ｙ５３３が第２立設部Ｙ１２０８６ｈの下方側の領域（電飾基盤Ｙ１２０８６ｋ、図７８１参照）で隠されるので、円形突部Ｙ５３３の位置を遊技者に把握されにくいようにすることができる。

【１３６５４】

また、非透過性の樹脂材料により外形部が形成される第１検出センサＹ１５０８６ｓ自体が円形突部Ｙ５３３を隠すことで、円形突部Ｙ５３３が上述の第１の場合の位置（図７４７（ｂ）参照）にあっても、遊技者に把握され難くすることができる。

【１３６５５】

複数の検出センサＹ１５０８６ｓ，Ｙ１５０８６ｔの配置位置は、円形突部Ｙ５３３の検出が円形突部Ｙ５３３と延設伝達部Ｙ７２４とが非当接な状況で生じる位置に設定される。この場合、円形突部Ｙ５３３が非当接な状況において、上述した第２立設部Ｙ１２０８６ｈと正面側立設部Ｙ８６ａとの間の領域において円形突部Ｙ５３３が隠される構成を利用して、当該領域の後方側に検出センサＹ１５０８６ｓ，Ｙ１５０８６ｔを配置することで検出センサＹ１５０８６ｓ，Ｙ１５０８６ｔも同様に隠すことができる。

【１３６５６】

これにより、検出センサＹ１５０８６ｓ，Ｙ１５０８６ｔを目立たせないようにすることができると共に、検出センサＹ１５０８６ｓ，Ｙ１５０８６ｔや検出センサＹ１５０８６ｓ，Ｙ１５０８６ｔを保持する部位によって円形突部Ｙ５３３と延設伝達部Ｙ７２４との当接位置が隠される事態の発生を防止することができ、円形突部Ｙ５３３と延設伝達部Ｙ７２４との当接を視認することの邪魔となることを避けることができる。

【１３６５７】

次いで、図７９０から図７９２を参照して、第１５６実施形態における背面側通路ユニットＹ１６１００について説明する。上記第１４９実施形態では、背面側通路ユニットＹ９１００がセンターフレームＹ８６の略下方側に配置される場合を説明したが、第１５６実施形態では、背面側通路ユニットＹ１６１００が正面視においてセンターフレームＹ８６の上方側の位置も占めるよう構成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【１３６５８】

図７９０は、第１５６実施形態における遊技盤Ｊ１３の正面図であり、図７９１は、図７９０のＮ４５－Ｎ４５線における遊技盤Ｊ１３の部分断面図であり、図７９２は、遊技盤Ｊ１３の背面図である。

【１３６５９】

背面側通路ユニットＹ１６１００は、入球口Ｊ７５に対応する位置ではなく、第３図柄表示装置Ｊ１６０８１の表示領域の下縁Ｊ１６０８１ｂの上下位置よりも下方側に位置する下方入球口Ｙ１６０７６に対応する位置に配設される。本実施形態では、一般入賞口Ｊ６３の代わりに、下方入球口Ｙ１６０７６が形成される。なお、入球口Ｊ７５は、本実施

形態では一般入賞口Ｊ６３として利用される。また、下方入球口Ｙ１６０７６は、下方入球口Ｙ９０７６（図７７５参照）と同形状で形成される。

【１３６６０】

背面側通路ユニットＹ１６１００は、下変位ユニットＹ２３０の内部に嵌合されており内部を球が通過可能な中空状の通路形成部Ｙ１６１９１を備え、その通路形成部Ｙ１６１９１の一端が遊技盤Ｊ１３に形成される下方入球口Ｙ１６０７６に連通されると共に、通路形成部Ｙ１６１９１の他端が後方側のワープ通路Ｙ１６１０１に連通され、その鉛直方向に延びるワープ通路Ｙ１６１０１を通過した球が遊技盤Ｊ１３のセンターフレームＹ８６の経路形成部材Ｙ９０８７側に受け入れられるように構成される。

【１３６６１】

背面側通路ユニットＹ１６１００は、下方入球口Ｙ１６０７６を通ってベース板Ｊ６０を前後方向に通過した球を受け入れ可能に形成されており後方へ向けて下降傾斜される通路形成部Ｙ１６１９１と、その通路形成部Ｙ１６１９１を後方側へ通過した球を受け入れ可能に形成される前方開口部Ｙ１６１１１ａを有する正面板Ｙ１６１１０と、その正面板Ｙ１６１１０の背面側に配設される前方側が開放された箱形状の背面箱部Ｙ１６１２０と、その背面箱部Ｙ１６１２０の内部に回転可能に支持されるスクリュー部材Ｙ９１３０と、そのスクリュー部材Ｙ９１３０を回転動作可能とする態様で背面箱部Ｙ１６１２０に支持される駆動装置Ｙ９１４０と、を備える。

【１３６６２】

正面板Ｙ１６１１０は、前方開口部Ｙ１６１１１ａを有する本体板部Ｙ１６１１１と、その本体板部Ｙ１６１１１から背面箱部Ｙ１６１２０側に突設される一対の突条形状で構成され、スクリュー部材Ｙ９１３０との間から球が脱落しない構成とされる案内突条部Ｙ１６１１２と、を備える。

【１３６６３】

背面箱部Ｙ１６１２０は、案内突条部Ｙ１６１１２の上方側端部に対応する位置において球が通過可能な大きさで開口形成される開放部Ｙ１６１２１を備える。

【１３６６４】

スクリュー部材Ｙ９１３０は、羽部が螺旋状に形成されており、前方開口部Ｙ１６１１１ａに受け入れられた球を、一方向に回転動作されることで羽部によって案内突条部Ｙ１６１１２に沿って押し上げる。スクリュー部材Ｙ９１３０によって押し上げられた球は、案内突条部Ｙ１６１１２の上端側から開放部Ｙ１６１２１を通過して、正面板Ｙ１６１１０と背面箱部Ｙ１６１２０との間の空間から遊技盤Ｊ１３の左右中央側へ排出される。

【１３６６５】

背面側通路ユニットＹ１６１００は、左右一対の開放部Ｙ１６１２１に連通されており左右中央位置へ向かって下降傾斜する球通路を形成しており内部を球が通過可能な中空状の合流路形成部Ｙ１６１５０と、その合流路形成部Ｙ１６１５０の中央位置（最下端位置）から連通され鉛直下方に延びる中間通路形成部Ｙ１６１６０と、その中間通路形成部Ｙ１６１６０の下端に連通されており複数の分岐通路が形成される分岐路形成部Ｙ１６１７０と、を備える。

【１３６６６】

分岐路形成部Ｙ１６１７０は、中間通路形成部Ｙ１６１６０の方向に沿って球を流下させる第１通路形成部Ｙ１６１７１と、その第１通路形成部Ｙ１６１７１の左右に枝分かれする通路を形成し第１通路形成部Ｙ１６１７１と左右方向に離間して配設される左側通路形成部Ｙ１６１７２と、右側通路形成部Ｙ１６１７３と、を備える。

【１３６６７】

第１通路形成部Ｙ１６１７１、左側通路形成部Ｙ１６１７２及び右側通路形成部Ｙ１６１７３は、下流側端部において通路が前方側へ向けて屈曲され、その屈曲後は前方側へ下降傾斜する通路が延びており、経路形成部材Ｙ９０８７の後壁部Ｙ９０８８に貫通形成される各連通孔Ｙ９０８８ａに連通される。

【１３６６８】

これにより、分岐路形成部Ｙ１６１７０を通過した球は、各連通孔Ｙ９０８８ａを通って天面構成部Ｙ９０８７ｆの上面側に受け入れられる。

【１３６６９】

背面側通路ユニットＹ１６１００は、分岐路形成部Ｙ１６１７０を球が流下する経路を切り替えることが可能な切替可動装置Ｙ１６１８０を備える。切替可動装置Ｙ１６１８０は、第１通路形成部Ｙ１６１７１の左右に枝分かれする通路の入口下端部において前後方向に延びる回転軸Ｙ１６１８１を中心に回転移動可能な板状部材Ｙ１６１８２を備える。

【１３６７０】

切替可動装置Ｙ１６１８０は、板状部材Ｙ１６１８２が回転先端を左右中央に向けて倒れて互いに当接することで第１通路形成部Ｙ１６１７１への流入を阻害する傾倒姿勢と、回転先端が回転軸Ｙ１６１８１の上方へ向けられ第１通路形成部Ｙ１６１７１を挟んで互いに離間する起立姿勢と、で往復変位するように制御される。本実施形態では、傾倒姿勢と起立姿勢とが１秒間隔で交互に切り替えられる制御が電源投入から継続される。

【１３６７１】

分岐路形成部Ｙ１６１７０により形成される通路の幅よりも、その下流側における経路形成部材Ｙ９０８７の天面構成部Ｙ９０８７ｆの幅の方が広いため、連通孔Ｙ９０８８ａを通過した球は天面構成部Ｙ９０８７ｆから逸れることなく、一旦は天面構成部Ｙ９０８７ｆに当接する。即ち、天面構成部Ｙ９０８７ｆに当接せずに球が零れることを避けることができる。

【１３６７２】

第１通路形成部Ｙ１６１７１を通過した球が排出される中央の連通孔Ｙ９０８８ａの下流では、天面構成部Ｙ９０８７ｆが中央側へ向けて凹部を構成しているため、球が中央側へ案内され、落下孔Ｙ９０８７ｇへ案内される。

【１３６７３】

天面構成部Ｙ９０８７ｆの凹部の中央位置において後壁部Ｙ９０８８の前側部に形成される上下方向に延びる凹溝部や、落下孔Ｙ９０８７ｇが、球直径と同等の幅で形成されていることから、球の流下経路（流下位置）を固定することができ、流下先を限定させることができるので、設計と容易とすることができる。

【１３６７４】

左側通路形成部Ｙ１６１７２及び右側通路形成部Ｙ１６１７３を通過した球が排出される左右の連通孔Ｙ９０８８ａの下流では、天面構成部Ｙ９０８７ｆが左右外側へ向けた傾斜を構成しており、通常は連通孔Ｙ９０８８ａを通過した球が傾斜に沿って左右外側（傾斜下流側）へ流下する。

【１３６７５】

一方、後壁部Ｙ９０８８は平滑面で構成されており、球への荷重が生じた場合には球の経路は変化しやすい構成とされているため、連通孔Ｙ９０８８ａから間隔を空けずに複数の球が通過した場合に、後追いの球が先行する球との衝突により上向きに跳ねる荷重を受けた場合には、天面構成部Ｙ９０８７ｆの中央側の凹部へ乗り上げることが許容される。このように、球の流下態様にランダム性を持たせることができる。更に、球の流下位置が集中せず、球を分散できるので、球詰まりを低減可能とすることができる。

【１３６７６】

本実施形態では、ベース板Ｊ６０の中央開口Ｊ６０ａ及び第３図柄表示装置Ｊ１６０８１の後方側において球が上昇されるようにワープ通路Ｙ１６１０１が形成される。そのため、正面視でワープ通路Ｙ１６１０１と第３図柄表示装置Ｊ１６０８１とが重なる位置関係であっても、通路により表示面の視認性が低下されることが避けられるため、ワープ通路Ｙ１６１０１の形状の設計自由度を向上させることができる。

【１３６７７】

下方入球口Ｙ１６０７６に流入した球は、下変位ユニットＹ２３０に前端部から進入する辺りでは視認可能とされる一方で、通路形成部Ｙ１６１９１に沿って下変位ユニットＹ２３０の奥深くまで至る辺りでは下変位ユニットＹ２３０によって視線を遮られ、視認不

能となる。その後においても、ワープ通路Ｙ１６１０１が第３図柄表示装置Ｊ１６０８１や上変位ユニットＹ４００の後方側に形成されることから、球が視認不能な状態が継続される。

【１３６７８】

球が視認不能な状態は、ワープ通路Ｙ１６１０１を通過する球が、第３図柄表示装置Ｙ１６０８１の下方側にはみ出した位置に到達することで解除可能とされる（それまでは、第３図柄表示装置Ｙ１６０８１に隠される状態が継続される）。

【１３６７９】

後壁部Ｙ９０８８が光透過性の部材から形成されているので、連通孔Ｙ９０８８ａを前方へ通過する前から（後壁部Ｙ９０８８の後方側を流下している時点から）、分岐路形成部Ｙ１６１７０を流下する球を視認可能となる。

【１３６８０】

このように、ワープ通路Ｙ１６１０１に進入した球は早々に視認不能となり、天面構成部Ｙ９０８７ｆの近傍に到達して初めて視認可能となるので、天面構成部Ｙ９０８７ｆの近傍の領域への注目力を向上させることができる。

【１３６８１】

本実施形態では、第３図柄表示装置Ｊ１６０８１に隠される位置に切替可動装置Ｙ１６１８０が配設されるので、途中段階における球の流下位置を遊技者に把握させることなく、天面構成部Ｙ９０８７ｆ近傍に登場する場合の球の位置に特に注目させることができる。

【１３６８２】

なお、ワープ通路Ｙ１６１０１が第３図柄表示装置Ｊ１９０８１の表示面の前方側に重なる位置を球が流下するよう構成されても良い。この場合、表示面の前方側の空間を有効利用することができる。

【１３６８３】

次いで、図７９３から図７９５を参照して、第１５７実施形態における背面ケースＹ１７３００について説明する。上記第１５６実施形態では、第３図柄表示装置Ｊ１６０８１が背面ケースＹ３００に固定される場合を説明したが、第１５７実施形態では、背面ケースＹ１７３００及び第３図柄表示装置Ｊ１７０８１が備える可動装置Ｙ１７３２０により、第３図柄表示装置Ｊ１７０８１の表示面が移動可能に構成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【１３６８４】

図７９３は、第１５７実施形態における遊技盤Ｊ１３の背面図である。図７９３に図示されるように、本実施形態では、第３図柄表示装置Ｊ１６０８１（図７９２参照）よりも、左右幅が左右両側から許容長さＹＬＥＮ１ずつ短くされた第３図柄表示装置Ｊ１７０８１が配設される。

【１３６８５】

可動装置Ｙ１７３２０は、背面ケースＹ１７３００の背面側に締結固定される駆動モータＹ１７３２１と、その駆動モータＹ１７３２１の駆動力により左右方向にスライド変位される可動ラックＹ１７３２２と、を備える。可動ラックＹ１７３２２がスライド変位されることに対応して、第３図柄表示装置Ｊ１７０８１の左右位置が、許容長さＹＬＥＮ１に収まる範囲内で変化可能に構成される。

【１３６８６】

図７９４及び図７９５は、遊技盤Ｊ１３の正面図である。図７９４では、第３図柄表示装置Ｊ１７０８１が左側に変位された状態（第３図柄表示装置Ｊ１６０８１の左端部に第３図柄表示装置Ｊ１７０８１の左端部が一致する状態）が図示され、図７９５では、第３図柄表示装置Ｊ１７０８１が右側に変位された状態（第３図柄表示装置Ｊ１６０８１の右端部に第３図柄表示装置Ｊ１７０８１の右端部が一致する状態）が図示される。

【１３６８７】

本実施形態によれば、第３図柄表示装置Ｊ１７０８１の表示面の位置を変化させること

ができるので、視認性の問題に対策することができる。即ち、遊技領域を流下する球によって隠されやすい側から第３図柄表示装置Ｊ１７０８１を予め退避させることで、球の通過領域と、表示面が視認される領域とを離すことができる。

【１３６８８】

例えば、左打ち遊技が推奨される状況では、第３図柄表示装置Ｊ１７０８１を右側に変位させておくことで（図７９５参照）、球の通過領域と表示面とを離して、流下する球により表示面が隠される事態を避けることができる。

【１３６８９】

逆に、右打ち遊技が推奨される状況では、第３図柄表示装置Ｊ１７０８１を左側に変位させておくことで（図７９４参照）、球の通過領域と表示面とを離して、流下する球により表示面が隠される事態を避けることができる。

【１３６９０】

また、左打ち遊技も右打ち遊技もされ得る状況では、第３図柄表示装置Ｊ１７０８１を中央側に寄せる変位をさせておくことで、球の通過領域と表示面とを離して、流下する球により表示面が隠される事態を避けることができる。

【１３６９１】

また、例えば、左打ち遊技が推奨される状況では、第３図柄表示装置Ｊ１７０８１を左側に変位させておくことで（図７９４参照）、球の通過領域側に表示面を寄せて、流下する球が注目され易い領域に表示面の表示を寄せる（集める）こともできる。遊技者に有用な視認箇所が離れている場合に比較して、遊技負担を低減することができる。逆に、右打ち遊技が推奨される状況では、第３図柄表示装置Ｊ１７０８１を右側に変位させておくことで（図７９５参照）、球の通過領域側に表示面を寄せて、流下する球が注目され易い領域に表示面の表示を寄せる（集める）こともできる。遊技者に有用な視認箇所が離れている場合に比較して、遊技負担を低減することができる。

【１３６９２】

次いで、図７９６から図７９７を参照して、第１５８実施形態における第３図柄表示装置Ｊ１８０８１について説明する。上記Ａ３１実施形態では、単一の第３図柄表示装置Ｊ１７０８１の表示面が移動可能に構成される場合を説明したが、第１５８実施形態では、第３図柄表示装置Ｊ１８０８１が複数の表示面を有して構成され、正面視で各表示面の間において通過する球を視認可能な場合があるように構成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【１３６９３】

図７９６及び図７９７は、第１５８実施形態における遊技盤Ｊ１３の正面図である。図７９６では、第３図柄表示装置Ｊ１８０８１の複数の表示面が近接した状態が図示され、図７９７では、第３図柄表示装置Ｊ１８０８１の複数の表示面が離間した状態が図示される。

【１３６９４】

第３図柄表示装置Ｊ１８０８１は、左側に配置される左側表示装置Ｊ１８０８１Ｌと、右側に配置される右側表示装置Ｊ１８０８１Ｒと、を備えており、これらが対応する可動装置Ｙ１７３２０（図７９３参照）によって左右に移動可能に構成される。

【１３６９５】

即ち、左側表示装置Ｊ１８０８１Ｌの左上端部において左側に配設される可動ラックＹ１７３２２が固定されており、左側の駆動モータＹ１７３２１が駆動されることで可動ラックＹ１７３２２が左右方向に移動されることに伴って左側表示装置Ｊ１８０８１Ｌが移動可能とされており、右側表示装置Ｊ１８０８１Ｒの右上端部において右側に配設される可動ラックＹ１７３２２が固定されており、右側の駆動モータＹ１７３２１が駆動されることで可動ラックＹ１７３２２が左右方向に移動されることに伴って右側表示装置Ｊ１８０８１Ｒが移動可能とされる。

【１３６９６】

左右の駆動モータＹ１７３２１を制御させることによって、左側表示装置Ｊ１８０８１

Ｌの表示面（前側面）と右側表示装置Ｊ１８０８１Ｒの表示面（前側面）とが近接する合体状態（図７９６参照）と、左側表示装置Ｊ１８０８１Ｌの表示面と右側表示装置Ｊ１８０８１Ｒの表示面とが離間する分裂状態（図７９７参照）と、を第３図柄表示装置Ｊ１８０８１が構成可能とされる。

【１３６９７】

第３図柄表示装置Ｊ１８０８１の分裂状態（図７９７参照）では、後方側においてワープ通路Ｙ１６１０１を構成する中間通路形成部Ｙ１６１６０や分岐路形成部Ｙ１６１７０の少なくとも一部が複数の表示面の間から視認可能であって、ワープ通路Ｙ１６１０１を通過する球を視認可能となる。

【１３６９８】

分岐路形成部Ｙ１６１７０に流入する球は、第１通路形成部Ｙ１６１７１を流下する場合には、以降は表示面の間を下方に流下することにより、第３図柄表示装置Ｊ１８０８１に隠されることなく遊技者が球を視認し易い。一方で、左側通路形成部Ｙ１６１７２又は右側通路形成部Ｙ１６１７３を流下する場合には、分裂状態における表示面に再び隠されることになる。

【１３６９９】

ここで、第１通路形成部Ｙ１６１７１を流下した球は中央の連通孔Ｙ９０８８ａから排出され、高確率で落下孔Ｙ９０８７ｇに流入することから、第１入賞口Ｊ６４への入賞が高確率で生じる。一方で、左側通路形成部Ｙ１６１７２又は右側通路形成部Ｙ１６１７３を流下した球は、左右の連通孔Ｙ９０８８ａから排出され、大抵の場合において天面構成部Ｙ９０８７ｆの左右の傾斜に沿って流下し天面構成部Ｙ９０８７ｆよりも左右外側において経路形成部材Ｙ９０８７の湾曲底面部Ｙ８７ｂに受け取られるように落下し、ステージ経路Ｙ８７ｘを流下することになるので、第１入賞口Ｊ６４への入賞が高確率では生じない。

【１３７００】

換言すれば、分岐路形成部Ｙ１６１７０を第３図柄表示装置Ｊ１８０８１に隠されることなく流下する球の方が、分岐路形成部Ｙ１６１７０を第３図柄表示装置Ｊ１８０８１に隠されながら流下する球に比較して、第１入賞口Ｊ６４に入賞する確率が高い分、有利である。これにより、分裂状態において分岐路形成部Ｙ１６１７０を流下する球に対する注目力を向上させることができる。

【１３７０１】

なお、第１通路形成部Ｙ１６１７１を流下した球は左右の連通孔Ｙ９０８８ａから排出され、大抵の場合において天面構成部Ｙ９０８７ｆの左右の傾斜に沿って流下し天面構成部Ｙ９０８７ｆよりも左右外側において経路形成部材Ｙ９０８７の湾曲底面部Ｙ８７ｂに受け取られるように落下し、ステージ経路Ｙ８７ｘを流下することになるので、第１入賞口Ｊ６４への入賞が高確率では生じず、一方で、左側通路形成部Ｙ１６１７２又は右側通路形成部Ｙ１６１７３を流下した球は、中央の連通孔Ｙ９０８８ａから排出され、高確率で落下孔Ｙ９０８７ｇに流入することから、第１入賞口Ｊ６４への入賞が高確率で生じるように流路の形状を変形させて構成しても良い。

【１３７０２】

換言すれば、分岐路形成部Ｙ１６１７０を第３図柄表示装置Ｊ１８０８１に隠されながら流下する球の方が、分岐路形成部Ｙ１６１７０を第３図柄表示装置Ｊ１８０８１に隠されることなく流下する球に比較して、第１入賞口Ｊ６４に入賞する確率が高い分、有利であるように構成しても良い。この場合、有利となる球が長期にわたり隠されることで、その球が視認可能となった時に遊技者に驚きを与えると共に、興趣の向上を図ることができる。

【１３７０３】

第３図柄表示装置Ｊ１８０８１の合体状態と、分裂状態とを切り替える制御は、種々の態様で可能である。例えば、通常は合体状態とされているが、本実施形態では、背面側通路ユニットＹ１６１００（図７９２参照）の開放部Ｙ１６１２１に球検出センサが配設さ

れ、その球検出センサで球の通過が検出された場合に、その球が分岐路形成部Ｙ１６１７０を流下しきるまでにかかる期間よりも若干長い期間（例えば、３秒間）分裂状態に変化されるよう制御される。

【１３７０４】

これにより、中間通路形成部Ｙ１６１６０や分岐路形成部Ｙ１６１７０を流下する球が存在する場合に限って第３図柄表示装置Ｊ１８０８１が分裂状態とされるように構成することができるので、第３図柄表示装置Ｊ１８０８１が分裂状態とされる場合の遊技者の期待感を向上させることができるとともに、何ら期待できる流下球が無い場合には第３図柄表示装置Ｊ１８０８１を合体状態として大画面での演出を実行することで遊技者の興趣の向上を図ることができる。

【１３７０５】

左側表示装置Ｊ１８０８１Ｌと右側表示装置Ｊ１８０８１Ｒの表示態様は、合体状態と分裂状態とで区別せずに表示を行うようにしても良いが、本実施形態では、合体状態では複数の表示面で一連の表示を行う（大画面表示を行う）ように制御される一方で、分裂状態では複数の表示面で個別の表示を行う（別画面表示を行う）ように制御される。これにより、分裂状態においても違和感なく表示を行うことができる。

【１３７０６】

また、分裂状態では表示としては個別であるものの、各表示面における表示を対応して変化させるように構成している。例えば、分裂状態において、一方の表示面において複数のキャラクターが高速で変化される状況が表示される場合に、他方の表示面においては複数の色（赤、青、緑など）が高速で変化される状況が表示され、一方の表示面において停止表示される（キャラクター決定される）と、他方の表示面の色（演出期待度）も停止表示される。

【１３７０７】

このように、分裂状態において、一方の表示と、他方の表示とが、対応するよう制御されることにより、演出効果の向上を図ることができるし、片方の表示面の表示を視認すれば、もう一方の表示面の表示を予測することが可能となることで、遊技者の遊技負担を低減することができる。

【１３７０８】

次いで、図７９８を参照して、第１５９実施形態における背面側通路ユニットＹ１９１００について説明する。上記第１４８実施形態では、背面側通路ユニットＹ８１００において開口部Ｙ８１４０を落下した球は開放部Ｙ８７ａ側へ案内されることは無い場合を説明したが、第１５９実施形態では、開口部Ｙ８１４０を落下した球が開放部Ｙ８７ａ側へ戻る場合があるように構成される。なお、上記各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明は省略する。

【１３７０９】

図７９８（ａ）は、図７３３のＮ２１ａ－Ｎ２１ａ線に対応する線における第１５９実施形態における遊技盤Ｊ１３の部分断面図であり、図７９８（ｂ）は、図７９８（ａ）のＮ４７ｂ－Ｎ４７ｂ線における背面側通路ユニットＹ１９１００の部分断面図である。

【１３７１０】

背面側通路ユニットＹ１９１００は、上述した背面側通路ユニットＹ１００と同様に、上述した正面板Ｙ１１０と、その正面板Ｙ１１０との間に球が通過可能なワープ通路Ｙ１０１を形成する背面板Ｙ１９１２０と、基盤Ｙ１３０（図７４８（ｃ）参照）と、を備え、更に、正面板Ｙ１１０の通路形成部Ｙ１１１の下面後側部と背面板Ｙ１９１２０の案内溝部Ｙ１２２の下面前側部とで共同で形成される開口部Ｙ８１４０と、その開口部Ｙ８１４０を囲う壁部が下方に延設されることで開口部Ｙ８１４０と連通される流下経路が形成される経路構成部Ｙ８１５０と、その経路構成部Ｙ８１５０に対して不図示のアクチュエーターの駆動力により出没される態様で前後方向に動作可能に制御される出没動作装置Ｙ１９１６０と、経路構成部Ｙ８１５０の側面に形成される開口部Ｙ１９１７１と一端側で連通し、他端側において、正面板Ｙ１１０の通路形成部Ｙ１１１の下面後側部と背面板Ｙ

１９１２０の案内溝部Ｙ１２２の下面前側部とで共同で形成される開口部Ｙ１９１７２と連通する湾曲経路を構成する第２経路構成部材Ｙ１９１７３と、背面板Ｙ１９１２０に切り欠き形成される切り欠き部Ｙ１９１２５を介してワープ通路Ｙ１０１の内部に張り出す態様で配設される球受け回転体Ｙ１９１８０と、を備える。

【１３７１１】

出没動作装置Ｙ１９１６０は、上述した出没動作装置Ｙ８１６０よりも下方に位置しており、前後に出没される部材の形状も異なる。本実施形態では、出没動作装置Ｙ１９１６０が前方に突出されている場合、経路構成部Ｙ８１５０による鉛直通路が閉塞され、球は開口部Ｙ１９１７１側へ案内される。

【１３７１２】

一方、出没動作装置Ｙ１９１６０が後方に退避されている場合、経路構成部Ｙ８１５０による鉛直通路が開放されており、球が落下可能に構成されるので、ワープ通路Ｙ１０１に進入し、開口部Ｙ８１４０から落下した球が、経路構成部Ｙ８１５０を落下し得る。経路構成部Ｙ８１５０を落下した球は不図示の球排出経路に案内されるアウト球となる。

【１３７１３】

球受け回転体Ｙ１９１８０は、ワープ通路Ｙ１０１の外方（上方側）に位置される前後方向に延びる回転軸を中心に回転動作される回転本体Ｙ１９１８１と、その回転本体Ｙ１９１８１の外周部において球を受け入れ可能な大きさで凹設される複数の球受け部Ｙ１９１８２と、を備え、不図示の駆動モータによって正面視反時計回り方向に継続的に回転移動するよう制御される。

【１３７１４】

球受け回転体Ｙ１９１８０は、前方開口部Ｙ１１１ａと前後方向で対向する位置に球受け部Ｙ１９１８２が位置する場合において球受け部Ｙ１９１８２に遊技球を１球受け入れることが可能な形状とされ、前方開口部Ｙ１１１ａに後追いの球がある場合でも２球目以降の球が球受け部Ｙ１９１８２に進入することを防止して回転本体Ｙ１９１８１の前方側に待機させる。

【１３７１５】

また、それ以外の状態（球受け部Ｙ１９１８２が前方開口部Ｙ１１１ａと前後方向で対向する位置に無い状態、即ち、前方開口部Ｙ１１１ａと前後方向で対向する位置に回転本体Ｙ１９１８１の外周側部がある状態）では、球受け回転体Ｙ１９１８０は、球が前方開口部Ｙ１１１ａに進入しても、回転本体Ｙ１９１８１の前側面に当接させて、球をせき止めるよう構成される。

【１３７１６】

球受け部Ｙ１９１８２は間隔を空けて形成されているので、球受け部Ｙ１９１８２に受け入れられた球が球受け回転体Ｙ１９１８０の回転に沿ってワープ通路Ｙ１０１の下流側に放出される場合にも、１球ずつの放出とすることができる。これにより、経路形成部材Ｙ８７に複数球が間隔を空けずに流入する事態を避けやすくすることができ、経路形成部材Ｙ８７に複数球の球が存在する場合に生じる球突きによる不利益（例えば、経路形成部材Ｙ８７に進入した球が、その進入速度から、単体であれば中央形成部Ｙ８７ｄ上で球の左右方向の速度が小さくなる（０となる）可能性が高い状況であったにも関わらず、後追いの球が経路形成部材Ｙ８７に進入し、先行した球と衝突したために、両方の球が底面下方部Ｙ８７ｃ上で球の左右方向の速度が小さくなる（０となる）状況となること）を回避することができる。

【１３７１７】

球受け回転体Ｙ１９１８０の回転移動の速度は、低速回転（５秒で１２０度回転する速度、４［ｒｐｍ］）と、高速回転（１秒で１２０度回転する速度、２０［ｒｐｍ］）とが、少なくとも用意され、本実施形態では、電源投入から一定間隔（５秒間隔）で、低速回転と、高速回転とが、交互に切り替えられる。

【１３７１８】

球受け回転体Ｙ１９１８０が高速回転されている場合に球受け回転体Ｙ１９１８０から

ワープ通路Ｙ１０１に放出された球は、回転の勢いによって開口部Ｙ８１４０の上方側を左右方向に流れ、開口部Ｙ１９１７２の上方側を超えて開放部Ｙ８７ａに到達する。

【１３７１９】

球受け回転体Ｙ１９１８０が低速回転されている場合に球受け回転体Ｙ１９１８０からワープ通路Ｙ１０１に放出された球は、開口部Ｙ８１４０の上方側を超えずに下方に流下されるか、又は、開口部Ｙ８１４０の上方側を超えて左右方向に流れ、開口部Ｙ１９１７２の上方側を超えずに下方に流下される。

【１３７２０】

出没動作装置Ｙ１９１６０によって前後に出没する部位は、前方に張り出している場合において開口部Ｙ８１４０を下方に流下された球が開口部Ｙ１９１７１に滑らかに案内される湾曲板形状から形成されており、その湾曲板の上面に案内された球は、落下の勢いで第２経路構成部材Ｙ１９１７３の内部を上昇し、開口部Ｙ１９１７２の上方側に戻り、経路形成部材Ｙ８７側に案内され得る。

【１３７２１】

即ち、球受け回転体Ｙ１９１８０からワープ通路Ｙ１０１に放出された球の内、開口部Ｙ８１４０の上方側を超えずに下方に流下された球は、出没動作装置Ｙ１９１６０の出没する部位の上面の湾曲に沿って開口部Ｙ１９１７１に滑らかに案内され、落下の勢いで第２経路構成部材Ｙ１９１７３の内部を上昇し、開口部Ｙ１９１７２の上方側に戻り、経路形成部材Ｙ８７側に案内され得る。

【１３７２２】

また、球受け回転体Ｙ１９１８０からワープ通路Ｙ１０１に放出された球の内、開口部Ｙ１９１７２の上方側を超えずに下方に流下された球は、開口部Ｙ１９１７１を右側から左側に通過して出没動作装置Ｙ１９１６０の出没する部位の上面を流れ、経路構成部Ｙ８１５０の左壁部に衝突することで跳ね返り、出没動作装置Ｙ１９１６０の出没する部位の上面の湾曲に沿って開口部Ｙ１９１７１に滑らかに案内され、衝突後の勢いで第２経路構成部材Ｙ１９１７３の内部を上昇し、開口部Ｙ１９１７２の上方側に戻り、経路形成部材Ｙ８７側に案内され得る。

【１３７２３】

このように、本実施形態によれば、開口部Ｙ８１４０から落下した球や、開口部Ｙ１９１７２から落下した球であっても、ワープ通路Ｙ１０１に復帰して、経路形成部材Ｙ８７側に案内され得ることから、背面側通路ユニットＹ１９１００における球の流下態様のバリエーションを増加させ、背面側通路ユニットＹ１９１００を流下する球に対する注目力を向上させることができる。

【１３７２４】

出没動作装置Ｙ１９１６０が後方に退避されている場合において開口部Ｙ８１４０を下方に流下した球は、経路構成部Ｙ８１５０に沿って鉛直方向に落下する。

【１３７２５】

本実施形態によれば、球受け回転体Ｙ１９１８０の回転速度の違いを利用して、球が流下する経路を異ならせることができ、球受け回転体Ｙ１９１８０やワープ通路Ｙ１０１への注目力の向上を図ることができる。

【１３７２６】

なお、球受け回転体Ｙ１９１８０の制御として、低速回転と高速回転とが一定間隔で交互に切り替えられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球受け回転体Ｙ１９１８０の回転速度を変更可能なディップスイッチを設けても良い。ディップスイッチの配設位置としては、操作つまみＪ１２１のように内枠Ｊ１２の後方側とされ、開店前にホール店員が操作により変更可能に構成しても良いし、正面枠Ｊ１４の前方側とされ、遊技者が操作により変更可能に構成しても良い。

【１３７２７】

なお、操作対象はディップスイッチに限られるものではなく、トグル、ノブ、アンプのボリューム等の種々の態様を採用することができ、更に、操作による制御として球受け回

転体Ｙ１９１８０の動作の停止を採用しても良い。この場合、球受け回転体Ｙ１９１８０による球の変位を一端停止させることができ、球の滞留を生じさせることができ、球の通過のタイミングを変化させることができる。

【１３７２８】

また、例えば、球受け回転体Ｙ１９１８０の回転速度が、入賞口における球の検出に関連して変化されるように制御しても良い。例えば、第１入賞口Ｊ６４へ入賞した場合には球受け回転体Ｙ１９１８０が低速回転とされ（もともと低速回転であった場合には低速回転で維持され）、一般入賞口Ｊ６３へ１球の遊技球（又は予め設定された設定個数の遊技球）が入賞した場合には球受け回転体Ｙ１９１８０が高速回転とされるように制御しても良い。この場合、球の流下態様を複雑とすることができ、ワープ通路Ｙ１０１を流下する球に対する注目力の向上を図ることができる。

【１３７２９】

また、遊技領域の釘の状況がワープ通路Ｙ１０１に球を進入させ易い状況となっていたとしても、第１入賞口Ｊ６４への入賞が過剰に生じる事態を避けることができる。また、ワープ通路Ｙ１０１に球がなかなか進入しない一方で一般入賞口Ｊ６３には球が入賞しやすい状況の場合には、ワープ通路Ｙ１０１への球の進入が生じた場合における球受け回転体Ｙ１９１８０の回転が高速回転となり易いようにできることで、ワープ通路Ｙ１０１に進入した球が経路形成部材Ｙ８７に案内され易いよう構成でき、第１入賞口Ｊ６４への入賞が生じやすくすることができる。

【１３７３０】

これによれば、球受け回転体Ｙ１９１８０の回転速度を遊技者の操作による球の入賞態様によって変化させることができ、回転体Ｙ１９１８０の回転速度に応じてワープ通路Ｙ１０１に進入した球が第１入賞口Ｊ６４に案内され易いか否かが変わるので、球の発射力調整に対する遊技者の集中力（興味関心）を向上させることができる。

【１３７３１】

以上、上記実施形態に基づき本発明を説明したが、本発明は上記形態に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲内で種々の変形改良が可能であることは容易に推察できるものである。

【１３７３２】

上記各実施形態において、一の実施形態における構成の一部または全部を、他の実施形態における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の実施形態としても良い。以下に示す変形例（別実施形態）においても同様であり、一の変形例における構成の一部または全部を、他の変形例における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の変形例としても良い。以下に示す変形例の適用対象となる実施形態は任意であり、いずれの変形例（変形例の組み合わせ又は置き換え）をいずれの実施形態に適用しても良い。

【１３７３３】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、上変位ユニットＹ４００，Ｙ１４００，Ｙ２４００，Ｙ３４００，Ｙ４４００，Ｙ５４００，Ｙ１１４００，Ｙ１３４００，Ｙ１４４００，Ｙ１５４００において生じた駆動力が伝達手段Ｙ５００の回転動作部材Ｙ５３０，Ｙ２５３０，Ｙ３５３０，Ｙ４５３０や伝達手段Ｙ１４５００の前後動作部材Ｙ１４５３０を介して揺動ユニットＹ７００，Ｙ３７００，Ｙ５７００，Ｙ１５７００の揺動手段Ｙ７２０，Ｙ３７２０，Ｙ１５７２０に伝達される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものでは無い。

【１３７３４】

例えば、伝達手段Ｙ５００の回転動作部材Ｙ５３０，Ｙ２５３０，Ｙ３５３０，Ｙ４５３０や伝達手段Ｙ１４５００の前後動作部材Ｙ１４５３０が、揺動手段Ｙ７２０，Ｙ３７２０，Ｙ１５７２０ではなく、遊技者が操作可能なボタン部Ｊ１８１に駆動力を伝達可能となるようにボタン部Ｊ１８１付近に配設され、上変位ユニットＹ４００，Ｙ１４００，Ｙ２４００，Ｙ３４００，Ｙ４４００，Ｙ５４００，Ｙ１１４００，Ｙ１３４００，Ｙ１

４４００，Ｙ１５４００に対応する構成が正面枠Ｊ１４の内部領域に配設されても良い。この場合、ボタン部Ｊ１８１が昇降動作されるよう構成される場合において、駆動力の伝達を好適に生じさせることができ、ボタン部Ｊ１８１の操作を行う遊技者が受ける操作感のバリエーションを増やすことができる。

【１３７３５】

ここで、ボタン部Ｊ１８１はガラスユニットＪ１６よりも前方側に配置されるものであるから、上変位ユニットＹ４００，Ｙ１４００，Ｙ２４００，Ｙ３４００，Ｙ４４００，Ｙ５４００，Ｙ１１４００，Ｙ１３４００，Ｙ１４４００，Ｙ１５４００に対応する構成は、ガラスユニットＪ１６の後方側に限定されるものではなく、遊技者に視認させる視認態様を変化させ、興趣の向上が可能な場合であれば、駆動力が伝達される対象が揺動手段Ｙ７２０等の演出役物に限定されるものではなく、当該対象の配置についても限定されるものではない。

【１３７３６】

また、例えば、伝達手段Ｙ５００の回転動作部材Ｙ５３０，Ｙ２５３０，Ｙ３５３０，Ｙ４５３０や伝達手段Ｙ１４５００の前後動作部材Ｙ１４５３０が、揺動手段Ｙ７２０，Ｙ３７２０，Ｙ１５７２０ではなく、姿勢変化可能に構成されるスピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）を採用する場合において、そのスピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）に駆動力を伝達し、姿勢変化させるよう構成しても良い。この場合、スピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）から出力される音の聞こえ方を、スピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）の動作によって変化させることで、遊技者の興趣の向上を図ることが可能となる。即ち、変動演出においてスピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）が動作されない場合よりも、変動演出においてスピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）が動作される場合の方が、大当たり期待度が高くなるように制御される場合に、スピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）から出力される音に対する遊技者の集中力を高めることができる。

【１３７３７】

加えて、伝達手段Ｙ５００の回転動作部材Ｙ５３０，Ｙ２５３０，Ｙ３５３０，Ｙ４５３０や伝達手段Ｙ１４５００の前後動作部材Ｙ１４５３０を採用する場合、駆動モータＹ４５０や駆動装置Ｙ１１４５０による駆動力の発生中であれば常にスピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）が動作されるわけではなく、駆動力の発生中における一部の期間にスピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）を動作させることになるので、駆動モータＹ４５０や駆動装置Ｙ１１４５０による駆動音にスピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）から出力される音の聞こえ方の変化を紛れ込ませることができる。これにより、スピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）から出力される音に対する遊技者の集中力を高めることができる。

【１３７３８】

ここで、スピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）は、正面枠Ｊ１４においてガラスユニットＪ１６の外方側に配置されるものであるから、上変位ユニットＹ４００，Ｙ１４００，Ｙ２４００，Ｙ３４００，Ｙ４４００，Ｙ５４００，Ｙ１１４００，Ｙ１３４００，Ｙ１４４００，Ｙ１５４００に対応する構成は、正面視においてガラスユニットＪ１６の内方側に配置されるものに限定されるものではなく、動作によって興趣の向上が可能な場合であれば、駆動力が伝達される対象が揺動手段Ｙ７２０等の演出役物に限定されるものではなく、当該対象の配置についても限定されるものではない。

【１３７３９】

なお、スピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）としては、スピーカーカバーＪ２７の後方側に収まる態様について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、スピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）が正面枠Ｊ１４における窓部Ｊ１４ｅの外方の領域において移動可能に構成しても良い。この場合において、スピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）が正面枠Ｊ１４の正面視外形の内方側に収まるように構成しても良いし、正面枠Ｊ１４の正面視外形の外方に飛び出して移動可能に構成しても良い。正面枠Ｊ１４の正面視外形の外方に飛び出して移動可能に構成される場合においては、遊技を行う遊技者の前方側においてスピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）が移動されるように構成しても良いし、遊

技を行う遊技者の後方側に回り込む態様でスピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）が移動可能に構成しても良い。

【１３７４０】

この場合、スピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）の移動によって正面枠Ｊ１４の視認態様を変化させ、興趣の向上を図ることができると共に、スピーカー（音声出力装置Ｊ２２６）から出力される音の聞こえ方も変化させることができるので、視認態様の変化による興趣の向上と、音の聞こえ方の変化による興趣の向上とを同時に図ることができる。

【１３７４１】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４０実施形態では、風車ＹＷＦが非透過性の樹脂材料から形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、風車ＹＷＦが光透過性の樹脂材料から形成されても良い。この場合、風車ＹＷＦの後方側を流下する球の視認性を高く保つことができるので、ワープ通路Ｙ１０１に球が流入したことを早期に把握させることができる。

【１３７４２】

風車ＹＷＦ越しに球が視認される状態で、その球により風車ＹＷＦが回転される場合（球がベース板Ｊ６０の正面側を流下する場合）と、その球により風車ＹＷＦが回転されない場合（球がワープ通路Ｙ１０１を流下する場合）とが生じることから、球に対する注目力を依然として高く維持することができる。

【１３７４３】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４０実施形態では、ワープ通路Ｙ１０１が下流側ほど低くなる態様で下降傾斜する通路として形成される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、ワープ通路Ｙ１０１が階段状に形成されたり、途中で上昇傾斜する部分が形成されたり、しても良い。

【１３７４４】

例えば、ワープ通路Ｙ１０１が階段状に形成される場合、段差を落ちてバウンドする際に球がランダム性をもって跳ね返るため、球の流下をばらつかせることができ、ワープ通路Ｙ１０１及びステージ経路Ｙ８７ｘを流下した球の速度が小さくなる位置をばらつかせることができる。これにより、ステージ経路Ｙ８７ｘを流下した球の速度が遊技者に不利な底面下方部Ｙ８７ｃで毎回小さくなる（０になる）という事態を避けることができ、遊技者に有利な中央形成部Ｙ８７ｄで速度が小さくなる（０になる）ことを遊技者に期待させ、球に対する注目力の向上を図ることができる。

【１３７４５】

例えば、ワープ通路Ｙ１０１の途中で上昇傾斜する部分が形成される場合、ワープ通路Ｙ１０１の上昇傾斜する部分を通過する球を減速させることで、ワープ通路Ｙ１０１を球が通る時間長さを引き延ばすことができ、ワープ通路Ｙ１０１に遊技者の視線を集めやすくすることができる。また、ワープ通路Ｙ１０１に開口部Ｙ８１４０、経路構成部Ｙ８１５０が配設される場合において、開口部Ｙ８１４０の下流側において上昇傾斜する部分が形成されるようにすれば、開口部Ｙ８１４０上を左右に通過した球の勢いが、上昇傾斜する部分を乗り越えるには足りなかった場合に球の流下方向が左右反転して開口部Ｙ８１４０に流入するという、複雑な態様での流下を生じさせることができる。これにより、ワープ通路Ｙ１０１を流下する球に対する注目力の向上を図ることができる。

【１３７４６】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４０実施形態では、ワープ通路Ｙ１０１の下流側端部をステージ経路Ｙ８７ｘの上流側端部よりも高くする場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、例えば、入球口Ｊ７５及び貫通開口Ｊ６０ｃの配設位置をワープ通路Ｙ１０１の上流側端部となる前方開口部Ｙ１１１ａよりも高くしても良い。この場合、入球口Ｊ７５及び貫通開口Ｊ６０ｃから開口部Ｙ１１１ａへの接続部分において球が受ける抵抗を小さくすることができ、球が大きく減速されることを避けることができる。

【１３７４７】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４０実施形態では、ステージ経路Ｙ８７ｘの開放部Ｙ８７ａにおける遊技球の通過経路の幅が遊技球の直径程度とされる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、開放部Ｙ８７ａにおける遊技球の通過経路の幅が大きくされても良い。

【１３７４８】

例えば、背面側立設部Ｙ８６ｂの形成が部分的に省略され、段部Ｙ８７ｂ１の形成が省略されることで、湾曲底面部Ｙ８７ｂの前後幅の全域において遊技球が導入され得るように構成しても良い。この場合、ステージ経路Ｙ８７ｘへの導入時の遊技球の前後位置がずれ得ることから、ステージ経路Ｙ８７ｘにおける遊技球の流下態様のパターンを多く構成することができる。

【１３７４９】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４０実施形態では、ステージ経路Ｙ８７ｘからの球の流下は、湾曲底面部Ｙ８７ｂの前後両側から生じる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、ステージ経路Ｙ８７ｘからの球の流下は、湾曲底面部Ｙ８７ｂの前方からだけ、又は、後方からだけ、生じるようにしても良い。

【１３７５０】

例えば、底面下方部Ｙ８７ｃの形成位置（中央から左右にずれた位置）に、中央形成部Ｙ８７ｄ、分割筒状部Ｙ８７ｅ１及び球排出口Ｙ８６ｅに類似の構成を形成することで、中央から左右にずれた位置からの球の流下も湾曲底面部Ｙ８７ｂの後方から流下して前方へ抜けるＵ字の経路として構成することができる。即ち、センターフレームＹ８６の左右中央で左右方向の速度が小さくなった（０になった）球も、左右中央から左右にずれた位置で左右方向の速度が小さくなった（０になった）球も、湾曲底面部Ｙ８７ｂの下方側を後方から前方へ通過する態様で流下するよう構成される。この場合、湾曲底面部Ｙ８７ｂの後方に流下した球の視認性が悪くなった後で、球を再登場させることができ、遊技者を楽しませることができる。

【１３７５１】

また、例えば、中央形成部Ｙ８７ｄの形成位置に、底面下方部Ｙ８７ｃに類似の構成を形成することで、左右中央位置からの球の流下も湾曲底面部Ｙ８７ｂの前方側に流下する態様とすることができる。即ち、センターフレームＹ８６の左右中央で左右方向の速度が小さくなった（０になった）球も、左右中央から左右にずれた位置で左右方向の速度が小さくなった（０になった）球も、湾曲底面部Ｙ８７ｂから前方側に流下するため、この場合、球の視認性を高く維持しやすい。これにより、遊技者がステージ経路Ｙ８７ｘを流下する球を見失う事態の発生を回避することができる。

【１３７５２】

更に、後方側からの経路を形成するための分割筒状部Ｙ８７ｅ１、底面部Ｙ８７ｅ２、凹設部Ｙ８７ｄ１、球排出口Ｙ８６ｅ及び球流下面Ｙ８６ｆの形成を省略することができる。これにより、センターフレームＹ８６の構造を簡素化することができ、強度の向上を図ることができると共に、部品点数の削減が可能となりコスト削減を図ることができる。

【１３７５３】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４０実施形態では、回転動作部材Ｙ５３０が回転動作して揺動手段Ｙ７２０に当接する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、揺動手段Ｙ７２０に当接する部材が左右方向（直線方向）に変位するよう構成されても良い。この場合、荷重が付与されていない状況において、揺動手段Ｙ７２０に当接する部材を静止状態で保ちやすくすることができる。

【１３７５４】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４０実施形態および上記第１４３実施形態では、揺動手段Ｙ７２０，Ｙ３７２０が、揺動本体部Ｙ７２２の幅寸法よりも、延設伝達部Ｙ７２４の幅寸法の方が短い構成とされる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、揺動本体部Ｙ７２２の幅寸法と延設伝達部Ｙ７２

４の幅寸法とが同等の長さで形成されても良い。この場合、成形性を良好とすることができ、歩留まりの向上を図ることができる。

【１３７５５】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４０実施形態および上記第１４３実施形態では、揺動手段Ｙ７２０，Ｙ３７２０の重心位置が揺動本体部Ｙ７２２の内方にある場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、揺動手段Ｙ７２０，Ｙ３７２０の重心位置が被支持部Ｙ７２１における回転軸線と重なる位置にあるように構成しても良い。

【１３７５６】

この場合、回転動作部材Ｙ５３０からの荷重が付与されていない状況では揺動手段Ｙ７２０，Ｙ３７２０は姿勢変化を継続せず、自らの慣性で静止される。即ち、回転動作部材Ｙ５３０と離間した状態からは揺動手段Ｙ７２０，Ｙ３７２０の回転が開始されず、連動中に回転動作部材Ｙ５３０が揺動手段Ｙ７２０，Ｙ３７２０から離間した場合には静止して回転動作部材Ｙ５３０が再び当接するまで静止状態を継続することになるので、両者の動作を並行した動作にし易くすることができる。

【１３７５７】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４０実施形態では、揺動本体部Ｙ７２２の上縁部と延設伝達部Ｙ７２４とが略くの字形状を形成し、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３がくの字の内側において延設伝達部Ｙ７２４に当接する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、延設伝達部Ｙ７２４が湾曲方向に延設されるように構成されるようにしても良い。この場合、揺動手段Ｙ７２０の変位態様を複雑化することができ、例えば、円形突部Ｙ５３３との当接面を構成する下面側を波形状に形成すれば、回転手段Ｙ４８０の下降変位中に複数回往復動作する動作態様とすることが可能である。

【１３７５８】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４０実施形態および上記第１４３実施形態では、揺動本体部Ｙ７２２の上縁部と延設伝達部Ｙ７２４とが略くの字形状を形成し、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３がくの字の内側において延設伝達部Ｙ７２４に当接する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、くの字の外側において延設伝達部Ｙ７２４に当接するよう構成しても良い。即ち、揺動手段Ｙ７２０，Ｙ３７２０の重心位置が、自重により延設伝達部Ｙ７２４の起き上がり方向に変位させる位置に設定される場合において、円形突部Ｙ５３３が延設伝達部Ｙ７２４の上面に当接するように回転動作部材Ｙ５３０の配置を設定しても良い。この場合、円形突部Ｙ５３３から延設伝達部Ｙ７２４に荷重が付与される度に揺動手段Ｙ７２０，Ｙ３７２０が延設伝達部Ｙ７２４を傾倒変位させる方向に変位され、自重により元の姿勢に復帰するという変位態様を生じさせることができる。

【１３７５９】

この場合、揺動手段Ｙ７２０，Ｙ３７２０の変位領域に回転動作部材Ｙ５３０が干渉する度合いを低減させることができ、揺動手段Ｙ７２０，Ｙ３７２０の変位領域を大きく確保することができる。

【１３７６０】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４０実施形態および上記第１４３実施形態では、第１制御態様や第２制御態様として、回転手段Ｙ４８０の下降変位の途中で駆動モータＹ４５０の励磁を解除する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、回転手段Ｙ４８０の下降変位を移動状態まで駆動モータＹ４５０の励磁を継続する態様で実行しても良い。この場合、回転手段Ｙ４８０の変位速度が自重による変位速度よりも低速であっても、変位が途中で停止されることを回避して、移動状態まで変位動作を継続させることができる。この場合、回転動作部材Ｙ５３０の回転速度も低速とされ、揺動手段Ｙ７２０，Ｙ３７２０の変位速度も低速とされる。これにより、第１制御態様や第２制御態様の場合とは異なる速度で回転手段Ｙ４８０や揺動手段Ｙ７

２０，Ｙ３７２０を動作変位させることができ、回転手段Ｙ４８０の変位中における所定期間において揺動手段Ｙ７２０，Ｙ３７２０を連動させることができる。

【１３７６１】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４０実施形態では、駆動モータＹ４５０において回転規制部材Ｙ４５３が駆動軸Ｙ４５２の先端部に嵌合固定される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、駆動軸Ｙ４５２が回転規制部材Ｙ４５３から抜き取り可能な寸法関係とされ、前後にスライド動作するアクチュエーターにより駆動モータＹ４５０を後方に退避させる変位を実行可能としても良い。

【１３７６２】

この場合、第１制御態様や第２制御態様において、回転手段Ｙ４８０の下降変位途中で駆動モータＹ４５０が非励磁とされる際に駆動モータＹ４５０を後方に退避させ、駆動軸Ｙ４５２が回転規制部材Ｙ４５３から抜き取られる（脱落する）ように制御することで、ギア群Ｙ４３０に駆動モータＹ４５０の抵抗が作用することを避けることができる。これにより、第１制御態様や第２制御態様における回転手段Ｙ４８０の動作をスムーズな動作とすることができる。

【１３７６３】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４０実施形態では、揺動手段Ｙ７２０が、回転動作部材Ｙ５３０と当接しているか非当接となっているかに関わらず、センターフレームＹ８６の内方側における左右側上部において視認可能とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、揺動手段Ｙ７２０が、回転動作部材Ｙ５３０と非当接となっている状態では遮蔽部材により視認不能に隠されており、回転動作部材Ｙ５３０との当接により変位が生じると遮蔽部材からはみ出して視認可能とされるように構成しても良い。

【１３７６４】

この場合、揺動手段Ｙ７２０が回転動作部材Ｙ５３０と当接して変位したことが、揺動手段Ｙ７２０が遮蔽部材に隠されて視認不能であるか、遮蔽部材からはみだして視認可能であるかによって判断できるので、揺動手段Ｙ７２０と回転動作部材Ｙ５３０との当接が生じたことを容易に把握することができる。

【１３７６５】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４０実施形態では、揺動手段Ｙ７２０が回転動作部材Ｙ５３０を介して駆動モータＹ４５０の動作力を受けて変位される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、駆動モータＹ４５０とは別の駆動装置（例えばモータや、ソレノイド）によって揺動手段Ｙ７２０を変位させるように構成しても良い。この場合、回転手段Ｙ４８０の変位中において揺動手段Ｙ７２０を変位させるタイミングを増加させることができ、回転手段Ｙ４８０及び揺動手段Ｙ７２０を用いた演出のバリエーションを増やすことができる。

【１３７６６】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４１実施形態では、左側にだけ反転ギアＹ１４３５を追加することで、左側の回転動作部材Ｙ５３０のみを逆回転（右側の回転動作部材Ｙ５３０と正反対に回転）させ、回転動作部材Ｙ５３０の動作が左右非対称となることで、左右の揺動手段Ｙ７２０の動作が左右非対称となり、左右両側での視認態様をばらつかせることで演出効果を向上させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、右側にも反転ギアＹ１４３５を左側と同様に追加し、回転手段Ｙ４８０の退避状態における右側の回転動作部材Ｙ５３０の姿勢を左側の回転動作部材Ｙ５３０に対して左右対称となる姿勢とすることで、左右の回転動作部材Ｙ５３０の回転が左右対称で生じるようにしても良い。これにより、揺動手段Ｙ７２０の動作を左右対称とすることができ、左右の揺動手段Ｙ７２０の動作演出に統一感を持たせることができる。

【１３７６７】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４２実施形態では、回

転動作部材Ｙ２５３０の円形突部Ｙ２５３３がコイルスプリングＹ２５３６の付勢力により終端部Ｙ２５３５ａ側に付勢される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。例えば、コイルスプリングＹ２５３６が引っ張りバネとして構成されることで円形突部Ｙ２５３３が被支持部Ｙ５３１側（回転軸側）に付勢され、付勢側の終端位置では揺動手段Ｙ７２０に荷重を付与しないように構成しても良い。

【１３７６８】

この場合、回転動作部材Ｙ２５３０の回転速度が低速である場合には、回転手段Ｙ４８０が動作されても、円形突部Ｙ２５３３から揺動手段Ｙ７２０への荷重伝達が生じないため、揺動手段Ｙ７２０の変位は生じない。

【１３７６９】

一方、回転動作部材Ｙ２５３０の回転速度が高速になり、遠心力がコイルスプリングＹ２５３６の付勢力を上回ると、円形突部Ｙ２５３３が開口部Ｙ２５３５に沿って径方向外方へ変位され、円形突部Ｙ２５３３が揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４に当接し得るため、回転手段Ｙ４８０の動作中において揺動手段Ｙ７２０の変位が生じ得る。これにより、揺動手段Ｙ７２０の変位が単調となることを避けることができる。

【１３７７０】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４２実施形態では、回転動作部材Ｙ２５３０の円形突部Ｙ２５３３がコイルスプリングＹ２５３６の付勢力により終端部Ｙ２５３５ａ側に付勢される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、コイルスプリングＹ２５３６の配設が省略され、円形突部Ｙ２５３３の質量が大きめとされ（例えば、金属材料から形成され）るように構成しても良い。

【１３７７１】

この場合、回転動作部材Ｙ２５３０の回転速度が低速である場合には、回転手段Ｙ４８０が動作されても、円形突部Ｙ２５３３を開口部Ｙ２５３５に沿って径方向外方へ変位させる遠心力は小さく、揺動手段Ｙ７２０の変位は生じない。

【１３７７２】

一方、回転動作部材Ｙ２５３０の回転速度が高速になると、遠心力が大きくなり、円形突部Ｙ２５３３が開口部Ｙ２５３５に沿って径方向外方へ変位され、円形突部Ｙ２５３３が揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４に当接し得るため、回転手段Ｙ４８０の動作中において揺動手段Ｙ７２０の変位が生じ得る。これにより、揺動手段Ｙ７２０の変位が単調となることを避けることができる。

【１３７７３】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４５実施形態では、コイルスプリングＹ５７３０の付勢力により揺動手段Ｙ７２０が上昇姿勢に維持される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、揺動手段Ｙ７２０の揺動本体部Ｙ７２２と延設伝達部Ｙ７２４とがくの字ではなく、直線方向に並ぶように設計されても良い。この場合、揺動本体部Ｙ７２２の自重によって揺動手段Ｙ７２０が上昇姿勢側に変位されるため、コイルスプリングＹ５７３０の配設を省略することができる。

【１３７７４】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４６実施形態では、モーター装置Ｙ６１５０が背面側通路ユニットＹ６１００に配設される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、モーター装置Ｙ６１５０が第３図柄表示装置Ｊ８１に配設されても良い。モーター装置Ｙ６１５０によれば、正逆回転が可能であってワープ通路Ｙ１０１内の球に対して異なる振動モードの荷重を与えることができるので、ワープ通路Ｙ１０１内における球詰まりの解消を良好に行うことができる。

【１３７７５】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４７実施形態では、シーソー部材Ｙ７１６０の動作が、一定のパターンで制御される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技者または作業者の操作に基づく検出

結果により動作態様を変化させることが可能に構成されても良い。
【１３７７６】
なお、遊技者または作業者に操作させる操作手段としては、シーソー部材Ｙ７１６０の動作を直接的に調整可能な操作手段でも良いし、シーソー部材Ｙ７１６０とは異なる対象を操作するものであって、間接的にシーソー部材Ｙ７１６０の動作を調整するよう構成されても良い。
【１３７７７】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４８実施形態では、張出部Ｙ８６ｃに非透過のシールが貼り付けられることで開口部Ｙ８１４０の上側を左右方向に通過した後の球が一時的に視認不能とされる一方で、経路構成部Ｙ８１５０により形成される経路を流下する球が視認可能とされる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ワープ通路Ｙ１０１全体が内部を視認不能に構成され、経路形成部材Ｙ８７側に球が放出されて初めて球を視認可能となるように構成しても良い。この場合、入球口Ｊ７５よりも、経路形成部材Ｙ８７に注目させ易くすることができ、遊技者の視線を遊技盤Ｊ１３の左右中央側へ誘導させることができる。
【１３７７８】
また、例えば、正面側に非透過のシールが貼り付けられたり、非透過の部材が重ねられることによって、経路構成部Ｙ８１５０により形成される経路が一時的に視認不能とされる一方、張出部Ｙ８６ｃと重なった位置においても開口部Ｙ８１４０の上側を左右方向に通過した後の球が常に視認可能とされるように構成しても良い。この場合、段差部Ｙ１２３を下流側に流下する際に球が跳ねる可能性のある位置や、ワープ通路Ｙ１０１と経路形成部材Ｙ８７との連結部分における段差によって球が跳ねる可能性のある位置が視認可能となり、球の流下態様の異常や、球詰まりが生じた場合に、早期発見を図ることができる。
【１３７７９】
また、例えば、開口部Ｙ８１４０で分岐されるいずれの経路を流下する球についても、視認不能とされる区間を構成するようにしても良い。この場合、視認不能とされた球が離れた位置において再び視認可能となる態様を構成でき、球が瞬間移動したかのように見せることで遊技者に驚きを提供することができる。更に、視認不能とされた球が再び視認可能となる位置に対する遊技者の注目力を向上させ、遊技者の視線を離れた位置に誘導することができる。
【１３７８０】
また、例えば、開口部Ｙ８１４０で分岐されるいずれの経路を流下する球についても、視認可能に構成しても良い。この場合、流下する球の行方を目で追いやすくなり、球の流下が正常に生じていることの確認が容易になる。
【１３７８１】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４９実施形態では、スクリュー部材Ｙ９１３０の回転速度を操作対象の操作によって変化可能に制御される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、スクリュー部材により経路形成部材Ｙ８７側に球が案内される構成を複数配設し、スクリュー部材の回転速度が高速の方が有利な位置に球が到達する構成において、各スクリュー部材の回転速度が異なるように制御するようにしても良い。この場合、どのスクリュー部材に球が案内されるかによって、経路形成部材Ｙ８７のどの位置（どの程度有利な位置）に球が到達するかが異なるため、スクリュー部材およびスクリュー部材に案内される球に対する注目力を向上させることができる。
【１３７８２】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４９実施形態では、天面構成部Ｙ９０８７ｆに乗り上げた遊技球がベース板Ｊ６０の正面側に戻って流下する場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、天面構成部Ｙ９０８７ｆに乗り上げた遊技球がベース板Ｊ６０の後方側において遊技領域から排出されても良い。こ

の場合において、遊技球はアウト球となっても良いし、遊技球の通過経路に入賞センサが配設されることで遊技者に賞球を払い出すことが可能に構成しても良い。また、当該入賞センサによって抽選を実行可能に構成しても良い。

【１３７８３】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４９実施形態では、下方入球口Ｙ９０７６であれば風車ＹＷＦによりベース板Ｊ６０における左右外方側に振り分けられた球を受け入れ可能である場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、風車ＹＷＦにより同じ側に振り分けられた球を入球口Ｊ７５が受入可能に構成しても良い。即ち、風車ＹＷＦの配置を上側にずらし、入球口Ｊ７５よりも高い位置で振り分けるよう構成すればいい。この場合、風車ＹＷＦによりいずれの方向に振り分けられた球に対しても注目力を損なわないように構成することができると共に、遊技領域に発射された球が第１入賞口Ｊ６４に到達するまでの期間が長くなりすぎて遊技が間延びするという事態を避けることができる。

【１３７８４】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４９実施形態では、背面側通路ユニットＹ９１００を採用してワープ通路Ｙ９１０１を構成する場合において、入球口Ｊ７５は一般入賞口Ｊ６３として利用されることからワープ通路Ｙ１０１の形成は省略される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、ワープ通路Ｙ９１０１を形成する場合において、ワープ通路Ｙ１０１を共に形成するようにしても良い。この場合、入球口Ｊ７５に入球した球も、下方入球口Ｙ９０７６に入球した球も、ステージ経路Ｙ８７ｘに案内され得ることから、遊技者の注目を集める箇所を多く用意することができる。

【１３７８５】

また、入球口Ｊ７５への入球を防止可能に開閉変位する開閉部材と、下方入球口Ｙ９０７６への入球を防止可能に開閉変位する下方開閉部材と、を備える場合、これらが異なるタイミングで変位されることにより、入球口Ｊ７５への入球は防止される一方で下方入球口Ｙ９０７６への入球は許容されるタイミングや、入球口Ｊ７５への入球は許容される一方で下方入球口Ｙ９０７６への入球は防止されるタイミングや、入球口Ｊ７５及び下方入球口Ｙ９０７６への入球が防止されるタイミングを、更に構成することができるので、入球口Ｊ７５や下方入球口Ｙ９０７６への劉目力を向上させることができる。

【１３７８６】

なお、入球の防止は、開閉部材を新たに採用する場合に限られない。例えば、入球口Ｊ７５や下方入球口Ｙ９０７６を構成する経路入口部材を前後方向に延びる回転軸を中心に１８０度回転可能に構成しても良い。この場合、回転前の状態では球を受け入れ可能な形状（上側が開放されたハーフパイプ形状）に構成される一方で、１８０度回転された場合には、回転前に下底面を構成した部位が天面を構成することから、球の受け入れを阻害することができる。

【１３７８７】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４９実施形態では、背面側通路ユニットＹ９１００のワープ通路Ｙ９１０１から経路形成部材Ｙ９０８７側に放出された球が視認可能とされる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、経路形成部材Ｙ９０８７側に放出された球の内、一部の球は視認可能とし、その他の球については視認不能となるように構成しても良い。

【１３７８８】

例えば、天面構成部Ｙ９０８７ｆの上面に乗り上げた球は視認可能とする一方で、天面構成部Ｙ９０８７ｆから零れた球は視認不能となるように構成しても良い。この場合、天面構成部Ｙ９０８７ｆが第３図柄表示装置Ｊ８１の下縁Ｊ８１ｂよりも上側に位置されることから、天面構成部Ｙ９０８７ｆに乗り上げた球に第３図柄表示装置Ｊ８１の表示光を当て、演出することが可能となり、球の視認性を向上させることができる。

【１３７８９】

一方、天面構成部Ｙ９０８７ｆから零れた球が湾曲底面部Ｙ８７ｂに着地（流入）する位置を視認させないことで、その後の球の流下態様を予測し難くすることができ、経路形成部材Ｙ９０８７からベース板Ｊ６０の前方側へ球が放出される位置（球排出口Ｙ８６ｅ及び底面下方部Ｙ８７ｃ）に対する注目力を向上させることができる。

【１３７９０】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１４９実施形態では、背面側通路ユニットＹ９１００のワープ通路Ｙ９１０１から経路形成部材Ｙ９０８７側に放出された球が天面構成部Ｙ９０８７ｆ上に乗り上げるか否かで遊技者にとって有利不利が変化される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、天面構成部Ｙ９０８７ｆの左右端部がワープ通路Ｙ９１０１から排出される球のいずれの移動軌跡よりも上方側に位置されることで球が天面構成部Ｙ９０８７ｆ上に乗り上げる事象が生じ得ないように構成したり、天面構成部Ｙ９０８７ｆの形成を省略したり、しても良い。

【１３７９１】

この場合、球が天面構成部Ｙ９０８７ｆ上に乗り上げる事象の発生を防止することができ、経路形成部材Ｙ９０８７側に放出された球は必ず湾曲底面部Ｙ８７ｂを流下することになるので、湾曲底面部Ｙ８７ｂに対する注目力を向上させることができる。

【１３７９２】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５０実施形態では、入球口Ｊ７５に入球した球と、第２入球口Ｙ１００７６に入球した球とが背面側通路ユニットＹ１０１００内で合流する経路を流下し、ステージ経路Ｙ８７ｘに案内される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものでなく、ステージ経路Ｙ８７ｘに球を案内する経路が変位可能に構成され、その経路の変位により、入球口Ｊ７５と開放部Ｙ８７ａとを経路により連通させる状態と、第２入球口Ｙ１００７６と開放部Ｙ８７ａとを経路により連通させる状態と、を切り替え可能に構成しても良い。

【１３７９３】

この場合、入球口Ｊ７５と開放部Ｙ８７ａとを連通する状態における経路の傾斜よりも、第２入球口Ｙ１００７６と開放部Ｙ８７ａとを連通する状態における経路の傾斜の方が勾配が急（大）とされ、ステージ経路Ｙ８７ｘに流入する球の勢いを異ならせることができ、ステージ経路Ｙ８７ｘ上における遊技球の変位態様のバリエーションを増やすことができる。

【１３７９４】

これにより、ステージ経路Ｙ８７ｘに球を案内する経路の変位を演出に利用することができる。また、当該経路がベース板Ｊ６０ではなく、背面ケースＹ３００側に配設されていることから、経路を変位させるための駆動力を発生させる場合における駆動装置の振動がベース板Ｊ６０の正面側における領域に伝達されることを抑制することができる。

【１３７９５】

なお、入球口Ｊ７５と開放部Ｙ８７ａとを経路により連通させる状態と、第２入球口Ｙ１００７６と開放部Ｙ８７ａとを経路により連通させる状態と、の切り替えが生じた場合に、第３図柄表示装置Ｊ８１等の報知手段を利用した報知を実行するように構成しても良い。この場合の報知の内容は、連通される経路における勾配を報知しても良いし、状態の切り替えが生じたことのみを報知しても良い。報知により、遊技者の注目力を背面側通路ユニットＹ１０１００内の経路に集めることができる。

【１３７９６】

また、経路の切り替えは、経路内に球が無い場合にのみ生じるように構成しても良い。この場合、経路に球が進入してからの流下態様を安定させることができる。

【１３７９７】

逆に、経路の切り替えは、経路内における球の有無に関わらず生じるように構成しても良い。この場合、経路に球が進入してから経路の勾配が変化され得るので、経路に球が進入した後における経路に対する注目力の向上を図ることができると共に、経路を流下する

球の流下速度のバリエーションを更に増やすことができる。例えば、勾配が緩い状態の経路を球が流下途中である場合において経路の勾配が急（大）に切り替えられる際に、球が経路の入口付近にある場合と、球が経路の出口付近にある場合とで、勾配が急（大）となった影響を受ける期間が異なるため、各場合における球の流下態様が異なる。

【１３７９８】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５１実施形態では、規制部材Ｙ１１４５３の被当接円筒部Ｙ１１４５３ａがベース手段Ｙ１１４１０の挿通支持孔Ｙ１１４１５に回転可能に支持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、挿通支持孔Ｙ１１４１５よりも一回り大きい開口を形成し、その開口にベアリングを配設し、そのベアリングの内輪の内周面に被当接円筒部Ｙ１１４５３ａを嵌合させるようにしても良い。この場合、被当接円筒部Ｙ１１４５３ａと挿通支持孔Ｙ１１４１５とが擦れて摩耗する事態を避けることができ、耐久性を向上させることができる。

【１３７９９】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５１実施形態では、駆動装置Ｙ１１４５０の先端固定部材Ｙ１１４５２ａが被当接円筒部Ｙ１１４５３ａに対して外接可能に配置される（回転駆動体Ｙ１１４５２が被当接円筒部Ｙ１１４５３ａの外方に配置される）場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、先端固定部材Ｙ１１４５２ａが被当接円筒部Ｙ１１４５３ａに対して内接可能に配置される（回転駆動体Ｙ１１４５２が被当接円筒部Ｙ１１４５３ａの内方に配置される）位置関係で構成しても良い。

【１３８００】

この場合、外接可能に配置される場合に効果的な摩耗の防止の効果は薄れるものの、曲率の関係で、先端固定部材Ｙ１１４５２ａと被当接円筒部Ｙ１１４５３ａとの接触面積を増加させることができ、滑りを好適に防止することができる。

【１３８０１】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５１実施形態では、先端固定部材Ｙ１１４５２ａが被当接円筒部Ｙ１１４５３ａに対して近接離間する変位は、円柱形状部Ｙ１１４５４ａを中心とする回転移動方向の変位として構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、前後方向の直線変位でも良いし、前後方向と直交する平面に沿う（平行な）直線方向の変位でも良い。この場合、駆動装置Ｙ１１４５０を支持する構成として通常少なくとも２本の案内棒が必要となるため、支持機構の部材個数が増加する傾向となるが、駆動装置Ｙ１１４５０の姿勢を変化させることなく当接非当接を切り替えることができるので、駆動力伝達の安定化を図ることができる。

【１３８０２】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５２実施形態では、正面側立設部Ｙ８６ａと第２立設部Ｙ１２０８６ｈとの間の領域に電飾基盤Ｙ１２０８６ｋが配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、正面側立設部Ｙ８６ａと第２立設部Ｙ１２０８６ｈとから形成される領域を正面から覆う蓋状部が形成され、その蓋状部に図形や形状や模様を形成するようにしても良い。この場合、電飾基盤Ｙ１２０８６ｋによる発光が無くても、蓋状部に形成される図形や形状や模様によって、正面側立設部Ｙ８６ａと第２立設部Ｙ１２０８６ｈとから形成される領域における視覚的な演出効果を向上させることができる。なお、蓋状部を形成した上で、電飾基盤Ｙ１２０８６ｋを配設することはもちろん可能である。

【１３８０３】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５２実施形態では、電飾基盤Ｙ１２０８６ｋに配設される発光部の光が前方だけでなく上下左右方向にも広がって視認される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、正面側立設部Ｙ８６ａと第２立設部Ｙ１２０８６ｈとから形成される領域を正面から覆う蓋状部

が光透過性の材料から形成され、その蓋状部に光を屈折させる屈折部を形成することで、蓋状部を透過した光を特定の方向に進行させ、その他の方向への進行を抑制するように構成しても良い。屈折部によって屈折された光が揺動手段Ｙ７２０側へ向けて進行するように（第２立設部Ｙ１２０８６ｈと交差する方向に進行するように）屈折部を構成した場合、揺動手段Ｙ７２０と円形突部Ｙ５３３との当接位置側に光を集めることができ、揺動手段Ｙ７２０と円形突部Ｙ５３３との当接位置に対する注目力を向上させることができる。

【１３８０４】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５２実施形態では、回転手段Ｙ４８０が退避状態とされる場合において回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３の少なくとも一部が視認され得る場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転手段Ｙ４８０が退避状態とされる場合において回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３の全部が視認されないように隠されるよう第２立設部Ｙ１２０８６ｈや電飾基盤Ｙ１２０８６ｋを設計しても良い。この場合、回転手段Ｙ４８０が退避状態とされる場合における回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３の位置を把握し難くすることができ、揺動手段Ｙ７２０と円形突部Ｙ５３３との当接位置に対する注目力を向上させることができる。

【１３８０５】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５２実施形態では、回転動作部材Ｙ５３０が樹脂材料から形成されており、回転動作部材Ｙ５３０よりも前方側において電飾基盤Ｙ１２０８６ｋのＬＥＤからの光が照射される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部Ｙ５３２が光透過性の樹脂材料から形成される一方で円形突部Ｙ５３３を金属材料から円筒形状に形成すると共に、回転動作部材Ｙ５３０の後方側に電飾基盤を一体的に配設し、その電飾基盤に配設されるＬＥＤからの光が円形突部Ｙ５３３の内部を前後方向（後方側から前方側）へ進行するように構成しても良い。

【１３８０６】

この場合、円形突部Ｙ５３３の内部を通過する光を円形突部Ｙ５３３の外周面から逃がすことなく、円形突部Ｙ５３３を構成する金属で反射させて、円形突部Ｙ５３３の前方側の開放部（円筒形状の内周側）から出射させることができるので、円形突部Ｙ５３３の前方側の開放部において光を局所的に集中させ、視認される光を効率的に明るくさせることができる。

【１３８０７】

なお、円形突部Ｙ５３３の内部に光を照射するＬＥＤは、必ずしも回転動作部材Ｙ５３０と一体的に構成される必要はなく、円形突部Ｙ５３３よりも後方側に配設されるものであれば何でも良い。例えば、回転手段Ｙ４８０の内部に電飾基盤が配設される場合において、その電飾基盤のＬＥＤから照射される光が円形突部Ｙ５３３の内部に進入するように構成しても良い。また、上述のＬＥＤが省略されても良い。この場合、部品コストの低減を図ることができる。

【１３８０８】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５２実施形態では、第２立設部Ｙ１２０８６ｈや電飾基盤Ｙ１２０８６ｋによって正面視で円形突部Ｙ５３３の少なくとも一部が隠される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２立設部Ｙ１２０８６ｈの基端側の近傍位置から第２立設部Ｙ１２０８６ｈとは反対の後方側に延設される壁部であって、円形突部Ｙ５３３の移動軌跡と干渉する位置においては凹設形成される形状の後方延設壁部を構成しても良い。

【１３８０９】

この場合、円形突部Ｙ５３３が正面視で第２立設部Ｙ１２０８６ｈよりも下側に位置する場合において、斜め上から見下ろす方向視で第２立設部Ｙ１２０８６ｈの後方側を視認された場合であっても、後方延設壁部によって円形突部Ｙ５３３の上方側が隠されることにより、円形突部Ｙ５３３の位置を把握し難くすることができる。

【１３８１０】
なお、後方延設壁部は、非透過性の樹脂材料や金属材料から形成しても良いし、光透過性の樹脂材料から形成しても良い。前者の場合には、円形突部Ｙ５３３の位置の把握を困難として、円形突部Ｙ５３３と揺動手段Ｙ７２０との当接位置に対する注目力を向上させることができる。後者の場合には、若干視認し難くはされるものの、後方延設壁部を通して円形突部Ｙ５３３を視認することができるので、後方延設壁部に対する注目力についても向上を図ることができる。
【１３８１１】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５２実施形態では、電飾基盤Ｙ１２０８６ｋのＬＥＤを常時発光させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、通常はＬＥＤが消灯されており、円形突部Ｙ５３３が変位して揺動手段Ｙ７２０と当接する場合に、発光するように制御しても良い。これにより、円形突部Ｙ５３３が変位して揺動手段Ｙ７２０と当接するタイミングにおいて円形突部Ｙ５３３付近の領域を明るくさせることができ、円形突部Ｙ５３３や揺動手段Ｙ７２０に対する注目力を向上させることができる。
【１３８１２】
なお、電飾基盤Ｙ１２０８６ｋのＬＥＤの制御は、点灯と消灯とに限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、回転動作部材Ｙ５３０の停止状態においてＬＥＤの発光は継続されており、回転動作部材Ｙ５３０の回転動作によって、円形突部Ｙ５３３が揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４に接近するにつれてＬＥＤの発光強度は徐々に明るくされ、また、円形突部Ｙ５３３が揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４から遠ざかるにつれてＬＥＤの発光強度は徐々に暗くされるように制御しても良い。
【１３８１３】
この場合、回転動作部材Ｙ５３０が停止している状態では電飾基盤Ｙ１２０８６ｋの光を球の発射強度の目安として活用することができる一方で、回転動作部材Ｙ５３０が回転動作される状態では電飾基盤Ｙ１２０８６ｋの光を円形突部Ｙ５３３と揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４との当接の目安として活用することができるため、電飾基盤Ｙ１２０８６ｋの光を異なる役割として兼用することができる。
【１３８１４】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５２実施形態では、円形突部Ｙ５３３が第１の途中位置や第２の途中位置で停止して、逆回転される制御態様が用意される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１の途中位置や第２の途中位置で停止した後で、同様の回転方向で動作を開始する制御態様が代わりに又は追加で用意されても良い。この場合、停止が生じた後に再開される動作を予測し難くすることができ、円形突部Ｙ５３３及び揺動手段Ｙ７２０への注目力を向上させることができる。
【１３８１５】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５２実施形態では、電飾基盤Ｙ１２０８６ｋの配置を、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３が揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４と非当接の位置では円形突部Ｙ５３３を隠し、円形突部Ｙ５３３が延設伝達部Ｙ７２４と当接する位置では円形突部Ｙ５３３を隠さない位置に設定することで、視認により当接を把握させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、円形突部Ｙ５３３と延設伝達部Ｙ７２４とが当接し揺動手段Ｙ７２０の変位が生じた場合、又は、当接により変位した延設伝達部Ｙ７２４が当接の解除後に自重により元の姿勢に戻った場合に、衝突音や効果音を生じさせる音声発生手段を構成しても良い。
【１３８１６】
この場合、音により、揺動手段Ｙ７２０の変位が生じたことや、その前提として揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４と回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３との衝突が生じたことを、遊技者に認識させ易くすることができる。

【１３８１７】
なお、スピーカー等の音声発生手段から音を出力する制御としては、例えば、突設部Ｙ７１６の表面と規制部Ｙ７２５の表面とに金属膜を塗布し、突設部Ｙ７１６の表面と規制部Ｙ７２５の表面との接触、離間により通電の切り替えがされる回路を構成し、回路の通電状態の切り替えが生じるタイミングで音声を出力するように制御するようにしても良い。
【１３８１８】
また、円形突部Ｙ５３３、延設伝達部Ｙ７２４、突設部Ｙ７１６、規制部Ｙ７２５、の少なくとも一つを、衝突音が大きくなり易い材質で構成しても良い。この場合、衝突時に生じる音を大きくすることができる。
【１３８１９】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５３実施形態では、圧力付与部Ｙ１３４３２ｇ４が樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、圧力付与部Ｙ１３４３２ｇ４や、大型ギアＹ１３４３２の中心開口部Ｙ１３４３２ｆ１が金属材料から形成されても良い。この場合、当接部位同士の摩耗を抑えることができ、大型ギアＹ１３４３２の耐久性を向上させることができる。
【１３８２０】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５３実施形態では、回転手段Ｙ４８０の移動状態においてモータギアＹ４３３を正面視時計回り方向に過回転させることでずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆとギア構成部材Ｙ１３４３２ｇとの回転方向の位置関係をずらす（ずれていた場合は戻す）ことができることで、回転手段Ｙ４８０を、上述の第１の場合における状況で移動状態に到達した後の回転手段Ｙ４８０を退避状態にさせてから、上述の第２の場合における状況で移動状態へ向けて変位させるまでの間隔を短くすることができる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転手段Ｙ４８０の退避状態においてモータギアＹ４３３を過回転させることで、ずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆとギア構成部材Ｙ１３４３２ｇとの回転方向の位置関係をずらす（ずれていた場合は戻す）ように制御しても良い。
【１３８２１】
回転手段Ｙ４８０の退避状態においてモータギアＹ４３３を正面視反時計回りに過回転させる場合、大型ギアＹ１３４３２の円柱部材Ｙ４３２ｂが回転手段Ｙ４８０の先端円弧部Ｙ４８４ａに進入し、端部に押し付けられた状態でずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆの回転がせき止められることで、ずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆに対してギア構成部材Ｙ１３４３２ｇの位置がずれる。
【１３８２２】
円柱部材Ｙ４３２ｂが先端円弧部Ｙ４８４ａに進入した状態では、回転手段Ｙ４８０が下降変位する場合における先端円弧部Ｙ４８４ａの変位方向と円柱部材Ｙ４３２ｂが下方へ変位する場合の変位方向とが合致しておらず、回転手段Ｙ４８０の下降変位が開始されない。これにより、回転手段Ｙ４８０を退避状態で維持させることができる。
【１３８２３】
大型ギアＹ１３４３２の円柱部材Ｙ４３２ｂが回転手段Ｙ４８０の先端円弧部Ｙ４８４ａに進入した状態における過回転を生じさせてから、モータギアＹ４３３を逆方向（正面視時計回り方向）に回転させる場合において、円柱部材Ｙ４３２ｂが先端円弧部Ｙ４８４ａから退避するまでは回転手段Ｙ４８０の退避状態からの変位は開始されないところ、ずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆとギア構成部材Ｙ１３４３２ｇとのずれの状況によっては、回転手段Ｙ４８０が変位開始される前に、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３と揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４との当接が生じ得る。即ち、回転手段Ｙ４８０の変位が生じていない場合においても、揺動手段Ｙ７２０と回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３との当接位置に対する注目力を向上させることができる。
【１３８２４】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５３実施形態では、大型ギアＹ１３４３２が、ずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆとギア構成部材Ｙ１３４３２ｇとで分割され、互いに滑り回転可能に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、後端ギア部材Ｙ５２０の回転本体と、その回転本体の外周に形成されるギア構成部とが同様に分割され、互いに滑り回転可能に構成されても良いし、又は、回転動作部材Ｙ５３０の被支持部Ｙ５３１と板状部Ｙ５３２とが同様に分割され、互いに滑り回転可能に構成されても良い。

【１３８２５】

この場合、回転動作部材Ｙ５３０の動作速度が低速の場合には、揺動手段Ｙ７２０の自重による慣性が回転動作部材Ｙ５３０からの荷重を上回り、滑りが生じることで、揺動手段Ｙ７２０の姿勢変化を生じさせない一方で、回転動作部材Ｙ５３０の動作速度が高速の場合には、勢いよく揺動手段Ｙ７２０に荷重が伝達されることにより、回転動作部材Ｙ５３０からの荷重が揺動手段Ｙ７２０の自重による慣性を上回り、揺動手段Ｙ７２０が起立する方向への姿勢変化を生じさせる。また、低速と高速との間の中速の場合には、高速の場合に比較して揺動手段Ｙ７２０の姿勢変化量が抑えられる。

【１３８２６】

即ち、回転動作部材Ｙ５３０の動作速度の大小に対応して、揺動手段Ｙ７２０の姿勢変化量を変化させることができ、揺動手段Ｙ７２０の視認態様のバリエーションを増やすことができる。

【１３８２７】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５４実施形態では、前側棒状部材Ｙ１４５１５が回転変位可能に支持される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、前側棒状部材Ｙ１４５１５を回転変位不能に支持するようにしても良い。この場合、後側棒状部材Ｙ１４５１１の回転角度に対応した前後変位量で前側棒状部材Ｙ１４５１５の変位を生じさせることができる。これにより、回転手段Ｙ４８０の上下位置と揺動手段Ｙ７２０の上下位置との関係がずれることを避けることができる。

【１３８２８】

この場合において、前側棒状部材Ｙ１４５１５の前後変位を支持する部位に車輪（コロ）を設けても良い。この場合、摩擦の影響を低減しつつ、前側棒状部材Ｙ１４５１５の変位を案内することができる。

【１３８２９】

前側棒状部材Ｙ１４５１５の前後方向変位は、揺動手段Ｙ７２０との当接が生じる前において勢いよく生じさせることが可能であり、当接時には、その勢いが抑制されるよう構成される。これにより、揺動手段Ｙ７２０の慣性力を上回る荷重を好適に生じさせることで揺動手段Ｙ７２０の変位開始をスムーズにすることができると共に、揺動手段Ｙ７２０が過剰に変位する事態を避けやすくすることができる。

【１３８３０】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５４実施形態では、前側棒状部材Ｙ１４５１５の前後位置を変化させるためのネジ形状部が後側棒状部材Ｙ１４５１１に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、前側棒状部材Ｙ１４５１５と後側棒状部材Ｙ１４５１１とが回転方向では相対変位しないように構成され、前側棒状部材Ｙ１４５１５に固定される前後動作部材Ｙ１４５３０の後端部の内周側に雌ネジが形成され、その雌ネジと噛み合う雄ネジがベース手段Ｙ７１０の前面側に形成されるようにしても良い。

【１３８３１】

この場合、後端ギア部材Ｙ５２０の回転によって後側棒状部材Ｙ１４５１１及び前側棒状部材Ｙ１４５１５が回転されると、前後動作部材Ｙ１４５３０の雌ネジとベース手段Ｙ７１０の雄ネジとが締まる（ゆるむ）ことで、前後動作部材Ｙ１４５３０に前後変位を生じさせるよう構成することができる。

【１３８３２】
この構成によれば、前側棒状部材Ｙ１４５１５と後側棒状部材Ｙ１４５１１を分離して構成する場合に限らず、金属棒部材Ｙ５１０を採用し、金属棒部材Ｙ５１０の前端側において、前後動作部材Ｙ１４５３０を金属棒部材Ｙ５１０に対して回転方向では相対変位しないように配設する（例えば、金属棒部材Ｙ５１０の端部をＤ字形状断面で形成し、その断面よりも若干大きなＤ字形状断面の挿通孔を前後動作部材Ｙ１４５３０に形成し、互いに隙間ばめで嵌合させる）ようにしても実現させることができる。
【１３８３３】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５４実施形態では、揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４と当接する部位である前後動作部材Ｙ１４５３０が前後方向に変位可能とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、揺動手段Ｙ７２０の延設伝達部Ｙ７２４と当接する部位として回転動作部材Ｙ５３０（Ｙ２５３０，Ｙ３５３０，Ｙ４５３０）を採用した場合において、連結手段Ｙ１４５１０を採用することで、回転動作部材Ｙ５３０（Ｙ２５３０，Ｙ３５３０，Ｙ４５３０）が前後方向に変位可能となるように構成しても良い。
【１３８３４】
この場合において、当接により揺動手段Ｙ７２０を変位させる場合の回転方向では、前後方向の後方側に変位され、当接により揺動手段Ｙ７２０を変位させない場合の回転方向では、前後方向の前方側に変位されることが好ましい。
【１３８３５】
当接により揺動手段Ｙ７２０を変位させる場合の回転方向において後方側に変位されることにより、回転動作部材Ｙ５３０（Ｙ２５３０，Ｙ３５３０，Ｙ４５３０）の後端部を揺動ユニットＹ７００のベース手段Ｙ７１０の前面で支持することができる。これにより、回転動作部材Ｙ５３０（Ｙ２５３０，Ｙ３５３０，Ｙ４５３０）が揺動手段Ｙ７２０からの荷重を受けて回転軸に対して姿勢変化する事態を避けやすくすることができる。
【１３８３６】
当接により揺動手段Ｙ７２０を変位させない場合の回転方向において前方側に変位されることにより、回転動作部材Ｙ５３０（Ｙ２５３０，Ｙ３５３０，Ｙ４５３０）と揺動ユニットＹ７００のベース手段Ｙ７１０との間で抵抗が生じることを回避することができるので、後端ギア部材Ｙ５２０と歯合されるギア群Ｙ４３０の動作抵抗を低減し、回転手段Ｙ４８０の変位に要する動作力を低減させることができる。
【１３８３７】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５４実施形態では、揺動手段Ｙ７２０が前後方向に変位される前後動作部材Ｙ１４５３０に当接される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転手段Ｙ４８０と連動する部材として左右方向に変位する左右動作部材が配設され、その左右動作部材が揺動手段Ｙ７２０と当接して、揺動手段Ｙ７２０の変位を生じさせるようにしても良い。
【１３８３８】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５５実施形態では、揺動手段Ｙ７２０とは異なる形状の揺動手段Ｙ１５７２０を採用して、回転動作部材Ｙ５３０が揺動手段Ｙ１５７２０のくの字形状の外側から当接する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、揺動手段Ｙ７２０を採用し、回転動作部材Ｙ５３０の配置を変えることで、くの字の外側から当接する構成としても良い。
【１３８３９】
即ち、回転動作部材Ｙ５３０を揺動手段Ｙ７２０の上側に配置し、非当接な状態では揺動手段Ｙ７２０が起き上がり方向に付勢されるように構成され、回転動作部材Ｙ５３０と揺動手段Ｙ７２０とが当接することで揺動手段Ｙ７２０が傾倒変位されるように構成しても良い。この場合、非当接な状態では揺動手段Ｙ７２０をセンターフレームＹ８６の外方側に退避させておき、回転動作部材Ｙ５３０との当接によりセンターフレームＹ８６の内方側に張出変位させる変位態様を構成可能であって、演出効果の向上を図ることができる

。
【１３８４０】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５５実施形態では、大型ギアＹ１３４３２を採用し、検出センサＹ４２１によってずれ許容部材Ｙ１３４３２ｆの回転位置は検出できてもギア構成部材Ｙ１３４３２ｇが含まれるギア群Ｙ４３０で歯合するギアの回転位置は検出できない事態に対して、第１検出センサＹ１５０８６ｓ及び第２検出センサＹ１５０８６ｔによって回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３を検出することで対応する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ギア構成部材Ｙ１３４３２ｇの後面側から被検出部が突設され、その被検出部を検出する検出センサがベース手段Ｙ４１０の背面側に配設されるように構成しても良い。
【１３８４１】
この場合、検出センサの配置位置を後方側に位置させるとともに、検出センサをベース手段Ｙ４１０及びギア構成部材Ｙ１３４３２ｇによって隠すことができるので、検出センサによって装飾性が落ちて演出効果が低下する事態を避けることができる。
【１３８４２】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５５実施形態では、第１検出センサＹ１５０８６ｓ及び第２検出センサＹ１５０８６ｔの配置位置を、回転手段Ｙ４８０を移動状態にしてモータギアＹ４３３を過回転させた場合に回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３を検出する位置として設定する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、検出センサの配置位置を、回転手段Ｙ４８０を退避状態にしてモータギアＹ４３３を過回転させた場合に回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３を検出する位置として設定しても良いし、これらを組み合わせても良い。
【１３８４３】
なお、回転手段Ｙ４８０を退避状態にしてモータギアＹ４３３を過回転させた後で回転手段Ｙ４８０を変位させる場合、モータギアＹ４３３の逆回転を開始しても先端円弧部Ｙ４８４ａを通る間は回転手段Ｙ４８０の変位が開始されない（一方で回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３は回転開始している）ことを考慮して検出センサの配置を設定することが好ましい。
【１３８４４】
この場合においても、検出センサの配置は、円形突部Ｙ５３３が隠される位置であったり、又は、揺動手段Ｙ１５７２０の延設伝達部Ｙ７２４との当接位置を避けた位置であったりするように設定することが好ましい。これにより、円形突部Ｙ５３３を隠すための手段を検出センサを隠す手段として兼用することができ、検出センサによって延設伝達部Ｙ７２４と円形突部Ｙ５３３との当接が隠されることを避けることができる。
【１３８４５】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５５実施形態では、第１検出センサＹ１５０８６ｓ及び第２検出センサＹ１５０８６ｔの配置位置を、円形突部Ｙ５３３が揺動手段Ｙ１５７２０と非当接な位置で検出可能な位置として設定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、円形突部Ｙ５３３が揺動手段Ｙ１５７２０と当接している位置で検出可能に構成しても良い。なお、検出センサの配置は正面視で揺動手段Ｙ１５７２０と重ならない位置に限られるものではなく、例えば、円形突部Ｙ５３３が揺動手段Ｙ１５７２０の前面よりも更に前方まで長く突出され、その先端側を検出センサが検出する位置関係とすることで、正面視で揺動手段Ｙ１５７２０と重なる位置においても検出センサを配置することができる。
【１３８４６】
この場合、円形突部Ｙ５３３によって変位された揺動手段Ｙ１５７２０のその瞬間における姿勢を、検出により正確に特定できる。検出されたタイミングで、電飾基盤Ｙ１２０８６ｋのＬＥＤの発光態様を変化させる制御（例えば、消灯状態から点灯させる制御や、点灯状態から点滅させる制御や、発光色を変化させる制御）を実行させることで、遊技者の注目を円形突部Ｙ５３３及び延設伝達部Ｙ７２４を有する揺動手段Ｙ１５７２０に集め

ることができ、当接による揺動手段Ｙ１５７２０の変位を遊技者が見逃す事態を回避し易くすることができる。

【１３８４７】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５５実施形態では、第１検出センサＹ１５０８６ｓ及び第２検出センサＹ１５０８６ｔを、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３を検出する検出センサとして構成する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、揺動手段Ｙ７２０に被検出部を設け、その被検出部を検出する検出センサを追加することで、揺動手段Ｙ７２０の変位を検出可能に構成しても良い。この場合、揺動手段Ｙ７２０との当接位置を避けて円形突部Ｙ５３３を検出する位置を設定する必要がある場合と異なり、揺動手段Ｙ７２０の円形突部Ｙ５３３との当接が生じない側（例えば、規制部Ｙ７２５側）であれば任意の位置に検出する位置を設定することができるので、設計自由度を向上させることができる。

【１３８４８】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５５実施形態では、第１検出センサＹ１５０８６ｓ及び第２検出センサＹ１５０８６ｔにより、回転手段Ｙ４８０の姿勢を決定する大型ギアＹ１３４３２の円柱部材Ｙ４３２ｂと、回転動作部材Ｙ５３０の円形突部Ｙ５３３との位相関係のずれ具合を検出可能に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものでは無い。例えば、第１検出センサＹ１５０８６ｓ及び第２検出センサＹ１５０８６ｔによる検出順序および検出間隔に基づいて、回転動作部材Ｙ５３０の回転方向および回転速度を検出可能に構成しても良い。この場合、駆動モータＹ４５０の動作方向や動作速度から想定される回転動作部材Ｙ５３０の動作方向や動作速度で回転動作されているか否かを検出することで、回転動作部材Ｙ５３０の動作が適切に実行されているか否かを把握することが可能となる。これにより、大型ギアＹ１３４３２の内部における滑り動作可能な部位の摺動抵抗が過度に増大し、駆動モータＹ４５０の負荷が過剰となっていることを制御により把握し、異常な発熱が生じる前に駆動モータＹ４５０を停止制御することで、故障を未然に防ぐことができる。

【１３８４９】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５６実施形態では、第３図柄表示装置Ｊ１６０８１や上変位ユニットＹ４００が後方を透視させない態様で構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３図柄表示装置Ｊ１６０８１や上変位ユニットＹ４００が後方を透過可能な態様で構成しても良い。例えば、第３図柄表示装置Ｊ１６０８１を透明液晶で構成したり、又は、上変位ユニットＹ４００の構成の大半を光透過性の樹脂材料から構成したりするようにしても良い。この場合、背面側通路ユニットＹ１６１００を上昇または流下する球を視認させることができる。

【１３８５０】

例えば、上変位ユニットＹ４００が全て透過性の部材で構成される場合、第３図柄表示装置Ｊ１６０８１の上端部を上側にはみ出した位置において球の視認が可能となる。

【１３８５１】

また、第３図柄表示装置Ｊ１６０８１を、表示態様によって、後方側を透視可能な状態と、透視させない状態とを切替可能に構成しても良い。この場合、第３図柄表示装置Ｊ１６０８１の表示態様の制御によって、背面側通路ユニットＹ１６１００を上昇または流下する球を視認させる状態と、視認させない状態とを切り替えることができる。

【１３８５２】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５６実施形態では、後壁部Ｙ９０８８が光透過性の樹脂材料から形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、非透過性の材料（樹脂材料、金属材料、又はその他の材料）から形成されても良い。この場合、連通孔Ｙ９０８８ａの後方側に位置する球を視認し難くして、連通孔Ｙ９０８８ａを前方側に通過した場合に球が視認し易くなる構成とすることができる。これにより、連通孔Ｙ９０８８ａの前方側の領域に対する注目力の向上

を図ることができる。
【１３８５３】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５６実施形態では、切替可動装置Ｙ１６１８０の板状部材Ｙ１６１８２が起立姿勢と傾倒姿勢とが１秒間隔で切り替えられるよう制御される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、切替可動装置Ｙ１６１８０の板状部材Ｙ１６１８２が、傾倒姿勢を１秒間維持した後で起立姿勢を１秒未満の期間（例えば、０．１秒）維持する動作を繰り返す制御が可能となるように構成しても良い。この場合、第１通路形成部Ｙ１６１７１に球が流入する確率を、左側通路形成部Ｙ１６１７２又は右側通路形成部Ｙ１６１７３に球が流入する確率の１／１０とすることができる。このように、切替可動装置Ｙ１６１８０の板状部材Ｙ１６１８２の制御態様の設定により、第１通路形成部Ｙ１６１７１への流入のし易さを調整することができる。
【１３８５４】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５６実施形態では、背面側通路ユニットＹ１６１００へ球が流入される下方入球口Ｙ１６０７６が第３図柄表示装置Ｊ１６０８１の下縁Ｊ１６０８１ｂよりも下方側に位置する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、背面側通路ユニットＹ１６１００へ球が流入される入球口が第３図柄表示装置Ｊ１６０８１の左右側に位置しても良いし、第３図柄表示装置Ｊ１６０８１の上方側（センターフレームＹ８６の上方側）に位置しても良い。
【１３８５５】
特に、入球口がセンターフレームＹ８６の上方側に位置する場合、入球口から合流路形成部Ｙ１６１５０までを傾斜流路で連結することで、入球口に流入した球を流下により合流路形成部Ｙ１６１５０まで到達させることが可能となるので、球を上昇させるためのスクリュー部材Ｙ９１３０及び駆動装置Ｙ９１４０が不要となり、これらを省略することができる。
【１３８５６】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５６実施形態では、案内突条部Ｙ１６１１２によって球が鉛直上方に案内される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球が上昇傾斜する方向に案内されるように構成しても良い。この場合において、合流路形成部Ｙ１６１５０側（左右内側）に倒れる傾斜とすることで、上昇変位時における球の左右位置を合流路形成部Ｙ１６１５０側に寄せることができる。これにより、最小限の上昇距離で球を合流路形成部Ｙ１６１５０に流入させることができる。
【１３８５７】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５６実施形態では、下方入球口Ｙ１６０７６から通路形成部Ｙ１６１９１が後方側に延びており、ワープ通路Ｙ１６１０１を球が第３図柄表示装置Ｊ１６０８１の下方を後方側へ通過するように流下する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、入球口から延びる経路が背面ケースＹ３００の左右方向外方側へ延び、第３図柄表示装置Ｊ１６０８１の左右側を迂回して後方側へ延びてから上方へ延設され、合流路形成部Ｙ１６１５０に接続されるように構成しても良い。この場合、入球口が第３図柄表示装置Ｊ１６０８１の左右側に配設される場合であっても、入球口から延びる経路が背面ケースＹ３００の左右方向外方側に追いやられることで、経路を通過する球によって第３図柄表示装置Ｊ１６０８１の表示が隠される事態を避けることができる。
【１３８５８】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５７実施形態では、第３図柄表示装置Ｊ１７０８１が左右方向に変位可能に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３図柄表示装置Ｊ１７０８１が上下方向に変位可能に構成しても良い。この場合、第３図柄表示装置Ｊ１７０８１が下方側に配置されるよりも上方側に配置される場合の方が、経路形成部材Ｙ９０８７上を流下する球に第

３図柄表示装置Ｊ１７０８１の表示が隠される事態を回避しやすくすることができる。なお、左右方向と上下方向とを組み合わせた方向（全方位）に変位可能に構成しても良い。

【１３８５９】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５８実施形態では、第３図柄表示装置Ｊ１８０８１の分裂状態において、各表示面で対応する表示を行う場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、各表示面で異なる表示を行っても良い。例えば、左側表示装置Ｊ１８０８１Ｌの表示面では第３図柄の変動表示を行い、右側表示装置Ｊ１８０８１Ｒの表示面では遊技の状態（通常状態、大当たり遊技状態、右打ち遊技状態など）を示唆する表示（右向きの矢印の表示、「右打ち」との文字表示、各状態に対応した記号の表示など）を行うようにしても良い。この場合、各表示面での表示の内容が異なるため、表示の境界でずれが生じていても遊技者に与える違和感を最小限とすることができる。

【１３８６０】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５８実施形態では、開放部Ｙ１６１２１を球が通過したことが検出されることに基づいて第３図柄表示装置Ｊ１８０８１が合体状態から分裂状態に切り替えられるように制御される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３図柄表示装置Ｊ１８０８１の状態の切り替えは、遊技者が操作可能な操作部材の操作により任意（又は特定）のタイミングで可能となるように構成しても良い。

【１３８６１】

この場合、例えば、ワープ通路Ｙ１６１０１における球の流下態様を視認することを望まず、ワープ通路Ｙ１６１０１を通過した球の有利不利のみを知りたい遊技者は、第３図柄表示装置Ｊ１８０８１を合体状態で維持させることでワープ通路Ｙ１６１０１が第３図柄表示装置Ｊ１８０８１で隠される状態を維持することができ、球が連通孔Ｙ９０８８ａを前方側に通過して初めて球の有利不利を知ることができるという、望み通りの遊技態様を実現することができる。

【１３８６２】

また、操作部材の操作によって第３図柄表示装置Ｊ１７０８１，Ｊ１８０８１の位置を上下左右に調整可能に構成しても良い。この場合、遊技者は第３図柄表示装置Ｊ１７０８１，Ｊ１８０８１の表示がストレスなく視認可能な位置となるように第３図柄表示装置Ｊ１７０８１，Ｊ１８０８１の配置を予め調整することで、遊技時のストレスを低減することができ、長時間の遊技を行うことが可能となる。

【１３８６３】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５９実施形態では、球受け回転体Ｙ１９１８０が球を流下させる方向に駆動力により回転動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球受け回転体Ｙ１９１８０は、球受け部Ｙ１９１８２に球が進入していない場合には球受け部Ｙ１９１８２が前方開口部Ｙ１１１ａと対向する姿勢で停止され、球受け部Ｙ１９１８２に球が進入すると球の重みによって球受け回転体Ｙ１９１８０の回転動作が生じ、その回転動作は球を放出する回転位置まで継続されるように構成しても良い。

【１３８６４】

この場合、球の重みによって回転動作される場合の回転速度が、球が放出された後（球受け部Ｙ１９１８２に球が進入していない状態）の回転速度よりも高速とされ、球受け回転体Ｙ１９１８０の回転を複数の速度パターンで生じさせることができる。

【１３８６５】

なお、球受け回転体Ｙ１９１８０の回転方向として、球の重みによる回転の方向と、球が放出された後の回転方向とは、同方向とされても良いし、逆方向（往復動作）とされても良い。同方向とされる場合には、放出前の球の重みによる惰性が球の放出後も残ることで回転が継続され、球受け部Ｙ１９１８２が前方開口部Ｙ１１１ａと前後方向で合う姿勢で回転を停止させるストッパーやブレーキが作用するように構成すれば機能を損なうこと

はない。
【１３８６６】
逆方向とされる場合には、球受け回転体Ｙ１９１８０の重心設定により、球受け部Ｙ１９１８２に球が位置されていない場合において球受け部Ｙ１９１８２が前方開口部Ｙ１１１ａと前後方向で合う位置となるまで正面視時計回り（球を流下させる方向とは逆方向）に回転変位するよう構成すれば機能を損なうことは無い。
【１３８６７】
なお、球受け回転体Ｙ１９１８０の回転変位は、駆動力のみで完結する変位として設計されても良いし、駆動力と球の重みとを利用した変位として設計されても良いし、駆動力無しでも変位可能となるように設計されても良い。
【１３８６８】
また、球受け部Ｙ１９１８２が複数ある場合に限られず、球受け部Ｙ１９１８２が単数で構成されても良い。この場合、球受け部Ｙ１９１８２に球が進入する位置と、球受け部Ｙ１９１８２から球が放出される位置との設計自由度を向上させることができる。
【１３８６９】
また、前方開口部Ｙ１１１ａを通過する球の経路の下降傾斜の度合いを大きくすることで、球の流入速度（上下方向成分）を球受け回転体Ｙ１９１８０の回転方向に作用させることができる。即ち、回転軸の左側に位置する球受け部Ｙ１９１８２への球の流入速度の違いを、球受け回転体Ｙ１９１８０の回転速度の違いに反映させることができ、球の流下態様のバリエーションを増加させることができる。
【１３８７０】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５９実施形態では、出没動作装置Ｙ１９１６０の上面により案内される経路が元のワープ通路Ｙ１０１の下方側に位置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ワープ通路Ｙ１０１の上方側に分岐する上昇傾斜経路が構成され、出没動作装置Ｙ１９１６０が前方に突出している場合には出没動作装置Ｙ１９１６０の上面により上昇傾斜経路側に球が案内されるように構成され、上昇傾斜経路側に案内された球の内、勢いの弱い球は元のワープ通路Ｙ１０１に戻される合流路が形成され、上昇傾斜経路側に案内された球の内、勢いの強い球はワープ通路Ｙ１０１を通過する場合よりも有利な到達位置（例えば、天面構成部Ｙ９０８７ｆの上面側）に到達し得るように構成されても良い。
【１３８７１】
この場合、ワープ通路Ｙ１０１に進入した球が、不利側であっても経路形成部材Ｙ８７に到達し、あわよくば有利な到達位置（例えば、天面構成部Ｙ９０８７ｆの上面側）に到達するように構成されるため、ワープ通路Ｙ１０１に進入した球が経路形成部材Ｙ８７よりも不利な経路側（例えば、経路構成部Ｙ８１５０により形成される経路側）に流下される可能性がある場合に比較して、ワープ通路Ｙ１０１に進入した球に対する注目力を向上させることができる。
【１３８７２】
上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５９実施形態では、背面側通路ユニットＹ１９１００の前側部を構成する正面板Ｙ１１０が光透過性の樹脂材料から形成されており、内部を流下する球を視認可能とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、通路形成部Ｙ１１１を流下する球を視認不能となるように正面板Ｙ１１０の透過性が設計される（例えば、非透過の塗料を塗ったり、非透過のシートを張り付けたりする）一方で、経路構成部Ｙ８１５０及び第２経路構成部材Ｙ１９１７３を一例とするワープ通路Ｙ１０１から逸れた経路を流下する球が視認可能とされるように構成しても良い。この場合、第２経路構成部材Ｙ１９１７３を上昇移動する球が減速されながら移動するため、視認可能な領域を通過する球を遊技者が見失う事態を回避し易くすることができる。
【１３８７３】
また、上述の視認性の関係を逆転させても良い。この場合、開口部Ｙ８１４０に落下し

てから第２経路構成部材Ｙ１９１７３を上昇してワープ通路Ｙ１０１に戻るまでの間において球を視認不能となっており、球がどのように移動しているのか予想がつかない分、ワープ通路Ｙ１０１に球が戻った場合に興趣の向上を図ることができる。

【１３８７４】

上記第１４０実施形態から第１５９実施形態では、特に上記第１５９実施形態では、背面側通路ユニットＹ１９１００の前側部を構成する正面板Ｙ１１０が光透過性の樹脂材料から形成されており、内部を流下する球を視認可能とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、正面板Ｙ１１０、経路構成部Ｙ８１５０の前側部および第２経路構成部材Ｙ１９１７３の前側部が非透過の材料から構成され、内部を視認不能に構成され、経路形成部材Ｙ８７側に球が放出されて初めて球を視認可能となるように構成しても良い。この場合、入球口Ｊ７５よりも、経路形成部材Ｙ８７に注目させ易くすることができ、遊技者の視線を遊技盤Ｊ１３の左右中央側へ誘導させることができる。

【１３８７５】

また、例えば、正面側に非透過のシールが貼り付けられたり、非透過の部材が重ねられることによって、経路構成部Ｙ８１５０により形成される経路が一時的に視認不能とされる一方、張出部Ｙ８６ｃと重なった位置においても開口部Ｙ８１４０の上側を左右方向に通過した後の球が常に視認可能とされるように構成しても良い。この場合、開口部Ｙ１９１７２を飛び越えて球が跳ねる可能性のある位置や、ワープ通路Ｙ１０１と経路形成部材Ｙ８７との連結部分における段差によって球が跳ねる可能性のある位置が視認可能となり、球の流下態様の異常や、球詰まりが生じた場合に、早期発見を図ることができる。

【１３８７６】

また、例えば、開口部Ｙ８１４０で分岐されるいずれの経路を流下する球についても、視認不能とされる区間を構成するようにしても良い。この場合、視認不能とされた球が離れた位置において再び視認可能となる態様を構成でき、球が瞬間移動したかのように見せることで遊技者に驚きを提供することができる。更に、視認不能とされた球が再び視認可能となる位置に対する遊技者の注目力を向上させ、遊技者の視線を離れた位置に誘導することができる。

【１３８７７】

また、例えば、開口部Ｙ８１４０で分岐されるいずれの経路を流下する球についても、視認可能に構成しても良い。この場合、流下する球の行方を目で追いやすくなり、球の流下が正常に生じていることの確認が容易になる。

【１３８７８】

本発明を上記各実施形態とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される）として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の領域に球を入賞させることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるパチンコ機として実施してもよい。また、Ｖゾーン等の特別領域を有する入賞装置を有し、その特別領域に球を入賞させることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機に実施してもよい。更に、パチンコ機以外にも、アレパチ、雀球、スロットマシン、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機などの各種遊技機として実施するようにしても良い。

【１３８７９】

なお、スロットマシンは、例えばコインを投入して図柄有効ラインを決定させた状態で操作レバーを操作することにより図柄が変動され、ストップボタンを操作することにより図柄が停止されて確定される周知のものである。従って、スロットマシンの基本概念としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を変動表示した後に識別情報を確定表示する表示装置を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の変動表示が停止して確定表示され、その停止時

の識別情報の組合せが特定のものであることを必要条件として、遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるスロットマシン」となり、この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【１３８８０】

また、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する表示装置を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく所定量の球の投入の後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技が発生させられ、遊技者には、下部の受皿に多量の球が払い出されるものである。かかる遊技機をスロットマシンに代えて使用すれば、遊技ホールでは球のみを遊技価値として取り扱うことができるため、パチンコ機とスロットマシンとが混在している現在の遊技ホールにおいてみられる、遊技価値たるメダルと球との別個の取扱による設備上の負担や遊技機設置個所の制約といった問題を解消し得る。

【１３８８１】

以下に、本発明の遊技機に加えて上述した実施形態に含まれる各種発明の概念を示す。

【１３８８２】

＜主役物に従動役物が連動・非連動＞

変位動作可能に構成される第１変位手段と、その第１変位手段を変位動作させるための動作力を発生可能に構成される動作手段と、前記第１変位手段の特定部が当接可能に構成され、変位動作された前記第１変位手段の前記特定部から受けた動作力により変位動作可能に構成される第２変位手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＣＪ１。

【１３８８３】

第１変位手段および第２変位手段を変位動作させて、その変位動作を遊技者に視認させる遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０２３－３０２１２号公報）。しかしながら、上述した従来の遊技機では、変位動作の態様に改善の余地があるという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、変位動作の態様を好適とできる遊技機を提供することを目的とする。

【１３８８４】

遊技機ＣＪ１によれば、１の動作手段であっても、第１変位手段と第２変位手段との変位動作を、連動させる態様と、連動させない態様とを構成できる。よって、単調となることを低減できる。

【１３８８５】

＜ワープ通路＞

遊技者が表示面を視認することが可能に構成される表示可能ユニットと、前記表示可能ユニットが配設される第１手段と、前記第１手段に配設され、前記表示可能ユニットよりも遊技機正面側に位置する第２手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＤＪ１。

【１３８８６】

遊技者が表示面を視認することが可能に構成される表示可能ユニットを備えた遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０１４－１６１６６４号公報）。しかしながら、上述した従来の遊技機では、表示面における表示の視認態様を好適とする観点で改良の余地があるという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、表示面における表示の視認態様を好適とすることができる遊技機を提供することを目的とする。

【１３８８７】

遊技機ＡＡ１～ＡＡ１３，ＡＢ１～ＡＢ１２，ＡＣ１～ＡＣ２５，ＡＤ１～ＡＤ２３，ＡＥ１～ＡＥ２４，ＦＦ１～ＦＦ１０、ＡＰ１～ＡＰ９，ＡＪ１～ＡＪ７，ＢＪ１～ＢＪ７，ＣＪ１，ＤＪ１のいずれかにおいて、前記遊技機はスロットマシンであることを特徴

とする遊技機ＡＺ１。中でも、スロットマシンの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段（ストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備えた遊技機」となる。この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【１３８８８】

遊技機ＡＡ１～ＡＡ１３，ＡＢ１～ＡＢ１２，ＡＣ１～ＡＣ２５，ＡＤ１～ＡＤ２３，ＡＥ１～ＡＥ２４，ＦＦ１～ＦＦ１０、ＡＰ１～ＡＰ９，ＡＪ１～ＡＪ７，ＢＪ１～ＢＪ７，ＣＪ１，ＤＪ１のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機であることを特徴とする遊技機ＡＺ２。中でも、パチンコ遊技機の基本構成としては操作ハンドルを備え、その操作ハンドルの操作に応じて球を所定の遊技領域へ発射し、球が遊技領域内の所定の位置に配設された作動口に入賞（又は作動口を通過）することを必要条件として、表示手段において動的表示されている識別情報が所定時間後に確定停止されるものが挙げられる。また、特別遊技状態の発生時には、遊技領域内の所定の位置に配設された可変入賞装置（特定入賞口）が所定の態様で開放されて球を入賞可能とし、その入賞個数に応じた有価価値（景品球のみならず、磁気カードへ書き込まれるデータ等も含む）が付与されるものが挙げられる。

【１３８８９】

遊技機ＡＡ１～ＡＡ１３，ＡＢ１～ＡＢ１２，ＡＣ１～ＡＣ２５，ＡＤ１～ＡＤ２３，ＡＥ１～ＡＥ２４，ＦＦ１～ＦＦ１０、ＡＰ１～ＡＰ９，ＡＪ１～ＡＪ７，ＢＪ１～ＢＪ７，ＣＪ１，ＤＪ１のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機とスロットマシンとを融合させたものであることを特徴とする遊技機ＡＺ３。中でも、融合させた遊技機の基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備え、遊技媒体として球を使用すると共に、前記識別情報の動的表示の開始に際しては所定数の球を必要とし、特別遊技状態の発生に際しては多くの球が払い出されるように構成されている遊技機」となる。

【１３８９０】

＜その他＞

第１変位手段および第２変位手段を変位動作させて、その変位動作を遊技者に視認させる遊技機が知られている（例えば、特許文献１：特開２０２３－３０２１２号公報）。

【１３８９１】

しかしながら、上述した従来の遊技機では、変位動作の態様に改善の余地があるという問題点があった。

【１３８９２】

本技術的思想は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、変位動作の態様を好適とできる遊技機を提供することを目的とする。

【１３８９３】

＜手段＞

この目的を達成するために技術的思想１の遊技機は、変位動作可能に構成される第１変位手段と、その第１変位手段を変位動作させるための動作力を発生可能に構成される動作手段と、前記第１変位手段の特定部が当接可能に構成され、変位動作された前記第１変位手段の前記特定部から受けた動作力により変位動作可能に構成される第２変位手段と、を備える。

【１３８９４】
＜効果＞
技術的思想１記載の遊技機によれば、変位動作の態様を好適とすることができる。
【１３８９５】
＜符号＞

１０	パチンコ機（遊技機）
１６	ガラスユニット（前側面構成手段）
８１	第３図柄表示装置（表示装置）
Ｋ１０	パチンコ機（遊技機）
Ｋ１３	遊技盤
Ｋ６０	ベース板（遊技盤）
Ｋ６０ａ	第１形成凹部（凹設部の一部）
Ｋ６０ｂ	第２形成凹部（凹設部の一部）
Ｋ６０ｃ	第３形成凹部（凹設部の一部）
Ｋ６０ｄ	第４形成凹部（凹設部の一部）
Ｋ６３	一般入賞口（入球領域の一部）
Ｋ６５ａ	第１特定入賞口（入球領域の一部）
Ｋ８１	第３図柄表示装置（表示装置、照射手段）
Ｋ２０１	ベース部材（支持手段）
Ｋ２０７ａ	上縁部（反射部）
Ｋ２１２	発光部（光照射手段）
Ｋ２２０	化粧カバー（覆設手段、透過手段）
Ｋ２２１ａ	大形意匠（所定の装飾の一部）
Ｋ２２１ｂ	小形意匠（所定の装飾の一部）
Ｋ２２４	傾斜形成部（位置合わせ部）
Ｋ２５１	可動板（形成手段の一部、変位手段の一部）
Ｋ４００	前層側可動装置（第１手段の一部）
Ｋ４０５	電飾基板（光照射装置）
Ｋ４３０	回転部材（第１手段、方向変化手段）
Ｋ４４４	突設部（接触防止部）
Ｋ４７０	状態変化装置（変化手段）
Ｋ４７６	上側回転部材（第２手段、規制手段）
Ｋ５００	昇降装置（変位手段、動作手段）
Ｋ５４０	長尺装置（支持手段）
Ｋ６４０ａ	電動役物（形成手段の一部、変位手段の一部）
Ｋ６４０	第２入賞口（入球領域の一部）
Ｋ７０１	第２可動手段（被動作手段）
Ｋ７１６	検出センサ（検出手段）
Ｋ７３０	伝達装置（伝達手段）
Ｋ７３１	駆動側二層ギア（第２伝達手段）
Ｋ７３２	円弧状部（防止手段、動作停止手段）
Ｋ７３３	伝達側二層ギア（第１伝達手段）
Ｋ７３５	アーム部材（第１移動手段）
Ｋ７６０	主装飾部材（第２移動手段）
Ｋ８００	後層側可動装置（第２手段）
Ｋ８２０	中側開閉部材（第３手段）
Ｋ８３０	前側開閉部材（第２手段）
Ｋ８６７	傾斜形成部（当接手段、抵抗発生手段）
Ｋ８７４	延設回転部材（第１手段）
Ｋ９００	表示ランプ（第１手段の一部）

Ｋ２０６０　ベース板（遊技盤）
Ｋ２０６０ｅ　外形傾斜部（変化部）
Ｋ２０６０ｗ　傾斜開口部（変化部）
Ｋ２１００　光照射装置（光照射手段）
Ｋ３１００　光照射装置（光照射手段）
Ｋ４５６０　移動装置（変位手段）
Ｋ４５７８　回転装飾部材（動作手段）
Ｋ４５７８ａ　視認窓部（視認部の一部）
Ｋ４７０１　第２可動装置（切替手段）
Ｋ４８１１　板状部（開閉部材の一部）
Ｋ４８２１　板状部（開閉部材の一部）
Ｋ４８３１　板状部（開閉部材の一部）
Ｋ４８９１　透明フィルム（隙間防止手段の一部）
Ｋ５０８６ｅ　右側検出センサ（第２所定部位）
Ｋ５０８６ｋ　検出センサ（第１所定部位）
Ｋ５２７２　第１傾斜部（第１流下領域の一部）
Ｋ５２７３　鉛直構成部（第２流下領域の一部）
Ｋ５２８０　化粧カバー（光透過部）
Ｋ５２８１　第１輪郭部（第１透過率部）
Ｋ５２８２　第１形成部（第２透過率部）
Ｋ５２８２ａ　非透過形成部（構成部）
Ｋ５２８２ｃ　非変化領域（補助部）
ＫＯＬ４８１　輪郭（遮断範囲と非遮断範囲との区画部の一部）
ＫＯＬ４８２ａ　内側輪郭（遮断範囲と非遮断範囲との区画部の一部）
ＫＯＬ４８２ｂ　外側輪郭（遮断範囲と非遮断範囲との区画部の一部）
ＫＯＬ４８３　輪郭（遮断範囲と非遮断範囲との区画部の一部）
ＫＯＬ４８４　輪郭（遮断範囲と非遮断範囲との区画部の一部）
ＫＭＴ７１　駆動モータ（駆動手段）
ＫＳＰ７４　コイルスプリング（付勢手段）
Ｈ１０　パチンコ機（遊技機）
Ｈ１４，Ｈ１６０１４，Ｈ３５０１４　正面枠（前扉手段）
Ｈ１４ａ，７０１４ａ，８０１４ａ，９０１４ａ，３７０１４ａ，３８０１４ａ，３９０１４ａ，４００１４ａ，４１０１４ａ　上側装飾ユニット（第２手段、配設手段）
Ｈ１４ｃ，１００１４ｃ，１１０１４ｃ，１２０１４ｃ，１３０１４ｃ　右側装飾ユニット（第１手段）
Ｈ８１　第３図柄表示装置（液晶表示手段）
Ｈ２０　シリンダ錠（操作手段）
Ｈ５０　下皿（貯留手段）
Ｈ５２　球抜きレバー（操作手段）
Ｈ５３　球案内開口（流入口手段）
Ｈ１１２ａ１　発射レール（流路手段の一部）
Ｈ３６１３０ａ　張出部材（突出手段）
Ｈ１３２ａ　送球停止レバー（操作手段）
Ｈ１７２　背面側開口（通過口手段）
Ｈ１８０，Ｈ４４１８０，Ｈ４５１８０，Ｈ４６１８０　操作ユニット（操作手段）
Ｈ３００Ａ　第１空間（正面側配設空間）
Ｈ３００Ｂ　第２空間（背面側配設空間）
Ｈ３００Ｃ，Ｈ７３００Ｃ　第１連通路（連通空間）
Ｈ３００Ｆ　配設空間（第１配設空間，第２配設空間）
Ｈ３００Ｄ　第２連通路（連通空間）

Ｈ３１２　　スピーカー組立体（動作手段、第１音出力手段、第２音出力手段）
Ｈ３１２ａ　　スピーカー（動作手段、第１音出力手段、第２音出力手段、流動手段）
Ｈ３３１ａ１　　スリット（第１開口部）
Ｈ９３３２，Ｈ３７３３２，Ｈ３９３３２，Ｈ４０３３２　上面板（変位手段）
Ｈ３３３ａ　　検出用開口部（第２開口部）
Ｈ３３３ｂ　　放音用開口部（第２開口部）
Ｈ９３３２ｄ２　　開口（第２開口部）
Ｈ３８３３６　　光照射ユニット（変位手段）
Ｈ１６３４４　　基板ユニット（突出手段）
Ｈ３５０　　音伝達ユニット（区画手段）
Ｈ４００Ａ，１１４００Ａ　　通路空間（通路手段）
Ｈ４５２　　屈曲部（配設手段）
Ｈ４５２ｄ　　先端部（下方手段）
Ｈ４５２ｃ　　基端部（延設手段）
Ｈ４５５　　膨出部（突出手段）
Ｈ４５５ａ１　　開口（被挿入手段）
Ｈ４７３　　開口部（被挿入手段、連通手段）
Ｈ４７８　　区画壁（突出手段）
Ｈ１０４８０　　ファン（流動手段）
Ｈ５１０，Ｈ１７５１０，Ｈ１８５１０　ベース部材（第１手段）
Ｈ５１５，Ｈ１７５１５　　凸状部（突出手段、第２突出手段）
Ｈ１８５１５ａ１　　凹部（被位置決め手段）
Ｈ１８５１５ａ２　　被係合部（被係合手段）
Ｈ５１５ｂ１　　凹部（被位置決め手段）
Ｈ５１５ｂ２　　被係合部（被係合手段）
Ｈ５３０，Ｈ１７５３０，Ｈ１８５３０　下皿形成部材（第２手段）
Ｈ５５５，Ｈ１８５５５　　連結部材（突出手段）
Ｈ５５５ｂ，Ｈ１８５５５ｂ　　突出部（位置決め手段）
Ｈ５５５ｂ１，Ｈ１８５５５ｂ１　係合部（係合手段）
Ｈ１７５５５　　連結部（第２突出手段）
Ｈ５６１ａ　　排出口（流出口手段）
Ｈ１４５６３　　第２スライド板（突出手段）
Ｈ５８３　　突出部（突出手段）
Ｈ５８３ａ　　湾曲壁（湾曲部）
Ｈ５８３ｂ　　リブ
Ｈ７１０，Ｈ４５７１０，Ｈ４６７１０　傾倒装置（当接手段）
Ｈ７２０　　下枠部材（ベース手段）
Ｈ７７０，Ｈ４４７７０　　ベース手段
Ｈ７７３　　基板部材（発光手段）
Ｈ７８０，２１７８０，２２７８０　駆動手段
Ｈ７８０，２１７８０，２２７８０　駆動手段（第１手段）
Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９　変位手段（第２手段）
Ｈ７９０，Ｈ４２７９０，Ｈ４３７９０　変位部材（透過手段）
Ｈ７９３　　第１コイルバネ（規定手段）
Ｈ７９４　　第２コイルバネ（規定手段）
Ｈ８２１ａ，Ｈ２４８２１ａ，Ｈ２５８２１ａ，Ｈ２７８２１ａ，Ｈ２９８２１ａ，Ｈ３０８２１ａ，Ｈ３１８２１ａ，Ｈ３２８２１ａ，Ｈ３３８２１ａ，Ｈ３４８２１ａ　背面部（流路手段の一部）
Ｈ８２１ａ１，Ｈ２５８２１ａ１，Ｈ２７８２１ａ１，Ｈ２９８２１ａ１，Ｈ３０８２１

ａ１　凹部（抑制手段、非平行部、平行部）
Ｈ２４８２１ａ２，Ｈ３１８２１ａ２，Ｈ３２８２１ａ２，Ｈ３３８２１ａ２，Ｈ３４８２１ａ２　凸部（抑制手段、非平行部、平行部）
Ｈ８３０　発射手段（送球手段）
Ｈ８７０，Ｈ２３８７０，Ｈ３２８７０　背面側ケース（流路手段の一部）
Ｈ２３８７１　第２凹部（抑制手段、凹部、非平行部、平行部）
Ｈ３２８７２　第２凸部（抑制手段、凸部、非平行部、平行部）
Ｈ２６８９３　経路変更部材（案内手段）
Ｇ４２０，Ｇ５４２０，Ｇ６４２０　第１装飾ユニット（第２手段）
Ｇ４２６，Ｇ５４２６，Ｇ６４２６　変位ユニット（所定領域）
Ｇ４２６ａ　第１装飾面（一側領域）
Ｇ４２６ｂ　第２装飾面（他側領域）
Ｇ４４０　基板部材（発光手段）
Ｇ４８０　第２装飾ユニット（第１手段）
Ｈ１０　パチンコ機（遊技機）
Ｈ１１３　音声ランプ制御装置（制御手段）
Ｈ３０４４　調整ボタン（操作手段）
Ｈ１８１　ボタン部（操作手段、第２の操作手段）
Ｍ４４４　前方突設部（移動手段の一部、変位手段の一部）
Ｍ４８３　検出センサ（第１の検出センサ、第１の検出）
Ｍ４９０　回転切替部（第２の移動手段）
Ｍ５０１　駆動モータ（駆動手段、駆動装置）
Ｍ５１０　板状本体部（案内手段、第１可動部、第１動作部、第１の手段の一部、移動手段の一部）
Ｍ５１５　円弧状貫通部（案内部）
Ｍ５１６　検出センサ（検出手段、第２の検出手段）
Ｍ５４５　突設補助部（第３手段、抑制手段）
Ｍ５６０　扇形状構成部（第２手段、被当接手段）
Ｍ５８１　モータギア（伝達手段）
Ｍ５８２ａ　柱状部（伝達手段の一部、移動手段、回転動作手段の一部）
Ｍ５８４　円板付きギア（第３手段、抑制手段）
Ｍ６００　可動装飾ユニット（第２可動部、第２動作部、第１の手段の一部、移動手段の一部、変位手段）
Ｍ６０２　当接部材（第１手段、変位手段）
Ｍ６１０　板状本体部（動作手段、第１動作手段）
Ｍ６３０　電飾基板（視認可能手段）
Ｍ６６０　リンク部材（動作手段、第２動作手段、変位手段）
Ｍ７７０　移動装飾部（特定手段、動作手段）
Ｍ７８１　連動意匠（対応した表示）
Ｍ８１５　検出センサ（第２の検出手段）
Ｍ８６０　昇降移動部材（第２可動部、第２の手段）
Ｍ３４８９　検出センサ（第２の検出）
Ｍ３６６０　リンク部材（動作手段、第２動作手段、変位手段）
Ｍ４６６０　回転移動部材（動作手段、第２動作手段、変位手段）
Ｈ１０，Ｐ１０，Ｐ６０１０　パチンコ機（遊技機）
Ｈ１２　内枠（特定枠、第１枠状体）
Ｈ１９　ヒンジ（所定の回転軸）
Ｈ１９０　機能調整操作部（第１操作手段）
Ｐ１４，Ｐ６０１４　正面枠（所定枠の一部、第２枠状体の一部）
Ｐ１８０　操作ユニット（視認手段）

Ｐ３０１，Ｐ５３０１　ベースユニット（所定枠の一部、第２枠状体の一部）
Ｐ３０２，Ｐ３３０２　化粧ユニット（構成手段）
Ｐ３１２　操作部挿通孔（視認可能部の一部）
Ｐ３１４　板状部（視認可能部の一部）
Ｐ３２０　切替構成部（切替手段）
Ｐ３２１ｈ　複数段形成部（視認可能部）
Ｐ３２２　被操作部材（所定手段、第１動作可能手段）
Ｐ３２４　追従動作部材（動作手段、第２動作可能手段）
Ｐ３５５　前側傾斜部（張出部）
Ｐ３８０　係止棒部材（変化手段）
Ｐ７７０　振動構成部（第１振動手段）
Ｐ９２０　スピーカーユニット（動作手段）
Ｐ３３８０　係止回転棒（変化手段）
Ｐ３３９０　演出レバー（第２操作手段）
Ｐ４３０２，Ｐ５３０２　化粧ユニット（構成手段）
Ｐ６３０２　化粧ユニット（構成手段）
Ｐ６３９０　把時手段（張出部）
Ｐ７０１０，Ｐ８０１０　パチンコ機（遊技機）
Ｐ７３０２　化粧ユニット（構成手段）
Ｐ７３２１ｊ　凹設形成部（形成部の一部）
Ｐ７３２１ｋ　水平張出部（形成部の一部）
Ｐ７３５９　突設形成部（受入部）
Ｐ８５８３　動作部（変位手段の一部）
Ｐ９５９３　動作部（変位手段の一部）
Ｑ１０　パチンコ機（遊技機）
Ｑ５４１　正面ケース（連結手段）
Ｑ５４２　背面ケース（連結手段）
Ｑ５４３　液晶装置（動作手段）
Ｑ５４３ｃ　背面部（導電部分）
５４４　介設部材（配設手段）
Ｑ５４５　基板（基板部材）
Ｑ５４５ｄ　グランド部
Ｑ１０００，Ｑ２０００，Ｑ３０００，Ｑ４０００，Ｑ５０００，Ｑ６０００　導電部材（接続手段）
Ｑ１１００，Ｑ２１００，Ｑ３１００，Ｑ４１００，Ｑ５１００　第１当接部（第１接続手段）
Ｑ１２００，Ｑ２２００，Ｑ３２００，Ｑ４２００，Ｑ５２００　第２当接部（第２接続手段）
Ｑ１３００，Ｑ４３００，Ｑ６３００　中間部（第３接続手段）
Ｑ６４００　外面部（外面手段）
Ｈ１０，Ｓ１０　パチンコ機（遊技機）
Ｓ３１０　動作部材（第２操作手段）
Ｓ３２０　第２動作部材（第１操作手段）
Ｓ３５０，Ｓ２３５０　スライド体（変位手段の一部）
Ｓ４４１　駆動モータ（駆動手段）
Ｓ４４５　第１クラッチギア（伝達手段の一部）
Ｓ４４６　第２クラッチギア（伝達手段の一部）
Ｓ４５５，Ｓ３４５５　動作アーム部材（変位手段の一部）
ＳＳＣ２　第２検出センサ（検出手段）
ＳＳＰ３　コイルスプリング（付勢手段）

Ｈ１０，Ａ１０　パチンコ機（遊技機）
Ａ１３００　第１球流下構造体（第１手段）
Ａ１３８０　振分部材（動作手段）
Ａ１３８１　基端部（所定部）
Ａ１３８２　延設部
Ａ１３８３　形成部（第１形成部）
Ａ１３７５　対向突部（所定の構成部）
Ａ１４２０　ソレノイド（付与手段）
Ｈ１０　パチンコ機（遊技機）
Ｈ１４　正面枠（視認可能手段）
Ｈ１４ｅ　窓部
Ｄ１２０，Ｄ２１２０，Ｄ３１２０，Ｄ４１２０　上側揺動手段（変位手段）
Ｄ１３０　下側揺動手段（変位手段）
Ｄ１４３ｂ２　突設部（作用部）
Ｄ１４７ｂ　突設部（作用部）
Ｄ１５３ｂ２　突設部（作用部）
Ｄ１５７ｂ　突設部（作用部）
Ｄ１４３　第１正面カム（回転手段、動作手段）
Ｄ１４７，Ｄ２１４７　第２正面カム（回転手段、動作手段）
Ｄ１５３　第１正面カム（回転手段、動作手段）
Ｄ１５７　第２正面カム（回転手段、動作手段）
Ｄ１８１　上側バネ（弾性手段）
Ｄ１８２　下側バネ（弾性手段）
Ｄ２１８３　付勢手段（弾性手段）
Ｈ１０，Ａ１０　パチンコ機（遊技機）
ＡＲ３０５　第３流下経路（所定の遊技領域）
Ａ６１０，Ａ９６１０　ベース部材（第１配設手段）
Ａ６１８，Ａ４６１８，Ａ５６１８　傾斜突部（所定手段）
Ａ６１８ｂ　形状変化範囲（当接手段）
Ａ６２１　球案内部（入球領域）
Ａ６３０，Ａ７６３０，Ａ９６３０　カバー部材（第２配設手段）
Ａ６４１，Ａ５６４１，Ａ７６４１　開閉板（変化手段の一部）
Ａ６４１ａ　転動面形成部（対向部）
Ａ６４１ｂ　干渉突部（形成部の一部）
Ａ６４１ｃ　対向部（所定部）
ＡＳＣ６４　入賞検出センサ（入球領域、所定通路の開口）
Ａ２６１８　上流側突部（所定手段）
Ａ３６１８　当接張出部（所定手段）
Ａ３６１８ｂ　湾曲当接部（当接手段）
Ａ６６１８　下側傾斜突部（所定手段）
Ａ８６１８　傾斜延設部（所定手段）
Ａ９６２１ｂ　有利側流入口（入球領域、所定通路の開口）
Ａ１０　パチンコ機（遊技機）
Ｅ２４０　第１リンク（変位手段の一部）
Ｅ２５０　第１伝達手段（変位手段の一部）
Ｅ３００，Ｅ２３００，Ｅ５３００，Ｅ７３００　上変位手段（変位手段の一部）
Ｅ３２０，Ｅ２３２０，Ｅ５３２０，Ｅ７３２０　変位手段（変位手段の一部）
Ｅ２３４，Ｅ８２３４　回転体（駆動手段の一部）
Ｅ２３０，Ｅ８２３０　駆動手段
Ｅ４４２，Ｅ８４４２　回転部材（当接手段）

Ｅ５５０，Ｅ４５５０　回転手段（当接手段）
Ｅ５２２６ａ，Ｅ６２２６ａ　被当接部（当接手段）
Ｐ１４　正面枠（視認可能手段）
Ｐ１４ｅ　窓部
Ａ１０　パチンコ機（遊技機）
Ａ１３　遊技盤
Ｆ２２１　発光手段
Ｆ４００，Ｆ５４００，Ｆ６４００，Ｆ１１４００　導光板（光透過手段）
Ｆ８４００Ａ，Ｆ９４００Ａ，Ｆ１０４００Ａ　第１導光板（光透過手段）
Ｆ８４００Ｂ，Ｆ９４００Ｂ，Ｆ１０４００Ｂ　第２導光板（光透過手段）
Ｆ１２９００　振動モータ（振動手段）
Ｈ１２　内枠（被配設手段）
Ｐ１４　正面枠（正面側手段）
Ｊ１０　パチンコ機（遊技機）
Ｊ１３，Ｊ９０１３，Ｊ１００１３，Ｊ１１０１３，Ｊ１２０１３，Ｊ１３０１３，Ｊ１４０１３，Ｊ１５０１３　遊技盤
Ｊ１４ｅ　窓部（開口）
Ｊ１４　正面枠（枠部材）
Ｊ１６　ガラスユニット（透過部材）
Ｊ１３０６０ａ１　凹部
Ｊ６５　特定入賞口（第２入球手段）
Ｊ６６　第２入賞口（第１入球手段）
Ｊ５６０　ソレノイド（動作手段）
Ｊ６７１，Ｊ２６７１，Ｊ３６７１，Ｊ４６７１，Ｊ５６７１，Ｊ６６７１，Ｊ７６７１羽部材（変位手段）
Ｊ６７１ａ，Ｊ２６７１ａ，Ｊ３６７１ａ　転動面
Ｊ７１６　検出装置（第２検出手段）
Ｊ７３５　検出装置（第１検出手段）
Ｊ８００，Ｊ９８００，Ｊ１０８００，Ｊ１１８００，Ｊ１２８００，Ｊ１３８００，Ｊ１４８００，Ｊ１５８００　化粧部材（配設体）
Ｊ８１０　被締結部（固定部）
Ｊ９８２０　固定部
Ｊ９８３０　弾性体（ゴム部材）
Ｊ８５０，Ｊ１０８５０，Ｊ１１８５０，Ｊ１２８５０，Ｊ１３８５０，Ｊ１４８５０，Ｊ１５８５０　正面部（視認可能部）
Ｊ１４８５１　突出部（突部）
Ｊ１４８５２ａ　係合部（弾性爪）
Ｊ９００　化粧部材（配設体）
ＮＪ　螺子（ねじ部材）
Ｈ１０，Ａ１０　パチンコ機（遊技機）
Ｈ５１　操作ハンドル（操作手段）
Ｈ２０１　ＭＰＵ（選択手段）
Ａ６３０　カバー部材（所定手段の一部）
Ａ６３８　表示装置（所定手段の一部）
Ａ６５１，Ａ１０６５１，Ａ１１６５１　開閉板（変位手段）
Ａ６６１　発光部（光照射手段の一部）
Ａ６６３　第２発光部（光照射手段の一部）
Ａ６６４　第３発光部（光照射手段の一部）
ＡＢＬ１　遊技球（変位体）
ＡＳＣ６４　入賞検出センサ（検出手段）

Ａ１４６３９ａ　発光手段（光照射手段）
Ａ１５６９０　表示装置（所定手段の一部）
Ｈ１０，Ｊ１０　パチンコ機（遊技機）
Ｊ１３　遊技盤（第２手段）
Ｊ８１，Ｊ１６０８１，Ｊ１７０８１，Ｊ１８０８１　第３図柄表示装置（表示可能ユニット）
Ｙ３００，Ｙ１７３００　背面ケース（第１手段の一部）
Ｙ４５０　駆動モータ（動作手段）
Ｙ４８０　回転手段（第１変位手段の一部）
Ｙ５３０，Ｙ２５３０，Ｙ３５３０，Ｙ４５３０　回転動作手段（第１変位手段の一部）
Ｙ５３３，Ｙ２５３３　円形突部（特定部）
Ｙ７２０　揺動手段（第２変位手段）
Ｙ３５３３　半円形突部（特定部）
Ｙ４５３３　不完全円形突部（特定部の一部）
Ｙ４５３４ｄ　先端半円部（特定部の一部）
Ｙ１１４５０　駆動装置（動作手段）
Ｙ１４５３０　前後動作部材（第１変位手段の一部）

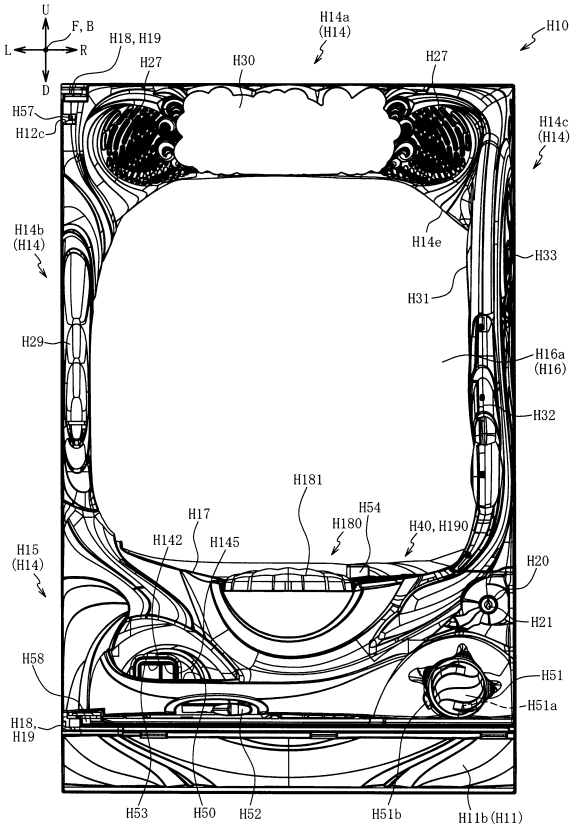
【符号の説明】

【１３８９６】

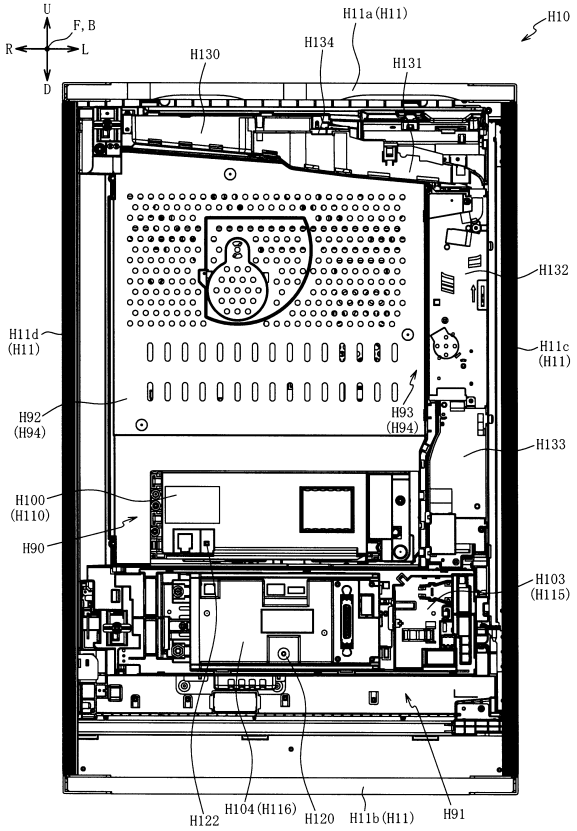
Ｈ１０，Ｊ１０　パチンコ機（遊技機）
Ｊ１３　遊技盤（第２手段）
Ｊ８１，Ｊ１６０８１，Ｊ１７０８１，Ｊ１８０８１　第３図柄表示装置（表示可能ユニット）
Ｙ３００，Ｙ１７３００　背面ケース（第１手段の一部）
Ｙ４５０　駆動モータ（動作手段）
Ｙ４８０　回転手段（第１変位手段の一部）
Ｙ５３０，Ｙ２５３０，Ｙ３５３０，Ｙ４５３０　回転動作部材（第１変位手段の一部）
Ｙ５３３，Ｙ２５３３　円形突部（特定部）
Ｙ７２０　揺動手段（第２変位手段）
Ｙ３５３３　半円形突部（特定部）
Ｙ４５３３　不完全円形突部（特定部の一部）
Ｙ４５３４ｄ　先端半円部（特定部の一部）
Ｙ１１４５０　駆動装置（動作手段）
Ｙ１４５３０　前後動作部材（第１変位手段の一部）

【図面】

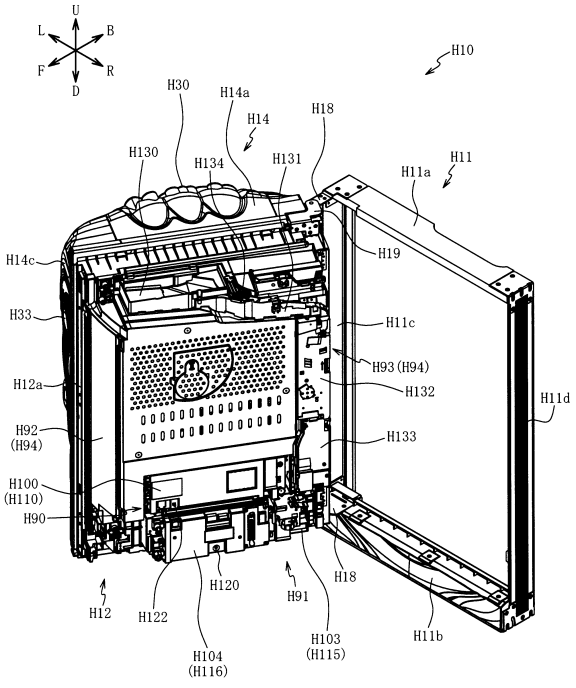
【図１】


U
F, B
L
R
D
H18, H19
H27
H30
H14a (H14)
H10
H57
H12c
H14c (H14)
H14b (H14)
H14e
H33
H31
H29
H16a (H16)
H32
H181
H54
H17
H180
H40, H190
H142
H145
H15 (H14)
H20
H21
H58
H51
H51a
H18, H19
H53
H50
H52
H51b
H11b (H11)

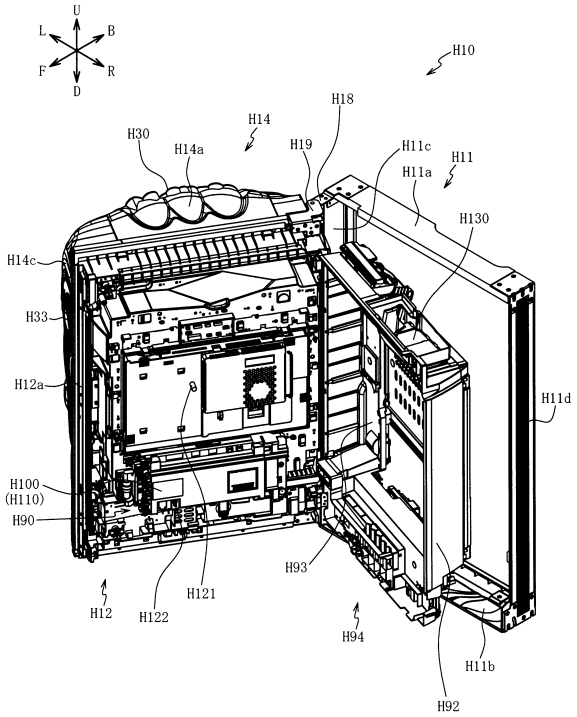
【図２】


U
F, B
R
L
D
H10
H11a (H11)
H134
H130
H131
H132
H11d (H11)
H11c (H11)
H92 (H94)
H93 (H94)
H133
H100 (H110)
H90
H103 (H115)
H122
H104 (H116)
H120
H11b (H11)
H91

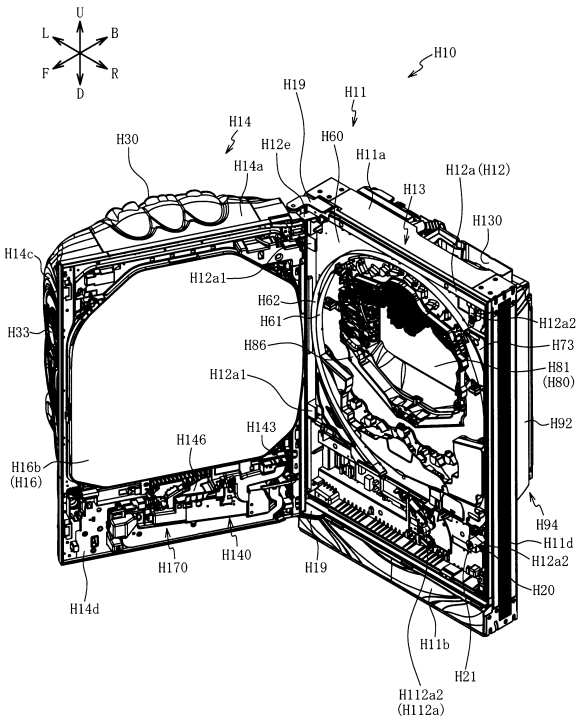
【図３】


U
L
B
F
R
D
H10
H30
H14a
H14
H18
H130
H134
H131
H11a
H11
H14c
H19
H33
H11c
H93 (H94)
H12a
H132
H11d
H92 (H94)
H133
H100 (H110)
H90
H12
H122
H120
H91
H18
H104 (H116)
H103 (H115)
H11b

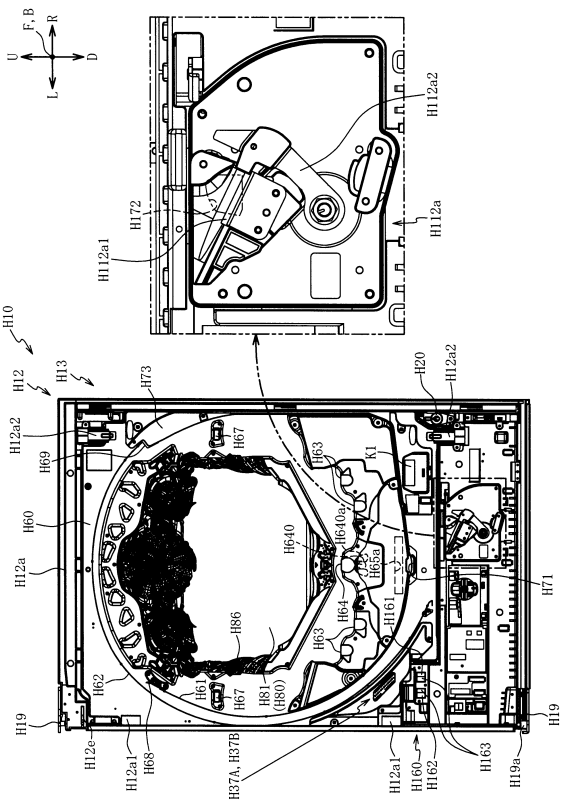
【図４】


U
L
B
F
R
D
H10
H18
H30
H14
H14a
H19
H11c
H11
H11a
H130
H14c
H33
H12a
H11d
H100 (H110)
H90
H93
H12
H122
H121
H94
H11b
H92

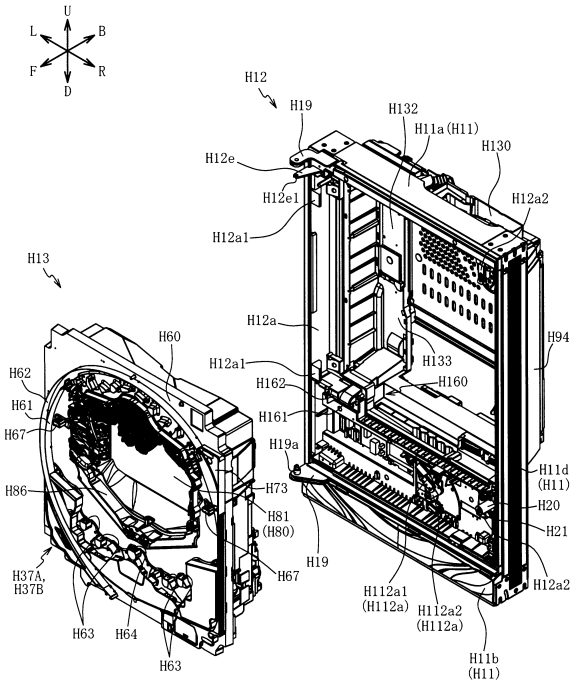
【図５】


U
L
B
F
R
D
H10
H19
H11
H14
H30
H12e
H60
H14a
H11a
H12a(H12)
H13
H130
H14c
H12a1
H62
H61
H12a2
H33
H86
H73
H81
(H80)
H12a1
H92
H143
H146
H16b
(H16)
H94
H11d
H140
H170
H19
H12a2
H20
H14d
H11b
H21
H112a2
(H112a)

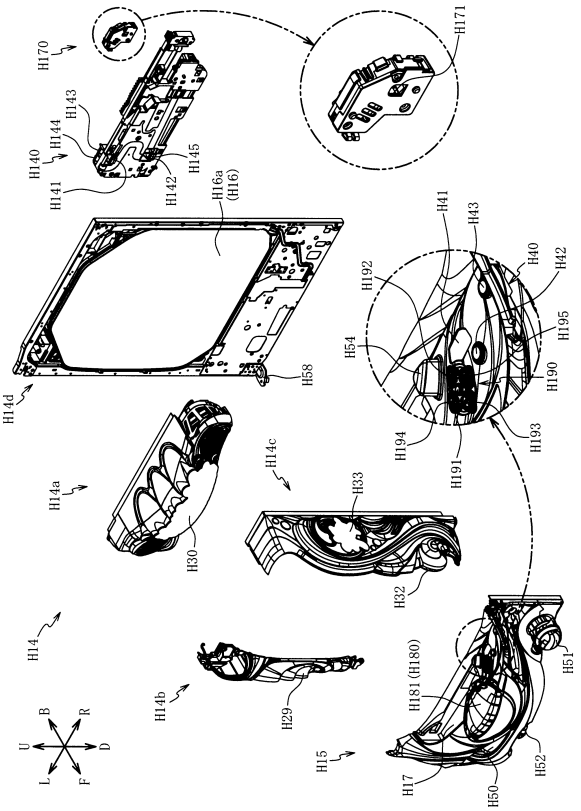
【図６】


F, B
R
U
D
L
H112a2
H172
H112a
H112a1
H10
H12
H13
H73
H20
H12a2
H67
H63
K1
H69
H60
H640a
H640
H12a
H65a
H71
H161
H64
H86
H63
H62
H61
H67
H81
(H80)
H19
H12e
H12a1
H68
H37A, H37B
H160
H162
H163
H19a

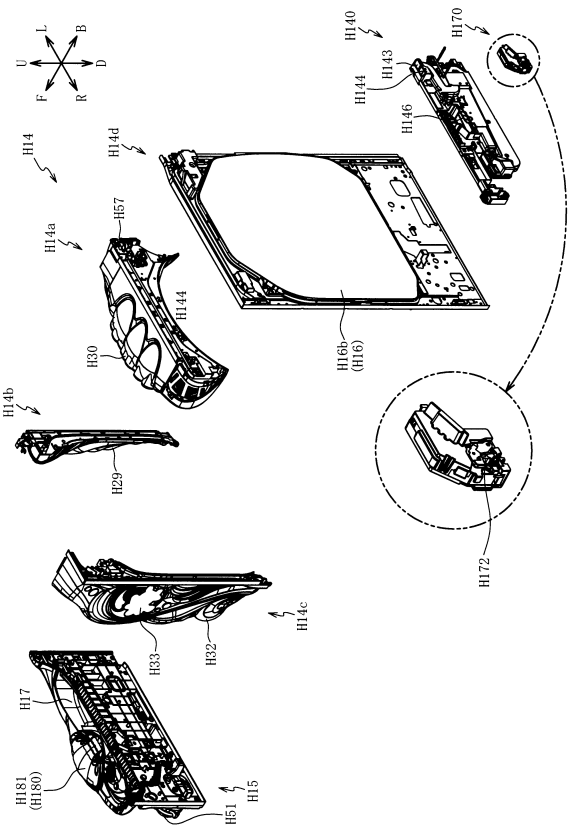
【図７】


U
L
B
F
R
D
H12
H19
H132
H11a(H11)
H130
H12e
H12e1
H12a2
H12a1
H13
H12a
H60
H94
H133
H12a1
H62
H162
H160
H61
H161
H67
H19a
H11d
(H11)
H86
H73
H20
H81
(H80)
H21
H19
H37A,
H37B
H67
H12a2
H112a1
(H112a)
H112a2
(H112a)
H63
H64
H63
H11b
(H11)

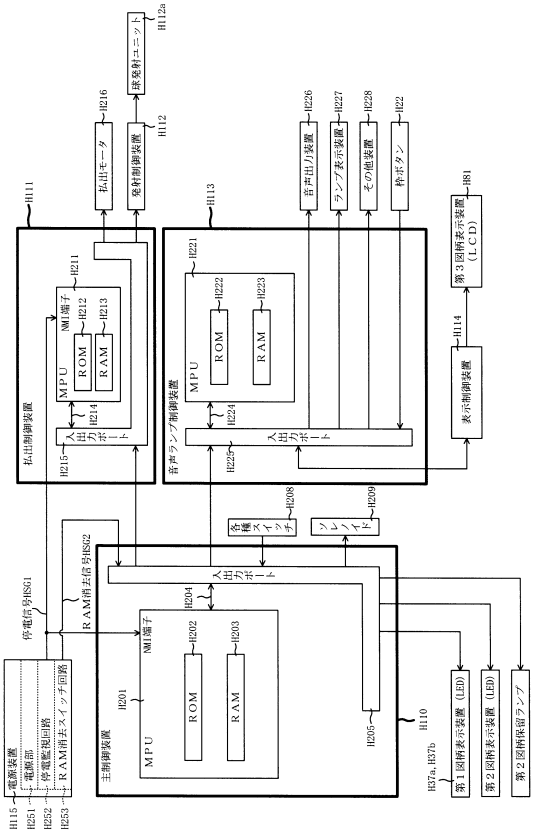
【図８】


H171
H170
H143
H144
H140
H145
H141
H142
H16a
(H16)
H41
H43
H40
H42
H192
H195
H54
H190
H58
H14d
H194
H193
H191
H14a
H14c
H33
H30
H32
H14
H14b
H29
H181(H180)
H51
H15
H17
H50
H52
U
B
R
L
F
D

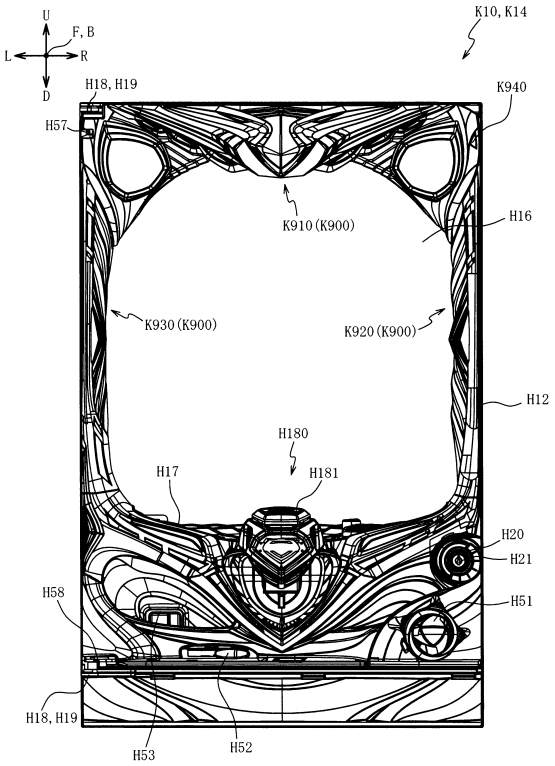
【図９】



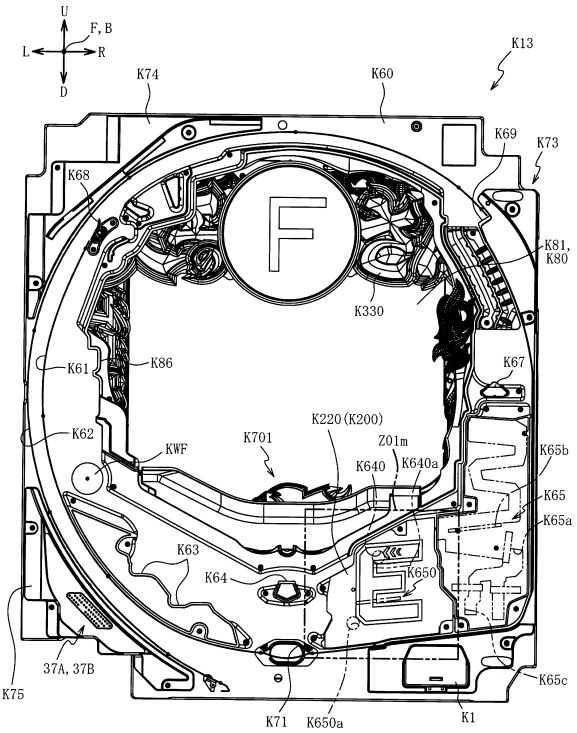
【図１０】



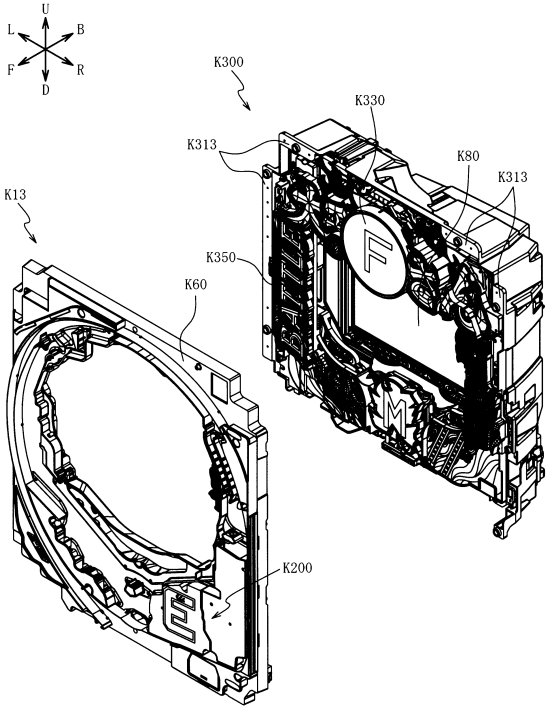
【図１１】



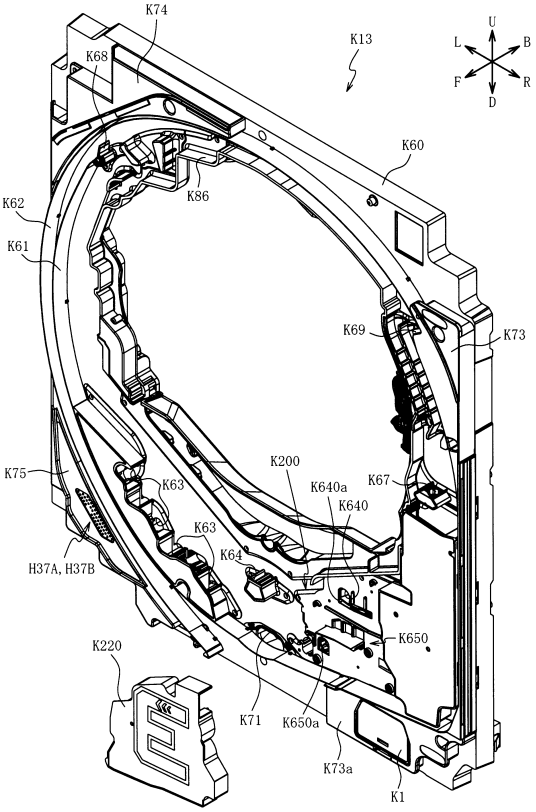
【図１２】



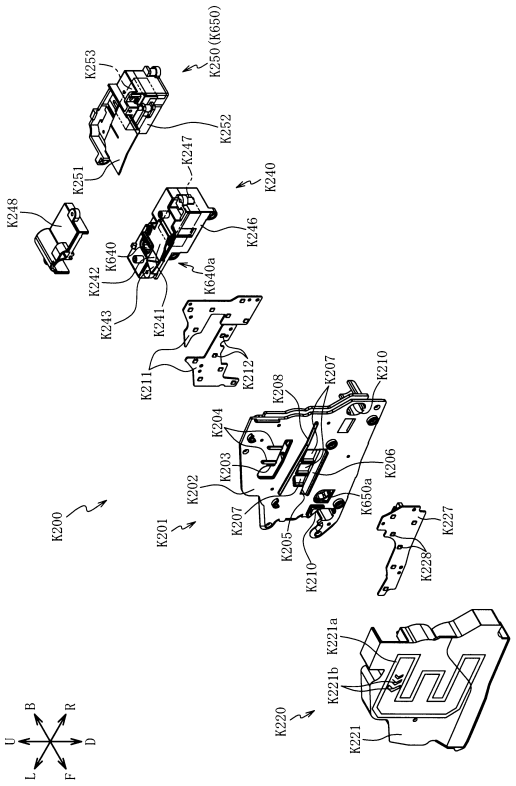
【図１３】



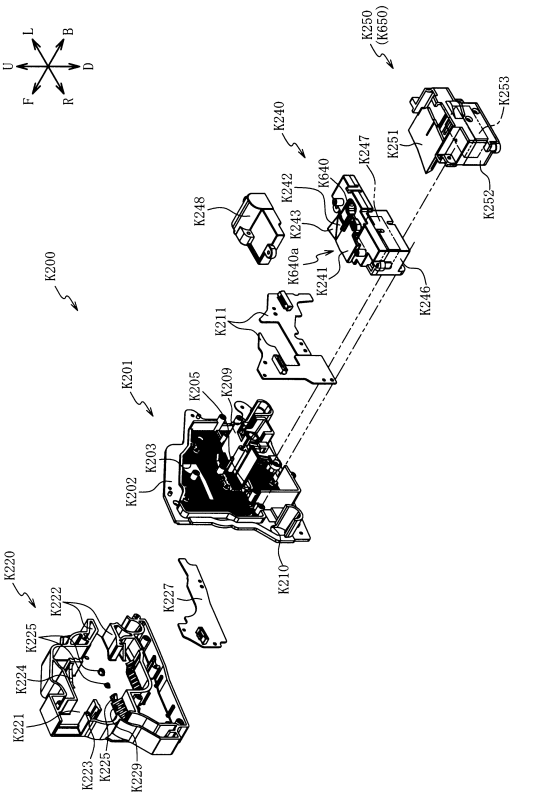
【図１４】



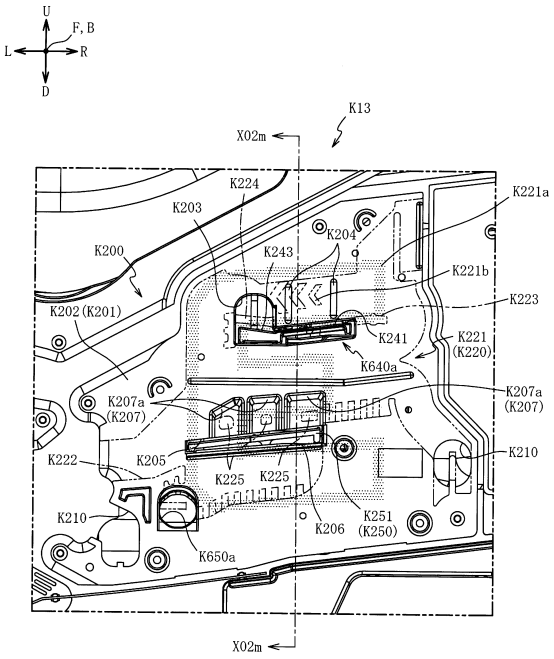
【図１５】



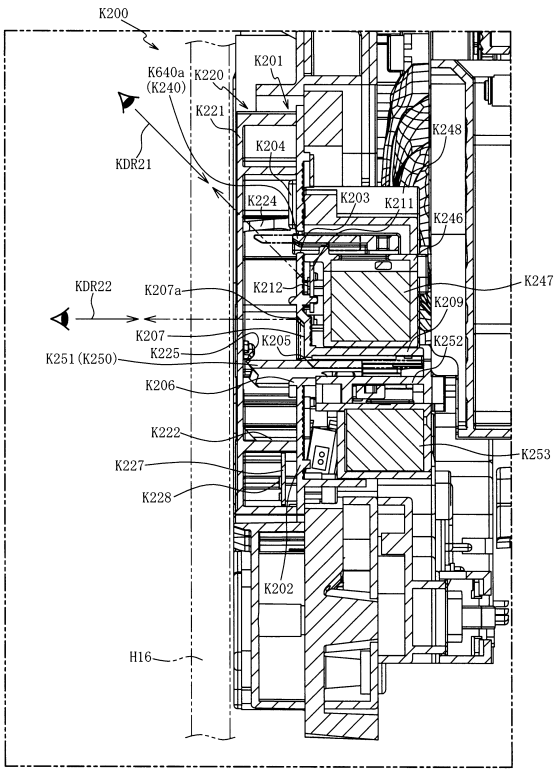
【図１６】



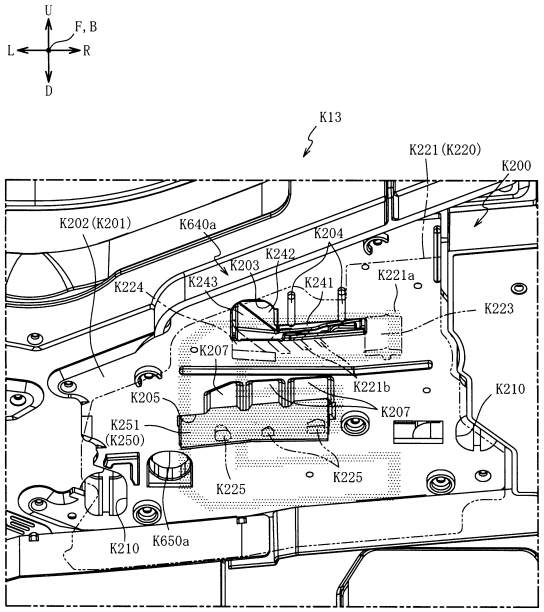
【図１７】



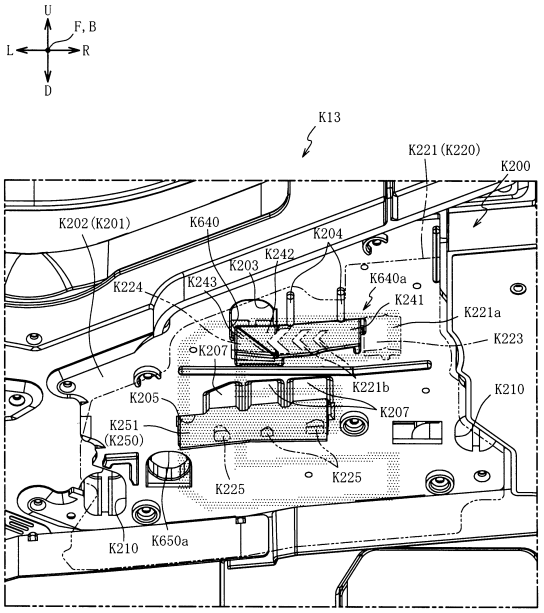
【図１８】



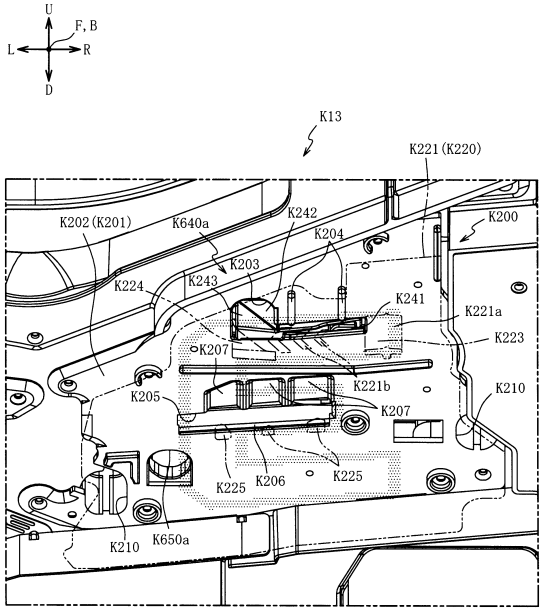
【図１９】



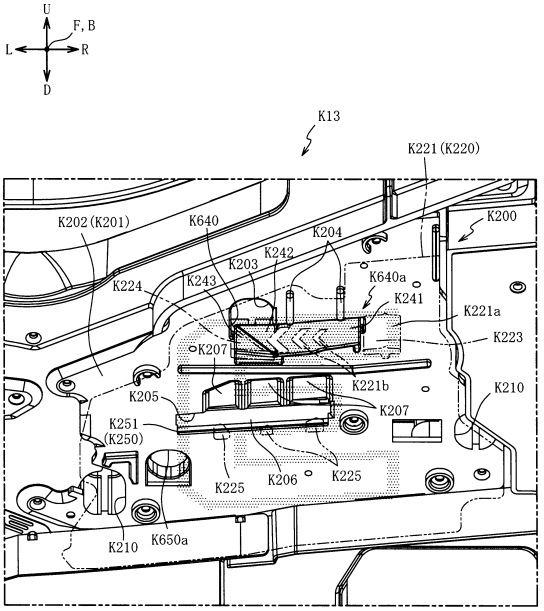
【図２０】



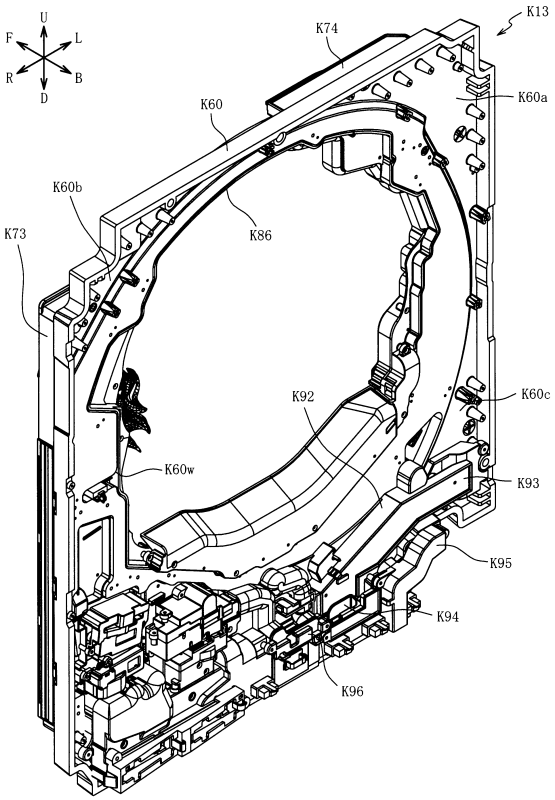
【図２１】



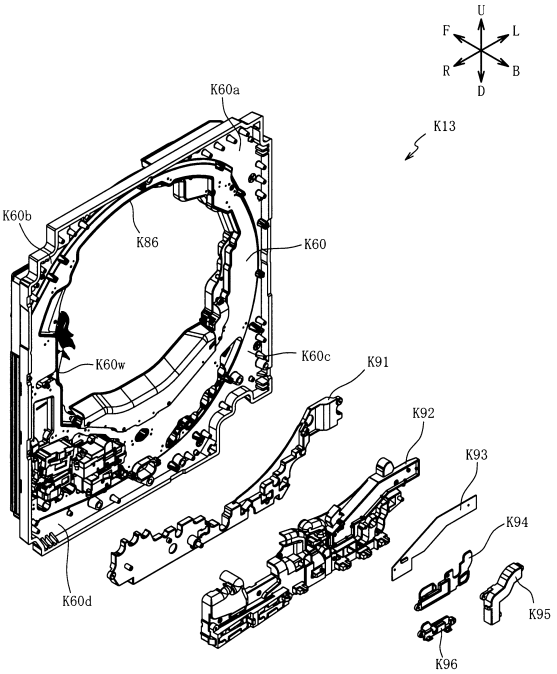
【図２２】



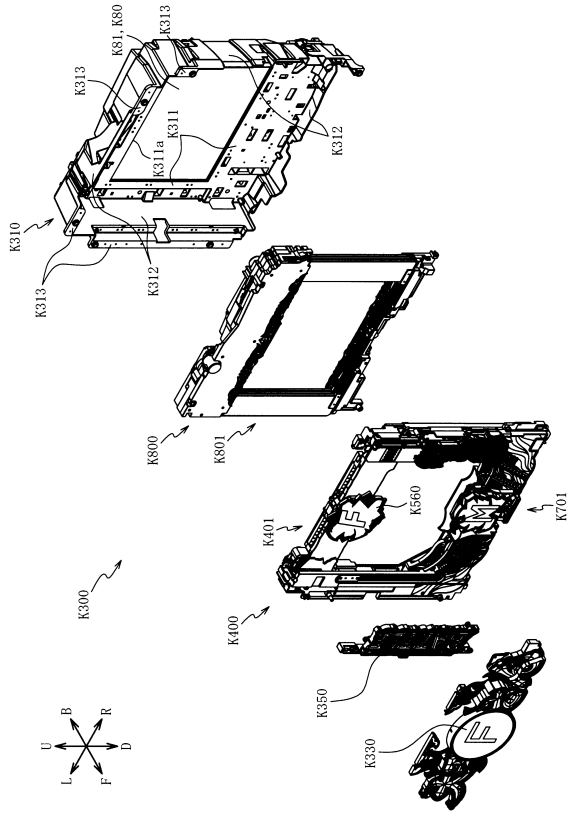
【図２３】



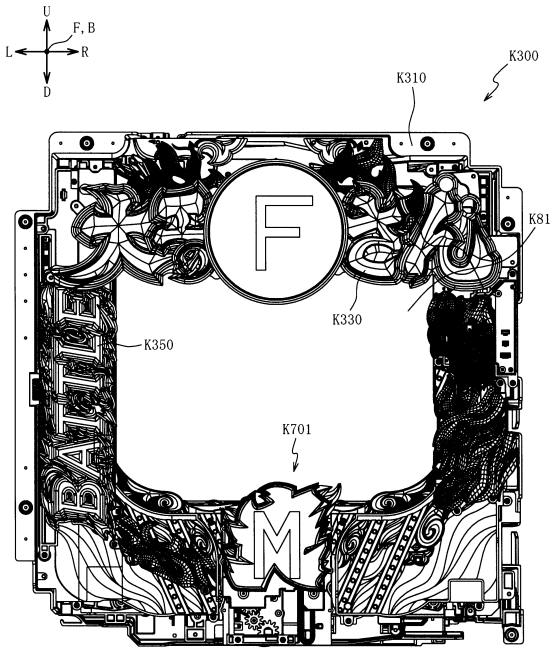
【図２４】



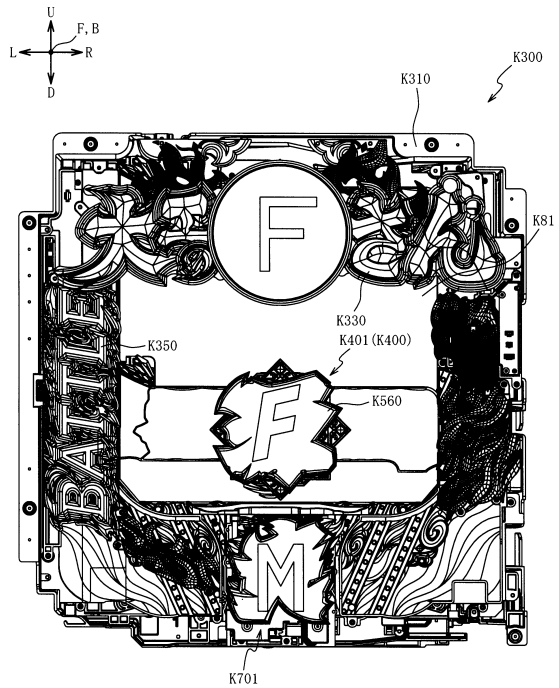
【図２５】



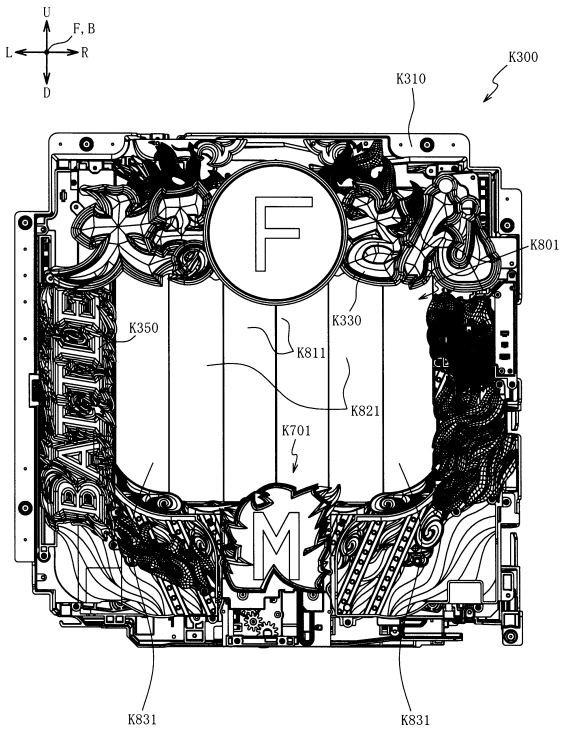
【図２６】



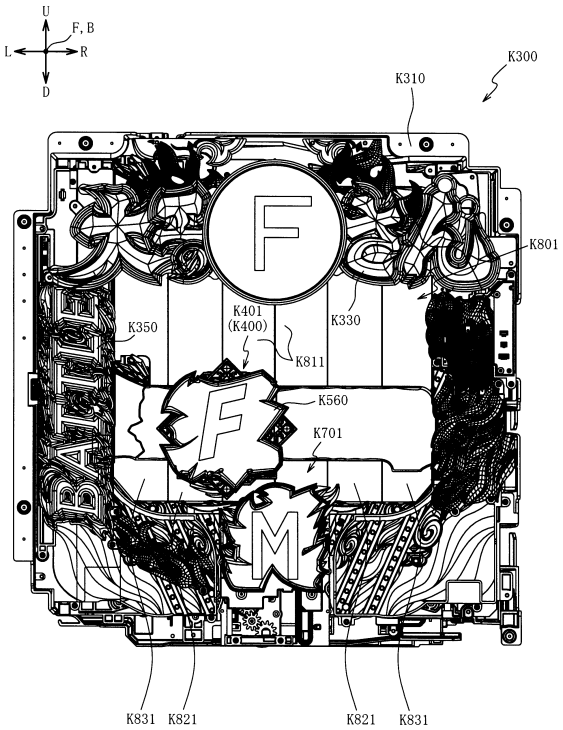
【図２７】



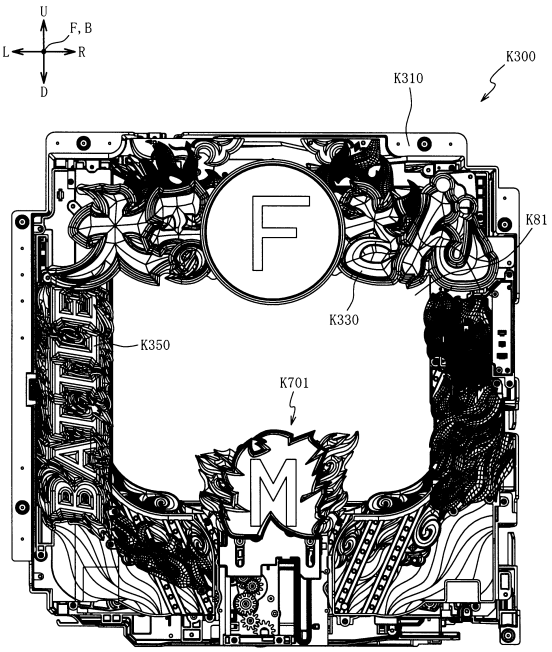
【図２８】



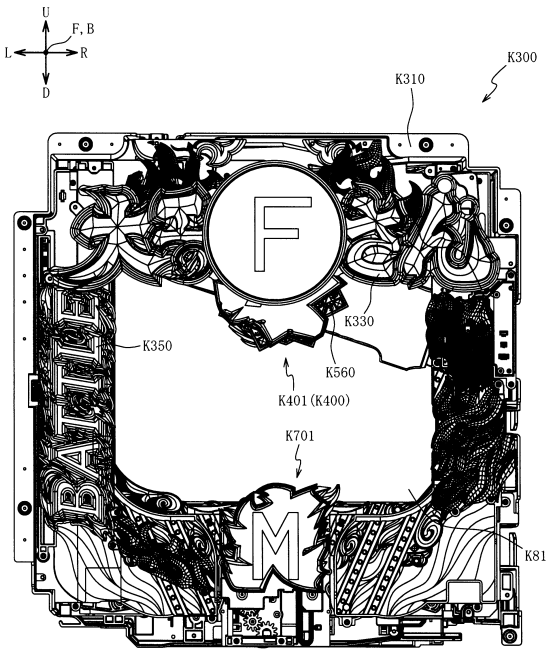
【図２９】



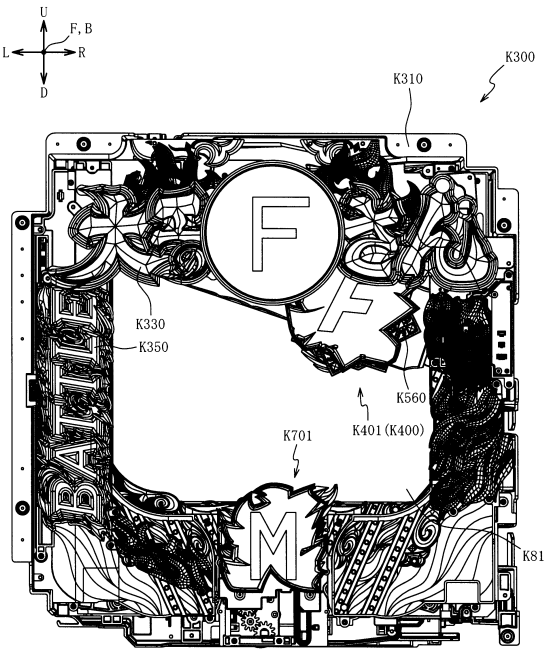
【図３０】



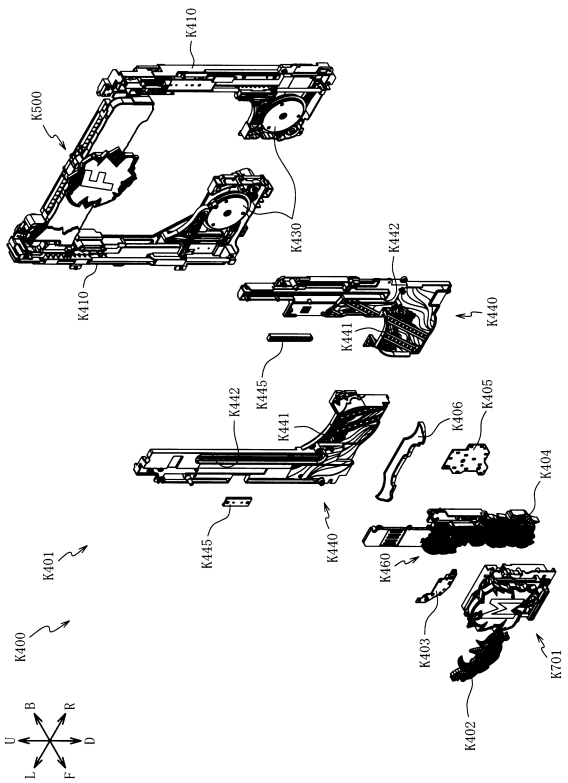
【図３１】



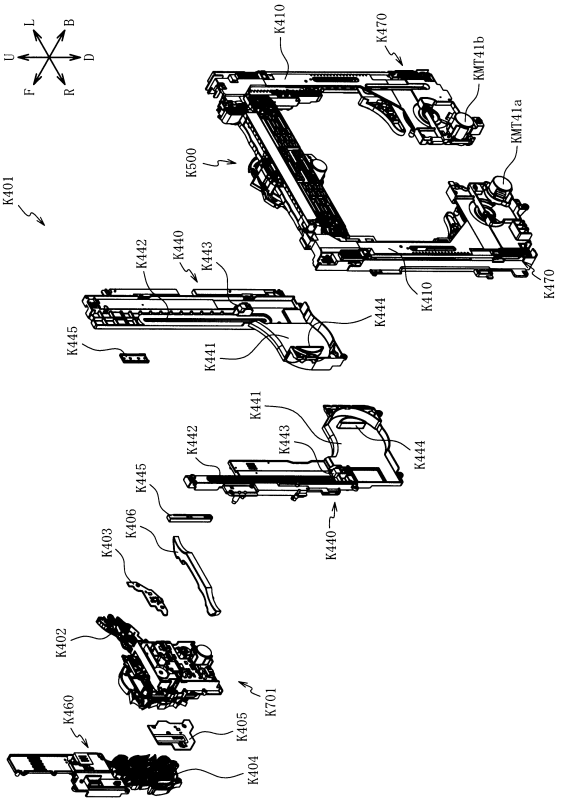
【図３２】



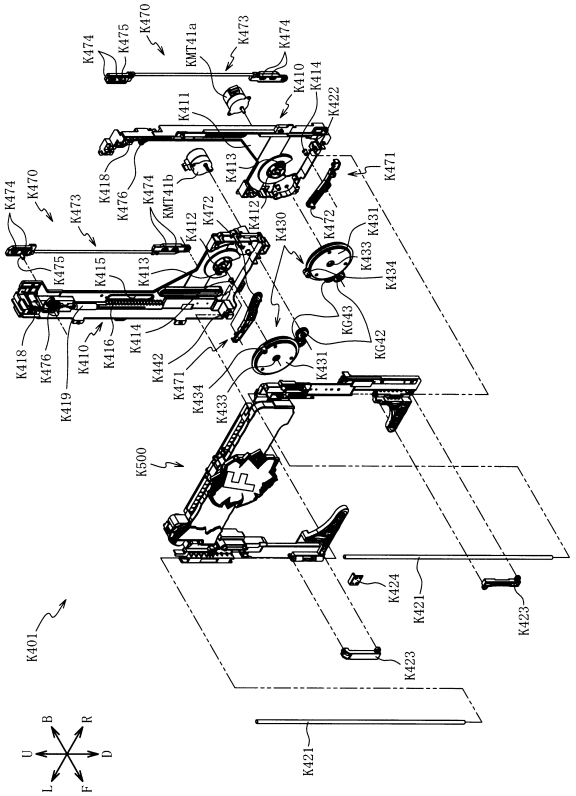
【図３３】



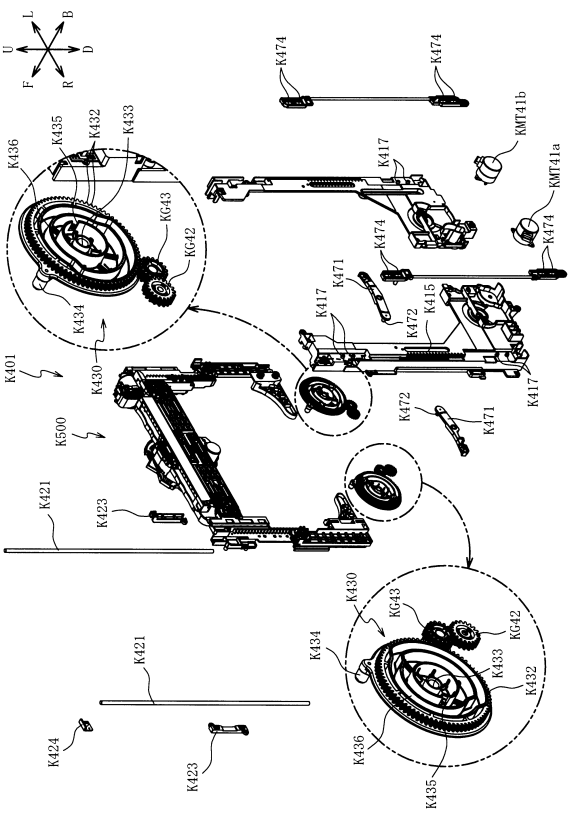
【図３４】



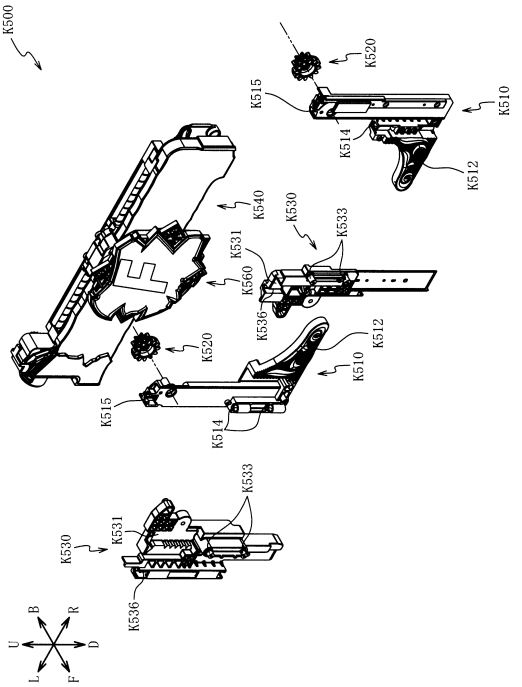
【図３５】



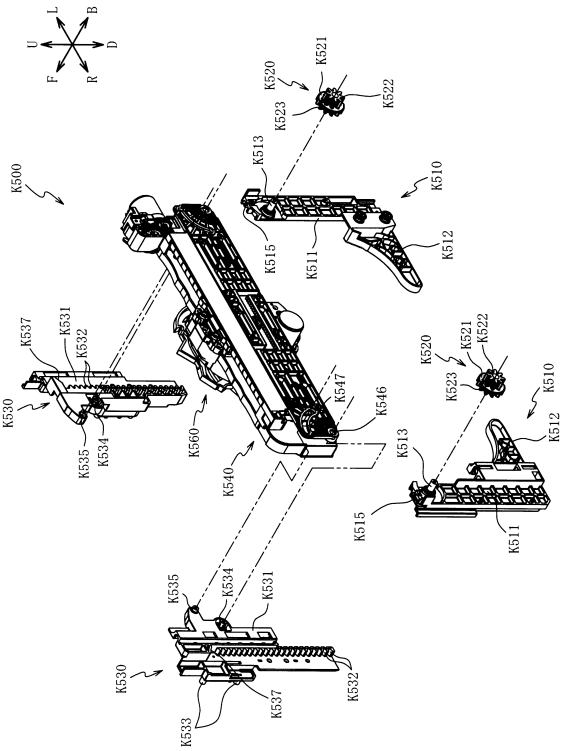
【図３６】



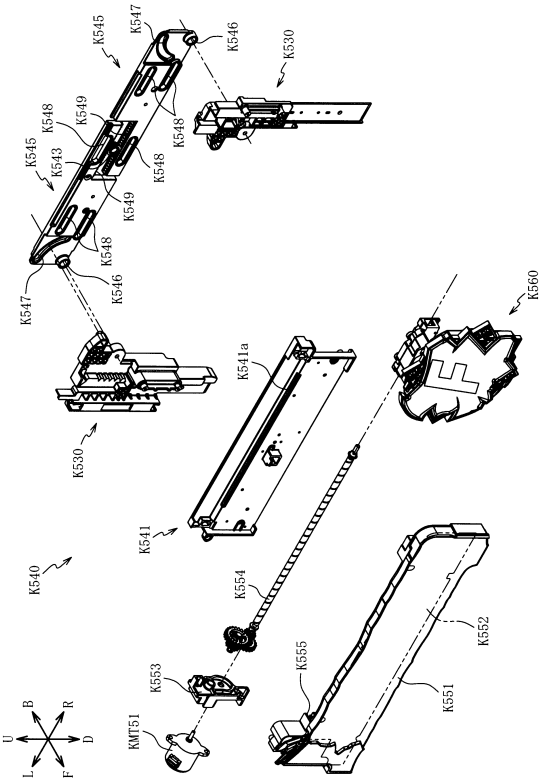
【図３７】



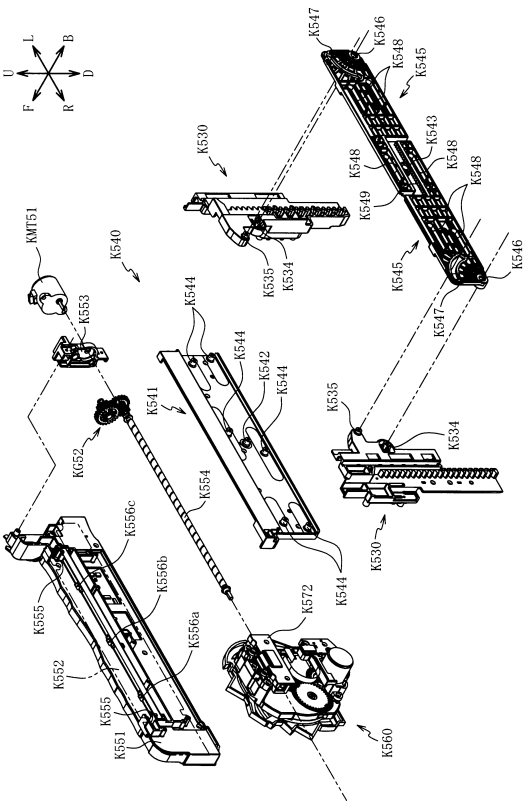
【図３８】



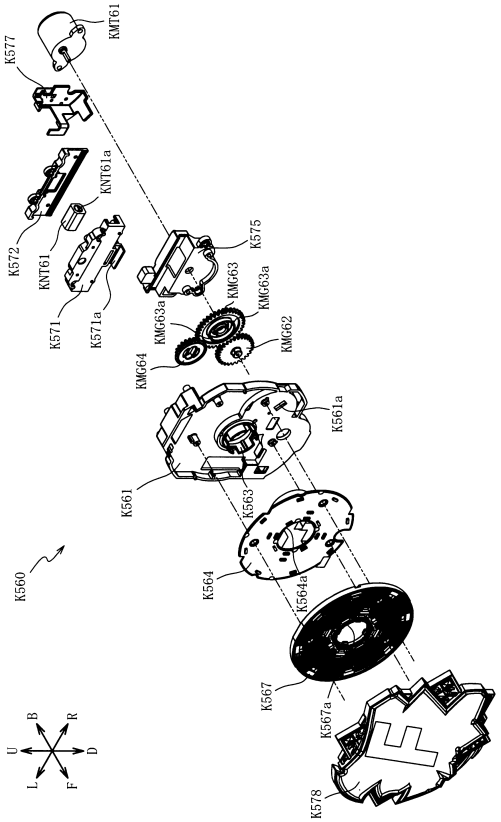
【図３９】



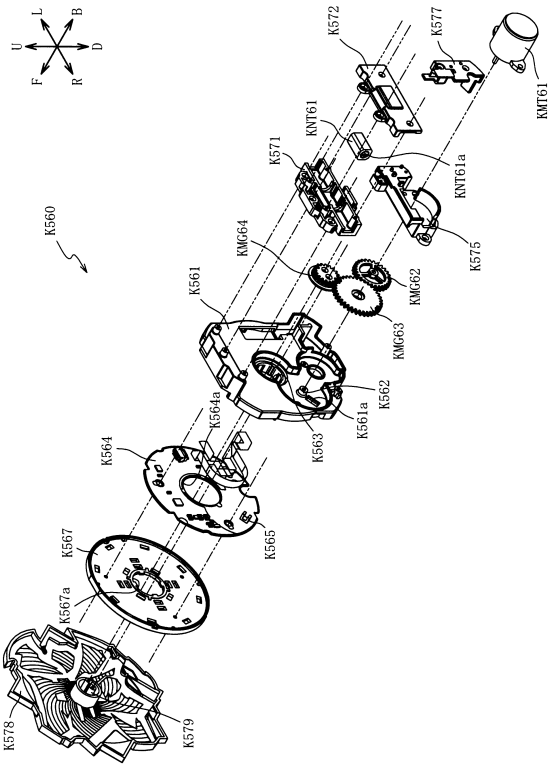
【図４０】



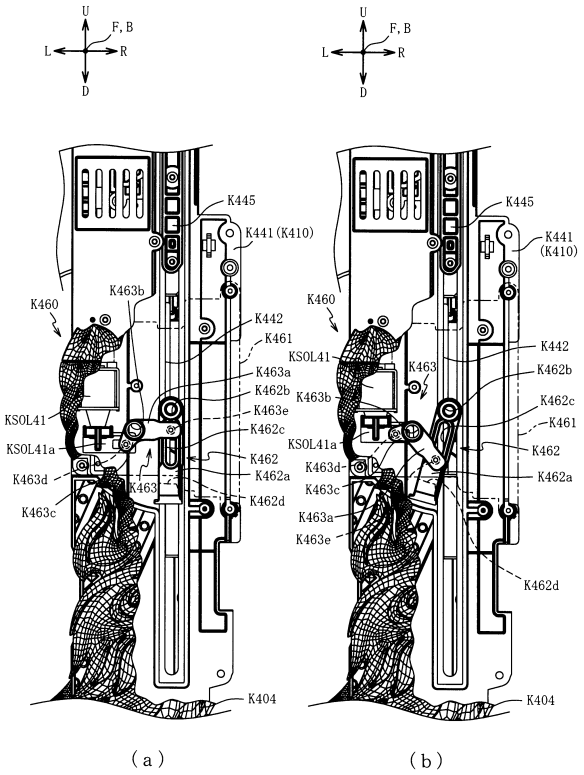
【図４１】



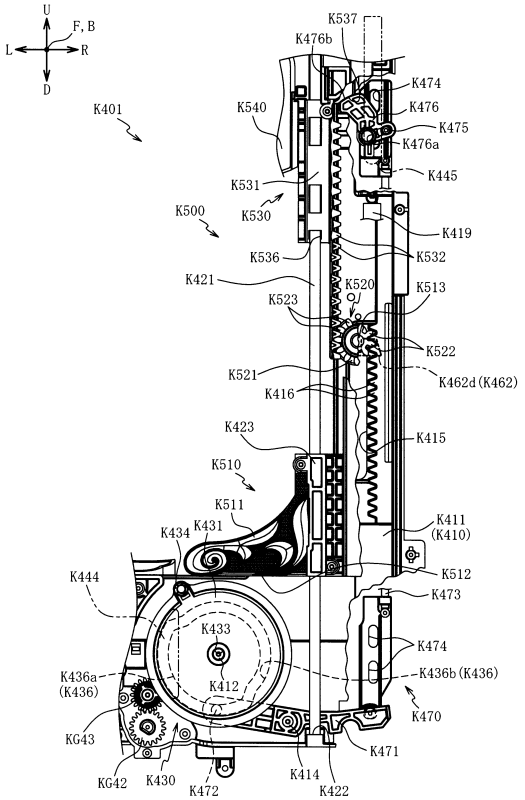
【図４２】



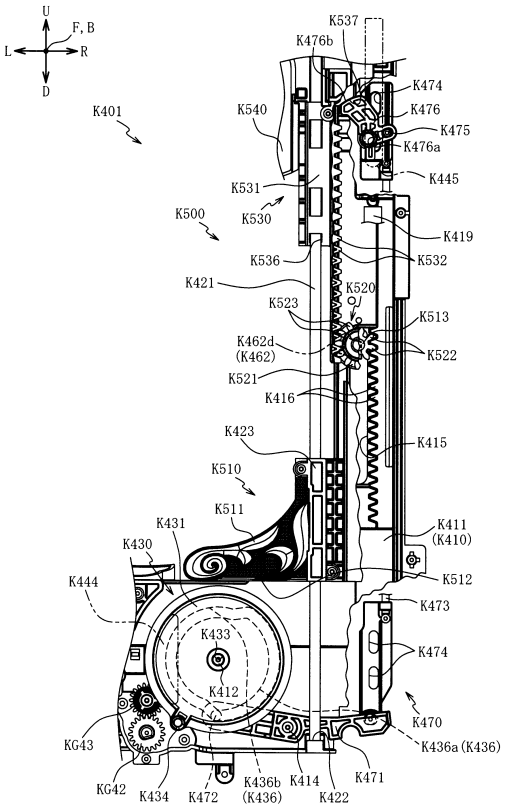
【図４３】



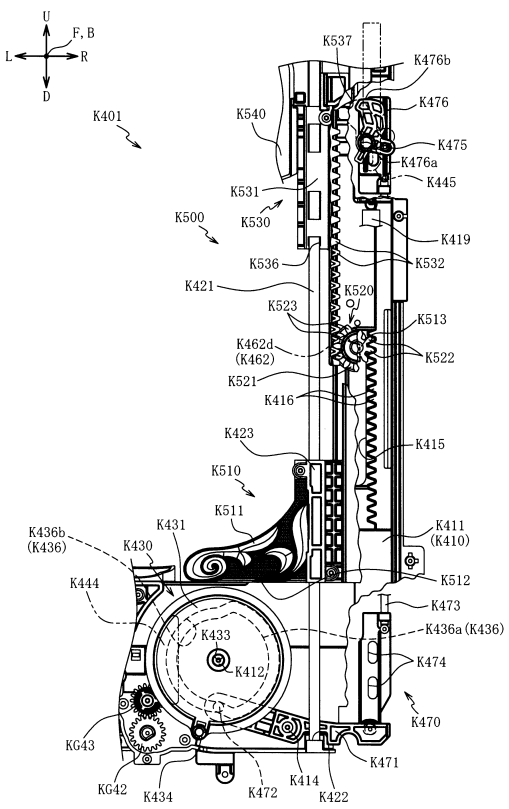
【図４４】



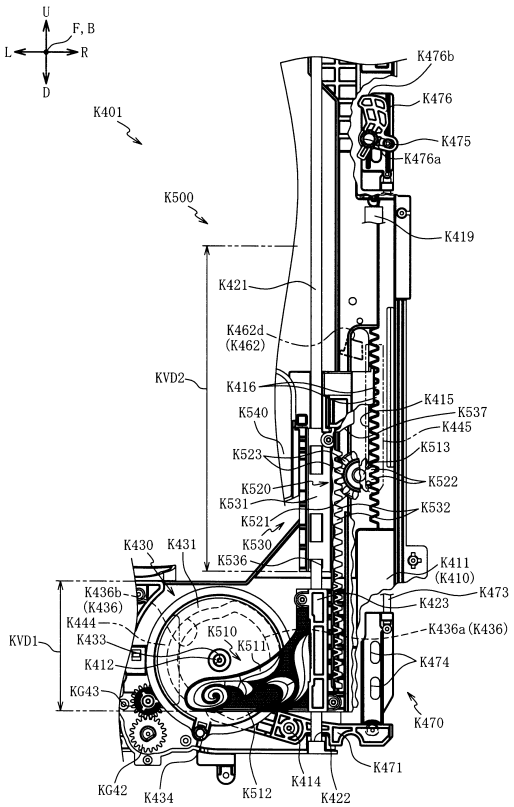
【図４５】



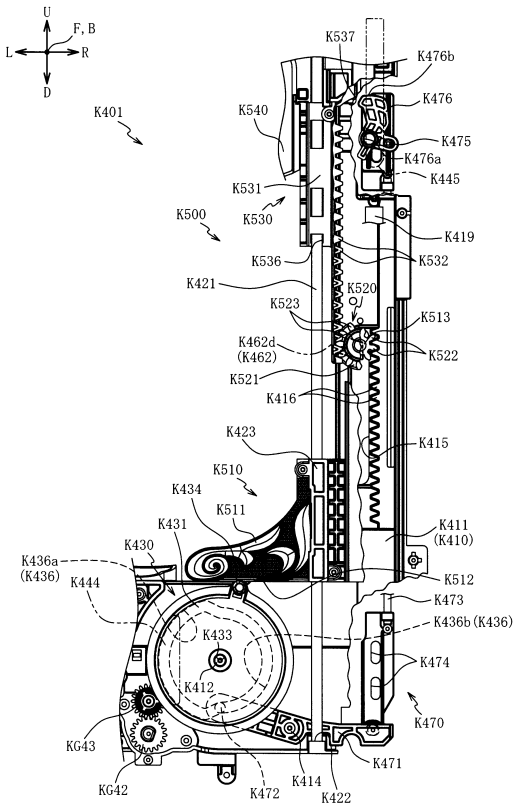
【図４６】



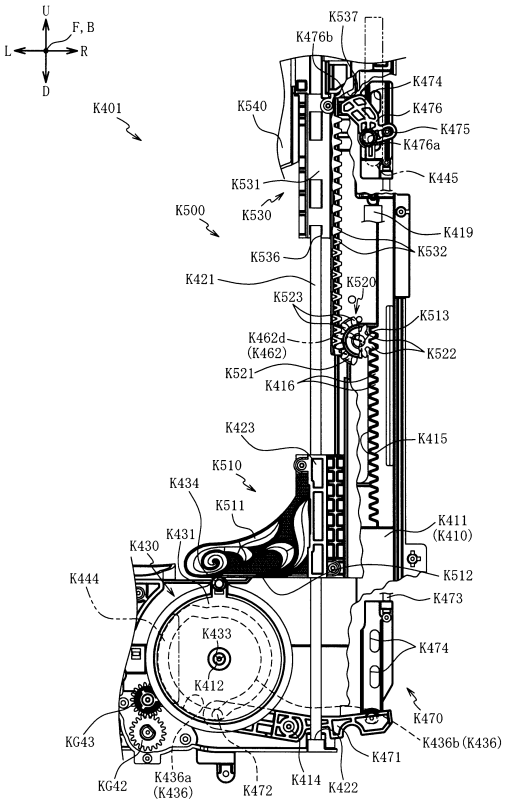
【図４７】



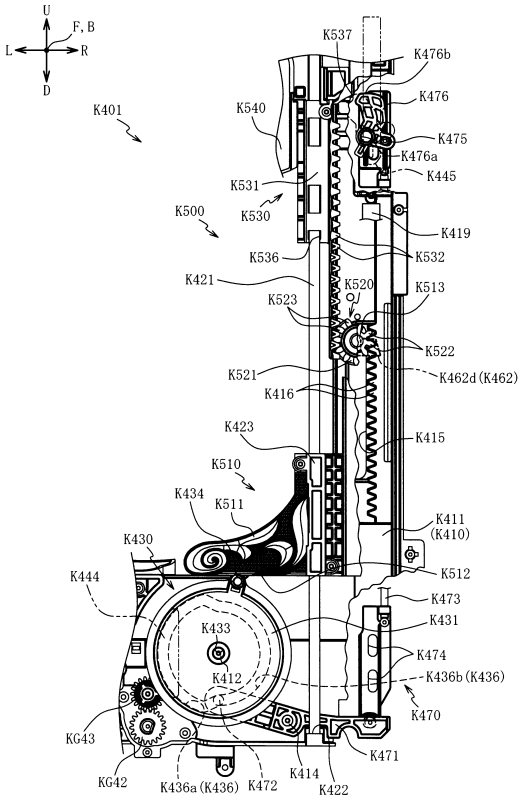
【図４８】



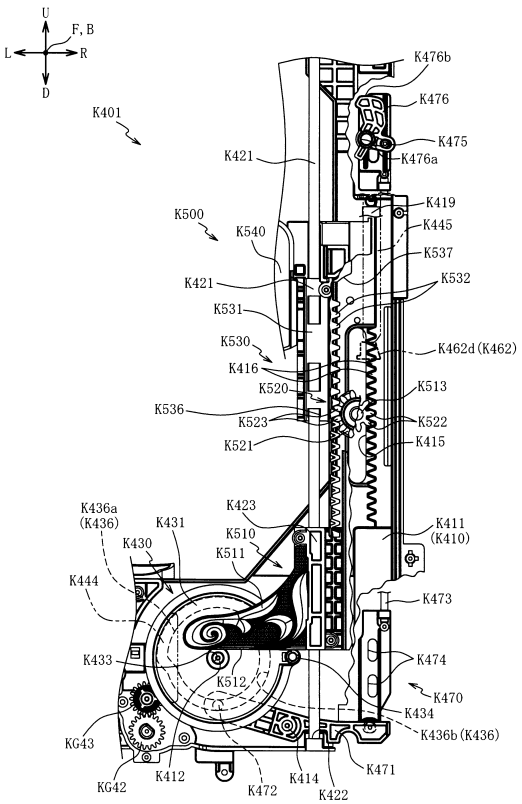
【図４９】



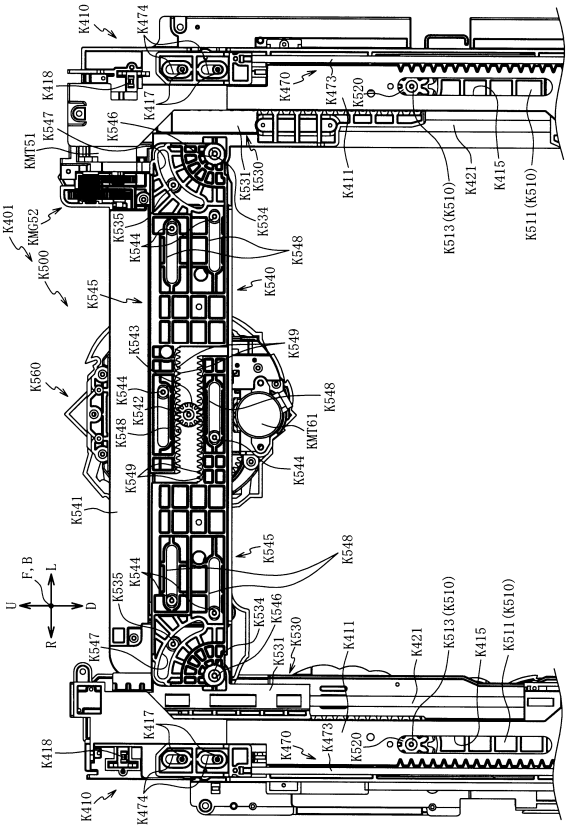
【図５０】



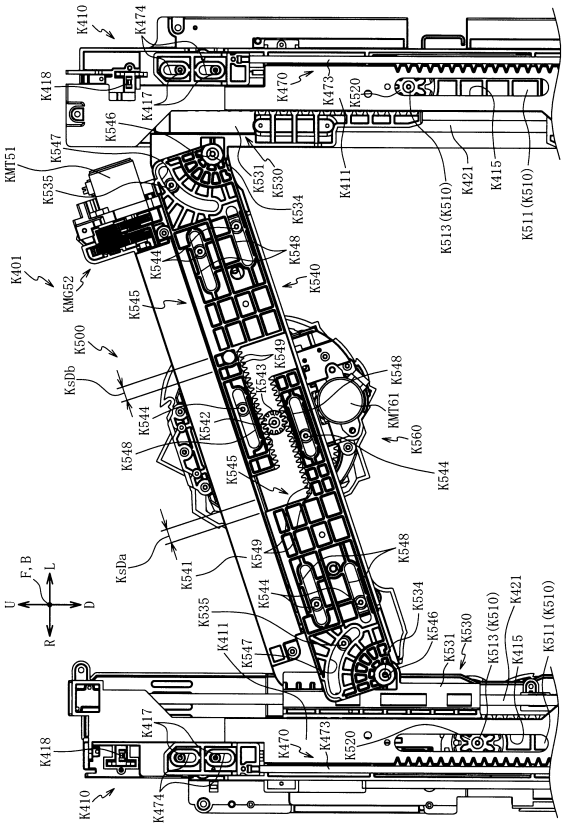
【図５１】



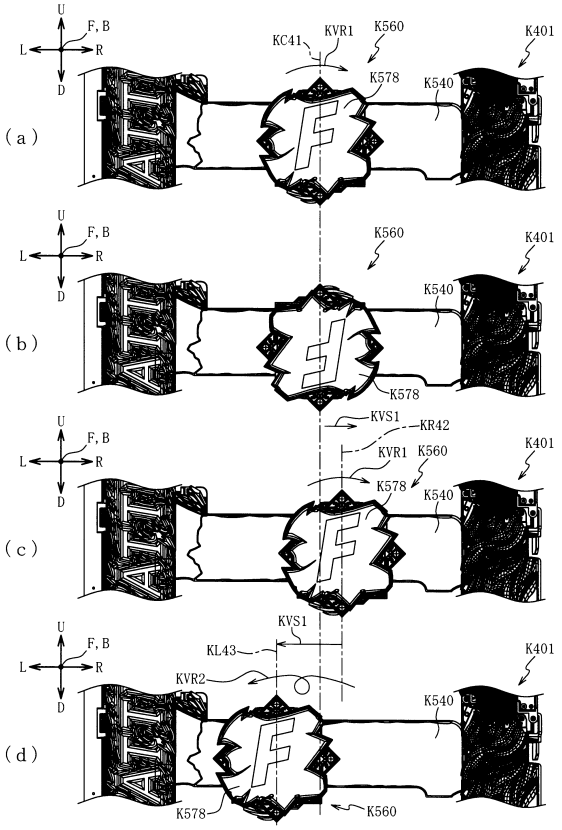
【図５２】



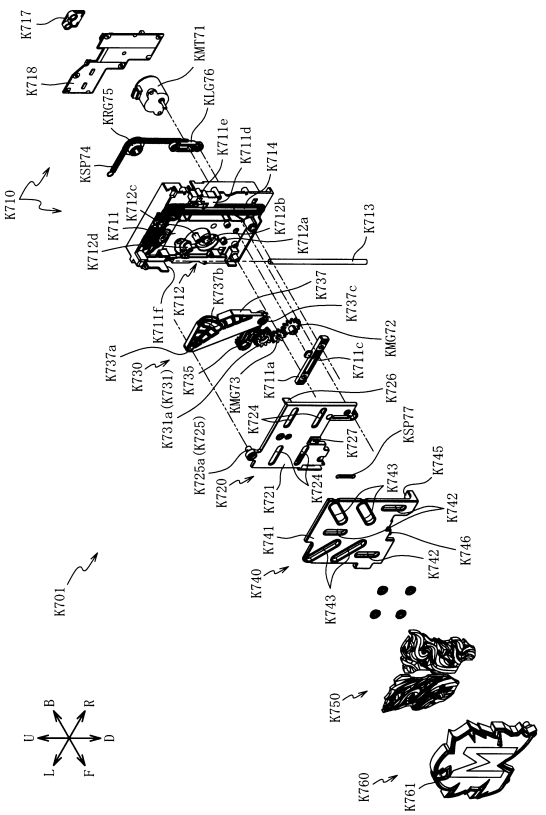
【図５３】



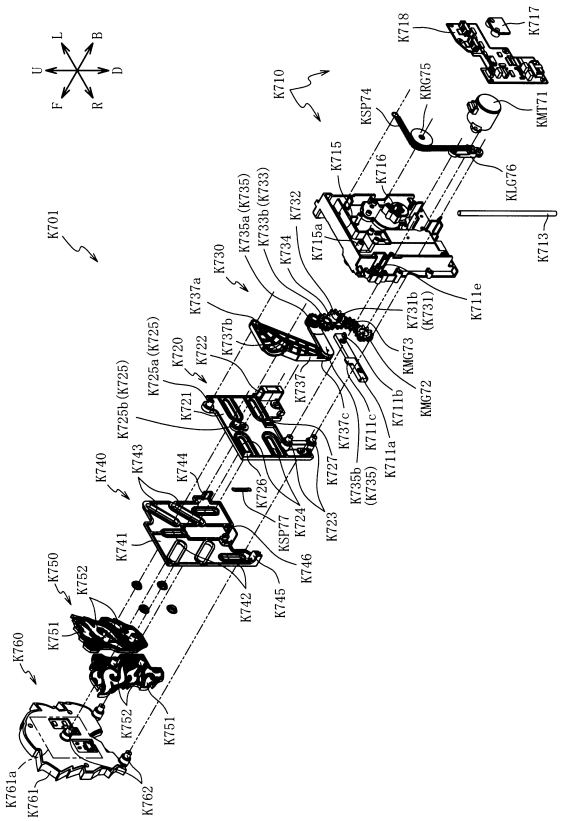
【図５４】



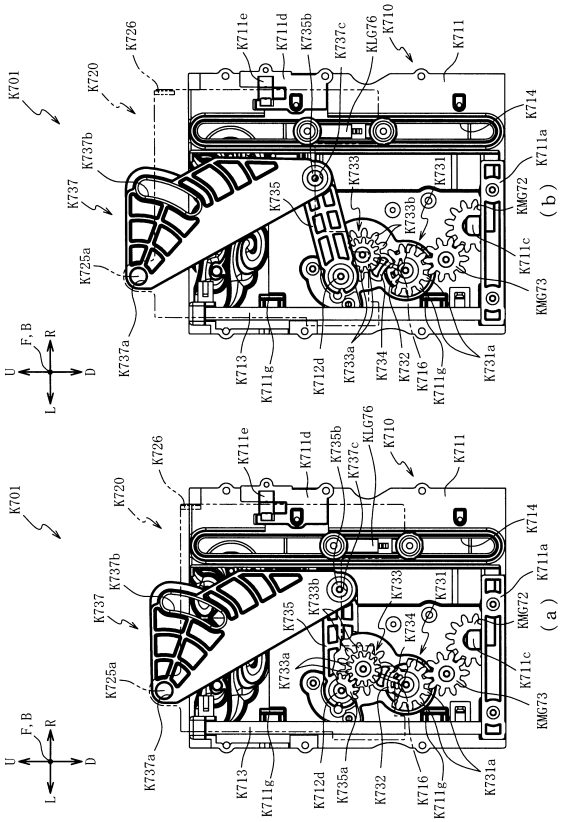
【図５５】



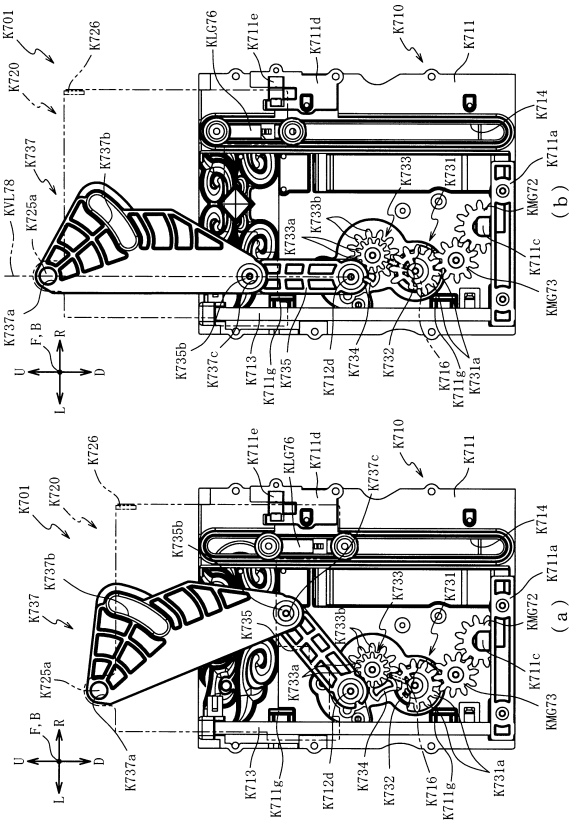
【図５６】



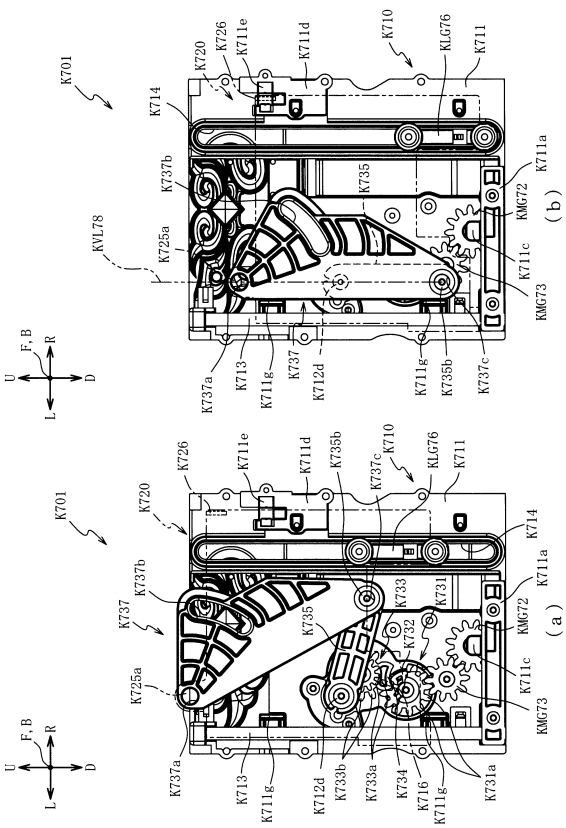
【図５７】



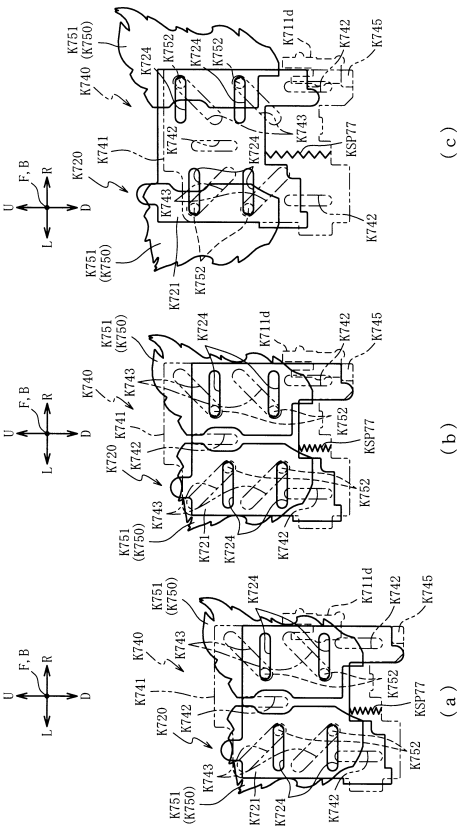
【図５８】



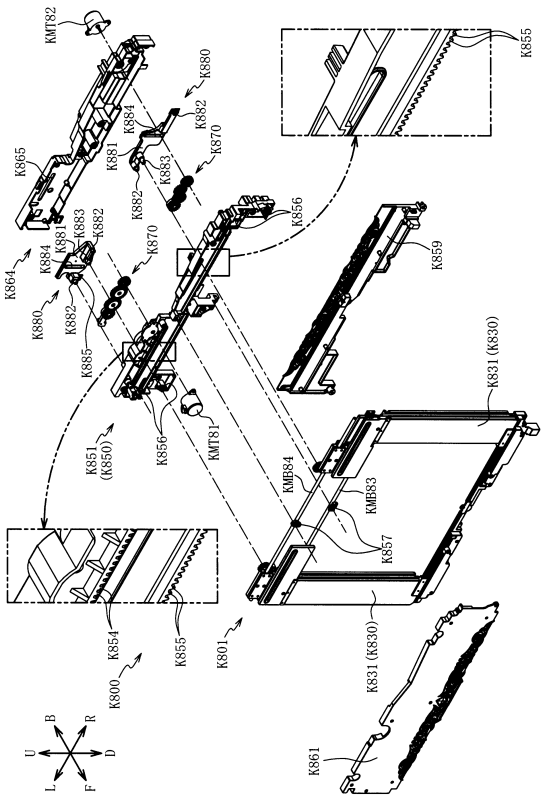
【図５９】



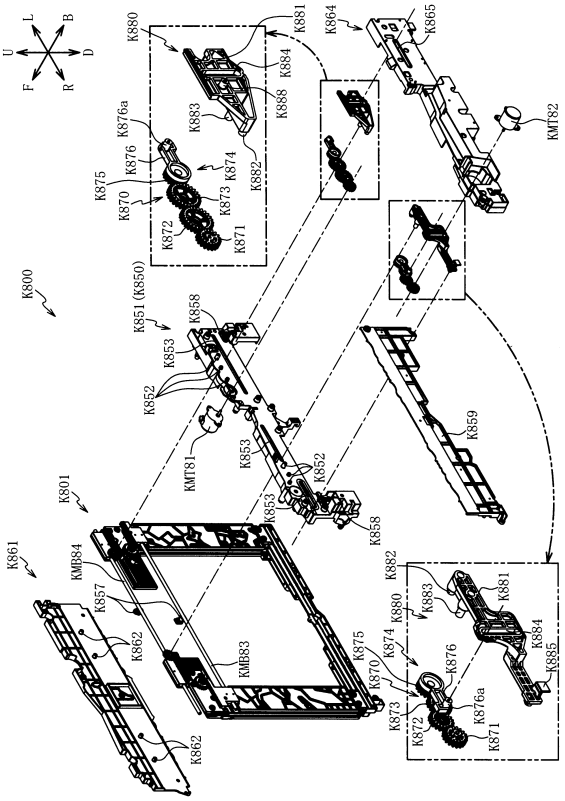
【図６０】



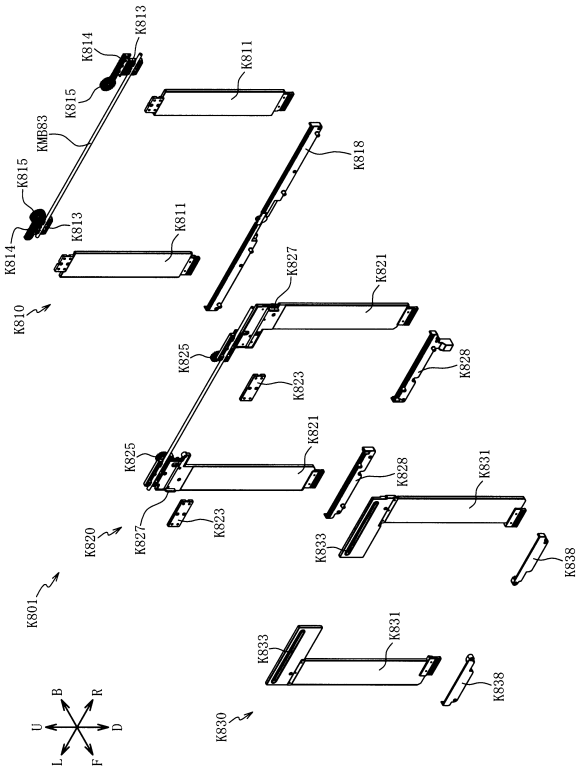
【図６１】



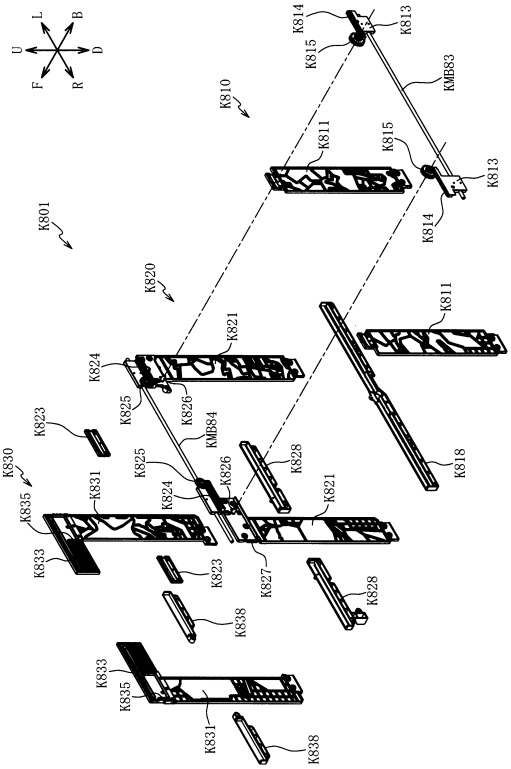
【図６２】



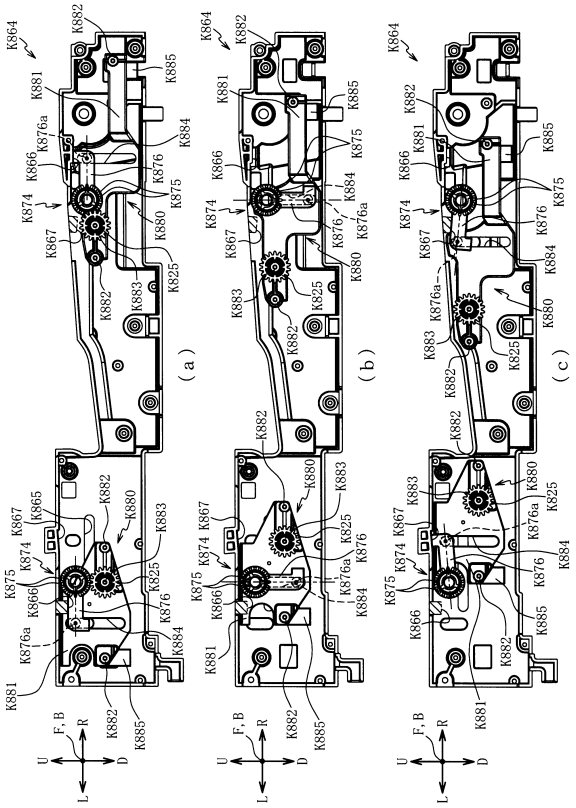
【図６３】



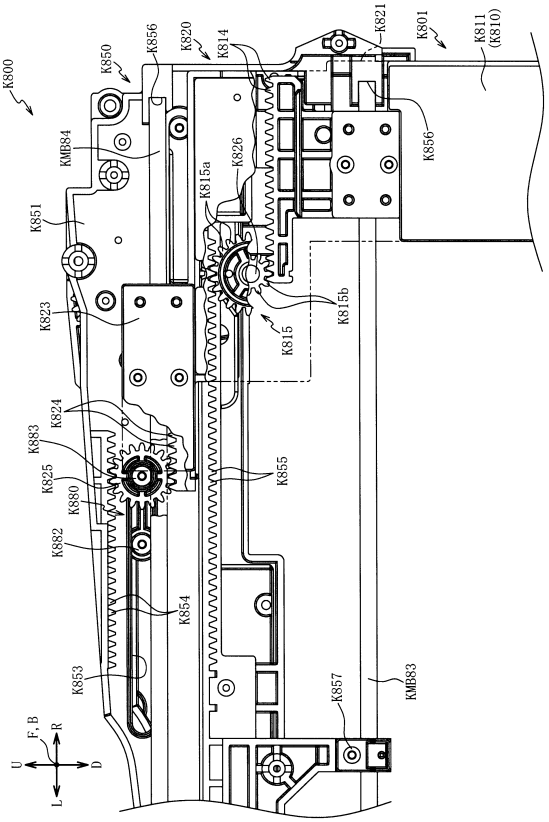
【図６４】



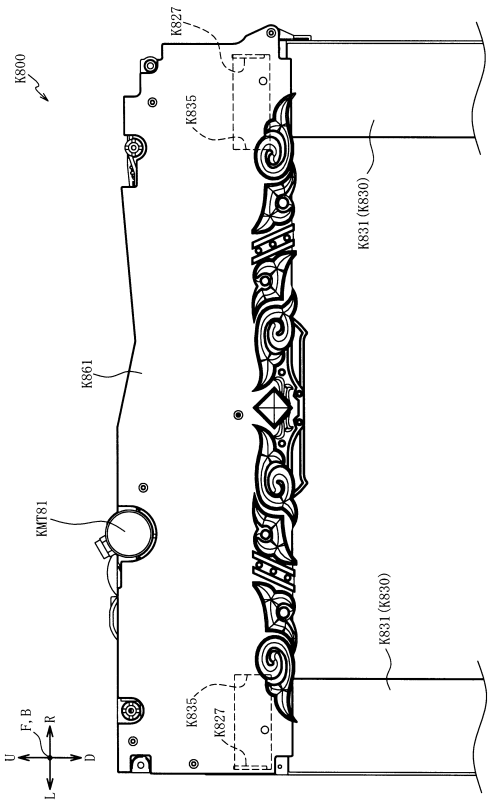
【図６５】



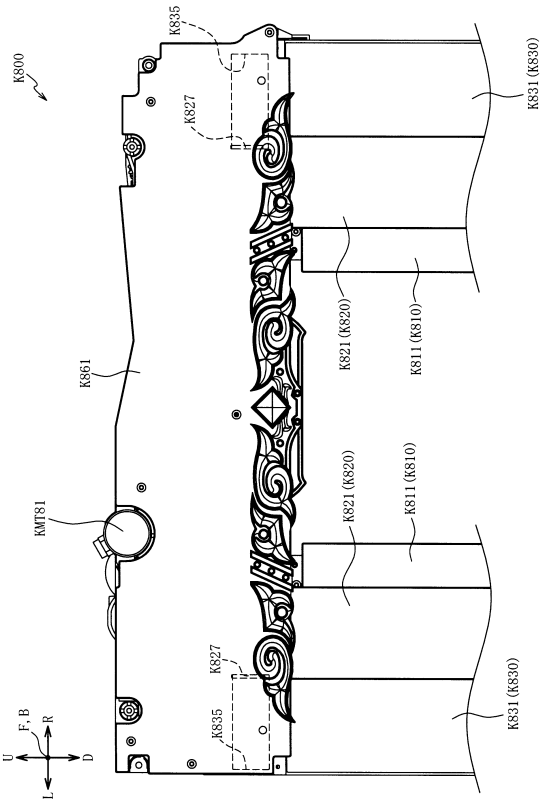
【図６６】



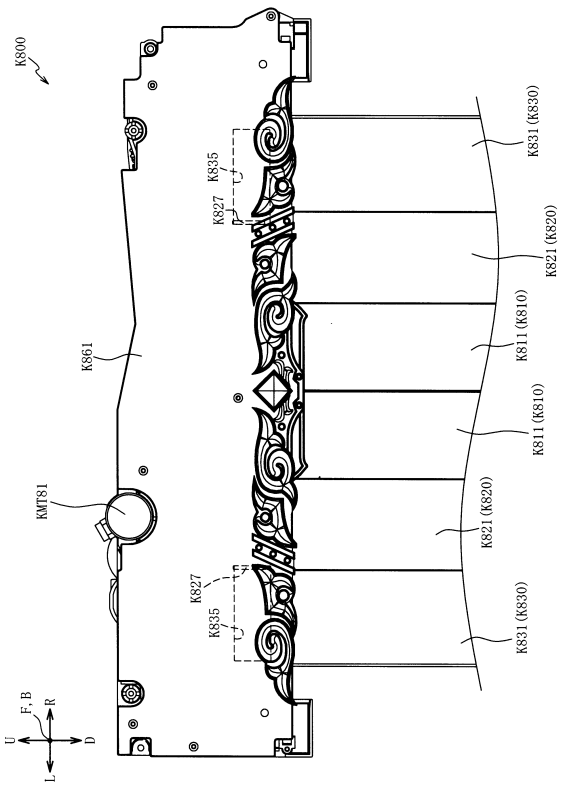
【図６７】



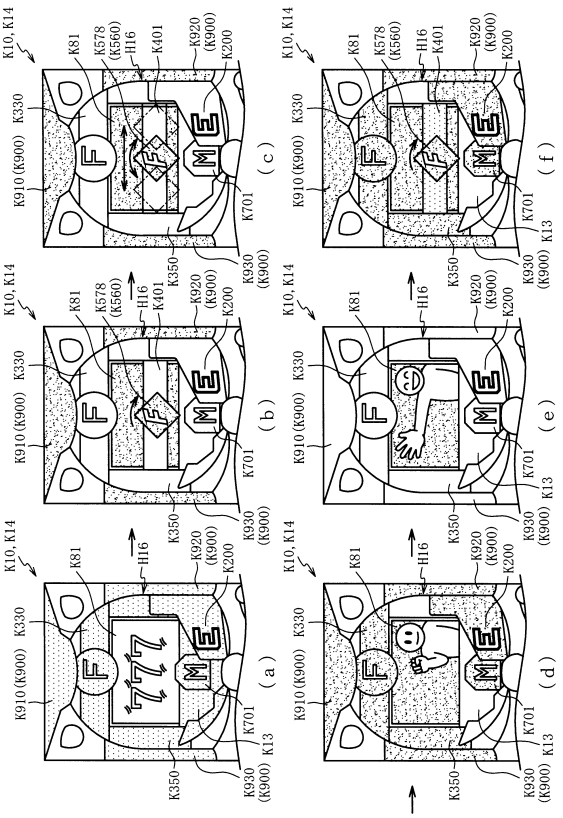
【図６８】



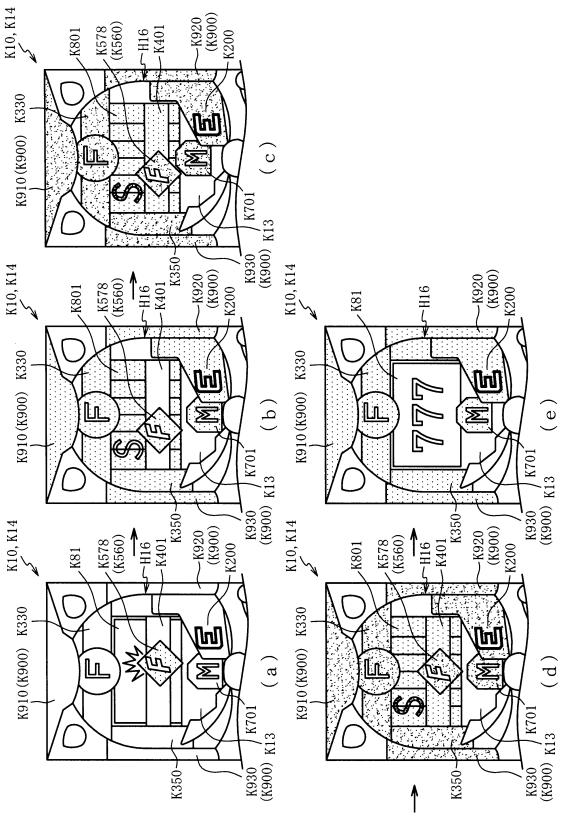
【図６９】



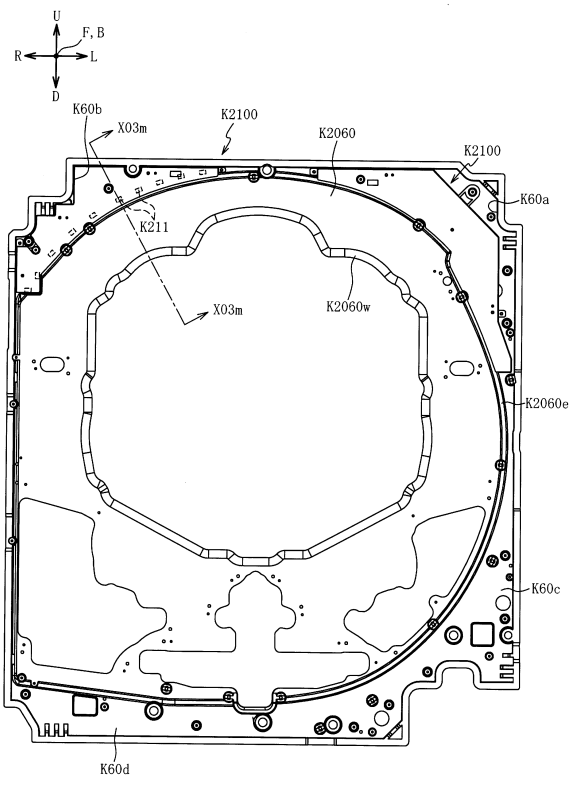
【図７０】



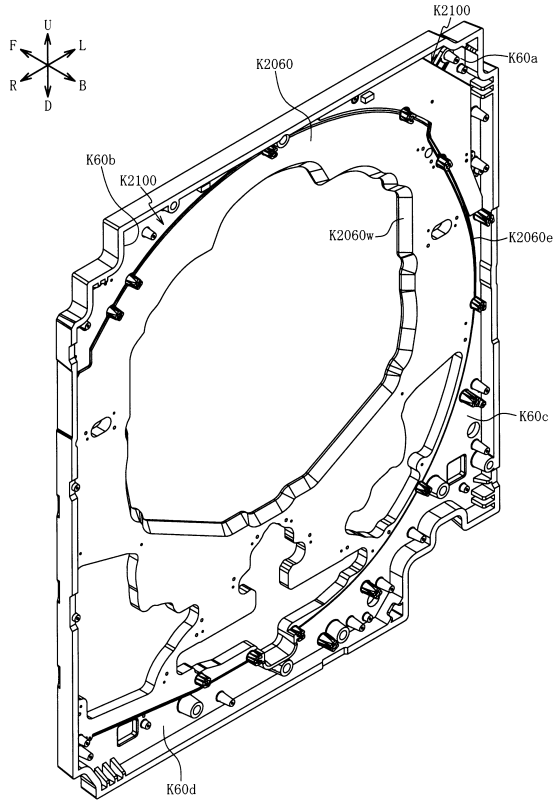
【図７１】



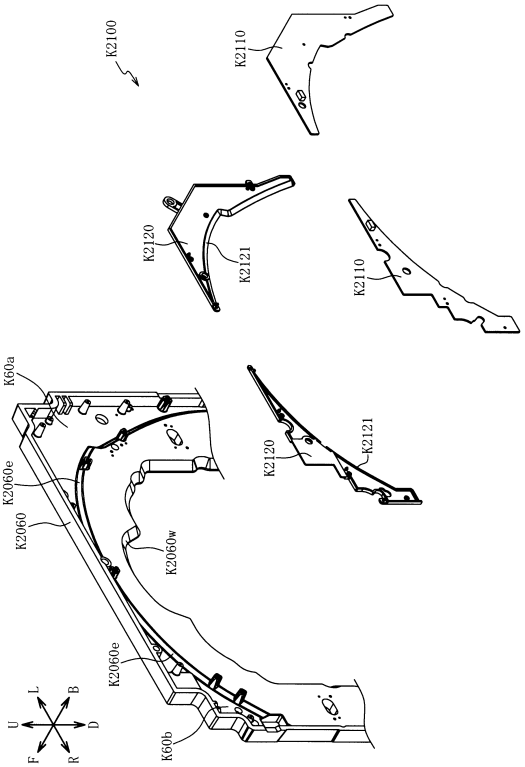
【図７２】



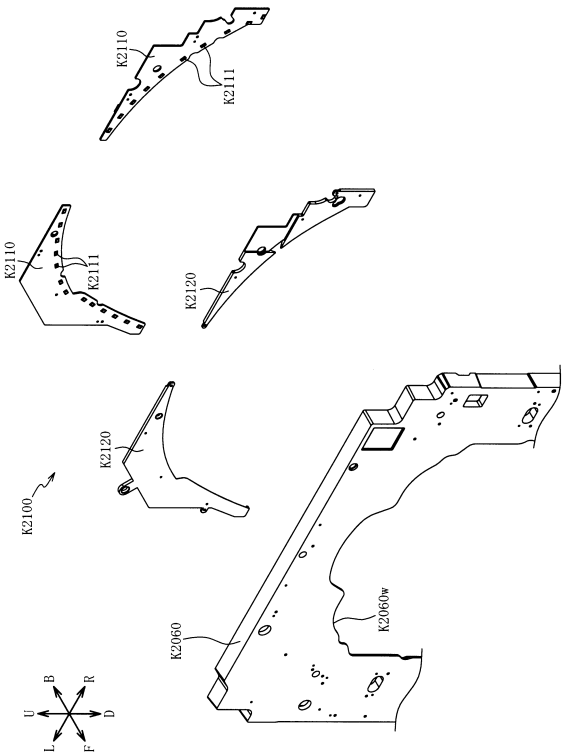
【図７３】



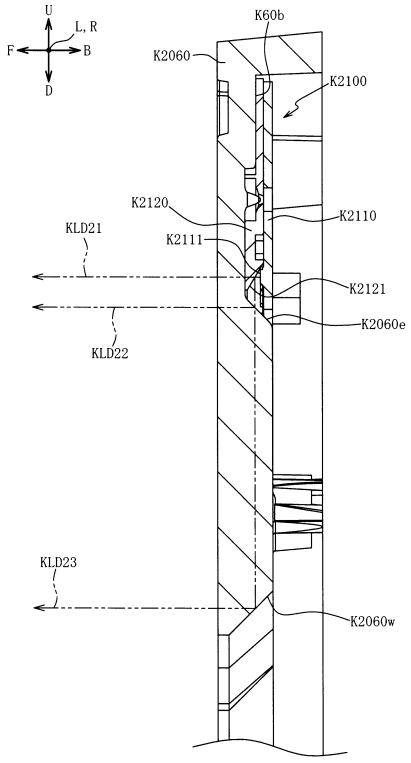
【図７４】



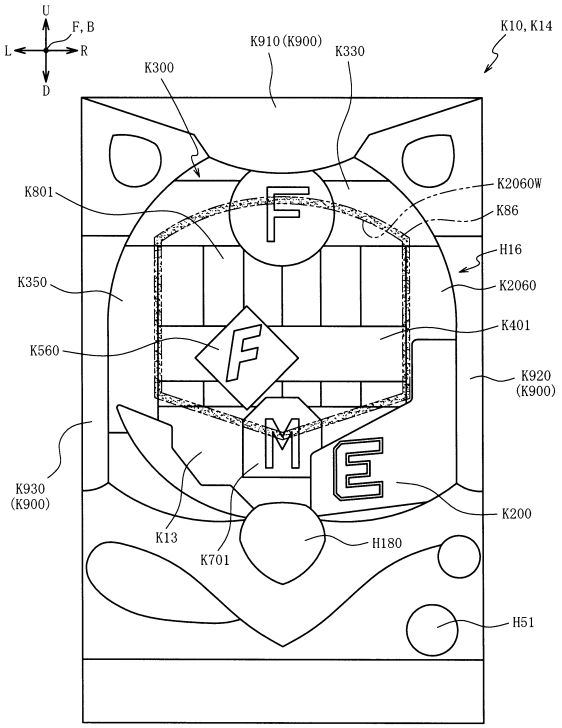
【図７５】



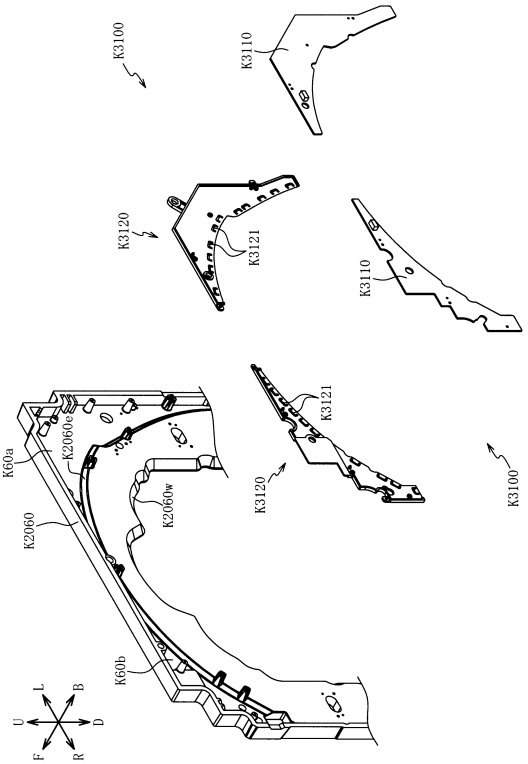
【図７６】



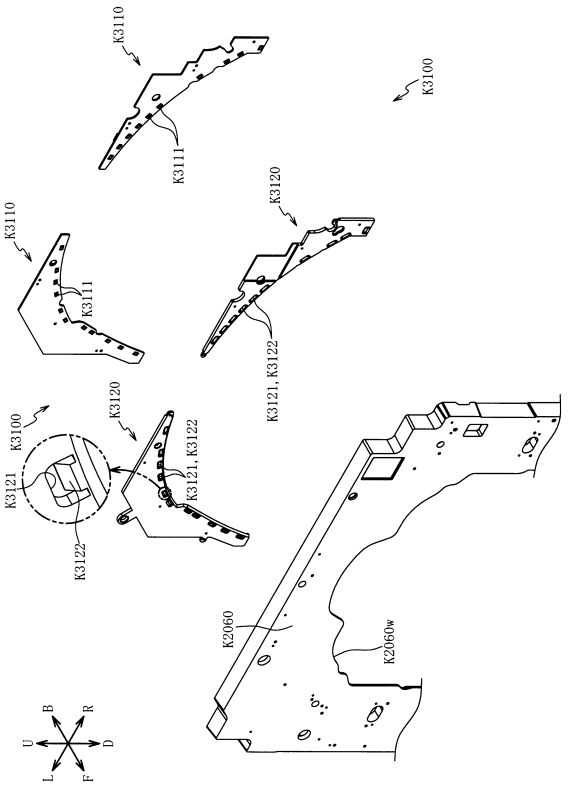
【図７７】



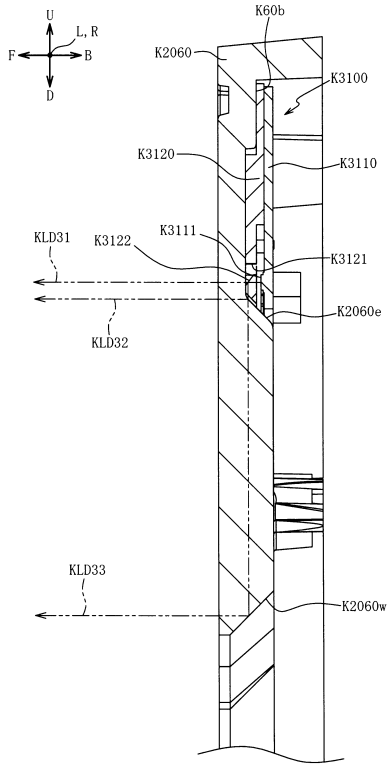
【図７８】



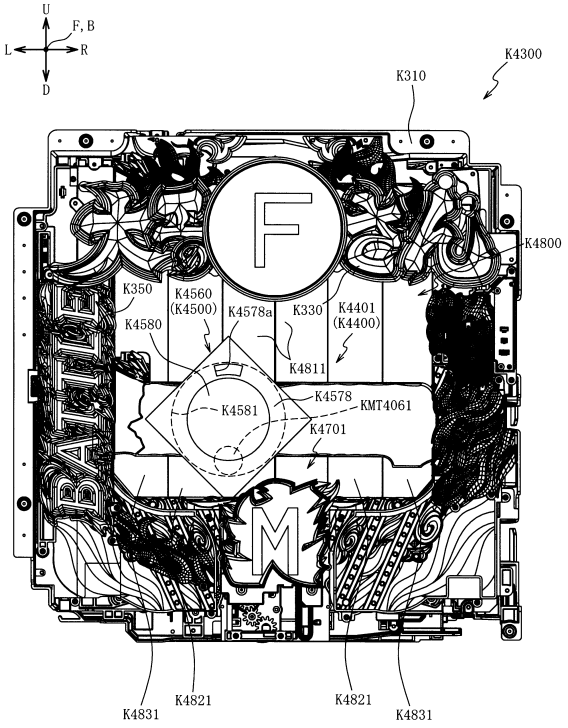
【図７９】



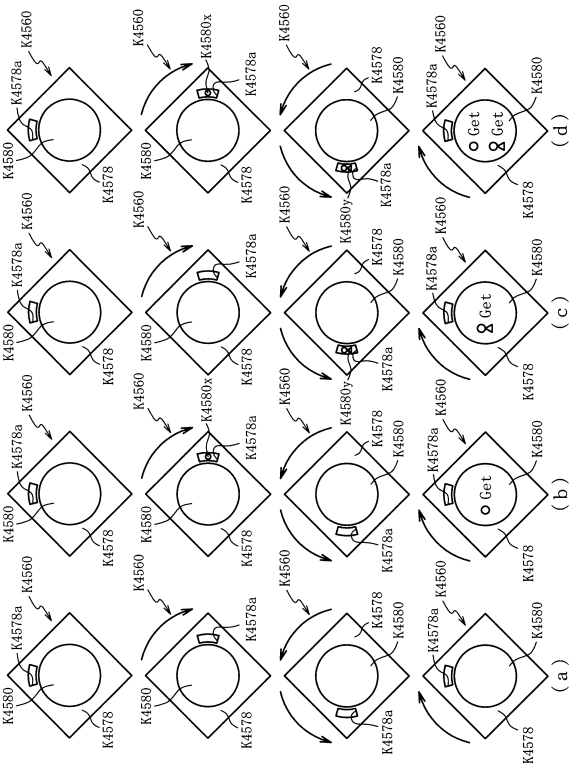
【図８０】



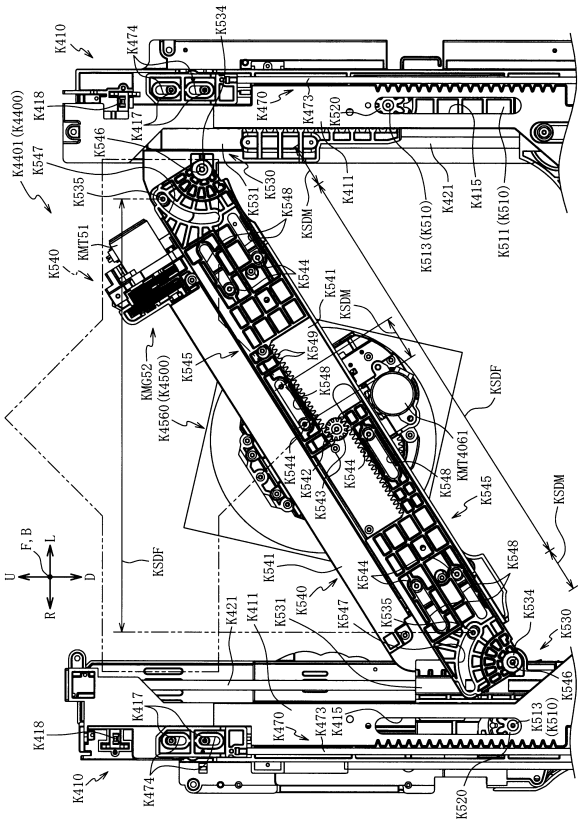
【図８１】



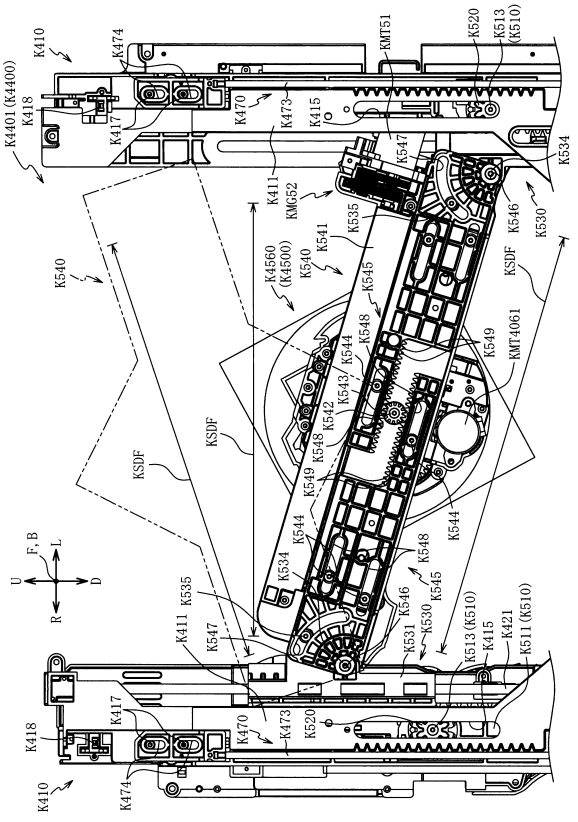
【図８２】



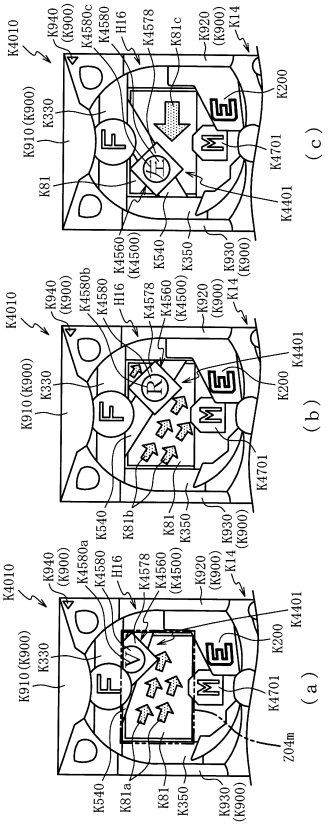
【図８３】



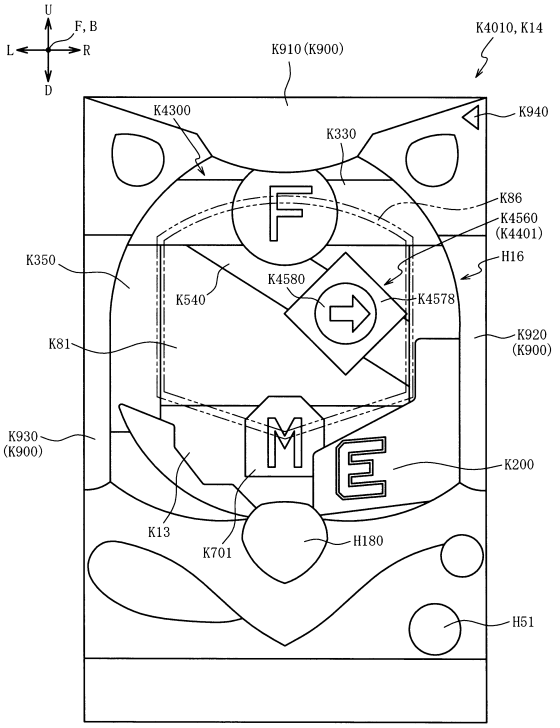
【図８４】



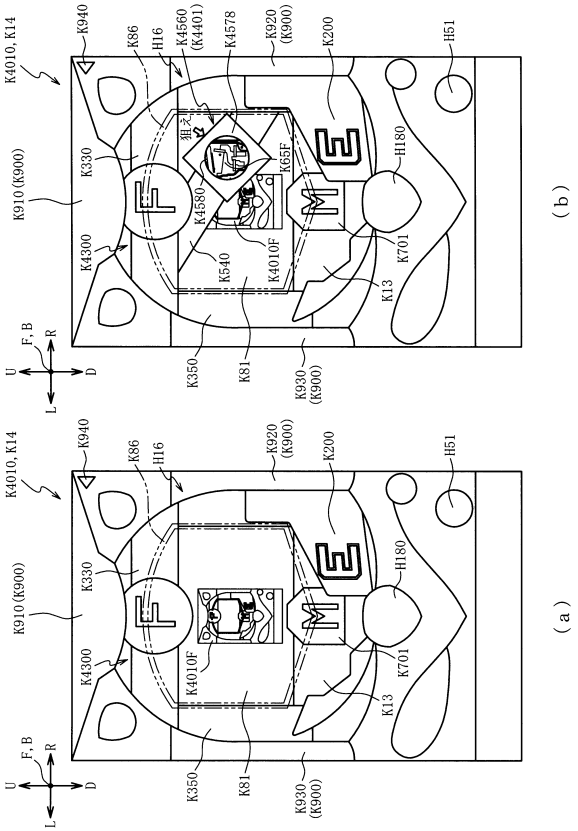
【図８５】



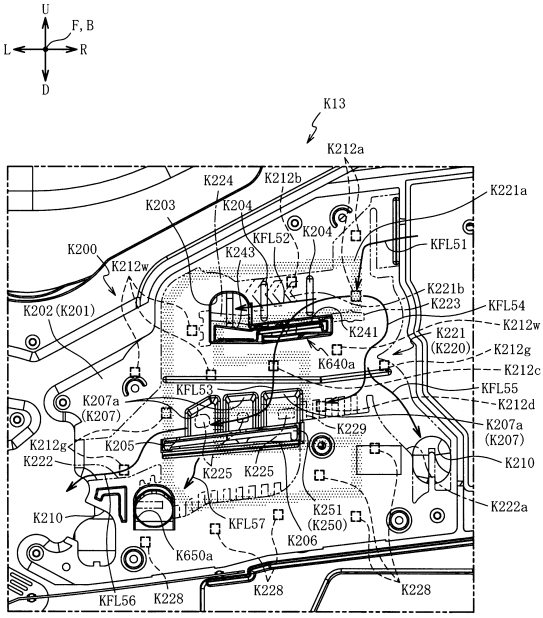
【図８６】



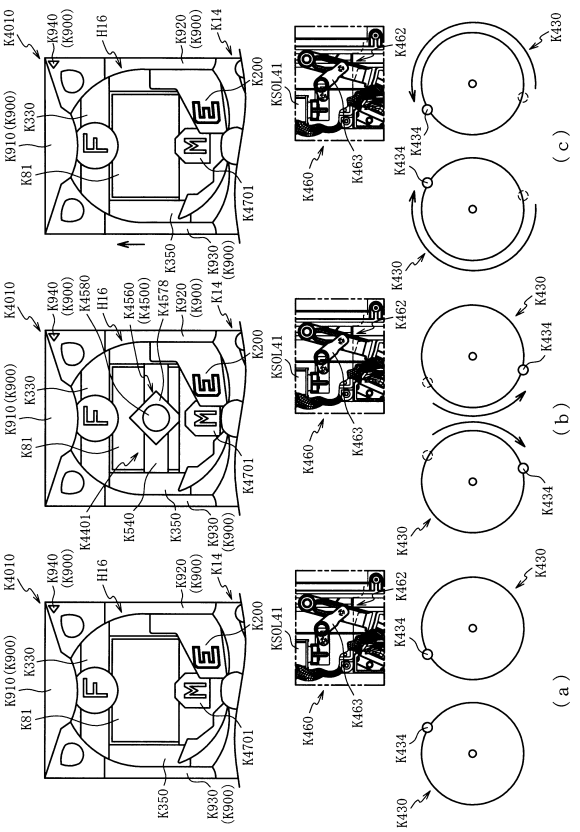
【図８７】



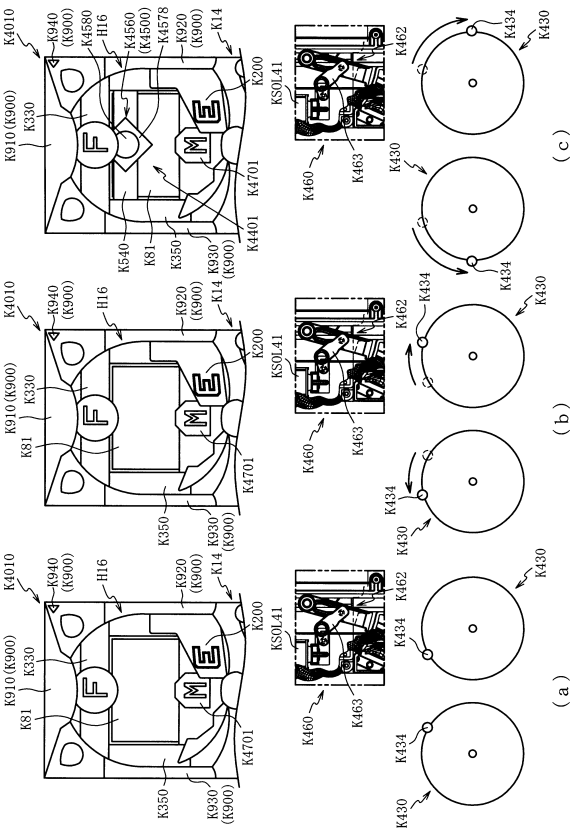
【図８８】



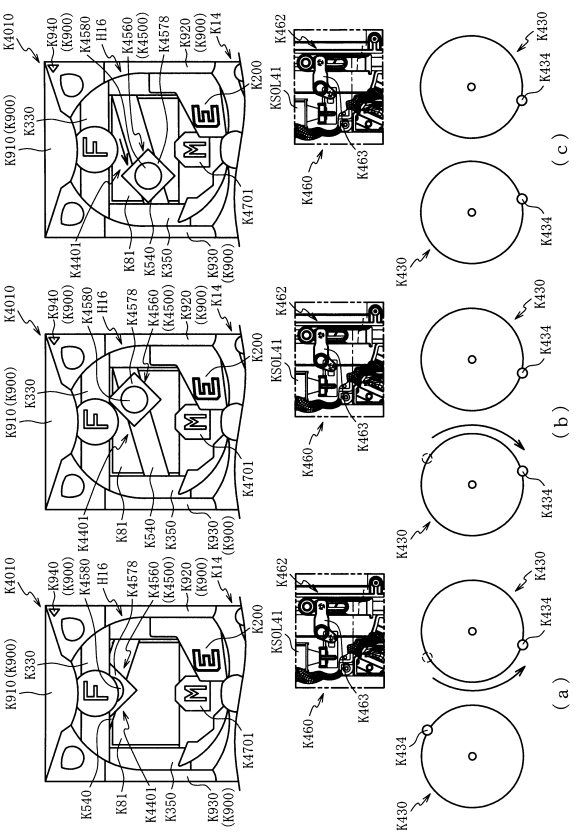
【図８９】



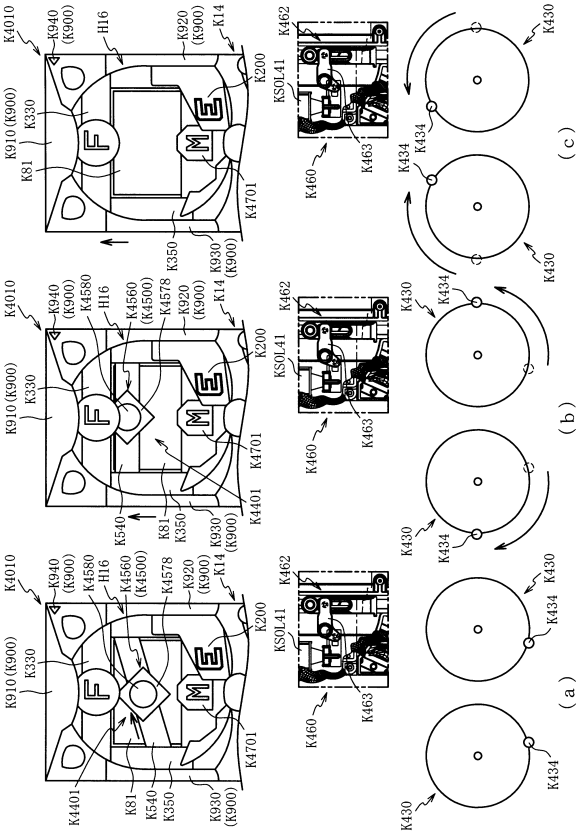
【図９０】



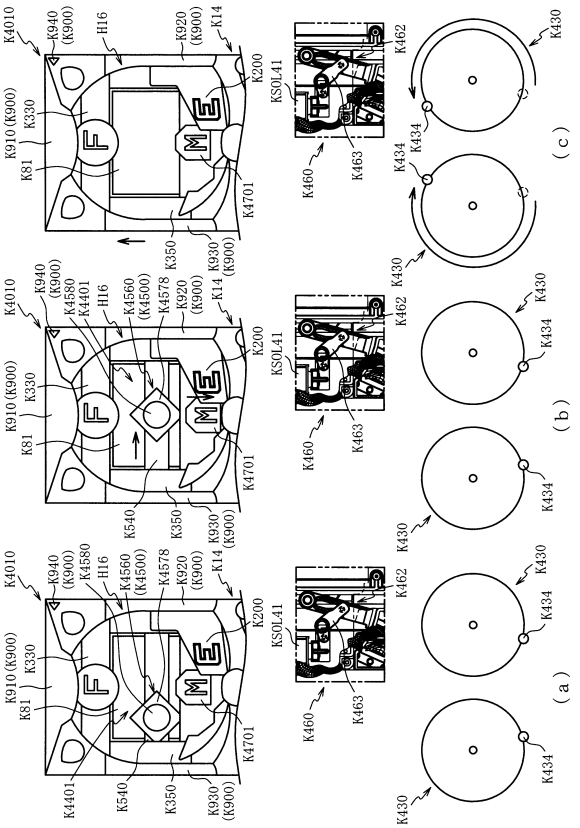
【図９１】



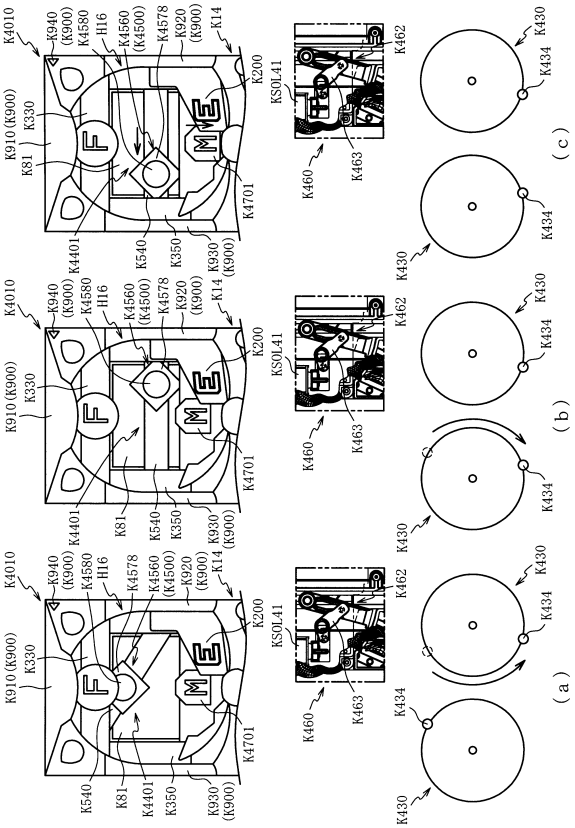
【図９２】



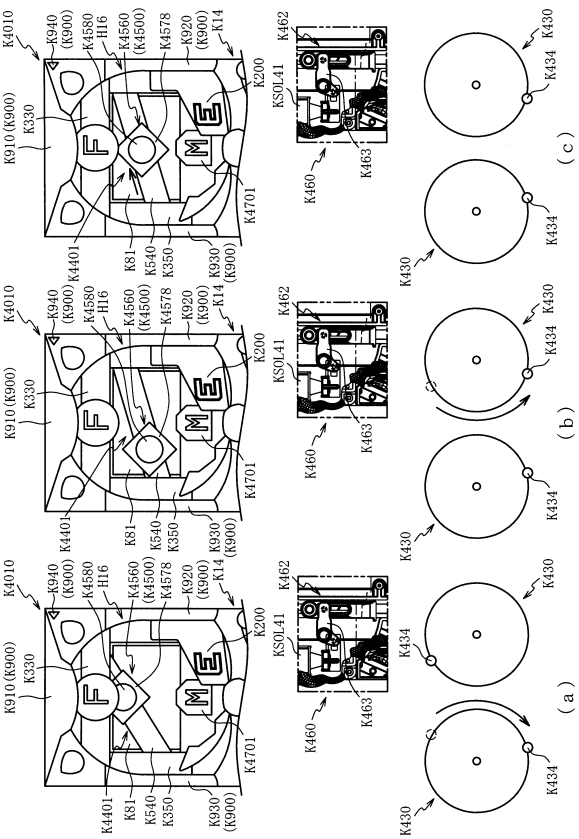
【図９３】



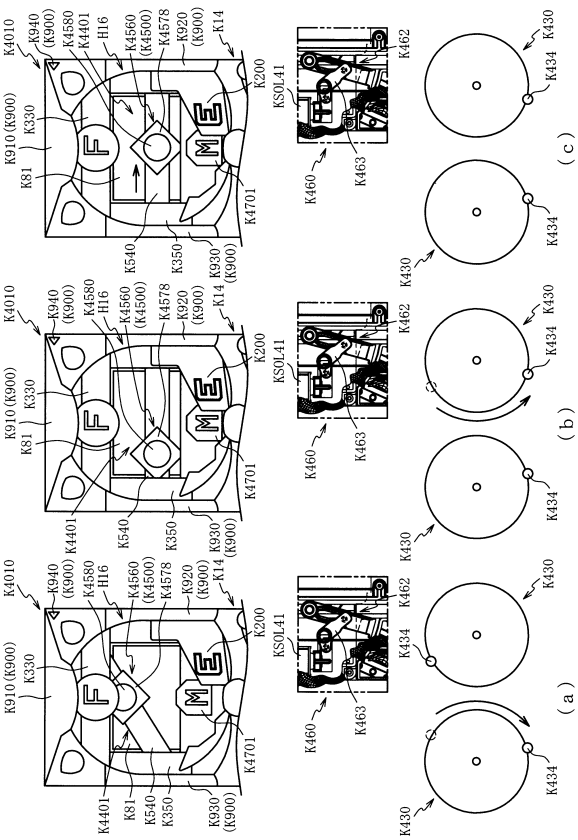
【図９４】



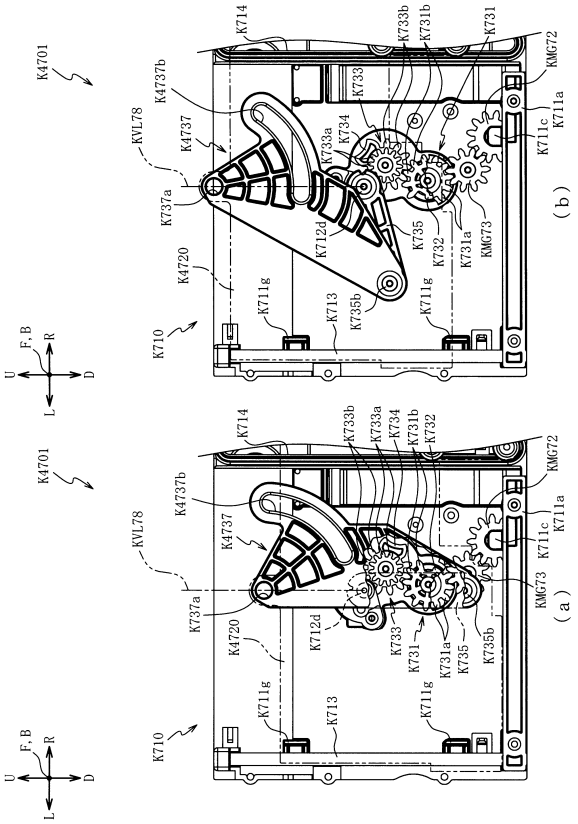
【図９５】



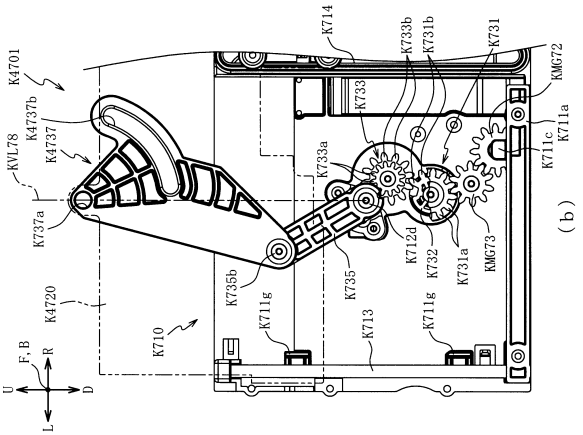
【図９６】



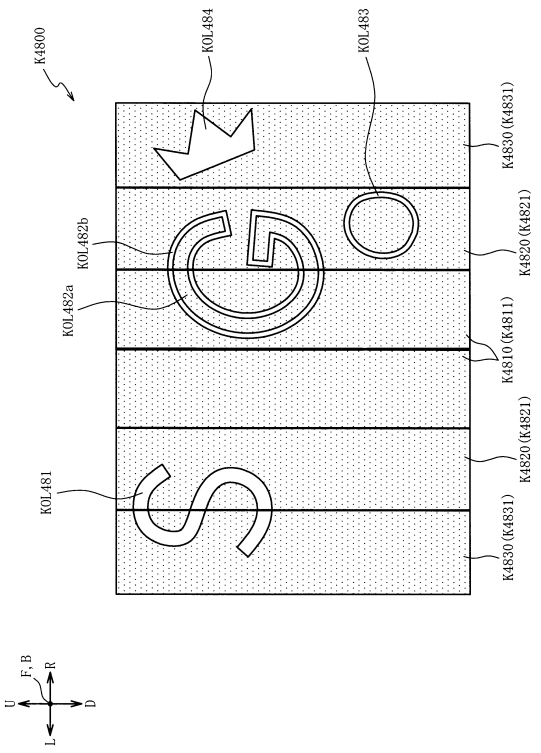
【図９７】



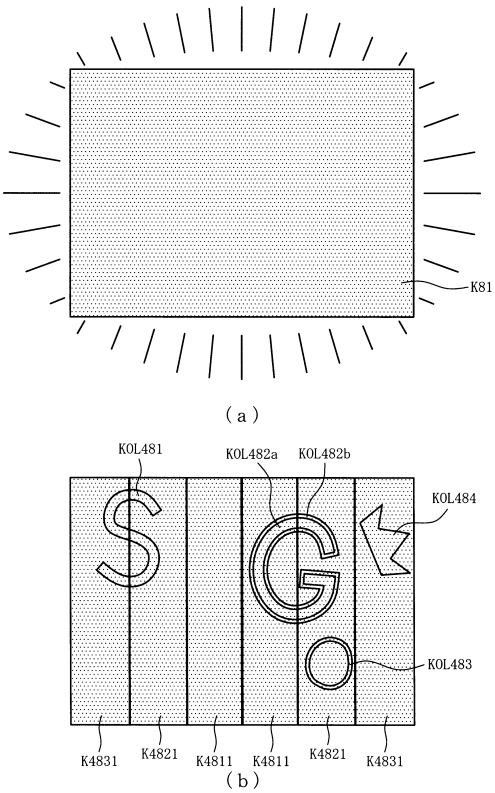
【図９８】



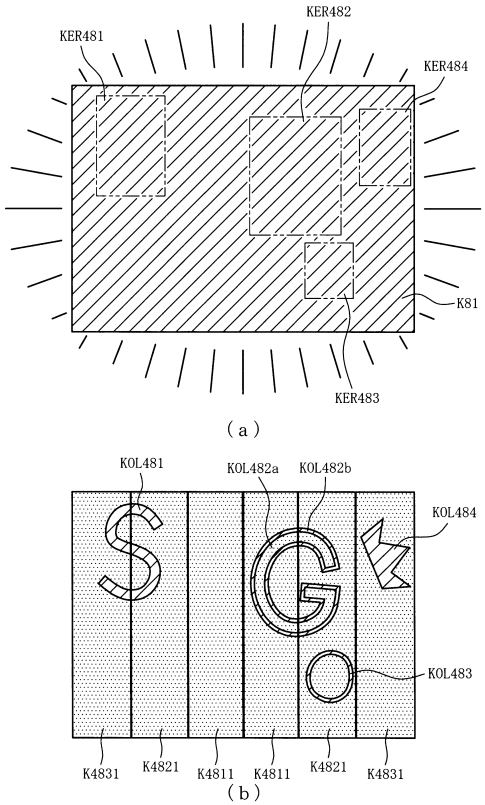
【図９９】



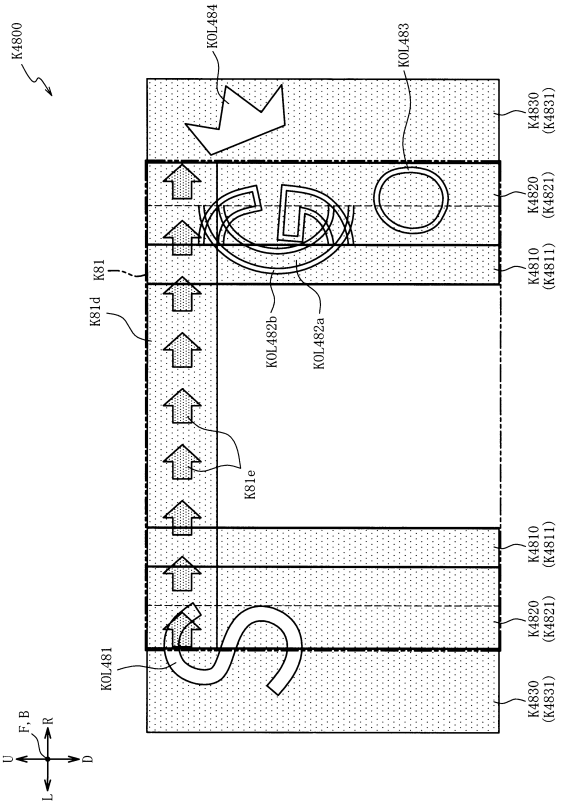
【図１００】



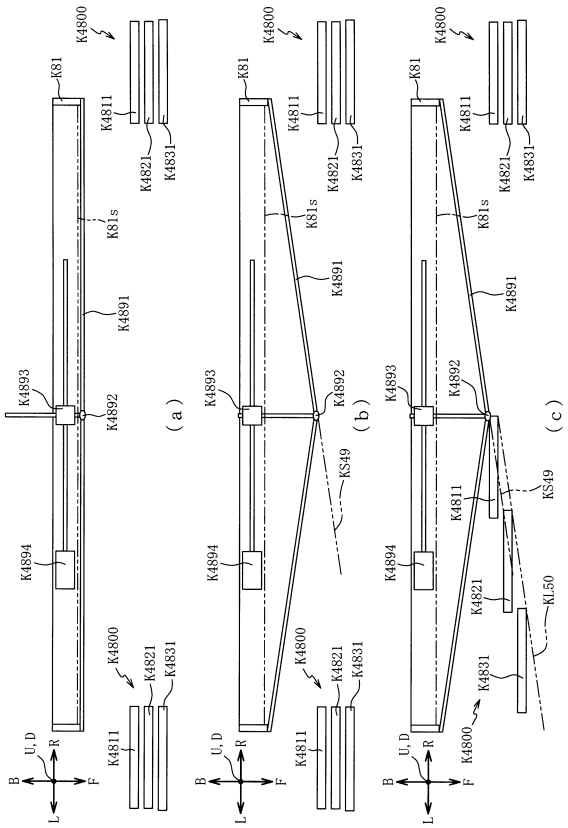
【図１０１】



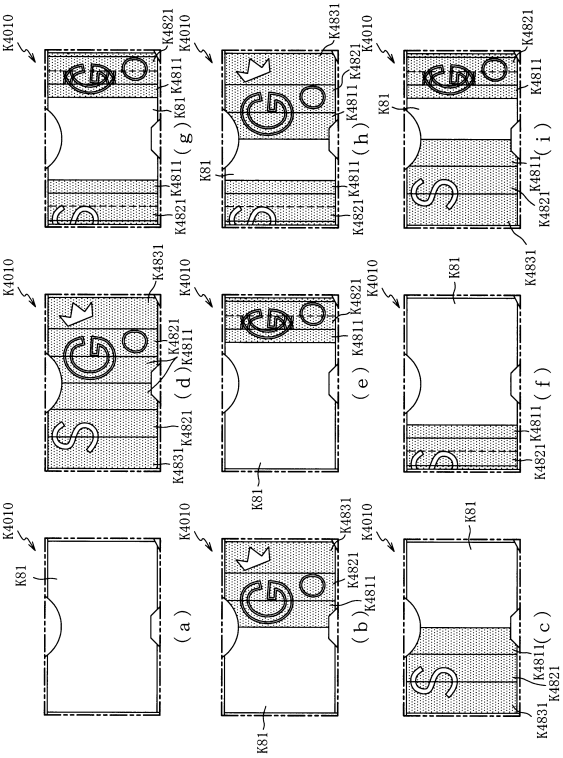
【図１０２】



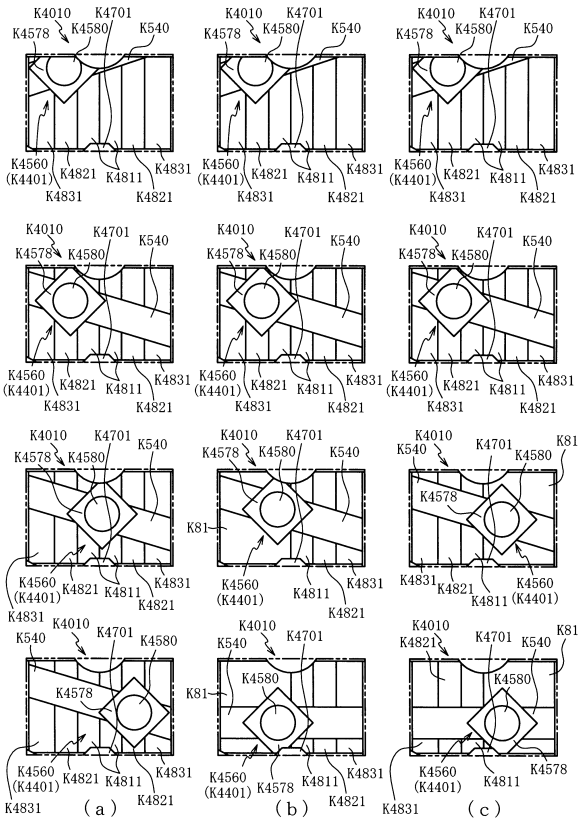
【図１０３】



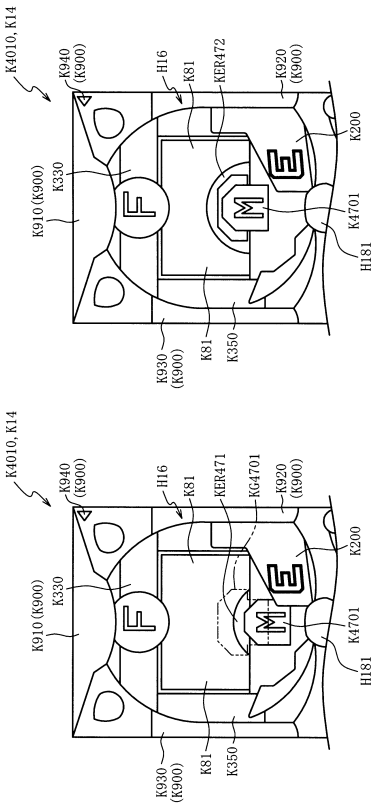
【図１０４】



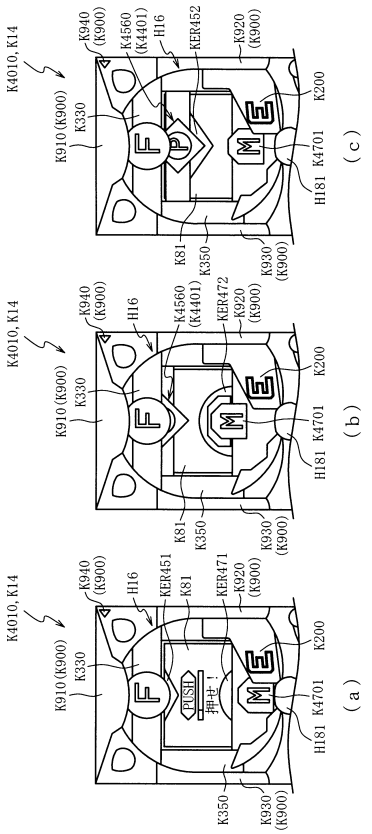
【図１０５】



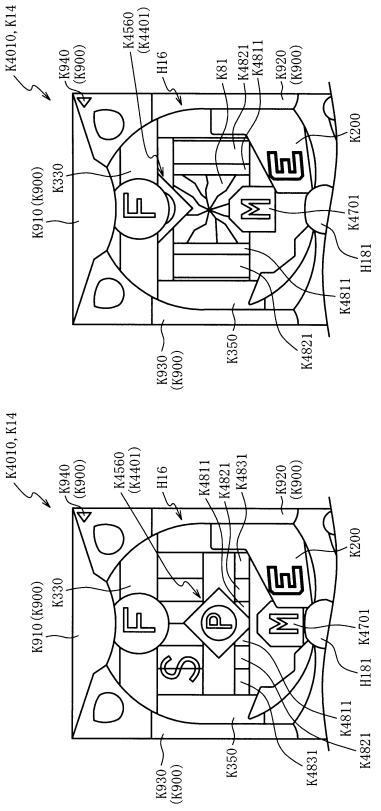
【図１０６】



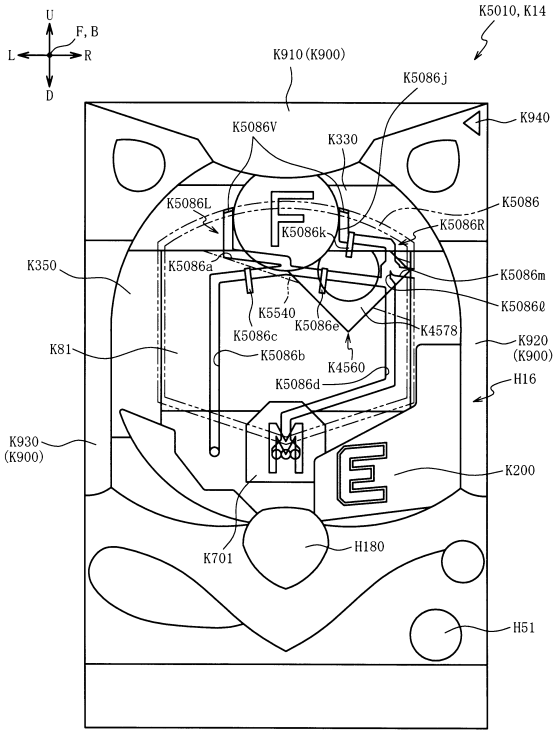
【図１０７】



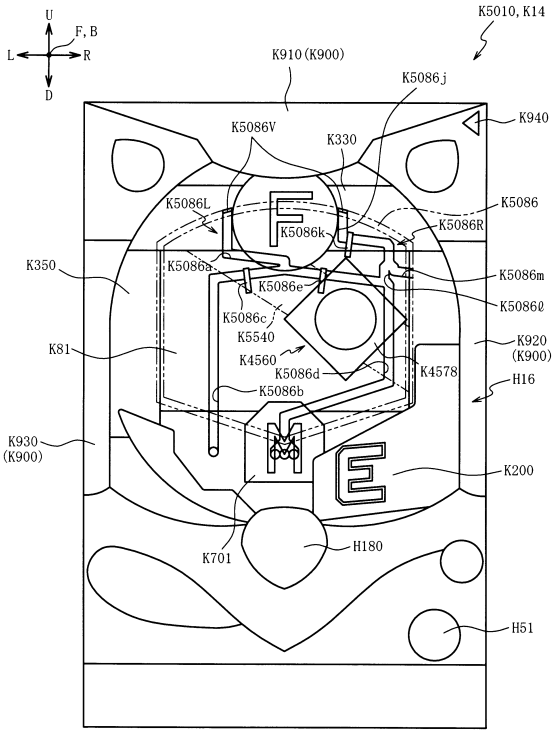
【図１０８】



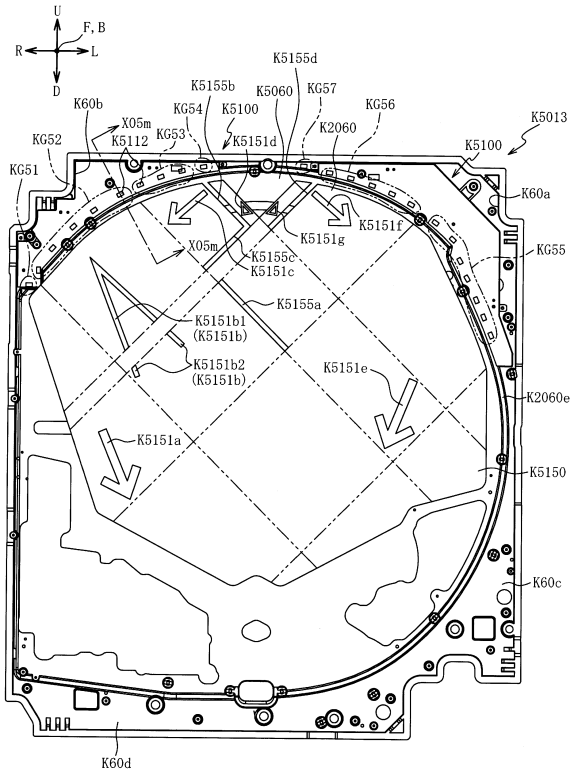
【図１０９】



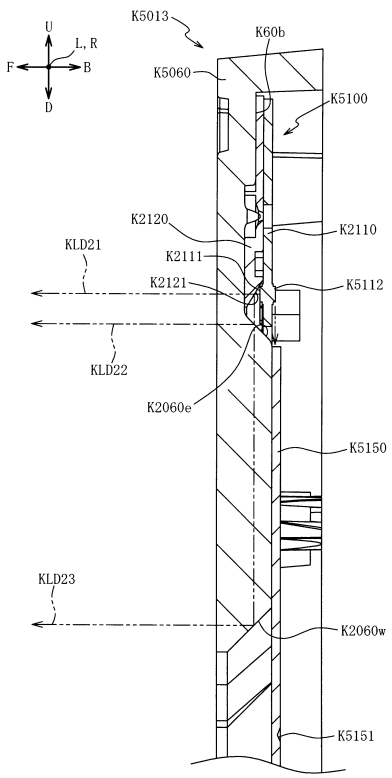
【図１１０】



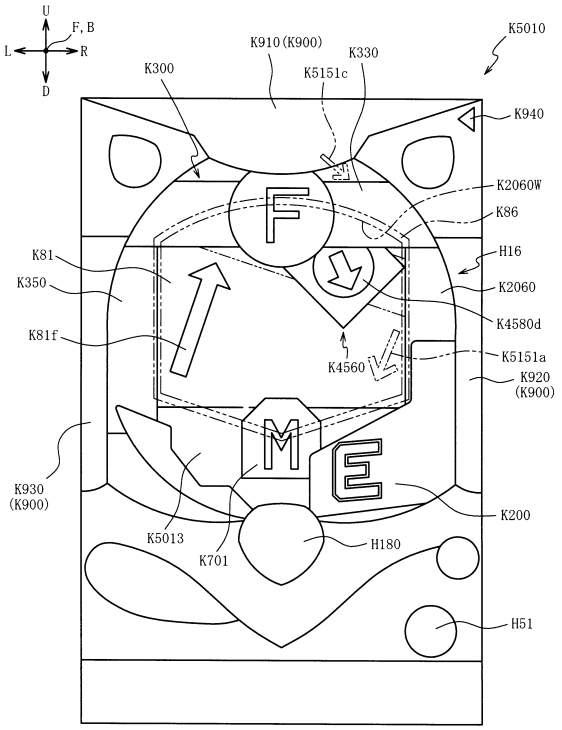
【図１１１】



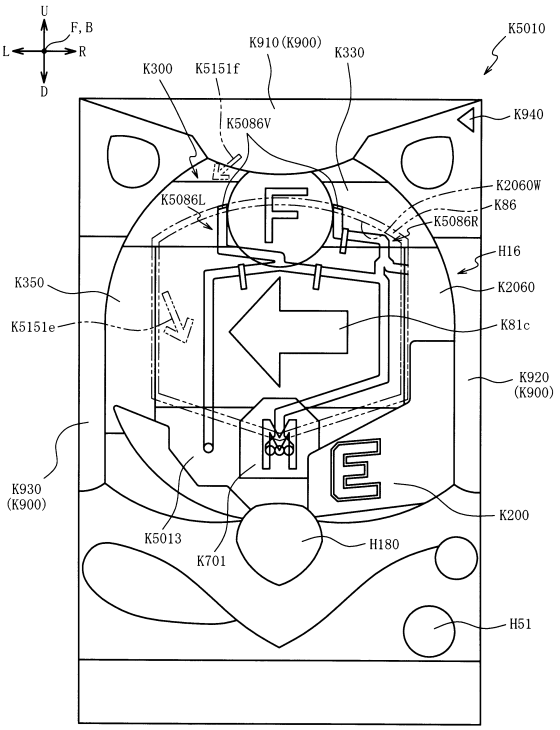
【図１１２】



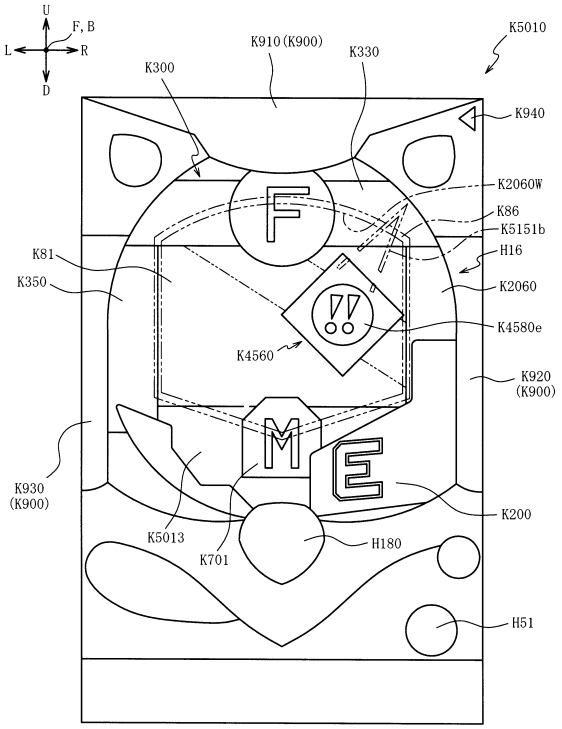
【図１１３】



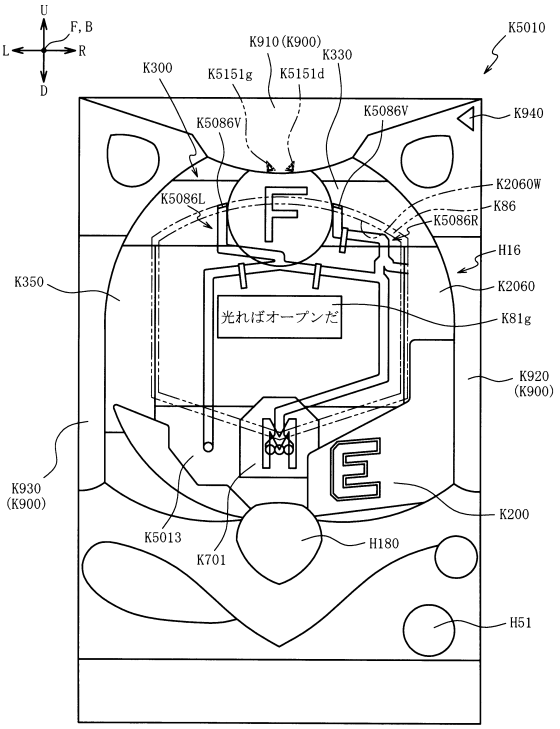
【図１１４】



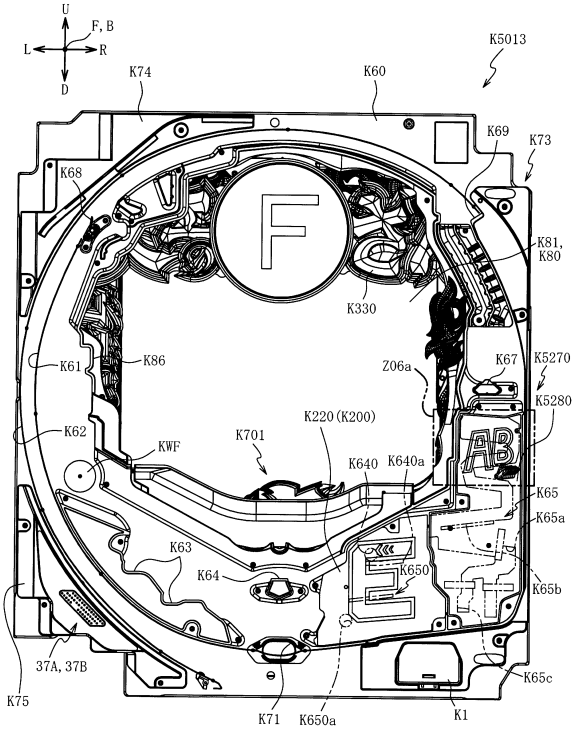
【図１１５】



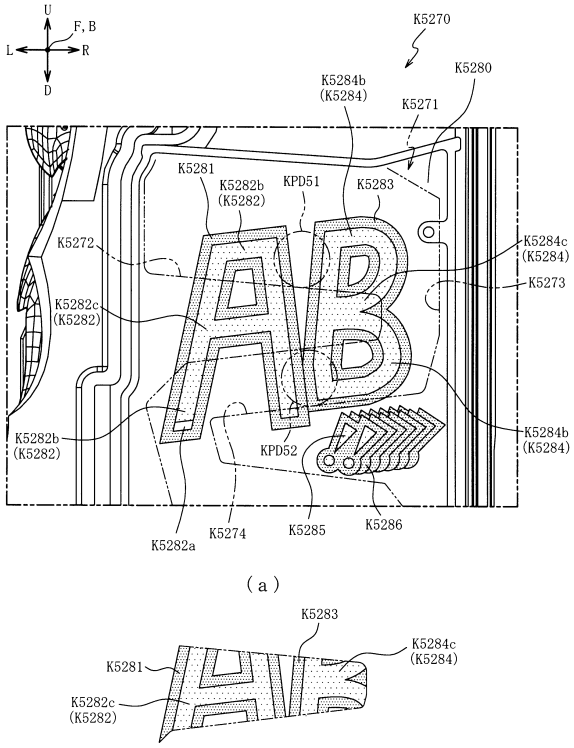
【図１１６】



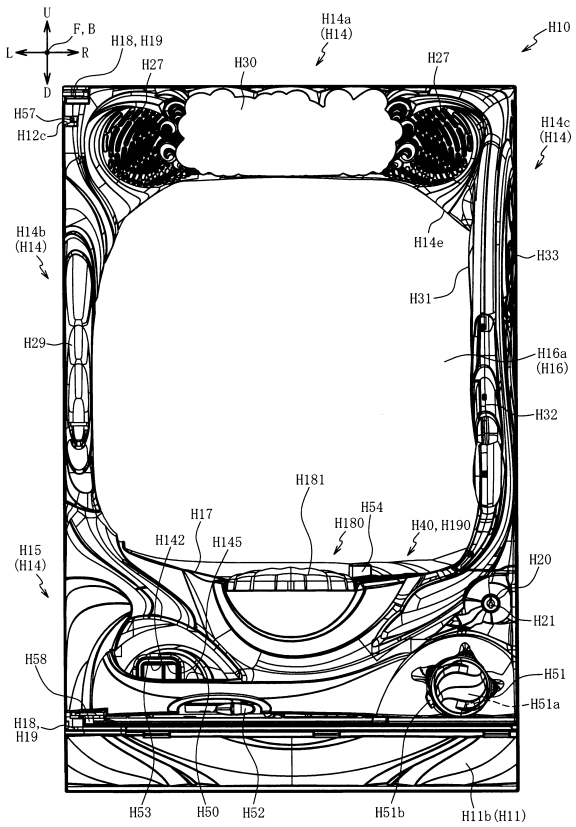
【図１１７】



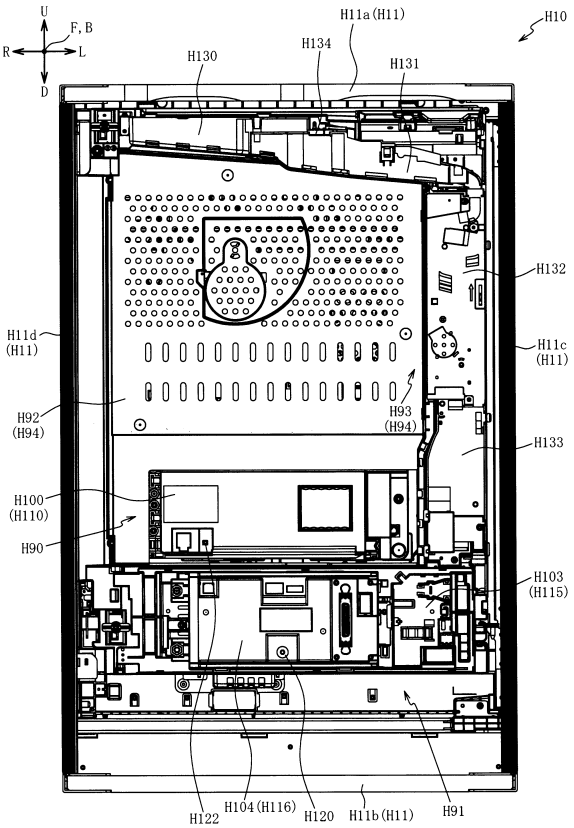
【図１１８】



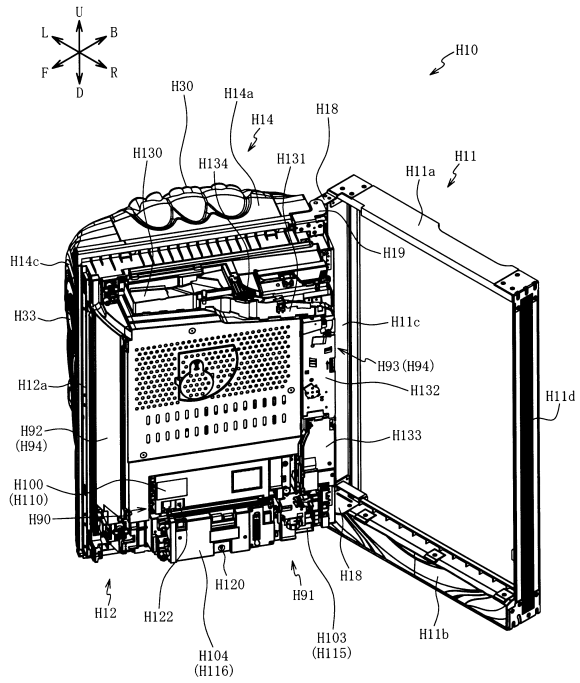
【図１１９】



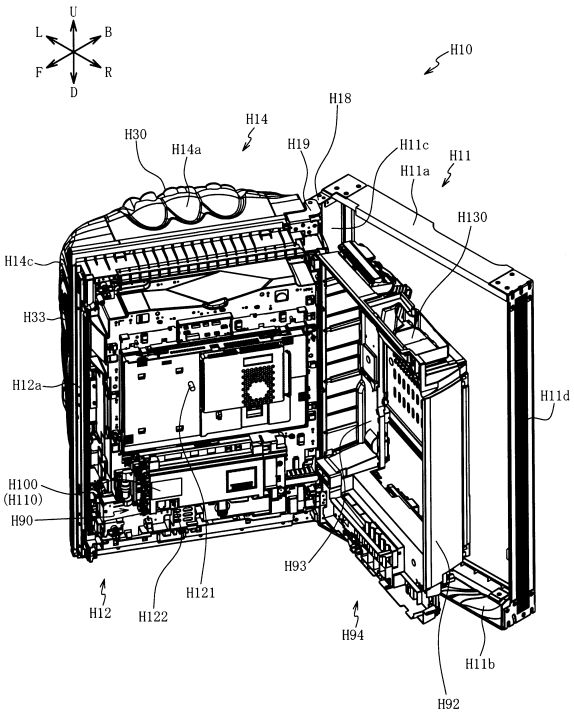
【図１２０】



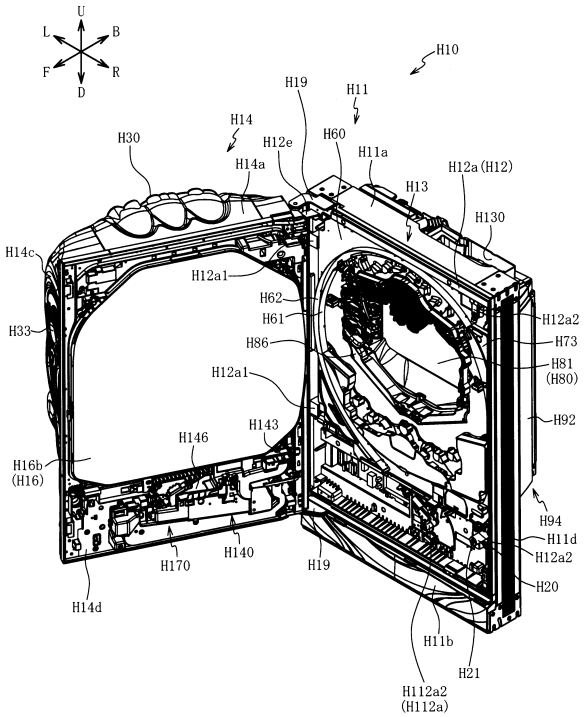
【図１２１】



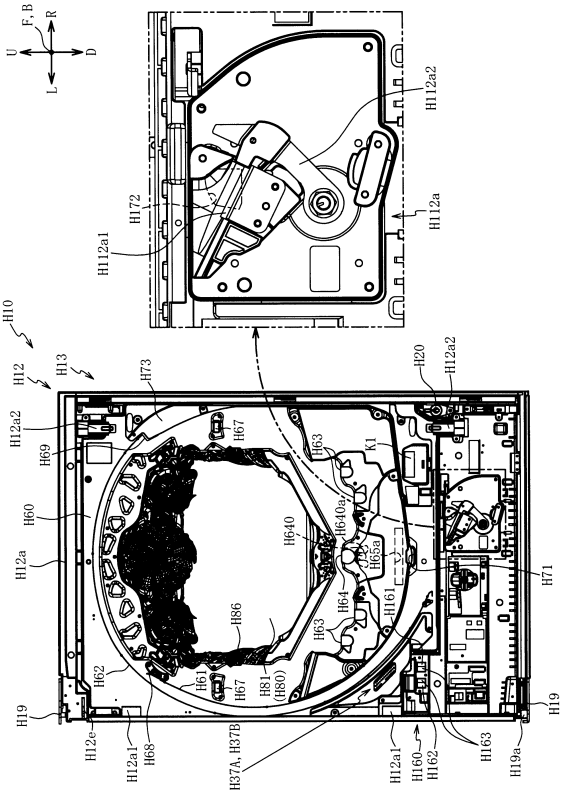
【図１２２】



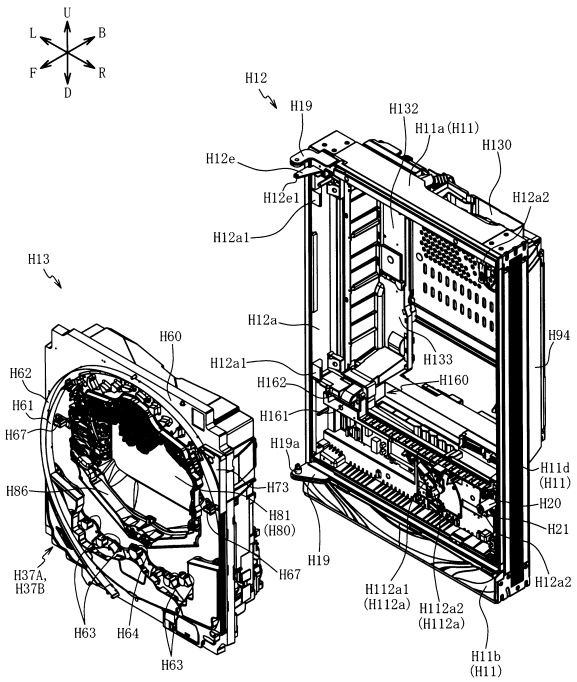
【図１２３】



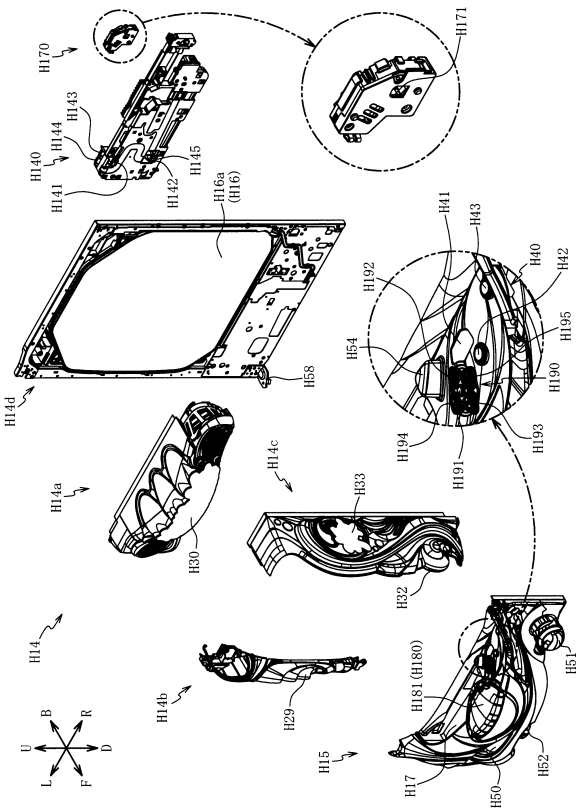
【図１２４】



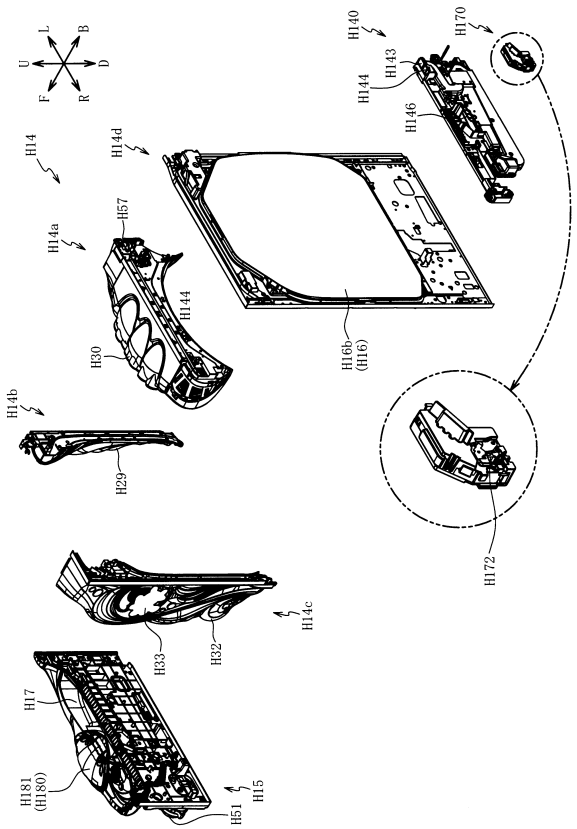
【図１２５】



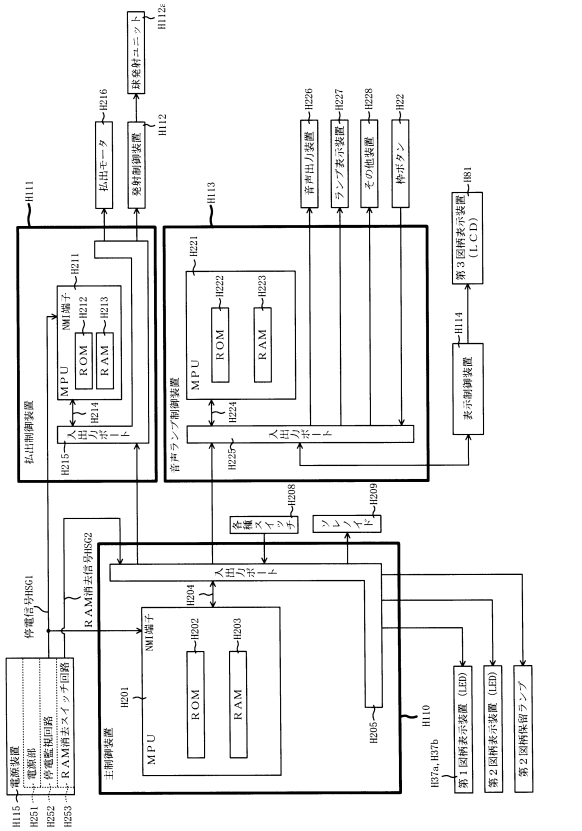
【図１２６】



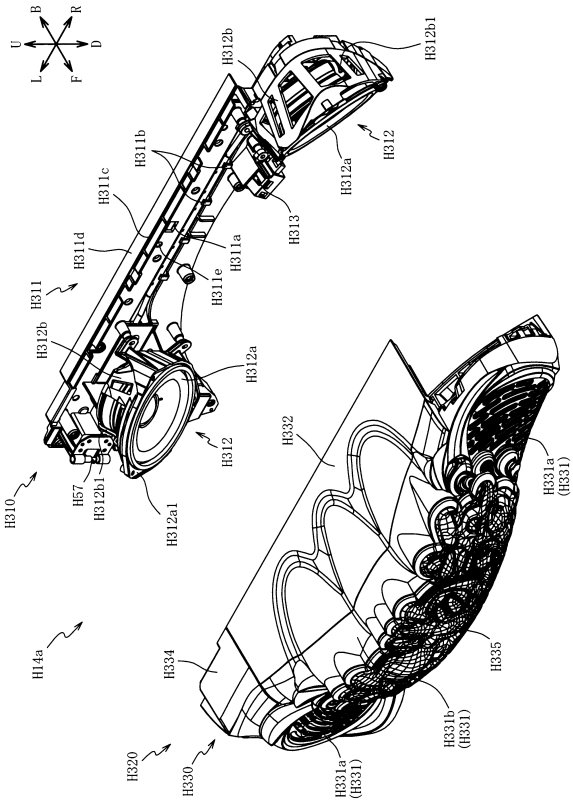
【図１２７】



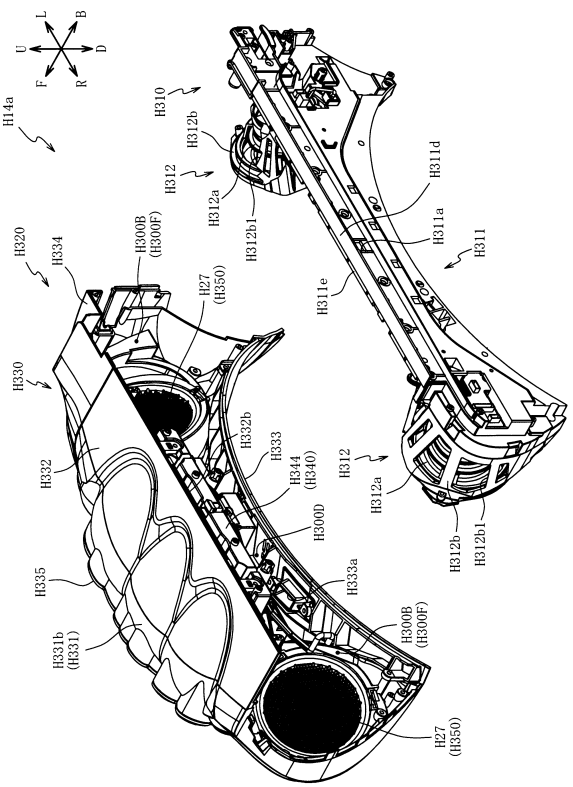
【図１２８】



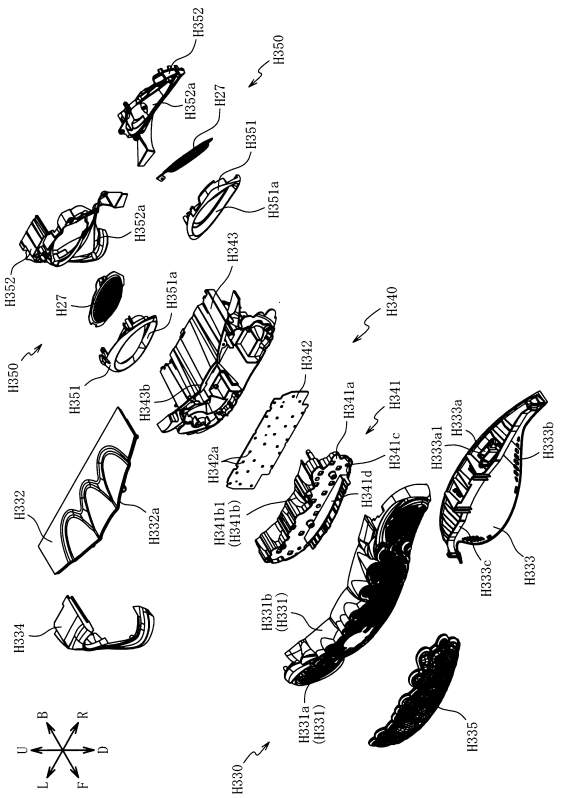
【図１２９】



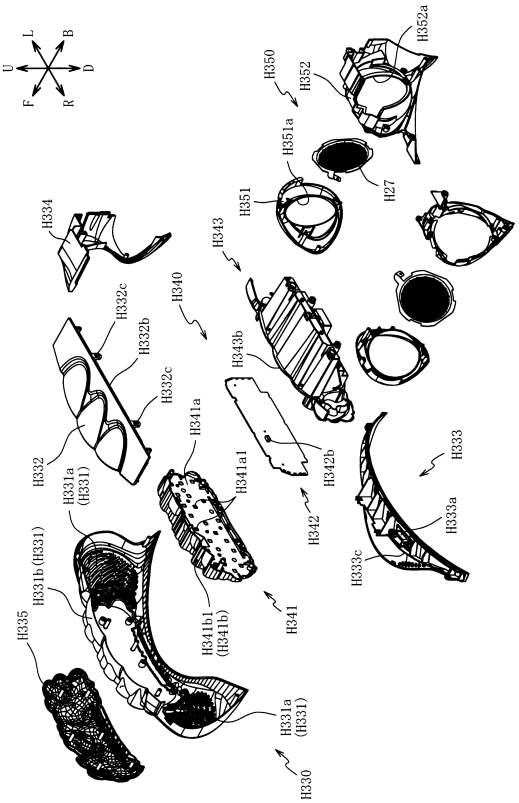
【図１３０】



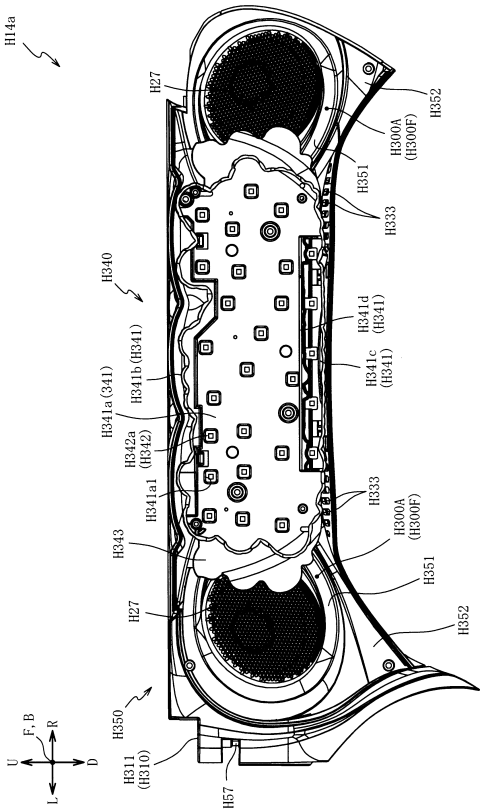
【図１３１】



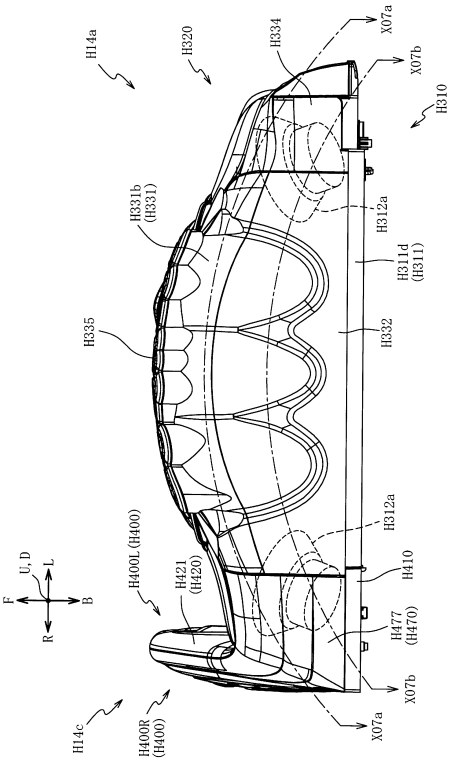
【図１３２】



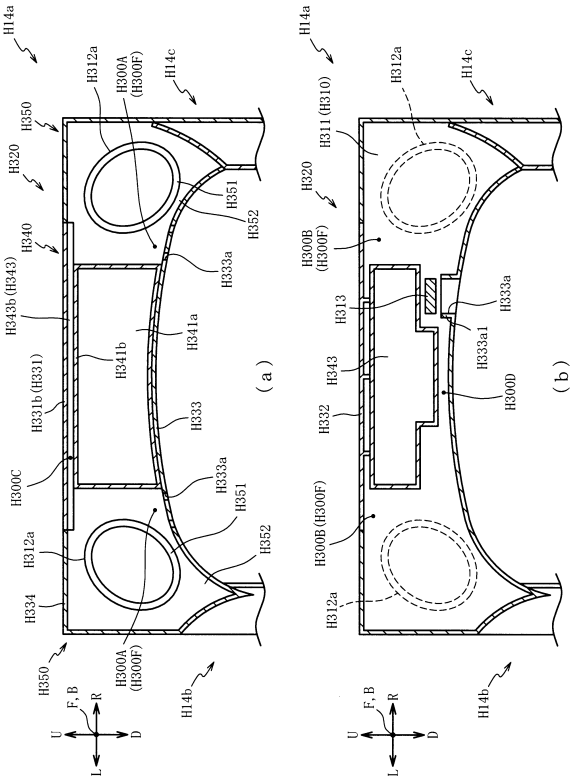
【図１３３】



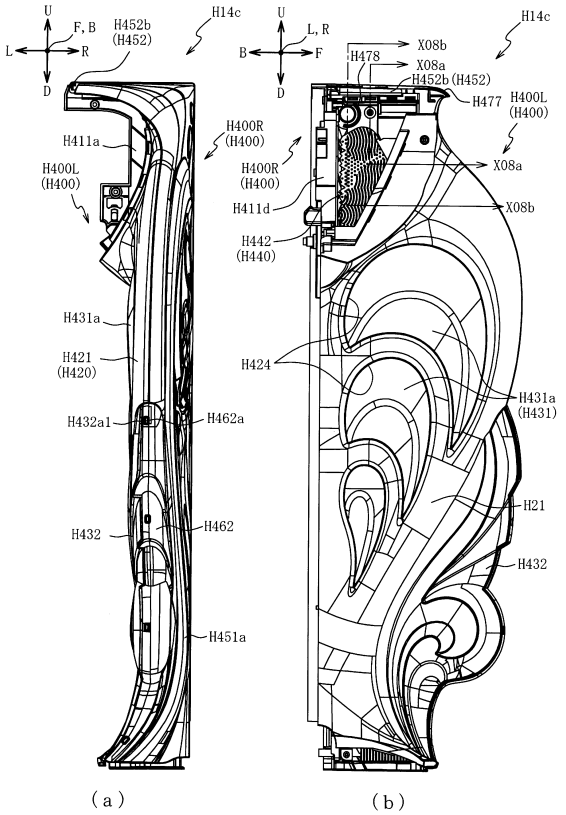
【図１３４】



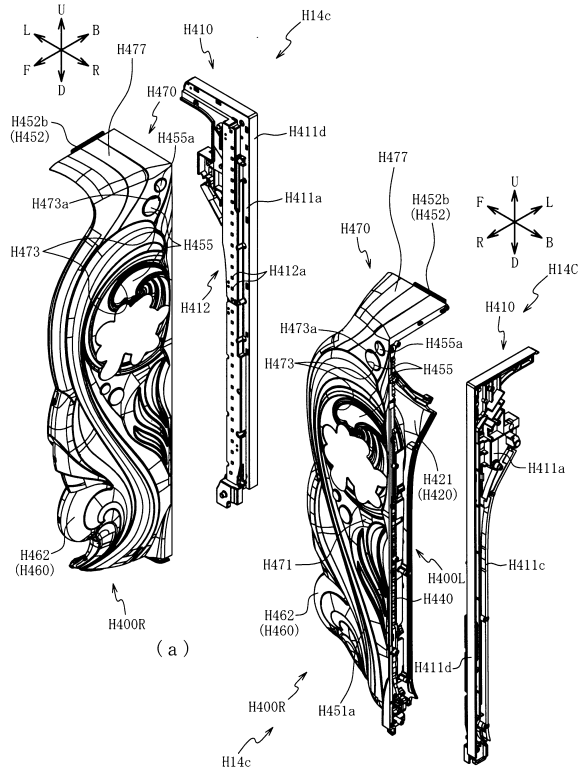
【図１３５】



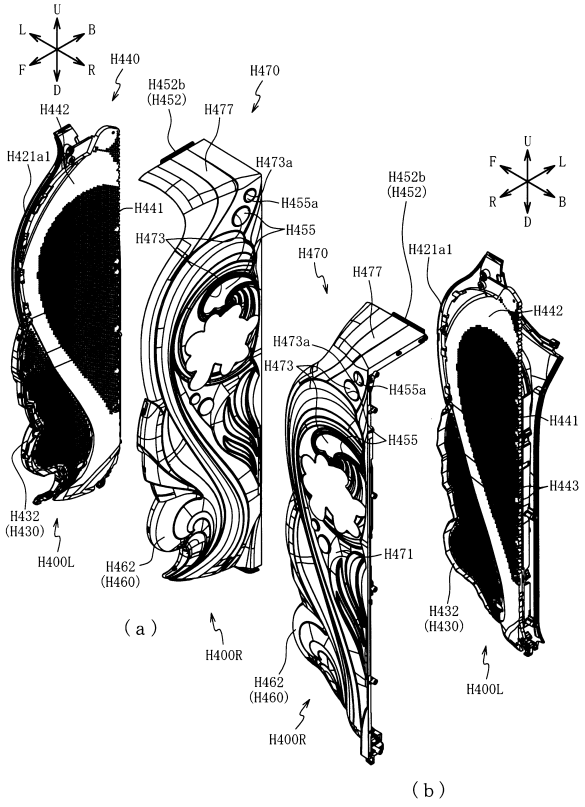
【図１３６】



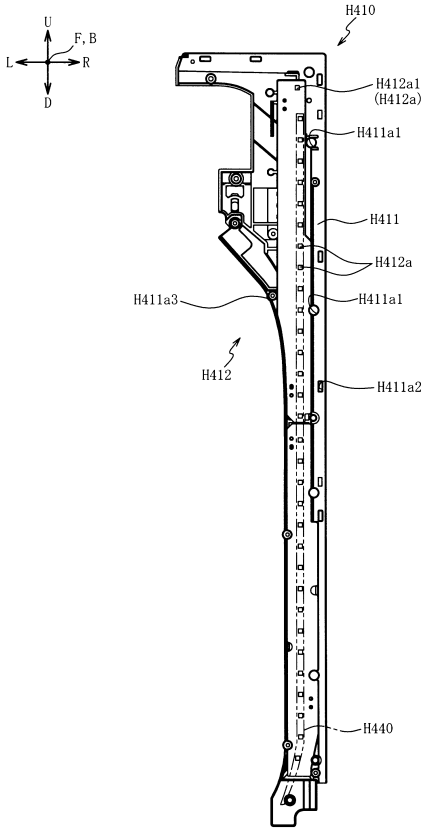
【図１３７】



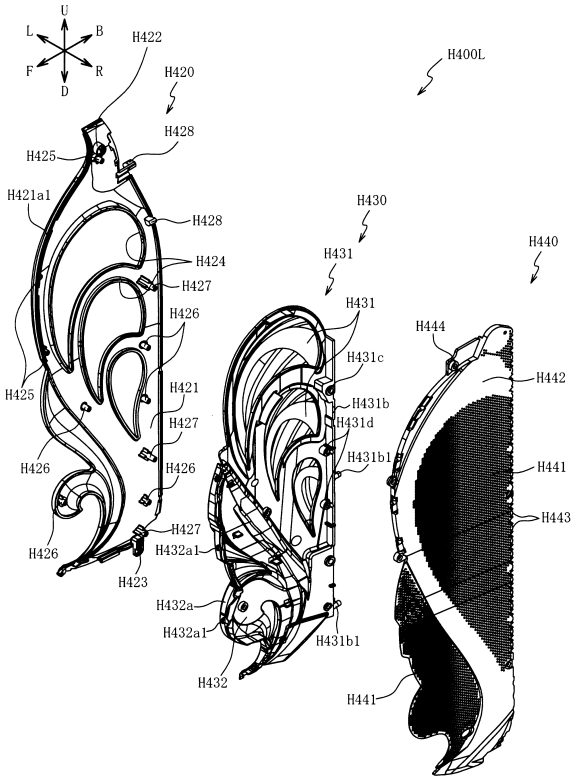
【図１３８】



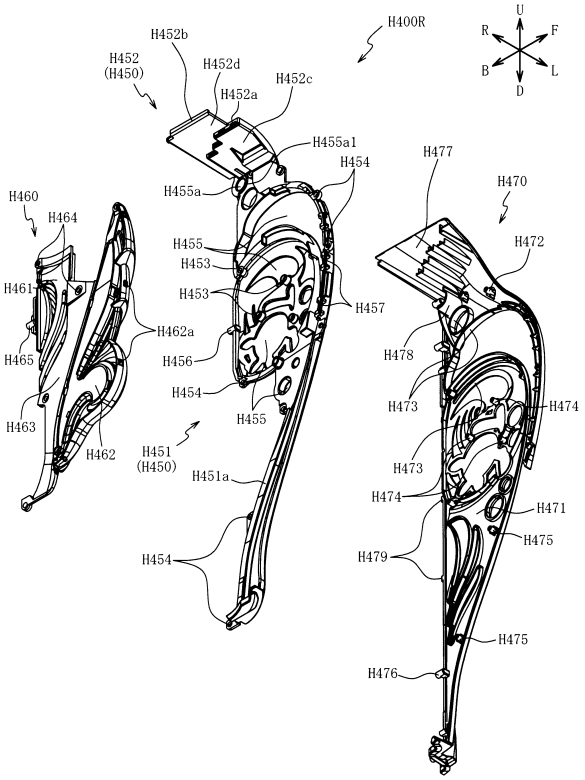
【図１３９】



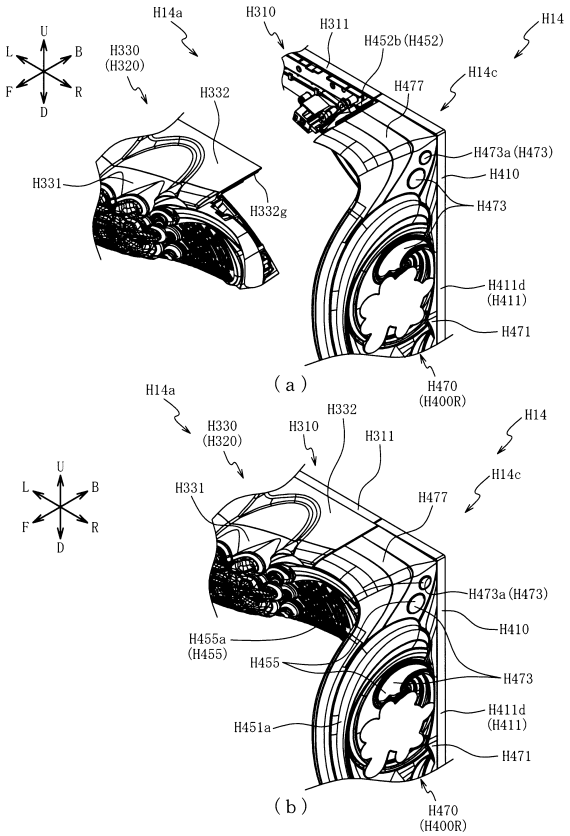
【図１４０】



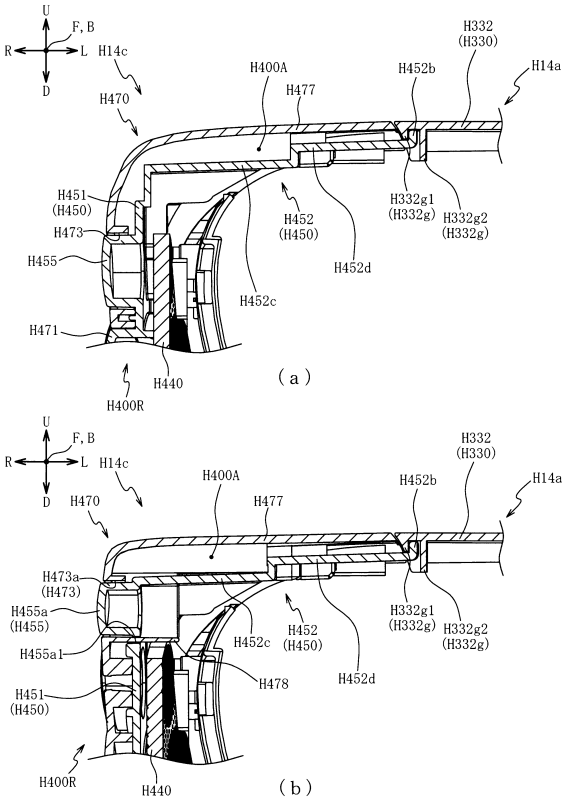
【図１４１】



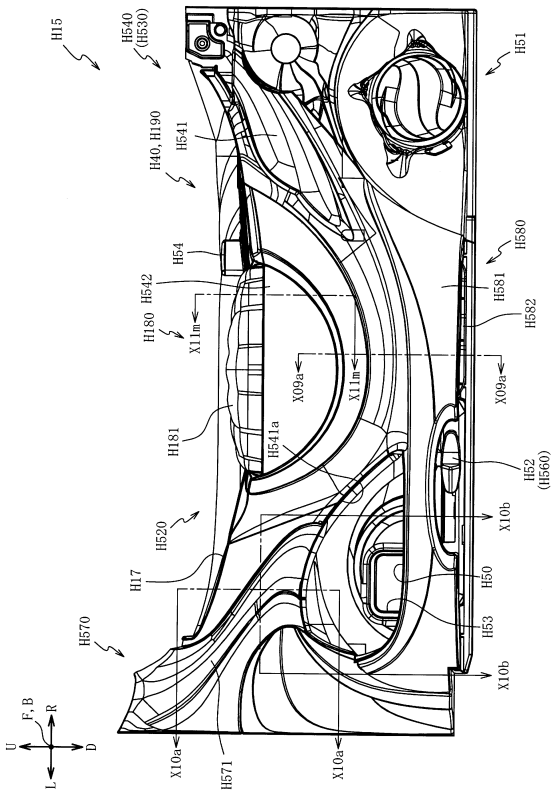
【図１４２】



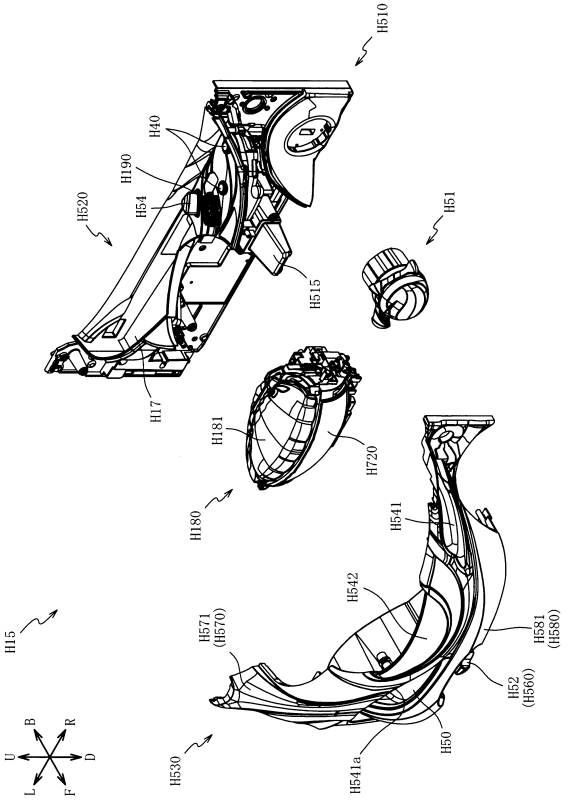
【図１４３】



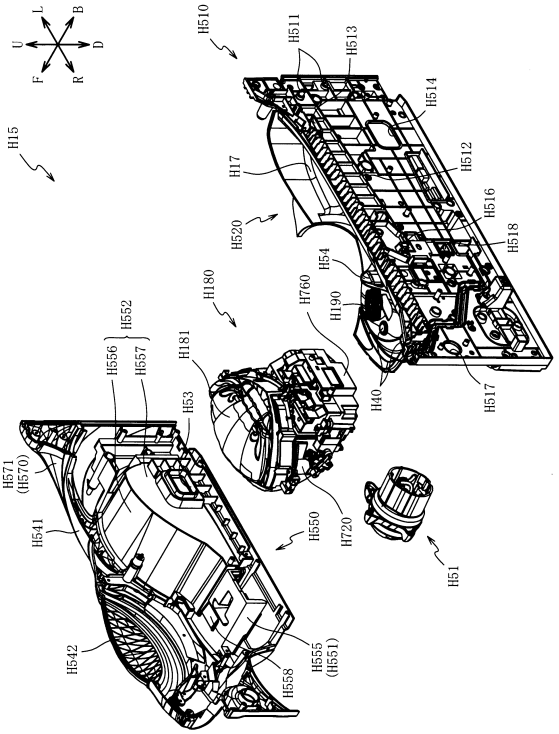
【図１４４】



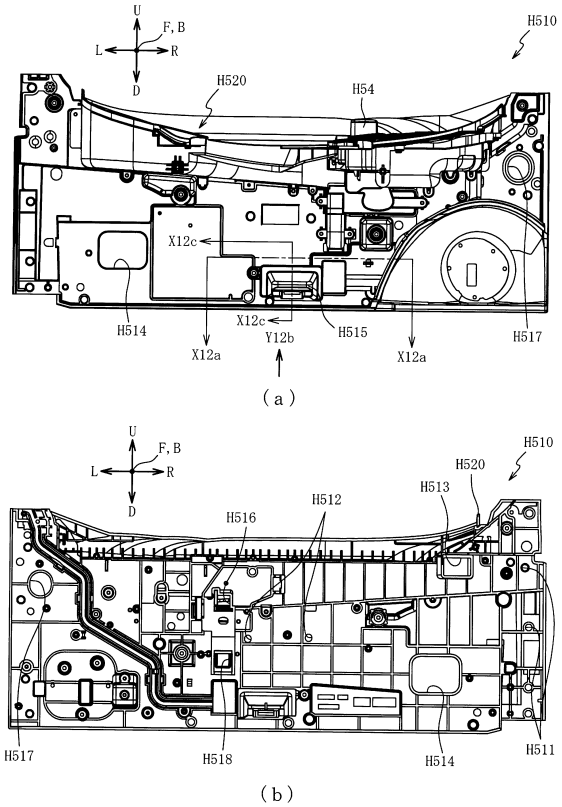
【図１４５】



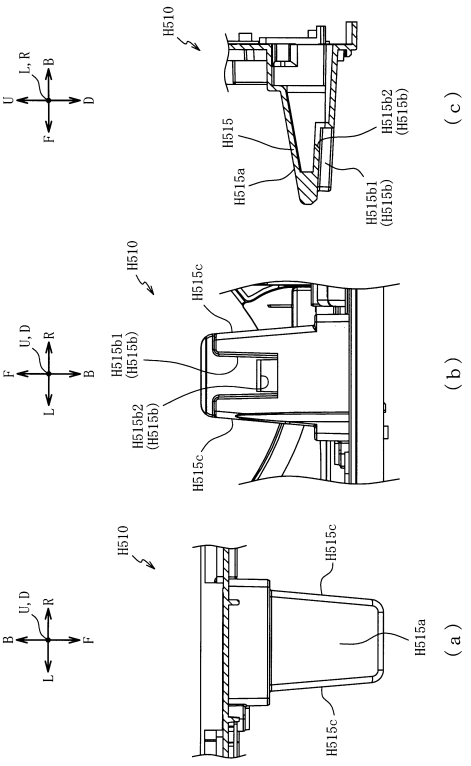
【図１４６】



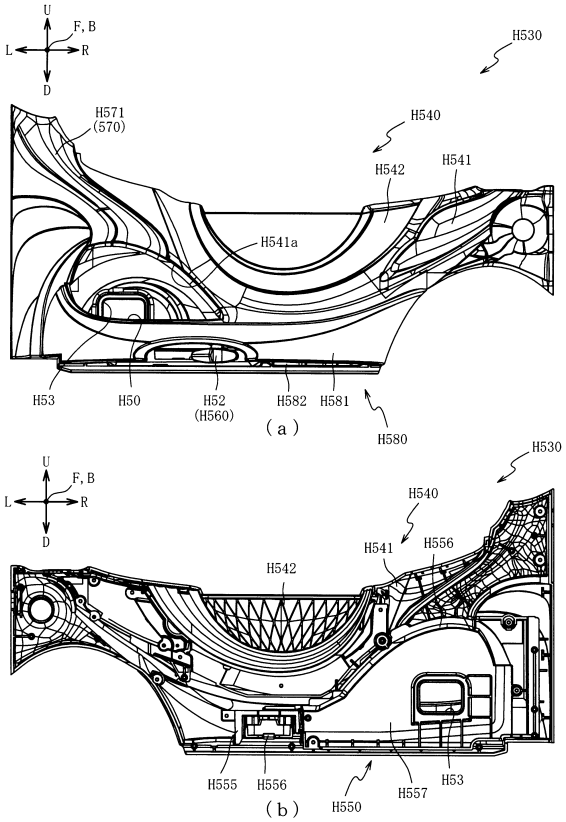
【図１４７】



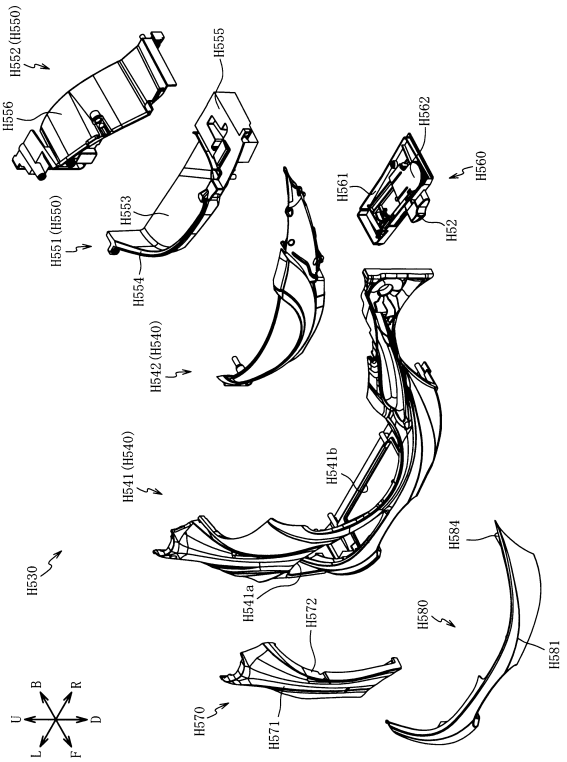
【図１４８】



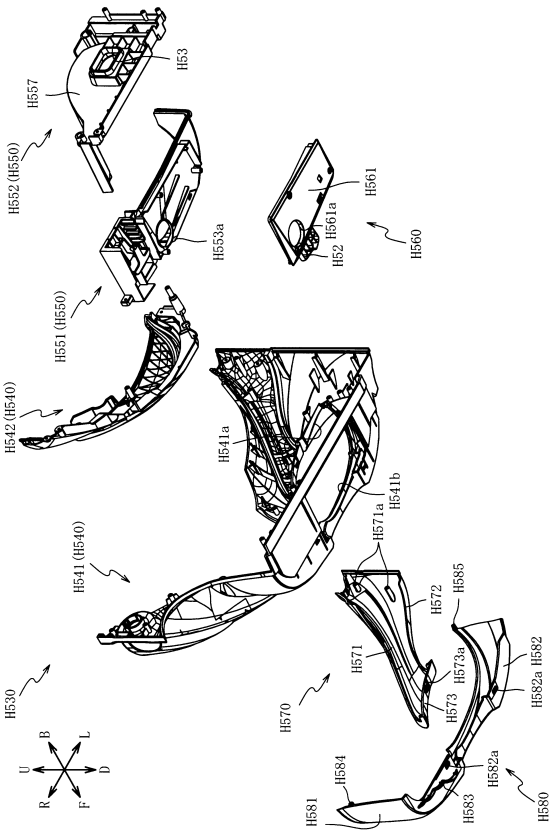
【図１４９】



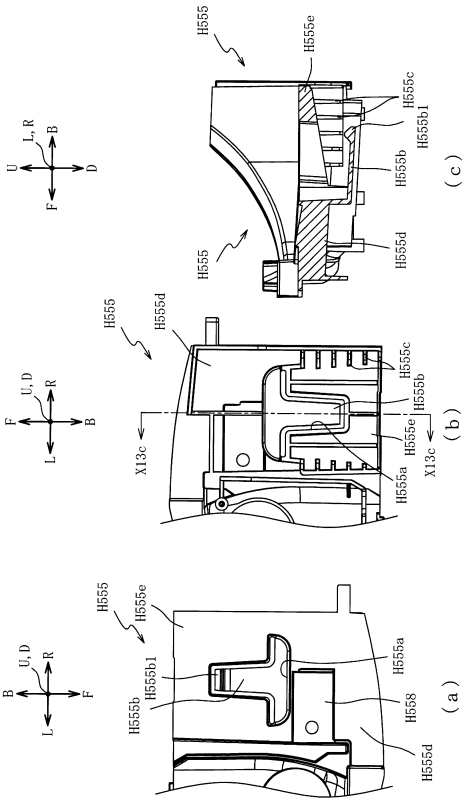
【図１５０】



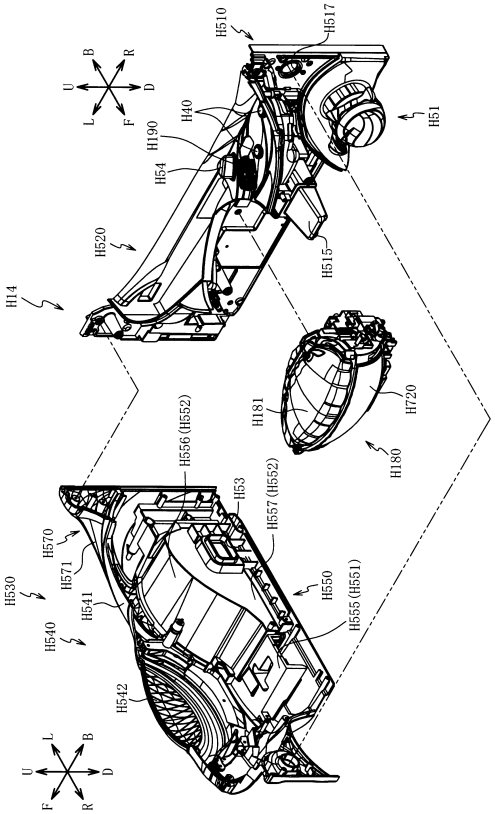
【図１５１】



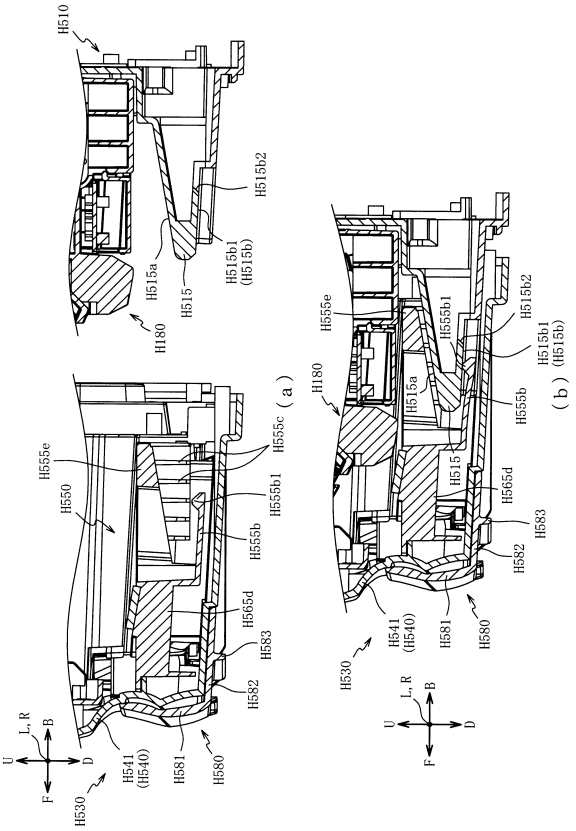
【図１５２】



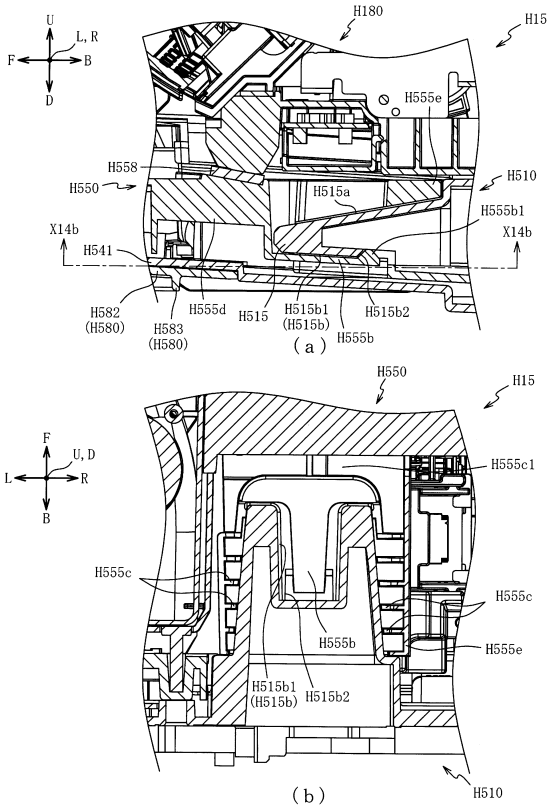
【図１５３】



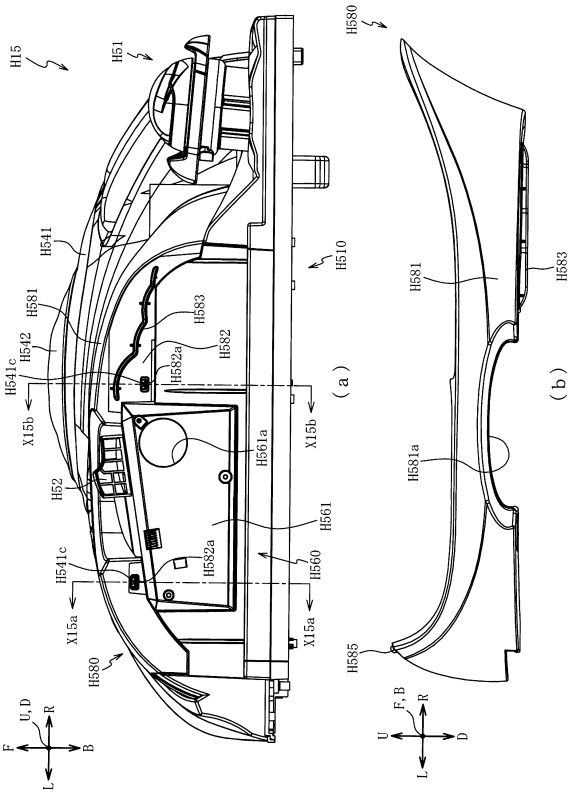
【図１５４】



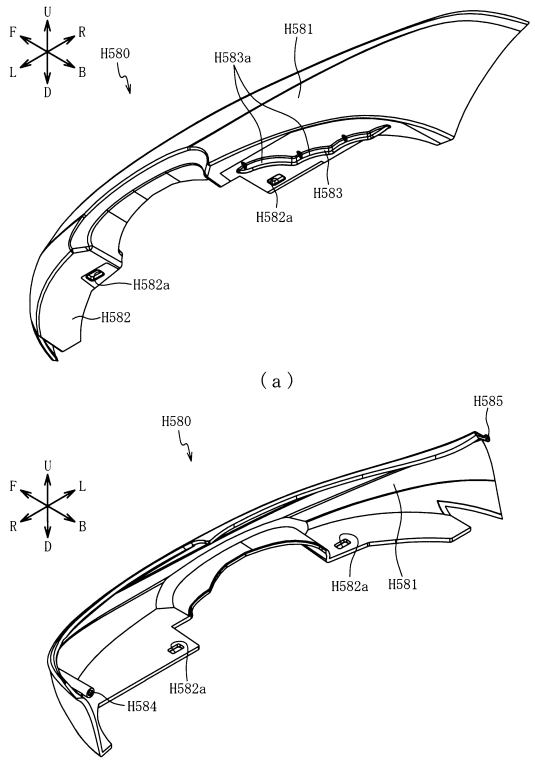
【図１５５】



【図１５６】



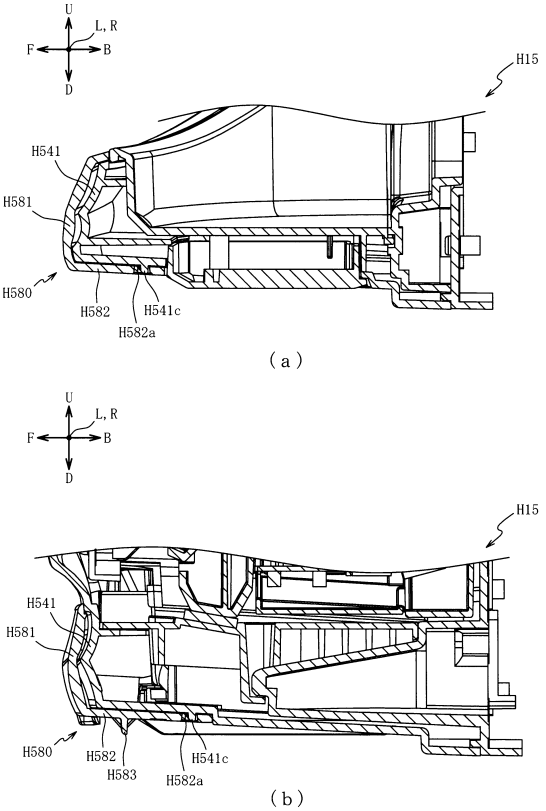
【図１５７】



（ａ）

（ａ）

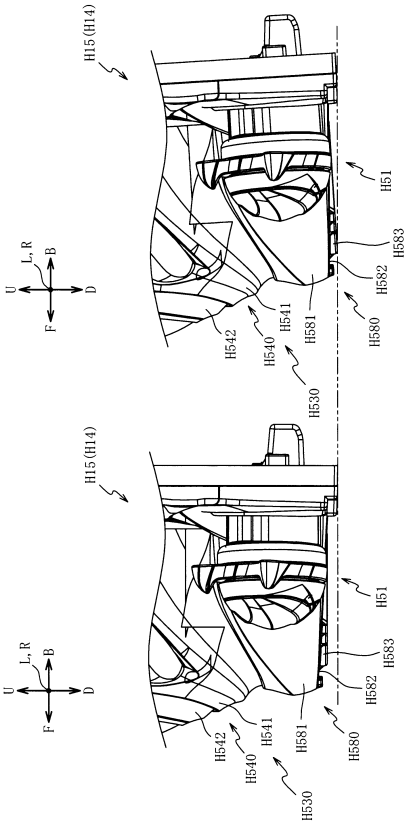
【図１５８】



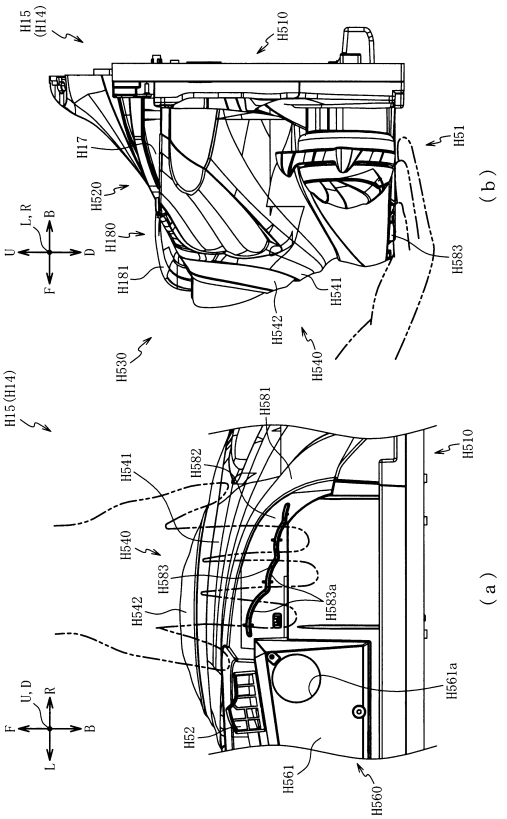
（ａ）

（ｂ）

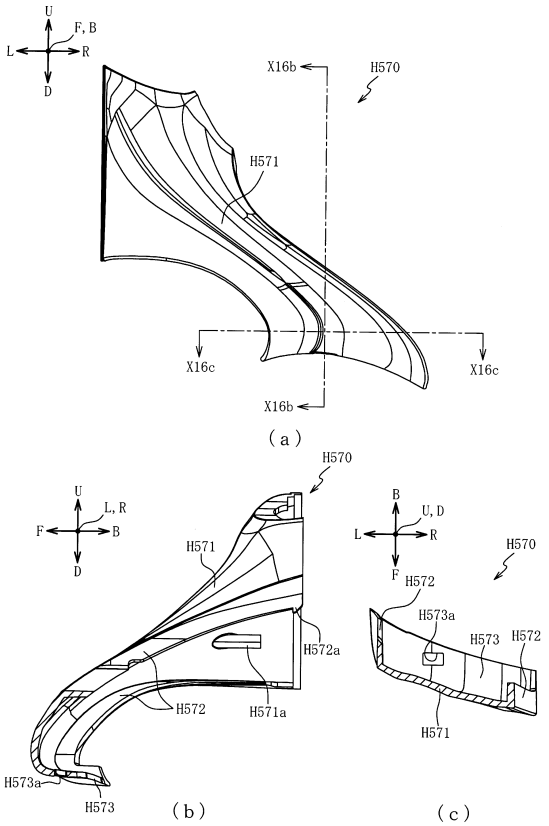
【図１５９】



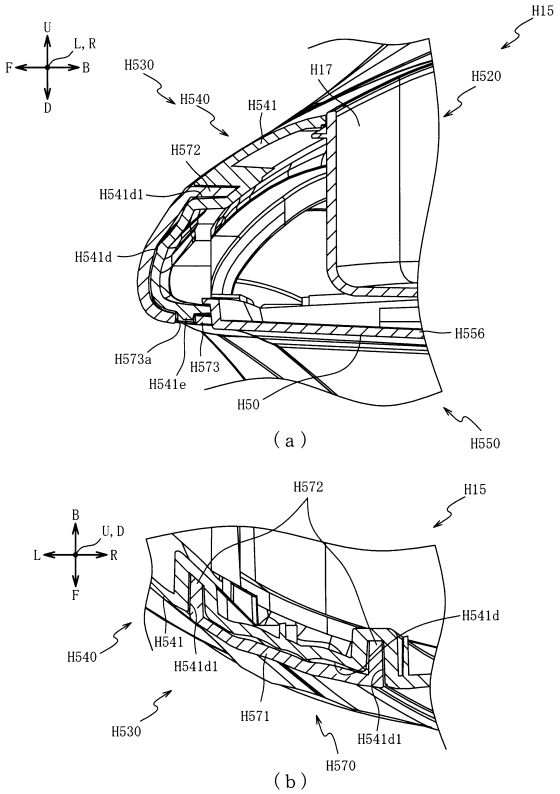
【図１６０】



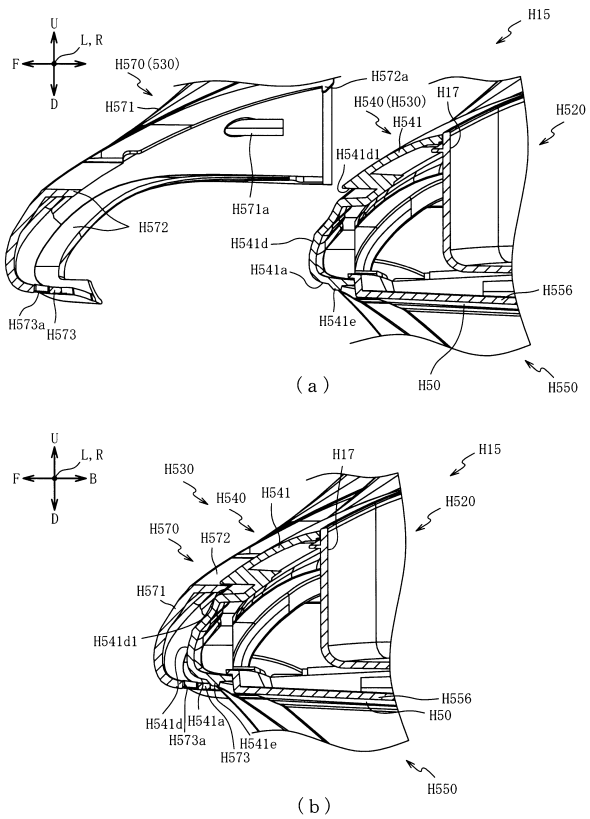
【図１６１】



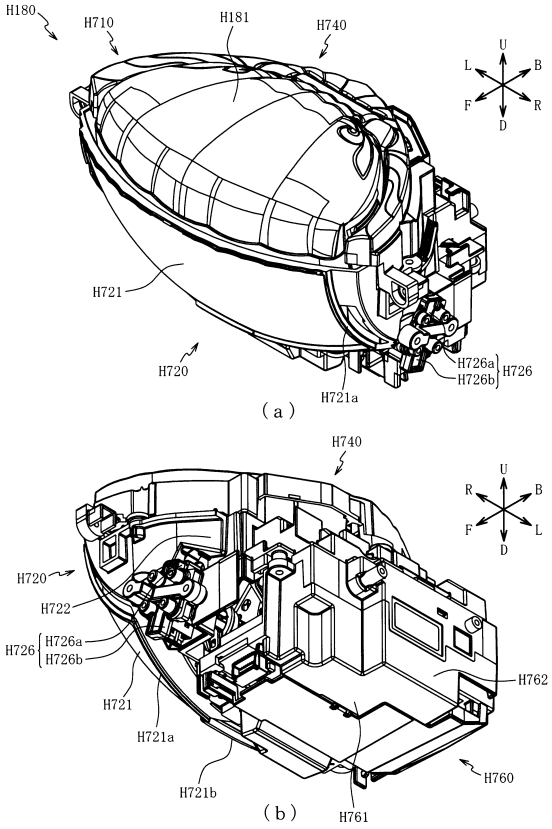
【図１６２】



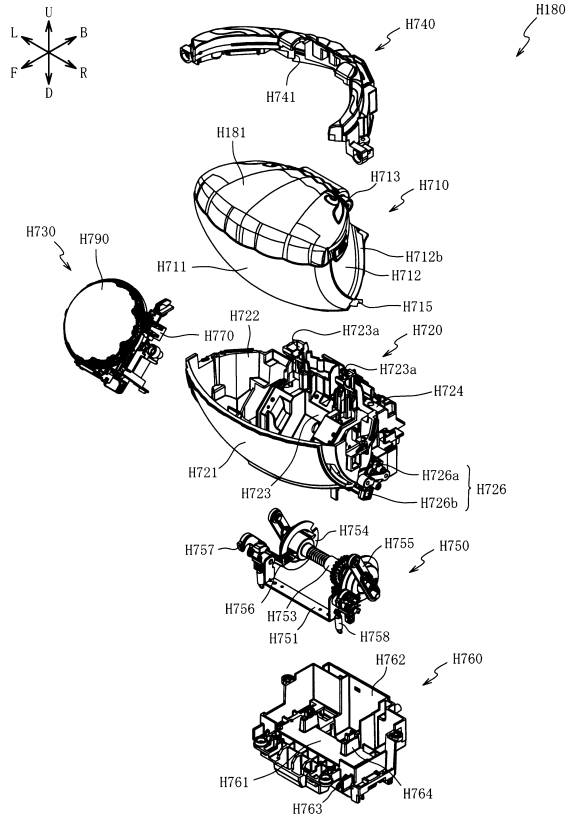
【図１６３】



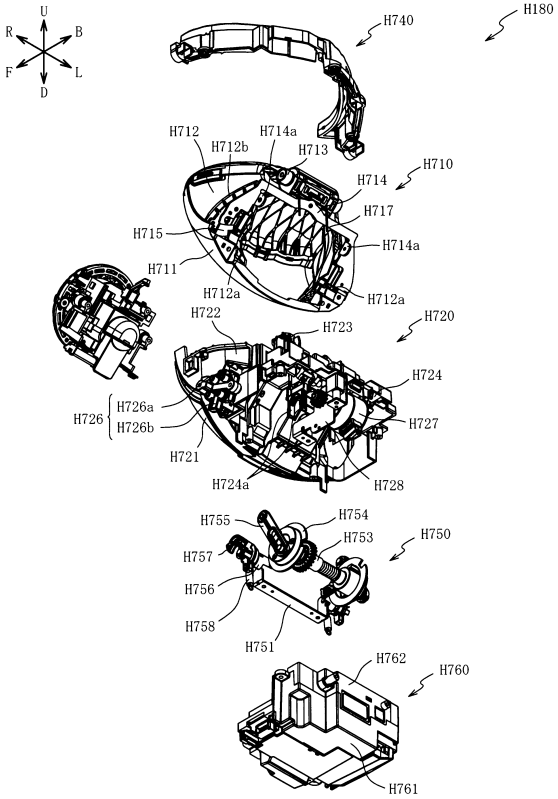
【図１６４】



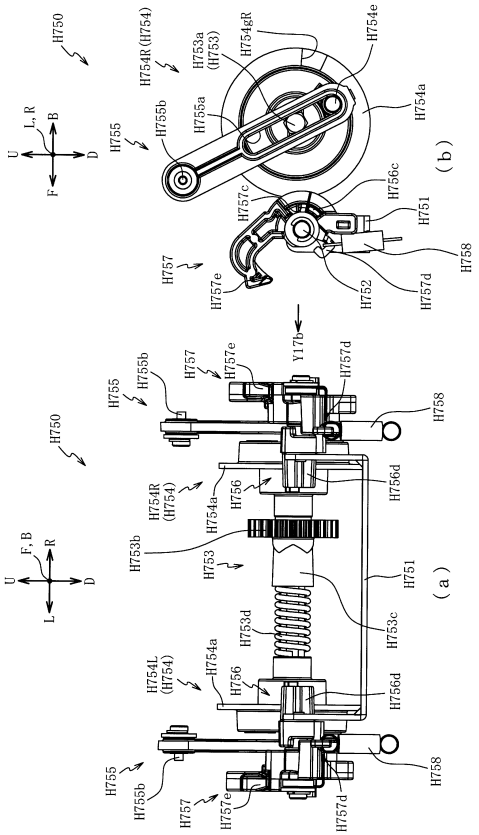
【図１６５】



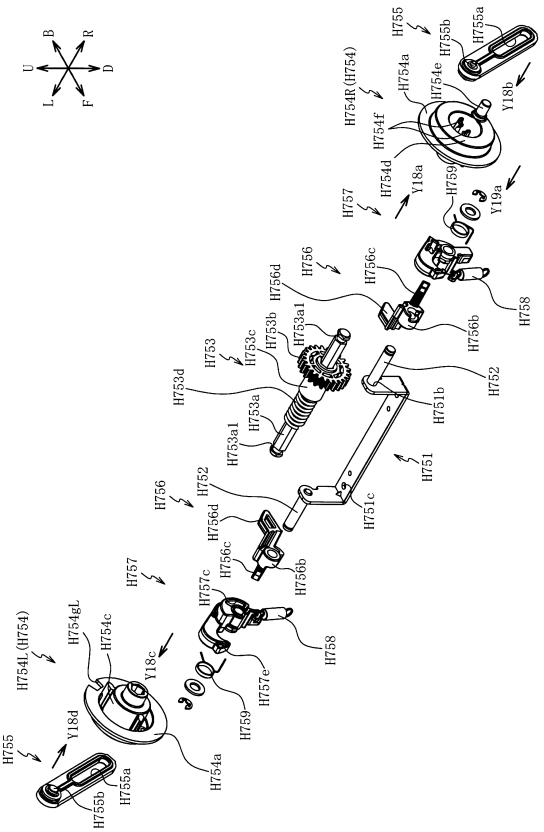
【図１６６】



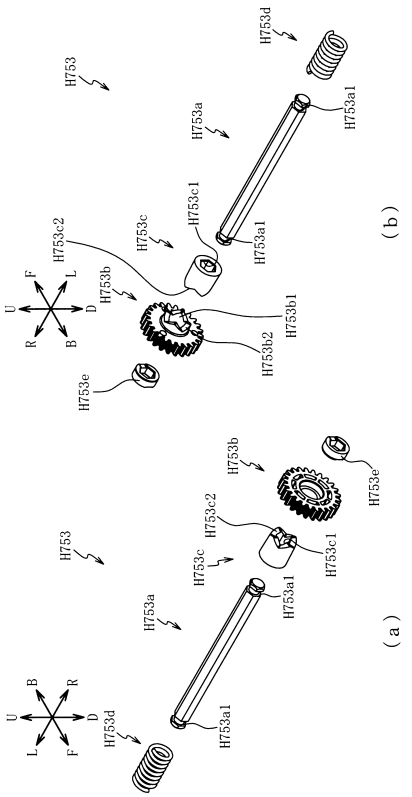
【図１６７】



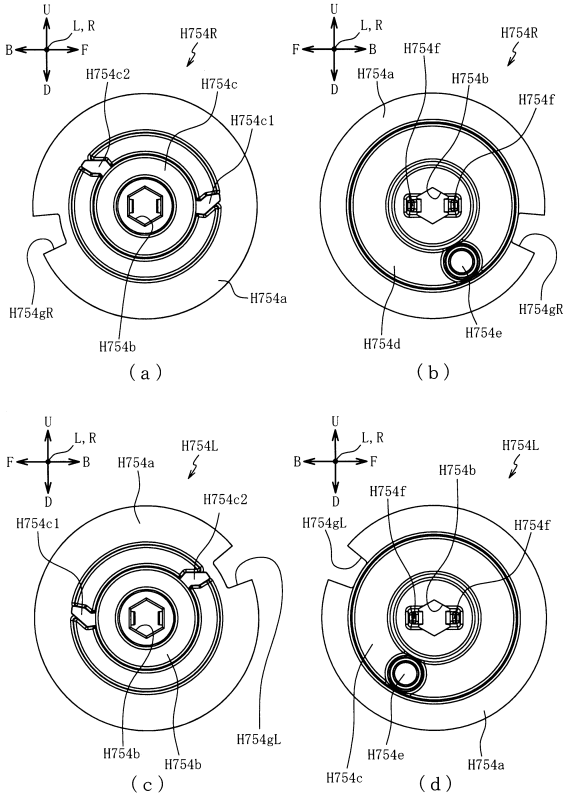
【図１６８】



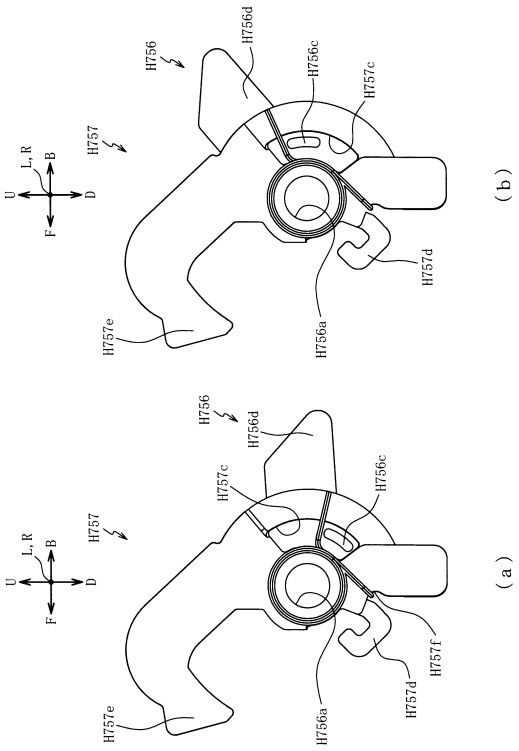
【図１６９】



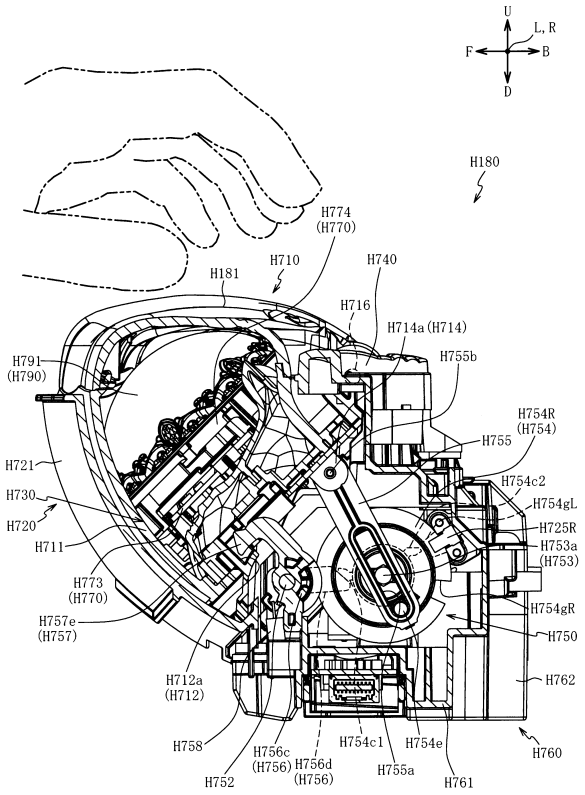
【図１７０】



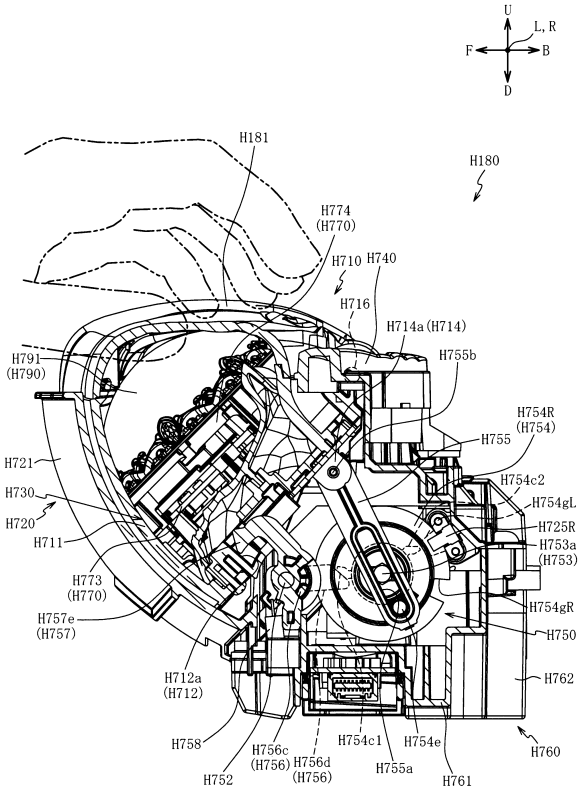
【図１７１】



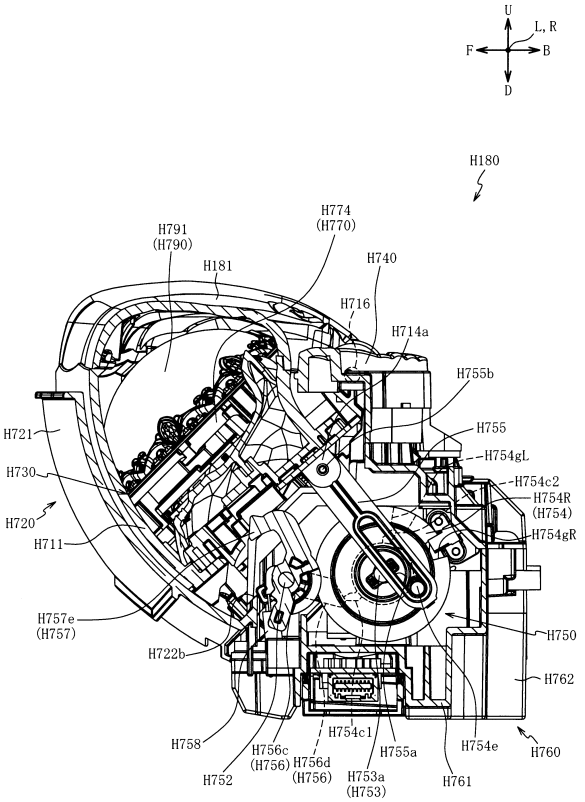
【図１７２】



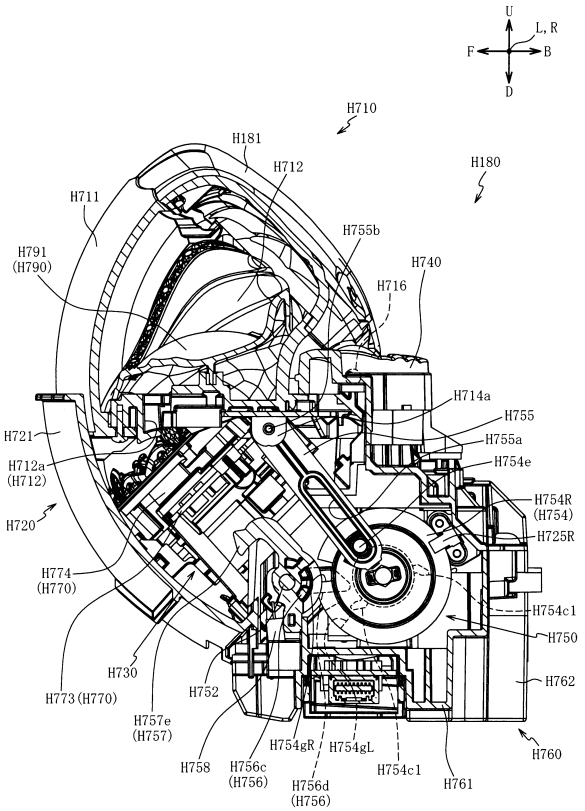
【図１７３】



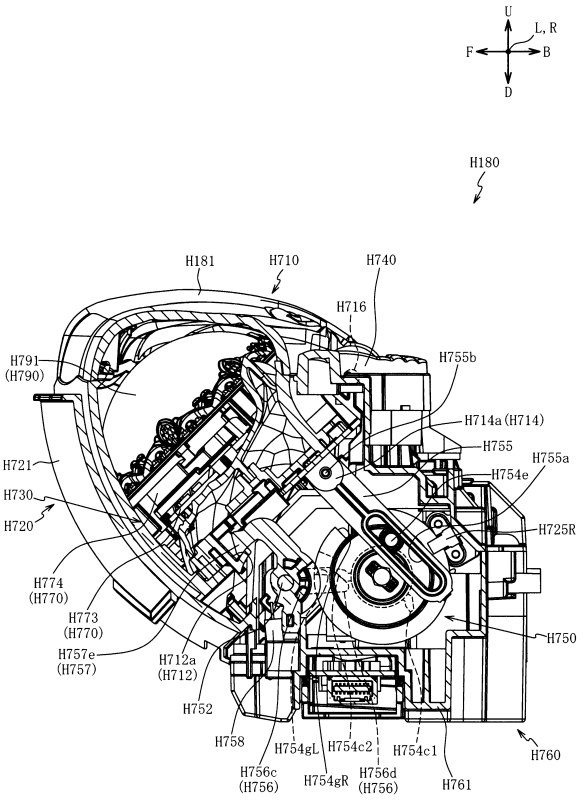
【図１７４】



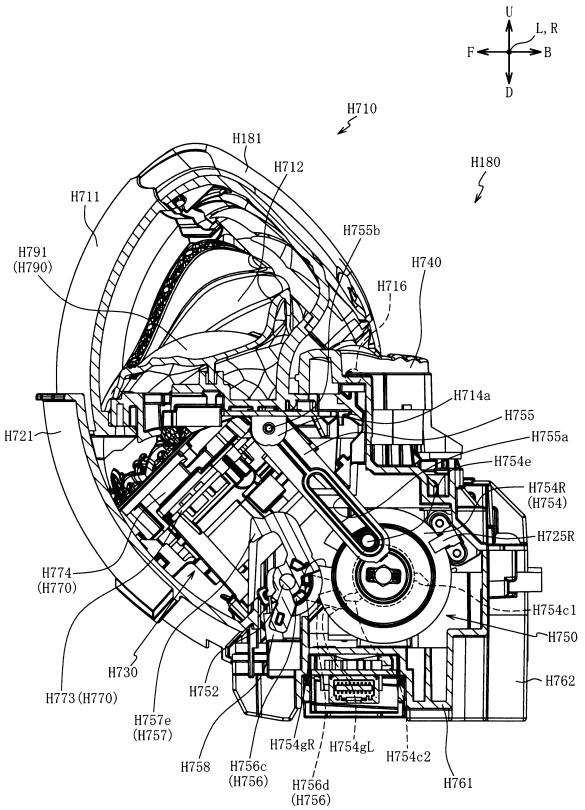
【図１７５】



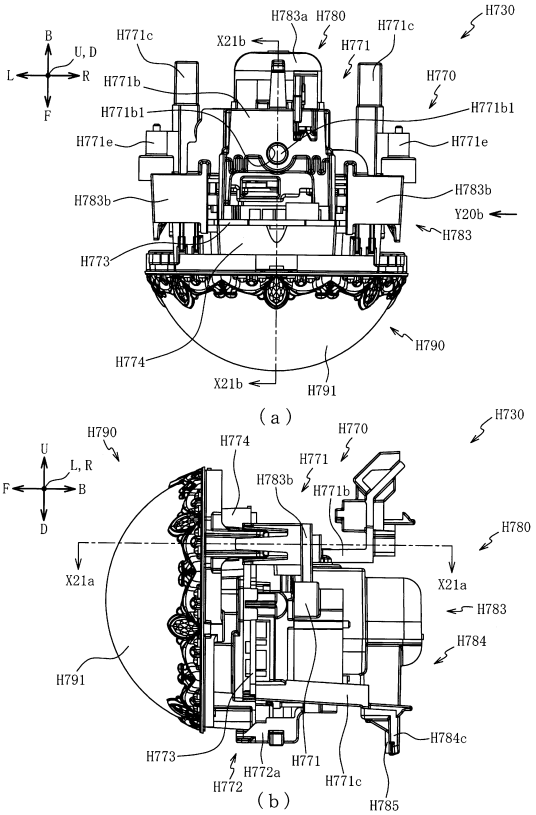
【図１７６】



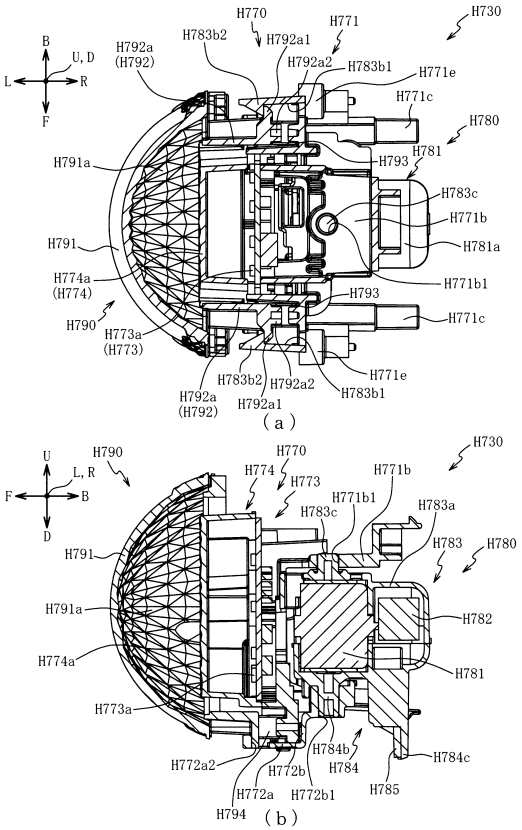
【図１７７】



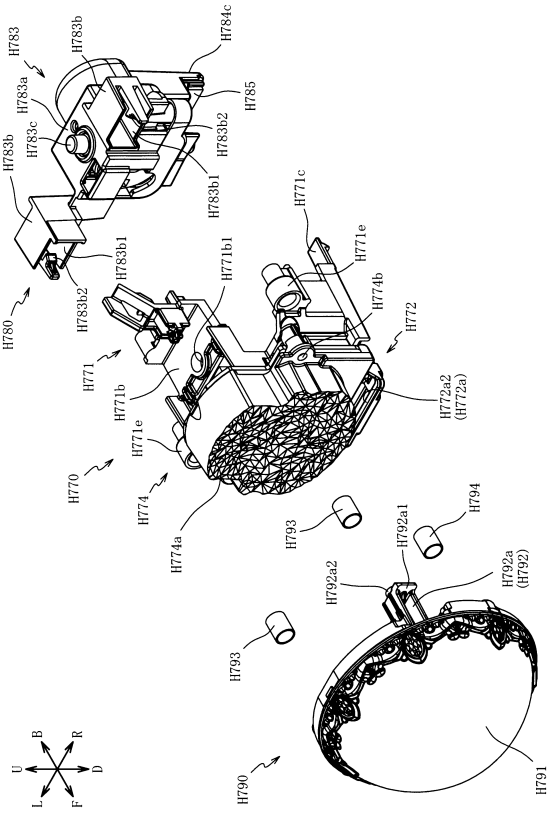
【図１７８】



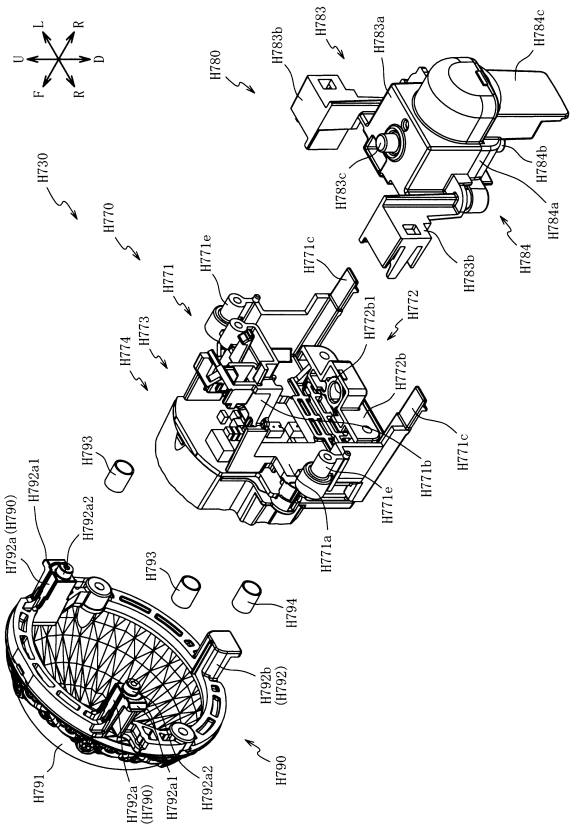
【図１７９】



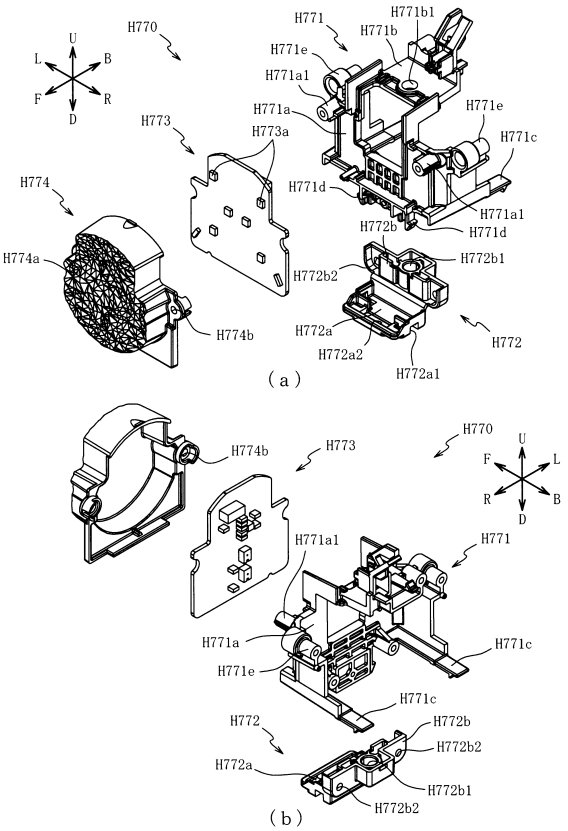
【図１８０】



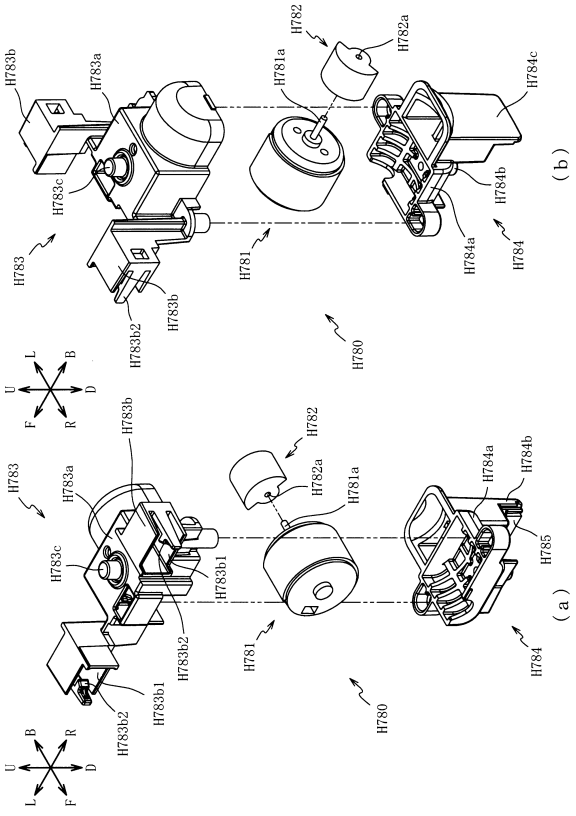
【図１８１】



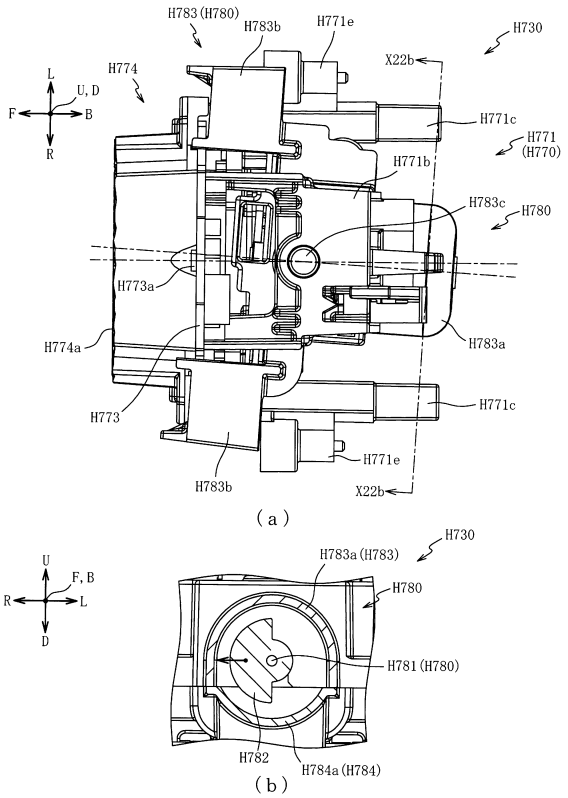
【図１８２】



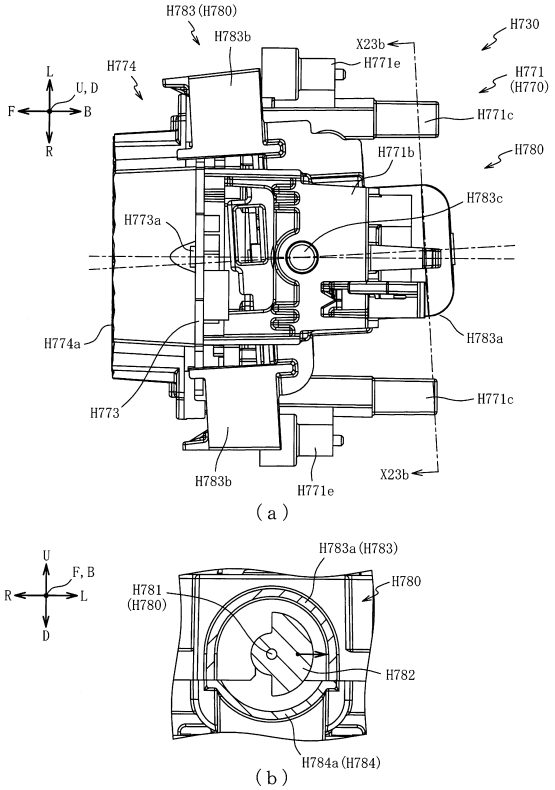
【図１８３】



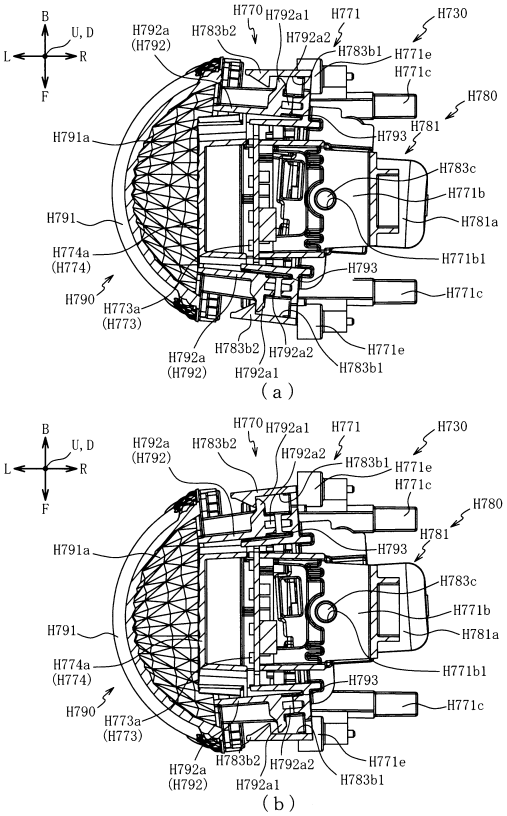
【図１８４】



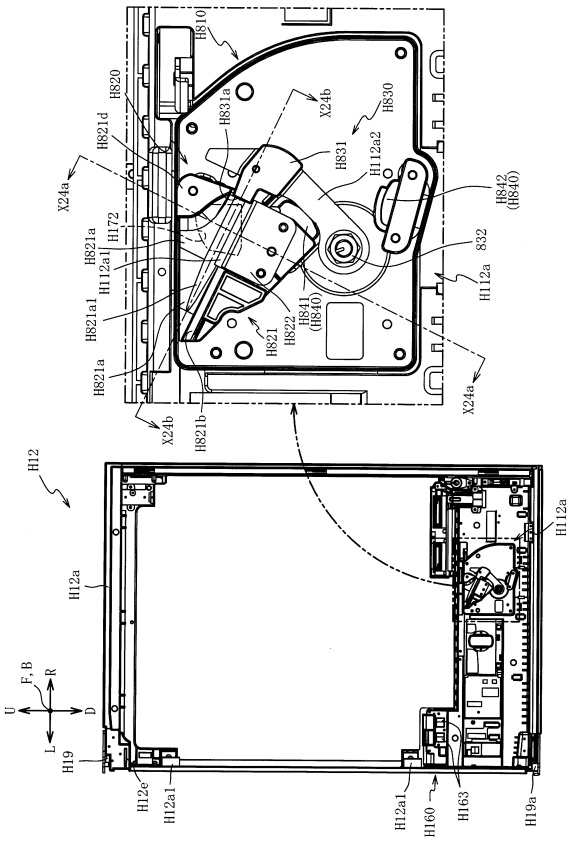
【図１８５】



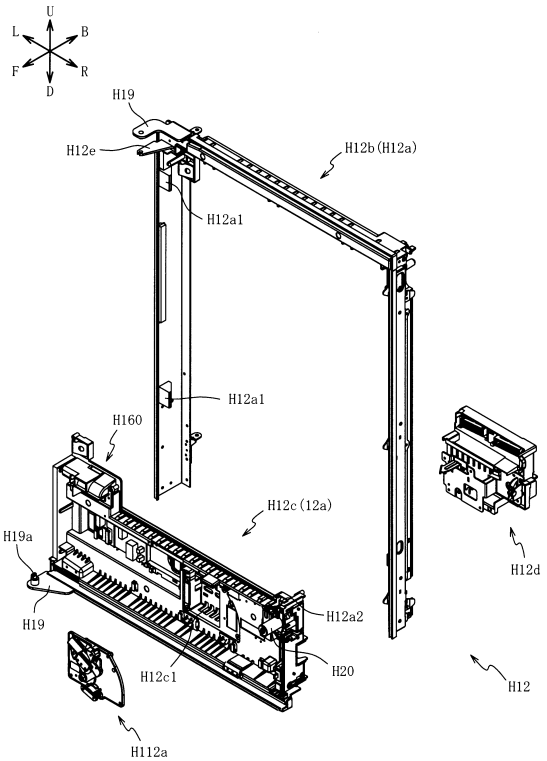
【図１８６】



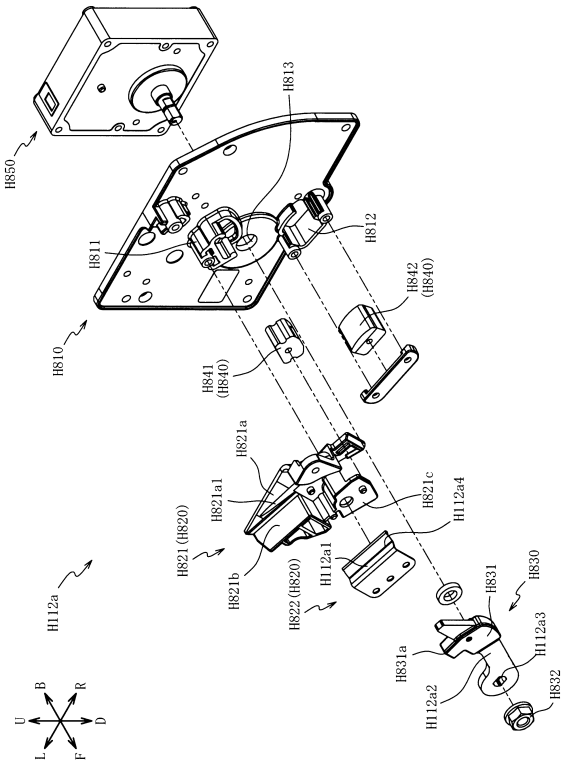
【図１８７】



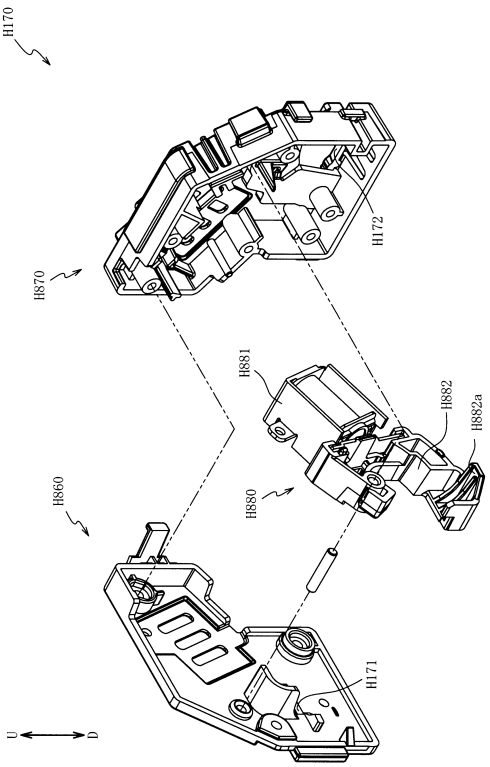
【図１８８】



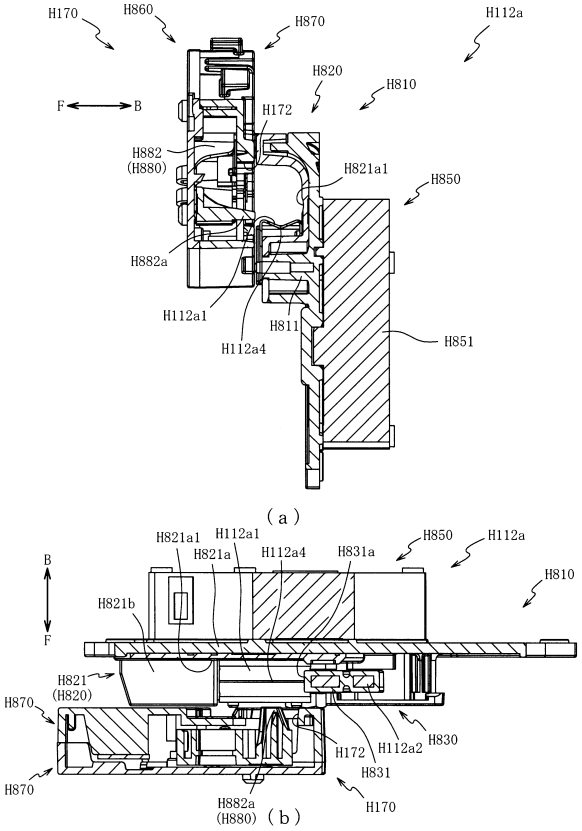
【図１８９】



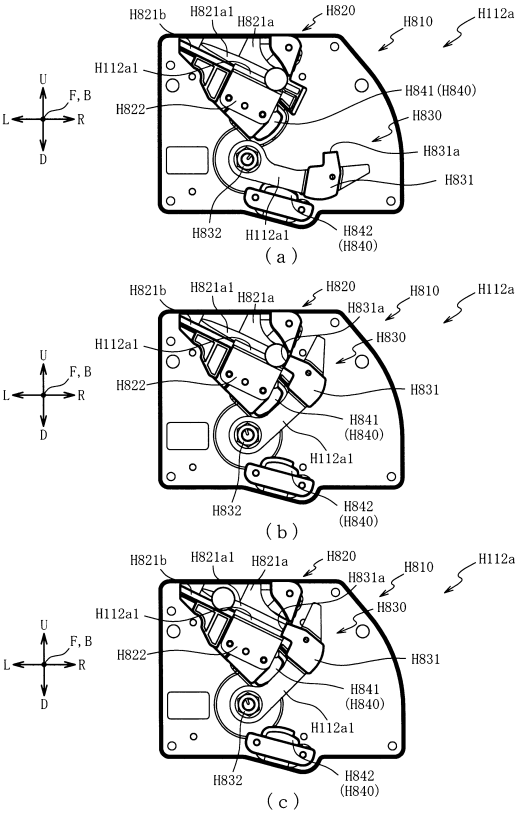
【図１９０】



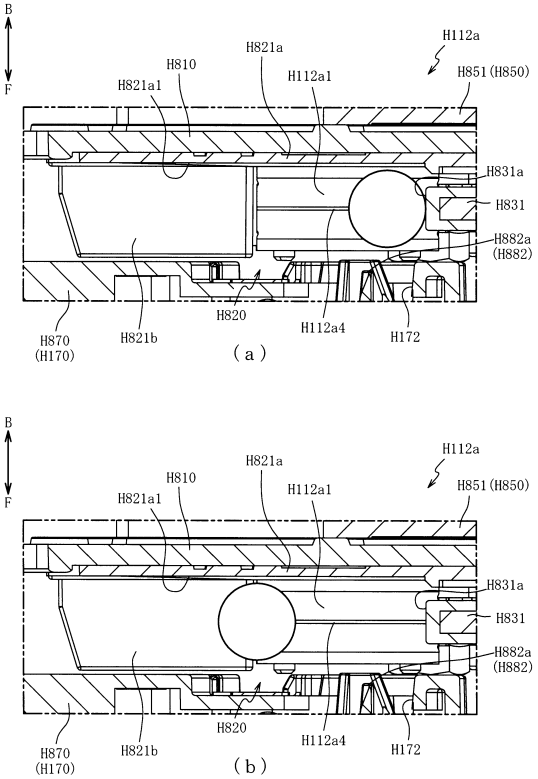
【図１９１】



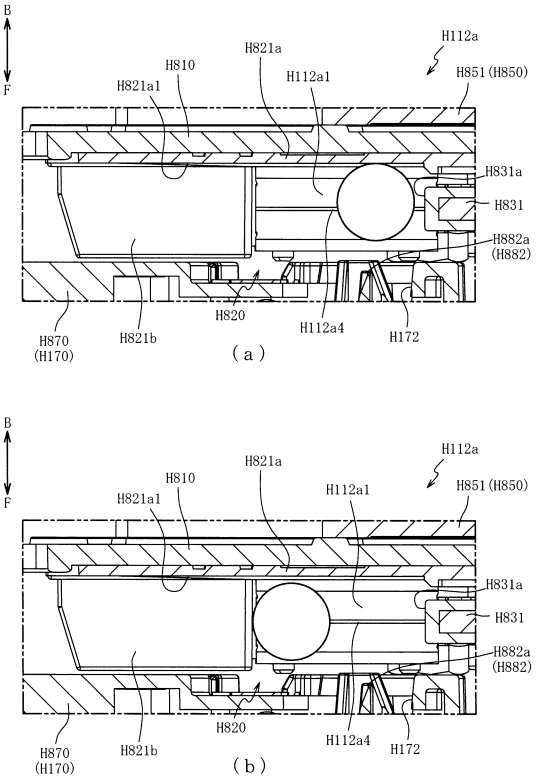
【図１９２】



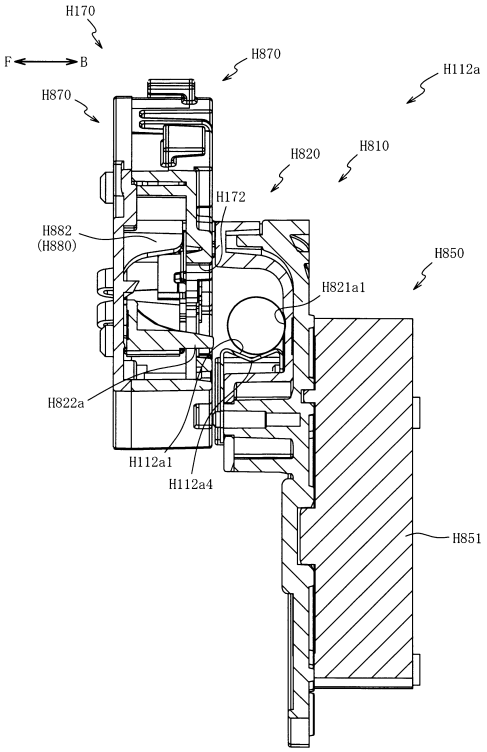
【図１９３】



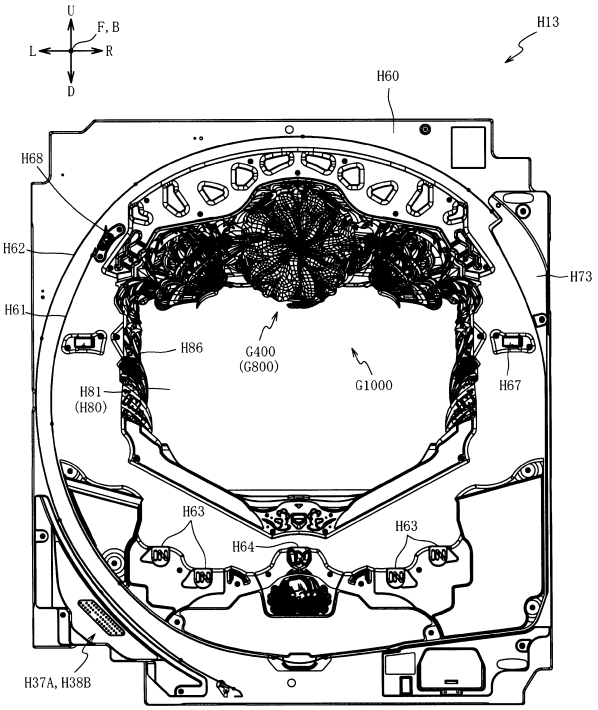
【図１９４】



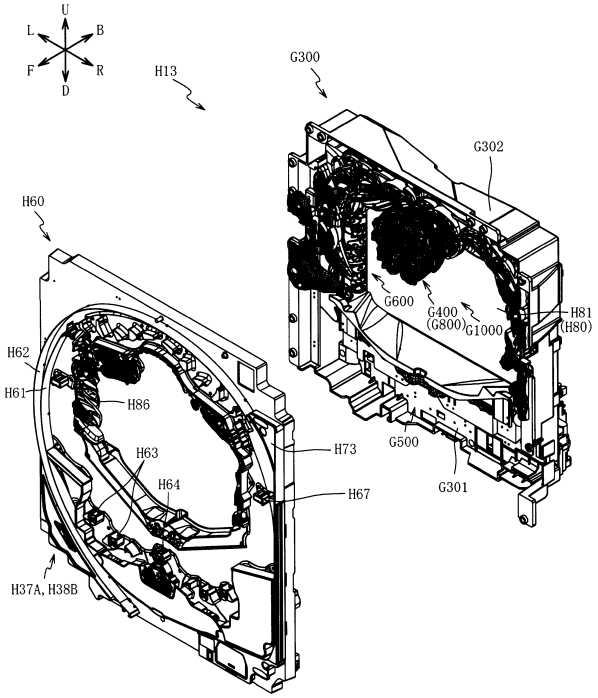
【図１９５】



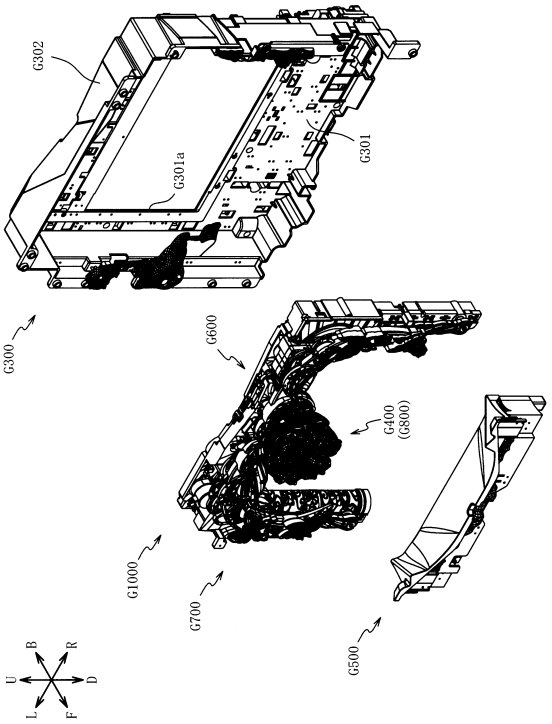
【図１９６】



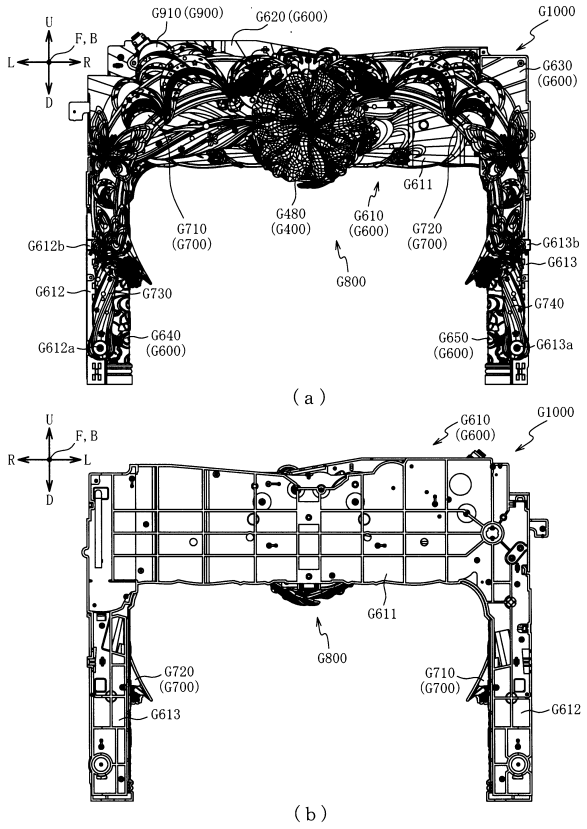
【図１９７】



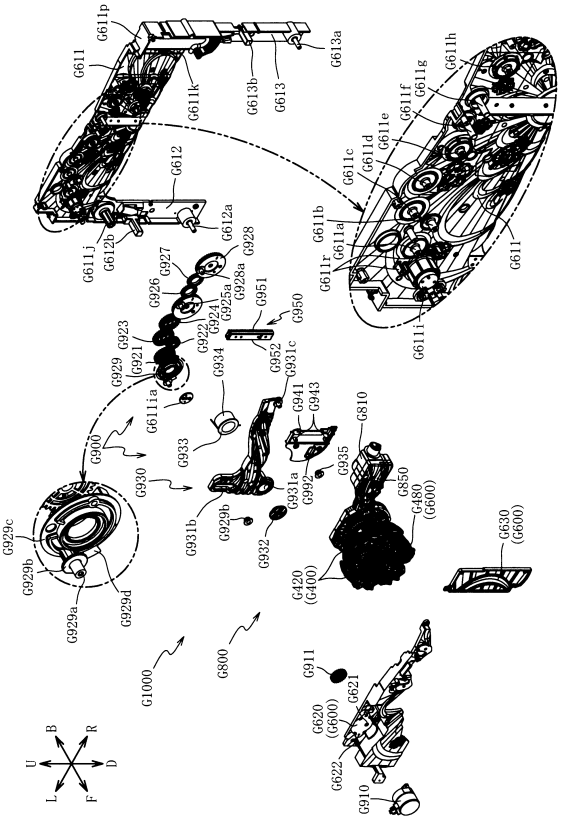
【図１９８】



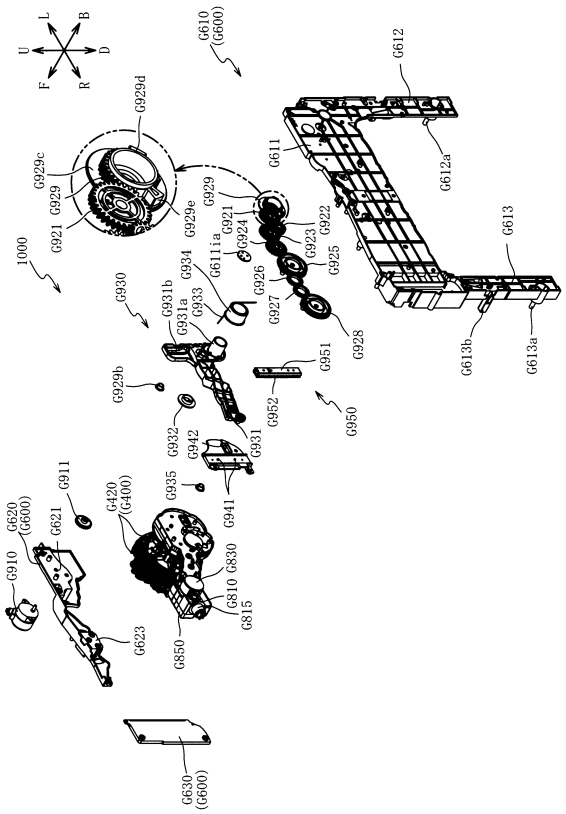
【図１９９】



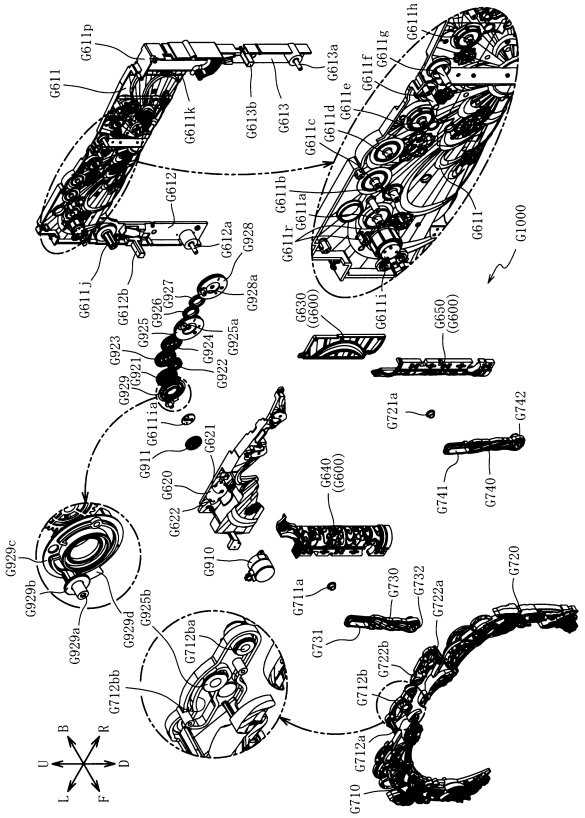
【図２００】



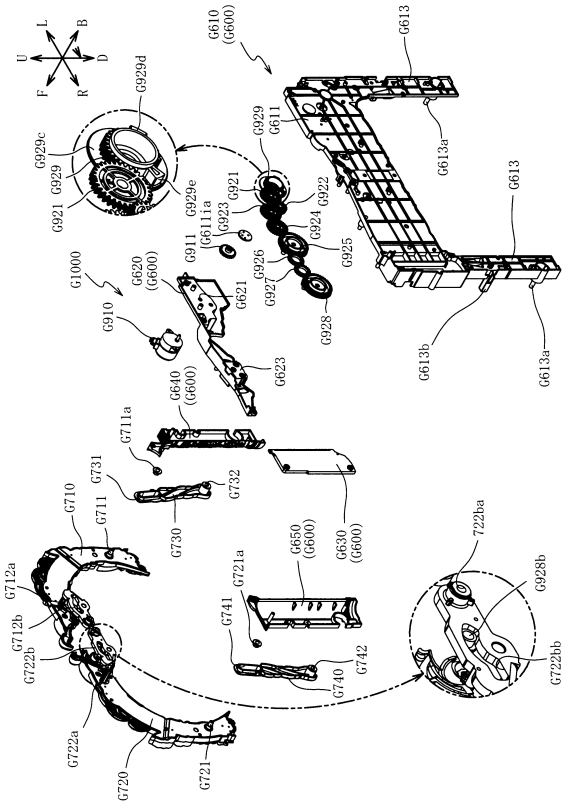
【図２０１】



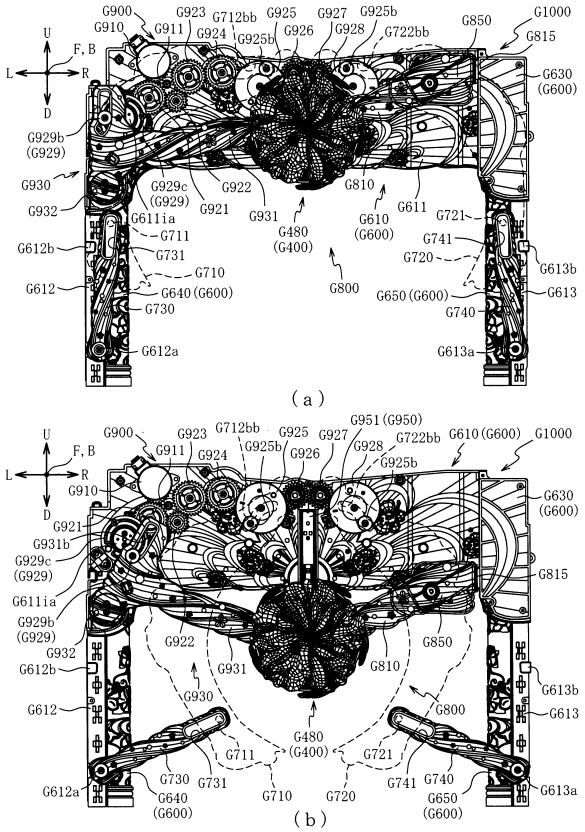
【図２０２】



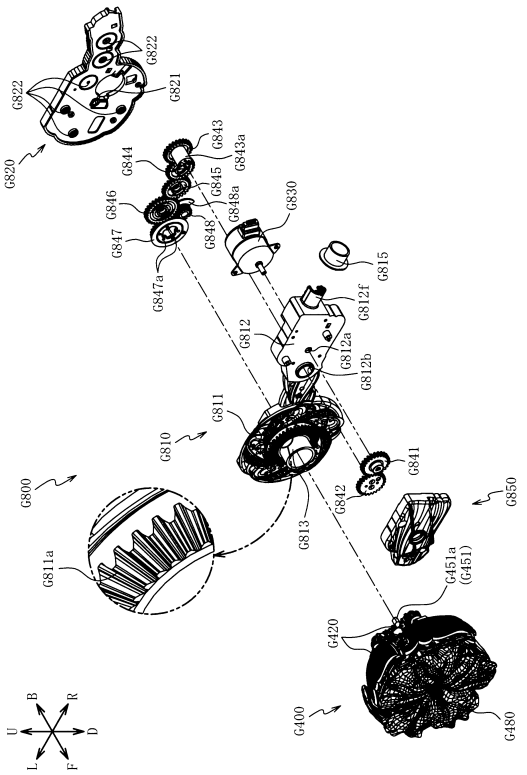
【図２０３】



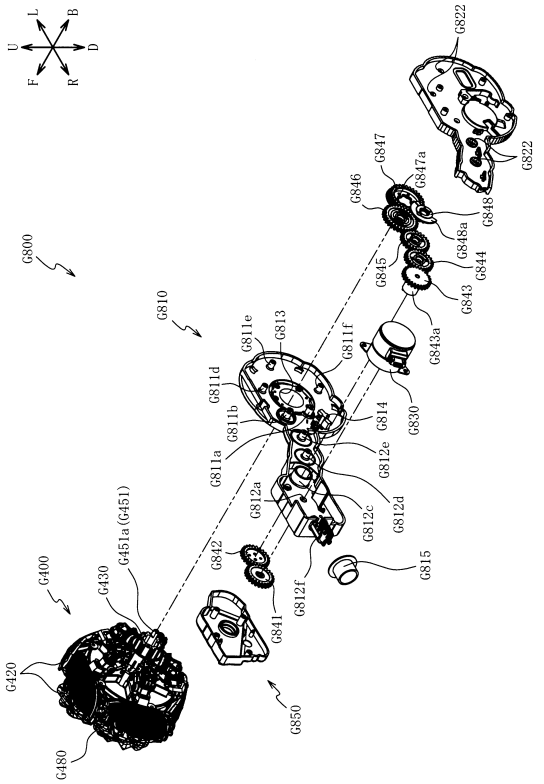
【図２０４】



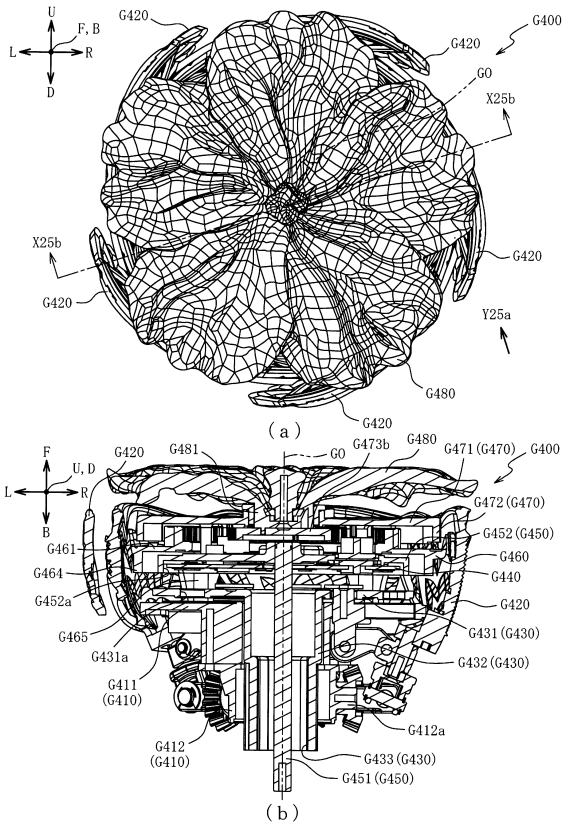
【図２０５】



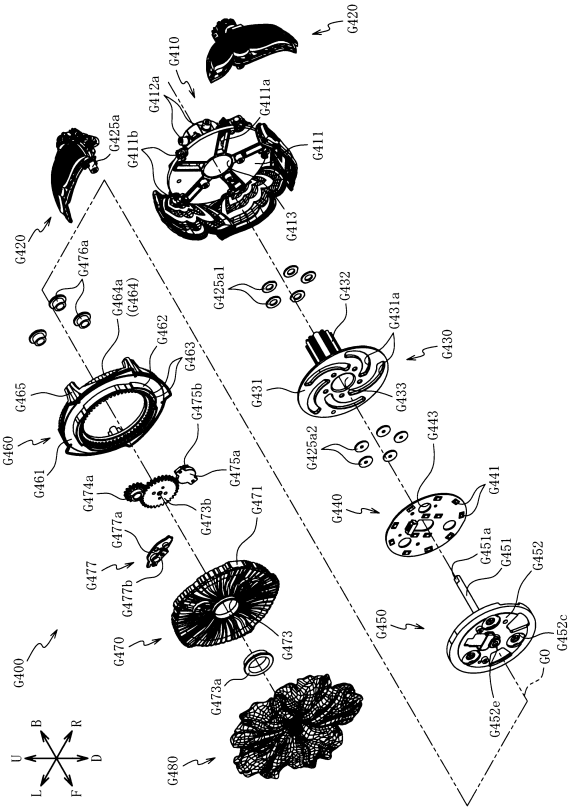
【図２０６】



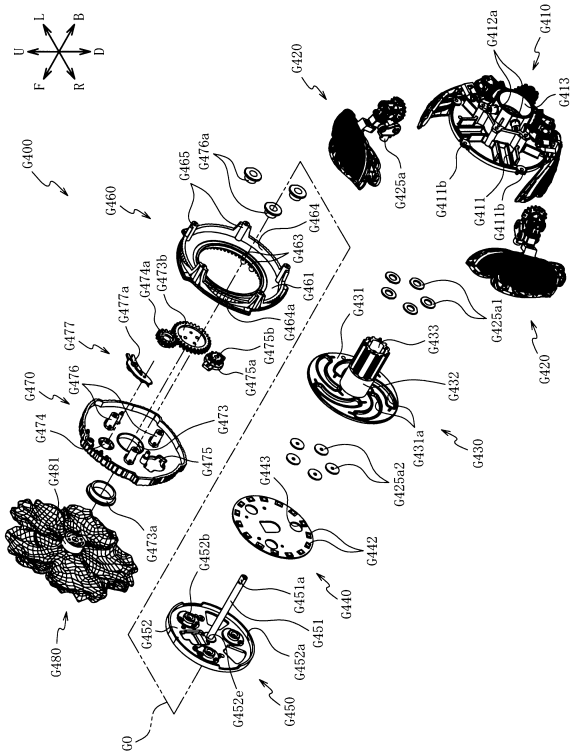
【図２０７】



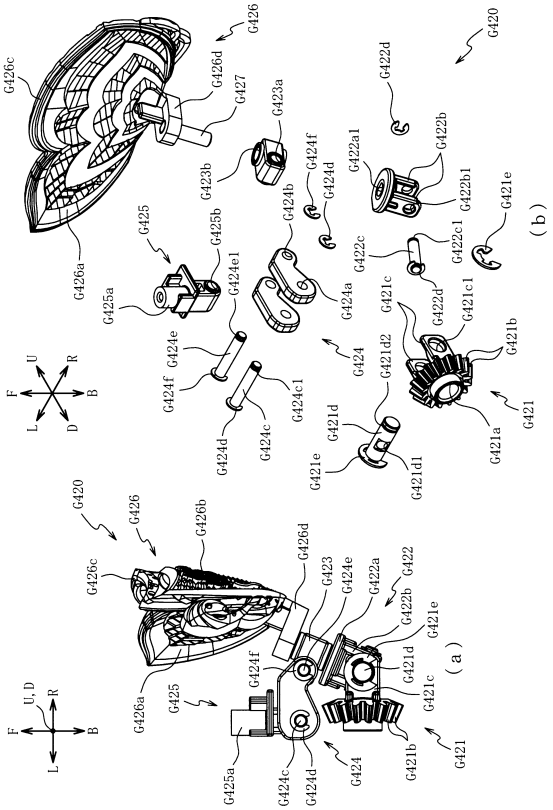
【図２０８】



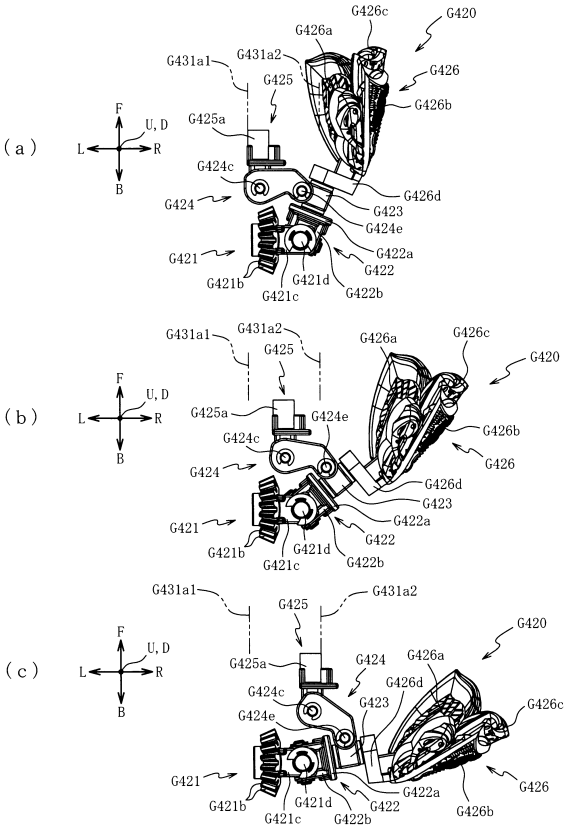
【図２０９】



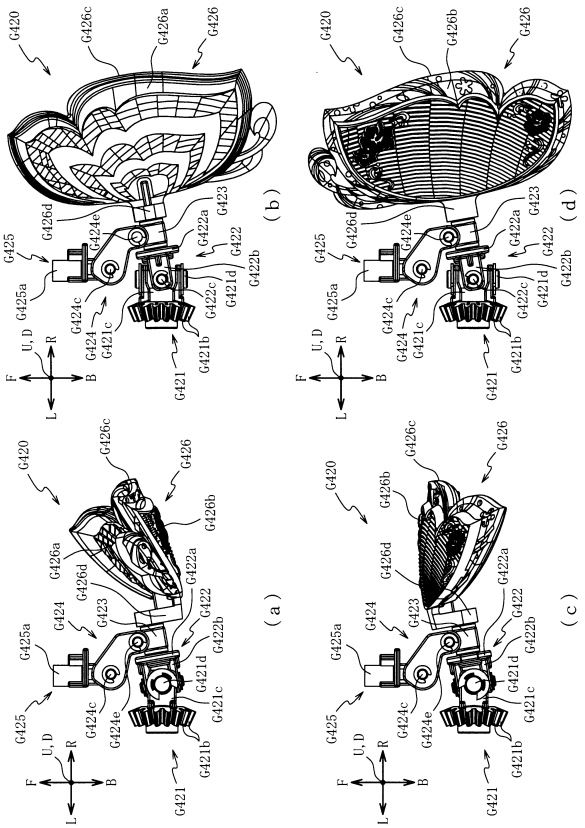
【図２１０】



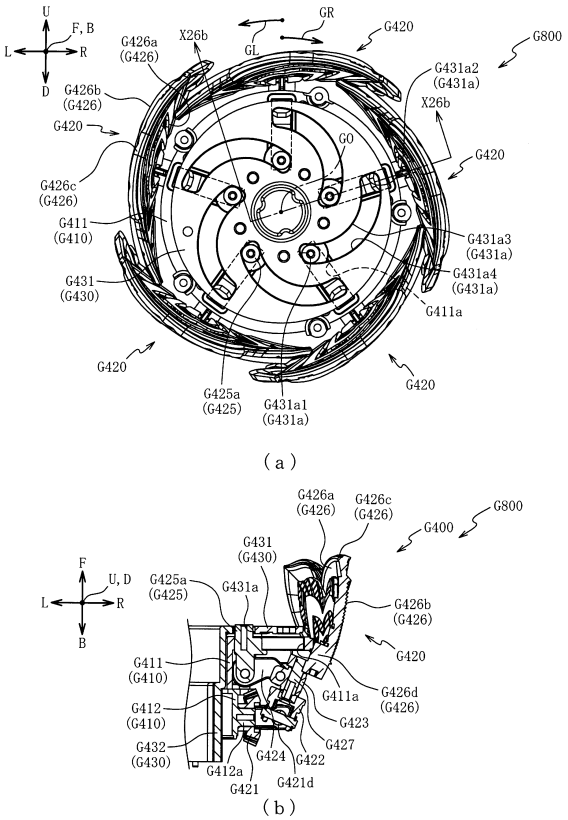
【図２１１】



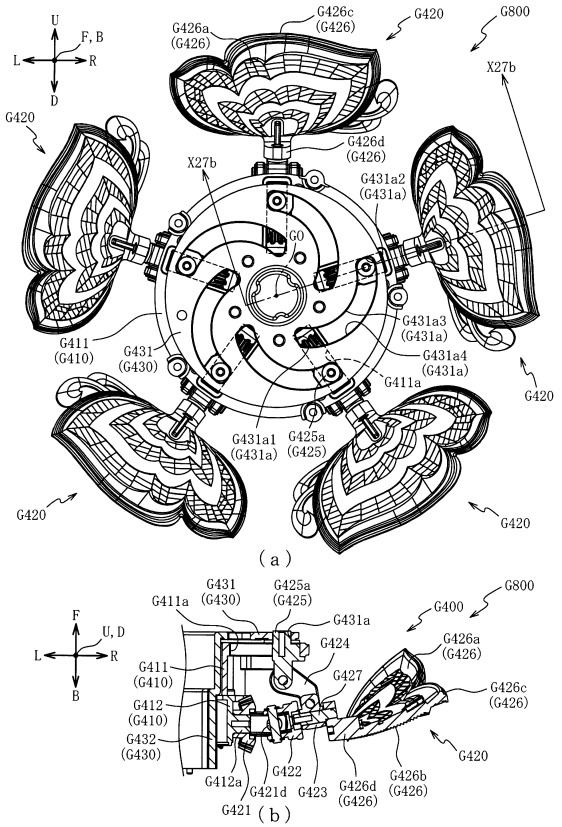
【図２１２】



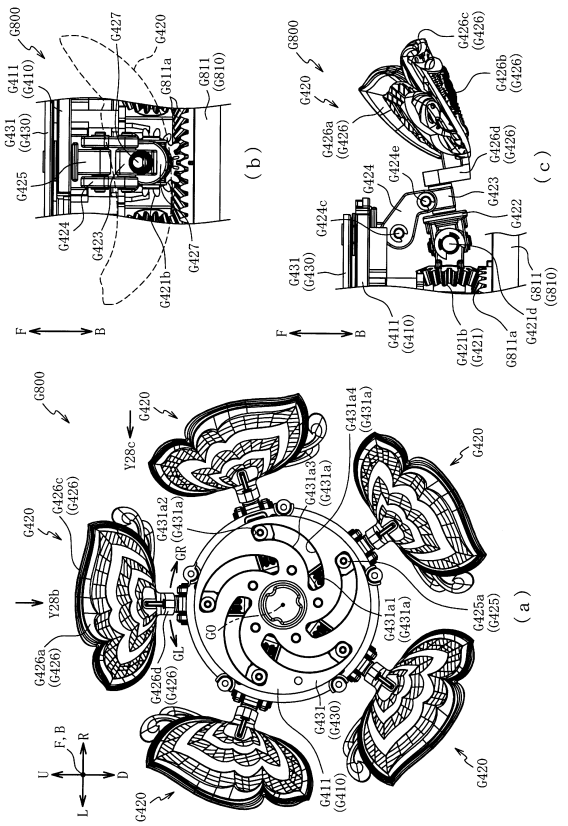
【図２１３】



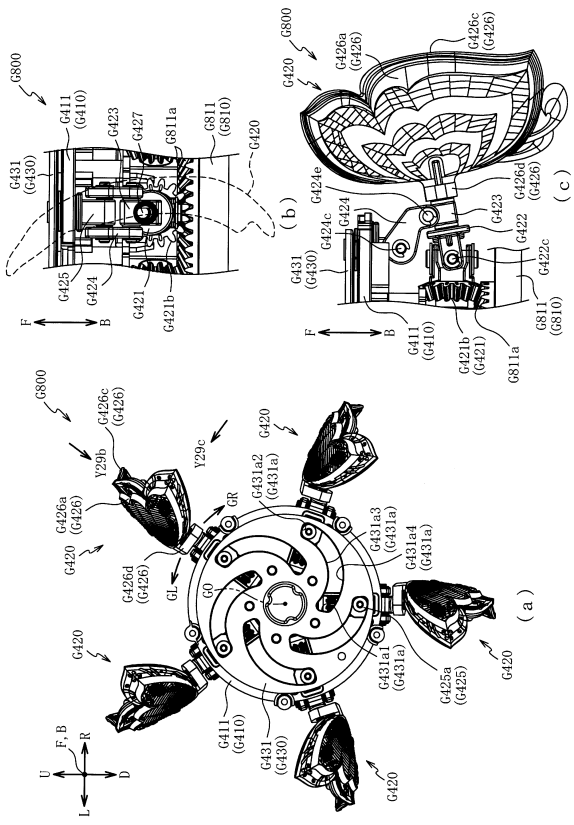
【図２１４】



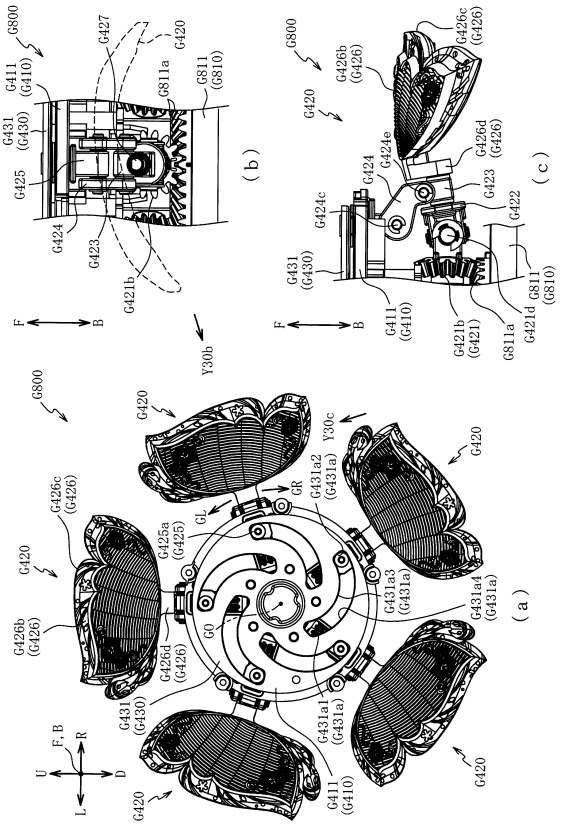
【図２１５】



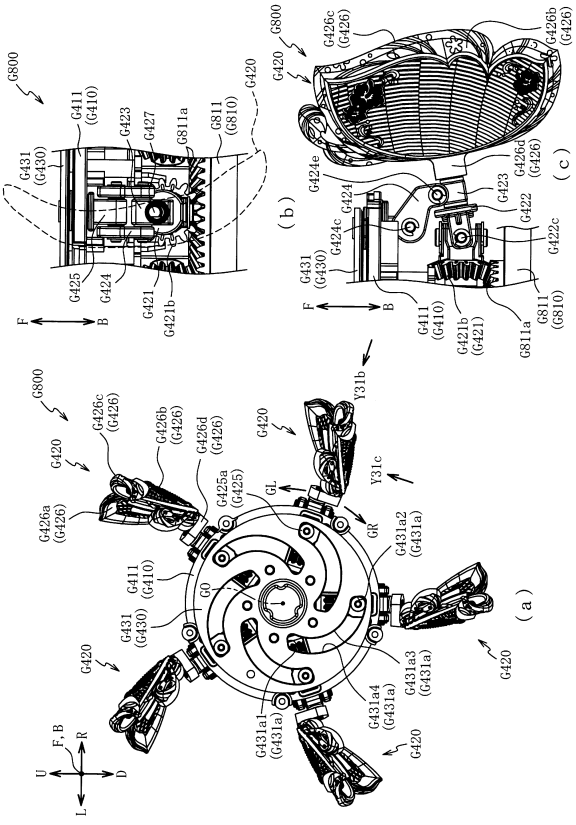
【図２１６】



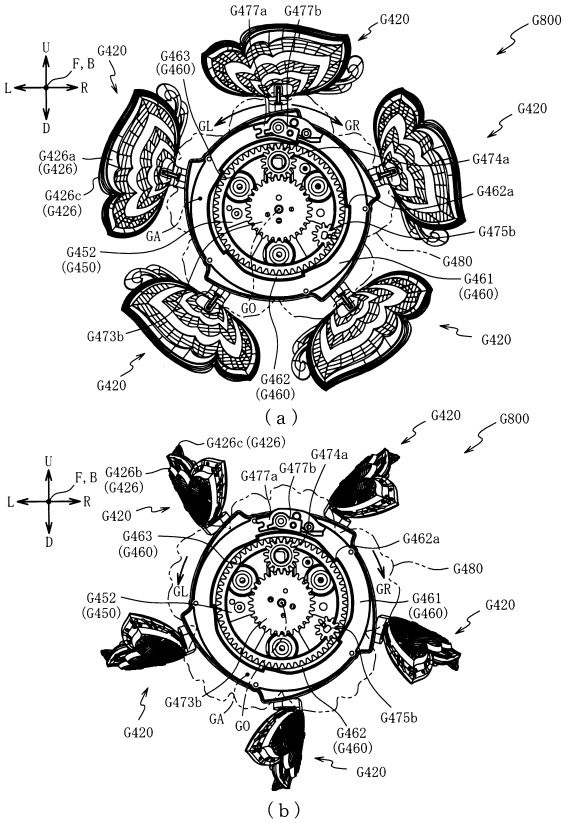
【図２１７】



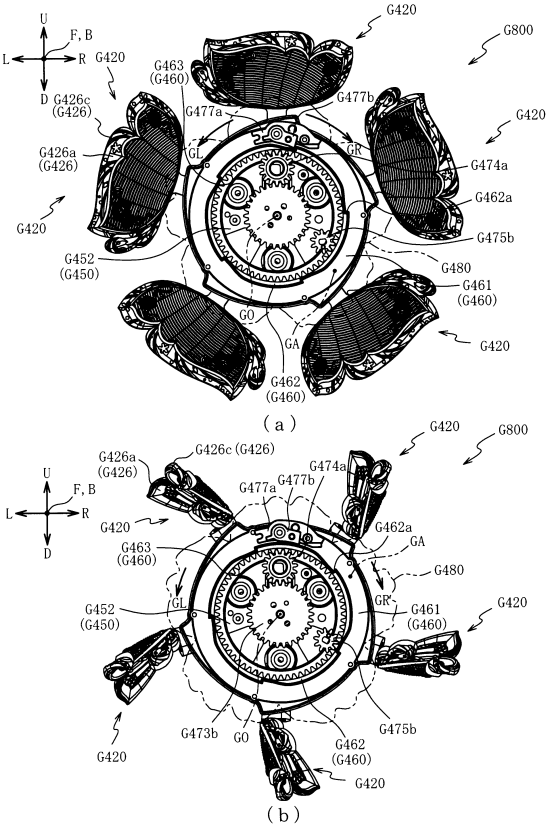
【図２１８】



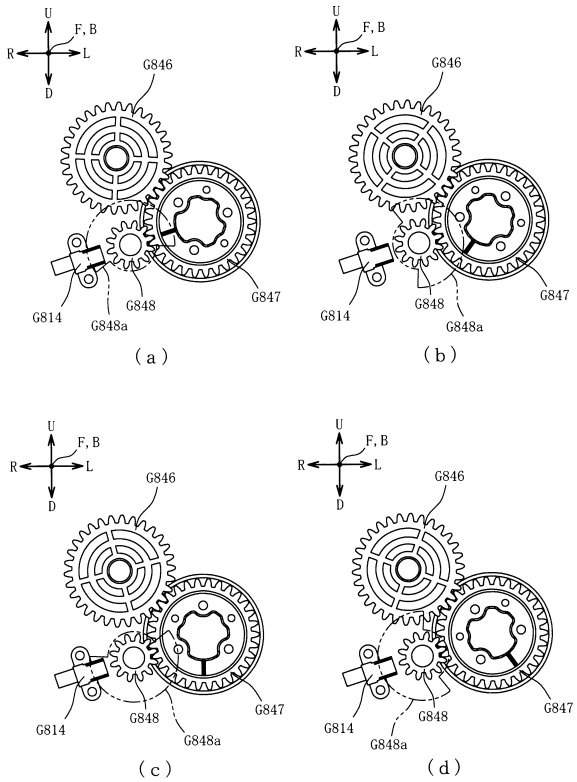
【図２１９】



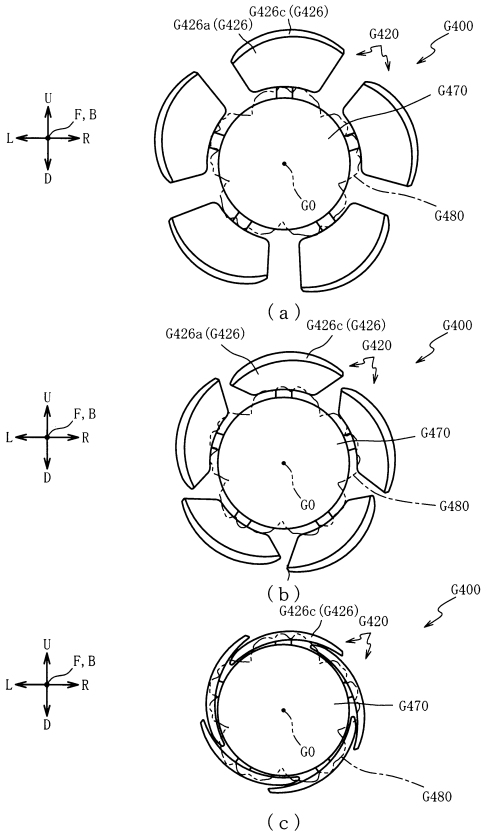
【図２２０】



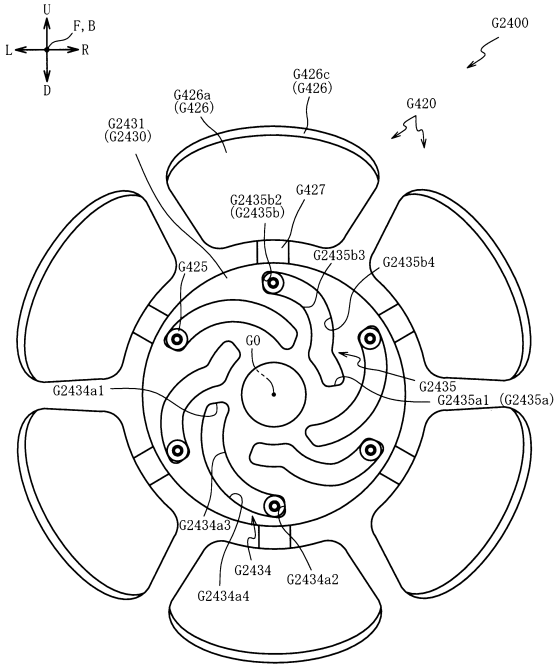
【図２２１】



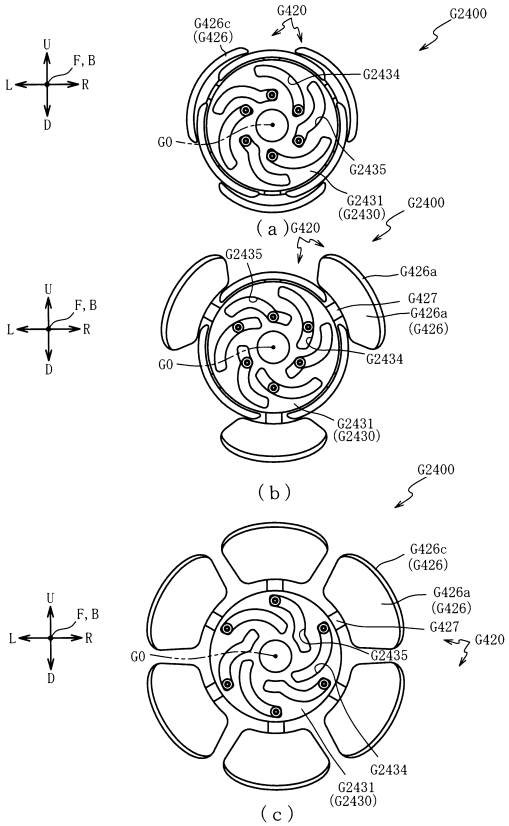
【図２２２】



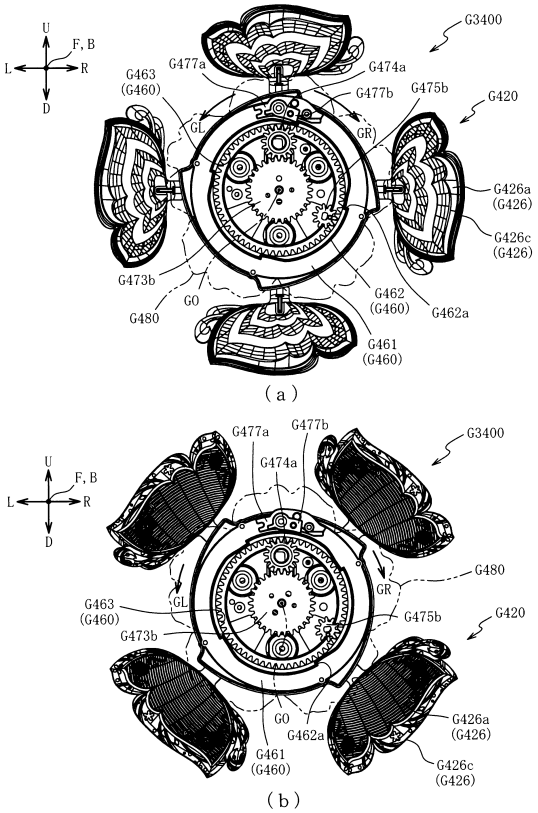
【図２２３】



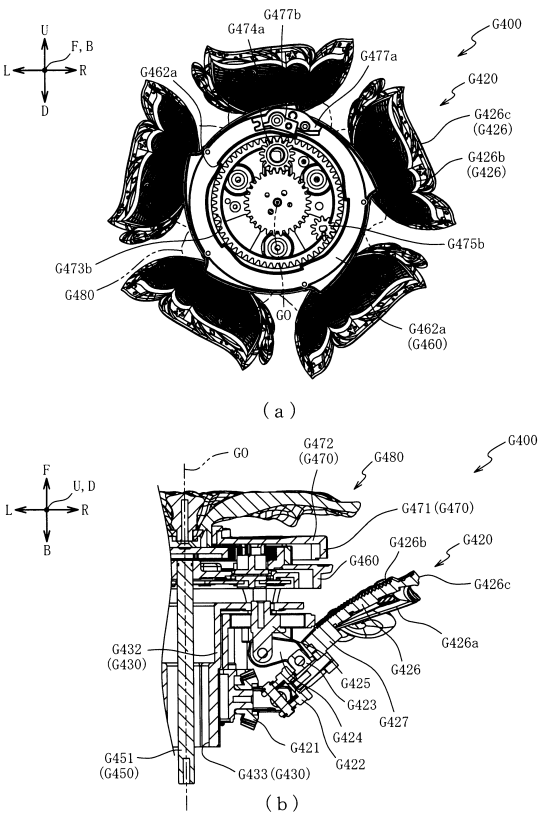
【図２２４】



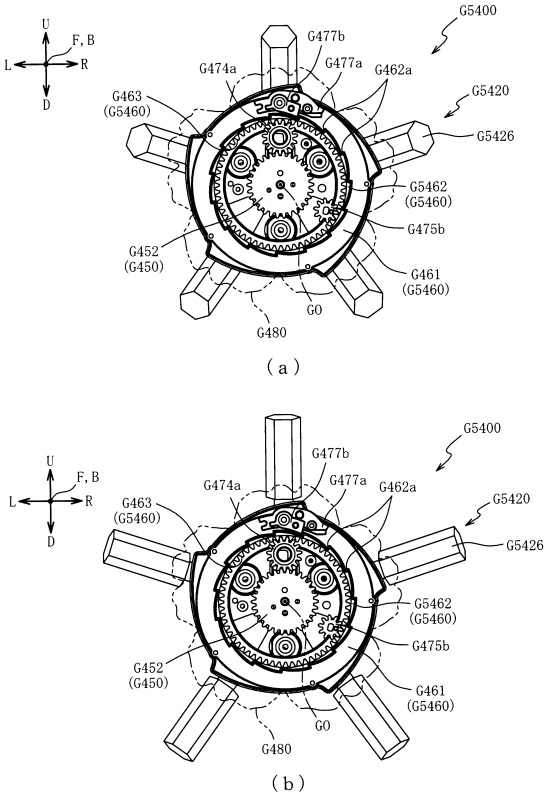
【図２２５】



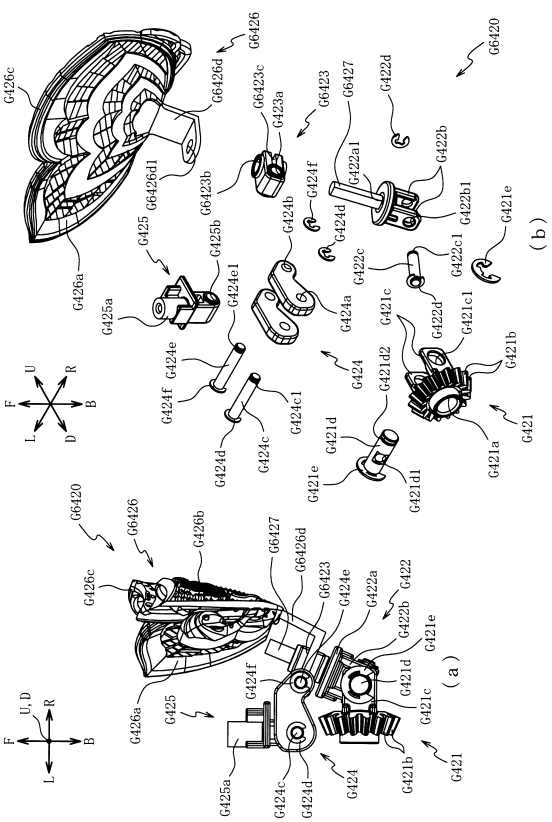
【図２２６】



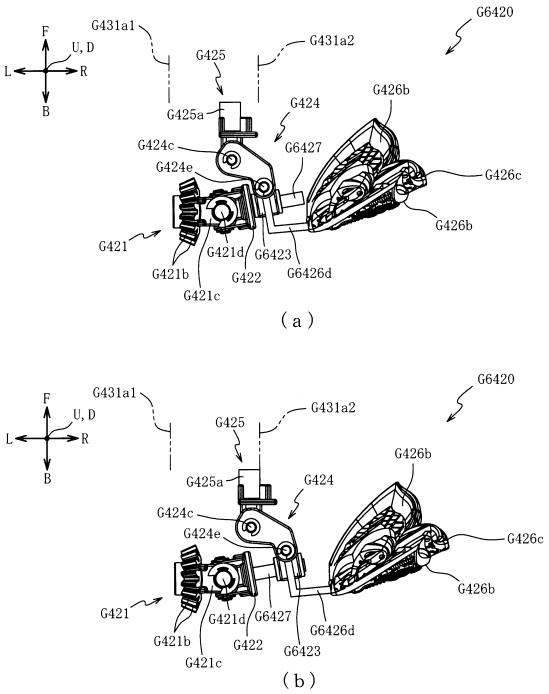
【図２２７】



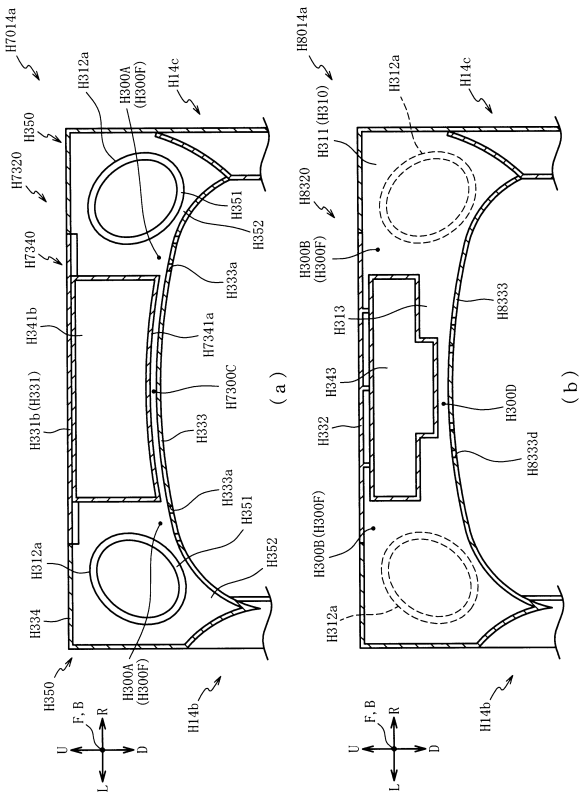
【図２２８】



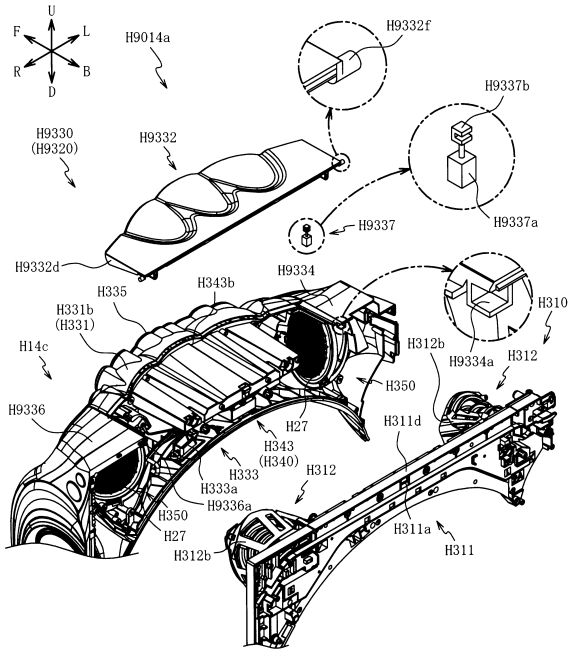
【図２２９】



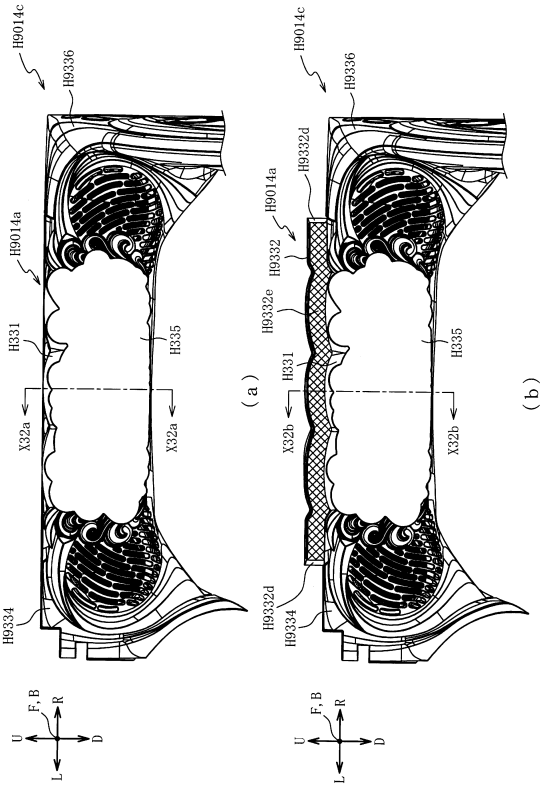
【図２３０】



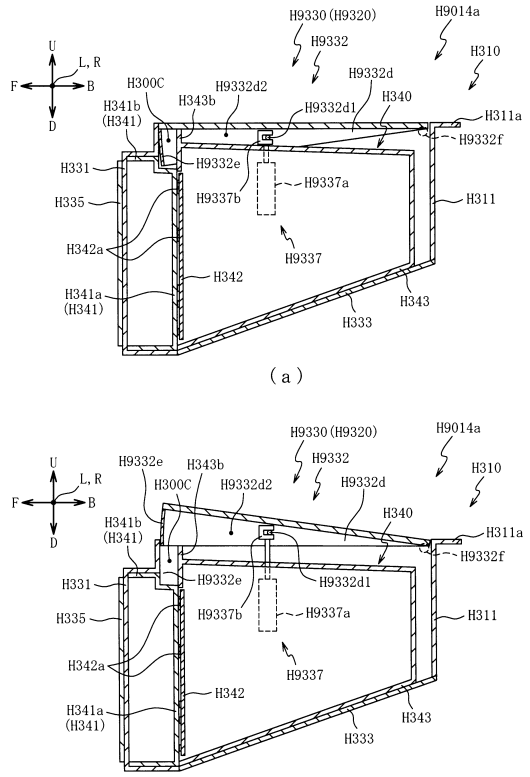
【図２３１】



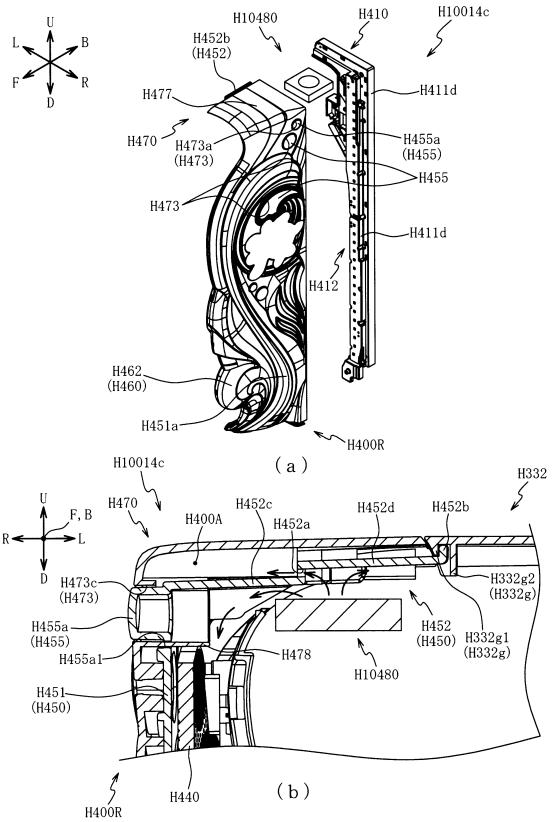
【図２３２】



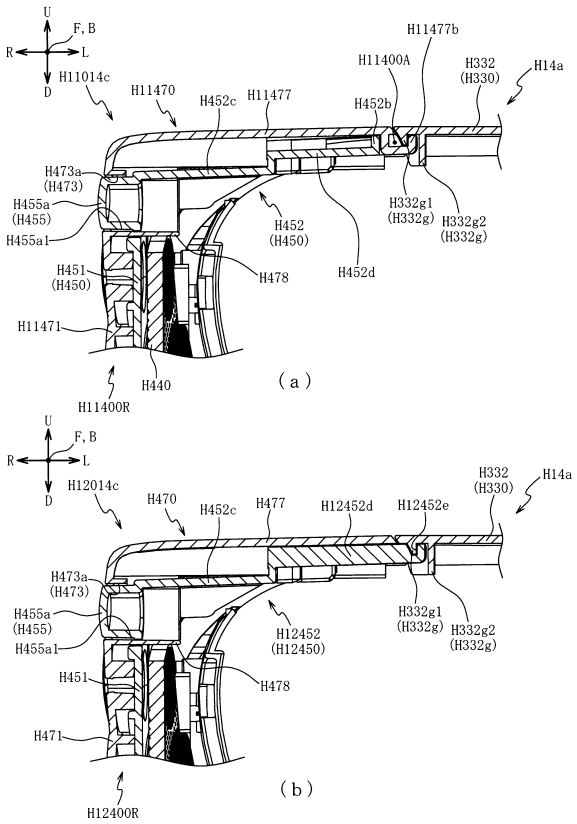
【図２３３】



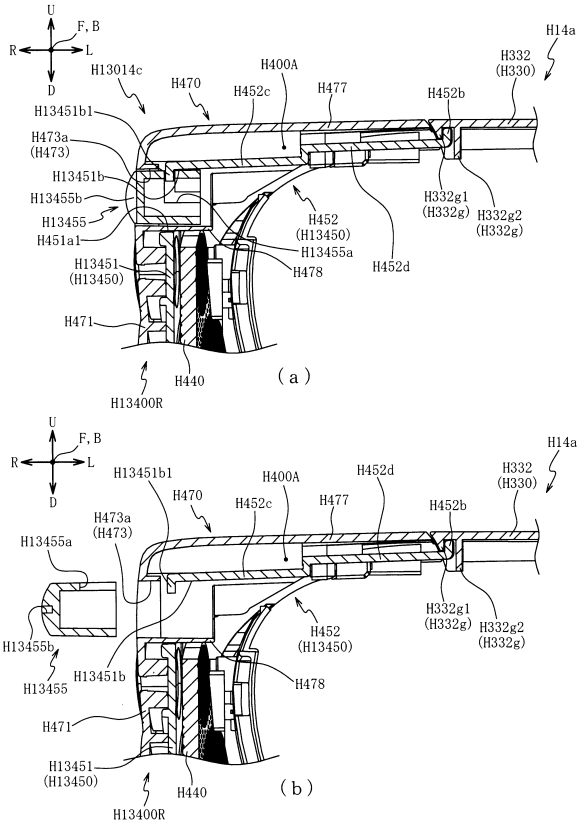
【図２３４】



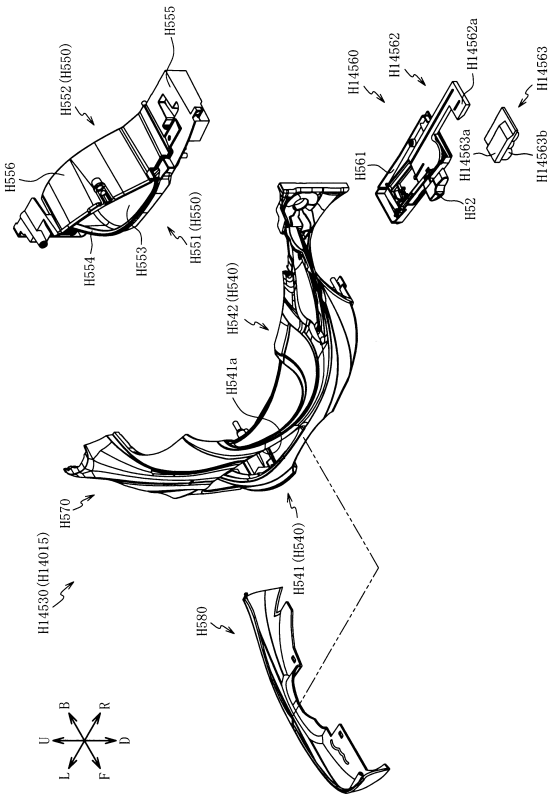
【図２３５】



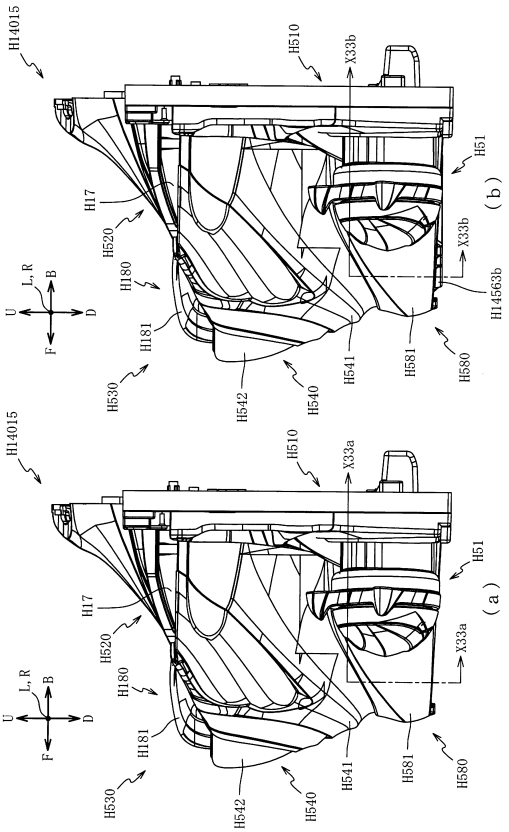
【図２３６】



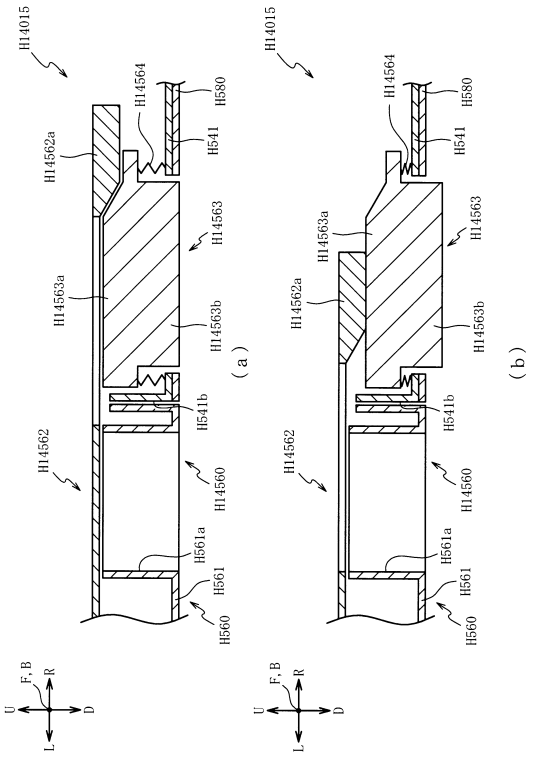
【図２３７】



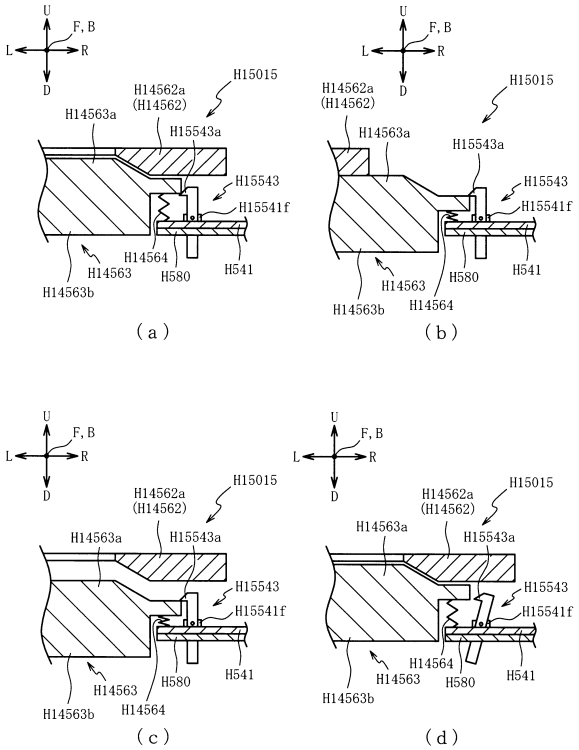
【図２３８】



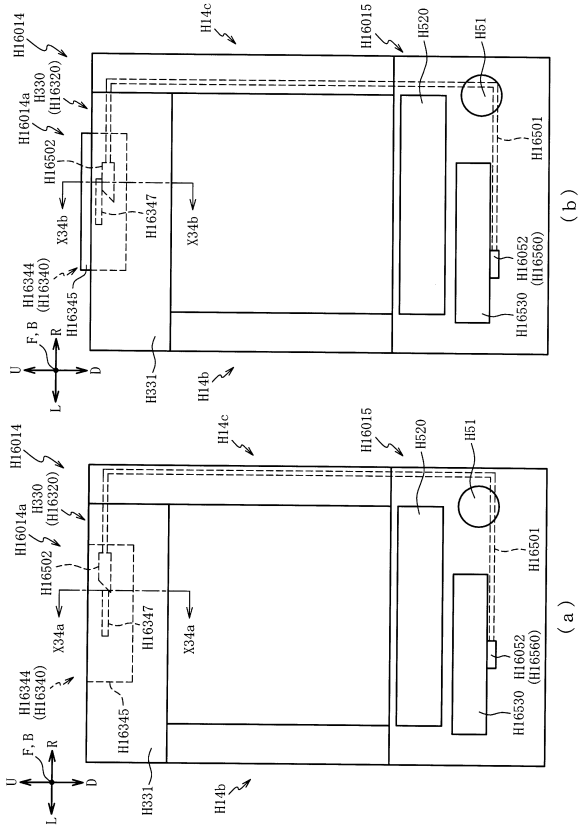
【図２３９】



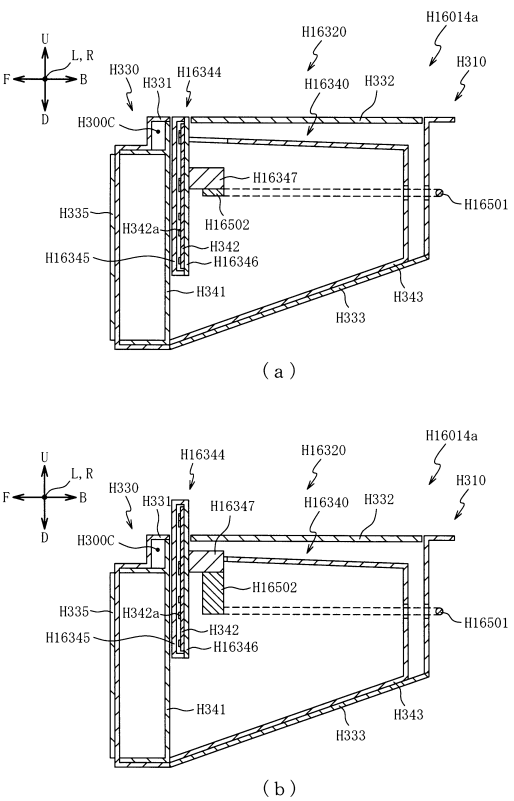
【図２４０】



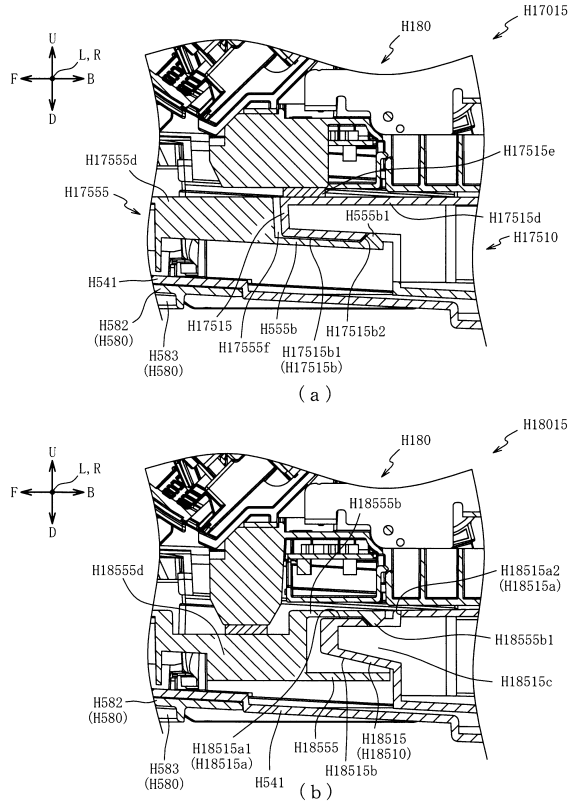
【図２４１】



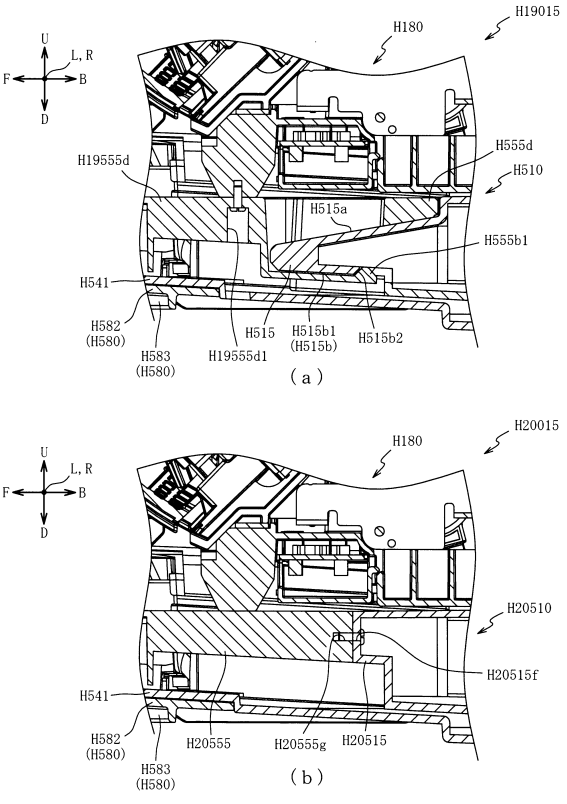
【図２４２】



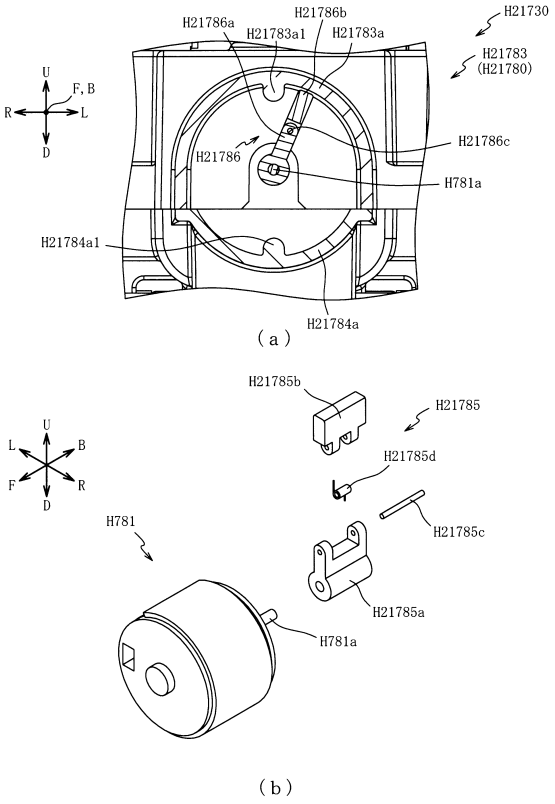
【図２４３】



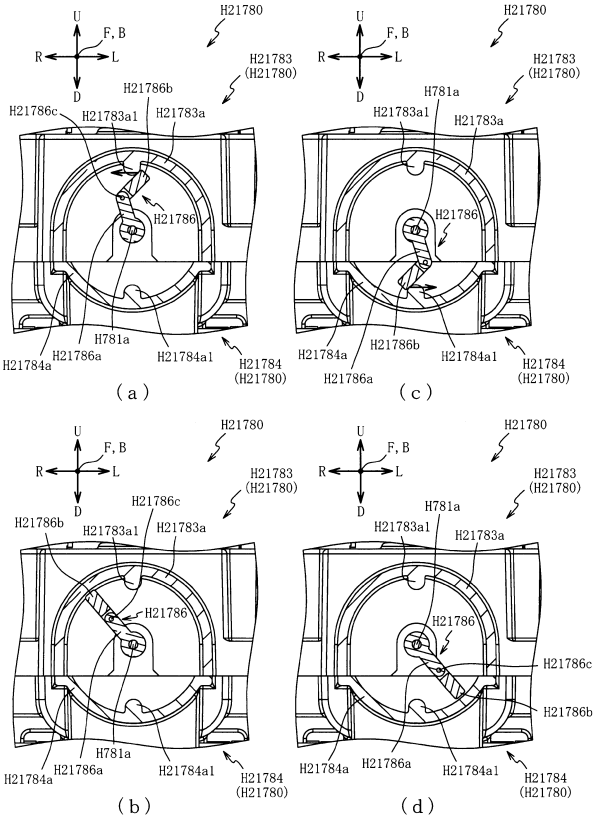
【図２４４】



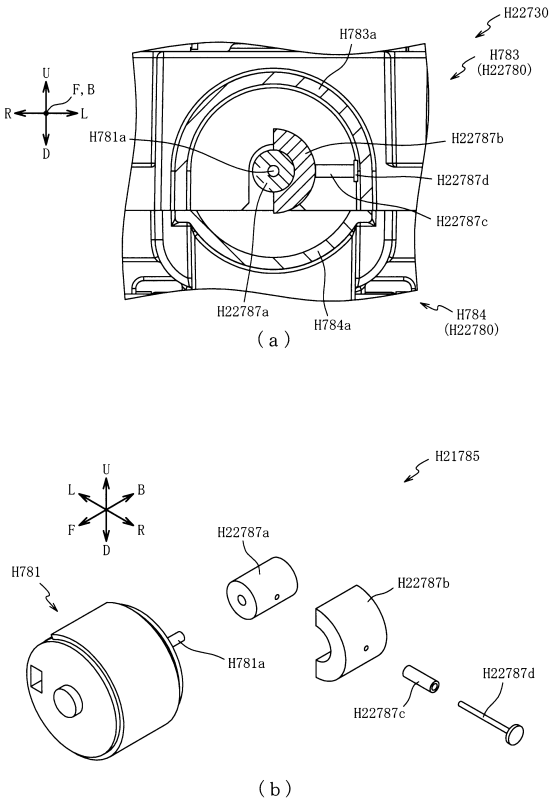
【図２４５】



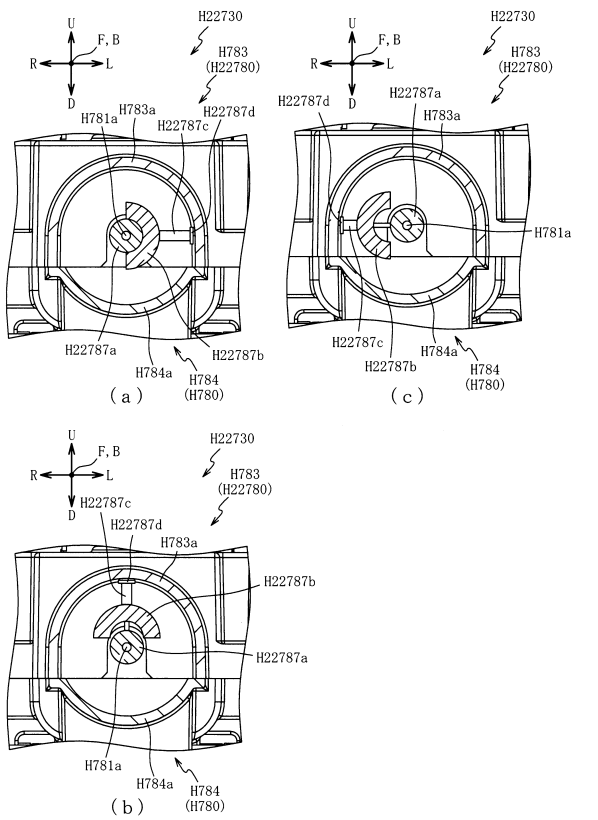
【図２４６】



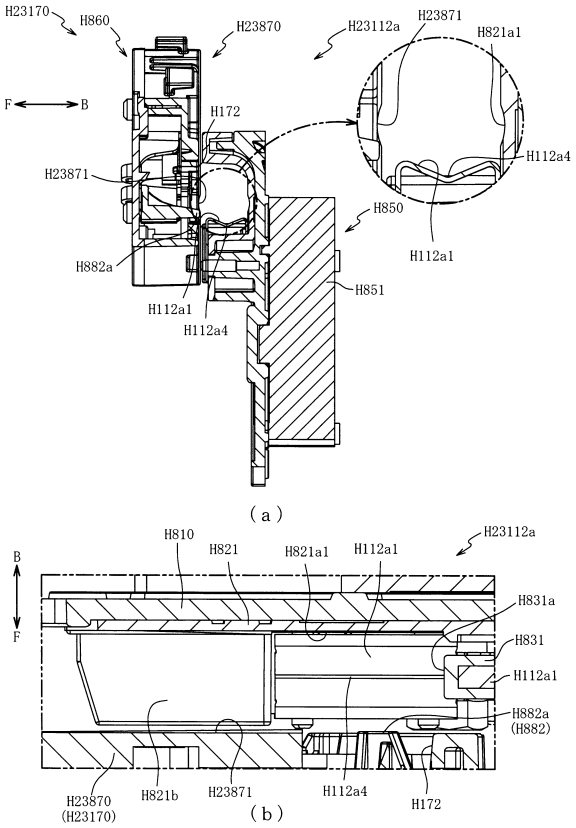
【図２４７】



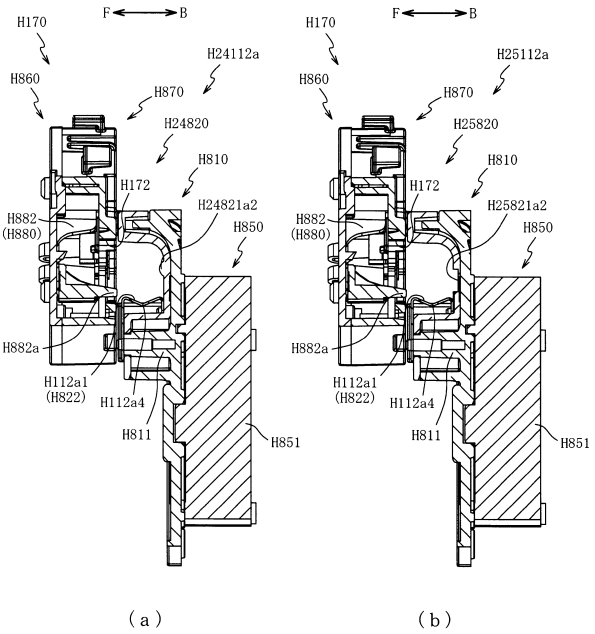
【図２４８】



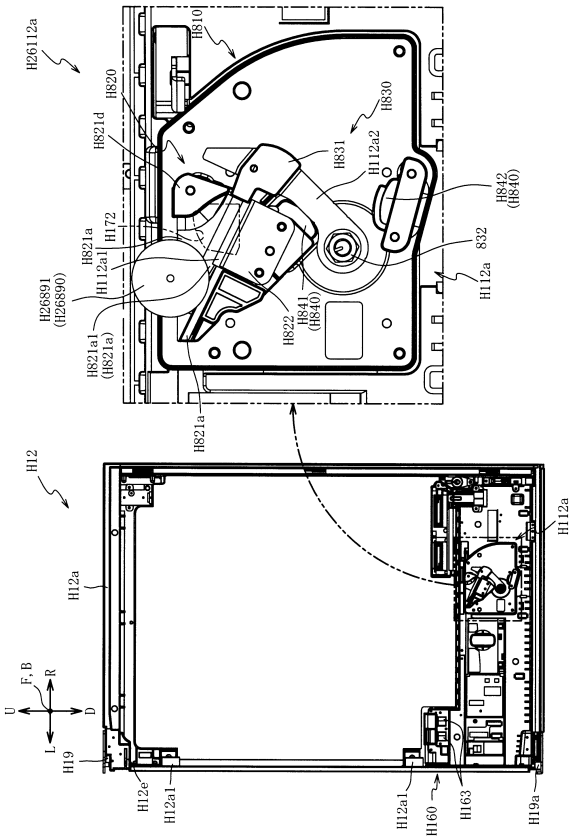
【図２４９】



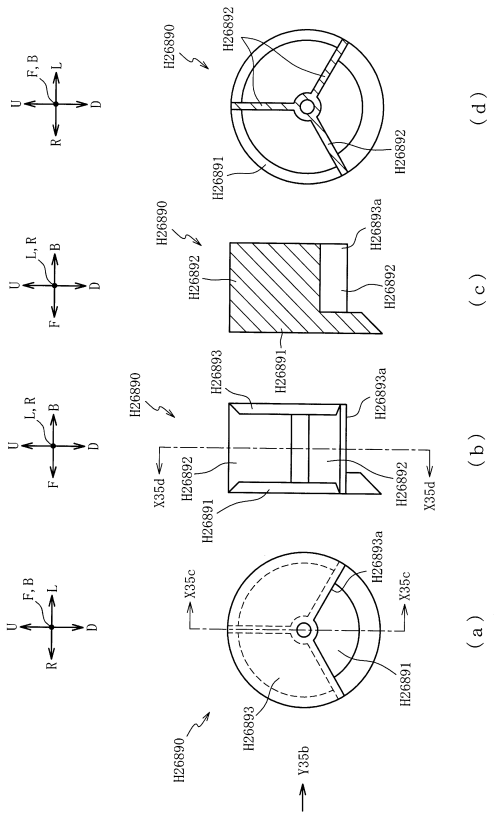
【図２５０】



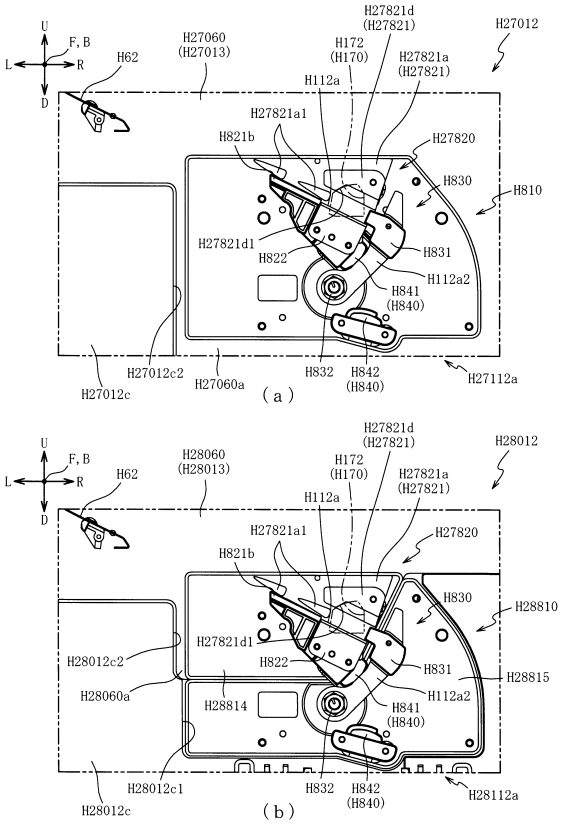
【図２５１】



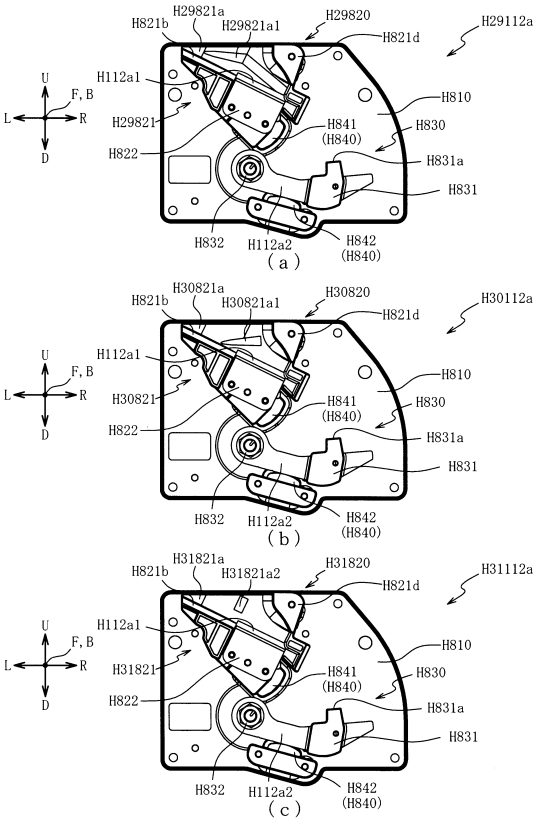
【図２５２】



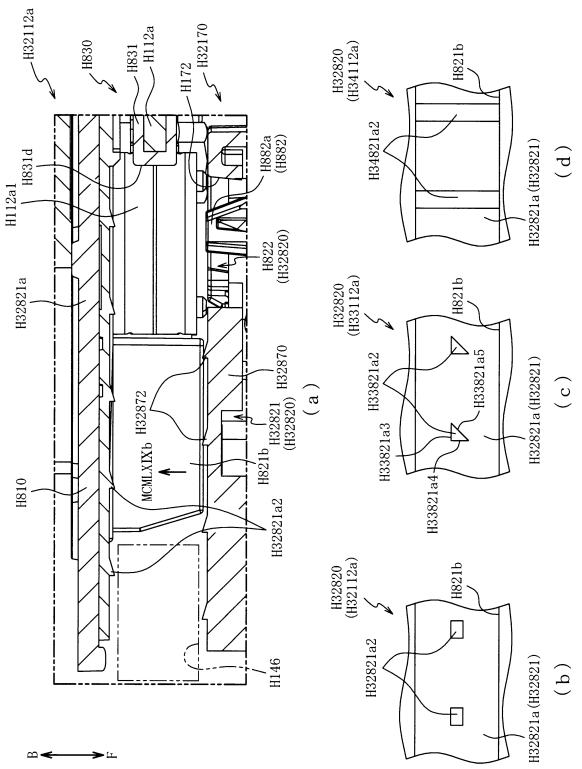
【図２５３】



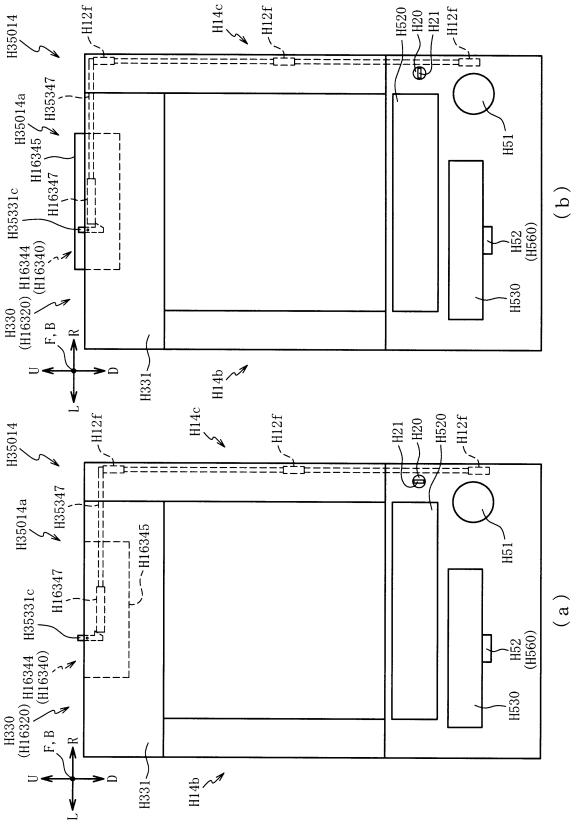
【図２５４】



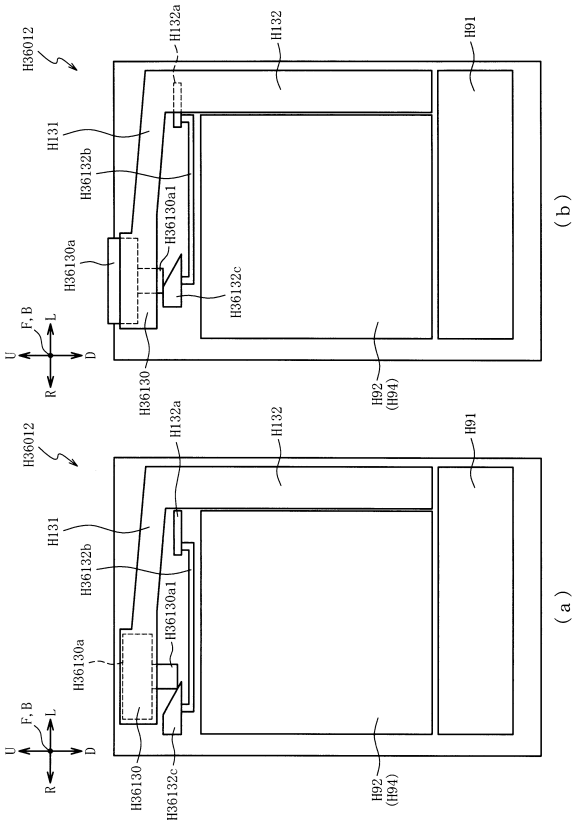
【図２５５】



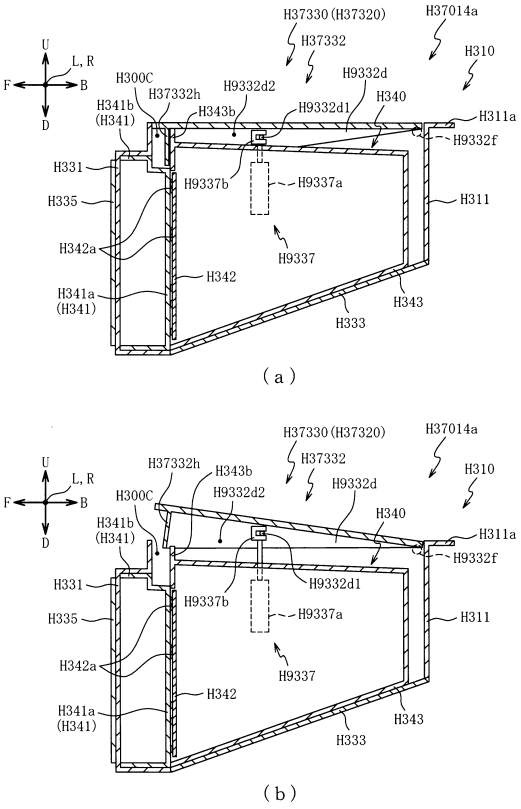
【図２５６】



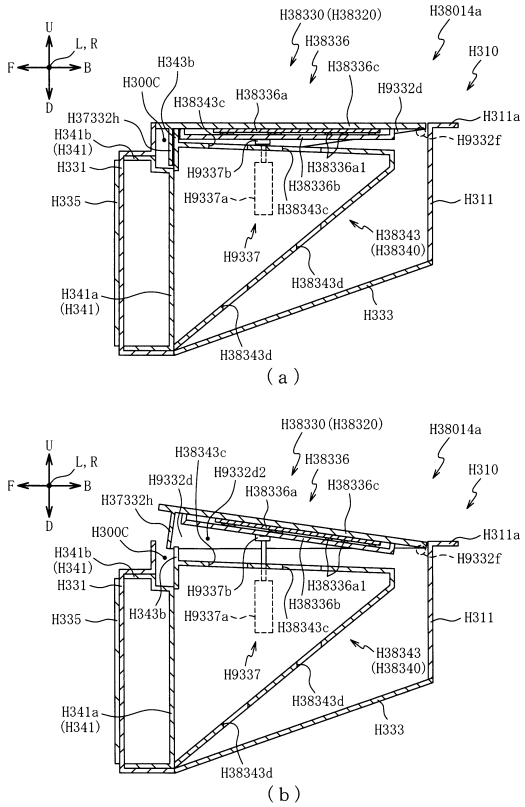
【図２５７】



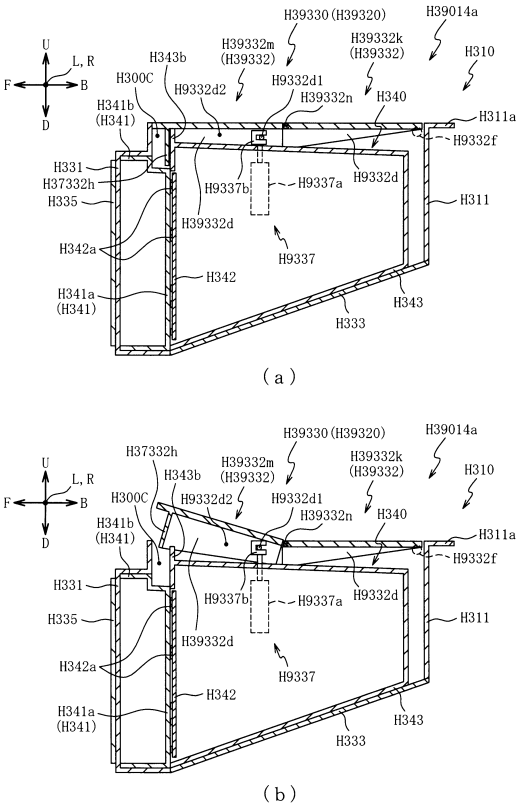
【図２５８】



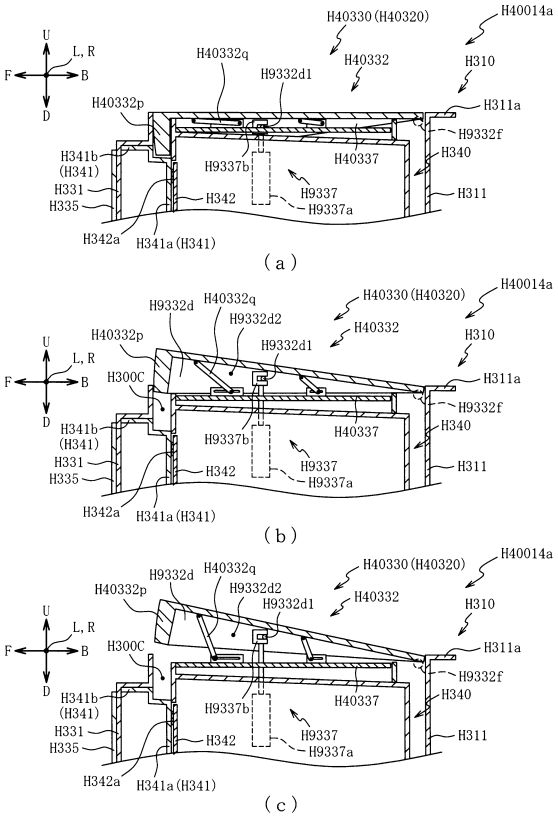
【図２５９】



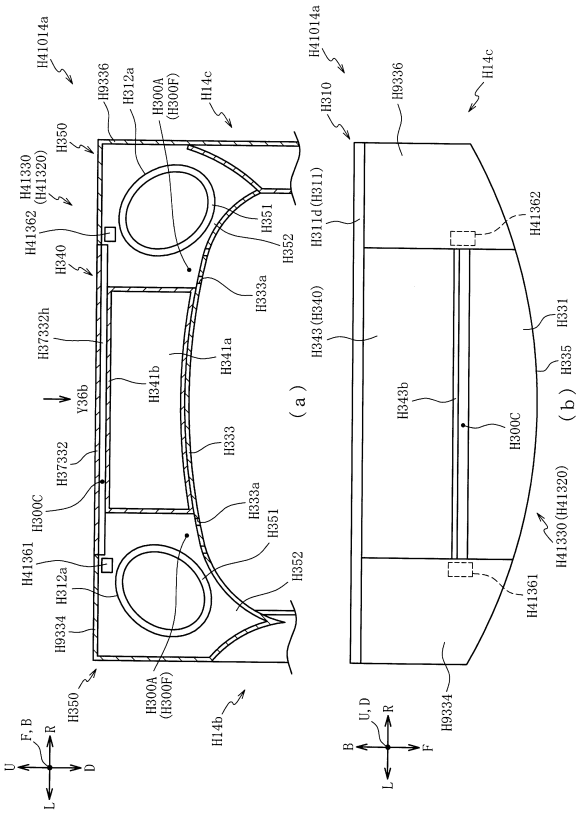
【図２６０】



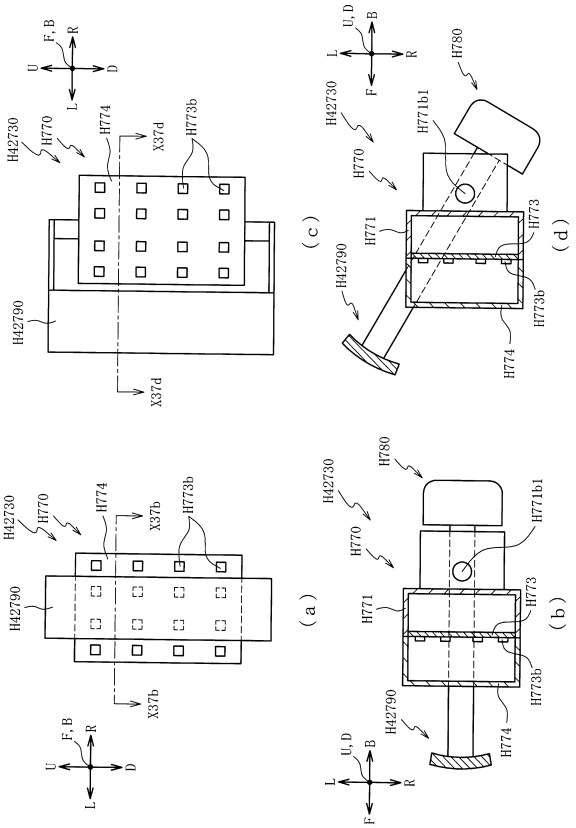
【図２６１】



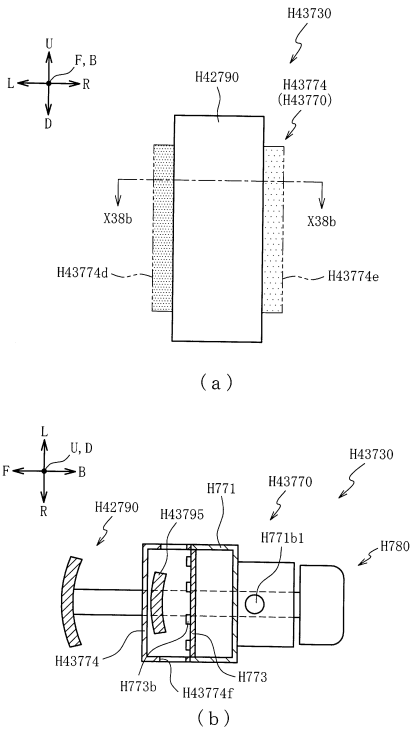
【図２６２】



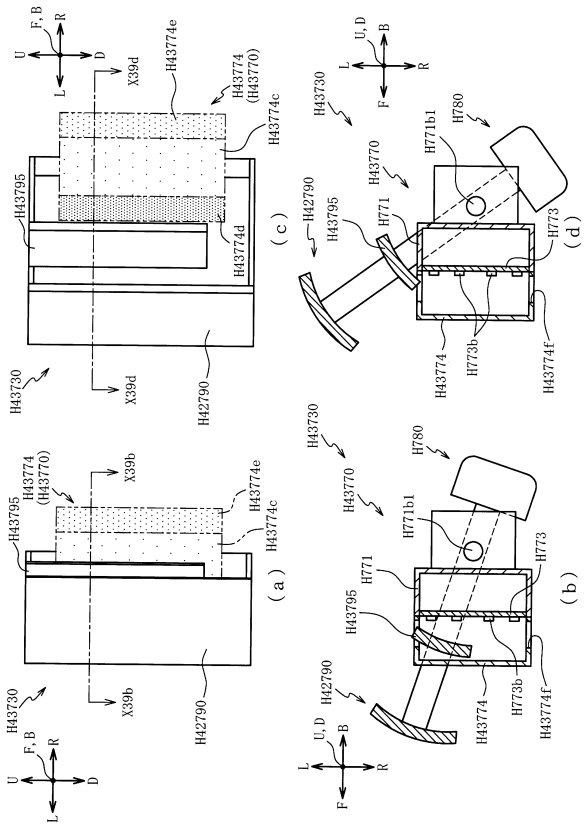
【図２６３】



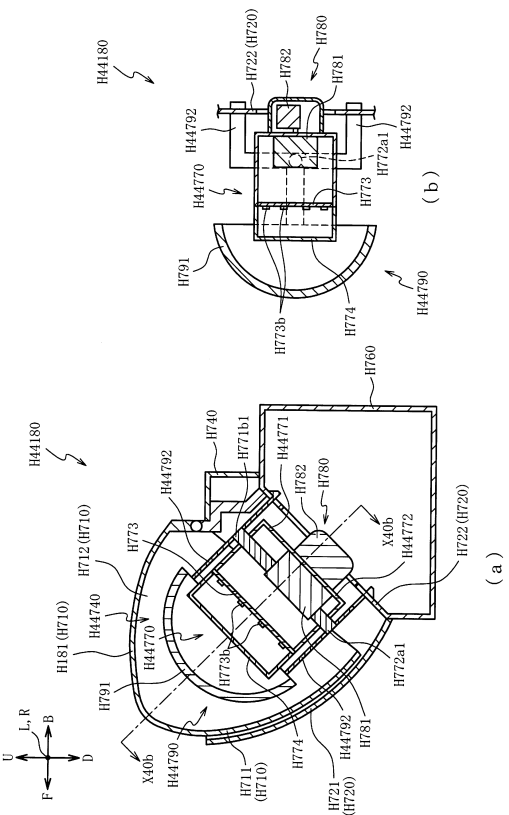
【図２６４】



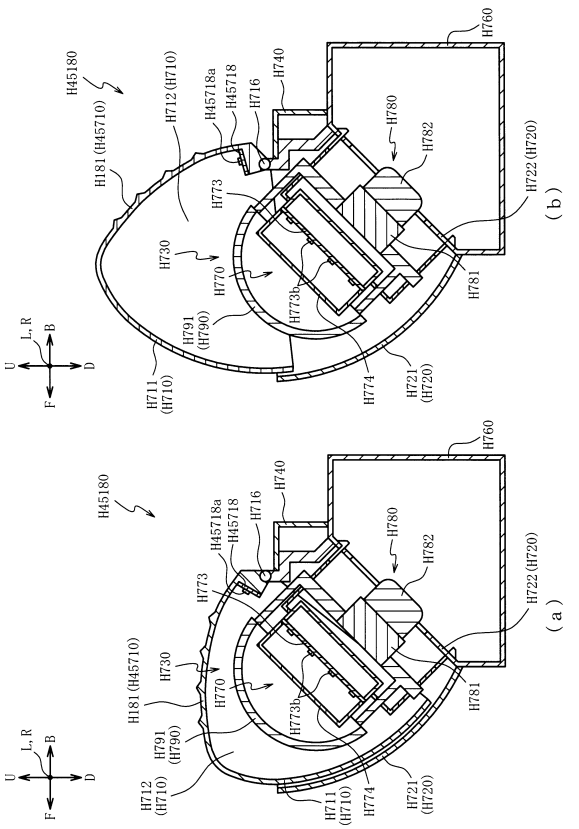
【図２６５】



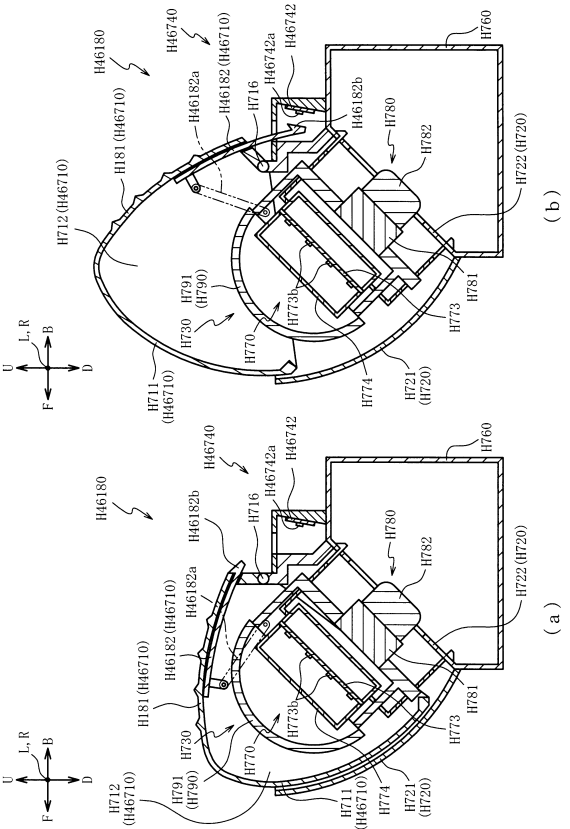
【図２６６】



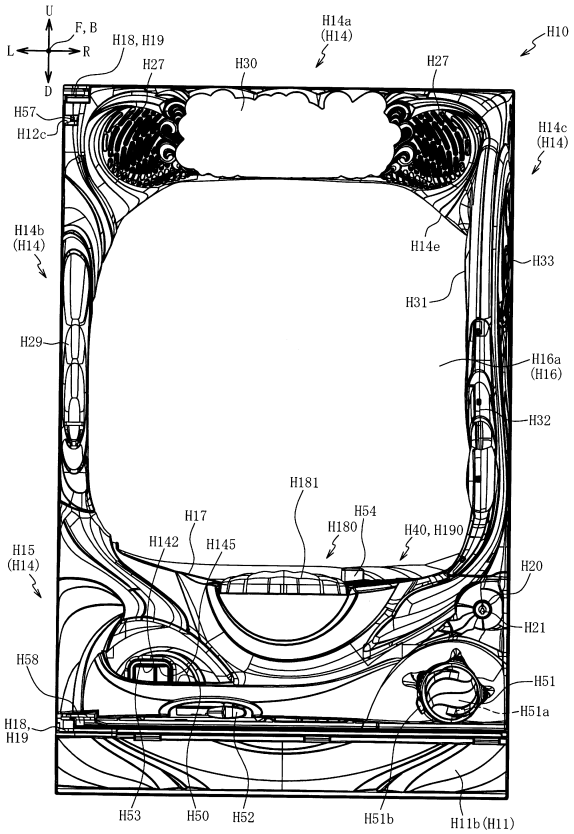
【図２６７】



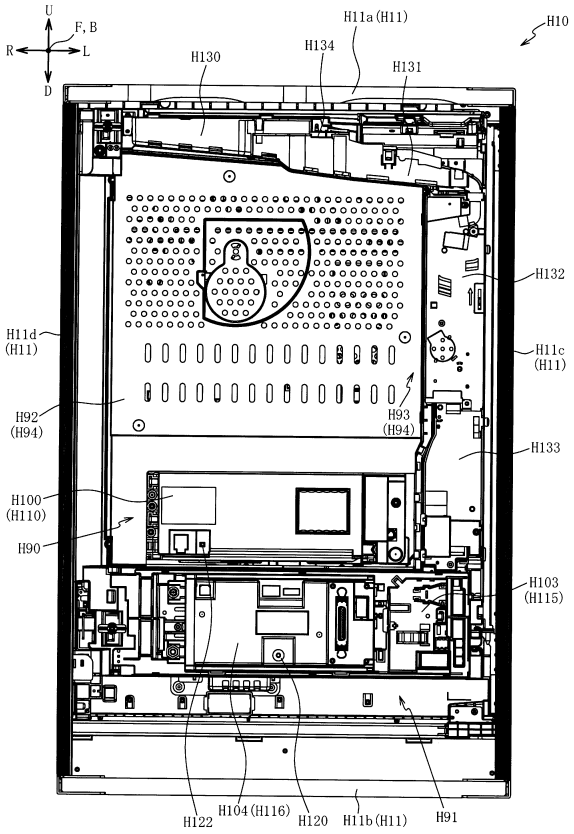
【図２６８】



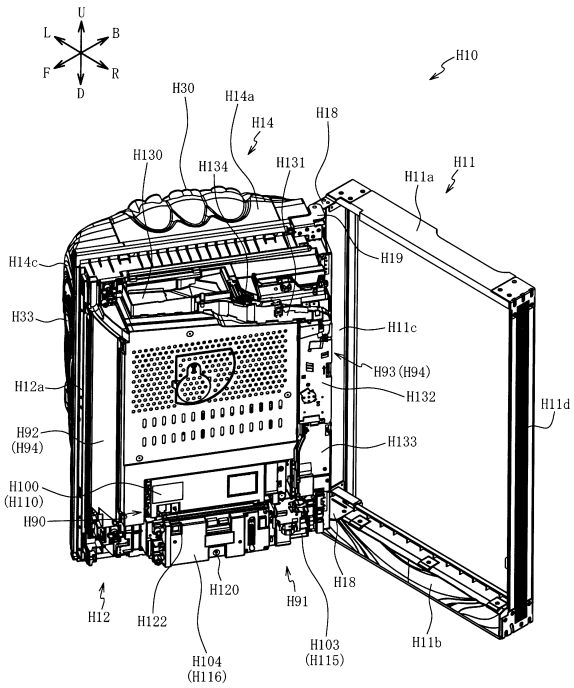
【図２６９】



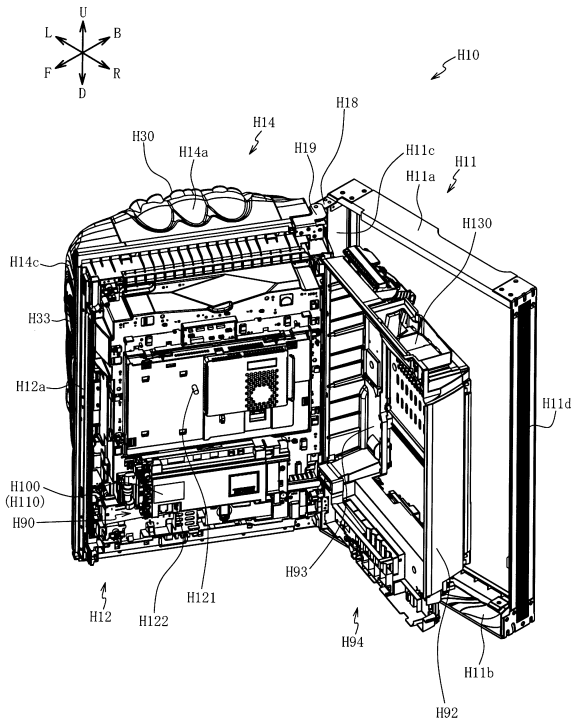
【図２７０】



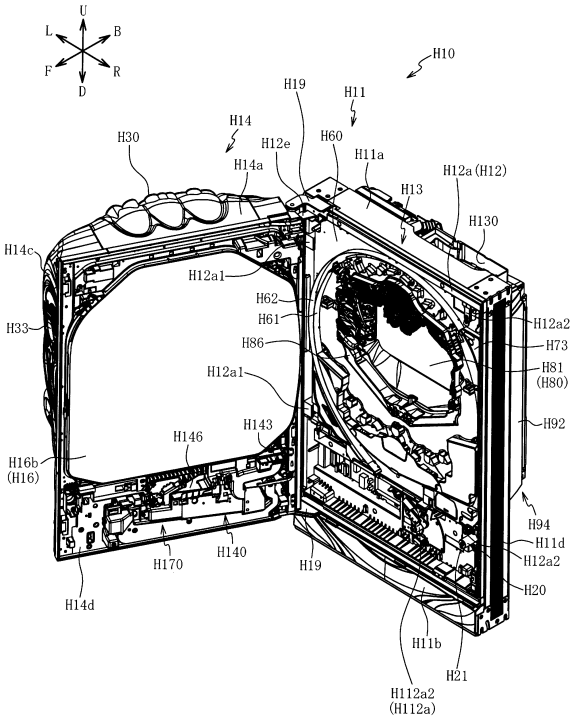
【図２７１】



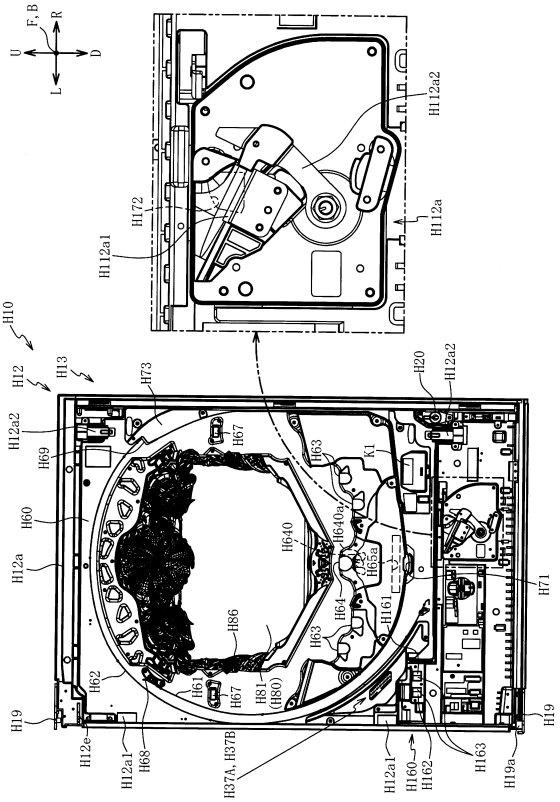
【図２７２】



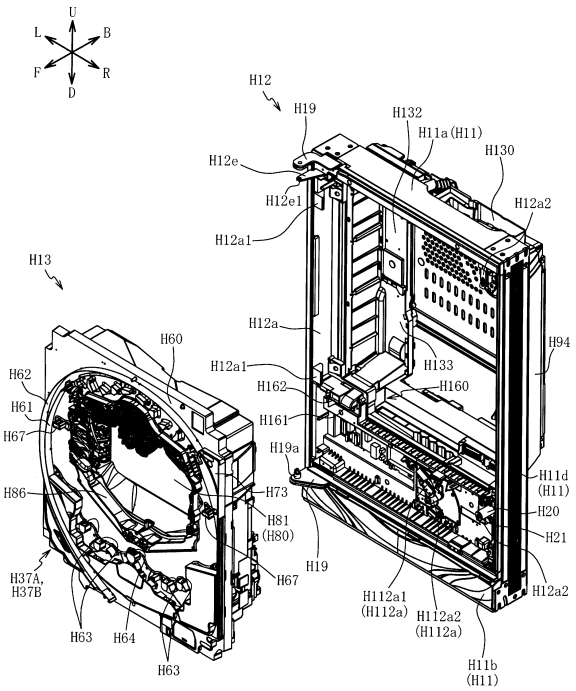
【図２７３】



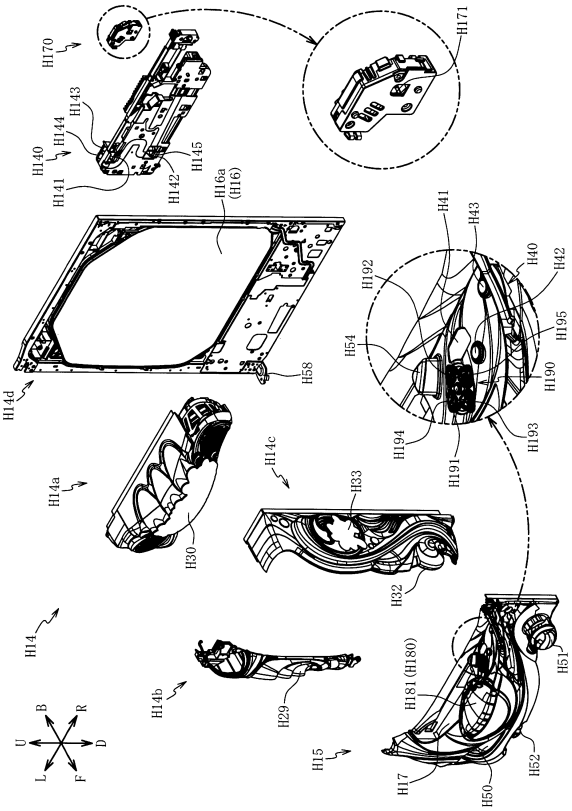
【図２７４】



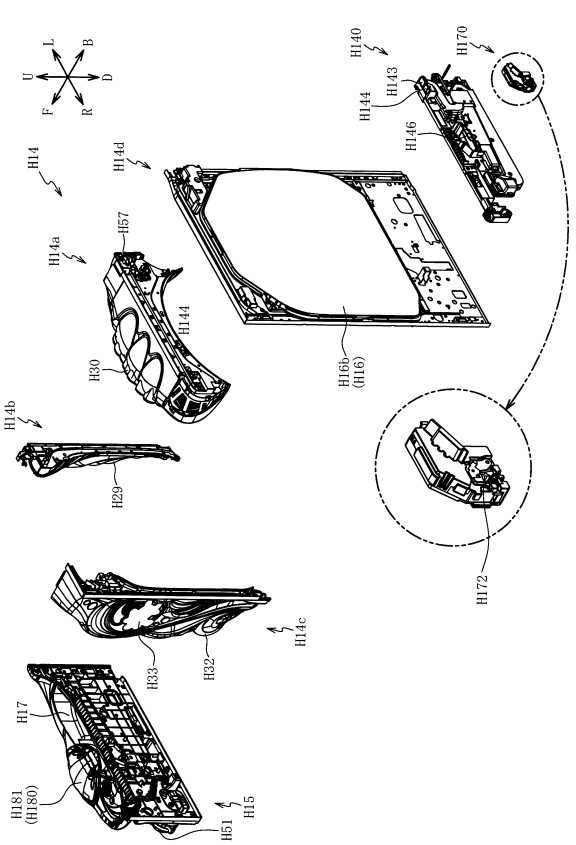
【図２７５】



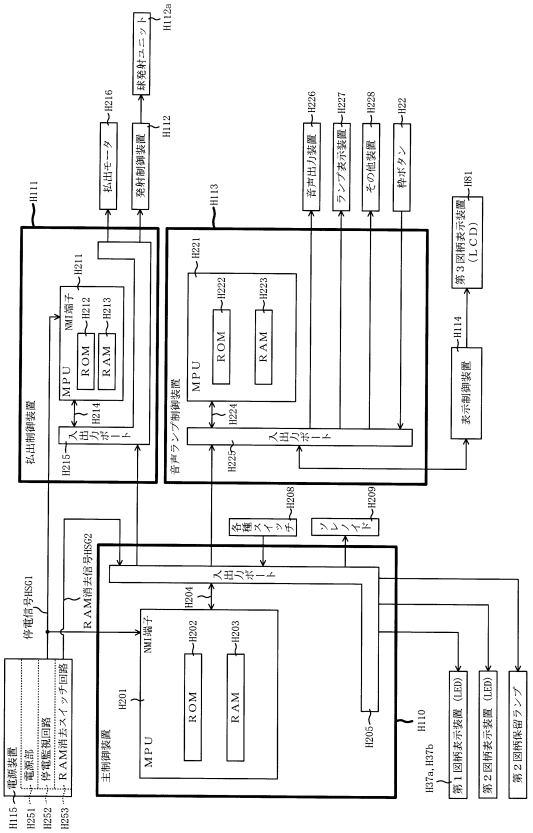
【図２７６】



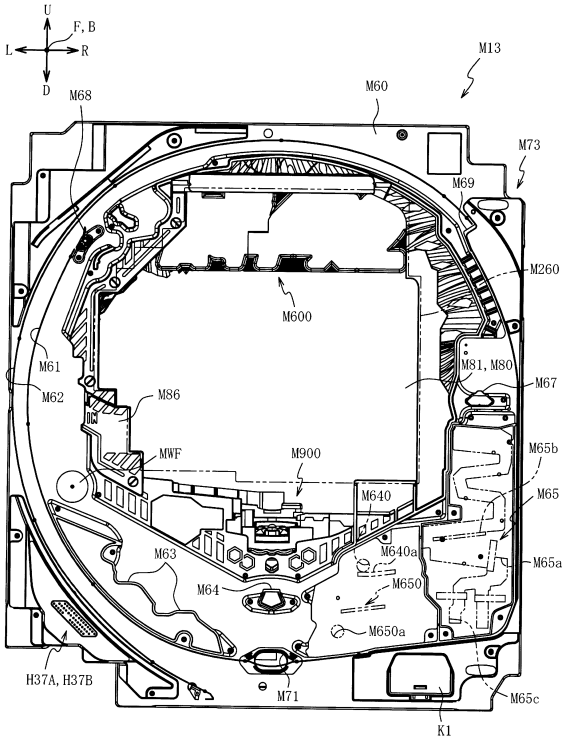
【図２７７】



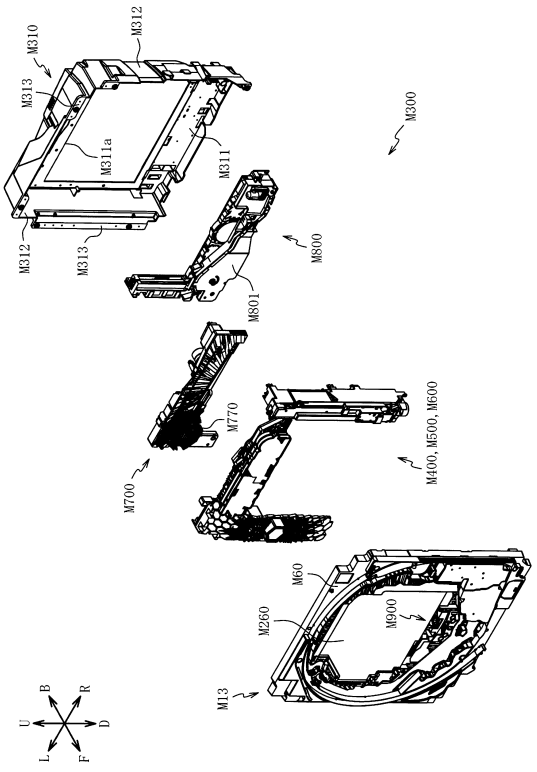
【図２７８】



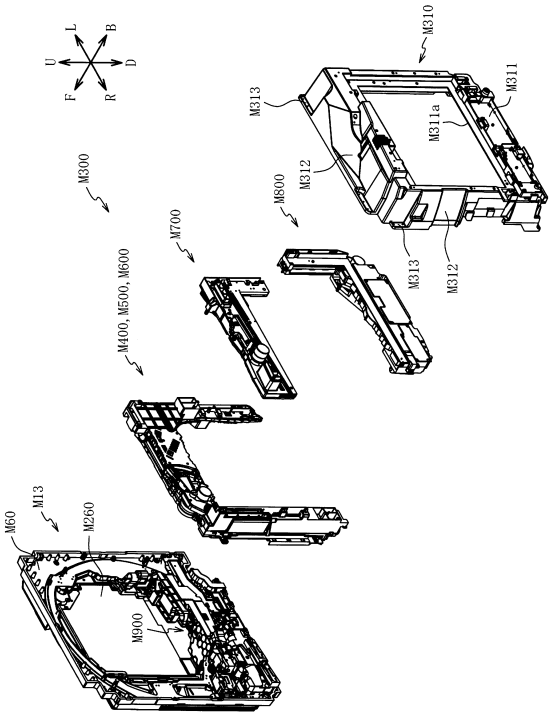
【図２７９】



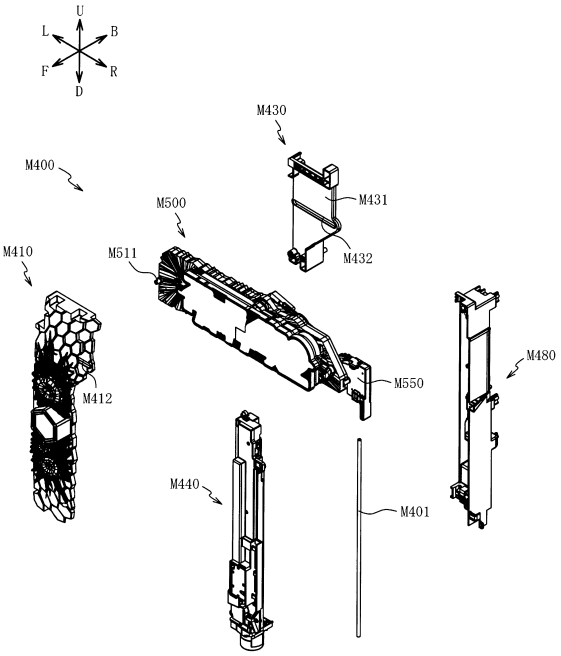
【図２８０】



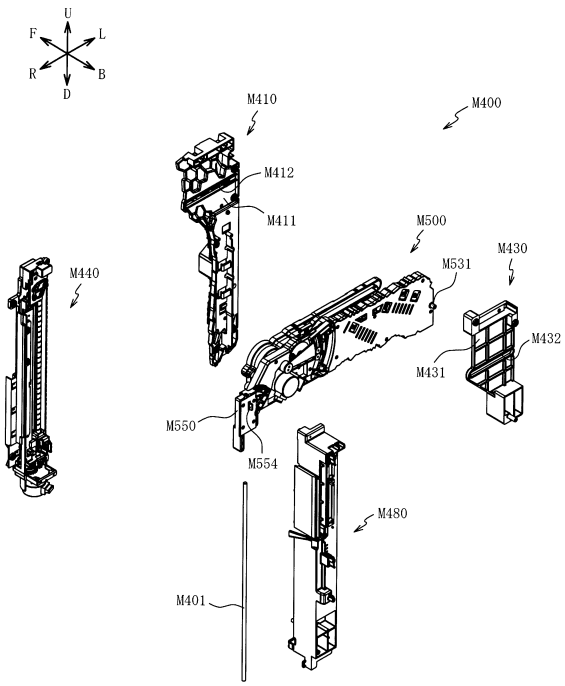
【図２８１】



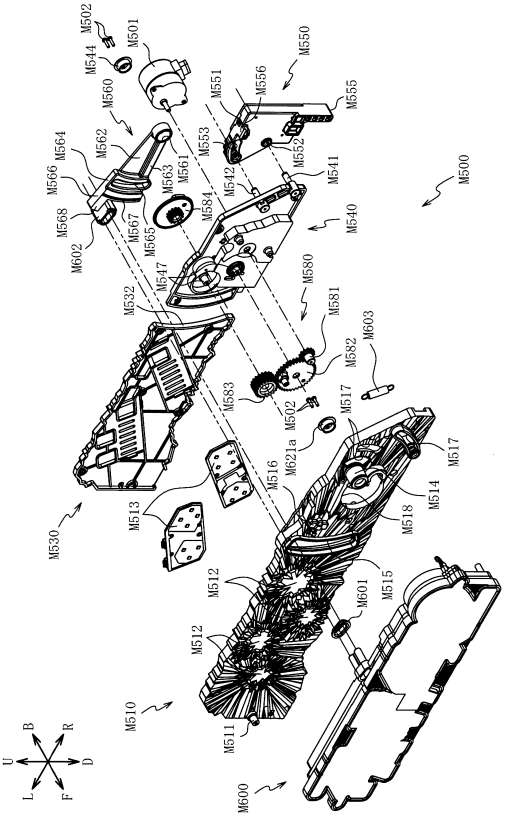
【図２８２】



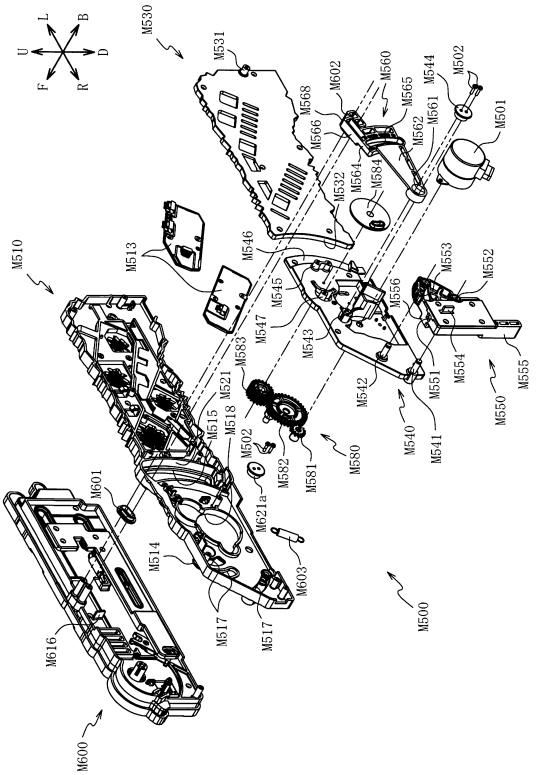
【図２８３】



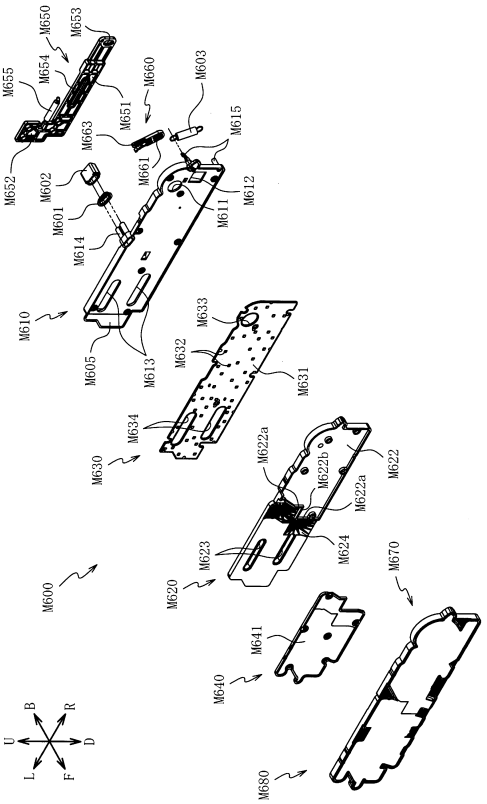
【図２８４】



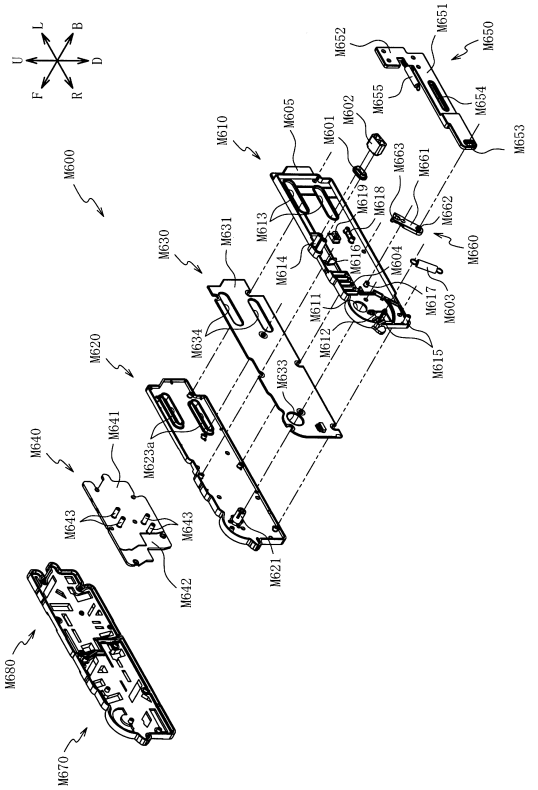
【図２８５】



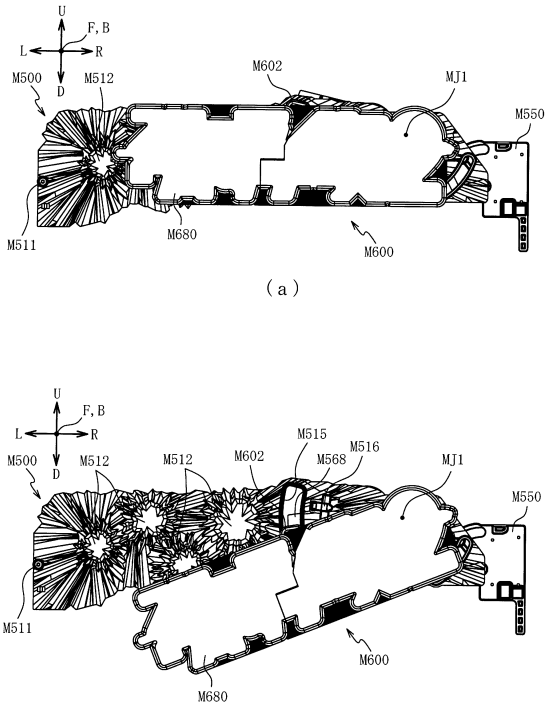
【図２８６】



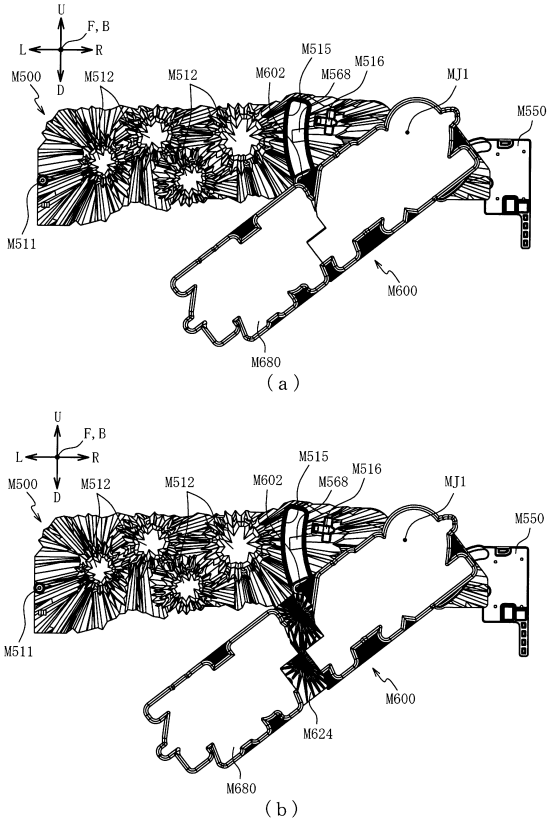
【図２８７】



【図２８８】



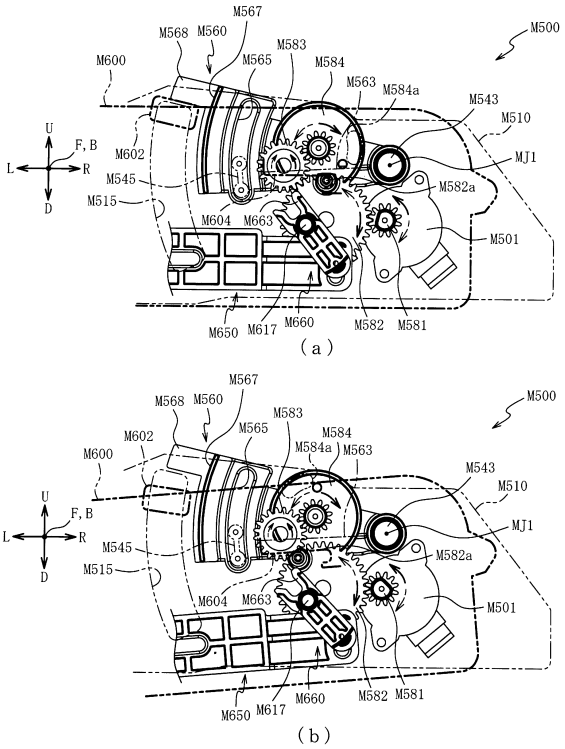
【図２８９】



（ａ）

（ｂ）

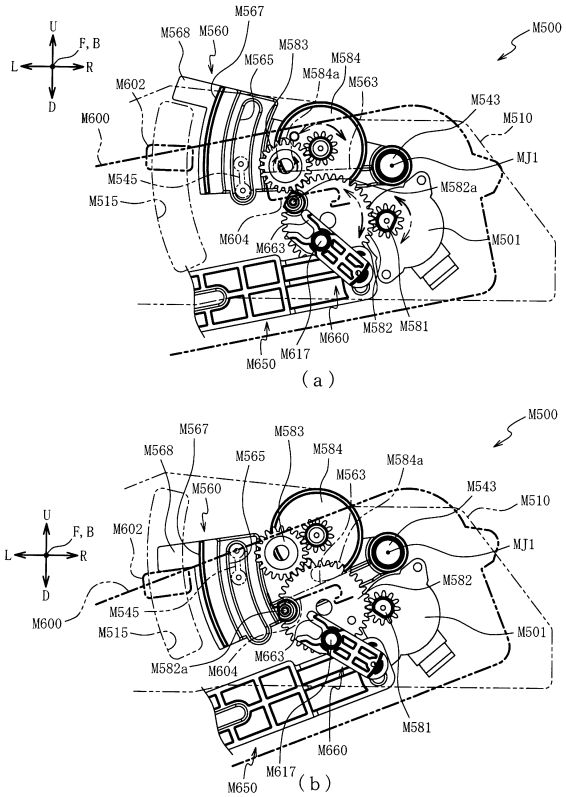
【図２９０】



（ａ）

（ｂ）

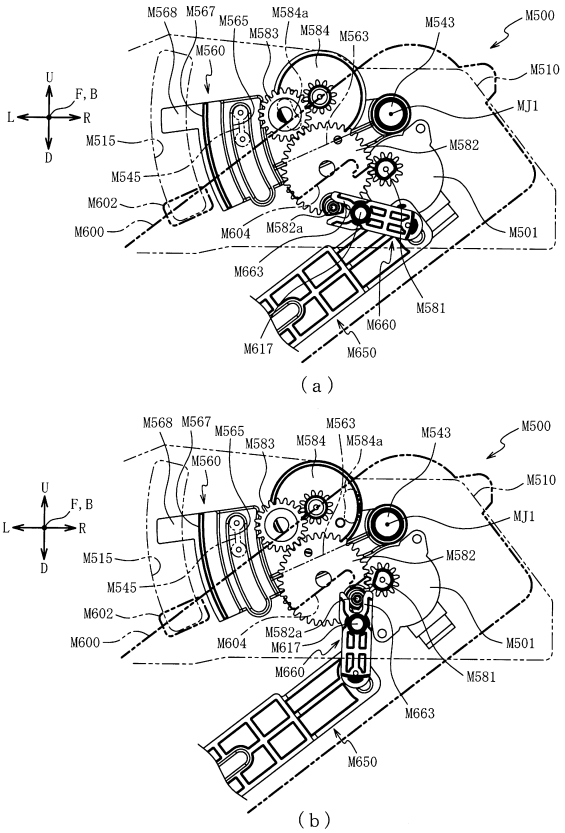
【図２９１】



（ａ）

（ｂ）

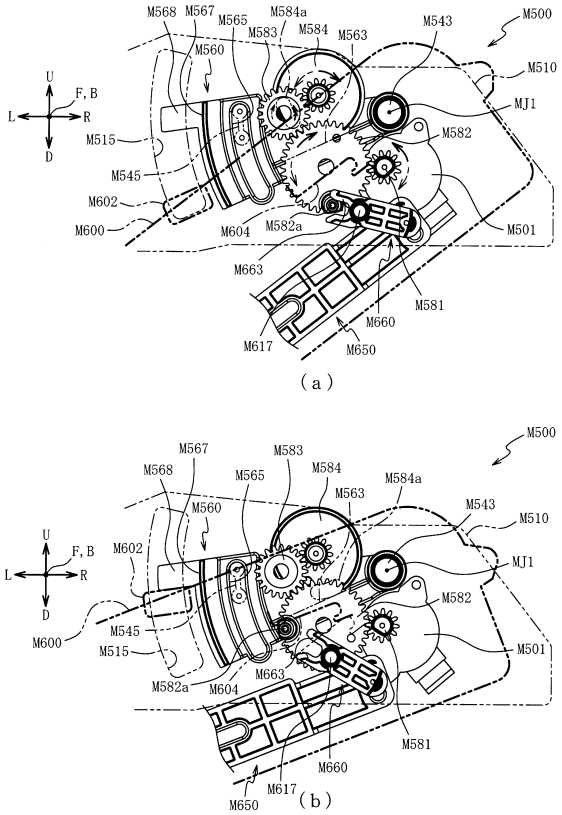
【図２９２】



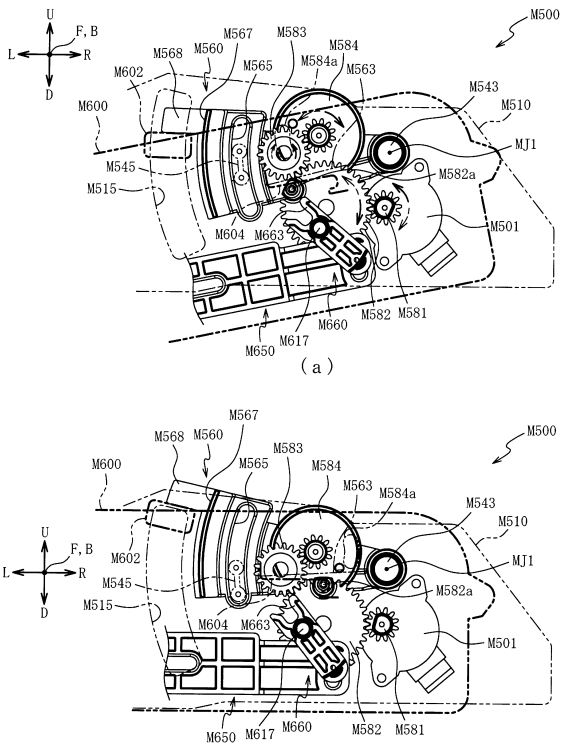
（ａ）

（ｂ）

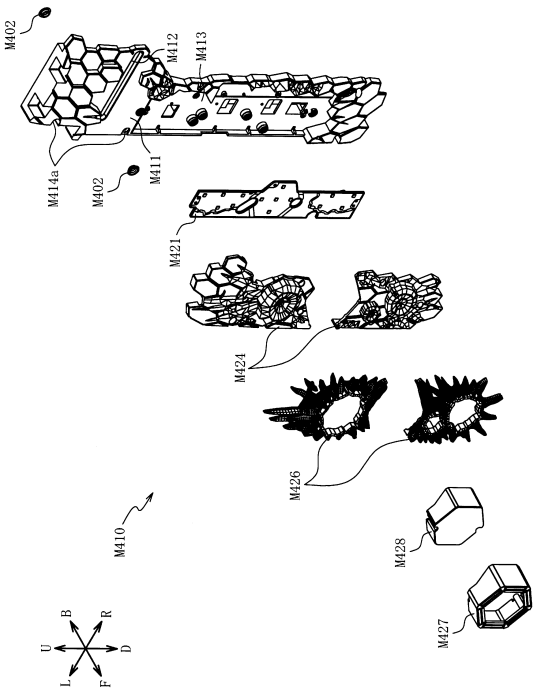
【図２９３】



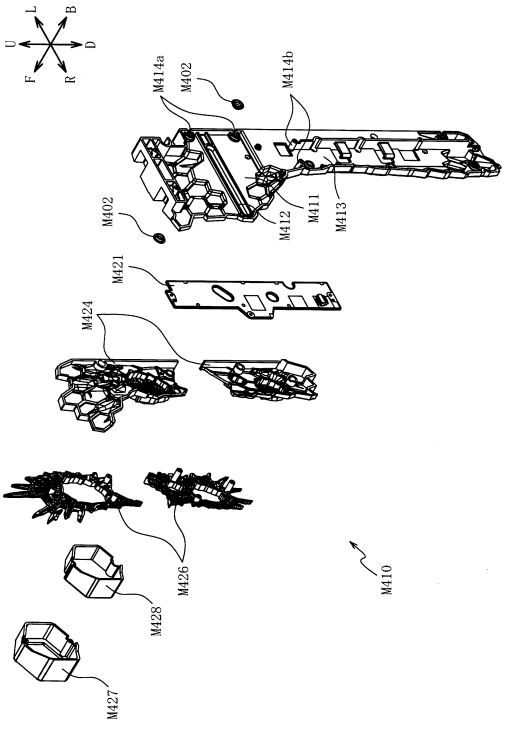
【図２９４】



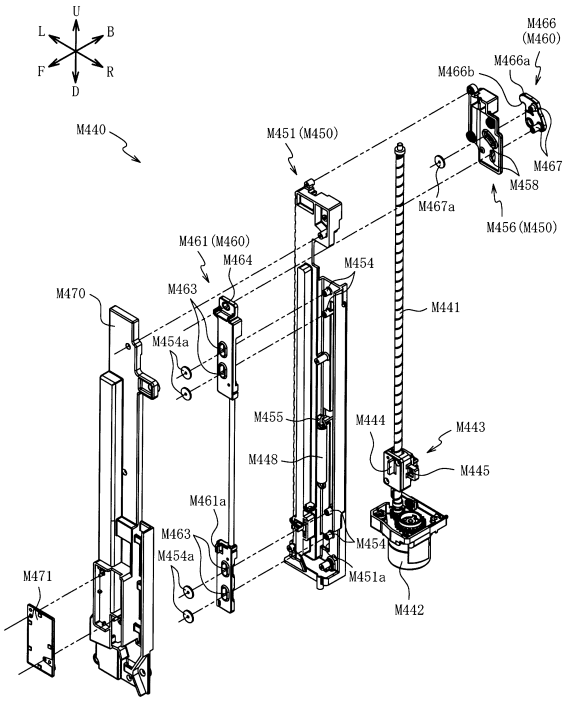
【図２９５】



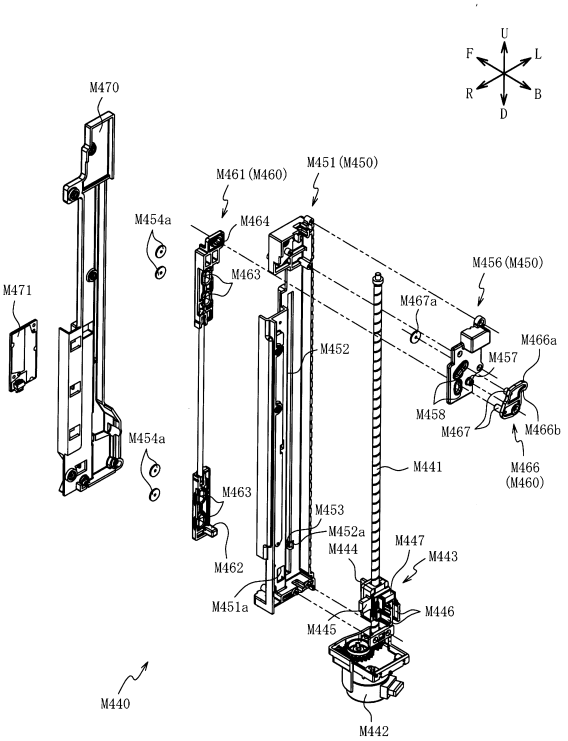
【図２９６】



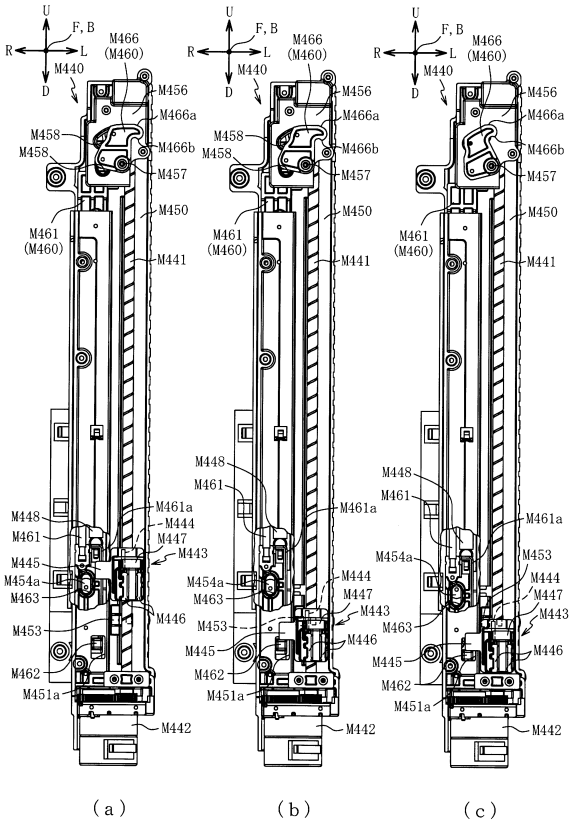
【図２９７】



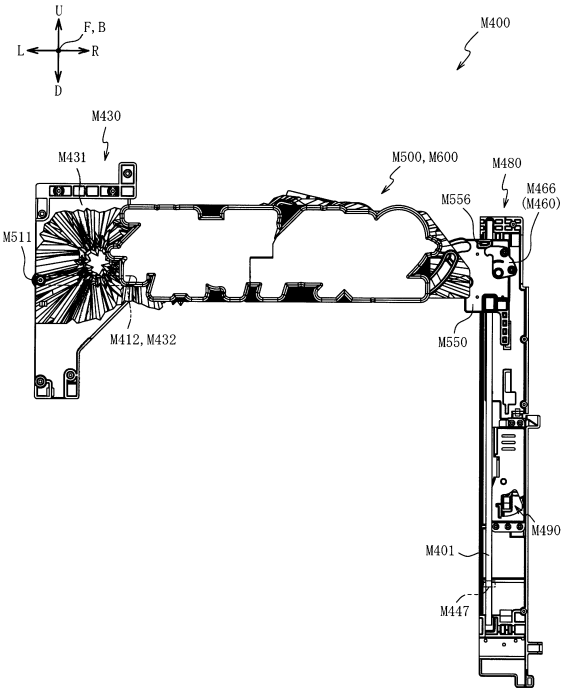
【図２９８】



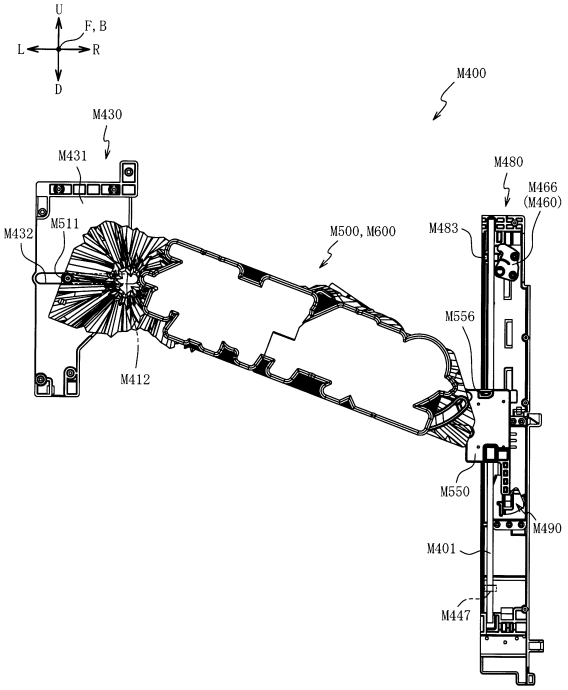
【図２９９】



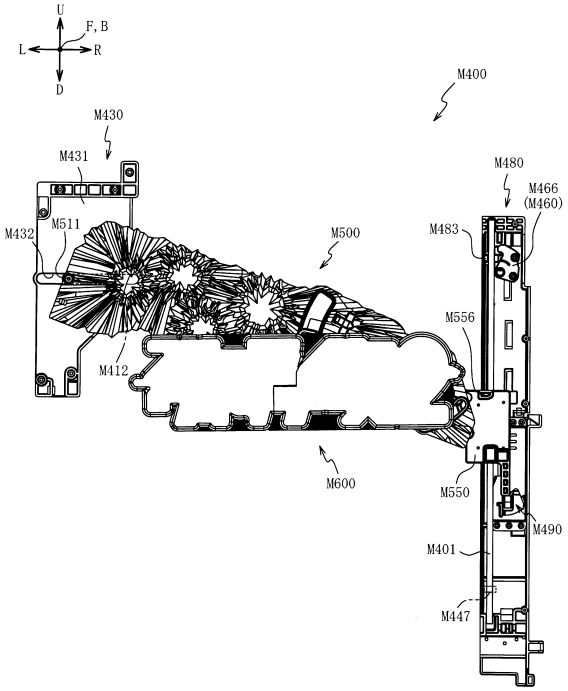
【図３００】



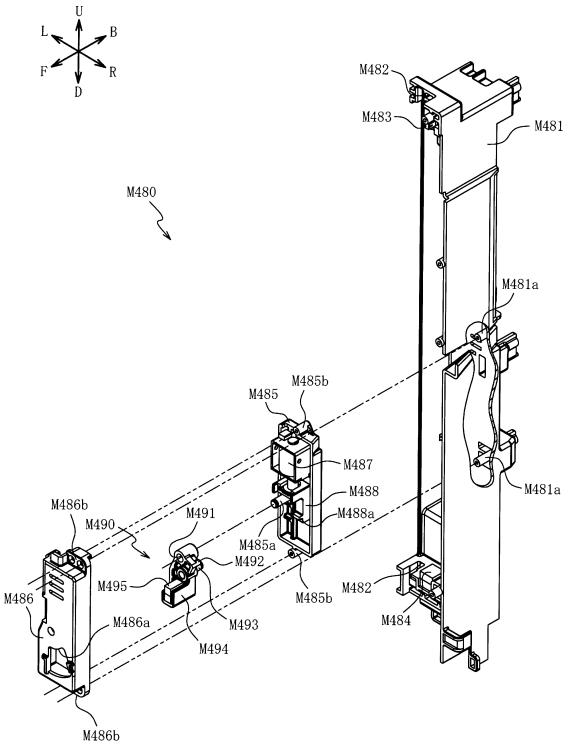
【図３０１】



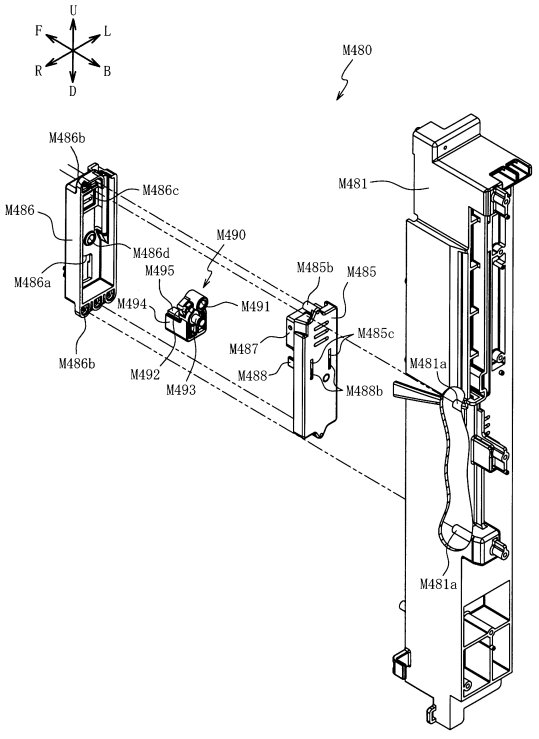
【図３０２】



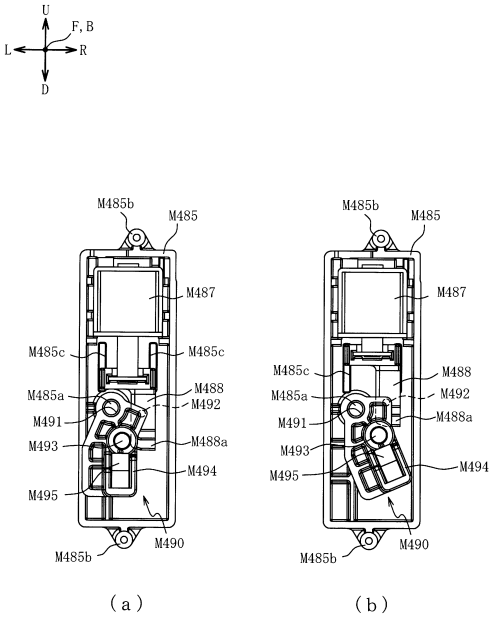
【図３０３】



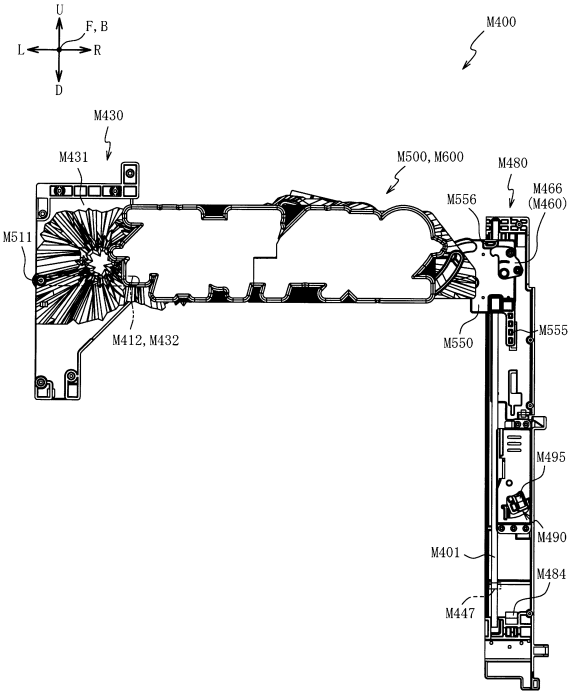
【図３０４】



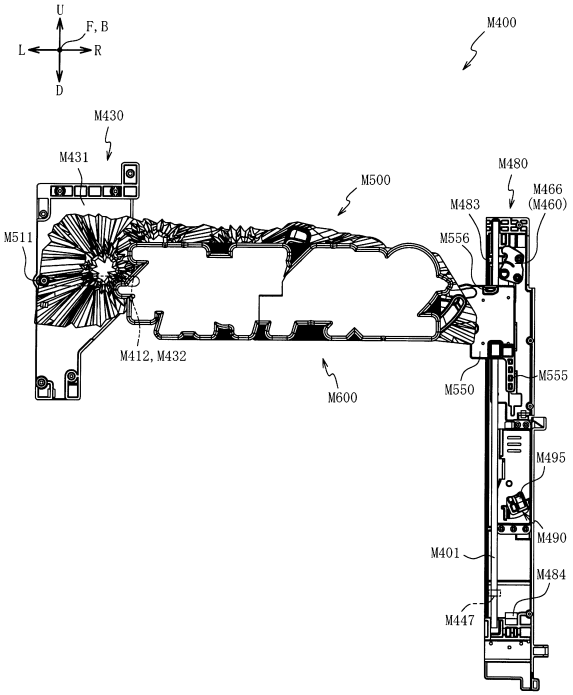
【図３０５】



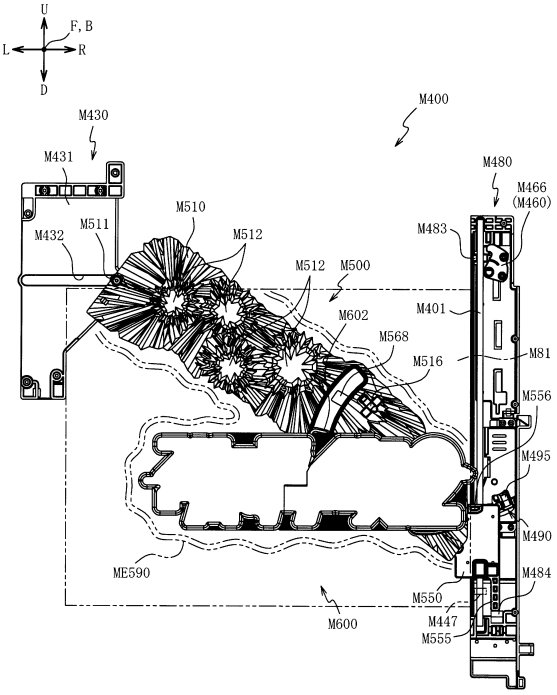
【図３０６】



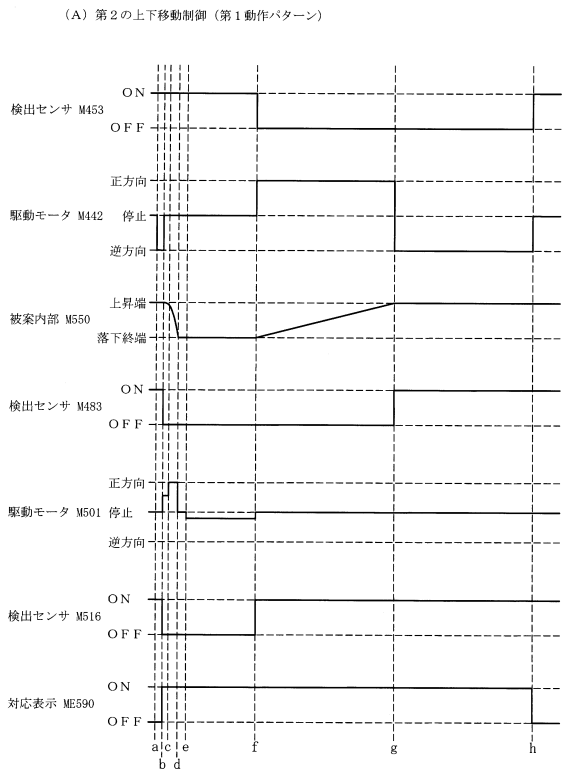
【図３０７】



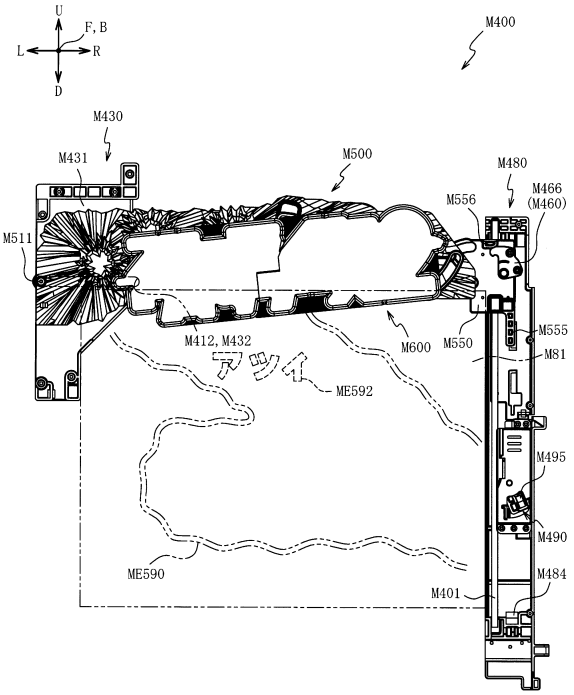
【図３０８】



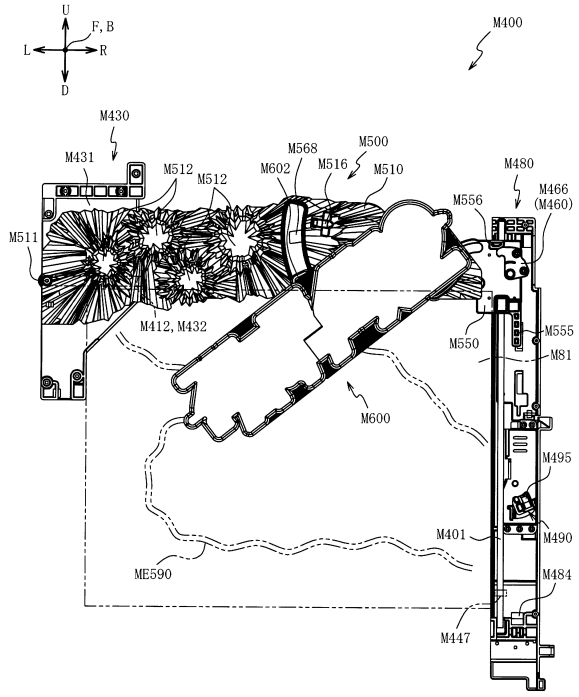
【図３０９】



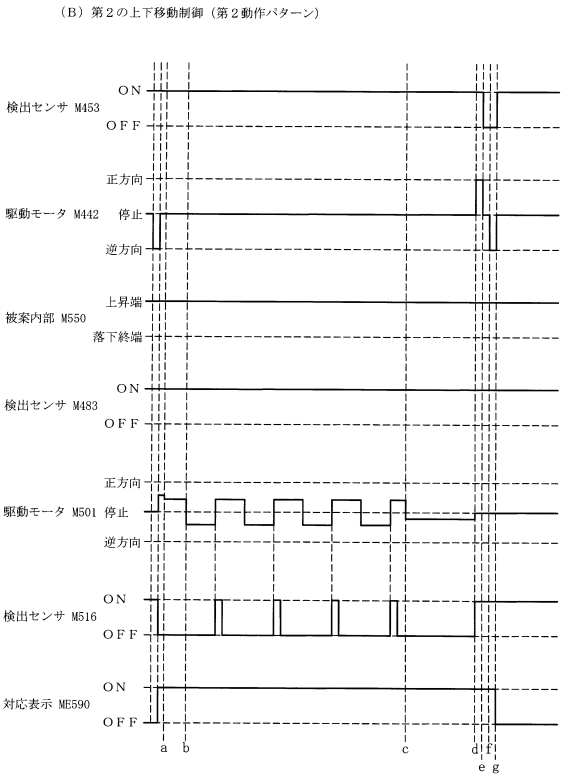
【図３１０】



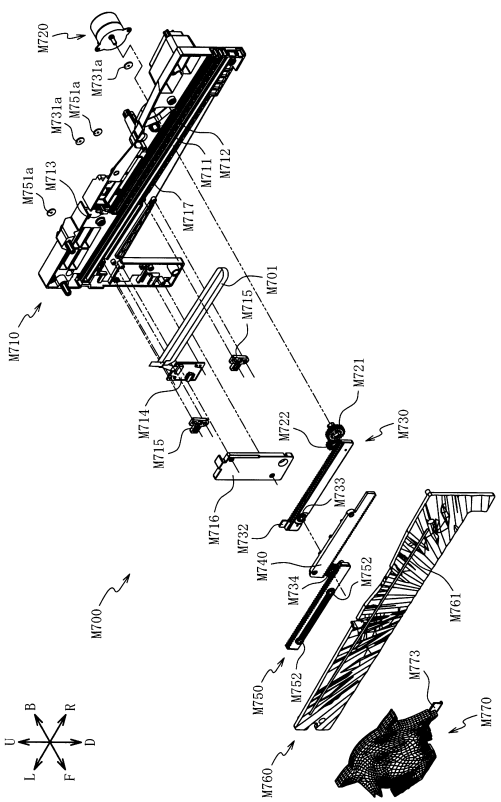
【図３１１】



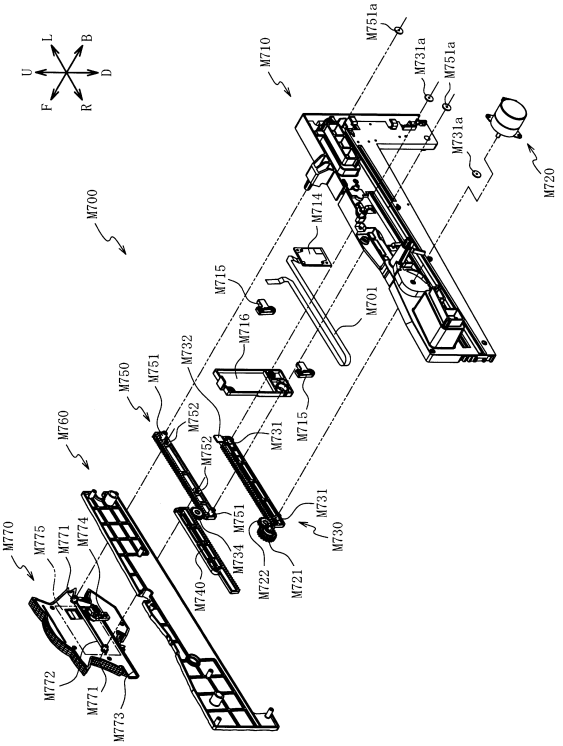
【図３１２】



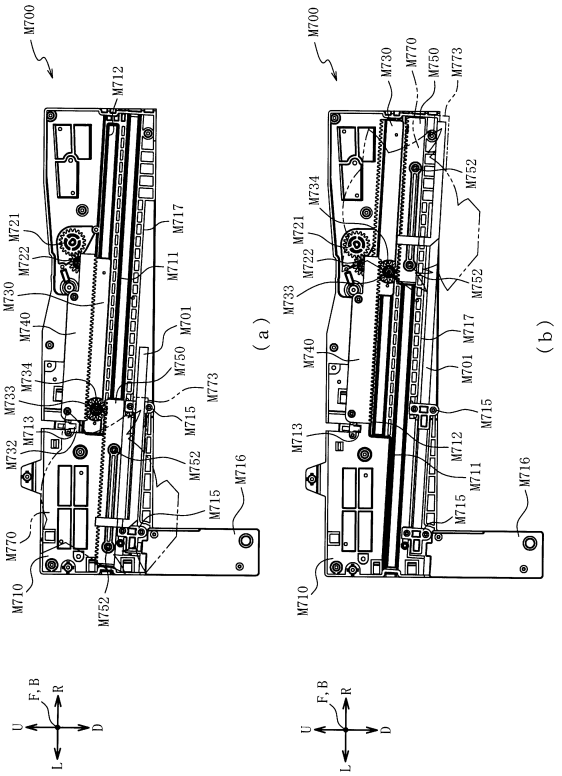
【図３１３】



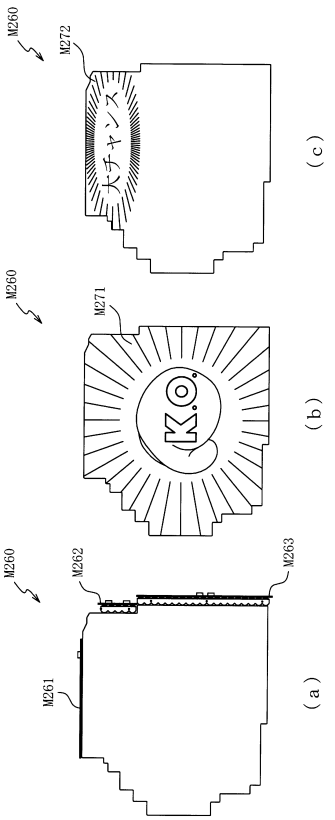
【図３１４】



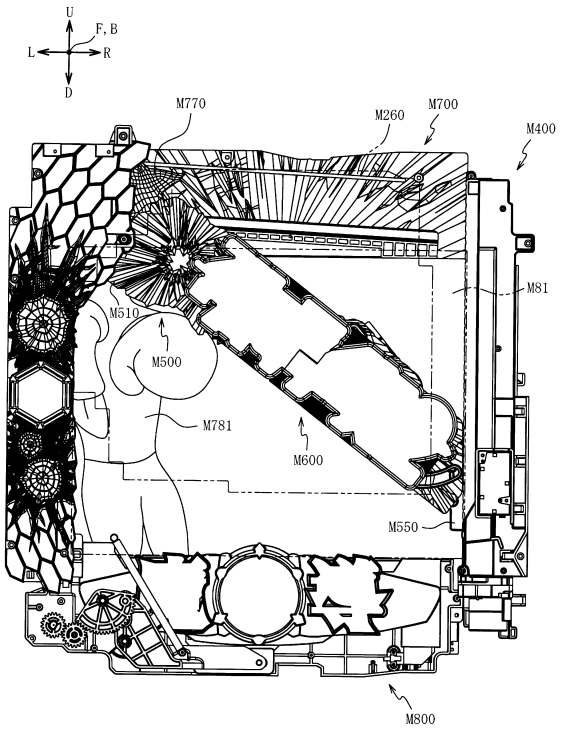
【図３１５】



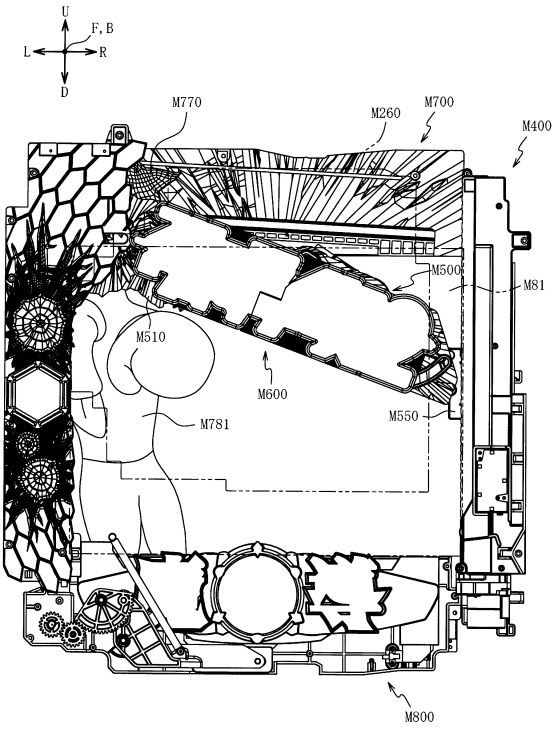
【図３１６】



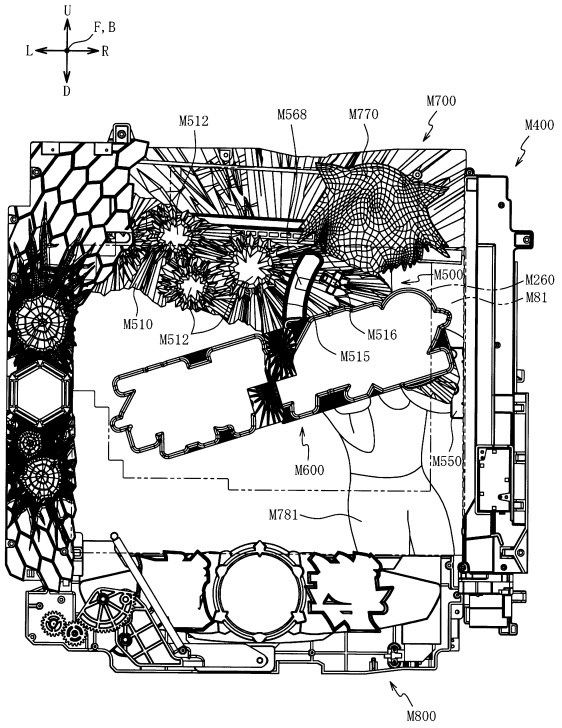
【図３１７】



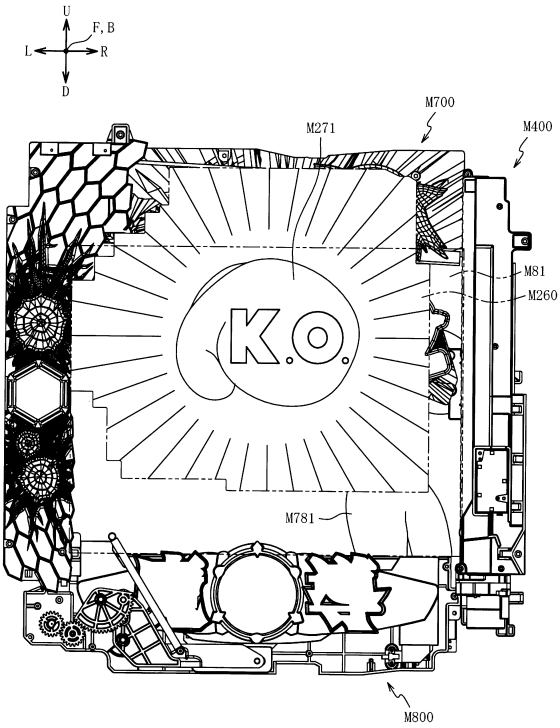
【図３１８】



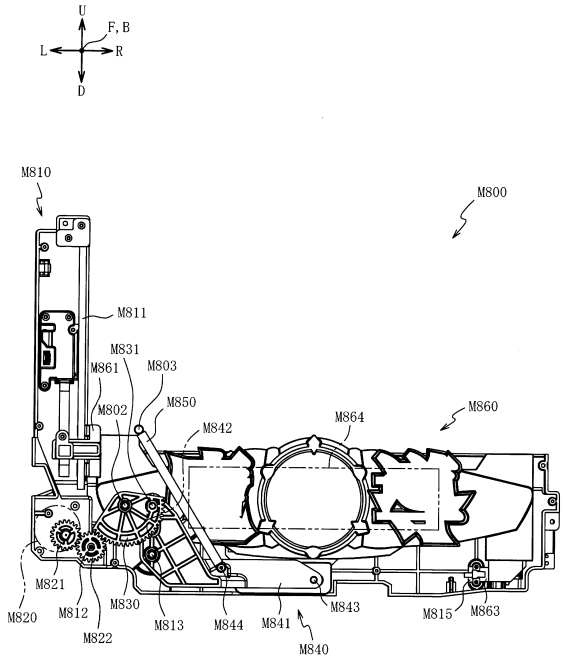
【図３１９】



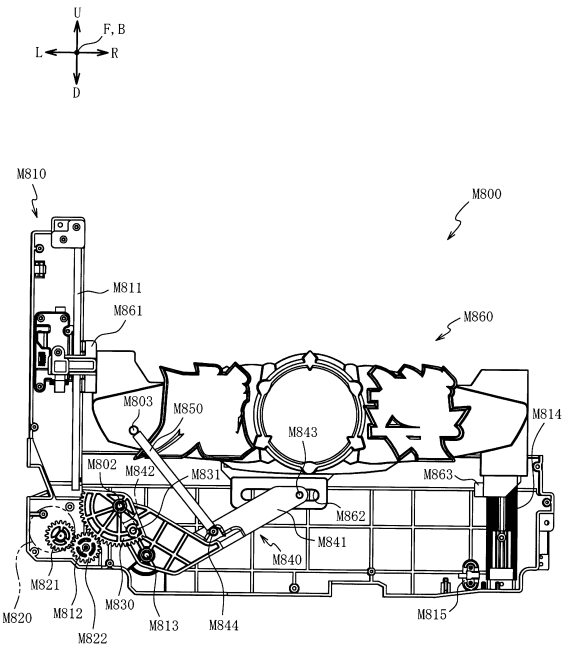
【図３２０】



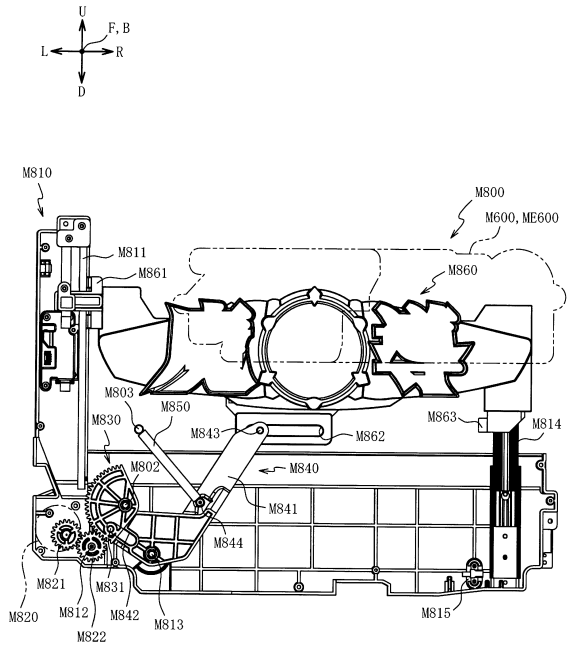
【図３２１】



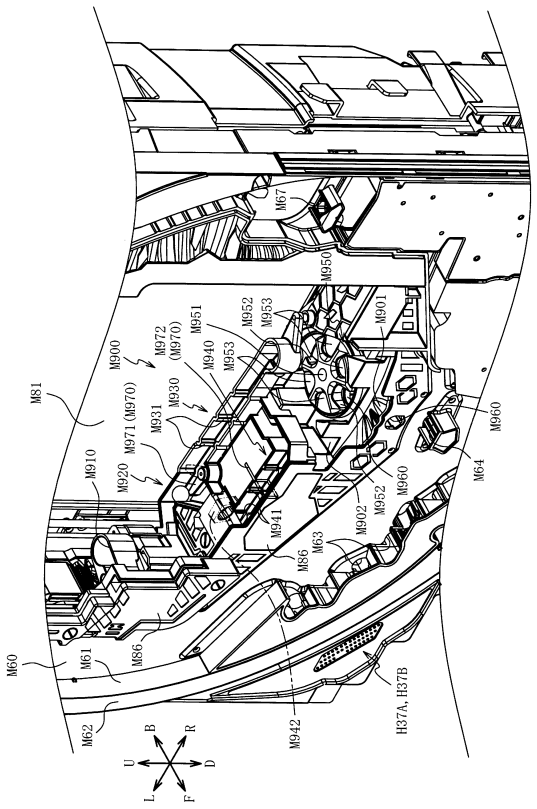
【図３２２】



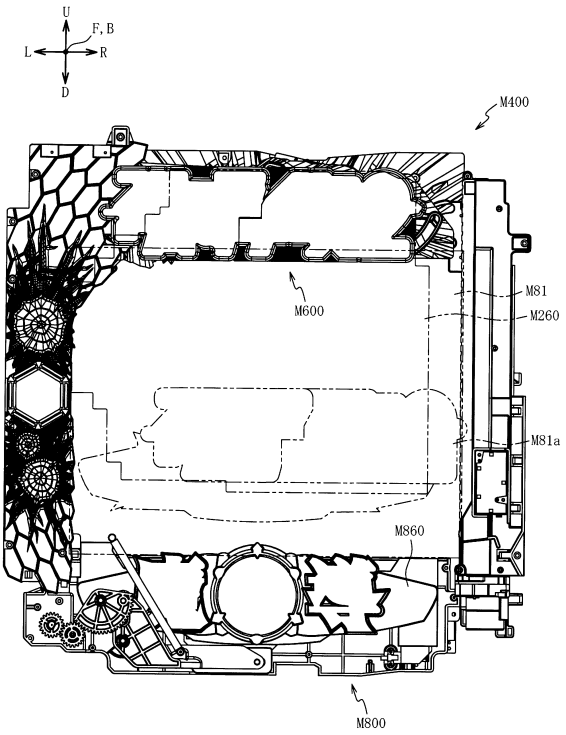
【図３２３】



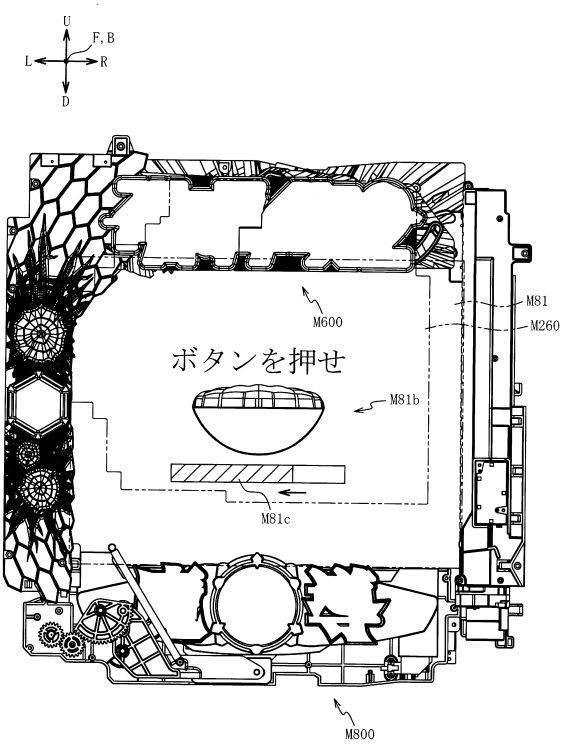
【図３２４】



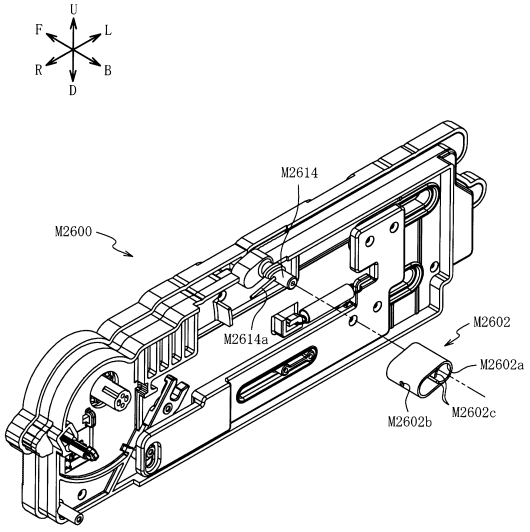
【図３２５】



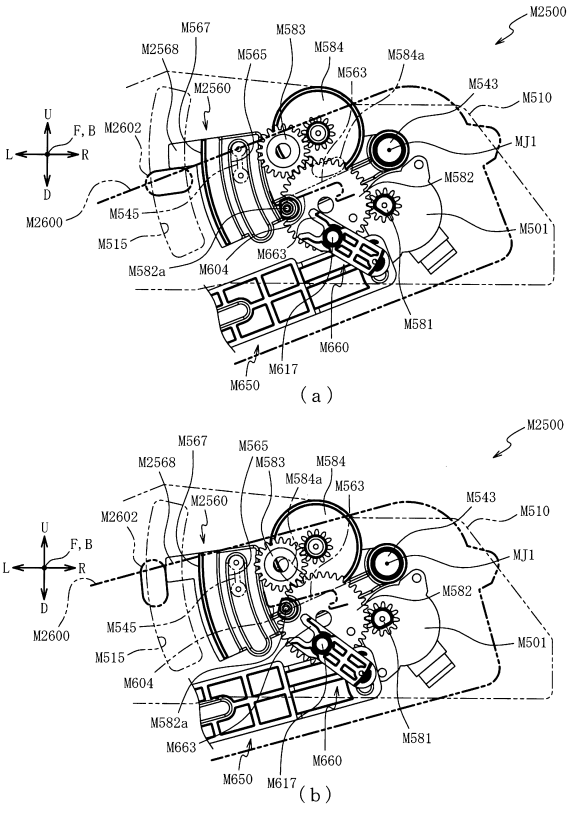
【図３２６】



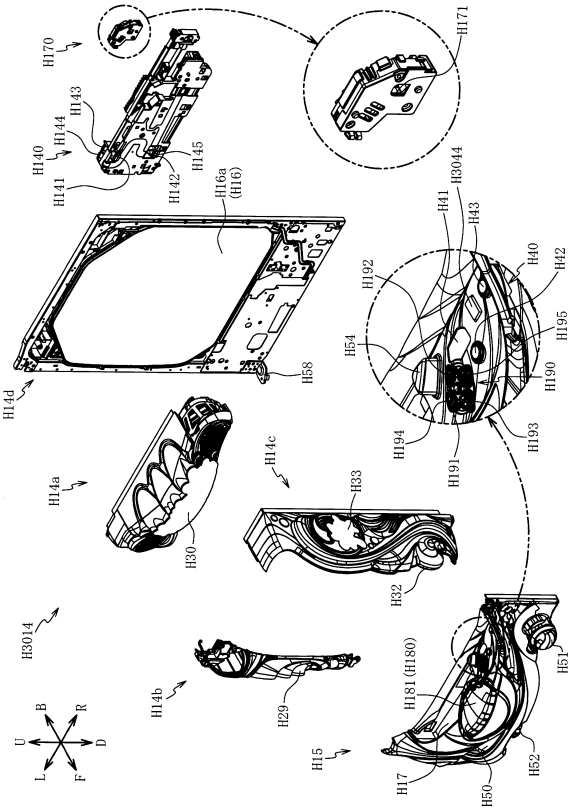
【図３２７】



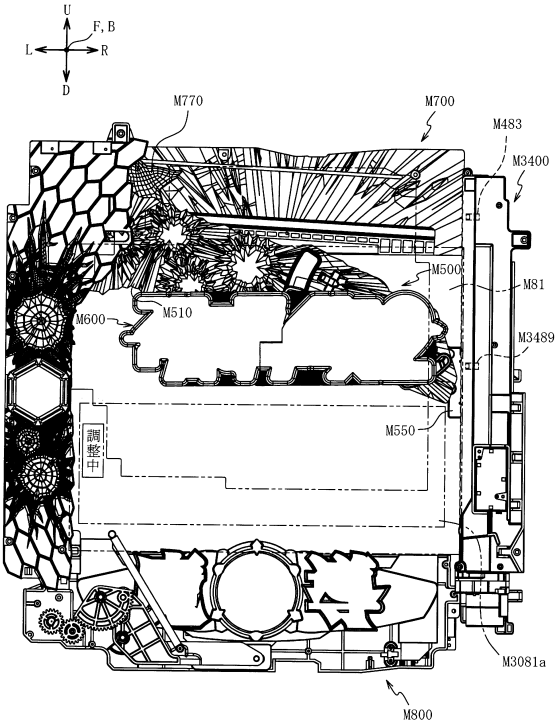
【図３２８】



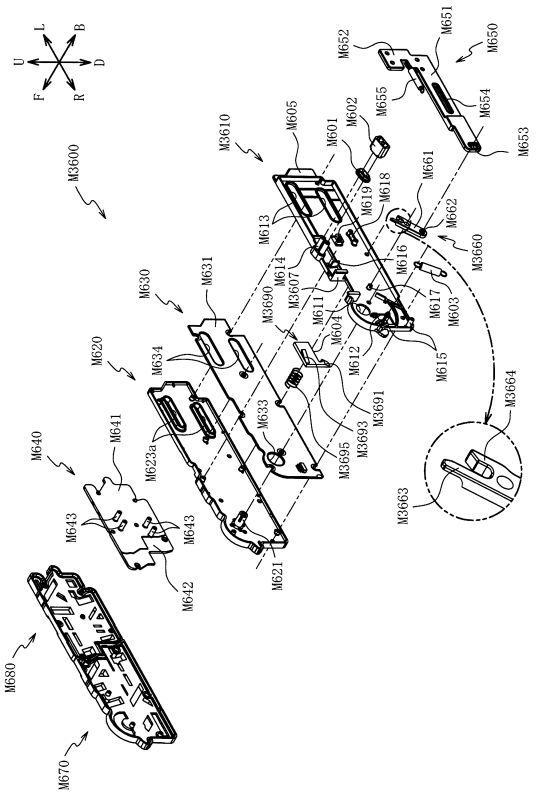
【図３２９】



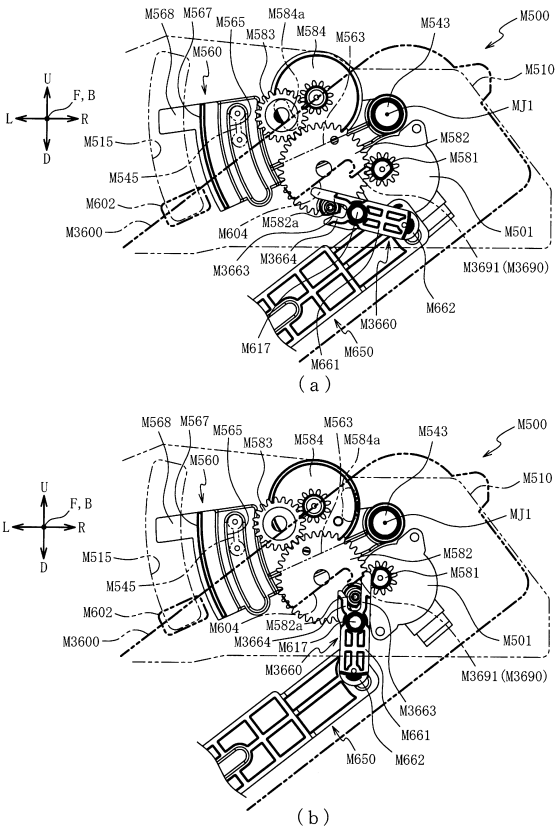
【図３３０】



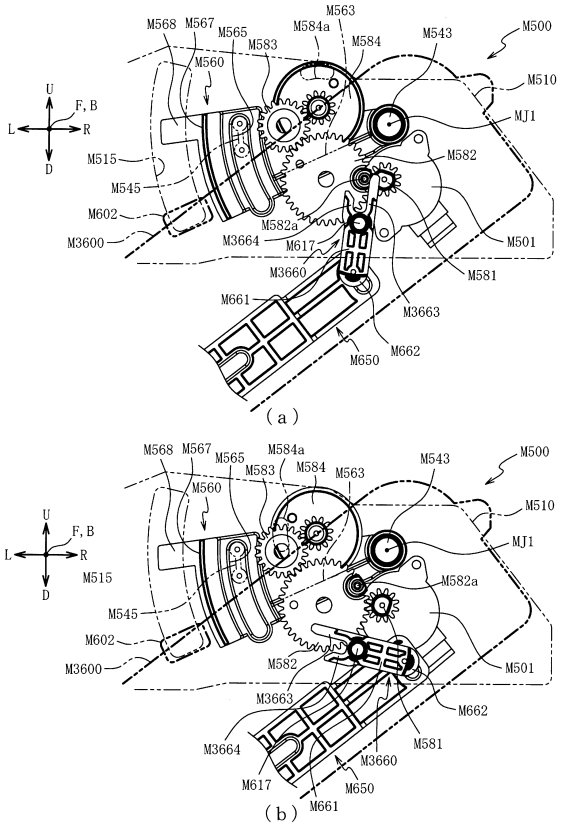
【図３３１】



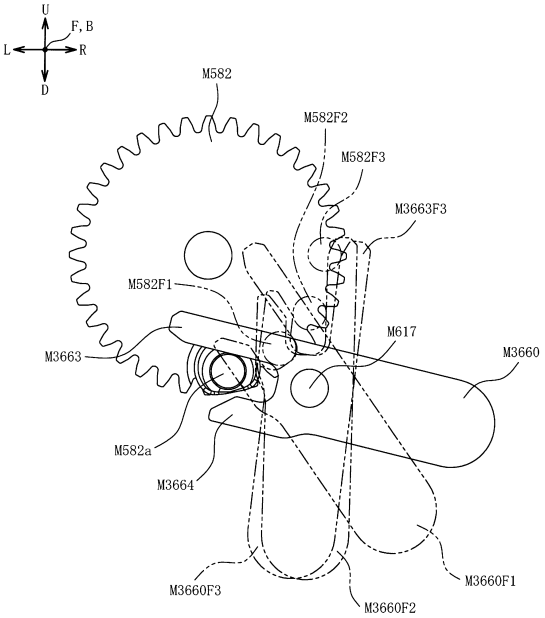
【図３３２】



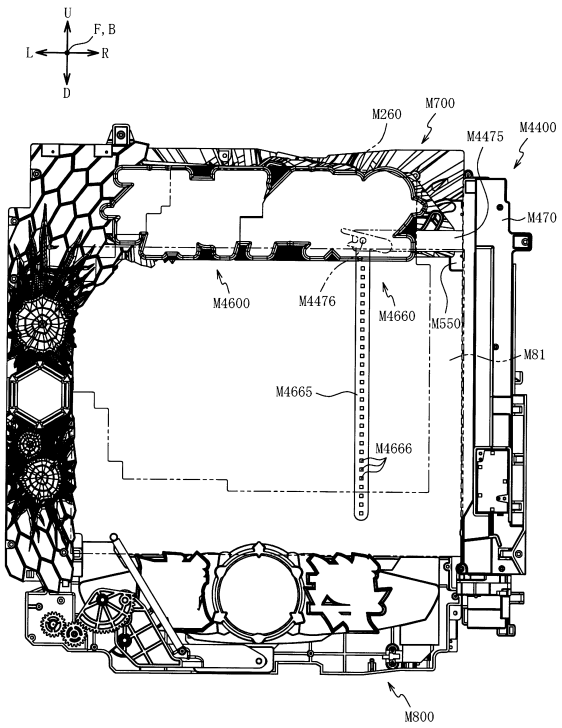
【図３３３】



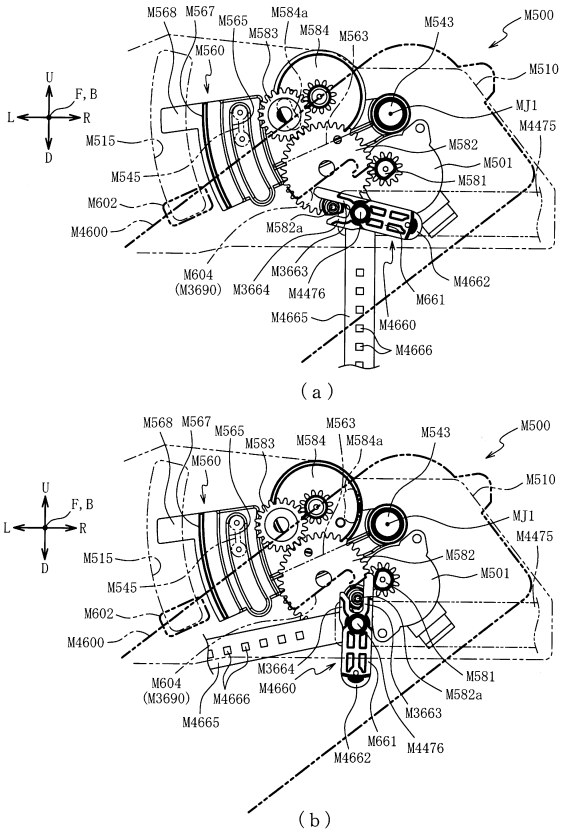
【図３３４】



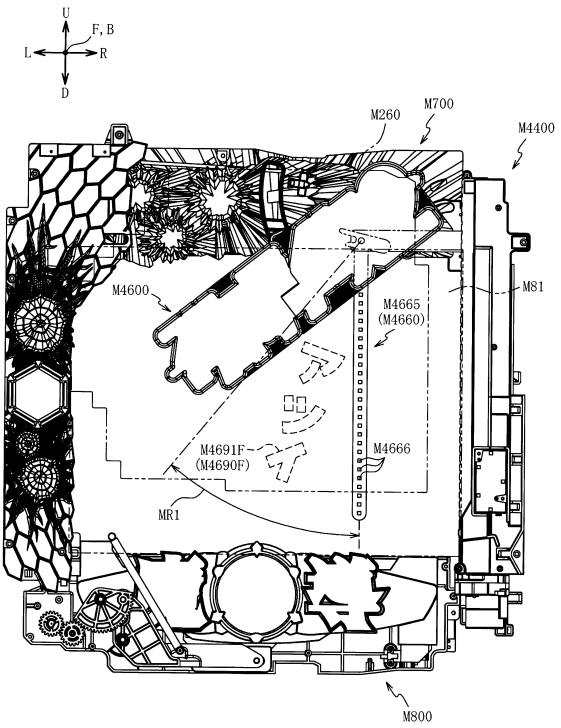
【図３３５】



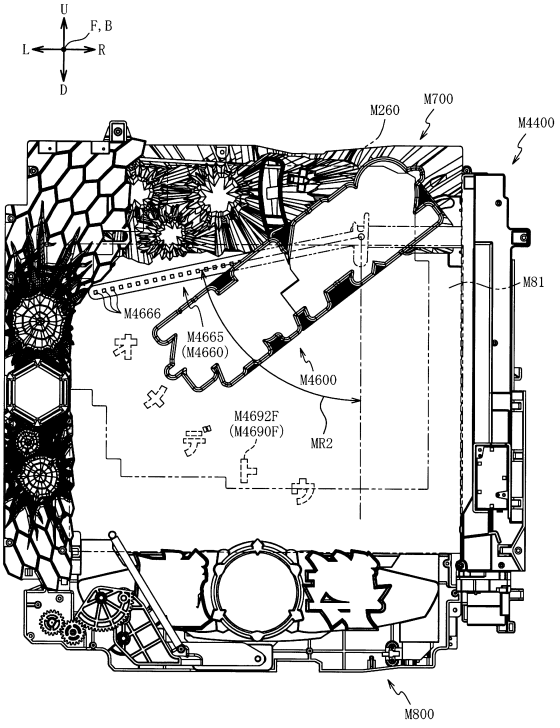
【図３３６】



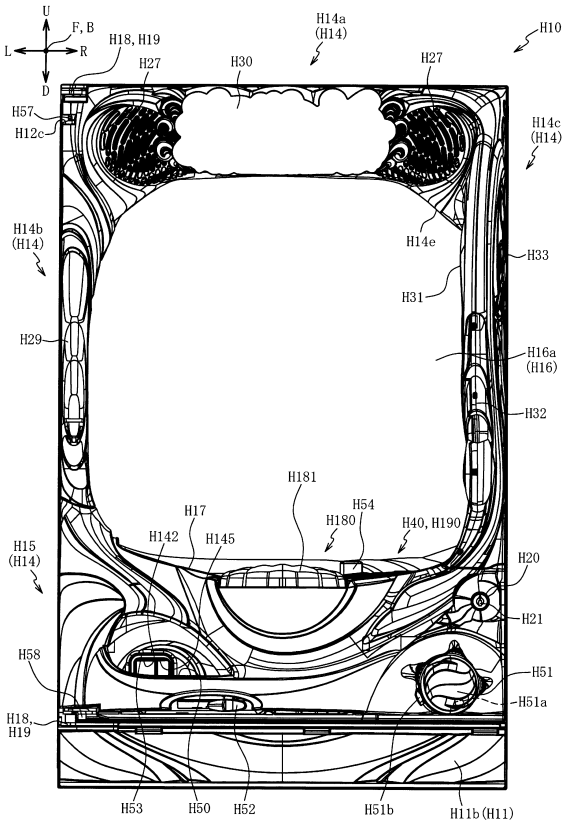
【図３３７】



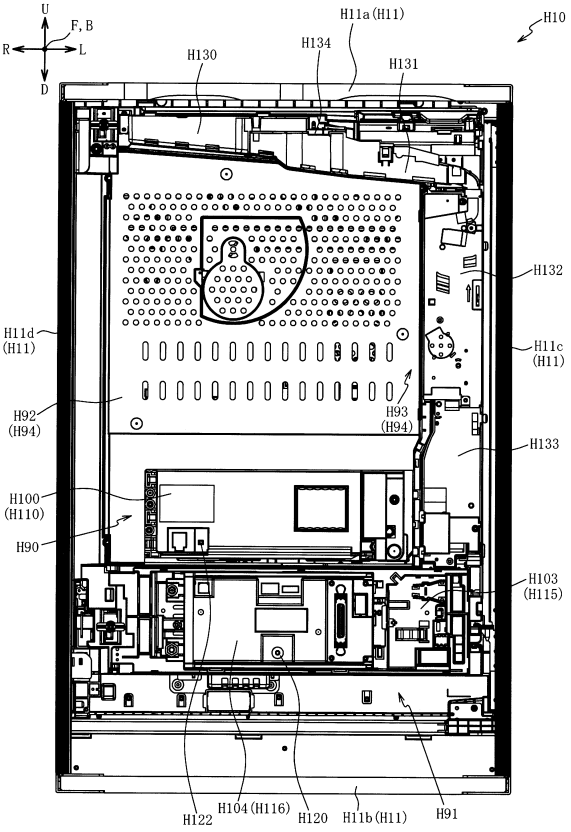
【図３３８】



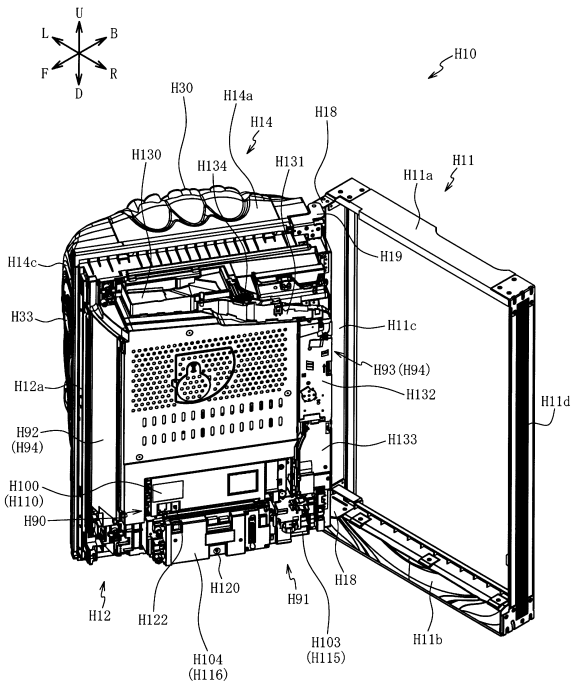
【図３３９】



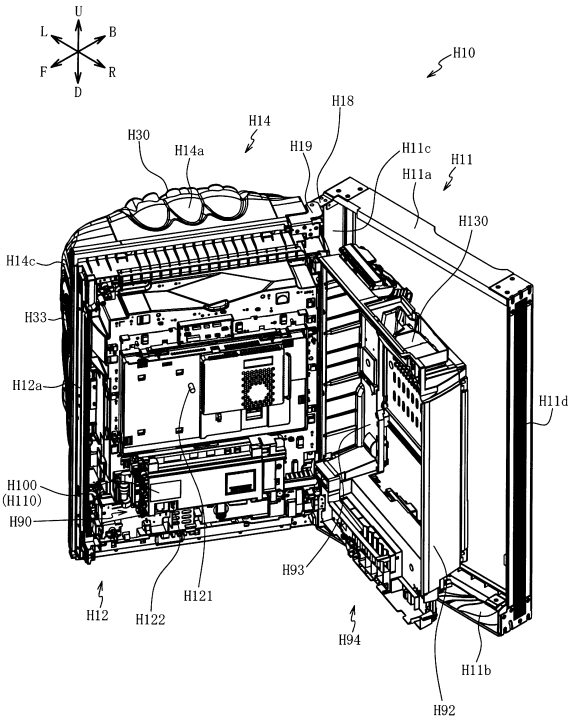
【図３４０】



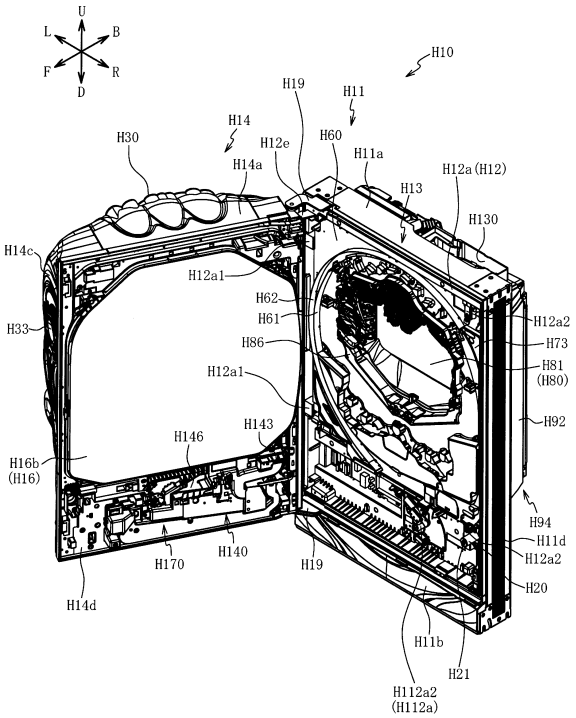
【図３４１】



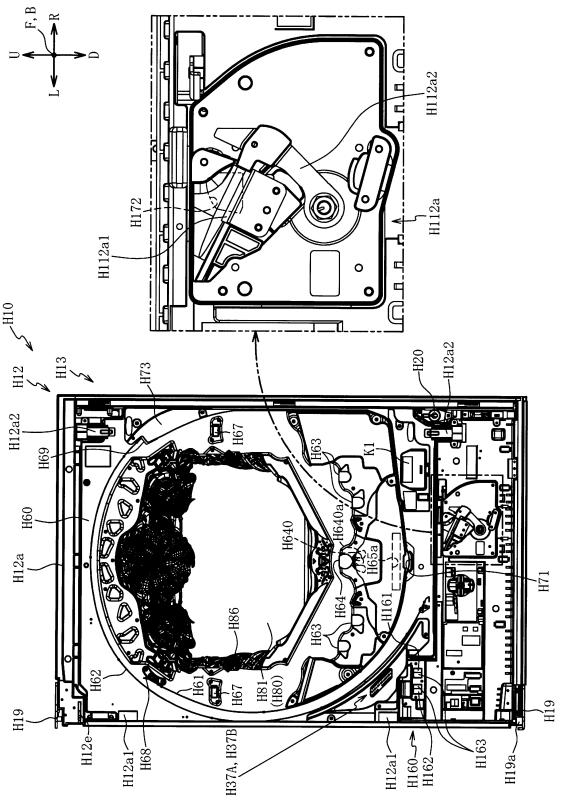
【図３４２】



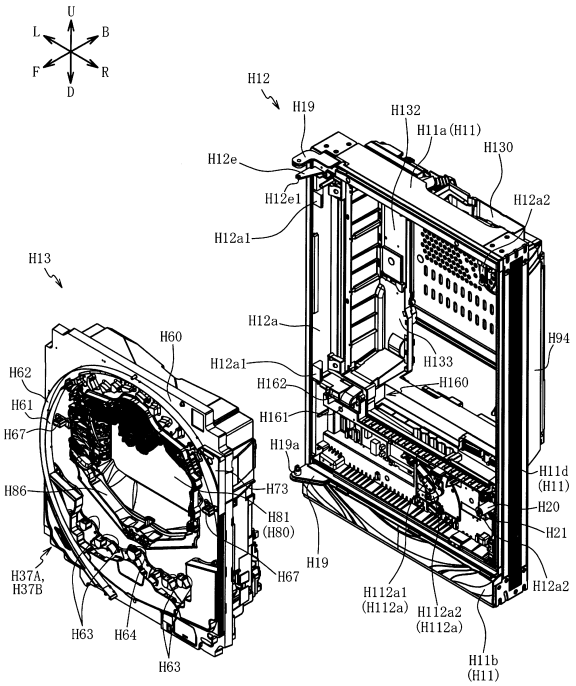
【図３４３】



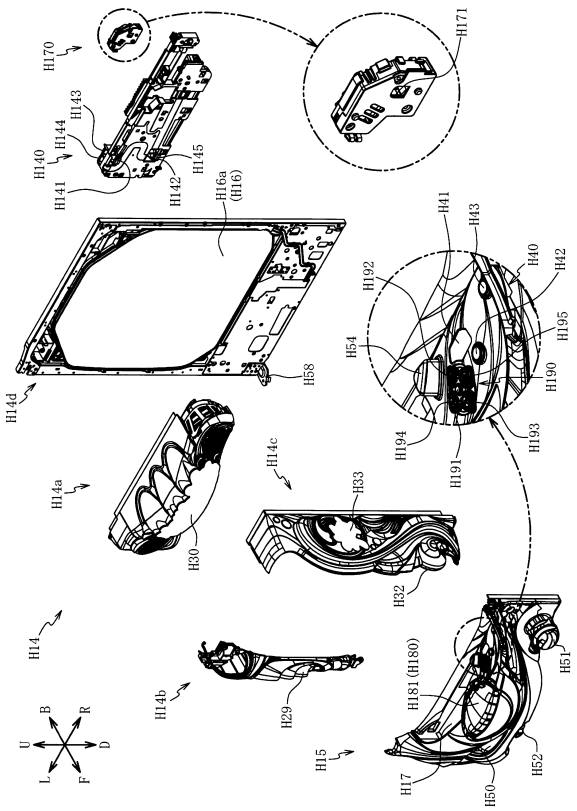
【図３４４】



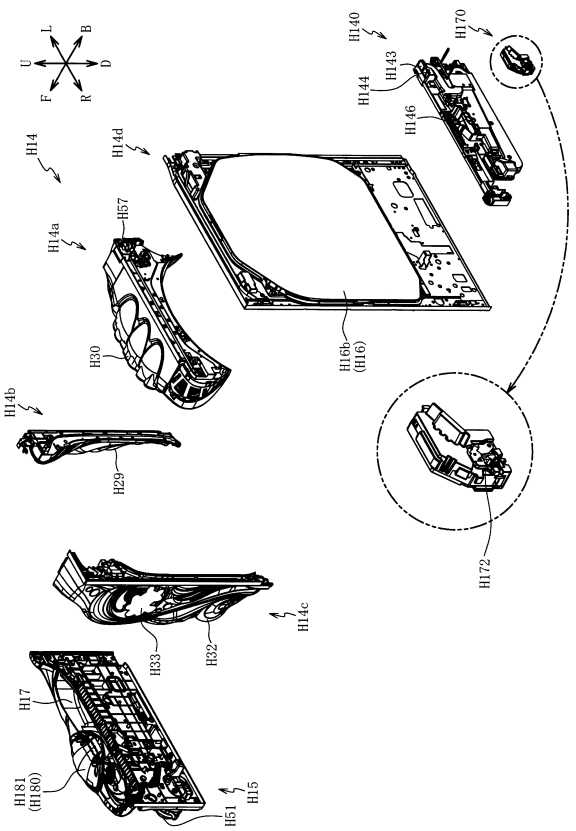
【図３４５】



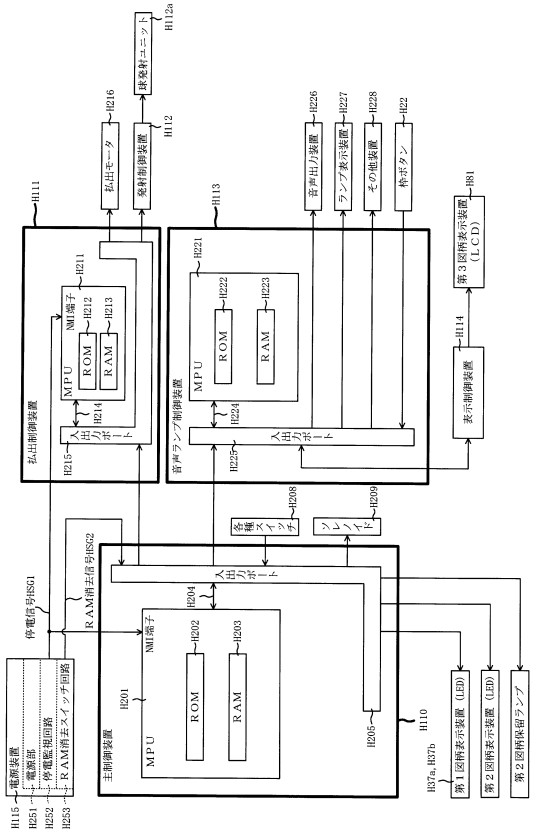
【図３４６】



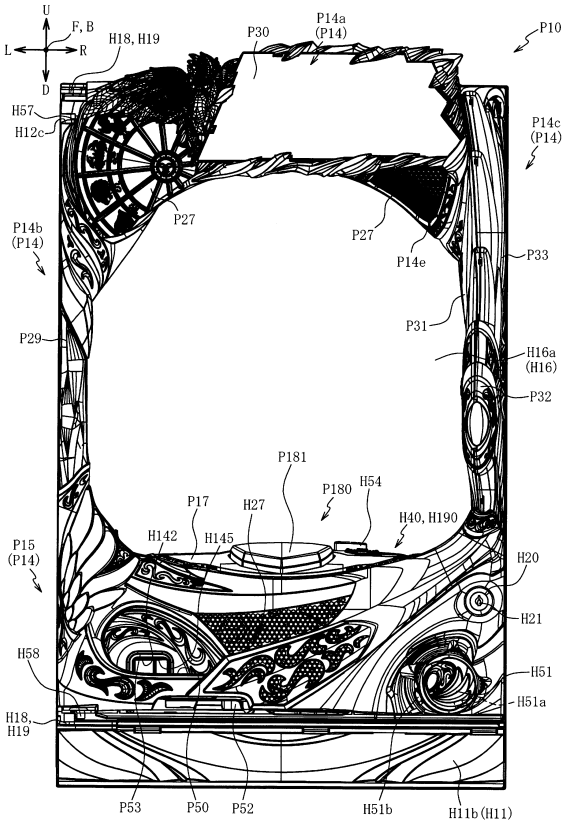
【図３４７】



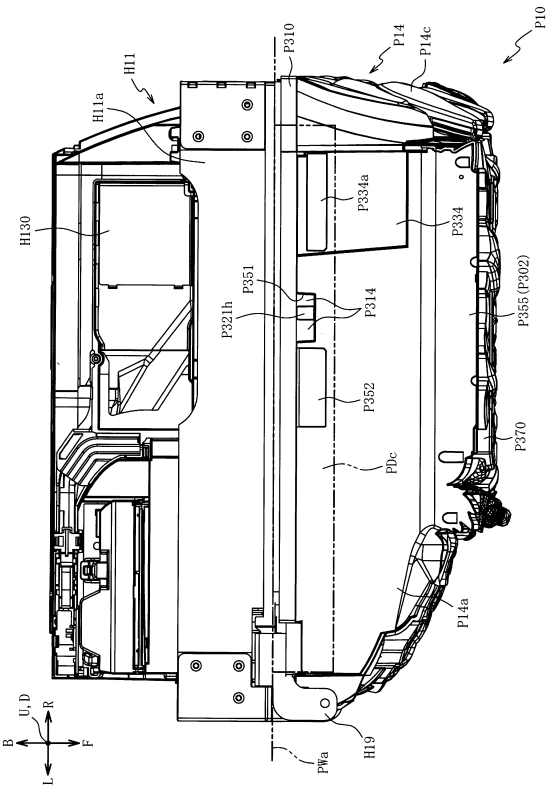
【図３４８】



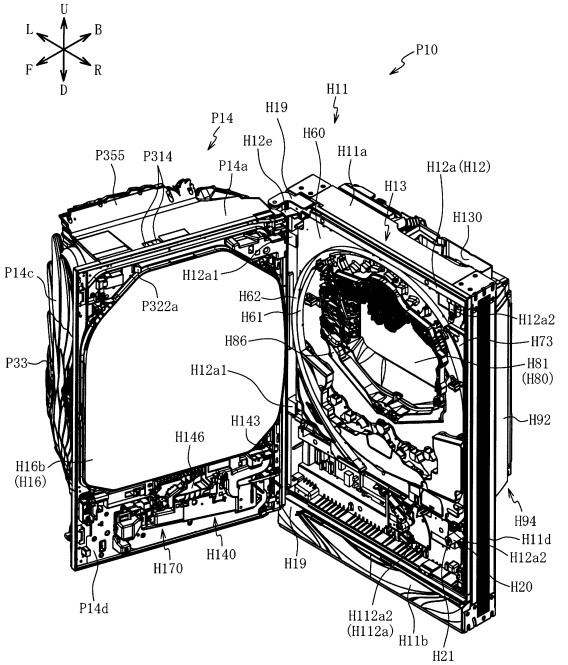
【図３４９】



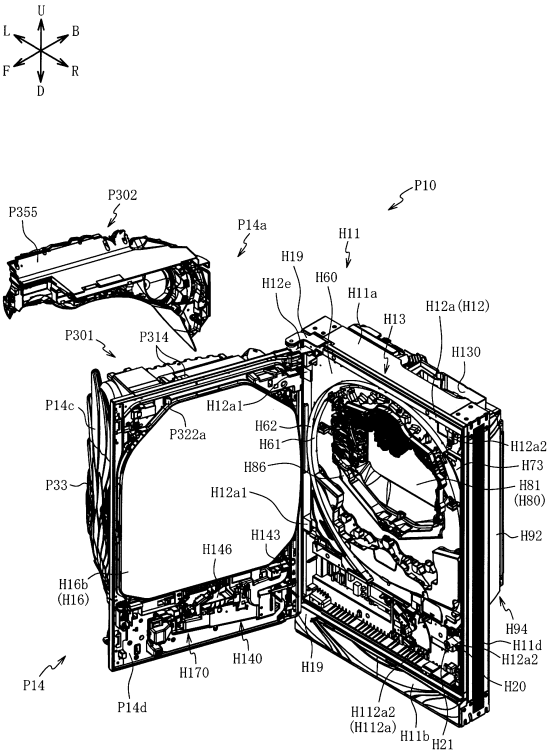
【図３５０】



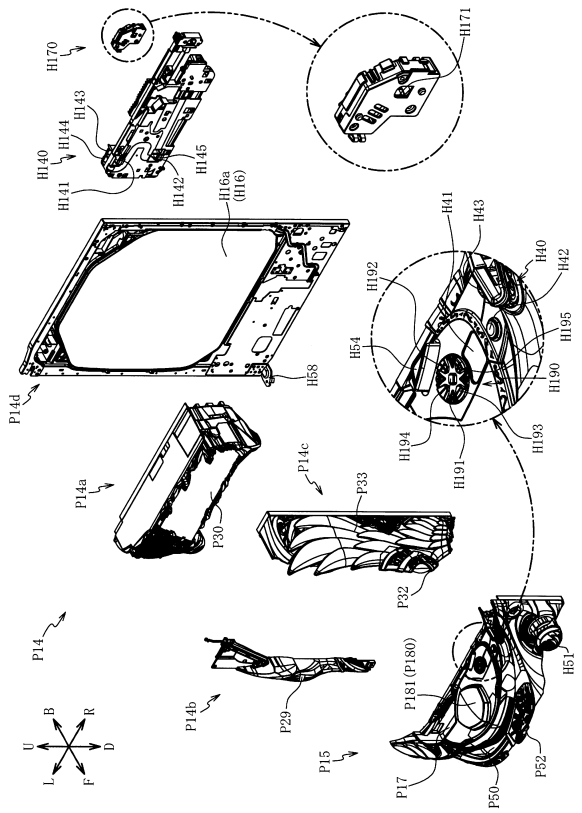
【図３５１】



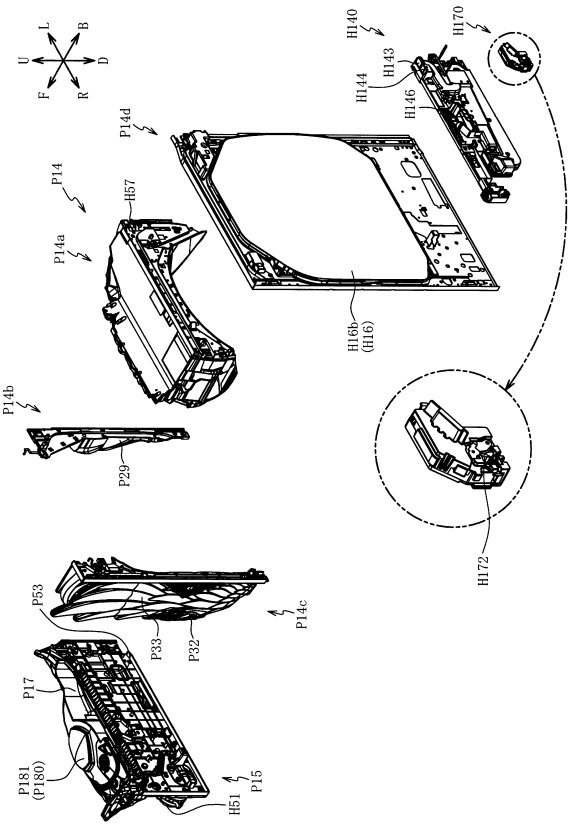
【図３５２】



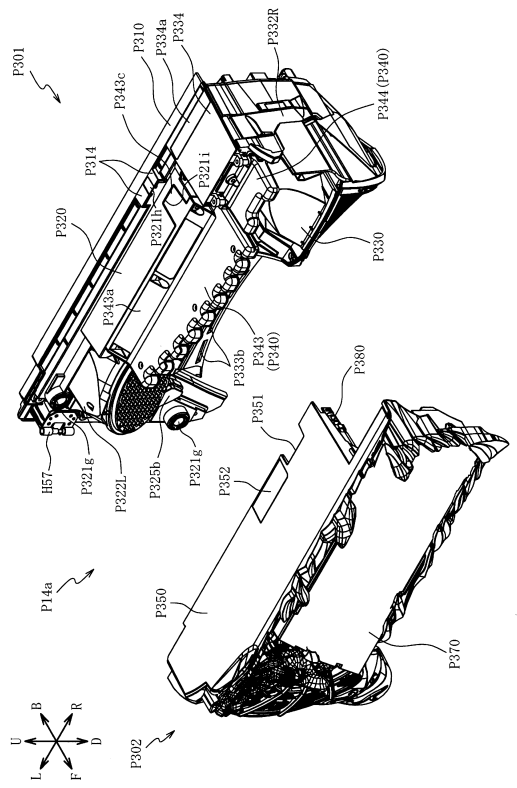
【図３５３】



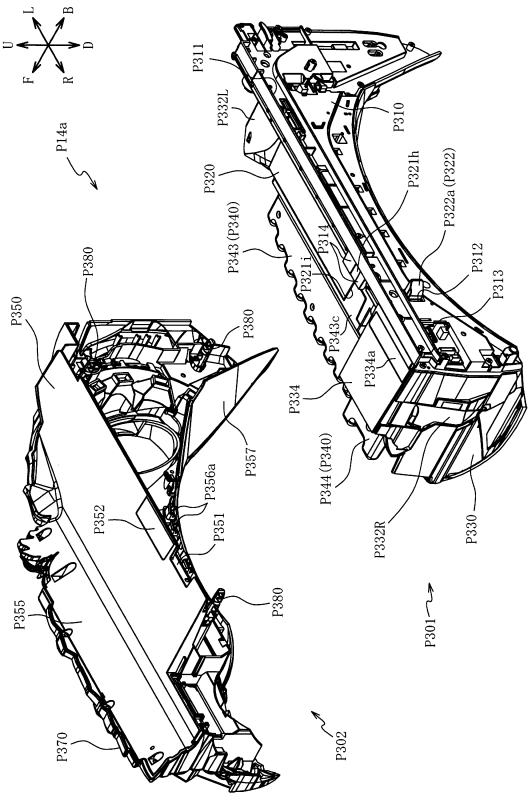
【図３５４】



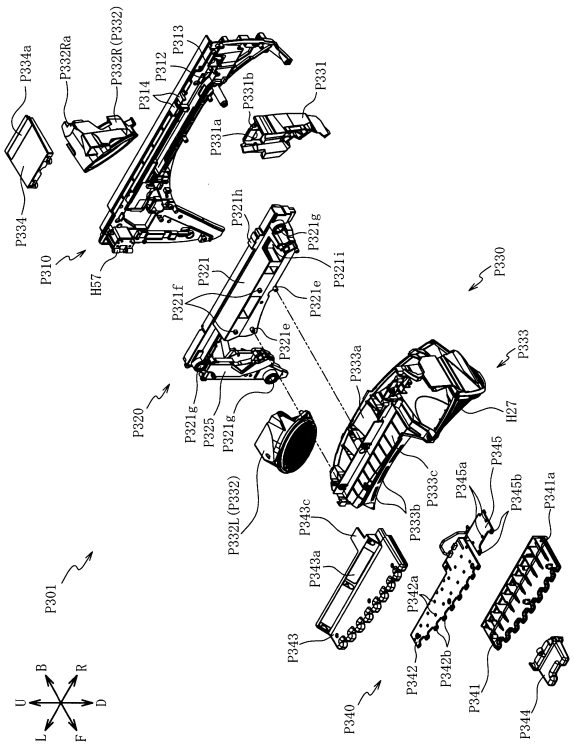
【図３５５】



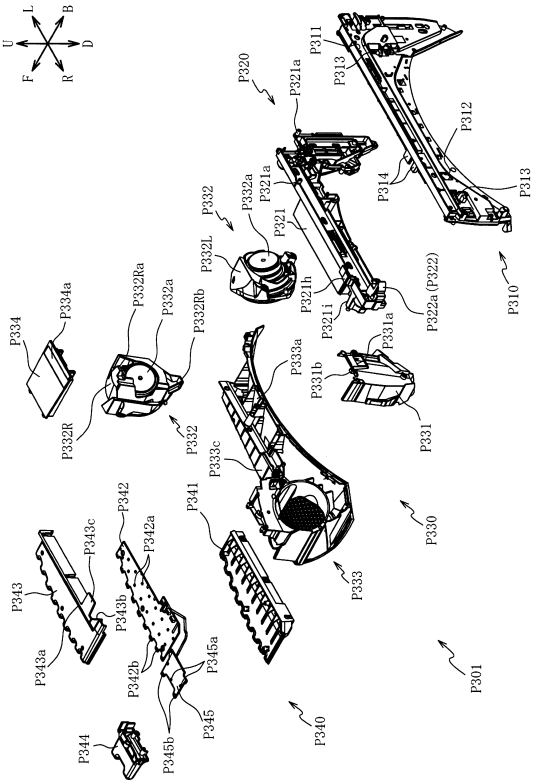
【図３５６】



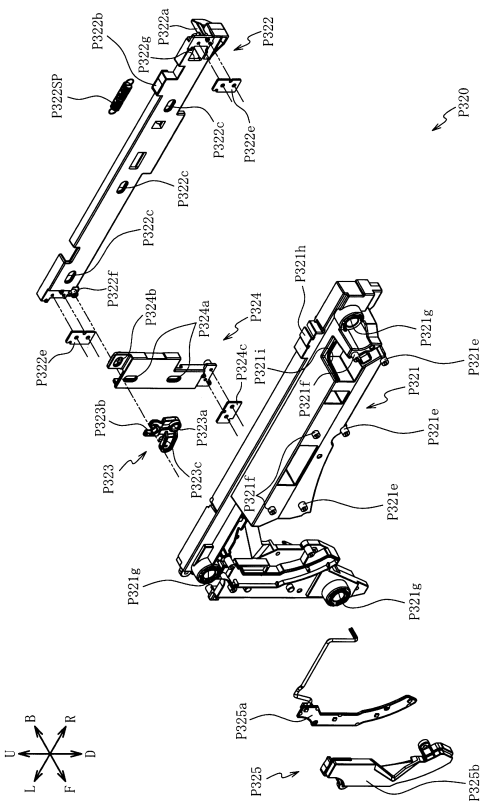
【図３５７】



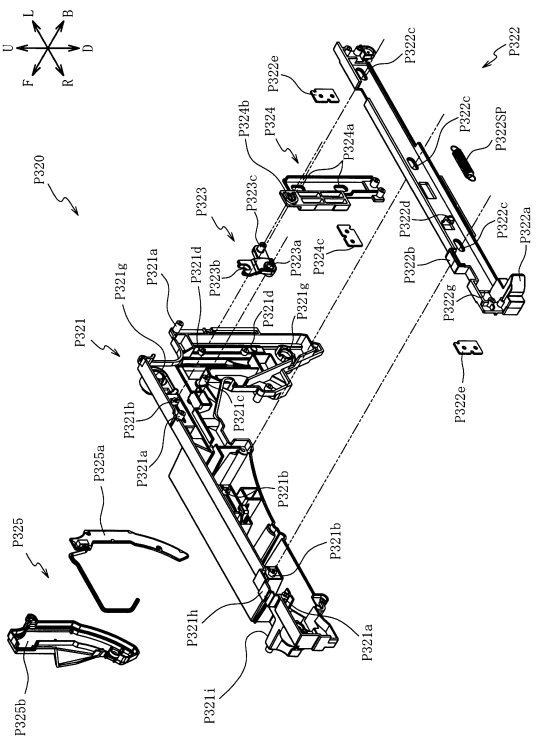
【図３５８】



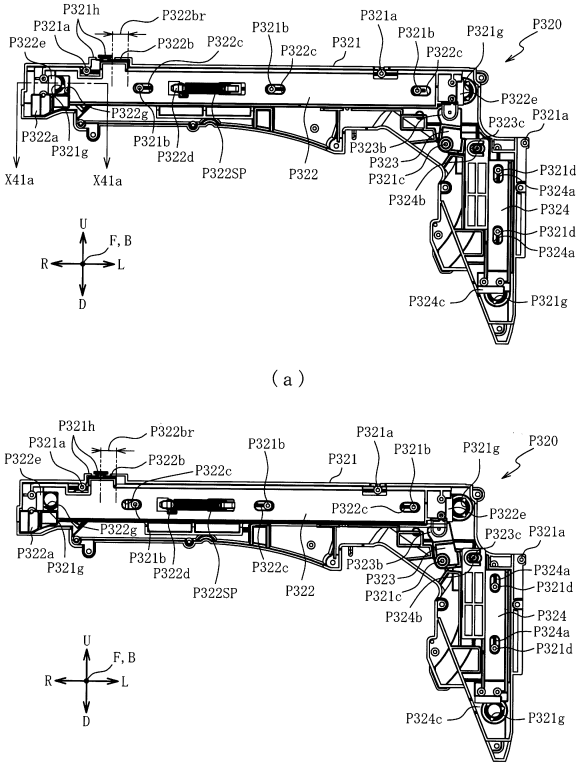
【図３５９】



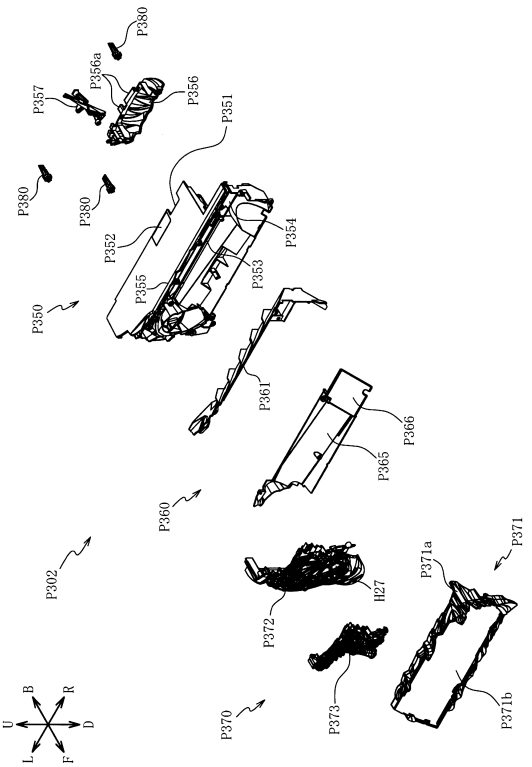
【図３６０】



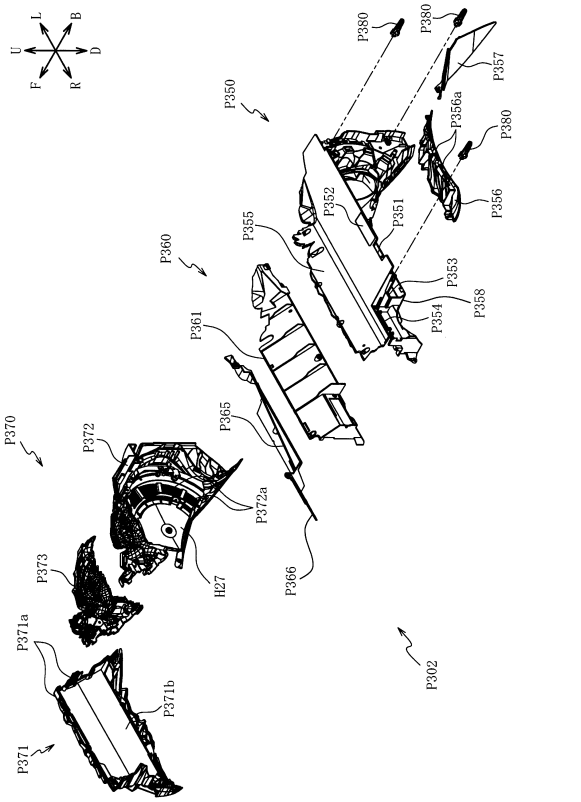
【図３６１】



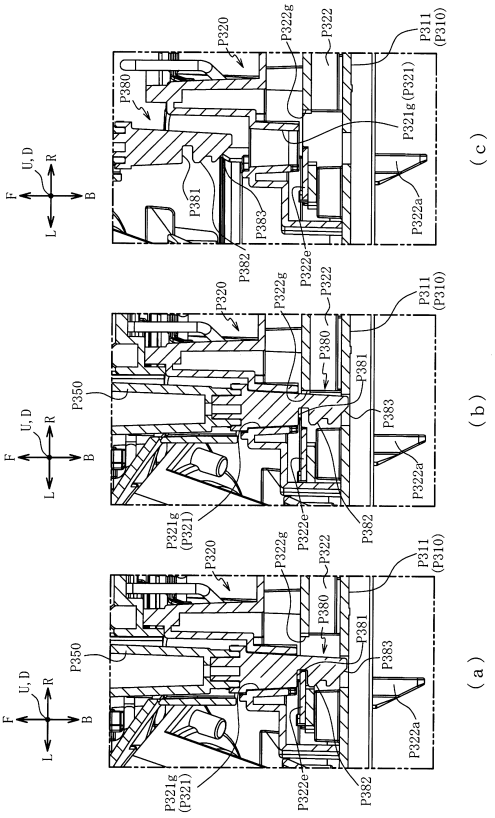
【図３６２】



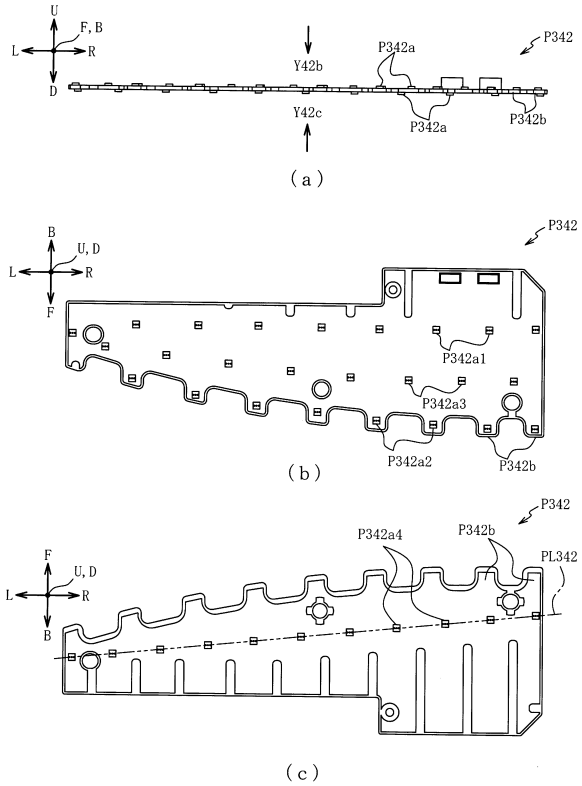
【図３６３】



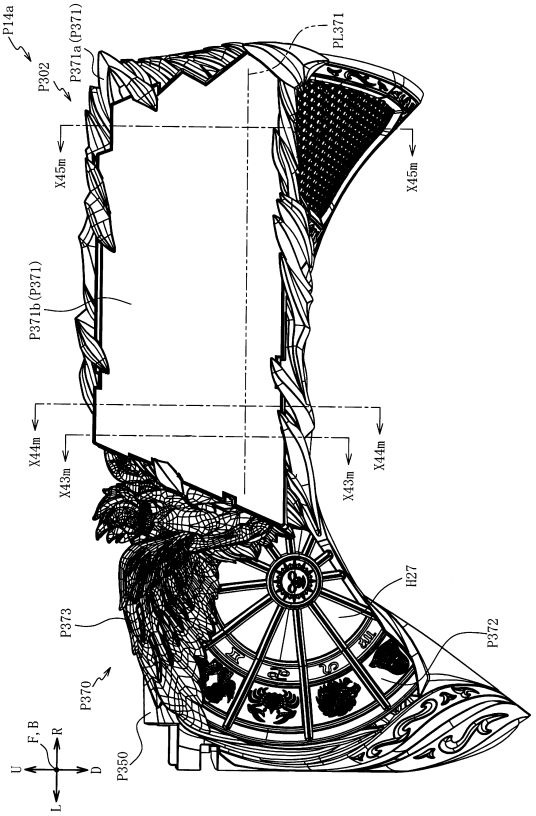
【図３６４】



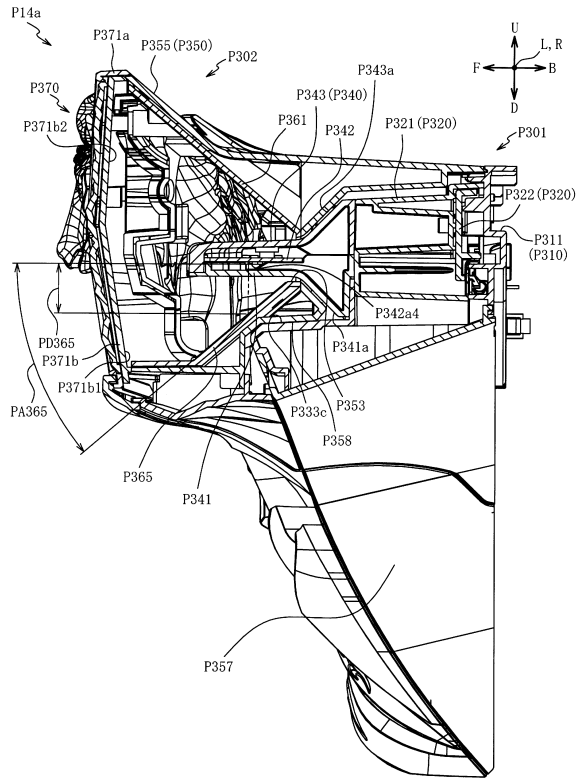
【図３６５】



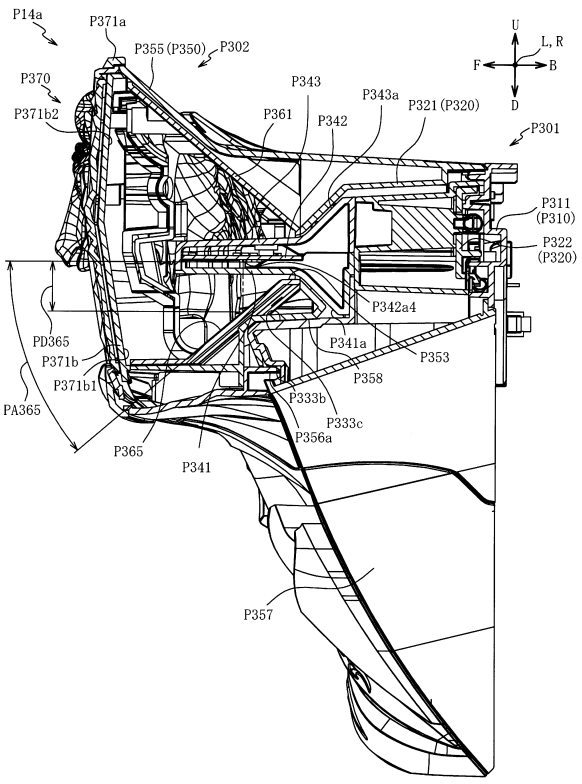
【図３６６】



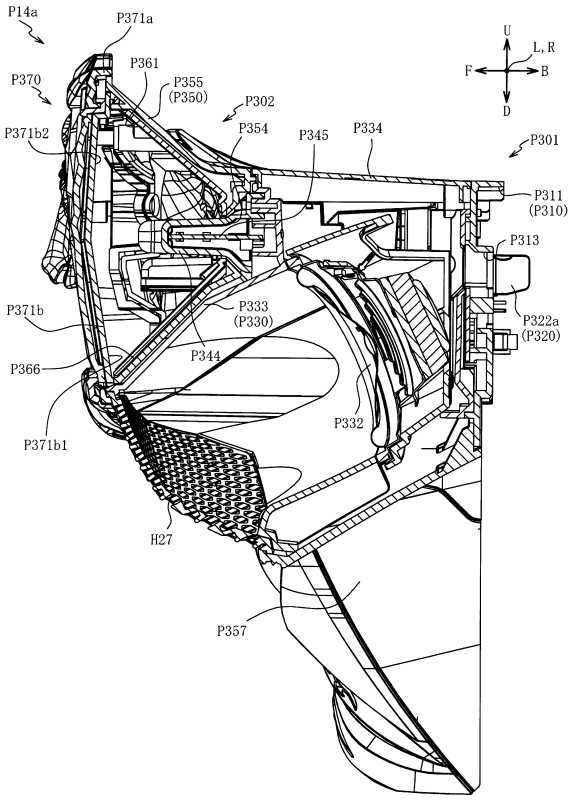
【図３６７】



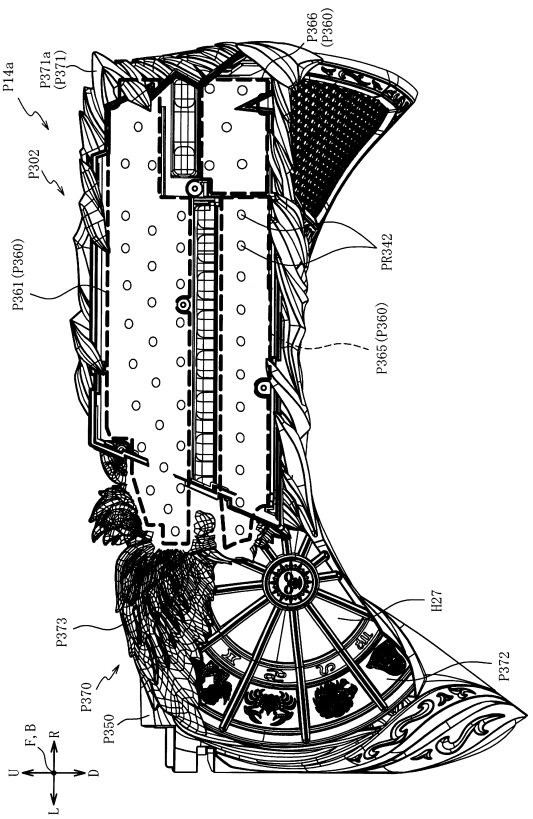
【図３６８】



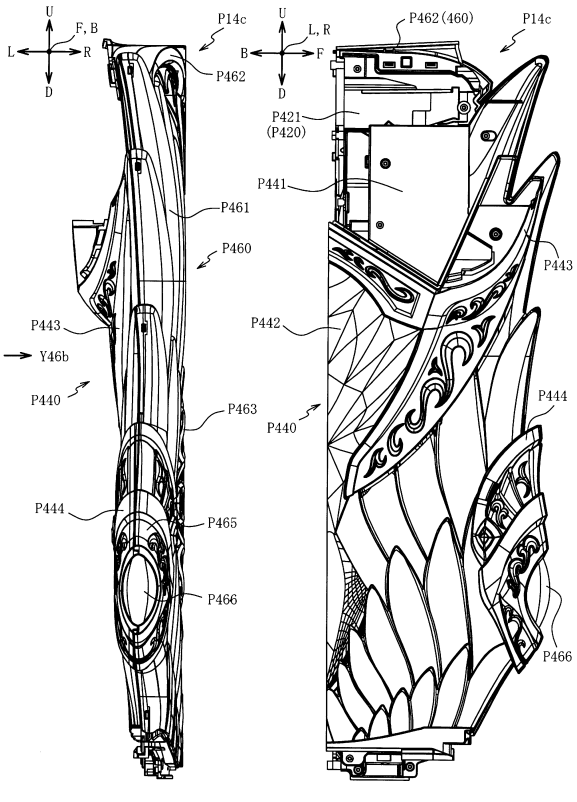
【図３６９】



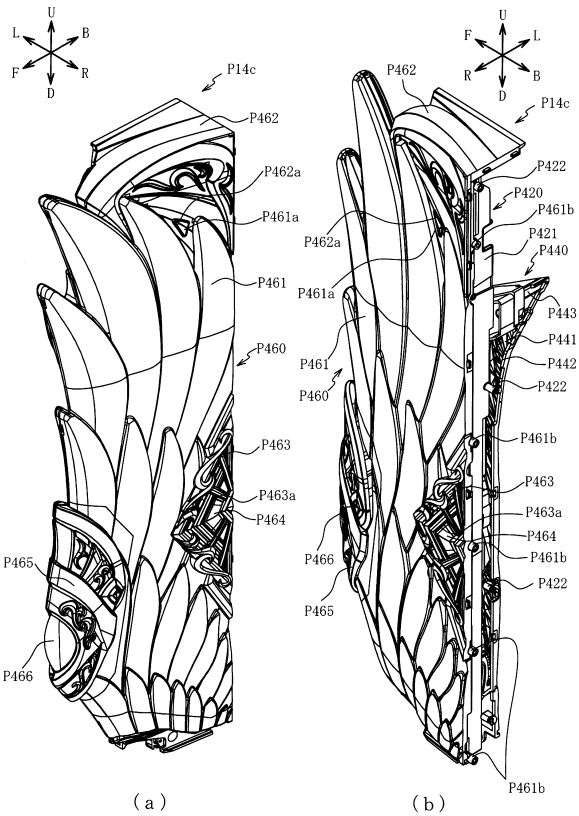
【図３７０】



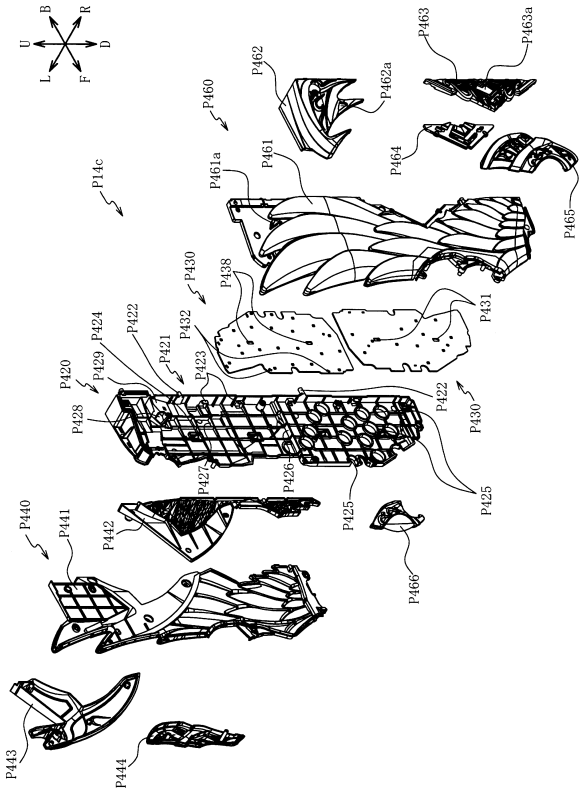
【図３７１】



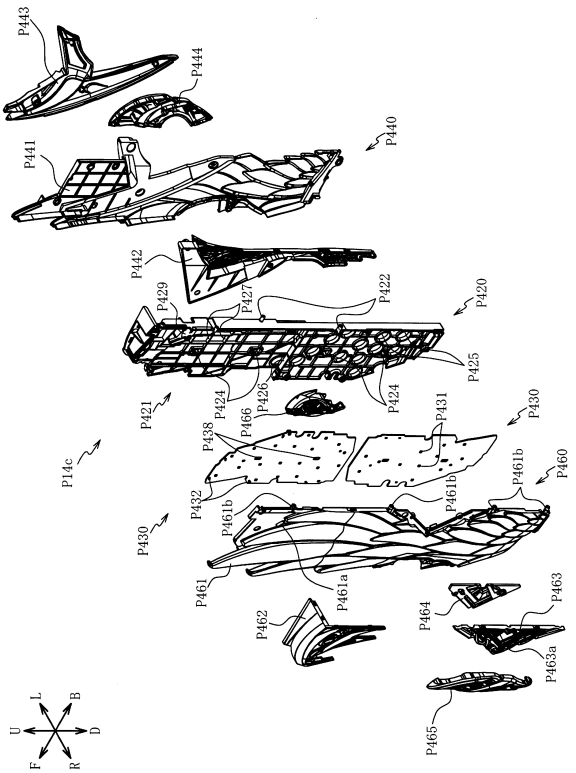
【図３７２】



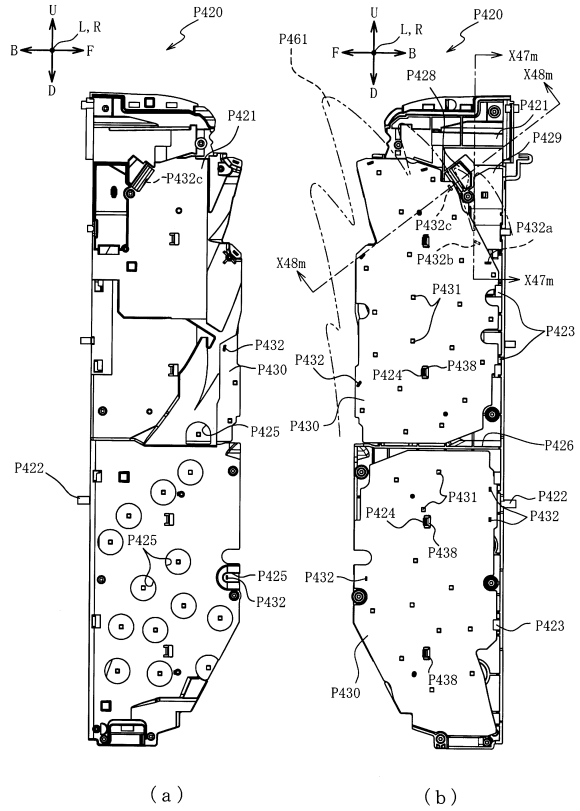
【図３７３】



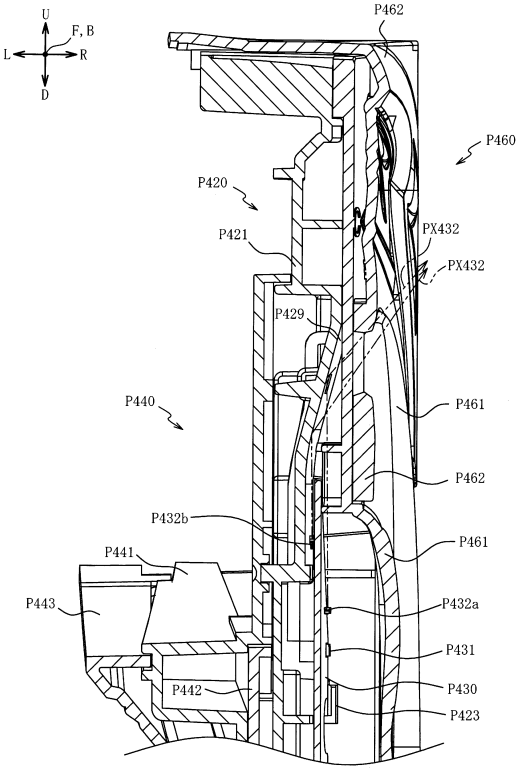
【図３７４】



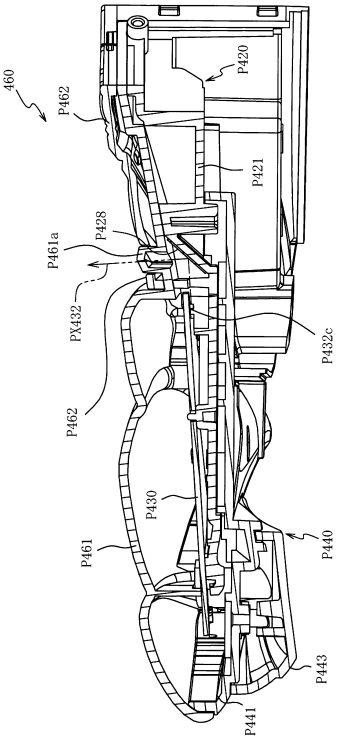
【図３７５】



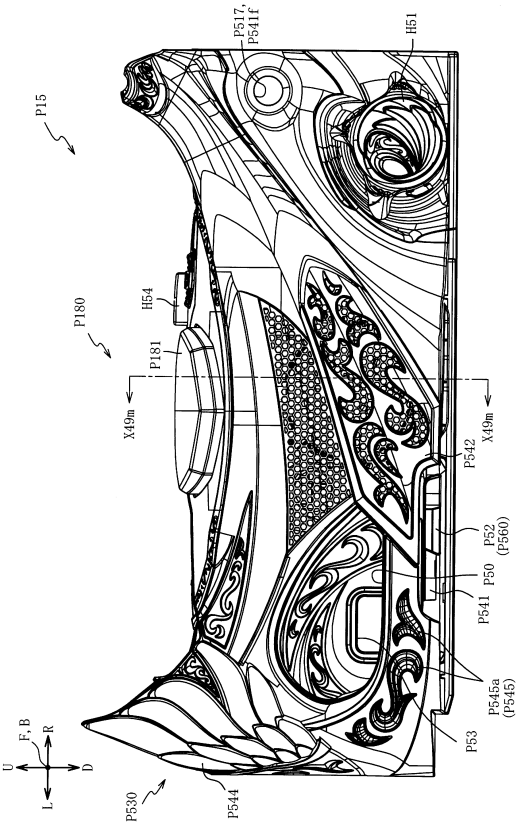
【図３７６】



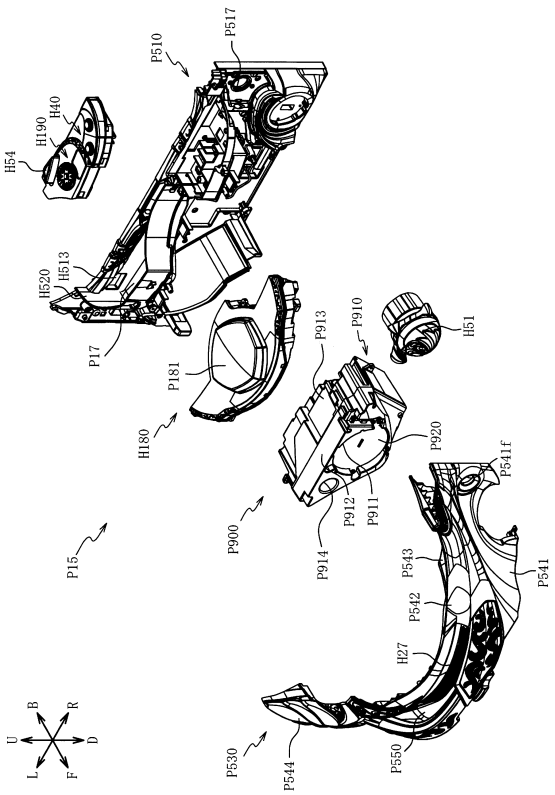
【図３７７】



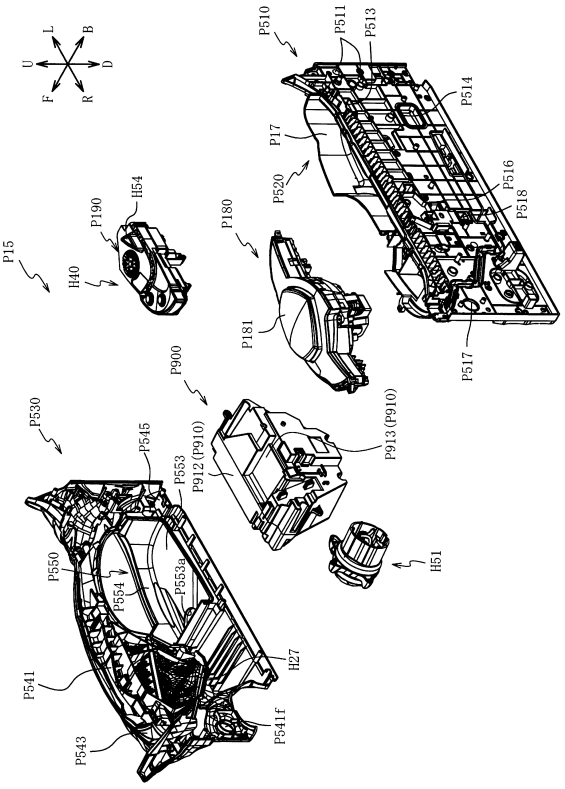
【図３７８】



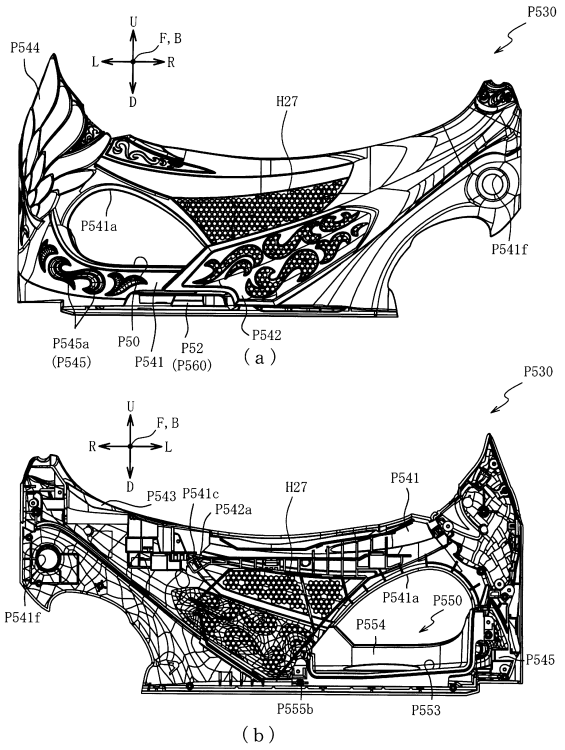
【図３７９】



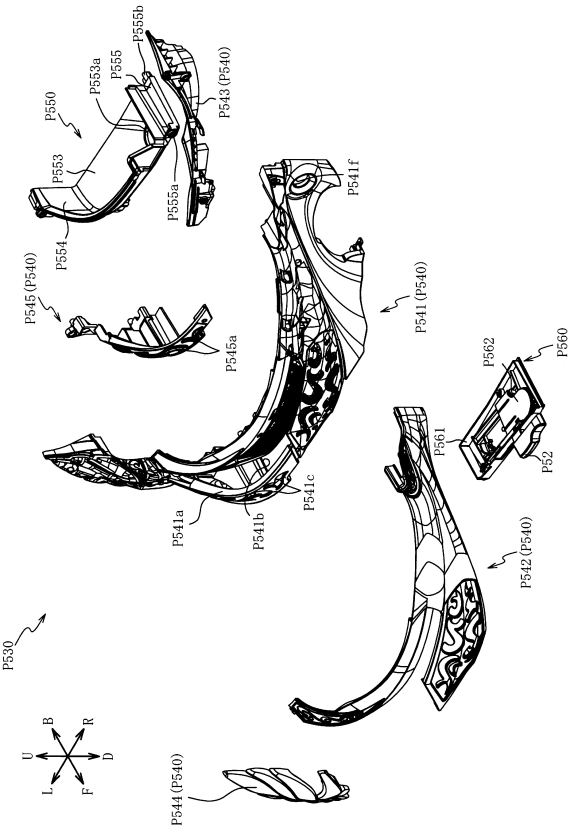
【図３８０】



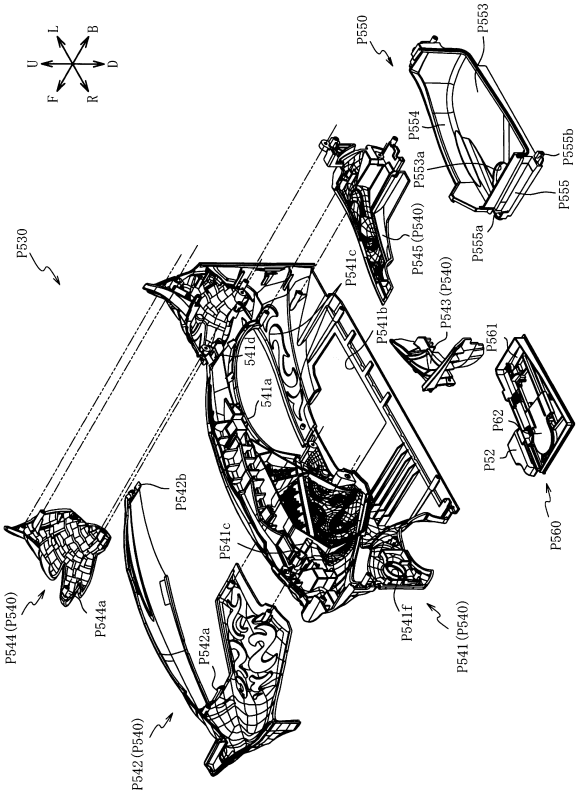
【図３８１】



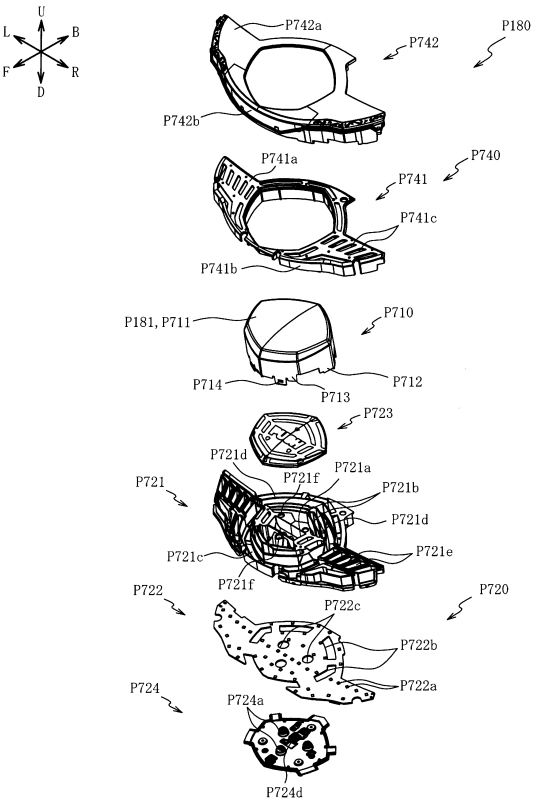
【図３８２】



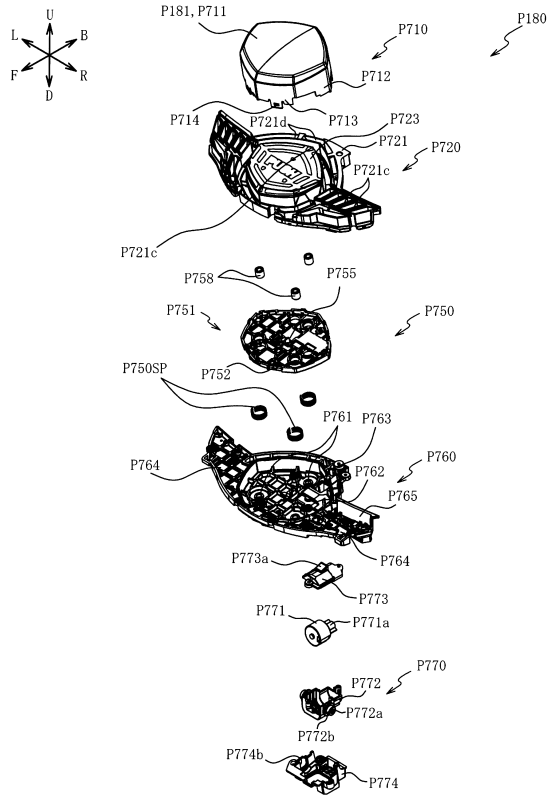
【図３８３】



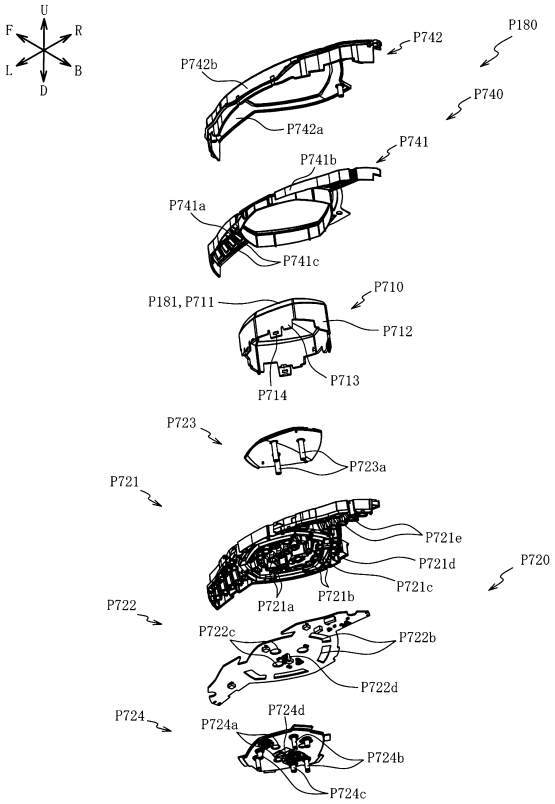
【図３８４】



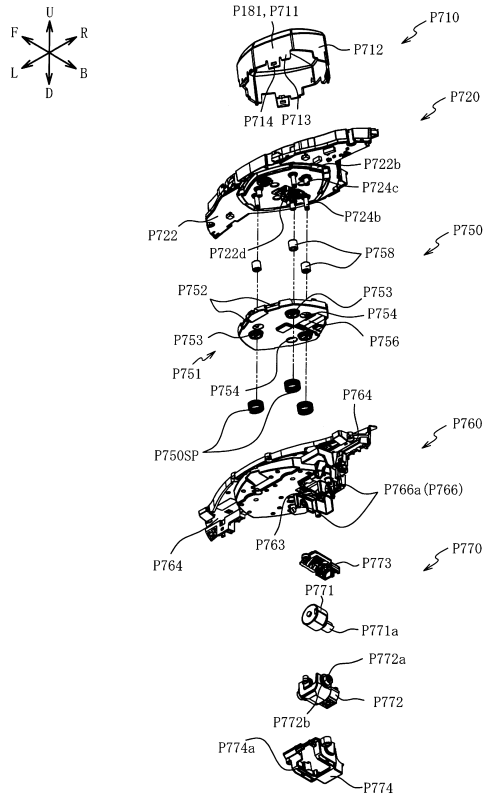
【図３８５】



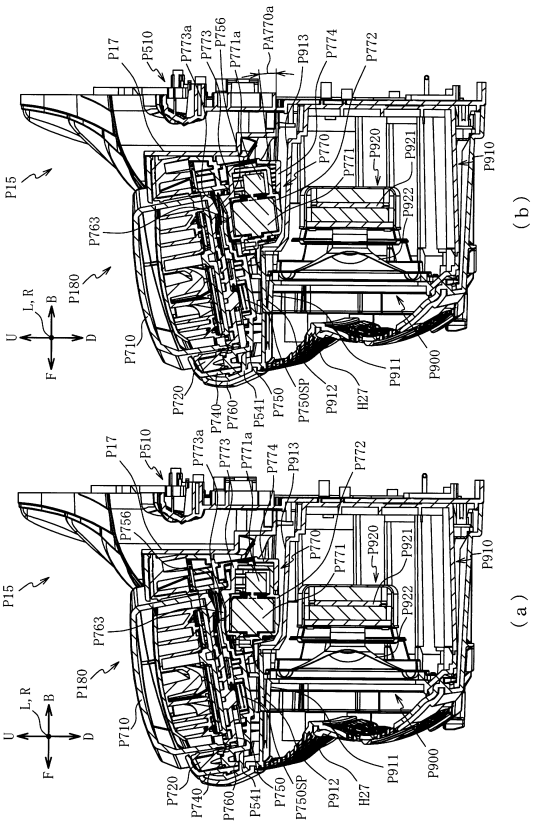
【図３８６】



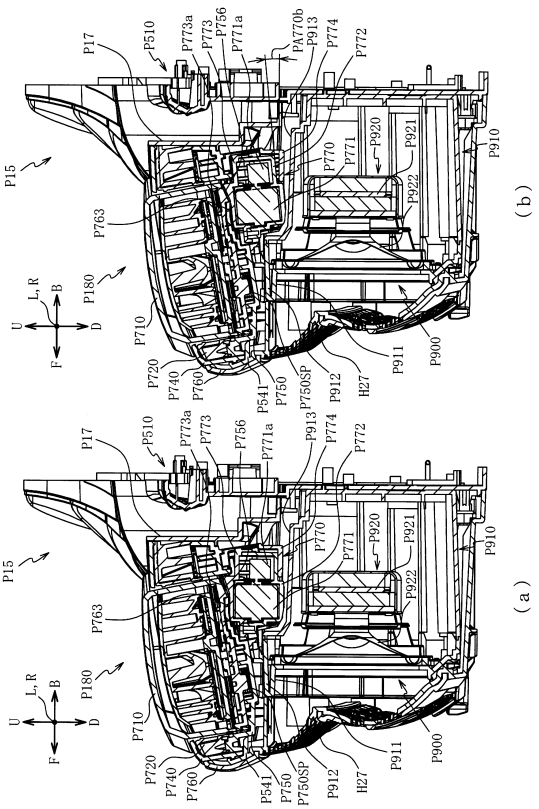
【図３８７】



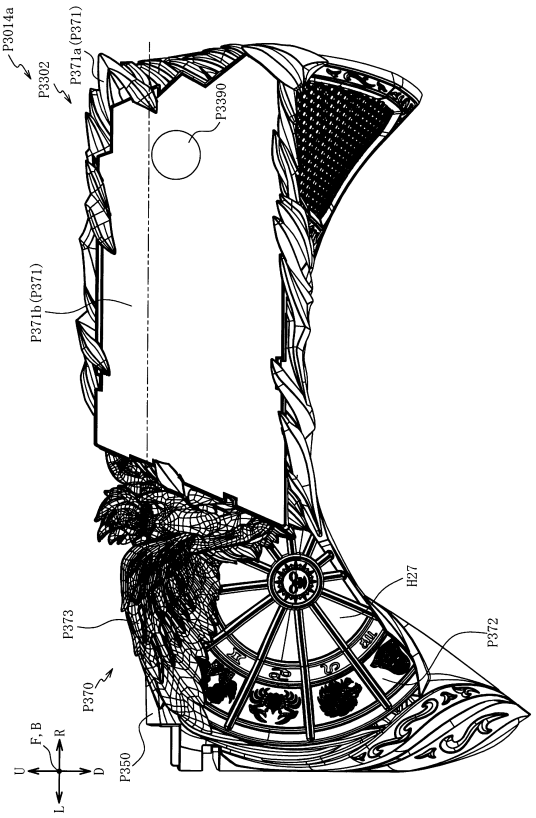
【図３８８】



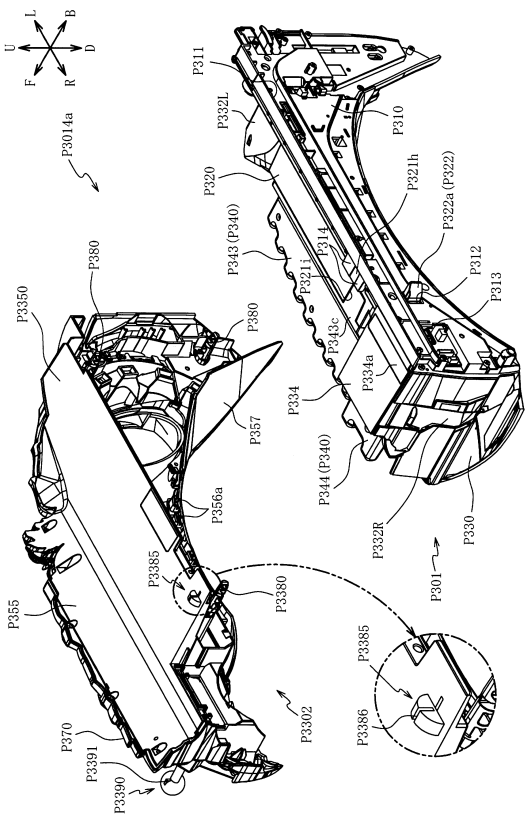
【図３８９】



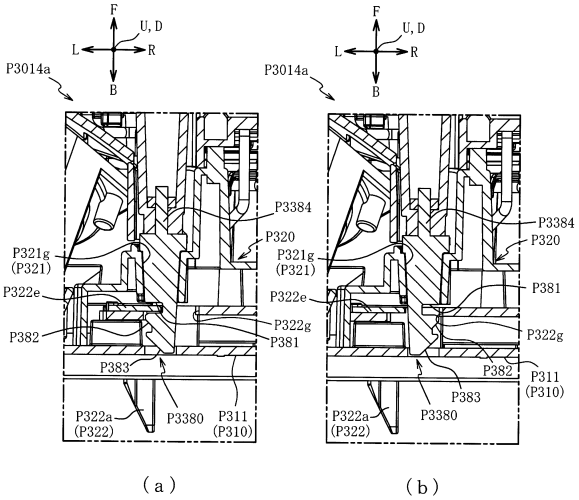
【図３９０】



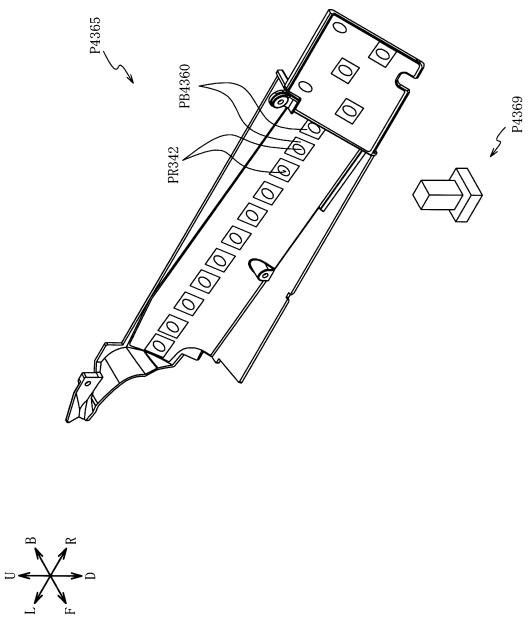
【図３９１】



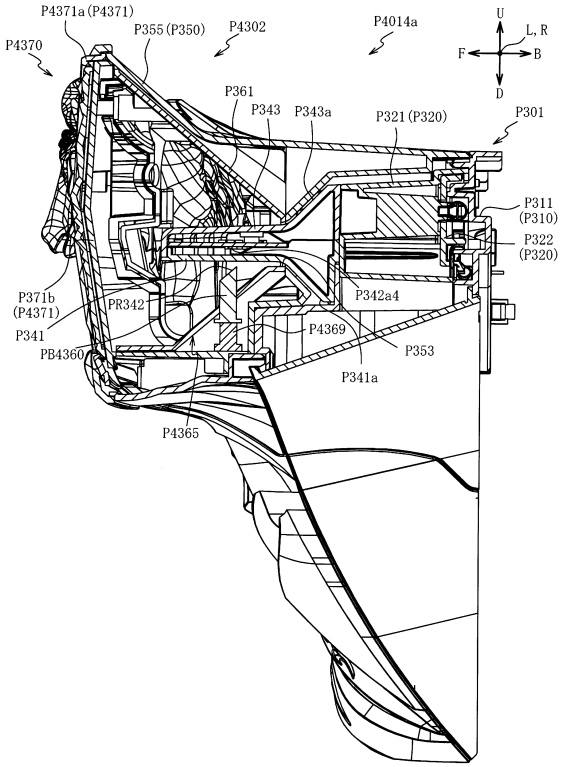
【図３９２】



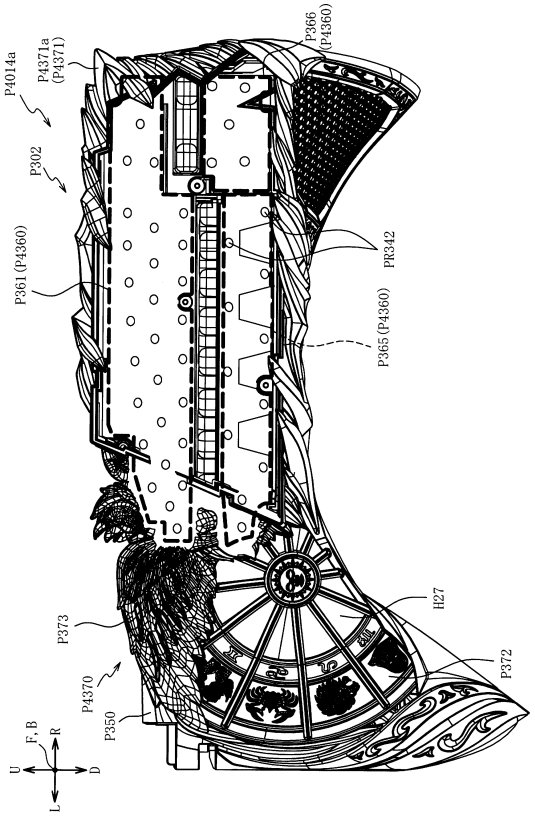
【図３９３】



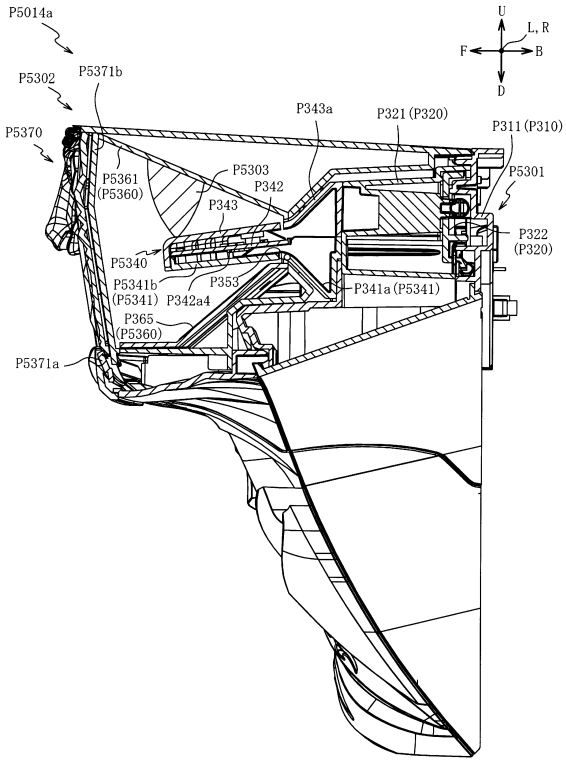
【図３９４】



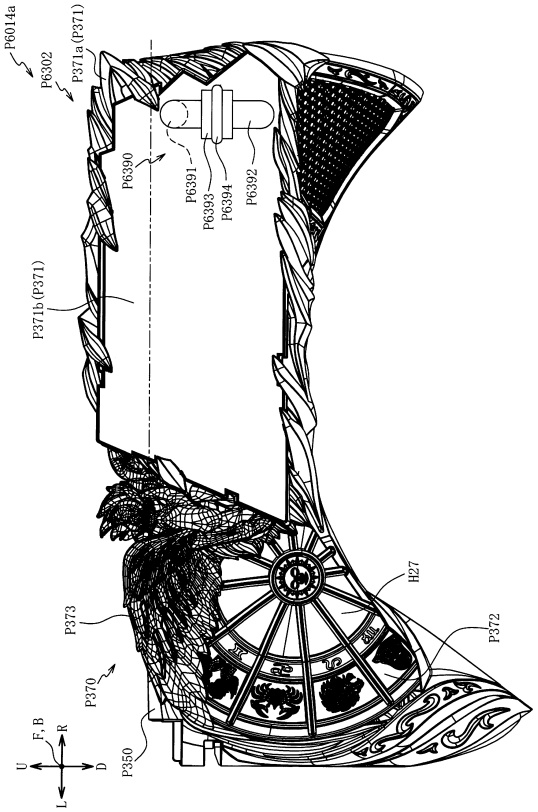
【図３９５】



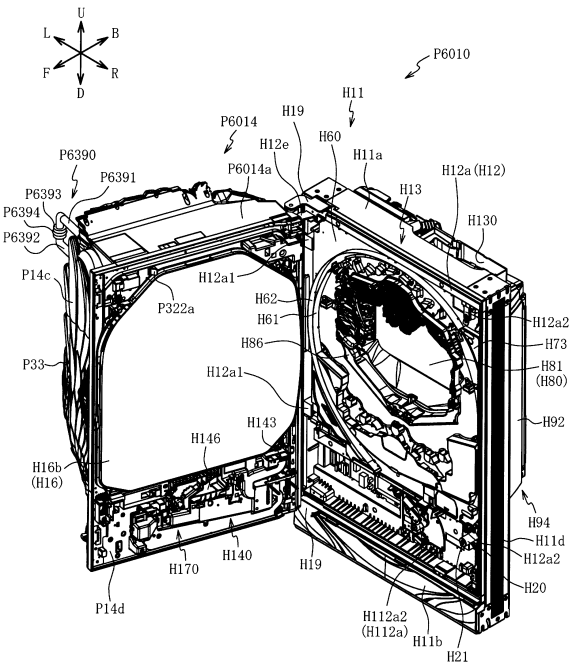
【図３９６】



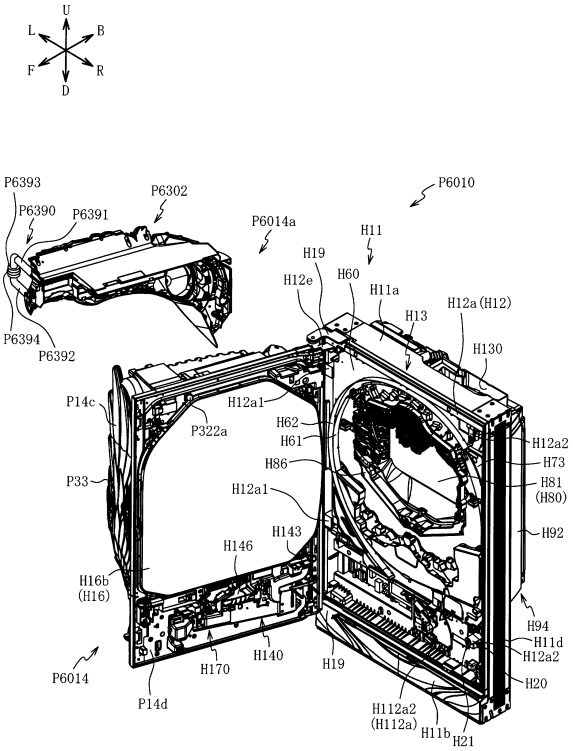
【図３９７】



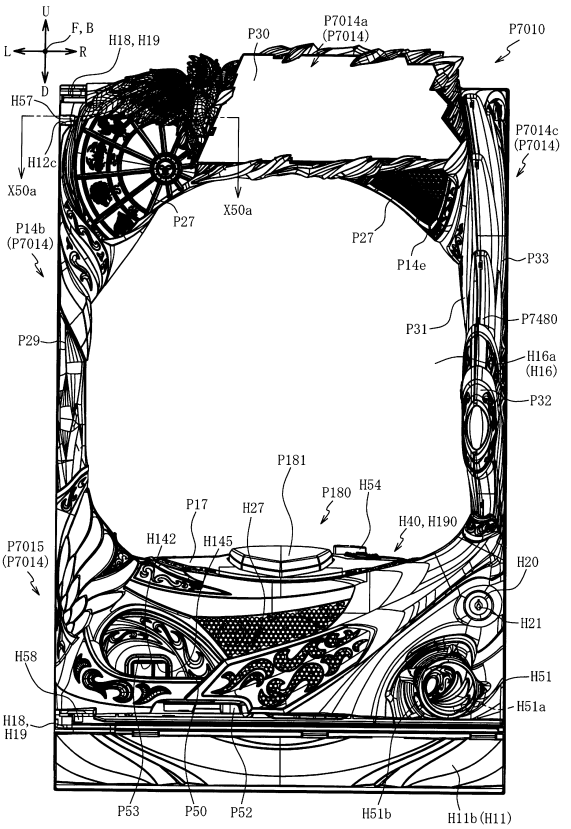
【図３９８】



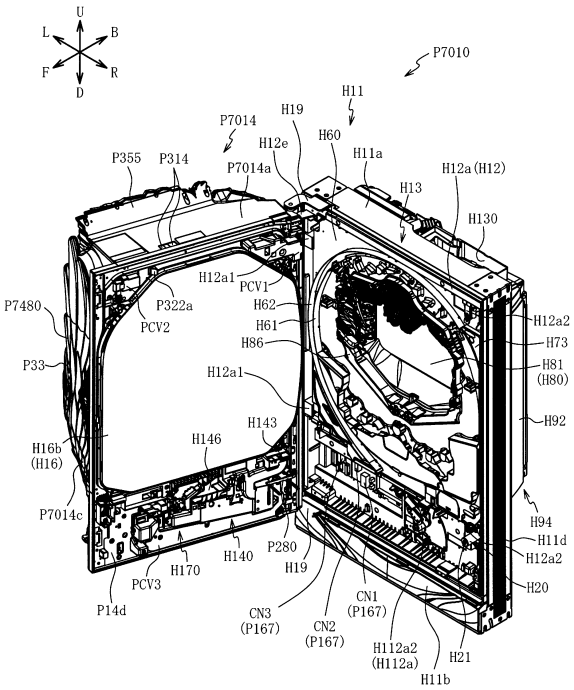
【図３９９】



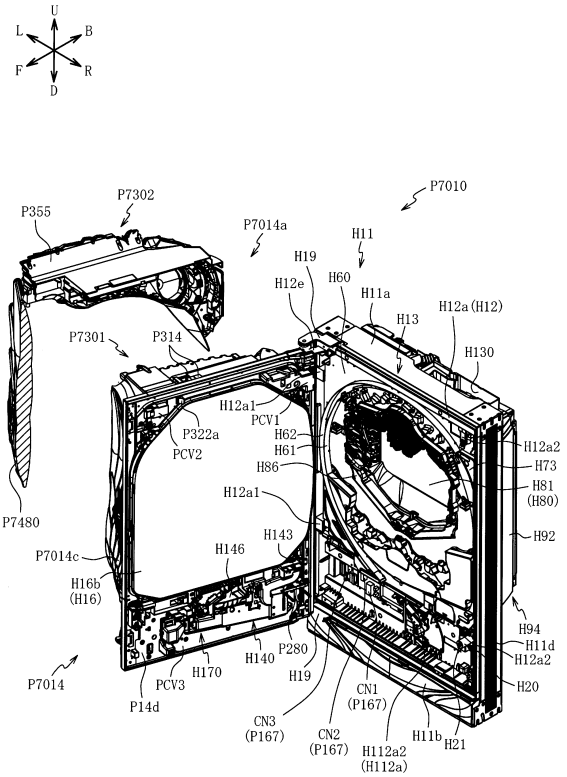
【図４００】



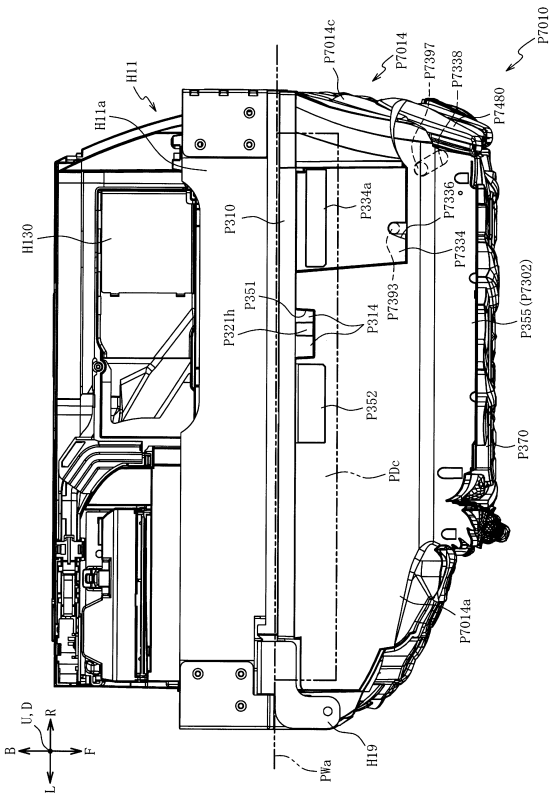
【図４０１】



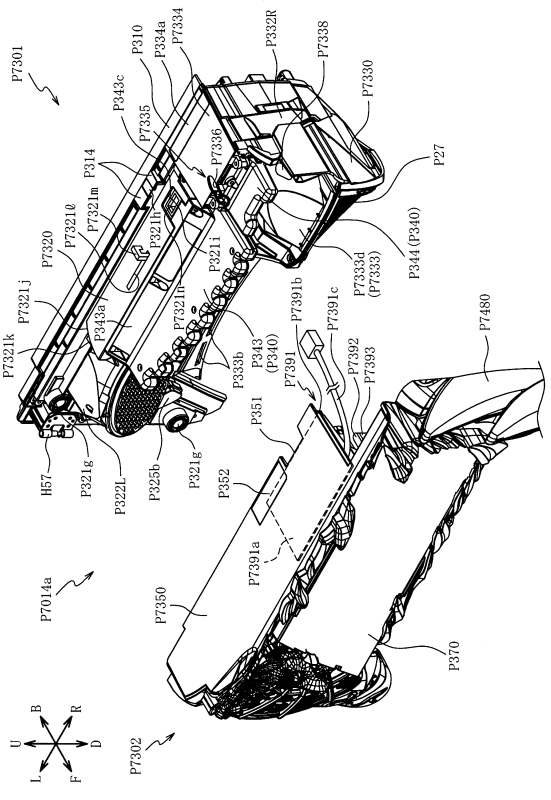
【図４０２】



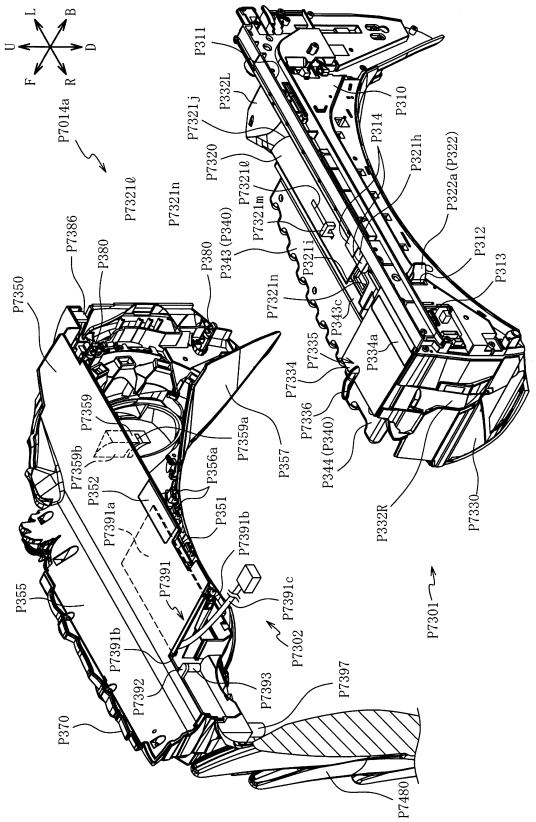
【図４０３】



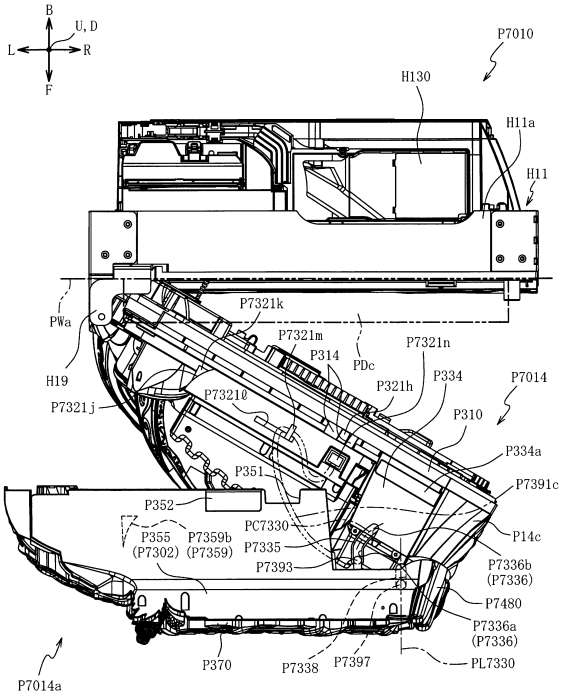
【図４０４】



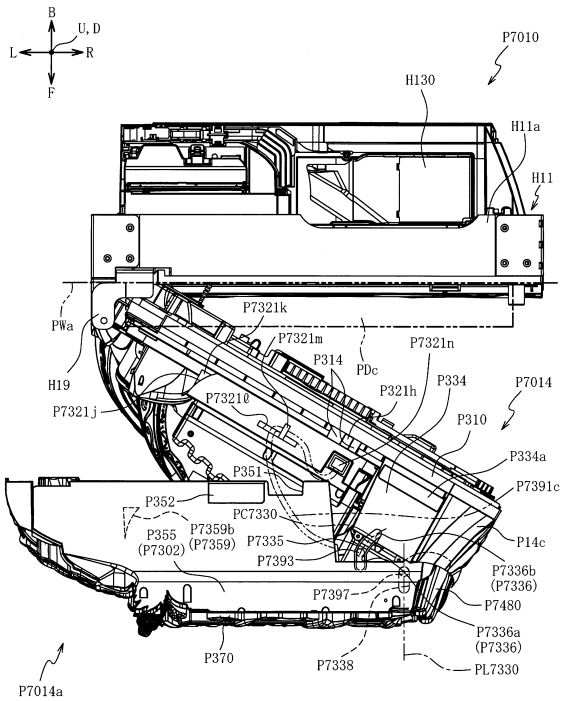
【図４０５】



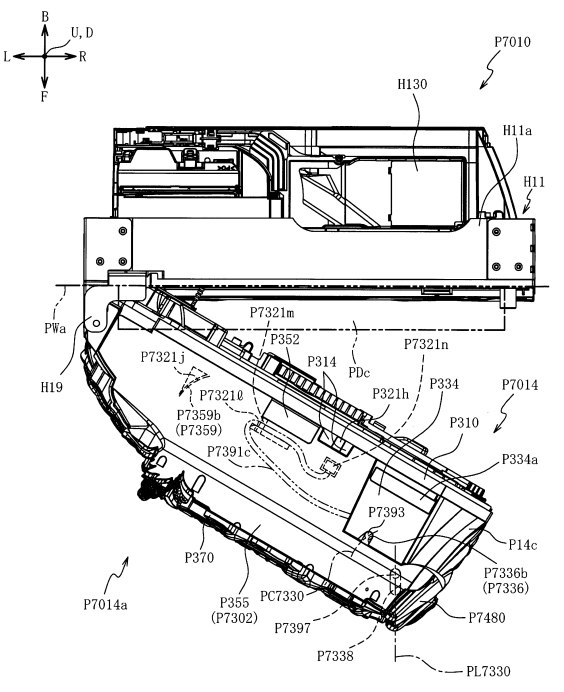
【図４０６】



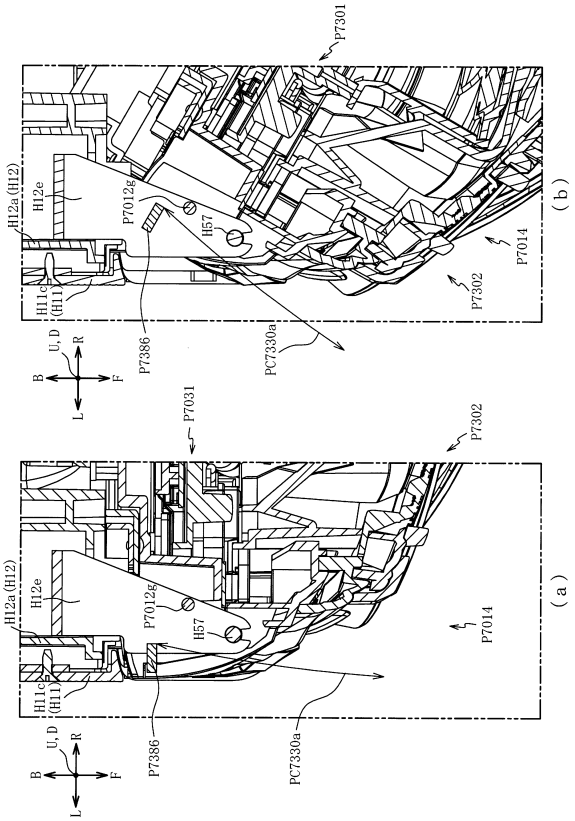
【図４０７】



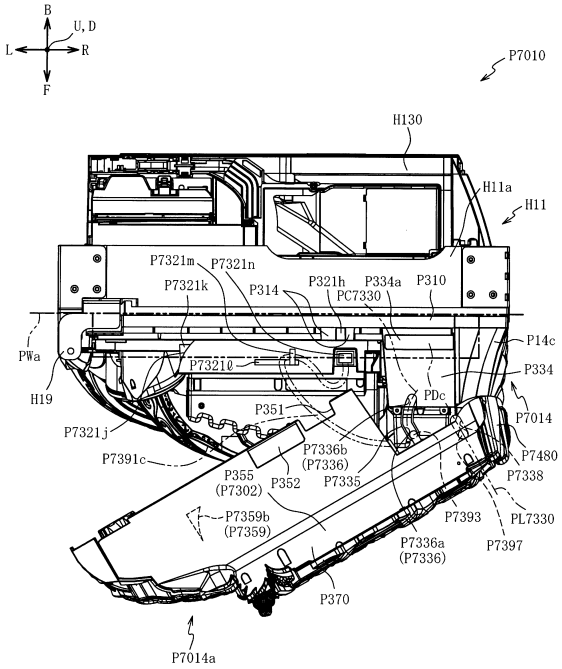
【図４０８】



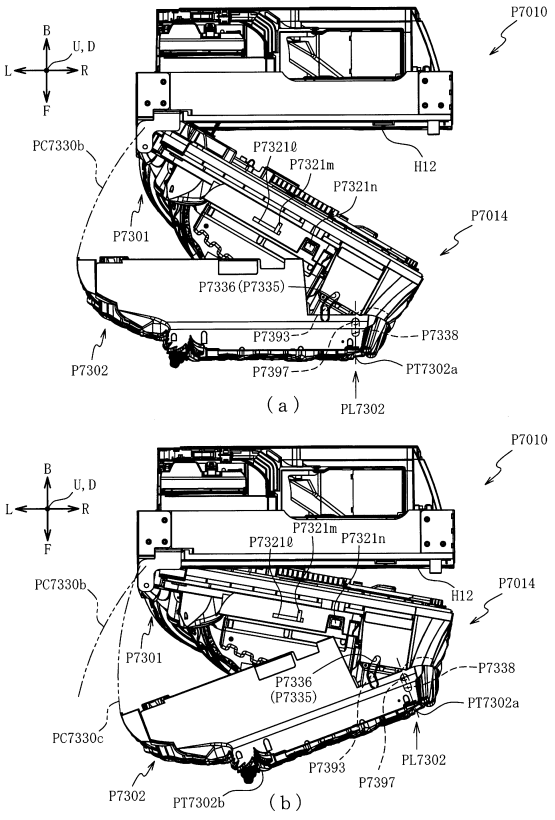
【図４０９】



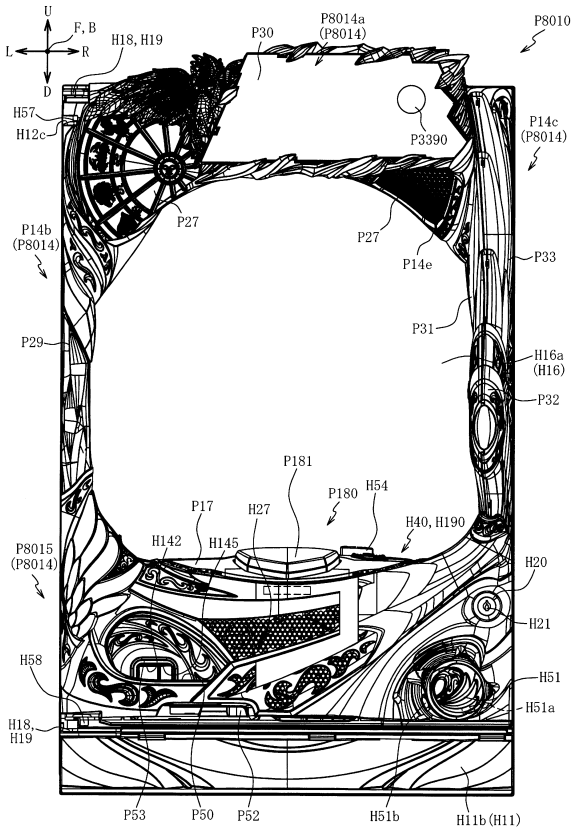
【図４１０】



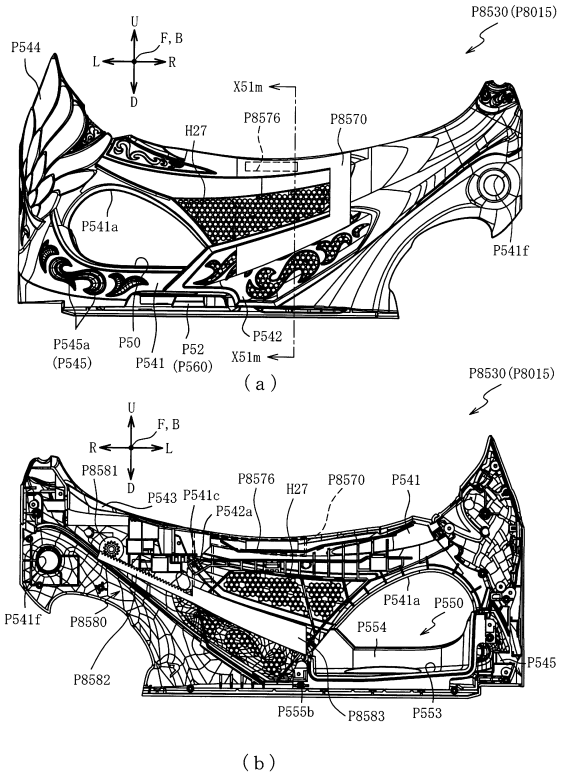
【図４１１】



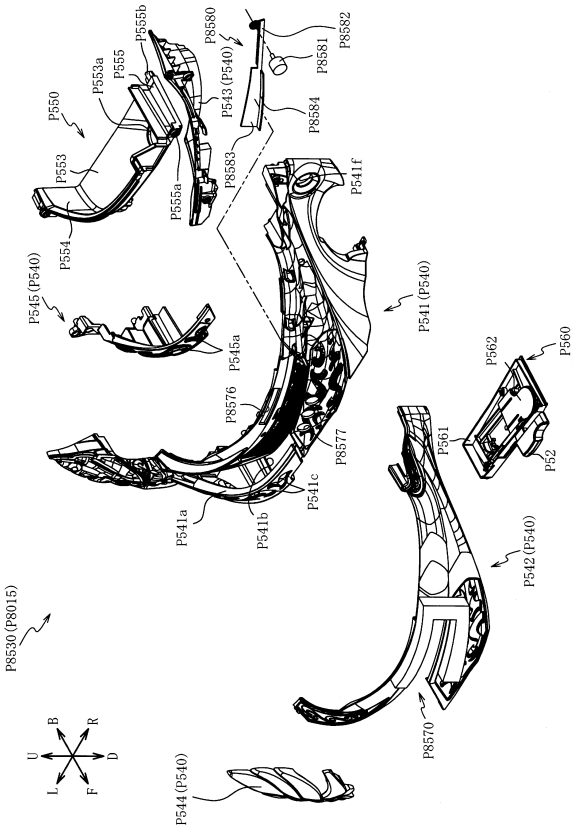
【図４１２】



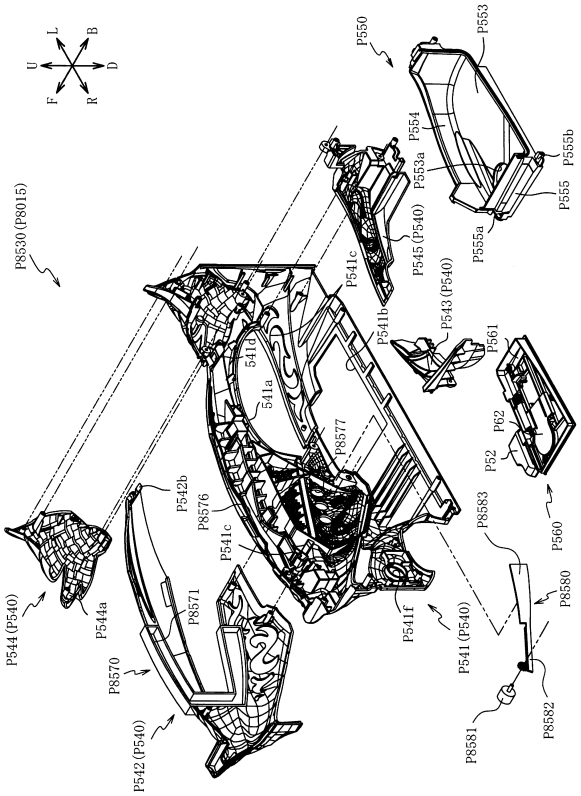
【図４１３】



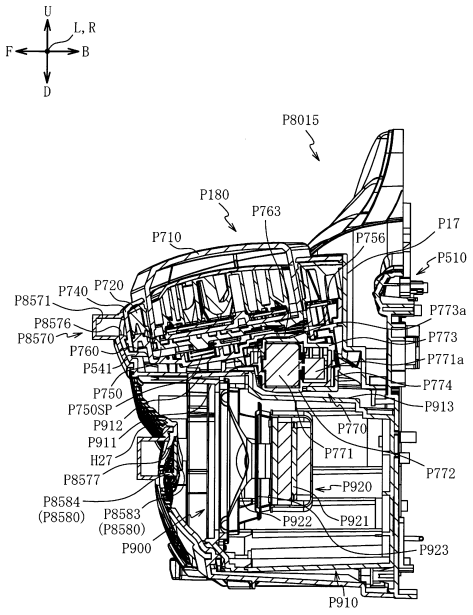
【図４１４】



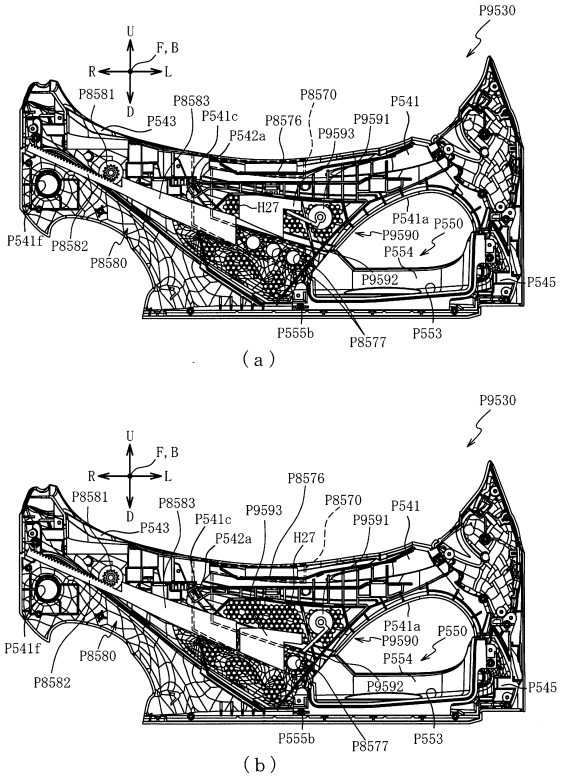
【図４１５】



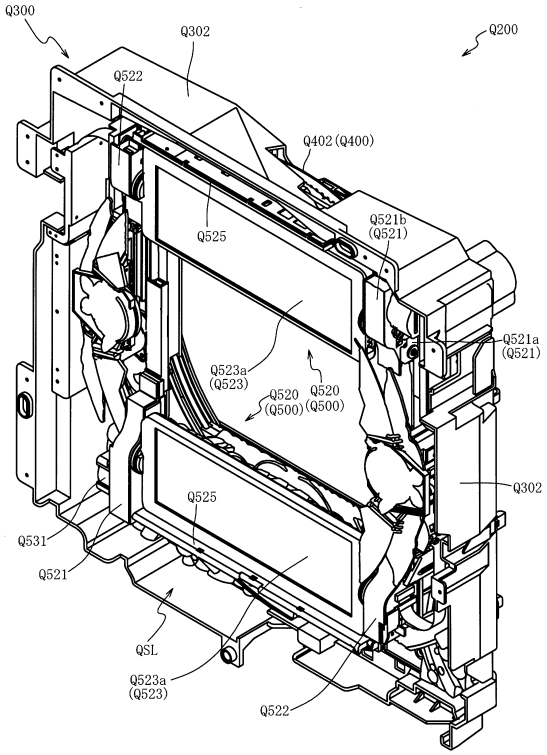
【図４１６】



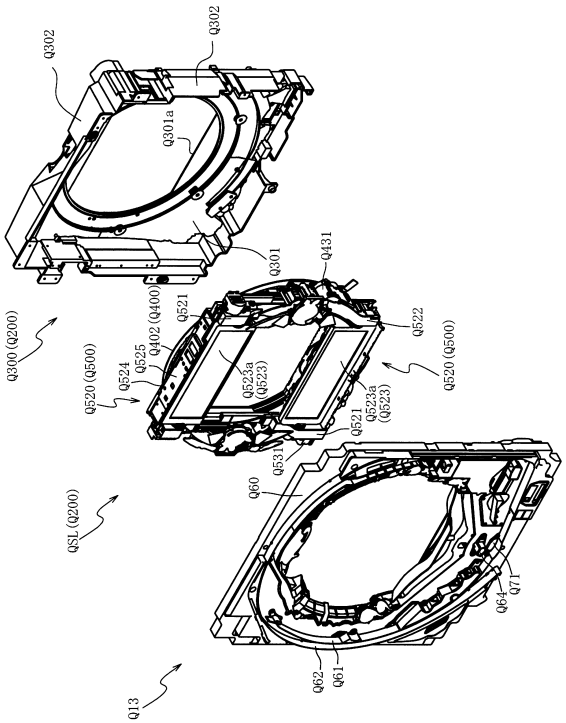
【図４１７】



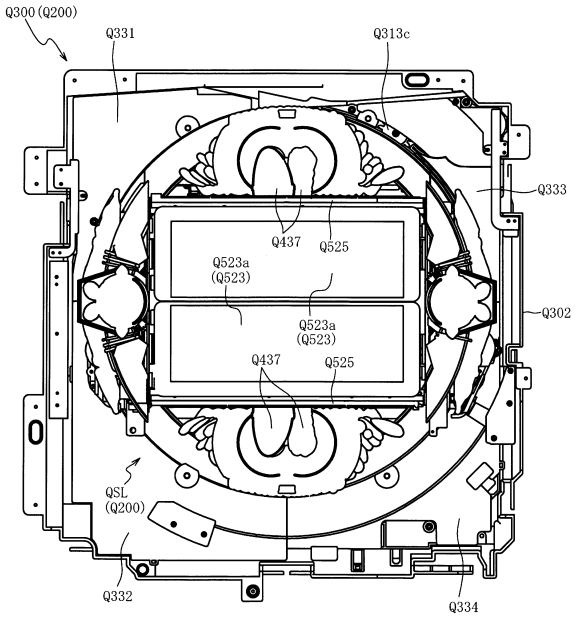
【図４１８】



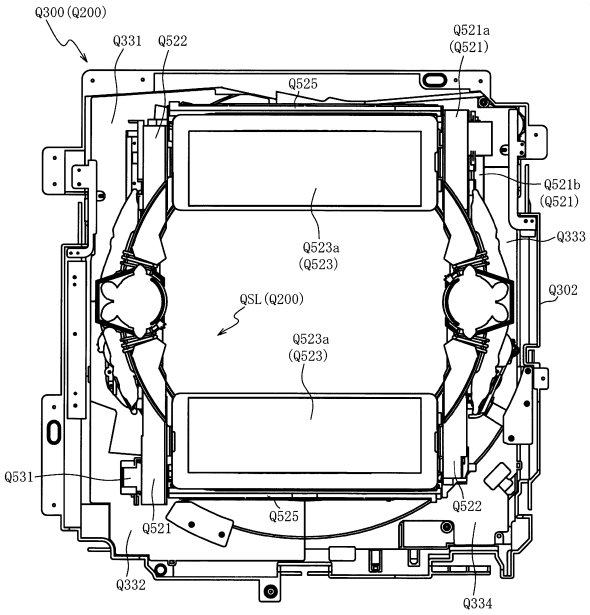
【図４１９】



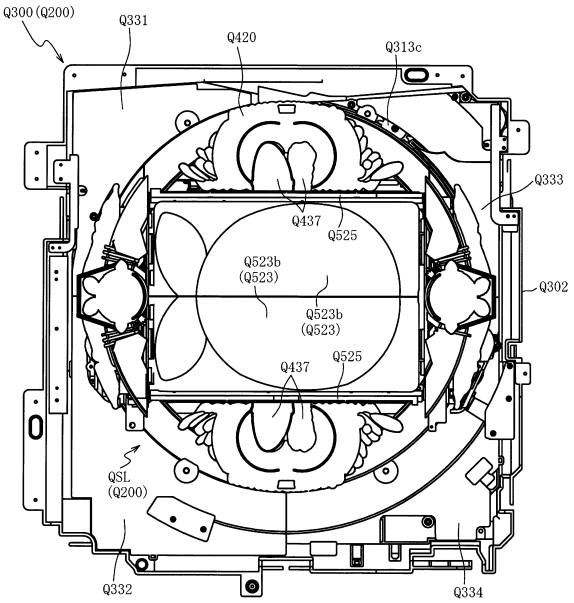
【図４２０】



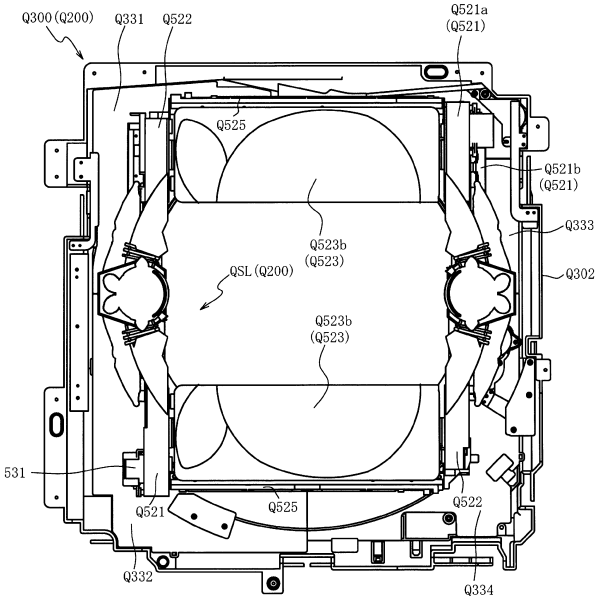
【図４２１】



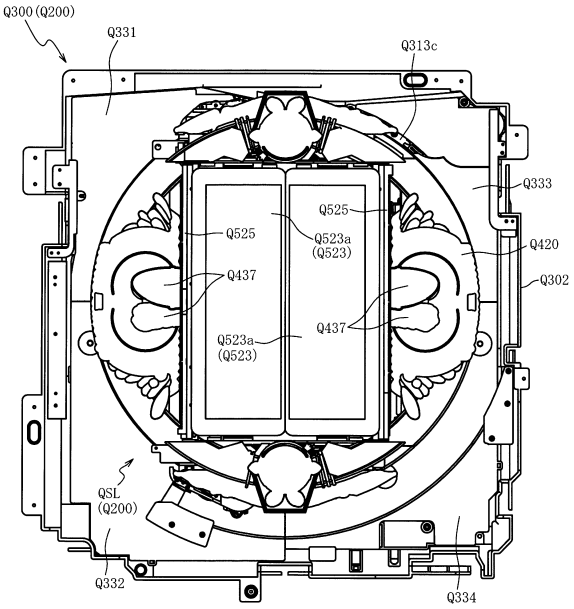
【図４２２】



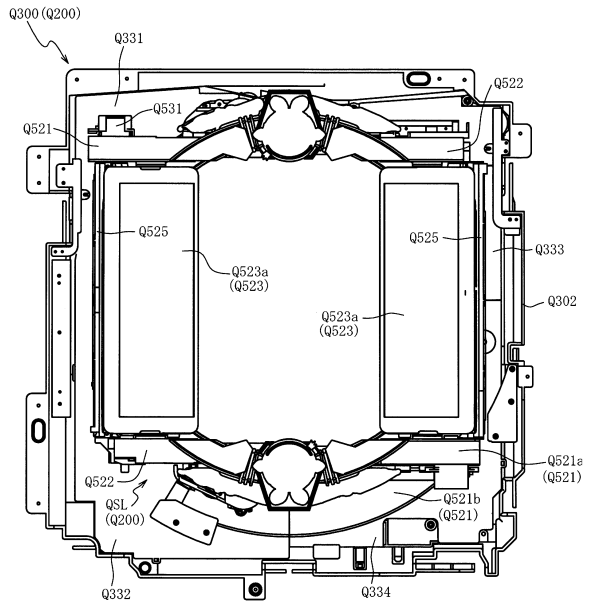
【図４２３】



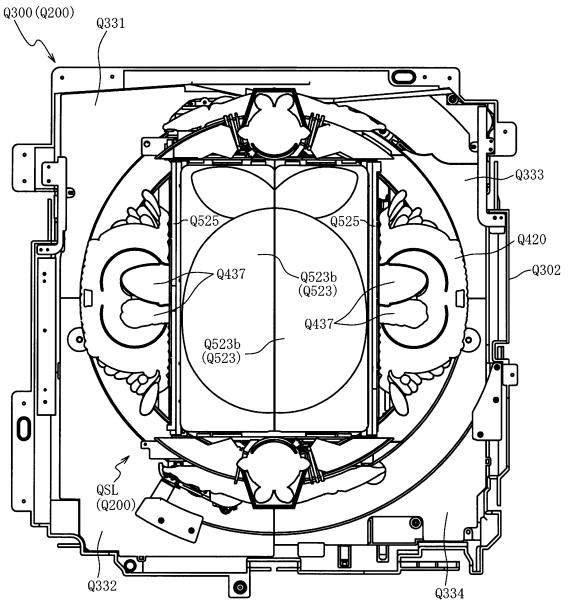
【図４２４】



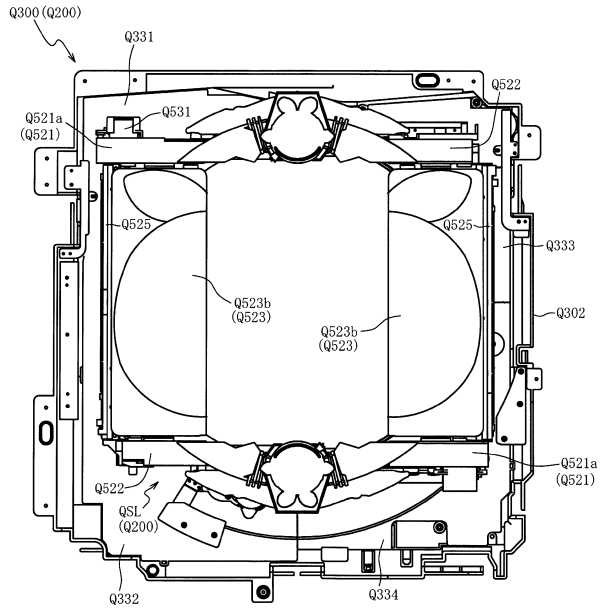
【図４２５】



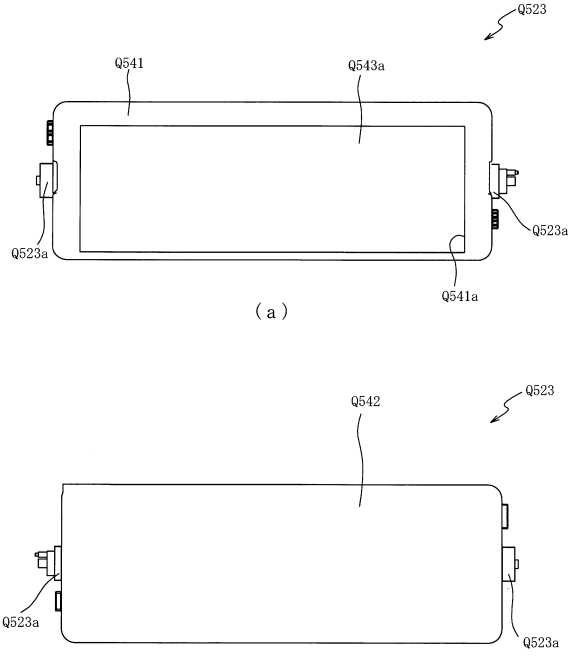
【図４２６】



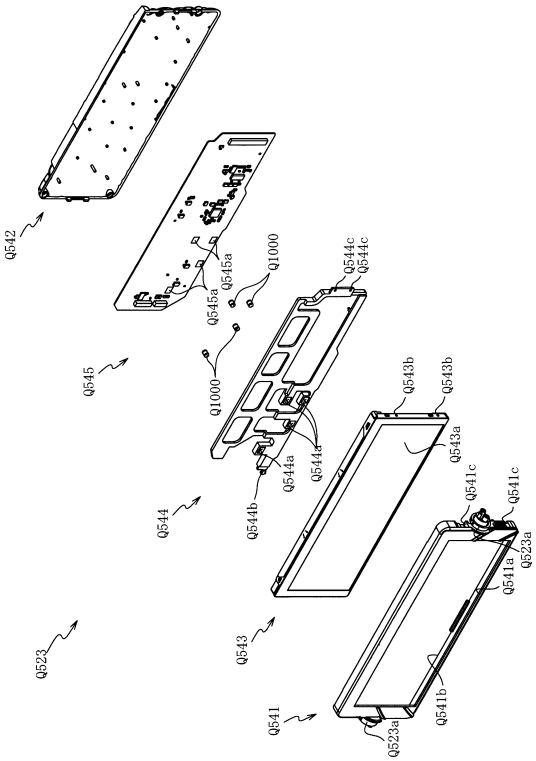
【図４２７】



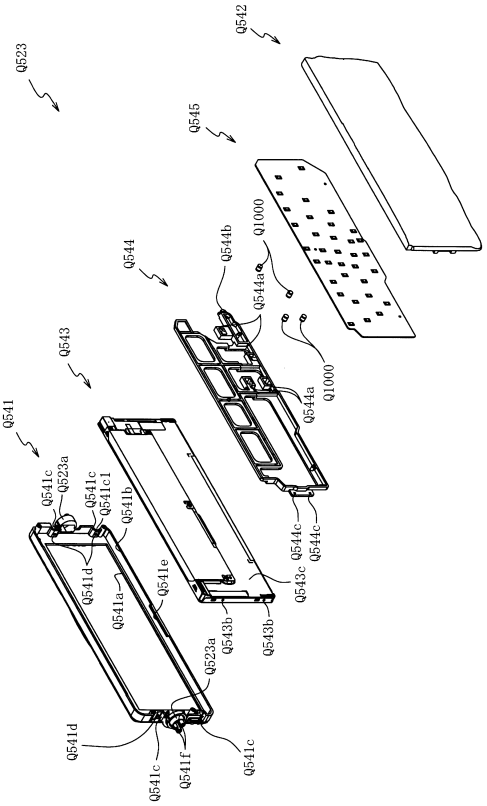
【図４２８】



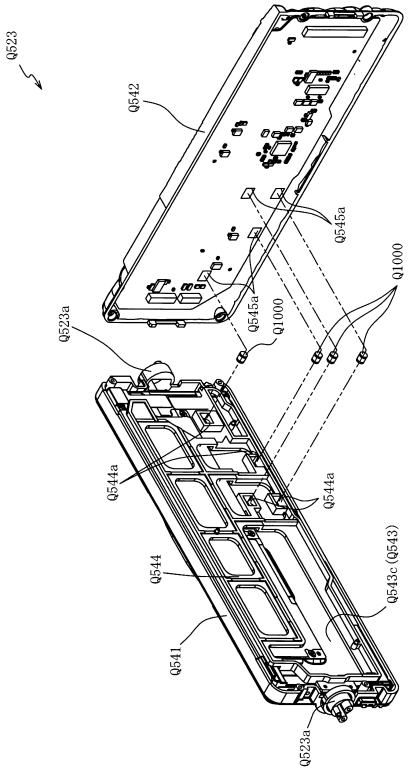
【図４２９】



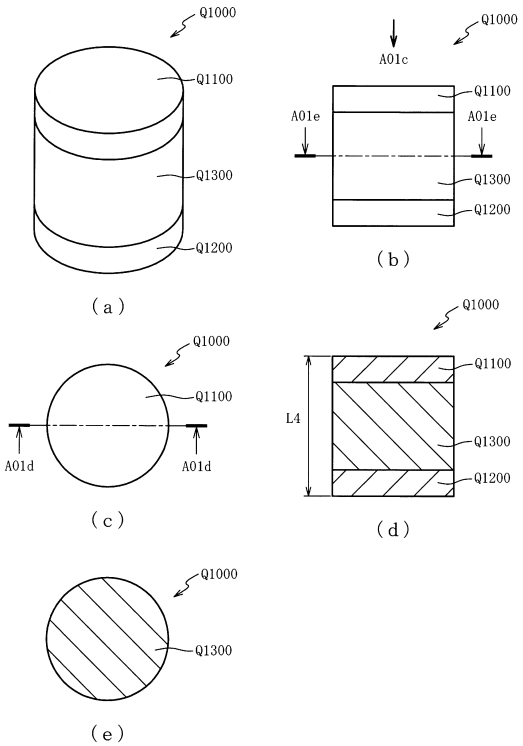
【図４３０】



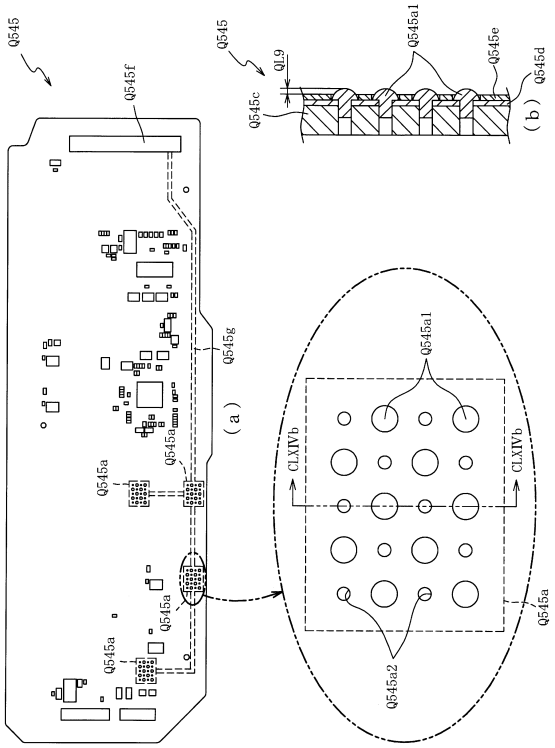
【図４３１】



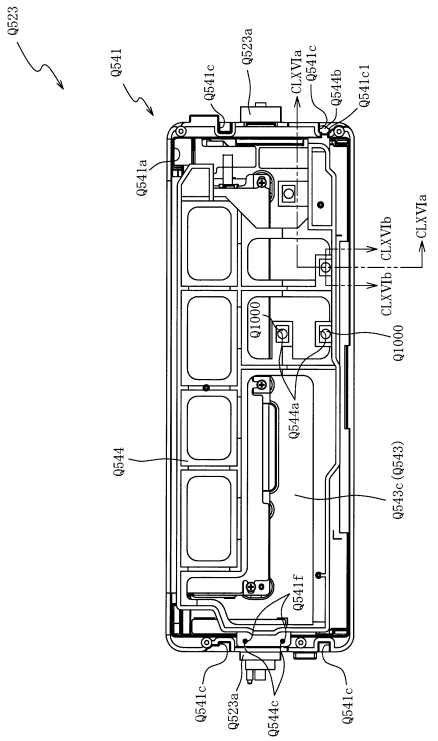
【図４３２】



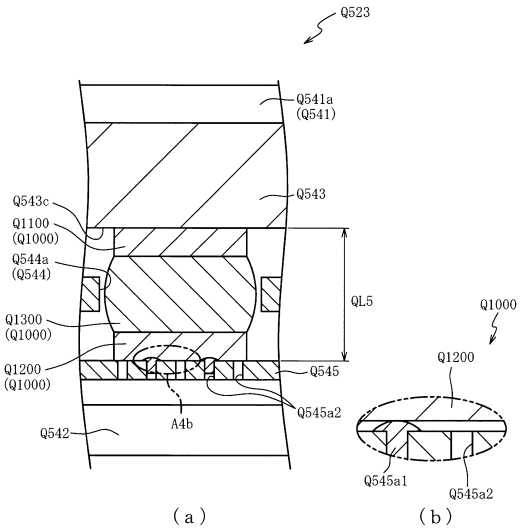
【図４３３】



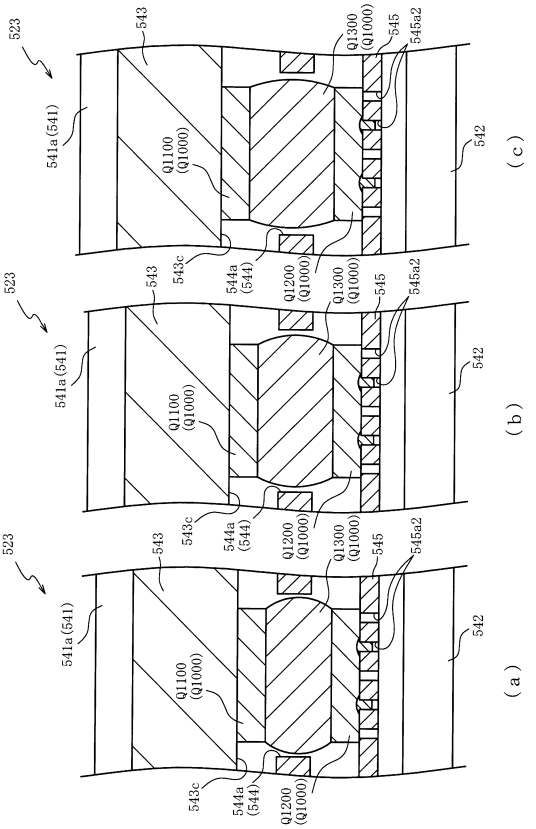
【図４３４】



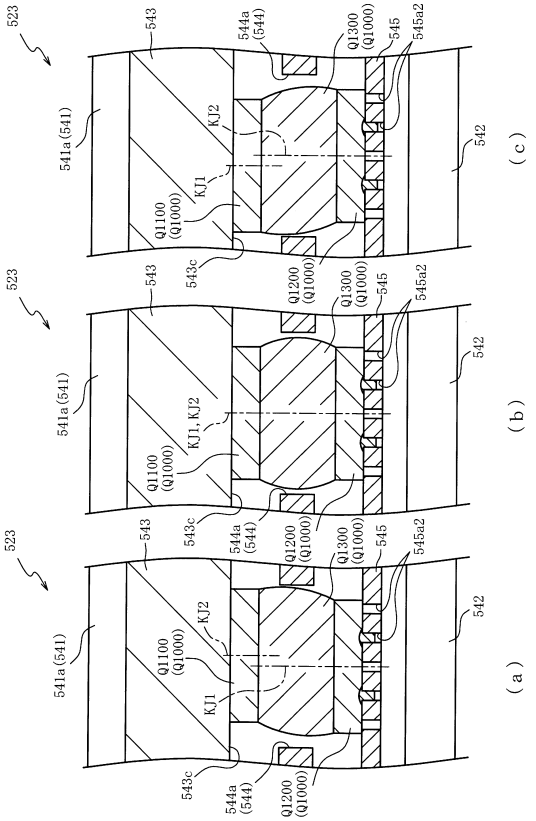
【図４３５】



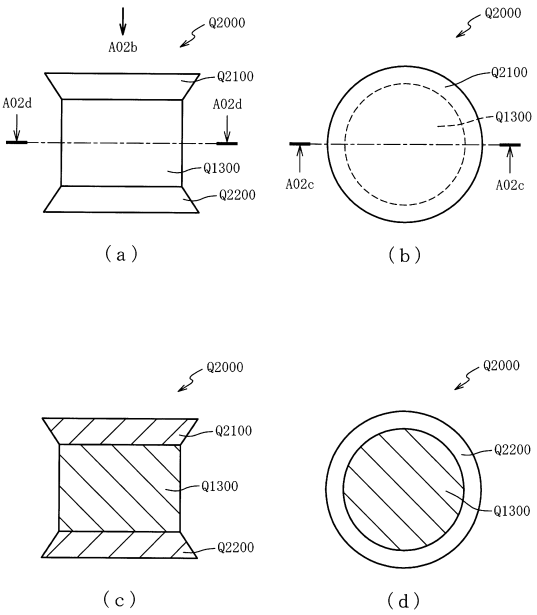
【図４３６】



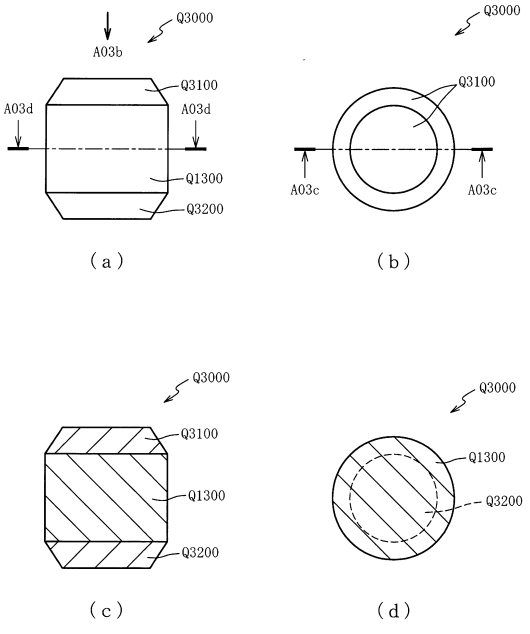
【図４３７】



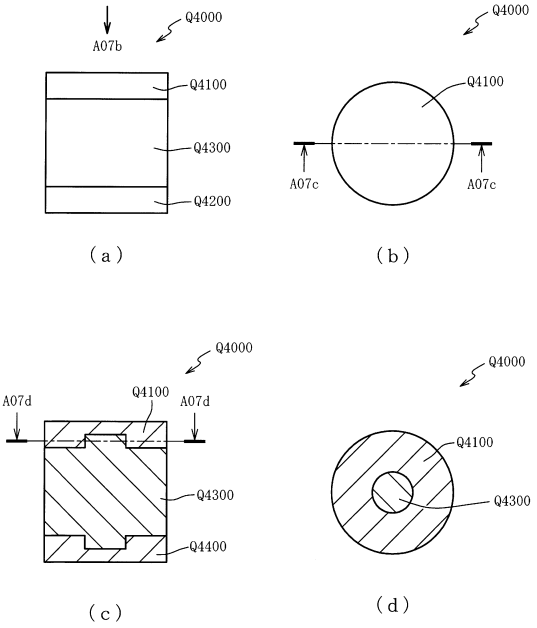
【図４３８】



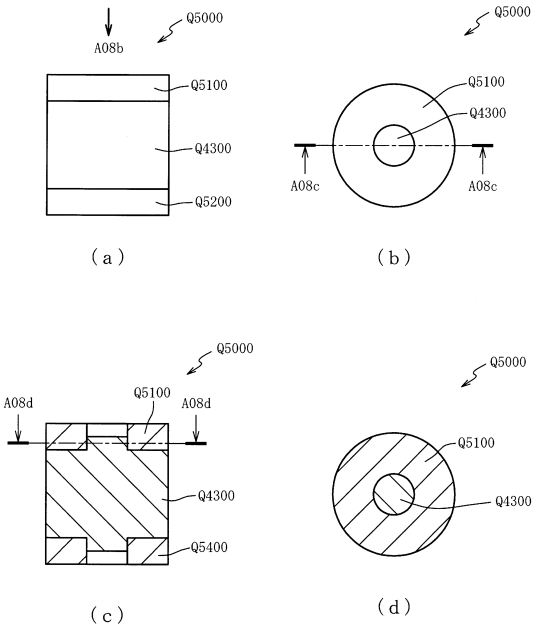
【図４３９】



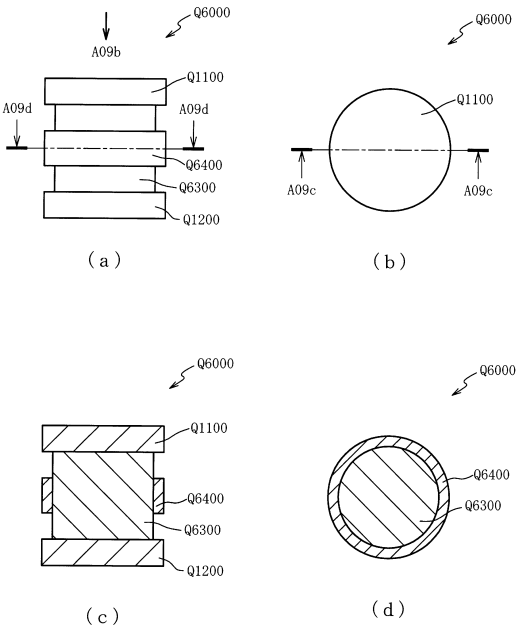
【図４４０】



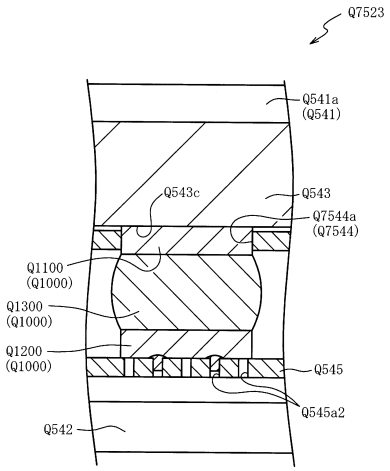
【図４４１】



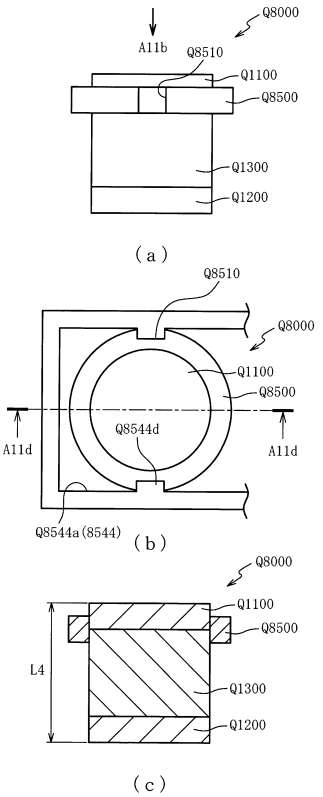
【図４４２】



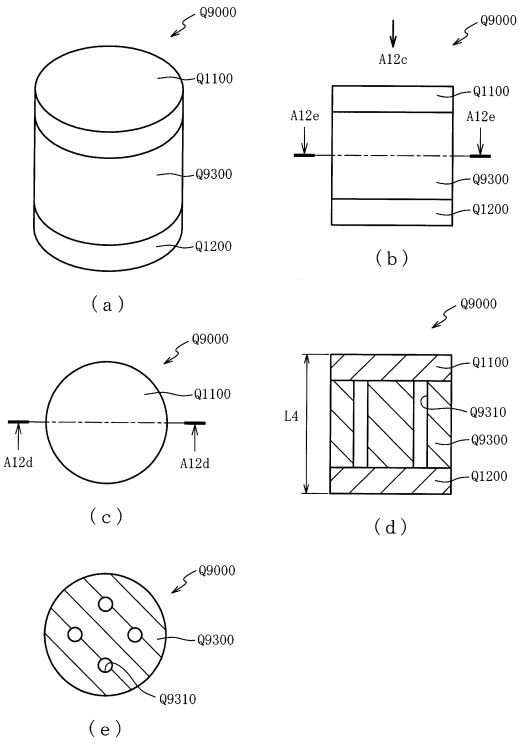
【図４４３】



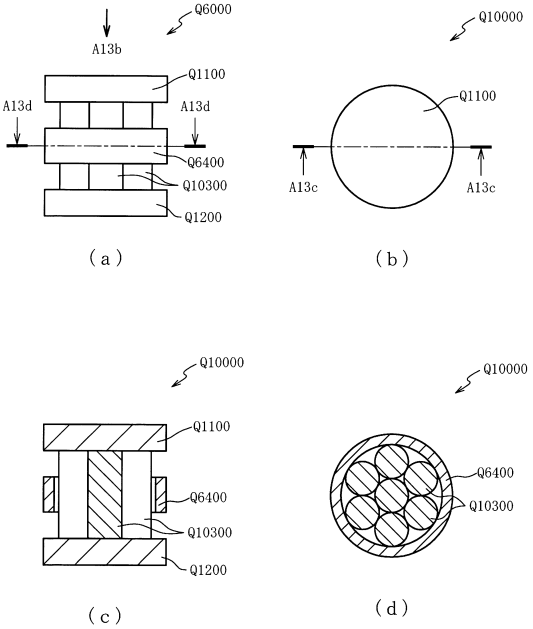
【図４４４】



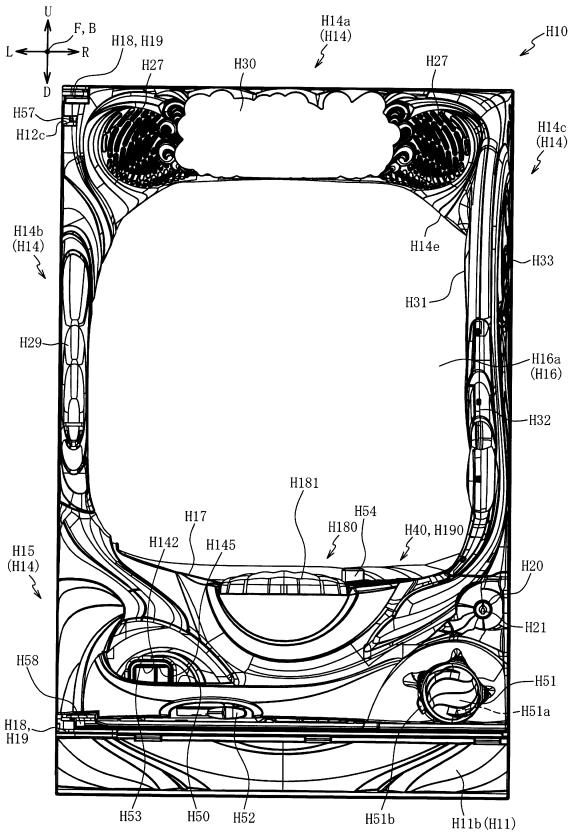
【図４４５】



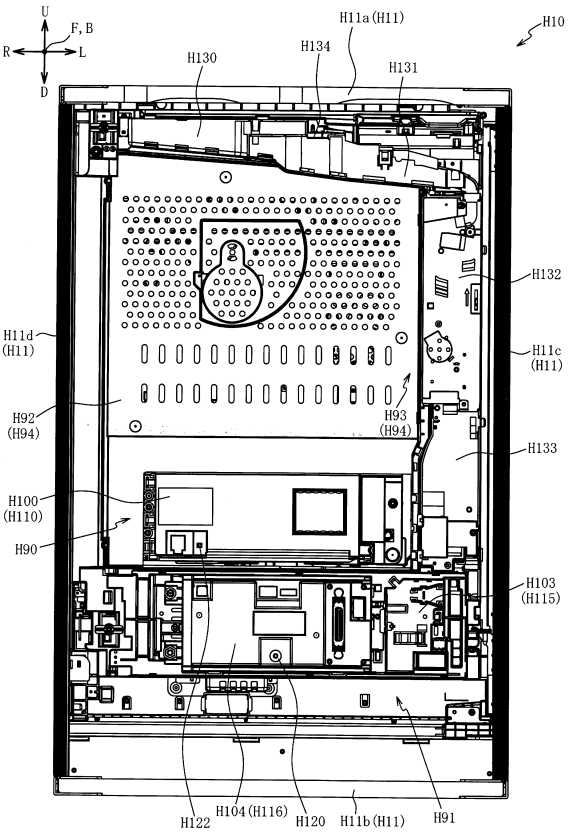
【図４４６】



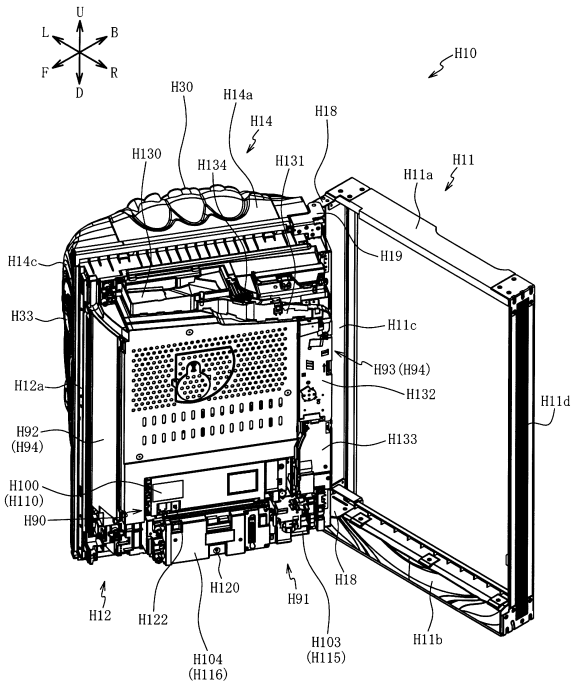
【図４４７】



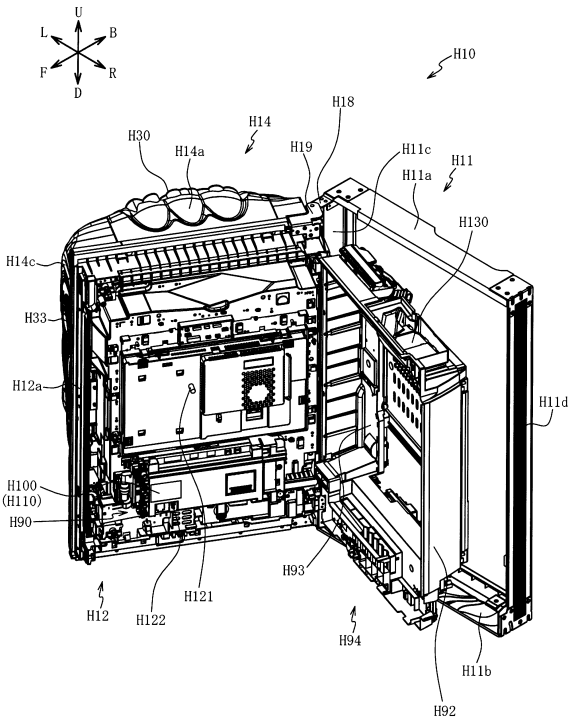
【図４４８】



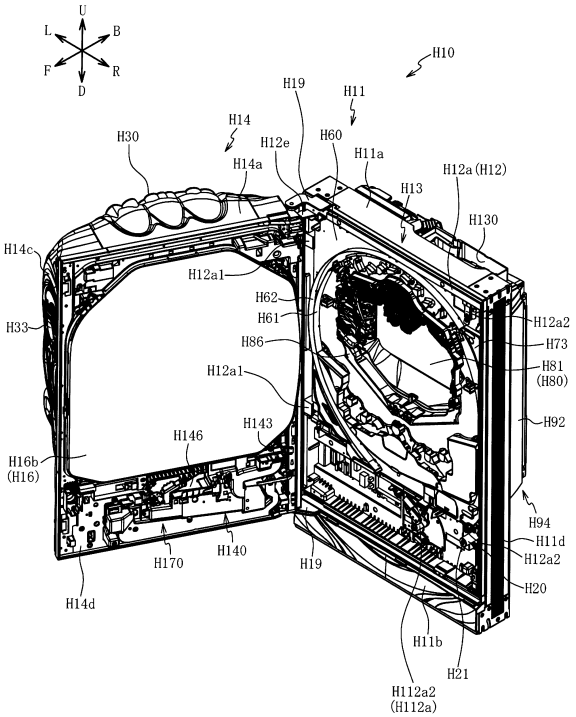
【図４４９】



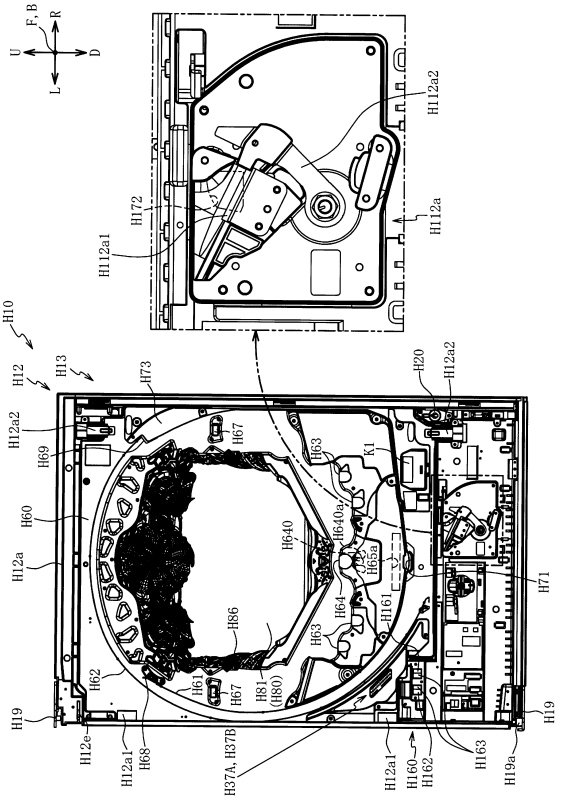
【図４５０】



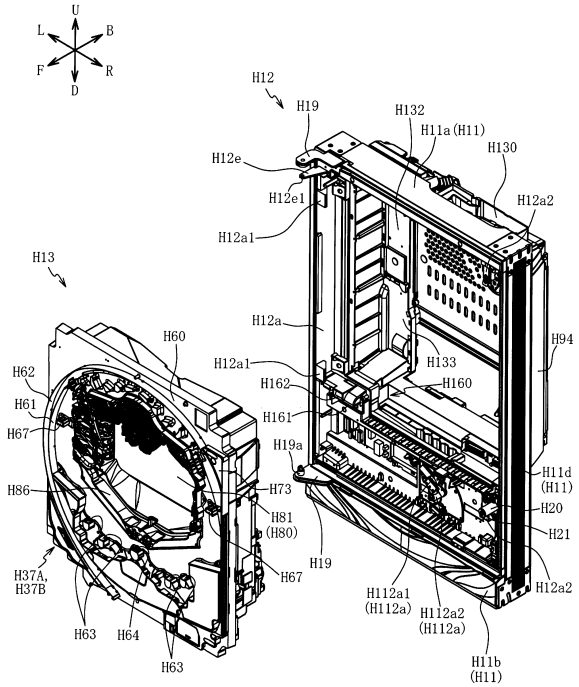
【図４５１】



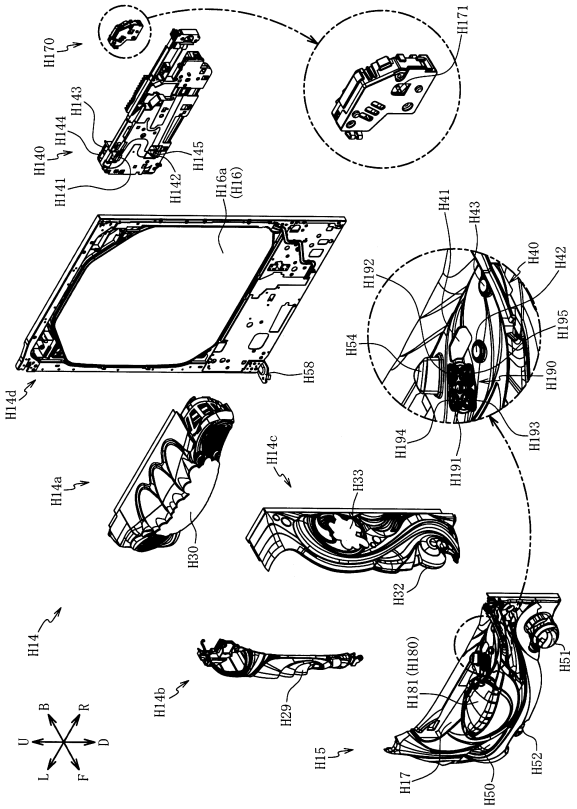
【図４５２】



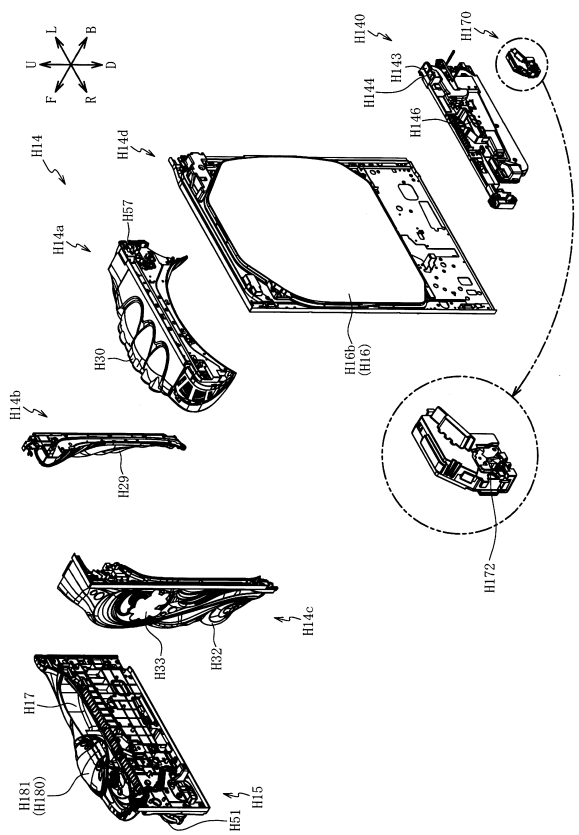
【図４５３】



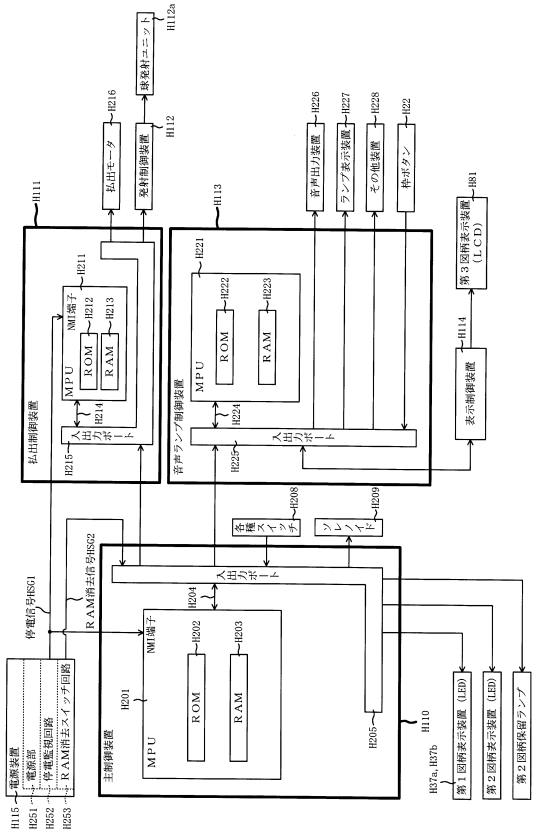
【図４５４】



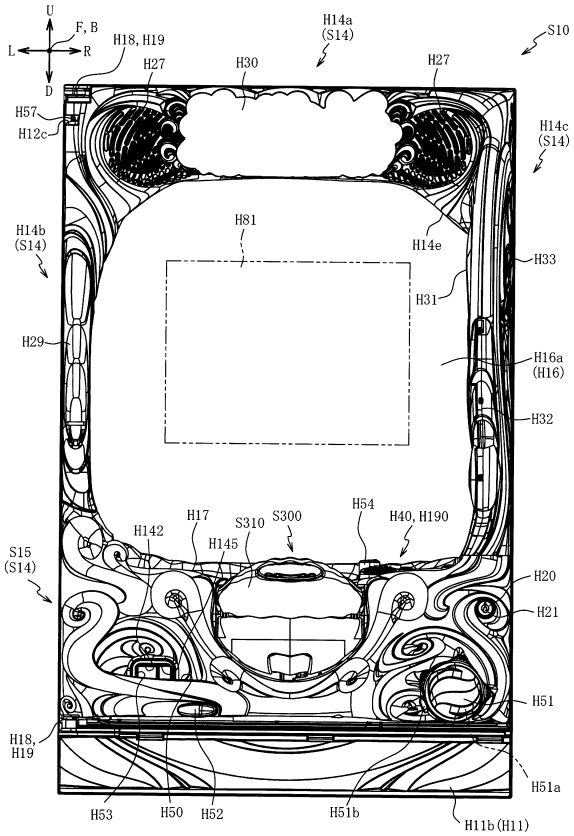
【図４５５】



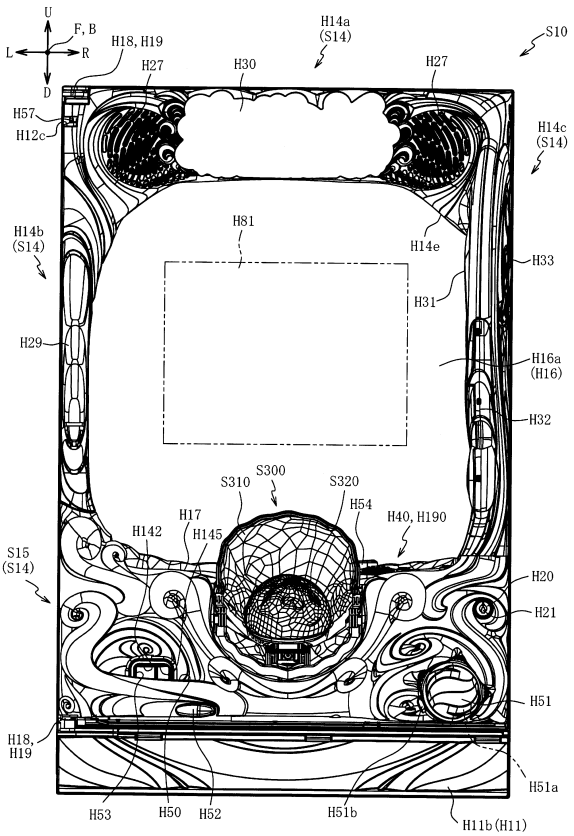
【図４５６】



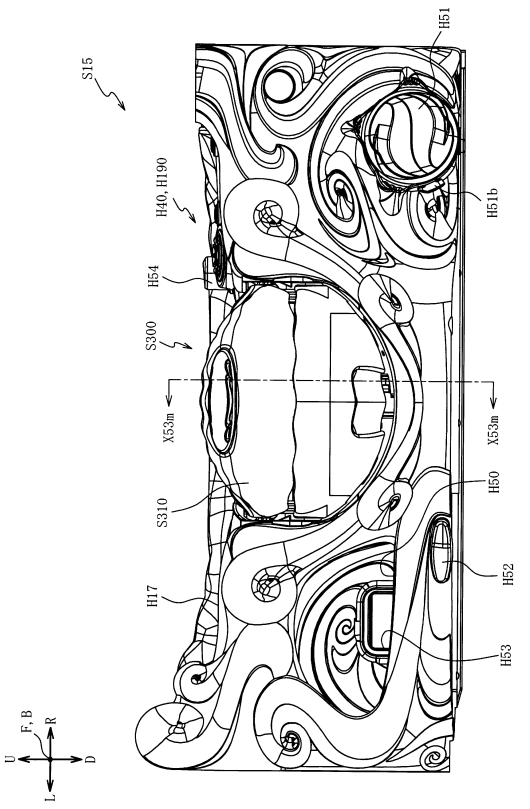
【図４５７】



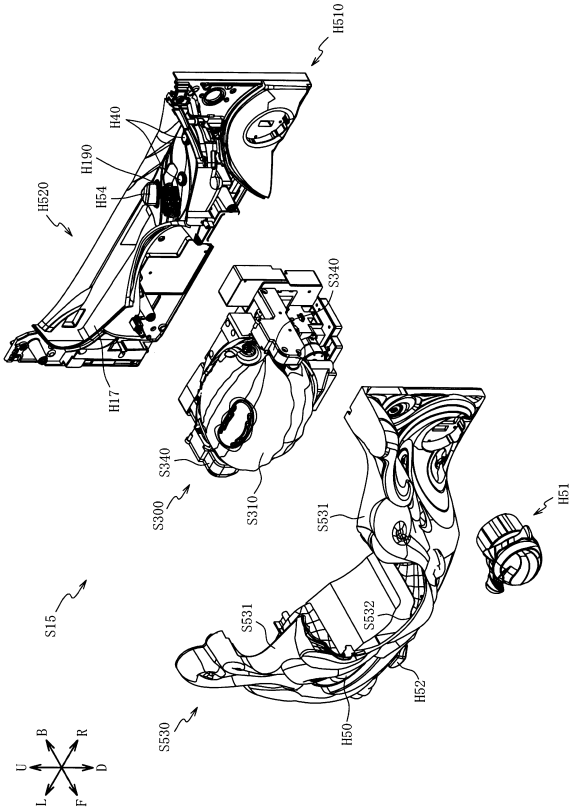
【図４５８】



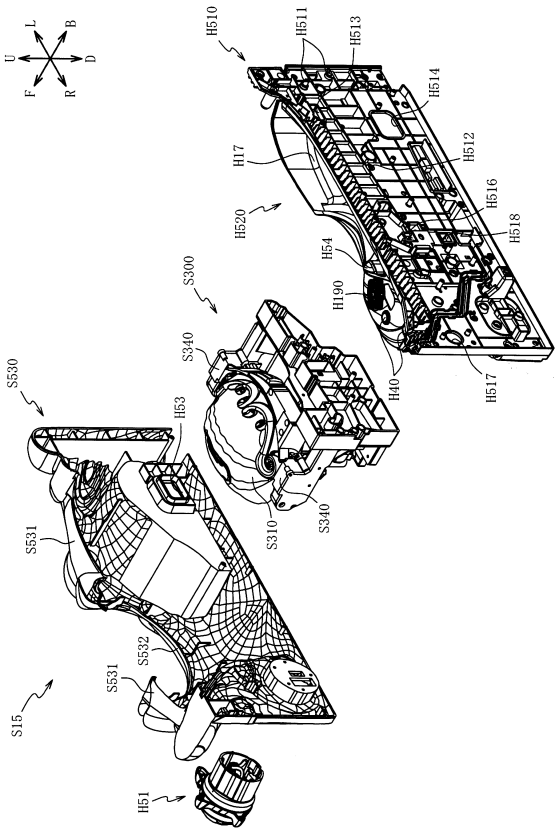
【図４５９】



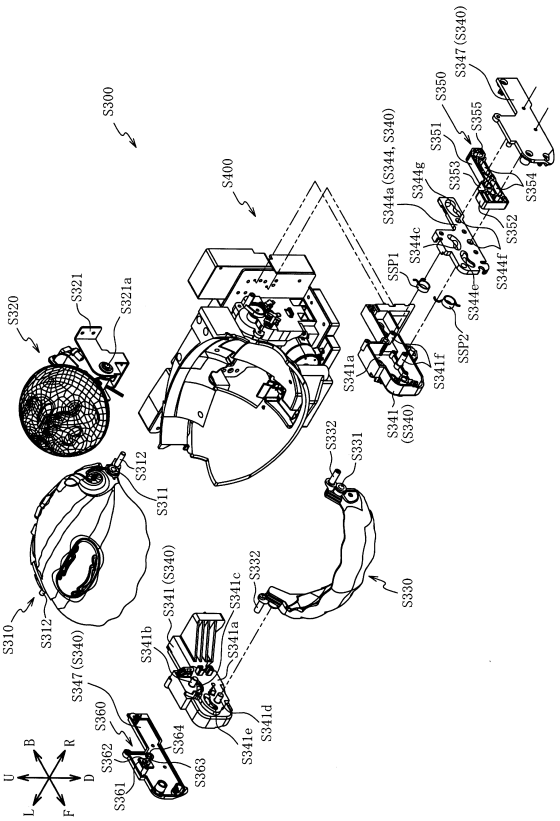
【図４６０】



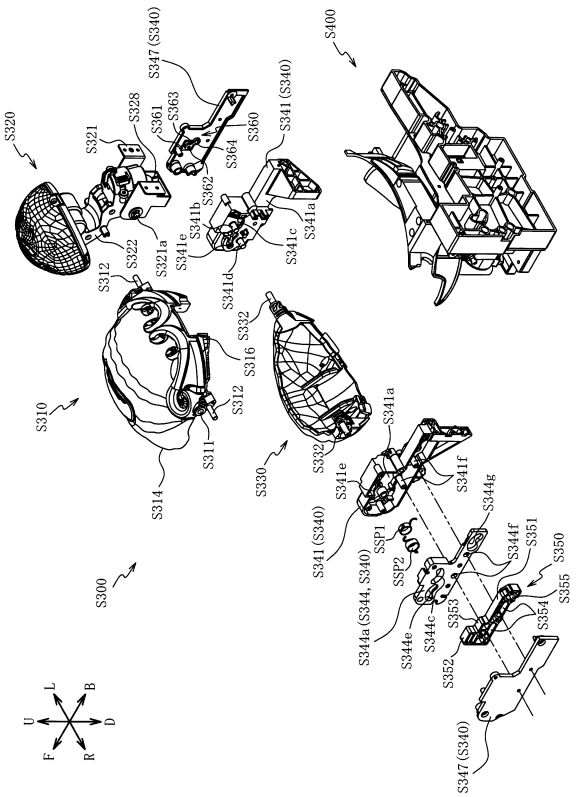
【図４６１】



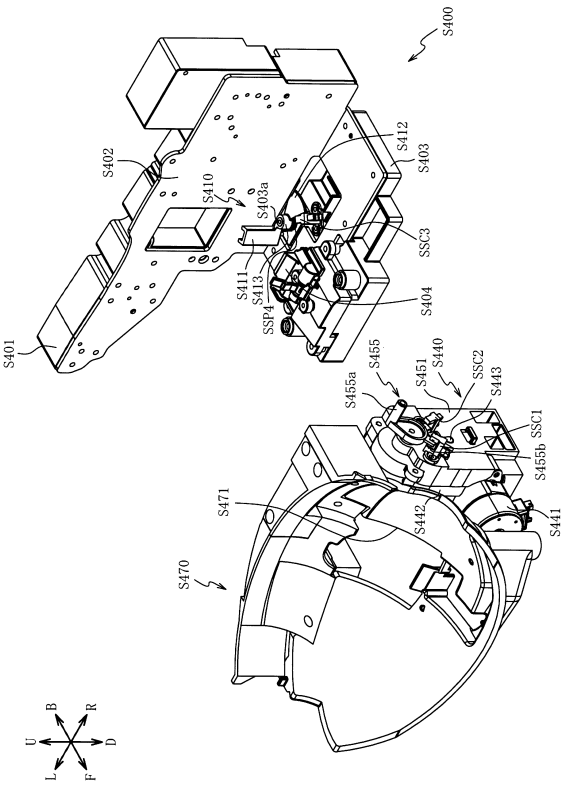
【図４６２】



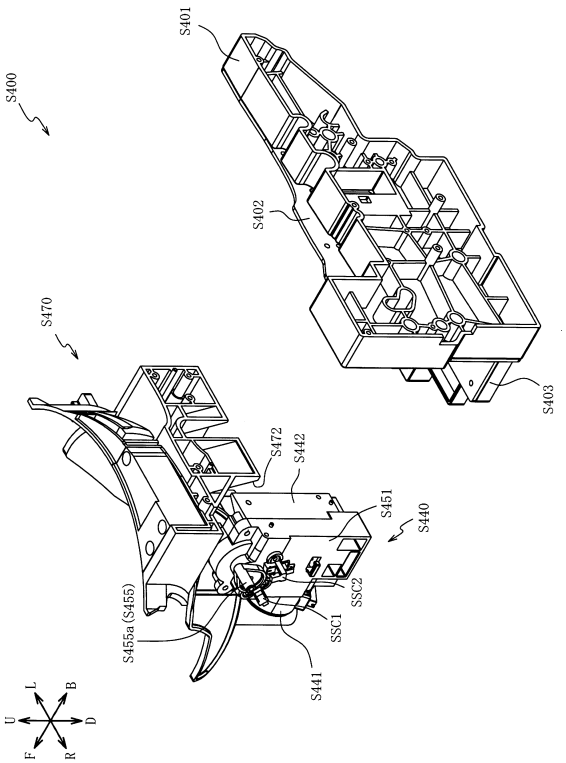
【図４６３】



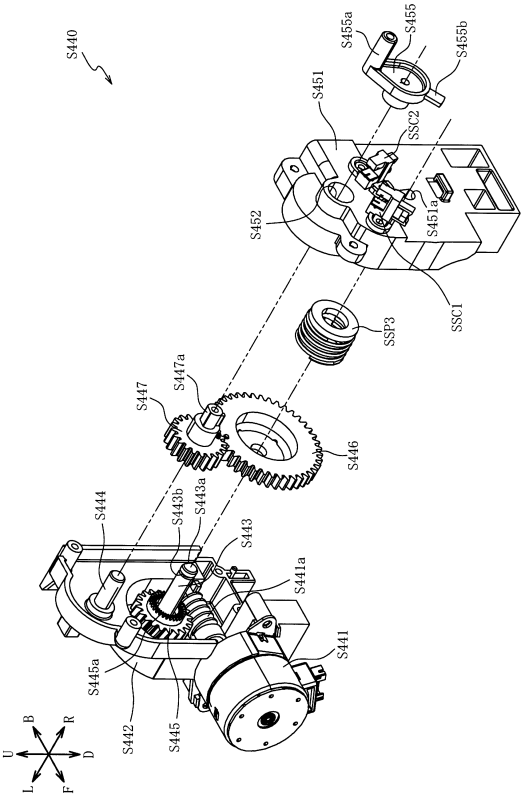
【図４６４】



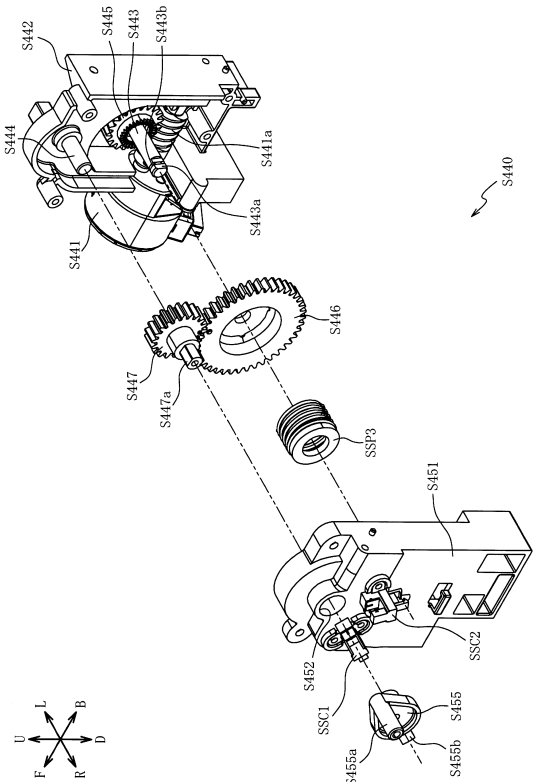
【図４６５】



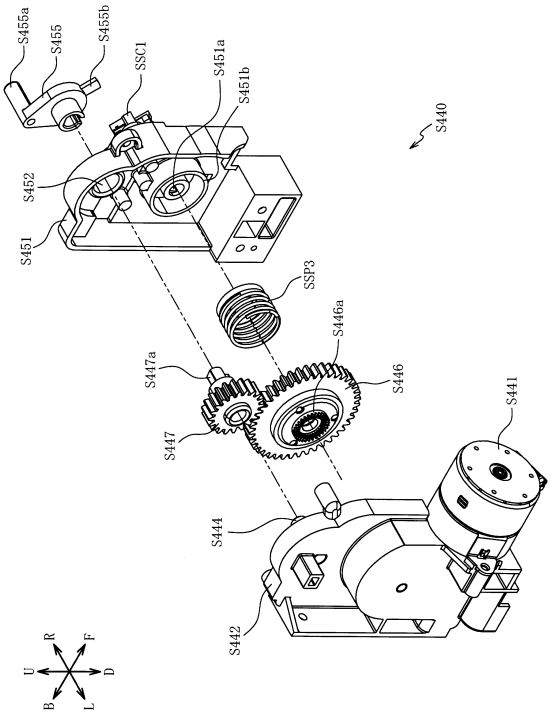
【図４６６】



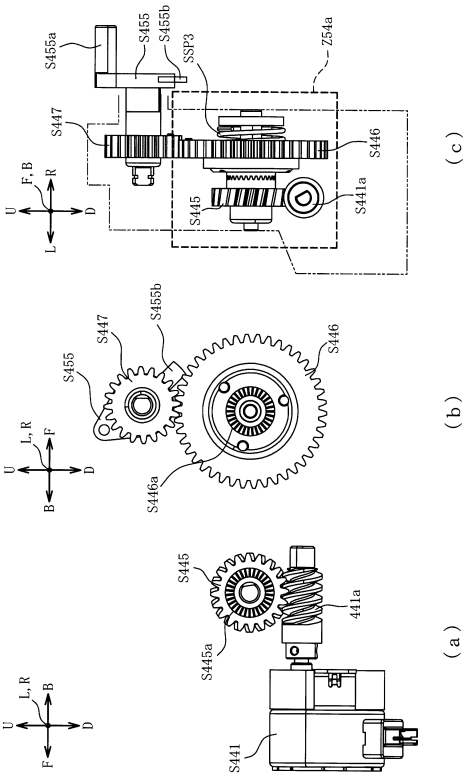
【図４６７】



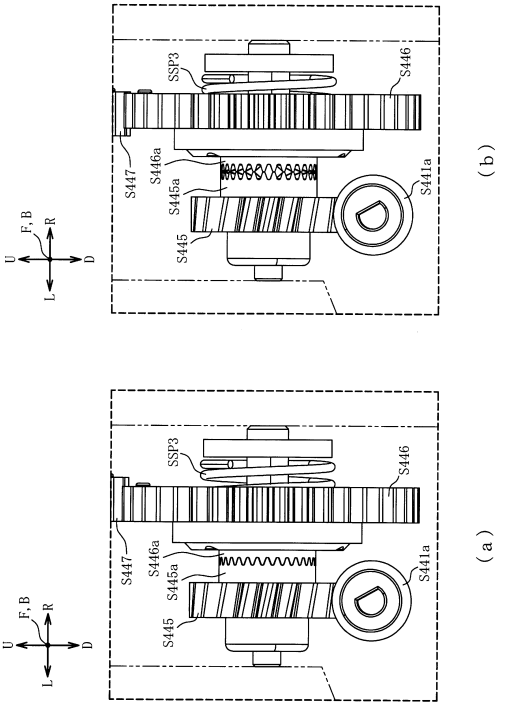
【図４６８】



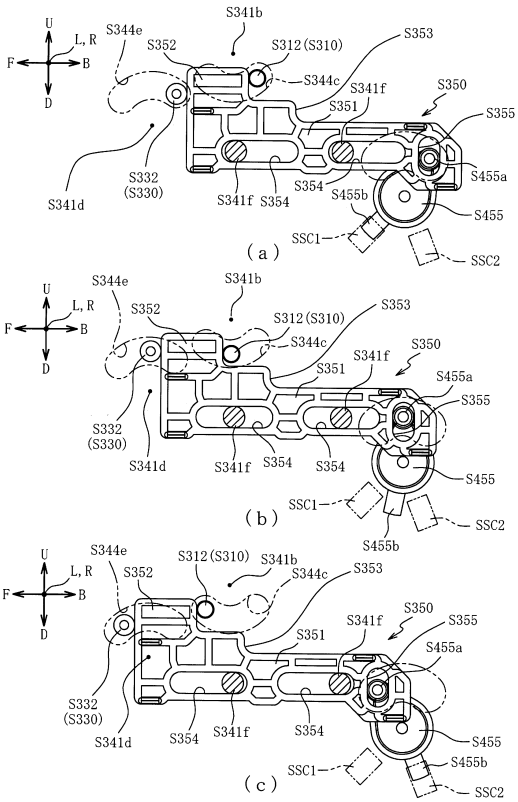
【図４６９】



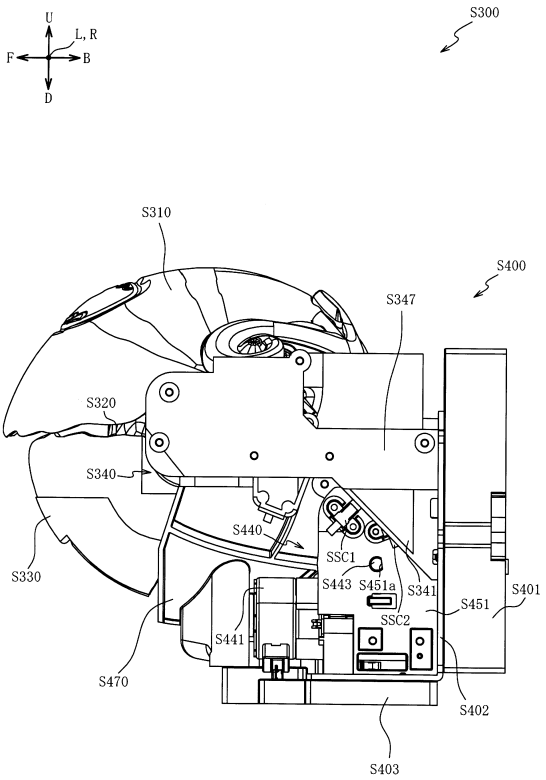
【図４７０】



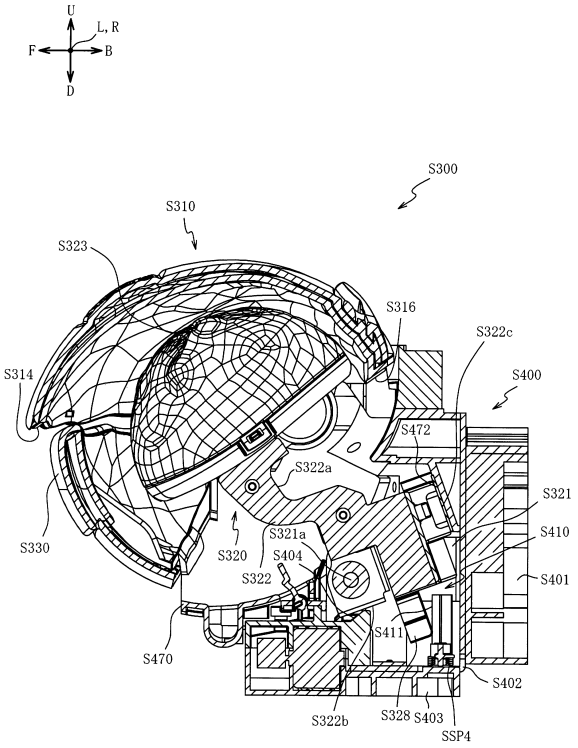
【図４７１】



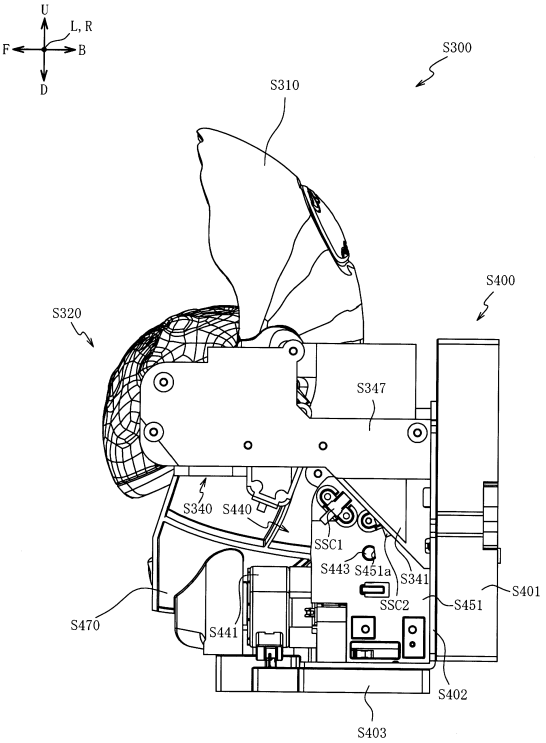
【図４７２】



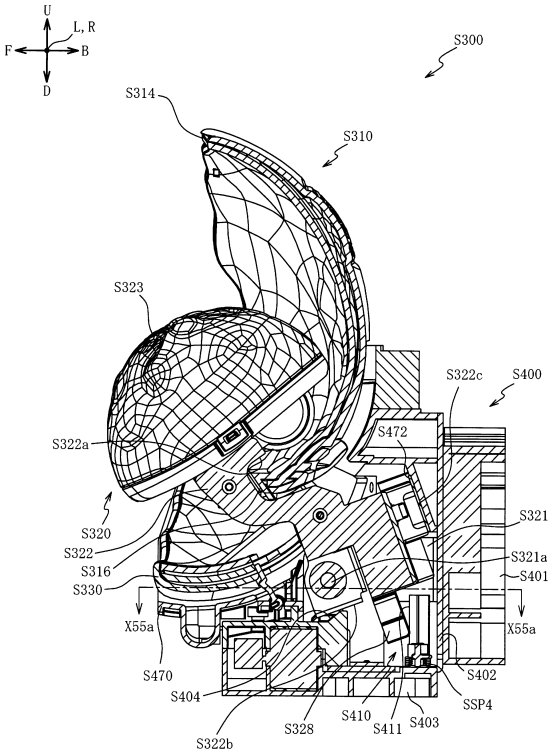
【図４７３】



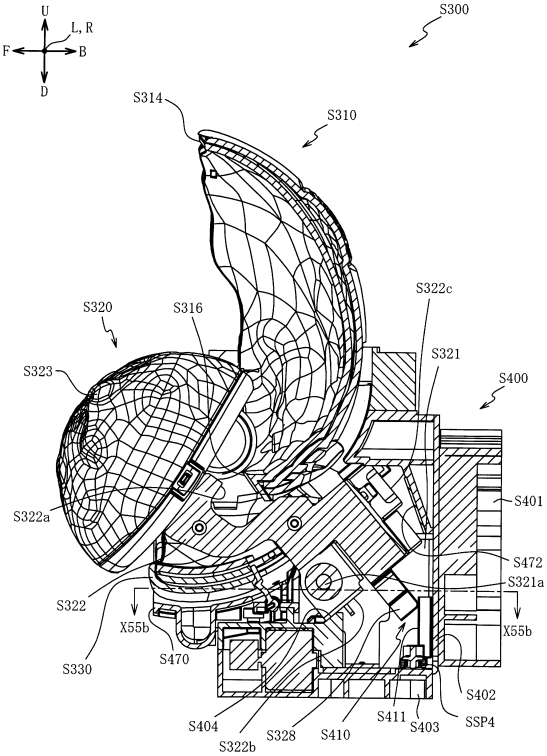
【図４７４】



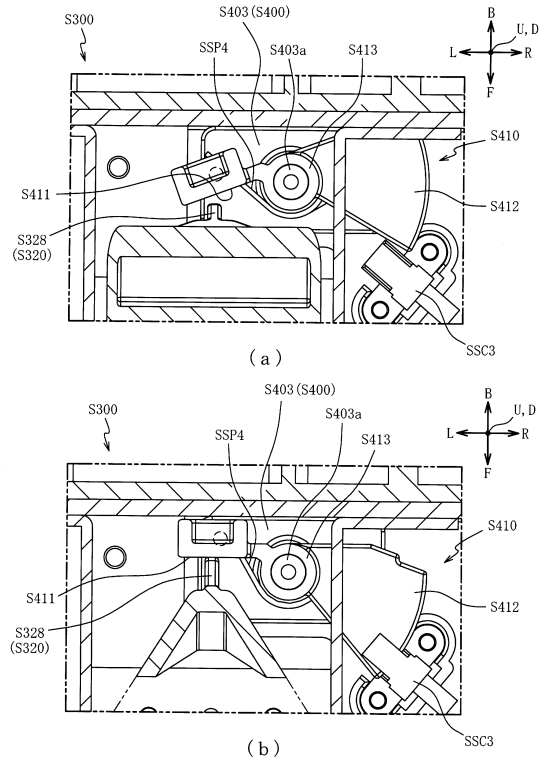
【図４７５】



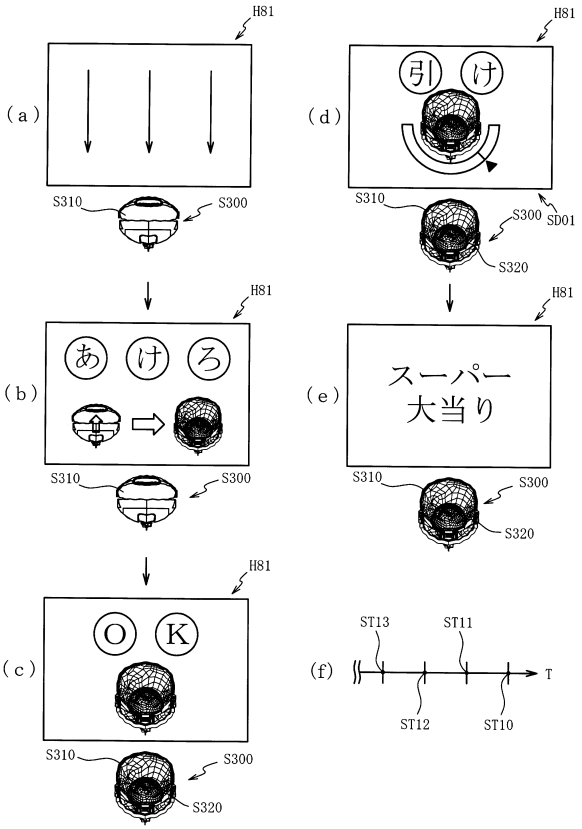
【図４７６】



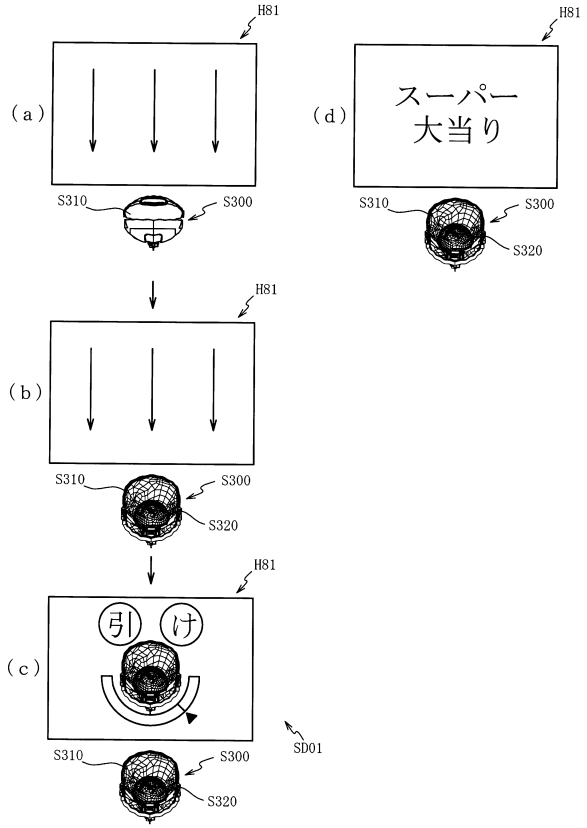
【図４７７】



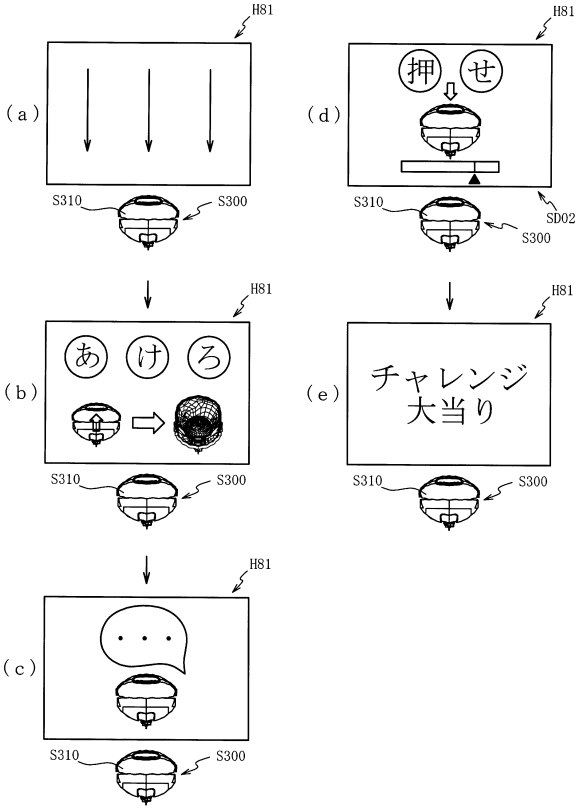
【図４７８】



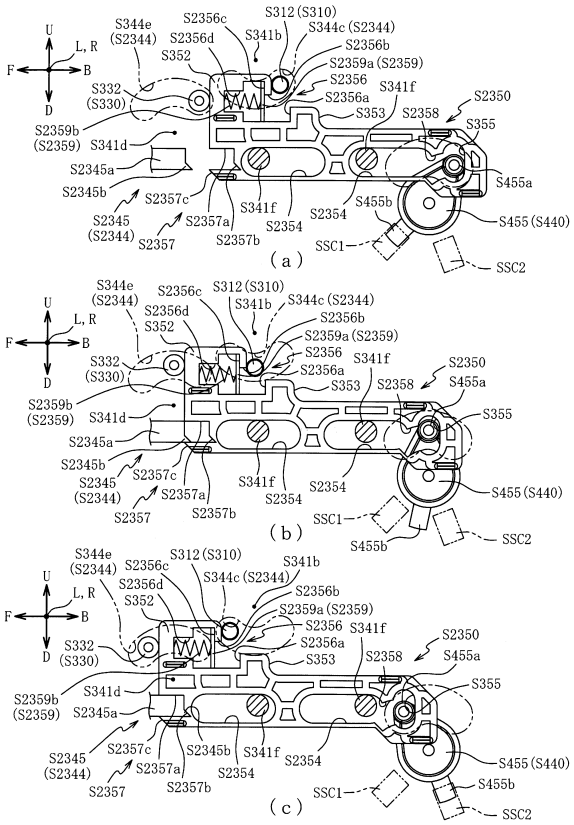
【図４７９】



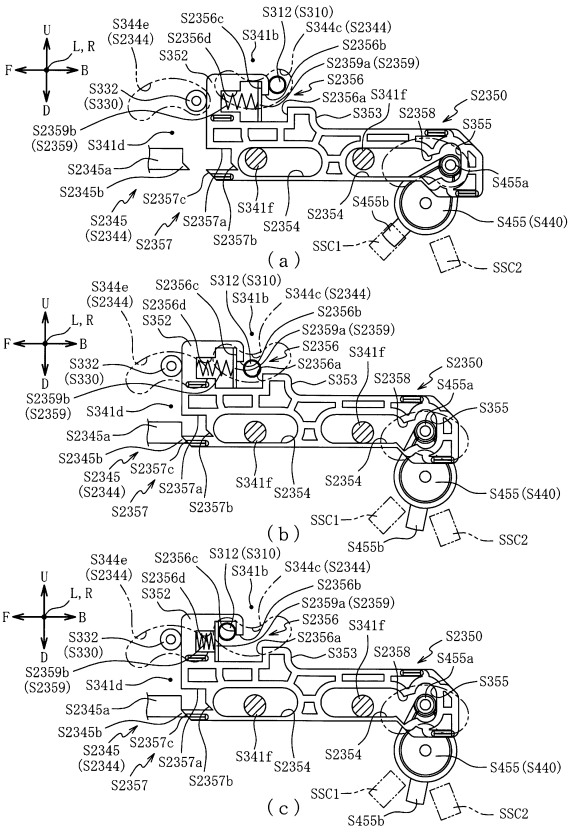
【図４８０】



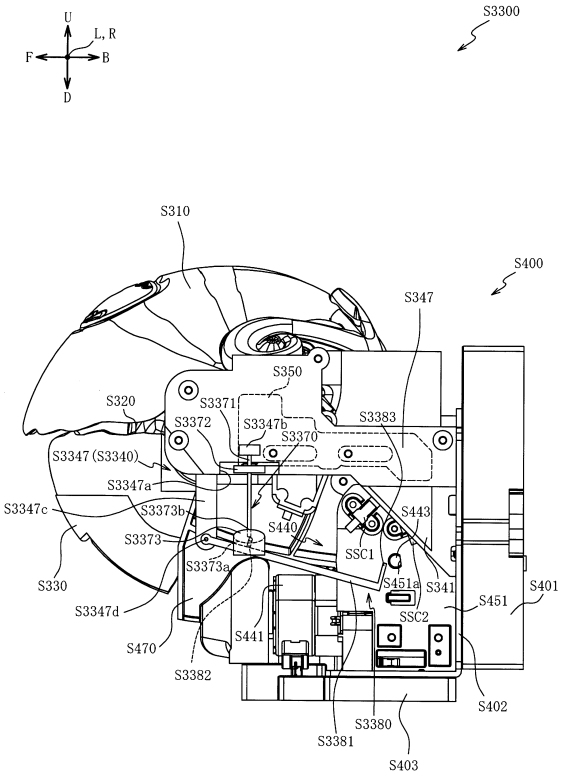
【図４８１】



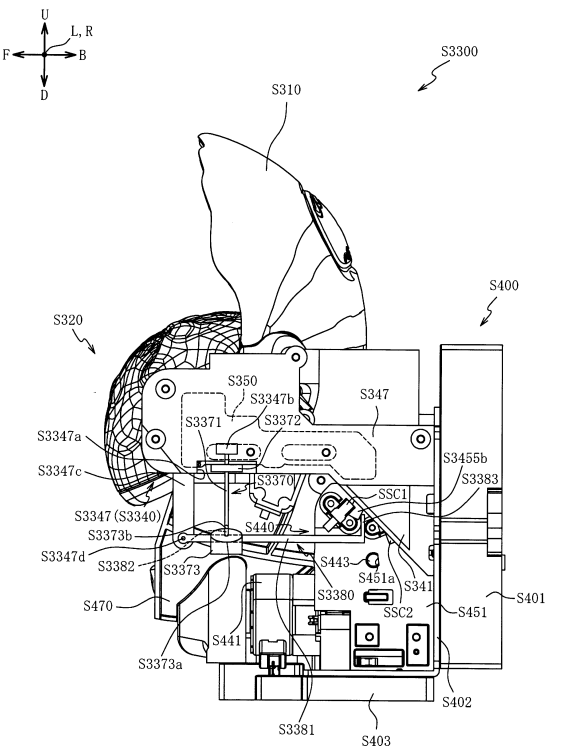
【図４８２】



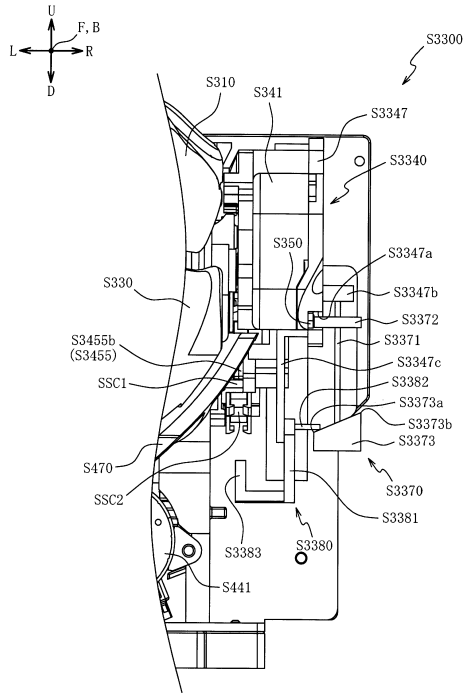
【図４８３】



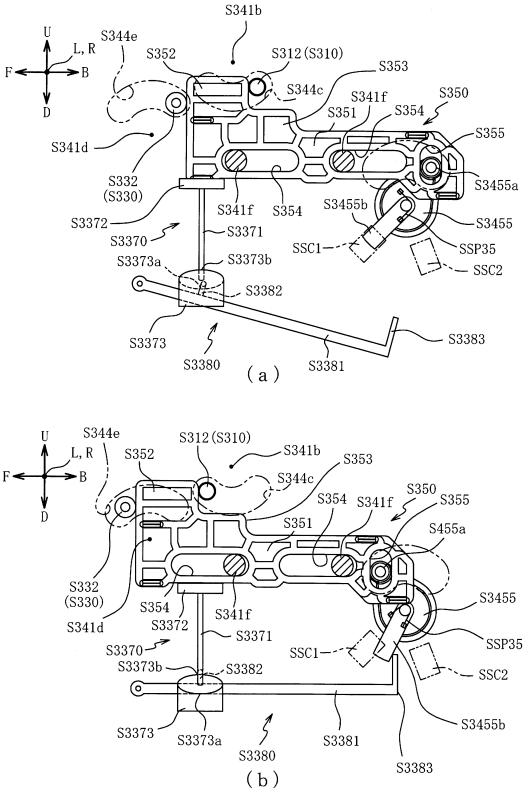
【図４８４】



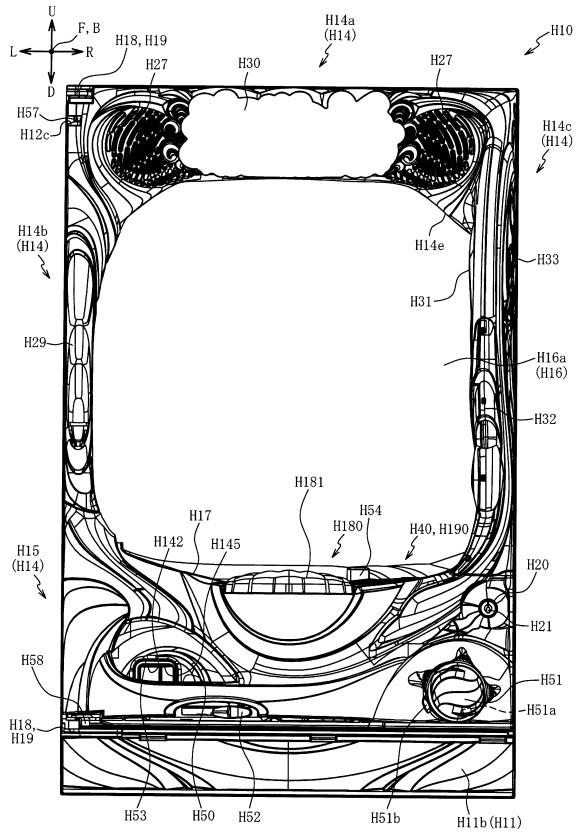
【図４８５】



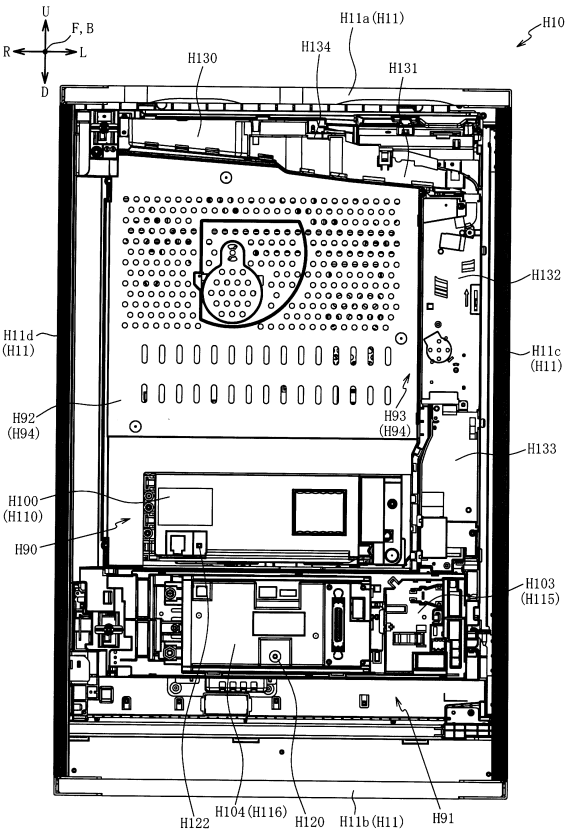
【図４８６】



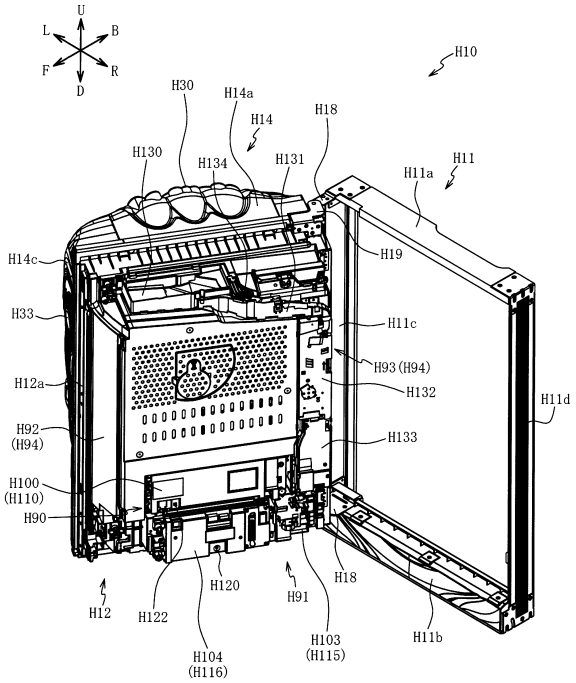
【図４８７】



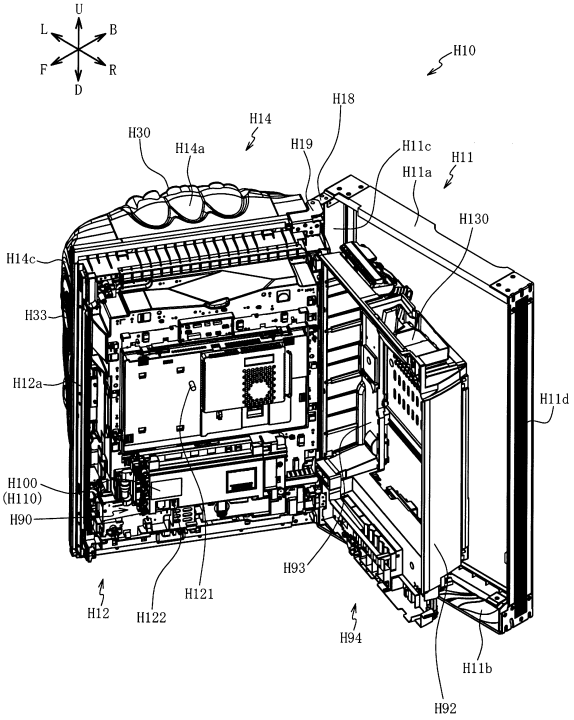
【図４８８】



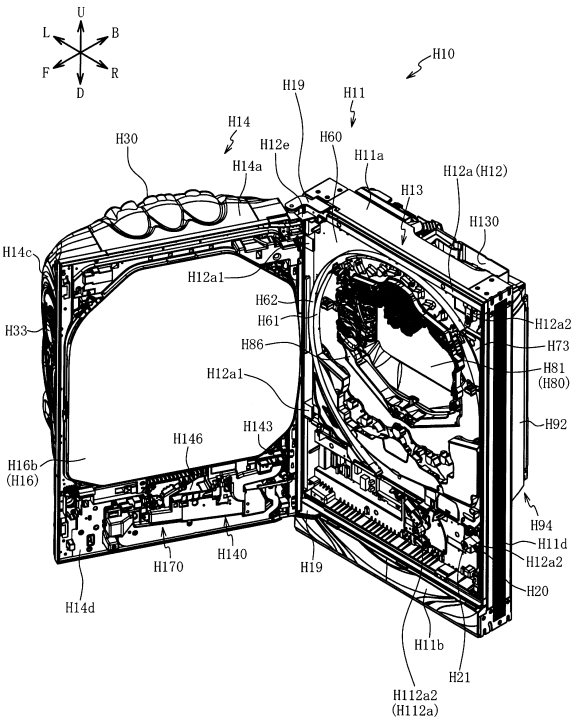
【図４８９】



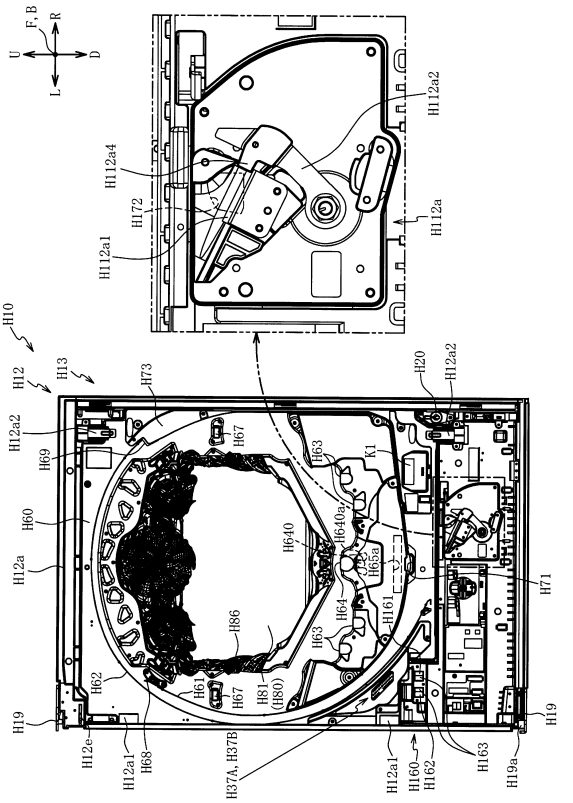
【図４９０】



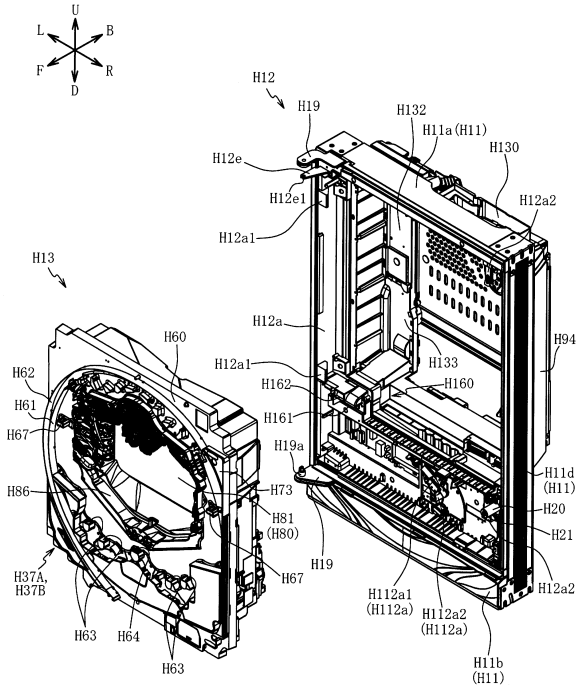
【図４９１】



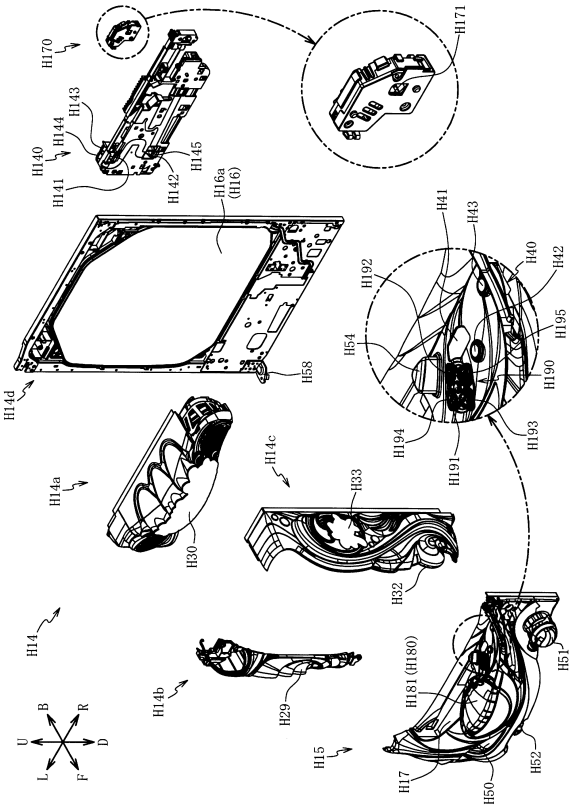
【図４９２】



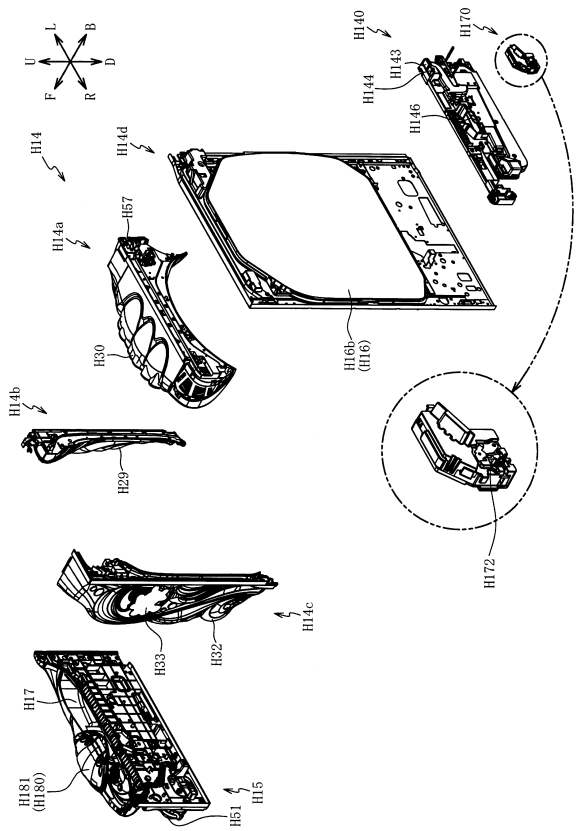
【図４９３】



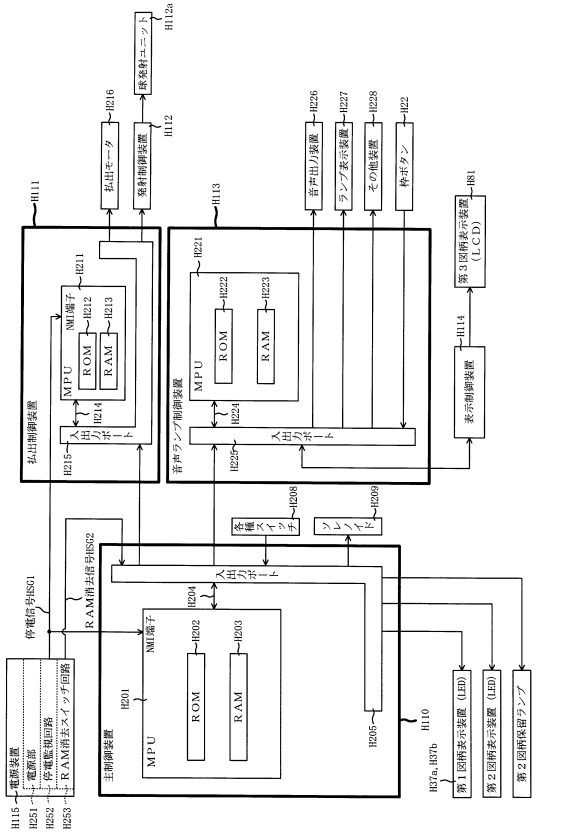
【図４９４】



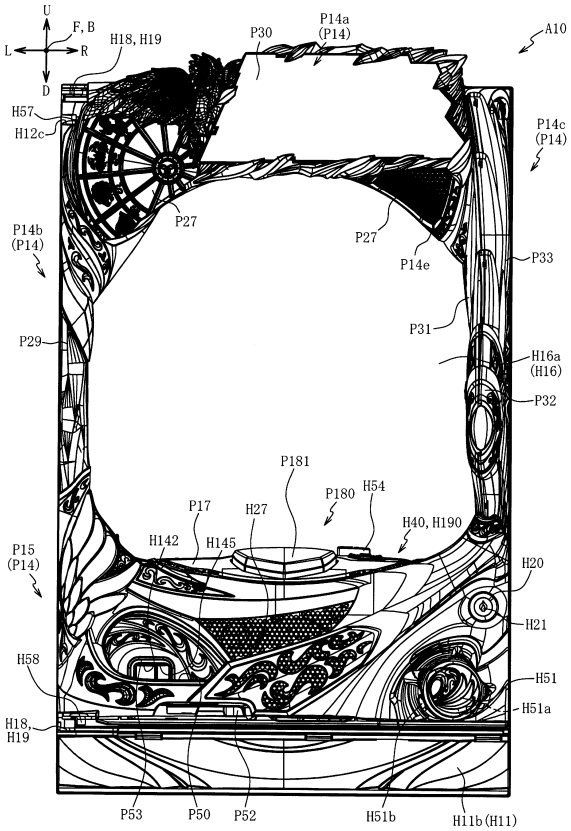
【図４９５】



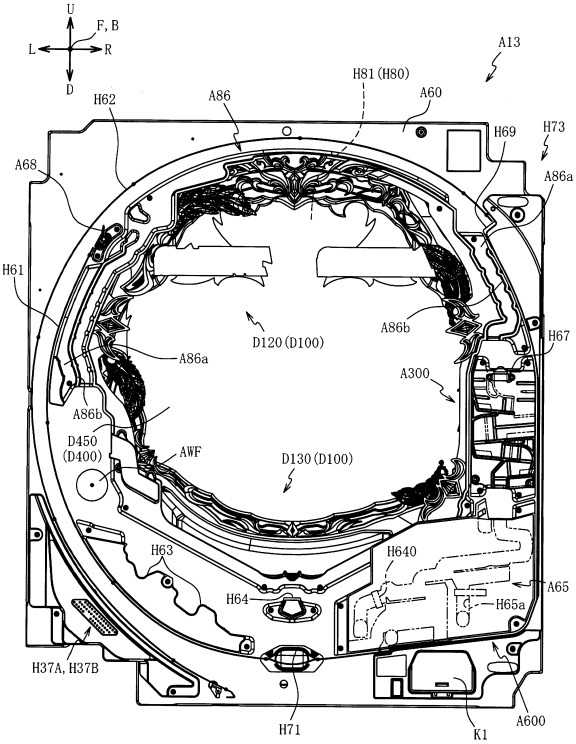
【図４９６】



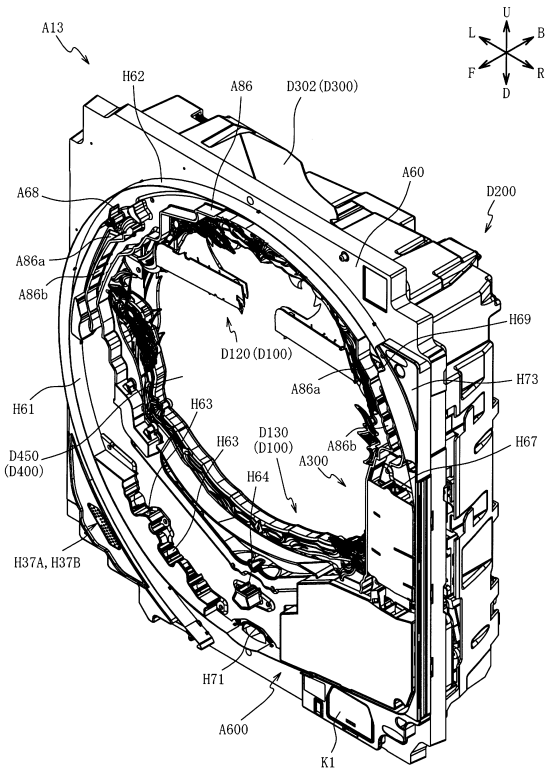
【図４９７】



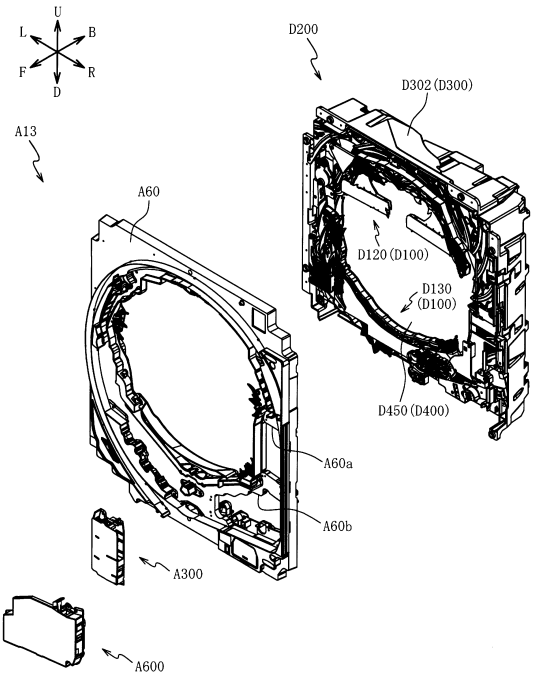
【図４９８】



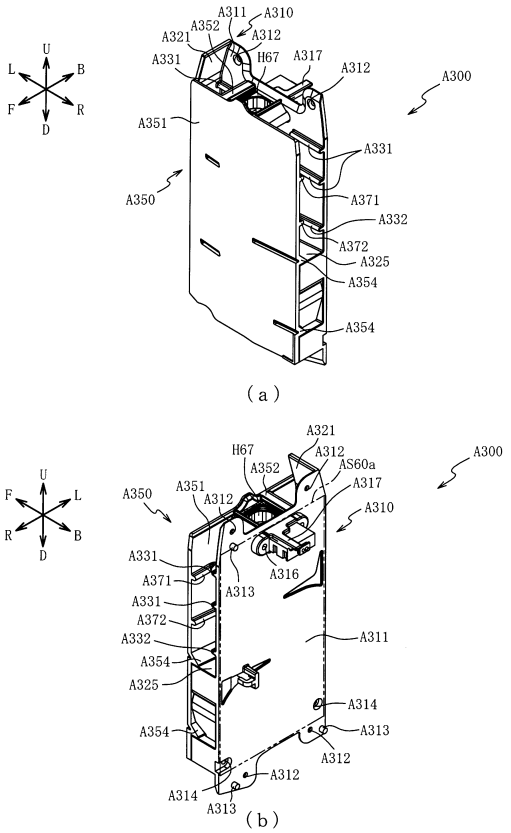
【図４９９】



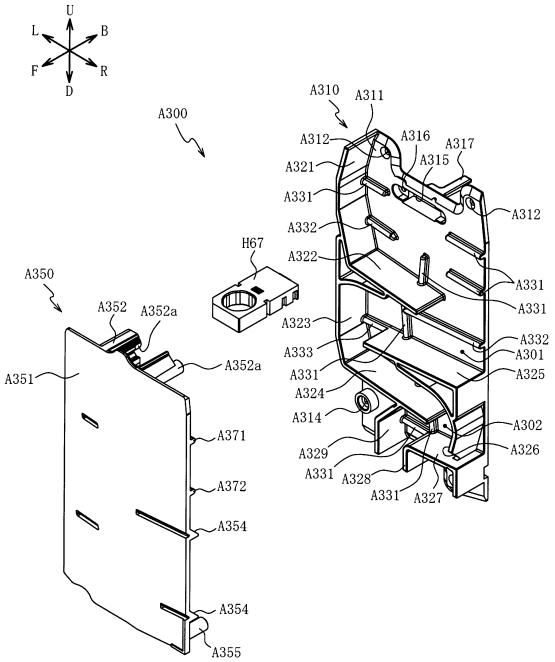
【図５００】



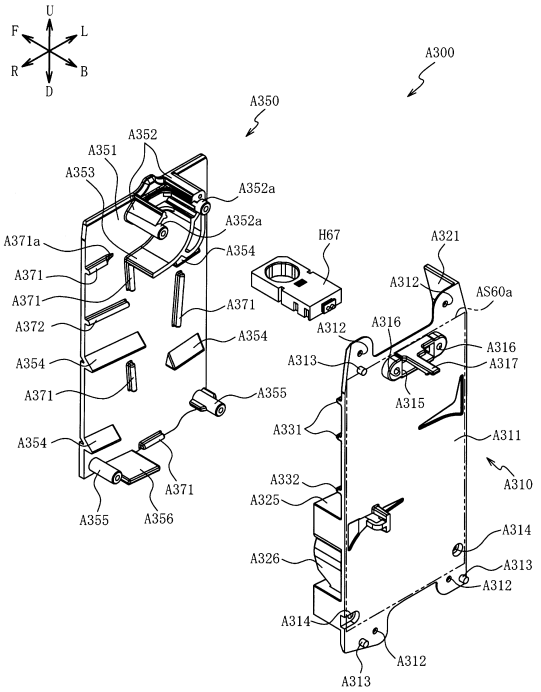
【図５０１】



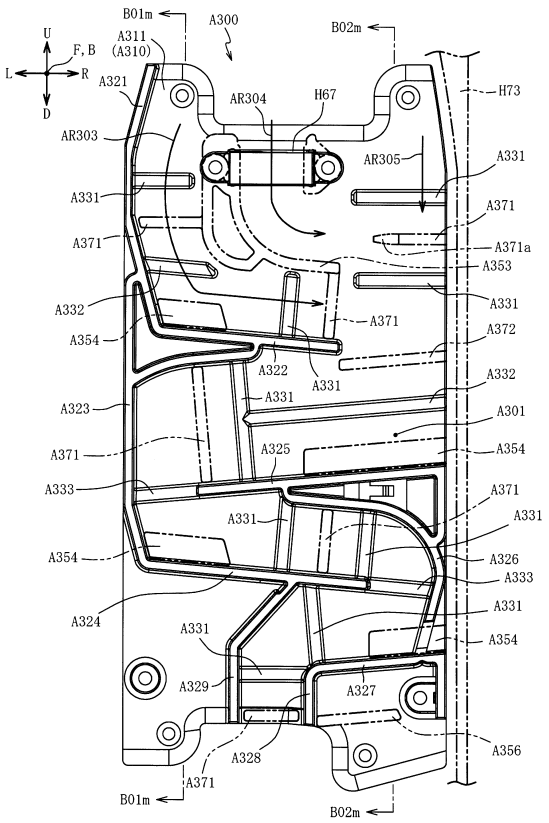
【図５０２】



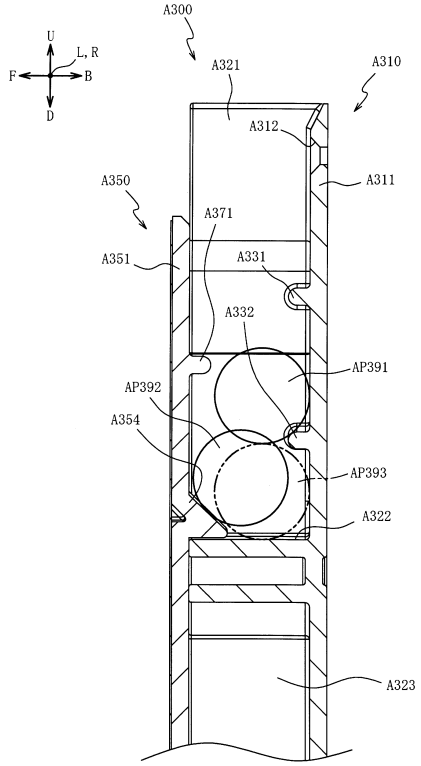
【図５０３】



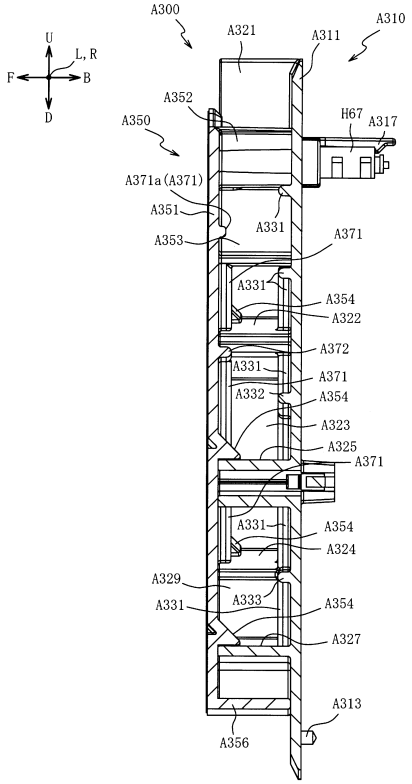
【図５０４】



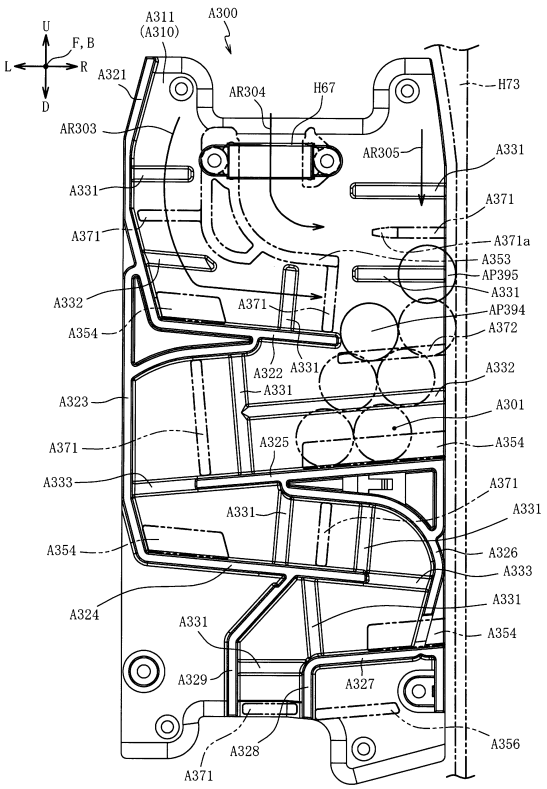
【図５０５】



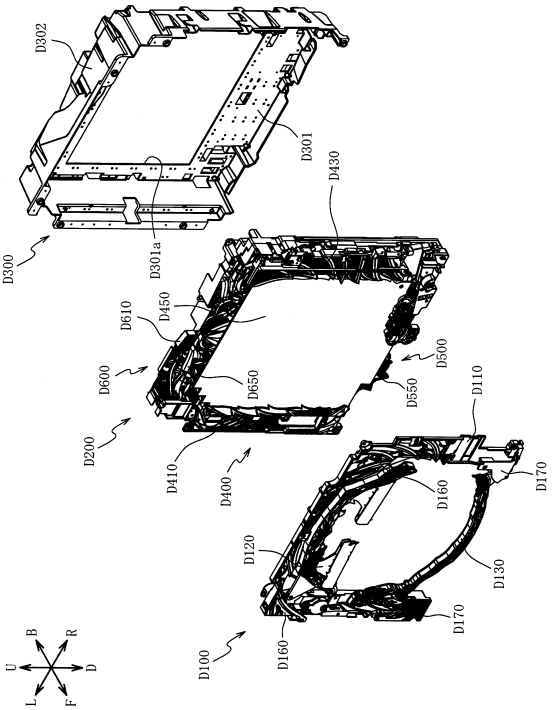
【図５０６】



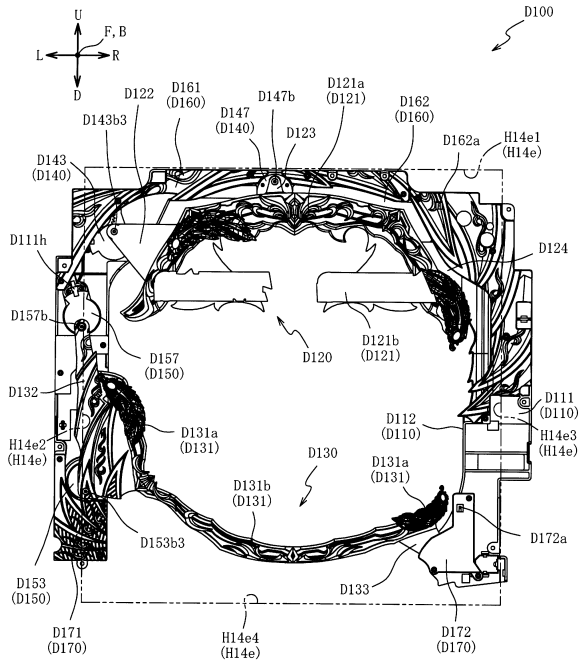
【図５０７】



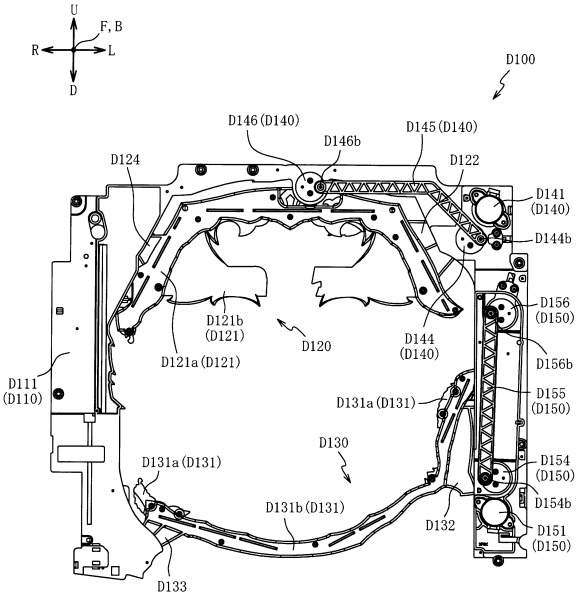
【図５０８】



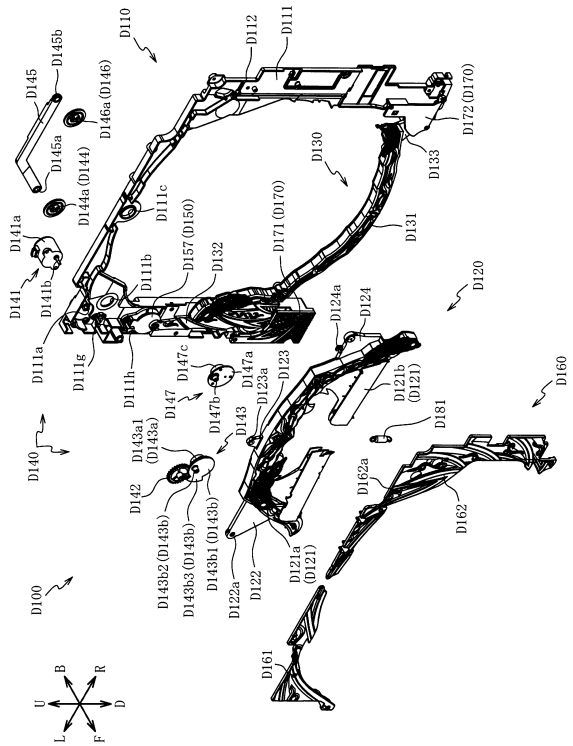
【図５０９】



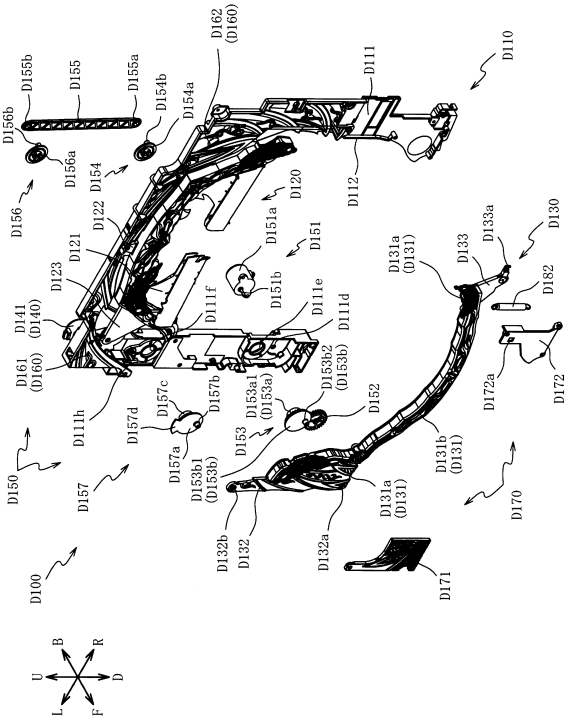
【図５１０】



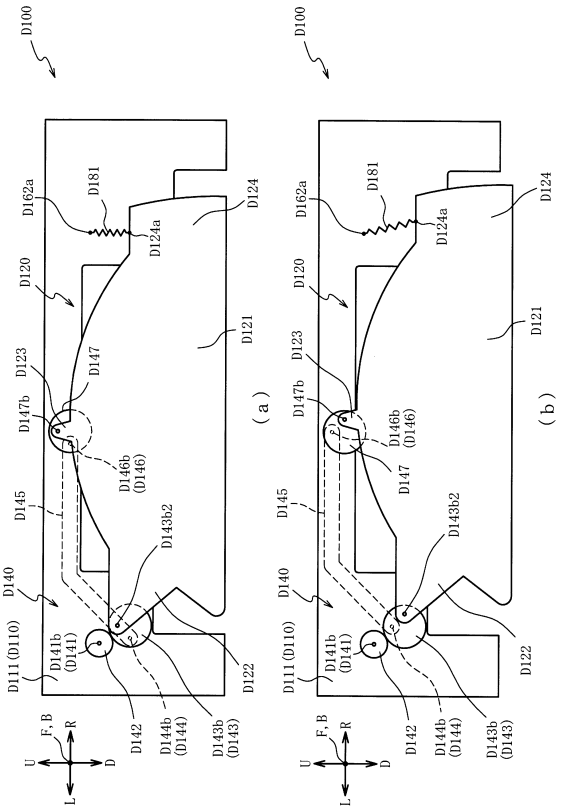
【図５１１】



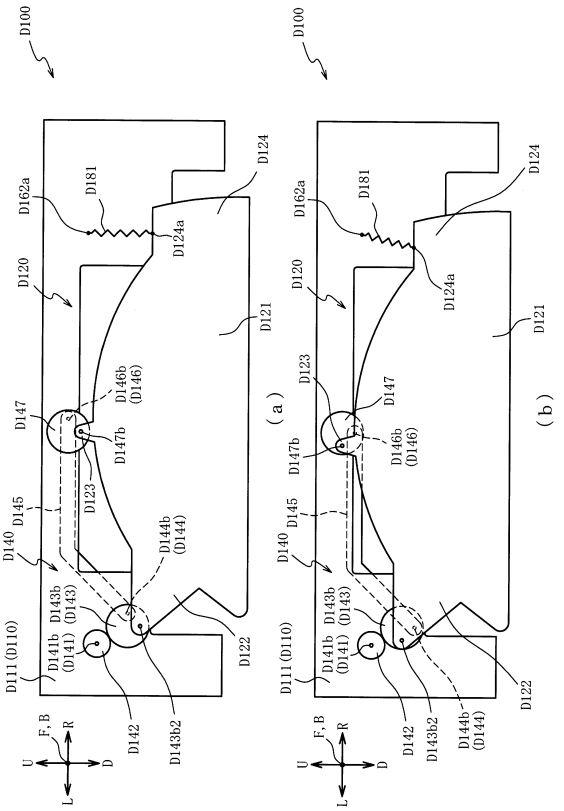
【図５１２】



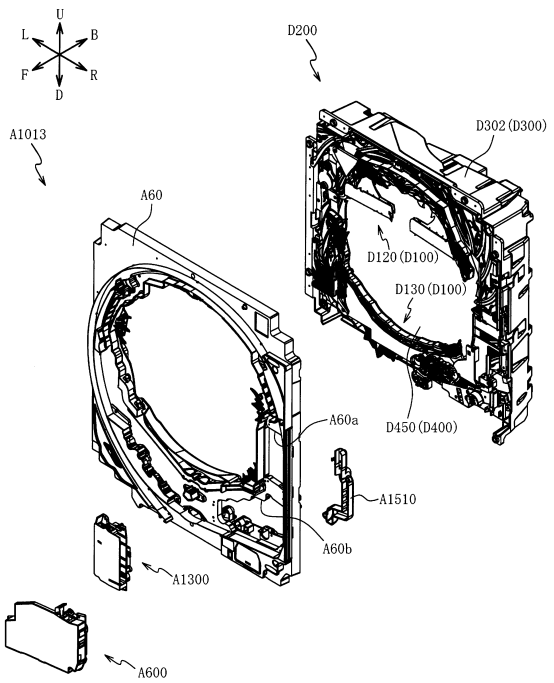
【図５１３】



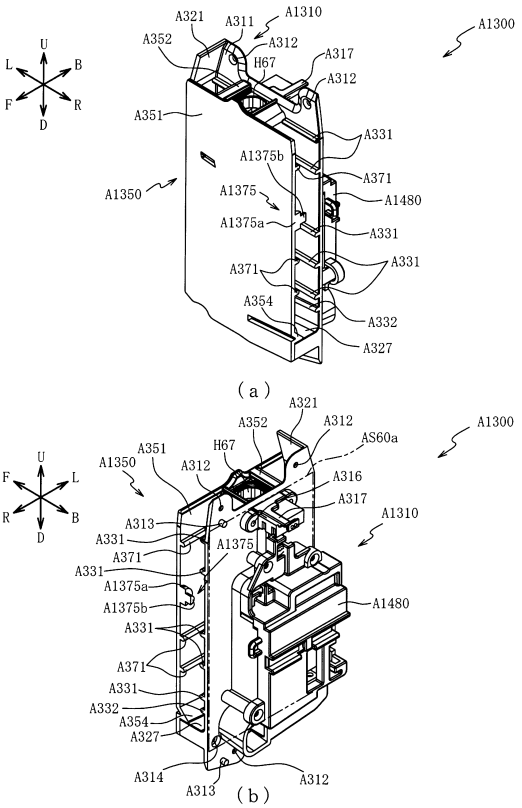
【図５１４】



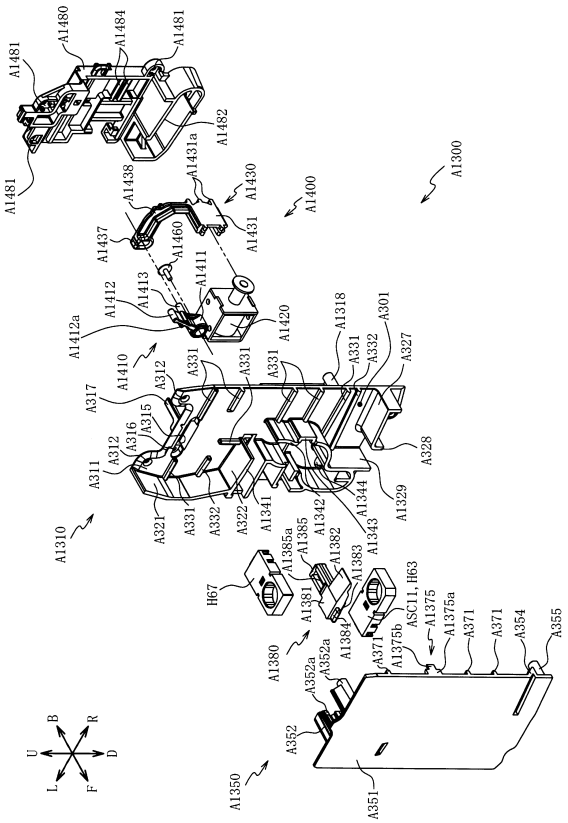
【図５１５】



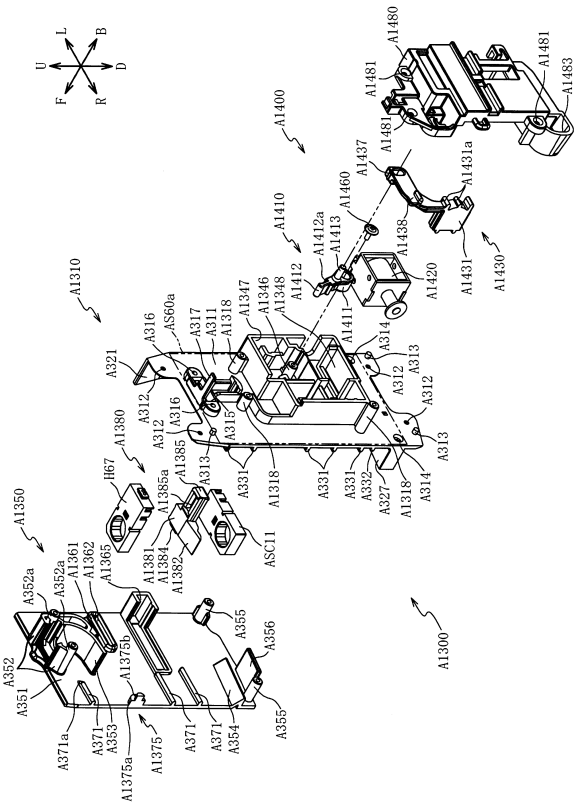
【図５１６】



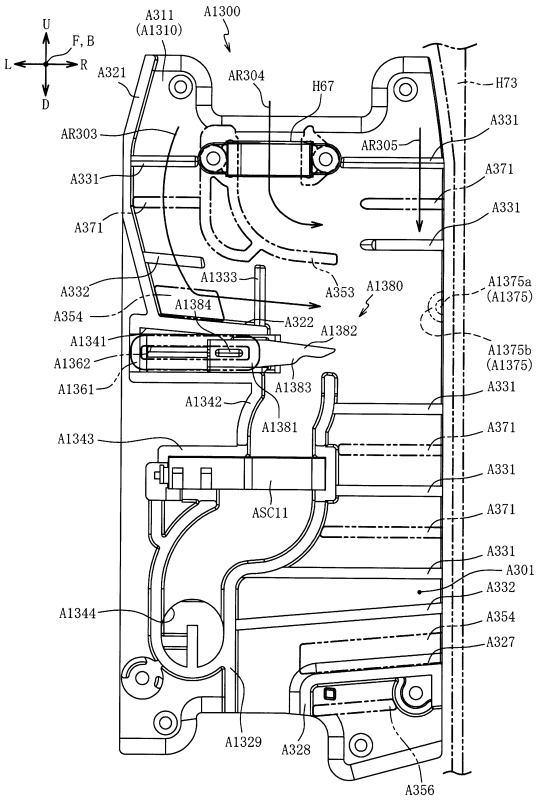
【図５１７】



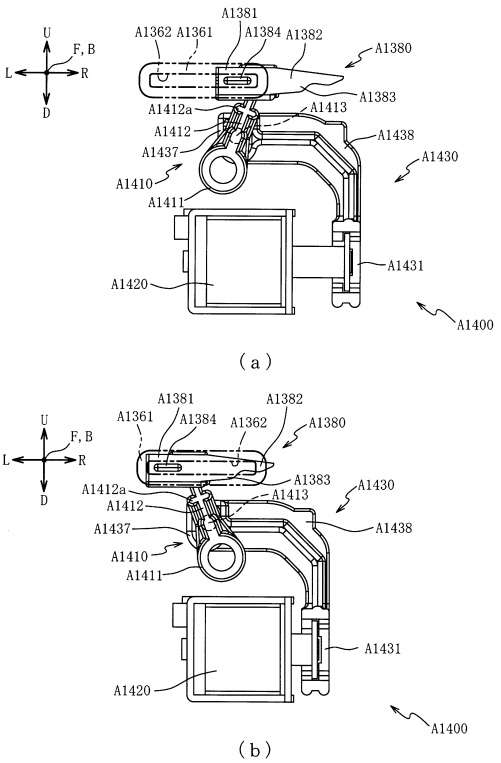
【図５１８】



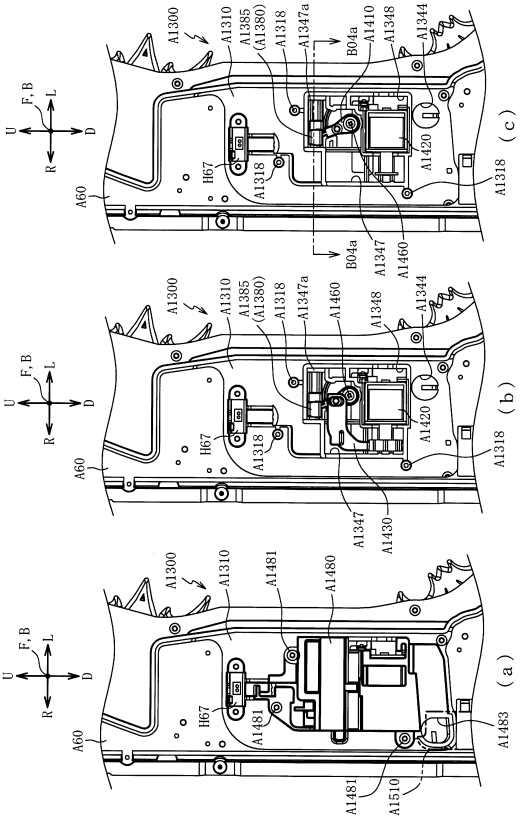
【図５１９】



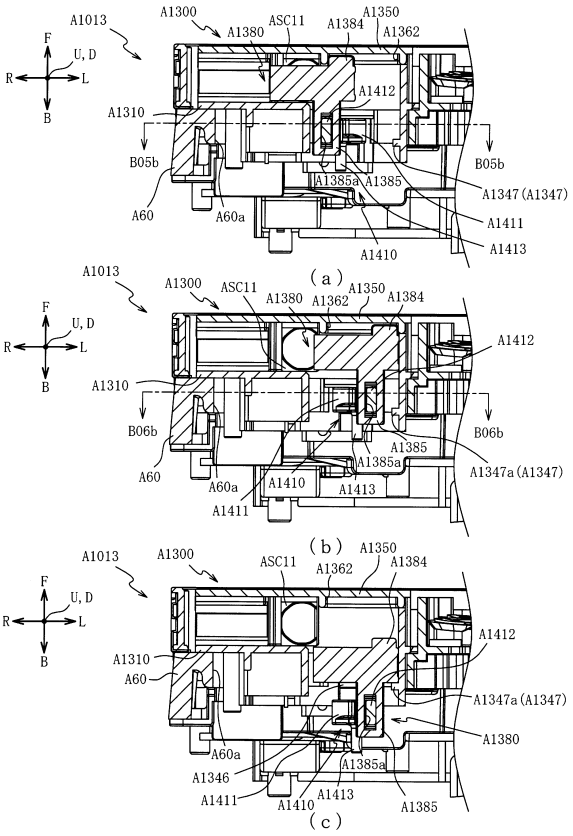
【図５２０】



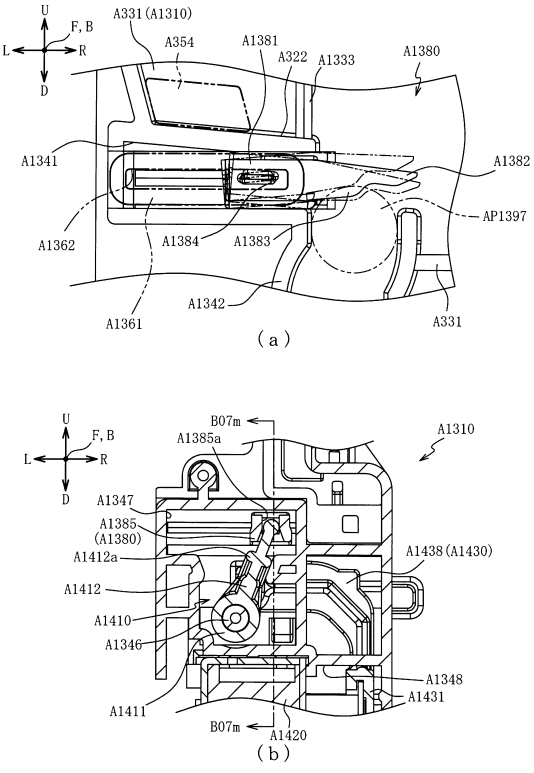
【図５２１】



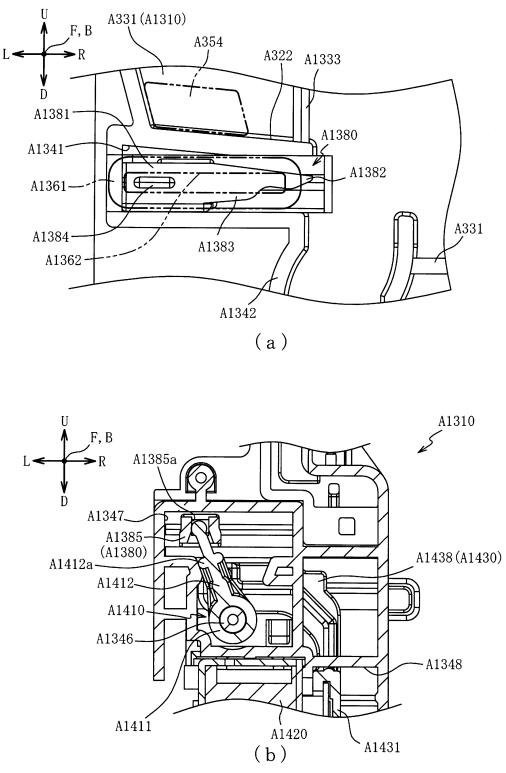
【図５２２】



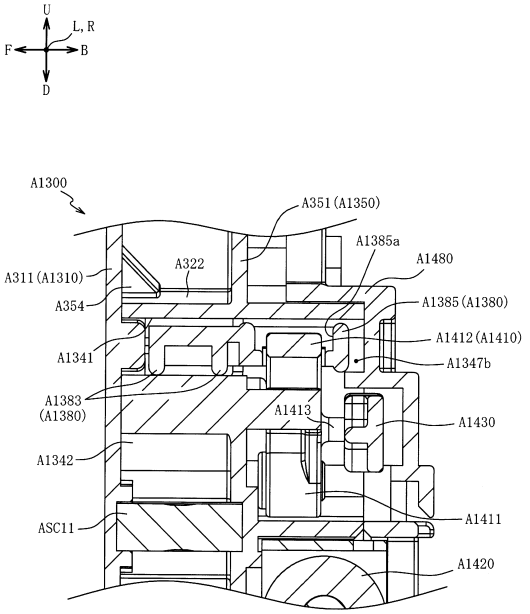
【図５２３】



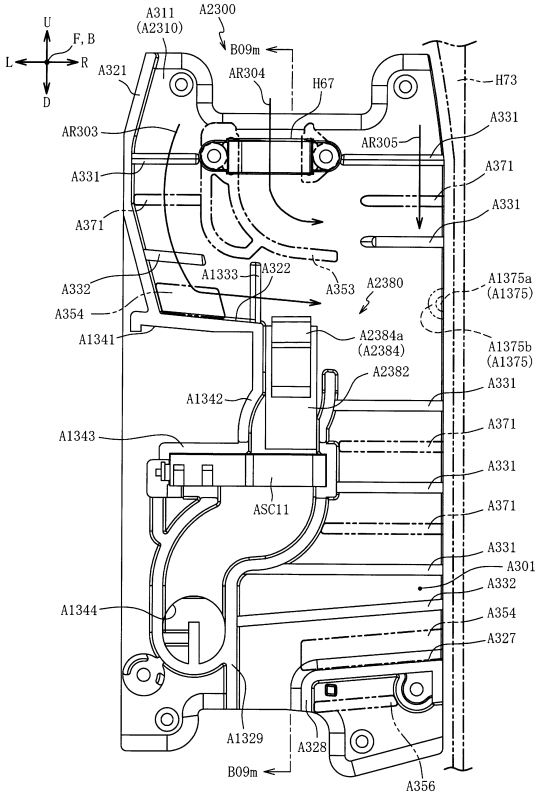
【図５２４】



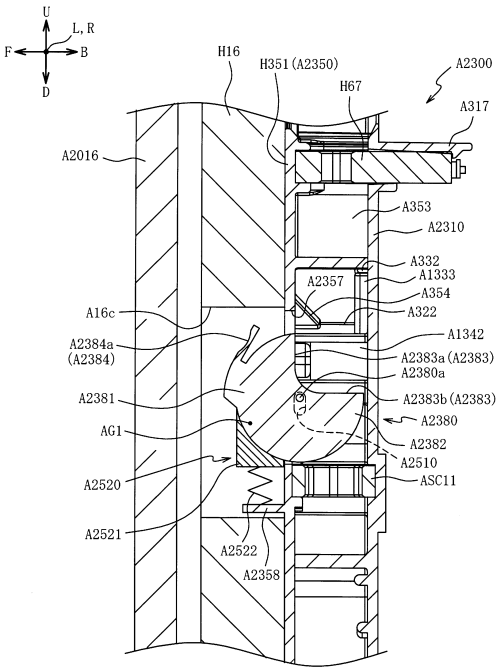
【図５２５】



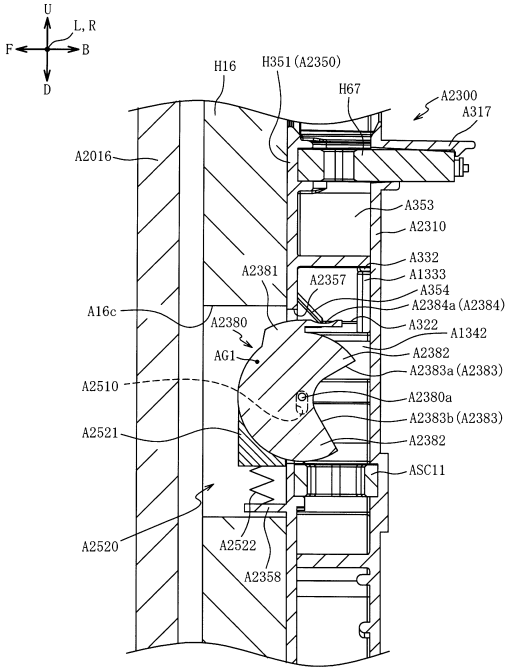
【図５２６】



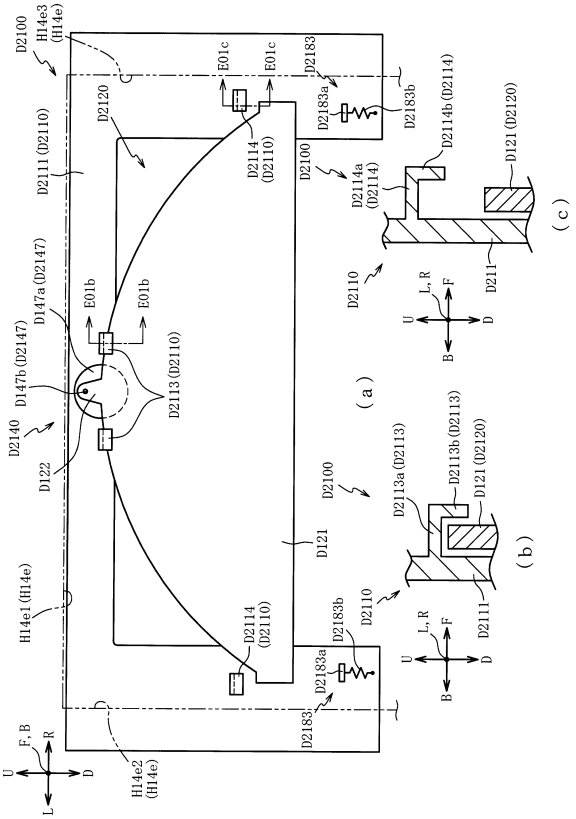
【図５２７】



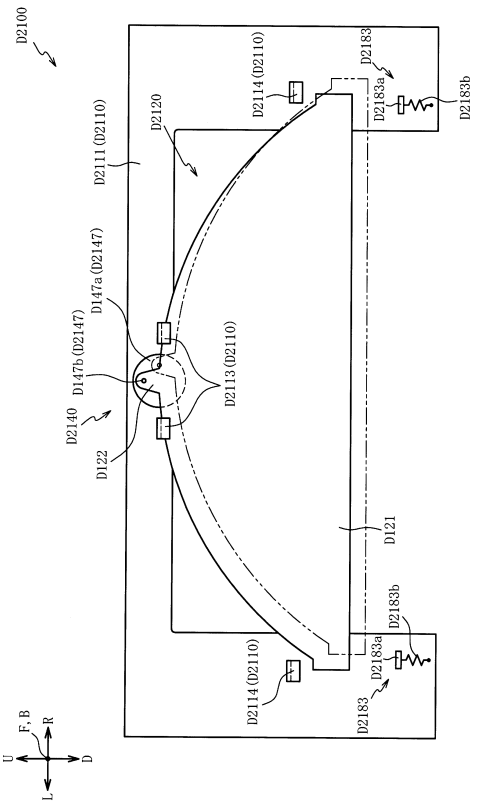
【図５２８】



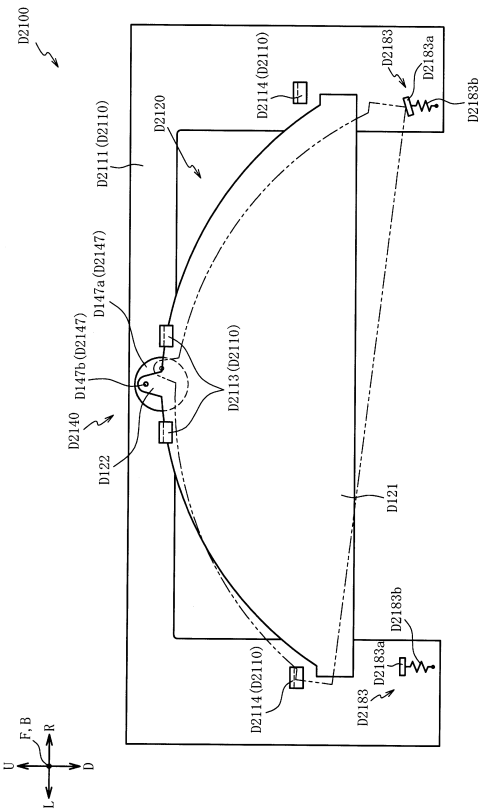
【図５２９】



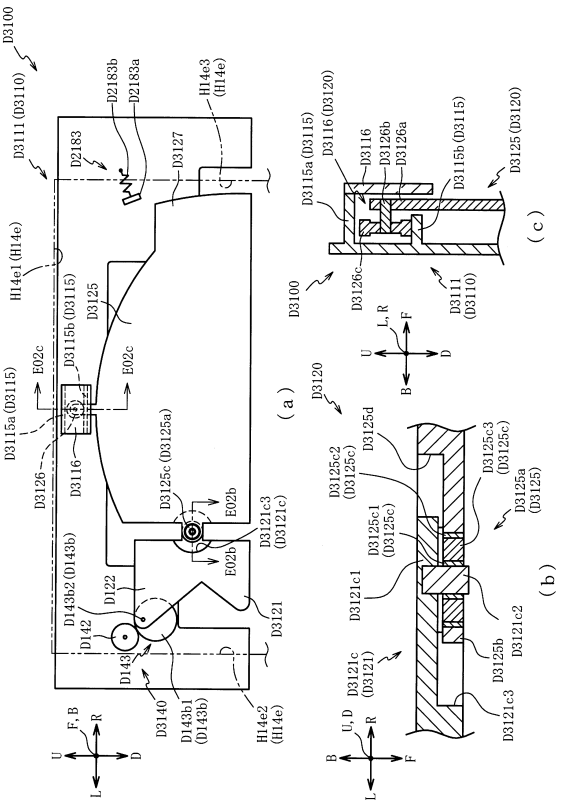
【図５３０】



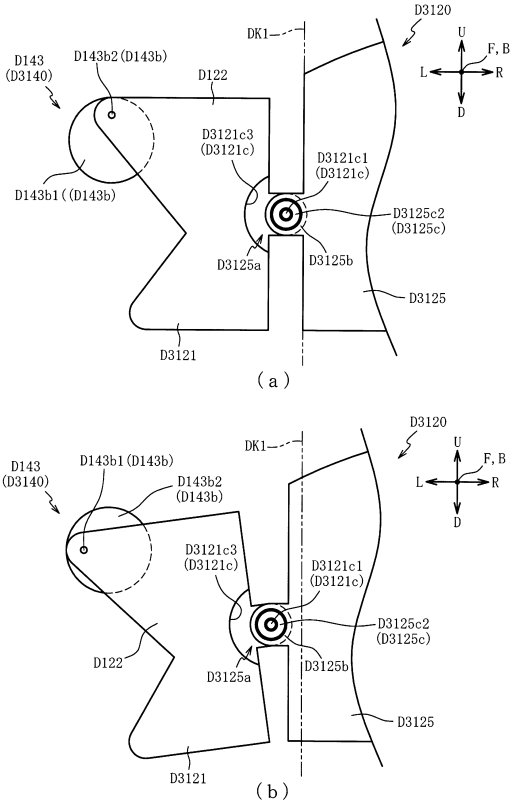
【図５３１】



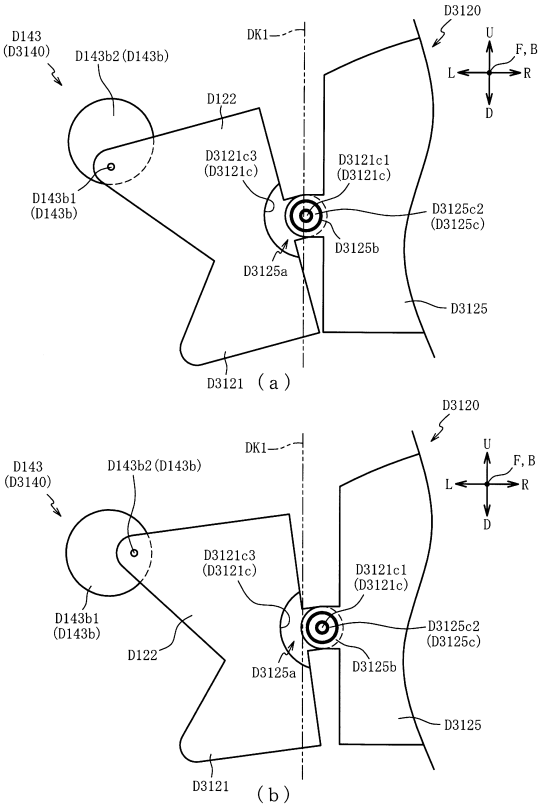
【図５３２】



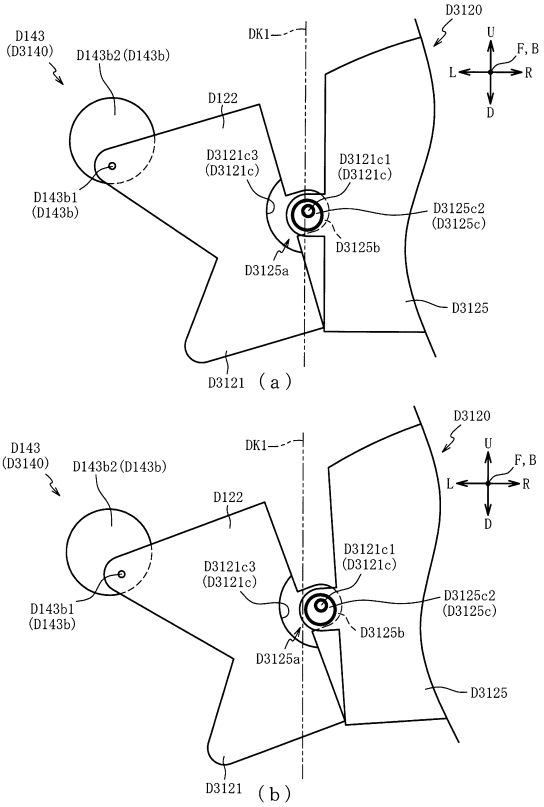
【図５３３】



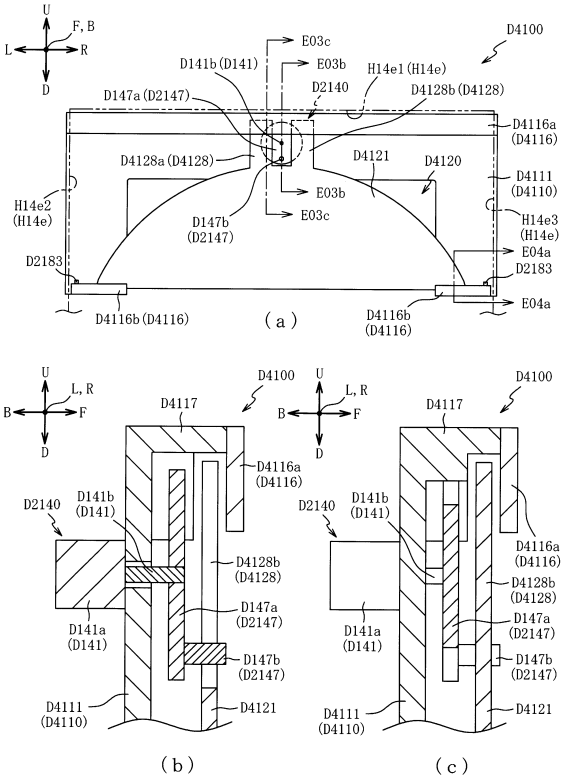
【図５３４】



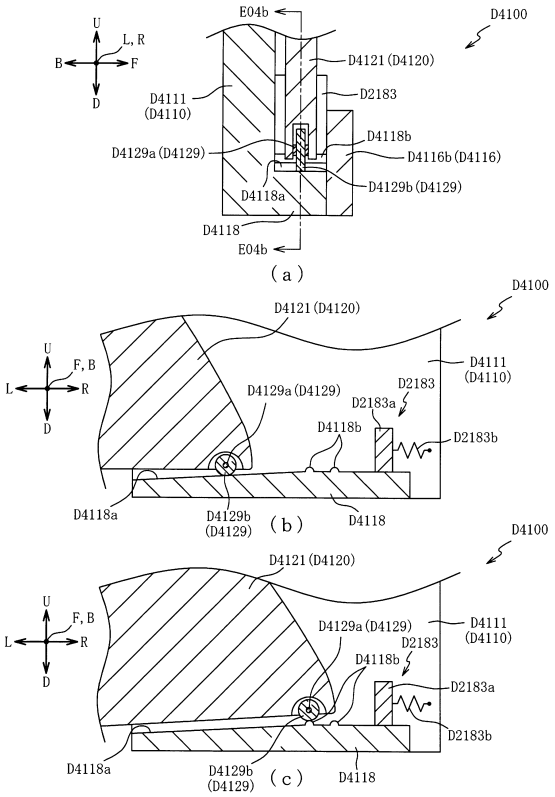
【図５３５】



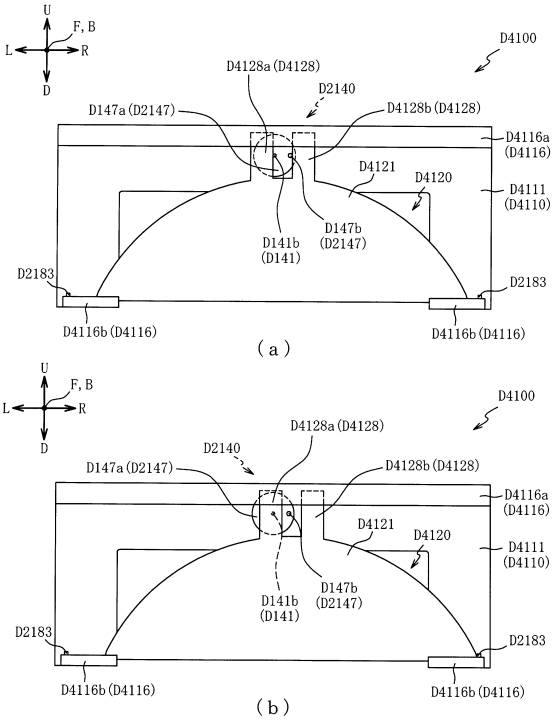
【図５３６】



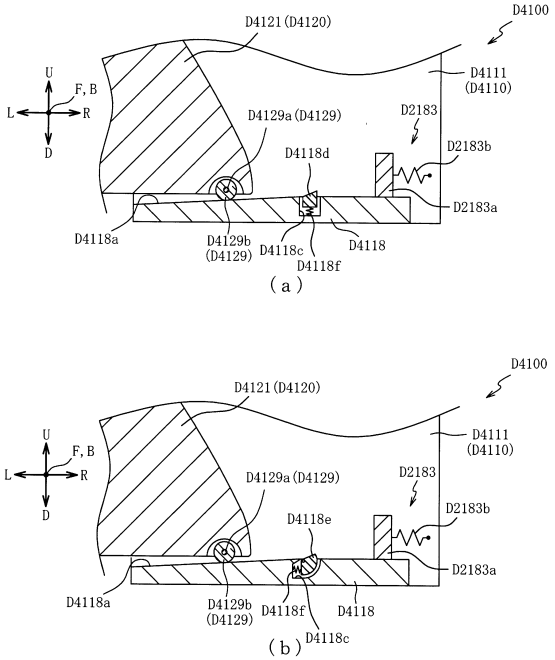
【図５３７】



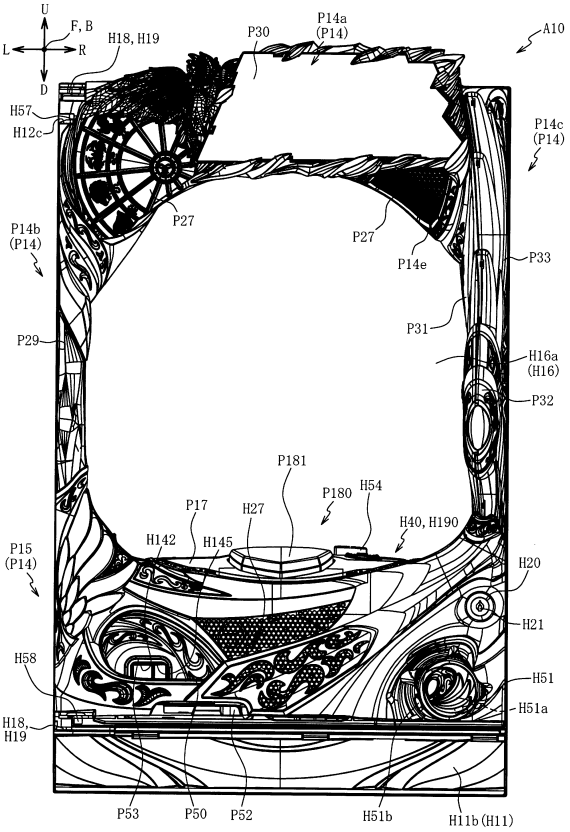
【図５３８】



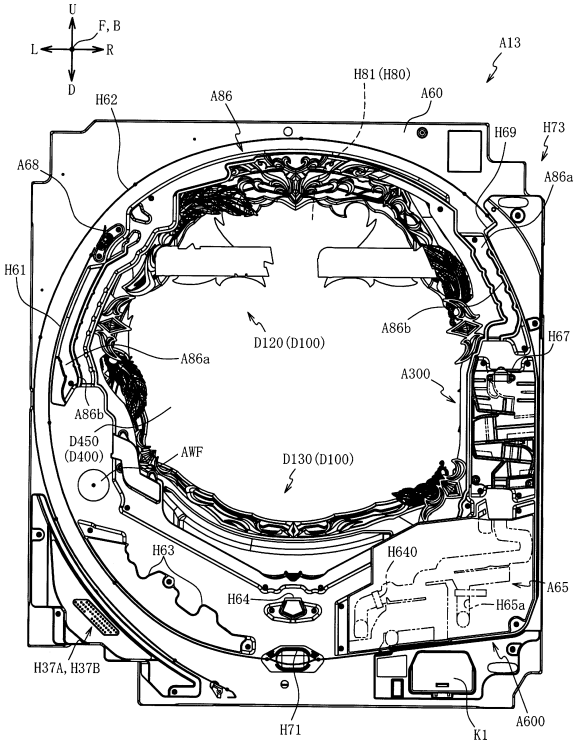
【図５３９】



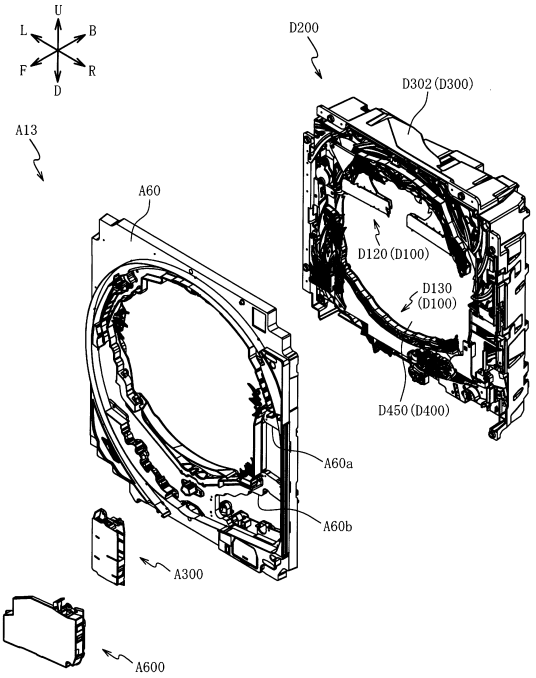
【図５４０】



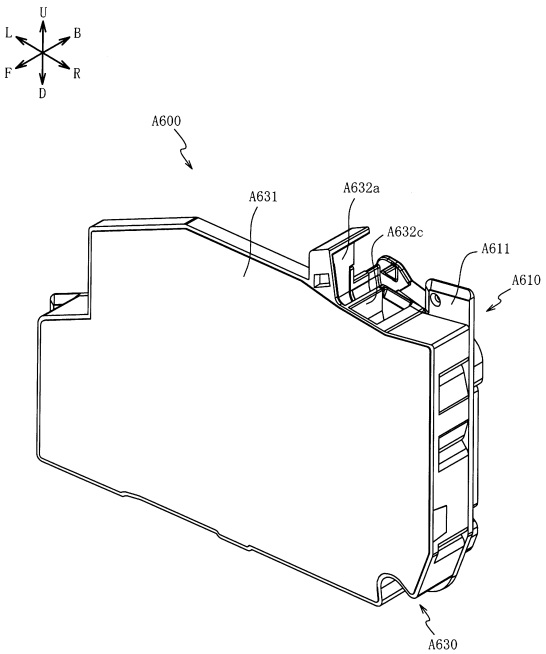
【図５４１】



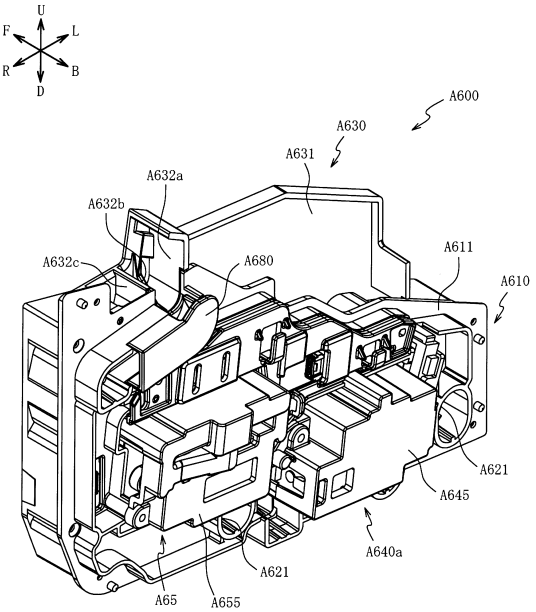
【図５４２】



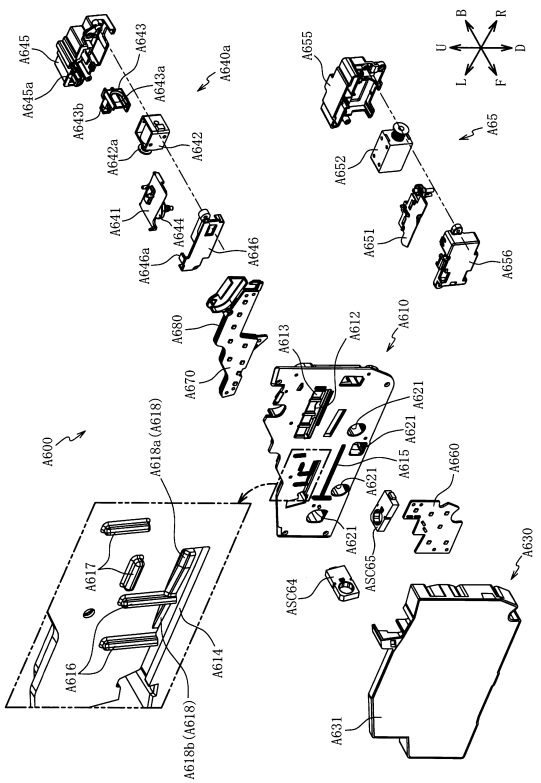
【図５４３】



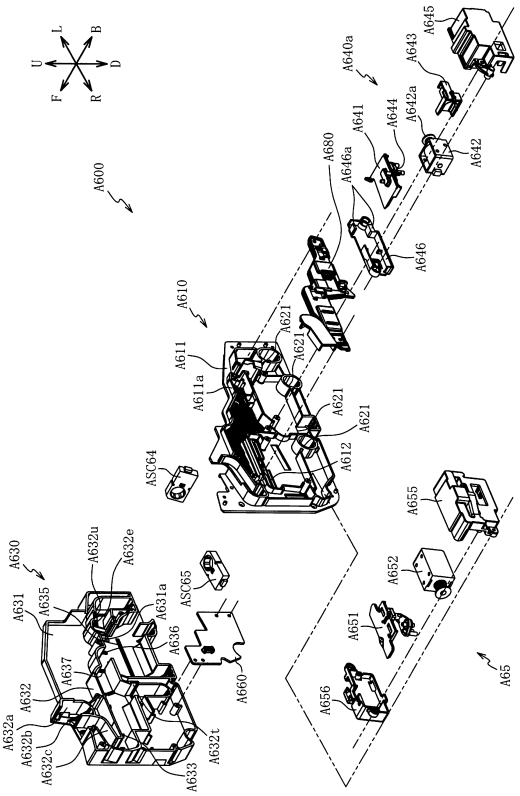
【図５４４】



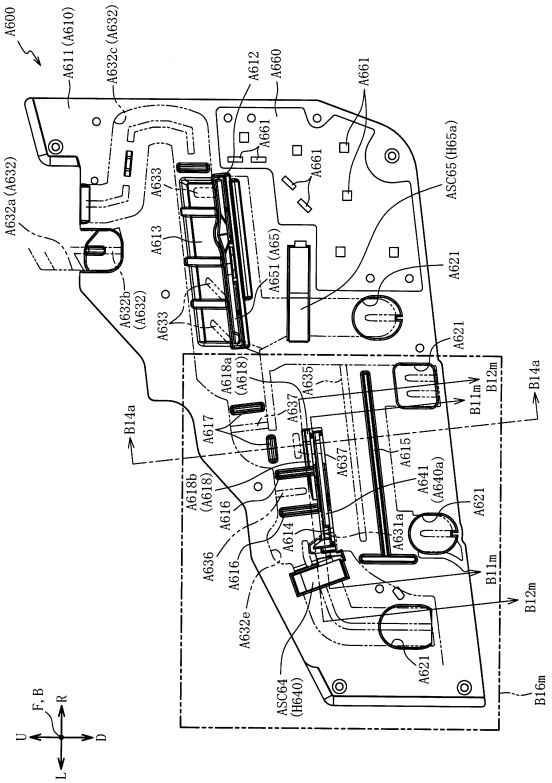
【図５４５】



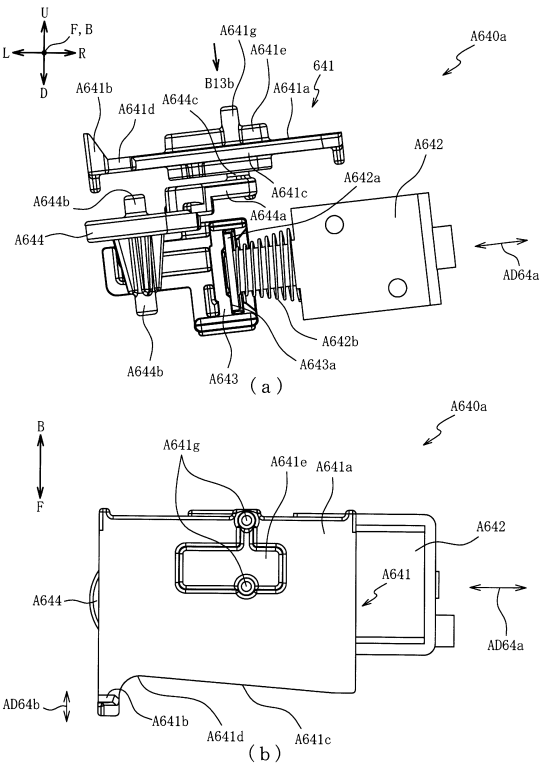
【図５４６】



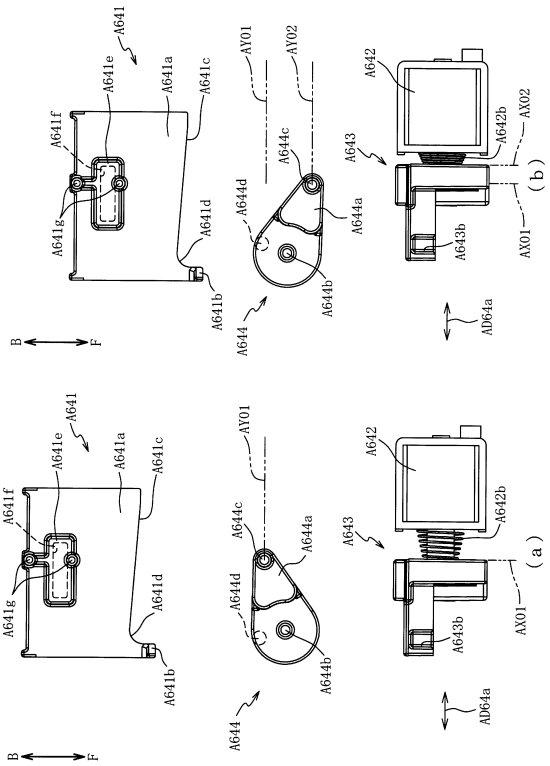
【図５４７】



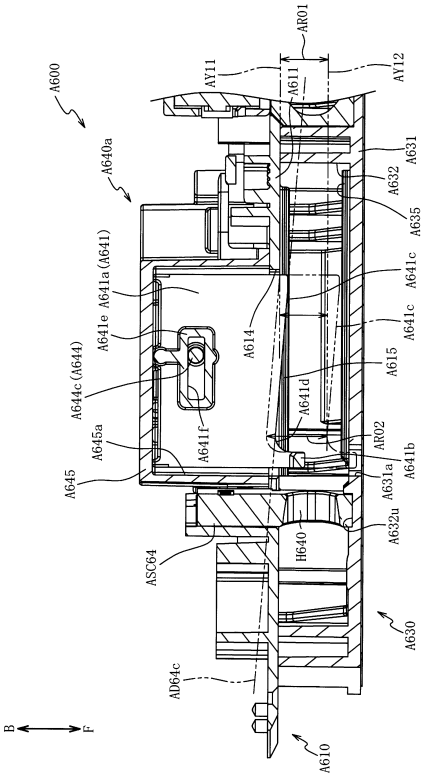
【図５４８】



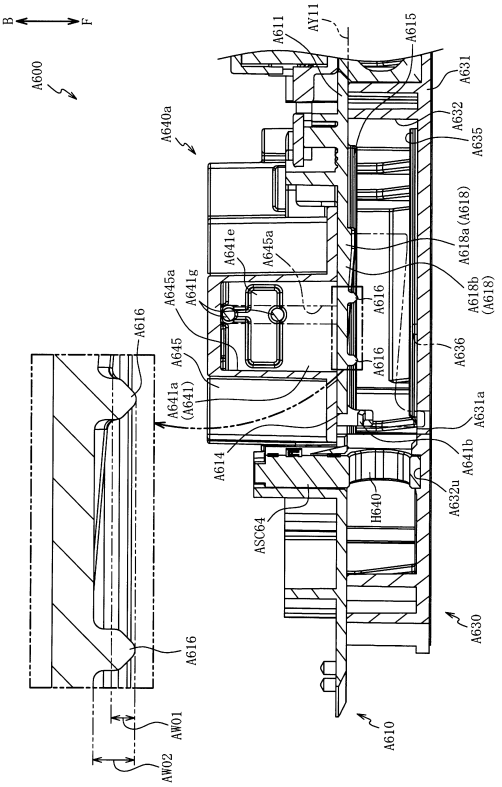
【図５４９】



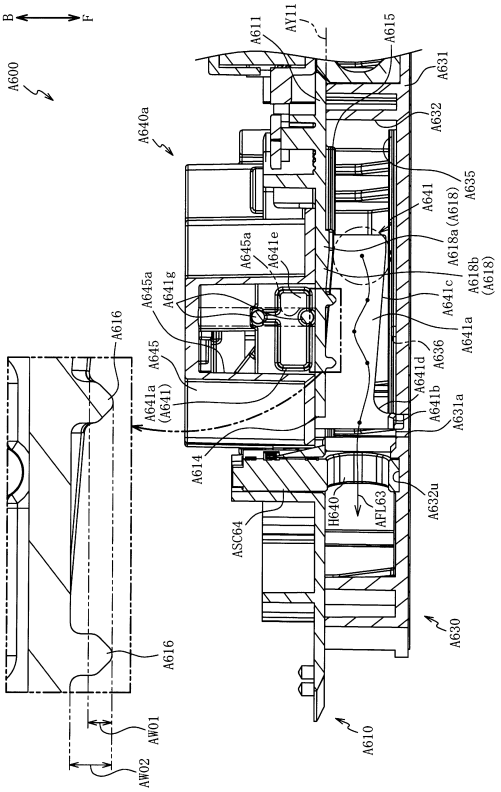
【図５５０】



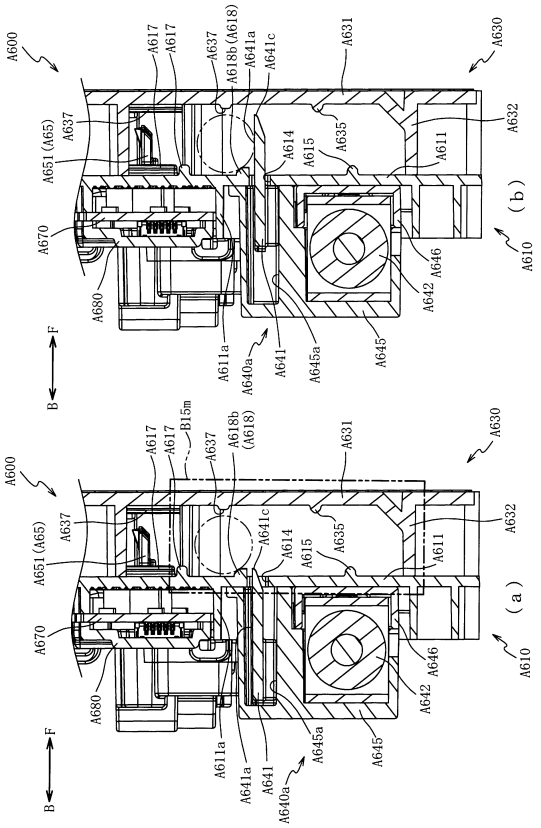
【図５５１】



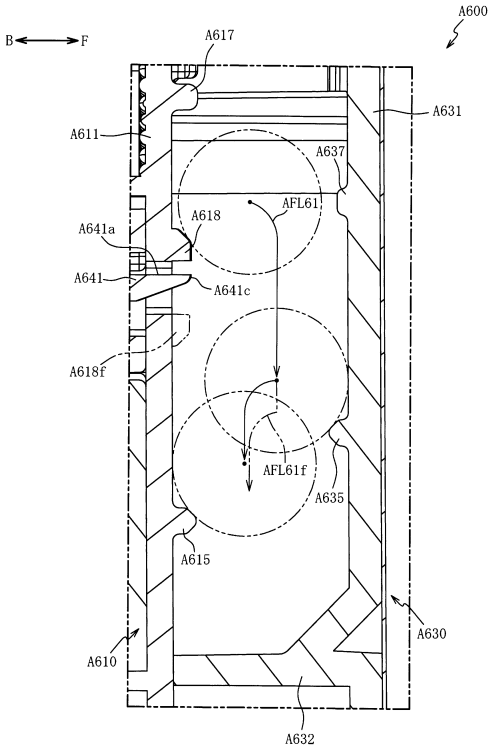
【図５５２】



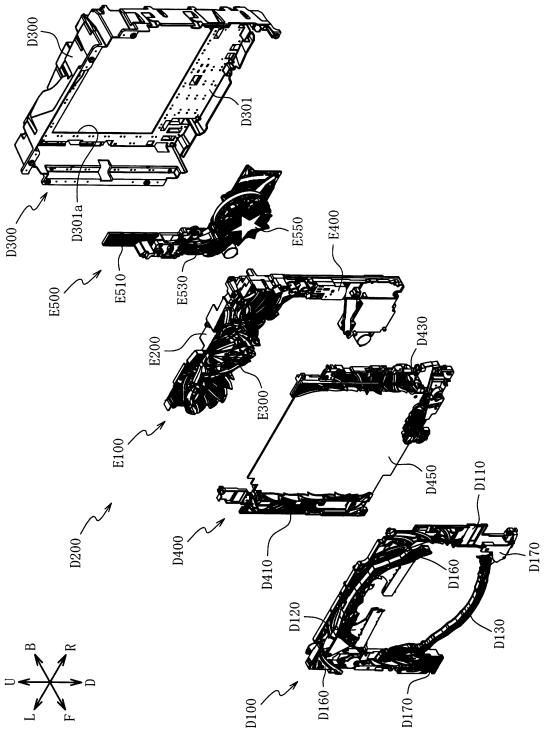
【図５５３】



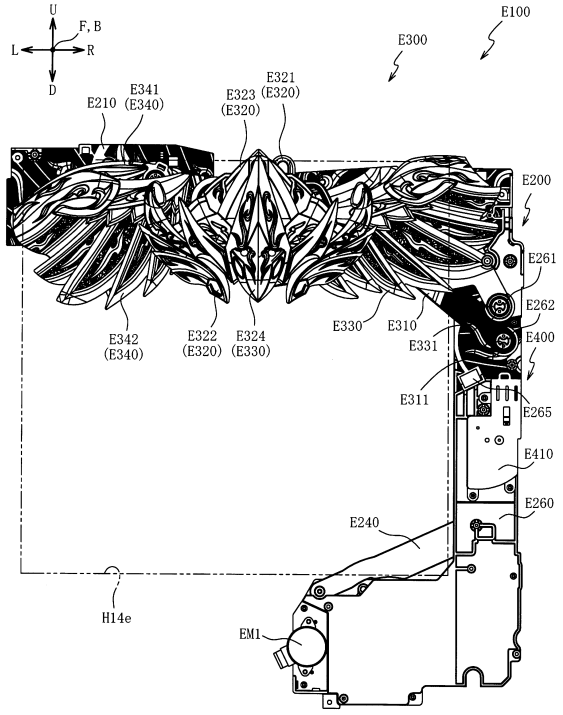
【図５５４】



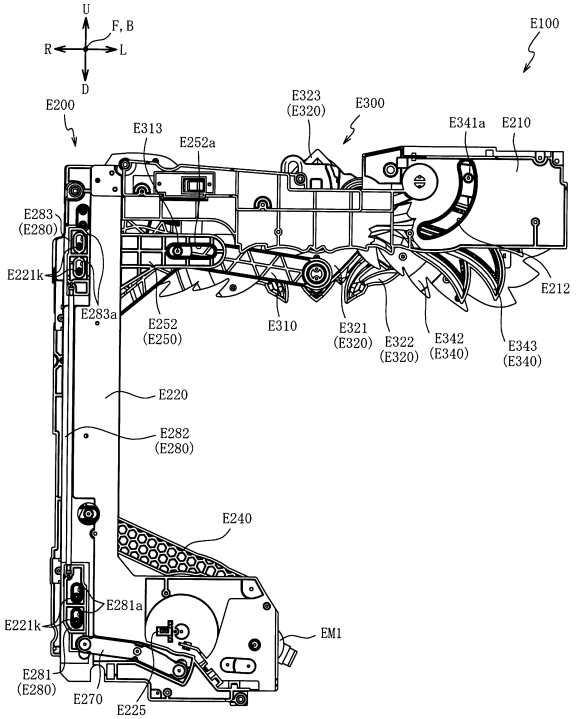
【図５５５】



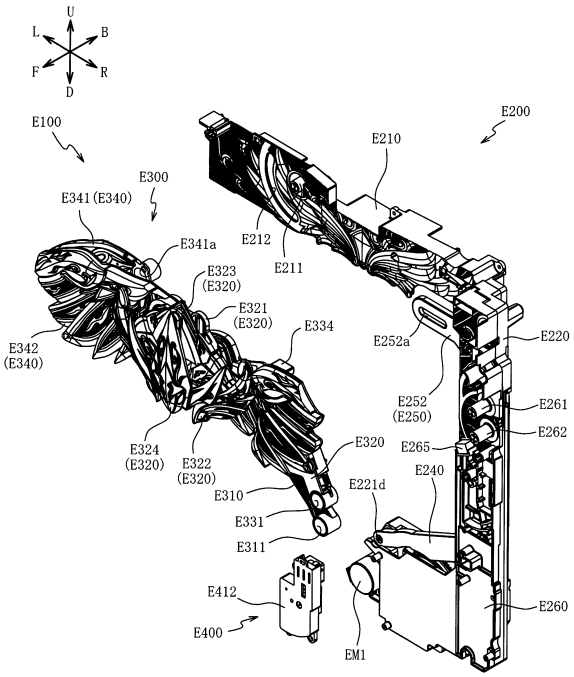
【図５５６】



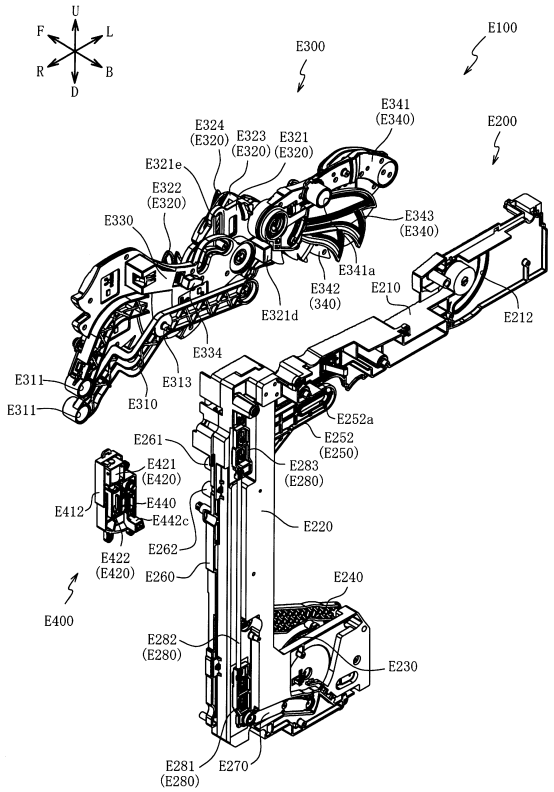
【図５５７】



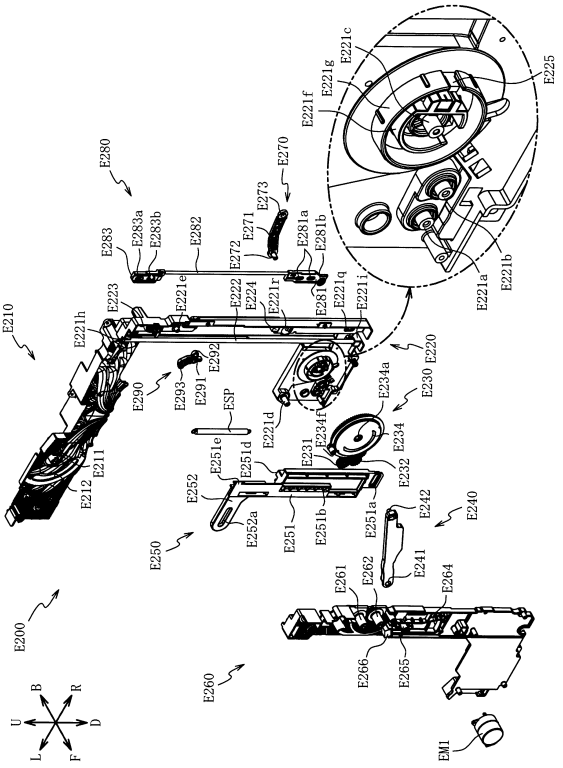
【図５５８】



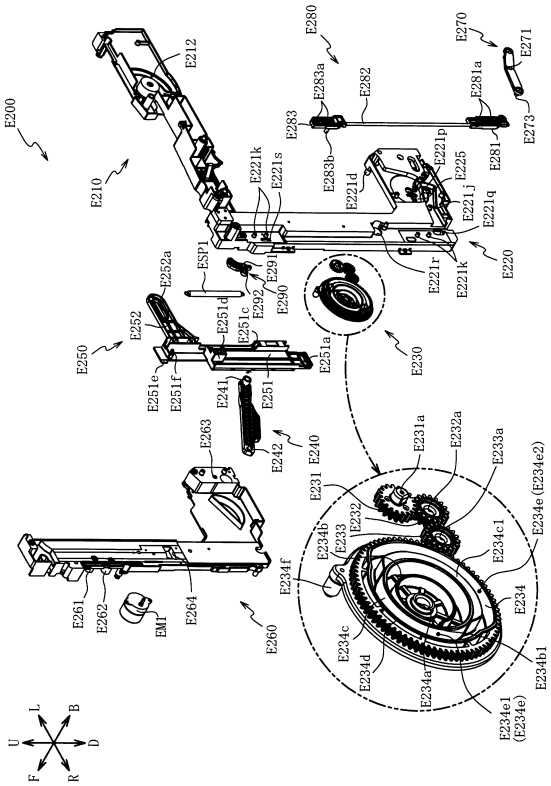
【図５５９】



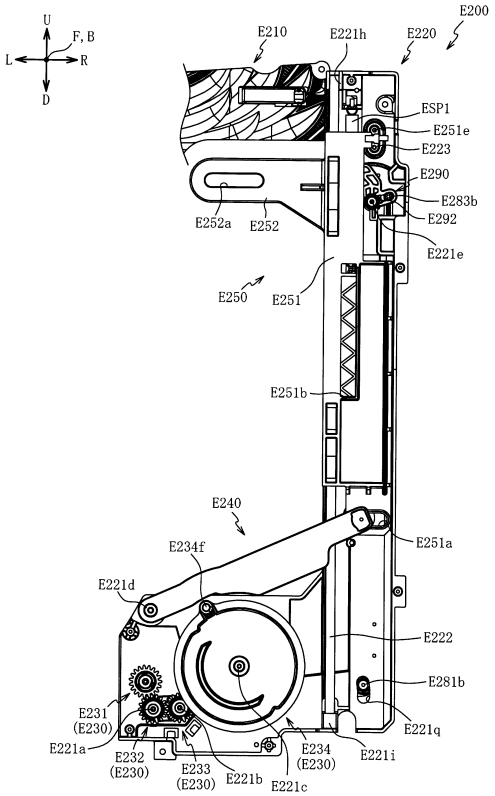
【図５６０】



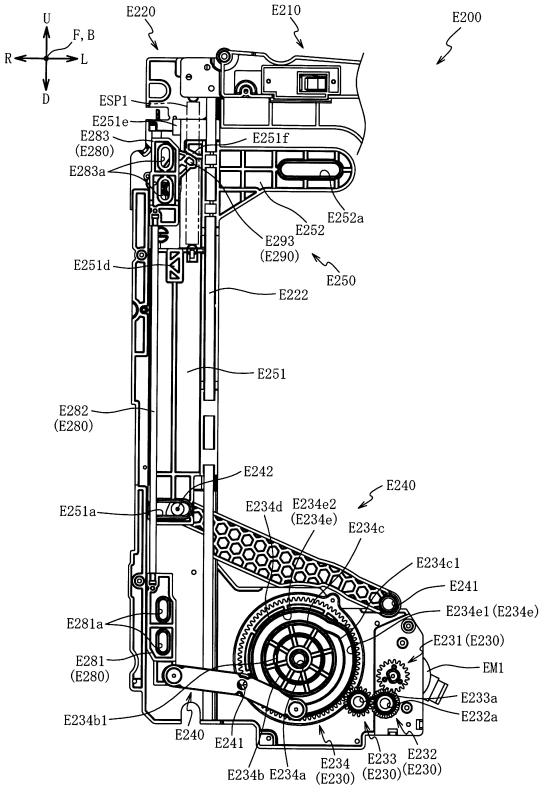
【図５６１】



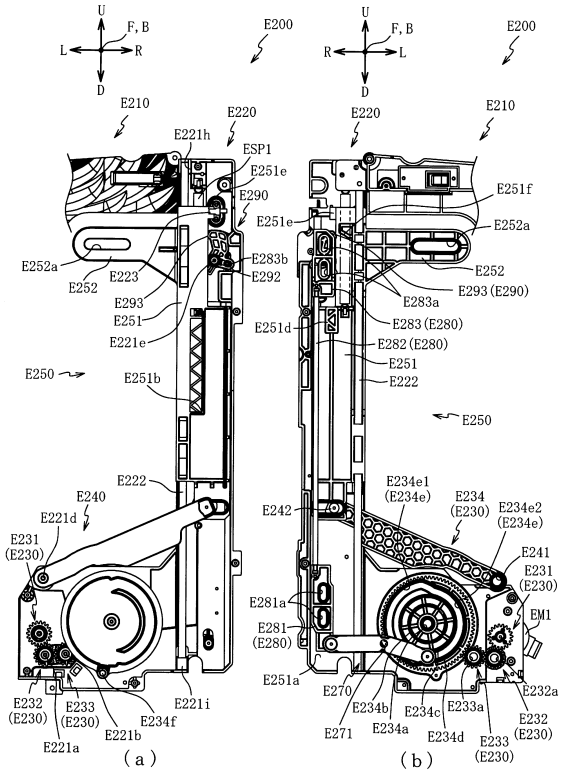
【図５６２】



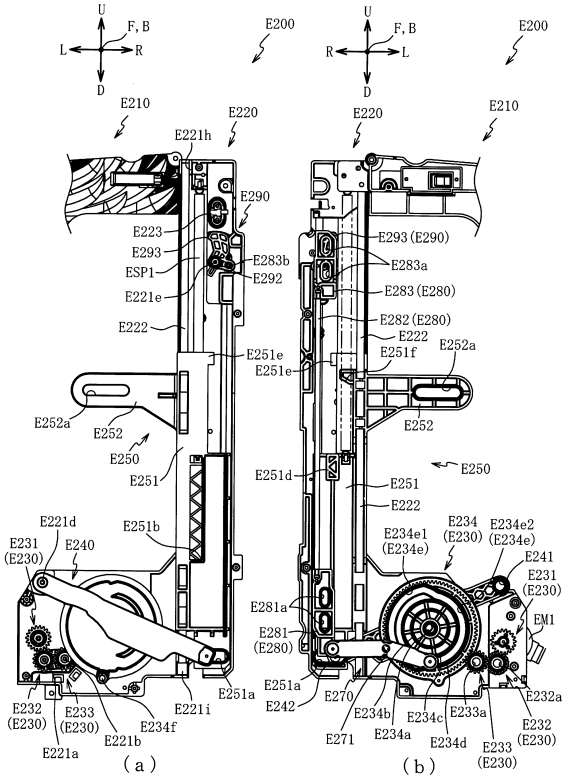
【図５６３】



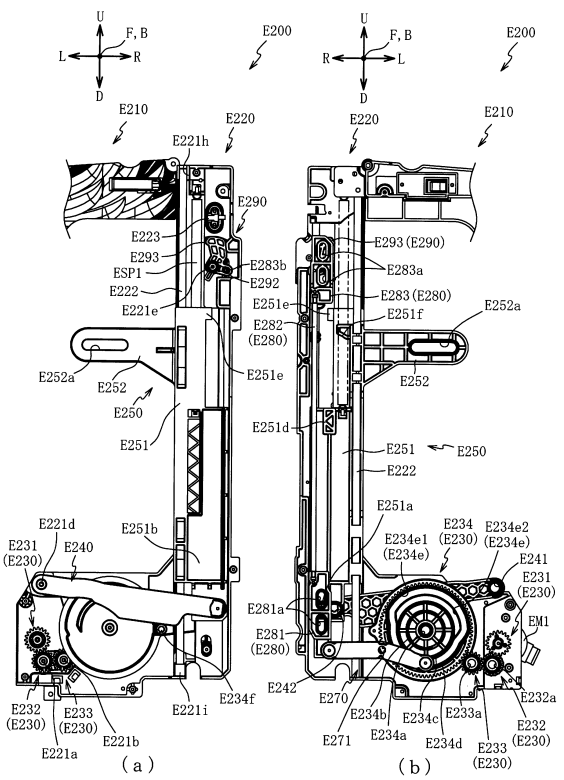
【図５６４】



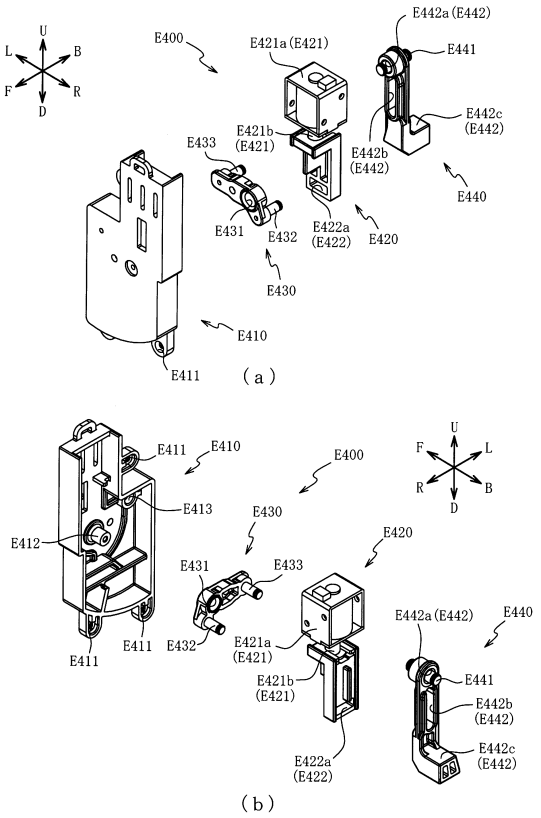
【図５６５】



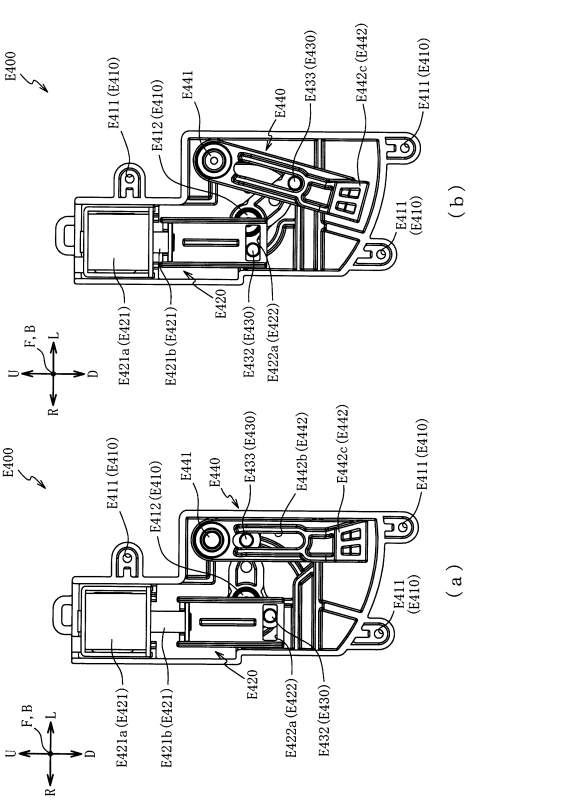
【図５６６】



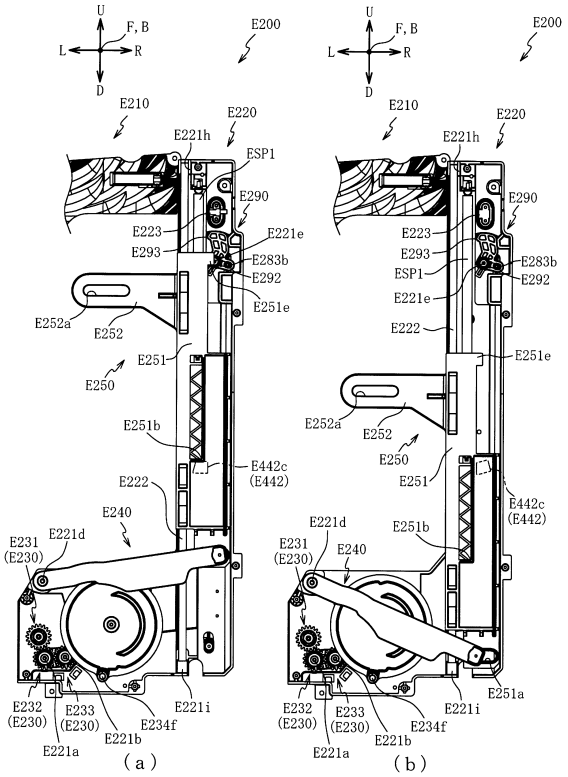
【図５６７】



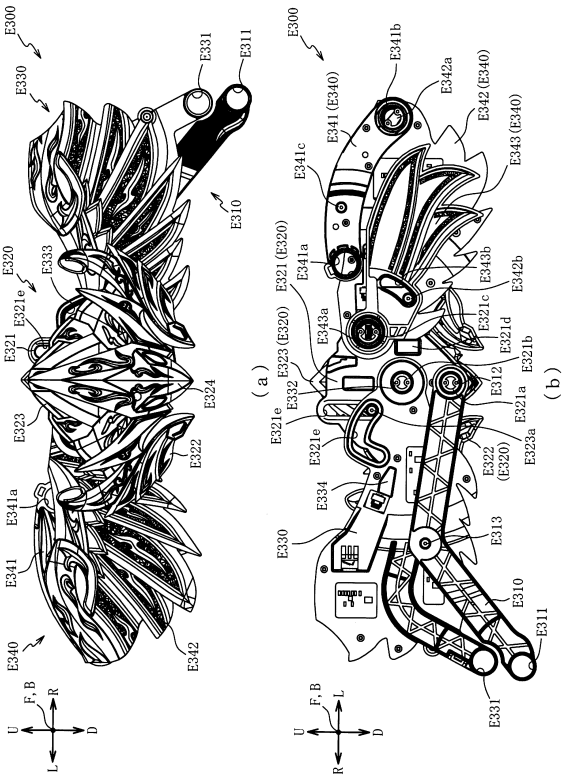
【図５６８】



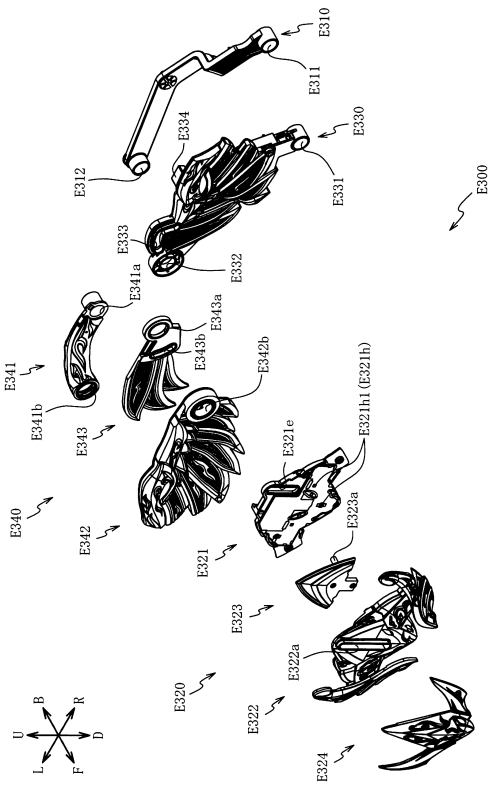
【図５６９】



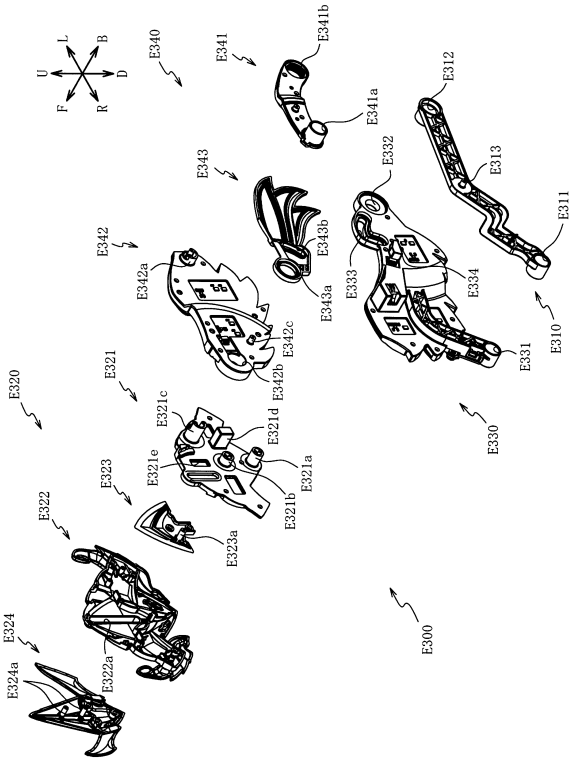
【図５７０】



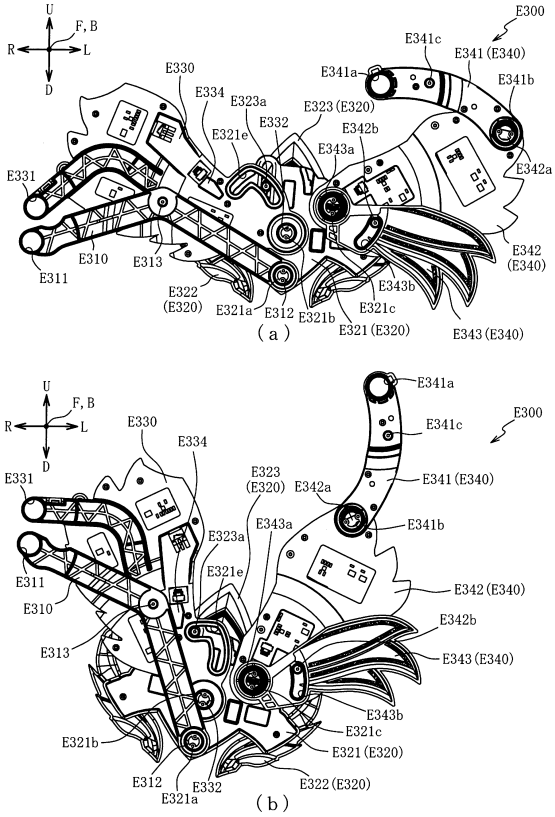
【図５７１】



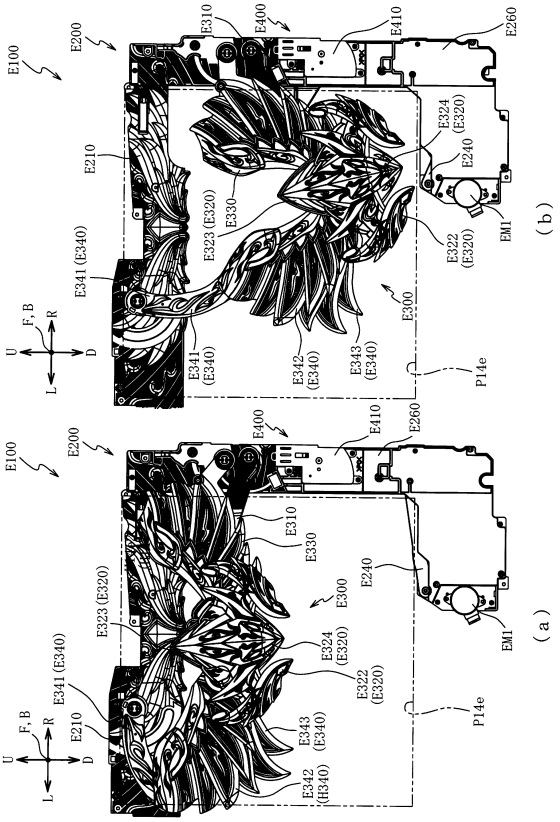
【図５７２】



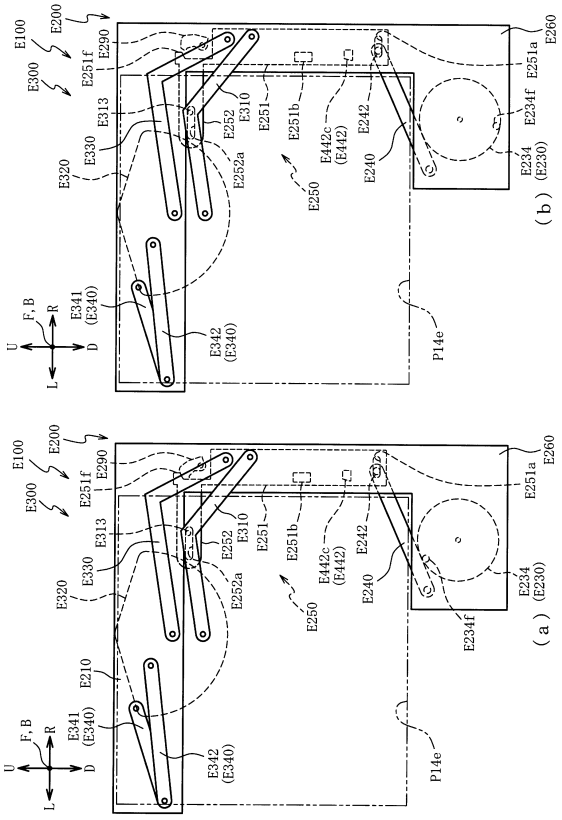
【図５７３】



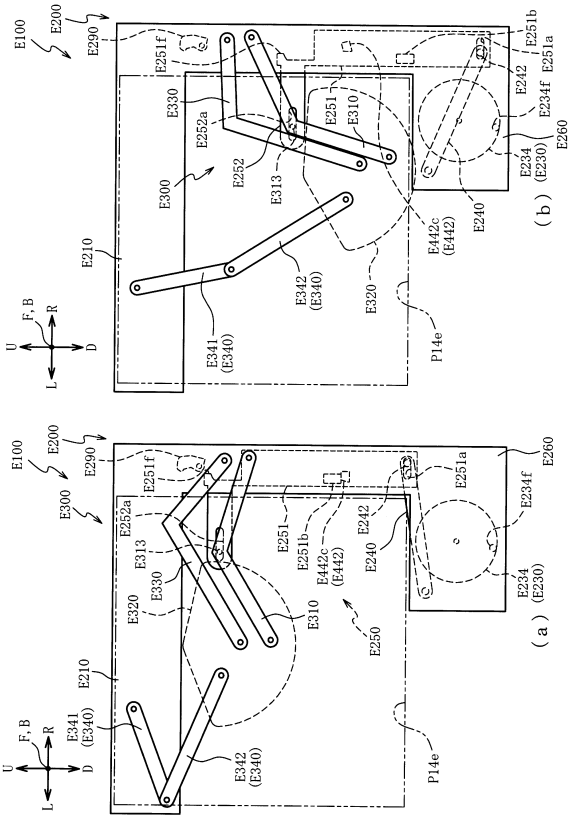
【図５７４】



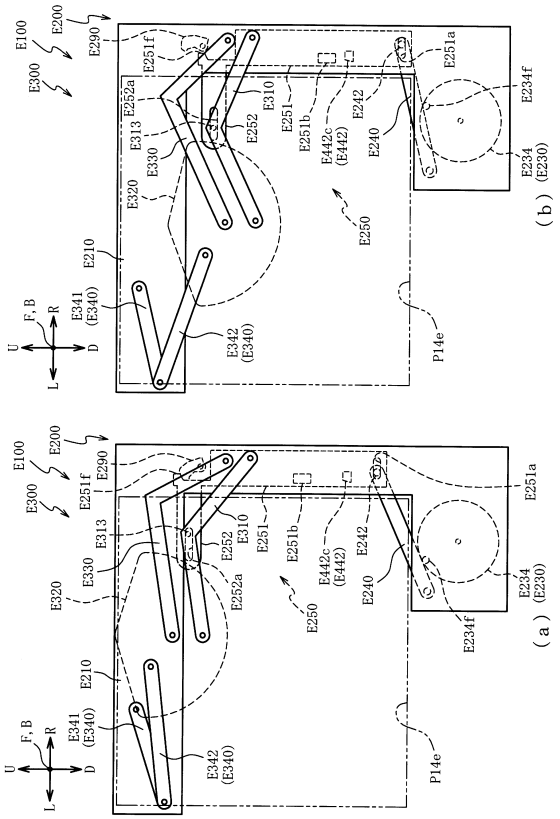
【図５７５】



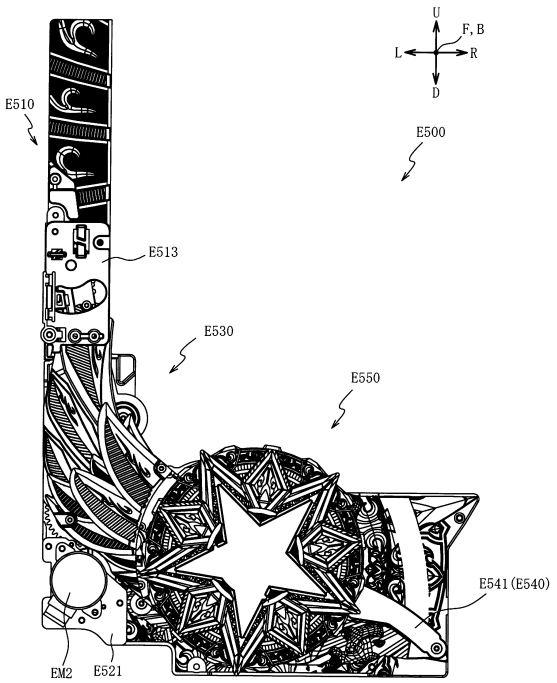
【図５７６】



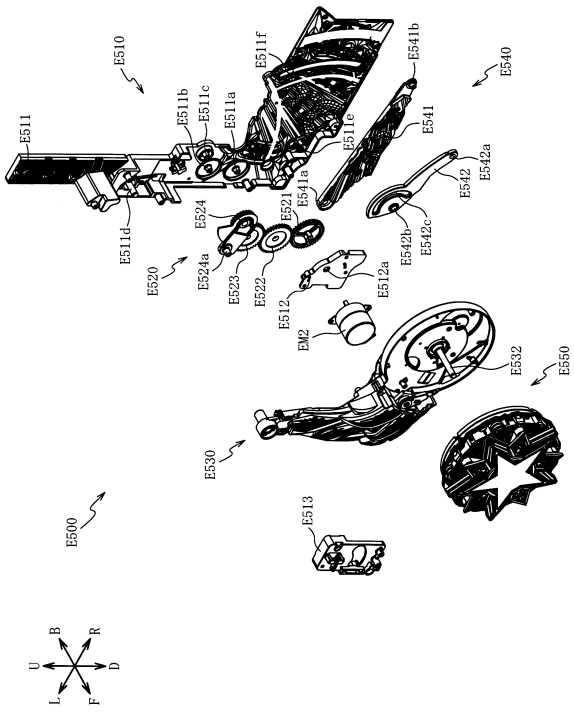
【図５７７】



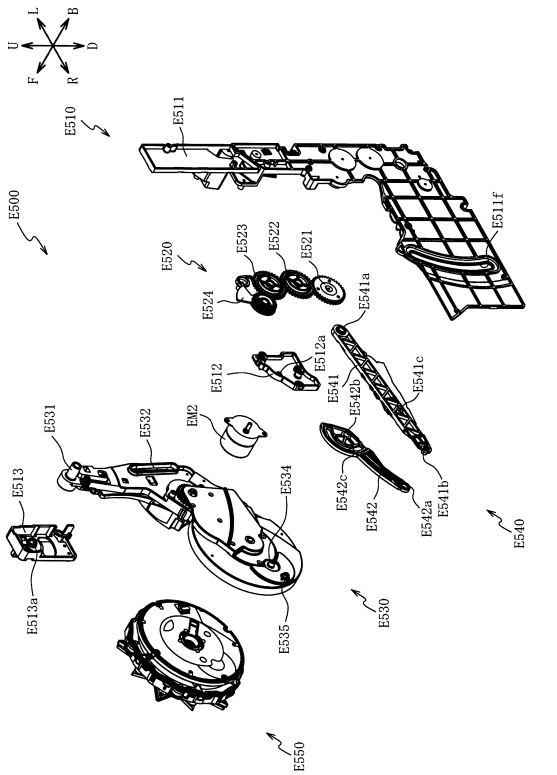
【図５７８】



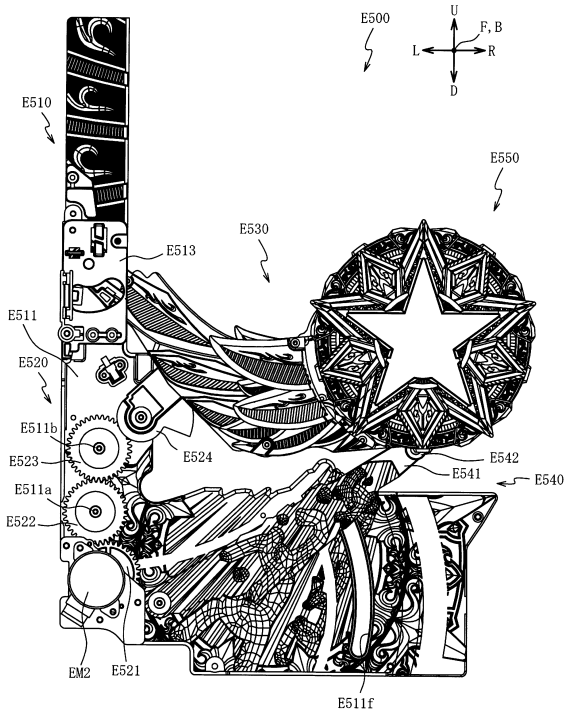
【図５７９】



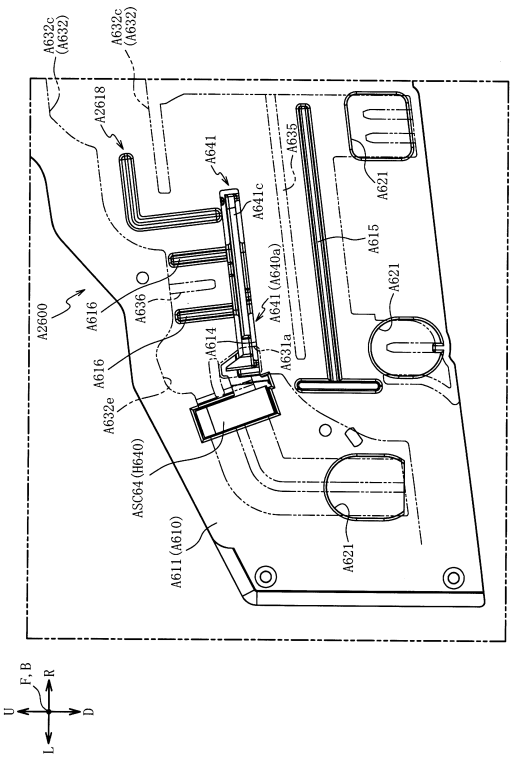
【図５８０】



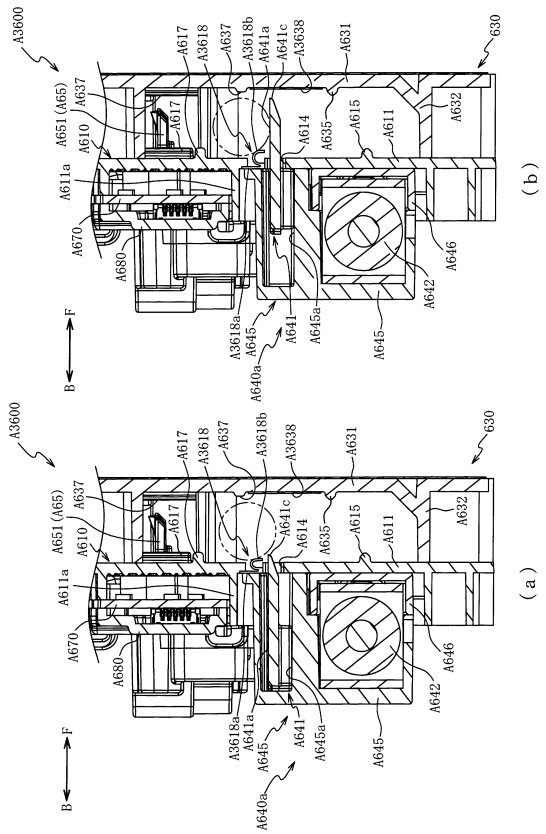
【図５８１】



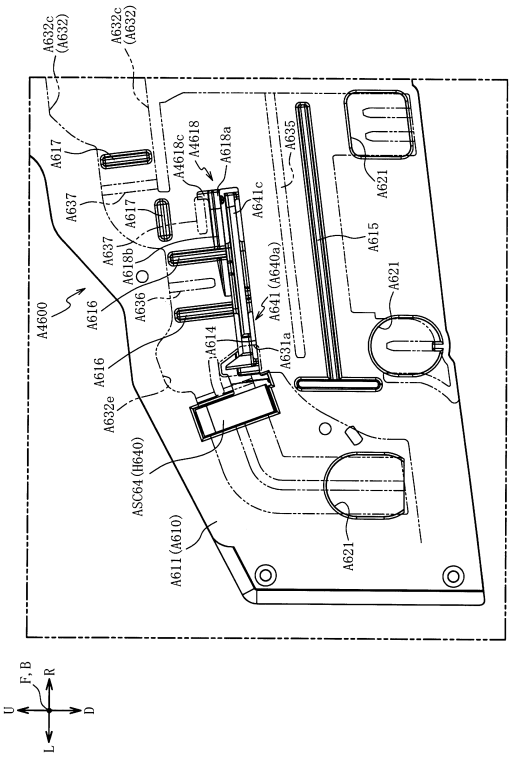
【図５８２】



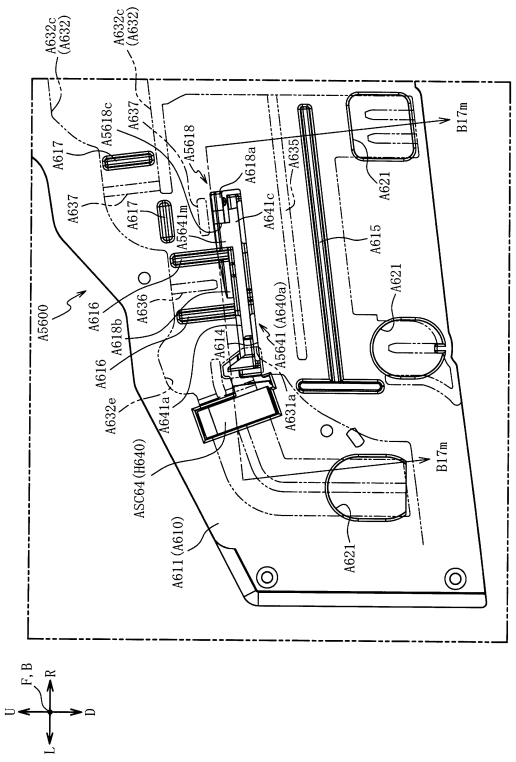
【図５８３】



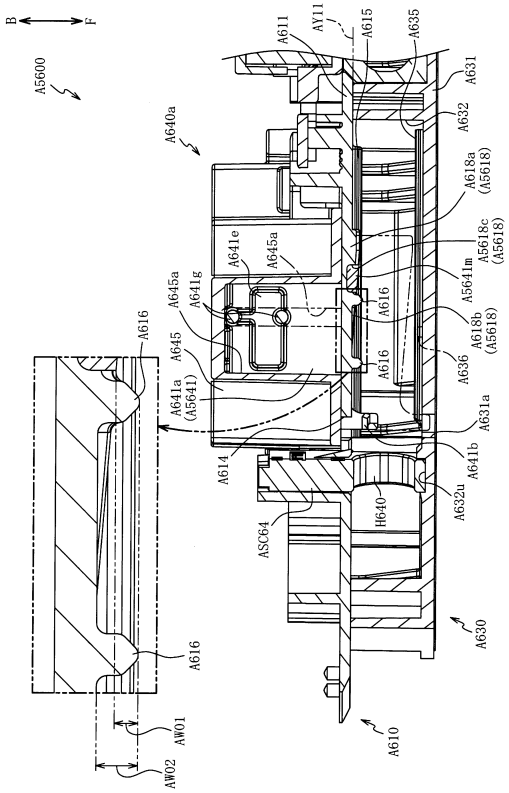
【図５８４】



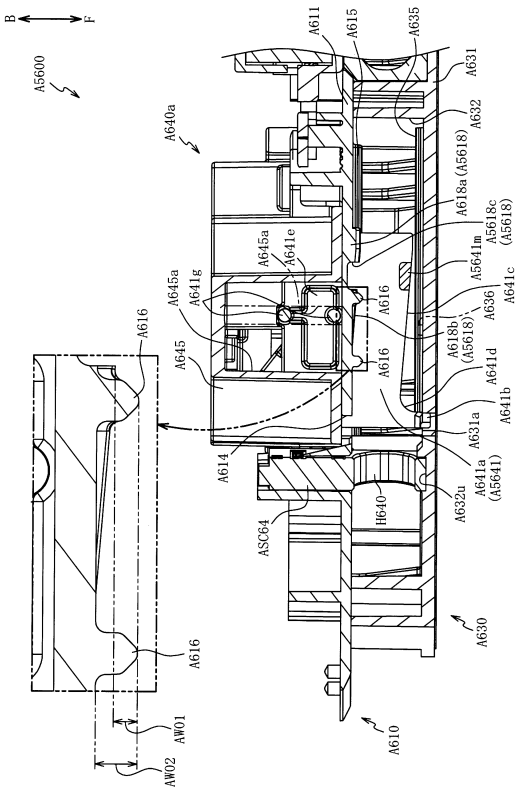
【図５８５】



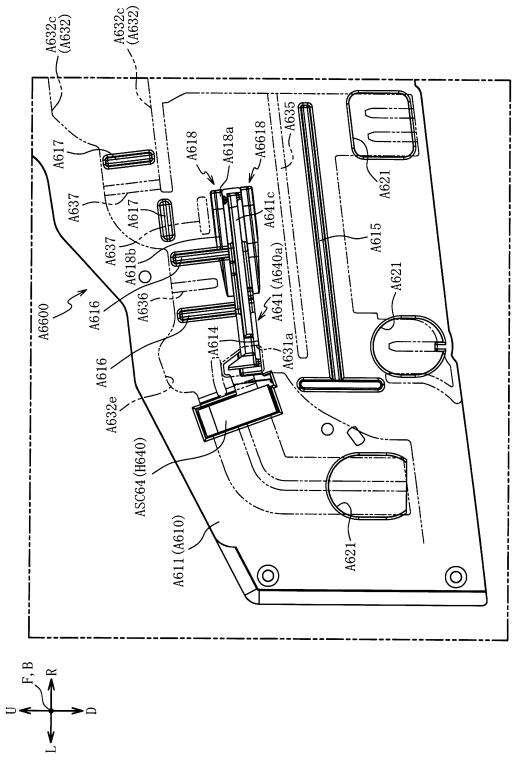
【図５８６】



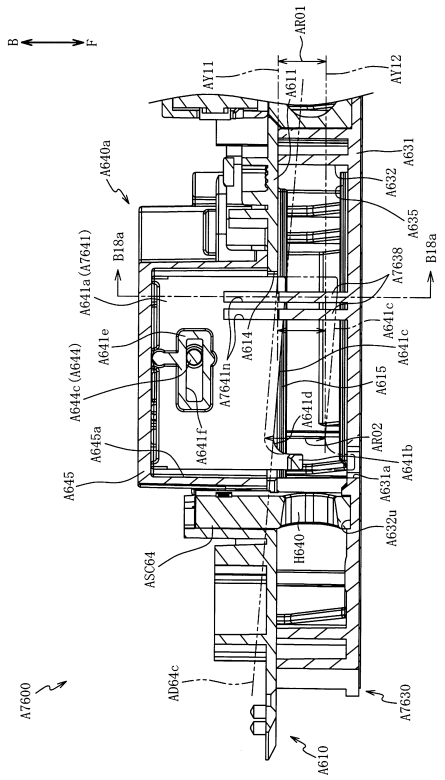
【図５８７】



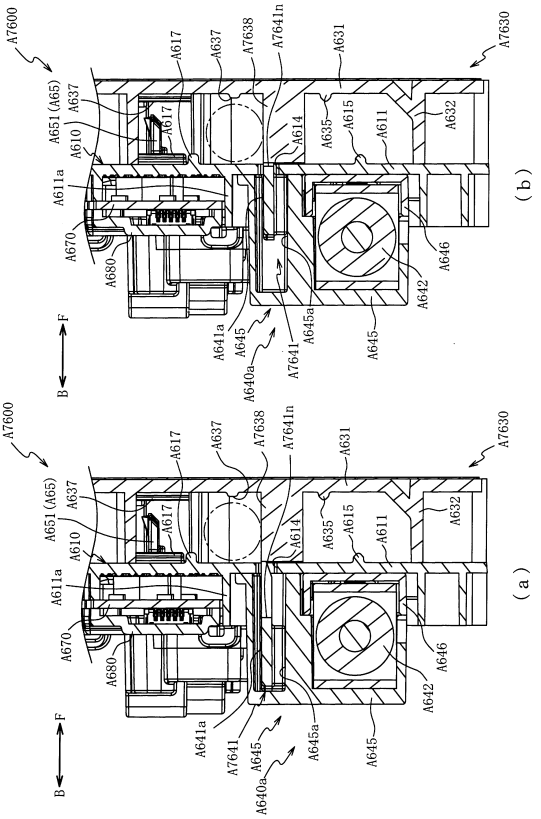
【図５８８】



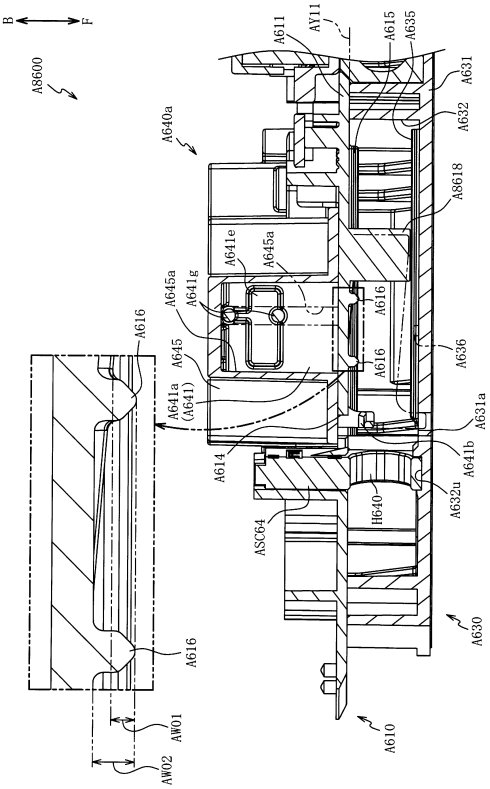
【図５８９】



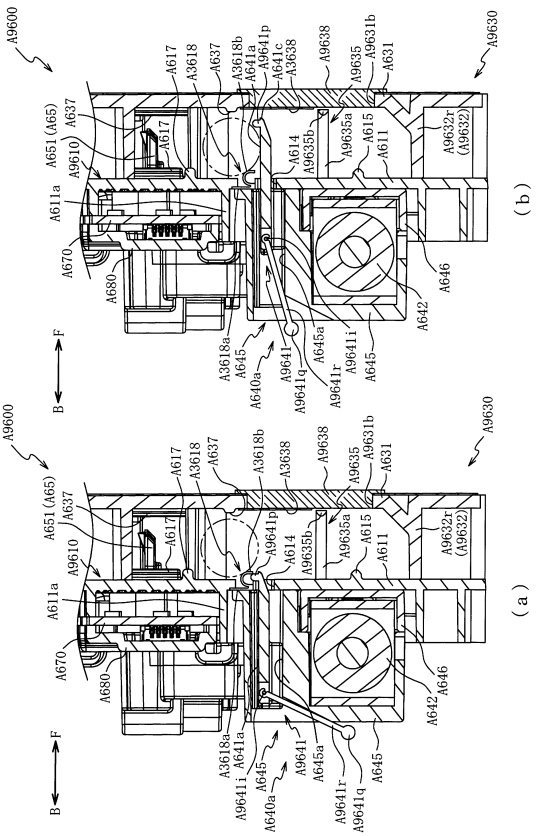
【図５９０】



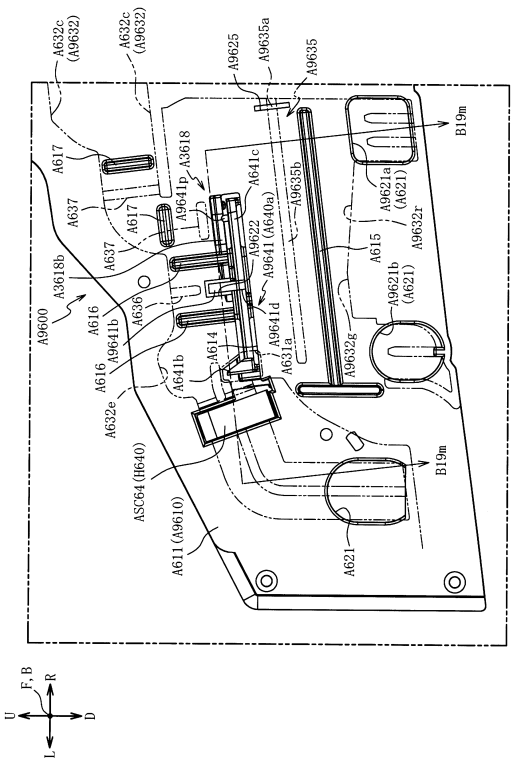
【図５９１】



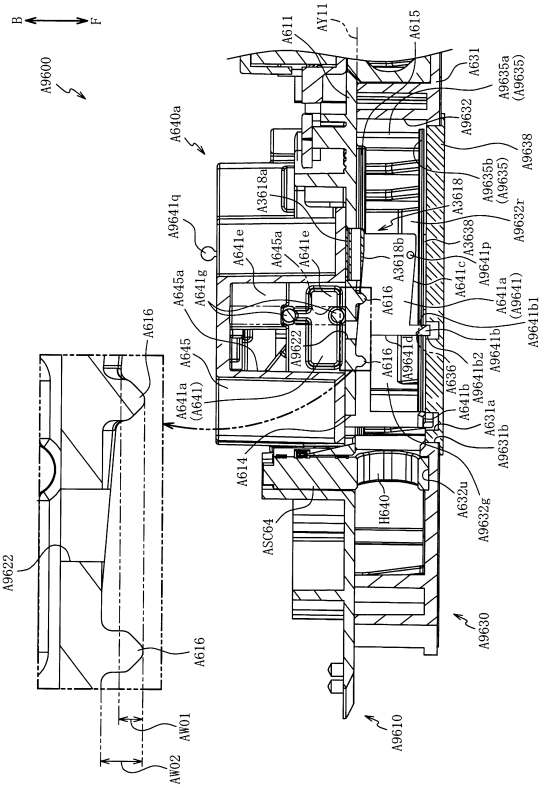
【図５９２】



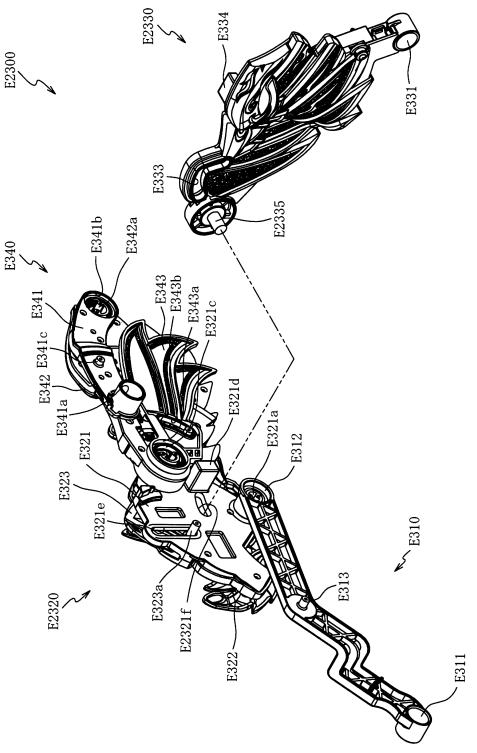
【図５９３】



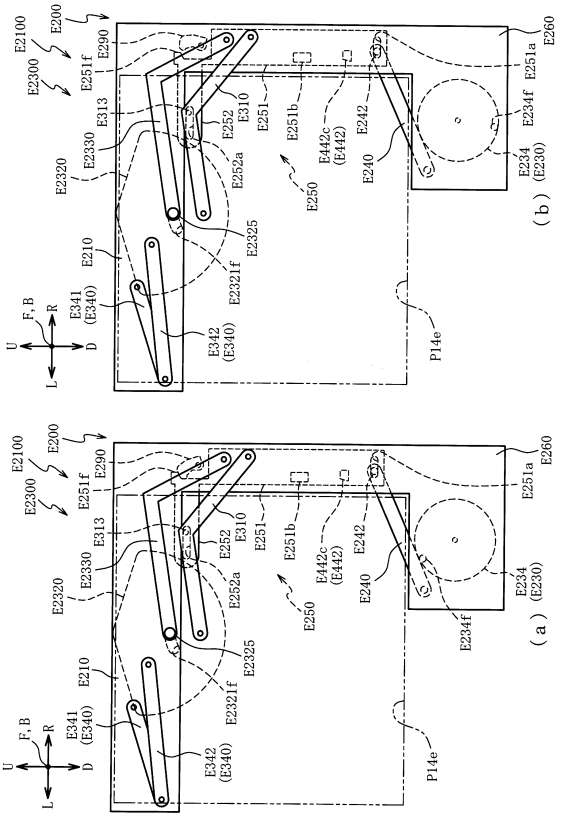
【図５９４】



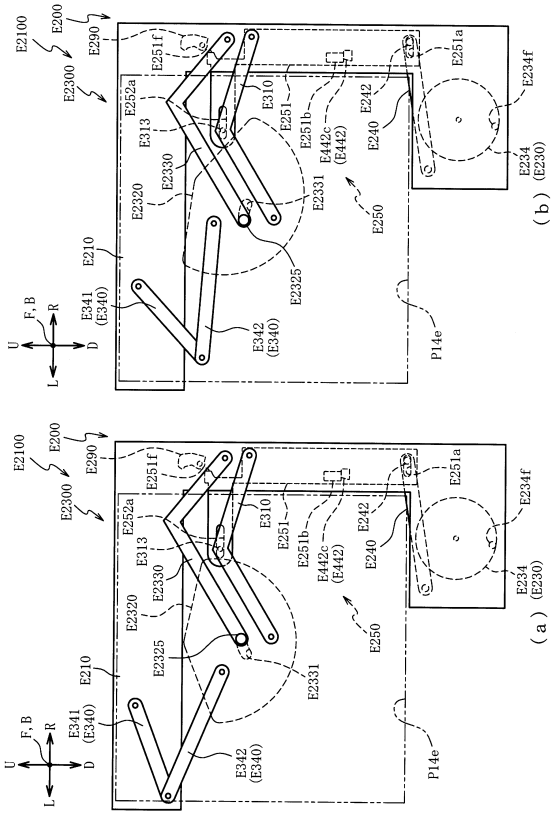
【図５９５】



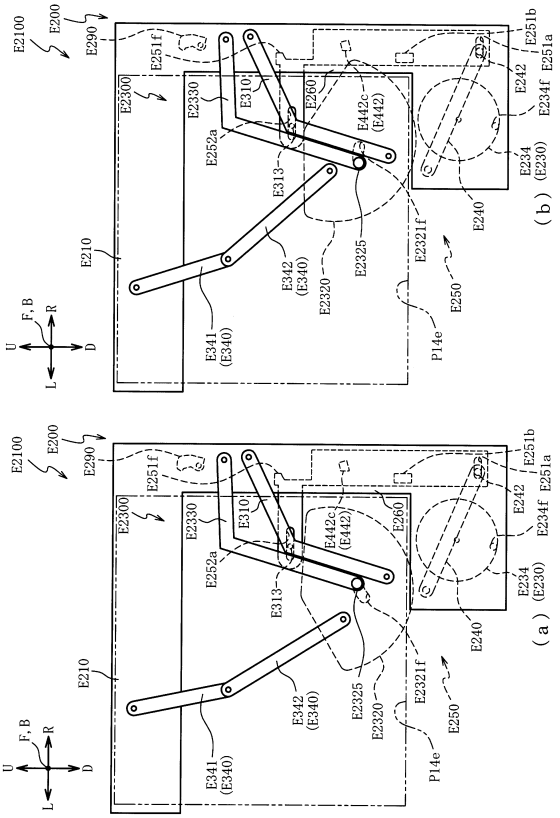
【図５９６】



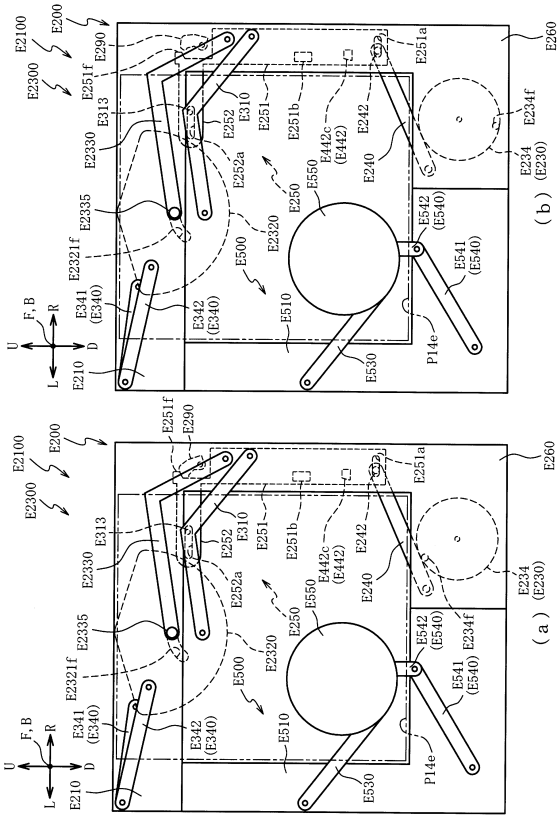
【図５９７】



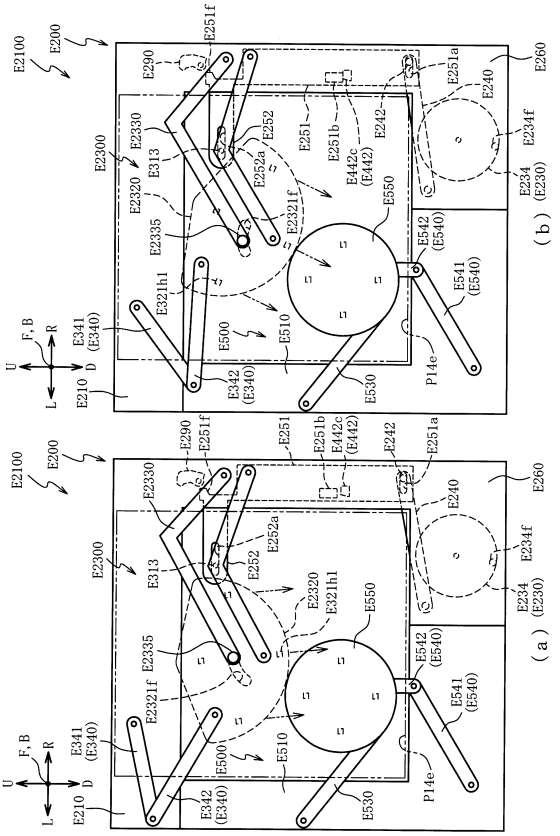
【図５９８】



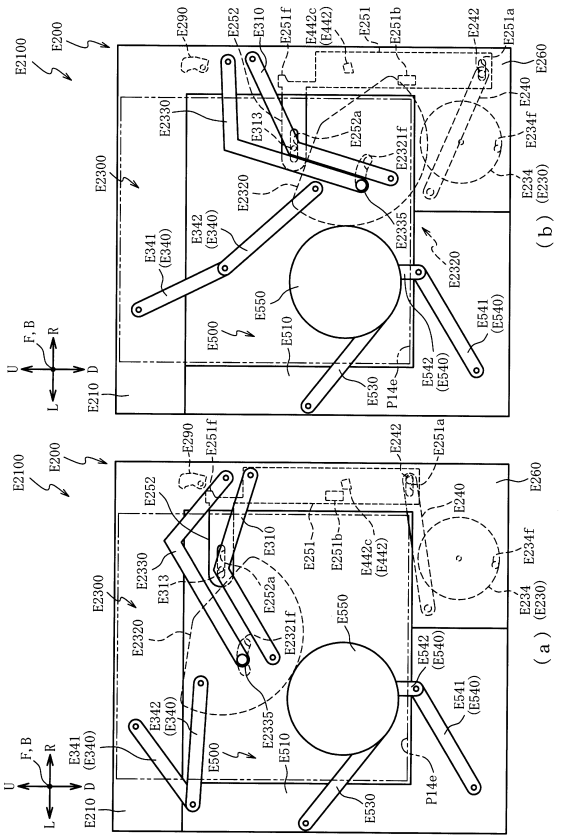
【図５９９】



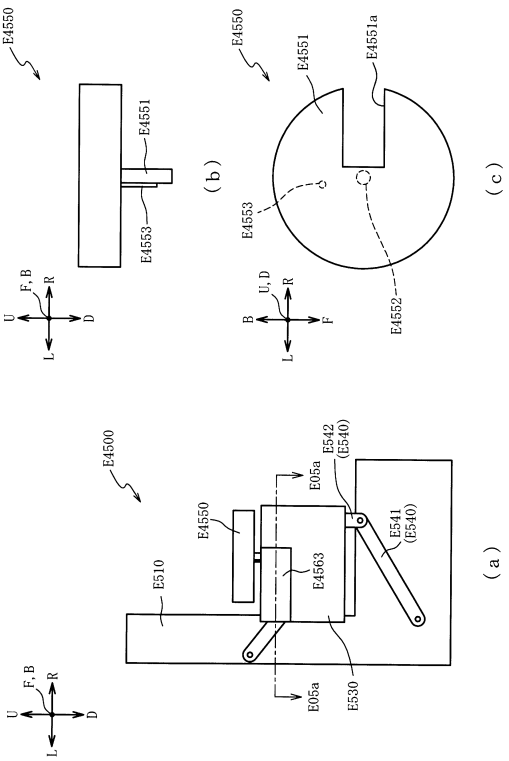
【図６００】



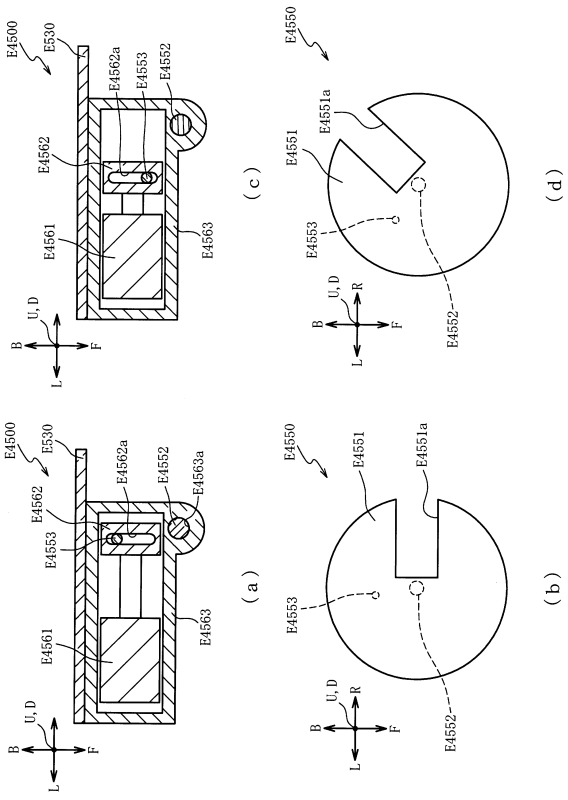
【図６０１】



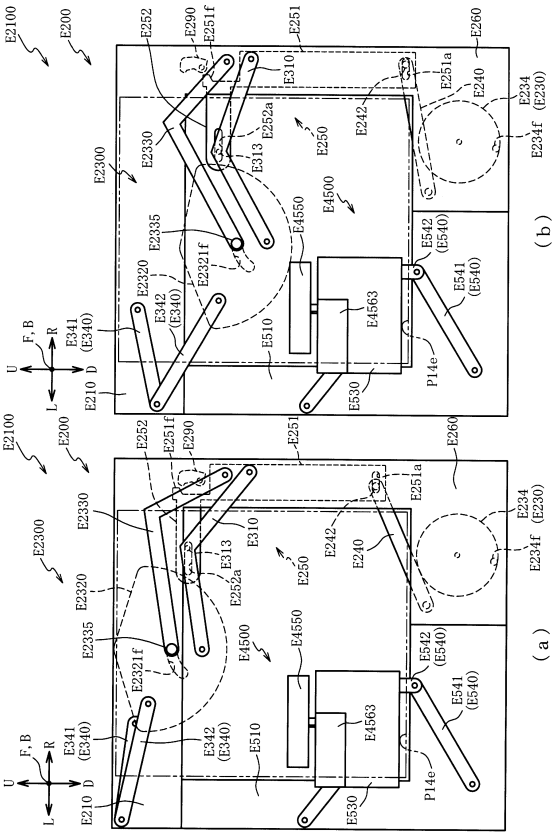
【図６０２】



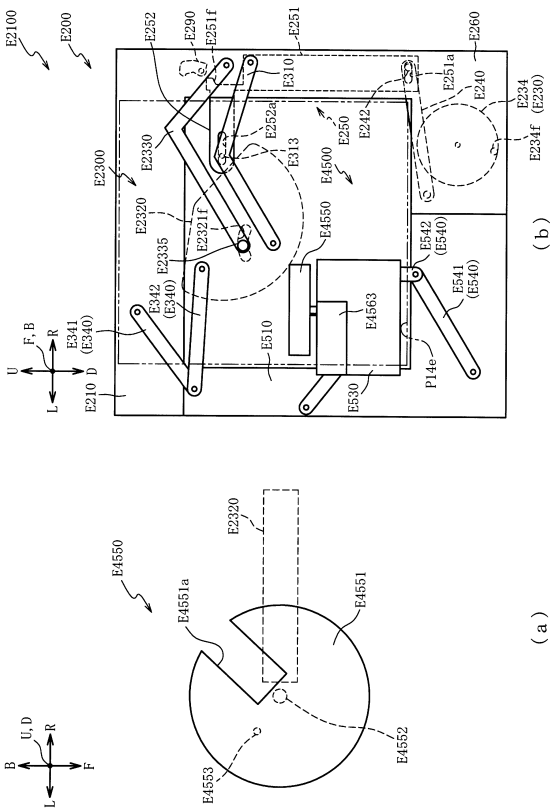
【図６０３】



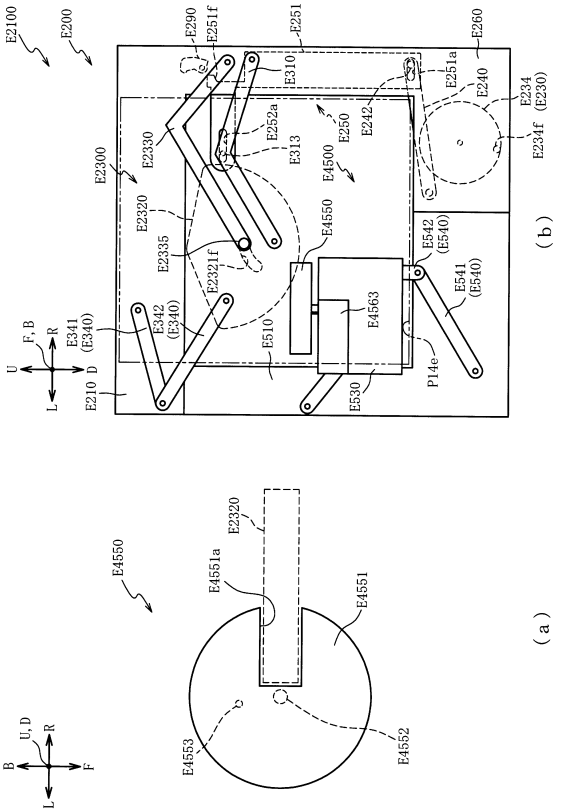
【図６０４】



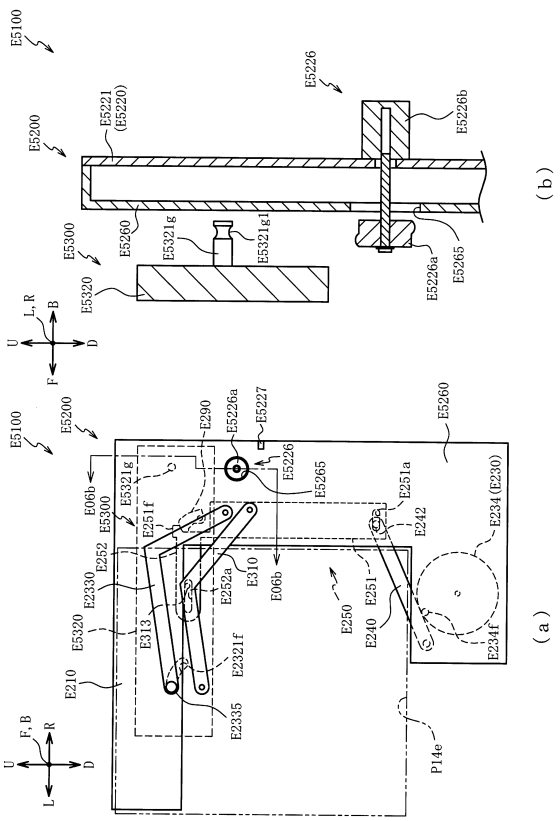
【図６０５】



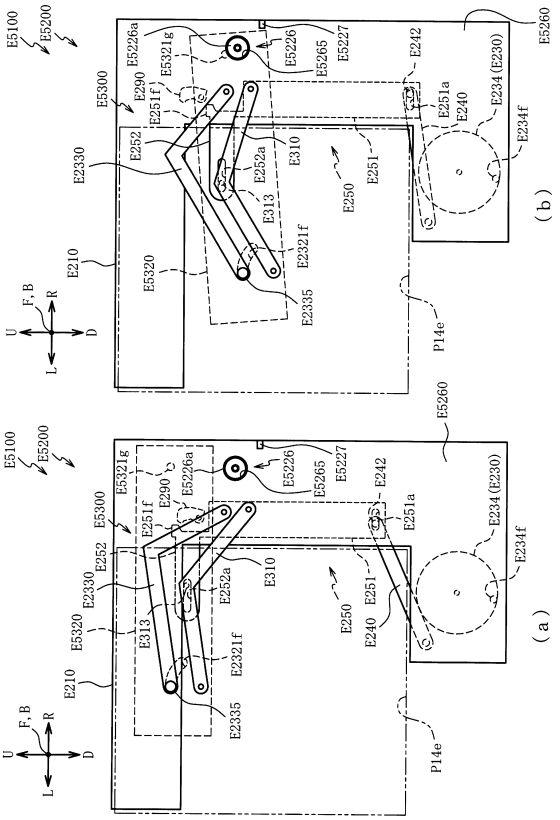
【図６０６】



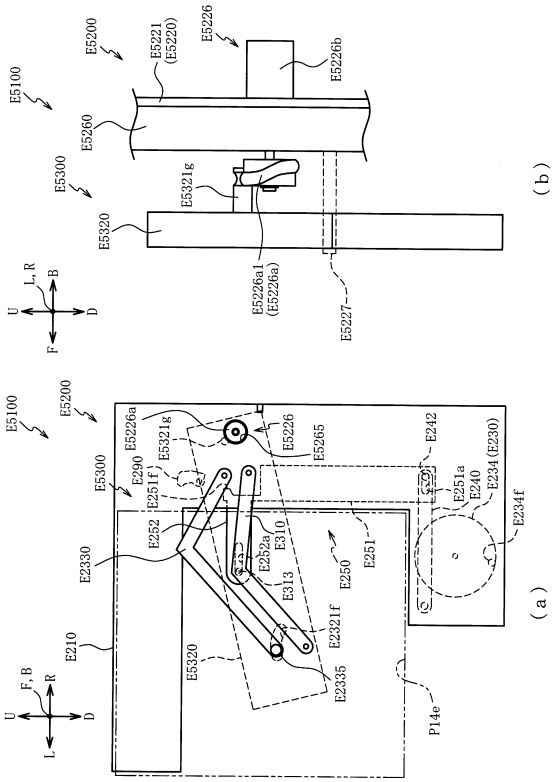
【図６０７】



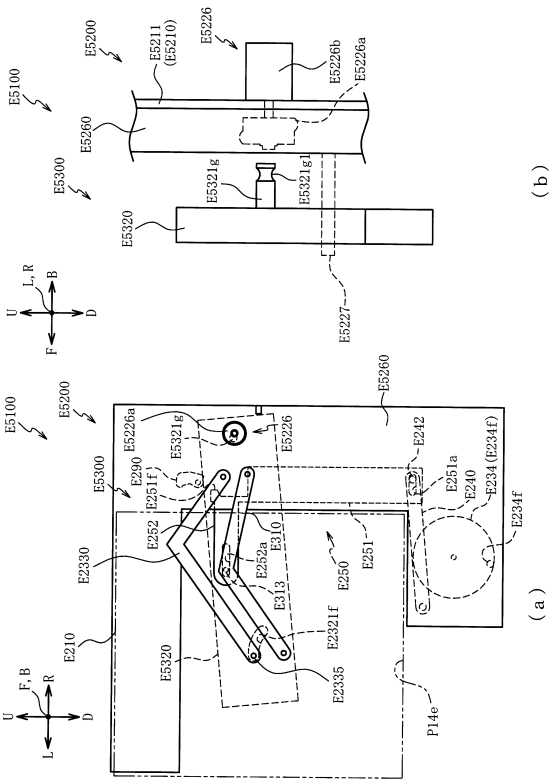
【図６０８】



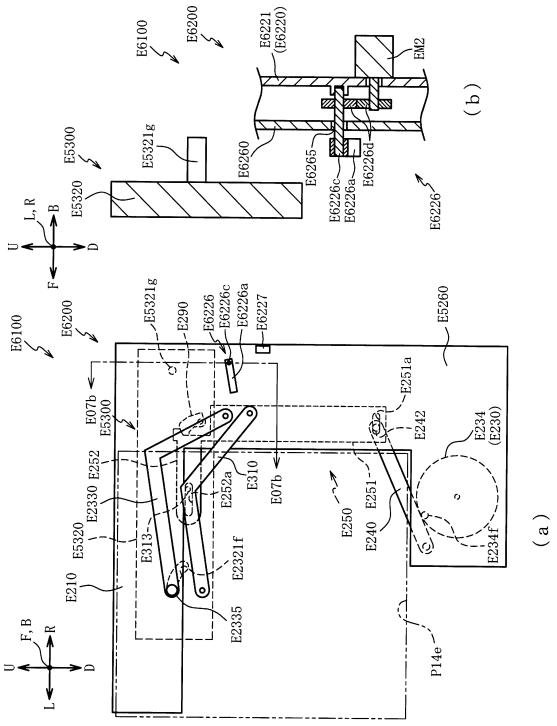
【図６０９】



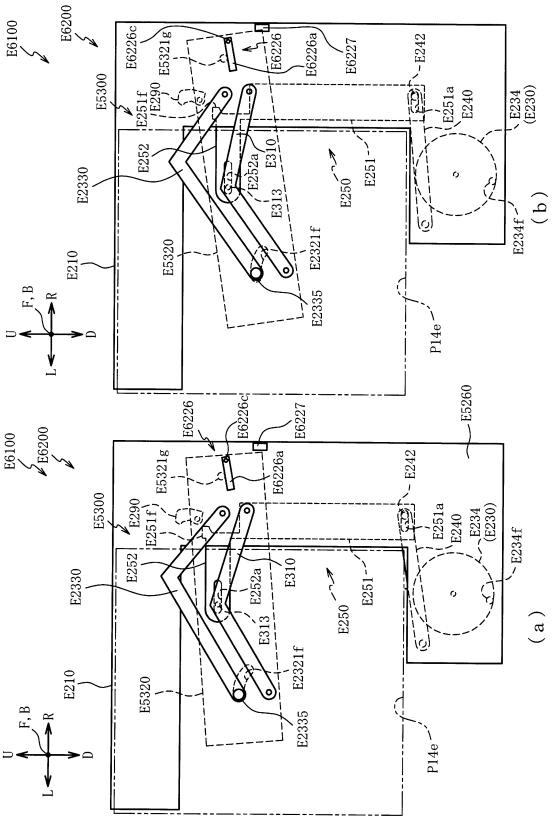
【図６１０】



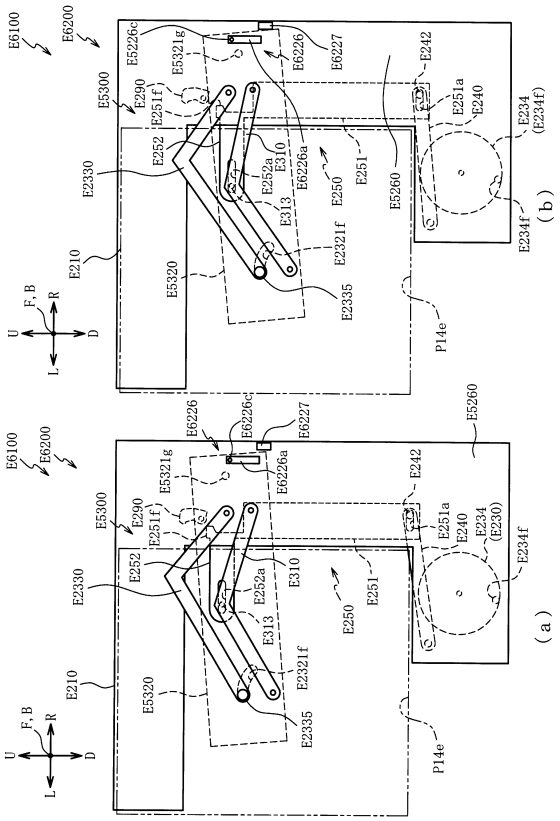
【図６１１】



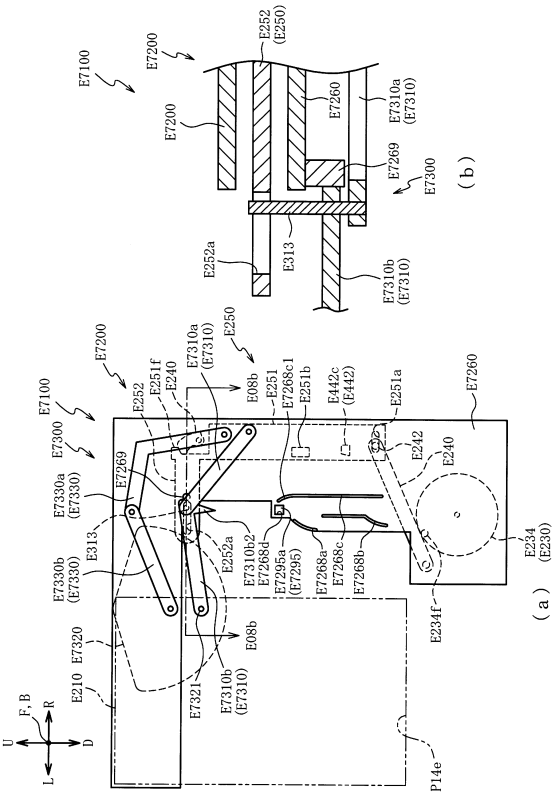
【図６１２】



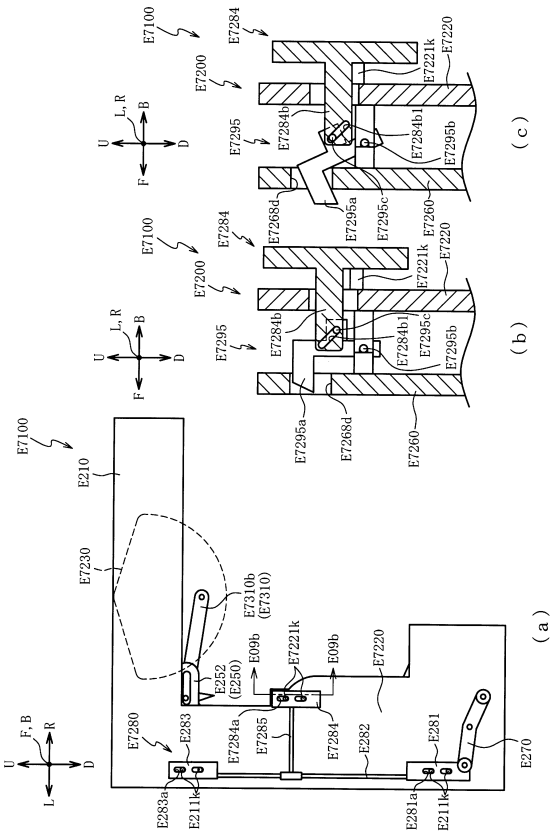
【図６１３】



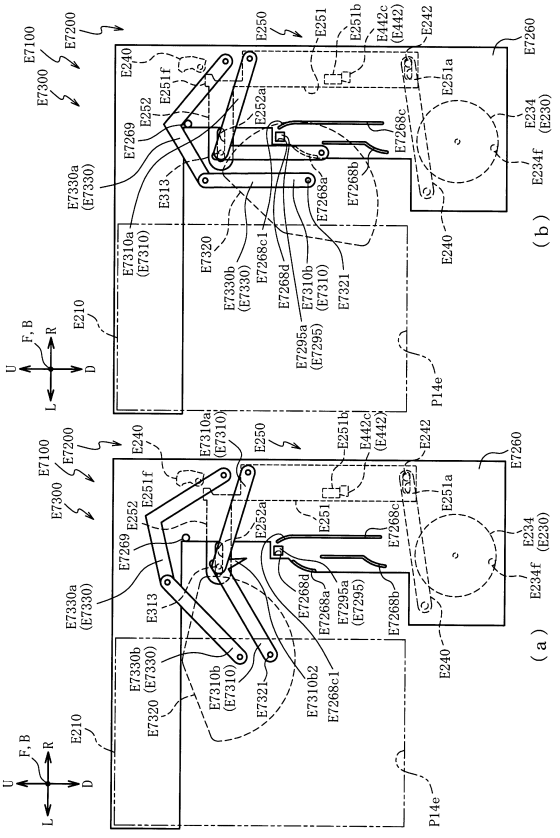
【図６１４】



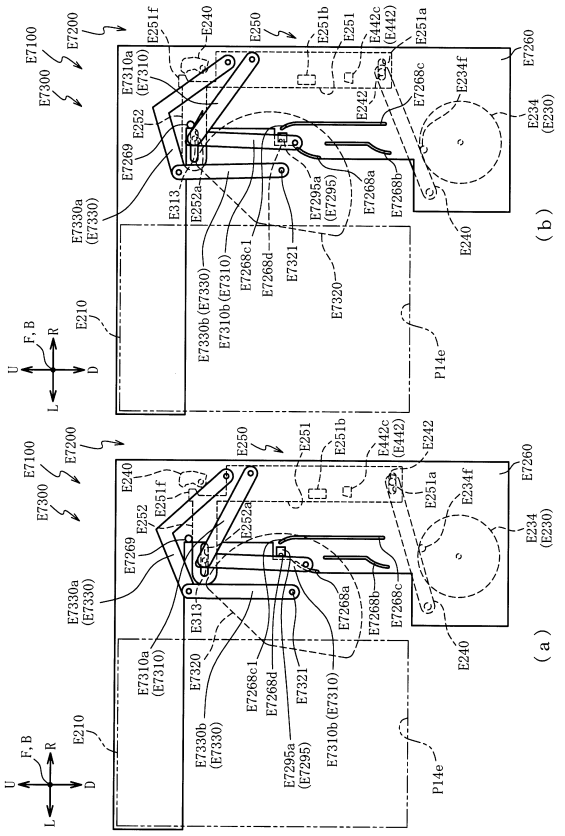
【図６１５】



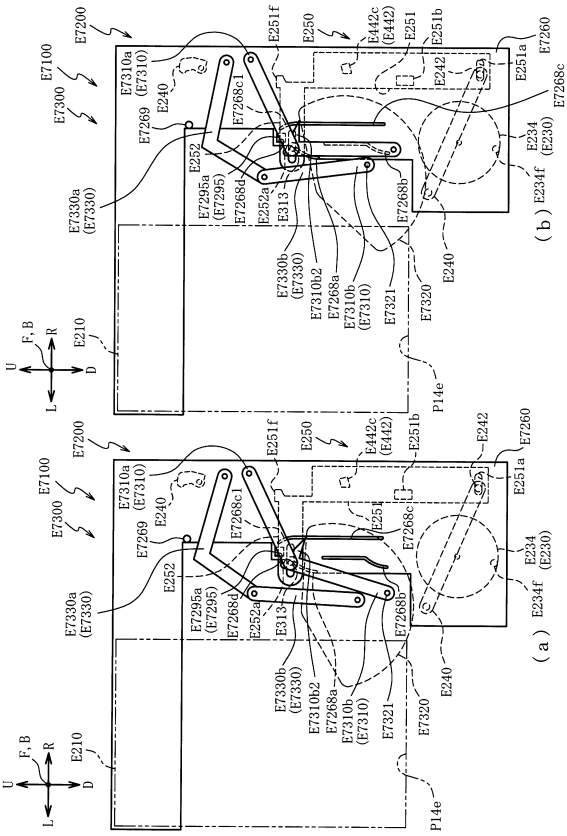
【図６１６】



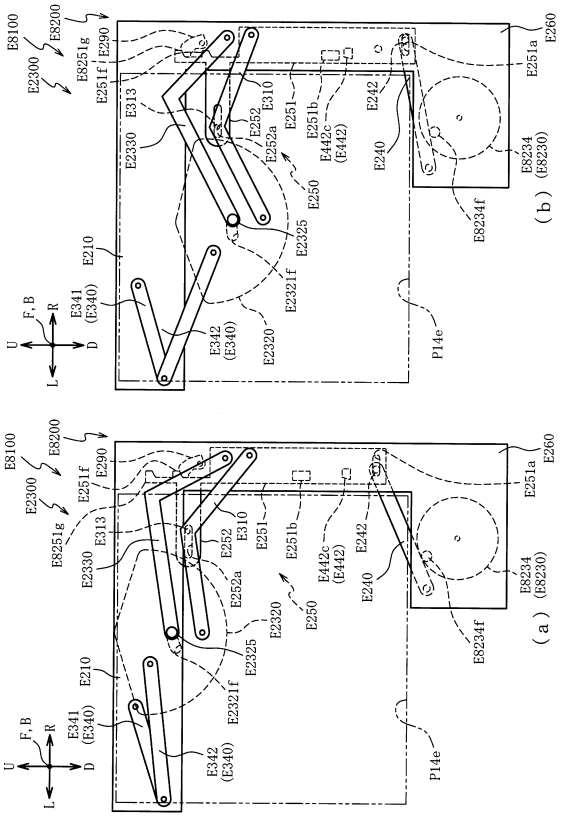
【図６１７】



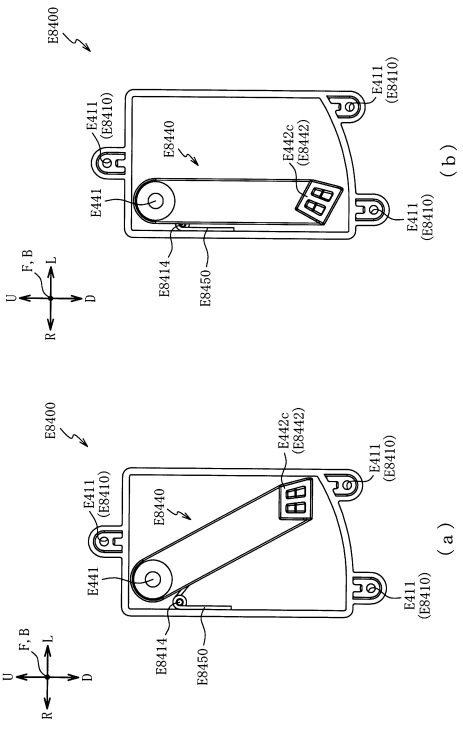
【図６１８】



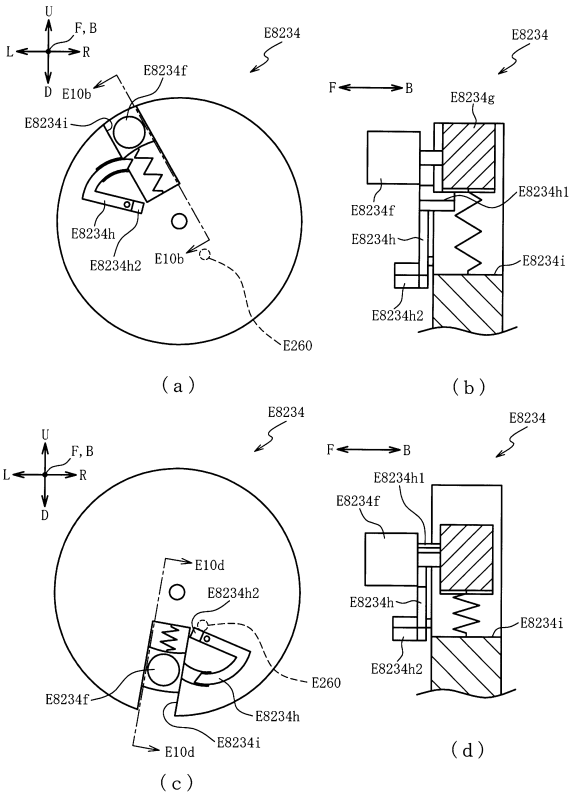
【図６１９】



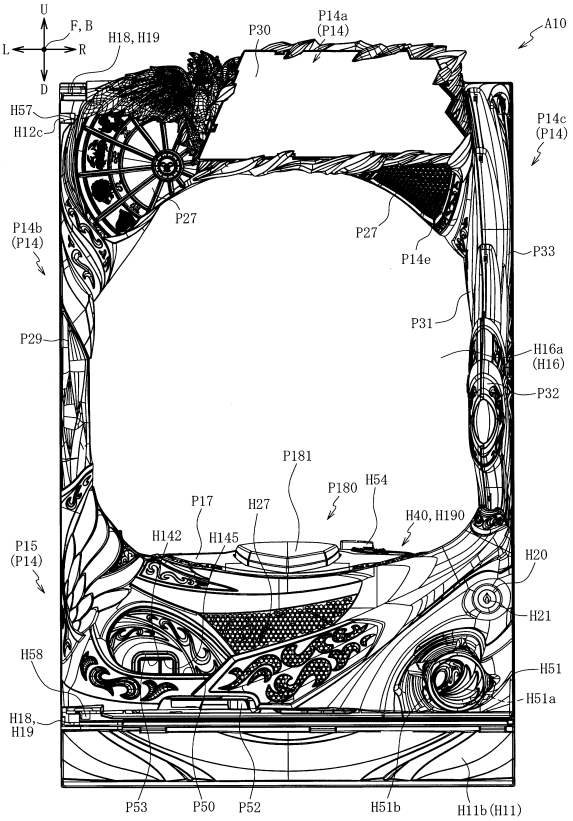
【図６２０】



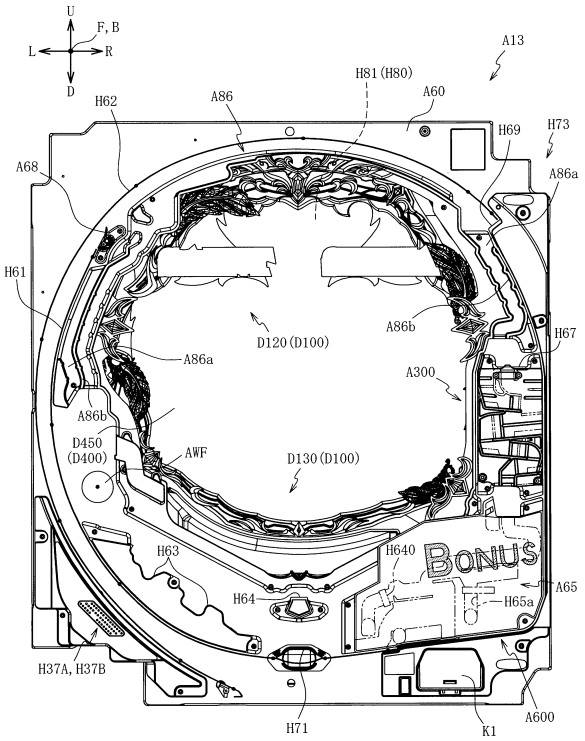
【図６２１】



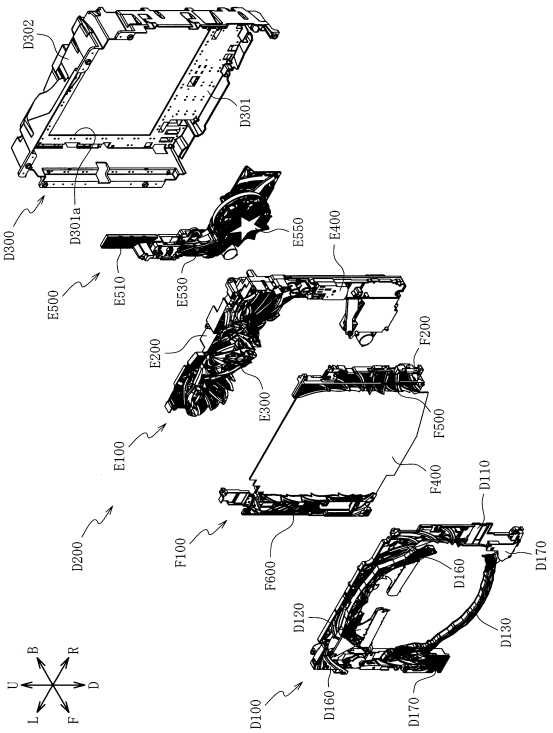
【図６２２】



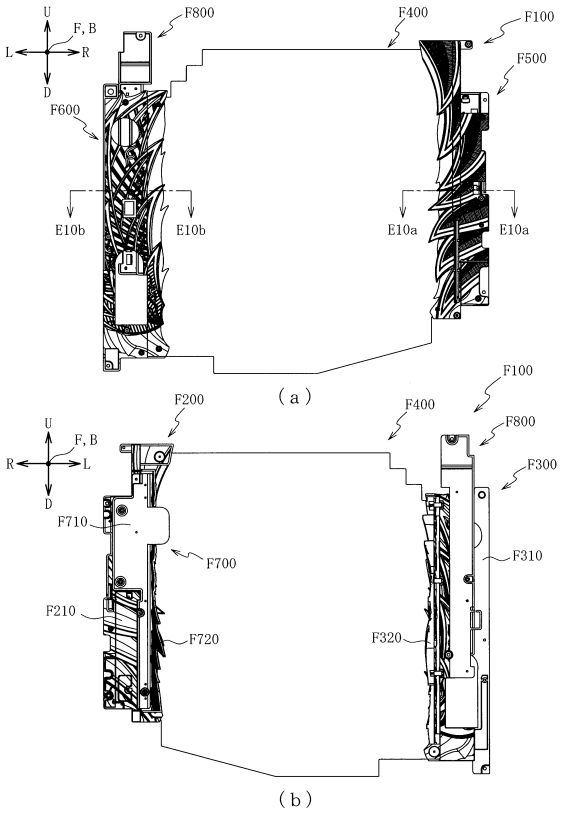
【図６２３】



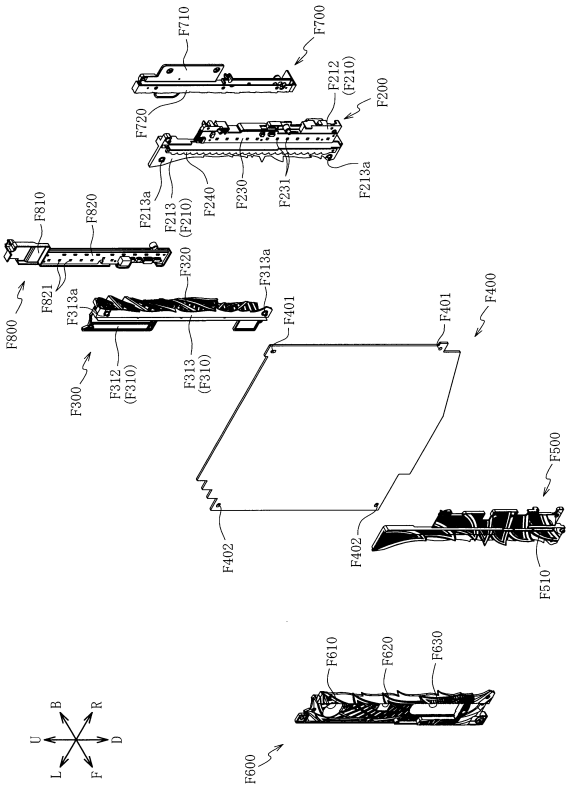
【図６２４】



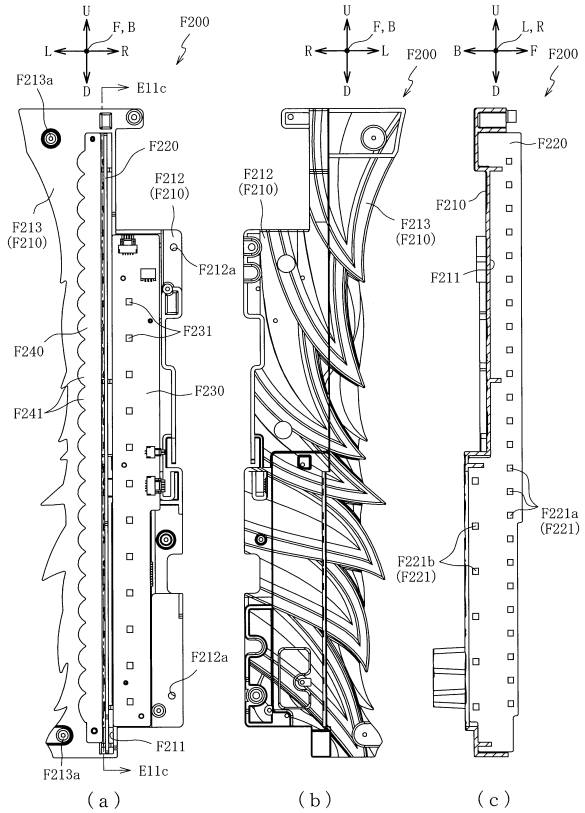
【図６２５】



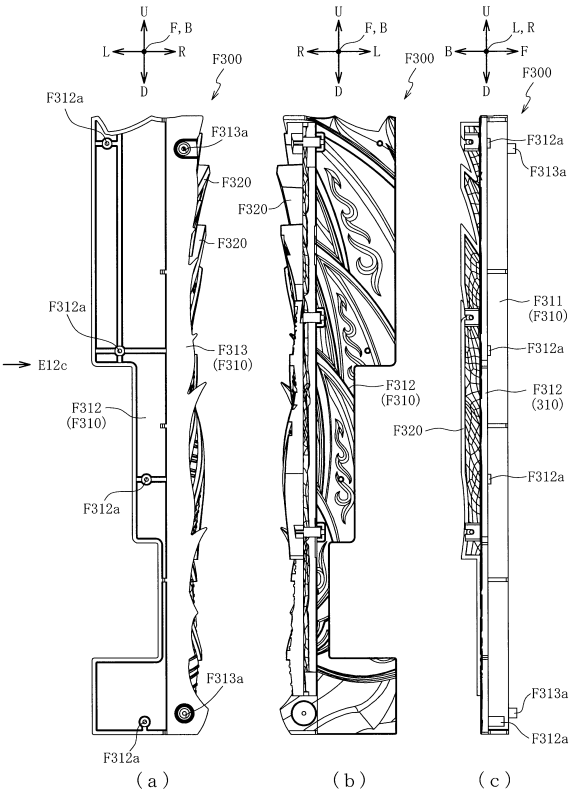
【図６２６】



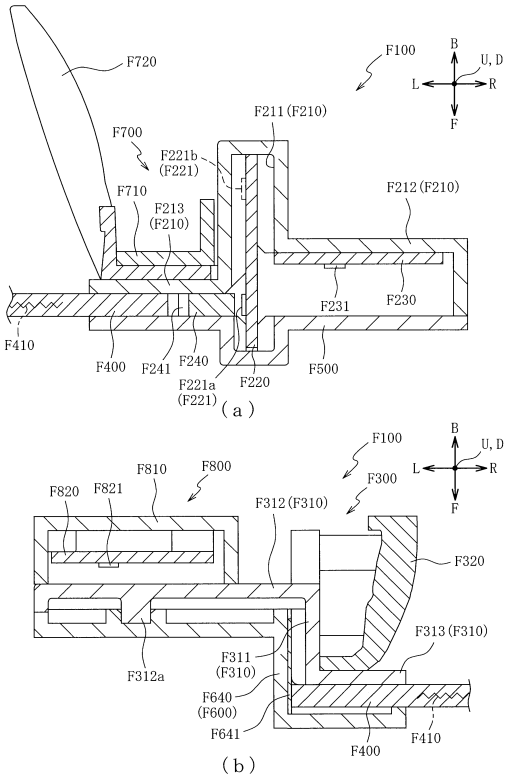
【図６２７】



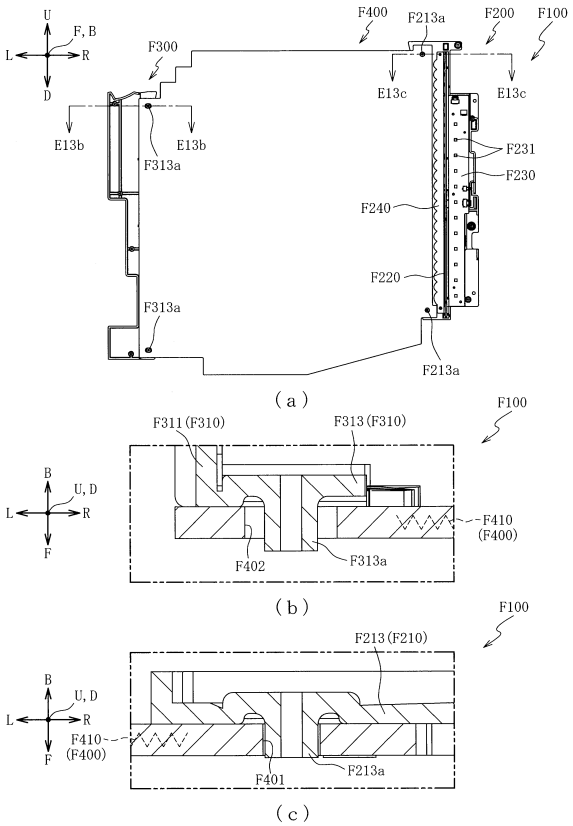
【図６２８】



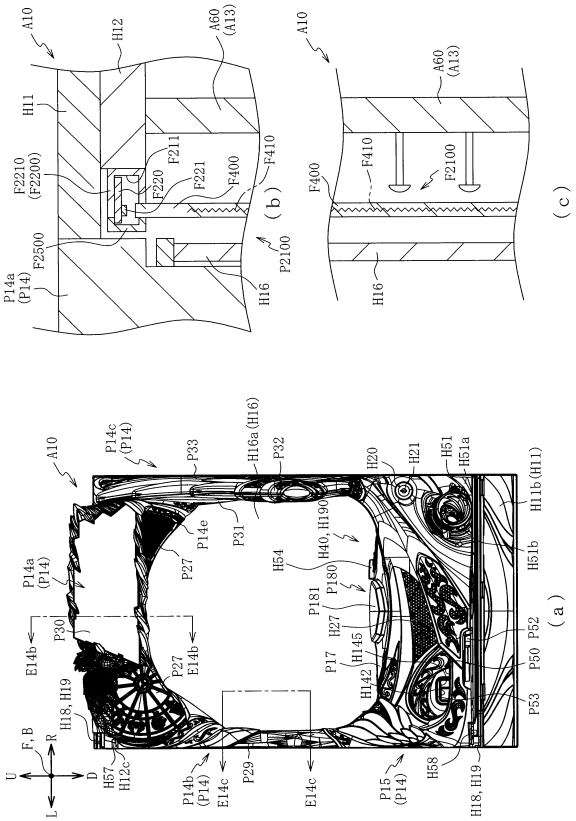
【図６２９】



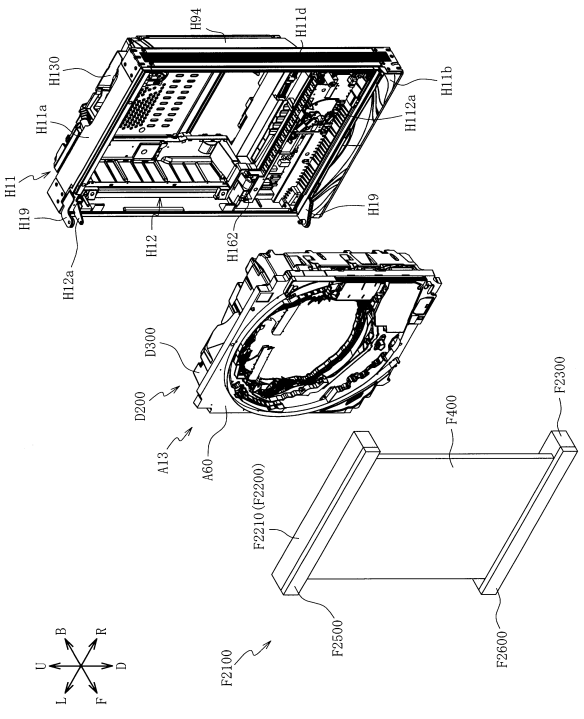
【図６３０】



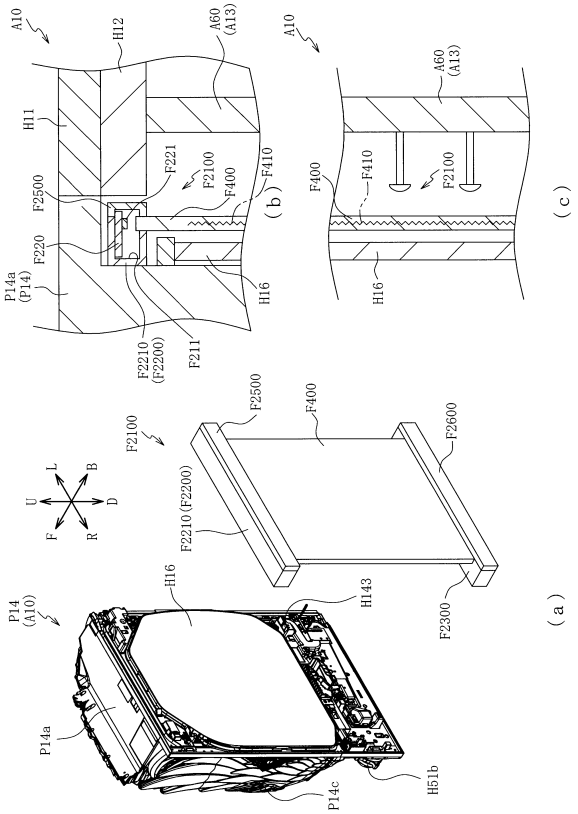
【図６３１】



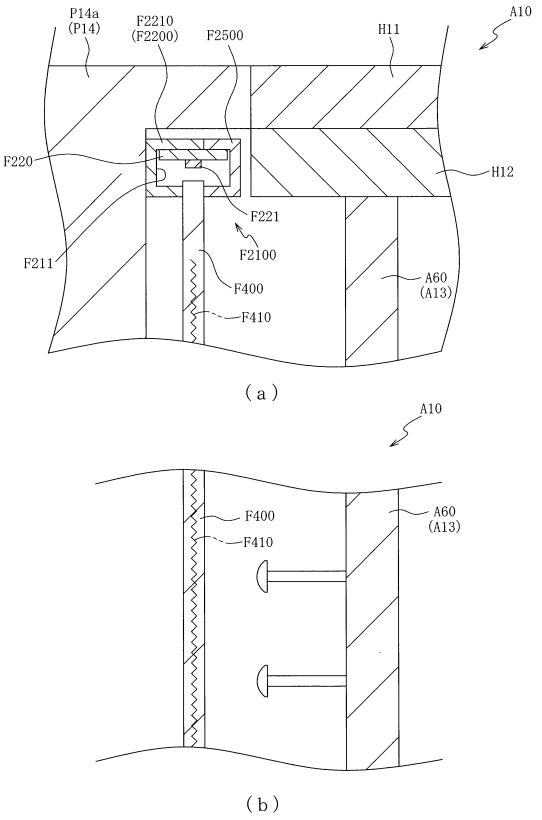
【図６３２】



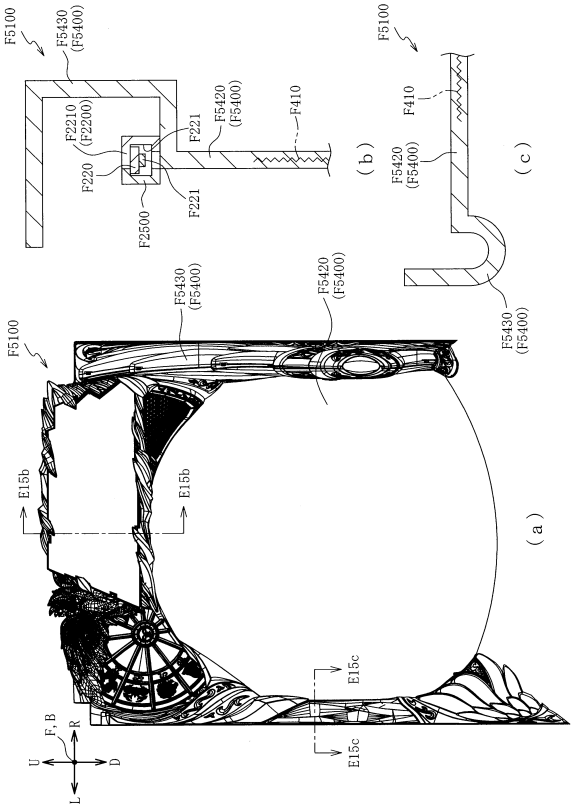
【図６３３】



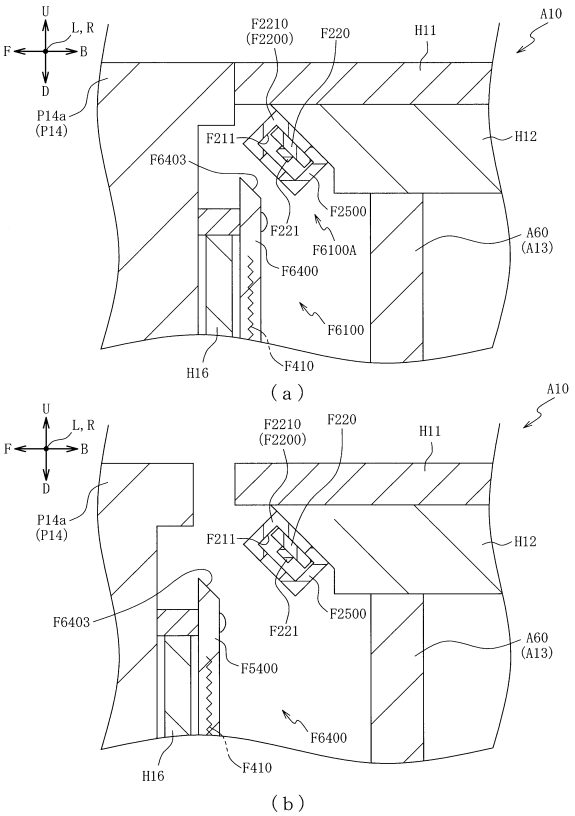
【図６３４】



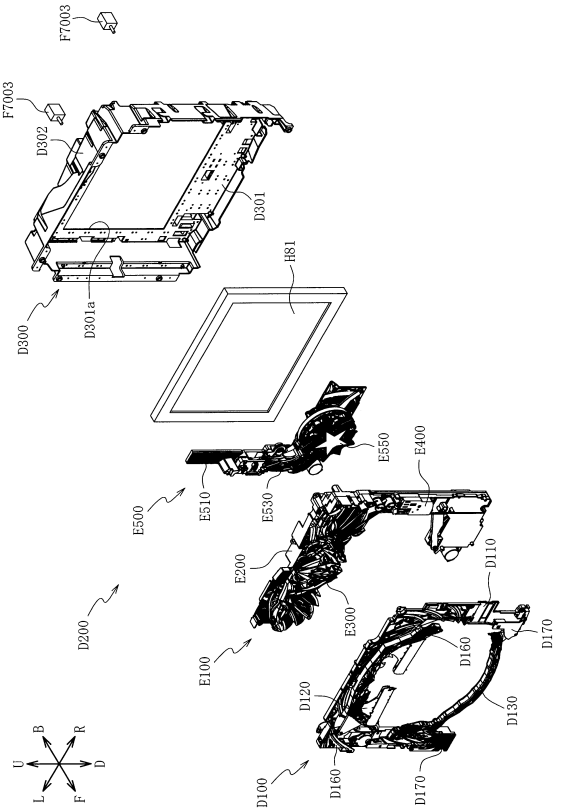
【図６３５】



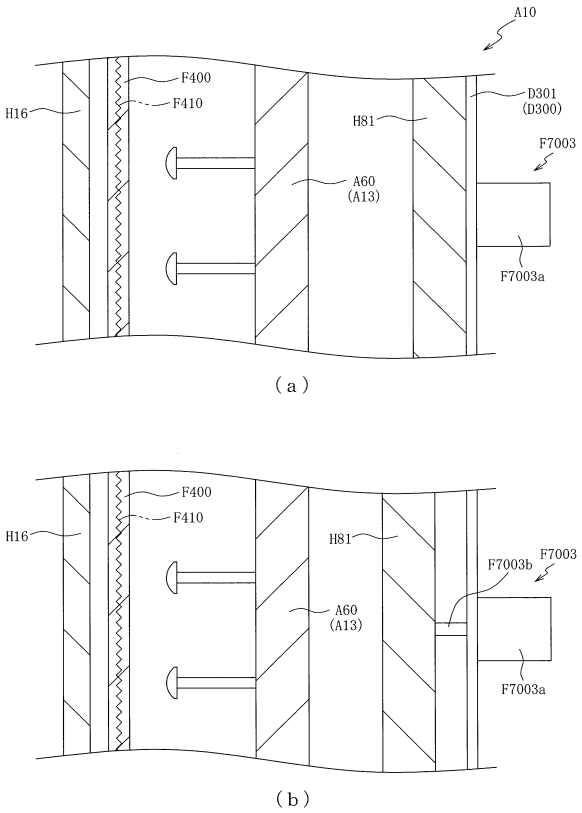
【図６３６】



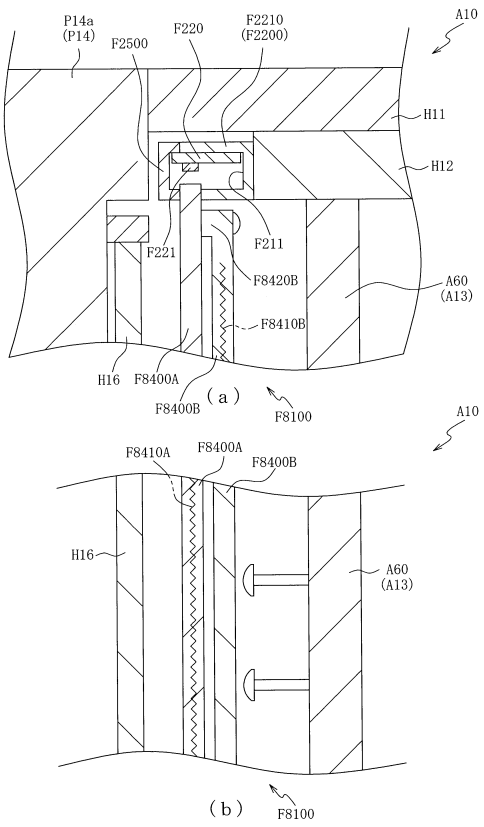
【図６３７】



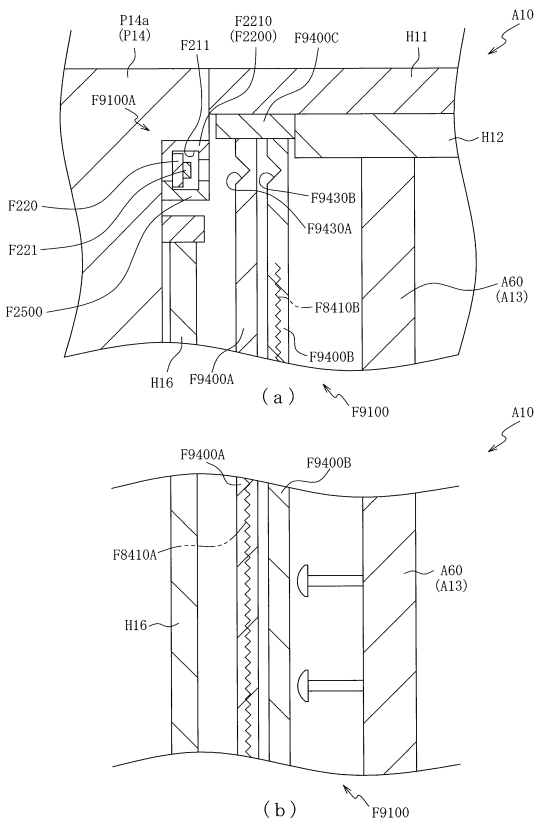
【図６３８】



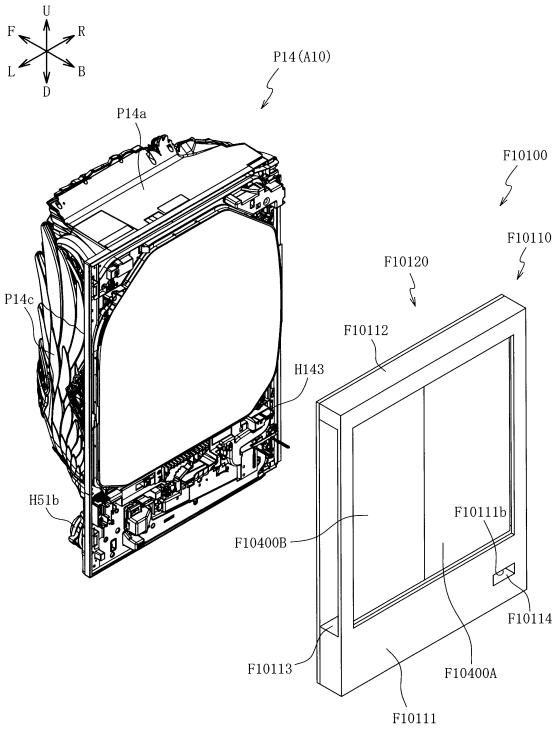
【図６３９】



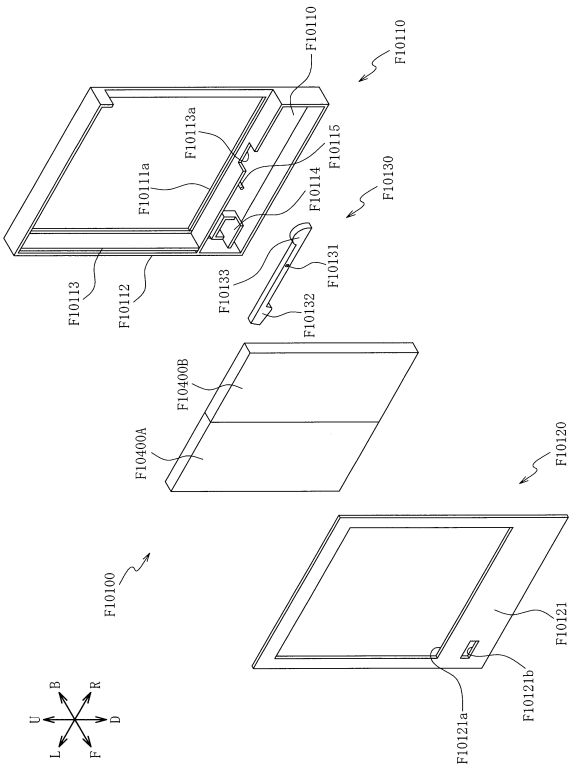
【図６４０】



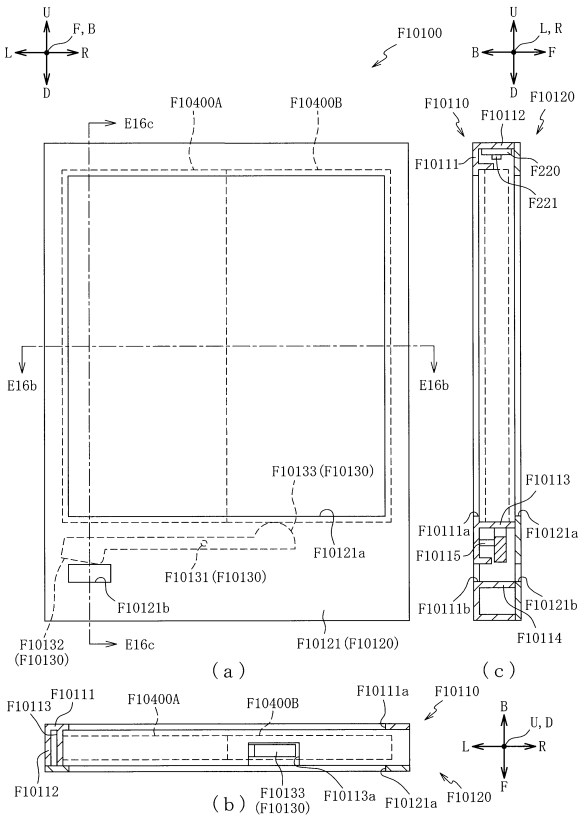
【図６４１】



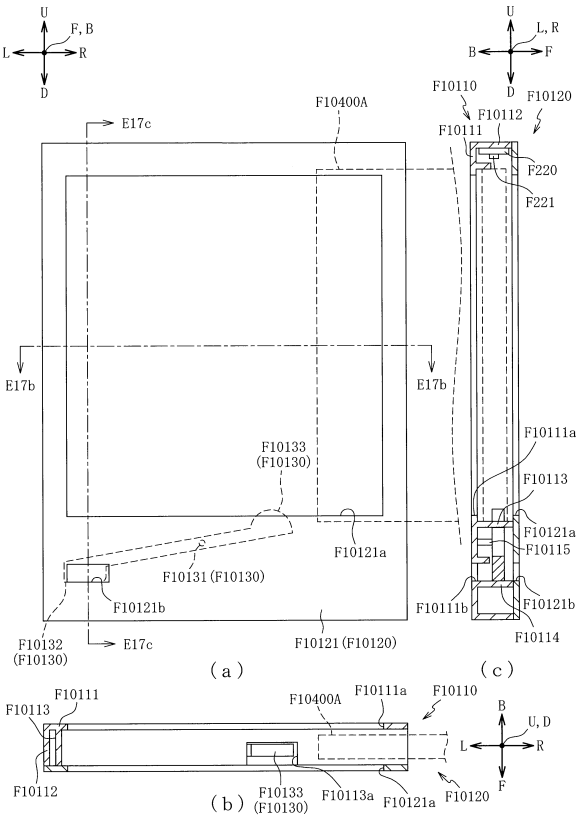
【図６４２】



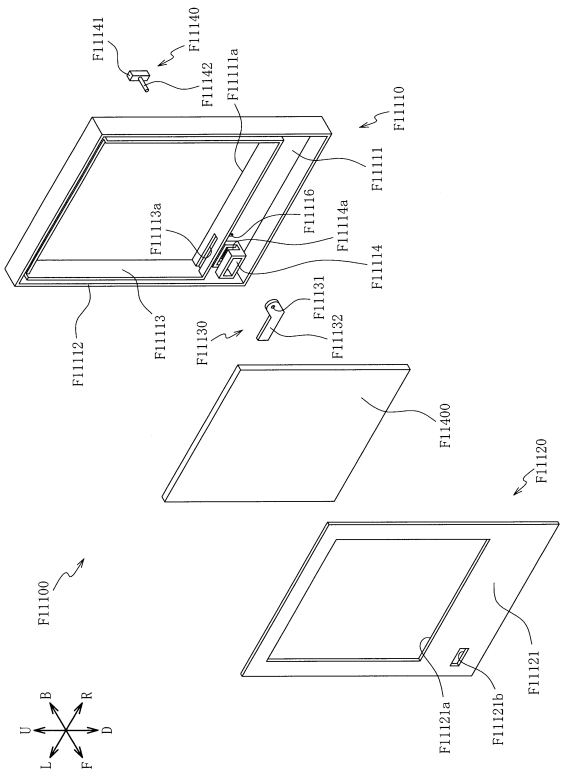
【図６４３】



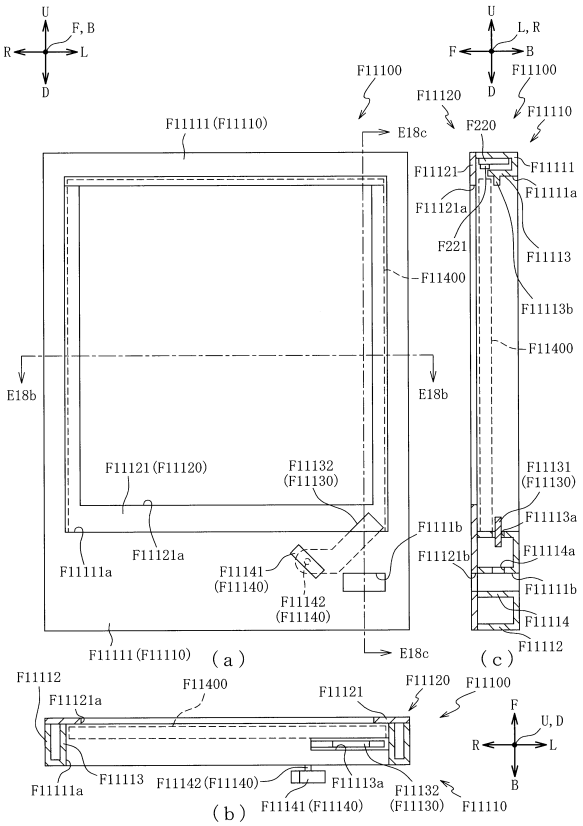
【図６４４】



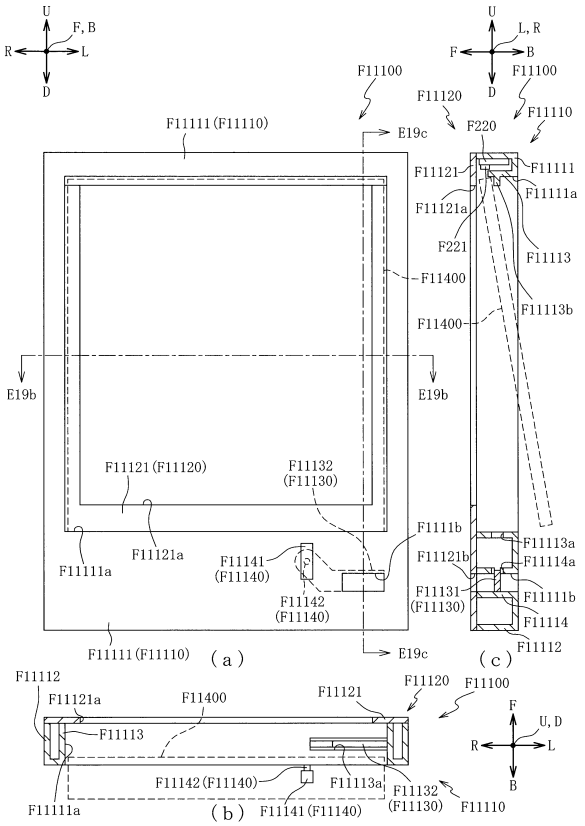
【図６４５】



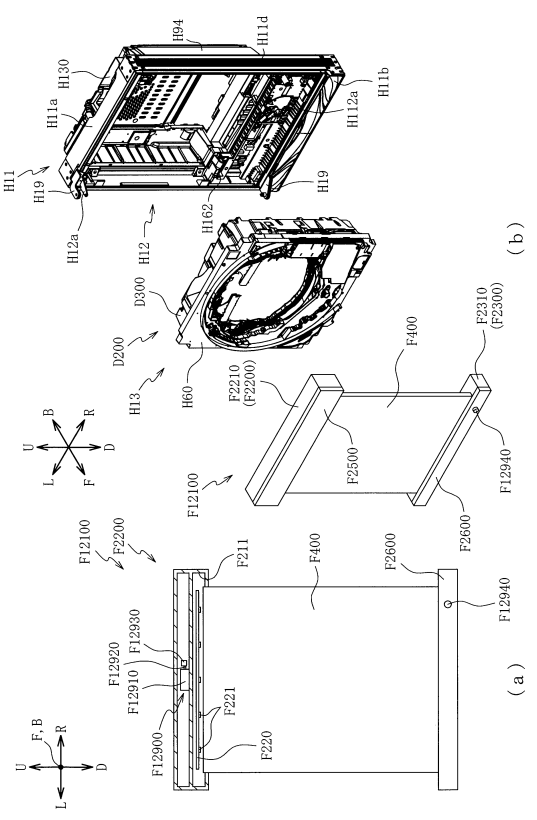
【図６４６】



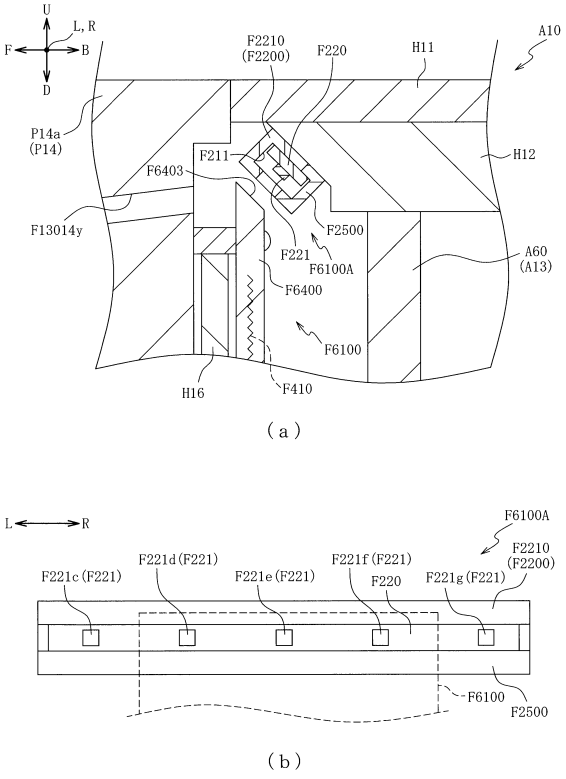
【図６４７】



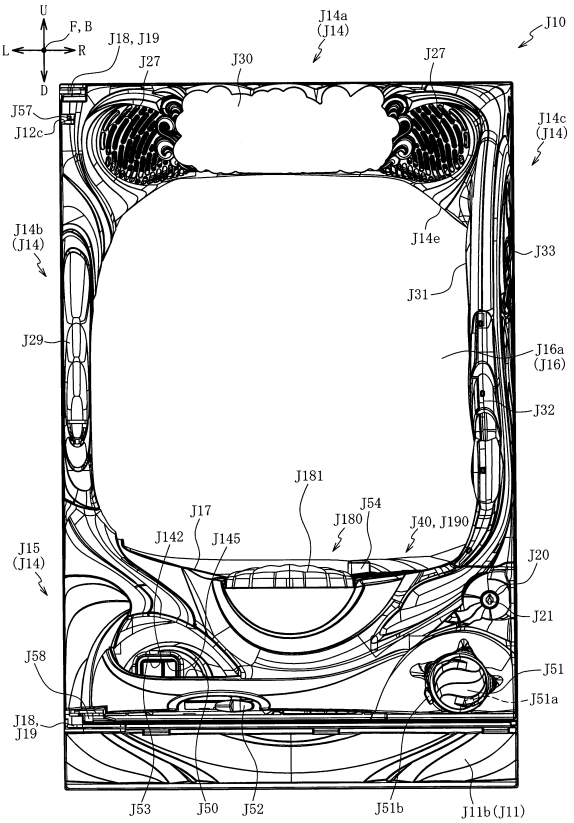
【図６４８】



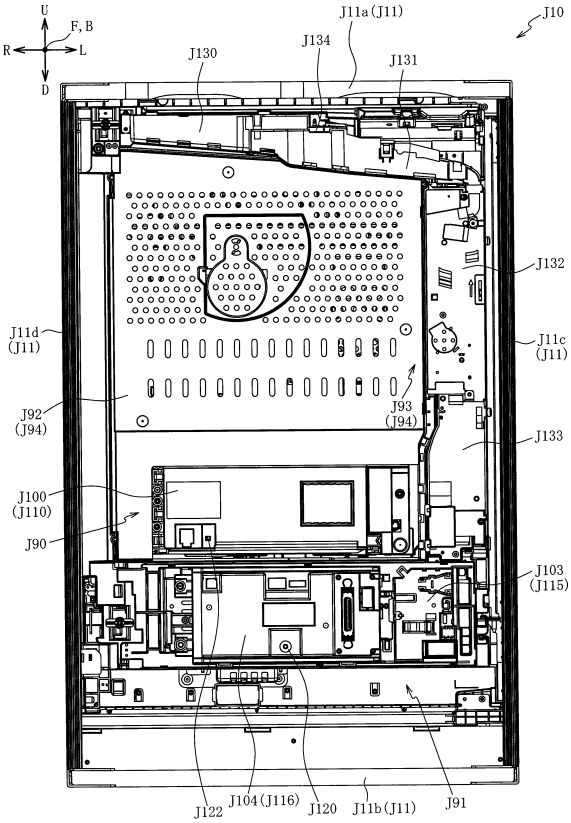
【図６４９】



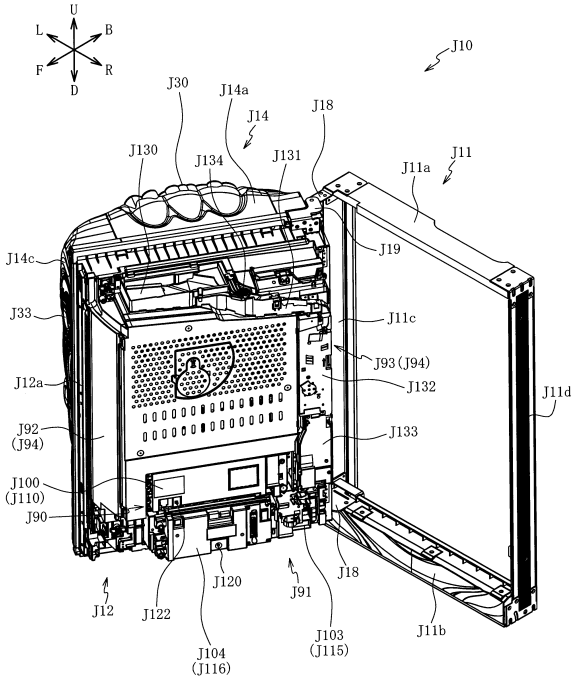
【図６５０】



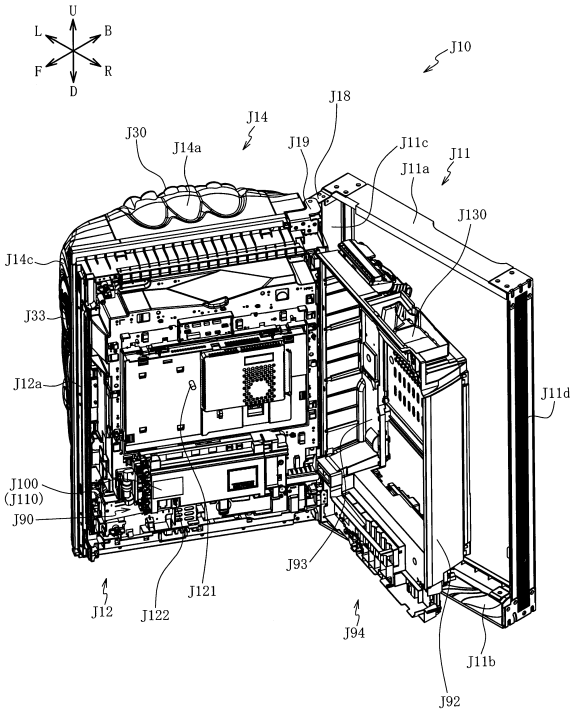
【図６５１】



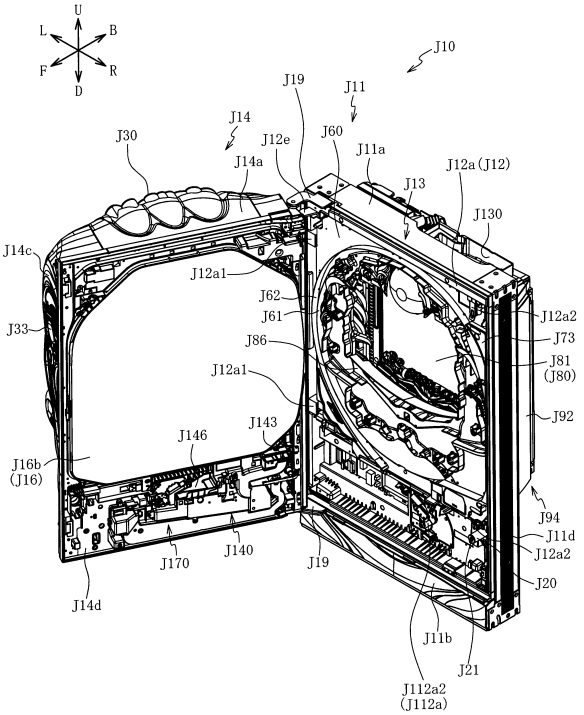
【図６５２】



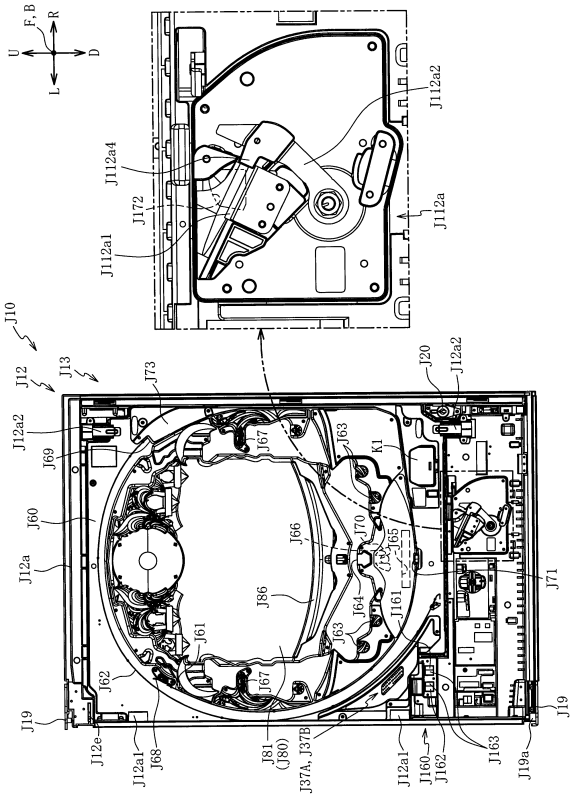
【図６５３】



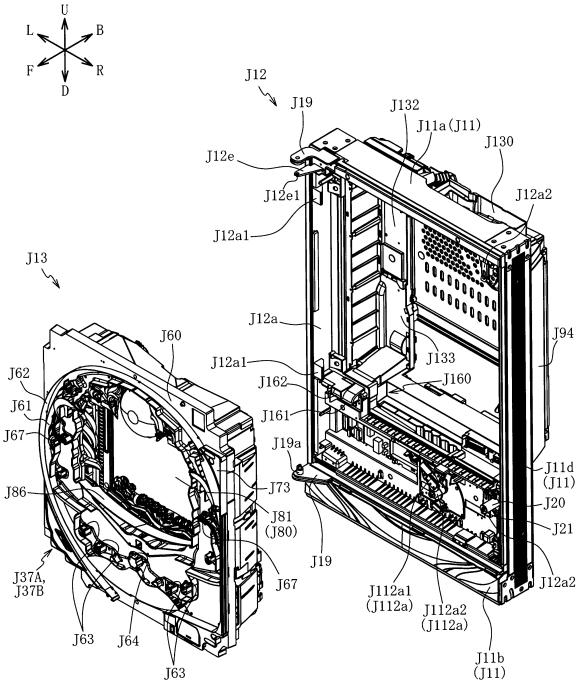
【図６５４】



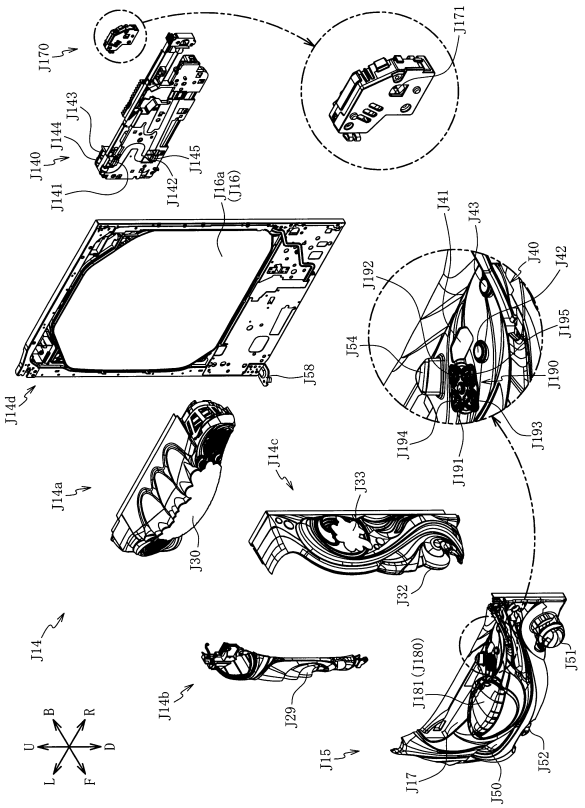
【図６５５】



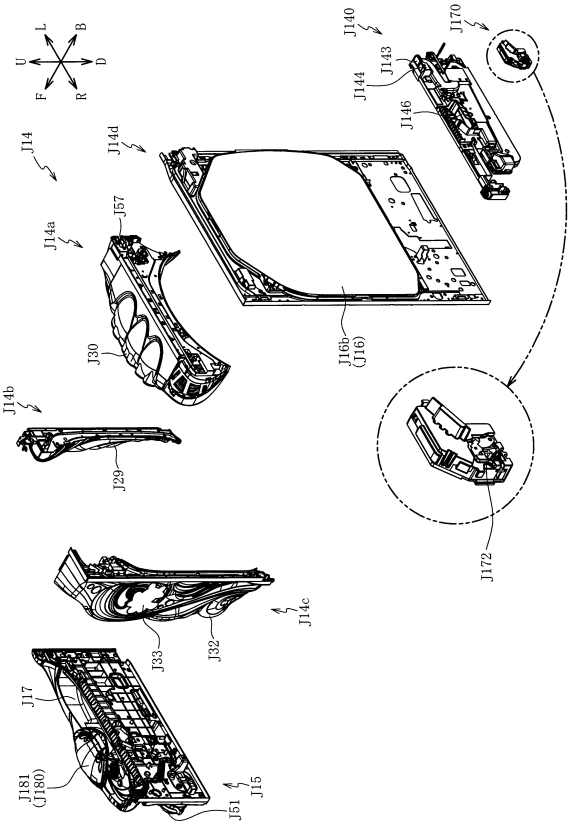
【図６５６】



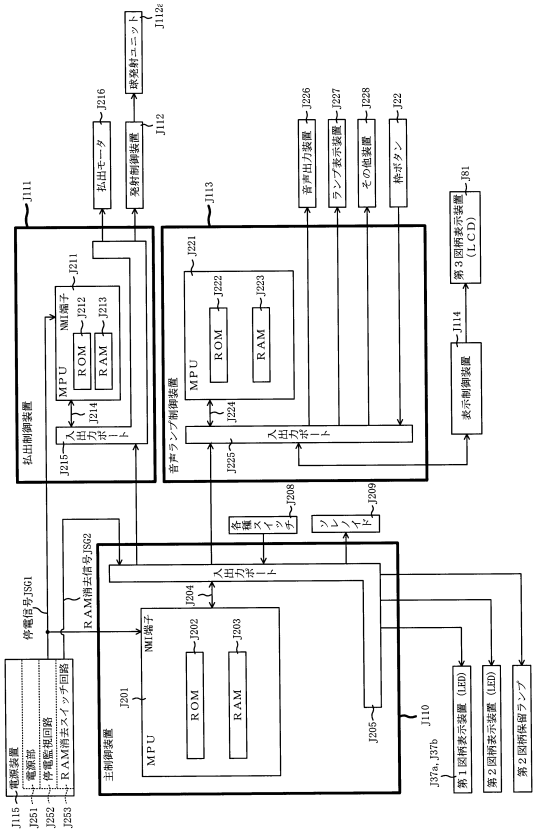
【図６５７】



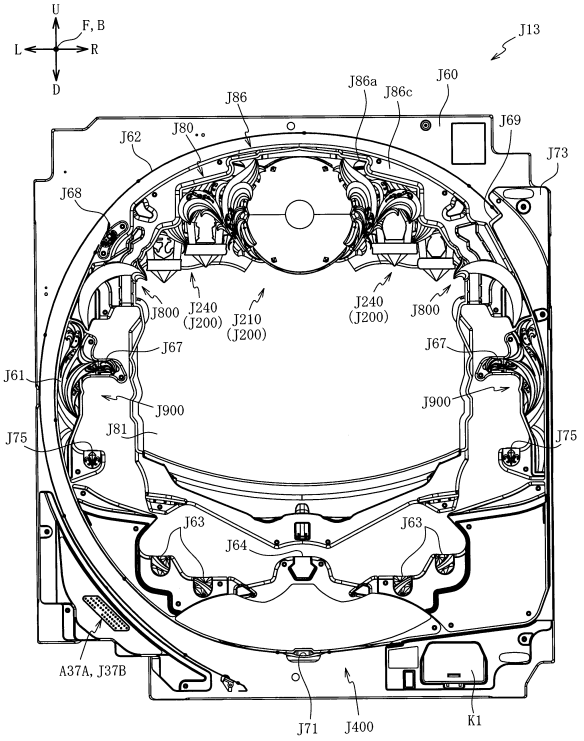
【図６５８】



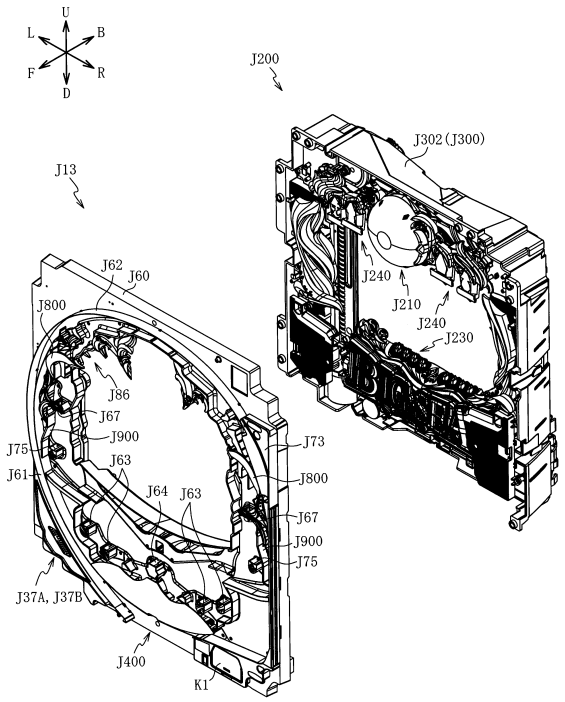
【図６５９】



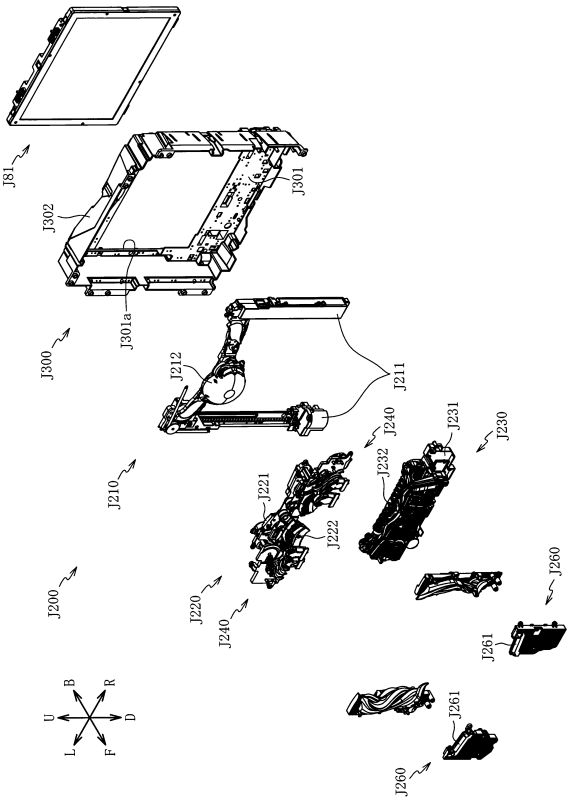
【図６６０】



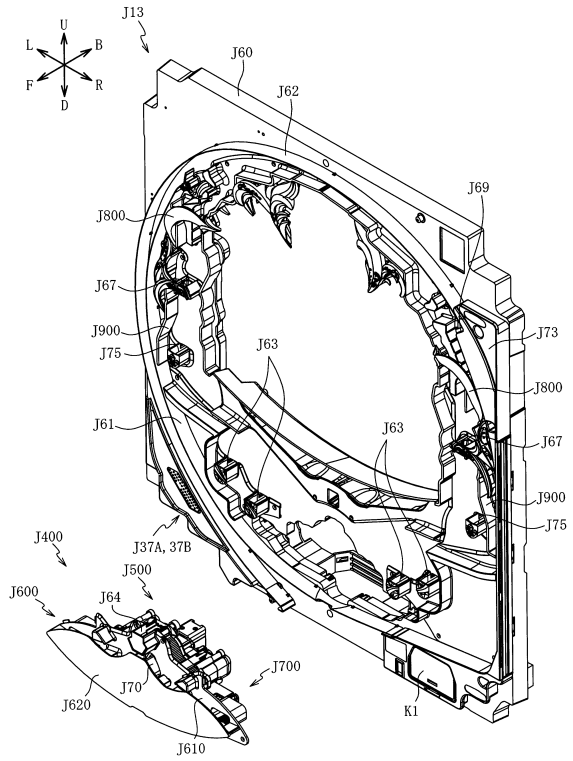
【図６６１】



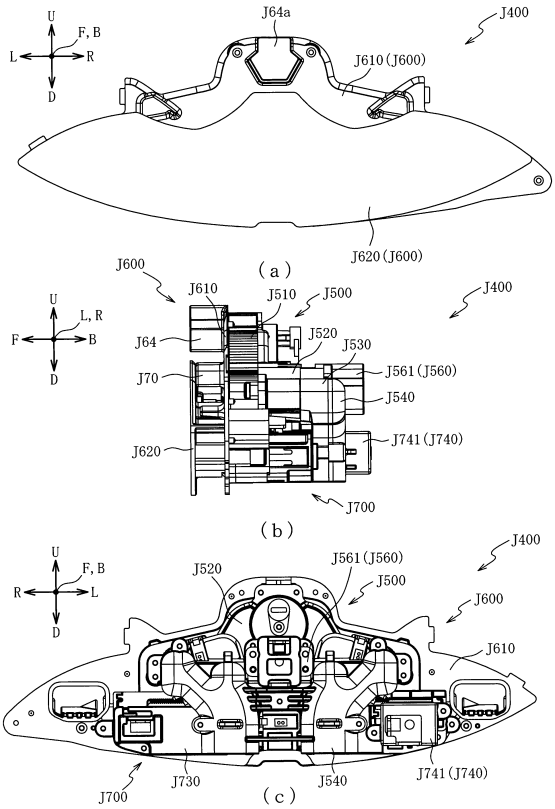
【図６６２】



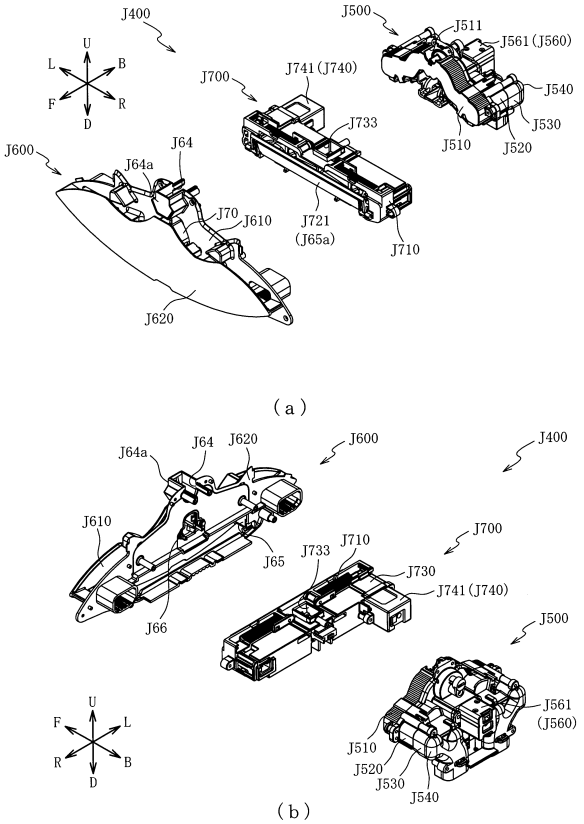
【図６６３】



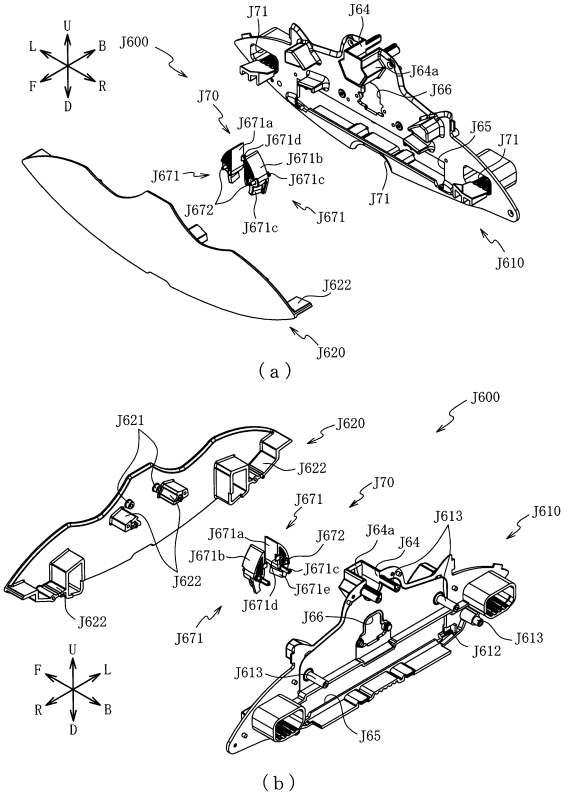
【図６６４】



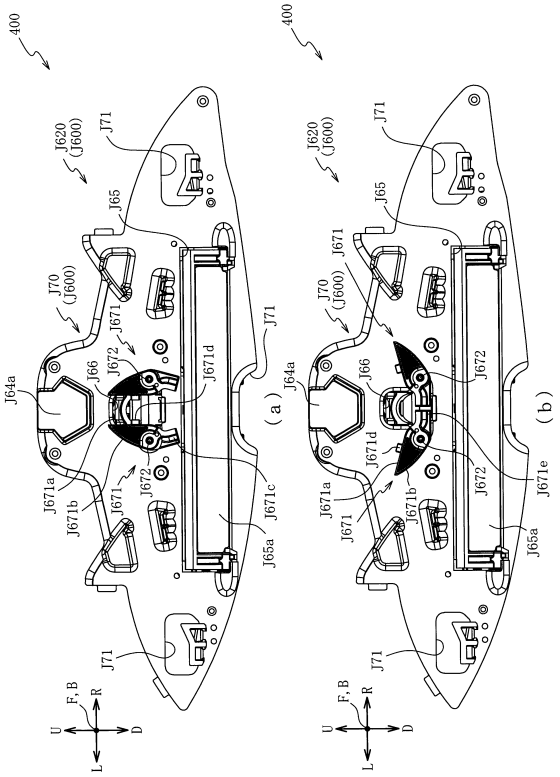
【図６６５】



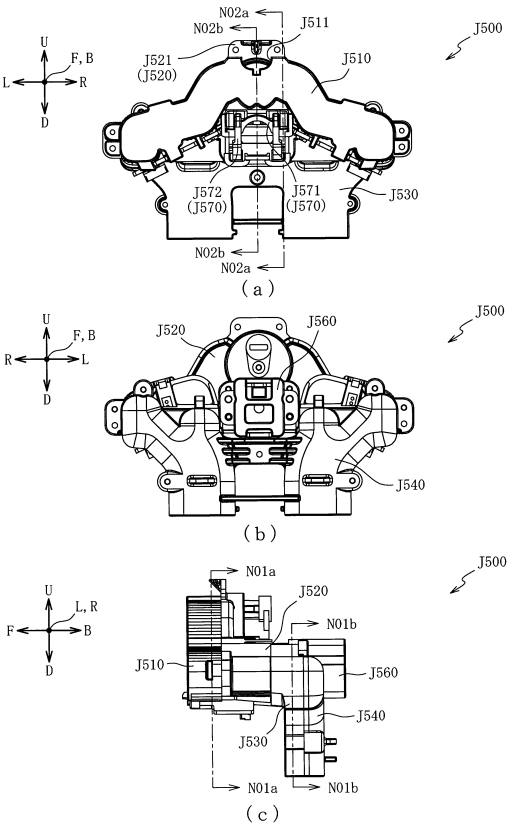
【図６６６】



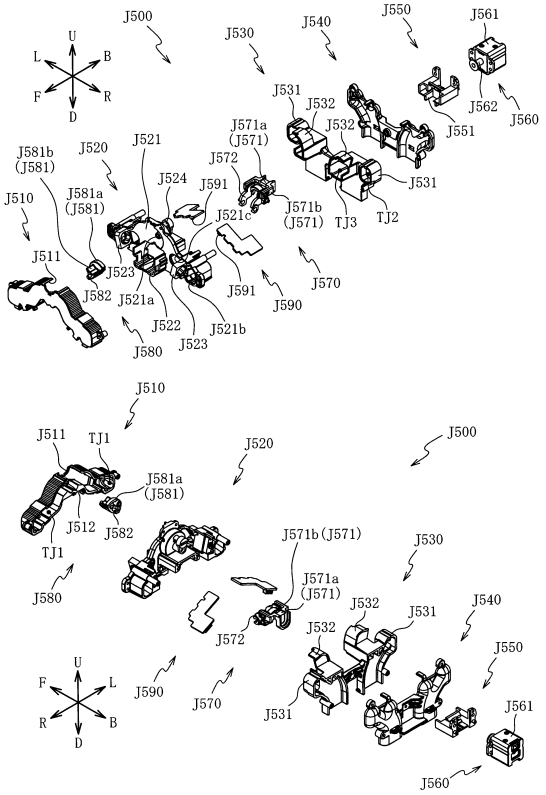
【図６６７】



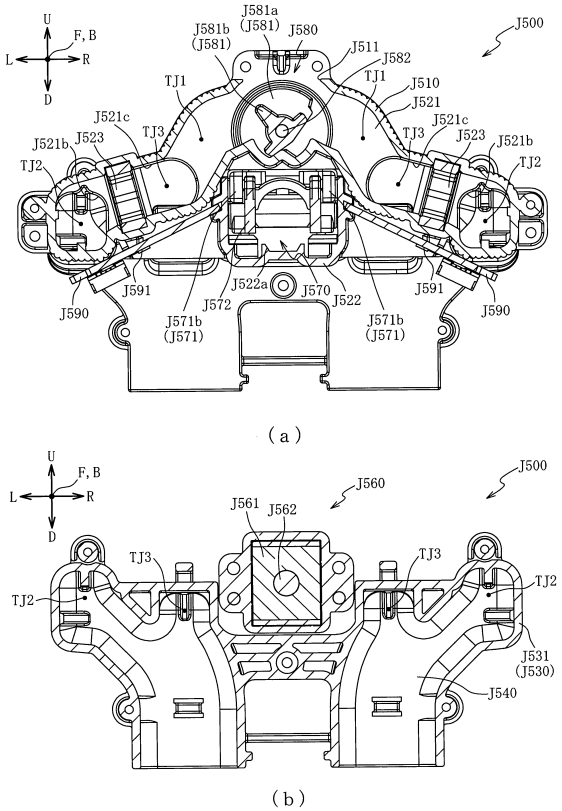
【図６６８】



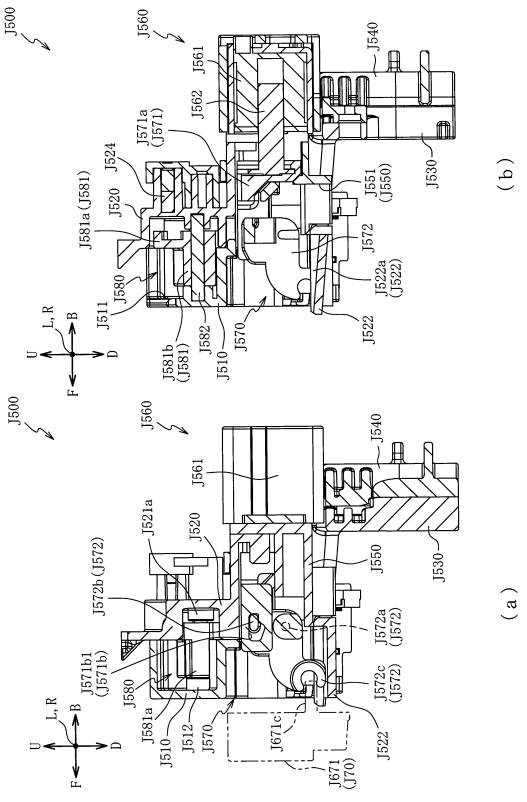
【図６６９】



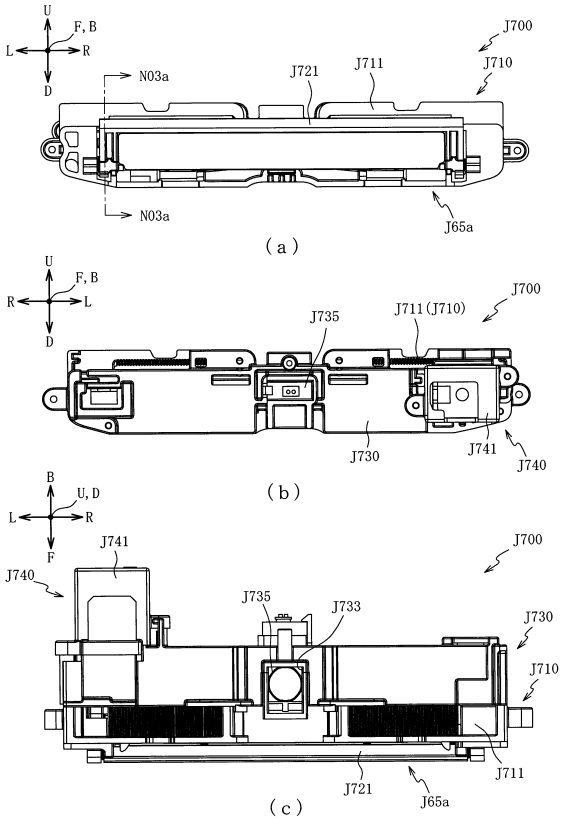
【図６７０】



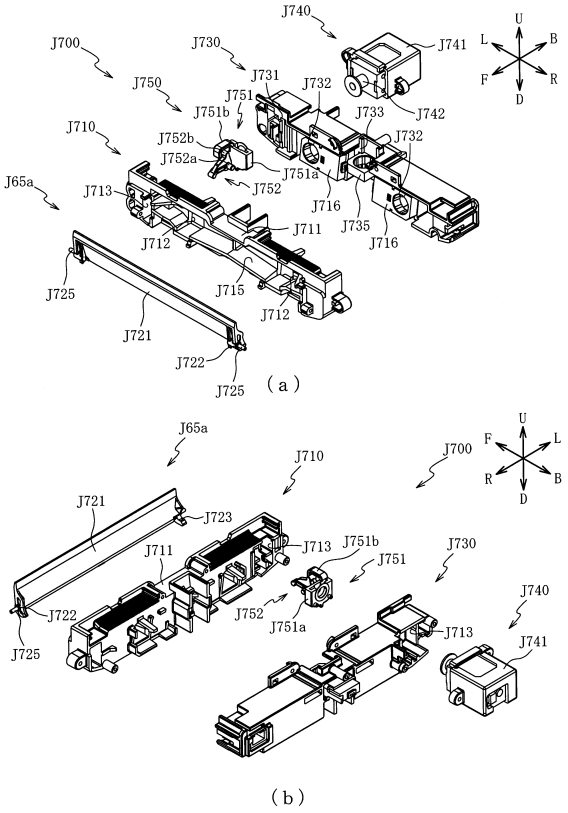
【図６７１】



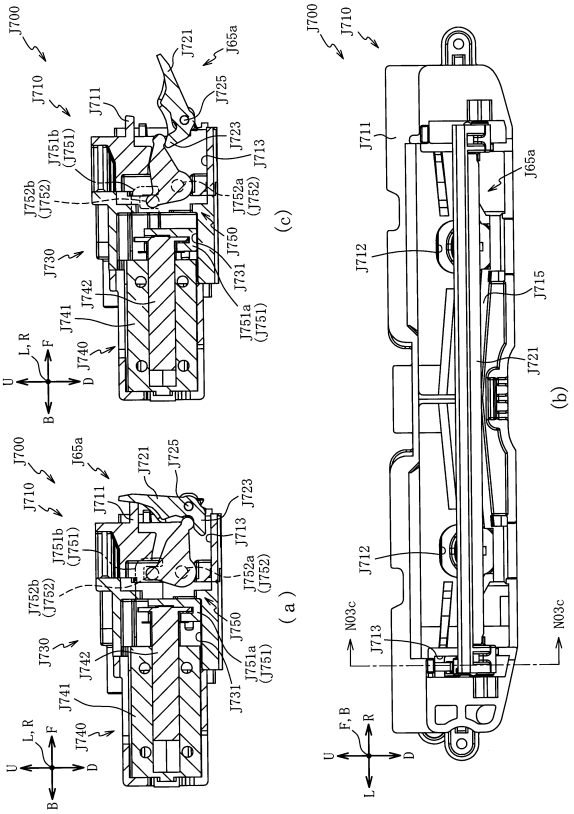
【図６７２】



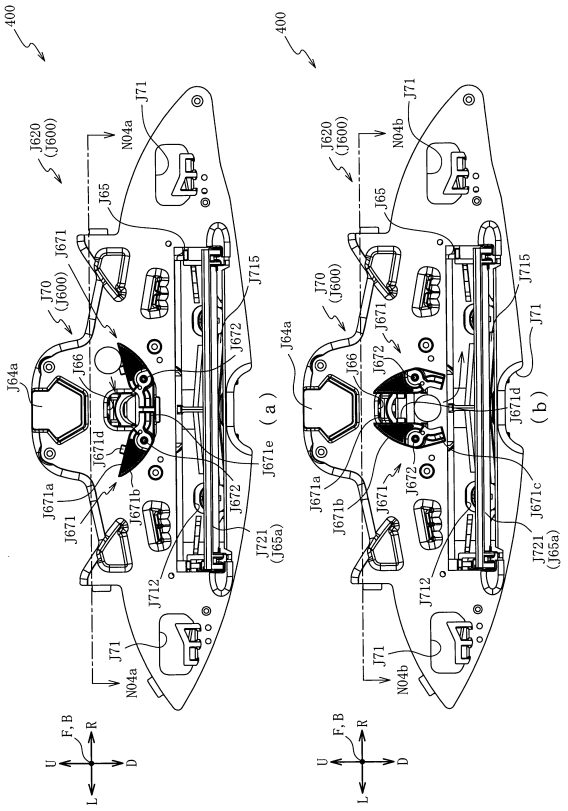
【図６７３】



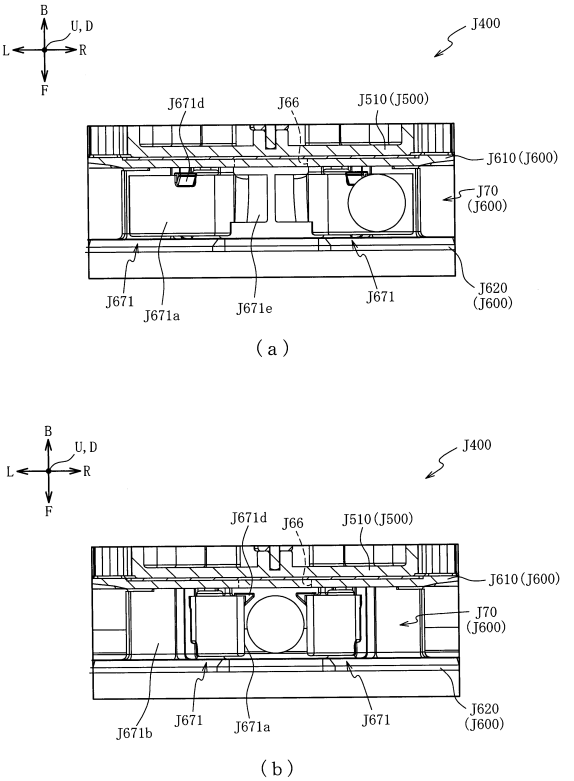
【図６７４】



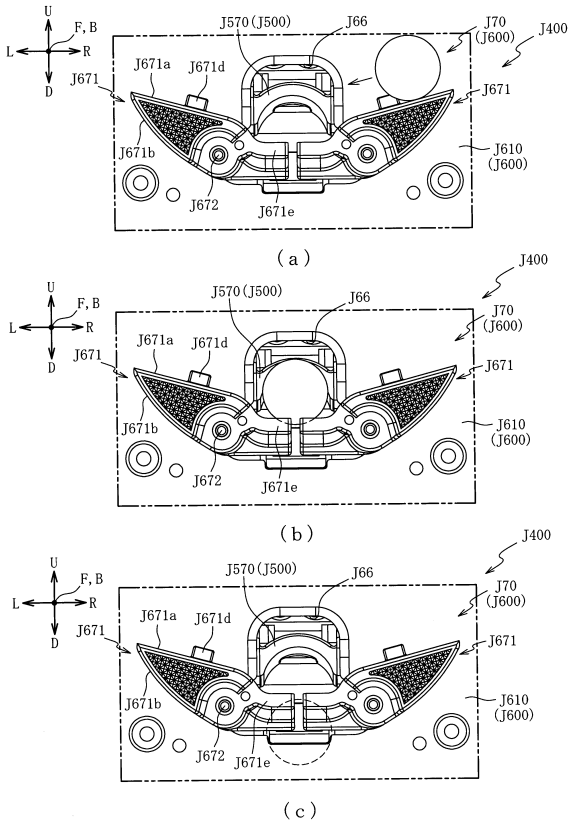
【図６７５】



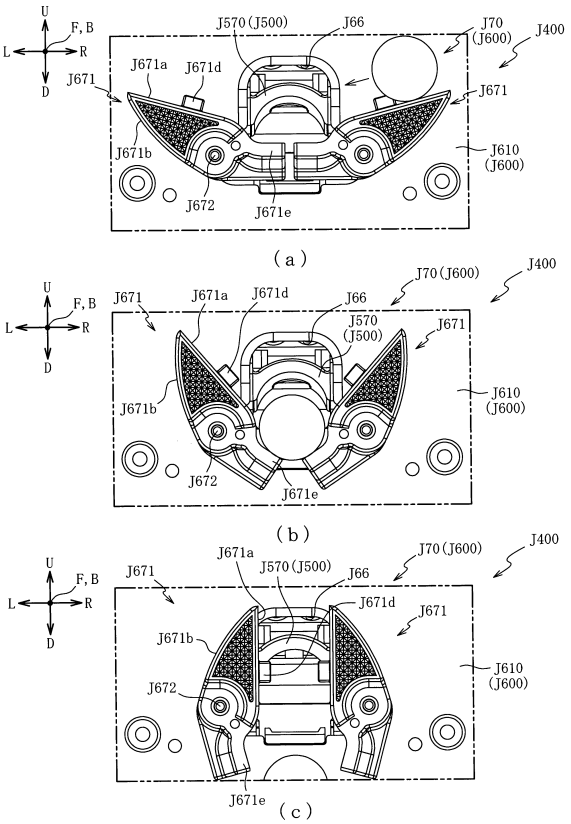
【図６７６】



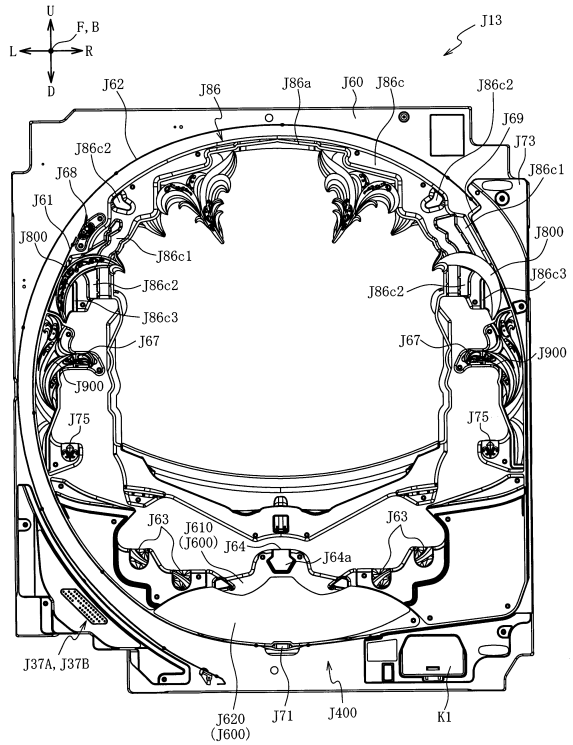
【図６７７】



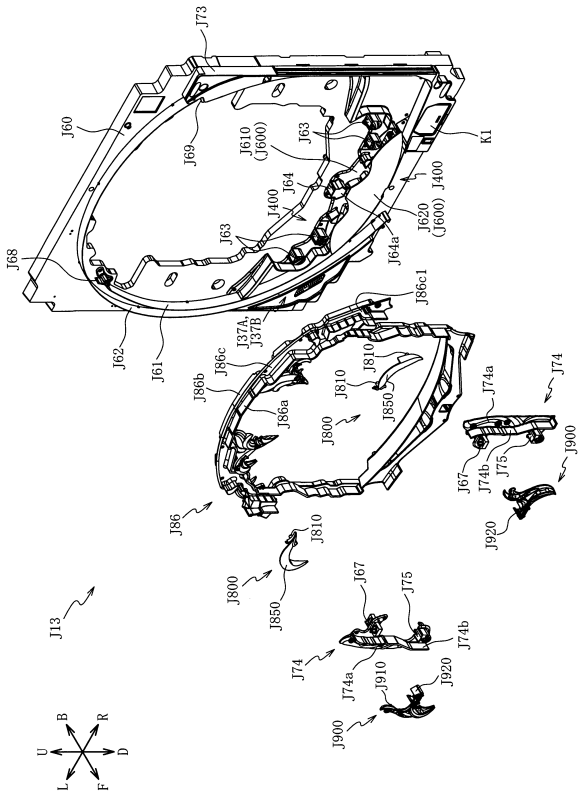
【図６７８】



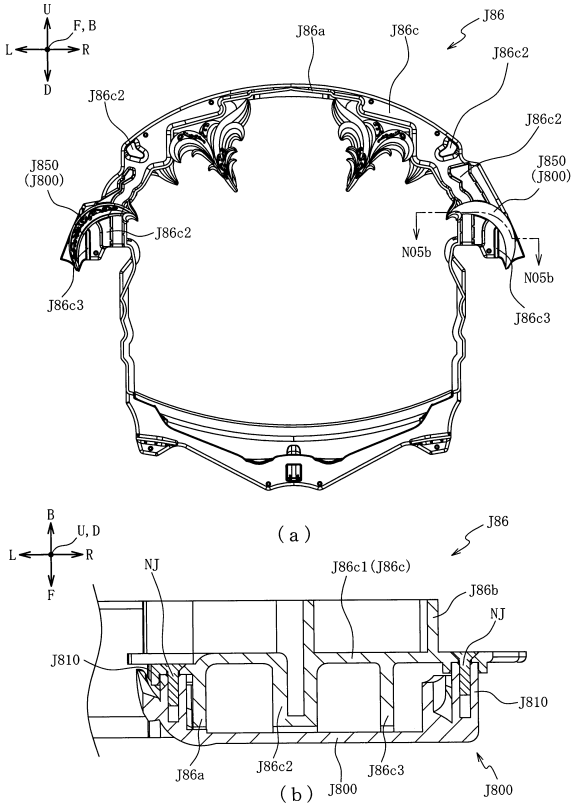
【図６７９】



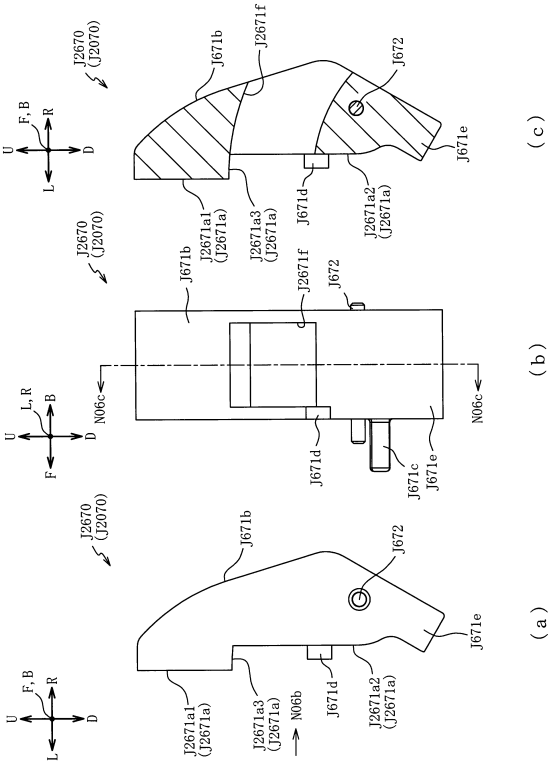
【図６８０】



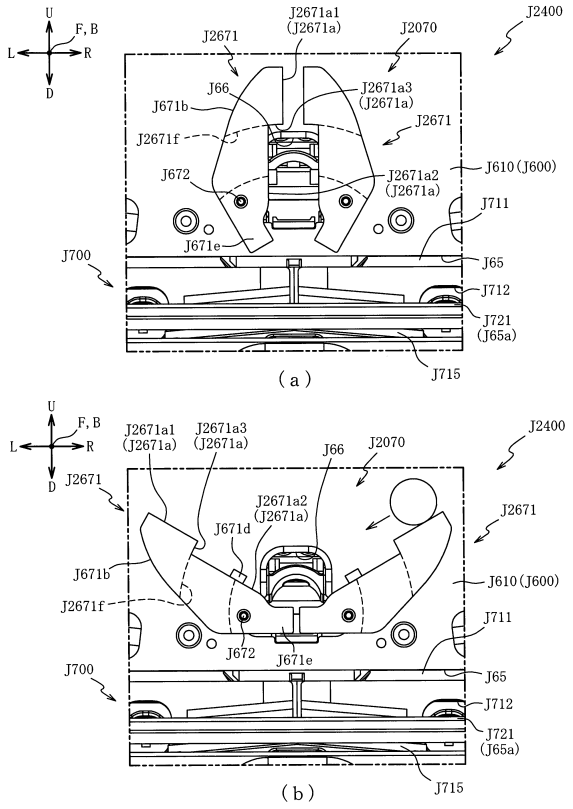
【図６８１】



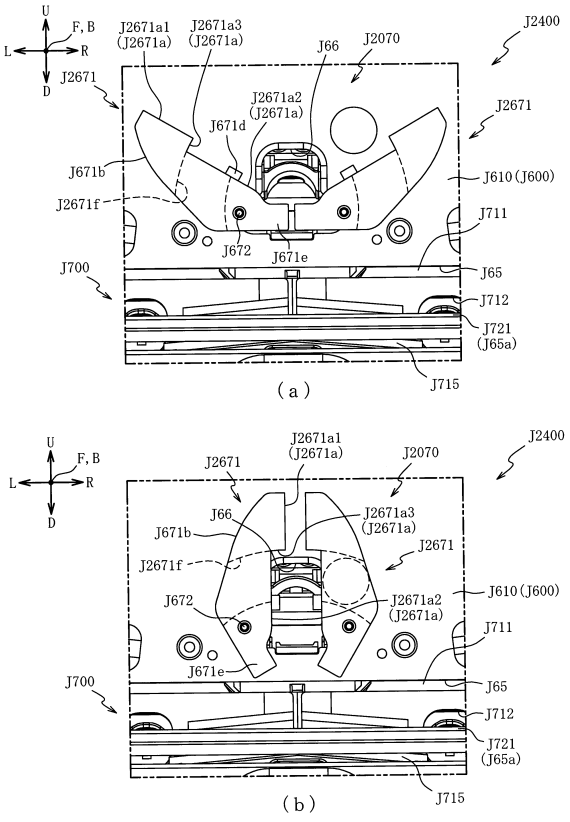
【図６８２】



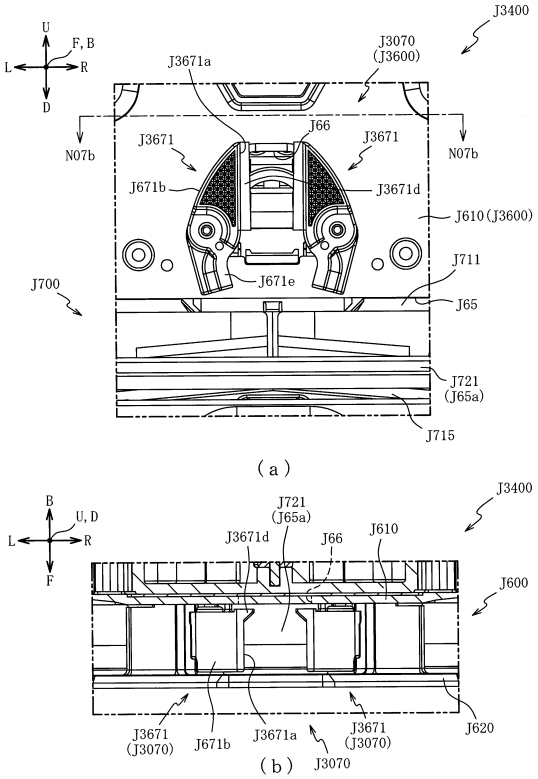
【図６８３】



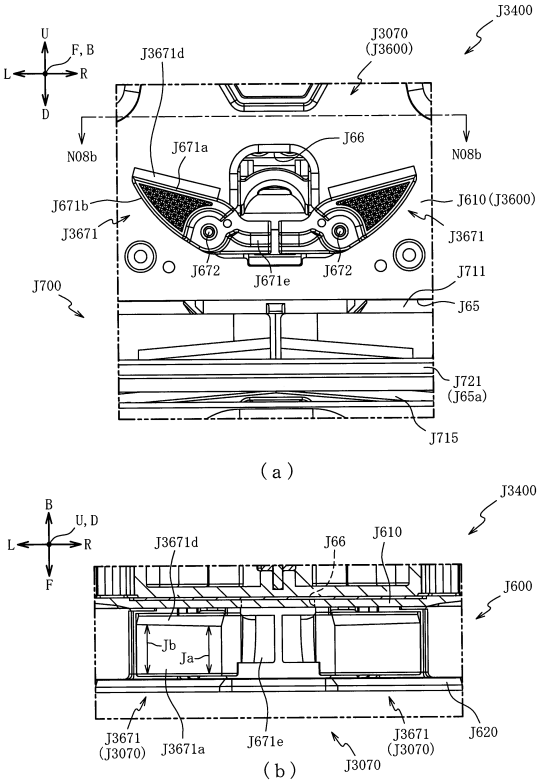
【図６８４】



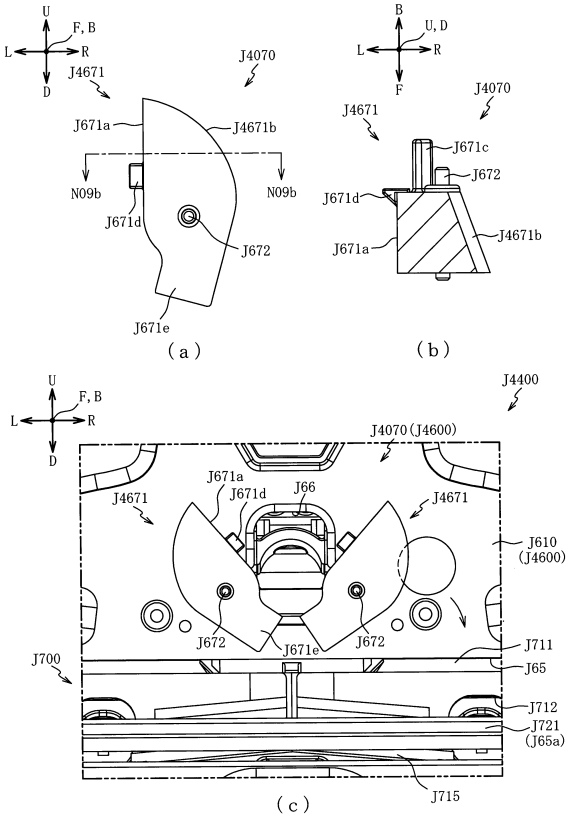
【図６８５】



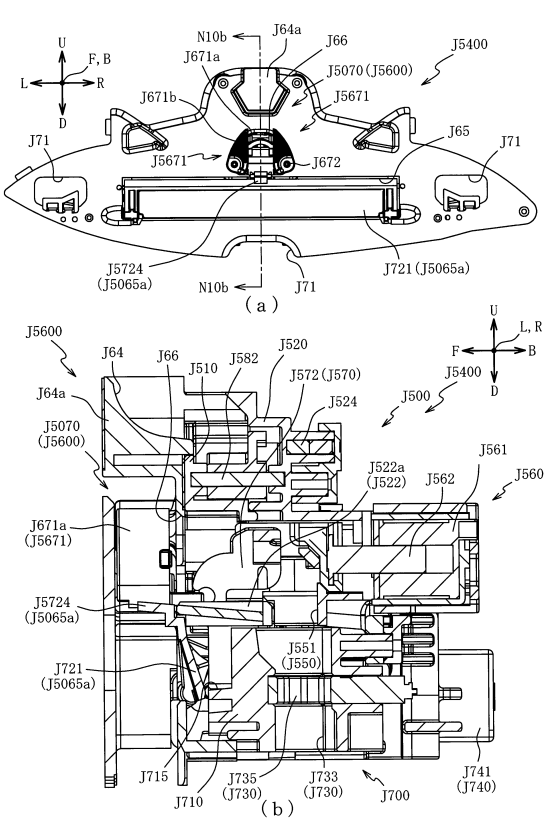
【図６８６】



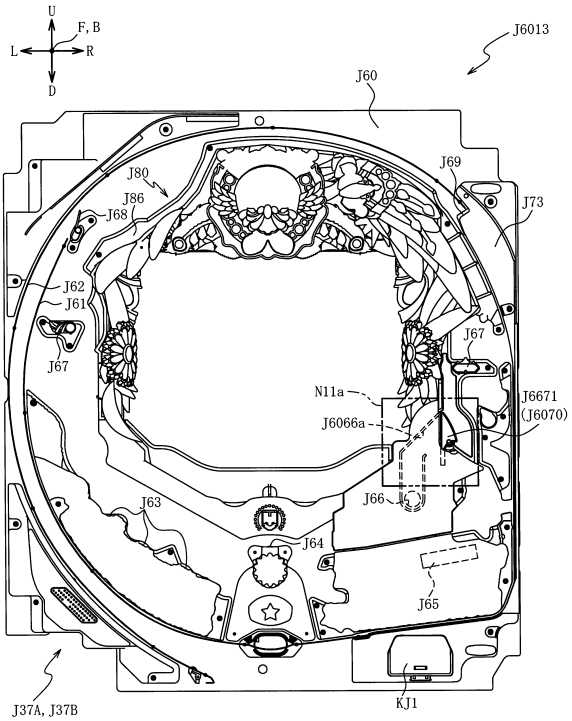
【図６８７】



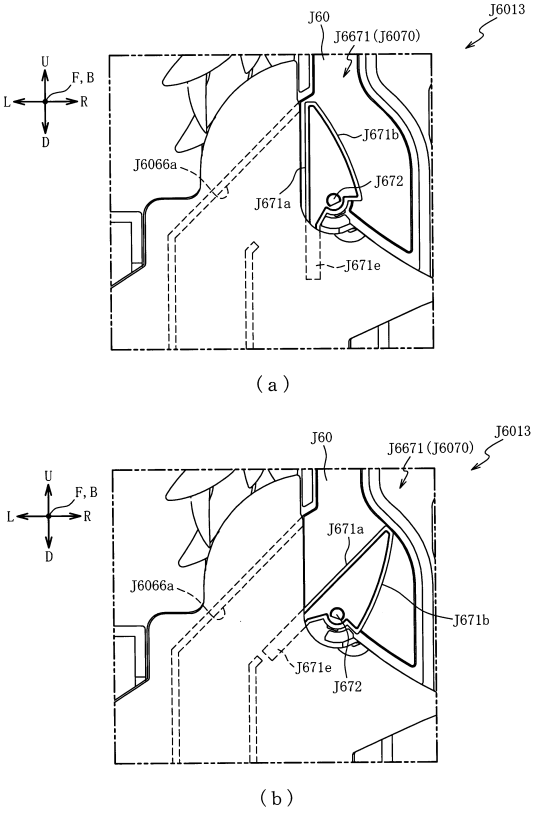
【図６８８】



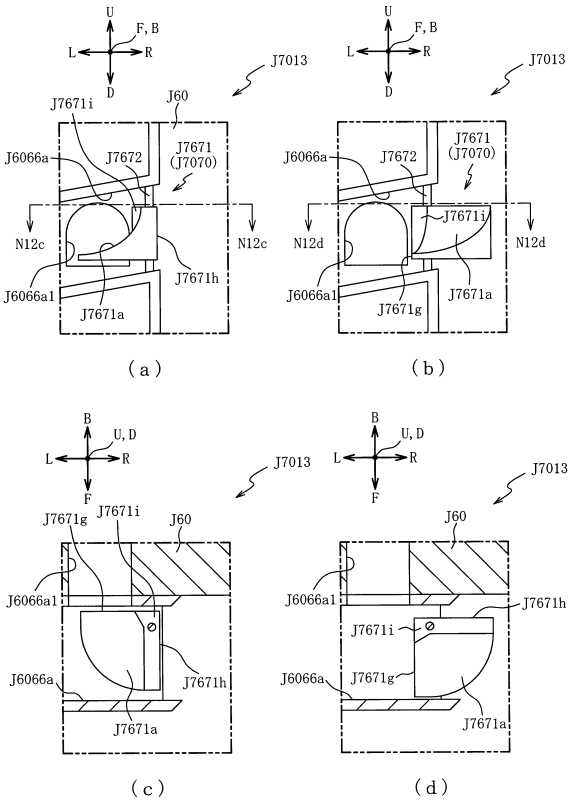
【図６８９】



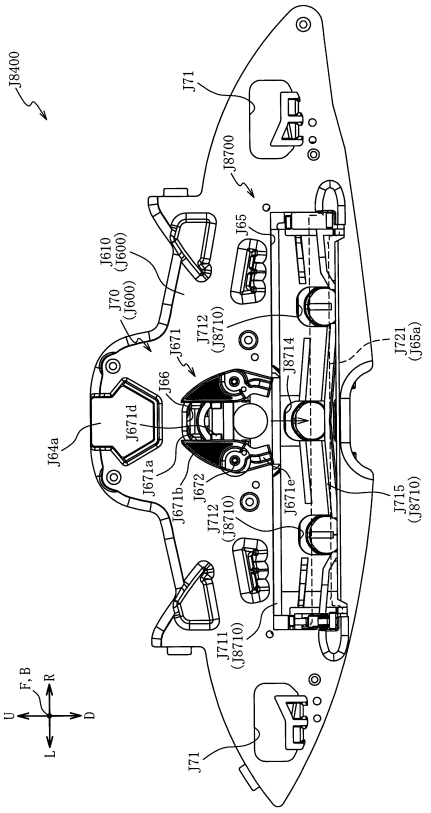
【図６９０】



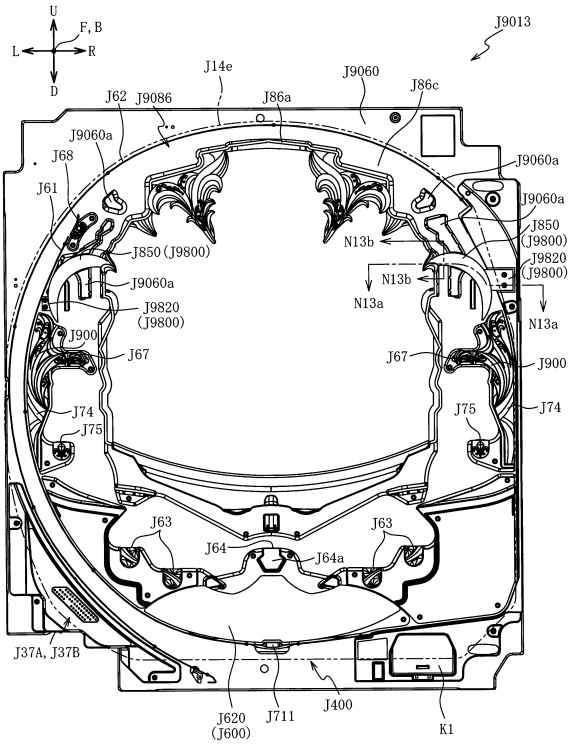
【図６９１】



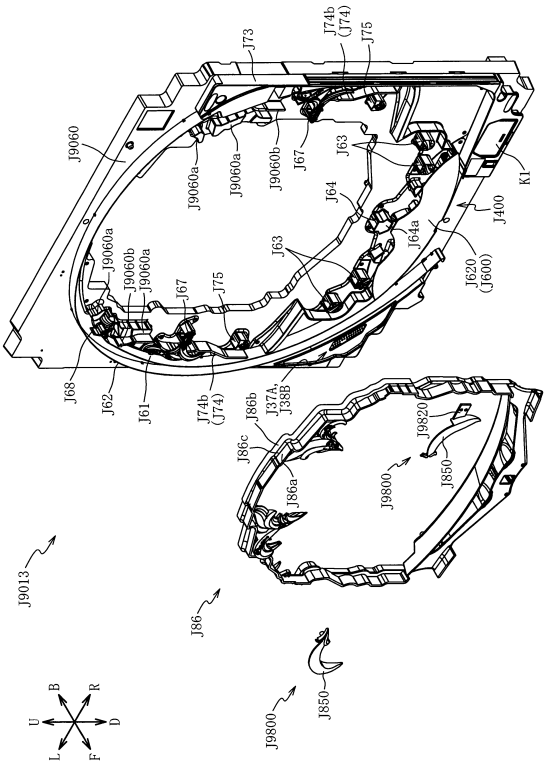
【図６９２】



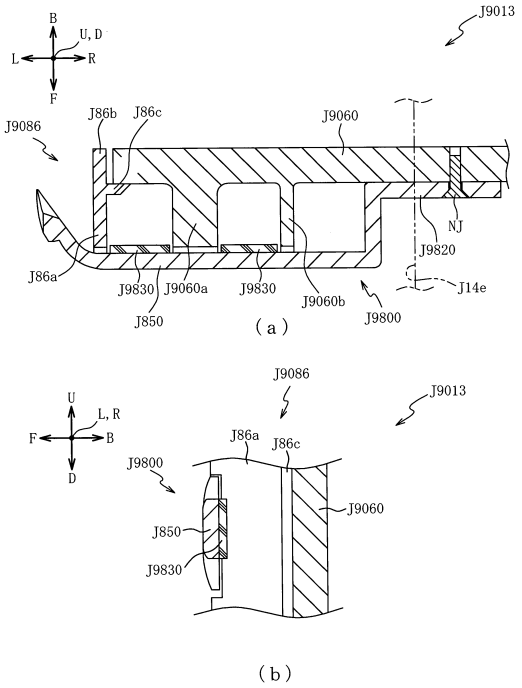
【図６９３】



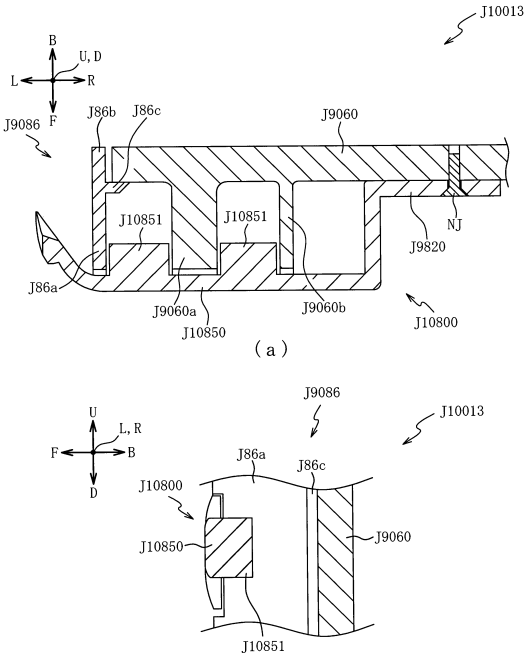
【図６９４】



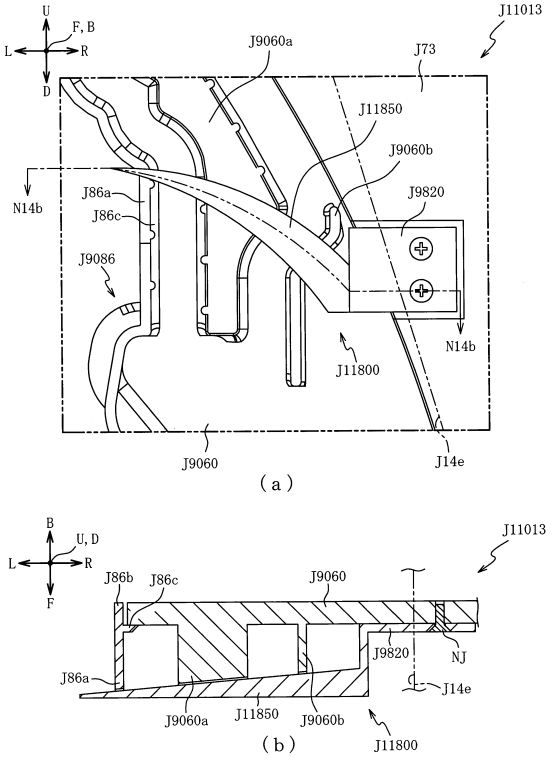
【図６９５】



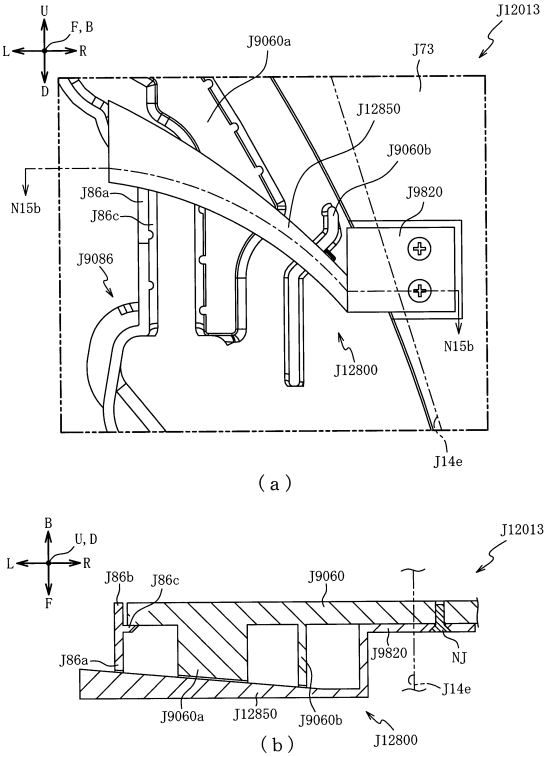
【図６９６】



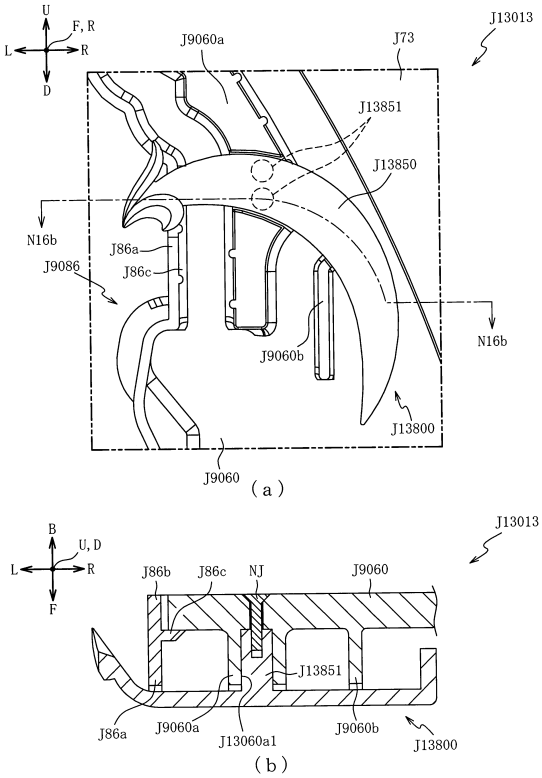
【図６９７】



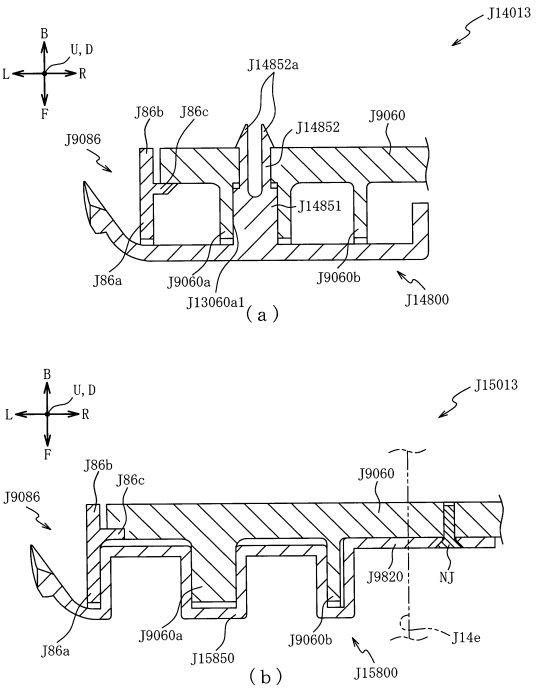
【図６９８】



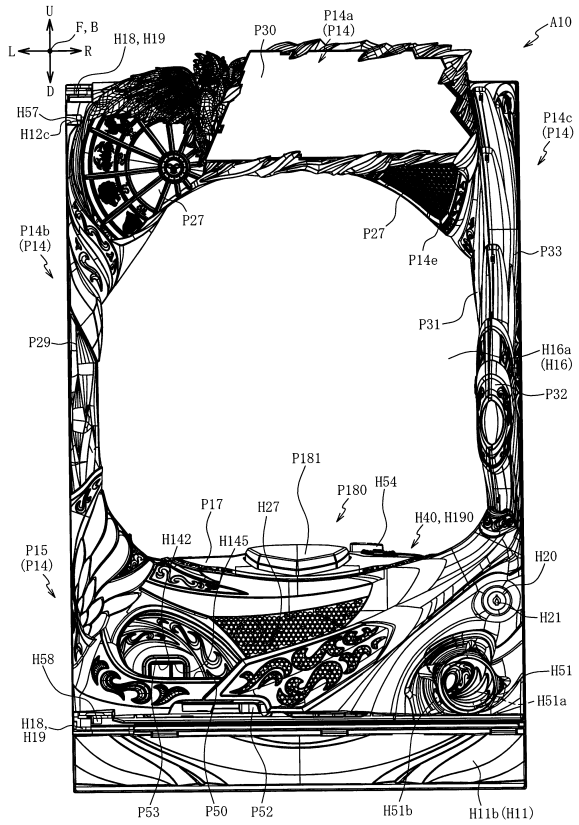
【図６９９】



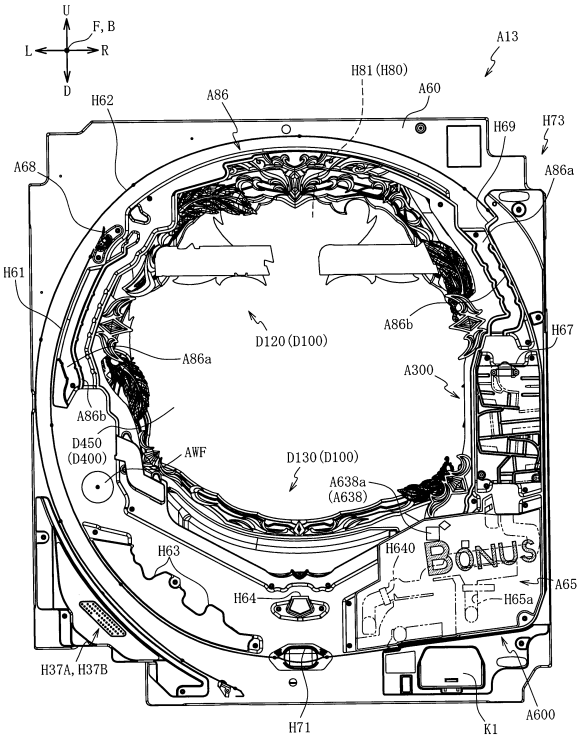
【図７００】



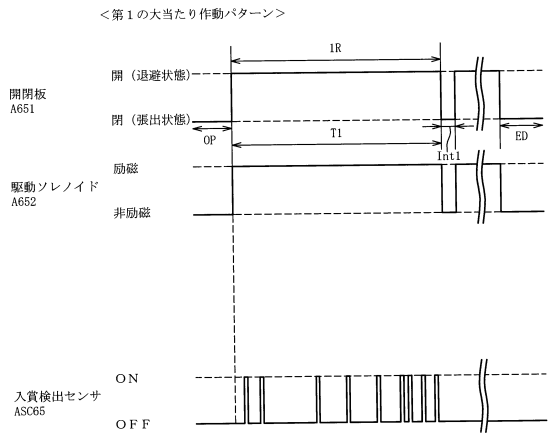
【図７０１】



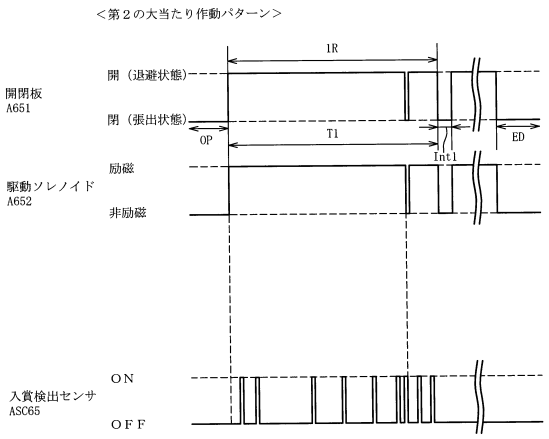
【図７０２】



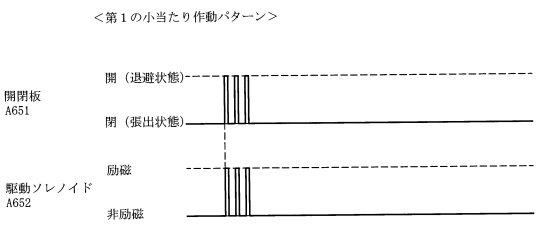
【図７０３】



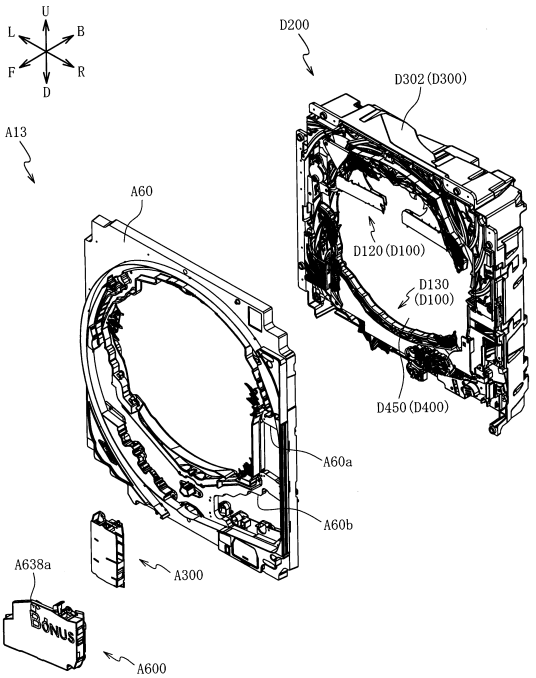
【図７０４】



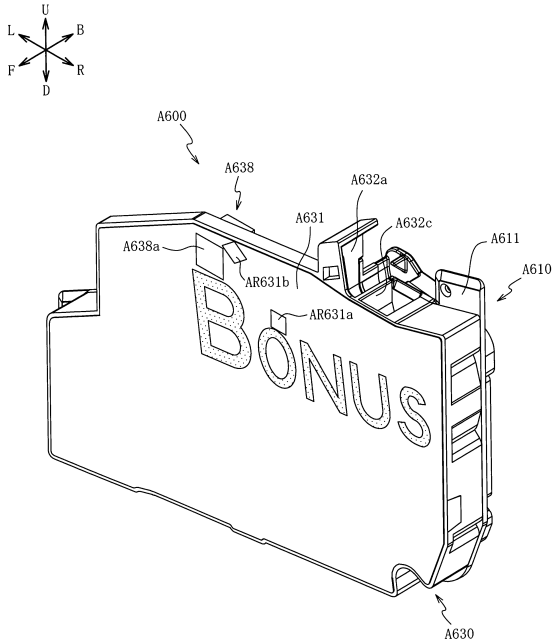
【図７０５】



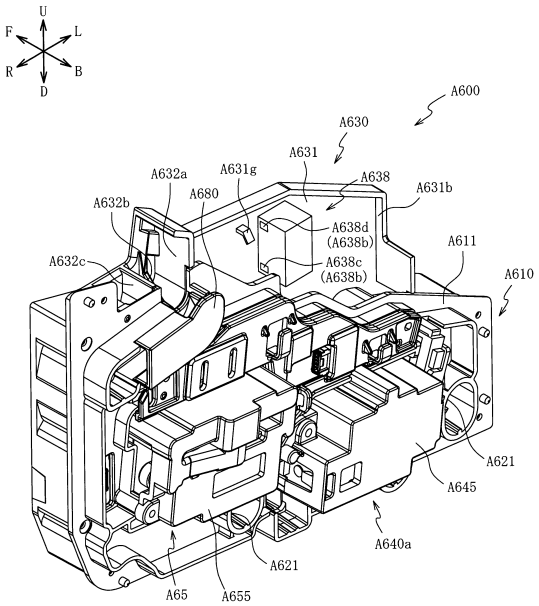
【図７０６】



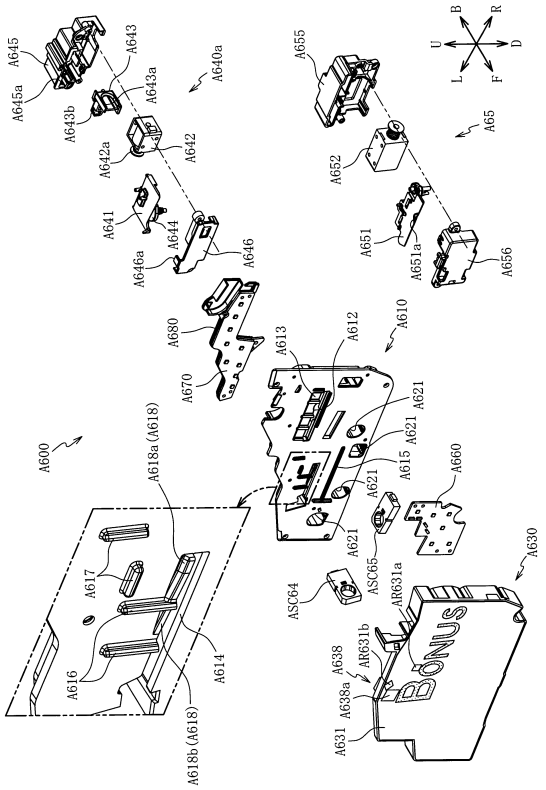
【図７０７】



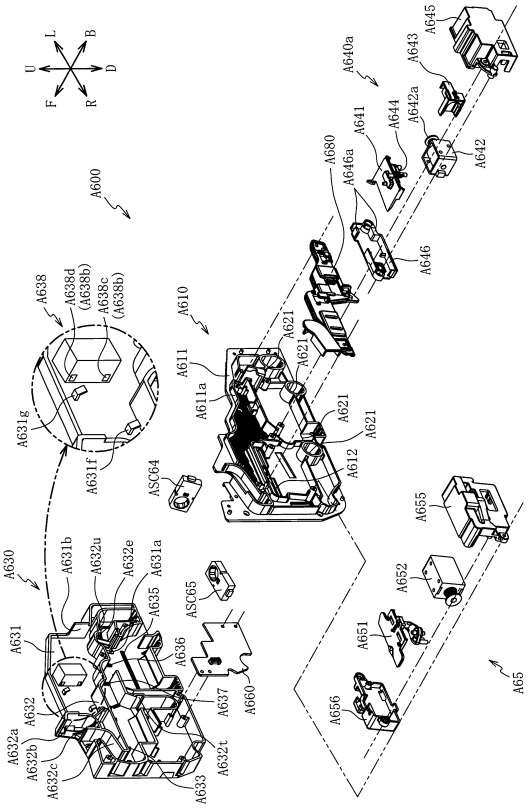
【図７０８】



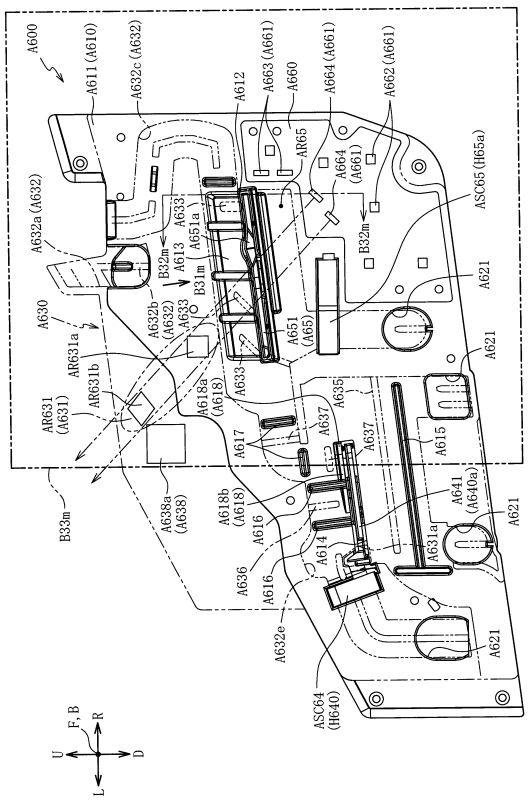
【図７０９】



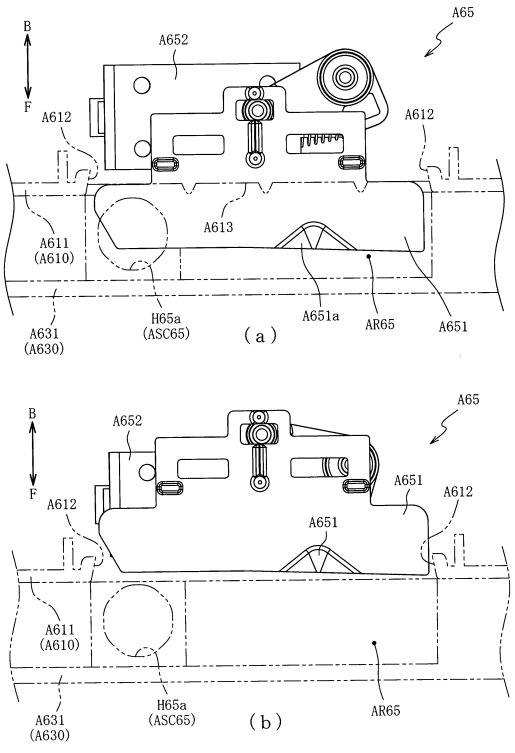
【図７１０】



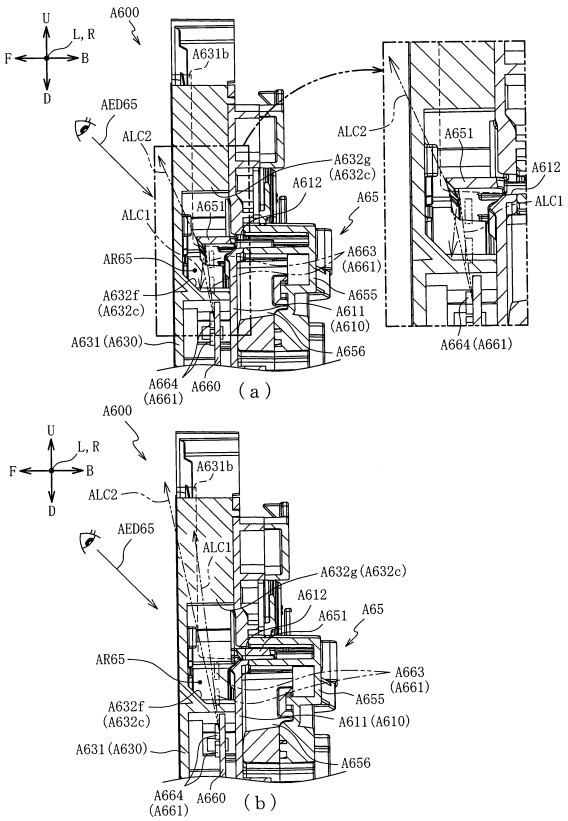
【図７１１】



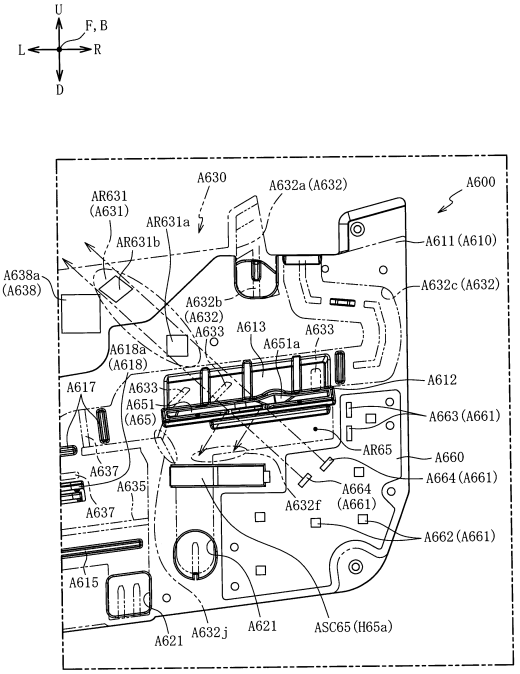
【図７１２】



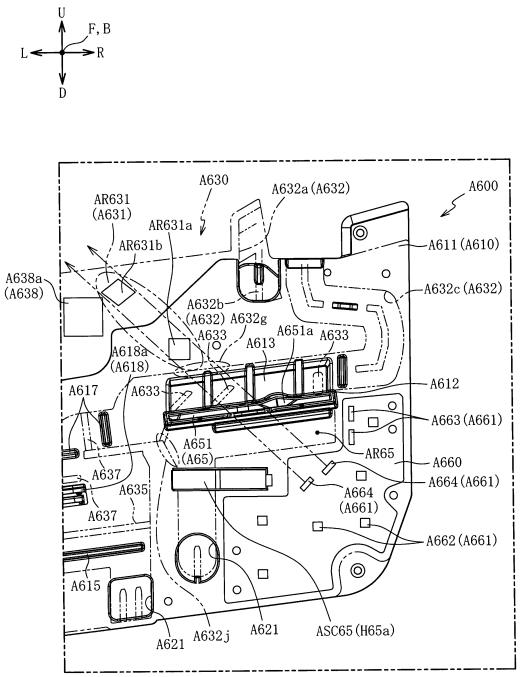
【図７１３】



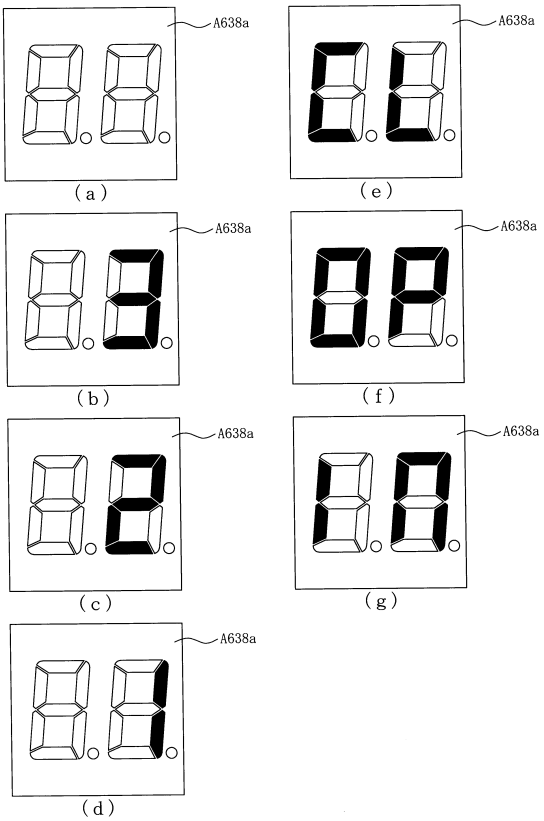
【図７１４】



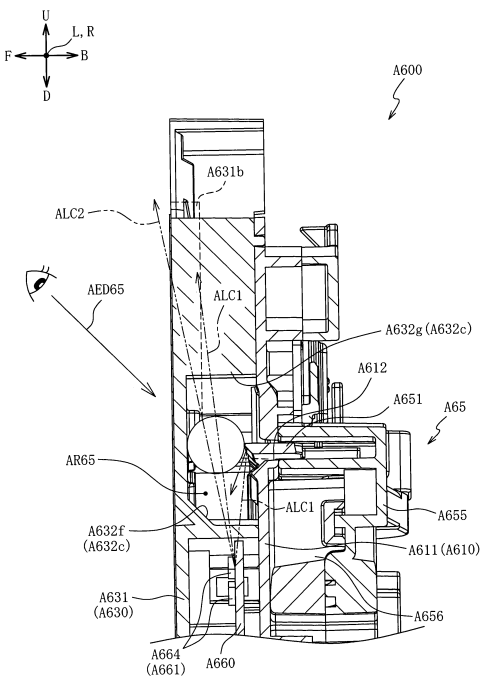
【図７１５】



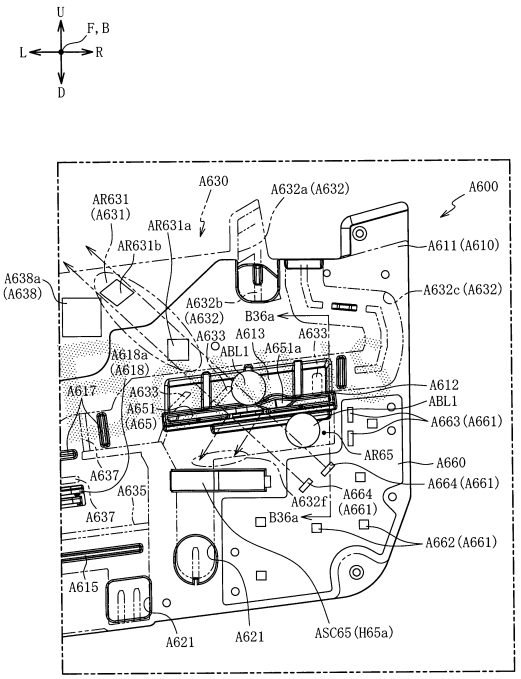
【図７１６】



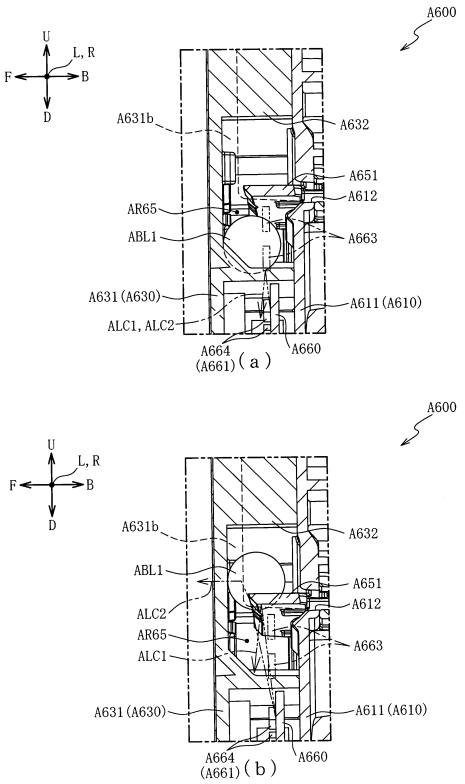
【図７１７】



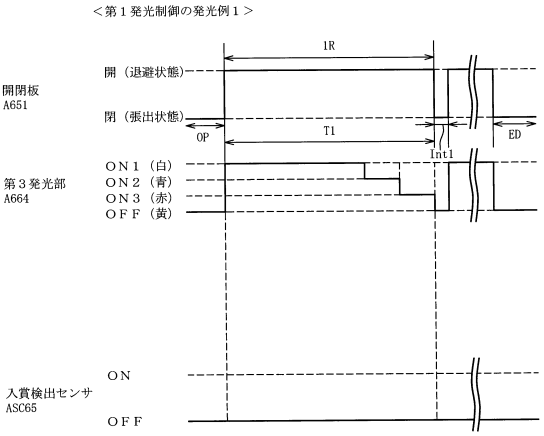
【図７１８】



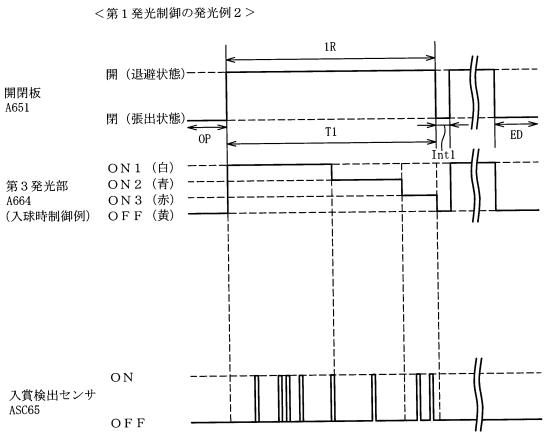
【図７１９】



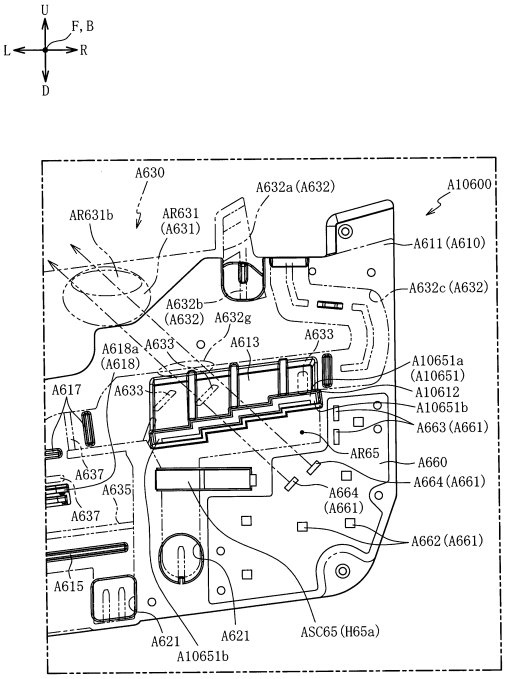
【図７２０】



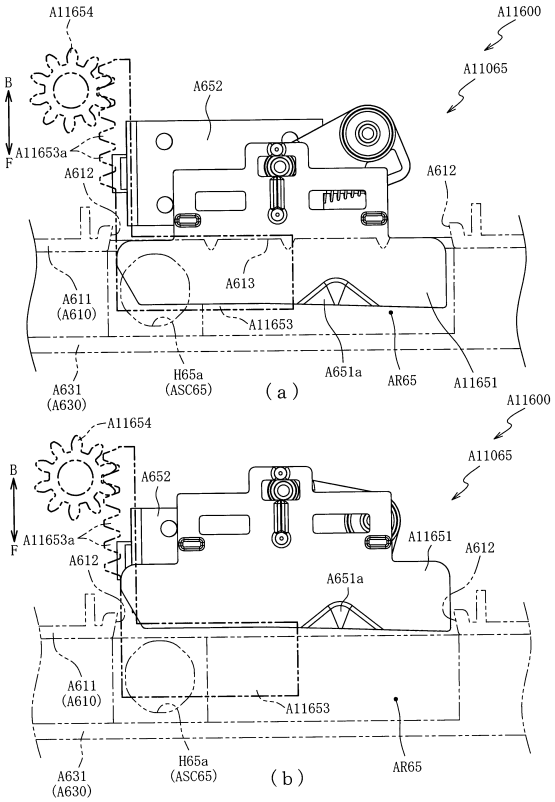
【図７２１】



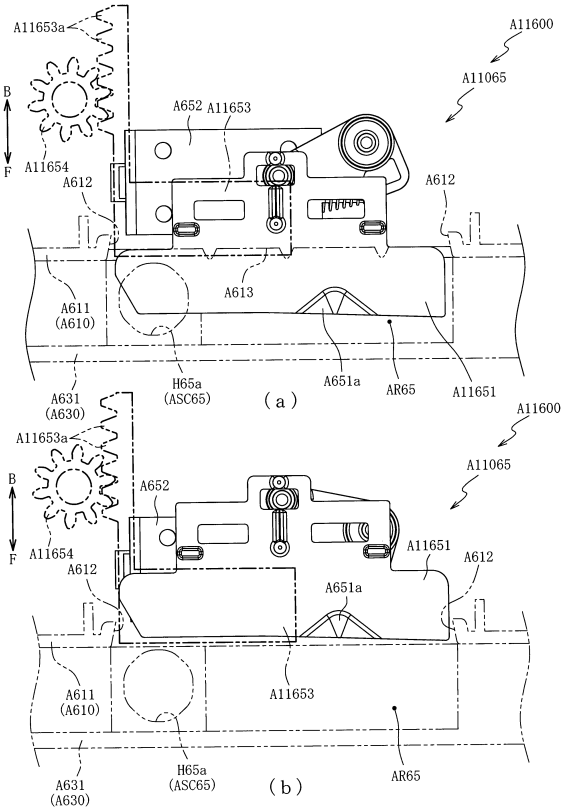
【図７２２】



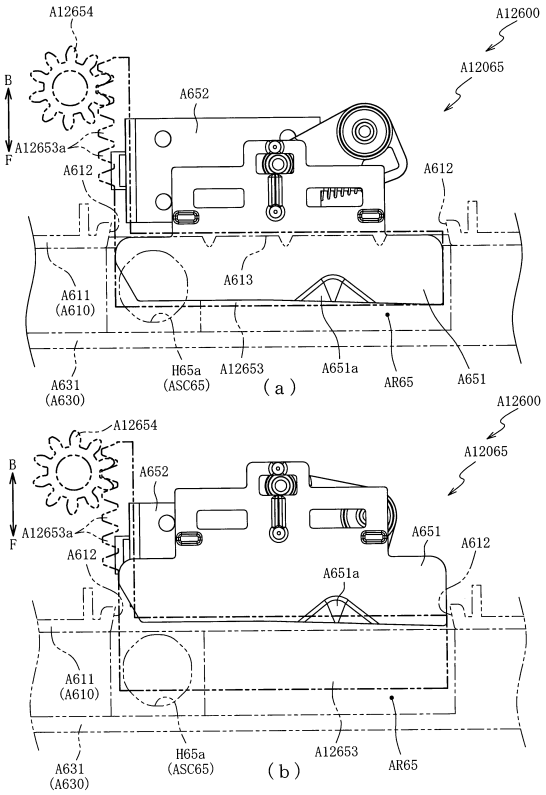
【図７２３】



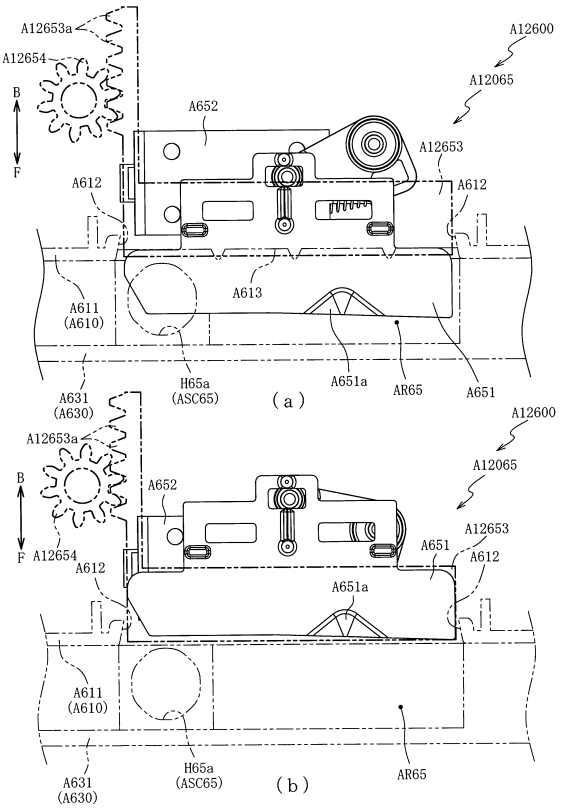
【図７２４】



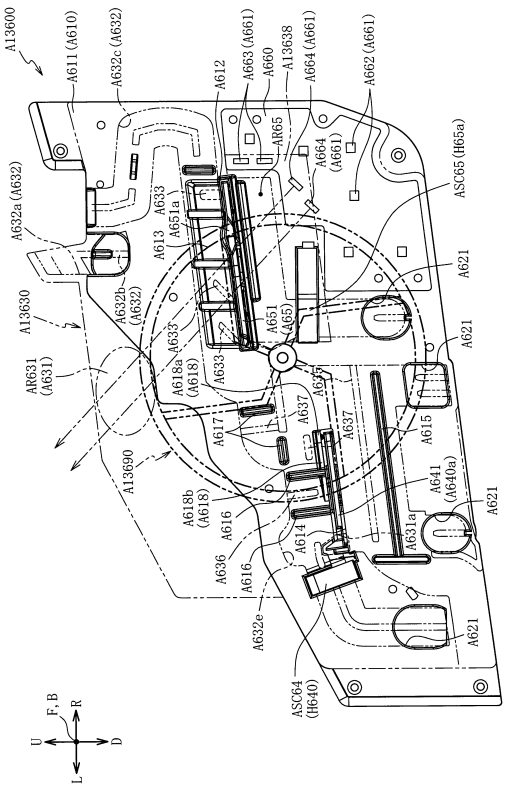
【図７２５】



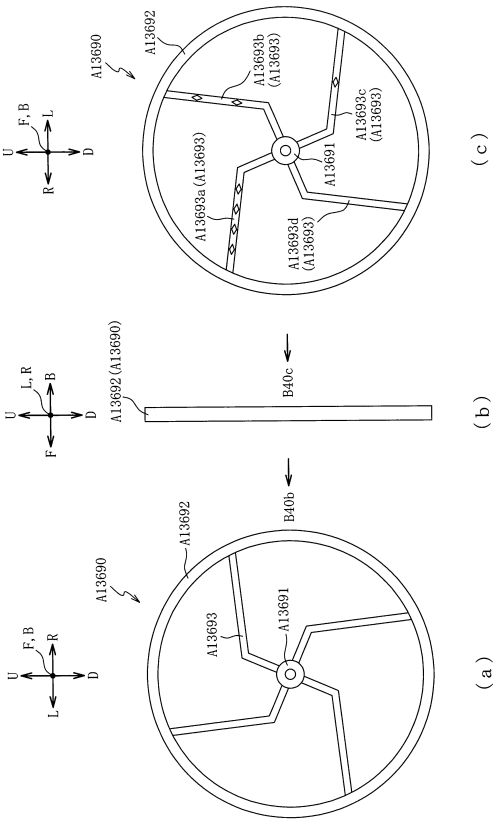
【図７２６】



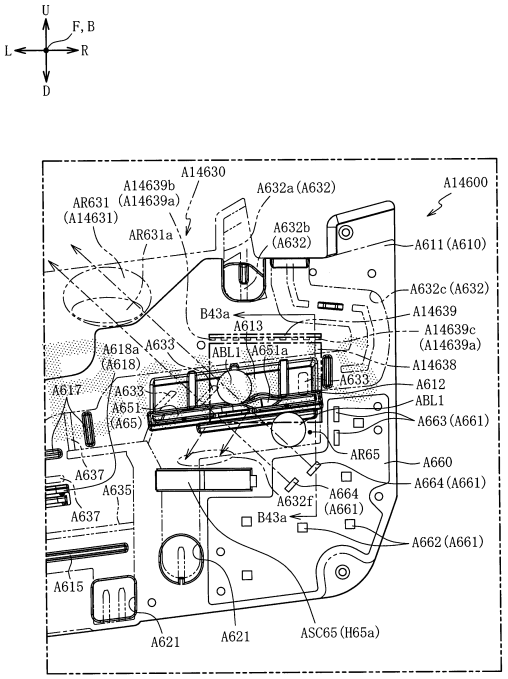
【図７２７】



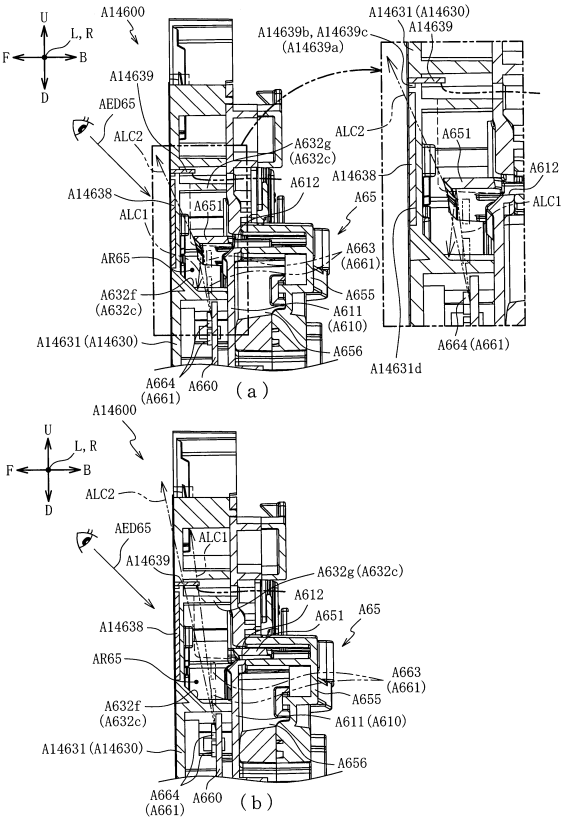
【図７２８】



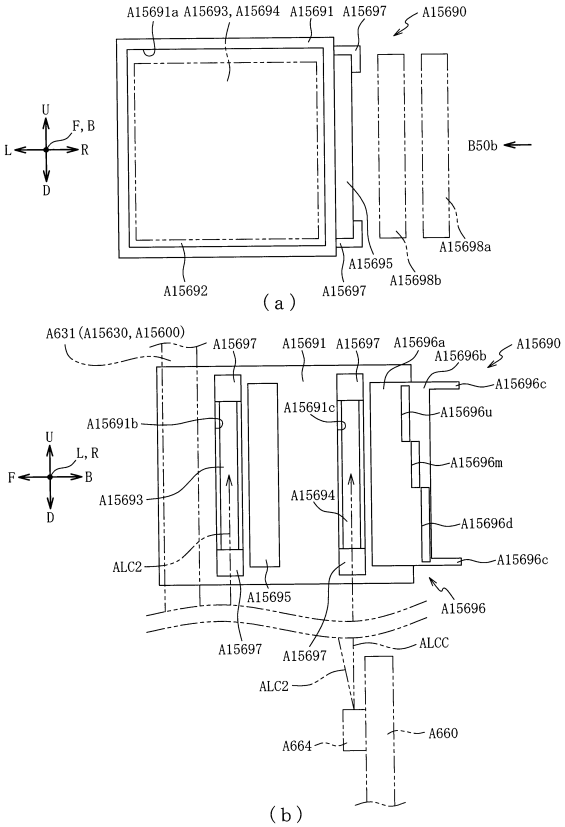
【図７２９】



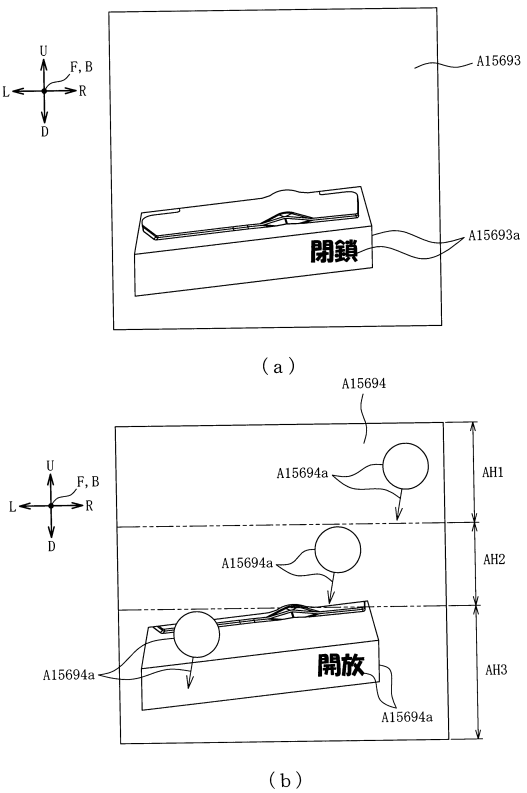
【図７３０】



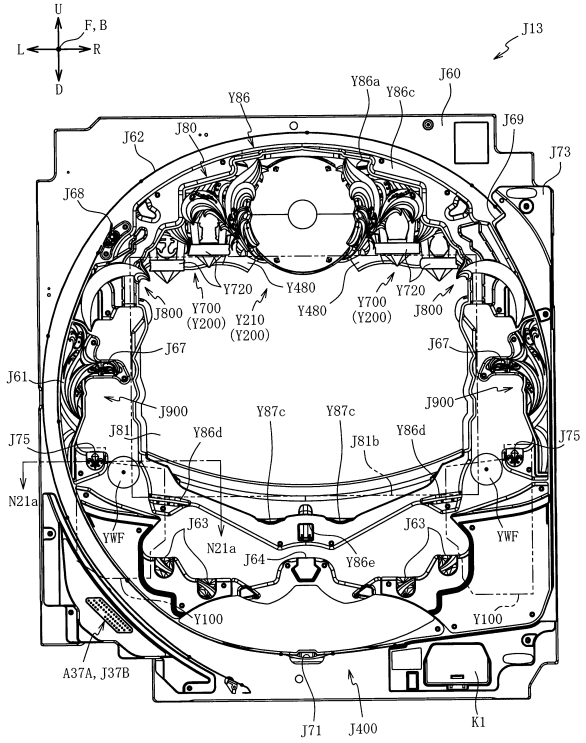
【図７３１】



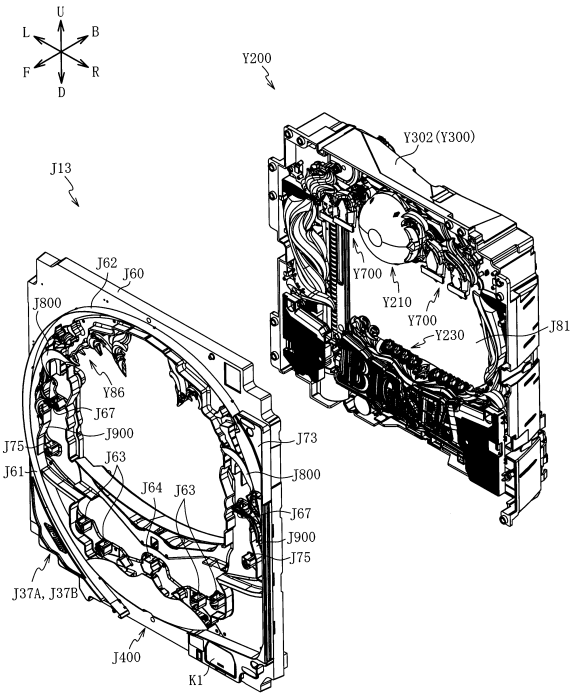
【図７３２】



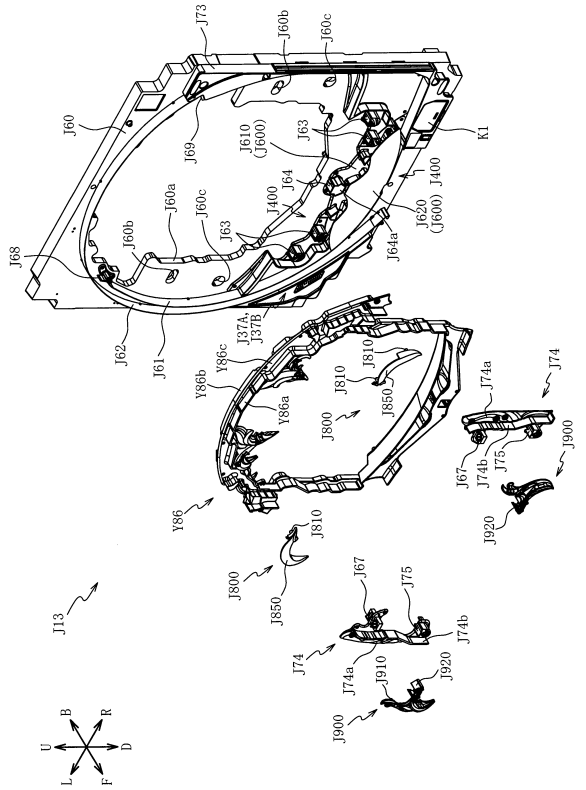
【図７３３】



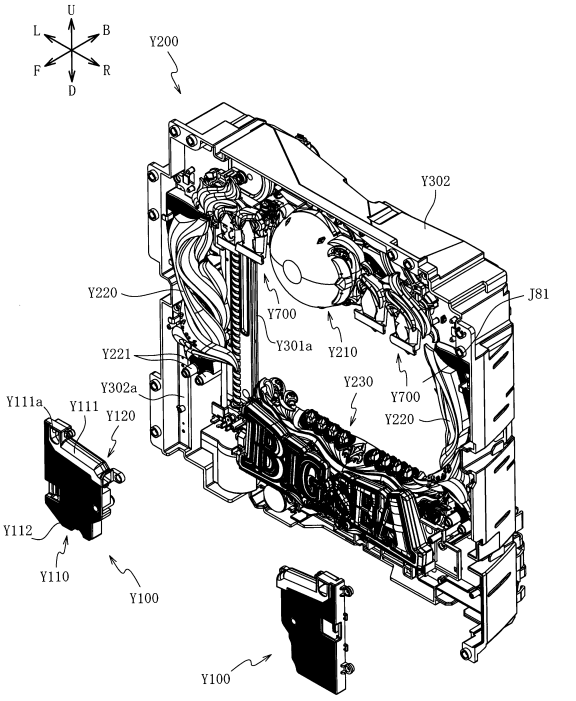
【図７３４】



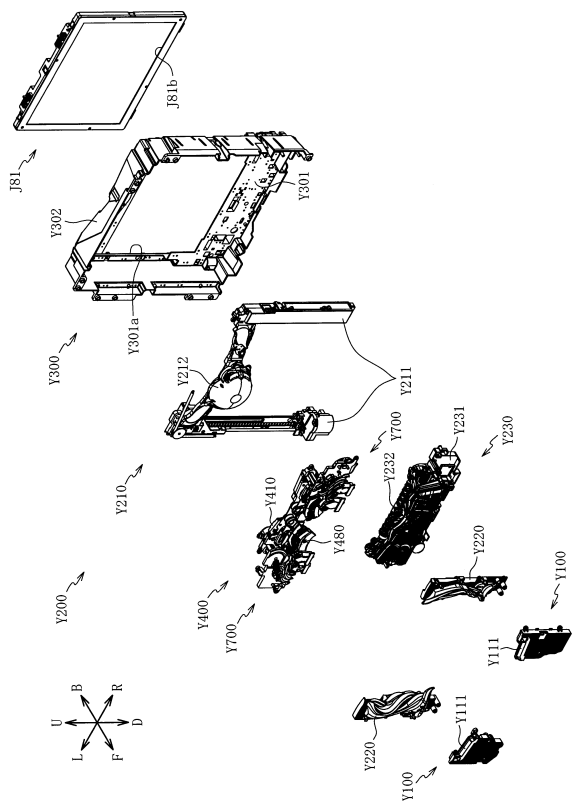
【図７３５】



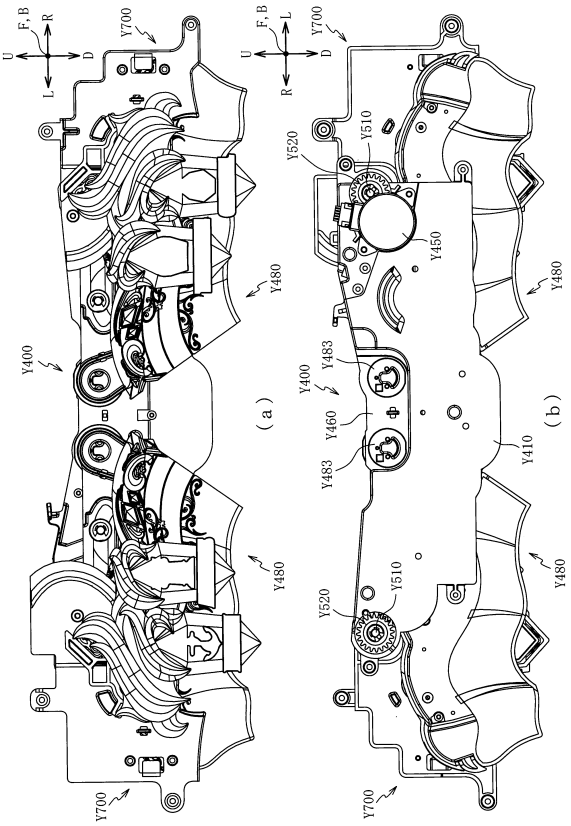
【図７３６】



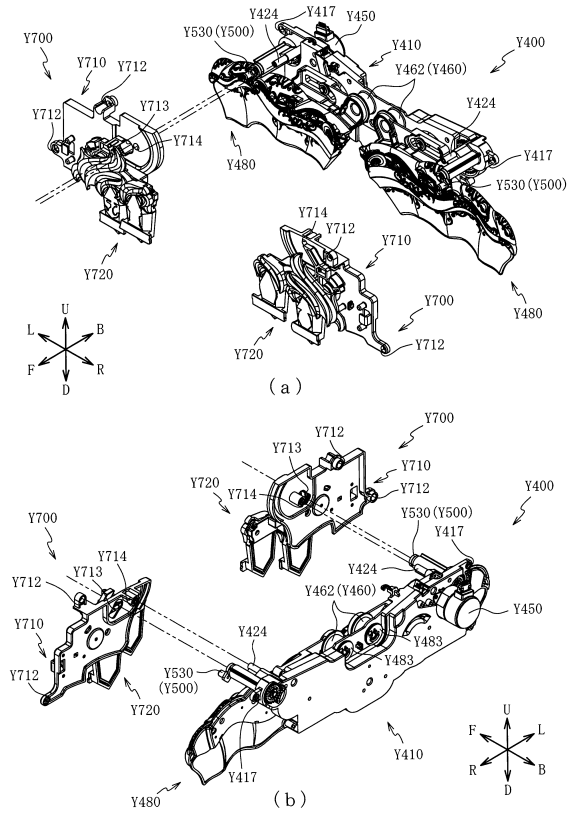
【図７３７】



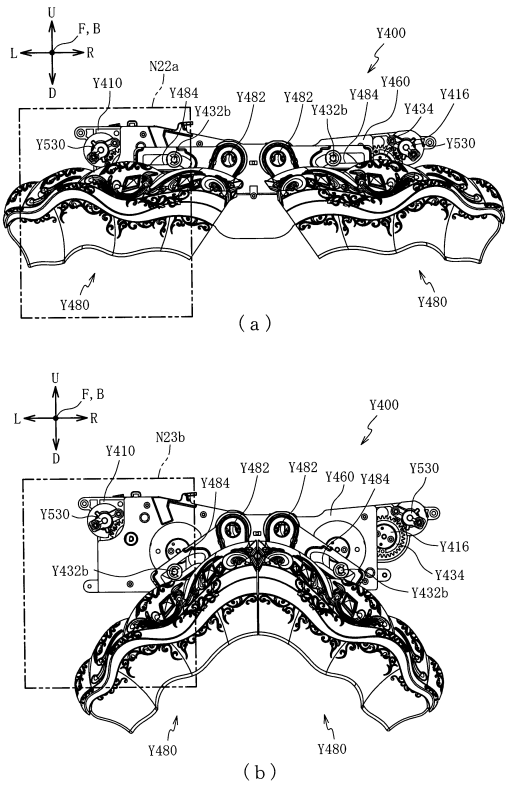
【図７３８】



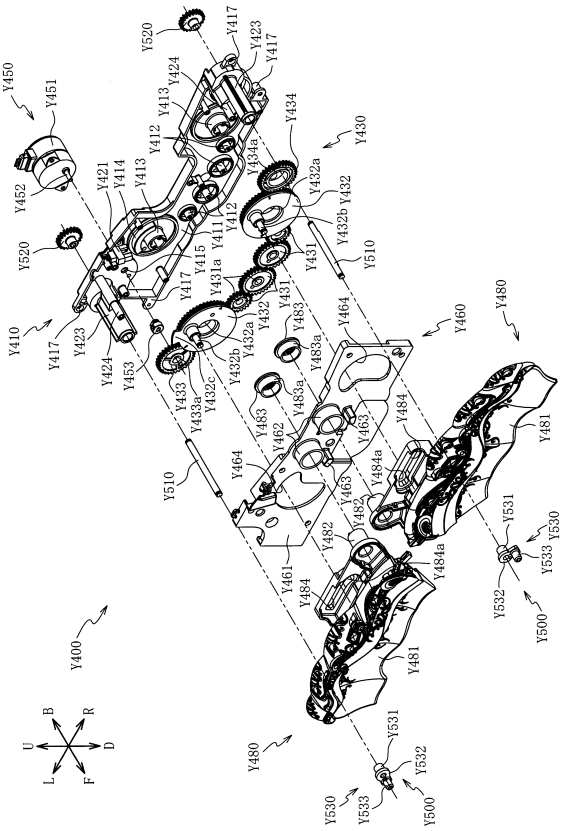
【図７３９】



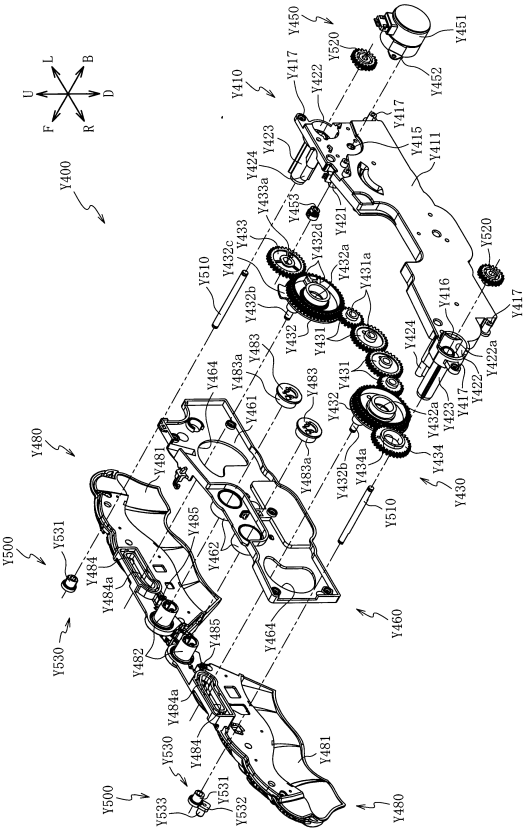
【図７４０】



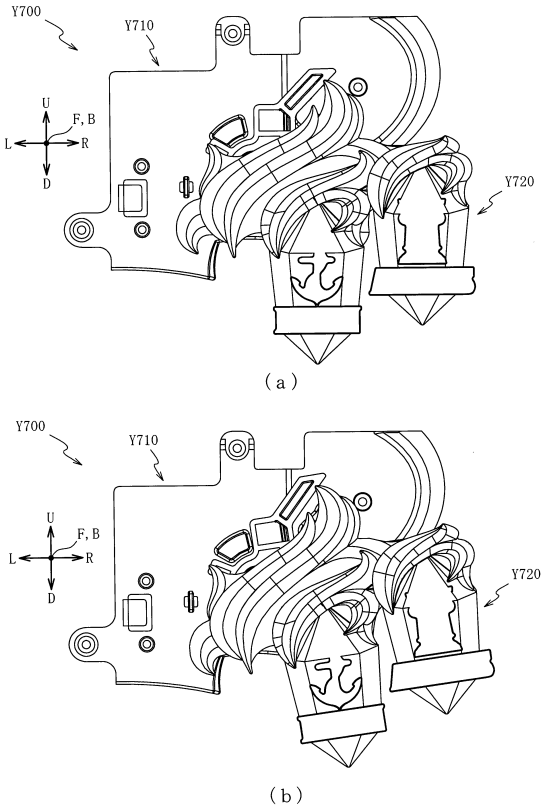
【図７４１】



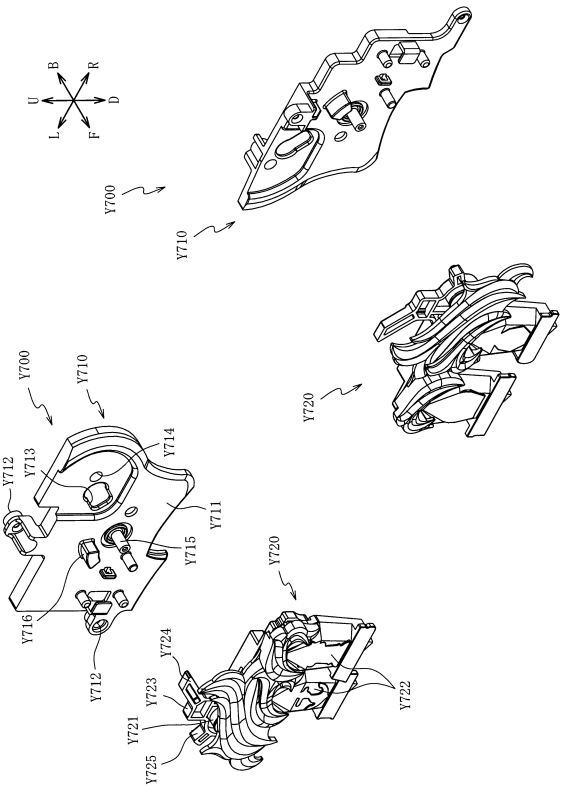
【図７４２】



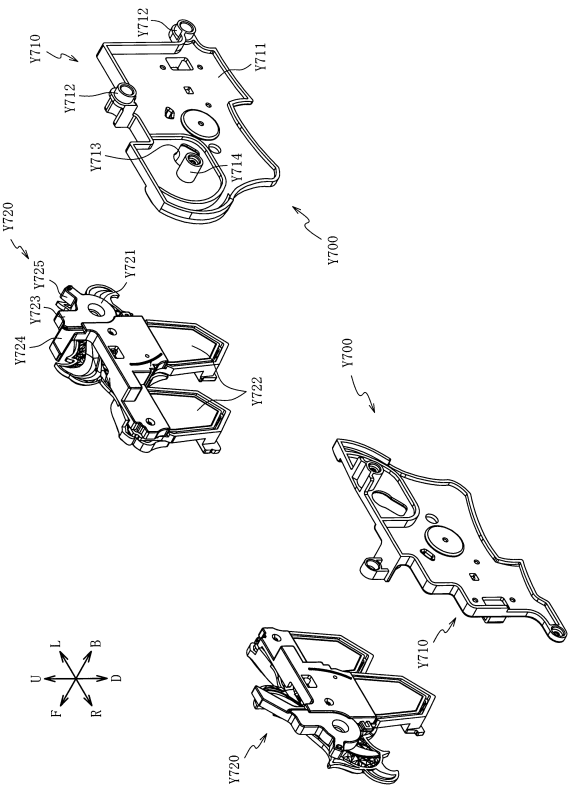
【図７４３】



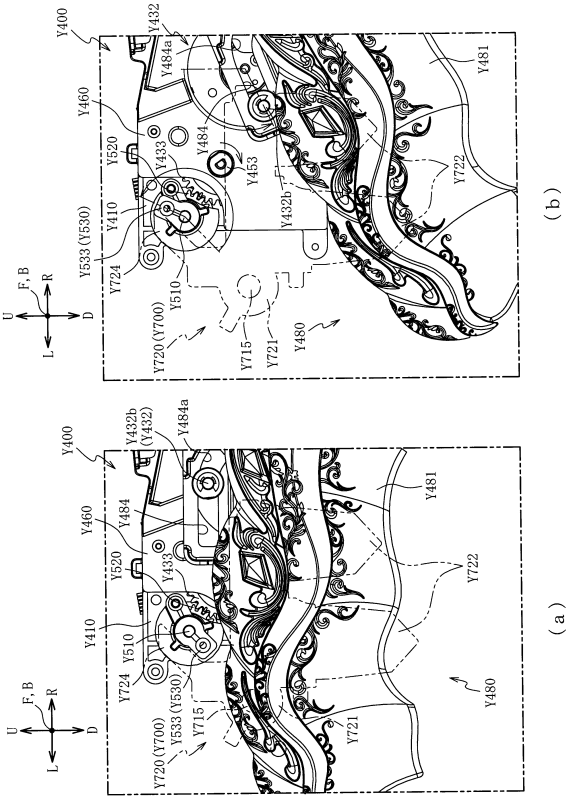
【図７４４】



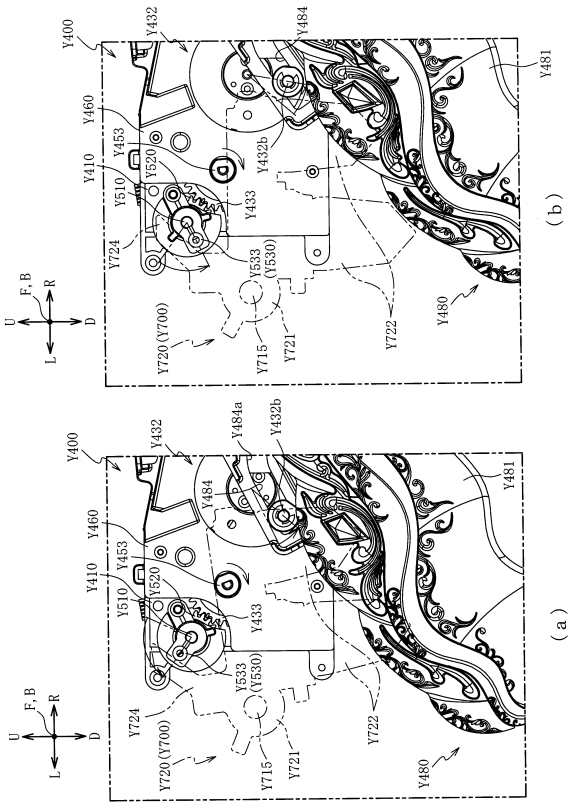
【図７４５】



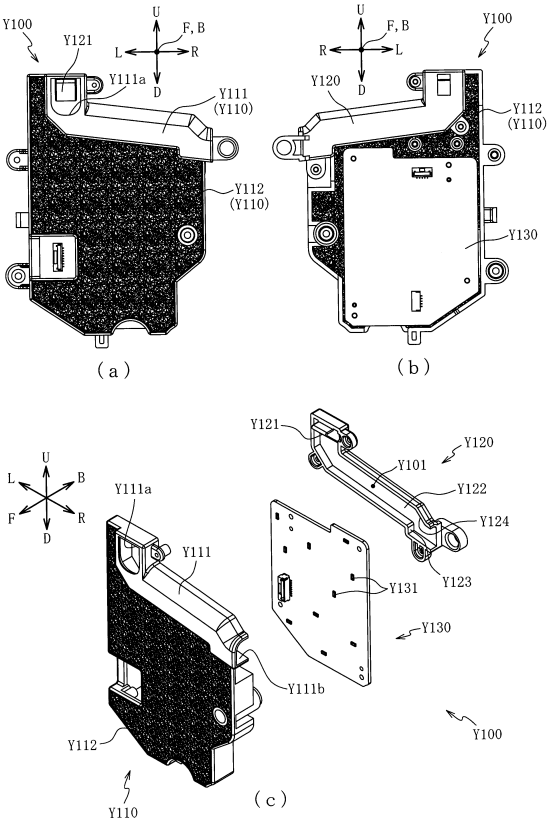
【図７４６】



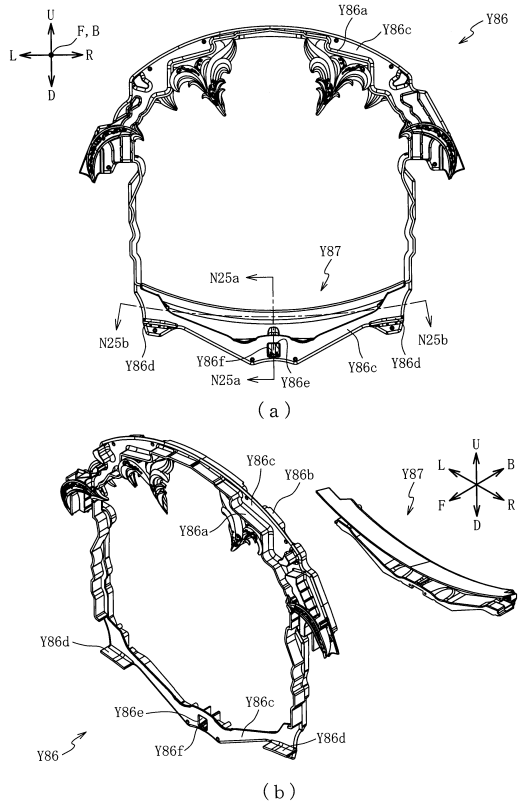
【図７４７】



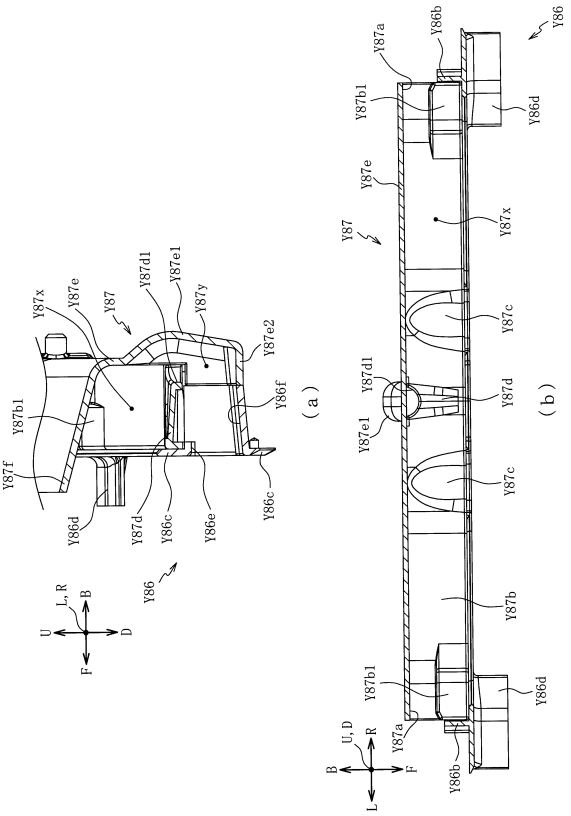
【図７４８】



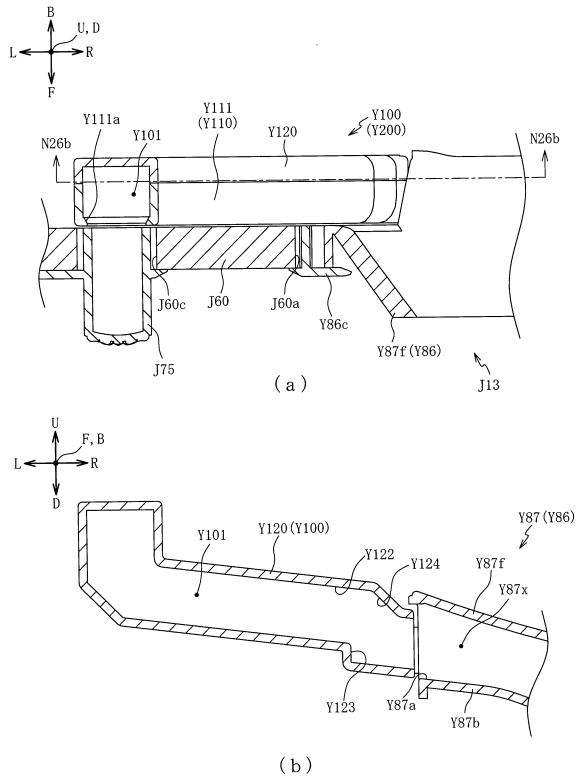
【図７４９】



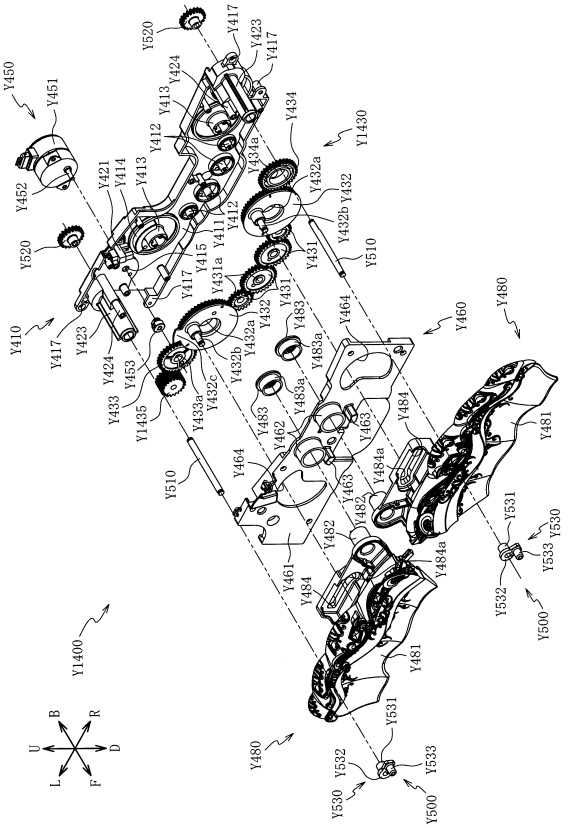
【図７５０】



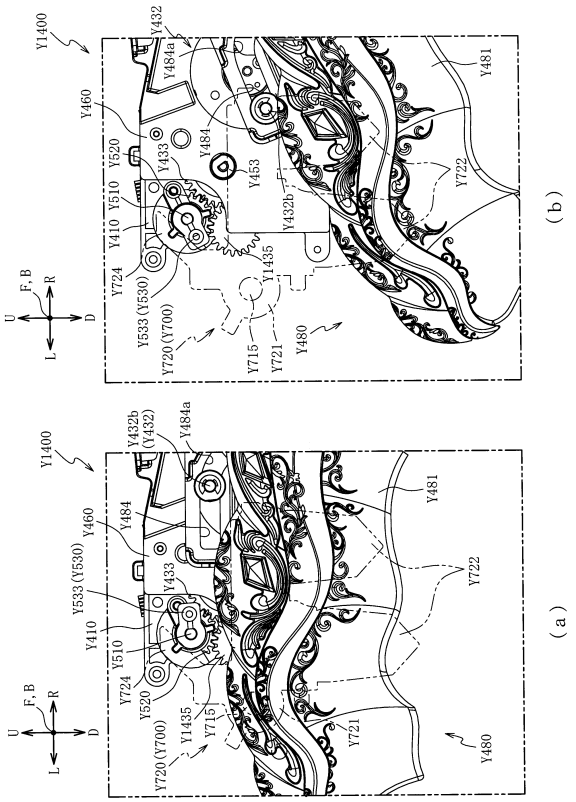
【図７５１】



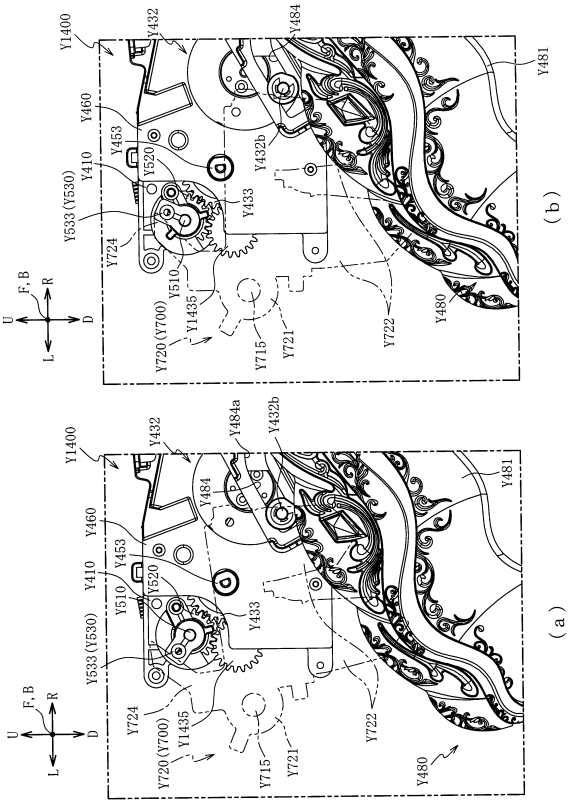
【図７５２】



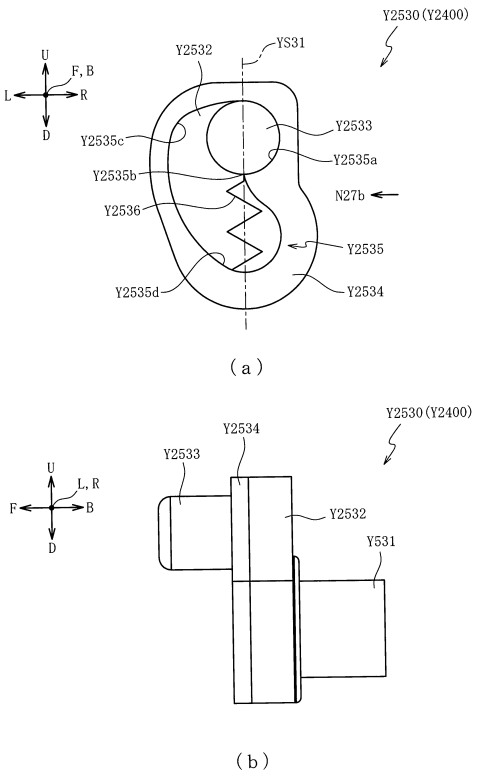
【図７５３】



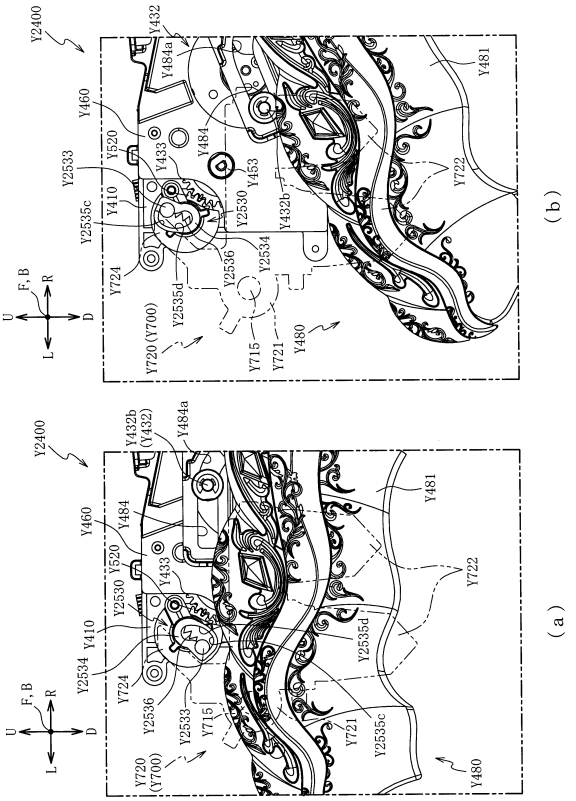
【図７５４】



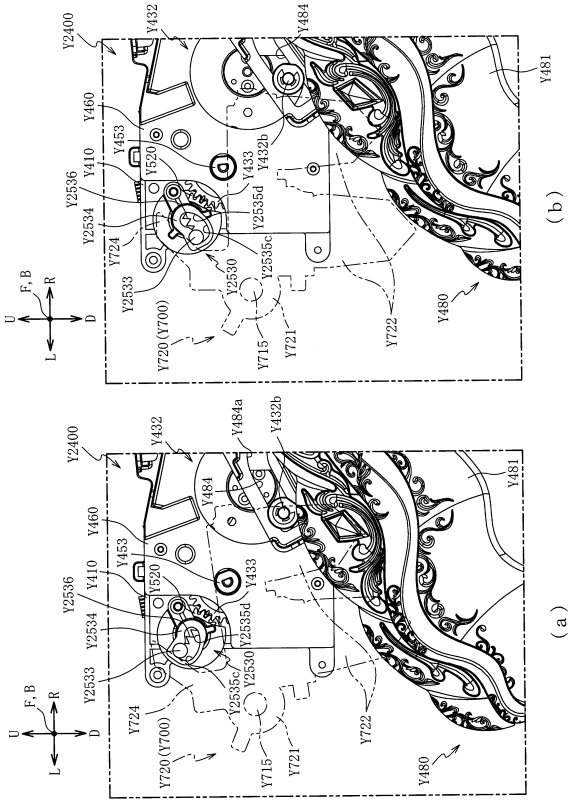
【図７５５】



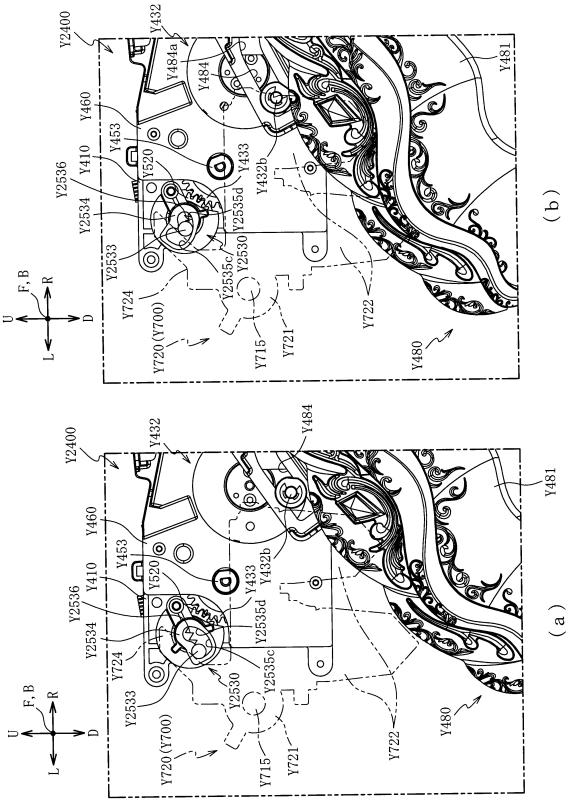
【図７５６】



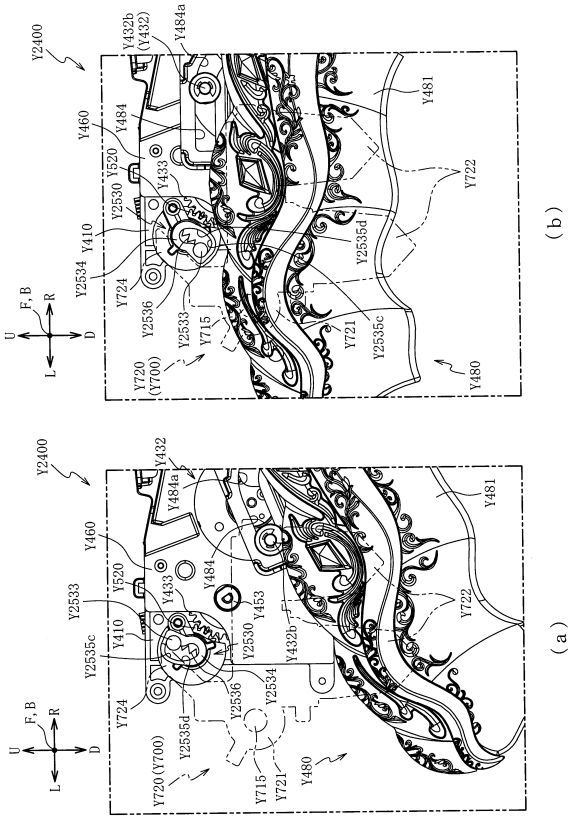
【図７５７】



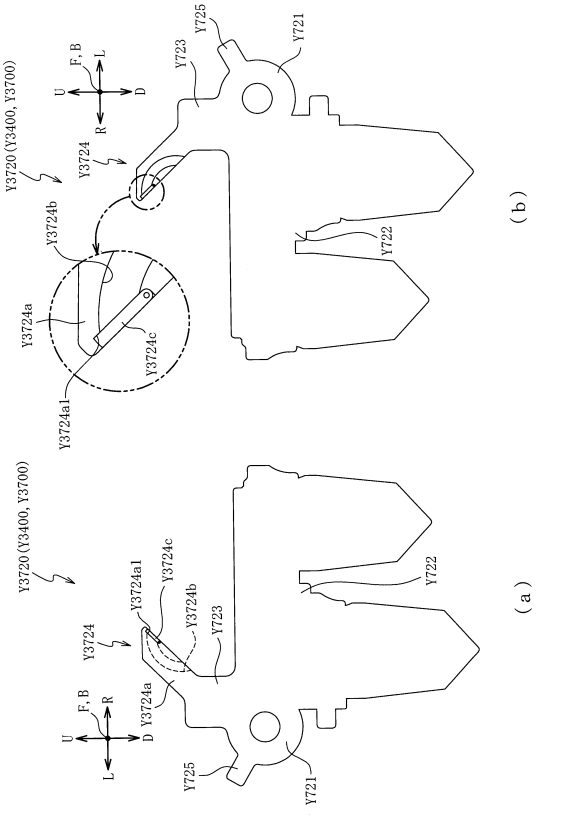
【図７５８】



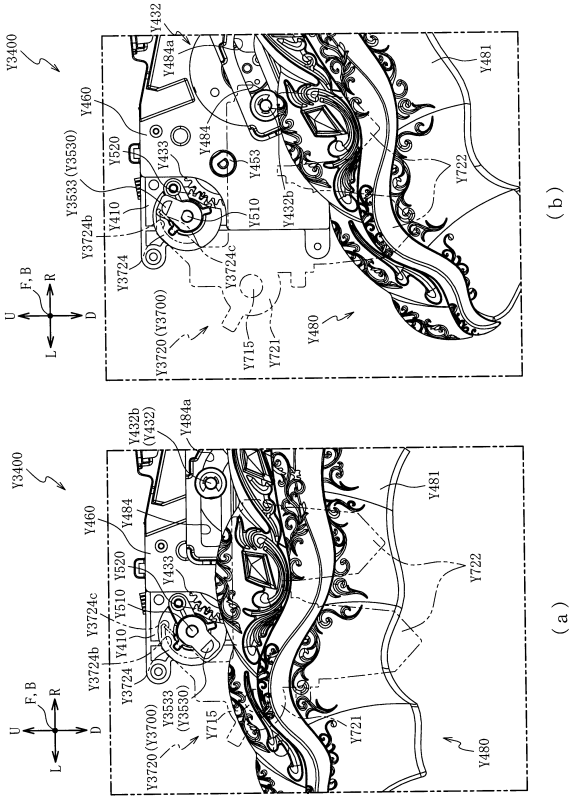
【図７５９】



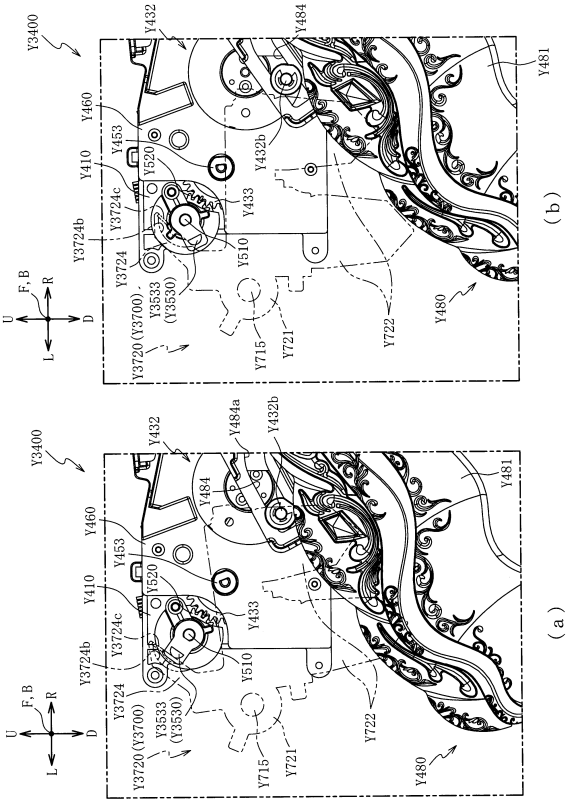
【図７６０】



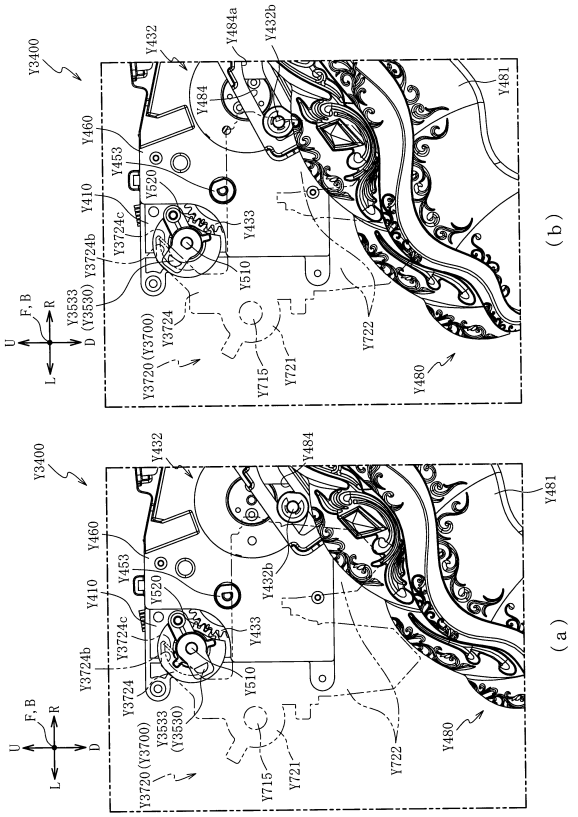
【図７６１】



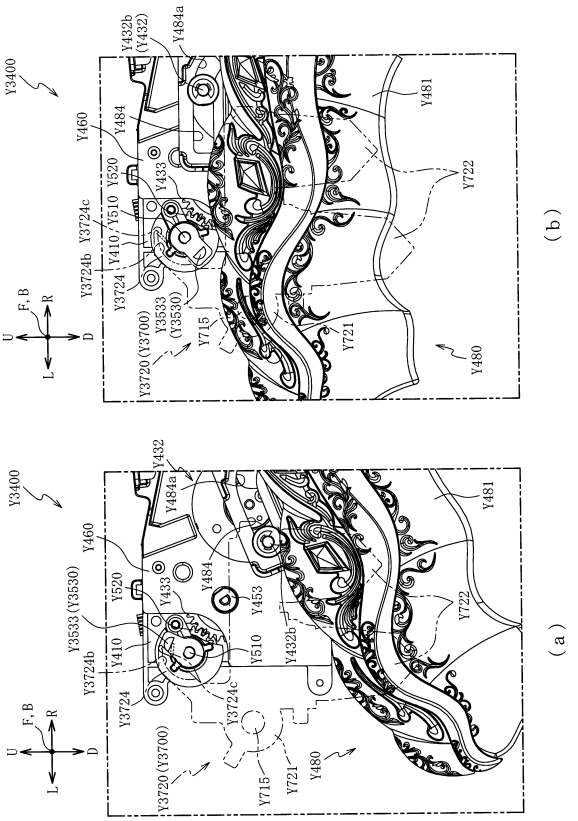
【図７６２】



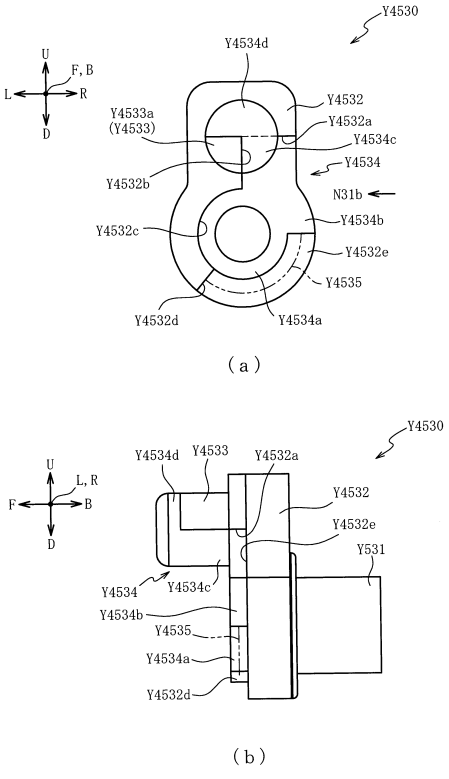
【図７６３】



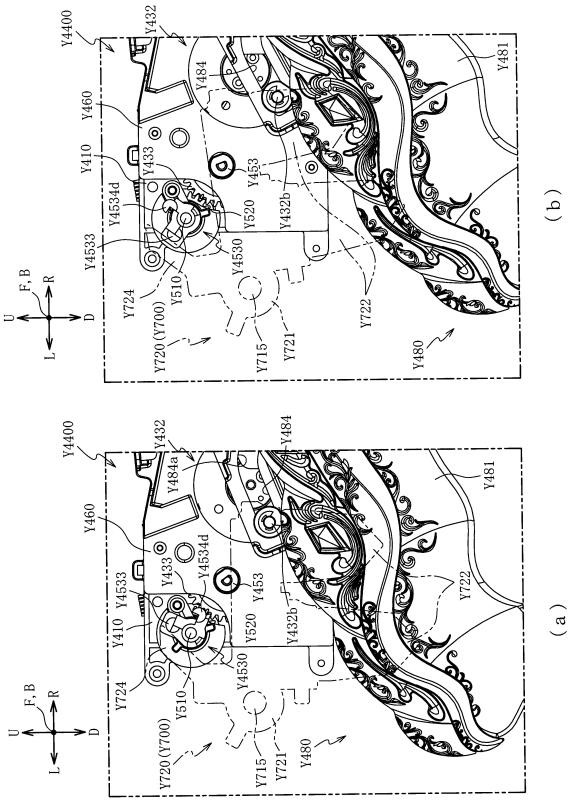
【図７６４】



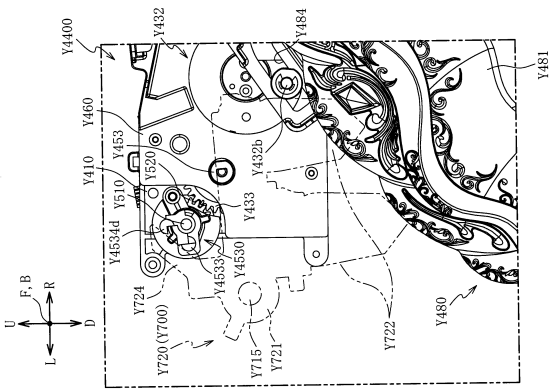
【図７６５】



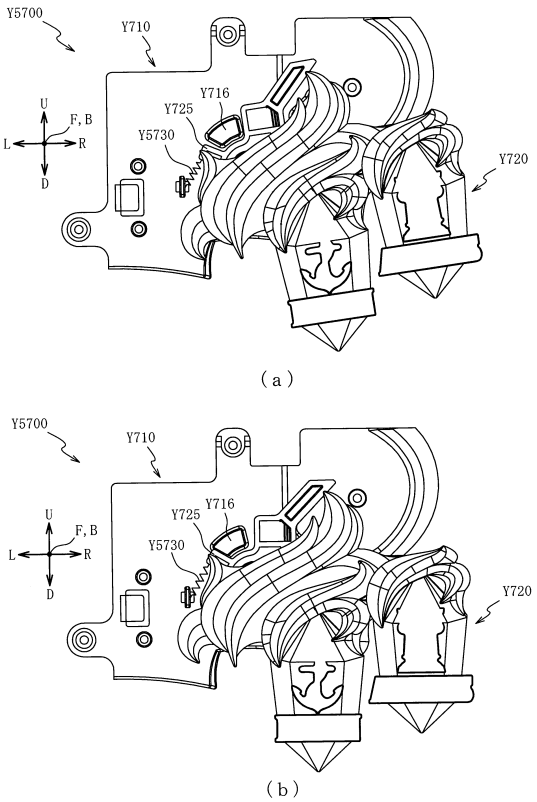
【図７６６】



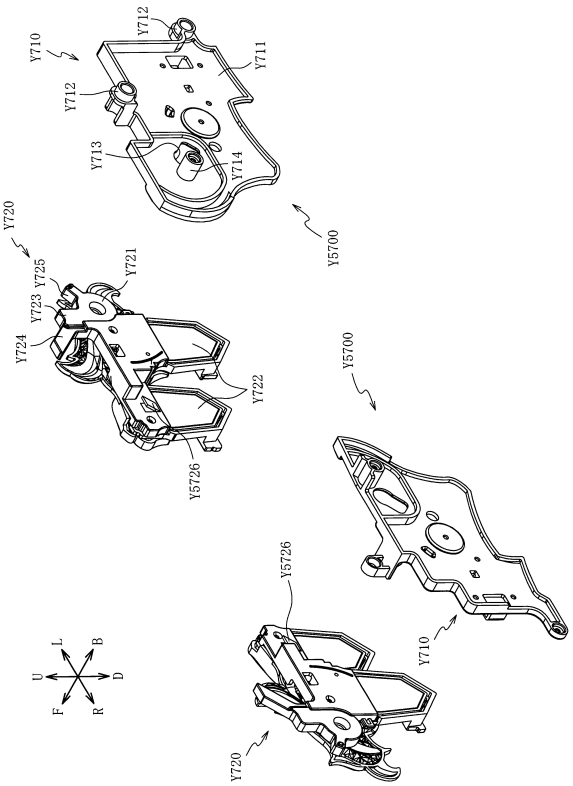
【図７６７】



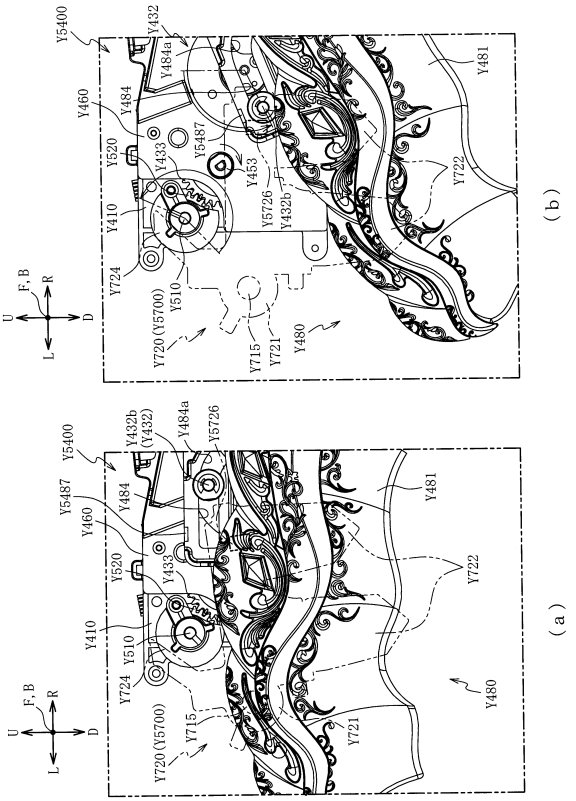
【図７６８】



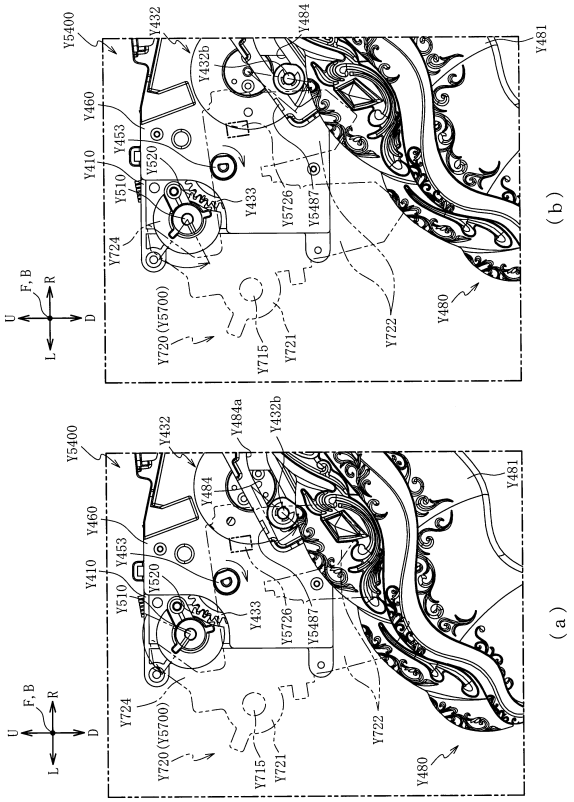
【図７６９】



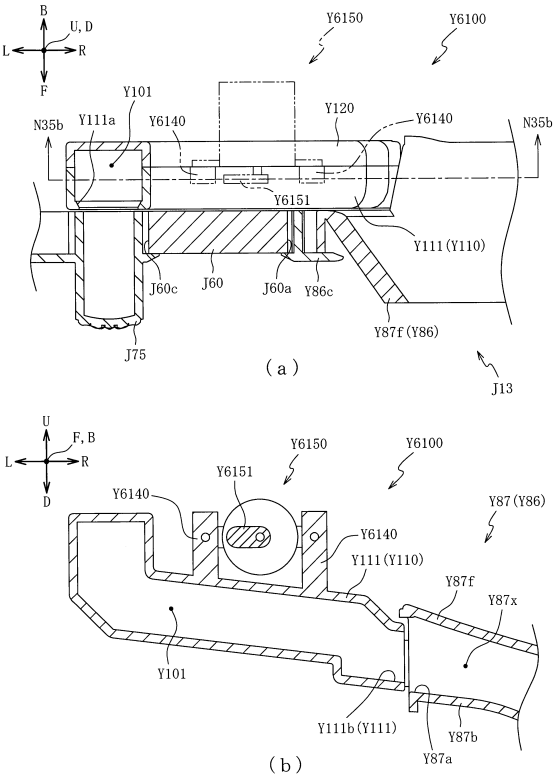
【図７７０】



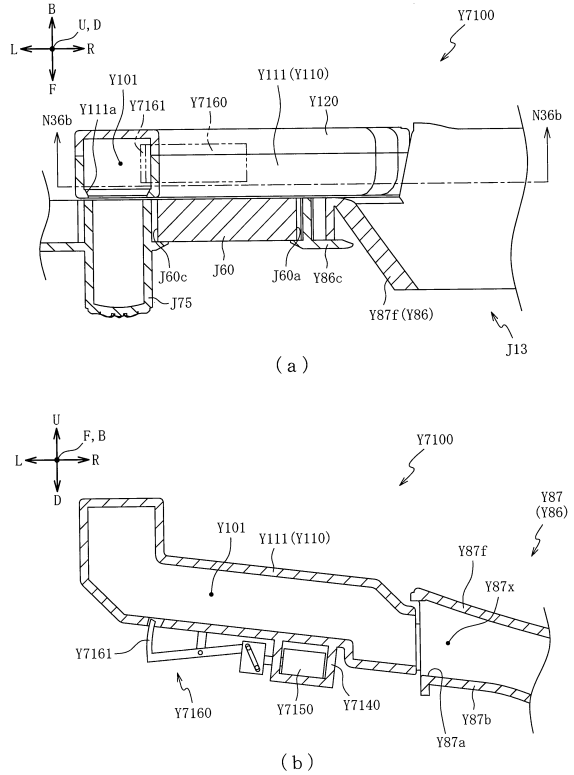
【図７７１】



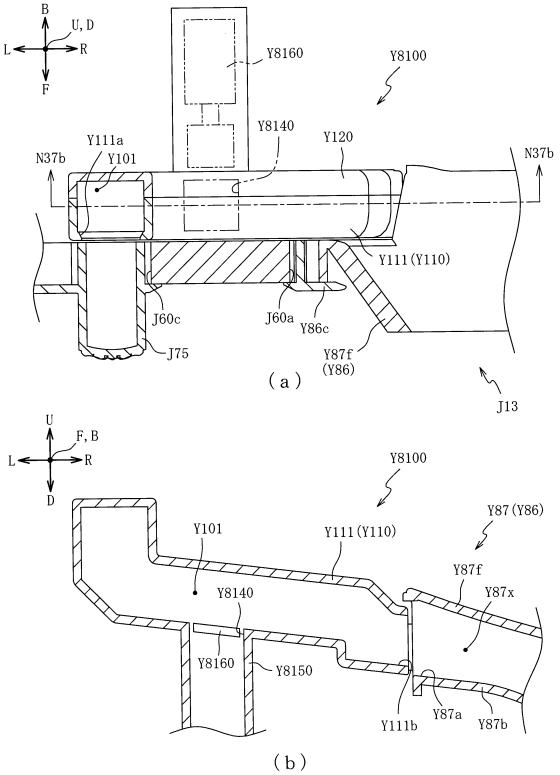
【図７７２】



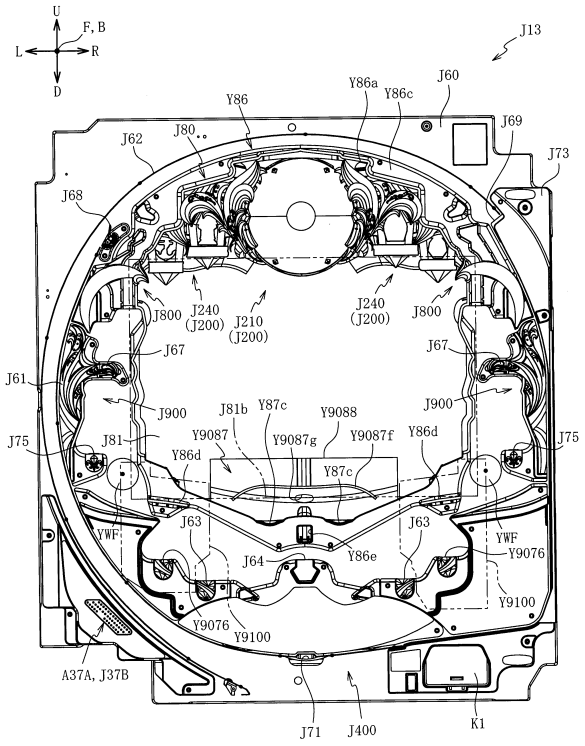
【図７７３】



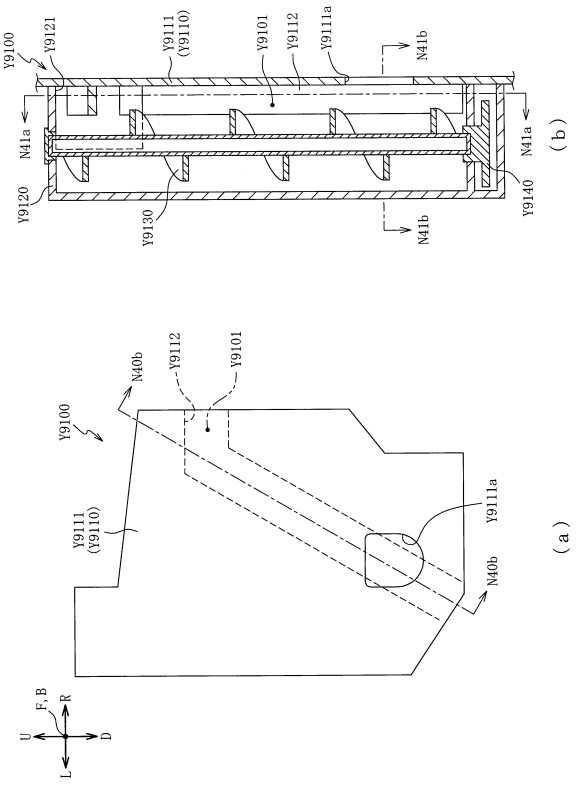
【図７７４】



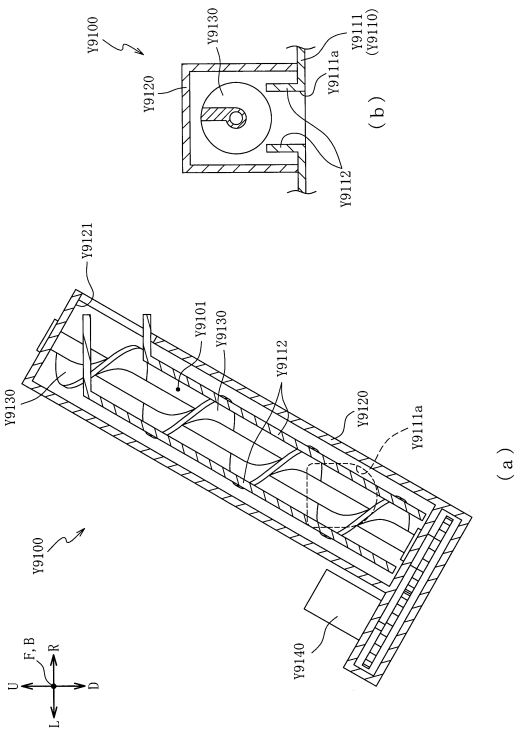
【図７７５】



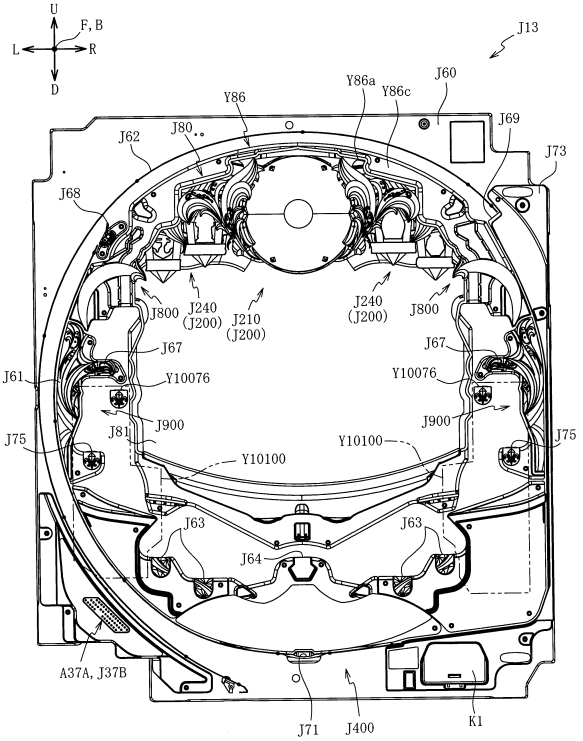
【図７７６】



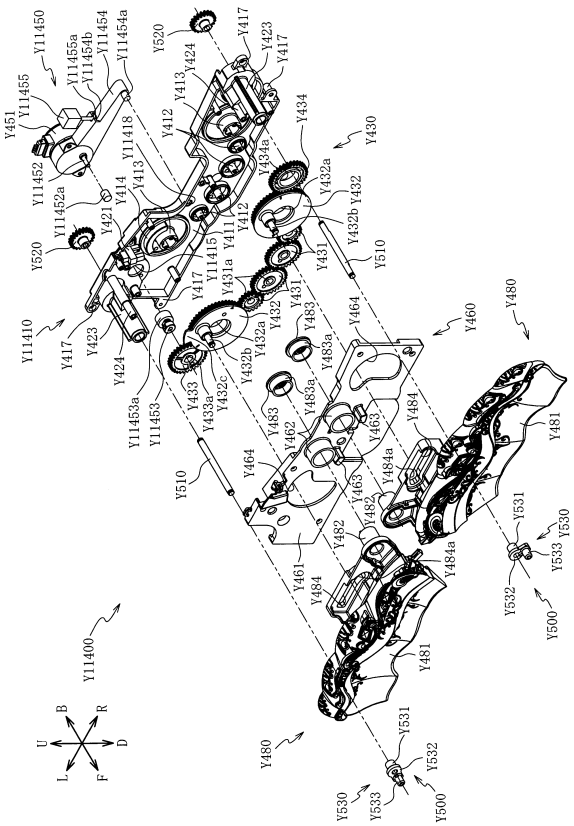
【図７７７】



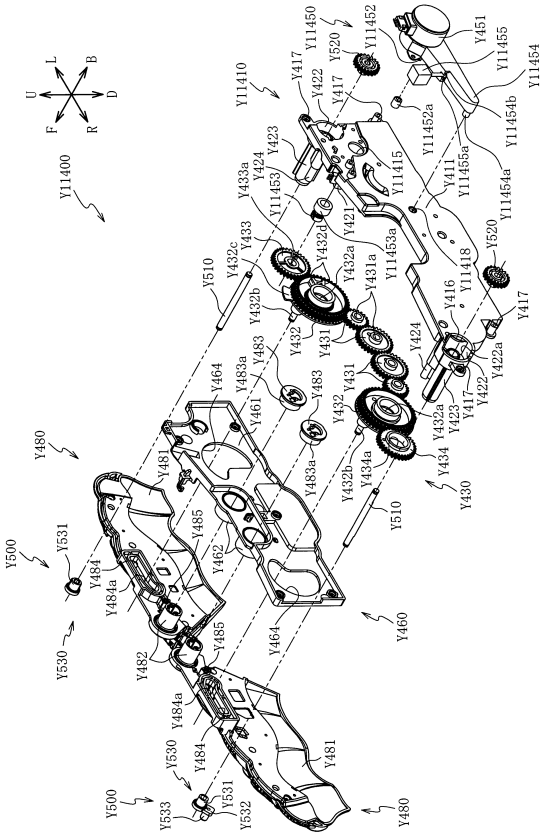
【図７７８】



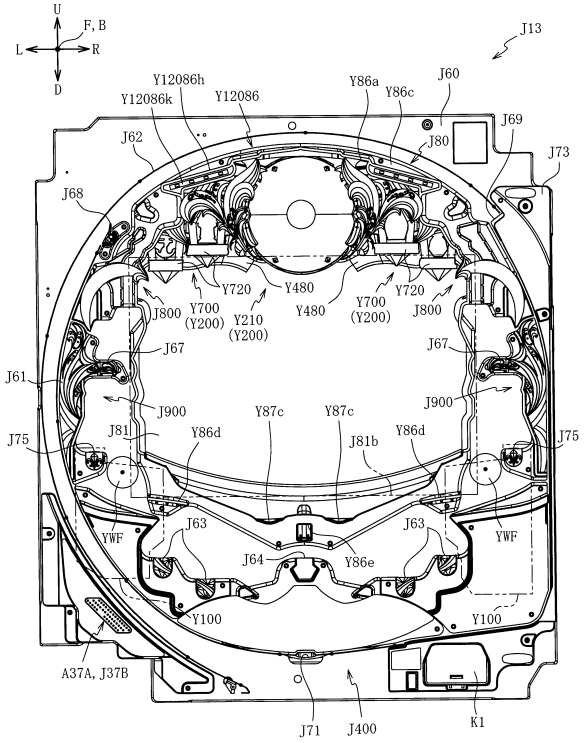
【図７７９】



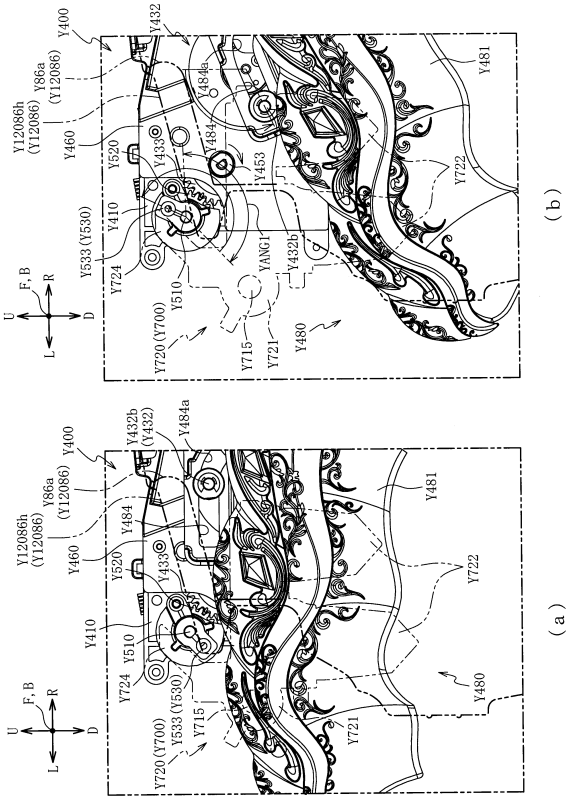
【図７８０】



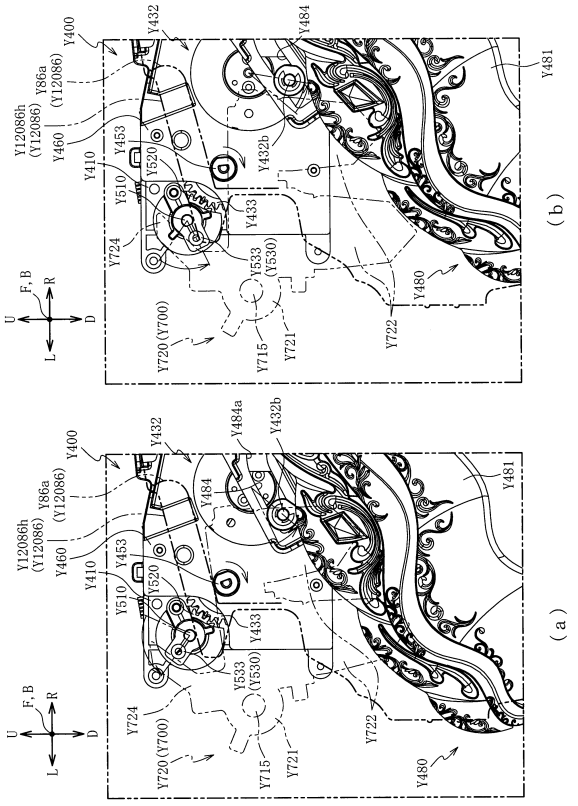
【図７８１】



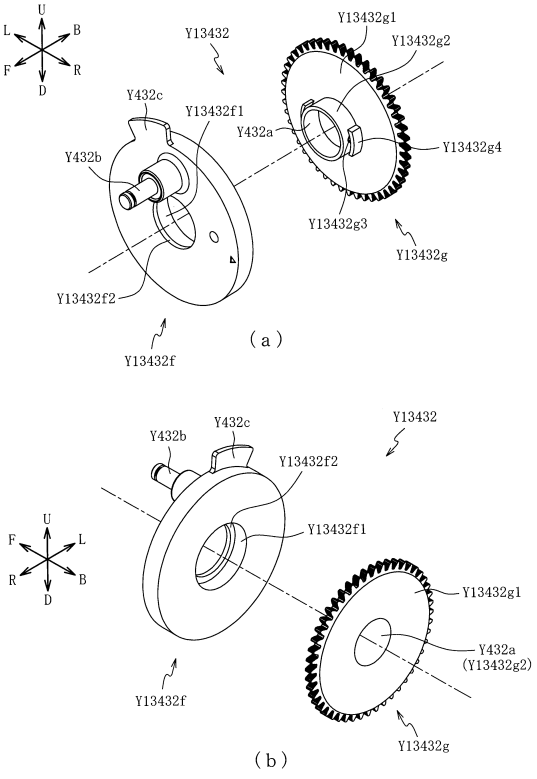
【図７８２】



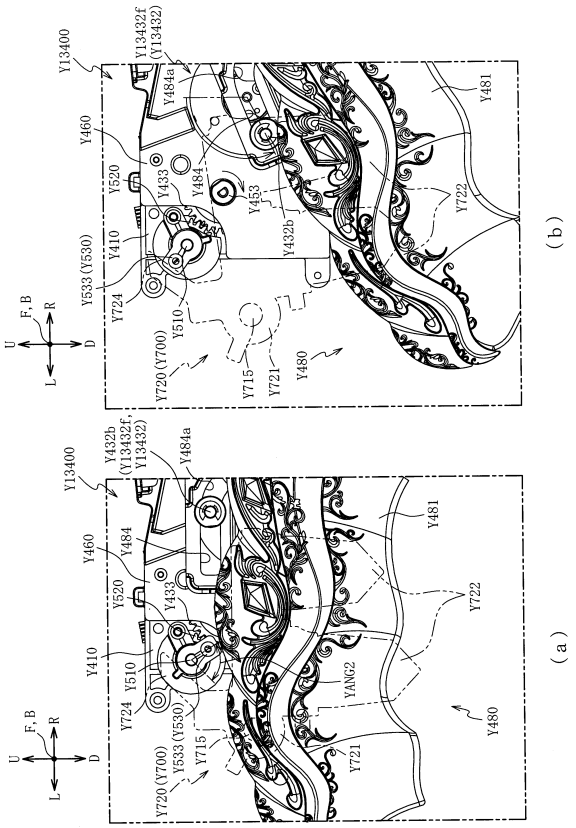
【図７８３】



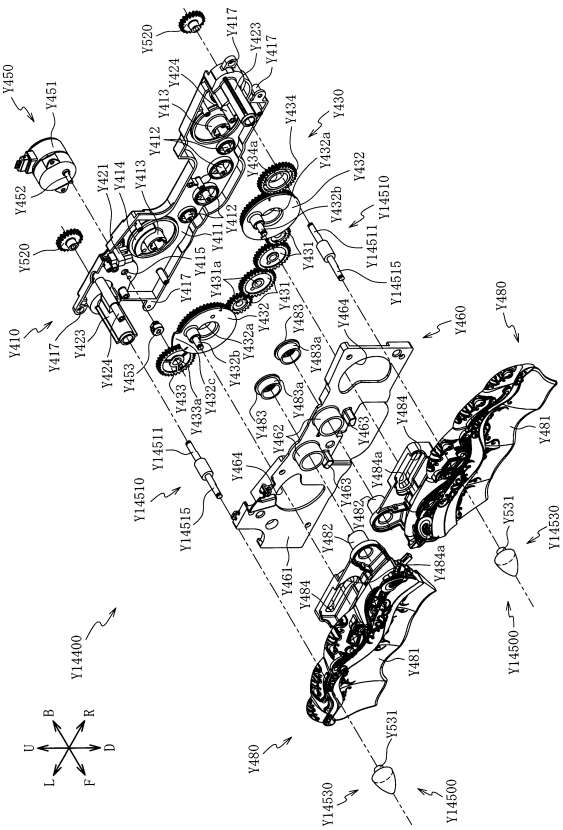
【図７８４】



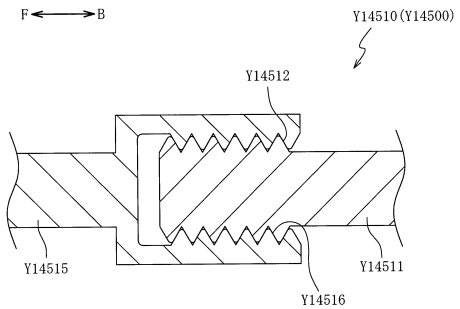
【図７８５】



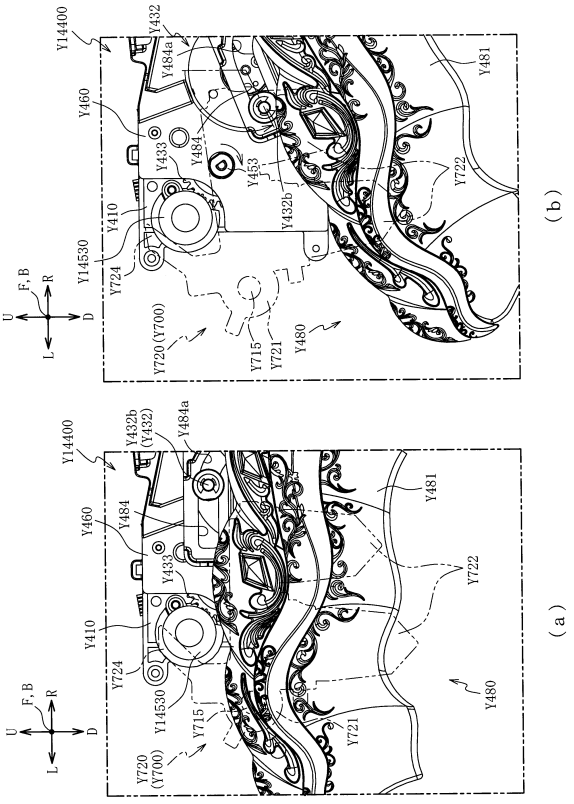
【図７８６】



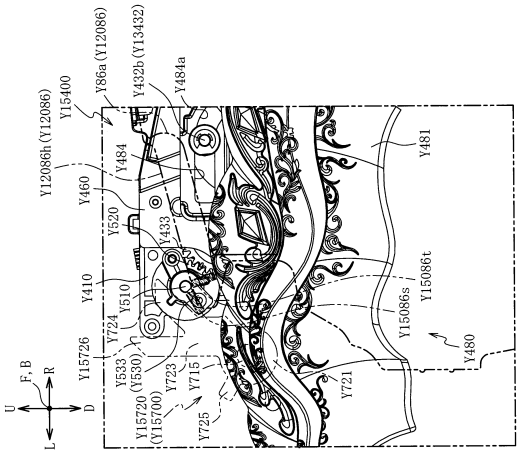
【図７８７】



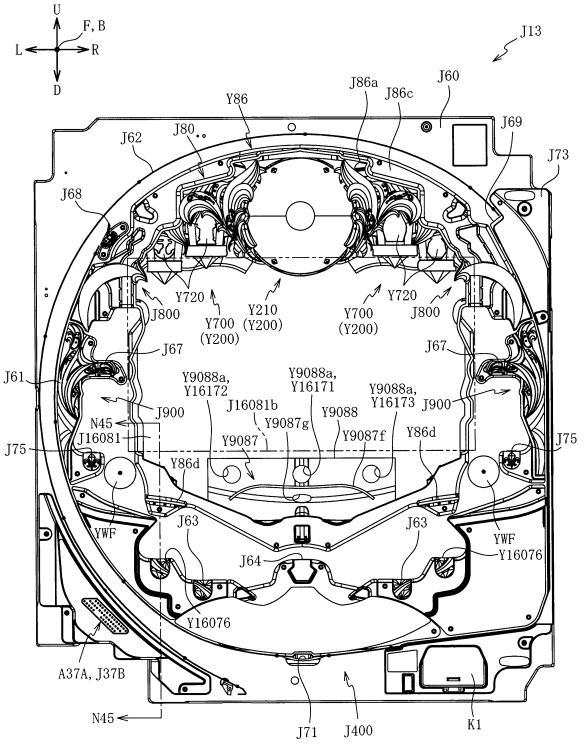
【図７８８】



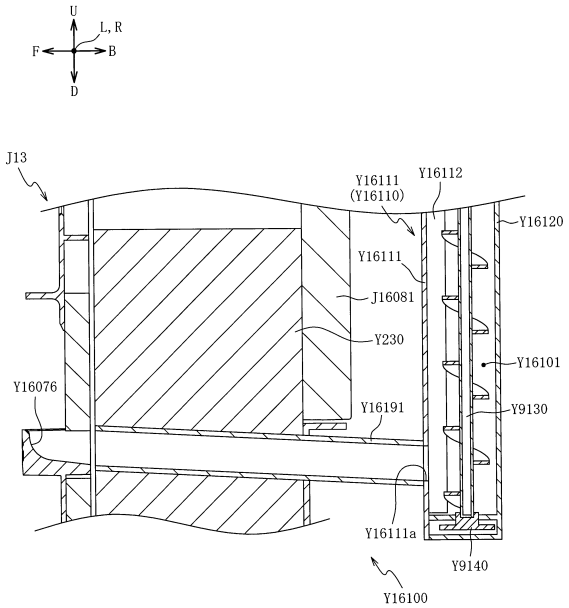
【図７８９】



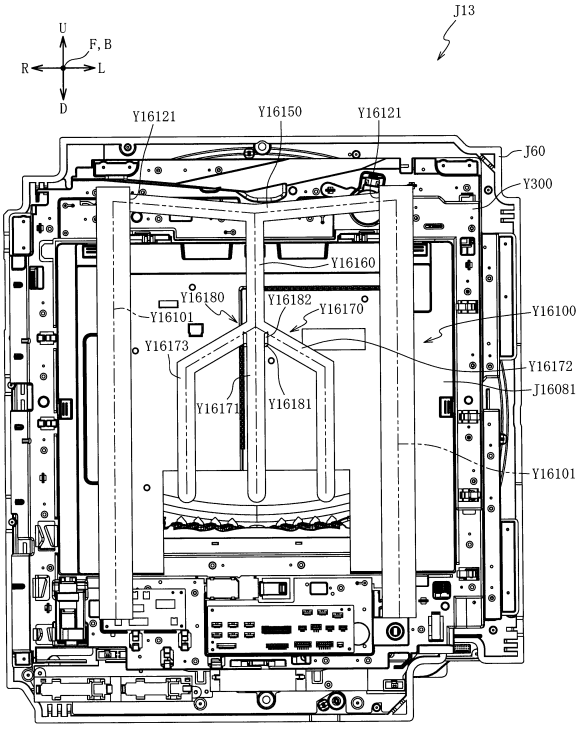
【図７９０】



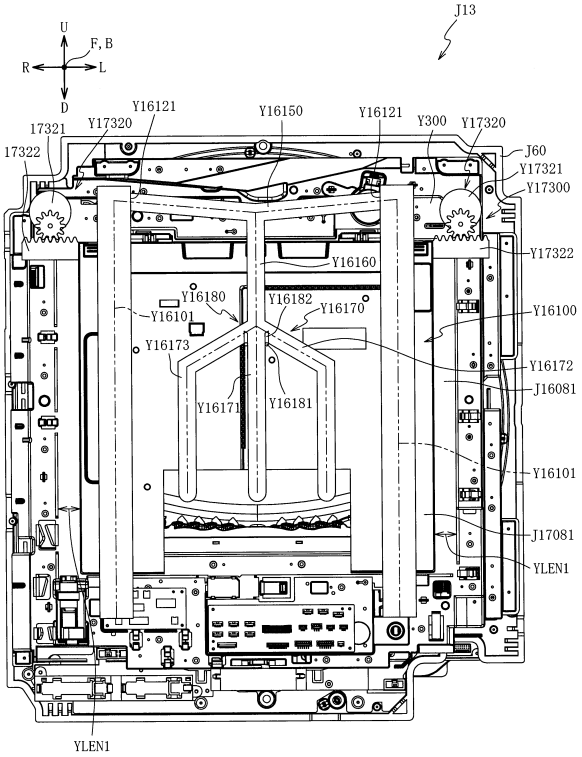
【図７９１】



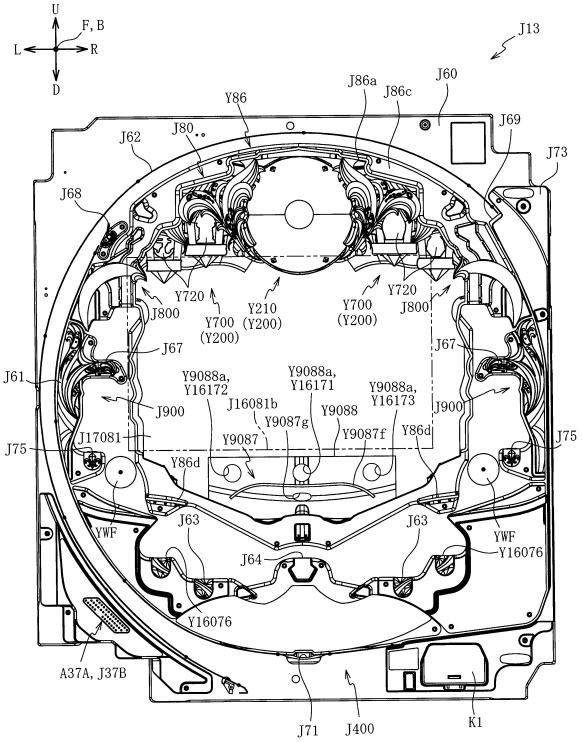
【図７９２】



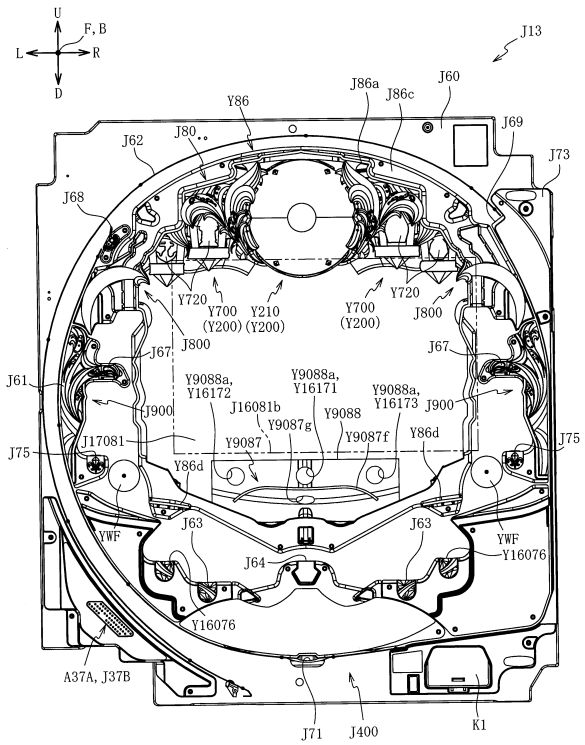
【図７９３】



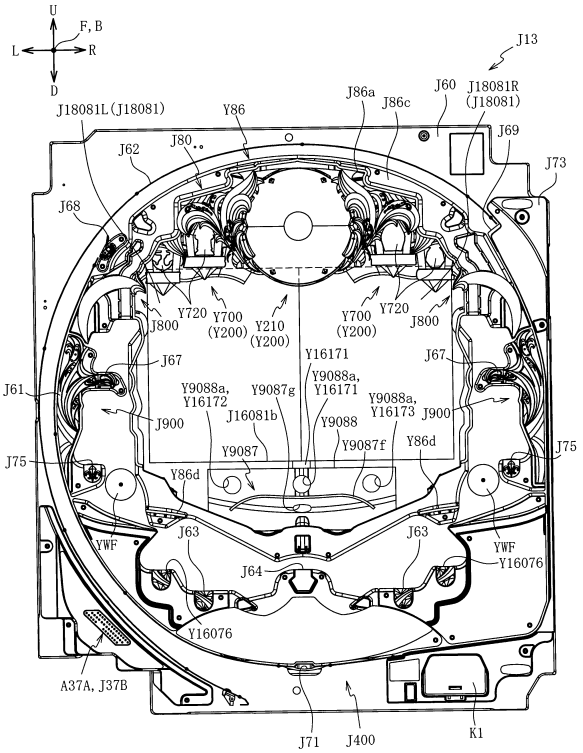
【図７９４】



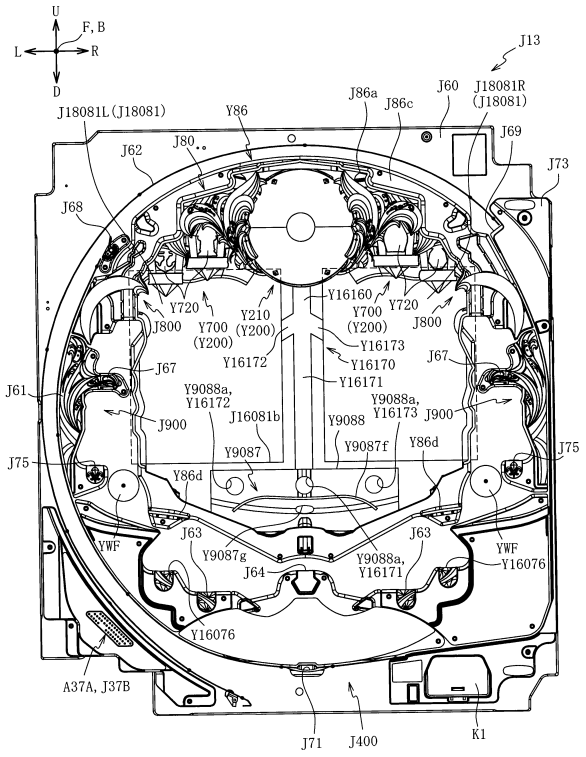
【図７９５】



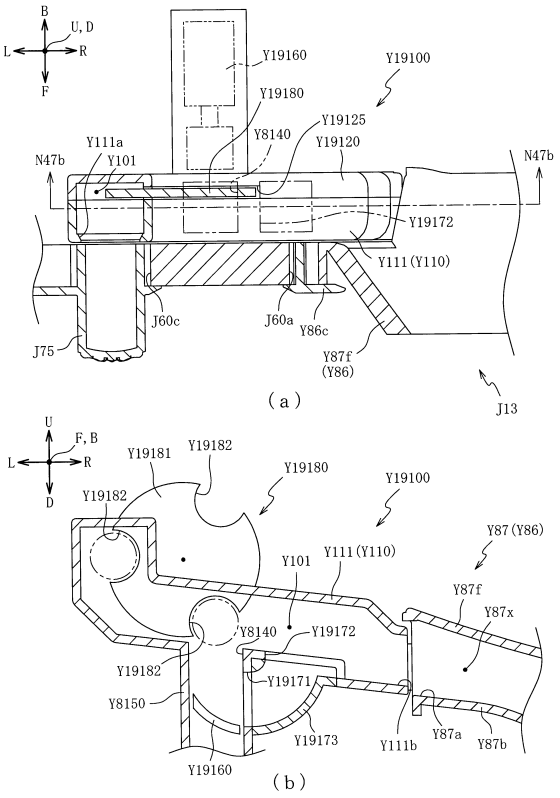
【図７９６】



【図７９７】


U
F, B
L
R
D
J13
J18081L(J18081)
Y86
J86a
J86c
J60
J18081R
(J18081)
J69
J73
J62
J80
J68
J61
J75
Y720
J800
Y700
(Y200)
Y210
(Y200)
Y16172
Y16160
Y700
(Y200)
Y720
J800
Y16173
Y16170
Y16171
J67
J900
Y9088a,
Y16172
J16081b
Y9087
Y9088
Y9088a,
Y16173
Y9087f
Y86d
J900
YWF
J63
Y9087g
J64
Y9088a,
Y16171
Y16076
A37A, J37B
J71
J400
K1

【図７９８】


B
U, D
L
R
F
Y19160
Y19100
Y19180
Y19125
Y8140
Y19120
Y111a
Y101
N47b
N47b
Y19172
Y111(Y110)
J60c
J60a
Y86c
J75
Y87f
(Y86)
J13
(a)
U
F, B
L
R
D
Y19181
Y19182
Y19180
Y19100
Y19182
Y87(Y86)
Y111(Y110)
Y101
Y87f
Y87x
Y8140
Y19172
Y19182
Y19171
Y8150
Y19173
Y111b
Y87a
Y87b
Y19160
(b)